

2026年度 成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

【発行日：2026/5/1】 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0001】 憲法Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	1
【A0002】 憲法Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	2
【A0003】 憲法Ⅰ [高橋 正明] 春学期授業/Spring	3
【A0004】 憲法Ⅱ [高橋 正明] 秋学期授業/Fall	4
【A0005】 憲法Ⅲ [國分 典子] 春学期授業/Spring	6
【A0006】 憲法Ⅳ [國分 典子] 秋学期授業/Fall	7
【A0007】 現代情報法Ⅰ [鈴木 秀美] 春学期授業/Spring	8
【A0008】 現代情報法Ⅱ [鈴木 秀美] 秋学期授業/Fall	9
【A0009】 国際社会と憲法Ⅰ [大津 浩] 春学期授業/Spring	10
【A0010】 国際社会と憲法Ⅱ [國分 典子] 秋学期授業/Fall	12
【A0011】 ジェンダーと法Ⅰ [寺原 真希子、三浦 徹也] 秋学期授業/Fall	13
【A0015】 憲法訴訟論 [高橋 正明] 秋学期授業/Fall	14
【A0019】 生命倫理と人権Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	15
【A0020】 生命倫理と人権Ⅱ [洪 賢秀] 秋学期授業/Fall	17
【A0021】 行政法入門Ⅰ [西田 幸介] 春学期授業/Spring	18
【A0022】 行政法入門Ⅱ [西田 幸介] 秋学期授業/Fall	20
【A0023】 行政作用法Ⅰ [吉岡 郁美] 春学期授業/Spring	22
【A0024】 行政作用法Ⅱ [吉岡 郁美] 秋学期授業/Fall	24
【A0025】 行政救済法Ⅰ [氏家 裕順] 春学期授業/Spring	26
【A0026】 行政救済法Ⅱ [氏家 裕順] 秋学期授業/Fall	28
【A0027】 租税手続法 [阿部 雪子] 秋学期授業/Fall	30
【A0028】 租税実体法 [阿部 雪子] 春学期授業/Spring	31
【A0029】 地方自治法 [氏家 裕順] 秋学期授業/Fall	32
【A0030】 環境法 [吉岡 郁美] 春学期授業/Spring	33
【A0031】 民事法総論 [新堂 明子] 秋学期授業/Fall	34
【A0032】 契約法Ⅰ [新堂 明子] 春学期授業/Spring	35
【A0037】 契約法Ⅱ [滝沢 昌彦] 春学期授業/Spring	36
【A0038】 債権回収法Ⅰ [滝沢 昌彦] 秋学期授業/Fall	37
【A0039】 契約法Ⅱ [滝沢 昌彦] 春学期授業/Spring	38
【A0040】 債権回収法Ⅰ [滝沢 昌彦] 秋学期授業/Fall	39
【A0041】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall	40
【A0042】 契約法Ⅲ [川村 洋子] 春学期授業/Spring	41
【A0043】 契約法Ⅳ [川村 洋子] 春学期授業/Spring	42
【A0044】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall	43
【A0045】 契約法Ⅲ [川村 洋子] 春学期授業/Spring	44
【A0046】 親族法 [志村 武] 春学期授業/Spring	45
【A0047】 相続法 [志村 武] 秋学期授業/Fall	47
【A0048】 消費者法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring	49
【A0050】 商法総則・商行為法Ⅰ [椋川 泰史] 秋学期授業/Fall	51
【A0054】 会社法 [椋川 泰史] 年間授業/Yearly	53
【A0055】 会社法 [伊藤 雄司] 年間授業/Yearly	55
【A0056】 企業決済・有価証券法 [椋川 泰史] 年間授業/Yearly	56
【A0065】 経済法Ⅰ [渡邊 昭成] 春学期授業/Spring	58
【A0066】 経済法Ⅱ [渡邊 昭成] 秋学期授業/Fall	59

【A0067】 国際人権法Ⅰ [松田 浩道] 秋学期授業/Fall	61
【A0068】 国際人権法Ⅱ [松田 浩道] 秋学期授業/Fall	63
【A0069】 民事訴訟法Ⅰ [杉本 和士] 春学期授業/Spring	65
【A0070】 民事訴訟法Ⅱ [杉本 和士] 秋学期授業/Fall	66
【A0071】 民事訴訟法Ⅲ [杉本 和士] 秋学期授業/Fall	67
【A0074】 破産法Ⅰ [倉部 真由美] 春学期授業/Spring	69
【A0075】 破産法Ⅱ [倉部 真由美] 秋学期授業/Fall	70
【A0077】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸] 秋学期授業/Fall	71
【A0078】 刑法総論Ⅱ [佐藤 輝幸] 春学期授業/Spring	72
【A0079】 刑法総論Ⅲ [佐藤 輝幸] 秋学期授業/Fall	73
【A0085】 犯罪学 [朝村 太一] 春学期授業/Spring	74
【A0086】 刑事政策 [朝村 太一] 秋学期授業/Fall	75
【A0090】 労働法総論・労働契約法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	76
【A0091】 労働基準法 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	78
【A0092】 労働法総論・労働契約法 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	80
【A0093】 労働基準法 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	82
【A0094】 労働組合法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	84
【A0095】 労働法特論 [細川 良] 秋学期授業/Fall	86
【A0096】 社会保障法Ⅰ [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	88
【A0097】 社会保障法Ⅱ [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	90
【A0098】 社会政策 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	92
【A0099】 雇用・福祉政策 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	94
【A0100】 教育法Ⅰ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	96
【A0101】 教育法Ⅱ [村元 宏行] 秋学期授業/Fall	97
【A0103】 国際法基礎理論 [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	98
【A0104】 国際空間法 [森田 章夫] 秋学期授業/Fall	99
【A0105】 国際安全保障法 [森田 章夫] 春学期授業/Spring	100
【A0110】 国際組織法 [森田 章夫] 春学期授業/Spring	101
【A0112】 国際刑事法 [森田 章夫] 秋学期授業/Fall	102
【A0113】 国際経済法 [猪瀬 貴道] 春学期授業/Spring	103
【A0116】 日本法制史Ⅰ [坂井 大輔] 秋学期授業/Fall	105
【A0117】 日本法制史Ⅱ [坂井 大輔] 秋学期授業/Fall	106
【A0120】 ローマ法とヨーロッパⅠ [高 友希子] 春学期授業/Spring	107
【A0121】 ローマ法とヨーロッパⅡ [高 友希子] 秋学期授業/Fall	108
【A0122】 イギリス法制史Ⅰ [高 友希子] 春学期授業/Spring	109
【A0123】 イギリス法制史Ⅱ [高 友希子] 秋学期授業/Fall	110
【A0124】 法社会学 [北村 隆憲] 秋学期集中/Intensive(Fall)	111
【A0125】 英米法Ⅰ [中田 裕子] 春学期授業/Spring	113
【A0126】 英米法Ⅱ [中田 裕子] 秋学期授業/Fall	114
【A0127】 アジア法Ⅰ [陳 志明] 春学期授業/Spring	115
【A0128】 アジア法Ⅱ [陳 志明] 秋学期授業/Fall	116
【A0129】 社会安全政策論Ⅰ [久米 一郎] 春学期授業/Spring	117
【A0203】 行政法入門Ⅰ [吉岡 郁美] 春学期授業/Spring	118
【A0204】 行政法入門Ⅱ [吉岡 郁美] 秋学期授業/Fall	119
【A0213】 外国書講読(英語)Ⅰ [森田 章夫] 春学期授業/Spring	120
【A0214】 外国書講読(英語)Ⅱ [森田 章夫] 秋学期授業/Fall	121
【A0217】 国際法基礎理論 [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	122
【A0224】 会社法 [伊藤 雄司] 年間授業/Yearly	123
【A0229】 政治理論Ⅰ [杉田 敦] 春学期授業/Spring	124
【A0230】 政治理論Ⅱ [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	125
【A0235】 政治体制論Ⅰ [細井 保] 春学期授業/Spring	126
【A0237】 比較政治論Ⅰ [新川 敏光] 春学期授業/Spring	127
【A0238】 比較政治論Ⅱ [新川 敏光] 秋学期授業/Fall	128
【A0241】 保険法Ⅰ [潘 阿憲] 春学期授業/Spring	129
【A0242】 保険法Ⅱ [潘 阿憲] 秋学期授業/Fall	130
【A0249】 ジェンダー論Ⅰ [浅野 幸子] 秋学期授業/Fall	131
【A0250】 ジェンダー論Ⅱ [佐藤 信] 秋学期授業/Fall	133

【A0251】	知的財産法Ⅰ	〔武生 昌士〕	春学期授業/Spring	134
【A0252】	知的財産法Ⅱ	〔武生 昌士〕	秋学期授業/Fall	135
【A0257】	日本政治論Ⅰ	〔藤田 直央〕	秋学期授業/Fall	136
【A0258】	日本政治論Ⅱ	〔藤田 直央〕	春学期授業/Spring	137
【A0259】	日本政治思想史Ⅰ	〔河野 有理〕	春学期授業/Spring	138
【A0260】	日本政治思想史Ⅱ	〔河野 有理〕	秋学期授業/Fall	139
【A0261】	日米関係論Ⅰ	〔明田川 融〕	春学期授業/Spring	140
【A0262】	日米関係論Ⅱ	〔明田川 融〕	秋学期授業/Fall	141
【A0265】	法律学特講（知的財産法の今日的課題）	〔武生 昌士〕	春学期授業/Spring	142
【A0271】	ヨーロッパ政治思想史Ⅰ	〔犬塚 元〕	春学期授業/Spring	143
【A0272】	ヨーロッパ政治思想史Ⅱ	〔犬塚 元〕	秋学期授業/Fall	144
【A0275】	福祉政策Ⅰ	〔荒木 千晴〕	春学期授業/Spring	145
【A0308】	行政学Ⅰ	〔林 嶺那〕	春学期授業/Spring	147
【A0309】	行政学Ⅱ	〔林 嶺那〕	秋学期授業/Fall	148
【A0311】	政治文化論Ⅰ	〔新川 敏光〕	春学期授業/Spring	149
【A0312】	政治文化論Ⅱ	〔新川 敏光〕	秋学期授業/Fall	150
【A0314】	マス・コミュニケーション論Ⅰ	〔郭 善英〕	春学期授業/Spring	151
【A0315】	マス・コミュニケーション論Ⅱ	〔郭 善英〕	秋学期授業/Fall	152
【A0316】	日本政治史Ⅰ	〔明田川 融〕	春学期授業/Spring	153
【A0317】	日本政治史Ⅱ	〔明田川 融〕	秋学期授業/Fall	154
【A0354】	外国書講読（独語）Ⅰ	〔上田 知夫〕	春学期授業/Spring	155
【A0393】	日本外交史Ⅰ	〔高橋 和宏〕	秋学期授業/Fall	156
【A0428】	法律学特講（こども行政と法）	〔村元 宏行〕	春学期授業/Spring	157
【A0429】	法律学特講（政策と法）	〔高橋 彰〕	秋学期授業/Fall	158
【A0430】	外国書講読（英語）Ⅰ	〔石井 宏司〕	春学期授業/Spring	160
【A0431】	外国書講読（英語）Ⅱ	〔石井 宏司〕	秋学期授業/Fall	161
【A0436】	政治過程論Ⅰ	〔山口 二郎〕	春学期授業/Spring	162
【A0440】	民事手続法入門	〔安西 明子〕	秋学期授業/Fall	164
【A0442】	法律学特講（英米法思想史）	〔金井 光生〕	春学期授業/Spring	165
【A0443】	行政組織法	〔氏家 裕順〕	春学期授業/Spring	166
【A0444】	都市法	〔西田 幸介〕	秋学期授業/Fall	167
【A0447】	アメリカ外交史Ⅰ	〔青野 利彦〕	春学期授業/Spring	168
【A0452】	法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅰ）	〔大原 利夫〕	春学期授業/Spring	169
【A0453】	法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅱ）	〔大原 利夫〕	秋学期授業/Fall	170
【A0457】	外国書講読（仏語）Ⅰ	〔大津 浩〕	春学期授業/Spring	171
【A0458】	外国書講読（仏語）Ⅱ	〔大津 浩〕	秋学期授業/Fall	172
【A0476】	金融商品取引法Ⅰ	〔田中 綾〕	春学期授業/Spring	173
【A0477】	金融商品取引法Ⅰ	〔田中 綾〕	春学期授業/Spring	175
【A0478】	金融商品取引法Ⅱ	〔田中 綾〕	秋学期授業/Fall	177
【A0479】	金融商品取引法Ⅱ	〔田中 綾〕	秋学期授業/Fall	179
【A0481】	法律学特講（（法学部同窓会寄付講座）企業法務への案内）	〔武生 昌士〕	春学期授業/Spring	181
【A0485】	政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）	〔川名 晋史〕	秋学期授業/Fall	183
【A0520】	都市政策	〔杉崎 和久〕	春学期授業/Spring	184
【A0521】	まちづくり論	〔杉崎 和久〕	秋学期授業/Fall	186
【A0530】	環境政策	〔西谷内 博美〕	春学期授業/Spring	188
【A0531】	都市の環境問題	〔松村 正治〕	秋学期授業/Fall	189
【A0534】	市民公益活動論	〔熊谷 紀良〕	秋学期授業/Fall	191
【A0535】	外国書講読（中国語）Ⅰ	〔黄 偉修〕	春学期授業/Spring	193
【A0536】	外国書講読（中国語）Ⅱ	〔黄 偉修〕	秋学期授業/Fall	194
【A0552】	知的財産法Ⅲ	〔武生 昌士〕	秋学期授業/Fall	195
【A0553】	法律学特講（憲法哲学）	〔金井 光生〕	秋学期授業/Fall	196
【A0554】	政治学特殊講義Ⅰ（現代の政治理論）	〔面 一也〕	春学期授業/Spring	197
【A0555】	政治学特殊講義Ⅱ（現代の政治理論）	〔面 一也〕	秋学期授業/Fall	198
【A0573】	憲法Ⅳ	〔國分 典子〕	秋学期授業/Fall	199
【A0574】	憲法Ⅲ	〔國分 典子〕	春学期授業/Spring	200
【A0575】	法律学特講（コンテンツビジネスの実相と知的財産権）	〔安田 和史〕	秋学期授業/Fall	201
【A0610】	自治体論	〔土山 希美枝〕	春学期授業/Spring	204

【A0611】自治体政策論〔土山 希美枝〕秋学期授業/Fall	205
【A0627】International Politics〔Emily Szu-hua Chen〕秋学期授業/Fall	206
【A0645】国際協力講座〔木内 真理子〕秋学期授業/Fall	208
【A0649】国際NGO論Ⅰ〔高橋 清貴〕春学期授業/Spring	209
【A0650】国際NGO論Ⅱ〔堀場 明子〕秋学期授業/Fall	211
【A0652】国際文化交流Ⅰ〔上品 和馬〕春学期授業/Spring	212
【A0653】国際文化交流Ⅱ〔上品 和馬〕秋学期授業/Fall	214
【A0662】アジア国際政治概論〔水野 孝昭〕秋学期授業/Fall	216
【A0667】中東の政治と社会Ⅰ〔木村 正俊〕春学期授業/Spring	218
【A0668】中東の政治と社会Ⅱ〔木村 正俊〕秋学期授業/Fall	219
【A0715】旧ソ連諸国の政治と社会Ⅰ〔長谷川 雄之〕春学期授業/Spring	220
【A0716】旧ソ連諸国の政治と社会Ⅱ〔長谷川 雄之〕秋学期授業/Fall	221
【A0717】国際協力論Ⅰ〔志賀 裕朗〕春学期授業/Spring	222
【A0718】国際協力論Ⅱ〔志賀 裕朗〕秋学期授業/Fall	224
【A0720】国際公共政策Ⅱ〔坂根 徹〕春学期授業/Spring	226
【A0731】中国の政治と外交Ⅰ〔福田 円〕春学期授業/Spring	227
【A0732】中国の政治と外交Ⅱ〔福田 円〕秋学期授業/Fall	228
【A0733】平和・軍事研究Ⅱ〔権 鎬淵〕秋学期授業/Fall	229
【A0736】オセアニアの政治と社会Ⅰ〔今泉 裕美子〕春学期授業/Spring	230
【A0737】オセアニアの政治と社会Ⅱ〔今泉 裕美子〕秋学期授業/Fall	232
【A0749】国際機構論Ⅰ〔本多 美樹〕春学期授業/Spring	234
【A0757】東南アジアの政治と社会Ⅰ〔田中 李歩〕春学期授業/Spring	235
【A0758】東南アジアの政治と社会Ⅱ〔田中 李歩〕秋学期授業/Fall	236
【A0771】朝鮮半島の政治と社会Ⅰ〔権 鎬淵〕春学期授業/Spring	237
【A0772】朝鮮半島の政治と社会Ⅱ〔権 鎬淵〕秋学期授業/Fall	238
【A0777】平和・軍事研究Ⅰ〔権 鎬淵〕春学期授業/Spring	239
【A0786】現代政策学特講Ⅰ〔千代田区〕〔杉崎 和久〕オータムセッション/Autumn Session	240
【A0813】商法入門Ⅰ〔潘 阿憲〕春学期授業/Spring	241
【A0814】商法入門Ⅱ〔潘 阿憲〕秋学期授業/Fall	242
【A0820】法律実務入門Ⅰ〔沼田 雅之〕春学期授業/Spring	243
【A0821】法律実務入門Ⅱ〔沼田 雅之〕秋学期授業/Fall	244
【A0832】外国書講読（英語）Ⅰ〔中野 勝郎〕春学期授業/Spring	245
【A0833】外国書講読（英語）Ⅱ〔中野 勝郎〕秋学期授業/Fall	246
【A0838】外国書講読（仏語）Ⅰ〔近江屋 志穂〕春学期授業/Spring	247
【A0839】外国書講読（仏語）Ⅱ〔近江屋 志穂〕秋学期授業/Fall	248
【A0840】ヨーロッパ政治史Ⅰ〔網谷 龍介〕春学期授業/Spring	249
【A0841】ヨーロッパ政治史Ⅱ〔網谷 龍介〕秋学期授業/Fall	250
【A0846】日本の政治と社会Ⅰ〔塚本 英樹〕秋学期授業/Fall	251
【A0868】人権と企業社会Ⅰ〔土屋 仁美〕オータムセッション/Autumn Session	252
【A0898】アメリカ政治史Ⅰ〔中野 勝郎〕春学期授業/Spring	253
【A0899】アメリカ政治史Ⅱ〔中野 勝郎〕秋学期授業/Fall	254
【A0900】協同組合論〔杉崎 和久、上山 紀子、小林 幸治〕秋学期授業/Fall	255
【A0909】政治学特殊講義Ⅰ（政治学の原典を読む）〔細井 保〕春学期授業/Spring	257
【A0917】政治学特殊講義Ⅰ（日韓比較政治思想）〔崔 先鎬〕春学期授業/Spring	258
【A0918】政治学特殊講義Ⅱ（日韓比較政治思想）〔崔 先鎬〕秋学期授業/Fall	259
【A0919】政治学特殊講義Ⅰ（比較政治思想史）〔金子 元〕春学期授業/Spring	260
【A0920】政治学特殊講義Ⅱ（比較政治思想史）〔金子 元〕秋学期授業/Fall	261
【A0921】現代政策学特講Ⅰ（立法学）〔正木 寛也〕春学期授業/Spring	262
【A0922】現代政策学特講Ⅱ（立法学）〔正木 寛也〕秋学期授業/Fall	263
【A0925】外国書講読（朝鮮語）Ⅰ〔崔 先鎬〕春学期授業/Spring	264
【A0926】外国書講読（朝鮮語）Ⅱ〔崔 先鎬〕秋学期授業/Fall	265
【A2212】哲学特講（１）－１〔文 景楠〕春学期授業/Spring	266
【A2213】哲学特講（１）－２〔山下 真〕秋学期授業/Fall	267
【A2216】哲学特講（３）－１〔佐藤 真人〕春学期授業/Spring	268
【A2217】哲学特講（３）－２〔古屋 俊彦〕秋学期授業/Fall	269
【A2218】哲学特講（４）－１〔菅沢 龍文〕春学期授業/Spring	270
【A2219】哲学特講（４）－２〔近堂 秀〕秋学期授業/Fall	272

【A2221】	哲学特講（５）－２ [相原 博] 秋学期授業/Fall	273
【A2222】	哲学特講（６）－１ [大橋 基] 春学期授業/Spring	274
【A2223】	哲学特講（６）－２ [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	275
【A2224】	哲学特講（７）－１ [押山 詩緒里] 春学期授業/Spring	276
【A2225】	哲学特講（７）－２ [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	277
【A2226】	哲学特講（８）－１ [木島 泰三] 春学期授業/Spring	279
【A2227】	哲学特講（８）－２ [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall	280
【A2553】	日本文芸批評史A [伊東 祐史] 春学期授業/Spring	281
【A2555】	日本文芸批評史B [伊東 祐史] 秋学期授業/Fall	282
【A2561】	中国文芸史A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	283
【A2563】	中国文芸史B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	284
【A2566】	書誌学 [山口 恭子] 春学期授業/Spring	285
【A2568】	メディアと社会 [中沢 けい] 秋学期授業/Fall	286
【A2584】	表現と著作権A [平井 彰司] 春学期授業/Spring	287
【A2586】	表現と著作権B [平井 彰司] 秋学期授業/Fall	288
【A2604】	古文・漢文の基礎 [栗山 元子] 秋学期授業/Fall	289
【A2657】	日本文芸研究特講（１）上代A [森 陽香] 春学期授業/Spring	290
【A2658】	日本文芸研究特講（１）上代B [森 陽香] 秋学期授業/Fall	291
【A2661】	日本文芸研究特講（２）中古A [栗山 元子] 春学期授業/Spring	292
【A2662】	日本文芸研究特講（２）中古B [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	293
【A2663】	日本文芸研究特講（２）中古C [萩野 了子] 春学期授業/Spring	294
【A2664】	日本文芸研究特講（２）中古D [萩野 了子] 秋学期授業/Fall	295
【A2665】	日本文芸研究特講（３）中世A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	296
【A2666】	日本文芸研究特講（３）中世B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	297
【A2669】	日本文芸研究特講（４）近世A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	298
【A2670】	日本文芸研究特講（４）近世B [齊藤 千恵] 秋学期授業/Fall	299
【A2671】	日本文芸研究特講（４）近世C [藤川 雅恵] 春学期授業/Spring	300
【A2675】	日本文芸研究特講（５）近代C [高口 智史] 春学期授業/Spring	301
【A2676】	日本文芸研究特講（５）近代D [梅澤 亜由美] 秋学期授業/Fall	302
【A2677】	日本文芸研究特講（６）現代A [藤木 直実] 春学期授業/Spring	303
【A2678】	日本文芸研究特講（６）現代B [藤木 直実] 秋学期授業/Fall	304
【A2681】	日本文芸研究特講（７）漢文A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	305
【A2682】	日本文芸研究特講（７）漢文B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	306
【A2683】	日本文芸研究特講（７）漢文C [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	307
【A2684】	日本文芸研究特講（７）漢文D [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	308
【A2685】	日本文芸研究特講（８）言語A [塩田 雄大] 春学期授業/Spring	309
【A2686】	日本文芸研究特講（８）言語B [塩田 雄大] 秋学期授業/Fall	310
【A2687】	日本文芸研究特講（９）表現A [藤谷 治] 春学期授業/Spring	311
【A2688】	日本文芸研究特講（９）表現B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall	312
【A2689】	日本文芸研究特講（１０）演劇A [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	313
【A2690】	日本文芸研究特講（１０）演劇B [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	314
【A2693】	日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史A [本塚 亘] 春学期授業/Spring	315
【A2694】	日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史B [本塚 亘] 秋学期授業/Fall	316
【A2699】	日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸A [福 寛美] 春学期授業/Spring	317
【A2700】	日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸B [福 寛美] 秋学期授業/Fall	318
【A2701】	日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸C [松永 明] 春学期授業/Spring	319
【A2702】	日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸D [松永 明] 秋学期授業/Fall	320
【A2703】	日本文芸研究特講（１５）国際日本学A [スティーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	321
【A2704】	日本文芸研究特講（１５）国際日本学B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	323
【A2707】	日本文芸研究特講（１６）特域C [安原 眞琴] 春学期授業/Spring	325
【A2708】	日本文芸研究特講（１６）特域D [山口 恭子] 秋学期授業/Fall	326
【A2737】	日本文芸研究特講（８）言語C [尾谷 昌則] 春学期授業/Spring	327
【A2738】	日本文芸研究特講（８）言語D [王 安] 秋学期授業/Fall	328
【A2804】	英語学概論A [廣田 友晴] 春学期授業/Spring	330
【A2805】	英語学概論B [北澤 茉奈] 秋学期授業/Fall	331
【A2806】	言語学概論A [石川 潔] 春学期授業/Spring	332
【A2807】	言語学概論B [石井 創] 秋学期授業/Fall	333

【A2808】 英語・言語学講義A〔廣田 友晴〕 秋学期授業/Fall	335
【A2809】 英語・言語学講義B〔石川 潔〕 秋学期授業/Fall	336
【A2810】 社会言語学〔廣田 友晴〕 春学期授業/Spring	337
【A2811】 応用言語学〔川崎 貴子〕 秋学期授業/Fall	338
【A2824】 比較文学A〔丸山 達也〕 春学期授業/Spring	339
【A2825】 比較文学B〔丸山 達也〕 秋学期授業/Fall	340
【A2901】 英語史A〔福元 広二〕 春学期授業/Spring	341
【A2902】 英語史B〔泉類 尚貴〕 秋学期授業/Fall	342
【A2903】 英文学史A〔田中 裕希〕 春学期授業/Spring	343
【A2904】 英文学史B〔小澤 央〕 秋学期授業/Fall	344
【A2905】 米文学史A〔小島 尚人〕 春学期授業/Spring	345
【A2906】 米文学史B〔小島 尚人〕 秋学期授業/Fall	346
【A2907】 英米文学講義I A〔波戸岡 景太〕 春学期授業/Spring	347
【A2908】 英米文学講義I B〔波戸岡 景太〕 秋学期授業/Fall	348
【A2909】 英米文学講義II A〔迫 桂〕 春学期授業/Spring	349
【A2910】 英米文学講義II B〔迫 桂〕 秋学期授業/Fall	351
【A2911】 英語学講義A〔福元 広二〕 春学期授業/Spring	352
【A2912】 英語学講義B〔北澤 茉奈〕 秋学期授業/Fall	353
【A2913】 言語学講義I A〔石川 潔〕 春学期授業/Spring	354
【A2914】 言語学講義I B〔石川 潔〕 秋学期授業/Fall	355
【A2915】 言語学講義II A〔伊藤 達也〕 春学期授業/Spring	356
【A2916】 言語学講義II B〔伊藤 達也〕 秋学期授業/Fall	357
【A2919】 英語音声学A〔川崎 貴子〕 春学期授業/Spring	358
【A2920】 英語音声学B〔川崎 貴子〕 秋学期授業/Fall	359
【A2969】 文学研究方法論A〔小島 尚人〕 春学期授業/Spring	360
【A2970】 文学研究方法論B〔波戸岡 景太〕 秋学期授業/Fall	361
【A2977】 英語の文法力I〔廣田 友晴〕 春学期授業/Spring	362
【A2978】 英語の文法力II〔廣田 友晴〕 秋学期授業/Fall	363
【A2979】 メディア・リテラシーI〔田中 邦佳〕 秋学期授業/Fall	364
【A2980】 メディア・リテラシーII〔吉川 純子〕 秋学期授業/Fall	365
【A2981】 比較文化論(1)〔小島 尚人〕 秋学期授業/Fall	366
【A2982】 英米文化概論A〔田中 裕希〕 春学期授業/Spring	367
【A2983】 英米文化概論B〔勝田 悠紀〕 秋学期授業/Fall	368
【A3113】 日本考古学〔高橋 健〕 秋学期授業/Fall	369
【A3114】 日本古代史〔春名 宏昭〕 春学期授業/Spring	370
【A3115】 日本中世史〔及川 亘〕 秋学期授業/Fall	371
【A3116】 日本近世史〔松本 剣志郎〕 秋学期授業/Fall	372
【A3117】 日本近代史〔内藤 一成〕 春学期授業/Spring	373
【A3118】 日本現代史〔劉 傑〕 春学期授業/Spring	374
【A3121】 日本古代史科学I〔春名 宏昭〕 秋学期授業/Fall	375
【A3124】 日本近世史科学I〔松本 剣志郎〕 春学期授業/Spring	376
【A3125】 日本近世史科学II〔松本 剣志郎〕 秋学期授業/Fall	377
【A3126】 日本近代史科学〔内藤 一成〕 秋学期授業/Fall	378
【A3127】 日本現代史科学〔劉 傑〕 秋学期授業/Fall	379
【A3135】 東洋古代史〔大島 誠二〕 春学期授業/Spring	380
【A3136】 東洋中世史〔宇都宮 美生〕 秋学期授業/Fall	381
【A3143】 西洋古代史〔内田 康太〕 春学期授業/Spring	382
【A3144】 西洋中世史〔内川 勇太〕 春学期授業/Spring	383
【A3145】 西洋近代史〔中嶋 毅〕 春学期授業/Spring	384
【A3146】 西洋現代史〔古川 高子〕 秋学期授業/Fall	385
【A3152】 考古学概論〔高橋 健〕 春学期授業/Spring	386
【A3153】 史学概論〔齋藤 勝〕 春学期授業/Spring	387
【A3154】 日本史特講I〔大橋 幸泰〕 春学期授業/Spring	388
【A3155】 日本史特講II〔大塚 紀弘〕 春学期授業/Spring	389
【A3157】 日本史特講IV〔中山 学〕 秋学期授業/Fall	390
【A3158】 日本史特講V〔宮間 純一〕 秋学期授業/Fall	391
【A3159】 日本史特講VI〔米崎 清実〕 春学期授業/Spring	392

【A3160】	日本史特講Ⅶ	〔山田 康弘〕	春学期授業/Spring	393
【A3162】	東洋史特講Ⅰ	〔大島 誠二〕	秋学期授業/Fall	395
【A3163】	東洋史特講Ⅱ	〔山元 貴尚〕	秋学期授業/Fall	396
【A3164】	東洋史特講Ⅲ	〔芦沢 知絵〕	秋学期授業/Fall	397
【A3165】	東洋史特講Ⅳ	〔塩沢 裕仁〕	秋学期授業/Fall	398
【A3168】	西洋史特講Ⅰ	〔内田 康太〕	秋学期授業/Fall	399
【A3169】	西洋史特講Ⅱ	〔伊丹 聡一郎〕	秋学期授業/Fall	400
【A3171】	西洋史特講Ⅳ	〔皆川 卓〕	春学期授業/Spring	401
【A3172】	西洋史特講Ⅴ	〔皆川 卓〕	秋学期授業/Fall	403
【A3173】	西洋史特講Ⅵ	〔鰐淵 秀一〕	春学期授業/Spring	405
【A3174】	西洋史特講Ⅶ	〔鰐淵 秀一〕	秋学期授業/Fall	406
【A3201】	日本史特講Ⅸ	〔内藤 一成〕	春学期授業/Spring	407
【A3202】	日本史特講Ⅹ	〔森田 貴子〕	秋学期授業/Fall	408
【A3205】	日本古代史科学Ⅱb	〔武井 紀子〕	春学期授業/Spring	409
【A3209】	東洋考古・美術史	〔塩沢 裕仁〕	春学期授業/Spring	410
【A3217】	東洋史特講Ⅶ	〔久野 美樹〕	春学期授業/Spring	411
【A3218】	東洋史特講Ⅷ	〔松本 隆志〕	春学期授業/Spring	412
【A3219】	西洋史特講Ⅸ	〔篠原 琢〕	秋学期授業/Fall	413
【A3412】	地球科学概論Ⅰ	〔穴倉 正展〕	春学期授業/Spring	415
【A3413】	地球科学概論Ⅱ	〔穴倉 正展〕	秋学期授業/Fall	416
【A3417】	自然環境論	〔福與 直人〕	春学期授業/Spring	417
【A3446】	世界地誌（４）	〔堤 純〕	秋学期授業/Fall	418
【A3447】	世界地誌（５）	〔吉村 郊子〕	春学期授業/Spring	420
【A3448】	世界地誌（６）	〔呉羽 正昭〕	秋学期授業/Fall	421
【A3452】	自然地理学特講（２）	〔宮下 雄次〕	春学期授業/Spring	422
【A3456】	人文地理学特講（２）	〔久保 倫子〕	春学期授業/Spring	423
【A3482】	文化地理学（１）	〔村田 陽平〕	春学期授業/Spring	424
【A3483】	文化地理学（２）	〔村田 陽平〕	秋学期授業/Fall	425
【A3488】	自然地理学特講（４）	〔近藤 博史〕	秋学期授業/Fall	426
【A3489】	人文地理学特講（４）	〔加藤 幸治〕	春学期授業/Spring	429
【A3513】	地理学史	〔杉山 和明〕	秋学期授業/Fall	430
【A3601】	心理学概論	〔福田 由紀〕	春学期授業/Spring	431
【A3620】	認知心理学	〔竹島 康博〕	秋学期授業/Fall	432
【A3621】	認知科学入門	〔田嶋 圭一〕	春学期授業/Spring	433
【A3622】	発達心理学	〔渡辺 弥生〕	春学期授業/Spring	434
【A3623】	教育心理学	〔福田 由紀〕	春学期授業/Spring	435
【A3624】	学習心理学	〔藤田 哲也〕	春学期授業/Spring	436
【A3667】	言語心理学	〔福田 由紀〕	春学期授業/Spring	437
【A3669】	行動分析学特講	〔島宗 理〕	秋学期授業/Fall	438
【A3670】	行動分析学	〔島宗 理〕	春学期授業/Spring	440
【A3687】	社会心理学特講	〔島宗 理、福田 由紀、田嶋 圭一、木村 健太、竹島 康博〕	秋学期授業/Fall	441
【A3721】	産業組織心理学	〔島宗 理〕	秋学期授業/Fall	442
【A3743】	ブレインサイエンス	〔木村 健太〕	秋学期授業/Fall	444
【A3819】	歴史地理学（１）	〔米家 志乃布〕	春学期授業/Spring	445
【A3820】	歴史地理学（２）	〔米家 志乃布〕	秋学期授業/Fall	446
【A3901】	地誌学概論	〔南 春英〕	春学期授業/Spring	447
【A3905】	社会経済地理学A（１）	〔坪本 裕之〕	春学期授業/Spring	448
【A3906】	社会経済地理学A（２）	〔堤 純〕	秋学期授業/Fall	449
【A3907】	社会経済地理学B（１）	〔甲斐 智大〕	春学期授業/Spring	450
【A3908】	社会経済地理学B（２）	〔甲斐 智大〕	秋学期授業/Fall	451
【A3909】	社会経済地理学C（１）	〔佐々木 達〕	春学期授業/Spring	452
【A3910】	社会経済地理学C（２）	〔佐々木 達〕	秋学期授業/Fall	453
経営学科専門科目200番台【A4362】 キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）〔小川 憲彦〕 秋学期授業/Fall				454
経営学科専門科目300番台【A4363】 経営組織論Ⅰ〔長岡 健〕 春学期授業/Spring				455
経営学科専門科目300番台【A4364】 経営組織論Ⅱ〔長岡 健〕 秋学期授業/Fall				457
経営学科専門科目300番台【A4369】 人的資源管理Ⅰ〔佐野 嘉秀〕 春学期授業/Spring				459

経営学科専門科目300番台【A4370】 人的資源管理Ⅱ [佐野 嘉秀] 秋学期授業/Fall	461
経営学科専門科目300番台【A4379】 税務会計論Ⅰ [藤井 誠] 春学期授業/Spring	463
経営学科専門科目300番台【A4380】 税務会計論Ⅱ [藤井 誠] 秋学期授業/Fall	464
経営学科専門科目300番台【A4393】 組織経済学 [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	465
【A4394】 組織経済学Ⅰ (2018年度以前入学者) [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	466
経営戦略学科専門科目300番台【A4423】 日本経営史Ⅰ [二階堂 行宣] 春学期授業/Spring	467
経営戦略学科専門科目300番台【A4424】 日本経営史Ⅱ [二階堂 行宣] 秋学期授業/Fall	469
経営戦略学科専門科目300番台【A4425】 企業評価論Ⅰ [青淵 正幸] 春学期授業/Spring	471
経営戦略学科専門科目300番台【A4426】 企業評価論Ⅱ [青淵 正幸] 秋学期授業/Fall	472
経営戦略学科専門科目300番台【A4427】 経営分析論Ⅰ [福多 裕志] 春学期授業/Spring	473
経営戦略学科専門科目300番台【A4428】 経営分析論Ⅱ [福多 裕志] 秋学期授業/Fall	474
【A4437】 経営分析Ⅰ (2018年度以前入学者) [青淵 正幸] 春学期授業/Spring	475
【A4438】 経営分析Ⅱ (2018年度以前入学者) [青淵 正幸] 秋学期授業/Fall	476
【A4439】 経営分析Ⅲ (2018年度以前入学者) [福多 裕志] 春学期授業/Spring	477
【A4440】 経営分析Ⅳ (2018年度以前入学者) [福多 裕志] 秋学期授業/Fall	478
市場経営学科専門科目200番台【A4465】 日本経営論Ⅰ [金 容度] 春学期授業/Spring	479
市場経営学科専門科目200番台【A4466】 日本経営論Ⅱ [金 容度] 秋学期授業/Fall	480
市場経営学科専門科目200番台【A4471】 デリバティブ入門Ⅰ (2019年度以降入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring	481
市場経営学科専門科目200番台【A4472】 デリバティブ入門Ⅱ (2019年度以降入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall	482
市場経営学科専門科目300番台【A4475】 産業組織論Ⅰ [大木 良子] 春学期授業/Spring	483
市場経営学科専門科目300番台【A4476】 産業組織論Ⅱ [大木 良子] 秋学期授業/Fall	484
市場経営学科専門科目300番台【A4477】 情報技術論Ⅰ [入戸野 健] 春学期授業/Spring	485
市場経営学科専門科目300番台【A4478】 情報技術論Ⅱ [入戸野 健] 秋学期授業/Fall	486
市場経営学科専門科目300番台【A4481】 経営のための経済学 [宮澤 信二郎] 春学期授業/Spring	487
【A4487】 ファイナンス論Ⅰ (2018年度以前入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring	488
【A4488】 ファイナンス論Ⅱ (2018年度以前入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall	489
【A6050】 English Test Preparation for IELTS [Marcus Lovitt] 春学期授業/Spring	490
【A6052】 Introduction to Statistics [Adam Randall Smith] 春学期授業/Spring	491
【A6053】 Professional Communication [Mark Birtles] 春学期授業/Spring	493
【A6062】 Introduction to Fine Art [Timothy Betjeman] 秋学期授業/Fall	494
【A6064】 Introduction to Programming [Alfons Josef Schuster] 秋学期授業/Fall	496
【A6065】 Leadership and Career Development [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	497
【A6067】 Chinese AⅠ [Nao Sato] 春学期授業/Spring	498
【A6068】 Chinese AⅡ [Nao Sato] 秋学期授業/Fall	499
【A6069】 Chinese BⅠ [Shota Watanabe] 春学期授業/Spring	500
【A6070】 Chinese BⅡ [Shota Watanabe] 秋学期授業/Fall	501
【A6071】 French AⅠ [Masamichi Suzuki] 春学期授業/Spring	502
【A6072】 French AⅡ [Masamichi Suzuki] 秋学期授業/Fall	504
【A6073】 French BⅠ [Tamio Okamura] 春学期授業/Spring	506
【A6074】 French BⅡ [Tamio Okamura] 秋学期授業/Fall	507
【A6075】 Spanish AⅠ [Taiga Wakabayashi] 春学期授業/Spring	508
【A6076】 Spanish AⅡ [Taiga Wakabayashi] 秋学期授業/Fall	509
【A6077】 Spanish BⅠ [Yoshifumi Onuki] 春学期授業/Spring	510
【A6078】 Spanish BⅡ [Yoshifumi Onuki] 秋学期授業/Fall	511
【A6200】 Political Philosophy [Joel Van Fossen] 春学期授業/Spring	512
【A6201】 Topics in Philosophy [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	513
【A6202】 Applied Psychology [Sayaka Aoki] 春学期授業/Spring	514
【A6204】 Quantitative Research Methods [Yu Niiya] 春学期授業/Spring	515
【A6205】 Social PsychologyⅠ [Yu Niiya] 春学期授業/Spring	516
【A6206】 Social PsychologyⅡ [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall	517
【A6207】 English Teaching in Primary School [Machiko Kobori] 秋学期授業/Fall	518
【A6210】 Digital Writing and Publication [Mark Birtles] 秋学期授業/Fall	519
【A6212】 East Asian Popular Culture [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring	520
【A6213】 Japanese Popular Culture [Kukhee Choo] 秋学期授業/Fall	521
【A6214】 Art and Design [Timothy Betjeman] 春学期授業/Spring	522
【A6215】 Drama Workshop [John Wescott Oglevee] 秋学期授業/Fall	523
【A6217】 Japanese Art History [Alberto Carrasco Lara] 秋学期授業/Fall	524

【A6219】 American History and Society [Robert Sinclair] 春学期授業/Spring	526
【A6221】 Cultural Studies [Muge Igarashi] 秋学期授業/Fall	527
【A6222】 Education and Society [Kohei Takagi] 秋学期授業/Fall	528
【A6223】 Gender, Sexuality and Society [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	529
【A6224】 Gender, Sexuality and Society [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	530
【A6225】 Media Effects [Muge Igarashi] 秋学期授業/Fall	531
【A6226】 Race, Class and Gender I: Concepts & Issues [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	532
【A6230】 Accounting II [Noriaki Okamoto] 春学期授業/Spring	533
【A6231】 Brand Management [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	534
【A6232】 Business Negotiation [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall	535
【A6233】 Creative Industries [Stevie Suan] 秋学期授業/Fall	536
【A6234】 Entrepreneurship and New Ventures [Sean Michael Hackett] 秋学期授業/Fall	537
【A6236】 Marketing Research [Kayhan Tajeddini] 秋学期授業/Fall	538
【A6237】 Organizational Behavior [Junko Shimazoe] 春学期授業/Spring	539
【A6238】 Principles of Marketing [Shiaw Jia Eyo] 春学期授業/Spring	540
【A6240】 Development Economies [Delgado Narro Augusto Ricardo] 春学期授業/Spring	541
【A6241】 Foundations of Finance [Shiaw Jia Eyo] 秋学期授業/Fall	542
【A6242】 Macroeconomics II [Karen Kai Lin Lai] 秋学期授業/Fall	543
【A6243】 Microeconomics II [Delgado Narro Augusto Ricardo] 秋学期授業/Fall	545
【A6246】 Big Data and Analytics [Alfons Josef Schuster] 秋学期授業/Fall	546
【A6249】 Environment and Development [Stephen Chitengi Sakapaji] 春学期授業/Spring	547
【A6250】 Environment and Society [Stephen Chitengi Sakapaji] 秋学期授業/Fall	549
【A6251】 American Politics and Foreign Policy [Jonathan Seth Snider] 秋学期授業/Fall	551
【A6252】 China's Domestic Politics and Foreign Policy [Zhihai Xie] 春学期授業/Spring	552
【A6253】 Foreign Policy Analysis [Takeshi Yuzawa] 春学期授業/Spring	553
【A6254】 International Organizations [Heiko Lang] 秋学期授業/Fall	554
【A6255】 International Security [Takeshi Yuzawa] 秋学期授業/Fall	555
【A6256】 Japan's Foreign Policy [Heiko Lang] 春学期授業/Spring	556
【A6257】 Development Studies [Norio Usui] 春学期授業/Spring	557
【A6258】 Japanese Politics [Romeo Marcantuoni] 秋学期授業/Fall	558
【A6259】 Politics of Africa [Kinyua L Kithinji] 秋学期授業/Fall	559
【A6260】 Politics of Southeast Asia [Nguyen Hoang Thanh Danh] 春学期授業/Spring	560
【A6261】 Public Policy [Romeo Marcantuoni] 秋学期授業/Fall	562
【A6262】 Religion and Politics [Christopher Kavanagh] 秋学期授業/Fall	563
【A6263】 European History [Brian Sayers] 秋学期授業/Fall	564
【A6265】 Tourism Development in Japan [John Melvin] 春学期授業/Spring	566
【A6266】 English as a Lingua Franca [Mark Birtles] 春学期授業/Spring	567
【A6267】 English as a Lingua Franca [Mark Birtles] 秋学期授業/Fall	568
【A6268】 Language, Social Media and Society [Mark Birtles] 秋学期授業/Fall	569
【A6270】 Psycholinguistics [Mako Ishida] 秋学期授業/Fall	570
【A6271】 Semantics and Pragmatics [Nobumi Nakai] 春学期授業/Spring	571
【A6274】 Teaching Pronunciation [Katsuya Yokomoto] 春学期授業/Spring	572
【A6276】 Topics in English Linguistics [Mark Birtles] 春学期授業/Spring	573
【A6278】 Performance Studies [Stevie Suan] 春学期授業/Spring	574
【A6281】 Topics in English Literature [Miui Watanabe] 春学期授業/Spring	575
【A6282】 Topics in English Literature [Miui Watanabe] 秋学期授業/Fall	576
【A6283】 Topics in Japanese Literature I [Kevin Thomas Niehaus] 秋学期授業/Fall	577
【A6284】 Topics in Japanese Literature II [Kevin Thomas Niehaus] 春学期授業/Spring	578
【A6285】 British Myths and Culture [Miui Watanabe] 春学期授業/Spring	579
【A6286】 Texts and Contexts [Miui Watanabe] 秋学期授業/Fall	580
【A6287】 Politics and Identity [Romeo Marcantuoni] 春学期授業/Spring	581
【A6300】 Advanced Topics in Philosophy I [Joel Van Fossen] 春学期授業/Spring	582
【A6301】 Advanced Topics in Philosophy II [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	583
【A6302】 Existentialism [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	584
【A6303】 Readings in Philosophy [Robert Sinclair] 春学期授業/Spring	585
【A6304】 Advanced Topics in Social Psychology [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall	586
【A6305】 Clinical Psychology [Keiko Ito] 秋学期授業/Fall	587

【A6306】 Community Psychology [Alma Jeftic] 春学期授業/Spring	588
【A6307】 Cultural Psychology [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall	589
【A6308】 Topics in Morality [Christopher Kavanagh] 秋学期授業/Fall	590
【A6309】 English Teaching in Primary School: Advanced [Tomoko Shigyo] 春学期授業/Spring	591
【A6311】 East Asian Cinema [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring	592
【A6314】 Media Research [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring	593
【A6315】 Postcolonial Studies [Kukhee Choo] 秋学期授業/Fall	594
【A6316】 Qualitative Research Methods [Hazuki Kaneko] 春学期授業/Spring	595
【A6317】 Realism and Cinema [Catherine Munroe Hotes] 秋学期授業/Fall	596
【A6318】 Art in Everyday Life [Timothy Betjeman] 春学期授業/Spring	597
【A6319】 Contemporary Art [Utako Shindo] 秋学期授業/Fall	598
【A6320】 Special Topics in Art I [Gary Mcleod] 春学期授業/Spring	599
【A6321】 Twentieth Century Film Studies [Catherine Munroe Hotes] 春学期授業/Spring	600
【A6322】 Advanced Topics in Critical Theory I [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	601
【A6323】 Advanced Topics in Critical Theory II [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	602
【A6324】 Migration and Diaspora [Chris Park] 春学期授業/Spring	603
【A6325】 Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	604
【A6326】 Social Theory: Perspectives on Inequality [Hazuki Kaneko] 秋学期授業/Fall	605
【A6330】 Corporate Social Responsibility [Sairan Hayama] 秋学期授業/Fall	606
【A6333】 Financial Statement Analysis [Karen Kai Lin Lai] 春学期授業/Spring	607
【A6335】 International Finance [Keiichiro Omae] 秋学期授業/Fall	608
【A6337】 Services Marketing [John Melvin] 春学期授業/Spring	609
【A6338】 Supply Chain Management [Kayhan Tajeddini] 秋学期授業/Fall	610
【A6339】 International Economics [Karen Kai Lin Lai] 秋学期授業/Fall	611
【A6340】 Stock Investment [Shiaw Jia Eyo] 秋学期授業/Fall	612
【A6343】 International Environmental Policy [Stephen Chitengi Sakapaji] 秋学期授業/Fall	613
【A6344】 Globalization and Politics [Jenny Balboa] 秋学期授業/Fall	614
【A6346】 Advanced Comparative Politics [Sam-Sang JO] 春学期授業/Spring	616
【A6347】 Global Political Economy [Nathalie Cavašin] 春学期授業/Spring	618
【A6348】 International Development Policy [Ippeita Nishida] 春学期授業/Spring	619
【A6349】 International Law [Kiyoshi Adachi] 秋学期授業/Fall	621
【A6350】 Peace Building [Aigul Kulnazarova] 春学期授業/Spring	622
【A6352】 Cultural Tourism [Yiyang Sun] 秋学期授業/Fall	624
【A6353】 Advanced Topics in English Linguistics [Yuta Sakamoto] 春学期授業/Spring	625
【A6355】 Language Policy [Geraldo Faria] 秋学期授業/Fall	626
【A6357】 Advanced Topics in English Literature [Miui Watanabe] 春学期授業/Spring	627
【A6358】 Advanced Topics in Japanese Literature [Kevin Thomas Niehaus] 春学期授業/Spring	628
【A6359】 Politics and Media [Romeo Marcantuoni] 秋学期授業/Fall	629
【A6360】 ST I : Analysis of Environmental Cases [Yen-Chu Weng] 春学期授業/Spring	630
【A6405】 Seminar: Language Teaching and Learning I [Machiko Kobori] 春学期授業/Spring	631
【A6406】 Seminar: Language Teaching and Learning I [Machiko Kobori] 春学期授業/Spring	633
【A6407】 Seminar: Language Teaching and Learning II [Machiko Kobori] 秋学期授業/Fall	635
【A6408】 Seminar: Language Teaching and Learning II [Machiko Kobori] 秋学期授業/Fall	637
【A6409】 Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Hazuki Kaneko] 春学期授業/Spring	639
【A6410】 Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Hazuki Kaneko] 春学期授業/Spring	640
【A6411】 Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Hazuki Kaneko] 秋学期授業/Fall	641
【A6412】 Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Hazuki Kaneko] 秋学期授業/Fall	642
【A6413】 Seminar: Self and Culture I [Yu Niiya] 春学期授業/Spring	643
【A6414】 Seminar: Self and Culture I [Yu Niiya] 春学期授業/Spring	644
【A6415】 Seminar: Self and Culture II [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall	645
【A6416】 Seminar: Self and Culture II [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall	646
【A6417】 Seminar: International Relations I [Takeshi Yuzawa] 春学期授業/Spring	647
【A6418】 Seminar: International Relations I [Takeshi Yuzawa] 春学期授業/Spring	648
【A6419】 Seminar: International Relations II [Takeshi Yuzawa] 秋学期授業/Fall	649
【A6420】 Seminar: International Relations II [Takeshi Yuzawa] 秋学期授業/Fall	650
【A6421】 Seminar: Tourism Management I [John Melvin] 春学期授業/Spring	651
【A6422】 Seminar: Tourism Management I [John Melvin] 春学期授業/Spring	652

【A6423】 Seminar: Tourism Management II [Philip Seaton] 秋学期授業/Fall	653
【A6424】 Seminar: Tourism Management II [Philip Seaton] 秋学期授業/Fall	654
【A6425】 Seminar: Entrepreneurship &Innovation I [Shiaw Jia Eyo] 春学期授業/Spring	655
【A6426】 Seminar: Entrepreneurship &Innovation I [Shiaw Jia Eyo] 春学期授業/Spring	656
【A6427】 Seminar: Entrepreneurship &Innovation II [Shiaw Jia Eyo] 秋学期授業/Fall	657
【A6428】 Seminar: Entrepreneurship &Innovation II [Shiaw Jia Eyo] 秋学期授業/Fall	658
【A6429】 Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	659
【A6430】 Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	660
【A6431】 Seminar: Global Strategic Management II [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall	661
【A6432】 Seminar: Global Strategic Management II [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall	662
【A6433】 Seminar: Literature in Theory and Practice I [Kevin Thomas Niehaus] 春学期授業/Spring	663
【A6434】 Seminar: Literature in Theory and Practice I [Kevin Thomas Niehaus] 春学期授業/Spring	664
【A6435】 Seminar: Literature in Theory and Practice II [Kevin Thomas Niehaus] 秋学期授業/Fall	665
【A6436】 Seminar: Literature in Theory and Practice II [Kevin Thomas Niehaus] 秋学期授業/Fall	666
【A6437】 Seminar: Media Across Borders I [Stevie Suan] 春学期授業/Spring	667
【A6438】 Seminar: Media Across Borders I [Stevie Suan] 春学期授業/Spring	668
【A6439】 Seminar: Media Across Borders II [Stevie Suan] 秋学期授業/Fall	669
【A6440】 Seminar: Media Across Borders II [Stevie Suan] 秋学期授業/Fall	670
【A7540】 日本語の世界 L A [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	671
【A7541】 日本語の世界 L B [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	673
【A7550】 日本の文化と社会 L A [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	675
【A7551】 日本の文化と社会 L B [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	677
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall	679
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall	681
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】 文化と文明 [小林 信也] 秋学期授業/Fall	683
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】 文化と文明 [小林 信也] 秋学期授業/Fall ..	684
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】 文化と文明 [小林 信也] 秋学期授業/Fall	685
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	686
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	687
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1019】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	688
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1268】 ジオロジカルエンジニアリング [中谷 匡志] 秋学期授業/Fall	689
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】 デザイン文化論 [辻村 亮子] 春学期授業/Spring	691
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】 デザイン文化論 [辻村 亮子] 春学期授業/Spring	692
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】 デザイン文化論 [辻村 亮子] 春学期授業/Spring	693
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2007】 色彩論 [大高 知子] 秋学期授業/Fall	694
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】 都市デザイン [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half) ..	696
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】 都市デザイン [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	697
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】 都市デザイン [上山 肇] 春学期前半/Spring(1st half)	698
建築学科_専門科目_基礎科目【B2054】 地図とGIS [丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half)	699
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2054】 地図とGIS [丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half)	700
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2054】 地図とGIS [丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half)	701
建築学科_専門科目_基礎科目【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half)	702
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half)	703
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half)	704
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2056】 公共空間デザイン及演習 [下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴] 秋学期授業/Fall	705
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2056】 公共空間デザイン及演習 [下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴] 秋学期授業/Fall	706
建築学科_専門科目_展開科目【B2056】 公共空間デザイン及演習 [下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴] 秋学期授業/Fall	707
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2057】 デザイン思想史概論 [高橋 美礼] 秋学期授業/Fall	708

システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2057】デザイン思想史概論〔高橋 美礼〕秋学期授業/Fall	710
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2057】デザイン思想史概論〔高橋 美礼〕秋学期授業/Fall	712
建築学科_専門科目_導入科目【B2151】建築のしくみ〔安藤 直見〕秋学期授業/Fall	714
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2345】デザイン理論（SD）〔秋元 淳〕秋学期授業/Fall	716
建築学科_専門科目_基礎科目【B2401】建築生理心理1〔加用 現空〕春学期授業/Spring	718
都市環境デザイン工学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English〔ディン ポリバン〕秋学期授業/Fall	719
建築学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English〔ディン ポリバン〕秋学期授業/Fall	721
システムデザイン学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English〔ディン ポリバン〕秋学期授業/Fall	723
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B2505】数値計算法〔酒井 久和〕春学期前半/Spring(1st half)	725
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2633】インタフェースデザイン〔土屋 雅人〕秋学期前半/Fall(1st half)	726
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2638】材料と構造のデザイン（2022年度以前入学生）〔武居 秀樹〕秋学期前半/Fall(1st half)	727
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2639】熱と流れのデザイン〔坂間 清子〕秋学期後半/Fall(2nd half)	728
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2640】オペレーションズリサーチ〔野々部 宏司〕秋学期後半/Fall(2nd half)	730
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2668】デザインケーススタディ〔土屋 雅人、大西 景太、SEON G YOUNG AH〕春学期授業/Spring	731
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2671】情報システムデザイン〔藤井 新吾〕秋学期後半/Fall(2nd half)	733
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2708】プロダクトデザイン理論〔安積 伸〕春学期授業/Spring	735
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2726】メカニカルデザイン〔山田 泰之〕春学期後半/Spring(2nd half)	736
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2734】スマートマシンデザイン〔矢作 優知〕秋学期前半/Fall(1st half)	737
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2735】ゲームプログラミング〔岩月 正見〕春学期前半/Spring(1st half)	739
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2737】ARプログラミング〔馬場 祐人〕秋学期後半/Fall(2nd half)	740
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3001】サステイナブルデザイン〔中野 淳太〕秋学期後半/Fall(2nd half)	741
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3001】サステイナブルデザイン〔中野 淳太〕秋学期後半/Fall(2nd half)	742
建築学科_専門科目_基礎科目【B3001】サステイナブルデザイン〔中野 淳太〕秋学期後半/Fall(2nd half)	743
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3007】福祉工学〔川瀬 利弘〕秋学期授業/Fall	744
建築学科_専門科目_展開科目【B3007】福祉工学〔川瀬 利弘〕秋学期授業/Fall	745
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3007】福祉工学〔川瀬 利弘〕秋学期授業/Fall	746
建築学科_専門科目_基礎科目【B3010】ランドスケープデザイン〔大木 一、保 清人〕春学期授業/Spring	747
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3010】ランドスケープデザイン〔大木 一、保 清人〕春学期授業/Spring	749
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3010】ランドスケープデザイン〔大木 一、保 清人〕春学期授業/Spring	751
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】建築フォーラム〔下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人〕秋学期授業/Fall	753
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3013】環境工学〔中野 淳太〕春学期授業/Spring	755
建築学科_専門科目_基礎科目【B3013】環境工学〔中野 淳太〕春学期授業/Spring	756
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3013】環境工学〔中野 淳太〕春学期授業/Spring	757
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_情報分野【B3016】数理統計学〔牧野 倫子〕春学期授業/Spring	758
建築学科_基盤科目_総合系_情報分野【B3016】数理統計学〔牧野 倫子〕春学期授業/Spring	759
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント〔藤澤 浩子、土屋 愛自〕秋学期前半/Fall(1st half)	760
建築学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント〔藤澤 浩子、土屋 愛自〕秋学期前半/Fall(1st half)	761
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント〔藤澤 浩子、土屋 愛自〕秋学期前半/Fall(1st half)	762
建築学科_専門科目_基礎科目【B3406】西洋建築史〔稲益 祐太〕春学期授業/Spring	763

建築学科_専門科目_基礎科目【B3409】	日本建築史 [高村 雅彦]	秋学期授業/Fall	764
建築学科_専門科目_基礎科目【B3410】	建築計画1 [岩佐 明彦]	春学期授業/Spring	765
建築学科_専門科目_基礎科目【B3411】	建築計画2 [岩佐 明彦]	秋学期授業/Fall	766
建築学科_専門科目_展開科目【B3417】	木造建築の構法 [網野 禎昭]	秋学期前半/Fall(1st half)	767
建築学科_専門科目_展開科目【B3427】	空間の構造デザイン [浜田 英明]	春学期授業/Spring	768
建築学科_専門科目_基礎科目【B3436】	建築生理心理2 [加用 現空]	秋学期授業/Fall	769
建築学科_専門科目_展開科目【B3438】	光・視環境 [中野 淳太]	春学期授業/Spring	770
建築学科_専門科目_展開科目【B3439】	音・振動環境 [星 和磨]	秋学期授業/Fall	771
建築学科_専門科目_展開科目【B3540】	都市建築史 [高村 雅彦]	春学期授業/Spring	772
【B3580】	サステナブルデザイン [中野 淳太]	秋学期後半/Fall(2nd half)	773
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3580】	サステナブルデザイン [中野 淳太]	秋学期後半/Fall(2nd half)	774
建築学科_専門科目_基礎科目【B3580】	サステナブルデザイン [中野 淳太]	秋学期後半/Fall(2nd half)	775
【B3581】	デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和]	秋学期授業/Fall	776
【B3581】	デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和]	秋学期授業/Fall	778
【B3581】	デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和]	秋学期授業/Fall	780
【B3590】	アントレプレナーシップ [姜 理恵]	秋学期前半/Fall(1st half)	782
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B3698】	バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019～2022年度入学生) [山田 由美]	秋学期授業/Fall	784
システムデザイン学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B3698】	バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019～2022年度入学生) [山田 由美]	秋学期授業/Fall	786
【B3699】	生態学概論 [山田 由美]	秋学期授業/Fall	788
【B3699】	生態学概論 [山田 由美]	秋学期授業/Fall	790
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B3699】	生態学概論 [山田 由美]	秋学期授業/Fall	792
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3809】	メカトロニクス [伊藤 文臣]	秋学期前半/Fall(1st half)	794
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3812】	システム工学 [森 健一郎]	春学期後半/Spring(2nd half)	796
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3816】	素材と機能 [堀井 辰衛]	春学期後半/Spring(2nd half)	798
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3825】	コストマネジメント [北山 一真]	秋学期授業/Fall	800
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3830】	品質マネジメント [池庄司 雅臣]	秋学期授業/Fall	802
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3830】	品質マネジメント [池庄司 雅臣]	秋学期授業/Fall	803
建築学科_専門科目_展開科目【B3830】	品質マネジメント [池庄司 雅臣]	秋学期授業/Fall	804
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3831】	プロジェクトマネジメント (SD) [川村 武也]	秋学期前半/Fall(1st half)	805
【B3838】	医療福祉工学 [川瀬 利弘]	秋学期授業/Fall	806
【B3838】	医療福祉工学 [川瀬 利弘]	秋学期授業/Fall	807
【B3838】	医療福祉工学 [川瀬 利弘]	秋学期授業/Fall	808
【B3841】	素材と機能のデザイン [堀井 辰衛]	春学期後半/Spring(2nd half)	809
【B3842】	Webアプリプログラミング演習 [馬場 祐人]	秋学期後半/Fall(2nd half)	811
【B3845】	材料と構造のデザイン [武居 秀樹]	秋学期前半/Fall(1st half)	812
【B3847】	数理統計学 [牧野 倫子]	春学期授業/Spring	813
【C0210】	統計処理法 [吉田 一星]	春学期授業/Spring	814
【C0211】	システム論 [甲 洋介]	秋学期授業/Fall	815
【C0212】	デジタル情報学概論 [重定 如彦]	秋学期授業/Fall	816
【C0213】	文化情報学概論 [森村 修]	春学期授業/Spring	817
【C0214】	情報産業論 [今和泉 仁]	春学期授業/Spring	819
【C0215】	ネット文化論 [神戸 雅一]	秋学期授業/Fall	821
【C0220】	表象文化概論 [大嶋 良明、岡村 民夫、林 志津江、深谷 公宣]	春学期授業/Spring	823
【C0221】	メディアと情報 [君塚 洋一]	春学期授業/Spring	825
【C0222】	社会と美術 [平野 真弓]	春学期授業/Spring	827
【C0223】	メディアと社会 [稲垣 立男]	秋学期授業/Fall	830
【C0224】	身体表象論 [深谷 公宣]	秋学期授業/Fall	832
【C0230】	比較文化 [岩下 弘史]	春学期授業/Spring	833
【C0231】	言語文化概論 [衣笠 正晃]	秋学期授業/Fall	834
【C0232】	現代思想 [森村 修]	秋学期授業/Fall	835
【C0233】	ジェンダー論 [佐々木 一恵]	春学期授業/Spring	836

【C0234】異文化間コミュニケーション [副島 健作] 秋学期授業/Fall	838
【C0235】国際関係学概論Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	840
【C0236】国際関係学概論Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	842
【C0241】国家と民族 [宮本 佳和] 秋学期授業/Fall	844
【C0242】国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	845
【C0243】平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	846
【C0244】宗教と社会 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	847
【C0245】Religion and Society [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	849
【C0301】世界の言語Ⅱ [内山 政春] 春学期授業/Spring	850
【C0302】世界の英語 [小中原 麻友] 春学期授業/Spring	851
【C0432】メディア表現法 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	854
【C0433】プログラミング言語基礎 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	856
【C0437】社会とデータサイエンス [和泉 順子] 秋学期授業/Fall	857
【C0438】道具による感覚・体験のデザイン [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	858
【C0439】メディアアートの世界 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	859
【C0530】英語アプリケーションⅠ [ジョナサン・エイブル] 秋学期授業/Fall	861
【C0531】英語アプリケーションⅡ [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	862
【C0532】英語アプリケーションⅢ [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	863
【C0533】英語アプリケーションⅣ [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	865
【C0534】英語アプリケーションⅤ [ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring	867
【C0535】英語アプリケーションⅥ [ラスカイル L.ハウザー] 春学期授業/Spring	869
【C0536】英語アプリケーションⅦ [ANDREW JONES] 秋学期授業/Fall	870
【C0537】英語アプリケーションⅧ [DANIEL G DUSZA] 秋学期授業/Fall	871
【C0538】英語アプリケーションⅨ [MARK E FIELD] 秋学期授業/Fall	872
【C0539】英語アプリケーションⅩ [ラスカイル L.ハウザー] 秋学期授業/Fall	873
【C0595】ドイツ語アプリケーション [林 志津江] 春学期授業/Spring	874
【C0596】ドイツ語アプリケーション [小川 敦] 春学期授業/Spring	876
【C0597】ドイツ語アプリケーション [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	877
【C0625】フランス語アプリケーション [ル ルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	878
【C0626】フランス語アプリケーション [ル ルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	879
【C0627】フランス語アプリケーション [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	880
【C0655】ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	881
【C0656】ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	882
【C0657】ロシア語アプリケーション [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	883
【C0686】中国語アプリケーションⅣ [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	884
【C0687】中国語アプリケーションⅢ [周 重雷] 春学期授業/Spring	885
【C0688】中国語アプリケーションⅡ [張 勝蘭] 秋学期授業/Fall	886
【C0715】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	887
【C0716】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	888
【C0721】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	889
【C0755】朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 春学期授業/Spring	890
【C0756】朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	891
【C0757】朝鮮語アプリケーション [李 蕙臣] 秋学期授業/Fall	892
【C0770】文化情報のデザインワークショップ [松田 美奈子] 春学期授業/Spring	893
【C0771】文化情報のためのネットワーク技法 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	894
【C0772】視覚デザインと文化情報 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	896
【C0773】情報アプリケーションⅠ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	898
【C0774】情報アプリケーションⅡ [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	899
【C0800】こころの科学 [岡本 郁子] 春学期授業/Spring	901
【C0801】ゲーム構築論 [重定 如彦] 春学期授業/Spring	902
【C0802】こころとからだの現象学 [森村 修] 春学期授業/Spring	903
【C0810】道具のデザイン学 [松田 美奈子] 春学期授業/Spring	904
【C0813】情報セキュリティとプライバシー [和泉 順子] 春学期授業/Spring	905
【C0814】文化と生物 [島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、松崎 素道、鈴木 忠、富川 光] 秋学期授業/Fall	906
【C0815】文化と環境情報 [島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂、吉川 翠、長谷川 真紀子] 秋学期授業/Fall	907
【C0820】文化情報空間論 [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	909

【C0821】	コンピュータ音楽と音声情報処理 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	910
【C0830】	コネクション・デザイン [川村 たつる] 秋学期授業/Fall	912
【C0831】	情報の編集論 [川村 たつる] 春学期授業/Spring	913
【C0832】	文化情報の哲学 [森村 修] 秋学期授業/Fall	914
【C0833】	ソーシャル・プラクティス [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	916
【C0850】	パフォーマンスの美学 [森村 修] 春学期授業/Spring	918
【C0854】	現代美術論 [平野 真弓] 秋学期授業/Fall	920
【C0860】	マルチメディア表現法 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	923
【C0861】	フィールドワークと表現 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	925
【C0870】	映像文化論 [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	926
【C0872】	映像と文学 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	927
【C0881】	ポピュラー音楽論 [大嶋 徹] 春学期授業/Spring	929
【C0882】	コミックス論 [野田 謙介] 秋学期授業/Fall	930
【C0884】	Gender and Japanese Culture [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	931
【C0900】	世界の中の日本文学 [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	933
【C0902】	世界とつながる地域の歴史と文化 [高柳 俊男] 春学期授業/Spring	934
【C0910】	中国の文化Ⅰ（現代中国社会）[張 勝蘭] 春学期授業/Spring	936
【C0911】	中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）[張 勝蘭] 秋学期授業/Fall	938
【C0912】	中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）[鈴木 靖] 春学期授業/Spring	940
【C0913】	中国の文化Ⅳ（中国語の構造）[渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	942
【C0914】	中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）[渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	943
【C0915】	中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）[横打 理奈] 秋学期授業/Fall	944
【C0917】	中国の文化Ⅷ（現代文学）[桑島 道夫] 春学期授業/Spring	945
【C0920】	朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）[神谷 丹路] 春学期授業/Spring	946
【C0922】	アジアの伝統芸能 [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	947
【C0931】	ロシア・中央アジアの文化 [佐藤 大雅] 春学期授業/Spring	948
【C0932】	ロシア・東欧の文化 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	950
【C0940】	ドイツ語圏の文化Ⅰ [林 志津江] 春学期授業/Spring	952
【C0945】	スペイン語圏の文化Ⅰ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	953
【C0946】	スペイン語圏の文化Ⅱ [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	955
【C0947】	北米文化論（ケベック講座）[廣松 勲] 秋学期授業/Fall	956
【C0948】	フランス語圏の文化Ⅲ（歴史）[ル ルー 清野 プレンダン] 秋学期授業/Fall	957
【C0950】	カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）[PLAZA BALAGUE Marta] 春学期授業/Spring	959
【C0951】	カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）[PLAZA BALAGUE Marta] 秋学期授業/Fall	961
【C0952】	カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）[PLAZA BALAGUE Marta] 春学期授業/Spring	963
【C0953】	カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）[PLAZA BALAGUE Marta] 秋学期授業/Fall	965
【C0960】	英語圏の文化Ⅰ（文化史）[宇治谷 義英] 春学期授業/Spring	967
【C0962】	英語圏の文化Ⅲ（現代事情）[栗飯原 文子] 春学期授業/Spring	968
【C0963】	英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）[須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	969
【C0964】	英語圏の文化Ⅴ（文学と社会B）[北 文美子] 秋学期授業/Fall	970
【C0965】	英語圏の文化Ⅵ（文学と社会C）[中和 彩子] 春学期授業/Spring	971
【C0966】	英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）[興石 哲哉] 春学期授業/Spring	972
【C0967】	英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）[興石 哲哉] 秋学期授業/Fall	974
【C0999】	フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）[廣松 勲] 春学期授業/Spring	976
【C1000】	比較表象文化論 [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	977
【C1001】	異文化適応論 [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	978
【C1011】	異文化と身体表現 [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	979
【C1022】	実践翻訳技法 [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	980
【C1023】	言葉と社会 [小川 敦] 春学期授業/Spring	981
【C1031】	宗教社会論Ⅱ [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	983
【C1032】	宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）[久木 正雄] 春学期授業/Spring	985
【C1040】	国際関係研究Ⅰ [松本 悟] 春学期授業/Spring	986
【C1041】	国際関係研究Ⅱ [松本 悟] 秋学期授業/Fall	987
【C1044】	人の移動と国際関係Ⅱ [高柳 俊男] 秋学期授業/Fall	988
【C1046】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	989
【C1048】	実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	991
【C1051】	持続可能な社会 [中西 由季子] 春学期授業/Spring	992

【C1052】 実践社会調査法 [松本 悟] 春学期授業/Spring	993
【C1053】 The Global South: History and Politics [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	994
【C1056】 国際関係研究Ⅳ [宮本 佳和] 秋学期授業/Fall	996
【C1060】 インターンシップ事前学習 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	997
【C2002】 民法Ⅰ [中川 義宏] 春学期授業/Spring	999
【C2003】 民法Ⅱ [中川 義宏] 秋学期授業/Fall	1000
【C2004】 国際法Ⅰ [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	1001
【C2005】 国際法Ⅱ [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	1002
【C2012】 刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期授業/Spring	1003
【C2016】 環境法Ⅳ [渡辺 靖明] 秋学期授業/Fall	1005
【C2017】 国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	1007
【C2019】 労働環境法 [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall	1008
【C2025】 地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期授業/Spring	1010
【C2104】 現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	1012
【C2106】 経営学入門 [豊田 太郎] 春学期授業/Spring	1014
【C2107】 環境経営と会計 [岸田 隆行] 秋学期授業/Fall	1015
【C2120】 途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	1016
【C2121】 途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	1018
【C2126】 環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期授業/Fall	1020
【C2200】 現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	1022
【C2201】 現代社会論Ⅱ [島袋 海理] 春学期授業/Spring	1023
【C2203】 NPO・ボランティア論 [新田 英理子] 秋学期授業/Fall	1025
【C2212】 地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	1027
【C2213】 地域コモンズ論 [船戸 修一] オータムセッション/Autumn Session	1029
【C2217】 環境社会論Ⅰ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	1030
【C2218】 環境社会論Ⅱ [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	1032
【C2223】 NGO活動論 [小野 行雄] 秋学期授業/Fall	1034
【C2227】 災害政策論 [川副 早央里] 秋学期授業/Fall	1035
【C2229】 社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	1036
【C2241】 科学技術社会論Ⅰ [金光 秀和] 春学期授業/Spring	1038
【C2242】 科学技術社会論Ⅱ [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	1040
【C2302】 日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期授業/Spring	1042
【C2303】 比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	1043
【C2304】 比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	1044
【C2310】 環境倫理学Ⅰ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	1045
【C2311】 環境倫理学Ⅱ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	1046
【C2314】 ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期授業/Spring	1047
【C2315】 ヨーロッパ環境史論Ⅱ [伊東 直美] 秋学期授業/Fall	1049
【C2316】 環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	1050
【C2317】 環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	1051
【C2322】 環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	1053
【C2323】 環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	1055
【C2400】 サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期授業/Spring	1057
【C2401】 サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	1058
【C2402】 サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	1059
【C2411】 気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	1060
【C2412】 気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	1061
【C2413】 自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	1062
【C2414】 自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	1063
【C2416】 環境科学Ⅰ [佐々木 大輔] 春学期授業/Spring	1064
【C2417】 環境科学Ⅱ [佐々木 大輔] 秋学期授業/Fall	1065
【C2419】 衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	1066
【C2420】 衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	1067
【C2421】 衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	1068
【C2432】 自然災害論 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	1069
【C2433】 自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	1070
【C2500】 環境管理論Ⅰ [大野 香代] 春学期授業/Spring	1071

【C2501】 環境管理論Ⅱ [大野 香代] 春学期授業/Spring	1073
【C2503】 環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	1075
【C2504】 キャリア入門 [櫻井 洋介] 春学期授業/Spring	1077
【C2505】 食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 春学期授業/Spring	1079
【C2506】 食と農の環境学Ⅱ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	1081
【C2507】 食と農の環境学Ⅲ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	1082
【C2559】 現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	1083
【C2560】 現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	1085
【C5024】 キャリアと心理学 [岩本 慧梧] 秋学期授業/Fall	1086
【C5028】 キャリアと労働法 [砂押 以久子] 春学期授業/Spring	1087
基幹科目_選択【C5030】 ファシリテーション論 [徳田 太郎] 秋学期授業/Fall	1089
【C5031】 若者と自立支援 [大山 宏] 秋学期授業/Fall	1091
【C5032】 労働市場と職業選択 [上西 充子] 春学期授業/Spring	1092
【C5033】 ジェンダーと労働 [上西 充子] 秋学期授業/Fall	1093
基幹科目_選択【C5034】 ライフコース論 [百瀬 由璃絵] 秋学期授業/Fall	1094
【C5035】 生活設計論 [高尾 真紀子] 秋学期授業/Fall	1095
基幹科目_選択【C5036】 キャリアモデル・ケーススタディ [梅崎 修] 春学期授業/Spring	1097
【C5037】 外書講読A【2025年度以降入学生用】 [長岡 智寿子] 秋学期授業/Fall	1098
【C5038】 キャリアコミュニケーション (英語) [福田 紀子] 春学期授業/Spring	1100
【C5039】 生涯発達心理学 [廣川 進] 春学期授業/Spring	1102
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C5040】 キャリアカウンセリングⅠ [廣川 進] 秋学期授業/Fall	1103
【C5047】 臨床教育学 [遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring	1105
【C5048】 キャリア教育 [児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring	1107
【C5049】 メディアリテラシーA [村上 郷子] 春学期授業/Spring	1108
【C5050】 市民社会における学びと実践 [池田 佳代] 秋学期授業/Fall	1110
【C5051】 格差社会の家族と教育 [寺崎 里水] 秋学期授業/Fall	1112
【C5052】 ダイバーシティと学校 [松尾 知明] 春学期授業/Spring	1113
【C5057】 教育社会学【2025年度以降入学生用】 [筒井 美紀] 春学期授業/Spring	1114
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C5058】 教育経済学 [孟 碩洋] 秋学期授業/Fall	1115
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C5059】 教育政策 [村上 純一] 秋学期授業/Fall	1117
【C5060】 市民社会と教育改革 [仲田 康一] 春学期授業/Spring	1119
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C5061】 学習の社会史A [山口 真里] 秋学期授業/Fall	1121
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C5062】 学習の社会史B [寺崎 里水] 春学期授業/Spring	1122
【C5063】 外書講読B【2025年度以降入学生用】 [相澤 鈴之助] 秋学期授業/Fall	1123
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5064】 人材育成論Ⅰ [佐藤 厚] 春学期授業/Spring	1125
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5065】 人材育成論Ⅱ [佐藤 厚] 秋学期授業/Fall	1127
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5066】 産業・組織心理学Ⅰ [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	1130
【C5067】 組織行動論Ⅰ [古田 克利] 春学期授業/Spring	1131
【C5069】 簿記Ⅰ [赤城 論士] 春学期授業/Spring	1132
【C5070】 簿記Ⅱ [赤城 論士] 秋学期授業/Fall	1133
【C5071】 経営統計 [中野 貴之] 秋学期授業/Fall	1134
【C5072】 経営分析Ⅰ【2025年度以降入学者用】 [中野 貴之] 春学期授業/Spring	1136
【C5073】 経営分析Ⅱ【2025年度以降入学者用】 [平井 裕久] 秋学期授業/Fall	1137
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5074】 経営組織論Ⅰ [梅木 眞] 春学期授業/Spring	1139
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5075】 経営組織論Ⅱ [梅木 眞] 秋学期授業/Fall	1141
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5076】 マーケティング論 [小川 浩孝] 春学期授業/Spring	1142
【C5077】 マーケティング・リサーチ [小川 浩孝] 秋学期授業/Fall	1145
【C5078】 仕事の経済学 [梅崎 修] 春学期授業/Spring	1148
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5079】 ブランド創造論 [石原 篤] 春学期授業/Spring	1149
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5080】 国際経営論 [森 直子] 秋学期授業/Fall	1151
【C5082】 サービスビジネス論 [村田 茂] 春学期授業/Spring	1153
【C5083】 外書講読C【2025年度以降入学生用】 [門脇 仁] 春学期授業/Spring	1155
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5085】 コミュニティ社会論Ⅰ [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	1157
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5086】 若者文化論 [玉川 博章] 秋学期授業/Fall	1159
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5087】 身体表現論 [叶 雄大] 春学期授業/Spring	1161
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5088】 地域文化論 [八田 益之] 秋学期授業/Fall	1163
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5089】 アート・マネジメント論 [山口 佳子] 春学期授業/Spring	1165

展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5090】メディア文化論 [堤 信子] 秋学期授業/Fall	1167
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5091】文化マーケティング論 [横石 崇] 春学期授業/Spring	1169
【C5095】進歩と平和 [熊谷 智博] 秋学期授業/Fall	1171
【C5096】多文化社会論A [安藤 優子] 春学期授業/Spring	1172
【C5097】多文化社会論B [挽地 康彦] 春学期授業/Spring	1174
【C5098】多文化社会論C [挽地 康彦] 秋学期授業/Fall	1176
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5099】アジア社会論Ⅰ [日下部 尚徳] 秋学期授業/Fall	1178
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5100】アジア社会論Ⅱ [日下部 尚徳] 秋学期授業/Fall	1179
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5101】国際関係論Ⅰ [岩田 哲弥] 春学期授業/Spring	1180
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5102】国際関係論Ⅱ [岩田 哲弥] 秋学期授業/Fall	1182
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5103】国際地域研究Ⅰ [福井 令恵] 春学期授業/Spring	1184
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5104】国際地域研究Ⅱ [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	1186
【C5105】キャリアカウンセリングⅡ(ケーススタディ)【2025年度以降入学生用】[宮脇 優子] 春学期授業/Spring	1188
【C5106】メディアリテラシーB [村上 郷子] 秋学期授業/Fall	1190
【C5107】リスク社会における包括支援と教育 [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall	1192
【C5109】現代の教育思想 [岩本 俊一] 秋学期授業/Fall	1193
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5110】産業・組織心理学Ⅱ [今城 志保] 秋学期授業/Fall	1194
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5111】キャリア開発論 [高崎 美佐] 秋学期授業/Fall	1195
【C5112】組織行動論Ⅱ [古田 克利] 秋学期授業/Fall	1197
【C5114】職業キャリア政策論 [岩月 真也] 春学期授業/Spring	1198
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5115】コミュニティ社会論Ⅱ [佐藤 恵] 秋学期授業/Fall	1200
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5116】家族論 [笠原 良太] 春学期授業/Spring	1202
【C5117】プログラム評価論 [安田 節之] 秋学期授業/Fall	1203
【C5118】社会心理学 [奥山 智天] 春学期授業/Spring	1204
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C5119】文化経営論 [山口 佳子] 秋学期授業/Fall	1205
関連科目【C5293】国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ) [JUSTIN FALKUS] 春学期授業/Spring	1206
関連科目【C5294】国際コミュニケーション語学(英語Ⅱ) [JUSTIN FALKUS] 秋学期授業/Fall	1207
関連科目【C5295】国際コミュニケーション語学(英語Ⅲ) [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1208
関連科目【C5296】国際コミュニケーション語学(英語Ⅳ) [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1210
関連科目【C5297】国際コミュニケーション語学(英語Ⅴ) [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1212
関連科目【C5298】就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- [上西 充子、梅崎 修] 秋学期授業/Fall	1214
関連科目【C5299】就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期授業/Spring	1216
関連科目【C5300】就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期授業/Fall	1218
応用情報工学科_学科専門科目【H4036】数論 [永井 彰] 春学期授業/Spring	1220
応用情報工学科_学科専門科目【H4043】プログラミング言語J A V A [山口 大輔] 春学期授業/Spring	1222
応用情報工学科_学科専門科目【H4044】プログラミング言語J A V A [山口 大輔] 春学期授業/Spring	1224
創生科学科_学科専門科目【H4065】複素関数論 [西村 滋人] 春学期授業/Spring	1226
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5149】応用数学(機械) [坂田 繁洋] 春学期授業/Spring	1227
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5150】応用解析(機械) [坂田 繁洋] 秋学期授業/Fall	1229
電気電子工学科_学科専門科目【H5616】複素関数論(電気) [岩城 敏] 春学期授業/Spring	1230
電気電子工学科_学科専門科目【H5650】応用数学(電気) [鳥飼 弘幸] 春学期授業/Spring	1231
電気電子工学科_学科専門科目【H5652】確率統計(電気) [斉藤 利通] 秋学期授業/Fall	1232
電気電子工学科_学科専門科目【H5663】応用物理学 [加来 滋] 秋学期授業/Fall	1233
応用情報工学科_学科専門科目【H6154】応用数学(情報) [陸名 雄一] 春学期授業/Spring	1234
応用情報工学科_学科専門科目【H6155】応用解析(情報) [陸名 雄一] 秋学期授業/Fall	1235
経営システム工学科_学科専門科目【H6781】数値解析(経営) [土屋 卓也] 秋学期授業/Fall	1236
経営システム工学科_学科専門科目【H6856】常微分方程式 [磯島 伸] 春学期授業/Spring	1237
経営システム工学科_学科専門科目【H6858】複素関数(経営) [勝島 義史] 秋学期授業/Fall	1238
学部共通科目【H7001】グリーンケミストリ [渡邊 雄二郎] 春学期授業/Spring	1240
学部共通科目【H7006】環境と人間 [植田 央] 春学期授業/Spring	1241
学部共通科目【H7007】植物薬理学 [鈴木 聡] 秋学期授業/Fall	1242
学部共通科目【H7010】グリーンケミストリ [利谷 翔平] 春学期授業/Spring	1243
学部共通科目【H7017】高分子化学 [渡辺 敏行] 秋学期授業/Fall	1244
学部共通科目【H7018】環境安全化学 [大波 英幸、福島 由美子] 春学期授業/Spring	1245
学部共通科目【H7019】環境安全化学 [吉原 利一] 春学期授業/Spring	1246
学部共通科目【H7020】分析化学 [渡邊 雄二郎] 春学期授業/Spring	1248
学部共通科目【H7021】バイオエンジニアリング [稲本 進] 秋学期授業/Fall	1249

学部共通科目【H7023】物質構造化学〔緒方 啓典〕秋学期授業/Fall	1250
学部共通科目【H7024】機器分析学〔橋本 伸哉〕秋学期授業/Fall	1251
学部共通科目【H7025】機器分析学〔猿渡 茂、野口 恵一、加藤 敏代〕秋学期授業/Fall	1253
学部共通科目【H7031】バイオエンジニアリング〔松田 寛子〕秋学期授業/Fall	1254
学部共通科目【H7032】分析化学〔宮村 一夫〕秋学期授業/Fall	1255
学部共通科目【H7033】物質機能化学〔緒方 啓典〕春学期授業/Spring	1256
学部共通科目【H7034】物質変換化学〔奥村 和〕春学期授業/Spring	1257
学部共通科目【H7035】物質循環化学〔明石 孝也〕秋学期授業/Fall	1258
学部共通科目【H7036】バイオマテリアル〔張 民芳〕秋学期集中/Intensive(Fall)	1259
学部共通科目【H7038】分子エレクトロニクス〔見附 孝一郎〕春学期集中/Intensive(Spring)	1260
学部共通科目【H7040】蛋白工学〔竹田 哲也〕秋学期授業/Fall	1262
学部共通科目【H7041】生物有機化学〔芝 清隆〕春学期授業/Spring	1263
学部共通科目【H7042】食品科学〔三浦 豊〕春学期授業/Spring	1265
生命機能学科_学科専門科目【H7045】生体超分子〔曾和 義幸〕春学期授業/Spring	1266
学部共通科目【H7071】基礎有機化学 I〔河内 敦〕春学期授業/Spring	1267
学部共通科目【H7072】基礎有機化学 II〔河内 敦〕秋学期授業/Fall	1268
学部共通科目【H7073】応用環境化学〔渡邊 雄二郎〕秋学期授業/Fall	1269
学部共通科目【H7081】分子生物学 I〔細谷 茂生〕春学期授業/Spring	1270
学部共通科目【H7082】分子生物学 I〔片山 映、山中 幸〕春学期授業/Spring	1271
学部共通科目【H7083】分子生物学 II〔木口 悠也〕秋学期授業/Fall	1272
学部共通科目【H7084】分子生物学 II〔小見 美央〕秋学期授業/Fall	1273
学部共通科目【H7085】生物化学 I〔廣野 雅文〕春学期授業/Spring	1275
学部共通科目【H7086】生物化学 I〔田島 寛隆〕春学期授業/Spring	1276
学部共通科目【H7087】蛋白質構造機能学 I〔廣野 雅文〕春学期授業/Spring	1277
学部共通科目【H7088】蛋白質構造機能学 II〔曾和 義幸〕秋学期授業/Fall	1278
学部共通科目【H7089】分子薬理学〔小藤 智史〕春学期授業/Spring	1279
生命機能学科_学科専門科目【H7090】構造生物学〔金丸 周司〕春学期授業/Spring	1280
学部共通科目【H7303】植物医科学概論〔鍵和田 聡、津田 新哉、池田 健太郎、舟木 康郎、廣岡 裕史〕春学期授業/Spring	1281
学部共通科目【H7304】植物病学概論〔濱本 宏〕秋学期授業/Fall	1282
学部共通科目【H7305】植物分子細胞生物学〔鍵和田 聡〕秋学期授業/Fall	1283
生命機能学科_学科専門科目【H7502】計算機科学概論 I〔豊田 太郎〕春学期授業/Spring	1284
生命機能学科_学科専門科目【H7503】計算機科学概論 II〔豊田 太郎〕秋学期授業/Fall	1285
生命機能学科_学科専門科目【H7509】発生生物学〔小林 麻己人、川岸 万紀子〕秋学期集中/Intensive(Fall) ..	1286
生命機能学科_学科専門科目【H7512】物理化学概論 I〔見附 孝一郎〕春学期授業/Spring	1287
生命機能学科_学科専門科目【H7513】物理化学概論 II〔見附 孝一郎〕秋学期授業/Fall	1289
生命機能学科_学科専門科目【H7515】生理病理学〔丸井 朱里〕秋学期授業/Fall	1291
生命機能学科_学科専門科目【H7533】細胞工学〔廣野 雅文〕秋学期授業/Fall	1292
生命機能学科_学科専門科目【H7534】細胞情報学〔川岸 郁郎〕春学期授業/Spring	1293
生命機能学科_学科専門科目【H7536】神経科学〔高田 耕司〕秋学期授業/Fall	1294
生命機能学科_学科専門科目【H7537】分子免疫学〔岩瀬 忠行〕秋学期授業/Fall	1296
生命機能学科_学科専門科目【H7538】バイオイメージング〔笠井 倫志、矢島 潤一郎、藤原 敬宏、吉澤 亮〕秋学期授業/Fall	1297
生命機能学科_学科専門科目【H7551】生物化学 II〔西川正俊〕秋学期授業/Fall	1298
生命機能学科_学科専門科目【H7552】生物物理学 I〔西川正俊〕春学期授業/Spring	1299
生命機能学科_学科専門科目【H7553】生物物理学 II〔曾和義幸〕秋学期授業/Fall	1300
学部共通科目【H7554】細胞生物学 I〔金子 智行〕春学期授業/Spring	1301
学部共通科目【H7555】細胞生物学 I〔小見 美央〕春学期授業/Spring	1302
生命機能学科_学科専門科目【H7556】細胞生物学 II〔川岸 郁朗〕秋学期授業/Fall	1304
学部共通科目【H7558】生物統計学〔谷合 弘行〕秋学期授業/Fall	1305
生命機能学科_学科専門科目【H7560】ゲノム構造機能学 I〔今村 大輔〕春学期授業/Spring	1306
生命機能学科_学科専門科目【H7561】ゲノム構造機能学 II〔山中 幸〕秋学期授業/Fall	1307
学部共通科目【H7562】細胞構造機能学 I〔川岸 郁朗〕春学期授業/Spring	1308
学部共通科目【H7563】細胞構造機能学 II〔金子 智行〕秋学期授業/Fall	1310
生命機能学科_学科専門科目【H7564】生体分子分析学 I〔豊岡 博子 (Hiroko KAWAI-TOYOOKA)〕春学期授業/Spring	1311
生命機能学科_学科専門科目【H7565】生体分子分析学 II〔林 勇樹〕秋学期授業/Fall	1312

学部共通科目【H7566】分子微生物学〔山中 幸〕 春学期授業/Spring	1313
学部共通科目【H7569】バイオインフォマティクス〔豊岡 博子(Hiroko KAWAI-TOYOOKA)〕 秋学期授業/Fall	1314
学部共通科目【H7570】ケミカルバイオロジー〔影近 弘之〕 秋学期授業/Fall	1315
生命機能学科_学科専門科目【H7571】バイオエナジェティクス〔竹田 哲也〕 春学期授業/Spring	1316
生命機能学科_学科専門科目【H7572】医用生体工学〔金子 智行〕 秋学期授業/Fall	1317
応用植物科学科_学科専門科目【H8003】栽培植物学〔佐野 俊夫〕 春学期授業/Spring	1318
応用植物科学科_学科専門科目【H8004】植物病原菌類学〔廣岡 裕史〕 春学期授業/Spring	1319
応用植物科学科_学科専門科目【H8005】植物病防除学〔池田 健太郎〕 秋学期授業/Fall	1320
応用植物科学科_学科専門科目【H8006】土壌科学〔亀和田 國彦〕 秋学期授業/Fall	1321
応用植物科学科_学科専門科目【H8009】診断技術論〔大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕史、酒井 啓充〕 春学期授 業/Spring	1322
応用植物科学科_学科専門科目【H8013】植物生理生態学〔佐野 俊夫〕 秋学期授業/Fall	1323
応用植物科学科_学科専門科目【H8014】雑草学〔佐野 俊夫、村岡 哲郎〕 秋学期授業/Fall	1324
応用植物科学科_学科専門科目【H8015】植物医科ビジネス論〔宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子〕 秋学期授 業/Fall	1325
応用植物科学科_学科専門科目【H8017】フードセイフティ論〔八戸 真弓、稲津 康弘、久城 真代、川崎 晋、宮 ノ下 明大、高畠 令王奈〕 秋学期授業/Fall	1326
学部共通科目【H8021】植物バイオテクノロジー概論〔川合 伸也〕 春学期授業/Spring	1327
学部共通科目【H8022】植物メディカルゲノム学〔大島研郎、濱本宏〕 秋学期授業/Fall	1329
学部共通科目【H8023】植物細菌学〔大島 研郎〕 春学期授業/Spring	1330
学部共通科目【H8024】植物ウイルス学〔津田 新哉〕 秋学期授業/Fall	1331
学部共通科目【H8025】微生物生態学〔堀 知行〕 春学期授業/Spring	1333
応用植物科学科_学科専門科目【H8026】環境昆虫学〔望月 文昭〕 春学期授業/Spring	1334
応用植物科学科_学科専門科目【H8027】媒介システム学〔津田 新哉〕 春学期授業/Spring	1335
応用植物科学科_学科専門科目【H8028】植物メディカルシステム学〔濱本 宏〕 春学期授業/Spring	1337
応用植物科学科_学科専門科目【H8030】植物感染生理学〔鍵和田 聡〕 春学期授業/Spring	1338
応用植物科学科_学科専門科目【H8031】植物臨床医科学〔池田 健太郎〕 春学期授業/Spring	1339
応用植物科学科_学科専門科目【H8032】生物制御化学〔望月 文昭〕 秋学期授業/Fall	1340
応用植物科学科_学科専門科目【H8033】植物医科学法論〔大友 哲也〕 春学期授業/Spring	1342
応用植物科学科_学科専門科目【H8034】ポストハーベスト論〔廣岡 裕史、宮ノ下 明大〕 秋学期授業/Fall	1343
応用植物科学科_学科専門科目【H8035】植物生理病理学〔佐野 俊夫、亀和田 國彦〕 春学期授業/Spring	1344
応用植物科学科_学科専門科目【H8103】国際食料需給論〔鶴岡 康夫〕 春学期授業/Spring	1345
応用植物科学科_学科専門科目【H8104】植物管理技術論〔安達 俊輔、桂 圭佑、若林 侑〕 春学期授業/Spring	1346
応用植物科学科_学科専門科目【H8106】基礎植物害虫学〔大井田 寛〕 秋学期授業/Fall	1347
応用植物科学科_学科専門科目【H8107】グリーン経済学〔鶴岡 康夫〕 秋学期授業/Fall	1348
応用植物科学科_学科専門科目【H8108】植物栄養学〔亀和田 國彦〕 春学期授業/Spring	1349
応用植物科学科_学科専門科目【H8113】応用植物害虫学〔大井田 寛〕 春学期授業/Spring	1351
応用植物科学科_学科専門科目【H8114】食料・地域政策論〔鶴岡 康夫〕 秋学期授業/Fall	1352
応用植物科学科_学科専門科目【H8115】自然再生学概論〔大井田 寛、橋本 智美、鶴岡 康夫、北澤 哲弥〕 秋 学期授業/Fall	1353
応用植物科学科_学科専門科目【H8117】ホーティカルチャー論〔津田 新哉、鈴木 栄、彦坂 晶子、堀内 尚美〕 春学期授業/Spring	1354
応用植物科学科_学科専門科目【H8120】実践植物遺伝学〔坂井 真、黒羽 剛〕 春学期授業/Spring	1355
環境応用化学科_学科専門科目【H8501】化学熱力学 I〔森 隆昌〕 秋学期授業/Fall	1357
環境応用化学科_学科専門科目【H8502】化学熱力学 I I〔山下 明泰〕 春学期授業/Spring	1358
環境応用化学科_学科専門科目【H8503】応用化学基礎〔渡邊 雄二郎〕 春学期授業/Spring	1360
環境応用化学科_学科専門科目【H8503】応用化学基礎〔山下 明泰〕 春学期授業/Spring	1361
環境応用化学科_学科専門科目【H8503】応用化学基礎〔明石 孝也〕 春学期授業/Spring	1363
環境応用化学科_学科専門科目【H8503】応用化学基礎〔河内 敦〕 春学期授業/Spring	1364
環境応用化学科_学科専門科目【H8503】応用化学基礎〔緒方 啓典〕 春学期授業/Spring	1365
環境応用化学科_学科専門科目【H8503】応用化学基礎〔藤井 孝太郎〕 春学期授業/Spring	1366
環境応用化学科_学科専門科目【H8503】応用化学基礎〔森 隆昌〕 春学期授業/Spring	1367
環境応用化学科_学科専門科目【H8503】応用化学基礎〔高井 和之〕 春学期授業/Spring	1368
環境応用化学科_学科専門科目【H8503】応用化学基礎〔杉山 賢次〕 春学期授業/Spring	1369
環境応用化学科_学科専門科目【H8512】無機化学概論〔明石 孝也〕 秋学期授業/Fall	1370
環境応用化学科_学科専門科目【H8523】応用化学入門〔高井 和之〕 春学期授業/Spring	1371
環境応用化学科_学科専門科目【H8525】物理化学 I〔緒方 啓典〕 春学期授業/Spring	1372

環境応用化学科_学科専門科目【H8526】	物理化学	I I [高井 和之]	秋学期授業/Fall	1373
環境応用化学科_学科専門科目【H8527】	無機化学	I [藤井 孝太郎]	春学期授業/Spring	1374
環境応用化学科_学科専門科目【H8528】	無機化学	I I [藤井 孝太郎]	秋学期授業/Fall	1375
環境応用化学科_学科専門科目【H8529】	有機化学	I [杉山 賢次]	春学期授業/Spring	1376
環境応用化学科_学科専門科目【H8530】	有機化学	I I [杉山 賢次]	秋学期授業/Fall	1377
環境応用化学科_学科専門科目【H8533】	コンピュータ利用化学	[小鍋 哲]	秋学期授業/Fall	1378
環境応用化学科_学科専門科目【H8541】	電気化学	[片山 英樹]	春学期授業/Spring	1379
環境応用化学科_学科専門科目【H8545】	反応工学	[小堀 深]	春学期授業/Spring	1380
環境応用化学科_学科専門科目【H8548】	量子化学	[野口 真理子]	春学期授業/Spring	1381
環境応用化学科_学科専門科目【H8549】	錯体化学	[田所 誠]	春学期授業/Spring	1382
環境応用化学科_学科専門科目【H8553】	化学統計力学	[藤森 裕基]	秋学期授業/Fall	1383
環境応用化学科_学科専門科目【H8554】	物質設計化学	[高井 和之]	秋学期授業/Fall	1384
環境応用化学科_学科専門科目【H8555】	エネルギー環境化学	[打越 哲郎]	秋学期授業/Fall	1385
環境応用化学科_学科専門科目【H8556】	触媒化学	[藤井 孝太郎]	春学期授業/Spring	1386
環境応用化学科_学科専門科目【H8580】	環境化学工学概論	[森 隆昌]	秋学期授業/Fall	1387
環境応用化学科_学科専門科目【H8581】	環境化学工学応用	[山下 明泰]	春学期授業/Spring	1388
環境応用化学科_学科専門科目【H8584】	無機素材反応化学	[明石 孝也]	春学期授業/Spring	1390
創生科学科_学科専門科目【H9270】	フーリエ変換	[西村 滋人]	春学期授業/Spring	1391
創生科学科_学科専門科目【H9271】	空間の幾何	[福島 莊之介]	春学期授業/Spring	1392
創生科学科_学科専門科目【H9272】	対称性と構造	[長谷 正司]	春学期授業/Spring	1393
【J0401】	情報科学入門	[日高 宗一郎]	春学期授業/Spring	1394
【J0402】	情報科学入門	[坂本 寛]	春学期授業/Spring	1396
【J0403】	コンピュータシステム入門1	[高村 誠之]	春学期授業/Spring	1398
【J0404】	コンピュータシステム入門1	[坂本 寛]	春学期授業/Spring	1400
【J0406】	コンピュータシステム入門2	[小池 崇文]	秋学期授業/Fall	1402
【J0409】	離散構造1	[佐藤 裕二]	春学期授業/Spring	1403
【J0410】	離散構造1	[小池 崇文]	春学期授業/Spring	1404
【J0411】	離散構造2	[佐々木 晃]	秋学期授業/Fall	1405
【J0412】	離散構造2	[首藤 裕一]	秋学期授業/Fall	1406
【J0419】	論理回路入門	[李 亜民]	秋学期授業/Fall	1407
【J0420】	プログラミング入門1	[赤石 美奈]	春学期前半/Spring(1st half)	1408
【J0421】	プログラミング入門1	[黒木 帝聡]	春学期前半/Spring(1st half)	1409
【J0422】	プログラミング入門1	[西田 圭吾]	春学期前半/Spring(1st half)	1410
【J0423】	プログラミング入門1	[佐藤 周平]	春学期前半/Spring(1st half)	1411
【J0424】	プログラミング入門2	[赤石 美奈]	春学期後半/Spring(2nd half)	1412
【J0425】	プログラミング入門2	[黒木 帝聡]	春学期後半/Spring(2nd half)	1413
【J0426】	プログラミング入門2	[西田 圭吾]	春学期後半/Spring(2nd half)	1414
【J0427】	プログラミング入門2	[佐藤 周平]	春学期後半/Spring(2nd half)	1415
【J0429】	プログラミング入門3	[佐々木 晃]	秋学期授業/Fall	1416
【J0430】	プログラミング入門3	[小林 郁夫]	秋学期授業/Fall	1417
【J0431】	プログラミング入門3	[馬 建華]	秋学期授業/Fall	1418
【J0432】	プログラミング入門3	[高村 誠之]	秋学期授業/Fall	1419
【J0433】	データ構造とアルゴリズム1	[首藤 裕一]	春学期授業/Spring	1420
【J0434】	データ構造とアルゴリズム1	[坂本 寛]	春学期授業/Spring	1421
【J0439】	最適化	[佐川 浩彦]	秋学期授業/Fall	1422
【J0440】	最適化	[佐藤 裕二]	秋学期授業/Fall	1423
【J0501】	プログラミング1(C/C++)	[廣津 登志夫、佐藤 周平]	春学期集中/Intensive(Spring)	1424
【J0505】	プログラミング2(C/C++)	[相島 健助、廣津 登志夫]	秋学期集中/Intensive(Fall)	1426
【J0509】	プログラミング演習(C/C++)	[廣津 登志夫]	春学期授業/Spring	1428
【J0511】	形式言語とオートマトン	[松下 智]	春学期授業/Spring	1429
【J0512】	形式言語とオートマトン	[日高 宗一郎]	春学期授業/Spring	1431
【J0513】	コンピュータ構成と設計入門	[八巻 隼人]	春学期授業/Spring	1433
【J0514】	コンパイラ	[佐々木 晃]	春学期授業/Spring	1434
【J0516】	データ構造とアルゴリズム2	[首藤 裕一]	秋学期授業/Fall	1435
【J0519】	統計学2	[高村 誠之]	秋学期授業/Fall	1436
【J0520】	統計学2	[川畑 史郎]	秋学期授業/Fall	1437
【J0521】	情報基礎学A	[尾花 賢]	秋学期授業/Fall	1438

【J0522】 情報基礎学B [川畑 史郎] 春学期授業/Spring	1439
【J0523】 コンピュータ構成と設計 [李 亜民] 秋学期授業/Fall	1440
【J0524】 情報理論 [尾花 賢] 秋学期授業/Fall	1442
【J0526】 オペレーティングシステム [山田 浩史] 春学期授業/Spring	1443
【J0527】 型システムと関数型言語 [日高 宗一郎] 秋学期授業/Fall	1444
【J0528】 ソフトウェア工学 [栗田 太郎] 秋学期授業/Fall	1445
【J0529】 並列分散処理 [八巻 隼人] 秋学期授業/Fall	1447
【J0531】 情報・ネットワークセキュリティ入門 [青木 慧、和田 紘帆、前田 智紀] 秋学期授業/Fall	1449
【J0534】 プログラミング2(Java) [松下 智] 秋学期授業/Fall	1451
【J0536】 ヒューマンコンピュータインタラクション [黒木 帝聡] 春学期授業/Spring	1452
【J0537】 データベース [日高 宗一郎] 秋学期授業/Fall	1453
【J0538】 データベース [坂本 寛] 秋学期授業/Fall	1454
【J0539】 人工知能 [赤石 美奈] 秋学期授業/Fall	1455
【J0540】 人工知能 [松下 智] 秋学期授業/Fall	1457
【J0541】 プログラミング3(Java) [馬 建華] 春学期授業/Spring	1459
【J0542】 コンピュータネットワーク [廣津 登志夫] 春学期授業/Spring	1460
【J0543】 サービスコンピューティング [松下 智] 春学期授業/Spring	1461
【J0544】 オペレーションズリサーチ [小西 克巳] 春学期授業/Spring	1463
【J0545】 オブジェクト指向プログラミング [佐々木 晃] 秋学期授業/Fall	1464
【J0546】 情報検索 [相島 健助] 春学期授業/Spring	1465
【J0547】 ユビキタスインテリジェンス [馬 建華] 秋学期授業/Fall	1466
【J0549】 コンピュータグラフィックス [佐藤 周平] 秋学期授業/Fall	1468
【J0550】 機械学習 [伊藤 克亘、佐藤 裕二] 秋学期授業/Fall	1469
【J0551】 プログラミング(MATLAB) [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	1470
【J0552】 プログラミング演習1(python) [伊藤 克亘] 春学期授業/Spring	1472
【J0553】 フーリエ級数と変換 [秋野 喜彦] 春学期授業/Spring	1474
【J0555】 デジタル信号処理 [高村 誠之] 春学期授業/Spring	1475
【J0556】 画像処理 [京地 清介] 秋学期授業/Fall	1476
【J0557】 音声情報処理 [藤村 浩司] 秋学期授業/Fall	1477
【J0558】 プログラミング演習2(MATLAB) [京地 清介] 春学期授業/Spring	1479
【J0560】 科学技術計算 [相島 健助] 春学期授業/Spring	1480
【J0561】 微積分法の応用2 [秋野 喜彦] 秋学期授業/Fall	1481
【J0562】 生体情報論 [小西 克巳] 秋学期授業/Fall	1483
【J0563】 プログラミング演習1(python) [伊藤 克亘] 春学期授業/Spring	1484
【K6054】 日本経済論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	1486
【K6055】 日本経済論A [青野 幸平] 春学期授業/Spring	1487
【K6056】 日本経済論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	1488
【K6057】 日本経済論B [青野 幸平] 秋学期授業/Fall	1489
【K6058】 国際経済論A [坪田 建明] 春学期授業/Spring	1490
【K6059】 国際経済論A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	1491
【K6060】 国際経済論B [坪田 建明] 秋学期授業/Fall	1492
【K6061】 国際経済論B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	1493
【K6062】 財政学A [小林 克也] 春学期授業/Spring	1494
【K6063】 財政学A [廣川 みどり] 春学期授業/Spring	1495
【K6064】 財政学B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	1496
【K6065】 財政学B [廣川 みどり] 秋学期授業/Fall	1497
【K6066】 金融論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	1498
【K6067】 金融論A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	1499
【K6068】 金融論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	1500
【K6069】 金融論B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	1501
【K6070】 経済の数理A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	1502
【K6071】 経済の数理B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	1504
【K6094】 計量経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	1506
【K6095】 計量経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	1507
【K6103】 企業と経済・応用B [河村 真] 秋学期授業/Fall	1508
【K6108】 現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	1509
【K6109】 現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	1510

【K6122】	経済データ分析A [明城 聡]	春学期授業/Spring	1511
【K6123】	経済データ分析B [明城 聡]	秋学期授業/Fall	1512
【K6124】	経済地理 [近藤 章夫]	春学期授業/Spring	1513
【K6125】	産業集積論 [近藤 章夫]	秋学期授業/Fall	1514
【K6128】	コーポレートガバナンス論A [胥 鵬]	春学期授業/Spring	1515
【K6129】	コーポレートガバナンス論B [胥 鵬]	秋学期授業/Fall	1517
【K6130】	リスク・マネジメントA [湯前 祥二]	春学期授業/Spring	1519
【K6131】	リスク・マネジメントB [湯前 祥二]	秋学期授業/Fall	1520
【K6132】	企業経営史A [飯塚 陽介]	春学期授業/Spring	1521
【K6133】	企業経営史B [飯塚 陽介]	秋学期授業/Fall	1522
【K6136】	企業経営論A [内田 彬浩]	春学期授業/Spring	1523
【K6137】	企業経営論B [内田 彬浩]	秋学期授業/Fall	1524
【K6140】	企業実務研究A [湯前 祥二]	春学期授業/Spring	1526
【K6141】	企業実務研究B [湯前 祥二]	秋学期授業/Fall	1528
【K6142】	国際会計制度A [田中 優希]	春学期授業/Spring	1530
【K6143】	国際会計制度B [田中 優希]	秋学期授業/Fall	1531
【K6144】	金融ビジネス論A [武田 浩一]	春学期授業/Spring	1532
【K6146】	金融ビジネス論B [武田 浩一]	秋学期授業/Fall	1533
【K6148】	開発経済論A [池上 宗信]	春学期授業/Spring	1534
【K6149】	開発経済論B [池上 宗信]	秋学期授業/Fall	1535
【K6150】	国際関係論A [富永 靖敬]	春学期授業/Spring	1536
【K6151】	国際関係論B [富永 靖敬]	秋学期授業/Fall	1538
【K6152】	経済人類学A [友松 夕香]	春学期授業/Spring	1540
【K6153】	経済人類学B [友松 夕香]	秋学期授業/Fall	1541
【K6154】	環境経済論A [松波 淳也]	春学期授業/Spring	1542
【K6155】	環境経済論A [松波 淳也]	春学期授業/Spring	1543
【K6156】	環境経済論B [松波 淳也]	秋学期授業/Fall	1544
【K6157】	環境経済論B [松波 淳也]	秋学期授業/Fall	1545
【K6160】	経済地理A [近藤 章夫]	春学期授業/Spring	1546
【K6161】	経済地理B [近藤 章夫]	秋学期授業/Fall	1547
【K6164】	ヨーロッパ経済論A [進藤 理香子]	春学期授業/Spring	1548
【K6165】	ヨーロッパ経済論B [進藤 理香子]	秋学期授業/Fall	1549
【K6166】	現代アジア経済論A [馬場 敏幸]	春学期授業/Spring	1550
【K6167】	現代アジア経済論B [馬場 敏幸]	秋学期授業/Fall	1551
【K6168】	中国経済論A [王 威]	春学期授業/Spring	1552
【K6169】	中国経済論B [王 威]	秋学期授業/Fall	1554
【K6180】	ドイツ語セミナーA [北岡 幸代]	春学期授業/Spring	1556
【K6181】	ドイツ語セミナーB [北岡 幸代]	秋学期授業/Fall	1557
【K6182】	フランス語セミナーB [桑原 旅人]	秋学期授業/Fall	1558
【K6183】	フランス語セミナーA [桑原 旅人]	春学期授業/Spring	1559
【K6184】	ロシア語セミナーA [松澤 暢子]	春学期授業/Spring	1560
【K6185】	ロシア語セミナーB [松澤 暢子]	秋学期授業/Fall	1561
【K6186】	中国語セミナーA [石 碩]	春学期授業/Spring	1562
【K6187】	中国語セミナーB [石 碩]	秋学期授業/Fall	1563
【K6188】	スペイン語セミナーA [芝田 幸一郎]	春学期授業/Spring	1564
【K6189】	スペイン語セミナーB [芝田 幸一郎]	秋学期授業/Fall	1565
【K6190】	現代社会と情報A [坂本 憲昭]	春学期授業/Spring	1566
【K6191】	現代社会と情報B [菅 幹雄]	秋学期授業/Fall	1567
【K6194】	経済統計論A [菅 幹雄]	春学期授業/Spring	1568
【K6195】	経済統計論B [菅 幹雄]	秋学期授業/Fall	1569
【K6196】	日本文化論 [黒田 俊太郎]	秋学期授業/Fall	1570
【K6200】	政治過程論 [岡崎 加奈子]	春学期授業/Spring	1571
【K6201】	国際政治論 [曹 海石]	秋学期授業/Fall	1572
【K6202】	日本思想史 [古澤 直人]	春学期授業/Spring	1573
【K6203】	開発経済入門A [池上 宗信]	春学期授業/Spring	1574
【K6204】	開発経済入門B [池上 宗信]	秋学期授業/Fall	1575
【K6209】	環境科学A [岡部 雅史]	春学期授業/Spring	1576

【K6210】 環境科学 B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	1577
【K6214】 日本文化史 [古澤 直人] 秋学期授業/Fall	1578
【K6219】 経済学史 A [平瀬 友樹] 春学期授業/Spring	1579
【K6220】 経済学史 B [平瀬 友樹] 秋学期授業/Fall	1580
【K6221】 公共経済論 A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	1581
【K6222】 公共経済論 B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	1582
【K6223】 環境政策論 A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	1583
【K6224】 環境政策論 B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	1584
【K6225】 日本経済史 A [長谷川 達朗] 春学期授業/Spring	1585
【K6226】 日本経済史 B [長谷川 達朗] 秋学期授業/Fall	1586
【K6227】 社会経済思想史 A [山本 英子] 春学期授業/Spring	1587
【K6228】 社会経済思想史 B [山本 英子] 秋学期授業/Fall	1588
【K6229】 経済政策論 A [小原 拓也] 春学期授業/Spring	1589
【K6230】 経済政策論 B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	1590
【K6231】 農業経済論 A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	1591
【K6232】 農業経済論 B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	1592
【K6233】 社会政策論 A [菅原 琢磨] 春学期授業/Spring	1593
【K6234】 社会政策論 B [菅原 琢磨] 秋学期授業/Fall	1594
【K6235】 労働経済論 A [酒井 正] 春学期授業/Spring	1595
【K6236】 労働経済論 B [酒井 正] 春学期授業/Spring	1596
【K6237】 金融各論 I A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	1597
【K6238】 金融各論 I B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	1598
【K6239】 情報経済論 A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	1599
【K6240】 情報経済論 B [鈴木 豊] 秋学期授業/Fall	1600
【K6241】 地方財政論 A [小林 克也] 春学期授業/Spring	1601
【K6242】 地方財政論 B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	1602
【K6243】 社会保障論 A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	1603
【K6244】 社会保障論 B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	1604
【K6245】 産業組織論 A [河村 真] 春学期授業/Spring	1605
【K6246】 産業組織論 B [河村 真] 秋学期授業/Fall	1606
【K6247】 金融各論 II A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	1607
【K6249】 金融各論 II B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	1608
【K6251】 企業金融論 A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	1609
【K6252】 企業金融論 B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	1610
【K6253】 数理統計学 A [八木 文香] 春学期授業/Spring	1611
【K6254】 数理統計学 B [八木 文香] 秋学期授業/Fall	1612
【K6268】 国際金融論 A [ブー トウン カイ] 春学期授業/Spring	1613
【K6269】 国際金融論 B [ブー トウン カイ] 秋学期授業/Fall	1614
【K6270】 企業経済論 A [砂田 充] 春学期授業/Spring	1616
【K6271】 企業経済論 B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	1617
【K6312】 世界の文化と思想 A [田村 理香] 春学期授業/Spring	1618
【K6313】 世界の文化と思想 B [田村 理香] 秋学期授業/Fall	1619
【K6314】 地球環境論 A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	1620
【K6315】 地球環境論 B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	1621
【K6326】 国際貿易論 A [坪田 建明] 春学期授業/Spring	1622
【K6327】 国際貿易論 B [坪田 建明] 秋学期授業/Fall	1623
【K6332】 監査論 A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	1624
【K6333】 監査論 B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	1625
【K6337】 マクロ経済学 A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	1626
【K6338】 マクロ経済学 B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	1627
【K6339】 ミクロ経済学 A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	1628
【K6340】 ミクロ経済学 B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	1629
【K6341】 現代経済学応用 A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	1630
【K6342】 現代経済学応用 B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	1631
【K6343】 マクロ経済学 A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	1632
【K6344】 マクロ経済学 B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	1633
【K6345】 ミクロ経済学 A [西村 健] 春学期授業/Spring	1634

【K6346】	ミクロ経済学B [西村 健]	秋学期授業/Fall	1635
【K6347】	財政学A(市ヶ谷開講) [島澤 諭]	春学期授業/Spring	1636
【K6348】	財政学B(市ヶ谷開講) [島澤 諭]	秋学期授業/Fall	1637
【K6349】	経済政策論A(市ヶ谷開講) [森脇 大輔]	春学期授業/Spring	1638
【K6350】	経済政策論B(市ヶ谷開講) [濱秋 純哉]	秋学期授業/Fall	1639
【K6351】	国際経済論A(市ヶ谷開講) [田村 晶子]	春学期授業/Spring	1640
【K6352】	国際経済論B(市ヶ谷開講) [田村 晶子]	秋学期授業/Fall	1641
【K6501】	特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券(株)]	春学期授業/Spring	1642
【K6575】	特別講義 (ビジネス日本語A) [大石 有香]	春学期授業/Spring	1643
【K6576】	特別講義 (ビジネス日本語B) [大石 有香]	秋学期授業/Fall	1644
【K6695】	Business Communication I A [ROBERT A FORD]	春学期授業/Spring	1645
【K6696】	Business Communication I B [ROBERT A FORD]	秋学期授業/Fall	1647
【K6697】	Business Communication I A [MARK W CRAIG]	春学期授業/Spring	1649
【K6698】	Business Communication I B [MARK W CRAIG]	秋学期授業/Fall	1651
【K6699】	Business Communication II A [島田 昭仁]	春学期授業/Spring	1653
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_III. Global Business【K6699】 Business Communication II A [島田 昭仁]			1654
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_III. Global Business【K6700】 Business Communication II B [島田 昭仁]			1655
【K6700】	Business Communication II B [島田 昭仁]	秋学期授業/Fall	1656
【K6701】	Business Communication II A [MARK OSELAND]	春学期授業/Spring	1657
【K6702】	Business Communication II B [MARK OSELAND]	秋学期授業/Fall	1658
【K6705】	日本国憲法A [村元 宏行]	春学期授業/Spring	1659
【K6706】	日本国憲法B [村元 宏行]	秋学期授業/Fall	1660
【K6707】	民法一部A [菅 富美枝]	春学期授業/Spring	1661
【K6708】	民法一部B [菅 富美枝]	秋学期授業/Fall	1662
【K6709】	民法二部A [菅 富美枝]	春学期授業/Spring	1663
【K6710】	民法二部B [菅 富美枝]	秋学期授業/Fall	1664
【K6711】	商法一部A [笹久保 徹]	春学期授業/Spring	1665
【K6712】	商法一部B [笹久保 徹]	秋学期授業/Fall	1666
【K6713】	商法二部A [笹久保 徹]	春学期授業/Spring	1667
【K6714】	商法二部B [笹久保 徹]	秋学期授業/Fall	1668
【K6715】	経済法A [杉崎 弘]	春学期授業/Spring	1669
【K6716】	経済法B [杉崎 弘]	秋学期授業/Fall	1670
【K6717】	労働法A [山本 圭子]	春学期授業/Spring	1671
【K6718】	労働法B [山本 圭子]	秋学期授業/Fall	1672
【K6719】	経営学A [砂田 充]	春学期授業/Spring	1673
【K6720】	経営学B [砂田 充]	秋学期授業/Fall	1674
【K6721】	Principles of Economics A [JESS DIAMOND]	春学期授業/Spring	1675
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_II. Global Economy【K6721】 Principles of Economics A [JESS DIAMOND]			1676
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_II. Global Economy【K6722】 Principles of Economics B [JESS DIAMOND]			1677
【K6722】	Principles of Economics B [JESS DIAMOND]	秋学期授業/Fall	1678
【K6723】	International Economics A [倪 彬]	春学期授業/Spring	1679
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_II. Global Economy【K6723】 International Economics A [倪 彬]			1680
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_II. Global Economy【K6724】 International Economics B [倪 彬]			1681
【K6724】	International Economics B [倪 彬]	秋学期授業/Fall	1682
【K6725】	Area Studies A [小松 翔]	春学期授業/Spring	1683
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_II. Global Economy【K6725】 Area Studies A [小松 翔]			1684
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_II. Global Economy【K6726】 Area Studies B [小松 翔]			1686
【K6726】	Area Studies B [小松 翔]	秋学期授業/Fall	1687
【K6727】	Business Research Seminar A [中谷 安男]	春学期授業/Spring	1688

Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_III. Global Business 【K6727】 Business Research Seminar A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	1689
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_III. Global Business 【K6728】 Business Research Seminar B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1690
【K6728】 Business Research Seminar B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1691
【K6729】 簿記ⅡA [岸 牧人] 春学期授業/Spring	1692
【K6730】 簿記ⅡB [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	1693
【K6731】 地域経済論A [川邊 安彦] 春学期授業/Spring	1694
【K6732】 地域経済論B [川邊 安彦] 秋学期授業/Fall	1696
【K6733】 Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	1698
【K6734】 Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	1699
【K6735】 Academic Research Seminar A [伊藤 健彦] 春学期授業/Spring	1700
【K6736】 Academic Research Seminar B [伊藤 健彦] 秋学期授業/Fall	1701
【K6737】 Academic Research Seminar A [王 キョウ] 春学期授業/Spring	1702
【K6738】 Academic Research Seminar B [王 キョウ] 秋学期授業/Fall	1704
【K6741】 世界経済史A [杉浦 未樹] 春学期授業/Spring	1706
【K6742】 世界経済史B [杉浦 未樹] 秋学期授業/Fall	1708
【K6745】 財務諸表論A [竹口 圭輔] 春学期授業/Spring	1710
【K6746】 財務諸表論B [竹口 圭輔] 秋学期授業/Fall	1711
【K6747】 DemographyA [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1712
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_II. Global Economy 【K6747】 Demography A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1713
【K6748】 DemographyB [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1714
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_II. Global Economy 【K6748】 Demography B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1715
【K6749】 原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1716
【K6750】 原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1717
【K6751】 会計学入門A [古賀 裕也] 春学期授業/Spring	1718
【K6752】 会計学入門B [古賀 裕也] 秋学期授業/Fall	1719
【K6755】 管理会計A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1720
【K6756】 管理会計B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1721
【K6757】 スポーツ経済論 [杉本 龍勇] 春学期授業/Spring	1722
【K6764】 Business Communication IA [JOHN THOMAS LACEY] 春学期授業/Spring	1723
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_III. Global Business 【K6764】 Business Communication IA [JOHN THOMAS LACEY] 春学期授業/Spring	1724
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_III. Global Business 【K6765】 Business Communication IB [JOHN THOMAS LACEY] 秋学期授業/Fall	1725
【K6765】 Business Communication IB [JOHN THOMAS LACEY] 秋学期授業/Fall	1726
【K6770】 Japan and ASEAN Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1727
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_II. Global Economy 【K6770】 Japan and ASEAN Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1728
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS 科目_II. Global Economy 【K6771】 Japan and ASEAN Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1729
【K6771】 Japan and ASEAN Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1730
【K7001】 演習 [岸 牧人] 年間授業/Yearly	1731
【K7002】 演習 [小黒 一正] 年間授業/Yearly	1733
【K7003】 演習 [平井 俊行] 年間授業/Yearly	1735
【K7004】 演習 [岡部 雅史] 年間授業/Yearly	1736
【K7005】 演習 [奥山 利幸] 年間授業/Yearly	1738
【K7007】 演習 [杉浦 未樹] 年間授業/Yearly	1739
【K7008】 演習 [小沢 和浩] 年間授業/Yearly	1741
【K7011】 演習 [黒田 俊太郎] 年間授業/Yearly	1742
【K7012】 演習 [河村 真] 年間授業/Yearly	1743
【K7013】 演習 [阿部 俊弘] 年間授業/Yearly	1745
【K7016】 演習 [JESS DIAMOND] 年間授業/Yearly	1747
【K7018】 演習 [武田 浩一] 年間授業/Yearly	1748
【K7019】 演習 [深谷 舜] 年間授業/Yearly	1750

【K7020】	演習 [小林 克也]	年間授業/Yearly	1752
【K7021】	演習 [近藤 章夫]	年間授業/Yearly	1754
【K7023】	演習 [坂本 憲昭]	年間授業/Yearly	1755
【K7025】	演習 [馬 欣欣]	年間授業/Yearly	1756
【K7026】	演習 [酒井 正]	年間授業/Yearly	1758
【K7027】	演習 [胥 鵬]	年間授業/Yearly	1759
【K7028】	演習 [菅 富美枝]	年間授業/Yearly	1761
【K7029】	演習 [鈴木 豊]	年間授業/Yearly	1763
【K7030】	演習 [砂田 充]	年間授業/Yearly	1765
【K7031】	演習 [竹口 圭輔]	年間授業/Yearly	1767
【K7032】	演習 [八木橋 毅司]	年間授業/Yearly	1768
【K7033】	演習 [武智 一貴]	年間授業/Yearly	1770
【K7034】	演習 [田村 晶子]	年間授業/Yearly	1772
【K7035】	演習 [田中 優希]	年間授業/Yearly	1773
【K7036】	演習 [山崎 友紀]	年間授業/Yearly	1774
【K7037】	演習 [芝田 幸一郎]	年間授業/Yearly	1775
【K7038】	演習 [ブー トウン カイ]	年間授業/Yearly	1777
【K7041】	演習 [池上 宗信]	年間授業/Yearly	1778
【K7042】	演習 [ROBERT D STROUD]	年間授業/Yearly	1780
【K7043】	演習 [西澤 栄一郎]	年間授業/Yearly	1782
【K7044】	演習 [新田 誠吾]	年間授業/Yearly	1783
【K7045】	演習 [明城 聡]	年間授業/Yearly	1785
【K7046】	演習 [朴 宗玄]	年間授業/Yearly	1787
【K7047】	演習 [橋本 到]	年間授業/Yearly	1789
【K7048】	演習 [馬場 敏幸]	年間授業/Yearly	1791
【K7051】	演習 [平瀬 友樹]	年間授業/Yearly	1792
【K7052】	演習 [廣川 みどり]	年間授業/Yearly	1793
【K7053】	演習 [青野 幸平、濱秋 純哉]	年間授業/Yearly	1794
【K7054】	演習 [伊藤 健彦]	年間授業/Yearly	1796
【K7055】	演習 [古澤 直人]	年間授業/Yearly	1797
【K7056】	演習 [JAY M TANAKA]	年間授業/Yearly	1798
【K7058】	演習 [松波 淳也]	年間授業/Yearly	1800
【K7059】	演習 [宮崎 憲治]	年間授業/Yearly	1801
【K7060】	演習 [石 碩]	年間授業/Yearly	1803
【K7064】	演習 [富永 靖敬]	年間授業/Yearly	1804
【K7066】	演習 [湯前 祥二]	年間授業/Yearly	1806
【K7067】	演習 [飯塚 陽介、YONGUE JULIA SALLE]	年間授業/Yearly	1807
【K7068】	演習 [飯田 麻紗子、山田 快]	年間授業/Yearly	1809
【K7070】	演習 [梅津 亮子]	年間授業/Yearly	1810
【K7071】	演習 [杉本 龍勇]	年間授業/Yearly	1811
【K7073】	演習 [飯野 厚]	年間授業/Yearly	1813
【K7074】	演習 [進藤 理香子]	年間授業/Yearly	1816
【K7075】	演習 [菅 幹雄]	年間授業/Yearly	1817
【K7076】	演習 [高橋 秀朋]	年間授業/Yearly	1819
【K7077】	演習 [藤田 貢崇]	年間授業/Yearly	1821
【K7078】	演習 [篠原 隆介]	年間授業/Yearly	1823
【K7079】	演習 [菅原 琢磨]	年間授業/Yearly	1824
【K7080】	演習 [松野 響]	年間授業/Yearly	1825
【K7082】	演習 [田村 理香]	年間授業/Yearly	1827
【K7083】	演習 [張 欣]	年間授業/Yearly	1829
【K7084】	演習 [中谷 安男]	年間授業/Yearly	1830
【K7085】	演習 [倪 彬]	年間授業/Yearly	1832
【K7086】	演習 [友松 夕香]	年間授業/Yearly	1833
【K7087】	演習 [西村 健]	年間授業/Yearly	1835
【K7088】	演習 [松浦 智博]	年間授業/Yearly	1837
【K7089】	演習 [大森 祥輔]	年間授業/Yearly	1839
【K7090】	演習 [八木 文香]	年間授業/Yearly	1840

【K7091】 演習 [青野 幸平] 年間授業/Yearly	1841
【K7092】 演習 [坪田 建明] 年間授業/Yearly	1843
【K7093】 演習 [王 キョウ] 年間授業/Yearly	1844
【K7510】 Multinational Enterprises A [MANI SH SHARMA] 春学期授業/Spring	1846
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_III. Global Business【K7510】 Multinational Enterprises A [MANI SH SHARMA] 春学期授業/Spring	1847
【K7511】 Multinational Enterprises B [MANI SH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1848
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_III. Global Business【K7511】 Multinational Enterprises B [MANI SH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1850
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_III. Global Business【K7512】 Japanese Finance and Economy A [MANI SH SHARMA] 春学期授業/Spring	1852
【K7512】 Japanese Finance and Economy A [MANI SH SHARMA] 春学期授業/Spring	1854
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_III. Global Business【K7513】 Japanese Finance and Economy B [MANI SH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1856
【K7513】 Japanese Finance and Economy B [MANI SH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1858
【LA004】 政治学理論Ⅰ [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	1860
【LA005】 政治学理論Ⅱ [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall	1861
【LA006】 日本経済論 [澁谷 朋樹] 秋学期授業/Fall	1862
【LA007】 憲法 [天本 哲史] 春学期授業/Spring	1863
【LA008】 民法（総則） [松田 佳久] 春学期授業/Spring	1864
【LA009】 民法（財産法） [松田 佳久] 秋学期授業/Fall	1866
【LA012】 組織論 [多田 和美] 秋学期授業/Fall	1868
【LA014】 財政学Ⅰ [森田 圭亮] 春学期授業/Spring	1869
【LA015】 財政学Ⅱ [森田 圭亮] 秋学期授業/Fall	1870
【LA016】 行政学 [菅宮 恵美里] 秋学期授業/Fall	1871
【LA017】 行政法Ⅰ [天本 哲史] 春学期授業/Spring	1872
【LA018】 行政法Ⅱ [天本 哲史] 秋学期授業/Fall	1873
【LA019】 政策と制度 [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1874
【LA020】 人的資源論 [惠羅 さとみ] 春学期授業/Spring	1875
【LA102】 社会・イノベーション論Ⅰ [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1876
【LA103】 社会・イノベーション論Ⅱ [糸久 正人] 秋学期授業/Fall	1878
【LA104】 中小企業論 [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1880
【LA105】 地域産業論Ⅰ [加藤 寛之] 春学期授業/Spring	1882
【LA106】 地域産業論Ⅱ [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	1883
【LA107】 産業社会学Ⅰ [惠羅 さとみ] 春学期授業/Spring	1884
【LA108】 産業社会学Ⅱ [惠羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	1885
【LA109】 国際経営論Ⅰ [多田 和美] 春学期授業/Spring	1886
【LA110】 国際経営論Ⅱ [多田 和美] 秋学期授業/Fall	1887
【LA112】 金融システム論 [松田 岳] 春学期授業/Spring	1888
【LA202】 環境経済学Ⅰ [蒲谷 景] 春学期授業/Spring	1890
【LA203】 環境経済学Ⅱ [蒲谷 景] 秋学期授業/Fall	1891
【LA206】 エネルギー論 [鞠子 茂] 秋学期授業/Fall	1892
【LA207】 気候変動論 [川村 賢二] 春学期授業/Spring	1893
【LA210】 社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1895
【LA211】 社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1896
【LA212】 環境政策論Ⅰ [高橋 洋] 春学期授業/Spring	1897
【LA213】 環境政策論Ⅱ [高橋 洋] 秋学期授業/Fall	1898
【LA303】 市民運動論 [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	1899
【LA304】 地方財政論 [早崎 成都] 春学期授業/Spring	1900
【LA305】 地方自治論Ⅰ [新垣 二郎] 春学期授業/Spring	1902
【LA306】 地方自治論Ⅱ [新垣 二郎] 秋学期授業/Fall	1903
【LA308】 国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1904
【LA309】 イスラム社会論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1905
【LA310】 国際経済論Ⅰ [増田 正人] 春学期授業/Spring	1907
【LA311】 国際経済論Ⅱ [増田 正人] 秋学期授業/Fall	1909
【LB004】 社会学理論AⅠ [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	1911
【LB005】 社会学理論AⅡ [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1912

【LB006】	社会学理論BⅠ [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	1913
【LB007】	社会学理論BⅡ [佐藤 成基] 秋学期授業/Fall	1914
【LB010】	理論社会学 [徳安 彰] 春学期授業/Spring	1915
【LB011】	社会学史Ⅰ [徳安 彰] 春学期授業/Spring	1916
【LB012】	社会学史Ⅱ [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	1917
【LB013】	歴史社会学Ⅰ [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	1918
【LB014】	歴史社会学Ⅱ [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	1919
【LB015】	数理社会学Ⅰ [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	1920
【LB016】	数理社会学Ⅱ [斎藤 友里子] 秋学期授業/Fall	1921
【LB017】	原典講読 [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	1922
【LB018】	社会学総合特講A [山田 唐波里] 春学期授業/Spring	1923
【LB019】	社会学総合特講B [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1924
【LB026】	統計調査法 [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	1925
【LB102】	発達・教育の理論Ⅰ [平塚 眞樹] 春学期授業/Spring	1926
【LB103】	発達・教育の理論Ⅱ [平塚 眞樹] 秋学期授業/Fall	1927
【LB104】	家族社会学Ⅰ [菊澤 佐江子] 春学期授業/Spring	1928
【LB105】	家族社会学Ⅱ [菊澤 佐江子] 秋学期授業/Fall	1929
【LB106】	臨床社会学Ⅰ [三井 さよ] 春学期授業/Spring	1930
【LB107】	臨床社会学Ⅱ [三井 さよ] 秋学期授業/Fall	1931
【LB108】	社会心理学Ⅰ [土倉 英志] 春学期授業/Spring	1932
【LB109】	社会心理学Ⅱ [土倉 英志] 秋学期授業/Fall	1933
【LB110】	エイジングの社会学 [姫野 宏輔] 秋学期授業/Fall	1934
【LB202】	環境社会学Ⅰ [茅野 恒秀] 春学期授業/Spring	1936
【LB203】	環境社会学Ⅱ [茅野 恒秀] 秋学期授業/Fall	1937
【LB206】	都市と地域の社会学Ⅰ [茅野 恒秀] 春学期授業/Spring	1938
【LB207】	都市と地域の社会学Ⅱ [茅野 恒秀] 秋学期授業/Fall	1939
【LB301】	文化社会学B [杉山 怜美] 秋学期授業/Fall	1941
【LB304】	文化人類学 [謝 荔] 春学期授業/Spring	1942
【LB305】	宗教社会学 [永井 美紀子] 春学期授業/Spring	1943
【LB306】	スポーツ文化論 [越部 清美] 秋学期授業/Fall	1944
【LB404】	国際関係論Ⅰ [二村 まどか] 春学期授業/Spring	1945
【LB405】	国際関係論Ⅱ [二村 まどか] 秋学期授業/Fall	1946
【LB406】	国際社会と民族 [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	1947
【LB407】	開発とジェンダー [中村 雪子] 春学期授業/Spring	1948
【LB408】	地域研究 (ヨーロッパ) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	1949
【LB409】	地域研究 (アジア) [中村 雪子] 春学期授業/Spring	1950
【LB410】	地域研究 (中国) [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	1951
【LD009】	メディアの思想 [李 舜志] 春学期授業/Spring	1952
【LD011】	社会問題とメディア [大森 翔子] 秋学期授業/Fall	1953
【LD012】	認知科学 [天野 陽一] 秋学期授業/Fall	1954
【LD013】	知的財産権法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	1955
【LD014】	メディア法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	1956
【LD015】	公共性と民主主義Ⅰ [鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	1957
【LD016】	公共性と民主主義Ⅱ [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	1958
【LD023】	特講 (コミュニケーション・デザイン論) [石寺 修三、青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1959
【LD100】	メディア文化論 [琴 仙姫] 春学期授業/Spring	1961
【LD103】	広告・消費文化論 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1963
【LD104】	広告・PR論 [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	1964
【LD106】	情報科学とコミュニケーション [河合 政之] 秋学期授業/Fall	1965
【LD107】	認知映像論 [河合 政之] 秋学期授業/Fall	1967
【LD200】	消費者行動論 [諸上 茂光] 春学期授業/Spring	1968
【LD206】	メディアの歴史 [李 舜志] 秋学期授業/Fall	1969
【LD210】	メディアコンテンツ論 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	1970
【LD216】	情報メディア分析論Ⅰ [森 幹彦] 春学期授業/Spring	1971
【LD217】	情報メディア分析論Ⅱ [森 幹彦] 秋学期授業/Fall	1972
【LD300】	メディアテクノロジーと社会 [橋爪 絢子] 春学期授業/Spring	1973
【LD301】	メディアテクノロジーと社会分析 [橋爪 絢子] 秋学期授業/Fall	1974

【LD303】 社会ネットワーク論Ⅰ [宇野 斉] 春学期授業/Spring	1975
【LD304】 社会ネットワーク論Ⅱ [宇野 斉] 秋学期授業/Fall	1976
【LD306】 デジタル情報環境論 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring	1977
【LD307】 デジタル情報環境分析 [土橋 臣吾] 秋学期授業/Fall	1978
【LD309】 ソーシャルメディア論 [藤代 裕之] 春学期授業/Spring	1979
【LD310】 ソーシャルメディア分析 [藤代 裕之] 秋学期授業/Fall	1980
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】 スポーツトレーニング論Ⅰ [木村 新] 春学期授業/Spring	1981
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】 スポーツリスクマネジメント [木下 訓光] 秋学期授業 /Fall	1982
専門教育科目_専門基礎科目(講義科目)【M1750】 スポーツビジネス論Ⅰ [片上 千恵] 秋学期授業/Fall	1984
専門教育科目_専門基礎科目(講義科目)【M1790】 スポーツコーチング論A [NEMES ROLAND JANO S] 秋学期授業/Fall	1985
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】 スポーツメディア論 [片上 千恵] 秋学期授業/Fall ..	1986
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】 スポーツビジネス論Ⅱ [望月 拓実] 春学期授業/Spring	1987
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3230】 マーケティングリサーチ実習 [山口 和真] 春学期授業 /Spring	1988
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】 マーケティングリサーチ演習 [山口 和真] 秋学期授業 /Fall	1989
【N0057】 ホスピタリティ論 [山田 祐子] 春学期授業/Spring	1990
【N0058】 教育学 [藤本 典裕] 秋学期授業/Fall	1991
【N0107】 経営学 [首藤 聡一郎] オータムセッション/Autumn Session	1993
【N0112】 社会学特講 [左古 輝人] 秋学期授業/Fall	1994
【N0117】 老年学 [新名 正弥] 秋学期授業/Fall	1995
【N1001】 地域問題入門 [野田 岳仁] 春学期授業/Spring	1996
【N1002】 コミュニティマネジメント入門 [水野 雅男、図司 直也、佐野 竜平、土肥 将敦、野田 岳仁、杉浦 ちなみ] 春学期授業/Spring	1997
【N1003】 社会問題論 [大澤 優真] 春学期授業/Spring	1998
【N1006】 心理学(2020年度以前入学者) [泉水 紀彦] 春学期授業/Spring	1999
【N1006】 心理学(2021年度以降入学者) [泉水 紀彦] 春学期授業/Spring	2000
【N1050】 福祉国家論 [渡辺 寛人] 秋学期授業/Fall	2001
【N1052】 社会的包摂論 [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	2002
【N1053】 地域計画論 [杉浦 ちなみ] 秋学期授業/Fall	2003
【N1054】 コミュニティビジネス論 [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	2004
【N1055】 ローカルイノベーション論 [野田 岳仁、水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦] 秋学期授業/Fall ...	2005
【N1059】 アジア地域開発論(2020年度以前入学者) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	2006
【N1059】 アジア地域開発論(2021年度以降入学者) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	2007
【N1101】 社会福祉原理 [岩崎 晋也] 秋学期授業/Fall	2008
【N1102】 医療政策論 [小磯 明] 春学期授業/Spring	2009
【N1106】 雇用政策論 [渡辺 寛人] 春学期授業/Spring	2010
【N1107】 都市住宅政策論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring	2011
【N1108】 地域文化政策論 [杉浦 ちなみ] 春学期授業/Spring	2012
【N1109】 環境政策論 [藤澤 浩子] 春学期授業/Spring	2013
【N1110】 地方自治論 [中嶋 学] 秋学期授業/Fall	2015
【N1111】 政策評価論 [倉根 明德] オータムセッション/Autumn Session	2017
【N1113】 地域経済論 [図司 直也] 秋学期授業/Fall	2018
【N1116】 国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	2019
【N1117】 Community Based Inclusive Development [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	2020
【N1151】 地域経営論 [遠藤 聖子] 春学期授業/Spring	2021
【N1152】 ソーシャルイノベーション論 [土肥 将敦] 春学期授業/Spring	2023
【N1153】 ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 春学期授業/Spring	2024
【N1154】 ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring	2025
【N1155】 NPO論 [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	2026
【N1156】 協同組合論 [西井 賢悟] 秋学期授業/Fall	2028
【N1158】 居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring	2030
【N1159】 災害支援論 [青木 信夫、正谷 絵美] 春学期授業/Spring	2031
【N1160】 人権活動論 [寺中 誠] 春学期授業/Spring	2033
【N1161】 農山村とコミュニティ [図司 直也] 春学期授業/Spring	2034

【N1162】 コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	2035
【N1164】 地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	2036
【N1165】 地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	2037
【N1166】 住民参加の手法 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	2038
【N1171】 ボランティアアクション (2020年度以前入学者) [高井 大輔] 秋学期授業/Fall	2039
【N1171】 ボランティアアクション (2021年度以降入学者) [高井 大輔] 秋学期授業/Fall	2040
【N1172】 Disability and Development in Asia [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	2041
【N1206】 老いの文化と福祉 [金 慧英] 秋学期授業/Fall	2042
【N1208】 セルフヘルプグループ [横川 剛毅] 春学期授業/Spring	2043
【N1211】 多文化ソーシャルワーク [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	2044
【N1212】 死生観とソーシャルワーク [佐藤 繭美] 春学期授業/Spring	2045
【N1219】 家族心理学 [松本 聡子] 秋学期授業/Fall	2046
【N1222】 コミュニティ心理学 [丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	2047
【N1223】 異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	2048
【N1225】 教育心理学特講 [金山 裕介] 春学期授業/Spring	2050
【N1453】 心理療法 [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	2051
【N1505】 臨床心理学特講 [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	2052
【N1506】 精神分析学 [森 一也] 春学期授業/Spring	2053
【N1507】 児童精神医学 [関谷 秀子] 春学期授業/Spring	2054
【N1508】 認知行動療法 [金築 優] 秋学期授業/Fall	2055
【N1512】 グループアプローチ [大竹 直子] 秋学期授業/Fall	2056
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0101】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	2057
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0102】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	2058
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0103】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	2059
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0104】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	2060
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0105】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	2061
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0106】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	2062
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0107】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	2063
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0108】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	2064
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0109】 情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	2065
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0110】 情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall	2066
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0111】 情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	2067
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0112】 情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall	2068
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0113】 情報処理演習Ⅰ [河内谷 幸子] 春学期授業/Spring	2069
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0114】 情報処理演習Ⅱ [河内谷 幸子] 秋学期授業/Fall	2071
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0115】 情報処理演習Ⅰ [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	2073
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0116】 情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	2074
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0117】 情報処理演習Ⅰ [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	2075
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)	
【Q0118】 情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	2076

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0119】情報処理演習Ⅰ〔重定 如彦〕春学期授業/Spring	2077
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0120】情報処理演習Ⅱ〔重定 如彦〕秋学期授業/Fall	2079
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0121】情報処理演習Ⅰ〔重定 如彦〕春学期授業/Spring	2081
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0122】情報処理演習Ⅱ〔重定 如彦〕秋学期授業/Fall	2083
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0127】情報処理演習Ⅰ〔河内谷 幸子〕春学期授業/Spring	2085
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0128】情報処理演習Ⅱ〔河内谷 幸子〕秋学期授業/Fall	2087
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0129】情報処理演習Ⅰ〔河内谷 幸子〕春学期授業/Spring	2089
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0130】情報処理演習Ⅱ〔河内谷 幸子〕秋学期授業/Fall	2091
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0135】情報処理演習Ⅰ〔名児耶 厚〕春学期授業/Spring	2093
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0136】情報処理演習Ⅱ〔名児耶 厚〕秋学期授業/Fall	2094
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0137】情報処理演習Ⅰ〔名児耶 厚〕春学期授業/Spring	2095
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0138】情報処理演習Ⅱ〔名児耶 厚〕秋学期授業/Fall	2096
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0139】情報処理演習Ⅰ〔名児耶 厚〕春学期授業/Spring	2097
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0140】情報処理演習Ⅱ〔名児耶 厚〕秋学期授業/Fall	2098
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0141】情報処理演習Ⅰ〔名児耶 厚〕春学期授業/Spring	2099
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0142】情報処理演習Ⅱ〔名児耶 厚〕秋学期授業/Fall	2100
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0143】情報処理演習Ⅰ〔星 善光〕春学期授業/Spring	2101
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0144】情報処理演習Ⅱ〔星 善光〕秋学期授業/Fall	2102
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0145】情報処理演習Ⅰ〔星 善光〕春学期授業/Spring	2103
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0146】情報処理演習Ⅱ〔星 善光〕秋学期授業/Fall	2104
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0301】情報処理演習〔大間 哲〕春学期授業/Spring	2105
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0303】情報処理演習〔大間 哲〕春学期授業/Spring	2108
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0305】情報処理演習〔大間 哲〕春学期授業/Spring	2111
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0307】情報処理演習〔御園生 純〕春学期授業/Spring	2114
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0501】大学を知ろう <法政学>への招待〔小林 ふみ子、金子 匡良〕春学期授業/Spring	2116
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0503】法政学の探究ⅠB〔北口 由望〕春学期授業/Spring	2118
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）	
【Q0504】法政学の探究ⅠA〔高柳 俊男、北口 由望〕秋学期授業/Fall	2120
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群（人文分野）【Q1001】日本古典文学A〔表 きよし〕春学期授業/Spring	2122

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1002】 日本古典文学B [表 きよし] 秋学期授業/Fall	2124
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1003】 日本古典文学A [園 明美] 春学期授業/Spring	2126
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1004】 日本古典文学B [園 明美] 秋学期授業/Fall	2127
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1005】 日本古典文学A [成島 知子] 春学期授業/Spring	2128
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1006】 日本古典文学B [成島 知子] 秋学期授業/Fall	2130
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1007】 日本古典文学A [成島 知子] 春学期授業/Spring	2132
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1008】 日本古典文学B [成島 知子] 秋学期授業/Fall	2134
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1009】 日本近・現代文学A [細沼 祐介] 春学期授業/Spring	2136
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1010】 日本近・現代文学B [細沼 祐介] 秋学期授業/Fall	2137
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1011】 日本近・現代文学A [菊間 晴子] 春学期授業/Spring	2138
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1012】 日本近・現代文学B [菊間 晴子] 秋学期授業/Fall	2140
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1013】 日本文学A [山崎 修平] 春学期授業/Spring	2142
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1014】 日本文学B [山崎 修平] 秋学期授業/Fall	2144
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1015】 日本文学A [関口 雄士] 春学期授業/Spring	2146
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1016】 日本文学B [関口 雄士] 秋学期授業/Fall	2148
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1017】 外国文学A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	2150
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1018】 外国文学B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	2151
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1019】 外国文学A [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	2152
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1020】 外国文学B [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	2153
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1021】 外国文学A [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	2154
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1022】 外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	2156
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1023】 外国文学A [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	2158
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1024】 外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	2160
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1025】 外国文学A [禹 丞美] 春学期授業/Spring	2162
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1026】 外国文学B [禹 丞美] 秋学期授業/Fall	2163
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1027】 日本近・現代文学A [細沼 祐介] 春学期授業/Spring	2164
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1028】 日本近・現代文学B [細沼 祐介] 秋学期授業/Fall	2165
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1061】 文章論 [安藤 優一] 春学期授業/Spring	2166

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1062】 文章論 [関口 雄士] 春学期授業 /Spring	2167
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1063】 文章論 [関口 雄士] 春学期授業 /Spring	2169
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1064】 文章論 [関口 雄士] 秋学期授業 /Fall	2170
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1065】 文章論 [細沼 祐介] 春学期授業 /Spring	2172
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1069】 文章論 [細沼 祐介] 秋学期授業 /Fall	2173
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1081】 言語学A [板井 美佐] 春学期授業 /Spring	2174
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1082】 言語学B [板井 美佐] 秋学期授業 /Fall	2175
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1083】 言語学A [副島 健作] 春学期授業 /Spring	2176
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1084】 言語学B [副島 健作] 秋学期授業 /Fall	2178
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1085】 言語学A [輿石 哲哉] 春学期授業 /Spring	2180
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1086】 言語学B [齊藤 雄介] 秋学期授業 /Fall	2182
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1093】 哲学I [計良 隆世] 春学期授業 /Spring	2183
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1094】 哲学II [計良 隆世] 秋学期授業 /Fall	2184
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1095】 哲学I [伊藤 功] 春学期授業 /Spring	2185
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1096】 哲学II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall	2186
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1097】 哲学I [内山 真莉子] 春学期授 業/Spring	2187
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1098】 哲学II [内山 真莉子] 秋学期授 業/Fall	2188
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1099】 哲学I [内山 真莉子] 春学期授 業/Spring	2189
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1100】 哲学II [計良 隆世] 秋学期授業 /Fall	2190
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1101】 哲学I [谷口 力] 春学期授業 /Spring	2191
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1102】 哲学II [谷口 力] 秋学期授業/Fall	2192
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1103】 哲学I [大西 正人] 春学期授業 /Spring	2193
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1104】 哲学II [大西 正人] 秋学期授業 /Fall	2194
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1105】 哲学I [近堂 秀] 春学期授業 /Spring	2195
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1106】 哲学II [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	2196
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1107】 哲学I [越部 良一] 春学期授業 /Spring	2197
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1108】 哲学II [越部 良一] 秋学期授業 /Fall	2198
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1109】 哲学I [伊藤 功] 春学期授業 /Spring	2199
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1110】 哲学II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall	2200
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1121】 倫理学I [越部 良一] 春学期授 業/Spring	2201

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1122】 倫理学Ⅱ [越部 良一] 秋学期授業/Fall	2202
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1123】 倫理学Ⅰ [杉本 隆久] 春学期授業/Spring	2203
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1124】 倫理学Ⅱ [杉本 隆久] 秋学期授業/Fall	2204
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1125】 倫理学Ⅰ [森村 修] 春学期授業/Spring	2205
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1126】 倫理学Ⅱ [森村 修] 秋学期授業/Fall	2206
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1127】 倫理学Ⅰ [田島 樹里奈] 春学期授業/Spring	2207
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1128】 倫理学Ⅱ [田島 樹里奈] 秋学期授業/Fall	2209
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1129】 倫理学Ⅰ [上田 瑞季] 春学期授業/Spring	2211
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1130】 倫理学Ⅱ [上田 瑞季] 秋学期授業/Fall	2212
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1131】 倫理学Ⅰ [佐藤 英明] 春学期授業/Spring	2213
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1132】 倫理学Ⅱ [佐藤 英明] 秋学期授業/Fall	2214
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1141】 論理学Ⅰ [大西 正人] 春学期授業/Spring	2215
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1142】 論理学Ⅱ [大西 正人] 秋学期授業/Fall	2216
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1143】 論理学Ⅰ [相原 博] 春学期授業/Spring	2217
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1144】 論理学Ⅱ [相原 博] 秋学期授業/Fall	2218
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1145】 論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2219
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1146】 論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2221
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1147】 論理学Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	2223
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1148】 論理学Ⅱ [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	2225
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1149】 論理学Ⅰ [大貫 義久] 春学期授業/Spring	2226
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1150】 論理学Ⅱ [大貫 義久] 秋学期授業/Fall	2227
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1151】 論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2228
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1152】 論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2230
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1153】 論理学Ⅰ [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	2232
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1154】 論理学Ⅱ [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	2234
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1161】 東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	2236
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1162】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2237
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1163】 東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	2238

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1164】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業 /Fall	2239
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1165】 東洋史Ⅰ [上出 徳太郎] 春学期 授業/Spring	2240
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1166】 東洋史Ⅱ [上出 徳太郎] 秋学期 授業/Fall	2241
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1167】 東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業 /Spring	2242
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1168】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業 /Fall	2243
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1169】 東洋史Ⅰ [上出 徳太郎] 春学期 授業/Spring	2244
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1170】 東洋史Ⅱ [上出 徳太郎] 秋学期 授業/Fall	2245
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1185】 西洋史Ⅰ [渡辺 知] 春学期授業 /Spring	2246
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1186】 西洋史Ⅱ [渡辺 知] 秋学期授業 /Fall	2247
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1187】 西洋史Ⅰ [渡辺 知] 春学期授業 /Spring	2249
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1188】 西洋史Ⅱ [渡辺 知] 秋学期授業 /Fall	2250
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1201】 日本史Ⅰ [芳賀 和樹] 春学期授 業/Spring	2252
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1202】 日本史Ⅱ [芳賀 和樹] 秋学期授 業/Fall	2254
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1203】 日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授 業/Spring	2256
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1204】 日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授 業/Fall	2258
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1205】 日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授 業/Spring	2260
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1206】 日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授 業/Fall	2262
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1207】 日本史Ⅰ [真辺 美佐] 春学期授 業/Spring	2264
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1208】 日本史Ⅱ [真辺 美佐] 秋学期授 業/Fall	2265
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1209】 日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授 業/Spring	2266
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1210】 日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授 業/Fall	2268
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1211】 日本史Ⅰ [芳賀 和樹] 春学期授 業/Spring	2270
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1212】 日本史Ⅱ [芳賀 和樹] 秋学期授 業/Fall	2272
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1221】 宗教論Ⅰ [榎本 香織] 春学期授 業/Spring	2274
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1222】 宗教論Ⅱ [榎本 香織] 秋学期授 業/Fall	2275
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1223】 宗教論Ⅰ [君嶋 泰明] 春学期授 業/Spring	2276
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1224】 宗教論Ⅱ [君嶋 泰明] 秋学期授 業/Fall	2277
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1231】 芸術A [嘉藤 笑子] 春学期授業 /Spring	2278

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1232】芸術B〔嘉藤 笑子〕秋学期授業/Fall	2280
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1233】芸術A〔小澤 慶介〕春学期授業/Spring	2282
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1234】芸術B〔小澤 慶介〕秋学期授業/Fall	2283
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1235】芸術A〔中川 三千代〕春学期授業/Spring	2284
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野)【Q1236】芸術B〔中川 三千代〕秋学期授業/Fall	2286
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1301】日本文学と文化L A〔阿部 真弓〕春学期授業/Spring	2288
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1302】日本文学と文化L B〔阿部 真弓〕秋学期授業/Fall	2289
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1303】日本文学と文化L C〔中司 由起子〕春学期授業/Spring	2290
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1304】日本文学と文化L D〔中司 由起子〕秋学期授業/Fall	2291
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1307】日本文学と文化LG〔榎本 正樹〕春学期授業/Spring	2292
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1308】日本文学と文化LH〔榎本 正樹〕秋学期授業/Fall	2294
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1309】外国文学と文化L A〔鈴木 正道〕春学期授業/Spring	2296
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1310】外国文学と文化L B〔鈴木 正道〕秋学期授業/Fall	2298
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1311】外国文学と文化L C〔日原 傳〕春学期授業/Spring	2300
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1312】外国文学と文化L D〔日原 傳〕秋学期授業/Fall	2301
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1313】外国文学と文化L E〔大崎 さやの〕春学期授業/Spring	2302
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1314】外国文学と文化L F〔大崎 さやの〕秋学期授業/Fall	2303
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1315】文学と社会L A〔梶 裕史〕春学期授業/Spring	2304
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1316】文学と社会L B〔梶 裕史〕秋学期授業/Fall	2306
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1319】文学と社会L C〔白戸 満喜子〕春学期授業/Spring	2308
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1320】文学と社会L D〔白戸 満喜子〕秋学期授業/Fall	2310
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1321】文学と社会L E〔中澤 忠之〕春学期授業/Spring	2312
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1322】文学と社会L F〔中澤 忠之〕秋学期授業/Fall	2313
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1323】日本文学と文化LG〔榎本 正樹〕春学期授業/Spring	2314
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1324】日本文学と文化LH〔榎本 正樹〕秋学期授業/Fall	2316
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1362】音声学L〔副島 健作〕秋学期授業/Fall	2318
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1385】哲学L A〔大西 正人〕春学期授業/Spring	2319
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野)【Q1386】哲学L B〔大西 正人〕秋学期授業/Fall	2320

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1387】 哲学L A [白根 裕里枝]	
春学期授業/Spring	2322
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1388】 哲学L B [白根 裕里枝]	
秋学期授業/Fall	2323
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1389】 哲学L C [政井 啓子]	
春学期授業/Spring	2325
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1390】 哲学L D [鈴木 由加里]	
秋学期授業/Fall	2326
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1391】 倫理学L I [上田 瑞季]	
春学期授業/Spring	2328
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1392】 倫理学L II [上田 瑞季]	
秋学期授業/Fall	2329
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1393】 倫理学L I [佐藤 英明]	
春学期授業/Spring	2330
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1394】 倫理学L II [佐藤 英明]	
秋学期授業/Fall	2331
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1395】 倫理学L I [杉本 隆久]	
春学期授業/Spring	2332
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1396】 倫理学L II [杉本 隆久]	
秋学期授業/Fall	2334
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1397】 倫理学L I [伊藤 直樹]	
春学期授業/Spring	2336
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1398】 倫理学L II [伊藤 直樹]	
秋学期授業/Fall	2337
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1399】 倫理学L I [田島 樹里奈]	
春学期授業/Spring	2338
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1400】 倫理学L II [田島 樹里奈]	
秋学期授業/Fall	2340
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1401】 倫理学L I [森村 修]	
春学期授業/Spring	2342
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1402】 倫理学L II [森村 修]	
秋学期授業/Fall	2344
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1403】 倫理学L I [吉永 明弘]	
春学期授業/Spring	2346
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1404】 倫理学L II [吉永 明弘]	
秋学期授業/Fall	2347
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1411】 論理学L I [佐々木 護]	
春学期授業/Spring	2348
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1412】 論理学L II [佐々木 護]	
秋学期授業/Fall	2349
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1425】 東洋史L A [澁谷 由紀]	
春学期授業/Spring	2350
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1426】 東洋史L B [澁谷 由紀]	
秋学期授業/Fall	2351
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1427】 東洋史L C [齋藤 勝]	
春学期授業/Spring	2352
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1428】 東洋史L D [齋藤 勝]	
秋学期授業/Fall	2353
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1437】 西洋史L A [内田 康太]	
春学期授業/Spring	2354
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1438】 西洋史L B [皆川 卓]	
秋学期授業/Fall	2355
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1439】 西洋史L C [渡辺 知]	
春学期授業/Spring	2357
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1440】 西洋史L D [内川 勇海]	
秋学期授業/Fall	2359

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1441】 日本史L I [森 朋久]	
春学期授業/Spring	2360
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1442】 日本史L II [森 朋久]	
秋学期授業/Fall	2361
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1443】 日本史L I [仁平 義孝]	
春学期授業/Spring	2362
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1444】 日本史L II [仁平 義孝]	
秋学期授業/Fall	2363
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1445】 日本史L I [貫井 裕恵]	
春学期授業/Spring	2364
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1446】 日本史L II [貫井 裕恵]	
秋学期授業/Fall	2365
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1447】 日本史L I [鈴木 多聞]	
春学期授業/Spring	2366
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1448】 日本史L II [鈴木 多聞]	
秋学期授業/Fall	2367
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1451】 宗教論L I [古澤 有峰]	
春学期授業/Spring	2368
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1452】 宗教論L II [古澤 有峰]	
秋学期授業/Fall	2369
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1471】 西洋史L E [竹下 和亮]	
春学期授業/Spring	2370
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1472】 西洋史L F [内川 勇太]	
秋学期授業/Fall	2371
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2001】 法学 I [山本 圭子] 春学期授業	
/Spring	2372
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2002】 法学II [山本 圭子] 秋学期授業	
/Fall	2373
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2003】 法学 I [岡 克彦] 春学期授業	
/Spring	2374
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2004】 法学II [岡 克彦] 秋学期授業/Fall	2375
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2005】 法学 I [村元 宏行] 春学期授業	
/Spring	2376
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2006】 法学II [村元 宏行] 秋学期授業	
/Fall	2377
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2007】 法学 I [吉村 千冬] 春学期授業	
/Spring	2378
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2008】 法学II [吉村 千冬] 秋学期授業	
/Fall	2379
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2009】 法学 I [陳 志明] 春学期授業	
/Spring	2380
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2010】 法学II [陳 志明] 秋学期授業/Fall	2381
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2011】 法学 I [水野 圭子] 春学期授業	
/Spring	2382
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2012】 法学II [水野 圭子] 秋学期授業	
/Fall	2384
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2013】 法学 I [山口 哲史] 春学期授業	
/Spring	2386
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2014】 法学II [山口 哲史] 秋学期授業	
/Fall	2387
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2017】 法学 I [村元 宏行] 春学期授業	
/Spring	2388
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2018】 法学II [村元 宏行] 秋学期授業	
/Fall	2389
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2031】 法学（日本国憲法）[金子 匡良] 春	
学期授業/Spring	2390

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2032】 法学 (日本国憲法) [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	2391
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2033】 法学 (日本国憲法) [茂木 洋平] 春学期授業/Spring	2392
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2034】 法学 (日本国憲法) [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	2393
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2041】 経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授業/Spring	2394
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2042】 経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授業/Fall	2395
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2043】 経済学Ⅰ [千葉 千尋] 春学期授業/Spring	2396
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2044】 経済学Ⅱ [千葉 千尋] 秋学期授業/Fall	2397
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2045】 経済学Ⅰ [梅溪 健児] 春学期授業/Spring	2398
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2046】 経済学Ⅱ [梅溪 健児] 秋学期授業/Fall	2399
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2049】 経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授業/Spring	2400
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2050】 経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授業/Fall	2401
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2061】 マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春学期授業/Spring	2402
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2062】 マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋学期授業/Fall	2404
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2063】 マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春学期授業/Spring	2406
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2064】 マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋学期授業/Fall	2408
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2071】 心理学Ⅰ [望月 由紀子] 春学期授業/Spring	2410
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2072】 心理学Ⅱ [望月 由紀子] 秋学期授業/Fall	2411
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2073】 心理学Ⅰ [田中 慎太郎] 春学期授業/Spring	2412
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2074】 心理学Ⅱ [田中 慎太郎] 秋学期授業/Fall	2413
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2075】 心理学Ⅰ [望月 由紀子] 春学期授業/Spring	2414
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2076】 心理学Ⅱ [望月 由紀子] 秋学期授業/Fall	2415
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2077】 心理学Ⅰ [浅川 希洋志] 春学期授業/Spring	2416
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2078】 心理学Ⅱ [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	2418
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2079】 心理学Ⅰ [浅川 希洋志] 春学期授業/Spring	2420
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2080】 心理学Ⅱ [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	2422
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2081】 心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期授業/Spring	2424
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2082】 心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期授業/Fall	2425
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2083】 心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期授業/Spring	2426

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2084】 心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期授業/Fall	2427
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2085】 心理学Ⅰ [田中 慎太郎] 春学期授業/Spring	2428
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2086】 心理学Ⅱ [田中 慎太郎] 秋学期授業/Fall	2429
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2111】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring	2430
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2112】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall	2431
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2113】 地理学Ⅰ [前川 明彦] 春学期授業/Spring	2432
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2114】 地理学Ⅱ [前川 明彦] 秋学期授業/Fall	2434
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2115】 地理学Ⅰ [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	2436
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2116】 地理学Ⅱ [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	2437
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2117】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring	2438
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2118】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall	2439
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2119】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring	2440
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2120】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall	2441
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2131】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2442
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2132】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2443
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2133】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2444
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2134】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2445
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2135】 社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授業/Spring	2446
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2136】 社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fall	2447
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2137】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2448
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2138】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2449
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2139】 社会学Ⅰ [服部 あさこ] 春学期授業/Spring	2450
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2140】 社会学Ⅱ [服部 あさこ] 秋学期授業/Fall	2451
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2141】 社会学Ⅰ [橋本 みゆき] 春学期授業/Spring	2452
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2142】 社会学Ⅱ [橋本 みゆき] 秋学期授業/Fall	2453
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2145】 社会学Ⅰ [松下 優一] 春学期授業/Spring	2454
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2146】 社会学Ⅱ [松下 優一] 秋学期授業/Fall	2455
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2163】 政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	2456

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2164】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業 /Fall	2457
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2165】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業 /Spring	2458
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2166】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業 /Fall	2459
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2167】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	2460
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2168】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	2461
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2169】政治学Ⅰ [一ノ瀬 佳也] 春学期 授業/Spring	2462
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2170】政治学Ⅱ [一ノ瀬 佳也] 秋学期 授業/Fall	2463
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2171】政治学Ⅰ [面 一也] 春学期授業 /Spring	2464
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2172】政治学Ⅱ [面 一也] 秋学期授業 /Fall	2465
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2173】政治学Ⅰ [岡崎 加奈子] 春学期 授業/Spring	2466
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2174】政治学Ⅱ [岡崎 加奈子] 秋学期 授業/Fall	2467
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2175】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	2468
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2176】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	2469
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2191】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	2470
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2193】文化人類学 [渡辺 浩平] 春学期授 業/Spring	2471
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2195】文化人類学 [北原 卓也] 春学期授 業/Spring	2472
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2199】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	2473
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2201】文化人類学 [菊池 真理] 春学期授 業/Spring	2474
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2203】文化人類学 [菊池 真理] 春学期授 業/Spring	2475
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2205】文化人類学 [相田 豊] 春学期授業 /Spring	2476
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2207】文化人類学 [渡辺 浩平] 春学期授 業/Spring	2478
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2209】文化人類学 [松山 啓] 春学期授業 /Spring	2479
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2211】社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授 業/Spring	2480
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2212】社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授 業/Fall	2481
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2213】社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授 業/Spring	2482
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2214】社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授 業/Fall	2483
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2215】社会思想Ⅰ [林 嵩文] 春学期授 業/Spring	2484
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野)【Q2216】社会思想Ⅱ [林 嵩文] 秋学期授 業/Fall	2485

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2217】社会思想Ⅰ [阿部 崇史] 春学期授業/Spring	2486
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2218】社会思想Ⅱ [阿部 崇史] 秋学期授業/Fall	2487
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2219】社会思想Ⅰ [洪 貴義] 春学期授業/Spring	2488
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群（社会分野）【Q2220】社会思想Ⅱ [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	2489
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2321】経済学ⅠA [中平 千彦] 春学期授業/Spring	2490
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2322】経済学ⅠB [中平 千彦] 秋学期授業/Fall	2492
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2323】経済学ⅠA [山本 英子] 春学期授業/Spring	2494
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2324】経済学ⅠB [山本 英子] 秋学期授業/Fall	2495
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2325】経済学ⅠA [陳 文挙] 春学期授業/Spring	2496
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2326】経済学ⅠB [陳 文挙] 秋学期授業/Fall	2498
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2327】経済学ⅠA [小峯 敦] 春学期授業/Spring	2500
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2328】経済学ⅠB [小峯 敦] 秋学期授業/Fall	2502
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2341】心理学ⅠA [金子 楓] 春学期授業/Spring	2503
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2342】心理学ⅠB [金子 楓] 秋学期授業/Fall	2504
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2343】心理学ⅠA [金子 楓] 春学期授業/Spring	2505
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2344】心理学ⅠB [金子 楓] 秋学期授業/Fall	2506
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2351】地理学ⅠA [関戸 明子] 春学期授業/Spring	2507
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2352】地理学ⅠB [朝倉 楨人] 秋学期授業/Fall	2508
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2357】地理学ⅠA [関戸 明子] 春学期授業/Spring	2509
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2358】地理学ⅠB [朝倉 楨人] 秋学期授業/Fall	2510
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2359】地理学ⅠC [前川 明彦] 春学期授業/Spring	2511
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2360】地理学ⅠD [前川 明彦] 秋学期授業/Fall	2513
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2361】社会学ⅠA [松下 優一] 春学期授業/Spring	2515
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2362】社会学ⅠB [松下 優一] 秋学期授業/Fall	2516
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2363】社会学ⅠC [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2517
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2364】社会学ⅠD [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2519
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2372】政治学ⅠB [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	2520
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群（社会分野）【Q2373】政治学ⅠC [及川 智洋] 春学期授業/Spring	2521

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2374】政治学LD [及川 智洋]	
秋学期授業/Fall	2522
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2382】文化人類学L [ベル 裕紀]	
秋学期授業/Fall	2523
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2384】文化人類学L [渡辺 浩平]	
秋学期授業/Fall	2525
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2386】文化人類学L [北原 卓也]	
秋学期授業/Fall	2526
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2390】文化人類学L [ベル 裕紀]	
秋学期授業/Fall	2527
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2392】文化人類学L [菊池 真理]	
秋学期授業/Fall	2529
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2394】文化人類学L [渡辺 浩平]	
秋学期授業/Fall	2530
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2396】文化人類学L [相田 豊]	
秋学期授業/Fall	2531
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2398】文化人類学L [菊池 真理]	
秋学期授業/Fall	2533
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2400】文化人類学L [松山 啓]	
秋学期授業/Fall	2534
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2401】社会思想LA [洪 貴義]	
春学期授業/Spring	2535
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2402】社会思想LB [洪 貴義]	
秋学期授業/Fall	2536
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2403】社会思想LA [林 嵩文]	
春学期授業/Spring	2537
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2404】社会思想LB [林 嵩文]	
秋学期授業/Fall	2538
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2411】地理学LE [呉羽 正昭]	
春学期授業/Spring	2539
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2412】地理学LF [加賀美 雅弘]	
春学期授業/Spring	2540
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3001】教養数学A [平田 康史]	
春学期授業/Spring	2541
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3002】教養数学B [平田 康史]	
秋学期授業/Fall	2542
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3003】教養数学A [平田 康史]	
春学期授業/Spring	2543
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3004】教養数学B [平田 康史]	
秋学期授業/Fall	2544
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3005】教養数学A [小木曾 岳義]	
春学期授業/Spring	2545
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3006】教養数学B [小木曾 岳義]	
秋学期授業/Fall	2546
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3007】教養数学A [小木曾 岳義]	
春学期授業/Spring	2547
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3008】教養数学B [小木曾 岳義]	
秋学期授業/Fall	2548
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3011】教養数学A [池田 宏一郎]	
春学期授業/Spring	2549
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3012】教養数学B [池田 宏一郎]	
秋学期授業/Fall	2550
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3015】教養数学A [井野 海]	
春学期授業/Spring	2551
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群(自然分野)【Q3016】教養数学B [井野 海]	
秋学期授業/Fall	2552

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3017】 教養数学A [井野 海] 春学期授業 /Spring	2553
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3018】 教養数学B [井野 海] 秋学期授業 /Fall	2554
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3021】 教養数学A [桔梗 宏孝] 春学期授 業/Spring	2555
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3022】 教養数学B [桔梗 宏孝] 秋学期授 業/Fall	2557
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3031】 基礎数学I [若井 健太郎] 春学 期授業/Spring	2558
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3032】 基礎数学II [若井 健太郎] 秋学 期授業/Fall	2559
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3033】 基礎数学I [江口 直日] 春学期 授業/Spring	2560
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3034】 基礎数学II [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	2561
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3035】 基礎数学I [池田 宏一郎] 春学 期授業/Spring	2562
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3036】 基礎数学II [池田 宏一郎] 秋学 期授業/Fall	2563
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3037】 基礎数学I [若井 健太郎] 春学 期授業/Spring	2564
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3038】 基礎数学II [若井 健太郎] 秋学 期授業/Fall	2565
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3039】 基礎数学I [江口 直日] 春学期 授業/Spring	2566
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3040】 基礎数学II [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	2567
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3041】 基礎数学I [井沼 学] 春学期授 業/Spring	2568
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3042】 基礎数学II [井沼 学] 秋学期授 業/Fall	2569
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3047】 基礎数学I [井沼 学] 春学期授 業/Spring	2570
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3048】 基礎数学II [井沼 学] 秋学期授 業/Fall	2571
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3051】 入門物理学A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	2572
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3052】 入門物理学B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	2573
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3053】 入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	2574
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3054】 入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	2575
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3055】 入門物理学A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	2576
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3056】 入門物理学B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	2577
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3057】 入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	2578
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3058】 入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	2580
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3059】 入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	2582
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3060】 入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	2583

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3061】 入門物理学A [吉田 智] 春学期授業/Spring	2584
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3062】 入門物理学B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2585
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3065】 入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2586
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3066】 入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2588
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3081】 入門生物学A [田中 浩輔] 春学期授業/Spring	2590
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3082】 入門生物学B [田中 浩輔] 秋学期授業/Fall	2591
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3083】 入門生物学A [田中 浩輔] 春学期授業/Spring	2593
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3084】 入門生物学B [田中 浩輔] 秋学期授業/Fall	2594
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3085】 入門生物学A [植木 紀子] 春学期授業/Spring	2596
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3086】 入門生物学B [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	2598
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3087】 入門生物学A [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2600
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3088】 入門生物学B [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2602
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3089】 入門生物学A [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2604
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3090】 入門生物学B [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2606
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3091】 入門生物学A [植木 紀子] 春学期授業/Spring	2608
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3092】 入門生物学B [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	2610
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3093】 入門生物学A [植木 紀子] 春学期授業/Spring	2612
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3094】 入門生物学B [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	2614
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3111】 入門化学A [田中 雅人] 春学期授業/Spring	2616
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3112】 入門化学B [田中 雅人] 秋学期授業/Fall	2617
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3113】 入門化学A [小林 令子] 春学期授業/Spring	2618
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3114】 入門化学B [小林 令子] 秋学期授業/Fall	2619
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3117】 入門化学A [田中 雅人] 春学期授業/Spring	2620
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3118】 入門化学B [田中 雅人] 秋学期授業/Fall	2621
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3119】 入門化学A [石塚 芽具美] 春学期授業/Spring	2622
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3120】 入門化学B [石塚 芽具美] 秋学期授業/Fall	2623
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3121】 入門化学A [小林 令子] 春学期授業/Spring	2624
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3122】 入門化学B [小林 令子] 秋学期授業/Fall	2625

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3125】 入門化学A [石塚 芽具美] 春学期授業/Spring	2626
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3126】 入門化学B [石塚 芽具美] 秋学期授業/Fall	2627
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3171】 天文学A [小野 宜昭] 春学期授業/Spring	2628
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3172】 天文学B [小野 宜昭] 秋学期授業/Fall	2629
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3173】 天文学A [松本 倫明] 春学期授業/Spring	2630
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3174】 天文学B [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	2631
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3175】 天文学A [小野 宜昭] 春学期授業/Spring	2632
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3176】 天文学B [小野 宜昭] 秋学期授業/Fall	2633
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3189】 科学論A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2634
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3190】 科学論B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2636
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3191】 科学論A [金光 秀和] 春学期授業/Spring	2638
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3192】 科学論B [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	2640
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3193】 科学論A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2642
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3194】 科学論B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2644
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3201】 数学特講L A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	2646
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3202】 数学特講L B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	2647
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3211】 発展数学L I [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2648
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3212】 発展数学L II [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2649
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3213】 発展数学L I [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2650
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3214】 発展数学L II [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2651
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3215】 発展数学L I [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2652
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3216】 発展数学L II [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2653
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3221】 教養物理学L A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	2654
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3222】 教養物理学L A [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2655
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3223】 教養物理学L B [吉田 智] 春学期授業/Spring	2656
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3224】 教養物理学L B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2657
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3225】 教養物理学L A [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2658
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野)【Q3226】 教養物理学L C [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2659

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3231】 教養生物学L A [木原 章] 春学期授業/Spring	2661
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3232】 教養生物学L B [木原 章] 秋学期授業/Fall	2663
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3233】 教養生物学L A [木原 章] 春学期授業/Spring	2665
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3234】 教養生物学L B [木原 章] 秋学期授業/Fall	2667
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3241】 教養生物学L C [波平 昌一] 春学期授業/Spring	2669
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3242】 教養生物学L D [波平 昌一] 秋学期授業/Fall	2671
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3243】 教養生物学L C [波平 昌一] 春学期授業/Spring	2673
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3244】 教養生物学L D [波平 昌一] 秋学期授業/Fall	2675
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3261】 教養化学L A [向井 知 大] 春学期授業/Spring	2677
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3263】 教養化学L B [向井 知 大] 春学期授業/Spring	2678
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3264】 教養化学L B [西村 直 美] 秋学期授業/Fall	2679
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3266】 教養化学L A [伊藤 晋 平] 春学期授業/Spring	2680
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3269】 教養化学L E [向井 知 大] 秋学期授業/Fall	2681
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3270】 教養化学L B [伊藤 晋 平] 秋学期授業/Fall	2682
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3285】 教養化学L A [伊藤 晋 平] 春学期授業/Spring	2683
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群（自然分野）【Q3286】 教養化学L B [伊藤 晋 平] 秋学期授業/Fall	2684
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3301】 サイエンス・ラボA [西村 直美、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2685
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3302】 サイエンス・ラボB [西村 直美、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2686
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3303】 サイエンス・ラボA [西村 直美、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2687
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3304】 サイエンス・ラボB [西村 直美、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2688
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3305】 サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、 田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2689
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3306】 サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2690
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3307】 サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、 田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2691
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3308】 サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2692
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3309】 サイエンス・ラボA [工藤 聡、川 上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2693
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3310】 サイエンス・ラボB [向井 知大、 川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2694
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3311】 サイエンス・ラボA [工藤 聡、川 上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2695
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群（自然分野）【Q3312】 サイエンス・ラボB [向井 知大、 川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2696

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3313】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 春学期授業/Spring	2697
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3314】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 秋学期授業/Fall	2698
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3315】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 春学期授業/Spring	2699
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3316】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 秋学期授業/Fall	2700
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3317】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2701
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3318】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2702
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3319】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2703
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3320】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2704
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3321】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2705
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3322】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2706
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3323】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2707
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3324】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2708
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3325】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2709
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3326】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2710
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3327】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2711
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3328】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2712
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3329】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2713
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3330】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2714
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3331】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2715
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3332】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2716
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3333】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 春学期授業/Spring	2717
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3334】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 秋学期授業/Fall	2718
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3335】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 春学期授業/Spring	2719
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3336】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 秋学期授業/Fall	2720
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3337】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2721
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3338】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2722
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3339】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2723
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3340】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2724

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3341】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2725
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3342】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2726
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3343】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2727
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3344】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2728
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3345】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2729
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3346】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2730
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3347】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2731
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3348】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2732
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3349】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2733
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3350】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2734
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3351】サイエンス・ラボA [工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2735
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3352】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2736
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3353】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 春学期授業/Spring	2737
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3354】サイエンス・ラボB [土居 英男、島野 智之、衣川 友那] 秋学期授業/Fall	2738
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3355】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、衣川 友那] 春学期授業/Spring	2739
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3356】サイエンス・ラボB [土居 英男、島野 智之、衣川 友那] 秋学期授業/Fall	2740
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3357】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2741
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3358】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2742
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3359】サイエンス・ラボA [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2743
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野)【Q3360】サイエンス・ラボB [田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2744
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野)【Q5451】健康の科学L A [笹井 浩行] 春学期授業/Spring	2745
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野)【Q5452】健康の科学L B [笹井 浩行] 秋学期授業/Fall	2747
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野)【Q5453】健康の科学L A [谷本 都栄] 春学期授業/Spring	2749
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野)【Q5454】健康の科学L B [谷本 都栄] 秋学期授業/Fall	2750
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6001】第三外国語としての朝鮮語A [梁 禮先] 春学期授業/Spring	2751
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6002】第三外国語としての朝鮮語B [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	2752
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6005】第三外国語としての朝鮮語A [高柳 俊男] 春学期授業/Spring	2753
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6006】第三外国語としての朝鮮語B [高柳 俊男] 秋学期授業/Fall	2754

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6101】 漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	2755
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6102】 漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	2756
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6103】 教養ゼミⅠ [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	2757
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6104】 教養ゼミⅡ [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	2759
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6105】 文芸創作講座A [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	2760
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6106】 文芸創作講座B [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	2761
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6107】 日本芸能論A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	2762
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6108】 日本芸能論B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	2764
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6109】 身体表現論A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	2766
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6110】 身体表現論B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	2767
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6111】 美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	2768
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6112】 美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	2771
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6113】 芸術と人間A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	2773
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6114】 芸術と人間B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	2774
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6115】 仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2775
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6116】 仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2777
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6121】 中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	2779
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6122】 中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2780
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6125】 古代日本・中国の法と社会A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	2781
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6126】 古代日本・中国の法と社会B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	2782
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	2783
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	2785
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6129】 教養ゼミⅠ [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2786
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6130】 教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2787
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6131】 クィア・スタディーズA [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	2788
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6132】 クィア・スタディーズB [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	2790
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6133】 キリスト教思想史A [鵜澤 和彦] 春学期授業/Spring	2791
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6134】 キリスト教思想史B [鵜澤 和彦] 秋学期授業/Fall	2793
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6137】 異文化コミュニケーション論A [鈴木 麻由] 春学期授業/Spring	2795
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6138】 異文化コミュニケーション論B [鈴木 麻由] 秋学期授業/Fall	2797

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6141】 教養ゼミⅠ [矢澤 美佐紀] 春学期授業 /Spring	2799
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6142】 教養ゼミⅡ [矢澤 美佐紀] 秋学期授業 /Fall	2800
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6147】 徳と倫理A [内山 真莉子] 春学期授業 /Spring	2801
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6148】 徳と倫理B [内山 真莉子] 秋学期授業 /Fall	2802
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6149】 人間存在論A [森村 修] 春学期授業/Spring	2803
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6150】 人間存在論B [森村 修] 秋学期授業/Fall	2805
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6204】 教養ゼミⅡ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	2807
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6207】 福祉社会論A [小峯 敦] 春学期授業/Spring	2809
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6208】 福祉社会論B [服部 あさこ] 春学期授業 /Spring	2811
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6209】 人文地理学セミナーA [増淵 敏之] 春学 期授業/Spring	2812
【Q6209】 人文地理学セミナーA [増淵 敏之] 春学期授業/Spring	2814
【Q6210】 人文地理学セミナーB [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	2816
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6210】 人文地理学セミナーB [増淵 敏之] 秋学 期授業/Fall	2818
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6211】 文化人類学方法論A [菊池 真理] 春学期 授業/Spring	2820
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6212】 文化人類学方法論B [菊池 真理] 秋学期 授業/Fall	2822
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6213】 教養ゼミⅠ [犬塚 元] 春学期授業/Spring	2824
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6214】 教養ゼミⅡ [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	2825
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6215】 人間行動学A [田中 慎太郎] 春学期授業 /Spring	2826
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6216】 人間行動学B [田中 慎太郎] 秋学期授業 /Fall	2827
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6219】 沖縄を考えるA [中野 勝郎、大里 知子] 春学期授業/Spring	2828
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6220】 沖縄を考えるB [中野 勝郎、大里 知子] 秋学期授業/Fall	2829
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6225】 ヨーロッパ政治経済論A [千葉 千尋] 春 学期授業/Spring	2830
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6226】 ヨーロッパ政治経済論B [千葉 千尋] 秋 学期授業/Fall	2831
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6227】 法の人間学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	2833
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6228】 法の人間学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	2835
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6305】 計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring	2837
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6306】 コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2838
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6307】 確率の世界A [池田 宏一郎] 春学期授業 /Spring	2839
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6308】 確率の世界B [池田 宏一郎] 秋学期授業 /Fall	2840
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6309】 集合論A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	2841
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6310】 集合論B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	2842
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6311】 相対性理論と宇宙A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	2843
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6312】 相対性理論と宇宙B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	2844
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6313】 現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業 /Spring	2845

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6314】現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業 /Fall	2846
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6315】原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業 /Spring	2847
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6316】原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業 /Fall	2848
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6317】教養ゼミ I [島野 智之] 春学期授業 /Spring	2849
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6318】教養ゼミ II [島野 智之] オータムセッ ション/Autumn Session	2851
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6323】イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業 /Spring	2853
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6324】イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業 /Fall	2854
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6329】I T リテラシー [高田 美樹] 春学期授業 /Spring	2855
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6330】コンピュータ科学 [高田 美樹] 秋学期授 業/Fall	2856
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6335】人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業 /Spring	2857
【Q6335】人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2859
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6336】Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2861
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6337】ボルボックス生物論A [植木 紀子] 春学 期授業/Spring	2863
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6338】ボルボックス生物論B [植木 紀子] 秋学 期授業/Fall	2865
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6341】バイオイメージングの世界A [木原 章] 春学期授業/Spring	2867
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6342】バイオイメージングの世界B [木原 章] 秋学期授業/Fall	2868
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6343】環境の科学A [田中 雅人] 春学期授業 /Spring	2869
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6344】環境の科学B [田中 雅人] 秋学期授業 /Fall	2870
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6403】Issues in Modern Japanese Society A [L A S S E G A R D J A M E S] 春学期授業/Spring	2871
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6404】Issues in Modern Japanese Society B [L A S S E G A R D J A M E S] 秋学期授業/Fall	2872
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6421】第三外国語としてのドイツ語A [林 志津 江] 春学期授業/Spring	2874
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6422】第三外国語としてのドイツ語B [林 志津 江] 秋学期授業/Fall	2876
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	2878
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	2879
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】教養ゼミ I [上田 知夫] 春学期授業 /Spring	2880
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想A [大久保 歩] 春学期授業 /Spring	2881
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想B [大久保 歩] 秋学期授業 /Fall	2882
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6429】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ 語圏A [丸山 達也] 春学期授業/Spring	2883
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6430】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ 語圏B [丸山 達也] 秋学期授業/Fall	2884

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6431】比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	2885
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6432】比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	2886
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6433】ドイツ語圏の芸術A [林 志津江] 春学期授業/Spring	2888
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6434】ドイツ語圏の芸術B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	2890
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6437】ドイツ語圏の公共哲学A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	2892
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6438】ドイツ語圏の公共哲学B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	2893
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6439】ドイツ語圏の歴史A [辻 英史] 春学期授業/Spring	2894
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6440】ドイツ語圏の歴史B [辻 英史] 秋学期授業/Fall	2896
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6441】ドイツ語講読A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	2898
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6442】ドイツ語講読B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	2900
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	2902
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	2904
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	2906
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	2908
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学A [魚住 智広] 春学期授業/Spring	2910
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学B [魚住 智広] 秋学期授業/Fall	2912
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6509】スポーツ科学A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	2914
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	2916
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	2918
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	2920
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	2922
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6514】スポーツ科学B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	2923
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6517】スポーツ科学A [中澤 史] 春学期授業/Spring	2924
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6518】スポーツ科学B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	2926
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6519】スポーツ科学A [魚住 智広] 春学期授業/Spring	2928
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6520】スポーツ科学B [魚住 智広] 秋学期授業/Fall	2930
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6525】スポーツ科学A [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	2932
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6526】スポーツ科学B [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	2934

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6527】教養ゼミⅠ [伊藤 マモル] オータムセッション/Autumn Session	2936
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6528】教養ゼミⅡ [伊藤 マモル] スプリングセッション/Spring Session	2939
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6529】スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	2942
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6530】スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	2944
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6534】エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A [林 容市] 春学期授業/Spring	2946
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6535】エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B [林 容市] 秋学期授業/Fall	2948
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6536】データから考えるスポーツ政策A [藤岡 成美] 春学期授業/Spring	2950
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6537】データから考えるスポーツ政策B [藤岡 成美] 秋学期授業/Fall	2952
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6540】教養ゼミⅡ [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	2954
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6601】第三外国語としてのフランス語A [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	2956
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6602】第三外国語としてのフランス語B [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	2957
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】教養ゼミⅠ [大中 一彌] サマーセッション/Summer Session	2958
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】教養ゼミⅡ [大中 一彌] オータムセッション/Autumn Session	2960
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】教養ゼミⅠ [ル ルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	2962
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】教養ゼミⅡ [ル ルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	2964
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6609】フランス語コミュニケーション(中・上級)A [ル ルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	2966
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6610】フランス語コミュニケーション(中・上級)B [ル ルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	2968
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6613】フランス語講読A [大池 惣太郎] 春学期授業/Spring	2970
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6614】フランス語講読B [大池 惣太郎] 秋学期授業/Fall	2971
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6617】フランス語外部試験講座A [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	2972
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6618】フランス語外部試験講座B [カレンス フィリップ] サマーセッション/Summer Session	2974
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6701】第三外国語としてのロシア語A [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	2976
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6702】第三外国語としてのロシア語B [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	2977
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6703】第三外国語としてのロシア語中級A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	2978
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6704】第三外国語としてのロシア語中級B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	2979
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6705】実用ロシア語A [エレーナ 三神] 春学期授業/Spring	2980
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6706】実用ロシア語B [エレーナ 三神] 秋学期授業/Fall	2981
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6707】ロシア語講読A [木部 敬] 春学期授業/Spring	2982
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6708】ロシア語講読B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	2983

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6709】時事ロシア語A [小澤 裕之] 春学期授業 /Spring	2984
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6710】時事ロシア語B [小澤 裕之] 秋学期授業 /Fall	2985
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語A [渋井 君也] 春学期授業/Spring	2986
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語B [渋井 君也] 秋学期授業/Fall	2987
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6803】第三外国語としての中国語中級A [木村 佳代子] 春学期授業/Spring	2988
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6804】第三外国語としての中国語中級B [木村 佳代子] 秋学期授業/Fall	2989
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6805】中国語視聴覚中級A [劉 渴水] 春学期授 業/Spring	2990
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6806】中国語視聴覚中級B [劉 渴水] 秋学期授 業/Fall	2991
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6807】中国語作文中級A [楊 心苗] 春学期授業 /Spring	2992
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6808】中国語作文中級B [楊 心苗] 秋学期授業 /Fall	2993
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級A [周 重 雷] 春学期授業/Spring	2994
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級B [周 重 雷] 秋学期授業/Fall	2995
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6813】中国語翻訳・通訳C [王 安] 春学期授業 /Spring	2996
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6814】中国語翻訳・通訳D [王 安] 秋学期授業 /Fall	2997
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6815】中国語講読A [任 麗潔] 春学期授業/Spring	2998
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6816】中国語講読B [任 麗潔] 秋学期授業/Fall	2999
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6819】資格中国語中級A [渡辺 昭太] 春学期授 業/Spring	3000
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6820】資格中国語中級B [渡辺 昭太] 秋学期授 業/Fall	3002
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級A [任 麗潔] 春学期授業 /Spring	3004
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級B [任 麗潔] 秋学期授業 /Fall	3005
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6901】第三外国語としてのスペイン語A [CAR MEN GARCIA] 春学期授業/Spring	3006
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6902】第三外国語としてのスペイン語B [CAR MEN GARCIA] 秋学期授業/Fall	3007
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6905】スペイン語上級A [大西 亮] 春学期授業 /Spring	3008
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6906】スペイン語上級B [大西 亮] 秋学期授業 /Fall	3009
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6907】スペイン語コミュニケーション中級A [O SNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	3010
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6908】スペイン語コミュニケーション中級B [O SNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	3011
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6909】教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業 /Spring	3013
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6910】教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	3014
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6911】スペイン語講読A [若林 大我] 春学期授 業/Spring	3015
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6912】スペイン語講読B [若林 大我] 秋学期授 業/Fall	3016

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2301】 英語オーラル・コミュニケーションⅠ [Robert Durham] 春学期授業/Spring	3017
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2302】 英語オーラル・コミュニケーションⅡ [Robert Durham] 秋学期授業/Fall	3019
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2303】 英語オーラル・コミュニケーションⅠ [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	3021
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2304】 英語オーラル・コミュニケーションⅡ [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	3022
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2351】 ビジネス・イングリッシュⅠ [JOHN REILLY] 春学期授業/Spring	3023
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2352】 ビジネス・イングリッシュⅡ [JOHN REILLY] 秋学期授業/Fall	3024
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2353】 ビジネス・イングリッシュⅠ [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	3025
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2354】 ビジネス・イングリッシュⅡ [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	3026
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2381】 English Reading and Vocabulary Ⅰ [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	3027
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2382】 English Reading and Vocabulary Ⅱ [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	3028
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2383】 English Reading and Vocabulary Ⅰ [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	3029
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2384】 English Reading and Vocabulary Ⅱ [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	3030
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2391】 English Academic Writing Ⅰ [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	3031
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2392】 English Academic Writing Ⅱ [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	3033
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2395】 English Academic Writing Ⅰ [JUSTIN FALKUS] 春学期授業/Spring	3035
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2396】 English Academic Writing Ⅱ [JUSTIN FALKUS] 秋学期授業/Fall	3036
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2401】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	3037
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2402】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	3039
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2403】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	3041
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2404】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	3042
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2405】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	3044
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2406】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	3046
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2407】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [鈴木 博雄] 春学期授業/Spring	3048
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2408】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [鈴木 博雄] 秋学期授業/Fall	3049
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2409】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [金谷 優子] 春学期授業/Spring	3050
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2410】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [金谷 優子] 秋学期授業/Fall	3052
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2411】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	3054
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2412】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	3056

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2441】 English Presentation I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	3058
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2442】 English Presentation II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	3060
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2443】 English Presentation I [JOHN REILLY] 春学期授業/Spring	3062
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2444】 English Presentation II [JOHN REILLY] 秋学期授業/Fall	3063
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2445】 English Presentation I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	3064
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2446】 English Presentation II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	3066
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2451】 英語アカデミック・リーディング I [岩崎 博] 春学期授業/Spring	3068
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2452】 英語アカデミック・リーディング II [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	3070
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2481】 英語検定試験対策 I [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring	3072
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2482】 英語検定試験対策 II [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall	3073
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2483】 英語検定試験対策 I [青山 恵子] 春学期授業/Spring	3074
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2484】 英語検定試験対策 II [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	3075
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2485】 英語検定試験対策 I [小堀 洋] 春学期授業/Spring	3076
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2486】 英語検定試験対策 II [小堀 洋] 秋学期授業/Fall	3077
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2487】 英語検定試験対策 I [高橋 佳江] 春学期授業/Spring	3078
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2488】 英語検定試験対策 II [高橋 佳江] 秋学期授業/Fall	3080
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2601】 Oral Communication I [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	3082
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2602】 Oral Communication II [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	3084
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2603】 Oral Communication I [TIMOTHY B BETJEMAN] 春学期授業/Spring	3086
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2604】 Oral Communication II [TIMOTHY B BETJEMAN] 秋学期授業/Fall	3088
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2611】 English through Movies and Drama I [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	3090
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2612】 English through Movies and Drama II [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	3091
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2613】 English through Movies and Drama I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	3092
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2614】 English through Movies and Drama II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	3094
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2621】 TOEIC(R) I [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	3096
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2622】 TOEIC(R) II [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	3097
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2623】 TOEIC(R) I [八代 華子] 春学期授業/Spring	3098
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2624】 TOEIC(R) II [八代 華子] 秋学期授業/Fall	3099

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2631】英語検定試験対策Ⅰ [青山 恵子] 春学期授業/Spring	3100
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2632】英語検定試験対策Ⅱ [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	3101
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2641】Business CommunicationⅠ [B . 富士川 美紀] 春学期授業/Spring	3103
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2642】Business CommunicationⅡ [B . 富士川 美紀] 秋学期授業/Fall	3105
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2651】ニュース英語Ⅰ [小田井 勝彦] 春学期授業/Spring	3107
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2652】ニュース英語Ⅱ [小田井 勝彦] 秋学期授業/Fall	3108
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R4281】ドイツ語コミュニケーションⅠ [J E N S O S T W A L D] 春学期授業/Spring	3109
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R4282】ドイツ語コミュニケーションⅡ [J E N S O S T W A L D] 秋学期授業/Fall	3110
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R4283】ドイツ語表現法Ⅰ [S c h m i d t U t e] 春学期授業/Spring	3111
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R4284】ドイツ語表現法Ⅱ [S c h m i d t U t e] 秋学期授業/Fall	3112
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R4287】SDGsで学ぶドイツ語Ⅰ [上田 知夫] 春学期授業/Spring	3113
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R4295】ドイツ語の世界L A [S c h m i d t U t e] 春学期授業/Spring	3114
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R4296】ドイツ語の世界L B [S c h m i d t U t e] 秋学期授業/Fall	3115
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R4297】ドイツの文化と社会L A [小川 敦] 春学期授業/Spring	3117
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R4298】ドイツの文化と社会L B [小川 敦] 秋学期授業/Fall	3118
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5271】フランス語の世界L A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	3119
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5272】フランス語の世界L B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	3121
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5273】フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	3123
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5274】フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	3124
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R5277】フランス語視聴覚(初・中級)Ⅰ [廣松 勲] 春学期授業/Spring	3125
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R5278】フランス語視聴覚(初・中級)Ⅱ [南 玲子] 秋学期授業/Fall	3127
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5279】時事フランス語Ⅰ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	3129
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5280】時事フランス語Ⅱ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	3132
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R5285】フランス語の発音レッスンⅠ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	3135
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5291】フランスの文化と社会L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	3136
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5292】フランスの文化と社会L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	3138
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5295】フランス生活文化論L A [梶谷 彩子] 春学期授業/Spring	3140
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5296】フランス生活文化論L B [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall	3142

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語（諸外国語）【R6211】 ロシア語4 I [木部 敬] 春学期授業/Spring	3144
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語（諸外国語）【R6212】 ロシア語4 II [木部 敬] 秋学期授業/Fall	3145
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語（諸外国語）【R6213】 ロシア語4 I [上野 理恵] 春学期授業/Spring	3146
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語（諸外国語）【R6214】 ロシア語4 II [上野 理恵] 秋学期授業/Fall	3147
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R6215】 ロシア語5 I [エレナ 三神] 春学期授業/Spring	3148
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R6216】 ロシア語5 II [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	3149
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R6241】 ロシア語の世界LA [木部 敬] 春学期授業/Spring	3150
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R6242】 ロシア語の世界LB [木部 敬] 秋学期授業/Fall	3151
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R6243】 ロシアの文化と社会 LA [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	3153
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R6244】 ロシアの文化と社会 LB [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	3155
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R6245】 検定のロシア 語A [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	3157
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R6246】 検定のロシア 語B [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	3158
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7411】 中国語コミュニケー ション基礎I [楊 心苗] 春学期授業/Spring	3159
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7412】 中国語コミュニケー ション基礎II [楊 心苗] 秋学期授業/Fall	3160
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R7413】 中国語コミュ ニケーション初級I [周 重雷] 春学期授業/Spring	3161
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R7414】 中国語コミュ ニケーション初級II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	3162
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語（諸外国語）【R7431】 中国語作文初 級I [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	3163
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語（諸外国語）【R7432】 中国語作文初 級II [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	3164
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語（諸外国語）【R7433】 中国語視聴覚 初級I [劉 渴氷] 春学期授業/Spring	3165
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語（諸外国語）【R7434】 中国語視聴覚 初級II [劉 渴氷] 秋学期授業/Fall	3166
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R7437】 資格中国語 初級I [青木 正子] 春学期授業/Spring	3167
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語（英語・諸外国語）【R7438】 資格中国語 初級II [青木 正子] 秋学期授業/Fall	3168
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7445】 中国語の世界LA [高柳 浩平] 春学期授業/Spring	3169
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7446】 中国語の世界LB [高柳 浩平] 秋学期授業/Fall	3170
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7447】 中国の文化と社会L A [山本 律] 春学期授業/Spring	3171
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7448】 中国の文化と社会L B [山本 律] 秋学期授業/Fall	3172
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7449】 中国の文化と社会L C [陳 瀟瀟] 春学期授業/Spring	3173
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7450】 中国の文化と社会L D [陳 瀟瀟] 秋学期授業/Fall	3175

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R8301】 スペイン語 コミュニケーションⅠ [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	3177
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R8302】 スペイン語 コミュニケーションⅡ [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	3178
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R8303】 現代のスペイン 語Ⅰ [大西 亮] 春学期授業/Spring	3179
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R8304】 現代のスペイン 語Ⅱ [結城 健太郎] 秋学期授業/Fall	3180
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8305】 スペイン語の世界Ⅰ A [佐々木 直美] 春学期授業/Spring	3181
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8306】 スペイン語の世界Ⅰ B [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	3182
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9283】 朝鮮語4 BⅠ (視聴覚) [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	3183
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9284】 朝鮮語4 BⅡ (視聴覚) [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	3184
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R9285】 朝鮮語5 A Ⅰ(講読) [荻野 優子] 春学期授業/Spring	3185
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R9286】 朝鮮語5 A Ⅱ(講読) [荻野 優子] 秋学期授業/Fall	3186
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R9287】 朝鮮語5 B Ⅰ(表現法) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	3187
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R9288】 朝鮮語5 B Ⅱ(表現法) [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	3188
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R9289】 朝鮮の文化と社会Ⅰ A [梁 禮先] 春学期授業/Spring	3189
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R9290】 朝鮮の文化と社会Ⅰ B [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	3190
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9291】 朝鮮語4 CⅠ (コミュニケーション) [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	3191
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9292】 朝鮮語4 CⅡ (コミュニケーション) [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	3193

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法 I

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台を成す立憲主義とそれが成立した歴史的経緯を概観した上で、国民主権などの日本国憲法の基本原理、および人権の分類や主体などの人権に関わる総論的な事項について学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①立憲主義の内容およびその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の基本原理、特に国民主権の規範内容について理解する。
- ③人権の分類と個々の権利の特質について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントを教材にして、対面の講義形式で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	立憲主義の意義	法体系における憲法の意義と機能、および立憲主義の意義について学ぶ。
第3回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と憲法の特質および憲法の類型について学ぶ。
第4回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家と近代憲法の成立過程について学ぶ。
第5回	憲法の歴史②：現代憲法の成立	近代国家から現代国家への変容と、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第6回	日本憲法史①：明治憲法の成立と運用	明治憲法の成立経緯とその特徴、および明治憲法の運用上の問題点について学ぶ。
第7回	日本憲法史②：日本国憲法の成立とその法的問題点	日本国憲法の成立経緯とそこにおける法的問題点について学ぶ。
第8回	国民主権	国民主権の意義とその規範的意味について学ぶ。
第9回	天皇制	象徴天皇制の意義および天皇の国事行為について学ぶ。
第10回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持規定の解釈について学ぶ。
第11回	人権の特質と類型	人権の類型と個々の人権の特質について学ぶ。
第12回	新しい人権	幸福追求権とそこから導き出される新しい人権について学ぶ。

- 第13回 人権の享有主体①： 人権の享有主体のうち、天皇・天皇・皇族の人権、皇族と法人の人権享有主体性について学ぶ。
法人の人権
- 第14回 人権の享有主体②： 人権の享有主体のうち、外国人外国人の人権 人権享有主体性について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法 I・II〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法 I・II』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 I・II〔第8版〕』（有斐閣、2025年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100%）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度向上のために、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】

In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅱ

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本国憲法に規定された個々の人権について、保障内容と特質を明らかにした上で、その権利に関する学説・判例を学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①日本国憲法が保障する人権の体系について理解する。
- ②個々の人権の保障内容について理解する。
- ③個々の人権に関する論点と、その論点に関する学説・判例を理解する。
- ④現代社会の様々な人権問題について、憲法学的な視点から分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	人権の限界	人権の限界としての公共の福祉の解釈、および比較衡量等の審査手法について学ぶ。
第3回	人権適用の制約	私人間における人権制約や特別権力関係における人権制約などについて学ぶ。
第4回	法の下の平等	法の下の平等の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第5回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第6回	信教の自由	信教の自由の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第7回	政教分離原則	政教分離原則の内容、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第8回	表現の自由①：表現の自由の意義	表現の自由の意義と表現の自由に関する違憲審査基準について学ぶ。
第9回	表現の自由②：表現の自由の限界	プライバシー侵害表現や名誉毀損的表現など、表現の自由と他の法益との調整について学ぶ。

第10回	経済的自由権	経済的自由権の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第11回	参政権	参政権の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第12回	社会権①：生存権	生存権の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第13回	社会権②：教育を受ける権利・労働基本権	教育を受ける権利と労働基本権の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。
第14回	身体的自由権	身体的自由権、特に適正手続の保障の内容と特質、およびその保障に関する学説・判例について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第8版〕』（有斐閣、2025年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を高めるため、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the content and characteristics of the individual human rights guaranteed by the Constitution of Japan, and then study theories and judicial precedents concerning these rights.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法 I

高橋 正明

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法総論及び人権総論について学び、これらの分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。
②憲法が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 憲法を学ぶ上での前提知識	授業の全体像、授業の進め方、参考書について説明する。 憲法と法律の違い、法解釈の方法について学ぶ。
第2回	憲法の意味 判例の意味 統治機構・権力分立	学習上、最初に理解しておくべき憲法の基本概念・用語（憲法の意味、判例の意味、統治機構の概要）について学ぶ。
第3回	日本憲法史 国民主権	明治憲法と日本国憲法それぞれの制定・運用過程について検討し、その違い・特徴を学ぶ。
第4回	象徴天皇制 平和主義（1）	国民主権の意味について学ぶ。 象徴天皇制に関する諸論点について学ぶ。
第5回	平和主義（2）	憲法9条の解釈、自衛隊を巡る問題などについて学ぶ。
第6回	違憲審査制 人権の分類・歴史	憲法9条に関連する判例や、集団的自衛権の問題について学ぶ。 憲法判例を分析する上で前提となる違憲審査制の概要について学ぶ。
第7回	人権の限界 人権の主体（1）	人権の分類とそれぞれの特徴、人権の歴史的展開について学ぶ。 公共の福祉、違憲審査の基準について学ぶ。
第8回	人権の主体（2）	法人の人権について学ぶ。
第9回	人権の主体（3）	子ども、天皇・皇族、外国人の人権（総論・在留制度）について学ぶ。
第10回	人権の私人間適用	外国人の参政権、外国人に認められるその他の人権について学ぶ。 私人間効力の基本的考え方、判例や具体的な適用方法について学ぶ。
第11回	幸福追求権（1）	幸福追求権の基本的な考え方、自己決定権（医療行為関係）について学ぶ。
第12回	幸福追求権（2）	自己決定権（生殖、ライフスタイル、家族形成）について学ぶ。
第13回	幸福追求権（3）	プライバシー権（個人情報保護）について学ぶ。
第14回	平等－総論	平等問題についての基本的な考え方や判例の判断枠組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。
授業後は、レジュメやノートに基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

【基本書】

〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
【判例集】
〈入門的なもの〉
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
〈標準的なもの〉
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選I・II』第8版（有斐閣、2025年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

話すスピードも含め、演習問題の解説をより丁寧に行うようにしたい。

【その他の重要事項】

- ①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this course, students will learn the general theories of constitutional law and human rights, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.

< Learning Objectives >

The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific constitutional issues logically, to know the role of constitution in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.

< Learning activities outside of classroom >

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅱ

高橋 正明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H・N・法律2～4年（他学部他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法に規定された個別の人権規定について学び、人権各論分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】

①人権各論分野に関する基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。

②憲法、とりわけ個別の人権規定が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 前期授業の振り返り 平等（2）－家族形成	秋学期授業の進め方について説明する。 憲法訴訟の基本枠組みと、人権論の基本的考え方について確認をする。 平等の各論の問題として家族形成に関する判例について学ぶ。
第2回	思想・良心の自由	思想・良心の自由に関する基本的な考え方と、判例の展開（君が代伴奏・起立斉唱）について学ぶ。
第3回	信教の自由と政教分離（1）	信教の自由に関する判例について学ぶ。
第4回	信教の自由と政教分離（2）	政教分離に関する判例について学ぶ。
第5回	表現の自由（1）	表現の自由の特徴（優越的地位、二重の基準）について説明した上で、判例を素材に内容規制・内容中立規制について学ぶ。
第6回	表現の自由（2）	表現の自由とプライバシー・名誉毀損との調整問題について判例を素材に学ぶ。
第7回	集会の自由 学問の自由	集会の自由に関する判例について学ぶ。 学問の自由の意味や現代的課題について学ぶ。
第8回	経済的自由権（1）	職業選択の自由の意義や関連する判例について学ぶ。

第9回	経済的自由権（2）	財産権に関する基本的考え方や、判例の展開について学ぶ。
第10回	生存権	生存権の法的性格や、判例理論について学ぶ。
第11回	教育を受ける権利 労働基本権	教育を受ける権利の法的性格について学ぶ。 労働基本権の法的性格、関連する判例について学ぶ。
第12回	公務員の労働基本権 及び政治活動の自由	公務員の労働基本権、政治活動の自由に対してどのような制約があるかを確認し、関連する判例の展開について学ぶ。
第13回	刑罰・刑事手続に対する憲法の規律	憲法31条の適正法定手続の内容と、関連する判例について学ぶ。
第14回	参政権 国務請求権	参政権の性質及び関連する判例について学ぶ。 国務請求権の性格・種類について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。

授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）

【参考書】

【基本書】

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）

【判例集】

〈入門的なもの〉

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

〈標準的なもの〉

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選I・II』第8版（有斐閣、2025年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

話すスピードも含め、演習問題の解説をより丁寧に行うようにしたい。

【その他の重要事項】

①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。

②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this course, students will learn about constitutional rights guaranteed by individual constitutional provisions, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.

< Learning Objectives >

The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific human rights issues logically, to know the role of constitutional rights in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.

< Learning activities outside of classroom >

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法III

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】

日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的变化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを行います。

質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的变化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（1）	国会の権限と活動
6	国会（2）	国会議員の地位
7	内閣（1）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（2）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（1）	司法の機能
11	裁判所（2）	司法権の限界
12	裁判所（3）	裁判所の組織と司法権の独立

13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすいものをいくつか挙げておきます。

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1 人権』『憲法2 統治』（有斐閣、2025年）
新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選I・II』第8版（有斐閣、2025年）

やコンパクトなものとして、

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）及び理解度確認テスト（20%）により評する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.

At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法Ⅳ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代の変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】

日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを行います。

質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（2）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（3）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（4）	判例の展開
5	違憲審査制（5）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（1）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（2）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（3）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（4）	判例の分析
11	財政（1）	財政民主主義
12	財政（2）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすいものをいくつか挙げておきます。

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1 人権』『憲法2 統治』（有斐閣、2025年）
新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第8版（有斐閣、2025年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective

(Learning Activities outside of Classroom)

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

現代情報法 I

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前のものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を、半期の講義を通して問い直します。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを考えます。ソーシャルメディアによる投稿のように、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

表現の自由の基本原則、メディア・ジャーナリズム活動を支える法・社会制度について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのかという視点から、表現の自由の意味や保障の限界、名誉やプライバシーと表現の自由の調整の仕方、国家秘密や裁判の公正のための取材・報道に対する制限をめぐる裁判例、ジャーナリストに憲法上認められた特別扱いとはどのようなものかについて学びます。具体的な事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方にどのような問題があるかを検討します。ジャーナリストを目指す人だけでなく、ソーシャルメディアによる情報発信者として誰でも知っておくべき表現の自由についての基礎知識を解説します。授業で扱う個別テーマの順番や内容は変更する可能性があります。

なお、授業形態は「対面授業」です。第1回のオリエンテーションは対面としますが、第2回から第7回までの6回はオンライン（オンデマンド動画配信）で授業を行う予定です。

毎回、「学習支援システム」でレジュメのデータを配布します。オンライン授業の場合、「学習支援システム」を通じて授業動画へのアクセス方法を連絡します。また、「学習支援システム」に質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	表現の自由1	名誉毀損総論
第3回	表現の自由2	名誉毀損各論
第4回	表現の自由3	プライバシーの侵害
第5回	表現の自由4	犯罪報道とその限界
第6回	表現の自由5	事前差止め
第7回	表現の自由6	表現の内容規制と内容中立規制
第8回	表現の自由7	ヘイトスピーチ規制（外国）
第9回	表現の自由8	ヘイトスピーチ規制（日本）
第10回	取材の自由・報道の自由1	法廷カメラ取材の規制を中心に
第11回	取材の自由・報道の自由2	取材源の証言強制

第12回	取材の自由・報道の自由3	取材資料の提出強制と取材の自由
第13回	取材の自由・報道の自由4	国家秘密と取材の自由
第14回	取材の自由・報道の自由5	特定秘密と取材の自由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習にあたっては、各回レジュメの確認問題で理解度をセルフチェックしたうえで、冒頭に書かれている論述問題の答案を作成してみるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第2版〕』（ミネルバ書房、2019年）

【参考書】

長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』有斐閣、2018年
 松井茂記『マスメディア法入門〔第5版〕』日本評論社、2013年
 山田健太『法とジャーナリズム〔第3版〕』学陽書房、2014年
 ＊このほかは配布する授業レジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施する論述式の筆記試験（持込不可）によります（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

各回のテーマがどのような問題なのかについての気づきや理解のきっかけとなるよう、各回のテーマに関連する判例や具体的事件を手がかりにするようにします。

【その他の重要事項】

この授業では、表現の自由についての発展的問題や応用問題を扱います。この授業を履修するためには、まえもって、憲法（人権）の授業を履修しておくか、自分で憲法の教科書のなかの表現の自由についての解説を読んでおくとういでしょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (defamation, hate speech law, freedom of the press and State secret etc.). (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. (Grading Criteria) Your overall grade in the Class will be decided based on Term-end examination: 100%.

LAW200AB（法学 / law 200）

現代情報法Ⅱ

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前のものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を問い直す。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを、放送法、インターネット法、情報公開法、個人情報保護法を中心に考えます。テレビ番組の政治的公平性や真実性、また、ソーシャルメディアによる誹謗中傷など、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

放送とインターネットを支える法・社会制度について、また、情報公開法と個人情報保護法について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのか、なぜ政治がメディアに圧力をかけてはいけないのかという視点から、放送法や放送倫理、インターネット法やインターネットリテラシー、情報公開法などについて学びます。また、なぜ自分が自分らしくあるためにプライバシーは保護されるべきなのかという視点から個人情報保護法についても学びます。具体的事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方にどのような問題があるかを検討します。テレビ局やIT企業で働くことを目指す人だけでなく、視聴者として、また、ソーシャルメディアによる情報発信者として誰もが知っておくべき基礎知識を解説します。授業で扱う個別テーマの順番や内容に変更する可能性があります。

なお、授業形態は「対面授業」です。第1回は対面としますが、第2回から第7回までの6回はオンライン（オンデマンド動画配信）で授業を行う予定です。

毎回、「学習支援システム」でレジュメのデータを配布します。オンライン授業の場合、「学習支援システム」を通じて授業動画へのアクセス方法を連絡します。また、「学習支援システム」に質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	放送法制1	放送制度の概要
第2回	放送法制2	番組編集準則の合憲性
第3回	放送法制3	「真実」確保のための放送法の仕組み
第4回	放送法制4	訂正放送と反論権
第5回	放送法制5	公共放送の仕組みと役割
第6回	放送法制6	放送法制における法的規制と自主規制
第7回	インターネット法1	インターネット上の表現の自由
第8回	インターネット法2	プロバイダの責任
第9回	インターネット法3	検索結果削除請求権（忘れられる権利？）

第10回	インターネット法4	ソーシャルメディア法規制
第11回	インターネット法5	インターネット上の青少年保護
第12回	情報公開・個人情報保護1	知る権利はどのように法制度として具体化されているか？
第13回	情報公開法・個人情報保護2	自己情報コントロール権はどのように法制度として具体化されているか？メディア適用除外はなぜ認められているか？
第14回	情報公開法・個人情報保護法3	情報公開制度と個人情報保護制度はどのような関係にあるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習にあたっては、各回レジュメの確認問題で理解度をセルフチェックしたうえで、レジュメ冒頭に書かれている論述問題の答案を作成してみるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2019年

【参考書】

鈴木秀美＝山田健太編著『放送制度概論』商事法務、2011年
松井茂記＝鈴木秀美＝山口いつ子『インターネット法』有斐閣、2015年
長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』有斐閣、2018年
松井茂記『マスメディア法入門〔第5版〕』日本評論社、2013年
山田健太『法とジャーナリズム〔第3版〕』学陽書房、2014年
＊そのほかの参考書は授業レジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に実施する論述式の筆記試験（持込不可）によります（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

各回のテーマがどのような問題なのかについての気づきや理解のきっかけとなるよう、各回のテーマに関連する判例や具体的事件を手がかりにするようにします。

【その他の重要事項】

この授業では、表現の自由についての発展的問題や応用問題を扱います。この授業を履修するためには、まえもって、憲法（人権）の授業を履修しておくか、自分で憲法の教科書のなかの表現の自由についての解説を読んでおくといよいでしょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (broadcasting law, internet Law, official information disclosure system, personal information protection system etc.). (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. (Grading Criteria) Your overall grade in the Class will be decided based on Term-end examination: 100%.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際社会と憲法 I

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を学ぶ。そのうえで、現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的特徴、各国憲法に共通する「現代立憲主義」化の特徴と21世紀のグローバル立憲主義への対応状況についても考察する。

本授業は、「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」に属する。

【到達目標】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を理解できるようになる。現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的な特徴を理解したうえで、それぞれの憲法の違いを超えて共通して存在する「現代立憲主義」化の傾向とそのような変化の基本的な要因を理解できるようになる。最後に、21世紀のグローバル立憲主義における西欧憲法原理の展開方向を見通す力を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

イギリス、フランス、ドイツの近現代憲法史を講義する中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴と成立背景、及び立憲主義間の対立を解説する。その上で、20世紀以降、現在までのイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の特徴と変容を分析することで「現代立憲主義」の特徴と21世紀のグローバル立憲主義の展開方向を解説する。

授業はwebclassに事前にアップしたレジュメや資料を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後にwebclassを通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて授業内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と比較憲法の方法論、及び「近代市民憲法」成立の歴史的背景について講義する。
第2回	近代イギリス憲法（1）	イギリス市民革命とイギリスにおける近代立憲主義の成立について講義する。
第3回	近代イギリス憲法（2）	イギリスにおける議会政治の発達と近代立憲主義の確立について講義する。
第4回	現代イギリス憲法	現代イギリス憲法の特徴について講義する。
第5回	近代フランス憲法（1）	フランス革命期の「近代立憲主義」と「民衆型立憲主義」の対立について講義する。

第6回	近代フランス憲法（2）	フランス第3共和制における近代立憲主義の確立と現代立憲主義への変容の萌芽について講義する。
第7回	現代フランス憲法（1）	フランス第4共和制憲法の成立と崩壊、ならびに第5共和制憲法の成立について講義する。
第8回	現代フランス憲法（2）	フランス第5共和制憲法の特徴について講義する。
第9回	現代フランス憲法（3）	第5共和制憲法の特徴を引き続き講義したのちに、現在のフランス憲法の変容について講義する。
第10回	近代ドイツ憲法（1）	ドイツにおける近代立憲主義の困難性とフランクフルト憲法成立について講義する。
第11回	近代ドイツ憲法（2）	プロイセン憲法とドイツ帝国憲法の分析を踏まえつつ、「外見的立憲主義」について講義する。
第12回	現代ドイツ憲法（1）	ワイマール憲法について講義する。
第13回	現代ドイツ憲法（2）	現行ドイツ憲法の成立過程とその人権保障の特徴について講義する。
第14回	現代ドイツ憲法（3） と本授業のまとめ	現行ドイツ憲法の統治機構面の特徴、ならびに欧州統合におけるその変容について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

西欧近現代史について、毎回の講義の時間で扱われる予定の部分を自主的に勉強し、あるいは授業後に自主的に復習すること。また、イギリス、フランス、ドイツそれぞれについて、テキストの各国憲法の「概説」部分を予習すること。

受講生は可能な限り、webclassにアップした各回の授業内容ビデオ（オンデマンド式）と文字ベースの授業内容要旨を事前・又は事後に読了すること。加えて、同じくアップする予定の小テストに授業後に解答し、授業内容の確認に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集（第5版）』2020年、三省堂、2,700円＋税

【参考書】

杉原泰雄『憲法の歴史～新たな比較憲法学のすすめ～』岩波書店（1996年）
辻村みよ子『比較憲法（第3版）』岩波書店（2018年）
辻村みよ子・糠塚康江『フランス憲法入門』三省堂（2012年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験又は定期試験に代わる期末レポート（80%）、初回アンケートへの参加と各回的小テストの合計（15%）、及び授業参加の積極度（5%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多いため進度が遅れがちとなり、授業の最後で急ぐ傾向があるので、時間配分に留意するよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

予習や復習用にPC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要。

【その他の重要事項】

レジュメや資料はwebclassで事前配布するので、特に対面式授業の場合は、必ず事前にプリントアウトして持参してほしい。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Lecture of some constitutional histories and their actual constitutionalism in the developed democratic countries like England, France and Germany.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to be able to understand some different characters of constitutionalism type between England, France and Germany and their futures under the globalization.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content in following the lecture videos and some contents offered in the Hoppii.

【Grading Criteria/Politics】 Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end examination or report 80%, Total of short tests:15%, and in-class contribution;5%.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際社会と憲法Ⅱ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代立憲主義は西洋の産物です。アジア諸国はそれを受容しつつ、自らの法文化と融合させて独自の憲法を発展させてきました。本講義は、東アジアの立憲主義が歴史的にどのように形成されたか、また国際社会のなかで東アジア地域の憲法がどのような特徴をもつものと考えられるかを比較法的視点をもって分析、理解するとともに近代立憲主義の意味をアジアの視点から考え直すことを目標とします。なお、この講義は、「行政・公共政策と法コース」および「国際社会と法コース」に属するものです。

【到達目標】

日本の近隣地域である韓国、台湾、中国の憲法を学ぶことによって、それぞれの政治体制の特徴を把握するとともに、それがこの地域の抱える特有の法および政治的問題とどのように関係しているかを理解することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

歴史的背景を踏まえつつ、東アジア地域の今日の憲法状況を概観します。近代化や今日のアジア地域の変化に触れると同時に、東アジア地域で日本の憲法がどのような位置づけを有すると考えられるかも考察します。

受講者数によりですが、時々、出席を兼ねて感想やわからなかった点等についての簡単なコメントを書いてもらい、わからなかった点に関しては、次の授業の際にお答えるようにしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、教科書、成績の基準等について説明する。
第2回	東アジアの近代国家形成と法	日本を含めた東アジア地域の近代化のなかでの立憲主義の発展について考える。
第3回	韓国の近現代史と憲法	日韓関係をも視野に入れつつ、韓国の憲法史を概観する。
第4回	韓国の憲法の特徴	韓国憲法の特徴と特殊性を検討する。
第5回	韓国の統治機構	韓国の統治機構を概観する。
第6回	韓国の司法と憲法裁判	韓国の法院と憲法裁判所の機能を概観する。
第7回	韓国の違憲審査制	韓国の違憲審査システムの特徴と問題点を考察する。
第8回	台湾の歴史と憲法	台湾の憲法の歴史的背景を概観する。
第9回	台湾の憲法状況	台湾の憲法の特徴と特殊性を概観する。
第10回	台湾の統治機構	台湾の統治機構を概観する。
第11回	中国憲法の形成過程	中華人民共和国の形成過程から中国憲法の特徴を考える。
第12回	中国憲法の特徴	中国憲法前文に見られる特徴を検討する。

第13回	中国の統治機構と人権	統治と人権の観点から中国憲法を概観する。
第14回	東アジアにおける日本・日本法	戦後補償問題等を素材に東アジア地域における日本・日本法の位置づけを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から東アジア諸国の政治・社会状況について関心をもつようにします。また日本の憲法についての基礎知識についても復習しつつ授業に参加するようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中国や韓国の憲法条文を参照するために：

初宿正典・辻村みよ子編『新解説 世界憲法集』第5版三省堂2020年などの憲法集を各自用意してください（図書館等で本講義で扱う国の憲法をコピーするのでも結構です）。韓国と台湾の憲法は、ネット上でも見ることができるので、これについては授業の初日に説明します。中国憲法の2018年改正後の最新版の翻訳が出ているのは、おそらく前記の三省堂の憲法集のみではないかと思われます。

【参考書】

尹龍澤ほか編『コリアの法と社会』（日本評論社、2020年）、鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）、稲正樹・孝忠延夫・國分典子編『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）、等。

【成績評価の方法と基準】

時々出してもらうアクションペーパーをもって平常点とし、平常点30％と学期末の筆記試験70％によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者の問題関心を汲み取って説明する必要があると感じています。

【Outline (in English)】

〈Course Outline〉

This course will focus on the constitutional problems of East Asian country from the comparative point of view.

〈Learning Objectives〉

By studying the constitutions of Korea, Taiwan and China, students are expected to understand the characteristics of each political system and how they relate to the specific legal and political issues facing the region.

〈Learning activities outside of classroom〉

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

〈Grading Criteria〉

Final grade will be calculated according to the following process: comment papers (30%) and term-end examination (70%).

LAW200AB (法学 / law 200)

ジェンダーと法 I

寺原 真希子、三浦 徹也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダーという言葉は多義的だが、本講義では「性差についての観念」と広く捉え、交際関係、職場、政治、行政、司法などの様々な場面におけるジェンダーに基づいた偏見や差別の問題を取り上げる。そして、ジェンダーに基づいた偏見や差別の構造を理解し、法律による対処とその理論的な問題について学ぶ。

対象とするのは女性差別に限られず、男性差別やセクシュアル・マイノリティに対する差別を含む。特にセクシュアル・マイノリティに関する議論は、近年、重要な裁判所の判断が続いているため、実際の裁判の事例を通じて、セクシュアル・マイノリティに関する議論に対する理論的なアプローチについて学ぶ。

2. 本講義の終盤では、それまでの講義の応用編として、選択的夫婦別姓訴訟と結婚の自由をすべての人に訴訟（いわゆる同性婚訴訟）について取り上げ、現在進行形の取組みとその法的な課題について学ぶ。

【到達目標】

1 日常の様々な場面にジェンダーの問題が潜んでいることを知り、それに対して日本や国際社会がどのように取り組んできた内容や議論の到達点を知る。

2 ジェンダーや人権に鋭敏な問題意識を養い、ジェンダーに関する新たな問題に対しても、理論的なアプローチができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1 対面での授業をおこなう。資料は授業日の2日前までに学習支援システムに掲載するので、予習として授業の前に資料に目を通してこること。

2 授業では毎回リアクションペーパーを作成し、学習支援システムに非公開で提出する。なお、講義ではセンシティブな内容を扱うことがあるが、リアクションペーパーは自分のことについて無理に開陳する必要は全くない。講義の感想や意見を、教員に開示できる範囲で記載して欲しい。リアクションペーパーに対しては適宜講義の中でフィードバックをする。

3 実際の授業の順番は担当教員の都合により変更になる可能性があるため、初回授業にて確定した日程を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー論の歴史と意義
2	交際関係とジェンダー	デートDV、性被害等の問題
3	労働とジェンダー	男女間の雇用差別、賃金格差等の問題
4	政治・行政とジェンダー	政治参加の分野や行政における男女格差の問題
5	司法とジェンダー	国連憲章、女性差別撤廃条約
6	男性にとってのジェンダー論	男性学、男性差別

7	セクシュアル・マイノリティをめぐる諸問題	セクシュアル・マイノリティに関する基本的な知識
8	性自認にかかる裁判事例	経済産業省事件、特例法4号要件事件
9	性的指向にかかる裁判事例	同性カップルをめぐる裁判例等
10	応用編：選択的夫婦別姓訴訟1	夫婦の氏に関する裁判の歴史
11	応用編：選択的夫婦別姓訴訟2	夫婦の氏に関する憲法論の現在
12	応用編：結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟）1	日本における婚姻平等の展開
13	応用編：結婚の自由をすべての人に訴訟（同性婚訴訟）2	法律上同性の者同士の婚姻に関する憲法論の現在
14	総括	これまでの講義の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にアップする資料を使って予習すること。実際の裁判例を取り上げる場合には、紛争の内容や事件の争点、判断基準や各要素の評価の方法を整理して把握するよう努めること。

また、講義において取り上げる法は、憲法、民法、刑法、労働法など多岐にわたる。講義の中でも必要に応じて解説をするが、受講者において、予習・復習として各法の関連分野を学習し、各法の議論の中で、ジェンダーの問題がどのように位置づけられるのかを体系的に整理することが望ましい。

授業後は、毎回リアクションペーパーを提出すること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（『ポケット六法』『デイリー六法』等）

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（90%）及び平常点（リアクションペーパー含む）（10%）で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、ジェンダーやセクシュアリティに関する事案や訴訟に日頃から関与している弁護士として、その経験と知識を踏まえた授業を行う。

【Outline (in English)】

In this course, we are going to learn gender-based biases and discrimination in everyday situations.

Furthermore, students will delve into theoretical approaches to discussions about sexual minorities by analyzing real legal cases.

Towards the end of the course, we will examine ongoing efforts and legal challenges, including cases like selective surname use and same-sex marriage lawsuits.

【Learning Objectives】

1 To know about gender issues in various everyday situations, understand Japan's and the international community's efforts in response, and grasp the current state of gender discussions.

2 To aim to develop theoretical approaches to new gender-related issues.

【Learning activities outside of classroom】

Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after lecture.

【Grading Criteria /Policy】

1 In-class contribution(including reaction papers)(10%)

2 Term-end examination(90%)

LAW300AB（法学 / law 300）

憲法訴訟論

高橋 正明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法訴訟論について学び、この分野の基本的知識を習得するとともに、憲法訴訟に関する諸問題について論理的に考える力を養う。憲法訴訟に関する論点は多岐に渡るが、司法権・違憲審査制の意義・限界について検討した上で、違憲審査の対象、憲法判断の方法、判決の効力などの問題について判例・学説を素材に理解を深める。

【到達目標】

- ①憲法訴訟に関する基本的知識を習得した上で、憲法訴訟に関する諸問題を論理的に解決する力を養う。
- ②刑事、民事、行政裁判の中で憲法問題がどのように扱われているのか、判例を素材として具体的に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 憲法訴訟の特徴 司法権の概念・意義	授業の進め方 憲法訴訟とはどのようなものかを簡単に説明した上で、司法権とは何かについて学ぶ。
第2回	司法権の限界	司法権が及ばない紛争とそれらを巡る法理論（統治行為論、部分社会論など）について学ぶ。
第3回	違憲審査制の分類	諸外国における違憲審査制度の特徴について学ぶ。
第4回	日本の違憲審査制	日本の違憲審査制の特徴や課題について学ぶ。
第5回	違憲審査の対象	違憲審査の対象（条約、立法不作為、国の私法上の行為）に関する論点について学ぶ。
第6回	憲法訴訟の当事者適格	訴訟当事者が第三者の権利侵害を主張することはできるのかについて学ぶ。
第7回	違憲審査の範囲 憲法判断の方法（1）	法令審査、適用審査、処分審査について学ぶ。 憲法判断回避の原則について学ぶ。
第8回	憲法判断の方法（2）	合憲限定解釈、適用違憲、部分違憲、処分違憲について学ぶ。
第9回	憲法判断の方法（3）	合憲拡張解釈について学ぶ。
第10回	実体的違憲審査の方法	利益衡量論、違憲審査基準論、比例原則論について学ぶ。
第11回	違憲判決の効力	法令違憲判決の効力は当事者以外に及ぶのか、過去になされた行為にも効力は及ぶのかについて学ぶ。

第12回	違憲確認の活用	確認訴訟の意義・課題について学ぶ。
第13回	憲法判例の変更 違憲審査制の活性化のための制度論	判例変更に関する理論的課題について学ぶ。 違憲審査制を機能させるための制度設計のあり方について学ぶ。
第14回	まとめ	授業の振り返りを行うとともに、論じきれなかった事項について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。

授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）

【参考書】

【基本書】

高橋和之『体系・憲法訴訟』（岩波書店、2017年）

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

渡辺康行・穴戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法II 総論・統治』（日本評論社、2020年）

【判例集】

<入門的なもの>

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

<標準的なもの>

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選I・II』第8版（有斐閣、2025年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

- ①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
- ②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, students will learn theories of constitutional litigation, gaining insight into issues related to constitutional litigation, developing ability to solve them logically.

【Learning Objectives】 The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific issues regarding constitutional litigation logically, and also to learn about how constitutional problems are solved in a criminal, civil, or administrative litigation based on actual cases.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content.

【Grading Criteria/Politics】 Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

生命倫理と人権 I

鶴澤 和彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理は、20世紀中葉の非人道的な人体実験を背景にして、今日の形態へと発展してきました。本授業は、このような歴史的な人権問題を考慮しながら、生命倫理の四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）、三種類の同意概念（インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意）そして、関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を学びます。その際、授業内容に関連する医療ドラマを視聴しながら、生命倫理の諸概念や人権問題の理解を深めていきます。なお、本科目は「文化・社会と法コース」にあげられている法的教養を深めるのに適した科目です。また「行政・公共政策と法」の各コースにも配置されています。

【到達目標】

- ①生命倫理と人権思想の連関を把握し、日常生活の出来事から倫理的及び法律的問題を見つけることができる。
- ②具体的な事例に基づいて、生命倫理の土台を成す四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）を把握することができる。
- ③インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意という三種類の同意概念、そして、それらに関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面の形式で行われます。学習支援システム webclass を通じて、パワーポイント原稿、解説動画、授業資料、課題を提供します。課題は主に医療ドラマから出され、受講生はこの視聴覚教材を視聴し、課題に答えてください。課題の提出並びに教員からのフィードバックは、webclass を通じて行います。出席、質問、感想は、Google Form を通じて提出してもらいます。質問は次回の授業時にお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	教員の自己紹介、到達目標、授業内容、授業の進め方について説明します。また、スピッツの「ホスピタリズム」研究から人間の生命について考えます。
第2回	生命倫理と人権思想の歴史的考察①	生命倫理の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート）を解説します。
第3回	生命倫理と人権思想の歴史的考察②	ロバート・J・リフトンによるナチズムの研究から、生命倫理と人権、とくに差別、抑圧、暴力の問題について考えます。
第4回	終末期医療と患者の人権①	死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（IC）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択（①セデーション、②自然死、③安楽死、④延命治療）を解説し、それぞれの問題点とそれに関するモラル・ジレンマを明らかにします。
第5回	終末期医療と患者の人権②	がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラーロス）、医療資源の配分などの問題を考えていきます。
第6回	終末期医療と患者の人権③	第4回と第5回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。

第7回	小児医療と子供の人権①	ホスピタリズムと幼児の能力（ヤヌシュ・コルチャック、内藤寿七郎）、幼児の精神的な病気（スピッツ）、インフォームド・アセント（IA）の概念、親の許諾、患児の賛同、IAの適用例、日本におけるIAの実施率について考察します。
第8回	小児医療と子供の人権②	拒食症と宗教的理由から輸血を拒否する事例を取り上げ、パターナリズムと治療の拒否権について考えます。
第9回	小児医療と子供の人権③	第7回と第8回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第10回	コンピテンスと患者の人権①	判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意とその基準（最高利益と代理判断）及び問題点、臓器移植法改正、家族の範囲について考察します。
第11回	コンピテンスと患者の人権②	自律、コンピテンス、人権との関係、及びコンピテンスの臨床基準について説明します。
第12回	コンピテンスと患者の人権③	第11回と第12回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第13回	生命倫理の四原則と人権	自律尊重、仁恵、無危害、正義の諸原則を整理し、それらの原則と人権思想との関連をまとめます。
第14回	生命倫理における同意概念と人権	人権との関連でインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意の概念をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は授業に関連する教科書の該当箇所を読んでおいてください。また、参考書を使って、専門用語の意味等を理解してください（2時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。そして、授業支援システムを使って、各授業後に出される課題に答えてください。さらに、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをまとめてください（3時間）。

【テキスト（教科書）】

塚田敬義・前田和彦編『生命倫理・医事法 第3版』医療科学社、2023年、3,300円、ISBN-978-4-86003-133-6

【参考書】

- ①樋口範雄・土屋裕子（編集）『生命倫理と法』、弘文堂、3520円、ISBN-10:433535343X
- ②小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』、ちくまプリマー新書、780円、ISBN-10:4480688684
- ③トム・L・ビーチャム他著『生命医学倫理』、成文堂、7,560円、ISBN-10:4792360641

【成績評価の方法と基準】

試験方法：定期試験、実施時期：定期試験期間。各課題50%、筆記試験50%の総合評価。筆記試験と毎回の課題は、到達目標に挙げられた以下の基準に従って評価されます。①自分の経験や見聞した知見による例証が、適切に行われているかどうか（40%）。②四原則の内容が、適切に理解され、説明されているかどうか（30%）。③三種類の合意概念が、正しく把握されて、使用されているかどうか（30%）。なお、グループディスカッションで司会（及び「まとめ」の執筆）を担当した受講生には、授業評価点として5点が追加されます。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム webclass にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用して各自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム webclass を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

JR 東京総合病院治験及び研究倫理審査委員会委員、NPO 法人ホームケアエクスパート協会、日本生殖医療看護学会（第13回実践セミナー）、文部省 SSH 事業。医療や介護の現場の声を生かしながら、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、生命倫理に即した解決策を考えます。

【Outline (in English)】

This course examines the evolution of bioethics from mid-20th-century human experimentation to its modern form, with a focus on human rights issues. Students will explore the four principles of bioethics — respect for autonomy, beneficence, nonmaleficence, and justice — as well as the three types of consent: informed consent, informed assent, and proxy consent. The course also covers relevant legal frameworks, including laws, guidelines, and declarations. To deepen their understanding of ethical dilemmas, students will watch medical dramas related to the course content.

This course is part of the "Culture, Society and Law" and "Administration, Public Policy and Law" tracks. Students are expected to read the assigned textbook sections and reference materials before each class to familiarize themselves with key concepts. After class, they should review the lecture notes and complete assignments using the class support system. Additionally, students are encouraged to summarize their thoughts on the topics discussed, incorporating insights from peer discussions.

Assessment will be based on assignments (50%) and a written exam (50%). Grading criteria include the ability to provide relevant examples (40%), a clear understanding of the four bioethical principles (30%), and the correct application of consent concepts (30%). Students who moderate group discussions and submit a summary will receive an additional five points toward their final grade.

LAW200AB（法学 / law 200）

生命倫理と人権 II

洪 賢秀

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学技術の進展により、私たちは、「いのちにどこまで人為的な介入を許すべきか」という難題に直面しています。本授業では、生命倫理をめぐる諸課題について社会的・文化的背景を踏まえながら、各社会が新たに登場した生命科学技術をどのように受容し対応しているのかについて、人権及び法的視点からアプローチしていきます。法律学科のコース制との関係では、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する科目です。

【到達目標】

本授業では、生殖医療技術、遺伝子関連技術、再生医療、移植医療、終末期医療などについて、各社会がどのような規制をもち、どのような議論をしているのか、具体的な事例を検討し、生命倫理に関する基本的情報を習得します。また、他の人との意見交換をとおして、生命倫理に関する多様な立場や価値観への理解を示すとともに、自分の考えを深めていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業内容の理解度を確認し、テーマにおける自分の考えを整理していただくために、ミニレポートを課し提出してもらいます。提出されたミニレポートに対して、個人への回答やコメントが必要な場合には、個別に回答・コメントをお送りします。また、全体として共有したほうがよいと思われる内容については、次の講義の際に、おさらいと補足をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命倫理とは何か	人間の欲望と歴史的教訓としての倫理
第2回	生殖医療技術と倫理	生殖医療と諸課題
第3回	遺伝子関連技術と倫理①	遺伝情報と差別
第4回	遺伝子関連技術と倫理②	ゲノム研究とゲノム医療
第5回	遺伝子関連技術と倫理③	ゲノム編集と遺伝子関連検査
第6回	再生医療と倫理①	クローン技術
第7回	再生医療と倫理②	人体組織と再生医療
第8回	エンハンスメントと倫理	エンハンスメントの問題と背景
第9回	移植医療をめぐる倫理①	脳死と臓器移植
第10回	移植医療をめぐる倫理②	いのちの贈物の光と影
第11回	移植医療をめぐる倫理③	移植ツーリズムにおける諸課題
第12回	死をめぐる倫理①	終末期医療
第13回	死をめぐる倫理②	安楽死
第14回	死をめぐる倫理③	死体の研究利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

準備学習としては、授業内容と関連するテーマについてテキストや参考文献を読んで、授業に臨んでください。毎回のミニレポートの作成は、授業内容の論点整理や理解を確認するための復習の時間となります。

【テキスト（教科書）】

神里 彩子・武藤 香織 編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』第2版（東京大学出版会、2023年、税込2,640円）

棚島次郎著、『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書、2020年、税込880円）

【参考書】

『ジュリスト増刊 ケース・スタディ 生命倫理と法』、松原洋子・伊吹友秀『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会）、棚島次郎『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書）

その他、授業において毎回レジュメや資料を配布し、参考文献は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、期末レポート50%と、ミニレポートの課題50%とし、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、提出してもらったミニレポートなどから得られた学生さんからのご質問やご意見について必要に応じてクラス全体で共有し、受講者とのコミュニケーションが活性化できるようにしていきます。

【Outline (in English)】

Advances in the life sciences and technologies are forcing us to confront the difficult question of “How much artificial intervention into life should be permitted?” In this class, drawing on the social and cultural background of a variety of issues surrounding bioethics, we adopt a legal and human rights perspective as we approach the question of how each society accepts and responds to newly emerging life sciences and technologies. With reference to the law school's course system, this class is affiliated with the following courses: “Courts and the Law,” “Administrative and Public Policy and the Law,” and “Culture, Society, and Law.”

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Instructions will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

As for preparatory study, please read the textbook and references on the topics related to the class contents before coming to class. The preparation of mini-reports for each class will serve as review time to organize the issues and confirm your understanding of the class content.

【Grading criteria】

Evaluation will be allocated as follows: 50% for the final report and 50% for the mini-report assignment.

LAW200AB（法学 / law 200）

行政法入門Ⅰ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にあらう。行政法も、法の一種であるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性が問題となる。

この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法の概略、行政法とはどのような法なのか、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政法の基本原理を学ぶ。

この科目は全てのコースに配当されている。

【到達目標】

- ①行政法とは何かを説明することができる。
- ②行政主体と行政機関について説明することができる。
- ③権限の代行について説明することができる。
- ④指揮監督について説明することができる。
- ⑤行政法の基本原理について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、一般的な講義とし、対面（ハイフレックス）で実施する。学習支援システムとGoogleクラスルームを利用する。学習支援システムは授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Googleクラスルームを主として利用する。Googleクラスルームを通して、成績評価を含む必要事項を受講者に周知し、また、理解度確認のための小テストの実施（任意）とリアクションペーパーの提出（任意）に利用する。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 行政法のイメージ	授業の進め方 行政法令の諸相 行政の主体とプロセス
第2回	行政法序論（1）	行政と行政法 行政法の三分野 行政法典の不在
第3回	行政法序論（2）	行政の意義と分類
第4回	行政法序論（3）	公法私法二元論 民事法の適用
第5回	行政主体と行政機関（1）	行政主体の種類
第6回	行政主体と行政機関（2）	行政機関の権限と分類

第7回	行政主体と行政機関（3）	行政機関の類似概念
第8回	行政機関の相互関係	指揮監督 権限の代行
第9回	行政法の基本原理（1）	法律による行政の原理の意義と内容
第10回	行政法の基本原理（2）	法律による行政の原理の形式性とその克服
第11回	行政法の基本原理（3）	信義誠実の原則
第12回	行政法の基本原理（4）	権利濫用禁止の原則
第13回	行政法の基本原理（5）	比例原則
第14回	行政法の基本原理（6）	平等原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）を用いる。

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2023年、第5版、有斐閣）
- ・今村成和（著）＝畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012年、第9版、有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2023年、第8版、有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法上』（1999年、弘文堂）、『行政法講義下Ⅰ』（2002年、弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2024年、第6版補訂版、有斐閣）
- ・芝池義一『行政法読本』（2016年、第4版、有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2023年、第3版、弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012年、全訂第7版補訂2版、学要書房）
- ・藤田宙靖『新版行政法総論（上）』（2020年、青林書院）

その他

- ・斎藤誠ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2022年、第8版、有斐閣）
- ・芝池義一ほか（編）『判例行政法入門』（2022年、第7版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100％）のみで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。引き続き授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Googleクラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は推奨せず、それによって不都合が生じている受講者に特別の対応は実施しない。

【その他の重要事項】

行政法の科目としては、行政法入門Ⅰ・Ⅱのほかに、行政作用法Ⅰ・Ⅱ、行政救済法Ⅰ・Ⅱ、行政組織法、地方自治法、環境法、都市法、租税実体法、租税手続法がある。行政法の科目を履修または受講する場合、いずれも行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講していることを前提として授業が行われるので、単位修得の有無にかかわらず、2年次に行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講しておくことが望ましい。ただし、行政法の他の科目を履修するに当たって、行政法入門Ⅰ・Ⅱの履修あるいは単位取得は必須の条件としていない。

これらのほか、法学部のカリキュラムでは行政法として位置づけられていないが、教育法、経済法、社会保障法など行政と密接に関係する法律分野もある。行政に関する法律問題を学びたいと思っている学生は、行政法の科目のみならず、これらの科目を受講するとよいだろう。

【Outline (in English)】

Administrative Law is whole body of Laws concern to Public Administration. Although Administrative Law regulate legal relationship between Nation and Natural or Legal Person, in Administrative Law, legality of acts that Administrative Agency do is very important matter. In this course, Students learn about outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

At the end of the course, students are expected to understand outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

LAW200AB（法学 / law 200）

行政法入門Ⅱ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法入門Ⅱでは、行政法入門Ⅰに引き続きそれを前提に、行政作用法および行政救済法の基本的な理論について解説する。

行政作用とは行政主体が私人に対してする行政活動を指し、これを規律するのが行政作用法である。行政作用法の詳細は、この授業に続く行政作用法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政作用は人権に関わる。たとえば、営業規制は営業（職業選択・職業活動）の自由を、建築規制は財産権を、それぞれ規制するものであるし、生活保護は生存権を実現するためのものといえる。この意味で行政法は、人権侵害に対抗するための法律論である。

この授業では、こうした認識を前提に、行政作用については、行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを示すとともに、行政作用に関する一般制度として行政手続を取り上げる。前者では、とりわけ、行政機関が行政主体のために行政作用としてする行為（行政の行為）の法形式的整理が重要である。行政の行為には様々なものが含まれるが、それは、権力性、法効果および具体性の三要素によって分類される。この基準によって行政の行為の法的性質を見極められるようになることが、まずもって必要である。

行政救済とは、行政作用により私人に生じた不利益の救済のことをいい、これを行政救済法は規律する。その主要法律として、行政事件訴訟法、行政不服審査法および国家賠償法がある。行政救済法の詳細は、この授業に続く行政救済法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政法学では、行政救済に関して、行政事件訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償請求などを取り上げてきた。行政救済とは別の観点として、行政作用の司法審査というものがある。これは、行政作用の適法性を行政とは個別される国家機関である裁判所が審査するものであり、それは行政事件訴訟だけでなく民事訴訟や刑事訴訟においても行われる。

この授業の受講者は、行政法入門Ⅰで学んだ行政法の基本原則と行政組織法の基礎を前提に、行政作用法と行政救済法の基本的な法制度を理解し、行政法現象を法的に把握できるようになることを期待される。

なお、この科目は全てのコースに配当されている。

【到達目標】

- ①行政の各種の行為（行為形式）について説明することができる。
- ②行政救済の概略を説明することができる。
- ③行政手続について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、一般的な講義とし、対面（ハイフレックス）で実施する。学習支援システムとGoogleクラスルームを利用する。学習支援システムは授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Googleクラスルームを主として利用する。Googleクラスルームを通して、成績評価を含む必要事項を受講者に周知し、また、理解度確認のための小テストの実施（任意）とリアクションペーパーの提出（任意）に利用する。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	行政の各種の行為（1）	内部的行為と外部的行為 行政の行為形式
第2回	行政の各種の行為（2）	行政行為
第3回	行政の各種の行為（3）	法規命令
第4回	行政の各種の行為（4）	行政契約 実力行使 行政指導
第5回	行政救済法の基礎（1）	行政作用の司法審査 行政事件訴訟の意義
第6回	行政救済法の基礎（2）	取消訴訟の意義
第7回	行政救済法の基礎（3）	取消訴訟の訴訟要件
第8回	行政救済法の基礎（4）	無効等確認訴訟 差止訴訟
第9回	行政救済法の基礎（5）	義務付け判決 当事者訴訟
第10回	行政救済法の基礎（6）	民衆訴訟 機関訴訟
第11回	行政救済法の基礎（7）	行政上の不服申立て
第12回	行政救済法の基礎（8）	国家賠償・損失補償
第13回	行政手続の基礎（1）	適正手続の保障
第14回	行政手続の基礎（2）	行政手続の手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2023年、第5版、有斐閣）
- ・今村成和（著）＝畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012年、第9版、有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2023年、第8版、有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法上』（1999年、弘文堂）、『行政法講義下Ⅰ』（2002年、弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2024年、第6版補訂版、有斐閣）
- ・芝池義一『行政法読本』（2016年、第4版、有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2023年、第3版、弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012年、全訂第7版補訂2版、学要書房）
- ・藤田宙靖『新版行政法総論（上）』（2020年、青林書院）
- その他
- ・斎藤誠ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2022年、第8版、有斐閣）
- ・芝池義一ほか（編）『判例行政法入門』（2022年、第7版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Googleクラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は推奨せず、それによって不都合が生じている受講者に特別の対応は実施しない。

【その他の重要事項】

行政法入門Ⅱのカリキュラム上の位置づけについては、行政法入門Ⅰのシラバス参照。

【Outline (in English)】

In this course, the basic legal theories of acts of Administrative Agency and the outline of Administrative Remedies are taken up. Acts of Administrative Agency are concerned to Fundamental Human Rights. For example, Regulation to Occupation will regulate the Freedom to act Occupation. Livelihood Protection will realize the Right to live. So, in these meanings, the Administrative Law theories are means of Human Rights Protection. Administrative Remedies mean remedies to rights or interests that are injured by acts of Administrative Agency.

At the end of the course, students are expected to understand legal forms of act of Administrative Agency, law of Administrative Remedies and law of Administrative Procedure.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

LAW300AB（法学 / law 300）

行政作用法Ⅰ

吉岡 郁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的抽象的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政活動に関する法である行政作用法には、行政代執行法、行政手続法、行政機関の情報の公開に関する法律などの一般法や、建築基準法、警察官職務執行法、食品衛生法、道路交通法、都市計画法などの個別法がある。その多くは個別法である。行政法学における主な検討課題は、一般法に関してはそれらの具体的な解釈であり、また、個別法に関してはそれらにおいて規定されている行為に共通する性格をもつ「行政の行為」の法的規制等の法律論である。ここにいる行政の行為には、行政規範の制定（行政立法）、行政行為、行政上の強制執行、即時強制、行政契約、行政指導がある。また、行政計画、行政調査の意義・法的規制も行政法学における検討課題である。行政罰及び制裁的措置の意義・法的規制も重要である。上記のうち、行政上の強制執行、行政罰、制裁的措置は行政の実効性確保の仕組みないし手段といえる。

行政作用法Ⅰでは行政法の基本原則および行政行為を中心にとりあげ、その意義や法的規制・法律論について学ぶ。

行政作用法Ⅰは、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

学生が、

- ・行政法とは何か、その特徴を説明することができる。
- ・行政法の基本原則を説明することができる。
- ・行為形式論とは何か、そして行政行為の意義、内容について説明することができる。
- ・行政手続法の基本的仕組みについて説明することができる。
- ・裁量行為の特徴について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式を基本とする。教科書とレジュメによって授業を行う。

毎回の授業中に課題を課すほか、授業のレジュメは配布せず各自でダウンロードしてもらうことを想定しているため、学習支援システムが利用できる環境が必要である。

質問およびフィードバックは随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方 行政法とは（導入講義）
第2回	行政法の基礎知識（1）	行政法の基礎理論

第3回	行政法の基礎知識（2）	法源論等
第4回	行政行為（1）	行政作用法の全体 行為形式論 行政組織法の確認
第5回	行政行為（2）	行政行為の意義 違法と無効
第6回	行政行為（3）	行政行為の効果 行政手続
第7回	行政行為（4）	行政手続の続き
第8回	中間試験	中間試験を行う。
第9回	行政行為（5）	中間試験の解説 行政行為の取消と撤回
第10回	行政行為（6）	裁量統制
第11回	行政行為（7）	裁量統制の続き
第12回	行政行為（8）	手続統制等
第13回	行政行為（9）	行政行為の種別論等
第14回	まとめ	授業の内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法〔第3版〕』（弘文堂、2023年）3,500円+税

【参考書】

判例集として

・斎藤誠、山本隆司編『行政判例百選Ⅰ〔第8版〕』（有斐閣、2022年）

また参考書として

・塩野宏『行政法Ⅰ〔第6版補訂版〕』（有斐閣、2024年）

・宇賀克也『行政法概説Ⅰ 行政法総論〔第8版〕』（有斐閣、2023年）

参考書については、初回の授業においても紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40％）と学期末の試験（60％）で行う。また、毎回の授業中に出される課題への取り組み等を平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを授業中に利用できる環境が必要である。

【その他の重要事項】

行政法入門を受講していることが望ましい。

また、行政作用法はⅠとⅡがあるため、どちらも履修することを想定している。

【Outline (in English)】

This course is designed to help you learn meaning and legal controls of acts performed by the executive agencies (hereinafter the executive agencies' acts are simply referred to as 'acts'), especially focusing on 'Gyousei Kouji'.

'Gyousei Kouji' in Japanese shall decide rights, obligations, and other legal status finally without consent of the person(s) to whom it is addressed. About 'Gyousei Kouji', there are several issues. It is considered, for instance, what effect 'Gyousei Kouji' has on individual rights and obligations. When performing 'Gyousei Kouji' may involve exercise of some discretionary power, it is also examined where discretion exists and how courts control exercise of discretionary power.

After completing this course, you should be able to:

- ・ Explain meaning and sorts of 'Gyousei Kouji';
- ・ Explain legal controls of 'Gyousei Kouji';
- ・ Explain when 'Gyousei Kouji' comes into existence and becomes effective;
- ・ Explain typical features (or typical qualities) of 'Gyousei Kouji';
- ・ Explain conditions, time limits, and other manifestations of intention added to 'Gyousei Kouji';
- ・ Explain invalidity of 'Gyousei Kouji' (this invalidity means 'Gyousei Kouji' has no legal effect – without any executive agency's measure – from a date it actually took place);
- ・ Explain acts making void ab initio (with relation back) 'Gyousei Kouji' which has become effective;

- Explain acts making void ex post facto 'Gyousei Kou' which has become effective;
- Explain where discretion exists in doing 'Gyousei Kou';
- Explain tests used by courts against misuse of executive discretionary powers.

You should learn independently by reading the textbook and your own reference book(s) in order to prepare for and/or review every class. The STANDARD time for preparation and review is 2 hours each.

Evaluation will be based on a mid-term exam (40 %) and a final exam at the end of the semester (60 %) .

LAW300AB（法学 / law 300）

行政作用法Ⅱ

吉岡 郁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的抽象的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政活動に関する法である行政作用法には、行政代執行法、行政手続法、行政機関の情報の公開に関する法律などの一般法や、建築基準法、警察官職務執行法、食品衛生法、道路交通法、都市計画法などの個別法がある。その多くは個別法である。行政法学における主な検討課題は、一般法に関してはそれらの具体的な解釈であり、また、個別法に関してはそれらにおいて規定されている行為に共通する性格をもつ「行政の行為」の法的規制等の法律論である。ここにいる行政の行為には、行政規範の制定（行政立法）、行政行為、行政上の強制執行、即時強制、行政契約、行政指導がある。また、行政計画、行政調査の意義・法的規制も行政法学における検討課題である。行政罰及び制裁的措置の意義・法的規制も重要である。上記のうち、行政上の強制執行、行政罰、制裁的措置は行政の実効性確保の仕組みないし手段といえる。

行政作用法Ⅰの授業では、行政法の基本原則、行政行為を中心に講義を行った。行政作用法Ⅱでは、行政行為以外の行為形式や、行政の実効性確保の手段、行政情報の収集・管理・公開についてとりあげ、その意義や法的規制について主に学ぶ。

行政作用法Ⅱは、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

学生が、

- ・行政指導、行政計画などの様々な行為形式について、その特徴や問題点を説明することができる。
- ・行政の実効性確保手段について、それぞれの手段の特徴や問題点を説明することができる。
- ・行政情報の収集・管理・公開の仕組みについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式を基本とする。教科書とレジュメによって授業を行う。

毎回の授業中に課題を課すほか、授業のレジュメは配布せず、各自でダウンロードしてもらうことを想定しているため、学習支援システムが利用できる環境が必要である。

質問およびフィードバックは随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方 行政作用法Ⅰの復習
第2回	行政指導	行政指導の概念、規律、救済

第3回	行政契約	行政契約の種類、特徴
第4回	行政立法（1）	行政立法とは 法規命令 行政規則 その他規範
第5回	行政立法（2）	行政計画とは 計画統制 計画担保責任
第6回	行政計画	計画担保責任 中間試験を行う。
第7回	中間試験	概論
第8回	行政の実効性確保（1）	強制執行 行政罰
第9回	行政の実効性確保（2）	誘導 即時強制
第10回	行政の実効性確保（3）	行政調査等 公文書管理等 情報公開法
第11回	行政情報の収集	情報公開法の続き
第12回	行政情報の管理・利用	個人情報保護法
第13回	行政情報の公開（1）	授業の内容を総括する。
第14回	行政情報の公開（2）	
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法 [第3版]』（弘文堂、2023年）3,500円+税

【参考書】

判例集として

- ・斎藤誠、山本隆司編『行政判例百選Ⅰ [第8版]』（有斐閣、2022年）
- また参考書として
- ・塩野宏『行政法Ⅰ [第6版補訂版]』（有斐閣、2024年）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ 行政法総論 [第8版]』（有斐閣、2023年）

参考書については、初回の授業においても紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40％）と学期末の試験（60％）で行う。また、毎回の授業中に出される課題への取り組み等を平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを授業中に利用できる環境が必要である。

【その他の重要事項】

行政法入門を受講していることが望ましい。

また、行政作用法はⅠとⅡがあるため、どちらも履修することを想定している。

【Outline (in English)】

This course is designed to help you learn meaning and legal controls of some acts performed by the executive agencies (hereinafter the executive agencies' acts are simply referred to as 'acts'), especially focusing on (1)Various forms of Administrative Act, (2)Ensuring Administrative Efficacy, (3)Management of Administrative Information.

After completing this course, you should be able to:

- ・ Explain the Feature of various Administrative Act(ex. Administrative Plan)
- ・ Explain sorts of Measures for Ensuring Administrative Efficacy;
- ・ Sketch out the Act on Access to Information Held by Administrative Organs;
- ・ Sketch out management systems of personal information in the public sector which systems are provided in the Act on the Protection of Personal Information;
- ・ Sketch out management systems of Administrative Documents laid down in the Public Records and Archives Management Act.

You should learn independently by reading the textbook and your own reference book(s) in order to prepare for and/or review every class. The STANDARD time for preparation and review is 2 hours each.

Evaluation will be based on a mid-term exam (40 %) and a final exam at the end of the semester (60 %) .

LAW300AB（法学 / law 300）

行政救済法Ⅰ

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、警察行政、医事衛生行政、環境行政、教育行政、経済行政、公共施設行政などの多様な行政領域において、われわれ私人の生活に関係し影響を及ぼしている。行政活動が適法にされることのほか、行政活動により権利利益を侵害され又は必然的に侵害されるおそれのある私人が利用しうる救済制度が、その権利利益の回復・予防のために適切かつ十分なものであることも、重要である。

民事法上のものとは異なる、行政の分野に特有の救済制度として、行政事件訴訟、行政不服審査（行政上の不服申立て）、国家賠償、損失補償が存在する。

行政事件訴訟とは、行政上の紛争があるとき、それを裁判所が審理し、解決するものである。行政不服審査は、行政上の紛争があるとき、それを行政機関が審理し、解決するものである。国家賠償とは、国・公共団体の活動により私人が被った損害を、国・公共団体が補填するものである。損失補償とは、過誤のない国・公共団体の活動により私人に生じた特別の犠牲を、補填するものである。

上記の各救済制度のうち、行政救済法Ⅰの授業では、行政事件訴訟が、行政救済法Ⅱの授業では、行政不服審査、国家賠償、そして損失補償が、とりあげられる。

行政救済法Ⅰでは、行政事件訴訟の概要を理解するとともに、その抱える問題を学ぶ。

行政救済法Ⅰは、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

行政事件訴訟の類型とそれらの相互関係を説明することができる。
取消訴訟の概要と抱える問題を説明することができる。
取消訴訟以外の抗告訴訟を説明することができる。
抗告訴訟における仮の救済を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入講義	各種の行政救済制度（行政の分野に特有の救済制度） 行政事件訴訟と民刑事訴訟の違い
第2回	各種の行政事件訴訟(1)	行政事件訴訟の類型（抗告訴訟、形式的当事者訴訟）

第3回	各種の行政事件訴訟(2)	行政事件訴訟の類型（実質的当事者訴訟、客観訴訟、機関訴訟） 各訴訟類型の相互関係
第4回	取消訴訟(1)	訴訟要件と本案勝訴要件 訴訟要件の教示の制度
第5回	取消訴訟(2)	処分性
第6回	取消訴訟(3)	原告適格
第7回	取消訴訟(4)	訴えの客観的利益
第8回	取消訴訟(5)	違法主張の制限 違法性の承継 違法判断の基準時
第9回	取消訴訟(6)	判決の種類と効力 事情判決
第10回	取消訴訟以外の抗告訴訟(1)	無効等確認訴訟
第11回	取消訴訟以外の抗告訴訟(2)	不作為違法確認訴訟
第12回	取消訴訟以外の抗告訴訟(3)	義務付け訴訟
第13回	取消訴訟以外の抗告訴訟(4)	差止訴訟
第14回	抗告訴訟における仮の救済 問題演習	執行停止 仮の義務付け 仮の差止め 行政上の紛争について提起可能な訴訟の具体的な検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲の参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布するプリントを使う。テキストは使用しない。

【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅱ〔第8版〕』（有斐閣、2025年）
神橋一彦『行政救済法〔第3版〕』（信山社、2023年）
塩野宏『行政法Ⅱ〔第6版〕』（有斐閣、2019年）
芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）
藤田宙靖『新版行政法総論（下）』（青林書院、2020年）
そのほか、初回の授業で紹介するもの。
最新版のものを参照すること。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要なPCあるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。

【その他の重要事項】

行政救済法Ⅰ・Ⅱの授業は、行政法入門Ⅰ・Ⅱの内容を修得したこと、あるいは、修得中であることを前提に行われる。行政法入門Ⅰ・Ⅱでとりあげられる事柄を修得できていない場合、それらを自習すること。そうしなければ、授業内容を理解できないおそれがあるからである。自習範囲は担当教員に相談すること。

また、行政作用法Ⅰ・Ⅱを、学習済みであるか、あるいは、学習中であることが望ましい。この授業で解説される内容をより深く理解できると思われるからである。そのため、受講者には、行政作用法Ⅰ・Ⅱを履修することも期待されている。

【Outline (in English)】

This course is designed to sketch out the Administrative Case Litigation Act 1962 (c.139) and to lean inherent problems of the Act 1962.

After completing this course, you should be able to:

- Explain kinds of actions laid down in the Act 1962 and spell out relationship between the actions;
- Sketch out Actions for the Revocation of Administrative Dispositions (these are included in Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions – see Art. 3 and 9 of the Act 1962), with identifying its problems;
- Explain the rest actions of Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions; and

- ・ Explain provisional remedies which could be asked before the court where each Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions are field.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

行政救済法Ⅱ

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、警察行政、医事衛生行政、環境行政、教育行政、経済行政、公共施設行政などの多様な行政領域において、われわれ私人の生活に関係し影響を及ぼしている。行政活動が適法にされることのほか、行政活動により権利利益を侵害され又は必然的に侵害されるおそれのある私人が利用しうる救済制度が、その権利利益の回復・予防のために適切かつ十分なものであることも、重要である。

民事法上のものとは異なる、行政の分野に特有の救済制度として、行政事件訴訟、行政不服審査（行政上の不服申立て）、国家賠償、損失補償が存在する。

行政事件訴訟とは、行政上の紛争があるとき、それを裁判所が審理し、解決するものである。行政不服審査は、行政上の紛争があるとき、それを行政機関が審理し、解決するものである。国家賠償とは、国・公共団体の活動により私人が被った損害を、国・公共団体が補填するものである。損失補償とは、過誤のない国・公共団体の活動により私人に生じた特別の犠牲を、補填するものである。

上記の各救済制度のうち、行政救済法Ⅰの授業では、行政事件訴訟がとりあげられた。行政救済法Ⅱの授業では、行政不服審査、国家賠償、そして損失補償がとりあげられる。

この授業で主として学習するのは、行政不服審査については、その手続の概要であり、また、国家賠償については、国家賠償責任の類型（公権力行使責任と営造物管理責任）と各類型の国家賠償責任の成立要件であり、また、損失補償については、その要否と内容である。

行政救済法Ⅱは、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

行政不服審査について、その手続の概要を説明することができる。
公権力行使責任（国家賠償法1条1項に基づく責任）の概要を説明することができる。

営造物管理責任（国家賠償法2条1項に基づく責任）の概要を説明することができる。

損失補償の要否と内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	行政不服審査（1）	行政不服審査の意義 取消訴訟との関係 行政上の不服申立ての類型
第2回	行政不服審査（2）	行政上の不服申立ての要件 行政不服審査の手続
第3回	行政不服審査（3）	行政不服審査の裁決 仮の救済
第4回	国家賠償制度総説（1）	国家賠償責任の類型と概要
第5回	国家賠償制度総説（2）	賠償責任の主体 国家賠償法と他の法律との関係 相互保証主義
第6回	公権力行使責任の概要（1）	公権力の行使 公務関連性（職務関連性）
第7回	公権力行使責任の概要（2）	故意・過失と違法性
第8回	公権力行使責任の概要（3）	行政権限の不行使の違法性
第9回	公権力行使責任の概要（4）	立法作用・司法作用の違法性
第10回	営造物管理責任の概要（1）	公の営造物 設置・管理の瑕疵
第11回	営造物管理責任の概要（2）	瑕疵の判断枠組み
第12回	営造物管理責任の概要（3）	水害と河川管理の瑕疵 供用関連瑕疵
第13回	営造物管理責任の概要（4）	本来の用法論
第14回	損失補償	要否と内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲の参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布するプリントを使う。テキストは使用しない。

【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅱ〔第8版〕』（有斐閣、2025年）

神橋一彦『行政救済法〔第3版〕』（信山社、2023年）

塩野宏『行政法Ⅱ〔第6版〕』（有斐閣、2019年）

芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）

藤田宙靖『新版行政法総論（下）』（青林書院、2020年）

そのほか、初回の授業で紹介するもの。

最新版のものを参照すること。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要なPCあるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。

【その他の重要事項】

行政救済法Ⅱの授業は、行政救済法Ⅰの内容を理解できたこと、行政法入門Ⅰ・Ⅱの内容を修得したこと、あるいは、それらの内容を学習中であることを前提として行われる。それらについての学習が十分でない場合、自習すること。そうしなければ、この授業の内容を理解できないおそれがあるからである。自習範囲は担当教員に相談すること。

また、行政作用法Ⅰ・Ⅱを、学習済みであるか、あるいは、学習中であることが望ましい。この授業で解説される内容をより深く理解できると考えられるからである。そのため、受講者には、行政作用法Ⅰ・Ⅱを履修することも期待されている。

【Outline (in English)】

This course is designed to sketch out procedures which are needed for bringing a complaint against administrative acts before executive agencies, to understand sorts of responsibility and conditions for attributing responsibility to the public entities, and to know need (or no need) and substance of compensation caused by lawful administrative acts.

After completing this course, you should be able to:

- Sketch out procedures which are needed for bringing a complaint against administrative acts before executive agencies;
- Sketch out contents laid down by Art. 1 and 2 of the State Redress Act 1947 (c.125); and
- Explain need (or no need) and substance of compensation caused by lawful administrative acts.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

租税手続法

阿部 雪子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、租税の申告、更正・決定等の確定手続きや納税の滞納処分などの租税徴収手続に関する基本的事項を学習する。租税の確定手続や徴収手続は、行政法や民法などの法領域とも密接に関連しているため、これらの法も参照しながら租税の手続的側面について学ぶ。租税手続法上の重要論点は、裁判例を通じて知識を確実なものとする。なお、この科目は「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース(商法中心)」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

租税手続法は、租税の確定手続や徴収手続を対象とする法分野である。本講義では、租税の確定手続及び徴収手続に関する法律上の要件や効果について基本的な知識を習得する。この講義を通じて、租税手続法の解釈や適用問題について理解できるようになる。税制改革の論議や税制に関わる記事にも関心をもち得るような能力を涵養する。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として授業時間内に解説時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	授業の進め方、租税手続法とは
第2回	租税法の基本原則(1)	租税法律主義
第3回	租税法の基本原則(2)	租税公平主義
第4回	租税法の解釈と適用	租税法と私法、租税回避、偽装行為
第5回	租税手続法、租税確定手続(1)	租税義務の確定手続と租税徴収手続との関係、納税義務の成立と確定
第6回	租税手続法、租税確定手続(2)	申告納税制度、青色申告制度
第7回	租税手続法、租税確定手続(3)	加算税制度
第8回	租税手続法、租税確定手続(4)	更正・決定、源泉徴収制度
第9回	租税手続法、租税確定手続(5)	推計課税の要件・方法、納税環境の整備
第10回	租税手続法、租税確定手続(6)	質問検査権(税務調査)、質問検査の法的根拠、質問検査の要件
第11回	租税徴収手続・納付と徴収(1)	租税の納付、徴収納付(源泉徴収等)、租税の徴収
第12回	租税徴収手続・納付と徴収(2)	連帯納付義務、第二次納税義務
第13回	租税徴収手続・納付と徴収(3)	滞納処分、違法性の承継

第14回 租税徴収手続・納付 租税債権の優先劣後と徴収(4)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、授業内に指示された判例、参考文献にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

水野忠恒『大系租税法第3版』（中央経済社、2024）

金子 宏『租税法』（弘文堂、2021）

水野忠恒編『テキストブック租税法』（中央経済社、2024）

木山泰嗣『国税通則法の読み方』（弘文堂、2022）

中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第7版）』（有斐閣、2021）

阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験20%（レポート）、期末試験70%、平常点10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように、授業では裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The student can learn the basic matter of collection procedure, such as tax procedures to fixes, such as decision (filing of return, correction, determination) of a tax, payment, return of a tax, and a notice of tax payment, a disposition for failure to pay, by this lecture. Since a tax procedures to fix and collection-of-taxes procedure are closely connected with law, such as Civil Code and the administrative law, the student can learn the fundamental knowledge of the procedural side of a tax, referring to these law. The student can learn exact knowledge by analysis of a judicial precedent about the important point of argument of tax adjective law.

LAW300AB（法学 / law 300）

租税実体法

阿部 雪子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

租税実体法は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法、地方税法などを総称する法分野である。これらの税目のうち特に所得課税の分野である所得税法、法人税法を中心に学習し、租税法の基礎理論を習得する。各税法の解釈や適用の問題は、裁判例を通じて確実な知識を身につける。

なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース(商法中心)」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

所得税法及び法人税法を体系的に学習することを通じて、社会で必要な税法の知識を身につける。所得税法では、所得税の基本理念が理解できるようになる。また、法人税法では法人所得の計算と企業会計の関係について必要な知識を習得する。税制改革の論議や税制に関わる記事にも関心を持ち得るような能力を涵養する。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。なお秋学期は、租税法分野のうち租税手続法を取扱い、租税の確定や徴収に関する手続的側面の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として、授業時間内に解説の時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載し解説したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、租税法とは、租税の現状、租税の必要性	授業の進め方、租税体系
第2回	租税法の基本原則、申告納税制度	租税法律主義、租税公平主義、シャープ税制の成立
第3回	所得税法、所得の定義、非課税所得	所得概念の理論・消費型・支出型所得概念、発生型・取得型所得概念、非課税所得
第4回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得(1)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例(1)
第5回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得(2)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例(2)
第6回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得(3)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例(3)
第7回	所得の年度帰属、必要経費	年度帰属の原則、権利確定主義、必要経費の意義、家族的企業と必要経費、判例

第8回	損益通算、所得控除と税額控除、確定申告	損益通算制度、所得控除と税額控除の意義、課税標準と税額
第9回	法人税法と法人税の納税義務者	法人の形態と納税義務者、事業体の課税問題
第10回	法人所得・法人税額の計算(1)	法人所得の計算と企業会計の関係
第11回	法人所得・法人税額の計算(2)	益金、益金の別段の定め、判例
第12回	法人所得・法人税額の計算(3)	損金、損金の別段の定め①
第13回	法人所得・法人税額の計算(4)	損金、損金の別段の定め②、判例
第14回	特殊関係法人の課税問題・総括	同族会社の課税・同族会社の行為・計算の否認規定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、授業内に指示された判例、参考文献にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。復習を重視すること。

【テキスト（教科書）】

水野忠恒編『テキストブック租税法4版』（中央経済社、2026）

【参考書】

水野忠恒『大系租税法第4版』（中央経済社、2024）

金子 宏『租税法』（弘文堂、2021）

中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第7版）』（有斐閣、2021）

阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験20%（レポート）、期末試験70%、平常点10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

A Tax substantive law is a law field that collectively refers to the Income Tax Law, Corporate Tax Law, Inheritance Tax Law, Consumption Tax Law, and Local Tax Law. The students can learn the basic theory of tax law, focusing on the fields of income taxation and corporate income taxation. The problem of the interpretation and application of each tax law will be acquired through court cases. The student can learn exact knowledge according to a judicial precedent about application of Income Tax Law, Corporate Tax Law, or an interpretative important point of argument.

LAW300AB（法学 / law 300）

地方自治法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市町村、都道府県などの地方公共団体は、国とほぼ同じ分野において行政活動を行っており、住民の活動を規制し住民に対して給付するほか、租税の賦課徴収もしている。立法活動については、条例などを制定して、住民の権利義務を抽象的に規律する場合がある。地方公共団体の活動は住民の生活に深く関わるものである。その活動に関して住民は、直接請求権を行使し、また、住民訴訟を提起するなど、権利主体として法的な主張をすることができる。住民の権利のありようなどの、地方公共団体と住民に関わりのある法的問題は重要なものである。

憲法が規定している地方自治を詳細化する、各種の法令・地方自治法（＝地方自治法制）が存在するが、授業では、地方自治の一般的・基本的枠組みを定めている地方自治法を主に参照しながら、地方公共団体と住民をめぐる主要な法的問題について学ぶ。その目的は、行政・公共政策と法コースにあげられているような、法的問題を理解し、その問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる能力を身につけることにある。

【到達目標】

①住民自治・団体自治、②地方公共団体の意義と種類、③住民の権利、④議会と長の関係、⑤条例制定権の限界・地方自主法相互の関係、⑥国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分、⑦国の行政的関与について、それぞれ説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	主要な法的問題
第2回	地方自治の基礎	地方制度から地方自治の保障へ 住民自治と団体自治
第3回	地方公共団体の意義と種類(1)	普通地方公共団体の意義と種類 団体間の組織・権限の違い
第4回	地方公共団体の意義と種類(2)	大都市制度 普通地方公共団体の再編
第5回	地方公共団体の意義と種類(3)	特別地方公共団体の意義と種類
第6回	住民の権利(1)	住民の意義 参政権
第7回	住民の権利(2)	直接請求権
第8回	住民の権利(3)	公の施設の利用権
第9回	住民の権利(4)	住民監査請求 住民訴訟

第10回	住民の権利(5)	住民投票
第11回	地方公共団体の組織	議会と長の関係
第12回	地方公共団体の自治立法権	条例制定権の限界・地方自主法相互の関係
第13回	地方公共団体の自治行政権	国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分
第14回	国と地方公共団体の関係	国の行政的関与の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書のいずれかを参照しながら、予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布プリント。テキストは使用しない。

【参考書】

宇賀克也『地方自治法概説〔第11版〕』（有斐閣、2025年）

塩野宏『行政法III〔第5版〕』（有斐閣、2021年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要なPCあるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to help you learn major problems concerning local authorities and the public, while consulting Local Autonomy Act 1947 (c.67) which lays down fundamental and general framework of local autonomy system.

After completing this course, you should be able to:

- Explain a principle of local autonomy;
- Explain definition and sorts of local authorities;
- Explain individual rights which the Act 1947 provides for;
- Explain relationship between the council (which is comparable though not identical idea of county council, district council, parish council, and so on) and head of a local authority;
- Explain limits on legislative powers of local authorities;
- Explain differences between public services necessarily delivered by the state and local authorities;
- Explain a manner of state intervention in (local authorities' carrying out) the executive functions.

You should learn independently by reading your own reference book(s) in order to prepare for and/or review every class. The STANDARD time for preparation and review is 2 hours each.

Assessment for your comprehension is done by an end-of-term exam (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

環境法

吉岡 郁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法に関する2単位の科目として、環境法の全体像の紹介を試みる。環境保全の制度の進展は目覚ましく、環境法令についても頻繁に制定・改廃が行われているが、最新の法令の状況、学説の議論を踏まえつつも、環境法の法体系や基本原理の理解に講義の重点を置くことにしたい。

本科目は「行政・公共政策と法コース」、「国際社会と法コース」に属する。民法・憲法等の基本関連科目のほか、「行政法入門Ⅰ・Ⅱ」、「行政法作用法Ⅰ・Ⅱ」、「行政救済法Ⅰ・Ⅱ」の知識・理解をもつ受講者には、より精確な講義の理解が可能となる。

【到達目標】

Ⅰ 知識面

①受講者が、環境法分野における法令、理論、判例を学ぶことを通じ、憲法、民法、行政法等の関連知識を確実なものとするができる、あるいは、これらの分野を本格的に学習する足がかりとすることができる講義を目指す。

②さらに進んで、受講者が、地球温暖化問題、東アジアの環境汚染、環境問題への参加、司法アクセスの改善等、法政策的な課題についても、最新の知識が取得できる講義を目指す。

Ⅱ 能力面

①受講者が、法律文献を正確に読解できる力を身に付けることを目指す。併せて、受講者が、最高裁判所をはじめとする裁判例の論理を正確に把握できる能力を身に付けることを目指す。

②受講者が、関連する自然科学上の知識について高校レベルの正確な知識を踏まえ、環境問題の正しい把握の上に法的な分析を行うことのできる能力を身に付けることを目指す。

③受講者が、興味・関心に応じ、自然科学の基礎的な文献にも取り組む積極的な姿勢を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

通常の講義形式(全面対面方式)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要・成績評価の方法、調査研究の方法
第2回	環境法の歴史、法体系の展開	公害法の生成、公害対策基本法、公害・環境訴訟の展開
第3回	現行の環境法体系	地球環境問題、環境基本法、原子力法制の環境法への組み込み等 環境法の特徴 環境法の諸原則
第4回	環境組織法 1	主要な環境法令における組織体制
第5回	環境組織法 2	地方分権と環境法 公私協働
第6回	環境作用法 1	グローバル化の影響 手続・計画的手法 規制的手法

第7回	環境作用法 2	誘導的手法 合意的手法 事後的な措置
第8回	事例研究	環境法が運用されている事例を知る
第9回	環境救済法	行政訴訟を中心に、環境問題と訴訟の関係について紹介する
第10回	環境法と食品法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第11回	環境法とエネルギー法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第12回	環境法と文化法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第13回	環境法と都市法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第14回	まとめ・確認レポート	授業内容を総括し、確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○学際的な科目であり、応用科目であるので、授業中でわからない用語等が出てきた場合には、自主的に環境省ホームページ等を検索して調べることが望ましい。

○また、環境問題の実態は科学技術上の基礎知識がないと理解できないことも多いので、興味関心のあるテーマについては環境省のホームページ等の解説を調べることが望まれる。

○本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。学習支援システムに事前に資料をアップする。教室においては配布しない。

【参考書】

（図書館等において、参照し活用すること）

大塚直『環境法BASIC（第4版）』（有斐閣、2023年） 5,060円

大塚直『環境法〔第4版〕』（有斐閣、2020年） 5,280円

北村喜宣『環境法〔第6版〕』（弘文堂、2023年） 4,620円

【成績評価の方法と基準】

14回目に授業内容の確認を行う。特に授業内容で関心を持ったテーマについて、好きな文献を参照しながら論じてもらう（70％）。各回の最後あるいは途中で課題を出すことがある（40％）。問題の理解度、文章技術を問う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を使用する。参照すべき行政法規がミニ六法には掲載されていないこともあるので、対面での参加の場合には、法令データベースを参照できる情報機器(無線LANの接続が可能なPC、スマートフォン等)を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture is a two-credit course and deals with an overview of environmental law.

【Learning Objectives】 The purpose of this lecture is to learn the basics of environmental law while focusing on domestic environmental law.

【Learning activities outside of classroom】 Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy】 I. End-of-term classroom exam (70%) . II. Submission of reaction papers (40%).

LAW100AB（法学 / law 100）

民事法総論

新堂 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を扱う。これに関する法律（民法等）、判例を学び、適宜、学説について検討する。

民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を説明することができる。これに関する法律（民法等）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	法学入門	法学入門
第2回	民法入門	民法入門
第3回	無効と取消し（1）	無効と取消し（1）
第4回	無効と取消し（2）	無効と取消し（2）
第5回	代理（1）	有権代理の要件と効果（1）
第6回	代理（2）	有権代理の要件と効果（2）
第7回	代理（3）	無権代理（1）
第8回	代理（4）	無権代理（2）
第9回	代理（5）	表見代理（1）
第10回	代理（6）	表見代理（2）
第11回	法人（1）	法人（1）
第12回	法人（2）	法人（2）
第13回	消滅時効（1）	消滅時効（1）
第14回	消滅時効（2）	消滅時効（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。

民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法

『民法判例百選Ⅰ総則・物権〔第9版〕』（2023年）

自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください。）

【参考書】

内田貴『民法Ⅰ-1〔第5版〕総則』（2025年）

潮見佳男＝滝沢昌彦＝沖野眞己『民法1 総則』（2024年、有斐閣アルマ）

佐久間毅『民法の基礎1 総則〔第5版〕』（2020年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

関係図、時系列を板書き、学生の理解に努めたい。

【その他の重要事項】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないよう気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。

録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

studying avoidance, agency, corporation and the statute of limitations in the Japanese Civil Code

【Learning Objectives】

understanding avoidance, agency, corporation and the statute of limitations in the Japanese Civil Code

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

term-end examination: 100%

LAW100AB（法学 / law 100）

契約法 I

新堂 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A・G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を扱う。これに関する法律（民法）、判例を学び、適宜、学説について検討する。民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を説明することができる。これに関する法律（民法）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。
教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	法学入門	法律要件、法律効果、法的三段論法
第2回	民法入門（1）	所有→物権、契約→債権の抽象化。法律行為、意思表示の意味。「総則」の意味
第3回	民法入門（2）	契約の成立
第4回	民法入門（3）	契約の終了
第5回	権利能力、意思能力、行為能力（1）	権利能力、意思能力、未成年者
第6回	行為能力（2）	成年被後見人と成年後見人
第7回	行為能力（3）	被保佐人と保佐人、被補助人と補助人
第8回	意思表示（1）	心裡留保、虚偽表示（1）
第9回	意思表示（2）	虚偽表示（2）
第10回	意思表示（3）	錯誤（1）
第11回	意思表示（4）	錯誤（2）
第12回	意思表示（5）	詐欺・強迫（1）
第13回	意思表示（6）	詐欺・強迫（2）
第14回	強行規定違反、公序良俗違反	強行規定違反、公序良俗違反

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。
民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法
『民法判例百選 I 総則・物権 〔第9版〕』（2023年）
自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください。）

【参考書】

内田貴『民法 I -1 〔第5版〕 総則』（2025年）
潮見佳男＝滝沢昌彦＝沖野眞已『民法 I 総則』（2024年、有斐閣アルマ）
佐久間毅『民法の基礎 1 総則 〔第5版〕』（2020年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

関係図、時系列を板書し、学生の理解に努めたい。

【その他の重要事項】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないよう気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。
録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

studying formation of contracts in the Japanese Civil Code

【Learning Objectives】

understanding formation of contracts in the Japanese Civil Code

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

term-end examination: 100%

LAW200AB（法学 / law 200）

契約法Ⅱ

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（民法第3編第1章）のうち契約に直接に関わる部分、すなわち、債権の目的（第1節）、債務不履行責任（第2節第1款）、および、債権の消滅（第6節）を扱う。「契約法Ⅱ」と題する所以であり、契約法ⅠやⅢと密接に関連するし、これらの科目との重複を厭わず契約法全般に話を広げながら講義をする。なお、本授業は、「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらおうである。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜授業の中でフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	民法の構造と契約法の位置付け
第2回	契約概論	債権総論からは外れるが、契約の成立や効力について紹介して、契約制度の概観をする。
第3回	債権の目的	特定物債権と種類債権 金銭債権等
第4回	契約の履行①	弁済
第5回	契約の履行②	弁済による代位、弁済の充当等
第6回	契約の履行③	相殺
第7回	契約の履行④	その他の債権消滅原因
第8回	債務不履行責任：履行請求権	履行の請求と強制
第9回	債務不履行責任：損害賠償①	損害賠償の要件
第10回	債務不履行責任：損害賠償②	損害賠償の範囲
第11回	債務不履行責任：損害賠償③	過失相殺、損害賠償の予定等
第12回	債務不履行責任：損害賠償④	損害賠償による代位、代償請求権等
第13回	債務不履行責任：まとめ	契約違反に対する救済精度のまとめ

第14回 総復習

これまでの講義を適宜補充した上で、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、知識の定着を図る為の復習を行う。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習に各2時間を想定している。

【テキスト（教科書）】

松尾他『新ハイブリッド民法3・債権総論（第2版）』法律文化社（2025年）

【参考書】

民法判例百選Ⅱ（第9版）（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的ににする為に、時系列や関係図を板書する。

【学生が準備すべき機器他】

六法(小型のものでよい)を毎回持参してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will learn articles of Japanese Civil Law Part3 Chapter1, which relate Contract Law, namely §§399-411, §§412-422-2, §§473-520.

[Learning Objectives]

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

[Grading Criteria/Politics]

Term-end examination 100%

LAW200AB（法学 / law 200）

債権回収法 I

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（第3編第1章）のうち、債権の回収に関わる部分、すなわち、債権者代位権（第2節第2款）、詐害行為取消権（第2節第3款）、多数当事者の債権・債務（第3節）、債権譲渡（第4節）、および、債務引受け（第5節）を扱う。なお、この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらおうである。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜フィードバックを授業でする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	民法の構造と債権回収法の位置付け
第2回	債権の効力	履行請求権・履行の強制 第三者に対する妨害排除の可否
第3回	債権者代位権①	債権者代位権の要件
第4回	債権者代位権②	債務者代位権の効果、転用例
第5回	債務者取消権①	債権者取消権の要件
第6回	債権者取消権②	債権者取消権の効果
第7回	債権譲渡①	債権譲渡の対抗要件
第8回	債権譲渡②	債務者の抗弁 特に相殺
第9回	債務引受・契約上の地位の譲渡	併存的債務引受・免責的債務引受 契約上の地位の譲渡
第10回	多数当事者の債権関係	分割債権・債務 不可分債権・債務 連帯債権・債務
第11回	保証①	保証、連帯保証
第12回	保証②	根保証等
第13回	総復習①	ここまでの講義を適宜補充し、全体的な総復習を行う。
第14回	総復習②	ここまでの講義を適宜補充し、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、復習により知識の定着を図る。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

松尾他『新ハイブリッド民法3・債権総論（第2版）』法律文化社（2025年）

【参考書】

民法判例百選II（第9版）（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的に作る為、時系列や関係図を板書する。

【学生が準備すべき機器他】

六法(小型のものでよい)を毎回持参してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will learn Subrogation Right or other Rights for Creditors (§§423-426), Claims and Obligation of multiple Parties (§§427-465-10), and Assignments of Claims (§§466-472-4) in Japanese Civil Law Part3 Chapter1.

[Learning Objectives]

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

[Grading Criteria/Politics]

Term-end examination 100%

LAW200AB（法学 / law 200）

契約法Ⅱ

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（民法第3編第1章）のうち契約に直接に関わる部分、すなわち、債権の目的（第1節）、債務不履行責任（第2節第1款）、および、債権の消滅（第6節）を扱う。「契約法Ⅱ」と題する所以であり、契約法ⅠやⅢと密接に関連するし、これらの科目との重複を厭わず契約法全般に話を広げながら講義をする。なお、本授業は、「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらおうである。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜授業の中でフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	民法の構造と契約法の位置付け
第2回	契約概論	債権総論からは外れるが、契約の成立や効力について紹介して、契約制度の概観をする。
第3回	債権の目的	特定物債権と種類債権 金銭債権等
第4回	契約の履行①	弁済
第5回	契約の履行②	弁済による代位、弁済の充当等
第6回	契約の履行③	相殺
第7回	契約の履行④	その他の債権消滅原因
第8回	債務不履行責任：履行請求権	履行の請求と強制
第9回	債務不履行責任：損害賠償①	損害賠償の要件
第10回	債務不履行責任：損害賠償②	損害賠償の範囲
第11回	債務不履行責任：損害賠償③	過失相殺、損害賠償の予定等
第12回	債務不履行責任：損害賠償④	損害賠償による代位、代償請求権等
第13回	債務不履行責任：まとめ	契約違反に対する救済精度のまとめ

第14回 総復習

これまでの講義を適宜補充した上で、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、知識の定着を図る為の復習を行う。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習に各2時間を想定している。

【テキスト（教科書）】

松尾他『新ハイブリッド民法3・債権総論（第2版）』法律文化社（2025年）

【参考書】

民法判例百選Ⅱ（第9版）（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的ににする為に、時系列や関係図を板書する。

【学生が準備すべき機器他】

六法(小型のものでよい)を毎回持参してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will learn articles of Japanese Civil Law Part3 Chapter1, which relate Contract Law, namely §§399-411, §§412-422-2, §§473-520.

[Learning Objectives]

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

[Grading Criteria/Politics]

Term-end examination 100%

LAW200AB（法学 / law 200）

債権回収法 I

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（第3編第1章）のうち、債権の回収に関わる部分、すなわち、債権者代位権（第2節第2款）、詐害行為取消権（第2節第3款）、多数当事者の債権・債務（第3節）、債権譲渡（第4節）、および、債務引受け（第5節）を扱う。なお、この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらおうである。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜フィードバックを授業でする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	民法の構造と債権回収法の位置付け
第2回	債権の効力	履行請求権・履行の強制 第三者に対する妨害排除の可否
第3回	債権者代位権①	債権者代位権の要件
第4回	債権者代位権②	債務者代位権の効果、転用例
第5回	債務者取消権①	債権者取消権の要件
第6回	債権者取消権②	債権者取消権の効果
第7回	債権譲渡①	債権譲渡の対抗要件
第8回	債権譲渡②	債務者の抗弁 特に相殺
第9回	債務引受・契約上の地位の譲渡	併存的債務引受・免責的債務引受 契約上の地位の譲渡
第10回	多数当事者の債権関係	分割債権・債務 不可分債権・債務 連帯債権・債務
第11回	保証①	保証、連帯保証
第12回	保証②	根保証等
第13回	総復習①	ここまでの講義を適宜補充し、全体的な総復習を行う。
第14回	総復習②	ここまでの講義を適宜補充し、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、復習により知識の定着を図る。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

松尾他『新ハイブリッド民法3・債権総論（第2版）』法律文化社（2025年）

【参考書】

民法判例百選II（第9版）（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的に作る為、時系列や関係図を板書する。

【学生が準備すべき機器他】

六法(小型のものでよい)を毎回持参してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will learn Subrogation Right or other Rights for Creditors (§§423-426), Claims and Obligation of multiple Parties (§§427-465-10), and Assignments of Claims (§§466-472-4) in Japanese Civil Law Part3 Chapter1.

[Learning Objectives]

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

[Grading Criteria/Politics]

Term-end examination 100 %

LAW100AB（法学 / law 100）

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律1,3,4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。
 その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もある）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性――主観的要件と権利侵害
第3回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性――客観的過失
第4回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①――医療過誤
第5回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②――交通事故と工作物責任
第6回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③――名誉・プライバシー侵害等
第7回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第8回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714条）

第9回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲
第10回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第11回	基本型不法行為の効果論③	減額調整――過失相殺と損益相殺
第12回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第13回	複合型不法行為	使用者責任（715条）と共同不法行為（719条）
第14回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論II 不法行為法』（第5版補訂版、2025年、新世社）。

【参考書】

藤岡康宏他『民法IV－債権各論』（第5版）、潮見佳男『基本講義 債権各論I』（不当利得・事務管理の箇所）（第5版補訂版）、平野裕之『コア・テキスト民法VI』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』（第2版）、平井宜雄『債権各論II 不法行為』、『民法判例百選II』（第9版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について学習支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

契約法III

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方を身につける意義をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊的効果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面による講義方式で行う。補足的にオンデマンド配信を利用するほか、状況により、数回程度、オンライン授業を実施する場合もありうる（オンデマンド又はリアルタイム配信）。

事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後、及び学習支援システムの掲示板上で、質問を受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第3回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第4回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁 権・危険負担
第5回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第6回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第7回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第8回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第9回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）

第10回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第11回	売買の終了	売買契約の解除の効果
第12回	贈与	贈与契約の成立と効力
第13回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第14回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。

契約法IIIが対象とする債権編については2020年4月から改正法が施行されている。六法は改正法に対応したものを使用すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論 I 契約法・事務管理・不当利得』（第5版補訂版、2025年、新世社）。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法IV—債権各論』（第5版）、中田裕康『契約法〔新版〕』、大村敦志『新基本民法5 契約編』（第2版）、『民法判例百選II』（第9版）、その他債権法改正（2017年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライドや板書の利用を増やすなど、授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に学習支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW300AB（法学 / law 300）

契約法Ⅳ

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における私人間取引として重要な機能を営む貸借型（典型としての賃貸借・使用貸借）、役務提供型（請負・委任）、信用供与型（金銭消費貸借とその他の現代型契約）の各契約の制度について学習し、継続的契約関係の基礎理論についての理解を得ることを目的とする。「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

いずれも、現代の生活・ビジネスにおいて不可欠な契約関係であり、将来目指すキャリアやコースを問わず有用な、知識・問題解決方法を学ぶ意義をもつ。

【到達目標】

継続的契約関係に特徴的な基本的効力、及び、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等についてその権利義務の発生・関係・終了に関わるルールを述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業により実施する。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	継続的契約総論	継続的契約総論
第3回	使用貸借	無償の物の貸借をめぐる法律関係
第4回	賃貸借①	貸借型の継続的契約の構造・賃貸借に適用される法律
第5回	賃貸借②	賃貸借契約の成立
第6回	賃貸借③	賃貸借契約の対内的効力
第7回	賃貸借④	賃貸借契約の対外的効力・賃貸借契約の終了
第8回	信用供与型契約①	消費貸借
第9回	信用供与型契約②	その他の信用供与型契約
第10回	請負①	役務提供型継続的契約としての請負契約の特徴と効力
第11回	請負②	請負契約の効力・終了
第12回	委任①	有償委任契約の成立・効力
第13回	委任②	有償委任契約の終了
第14回	その他の契約－雇用・組合・寄託等	雇用、組合、寄託、和解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。

契約法Ⅳが対象とする債権編については2020年4月から改正法が施行されている。六法は改正法に対応したものを使用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ 契約法・事務管理・不当利得』（第5版補訂版、2025年、新世社）。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法Ⅳ－債権各論』（第5版）、中田裕康『契約法〔新版〕』、大村敦志『新基本民法5 契約編』（第2版）、『民法判例百選Ⅱ』（第9版）、その他債権法改正（2017年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションの工夫として、判例の説明等に際してスライドを使用している。

学生が法的説明の論理関係を理解しやすくなるように、図示するなど、できるだけ視覚化することを心がけている。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に学習支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals, and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Sections from 5 to 13 of specific contracts. Topics will include: loans, leases, service contracts, contract of mandate, deposits and partnerships.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%).

LAW200AB（法学 / law 200）

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律1,3,4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もある）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性―主観的要件と権利侵害
第3回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性―客観的過失
第4回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①―医療過誤
第5回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②―交通事故と工作物責任
第6回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③―名誉・プライバシー侵害等
第7回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第8回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714条）

第9回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲
第10回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第11回	基本型不法行為の効果論③	減額調整―過失相殺と損益相殺
第12回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第13回	複合型不法行為	使用者責任（715条）と共同不法行為（719条）
第14回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論II 不法行為法』（第5版補訂版、2025年、新世社）。

【参考書】

藤岡康宏他『民法IV－債権各論』（第5版）、潮見佳男『基本講義 債権各論I』（不当利得・事務管理の箇所）（第5版補訂版）、平野裕之『コア・テキスト民法VI』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』（第2版）、平井宜雄『債権各論II 不法行為』、『民法判例百選II』（第9版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について学習支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

契約法III

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方を身につける意義をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊的効果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面による講義方式で行う。補足的にオンデマンド配信を利用するほか、状況により、数回程度、オンライン授業を実施する場合もありうる（オンデマンド又はリアルタイム配信）。

事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後、及び学習支援システムの掲示板上で、質問を受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第3回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第4回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁権・危険負担
第5回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第6回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第7回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第8回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第9回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）

第10回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第11回	売買の終了	売買契約の解除の効果
第12回	贈与	贈与契約の成立と効力
第13回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第14回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。

契約法IIIが対象とする債権編については2020年4月から改正法が施行されている。六法は改正法に対応したものを使用すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論 I 契約法・事務管理・不当利得』（第5版補訂版、2025年、新世社）。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法IV—債権各論』（第5版）、中田裕康『契約法〔新版〕』、大村敦志『新基本民法5 契約編』（第2版）、『民法判例百選II』（第9版）、その他債権法改正（2017年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライドや板書の利用を増やすなど、授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に学習支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW300AB（法学 / law 300）

親族法

志村 武

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

【授業の概要と目的】：

●民法典の「第4編 親族」の法解釈と、法改正論を具体的な事例を通じて取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を含めた法制度を論じられる能力を身につけます。

●法学部生が必ず人生で1度は深く考える「婚姻」や「夫婦別氏」、そして日本で比率がどんどん高まっている「離婚」を含む「民法・親族法」の諸問題などを解りやすく解説し、具体的な事例を通じて学生が自分で考える力を身につけることを目標にします。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・親族法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答えは一つではない。」

●親族法およびその中の個別条文・制度・判例・諸学説・新説の理解を深めることも目的です。

【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。

●また21世紀に民法の第3編「債権法」と第5編「相続法」の大改正が行われました。第1編の「総則」も部分的に改正されています。こうした「民法大改正」のうねりの中で、本授業で扱う第4編「親族法」も2024年4月から改正・施行されたのが、≪女性のみの再婚禁止期間をついに撤廃した改正民法≫です。さらに同じ2024年には国会で≪離婚後の嫡出子、そして父に認知された嫡出でない子、双方について：旧来の単独親権に加えて、共同親権も選択肢とする≫民法（親族法）の新改正が行われました（2026年（令和8年）4月1日から施行されます）。

●こうした親族法の激動の中で、さらにどのような親族法改正が必要かも学び、考えます。本科目では「夫婦別氏」・「同性婚」も含めて、憲法との関連で学生と教員がともに考察を深めます。以上を含めて、「民法、その中でも『親族編』すなわち親族法の諸問題を、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

●教科書を使いながら講義・解説形式で授業を行います。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に適用できる条文の有無の確認、二に判例、三に学説を参照し、自分の頭で考えて独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答えは一つではありません。

●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「親族法」が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、具体的な事例を使って教員が工夫して授業を進めます。

●授業内で課題等を出題した場合には、そのフィードバックは、授業において、適宜、行う。また、学生の発言や質問に対するフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業で何を学ぶかーシラバスの確認	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認&質疑応答
第2回	家族法とは何か	民法全体の中で家族法なかでも
第3回	親族法とは何か	親族法を捉える
第3回	婚姻法（1）成立要件	民法中の婚姻、特に婚姻の成立要件について学ぶ
第4回	婚姻法（2）内縁	婚姻の成立要件との関係で内縁について学ぶ
第5回	婚姻法（3）婚姻の無効・取消し	婚姻の成立要件との関係で婚姻の無効・取消しについて学ぶ
第6回	婚姻法（4）婚姻の効力（1）	婚姻のもつ様々な効力について学ぶ
第7回	婚姻法（5）婚姻の効力（2）	とくに夫婦間の契約取消権の趣旨、2026年（令和8年）4月1日から削除された理由について学ぶ
第8回	婚姻法（6）夫婦財産制	法的夫婦間にできた子どもである嫡出子に関する嫡出推定の規定及びその改正と再婚禁止期間の規定の削除の関係について学ぶ
第9回	婚姻法のまとめ（7）	家族法の中核ともいべき婚姻法についてまとめる
第10回	離婚と財産分与	離婚と財産分与について学ぶ
第11回	実親子関係の発生（1）：嫡出推定制度	法的夫婦間にできた子どもである嫡出子（婚内子）に関する嫡出推定の規定及びその改正と再婚禁止期間の規定の削除の関係について学ぶ
第12回	実親子関係の発生（2）：認知制度	法的婚姻関係に無い女性・男性の間の子ともである非嫡出子（婚外子）の法的地位の発生について学ぶ
第13回	養親子関係；子の親権；扶養	実親子関係との対比における養親子関係、親権、扶養について学ぶ
第14回	高齢者や知的・精神的障害者のための成年後見制度	高齢者や知的・精神的障害者のための成年後見制度について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。

●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。

●準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は平成29年債権法改正・30年相続法改正に対応した、田山輝明著『事例で学ぶ家族法（第5版）（法学書院）』を使用する。30年相続法改正以降の改正については、最新の改正について改正理由を中心に授業で解説する。なお、本書は絶版となっているので、受講者にはできる限り中古市場での入手に努めていただきたい。教科書の電子データは無料で提供する。

秋学期の「相続法」でも同一の教科書を使用する。

【参考書】

参考資料はできる限り、講師が印刷して配布するので、受講生が参考書を購入する必要はない。

【成績評価の方法と基準】

授業に出て学んでいれば合格点（60点）を取れる期末のペーパーテストで100％評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問には丁寧に対応する。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

- この授業に出て学べば、あなたの身近で生じる家族に関するトラブル・紛争について法学部生としてアドバイスを求められたときに、好き嫌いによる感情論に基づいたアドバイスではなく、あなた自身が「正義の女神ユスティテア」となって法的なアドバイスをすることができるようになります。
- この授業では、目の前にある具体的な紛争事実を整理して法的な争点を抽出し、(判例・裁判例や学説も参考にして)日本語で書かれた民法典を解釈して当該争点に適用する規範を定立し、当該規範を具体的な事実にあてはめて法的な結論を導くことができるようになります(判決もまたこのようにして裁判官が下した1つの結論です)。いわばあなた自身が「正義の女神ユスティテア」となって主観的な感情論に基づく結論ではなく客観的な法的な結論を導けるようになるのです。
- 法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修していることが望めます。義務ではありません。
- 法学部政治学科・国際政治学科の学生も、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「親族法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりとって下さい。
- 全学部生に、秋学期の「相続法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】： To learn the Japanese Family Law, the fourth book of the Japanese Civil Code through concrete cases.

【Learning Objectives】： Through concrete cases, to learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of the Articles of Family Law and the court precedents thereof and the current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.

【Learning activities outside of classroom】： Read the text in advance and as review, taking 2 hours each, making the 4-hour study per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】： Final Exam 100/100 points.

LAW300AB（法学 / law 300）

相続法

志村 武

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。

【授業の概要と目的】：

●民法典の「第5編 相続」の法解釈と、法改正を含む法制度論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正を含む法制度論を論じられる能力を身につけます。

●法学部生が必ず人生で1度は深く考える「相続」の諸問題などを解りやすく解説し、学生は具体的な事例を通じて、条文の解釈と判例・学説などの基本事項を修得します。

●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・相続法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」

【到達目標】

●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考による考察（自分の頭で考えること）」により、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。

●また21世紀に入って、同じ民法の第3編「債権法」の大改正が、まさに行われました。それに伴い、第1編の「総則」も部分的に改正されています。並行して、第4編「親族法」でも2024年中には、改正民法が施行され、さらに国会では新たな改正が議決されました（近々、施行されます）。

こうした「民法大改正」の一環として、第5編「相続法」にも2018年に国会で大きな改正が行われ、すでに施行されていることを学びます。

そこで、どのような相続法改正がなされたかと合わせて、さらに「民法、その中でも『相続編』の諸問題を、具体的な事例を通じて独自の思考で考察し（自分の頭で考え）、今後必要となるであろう法改正論も含めて法制度論を論じ、根拠を明示した上で論述する能力」を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

●講義・解説形式を取ります。

●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。

●学生は、法の解釈を学ぶには、一に適用できる条文の有無の確認、二に判例、三に学説を参照し、自分の頭で考えて独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。

●学生皆さんが生きていく21世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。

●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「相続法」が、ただの「教室での勉強」に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

●授業内で課題等を出題した場合には、そのフィードバックは、授業において、適宜、行う。また、学生の発言や質問に対するフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体的な授業計画	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認&質疑応答
第2回	相続法総論	相続法総論 相続の開始 法定相続と遺言相続 相続回復請求権：相続法改正要点と今後の改正の展望の解説
第3回	相続人（1）	1. 胎児と相続 2. 相続人の範囲の解説
第4回	相続人（2）	3. 相続権の喪失・相続欠格と廃除 4. 同時死亡の推定の解説
第5回	相続の効力（1）	1. 相続財産の範囲 2. 法定相続分の解説
第6回	相続の効力（2）	3. 指定相続分 4. 具体的相続分・特別受益、寄与分の解説
第7回	相続の効力（3）遺産分割	1. 遺産の共有 2. 分割協議と利益相反 3. 分割の効力 4. 遺産分割の指定または禁止の解説
第8回	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在	1. 相続の承認と放棄 2. 相続財産の分離 3. 相続人の不存在の解説
第9回	遺言	1. 遺言の要式性 2. 遺言能力 3. 共同遺言の禁止 4. 普通方式遺言と特別方式遺言の解説
第10回	遺言の効力（1）	1. 効力発生時期 2. 公序良俗違反の内容を含む遺言の効力 3. 遺贈 4. 遺言の執行 5. 遺言の撤回の解説
第11回	遺言の効力（2）	遺言の効力（1）2. 公序良俗違反の内容を含む遺言の効力と3. 遺贈の発展として、不倫関係にある女性に対する包括遺贈の公序良俗違反性に関する判例（最判昭和61年11月20日第一小法廷判決）を学ぶ。
第12回	遺留分	1. 遺留分制度の趣旨 2. 遺留分権利者の範囲と遺留分の分割 3. 遺留分算定の基礎になる財産 4. 遺留分侵害額請求権 5. 遺留分の放棄の解説
第13回	生存配偶者の居住権	1. 配偶者居住権 2. 配偶者短期居住権の解説

第14回 本授業の総括 本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、毎回の授業で学んだことを振り返って総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
- 学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
- 準備（予習）・復習時間は、1回の授業につき各々2時間（合計4時間）である。

【テキスト（教科書）】

教科書は平成29年債権法改正・30年相続法改正に対応した、田山輝明著『事例で学ぶ家族法（第5版）（法学書院）』を使用する。30年相続法改正以降の改正については、最新の改正について改正理由を中心に授業で解説する。なお、本書は絶版となっているので、受講者にはできる限り中古市場での入手に努めていただきたい。教科書の電子データは無料で提供する。
春学期の「親族法」でも同一の教科書を使用する。

【参考書】

参考資料はできる限り、講師が印刷して配布するので、受講生が参考書を購入する必要はない。

【成績評価の方法と基準】

授業に出て学んでいれば合格点（60点）を取れる期末のペーパーテストで100%評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 質問をしやすい環境をより良く整備します。
- 授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

- この授業に出て学べば、あなたの身近で生じる家族に関するトラブル・紛争について法学部生としてアドバイスを求められたときに、好き嫌いによる感情論に基づいたアドバイスではなく、あなた自身が「正義の女神ユスティティア」となって法的なアドバイスをすることができるようになります。
- この授業では、目の前にある具体的な紛争事実を整理して法的な争点を抽出し、（判例・裁判例や学説も参考にして）日本語で書かれた民法典を解釈して当該争点に適用する規範を定立し、当該規範を具体的な事実にあてはめて法的な結論を導くことができるようになります（判決もまたこのようにして裁判官が下した1つの結論です）。いわばあなた自身が「正義の女神ユスティティア」となって主観的な感情論に基づく結論ではなく客観的な法的な結論を導けるようになるのです。
- 法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」「親族」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
- 法学部政治学科・国際政治学科の学生は、他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「相続法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかりと持って下さい。
- 全学部生に、春学期の「親族法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】：To learn the Japanese Law of Inheritance (Inheritance Law), the fifth book of the Japanese Civil Code through concrete cases.

【Learning Objectives】：Through concrete cases, to learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of the Articles of Inheritance Law and the court precedents thereof and the current issues of the institutions set forth therein, all showing your reasoning.

【Learning activities outside of classroom】：Read the text in advance and as review, taking 2 hours each, making the 4-hour study per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】：Final exam for 100/100 points.

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪質商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。

学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。

消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。

契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者法とは何か①	消費者法とは何か。消費者基本法。教科書 Unit1
第2回	消費者法とは何か②	消費者・事業者概念。教科書 Unit2
第3回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失。教科書 Unit3
第4回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺。教科書 Unit4

第5回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法4条など。教科書 Unit5
第6回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法4条など。教科書 Unit6
第7回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引。教科書 Unit7
第8回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その1	民法による不当条項規制、約款論。教科書 Unit8
第9回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その2	消費者契約法8条～10条。教科書 Unit9
第10回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要。教科書 Unit11
第11回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、通信販売規制、過量販売規制など。教科書 Unit12
第12回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続。教科書 Unit13
第13回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	クレジットカードの不正利用、預金トラブル。教科書 Unit14
第14回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法の役割。教科書 Unit15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法（第2版）』（商事法務、2025年）
 このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第6版）』（日本評論社、2026年）
 河上正二＝沖野真巳編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
 松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）
 大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100%とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話を聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。
 ・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

・2026年度は「消費者法Ⅰ」を開講する。「消費者法Ⅱ」は2027年度に開講する予定である。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

商法総則・商行為法 I

椋川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

商法と会社法によって規整されているものは、私法上の権利義務関係、すなわち本来は民法によって規整されるはずの生活関係です。そこで疑問となるのは「なぜ民法の他にわざわざ商法や会社法といった法律が制定されたのか？」ということですね。この疑問に対して、商法や会社法がその適用対象としている人（法人も含む）や組織のもつ特徴に視点をあてて疑問への答を探ろう、ということがこの講義のテーマとなります。

(1) まず、民法と比較しながら、商法という法分野（注：法分野としての商法は、「商法」という名称の法律も含まれますが、それよりもっと広い概念で、例えば「会社法」も法分野としての商法に含まれます）にはどのような特色があるのかについて学びます。その際に重要になる法概念が「商人」及び「商行為」です。この2つの概念については、法律上の厳密な定義がありますから、この定義をしっかり覚え身に付けることが、この講義の第1関門になります。

(2) 次に、「企業」という概念について学びます。これは「商人」とは異なり、厳密な法的定義のない言葉ですが、商法を学ぶ際に鍵となる概念です。やや抽象的な議論になりがちなところですが、現実にある様々な形態・業態の企業をイメージしながら考えていきましょう。

(3) 企業の営みであり、また企業の組織そのものを指す言葉でもある「営業」「事業」についての商法・会社法上の規定と、その意義について学びます。ここら辺から本格的に判例についても言及していきます。予め読んでおいて欲しい判例は事前に示しますので、講義当日には指定された判例の全文を手元に置いて講義を聞くようにして下さい。

(4) 「営業」「事業」と不可分の関係にある「商号」について学びます。併せて「営業所」「支店」「商業帳簿」など、企業の物的設備に関する規整も学びましょう。

(5) 企業の人的設備と言われる「使用人」についての規定も学びます。民法の「代理」についての定めの特則になる部分ですので、民法における代理に関する諸規定も併せて復習しながら考えていきます。

(6) 商業登記に関する規整を検討します。同じ登記でも不動産登記とは大きく異なる制度ですので、混乱しないようについてきて下さい。

(7) 最後に商取引の分野における民法とは異なる商法の規律について検討します。

なお、本講義は『裁判と法コース』および『企業・経営と法コース（商法中心）（労働法中心）』に属します。

【到達目標】

商法及び会社法の「総則」部分および商法の「商行為」に置かれている条文が、実際にどのような場面で、どのような規範として適用されることになるのかを理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形態で行います。

対面授業です。ただし、都合によりオンライン授業（動画配信）とする場合があります。その場合には予めHoppiiのメッセージ機能等を通じてお知らせします。

また、1時限目の授業であることから、授業に参加できなかった受講者のために授業の録画を動画配信します。（動画配信はあくまでも救済のためのものですので、録画に失敗した場合などには、改めて授業動画を提供することはいたしません。）

本シラバスだけではなく、各回の授業用のレジュメや参考資料を配付して理解の助けとなるようにします。資料等は学習支援システム（WebClass）の【教材】機能を利用して、極力事前配付します。授業外や課題に関連する質問については、授業（配信動画を含む）の中でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	開講にあたって・商法とは何か	講義の進め方と全体像／民法と規整範囲が重なる商法・会社法が制定されなければならないのは何故なのかを考える。
第2回	商人と商行為	「商人」及び「商行為」の法律上の定義について学ぶ。
第3回	民法と商法の関係	商法1条の「商事」とは何を指すかについて、商的色彩説と企業法説とを紹介しながら、民法と商法の異同とその関係を考える。〔テキスト第1章〕
第4回	客観的意義における営業・事業	譲渡の対象となる営業・事業とは何か。営業譲渡・事業譲渡の要件及び効果はどのようになっているかを検討する。〔テキスト pp.33-38〕
第5回	営業譲渡・事業譲渡（1）	営業譲渡の意義・譲渡人の法定責任・譲受人の法定責任〔テキスト pp.43-48〕
第6回	営業譲渡・事業譲渡（2）	営業譲受人の法定責任・詐害営業譲渡〔テキスト pp.43-49〕
第7回	商号の保護と名板貸責任	商号の意義、商号権の侵害と商号権侵害に関する救済方法、他人に商号使用を許諾した場合（名板貸）に生じ得る責任について学ぶ。〔テキスト第3章・第7章〕
第8回	商業使用人	支配人など商業使用人の資格と権限及び義務、表見支配人の行為に関する営業主の責任について学ぶ。〔テキスト pp.75-90、第8章〕
第9回	商業登記	商業登記の意義・商業登記の公示力〔テキスト第5章〕
第10回	悪意擬制説・不実登記	表見支配人制度と商業登記の関係・不実登記の効力〔テキスト第8章・第9章〕
第11回	商事代理	商事代理における非顕名主義・商事代理における本人の死亡〔テキスト pp.191-197〕
第12回	商事担保	多数債務者・保証人間の関係の特則／商事留置権／流質契約〔テキスト第11章〕
第13回	商事売買	商事売買に関する特則〔テキスト第12章〕
第14回	総まとめ	第13回までの論点で論じ足りなかった点や判例解説の補足全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・民法のなかでも、法律行為（特に代理）、債権譲渡、債務不履行責任については、ひととおりは学修してあることが望ましい。
 ・受講者はテキストの該当部分を事前に一読しているということを前提として講義を進めます。
 ・予め指定された判例については、最低でも下記【参考書】欄に掲げた判例百選の該当判例の部分を読んでおいて下さい。できれば解説部分にも目を通していただければ更に講義内容についての理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大塚英明ほか『商法総則・商行為法〔第4版〕』（有斐閣アルマ・2023年）

【参考書】

神作裕之ほか『商法判例百選』別冊ジュリスト243号(有斐閣・2019年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・法律学科の専門科目ですから言うまでもないことですが、商法・会社法だけでなく他の法令も掲載されている六法を常に参照可能な状態で用意しておいて下さい。

・六法は(a)最新の条文が反映され、(b)講義中に口頭で指示される指定条文を素早く一覧できるものを使用して下さい。(a・bの2条件を満たしていれば紙に印刷されたものである必要はありませんが、教壇から見ていると、スマホで条文を引いている方の中には、指定の条文に辿り着くのにかなり時間がかかっている方が多いようです。課金を厭わず学修するために最適な六法を利用して下さい。)

・なお、定期試験では印刷された六法以外の参照は禁止されます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Participants in this course will learn about the following legal issues; the definition of a merchant, business transfer, trade name, commercial registration, commercial agency, commercial sales and purchases, and commercial collateral.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to grasp the rules of commercial transactions, contrasting them with the rules of civil law.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours understanding the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your grade in the class will be decided based on the term-end examination（100％）.

LAW200AB（法学 / law 200）

会社法

稼川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 単位数：4単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律3年H・N・法律2・4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こんにちは！ 会社法を担当するトチカワです。
 この授業は法曹コース必修科目でもあることから、受講者の学習レベルとしては既に「会社法入門」を履修している者を想定して実施します。
 「会社法入門」で学ばれたように、会社とは、複数の人が共同出資をして継続する事業体として営利事業を営むための法律上の道具です。「継続する」ことが前提ですので、そこには多数の利害関係が束になって存在します。この多数の利害関係を私法上の権利義務関係として整理して相互の調整を図り、この企業体が維持・発展するのを助けることが会社法の目的です。

会社法とは、共同出資者間の私的利害調整という点に着目すれば、民法の典型契約の一つである「組合契約」に関する一連の任意規定の特則と位置づけられますが、継続する事業体では利害関係が複雑多岐にわたるため、シンプルに「契約自由の原則」にばかり頼ってはいられません。そこで、2005年に公布された「会社法」という名前の制定法と「会社法施行規則」「会社計算規則」「社債、株式等の振替に関する法律」といった強行規定を含む各種法令、さらにこれらの法令及び2005年以前の「商法」「有限会社法」など旧法令の下での判例、そして業界自主ルールのようなソフト・ローなどが取り巻く、これらが全体として「実質的意義における会社法」といわれる大きなルールの体系をなしているわけです。

この全体像を4単位28回の講義で論じ尽くすことは到底できませんが、会社という企業体が事業を進めていくうえで、どのようなシーンにどのような法的問題が生じ、これをどのような手法で規律されているのかを学ぶことで、会社をめぐる様々な生活関係を、できるだけ厳密に定義される「権利・義務」の視点から捉えるという考え方・視点を受講生の皆さんが身につけることを本講義の目的とします。

法曹コース所属の3年次生にとっては、この科目は必修科目となっていますので、会社法について、法科大学院の既修者コース入学者として最低限必要な「見通し」を持って進学できるようお手伝いをするということもこの授業の目的となのですが、結局のところ、上記のような「考え方・視点」を身につけていただくことがまさにその目的に合うことだと考えております。

なお、この科目は法律学科の全コースに属しています。

【到達目標】

- ① 株式会社は一体どのように設立され、どのように運営されているのか、また出資者である株主や会社債権者を保護するために法はどのような規制を設けているのかについて、法的な権利義務の視点から基本的な説明ができるようになること。
- ② ビジネスに必要な様々な用語やスキームを理解し、経済／企業関連ニュースを楽しく読み解くことができるようにする。
- ③ 就職活動に役立つ専門知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ① 教室での対面授業（全28回中14回以上は対面授業を実施）です。第1回授業はオンライン授業（動画配信によるオンデマンド授業）とします。第1回授業でこの授業の受講のしかたについてより詳細な説明をおこないますので、必ず視聴して下さい。

- ② シラバスに従って授業を進めます。シラバスにはテキスト（教科書）の該当範囲を記載してありますので、予め当該部分を（少なくとも）一読してあることを前提に講義をします。

- ③ 講義は、スクリーンにパワーポイントのスライドや資料等を提示しながら進めますが、毎回、事前に学習支援システム（WebClass）にその回に使用するパワーポイント画面（PDFファイル）と資料をアップロードしておきますので、適宜ダウンロードやプリントアウトして授業に臨んで下さい。（資料については、著作権等の事情で配信に適さないものについては、アップロードせずに画面だけで提示する場合があります。）ただし、授業当日になって資料を差し替える場合があります。その場合にはアップロードしたファイルも後日差し替えます。

- ④ 毎回、学習支援システム（WebClass）を利用してその回の授業についてのリアクションを提出していただきます。リアクションに求める内容は、【教材】欄にもその都度記載しますが、その回の授業で《自分としてはここがポイントだと思った》点を要約すること、授業や会社法一般についての質問で、感想の記入は不要です。リアクションで寄せられた質問へは、できるだけその次の回の冒頭でお答えするようにしますが、後の方の回の授業内容に関連する場合は、その回の授業まで回答を待っていたくこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと授業の全体像	〔テキスト第1章〕 ・授業の進め方と成績評価基準 ・組合、持分会社、株式会社 ・会社法の役割
第2回	株式と株主	〔テキスト第3章第1節〕 ・「株式」の意義 ・株主の権利 ・株主の義務と責任
第3回	株式の種類と株主平等原則	〔テキスト第3章第1節〕 ・株式の内容についての特別な定め ・株式の種類（種類株式） ・株主平等原則 ・株主の権利行使に関する利益供与
第4回	株式譲渡自由の原則と例外	〔テキスト第3章第2節〕 ・株式譲渡自由の原則 ・譲渡制限付株式の譲渡 ・契約による株式譲渡制限
第5回	株式譲渡の方法と株主権行使の方法	〔テキスト第3章第3節〕 ・株式譲渡の方法 ・株主名簿の効力 ・共有株式の権利行使方法
第6回	コーポレートガバナンスと株式会社の機関設計	〔テキスト第4章第1節〕 ・コーポレートガバナンス ・株主総会 ・機関設計のルール
第7回	株主総会の意義と招集	〔テキスト第4章第2節〕 ・株主総会の役割 ・株主総会の招集 ・株主提案権
第8回	株主総会の運営	〔テキスト第4章第2節〕 ・株主の議決権 ・株主総会の議事運営 ・株主総会の決議 ・総会検査役
第9回	瑕疵ある株主総会決議	〔テキスト第4章第2節〕 ・株主総会決議取消しの訴え ・株主総会決議無効確認・不存 在確認の訴え ・訴えの利益に関する問題

第10回	株式会社の取締役の地位と権限	〔テキスト第4章第3節〕 ・株式会社の「業務執行の決定」 「業務の執行」 ・取締役の地位 ・社外取締役	第26回	組織再編の全体像	〔テキスト第9章第3節〕 ・合併 ・会社分割 ・株式交換 ・株式移転 ・株式交付
第11回	取締役会と代表取締役	〔テキスト第4章第3節〕 ・取締役会設置会社／非設置会社 ・取締役会の権限 ・取締役会設置会社の代表取締役／業務執行取締役	第27回	組織再編の手続	〔テキスト第9章第3節〕 ・組織再編契約（計画） ・事前開示 ・株主総会と反対株主の株式買取請求権
第12回	監査役・監査役会	〔テキスト第4章第5節〕 ・監査役的地位 ・監査役の権限 ・監査役会の役割	第28回	秋学期のまとめ	・組織再編と債権者 ・組織再編の無効 ・株式会社の役員等の責任 ・コーポレートファイナンス ・会社の買収と組織再編
第13回	監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社	〔テキスト第4章第7～8節〕 ・監査等委員会設置会社の各機関の役割 ・指名委員会等設置会社の各機関の役割	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ・「会社法入門」（2単位）が履修済みであることを前提として講義を進める。 ・民法の総則、担保物権、債権総論、契約総則について、ひととおり勉強しておくことが望ましい。 ・予め指定された判例については、最低でも下記【参考書】欄に掲げた判例百選の該当判例の部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。		
第14回	春学期のまとめ	・株主の法的地位 ・株式会社のガバナンス（コーポレートガバナンス）	【テキスト（教科書）】 田中亘『会社法［第5版］』（東京大学出版・2025年）		
第15回	取締役と会社の利害対立局面	〔テキスト第4章第3節〕 ・競業避止義務 ・利益相反取引規制 ・報酬規制	【参考書】 別冊ジュリスト254号「会社法判例百選［第4版］」（有斐閣・2021年） 山下友信・神田 秀樹（編著）「商法判例集 第9版」（有斐閣・2023年）		
第16回	取締役の一般的義務	〔テキスト第4章第3節〕 ・取締役の善管注意義務 ・取締役の忠実義務	【成績評価の方法と基準】 定期試験の成績（90％） 小テスト・レポートの提出状況／質問による授業への貢献などの平常点（10％）		
第17回	株式会社の役員等の責任	〔テキスト第4章第9節〕 ・役員等の任務懈怠責任 ・役員等の対第三者責任	【学生の意見等からの気づき】 特にありません。		
第18回	会社業務の適正を確保するための株主権行使	〔テキスト第4章第9節〕 ・株主代表訴訟 ・違法行為差止請求権 ・検査役選任請求権	【学生が準備すべき機器他】 リアルタイム・オンライン授業（ZoomまたはWebex使用）とオンデマンド授業（動画配信とPDF等による配布資料との併用）とを受講できる情報機器。		
第19回	株式会社の計算と株主への分配	〔テキスト第5章〕 ・会計帳簿と計算書類 ・資本金／準備金／剰余金 ・剰余金の配当 ・会社による自己の株式の取得 ・分配可能額規制	【その他の重要事項】 上記指定テキストの他、最新の六法を毎回必ず用意すること。 =====		
第20回	株式の発行	〔テキスト第6章第1・2節・第3章第5節〕 ・自己資本の調達 ・募集株式の発行 ・株式発行数の調整	★「最新の」というところが大事です。電子デバイスで利用できる六法もありますが、今のところ定期試験で「六法参照可」の場合、紙媒体の六法しか参照は許可されませんので、普段から印刷された紙版の六法の利用に慣れておくという意味でも、安くないうえに重くてどうも恐縮ですが、紙媒体の六法の利用を強くお勧めします。		
第21回	新株予約権	〔テキスト第6章第3節〕 ・新株予約権の意義 ・新株予約権の発行 ・新株予約権の行使と消滅	【Outline (in English)】 (Course outline) This course deals with the incorporation of Kabusiki Kaisha (joint stock companies)、as the major legal issues regarding types of business companies, and corporate governance, corporate finance, and mergers and acquisitions. (Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to be able to provide a basic explanation of the system of corporate law relating to the status of shareholders and the operation of a stock company. (Learning activities outside of the classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content. (Grading Criteria /Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%、in-class contribution: 10%		
第22回	株式・新株予約権の発行における瑕疵	〔テキスト第6章第2節・第3節〕 ・株式発行無効の訴え／自己株式処分無効の訴え ・募集株式発行等の差止め			
第23回	会社の買収	〔テキスト第9章第1～2節〕 ・会社の買収の意義 ・株式公開買付 ・第三者割当増資 ・キャッシュ・アウト			
第24回	敵対的買収と防衛策	〔テキスト第9章第5節〕 ・取締役会による防衛策 ・事前警告型防衛策 ・ブルドックソース事件			
第25回	株式会社の設立	〔テキスト第7章〕 ・発起設立と募集設立 ・設立の手続 ・発起人の行為と「設立中の会社」 ・会社設立の瑕疵			

LAW200AB（法学 / law 200）

会社法

伊藤 雄司

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、会社に関わる法制度を取り扱うものである。講義においては、基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う。

【到達目標】

株式会社においては、株主や会社債権者をはじめとする多くのステークホルダー（利害関係人）が存在しており、会社法はこれらのステークホルダーの利害調整を行う役割も果たしている。本講義では、会社法上の各種のルールが個々のステークホルダーの利益保護によってどのような意義を有しているのかに着目しながら、会社法の基礎を学んでもらうことを目的としており、本講義を通じて、会社法の基本的な仕組みとその機能を理解することができることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行う。受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	会社法総論①	・会社法の歴史 ・会社法の基本構造
第2回	会社法総論②、会社法総則	・会社の意義 ・会社法総則
第3回	株式①	・株式の意義、内容
第4回	株式②	・種類株式
第5回	株式③	・株式の流通 ・株主の権利行使
第6回	機関総説	・機関の意義 ・機関設計
第7回	株主総会①	・株主総会の権限 ・株主総会の議事
第8回	株主総会②	・株主総会決議の瑕疵
第9回	役員の選解任	・役員の意義 ・役員の選解任
第10回	取締役・代表取締役、非取締役会設置会社	・取締役の地位、権限
第11回	取締役会	・取締役会の権限 ・取締役会決議の瑕疵
第12回	監査役・監査役会	・監査役・監査役会の権限
第13回	役員の責任	・会社に対する責任 ・第三者に対する責任 ・代表訴訟
第14回	監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	・監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社のシステム
第15回	春学期のまとめ	・第14回までの講義内容のまとめ
第16回	募集株式の発行等①	・新株発行規制の概要

第17回	募集株式の発行等②	・新株発行の瑕疵
第18回	新株予約権①	・新株予約権の意義 ・新株予約権の発行規制
第19回	新株予約権②	・新株予約権の機能 ・新株予約権発行の瑕疵
第20回	計算①	・計算書類の意義
第21回	計算②	・計算書類の確定
第22回	組織再編①	・組織再編概論
第23回	組織再編②	・組織再編の手続き
第24回	組織再編③	・利害関係者の保護
第25回	持分会社	・各種の持分会社
第26回	設立	・設立の意義、概要
第27回	社債	・社債の意義
第28回	秋学期まとめ	・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前にテキスト及び関連条文に目を通しておくこと。予習・復習に4時間程度を充てることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

神作裕之ほか『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021）

【参考書】

笠原武朗ほか『NBS会社法』（日本評論社、2021）

神田秀樹『会社法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(100%)によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture deals with the legal system related to companies. The objective of this lecture is to enable students to understand the basic structure of corporate law and the basic principles for coordinating the interests of parties related to companies. Students are expected to attend this lecture and devote 4 hours to self-study. Grading will be based solely on the results of a final examination.

LAW300AB（法学 / law 300）

企業決済・有価証券法

椋川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 単位数：4単位
 備考（履修条件等）：「手形法・小切手法」修得者は履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、決済システムに関する多様なリスクに着目し、そこに関係する法的リスクと多数の利害関係を適切に制御・調整するための法原則・法制度を学ぶことを目標とする科目です。昨年度（2025年度）までは「手形法・小切手法」という名称でしたが、科目名をより講義内容に近づける趣旨で科目名称を変更しました。

新しい科目名称では「企業決済」が掲げられていますが、「決済」というのは、皆さんが学修されてきた民法の知識に引きつけて考えれば、債務の弁済に向けた一連のプロセスを指す概念です。しかし、債務の消滅をもたらさなくても「決済」としては終結していると捉えられる場合もあり、「弁済」よりも拡がりのある意味で使われる概念です。

企業取引の決済（企業決済）の道具としては、長らく手形や小切手といった有価証券が用いられてきました。「有価証券」とは、「それ自体の使用価値はないただの紙なのに、何らかの経済的価値がある財貨とみなされて有償で流通するもの」を指す言葉です。そして、「ただの紙」であるはずの手形や小切手といった有価証券を「財貨」として流通させ、決済の道具となるように規整してきた一連の法理は一般に「有価証券法理」と呼ばれてきました。すなわち、有価証券法理は企業間決済を規整するための法原則の集合という性質を持っているわけです。

さて、インターネットを通じた取引がごく当たり前に行われるようになった現代では、ネット通販やフリマサイトなどの小口取引だけでなく、企業間で交わされる規模の大きな取引も、その決済は電子情報のやりとりに依拠するようになっていますが、そこで取り交わされる電子データの中にも、あたかも有価証券のように「それ自体は単なる電子データに過ぎないが、関係者の間ではあたかも財貨であるかのように取り扱われる」ものが存在します。そして、このように企業間の決済のために取り交わされる情報をやりとりして決済を実現するためのシステム（決済システム）を構成する多くの利害関係者の関係を規整するための基礎として、上記の「有価証券法理」はなお重要な法的ツールと考えることができます。

そこで本科目では、伝統的な有価証券法理のうち、現在の決済システムにおいても重要と思われる法理を取り上げて検討しうえて、決済システムにおける様々なリスクと、そのリスクを適切にコントロールする法的道具という観点から、有価証券法理も含めた種々の法制度を取り上げることとします。その過程で、手形・小切手や口座振替のような伝統的な企業決済の手段だけでなく、モバイル決済や暗号資産など、現代的な決済取引に関する法の現状も取り上げて論じていきたいと考えています。

【到達目標】

〔春学期〕手形法・小切手法が提供してきた基本的な法原則である有価証券法理の内容を理解すること。
 〔秋学期〕決済システムの運用上生じる法的問題の所在を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- (1) 講義形態で行います。事前に教科書の該当箇所が指定されている場合には、受講者全員が該当箇所を読んできていることを前提として、ポイントを絞った解説をします。
- (2) 対面授業（14回以上を教室での対面授業で実施）とします

(3) 教科書や講義の内容の理解度を確認する目的で、Hoppiiの学習支援システム(WebClass)を利用した事前または事後の小テストを随時実施します。
 ※授業外や課題に関連する質問については、授業の中でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	有価証券とはなにか	・この授業について ・有価証券の機能 ・電子化された有価証券 ・有価証券の「価値」の源泉はなにか
第2回	決済システムの中の有価証券・決済データ	・有価証券を利用した決済システムの構築（為替と手形交換） ・決済システムを利用した信用取引の連鎖（手形の裏書・手形割引）
第3回	小切手・約束手形・電子記録債権	・小切手による決済の法的構成 ・約束手形による信用供与と決済の法的構成 ・電子記録債権による信用供与と決済の法的構成
第4回	原因関係と有価証券の無因性	・手形の設権証券性 ・手形関係と原因関係 ・人的関係上の抗弁と抗弁の切断
第5回	手形・電子記録債権の成立	・手形要件 ・電子記録債権の発生記録
第6回	手形・電子記録債権の譲渡	・裏書 ・電子記録債権の譲渡記録と保証記録
第7回	有価証券法理（1）	・形式的資格 ・善意支払
第8回	有価証券法理（2）	・善意取得
第9回	有価証券法理（3）	手形行為論 交付契約説 創造説 所有権説
第10回	有価証券法理（4）	・瑕疵ある意思表示と手形行為 ・瑕疵ある意思表示と電子記録債権
第11回	有価証券法理（5）	・文言性と他人名義の利用
第12回	有価証券法理（6）	・無権代理 ・偽造 ・なりすまし
第13回	有価証券の静的安全保護	除権決定手続 小切手の静的安全保護制度
第14回	春学期のまとめ	・春学期のまとめ ・授業中に触れなかった重要判例についての補足
第15回	決済システム	・様々な決済システム ・決済と弁済
第16回	決済とリスク	・様々な決済リスク ・リスクへの対応策
第17回	預金取引	・預金の種類 ・預金の法的性質 ・預金者の決定
第18回	普通預金の成立	・預金振込の仕組み ・普通預金の預金者の決定 ・誤振込と普通預金の成立
第19回	誤振込の法律関係	・誤振込に関する判例法理 ・振込の無因性
第20回	一括決済システム	・一括決済システムとは ・債権譲渡方式 ・債務引受方式 ・電子記録債権方式

第21回	「でんさい」による決済	・取適法と「でんさい」 ・でんさいネットの概要 ・でんさいネット当事者の法律関係
第22回	でんさいネットと人的抗弁の切断	・電子記録債権法における人的抗弁の取扱い ・でんさいの無因性について
第23回	悪意の抗弁	・手形における「悪意の抗弁」 ・でんさいにおける「悪意の抗弁」
第24回	資金決済法と資金移動	・出資法、銀行法と資金決済法 ・資金移動業に関する規制
第25回	電子マネー・クレジットカード	・電子マネー決済の法的構造 ・クレジットカード決済の法的構造 ・電子マネー・クレジットカードに関する法規制
第26回	ブロックチェーンと決済システム	・ブロックチェーン技術 ・デジタルトークン ・暗号資産取引
第27回	証券取引の決済	・振替株式の仕組み ・証券取引の引渡決済 ・証券取引の支払決済
第28回	総まとめ	秋学期のまとめ 全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・民法総則と債権総則に該当する部分については履修済みであることが望ましい。
- ・予め指定された判例がある場合には、最低でも下記【参考書】欄に挙げた「手形小切手判例百選」の当該判例部分については目を通しておくこと。できれば判決全文を持って講義に臨むことが望ましい。
- ・本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田邊宏康『企業決済法講義』成文堂・2025年
小塚壮一郎・森田果『支払決済法〔第4版〕』（商事法務・2026年4月刊行予定）

【参考書】

別冊ジュリスト「手形小切手判例百選(第7版)」(有斐閣・2014年)
堀 天子『実務解説 資金決済法〔第5版〕』（商事法務・2022年）
中島真志＝宿輪 純『決済システムのすべて〔第3版〕』（東洋経済新報社・2013年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験(100%)

[ただし、質問等での授業への貢献や、小テストを実施した場合に成績が優れていた者については、その評価を定期試験の得点に加味する。]

【学生の意見等からの気づき】

(特になし。)

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the legal principles of negotiable instruments from the perspective of payment systems law.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire a basic knowledge of negotiable instruments law, and of legal relations regarding the operation of payment systems.

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

(Grading Criteria /Policies)

The final grade will be calculated according to the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

経済法 I

渡邊 昭成

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

経済法 I および経済法 II では、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

経済法 I では、独占禁止法による規制のうち「不当な取引制限」及び「私的独占」について学習する。講義ではルールを概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等について回答することでフィードバックを図る。数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課することを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済法総論（1）	独占禁止法の目的および体系
第2回	経済法総論（2）	独占禁止法とその他の経済的規制の関係
第3回	経済法総論（3）	経済法の現状と課題
第4回	独占禁止法のエンフォースメント（1）	行政上の効果（排除措置命令・課徴金・リニエーション制度）
第5回	独占禁止法のエンフォースメント（2）	民事・刑事上の効果、独禁法の実務

第6回	不当な取引制限（1）	概観、事業者概念
第7回	不当な取引制限（2）	成立要件－相互拘束
第8回	不当な取引制限（3）	成立要件－共同性
第9回	不当な取引制限（4）	成立要件－一定の取引分野における競争の実質的制限
第10回	不当な取引制限（5）	成立要件－公共の利益
第11回	私的独占（1）	概観、行為要件
第12回	私的独占（2）	事例（1）支配型私的独占の事例を扱う。
第13回	私的独占（3）	事例（2）排除型私的独占の事例を扱う。
第14回	独禁法の実務	ゲスト講師による実務経験に基づく独禁法運用の実情

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022年）2970円

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第2版）』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験90%、平常点10%。
期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。
小さな課題と小テストを課す可能性がある。これらはいずれも平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたは、おおむね好評だった。ゲストスピーカーによる講義は受講生に好評であるので、継続することとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を「学習支援システム」において共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PC やタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法 I（春学期）及び経済法 II（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。独占禁止法の全範囲について基本的な内容を学習したいと考える学生には、春学期・秋学期あわせて履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

(1)Course Outline

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

(2)Learning Objectives

Acquiring basic concepts of antitrust law.

Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market due to restrictive competition actions by business operators.

Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.

(3)Learning Activities Outside of Classroom

Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.

(4)Grading Criteria /Policy

90% for the final exam and 10% for others.

LAW200AB（法学 / law 200）

経済法Ⅱ

渡邊 昭成

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。

講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正で自由な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。この講義（経済法Ⅱ）では、独占禁止法による規制のうち「不正な取引方法」について学ぶ。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
 事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
 事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は教室における対面での開講を原則とする。講義形式でレジュメに沿って授業を進める。受講生の発言を求める場面がある。数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。また、ゲストスピーカーを迎えて授業を行うことも予定している。いずれも、日程や実施方法については授業等で周知する。ゲストスピーカー回については、相手方の都合により実現できない可能性もある。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。また何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

本講義では、経済法Ⅰを履修済みで、独占禁止法についてかなりの知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ、不正な取引方法（1）	不正な取引方法の概要・共同の取引拒絶
第2回	不正な取引方法（2）	単独（その他の）取引拒絶
第3回	不正な取引方法（3）	差別対価、差別的取り扱い
第4回	不正な取引方法（4）	不当廉売

第5回	不正な取引方法（5）	ぎまんの顧客誘引、不当な利益による顧客誘引
第6回	不正な取引方法（6）	抱合せ取引
第7回	不正な取引方法（7）	排他条件付取引
第8回	不正な取引方法（8）	再販売価格維持行為
第9回	不正な取引方法（9）	拘束条件付取引
第10回	不正な取引方法（10）	優越的地位の濫用
第11回	不正な取引方法（11）	独禁法の実務の現状
第12回	不正な取引方法（12）	不当な取引妨害
第13回	不正な取引方法（13）	不正な取引方法－総括
第14回	不正な取引方法（14）	事業者団体規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022年）2970円

【参考書】

川濱昇ほか『経済法判例・審決百選（第3版）』（有斐閣、2024年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90 %、平常点 10 %。
 期末試験は持ち込み不可を予定している（事例問題、論述問題等を予定）。
 小さな課題と小テストを課す可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だったのではないかと。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。ゲストスピーカーは受講生に好評だったので継続することになっている。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムを通じて共有する。また、数回オンライン授業を実施する可能性がある。PCやタブレット等の必要な機器を用意されたい。

【その他の重要事項】

独占禁止法の基本的な内容について、経済法Ⅰ（春学期）及び経済法Ⅱ（秋学期）の一年間で全範囲を学習することを予定している。経済法Ⅱ（秋学期）は、経済法Ⅰ（春学期）の講義内容の学習を通じて独占禁止法について十分な知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。

【Outline (in English)】

(1)Course Outline

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

(2)Learning Objectives

Acquiring basic concepts of antitrust law.

Understanding sufficiently the mechanism by which competition is restricted in the market by restrictive competition actions of business operators.

Understanding the nature and necessity of "fair competition" in business activities.

(3)Learning Activities Outside of Classroom

Review the textbook, reference books, and lecture materials after the lecture. Students are expected to obtain information on recent cases from newspapers and other sources. The standard preparation and review time for this class is 4 hours for each class.

(4)Grading Criteria /Policy

90% for the final exam and 10% for others.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法 I

松田 浩道

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。

それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際法規範と憲法に関する理論的枠組みを理解する。
2. 国際人権法に関する多様な各論的トピックについて一次文献を調べ、自らの意見を論理立てて発表する。
3. 以上を踏まえ、多様な国際人権規範を用いた法的主張を組み立てられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は大別して、以下の3つの要素からなります。

- 1) 教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張について、理論的な理解を深める
 - 2) 教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いて、さまざまな各論的トピックについてグループ・プレゼンテーション・ディスカッションを行う
 - 3) 学期末に期末試験（教科書持ち込み可）を行い、総合的な理解を確認する
- 毎回の授業では、リアクションペーパーの提出を必須とします。プレゼンテーションに対するフィードバックは、授業中に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する。
2	国際法規範を用いた法的主張 / 国際人権法の基礎知識の確認	教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張の概要を理解する / 教科書『アクティブラーニング国際人権法』序章を用いて、国際人権法の基礎知識を確認する
3	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（1）	教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
4	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（2）	前回に引き続き、教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする

5	子どもの権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第1章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
6	高齢者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第2章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
7	障害者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第3章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
8	ジェンダーに基づく暴力とハラスメント	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第4章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
9	「慰安婦」問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第5章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
10	性的マイノリティ / LGBTQの権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第6章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
11	部落差別問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第7章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
12	先住民族の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第8章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
13	判例研究	国際人権法に関する最新の国内判例を用いてディスカッションを行う
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（教科書持ち込み可能）を通じて、総合的な理解を確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書を読み、疑問点を整理しておく。プレゼンテーションの際は、教科書で紹介されている文献を中心に、一次資料を調べてしっかりと読み込んでおく。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松田浩道『国際法と憲法秩序』（東京大学出版会、2020）ISBN978-4-13-036154-5

小坂田裕子ほか編集『アクティブラーニング国際人権法』（法律文化社、2025）ISBN978-4-589-04434-1

【参考書】

教科書に引用されているもののほか、授業のなかで詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 20%

グループ・プレゼンテーション 40%

期末試験（教科書持ち込み可）40%

リアクション・ペーパーは、「critical thinkingを働かせ、自分の意見を論理的に表現しているか」という観点から、質および枚数の双方を総合考慮する。

グループ・プレゼンテーションは、教科書で紹介された文献を中心に、一次資料を調べ、読み込んでいるか、問いに対して明確に回答しているか、という点を評価対象とする。

期末試験は、授業で学んだことを踏まえ、国際法規範を用いた法的主張をみずから組み立てることができるか、確認する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目

【Outline (in English)】

This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.

Participants are expected, at the end of this module, to be able to;

- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.

Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法Ⅱ

松田 浩道

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際人権法Iに引き続き、国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。

それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際法規範と憲法に関する理論的枠組みを理解する。
2. 国際人権法に関する多様な各論的トピックについて一次文献を調べ、自らの意見を論理立てて発表する。
3. 以上を踏まえ、多様な国際人権規範を用いた法的主張を組み立てられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は大別して、以下の3つの要素からなります。

- 1) 教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張について、理論的な理解を深める
- 2) 教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いて、さまざまな各論的トピックについてグループ・プレゼンテーション・ディスカッションを行う
- 3) 学期末に期末試験（教科書持ち込み可）を行い、総合的な理解を確認する

毎回の授業では、リアクションペーパーの提出を必須とします。プレゼンテーションに対するフィードバックは、授業中に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する
第2回	国際法規範を用いた法的主張 / 国際人権法の基礎知識の確認	教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張の概要を理解する / 教科書『アクティブラーニング国際人権法』序章を用いて、国際人権法の基礎知識を確認する
第3回	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（1）	教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
第4回	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（2）	前回に引き続き、教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする

第5回	外国人の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第9章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第6回	難民と庇護希望者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第10章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第7回	ヘイトスピーチ・ヘイトクライム問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第11章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第8回	刑事手続の人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第12章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第9回	ビジネスと人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第13章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第10回	感染症と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第14章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第11回	環境と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第15章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第12回	平和と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第16章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第13回	判例研究	国際人権法に関する最新の国内判例を用いてディスカッションを行う
第14回	期末試験・まとめと解説	期末試験（教科書持ち込み可能）を通じて、総合的な理解を確かめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書を読み、疑問点を整理しておく。プレゼンテーションの際は、教科書で紹介されている文献を中心に、一次資料を調べてしっかりと読み込んでおく。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松田浩道『国際法と憲法秩序』（東京大学出版会、2020）ISBN978-4-13-036154-5

小坂田裕子ほか編集『アクティブラーニング国際人権法』（法律文化社、2025）ISBN978-4-589-04434-1

【参考書】

教科書に引用されているもののほか、授業のなかで詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 20%

グループ・プレゼンテーション 40%

期末試験（教科書持ち込み可）40%

リアクション・ペーパーは、「critical thinkingを働かせ、自分の意見を論理的に表現しているか」という観点から、質および枚数の双方を総合考慮する。

グループ・プレゼンテーションは、教科書で紹介された文献を中心に、一次資料を調べ、読み込んでいるか、問いに対して明確に回答しているか、という点を評価対象とする。

期末試験は、授業で学んだことを踏まえ、国際法規範を用いた法的主張をみずから組み立てることができるか、確認する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目

【Outline (in English)】

This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.

Participants are expected, at the end of this module, to be able to;

- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.

Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

LAW300AB（法学 / law 300）

民事訴訟法 I

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第1審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。

・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。

・講義に関する質問・意見等については、講義時に全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事紛争解決制度としての民事訴訟 民事訴訟審理の基本構造と基本概念	ガイダンスを行った後、民事訴訟制度の全体像及びその基本構造について概観する。
第2回	訴えの提起（1）その1	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第3回	訴えの提起（1）その2	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第4回	訴えの提起（2）その1	訴訟要件、訴えの利益
第5回	訴えの提起（2）その2	訴訟要件、訴えの利益
第6回	訴えの提起（3）	当事者の概念、当事者の確定
第7回	訴えの提起（4）	当事者能力、訴訟能力
第8回	訴えの提起（5）	訴訟上の代理、法人等の代表者
第9回	訴えの提起（6）	当事者適格、第三者の訴訟担当
第10回	訴えの提起（7）	裁判所・裁判官等、管轄
第11回	訴えの提起（8）	訴え提起の効果（送達を含む）、二重起訴禁止
第12回	口頭弁論（1）	口頭弁論の意義及びその必要性、口頭弁論における諸原則

第13回 口頭弁論（2） 弁論主義①（総論、第1テーマ）
 第14回 口頭弁論（3） 弁論主義②（第2テーマ、裁判上の自由）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関して「予習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書として、山本弘ほか『民事訴訟法（アルマシリーズ）』（有斐閣、第4版、2023年）を指定します。

【参考書】

<入門書>

・伊藤真『民事訴訟法への招待』（有斐閣、2022年）
 ○本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを強く推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016年）

・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第4版〕』（有斐閣、2023年）
 <本格的な体系書として>

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第6版、2019年）

・伊藤真『民事訴訟法』（有斐閣、第8版、2023年）
 <各テーマに関する詳細な検討について>

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年）
 <判例集> 下記のいずれか1冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第2版補訂、2010年）

・高田裕成ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第6版、2023年）

・中島弘雅＝岡伸浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015年）

・山本和彦『最新重要判例250 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、期末試験（100%）によります。具体的な実施方法は講義において指示します。

・成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 100%

LAW300AB（法学 / law 300）

民事訴訟法Ⅱ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第1審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。

・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。

・講義に関する質問・意見等については、講義時に全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事訴訟審理の基本構造と基本概念の復習（「民事訴訟法Ⅰ」の学修内容の確認）	ガイダンスを行った後、「民事訴訟法Ⅰ」における学修内容を踏まえて、改めて民事訴訟手続の基本構造について確認を行う。
第2回	口頭弁論（4）	口頭弁論における当事者の行為、訴えの変更・反訴、共同訴訟・独立訴訟参加・補助参加
第3回	口頭弁論（5）	裁判所による口頭弁論の指揮、釈明権・釈明義務
第4回	口頭弁論（6）	口頭弁論期日の実施とその準備、争点整理手続、送達
第5回	口頭弁論（7）	証拠調べ（証拠法）総論
第6回	口頭弁論（8）その1	証拠調べ各論
第7回	口頭弁論（8）その2	証拠調べ各論
第8回	口頭弁論（9）	自由心証主義、証明責任
第9回	終局判決による訴訟の終結（1）	判決の種類、判決の成立・確定、処分権主義
第10回	終局判決による訴訟の終結（2）その1	確定判決の効力：既判力
第11回	終局判決による訴訟の終結（2）その2	確定判決の効力：既判力
第12回	終局判決による訴訟の終結（2）その3	確定判決の効力：既判力 訴訟承継との比較

第13回	裁判によらない訴訟の終結	訴訟上の和解、請求の認諾・放棄、訴えの取下げ
第14回	上訴、非常救済手続	控訴、上告、抗告、特別上訴、再審

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関しては、「予習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書として、山本弘ほか『民事訴訟法（アルマシリーズ）』（有斐閣、第4版、2023年）を指定します。

【参考書】

<入門書>

・伊藤眞『民事訴訟法への招待』（有斐閣、2022年）
 ○本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを「強く」推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016年）

・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第4版〕』（有斐閣、2023年）

<本格的な体系書として>

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第6版、2019年）

・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第8版、2023年）

<各テーマに関する詳細な検討について>

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年）

<判例集> 下記のいずれか1冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第2版補訂、2010年）

・高田裕成ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第6版、2023年）

・中島弘雅＝岡伸浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015年）

・山本和彦『最新重要判例250 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、期末試験（100%）によります。具体的な実施方法等は講義において指示します。

・成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 100%

LAW300AB（法学 / law 300）

民事訴訟法Ⅲ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、すでに民事訴訟法の基礎を学習していることを前提に、民事訴訟法における応用的な論点や判例について重点的に学習することで、民事訴訟法に対する理解を深めることを目的とします。

・この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」及び「同（労働法中心）」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・民事訴訟手続全体における論点や判例の位置付けを明確にすることができる。

・民事訴訟法における論点・判例又は関連する社会問題について理解をするとともに、その問題の所在や議論状況について説明をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。

・講義に関する質問・意見等については、講義時に全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方） 訴えの利益一特に確認の利益に関する判例を中心に（1）	ガイダンスを行った後、各種類型に関する訴えの利益に関する問題状況を概観する。
第2回	訴えの利益一特に確認の利益に関する判例を中心に（2）	遺言無効確認の訴えの確認の利益に関する判例を読み解く。
第3回	訴えの利益一特に確認の利益に関する判例を中心に（3）	将来の権利関係確認の訴え等の確認の利益に関する判例を読み解く。
第4回	訴訟担当に関する判例（1）	訴訟担当の規律に関する一連の判例について検討する。
第5回	訴訟担当に関する判例（2）	訴訟担当の規律に関する一連の判例について検討する。
第6回	弁論主義と釈明権	弁論主義と釈明権の関係、法的観点指摘義務に関する判例の検討を行う。
第7回	二重起訴禁止と相殺の抗弁に関する判例（1）	二重起訴禁止と相殺の抗弁に関する一連の判例について検討する。
第8回	二重起訴禁止と相殺の抗弁に関する判例（2）	二重起訴禁止と相殺の抗弁に関する一連の判例について検討する。

第9回	既判力（1）一客観的範囲、相殺の抗弁	既判力の客観的範囲に関する民事訴訟法上の規律を確認した上で、特に相殺の抗弁と弁済の抗弁の比較、一部請求論に関する判例を読み解く。
第10回	既判力（2）一時的範囲、主観的範囲	既判力における基準時の概念、既判力の時的範囲に関する判例を読み解く。
第11回	既判力（3）一その他の判決効（争点効、反射効）	既判力以外の判決効に関する判例を読み解く。
第12回	交通事故訴訟に関する諸問題一処分権主義、一部請求論、損害額の認定（1）	不法行為訴訟としての交通事故訴訟に関する具体的事例を通じて、民法及び民事訴訟法の基礎知識について検討を行う。
第13回	交通事故訴訟に関する諸問題一処分権主義、一部請求論、損害額の認定（2）	一部請求に関する最判平成10年6月12日民集52巻4号1147頁・最判平成20年7月10日判時2020号71頁について検討する。
第14回	複雑訴訟についての応用論点の検討	複雑訴訟における応用論点や判例について検討を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示を初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関する指示は、各回の講義の際に行います。

・各回で扱う分野の基礎知識について、事前に復習して十分理解しておくことが求められます。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書として、山本弘ほか『民事訴訟法（アルマシリーズ）』（有斐閣、第4版、2023年）を指定します。

・講義は、教員の配布する講義ノート、参考資料及び予習復習用教材を用いて進めます。

【参考書】

<本格的な体系書として>

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第6版、2019年）

・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第8版、2023年）

<本講義で取り上げる各テーマに関する詳細な検討について>

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第2版補訂版、2013年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第2版補訂版、2014年）

<判例集> 下記のいずれか1冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第2版補訂、2010年）

・高田裕成ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第6版、2023年）

・中島弘雅＝岡仲浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015年）

・山本和彦『最新重要判例250 民事訴訟法』（弘文堂、2022年）

【成績評価の方法と基準】

・「期末試験の成績（60%）」及び「講義中に適宜実施するレポート等の課題への取り組み及び講義中の質疑応答等に関する平常点（40%）」を総合して評価します。

・成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

・この講義の受講にあたっては、「民事訴訟法Ⅰ」及び「民事訴訟法Ⅱ」を履修済みであるか、または同時に履修することを前提とする。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 60% and in class contribution: 40%

LAW300AB（法学 / law 300）

破産法 I

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倒産処理法の基本である破産法の基礎を理解する。
「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに配置される。

【到達目標】

清算型倒産手続の一般法である破産法の意義、破産手続の流れと全般的な仕組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況処理するための法律を総称して、一般的に倒産処理法あるいは倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再生型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これら倒産処理法の基本である破産法を扱うが、手続の側面と消費者破産を中心に説明する。破産手続における契約関係の処理といわゆる倒産実体法（取戻権、別除権、相殺権、否認権）については、破産法Ⅱで扱うため、破産法ⅠとⅡを連続して受講することを強く推奨する。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倒産の世界へようこそ	ガイダンス
第2回	裁判所で行われる倒産手続	裁判所で行われる倒産手続の概要を紹介する。
第3回	私的整理／倒産ADR	裁判所の外で行われる私的整理と倒産ADRについて扱う。
第4回	破産手続の基本的な流れ	チャート等を用いて、これから学ぶ破産手続の流れがどのように進むものなのかを解説する。
第5回	破産手続の開始(1)	破産能力、破産手続開始申立て、開始決定を扱う。
第6回	破産手続の開始(2)	各種保全処分を扱う。
第7回	破産管財人と破産財団	破産管財人、破産財団と取戻権を扱う。
第8回	破産債権、財団債権、債権の種類と優先順位	財団債権、破産債権その他の債権の種類と優先劣後関係を扱う。
第9回	破産債権の届出・調査・確定	破産債権の届出、調査、確定の方法とプロセスを扱う。

第10回	破産財団の管理・換価・	破産管財人が破産財団を管理・換価するための手法とプロセスを扱う。
第11回	配当	債権者に換価金を配当する方法とプロセスを扱う。
第12回	破産手続の終了	破産手続が終了する場面を扱う。
第13回	個人破産と免責	消費者についての破産手続開始申立て、同時廃止、自由財産、免責と復権等を扱う。
第14回	総括	第13回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法〔第2版〕』（有斐閣、2025年）
- ・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

- ・山本和彦『倒産処理法入門〔第6版〕』（有斐閣、2024年）
- ・山本和彦ほか『倒産法概説〔第2版補訂版〕』（弘文堂、2015年）
倒産判例について
- ・松下淳一＝菱田雄郷編『倒産判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2021年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on the procedure of Bankruptcy.

Students are expected to understand concepts of the law and the procedure of Bankruptcy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final examination 100%.

LAW300AB（法学 / law 300）

破産法Ⅱ

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倒産処理法の基本である破産法の基礎を理解する。
 「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

清算型倒産手続の一般法である破産法の意義、破産手続の流れと全般的な仕組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況を処理するための法律を総称して、一般的に倒産処理法あるいは倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再生型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これら倒産処理法の基本である破産法を扱うが、破産手続における法律関係・契約関係の処理といわゆる倒産実体法（取戻権、別除権、相殺権、否認権）を中心に説明する。手続に関する部分と消費者破産については、破産法Ⅰで扱うが、破産法ⅠとⅡは関連性が強く、破産法Ⅰで扱った内容に言及することが多い。破産法ⅠとⅡを連続して受講することを強く推奨する。破産法Ⅰを受講していない場合は、予めテキストを通読して自習しておくこと。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／破産手続の概観	ガイダンス。破産手続を概観し、破産法Ⅰを簡単に復習する。
第2回	破産財団をめぐる契約関係(1)	双方未履行双務契約を扱う。
第3回	破産財団をめぐる契約関係(2)	賃貸借契約を扱う。
第4回	破産財団をめぐる契約関係(3)	請負契約を扱う。
第5回	別除権(1)	別除権の意義と行使方法、破産手続における取扱いを扱う。
第6回	別除権(2)	担保権消滅請求許可制度を扱う。
第7回	相殺権(1)	相殺権の破産手続における行使方法と相殺が禁止される場面を扱う。
第8回	相殺権(2)	相殺権の破産手続における行使方法と相殺が禁止される場面を扱う。
第9回	否認権(1)	否認権の意義と種類、行使方法を扱う。

第10回	否認権(2)	否認権の意義と種類、行使方法の続きを扱う。
第11回	役員の責任追及	役員の責任追及について扱う。
第12回	最新判例の紹介	最新の判例を紹介する。
第13回	最新トピックの紹介	注目されているトピックを紹介する。
第14回	総括	第13回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法〔第2版〕』（有斐閣、2025年）
 ・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

・山本和彦『倒産処理法入門〔第6版〕』（有斐閣、2024年）
 ・山本和彦ほか『倒産法概説〔第2版補訂版〕』（弘文堂、2015年）
 倒産判例について
 ・松下淳一＝菱田雄郷『倒産判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2021年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on treatment of contracts, the rights of secured creditors, set-off, and avoidance under the Bankruptcy law.

Students are expected to understand concepts of the law and the procedure of Bankruptcy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final examination 100%.

LAW100AB（法学 / law 100）

刑法総論Ⅰ

佐藤 輝幸

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論Ⅰと刑法総論Ⅱが設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論Ⅰでは、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論Ⅱで学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。

開講時限の異なるクラスが別途設定されているので、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・刑法総論とは	授業の進め方、教材等の説明。刑法総論の意義
第2回	刑法の基本原則	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第3回	構成要件	構成要件の意義と機能・因果関係
第4回	違法性Ⅰ	刑法における違法の意義
第5回	違法性Ⅱ	緊急避難
第6回	違法性Ⅲ	正当防衛
第7回	違法性Ⅳ	その他の違法性阻却事由
第8回	責任Ⅰ	刑法における責任の意義・故意前半
第9回	責任Ⅱ	故意後半
第10回	責任Ⅲ	過失、責任能力
第11回	責任Ⅳ	その他責任要素
第12回	不作為犯論	不作為犯の意義と作為義務
第13回	未遂犯論	実行の着手、不能犯、中止犯
第14回	共犯	共犯の処罰根拠・教唆帮助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3時間程度でも復習しておくにより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくが良い。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（2023，有斐閣）及び

六法（小型のもので良い）

は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での抜き打ちの小テスト20%、期末試験80%の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、過年度のレポートや試験の質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できていると思っている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものである。それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。

分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the in-class test (20%) and term-end exam (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

刑法総論Ⅱ

佐藤 輝幸

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法総論の分野について、刑法総論Ⅰで学修したことを前提に、さらに踏み込んだ議論を学修する。重要判例や議論状況を正確に把握することで、具体的な問題や発展的な問題についても自ら解決の方向性を示す能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

刑法総論Ⅰで学修した基本的な考え方を前提に、重要判例を丹念に読むことで、基礎的な知識に肉付けを行うと共に、理論・実務における発展的な問題の考え方を身につける。具体的には、主に刑法総論に関する近時の重要判例を題材とし、先例や学説との関係でその意義と射程を正確に理解することで、刑法総論の各分野の知識を深めつつ、交錯領域等の問題について、その捉え方を具体的に学ぶことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式での実施を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	ガイダンス、刑法総論Ⅰの復習
第2回	構成要件論	早すぎた構成要件の実現
第3回	違法論・責任論（1）	質的過剰防衛・量的過剰防衛
第4回	違法論・責任論（2）	誤想防衛・誤想過剰防衛
第5回	違法論・責任論（3）	過失犯論
第6回	違法論・責任論（4）	原因において自由な行為を論じるにあたって
第7回	違法論・責任論（5）	原因において自由な行為を巡る諸学説
第8回	正犯共犯論（1）	刑法総論Ⅰの復習等
第9回	正犯共犯論（2）	正犯性
第10回	正犯共犯論（3）	共謀の射程・共犯からの離脱
第11回	正犯共犯論（4）	承継的共犯
第12回	正犯共犯論（5）	共犯と他領域の交錯
第13回	罪数論	法条競合・包括一罪・科刑上一罪・併合罪
第14回	さいごに	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習が求められる。特に刑法総論Ⅰで学んだ内容や、教員の事前に指定する判例について、事前に確認することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（有斐閣、2023）及び六法（小型のもので可）

は毎回参照できるようにすること。追加資料がある場合は適宜配布する。

【参考書】

基本書等については受講者に委ねるが、初回に多少の案内を行う。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験実施が難しい場合は期末レポート）で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義を受講している学生と、受講せずレジュメだけ見ていると思われる学生とでは、評価に大きな開きがある。レジュメは講義の補助資料であり、レジュメだけでは具体的な考え方は身につかないので、毎週講義を受講すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the advanced materials on the general elements of crime and the criminal defenses.

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson. The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

刑法総論Ⅰ

佐藤 輝幸

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H・N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論Ⅰと刑法総論Ⅱが設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論Ⅰでは、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論Ⅱで学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。

開講時限の異なるクラスが別途設定されているので、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・刑法総論とは	授業の進め方、教材等の説明。刑法総論の意義
第2回	刑法の基本原則	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第3回	構成要件	構成要件の意義と機能・因果関係
第4回	違法性Ⅰ	刑法における違法の意義
第5回	違法性Ⅱ	緊急避難
第6回	違法性Ⅲ	正当防衛
第7回	違法性Ⅳ	その他の違法性阻却事由
第8回	責任Ⅰ	刑法における責任の意義・故意前半
第9回	責任Ⅱ	故意後半
第10回	責任Ⅲ	過失、責任能力
第11回	責任Ⅳ	その他責任要素
第12回	不作為犯論	不作為犯の意義と作為義務
第13回	未遂犯論	実行の着手、不能犯、中止犯
第14回	共犯	共犯の処罰根拠・教唆帮助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3時間程度でも復習しておくにより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくが良い。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（2023，有斐閣）及び

六法（小型のもので良い）

は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での抜き打ちの小テスト20%、期末試験80%の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、過年度のレポートや試験の質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものであるため、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。

分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the in-class test (20%) and term-end exam (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

犯罪学

朝村 太一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪を防止するための施策（刑事政策）等を検討する前提として、①犯罪現象を分析するとともに（犯罪現象論）、②犯罪原因の解明を試みる（犯罪原因論）。

【到達目標】

日本における犯罪の情勢について、犯罪類型ごとの特徴を踏まえつつ、データを基礎に（但し、データの限界を踏まえて）、理解する（①）。

なぜ犯罪が生じるのかについて、生物学、心理学、社会学等を利用した分析手法を理解する（②）。

両者を総合して、防止すべき犯罪の実態を正確に把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

六法を使用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義で学ぶこと
第2回	犯罪現象論①	犯罪情勢の分析手法
第3回	犯罪現象論②	日本の犯罪情勢
第4回	犯罪現象論③	少年非行の情勢
第5回	犯罪現象論④	女性・高齢者による犯罪の情勢
第6回	犯罪現象論⑤	精神障害者による犯罪の情勢
第7回	犯罪現象論⑥	暴力団組織による犯罪の情勢
第8回	犯罪現象論⑦	ファミリー・バイオレンスの情勢
第9回	犯罪現象論⑧	薬物犯罪の情勢
第10回	犯罪原因論①	犯罪原因論の歴史の概観
第11回	犯罪原因論②	古典派犯罪学 犯罪生物学
第12回	犯罪原因論③	社会的アプローチ 社会過程アプローチ 緊張理論 葛藤理論 新しいアプローチ
第13回	総括・授業内試験	学んだことのまとめ 授業内試験
第14回	試験の講評	回答を受けたフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキスト・参考書や配布されるレジュメに目を通す（各回2時間程度）。

復習：各回末に紹介する参考文献を適宜参照しつつ、自分なりに講義内容を整理する（各回2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

法務省『令和7年版 犯罪白書』（冊子版のほか、法務省のホームページでも閲覧可能）。

【参考書】

ガイダンス及び各回末に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

第13回において行われる授業内試験（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

（本年度授業担当者変更のため）特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the basics of criminology. The first half of the class will focus on learning how to read statistics while the second half will introduce the mains theories and their evolution.

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson. The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

刑事政策

朝村 太一

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①刑罰と保安処分、②非行少年を含む犯罪者の処遇、③犯罪被害者の保護および支援に関する議論の概況を把握することによって、これらに関する諸問題について考えるに当たっての知的基盤を形成する。

【到達目標】

(1) ①刑罰と保安処分、②非行少年を含む犯罪者の処遇、③犯罪被害者の地位に関する基本的な諸問題について、立法の動向等を踏まえて、現在の議論の到達点を把握する。
(2) (1)を踏まえて、刑事政策分野の古典的な論点及び近時の問題について、具体的な知識に根ざした議論を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

必ず六法を持参すること。近時の法改正を受けて項番号等が大きく変わっている条文が一定数あるため、最新の六法を用意することを強く推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義で学ぶこと
第2回	刑罰と保安処分①	総説 刑罰目的論 犯罪化と非犯罪化
第3回	刑罰と保安処分②	死刑 自由刑
第4回	刑罰と保安処分③	財産刑 資格制限 保安処分
第5回	犯罪者の処遇①総説、 司法的処遇1	処遇とは ディヴァージョン 微罪処分 起訴猶予
第6回	犯罪者の処遇②司法 的処遇2、施設内処 遇1	刑の執行猶予 施設内処遇の流れ
第7回	犯罪者の処遇③施設 内処遇2	受刑者の法的地位 刑事施設の規律および秩序の維持
第8回	犯罪者の処遇④社会 内処遇	総説 仮釈放 保護観察
第9回	非行少年の処遇①	少年法の基本原理 少年法の適用年齢
第10回	非行少年の処遇②	少年手続の概要
第11回	犯罪被害者の地位①	刑事手続内における犯罪被害者の保護・支援
第12回	犯罪被害者の地位②	刑事手続外における犯罪被害者の保護・支援
第13回	総括・授業内試験	学んだことのまとめ 授業内試験

第14回 試験の講評

回答を受けたフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：教科書の該当部分及び配布されるレジュメを読む（各回2時間程度）。

復習：教科書や各回末に紹介する参考文献を適宜参照しつつ、自分なりに講義内容を整理する（各回2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

川出敏裕＝金光旭『刑事政策〔第3版〕』（成文堂、2023）

【参考書】

ガイダンス及び各回末に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

第13回において行われる授業内試験（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

比較の詳細な講義資料を配布するが、講義資料はそれ自体で完結するものではなく、口頭でのかみ砕いた説明や板書の内容を加筆することを前提としている。講義資料の情報量は、講義の情報量のせいぜい3割程度である。

関係機関が作成した動画を適宜活用することによって、検察官・刑事務官・保護観察官・家庭裁判所調査官などの刑事政策に関わる人々の活動を受講者が具体的に想像できるようにしながら進めていきたい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students will gain an overview of the debate on various issues in the field of criminal policy.

[Learning Objectives]

The goals of this course is to be able to discuss classic and recent issues in the field of criminal policy, based on specific knowledge.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継続して履修することを強く勧めます。

この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、都合により一部オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第2回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第3回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合・過半数代表者／労働法の法源

第4回	労働契約規制（1）	本体的権利義務／使用者の付随義務
第5回	労働契約規制（2）	労働者の付随義務
第6回	労働契約規制（3）	労働基準法上の規制／国際的労働契約
第7回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間
第8回	労働契約の終了（1）	合意解約と辞職／定年／解雇制限
第9回	労働契約の終了（2）	解雇権濫用法理
第10回	懲戒	懲戒処分の種類／根拠と限界
第11回	労働条件の決定（1）	労働契約・労使慣行／就業規則
第12回	労働条件の決定（2）	就業規則と労働契約法
第13回	労働条件の決定（3）	就業規則の不利益変更
第14回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〔予習〕（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。

〔復習〕（3時間程度）

- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所 2020年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』

三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間レポート、期末テストを、それぞれ実施します。

〔小テスト〕3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

〔中間レポート〕2割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

〔期末テスト〕5割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料については比較的评价が高かったので継続して利用します。中間レポートに対するフィードバックはより素早く行えるように準備します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

- ・労働基準法との連続履修を強く勧めます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

〔授業を受ける姿勢〕

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In this lecture, students learn about the framework of individual labor & employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-midterm exam(20%)

-final exam(50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、連続して受講することを強く推奨します。

この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働契約法の復習／労働基準法の全体像
第2回	賃金（1）	賃金総論／最低法賃金／賃金支払いの4原則
第3回	賃金（2）	賞与／退職金／休業手当

第4回	賃金（3）	賃金債権の確保／休業手当／解雇と賃金
第5回	労働時間（1）	労働時間の定義／休憩・休日
第6回	労働時間（2）	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第7回	労働時間（3）	弾力的労働時間制度／裁量労働制／労働時間法制の適用除外
第8回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第9回	人事制度（1）	配転／出向、転籍
第10回	人事制度（2）	昇進・降職／昇格・降格／人事考課
第11回	企業組織再編	合併／事業譲渡／企業分割
第12回	労災（1）	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険
第13回	労災（2）	過労死・過労自殺／労災民訴
第14回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習]（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
 - ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
 - ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
- [復習]（3時間程度）
- ・LMS上の小テストを解きましょう。
 - ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
 - ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
 - ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』

三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[期末テスト] 7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料についてはおおむね良好な評価を得ているので、引きつづき利用を継続します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

- ・労働法総論・労働契約法との連続履修を強く勧めます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-Final exam(70%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008年3月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月7日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、労働法とは？	講義内容や評価方法について 労働法の全体像について
第2回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第3回	労働関係のプレイヤールール	労働者について
第4回	労働関係のプレイヤールール	使用者について

第5回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第6回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第7回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について
第8回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第9回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第10回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第11回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第12回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第13回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第14回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【専門領域と研究業績】

- ＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
- ＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
- ＜主要研究業績＞

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
- （編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
- （分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
- （分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
- （分担執筆）「ニューレクチャー労働法〔第3版〕」（成文堂）
- （編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
- （分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）
- （分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）

【主な論文】

「派遣労働者の均等・均衡処遇—労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」(労働法律旬報2095+2096号、) 2026年)

「労働契約申込みなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」(労働法律旬報2078号、2025年)

「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報(2071+2072号、2025年)

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. A basic principles of labor law;
- 2. A Labor Contract Act;
- 3. A case law concerning the Labor Contract Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律3～4年（他学部他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月22日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守らせるための手段について 均等待遇原則、強制労働の禁止について
第2回	労働者の人権	

第3回	労働者のプライバシー	個人情報保護法の労働関係への適用と労働者のプライバシーの尊重について
第4回	賃金（1）	賃金の定義、最低賃金規制について
第5回	賃金（2）	賃金支払規制について
第6回	賃金（3）	休業手当、賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第7回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第8回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第9回	労働時間規制（3）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制の残りの論点について
第10回	フレキシブルな労働時間制度	労働時間制・フレックスタイム制について
第11回	みなし労働時間制について	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第12回	労働時間規制の適用場外について	労働基準法41条及び同法41条の2の例外について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

シラバスの内容を変更し、実務家の方による講演を実施することがあります。

【専門領域と研究業績】

- ＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
- ＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
- ＜主要研究業績＞

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
- （編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
- （分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
- （分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
- （分担執筆）「ニューレクチャー労働法〔第3版〕」（成文堂）
- （編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
- （分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）

(分担執筆)「労働者派遣と法」(日本評論社)

【主な論文】

「派遣労働者の均等・均衡処遇—労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」(労働法律旬報2095+2096号、2026年)

「労働契約申込みなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」(労働法律旬報2078号、2025年)

「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報(2071+2072号、2025年)

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. About a Labor Standards Act;
- 2. A case law concerning the Labor Standards Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

労働組合法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働組合法では、労働法のうち、集团的労働法に関する基礎的部分を扱います。労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。

この科目は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる

【到達目標】

- ①集团的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②集团的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働組合法総論	・労働組合法の意義/目的 ・憲法28条の規範的意義と法的効果 ・労働組合法上の労働者・使用者
第2回	公務労働と団結権保障	・憲法28条の効果 ・公務員法制
第3回	不当労働行為（1）	・行政救済の特徴 ・救済の名宛人
第4回	不当労働行為（2）	・不利益取扱い ・支配介入
第5回	団結権（1）	・労働組合の組織的類型 ・法内組合
第6回	団結権（2）	・ユニオン・ショップ協定 ・統制処分
第7回	団体行動権（1）	・団体行動の類型 ・団体行動の正当性（主体、目的）
第8回	団体行動権（2）	・団体行動の正当性（態様）

第9回	団体行動権（3）	・団体行動と賃金 ・使用者側の対抗手段 ・損害賠償責任
第10回	映像で学ぶ労働法	・期末テストに向けて ・映像で学ぶ労働法
第11回	団体交渉権（1）	・交渉類型 ・団体交渉の相手方、当事者 ・団交応諾義務
第12回	団体交渉権（2）	・誠実交渉義務 ・中立保持義務
第13回	労働協約（1）	・労働協約の規範的効力・債務的効力
第14回	労働協約（2）	・労働協約の不利益変更

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

〔予習〕（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおしましょう（オンライン授業時）。
- 〔復習〕（3時間程度）
- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどういうルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

三井正信『基本労働法III』（成文堂、2014年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

- ①藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル出版（2020年）
- ②西谷敏『労働組合法〔第3版〕』有斐閣（2012年）
- ③日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。

- ・〔小テスト〕3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・〔期末テスト〕7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

教材については好評でしたので継続します

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

- ・労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。また、労働法特論、社会政策論との並行履修を強くすすめます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識が必要です（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）。
- 〔授業を受ける姿勢〕
- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・六法／法令集は授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。
- ・授業中の感染症予防のため、マスク着用を推奨します（義務ではありません）。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers are less powerful than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor law is a field of law that prevents these difficulties and imposes various regulations so that people can live like human beings.

Labor Union Law deals with the basic part of labor law that relates to collective labor law. It is desirable for students to have taken General Labor Law, Labor Contract Law, and Labor Standards Law.

Learning Objectives

(1) Acquire basic knowledge of collective labor laws.

(2) To be able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with collective labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure achievement goal (1), and a final exam will be given to measure achievement goal (2).

[Quiz] 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

[Final exam] 70% (to determine whether students can explain the structure of labor law through explanatory questions and case study questions).

LAW300AB（法学 / law 300）

労働法特論

細川 良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域における基本的な制度の概要、およびそこで生じている法的な議論や紛争の論点がどのようなものであるかについて理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域における制度の詳細や、関連する政策についての歴史的な変遷、およびそこで生じている法的な議論における一般的・通説的な理解を把握し、基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようにする。
3. 授業の概要で示した法領域における制度、関連する政策をめぐって生じている法的な議論状況を整理し、関連する裁判例を理解し、事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認してください※

・本講義は、対面授業とします。

※状況によって、オンライン授業またはハイフレックス授業を併用する場合があります。オンライン授業またはハイフレックス授業となった場合は、ZoomまたはWebexを使用します。

・授業の進め方の説明に関しては、第1回の講義の中でガイダンスを実施します。シラバス執筆時点（2026年2月）では、第1回授業も対面でガイダンス&通常講義を実施することを考えていますが、状況により初回はオンデマンドでガイダンスの動画を配信する形に変更する可能性があります。学習支援システム「HOPPII」等を通じたお知らせで確認するようにしてください。

・授業計画に記されている予定は、あくまでも「予定」です。変更が生じることがあり得ることに留意してください。

・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める予定です。

・授業に関する質問等については、原則として、授業終了後に対応し、その場でフィードバックします。学習支援システムを通じた質問については、全てに対応できない場合や、複数の同趣旨の質問に対して、まとめて解答する場合があります。個別に確実に対応がほしい場合は、授業終了後の時間を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第2回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカタログについて学習する。
第3回	性差別の禁止（1）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第4回	性差別の禁止（2）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第5回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第6回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第7回	有期雇用労働者・パート労働者（1）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第8回	有期雇用労働者・パート労働者（2）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第9回	派遣労働者（1）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第10回	派遣労働者（2）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等について学習する。
第11回	高年齢者	高年齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第12回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。
第13回	外国人労働	外国人労働者の就労と関連する法制度、法政策について学習する。
第14回	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に教科書等で予習のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・授業時間中における進行速度などによっては、講義内容を補完するための動画を配信し、視聴してもらう場合があります。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）
- ※その他、労働法を学習するための基本的な文献については、初回の講義で解説します。また、各回の授業内容に関連する文献や論文等を適宜紹介したいと思います。

【成績評価の方法と基準】

試験（100点）

- ・期末試験として1回実施。択一式問題、説明問題、論述形式の問題（事例問題）を組み合わせで出題する予定です。変更がある場合には、授業時間中に説明します。
- ・単位認定の基準は、本講義において求められる最低限の到達目標がクリアできているか否かで判断します。そのうえで、成績評価の基準としては、講義内容の全体にわたっての理解度、およびより深い内容の理解ができているか（より高い到達目標に達しているか）によって振り分けられることになります。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。ただし、授業実施期間中でも指摘があれば（できる限りとはなりますが）対応していきたいとは考えていますので、遠慮なく要望等をお寄せください。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomないしWebexを利用可能な端末。
- ・レジュメ等はPDFデータで提供することを想定しているため、データを保存・表示可能な端末があることが望ましいです（履修者が常識的な範囲であれば、紙媒体でのレジュメ配布も想定しています）。

【その他の重要事項】

- ・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。
- ・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。

【実務経験のある教員による授業】

講義担当者は、厚生労働省所管のシンクタンク（独立行政法人 労働政策研究・研修機構）で研究員として勤務しており、労働政策立案に関する調査・研究および厚生労働省における委員会・検討会での報告、政策立案担当者に対するレクチャーなどに従事していました。本講義においても、こうした経験を生かして、法制度の立法および運用に関する背景や経緯についても解説したいと思います。

【Outline (in English)】**1. Course Outline**

The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

- 1. A law on non-regular workers;
- 2. The Law of the Labor Market;
- 3. A law on Employment of the Elderly;
- 4. A law on Employment of Persons with Disabilities.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Term-end examination: 100%

LAW300AB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅰ

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保障法総論及び福祉関係法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保障の総論や社会福祉は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。したがって、社会保障制度の理論的根拠としての総論をふまえて、個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法の定義、法体系などの総論的事項、および生活保護法と福祉法の概要を説明できるようになる。
2. 生活保護法と福祉法の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される公的扶助・社会福祉領域での基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。

・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月8日（火））で行います。

- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	社会保障法の概論	社会保障法学の射程、限界などに関して考察する。
第3回	社会保障法の法源等	社会保障法の定義・法体系・発展経緯を解説する。
第4回	生存権	生存権の意義・学説・判例について考察する。
第5回	生活保護法の概要	公的扶助の歴史、生活保護法の原理・原則、自立の意義について考える。
第6回	生活保護法における補足性の原理	補足性の原理の具体的内容、および関連判例を検討する。

第7回	生活保護法のその他の原理・原則等	世帯単位の原則ほか、被保護者の権利・義務について説明し、関連判例について考察する。
第8回	福祉関係法の概要	福祉の意義、福祉法制の発展経緯のほか、社会福祉基礎構造改革について説明する。
第9回	福祉関係法（障害者福祉）	障害者関連法の概要について解説する。
第10回	福祉関係法（高齢者福祉）	介護保険法など、高齢者福祉に関する法律について検討する。
第11回	福祉関係法（児童福祉）	児童福祉に関する法律について説明する。
第12回	福祉関係法（家庭福祉）	ひとり親世帯等の福祉に関する法律について説明する。
第13回	社会手当法	社会手当の概念、および子ども手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法の概要を説明する。
第14回	総合研究	社会保障法に関する近年の法的諸問題を取り上げて、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第20版）』（信山社、2026年4月刊行予定）
 - ・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）
- このほか、生活保護制度の行政実務の実態を理解するためには、柏木ハルコ作の『健康で文化的な最低限度の生活』のコミック各巻は、大いに参考となる。

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】

<専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）
<研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
<主要研究業績>

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法【第3版】」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）

【主な論文】

- 「派遣労働者の均等・均衡処遇ー労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」（労働法律旬報2095+2096号、2026年）
「労働契約申込みみなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」（労働法律旬報2078号、2025年）
「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」（労働法律旬報2071+2072号、2025年）

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Welfare Law.

The outline is as follows:

- 1. About Article 25 of the Constitution of Japan;
- 2. Japanese Public Assistance Act;
- 3. Welfare law for people with disabilities;
- 4. Elderly Welfare law;
- 5. Child Welfare Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Be able to explain the definition of social security law, general matters such as legal system, and outline of public assistance law and welfare law.
- B. You will be able to persuasively discuss your views on the legal issues of the Public Assistance Act and the Welfare Act.
- C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems in the field of public assistance and social welfare that are expected in the real world with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅱ

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保険法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保険は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。社会保険法に含まれる個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の概略について説明できるようになる。
2. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される社会保険法上の基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月23日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	医療保障（1）	医療関係法の法体系、医療受給権の特徴などについて説明する。
第3回	医療保障（2）	保険診療の仕組みを説明し、関連判例について考察する。
第4回	医療保障（3）	健康保険法の概要を説明し、関連判例について考察する。
第5回	医療保障（4）	国民健康保険法等の概要を説明し、関連判例について考察する。
第6回	年金保険（1）	年金法の法体系、概要、年金受給権の法構造、スライド制などについて説明する。

第7回	年金保険（2）	老齢年金と障害年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第8回	年金保険（3）	遺族年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第9回	年金保険（4）	年金分割制度等について説明する。
第10回	労災保険（1）	労災保険法の概要、同法で使用される諸概念について説明する。
第11回	労災保険（2）	業務災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第12回	労災保険（3）	通勤災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第13回	雇用保険（1）	求職者給付について説明し、関連判例を考察する。
第14回	雇用保険（2）	就職促進給付、教育訓練給付、雇用継続給付について説明し、関連判例を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・東京都産業労働局「働く人のための労働保険 社会保険」（<http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/sodan/siryo/index.html>）
- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第20版）』（信山社、2026年4月刊行予定）
- ・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

事前に社会保障法Ⅰを履修していることがのぞましい。

【専門領域と研究業績】

- ＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
- ＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
- ＜主要研究業績＞

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
- （編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
- （分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
- （分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
- （分担執筆）「ニューレクチャー労働法【第3版】」（成文堂）
- （編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
- （分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）
- （分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）

【主な論文】

- 「派遣労働者の均等・均衡処遇一労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」（労働法律旬報2095+2096号、2026年）
- 「労働契約申込みみなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」（労働法律旬報2078号、2025年）
- 「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報（2071+2072号、2025年）

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Insurance Law.

The outline is as follows:

- 1. Japanese Health Insurance Act;
- 2. Japanese Pension Insurance Law;
- 3. Japanese Unemployment Insurance Law.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. You will be able to explain the outline of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
- B. You will be able to persuasively discuss your own views on the legal issues of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
- C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems of social insurance law that are assumed in the real world with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

社会政策

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、働くことだけが人生ではありません。働くこと以外にも「人間らしい豊かな生活」を送るためのサポートが必要です。社会政策は、それらを実現するための政策体系です。

「社会政策」の講義では、講義上の「社会政策」領域のうち、労使関係論を主たる対象とします。現代的な問題を考えるための前提として、日米比較を行い、日本の雇用慣行の特徴と形成史を学びます。

法学学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目です。また、「文化・社会と法コース」において、履修することが望ましいとされている科目でもあります。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。

- ①社会政策の体系的・専門的な知識を身につける
- ②社会政策について自主的に学習し、多角的観点から問題を分析する能力を身につける。

【到達目標】

到達目標は次の2点です。

- ①労使関係論をめぐる問題について、専門的な知識を理解することができる。
- ②労使関係論の形成史を理解し、多角的な観点から問題を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書・参考書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書及び参考書で学習するよう指示することがあります。教科書に記載のない事項も取り扱いますので注意してください。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会政策とは何か	経済社会の変遷／社会政策論争
第2回	福祉国家（1）	福祉国家と社会保障の体系／公的扶助と生存権／社会保険と国民皆保険
第3回	福祉国家（2）	福祉国家の類型化／日本と福祉国家
第4回	労使関係の世界史	トレード・ユニオンの登場／放任の時代／二つの方向

第5回	アメリカの労使関係（1）	アメリカ労使関係の背景／19世紀の生産関係／19世紀の労働運動
第6回	アメリカの労使関係（2）	20世紀初頭の労使関係
第7回	アメリカの労使関係（3）	ニューディール政策の登場と展開
第8回	労使関係の日米比較	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用
第9回	日本の雇用と労働組合（1）	明治期から戦前の組合運動
第10回	日本の雇用と労働組合（2）	戦中・戦後の組合運動
第11回	日本の雇用と賃金（1）	明治期から戦前の賃金制度
第12回	日本の雇用と賃金（2）	戦中・戦後の賃金制度
第13回	日本の雇用と雇用保障（1）	戦前・戦後の採用と解雇
第14回	日本の雇用と雇用保障（2）	高度経済成長期における採用と解雇

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習時間は各1時間を、復習時間は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編著『よくわかる社会政策 [第3版]』（ミネルヴァ書房、2019年）

【参考書】

田中拓道『福祉政治史』ミネルヴァ書房（2021年）
野村達朗『アメリカ労働民衆の歴史』ミネルヴァ書房（2013年）
アンドルー・ゴードン『日本労使関係史1853-2010』岩波書店（2013年）
濱口桂一郎『賃金とは何か』朝日新書（2024年）
濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書（2021年）
濱口桂一郎・海老原嗣男『働き方改革の世界史』ちくま新書（2020年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを実施します。

[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

[期末テスト] 7割（語句選択式記述問題により、社会政策の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望を受けて教科書を採用しました。

【その他の重要事項】

[関連科目]

- ・労働法総論・労働契約法／労働基準法の2科目に関する素養があることを前提に授業をします。法律学科以外の学生は、必要に応じて自習してください。
- ・労働組合法と同時に履修することを強く推奨します。
- ・雇用・福祉政策とは連続性が高いため、併せて履修することを強く推奨します。
- ・社会保障法Ⅰ・Ⅱと併せて履修することを勧めます。

[授業を受ける姿勢]

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。
- ・必要に応じ、オンライン授業となる場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people live by being employed, working, and earning wages. However, working is not the only part of life. In addition to working, we need support to live a "rich and humane life. Social policy is a system of policies to realize these goals.

In the "Social Policy" course, the main subject is the theory of labor-management relations in the area of "social policy" in academia. As a prerequisite for considering contemporary issues, we will examine how employment practices in Japan and the U.S. have developed over the course of history.

Learning Objectives

The two goals of the course are as follows.

- (1) To understand the specialized knowledge of the issues surrounding labor-management relations theory.
- (2) To be able to understand the history of the formation of labor-management relations theory and analyze the issues from multiple perspectives.

Learning activities outside of classroom

Students are required to read the handouts and reference materials distributed in advance.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure the achievement goal (1), and a final exam will be given to measure the achievement goal (2).

Quiz: 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions will be used to measure the level of retention of basic knowledge)

Final exam] 70% (to assess whether students can explain the mechanism of social policy by means of explanatory questions and case study questions)

LAW300AB（法学 / law 300）

雇用・福祉政策

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、働くことだけが人生ではありません。働くこと以外にも「人間らしい豊かな生活」を送るためのサポートが必要です。社会政策は、それらを実現するための政策体系です。

「雇用・福祉政策」の講義では、講義上の「社会政策」領域のうち、過労死や同一労働同一賃金、少子高齢化社会への対応など、雇用と社会保障の交錯する現代的な問題を対象とします。各問題について、現状の制度を確認したのち、政策的な対応について検討・解説を行います。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目です。また、「文化・社会と法コース」において、履修することが望ましいとされている科目でもあります。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。

- ①社会政策の体系的・専門的な知識を身につける
- ②社会政策について自主的に学習し、多角的観点から問題を分析する能力を身につける

【到達目標】

到達目標は次の2点です。

- ①社会政策上の現代的問題について、専門的な知識を理解することができる。
- ②社会政策上の現代的問題を理解し、多角的な観点から問題を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書・参考書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書・参考書で学習するよう指示することがあります。教科書に記載がない事項も取り扱いますので注意してください。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会保障と労働	講義の進め方、評価方法説明／日本の雇用の復習／ワークフェアと労働中心主義
第2回	労働時間（1）	生活時間と労働時間／労働時間規制の歴史
第3回	労働時間（2）	日本の労働時間規制の原則と例外

第4回	労働時間（3）	長時間労働の背景と課題
第5回	非正規労働（1）	日本型雇用と非正規労働者／有期労働者の雇用保護
第6回	非正規労働（2）	同一労働・同一賃金の限界と課題
第7回	少子高齢化社会	少子高齢化と社会保障
第8回	高齢者（1）	年金制度の概要
第9回	高齢者（2）	年金制度の課題
第10回	高齢者（3）	介護保険
第11回	雇用平等（1）	雇用平等政策と賃金格差
第12回	雇用平等（2）	雇用平等とハラスメント
第13回	雇用平等（3）	雇用と家庭生活の両立
第14回	障害者	障害者と雇用・福祉政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習時間は各1時間を、復習時間は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編著『よくわかる社会政策 [第3版]』（ミネルヴァ書房、2019年）

【参考書】

藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル研究所（2020年）
濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書（2021年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを実施します。

[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

[期末テスト] 7割（語句選択式記述問題により、社会政策の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望を受けて新たに教科書を指定しました。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

- ・社会政策とは連続性が高いため、併せて履修することを勧めます。
- ・労働法特論、社会保障法I・IIと併せて履修すると、理解が深まります

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。
- ・状況に応じて、オンライン授業となる場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people live by being employed, working, and earning wages. However, working is not the only part of life. In addition to working, we need support to live a "rich and humane life. Social policy is a system of policies to realize these goals.

In the "Employment and Welfare Policy" course, we will focus on contemporary issues such as livelihood security for irregular workers and the intersection of employment and social security, among other "social policy" areas in academia. For each issue, the current system will be reviewed, and then policy responses will be discussed and explained.

Learning Objectives

The objectives of the course are as follows

- (1) To be able to understand the specialized knowledge of contemporary social policy issues.
- (2) To be able to understand contemporary social policy issues and analyze them from multiple perspectives.

Learning activities outside of classroom

Students are required to read the handouts and reference materials distributed in advance.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure achievement goal (1), and a final exam will be given to measure achievement goal (2).

Quiz: 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

Final exam] 70% (to determine whether students can explain the structure of labor law by means of explanatory questions and case study questions)

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法 I

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法 I では教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】

教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第3回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第4回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第5回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第6回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第7回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第8回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第9回	教育権一学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第10回	教育権一学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第11回	教育権一教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。

第12回	教育権一教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。
第13回	教育権一学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通して考察する。
第14回	教育権一学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法 2026年版』北樹出版、2026年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

・設題に対して、授業内容を踏まえたうえで論理的な解答ができていますか評価します。

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

・毎回の授業内容を踏まえたうえでの記述になっているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法Ⅱ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第2回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原則について
第3回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第4回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第5回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第6回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第7回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する

第8回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第9回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第10回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第11回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第12回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第13回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第14回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法 2026年版』北樹出版、2026年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

・設題に対して、授業内容を踏まえたうえで論理的な解答ができていますか評価します。

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

・毎回の授業内容を踏まえたうえでの記述になっているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

国際法基礎理論

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は主として国家間関係を規律する法である。この授業では、国際法の法源や主体といったいわゆる総論分野を中心に学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては、この科目は「国際社会と法」コースに最も強く関連するが、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも配置されている。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野についての科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国際法の総論分野を中心とする各事項（具体的には下記【授業計画】参照）について、国際社会の構造との関係を意識しながら理解し、概念や制度を説明できるようになること。同時に、国際法の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきか自ら考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について検討する。授業は、基本的に講義形式で進める。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム等で対応する。基本的に対面授業を予定しているが、一部、オンライン授業とすることもある。授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介
第2回	法源（1）	総説的検討、条約
第3回	法源（2）	国際慣習法、その他の法源
第4回	条約法（1）	条約の締結、効力
第5回	条約法（2）	条約の解釈、終了・運用停止
第6回	国際法と国内法の関係（1）	伝統的理論、国際法における国内法
第7回	国際法と国内法の関係（2）	国内法における国際法
第8回	国家	国家の成立と変動
第9回	国家管轄権	意義、適用基準、競合と調整
第10回	主権免除	裁判権免除、執行免除
第11回	国際法における個人	法主体性、国籍、外国人の地位、犯罪人引渡
第12回	領域	領域権原、領域紛争

第13回 国家責任（1） 国家責任法の機能、国家責任の発生要件

第14回 国家責任（2） 救済、追及

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲を予習すること。詳細は初回に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

北村朋史ほか編『国際法で世界がわかる新版』（岩波書店、2025年）。

【参考書】

・玉田大、水島朋則、山田卓平『国際法〔第2版〕』（有斐閣、2022年）。
 ・『国際条約集』（有斐閣）。
 ・森川幸一ほか編『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2021年）。
 その他は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験による（100％）。平常点を加味する場合は、初回授業にて説明する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえようになりたい。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料は学習支援システムを通じて配布する。

【その他の重要事項】

原則として、「国際法入門」で扱った内容を繰り返し説明することはない。「国際法入門」と合わせて履修することを強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course provides students with a basic understanding of public international law with reference to general topics including but not limited to: sources of law, law of treaties, relationship between international and municipal law, States and its territory, jurisdiction and immunity, and international responsibility of States.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria / Policy】 Grading is based on the term-end examination (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際空間法

森田 章夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国家領域以外の空間に関する国際法について学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては「国際社会と法コース」に最も強く関係する。同時に、この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも属している。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野について深める科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国家領域以外の空間に関わる国際法の規律を理解する。また、本分野における国際法上の諸制度の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら、進める。学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム等で対応する。

授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。近時、国際社会において重要な事件が多発しているため、臨機応変に対応する予定ではある。そのため、シラバスは、一応の進行予定と理解されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本分野を学ぶ意義、参考文献紹介
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的展開と全体像
第3回	海洋法（2）	海域の具体的制度（基線、内水、領海、国際海峡）
第4回	海洋法（3）	海域の具体的制度（排他的経済水域、大陸棚）
第5回	海洋法（4）	海域の具体的制度（公海、深海底）
第6回	海洋法（5）	海洋環境、海洋科学的調査
第7回	海洋法（6）	紛争解決
第8回	授業前半のまとめ	授業前半の復習・質疑応答
第9回	授業後半の総説	国家領域以外の空間（海洋を除く）の制度の概観
第10回	空域	領空、国際空域、航空犯罪等
第11回	宇宙（1）	宇宙空間の法的地位
第12回	宇宙（2）	宇宙活動に対する責任と管轄権等

第13回	国際化地域	南極等
第14回	授業全体のまとめ	授業全体についての復習・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上で指定された教材を予習すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

・『国際条約集』（有斐閣）。ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。
・中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良『国際法〔第5版〕』（有斐閣、2024年）
テキストの使用方法については初回授業で説明する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）。平常点（20％）。
成績評価方法・基準は、授業内で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に理解してもらえようようにしたい。受講生からの質問等には、丁寧に対応したい。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course provides students with a basic understanding of international law regulating areas and spaces other than territories attributed to States, such as the sea, air and outer space, and the Antarctic.
【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.
【Grading Criteria / Policy】 Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際安全保障法

森田 章夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における「力」の規制は、国際法にとって一貫して（しかし問題の諸相を変化させつつ）重要な課題であり続けている。この授業では、紛争の平和的解決および武力の規制に関わる国際法について学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては「国際社会と法コース」に最も強く関係する。同時に、この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも属している。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野について深める科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

紛争の平和的解決、国際社会の平和と安全の維持に関わる国際法について理解することが目標となる。同時に、本分野における国際法の歴史的展開と今日の実態を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えられるようになることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら、進める。近時、国際社会において重要な事件が多発しているため、臨機応変に対応する予定ではある。そのため、シラバスは、一応の進行予定と理解されたい。一定程度の予習を前提にし、その上で、理解を深めるために、「対話」ができればと考えている。そのため、受講生は単に座って授業を聞くだけでなく、積極的に関与することを期待する。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本分野を学ぶ意義、参考文献紹介
第2回	国際安全保障	国際安全保障の歴史的展開
第3回	集団安全保障	国連の集団安全保障体制等
第4回	武力行使禁止（1）	武力行使の制限・禁止
第5回	武力行使禁止（2）	武力不行使原則の射程
第6回	自衛権（1）	個別的自衛権
第7回	自衛権（2）	集団的自衛権
第8回	自衛権以外の武力行使正当化の主張	在外自国民保護、人道的干渉
第9回	国連平和維持活動（PKO）	PKOの意義と問題点、歴史的変遷
第10回	武力紛争法（1）	交戦法規

第11回	武力紛争法（2）	武力紛争非当事国の法的地位
第12回	紛争の平和的解決（1）	紛争の平和的解決概説
第13回	紛争の平和的解決（2）	国際裁判
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上の教材を予習すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

・『国際条約集』（有斐閣）。ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。

・中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良『国際法〔第5版〕』（有斐閣、2024年）

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）。平常点（20％）。
詳細な成績評価方法・基準は、授業内で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に理解してもらえようようにしたい。その上で、受講生からの質問等には、丁寧に対応していきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course explores the international law relating to the settlement of disputes, armed conflicts, and the threat and use of force.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria / Policy】 Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際組織法

森田 章夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際組織のうち政府間組織に関する法制度（国際（公）法分野）を中心に取り上げる。国際組織に関する法制度の基本的な考え方について学び、どのような特色があり、どのように機能しているかを理解する。この科目は「行政・公共政策と法コース」と「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

国際組織に関する法制度の基本構造（基本的考え方、法規範の原則と例外、手続や制度など）について基礎的な知識を修得する。

その上で、国際組織に関わる法的課題の実践について、関連条約や先例から基本的な判断枠組を理解して適切に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について、授業については原則として教員が解説を行う講義方式で実施し、関連する条約の条文や国際組織による文書、事例などを参照しながら基本構造について教員が解説する。各授業回の資料は、適宜、学習支援システム等によって配布することを予定している。

受講人数等に応じて、授業内の質疑によって学生の理解状況を確認しながら進める。フィードバックは原則として授業での解説に取り入れる形で行う。

近時、変動の大きな部分があるので、新しい情報を取り入れながら解説するため、シラバスの毎回の配当内容は、柔軟に変更があるものと理解されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	科目全体の内容、授業の進め方の説明
2	国際法と国際組織法	国際法体系の中での国際組織の位置付け
3	国際組織の萌芽	国際行政連合を中心とする国際組織の萌芽的形態
4	国際組織の発展	国際組織の歴史的な発展について（国際聯盟から国際連合へ）
5	国際組織の法的地位	国際組織設立条約と国際組織の法的地位
6	国際組織と加盟国	国際組織と加盟国との関係
7	国際組織の内部構造	国際組織の一般的な組織構造と意思決定手続
8	国連による集団安全保障（1）	国連による安全保障概論
9	国連による集団安全保障（2）	国連による集団安全保障の制度的構造
10	国連による集団安全保障（3）	国連による集団安全保障の事後の発展
11	国連による集団安全保障（4）	国連総会の役割
12	国連の平和維持活動	国連の事後の発展である平和維持活動

13	国際組織による個人の保護	難民保護、人権保障、公衆衛生等について国際組織が果たす役割と課題
14	国際組織の役割と課題	科目全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が、到達目標の達成に必要と考える内容の授業時間外の学習を行う必要がある。本科目の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし学習時間については個人差があることに留意が必要である。また期末試験のための復習などに重点的に配分することもできる。参考例としては、準備学習としては、教科書・参考書・参考資料の関連分野に目を通してわからない部分を把握する。復習としては、教科書、配布資料と自分で作成したノートを見直し整理する。

【テキスト（教科書）】

・『国際条約集』（有斐閣）。ここ数年のものであれば、最新年度版でなくとも構わない。

【参考書】

佐藤哲夫『国際組織法』有斐閣（2005年）
 他の国際法科目を受講している場合、そのテキスト等も活用すること。個別の参考資料については授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）、平常点（20％）により評価する。

期末試験の評価基準は、出題の意図を正しく捉えて、正確な知識に基づいて論理的に私見を述べているもの（単なる意見や感想は不可）を単位修得の水準として、論じている視点・論点の豊富さ、記述内容の正確さ、論拠の説得力、他の法制度との比較の巧みさなどにより加点する。

以上を基本的な評価方法・基準としたうえで、授業への能動的な参加（積極的な質問や的確な回答等）を加点要素とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を取り上げて、法規範の理解を深める内容にする予定である。大枠は、上記授業計画に従って行うが、受講者数、受講者の希望等に応じて調整する。また細かな知識の修得も重要であるが、基本的な考え方の修得を重視する。

【Outline (in English)】

This course serves as an introduction to fundamental principles governing the law of International Organizations (Inter-Governmental Organizations) for enrolled students.

The primary objective of this course is to provide students with a foundational understanding of international organizational law, enabling them to articulate and analyze contemporary issues in the field.

Students are expected to diligently complete assigned course-work following each class session. A minimum of four hours of study time per class is recommended.

Final grades will be determined based on the following criteria: mini-tests administered via the Learning Management System (20%), a comprehensive term-end examination or report (80%), and active participation in class discussions (additional points).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際刑事法

森田 章夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、国際法の一分野である国際刑事法の基本構造を理解し、国際刑事法に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。特に、主として国家間関係を規律する法である国際法体系において、個人がいかなる法的地位を有し得るかという点について、国際犯罪の処罰という観点から理解することを目指す。この科目は「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

- (1) 国際犯罪の基本的な類型について学び、その処罰の枠組みについて理解する。
- (2) ①国際的な側面を有する国内刑事法と国際法との関係について理解する。
国家管轄権の仕組みを理解し、海賊行為、国際テロリズム、その他の国際犯罪（例として薬物犯罪、金融犯罪）などの概要を確認し、これらの処罰の法的構造についても理解する。
②ニュルンベルク裁判から国際刑事裁判所（ICC）にいたる国際社会における個人の処罰の歴史を理解する。
その際、コア・クライムと称される国際社会における最も重大な犯罪（ジェノサイド、戦争犯罪、人道に対する犯罪、侵略犯罪）について概要を確認したうえで、国際的な刑事裁判所（ICTY, ICTR, ICC）の基本構造および活動について学ぶ。
- (3) 上記（1）、（2）をもとに、国際刑事法に関わる国際社会の今日の問題について考察し、自らの言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とするが、できるだけ、「対話」を通じて、理解を促進したい。
授業の具体的な進め方などに関する詳細は、初回の授業において説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介、成績評価に関する説明
第2回	国際刑事法とは何か	国際刑事法の発展・特色
第3回	国際犯罪の種類	国際犯罪の3類型
第4回	国家管轄権としての刑事管轄権（1）	立法管轄権と執行管轄権
第5回	国家管轄権としての刑事管轄権（2）	刑事管轄権の適用基準
第6回	国際刑事司法協力	犯罪人引渡制度の概要、意義
第7回	海賊行為	海賊行為の定義、処罰方式、海賊問題の現状
第8回	国際テロリズム（1）	テロリズムの定義、テロリズム防止関連諸条約の概要
第9回	国際テロリズム（2）	テロリズムの処罰方式の特徴、現代のテロリズムへの対処枠組み

第10回	国際社会における個人の処罰の歴史	戦間期、ニュルンベルク・東京裁判から国際刑事裁判所（ICC）設立まで
第11回	国際裁判所における個人の処罰（1）	旧ユーゴ国際刑事裁判所（ICTY）、ルワンダ国際刑事裁判所（ICTR）
第12回	国際裁判所における個人の処罰（2）	国際刑事裁判所（ICC）：設立経緯、対象犯罪、管轄権行使の要件など
第13回	国際裁判所における個人の処罰（3）	国際刑事裁判所（ICC（続き））：裁判例、ICCの課題など
第14回	試験、まとめと解説	全体の総括としての試験およびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：授業に関連する教科書部分や資料は十分に読んだうえで授業に臨む。
復習：各回の授業後に、講義内容についてノートを見つつ十分に復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、1回につき、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良『国際法〔第5版〕』（有斐閣、2024年）
- ・『国際条約集』（有斐閣）。ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（1回）（80％）。
平常点（20％）
詳細は初回の授業において説明する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関連する参考資料などを配布する予定であるが、受講者はノートを取り、講義内容についてその都度復習することが重要である。

【Outline (in English)】

Course outline:

The objective of this course is to understand the basic structure of International Criminal Law. Through this course, students will learn and understand the legal status of individuals in International Law which is the set of rules among nations.

Learning Objectives:

At the end of the course, students are expected to understand and explain the historical evolution of international crimes and international criminal tribunals, principle of individual criminal responsibility, and legal structure of punishment of individuals who are responsible for international crimes, such as genocide, war crimes, crime against humanity, international terrorism and piracy.

Learning activities outside classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend each two hours to understand the course content.

Grading Criteria:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 80%, quizzes and reaction papers: 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

国際経済法

猪瀬 貴道

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済活動のうち貿易および投資を規律する法制度（国際（公）法的分野）を取り上げる。国際経済活動を規律する法制度には、どのような特色があり、どのように機能しているか理解する。国際経済活動における法的課題について解決を考える。この科目は「企業・経営と法（商法中心）コース」と「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

貿易および投資を中心とする国際経済活動に関する法的規律の基本構造（基本的考え方（原理）および原則と例外）について基礎的な知識を修得する。

国際経済活動から生じる問題や紛争の処理の実際について、先例から基本的な判断枠組を理解して適切に説明ができる。具体的な例として「WTOの基本原則と例外の関係」「WTOにおける貿易救済措置」「投資条約に基づく投資家＝国家間紛争処理」「国際経済法と国家の規制権限」などについて関連条約の条文や事例などに基づいて適切に説明でき、その課題について指摘できる。

（発展的目標）国際経済法と「途上国の開発・発展」「人権の保障」「環境の保護」などを規律する法規範との調整方法について考えて適切な意見を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

貿易・投資・金融・商取引などの国際経済活動のうち、貿易分野の法的規律（世界貿易機関WTOを中心とする）および投資分野の法的規律（二国間投資条約BIT、自由貿易協定FTA、経済連携協定EPAおよび投資紛争解決国際センターICSID）について取り上げる。原則として講義方式で実施し、WTO協定などの関連する条約の条文および事例を参照しながら基本構造について教員が解説する。教科書を指定するが、授業計画は教科書の章立てとは若干異なるので、各授業回において参照箇所は適宜指示する。

受講人数等に応じて、授業における口頭質疑または授業後のリアクションペーパー・理解度チェックの小テスト（LMSを活用）によって理解状況を確認する。フィードバックは原則として授業での解説に取り入れる形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ／国際経済法の基本枠組	授業の進め方と注意事項をシラバスを参照しながら確認し、国際経済活動の範囲とその法的規制について整理して、その規律原理と規律対象を概説する。
2	世界貿易機関の歴史と機能	国際貿易を規律するWTOの組織と機能について、紛争解決を含めて概要と特徴を取り上げる。
3	WTOの基本原則その1（無差別原則）	WTOの基本原則である無差別原則について条文や事例を参照しながら解説する。

4	WTOの基本原則その2（自由化原則）	WTOの基本原則である自由化原則について条文や事例を参照しながら解説する。
5	WTOにおける例外	WTOの基本原則の例外として規定されるルールについてその内容や意義を整理する。
6	WTOにおける貿易救済措置	貿易救済措置として認められているセーフガード、アンチダンピング、補助金・相殺措置について概説する。
7	物品貿易以外の諸協定	農業貿易、サービス貿易、知的財産権関連についてのWTOの規律を概説する。
8	多数国間制度と地域経済統合、二国間制度	多角的自由貿易体制を原則とするWTOの限界、国際経済における地域主義の位置づけについて検討する。
9	国際投資の法制度	私人による国境を超える経済活動の一形態である外国直接投資の規律について概説する。
10	投資条約制度の基本枠組	投資条約による外国投資の規律の基本枠組について条文や事例を参照しながら整理する。
11	投資条約における紛争処理手続	投資家と国家との間の投資紛争の処理方法の概要と特徴を取り上げる。
12	国際経済法と他分野その1	国際経済法の規律原理と他分野（経済開発、環境保護、人権保障など）の間に生じる問題を関連事例とともに概説する。
13	国際経済法と他分野その2	国際経済法の規律原理と他分野（経済開発、環境保護、人権保障など）の間に生じる問題を関連事例とともに概説する。
14	国際経済法の課題（授業内試験実施の場合あり）	国際経済法の課題について考えるとともに講義全体のまとめを行う。レポート課題ではなく試験実施の場合、授業内試験（20分準備・60分試験・20分解説）を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が、到達目標の達成に必要と考える内容の授業時間外の学習を行う必要がある。準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、準備学習・復習時間のいずれかに重点を置く、期末レポート（または試験）に向けた学習に多めに配分するなど自由に配分することができる。準備学習の例は、教科書・参考書・参考資料の関連分野に目を通してわからない部分を把握する。復習の例は、教科書、配布資料と自分で作成したノートを見直し整理する。その他、授業において個別の課題を指示する場合がある。

【テキスト（教科書）】

小林友彦・飯野文・小寺智史・福永有夏『WTO・FTA法入門: グローバル経済のルールを学ぶ』〔第2版〕法律文化社（2020年）

【参考書】

中川淳司・清水章雄・平覚・間宮勇『国際経済法』〔第4版〕有斐閣（2026年）

柳赫秀（編集）『講義 国際経済法』東信堂（2018年）

小寺彰（編著）『国際投資協定』三省堂（2010年）

柳赫秀（編著）『国際経済紛争解決手続法』博英社（2023年）

松下満雄・中川淳司・清水章雄（編）『ケースブックWTO法』有斐閣（2009年）

小寺彰・中川淳司（編）『基本経済条約集』〔第2版〕有斐閣（2014年）

経済産業省通商政策局編『不正貿易報告書』（経済産業省 https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/tsusho_boeki/fukosei_boeki/report_2025/index.html）

その他の資料は授業の際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への能動的な参加・各授業回のリアクションペーパー・理解度チェックの小テスト（20～30％）、期末試験またはレポート課題（履修者数等を考慮して第5回授業までに決定する）（70～80％）により評価する。

期末試験の場合は、基本的知識の修得と上記の到達目標の達成度を確認する出題とする。レポート課題の場合の評価基準は、出題の意図を正しく捉えて、正確な知識に基づいて論理的に私見を述べているもの（単なる意見や感想は不可）を基本点として、論じている視点・論点の豊富さ、記述内容の正確さ、論拠の説得力、他の法制度との比較の巧みさなどにより加点し、文章の稚拙さ、余計な表現・表記や誤字・脱字などは減点する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を取り上げて、法規範の理解を深める内容にする予定である。基本的には、上記授業計画に則って行うが、受講者数、受講者の希望等に応じて調整する。また、本科目の対象分野はルール形成の途上にあることから知識だけではなく基本的な考え方の修得を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

LMS（学習支援システム）などを活用して関連資料について指示や課題管理を行うため、対応した情報機器（PC、タブレット等）および通信環境を準備する。

【Outline (in English)】

This course focuses on the international law (public international law) governing international economic activities, especially international trade, and investment. I will lecture on fundamental knowledge. We will discuss what the basic principles are and how they work. We consider solutions to legal issues in international economic activities. This course belongs to the "Corporate, Management, and Law (Commercial Law)" and "International Society and Law" courses.

Students will be expected to study preparation and review for 4 hours for each class meeting. Example of preparation: to read the relevant chapter(s) from the text. Example of review: review the textbook, handouts, and your notes.

The final grade will be calculated according to the following process, 2 or 3 times mini-tests (administered through the LMS) (20-30%), term-end report (or examination) (70-80%), and in-class contribution (comments on each class meeting, etc. Points-adding element).

LAW200AB（法学 / law 200）

日本法制史 I

坂井 大輔

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは、大日本帝国憲法の制定と憲法解釈学の展開である。今日の日本において施行されている様々な法、およびそれらを対象とする法学は、一朝一夕に出来上がったものでは決してなく、近代化の過程で漸進的に整備され、発展してきたものであることは、周知の事実であろう。本講義では、特に憲法について、その制定の経緯を振り返りながら、併せて過去の法学者達がどのような時代状況と直面しながら法解釈学を発展させてきたのかを検討する。

【到達目標】

- ①近代日本公法の成立過程を理解すること。
- ②今日の日本公法の在りかたについて歴史的な観点から説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1) 授業形態

本講義は原則対面で実施する。ただし、状況によりオンライン講義に切り替える可能性がある。

2) 授業の進め方

講義形式で進める。質問等には授業後または学習支援システムを通じて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	西洋近代憲法(1)	フランス1791年憲法
第2回	西洋近代憲法(2)	統一ドイツの成立
第3回	西洋近代憲法(3)	ドイツ国家学/国法学
第4回	憲法制定史(1)	明治維新
第5回	憲法制定史(2)	明治14年政変と憲法の起草
第6回	憲法学の誕生	穂積八束の留学
第7回	穂積八束の憲法学(1)	帰国直後の憲法論
第8回	穂積八束の憲法学(2)	民法典論争から国体論の確立まで
第9回	穂積八束の憲法学(3)	政体論・人権論
第10回	上杉・美濃部論争	当事者たちの経歴と主張内容
第11回	上杉慎吉の憲法学(1)	修業時代の上杉慎吉
第12回	上杉慎吉の憲法学(2)	大正以降の上杉慎吉
第13回	美濃部達吉の憲法学	「大正デモクラシー」の立役者？
第14回	筧克彦の憲法学	惟神道(かむながらのみち)と日本体操(やまとばたらき)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では、準備学習は要求しない。各回において参考文献を提示するため、受講者は復習としてそれらの著作に接することが求められる(4時間～)。期末試験は各回の復習を終えている前提で出題する。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。教科書は指定しない

【参考書】

授業内容に関わる書籍・論文を毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は初めての開講であるため、特にない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付には学習支援システム等を利用する予定である。各自授業中に閲覧できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

This lecture will examine the Constitution, reviewing the circumstances surrounding its enactment while also exploring how past legal scholars developed constitutional interpretation in response to the historical conditions they faced.

LAW200AB（法学 / law 200）

日本法制史 II

坂井 大輔

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代日本における民法および民法学の成立過程を概観する。初めにヨーロッパにおける近代民法の成立過程を紹介し、それが近代日本の私法秩序にどのように受容されていったのかを説明していく。

【到達目標】

- ①近代日本民法の成立過程を西洋法継受の側面から理解すること。
- ②今日の日本民法の在りかたについて歴史的な観点から説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1) 授業形態

本講義は原則対面で実施する。ただし、状況によりオンライン講義に切り替える可能性がある。

2) 授業の進め方

講義形式で進める。質問等には授業後または学習支援システムを通じて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	西欧近代における私法(1)	フランス民法典
第2回	西欧近代における私法(2)	ティボー・サヴィニー論争
第3回	西欧近代における私法(3)	ロマニステンとゲルマニステン
第4回	民法制定史	維新から旧民法制定まで
第5回	民法典論争・序論	論争の概要および性質
第6回	民法典論争と梅謙次郎	経歴と学説
第7回	民法典論争と穂積陳重	法典論と法律進化論
第8回	民法典論争と穂積八束(1)	財産法論
第9回	民法典論争と穂積八束(2)	家制論
第10回	末弘厳太郎の民法学(1)	アメリカ留学まで
第11回	末弘厳太郎の民法学(2)	判例研究と日本法理
第12回	平野義太郎の民法学(1)	ゲルマニステン研究とマルクス主義
第13回	平野義太郎の「転向」	戦時中の「大アジア主義」をめぐって
第14回	我妻栄と川島武宜	今日の民法学への影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では、準備学習は要求しない。各回において参考文献を提示するため、受講者は復習としてそれらの著作に接することが求められる（4時間〜）。期末試験は各回の復習を終えている前提で出題する。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。教科書は指定しない

【参考書】

授業内容に関わる書籍・論文を毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は初めての開講であるため、特にない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付には学習支援システム等を利用する予定である。各自授業中に閲覧できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of the development of civil law and civil jurisprudence in modern Japan. It begins by introducing the formation of modern civil code in Europe, then explains how it was incorporated into Japan's private law system.

LAW200AB（法学 / law 200）

ローマ法とヨーロッパ I

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：「ドイツ法制史 I」修得者は履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の法体系は、系統的な分類においていわゆる大陸法に属し、古代ローマに遡るヨーロッパ法の伝統を受け継いでいます。このことは、明治期の法典編纂過程において、主としてドイツやフランスの法を継受したことに起因しています。では、ヨーロッパ法の伝統とはどのようなもののでしょうか。

I では、古代ローマ、中世ヨーロッパにおける法や社会の歴史的な展開を概観することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。
 この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 歴史の観点から考察することを通じて、古代・中世ヨーロッパにおける法の形成・展開の過程およびその特徴を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 過去の人々が経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。
 質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	ヨーロッパ古代の法と社会（1）	都市国家としてのローマ市民法（1）
第3回	ヨーロッパ古代の法と社会（2）	都市国家としてのローマ市民法（2）
第4回	ヨーロッパ古代の法と社会（3）	地中海世界と法務官法
第5回	ヨーロッパ古代の法と社会（4）	ローマの覇権と勅法
第6回	ヨーロッパ古代の法と社会（5）	ビザンツ帝国の法
第7回	ヨーロッパ中世の法と社会（1）	王権と教皇権
第8回	ヨーロッパ中世の法と社会（2）	法の多元性
第9回	ヨーロッパ中世の法と社会（3）	学識法学（1）
第10回	ヨーロッパ中世の法と社会（4）	学識法学（2）

第11回	ヨーロッパ中世の法と社会（5）	契約
第12回	ヨーロッパ中世の法と社会（6）	所有の法
第13回	ヨーロッパ中世の法と社会（7）	民事訴訟のなりたち
第14回	まとめと試験	第13回までの総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。
 更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、ヨーロッパの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水野浩二・佐々木健・高友希子・田中実・松本尚子『西洋法制史（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2026年）。ISBN: 978-4-641-15149-9

【参考書】

山内進・屋敷二郎編著『よくわかる西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2025年）。
 U. ファルクほか編（小川浩三ほか監訳）『ヨーロッパ史のなかの裁判事例：ケースから学ぶ西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2014年）。
 小川浩三・松本尚子・宮坂渉編著『キーコンセプト法学史』（ミネルヴァ書房、2024年）。
 勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）。
 ピーター・スタイン（屋敷二郎監訳、関良徳・藤本幸二訳）『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2003年）。
 ウルリッヒ・マンテ（田中実・瀧澤栄治訳）『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房、2008年）。
 その他については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、クイズ（20％）、小レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもありますが、資料や図などを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of European Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of European legal history, from ancient Rome to middle age, 2) understand/ discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of European legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB（法学 / law 200）

ローマ法とヨーロッパⅡ

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：「ドイツ法制史Ⅱ」修得者は履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の法体系は、系統的な分類においていわゆる大陸法に属し、古代ローマに遡るヨーロッパ法の伝統を受け継いでいます。このことは、明治期の法典編纂過程において、主としてドイツやフランスの法を継受したことに起因しています。では、ヨーロッパ法の伝統とはどのようなものなのでしょうか。

Ⅱでは、近世、近・現代ヨーロッパにおける法や社会の歴史的な展開を概観することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 歴史の観点から考察することを通じて、近世・近現代ヨーロッパにおける法の形成・展開の過程およびその特徴を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 過去の人々が経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	ヨーロッパ近世の法と社会（1）	人文主義法学
第3回	ヨーロッパ近世の法と社会（2）	後期スコラ学
第4回	ヨーロッパ近世の法と社会（3）	自然法論
第5回	ヨーロッパ近世の法と社会（4）	現代的慣用（1）
第6回	ヨーロッパ近世の法と社会（5）	現代的慣用（2）
第7回	ヨーロッパ近世の法と社会（6）	啓蒙主義と法典編纂
第8回	ヨーロッパ近現代の法と社会（1）	近代法という概念、公法と私法
第9回	ヨーロッパ近現代の法と社会（2）	フランス民法典
第10回	ヨーロッパ近現代の法と社会（3）	歴史法学派とパンデクテン法学

第11回	ヨーロッパ近現代の法と社会（4）	ドイツ民法典
第12回	ヨーロッパ近現代の法と社会（5）	社会法、民事訴訟
第13回	ヨーロッパ近現代の法と社会（6）	ヴァイマルとナチスの法
第14回	まとめと試験	第13回までの総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、ヨーロッパの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水野浩二・佐々木健・高友希子・田中実・松本尚子『西洋法制史（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2026年）。ISBN: 978-4-641-15149-9

【参考書】

山内進・屋敷二郎編著『よくわかる西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2025年）。

U. ファルクほか編（小川浩三ほか監訳）『ヨーロッパ史のなかの裁判事例：ケースから学ぶ西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2014年）。小川浩三・松本尚子・宮坂渉編著『キーコンセプト法学史』（ミネルヴァ書房、2024年）。

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）。

ピーター・スタイン（屋敷二郎監訳・関良徳・藤本幸二訳）『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2003年）。

K.W. ネル（村上淳一訳）『ヨーロッパ法史入門：権利保護の歴史』（東京大学出版会、1999年）。

M. シュトライス（福岡安郁子訳）『ドイツ公法史入門』（勁草書房、2023年）。

その他については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、クイズ（20％）、小レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもありますが、資料や図などを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of European Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of European legal history, from early modern to 20th century, 2) understand/ discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of European legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB（法学 / law 200）

イギリス法制史 I

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していると思いますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、弁護士や裁判官は、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。

法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通じて外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

I では、イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、判例法、慣習法の世界を理解する。
- 2 コモン・ローとエクイティの歴史を学ぶことを通じて、正義の多様性とそのバランスについて理解・検討できるようになる。
- 3 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	イギリス法の基礎（1）	判例法主義
第3回	イギリス法の基礎（2）	コモン・ローとエクイティ
第4回	イギリス法の基礎（3）	法の支配と議会主権
第5回	初期ブリテン島の法と慣習／コモン・ローの諸起源	国王の裁判所、地域の慣習
第6回	コモン・ロー裁判所	王座裁判所、人民訴訟裁判所、財務府裁判所

第7回	コモン・ロー訴訟手続（1）	令状体系と訴訟方式：手続法が実体法に先んじた世界
第8回	コモン・ロー訴訟手続（2）	訴答と陪審
第9回	大法官府裁判所とエクイティ	コモン・ロー裁判所で救済されない事件への対応とその方法
第10回	国王評議会系列の裁判所	国王大権に基づく裁判所
第11回	カノン法と教会裁判所	教会法と世俗の法、ローマ教皇と国王
第12回	司法審査制度	上訴、誤審、再審理
第13回	法学教育と法曹養成	大学法学部と法曹学院
第14回	まとめと試験	第13回までの総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水野浩二・佐々木健・高友希子・田中実・松本尚子『西洋法制史（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2026年）。ISBN: 978-4-641-15149-9

【参考書】

山内進・屋敷二郎編著『よくわかる西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2025年）。

J.H. バイカー・葛西康徳編『コモン・ロー入門』（東京大学出版会、2025年）。

J.H. バイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第5版）第I部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2023年）。

戒能通弘・竹村和也『イギリス法入門（第2版）』（法律文化社、2025年）。

幡新大実『イギリスの司法制度』（東信堂、2009年）。

小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社、2011年）。

その他については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、クイズ（20％）、小レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもあると思いますが、資料や図などを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of English Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of English legal history, 2) understand/ discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of English legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB（法学 / law 200）

イギリス法制史Ⅱ

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していると思いますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、弁護士や裁判官は、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。

法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

Ⅱでは、個別の法分野における法の形成および発展の過程を、政治・経済・文化などの背景を踏まえて考察していきます。
この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 訴訟方式を利用した裁判の特徴を知り、手続法が実体法に先行する世界を理解する。
- 2 判例法の世界における法（ルール）の形成・発展のプロセスに加え、様々な法分野の重なりや、現代に至るまでの、あるいは現代とは異なる法の枠組みを理解する。
- 3 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本法を客観的に考察・検討することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。
質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要
第2回	契約法（1）	金銭債務訴訟と捺印契約訴訟、捺印証書による契約とよらない契約、合意
第3回	契約法（2）	特殊主張訴訟、約因
第4回	契約法（3）	意思理論、厳格責任、公平の理念
第5回	不法行為法（1）	侵害訴訟と特殊主張訴訟
第6回	不法行為法（2）	産業革命と事故の増加、訴訟方式の限界、注意義務、ネグリジェンス
第7回	不法行為法（3）	代位責任、日本民法典への影響

第8回	土地法（1）	封建制下の土地保有、土地の占有とコモン・ロー上の救済
第9回	土地法（2）	ユース・信託、継承財産設定
第10回	土地法（3）	土地制度改革
第11回	家族法（1）	婚姻、夫婦
第12回	家族法（2）	子、離婚
第13回	刑事法	自力救済、刑事訴追・審理、刑事法の発展
第14回	まとめと試験	第13回までの総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水野浩二・佐々木健・高友希子・田中実・松本尚子『西洋法制史（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2026年）。ISBN: 978-4-641-15149-9

【参考書】

山内進・屋敷二郎編著『よくわかる西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2025年）。

J.H. ベイカー・葛西康徳編『コモン・ロー入門』（東京大学出版会、2025年）。

J.H. ベイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第5版）第Ⅰ部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2023年）。

J.H. ベイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第5版）第Ⅱ部〔各論〕』（関西学院大学出版会、2024年）。

小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社、2011年）。

その他については、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50%）、クイズ（20%）、小レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることがあると思いますが、資料や図などを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of English Private Law: land law, contract law, tort law and family law.

Students will be able to 1) have basic knowledge of English legal history from case studies, 2) understand/ discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of English legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture.

Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB（法学 / law 200）

法社会学

北村 隆憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期集中/Intensive(Fall)
単位数：4単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

遠隔オンライン（正確にはオンデマンド方式）での授業の方法により実施します。ただし、1回目の授業は、ズームにより遠隔対面授業を行う予定。毎回、授業ビデオと関連書類をシステムにアップするので、テキスト（教科書）とともに、受講生は毎回それらを学習して、レポート課題を提出してもらうことになります。法社会学は、法規も含めて様々な法的な制度やメカニズムが、実際の社会・文化の中でどのように機能しているのかについて、経験科学的な方法を用いて研究する社会科学の一分野であり、「文化・社会と法コース」に属する。法社会学は他の実定法分野と異質な研究目標と研究方法を有するので、単に知識の提供にとどまらず、法に対する「見方」「考え方」の相違についての認識を持ってもらうことに、本講義の重要な目的の一つがある。今回は、エスノメソドロジーと会話分析という社会学のアプローチを使って、日常的コミュニケーションと法的場面における様々なコミュニケーションを検討する。

【到達目標】

法的場面における様々なコミュニケーションについて理解し、自分でも概要を分析できるようにする。法的コミュニケーションの特徴と機能について分析・理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、授業ビデオとスライド資料を利用しておこなう。必要な資料は授業前に配布する。また、授業の内容や課題や質問に対しては、個別にメールで対応して質疑や議論のフィードバックを行う。また、提出された課題については、そこでの問題点への対応を含めて次回の授業でフィードバックされるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	法的コミュニケーションと法社会学	法的コミュニケーションとは何か。法社会学的観点から理解する。
第2回	法的コミュニケーションの詳細	法的コミュニケーションのメカニズムについて学習する
第3回	日常的コミュニケーションと法的コミュニケーション	日常的コミュニケーションと法的コミュニケーションの諸特徴と応用
第4回	日常的コミュニケーションのメカニズム（順番交替）	順番交代と会話の関係について
第5回	日常的コミュニケーションのメカニズム（順番交替と行為連鎖）	行為連鎖のメカニズムについて。
第6回	行為連鎖について考える	順番交代のルールと行為連鎖のメカニズムの関係
第7回	修復のメカニズムとは何か	修復の秩序

第8回	修復のメカニズムと法的コミュニケーション	修復のメカニズムと法的コミュニケーション
第9回	陪審制度における法的コミュニケーション	司法への国民参加市民の司法参加について理解する
第10回	裁判員制度における法的コミュニケーション	陪審と裁判員ビデオの視聴と分析
第11回	優先性のメカニズムと法	優先性の秩序とは何か？
第12回	会話と優先性	優先性の秩序と法規範の関係
第13回	成員カテゴリーと法	成員カテゴリーとコミュニケーション
第14回	法における成員カテゴリーと結合活動	成員カテゴリーと結合活動の法的関連性
第15回	成員カテゴリーと適用規則	成員カテゴリー化装置の概要
第16回	成員カテゴリー化と法的コミュニケーション	成員カテゴリー化装置が法的コミュニケーションにどのような関連性を持つか
第17回	反対尋問におけるコミュニケーション	反対尋問のコミュニケーションの意義
第18回	反対尋問におけるコミュニケーションと会話の秩序	ケネディースミス・レイブ事件における反対尋問 ブラックの反対尋問のメカニズム
第19回	反対尋問の具体例と相互行為分析	日本における反対尋問コミュニケーションの実際
第20回	反対尋問と成員カテゴリー分析	日本の反対尋問教育について
第21回	市民の司法参加と評議のコミュニケーション	陪審評議のコミュニケーションと常識の利用
第22回	評議のコミュニケーションにおける常識	裁判員評議における常識の利用
第23回	常識とは何か？	実際の評議データから「常識」を発見する
第24回	評議における常識とは何か？	実際の評議データから「常識」を発見する：特にその相互行為的特徴を学習
第25回	学校型コミュニケーションの諸特徴	オウム説法のコミュニケーションと教育場面のコミュニケーションの比較
第26回	学校型コミュニケーションと法的コミュニケーション	教育場面のコミュニケーションと法的コミュニケーションの異同
第27回	評議における裁判官の発言	評議における裁判官のコントロールの技法
第28回	緊急通報電話と裁判外紛争処理	緊急通報電話の特徴と裁判外紛争処理についての学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のレジュメを復習する。授業の進捗に合わせてテキストの該当部分を読む。課題を行う本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村隆憲（2026年秋予定）『生ける秩序の法社会学：エスノメソドロジー・会話分析による「法と社会」』（新曜社）
ただし、教科書が2026年9月ごろに出版の予定であるので、授業開始時にまでに出版されていれば、購入しておくこと。出版が遅れる場合には、授業内で指示する。

【参考書】

授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】

評価は、毎回の課題レポート提出に対する評価に基づいて行う（100パーセント）。課題レポートは原則として授業日後1週間の締め切りを付す。2度を超えるレポート不提出の場合には、単位が与えられないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

授業ビデオの音声をより聞きやすいものとした。また、スライドをより見やすく理解しやすいものに改善した。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に参加できるためのPCと通信環境については受講生が責任をもって準備をしてください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The sociology of law, or "law and society" studies, is a research field in which to study how the law actually works in a variety of settings in our society by collecting and examining various kinds of data from social scientific perspectives. This year the class focuses particularly on how communications in law-related situations are conducted, including examinations in court, jury deliberations, lawyers' interviews/counseling with their clients, mediations and legal negotiations, and examines the data from the perspective of ethnomethodology and conversation analysis as a research method.

(Learning objectives)

The goal of this course is to enable students to understand and analyze interactions in legal situations on their own, to grasp the reality and problems of such interactions, and to gain a broader perspective on the law and the legal system as a result.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to thoroughly review the presented materials and assignments before and after class. Details will be given in class and in the materials to be uploaded.

(Grading criteria/ policy)

Grading will be based on the submission of appropriate answers to each assignment and the degree of proactive and active participation in each class.

LAW300AB (法学 / law 300)

英米法 I

中田 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米法 I では、英米法の基礎的な枠組みを理解することを目的として、英米法総論およびイギリスとアメリカの憲法を中心に学習します。総論では、英米における裁判所の成り立ちや司法制度、陪審制などの基本的事項を取り上げます。これらの学習を通じて、比較の視点から自国の法制度をより深く理解することを目指します。

【到達目標】

授業の到達目標に、以下の3点を掲げます。

1. 英米法の基本用語を理解する。
2. 基本用語が生まれる背景となった社会的、文化的背景を理解できるようにすること。
3. 英米法の法制度を理解した上で、日本法の問題点等を比較法的視点で考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1) 授業形態

本講義は原則として対面で実施しますが、数回、オンライン講義に切り替える場合があります。オンライン実施の際は、学習支援システム等を通じて事前に通知しますので、必ず確認してください。

2) 授業の進め方

各回の授業は、前回講義の簡単な復習（質問への回答）から始め、その後に当日の講義を行います。授業の最後には、必ず復習用のキーワードを提示します。講義後は、これらのキーワードを中心に復習を行ってください。

3) リアクション課題について

リアクション課題は、予告なしに実施します。受講者には、「正解」のない問いについて自ら考えることを求めます。

リアクション課題には、紙で提出するものと、学習支援システムを通じて提出するものの2種類があります。提出方法は授業内で指示し、原則として授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 英米法を学ぶ意義	授業の進め方、成績評価の方法等のガイダンスを行った後に、英米法で学ぶことの意義について考える。
第2回	コモン・ローとエクイティ	コモン・ローとエクイティについて、裁判所の歴史を学びます。
第3回	司法制度（1）	イギリスの裁判所とアメリカの裁判所について学びます。
第4回	司法制度（2）	法曹一元：裁判官やその役割を中心に学習します。
第5回	司法制度（3）	日本の裁判員制度と比較しながら、英米の陪審制について学びます。
第6回	イギリス憲法とBrexit	Brexitを通じたイギリス憲法体制の変更について学びます。
第7回	アメリカ憲法（1）	アメリカ憲法のはじまり（建国の歴史）について学びます。

第8回	アメリカ憲法（2）	司法審査権について学びます。
第9回	アメリカ憲法（3）	修正14条：平等保護条項について学びます。
第10回	アメリカ憲法（4）	修正14条：アファーマティブアクションについて学びます。
第11回	アメリカ憲法（5）	修正14条：デュープロセス条項と中絶問題について学びます。
第12回	アメリカ憲法（6）	修正14条：同性婚について学びます。
第13回	アメリカ憲法（7）	修正2条：銃社会アメリカについて学びます。
第14回	まとめと注目判例	今学期に学習したもののまとめと、今開廷期に注目すべき判例を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、キーワードを「復習ワード」として提示するので、それらを中心に復習してください。また、予めアップロードされている教材に目を通すようにしてください。

上記の復習及び予習の時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、初回レジュメに提示された参考書の中から、自分に合うものを用意することが望ましい。

【参考書】

E・アラン・ファーンズワース『アメリカ法への招待』（勁草書房・2014）

樋口範雄『はじめてのアメリカ法（補訂版）』（有斐閣・2013）

田中英夫（編）『BASIC 英米法辞典』（東京大学出版会・1993）

各単元ごとに、参考資料はその都度提示することにする。

【成績評価の方法と基準】

本講義は、以下の通りで、評価する。

リアクション課題 20%

定期試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

レジュメや講義の聞き取りやすさも評価してもらっていた。現状維持ではなく、よりわかりやすい授業を提供できるように今後も努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布には、学習支援システム等を利用する予定です。また、各回のレジュメ枚数が多いため、パソコンやタブレット等を利用した方で便利かもしれません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Common Law I introduces the general principles of the common law legal system and examines the constitutions of the UK and the US. Students learn about the court system, the judiciary, and the jury system, with a particular focus on the UK and the US. Through a comparative perspective, the course aims to deepen students' understanding of the Japanese legal system.

【Learning Objectives】

The learning objectives for this course are as follows:

1. To understand fundamental terminology in the common law.
2. To develop an understanding of the social and cultural contexts that gave rise to this fundamental terminology.
3. To acquire the ability to consider issues within Japanese law from a comparative perspective, based upon an understanding of the legal systems of common law countries.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students will be expected to review the key words which will be presented as 'review words' at the end of each session. They are also encouraged to read through the material uploaded beforehand. Students will be expected to spend at least four hours completing these tasks.

【Grading Criteria /Policy】

Your final grade in this class will be decided based on the following:

Reaction papers 20%

Term-end examination 80%

LAW300AB（法学 / law 300）

英米法Ⅱ

中田 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米法Ⅱでは、英米法諸国（主にアメリカおよびイギリス）における私法分野を対象として、契約法、不法行為法、財産法および信託法を中心に学習します。日本法との比較を通じて、自国の法制度をより深く理解することを目指します。

【到達目標】

授業の到達目標に、以下の3点を掲げます。

1. 英米法の基本用語を理解する。
2. 基本用語が生まれる背景となった社会的、文化的背景を理解できるようにすること。
3. 英米法の法制度を理解した上で、日本法の問題点等を比較法的視点で考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1) 授業形態

本講義は原則として対面で実施しますが、数回、オンライン講義に切り替える場合があります。オンライン実施の際は、学習支援システム等を通じて事前に通知しますので、必ず確認してください。

2) 授業の進め方

各回の授業は、前回講義の簡単な復習（質問への回答）から始め、その後に当日の講義を行います。授業の最後には、必ず復習用のキーワードを提示します。講義後は、これらのキーワードを中心に復習を行ってください。

3) リアクション課題について

リアクション課題は、予告なしに実施します。受講者には、「正解」のない問いについて自ら考えることを求めます。

リアクション課題には、紙で提出するものと、学習支援システムを通じて提出するものの2種類があります。提出方法は授業内で指示し、原則として授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 英米法の特徴	授業の進め方、成績評価の方法等のガイダンスを行った後に、英米法の特徴について学びます。
第2回	契約法（1）	英米のContractと日本の契約の違いについて考えます。
第3回	契約法（2）	契約の成立について学びます。
第4回	契約法（3）	Considerationとその例外について学びます。
第5回	契約法（4）	Hadley v. Baxendale判決を英語で読んでみよう！
第6回	不法行為法（1）	故意不法行為について学びます。
第7回	不法行為法（2）	過失不法行為について学びます。
第8回	不法行為法（3）	厳格責任について学びます。
第9回	不法行為法（4）	マクドナルド判決を英語で読んでみよう！
第10回	財産法（1）	財産権の基礎について学びます。
第11回	財産法（2）	取引法の基礎について学びます。

第12回	信託法（1）	信託に関する基礎知識を学びます。
第13回	信託法（2）	信託義務について学びます。
第14回	まとめと最新判例	今学期に学習したもののまとめと最新判例を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、キーワードを「復習ワード」として提示するので、それらを中心に復習してください。また、予めアップロードされている教材に目を通すようにしてください。

上記の復習及び予習の時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、初回レジュメに提示された参考書の中から、自分に合うものを用意することが望ましいです。

【参考書】

樋口範雄『はじめてのアメリカ法（補訂版）』（有斐閣・2013）
島田真琴『イギリス取引法入門』（慶応義塾大学出版会・2014）
田中英夫（編）『BASIC 英米法辞典』（東京大学出版会・1993）
各単元ごとに、参考資料はその都度提示することにする。

【成績評価の方法と基準】

本講義は、以下の通りで、評価する。

リアクション課題 20%

定期試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

レジュメや講義の聞き取りやすさも評価してもらっていた。現状維持ではなく、よりわかりやすい授業を提供できるように今後も努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布には、学習支援システム等を利用する予定です。また、各回のレジュメ枚数が多いため、パソコンやタブレット等を利用した方で便利かもしれません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Common Law II focuses on private law in the US and the UK, including contract law, tort law, property law, and trust law. Through comparison with Japanese law, the course aims to deepen students' understanding of the Japanese legal system.

【Learning Objectives】

The learning objectives for this course are as follows:

1. To understand fundamental terminology in the common law.
2. To develop an understanding of the social and cultural contexts that gave rise to this fundamental terminology.
3. To acquire the ability to consider issues within Japanese law from a comparative perspective, based upon an understanding of the legal systems of common law countries.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students will be expected to review the key words which will be presented as 'review words' at the end of each session. They are also encouraged to read through the material uploaded beforehand. Students will be expected to spend at least four hours completing these tasks.

【Grading Criteria /Policy】

Your final grade in this class will be decided based on the following:

Reaction papers 20%

Term-end examination 80%

LAW300AB（法学 / law 300）

アジア法Ⅰ

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。春学期のアジア法Ⅰでは、総論としてアジアの法制度の特質を概観した上で、東南アジアに属する各国の法制度を中心に上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第2回	総論（アジアの法制度）	アジアの法制度の特質 アジアの法制度を理解する上での留意点
第3回	フィリピンの法制度①	フィリピンの概観 フィリピンの歴史と法制度の変遷 現在のフィリピン憲法
第4回	フィリピンの法制度②	フィリピンの統治構造 フィリピンの人権
第5回	マレーシアの法制度①	マレーシアの概観 マレーシアの歴史と法制度の変遷 現在のマレーシア憲法
第6回	マレーシアの法制度②	マレーシアの統治構造 マレーシアの人権
第7回	シンガポールの法制度	シンガポールの概観 シンガポールの歴史と法制度の変遷 現在のシンガポール憲法
第8回	タイの法制度①	タイの概観 タイの歴史と法制度の変遷 現在のタイ憲法
第9回	タイの法制度②	タイの統治構造 タイの人権
第10回	インドネシアの法制度①	インドネシアの概観 インドネシアの歴史と法制度の変遷 現在のインドネシア憲法

第11回	インドネシアの法制度②	インドネシアの統治構造 インドネシアの人権
第12回	ベトナムの法制度	ベトナムの概観 ベトナムの歴史と法制度の変遷 現在のベトナム憲法
第13回	カンボジアの法制度	カンボジアの概観 カンボジアの歴史と法制度の変遷 現在のカンボジア憲法
第14回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

鮎谷正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）
稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）
松尾弘『発展するアジアの政治・経済・法―法は政治・経済のために何ができるか』（日本評論社、2016年）
鮎谷正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』（明石書店、2021年）
一般社団法人共同通信社編著『世界年鑑2026』（共同通信社、2026年）
知花いづみ・今泉慎也『現代フィリピンの法と政治―再民主化後30年の軌跡』（アジ研選書53、アジア経済研究所、2019年）
青木まき編『タイ 2019 年総選挙―軍事政権の統括と新政権の展望〔電子書籍 PDF 版〕』（情勢分析レポート 32、アジア経済研究所、2020年、https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn_Books/Josei/032.html、2026年2月1日閲覧）
鮎谷正訓編集代表・島田弦編著『インドネシア―民主化とグローバルゼーションへの挑戦』（アジア法整備支援叢書、旬報社、2020年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期末の授業内試験（教室レポート）（80％）及び平常点（20％）により、「到達目標」に掲げた「アジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちですので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the legal system in Asia and the legal system of each country belonging to Southeast Asia. At the end of the course, students are expected to understand the legal systems of Asian countries and regions, taking into account the factors (history, culture, etc.) behind them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300AB（法学 / law 300）

アジア法Ⅱ

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。秋学期のアジア法Ⅱでは、東アジアに属する各国・地域の法制度を中心に上げますが、南アジアに属するインドの法制度、さらにイスラム法も取り上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	インドの法制度①	インドの概観 インドの歴史と法制度の変遷 現在のインド憲法
第2回	インドの法制度②	インドの統治構造 インドの人権
第3回	イスラム法	イスラム法と聖典 イスラム法学と法学派 イスラム法の淵源
第4回	韓国の法制度①	韓国の概観 韓国の歴史と法制度の変遷 現在の韓国憲法
第5回	韓国の法制度②	韓国の統治構造 韓国の人権
第6回	北朝鮮の法制度	北朝鮮の概観 北朝鮮の歴史と法制度の変遷 現在の北朝鮮憲法
第7回	モンゴルの法制度	モンゴルの概観 モンゴルの歴史と法制度の変遷 現在のモンゴル憲法
第8回	中国の法制度①	中国の概観 中国の歴史と法制度の変遷 現在の中国憲法
第9回	中国の法制度②	中国の統治構造 中国の人権
第10回	香港の法制度	香港の概観 香港の歴史と法制度の変遷 現在の香港基本法

第11回	マカオの法制度	マカオの概観 マカオの歴史と法制度の変遷 現在のマカオ基本法
第12回	台湾の法制度①	台湾の概観 台湾の歴史と法制度の変遷 現在の台湾統治基本法
第13回	台湾の法制度②	台湾の統治構造 台湾の人権
第14回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）
 稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）
 松尾弘『発展するアジアの政治・経済・法—法は政治・経済のために何ができるか』（日本評論社、2016年）
 鮎京正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』（明石書店、2021年）
 一般社団法人共同通信社編著『世界年鑑2026』（共同通信社、2026年）
 孝忠延夫・浅野宜之『インドの憲法〔新版〕—「国民国家」の困難性と可能性』（関西大学出版部、2018年）
 大河原知樹・堀井聡江『イスラム法の「変容」—近代との邂逅』（イスラムを知る17、山川出版社、2015年）
 尹龍澤・青木清・大内憲昭・岡克彦・國分典子・中川敏宏・三村光弘編著『コリアの法と社会』（日本評論社、2020年）
 王雲海・周劍龍・周作彩編著『よくわかる中国法』（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ、ミネルヴァ書房、2021年）
 金永完『中国における「一国二制度」とその法的展開—香港・マカオ・台湾問題と中国の統合』（国際書院、2011年）
 蔡秀卿・王泰升編著『台湾法入門』（法律文化社、2016年）
 その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期末の授業内試験（教室レポート）（80％）及び平常点（20％）により、「到達目標」に掲げた「アジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちですので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the legal system of India, the Islamic law, and the legal system of each country and region belonging to East Asia. At the end of the course, students are expected to understand the legal systems of Asian countries and regions, taking into account the factors (history, culture, etc.) behind them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300AB（法学 / law 300）

社会安全政策論 I

久米 一郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪等の人の行為に起因する危険から個人や社会を守るためには、誰がどのような行動をとればよいのでしょうか。本講義では、現実社会で問題となっている各種の治安事象について説明しつつ、それに対する各方面からの取組を紹介します。講義や議論を通じて、犯罪の発生状況や犯罪対策について正確に理解するとともに、社会を担う一員として、社会の安全安心についての考え方を確立することを目指します。

【到達目標】

人は常に犯罪の危険にさらされています。よって、この講義により、犯罪リスク、逸脱行動への対処の仕方を学びます。
また、人は犯罪を抑止することができます。この講義を受けることで、皆さんが社会の構成員として担うべき役割、責務を学び、安全な社会を作るプレーヤーとしての能力を養うことを目指します。
その他、近年の我が国における治安情勢についての理解を深め、効果的かつ均衡のとれた政策の在り方について考察する素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

グラフや画像を活用した分かりやすい資料を講師が毎回作成し、配付します。
講義時に質問や意見を受け付けます。講義時間外でも可能ですが、その場合はメールを原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のテーマ、進め方、評価の仕方、警察組織の概要等
第2回	社会安全政策論①	社会安全政策論の定義、犯罪予防の理論等
第3回	社会安全政策論②	犯罪予防の取組等
第4回	ストーカー・DV・児童虐待	ストーカー・DV・児童虐待の現状と対策等
第5回	犯罪被害者等支援	犯罪被害者等が直面する困難、犯罪被害者等支援の現状と対策等
第6回	特別講義（外部講師を招聘）	警察活動の現場を知る
第7回	特別講義（外部講師を招聘）	警察捜査の現場を知る
第8回	特別講義（外部講師を招聘）	警察活動の現場を支える基盤整備
第9回	暴力団対策	暴力団の取締り及び排除活動の現状と対策等
第10回	匿名・流動型犯罪グループ対策	匿名・流動型犯罪グループの現状と対策等
第11回	薬物対策	薬物の基礎知識、薬物犯罪の現状と対策等
第12回	少年を取り巻く現状と課題	少年非行、少年保護等少年を取り巻く現状と課題等

第13回	テロ対策	国内外のテロ情勢及びテロ対策等
第14回	サイバー空間をめぐる脅威への対処	サイバー犯罪の現状と対策等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

治安事象に関する報道等に広く関心を持って下さい。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】

全体を通じて、警察政策学会編『社会安全政策論』立花書房（2018年）、警察白書、犯罪白書等を参考としてください。警察白書は警察庁ウェブサイト、犯罪白書は法務省ウェブサイトに掲載されていますので、購入せずとも見ることができます。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や課題提出状況（ミニレポート・数回程度）等を平常点として評価します。
また、学期末にレポートを提出してもらいます。
成績評価に当たっては、それぞれ50％を配分します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について概ね肯定的な評価をいただいたことから、新年度の授業についても、基本的な構成は踏襲しつつ、学生の関心に応えられるよう最新の情勢を反映するなど、さらなる改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

講義で使用する資料は、原則として事前に学習支援システムにアップロードしますので、可能な限り目を通しておいてください。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】

講師は警察庁職員であり、警察庁のほか、他省庁や都道府県警察でも勤務した経験があります。講師の知見を活かしつつ、現実社会に即した社会安全政策論について分かりやすく解説します。

【Outline (in English)】

This course, Theory on Social Security Policy, deals with policies for protecting the individual or society from dangers arising from people's behavior, mainly related to crimes. The course provides theoretical understanding of the dramatic improvement of the public safety situation in the recent years. The students can also get some keys to properly handle the risks or other challenges they might face in the future. This course ultimately aims to develop their ability to grasp and analyze various kinds of problems in society, and find out solutions.

(Learning Objectives)

People are always at risk of crime. Therefore, by this lecture, the students will learn how to deal with criminal risks and deviant behavior.

Also, one can deter crime. By taking this lecture, the students will learn the roles and responsibilities they should play as members of society to create safer society. In addition, the course will help the students to deepen the understanding of the security situation in Japan in recent years, and acquire the ability to consider an effective and balanced policy.

(Learning activities outside of classroom)

Please pay attention to media reports on security events.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

The learning situation and degree of participation in class is evaluated as normal points.

The students will also be asked to submit a report at the end of the semester.

50% will be allocated to each grade evaluation.

LAW200AB（法学 / law 200）

行政法入門Ⅰ

吉岡 郁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。しかしながら、市場及び国民生活に対する公的な介入としての行政のメカニズムに即して、行政法は独自の体系を構築している。

II 本講義は、行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅱとともに、行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。

III 行政法入門Ⅰにおいては、具体的には、行政法の基礎、行政組織法の基礎、行政活動（作用）法入門(前半)を取り扱う。全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

I 知識面

① 行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。

② 行政法の基礎的な理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要について、確実な知識を身に付ける。

③ 具体的には、次のものを取り扱う。

行政法の体系、法治主義と法の支配、行政法の基本原理、

行政組織法の基礎

行政行為

II 能力面

① 行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

② 解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的な文献を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・一般的な講義形式による(全面対面方式)。
- ・毎回出席を取る。また、授業中あるいは授業後に課題を出す。出席と課題への貢献度を平常点とする。
- ・受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。
- ・受講者は、予習をし、講義によって学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 行政法を導入 行政法を見てみよう1～4
第2回	行政法基礎	行政法の基本原理
第3回	行政組織法(1)	行政主体
第4回	行政組織法(2)	国・地方関係 公私協働

第5回	行政組織法(3)	行政機関 公務員・公物法
第6回	行政作用法(1)	行政行為の特徴、種類
第7回	行政作用法(2)	行政行為の効果
第8回	中間テスト	中間テストを行う
第9回	解説、行政裁量(1)	中間テストの解説 行政裁量とは
第10回	行政裁量(2)	行政裁量の事例
第11回	行政手続(1)	行政手続法概論
第12回	行政手続(2)	行政手続や関連法の仕組み
第13回	行政指導	行政指導とは
第14回	まとめ	授業を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを熟読すること。また、適宜、講義資料をアップするので、それも必要に応じて参照すること。さらに、わからない用語等があれば、法律学辞典等を調べること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials 〔第3版〕』（有斐閣、2025年2月）価格は2700円＋税）
* 最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版・第2版の使用は推奨しない。第1版・第2版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある。

【参考書】

高橋滋『行政法(第3版)』（弘文堂、2023年）3,500円

【成績評価の方法と基準】

- ・中間テスト(40%)、期末テスト(60%)の合計100%とする。中間試験は正誤問題、期末試験は正誤問題や文章問題とする。平常点も適宜加味する。
- ・学生に対するフィードバックは、講義時間内の課題の解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

PC・無線ルーターの準備については、大学方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law II, this lecture handles many materials about the administration. ① Introduction of administrative law. ② Theory of administrative organization and civil service. ③ Theories of administrative dispositions and guidance of administrative organization.

【Learning Objectives】Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

【Learning activities outside of classroom】

Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy】I. A mid-term examination (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a true/false question and a written question.

II. Regular grades will be calculated based on responses to assignments given during or after class and attendance.

LAW200AB（法学 / law 200）

行政法入門Ⅱ

吉岡 郁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅰとともに、全てのコースに置かれている。行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。

II 実定法、特に行政法の講義内容が抽象的なものとなりがちであることに留意し、行政法の複雑な仕組みを平易に説明した図・グラフ、重要判例の事案の理解に資する図・説明文、行政実務に用いられている文書等を多く用い、行政法全体の体系に関する基礎的な理解及び基礎知識が1年間4単位の講義を通じて修得できることを目指す。

III 具体的には、次の内容を取り扱う。

行政立法、行政計画、行政契約など
情報公開、個人情報保護
国家補償法入門、国家賠償、損失補償
行政訴訟法入門、行政訴訟

【到達目標】

I 知識面

①行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。

② 行政法の基礎的に理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要についても、確実な知識を身に付ける。

II 能力面

①行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

②解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的文獻を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・一般的な講義形式による(全面対面方式)。

・毎回出席を取る。また、授業中あるいは授業後に課題を出す。出席と課題への貢献度を平常点とする。

・受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。

・受講者は、予習をし、講義によって学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	行政立法	行政立法とは 法規命令と行政規則
第2回	行政計画、行政契約	行政計画とは 行政契約とは
第3回	行政上の実効性確保（1）	強制執行と即時強制

第4回	行政上の実効性確保（2） 行政調査	制裁 行政調査とは
第5回	情報公開法 個人情報保護法	行政情報と個人情報保護
第6回	中間テスト	中間テストを行う
第7回	解説 行政救済導入	中間テストの解説を行う 行政救済法の構造
第8回	行政不服審査	行政不服審査法
第9回	行政訴訟（1）	取消訴訟の訴訟要件
第10回	行政訴訟（2）	本案審理、判決 その他抗告訴訟
第11回	行政訴訟（3）	当事者訴訟 仮救済
第12回	国家補償（1）	国家補償の全体 国家賠償法1条導入
第13回	国家補償（2）	国家賠償法1条 国家賠償法2条
第14回	国家補償（3）	損失補償 国家補償の谷間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを予め熟読すること。また、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials 〔第3版〕』（有斐閣、2025年2月）価格は2700円＋税
* 最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版・第2版の使用は推奨しない。第1版・第2版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある。

【参考書】

高橋滋『行政法(第3版)』（弘文堂、2023年） 3,500円

【成績評価の方法と基準】

・中間テスト（40％）、期末テスト（60％）の合計とする。中間テストは正誤問題、期末テストは正誤問題や文章問題とする。平常点も適宜加味する。

・学生に対するフィードバックは、講義時間内の正誤問題への解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

PC及び無線ルーターの準備については、大学方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law I, this lecture handles many materials about the administration.

① Introduction to administrative operations (last half), ② Freedom of Administrative Information and Protection of Personal Data, ③ State Compensation, ④ Appeals, and Suits against Administration.

【Learning Objectives】Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

【Learning activities outside of classroom】

Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy】I. A mid-term examination (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a true/false question and a written question.

II. Regular grades will be calculated based on responses to assignments given during or after class and attendance.

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（英語）Ⅰ

森田 章夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広める土台となることを目的とする。

具体的には、英語で書かれた国際法の文献を読み、内容について議論する。

【到達目標】

英語で書かれた国際法文献の内容を正確に理解できるようになること。

その内容について議論ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

事前に配布する英文を受講生各自が予習して来た上で、授業当日は、全員で内容を確認し、正確に理解する。できる限り、当該英文で扱われたテーマについての議論の時間もとりたい。

基本的に対面授業を予定している。

なお、国際法を体系的に学んだことのない学生にも配慮して進める。法律学科以外の学生もちろん歓迎する。

受講生からの質問等に対しては、授業内のコメントによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画の説明
第2回	文献の輪読と討論 (1)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第3回	文献の輪読と討論 (2)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第4回	文献の輪読と討論 (3)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第5回	文献の輪読と討論 (4)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第6回	文献の輪読と討論 (5)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第7回	文献の輪読と討論 (6)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第8回	文献の輪読と討論 (7)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第9回	文献の輪読と討論 (8)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第10回	文献の輪読と討論 (9)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第11回	文献の輪読と討論 (10)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第12回	文献の輪読と討論 (11)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第13回	文献の輪読と討論 (12)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第14回	総括	理解度の確認と全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、英語文献を精読してくること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間であり、実際には各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

教員が準備し、学習支援システム等で配布する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）。予習、当日の質疑・討論への参加を総合的に評価する。

（想定以上に履修者数が多いなど、平常点での評価が難しい場合には、成績評価方法を変更することがある。変更する場合は、授業中に詳しく説明するとともに、学習支援システム上に掲示する。）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の自習方法について十分説明するようにしたい。

【Outline (in English)】

In this seminar, participants are expected to read and discuss on English literatures on international law.

Students are expected to read the assignment before each class.

Grading is based on the in-class contribution.

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（英語）Ⅱ

森田 章夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広める土台となることを目的とする。

具体的には、英語で書かれた国際法の文献を読み、内容について議論する。

【到達目標】

英語で書かれた国際法文献の内容を正確に理解できるようになること。

その内容について議論ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

事前に配布する英文を受講生各自が予習して来た上で、授業当日は、全員で内容を確認し、正確に理解する。できる限り、当該英文で扱われたテーマについての議論の時間もとりたい。受講生のレベルに合わせて、当日配布も検討する。

対面授業を予定している。

なお、国際法を体系的に学んだことのない学生にも配慮して進める。法律学科以外の学生ももちろん歓迎する。

受講生からの質問等に対しては、授業内のコメントによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画の説明
第2回	文献の輪読と討論 (1)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第3回	文献の輪読と討論 (2)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第4回	文献の輪読と討論 (3)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第5回	文献の輪読と討論 (4)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第6回	文献の輪読と討論 (5)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第7回	文献の輪読と討論 (6)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第8回	文献の輪読と討論 (7)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第9回	文献の輪読と討論 (8)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第10回	文献の輪読と討論 (9)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第11回	文献の輪読と討論 (10)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第12回	文献の輪読と討論 (11)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う
第13回	文献の輪読と討論 (12)	全員で文献の内容を確認し、討論を行う

第14回 総括

理解度の確認と全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、英語文献を精読してくる。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間であり、実際には各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

教員が、学習支援システム等により配布する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）。予習、当日の質疑・討論への参加を総合的に評価する。

（想定以上に履修者数が多いなど、平常点での評価が難しい場合には、成績評価方法を変更することがある。変更する場合は、授業中に詳しく説明するとともに、学習支援システム上に掲示する。）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の自習方法について十分説明するようにしたい。

【Outline (in English)】

In this seminar, participants are expected to read and discuss on English literatures on international law.

Students are expected to read the assignment before each class.

Grading is based on the in-class contribution.

LAW200AB（法学 / law 200）

国際法基礎理論

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は主として国家間関係を規律する法である。この授業では、国際法の法源や主体といったいわゆる総論分野を中心に学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては、この科目は「国際社会と法」コースに最も強く関連するが、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも配置されている。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野についての科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国際法の総論分野を中心とする各事項（具体的には下記【授業計画】参照）について、国際社会の構造との関係を意識しながら理解し、概念や制度を説明できるようになること。同時に、国際法の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきか自ら考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について検討する。授業は、基本的に講義形式で進める。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム等で対応する。基本的に対面授業を予定しているが、一部、オンライン授業とすることもある。授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介
第2回	法源（1）	総説的検討、条約
第3回	法源（2）	国際慣習法、その他の法源
第4回	条約法（1）	条約の締結、効力
第5回	条約法（2）	条約の解釈、終了・運用停止
第6回	国際法と国内法の関係（1）	伝統的理論、国際法における国内法
第7回	国際法と国内法の関係（2）	国内法における国際法
第8回	国家	国家の成立と変動
第9回	国家管轄権	意義、適用基準、競合と調整
第10回	主権免除	裁判権免除、執行免除
第11回	国際法における個人	法主体性、国籍、外国人の地位、犯罪人引渡
第12回	領域	領域権原、領域紛争

第13回 国家責任（1） 国家責任法の機能、国家責任の発生要件

第14回 国家責任（2） 救済、追及

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲を予習すること。詳細は初回に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

北村朋史ほか編『国際法で世界がわかる新版』（岩波書店、2025年）。

【参考書】

・玉田大、水島朋則、山田卓平『国際法〔第2版〕』（有斐閣、2022年）。
・『国際条約集』（有斐閣）。
・森川幸一ほか編『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2021年）。
その他は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験による（100％）。
平常点を加味する場合は、初回授業にて説明する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえようになりたい。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料は学習支援システムを通じて配布する。

【その他の重要事項】

原則として、「国際法入門」で扱った内容を繰り返し説明することはない。「国際法入門」と合わせて履修することを強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course provides students with a basic understanding of public international law with reference to general topics including but not limited to: sources of law, law of treaties, relationship between international and municipal law, States and its territory, jurisdiction and immunity, and international responsibility of States.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria / Policy】 Grading is based on the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

会社法

伊藤 雄司

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 単位数：4単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律3年A-G・法律2・4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、会社に関わる法制度を取り扱うものである。講義においては、基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う。

【到達目標】

株式会社においては、株主や会社債権者をはじめとする多くのステークホルダー（利害関係人）が存在しており、会社法はこれらのステークホルダーの利害調整を行う役割も果たしている。本講義では、会社法上の各種のルールが個々のステークホルダーの利益保護にとってどのような意義を有しているのかに着目しながら、会社法の基礎を学んでもらうことを目的としており、本講義を通じて、会社法の基本的な仕組みとその機能を理解することができることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行う。受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	会社法総論①	・会社法の歴史 ・会社法の基本構造
第2回	会社法総論②、会社法総則	・会社の意義 ・会社法総則
第3回	株式①	・株式の意義、内容
第4回	株式②	・種類株式
第5回	株式③	・株式の流通 ・株主の権利行使
第6回	機関総説	・機関の意義 ・機関設計
第7回	株主総会①	・株主総会の権限 ・株主総会の議事
第8回	株主総会②	・株主総会決議の瑕疵
第9回	役員の選解任	・役員の意義 ・役員の選解任
第10回	取締役・代表取締役、非取締役会設置会社	・取締役の地位、権限
第11回	取締役会	・取締役会の権限 ・取締役会決議の瑕疵
第12回	監査役・監査役会	・監査役・監査役会の権限
第13回	役員の責任	・会社に対する責任 ・第三者に対する責任 ・代表訴訟
第14回	監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	・監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社のシステム
第15回	春学期のまとめ	・第14回までの講義内容のまとめ

第16回	募集株式の発行等①	・新株発行規制の概要
第17回	募集株式の発行等②	・新株発行の瑕疵
第18回	新株予約権①	・新株予約権の意義 ・新株予約権の発行規制
第19回	新株予約権②	・新株予約権の機能 ・新株予約権発行の瑕疵
第20回	計算①	・計算書類の意義
第21回	計算②	・計算書類の確定
第22回	組織再編①	・組織再編概論
第23回	組織再編②	・組織再編の手続き
第24回	組織再編③	・利害関係者の保護
第25回	持分会社	・各種の持分会社
第26回	設立	・設立の意義、概要
第27回	社債	・社債の意義
第28回	秋学期まとめ	・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前にテキスト及び関連条文に目を通しておくこと。予習・復習に4時間程度を充てることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

神作裕之ほか『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021）

【参考書】

笠原武朗ほか『NBS会社法』（日本評論社、2021）

神田秀樹『会社法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(100%)によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture deals with the legal system related to companies. The objective of this lecture is to enable students to understand the basic structure of corporate law and the basic principles for coordinating the interests of parties related to companies. Students are expected to attend this lecture and devote 4 hours to self-study. Grading will be based solely on the results of a final examination.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

政治理論 I

杉田 敦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学基本科目群に属する科目である。「政治的な議論に用いられるさまざまな概念について、それぞれの意味の広がりを知ることにより、政治的な議論をより多角的にすることができる。この講義では、デモクラシー、自由、正義という、近代政治学において最も重要な三つの概念をめぐって、その歴史的な背景や理論的な対立軸などについて習得する。
 （なお、政治理論Iと政治理論IIは連続的なので、政治理論Iを先に受講することが望ましい。）

【到達目標】

この授業では、政治について考える際に必要な概念、たとえばデモクラシー、自由、権力などについて、その理論的な基礎を学ぶ。講義を通じて、それぞれの理論の歴史のおよび哲学的な背景にかなする知識を深め、政治を見る視点を養うものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面で実施するが、感染症の流行状況によっては、遠隔の動画による講義に切り替える。実施方法については、学習支援システムにおいて指示する。

講義の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、次の講義でそれを元に質問に答える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	政治理論とは何か	政治理論とは何か、政治学における経験的アプローチと規範的アプローチについて
第2回	デモクラシー（1）	古代ギリシアにおける起源
第3回	デモクラシー（2）	選挙法改正までの展開
第4回	デモクラシー（3）	大衆デモクラシー批判
第5回	デモクラシー（4）	エリート理論の展開（1）
第6回	デモクラシー（5）	エリート理論の展開（2）
第7回	デモクラシー（6）	現代デモクラシー論
第8回	デモクラシー（7）	ポピュリズムとデモクラシー
第9回	自由（1）	古代的な自由と近代的な自由
第10回	自由（2）	自由主義の成立（1）
第11回	自由（3）	自由主義の成立（2）
第12回	自由（4）	二つの自由概念
第13回	自由（5）	デモクラシーとリベラリズム
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次回講義に関連する部分について、参考書等に目を通し、不明な部分について調べておく。

復習：講義内容をさらに深めるための参考文献を可能な限り手に取り、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

川崎修・杉田敦編『現代政治理論・新版補訂版』（有斐閣）
 杉田敦・川崎修編『西洋政治思想資料集』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

期末に試験により評価する予定。

【学生の意見等からの気づき】

板書の方法等について考慮する。

【Outline (in English)】

This class belongs to the category of the history, thought, and theory. Studying on various concepts used in political discourses, you will have useful information for understanding politics. You will learn historical backgrounds and theoretical points about three important concepts, namely, democracy, liberty, and justice.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

政治理論Ⅱ

杉田 敦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学基本科目群に属する科目である。政治的な議論に用いられるさまざまな概念について、それぞれの意味の広がりを知ることにより、政治的な議論を突り多しものにする事ができる。この講義では、正義、公共性、権力という、近代政治学において最も重要な三つの概念をめぐって、その歴史的な背景や理論的な対立軸などについて習得する。

(なお、政治理論Ⅰと政治理論Ⅱは連続的なので、政治理論Ⅰを先に受講することが望ましい。)

【到達目標】

この授業では、政治について考える際に必要な概念、たとえばデモクラシー、自由、権力などについて、その理論的な基礎を学ぶ。講義を通じて、それぞれの理論の歴史のおよび哲学的な背景にかなする知識を深め、政治を見る視点を養うものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面で実施するが、感染症の流行状況によっては、動画による講義に切り替える。実施方法については、学習支援システムにおいて指示する。

講義の最後にリアクションペーパーを書いてもらい、次回の講義で、それに基づいて質問に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	正義（1）	共通善と功利主義
第2回	正義（2）	ロールズの正義論
第3回	正義（3）	ロールズ批判
第4回	正義（4）	グローバル正義論
第5回	正義（5）	正戦論
第6回	公共性（1）	市民社会論
第7回	公共性（2）	ハバーマスの公共性論
第8回	公共性（3）	アーレントの公共性論
第9回	ナショナリズム（1）	ネーションとナショナリズム
第10回	ナショナリズム（2）	ナショナリズムとポピュリズム
第11回	権力論（1）	フーコー以前の権力論
第12回	権力論（2）	フーコーの権力論-1
第13回	権力論（3）	フーコーの権力論-2
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次回の内容に関連した文献を調べ、不明な部分について調べておく。

復習：講義内容をさらに深めるための参考文献を可能な限り手に取り、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

川崎修・杉田敦編『現代政治理論・新版補訂版』（有斐閣アルマ）

杉田敦・川崎修編『西洋政治思想資料集』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する予定。ただし、感染症の状況によっては課題に切り替えることもありうる。詳細については、学習支援システムにおいて通知する。

【学生の意見等からの気づき】

板書のあり方などを配慮する。

【Outline (in English)】

This class belongs to the category of the history, thought, and theory. Studying on various concepts used in political discourses, you will have useful information for understanding politics. You will learn historical backgrounds and theoretical points about three important concepts, namely, justice, publicness, and power.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

政治体制論 I

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度や、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手が見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、今年度はさしあたり下記授業計画に示したようなかたちで、リベラル・デモクラシーとこれを脅かすものを検討することによって試みる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義の進め方・この講義における政治体制のとらえ方
第2回	フランシス・フクヤマ	『歴史のおわり』
第3回	フランシス・フクヤマ	『歴史のおわり』
第4回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第5回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第6回	アンソニー・ギデンズ	『第三の道』
第7回	アンソニー・ギデンズ	『第三の道』
第8回	春学期中間考察	前半の内容をふりかえる
第9回	サミュエル・ハンチントン	『文明の衝突』
第10回	サミュエル・ハンチントン	『文明の衝突』
第11回	スラヴォイ・シジェク	『ポストモダンの共産主義』
第12回	ヤニス・ファロファキス	『テクノ封建制』
第13回	ヤニス・ファロファキス	『テクノ封建制』
第14回	春学期総括考察	後半と全体の内容をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定ですが、授業計画（テーマと内容）に記した著者名の文献の多くは文庫本で読むことができます。履修者は極力、事前・事後にそれらの文献を読むように心がけてください。

【参考書】

参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

講義の実施形態や内容等に変更があった場合は、授業支援システムに記していきますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に閲覧するようにしてください。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die verschiedenen politischen Regime zu verschaffen.

English Keywords: comparing political regimes

POL200AC (政治学 / Politics 200)

比較政治論Ⅰ

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、欧米における近代国民国家の様々な発展パターンを民主主義と資本主義経済に焦点をあて、比較検討する。

【到達目標】

現代政治の諸問題を、歴史的空間比較の視座（比較歴史制度発展論）から、体系的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義方式によって行う。

二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、講義全般に関するまとめと質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	本講義の射程	比較とは何か、政治とは何かをテーマに本講義の目的と対象範囲を明らかにする。
第二回	権力と支配	権力とは何か、そして支配とは何かについて検討する。
第三回	近代国民国家	近代国民国家をモデル化し、英仏独米における国民国家形成を比較する。
第四回	政治体制：リベラルデモクラシー	近代における政治範型である自由民主主義についてモデル化する。
第五回	実証的デモクラシー論	現代デモクラシーの実証諸理論と各国の事例を比較検討する。
第六回	資本主義経済の発展：レッセ・フェール・夜警国家から帝国主義の時代へ	資本主義経済の発展とそれに呼応した国家機能の拡大を考察する。
第七回	左右イデオロギーの収斂	資本主義経済の批判理論である社会主義理論と擁護理論である自由主義、双方における変化（収斂）を考察する。
第八回	福祉国家パラダイム	国民国家、資本主義経済、階級政治の新たな枠組の誕生として福祉国家を検討する
第九回	福祉国家の多様性	福祉国家の多様性を類型論に基づいて紹介する。
第一〇回	福祉国家の経済体制	フォーディズム、ケイン主義、埋め込まれた自由主義について検討する。
第一一回	福祉国家の政治体制	階級闘争の民主化、民主的階級闘争がリベラル・デモクラシーの安定化をもたらしたことを論ずる。

第一二回 福祉国家と資本主義の多様性 福祉国家の多様性は、各国の資本主義経済システムの多様性と連動するものであることを明らかにする。

第一三回 福祉国家の影 福祉国家の負の側面として、管理社会化、国家部門の肥大を検討する。

第一四回 試験 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で教科書のどこを取り扱うかについては毎回事前に学習支援システムで通知するので、あらかじめ当該箇所を読んで、わからない言葉などは調べておくこと。講義後はノートを整理し、理解が不十分な点について調べ、不明な点は次回質問すること。教科書以外の資料を用いる場合は、教材としてアップロードする。

【テキスト（教科書）】

新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論Ⅱにおいても使用する。

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業内アンケートと筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内アンケートを数回程度行うほか、個別の面談も必要に応じて行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】

本講義は、内容的に秋学期の比較政治論Ⅱに連続している。

【Outline (in English)】

This course aims to compare various patterns of nation-state development, focusing on democracy and capitalism.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

比較政治論Ⅱ

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀後半以降、とりわけ福祉国家の危機、東西冷戦の終焉、グローバル化といわれる時代におきた政治経済の変化について、欧米を中心に検討する。

なお本講義は、比較政治論Ⅰと相互補完的内容となっているので、本講義の前にⅠを受講することが望ましい。

【到達目標】

本講義では、20世型国民国家パラダイムともいべき福祉国家が国際システム、資本主義経済、社会構造の変化に伴い有効性を失い、国民統合の手段として再分配に代わってイデオロギーが再び大きな役割を担うようになり、その結果暴力の爆発、ポピュリズムの台頭、格差の深刻化が生じていることを概念的理論的に理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義方式による。二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、全体に関するまとめのほか、それまでの提出物への講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	福祉国家の危機①	ケインズ主義に代わって経済学主流となったネオ・リベラリズムの政治的文脈を明らかにする。
第二回	福祉国家の危機②	ネオ・リベラリズム台頭の背景として、戦後の国際経済システム、「埋め込まれた自由主義」の崩壊を明らかにする。
第三回	福祉国家の危機③	豊かな社会のなかでの階級的求心力の低下と脱フォードイズムにおける労働の柔軟化について検討する。
第四回	新自由主義の現実	1980年代いち早く新自由主義政権が生まれた英サッチャー政権、米レーガン政権、日本中曽根政権を比較検討する。
第五回	グローバル化と格差社会	東西冷戦によって本格化したグローバル化の世界的影響力について検討する。
第六回	左の右旋回：「第三の道」、「新しい中道」	ネオ・リベラリズムの台頭に対する左の刷新（穏健化）について、英米独を中心に検討する。
第七回	危険社会論	個人化が進むなかで、階級社会論に代わって出てきた危険社会論のもつ射程と限界について検討する。
第八回	人口減少社会とジェンダー・ポリティクス	近代を超える新たな政治論として注目されるジェンダー論について検討する

第九回	文明の衝突	東西冷戦の終焉は、「文明の衝突」を招くというハンチントン・テーゼについて検討する
第十回	ポピュリスト・ナショナリズム：分断の政治	欧米における福祉ショービニズム、そしてポピュリスト・ナショナリズムの台頭を紹介する。
第一一回	リベラル・ナショナリズムと多文化主義	右翼ポピュリズムへの対抗基軸としての利部ある・ナショナリズムとその具体的展開として多文化主義を紹介する。
第一二回	パトリオティズム	ナショナリズムとは異なるパトリオティズムの可能性として、共和主義パトリオティズムと憲法パトリオティズムを紹介する。
第一三回	民主主義の可能性と市民社会の再生	民主主義の危機とその克服について、市民社会の再生をめざす運動から考える。
第一四回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で教科書のどこを取り扱うかについては毎回事前に学習支援システムで通知するので、あらかじめ当該箇所を読んで、わからない言葉などは調べておくこと。講義後はノートを整理し、理解が不十分な点について調べ、不明な点は次回質問すること。教科書以外の資料を用いる場合は、教材としてアップロードする。

【テキスト（教科書）】

新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論Ⅰにおいても用いる。教科書以外の資料は、教材として学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）
 新川敏光他『政治学』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業内アンケートと筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内で回数程度アンケートを実施するほか、必要に応じて個人面談を行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】

比較政治論ⅡはⅠを前提としているので、Ⅰを先に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course aims to clarify the transformation of the 20th century paradigm of political economy by examining the crisis of the welfare state, the end of the cold war, and globalization. Taking Comparative Politics I before II is highly recommended due to their complementarity.

LAW300AB（法学 / law 300）

保険法 I

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険法 I は、2010 年から施行された「保険法」のうち総則と損害保険契約を対象とするものです。保険は、リスク移転の仕組みであり、学生の皆さんも含め、ほとんどすべての人は何らかの形で保険によるリスク移転のメリットを受けていると言えます。この講義は、このように我々の日常生活に不可欠なリスク移転の仕組みに係る法律関係を対象とするもので、多くの学生の受講を歓迎します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、リスク移転の仕組みに係わる法律関係、すなわち各種の「保険に係る契約」＝保険契約の内容を正確に理解し習得することです。将来、保険の実務に従事する際の専門的知識のみならず、万が一火災等の不慮の事故に遭遇した場合の権利義務関係の処理に使える知識を習得することが狙いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行う。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期授業の全体的な説明および教科書等の説明など
第2回	保険制度	保険の仕組みなどの説明
第3回	保険契約と保険契約の当事者、関係者	保険契約の種類と各種の保険契約の特徴
第4回	損害保険契約の成立と効力（1）	損害保険の概念、保険事故、保険価額、保険金額
第5回	損害保険契約の成立と効力（2）	被保険者利益、告知義務
第6回	損害保険契約の成立と効力（3）	第三者のためにする損害保険契約
第7回	損害保険契約の成立と効力（4）	超過保険、保険価額の減少、危険の減少
第8回	損害保険契約に基づく保険給付（1）	損害防止義務と損害発生時の通知義務
第9回	損害保険契約に基づく保険給付（2）	保険者免責
第10回	損害保険契約に基づく保険給付（3）	支払保険金の算定
第11回	損害保険契約に基づく保険給付（4）	保険代位
第12回	損害保険契約に基づく保険給付（5）	責任保険契約と火災保険契約に基づく保険給付
第13回	損害保険契約の終了（1）	終了原因、保険契約者による任意解除
第14回	損害保険契約の終了（2）	危険増加による解除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、予習のうえ、毎週1回の講義に出席すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

潘阿憲『保険法概説〔第2版〕』（2018年、中央経済社）

【参考書】

山下友信＝竹濱修ほか著『保険法第5版』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100％）により、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This lecture is to study of Insurance Contract Law in Japan. The goals of this course are to understand how the insurance law works. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

保険法Ⅱ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険法Ⅱは、2010年から施行された「保険法」のうち、生命保険契約および傷害疾病損害保険契約を取り上げ、それぞれの保険契約の特徴と内容を正確に理解し習得することです。保険は、リスク移転の仕組みであり、学生の皆さんも含め、ほとんどすべての人は何らかの形で保険によるリスク移転のメリットを受けていると言えます。この講義は、このように我々の日常生活に不可欠なリスク移転の仕組みに係る法律関係を対象とするもので、多くの学生の受講を歓迎します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、リスク移転の仕組みに係わる法律関係、すなわち各種の「保険に係る契約」＝保険契約の内容を正確に理解し習得することです。将来、保険の実務に従事する際の専門的知識のみならず、万が一火災等の不慮の事故に遭遇した場合の権利義務関係の処理に使える知識を習得することが狙いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行う。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命保険契約の内容	生命保険契約の保険事故と保険金額
第2回	生命保険契約の成立と効力（1）	契約の成立と責任開始
第3回	生命保険契約の成立と効力（2）	告知義務制度の内容
第4回	生命保険契約の成立と効力（3）	第三者のためにする生命保険契約
第5回	生命保険契約に基づく保険給付（1）	保険者免責
第6回	生命保険契約に基づく保険給付（2）	生命保険契約上の権利の処分と差押え
第7回	生命保険契約に基づく保険給付（3）	特別受益の持ち戻し遺留分減殺
第8回	生命保険契約の終了（1）	・保険契約者による任意解除 ・危険増加による解除 ・重大事由解除
第9回	生命保険契約の終了（2）	・被保険者の解除請求に基づく解除
第10回	傷害疾病定額保険契約（1）	傷害疾病定額保険契約の概要
第11回	傷害疾病定額保険契約（2）	傷害保険契約の保険給付事由その1
第12回	傷害疾病定額保険契約（3）	傷害保険契約の保険給付事由その2
第13回	傷害疾病定額保険契約（4）	疾病保険の特徴とその内容

第14回 傷害疾病定額保険契約 契約前発病不担保条項とその問題点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、予習のうえ、毎週1回の講義に出席すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

潘阿憲『保険法概説〔第2版〕』（2018年、中央経済社）

【参考書】

山下友信＝竹濱修ほか著『保険法第5版』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100%）により、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This lecture is to study of Insurance Contract Law in Japan. The goals of this course are to understand how the insurance law works. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ジェンダー論 I

浅野 幸子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既存の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Ⅰでは、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。いわばジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来からの固定的な見方とは異なる形で再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そして、それがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、その要因はどのような政治的、社会的な事象と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2000年以降、5年ごとに策定されてきた「男女共同参画基本計画」をもとに様々な分野で推進されている政策を理解することによって、政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムをジェンダー平等にするための政策理念「ジェンダー主流化（Gender Mainstreaming）」概念を明確にします。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢。身近なくらしに埋め込まれたジェンダーに関わる社会通念についても考える。
第2回	ジェンダーとは？ ① ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	ジェンダーとは？ ② ジェンダーをめぐる最近の動向について考える	現在ジェンダーをめぐる課題が大きく取り上げられるようになっている。男性性をめぐる議論、多様性をどう考えるか、LGBTQやパートナーシップ制度等に関する法制度の整備も進んでいる。政策の動向についても考察する。また、各地の裁判所で出された判決についても言及する。
第4回	家族とジェンダー	未婚化、少子化が進んでいる。家族を形成する結婚や子育ての状況が変化している。歴史的な動向を説明すると主に現状の問題を考えるとともに、少子化に対応する子育て支援施策(異次元の少子化対策)についてジェンダーの視点から考える。
第5回	教育とジェンダー	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。教育の中に潜むジェンダー問題を明らかにする。「理系は男子が得意で女子は文系が得意」といった、内在しているアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）についても理解する。

第6回	労働とジェンダー①	「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。 女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることとなった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。	第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。 SDGs、GGGI等の国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし、その要因も考える。
第7回	労働とジェンダー②	男女ともに働きやすい職場環境を作るために「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいる。2022年に男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。男性が育児に関わることの意味と課題を考える。	第14回	授業内試験	持ち込み不可
第8回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
第9回	ジェンダーにもとづく暴力の根絶	性暴力、DVといったジェンダーに基づく暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力を根絶するためにはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。	【テキスト（教科書）】 毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。		
第10回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画度合いは国際的に見ても非常に低く、その拡大は現在の日本において大きな課題となっている。特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。2018年に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」についても言及する。併せて、戦後の女性主体の各種の社会運動の歴史と、それらが政策形成や女性の政治参画にもつながっていたことも紹介する。	【参考書】 ・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書 2023年） ・牧野百恵『ジェンダー格差』（中公新書 2023年） ・関口洋平『イクメンを疑え！』（集英社新書 2023年） ・神谷悠一『差別は思いやりでは解決しない』（集英社新書 2022年） ・男女共同参画基本計画（シラバス作成時点では5次計画が最新が、今年前半に策定予定の第6次計画を参照のこと） https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/index.html ・国立女性教育会館 学校教育における男女共同参画推進 https://www.nwec.go.jp/research/teacher.html ・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ） http://www.gender.go.jp/c-challenge/ ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進 http://www.jst.go.jp/diversity/index.html ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて http://www.cao.go.jp/wlb/index.html ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html ・NWEC実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」 https://www.nwec.go.jp/about/publish/2018/ecdat60000002jgc.html ・若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材 http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html ・内閣府男女共同参画局 災害対応のページ https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html		
第11回	災害とジェンダー	災害は平等に人を襲うわけではなく、ジェンダー、階級、人種などの要因により平時から不利な状況に置かれているひとは、被害が大きくなる傾向にある。ジェンダーは医療・福祉・保育の問題とも深く結びついている。防災対策上、ジェンダーは不可欠であることを、国内災害の実態と、政策動向などを通して理解する。	【成績評価の方法と基準】 内容ごとの課題レポートの提出（50%） 筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（50%）		
第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を中心に理解する。 さらにジェンダー平等に向けた法制度についても概観する。	【学生の意見等からの気づき】 本年度、授業担当者変更により、フィードバックできません。		
			【Outline (in English)】 Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. Course outline This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course. Learning Objectives The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena. Lecture/Exercise (two-credits) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading Criteria /Policies Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%		

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ジェンダー論 II

佐藤 信

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

現代日本を事例にジェンダーと政治の関係性を学ぶ。

【目的】

現代社会をよりよく生き抜くために基盤となるジェンダーの視角とジェンダーを取り巻く課題を理解する。

【到達目標】

- ・基礎的なジェンダーや関係する日本政治の知識を習得する
- ・さらに深い理解（他のジェンダー課題、政治・政策課題、理論化など）への基盤をつくる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。基本的に対面で行うが、オンデマンドで実施することがある。

出席は採らないが、課題のほか、学期中2-3回程度、レスポンス・ペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに(1)	ガイダンス＋gender/sexの基本
第2回	はじめに(2)	gender/sexと政治一視えていなかったところを埋める
第3回	日本の地域(1)	女性の不在？
第4回	日本の地域(2)	婦人会の系譜
第5回	日本の地域(3)	父兄会とPTA
第6回	日本の議会(1)	女性の不在？
第7回	日本の議会(2)	政治家の女性家族(1)
第8回	日本の議会(3)	政治家の女性家族(2)
第9回	日本の議会(4)	政治家を支えるその他の女性
第10回	日本の政党・支持団体(1)	女性の不在？＋政党婦人部
第11回	日本の政党・支持団体(2)	支持団体の婦人部（労働組合・宗教団体）
第12回	日本の政策(1)	天皇制・姓・働き方の戦前と戦後
第13回	日本の政策(2)	gender多様性と生殖技術の時代
第14回	おわりに	試験＋解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライドを利用した場合には著作権や個人情報に配慮したうえで授業後に一部を提供する。授業後にはよく咀嚼しておくこと。

講義はあくまで学習の端緒を用意するものに過ぎないから、授業で紹介された参考文献を読んだり、紹介された事例について調べたり、自ら学習を深めることが望まれる。

本授業の授業外学習は課題を除き2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

逐次指示するが、以下のものは全体を通して益する。

【参考書】

加藤秀一（2017）『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア

前田健太郎（2019）『女性のいない民主主義』岩波新書

牧野百恵（2023）『ジェンダー格差』中公新書

（課題に関するもの）

前田拓也ほか（編）（2016）『最強の社会調査入門』ナカニシヤ出版

佐藤信（編）（2025）『オーラル・ヒストリー入門』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

課題提出30%、期末試験70%。

ただし、単位の可否の判断に際して授業態度やコメントペーパーを反映する。

【課題の方法と基準】

授業中に課題に従って、授業外学習で実施して、電子ファイルでレポートを提出する。

労力と正確性と独創性を評価する。

生成AIの利用について基本的には全学の方針に従うが（自身での課題や計画の検討にあたって利用することは認める）、文章の校正・校閲においてのみ追加でその使用を認める。（生成AI利用の巧拙によって左右される能力は評価対象ではないということである。）

【試験の方法と基準】

対面で期末試験を実施し、その後解説を行う。ノートや資料の持ち込みは不可。

授業で提供した知識と思考力を正しく得られているかをチェックする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはない。

ただし、随時レスポンス・ペーパーによる変更を行うほか、授業内でも発言や質問を促すことがある。

【学生が準備すべき機器他】

スライドの提供や課題の提出には学習支援システムを利用する予定であるため、活用できる環境が必要となる。

【その他の重要事項】

質問は授業中を基本とする。

非常勤講師のためオフィスアワーはないので、授業外での問い合わせなどはメール（shinsato@tmu.ac.jp）で行うこと。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course explores the relationship between gender and politics focusing on postwar Japan.

【Learning Objectives】

Students will be able to gain the perspective on gender and understand the challenges surrounding gender.

【Learning Activities outside of Classroom】

An essay will be assigned. Preparatory study and review time for this class are two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on an essay (30%) and a final exam (70%).

LAW300AB（法学 / law 300）
知的財産法Ⅰ
武生 昌士
授業形式：講義 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである著作権法を一通り学ぶことを内容とする。著作権法は基本的には民法の特別法に位置付けられ、その意味ではやや応用的な科目ではあるものの、表現活動全般において問題となり得る法律であるため、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る身近な法律であり、その基礎的な理解を身に付けておくことは、受講生にとって将来的に公私両面にわたって意義を有するものといえる。

【到達目標】

著作権法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後著作権法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、著作権法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、著作権法が問題となる具体的な事例（紛争）について、著作権法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである著作権法について、文化の発展に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形で講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて随時受け付けるほか、授業前後に直接口頭でご質問いただいてももちろん構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末の試験（レポート）に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	著作権法総説・権利の客体(1)	著作権法の概要、著作物の定義（総説）
第3回	権利の客体(2)	著作物の定義（創作性要件など）
第4回	権利の客体(3)	著作物の具体例、特殊な問題など
第5回	権利の主体	著作者の認定、職務著作、映画の場合など
第6回	著作者人格権	公表権・氏名表示権・同一性保持権など

第7回	著作権(1)	各支分権について
第8回	著作権(2)	著作権の制限
第9回	著作権(3)	保護期間など
第10回	著作権に関する取引	著作権の譲渡、利用許諾など
第11回	著作隣接権	実演家の権利など
第12回	侵害と救済(1)	侵害成立のための要件（依拠性・類似性）、間接侵害など
第13回	侵害と救済(2)	民事的救済（差止め・損害賠償など）及び刑事罰など
第14回	まとめ	講義全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、著作権法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

島並良ほか『著作権法入門〔第4版〕』（有斐閣、2024）、田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法〔第4版〕』（有斐閣、2023）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023）など。
詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法などの科目を履修済みか、並行して履修することが望ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

著作権法と特許法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特徴をより深く理解することができるため、できれば秋学期の「知的財産法Ⅱ」を本講義に続けて受講してほしい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Copyright Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Copyright Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

知的財産法Ⅱ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである特許法を一通り学ぶことを内容とする。特許法は基本的には民法の特別法と位置付けられるほか、特許権の発生には特許庁という行政庁が関係することもあり、私法・公法両面にわたり学習を進めた者がそれらの理解を活かしてさらに進んで学ぶべき応用的な科目と位置付けることができる。特に「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき科目のひとつである。

【到達目標】

特許法について制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後特許法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養すること、また、そのことを通じて、法的なものの考え方や法制度設計の技法を習得することが目標である。より具体的には、第一に、特許法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、特許法が問題となる具体的な事例（紛争）について、特許法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである特許法について、産業の発達に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて受け付けるほか、授業の前後に口頭でご質問いただいても構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業の冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末試験に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	特許法の概要・権利の客体(1)	特許法の全体像、発明の定義（自然法則の利用要件）
第3回	権利の客体(2)・特許の要件(1)	発明の定義（その他の要件）、特許要件（新規性・進歩性）
第4回	特許の要件(2)	特許要件（先願・拡大先願など）
第5回	権利の主体(1)	発明者、特許を受ける権利、共同発明、冒認出願に対する救済など

第6回	権利の主体(2)	職務発明など
第7回	権利取得の手続	出願、出願公開、審査、補正など
第8回	審判・審決取消訴訟	各種審判及び審決取消訴訟の目的と概要
第9回	特許権(1)	特許権の内容・存続期間など
第10回	特許権(2)	特許権の制限、法定通常実施権など
第11回	特許権に関する取引	特許権の譲渡、専用実施権、通常実施権など
第12回	侵害と救済(1)	文言侵害・均等侵害・間接侵害など
第13回	侵害と救済(2)	抗弁事由、民事的救済など
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、特許法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『特許法〔第5版〕』（弘文堂、2023）、島並良ほか『特許法入門〔第2版〕』（有斐閣、2021）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法、行政法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

特許法と著作権法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特徴をより深く学習することができるため、できれば春学期の「知的財産法Ⅰ」と連続で受講してほしい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Patent Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Patent Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

日本政治論 I

藤田 直央

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私は朝日新聞編集委員で、日本の政治や外交・安全保障を担当しています。今の動きを追いつつ、戦後史を新たに見つけた文書から見つめ直す記事も書いています。皆さんは日本の外交・安全保障について、これまでに学んだことと現実のギャップに戸惑うことが多いと思います。そのギャップを埋めるような記事を書いてきた私が、取材の体験や時事問題の解説を交えて講義します。日本の政治と深く関わる外交・安全保障のリアルについて、皆さんが理解を深め、社会人として向き合う素養が培われることを目指します。

【到達目標】

戦後日本の外交・安全保障をめぐる主な出来事を、歴代首相の判断に関わる文書も教材としながら見つめ直すことで、現在の課題や望ましいあり方について考えを深められるようになる。（前提となる国内政治については、春学期の日本政治論Ⅱで講義する）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業前に課題資料を読み、講義・質問、授業後のリアクションペーパー提出というサイクルで進めます。授業の初めに前回のリアクションペーパーをいくつか取り上げてフィードバックします。期末レポートあり。受講者がそれほど多くなければ講義日程を調整し、一回分で築地の朝日新聞社を見学します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「戦後最も厳しく複雑な安全保障環境」（高市首相）とは。トランプ再来でさらに混迷。講義の進め方も説明
2	主権回復と日米安保条約 1952年・吉田内閣	敗戦後の占領下で長期政権を担った吉田茂首相の外交
3	日ソ国交回復 1956年・鳩山内閣	冷戦下で米側についた日本がソ連と交渉。北方領土問題の原点
4	日米安保条約改定 1960年・岸内閣	今の日本の安全保障の根幹である日米安保体制の確立と火種
5	沖縄返還 1972年・佐藤内閣	主権回復時に米軍の戦略拠点として切り離された沖縄返還交渉と密約
6	日中国交正常化 1972年・田中内閣	冷戦下での米中接近を受け急転。台湾問題はどうなったのか
7	日米経済摩擦 1980年代・中曽根内閣	日本の繊維輸出から始まった摩擦は「経済のコメ」半導体へ
8	湾岸危機 1990年・海部内閣	冷戦終結直後のイラクのクウェート侵攻。米国から自衛隊派遣を求められ…
9	天皇訪中 1992年・宮沢内閣	国交正常化20年で史上初の日皇訪中に自民党内から反発

10	日朝首脳会談 2002年・小泉内閣	国交正常化へ初。拉致・核・ミサイルすべて打開できず
11	米軍普天間飛行場移設問題 2009～10年・鳩山内閣	民主党政権への交代で「最低でも県外」めぐる混迷
12	尖閣諸島国有化問題 2012年・野田内閣	「棚上げ」したはずの問題で国交回復後最悪の日中関係に
13	日米同盟の抑止力 安倍内閣～現在	「核の傘」を頂点とする米国の軍事力との連携で中国を抑止できるか。新たな国家安全保障戦略はどうなる。
14	総括	講義改善のため反省会を兼ねて。期末レポートはこの日24日締め切り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として毎回の講義に向け読み込んでおくべき課題資料を示します。ほかにおすすめとして、日本の外交・安全保障が直面する現実と、それに政府がどう対応しようとしているのかについて、新聞記事（ネット可）を読んで把握しておくこと。

【テキスト（教科書）】

極秘文書が明かす戦後日本外交（藤田直央、朝日新聞出版、2025年、2420円）

【参考書】

戦後日本外交史（五百旗頭真、有斐閣、2014年、2200円）
 徹底検証 沖縄密約（藤田直央、朝日新聞出版、2023年、1650円）

エスカレーション 北朝鮮VS.安保理 四半世紀の攻防（藤田直央、岩波書店、2017年、1980円）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとのリアクションペーパー（出席確認を兼ねその場で）60%、期末レポート40%。期末レポートでは生成AIの利用を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーをその後の講義に生かします。最後の講義では、受講者の意見をもとに講義全体の反省会もします。

【Outline (in English)】

I am an editorial writer for the Asahi Shimbun, one of the Japanese leading newspapers, and have been covering Japanese politics, diplomacy, and security. While tracking current developments, I also write articles reexamining postwar history through newly discovered documents. I imagine many of you often feel perplexed by the gap between what you've learned about Japan's foreign policy and security, and the reality. Drawing on my experience writing articles that bridge that gap, I will lecture, incorporating my reporting experiences and explanations of current affairs. My goal is for you to deepen your understanding of the realities of foreign policy and security, which are deeply intertwined with Japanese politics, and to cultivate the skills needed to deal with these issues.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

日本政治論 II

藤田 直央

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私は朝日新聞編集委員で、2021年からこの講義を担当しています。日本政治の今の動きを追いつつ、戦後史を新たに見つかった文書から見つめ直す記事も書いています。皆さんは日本政治について、これまでに学んだことと現実のギャップに戸惑うことが多いと思います。そのギャップを埋めるような記事を書いた私が、取材の体験や時事問題の解説を交えて講義します。日本政治のリアルについて皆さんの理解が深まり、社会人として関わっていく素養が培われることを目指します。

【到達目標】

近年まで続いた歴代最長の安倍内閣と、野党の分断に象徴される自民党「一強」政権。それが生まれるに至った戦後日本政治の経緯と近年の迷走を、政権交代が繰り返された1990年代以降を中心に学んで理解する。節目節目の政治課題と選挙結果という「国民の選択」をたどることで、今の政治の動きや課題、日本にとって望ましい政治のあり方について考えを深められるようになる。（国内政治と深く関わる外交・安全保障については、秋学期の日本政治論Iで講義する）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業前に課題資料を読み、講義・質問、授業後のリアクションペーパー提出というサイクルで進めます。授業の初めに前回のリアクションペーパーをいくつか取り上げてフィードバックします。期末レポートあり。受講者がそれほど多くなければ講義日程を調整し、一回分で築地の朝日新聞社を見学します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。いま日本政治に何が起き、何が求められているのか	揺れる日本政治は今後どうなるのか。リアル政治を動かす始めたSNS。震災や物価高が問う政治の役割。講義の進め方も説明
2	自民結党と1955年体制	敗戦、主権回復を経て55年に自民結党。高度経済成長による長期政権化と派閥抗争
3	冷戦終結と自民政権下野	長期政権の腐敗で自民は89年参院選に続き93年の衆院選で過半数割れ
4	非自民政権から自社さ政権へ	選挙と政治資金の制度改革に端を発する連立政権の変転
5	自公連立政権の発足	1998年参院選での自民敗北から99年、その後四半世紀続く自公政権が発足
6	「自民党をぶっ壊す」小泉内閣	2001～06年の小泉内閣での官邸主導、劇場型政治
7	安倍内閣退陣とねじれ国会	2006～09年に安倍、福田、麻生と内閣が転々。与党参院過半数割れで窮地に

8	民主党政権 1	政権交代可能な二大政党制の追求の帰結。鳩山内閣の普天間問題での暗転
9	民主党政権 2	菅内閣の東日本大震災対応。野田内閣の消費増税解散と民主党分裂
10	安倍内閣 1	1990年代の政治・行政改革が、小泉内閣や民主党政権を経て歴代最長の安倍内閣に至る
11	安倍内閣 2	日本政治最大のイベントである衆院解散とは何か。安倍内閣でどのように運用されたか
12	安倍内閣退陣と自民党の迷走	安倍首相を退陣に追い込んだものは。コロナ対策に追われた菅内閣。安倍氏暗殺、旧統一教会問題、真金問題に揺れた岸田内閣、参院選敗北後の「石破おろし」
13	自維連立政権と高市内閣の発足	直近の国政選挙で自公政権は両院で少数与党に。2025年の連立政権の組み替えて今後政治はどうなる。期末レポートの課題も説明。
14	まとめ	講義改善のための反省会を兼ねて。期末レポートはこの日24時締め切り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として毎回の講義に向け読むべき課題資料を示します。ほかにおすすめとしては、いまの課題に政府がどう対応しようとしているか、国会でどんな議論がされているかについて、新聞記事（ネット可）を読んで把握しておくこと。SNS等で関心を持った国会議員や政党の経歴、主張をネットで調べてみるのもいいでしょう。

【テキスト（教科書）】

教科書はありませんが、参考書に挙げた本にざっと目を通すことをおすすめします。参考書は部分的に課題資料になることがあります。

【参考書】

今さら聞けない 日本政治の超基本（朝日新聞社編、朝日新聞出版 2025年）
 自民党（北岡伸一、中公文庫、2008年）
 戦後政治史 第三版（石川真澄・山口二郎、岩波新書、2010年）
 戦後日本政治史（境家史郎、中公新書、2023年）
 日本政治、再建の条件（山口二郎・中北浩爾、筑摩書房、2025年）
 民主党史（奥健太郎・中島政希編、ミネルヴァ書房、2026年）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとのリアクションペーパー（出席確認を兼ねその場で）60%、期末レポート40%。期末レポートでは生成AIの利用を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーをその後の講義に生かします。最後の講義では、受講者の意見をもとに講義全体の反省会もします。

【Outline (in English)】

I am an editorial writer for the Asahi Shimbun, one of the Japanese leading newspapers, and have been teaching this course since 2021. While tracking current developments in Japanese politics, I also write articles reexamining postwar history through newly discovered documents. I imagine many of you feel perplexed by the gap between what you've learned about Japanese politics and the reality you encounter. Drawing on my experience writing articles that bridge that gap, I will lecture by sharing my reporting experiences and explaining current affairs. My goal is to deepen your understanding of the reality of Japanese politics and cultivate the skills you'll need to deal with it.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

日本政治思想史 I

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史I」：政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。江戸から明治にかけての政治思想史の流れについて、主要な思想家の議論の概要を押さえつつ、理解を深めていきます。

【到達目標】

現代日本においてたとえ「保守」的立場を標榜する人物といえども、江戸時代への「復古」を本気で主張することはほとんど想定できません。しかし、なぜなのでしょう。考えてみれば不思議なことです。この問いは、もちろん、日本にとって明治維新（明治革命）がいかなる意味を持ったのかという問いと深く結びついています。「維新」という言葉や明治維新についての通俗的イメージは広く流布していますが、明治維新を江戸の政治思想史からさかのぼって説明できる人は決して多くありません。なぜ明治維新は起きたのか。そしてそれにはどんな意味があったのか。説明してみたいとは思いませんか。この講義はそのための機会を提供することを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、対面講義を想定しています。適宜、リアクション・ペーパーの提出を求めることで双方向性を確保します。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の進め方や評価の方法について。
第2回	江戸時代とは何か	「名」と「身分」
第3回	武士について	軍人と「ならずものの道徳」
第4回	儒学について	東アジアのグローバル政治哲学
第5回	伊藤仁斎	儒学の日本化
第6回	新井白石	日本の儒学化
第7回	荻生徂徠（1）	「礼楽」の政治思想——方法、学問、言語
第8回	荻生徂徠（2）	「礼楽」の政治思想——アーキテクチャによる支配
第9回	本居宣長（1）	「みやび」の（反）政治思想——方法・学問・言語
第10回	本居宣長（2）	「みやび」の（反）政治思想——「美」の逆説
第11回	海保青陵	「市場」の政治思想
第12回	横井小楠・吉田松陰	「危険思想」としての儒学
第13回	福澤諭吉（1）	「社交」の政治思想
第14回	福澤諭吉（2）	「愛国心」と「やせ我慢」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典に当たり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010年）

【参考書】

荻部直『日本思想史への道案内』（NTT出版、2017年）

原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、小テスト・アンケートの提出状況（30％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

感染症の流行等に伴い講義形態の変更がありえますので、学生ポータルで最新の情報を入手するように注意してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1600 to 1868, focusing on some Confucian Thinkers and Native-Learning(Kokugaku) thinkers.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

日本政治思想史Ⅱ

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史Ⅱ」：政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。近代日本の政治思想史について、主要な思想家の議論を概観しつつ、時に原典史料にあたり、その理解を深めていきます。

【到達目標】

「日本」とはいったい何でしょうか。それはいったいいかなるものであったのでしょうか、あるいはありえたのでしょうか。「これからどうすべきか」を論じるにあたり、しばしば「今までがどうであったのか」についてのイメージを持つことが重要になってきます。この講義では、近代日本に大きな影響を与えた思想家のなかでも特に「これまで日本がどうであったのか」を自らの立論の前提として重視している（ように見える）人々をとりあげ、彼ら（残念ながらすべて男性なのですが、随時、同時代の女性の視点を導入して相対化する努力をしていきたいと思います）が提示する様々なる「日本」像について考えていきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、対面講義を行う予定です。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	進行方法や成績評価について
第2回	福澤諭吉と田口卯吉	「文明論」の衝撃
第3回	植木枝盛と中江兆民	反〈上から目線〉の政治思想
第4回	徳富蘇峰と陸羯南	それでも〈上から目線〉の必要について
第5回	竹越三又と山路愛山	〈史論〉の復権
第6回	内村鑑三と新渡戸稲造	〈キリスト教made in Japan〉の破壊力
第7回	高山樗牛と北村透谷	〈美的反逆〉の系譜
第8回	「国民道徳」と井上哲次郎	道徳憲法としての「教育勅語」とその新しさ
第9回	柳田国男と折口信夫	「民俗学」の登場：私たちは私たちのことをよく知っているのか？
第10回	和辻哲郎と津田左右吉	「日本」について改めて
第11回	権藤成卿と大川周明	〈偽史〉の政治学
第12回	「講座派」と三木清・戸坂潤	〈マルクス主義〉の降臨
第13回	京都学派	〈超克せよ〉と近代は言う
第14回	丸山眞男	〈作為せよ〉と近代は言う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典にあたり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

菊部直『日本思想史への道案内』（NTT出版、2017年）

【参考書】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010年）
原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70パーセント）、講義への積極的な貢献度（30パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

感染症の流行等に伴い、講義形態の変更があります。学生ポータルサイトから最新情報の入手につとめてください。

【Outline (in English)】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1868 to 1945, focusing on various thinkers who tried to embrace "Western Impact" in various ways.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

日米関係論 I

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日米関係論1および2では、第2次世界大戦後の日米安保体制／日米同盟の生成と展開の過程を跡づける。そのうち日米関係論1では、1945～1960年にいたる日米安保体制の歴史を理解することを目的とする。

【到達目標】

学生は、1945～1960年にいたる日米安保体制の生成・展開の過程を概観したうえで、同体制を考察するうえに不可欠の基礎概念——たとえば憲法9条、沖縄・小笠原等に対する米国の潜在主権、日米安保の相互性（双務性）、事前協議、核兵器に関わる米国のNCND政策等々——を理解できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

米国を主力とする連合国による日本占領から対日講和・旧日米安保両条約の締結、いわゆる60年安保改定までの日米両国の安全保障上の関係について概説する。

第2回以降、授業のはじめに、前回授業で教員が提起した課題に対する個々の受講生の応答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行うことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的・到達目標・成績評価方法等につき説明
2	「日米戦争」	その端緒・展開・終結の過程
3	米国の日本占領政策①	非軍事化と民主化
4	米国の日本占領政策②	経済復興～逆コース
5	サンフランシスコ講和①	対日平和条約第3条の成立
6	サンフランシスコ講和②	日米安保条約と行政協定の成立
7	マッカーサーと昭和天皇	11回の会見で話されたこと／話されなかったこと
8	米国の核戦略といわゆる日本本土・沖縄	ビキニ事件をめぐる日米交渉、反核運動、沖縄
9	米国統治下の沖縄	核兵器と海兵隊のシマの成り立ち
10	重光訪米	もう一つ、の安保構想
11	「55年体制」の成立と日米関係	国際冷戦と国内冷戦の連動
12	岸信介と日米関係	日米関係の「合理化、
13	60年安保改定	沖縄という視点から跡づける
14	まとめ	第2次世界大戦後の日米関係において1945-1960年とはどのような時代であったのかを考えてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、本学学則に鑑みた場合、この授業の準備学習・復習時間は4時間以上が標準となる。

「日米関係論2」も履修することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストと称されるものは使用しない。各回の授業でプリントを適宜に配布する。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

吉次公介『日米安保体制史』岩波書店（岩波新書1741）、2018年。

野添文彬『沖縄米軍基地全史』吉川弘文館（歴史文化ライブラリー501）、2020年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、出席状況をふくむ平常点等（30％）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

受講生は学習支援システムを小まめにチェックすること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers an overview of the history of the Japan-U.S. security arrangements (Nichibei-Ampo) from 1945 to 1960. And this course offers key concepts to understand the Japan-U.S. security arrangements, including Article 9 of the Constitution of Japan, residual sovereignty over Okinawa and Ogasawara islands, Mutuality of the Japan -U.S. security treaty, prior consultation, and NCND policy.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the course will be decided based on the following:

Term-end examination;70%, and in class contribution;30%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

日米関係論Ⅱ

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日米関係論1および2では、第2次世界大戦後の日米安保体制／日米同盟の生成・展開の過程を概観したうえで、同体制と同盟を考察するうえに不可欠の基礎概念――たとえば沖縄返還、「日米防衛協力のための指針」「同盟」、米軍再編、米軍と自衛隊との相互運用性等々――を理解することを目的とする。

【到達目標】

学生は、1960年代から2020年頃にいる日米安保体制および日米同盟の生成・展開の過程を概観したうえで、同体制と同盟を考察するうえに不可欠の基礎概念――たとえば沖縄返還、「日米防衛協力のための指針」「同盟」、米軍再編、米軍と自衛隊との相互運用性等々――を理解できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

いわゆる60年安保改定後から冷戦の終焉、そして米軍再編、さらには近年の安保3文書の策定あたりまでの日米両国の安全保障上の関係について概説する。

第2回以降、授業のはじめに、前回授業で教員が提起した課題に対する個々の受講生の応答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行うことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・到達目標・成績評価方法等の説明
2	事前協議制の「顕教」と「密教」	核の「持ち込み」をめぐる日米外交
3	ベトナム戦争と日米関係	ベ平連、戦車闘争、ジャーナリズム
4	沖縄施政権返還とは何だったのか	基地の存置・自由使用、重大緊急時核兵器再持ち込み密約
5	日本外交のトラウマ	米中「頭越し」、接近と日米関係
6	日米共同行動の具体化	「日米防衛協力のための指針」（ガイドライン）の策定
7	日米「同盟」の登場	鈴木・レーガン会談、中曽根「不沈空母」発言
8	冷戦終焉前後の日米関係①	湾岸戦争、ボトムアップレビュー、樋口レポート
9	冷戦終焉前後の日米関係②	基地返還アクションプログラム、日米安保共同宣言、SACO最終報告、新ガイドラインの策定
10	米軍再編	迷走する再編実施のための行程表（ロードマップ）
11	「切れ目ない」日米同盟へ	集団的自衛権行使問題、いわゆる安保法制
12	安保3文書の策定	「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」の策定
13	日米同盟の現在地	2026年末時点の日米関係
14	まとめ	第2次世界大戦後における日米安保／日米同盟とは何であるかを考察してみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、本学学則に鑑みた場合、この授業の準備学習・復習時間は4時間以上が標準となる。

「日米関係論1」も履修することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストと称されるものは使用しない。各回の授業でプリントを適宜に配布する。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

我部政明『日米安保を考え直す』講談社（講談社現代新書1608）、2002年。

春名幹男『仮面の日米同盟 米外交機密文書が明かす真実』文藝春秋（文春新書1053）、2015年。

吉次公介『日米安保体制史』岩波書店（岩波新書1741）、2018年。

藤田直史『極秘文書が明かす戦後日本外交 歴代首相の決断に迫る』朝日新聞出版、2025年。

野添文彬『沖縄米軍基地全史』吉川弘文館（歴史文化ライブラリー501）、2020年。

藤田直史『徹底検証 沖縄密約 新文書から浮かぶ実像』朝日新聞出版（朝日選書）、2023年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、出席状況をふくむ平常点等（30％）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

受講生は学習支援システムを小マメにチェックすること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers an overview of the history of the Japan-U.S. security arrangements (Nichibei-Ampo) and Japan-U.S. alliance (Nichibei-Domei). And this course also offers key concepts to understand the arrangements and alliance, including Reversion of Okinawa, Guidelines for Japan-U.S. Defense Cooperation, 'Alliance', Reformation of the U.S. armed forces and interoperability.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the course will be decided based on the following: Term-end examination;70 %, and class contribution;30 %

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（知的財産法の今日的課題）

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、知的財産法に関する諸問題のうち、著作権法・特許法・標識法以外のものの中から、その時々的重要と思われる課題を個別的に採り上げ、どのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例や関連する他の法制度にも触れながら学んでいく。

今年度も、近時その重要性をますます高めつつある営業秘密の保護を中心に採り上げる。雇用の流動性が高まりつつある今日、その反面として、退職従業員による営業秘密の流出といった案件を報道において目にする機会もまた多くなっている。営業秘密の保護は、知的財産法のひとつである不正競争防止法において規定されているものであるが、これは、市場において競争を行っている事業者のみならず、その従業員や役員といった個人にも関係してくる規律であるため、これについて一定の理解を身に付けておくことは、社会に出た際に少くない意義を有するものである。

この授業は、以上のような営業秘密に関する規律を中心に、不正競争防止法のうちのいくつかの規定等を学ぶことを目的とするものである。民法（不法行為法）や労働法を学んだ上での応用科目といった意味合いを有するが、情報の秘密管理といった事柄は幅広い分野に関連し得るため、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」などの各コースにおける学習の最終段階において受講すべき科目のうちのひとつとして位置付けられる。

【到達目標】

不正競争防止法における営業秘密の保護に関する規律などを中心に、関連する知的財産法上の規律について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目指す。

より具体的には、第一に、営業秘密保護の規律などを理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、営業秘密保護などが問題となる具体的な事例（紛争）について、不正競争防止法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、不正競争防止法における営業秘密の保護（及びデザイン保護に関する法制度等）をテーマとし、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて受け付けるほか、授業前後に直接口頭で質問していただいても構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末試験に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像に占める本講義の位置
第2回	営業秘密の不正利用(1)	不競法2条1項4～10号総説、営業秘密の定義（秘密管理性等）
第3回	営業秘密の不正利用(2)	営業秘密の定義（有用性、非公知性等）
第4回	営業秘密の不正利用(3)	不正利用行為
第5回	営業秘密の不正利用(4)	適用除外、救済手段など
第6回	営業秘密の不正利用(5)	営業秘密に関する問題演習、答案の書き方の解説など
第7回	限定提供データの不正利用	不競法2条1項11号～16号の概説
第8回	商品形態模倣行為の規律(1)	不競法2条1項3号の制度趣旨、保護の要件
第9回	商品形態模倣行為の規律(2)	保護の要件、適用除外
第10回	商品形態模倣行為の規律(3)	請求主体、救済手段など
第11回	意匠法概説(1)	登録意匠制度とは、意匠の定義
第12回	意匠法概説(2)	意匠の定義、登録要件
第13回	意匠法概説(3)	登録要件、意匠権・意匠権侵害概説など
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料や解いてくべき課題などを出す場合があるので、取り組んだ上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。詳細は開講時に改めて指示する。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023）、茶園成樹編『意匠法〔第2版〕』（有斐閣、2020）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解の度合いを見計らいながら授業を進めるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（特に不法行為法）や労働法、民事訴訟法、知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Trade Secret Protection and Design Protection in Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Trade Secret Protection and Design Protection.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ヨーロッパ政治思想史 I

犬塚 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパにおける政治学の歴史（政治学史）、政治思想の歴史（政治思想史）を学びます。政治学の源流をたどることを通じて、政治や政治学について理解を深める科目です。I は、古代からルネサンスまでを扱います。この科目は、政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属する科目です。

【到達目標】

- ・政治学の基本（基本的な用語や考え方）を理解する。
- ・政治学史、ヨーロッパ政治思想史の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式。事前にオンラインで配布する資料にもとづいて講義をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	政治思想史から政治学を学ぶ
第2回	日本の弥生時代にギリシアではどんなことが起きていたか	もっとも古い文字史料に見られる政治思想
第3回	直接民主政治を衆愚政治にしない工夫	古代ギリシアの民主主義の制度設計
第4回	幸福になるために必要なもの	プラトン1（『ソクラテスの弁明』）
第5回	「弱肉強食こそが自然の掟である」	プラトン2（『ゴルギアス』）
第6回	みんなで決めるべきか、優秀な人間が決めるべきか	プラトン3（『ポリテイア』）
第7回	政治の安定のために必要な条件	アリストテレス1（『ニコマコス倫理学』）
第8回	野獣でも、神でも、機械でもない人間	アリストテレス2（『政治学』）
第9回	政治の腐敗をどのように防ぐか	古代ローマの政治思想（ポリュビオス『歴史』）
第10回	神に仕えるか、王に仕えるか	政治思想としてのキリスト教
第11回	甦る古代思想	ルネサンスとマキアヴェッリ（1）
第12回	マキアヴェッリは、マキアヴェッリストか	マキアヴェッリ（2）
第13回	理想社会（ユートピア）の構想	『ユートピア』と『太陽の都』
第14回	試験・まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で紹介する古典をひとつでも読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要な資料は、学習支援システムを通じて配布します。資料の配布については、初回の講義で説明します。

【参考書】

より詳しく学ぶための参考文献は、各回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（48％）、期末の授業内試験（52％）。各回の授業後に、学習支援システムのテスト機能を用いて、復習のための小テストを実施します。

【学生の意見等からの気づき】

高校で「世界史」を学んでいる必要はありません（これは「世界史」の授業ではなく、政治学を学ぶための科目です）。できるだけわかりやすく授業をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業後に、学習支援システムのテスト機能を用いて小テストを実施しますので、教室から学習支援システムにアクセスするための機器（スマートフォン、タブレット端末、パソコンなど）を持参する必要があります。

【Outline (in English)】

This class helps to clarify your understanding of politics and political science by studying the history of political theory and the history of political thought in Europe.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ヨーロッパ政治思想史Ⅱ

犬塚 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパにおける政治学の歴史（政治学史）、政治思想の歴史（政治思想史）を学びます。政治学の源流をたどることを通じて、政治や政治学について理解を深める科目です。Ⅱは、宗教対立から20世紀までを扱います。この科目は、政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属する科目です。

【到達目標】

- ・政治学の基本（基本的な用語や考え方）を理解する。
- ・政治学史、ヨーロッパ政治思想史の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式。事前にオンラインで配布する資料にもとづいて講義をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「サタンは滅ぼすべし」	宗教対立の始まり（ルター、カルヴァン、オトマン）
第2回	あの世の幸せか、この世の秩序か	ボダン
第3回	「だれもが平等だからこそ、独裁者が必要」	イングランドの宗教対立1（ホブズ）
第4回	ケーキを二人で平等に切り分けるためにはどうしたらよいか	イングランドの宗教対立2（ハリントン）
第5回	クーデタのすすめ（が自由主義の古典になった）	イングランドの宗教対立3（ロック）
第6回	「熱狂して熱くなるのは格好悪い」	18世紀の啓蒙
第7回	「いまの社会は腐りきっている」	ジャン-ジャック・ルソー
第8回	派閥と派閥争いをどうしたらよいか	革命の時代1（『フェデラリスム』）
第9回	理想主義を疑う	革命の時代2（『フランス革命の省察』）
第10回	世間の圧力と戦う	19世紀の自由主義（トクヴィル、ミル）
第11回	社会主義・共産主義とはなんだったか	19世紀の社会主義（『共産党宣言』）
第12回	ユートピアの失墜	オーウェルのディストピア
第13回	民主政治に本当に望ましいのか	20世紀前半のデモクラシー論
第14回	試験・まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で紹介する古典をひとつでも読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要な資料は、学習支援システムを通じて配布します。資料の配布については、初回の講義で説明します。

【参考書】

より詳しく学ぶための参考文献は、各回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（48%）、期末の授業内試験（52%）。各回の授業後に、学習支援システムのテスト機能を用いて、復習のための小テストを実施します。

【学生の意見等からの気づき】

高校で「世界史」を学んでいる必要はありません（これは「世界史」の授業ではなく、政治学を学ぶための科目です）。できるだけわかりやすく授業をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業後に、学習支援システムのテスト機能を用いて小テストを実施しますので、教室から学習支援システムにアクセスするための機器（スマートフォン、タブレット端末、パソコンなど）を持参する必要があります。

【Outline (in English)】

This class helps to clarify your understanding of politics and political science by studying the history of political theory and the history of political thought in the western world.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

福祉政策 I

荒木 千晴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は政策・都市・行政の分野に属する科目です。日本の社会福祉制度は、対象者別に発展してきましたが、現在、「地域共生社会の実現」に向けて、社会福祉の各制度を、地域を基盤に包括化する方向で展開されています。

本授業では福祉政策の展開を理解するとともに、近年の福祉政策を特徴づける包括的支援体制について検討します。また、海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴の理解を深めます。

【到達目標】

- (1) 福祉政策が求められる背景にある社会問題を理解する。
- (2) 現在の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要と用語を理解する。
- (3) 近年における福祉政策の展開を理解する。
- (4) 福祉政策の内容と実際について、複数のテーマにおける事例をもとに理解する。
- (5) 海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉政策に関する基礎概念、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげます。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点から福祉政策の理解をすすめます。教員による講義のほか、履修人数によっては、学生によるディスカッションの機会を設けることがあります。また、講義の内容について学生の理解を確認するため、リアクション・ペーパーの提出を求めます。これは不定期に合計4回ほど実施する予定で、成績評価の対象となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法等を説明する。福祉政策を学ぶ際の視点について考える。
第2回	福祉政策の展開	日本における福祉政策の歴史的な展開を解説する。
第3回	今日の社会問題と福祉政策	現代における社会問題を概括し、福祉政策に何が求められているか考える。
第4回	福祉所得保障に関する福祉政策	所得保障に関する各制度の概要、生活保護、生活困窮者自立支援事業等、政策動向について解説、課題と展望について考える。
第5回	高齢者福祉政策	高齢者福祉に関する福祉政策について、介護保険をはじめ各制度の概要・政策動向を解説、課題と展望について考える。

第6回	障害者福祉政策	障害者福祉政策について、障害者自立支援制度をはじめ制度の概要・地域の支援体制を解説、課題と展望について考える。
第7回	子ども家庭福祉政策	子ども家庭福祉政策について、概要・政策動向を解説、課題と展望について考える。
第8回	権利擁護に関する福祉政策	地域における権利擁護体制の推進の現状、成年後見制度等権利擁護のための制度について解説し、課題と展望について考える。
第9回	社会的包摂に関する福祉政策	地域共生社会に向け、多文化共生や司法福祉など、社会的包摂の観点から求められる福祉政策の現状について解説し、課題と展望について考える。
第10回	災害と福祉政策	災害時の福祉的支援について、DWAT（災害派遣福祉チーム）による支援活動等の事例に基づき理解を深める。
第11回	地域福祉政策と包括的支援体制	包括的支援体制の構築の基盤となる地域福祉政策の展開、体制について、事例をもとに検討する。
第12回	福祉政策を推進する体制	福祉政策を推進するための各機関や人材等について紹介し、課題や各機関の連携・協働等今後の体制のあり方を考える。
第13回	海外の福祉政策	海外における福祉政策の展開を紹介し、日本の福祉政策の特徴を明らかにする。
第14回	授業のまとめ、到達度確認	授業を振り返り、その内容についてまとめる。また、授業内容に関する筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多様な複数のメディアを通じて、身近な福祉政策について関心をもつように心がけてください。授業中は、重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、教員に質問したり、授業中に提供した資料、記録をもとに復習を行うとともに、各回のテーマについて居住する自治体の情報やニュース等、福祉政策の実際に触れ、情報収集を行い、理解を深めることが推奨されます。学習支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められます。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しません。毎回、学習支援システムを通じて教材の配布を行います。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）及び授業内リアクション・ペーパー（30%）により評価します。評価の基準については、授業の内容や課題への取り組みを通してみなさんがどのように考えたのかを重視しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業内アンケートを受け、各分野の福祉政策概要に加え、自治体等における具体的な福祉政策の展開事例を、映像等を用いて紹介を行います。

【Outline (in English)】

This course belongs to the “policy-related” field within the Political Science Department.

Japan's social welfare system has developed separately for different beneficiary groups. However, it is now being expanded toward the realization of a “community-based inclusive society,” aiming to integrate various social welfare systems on a community-based foundation.

This course examines the development of welfare policy and explores the comprehensive support systems that characterize recent welfare policies. Furthermore, by comparing with welfare policies overseas, it deepens understanding of the distinctive features of Japan's welfare policy.

Students will be Assessed by;

Written Exam 70%, Reaction paper 30%

POL100AC (政治学 / Politics 100)

行政学 I

林 嶺那

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる13のトピックを、1回の授業で1つずつ取り上げ、逐次解説を行う。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の回の冒頭でフィードバックを行う。学期の中間と最後に計2度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第2回	官僚制①	官僚制の諸モデルについて論じる。
第3回	官僚制②	政官関係について論じる。
第4回	議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の下での行政の位置づけについて論じる。
第5回	公務員制度とその運用	公務員の採用・昇進・配置について論じる。
第6回	省庁	日本の中央省庁を中心とした行政組織について論じる。
第7回	予算編成	予算の編成プロセスについて論じる。
第8回	地方自治①	地方自治の諸アクターについて論じる。
第9回	地方自治②	政府間関係について論じる。
第10回	政府と市場	政府と市場の関係性について論じる。
第11回	ガバナンス	統治をめぐるアクター間の関係性について論じる。
第12回	政策類型	政策の類型について論じる。
第13回	アジェンダ設定	アジェンダ設定の理論と実証について論じる。
第14回	政策決定	政策決定と合理性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読15分、新聞閲読毎日15分×7日＝115分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価4290円

曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

コメントを提出

各回のコメントを3段階で評価（おおむね2:6:2）

②期末試験（60％）

持ち込み不可

単語穴埋め問題、論述問題

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が300人ほどの多数に及び、学生相互のディスカッションを行うことが困難であった。その分、コメントに対する応答に時間を割くことで、一定の双方向性を担保することに努めた。今年度も、コメント対応に時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

行政学Ⅱ

林 嶺那

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる13のトピックを、1回の授業で1つずつ取り上げ、逐次解説を行う。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の回の冒頭でフィードバックを行う。学期の中間と最後に計2度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第2回	政策決定	利益・制度・アイディアについて論じる。
第3回	政策実施	第一線公務員論等の政策実施論について論じる。
第4回	政策評価	政策評価について論じる。
第5回	行政組織の研究系譜	行政組織をめぐる研究史について論じる。
第6回	マネジメントの公民比較	マネジメントに関する公民の異同について論じる。
第7回	人事行政①	モチベーションについて論じる。
第8回	人事行政②	リーダーシップ、チームワークについて論じる。
第9回	価値	行政組織が目指す価値について論じる。
第10回	組織文化	行政組織をめぐる組織文化について論じる。
第11回	組織変革	行政組織の変革について論じる。
第12回	行政と技術	行政における技術の導入と利用について論じる。
第13回	管理とパフォーマンス	行政管理とパフォーマンスの関係について論じる。
第14回	日本の行政システム	日本の行政システムの特徴について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読15分、新聞閲読毎日15分×7日＝115分で、合計120分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価4290円

曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価2970円

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

コメントを提出

各回のコメントを3段階で評価（おおむね2:6:2）

②期末試験（60％）

持ち込み不可

単語穴埋め問題、論述問題

【学生の意見等からの気づき】

前年度は受講者が300人ほどの多数に及び、学生相互のディスカッションを行うことが困難であった。その分、コメントに対する応答に時間を割くことで、一定の双方向性を担保することに努めた。今年度も、コメント対応に時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

政治文化論 I

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスは確保すること。

【その他の重要事項】

講義の進行具合により、各回の授業内容に変更が生じうる。

【Outline (in English)】

This course analyzes regime crisis and stability in terms of politics-culture relations.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、体制の安定と危機を政治と文化の関係から分析する。

【到達目標】

民主主義政治の安定に影響を与える主要な文化的要素について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	政治と文化概説	政治とは何か、文化とは何か、政治文化とは何か
第二回	政治と宗教	近代国民国家形成に至る政治と宗教の確執
第三回	政教分離	英独仏米における政教分離の比較
第四回	市民文化と社会資本	民主主義に適合的な政治文化、そして会資本とは何か
第五回	民主主義の危機と社会資本	中間団体の没落とポピュリズムの台頭
第六回	個人と社会	市民社会における個人と集団との関係の見直し
第七回	帰属の政治	普遍主義VS特殊主義
第八回	帝国主義的展開	対外膨張による国民統合の再編強化
第9回	進化論と優生学	ダーウィンとスペンサーの理論
第10回	優生学の発現①	イギリスとフランス
第11回	優生学の発現②	アメリカとドイツ
第12回	フェミニズム	フェミニズム理論の紹介
第13回	フェミニズムの発現	イギリス・アメリカ・カナダのフェミニズム運動が政治に与えた影響
第14回	授業内試験	70分の筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回講義前に教材を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）は、比較政治論I・IIの教科書であるが、本授業でもその一部を使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業内アンケートと試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内アンケートのほか、要請に応じて個人面談を実施する。

POL200AC（政治学 / Politics 200）

政治文化論Ⅱ

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、文化と政治について、とりわけ暴力の顕現（戦争、革命、テロ、民族浄化など）を中心に考察し、両者の複雑な関わりについて明らかにする。

【到達目標】

政治における暴力のもつ意味を、近代国民国家の誕生と展開という文脈のなかで理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	政治と暴力に関する一般的考察	政治における秩序と暴力という二面性について考察する。
第2回	国家と戦争	近代国家と暴力の関係について、具体的事例に基づき、ヨーロッパの文脈で考察する
第3回	革命1	市民革命と呼ばれる歴史的現象について、具体的事例に基づき考察する。
第4回	革命2	社会主義革命と呼ばれる歴史的現象について、具体的事例に基づき考察する。
第5回	民族浄化1	ヨーロッパにおける民族浄化について、具体的事例に基づき考察する。
第6回	民族浄化2	アジア・アフリカにおける民族浄化について、具体的事例に基づき考察する。
第7回	テロリズム1	テロと呼ばれる歴史的現象について考察する。
第8回	テロリズム2	現代的なテロについて考察する。
第9回	ナショナリズム	ナショナリズムに関する様々な理論を紹介する。
第10回	民族という幻想	民族という考え・イデオロギーがどのように構築されたのかについて考察する。
第11回	差別と暴力	「民族・人種」差別と暴力との関係性について考察する。
第12回	マスキュリニティの文化	マスキュリニティ（男らしさ）の近代的構築かについて考察する。
第13回	マスキュリニティと暴力	男性中心文化と暴力との関係性について考察する
第14回	授業内試験	詳細については、講義のなかで説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義前に教材を学習支援システムにアップロードするので、予め目を通しておくこと。また前回講義に関する質問時間を毎回講義の最初に設けるので、ノートを整理し、問題点・疑問点を洗い出ししておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。毎回講義前に教材を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内アンケートと試験による。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の質問はもとより、メールでの質問を随時受け付け、要請に応じて面談を行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】

講義の進行具合により、各回の授業内容に変更が生じうる。

【Outline (in English)】

This course aims to clarify the complicated relationship between politics and culture by focusing on the manifestation of violence (war, revolution, terrorism, ethnic cleansing, and so on).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

マス・コミュニケーション論 I

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションの特徴・役割など関する基本的な概念と理論を学び、実際に行っているコミュニケーション、メディア現象をより分析的・批判的に考察できる能力を養う。

【到達目標】

- 1) マス・コミュニケーションに関する概念・理論を理解する。
- 2) 現代社会におけるマス・コミュニケーションの役割・重要性を理解し、分析的・批判的に考察する。
- 3) 学習した理論・概念を現実のメディア・コミュニケーション現象に適用し、自分の意見・議論を共有する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
- 授業内容に応じて、意見・感想をワークシートに記入してもらったり、グループワークを行うことがあります。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきましては次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
- 対面授業が難しい場合、Zoomによるリアルタイム授業を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要：マス・コミュニケーションとは？	授業の構成とマス・コミュニケーション論を学ぶ意義について紹介します。
2	マス・コミュニケーションの歴史と機能	マス・コミュニケーション、マス・メディアの歴史と関連概念の変遷について学びます。
3	表現の自由と規範理論	マス・メディアの在り方に関する規範理論を学びます。
4	2つのパラダイム(1)	コミュニケーション学の2大パラダイムの中、主流・伝統パラダイムを学びます。
5	2つのパラダイム(2)	マルクス主義に基づく批判的パラダイムを学びます。
6	ニュースの社会学	報道の過程に影響を及ぼす社会的要因を通じて、マス・メディアと社会の関係を考察します。
7	マス・コミュニケーションと民主主義	民主主義のためのメディアの役割について学びます。
8	【TOPIC】選挙とコミュニケーション	コミュニケーションと選挙の関係、日本の選挙報道における「公正性」について考察します。
9	オールド・メディアとニュー・メディア	インターネットなどニュー・メディアの特徴について学びます。
10	マス・コミュニケーション効果論	マス・コミュニケーションの効果に関する理論を学びます。

11	オーディエンス論	批判的理論の伝統の中発展してきたオーディエンスに関する理論を学びます。
12	メディア倫理I	倫理問題が問われるケースから、倫理問題が発生する理由についてグループワークを行います。
13	メディア倫理II	授業前半は、前回のグループワークを発表します。
14	期末テスト	オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェール、デニス(2010)『マスコミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.

スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス (2007) 『マス・コミュニケーション理論ーメディア・文化・社会』新曜社

Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

大石裕 (2022) 『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

授業参加 15%（出席・ワークシートなど）

テスト 40%（オープンブック形式）

期末レポート 25%

選挙報道課題 10%

メディア倫理グループワーク 10%

【学生の意見等からの気づき】

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。前年度のグループワークから斬新で発展的な議論が出来たので、今年度も積極的に活用したいと思っています。

【Outline (in English)】

This course introduces basic concepts and theories about the characteristics and roles of mass communication, in order to provide grounds on that students can develop analytical and critical viewpoints on communication and media phenomena.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

マス・コミュニケーション論Ⅱ

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションⅠから学んだマス・コミュニケーション一般の概念・理論を元に、コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を学び、周りのメディア・コミュニケーション現象を批判的に考察することを目的とする。

【到達目標】

- 1) メディア・コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を理解する。
- 2) 学習した理論・概念を現実のメディア・コミュニケーション現象に適用し、自分の意見・議論を共有する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
- 授業内容に応じて、意見・感想をワークシートに記入してもらったり、グループワークを行うことがあります。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきましては次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
- 対面授業が難しい場合、Zoomによるリアルタイム授業を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要・課題案内	授業で紹介するコミュニケーション学の分野について紹介し、期末プロジェクトのケース研究について案内します。
2	国際コミュニケーション：概念と理論 (1)	国境を越えて行われるコミュニケーション現象を語る理論の中、主流パラダイムの流れを学びます。
3	国際コミュニケーション：概念と理論 (2)	文化帝国主義など、国際コミュニケーションを語る批判的理論を学びます。展過程について学びます。
4	【TOPIC】 グローバル・オーディエンスとファン活動	海外のコンテンツを消費するオーディエンスについて学び、積極的なファン活動の様子とその影響力について議論します。
5	メディア・イベントと国際報道	海外の出来事を報道する国際報道の特徴を国際的なメディア・イベントを中心に議論します。
6	メディア産業	メディア産業の特徴を学びます。
7	グローバルメディア企業とローカル戦略	メディア企業のグローバル戦略について検討します。
8	広告と消費社会	現代社会における広告の役割と位置づけについて議論します。

9	【TOPIC】 フェイクニュース (1)	フェイクニュースに関する番組を視聴し、その原因と対策についてグループワークを行います。
10	【TOPIC】 フェイクニュース (2)	グループワークの結果を共有します。
11	子供とコミュニケーション	メディアが子供に及ぼす影響や子供のメディア表象、子供のメディア利用など、子供とメディアの関係を語る概念を学びます。
12	コミュニケーションと多様性	ジェンダー、人種、社会的マイノリティなど、コミュニケーションと多様性の問題について話します。
13	世界のメディア・システム	日本とは違う、海外のメディア・システムとその背景について学びます
14	期末テスト	オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェール、デニス(2010)『マスコミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.

スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス (2007) 『マス・コミュニケーション理論 上—メディア・文化・社会』

Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

授業参加 15%（出席・ワークシートなど）

テスト 50%（オープンブック形式）

レポート 25%

グループワーク（フェイクニュース） 10%

【学生の意見等からの気づき】

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。前年度のグループワークから斬新で発展的な議論が出来たので、今年度も積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

With the foundation of the theories and concepts studied in Mass Communication I, this course introduces concepts and theories in specific fields of communication studies.

POL100AC (政治学 / Politics 100)

日本政治史 I

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、今後の政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。

【到達目標】

近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史といふけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

幕末・維新から第二次大戦での敗北にいたる時期の日本政治史を概説する。憲法、政党政治、選挙制度、議会制、官僚機構、中央・地方関係、内政と外交の連関などとともに、為政者の側だけでなく民衆運動をふくむ民主化のさまざまな担い手の言動にも可能なかぎり論及しながら講義を行いたい。

第2回以降、授業のはじめに、前回授業で教員が提起した課題に対する個々の受講生の応答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明
第2回	幕藩体制の動揺	徳川幕藩体制後期の変動と諸改革。維新への条件
第3回	明治国家の成立	維新政府と民権運動。長州支配の淵源と政党の結成
第4回	憲法制定、議院開設	体制モデルの相剋。イギリス・モデル対ドイツ・モデル
第5回	初期議会と政党政治	議会政治、政党政治の始め。議会制における政党の定位・役割
第6回	政党政治の展開	原 敬内閣まで。試される政党の力
第7回	憲政の常道	政友会と民政党。二大政党制の経験
第8回	都市化と政治	「男子普通選挙」制の導入、社会主義運動。社会変動期における政治課題

第9回	国際政治と内政	ワシントン会議、ロンドン軍縮会議と国内政治。国際協調と国内民主化の連関、
第10回	政党政治の凋落	国家改造運動、テロ事件、「満州事変」。政と軍
第11回	新体制運動	国家総動員と翼賛政治。政党政治の終焉
第12回	戦争のなかの政治	日中戦争の拡大と対米開戦決定過程。戦争のはじめ方
第13回	敗戦への道程 1	沖縄戦から対米英和平工作まで
第14回	敗戦への道程 2	ポツダム宣言受諾にいたる政治過程

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、本学学則に鑑みた場合、この授業の準備学習・復習時間は4時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

升味準之輔『日本政治史』1～3、東京大学出版会、1988年。

鶴見俊輔ほか編著『日本の百年』1～9、筑摩書房（ちくま学芸文庫）2007-2008年。

沖縄県文化振興会史料編纂室編『沖縄県史』各論編第5巻（近代）編集工房東洋企画、2011年。

前田勇樹・古波蔵契・秋山道宏編『つながる沖縄近現代史—沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』ボーダーインク、2021年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）、出席状況をふくむ平常点等（30％）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

受講生は学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Political history of Japan 1 is categorized to one of the basic subjects in the department of politics. In this class, we trace the complicated course of the political history of modern Japan. From that work, we find out the patterns and questions of the course and lessons of the past for the policy-making and the institution-planning.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand political history of modern Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination:70%, and in class contribution:30%

POL100AC (政治学 / Politics 100)

日本政治史 II

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、今後の政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。

【到達目標】

近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史といふけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

第二次大戦末期から対日講和にいたる時期の日本政治史を概説する。憲法、政党政治、選挙制度、議会制、官僚機構、中央・地方関係、内政と外交の連関などとともに、為政者の側だけでなく民衆運動をふくむ民主化のさまざまな担い手の言動にも可能なかぎり論及しながら講義を行いたい。

第2回以降、授業のはじめに、前回授業で教員が提起した課題に対する個々の受講生の応答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明
第2回	前史	沖縄戦、ヒロシマ、ナガサキと戦後政治
第3回	対日占領のはじまり	立案過程と究極目標
第4回	統治体制の変革	象徴天皇制への道
第5回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄
第6回	早期講和と安保問題	芦田メモと昭和天皇の沖縄メッセージ
第7回	戦後政党政治の起動	いわゆる本土と沖縄
第8回	対日政策の転換	交錯する二つの論理
第9回	講和論争	日米両岸の講和論争
第10回	講和交渉	日米の外交指導
第11回	対日平和条約の成立	潜在主権方式（第3条）を中心に
第12回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第13回	サンフランシスコ体制	その光と影を考える
第14回	補論	戦後政治史と昭和天皇

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、本学学則に鑑みた場合、この授業の準備学習・復習時間は4時間以上が標準となる。

「日本の政治と外交Ⅰ」「日本の政治と外交Ⅱ」「日米関係Ⅰ」「日米関係論Ⅱ」なども履修することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

升味準之輔『日本政治史』4、東京大学出版会、1988年。

河野康子『日本の歴史24 戦後と高度成長の終焉』講談社（講談社学術文庫）、2010年。

櫻澤 誠『沖縄現代史：米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社（中公文庫）、2015年。

平良好利・高江洲昌哉編『戦後沖縄の政治と社会 「保守」と「革新」の歴史的位相』吉田書店、2022年。

沖縄県教育庁文化財課史料編集班『沖縄県史 各論編 第七巻 現代』沖縄県教育委員会、2022年。

宮城 修『ドキュメント 〈アメリカ世〉の沖縄』岩波書店、2022年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、出席状況をふくむ平常点等（30%）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

受講生は学習支援システムを小マメにチェックするようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Political history of Japan 2 is categorized to one of the basic subjects in the department of politics. In this class, we trace the complicated course of the political history of post-war Japan. From that work, we find out the patterns and questions of the course and lessons of the past for the policy-making and the institution-planning.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand political history of Japan after World War II.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination:70%, and in class contribution:30%

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国語講読 (独語) I

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。
政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します (各回約2ページ進むことを目指します)。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	文献精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	文献精読 (第2回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	文献精読 (第3回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	文献精読 (第4回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	文献精読 (第5回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	文献精読 (第6回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	文献精読 (第7回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	文献精読 (第8回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	文献精読 (第9回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	文献精読 (第10回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	文献精読 (第11回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	文献精読 (第12回の続き)	ドイツ語の文章講読および日本語で議論

第14回 まとめ

まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Rainer Forst, "Welten der Rechtfertigung: Die Diskursethik als kantischer Konstruktivismus," in: Vernünftige Freiheit: Beiträge zum Spätwerk von Jürgen Habermas, hrsg. Stefan Müller-Dohm, Smail Rapić und Tile Wesche (Berlin: Suhrkamp, 2024), 238-259.

初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』(三修社)

『大独和辞典』(小学館)

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』(白水社)

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読することはしません。

文法について考えるのみではなく、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワーク接続ができ、Zoomが使えるPCまたはタブレット、および、オンライン会議に使えるカメラとマイク

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書または文法教科書も、必ず持ってきてください。

(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)

事情によりオンラインで開講する場合があります (通算7回以内)。オンライン開催の場合は、事前に学習支援システムを通じて連絡します。

オンラインで開催する回は、カメラをオンにして参加すること、および、指名された場合に口頭で回答することを出席の条件 (平常点採点の対象) とします。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to develop academic reading skills in German by reading Forst's work.

【Learning activities outside of the classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL300AD (政治学 / Politics 300)

日本外交史 I

高橋 和宏

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、敗戦から1970年代前半までの日本外交史を国際情勢と内政という「外」と「内」との連関という視点から学び、その現代的な意味を考える。

具体的には、①占領・講和期の外交・安全保障、②日米安保体制の確立、③戦後処理外交、④高度成長と経済外交の4つをサブ・テーマとして設定し、各々における主要なイシューがいかに展開していったのかを国際関係と国内政治の影響に注目しながら概説する。

【到達目標】

敗戦から1970年代前半までの日本外交の歴史的展開を理解し、現代の日本外交の課題を歴史的文脈に位置付けて考察できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。映像資料を活用することで、より深い歴史理解を促す。初回の授業は対面では行わず、Zoomを用いたリアルタイムのオンライン授業とする。Zoomの情報は学習支援システムに掲示する。各回の授業の最後に小テストを課す。この小テストは学習支援システム上から回答するので、学生は学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。小テストへのフィードバックは、次回の授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、参考文献の紹介
第2回	占領・講和（1）	ポツダム宣言、戦後改革
第3回	占領・講和（2）	冷戦、朝鮮戦争、再軍備
第4回	占領・講和（3）	サンフランシスコ平和条約、日米安保条約
第5回	日米安保体制の確立（1）	安保条約改定
第6回	日米安保体制の確立（2）	沖縄返還
第7回	戦後処理外交（1）	日ソ国交回復
第8回	戦後処理外交（2）	東南アジア諸国との賠償交渉
第9回	戦後処理外交（3）	日韓国交正常化
第10回	戦後処理外交（4）	日中国交正常化
第11回	高度成長と経済外交（1）	自由貿易体制への参画
第12回	高度成長と経済外交（2）	アジア諸国との経済関係
第13回	高度成長と経済外交（3）	日米経済問題、ニクソン・ショック
第14回	総括	これまでの議論を総括し、戦後日本政治外交の論点を俯瞰的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容をよりよく理解するために、参考書を授業の予習・復習に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

波多野澄雄・宮城大蔵編『日本外交をどう考えるか 日米安保・歴史問題から沖縄まで』慶応義塾大学出版会、2025年
 五百旗頭真編『戦後日本外交史（第3版増訂版）』有斐閣アルマ、2014年
 添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』慶応義塾大学出版会、2019年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（50％）

期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

また、各回の授業冒頭で前回の授業の小テストの解説を行い、学生に自らの理解度を確認させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前の資料配布や授業各回に行う小テストの回答のために学習支援システムを利用するので、学生は学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【担当教員の専門分野】

<専攻領域>日本外交史、経済外交論、国際関係史

<研究テーマ>冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

<主要業績>『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959-1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

This course examines Japanese diplomacy from 1945 to the early 1970s, focusing on the links between diplomacy and domestic politics. The following topics are to be covered:

- 1) political and security issues during the occupation era, such as the establishment of the Constitution, rearmament, and negotiations over the Peace Treaty and the Japan-U.S. Security Treaty,
- 2) establishment of the Japan-U.S. security system, such as amendment of the Security Treaty and negotiation for Okinawa reversion,
- 3) normalization of diplomatic relations and remaining problems with Russia, South Korea, Southeast Asia, and China
- 4) Economic Diplomacy in the high economic growth period, such as access to free trade regime, economic relations with Asian countries, and trade friction with the U.S.

(Learning activities outside of the classroom)

Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the small tests(50%) and term-end examination(50%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（こども行政と法）

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法コース」に位置付けられています。

従来から、子どもをめぐる行政制度は縦割り行政の弊害等が指摘されてきました。このような中、2022年に「こども基本法」が公布され、こども家庭庁が創設されるなど、大きな変革が起っています。

この授業では、以上の動向をふまえ、子どもをめぐる行政についてその概要と課題点を学んでいきます。

【到達目標】

子ども行政を考察する前提としての子どもの最善利益について理解している。

こども基本法とこども家庭庁について説明できる。

子ども行政を担っている国、地方自治体の諸機関について説明できる。

子ども行政をめぐる諸課題について自分なりの考察ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って原則として講義形式で行います。ただし一方通行にならないために、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。

なお、受講人数にもよりますが、グループワークや発表を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	子どもの最善の利益とは	子ども行政の理念としての、子どもの最善の利益について
第3回	子どもをめぐる法体系について	子どもをめぐる現行の法体系について
第4回	こども基本法①	こども基本法制定の背景等について
第5回	こども基本法②	こども基本法の逐条考察
第6回	こども家庭庁①	こども家庭庁創設の背景
第7回	こども家庭庁②	こども家庭庁の概要
第8回	国の子ども行政の課題	国の子ども行政をめぐる今後の課題
第9回	地方の子ども行政①	国と地方の役割分担について
第10回	地方の子ども行政②	地方自治体の子ども行政の実態
第11回	個別考察：子どもの貧困	子どもの貧困について、国、地方自治体、民間の役割等を考察する
第12回	個別考察：子ども虐待	子ども虐待について、行政の役割を考察する
第13回	個別考察：少子化	少子化について、政策と課題を考察する
第14回	まとめ	授業全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや関連文献による復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

・設題に対して、授業内容を踏まえたうえで論理的な解答ができていくか評価します。

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

・毎回の授業内容を踏まえたうえでの記述になっているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the administration for Children and its background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the administration for Children and its background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）			
法律学特講（政策と法）			
高橋 彰			
授業形式：講義 開講セメスター：秋学期授業/Fall			
単位数：2単位			
その他属性：〈優〉〈実〉			
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			
社会課題の解決と言っても「政策と法」の観点からは、法令に加え、調査や補助金、キャンペーンなど、さまざまな方法がとられる。法令も政策も重要だが、片方だけでは問題を解決することはできない。この授業では、最初に政策形成、立法過程、法律と政策の関係、政治も含めた意思決定がどのようになされるのかを学んだ上で、様々な社会課題における「法」と「政策」それぞれの役割や限界、あるべき姿を考えていく。			
（※対象とする社会課題は、国民生活に大きな影響を持つ、「安全保障」と「社会保障」の2つの「保障」を中心とする）			
担当教員は官僚（官）、議員秘書（政）、大手広告代理店（民）、大学院留学（英国）…と豊富な実務経験や海外経験を有しているため、国内外の実例なども交えながら、学生が幅広く知見を習得し、多角的に社会課題を分析する能力を獲得できるよう手助けする。			
【到達目標】			
①公共政策における法律と政策の内容、意義、限界と許容範囲について理解できる			
②社会課題について、雰囲気や大衆的な意見で考えるのではなく、法と政策の観点から分析し、解決策を見出す能力を得る			
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。			
【主な授業方法】			
L 講義 /Lecture			
【授業の進め方と方法】			
授業は原則として教員作成の資料に沿って講義形式で行う。講義を中心に、授業中、テーマを決めてグループディスカッションを行い、グループごとに簡単な発表を行う。「正解」がない問いに各学生が活発に意見交換することで他者の意見と比較し、刺激を受け合うことで学びを深める。また、ディスカッション後に教員による解説やフィードバックを行う。			
なお、テーマに関連して、「第一線のプロに聞く」コーナーを設け、実社会で活躍する政治家、官僚、研究者、ビジネスパーソンのコメンタリーを紹介する場合がある。			
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			
あり / Yes			
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			
なし / No			
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			
回	テーマ	内容	
第1講	イントロダクション- 公共政策における「法」と「政策」とは？	①授業の全体像、②講義の進め方、③評価方法 ④「法と政策」を学ぶ意義などについてオリエンテーションを行う。 また、公共政策における「法」と「政策」の役割について概要を学ぶ	
第2講	政策形成論①-政策形成過程と意思決定	政治家、官僚、国民・・・政策は結局誰のもの？ 誰がいつ意思決定に関与しているのかを知ることで理解を深めながら、国の政策形成と立法のプロセスを年間スケジュールと共に学ぶ。	
第3講	政策形成論②-日本の財政	先立つものはカネ・・・それは政策や法律の世界でも変わらない。一方で、日本の財政が火の車だということはあまり知られていない。借金か、増税か、あまり考えたくないが、前向きな政策立案や立法のために、必要な選択肢について考える。	
第4講	政策形成論③-政策形成を歪めるもの	政策形成を阻害する外部要因について知る。選挙介入や世論操作、災害後の混乱増加など、様々な場面で用いられる偽情報はなぜ起きるのか、法規制で対抗は可能なのかを学ぶ。	
第5講	政策課題①_人手不足と賃上げ、働き方	物価は上がり続けるなか、賃金はなかなか上がらないし、残業規制も厳しい。 実は政府も自由に決められない賃金決定の仕組みや、人手不足でも厳しい残業規制について理由を学び、白か黒か決められない、労働法の限界を考える。	
第6講	政策課題②_「歓迎」か「排斥」か-先進国の移民問題	人手不足解消によく言及される「移民の受け入れ」だが、欧州や欧米では移民排斥が相次ぐ。かつては移民を受け入れることで労働力不足を補った各国の現状や制度、歴史を紐解き、日本の技能実習制度も含めた課題を考える。	
第7講	政策課題③_変容するテロリズム	飯テロ、スイーツテロ、バイトテロ・・・日本では頻繁・カジュアルに使われる（※日本だけの現象）が、そもそもテロってなんだ？ 歴史、定義、手法、残虐性を知れば、とても気楽にその単語を使う気になれないテロリズムについて学ぶ。必要なのは法律か、より広い対策なのか、各国の対策や、単なる犯罪、ヘイトクライムとの違いを比較しながら考える。	
第8講	政策課題④_日常の安全保障	私たちの「安全」を守っているのは、自衛隊？ 警察？・・・じゃあ、クマから守ってくれるのは？ 「安全」と「安心」はしばしば混同され、本来必要とされる以上の法規制や過剰な政策が議論されることがある。感染症のパンデミックなどのケースを題材に、日常の安全（≠安心）と引き換えにどの程度のコスト（人命、金銭、権利）が許容されるのかを考える。	
第9講	政策課題⑤-負担と受益の社会保障	年金制度は不安だから老後の生活は貯金で・・・そのために必要な月々の貯金額がいくらか、計算したことはあるだろうか。「年収の壁」や「社会保険料」など、負担ばかりに目がいく社会保障について、本来の制度と背景の考え、「受益」の部分学ぶ。その上で、（特に学生、若者として）許容できる制度とはどういうものなのかを考える。	

第10講	政策課題⑥-異次元？の子育て政策はどこへ向かうのか	2024年から始まった異次元の少子化・子育て政策について、法律上の位置付けと、これまでの政策の流れも含めた全体像を把握し、将来を担う世代の育成はどうあるべきかを考える。
第11講	ロビーイング①-ロビーイング入門。ロビーイングってなに？	特定の政策目的を達成するために行われる「ロビーイング」について、基本を学ぶ。日本が柔道で金メダルを取らなかった意外な理由や、外交はもちろん、今や一大ビジネスに成長しつつある国内のロビー活動の課題を知る。
第12講	ロビーイング②-ロビーイング実践編。乳児用液体ミルクの国内解禁	特定の政策目的を達成するために行われる「ロビーイング」について、事例で学ぶ。本講では、一人の主婦のアンケートから始まった「赤ちゃんミルク」の日本における解禁事例をケーススタディとして扱い、政策形成におけるNGO、企業、行政、立法それぞれの役割を学ぶ。
第13講	政策課題（国際）「国際紛争でみる「政策」と「法」	国際法上、戦争は起きない（はず）とされている。それでも戦争（ないし武力紛争）は発生し、国際法上は禁止されているはずの行為が横行している。実際の武力紛争のケースを題材に、武力紛争にまつわる「法」的な側面と「政策（政治）」的な側面を学ぶ。
第14講	試験・まとめと解説	講義における基礎部分（政策形成論）及び個別政策における共通課題について振り返り、最終試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回テーマについて、図書館やインターネットで概観を調べ、「気になること」や「自分の意見」を考えてくること(2h)。毎回授業後にミニテストに回答すること。また、加点要素として、任意で事後レポートを提出することができる(2h)。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

各回に関連する資料を必要に応じて授業において配布するほか、テーマ別の参考書籍を各回において紹介する

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後ミニテスト(40%)、最終試験(40%)、平常点(20%) ※
※平常点は、クラスへの貢献（発言など）や授業後レポート（任意・加点要素）を加味。なお、授業態度が不良な場合、レポートや試験点などが高くとも、総合点を大幅に減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

（昨年度授業担当者変更により、直近のアンケート結果が手元にないため、授業後などに得た意見を元に記述）

昨年度の授業では、概ね、「資料が綺麗」、「（実務経験や海外経験と関連する回は、）実話などが入っていて面白い、想像しやすい」といった好意的な意見が多かった。

なお、「他学部の学生参観制度」も利用し、結果も同様に好評だったが、グループワークのタイミングについて意見があり、昨年度の途中から改善済。

最も重要視した点として、「法律（or政策）を学ぶだけでは分からない、逆側の側面や細かいプロセスや運用、逆側の視点が分かってよかった」というコメントがあり、今年度の授業設計ではこの点をより強化している。

【学生が準備すべき機器他】

万が一オンラインにて行う場合に備えて、ZOOMが視聴できる環境（昨年度は実施なし）。

【その他の重要事項】

事前に政治学や国際関係学、各法律科目などの基礎知識は不要である（基礎から理解できる内容とする）。

ただし、特に序盤は理論の解説が続くため、積極的に授業に参加する態度がないと、中盤以降の内容の理解が表層的になり、最終的に本講の到達目標に達しない（＝単位不認定になる）場合がある。

【実務経験のある教員による授業】

厚生労働省（I種法律職）で危機管理や省内統括部門を中心に勤務。退職後、英国グラスゴー大学で国際安全保障学修士号。帰国後、参議院議員秘書として、政策提言等に従事。直近はエジンバラ大学博士課程（中途退学）を経て、株式会社博報堂で大型公共事業の中核チーム等を担当。官・民・政での実務経験を担当科目に活かし、実践的教育を行っている。

【Outline (in English)】

Even when addressing social problems, from the perspective of policy and law a variety of instruments are employed, including not only legal rules and regulations but also surveys, subsidies, and public campaigns. Both law and policy are important, but neither alone is sufficient to solve these problems.

In this course, students first examine how policy is formulated, how the legislative process operates, how law and policy interact, and how decision-making — including political processes—takes place. Building on this foundation, the course then explores the respective roles, limitations, and appropriate functions of law and policy in addressing a range of social issues.

The instructor brings extensive practical and international experience, having worked in diverse fields such as government (bureaucracy), politics (as a parliamentary secretary), the private sector (major advertising agency), and overseas graduate studies in the United Kingdom. By incorporating real-world examples from both domestic and international contexts, the course aims to help students gain broad knowledge and develop a multifaceted perspective to analyze social issues.

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（英語）Ⅰ

石井 宏司

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれたアメリカの文献を精読する。

今回はアメリカの大学生向けの法律のシステムについての概説書を原文で読んでいく。授業ではこの本で取り上げられる様々な問題について日本の法律のシステムとの比較をしながら授業中で説明し議論する予定である。

授業において近年のアメリカ法で顕著に発達している West や Hein Online 等の法律データベースを利用して様々な発展的な学習をする予定である。

なお、本講義は毎年異なる部分を精読するので連続して履修してもよい。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれたアメリカの法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

特に授業中に資料として渡す英語の専門用語については重要なものを覚えるようにしてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学の学部生向けに書かれた、同国の法律のシステムについて解説している教科書から、An Introduction to the Legal System of the United States を読む予定。

毎回数ページ程度、参加者が予習したものを発表する形式とする。フィードバックは授業内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第2回	輪読	文献を読む① Part1 Historical Background(1)
第3回	輪読	文献を読む② Part1 Historical Background(2)
第4回	輪読	文献を読む③ Part1 Historical Background(3)
第5回	輪読	文献を読む④ Part7 Statute(1)
第6回	輪読	文献を読む⑤ Part7 Statute(2)
第7回	輪読	文献を読む⑥ Part7 Statute(3)
第8回	輪読	文献を読む⑦ Part8 Secondary Authority(1)
第9回	輪読	文献を読む⑧ Part8 Secondary Authority(2)

第10回	輪読	文献を読む⑨ Part8 Secondary Authority(3)
第11回	輪読	文献を読む⑩ Part9 Classification(1)
第12回	輪読	文献を読む⑪ Part9 Classification(2)
第13回	輪読	文献を読む⑫ Part9 Classification(3)
第14回	輪読	文献を読む⑬ 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習時間は3時間を、復習時間は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

輪読する文献の該当箇所のコピーを配布する予定である。

【参考書】

E. Allan Farnsworth, An Introduction to the Legal System of the United States(4th ed. 2010).

【成績評価の方法と基準】

文献を読み、意味を正しく把握し、専門用語を正確に翻訳できるか、また、法的な文章として適切に翻訳を行えるかを基準として評価を行う。

予習において指定した範囲について授業で発表（50%）

授業内において指定した箇所の翻訳の課題（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

輪読する予定の文献の英語については最初の方は特に歴史用語等法律以外の単語が出てくるのでその点で難しいことが想定される。ただし、予習・復習を行えば、理解できると考えられるので予習・復習の手助けとなるような助言を適切に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業出席時にはインターネット上のウェブサイトや図書館のデータベース等を閲覧するのでPCやスマホ等を用意すること。

【Outline (in English)】

In order to enhance your linguistic ability to read English-language material on law, this course is designed to read US textbook such as E. Allan Farnsworth , An Introduction to the Legal System of the United States, Fourth Edition (4th ed, 2010, Oxford University Press) .

After completing this course, :

- To be able to accurately read American law legal literature in English.; and
- Understand their meanings.

It would be normal to spend 3 hours preparing for each coursework and to take 1 hour following up each class.

The final mark bases on work done during a course of study (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（英語）Ⅱ

石井 宏司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれたアメリカの文献を精読する。

今回はアメリカの大学生向けの法律のシステムについての概説書を原文で読んでいく。授業ではこの本で取り上げられる様々な問題について日本の法律のシステムとの比較をしながら授業中で説明し議論する予定である。

授業において近年のアメリカ法で顕著に発達しているWestやHein Online等の法律データベースを利用して様々な発展的な学習をする予定である。

なお、本講義は毎年異なる部分を精読するので連続して履修してもよい。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれたアメリカの法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学の学部生向けに書かれた、同国の法律システム等について解説している教科書である、An Introduction to the Legal System of the United Statesを読む予定。

毎回数ページ程度、参加者が予習したものを発表する形式とする。フィードバックは授業内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第2回	輪読	文献を読む① Part10 Procedure(1)
第3回	輪読	文献を読む② Part10 Procedure(2)
第4回	輪読	文献を読む③ Part10 Procedure(3)
第5回	輪読	文献を読む④ Part10 Procedure(4)
第6回	輪読	文献を読む⑤ Part10 Procedure(5)
第7回	輪読	文献を読む⑥ Part11 Private Law(1)
第8回	輪読	文献を読む⑦ Part11 Private Law(2)
第9回	輪読	文献を読む⑧ Part11 Private Law(3)
第10回	輪読	文献を読む⑨ Part11 Private Law(4)
第11回	輪読	文献を読む⑩ Part12 Public Law(1)

第12回	輪読	文献を読む⑪ Part12 Public Law(2)
第13回	輪読	文献を読む⑫ Part12 Public Law(3)
第14回	輪読	文献を読む⑬ 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習時間は3時間を、復習時間は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。輪読する文献の複写物を配布する。

【参考書】

E. Allan Farnsworth, An Introduction to the Legal System of the United States (4th ed. Oxford University Press 2010).

【成績評価の方法と基準】

文献を読み、意味を正しく把握し、専門用語を正確に翻訳できるか、また、法的な文章として適切に翻訳を行えるかを基準として評価を行う。

予習において指定した範囲について授業で発表（50%）

授業内において指定した箇所の翻訳の課題（50%）

で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

輪読する予定の文献の英語については最初の方は特に歴史用語等法律以外の単語が出てくるのでその点で難しいことが想定される。ただし、予習・復習を行えば、理解できると考えられるので予習・復習の手助けとなるような助言を適切に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業においては受講者が準備すべきものは、PCあるいはスマートフォンである。そのほかの用意すべき機器等については予め授業内で指定する。

宿題の提出においてはGoogle Student等のサービスを利用する予定であるため、PC又はスマホ等が必要となる。なお、詳細については授業内で説明する。

【Outline (in English)】

In order to enhance your linguistic ability to read English-language material on law, this course is designed to read US textbook such as E. Allan Farnsworth , An Introduction to the Legal System of the United States, Fourth Edition (4th ed, 2010, Oxford University Press) .

After completing this course, :

- to be able to accurately read American law legal literature in English.; and
- Understand their meanings.

It would be normal to spend 3 hours preparing for each coursework and to take 1 hour following up each class.

The final mark bases on work done during a course of study (100%).

POL100AC (政治学 / Politics 100)					
政治過程論 I					
山口 二郎					
授業形式：講義 開講セメスター：春学期授業/Spring					
単位数：2単位					
その他属性：〈優〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
この科目は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代の民主政治において政策が立案，決定，実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み，概念を理解することを目指す。					
【到達目標】					
現代政治の基本的な構図を理解すること。					
テレビ、新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き、批判的に理解すること。					
市民として政治に対する問題意識を持つこと。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
基本的な枠組みとして、民主政治における主要なアクター（政党，官僚制，圧力団体，メディア）などの特徴と行動原理について説明する。さらに政治決定過程を分析するための理論枠組み（エリート支配，多元主義，政策コミュニティ）の概念について説明する。					
具体的な問題として、これらのアクター分析や概念設定が戦後日本政治の文脈において、いかなる形をとって来たのかレビューする。1990年代以降の日本における様々な改革を取り上げ、それらが目指した課題，改革策の議論，決定，実施の過程を明らかにする。最後に、2009年に起こった政権交代の意義について考え、これからの日本の政党政治、民主主義の可能性を展望する。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
なし / No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
第1回	はじめに 政治学を学ぶことの 意味	内容 ・今という時代 戦後日本的なるものの終わり 雇用と家族の変化 生きづらさの構図 ・学問が役に立つとはどういう ことか 原発事故の教訓 批判的知性の必要性和学問の 自由 専門知と一般知の関係 ・リスクの拡大とセキュリティ の確保 →the last resortとしての政府 自発的秩序形成能力と自然状態 権 力の必要性 ・政治学とはどんな学問か 学問 が役に立つとはどういうことか 実学思考の落とし穴 騙されることの責任 懐疑主義と理想主義 共同体 市場 政府 それぞれの長所と短所	第4回	1 続き ②政府の得意分野 ③政府はなぜ嫌われるか	世の中の前提条件を整える 様々なルールの必要性 力はなぜ必要か 共同体との対比 市場との対比 嫌われても必要な政府 自然の法則には逆らえない 何が自然で何が人工的なものか？ 当たり前を疑うところから民主主義が始まった ルールは常に公平か？ ルールと世の中の力関係 黙っているは無視される 絶対的ルールと相対的ルール 人間の多様性と 共存の必要性 どのように決めるのが望ましいのか 多数決はなぜ必要か 多数決の限界はどこにあるのか →法の支配と立憲主義 多数とは誰のことか？ =誰が社会に境界線を引くのか？ 市民は選挙の時だけ自由（ルソー） 代表民主政治と直接民主政治 政治参加の様々な形態＝動くことの大切さ 権利を生かすこと 性悪説→ホッブズ、マキャヴェリの世界 権力と強制 性善説→アナーキズムとユートピア 人間の矛盾と限界 所与性の拒絶と理想の探求 理想主義の落とし穴 なぜ革命は裏切られるのか 懐疑的理想主義、楽観的現実主義の必要性 巨大社会と民主政治 メディアの必要性 イメージとステレオタイプ 判断における知性と感情 デマゴーグと民主主義 多数の専制と自己破壊的政治 世論の質をいかに担保するか 言葉の機能：約束と言葉 Double Think と New Speak わかりやすさと単純化 人はなぜ自己破壊的選択をするのか 民主政治を担う市民をいかに育てるか 地方自治 中間団体 直接的接触（コミュニケーション）と熟議 生きることはそれ自体が最高の価値 生きることを意味は人それぞれ異なる 崇高な生き方を押しつけることの危うさ
第2回	はじめに2 政治とはいかなる活動か		第5回	2 参加と民主主義 ①自然の法則と人工のルール ②誰が何のためにルールを決めるのか	
第3回	1 政府とは何か ①問題解決の3つの方法		第6回	2 続き ③多数決と民主主義	
			第7回	2 続き ④民主主義はどこにあるか	
			第8回	3 人間の不完全性と民主政治 ①人間の本性をめぐって ②政治における理想と現実	
			第9回	3 続き ③私たちはいかにして物事を知るか	
			第10回	3 続き ④民主政治と衆愚政治	
			第11回	3 続き ⑤政治と言葉 ⑥市民教育と民主政治	
			第12回	4 民主政治における重要な価値 ①生命	

第13回	4 続き ②自由	多様性と寛容＝権力・多数派からの自由 生産力の上昇と経済的自由の登場 自由の特権化と複数の自由の衝突 自由からの逃走 自を使うことの大切さ：メディア社会と自己抑制
第14回	4 続き ③平等	原初的平等のイメージ 自由の普遍化としての平等 平等と強制、画一化 自由と平等の緊張関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介された参考書をなるべくたくさん読む

毎日、新聞を読む

講義の前日までにパワーポイント資料を授業支援システムにアップするので、ダウンロードしておくこと

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

山口二郎 『今を生きるための政治学』（岩波書店）、2013年、

【参考書】

開講時にリストを配布する

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する

【学生の意見等からの気づき】

なるべく双方向的な議論の時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する

学習支援システムから資料を各自ダウンロードすること

【Outline (in English)】

1 Aim

This lecture aims at providing basic framework and concepts to understand the modern democracy. It also explains how democracy works and how we should engage in democratic politics.

2 Requirement

Students are required to read assigned articles, and submit an mid-term essay.

3 Grading

Grading will be made based on mid-term essay(30%) and term-end examination(70%).

LAW200AB（法学 / law 200）

民事手続法入門

安西 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続のなかから、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の基礎を理解する。

本科目は、入門として全てのコースに配置される。

【到達目標】

・具体的な民事紛争に対処するイメージをもちながら、訴え提起の準備から始まり、権利の実現に至るまでの一連の手続の流れを理解することができる。

・民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続として、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の意義・目的、流れ、仕組みを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

民事紛争は、いつ何をきっかけに生じるかわからない。例えば、交通事故にあい、治療費がかかったが、加害者が損害を賠償してくれない、アルバイト先が給料を払わないといったことは、学生の皆さんのまわりでも起こりうることである。

本講義では、民事紛争を処理・解決するために用意されている様々な手段・手続の中から、裁判所で行われる訴訟手続を中心に扱う。具体的な事例を想定しながら、できる限り実際の紛争処理の流れに沿って解説していく。

授業外での質問には個別に対応するほか、必要に応じて、授業中に共有してコメントする。課題についてのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	民事手続法の世界へようこそ	ガイダンス
第2回	民事紛争と民事手続法	民事紛争を解決するために利用することができる手続を概観する。
第3回	民事裁判の特徴と概要	裁判所の組織、管轄、裁判官・書記官・弁護士など法廷の人々、民事裁判の大まかな流れを扱う。
第4回	訴え提起の準備／民事保全	訴えを提起する前に行われる準備、民事保全手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。
第5回	訴えの提起	訴えの提起、当事者を扱う。
第6回	訴えの種類と利益／訴訟物	給付・確認・形成の訴えの内容とそれぞれの利益、訴訟物の意義を扱う。
第7回	審理	審理、弁論主義、釈明権、口頭弁論の意義と内容を扱う。
第8回	争点整理手続	争点整理手続の意義・目的、種類と内容を扱う。

第9回	証拠調べ／証拠の収集	証拠、証明責任、証拠調べ、証拠の収集のために使われる手続を扱う。
第10回	訴訟の終了・判決	当事者による訴訟の終了、判決の意義と効力について扱う。
第11回	民事執行手続の概要	民事執行手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。
第12回	不動産執行	不動産執行の手続の流れを扱う。
第13回	動産執行・債権執行	動産執行・債権執行の手続の流れを扱う。
第14回	総括	第13回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、講義で配布するレジュメを基に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・安西ほか『民事訴訟法・第3版』有斐閣ストゥディア 2023

（下記の参考書のうち②をテキストとして使用しても良い）

毎回事前にテキストの参照箇所を示したレジュメを配布する予定。また、必要な資料等はレジュメに記載する。六法を持参し適宜参照できるようにすること。

【参考書】

民事訴訟の流れを理解するために早い時期に一読をお勧めするもの

①福永有利＝井上治典『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016年）

いわゆる民事手続法全般を網羅的に扱っているもの

②井上治典編『ブリッジブック民事訴訟法・第3版』（信山社、2022年）

③中野貞一郎『民事裁判入門〔第3版補訂版〕』（有斐閣、2012年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes. We will focus primarily on Civil procedure law and Debtor-creditor law.

Students are expected to understand the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes. Before/after each class, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination 100%.

LAW200AB (法学 / law 200)

法律学特講 (英米法思想史)

金井 光生

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主として、「文化・社会と法コース」との関連が深い授業です。法思想史のうち、「英米系の法思想史」を概観します。法も人間が「権利のための闘争」の中で生み出してきた共同の文化遺産である以上、人類の長い思想の物語 (narratives) に裏づけられています。

法の意義と意味を深く知り、より生産的な実定法解釈を実践するために、単なる思想の理解や知識の獲得を目的とするだけでなく、その現代日本法における意義も考えながら「自分で思索できる」ようになることを目指します。

英米法思想における先人たちの知恵に学びつつ、現代の私たちがどうしていくべきか、法・正義・人権などについて原理的に考えていきましょう。「人は哲学を学ぶことはできない…ただ哲学することを学ぶうのみである」(カント『純粹理性批判』B866)。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) 主要な思想を「自分の言葉で」説明できる。
- (3) 諸思想を踏まえたうえで、現代日本法の考え方にアプローチできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書を前提に、レジュメ等を配布して「テキスト読解重視」の講義を行います。

授業内容は、主に「コモン・ロー主義と制定法主義」という図式の下で、(1) イギリス近代まで (2) アメリカ近代まで (3) 現代の英米法思想、を扱う予定です。

適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。
＊授業計画はあくまで予定で、履修者や時間の関係等によって変更する可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英米法思想史を学ぶ意味と意義
第2回	英米法と英米法思想	コモン・ローと法思想
第3回	イギリスの自然法論と法実証主義①	E. クック vs. Th. ホップズ
第4回	イギリスの自然法論と法実証主義②	J. ロック vs. D. ヒューム
第5回	イギリスの自然法論と法実証主義③	W. ブラックストーン vs. J. ベンサム
第6回	イギリスの分析法と歴史法学	J. オースティン vs. H. メイン
第7回	イギリス・アメリカの憲法思想①	マグナ・カルタ、権利章典、『ザ・フェデラリスト』など
第8回	イギリス・アメリカの憲法思想②	独立宣言、合衆国憲法、プラグマティズム法学など

第9回	現代英米正義論①	J. ロールズ
第10回	現代英米正義論②	R. ドゥオーキン、A. セン
第11回	現代英米正義論③	R. ノージック、M. サンドルなど
第12回	現代英米正義論④	H.L.A. ハート vs. R. ドゥオーキン
第13回	英米における現代の法思想の潮流	批判法学・フェミニズム法学など
第14回	まとめ：日本法の源流としての英米法思想	日本法思想との対話

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1) テキストとレジュメ・資料の指定範囲を予習・復習する。
 - (2) 下記の参考書を活用して、自分なりに補習する。
 - (3) 用語や関連する論点等を各自で図書館やデータベースを活用して調べる。
- ＊本授業の準備・復習時間は「4時間以上」を標準とします。

【テキスト (教科書)】

深田三徳ほか編著『よくわかる法哲学・法思想 (第2版)』(ミネルヴァ書房、2015年)

【参考書】

竹下賢ほか編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房、2010年)

田中成明ほか『法思想史 (第2版)』(有斐閣、1997年)

中山竜一ほか『法思想史』(有斐閣、2019年) ＊オオススム

田中英夫『英米法のことば』(有斐閣、1986年)

大野達司ほか『近代法思想史入門』(法律文化社、2016年)

戒能通弘『近代英米法思想の展開』(ミネルヴァ書房、2013年)

金井光生『裁判官ホームズとプラグマティズム』(風行社、2006年)

中山竜一『二十世紀の法思想』(岩波書店、2000年)

田中英夫編集代表『英米法辞典』(東京大学出版会、1991年)

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。

平常点およびリアクションペーパー (50%) + 期末試験またはレポート課題 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ・資料等を改良した

【その他の重要事項】

「大陸法思想史」および「英米法」の科目も履修することを推奨します (年度により不開講の場合あり)。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We learn the history of Anglo- American legal ideas. And we think thoughtfully those ideas in comparison to Japanese legal ideas.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the basic issues and think them thoughtfully.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination or term-end report: 50 %, Short reports: 50 %.

LAW300AB（法学 / law 300）

行政組織法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や都道府県・市町村などの行政主体が実際に行政活動をするには、大臣、副大臣、局長・部長・課長（室長）、徴収職員、知事・市町村長、副知事・副市町村長、消防吏員などの行政機関がなければならない。多数の行政機関の体系的な機構を行政組織という。その設置・名称・構成・所掌事務などを規律する法が、狭義の行政組織法である（以下、狭義の行政組織法を「行政組織法」という）。

行政機関は、行政主体のために行政事務を担当する自然人をその地位で捉えたものであり、その意味で観念的存在であって、そのため現実の行政活動の遂行には、行政主体のために働く自然人も必要である。その自然人のうち、行政主体と勤務関係にある者を公務員という。公務員を規律する法が、公務員法である。

また、行政活動の遂行には、庁舎・その土地、事務用品などの物品もなければならず、また、行政目的の達成には、道路・河川・保健所などの物的施設の提供・管理も不可欠である。これらの物品・物的施設のような、行政主体により直接に公の目的に供される有体物を公物という。公物に関する法が、公物法である。

行政組織法では、行政主体や行政機関の意義・種別、行政機関相互の関係なども検討されるが、これらは行政法入門でとりあげられているため、授業では、これらとの重複を避ける。学習するのは、現行法上の行政組織の編成であり、また、公務員法と公物法の概要である。それらの学びを通して、国や地方公共団体の抱える法的問題を把握したり、その法的問題に対処したりする能力を養ってほしい（行政・公共政策と法コース）。

【到達目標】

内閣・内閣府・外局などの、現行法上の行政組織の編成について説明することができる。

公務員の意義、種類、勤務関係、権利と義務について説明することができる。

公物の意義、種類、管理権、使用権について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	行政組織法・公務員法・公物法のイメージと本授業での学び
第2回	行政組織法(1)	内閣
第3回	行政組織法(2)	内閣府
第4回	行政組織法(3)	省
第5回	行政組織法(4)	外局等

第6回	行政組織法(5)	地方公共団体の行政組織の編成
第7回	公務員法(1)	公務員の意義と種類 人事行政機関
第8回	公務員法(2)	公務員の勤務関係の成立・変更・消滅
第9回	公務員法(3)	公務員の権利
第10回	公務員法(4)	公務員の義務（職務専念義務、法令及び上司の命令に従う義務）
第11回	公務員法(5)	公務員の義務（争議行為等の禁止、政治的行為の制限など）
第12回	公物法(1)	公物の意義と種類
第13回	公物法(2)	公物管理権の主体と内容
第14回	公物法(3)	公共用物の使用関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲の参考書のいずれかを用いて予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、各回配布するプリントを使用する。

【参考書】

宇賀克也『行政法概説III〔第6版〕』（有斐閣、2024年）

塩野宏『行政法III〔第5版〕』（有斐閣、2021年）

藤田宙靖『行政組織法〔第2版〕』（有斐閣、2022年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要なPCあるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to help you understand a contemporary composition of the executive branch, to provide an overview of law on civil service, and to sketch out law on tangible things used directly by public entities or made available to the public (about tangible things, see Art. 85 of the Civil Code).

After completing this course, you should be able to:

- Explain a contemporary composition of the executive branch, such as the Cabinet, the Cabinet Office, the Ministry;
- Explain a notion, sorts, and recruitment (including working conditions) of civil servants, and also spell out their rights and obligations;
- Explain a notion and sorts of the tangible things used directly by public entities or made available to the public, and also expound public entities' power to administer them and individual rights to use them.

You should learn independently by reading your own reference book(s) in order to prepare for and/or review every class. The STANDARD time for preparation and review is 2 hours each.

Assessment for your comprehension is done by an end-of-term exam (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

都市法

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市空間の利用を制御し都市空間の整備や保全を規律するのが都市法である。都市空間の利用は、私人だけでなく国や地方公共団体によっても行われる。都市空間の整備・保全は主として国や地方公共団体が行うが、私人がこれに関与することもある。この授業は、このような都市法について、できるだけ身近な問題を取り上げながら、検討することを目的とする。

具体的には、都市計画、開発規制、建築規制、土地収用、都市計画事業（土地区画整理、市街地再開発等）、都市問題に関連して生じる紛争の解決を取り上げる。いずれのテーマも、一見とすると、人の生活に直接関係がないように見える。しかし、各自が居住する地域を思い巡らせれば容易に分かるように、個人の居宅、マンション、商店、オフィスビル、ショッピングセンターなどの建設は、日々、行われており、また、道路や公園の整備は個人の生活に深く関係する。この授業は、具体的には、これらの法律問題について検討するものである。

この授業の受講者は、都市法を学ぶことを通して、都市空間の利用を制御する法、都市空間の整備や保全を規律する法を修得し、また、それらの問題点を把握し、さらに、都市法を利用してよりよい生活環境を享受するためにいかなる行動をとるべきかを判断できるようにすることを期待される。

なお、この科目は「行政・公共政策と法コース」に配当されている。

【到達目標】

- ①都市法と都市問題の関係について説明することができる。
- ②新たな建築を行う場合に当該建築物がどのような建築規制を受けることとなるかを調べ確認して説明することができる。
- ③都市計画の内容や決定・変更の手続について説明することができる。
- ④都市計画制限について説明することができる。
- ⑤土地収用について、事業認定や収用裁決の適否を含め、説明することができる。
- ⑥区画整理・再開発について、その仕組みやメリット・デメリット、それらに伴う紛争解決のあり方について、説明することができる。
- ⑦都市計画事業について、その概略を説明することができる。
- ⑧建築紛争や開発調整について、具体例を含めて、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、一般的な講義とし、対面（ハイフレックス）で実施する。学習支援システムとGoogleクラスルームを利用する。学習支援システムは授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Googleクラスルームを主として利用する。Googleクラスルームを通して、成績評価を含む必要事項を受講者に周知し、また、理解度確認のための小テストの実施（任意）とリアクションペーパーの提出（任意）に利用する。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことによって行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国土利用と都市法制（1）	都市問題と都市法 都市法とは何か
第2回	国土利用と都市法制（2）	国土利用計画法 都市計画法
第3回	国土利用と都市法制（3）	マスタープラン 都市計画提案制度
第4回	都市空間の制御（1）	開発と建築 開発規制
第5回	都市空間の制御（2）	建築基準法 建築物概念
第6回	都市空間の制御（3）	用途地域制
第7回	都市空間の制御（4）	建築物の高さ制限 日影規制
第8回	都市空間の制御（5）	道路に関する規制
第9回	都市空間の制御（6）	建築確認
第10回	都市空間の制御（7）	地区計画 建築協定
第11回	都市空間の形成（1）	土地収用の対象とプロセス
第12回	都市空間の形成（2）	土地収用と損失補償
第13回	都市空間の形成（3）	都市計画事業
第14回	都市空間の形成（4）	土地区画整理事業 市街地再開発事業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『都市法講義』（法政大学生協書籍部のみで販売）

【参考書】

- ・大橋洋一『都市法』（2024年、有斐閣）
- ・生田長人『都市法入門講義』（2010年、信山社）
- ・稲本洋之助・小柳春一郎・周藤利一『日本の土地法 [第3版]』（2016年、成文堂）
- ・碓井光明『都市行政法精義Ⅰ』（2013年、信山社）、『都市行政法精義Ⅱ』（2014年、信山社）
- ・久保茂樹『都市法入門』（2024年、三省堂書店／創英社）
- ・逐条解説建築基準法編集委員会（編）『逐条解説建築基準法』（2012年、ぎょうせい）
- ・安本典夫『都市法概説 [第3版]』（2017年、法律文化社）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。ただし、今後とも授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Googleクラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は推奨せず、それによって不都合が生じている受講者に特別の対応は実施しない。

【Outline (in English)】

Urban Law controls use of urban space and regulates maintenance and conservation of urban space. This course covers urban planning, development regulations, building regulations, land acquisition, and urban planning projects (land readjustment, urban redevelopment, etc.).

Students who take this course are expected to master legal method to resolve urban problems by Urban Law. They are also expected to become able to find what actions should be taken to enjoy a better living environment by Urban Law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

アメリカ外交史Ⅰ

青野 利彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：「アメリカ政治外交史」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、現在のアメリカ外交を理解するために必要な、歴史的背景や経緯について基礎的な知識を獲得することである。講義では主として第二次世界大戦後からベトナム戦争が泥沼化した1960年代末までの時期を扱うが、戦後アメリカ外交を理解する上で重要な20世紀初頭までの歴史的背景についても概観する。アメリカの対外政策を規定した内政上の要因や、逆に対外関係が内政に与えた影響についても留意しながら講義を進める。（なお、1970年代～2020年代までのアメリカ外交は、2027年度にアメリカ外交史Ⅱで扱う予定。）

【到達目標】

科目修得した時点で以下の諸点を把握していることが期待される。

- (1) 建国期に起源を持つアメリカ外交の思想的基盤と、それが以降のアメリカ外交に与えた影響。
- (2) 建国期から第二次世界大戦、冷戦開始期を経て、1960年代末にいたるまでのアメリカ対外政策の歴史の概要、
- (3) アメリカの対外政策形成に影響を与えた国際環境や国内政治の影響。
- (4) アメリカ外交が世界に与えたインパクト。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、受講者数次第で適宜ディスカッションを取り入れる可能性がある。定期的にリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アメリカ外交をどのような歴史的視角から見るべきかについて検討し、授業の概要を紹介する。
第2回	アメリカ外交の歴史的基盤（1）	建国（1776年）から19世紀末まで
第3回	アメリカ外交の歴史的基盤（2）	20世紀初頭から第一次世界大戦まで
第4回	第二次世界大戦と冷戦の起源（1）	戦間期から第二次世界大戦まで
第5回	第二次世界大戦と冷戦の起源（2）	第二次世界大戦末期～冷戦初期
第6回	朝鮮戦争と冷戦の軍事化（1）	戦後アメリカの東アジア政策の展開
第7回	朝鮮戦争と冷戦の軍事化（2）	朝鮮戦争の勃発とその影響、米国内におけるマッカーシズムの展開
第8回	アイゼンハワー政権とニュールック戦略（1）	アイゼンハワー政権の登場とニュールック戦略の概観、大量報復戦略の適用
第9回	アイゼンハワー政権とニュールック戦略（2）	第三世界への介入拡大、1950年代のアメリカの内政・社会と冷戦

第10回	ケネディ政権とベリン・キューバ危機（1）	アイゼンハワー政権後期の東西対立の高まり、ケネディ政権の冷戦戦略の概観
第11回	ケネディ政権とベリン・キューバ危機（2）	ケネディ政権期の米ソ関係とキューバ危機の勃発・展開・解決および影響
第12回	ベトナム戦争とアメリカの価値観の揺らぎ（1）（ケネディ期まで）	ジョンソン政権期の米ソ関係、ベトナム戦争の起源と展開
第13回	ベトナム戦争とアメリカの価値観の揺らぎ（2）	ジョンソン政権のアメリカの直接介入、戦争の泥沼化とその影響、1960年代末の米国社会
第14回	まとめ	講義内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習したり関連文献を読解するのに2時間、合計3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定せず、毎回レジュメを配布する。各テーマの参考文献はレジュメで紹介する。なお教科書指定はしないが、授業内容の確認に役立つ書籍として以下を参照。

青野利彦『冷戦史』上下、中公新書、2023年（上巻全体および下巻7章）

青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎『現代アメリカ政治外交史－「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』（ミネルヴァ書房、2020年）序章～第4章。

【参考書】

参考書として以下もあげておく

小川浩之、板橋拓巳、青野利彦『国際政治史――主権国家体系のあゆみ〔新版〕』有斐閣、2024年。特に5～10章。

佐々木卓也編『新版 戦後アメリカ外交史 第3版』有斐閣、2017年
佐々木卓也『冷戦』有斐閣、2011年

西崎文子『アメリカ外交史』東京大学出版会、2022年
益田実・齋藤嘉臣編著『冷戦史－超大国米ソの出現からソ連崩壊まで』法律文化社、2024年

【成績評価の方法と基準】

学期中のリアクションペーパー：30%

期末試験：70%

上記合計の100点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者につきフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

無し

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledge of the historical background and context essential to understand contemporary American foreign policy. While the lectures primarily cover the period from the end of World War II to the late 1960s when the Vietnam War became entrenched, they also provide an overview of the historical background from the American Revolution in the late 18 century to the first four decades of the 20th century, which is crucial for understanding postwar American diplomacy. It also pays attention to the intersections between domestic political and social factors and foreign policy. (Note: American foreign policy from the 1970s to the 2020s is scheduled to be covered in American Diplomatic History II in the 2027 academic year.)

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅰ）

大原 利夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、社会保障法に関する基礎的知識と判断能力を得るために、貧困と児童虐待に関する諸問題を学びます。

この科目は、すべてのコースに属しています。

【到達目標】

学生は、ホームレス、貧困母子家庭、生活保護、児童虐待に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面型の講義形式で行います。学生は、解説を聞き、また資料映像を見て、毎回、レポートを提出します。レポートのフィードバックは、授業または学習支援システムにおいて全体に対して行います。

なお、教材のリニューアル等にもとない、授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	社会保障法のイメージ、授業の進め方、授業の受け方などについてシラバスに基づいて説明する。
第2回	導入	社会保障とボランティアの関係について扱う。
第3回	多子家庭	多子家庭と貧困について扱う。
第4回	水際作戦	生活保護の水際作戦と、姉妹孤立死について扱う。
第5回	女性と児童虐待	女性への児童虐待について扱う。
第6回	ガールズ・ブア	近年注目される女性の貧困について扱う。
第7回	被虐待児の保護	児童相談所の役割と里親について扱う。
第8回	母子家庭の貧困	母子家庭の貧困に焦点をあてて、銚子心中未遂事件などを扱う。
第9回	被虐待児への支援1	虐待を受けた子どもに対する自立支援の課題や取り組みなどを扱う。
第10回	子どもの貧困と親の貧困	子どもの貧困と親の貧困について考察する。
第11回	被虐待児への支援2	虐待を受けた子どもに対する自立支援の課題や取り組みなどを扱う。
第12回	ホームレス	現代のホームレスとその支援を扱う。
第13回	世界の貧困	世界の貧困の実態と支援の実態を扱う。
第14回	世界の所得格差	所得格差をグローバルに考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示に従って予習および復習をして下さい。

また授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

本沢巳代子ほか『トピック社会保障法 第19版』（信山社、2025年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポート、質疑応答、受講態度）100%により評価します。出席が全授業回数の60%未満の場合は、他の評価項目の成績に関わらず単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

説明の仕方を工夫したいと思います。また、資料の用い方を工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、QRコードを読み取り、インターネット接続のできる端末、たとえばスマートフォン、iPadなどのタブレットなどが原則として必要となります。

【その他の重要事項】

質問は授業終了後またはメールにて受け付けます。

e-mail:toshio.oohara.tv@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course introduces various problems of poverty and child abuse.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to gain rudimentary knowledge and Judgment ability of social security law, especially poor law and child abuse act.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be calculated according to the following process: Usual performance score (reports, answers to questions, and class attitude) 100%,

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅱ）

大原 利夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、社会保障法の基礎的知識と判断能力を得るために、障がい者福祉を中心に社会保障法に関する諸問題を学びます。

この科目は、すべてのコースに属しています。

【到達目標】

学生は、特別支援学校、盲導犬、サリドマイド薬害、障がい者排斥思想、脳死、顔の異形、出生前診断等に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面型の講義形式で行います。一部はオンデマンド授業で行います。学生は、解説を聞き、また資料映像を見て、毎回、レポートを提出します。

レポートのフィードバックは、授業または学習支援システムにおいて全体に対して行います。

また、教材のリニューアル等にもとない、授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスに基づき、授業の内容、すすめ方を説明する。
第2回	導入	社会保障法におけるボランティアと社会事業について考察する。
第3回	視覚障がい	盲導犬とペットを比較するかたちで、視覚障がいについて扱う。
第4回	福祉に携わる人びと	児童福祉の分野において功績を遺した澤田美喜を扱う。
第5回	介護労働	福祉の現場における介護人材について扱う。
第6回	特別支援学校	特別支援学校の分教室を取り上げて、障がい者と健常者の関係性について考察する。
第7回	顔の異形	顔のアザなど、顔の異形と障がいについて扱う。
第8回	T4作戦	障がい者への排斥思想を扱う。
第9回	障がいと薬害	サリドマイド薬害について扱う。
第10回	出生前診断	出生前診断と障がいについて扱う。
第11回	社会事業	民間部門としての社会事業について扱う。
第12回	死の判定基準	死に関する2つの判断基準と脳死について扱う。
第13回	高福祉社会と低福祉社会	高・低福祉社会について考えるために諸外国を扱う。
第14回	規制と変革	医療における規制とその変革を扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は原則として不要です。指示に従って復習をして下さい。また授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

本沢巳代子ほか『トピック社会保障法 第19版』（信山社、2025年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポート、質疑応答、受講態度）100%により評価します。出席が全授業回数の60%未満の場合は、他の評価項目の成績に関わらず単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

資料の用い方を工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、QRコードを読み取り、インターネット接続のできる端末、たとえばスマートフォン、iPadなどのタブレットなどが原則として必要となります。

【その他の重要事項】

質問は授業終了後またはメールにて受け付けます。

e-mail:toshio.oohara.tv@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course introduces various problems of disability welfare.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to gain rudimentary knowledge and Judgment ability of disability law.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be calculated according to the following process: Usual performance score (reports, answers to questions, and class attitude) 100%.

LAW200AB（法学 / law 200）

外国語講読（仏語）Ⅰ

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の重要な政治・社会問題に関して、平易なフランス語で書かれていて読みやすいフランス憲法のテキストを輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランス憲法学そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。今回はイギリスのEU離脱（Brexit）をめぐる憲法問題をフランス人憲法学者の目から分析する論文を輪読する。なお、本授業では教師がすでに日本語に翻訳したものを事前に配布し、受講生に参照してもらうので、フランス語法律原典に不慣れな学生であっても、容易に授業に参加できる。また、可能な限り初歩的な仏語文法の解説も行う。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身につける。加えて、現代フランスの憲法学の基礎を十分に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

輪番制を採る。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの憲法理論と政治思想についての解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方とローテーションの設定を行う。
第2回	フランス憲法学者から見たイギリス Brexitの法的側面に関する問題提起	テキスト序論の輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス憲法学から学ぶことの意義について検討する。
第3回	Brexitが抱える矛盾の根源（1）	テキスト1頁後半を輪読してフランス憲法学からのBrexit分析の意義について学ぶ。
第4回	Brexitが抱える矛盾の根源（2）	テキスト2頁前半を輪読してフランス憲法学からのBrexit分析の意義について学ぶ。
第5回	Brexitが抱える矛盾の根源（3）	テキスト2頁後半を輪読してフランス憲法学からのBrexit分析の意義について学ぶ。
第6回	Brexitに至るイギリス政治の分析（1）	テキスト3頁前半を輪読してBrexitの政治的背景をフランス語で学ぶ。
第7回	Brexitに至るイギリス政治の分析（2）	テキスト3頁後半を輪読してBrexitの政治的背景をフランス語で学ぶ。
第8回	Brexitに至るイギリス政治の分析（3）	テキスト4頁前半を輪読してBrexitの政治的背景をフランス語で学ぶ。
第9回	Brexitに至るイギリス政治の分析（4）	テキスト4頁後半を輪読してBrexitの政治的背景をフランス語で学ぶ。

第10回	レファレンダムと議会主権の分析（1）	テキスト5頁前半を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ
第11回	レファレンダムと議会主権の分析（2）	テキスト5頁後半を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ
第12回	レファレンダムと議会主権の分析（3）	テキスト6頁を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ
第13回	レファレンダムと議会主権の分析（4）	テキスト7頁を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ
第14回	レファレンダムと議会主権の分析（5）と前半のまとめ	テキスト8頁を輪読してイギリス型民主主義についてのフランス憲法の視点からの分析をフランス語で学ぶ。加えて最後に半年間を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自己の翻訳とを照らし合わせて、よりよい仏語翻訳の技術を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Julien Boudon, "Aspects juridiques du Brexit – Le point de vue d'un constitutionnaliste français", 2019. このテキストは、2019年春の日本における講演のための原稿であって公開されたものではない。受講者には、事前にコピーを配布する。加えて本講演については日本語訳（公開済み）も事前に配布する。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60%）と質疑その他の授業への積極的参加度（40%）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生が多い場合、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想の背景についての解説の時間を多くとることが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Reading of some easy texts about the French constitutional law.

【Learning Objectives】

The goal of this course is a learning of French language and French constitutional law theories.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to read and translate each part of text by oneself.

【Grading Criteria / Policy】

Quality of translation of the part of text assigned to the student (60%) and the active participation to the discussion (40%).

LAW200AB（法学 / law 200）

外国書講読（仏語）Ⅱ

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代の重要な政治・社会問題に関して、平易なフランス語で書かれていて読みやすいフランス憲法論のテキストを輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランス憲法学そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。今回は「現代のルソー」と呼ばれる元パリ第一大学教授のドミニク・ルソーが、直接民主主義と代表制民主主義の対立を超える新たな民主主義として、「くじ引きによる素人参加民型民主主義」等を展開した『持続的民主主義に関する6つのテーゼ』を輪読する。本授業では、教師が事前に該当部分を翻訳し、これを配布するので、フランス語の法律原典講読に不慣れな学生でも、容易に授業に参加できる。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身に着ける。加えて、現代フランス憲法学の十分な基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

輪番制を採る。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの憲法理論と政治思想についての解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方とローテーションの設定を行う。
第2回	序論	テキスト序論の輪読を通じて、問題の所在とこれをフランス憲法学から学ぶことの意義について検討する。
第3回	第1命題 民主主義への接近の要としての人権（1）	テキスト第1命題前半部分の輪読を通じて、民主主義への接近にとっての人権の重要性について検討する。
第4回	第1命題 民主主義への接近の要としての人権（2）	テキスト第1命題後半部分の輪読を通じて、民主主義への接近にとっての人権の重要性について検討する。
第5回	第2命題 代表機関の中には存在していない市民（1）	テキスト第2命題前半部分の輪読を通じて、代表制民主主義の問題点について検討する。
第6回	第2命題 代表機関の中には存在していない市民（2）	テキスト第2命題後半部分の輪読を通じて、代表制民主主義の問題点について検討する。
第7回	第3命題 立法過程に個人として参加する市民（1）	テキスト第3命題前半部分の輪読を通じて、立法過程への市民参加について検討する。
第8回	第3命題 立法過程に個人として参加する市民（2）	テキスト第3命題後半部分の輪読を通じて、立法過程への市民参加について検討する。

第9回	第4命題 国家権力の一つではなく民主主義の権力としての司法（1）	テキスト第4命題前半部分の輪読を通じて、市民と民主主義のための司法のあり方について検討する。
第10回	第4命題 国家権力の一つではなく民主主義の権力としての司法（2）	テキスト第4命題後半部分の輪読を通じて、市民と民主主義のための司法のあり方について検討する。
第11回	第5命題 大統領を市民から切り離すことの重要性（1）	テキスト第5命題前半部分の輪読を通じて、第五共和制の「強すぎる大統領制」を問い直す。
第12回	第5命題 大統領を市民から切り離すことの重要性（2）	テキスト第5命題後半部分の輪読を通じて、第五共和制の「強すぎる大統領制」を問い直す。
第13回	第6命題 憲法の書き直しの必要性	テキスト第6命題の輪読を通じて、ドミニク・ルソーの改憲構想について検討する。
第14回	まとめ	本授業を振り返って、ドミニク・ルソーの新しい民主主義論について意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自分の翻訳とを照らし合わせて、より良い仏語翻訳の技術を身に着けること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Dominique Rousseau, Six thèses pour la démocratie continue, Odile Jacob, 2022. 受講者には、事前にコピーを配布する。加えて、各回の輪読予定部分について教師が翻訳したものを、事前に配布する。なお適宜、フランス語の復習に役立つような仏文の抜粋のコピーも配布する予定である。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60％）と質疑その他の授業への積極的参加度（40％）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生がいる場合は、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想についての解説を行うことが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Reading of some easy texts about the French contemporary constitutional law theories.

【Learning Objectives】

The goal of this course is a learning of French language and French constitutional law theories.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to read and translate each part of text by oneself.

【Grading Criteria / Policy】

Quality of translation of the part of text assigned to the student (60%) and the active participation to the discussion (40%).

LAW300AB（法学 / law 300）

金融商品取引法 I

田中 綾

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式の取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性和概要等について理解することにより、企業を取り巻く法環境について問題を防止・解決するための基礎知識を身につけることを目標とする。

【到達目標】

金融商品取引に関する法の基礎知識を習得し、全体構造を理解する。金融商品取引に関する専門用語や法の趣旨・規範等を理解・説明でき、問題とその対策等を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、基本的に講義形式で行う。
- ・対面講義（14回中7回以上が対面で行われる講義）を原則とするが、履修者数やコロナの感染状況・政府や大学側の方針変更等によっては、オンライン講義に変更になることがある。また、数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。
- ・各回の講義形態・授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。
- ・講義資料の共有、授業に関する連絡等は、学習支援システムを通じて行う予定である。
- ・質問応答は、メールまたはサーバー等のITツールを用いて質問を集約して、類似の質問をまとめた上で、原則、授業中に返答することを検討している。質問方法に変更等がある場合は、授業または学習支援システムで連絡する。具体的な質問方法は初回イントロダクションで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の運営方法等
第2回	金融商品取引法等の概要	金商法や会社法の目的・概要
第3回	資金調達の方法	資金調達の方法としてどのようなものがあるかを説明する
第4回	金融商品取引法の適用範囲	有価証券・デリバティブ取引
第5回	金融商品市場の基本的な仕組み等	金融商品市場の基本的な仕組み等の次回以降の講義内容を理解するために必要な基礎知識について説明する
第6回	有価証券の取引方法等	有価証券の取引方法等
第7回	株式等	時間が許す範囲で、振替制度、又は、株式等の関連する会社法上の制度について説明する
第8回	企業内容等に関する開示規制	開示規制の概要
第9回	企業内容等に関する開示規制（発行開示規制）	発行開示規制の概要 発行開示規制が必要となる場合（募集・売出し）

第10回	企業内容等に関する開示規制（発行開示規制）	有価証券届出書等
第11回	企業内容等に関する開示規制（継続開示規制）	継続開示制度の概要 継続開示書類（有価証券報告書等）
第12回	企業内容等に関する開示規制（継続開示規制）	継続開示書類続き
第13回	企業内容等に関する開示規制	開示情報の正確性を確保するための制度 虚偽の情報開示を行なった者の責任
第14回	企業内容等に関する開示規制	虚偽の情報開示を行なった者の責任の続き 以上は予定です。授業計画に変更がある場合には、講義または学習支援システムで連絡します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習と復習時間は、各回予習1時間復習3時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業において最終的に指定するが、現時点では下記を予定している。

最新の法改正等を踏まえるため、開講時点での最新版を購入することを推奨する。

・近藤光男・志谷匡史・石田真得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法」（成文堂）

金融商品取引法は専門性の高い法律であるため、教科書等を用いて理解を深めることが望まれる。

【参考書】

初回授業において最終的に指定するが、現時点では下記を予定している。

最新の法改正等を踏まえるため、開講時点での最新版を購入することを推奨する。

（金商法）

・飯田秀総「金融商品取引法（ライブラリ現代の法律学 B 16）」（新世社）

・川口恭弘「金融商品取引法への誘い」（有斐閣）

・神田秀樹・神作裕之編「金融商品取引法判例百選」（有斐閣）等（会社法）

・高橋美加、笠原武朗、久保大作、久保田安彦「会社法」（弘文堂）

・田中亘「会社法」（東京大学出版会）等

【成績評価の方法と基準】

定期試験100%で評価することを原則とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやZoom等にネットワーク経由でアクセスするためのノートパソコン又はタブレット端末が必要である。

【その他の重要事項】

(1) 会社法

金融商品取引法の条文・判例・基本書の内容を正確に理解するためには、会社法の知識を必要とする場面がある。

授業内においても必要に応じて関連する会社法の知識に触れるが、授業時間の制約上、会社法全体を改めて網羅的に説明することは困難である。

したがって、本科目を履修するにあたっては、会社法を履修済みであることが必要である。

会社法の理解が不十分な場合には、金融商品取引法の条文や判例の理解に相当な困難を伴うことが想定されるため、各自で予習・復習を行い、理解を補うことが求められる。

会社法の理解に不安がある者は、開講前に、高橋美加・笠原武朗・久保大作・久保田安彦『会社法』（弘文堂）を通読しておくことが望ましい。

(2) 専門用語

金融商品取引法を理解するには、関連する専門用語の理解が前提となる。そのため、教科書・条文等に記載された専門用語の意味を確認しながら学習することが必要である。

(3) 条文

金融商品取引法の条文は抽象度が高く、構造も複雑であるため、条文を引用し、読解・説明できるようになるまでには継続的な学習が必要である。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the current legal system and practical issues related to the Financial Instruments and Exchange Act. The course will be conducted in Japanese.

Students are expected to spend more than four hours before and after each class to understand the course content.

Your overall grade will be based solely on the term-end examination (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

金融商品取引法 I

田中 綾

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式の取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性和概要等について理解することにより、企業を取り巻く法環境について問題を防止・解決するための基礎知識を身につけることを目標とする。

【到達目標】

金融商品取引に関する法の基礎知識を習得し、全体構造を理解する。金融商品取引に関する専門用語や法の趣旨・規範等を理解・説明でき、問題とその対策等を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたこの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、基本的に講義形式で行う。
- ・対面講義（14回中7回以上が対面で行われる講義）を原則とするが、履修者数やコロナの感染状況・政府や大学側の方針変更等によっては、オンライン講義に変更になることがある。また、数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。
- ・各回の講義形態・授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。
- ・講義資料の共有、授業に関する連絡等は、学習支援システムを通じて行う予定である。
- ・質問応答は、メールまたはサーバー等のITツールを用いて質問を集約して、類似の質問をまとめた上で、原則、授業中に返答することを検討している。質問方法に変更等がある場合は、授業または学習支援システムで連絡する。具体的な質問方法は初回イントロダクションで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の運営方法等
第2回	金融商品取引法等の概要	金商法や会社法の目的・概要
第3回	資金調達の方法	資金調達の方法としてどのようなものがあるかを説明する
第4回	金融商品取引法の適用範囲	有価証券・デリバティブ取引
第5回	金融商品市場の基本的な仕組み等	金融商品市場の基本的な仕組み等の次回以降の講義内容を理解するために必要な基礎知識について説明する
第6回	有価証券の取引方法等	有価証券取引の仕組み等について説明する
第7回	株式等	時間が許す範囲で、振替制度、又は、株式等の関連する会社法上の制度について説明する
第8回	企業内容等に関する開示規制	開示規制の概要
第9回	企業内容等に関する開示規制（発行開示規制）	発行開示規制の概要 発行開示規制が必要となる場合（募集・売出し）

第10回	企業内容等に関する開示規制（発行開示規制）	有価証券届出書等
第11回	企業内容等に関する開示規制（継続開示規制）	継続開示制度の概要 継続開示書類（有価証券報告書等）
第12回	企業内容等に関する開示規制（継続開示規制）	継続開示書類続き
第13回	企業内容等に関する開示規制	開示情報の正確性を確保するための制度 虚偽の情報開示を行なった者の責任
第14回	企業内容等に関する開示規制	虚偽の情報開示を行なった者の責任の続き 以上は予定です。授業計画に変更がある場合には、講義または学習支援システムで連絡します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習と復習時間は、各回予習1時間復習3時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業において最終的に指定するが、現時点では下記を予定している。

最新の法改正等を踏まえるため、開講時点での最新版を購入することを推奨する。

・近藤光男・志谷匡史・石田真得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法」（成文堂）

金融商品取引法は専門性の高い法律であるため、教科書等を用いて理解を深めることが望まれる。

【参考書】

初回授業において最終的に指定するが、現時点では下記を予定している。

最新の法改正等を踏まえるため、開講時点での最新版を購入することを推奨する。

（金商法）

・飯田秀総「金融商品取引法（ライブラリ現代の法律学 B 16）」（新世社）

・川口恭弘「金融商品取引法への誘い」（有斐閣）

・神田秀樹・神作裕之編「金融商品取引法判例百選」（有斐閣）等（会社法）

・高橋美加、笠原武朗、久保大作、久保田安彦「会社法」（弘文堂）

・田中亘「会社法」（東京大学出版会）等

【成績評価の方法と基準】

定期試験100%で評価することを原則とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやZoom等にネットワーク経由でアクセスするためのノートパソコン又はタブレット端末が必要である。

【その他の重要事項】

(1) 会社法

金融商品取引法の条文・判例・基本書の内容を正確に理解するためには、会社法の知識を必要とする場面がある。

授業内においても必要に応じて関連する会社法の知識に触れるが、授業時間の制約上、会社法全体を改めて網羅的に説明することは困難である。

したがって、本科目を履修するにあたっては、会社法を履修済みであることが必要である。

会社法の理解が不十分な場合には、金融商品取引法の条文や判例の理解に相当な困難を伴うことが想定されるため、各自で予習・復習を行い、理解を補うことが求められる。

会社法の理解に不安がある者は、開講前に、高橋美加・笠原武朗・久保大作・久保田安彦『会社法』（弘文堂）を通読しておくことが望ましい。

(2) 専門用語

金融商品取引法を理解するには、関連する専門用語の理解が前提となる。そのため、教科書・条文等に記載された専門用語の意味を確認しながら学習することが必要である。

(3) 条文

金融商品取引法の条文は抽象度が高く、構造も複雑であるため、条文を引用し、読解・説明できるようになるまでには継続的な学習が必要である。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the current legal system and practical issues related to the Financial Instruments and Exchange Act. The course will be conducted in Japanese.

Students are expected to spend more than four hours before and after each class to understand the course content.

Your overall grade will be based solely on the term-end examination (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

金融商品取引法Ⅱ

田中 綾

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式の取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性和概要等について理解することにより、企業を取り巻く法環境について問題を防止・解決するための基礎知識を身につけることを目標とする。

【到達目標】

金融商品取引に関する法の基礎知識を習得し、全体構造を理解する。金融商品取引に関する専門用語や法の趣旨・規範等を理解・説明でき、問題とその対策等を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、基本的に講義形式で行う。
- ・対面講義（14回中7回以上が対面で行われる講義）を原則とするが、履修者数やコロナの感染状況・政府や大学側の方針変更等によっては、オンライン講義に変更になることがある。また、数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。
- ・各回の講義形態・授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。
- ・講義資料の共有、授業に関する連絡等は、学習支援システムを通じて行う予定である。
- ・質問応答は、メールまたはサーバー等のITツールを用いて質問を集約して、類似の質問をまとめた上で、原則、授業中に返答することを検討している。質問方法に変更等がある場合は、授業または学習支援システムで連絡する。具体的な質問方法は初回イントロダクションで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の運営方法等
第2回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（公開買付けの概要・発行者以外の者による公開買付け規制（5%ルール等））
第3回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（発行者以外の者による公開買付け規制（株券等所有割合・発行会社等））
第4回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（公開買付けの開示規制・発行会社による公開買付け等）
第5回	企業支配に関する開示制度	大量保有報告制度（大量保有報告制度の概要・要件等）
第6回	企業支配に関する開示制度	大量保有報告制度（変更報告書、特例報告制度等）
第7回	企業支配に関する開示制度	委任状勧誘規制
第8回	資金調達	募集株式の発行等、金融商品取引法と関連する会社法等の制度について説明する
第9回	不公正な取引の規制	包括的規定・インサイダー取引規制の概要

第10回	不公正な取引の規制	インサイダー取引規制（会社関係者によるインサイダー取引に対する規制）
第11回	不公正な取引の規制	インサイダー取引規制（公開買付者等関係者によるインサイダー取引に対する規制）
第12回	不公正な取引の規制	相場操縦等
第13回	公開買付制度	公開買付制度等の中で、発展的な内容について説明する
第14回	大量保有報告制度	大量保有報告制度等の中で発展的な内容について説明する。 以上は予定です。授業計画に変更がある場合には、講義または学習支援システムで連絡します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習と復習時間は、各回予習1時間復習3時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業において最終的に指定するが、現時点では下記を予定している。
 最新の法改正等を踏まえるため、開講時点での最新版を購入することを推奨する。
 ・近藤光男・志谷匡史・石田真得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法」(成文堂)
 金融商品取引法は専門性の高い法律であるため、教科書等を用いて理解を深めることが望まれる。

【参考書】

初回授業において最終的に指定するが、現時点では下記を予定している。
 最新の法改正等を踏まえるため、開講時点での最新版を購入することを推奨する。
 （金商法）
 ・飯田秀総「金融商品取引法（ライブラリ現代の法律学 B 16）」（新世社）
 ・川口恭弘「金融商品取引法への誘い」（有斐閣）
 ・神田秀樹・神作裕之編「金融商品取引法判例百選」（有斐閣）等（会社法）
 ・高橋美加、笠原武朗、久保大作、久保田安彦「会社法」（弘文堂）
 ・田中亘「会社法」（東京大学出版会）等

【成績評価の方法と基準】

定期試験100%で評価することを原則とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやZoom等にネットワーク経由でアクセスするためのノートパソコン又はタブレット端末が必要である。

【その他の重要事項】

(1)会社法

金融商品取引法の条文・判例・基本書の内容を正確に理解するためには、会社法の知識を必要とする場面がある。

授業内においても必要に応じて関連する会社法の知識に触れるが、授業時間の制約上、会社法全体を改めて網羅的に説明することは困難である。

したがって、本科目を履修するにあたっては、会社法を履修済みであることが必要である。

会社法の理解が不十分な場合には、金融商品取引法の条文や判例の理解に相当な困難を伴うことが想定されるため、各自で予習・復習を行い、理解を補うことが求められる。

会社法の理解に不安がある者は、開講前に、高橋美加・笠原武朗・久保大作・久保田安彦『会社法』（弘文堂）を通読しておくことが望ましい。

(2)専門用語

金融商品取引法を理解するには、関連する専門用語の理解が前提となる。そのため、教科書・条文等に記載された専門用語の意味を確認しながら学習することが必要である。

(3)条文

金融商品取引法の条文は抽象度が高く、構造も複雑であるため、条文を引用し、読解・説明できるようになるまでには継続的な学習が必要である。

(4)金融商品取引法 I

金融商品取引法 I を履修していることを前提として授業を行う。金融商品取引法 I の未履修者に対して特段のフォローは行わないため、未履修者は教科書等で自習が必要である。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the current legal system and practical issues related to the Financial Instruments and Exchange Act. The course will be conducted in Japanese.

Students are expected to spend more than four hours before and after each class to understand the course content.

Your overall grade will be based solely on the term-end examination (100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

金融商品取引法Ⅱ

田中 綾

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

株式の取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性和概要等について理解することにより、企業を取り巻く法環境について問題を防止・解決するための基礎知識を身につけることを目標とする。

【到達目標】

金融商品取引に関する法の基礎知識を習得し、全体構造を理解する。金融商品取引に関する専門用語や法の趣旨・規範等を理解・説明でき、問題とその対策等を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、基本的に講義形式で行う。
- ・対面講義（14回中7回以上が対面で行われる講義）を原則とするが、履修者数やコロナの感染状況・政府や大学側の方針変更等によっては、オンライン講義に変更になることがある。また、数回オンライン授業を行う可能性がある（日程等は未定）。
- ・各回の講義形態・授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。
- ・講義資料の共有、授業に関する連絡等は、学習支援システムを通じて行う予定である。
- ・質問応答は、メールまたはサーバー等のITツールを用いて質問を集約して、類似の質問をまとめた上で、原則、授業中に返答することを検討している。質問方法に変更等がある場合は、授業または学習支援システムで連絡する。具体的な質問方法は初回イントロダクションで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の運営方法等
第2回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（公開買付けの概要・発行者以外の者による公開買付け規制（5%ルール等））
第3回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（発行者以外の者による公開買付け規制（株券等所有割合・発行会社等））
第4回	企業支配に関する開示制度	公開買付規制（公開買付けの開示規制・発行会社による公開買付け等）
第5回	企業支配に関する開示制度	大量保有報告制度（大量保有報告制度の概要・要件等）
第6回	企業支配に関する開示制度	大量保有報告制度（変更報告書、特例報告制度等）
第7回	企業支配に関する開示制度	委任状勧誘規制
第8回	資金調達	募集株式の発行等、金融商品取引法と関連する会社法等の制度について説明する
第9回	不公正な取引の規制	包括的規定・インサイダー取引規制の概要

第10回	不公正な取引の規制	インサイダー取引規制（会社関係者によるインサイダー取引に対する規制）
第11回	不公正な取引の規制	インサイダー取引規制（公開買付者等関係者によるインサイダー取引に対する規制）
第12回	不公正な取引の規制	相場操縦等
第13回	公開買付制度	公開買付制度等の中で、発展的な内容について説明する
第14回	大量保有報告制度	大量保有報告制度等の中で発展的な内容について説明する。 以上は予定です。授業計画に変更がある場合には、講義または学習支援システムで連絡します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習と復習時間は、各回予習1時間復習3時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業において最終的に指定するが、現時点では下記を予定している。
 最新の法改正等を踏まえるため、開講時点での最新版を購入することを推奨する。
 ・近藤光男・志谷匡史・石田真得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法」(成文堂)
 金融商品取引法は専門性の高い法律であるため、教科書等を用いて理解を深めることが望まれる。

【参考書】

初回授業において最終的に指定するが、現時点では下記を予定している。
 最新の法改正等を踏まえるため、開講時点での最新版を購入することを推奨する。
 （金商法）
 ・飯田秀総「金融商品取引法（ライブラリ現代の法律学 B 16）」（新世社）
 ・川口恭弘「金融商品取引法への誘い」（有斐閣）
 ・神田秀樹・神作裕之編「金融商品取引法判例百選」（有斐閣）等（会社法）
 ・高橋美加、笠原武朗、久保大作、久保田安彦「会社法」（弘文堂）
 ・田中亘「会社法」（東京大学出版会）等

【成績評価の方法と基準】

定期試験100%で評価することを原則とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやZoom等にネットワーク経由でアクセスするためのノートパソコン又はタブレット端末が必要である。

【その他の重要事項】

(1)会社法

金融商品取引法の条文・判例・基本書の内容を正確に理解するためには、会社法の知識を必要とする場面がある。

授業内においても必要に応じて関連する会社法の知識に触れるが、授業時間の制約上、会社法全体を改めて網羅的に説明することは困難である。

したがって、本科目を履修するにあたっては、会社法を履修済みであることが必要である。

会社法の理解が不十分な場合には、金融商品取引法の条文や判例の理解に相当な困難を伴うことが想定されるため、各自で予習・復習を行い、理解を補うことが求められる。

会社法の理解に不安がある者は、開講前に、高橋美加・笠原武朗・久保大作・久保田安彦『会社法』（弘文堂）を通読しておくことが望ましい。

(2)専門用語

金融商品取引法を理解するには、関連する専門用語の理解が前提となる。そのため、教科書・条文等に記載された専門用語の意味を確認しながら学習することが必要である。

(3)条文

金融商品取引法の条文は抽象度が高く、構造も複雑であるため、条文を引用し、読解・説明できるようになるまでには継続的な学習が必要である。

(4)金融商品取引法 I

金融商品取引法 I を履修していることを前提として授業を行う。金融商品取引法 I の未履修者に対して特段のフォローは行わないため、未履修者は教科書等で自習が必要である。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the current legal system and practical issues related to the Financial Instruments and Exchange Act. The course will be conducted in Japanese.

Students are expected to spend more than four hours before and after each class to understand the course content.

Your overall grade will be based solely on the term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（（法学部同窓会寄付講座）企業法務への案内）

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、いわゆる企業法務とは何か、法律学科で学んだ内容を活かして企業等で働くとは実際にはどういうことなのかといった事柄を、本学の卒業生を中心としたゲストスピーカーの先生方からお話を伺うことを通じて学んでいくものです。

我が国では、社会の成熟・複雑多様化が進展するに伴い、個人や企業、あるいは団体（地方公共団体や学校法人・NPO法人など）を取り巻く権利義務関係も、より複雑かつ精密なものとなりつつあります。これを受けて、社会における法の支配の必要性はますます高まっており、社会のあらゆる場面において、法律に準拠した判断を行うことによって紛争を未然に防止し、あるいは適正かつ迅速に解決することが要請されているのが現状です。

これに伴って、企業・団体に設けられた法務部は、その重要性に対する社会的認識が日増しに高まるとともに、その活動も急速に充実化しつつあります。このような法務部が取り扱う諸問題（契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等）が、実際に企業等でどのように扱われているのか、その実態を法務部等の最前線で現に活躍しておられるゲストスピーカーの先生方から学ぶのが、この授業の目的です。

なお、ここでいう「法務」は、必ずしも狭義の「法務部」の仕事には限定されるものではありません。法務の仕事を他の部署が担っている会社も少なくないですし、また法務部のみが法的な思考をしていればそれで足りるというものでもないからです。法的素養を活かして働くという事柄に関心を持つ皆さんが幅広く受講して下さることを期待しています。

以上のように、法律学科での学びが将来どのように活かされるかを知るための講義ですので、本講義は法律学科に設けられた6つのコースすべてに関係するものと位置付けられます。

【到達目標】

受講生が、我が国における法務部の取り扱う問題とそれに関係する法律の解釈適用の実情を理解し、卒業後の進路のひとつとしての法務部、あるいは法的素養を活かしつつ企業等で働くということに関する具体的なイメージを獲得すること。また、企業・団体の法務部が、法律の専門的素養を活かすことができる職場であり、かつ、社会的にも有用でやり甲斐のある職場であることを理解すること。

さらに、そのような職場を目指すために、在学中にどのような法分野を学習しておくべきかについて、主体的に捉えることができるようになることも、この授業の目標とするところです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、本学の卒業生を中心に、企業・団体の法務部等において実務経験を有する方々をゲストスピーカーとしてお招きし、講義をしていただく形で授業を進めます。

講義していただく内容は、企業・団体の法務部等で実際に取り扱った事例に即したものととなります。事例の具体的な分野としては、契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等が想定されます。そして、取り上げられた事例がどのようにして処理ないし解決されていったかということを、実務の機微に触れる形でご紹介いただきます。ゲストスピーカーの先生によっては、受講生を指名して質問をされる場合があります。

以下、2025年度の実績をベースに仮の授業計画を示しますが、テーマ・順番ともに変更される可能性があります。

ゲストスピーカーの先生方への質問は、当日お答えいただくほか、必要に応じて後日、学習支援システムを通じてフィードバックします。また、期末のレポートに関しても、学習支援システムを通じて講評を公開する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	担当教員によるこの授業に関する説明
第2回	企業法務とは何か？（企業法務総論）	ゲストスピーカーによる講演
第3回	コーポレート・ガバナンス／内部統制	ゲストスピーカーによる講演
第4回	総合商社の法務とキャリアパス	ゲストスピーカーによる講演
第5回	競争法講義（国際カルテルを中心に）	ゲストスピーカーによる講演
第6回	B2B ビジネスと企業法務	ゲストスピーカーによる講演
第7回	法務のDESIGN～企業法務の現在地～	ゲストスピーカーによる講演
第8回	任期付公務員と法改正プロセス等	ゲストスピーカーによる講演
第9回	政府系金融機関と公的住宅金融	ゲストスピーカーによる講演
第10回	不動産業界の法務対応	ゲストスピーカーによる講演
第11回	法学部生が知っておきたい金融経済	ゲストスピーカーによる講演
第12回	地方自治体における政策法務の現状	ゲストスピーカーによる講演
第13回	学校法人の運営と大学職員	ゲストスピーカーによる講演
第14回	人口減少時代のまちづくりと法律と仕事	ゲストスピーカーによる講演

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は基本的には必要ありませんが、事前準備を求められたテーマについては、事前配布資料の読み込みなどが必要となる場合があります。

復習については、各回の話題で特に興味を持った点について、各自自分なりに調べてみることを推奨されます。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特にありません。毎回、レジュメを配布する予定です。

【参考書】

経営法友会 企業法務入門テキスト編集委員会編著『企業法務入門テキスト——ありのままの法務』（商事法務、2016）。

このほか、必要に応じて各回に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義後に、学習支援システムを通じて、講義に対する感想文を提出してもらう予定であり、これによって平常点を評価します（60％）。なお、ゲストスピーカーの講義回の出席数（感想文の提出数）が半数に満たない場合、単位を付与しません（いわゆる「足切り」）。

このほか、期末のレポートによっても評価します（40％）。ゲストスピーカーの先生方のお話の中から、興味を持ったテーマについてさらに掘り下げて調べたものをレポートとしてご提出いただきます。詳細は学習支援システムを通じて改めて提示します。

なお、毎回の感想文にせよ、期末レポートにせよ、自身の将来の働き方にどのように活かせるかを考えつつ、真剣にゲストスピーカーのお話を聞いたということが読み手に伝わるような文章であることが、最低限求められます。大半の学生にはわざわざ注意するまでもない事柄ですが、一部、こちらの予想がまったく及ばないような低水準の感想文・レポートが見られることがあったので、念のため注意喚起しておきます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

【受講年次について】

4年生の受講者からは、受講した感想として、「もっと早い学年で受講しておけばよかった」という意見が少なからず見受けられます。実際、講義内容を皆さんの進路選択に際して活かしていただくためには、2年次又は3年次での履修が推奨されます。（もっとも、4年生の履修を妨げるものではありません。）

【出席（感想文提出）要件について】

この授業は、多様な分野にわたるゲストスピーカーのお話を幅広く聴講することを通じて、受講者の見聞や興味関心を広げることににより、今後の進路選択等に役立ててもらおうということを狙いとしています。それゆえに、受講者が自身の興味関心のあるテーマの回のみをつまみ食いに聴講するという受講の仕方は、推奨されるものではありません。

このような理由から、「成績評価の方法と基準」欄にも記載したとおり、出席数（感想文提出数）による「足切り」を実施しています。こうした授業の性質をよく理解した上で受講するようにしてください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This omnibus course covers the basics of "corporate legal affairs". Most of the speakers are the graduates of this university.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of "corporate legal affairs".

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on:

— Short reports(60%)

— Term-end report(40%)

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅰ (安全保障政策)

川名 晋史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、戦後日本の安全保障政策史を紐解きながら、現代の安全保障問題の構造を考察するものである。講義の過程では、いくつかの核となる問いに答えを見出していく。たとえば、日本が外国から攻撃を受けた際、在日米軍をはじめとする米軍部隊は日本を防衛するのだろうか。米国の政策決定者は「日本防衛」について具体的にどのように解釈し、日米安全保障条約を運用してきたのか。なぜ日本には米国や朝鮮国連軍の基地があり、それはなにゆえ沖縄に集中しているのか。受講者はこれらの問いを考察しながら、現代の日本の安全保障政策が抱える具体的な課題を理解していく。

【到達目標】

本講義を履修することで次の能力を修得する。

- 1) 日本の安全保障政策史を対米関係の文脈において理解する。
- 2) 日本の安全保障のありようを多角的かつ相対的に考察でき、また自身の思考を文章で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義を中心に進める。必要に応じて教員との質疑応答の時間を設ける。詳細は、学習支援システムを通じて告知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	日本の安全保障政策を学ぶ意義を理解する
第2回	総論- 世界の中の日本	日本の安全保障の固有性と一般性を理解する
第3回	占領と基地- 忘れられた英連邦軍	戦後日本の安全保障の始原を理解する
第4回	朝鮮戦争-日米安保と国連軍地位協定	日本の安全保障政策の進路を決定づけた朝鮮戦争の影響を理解する
第5回	安保改定-何がどう変わったのか	日米安全保障条約の特質と米国の思惑を理解する
第6回	基地問題の転回-本土から沖縄へ	今日の沖縄基地問題のターニングポイントを理解する
第7回	「日本防衛の解釈」	米国による「対日防衛」の意味を理解する
第8回	沖縄返還と基地問題	沖縄の施政権返還の安全保障への影響を理解する
第9回	国連軍後方基地の存在意義	日本にある国連軍基地の政治的・戦略的役割を理解する
第10回	「同盟漂流」と沖縄	冷戦終結後の沖縄基地問題の展開を理解する
第11回	役割の拡大- 集団的自衛と基地	平和安全法制が日本の安全保障政策にもたらした影響を理解する
第12回	米中対立と多国間安全保障	日本の対中政策における対米、対同盟国政策を理解する
第13回	安全保障政策の現在地	今日の日本の安全保障政策上の課題を理解する

第14回 まとめ

戦後日本の安全保障政策を歴史的かつ構造的に理解する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関心を持ったトピックについて、新聞記事や図書で関連用語を調べてください。

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

川名晋史『在日米軍基地—米軍と国連軍、「2つの顔」の80年史』中央公論新社、2024年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業への出席を前提に、論述試験 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

This lecture is designed to examine the structure of contemporary security issues through an analysis of Japan's postwar security policy. Throughout the course, several key questions will be addressed, including:

- In the event that Japan is attacked by a foreign entity, would U.S. forces, inclusive of those stationed in Japan, provide defense for the country?

- How have U.S. policymakers construed the concept of "Japan's defense" and how has the U.S.-Japan Security Treaty been applied in practice?

- What is the rationale for the presence of U.S. military bases and United Nations Command (UNC) facilities in Japan, particularly in relation to their concentration in Okinawa?

By exploring these inquiries, students will develop a comprehensive understanding of the specific challenges facing Japan's security policy and assess Japan's position within the framework of contemporary international relations.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
- ・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
- ・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第1回のみは翌週締切とする）。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明をしたあと、授業が対象とする都市とは何か、そして都市の成り立ちについて概観する。
第2回	工業化の進展と都市	工業化の進展とともに都市空間の在り方が変化し、また発生する課題への対応により近代都市計画の発生する経緯を概観する。
第3回	商業と都市空間	都市における経済活動が都市空間に与えた影響について概観する。
第4回	都市の住まい	都市住民の生活の器としての住宅が都市形成に与える影響、またセーフティネットとしての住宅を担保する住宅政策について概観する。
第5回	都市の防災	異常な自然現象などによって都市における活動や人名に被害を与える災害への対応などについて概観する。
第6回	都市の環境	私を取り巻く都市の環境問題、それらに対応するについて概観する。
第7回	都市計画概論	国土計画における都市計画、都市計画法の枠組みを概観する。

第8回	都市の基本計画	都市の将来の姿を共有し、実現のための都市計画の手段を表現した都市計画マスタープランを概観する。
第9回	土地利用規制	都市計画の実現手法の一つである土地利用規制（ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法））について概観する。
第10回	開発許可制度	現在の都市計画法制定の背景となった経済成長期の開発の問題とそれを踏まえた開発許可制度の導入について概観する。
第11回	市街地開発事業	都市空間における面的整備を行う手法である市街地開発事業の種類、また代表的な手法である土地区画整理事業、市街地再開発事業について概観する。
第12回	都市施設	都市生活を支える機能を持つ都市施設、その代表的な施設である道路のあり方について概観する。
第13回	人口減少化の都市計画	人口減少社会における都市再生施策とコンパクトシティについて概観する。
第14回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスとそれに対する市民参加について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
<https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/>

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出席する課題（14回）」の合計（70%）、「②レポート課題（2回）」の合計点（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②（2回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- 「①授業ごとに出席する課題」の評価（5段階）は下記になる。
 - 5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
 - 4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
 - 3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
 - 0：未提出、締切期限以降の提出（※提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない））。
- 「②レポート課題」（2回）について
 - ・出題は、説明用動画を用いて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
 - ・提出は、学習支援システムを通じて行う。
 - ・評価（5段階）は下記とする。
 - 5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
 - 4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
 - 3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
 - 2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
- ※締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】

受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること（動画のリンク先は、学習支援システムで連絡するので、必ず仮登録をすること）。

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、地域の課題解決や資源を活用した価値創造を目的とした地域住民、企業、行政等による取り組み（まちづくり）を対象とする。特に近講義では、地域住民等が主体的に関わる取り組みを中心として、各テーマごとに背景、関連する制度、具体的な取り組みなどを概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市において表出している課題の存在とその背景となる構造を認識できること
- 2) まちづくりが多様な主体の協働によって行われることを理解し、各主体の役割について理解できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
- ・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
- ・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第1回のみは翌週締切とする）。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業が対象とする「まちづくり」とは何かについて問題提起する。
第2回	地域防災	想定されている災害に備えた地域社会の取り組み等について理解する。
第3回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第4回	地域福祉	人口減少、少子・高齢化が進行する中で安心して生活できる社会をつくるために地域社会で取り組み取り組みについて理解する。
第5回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する。
第6回	公共施設マネジメント	人口減少、超高齢社会を進行し、かつ成長期に作られた公共施設が老朽化した中での公共施設のあり方、それへの対応について理解する。
第7回	ミクロの都市計画	地域環境の課題解決や価値の創造のために行う土地利用規制や施設整備などの都市計画（地区計画等）の仕組みを理解する。

第8回	都市における建物ストックの活用	人口減少等に伴う発生している空き家や空き店舗などの建物ストックの増加を予防したり、地域のために活用したりする取り組みを理解する。
第9回	郊外住宅地の再生	人口増加期に都市周辺に拡大した郊外住宅地の課題やそれに対する取り組みについて理解する。
第10回	歴史的町並みの保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第11回	景観形成とまちづくり	都市の魅力を高める街並みづくり、景観形成について理解する。
第12回	観光施策と都市	都市における経済効果が期待される観光の取組とそれによる都市への影響について理解する。
第13回	公共空間の利活用	まちなかの賑わい創出等を目的とした公共空間利活用に関する取り組みについて理解する。
第14回	地域を運営する仕組み	社会状況の変化、施設の老朽化等に伴う、公共施設の在り方の変化について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
 伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本 第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- 「②レポート課題（2回）」の合計点（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②（2回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- 「①授業ごとに課題する課題」の評価（5段階）は下記になる。
- 5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
- 4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
- 3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
- 0：未提出、締切期限以降の提出（※提出締切時間は厳守すること、締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
- 「②レポート課題」（2回）について
- ・出題は、説明用動画をういて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
- ・提出は、学習支援システムを通じて行う。
- ・評価（5段階）は下記とする。
- 5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
- 4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
- 3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
- 2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
- ※締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】

- ・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。
- ・受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること。
- ・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. Understanding the existence of challenges in cities and the structures that contribute to them.

B. Understand that machizukuri is carried out through the collaboration of a variety of actors, and be able to understand the role of each actor.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

環境政策

西谷内 博美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な分野の環境問題について、国内政策と国際政策の視点から、政策の展開・枠組み、手法、課題などを体系的に学習します。具体的には、大気環境、水環境、廃棄物、気候変動、SDGs などを取り上げます。

【到達目標】

- ・各分野の環境政策について、自分の言葉で説明できるようになる。
- ・言い換えれば、授業で扱う政策や概念を単に暗記するのではなく、それらの成り立ちや意義、仕組みについて納得し理解することが求められる。したがって、応用可能なレベルまで理解を深めることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに基づいて授業を進めます。

授業形態は講義よりも、宿題（個人ワーク）と授業内でのグループワークが中心となります。具体的には、授業前の学習では、宿題を中心にテキストやその他の外部資料を用いて各自で十分に学習します。授業内では、その知識を持ち寄り、グループワークを通じて知識を定着させたり、理解を深めたりします。

また、毎回の授業の最後にリアクションペーパーを書き、その回での学びを振り返り、整理します。宿題とリアクションペーパーの回答は、クラス内でフィードバックされます。

なお、以下の授業計画は暫定的なものであり、受講者のニーズに応じて進捗のペースを調整します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方を共有します。
2	環境政策の考え方と手法	テキスト序章
3	大気環境	テキスト第1章
4	水環境	テキスト第2章
5	廃棄物と資源循環	テキスト第3章
6	気候変動	テキスト第4章
7	中間試験・まとめ	前半の授業内容について中間試験を実施します。
8	中間試験のふりかえり	中間試験のピアインストラクション
9	化学物質	テキスト第5章
10	生物多様性	テキスト第6章
11	持続可能な開発とSDGs	テキスト第7章
12	SDGs達成に向けた取組	テキスト第8章
13	環境政策の展開	終章
14	期末試験・まとめ	後半の授業内容について期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、各4時間を標準とします。準備学習は特に重要です。テキストの指定箇所を能動的に読み、十分に理解を深めてください（クリティカルリーディング）。また、宿題を提出してください。そのためには、テキストに加えて任意の外部資料にも目を通し、理解を深めることが求められます。復習については、各回の授業内容を十分に理解し、定着させておいてください。

【テキスト（教科書）】

竹本和彦編, 2020, 『環境政策論講義——SDGs達成に向けて』東京大学出版会。

【参考書】

倉坂秀史, 2014, 『環境政策論 第3版』信山社出版。

白井信雄, 2020, 『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』大学教育出版。

吉田徳久, 2019, 『環境政策のクロニクル——水俣病問題からパリ協定まで』早稲田大学出版部。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 25 %、期末テスト 25 %、平常点 50 %。

平常点の内訳は以下の通り。ただし配分は受講者数等に応じて調整する場合があります。

ー授業への参加と貢献 25 %

ー宿題 15 %

ーリアクションペーパー 10 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見や要望を受け、授業計画をこなすことよりも学生の理解度を優先して進捗を調整しています。

【学生が準備すべき機器他】

共有ドライブ等への入力作業が多くあります。PCなどの端末を準備してください（慣れていればスマートフォンでも大丈夫かもしれません）。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In this course, students will systematically study environmental issues from various fields, focusing on domestic and international policy perspectives. The course will address air quality, water quality, waste management, climate change, and SDGs, among others.

[Learning objectives]

At the end of the course, students will have the ability to explain their views on environmental policy using the technical terms and concepts covered in class.

[Learning activities outside of classroom]

Students are required to read the relevant chapter(s) from the text prior to every class meeting. It takes you more than four hours to study for each class meeting.

[Grading Criteria /Policies]

Your overall grade in the class will be determined by the midterm and final exams, which each amount to 25%, and class participation, which will amount to 50%.

The class participation point will be allocated as follows: 15% for homework, 25% for speaking in class and group work, and 10% for reaction papers (This allocation may be modified according to factors such as the number of students attending the class).

POL200AC (政治学 / Politics 200)				
都市の環境問題				
松村 正治				
授業形式：講義 開講セメスター：秋学期授業/Fall				
単位数：2単位				
その他属性：〈優〉〈実〉				
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】				
本講義で扱う範囲は、都市の中で発生する環境問題だけではありません。都市に伴う力が引き起こす地方や遠方の環境問題も扱います。こうした対象に迫るために、都市と環境に関わる社会学・都市計画学・地理学・歴史学・生態学など、複合領域の知見を取り入れます。都市と環境は対立的な概念と思われがちですが、本講義では、都市が環境問題を引き起こす必要悪とは捉えません。環境問題を都市の問題として引き受け、どのような都市をつくれれば、誰ひとり取り残さない環境を実現できるのかを考えます。				
【到達目標】				
・環境問題とは何かについて、社会学的に考えられるようになる。 ・都市に伴う権力を理解し、さまざまな環境問題を都市の問題として認識できるようになる。 ・環境-社会-経済というレイヤーで、環境問題の解決法を模索できるようになる。 ・都市のあり方について具体的に考え行動することが面白いと思えるようになる。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。				
【主な授業方法】				
L 講義 /Lecture				
【授業の進め方と方法】				
講義形式で授業をおこないます。基本的にシラバスに示した順に進めますが、受講生の理解度や社会情勢の変化などによって変更することがあります。				
授業に用いる教材は学習支援システムを通して提供します。基本的に毎回リアクションペーパーを提出していただき、次の授業にフィードバックします。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス／「環境問題」とは何か	本講義の進め方などを短く案内したあと、本講義という「環境問題」とは社会的に構築されるものであることを説明します。	5	都市と物質循環・水循環
2	都市の公害史・終わらない公害	都市の環境問題として「公害」に焦点を当て、おもに1960年代以降の公害史と今日の公害（光害・香害など）を紹介します。	6	都市と権力
3	「東京」にとっての水俣・福島	公害を象徴する水俣病事件と今世紀最悪の公害である福島第一原発事故による放射能汚染を、見田宗介『現代社会の理論』を参考にして、これを「東京」の都市問題として考えます。	7	都市の交通問題
4	グローバル化と環境正義	現在の都市環境がきれいになったとしても、都市から排出される廃棄物が地方に、遠方に、将来に運ばれているとしたら公正ではありません。その不正をただす環境正義や、近年話題の気候正義について考えます。	8	都市再開発・ジェントリフィケーション
			9	東京一極集中と脱成長
			10	都市と農・里山コモンズ
			11	都市の生態学
			12	都市に生きる幸福な若者
			13	社会を変えるには
			14	まとめにかえて：都市と分解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業終了後に、授業をふりかえり、リアクションペーパーを提出してください。

本講義に関連する参考図書を読むことを勧めます。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

さらに深く学びたい場合、以下の参考書が助けになります（発行年順）。

宇沢弘文（1974）『自動車の社会的費用』岩波書店。

藤田弘夫（1993）『都市の論理：権力はなぜ都市を必要とするか』中央公論社。

見田宗介（1996）『現代社会の理論：情報化・消費化社会の現在と未来』岩波書店。

品田譲（2004）『ヒトと緑の空間：かかわりの原構造』東海大学出版会。

小熊英二（2012）『社会を変えるには』講談社。

デビッド・ハーヴェイ（2013）『反乱する都市：資本のアーバナイゼーションと都市の再創造』作品社。

宮内泰介編（2013）『なぜ環境保全はうまくいかないのか：現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』新泉社。

矢部宏治（2014）『日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか』集英社。

藤原辰史（2019）『分解の哲学：腐敗と発酵をめぐる思考』青土社。

セルジュ・ラトゥーシュ（2020）『脱成長』白水社。

エマ・マリス（2018）『「自然」という幻想：多自然ガーデニングによる新しい自然保護』草思社。

安藤聡彦・林美帆・丹野春香編（2021）公害スタディーズ：哀しみ、闘い、語りつぐ』ころから。

マシュー・サイド（2021）『多様性の科学』ディスカヴァー・トゥエンティワン。

新保奈穂美（2022）『まちを変える都市型農園：コミュニティを育む空き地活用』学生出版社。

山本真人（2022）『コモンズ思考をマッピングする：ポスト資本主義的ガバナンス』BMFT出版部。

ジェレミー・リフキン（2023）『レジリエンスの時代：再野生化する地球で、人類が生き抜くための大転換』集英社。

斎藤幸平（2023）『マルクス解体：プロメテウスの夢とその先』講談社。

藤川賢・友澤悠季編（2023）『なぜ公害は続くのか：潜在・散在・長期化する被害（シリーズ 環境社会学講座 1）』新泉社。

福永真弓・松村正治編（2025）『答えのない人と自然のあいだ：「自然保護」以後の環境社会学（シリーズ 環境社会学講座 4）』新泉社。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメント：65%

期末に提出するコメント：35%

※毎回出席を取りますが、コメントの内容で評価します。

※授業内容をまとめただけのコメントは評価できません。授業で取りあげた概念、方法論、事例などをもとに、何を考えたのかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に発言を求めることが難しいですが、そのことを前提にできるだけ双方向型の授業にしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

【実務経験のある教員による授業】環境コンサルタント会社・環境系行政研究機関に約5年勤務、環境NPO代表など市民活動の経験は20年以上。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The scope of this lecture covers not only environmental problems that arise within cities, but also local and remote environmental problems caused by the power that accompanies cities. In order to approach these subjects, we will incorporate knowledge from multidisciplinary fields such as sociology, urban planning, geography, history and ecology related to cities and the environment. We take on environmental problems as urban problems and consider what kind of city can realise an environment where no one is left behind.

【Learning objectives】

・ Be able to think sociologically about what environmental problems are.

・ Be able to understand the power that comes with cities and to recognise various environmental problems as urban problems.

・ Be able to seek solutions to environmental problems on an environment-social-economic layer.

・ It becomes interesting to think and act specifically about how cities should be.

【Learning activities outside of classroom】

After the class, look back at the class and submit a reaction paper.

I recommend that you read a reference books.

【Grading Criteria /Policies】

Reaction papers (may include quizzes): 100%

*Additional points may be given depending on what is said in class.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

市民公益活動論

熊谷 紀良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公益をめざした事業や取り組みは、行政だけが行うものではありません。

市民が自分だけでなく他者のために、社会をより良くしたいと考えて取り組むものもまた、公益性をもった活動といえます。

市民が取り組むこのような活動は、社会問題の解決をめざして広がり深まりをもって展開されています。

この授業では、ボランティアやNPOなど市民が参加する活動の成り立ちと発展、活動から見える社会問題や市民の活動上の課題など、具体的な事例を通して学び、社会における市民公益活動の意義やあり方を考察します。

【到達目標】

・公益について、非営利・市民セクターについて整理し、市民活動・公益活動の社会的意義と活動を支える仕組みや制度について理解する。
・市民の活動により取り組まれる社会的問題と取り組みの歴史と現状、アプローチの方法を理解し、考察することによって活動の意義と課題を知る。

・受講者自らが社会的問題と問題への取組みに関心をもち、調べ、仲間とともに考えることによって、主体性・連帯性・先駆性・非営利性の意味と意義を認識し理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・各回毎に、テーマに沿った講義を行います。テーマによって、ボランティア・市民活動者によるゲストスピーチを取り入れます。
・講義やゲストスピーチに関連した話し合いをグループに分かれるなどして行ない、話し合いで出た意見やワークの結果、個人で調べたことを発表・共有してもらうことがあります。
・質問・意見については、講義のその場で、または次回の授業でコメントし振り返ります。また、振り返りから発展して、出された意見をもとに討議をすすめ、お互いで意見やアイデアを出し合い、学びを深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 「市民」とは・「公益」とは	授業の目標、内容、進め方について 市民社会と市民セクターについて
第2回	ボランティアとは何か	ボランティア活動の成り立ちと歴史 ボランティアの主体性、連帯性、無償性、先駆性
第3回	市民活動と非営利組織（NPO）への展開	NPOの意味と歴史 多様な組織形態と法制度、法人格
第4回	社会問題への取り組み①	地域の福祉問題（高齢、障害、子ども・子育て）と向き合うボランティア・NPOの実践事例から

第5回	社会問題への取り組み②	環境問題（ごみ、河川・森林保全、気候変動）と向き合うボランティア・NPOの実践事例から
第6回	社会問題への取り組み③	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題・多文化共生や国際協力に取り組むボランティア・NPOの実践事例から
第7回	社会問題への取り組み④	貧困・格差・孤立がもたらす問題（路上生活、自死、DV、マイノリティ）と向き合うボランティア・NPOの実践事例から
第8回	社会問題への取り組み⑤	子ども食堂・地域の中の居場所づくり活動の広がり実践事例から
第9回	社会問題への取り組み⑥	災害ボランティアと災害に備えたNPO・広範な団体のネットワークと実践事例から
第10回	市民公益活動を支える制度とNPO・行政の協働	市民活動・NPOと行政との協働形態（参画、共催、補助、委託）と条例、協定、協約
第11回	多様な団体による社会問題解決のための参加と協働	企業、学校、地縁組織や各種団体、専門家等によるプラットフォームと連携・協働
第12回	参加と協働をすすめる「中間支援組織」とは	中間支援組織の意義と役割、実態
第13回	授業の振り返りと発表①	授業の振り返り・半期を通じて調べてきた市民公益活動と参加と協働を支える制度についての発表
第14回	授業の振り返りと発表②・まとめ	授業の振り返り・半期を通じて調べてきた市民公益活動と参加と協働を支える制度についての発表、発表をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回ともレジュメ（スライド資料等）を配布するので、授業後に各自で授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してください。疑問点や感想・意見についてリアクションペーパーにて提出してください。

・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておいてください。

・各自で、関心のある分野のボランティア・NPOの事例をインターネットやボランティア・市民活動・NPO支援センター等で情報収集したり、活動に体験参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

授業の中でテーマに関連する資料や参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言・発表、リアクションペーパーの提出、グループ討議を含む参加姿勢など）：40%

テスト・レポート：60%

なお、原則として、4回以上欠席した者は、成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と教員とが一緒になって授業に関連したコミュニケーションを深めていけるようにするためにも、関心のある社会問題や活動分野のボランティア・NPOの事例を収集したり体験参加できる方法等については、開講後早い段階で情報提供し相談できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

20年以上、中間支援組織であるボランティア・市民活動センターにて、ボランティアへの参加、NPOなど市民活動団体の設立・運営支援、社会課題に取り組むネットワーク運営などを行ってきました。活動での経験をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。

【Outline (in English)】

公益をめざした事業や取り組みは、行政だけが行うものではありません。

市民が自分だけでなく他者のために、社会をより良くしたいと考えて取り組むものもまた、公益性をもった活動といえます。

市民が取り組むこのような活動は、社会問題の解決をめざして広がりとし深まりをもって展開されています。

この授業では、ボランティアやNPOなど市民が参加する活動の成り立ちと発展、活動から見える社会問題や市民の活動上の課題など、具体的な事例を通して学び、社会における市民公益活動の意義やあり方を考察します

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国語講読 (中国語) I

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握 (教員による専門用語・文法の解説、音読) → 文献の検討 (教員の解説、受講者の質問、議論) → 感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題に対するフィードバックの方法：感想提出後に学習支援で学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよびプレースメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います (成績評価基準に含みません)。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていれば持ってきてください。 ④プレースメントテストの解説を行います
第2回	中国語教材の読解	文献の読解。
第3回	中国語教材の読解	同上
第4回	中国語教材の読解	同上
第5回	中国語教材の読解	同上
第6回	中国語教材の読解	同上
第7回	中国語教材の読解	同上
第8回	中国語教材の読解	同上
第9回	中国語教材の読解	同上

第10回	中国語教材の読解	同上
第11回	中国語教材の読解	同上
第12回	中国語教材の読解	同上
第13回	中国語教材の読解	同上
第14回	総括	今学期の授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
- ②中国を中心とするアジアに関する記事 (日本語の記事も可) を読む習慣を身につけてください。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

課題 (50%)、授業内での議論への参加 (50%) を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて随時お知らせします。

【Outline (in English)】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国語講読 (中国語) II

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握 (教員による専門用語・文法の解説、音読) → 文献の検討 (教員の解説、受講者の質問、議論) → 感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法：感想提出後に学習支援システムで学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよびプレースメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います (成績評価基準に含みません)。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていれば持ってきてください。 ④プレースメントテストの解説を行います。
第2回	中国語教材の読解	文献の読解。
第3回	中国語教材の読解	同上
第4回	中国語教材の読解	同上
第5回	中国語教材の読解	同上
第6回	中国語教材の読解	同上
第7回	中国語教材の読解	同上
第8回	中国語教材の読解	同上
第9回	中国語教材の読解	同上

第10回	中国語教材の読解	同上
第11回	中国語教材の読解	同上
第12回	中国語教材の読解	同上
第13回	中国語教材の読解	同上
第14回	総括	今学期の授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
- ②中国を中心とするアジアに関する記事 (日本語の記事も可) を読む習慣を身につけてください。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (50%)、授業内での議論への参加 (50%) を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて随時お知らせします。

【Outline (in English)】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

LAW300AB（法学 / law 300）

知的財産法Ⅲ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち、「ブランド」の保護などに関連する、いわゆる「標識法」に分類される法制度（商標法及び不正競争防止法の一部）について一通り学ぶことを目的とする。これらの法律はいずれも民法の特別法に位置付けられるほか、消費者法や行政法、独占禁止法とも関連を有するものであり、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき応用的な科目のひとつである。

【到達目標】

知的財産法のうち、いわゆる標識法に分類される法制度について、一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、標識法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、標識法が問題となる具体的な事例（紛争）について、不正競争防止法・商標法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、標識法に関する法制度としてどのようなものが設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて受け付けるほか、授業前後に直接口頭で質問していただいても構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業の冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末試験に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	標識法概説・不正競争防止法総説	標識法の概説、不正競争防止法の全体像
第3回	混同惹起行為の規律(1)	不競法2条1項1号の趣旨及び要件
第4回	混同惹起行為の規律(2)	不競争2条1項1号の要件
第5回	混同惹起行為の規律(3)	不競法2条1項1号の要件及び効果
第6回	著名表示冒用行為の規律(1)	不競法2条1項2号の趣旨及び要件

第7回	著名表示冒用行為の規律(2)	不競法2条1項2号の要件及び効果
第8回	不競法のその他の関連規定	不競法2条1項19号等の概説
第9回	商標法総説	商標法の全体像
第10回	商標の登録要件(1)	積極的登録要件
第11回	商標の登録要件(2)	消極的登録要件
第12回	商標権の保護範囲	商標権の内容、商標の類似性など
第13回	商標権の制限	権利行使が制限される場合について
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料等を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（特に不法行為法）や消費者法、行政法、経済法、民事訴訟法、知的財産法（特許法・著作権法）などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心掛けたい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Trademark Protection in Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Trademark Protection.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（憲法哲学）

金井 光生

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化・社会と法コース」と密接な関連を有する科目です。

本講義では、諸々の市民的法的な物語群（narratives）に支えられたリアルなフィクションとしての **Recht** 理念の現象態である共同の文化作品として「憲法」を捉えて、人間の存在の **constitution** に照応した国家の **constitution** として、憲法をナラティヴ論の観点から哲学的解釈学的に解明し、立憲主義の普遍的な精神的基礎を哲学的人間学的に探究します。

その際は、憲法物語として、多彩なテキスト（文芸作品、宗教聖典、戦争文学、東日本大震災と福島原発事故の記録etc.）を読解しながら、「法の支配」・「立憲主義」の思想を読み取り、多様な人間の平和的共生のための「希望」のよすがとして、1946年日本国憲法の記憶を **thoughtful** に思索していきます。

単なる実定法解釈学以上の憲法の魂に触れたい人、せっかく大学に入ったのだから本格的な学芸としての法の醍醐味を味わいたい人、または、大学に来てしまった者の責任として「学芸としての法」をじっくり思索したい人の主体的な受講を求めます。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) テキストの基本的な読解ができる。
- (3) 立憲主義をめぐる主要な思想を「自分の言葉で」物語ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「テキスト読解重視」の講義形態です。教科書に加えてレジュメ等を配布します。

本講義は実験的なものです。授業の後半に取り上げるテキストは年度ごとに異なります。「文芸作品」「聖書」「仏典」に引き続いて、今年度は「日本仏教思想」を中心に取り上げ、以前取り上げたテキストも参照・比較しつつ、「リアルなフィクション」としての憲法ナラティヴズの観点から憲法哲学的に読解していく予定です。宗教としてではなく、「法思想」との関連でその象徴的意味を解釈していきます。

下記【授業計画】はあくまで予定であり、受講者との対話的応答の中で、内容は変更する場合があります。大学の授業は学生のみならずとともに思索しながら、その都度の対話的探究の中で共同制作していくものですから。

そのためにも、適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：「憲法哲学」ということ	「リアルなフィクション」としての Recht 理念に規整された憲法物語群（ナラティヴズ）と立憲的信
第2回	法とナラティヴズ①	法と物語の哲学
第3回	法とナラティヴズ②	法と哲学的解釈学
第4回	小括	「リアルなフィクション」としての言霊と神話と法
第5回	憲法物語①	イエスの思想と聖書入門
第6回	憲法物語②	インド思想とダルマ
第7回	憲法物語③	シャカの思想と仏教入門
第8回	憲法物語④	大乘仏典入門
第9回	憲法物語⑤	日本仏教史概論
第10回	憲法物語⑥	最澄（天台宗）と空海（真言密教）
第11回	憲法物語⑦	道元（禪宗・曹洞宗）
第12回	憲法物語⑧	日蓮（法華宗）
第13回	憲法物語⑨	法然（浄土宗）と親鸞（浄土真宗）
第14回	まとめ：全世界の国民の平和的生存権	「ナラティヴ」としての 1946 年日本国憲法と、カフカ「法の前で」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 該当箇所の予習・復習をする
 - (2) 図書館を徹底的に活用する（参考書など）
 - (3) 本講義や関連科目の学びを自分の生き方や将来の職業にいかす
- ＊本授業の準備・復習時間は「4時間以上」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中村圭志『聖書、コーラン、仏典——原典から宗教の本質をさぐる』（中公新書、2017年）

【参考書】

中村元『中村元の仏教入門』（春秋社、2014年）
末木文美士編著『日本仏教再入門』（講談社学術文庫、2024年）
平川宗信『憲法的刑法学の展開——仏教思想を基盤として』（有斐閣、2014年）
B.R. アンベードカル（山際素男訳）『ブッダとそのダンマ』（光文社新書、2004年）
今村仁司『親鸞と学的精神』（岩波書店、2009年）
佐々木閑『大乘仏教』（NHK出版新書、2019年）
島蘭進『宗教を物語でほどく——アンデルセンから遠藤周作へ』（NHK出版新書、2016年）&『日本仏教の社会倫理』（岩波現代文庫、2022年）
H. アーレント（大久保和郎訳）『エルサレムのアイヒマン（新版）』（みすず書房、2017年）
大野達司ほか『近代法思想史入門』（法律文化社、2016年）
奥平康弘『「憲法物語」を紡ぎ続けて』（かもがわ出版、2015年）
H.-G. ガダマー（樽田収ほか訳）『真理と方法（全3巻）』（法政大学出版局、1986-2012年）
金井光生『フクシマで日本国憲法〈前文〉を読む』（公人の友社、2014年）
来栖三郎『法とフィクション』（東京大学出版会、1999年）
小森陽一『ことばの力 平和のちから』（かもがわ出版、2006年）
R. ドゥオーキン（小林公訳）『法の帝国』（未來社、1995年）
野家啓一『物語の哲学』（岩波現代文庫、2005年）
林田清明『《法と文学》の法理論』（北海道大学出版会、2012年）
福島大学行政政策学類編『大学の福島ガイド』（昭和堂、2024年）
渡邊二郎『構造と解釈』（ちくま学芸文庫、1994年）
東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』（徳間書店、2012年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。
平常点およびリアクションペーパー（50％）＋期末試験またはレポート課題（50％）

【学生の意見等からの気づき】

「学習内容が他の法学や日々の生活にリンクすることも多く、今後の学習や就職・人生の思考にも有益で、難解だがいろいろ考えさせられて面白かった」等のアンケートを踏まえて、一層レジュメや資料等を改良した。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We read the constitutional narratives as major literary works etc., because a Constitution is also a constitutional narrative. We think thoughtfully The Constitution (of Japan) who is supported by peoples' narratives representing constitutional faiths.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the basic issues and think them thoughtfully.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination or term-end report: 50 %, Short reports: 50 %.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅰ (現代の政治理論)

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、デモクラシーの危機が唱えられている。実際に、極右勢力やポピュリズムといった反デモクラシー的な政治勢力が、世界各地で台頭している。日本においても、投票率の低下や国会審議の形骸化など、デモクラシーの機能不全が長く続いている。はたして、デモクラシーに未来はあるのか？

これらの問題を捉えるには、出来事をただ表面的に追いかけるのではなく、理論的なアプローチが不可欠である。この授業では、デモクラシーを考える上で重要な複数の政治理論をそれぞれ体系的に学びながら、デモクラシーはそもそも望ましい政治体制なのかどうか、それが問題や限界を抱えているなら、より望ましい政治体制はどのようなものなのか、といった問いについて考察していく。

【到達目標】

1. F・ニーチェ、C・シュミット、H・アーレントの政治理論を、それぞれ体系的に学習する。
2. デモクラシーをめぐる上記の三人による議論を理解する。
3. デモクラシーの未来について理論的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出 (2回程度) を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	フリードリヒ・ニーチェ 1	文法の技法、キリスト教道徳への批判
3	ニーチェ 2	近代デモクラシーへの批判
4	ニーチェ 3	末人と超人
5	ニーチェ 4	大いなる政治
6	カール・シュミット 1	政治的なものの概念 一友と敵の区別
7	シュミット 2	リベラル・デモクラシーと近代社会への批判
8	シュミット 3	権威体制の擁護
9	シュミット 4	ナチズムへの関与
10	ハンナ・アーレント 1	活動、自由、公的空間
11	アーレント 2	全体主義への批判
12	アーレント 3	人間の条件：近代の価値転倒
13	アーレント 4	公的空間の再興 ―それが不可能なら―
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇蔵編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995年。
 杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)、リアクションペーパー (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

In recent years, there have been calls for a crisis of democracy. In fact, anti-democratic political forces such as extreme right-wing groups and populism have emerged in many parts of the world. Also in Japan, democracy has been dysfunctional for a long time, as evidenced by the declining voter turnout and the disorganization of parliamentary deliberations. Does democracy really have a future?

In order to grasp these issues, it is essential to take a theoretical approach rather than merely following events superficially. In this course, we will systematically study several political theories that are important for thinking about democracy, and consider questions such as whether democracy is a desirable political system in the first place, and if it has problems and limitations, what kind of political system would be more desirable.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅱ (現代の政治理論)

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

私たちは自由な社会で生きている、とされる。実際に、日本を含む多くの国家が採用する政治体制では、思想や言論などの諸自由が、憲法によって保障されている。しかし他方で、虐待や同調圧力やブラック労働など、およそ自由と相容れない事態も、私たちの社会に広く見られる。これらの事態は、たんに自由に反するだけでなく、自由な社会それ自体を原因とする、皮肉かつ逆説的な結果ではないのか…？

これらの問題を捉えるには、出来事をただ表面的に追いかけるのではなく、理論的なアプローチが不可欠である。この授業では、自由を考える上で重要な複数の政治理論をそれぞれ体系的に学びながら、私たちは本当に自由な社会で生きているのか、それが問題や限界を抱えているなら、それはどのように (または、そもそも) 克服されるのか、といった問いについて考察していく。

【到達目標】

1. J・ベンサム、M・フーコー、J・ロールズの政治理論を、それぞれ体系的に学習する。
2. 自由をめぐる上記の三人による議論を理解する。
3. 自由な社会の未来のあり方について、理論的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出 (2回程度) を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	ジェレミー・ベンサム 1	功利主義の成立：T・ホブズ、J・ロック、A・スミスとの関連から
3	ベンサム 2	個人の利益と社会の利益の調和…？
4	ベンサム 3	人民主権と集権体制
5	ベンサム 4	快楽と個性：J・S・ミルによる批判
6	ミシェル・フーコー 1	“真理”を語る者は誰か？：近代批判としての系譜学的問い
7	フーコー 2	規律=訓練テクノロジー：権力への自発的服従
8	フーコー 3	司牧者権力と生政治：知と権力の結託による生の監視
9	フーコー 4	近代への抵抗：新しい主体の可能性

10	ジョン・ロールズ 1	正義論の構想：ベトナム戦争や人種差別への反対、功利主義の克服
11	ロールズ 2	正義の二原理：リベラル・デモクラシーと福祉国家の擁護
12	ロールズ 3	正義論をめぐる論争：新自由主義による批判を中心に
13	ロールズ 4	正義論の国際社会への適用：永遠平和のための正しい戦争、人道的介入、核武装
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇蔵編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995年。
杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)、リアクションペーパー (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

It is said we live in a free society. In fact, in the political systems adopted by many nations, including Japan, freedom of thought, speech, and other freedoms are guaranteed by the Constitution. However, there are many situations in our society that are incompatible with freedom, such as abuse, peer pressure, black labor, etc. These situations are not only contrary to freedom, but are ironic and paradoxical consequences of a free society itself…?

In order to grasp these issues, it is essential to take a theoretical approach rather than merely following events superficially. In this course, we will systematically study each of the political theories that are important for thinking about freedom, and consider questions such as: do we really live in a free society, and if it has problems and limitations, how (or whether) can they be overcome?

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法Ⅳ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代の変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】

日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを行います。

質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（2）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（3）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（4）	判例の展開
5	違憲審査制（5）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（1）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（2）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（3）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（4）	判例の分析
11	財政（1）	財政民主主義
12	財政（2）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすいものをいくつか挙げておきます。

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1 人権』『憲法2 統治』（有斐閣、2025年）
新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第8版（有斐閣、2025年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective

(Learning Activities outside of Classroom)

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法III

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】

日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的变化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。

学期中に2回ほど〇×式の理解度確認テストを行います。

質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的变化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（1）	国会の権限と活動
6	国会（2）	国会議員の地位
7	内閣（1）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（2）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（1）	司法の機能
11	裁判所（2）	司法権の限界
12	裁判所（3）	裁判所の組織と司法権の独立

13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】

憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすいものをいくつか挙げておきます。

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1 人権』『憲法2 統治』（有斐閣、2025年）
新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第8版（有斐閣、2025年）

やコンパクトなものとして、

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）及び理解度確認テスト（20%）により評する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.

At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法律学特講（コンテンツビジネスの実相と知的財産権）

安田 和史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2024年のコンテンツ産業の市場規模は14兆288億円（前年比103.1%）となり、14兆円を突破した。

※2025年のデータは2026年9月頃公表されますので講義では情報を更新して解説します。

コンテンツビジネスは、流通や収益構造などに大きな変化があらわれており、毎年キープレイヤーが入れ替わっている。また、コンテンツビジネスは多岐の分野にわたるが、授業では大きな変化が見られているゲーム市場、出版市場、および、近年エンタテインメント化が進む広告、各市場において大きな影響を与えている生成AIの問題等をテーマに、法的な課題等を交えて解説を行う。

なお、コンテンツ関係の時事問題が生じたときには積極的にケーススタディとして採用したいと考えている。

この授業は、知的財産法に分類される法律のうちコンテンツビジネスに関連するものを中心として学ぶことを内容とするが、知的財産法を横断的に取り扱うことになる。従って、知的財産法Ⅰ～Ⅲ[武生昌士]および法律学特講（知的財産法の今日的課題）[武生昌士]を受講している（あるいは、将来受講する）と全体的な理解が深まるようになると思われることから推奨する。

「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「行政・公共政策と法コース」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る。

【到達目標】

コンテンツビジネス（ゲーム、出版、広告等）にかかる法的問題について理解し、それを解消するための考え方を身につける。授業では、判例や実務的な解決手段等を紹介するが、問題解決の手段はそれだけに留まらない。この授業あるいはそれ以外で得た知識をフル活用して、自分であればどのような解決手段を提案できるかということを考えられるようになってほしい。

Able to propose solutions to legal issues related to the content business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、コンテンツビジネス市場についてゲーム、出版、広告を中心に主要なテーマに掲げ、最新技術の動向を交えながら、コンテンツと法に関する解説を行う。また、ある程度ビジネス環境等の理解ができたところで、法的問題について海賊版サイト問題や、ゲームのチートに関する法的な問題など、皆さんに身近なケースを紹介しながら解説し理解を深める。知識を深めるということも重要であるが、問題解決のための考え方を養ってもらいたい。

授業形態は、原則対面形式の講義形式で行う。ゲストスピーカーを承知する場合がある。ただし、講師の都合により最大5回程度オンラインにする場合がある。

講義の後にリアクションペーパーを回収する。その中で、質問等がある場合には記載してもらい、翌週の冒頭に質問に回答する。

原則的に、対面形式での授業を行う。

詳細は、学習支援システムを通じてお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンテンツビジネスの実相と知的財産の概要	初回講義では、講義の進め方および講師の紹介、成績評価の方法などについて説明を行う。また、現在のコンテンツ市場について、解説を行う。
2	コンテンツビジネスの実相と知的財産～プロテクト技術と知的財産法～	ゲームは、ゲーム機側とソフト側双方にプロテクトがかけられており、違法なソフトは起動しない技術的な工夫がされている。しかしながら、このような手段を回避するための装置やプログラムを提供する者が存在しており、この対応として著作権法や不正競争防止法の規定が用いられる。近年においては、民事対応のみならず、不正競争防止法による刑事対応および、関税法における水際措置が効果を上げている。授業では、ゲームの技術的保護と関連法に関する具体例を中心に解説する。
3	コンテンツビジネスの実相と知的財産～通信規格・メモリ等のインフラ～	ゲーム機やソフトウェアの流通において、メモリや通信関連技術、ファイル圧縮技術等の標準化が不可欠となる。標準化は、複数の企業が所有する特許権をプールすることで成立する。これらの特許はFRAND宣言され、公正、合理的かつ非差別的な条件（FRAND条件）でライセンスされることになる。しかしながら、FRAND条件の前提があったとしても、特許権者とこれらの特許を使用する者との間でライセンス交渉が行われるにあたり、具体的な条件等について折り合わず紛争が起きている。FRANDに関する問題は、日本のみならず国際的な問題であることから、日米欧の現状について解説する。
4	コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム（1）～	オンラインゲーム市場は、コンテンツ市場の中でも極めて好調である。ソーシャルモデルとフリーミアムモデルによる相乗効果もあり、高収益化に成功している。他方で、オンラインゲームは悪質なユーザーによる「チート」行為の被害が深刻化している。チート行為は、ゲーム内の秩序を破壊し、企業に経営上の被害をもたらす。授業では、チート行為の一部が、知的財産法による法的対応が可能であり、民事対応による損害賠償請求や刑事対応が効果をあげていることについて解説する。

5	コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム(2)～	ゲームアプリは、AppleのApp StoreやgoogleのGoogle Play等を通じてダウンロードされており、その総数は、其々200万以上とも言われている。このように競争が激しいゲームアプリ市場において、自社のゲームコンテンツを知的財産権等により保護することは極めて重要である。AR技術・スマホの位置情報技術を用いたゲームアプリが世界中で大ヒットしているが、関係各社は技術やキャラクターについての知的財産権による保護に余念がなく現在のところ同種のゲームアプリの追従を許していない。また、スタートアップ系の企業に勢いのあるゲームアプリ業界であるが、知的財産権のクリアランスが不十分であれば、将来の経営リスクになる。授業では、具体的な紛争事例等を交えながら、ゲームアプリの知的財産権による保護について解説する。	10	「コンテンツを工学する」とは何か？	コンテンツ市場の成長に工学的なアプローチが不可欠になっている。海外市場を見据えた取り組みや、海賊版対策、新たなプラットフォームの構築などにおいて国内のスタートアップ企業がしのぎを削っている。これらの最新動向について解説する。
6	コンテンツビジネスの実相と知的財産～AI編	生成AI技術の動向について、解説をするとともに、近年の産業界の動きや知財法関連の改正についても解説する。	11	コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツの創作と法的制約1～	広告は、法的な制約を受けており、その枠組みの中でクリエイターが制作を行っている。具体的には、他人の知的財産権等をはじめとする権利を侵害しないように留意する必要がある他、広告に関連する法的規制も受けている。さらに、倫理上の制約等も存在している。授業では、これらの法的規制および広告コンテンツの創作との関係について2回に渡って解説する。前回の続き
7	コンテンツビジネスの実相と知的財産～出版市場のデジタル化と流通の変化～	デジタル出版が可能となったことで、出版社を介さずに、直接出版することが可能になった。出版社を介した出版の場合、作家に入る印税は10%である。他方で、大手の電子出版サービスを利用すると、70%が作家に入ることになる。このような事実から、出版社が将来的に不要になるのではとの考え方も成立し得るが、プロの作家は必ずしもそのようには考えていない。この問題をひも解くために、作品の創作において出版社がどのような役割を担っているのかという点、および、法的立場を明らかにした上で、「デジタル出版時代には出版社は不要か？」という点を考察する。	12	コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツの創作と法的制約2～	
8	コンテンツビジネスの実相と知的財産～海賊版サイトに対する出版社の戦い～	インターネット上の違法コンテンツについては、米国DMCAに準拠した方式（我が国ではプロバイダ責任法）による削除申請をサイト事業者にすることで削除される場合がある。また、これらはサイトによっては検出から削除まで自動化されており一定の効果을上げていて作業効率も上がっている。講義では、毎年新しい試みが行われている出版社による海賊版対策の実態と法的対抗手段について解説する。	13	コンテンツビジネスの実相と知的財産～WEBマーケティングにおけるブランド等名称の重要性と知的財産法による保護～	WEB広告などを中心に行われているマーケティングにおいてリコメンドを行うにあたりブランド等の名称の重要性が増している。ブランド名称を不正に利用されないためにどのような対抗手段が考えられるか具体的なケースを参照しながら解説を試みる。
9	複雑化する海賊版サイト問題	海賊版サイトは、毎年のように姿や国を変え、コンテンツ事業者を翻弄している。講義では海賊版サイト問題について詳述するとともに、海賊版サイトへの対抗手段について解説する。	14	コンテンツビジネスの実相と知的財産まとめ	コンテンツビジネスの実相と知的財産について総括する。また、この講義の時点で起きている注目すべき事例などがあれば解説を行う。その他、期末レポートの課題について説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメの内容について十分に復習すること。事前配布した資料については、授業当日までに内容について検討しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

Read the distributed resumes carefully. Approximately 2 hours of preparation and review are required.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、レジュメを必要に応じて配布します。なお、プロジェクターには投影できても、事情により配布できない資料もありますのでご了承ください。In this course, we will not use a textbook, and handouts will be distributed as needed. Please note that some materials may be projected on the screen but cannot be distributed due to certain circumstances.

【参考書】

経済産業省 商務情報政策局（監修）『デジタルコンテンツ白書2026』一般財団法人デジタルコンテンツ協会（2026年9月頃発刊予定）
総務省『令和7年版 情報通信白書』※総務省ウェブサイトにて無料で取得可能。
『逐条解説 不正競争防止法』※経産省ウェブサイトにて無料で取得可能。
前田健他編著『図録 知的財産法』（弘文堂、2021年02月）
その他、島並良ほか『著作権法入門 〔第3版〕』（有斐閣、2021）、田村善之『知的財産法 〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法 〔第4版〕』（有斐閣、2023）、土肥一史『知的財産法入門 〔第16版〕』（中央経済、2019）、藤野仁三（著、編集）＝FRAND研究会（編集）『標準必須特許ハンドブック SEP HANDBOOK 〔第3版〕』発明推進協会（2025年1月）、小林 十四雄、末吉 互他編著『重要判例分析×ブランド戦略推進 商標の法律実務』中央経済社（2023年1月）。小泉 直樹、茶園 成樹他『条解著作権法』弘文堂（2023年6月）。上野 達弘（編集）、奥邨 弘司（編集）『AIと著作権』勁草書房（2024年2月）。

高林 龍、三村 量一、上野 達弘 (編集) 『年報知的財産法2023-2024』
日本評論社 (2024年1月)。
高林 龍、三村 量一、上野 達弘 (編集) 『年報知的財産法2024-2025』
日本評論社 (2025年1月)。
谷川 和幸『リンク提供行為と著作権法 (知財研究叢書)』弘文堂 (2024
年4月)。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション[30%]+期末レポート[60%]+平常点[10%]を基本とする。

期末レポートが未提出の場合は、成績を与えません。

リアクションペーパーの回収は期限厳守。公欠を除き、事後提出は認めません。

期末レポートの課題は、12月初旬に学習支援システムから提示します。

リアクションの提出は、対面の場合紙で提出していただきます。

平常点は、リアクションの内容や授業への積極的な取り組み等を評価します。

Your final grade will be calculated according to the following process:

Reactions will be submitted after the lecture[30%].Final Report[60%].Usual performance score[10%].

【学生の意見等からの気づき】

コンテンツビジネスと知的財産法の問題の中でも、現在ニュースなどで報じられている問題や、皆さんの身近で起きている問題、皆さんが抱えている疑問などについては、質問をしてもらえれば、可能な限り講義で取り扱うようにします。In this course, among the various issues related to the content business and intellectual property law, I will make every effort to address in the lectures any topics that are currently being reported in the news, issues occurring around you, or questions you personally have — so please feel free to raise them.

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は事情により配布できない場合もありますのでご了承ください。Please note that, due to certain circumstances, some lecture materials may not be distributed.

【その他の重要事項】

知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけます。While it is preferable that students have already taken, or are concurrently taking, courses such as intellectual property law, I will strive to make the lectures easy to understand even for beginners.

【Outline (in English)】

Lectures on content business and intellectual property law.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

自治体論

土山 希美枝

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は「政策・都市・行政」の分野に含まれる内容に重点を置く。「自ら治める」自治の歴史的意義と、こんにちの「都市型社会」の特性を理解する。こんにちの公共政策のありかたを理論と事例でとらえつつ、自治とその機構である自治体について学ぶ。これを通じて、社会を構造的にとらえ、地域課題や公共課題を自治の目線から考える視角を養う。

本講の履修後（できれば続けて）秋学期の「自治体政策論」を受講することが望ましい。両講義をあわせて自治・自治体・公共政策が理解できるよう設計されている。
※なお、講義構成の変更にもとない、一部の教材資料に2021年度「自治体政策論」と重なっているものがある。

【到達目標】

都市型社会の構造、近代化と政策類型の歴史的展開を知る。「自らから治める」自治を民主化の歴史をふまえて学び、その機構としての自治体は日本でどのように成立してきたかを理解する。

都市型社会における自治とその主体のありかた、自治体との関係を理解し、制度と機能、現状と課題を考察する。

地域課題や公共課題を自治の視点からとらえ、政策を考察するための基礎的な知識と能力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、アクティブ・ラーニングとして参加者どうしの意見交換を行うことがある。必要に応じて視聴覚教材を利用することがある。

「自治」と「自治体」をめぐって、「いま、わたしたちの目の前に存在する事象」がどういう構造と機能をもっているのかを理解するために、歴史的、理論的な整理も行う。

講義後のリアクションペーパーによる質問やコメントを歓迎する。回目の講義で、前講義をふりかえる時間をつくり、共有されるべき質問等にはそこで答えていく。

なお、本講の履修後（できれば続けて）秋学期の「自治体政策論」を受講することが望ましい。両講義をあわせて自治・自治体・公共政策が理解できるよう設計されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：自治と自治体を考えるキーワード	本講義の全体像を説明する。また、自治をめぐるキーワードを紹介し、この講義の視角を共有する
第2回	都市型社会と自治	こんにちの社会構造を「都市型社会」として理解する。政策一般と政府政策（自治体政策）を峻別し、政策主体を理解する。
第3回	歴史から自治体をとらえる（1）	農村型社会の成立と原基型政策を理解する。
第4回	歴史から自治体をとらえる（2）近代化と近代化政策の展開	近代化と近代化政策を理解し、政策類型の展開を学ぶ。

第5回	自治とは何かを理解する（1）自治としての民主化と権力	民主化とロック・モデルという「発見」を理解し、支配から「自治」への転換をとらえる
第6回	自治とは何かを理解する（2）	近代化と政治権力、支配と被支配の関係をとらえる。わたしたちの日常にある「権力と配」を理解する
第7回	ゲストスピーカー回	外部の実践者によるレクチャー。講師との日程によって回の変更する可能性がある。
第8回	日本の近代化と政治・政策（1）高度成長期の社会変動と自治体	資料映像により、日本の近代化の問題性を学ぶ 高度成長期の社会変動と、それがもたらした政策課題をとらえる
第9回	日本の近代化と政治・政策（2）	資料映像による学びをふまえ、近代化III型政策の意味を理解する。
第10回	高度成長期の社会変動と自治体の発見（1）	高度成長期の社会変動による「政策主体としての自治体」の登場をとらえる
第11回	高度成長期の社会変動と自治体の発見（2）	革新自治体の潮流と、自治体改革の展開をとらえる
第12回	政府としての自治体（1）	「自治体の政府化」を2000年分権改革とともに、制度として確認する
第13回	政府としての自治体（2）	自治体政策の〈制御〉をめぐる今日的課題を整理する。
第14回	まとめと試験	講義をふりかえり、講義内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では「準備学習・復習時間は各2時間」が標準となるよう大学設置基準によって定められている。自治・自治体を理解するためには、講義の受講、示した資料や参考文献を理解するだけでなく、課題の現場である社会（とくに地域社会）でおこる事象を標準時間にとどまらず日常的にメディアやニュースをつうじてとらえ、考察することが必要である。

【テキスト（教科書）】

石橋章市朗・佐野巨・土山希美枝・南島和久『公共政策学』（ミネルヴァ書房）。

松下圭一『政策型思考と政治』（東京大学出版会）。

【参考書】

天川晃『天川晃最終講義 戦後自治制度の形成』（放送大学叢書）。

今井照『地方自治講義』（ちくま新書）。

金井利之『自治制度』（東京大学出版会）。

土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』（日本評論社）。

松下圭一『ロック「市民政府論」を読む』（岩波現代文庫）。ほか、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義内試験（80%）、講義内小レポート×2（20%）。リアクションペーパーの提出状況は加点材料となりえる。

【学生の意見等からの気づき】

講義終了時にコメントや質問を受け付け、その後の講義にいかす。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

本講の履修後（できれば続けて）秋学期の「自治体政策論」を受講することが望ましい。両講義をあわせて自治・自治体・公共政策が理解できるよう設計されている。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will understand theories for modern (urban type) society, development of public policy, local governance and local government. We will cultivate the ability to consider of self-governance with perspective for society, local issues and public issues.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

自治体政策論

土山 希美枝

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は「自治体論」と同様に「政策・都市・行政」の分野に含まれる内容に重点を置く。

「自治体論」で学んだ内容に加え、都市型社会における政策過程とその主体を理解し、「政府としての自治体」の成立を確認しながら、自治体〈政策・制度〉の構造、特徴、展開を事例とともに理解する。

本講義の履修前（できれば直前の）春学期に開講する「自治体論」を履修することが望ましい。両講義は一对である。

【到達目標】

自治の機構としての自治体とその政策の構造、特徴、展開を理解する。自治と自治体における政策課題の広がり・深まりを歴史的にとらえ、政策主体の多様化と政策手法の開発を、実践と理論を架橋しながらとらえる。

これらを通じて、地域課題を自治の視点からとらえ、政策を構想する基礎的な知識と能力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、アクティブ・ラーニングとして参加者どうしの意見交換を行うことがある。必要に応じて視聴覚教材を利用することがある。

「自治」と「自治体」の政策（地域の公共政策・政府政策）をめぐって、「いま、わたしたちの目の前に存在する事象」がどういう構造と機能をもっているのかを理解するために、歴史的、理論的な整理も行う。

講義後のリアクションシートによる質問やコメントを歓迎する。次回の講義で、前講義をふりかえる時間をつくり、共有されるべき質問等にはそこで答えていく。

なお、本講義の履修前（できれば直前の）春学期に開講する「自治体論」を履修することが望ましい。両講義は一对である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：都市型社会の自治体	本講義の全体像と運営を説明する。市民自治からくみたる政府としての自治体、社会と政策と市民。
第2回	自治体政策、公共政策とはなにか。高度成長期の政策課題	自治体政策、公共政策の機能、過程、主体の理論とその変遷。自治体論受講生には振り返りの回。
第3回	自治体政策の起点としての高度成長期（1）	高度成長期における政策課題の状況（映像資料の視聴）
第4回	自治体政策の起点としての高度成長期（2）	資料を振り返り、高度成長期における自治体政策の始動を学ぶ。
第5回	自治体の環境政策（1）	公害と自治体政策の展開を学ぶ。

第6回	自治体の環境政策（2）	環境政策分野における課題と自治体政策の事例
第7回	自治体の福祉政策（1）	福祉政策分野における自治体の役割とその政策の展開
第8回	自治体の福祉政策（2）	自福祉政策分野で多様化する課題と自治体政策の事例
第9回	ゲストレクチャー回	自治体政策の先駆例から学ぶ
第10回	自治体議会と政策（1）	自治体議会の特徴、課題、自治体議会改革の潮流
第11回	自治体議会と政策（2）	自治体議会が自治体政策に果たす機能と事例
第12回	ゲストレクチャー回	自治体政策の担い手から、その魅力を学ぶ
第13回	自治体政策の今日的課題	2020年代後半の現在、じせんと取り巻く課題をとらえる
第14回	まとめと講義内試験	講義全体をふりかえり、講義内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では「準備学習・復習時間は各2時間」が標準となるよう大学設置基準によって定められている。自治・自治体を理解するためには、講義の受講、示した資料や参考文献を理解するだけでなく、課題の現場である社会（とくに地域社会）でおこる事象を標準時間にとどまらず日常的にメディアやニュースをつうじてとらえ、考察することが必要である。

【テキスト（教科書）】

石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』（ミネルヴァ書房）。

松下圭一『政策型思考と政治』（東京大学出版会）。

【参考書】

天川晃『天川晃最終講義 戦後自治制度の形成』（放送大学叢書）。今井照『地方自治講義』（ちくま新書）。

金井利之『自治制度』（東京大学出版会）。

土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』（日本評論社）。

松下圭一『ロック「市民政府論」を読む』（岩波現代文庫）。ほか、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義内試験（80%）、講義内小レポート×2（20%）。リアクションペーパーの提出状況は加点材料となりえる。

【学生の意見等からの気づき】

講義終了時にコメントや質問を受け付け、その後の講義にいかす。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

本講の履修後（できれば続けて）秋学期の「自治体政策論」を受講することが望ましい。両講義をあわせて自治・自治体・公共政策が理解できるよう設計されている。

【Outline (in English)】

In this lecture, we understand the theories of public policy in modern (urban type) society and local government in Japan. We also understand the structure, features and development of local public policy.

POL200AD (政治学 / Politics 200)

International Politics

Emily Szu-hua Chen

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In our era of globalization, what happens on the other side of the world affects our lives. The COVID-19 outbreak in a Chinese city in 2019 evolved into a worldwide pandemic. Russia's months-long war in Ukraine has accelerated a global energy and cost-of-living crisis and caused an economic slowdown in many countries. Understanding the problems that seem far away from home has become ever more important in this global era as we cannot afford to ignore them. What are the specific issues and challenges facing our world today, and how can we interpret and tackle them? This introductory course in international politics and global affairs is designed to equip students with the knowledge and analytical skills to explore and explain solutions to real-world problems.

The course consists of three sections. First, we will look at the historical background of today's international system, focusing on the evolution from the end of the Cold War's bipolarity to the emerging global order increasingly led by rising powers. The second section will cover the main concepts and three major strands of theory in the discipline of international relations (IR). These conceptual tools help us analyze global problems and are necessary knowledge for students who wish to continue their studies of international politics after the conclusion of this course. In the final and central section of this course, we will investigate contemporary issues that are likely to affect the world for years to come.

Students from all disciplines interested in international relations are welcome to enroll. There are no prerequisites; prior knowledge of IR theory is not required, but it would be an advantage.

【到達目標】

At the end of this course, students should be able to:

- Describe the historical development of the international system from the end of the Cold War to the present
- Demonstrate a foundational understanding of the major IR theories and concepts and apply them to historical cases and current events
- Analyze and consider solutions to global challenges in the contemporary world
- Show research, communication, and writing skills useful for future career paths in the field

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」に強く関連。「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course will meet once a week. The course will consist of a mix of lectures, student presentations, and group discussions. Lectures, which will introduce background information on each week's topic, will be followed by student presentations on selected seminal texts related to a weekly debate question designed to expand students' knowledge of the topic. Students will have the opportunity to interact in small groups to review the ideas introduced in class and respond to the debate question. (Students will be randomly assigned to groups twice throughout the semester: once at the beginning of the semester and once in the middle.)

In the last few class sessions, students will each share a proposal for their intended research, either in front of the class or within their groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction I	Introduction to the course
2	Introduction II	Where do you get your news?
3	The Historical Context I: Post-Cold War International Relations	Continuity and change in the post-Cold War world
4	The Historical Context II	U.S. leadership and China's rise
5	The Historical Context III	The liberal world order challenged?
6	Theoretical Approaches I: How Can We Explain State Behavior?	Realism
7	Theoretical Approaches II	Liberalism
8	Theoretical Approaches III	Constructivism
9	Contemporary Issues in International Politics I	Nuclear nonproliferation
10	Contemporary Issues in International Politics II	Nationalism and divided memories in Northeast Asia
11	Contemporary Issues in International Politics III	Global health
12	Contemporary Issues in International Politics IV	Free trade
13	Conclusion I	Research proposal presentations
14	Conclusion II	Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Outside of formal classes, students are expected to:

- Read or watch the required materials and prepare relevant questions to clarify and confirm their understanding or discuss in class
- Summarize and assess assigned readings and prepare their analysis to share with the class
- Conduct an individual research project on an issue of interest in global affairs and present its results via oral presentation and written submission

Students are encouraged to do the following to contribute meaningfully to the class discussion:

- Explore supplemental readings provided on the list
- Keep abreast of current events by reading major news stories relating to international politics

Students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

All required course materials will be made available via hyperlinks in the syllabus or through WebClass. No purchases are necessary.

【参考書】

The optional reference readings below are on reserve in the library. They provide helpful background information, particularly for the IR theoretical foundations.

- Baylis, John, Steve Smith, and Patricia Owens. 2020. *The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations*. Oxford: Oxford University Press.
- Brown, Chris. 2019. *Understanding International Relations*. London: Bloomsbury Academic.
- Pevehouse, Jon C., and Joshua S. Goldstein. 2019. *International Relations*. London: Pearson.

【成績評価の方法と基準】

- Class Participation (30%): This requirement includes class attendance and active participation in class discussions.
- Presentation on Required Reading (30%): Students will give a presentation on one article from the entire reading list for debate questions during the semester. Students will sign up for the readings on which they wish to present in the first two weeks of class.
- Individual Research Project (40%): Students will select a policy issue of interest in global affairs as a research project. The requirement includes a proposal presentation on their intended research (20%) and the submission of a 1000 – 1500-word final research paper (20%).

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

The instructor will use WebClass to manage the course.

【その他の重要事項】

While time constraints limit the detail in which we can address the broad range of material covered in class, if students wish to discuss certain topics in detail on an individual basis, they should feel free to reach out after class or make an appointment with the instructor via email. Students are also welcome to discuss their performance in class with the instructor at any time during the semester.

【Outline (in English)】

Same as above.

POL200AD (政治学 / Politics 200)

国際協力講座

木内 真理子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】

- ・国際協力分野に携わる様々なアクターによる政策や活動について、また、アクター間の連携について知識を深める。
- ・国際協力分野の実態と課題について知る。
- ・国際協力分野における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ゲストスピーカーによる講義と学生からの質疑応答で授業を構成する。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出を求める。ゲストスピーカーの予定によってシラバスに変更が生じる場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第2回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第3回	持続可能な開発のための2030アジェンダとSustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第4回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助 (ODA)	ODAの実務家による講義と質疑応答
第5回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第6回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第7回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第8回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答
第9回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第10回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答

第11回	国際協力における民間企業の役割、活動と課題	民間企業による講義と質疑応答
第12回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第13回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第14回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメ、資料を適宜Hoppii上で配布する。

【参考書】

- ・山田満ほか編著『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）明石書店、2023年
- ・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
- ・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年
- ・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
- ・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして わたしのSDGsへの取り組み』国際書院、2018年
- ・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流 第3版』有斐閣選書、2016年
- ・浅沼信爾・小浜裕久『ODAの終焉』勁草書房、2017年
- ・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
- ・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】

質疑応答への積極的な参加などの平常点（30%）、課題の提出状況と内容（70%）から総合的に判断する。
 ＊遅刻は20分まで。それ以降の入室は欠席と見なす。
 ＊4回以上課題未提出の場合は単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で開発支援事業を、NGOでは組織経営を経験した実務者です。これらの現場経験を踏まえて講義を進めます。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞開発経済学、開発社会学、国際協力、NPO/NGOマネジメント

【Outline (in English)】

This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and issues involved.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

国際NGO論 I

高橋 清貴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会が健全に機能するためには、社会資本や公共サービスなどの「公共財」を供給する政府（行政）の役割、社会が必要とする商品やサービスを提供し経済活動を回しながら利益追求型で成長する企業の役割、そして、NGOを含めた非営利組織の役割が必要と言われる。近年では、教育、環境、災害、貧困、人権、福祉、医療などでも非営利組織の顕著な活動が増えてきている。

この授業では、実際に国際協力NGOの実務に関わる講師と共に、世界のNGO・NPO、日本のNGO・NPOの発展と歴史について学ぶ。

また、授業ではNGOの社会的意義のみならず、現場の経験や葛藤から感じた困難や課題について議論を行い、今後私たちが考えるべき論点を探る。

これらを通して、現代社会、未来におけるNGO・NPOの可能性と課題を学ぶ。

【到達目標】

- 1、社会における非営利組織の存在意義/役割について理解できるようになる
- 2、非営利組織の構造的・制度的な課題について理解できるようになる
- 3、非営利組織の存在を身近なものとして捉え、自分の意見をもてるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実際に現役でNPOの代表を務める講師が、スライドや映像を使って具体的事例なども組み込んで実践的に学びます。講師が長年従事してきた国際協力NGOや政府開発援助での経験を踏まえて、その社会的意義と役割のみならず葛藤や課題についても率直に共有し、議論したいと思います。講義だけではなく、なるべくグループワークや議論、発表などを通して学生が参加する機会も設けます。グループディスカッションに参加する姿勢を持って授業に臨んでください。授業後には、毎回振り返りのコメントを提出してもらいます。それを必要に応じて、次の授業での材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の狙い、春学期の授業計画の説明。また、講師の経験を通して得たNGOの意義について概説。
第2回	NGO・NPOとは何か	社会におけるNGO・NPOの位置付け。政府や企業との違い。国際NGOの歴史と主な活動。
第3回	国際NGOの実践手法	参加型開発と対話型ファシリテーション手法について
第4回	ワークショップ①	関心課題に取り組んでいるNGOについてリサーチ
第5回	ワークショップ②	グループワーク発表、質疑応答、講評。

第6回	『アフリカ支援は甘くない』を観る①	テーマ「無益な施し」。質疑応答、講評。
第7回	『アフリカ支援は甘くない』を観る②	テーマ「村人の協力」。質疑応答、講評。
第8回	『アフリカ支援は甘くない』を観る③	テーマ「時間との闘い」。質疑応答、講評。
第9回	『アフリカ支援は甘くない』を観る④	テーマ「村に残されたもの」。質疑応答、講評。
第10回	『アフリカ支援は甘くない』を観て	国際協力プロジェクトの進め方について、PCM手法を使って分析し、批評する。
第11回	NGO・NPOの組織マネジメント	NGOの財源、組織運営、ガバナンス、アカウンタビリティ
第12回	NGO・NPOの法人制度	組織に人格を与えるとは？ 1998年に成立したNPO法の背景と成立過程、税制優遇制度の導入
第13回	NGOと社会運動	市民社会とは？ ニーズに応えるだけがNGOの役割か？ NGOは、「新しい社会」を拓けるか？
第14回	まとめ	春学期の授業の全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習がある際には内容を指示します。

また、期末にレポート提出があります。

本授業の準備学習・復習時間は計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業にて固定的に使用するテキストはありません。必要に応じて、レジュメと参考文献をこちらで準備します。

また、授業にて使用するパワーポイント（スライド）は授業後、適切な方法で共有します。

【参考書】

『NPO・NGOの世界』大橋 正明／利根川 佳子編、放送大学教育振興会、2021年

『国際協力NGOダイレクトリ』JANIC編、JANIC、2008年

『「連続講義」国際協力NGO』今田克司／原田勝弘編著、日本評論社、2004年

『NGOの選択』JVC、めこん、2005年

『人道援助、そのジレンマ』ロニー・ブローマン、産業図書、2000年

『子どものための小さな援助論』鈴木啓嗣、日本評論社、2012年

『NGOとボランティアの21世紀』デビッド・コーテン、学陽書房、1995年

『変容する参加型開発』サミュエル・ヒッキ／ジャイルズ・モハン編著、明石書店、2008年

『開発援助か社会運動か』定松栄一著、コモンズ、2002年

【成績評価の方法と基準】

「テスト/アンケート機能」での振り返りコメント提出（40%）

グループ発表（20%）

期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを使えるようにしておいてください

【その他の重要事項】

授業後10分を、オフィスパワーとします。質問等がある方は、有効活用してください。

・【実務経験のある教員による授業】

授業担当者は、30年近くODA、NGOで国際協力関係の仕事に従事してきた教員による授業です。これによって国際NGOの社会的意義と役割について実務者の視点から講義をすることができます。また、実際に活動する場合に必要なプロジェクト立案や組織マネジメントについても学ぶことができます。概念学習に終わらず、体験にもとづく具体的かつ実践的な授業科目です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In order for society to function soundly, there is a role for the government (administration) to provide "public goods" such as social capital and public services, and there are companies that provide products and services and grow in pursuit of profit. In addition to these roles, it is said that the roles of non-profit organizations, including NGOs, are necessary. In recent years, notable activities of non-profit organizations have increased in areas such as education, environment, disasters, poverty, human rights, welfare, and medicine.

In this class, students will learn about the development and history of NGOs and NPOs in the world and in Japan with a lecturer who is actually involved in development NGO practice. In addition, students will share the issues and difficulties attained from the experiences of the lecturer who has been directly involved in NGOs, and will be invited to explore through questions and discussions.

Through these activities, students will learn about the possibilities and challenges of NGOs and NPOs in today's society and in the future.

(Learning Objectives)

- 1、To be able to understand the significance/role of non-profit organizations in society
- 2、To be able to understand the structural and institutional challenges of nonprofit organizations
- 3、Become familiar with non-profit organizations and be able to have your own opinion

Instructors who are actually active representatives of NPOs use textbooks and use slides and videos to proceed with the lessons. I would like to share and discuss frankly not only my experiences, but also my conflicts and challenges, as my generation is somewhat similar to yours.

(Grading Criteria /Policy)

In addition to lectures, there will be opportunities for student participation through group work, discussions, and presentations. Please come to class with an attitude of participation in group discussions.

After each class, students are asked to submit comments on their reflections using the "test/survey function". This will be used as material for the next class.

Submission of reflection comments via the "test/survey function" (40%)

Group presentation (20%)

Final report (40%)

POL300AD (政治学 / Politics 300)

国際NGO論II

堀場 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組むNGOの役割が重要になってきています。

NGOの支援においては、物質的な支援だけではなく、人々の潜在的な能力を強め、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このようなNGOの活動理念やアプローチを実例から学び、NGOが社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。

【到達目標】

- (1) 地球規模課題に取り組むNGOの特徴と課題を理解する。
- (2) 一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

私が実際に途上国や日本国内で経験してきた現場の活動を中心に、パワーポイントやビデオを使って授業を進めます。

講義だけではなく、グループワークや投票・発表など、学生の皆さんにも参加してもらう機会を作ります。

授業終了後に「テスト/アンケート機能」や「レポート機能」を使った授業の振り返りを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	NGOについての概要
第2回	政府と非政府	政府の役割とNGOの役割について
第3回	民主化支援のNGO	東南アジアの民主化支援NGOを事例に
第4回	環境保護の取り組み	森林保護をめぐるNGOの活動について
第5回	平和構築への取り組み	東南アジアの紛争から考える。
第6回	NGO間のネットワーク	ネットワークの意義とNGO間の連携
第7回	人道支援NGO	国内外の緊急支援NGOについて
第8回	NGOと企業との連携	NGOと企業との連携の意義および課題と事例
第9回	NGOの組織運営とファンレイジング	NGOの組織の特徴と、NGO活動を支える組織運営・資金調達についての概要
第10回	NGOについて調べてグループ発表1	関心のあるNGOを選び、グループで調べ発表
第11回	NGOについて調べてグループ発表2	関心のあるNGOを選び、グループで調べ発表
第12回	NGOについて調べてグループ発表3	関心のあるNGOを選び、グループで調べ発表

第13回 NGOについて調べてグループ発表4 関心のあるNGOを選び、グループで調べ発表

第14回 まとめ 全体の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習内容を指示します。また、発表してもらうため、その準備に関しては授業中に指示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使いません。
 授業中に使用するパワーポイントを学習支援システムにアップします。

【参考書】

- ・めざすは貧困なき世界、高柳彰夫、フェリス学院大学
- ・SDGs 一危機の時代の羅針盤、南博、稲場雅紀、岩波新書
- ・あの日私たちは東北へ向かった 国際協力NGOと3・11、国際協力NGOセンター、早稲田大学出版部
- ・ジャパンプラットフォーム ウェブサイト
<https://www.japanplatform.org/>
- ・国際協力NGOセンター（JANIC） ウェブサイト
<https://www.janic.org/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題の発表とその内容（60%）、授業中のグループディスカッションでの発言内容（20%）、授業後のリフレクションペーパー（20%）を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

資料については、見やすい資料を作るように心がけるとともに、できるだけ最新のデータを収集して作成します。

グループに分かれての議論やワークショップに対する要望が多いので、授業にできるだけ議論する場を取り入れます。そのため、この授業を取る学生は、グループディスカッションで積極的に発言することを求めます。

【Outline (in English)】

Various global issues such as hunger, poverty, human rights abuses, and environmental destruction are becoming increasingly serious. The role of NGOs, which work for non-profit solutions to these issues from the standpoint of citizens beyond national borders, is becoming ever more important.

In providing assistance, NGOs focus not only on material support, but also on strengthening people's own abilities to reach their potential and to work for self-reliance and improvement by the residents themselves. The purpose of this program is to learn the philosophy and approach of NGO activities from actual examples, to understand the role NGOs play in society and the challenges they face in the future, and to think about what we can do to contribute.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

国際文化交流 I

上品 和馬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、日本の「外交史」と「国際文化交流史」の双方についての理解を深めることを目的とする。具体的には、日本では、古代、中世、近世、幕末、明治、大正、第二次世界大戦前・戦中・戦後を経て、現代までの各時期において、①どのような外交が行われたのか、②どのような国際文化交流が行われたのか、その歴史的経緯や内容について具体的に学ぶ。また、その結果や現代的意義などについても考える。

【到達目標】

(1) 国家が行う「外交」と、国家をはじめ国家下位の主体（企業、個人、民間財団、教育・研究機関、地方自治体など）が行う「国際文化交流」の双方を俯瞰することで、日本が各時代において、国際社会とどのように関係して活路を拓いてきたのか、その結果として状況はどのように変化したのかなど、その歴史的経緯の全体像を理解することを目指す。

(2) 外交と国際文化交流について理解を深めた上で、自分なりの意見を述べることができるようになることを目指す。

(3) このクラスで学んだことを、自分の専門分野においてどのような形で活かせるかについて自ら考えられるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

欠席が4回以上の場合、単位は出ません。

欠席が4回以上の学生は、期末テストを受験することができません。授業内課題（または宿題）を4回以上提出しなかった場合は、期末試験を受けることができません。したがって、単位の授与はありません。

「遅刻」は20分までとし、それ以降の入室は「欠席」となります。毎回、授業の前半に「基本学習（講義）」を、授業の後半に「（基本学習にもとづいた）課題（小テスト）」を行います。

課題は「討論・口頭発表」や、「宿題」になる場合もあります。

期末テストは、基本的に「小論文（論述式）」とします。受講者は、講義から関心のあるトピックを選び、期末テスト（小論文）の作成に向けて、資料収集などの準備を進めておきましょう。したがって、学習にあたっては、授業中にノートを取ることをおすすしめします。

場合によっては、口頭発表（プレゼンテーション）を評価対象とします。

以下のファイルやシステムを用いて授業を進めますので、それに対応したパソコンなどのデジタル・デバイス（端末）とインターネット環境が必要です。

授業は、Word、PDF、PPTなどを用いて行います。

授業の「出欠」については、「Hoppii」上で行います。

授業に関する「連絡」、資料・課題の「配布・提出・フィードバック」などについては、「Google Classroom」上で行います。

したがって、「Hoppii」と「Google Classroom」の両方に登録しておきましょう。

授業は、基本的に「対面授業」で実施しますが、状況によってはオンライン授業（「ZOOM」を使用）とする場合があります。その場合は、端末やインターネット環境が必要になります。

授業計画（テーマや内容）は、進度や理解度などによって適宜変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、授業のすすめ方	この授業で学ぶこと、授業で使用する言葉の概念、外交史の視点など。
第2回	古代・中世：大陸からの文化摂取、交易の時代	大陸とのつながり、傭兵の派遣、遣唐使・遣隋使、各国との交易など。
第3回	近世・幕末・明治初期の西欧文明の摂取の時代	蘭学、鎖国期の交流、不平等条約の締結、海外使節団の派遣など。
第4回	明治前期の対外発信と国際進出	条約改正のための欧化政策、国際電信、外国郵便、海外航路、「外国人顧問」外交、万国博覧会など。
第5回	日清戦争から義和団事変までの時代	脱亜入欧論・入亜対欧論、不平等条約の改正、中国との交流における歴史的転換など。
第6回	日露戦争後の「黄禍論」との闘い	日露戦争、米国カリフォルニアの日本人移民排斥問題、広報外交、中国人の日本留学の隆盛など。
第7回	「民間外交」の時代	国民外交、日米実業界の相互交流、対外通信社や国際的な民間団体の設立など。
第8回	第一次世界大戦の意味	国家総力戦とはなにか、第一次世界大戦がもたらした変革、民族自決とアジアのめざめ、など。
第9回	大正：広報外交のための公的組織化	対外広報のための政府機関の創設、国際連盟の知的協力国際委員会など。
第10回	昭和：国際的孤立からの文化的回避の時代	国際文化振興会、国際学友会、太平洋問題調査会、海外向けラジオ放送の開始など。
第11回	昭和：太平洋戦争期の対外宣伝	日中戦争下での対外宣伝、中国による抗日宣伝の激化、徴用文化人など。
第12回	戦後：国際交流の再出発	アメリカ主導の世界再編と日本の復興、激化する東西対立と日本、など。
第13回	現代：戦後賠償から開発途上国援助へ	日米フルブライト計画、ユネスコやGATTへの加入、国際交流基金や国際協力事業団の設立など。
第14回	期末テスト、復習、学習のふりかえり	期末テスト、復習、学習全体のふりかえり、学習目標の達成度の確認など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

また、ふだんから関連書籍や、新聞、テレビ、インターネットなどでニュースに接するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

使用しません。ハンドアウト（PDF、資料など）を配布します。

【参考書】

入江昭『日本の外交：明治維新から現代まで』（中公新書）中央公論新社、1966年。

入江昭『新・日本の外交：地球化時代の日本の選択』（中公新書）中央公論新社、1991年。

成田龍一『近現代日本史との対話：幕末・維新－戦前編』（集英社新書）集英社、2019年。

成田龍一『近現代日本史との対話：戦中・戦後－現在編』（集英社新書）集英社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

課題（授業中の小テスト、宿題など）：30%

期末テスト（小論文：論述式）：60%

授業参加度：10%

欠席が4回以上の場合、単位は出ません。

欠席が4回以上の学生は期末テストを受験することができません。

課題を4回以上提出しなかった場合は、期末試験を受けることができません。したがって、単位の授与はありません。

【学生の意見等からの気づき】

今回が初回のため、気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

出欠、課題や期末テストの提出・フィードバック、ふだんの連絡、資料の閲覧、(場合によっては口頭発表)などのために、それに対応したパソコンなどのデジタル・デバイス(端末)とインターネット環境が必要です。

授業は基本的に「対面授業」で実施しますが、状況によってはオンライン授業(「ZOOM」を使用)で実施する場合があります。

【その他の重要事項】

履修希望者は、必ず1週目、2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。

国際文化交流Ⅰ(春学期)を受講する場合は、つづけて国際文化交流Ⅱ(秋学期)も受講することが望ましいです。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to deepen understanding of both Japan's "diplomatic history" and "history of international cultural exchange." Specifically, students will learn about the historical background and content of 1) what kind of diplomacy was conducted in Japan during the ancient, medieval, early modern, late Edo, Meiji, Taisho, pre-World War II, wartime, and post-war periods, and 2) what kind of international cultural exchange took place in each period up to the present day. They will also consider the results and contemporary significance of these exchanges.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

国際文化交流 II

上品 和馬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、「国際関係論」と「国際文化交流」の双方についての理解を深めることを目的とする。具体的には、①国際社会においてくり返し起こる現象やその歴史的経緯、②そこから導き出される理論や普遍性、③国際関係論の観点からみた各国の国際文化交流（移民政策や異文化教育など）について学ぶ。

【到達目標】

- (1) 国際社会において起こった現象やその歴史的経緯を学び、そこから導き出せる理論や普遍性を理解することを目指す。また、国際関係論の観点からみた各国間の国際文化交流について理解を深めることを目指す。
- (2) 国際関係やその理論などについて理解を深めた上で、自分なりの意見を述べるができるようになることを目指す。
- (3) このクラスで学んだことを、自分の専門分野においてどのような形で活かせるかについて自ら考えられるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

欠席が4回以上の場合、単位は出ません。

欠席が4回以上の学生は、期末テストを受験することができません。授業内課題（または宿題）を4回以上提出しなかった場合は、期末試験を受けることができません。したがって、単位の授与はありません。

「遅刻」は20分までとし、それ以降の入室は「欠席」となります。毎回、授業の前半に「基本学習（講義）」を、授業の後半に「（基本学習にもとづいた）課題（小テスト）」を行います。

課題は「討論・口頭発表」や、「宿題」になる場合もあります。期末テストは、基本的に「小論文（論述式）」とします。受講者は、講義から関心のあるトピックを選び、期末テスト（小論文）の作成に向けて、資料収集などの準備を進めておきましょう。したがって、学習にあたっては、授業中にノートを取ることをおすすめします。

場合によっては、口頭発表（プレゼンテーション）を評価対象とします。

以下のファイルやシステムを用いて授業を進めますので、それに対応したパソコンなどのデジタル・デバイス（端末）とインターネット環境が必要です。

授業は、Word、PDF、PPTなどを用いて行います。

授業の「出欠」については、「Hoppii」上で行います。

授業に関する「連絡」、資料・課題の「配布・提出・フィードバック」などについては、「Google Classroom」上で行います。

したがって、「Hoppii」と「Google Classroom」の両方に登録しておきましょう。

授業は、基本的に「対面授業」で実施しますが、状況によってはオンライン授業（「ZOOM」を使用）とする場合があります。その場合は、端末やインターネット環境が必要になります。

授業計画（テーマや内容）は、進度や理解度などによって適宜変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、授業のすすめ方	この授業で学ぶこと、授業で使用する言葉の概念、国際関係論の視点など。
第2回	古代ギリシアの世界とトゥキディデスの『戦史』	国家の動向におけるパターン、古代ギリシアのスパルタとアテネの関係と、現在の米中関係の類似性など。
第3回	ヨーロッパの国際政治とバランス・オブ・パワー	ヨーロッパの国家の形成、三十年戦争、ポーランド分割、ハプスブルグ家など。
第4回	フランス革命とナポレオン戦争、100年の平和	ドイツ帝国の出現によるバランス・オブ・パワーの揺らぎ、第一次世界大戦の勃発など。
第5回	危機の20年、第二次世界大戦	バランス・オブ・パワー政策に対する批判、国際連盟の創設、ヴェルサイユ条約、ドイツの領土拡大など。
第6回	冷戦から現在まで	民主主義陣営と共産主義陣営の2つのパワー、ソ連の崩壊、その後の世界など。
第7回	バランス・オブ・パワー理論	国際社会の普遍的な構造、パワー分布の変化が各国に与える影響など。
第8回	核抑止の理論、デモクラティック・ピース論	核兵器の保有は国際社会を安定させるのか、自由主義国間の平和的解決、自由主義国と社会主義国間の戦争の可能性など。
第9回	相互依存論、国際レジーム論	グローバル化の進展が国際社会に与える影響、国際法・国際規則・国際規範が国家に与える影響など。
第10回	中国・台湾・日本の今後、北朝鮮の動向	中国のパワー増大と台湾・日本、「一帯一路」構想、米中対立に日本はいかに対応すべきか、日中文化交流など。
第11回	北朝鮮、日韓関係の今後	北朝鮮による核・ミサイル実験、日韓関係の悪化の原因、日韓文化交流など。
第12回	アフガニスタン、ロシアの動向	アフガニスタンの情勢、アメリカの覇権の終焉、ロシアによるウクライナ侵攻とNATO、日露文化交流など。
第13回	日本のODA、日本の難民受け入れ	日本のODAの歴史・特徴、ODAと安全保障、難民の国際的な取り決め、在留外国人など。
第14回	期末テスト、復習、学習のふりかえり	期末テスト、復習、学習全体のふりかえり、学習目標の達成度の確認など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。また、ふだんから関連書籍や、新聞、テレビ、インターネットなどでニュースに接するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

使用しません。ハンドアウト（PDF、資料など）を配布します。

【参考書】

ジョセフ・S・ナイ・ジュニアほか『国際紛争：理論と歴史 原書第10版』有斐閣、2017年。
吉川直人、野口和彦編『国際関係理論』勁草書房、2015年。
E・H・カー『危機の二十年：理想と現実』（岩波文庫）、岩波書店、2011年。

【成績評価の方法と基準】

課題（授業中の小テスト、宿題など）：30%

期末テスト（小論文：論述式）：60%

授業参加度：10%

欠席が4回以上の場合、単位は出ません。

欠席が4回以上の学生は期末テストを受験することができません。

課題を4回以上提出しなかった場合は、期末試験を受けることができません。したがって、単位の授与はありません。

【学生の意見等からの気づき】

今回が初回のため、気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

出欠、課題や期末テストの提出・フィードバック、ふだんの連絡、資料の閲覧、(場合によっては口頭発表)などのために、それに対応したパソコンなどのデジタル・デバイス(端末)とインターネット環境が必要です。

授業は基本的に「対面授業」で実施しますが、状況によってはオンライン授業(「ZOOM」を使用)で実施する場合があります。

【その他の重要事項】

履修希望者は、必ず1週目、2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。

国際文化交流Ⅱ(秋学期)を受講する場合は、国際文化交流Ⅰ(春学期)を受講していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to deepen understanding of both "international relations" and "international cultural exchange." Specifically, students will learn about 1) recurring phenomena in international society and their historical background, 2) theories and universals derived from them, and 3) international cultural exchanges of various countries (such as immigration policies and intercultural education) from the perspective of international relations.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

アジア国際政治概論

水野 孝昭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

米国のトランプ2.0政権は国際関係を揺るがせています。超大国の米国が「覇権国」であることを放棄するなら、欧州やアジア諸国も外交・安全保障の見直しを迫られます。中台関係や朝鮮半島の緊張は高まり、民主化の挫折や平和構築の失敗も続きます。過去の事例を学び、日々のニュースを追いつつ、領土問題や歴史認識など立場の違いを理解しつつ「共存」できる視点を探ります。

【到達目標】

- ①アジアの現代を欧州と比較し、国際政治の基礎知識と理論を把握する
- ②軍事、経済、ソフトパワーなど国際社会を動かすパワーの視点から日米中のトライアングル関係を理解する
- ③中国と台湾、朝鮮半島、ベトナムなど「分断国家」を通じてアジアのナショナリズムを理解する
- ④グローバルサウスを代表するASEAN諸国の視点や、APEC, TPPなど経済統合を理解する
- ⑤以上を通じて、日本とアジアの将来について自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

事前にアップした資料や動画をもとに、対面授業と討論を行います。前半はアジアの戦争を欧州と比較して「米国による平和@アジア」を考えます。後半は領土紛争、歴史認識、地域統合など争点を取り上げます。授業のテーマ毎に受講生から「報告者」「討論者」を募集します。その時々国際ニュース解説もまじえます。複雑な国際問題を歴史的背景から理解して「議論する力」を身につけましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・「新冷戦の時代とは」	トランプ2.0は何を目指す？／リアリズムとリベラリズム／アジアと米国／外交理念と「国益」
第2回	「冷戦とは？」欧州とアジアの経験	欧州とアジアの冷戦の違い／「封じ込め」と熱い戦争／アジアの「分断国家」とドイツ統一の教訓
第3回	分断国家①：「二つの中国」と台湾の地位	国共内戦と「中国の喪失」／毛沢東と蒋介石／中ソ対立と米中接近／中国共産党の世界観
第4回	分断国家②：朝鮮戦争と日米安保	植民地と「民族解放」／米韓同盟と日米同盟の違い／日韓基本条約と平壤宣言
第5回	分断国家③ ベトナム戦争と「グローバルサウス」	内戦と代理戦争／第3世界のナショナリズム／ソフトパワーとしてのメディアと反戦運動
第6回	冷戦後①中国の「平和的台頭」から「民族復興」への変質	天安門事件と鄧小平／米中関係とWTO加盟／香港返還と「一国二制度」／習近平路線へ

第7回	冷戦後②韓国の民主化と「核保有国」となった北朝鮮	韓国民主化まで／金大中の太陽政策から／「非核化」交渉の失敗・六者協議
第8回	冷戦後③カンボジアと平和と米越和解	ドイモイと市場経済／日本の和平努力／国連PKOの役割／
第9回	冷戦後④ASEAN：地域機構の意義と限界	ベトナムの加盟とARF外交／アジア金融危機と開発独裁／APECの迷走／CCTPPと「一帯一路」
第10回	民主化と関与政策：フィリピン、ミャンマー、タイ	「開発独裁」から民主化したフィリピンやインドネシア、民主化から逆戻りしたタイ、ミャンマー
第11回	習近平体制のいま	対米関係と台湾問題／少数民族と「中華民族の偉大なる復興」／「共同富裕」と市場経済／ロシア、インド、日本の位置づけ
第12回	米中関係の展開	トランプ2.0政権の対中政策／経済安全保障と台湾／ウクライナ戦争と核抑止
第13回	日本の選択は	「日米同盟」の歴史と現状／台湾海峡と尖閣問題／朝鮮半島有事と日韓関係／歴史認識問題への姿勢
第14回	まとめ：日本の選択は？	「平和国家」のアイデンティティ／「経済大国」のパワーと国家安全保障戦略／日本の「抑止力」とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に配る参考文献リストから毎回の参考文献や資料を紹介するので、事前に目を通して下さい。アジアで日々起きる問題について、国際政治の視点から背景、現状、対応を説明できるようにニュースを日々読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しません。学習支援システムやgoogle クラウドルームを使ってレジュメや資料などを配布します。参考文献は授業の初回で指示します。

【参考書】

小原雅博『戦争と平和の国際政治』（ちくま新書）
 千々和泰明『戦後日本の安全保障』（中公新書）
 千々和泰明『戦争はいかに終結したか』（中公新書）
 佐橋亮『米中対立』（中公新書）
 毛利和子『日中漂流』（岩波新書）
 服部龍二『外交ドキュメント 歴史認識』（岩波新書）
 同『日中国交正常化』（中公新書）
 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）
 五味洋治『朝鮮戦争はなぜ終わらないのか』（創元社）
 ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（岩波書店）
 イアン・ブルマ『戦争の記憶 日本人とドイツ人』
 若宮啓文『和解とナショナリズム』（朝日新書）
 波多野澄雄『日本の歴史問題』（中公新書）
 朴裕河『帝国の慰安婦』（朝日新聞出版）
 木宮正史『日韓関係史』（岩波書店）
 ドン・オーバードーフアー『二つのコリア』（共同通信）
 吉田文彦『核のアメリカ』（岩波書店）
 加納雄大『東南アジア外交』（信山社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、授業参加30%で評価します。期末試験の代わりに、自分で選んだテーマについてプレゼンをして、その内容を3000字程度のレポートにまとめて提出することも認めます。プレゼンする人はシラバスに沿ったテーマを選んで、7回目までに決めて下さい。やり方は授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内容や順序はできるだけ現実の国際社会の動きに合わせていく。必ずアジアに関する日々の国際ニュースをチェックすること。

【学生が準備すべき機器他】

ipadなどネットが閲覧できる情報機器を持参するのが望ましい。

【その他の重要事項】

朝日新聞での30年間の記者経験、とくにハノイ、ワシントン、ニューヨークでの特派員としての経験をいかして、戦争報道や国際報道のメディアリテラシーを高めることを目指す。

【Outline (in English)】

This class tries to provide a fresh look at strategic landscapes in Asian region through Japan's experiences. Asian countries in general have been enjoying economic growth and development by trade and investment. Regional economic integrations and economic interdependences, however, do not mean political reconciliation nor a stable regional order. We will examine these trends and think of the future perspectives in Asia.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

中東の政治と社会 I

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中東イスラーム世界の宗教と国家の歴史的展開に関する基本的知識を身につけることを目的とする。同時に、第一次大戦後の中東世界の政治を考えることに必要な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。

中東地域と他の地域（特にヨーロッパ）との関係についての理解。

国際政治学や比較政治に関する基本的な知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To understand the relationship between the Middle East and other regions (especially Europe)

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	古代末期文明	古代末期文明における宗教
#3	疫病、国家、宗教	ユスティニアヌスのペスト
#4	イスラームの出現	古代末期文明とイスラームの出現
#5	初期イスラームとペスト	ペスト／疫病に対するイスラームの原則
#6	イスラームの確立	スンナ派とシーア派
#7	聖戦と正戦	宗教と戦争
#8	黒死病とその後	中東と西ヨーロッパのペストに対する対応の比較
#9	中東の火薬帝国	オスマン朝とサファヴィー朝
#10	預言者の医学	イスラームと医学の関係
#11	国家と疫病	疫病対策に関するオスマン帝国とヨーロッパ諸国の相違
#12	エジプトの近代化	ムハンマド・アリー登場以降のエジプト
#13	オスマン帝国の近代化	オスマン帝国の近代化とヨーロッパ外交
#14	第一次世界大戦へ	講義のまとめと第一次世界大戦後の中東世界の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中間レポート 50% 学期末テスト 50%

The final grade will be calculated based on the midterm report and the final exam.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別にZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラパスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with political and religious history of the Middle East from roughly 600 to 1914. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

中東の政治と社会 II

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治の関係に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の基本的知識を習得することを目指す。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。

中東地域と他の地域の関係についての理解。

国際政治学や比較政治に関する知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	第一次世界大戦と中東世界	イスラーム帝国の解体と国民国家の登場
#3	アラブ・ナショナリズム	アラブ・ナショナリズムの思想・運動と第一次中東戦争
#4	ナセルのエジプト	ナセル時代のエジプトとアラブ世界
#5	ナセル後のエジプト	エジプトの権威主義体制の特徴
#6	イスラームと政治	エジプトのムスリム同胞団とアラブの春
#7	シリア	シリアのバアス党体制
#8	イラク	イラクのバアス党体制とその後
#9	サラフィー主義	サラフィー主義の思想・運動
#10	USと中東	UAの中東政策
#11	湾岸諸国	ガルフ資本主義と湾岸地域国際政治
#12	イラン	革命国家イランと地域国際政治
#13	パレスチナ問題	パレスチナとイスラエル
#14	Outro.	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

講義形式で行う。

対面授業は最低7回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中間レポート 50% 学期末テスト 50%

The final grade will be calculated based on the midterm report and the final exam.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であればZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with domestic and regional politics in the Middle East

since WW II. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

旧ソ連諸国の政治と社会 I

長谷川 雄之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プーチン政権下の現代ロシア政治・外交・軍事安全保障の基礎を理解するために、1993年憲法体制の成り立ちから2020年の大規模な憲法修正まで、重要な政治事象に注目して講義を展開する

【到達目標】

現代ロシアの政治・外交・軍事安全保障に関する基礎を学び、重要なテーマについて、議論できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スクリーンやレジメを使って講義を行います。リアクションペーパーなどを用いて双方向性を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明、参考文献の説明
2	方法論入門	地域研究と比較政治学のアプローチについて
3	現代ロシア政治史	1991年12月から現在に至るまでの政治史を概観
4	1993年ロシア連邦憲法（1）	制度設計と統治機構
5	1993年ロシア連邦憲法（2）	2020年憲法修正
6	大統領	ロシアの大統領権力について
7	議会・司法	議会・司法制度について
8	連邦制	エリツィン政権期の連邦制とプーチン政権下の垂直権力の構築について
9	政党・市民社会・メディア	政党制改革とメディア空間について
10	現代ロシアの外交・軍事安全保障（1）	政策のメカニズム、ロシア-NATO関係、ロシア-EU関係
11	現代ロシアの外交・軍事安全保障（2）	ロシア・ウクライナ戦争
12	現代ロシアの外交・軍事安全保障（3）	中露関係と上海協力機構・BRICS、アジア太平洋／インド太平洋
13	日露関係	領土問題や対露経済制裁について
14	総括	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

油本真理・溝口修平編著『現代ロシア政治』法律文化社、2023年、2700円税別

【参考書】

長谷川雄之『ロシア大統領権力の制度設計』慶應義塾大学出版会、2025年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（30％）

期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

質問時間等を通じて双方向性を確保します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞現代ロシア政治・安全保障、ロシア地域研究

＜研究テーマ＞ソ連邦解体後の現代ロシアにおける政治・外交・軍事安全保障政策など

＜主要研究業績＞

『ロシア大統領権力の制度設計』慶應義塾大学出版会、2025年（単著）

『現代ロシア政治』法律文化社、2023年（共編著）

など

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the Contemporary Russian Politics from the 1993 Russian Constitutional crisis until the 2020 Constitutional amendments examining the important political events.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

旧ソ連諸国の政治と社会 II

長谷川 雄之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア及び旧ソ連圏の地域情勢の基礎を理解するために、ソ連邦解体から2022年に勃発した第2次ロシア・ウクライナ戦争まで、重要な政治・外交・軍事安全保障上の事象に注目して講義を展開する

【到達目標】

ロシア及び旧ソ連圏の地域情勢に関する基礎を学び、重要なテーマについて、議論できるようになる。また、関連する新聞報道などについて簡単に解説できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントやレジメを使って講義を行います。リアクションペーパーなどを用いて双方向性を確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明、参考文献の説明
2	ソ連邦解体（1）	ソ連崩壊期のロシアにおける政治・経済情勢について
3	ソ連邦解体（2）	中央アジア、コーカサス地域におけるソ連邦解体のインパクトについて
4	ソ連邦解体（3）	ウクライナ、ベラルーシにおけるソ連邦解体のインパクトについて
5	地域紛争（1）	旧ソ連圏における地域紛争について概観
6	地域紛争（2）	旧ソ連圏における地域紛争に関する個別事例研究を実施
7	地域紛争（3）	旧ソ連圏における地域紛争についてナゴルノ・カラバフ紛争など最近の事例を紹介
8	地域安全保障機構（1）	集団安全保障条約機構について
9	地域安全保障機構（2）	上海協力機構（SCO）について
10	BRICS	新興国の台頭とBRICSの機能について
11	中国の対一路政策	旧ソ連圏における中国の影響力について分析
12	中露・露朝関係	軍事・経済面におけるロシアと中国、北朝鮮の関係について
13	米露関係と国際政治の展望	ウクライナ戦争下における米露関係とトランプ新政権下における国際政治の展望
14	今学期のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

油本真理・溝口修平編著『現代ロシア政治』法律文化社、2023年、2700円税別

【参考書】

初回に提示します

【成績評価の方法と基準】

小レポート（30％）

期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

質問時間等を通じて、双方向性を確保します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>現代ロシア政治・安全保障、ロシア地域研究

<研究テーマ>ソ連邦解体後の現代ロシアにおける政治・外交・軍事安全保障政策など

<主要研究業績>

『ロシア大統領権力の制度設計』慶應義塾大学出版会、2025年（単著）

『現代ロシア政治』法律文化社、2023年（共編著）

など

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the Central Asian studies and the Contemporary Russian studies from the Dissolution of the Soviet Union until the second Russo-Ukrainian War examining the important political events and regional security issues.

POL100AD (政治学 / Politics 100)		3	危機に瀕する国際協力②	同上。
国際協力論 I		4	途上国が直面する課題	途上国が長年直面してきた様々な課題を、SDGS (持続可能な開発目標) を参考にしながら広く検討する。
志賀 裕朗		5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター (援助機関、途上国政府、企業、NGO等) が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
授業形式：講義 開講セメスター：春学期授業/Spring		6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
単位数：2単位		7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉		8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】		9	日本の政府開発援助 (ODA) ①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
中国の台頭、ウクライナ戦争やトランプ第二次政権の登場は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確実となっている。		10	日本の政府開発援助 (ODA) ②	日本のODAの代表的な事例 (借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助) を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー (基礎的素養) となっている。		11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助 (ODA) の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。		12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
【到達目標】		13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター (二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等) の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か (何と考えられているか) を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。		14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？ 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？
次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。		【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】		受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。		【テキスト (教科書)】		
【主な授業方法】		特に使用しない。		
L 講義 /Lecture				
【授業の進め方と方法】				
インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！ と願う学生の積極的な受講を期待している。				
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】				
あり / Yes				
【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】				
なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。		
2	危機に瀕する国際協力	アメリカをはじめとする先進国における自国第一主義的な行動や排外主義の高まり、大国間競争の激化が国際協力をどのように難しくしているかを検討する。		

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題（40％）と最終試験（60％）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD (政治学 / Politics 100)			3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
国際協力論Ⅱ					
志賀 裕朗					
授業形式：講義 開講セメスター：秋学期授業/Fall 単位数：2単位					
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。 本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。					
【到達目標】 本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。 なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。					
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】 本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたいと願う学生の受講を期待している。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容	4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。	5	途上国が直面する多様な課題④	1970年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界のHIV-AIDS患者の7割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では30代前半の女性の罹患率が36％という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。	6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
			7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
			8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
			9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015年に採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000年に策定されたMDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
			10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。

11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。
12	日本の政府開発援助（ODA）の特徴②	日本のODAは借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
13	日本の政府開発援助（ODA）の特徴③	2015年に日本政府が発表し23年に改訂された「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱（1992年制定、2003年改訂）」と比較しながら読み解く。
14	授業内容の振り返りと総括	これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー（A4サイズで2枚以内）を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する（シラバス通りとは限らない）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しないが、第一回講義に際しては、事前に講読文献を指定し、その感想を当日講師に直接提出することを求める。これを提出しない学生は、それ以降の受講を一切認めないので留意すること。

【参考書】

近藤康太郎、2020年、『三行で撃つー＜善く、生きる＞ための文章塾』、CCCメディアハウス。

小坂井敏晶、2017年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題（70％）およびディスカッションへの積極的参加の度合い（30％）によって成績を評定する予定（最終試験は行わない）であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（案に単位が取れる科目）ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際公共政策Ⅱ

坂根 徹

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：政治学科「国際行政論Ⅱ」との合併科目
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学科の本授業（国際公共政策Ⅱ）（政治学科の国際行政論Ⅱとの合同授業）では、「国際公共政策・国際行政と日本」をテーマに、国際公共政策・国際行政について以下の諸項目で記載した要領で学習を進めていく。それにより、関連の専門知識を得るとともに、政策・行政的思考を行うことができる能力の涵養を図ることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】

国際公共政策・国際行政について、日本の視点から学んだ上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について考察し、その考察と結果をまとめ発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際公共政策・国際行政を日本の視点から考察していく。具体的には、国際公共政策・国際行政及びその歴史を日本との関係を含めて検討し、その後、様々な国際公共政策・国際行政の政策分野について日本の視点から学ぶ。

また、履修者は各自の関心に基づき、本講義に関連する任意の具体的な日本の視点からの国際公共政策・国際行政等のテーマを設定し、そのテーマについて考察し、その考察と結果をまとめ発表する（なおその発表に対しては時間が許す範囲で検討・議論等が予定される）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマや進め方の概要などの導入講義
第2回	国際公共政策・国際行政と日本1	日本の視点からの国際公共政策・国際行政の概説
第3回	関心テーマの表明と調査研究テーマの検討	日本の視点からの国際公共政策・国際行政における各自の関心テーマの表明と調査研究テーマの検討
第4回	調査研究テーマの選定と調査実施に向けた検討	調査研究テーマの選定と今後の調査実施に向けた検討
第5回	国際公共政策・国際行政と日本2	国際公共政策・国際行政の史的展開と日本
第6回	国際公共政策・国際行政の政策分野と日本1	日本の視点からの持続可能な開発目標(SDGs)政策と地球環境エネルギー政策
第7回	国際公共政策・国際行政の政策分野と日本2	日本の視点からの国際防災・人道・危機管理政策と国際安全保障・国連PKO政策
第8回	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する調査の進捗状況や今後の課題についての中間発表

第9回	国際公共政策・国際行政の政策分野と日本3	日本の視点からの国際貿易・金融・経済政策と移民・難民・国際人権政策
第10回	国際公共政策・国際行政の政策分野と日本4	日本の視点からの国際感染症・保健医療・公衆衛生政策と国際教育・文化・科学技術政策
第11回	最終発表に向けた検討	最終発表に向けた進捗状況や課題の検討
第12回	調査研究テーマの最終発表1	各自の調査研究テーマに関する最終発表の開始
第13回	調査研究テーマの最終発表2	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続
第14回	調査研究テーマの最終発表3とまとめ	各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で学んだ内容の復習を重点的に行い、理解を確認していくことに加えて、特に各自の関心に基づき設定したテーマに関する発表に向けての事前準備をしっかりと行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時などに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50点）と期末プレゼンテーション（50点）による。平常点は、主に講義中の期末よりも前の発表や配布するレスポンスペーパーにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進度や履修者数及び履修者の関心テーマ等により修正・変更されることがありうる。

【Outline (in English)】

Main theme of this course (International Public Policy II) is to learn and consider about international public policy and administration from the viewpoint of Japan. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies. In addition, students are expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and final presentation (50%).

POL300AD (政治学 / Politics 300)

中国の政治と外交 I

福田 円

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近現代中国の政治外交史についての基礎知識を付けた上で、現在の中国政治外交における種々の論点についての理解を深めることを目指す。国際社会において存在感を増す中国の外交について理解することで、アジアの国際関係やグローバルガバナンスについての専門知識がより深まることも期待される。

【到達目標】

近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国政治外交における個別の論点について議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今日の中国外交を理解するうえで、中華人民共和国成立以前や毛沢東時代、鄧小平時代の政治外交史の基礎知識は不可欠である。そのため、本授業「中国の政治と外交 I」は近現代中国の政治外交史に関する講義を中心とする。近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国外交における個別の論点について議論できるように、今日の中国外交をめぐる論点に関連する事柄に重点を置きながら授業を進める。

そのうえで、「中国の政治と外交 II」では、今日の中国外交に関わるアクターと政策決定の基本構造とその変遷について学び、各論点について考え、議論する。また、授業で提出されたリアクションペーパーや課題からいくつか代表例を取り上げ、全体に対してフィードバックを行うことも心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要、参考文献などの説明
第2回	近代中国の政治と外交（1）	東アジアの「伝統的」な国際秩序と列強の中国進出
第3回	近代中国の政治と外交（2）	日中戦争と国共内戦
第4回	毛沢東時代の政治と外交（1）	中華人民共和国の成立：社会主義建設と冷戦の進展
第5回	毛沢東時代の政治と外交（2）	「一辺倒」政策、脱植民地化、米国による封じ込め
第6回	毛沢東時代の政治と外交（3）	中ソ対立と文化大革命
第7回	毛沢東時代から鄧小平時代へ	西側諸国との関係改善と対外開放
第8回	鄧小平時代の政治と外交（1）	改革開放、全方位外交、政治体制改革の試み
第9回	鄧小平時代の政治と外交（2）	冷戦終結と天安門事件
第10回	鄧小平時代の政治と外交（3）	社会主義市場経済の発展と香港返還
第11回	江沢民政権期の政治と外交	市場経済の浸透と課題、東アジア地域主義の興隆、パートナーシップ外交

第12回	胡錦涛政権期の政治と外交	中国の大国化と「韜光養晦」の修正
第13回	習近平政権の政治と外交	集権化と「中国の夢」
第14回	授業のまとめ	歴史から見る現代中国外交

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定する参考書の該当ページや配布資料を読んだうえで、次の授業に臨んで欲しい。課題として、文献や授業内容に関するミニ・レポートを提出してもらうこともある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島真・小嶋華津子編『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年

【参考書】

森聡・福田円編『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年
 中村元哉・森川裕貫・関智英・家永真幸『概説 中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022年
 川島真・小嶋華津子編『習近平の中国』東京大学出版会、2022年
 益尾知佐子・青山瑠妙・三船恵美・趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017年
 中國和仁『中国がつくる国際秩序』ミネルヴァ書房、2013年
 福田円『中国外交と台湾―「一つの中国」原則の起源』慶應義塾大学出版会、2013年
 家近亮子、松田康博、唐亮編『5分野から読み解く現代中国（改訂版）―歴史・政治・経済・社会・外交』晃洋書房、2009年
 川島真・毛利和子『グローバル中国への道程―外交150年』岩波書店、2009年
 川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年
 岡部達味『中国の対外戦略』東京大学出版会、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点が30%、最終試験（論述試験、持ち込み不可を予定）が70%で成績評価する。また、授業内で報告やディスカッションを行う場合は、それらを通じたクラスへの貢献度に関しても評価（加点）する。授業の方法やスケジュールに変更が生じる場合には、授業支援システムを通じて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

授業におけるテキストや参考書の活用方法を工夫する。授業時間における講義と議論のバランスを取り、時間に余裕を持った授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

オフィスアワーに個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡すること。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledge about the history of Chinese politics and international relations in 20th century, and to deepen understanding of current issues of China's diplomacy.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

中国の政治と外交 II

福田 円

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近現代中国の政治外交史についての基礎知識を付けた上で、現在の中国政治外交における種々の論点についての理解を深め、議論することを目指す。国際社会においても存在感を増す中国の外交について理解することで、アジアの国際関係やグローバルガバナンスについての専門知識がより深まることも期待される。

【到達目標】

近現代中国の政治外交史を理解したうえで、今日の中国外交における個別の論点について議論できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は「中国の政治と外交 I」を履修していることを前提に行われる。「中国の政治と外交 I」では、近現代中国の政治外交史に関する講義を行った。この授業では、今日の中国外交を理解するために、中国外交に関わる政策決定の基本構造とその変遷に関する講義を行った後、近年注目を集めている様々な論点について授業を行う。この部分では履修者による報告やディスカッションを取り入れる予定なので、積極的な参加が期待される。議論を行う部分では、提出されたリアクションペーパーや課題からいくつか代表例を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「大国」としての中国外交
第2回	中国の政治体制と外交	中国共産党の執政体制と外交はどのように関係しているか
第3回	中国外交の基本方針	中国外交の基本方針はどのように変化してきたか
第4回	中国外交の決定過程	中国の外交政策は誰が決定しているか
第5回	中国政治外交と軍事力	中国の政治外交において軍はどのように関わっているか
第6回	米国との関係	対立と共存の大国関係
第7回	中国の「核心的利益」	チベット、ウイグル、香港をめぐる中国と国際社会
第8回	台湾との関係	「一つの中国」原則をめぐるポリティクス
第9回	中国とインド太平洋	中国と周辺諸国の関係
第10回	中国とグローバルサウス	中国と発展途上地域の関係
第11回	中国と国際機関	国際機関での影響力発揮
第12回	中国外交のイメージ	ソフトパワーと戦狼外交
第13回	日本との関係	「友好」関係から「戦略的」関係へ
第14回	中国外交の未来	中国外交の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定するテキストの該当ページや配布資料を読んだうえで、次の授業に臨んで欲しい。課題として、文献に関するミニ・レポートを提出してもらうこともある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各回のテーマにあわせて適宜指定するので、必ずその授業回の前に読んでおくこと。

【参考書】

森聡・福田円編『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年
 加茂具樹編『中国はどのように力を使うのか―「大国」としての中国』一藝社、2022年
 川島真・小嶋華津子編著『習近平の中国』東京大学出版会、2022年
 川島真・遠藤貢・高原明生・松田康博編『中国の外交戦略と世界秩序―理念・政策・現地の視線』昭和堂、2020年
 川島真・小嶋華津子『よくわかる中国政治』ミネルヴァ書房、2020年
 益尾知佐子『中国の行動原理』中公新書、2019年
 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』新潮選書、2017年
 岡部達味『中国の対外戦略』東京大学出版会、2002年

【成績評価の方法と基準】

授業中に出席する課題（50%）および期末試験の結果（50%）によって評価する。授業中に出席する課題については、遅れての提出や代替するレポート提出などを認めない。また、授業内で報告やディスカッションを行う場合は、それらを通じたクラスへの貢献度に関しても評価（加点）する。

【学生の意見等からの気づき】

授業におけるテキストや参考書の活用方法を工夫する。
 授業時間における講義と議論のバランスを取り、時間に余裕を持った授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

オフィスアワーに個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡をすること。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic knowledge about the history of Chinese politics and international relations in 20th century, and to deepen understanding of current issues of China's diplomacy.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

平和・軍事研究Ⅱ

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。

これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念施設への展覧や感想文を求めることもある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	終戦の状況と戦後日本のスタート	「過去の大戦」とは何か。戦争終結要因の分析、終戦の状況を解説
第2回	米国の対日占領政策	GHQの非武装政策、平和憲法、領土処理を解説
第3回	自衛隊創設と日本の主権回復	朝鮮戦争、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約、集団的自衛権問題を解説
第4回	日米安保Ⅰ	1951年の旧日米安保条約、日米行政協定を解説
第5回	日米安保Ⅱ	1960年の新日米安保条約を解説。極東条項と核戦争巻き込まれ論など。
第6回	領土問題Ⅰ	北方四島について
第7回	領土問題Ⅱ	独島・竹島、尖閣諸島、沖縄について
第8回	シビリアンコントロール	天皇統帥権、軍政軍令分離論、シビリアンコントロールの意味
第9回	日本の核政策	非核3原則、核燃料リサイクル政策、T-1政策について
第10回	日本の軍事計画Ⅰ	一次防から「防衛大綱達成(1990年)」まで
第11回	日本の軍事計画Ⅱ	冷戦終結以降の軍事計画について
第12回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第13回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力 南の韓国に対する戦略

第14回 韓国の軍事政策 北に対する戦略
通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～30％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course will explain and analyze the history of Japan's postwar military policy and the military situation in East-Asia surrounding Japan.

The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace, and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

オセアニアの政治と社会Ⅰ

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：定員制 ※詳細は【授業の進め方と方法 / Method(s)】に記載の通り

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアというとオーストラリアやニュージーランドを思い浮かべる人が多いであろう。近年の日本の報道では、「自由で開かれたインド・太平洋」を耳にする機会が増えたが、肝心の「太平洋」を構成する国や地域については、情報が圧倒的に少ない。

オセアニアはオーストラリア、ニュージーランド、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの存在から説明されるが、これらは外来者が区分し、命名したものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験をもち、そこで生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の“遺産”は、今なお島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、島の人びとの心身を傷つけ、難民化を促し、彼らには社会・文化の消滅すら現実的なものとして認識されている。

しかし、こうした状況にあるからこそ、オセアニアの島嶼国・地域はゆるやかな協力を通じて、大国中心の国際関係や平和の問い直しを促し、国際社会に提言してきた。また、植民地化の過程で外来のものの受け入れを強いられ、それと格闘しながら、祖先から引き継いだ知恵をいかし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりつつ、課題に取り組んできた。

本授業では、オセアニアの特に島嶼を対象に、政治、社会の特徴、抱える問題を理解するため、オセアニアへの人類の到達から第一次世界大戦までの歴史を学ぶ。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の前提となる授業である。

【到達目標】

1. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する問題の独自性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する問題としても理解することができる。
2. オセアニアの特に島嶼に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要がある場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. レジュメは授業時に配布する。
3. リアクションペーパーを毎回提出する。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。注目すべきコメントや質問があれば授業で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
4. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、注意事項の説明。
第2回	「オセアニア」とは？	オセアニア、太平洋に関する呼称、範囲、概念を学ぶ。
第3回	現代日本におけるオセアニア認識	日本社会および受講者のオセアニア認識を明らかにし、本授業のアプローチを確認する。
第4回	太平洋島嶼を学ぶための視点①	第3回までの授業を踏まえてトピックを選び、太平洋島嶼を学ぶための視点について考える。
第5回	太平洋島嶼を学ぶための視点②	第4回授業への受講生の関心を踏まえてトピックを選び、太平洋島嶼を学ぶための視点について考え、第6回授業につなげる。
第6回	オセアニアへの人類の進出とくらし①	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする海への認識、航海や漁労を学ぶ。
第7回	オセアニアへの人類の進出とくらし②	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする巨石文化を学ぶ。
第8回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化①	近代国際関係のなかでヨーロッパ人のオセアニア進出、島嶼の人々との「出会い」、これらが双方の社会にもたらした影響を学ぶ。
第9回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化②	近代国際関係のなかで列強による島嶼の植民地化を学び、現在の脱植民地化において直面する課題との関係を考察する。
第10回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化③	列強による島嶼の植民地化を、具体的な事例から学ぶ。
第11回	オセアニアにとっての第一次世界大戦①	ANZACを事例に、オセアニアにとっての第一次世界大戦を学び、その経験を今なお記念する意味を考察する。
第12回	オセアニアにとっての第一次世界大戦②	第一次世界大戦によるオセアニアの再分割を委任統治制度の創設から理解し、現代に続く問題を学ぶ。
第13回	受講生の関心に基づいたテーマ	第6回以後の授業での受講生の関心を踏まえてテーマを選び、学ぶ。
第14回	まとめ	春学期授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連のHPなどを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』明石書店、2010年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章』2012年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。
 今泉裕美子「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治－委任統治と「島民」の創出」中野聡・安村尚己責任編集、棚橋訓編集協力『岩波講座世界歴史19 太平洋海域世界～20世紀』岩波書店、2023年。
 石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物などを総合したもの（50%）、セメスター末のテスト（50%）。

以上の成績評価をもとに、授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

・提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情とこれを示す証明資料の提出は定期試験のルールに則る。証明資料を提出しない場合は認めない。）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生はオセアニアに関する基礎知識が少ないため、適切な情報源の提示や解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

・Hoppiiを通じたお知らせや注意事項を必ず読んで下さい。

・リアクションペーパーは、今泉が指定した時間内に、指定した方法で提出すること。指定以外の提出は認めない。

・オセアニア島嶼に関する日本語の文献や資料が少ないため、英語の文献や資料を用いる場合がある。英語文献や資料は、受講生自身でも読んで理解を深めることを要する。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on before World War II. This course is highly recommended for those who are planning to take “Politics and Society of Oceania II”.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Develop an awareness of the Pacific Islands and their peoples by learning their politics, society, culture and historical experience.
2. Understand the history of imperialism, colonialism and militarism of Pacific islands and struggle against them by Pacific Islanders.
3. Reviewing key concepts and theories of International Studies and structure of international relations based on the history of Pacific Islands.
4. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world from the viewpoints of Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%

2. Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL300AD (政治学 / Politics 300)

オセアニアの政治と社会 II

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：定員制 ※詳細は【授業の進め方と方法 / Method(s)】に記載の通り

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説家・島尾敏雄は日本を太平洋世界のなかで特徴づけるために、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに着目し、複数の島々からなる日本を「ヤポネシア」と表現した。これら3つの「ネシア」を含むオセアニアの「島」にくらす人びとは、太平洋に生存を委ね、海は人びとを隔てる存在ではなく、つなぐ存在として捉えてきた。日本で生活し、日本を「島国」と表現する私たちに、そのような認識があるだろうか。

オセアニアはオーストラリア、ニュージーランド、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの存在から説明されるが、これらは外来者が区分し、命名したものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験をもち、そこで生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の“遺産”は、今なお島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、島の人びとの心身を傷つけ、難民化を促し、彼らには社会・文化の消滅すら現実的なものとして認識されている。こうしたオセアニアの植民地支配、軍事占領、そして核実験には、日本も大きく関わってきたことも殆ど知られていない。

本授業ではオセアニアの特に島嶼を対象に、政治、社会の特徴、抱える問題を理解するため、ミクロネシア（特に旧南洋群島）と日本との関わり合いの歴史を中心に学ぶ。

【到達目標】

1. ミクロネシア（旧南洋群島）と日本との関係史や現状について、研究や情報を適切に選び、批判的に考察するための視点や方法を身に着ける。
2. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する問題の独自性を自然環境や歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する問題としても理解することができる。
3. ミクロネシア（旧南洋群島）に関する情報の所在を知り、それら情報を学術的な方法によって分析、理解し、自身の認識を再構成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要がある場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. レジュメは授業時に配布する。
3. リアクションペーパーを毎回提出する。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。注目すべきコメントや質問があれば授業で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
4. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション－本講義の視点と方法、進め方	授業の進め方、注意事項の説明。「オセアニアの政治と社会 I」との関連づけ。
第2回	ミクロネシアと日本との現在の交流	ミクロネシアと日本との現在の交流を、日本統治下南洋群島で生活した人びとと土の草の根の交流を中心に戦前、戦後のミクロネシアと日本の関係を学ぶ意義を確認する。
第3回	日本の南洋群島統治を分析する視点	南洋群島統治をめぐる日本政府、研究者の評価を批判的に検討し、本授業のアプローチを学ぶ。
第4回	「南洋群島」時代のミクロネシア①－植民地の法制度から	国際連盟の委任統治制度のもとで行われた日本の南洋群島統治の特徴を、第一次世界大戦後の世界の植民地支配体制の中で、また日本の植民地法制度のなかで学ぶ。
第5回	「南洋群島」時代のミクロネシア②－植民地社会の特徴	現地住民人口の2倍もの日本人が移民し、なかでも沖縄出身者が多かった植民地社会の特徴を学ぶ。
第6回	「南洋群島」時代のミクロネシア③－チャモロとカリロニアン	チャモロとカリロニアンの植民地経験を、日本の教育政策を中心に学ぶ。
第7回	The Typhoon of War－ミクロネシアの第二次世界大戦経験①	沖縄戦に先駆けて地上戦が行われた南洋群島での戦争を、沖縄戦と比較し関係づけながら学び、ミクロネシアにとっての戦争経験を考察する。
第8回	The Typhoon of War－ミクロネシアの第二次世界大戦経験②	南洋群島での戦争を生きのびた人々が戦争経験をどう捉え、若い世代に伝えようとしているか、非体験者として考察する。
第9回	ミクロネシアにみる Nuclear Colonialism ①	国際連合の戦略的信託統治として行われたアメリカのミクロネシア統治の特徴を、冷戦体制下アメリカの核軍力を支えたマーシャル諸島での初の核実験を中心に学ぶ。
第10回	ミクロネシアにみる Nuclear Colonialism ②	米国がビキニ環礁で行った水爆 Bravo 投下による実験での、住民の核被害の実態、その経験と継承から学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第11回	ミクロネシアにみる Nuclear Colonialism ③	日本にとっての水爆 Bravo の経験、すなわち「ビキニ事件／第五福竜丸事件」を学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第12回	ミクロネシアへの日本の再進出	「ミクロネシア協定」から始まる戦後日本とミクロネシアとの関係を学ぶ。
第13回	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを選び、これまでの学びを深め、発展させる。
第14回	まとめ	授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連のHPなどを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための58章』明石書店、2005年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』明石書店、2010年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章』2012年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。
 今泉裕美子「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治－委任統治と「島民」の創出」中野聡・安村尚己責任編集、棚橋訓編集協力『岩波講座世界歴史19 太平洋海域世界～20世紀』岩波書店、2023年。
 石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023年。
 その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物などを総合したもの（50%）、セメスター末のテスト（50%）。以上の成績評価をもとに、授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
 ・提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情とこれを示す証明資料の提出は定期試験のルールに則る。証明資料を提出しない場合は認めない。）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

本授業ではディスカッションは行わないものの、リアクションペーパーの意見や質問を取り上げて紹介し、適切な情報源や情報を紹介したことが、積極的に学ぶ姿勢につながったとの意見が多いため、こうした取り組みを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

・Hoppiiを通じたお知らせや注意事項を必ず読んで下さい。
 ・リアクションペーパーは、今泉が指定した時間内に、指定した方法で提出すること。指定以外の提出は認めない。
 ・オセアニア島嶼に関する日本語の文献や資料が少ないため、英語の文献や資料を用いる場合がある。英語文献や資料は、受講生自身でも読んで理解を深めることを要する。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on Micronesia-Japan relations. It is strongly recommended that this course be taken after taking “Politics and Society of Oceania I.”

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the Oceania focused on the historical relationship between Micronesia and Japan with reviewing international relations and Japanese modern and contemporary history.
2. Acquire the fundamental understanding of Micronesia-Japan relations especially about imperialism, colonialism, militarism and decolonization.
3. Develop a critical thinking about the role and responsibilities of Japan/ Japanese as a member of Pacific Islands/ Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%

2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL300AD（政治学 / Politics 300）

国際機構論 I

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、国際政治学や国際関係論、あるいは国際法についての基本的な知識を活用しながら、国際社会が組織化したプロセスを検討することによって、現代の国際社会の姿をより正確に理解することを目的とする。国連およびその他の国際組織が、国際社会の秩序を維持・回復するためにどのような工夫を凝らして機能してきたのかについて、また、どのような課題に直面しているのかについて、理論と実践例から検討する。

【到達目標】

- ①時代とともに変容してきた国際機構の役割・機能について理解できるようにする。
- ②国際連合による国際の平和と安全維持への活動と課題について、理論と実践例から理解できるようにする。
- ③地球規模の問題を解決するために協働して取り組む多様なアクター（国家、地域・国際機関、市民社会など）について理解できるようにする。
- ④国際社会が直面する問題についての問題意識を明確にし、自分なりの意見を持つことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めるが、議論の場ももつ。毎回授業後に課題の提出を求める。課題に対するコメントは個別にフィードバックするとともに、質問については、次の授業の冒頭に全体に向けて質問内容を共有しながら回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際機構論をどのように学ぶのか？
2	国際機構とは？	国際機構小史
3	近代国際秩序の形成と国際機構の萌芽①	国際機構の創設と国家の関係
4	近代国際秩序の形成と国際機構の萌芽②	「共通利益」認識の出現
5	国際連盟と国際連合①	国際連盟設立の経緯・役割・機能
6	国際連盟と国際連合②	国際連合設立の経緯・役割・機能
7	現代の国際社会における国際機構	グローバル・ガバナンスと国際機構
8	国際機構の活動①	同盟と集団安全保障
9	国際機構の活動②	平和への活動
10	国際機構の活動③	植民地独立と開発援助
11	国際機構の活動④	福祉と人権
12	国際機構の活動⑤	国際機構と法
13	変容する国際秩序と国際機構	国際機構の限界と問題点、課題
14	国際機構と国際機構論の課題	まとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出席する前にテキストの関連箇所を熟読し、授業後には復習をすること。また、関心を持ったトピックについては、各自で調べ学習をして理解を深めること。授業の予習・復習時間は各2時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】

山田哲也『国際機構論入門』第2版（東京大学出版会、2023年）

【参考書】

石田淳ほか編著『国際平和論：脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）

山田満ほか編著『新しい国際協力論：グローバル・イシューに立ち向かう』第3版（明石書店、2023年）

その他、授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回授業後に提出する課題40%、期末試験60%のウェイトで成績評価を行う。「聴いて、書いて、考える」姿勢で授業に臨むこと。なお、毎回、出席と課題の提出をセットとして評価する。授業開始20分以降の入室は欠席とみなす。また、欠席した学生による課題の提出は認めない。4回以上欠席した学生（つまり4回以上課題の未提出者）は期末試験を受ける資格を失う。よって単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム上で配布する資料にアクセスしておくこと。

【その他の重要事項】

「国際機構論II」は2027年度秋学期に開講予定。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

＜研究テーマ＞

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

＜主要研究業績＞

最近の主な著書として、『『ルールに基づく国際秩序』の妥当性：修正か強化か？』『グローバル・ガバナンス』第11号（2025年3月）、『国際平和論』（有斐閣、2024年）、「主権国家体制と国連：グローバル化の潮流の中で』『国連研究』第25号（2024年6月）、『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（明石書店、2023年）、『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築』（明石書店、2021年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁』『国連の金融制裁』（東信堂、2018年）、Peacebuiding in Southeast Asia (Springer, 2024), COVID-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2023)," United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020) などがある。執筆した主な教科書として、『入門国際政治経済学』（法律文化社、2026年）、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）などがある。

【Outline (in English)】

This course aims to foster a deeper understanding of the contemporary international community. It examines the historical and institutional processes through which the international community has been formed and organized, drawing on fundamental knowledge of international politics, international relations, and international law.

And this course examines how the United Nations and other international organizations have functioned in maintaining and restoring order in the international community, using both theoretical perspectives and practical examples. It also analyzes the contemporary challenges faced by these organizations.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

東南アジアの政治と社会 I

田中 李歩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアは、構成する各国が独自の歴史と特徴を有し、政治や社会の多様性に富んだ地域です。一方で、政治や社会の構造としてある程度共通して解題することのできるテーマも東南アジアという地域には存在すると考えられます。本講義では、前半で東南アジア各国の政治史について学び、後半で政治・社会の構造についてテーマ別に学ぶことを通し、現代東南アジアについて立体的な理解を得ることを目指します。

【到達目標】

- ・東南アジア各国の政治・社会に関する知識を修得していること。
- ・現代の東南アジア地域および各国の政治・社会について、政治史や政治体制・社会構造を含めた複数の視点から理解し、個別のイシューについて説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心としますが、毎授業後に提出されたミニ課題内のコメントに対し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・イントロダクション	オリエンテーションでは授業の進め方・評価方法について理解します。イントロダクションでは東南アジアの概要を把握します。
2	国民国家以前の東南アジア	植民地期前～植民地期にかけての東南アジア地域の歴史について学び、現代東南アジアの政治・社会への影響を把握します。
3	マレーシア・シンガポール・ブルネイの政治史	植民地期以後のマレーシア・シンガポール・ブルネイの、政治を中心とした歴史について学びます。
4	フィリピンの政治史	植民地期以後のフィリピンの、政治を中心とした歴史について学びます。
5	インドネシア・東ティモールの政治史	植民地期前～現代のインドネシア・東ティモールの、政治を中心とした歴史について学びます。
6	タイの政治史	近代化以後のタイの、政治を中心とした歴史について学びます。
7	ミャンマーの政治史	植民地期以後のミャンマーの、政治を中心とした歴史について学びます。
8	ベトナム・ラオス・カンボジアの政治史	植民地期前～現代の、政治を中心とした歴史について学びます。
9	東南アジアと「国民国家」	東南アジアの各国が「国民国家」として建設され、「国民」を形成するなかで、どのような問題・課題に面してきたかを学びます。

10	東南アジアと政治体制	東南アジア各国において、権威主義体制を中心とする政治体制がどのように維持され・変動してきたかを学びます。
11	東南アジアの経済と政治	東南アジアの経済発展と、経済的資源の分配をめぐる問題（経済格差・分配の不平等）について学びます。
12	国際社会の中の東南アジア	東南アジア地域・ASEANと大国との関係性について学びます。
13	人の移動と東南アジアの政治・社会	東南アジアにおける人の移動の状況と関連する問題について学びます。
14	全体の振り返り、期末試験	全体の振り返りと期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・東南アジア全体あるいは各国に関連するニュース等に関心を持ち、積極的に情報を収集します。
- ・毎授業後、授業資料を確認しながらミニ課題の記入に取り組むことで、毎回授業内容の復習を行います。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

増原綾子他（2018）『はじめての東南アジア政治』（有斐閣ストゥディア）、有斐閣。

【参考書】

山本信人監修（2017）『東南アジア地域研究入門 3 政治』慶応義塾大学出版会。
 中西嘉宏・野中葉編（2026）『東南アジアを学ぶ人のために』世界思想社。
 古田元夫（2021）『東南アジア史10講』（岩波新書）、岩波書店。
 岩崎育夫（2017）『入門東南アジア近現代史』（講談社現代新書）、講談社。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎授業後のミニ課題の提出（30%）。
- ・期末試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・ミニ課題に取組む際、生成AIを使用することは禁止します。

【Outline (in English)】

Southeast Asia is a region rich in political and social diversity, with each nation possessing its own distinct history and characteristics. At the same time, it is considered that themes exist within the Southeast Asian region that can be analysed and understood as common features of its political and social structures. This lecture aims to foster a multidimensional understanding of contemporary Southeast Asia. This will be achieved through studying the political histories of Southeast Asian nations in the first half, followed by a thematic examination of political and social structures in the latter half.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

東南アジアの政治と社会 II

田中 李歩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアは、地理環境・社会・政治経済の多様性に富み、各国が独自の魅力を有する反面、統一的に理解することは難しい地域だと考えられます。本講義では、受講生が東南アジア地域および各国の政治経済や社会に関する知識を習得すること、ならびにその修得の前提となる地理、文化、歴史等の基礎的な知識を身につけること、またそれらのトピックに関連した問題についての理解の手がかりを得ることをねらいとします。

【到達目標】

- ・東南アジア地域および各国の政治経済や社会に関する知識を修得していること、またその前提となる地理、文化、歴史等の知識を修得していること。
- ・東南アジア地域および各国が直面している問題について理解する手がかりを得ていること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心としますが、毎授業後提出のミニ課題へのコメントに対し適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・イントロダクション	オリエンテーションでは授業の進め方・評価方法について理解します。イントロダクションでは東南アジアの概要を把握します。
2	東南アジアの基礎知識①地理と環境	東南アジアの政治経済や社会について学ぶための基礎知識として、地理・環境について学びます。
3	東南アジアの基礎知識②民族と宗教	東南アジアの政治経済や社会について学ぶための基礎知識として、民族・宗教について学びます。
4	東南アジアの基礎知識③言語と文化	東南アジアの政治経済や社会について学ぶための基礎知識として、言語・文化について学びます。
5	植民地期までの東南アジア	植民地期までの東南アジアの歴史について学びます。
6	第2次世界大戦と東南アジア	第2次大戦期の東南アジアの状況について学びます。
7	ASEAN4+シンガポールにおける工業化	ASEAN4+シンガポールにおける工業化の展開について学びます。
8	ASEAN4+シンガポールの経済発展過程と政治体制	東南アジア、特にASEAN4+シンガポールの経済発展過程における政治体制について学びます。

9	第2次大戦後のCLMV諸国とブルネイの政治・経済	第2次大戦後のCLMV諸国とブルネイがどのような政治・経済状況にあったかを学びます。
10	東南アジアの社会変容	東南アジアにおける人口の変化や都市化とそのもたらした影響について学びます。
11	東南アジアにおける社会階層・格差と教育	東南アジアにおける社会階層や格差の状況、またそれらと教育のかかわりについて、具体例とともに学びます。
12	現代東南アジア各国の政治	現代東南アジア各国の政治体制や政情について把握します。
13	東南アジアが直面する政治関連の問題とASEAN	東南アジアが直面している人権や領土に関する問題について把握し、ASEANの機能についても学びます。
14	現代東南アジアの経済、東南アジアと日本	東南アジアの現在の経済状況について把握し、日本とのつながりについても学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・東南アジア全体あるいは各国に関連するニュース等に関心を持ち、積極的に情報を収集します。
- ・毎授業後、授業資料を確認しながらミニ課題に取り組むことで、各回授業内容の復習を行います。

※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配布します。

【参考書】

古田元夫（2021）『東南アジア史10講』（岩波新書）、岩波書店。
 増原綾子他（2018）『はじめての東南アジア政治』（有斐閣ストゥディア）、有斐閣。
 岩崎育夫（2017）『入門東南アジア近現代史』（講談社現代新書）、講談社。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎授業後のミニ課題の提出（30%）。
- ・期末試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外での学習の補助になる文献や資料を授業内で提示したいと思います。

【その他の重要事項】

ミニ課題に取り組む際、生成AIを使用することは禁止します。

【Outline (in English)】

Southeast Asia is a region of great geographical, social and political-economic diversity, and while each country has its own unique attractiveness, it is difficult to understand the region in a unified way. In this course, students will be provided with knowledge of the political economy and society of Southeast Asia as a region and the countries within it, as well as the geography, culture and history that underpin this knowledge, and clues to understanding issues related to these topics.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】

朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第2回	朝鮮半島の分断	38度線の由来 分断の状況、分断の責任
第3回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第4回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第5回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第6回	4・19学生革命と 5・16軍事クーデター	4・19学生革命と5・16軍事クーデターを解説
第7回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第8回	日韓国交正常化	その過程、内容と問題点
第9回	全斗煥政権	1979-88年
第10回	民主化運動とその実現	1987年新憲法成立
第11回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第12回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第13回	李明博、朴槿恵、 文在寅、尹錫悦 李在明政権	その政策を中心に
第14回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projector を使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the post-war political histories of Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course is to help students understand the political system and its situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会 II

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】

南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想文の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。

授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第2回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、敵対国家論
第3回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第4回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第5回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第6回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第7回	韓国の経済制度 1	財閥、不動産
第8回	韓国の経済制度 2	税金、福祉、雇用
第9回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第10回	教育制度	受験戦争、就職難
第11回	韓国の社会問題 1	地域対立、格差問題
第12回	韓国の社会問題 2	女性関連
第13回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題
第14回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

孔 義植、鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、課題（0～20%）、試験（60～80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projector を使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

平和・軍事研究 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同時に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第2回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第3回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第4回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第5回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第6回	Middle Powerの核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第7回	冷戦終了後の核兵器状況	2024年の時点で、世界に1万2千発の核兵器が現存
第8回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第9回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。

第10回	日本の冷戦時代の戦略	「非核3原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第11回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第12回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第13回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第14回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念施設、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.

It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and nuclear proliferation issues.

The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

現代政策学特講Ⅰ (千代田区)

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2単位

備考（履修条件等）：抽選科目※申請方法については法学部HPを参照（6月案内予定）

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する実習を中心とする2単位科目である。市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク（現地調査）を通じて発見し、考察すること。

なお、沖縄県の2大学（沖縄大学・名桜大学）、および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに参加する各大学（大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生も受講可能となっている。

【到達目標】

千代田区に関する事前学習、現地実習等を通じて、地域の特性（課題、魅力等）を理解し、課題解決のための方法を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、オータムセッション期間を含む4日間（9月14日～17日：予定）に対面による講義と現地調査、発表を行う。それに加えて、事前にオンデマンド講義も行う。

なお、事前学習や講義や実習では小レポート提出をする。また授業の最後にグループごとに成果発表を行い、さらに終了後には個人レポートを提出する。これらの課題等に対しては、必要に応じて、事前学習、オータムセッション期間中は授業内で、終了後の課題については、学習支援システム上で講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
8月下旬	オリエンテーション	授業の進め方および目的について説明する（オンデマンド）。
8月下旬	事前学習「千代田区概論」	対象となる千代田区に概観を解説する（オンデマンド）。
9月10日 午前	現地実習オリエンテーション	実習の進め方等について共有する。
9月10日 午後	講義：千代田区の政策について	対象となる千代田区行政による取り組みについて、ゲストからの話題提供を行う。
9月11日 午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月11日 午後	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月12日 午前	現地実習（千代田区内）	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9月12日 午後	グループワーク	調査報告のための作業を行う。

9月13日 成果発表
午前

グループごとに、調査報告や地域の課題解決や発展に関する提案の発表をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地実習準備、発表準備等のために、必要に応じて授業外の時間での作業が必要になる場合がある。

また、事前学習における小レポート作成、実習準備等は授業外の時間に行うことが前提としている。さらに授業終了後には個人レポート提出を予定している。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ別発表の評価（40%）、最終個人レポートの評価（10%）、小レポートの評価（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、対面で行うが、グループ発表とその準備のためにパソコンを使用することを想定している。また、資料配布はデータ配布、事前学習はオンデマンド教材利用することから、オンライン環境が必要になる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Chiyoda Ward.

To acquire the ability to grasp the characteristics of the region and propose methods for solving problems.

You work outside of classroom to prepare for on-site training and presentations.

Grading will be decided based on group presentation (40%), term-end report (10%), and short report (50%).

LAW200AB（法学 / law 200）

商法入門Ⅰ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、商法（実質的意義における商法）上の各制度の内容を全般的に取り扱うものである。講義においては、商法上の基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う企業・経営と法コースの基礎科目である。

【到達目標】

一般に企業とは、継続性と計画性をもって営利行為を行う独立の経済的主体と定義されるが、このような企業をめぐる関係主体相互間の経済的利益の調整を目的とするのが実質的意義における商法である。本科目では、商法典上の各制度のほか、会社法、保険法、手形法・小切手法等の制度の内容を取り上げ、企業組織と企業活動についての法規制の概要を理解できるようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行う。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	「商法入門」で何を学ぶか？	・商法の意義 ・商法適用
第2回	商法総則（1）	・商人と営業 ・商業登記 ・商号
第3回	商法総則（2）	・商業帳簿 ・商業使用人 ・代理商
第4回	会社（1）	・会社の意義 ・会社の設立
第5回	会社（2）	・株式制度
第6回	会社（3）	・株主総会制度
第7回	会社（4）	・取締役と取締役会
第8回	会社（5）	・監査役と監査役会
第9回	会社（6）	・委員会会社制度
第10回	商行為（1）	・商法行為の概念と類型
第11回	商行為（2）	・約款の効力とその規制
第12回	商行為（3）	・企業間の売買（商事売買）
第13回	商行為（4）	・運送営業と運送取扱営業
第14回	商行為（5）	・倉庫営業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予習してくること、また、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤光男編 『現代商法入門（第12版）』 有斐閣

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート試験（100％）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture is to study of Commercial law and Practice in Japan. The goals of this course are to understand how the Commercial law and Practiceworks. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

商法入門Ⅱ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、商法（実質的意義における商法）上の各制度の内容を全般的に取り扱うものである。講義においては、商法上の基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う企業・経営と法コースの基礎科目である。

【到達目標】

一般に企業とは、継続性と計画性をもって営利行為を行う独立の経済的主体と定義されるが、このような企業をめぐる関係主体相互間の経済的利益の調整を目的とするのが実質的意義における商法である。本科目では、商法典上の各制度のほか、会社法、保険法、手形法・小切手法等の制度の内容を取り上げ、企業組織と企業活動についての法規制の概要を理解できるようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行うが、受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	保険制度（1）	・ 保険の仕組み ・ 保険契約の概念と類型
第2回	保険制度（2）	・ 損害保険契約（1）
第3回	保険制度（3）	・ 損害保険契約（2）
第4回	保険制度（4）	・ 損害保険契約（3）
第5回	保険制度（5）	・ 生命保険契約（1）
第6回	保険制度（6）	・ 生命保険契約（2）
第7回	保険制度（7）	・ 傷害疾病定額保険契約（1）
第8回	保険制度（8）	・ 傷害疾病定額保険契約（2）
第9回	手形・小切手（1）	・ 手形・小切手の機能
第10回	手形・小切手（2）	・ 手形行為 ・ 手形の振出
第11回	手形・小切手（3）	・ 手形の裏書き
第12回	手形・小切手（4）	・ 手形保証 ・ 手形の支払い
第13回	手形・小切手（5）	・ 遡求
第14回	手形・小切手（6）	・ 手形上の権利の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予習してくる、また、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤光男編 『現代商法入門（第12版）』 有斐閣

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート試験（100％）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture is to study of Commercial law and Practice in Japan. The goals of this course are to understand how the Commercial law and Practiceworks. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法律実務入門 I

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法律実務家をめざす人のための入門講座です。法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと感じます。弁護士や裁判官、検察官といった「法曹三者」についてはある程度理解していても、自分の将来の進路としては少し難しすぎると思う学生も多くいて、結局は法律実務家の道をあきらめてしまうのでしょうか。しかし、世の中には、法曹三者以外にも、実に様々な法律実務家が存在し、彼らは立派に自立して社会的に有益な活動をしています。こうした法律実務家のことをほとんど知らない学生に、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことがこの授業の目的です。この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思っています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を行います。

・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月13日（月））で行います。

・この講義は、外部講師によるオムニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員でない方が多くいらっしゃいます。そのため、この講義の模様が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなりかねません。対面実施・オンライン実施にかかわらず、講義の録画・録音は絶対にしないでください。

・講義は原則として対面形式で行います。ただし、外部講師の事情により、教室でオンラインで講義される場合があります。

・質問は、学習支援システムを通じて受け付けます。

・教材（レジュメ等）は、学習支援システムの「教材」欄に事前にアップロードいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この講義の目的と全体構成について	担当者によるこの講義の目的や授業の進め方についての説明
第2回	法律実務家を目指す諸君へ	法政士業の会・会員による講義
第3回	中間まとめ	担当教員による講義
第4回	弁護士の職務と役割	弁護士による講義
第5回	裁判官の職務と役割	元裁判官による講義
第6回	検察官の職務と役割	検察官による講義
第7回	法科大学院の仕組みと機能	法科大学院教授による講義
第8回	地方公務員の職務と役割	地方公務員による講義
第9回	労働基準監督官の職務と役割	労働基準監督官による講義

第10回	社会保険労務士の職務と役割	社会保険労務士による講義
第11回	行政書士の職務と役割	行政書士による講義
第12回	司法書士の職務と役割	司法書士による講義
第13回	不動産鑑定士の職務と役割	不動産鑑定士による講義
第14回	土地家屋調査士の職務と役割	土地家屋調査士による講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありませんが、各講師の授業についてのレジュメを配布します。「授業支援システム」の「教材」欄を参照してください。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

<期末試験> 90%

・本講座の目的・趣旨からそれぞれの講演者の講演内容について問う問題を2～3出題し、レジュメ記載の事項に限らずどの程度の内容を理解しているかを評価基準に採点します（配点90点）。

<Web小テスト>実施される場合は20%、この場合の期末試験の割合は70%となる。

・講義内容を確認するWeb小テストは、担当の外部講師の任意作成となっております。

・かりに、Web小テストが実施される場合は、Web小テストの配点を20点とし、期末試験の配点を70点とします。

・Web小テストが実施された場合、その回の講義内容は期末試験の範囲から除外します。

<リアクションペーパー> 10%

・講義ごとに実施するリアクションペーパー（質問）の提出及びその内容を評価対象とします。

・リアクションペーパーは、HOPPII上で回収します。

【学生の意見等からの気づき】

過去において学生の私語や授業途中の無断（注意無視の）退席など、講師の先生に対する失礼な行動も散見されました。学生のモラルに問いかけつつ、厳粛に対応する必要も感じています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

(1) 【Course outline】

This course will lecture only to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, Patent attorney, Certified Public Accountants, Labor standards inspectors, etc.

This course contents from 11 guest speakers of above Law practitioners.

(2) 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to study specialized subjects with prospects for the profession.

(3) 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4) 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%、in class contribution: 10%.

LAW200AB（法学 / law 200）

法律実務入門Ⅱ

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文字通り法律実務家をめざす人のための入門講座です。春学期の「法律実務入門Ⅰ」の続編です。

法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと思います。この科目は法律実務家から直に職務を伺うことにより、近い将来の進路を真剣に考えるきっかけとし、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことを目的としています。

秋学期は、弁護士の様々な仕事をより具体的なテーマに即して講義をしていただきます。

この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を行います。

・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月21日（月））で行います。

・この講義は、外部講師によるオムニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員でない方が多くいらっしゃいます。そのため、この講義の模様が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなりかねません。対面実施・オンライン実施にかかわらず、講義の録画・録音は絶対にしないでください。

・講義は原則として対面形式で行います。ただし、外部講師の事情により、教室でオンラインで講義される場合があります。

・質問は、学習支援システムの「課題」を通じて受け付けます。

・教材（レジュメ等）は、学習支援システムの「教材」欄に事前にアップロードいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この講義の目的と全体構成	担当教員による本講義の目的と内容
第2回	家事事件と弁護士	弁護士による講義
第3回	会社再建と弁護士	弁護士による講義
第4回	中小企業診断士の職務と役割	中小企業診断士による講義
第5回	弁理士の職務と役割	弁理士による講義
第6回	スタートアップ企業と法	経営者・企業法務担当者による講義
第7回	公認会計士の職務と役割	公認会計士による講義
第8回	税理士の職務と役割	税理士による講義
第9回	農業法務と弁護士	弁護士による講義
第10回	法学系大学教員の職務と役割	担当教員による講義

第11回	人権裁判と弁護士	弁護士による講義
第12回	会社顧問弁護士の役割	弁護士による講義
第13回	労働者側弁護士の役割	弁護士による講義
第14回	「働き方」としての弁護士	弁護士による講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはないが、各講師の授業についてのレジュメを配布する予定。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

＜期末試験＞90%

・本講座の目的・趣旨からそれぞれの講演者の講演内容について問う問題を2～3出題し、レジュメ記載の事項に限らずどの程度の内容を理解しているかを評価基準に採点します（配点90点）。

＜Web小テスト＞実施される場合は20%、この場合の期末試験の割合は70%となる。

・講義内容を確認するWeb小テストは、担当の外部講師の任意作成となっております。

・かりに、Web小テストが実施される場合は、Web小テストの配点を20点とし、期末試験の配点を70点とします。

・Web小テストが実施された場合、その回の講義内容は期末試験の範囲から除外します。

＜リアクションペーパー＞10%

・講義ごとに実施するリアクションペーパー（質問）の提出及びその内容を評価対象とします。

・リアクションペーパーは、HOPPII上で回収します。

【学生の意見等からの気づき】

過去において学生の私語や授業途中の無断（注意無視の）退席など、講師の先生に対する失礼な行動も散見されました。学生のモラルに問いかけつつ、厳粛に対応する必要も感じています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

(1) 【Course outline】

This course will lecture only to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, etc.

This course contents from 11 guest speakers of Lawyers, Judicial scrivener, Tax Accountant, etc.

(2) 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to study specialized subjects with prospects for the profession.

(3) 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4) 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 90%

in class contribution: 10%

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国書講読 (英語) I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

George H. Sabine, A History of Political Thought of the Chapter25 (The Republicans) を精読します。

現代社会におけるデモクラシーの特質を理解するために、デモクラシーと対比的に説かれることもある共和主義について考察します。

【到達目標】

英語を正確に読み、かつ、日本語の文章の作成能力を向上させることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

テキストを逐語的に輪読します。

内容の理解を深めるために、あわせて討論もおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
テキスト 講読 1	The Republicans1	文献輪読 1
テキスト 講読 2	The Republicans 2	文献輪読 2
テキスト 講読 3	The Republicans 3	文献輪読 3
テキスト 講読 4	The Republicans4	文献講読 4
テキスト 講読 5	The Republicans5	文献講読 5
テキスト 講読 6	The Republicans6	文献講読 6
テキスト 講読 7	The Republicans7	文献講読 7
テキスト 講読 8	The Republicans8	文献講読 8
テキスト 講読 9	The Republicans9	文献講読 9
テキスト 講読 10	The Republicans10	文献講読 1 0
テキスト 講読 11	The Republicans11	文献講読 1 1
テキスト 講読 12	The Republicans12	文献講読 1 2
テキスト 講読 13	The Republicans13	文献講読 1 3
テキスト 講読 14	The Republicans14	文献講読 1 4

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、事前にテキストを和訳しておくことが求められます。

【テキスト (教科書)】

George H. Sabine, A History of Political Thought of the Chapter25 (The Republicans)

初回にコピーを配布します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点 (100%) により成績評価をおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

一人で読むのは困難であるが、複数人で精読すれば理解可能なテキストを選びました。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書 and/or 英英辞書を毎回持参してください。

【Outline (in English)】

Reading a chapter of A History of Political Theory

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国書講読（英語）Ⅱ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

George H. Sabine, A History of Political Theory, chapter32(Liberalism Modernized)

現代社会においてデモクラシーがなお有効な政治理念でありうるのかを検討するために、デモクラシーを再考し再構成しようとしているウォーリンの論文を読んでいきます。

【到達目標】

英語を正確に読み、かつ、日本語の文章の作成能力を向上させることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストを逐語的に輪読します。

内容の理解を深めるために、あわせて討論もおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
テキスト 講読1	Liberalism1	文献講読1
テキスト 講読2	Liberalism2	文献講読2
テキスト 講読3	Liberalism3	文献講読3
テキスト 講読4	Liberalism4	文献講読4
テキスト 講読5	eLiberalism5	文献講読5
テキスト 講読6	Liberalism6	文献講読6
テキスト 講読7	eLiberalism7	文献講読7
テキスト 講読8	Liberalism8	文献国寿8
テキスト 講読9	Liberalism9	文献講読9
テキスト 講読10	Liberalism10	文献講読10
テキスト 講読11	Liberalism11	文献講読11
テキスト 講読12	Liberalism12	文献講読12
テキスト 講読13	Liberalism13	文献講読13
テキスト 講読14	Liberalism14	文献講読14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前にテキストを和訳しておくことが求められます。

【テキスト（教科書）】

the chapter32 of A History of Political Theory by George H. Sabine

初回にコピーを配布します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点（100%）で成績評価をおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

初めての開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書 and/or 英英辞書を毎回持参してください。

【Outline (in English)】

Reading the chapter32 of A History of Political Theory by George H. Sabine

POL300AC（政治学 / Politics 300）

外国書講読（仏語）Ⅰ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

- ・中級レベル以上の読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。
- ・初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・文章の訳読をする他、文法の問題を解いたり、文章の音読の練習を行ったりします。
- ・課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	ルイーズ＝ルネ・ルデュック（1）	受動態
3	ルイーズ＝ルネ・ルデュック（2）	直接目的語と過去分詞の性数一致
4	ジョルジュ・サンド	関係代名詞（1）
5	ジョルジュ・サンド（2）	関係代名詞（2）
6	ルイーズ＝ミシェル	疑問代名詞
7	ルイーズ・ミシェル（2）	複合形の疑問代名詞
8	ユベルティース・オークレー	非人称構文
9	ユベルティース・オークレー（2）	強調構文
10	マドレーヌ・ペルティエ	接続法
11	マドレーヌ・ペルティエ（2）	接続法（2）
12	ココ・シャネル	比較級
13	ココ・シャネル（2）	最上級
14	総括	授業内課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の予習を行うこと。
 - ・文章を音読する練習も行うこと。
- 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フランス史のなかの「異人」たち 2－世界を変えた女性たち』南コニー他著、朝日出版社、2025年（2050円＋税）

◎教科書を使わない可能性もありますので、授業内で教員が指示するまで教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社、2008年

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%

【学生の意見等からの気づき】

文法の補足と練習問題は最低限にし、できるだけ多くの文章を読むようにします。

【学生が準備すべき機器他】

- ・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
- ・文法の知識が定着していない人は、初級のフランス語の授業（「フランス語1」「フランス語2」など）で使用した文法の教科書

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension. The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やしながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

- ・中級レベル以上の読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。
- ・初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・文章の訳読をする他、文法の問題を解いたり、文章の音読の練習を行ったりします。
- ・課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	ジョセフィン・ペイカー	現在分詞
3	ジョセフィン・ペイカー（2）	ジェロンディフ
4	シモーヌ・ド・ボーヴォワール	条件法
5	シモーヌ・ド・ボーヴォワール（2）	条件法（2）
6	シモーヌ・ヴェイユ	直説法単純未来
7	シモーヌ・ヴェイユ（2）	直説法前未来
8	ブリジット・バルドー	代名動詞
9	ブリジット・バルドー（2）	代名動詞（2）
10	ジェーン・バーキン	中性代名詞
11	ジェーン・バーキン（2）	中性代名詞（2）
12	クララ・ルティアーニ他	不定形容詞
13	クララ・ルティアーニ他（2）	不定代名詞
14	総括	授業内課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の予習を行うこと。
- ・文章を音読する練習も行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フランス史のなかの「異人」たち 2－世界を変えた女性たち』南コニー他著、朝日出版社、2025年（2050円＋税）

◎春学期にこの教科書を採用した場合は春学期の続きを読みますが、教科書を使わない可能性もありますので、秋学期からの受講者は教員の指示を確認してから教科書を購入してください。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社、2008年

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

【学生の意見等からの気づき】

教材を選ぶ際は受講者の関心を考慮します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
- ・文法の知識が定着していない人は、初級のフランス語の授業（「フランス語1」「フランス語2」など）で使った文法の教科書

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ヨーロッパ政治史Ⅰ

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視角から鳥瞰するものです。これは歴史上のさまざまな社会事象・問題を政治学的見地からの確に分析し、創造的かつ総合的に判断するための知識と技能の涵養に資するものです。原則として対面の講義形式で行われます。

【到達目標】

学生はこの授業を通じて以下を身につけることが期待されています。

- (1) ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略の理解
- (2) 各社会の対応のヴァリエーションの類型化と理解
- (3) ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学生には概ね2週につき1通の授業前課題を提出することが求められます。授業前課題はテキストの指定部分を読み、設問に答えるとともに疑問やコメントを付すものです。これを基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じます。授業後課題として、毎回授業内容に対する疑問やコメントを提出することが要求されます。これにより学生の理解度を確認しながら、授業は進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ：ヨーロッパの政治発展の概観	内容の導入を行うとともに、「国民国家」[自由主義化]「民主化」といった前提的な項目について説明する。
2	オランダ・ベルギー (1)	テキスト第7章の内容を踏まえてオランダやベルギーの政治発展を、「柱」という観点から検討する。
3	オランダ・ベルギー (2)	テキスト第7章の内容を踏まえてオランダやベルギーの政治発展を、「多極共存型デモクラシー」という観点から検討する。
4	北欧諸国(1)	テキスト第8章の内容を踏まえて北欧諸国の政治発展を、「社会的亀裂」という観点をから検討する。
5	北欧諸国(2)	テキスト第8章の内容を踏まえて北欧諸国の政治発展を、「福祉国家」という観点をから検討する。
6	ドイツ(1)	テキスト第3章の内容を踏まえてドイツの政治発展を「民主主義の崩壊」という観点から検討する。

7	ドイツ(2)	テキスト第3章の内容を踏まえてドイツの政治発展を「連邦制」という観点から検討する。
8	イギリス(1)	テキスト第5章の内容を踏まえてイギリスの政治発展を「近世的政治制度の漸進的拡張」という観点から検討する。
9	イギリス(2)	テキスト第5章の内容を踏まえてイギリスの政治発展を「戦後コンセンサス」と「サッチャリズム」という観点から検討する。
10	フランス(1)	テキスト第4章の内容を踏まえてフランスの政治発展を、「議会議主権体制」という観点から検討する。
11	フランス(2)	テキスト第4章の内容を踏まえてフランスの政治発展を、「半大統領制」という観点から検討する。
12	イタリア(1)	テキスト第6章の内容を踏まえてイタリアの政治発展を、「自由主義と政治的クライエンテリズム」という観点をから検討する。
13	イタリア(2)	テキスト第6章の内容を踏まえてイタリアの政治発展を、「政権選択型デモクラシーの創出」という観点から検討する。
14	20世紀ヨーロッパのデモクラシーとは何だったか	テキスト第1章の内容を踏まえて、全体像を確認する内容で講義します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習・復習を合わせて授業時間外学習は各回概ね4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第2版』ナカニシヤ出版、2014年。

【参考書】

中山洋平、水島治郎『ヨーロッパ政治史 [改訂版]』放送大学教育振興会、2024年。

マーク・マゾワー 『暗黒の大陸：ヨーロッパの20世紀』未来社、2015年。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験52.5%:テキストの内容を基礎としつつ授業を通じて深めた理解を問う問題を出題する教場試験

授業前課題28%:テキストの指定箇所を読み、設問に答えるとともにコメントや疑問を記載する

授業後課題19.5%:授業の内容についてコメントや疑問を記載する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course provides an overview of modern and contemporary European history from the perspective of political development. It contributes to cultivating the knowledge and skills necessary to accurately analyze various historical social phenomena and issues from a political science perspective and make creative and comprehensive judgments. The course will be conducted primarily in a face-to-face lecture format.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ヨーロッパ政治史 II

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視角から鳥瞰するものです。これは歴史上のさまざまな社会事象・問題を政治学的見地からの確に分析し、創造的かつ総合的に判断するための知識と技能の涵養に資するものです。原則として対面の講義形式で行われます。

【到達目標】

学生はこの授業を通じて以下を身につけることが期待されています。

- (1) ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略の理解
- (2) 各社会の対応のヴァリエーションの類型化と理解
- (3) ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学生には概ね2週につき1通の授業前課題を提出することが求められます。授業前課題はテキストの指定部分を読み、設問に答えるとともに疑問やコメントを付すものです。これを基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じます。授業後課題として、毎回授業内容に対する疑問やコメントを提出することが要求されます。これにより学生の理解度を確認しながら、授業は進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行う。
2	ヨーロッパの社会変容と政治変動	テキスト第1章の内容を踏まえて第二次大戦後のヨーロッパ社会の変化とそこにおける政治変動のトレンドを概観する。
3	イギリス(1)	テキスト第4章の内容を踏まえてイギリス政治の変化について検討する。
4	イギリス(2)	テキスト第4章の内容を踏まえてイギリス政治の変化について検討する。
5	ドイツ(1)	テキスト第2章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する。
6	ドイツ(2)	テキスト第2章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する。
7	オランダ・ベルギー	テキスト第8章の内容を踏まえてオランダ・ベルギーの政治の変化について検討する。
8	北欧諸国	テキスト第7章の内容を踏まえて北欧諸国の政治の変化について検討する。

9	フランス(1)	テキスト第1章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する。
10	フランス(2)	テキスト第1章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する。
11	イタリア	テキスト第5章の内容を踏まえてドイツ政治の変化について検討する。
12	東中欧諸国	テキスト第10章の内容を踏まえて東中欧諸国の政治変動とその後の変化について検討する。
13	南東欧諸国	テキスト第12章の内容を踏まえて南東欧諸国の政治変動とその後の変化について検討する。
14	ヨーロッパ・デモクラシーの将来	授業全体を総括するとともに、歴史的視座からヨーロッパ・デモクラシーの将来を展望する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前・授業後を合計して、1週あたり平均4時間の準備学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介、伊藤武、成廣孝編『21世紀ヨーロッパのデモクラシー』ナカニシヤ出版、2026年前半刊行予定

【参考書】

網谷龍介、伊藤武、成廣孝編『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第2版』ナカニシヤ出版、2014年。
中山洋平、水島治郎『ヨーロッパ政治史 [改訂版]』放送大学教育振興会、2024年。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験48.5%:テキストの内容を基礎としつつ授業を通じて深めた理解を問う問題を出題する教場試験

授業前課題32%:テキストの指定箇所を読み、設問に答えるとともにコメントや疑問を記載する

授業後課題19.5%:授業の内容についてコメントや疑問を記載する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course provides an overview of modern and contemporary European history from the perspective of political development. It contributes to cultivating the knowledge and skills necessary to accurately analyze various historical social phenomena and issues from a political science perspective and make creative and comprehensive judgments. The course will be conducted primarily in a face-to-face lecture format.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

日本の政治と社会 I

塚本 英樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

日本近現代史を通じて、政治と社会の関係を歴史的視点から理解することを目指す。現在社会も過去の積み重ねによって成り立っている以上、それを理解するうえで歴史的視点は有効なものである。この授業では内政と外交の相互関係を意識しつつ、政治史・外交史的視点から日本近現代史の概要を示したい。

【授業の目的・意義】

歴史的視点に基づき、現代社会の成り立ちを理解し、相対化する視点を獲得することを目指す。

【到達目標】

日本近現代史を通じて政治と社会の関係を歴史的に理解し、説明することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態 講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何故、歴史を学ぶのか？	ガイダンス
第2回	近世から近代へ（幕末・維新）	身分制社会が解体し、近代国家へと移行する過程について述べる
第3回	近代日本の国内政治①	初期議会期の政治過程を大日本帝国憲法と議会の関係を中心に講義する。
第4回	近代日本の対外関係①	近代日本の対外関係の変容を中国を中心とした朝貢体制から西洋国際法体制への移行という視点から講義する。
第5回	近代日本と国内政治②	近代日本における政治過程を政党政治の成立過程という視点から講義する。
第6回	近代日本の対外関係②	日清・日露戦争、第一次世界大戦に至る対外膨張を講義する。
第7回	近代日本の国内政治③	近代日本の政治過程を政党政治の確立と崩壊という視点から講義する。
第8回	近代日本の対外関係③	小テストを実施する。 第一次世界大戦の惨禍を受けて成立した国際協調体制の意義とその崩壊について講義する。
第9回	近代日本の国内政治④	政党政治崩壊後の国内政治について講義する。
第10回	近現代日本と選挙	近代日本における選挙を制度的変化を意識しつつ解説する
第11回	近代日本の対外関係④	国際協調体制離脱後の対外関係について講義する

第12回	対米開戦と終戦	対米開戦及び終戦への政治過程について講義する。
第13回	戦後史	戦後の政治過程・対外関係について講義する。 小テストを実施する。
第14回	現代史及び総括	講義全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するプリント、提示した参考文献の該当ページを読んだうえで、次の授業に臨んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

北岡伸一『日本政治史－外交と権力 増補版』（有斐閣,2017年）
 佐々木雄一『近代日本外交史 幕末の開国から太平洋戦争まで』（中公新書,2022年）
 季武嘉也『日本近現代史〔新訂〕：民意と政党』（放送大学教育振興会,2021年）
 村井良太『「憲政常道」の近代日本：戦前の民主化を問う』（NHK出版,2025年）

【成績評価の方法と基準】

リサーチペーパーの提出による平常点20%、小テスト2回30%、学期末提出のレポート50%。授業を5回以上欠席したものは単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

リサーチペーパーに記載されたコメントに対して、授業冒頭に適宜対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through modern and present Japanese history, the course aims and acquires aim to understand the relationship between politics and society from a historical perspective. Since present-day society is also built on the accumulation of the past, a historical perspective is useful for understanding it. In this class, we will provide an overview of modern Japanese history from the perspectives of political history and diplomatic history, while being conscious of the interrelationship between domestic and foreign affairs.

【Learning Objectives】

Based on a historical perspective, the course aims to understand the formation of contemporary society and acquire a perspective that allows us to view it in relative terms.

LAW300AB（法学 / law 300）

人権と企業社会 I

土屋 仁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2単位

備考（履修条件等）：本科目は秋学期授業開始前に開講されるオータムセッションのため、春学期中の履修登録が必要です。

春学期履修変更期間以降の追加の履修は認めることができませんので、ご注意ください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代資本主義社会の経済活動は、企業によって支えられ、企業の活動は、社会全体に大きな影響力を与えています。現代社会における企業活動には、営利を追求するだけでなく、社会の一員として、労働、環境、消費等に関わる社会的な問題を解決するための行動が求められています。そこで、現代社会が抱える問題に企業が対応する意義や必要性について理解を深めつつ、人権保障の観点から問題を考察する力を身に付けます。「企業・経営と法コース」のコース配当科目③憲法科目に位置づけられます。

【到達目標】

- ① 企業活動における関係当事者の権利を理解する。
- ② 人権保障の観点から、企業活動に求められる対応や取組を理解する。
- ③ 法的な観点から問題を把握し、考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

企業活動における利害関係者の権利を理解したうえで、国内外の具体的な事例について、関連する判例や学説をもとに、講義形式で授業を進めていきます。

授業内で取り組んだ課題等(テスト／レポート)については、学習支援システム等を用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回（9月11日）	企業社会の形成と企業の社会的責任	日本型企業社会の特徴と、社会の一員としての企業の責任について学びます。
第2回（9月11日）	企業活動による人権保障の重要性	企業活動における人権保障の重要性について、人権の私人間効力の観点から学びます。
第3回（9月11日）	ステークホルダーの権利と法規範	企業活動に関わる利害関係者として、労働者、消費者、地域住民等の権利について学びます。
第4回（9月11日）	国際社会におけるビジネスと人権	国際法の中でも経済分野に焦点を当て、自由貿易体制の維持と人権保障について学びます。
第5回（9月11日）	環境保護に対する国内外の取組	気候変動や公害の輸出の問題について、環境権の観点から企業活動における環境保護の必要性について学びます。
第6回（9月12日）	長時間労働の是正と過労死等の防止	長時間労働の是正と過労死等の防止の観点から、労働者の権利保障について学びます。

第7回（9月12日）雇用分野における女性の活躍の推進

雇用分野における男女格差の是正について、ジェンダー平等やポジティブアクションの観点から学びます。

第8回（9月12日）消費者問題の特徴と消費者の権利

消費者被害の現状を把握し、消費者契約の特徴について、消費者の権利の観点から学びます。消費者の生命権・健康権の観点から、商品・サービスにおける安全性確保の必要性について学びます。

第9回（9月12日）食品の安全性の確保

営利的表現としての広告・表示について、事業者の表現の自由と消費者の知る権利の観点から学びます。

第10回（9月12日）営利的表現としての広告・表示

プロファイリングに基づくマーケティングの問題点について、消費者の自己決定の観点から学びます。

第11回（9月13日）AIネットワーク社会における自己決定

プライバシー権の観点から、企業が保有するビッグデータの利活用における個人情報保護について学びます。

第12回（9月13日）ビッグデータの利活用と個人情報の保護

イノベーションに伴う不確実性への対応の必要性について学びます。

第13回（9月13日）イノベーションに伴う不確実性への対応

授業内容についての試験(レポート)を行います。

第14回（9月13日）試験(レポート)・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

講義時にレジュメ・資料を配布します。

講義の際には、六法を持参してください。

【参考書】

元山 健・建石真公子編『現代日本の憲法 [第2版]』(法律文化社、2016年)

『(別冊ジュリスト) 憲法判例百選Ⅰ 第8版』(有斐閣、2025年)

『(別冊ジュリスト) 憲法判例百選Ⅱ 第8版』(有斐閣、2025年)

『(別冊ジュリスト) 労働判例百選 第10版』(有斐閣、2022年)

『(別冊ジュリスト) 環境法判例百選 第3版』(有斐閣、2018年)

『(別冊ジュリスト) 消費者法判例百選 第2版』(有斐閣、2020年)

【成績評価の方法と基準】

各講義の小テスト(42%)、レポート(58%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が能動的に参加できるように、受講者自身が問題と向き合い考える時間(小テスト・小レポート)を設けます。受講者数によって、グループディスカッション等を行う場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

In Modern capitalism, business activities have great influence on society. As a member of society, business enterprises need to take actions with social problems related to labor, environment, and consumption, etc. The aim of this course is to help students learn about the significance of business activities to protect the human rights.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

The overall grade for the class will be determined based on the following.

short tests(each class): 40%, short reports(3 times): 60%

POL200AC (政治学 / Politics 200)

アメリカ政治史 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国を理解するための前提について検討します。

【到達目標】

アメリカ合衆国を理解するのに必要な視点を構築することをめざします。

アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。
The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業をおこないます。

毎回、授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらいます。

次の週の授業では、そのうちのいくつかを取り上げて、復習をします。
In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「アメリカ」と「合衆国」について考える
第2回	アメリカ史における「時間」1	「時間」という視点からアメリカを考える1
第3回	アメリカ史における「時間」2	「時間」という視点からアメリカを考える2
第4回	アメリカ史における「時間」3	「時間」という視点からアメリカを考える3
第5回	アメリカ史における「空間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第6回	アメリカ史における「空間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第7回	アメリカ史における「空間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第8回	アメリカ史における「空間」4	「空間」という視点からアメリカを考える4
第9回	アメリカ史における「人間」1	「人間」という視点からアメリカを考える1
第10回	アメリカ史における「人間」2	「人間」という視点からアメリカを考える2
第11回	アメリカ史における「人間」3	「人間」という視点からアメリカを考える3
第12回	アメリカ史における「人間」4	「人間」という視点からアメリカを考える4

第13回 「時間・空間・人間」 アメリカのナショナリズムについて考える
再考

第14回 「文脈」的理解 アメリカ現代社会をアメリカ史の「文脈」において捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

齋藤真『アメリカとはなにか』（平凡社ライブラリー、1995）（旧版、『アメリカ史の文脈』（岩波書店）でも可）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(50%)、リアクション・ペーパー (50%)

Grading will be decided on the term-end examination and attendance points.

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【Outline (in English)】

This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

アメリカ政治史Ⅱ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。
本学は、アメリカ合衆国の社会および人びとの思考様式について考察します。

【到達目標】

アメリカ社会の思考様式の特徴を理解することをめざします。
The goal of this course is to understand the American ways of thinking.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での講義形式で授業をおこないます。
毎回、授業終了時に、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。
In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リベラリズム 1	1776年と1619年—liberalか illiberalか
第2回	リベラリズム 2	リベラリズム以外の思想が存在しない社会
第3回	デモクラシーと共和主義 1	「デモクラシーの行き過ぎ」と人民主権
第4回	デモクラシーと共和主義 2	リベラリズム vs. コミュニタリアニズム論争
第5回	保守主義 1	欧米の保守主義の異同
第6回	保守主義 2	「リベラリズム」という保守主義
第7回	保守主義 3	レーガン保守主義
第8回	保守主義 4	「保守主義が存在しない」社会から国民の半分以上が保守主義者を辞任する社会への変容
第9回	反知性主義 1	反知性主義とデモクラシー
第10回	反知性主義 2	ポピュリズム
第11回	宗教と政治 1	信仰復興運動
第12回	宗教と政治 2	キリスト教原理主義・福音主義
第13回	トランプ時代の保守主義	トランプ政権を支える保守主義
第14回	アメリカ政治思想の総括	アメリカ的思考様式を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。
授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(50%)、リアクション・ペーパーの提出(50%)
Grading will be decided on the term-end examination and attendance points.

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

A History of the American Ways of Thinking

POL200AC (政治学 / Politics 200)

協同組合論

杉崎 和久、上山 紀子、小林 幸治

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。

一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合やNPO等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困・格差の是正や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は2012年を「国際協同組合年」として2013年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げ、さらに2025年を2回目の「国際協同組合年」とし、2025年12月15日の国連総会で10年ごとに国際協同組合年（IYC）を設けることが決議されました。

一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、少子化と労働者人口が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化しています。こうした問題に市場や政府・行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。このような中で2020年12月「労働者協同組合法」が成立し、協同組合運動は新しい段階を迎えています。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待が寄せられているのか、もう一つの世界は可能か―協同組合と社会的連帯経済、つながりの再構築・拡大・強化の実践、といった点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的・社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の研究者および実践者による講義を行います。

講座のポイントとして、「協同組合・生協」と「生活クラブ（運動）」の理解と共感を育み、生活クラブがすすめてきた各種事業活動の紹介を通じて伝えます。特に、協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向や制度、組織・仕組みをはじめ、生活クラブ生協・東京を中心にした生活クラブ運動グループの取り組みを、「協同」、「共同」、「協働」の視点から多くの組合員や市民、生産者、関連団体、地域、自治体などと連携・協力のもとにすすめている点などをふまえた内容とします。

【到達目標】

- ① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
- ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
- ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則「対面」で行う予定であるが、講師等の都合によりオンデマンド教材などを併用することがある。

この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心にした日本の協同組合やNPO等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合やNPO等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。

授業中に授業内容に関するコメントを提出する。なお、小レポート等から提出された質問等について、学習支援システムを通じて、適宜回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び協同組合の動向	協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向、国内の協同組合や生活クラブ及び運動グループによる運動・取り組み（FEC-W、ローカルSDGs、など）、社会的連帯経済や国際協同組合年の国内での動向などの概要を紹介し、次回以降の講座の道しるべとします。
第2回	非営利活動と協同組合	協同組合法制の概要、NPO法（組織）をはじめとする非営利組織や労働者協同組合の制度や組織、諸外国との違いなどを中心にして「協同」の理念や政策・制度の動向などを紹介します。
第3回	生活クラブの消費材（づくり）と共同購入	生活クラブの運動と事業の根幹をなす「F（フード）自給への挑戦」の取り組みの背景（食を取り巻く課題）と現在を、組合員参加のもとにすすめる「消費材づくり」と「共同購入」の仕組みなどを中心に紹介します。
第4回	地球と身体にやさしい食～私の食が世界・地球をつくる～	日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きく、日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりの取り組み、協同組合の役割などを紹介します。
第5回	協同（共同）でつなぐ都市農業・福祉・教育	生活クラブは、都市農業の保全、育成、強化を柱の一つとしてきました。2016年度から開始しました、「生活クラブ農園・あきるの野」の実践の意義や成果、都市農業が抱える課題などを紹介します。
第6回	協同でつくるエネルギー～エネルギー共同購入の試み	気候危機が地球規模での課題となっていますが、日本の施策は大幅に遅れています。「再生可能エネルギー」の開発と供給の実践、発電施設地域との交流と社会貢献など、生活クラブのエネルギー自給の取り組みや課題、今後の展望などを紹介します。
第7回	協同（共同）ですすめる地域福祉	協同組合型の市民事業として、地域福祉の推進と地域社会づくりをめざす、アビリティクラブたすけあい（ACT）の活動を中心に、誰もが尊厳をもって、住み慣れた地域で暮らしつつけるための、課題を共有します。また、市民版地域福祉計画を作る中で、地域の仕組みの確立をめざす取り組みなどを紹介します。

第8回	協同組合と子育て支援	平岡晴子 生活クラブ社会的連帯経済ネットワーク機構 ・・・ ・・・ワーカーズまちの縁がわ・・・ 「個人化」時代の中、生活クラブ及び生活クラブ運動グループが取組む地域活動として、子どもを中心にした多世代の「居場所づくり」と福祉事業・活動とのつながり、その促進のための助成のしくみ、実践事例などを紹介します。
第9回	協同（共同）でつくる地域のかたち	次の時代を担う人を育む子育て支援事業は、サステナブルな社会を目指す取組みの一つです。「子育て・子育て」の取組などをとおして次世代・将来世代の子どもたちやその家族を社会がどのように支えるのかなど、生活クラブ保育園ばむと子育て広場ぶんこの実践などを紹介します。
第10回	ワーカーズ・コレクティブと労働者協同組合「協同労働」の実践	地域の社会的なニーズに対応して、市民相互の助け合い・支えあいを基本にした様々な事業活動を展開するワーカーズ・コレクティブとは何か、その働き方や実践事例などを紹介します。
第11回	「協同労働」とコミュニティワーク	人々が大事にされる働き方（ディーセントワーク）とデポワワーカーズなどによるコミュニティワークの実践の社会的な意義を紹介し、地域で働く地域（まち）づくりの担い手の取組みや働き方、共同・協同の仕組みなどを紹介します。
第12回	市民・組合員のお金の使い道・使い方	「草の根市民基金・ぐらん」など、資金助成による市民活動への支援や資金循環の流れや協同組合の役割などや「中間支援」の取組みによる地域社会づくり・市民セクターの強化の必要性などを紹介します。
第13回	協同の力で自治体政策をつくり・変える	地域づくりのためには自治体政策への関与、自治体との関係づくりが必要です。生活クラブ運動グループ政策担当、政策委員会、東京政策推進会議などの取組みから、地域づくりに必要な自治体政策づくりとその実現に向けた活動（政策提案運動）、「市民政治」活動の必要性、自治体議会への参加の取組みなどを紹介します。
第14回	協同組合で働く	講座全体の振り返りを通じて、非営利・協同組合（セクター）の今日的なミッションと意義について理解を深めます。また、そのミッションへの取組みとして、生活クラブが多様な働き方を推し進める可能性を紹介しまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。配布資料は、授業前日までに学習支援システムにアップロードしますので、各自対応してください。

【参考書】

適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】

・評価は、「①授業ごとに出席する課題（14回）」の合計（84%）、「②レポート課題」（16%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②が未提出である場合には成績評価をしない（E評価とする）。

・①は各回講義の最後に講義内容に関するコメントをリアクションペーパーに記入し提出する。

・なお、小レポートの評価は下記とする。

A：授業内容を踏まえて、独自の視点からの意見や考え方が記述されている。

B：適切な分量（リアクションペーパーの7割以上）を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。

C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。

D：未記入

なお、授業時間外に提出した場合には理由の如何に関係なく、受理しない。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問へは、なるべく早く対応したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講師によって、パワーポイント、映像を活用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Learning about the status of activities in Japan and its significance and issues today, based on history of cooperatives and social enterprises around the world.

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

C.Acquiring the basic ability to think about the theory and practice of new public policy in which consumers and citizens are the main actors.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on reports at each class.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅰ（政治学の原典を読む）

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.

English Keywords: classical works of political science

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基礎的かつ古典的な文献を購読する。

【到達目標】

政治学の基礎的かつ古典的な文献の読破と理解。法学部のなかにある政治学科・国際政治学科に籍を置く者であれば、読んでおいて損はない文献を取りあげる。基礎科目の政治学や、必修科目の政治学入門で聞いたことはあるかもしれないが、実際に手にとって読んだことのないような文献が選定の目安となる。今年度はさしあたりハンス・ケルゼンのデモクラシー論などを念頭においている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本科目は演習科目ではないが、授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	ケルゼン	『デモクラシーの本質と価値』
3	ケルゼン	『デモクラシーの本質と価値』
4	ケルゼン	『デモクラシーの本質と価値』
5	ケルゼン	『デモクラシーの本質と価値』
6	ケルゼン	『デモクラシーの本質と価値』
7	ケルゼン	『デモクラシーの本質と価値』
8	春学期中間考察	前半をふりかえる
9	ケルゼン	『純粋法学』
10	ケルゼン	『純粋法学』
11	ケルゼン	『純粋法学』
12	ケルゼン	『純粋法学』
13	ケルゼン	『純粋法学』
14	春学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】

ケルゼン『デモクラシーの本質と価値』岩波書店

ケルゼン『純粋法学』岩波書店

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本科目は大学院政治学専攻修士課程の科目と重ねて開講するものであり、履修者には相応の水準を求めることになります。

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅰ (日韓比較政治思想)

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。

近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を発揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

政治学的一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包含し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	(前期) オリエンテーション	講義全般についての紹介
第二回	近現代の日韓における状況について	関連内容の紹介・説明
第三回	日韓関係をめぐる市民社会の論理と心理について①	関連内容の紹介・説明
第四回	日韓関係をめぐる市民社会の論理と心理について②	関連内容の紹介・説明
第五回	日韓における人間と道徳認識について①	関連内容の紹介・説明
第六回	日韓における人間と道徳認識について②	関連内容の紹介・説明
第七回	日韓におけるナショナリズムの諸問題について①	関連内容の紹介・説明
第八回	日韓におけるナショナリズムの諸問題について②	関連内容の紹介・説明

第九回	歴史的視座から見た日韓における西欧認識について①	関連内容の紹介・説明
第十回	歴史的視座から見た日韓における西欧認識について②	関連内容の紹介・説明
第十一回	日韓の学問世界における普遍的ものの追求について①	関連内容の紹介・説明
第十二回	日韓の学問世界における普遍的ものの追求について②	関連内容の紹介・説明
第十三回	現代の日韓における態度決定の諸問題について①	関連内容の紹介・説明
第十四回	現代の日韓における態度決定の諸問題について②	関連内容の紹介・説明

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取る。授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』東京、慶應義塾大学出版会、2020年
 (必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要場合はコピーを配布いたします。)
 三谷太一郎『日本の近代とは何であったかー問題史的考察』岩波新書1650、東京、岩波書店、2017年

【参考書】

木宮正史 他『戦後日韓関係史』東京、有斐閣アルマ、2017年
 南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988年
 白樂濬『歴史と文化』、延世大学出版部、1995年
 中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、2012年
 中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、2016年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(手書きのリアクションペーパー・レポートなどの提出物、40%)＋試験(60%)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

大学ノート・教科書・黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【その他の重要事項】

スマートフォンなどの電子機器はカバンの中に仕舞うこと。

【Outline (in English)】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to the improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅱ (日韓比較政治思想)

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。

近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を発揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。

社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

政治学的一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包摂し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	(後期) オリエンテーション	講義全般についての紹介
第二回	日韓における文化的 共通認識と歴史的価値について①	関連内容の紹介・説明
第三回	日韓における文化的 共通認識と歴史的価値について②	関連内容の紹介・説明
第四回	日韓における文化的 共通認識と歴史的価値について③	関連内容の紹介・説明
第五回	日韓におけるリベラ リズムとデモクラシーについて①	関連内容の紹介・説明
第六回	日韓におけるリベラ リズムとデモクラシーについて②	関連内容の紹介・説明
第七回	日韓におけるリベラ リズムとデモクラシーについて③	関連内容の紹介・説明

第八回	日韓における市民社 会について①	関連内容の紹介・説明
第九回	日韓における市民社 会について②	関連内容の紹介・説明
第十回	日韓における市民社 会について③	関連内容の紹介・説明
第十一回	日韓における文化多 元主義について①	関連内容の紹介・説明
第十二回	日韓における文化多 元主義について②	関連内容の紹介・説明
第十三回	国際関係としての日 韓について	関連内容の紹介・説明
第十四回	日韓友好関係の意義 と可能性について	関連内容の紹介・説明

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取る。授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』東京、慶應義塾大学出版会、2020年

(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要な場合はコピーを配布いたします。)

三谷太一郎『日本の近代とは何であったかー問題史的考察』岩波新書1650、東京、岩波書店、2017年

【参考書】

木宮正史 他『戦後日韓関係史』東京、有斐閣アルマ、2017年

南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988年

白樂濬『歴史と文化』、延世大学出版部、1995年

中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、

2012年

中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、

2016年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(手書きのアクションペーパー・レポートなどの提出物、40%)＋試験(60%)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

大学ノート・教科書・黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【その他の重要事項】

スマートフォンなどの電子機器はカバンの中に仕舞うこと。

【Outline (in English)】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to the improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅰ（比較政治思想史）

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：「政治学特殊講義Ⅰ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：この授業では、大日本帝国憲法（明治憲法）を、原文と英語訳（起草者らによる）とを読み比べることにより、条文の背景にある西洋および日本の政治史・政治思想史の流れを解説するとともに、そうした条文が戦前の政治史にどのような影響を与えたかについても併せて考察する。

授業の目的：授業で取り上げるテキストの内容を手がかりに、現代における政治の意味について自分なりの考えを組み立てることを目標とする。

【到達目標】

- ・政治に関する諸問題についての知識を獲得する。
- ・政治に関する諸問題について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。事前に配布資料に目を通しておい
- てください。
- ・授業は日本語で行います。高度な英語の知識は必ずしも必要とし
- ません。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考
- 察を深める材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第2回	憲法と政治	憲法が一般的にどのように成立し、どのように政治と関連するのか、予備的な知識をおさえる。
第3回	明治憲法ができるまで	明治憲法が成立するまでの政治状況・歴史的な経緯を知る。
第4回	序文	明治憲法序文の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第5回	第一章 天皇	明治憲法第一章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第6回	第二章 臣民の権利義務	明治憲法第二章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第7回	第三章 帝国議会	明治憲法第三章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第8回	第四章 国务大臣及枢密顧問	明治憲法第四章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第9回	第五章 司法	明治憲法第五章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第10回	第六章 会計	明治憲法第六章の原文と英文を読み比べることで知識を深める。

第11回	第七章 補足、皇室典範	明治憲法補足と皇室典範の原文と英文を読み比べることで知識を深める。
第12回	天皇機関説論争	明治憲法の学説についての知識を知り、理解を深める。
第13回	大日本帝国憲法から日本国憲法へ	明治憲法と日本国憲法の関係について理解を深める。
第14回	授業内試験	これまでの内容のまとめと授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指定・配布する資料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメ・資料はHoppii等を通じて配布します。

【参考書】

・伊藤博文著・宮沢俊義校注『憲法義解』（岩波文庫、2019年）

【成績評価の方法と基準】

レポート（60％）、リアクションペーパー・授業内発言（40％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし（教育活動レベルによってweb接続が可能なPCが必要となります）。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史Ⅰ、日本政治思想史Ⅰ・Ⅱ、憲法などの授業を事前あるいは同時に履修することによってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This course examines the Constitution of the Empire of Japan (the Meiji Constitution) through a comparative reading of the original text and its English translation prepared by its drafters. By analyzing the constitutional provisions, the course introduces the historical background of Western and Japanese political history and political thought that informed the drafting of the Constitution, and considers how these provisions influenced political developments in prewar Japan.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

政治学特殊講義Ⅱ（比較政治思想史）

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：「政治学特殊講義Ⅱ（近代日本における〈道徳〉と〈政治〉）」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：この授業では、教育勅語と軍人勅諭について、原文と政府公式の英語訳とを読み比べることにより、テキストの背景にある西洋および日本の政治史・政治思想史の流れを解説するとともに、そうした条文が戦前の政治史にどのような影響を与えたかについても併せて考察する。

授業の目的：授業で取り上げるテキストの内容を手がかりに、現代における政治の意味について自分なりの考えを組み立てることを目的とする。

【到達目標】

- ・政治に関する諸問題について知識を獲得する。
- ・政治に関する諸問題について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。配布する資料をあらかじめ読んで内容を把握しておくことより深い理解につながるでしょう。
- ・授業は日本語で行います。高度な英語の知識を必ずしも必要とはしません。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第2回	戦前日本における政治・道徳・軍事	教育勅語と軍人勅諭を取り巻く政治史的状況についての予備的な知識をおさえる。
第3回	教育勅語成立の背景	教育勅語成立までの歴史的状況について知識を深める。
第4回	教育勅語本文の検討①	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第5回	教育勅語本文の検討②	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第6回	教育勅語本文の検討③	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第7回	教育勅語の受容のされ方	教育勅語の解説書等を紹介することで戦前日本社会でどのように受容されたかを検討する。
第8回	軍人勅諭成立の背景	軍人勅諭成立までの歴史的状況について知識を深める。
第9回	軍人勅諭本文の検討①	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第10回	軍人勅諭本文の検討②	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。
第11回	軍人勅諭本文の検討③	教育勅語の原文と英訳を読み比べることで知識を深める。

第12回	軍人勅諭の受容のされ方	軍人勅諭が戦前日本社会でどのように受容されたかを検討する。
第13回	まとめ	講義全体の内容を概観することで戦前の日本社会と天皇の関係について考察を行う。
第14回	授業内試験	授業全体のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で指定・配布する資料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。
- ・本授業の準備・復習時間は、該当範囲の予習に3時間、復習に1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要なレジュメ・史資料類は配布します。

【参考書】

・葉袋善郎『英語で読む！日本の歴史を決めた公文書』研究社、2025年

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（70％）、リアクションペーパー・授業内発言（30％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし（教育活動レベルによってweb接続が可能なPCが必要となります）。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史および日本政治思想史の事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This course examines the Imperial Rescript on Education and the Imperial Precepts to The Soldiers and Sailors through a comparative reading of the original texts and their official English translations issued by the Japanese government. By analyzing these texts, the course explains the historical background of Western and Japanese political history and traditions of political thought underlying the rescripts, and considers how their provisions influenced political developments in prewar Japan.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

現代政策学特講Ⅰ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが学んでいる法制度は、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。

本科目は、法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して立法学の全体像を俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかんして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅰでは、主に政策の形成過程から分析します。

【到達目標】

政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットとしての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を（誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで）動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	「立法学」とはなにか	テーマに沿った講義
第3回	立法学の再定位	テーマに沿った講義
第4回	政策形成過程総論	テーマに沿った講義
第5回	政府における政策形成過程（1）	テーマに沿った講義
第6回	政府における政策形成の事例研究（1）	テーマに沿った講義
第7回	政府における政策形成過程（2）	テーマに沿った講義

第8回	政府における政策形成の事例研究（2）	テーマに沿った講義
第9回	政党における政策形成過程	テーマに沿った講義
第10回	政党における政策形成の事例研究	テーマに沿った講義
第11回	政策形成と選挙制度の関係	テーマに沿った講義
第12回	日本の選挙の実態（1）	テーマに沿った講義
第13回	日本の選挙の実態（2）	テーマに沿った講義
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布します。

【参考書】

授業において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

国といった大きな枠で語られると忘れがちですが、法制度や政治というものは本来極めて身近で、我々の日常生活の中にあるものです。授業を通して、より皆さんにそのこと、その「面白さ」を感じてもらえるような話ができるように努めたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用及びオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

教員は、25年以上にわたり衆議院で勤務しており、この間、議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わってきました。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例としては、安全保障関連法案、違法伐採、外国人政策（入管法改正）、旧統一教会問題、旧優生保護法問題、選択的夫婦別氏制度などがあります。）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

授業は基本的に対面で行いますが、仕事の関係でオンライン（オンデマンド）に切り替えることがあります。いずれの場合も、授業の内容は配信する予定です。

【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC（政治学 / Politics 300）

現代政策学特講Ⅱ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが学んでいる法制度は、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。

本科目は、法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して立法学の全体像を俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかにして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅱでは、議会（国会）における議論・調整を通じた法制度の形成過程から分析します。

【到達目標】

政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットとしての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を（誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで）動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立ってても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	選挙制度概論	テーマに沿った講義
第3回	比較選挙制度論	テーマに沿った講義
第4回	選挙制度と二院制	テーマに沿った講義
第5回	日本の選挙制度改革の歴史と方向性	テーマに沿った講義
第6回	議会制度概論	テーマに沿った講義
第7回	立法過程論	テーマに沿った講義

第8回	立法過程と二院制	テーマに沿った講義
第9回	日本の立法の量的・質的分析	テーマに沿った講義
第10回	立法の今日的課題	テーマに沿った講義
第11回	事例研究（1）	具体的な法律の立法過程の分析
第12回	事例研究（2）	具体的な法律の立法過程の分析
第13回	事例研究（3）	具体的な法律の立法過程の分析
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布します。

【参考書】

授業において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

国といった大きな枠で語られると忘れがちですが、法制度や政治というものは本来極めて身近で、我々の日常生活の中にあるものです。授業を通して、より皆さんにそのこと、その「面白さ」を感じてもらえるような話ができるように努めたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用及びオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

教員は、25年以上にわたり衆議院で勤務しており、この間、議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わってきました。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例としては、安全保障関連法案、違法伐採、外国人政策（入管法改正）、旧統一教会問題、旧優生保護法問題、選択的夫婦別氏制度などがあります。）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

授業は基本的に対面で行いますが、仕事の関係でオンライン（オンデマンド）に切り替えることがあります。いずれの場合も、授業の内容は配信する予定です。

【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC (政治学 / Politics 300)	
外国書講読 (朝鮮語) I	
崔 先鎬	
授業形式：講義	開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。この科目を受講するには、「母語使用者以外で第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包含し、文書講読の練習を行います。また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	(前期)レベルテスト・オリエンテーション	レベルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。必要に応じてノートを取る。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

尹亨仁 編『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』三省堂、2024年 (紙の辞書を必ずご用意ください。) その他、コピーを配布いたします。(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。また、必要な場合はWeb上の文書にて対応する場合があります。)

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点；受講態度 (授業内での発表40%) + 提出物 (リアクションペーパー・試験の答案60%)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【学生が準備すべき機器他】

紙の辞書 (日韓・韓日兼用のポケット版)・大学ノート・黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【その他の重要事項】

スマートフォンなどの電子機器はカバンの中に仕舞うこと。

【Outline (in English)】

By this lecture, the consider about Japanese & Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis. Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

POL300AC (政治学 / Politics 300)

外国書講読（朝鮮語）Ⅱ

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。
この科目を受講するには、「母語使用者以外で第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。
語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包含し、文書講読の練習を行います。
また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。
課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	（後期）レヴェルテスト・オリエンテーション	レヴェルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。
必要に応じてノートを取る。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

尹亨仁 編『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』三省堂、2024年（紙の辞書を必ずご用意ください。）

その他、コピーを配布いたします。
（必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。また、必要な場合はWeb上の文書にて対応する場合があります。）

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点；受講態度（授業内での発表40%）＋提出物（リアクションペーパー・試験の答案60%）

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【学生が準備すべき機器他】

紙の辞書（日韓・韓日兼用のポケット版）・大学ノート・黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【その他の重要事項】

スマートフォンなどの電子機器はカバンの中に仕舞うこと。

【Outline (in English)】

By this lecture, the consider about Japanese & Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis.
Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（1）－1

文 景楠

授業コード：A2212 | 曜日・時限：火5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アリストテレスの倫理学は「徳倫理学」と呼ばれ、現代倫理学においても重要な参照点となっている。この講義では、『ニコマコス倫理学』および『エウデモス倫理学』の関連テキストを合わせて読みながらその内実と影響を概観する。また、文献読解の技法や近年の研究動向にも同時に言及することで、ギリシア哲学研究全般への導入となることも目指す。

【到達目標】

アリストテレス倫理学と関連する主要な論点を、関連するテキストを読み解きながら説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

レジュメを配布し講義形式で進めるが、若干のグループワークを行うことがある。毎回リアクションペーパーの提出を求め、最終回には事前にテーマを通知したうえで2000字程度のレポートを授業時間内に完成させ提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容と評価基準の紹介
2	ギリシア哲学研究の現場	現代的な研究方法の紹介
3	アリストテレスという人物	アリストテレスの生涯とそれを知るための資料
4	アリストテレス著作集	著作集の構成と伝承
5	アリストテレス倫理学への誘い	幸福を理解する
6	徳の諸相	中間と選択
7	行為・実践的推論・アクラシア	善い人間になるための倫理学
8	二つの『倫理学』1	『ニコマコス倫理学』と『エウデモス倫理学』をめぐる文献学
9	二つの『倫理学』2	『ニコマコス倫理学』と『エウデモス倫理学』の哲学的な相違点
10	ギリシア文化におけるアリストテレス倫理学の位置づけ	アリストテレス倫理学の（非）普遍性
11	現代徳倫理学の諸論点1	徳倫理学の復興
12	現代徳倫理学の諸論点2	徳倫理学の危機
13	現代徳倫理学の諸論点3	応用される徳倫理学
14	まとめ	レポート作成と授業内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を復習し、紹介する著作を各自の関心に応じて読むこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。教員が授業中にレジュメを配布する。

【参考書】

講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 毎回のリアクションペーパー（60%）② 期末レポート（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は該当なし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Aristotle's ethics, often referred to as "virtue ethics," remains an important point of reference in contemporary ethical theory. This course provides an overview of his ethical thought and its influence through a close reading of relevant passages from the Nicomachean Ethics and the Eudemian Ethics. At the same time, by addressing methods of textual interpretation and recent trends in scholarship, the course also aims to serve as an introduction to the study of Greek philosophy.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to explain the major issues in Aristotle's ethics through close reading of relevant texts.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the course content and read the works introduced in class according to their individual interests. Before and after each class meeting, students are expected to spend approximately four hours preparing for and reviewing the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: 1. response papers for each class: 60%, 2. Term-end paper: 40%

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（1）－2

山下 真

授業コード：A2213 | 曜日・時限：水4/Wed.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは、「ヤスパーズ：実存と理性の哲学」です。
20世紀ドイツの哲学者、カール・ヤスパーズは、生涯を通じて極めて広大な思想を提示しましたが、その全体的性格は〈実存〉と〈理性〉という二つの主要概念によって特徴づけることができます。

〈実存 Existenz〉とは、特定の状況の内に現に巻き込まれている、有限な〈個〉としての自己、私たち一人一人の存在のことです。現実を生きる人間は、偶然や死、争いや責めといった、不条理で避けることのできない〈限界状況 Grenzsituation〉に直面し、自らの在り方を鋭く問われます。前期のヤスパーズは、そうした〈実存〉としての主体の生成を捉え、独自の〈実存哲学〉を確立しました。キルケゴールやニーチェの影響のもと、20世紀に大きな潮流を形成した実存思想。ヤスパーズはその先駆けにして、ハイデガーらと並び称される代表者の一人でした。

しかし成功からほどなく、ドイツではナチスが政権を掌握。妻がユダヤ人だったヤスパーズも迫害されて大学を追われ、長い忍従生活を強いられた末に、終戦を迎えて生き延びます。もともと実存同士の〈交わり Kommunikation〉を重視していたヤスパーズは、全体主義の脅威を経験したことから、より積極的に、多様な他者たちへと開かれた共同性を構想。その鍵となったのが〈理性 Vernunft〉の概念でした。戦後の後期ヤスパーズの立場は、実存に根差した〈理性の哲学〉だと言えます。

受講者は、こうしたヤスパーズ哲学の統一的な展開過程、および多面的な全体像を学び、その独自性と可能性を考察することで、現代哲学の一側面への理解を深めることとなるでしょう。

【到達目標】

- 受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。
- ① ヤスパーズ哲学の基本概念と全体構想、および彼の思考の特質を学ぶ。
 - ② 哲学的伝統や現代の実存思想、20世紀の社会状況との関連を視野に入れ、ヤスパーズの思考を導いた問題意識を理解する。
 - ③ 現代に生きる自分たちにとって、実存および理性という概念が持つ、意義と可能性を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、ヤスパーズが思考した中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えています。
受講者には、出席票を兼ねたリアクションペーパーで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ヤスパーズ哲学の展開とその時代	講義の概要と導入
第2回	〈存在の探求〉と実存	実存思想の歴史的背景と位置づけ
第3回	〈状況内存在〉からの出発	実存的思考の発生とその根本動機
第4回	実存と〈限界状況〉(1)	〈実存〉概念の含意と限界状況論の概要
第5回	実存と〈限界状況〉(2)	実存的自由の遂行と〈瞬間〉の思想
第6回	〈実存的交わり〉の論理	他者の存在との共同的自己生成
第7回	〈哲学的世界定位〉の意味	科学知の特性とその限界の露呈
第8回	暗号の形而上学 (1)	存在全体の問いから形而上学への超脱
第9回	暗号の形而上学 (2)	超越者とその暗号解読という概念
第10回	形而上学的〈責め〉	ヤスパーズの戦争責任論とその意図
第11回	〈哲学的論理学〉と理性	包括者論と理性概念の基本特徴
第12回	理性と全般的交わり	実存的交わりから理性的交わりへの拡張
第13回	原子爆弾と人間の未来	ヤスパーズの原爆論とその射程
第14回	実存の多元性と理性的思考	講義の総括と展望、および期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回4時間以上が標準とされています）。

各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しません。

【参考書】

ヤスパーズの主要著作の邦訳は、『哲学』全3巻（創文社）や『ヤスパーズ選集』全37巻（理想社）などで読めます。高価・入手難のものが多く、まずは図書館を利用してください。

また、さしあたりの概説的な書物として、宇都宮芳明『人と思想 ヤスパーズ』（清水書院）、重田英世『人類の知的遺産 ヤスパーズ』（講談社）、中山剛史『ヤスパーズ』（野家啓一編『哲学の歴史 第10巻 危機の時代の哲学』中央公論新社、第IV章）、以上三点を挙げておきます。

その他の文献は、授業内で配布資料に掲載して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびリアクションペーパーでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50％）と、筆記による論述形式の期末テスト（50％）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な事例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学史的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。リアクションペーパーへの応答は参考になるとの声が多いので、各回時間を取って対応しています。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals Karl Jaspers' philosophy. His thoughts can be characterized by two central concepts of 'existence' and 'reason' (Existenz und Vernunft). The student will obtain basic knowledge about the development and originality of Jaspers' philosophy.

[Learning Objectives]

The goals of this course are

- (1) to learn basic knowledge about the outline and concepts of Jaspers' philosophy.
- (2) to understand the contemporary potential of the concepts of existence and reason.

[Learning activities outside of classroom]

Before/ after each class meeting, students will be expected to have read the teaching materials and reference books. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria]

Grading will be decided based on usual performance score (50%), and term-end examination (50%).

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (3) - 1

佐藤 真人

授業コード：A2216 | 曜日・時限：木3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デカルトにとって真理は自然に知られるものであり、われわれが理性によって「自然な推論」さえすれば真理には容易に到達できるとデカルトは考えていました。一方で『省察』には、「自然の教え」には誤りが含まれることが述べられています。また『方法序説』には、自然学の知識によってわれわれは「自然の主人にして所有者」になることが可能という有名な一節があります。

自然についてのこれらの言説にはまるで一貫性がないように見えますが、デカルトにとって自然とはいったい何だったのでしょうか。デカルト哲学における自然本性 nature の思想がもつ多義的な意味と内実を、哲学史の流れの中に位置づけながら考えることが本講義の目的です。

【到達目標】

デカルトにとって自然（本性）とは何かという問題を、自然本性概念の哲学的な発展の中で考察・議論・論証することが授業の狙いです。具体的な到達目標は以下の通り。

- ① 西洋近世までの自然本性の概念形成史を理解する。
- ② デカルト哲学における自然本性概念を正確に理解にし、自然本性とは何かを考察・説明できる。
- ③ 理解・学習・考察した内容を基に文献を調べて問題を探究し、論理的な議論を構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で、配布テキストとスライド資料（またはレジュメ）を用いつつ説明するので、必ず事前にテキストを読むこと。

授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー（小レポート）を毎回提出していただき、優れたものは次回授業で共有・コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業上の注意／『方法序説』第二部での「自然な推論による真理認識」について
第2回	ソクラテス以前の自然本性概念と、プラトンにおける自然本性とアイデア	ヘラクレイトス等／『パイドロス』『国家』『法律』等
第3回	プラトンの宇宙論と、アリストテレスの自然学と人間の自然本性についての学	『ティマイオス』／『自然学』『政治学』等
第4回	ストア派とエピクロスの理論	世界と魂の自然本性とは何か
第5回	キリスト教神学思想の波	アウグスティヌスとトマス・アクィナスによる自然本性の思想
第6回	自然法とは何か：トマスとスアレス	『神学大全』『形而上学討論』等における自然本性概念
第7回	若きデカルトの認識論と自然研究	『音楽提要』『規則論』『世界論』等における自然本性概念
第8回	『真理の探究』『方法序説』と『屈折光学』	自然な推論による真理認識とその実践利用について
第9回	『省察』	三つの自然本性と「人間の本性の弱さ」について
第10回	『情念論』と「エリザベト宛書簡」	人間本性の自然学的解明と道徳的対策
第11回	パスカルと『ポール・ロワイヤル論理学』	自然状態の尊厳と悲惨について
第12回	スピノザ『エチカ』	「神または自然」と人間の自然本性について
第13回	ライプニッツの哲学	世界と人間の自然本性の考察
第14回	カントとドイツ観念論	継承と批判、そして再びデカルトへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がもっと深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、もっと知りたいという思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Hoppii 上またはコピーで配布予定。

とりわけデカルト『方法序説』『省察』、パスカル『パンセ』、スピノザ『エチカ』、ライプニッツ『形而上学叙説』『モノドロジー』を中心に考察予定（購入は任意ですが、いずれも持っておいて損はありません）。

【参考書】

G・ロディス・レヴィス『デカルトの著作と体系』、紀伊国屋書店、1990年
 野田又夫『デカルト』、岩波新書、1966年

小林道夫『デカルト哲学の体系』、勁草書房、1995年

福居純『デカルト研究』、創文社、1997年

上野修『デカルト、ホッブズ、スピノザ』、講談社学術文庫、2011年

— 『哲学者たちのワンダーランド』、講談社、2013年

スタンフォード哲学百科事典: <https://plato.stanford.edu/index.html>

その他は授業で適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーの内容や参加姿勢）約40%、期末試験（またはレポート）約60%の割合で、到達目標の達成度合いに応じて成績評価します。

なお、欠席4回で不可ですので注意してください（事情がある場合は要相談）。

【到達目標】欄の事項の達成度合いが評価基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

・進捗状況に応じて、関連する他の著述を読む可能性もあり、授業の順序や内容は多少変わる場合もあります。

・パソコン・携帯電話等の電子機器は使用禁止です。必ず手でノートを取ってください。

・体調不良等の事情がある場合を除き、授業途中の入退室は認めませんので、充分注意してください。

【Outline (in English)】

For Descartes, truth is something that is naturally knowable, and he maintains that we can readily attain it, provided that we engage in “natural reasoning” through the proper exercise of reason. At the same time, however, the *Meditations* acknowledges that the “institution of nature” may contain some errors. Furthermore, in the *Discourse on the Method*, one encounters the well-known claim that, by means of the knowledge afforded by natural philosophy, human beings may become “masters and possessors of nature.”

Taken together, these various statements concerning nature appear, at least prima facie, to lack coherence. What, then, is meant by “nature” in Descartes’ thought? The purpose of this course is to examine the polysemous meanings and the concept of nature within Cartesian philosophy, situating it within the broader trajectory of the history of philosophy and thereby clarifying its systematic significance. Students are expected by the end of the course 1) to understand and examine precisely the philosophies of Descartes concerning nature, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through reading of relevant literature and discussions with others, 3) to construct logically their arguments based on evidence and to explain and demonstrate them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 40%, Term-end report: 60%.

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（3）－2

古屋 俊彦

授業コード：A2217 | 曜日・時限：火5/Tue.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。ソシュール自身が書いた草稿も合わせて読む。

構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。更に構造主義思想の具体的な展開を知るためにデュルケムとモースとレヴィ＝ストロースの著書を参照する。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講義を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトで提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点を検討して次の回に返答する。受講報告についても同様に次の回に詳しく返答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して講義と同時に開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第2回	まえおき その1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第3回	まえおき その2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係、比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第4回	まえおき その3	デュルケム、モース、レヴィ＝ストロースなどの構造主義思想の展開
第5回	『一般言語学講義』序論	言語学の歴史、素材、対象、ラングとパロール、外的要素と内的要素、文字、音韻論
第6回	『一般言語学講義』第1部 一般原理	言語記号、不変性と可変性、静態言語学と進化言語学
第7回	『一般言語学講義』第2部 共時言語学	ラングの実態、自己同一性と価値、連辞と連合、ラングの仕組み、文法と下位区分、文法の抽象的実体
第8回	『一般言語学講義』第3部 通時言語学	音声的变化、文法的帰結、類推、民間語源、膠着、通時的単位
第9回	『一般言語学講義』第3部と第4部への付録	主体的分析と対照的分析、語源論
第10回	『一般言語学講義』第4部 言語地理学	言語の多様性、地理的多様性の複合化
第11回	『一般言語学講義』第4部 言語地理学	第1章から第2章 地理的多様性の原因、言語的な波の伝搬
第12回	『一般言語学講義』第5部 回顧的言語学の諸問題	最古の言語と原型、再建
第13回	『一般言語学講義』第5部 回顧的言語学の諸問題	人類学と先史学での言語の証拠、語族と言語類型
	第4章から第5章	

第14回 ソシュール自身の草稿 一般言語学講義メモなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直ししながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一般言語学講義』フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、3500円

【参考書】

フェルディナン・ド・ソシュール「一般言語学」著作集、岩波書店
エミール・デュルケム『社会学的方法の規準』、岩波文庫
マルセル・モース『贈与論』、岩波文庫
それ以外は、授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文60%

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。

平常点40%

毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline (in English)】

(Course outline)

Reading of the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure in japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.

(Learning Objectives)

Understanding the fundamental concept concerning essence of language in the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure, and as a background knowledge, the history of linguistics of 19 and 20 century, and the influences to the contemporary thinking especially the structuralism. On the assumption of that, the continuous exercise is writing and polishing of the essay on the own thinking about the language.

(Learning activities outside of classroom)

Reading of the concerned text in advance of each lecture, and extracting the phrases that is obscure. At the same time, try to write and polish of the essay continuously.

(Grading Criteria /Policies)

writing and polishing of the essay concerning language: 60%
short reports to each lecture: 40%

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (4) - 1

菅沢 龍文

授業コード：A2218 | 曜日・時限：火3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カントの『たんなる理性の限界内の宗教』を通じて、「理性信仰」による人類の道徳的宗教について、カントがどのように考えたのかを知る。これにより、宗教のあり方について、宗教への多様な関心に従って考えを深める。

【到達目標】

次の3点を到達目標とする。

- ①カントの宗教論の特徴を説明できる。
- ②カントの宗教論の内容を論議できる。
- ③カントの宗教論の意義を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- (1) 受講者は、事前に学習支援システム (Hoppii) で配布される教材・資料に目を通しておきます。
 - (2) 授業の最初に、前回の復習により、自分の理解を確認します。
 - (3) 次に、当該回の授業を受け、授業課題について考察します。
 - (4) 最後に、授業課題の考察を作文にして、学習支援システムで提出します。
- (提出された課題作文は無記名・順不同の形で、課題作文集としてパスワード付PDFで学習支援システムを通じて配布され、次回の復習に役立てられます。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(1)オリエンテーション (2)道徳から宗教へ	(A)本授業について (B)理性的宗教 (1)最高善 (2)神の存在証明 (3)純粋な理性宗教
第2回	悪への性癖	テキスト第1編 (1)性善説と性悪説 (2)善への根源的素質 (3)悪への性癖
第3回	人間本性の悪の起源	テキスト第1編 (1)根本悪 (根元悪) (2)悪の根拠 (3)悪の起源
第4回	恩寵の作用	テキスト第1編 (1)人間の根源的素質 (2)考え方の革命 (3)よき生き方の宗教
第5回	善の原理	テキスト第2編 (1)善の原理の人格化 (2)神の御子の理念 (3)3つの困難と解決
第6回	悪の原理との戦い	テキスト第2編 (1)悪魔および悪の国 (2)一個の人格、イエス (3)道徳的結末、迫害

第7回	奇跡	テキスト第2編 (1)歴史の序曲：奇跡 (2)2種類の奇跡 (3)科学や道徳と奇跡
第8回	倫理的公共体	テキスト第3編 (1)倫理的公共体 (2)人類の人類自身に対する義務 (3)純粋宗教信仰
第9回	善の原理の支配	テキスト第3編 (1)ユダヤ教とキリスト教 (2)普遍的な世界宗教 (3)神の国
第10回	神秘	テキスト第3編 (1)自由と神秘 (2)神の三つの位格 (3)三位一体論と神秘
第11回	神への奉仕	テキスト第4編 (1)自然的宗教 (2)学識的宗教 (3)真の奉仕と偽奉仕
第12回	神への偽奉仕	テキスト第4編 (1)宗教妄想 (2)聖職制 (3)良心の要請
第13回	恩寵の手段	テキスト第4編 (1)儀式 (2)キリスト教とマホメット教 (3)妄想信仰
第14回	カントによる人類の道徳的宗教の意義について	全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の前には、学習支援システム (Hoppii) にアップされた教材・資料に目を通して、あらかじめ授業内容について考えておく (2時間)。授業後には、授業内容を復習し、課題について考えたことを作文として、学習支援システムで提出する (2時間)。

【テキスト (教科書)】

カント『たんなる理性の限界内の宗教』(北岡武司訳、岩波書店・カント全集10)

※ネット書店を通じてオンデマンドで入手可能 (岩波オンデマンドブックス、¥7920)。

なお、入手しなくても、授業で配布するプリント (PDF) によりテキストが紹介されるので大丈夫です。

【参考書】

- 高峯一愚『カント講義』(論創社)
 - ※本書で、カントの宗教論を読み解くための前提となる基礎知識が得られる。
 - 有福孝岳／牧野英二[編]『カントを学ぶ人のために』(世界思想社)
 - 牧野英二[編]『新カント読本』(法政大学出版局)
 - 浜田義文[編]『カント読本』(法政大学出版局)
 - 中島義道『カントの「悪」論』(講談社学術文庫)
 - 中島義道『悪について』(岩波書店・岩波新書)
 - 水見潔『カント哲学とキリスト教』(近代文藝社)
 - 量義治『宗教哲学としてのカント哲学』(勁草書房)
 - 宇都宮芳明『カントと神』(岩波書店)
- その他、適宜授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

3つの到達目標：

- ①カントの宗教論の特徴を説明できる。
 - ②カントの宗教論の内容を論議できる。
 - ③カントの宗教論の意義を評価できる。
- これらは、最終回の期末レポートにおいて評価されます。評価基準は次のとおり。

- (1) 参加の姿勢と、毎回の課題レポートの出来具合
 - (2) 最終回の期末レポートで確認された到達目標達成度
- (1)を70%、(2)を30%として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Through Kant's "Religion within the boundaries of mere reason" we will learn how Kant thought about the moral religion of mankind based on "rational belief (Vernunftglaube)". This will deepen our thinking about the nature of religion according to our diverse interests in religion.

【Learning Objectives】

The following three points are the learning objectives:

- ① Be able to explain the characteristics of Kant's theory of religion.
- ② Be able to discuss the content of Kant's theory of religion.
- ③ Be able to evaluate the significance of Kant's theory of religion.

【Work to be done outside of classroom】

Before class, students are required to read through the PDF of the class handout uploaded on the learning support system (Hoppii) and think about the class content in advance (2 hours). After class, they are required to review the class content, write an essay on what they thought about the assignment, and submit it on the learning support system (2 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Three Learning Objectives:

- ① Explain the characteristics of Kant's theory of religion.
- ② Discuss the content of Kant's theory of religion.
- ③ Evaluate the significance of Kant's theory of religion.

These will be assessed through the final report. The evaluation criteria are as follows:

- (1) Attitude toward class participation and the quality of work on each assignment report
 - (2) Degree of achievement of the learning objectives as confirmed in the final semester report
- (1) will account for 70%, and (2) will account for 30% of the overall evaluation.

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（４）－２

近堂 秀

授業コード：A2219 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イマヌエル・カントの哲学思想と現代の哲学思想との関係を検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

カントの主要著作を読み、関連文献を参照しながら、現代の哲学思想との関係を考察する。授業は講義形式で進め、課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第2回	カントの哲学思想(1)	カント哲学の概要
第3回	カントの哲学思想(2)	カントの理論哲学
第4回	『純粋理性批判』を読む(1)	『純粋理性批判』の内容
第5回	『純粋理性批判』を読む(2)	超越論的統覚
第6回	『純粋理性批判』を読む(3)	カントの自己意識論
第7回	カントの哲学思想(3)	カントの実践哲学
第8回	『実践理性批判』を読む(1)	純粋実践理性の根本法則
第9回	『実践理性批判』を読む(2)	カントの自由論
第10回	カントと現代の哲学思想(1)	カントと現象学、分析哲学、プラグマティズム
第11回	カントと現代の哲学思想(2)	ニーチェのカント批判
第12回	カントと現代の哲学思想(3)	ハイデガーのカント解釈
第13回	カントと現代の哲学思想(4)	カントからウィトゲンシュタインへ
第14回	カントの哲学思想の現代的意義	カントの自然化？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

牧野英二編『新・カント読本』、法政大学出版局、2018年。
 近堂秀『『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈——カントにおける知の非還元主義』、晃洋書房、2018年。
 トム・ロックモア『カントの航跡のなかで——二十世紀の哲学』牧野英二監訳、法政大学出版局、2008年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ30％と70％の割合で評価する。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容と理解度とのバランスを調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the philosophical problems of Kant and modern philosophy.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamental problems of Kant's philosophy.

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（5）－2

相原 博

授業コード：A2221 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の内容は、環境倫理学の基礎理論になります。環境倫理学は、人類の生き残りをかけた学問として、20世紀後半に誕生しました。現在、気候変動をはじめとする環境問題によって、地球は、私たち人間にとって生存困難な場所になりつつあります。環境問題を解決して、人類が生き延びるために、どのような考えが必要となるのでしょうか。これまで環境倫理学の研究者たちは、差し迫った環境問題と格闘しながら、さまざまな理論を作り出してきました。そこで授業では、環境倫理学の重要な諸概念や諸理論を紹介しながら、私たちが今のように生きるべきであるのか、環境に配慮した望ましい生き方について説明します。

【到達目標】

授業の目標は、環境問題を解決するために必要となる、環境倫理学の基礎的な知識を習得し、倫理的な判断力を高めることです。具体的には、以下の事柄の習得を目指します。

1. 環境倫理学にかんする重要な概念や理論を理解するとともに、それらを説明することができる。
2. 環境問題の現状を理解するとともに、問題を解決するためにどのように行為すべきであるか、自分で判断することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また授業ではグループで議論し、その結論を発表してもらいます。受講にあたって、自分自身で考えること、他の受講生と議論すること、授業で発言できることが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境倫理学とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第2回	環境倫理学の成立	20世紀後半に環境倫理学が成立した経緯について、説明する
第3回	環境倫理学者の貢献	環境倫理学の成立に貢献した人たちの考えについて、説明する
第4回	「自然」と「環境」という概念	環境倫理学において重要な役割を果たす、「自然」と「環境」の概念について説明する
第5回	「道徳上の地位」と「価値」という概念	環境倫理学において重要な役割を果たす、「道徳上の地位」と「価値」の概念について説明する
第6回	未来世代の道徳上の地位	未来の人間を道徳的に配慮することの問題について、説明する
第7回	未来世代を代表すること	未来の人間の必要や利益が守られるよう、現在の人間に責任があることについて、説明する
第8回	代表的な理論の紹介①（動物解放論および生命への畏敬の倫理）	行為の正しさを考えるための基本的な理論について、説明する
第9回	代表的な理論の紹介②（土地倫理および生命中心主義的な帰結主義）	引き続き、行為の正しさを考えるための基本的な理論について、説明する
第10回	持続可能な発展	「持続可能な発展」という概念の成立とその後の批判について、説明する
第11回	持続可能な発展目標（SDGs）	「持続可能な発展目標」の成立とその後の展開について、説明する
第12回	環境保護のための社会的かつ政治的な運動	環境倫理学と関連する、様々な環境保護運動について説明する
第13回	気候変動（地球温暖化）の倫理学	気候変動をめぐる様々な意見と環境倫理学者の考えについて、説明する
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読んでください。

復習：前回の授業内容を確認してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

加藤尚武『環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、1991年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、2005年
鬼頭秀一『自然保護を問なおす』、ちくま新書、1996年

【成績評価の方法と基準】

授業参加度および授業後のレポートの成績(40%)、学期末の授業内筆記試験の成績(60%)により評価します。
学期末の授業内筆記試験では、「到達目標」に記した事柄をどれくらい理解できているか、確認する問題を出す予定です。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline (in English)】

The content of this course is the basic theories of environmental ethics. Environmental ethics emerged in the latter half of the 20th century as a discipline dedicated to humanity's survival. Researchers in environmental ethics have grappled with urgent environmental issues while developing various theories. Therefore, this course will introduce key concepts and theories of environmental ethics while explaining how we should live now and what constitutes an environmentally conscious, desirable way of life.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Students understand key concepts and theories in environmental ethics and will be able to explain them.
- B. While understanding the current state of environmental problems, students will be able to independently determine how to act to solve them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%、Short reports and in class contribution: 40%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (6) - 1

大橋 基

授業コード：A2222 | 曜日・時限：木2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヘーゲルの『法の哲学』における「自由」と「国家」の関係を学ぶことを通して、市民生活と政治権力の両面から、現代政治の問題点を探る。

【到達目標】

「相互承認」論に基づいて考案された「自由」概念の哲学的な特徴を説明できる。

「国家」の存続・発展のために政府と市民が満たさなければならない条件を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウト・持参する、または、授業時に PC で参照する）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。

期末試験の評価に関しては、「学習支援システム」を用いて、提出者全体の回答傾向に応じた「総評」を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要・授業方法・成績評価の説明
2	ヘーゲル哲学の「悪評」とその由来	「反動プロイセン」と「ドイツ・ナショナリズム」の間隙
3	『法の哲学』の原理と構想	「自由の真実態」としての「相互承認」と「人倫の体系」
4	「客観的義務論」という倫理的視座	善悪の規定根拠としての「人倫共同体」
5	近代的現実に基づく「国家」の二重性格	「家庭」と「市民社会」に対する「国家」の関係
6	市民の「教養形成」とその限界	「私的欲望」から「仲間内の幸福」を経て「万人の福祉」へ
7	「自由の最高形態」としての「国家」	「市民社会」を政治統合へと立ち返らせる政府の諸条件
8	「愛国心」に値する「国家体制」	「権力分立」によって権力の私有化を予防する憲法体制
9	「君主権」における自然と精神の関係	「国家の統一意志の象徴」に成りうる者の条件と権限
10	「統治権」に向けられる不偏性請求	行政機関が満たすべき「組織運営」と「官僚倫理」
11	「立法権」としての議会における代表性の確保	集団の利害を具体化する「身分制議会」とその欠陥
12	「戦争」で問われる「国民の精神的健康」	「市民」に奉仕を義務づけうる「戦争」の諸条件
13	「国家」を支える「宗教的多元主義」	「物語」として認識される「政治的な自己犠牲性」
14	試験	ヘーゲルにおける「自由」と「国家」の関係に関する考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」にアップされている該当回の「講義用資料」を参照して、その要点や疑問点を整理し、授業のさいに確認・質問できるようにしておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間（計 4 時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

ヘーゲル『法の哲学』（I, II）中公クラシックス、2001 年、各 1650 円
 上記以外は、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、平常点 30 % の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppi や Zoom を利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic problem of Hegel's ethical thought in his "Philosophy of Right". On the one hand Hegel explained "the truth of freedom" as the mutual recognition between free persons, but on the other hand he represented the obedience to the modern state as "the highest form of freedom". In order to resolve this contradiction, Hegel expounded "the ethical community (Sittlichkeit)" such as domestic division of labor, professional organization, and political integration, as the instituted relationship of recognized agents, in which they verify the significance of their existence. However, does the Hegel's theory as above succeed to convince us? To answer this question, it deals with four themes as follow: 1. The concept of freedom and its realization forms as the ethical communities, 2. Two bases of the state as modern family and civic society, 3. The self-education (Bildung) of the citizen necessary to participate in politics, 4. Some requirements for the government which deserves patriotism. By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the possible relation between the people and the government in our present day. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（6）－2

君嶋 泰明

授業コード：A2223 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハイデガーの名著『存在と時間』においてもっとも重要でありながら、もっとも難解な（といって差し支えないであろう）2つの概念、「時間性」と「本来性」を取り上げ、それらの内実を再構成したうえで、それらのありうべき哲学史的背景についてもいくつかのことを明らかにします。

【到達目標】

- ①『存在と時間』における「時間性」と「本来性」の内実を再構成できる。
- ②授業で解説される両概念の哲学史的背景を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回レジュメを配布し、講義形式で授業を行います。授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業の冒頭でいくつかの質問に回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	授業の概要と再構成という方法についての説明
2	『存在と時間』①	時間性概念の再構成①
3	『存在と時間』②	時間性概念の再構成②
4	『存在と時間』③	本来性概念の再構成①
5	『存在と時間』④	本来性概念の再構成②
6	時間性の哲学史的背景①	新カント派のリッカート批判①
7	時間性の哲学史的背景②	新カント派のリッカート批判②
8	時間性の哲学史的背景③	フッサール現象学の受容①
9	時間性の哲学史的背景④	フッサール現象学の受容②
10	本来性の哲学史的背景①	アウグスティヌス解釈①
11	本来性の哲学史的背景②	アウグスティヌス解釈②
12	本来性の哲学史的背景③	アリストテレス批判
13	時間性の哲学史的背景⑤	アリストテレスによるパルメニデス批判の解釈
14	まとめ	授業の成果の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料や指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

適宜授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が50%、期末レポートが50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In Heidegger's major work Being and Time, we will take up two concepts that are arguably both the most important and the most difficult: "temporality" and "authenticity." After reconstructing their content, we will also clarify several points about the philosophical-historical background in which they can and should be situated.

【Learning Objectives】

1. Understand the content of "temporality" and "authenticity" in Being and Time.
2. Understand the philosophical-historical background of these two concepts as explained in the course.

【Learning activities outside of classroom】

As a general guideline, students are expected to spend about two hours each on preparation and review for this course. Please make an effort to understand the course content by using the handouts and any assigned reference materials, and ask questions whenever something is unclear.

【Grading Criteria /Policy】

Participation in class accounts for 50% of the grade, and the final paper accounts for the remaining 50%. The former will be assessed based on the content of the reaction papers, and the latter based on the extent to which the learning objectives stated above have been achieved.

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（7）－1

押山 詩緒里

授業コード：A2224 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、政治哲学者ハンナ・アーレント（Hannah Arendt, 1906-1975）の「真理と政治」（1967）というエッセイを用いて、人々の「あいだ」で見え隠れする様々な「真実」と「嘘」について考えます。

現代社会は、多くの「嘘」に覆われています。SNSでは虚実の入り混じった情報が飛び交い、ニュースで流れる政治家の言葉には様々な嘘が隠れています。国家権力やメディアによる「組織的な嘘」は、たんに「間違いである」というだけにとどまらず、出来事やそれに関わった人々の存在そのものを「無かったこと」にする構造を持っています。

しかし、そもそも正しい情報と虚偽の情報の違いはどこにあるのでしょうか。人々の主観の「あいだ」で構成される世界の中で、絶対的で客観的な「正しいこと」というものは存在するのでしょうか。もしも、その中でなんらかの真実性が見出されるとすれば、はたしてどのような形でしょうか。

本授業は、アーレントの政治哲学を学ぶことを通じて、真理と嘘について「自分の頭で他者とともに考える」ことを目的とします。

【到達目標】

- (1) 「哲学的思索」の訓練を通じて、論理的な思考力と、自分自身の問題と結びつける実践的な思考力を身につける。
- (2) アーレント哲学の基本的な知識を学ぶ。
- (3) 「真理」「嘘」「真実性」「事実性」といった哲学的テーマについて、受講者ひとりひとりが、自分自身の頭で考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は対面による講義形式で行います。
- ・学習支援システム（Webclass）を通じて、授業資料の提示を行います。
- ・毎回の授業でリアクションペーパー（ミニレポート）の配布と回収を行い、次の授業の冒頭でペーパーに対する回答やコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業概要 ・レジュメ、レポートの書き方について ・卒論の書き方について ・アーレントとは誰か？
第2回	「真理」とはなにか	・「真理」をめぐる哲学の歴史
第3回	「真理と政治」①	・「真理」と「政治」の対立構造
第4回	「真理と政治」②	・「理性の真理」と「事実の真理」
第5回	「真理と政治」③	・規定的判断と反省的判断
第6回	「真理と政治」④	・「歴史の事実」の非自明性
第7回	「真理と政治」⑤	・「嘘の語り手」による存在の隠蔽
第8回	「真理と政治」⑥	・「自分自身を騙す嘘」とはなにか
第9回	「真理と政治」⑦	・「事実のリアリティ」とはなにか
第10回	「真理と政治」⑧	・「真理を語る者」の政治的意義
第11回	アイヒマン裁判	・「悪の凡庸さ」と「自分自身を騙す嘘」の関係
第12回	現代の課題	・「手すりなき思考」の時代で生きるために ・全体の総括と質疑応答
第13回	授業のまとめ	
第14回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に、次回範囲のテキストを必ず読んでおくこと。
- ・本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・ハンナ・アーレント『真理と政治／政治における嘘』、引田隆也・山田正行訳、みすず書房、2024年
- ※上記の代わりに、下記の旧訳書を使用してもよい。
- ・ハンナ・アーレント『過去と未来の間——政治思想への8試論』、引田隆也・齋藤純一訳、みすず書房、1994年

【参考書】

- ・Hannah Arendt, *Between Past and Future : Eight Exercises in Political Thought*, introduction by J. Kohn, Penguin Classics, 2006.

- ・ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン——悪の陳腐さについての報告』、大久保和郎訳、みすず書房、2017年
- ・ジャック・デリダ『嘘の歴史 序説』、西山雄二訳、未来社、2017年
- ・重田園江『真理の語り手——アーレントとウクライナ戦争』、白水社、2022年

【成績評価の方法と基準】

期末試験・レポート（30％）、授業内レポート・レジュメ（30％）、平常点（40％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・哲学のテキストは、抽象的な表現や、難解な専門用語が多く用いられています。そのため、身近な事例などを挙げながら、具体的に分かりやすく説明するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

- ・毎回の授業後に、授業資料をWebclassにアップロードします。
- ・休講・補講情報などは、法政ポータル（Hoppii）を通じて通知します。
- ・各自確認するようにしてください。

【その他の重要事項】

- ・本授業は「自分自身の頭で哲学的思索の訓練」を行う場所です。そのため、レポート等における生成AIツールの使用を禁止します。
- ・受講希望者は、初回授業に必ず出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to consider the various "truths" and "lies" that appear and disappear in the "inter-subjectivity" of people, using the essay "Truth and Politics" (1967) by Hannah Arendt (1906-1975).

Modern society is covered with many "lies": SNS are filled with information that is a mixture of truth and falsehood, and the words of politicians on the news hide a variety of lies. Systematic "lies" by state power and the media are not only "wrong" but also cover up the very existence of the events and people involved in them.

What is the difference between correct and false information? In a world composed with inter-subjectivity, can there be an absolute and objective "truth"? If some kind of "truthfulness" can be found in the world, what form can it take?

The purpose of this course is to learn the philosophical way of "thinking for oneself with other people" through to study of political philosophy of Arendt.

【Learning Objectives】

- (1) Develop the ability to think independently through the practice of philosophical thinking.
- (2) Learn the basics of Arendt's philosophy.
- (3) Learn about truth, lies, truthfulness, and the reality of facts, from a political philosophical perspective.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講 (7) - 2

鶴澤 和彦

授業コード：A2225 | 曜日・時限：水5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カントと方法の問題 — 批判哲学はいかにして学として成立するか
本授業では『純粋理性批判』の「超越論的方法論」を講読しながら、純粋理性がどのような条件のもとで、学としての形而上学を成立させるのか、という「方法」の問題を学びます。弁証論が「理性の仮象」とその不可避性を解明したのに対し、方法論は(1)その反省を踏まえつつ、理性の正しい用法を「訓練」し、(2)理性の正当な目的を「基準」として定め、(3)学問全体を体系的に構築（建築術）し、(4)さらにそれを理性の歴史の見取り図のもとに位置づけます。

【到達目標】

受講生が本授業を通じて理解、適切に説明できることは、
(1)「批判」が単なる否定ではなく、学問の成立条件を与える根本作業であること、
(2)理論理性の限界と実践理性の要請との関係が、学の構想（体系性）と結びついていること、
(3)カントが「形而上学を学として可能にする」ためにどのような方法上の区別とルールを導入したかです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行われ、3回から4回に1度の割合でグループワーク（ディスカッションを含む）の時間を取ります。グループワークの目的は、授業内容が理解されているかを確認すること、ならびに、ディスカッションを通じて内容理解の深化を図ることです。課題の出題・提出、評価は、学習支援システムHoppii並びにWebclassを通じて行います。出席はWebclassで行います。質問・感想は各授業の教材欄にあるGoogle Formに記入してください。質問に対する解答は、次回授業時の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入：方法論の位置づけ	『純粋理性批判』全体構成（感性論・分析論・弁証論・方法論）を確認し、方法論が担う課題（「学としての形而上学」）を概説する。
第2回	「方法」とは何か：批判の意味	ドグマティズム／懐疑論／批判の三者を対比し、カントが「方法」を問題とする理由を整理する。弁証論から方法論への移行の論理を確認する。
第3回	純粋理性の訓練（1）：哲学の証明と数学の証明	哲学的認識の性格、定義・公理・証明をめぐる区別を検討し、「哲学は数学の方法を模倣できない」論点を把握する。
第4回	純粋理性の訓練（2）：論争的使用・仮説・反証	純粋理性の「論争的使用」、仮説の位置づけ、反証や批判の役割を検討し、理論理性の正当な運用規則をまとめる。

第5回	第1回グループワーク	第1～4回の論点整理（キーワード・定義・区別・結論）と質疑応答。短い本文講読にもとづき、論証の骨格をグループで再構成する。
第6回	純粋理性の基準（1）：理性の最終目的と実践的要請	「何を希望してよいか」という問いの位置づけ、理論理性の限界と実践理性の要請（自由・神・不死等）との関係を、方法論の文脈で整理する。
第7回	純粋理性の基準（2）：信念・知・意見、合理的信仰	知識・意見・信仰の区別、合理的信仰（道徳的確信）の意味を検討し、「基準」が理論的認識ではなく実践的指針として働く仕方を理解する。
第8回	純粋理性の体系構想（1）：体系性（学）とは何か	「体系」と「集合」の差異、理念による統一、学の構想としての形而上学を扱い、カントの学問観（体系性の必然）を整理する。
第9回	第2回グループワーク	第6～8回の論点を、(A)理論理性の限界、(B)実践的要請、(C)体系性、の三点から統合し、グループで質疑応答を行う。
第10回	純粋理性の体系構想（2）：形而上学の区分と批判の役割	超越論哲学／自然の形而上学／道徳の形而上学等の区分を整理し、批判が「学の予備学」として機能することを確認する。
第11回	純粋理性の歴史（1）：理性の自然史としての哲学史	理性の歴史叙述の意義、ドグマティズム→懐疑論→批判という見取り図を検討し、方法論が哲学史理解とも連動する点を押さえる。
第12回	純粋理性の歴史（2）：弁証論の成果と方法論の帰結	仮象の不可避性、理念の統制的使用、そして方法論における訓練・基準・建築術への接続を、全体として総括する。
第13回	まとめと発展：方法論から見た批判哲学の射程	「方法」「証明」「体系」「限界設定」という観点から、批判哲学の意義を再整理する。
第14回	第3回グループワーク	第9回から12回までの課題と授業内容に関する質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定した箇所のテキストを読み、理解できない点をまとめる。また、それに関連する哲学の諸概念を調べる。（2時間）
復習：再度テキストを読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認する。さらに質問があれば、Google Formに質問を記入してください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

原佑/渡辺二郎[訳]『純粋理性批判』下（平凡社ライブラリー、2005年）

【参考書】

原佑/渡辺二郎[訳]『純粋理性批判』上、中（平凡社ライブラリー、2005年）

【成績評価の方法と基準】

①平常点と毎回の課題プリント（到達目標の知識と態度の習得）、②セメスター末の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①と②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、カントの理論哲学の概念とその議論を的確に理解しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで休んでも、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされてありますので、Hoppiiから教材をダウンロードして、自習なさってください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システムHoppiiとGoogle Formを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

Google Form に入力する質問と感想の入力は任意です。また、授業時間内に Google Form を入力する時間も設けます。

【Outline (in English)】

How can critical philosophy be established as a science?

In this course, we will read and closely examine the “Transcendental Doctrine of Method” in Critique of Pure Reason in order to study the problem of “method”: under what conditions can pure reason make philosophy and metaphysics possible as a science? Whereas the Transcendental Dialectic elucidates “the illusion of reason” and its inevitability, the Doctrine of Method—building on that reflection—(1) disciplines the proper use of reason, (2) determines the legitimate ends of reason as its canon, (3) constructs the whole of knowledge systematically through its architectonic, and (4) situates this project within an overall perspective on the history of reason.

Assessment will be based on (1) participation points and the worksheet assignments submitted each class (to assess the acquisition of the knowledge and attitudes specified in the learning objectives), and (2) a final report at the end of the semester (to assess the acquisition of the skills specified in the learning objectives). Each component (1) and (2) counts for 50%, and students’ final grades will be determined through a comprehensive evaluation of both.

PHL300BB (哲学 / Philosophy 300)

哲学特講（8） - 1

木島 泰三

授業コード：A2226 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅰ」として履修。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初期近代哲学における実体・力・因果・意志」をテーマとする。取り上げる範囲はデカルトからヒュームまでの、いわゆる大陸合理論とイギリス経験論に属する哲学者たちの「実体」「力」「因果」および「意志」（あるいは「自由意志」）に関わる思想である。これらの概念はヒュームに至って徹底的な懐疑にさらされ、それを踏まえた見直しを受けて今に至るが、現代形而上学においてはこれらの概念の前ヒューム的な理解が様々な観点から注目され、存在論や自由意志論など多様な領域において復権の可能性が議論されている。本講義はこのような動向を念頭に置きながら、ヒューム前の初期近代哲学者たちがこれらの概念をどのように理解してきたのかを検討する（いずれの概念もさかのばれば古代から受け継がれてきた哲学的概念ではあるが、本講義ではさしあたりデカルト以降を検討の範囲とする）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：
(1) 講義で取り上げた哲学史の事項や哲学的諸問題について、概略的にてはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、上記の事項および諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後学習支援システムを通じて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、受講後学習支援システムから受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など
第2回	アリストテレスの自然観と近代自然観の対照／デカルト哲学の概要（その1）	初期近代哲学の前提となる自然観の変化の概要を中世まで支配的だったアリストテレス自然学との対照で概観し、次いで近代哲学の出発点とされるデカルト哲学の概要を示す
第3回	デカルト哲学の概要（その2）／デカルトにおける実体、自由意志、および力（その1）	引き続きデカルト哲学の全体像を概観し、続いてデカルトにおける実体、心身の因果、自由意志、および力などの概念を個別に見ていく
第4回	デカルトにおける実体、自由意志、意欲、および力（その2）	引き続きデカルトにおける今期の主題に関連する諸概念を、その後の思想との関わりも視野に入れながら検討する
第5回	マルブランシュの機会原因論における因果と意志	デカルト哲学を基礎にして独自の哲学体系を展開したマルブランシュの「機会原因論」を、因果性と意志の問題を中心に検討する
第6回	スピノザの無限実体論と平行論	デカルト哲学を基礎としながら、従来の神学的な思想を徹底的に批判したスピノザの哲学を取り上げ、まずは「無限実体」、続いて「心身平行論」を検討する
第7回	スピノザの意志論及び行為者因果説／ライプニッツにおける実体・因果・意志（その1）	引き続きスピノザ哲学を取り上げ、スピノザにおける人間を含む有限な個物の力および意志を「決定論的行為者因果説」と見なす見方を説明する。その後、スピノザ哲学に抗して伝統的哲学・神学的概念の保持を志した哲学としてのライプニッツ哲学を取り上げる。

第8回	ライプニッツにおける実体・因果・意志（その2）	前回に続き、ライプニッツの哲学を心身関係を中心に概観する。
第9回	ホッブズの唯物論の人間観と意志論、実体、因果	考察をイギリス経験論に移し、まずはデカルトの同時代人であるホッブズの意志論を含む人間観を、また次に、実体や因果に関する存在論的な考察を検討する。
第10回	ロックの経験論哲学における力・意志・実体	イギリス経験論の出発点であるロックの哲学の概要をたどった後、第一にロックの「力」と「自由意志」の問題、第二に「実体」概念の検討を行う。
第11回	パークリの唯心論における実体と意志	ロック哲学の一つの徹底としてのパークリの唯心論ないし観念論哲学の概要を、「実体」および「意志」の概念に着目しながらたどる
第12回	ヒュームにおける実体・因果・力・自由意志への懐疑（その1）	イギリス経験論の立場を懐疑論の方向へ徹底させた哲学者としてのヒュームの議論を取り上げ、実体・因果・力、自由意志に対するヒュームの懐疑論を検討する。
第13回	ヒュームにおける実体・因果・力・自由意志への懐疑（その2）／ヒュームの議論の検討	前回に続きヒュームの懐疑論的な論証を概観した上で、ヒュームの議論とその意図を、それ以前の哲学者たちの議論との対照で位置づける
第14回	現代の諸問題	これまで検討してきた議論が、現代分析形而上学や自由意志論争において様々な仕方でも再検討や復権の対象となっている状況を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムを用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に打つてもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1)の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う(30%)。加えて、期末レポートによる(2)の到達度の評価を行う(70%)。

【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、受講後学習支援システムにアクセス可能な端末が必要となる。講義資料をPDFファイルで配布する場合があります。PDFの閲覧ができる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じます。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

Our theme is "Substance, Power, Causality, and Will in Early Modern Philosophy".

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

PHL300BB（哲学 / Philosophy 300）

哲学特講（８）－２

中釜 浩一

授業コード：A2227 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「私」の哲学的分析

「私」という語は、誰もがごく普通に用いる人称代名詞である。だが、その語が一体何を指示しているのかは決して明らかではない。この問題を考えることは、「自己の正体と自己知の本性」の問題への一つのカギである。この問に対する現代の代表的哲学者達の見解を検討することで、「自己」の問題への洞察を深める。

【到達目標】

「私」に関する分析哲学的アプローチを理解することで、伝統的な「自己と自己知」に関する問題への現代的取り組みを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解答によって議論を進める。

授業の冒頭で前回の小課題の解説、質問・疑問への解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	自己と「私」
第2回	一人称（１）	アンスコム の議論（１）
第3回	一人称（２）	アンスコム の議論（２）
第4回	視点（１）	ネーゲル の議論（１）
第5回	視点（２）	ネーゲル の議論（２）
第6回	想像力と自己（１）	ウィリアムズの議論（１）
第7回	想像力と自己（２）	ウィリアムズの議論（２）
第8回	自己同定（１）	シューメーカーの議論（１）
第9回	自己同定（２）	シューメーカーの議論（２）
第10回	自己知（３）	エヴァンズの議論（１）
第11回	自己知（４）	エヴァンズの議論（２）
第12回	自己同一性（１）	パーフィットの議論（１）
第13回	自己同一性（２）	パーフィットの議論（２）
第14回	まとめ	「私」は何を指示するのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課された小課題をHoppii上で提出する。

言語哲学の種々の参考書を読んでおく。

本講義の準備復習時間は、毎回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

デカルト「省察」、パークリー「人知原理論」、ヒューム「人間本性論」、ウィトゲンシュタイン「哲学探究」、シューメーカー「自己知と自己同一性」、サール「マインド」など。

Qusassim Cassam (ed.)Self-Knowledge, Oxford Univ. Press.

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出70%、期末レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

従来型の講義と板書、および小レポートとその解説による説明が最も有効である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the Problems of the self approached by modern philosophers of language.

Learning Objectives: To acquire a deeper understanding of self and to learn more about methods of analytical philosophy.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write a short paper concerning the subject.

Grading Criteria: short reports: 70%, term-end report: 30%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸批評史A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：水4/Wed.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第2回	批評とは何か	その特徴について
第3回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第4回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第5回	森鷗外の評論	坪内逍遙との論争
第6回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第7回	高山樗牛の評論	作品と若者への影響について
第8回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第9回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第10回	自然主義の誕生	国木田独步、島崎藤村、田山花袋
第11回	言文一致運動	その過程の論争
第12回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第13回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第14回	大逆事件	石川啄木や徳富蘆花の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および [昭和篇] (岩波文庫)。(ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。)

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸批評史B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：水4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大正・昭和期の文学の概説	20世紀の西洋文学との比較
第2回	夏目漱石の批評	文明批評について
第3回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第4回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第5回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第6回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第7回	プロレタリア文学と新感覚派	関東大震災後の新たな潮流
第8回	小林秀雄の批評	日本における近代文芸批評の確立
第9回	戦時下の文学と言論	日本浪漫派と文学報国会
第10回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第11回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第12回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第13回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第14回	ポストモダンとその後	柄谷行人と加藤典洋について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

LIT200BC（文学 / Literature 200）

中国文芸史A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の古典小説について講義をする。中国でフィクションとしての本格的な小説が書かれるようになるのは唐代のことであり、それは「伝奇」と呼ばれた。本授業では、中国文学史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）に書かれた「小説」（正確には小説的なもの）について講義を行う。唐代伝奇の源泉となった、先秦から南北朝時代までの「小説」およびその土壌となった各時代の文化的背景について学ぶ。

【到達目標】

中国の先秦時代から南北朝時代までの古典小説史のアウトラインを把握する。また、各時代の代表的な作品を読解することを通して、古典小説の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な工具書を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受け付ける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国の古典小説と「小説」の原義についての概説
第2回	白話小説概説	明・清の時代に書かれた口語体の小説についての概説
第3回	小説前史（1）	神話（上）：中国の天地開闢神話とその特徴について
第4回	小説前史（2）	神話（下）：神話の時代の大洪水と大旱魃
第5回	小説前史（3）	諸子百家と漢代の賦：諸子百家による寓話と漢代の賦における小説的要素について
第6回	小説前史（4）	漢代の作とされる「小説」：中国古代の空想的地理書『山海経』をはじめとする、漢代の文献を読む
第7回	小説前史（5）	史伝の小説的要素：歴史文学として司馬遷の『史記』を読む
第8回	志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第9回	志怪小説（2）	志怪小説に見られる仙界訪問譚について
第10回	志怪小説（3）	志怪小説に見られる冥界訪問譚と仏教の影響
第11回	民間の物語詩	漢代から南北朝時代にかけて民間で歌われた、叙事的な物語詩を読む
第12回	志人小説	六朝時代に記録された著名人のエピソード集「志人小説」についての概説
第13回	男装の麗人の物語男装の麗人の物語	木蘭従軍故事について
第14回	春学期総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子化されたファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

- ・魯迅著；丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷 魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
- ・魯迅著；中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
- ・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
- ・大塚秀高著『中国古典小説史』（ちくま学芸文庫、2024）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture is focused on Chinese classical novels. It is not until the Tang dynasty that people started writing serious novels as fictional tales in China. They were called chuan-qi. In this course, the lecture will be given on novels (more accurately quasi novels) from the most ancient periods in the history of Chinese literature covering the periods from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and the Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). We will learn “novels” from Pre-Qin to the Northern and Southern dynasties and the underlying cultural background for each period, which formed the foundation for chuan-qi during the Tang period.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. understand the outline of the history of classical novels from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
- B. have knowledge of the various genres of Chinese classical novels through reading representative works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
- C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

中国文芸史B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の古典小説のうち、唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説について概説する。日本人にとって馴染みのある中国の小説といえば、明代に成立した『三国志演義』や『水滸伝』『西遊記』などがまず想起されるであろうが、これらはいずれも当時の白話（＝話し言葉）で書かれた小説である。それに対して伝奇は、文言（＝書き言葉）で書かれており、漢文訓読による読解が可能である。唐代伝奇は昔から日本人に広く読まれており、日本の古典文学・近代文学に対する影響も大きい。本授業では、個々の作品の読解を通して、唐代伝奇が内包する文学性を探るとともに、その土壌となった当時の社会・文化背景について学ぶ。

【到達目標】
唐代小説史のアウトラインを把握する。また、唐代伝奇を鑑賞する力を身につける。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な文献を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受け付ける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	唐代伝奇についての概説
第2回	唐代伝奇（1）	唐代伝奇の先駆的な作品である「補江総白猿伝」を読む
第3回	唐代伝奇（2）	魂が肉体を離れて駆け落ちをした女性の話「離魂記」を読む
第4回	唐代伝奇（3）	象の恩返しの話「安南獬者」を読む
第5回	唐代伝奇（4）	成語「黄粱一炊の夢」の出典として知られる「枕中記」を読む
第6回	唐代伝奇（5）	狐の妖女と人間の男性との恋愛を描いた「任氏伝」を読む
第7回	唐代伝奇（6）	『雨月物語』の「夢応の鯉魚」や、太宰治「魚服記」の粉本として知られる「薛偉」を読む
第8回	唐代伝奇（7）	妓楼の高級娼婦と名門の御曹司との恋愛譚「李娃伝」を読む
第9回	唐代伝奇（8）	民間信仰「運命の赤い糸」の源泉として知られる「定婚店」を読む
第10回	唐代伝奇（9）	男装した女性による敵討ちの話「謝小娥伝」を読む
第11回	唐代伝奇（10）	中島敦「山月記」の粉本として知られる「李徴」を読む
第12回	唐代伝奇（11）	科挙の受験生と堅気の女性との恋愛譚「鶯鶯伝」を読む
第13回	唐代伝奇（12）	芥川龍之介による翻案で知られる「杜子春」を読む
第14回	唐代伝奇（13）	トイレの神様に取り憑かれた男の話「李赤伝」を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次の週に読む作品を前の週に配布するので、授業前に必ず読んでおく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子化されたファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】
・岡本不二明著『「李娃伝」と鞭 唐宋文学研究余滴』（汲古書院、2015）

・溝部良恵著『中国古典小説選6 広異記・玄怪録・宣室志 他』（明治書院、2008）
・黒田真美子著『中国古典小説選5 枕中記・李娃伝・鶯鶯伝他』（明治書院、2006）
・成瀬哲生著『中国古典小説選4 古鏡記 補江総白猿伝 遊仙窟』（明治書院、2005）
・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
・鲁迅著；中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
・鲁迅著；丸尾常喜訳注『中国小説の歴史の変遷 鲁迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: Amongst other Chinese classical novels, this course provides an overview of short novels called *chuan-qi* written during the Tang dynasty. Speaking of Chinese novels familiar to Japanese, you will be reminded of Romance of the Three Kingdoms, Water Margin, and Journey to the West all published during the Ming dynasty. These are all novels written in vernacular Chinese (=spoken language). In contrast, *chuan-qi* were written in literary language (=written language), which can be understood in kanbun. *Chuan-qi* during the Tang dynasty were broadly read by Japanese from ancient times and significantly influenced Japanese classical and modern literature. In this course, we will explore the literary qualities contained in *chuan-qi* during the Tang dynasty and learn about the underlying social and cultural background through reading individual works.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:
A. understand the outline of the history of classical novels in the Tang dynasty;
B. acquire the ability to appreciate *chuan-qi*.; and
C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT300BC (文学 / Literature 300)

書誌学

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2566 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

本授業では、書誌学の基礎を講ずるとともに、くずし字解読を行い、翻刻の基礎力を養います。

書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことからについて講義します。

・授業の目的

日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界と一緒に眺め学んでゆきましょう。書誌学を学び和本の知識をもつことは、将来、学芸員や司書、その他、本や文化財に携わりたいというかたにおおいに役立ちます。また、今日の本や出版の文化への理解を深めることにもつながります。

【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。

・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・授業各回において、まず書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解読（翻刻）作業を行います。次いで、日本古典籍書誌学の基礎的事項を講義してゆきます。

・くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。書誌学についてはパワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

・受講生の数によって、授業内容に若干の変更が生ずることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第2回	装訂の様々	・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第3回	写本の姿（1）	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第4回	写本の姿（2）	・転写本における「写す」方法と特徴について
第5回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第6回	料紙について（1）	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第7回	料紙について（2）	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第8回	版本の歴史（1）	・版本の種類に関する概説 ・中世までの印刷の歴史について
第9回	版本の歴史（2）	・キリシタン版について ・古活字版の特徴と種類について
第10回	版本の歴史（3）	・古活字版から整版本への移行について
第11回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第12回	本の顔かたち（1）	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて

第13回	本の顔かたち（2）	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第14回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
- ・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】

- ・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）
 - ・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）
 - ・橋口侯之介『和本入門』『続和本入門』（平凡社、2005年・2007年）
 - ・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）
- このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（70%）に、平常点（30%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者は、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Shoshigaku* ("bibliography") is the study of books. This course deals with the basic concepts of bibliography.

Learning Objectives: The purposes of this course are as follows:

- (1) to master basic knowledge of classical Japanese bibliography
- (2) to understand the culture of books

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); performance in class (30%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

メディアと社会

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2568 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？表現とは何か？という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

Relationship between media and society

【到達目標】

社会的制度から創作とは何を考えるのが目的です。また情報技術の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメント付きの出席をとります。コメントはHOPPIIを用いて提出してもらいます。コメントの内容については授業時に適宜、御紹介いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話しします。(中沢けい)
第2回	韓国文学を紹介する。	近年、韓国の文化、芸術は多方面にわたり注目を集めています。そのなかから日本での韓国文学の受容についてお話いただきます。
第3回	同上	金承福講師（クオン主催者）
第4回	海外の著作権取得について	翻訳書を作る時、海外から著作権を取得します。それはどのような作業なのでしょう。
第5回	同上	山口和人講師（元講談社文芸局勤務）
第6回	アニメーションをプロデュースする。	多様な人が関わるアニメーション制作の現場でのプロデュースについてお話いただきます。
第7回	同上	石井龍講師（アニメーションプロデューサー）
第8回	文学フリマを運営する	文芸作品の展示即売会「文学フリマ」の歴史と役割について、文学フリマ事務局代表にお話をさせていただきます。
第9回	同上	望月倫彦講師（文学フリマ事務局代表）
第10回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第11回	同上	安田浩一講師（ノンフィクション作家）
第12回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第13回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之講師（建築家、小説家）
第14回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用するのでファイルしておいて下さい。

【参考書】

講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

「配分 (%)」：レポート 30% 平常点 70%

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意ください。

中沢けい

小説家、1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Literary creation is not an activity isolated from society; on the contrary, literary works are situated within society. In this course, students will learn about the issues involved in literary creation and written expression in society.

Learning Objectives: The objective is to consider what creation means from the perspective of social systems and institutions. The course will also provide hints for considering the changes that shifts in information technology are bringing to the media.

Learning Activities Outside of the Classroom: We will invite lecturers who are active in the forefront of the field to speak to us. Please be sure to read the lecturers' publications. Standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (70%); report (30%). The criteria are active class participation and insightful report content.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

表現と著作権A

平井 彰司

夜間時間帯

授業コード：A2584 | 曜日・時限：火5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権の歴史と権利の淵源を概観し、著作権法を読み解くことを通じて、著作権思想の全体像をつかむ。著作権の基礎を学習して、著作権と社会との関係がテーマの秋学期へと繋ぐ。

【到達目標】

我が国著作権法の主要な規定について、その内容と効用を習得することを目指す。併せて文学部生に求められる法秩序の基本を理解し、法律の記述ルールや条文読解のポイントを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講者が法律学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	文学部生が身につけるべき著作権理解について考える。
第2回	創作の系譜	作品の形式と伝達の変化を抑えつつ、創作行為と受容の類型を理解する。
第3回	近代著作権の概要	著作権誕生の背景とそれを支える思想、概念の変遷をたどる。
第4回	著作権法	我が国の法秩序における位置づけの確認と、基本的な構成を概観する。
第5回	著作物	著作物とは何か。類例を基に著作性について考える。
第6回	著作者	著作者とは誰か。著作権者との違いとは何かを整理する。
第7回	保護の対象・期間	法律で保護される種類と範囲を見ていく（海外作品も含めて）。
第8回	権利の種類	著作権者が専有する権利（著作権）の詳細を理解する。
第9回	権利の制限	例外的に権利者の許諾なしに利用可能な場合と、その要件を整理する。
第10回	人格権・隣接権	著作者の財産権以外で法律に規定されている権利を知る。
第11回	許諾・契約	著作物の利用許諾の態様や利用契約の実際に触れる。
第12回	著作権管理、補償金	多くの著作権を集めて管理したり、補償金を分配する組織の実際に触れる。
第13回	裁定・登録・あっせん	私権である著作権に対して行政が調整的機能を持つ事例を見ていく。

第14回 補足・まとめ

学習の成果を踏まえ、著作権の基礎を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

Please make an effort to read through the references and materials introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations, and business will be required from time to time. Please be mindful of doing preliminary study according to your needs. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【テキスト（教科書）】

最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含む平常点40%、期末レポートの内容60%を評価の目安とします。

The grading criteria will be 40% based on regular class performance including reaction papers and 60% on the content of the final report.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等へのロビイングに従事。2021年より現職。

<専門領域>出版分野を中心とした著作権実務全般

<研究テーマ>著作権制度、メディア論、出版論

<主要研究業績>特になし

【Outline (in English)】

The course provides an overview of the history of copyright and the abyss of rights, and through a reading of copyright law, students will grasp the overall picture of copyright thought. The course will connect to the fall semester, in which the theme will be the relationship between copyright and society, by learning the basics of copyright.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

表現と著作権B

平井 彰司

夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権そのものへの理解を深めた春学期を受けて、テクノロジーの進化／深化を軸に著作権と外部とのかかわり＝社会との相互関係やビジネスとの相克等を総合的に考察していく。

【到達目標】

法律条文の解釈論にとどまらず、社会全体の視座から著作権が創作・媒介・受容の営みに果たす役割について理解し、文学部生として身につけるべき著作権リテラシー習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講者が法学の基礎カリキュラムを通過していないことを前提に講義形式で行います。また、必要に応じて発言を求める場合があります。原則として、毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。疑問や意見、感想など自由に記入してください。次回以降にフィードバックを行うとともに、授業の進行に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	著作権の基本を再確認し、現状が抱える諸問題の射程を整理する。
第2回	紛争処理・罰則	民事解決と刑事罰、賠償額の算定や罰則の水準について学ぶ。
第3回	係争と裁判手続	著作権裁判の実例を見ていくとともに、和解解決やソフトローを紹介する。
第4回	著作権制度	法律改正の要件から成立、公布・施行、運用までのプロセスを理解する。
第5回	知的財産権	知的財産権一般と対比しながら、他とは一線を画す特殊な性格を知る。
第6回	文字記録・印刷物	グーテンベルク以前から現代まで。パッケージの進歩や頒布方法を含めて。
第7回	保存・再生技術の歴史	画像・音声・映像。創作の領域を拡張する技術の進化をたどる。
第8回	伝達手段の展開	移動・運搬から通信・放送へと位相を転じた伝達の変遷を見ていく。
第9回	デジタルテクノロジー	コンピューターとネットワークの進化は著作物をめぐる環境をどう変えたか。
第10回	出版物の電子化	書籍書籍・電子ジャーナル等を手掛かりに読書行為への影響を探る。
第11回	海賊版・アーカイブ	著作権を制限する運動やデジタルアーカイブの展開、海賊版対策の実態を知る。

第12回	A I ・メタバース	創作と伝達、受容をとりまく最新のトピックを採り上げる。
第13回	著作権とは	著作権の性質と構造を再確認し、社会における意義や射程について考察する。
第14回	補足・まとめ	現在の著作権システムの考察を通じて、創作・媒介・受容の未来を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した参考文献・資料等には極力目を通しておくこと。折に触れて、世界史や国際関係、ビジネスに関する知識が求められます。各受講者の必要に応じた予備学習を心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

Please make an effort to read through the references and materials

introduced in class as much as possible. Knowledge of world history, international relations, and business will be required from time to time. Please be mindful of doing preliminary study according to your needs. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

【テキスト（教科書）】

最新の著作権法をネットや図書館等を通じて準備すること。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含む平常点40%、期末レポートの内容60%を評価の目安とします。

The grading criteria will be 40% based on regular class performance including reaction papers and 60% on the content of the final report.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

表現と著作権A・Bの通年履修を推奨します。

日本文藝家協会事務局長。筑摩書房にて知的財産の保護・活用、デジタルビジネスの企画・開発、表現の自由と人権問題等の編集コンプライアンスを掌管。著作権領域に関する出版界全体の調整、著作者団体・各種利用者・関係省庁等へのロビイングに従事。2021年より現職。

<専門領域>出版分野を中心とした著作権実務全般

<研究テーマ>著作権制度、メディア論、出版論

<主要研究業績>特になし

【Outline (in English)】

Following the spring semester in which we deepened our understanding of copyright itself, we will comprehensively examine the relationship between copyright and the outside world = interrelationships with society and conflicts with business, etc., centered on the evolution/deepening of technology.

LIT100BC (文学 / Literature 100)

古文・漢文の基礎

栗山 元子

授業コード：A2604 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、古文や漢文を読むにあたっての基礎的知識の習得を目標とする。具体的には、『源氏物語』と『枕草子』において漢籍や漢詩文が引用されている場面や章段を読むことを通じて、古文と漢文についての知識を深め、双方の文章を読み解く力を高めていくことを目指していく。またその上で、漢文を引用することで『源氏物語』や『枕草子』がどのような表現の世界を切り開いたのかということについても探究していく。古文・漢文を学び直し、よりその世界観に親しみ、味わうための学びの時間としていきたい。

【到達目標】

①古典文法・漢文法についての学びを深め、正確な理解ができる力を養う。②古文・漢文を読むにあたって必要な、時代背景や風俗などの基礎知識を習得する。③漢詩文や漢籍の引用が『源氏物語』や『枕草子』においていかになされているかということやその表現効果について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師作成のプリントなどの教材を配布する。
- ・毎回授業内容についての理解度を計るために、授業時間内に小課題の作成、提出を課す。
- ・課題に対するフィードバックは授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・方針についての説明を行う。
第2回	平安期における漢籍・漢詩文の受容について	平安期における漢籍・漢詩文の受容史の展開や文人たちについての紹介を行う。
第3回	平安期における女性と漢籍・漢詩文	平安期において、女性にとっての漢籍・漢詩文の意味はどのようなものであったかという問題について考える。
第4回	紫式部と漢籍・漢詩文	『紫式部日記』において、紫式部が自身と漢籍との関わりを語る箇所を読んでいく。
第5回	『源氏物語』と「長恨歌」①	『源氏物語』が白楽天の「長恨歌」をどのように引用しているかについて二回に分けて見ていく。初回は「長恨歌」の内容を扱う。
第6回	『源氏物語』と「長恨歌」②	前回に続き、「長恨歌」が『源氏物語』の中で引用されている桐壺巻の表現を見ていく。
第7回	『源氏物語』須磨巻における漢籍・漢詩文引用	須磨巻における白楽天や菅原道真の詩の引用について見ていく。
第8回	『源氏物語』蛸巻における漢籍・漢詩文引用	蛸巻における車胤の故事の引用について見ていく。

第9回	『源氏物語』と「李夫人」	白楽天の詩「李夫人」の引用のされ方について考察する。
第10回	『源氏物語』と漢籍故事	「王昭君」「呂后」などの漢籍故事の引用のされ方について見ていく。
第11回	『枕草子』における漢籍・漢詩文引用①	孟嘗君の故事をふまえたやりとりなど、清少納言と漢籍とのかわりを見ていく。
第12回	『枕草子』における漢籍・漢詩文引用②	定子中宮と中関白家の人々、そして清少納言らの漢籍を踏まえたやりとりの様相を見ていく。
第13回	清少納言零落伝説と漢籍故事	清少納言をめぐる零落伝説とそこに引用された漢籍故事について見ていく。
第14回	授業のまとめと理解度の確認	授業の総括と理解度の確認のためのテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には次回授業時でのテーマと関わる『枕草子』や『源氏物語』の該当場面や該当章段を読んでおき、『源氏物語』においては巻の内容やあらすじなども把握しておくこと。『枕草子』においては、当該場面における人物関係、歴史的背景なども理解した上で授業に臨むこと（2時間程度）。授業後には授業内容の要点を整理し、関連論文などに自らあたり、知識をより深めていくこと（2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

講師作成のプリントを配布する。

【参考書】

○【古文・漢文文法】小田勝『古代日本語文法』（ちくま学芸文庫、2020年、1,540円）、小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫 2010年、1,540円）、塚田勝郎著『新人教師のための漢文指導 入門講座』（大修館書店、2014年、2,420円）、前野直彬著『精講 漢文』（ちくま学芸文庫 2018年、1,870円）、鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院 2018年5月 1,320円）など。

○『源氏物語』『枕草子』のテキストについては、小学館新編日本古典文学全集、新潮日本古典集成、角川ビギナズクラシックス、岩波文庫など、各自使用しやすいものを適宜参照のこと。また授業内容をより深く知るための参考文献については、授業時に紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業時に課す小課題あるいはリアクションペーパーの内容により授業への取り組み姿勢・授業内容の理解度を計り、平常点として評価する（70％）。
- ・授業内容の理解度を計る試験を行い、評価する（30％）。

【学生の意見等からの気づき】

課題やコメントシートに書かれた疑問には次回の授業冒頭の時間などを利用して答えたり、意見なども紹介を行う形でフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

Learning Objectives: The goal is to acquire fundamental knowledge for reading classical Japanese and Chinese texts. Specifically, by reading passages and chapters in The Tale of Genji and The Pillow Book where Chinese texts and poetry are quoted, students will deepen their understanding of classical Japanese and Chinese literature and enhance their ability to interpret texts in both languages.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the relevant chapters of the text. After each class, students must review the lecture content and read materials related to the lecture. These activities require 4 hours per week.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on 14 assignments (70%) and an examination (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（１）上代A

森 陽香

授業コード：A2657 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて、折口信夫という研究者が、国文学研究の用語として、「万葉びと」という言葉を定着させました。折口は次のように言います。「飛鳥の都以後奈良朝以前の、感情生活の記録が、万葉集である。万葉びとと呼ぶのは、此間に、此国土の上に現れて、様々な生活を遂げた人の総べてを斥す。」この授業では、上代文学の諸作品（『古事記』『万葉集』『風土記』など）を見わたしながら、ここに言う「万葉びと」たちの暮らしと、その暮らしの中に育まれたところのありようを、具体的に解き明かしてゆくことを目指します。

【到達目標】

（１）まず、上代文学全体の正確な知識を得ることが、第一段階の目標になります。
（２）そのうえで、古代の日本人たちが、実生活のなかのどのようなところに目を向けて文学を観想し組み立てていったのか、日本人の思考方法の特徴を明らかにすることが、第二段階の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1回～数回の授業で1つのテーマを取り上げ、上代文学作品を講読しながら、そのテーマについて考察してゆく、講義形式の授業です。半期の授業の間に、5回、リアクションペーパーの提出を求めるとともに、期末にはレポートを課します（大学の学習支援システムを使用します）。提出されたリアクションペーパーに対しては、全体の講評は授業の中で行い、個別の質問には個別に返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と上代文学の概説	授業全体の進め方の確認と、『古事記』など上代文学作品の概要を学びます。
第2回	『万葉集』の恋の歌1	『万葉集』の相聞歌を中心に、万葉びとの恋のきっかけなどを考えます。
第3回	『万葉集』の恋の歌2	『万葉集』から、恋人たちの様子を探ります。
第4回	『万葉集』の恋の歌3	『万葉集』の相聞歌を中心に、万葉びとの恋の諸相を見つめます。
第5回	イザナキ・イザナミの結婚	『古事記』神話のうち、イザナキ・イザナミの結婚の場面を読みます。
第6回	仁徳天皇と女性たち	『古事記』仁徳天皇条を読み、「いろごのみ」という概念について考えます。
第7回	イザナミの死	『古事記』神話のうち、いわゆる「黄泉の国」の場面を読みます。
第8回	ニニギノミコトと山の神	『古事記』神話のうち、いわゆる「天孫降臨」のあとの、ニニギの結婚の場面を読みます。
第9回	『風土記』の死	交通を妨害する神などが出てくる、各地の伝承を読みます。
第10回	『万葉集』の死1	死とは何か、ということを考えます。
第11回	『万葉集』の死2	死後の行方、死生観について考えます。
第12回	万葉びとの他界観	天や海の彼方など、万葉びとの観想した他界観について、これまでの授業を振り返ります。
第13回	万葉びとの信仰	神や靈魂といった観念について『古事記』『万葉集』などから学びます。
第14回	まとめとレポート提出	文学を生み出そうとする、日本人の心のありかたを考察し、まとめします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を事前に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布しますので、必ず購入しなければならない教科書はありません。

【参考書】

参考文献は、授業内で適宜指示します。（参考までに、現代の『古事記』研究で一般的に使われているテキストとしては、小学館の、新編日本古典文学全集『古事記』などがあります）

【成績評価の方法と基準】

・授業内で実施するリアクションペーパーは、1回10点配点×5回で、50%配点です。主に、到達目標に記した（１）の項目の達成度を判定します。
・期末レポートは50%配点で、到達目標の（２）項目の達成度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

上代文学を研究する方法、あるいは上代文学をとおして古代を考察してゆく方法を、具体的に示してゆくことの必要性を感じたので、今年度は特定の文献を通読するのではなく、文献を横断して考察を組み立ててゆく道筋を示したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーや期末レポートは授業内に用紙を配布したり、学習支援システムを経由して提出したりします。

【Outline (in English)】

In this course, we will look at various works of ancient Japanese literature (such as the Kojiki, Manyoshu, and Fudoki) and aim to provide a concrete explanation of the lifestyles and mental states of Japanese people in the Nara period and earlier. By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) First, the goal of the first stage is to gain accurate knowledge about Kojiki, Manyoshu, and Fudoki.

(2) After that, the goal of the second stage is to clarify the characteristics of Japanese thinking, and what aspects of real life ancient Japanese people focused on when contemplating and constructing their literature. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Short reports: 50%.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (1) 上代B

森 陽香

授業コード：A2658 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代文学作品（『古事記』『万葉集』『風土記』など）を、文学的・民俗学的、双方の視点から研究する方法を示して、日本人の暮らしや考え方のなかに宿る「古代性」について具体的に考察してゆく、講義形式の授業です。現代の私たちが上代文学を学ぶことの意義について、履修者各人が自分なりの考えを得ることが、最終的な目的になります。

【到達目標】

(1) 文学と民俗学とがどのようなかわりを持ち得るか、いろいろな角度からその可能性を探り、多様な研究方法を知る。
(2) そのうえで、現代を生きる私たちが上代文学を学ぶことの意義について、自分の言葉で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎時間資料を配布し、教員が中心となって上代文学作品を読み進めてゆく、講義形式の授業です。民俗学的な視点を取り入れるためにDVDを視聴することが多くなりますので、授業中のリアクションペーパーを重視し（7回提出を求める予定）、期末にはレポートを課します（大学の学習支援システムを使用します）。提出されたリアクションペーパーに対しては、全体の講評は授業の中で行い、個別の質問には個別に返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	授業の進め方などの説明と、民俗学について概説
第2回	ヤマトノヲロチ神話 1	『古事記』ヤマトノヲロチ神話を読みます。
第3回	ヤマトノヲロチ神話 2	石見神楽などを鑑賞します。
第4回	天石屋神話 1	『古事記』天石屋神話を読みます。
第5回	天石屋神話 2	高千穂神楽などを鑑賞しながら、文学と民俗学との接点について考えます。
第6回	神と女性の生活 1	『万葉集』『古事記』などから、古代の女性の生活を読み解きます。
第7回	神と女性の生活 2	沖縄の祭祀をとおして、女性の生活について考えます。
第8回	豊作を祈る 1	「予祝」という観念について考えます。
第9回	豊作を祈る 2	田の神や稲霊（いなだま）の信仰について、主に文学方面から考えます。
第10回	豊作を祈る 3	田の神や稲霊について、主に民俗事例を学びます。
第11回	海の信仰について 1	海の彼方にある心のある方を、文学（『古事記』『風土記』など）・民俗学をとおして学びます。
第12回	海の信仰について 2	海の幸を求める心のある方を、文学（『古事記』『万葉集』など）・民俗学をとおして学びます。
第13回	山の信仰について	さまざまな山の信仰を、文学（『万葉集』など）・民俗学をとおして学びます。
第14回	まとめとレポート提出	上代文学作品を学ぶ意義について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を事前に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布しますので、必ず購入しなければならない教科書はありません。

【参考書】

参考文献は、授業内で適宜指示します。（参考までに、現代の上代文学研究で一般的に使われているテキストとしては、小学館の、新編日本古典文学全集があります。）

【成績評価の方法と基準】

・授業内で実施するリアクションペーパーは、1回10点配点×7回で、70%配点です。主に、到達目標に記した(1)の項目の達成度を判定します。
・期末レポートは30%配点で、到達目標の(2)の項目の達成度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどから、民俗学的な視点に興味を持つ学生が一定数いることがわかったので、昨年度とは大幅に内容が異なるが、講義で新たに取上げてみることにしました。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーは主に授業中に配布された用紙に記入して提出します。期末レポートは学習支援システムを経由して提出します。

【Outline (in English)】

This class will demonstrate how to study ancient literary works (such as the Kojiki, Manyoshu, and Fudoki) from both literary and folkloric perspectives, and will provide a concrete examination of the "ancientness" that resides in the lives and thinking of the Japanese people. By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) First, students will explore the possibilities of how literature and folklore can be related from various angles and learn about a variety of research methods. (2) After that, students will be able to explain in your own words the significance of studying ancient literature for those of us living in the modern era.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 30%, Short reports: 70%.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（２）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『源氏物語』の光源氏が「光るように美しい」存在であったということはよく知られているが、ではこの容姿美とは物語の中でどのような意味を持っているのだろうか。そして光源氏自身、自らの圧倒的な「美」をどのように意識し、またそれを「力」として利用しているのだろうか。加えて光源氏以外の登場人物たちにおける容姿をめぐる表現から見えてくることは何か。この授業ではこのような問題意識のもと、他の古典作品などとも比較しながら「容姿」「容姿美」という観点を糸口に『源氏物語』の表現についての探究を行うことを目的とする。その過程で文学史上における『源氏物語』の価値や表現の魅力についても理解を深めていくことを目指していく。

【到達目標】

- ①『源氏物語』の表現に触れ、その物語世界について知ること、この作品の文学的な達成や文学史的意義についての理解を深めることができる。
- ②物語の本文を毎回読んでいくことで古語や文法についての知識を深め、より深く作品の持つ魅力や意義を味わう力を養うことができる。
- ③古典文学作品を読む際に必要な歴史的背景や風俗・習慣などを知ること、作品の書かれた時代や社会構造との関わりについて考える視座を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師の作成したプリントを配布し講義を行う。なお適宜授業の要点を理解してもらうためにパワーポイントも活用していく。
- ・毎回授業内容についての理解度を計るために、授業内でのリアクションペーパーの作成、提出を課す。
- ・リアクションペーパーに書かれた意見の紹介や質問への回答を通じてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス①	授業内容・方法などについての説明／『源氏物語』についての基本的な知識の確認
第2回	ガイダンス②ー光源氏の生涯について	光源氏の一生の軌跡、物語の構造などについて確認する。
第3回	物語の主人公たちをめぐる容姿美について	物語の主人公たちの容姿美はどのように描かれるのか、『源氏物語』以前以後の作品を通して概観していく。
第4回	光源氏幼少期における「美」	光源氏の幼少期の美の描かれ方について見ていく。
第5回	青年期の光源氏の容姿美①	若紫巻を中心に、光源氏の青年期における「美」の持つ意味、力について考えていく。
第6回	青年期の光源氏の容姿美②	紅葉賀巻を中心として、光源氏の容姿美に触れる表現の意味を読み解いていく。

第7回	青年期の光源氏の容姿美③	「女にて見たてまつらまほし」と表現される光源氏の美貌の持つ意味について考える。
第8回	中年期の光源氏の「美」への意識	中年期に入った光源氏の、自身や成長著しい息子の美貌に対する意識について見ていく。
第9回	老年期の光源氏の容姿美	老年期の光源氏の容姿美の描かれ方や源氏自身の意識の表現のされ方を見ていく。
第10回	老年期の光源氏の他者の「美」への意識	自身の「老い」を痛感した光源氏がどのように次世代の「美」と向き合っているのか、その意識を読み解いていく。
第11回	光源氏の晩年をめぐる「美」の表現	光源氏の晩年において、「美」がどのような意味を持つのかを見ていく。
第12回	女君たちをめぐる「美」の表現①ー紫の上像における「美」	紫の上の少女期から中年期にかけての「美」をめぐる表現について考える。
第13回	女君たちをめぐる「美」の表現②ー醜女とされる女君達	美しくないとされる末摘花や花散里の造型の意味について考察していく。
第14回	授業のまとめと理解度の確認	授業のまとめと理解度の確認のための試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習としては、授業内容を理解するためのステップとして、『源氏物語』の各種テキストであらすじなどを把握し、また参考文献にあげた図書などを各自読んでおくこと。授業後の復習としては、授業内容を振り返って整理し、要点の把握に努め、自身で関連論文などにあたって学びを補足し深めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講師作成の資料を作成し、配布を行う。

- 【参考書】
- 『源氏物語』の本文を味わうには、小学館新編日本古典文学全集、岩波文庫、新潮日本古典集成、岩波新日本古典文学大系、角川ソフィア文庫など、各種テキストを参考にしてほしい。
 - その他の参考図書
 - ・『新装版 源氏物語要覧』（中野幸一編 武蔵野書院、2012、ISBN：9784838604395）
 - ・『源氏物語図典』（秋山虔・小町谷照彦編、小学館、1997、ISBN：409362061X）
 - ・『源氏物語を読む』（高木和子 岩波新書、2021、ISBN：9784004318859）など。授業時にも紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に課すリアクションペーパーに拠る評価：70％、授業内容の理解度を計る試験による評価：30％。評価のポイントは、課題への取り組み姿勢と授業内容に対する理解の深浅に拠る。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい講義を心がけていきたい。また双方向的な授業になるよう、なるべく多くの質問や意見を多く取り上げて回答し、全体に対するフィードバックとなしたい。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class will deal with the theme of "Beauty in The Tale of Genji." Specifically, we will consider how Hikaru Genji's beauty captures and moves people's hearts, as well as how Genji perceived his own beauty. **Learning Objectives:** The goal of this class is to acquire basic knowledge for reading classical literature and to deepen knowledge of The Tale of Genji. **Learning Activities Outside of the Classroom:** Before each class, students will be expected to have read the materials listed in the bibliography. After each class, students are expected to revise the class cnt, read the materials related to the lecture content. These tasks take four hours each week. **Grading Criteria/Policy:** Grading will be based on 14 assignments (70%) and a examination (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (2) 中古B

加藤 昌嘉

授業コード：A2662 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

◆テーマは、《古典文学をリメイクした、現代の作家たち》です。
 ◆例えば、丸谷オ一や瀬戸内寂聴は、『源氏物語』の欠落部分を、空想によって創造しました。例えば、町田康や古川日出男は、自由奔放な文体で、『宇治拾遺物語』や『うつほ物語』を再生しました。
 ◆この授業では、現代のリメイク作品・アダプト作品を、元となった古典文学と比較しながら、読み進めてゆきます。20～21世紀の作家たちが、古典をどのように解釈し、変容させたのかを、考察してゆきます。

【到達目標】

◆以下の2つが目的です。
 1, 平安～鎌倉時代の作品と、現代のリライト作品を、比べ読む。
 2, 翻訳の技術と、改作の技法を、学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

◆プリントを配布し、講義形式で進めます。
 ◆毎回、リアクションペーパーに、疑問や意見を書いてもらいます。翌週、授業内で紹介しフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	町田康『末摘花』『宇治拾遺物語』など	自由奔放な翻訳
2	田辺聖子『新源氏物語』	ごっそり削除・たっぷり加筆
3	橋本治『鎌変源氏物語』	語り手を変更・大胆な増補
4	瀬戸内寂聴『藤壺』	欠落した巻を創造
5	丸谷オ一『輝く日の宮』	欠落した巻を創造
6	『雲隠六帖』『山路の露』など	中世にも『源氏物語』続編がある
7	ユルスナール『源氏の君の最後の恋』など	欧米にも『源氏物語』続編がある
8	谷崎潤一郎『少将滋幹の母』	『今昔物語集』『閑居友』を利用する
9	谷崎潤一郎『夢の浮橋』	『源氏物語』を下敷きにする
10	三島由紀夫『豊饒の海』	『浜松中納言物語』を利用する
11	大塚ひかり『えろまん』&橋本治『百人一首がよくわかる』ほか	『万葉集』『百人一首』を自由に訳す
12	『源氏物語』の解釈を再検討する	研究者の現代語訳を信じてよいのか？
13	古川日出男『超空洞物語』『紫式部日記』など	複数の声を交錯させる

14 伊藤比呂美『日本ノ愛欲と救済 霊異ナ話』『とげ抜き』など

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

◆授業内で取り上げられた作品・本を、図書館・書店で手に取り、部分的でもよいので読んでみる。
 ※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

◆毎回、プリントを配布します。

【参考書】

▼以下のシリーズには、授業で取り上げる古典作品の、原文+現代語訳+注釈が収められています。レポートを書く際に使ってください。

◎新編日本古典文学全集 (小学館)
 ◎新潮日本古典集成 (新潮社)
 ◎新日本古典文学大系 (岩波書店)
 ◎角川ソフィア文庫 (KADOKAWA)
 ◎講談社学術文庫 (講談社)
 ◎ちくま学芸文庫 (筑摩書房)
 ◎岩波文庫【黄帯】 (岩波書店)

▼以下のデータベースで、新編日本古典文学全集 (小学館) 全巻を読むことができます。

◎法政大学図書館ホームページ「オンラインデータベース」→自宅の場合はVPN接続→ログイン→「ジャパンナレッジLib」を選び、ログイン→「本棚」の中の「新編日本古典文学全集」

【成績評価の方法と基準】

◆期末レポート (72%)、各回のリアクションペーパー (28%)
 ※期末レポートは、テーマを1つ選んで、2000字～3000字程度の小論文を書くものです。
 ※毎回、リアクションペーパーに、疑問・アイディア・作文などを書いて提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

◆受講者の興味やリクエストによって、授業内容を、臨機応変に、追加・変更してゆくつもりです。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

◆The theme is “Modern Writers Remaking Classical Literature.”

◆In this class, we will read the remade works while comparing them to the original classics. We will examine how 20th- and 21st-century writers interpreted and transformed the classics.

Goal:

◆The following are the two objectives:

1. Compare and read works from the Heian to Kamakura periods alongside modern rewritings.
2. Learn translation techniques and adaptation methods.

Work to be done outside of class:

Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading criteria:

Grading will be decided based on a final report (72%), and reaction papers for each session (28%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（2）中古C

萩野 了子

授業コード：A2663 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化に対する理解を深める。

【到達目標】

百人一首の歌を軸にして歌人やその周辺歌に着目し、萬葉集や三代集など典拠となる歌集の表現を分析することで、和歌の正確な解釈が出来るようになり、当時の人々の世界観に、専門的な技能でもって迫る能力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

質問はリアクションペーパーにて受け付け、次回授業にてそれに関連した内容を扱いながら応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『百人一首』概説	授業の方針
第2回	古代和歌史を概観する（1）	漢字表記から仮名表記へ
第3回	古代和歌史を概観する（2）	和歌のレトリックについて
第4回	天智天皇（1）	天智天皇に始まる百人一首
第5回	天智天皇（2）	類歌について
第6回	天智天皇（3）	歌語「苦」について
第7回	持統天皇（1）	大和三山「天の香具山」
第8回	持統天皇（2）	推定の助動詞「らし」について
第9回	持統天皇（3）	万葉集と新古今和歌集
第10回	猿丸大夫（1）	歌語「鹿」について
第11回	猿丸大夫（2）	動物の鳴き声について
第12回	小野篁（1）	貴種流離の人
第13回	小野篁（2）	説話における篁
第14回	まとめ	※別途定期試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布

【参考書】

『百人一首』（鈴木日出男著・ちくま文庫）、『古今和歌集』『萬葉集①～④』（新編日本古典文学全集・小学館）

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度（40％）と、定期試験結果（60％）によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read Hyakunin isshu.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read Hyakunin isshu; and 2. knowledge of Heian literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (80%); in-class contribution (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（２）中古D

萩野 了子

授業コード：A2664 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代和歌の詠まれた背景や表現の分析によって、当時の人々の言語感覚や文化に対する理解を深める。

【到達目標】

百人一首の歌を軸に、その周辺歌や歌人の表現を学びながら、和歌の詠まれた背景や表現を自ら調査、分析し、当時の文学に関して自分の考えをまとめることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布するプリントをもとに講義を進め、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。

質問はリアクションペーパーにて受け付け、次回授業にてそれに関連した内容を扱いながら応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『百人一首』概説	授業の方針
第2回	古代和歌史を概観する（1）	漢字表記から仮名表記へ
第3回	古代和歌史を概観する（2）	和歌のレトリックについて
第4回	小野小町（1）	掛詞技法について
第5回	小野小町（2）	美女の人生
第6回	陽成院	古代の筑波山
第7回	藤原敏行（1）	古代の人々の「夢」について
第8回	藤原敏行（2）	歌枕「住の江」について
第9回	素性法師（1）	男女の逢会について
第10回	素性法師（2）	動詞「来」について
第11回	三条右大臣（1）	「名に負ふ」ということ
第12回	三条右大臣（2）	序詞分析
第13回	三条右大臣（3）	修辭史における動詞「くる」の意味
第14回	まとめ	※別途定期試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントをよく読んでおくこと。授業をよく聞いて復習し、分からなかった箇所はリアクションペーパー等で質問し、問題の解消に努めること。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布

【参考書】

『百人一首』（鈴木日出男・ちくま文庫）・『古今和歌集』『萬葉集①～④』（新編日本古典文学全集・小学館）

【成績評価の方法と基準】

出席やリアクションペーパー等、授業への積極的な貢献度（20％）と、レポート（80％）によって総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

古文の文法の解説を徹底して、和歌の解釈を丁寧に行う。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read Hyakunin isshu.

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read Hyakunin isshu; and 2. knowledge of Heian literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (80%); in-class contribution (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（3）中世A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。

春学期授業では万葉歌人の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。

各和歌の解釈は一義的なものではありません。『百人一首』編纂当時の解釈、室町時代の解釈、江戸時代の解釈がそれぞれ異なっていたり、また流派の違いによって異なる解釈がなされていたりします。そうした点に留意しながら、各歌がどのように享受されてきたかについて考えていきます。

また、江戸時代には、『百人一首』は和歌だけではなく、歌仙絵（作者の絵姿）や歌意絵（和歌の解釈を絵画化したもの）を掲載した本が刊行されました。代表的な絵入本（絵本）を紹介し、近世の人々がどのように『百人一首』を鑑賞していたかについても概観します。

上記の観点から、『百人一首』が和歌史、文化史にどのように位置づけられるかについて考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の成立・古注釈	成立の問題および中世・近世の古注釈に関する説明
第3回	『百人一首』講読	三番歌（柿本人麿「あしびきの」歌）に関する解説
第4回	『百人一首』講読	三番歌の古注釈（中世）に関する解説
第5回	『百人一首』講読	三番歌の古注釈（近世）に関する解説
第6回	『百人一首』講読	三番歌の歌意絵・人麿像について
第7回	『百人一首』講読	五番歌（猿丸大夫「おくやまに」歌）に関する解説
第8回	『百人一首』講読	五番歌の古注釈（中世）に関する解説
第9回	『百人一首』講読	五番歌の古注釈（近世）に関する解説

第10回	『百人一首』講読	五番歌の歌意絵について
第11回	『百人一首』講読	六番歌（中納言家持「かささぎの」歌）に関する解説
第12回	『百人一首』解説	六番歌の古注釈（中世）に関する解説
第13回	『百人一首』解説	六番歌の古注釈（近世）に関する解説
第14回	『百人一首』解説	六番歌の歌意絵について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

- ・講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
 - ・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）
 - ・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）
- その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（3）中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では春学期にひきつづき、歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を勘案しながら、代表的和歌について講義します。

秋学期授業では六歌仙の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。

各和歌の解釈は一義的なものではありません。『百人一首』編纂当時の解釈、室町時代の解釈、江戸時代の解釈がそれぞれ異なったり、また流派の違いによって異なる解釈がなされていたりします。そうした点に留意しながら、各歌がどのように享受されてきたか考えていきます。

また、江戸時代に刊行された、歌仙絵（作者の絵姿）や歌意絵（和歌の解釈を絵画化したもの）を掲載した絵入本（絵本）『百人一首』を紹介し、近世の人々がどのように『百人一首』を鑑賞していたかについて概観します。

上記の観点から、『百人一首』がどのように享受されてきたか、和歌史、文化史にどのように位置づけられるかについて考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の成立・古注釈	成立の問題および中世・近世の古注釈に関する説明
第3回	『百人一首』講読	九番歌（小野小町「はなのいろは」歌）に関する解説
第4回	『百人一首』講読	九番歌の古注釈（中世）に関する解説
第5回	『百人一首』講読	九番歌の古注釈（近世）に関する解説
第6回	『百人一首』解説	九番歌の歌意絵・小野小町像について
第7回	『百人一首』解説	一二番歌（僧正遍昭「あまつかぜ」歌）に関する解説
第8回	『百人一首』解説	一二番歌の古注釈（中世）に関する解説
第9回	『百人一首』解説	一二番歌の古注釈（近世）に関する解説
第10回	『百人一首』解説	一二番歌の歌意絵について

第11回	『百人一首』解説	一七番歌（在原業平「ちはやぶる」歌）に関する解説
第12回	『百人一首』解説	一七番歌の古注釈（中世）に関する解説
第13回	『百人一首』解説	一七番歌の古注釈（近世）に関する解説
第14回	まとめ	一七番歌の歌意絵について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

- ・講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
 - ・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）
 - ・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）
- その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (4) 近世A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【近世文学と古典文学】
江戸時代には、出版文化を背景に中世までのさまざまな古典をふまえた作品が作られました。それら現代でいう二次創作の作品は、原作にたいして、ちやかしたり、オマージュを捧げたり、態度はさまざまですが、それぞれ原作を当世（現代）＝江戸時代化することで成りたっています。『源氏物語』『平家物語』をはじめ、さまざまな古典文学に親しみつつ、江戸時代的特徴を考える一挙両得の講義です。

- 【到達目標】
- 江戸文芸に表れた近世的特徴を理解する。
 - 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
 - デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
2～3回で1ジャンルを学ぶ。
提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。
100分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成、作品の作り方を追体験してもらうべく、創作にも挑戦する。
発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	導入 パロディ文芸のはじまり①	江戸時代の特徴を知る。 江戸時代初期のパロディ文芸のなかから『仁勢物語』『吉原徒然草』を読む
第2回	パロディ文芸のはじまり②	『吉原徒然草』にならってパロディに挑戦する
第3回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』①	西鶴の『好色一代男』巻一～一の設定から光源氏のやつしとしての世之介を考える
第4回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』②	『好色一代男』巻四～二形見の水櫛において『伊勢物語』『源氏物語』がどう活かされているかを考える
第5回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ①	狂歌というジャンルと江戸狂歌について知る
第6回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ②	歌麿描く江戸狂歌の名作『画本虫撰』を読んで創作にチャレンジする
第7回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ③ ＋中間試験（30分）	狂歌とことば遊びの妖怪見立絵本『画本纂怪興』を読み、創作にチャレンジする
第8回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙①	「源平の戦いも面倒なので」打たれる真似をして茶番で済ませる!?という設定の恋川春町画作『万歳集著微来歴』前半をよむ
第9回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙②	『万歳集著微来歴』後半を読む
第10回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬が『平家物語』敦盛最期をちゃかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む
第11回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本②	『大千世界楽屋探』を分析し、創作（大喜利）にチャレンジする
第12回	『源氏物語』を近世化する-合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学び、『修紫田舎源氏』の大枠を知る
第13回	『源氏物語』を近世化する-合巻②	『修紫田舎源氏』の『源氏物語』夕顔巻に該当する部分の前半を読む

第14回	『源氏物語』を近世化する-合巻③ まとめ・期末試験（30分）	『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む 最後にこの時代の文芸の特徴を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに小課題を出します。
本授業の準備学習は30分・復習時間は平均して3時間程度を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】
各回、資料提供し、参照すべきURLを提示します。

【参考書】
長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019）・小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル [インターナショナル新書]、2019）ほか

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパー（30％）、中間・期末課題の得点（各35％）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】
デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意すると便利です。図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。

【Outline (in English)】
Course Outline: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes and Review for **Course Outline:** Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes, review for 2hours for each class. It will be about 4 hours, including the time for writing 4 short reports/semester.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (20%), Two short reports (40%*2).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（４）近世Ｂ

齊藤 千恵

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『忠臣蔵』とその周辺文化について学ぶ
赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われました。なかでも大ヒットしたのは、「仮名手本忠臣蔵」です。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となりました。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られています。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった「仮名手本忠臣蔵」と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の広がりを学びます。

【到達目標】

- ①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
- ②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
- ③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
- ④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で2回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・時代背景	物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。
第2回	人形浄瑠璃と歌舞伎	人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。
第3回	「仮名手本忠臣蔵」①	判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。
第4回	「仮名手本忠臣蔵」②	勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎる死を選ぶのか。運命に翻弄された男の悲劇を味わう。
第5回	「仮名手本忠臣蔵」③	遊興にふける由良之助の真意はどこにあるのか。それを悟った兄妹の動向を理解する。
第6回	「仮名手本忠臣蔵」④	大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。
第7回	「仮名手本忠臣蔵」⑤	敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を把握する。
第8回	歌舞伎「東海道四谷怪談」①	作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。
第9回	歌舞伎「東海道四谷怪談」②	鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。
第10回	「忠臣蔵もの」の浮世絵	「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。
第11回	「忠臣蔵もの」の草双紙	「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。
第12回	「忠臣蔵もの」の舌耕文芸	落語『中村仲蔵』『四段目』の面白さを味わう。
第13回	「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書	評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。
第14回	まとめ 「忠臣蔵もの」のゆえ	「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。
授業外に提出課題を課すことがある。
本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。
近年多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

『仮名手本忠臣蔵を読む』（服部幸雄編、吉川弘文館、2008）
『新潮日本古典集成 浄瑠璃集』（土田衛校注、新潮社）
『新編日本古典文学全集 浄瑠璃集』（鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館）
その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへの取り組み）：40％
小課題（×2回）：60％

【学生の意見等からの気づき】

講義中に用いる教材や配布資料を工夫し、近世芸能や周辺文芸の魅力を伝えられるよう心がけます。
講義で扱う近世文芸の各ジャンルについても、ジャンルの特性に触れられるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付等には、学習支援システムを活用します（ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します）。

【その他の重要事項】

質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付けます。
第8回以降で扱う作品は、受講生の状況により変更する可能性もあります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura* (*The Treasury of Loyal Retainers*) and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.

Learning Objectives: At the completion of this course, students will:

1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshin-gura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyo*, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 2 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (reaction papers): 40%. Short assignments (2): 60 %.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（４）近世Ｃ

藤川 雅恵

授業コード：A2671 | 曜日・時限：水5/Wed.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、江戸時代前期の浮世草子で怪異を扱った作品について学びます。青木鷺水作『御伽百物語』を精読することを中心として、怪談奇談の構造を分析し、その面白さや作者の怪異に対する認識を知ることなどを目的としています。また、怪異に落とし込まれた元禄期の事件や文化についても紹介しますので、新たな怪談の世界を理解することのもう一つの目的です。

【到達目標】

作品の原本に慣れ親しむ（くずし字読解）。
古典の文章に親しみ、怪談・奇談の内容を理解する。
江戸時代の怪異のあり方と、現代の価値観の相違を理解する。
江戸時代の文化について理解する。
江戸時代の価値観を参考にして、現代にも通じる物事を見出し、自分の考えを述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。授業で取り上げた話題について、教員からの発問をします。それについての簡単なコメントをリアクションペーパーに書き、授業終了後に提出してもらいます。フィードバックの方法としては、翌週の授業にて受講者の意見を集約したものを発表します。採点済みの物は後日返却します。
学期末には、授業で学んだことを生かしたレポートを書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義形式	授業のオリエンテーション	作品の概要や作者についての解説を行います。
講義形式	『御伽百物語』概説	
講義形式	序文と百物語怪談会	『御伽百物語』の序文を読み、内容の解説と百物語怪談会についての考察をします。
講義形式	巻一の一「剪刀師竜宮に入る」と菅原道真	この章を読み、内容の解説と道真と雷についての考察をします。
講義形式	巻一の三「石塚の盗人」と古墳の祟り	この章を読み、内容の解説と江戸期の古墳調査についての考察をします。
講義形式	巻二の二「宿世の縁」の前後作	この章を読み、内容の解説とこの話の典拠とその後の作品について考察をします。
講義形式	巻二の三「淀屋の屏風」と絵の不思議	この章を読み、内容の解説と巻四の四「絵の婦人に契る」との比較と考察をします。
講義形式	巻三の二「猿畠山の仙」の空飛ぶ隠遁者たち	この章を読み、内容の解説と仙人について考察をします。
講義形式	巻三の三「七尾の妖女」の異類婚姻	この章を読み、内容の解説と異類婚姻譚について考察をします。

講義形式	巻四の一「有馬富士」の異郷訪問	この章を読み、内容の解説と異郷訪問譚について考察をします。
講義形式	巻四の二「雲浜の妖怪」の妖術	この章を読み、内容の解説と典拠について考察をします。
講義形式	巻五の一「花形の鏡」の地獄めぐり	この章を読み、内容の解説と地獄訪問について考察をします。
講義形式	巻六の一「木偶人と談」と忠臣蔵	この章を読み、内容の解説と異郷での事件について考察をします。
講義形式	巻六の五「黄金の精」と百物語の終焉	この章を読み、内容の解説と百物語怪談会の怪について考察をします。
講義形式	まとめと解説	作品全体のまとめと各自のレポートの題材についての提案をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業テーマについての概要を、事前にインターネット等で自分なりに知識を得ておくこと（20分程度）。
授業の復習として、自分の得た知識との相違を理解すること（10分程度）。
学期末のレポートに備えて、書く時のテーマになりそうな題材を探すこと（10分程度）。

【テキスト（教科書）】

資料を配布します。

【参考書】

太刀川清校訂、叢書江戸文庫2『百物語怪談集成』、国書刊行会、1987年）
藤川雅恵編、三弥井古典文庫『御伽百物語』三弥井書店、平成29年
その他は適宜注記します。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出したリアクションペーパー（70%）、学期末レポート（30%）で評価します。
レポートは授業で取り上げたテーマを用いて、自分なりの視点でのエッセイを書いてもらう予定です。形式を守りつつ、面白い切り口で書かれていることを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に情報機器使用の必要はありません。

【その他の重要事項】

教育実習・介護実習などで、やむを得ず欠席する場合は予めお知らせください。

【Outline (in English)】

In this class, we will study works from early Edo-period ukiyo-zōshi that deal with supernatural events. We will focus on a detailed reading of Aoki Rokusui's 'Otogi Hyakumogotari,' analyzing the structure of ghosts and strange tales, understanding their appeal, and exploring the author's perspective on the supernatural. Additionally, we will introduce events and culture of the Genroku era depicted in these bizarre stories, aiming to gain an understanding of the new world of strange tales.

The class will be conducted in a lecture format. The instructor will ask questions about topics covered in the class. Students are expected to write brief comments on these questions in a reaction paper and submit it after the class ends. As a method of feedback, a summary of the students' opinions will be presented in the following week's class. Graded papers will be returned at a later date. At the end of the semester, students will be asked to write a report applying what they have learned in the class.

Grades will be based on reaction papers submitted during class (70%) and a final term report (30%). For the report, you are expected to write an essay from your own perspective using a theme covered in the class. While following the required format, essays will be evaluated for having an interesting approach.

日本文芸研究特講（５）近代Ｃ

高口 智史

授業コード：A2675 | 曜日・時限：木6/Thu.6
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

過ぎ去った時代の作品をなぜ読まなければいけないのだろうか。古典は歴史資料としてあるのではない。読者の現在の心に訴えかけるものがあるから文学としての古典は存在しているのだ。しかしそうは言っても、現在明治大正時代の文学でさえも、私たちが感動させる力を持っているのか、疑わしく思っている人は多いのではないだろうか。

文学作品の生命は読まれることにある。読まれなくなれば、ただの歴史資料になるだけである。もちろん文学作品はただ待っているだけでは、私たちに何も訴えかけてこない。だから文学の生命を絶やさないためには読まれなければならない。

つまり文学が文学であるためには、読者の側から作品に積極的にアプローチする必要があるということだが、ではどうアプローチすればよいのか。どう読めばただの文字の塊が「文学」として読者に訴えかけてくるのだろうか。文学作品が私たちに訴えかけるということは、たとえ古典であっても、それを〈いま〉の作品として感じるということである。それは如何にして可能なのだろうか。

たしかに文学作品は言語がわかれば、特に難解な作品でないかぎり、そこに何が書いてあるかはわかる。だから一般に文学作品を読むなんて誰でも出来ることではないのか、と思っている人も多いのではないかと思う。そうだとするなら文学研究をする意味とは何だろう。

文学作品を〈読む〉ということは、文学研究では作品に働きかける〈行為〉である。〈行為〉であるかぎり、それは意識的、意図的なものであり、方法に自覚的でなければならない。つまり何を目的として、どう読むのか、どうしてそう読めるのかということについて意識的でなければいけない。

今回の授業では近代の代表的な文学を対象に、〈読む〉という行為のもつ可能性を明らかにしていこうと思っている。

対象とする作品は、「夢十夜（第一夜）」（夏目漱石）、「舞姫」（森鷗外）、「たけくらべ」（樋口一葉）、「浮雲」（二葉亭四迷）、「城の崎にて」（志賀直哉）、「奉教人の死」（芥川龍之介）を考えている。

【到達目標】

1. 文学作品を〈読む〉方法— 構造分析の基本と語り手論の意義を理解する。
2. 明治文学を〈いま〉に活きる作品として再評価する。
3. 文学作品の批評性について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。ただしリアクション・ペーパーを通し、授業についての意見や疑問に答えることで一方的な授業にならないようにする。また途中で理解度を確認するために、数回課題レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	① この授業の方向性とテーマ〈読む〉とはどういうことか？〉についての説明 ② イントロダクション 夏目漱石の「夢十夜（第一夜）」を読む
第二回	「城の崎にて」を読む①	①物語としての「城の崎にて」—「私小説」としてではなく ②「范の犯罪」を比較参照する
第三回	「城の崎にて」を読む②	①近代思想としての「城の崎にて」 ②新しい志賀直哉像について
第四回	「舞姫」を読む①	①物語を読む—「まことの我」（自我論）への新しい視点
第五回	「舞姫」を読む②	①脱「主人公中心読み」の試み ②言語論の視点から読む
第六回	「舞姫」を読む③	③文化論の視点から再評価する ④森鷗外についての新しい視点
第七回	「たけくらべ」を読む①	①異形の少女・美登里 ②近代—境界の融解
第八回	「たけくらべ」を読む②	①人身御供としての少女・美登里 ②信如の意味 ③一葉の見た近代

第九回	「奉教人の死」を読む①	①「ろおれんぞ」の物語を批判的に読む—語り手の視点のイデオロギーについて
第十回	「奉教人の死」を読む②	①作品に仕掛けられた方法を読む—近代小説としての「奉教人の死」
第十一回	「浮雲」を読む①	①第一編を読む—言文一致体の歴史の意味
第十二回	「浮雲」を読む②	①第二編を読む—ダイアログがもたらすもの ②象徴としての人物
第十三回	「浮雲」を読む③	①「浮雲」中絶考 ②帝国憲法体制前夜と「浮雲」の思想的意味
第十四回	学期末試験と解説	授業内容の理解を問う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。いずれも文庫でテキストが手に入りやすい作品なので、その周辺の作品にも目を通してほしい。また今回取り上げる作品の歴史的コンテキストについても予習し、時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてほしい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業に必要なテキストや資料は事前に学習支援システムを通し配布する。ただし最後の「浮雲」のみ、長編のため新潮文庫を用意してもらいたい。

【参考書】

- ・内田樹『新版映画の構造分析』（晶文社）映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。文学の読みにも十分応用できる。
- ・土方洋一『物語のレッスン』（青簡舎）手に入りにくい、読み方をめぐる最良の入門書。探してでも読んでほしい。
- ・西郷信綱『古典の影』（平凡社ライブラリー・品切れ）読みとはなにかについて考える上でのヒントにあふれている。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点＝各作品をめぐる感想や授業コメント等（５０％）
一つの作品が終わる毎に、授業内容の理解度を確認するためにレポートを提出してもらう。
- また普段のリアクションペーパー等を通し、授業に対する取り組み姿勢（作品をしっかりと読みこんでいるか、授業を理解しようとする姿勢があるか等）も評価に加味する。
- ・学期末試験（５０％）

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。
- ・話が早く理解が追いつかないという意見もあった。なるべく基本的な点については丁寧に説明するように心掛けたい。

【Outline (in English)】

The Act of Reading: Modern Literature as the Literature of the Present
Why should we read works from a bygone era? Classics exist not as historical documents but

as literature because they appeal to the contemporary reader. Even so, many people doubt whether even literature from the Meiji and Taisho eras has the power to move us.

The life of a literary work lies in being read. If it is no longer read, it becomes merely a historical document. Of course, literary works will not speak to us unless we engage with them. That is why, in order to preserve the life of literature, we must read literary works.

This means that for literature to be literature, readers must actively approach the work. So how should we approach it? How should we read literary works so that mere clusters of characters appeal to appeal to readers as "literature"? Even if it is a classic, the fact literary works move our hearts means we feel it as contemporary literature. How is this possible? It is true that if you understand the language, you can understand what a literary work is about, unless it is particularly difficult. Therefore, many people probably think that anyone can generally read literary works. If that is the case, then what is the point of conducting literary studies? Isn't the primary role of literary studies to pass on literature to future generations as a valuable culture? This is why we must read literary works.

To "read" literary works is nothing other than the "act" of interacting with the work. As long as that is the case, it must be conscious and deliberate, and we must be aware of the method. In other words, we must be conscious of what our purpose is, how we read, and why we are able to read it that way.

In this class, I would like to consider the possibilities of the act of reading while reading representative modern literary works such as "Ten Nights of Dreams (First Night)" (Natsume Soseki), "The Dancing Girl" (Mori Ogai), "Takekurabe" (Higuchi Ichiyo), "Ukigumo" (Futabatei Shimei), "At Kinosaki" (Shiga Naoya), and "The Death of a Missionary" (Akutagawa Ryunosuke).

LIT200BC（文学 / Literature 200）		
日本文芸研究特講（５）近代D		
梅澤 亜由美		
授業コード：A2676 曜日・時限：月5/Mon.5 秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：1～4年		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 ＊近代小説の語りの構造、および視点と小説の関係について考える。 →この授業では、1890年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語りの構造、および視点に注目し、その効果を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析してもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。		
【到達目標】 1、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。 2、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。 3、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 基本的には、以下の3つによって、講義を進めます。 1、指定された資料を用いた事前学習 2、教員による講義、および学生による意見交換 3、その日のワーク ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析をしてもらいます。 ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。 →ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、授業のはじめにフィードバックを行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第2回	内田百閒『件』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第3回	佐藤春夫『西班牙犬の家』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第4回	泉鏡花『外科室』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第5回	志賀直哉『冬の往来』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第6回	尾崎翠『香りから呼ぶ幻覚』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第7回	坂口安吾『風博士』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第8回	江戸川乱歩『人でなしの恋』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第9回	梶井基次郎『Kの昇天 或はKの溺死』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第10回	芥川龍之介『二つの手紙』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第11回	夢野久作『殺人リレー』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第12回	一人称小説の分析実践 編①	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第13回	一人称小説の分析実践 編②	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第14回	まとめ	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ・【事前学習】指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。 →登場人物を抜き出す（テキストに印をつける）。 →語り手の特徴を抜き出す（テキストに印をつける）。 ・【事後学習】講義をもとに、提示された課ワークを行い、学習支援システムから提出する →語りや視点を変えた場合の小説への影響を考える（他の人物が語り手になったらどう変わるか）。語りの特徴について、分析する。		
【テキスト（教科書）】 小説テキストについては、第1回で指示します。教員が使用しているものは、以下になります。 ・内田百閒『件』（『ちくま日本文学001 内田百閒』ちくま文庫） ・佐藤春夫『西班牙犬の家』（『怪奇探偵小説名作選4 佐藤春夫集』ちくま文庫） ・泉鏡花『外科室』（『外科室・海城発電 他五篇』岩波文庫） ・志賀直哉『冬の往来』（『ちくま日本文学021 志賀直哉』ちくま文庫） ・坂口安吾『風博士』（『ちくま日本文学009 坂口安吾』ちくま文庫） ・尾崎翠『香りから呼ぶ幻覚』（『尾崎翠集成 上』ちくま文庫） ・江戸川乱歩『人でなしの恋』（『江戸川乱歩作品集Ⅰ 人でなしの恋・孤島の鬼他』岩波文庫） ・梶井基次郎『Kの昇天 或はKの溺死』（『ちくま日本文学028 梶井基次郎』ちくま文庫） ・芥川龍之介『二つの手紙』（『芥川龍之介全集Ⅰ』ちくま文庫） ・夢野久作『殺人リレー』（『夢野久作全集8』ちくま文庫）		
【参考書】 安藤宏『「私」をつくる一近代小説の試み』岩波新書 廣野由美子『一人称小説とは何か―異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房 石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房		
【成績評価の方法と基準】 ＊以下の①②をもとに総合的に評価します。 ①各回ワーク：60％ ②学期末課題:40%		
【学生の意見等からの気づき】 ・他の学生の意見を聞くのが参考になるという声が多いです。今後も、意見発表の場は重視していきたいと考えています。 ・後半の学生による発表が刺激になるとのことです。教員も、大きな刺激を受けています。		
【学生が準備すべき機器他】 可能であれば、PC、タブレット、スマホなど。PDFのファイルを見るのに、利用します。		
【その他の重要事項】 ※秋学期の授業となります。秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。なお、選定された小説、および順序に若干の変更が出る可能性もあります。 ※学期末課題の提出は11回授業終了後、12月初旬となります。その後は、授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。		
【Outline (in English)】 Course Outline This course introduces the style of stories called “first-person novels” written after the 1890’s. We learn about its position in the history of literature, and analyze examples in terms of the expression of perspective. Learning Objectives By the end of the course, students should be able to do the following: ・ Understand the role of narrative in novels. ・ Explain the relation between narrative and theme in novels. ・ Write analytical papers of their original thought using the theory learned in class. Learning Activities Outside of the Classroom Preparation: Students read each novel and think about the characters and the narrator in the novel. Review: Students write and upload a short paper after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading Criteria/Policy Your final grade will be calculated according to the following process: regular short papers (60%); final paper (40%).		

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (6) 現代A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

森鷗外の作品とそのアダプテーション (鷗外作品を素材とする演劇や映画) を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

To learn how to read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present day.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第2回	「舞姫」(1)	「近代自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第3回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第4回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第5回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第6回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する
第7回	映画「舞姫」(2)	鑑賞の続きとグループワークによる批評
第8回	映画「舞姫」(3)	各グループでの討議内容の発表
第9回	鷗外と女性たち	鷗外と明治大正期の女性表現者たちとのかわりを知る
第10回	鷗外と第一波フェミニズム(1)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「さへづり」を読む
第11回	鷗外と第一波フェミニズム(2)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「なのりそ」「団子坂」その他を読む
第12回	鷗外と性欲の問題系	「キタ・セクスアリス」などの鷗外作品を読む
第13回	鷗外と性暴力の問題系	「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む
第14回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト (教科書)】

授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる

。映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』(岩波書店)、金子幸代編『鷗外女性論集』(不二出版)、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーおよび小レポートの内容30%、期末レポート(または試験)70%。3分の2以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について正確な理解があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メール宛先は開講時に指示する。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。To acquire the ability to carefully read modern and contemporary literature from the perspective of gender and sexuality, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present age.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第2回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」をめぐる私小説としての受容について
第3回	森鷗外「半日」の戦略	設定とプロットを検討し、「半日」のテーマを考える
第4回	「作家の妻」とテクスチュアルハラスメント	森しげ（鷗外後妻）へのハラスメントについて知る
第5回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」(2014)の鑑賞
第6回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	鑑賞の続きと解説
第7回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下で書かれた鷗外作品の概略を知る
第8回	森しげ「波瀾」の戦略と「あだ花」の宛先	森しげの代表作を読む
第9回	鷗外・しげのインターテクスチュアリティ	二作家の作品群のテキスト間相互関連性について知る
第10回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	「お鯉さん」に描かれた女性から女性への欲望の様相を読む
第11回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(1)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された鷗外作品について
第12回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(2)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された森しげと与謝野晶子の作品について
第13回	鷗外と与謝野晶子	自然主義時代における与謝野晶子の活動と鷗外との関係について
第14回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、『明治文学全集』（筑摩書房）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 30%、期末レポート（または試験）70%。3分の2以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日的トピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について正確な理解があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメールでも受け付ける。メール宛先については開講時に指示する。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（7）漢文A

遠藤 星希

授業コード：A2681 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・莊子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々な思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を迫体験することにより、現代社会をとりえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受け付ける）。課題や質問に対するフィードバックは、次の週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第2回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より
第3回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第4回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第5回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁惠王上」「尽心上」等より
第6回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第7回	道家の思想（2）	『莊子』を読む（1）：「齊物論篇」「大宗師篇」等より
第8回	道家の思想（3）	『莊子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第9回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第10回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第11回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲説篇」等より
第12回	雑家の思想	『淮南子』を読む：「人間訓」等より
第13回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第14回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を教室で配布する。

【参考書】

- ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012年）
 - ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015年）
 - ・前野直彬『精講漢文』（ちくま学芸文庫、2018年）
 - ・西田太一郎『漢文の語法』（角川ソフィア文庫、2023年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select relatively famous passages from the writings of the *zhuzi baijia* (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. *Zhuzi* in *zhuzi baijia* refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. *Baijia* refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of *zhuzi baijia*, we will relive their thoughts and in so doing seek to attain a novel perspective from which to revisit contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts;
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have grasped the characteristics of the philosophy of the *zhuzi baijia*; and
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（7）漢文B

遠藤 星希

授業コード：A2682 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『戦国策』 ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第2回	『戦国策』 精読（1）	「斉策」より
第3回	『戦国策』 精読（2）	「燕策」より
第4回	『戦国策』 精読（3）	「楚策」より
第5回	『戦国策』 精読（4）	「魏策」より
第6回	『史記』 ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第7回	『史記』 精読（1）	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第8回	『史記』 精読（2）	「廉頗藺相如列伝」より「渾池の会」
第9回	『史記』 精読（3）	「項羽本紀」より
第10回	『史記』 精読（4）	「淮陰侯列伝」より
第11回	『史記』 精読（5）	「管晏列伝」より
第12回	『史記』 精読（6）	「伍子胥列伝」より
第13回	『史記』 精読（7）	「孫子呉起列伝」より
第14回	『史記』 精読（8）	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012年）
 - ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015年）
 - ・前野直彬『精講漢文』（ちくま学芸文庫、2018年）
 - ・西田太一郎『漢文の語法』（角川ソフィア文庫、2023年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則としてE評価となる。
- ・出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select and read relatively famous passages from *Zhan Guo Ce* (*Strategies of the Warring States*) and *Shiji* (*Records of the Grand Historian*) in the original language. *Zhan Guo Ce* is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read thereafter. *Shiji* is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on *The Tale of Genji* but also had enduring effects on subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from *Zhan Guo Ce* and *Shiji*, we will deepen our understanding of ancient Chinese society and culture and absorb the wisdom of the people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts.
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have acquired a basic knowledge of *Zhan Guo Ce* and *Shiji*.
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（7）漢文C

吉井 涼子

授業コード：A2683 | 曜日・時限：月6/Mon.6
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先秦時代の有名な書物や親しみのある故事成語の典拠などを用い、比較的短文のものやシンプルな構造のものから読み始めることで、漢文（古典中国語）の訓読法の基礎を学習する。当時の文化や習俗も合わせて学んでいく。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読の手法を理解する。
有名な文献や故事成語の典拠、エピソードなどを読むことで、古代中国の歴史・文化に対する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文資料をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。読解に必要な時代背景や古代中国の文化に関する知識も、適時解説する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱うものであり、適宜加える可能性がある。

Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.

In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments). The “contents” of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第2回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第3回	『孟子』を読む	梁惠王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第4回	『詩経』を読む	中国現存最古の歌謡集である『詩経』を理解し、数篇読む。
第5回	『莊子』を読む	『莊子』は寓意的な話の宝庫である。斉物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第6回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第7回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』と『春秋左氏伝』の違いについて解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第8回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第9回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかを知る。
第10回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第11回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	「完璧」の故事の部分を読誦し、当時の秦と六国の関係性を理解する。
第12回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（3）	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第13回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。

予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

Be sure to prepare for the materials distributed in advance.

Chinese-Japanese dictionaries and kanji dictionaries are used for preparation.

The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

Texts will be distributed in class.

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）

高校時代に使用した国語便覧など。

A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.

High school supplementary textbook.

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていきたい。

1 回ごときちゃんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典

・高校国語の副教本(便覧・要覧)

など。

・また、オンライン授業になった場合はHoppiiを使うので、使用できるような環境を整えておくこと。

・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.

・High school supplementary textbook.

・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

【その他の重要事項】

対面授業の予定だが、オンライン(オンデマンド)になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合はHoppiiを利用し、zoomなどは使わない予定である。

I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using familiar stories. We start with simple and short passages from famous books of the pre-Qin Dynasty, carefully reading them while touching on Chinese culture and stories, in order to cultivate basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（7）漢文D

吉井 涼子

授業コード：A2684 | 曜日・時限：月6/Mon.6
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

親しみのある歴史上人物の話をテキストとして用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読のスキルを習得する。
有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを用いることで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.

In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments).

The “contents” of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第2回	『史記』刺客列伝を読む（1）	『史記』の刺客列伝から荊軻の部分で精読する。
第3回	『史記』刺客列伝を読む（2）	精読することで、燕国と秦国の状況や荊軻の置かれた立場などを理解する。
第4回	『史記』刺客列伝を読む（3）	太子と荊軻の認識の差などに留意しつつ精読する。
第5回	『史記』刺客列伝を読む（4）	荊軻が秦王と対面し、計画を実行する場面を読み解く。
第6回	『史記』刺客列伝を読む（5）	荊軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていったのかを理解する。
第7回	『史記』刺客列伝を読む（6）	荊軻列伝の流れを復習し、整理する。
第8回	『史記』秦始皇本紀を読む（1）	「本紀」について解説し、秦の始皇帝とその時代について読み解く。
第9回	『史記』秦始皇本紀を読む（2）	始皇帝の行った歴史的事業を理解する。
第10回	『史記』秦始皇本紀を読む（3）	始皇帝の不死願望と死、そして驪山陵について知る。
第11回	『史記』項羽本紀を読む（1）	「鴻門の会」の箇所など、登場人物を整理しながら精読する。
第12回	『史記』項羽本紀を読む（2）	「四面楚歌」の典故から、項羽の最期の場面までを読み解く。
第13回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。
Texts will be distributed in class.

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。
A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.
High school supplementary textbook.

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていきたい。

This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course.

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典・高校の副教本（便覧・要覧）

など。

・また、オンライン授業になった場合はHoppiiを使うので、使用できるような環境を整えておくこと。

・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.

・High school supplementary textbook.

・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

【その他の重要事項】

対面授業の予定だが、オンライン（オンデマンド）になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合はHoppiiを利用し、zoomなどは使わない予定である。

I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using stories about familiar historical figures. We read longer passages, reading them carefully while touching on Chinese culture and stories, in order to strengthen basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（8）言語A

塩田 雄大

授業コード：A2685 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。当講義では、この前者と後者を行きつ戻りつしながら、日本語学そして言語学の一端を概観しようとするものである。この講義では、毎回は前半と後半に分け、前半部では社会言語学を扱い、後半部では日本で用いられているもう一つの言語である日本手話を取り上げて簡単な練習とともに音声日本語との対照を試みる。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

日本語学的・言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全般、および取り上げる概要の説明
第2回	社会言語学とは／手話のしくみ	ことばの選択／日本手話と日本語対応手話 ほか
第3回	地域と言語／日本手話の音と形(1)	現代におけることばの地域差、ことばの多様性／ミニマルペア ほか
第4回	話し手と言語、人称表現／日本手話の音と形(2)	年代差・役割語／音素と異音 ほか
第5回	聞き手と言語／日本手話の音と形(3)	敬語・ボライトネス／日本手話の表情 ほか
第6回	状況・伝達手段と言語／日本手話の文法(1)	話題・文体・話しことば・書きことば・打ちことば／CL表現とは ほか
第7回	言語と文化／日本手話の文法(2)	言語が違えば思考も違うのか／名詞の語形変化 ほか
第8回	言語の変化(1)／日本手話の文法(3)	発音の変化／語順 ほか
第9回	言語の変化(2)／日本手話の文法(4)	アクセント／否定・疑問 ほか
第10回	言語の変化(3)／日本手話の文法(5)	動詞可能表現の変遷・変化／テンス・アスペクト ほか
第11回	言語の変化(4)／日本手話らしい表現(1)	形容詞・形容動詞の変遷・変化／日本手話の口型 ほか
第12回	言語の変化(5)／日本手話らしい表現(2)	副詞の変遷・変化／日本手話の敬語 ほか
第13回	配慮表現／日本手話らしい表現(3)	感じのいい話し方／日本手話の地域差 ほか
第14回	ふりかえり	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』（石黒圭、光文社新書、2013年、840円＋税）
<https://books.kobunsha.com/book/b10124545.html>
『文法が基礎からわかる 日本手話のしくみ』（岡典栄・赤堀仁美、大修館書店、2011年、1,200円＋税）
<https://www.taishukan.co.jp/book/b198192.html>

※上記2冊、履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。テキストなしでの受講は不可。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

関連する文献は講義内で適宜紹介するが、下記、例をいくつか掲げておく。

- (1)『ことばの力学－応用言語学への招待』（白井恭弘、岩波書店、2013年）
- (2)『よくわかる言語学』（窪田晴夫編、ミネルヴァ書房、2019年）
- (3)『新世代の言語学－社会・文化・言語をつなぐもの』（飯野公一ほか 編著、くろしお出版、2003年）
- (4)『社会言語学の枠組み』（井上史雄・田邊和子編、くろしお出版、2022年）
- (5)『改訂新版 はじめての手話』（木村晴美・市田泰弘、生活書院、2014年）

【成績評価の方法と基準】

・毎回の事前準備課題 30 %

・最終レポート 70 %

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したもの、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、手話言語への理解を深める目的で、簡単な日本手話の練習をおこなったが、これがためになったという意見が寄せられた。今年度も、講義内で練習をおこなう予定である。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい（スマホのみだと配付資料が読みにくいはず）。

【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上にて随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。

▼耳の聴こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

＊＊ Course outline ＊＊

There are two major perspectives in the study of language: one that seeks to clarify the structure of “language itself,” and another that focuses on how language is actually used within real social contexts. This course moves back and forth between these two perspectives in order to provide an overview of Japanese linguistics and general linguistics.

Each class session is divided into two parts. In the first half, we explore topics in sociolinguistics. In the second half, we examine Japanese Sign Language (JSL), the other language used in Japan, and conduct simple practice activities while comparing it with spoken Japanese. Through weekly preparation and the discussion and examination of students’ observations, participants will work to understand how language is used in the “here and now.” (Course content may be adjusted as needed depending on the background and needs of the participants.)

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（8）言語B

塩田 雄大

授業コード：A2686 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、各言語のいわゆる「標準語」に焦点を当てて分析を進める姿勢が一つにある。しかし、当然のことだが、各言語は「標準語」だけから成り立つものではない。当講義では、日本語の「標準語」と「方言」の両方を射程に入れて、おもに音声面および文法面の特性の一端を概観しようとするものである。

この講義で取り扱うテーマは、音声および文法に関して多岐にわたる。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」の標準語・方言の使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

標準語および方言を視野に入れた「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

講師による説明・解説だけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の紹介を積極的におこなう。また、各自のPC・タブレット等を用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全般の説明、基本的な問題の提示
第2回	母音と子音	発音のしくみ ほか
第3回	五十音図と特殊拍	「ん」とは、「っ」とはどんな音か ほか
第4回	アクセント	「箸を持って橋の端を渡る」はどう発音するか ほか
第5回	形態素	「酒（さけ）」と「酒屋（さかや）」の形態論 ほか
第6回	語と句	「古い新聞」と「古新聞」は同じか ほか
第7回	格ととりたて	「屋根まで飛んだ」は何が飛んだのか ほか
第8回	複文	「ボタンを〔押せば／押すと／押したら〕ジュースが出てくる」 ほか
第9回	活用	「早く〔しゃべれ／しゃべろ〕」 ほか
第10回	ヴォイス	「恋人にふられた」と「雨に降られた」 ほか
第11回	アスペクト、テンス	「このあと、授業あった？」は過去形なのか ほか
第12回	モダリティー	話し手の「気持ち」を表す言語要素 ほか
第13回	待遇表現	敬語の体系 ほか
第14回	ふりかえり	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の課題回答と批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のもとの時間（標準的には4時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『ワークブック 方言で考える日本語学』（松丸真大ほか、くろしお出版、2023年、1500円＋税）

https://www.9640.jp/book_view/?934

※履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。テキストなしでの受講は不可。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。

関連する文献は講義内で適宜紹介するが、下記、例をいくつか掲げておく。

- （1）『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013年）
- （2）『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか編著、ミネルヴァ書房、2016年）
- （3）『実践方言学講座 第1巻 社会の活性化と方言』（半沢康・新井小枝子編著、くろしお出版、2020年）
- （4）『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991年）
- （5）『初級沖縄語』（花園悟、研究社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の事前準備課題 30 %
- ・最終レポート 70 %

課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したもの、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、方言への理解を深める目的で、簡単な沖縄語（沖縄方言）の練習を講義内でおこなったが、これがためになったという意見が寄せられた。昨年度は毎回あまり時間が取れなかったので、今年度は講義末尾で練習をおこなう時間がある程度確保するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項および資料配付は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。紙資料は配付しないため、毎回の受講時には【PCまたはタブレット】を持参するのが望ましい（スマホのみだと配付資料が読みにくいはず）。

【その他の重要事項】

▼質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上に随時受け付ける。

▼本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。また、首都圏以外の地域の方言を持つ学生は特に積極的に履修してほしい。

▼耳の聴こえて苦労している学生の履修も当然歓迎するので、ぜひ申し出られたい。

▼この講義は毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline (in English)】

＊＊ Course outline ＊＊

One perspective on studying languages is to focus on the so-called 'standard language' of each language. However, as a matter of course, each language does not consist only of a 'standard language'. This lecture attempts to give an overview of some of the main phonetic and grammatical characteristics of both the 'standard' and 'dialects' of the Japanese language.

＊＊ Learning Objectives ＊＊

The students are expected to be able to 'see and think things' with a view to standard and dialectal languages.

＊＊ Learning activities outside of classroom ＊＊

Students will be expected to prepare and submit assignments in advance (answering the assignments and critically reviewing the relevant sections of the textbook). Please be aware that a certain amount of time (typically

4 hours or more) will be required for preparation each time.

＊＊ Grading Criteria /Policy ＊＊

Preparatory work for each class (30%), and final report (70%).

Plagiarism and unauthorized quotations are not allowed in the assignments and final report, nor is writing only on the content of the textbook or the content presented by the instructor in the lecture.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (9) 表現A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水3/Wed.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第2回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第3回	文学とは何か	文学を定義する
第4回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第5回	文学の拠点	文学のありかについて
第6回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第7回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第8回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第9回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第10回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第11回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第12回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第13回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第14回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

藤谷治「小説は君のためにある」(ちくまプリマー新書)

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回アクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

【その他の重要事項】

講師は小説家。2003年デビュー。2015年『世界でいちばん美しい』で第31回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』(第21回三島由紀夫賞候補)『船に乗れ!』(第7回本屋大賞第7位)『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.**Learning Objectives:** At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of “expression” from multiple perspectives.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（9）表現B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における表現の諸相が、作品を実際を書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】

表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

各授業ごとにHoppiにてリアクションペーパーを提出してください。

レポートの課題は授業内、およびHoppiにて告知します。

提出された課題は合否判定の上、短評をつけてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発想	趣向について
第2回	取材	空気を吸うことについて
第3回	文章	スタイルの選択
第4回	起筆	書き出しについて
第5回	持続	書き続けることの困難
第6回	題名	題名を決める
第7回	人物	性格の否定について
第8回	禁止	自らに課す禁止事項及びボロの自戒について
第9回	推敲	文章の検討と批判
第10回	改稿	初稿の否定について
第11回	構成	作品全体について
第12回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第13回	完成	作品の独立について
第14回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「エリック・サティの小劇場」（夕日書房）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the realistic difficulty and inconsequentiality of expression.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（10）演劇A

伊海 孝充

授業コード：A2689 | 曜日・時限：火5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、古典芸能の「能楽（能と狂言）」を中心に、鬼の芸能について学んでいく。鬼は日本の芸能と密接な関係にある素材であり、「鬼」という言葉で包含できないほどの多様な特質がある。それらの芸能を多様性を考えつつ、「鬼」とは何かを追究する。

【到達目標】

本講義では、以下の2つを目標とする。

- ①能と狂言を中心に日本の芸能の基本を理解する。
 - ②「鬼」の特徴を自分自身で解釈できる。
- この目標の達成状況を、最終レポートで測定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面、講義形式で進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうので、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	鬼と芸能概略
第2回	鬼のイメージ	桃太郎の話を中心に
第3回	「鬼」に関する略史	鬼の種類
第4回	日本の古典芸能	能の基本知識を中心に
第5回	退治される鬼①	能《大江山》
第6回	退治される鬼②	羅生門の鬼
第7回	地獄の鬼①	地獄の視覚化
第8回	地獄の鬼②	絵解きなど
第9回	鬼となった人①	世阿弥の鬼の理論
第10回	鬼となった人②	能《道成寺》
第11回	春来る鬼①	狂言《節分》
第12回	春来る鬼②	来訪神の芸能
第13回	心の鬼	安達原の鬼女伝説
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 70%。学期末レポート 30%。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく動画を見る時間を多く作り、複数映像がある場合は、比較もおこないたい。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this lecture, we will study the concept of the Oni in Japanese classical performing arts.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire fundamental knowledge of Japanese classical performing arts and to present my own perspective on the characteristics of oni.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh, Kyogen, and other classical performing arts. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on reaction papers (70%), and a term-end report (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（10）演劇B

伊海 孝充

授業コード：A2690 | 曜日・時限：火5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、古典芸能の中のメロドラマについて学んでいく。「メロドラマ」という言葉には、通俗的、芸術性が希薄、といったマイナスイメージがあるが、古くから多くの物語・芸能の中に息づいてきたモチーフの一つである。そのメロドラマの歴史を様々な芸能を通して分析していく。

【到達目標】

本講義では、以下の2つを目標とする。

- ①能と狂言を中心に日本の芸能の基本を理解できる。
- ②「メロドラマ」の歴史を理解し、その劇的効果を自身で分析できる。

この目標の達成状況を、最終レポートで測定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面、講義形式で進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうので、積極的に意見を出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「メロドラマ」とは
第2回	メロドラマの評価	メロドラマ研究史
第3回	宗教と恋愛	仏教における唱導
第4回	源満仲の物語	身替り譚の歴史
第5回	物狂能について①	離別再会譚の歴史
第6回	物狂能について②	離別再会譚の展開
第7回	霊験能の背景	神仏奇瑞譚の展開
第8回	判官物の芸能①	判官最良の成立
第9回	判官物の芸能②	義経伝承と芸能
第10回	曾我物の芸能①	敵討ち譚の歴史
第11回	曾我物の芸能②	中世から近世の芸能へ
第12回	説経節	「山椒太夫」を中心に
第13回	近松門左衛門の人形浄瑠璃	「世話物」について
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況及びコメントカードの評価 70%。学期末レポート 30%。

【学生の意見等からの気づき】

はじめて古典芸能を学ぶ受講者のために基礎的な知識から学ぶ。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this lecture, we will study the History of Melodrama in Japanese Classical Performing Arts.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire fundamental knowledge of Japanese classical performing arts and to present my own perspective on the dramatic effect of melodrama.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see performances of Noh, Kyogen, and other classical performing arts. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on reaction papers (70%), and a term-end report (30%).

ART200BC（芸術学 / Art studies 200）

日本文芸研究特講（1 1）音楽芸能史 A

本塚 亘

授業コード：A2693 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中にある音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。
- ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：日本の音楽とは」、「Ⅱ：日本音楽略史」、「Ⅲ：外来楽について」、「Ⅳ：在来楽について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、学習支援システムを介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Ⅰ：日本の音楽とは - ガイダンス	授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認。小課題（全4回）と期末レポートの出題。
第2回	- ジャンルと楽器	雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第3回	- フィードバック	「Ⅰ：日本の音楽とは」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第4回	Ⅱ：日本音楽略史 - 制度の形成	出土品や『隋書』倭国伝、『古事記』の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第5回	- 確立と発展	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第6回	- フィードバック	「Ⅱ：日本音楽略史」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第7回	Ⅲ：外来楽について - 舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。
第8回	- 管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第9回	- フィードバック	「Ⅲ：外来楽について」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第10回	Ⅳ：在来楽について - 国風歌謡	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第11回	- 催馬楽について	御遊などで歌われる催馬楽について学び、その音楽性や歌謡の性質について学ぶ。
第12回	- フィードバック	「Ⅳ：在来楽について」に関する履修者の質問に回答、および補遺。

第13回 V：補論
- 源氏物語と音楽

『源氏物語』における音楽場面（舞楽・管絃・催馬楽など）について取り上げる。

第14回 - 平家語り、語り物の普遍性

平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係性について学び、語り物芸能の普遍性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、学習支援システム上で小課題等の入力をお願いします。

- ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。
 - ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。
 - ・質問（任意）：毎時受け付けます。
 - ・アンケート（任意）：都度協力をお願いする場合があります。
- 課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または学習支援システムを経由して資料を公開します。

【参考書】

- ・岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
 - ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
 - ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
 - ・遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
- その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

すべての授業に出席していただくことを前提に授業を進めます。そのため、特別な事由がある場合を除き、5回以上の欠席がある受講者は評価不可となります（休講・公欠は出席としてカウントします）。その上で、【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

2023-

- ・毎時の学習到達目標を明確にする。
- ・学生の反応をみながら難易度を適宜調整する。

2024-

- ・小課題・期末レポートの出題・回答期間の調整。
- ・小課題の評点および採点基準の一部開示。
- ・小課題の主題内容、難易度、回答条件の調整。
- ・単位修得の条件として最低出席回数を設定。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で学習支援システムにアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更、履修生からの意見・要望等により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、学習支援システムにて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture that provides an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we will focus on the question “What is Japanese music?” by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of “Japanese music” in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The relationship between Japanese music and foreign cultures.
- The universality and objectivity of Japanese music.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Attendance in all classes. Students who miss more than 5 classes will not be evaluated unless there is a justifiable reason, such as an official absence. And in accordance with the above **Goals**, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

ART200BC（芸術学 / Art studies 200）

日本文芸研究特講（1 1）音楽芸能史 B

本塚 亘

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりを分析し、その多様性と歴史的な複層性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要についての理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
- ・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：和歌をうたう」、「Ⅱ：表記と歌唱形式」、「Ⅲ：和歌のレトリック」、「Ⅳ：歌合について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、学習支援システムを介して行う場合と、またはこれらを併用する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Ⅰ：和歌をうたう - ガイダンス	授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認。小課題（全4回）と期末レポートの出題。
第2回	- 和歌の歌唱例	現代における和歌の発声・歌唱例を鑑賞する。
第3回	- フィードバック	「Ⅰ：和歌をうたう」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第4回	Ⅱ．表記と歌唱形式 - 『万葉集』のうたいかた	『万葉集』中の歌の発声や演奏に関する表現を概観し、音声としての和歌の享受の在り方を学ぶ。
第5回	- 歌謡と歌体	記紀歌謡や『万葉集』における歌体と、『琴歌譜』などで実際に歌われた形式とを比較し、その関係を学ぶ。
第6回	- フィードバック	「Ⅱ．表記と歌唱形式」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第7回	Ⅲ：和歌のレトリック - 上代～中古	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第8回	- 中世・その他	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第9回	- フィードバック	「Ⅲ：和歌のレトリック」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第10回	Ⅳ：歌合について - 初期の歌合	歌合の歴史を概観しながら、初期歌合における演出や、和歌の詠唱方法、歌の評価観等について学ぶ。
第11回	- 歌合の変遷	平安時代末から中世にかけて起こった歌合の変化について学ぶ。
第12回	- フィードバック	「Ⅳ：歌合について」に関する履修者の質問への回答、および補遺。
第13回	補論 - 越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。

第14回 - 君が代の歴史

和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、学習支援システム上で小課題等の入力をお願いします。

- ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。
 - ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。
 - ・質問（任意）：毎時受け付けます。
 - ・アンケート（任意）：都度協力をお願いする場合があります。
- 課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または学習支援システムを経由して資料を公開します。

【参考書】

- ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
 - ・青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（空閑書院、1999）
 - ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
 - ・渡部泰明編『和歌とは何か』（岩波文庫 新赤版 1198、2013）
- その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

すべての授業に出席していただくことを前提に授業を進めます。そのため、特別な事由がある場合を除き、5回以上の欠席がある受講者は評価不可となります（休講・公欠は出席としてカウントします）。その上で、【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

2023-

- ・毎時の学習到達目標を明確にする。
- ・学生の反応をみながら難易度を適宜調整する。

2024-

- ・小課題・期末レポートの出題・回答期間の調整。
- ・小課題の評点および採点基準の一部開示。
- ・小課題の主題内容、難易度、回答条件の調整。
- ・単位修得の条件として最低出席回数を設定。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で学習支援システムにアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更、履修生からの意見・要望等により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、学習支援システムにて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and historical multilayered nature of song.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The literary and musical characteristics of ancient Japanese *uta* songs.
- The multilayered relationship between melody and lyrics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Attendance in all classes. Students who miss more than 5 classes will not be evaluated unless there is a justifiable reason, such as an official absence. And in accordance with the above **Goals**, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

琉球王国初の文字資料である神歌集、『おもろさうし』のおもろ（神歌）に親しむ。また琉球の口頭伝承を記した『遺老説伝（いろうせつでん）』の説話や口頭伝承に影響を及ぼしたと考えられる事象を知る。琉球と日本の文学の違いを理解することを到達目標とする。

【到達目標】

『おもろさうし』は簡単な漢字とひらかなを用いた神歌集であるが、内容は難解で日本本土のどのような歌とも似ていない。その不思議な神歌（おもろ）の世界に分け入り、独特の世界観と信仰を知ることが目的とする。あわせて、琉球王国時代の口頭伝承を書き記した『遺老説伝（いろうせつでん）』、おもろや口頭伝承に影響を及ぼした、と考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。琉球・沖縄の文学を知るためには、民俗や音楽も知る必要があり、音源を鑑賞する時間も設ける。また、授業数回に一回程度、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに対しては、次回の授業でフィードバックする。具体的には質問にこたえ、感想に対して所感を述べる。状況に応じて学習支援システムを用い、簡単な課題を出す。課題に目を通し、各自に対し所感を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『おもろさうし』の驚の用例	『おもろさうし』のおもろの読み方と、おもろ世界の驚の用例をみる。
第2回	『おもろさうし』の「驚をつかう」という用例	おもろの中で「驚をつかう」という用例がある。その用例をみていく。
第3回	『おもろさうし』の「驚をとる」という用例	「驚をとる」というおもろの意味を考えていく。
第4回	驚の霊能がどのようなものか	おもろ世界の驚は霊能を持つ存在である。その具体例をみていく。
第5回	驚が不可視のものをみる、という霊能を持つことについて	おもろ世界の驚は不可視のものをみる、とされる。その意義を考える。
第6回	驚のつく地名	おもろ世界では驚のつく地名がある。その地名を考察していく。
第7回	驚と王権との結びつき	おもろ世界の驚と王権は結びついていて、そのことを考察していく。
第8回	驚が戦勝の霊力を持つことについて	驚には戦勝の霊力があるとみなされていた。そのことを考察する。
第9回	船と驚のダブルイメージについて	おもろ世界の船が猛禽類のダブルイメージについて考察する。
第10回	琉球船と猛禽類の同一視について	琉球船は猛禽類と同一視されることがある。そのことを考察していく。
第11回	説話集、『遺老説伝』の驚羽について	琉球の口頭伝承を集めた『遺老説伝』にある驚羽の事例をみていく。
第12回	驚のイメージと神話、そして驚の尾羽が矢羽根になることについて	巨大な驚のイメージがいかに形成されたかを神話などから考察する。
第13回	驚のイメージと「鳥の墓」について	南西諸島の百合若大臣の物語の鷹のイメージを考察する。
第14回	「驚之鳥節」の驚について	八重山諸島で現在も愛される驚之鳥節の驚のイメージを考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の『火山と竹の女神』の「おもろ世界の驚」を読むこと。また、おもろを読んでいく上で必要なことは、別にプリントを作成する。学習支援システムにアップするので、教科書の理解を進めるために、読んでいくこと。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021年、本体2500円）を教科書として使用する。

【参考書】

『喜界島・鬼の海域』（福寛美、新典社、2008年）
『『おもろさうし』と群雄の世紀』（福寛美、森話社、2013年）
『ぐずく造営のおもろ』（福寛美、新典社、2015年）
『奄美群島おもろの世界』（福寛美、南方新社、2018年）

【成績評価の方法と基準】

・記述式の期末試験を行う。問題をいくつか提示し、その内2つを選んで、それぞれ300字以上記述する、という形をとる。
・平常点も参考にする。最低6回は出席すること。
・期末試験で70%、平常点で30%の配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を『おもろさうし』主体にすると、必ず難解である、という学生からの意見がある。それは仕方がない部分もあるが、なるべくわかり易く説明するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期は同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The *Omoro sōshi* is the first written compilation of sacred songs and poems collected by the Ryukyu kingdom. The Ryukyuan folklore in the *Irō setsuden* and the Okinawan cultural background may have affected the development of its oral traditions. In this course, you will learn how Ryukyuan sacred songs and literature are related to the cultures of the surrounding areas and developed their own unique styles.

Learning Objectives: The goal is to understand the difference between Ryukyuan and Japanese literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (1 4) 沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
南西諸島の神話や民俗は南九州と深く関わっている。薩摩（さつま）、そして薩南の島々を自在に航海していた人々を、隼人（はやと）という。その隼人の神話を学び、移動する海民について考察する。日本神話における隼人の重要性を認識することを到達目標とする。

【到達目標】
・日本神話と火山、という視点は従来あまり顧みられなかった。しかし、火山列島でもある日本で、噴火はまさに神の仕業としか考えられなかったはずである。その視点で神話を読み解くと、新たな知見が得られる。
・コノハナノサクヤビメ、そしてその神話的末裔の『竹取物語』のカグヤヒメを火山と関わる存在、と捉えたと興味深い事象が認識できる。
・南九州を出自とする隼人と日本神話の関係から、日本神話における隼人の存在価値を知り、古代の九州の文化への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心とする。授業数回に一回、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーには講義内容に対する質問などを書くこととする。次の授業で質問に答えるようつとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	噴火	日本古代における火山の噴火について述べる。
第2回	コノハナノサクヤビメ	降臨した天孫（てんそん）と結ばれた地上の女神について考察する。
第3回	コノハナノサクヤビメの行動	女神についての神話を解説し、女神が天上のアマテラスを模すこと、一方で隼人の女神らしい行動をとることを述べる。
第4回	ヨ（よ・世・代・節）1	ヨ（ユ）は区切られた年代のほか、様々な意味を持つ。そのことを考察する。
第5回	ヨ2	南西諸島の祭祀において、世を乞う（ユークイ）という儀礼が行なわれる。ヨ、ユとは何かを考察する。
第6回	ヨ3	『竹取物語』のカグヤヒメは竹の節にいた。この節もまたヨといわれる。そのことを考察する。
第7回	カグという語	カグヤヒメのカグは、大和三山の香具（カグ）山、火の神のカグツチと関わる。そのことを考察する。
第8回	カゲ（影）	カゲは霊力を意味する言葉であり、南西諸島では光を意味することもある。その用例を考察する。
第9回	隼人と畿内	南九州の隼人が畿内に移動していたことと、その働きについて考察する。
第10回	このはなのサクヤビメと なよたけのカグヤヒメ	サクヤビメとカグヤヒメの神話的類似について考察する。
第11回	富士山	コノハナノサクヤビメは富士山の女神とされる。そのことを考察する。
第12回	隼人と水の献上	隼人は古代の朝廷で水を献上する役割を担っていた。そのことを考察する。
第13回	日向出身の皇妃	神話には日向出身の隼人の女性が皇妃になったことを語る。その意義を考察する。
第14回	隼人と狗（いぬ）吠え	朝廷で、隼人は魔を祓うため特殊な声を出す（狗吠え）役割を担っていた。そのことを考察し、秋学期の授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・『火山と竹の女神』の「火山と竹の女神」の項目をよく読むこと。また授業内容の理解を助けるためのプリントを授業支援システムにアップするので、プリントも参照すること。
・簡単な参考文献、インターネットで読める資料なども周知するようにするので、そちらも参考にすること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021年、本体価格2500円）を教科書とする。

【参考書】

『夜の世界、永劫の世界』（福寛美、新典社、2011年）
『うたの神話学』（福寛美、森話社、2010年）
『新うたの神話学』（福寛美、新典社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

・学期末に試験を行う。問題を複数提示し、2問を選び、それぞれ300字以上記述する、という形にする。
・平常点も留意する。最低6回は出席すること。
・試験を70%、平常点を30%として採点する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が受講生にとって未知で難解なものである場合、戸惑いの声を聞くこともあるが、なるべくわかりやすく解説するようにつとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期、秋学期ともに同じ教科書を使用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The myths and folklore of the Nansei Islands are closely related to those of Southern Kyushu. The Hayato were the people who sailed across the Southern Kyushu and Southern Satsuma islands. In this course, we will learn about the myth of the Hayato and the people of the sea who sailed across the Nansei areas. The relationship between the Hayato from the Southern Kyushu and Japanese myths reveals the presence of Hayato people in Japanese myths. The culture of ancient Kyushu will be looked at in detail.

Learning Objectives: The goal is to recognize the importance of the Hayato in Japanese mythology.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read the textbook and references carefully.

Grading Criteria/Policy: Attend at least 6 times and take the exam. The exam makes up 70% of the grade, and performance in class makes up 30%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸C

松永 明

授業コード：A2701 | 曜日・時限：木5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、16～17世紀にかけて琉球の首里王府が編纂した祭式歌謡集『おもろさうし』や古琉球の神観念、世界観、琉球方言について学びます。

【到達目標】

このコースの目標は『おもろさうし』に対する理解を深めること、琉球文化の特徴を理解すること、琉球方言と本土方言の違いを理解すること、です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的、内容、授業の進め方などの確認
第2回	琉球文化圏	琉球文化圏の範囲や歴史について
第3回	琉球・沖縄文学	日本文学から見た琉球・沖縄文学とは
第4回	『おもろさうし』概説（1）	おもろさうしの成立、内容、表記、研究史など
第5回	『おもろさうし』概説（2）	おもろさうしから見る古琉球の神観念と世界観など
第6回	琉球方言概説	琉球方言の通時的変遷や本土方言との違いなど
第7回	おもろさうしの言語	おもろさうしの言語の特徴は何か
第8回	おもろの記載法と復元形	おもろはどのように記載され、読解のためにはどう復元する必要があるか
第9回	おもろさうしの原注（1）	おもろさうしの原注（言葉開書）とはどのようなものか
第10回	おもろさうしの原注（2）	琉球唯一の古辞書『混効験集』と原注の関係はどのようなものか
第11回	おもろを読む（1）	おもろの精読と理解を通じて、様々な問題点を探求する
第12回	おもろを読む（2）	おもろの精読と理解を通じて、様々な問題点を探求する
第13回	おもろを読む（3）	おもろの精読と理解を通じて、様々な問題点を探求する
第14回	まとめ	春学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小レポート（リアクションペーパー含む）40%、授業への貢献度 10%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces "Omorosaushi", a collection of ritual songs compiled by the Shuri royal government of Ryukyu during the 16th and 17th centuries, the ancient Ryukyuan concept of God, worldview, and Ryukyuan dialect to students taking this course.

(Learning Objectives) The goals of this course are to deepen your understanding of "Omorosaushi", to understand the characteristics of Ryukyu culture, and to understand the differences between Ryukyu dialect and mainland dialect.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
(Grading Criteria /Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports : 40%, in class contribution: 10%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸D

松永 明

授業コード：A2702 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、琉球文化圏で継承され作られ続けてきた、8・8・8・6の音数律を持つ定型叙情短詩の「琉歌 (りゅうか)」を学び、あらゆる階層に愛好されてきた琉歌の鑑賞とその実作を行います。

【到達目標】

このコースの目標は「琉歌 (りゅうか)」に対する理解を深めること、また琉歌の実作を通じて、同じ定型叙情短詩である和歌との違いやその特徴について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー (毎時間) や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の目的、内容、授業の進め方などの確認
第2回	琉球文化圏	琉球文化圏の範囲や歴史について
第3回	琉球・沖縄文学	日本文学から見た琉球・沖縄文学とは
第4回	「琉歌」概説 (1)	琉歌の成立、内容、表記、研究史など
第5回	「琉歌」概説 (2)	琉歌の代表歌人など
第6回	琉球方言概説	琉球方言の通時的変遷や本土方言との違いなど
第7回	「琉歌」の言語	琉歌の言語の特徴とは
第8回	「琉歌」と歌三線	「琉歌」はどのように歌われるか
第9回	「琉歌」と組踊	「琉歌」と組踊の関係について
第10回	「琉歌」を読む (1)	琉歌の鑑賞と理解を通じて、様々な問題点を探求しする
第11回	「琉歌」を読む (2)	琉歌の鑑賞と理解を通じて、様々な問題点を探求しする
第12回	「琉歌」を作る (1)	琉歌の実作と相互鑑賞を通じて、様々な問題点を探求する
第13回	「琉歌」を作る (2)	琉歌の実作と相互鑑賞を通じて、様々な問題点を探求する
第14回	まとめ	秋学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

※本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小レポート (リアクションペーパー含む) 40%、授業への貢献度 10%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Learning Objectives) The goals of this course are to deepen your understanding of "Ryuka" and to try to actually make it yourself.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports : 40%, in class contribution: 10%

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。

- ・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894] の改訂版）。
 - ・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
 - ・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
- 文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

- ・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
- ・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
- ・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「(国際) 日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	文化圏の形成 中華思想・礼楽思想との接触 プレゼンテーションの準備（続）
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館 長らの研究
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン

第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ Asiatic Society of Japan の設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 参考書 pp. 10-17

第7回 参考書 pp. 18-23

第8回 参考書 pp. 64-69、70-77

第14回 参考書 pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫832（ISBN4-12-100832-4）その他、授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したものの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。
なお、担当教員は2026年度をもって退職しますので、本年度がこの授業の最後となります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀、1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で 20 世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
 ・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
 ・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会 (授業第5・9・12回) で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保 (『日本文化論』の変容) の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章 “Debtor to the Ages and the World” と第6章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンス テッカー 等の活躍
第7回	60～70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー

第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま (極論も含めて)
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章 “The Repayment Hardest to Bear” と第8章 “Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラーの仕事
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧 (イ・オリョン)、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章 “The Dilemma of Virtue” と第12章 “The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 参考書① pp. 182-187

第4回 参考書② pp. 31-55

第6回 参考書① pp. 214-219、266-271

第7回 参考書① pp. 248-253

第11回 参考書① pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書を使用しない。

【参考書】

①佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ゴンチャロフからパンゲまで』(中央公論社、1987) 中公文庫832 (ISBN4-12-100832-4)

②青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』(中央公論社、1990) 中公文庫533、1999 (ISBN4-12-203399-3)

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (35%)、プレゼンテーションと議論への参加度 (25%)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したものの、40%)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

なお、担当教員は2026年度をもって退職しますので、本年度がこの授業の最後となります。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict's *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict's book, students participate in one of three presentations on Benedict's discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 and 6), *giri* (Chapters 7 and 8), and *haji* (Chapters 10 and 12). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict's book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（16）特域C

安原 真琴

夜間時間帯

授業コード：A2707 | 曜日・時限：木6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：・本科目を「文化史1」として履修できるのは日本文学科生のみです。他学科公開科目の「文化史1」は哲学科主催のA2262「文化史1」です。

・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史1」（夜間科目）は履修できません。

・日本文学科生が学芸員の資格を取得するにはA2581「文化史1」を履修する必要があります。特域Cでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。

・日本文学科生でない文学部生が「文化史1」を履修する場合、哲学科主催のA2262「文化史1」を履修してください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

17世紀前後の日本文化を学びます。テキストは『扇の草子』という当時の資料です。この資料自体、まだよく解明されていないのですが、授業では未翻刻の新出資料を用います。この授業を通して、くずし字の学習、書誌学の学習、有名な和歌とその背景にある説話の学習、絵なぞなどという遊びの文化に関する学習ができます。

【到達目標】

- ・くずし字が読める。
- ・古典文学の書誌的なことを理解することができる。
- ・有名な和歌とその背景にある説話を覚え、理解することができる。
- ・「絵なぞなど」のような遊びの文化への理解を深めることができる。
- ・17世紀前後の社会と文化を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行いますが、課題解決のため宿題を出し、解答例をフィードバックし、それをもとにみんなで考察を深めていくという方法をとりたいと思います。宿題の他にリアクションペーパーを毎回提出します。授業の内容をまとめたり、知識を問うクイズを出したりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
授業の概要	『扇の草子』とその時代	17世紀前後の社会と文学、及びその時代の産物である『扇の草子』を概説する。
文学と絵画	文学と絵画の関係性	絵入り本（絵巻・絵本）、物語絵、歌絵、判じ絵、料紙の下絵、屏風絵などについて考察、学習する。
『扇の草子』の諸本	『扇の草子』の諸本と書誌学	『扇の草子』の諸本とその書誌学的な事柄を学習する。
新出の『扇の草子』の整理	新出の『扇の草子』の整理	新出本の整理を通して書誌学や絵入り本の応用的な学習を行う。
新出の『扇の草子』の分析	新出の『扇の草子』の分析	新出本の歌と絵を読解する。例：勅撰集
新出の『扇の草子』の分析	新出の『扇の草子』の分析	新出本の歌と絵を読解する。例：伊勢物語
新出の『扇の草子』の分析	新出の『扇の草子』の分析	新出本の歌と絵を読解する。例：源氏物語
新出の『扇の草子』の分析	新出の『扇の草子』の分析	新出本の歌と絵を読解する。例：平家物語
新出の『扇の草子』の分析	新出の『扇の草子』の分析	新出本の歌と絵を読解する。例：謡曲（人物説話など）
新出の『扇の草子』の分析	新出の『扇の草子』の分析	新出本の歌と絵を読解する。例：謡曲（名所説話など）

新出の『扇の草子』の分析	新出の『扇の草子』の分析	新出本の歌と絵を読解する。例：謡曲（恋・無常など）
新出の『扇の草子』の分析	新出の『扇の草子』の分析	新出本の歌と絵を読解する。例：戦国時代のうわさ
新出の『扇の草子』の分析	新出の『扇の草子』の分析	新出本の歌と絵を読解する。例：自然の歌
振り返り	振り返り	『扇の草子』が語るものについて振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は2単位科目なので、1回の授業につき、準備（宿題）に2.5時間、復習（リアクションペーパーと宿題の振り返り）に1.5時間使う。

【テキスト（教科書）】

適宜、LMSにアップします。

【参考書】

安原真琴『『扇の草子』の研究―遊びの芸文』（ベリかん社、2003年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー40%、宿題40%、期末レポート20%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、この授業が始まるのが待ち遠しい。夜遅い授業なのに、熱心かつ視野の広い学生が多いからだ。こんな授業は滅多にない。今年もみんなでがんばりましょう！

【学生が準備すべき機器他】

LMSで資料を配布するので、見られるように準備してください。

【その他の重要事項】

質問などがあれば、授業後に教壇に来てください。

【Outline (in English)】

I will be studying Japanese culture from around the 17th century. The main text we will use is Ō gi no Sōshi, a historical source from that period. This work has not yet been fully studied, and in class we will be working with newly discovered materials that have not yet been transcribed into modern characters.

Through this course, we will learn how to read kuzushiji (cursive classical Japanese script), study bibliography, famous waka poems and the traditional tales behind them, and explore the culture of e-nazōnazo — a form of pictorial riddles popular at the time.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（16）特域D

山口 恭子

夜間時間帯
授業コード：A2708 | 曜日・時限：木6/Thu.6
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：・本科目を「文化史2」として履修できるのは日本文学科生のみです。他学科公開科目の「文化史2」は哲学科主催のA2263「文化史2」です。
・本科目を履修済みの場合、A2582「文化史2」（夜間科目）は履修できません。
・日本文学科生が学芸員の資格を取得するにはA2582「文化史2」を履修する必要があります。特域Dでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。
・日本文学科生でない文学部生が「文化史2」を履修する場合、哲学科主催のA2263「文化史2」を履修してください。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。
【到達目標】
中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture
【授業の進め方と方法】
中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に上げます。
なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまざま)	・仮名の書とその書美
第11回	日本書道史5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第12回	日本書道史6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまなる書流
第13回	日本書道史7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第14回	まとめ	・中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
【テキスト（教科書）】
指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。
【参考書】
・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
・名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
そのほか、講義時に提示します。
【成績評価の方法と基準】
期末試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）により評価します。試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。
【学生の意見等からの気づき】
書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。
【Outline (in English)】
Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.
Learning Objectives: This course aims to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course
Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (50%), assignments (30%), and regular class performance (20%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（8）言語C

尾谷 昌則

授業コード：A2737 | 曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では認知言語学の基礎を学ぶ。認知言語学（Cognitive Linguistic）とは、人間の認知の営みが自然言語にも反映されているという大前提に立って、その観点から言語を分析する手法の総称であり、統語論や意味論、語用論、第二言語習得論など、幅広く応用が可能である。この授業では、主に日本語と英語を事例を中心に上げながら、その基礎概念を学んでゆく。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 認知言語学の基本理念および基礎概念を理解する。
- (2) 認知言語学の基礎概念を使って、日本語の語彙・文法について適切に説明できるようになる。

The learning objectives are as follows:

- (1) To understand the basic principles and core concepts of Cognitive Linguistics.
- (2) To be able to provide appropriate explanations of Japanese vocabulary and grammar using the core concepts of Cognitive Linguistics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進め、授業の最後に理解度を確認する簡単な小テストをリアクションペーパーにて行う。講義の要所要所で質疑応答の時間を設け、フィードバックも随時授業内で行う。
なお、授業形態は対面で行う予定であるが、変更があった場合は学習支援システムにて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業に関する説明と認知言語学に関する簡単な説明を行う
第2回	テキスト第1章	認知言語学とは？
第3回	テキスト第2章	カテゴリー化とプロトタイプ
第4回	テキスト第3章	メタファー（隠喩）
第5回	テキスト第4章	メトニミー（換喩）とシネクドキ（提喩）
第6回	テキスト第5章	イメージ・スキーマ
第7回	テキスト第6章	類縁性（アイコン性）
第8回	テキスト第7章	文法化
第9回	テキスト第8章	主体化
第10回	テキスト第9章	構文文法
第11回	論文（1）	意味分析に関する論文を読む
第12回	論文（2）	文法化に関する論文を読む
第13回	論文（3）	構文の拡張に関する論文を読む
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1, 授業のあと、当日授業で学んだ内容、概念などを必ず整理し、復習を行ってください（2～3時間）
- 2, 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行ってください（3時間）

【テキスト（教科書）】

なし。授業で資料を配布する。

【参考書】

『認知言語学大事典』（朝倉書店）★重要
『意味論キータム事典』（開拓社）
『新編 認知言語学キーワード事典』（研究社）
『ことばの認知科学事典』（大修館書店）
『日本語学キーワード事典』（朝倉書店）
『言語学大辞典』（三省堂）
『日本語文法大辞典』（明治書院）
『日本語学研究事典』（明治書院）
『語用論キータム事典』（開拓者）
『日本語研究のための認知言語学』（柊山洋介、研究社）
『認知意味論のしくみ』（柊山洋介著、研究社）

『認知意味論の新展開－メタファーとメトニミー』（谷口一美、研究社）

『認知言語学』（大堀壽夫、東京大学出版会）

『構文ネットワークと文法』（尾谷昌則・二枝美津子、研究社）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（小テスト）50%

期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

新しく担当するため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the fundamentals of cognitive linguistics. Cognitive Linguistics is an umbrella term for approaches to language analysis that begin from the basic premise that human cognitive processes are reflected in natural language; it can be applied broadly across areas such as syntax, semantics, pragmatics, and second language acquisition. In this course, we will study its core concepts primarily through case studies drawn from Japanese and English.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend 3-4 hours reviewing the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

-reaction paper 50%

-end-of-term report 50%

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講 (8) 言語D

王 安

授業コード：A2738 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は対照言語学・対照研究を中心内容とする講義である。対照言語学 (Contrastive Linguistics) とは、二つ、また時には三つ以上の言語について、言語体系および言語行動の類似点と相違点を明らかにしようとする学問である。

この授業では、主に日本語・中国語・英語を中心に、三言語の文字・語彙・文法、または言語行動などの側面における類似点と相違点を分析し、言語学的観点から三言語それぞれの個性や特徴に対する理解を深めていく。また、現代中国語における基礎概念及び重要文法項目を紹介し、日中対照研究に関する典型事例を把握する。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 対照言語学・対照研究の基本理念および概念を理解する。
- (2) 日中英三言語における主な類似点と相違点を把握する。
- (3) 言語学的観点から日本語と日本語以外の言語の構造を知り、異なる言語を客観視する視点を養う。

Specific goals are as follows.

- (1) To understand the basic principles and concepts of contrastive linguistics and contrastive research.
- (2) To grasp the major similarities and differences between Japanese, Chinese, and English.
- (3) To learn the structures of Japanese and other languages from a linguistic perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、二、三回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。

なお、授業形態は対面で行う予定ですが、変更があった場合は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業に関する説明、対照言語学と対照研究に関する一般知識 (その1)
第2回	対照言語学の基本概念	対照言語学と対照研究に関する一般知識 (その2)
第3回	中国語に関する基本知識 (その1)	現代中国語とはどのような言語 - 日本語と対照しながら (その1)
第4回	中国語に関する基本知識 (その2)	現代中国語とはどのような言語 - 日本語と対照しながら (その2)
第5回	日中両言語の品詞と基本構文	中国語の品詞と基本構文 - 日本語と対照しながら
第6回	対照言語学的観点から見る名詞	日中英三言語の名詞について

第7回	対照言語学的観点から見る動詞	日中英三言語の動詞について
第8回	対照言語学的観点から見る形容詞	日中英三言語の形容詞について (その1)
第9回	対照言語学的観点から見る形容詞	日中英三言語の形容詞について (その2)
第10回	議論	フォローアップ (その1)
第11回	対照研究の事例分析 (1)	感情表現の多様性 (その1)
第12回	対照研究の事例分析 (2)	感情表現の多様性 (その2)
第13回	対照研究の事例分析 (3)	日中擬音語・擬態語の比較
第14回	まとめ	筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1, 授業のあと、当日授業で学んだ内容、概念などを必ず整理し、復習を行ってください (3時間)
- 2, 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行ってください (3時間)

【テキスト (教科書)】

なし。授業で資料を配布する。

【参考書】

- (1) 日英対照関連の参考書
安藤貞夫 (1986) 『英語の論理・日本語の論理』大修館書店
井上和子 (1978) 『日英対照 日本語の文法規則』大修館書店
大江三郎 (1975) 『日英語の比較研究 - 主観性をめぐって』南雲堂
影山太郎 (1980) 『日英比較 語彙の構造』松柏社
国広哲弥 (1967) 『構造的意味論 - 日英両語対照研究』三省堂
窪園晴夫ほか (1996) 『日英語対照による英語学概論』くろしお出版
柴谷方良ほか (編) (1992) 『日英語対照研究シリーズ1 (～5)』くろしお出版
水谷信子 (1985) 『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版
(2) 日中対照関連、中国語学関連の参考書
相原茂他 (1996) 『中国語の文法書』同友社
荒川清秀 (2018) 『日中漢語の生成と交流・受容』白帝社
石綿敏雄 高田誠 (1990) 『対照言語学』桜楓社
井上優 (2002) 『対照研究と日本語教育』
大河内康内編 (1997) 『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
大河内康内 (1997) 『中国語の諸相』白帝社
生越直樹 (2002) 『シリーズ言語科学4 対照言語学』東京大学出版会
木村英樹 (2012) 『中国語文法の意味とたち』白帝社
木村英樹 (2017) 『中国語ははじめの一步』ちくま学芸文庫
杉村博文 (1994) 『中国語文法教室』大修館書店
野瀬昌彦 編集 (2011) 『日本語と外国語との対照研究X』三恵社
寺村秀夫 (1982) 「言語の対照的分析と記述の方法」『講座日本語学10 外国語との対照』明治書院
松岡栄志・古川裕 監訳 (2004) 『現代中国語総説』三省堂
北京大学中文系現代漢語教研室編 (2018) 『現代漢語』商務印書館
王占華他 (2004) 『中国語学概論』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (筆記) 60% + リアクションペーパー 28% + 授業への積極的な貢献度 12% = 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関する知らせがあった場合は、学習支援システムに掲示するので、必ず確認してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on contrastive linguistics and contrastive research. Contrastive Linguistics is the study of the similarities and differences between linguistic systems and linguistic behavior in two or more languages.

In this course, with a focus on Japanese, Chinese, and English, we will analyze the similarities and differences in letters, vocabulary, grammar, and linguistic behavior of the three languages, and deepen our understanding of the individuality and characteristics of each of the three languages from a linguistic perspective. In addition, basic concepts and important grammatical items in modern Chinese are introduced, and typical cases of contrastive studies between Japan and China are presented.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend 6 hours reviewing the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- Final test 60%
- reaction paper 28%
- active contribution to class 12%

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論 A

廣田 友晴

授業コード：A2804 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学研究の諸領域を2セメスターにわたって概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、社会言語学、英語教育を中心に、英語学研究の基礎的な考え方を学びます。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春学期・秋学期を連続して履修することをお勧めします。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容とアプローチを学び、自分の興味のある分野を見つけるとともに、今後の自身の研究テーマを英語学研究の中に位置づけられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「言語」と一口にいっても、話し言葉、書き言葉、文法、話者の頭の中にある言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方の違いは、研究アプローチに反映されることも少なくありません。英語学には、理論的な側面から取り組む分野もあれば、具体的な言語事象に着目する分野もあります。本科目では、できるだけ多くの分野を講義形式で紹介していきます。リアクション・ペーパーは毎時間提出していただきます。興味深いコメントについては授業内で紹介し、さらなる学びや議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の進め方、教科書、履修条件について
第2回	英語学とは	英語学研究の概説
第3回	世界の英語（1）	世界語としての英語について
第4回	世界の英語（2）	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第5回	形態論（1）	形態論の概説、単語ができる仕組み
第6回	形態論（2）	形態論と形態素
第7回	意味論（1）	意味論の概説
第8回	意味論（2）	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論（1）	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論（2）	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	言葉と社会	社会言語学の概説
第12回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第13回	春学期の振り返り	春学期の講義内容についての復習と演習
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目では次々と新しい内容を扱うため、教科書を事前に読んでから授業に出席してください。教科書は英語で書かれているため、辞書を引きながら読み、授業を通して復習し、理解を深めることを心がけましょう。授業後には、学んだ内容を再度確認することで、知識の定着や新たな視点の獲得につながります。本科目における予習・復習の目安時間は、それぞれ2時間です。

【テキスト（教科書）】

影山太郎・デ・シェン、ブレント・日比谷潤子・タツキ、ドナ（2021）『First Steps in English Linguistics (2nd edition) 英語言語学の第一歩』くろしお出版。

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、期末試験を60%とし、授業で取り扱う各分野の基礎知識を十分に理解できているかどうかで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本科目の担当は今年度が初めてです。気づいた点などがあれば、授業内外でお気軽にお知らせください。

【その他の重要事項】

英語学の基礎的知識を身につけるため、1年次には秋学期開講の「英語学概論B」とあわせて履修することを推奨します。授業の構成や進度については、学生の理解度に応じて適宜調整する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces students to various fields in English linguistics, with a focus on World Englishes, morphology, semantics, pragmatics, sociolinguistics, and English teaching.

(Learning objectives) The primary goal of this course is for students to acquire an overview of English linguistics and to be able to locate their own research interests within the field.

(Learning activities outside of classroom) Students are required to read the relevant textbook chapter before class and review the content covered after class. Students are expected to spend approximately four hours per class.

(Grading criteria /policy) Students will be assessed based on their understanding of the course content: attendance and in-class contributions (40%) and a final examination (60%).

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語学概論 B

北澤 茉奈

授業コード：A2805 | 曜日・時限：水 1/Wed. 1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は2～4年です
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の歴史、統語論、音声学・音韻論、言語習得といった英語学の主要分野について、基礎的な概念や用語を学ぶことを目的とする。英語の発音の仕組みや文構造に関する基礎知識を身につけ、実際の英文を用いた分析や構造表記の練習を通して、英語という言語の成り立ちを理解する。また、日本語との共通点や相違点にも目を向けながら、英語がどのように理解され、習得されてきたのかを考察する。これらの学習を通して、英語を単なる学習対象として見るのではなく、言語そのものへの理解を深めるための基礎的な視点を身につけることを目指す。

【到達目標】

本授業を通して、学生は英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得といった英語学の主要分野について、基礎的な概念や用語を理解することを目指す。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史的变化、英語の音の体系、統語論における基本的な考え方、ならびに言語習得や伝統的文法から生成文法に至る理論の変遷について、基礎的な知識を身につける。また、言語学研究の諸分野のアプローチや研究の現状を理解し、英語という対象への理解を深めるとともに、英語を専攻する上で必要な基礎的知識をもとに、自身の関心や研究テーマを位置づけるための基盤を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得、ならびに学校文法から生成文法に至るまでの基礎的な概念や用語、理論の変遷について、講義形式を中心に進めます。発展的な内容については、動画等の教材も取り入れながら理解を深めます。また、事前に教科書内容の簡単なまとめや実例への気づきを準備してもらい、その一部を授業内で紹介してもらうことがあります。授業の冒頭では、前回提出されたリアクションペーパーの内容をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパーにおける良いコメントは授業内で共有し、議論の発展に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、教科書・参考文献、履修条件および評価方法の説明
第2回	英語学とは何か	英語学の対象と主要分野の概説
第3回	英語の歴史（1）	英語史の概説と英語の成立
第4回	英語の歴史（2）	英語の変化と語彙の成り立ち
第5回	統語論の基礎	統語論の概説と言語構造の基本的な考え方
第6回	統語構造	生成文法による統語構造の分析
第7回	統語構造の発展	助動詞・補文標識・疑問文の構造
第8回	音声・音韻論（1）	英語の音の体系と母音の仕組み
第9回	音声・音韻論（2）	子音の分類と英語の発音の特徴
第10回	言語習得（1）	言語習得の基礎的概念
第11回	言語習得（2）	言語習得を説明する主な理論
第12回	第二言語習得（1）	外国語習得の特徴と影響要因
第13回	第二言語習得（2）	外国語習得の過程と英語学習への示唆
第14回	期末試験	試験・全体のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に先立ち、教科書の該当箇所を目を通し、内容の概要を把握しておく。また、授業で扱うテーマに関連する身近な言語使用の実例や疑問点を探し、簡単に整理・まとめる。授業後は、講義内容や配布資料、授業内での議論を振り返り、理解を深めるとともに、リアクションペーパーや課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』
影山太郎, プレント・デ・シェン, 日比谷潤子, ドナ・タツキ 著
くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、授業内課題 30%、平常点（参加度、リアクションペーパー等） 30%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を参考にしながら、可能な範囲で皆さんの意見や希望を授業に反映していきたいと考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces students to major areas of English linguistics, including the history of English, syntax, phonetics and phonology, and language acquisition. Through the study of basic concepts and terminology, as well as analysis of actual English examples and occasional comparison with Japanese, students explore how English is structured, how it has changed over time, and how it is understood and acquired as a language.

The aim of this course is to help students develop a foundational understanding of English as a linguistic system, and to situate key theories and approaches within the broader field of linguistic research, providing a basis for further study in English linguistics.

Students are expected to read assigned materials before class, review lecture content after class, and complete short reaction papers or assignments. The standard amount of preparation and review time is approximately two hours per class.

Final grades will be evaluated based on the following criteria: final examination (40%), in-class assignments (30%), and class participation including reaction papers (30%).

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことを目指します。どの分野を自分が楽しめそうか、楽しめなさそうかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向き判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入、および「音素」その1（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、 <i>party</i> はカタカナで何と言うべき？
第2回	「音素」その2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第3回	「音節」その1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第4回	「音節」その2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第5回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第6回	今日の文法理論その1（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第7回	今日の文法理論その2（統語論）	「5文型」の不適切さ、X-bar Theory
第8回	今日の文法理論その3（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に native speaker の頭の中にあるの？
第9回	今日の文法理論その4（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第10回	今日の文法理論その5（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第11回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？ …… 「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第12回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第13回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100%。
 公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点ははありません）。

【学生の意見等からの気づき】

割と良い評価をいただけたと思うのですが、理解度はもっと上げたいと思います。

【その他の重要事項】

この授業は『言語学概論 B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします（そのために、コロナ禍の頃の「読むテキスト」の一部復活も検討します）。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice.
 (Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.

(Learning activities outside of classroom) Reaction papers

(Grading Criteria /Policy) Final (100%)

LIN100BD (言語学 / Linguistics 100)

言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、『経験科学』としての言語学入門です。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対して初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対して、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 形態
教室での「対面授業」を毎回実施する予定ですが、諸事情により部分的に「オンライン授業」を実施する場合があります。
2. 進め方
講義形式が基本となりますが、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。
教員は具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切に、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答やリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパーで得られた面白い質問や意見は、時間の許す限りその後の授業内で紹介して、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。
なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要説明、「言語学って何を学ぶの?」、「語学と違うの?」、「言語学が科学?」
第2回	理論言語学とは?	下位分野とそれぞれで扱われる謎の種類
第3回	言語理論と言語観の変遷 1	Saussure ～アメリカ構造主義言語学
第4回	言語理論と言語観の変遷 2	Chomsky ～認知言語学
第5回	形態論 1	語の内部構造と形態素
第6回	形態論 2	語形成（派生と屈折）
第7回	音声学 1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学 2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第10回	統語論 1	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論 2	句構造から文構造へ（生成文法における「移動」）
第12回	意味論 1	意味の記述と語彙分解
第13回	意味論 2	述語のアスペクト
第14回	音韻論	音節とモーラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 1 回あたりの標準の準備・復習時間は、各 2 時間とします。

1. 準備

事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや授業後の質問などにて教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。授業日の前にその日に使用するハンドアウトの PDF ファイルを学習支援システムにアップロードしますので、受講者は必ず各自でファイルを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください。なお、ハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはファイルに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験：100%
最終授業後の定期試験期間に実施します。
2. プラスアルファの加点
上記の通り、本科目の成績は期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には若干の加点をいたします。
 - (a) リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者
 - (b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者
3. 出席の確認

授業では出席を取りません。また、リアクションペーパーは出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見・質問・希望などを記すものであり、「出さない」と減点される」という類のものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

1. 昨年度は「内容が面白い」、「説明がわかりやすい」等の好意的な感想を一昨年度よりも多くもらうことができ、一昨年度からのハンドアウトや説明方法の改善の効果を実感できた。他方で、「話を聞くだけのことが多く、どうしても眠くなってしまった」という意見もいただいたので、練習問題の提示方法・頻度や下記のコメントアプリの使い方などをもう一度見直して、受講生が自分で手を動かしながらより主体的に学べるように授業の進め方を工夫したい。
2. 本科目では、受講生が授業中にスマホや PC から送信したコメントが教室内スクリーン上に匿名で流れるアプリを導入しているが、昨年度は受講生がアプリでコメントを送信する頻度が一昨年度よりも大幅に減ってしまった。教員・学生間の双方向の自由な意見交換や受講生の理解度確認のために、コメントアプリの授業における使用事例等を参考にして、学生が気軽にコメントを送信できる環境作りを進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

- (a) 双方向通信アプリの Zoom を使用できるデバイス
- (b) Zoom によるリアルタイム配信授業の視聴が可能なインターネット回線

【その他の重要事項】

学習支援システムからの授業や期末試験などに関するお知らせメールをきちんと受け取れるように、法政 Gmail の設定を行っておいてください。

【Outline (in English)】

1. Course outline
This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.
2. Learning objectives
In this course, students are expected:
 - (a) to acquire the ability to understand basic knowledge in each field of linguistics.
 - (b) to become sensitive to, and to acquire the ability to give a rudimentary analysis of, facts about languages that are spoken around them.
 - (c) to correctly understand the scientific research methodology.
3. Learning activities outside of classroom
Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.
 - (a) Preparation
Before each class meeting, take a look at the handout to be delivered beforehand. In addition, you should also refresh your memory of the contents of the previous class meeting that are related to the upcoming meeting.
 - (b) Review

You should reflect on what you have learned in the classroom, and work on the assignment if any. If you encounter a problem, you should first tackle it yourself, and let me know the results, however imperfect they are; I will then give a feedback to your attempt. Furthermore, employ the analysis methods you have learned to solve the problem you encounter in your daily life that is similar to the phenomenon taken up in the class.

4. Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義A

廣田 友晴

授業コード：A2808 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「正しい英語」と聞いて、みなさんはどのような英語を思い浮かべるでしょうか。なぜその英語が「正しい」と考えられるのでしょうか。本講義では、さまざまな英語の特徴とそれに対する社会的評価を学び、言語にまつわるイデオロギーや現実社会への影響について考察します。

【到達目標】

さまざまな英語の特徴やその歴史・社会文化的背景を具体的に説明できること、さらに英語を取り巻く社会的評価や問題を批判的に考察できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はPPTを使った講義形式を基本とし、適宜ディスカッションやグループワークを行います。また、講義内容に基づき毎回、リアクションペーパーに気づいたことや考えたことなどを書き、提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	「正しい英語」とは何か（1）	英語における規範主義の歴史
第3回	「正しい英語」とは何か（2）	言語にまつわるイデオロギー
第4回	「正しい英語」とは何か（3）	言語変化に対する態度
第5回	内円圏の英語（1）	イギリス英語
第6回	内円圏の英語（2）	アメリカ英語
第7回	内円圏の英語（3）	カナダ英語
第8回	中間試験	第2回から第7回の内容に基づく試験
第9回	世界の英語（1）	World Englishesの概説
第10回	世界の英語（2）	インド英語
第11回	世界の英語（3）	シンガポール英語
第12回	リング・フランカとしての英語	共通語としての英語
第13回	秋学期の振り返り	秋学期の総括と演習
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目では、予習・復習の目安時間をそれぞれ2時間としています。メインテキストは英語で書かれているため、辞書を活用しながら読み、基本的な概念を事前に理解しておくよう努めてください。授業後は、予習や講義で学んだ内容を復習し、身の回りの言語事象に応用することで、学習の定着と応用を意識しましょう。

【テキスト（教科書）】

Peterson, Elizabeth. 2019. *Making Sense of "Bad English": An Introduction to Language Attitudes and Ideologies*. Routledge.

下記のリンクから、オープンアクセスでPDFをダウンロードできます。

<https://www.taylorfrancis.com/books/oa-mono/10.4324/9780429328343/making-sense-bad-english-elizabeth-peterson>

また、AmazonではKindle版を無料で入手することも可能です。

https://www.amazon.co.jp/Making-Sense-Bad-English-Introduction-ebook/dp/B0CZ38TTM2/ref=tmm_kin_swatch_0

【参考書】

授業内外で適宜、参考書や補助資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間試験30%、期末試験40%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

本科目の担当は今年度が初めてです。授業計画については、みなさんのバックグラウンドや理解度に応じて、柔軟に変更・対応したいと思っています。気づいた点などがあれば、授業内外でお気軽にお知らせください。

【Outline (in English)】

In this course, we will explore the diversity of English varieties and their social evaluation around the world. Students will learn about the history and features of different Englishes, language ideologies, and how these influence society. Through discussions, reaction papers, and group activities, students will develop critical thinking about language use in social contexts.

Students are expected to review the assigned readings in advance and are encouraged to reflect on and apply the lecture content after class. Approximately four hours of study per week outside of class are recommended.

Grades will be based on participation and reaction papers (30%), a midterm exam (30%), and a final exam (40%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要なものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	巷の日本語論の嘘（その1）	うなぎ文（その1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第2回	巷の日本語論の嘘（その2）	うなぎ文（その2）：奥津説、菅井説、そして……
第3回	「訳」についての誤解（その1）	代名詞と「役割語」
第4回	「訳」についての誤解（その2）	意味と文法的手段
第5回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第6回	ハとガ、英語の冠詞（その1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第7回	ハとガ、英語の冠詞（その2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第8回	「黒人」英語（その1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第9回	「黒人」英語（その2）	無意識の規則
第10回	「黒人」英語（その3）	必要な（意味論的）概念の整備
第11回	「黒人」英語（その4）	細かい意味的な区別
第12回	強形・弱形・再強勢形	do の3単現（その1）
第13回	音節量	do の3単現（その2）
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは回答率がえらく低くて情報量がろくにないのですが……コンテンツをちょこちょこ増やしていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language.

(Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

社会言語学

廣田 友晴

授業コード：A2810 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは日々、意識的にも無意識的にも言葉を使い分けています。例えば、友人や家族、先生と話すときを想像してみてください。自然と話し方が変わっているのではないのでしょうか。こうした使い分けには、年齢・性別・地域・談話状況など、さまざまな社会的要因が影響しています。社会言語学は、言語と社会の深いつながりについて考え、探究する学問です。この授業では、言葉を通して社会を見つめ、社会を通じて言葉を見つめることで、身の回りの「ことばの世界」を批判的に捉え直す視点を養うことを目指します。

【到達目標】

この授業では、言語と社会の關係に着目し、さまざまな社会における言語の機能や、社会が言語に対して抱く態度・評価、さらには言語政策といったテーマを概観します。言語はコミュニケーションの中核を担い、私たちが「誰であるか」、他者に「どう見られるか」、そして社会的存在として「どう振る舞うか」に大きな影響を与えます。本講義では、以下の観点から社会と言語の關係を理解し、具体的な事例について説明・分析できるようになることを到達目標とします。
・ミクロ社会言語学の観点から、言語使用やバリエーション、言語変化と社会構造との關係を説明できる。
・マクロ社会言語学の観点から、言語に対する社会的態度や言語政策の事例を分析し、その背景を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、社会言語学の主要なトピックを幅広く取り上げ、ミクロからマクロへと段階的に視野を広げながら理解を深めていきます。授業はPPTを使った講義形式を基本とし、適宜ディスカッションやグループワークを行います。また、講義内容に基づき毎回、リアクションペーパーに気づいたことや考えたことなどを書き、提出していただきます。社会言語学的な現象は日常のあらゆる場面で観察できます。ぜひ「言語のアンテナ」を張り、自分や他者の言語使用を積極的に観察し、ちょっとした「フィールド・ワーク」のつもりで日常を眺めてみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の授業の進め方、教科書、履修条件について 社会言語学の背景・学問領域
第2回	言語と地域	「言語」と「方言」、地域変種
第3回	言語と社会階層	社会階層の差異と言語使用、標準変種と威信
第4回	言語と時間	実時間・見かけ上の時間、世代差
第5回	言語とジェンダー	ジェンダーの差異と言語使用
第6回	言語と文脈	状況に応じた言語使用
第7回	ポライトネス	ポライトネスという概念・理論
第8回	多言語社会	多言語主義、ダイグロシア、コード・スイッチング
第9回	言語接触	ビジンとクレオール
第10回	言語政策と計画	言語維持・喪失・移行・復興
第11回	言語と民族	民族と言語変種
第12回	教育と言語イデオロギー	教育と社会言語学的影響、言語とイデオロギー
第13回	春学期の振り返り	社会言語学的視点の再確認と今後への応用
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須ではありませんが、各回のテーマや内容について事前に自分なりに考えたり、関連事項を調べたりすることを推奨します。授業後は、講義で学んだ内容を自身の身近な言語環境に当てはめて考察するとともに、異なるトピック間の関連や接点を意識しながら、知識を相互に結びつけて理解を深めてください。本講義で扱う社会言語学の諸概念は相互に密接に関連しています。たとえば、話者の年齢、社会階層、ジェンダーは互いに影響し合う要因であり、またミクロ社会言語学とマクロ社会言語学は対立するものではなく、補完的な視点を提供します。

本授業における授業時間外の学習時間は、2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はありません。

【参考書】
授業内外で適宜、参考書や補助資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーや授業参加による平常点：25%
自らの言語使用に関するリフレクションペーパー：15%
期末試験：60%

【学生の意見等からの気づき】
本科目の担当は今年度が初めてです。授業計画については、みなさんのバックグラウンドや理解度に応じて、柔軟に変更・対応したいと思っています。気づいた点などがあれば、授業内外でお気軽にお知らせください。

【Outline (in English)】
(Outline and objectives) This course explores the relationship between language and society, focusing on the functions of language in different social contexts and the ways societies respond to language. Language plays a central role in communication, shaping who we are, how we are perceived, and how we function as social beings. We will examine these issues from two perspectives: (1) how social structures influence the way people speak (e.g., gender, age, socioeconomic status), and (2) how societies deal with language (e.g., attitudes, language policy, bilingualism). (Learning activities outside of classroom) Students are encouraged to reflect on the lecture content and relate sociolinguistic concepts to their own everyday language use. Students are expected to spend approximately two hours per class. (Grading criteria/policy) Assessment is based on three components: participation (25%), linguistic self-reflection (15%), and a final examination (60%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguisticsの分野の中でも Language Acquisitionの理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。授業後にオンラインでいただいたコメント・質問には次の授業冒頭で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の内容説明
第2回	言語知識	子供と大人の言語知識
第3回	第一言語習得1	子供の言語習得
第4回	第一言語習得2	入力の問題点・生得性
第5回	第一言語習得3	臨界期仮説
第6回	第一言語習得4	第一言語習得の研究
第7回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第8回	第二言語習得1	第二言語習得における入力問題
第9回	第二言語習得2	L1とL2の相違点
第10回	第二言語習得3	言語差と難易度
第11回	SLA研究	実験方法の変遷
第12回	SLA理論1	パラメタと有標性
第13回	SLA理論2	パラメタの習得
第14回	SLA研究の教育への応用	理論と教育、第二言語教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDFファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

Lightbown, Patsy and Nina Spada 2011. How Languages Are Learned. Oxford University Press. [P. ライトバウン & N. スパダ『言語はどのように学ばれるか——外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』白井恭弘&岡田雅子（訳）2014. 岩波書店]
その他、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を100%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

半期の授業ではあるが、様々な研究を広く紹介するよう心がけた。受講生にとって気づきの多い授業だったなら幸いです。

【Outline (in English)】

Outline: This course deals with Applied Linguistics, focusing on the theory of Language Acquisition, especially second language acquisition. Through classes and participation in experiments, students will learn what kind of research has been conducted in the field of language acquisition.

Goal: The purpose of this course is to provide students with knowledge about language acquisition and to enable them to think logically about issues related to language acquisition.

Learning activities outside of classroom: The required amount of study time is a minimum of four hours for each meeting of the class.

Grading Criteria:

Final exam: 100%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

比較文学A

丸山 達也

授業コード：A2824 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：文学におけるマイノリティー社会的弱者はどのように描かれてきたか

本講義では、ヨーロッパの文学をはじめとする諸芸術が社会的弱者（移民／難民／女性／外国人／よそ者など）をどのようにに取り上げ、また描いてきたのかを、いくつかの時代や地域の文学・演劇・映画作品を通じて概観します。

【到達目標】

- ・作品をただ鑑賞するのではなく、歴史的・社会的・文化的コンテクストを踏まえて批判的に考察する力を養う。
- ・さまざまな時代・文化・ジャンルの作品の中で共通のテーマやモチーフがどのように扱われているかを比較検討することを通じて、多角的な視点と柔軟な思考力を養う。
- ・各文化圏における芸術や文化、歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。それぞれ同時代で複数の作品を取り上げ、概要を紹介した後で、テーマに関わる主要部分を具体的に読んでいきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。毎回授業の終盤に時間を設けて、講義を通じて考えたことをリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 比較文学とは？
2	導入：社会的マイノリティ	マイノリティとは？ どのような人々が社会的に弱い立場に置かれるのか：身の回りの事例と歴史的事例から考える
3	異邦人：17世紀イギリス	シェイクスピア『オセロー』
4	異邦人：17世紀イギリス	シェイクスピア『ヴェニスの商人』
5	異邦人：17世紀イギリス	オセローとシャイロック
6	女性：18世紀ドイツ	レッシング『エミリア・ガロット』
7	女性：18世紀ドイツ	ヴァーグナー『嬰兒殺しの女』
8	女性：18世紀ドイツ	シラー『たくらみと恋』
9	女性：18世紀ドイツ	犠牲となる女性たち
10	移民：現代ドイツ	映画『不安は魂を喰い尽くす』
11	移民：現代ドイツ	映画『おじいちゃんの里帰り』
12	移民：現代ドイツ	ベルリーン・マクシム・ゴリキー 劇場とヒリエ『狂った血』
13	移民：現代ドイツ	「移民」と「移民の背景を持つ者」
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で取り上げる作品は、授業内では全てを扱うことはできないので、各自で通読・鑑賞しておいてください。（邦訳がないものは除く）
取り上げる作品の中には、映像化されているものや舞台上演されているものもあるので、機会があればぜひ鑑賞してみてください。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・今橋映子／井上健監修『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会，2024年。
- ・亀井俊介編『現代の比較文学』講談社，1994年。
- ・中島健蔵編『比較文学講座 第1巻』清水弘文堂，1982年。

・芳賀徹他編『講座比較文学 第8巻 比較文学の理論』東京大学出版会，1976年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回のリアクションペーパー、授業への積極的な参加）：60%
- ・学期末試験（論述）：40%

なお、授業回数の3分の2以上の出席と期末試験を受けることが単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に学習支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要がある場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will analyse how minority groups are portrayed in literature and film.

At the end of this course, students are expected to think critically about representational issues concerning minorities in different cultural contexts.

Students will be expected to revise the content of each lecture. You will need to read the texts and watch the films independently outside of class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

比較文学B

丸山 達也

授業コード：A2825 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：文学作品とアダプテーション

翻案（アダプテーション）とは、ある作品（物語）を、形を作り替えて語り直す行為および作品を指します。この授業では、いくつかの文学作品と黒澤明によるそれらの翻案映画を比較します。比較を通じて、外国文学からの影響を読み取るだけでなく、原作がどのような時代・社会的文脈で書かれたのかを探っていきます。

【到達目標】

- ・作品をただ鑑賞するのではなく、歴史的・社会的・文化的コンテクストを踏まえて批判的に考察する力を養う。
- ・さまざまな時代・文化・ジャンルの作品の中で共通のテーマやモチーフがどのように扱われているかを比較検討することを通じて、多角的な視点と柔軟な思考力を養う。
- ・各文化圏における芸術や文化、歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。それぞれ同時代で複数の作品を取り上げ、概要を紹介した後で、テーマに関わる主要部分を具体的に読んでいきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。毎回授業の終盤に時間を設けて、講義を通じて考えたことをリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 翻訳と翻案の違い
2	シェイクスピア『リア王』	シェイクスピアと『リア王』について
3	シェイクスピア『リア王』	黒澤明と『乱』について
4	シェイクスピア『リア王』	映像鑑賞
5	シェイクスピア『リア王』	『リア王』と『乱』比較検討
6	シェイクスピア『マクベス』	『マクベス』について
7	シェイクスピア『マクベス』	『マクベス』映像鑑賞
8	シェイクスピア『マクベス』	『蜘蛛巣城』について
9	シェイクスピア『マクベス』	『マクベス』と『蜘蛛巣城』比較検討
10	シラー『群盗』	シラーと『群盗』成立
11	シラー『群盗』	『群盗』さまざまなヴァージョン
12	シラー『群盗』	久保栄『吉野の盗賊』
13	シラー『群盗』	黒澤明『戦国群盗伝』
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で取り上げる作品については、自分でも目を通しておいってください。映画についても、授業内だけでなく、繰り返し観ることで理解も深まるので、ぜひ各自でも鑑賞してみてください。また、舞台上演等がある場合にはアナウンスするので、鑑賞してみることを推奨します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・今橋映子／井上健監修『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会、2024年。
- ・亀井俊介編『現代の比較文学』講談社、1994年。
- ・中島健蔵編『比較文学講座 第1巻』清水弘文堂、1982年。

- ・芳賀徹他編『講座比較文学 第8巻 比較文学の理論』東京大学出版会、1976年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回のリアクションペーパー、授業への積極的な参加）：60%
- ・学期末試験（論述）：40%

なお、授業回数の3分の2以上の出席と期末試験を受けることが単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に学習支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要がある場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

'Adaptation' refers to the process of reshaping and retelling a story, as well as to the resulting work. In this course, we will compare several literary works with their film adaptations by Akira Kurosawa.

At the end of this course, students are expected to think critically about contextual and interpretive issues in different cultural contexts.

Students will be expected to read through the literary works covered in class independently beforehand. You will be need to review the content of each lecture. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語史 A

福元 広二

授業コード：A2901 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。DVDなどの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の紹介
第2回	世界の英語	世界中に広がる英語について
第3回	英語外面史	英語外面史の概説
第4回	インド・ヨーロッパ祖語	インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
第5回	古英語の時代背景	古英語期における社会的・文化的時代背景
第6回	古英語の名詞	古英語における名詞の性・数・格
第7回	古英語の代名詞	古英語における代名詞の語形変化
第8回	古英語の形容詞・副詞	古英語における形容詞と副詞の特徴
第9回	古英語の動詞	古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用
第10回	古英語の語順・否定	古英語における語順、否定、その他
第11回	古英語の作品講読	古英語の代表的な作品を講読する
第12回	中英語の時代背景	中英語期における社会的・文化的時代背景
第13回	中英語の名詞・形容詞	中英語における名詞と形容詞の語形変化
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宗宮喜代子 (2024)『歴史をたどれば英語がわかる』開拓社

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）
中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）
岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。
期末試験 60%、平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

クラスでのディスカッションを増やしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に開講される「英語史B」と合わせて履修することをお勧めします。

4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語史 B

泉類 尚貴

授業コード：A2902 | 曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

- ・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
- ・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントを使用します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介
第2回	中英語の発音・代名詞	中英語における発音と代名詞の語形変化
第3回	中英語の文法・語彙	中英語における文法と語彙（借用語など）
第4回	中英語の作品講読	中英語の代表的な作家であるChaucerをはじめとする作品講読
第5回	初期近代英語の時代背景	初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
第6回	初期近代英語の文法	初期近代英語期に特徴的な文法
第7回	Shakespeareの英語と作品講読	初期近代英語の代表的な作家であるShakespeareの作品講読
第8回	後期近代英語の時代背景	後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達
第9回	後期近代英語の文法と作品講読	後期近代英語期に特徴的な文法と文学作品を講読する
第10回	アメリカ英語の成立	アメリカ英語の成立と特徴
第11回	現代英語の変化	現在進行中である英語の文法的变化
第12回	現代英語と国際英語	国際英語の役割と応用
第13回	英語史の総括	各時代の聖書を比較しながら英語史の総括
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宗宮喜代子 (2024)『歴史をたどれば英語がわかる』開拓社

【参考書】

寺澤盾 (2008) 『英語の歴史』中公新書
Baugh, Albert C. and Thomas Cable. 2013. A History of the English Language. 6th ed. Routledge.

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%

平常点（複数回のコメントシートならびに課題）30%

※ ただし、平常点、期末試験ともに単位取得に必要な要素であり、一方の不足を他方で補完することはできません。

【学生の意見等からの気づき】

本科目の担当は初年度となります。

気になる点があれば学期末を待たずに伝えてください。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史A」と合わせて履修することをお勧めします。

以下の場合には失格とします：

コメントシートならびに課題の提出について、7割以上の提出がない場合
コメントシート・課題の内容が著しく劣る場合
代返行為をはじめとする不正行為を行った場合

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英文学史 A

田中 裕希

授業コード：A2903 | 曜日・時限：木2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古英語の時代（中世前期）から20世紀中期までのイギリス詩の歴史をたどりつつ、英詩において「私」がどのように表現されているかについて学ぶ。個人の内面を表現する抒情詩に対する理解を、国家の成立など大きなテーマを扱う叙事詩との比較を通じて深めていく。

【到達目標】

イギリス詩の流れを、歴史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリスにおける抒情詩の伝統がどのように形成されてきたのかを学ぶ。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、中世前期	叙事詩と抒情詩
第2回	中世後期	Chaucer
第3回	ルネサンス（1）	近世の恋愛詩
第4回	ルネサンス（2）	Shakespeareの英語
第5回	ルネサンス（3）	Shakespeareの登場人物
第6回	17世紀（1）	形而上詩人
第7回	17世紀（2）	Miltonと叙事詩
第8回	18世紀	ロマン派と抒情詩
第9回	19世紀（1）	ロマン派第二世代
第10回	19世紀（2）	dramatic monologueを読む
第11回	20世紀（1）	モダニズムとは
第12回	20世紀（2）	第一次世界大戦と詩
第13回	20世紀（3）	第二次世界大戦と詩
第14回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

『新編 イギリス名詩選』（岩波文庫 赤273-2）川本 皓嗣（編集）

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%

期末テスト 70%

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This class will cover the history of British poetry from the era of the Old English (the early Medieval period) to the mid 20th century.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: reaction papers (30%), final exam (70%).

LIT200BD (文学 / Literature 200)

英文学史B

小澤 央

授業コード：A2904 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス文学の歴史を、散文を中心に学ぶ。近代小説以前の散文から、18世紀の（反）リアリズム小説、ヴィクトリア朝の社会小説、歴史小説、家庭小説、教養小説、20世紀のモダニズム小説、ポストコロニアル小説、さらに多様化する今日の小説まで、名作の抜粋を読みながら英文学史を辿る。政治的・文化的文脈を踏まえ、作品を原作とする映画を確認しながら、授業を進める。

英文学史の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

この授業を履修することで、学生は

- ・歴史的文脈において英文学の散文の名作を位置づけられる
- ・文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践できる
- ・辞書や和訳を参照しながらも、英文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパーなどを提出してもらい、授業の冒頭で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	散文の歴史概観、近代小説以前
第2回	18世紀(1)	政治的・文化的背景
第3回	18世紀(2)	Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> など
第4回	18世紀(3)	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> など
第5回	19世紀(1)	政治的・文化的背景
第6回	前半の講義のまとめ	総括と補足
第7回	19世紀(2)	Austen, <i>Pride and Prejudice</i> など
第8回	19世紀(3)	Dickens, <i>A Christmas Carol</i> など
第9回	20世紀前半(1)	政治的・文化的背景
第10回	20世紀前半(2)	Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> など
第11回	20世紀後半以降(1)	政治的・文化的背景
第12回	20世紀後半以降(2)	Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i> など
第13回	後半の講義のまとめ	総括と補足
第14回	期末試験と今学期のまとめ	今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された資料（レジュメなど）を読むこと、リアクション・ペーパーなどを提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自身で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

- ・授業で扱う文学作品
- ・浦野郁、奥村沙矢香編、『よくわかるイギリス文学史』、ミネルヴァ書房、2020年
- ・白井義昭著、『読んで愉しむイギリス文学史入門』、春風社、2013年
- ・石塚久郎ほか編、『イギリス文学入門』、三修社、2014年

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクション・ペーパーなどの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
- ・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

授業中の正当な理由なき入退室や私語は、ほかの学生の迷惑となるので、厳しく対処していきたい。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to learn the history of English literature, particularly British fiction, from the 16th to the 21st century, by reading extracts from the text in English and considering the historical background. This course also deals with films based on British fiction. The goals of this course are to position masterpieces of British fiction in historical contexts, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）		
米文学史 A		
小島 尚人		
授業コード：A2905 曜日・時限：火3/Tue.3 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 テーマ： 〈アメリカとは何か〉を知るための米文学史 概要と目的： 自由と機会の国アメリカ、多様性の国アメリカ、人種差別の国アメリカ、好戦の国アメリカ……さまざまな顔をもつアメリカという国についての多面的で掘り下げた理解を得るには、その地で育まれてきた文学と文化について学ぶことがとても有用である。この授業では、アメリカ文学とはどんな文学なのかを概観する。そのことを通じてアメリカについての知見を深め、ひいては自分自身と世界の関係についてもよりよく知るためのきっかけを得ることを目的とする。それにくわえて、今まで触れたことのなかったさまざまな文学作品のおもしろさを感じてできるようになることも目指す。 春学期は、大航海時代のさなかにヨーロッパから植民者たちがやって来た頃から、ニューヨークやシカゴを中心に現代的な大都市中心の社会が形成されていった19世紀末までの時代を扱う。		
【到達目標】 ・アメリカという国とそこで生まれた文学の主な特徴について理解している。 ・米文学の主要な名作について、歴史的文脈に位置づけながら語ることができる。 ・辞書や和訳を参照しながらも、米文学作品の抜粋を原文で読める英語力を身につけている。 ・好きな作家や作品を見つけ、そこから将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 講義形式を基本とするが、受講者からの発信の機会も多く設ける。そこで出た考察・感想・意見・質問をできるかぎり紹介してコメントし、授業内容に積極的に組み込むことで、双方向的なコミュニケーションをおこないながら進める。また、映画・アニメ・音楽・マンガなどの資料も適宜用いる。そのような方法と題材の工夫を通じて、代表的な文学作品の紹介・読解を中心に据えながらも、文学以外の分野を専攻する学生にも幅広く興味をもってもらえるような授業にできればと考えている。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入講義	米文学史を学ぶ意義とは 米国とその文学の基本的特質
第2回	植民地時代①	2つの建国神話 ビルグリム・ファーザーズとポカホンタス
第3回	植民地時代②	ピューリタニズムから啓蒙思想へ EdwardsとFranklin
第4回	独立期から19世紀前半①	「情」と文学——感傷小説とゴシック小説 FosterとBrown
第5回	独立期から19世紀前半②	ロマン主義とフロンティア精神 IrvingとCooper
第6回	19世紀半ば①	超絶主義と自己信頼、自然と人間 EmersonとThoreau
第7回	19世紀半ば②	ゴシックの多様性、芸術至上主義と象徴主義 Poe
第8回	19世紀半ば③	「アメリカ小説」をさがして——ノヴェルとロマンス Hawthorne
第9回	19世紀半ば④	近代批判と自己懷疑 Melville
第10回	19世紀半ば⑤	アメリカ詩の隆盛——自己、アメリカ、世界 WhitmanとDickinson
第11回	南北戦争とアメリカ文学	黒人奴隷制と文学 Stowe, <i>Uncle Tom's Cabin</i> の達成
第12回	19世紀後半①	少年少女の成長物語と自由の探究 AlcottとTwain

第13回	19世紀後半②	アメリカ対ヨーロッパ、小説の革新とリアリズム JamesとHowells リアリズムから自然主義へ ChesnuttとCrane
第14回	世紀転換期	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ・授業資料をあらためて読んでいろいろ考えたり、友人と話し合ったりする。（1時間） ・授業で学んだ作家の作品や、教員が紹介する関連映画・参考文献などを積極的にさがして触れ、自分の興味の幅を広げる。（3時間）		
【テキスト（教科書）】 なし（必要に応じてプリントを配布する）		
【参考書】 【主要参考書】 諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門 [新版]』（三修社、2023年） 【アメリカ文学・文化についてさらに深く学びたい人のための参考書】 平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010年） 亀井俊介『アメリカ文学史講義』全3巻（南雲堂、1997-2000年） 渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』全4巻（研究社、2007-2010年） 竹内理矢・山本洋平（編）『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021年） 杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門 [新版]』（三修社、2023年） 巽孝之・宇沢美子（編）『よくわかるアメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2020年）		
【成績評価の方法と基準】 平常点20％： 毎回の提出課題（ワークシートまたはアクションペーパー） ブックレポート30％： 学期に2回、作品を読んでレポートを提出 学期末定期試験50％： 講義内容およびブックレポートで読んだ作品に関する論述問題		
【学生の意見等からの気づき】 他の担当科目と同様に、受講者からの発信の機会をできるだけ多く作り、それに対するフィードバックを丁寧におこなっていきたいと思っています。		
【学生が準備すべき機器他】 必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。		
【Outline (in English)】 [Outline and objectives] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is America" through literary texts. [Learning activities outside of classroom:] After each class meeting, students are expected to spend 4 hours respectively to understand the course content. [Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: 1) Participation and discussion (worksheets and reaction papers) (20%) 2) 2 papers ("book reports" on reading American literary work) (40%) 3) End-of-term examination (40%)		

LIT200BD（文学 / Literature 200）

米文学史 B

小島 尚人

授業コード：A2906 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：

〈アメリカとは何か〉を知るための米文学史

概要と目的：

自由と機会の国アメリカ、多様性の国アメリカ、人種差別の国アメリカ、好戦の国アメリカ……さまざまな顔をもつアメリカという国についての多面的で掘り下げた理解を得るには、その地で育まれてきた文学と文化について学ぶことがとても有用である。この授業では、アメリカ文学とはどんな文学なのかを概観する。そのことを通じてアメリカについての知見を深め、ひいては自分自身と世界の関係についてもよりよく知るためのきっかけを得ることを目的とする。それにくわえて、今まで触れたことのなかったさまざまな文学作品のおもしろさを感じてできるようになることも目指す。

秋学期は、現代的な大都市中心の社会が形成された19世紀末から、「アメリカ」「文学」の境界線が大きく揺らいでいる21世紀の現代までを扱う。

【到達目標】

- ・アメリカという国とそこで生まれた文学の主な特徴について理解している。
- ・米文学の主要な名作について、歴史的文脈に位置づけながら語ることができる。
- ・辞書や和訳を参照しながらも、米文学作品の抜粋を原文で読める英語力を身につけている。
- ・好きな作家や作品を見つけ、そこから将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者からの発信の機会も多く設ける。そこで出た考察・感想・意見・質問をできるかぎり紹介してコメントし、授業内容に積極的に組み込むことで、双方向的なコミュニケーションをおこないながら進める。また、映画・アニメ・音楽・マンガなどの資料も適宜用いる。そのような方法と題材の工夫を通じて、代表的な文学作品の紹介・読解を中心に据えながらも、文学以外の分野を専攻する学生にも幅広く興味をもってもらえるような授業にできればと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入講義	春学期の振り返りと今学期の概略
第2回	世紀転換期	自然主義文学と新しい女性 Norris, Dreiser, Wharton, Chopin など
第3回	20世紀前半①	アメリカ現代詩の形成 Eliot, Pound, Stein など
第4回	20世紀前半②	ロスト・ジェネレーションとモダニズム Hemingway, Fitzgerald, Faulkner など
第5回	20世紀前半③	世界恐慌期の文学、ハードボイルド／ノワール小説 Steinbeck, Hammett, Chandler など
第6回	20世紀半ば①	南部文学の隆盛 McCullers, Welty, O'Connor など
第7回	20世紀半ば②	戦後アメリカ社会と自己の探究 Salinger, Capote, Kerouac, Jackson など
第8回	アメリカ演劇通史	O'Neill, Hellman, Williams など
第9回	20世紀後半～21世紀①	大衆演芸、ミュージカルの歴史 黒人文学の発展——ハーレム・ルネサンスからBLMまで Larsen, Wright, Baldwin, Morrison など
第10回	20世紀後半～21世紀②	ポストモダン小説の実験——メタフィクション・自己・歴史 Barth, Barthelme, Pynchon, Auster など

第11回	20世紀後半～21世紀③	SFと現代アメリカ文学 Vonnegut, Dick, Le Guin など
第12回	20世紀後半～21世紀④	探偵小説の多様化 Macdonald, Paretsky, Mosley など
第13回	20世紀後半～21世紀⑤	アジア系文学の展開 Kingston, Lee, Cao, Yamashita, Lahiri など
第14回	20世紀後半～21世紀⑥	マンガと小説、グラフィック・ノベル Spiegelman, Clowes, Bechdel など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業資料をあらためて読んでいろいろ考えたり、友人と話し合ったりする。（1時間）

・授業で学んだ作家の作品や、教員が紹介する関連映画・参考文献などを積極的にさがして触れ、自分の興味の幅を広げる。（3時間）

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてプリントを配布する）

【参考書】

【主要参考書】

諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門 [新版]』（三修社、2023年）

【アメリカ文学・文化についてさらに深く学びたい人のための参考書】

平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010年）

亀井俊介『アメリカ文学史講義』全3巻（南雲堂、1997-2000年）

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』全4巻（研究社、2007-2010年）

竹内理矢・山本洋平（編）『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房、2021年）

杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門 [新版]』（三修社、2023年）

巽孝之・宇沢美子（編）『よくわかるアメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2020年）

【成績評価の方法と基準】

平常点20％：

毎回の提出課題（ワークシートまたはリアクションペーパー）

ブックレポート30％：

学期に2回、作品を読んでレポートを提出

学期末定期試験50％：

講義内容およびブックレポートで読んだ作品に関する論述問題

【学生の意見等からの気づき】

他の担当科目と同様に、受講者からの発信の機会をできるだけ多く作り、それに対するフィードバックを丁寧におこなっていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives]

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is America" through literary texts.

[Learning activities outside of classroom:] After each class meeting, students are expected to spend 4 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (worksheets and reaction papers) (20%)
- 2) 2 papers ("book reports" on reading American literary work) (40%)
- 3) End-of-term examination (40%)

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義ⅠA

波戸岡 景太

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。また、授業内で実施するアンケートについては、その都度、教員から総合的なフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代文学とカルチャー
第2回	第二次世界大戦の記憶	ホロコースト以後の文学
第3回	体制とカルチャー	1950年代の若者たち
第4回	超大国の挫折	1960-70年代のアメリカ
第5回	スター・ウォーズの時代	「帝国」への抵抗
第6回	経済成長の限界	ノスタルジア・ブーム
第7回	「るつぼ」の先へ	移民とフェミニズム
第8回	ファンタジーランド	陰謀論の台頭
第9回	暴力の表象	ダークな想像力
第10回	新しいファシズム	ナチス表象の再来
第11回	表象と倫理	ソントクの批評を読む
第12回	虚実混交の80年代	フィリップ・K・ディックの未来予想図
第13回	アメリカン・ナラティブ	1950年代から1980年代まで
第14回	まとめ／期末試験	ポストモダン文学の可能性／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

授業内でプリントを配付します。

【参考書】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）
 Pynchon, Thomas. *Gravity's Rainbow*. Viking, 1973.
 -. *Slow Learner*. Brown, Little, 1984.
 Sontag, Susan. *Against Interpretation*. Picador, 2001.
 -. *Under the Sign of Saturn: Essays*. Farrar Straus & Giroux, 1980.
 -. *Illness as Metaphor and Aids and Its Metaphors*. Picador, 2001.
 Vonnegut, Kurt. *Slaughterhouse-Five*. Delacorte, 1969.

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（70％）、最終回に実施する期末試験（30％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学・文化と政治の関わりがいかに深いかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったので、より具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 70%.
2. Final exam: 30%.

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義ⅠB

波戸岡 景太

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。また、授業内で実施するアンケートについては、その都度、教員から総合的なフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	嘘とフィクションの違い
第2回	文学における「若さ」	ビート世代からZ世代まで
第3回	1980年代のマイノリティ	文化の盗用について
第4回	ニュー・ロストジェネレーション	ハイパー資本主義
第5回	ポスト冷戦	新しいヒーロー像
第6回	ジェネレーションX	クープランド作品を読む
第7回	マトリックスの時代	情報化社会の文芸
第8回	大きな物語の終焉	ホワイト・ノイズとパルプ・フィクション
第9回	9・11と文学	フォアとピンチョン
第10回	デタッチメントとコミットメント	ティム・オブライエンと村上春樹
第11回	スローモーションの美学	デリーロの新たな試み
第12回	非暴力の力	ソローからバトラーへ
第13回	世代で考えるアメリカ文学	1980年代から2020年代までを振り返る
第14回	まとめ／期末試験	世界的課題と文学の役割について／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

授業内でプリントを配付します。

【参考書】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）
Butler, Judith. *The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind*. Verso Books, 2020.
Davis, Lydia. *Almost No Memory*. Picador, 2001.
DeLillo, Don. *White Noise*. Viking, 1985.
—. *Point Omega*. Scribner, 2010.
Foer, Jonathan Safran. *Extremely Loud and Incredibly Close*. Penguin, 2006.
Haraway, Donna. *Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature*. Routledge, 1991.
—. *Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness*. Prickly Paradigm, 2003.
Kakutani, Michiko. *The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump*. William Collins, 2018.

Pynchon, Thomas. *Vineland*. Little, Brown, 1990.

—. *Bleeding Edge*. Penguin, 2013.

その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（70％）、最終回に実施する期末試験（30％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学・文化と政治の関わりがいかに深いかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったため、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

- 1. Quizzes in class: 70%.
- 2. Final exam: 30%.

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義ⅡA

迫 桂

授業コード：A2909 | 曜日・時限：水4/Wed.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後・現代女性英語作家による小説や短編、さらに、映画作品を、フェミニズムの視点から読みます。主な地理的文化的対象はイギリスです。社会文化的背景を考慮しながら作品を読み、現代フェミニズム思想や批評に重要な事柄—ジェンダー、セクシャリティー、家庭、自立、選択、身体、階級等—がいかに描かれ、探究されているかを考えます。イギリスの文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。

【到達目標】

1. テキストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、テキストの形式、ジャンル、歴史文化的文脈を踏まえて、解釈ができる。
2. テキストについての自分の解釈を精査し、確立できる。
3. 自分の意見やテキスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。
4. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義、学生によるプレゼンテーション、ディスカッション（クラスまたはグループ単位）、グループワークを組み合わせます。講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介します。ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテキスト読解を交換・共有します。グループワークでは、テキスト分析と解釈、テキストについての議論構築を共同で行い、それを発表してもらう予定です。各学生は、ディスカッションの前に作品を読む・視聴しておくことが必要になります。（詳細は下記【授業時間外の学習】を参照）。フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：フェミニズムと文学	現代フェミニズムの思想・関心事の代表的なものを紹介する。それらと文学(批評)との関連を学ぶ。
第2回	フェミニズムの読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第3回	フェミニズムの読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。2週目の作品と比較することで、個々の文学作品独自の意味生産の仕組みに対する意識を高める。
第4回	女性の選択、労働と空間 作品：Margaret Drabble, <i>The Millstone</i> (1965)	第二波フェミニズムの関心事や課題を学ぶ。作品紹介。
第5回	女性の選択、労働と空間 作品：Margaret Drabble, <i>The Millstone</i> (1965)	作品についてディスカッションを行う。
第6回	女性の自立と教育 作品（映）：An Education (2009)	講義と作品についてのディスカッション。特に、女性と教育について考える。
第7回	女性の自由、セクシャリティー、階級、教養小説というジャンル 作品：Jeanette Winterson, <i>Oranges Are Not the Only Fruit</i> (1985)	セクシャリティーと階級、アイデンティティーの関係について考える。作品の形式面を考える上で重要なこととして、教養小説のジャンルについて学ぶ。

第8回	女性の自由、セクシャリティー、階級、教養小説というジャンル 作品：Jeanette Winterson, <i>Oranges Are Not the Only Fruit</i> (1985)	作品についてディスカッションを行う。
第9回	女性のライフコースとエイジング 作品：Anita Brookner, <i>Hotel du Lac</i> (1984)	エイジングという観点から、女性のライフコースについて考える。
第10回	女性のライフコースとエイジング 作品：Anita Brookner, <i>Hotel du Lac</i> (1984)	作品についてディスカッションを行う。
第11回	ポストフェミニズム：女性の"choice"と"empowerment" 作品（映）：Pride & Prejudice (2005)	ポストフェミニズムとその歴史文化的文脈について学ぶ。
第12回	ポストフェミニズム：女性の"choice"と"empowerment" 作品（映）：Bridget Jones's Diary (2001)	作品についてディスカッションを行う。
第13回	復習と授業内期末試験	学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。
第14回	まとめとフィードバック	授業内期末試験に対するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。
（目安：作品を読む・視聴する時間＋1-2時間）
1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説作品は日本語の翻訳があるので、翻訳を読んでも構いません。映画作品は、日本語字幕付きで視聴しても構いません。但し、授業内で参照するのは英語版です。短編は翻訳がないものを扱う場合があります。
2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性のある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。
3. 作品読解に必要と思われる歴史文化背景・事象があれば、調べる。
4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書いておく。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。

【テキスト（教科書）】

指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品（下記）については、紙媒体の英語版を購入してください。
Margaret Drabble, *The Millstone*
Jeanette Winterson, *Oranges Are Not the Only Fruit*
Anita Brookner, *Hotel du Lac*

【参考書】

参考文献・資料は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法
平常点：
①プレゼンテーション（3分程度）：15％
②レスポンスペーパー（A4半分～1枚）二回：15％
③ワークシート、ディスカッションへの参加度：20％
授業準備ができていないか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。
④授業内期末試験：50％
作品を読み（視聴し）、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。

【その他の重要事項】

本科目は、文学作品を読むことが好きな方、作品について他者と意見交換をすることが好きな方に向いています。

【Outline (in English)】

This course will consider some examples of post-war/contemporary women's writing and films in English and explore issues that relate to feminism. Reading the selected texts in close relation to social and cultural contexts, we will explore issues such as gender, sexuality, the body, class, ageing and care. Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures.
Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting.

- Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text.

Final grades will be decided on the following:

Presentations (15%); 2 Response Papers (15%); In-class participation & contribution (20%) and in-class term-end examination (50%).

LIT200BD（文学 / Literature 200）

英米文学講義 II B

迫 桂

授業コード：A2910 | 曜日・時限：水4/Wed.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後・現代英語女性作家による小説や短編さらに、映画作品を、フェミニズムの視点から読みます。主な地理的文化的対象はイギリスです。社会文化的背景を考慮しながら作品を読み、現代フェミニズム思想や批評に重要な事柄—ジェンダー、人種、身体、階級、エイジング、生殖等—がいかに描かれ、探究されているかを考えます。また、語りの形式やジャンル（推理小説やSFなど）の役割についても考えます。イギリスの文脈を主な対象とするものの、学生は、その他の社会や文学について考える際に有意義な知見を得ることが期待されています。

【到達目標】

1. テクストの細部に注意を払い、分析的に読むことができる。特に、話しの内容だけでなく、テクストの形式、ジャンル、歴史文化的文脈を踏まえて、解釈ができる。
2. テクストについての自分の解釈を精査し、確立できる。
3. 自分の意見やテクスト解釈を正確に、他者に分かりやすく記述できる。
4. 他者の意見や解釈を理解し、評価し、それに応答できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション（クラスまたはグループ単位）、グループワークを組み合わせます。講義では、文学分野でのフェミニズムの思想や議論を紹介します。ディスカッションでは、各学生が、自らの意見やテクスト読解を交換・共有します。グループワークでは、テクスト分析と解釈、テクストについての議論構築を共同で行い、それを発表してもらう予定です。各学生は、ディスカッションの前に作品を読む・視聴しておくことが必要になります。（詳細は下記【授業時間外の学習】を参照）。フィードバックは授業内または学習支援システムを用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：フェミニズムと文学	現代フェミニズムの思想・関心事の代表的なものを紹介する。それらと文学(批評)との関連を学ぶ。
第2回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。
第3回	フェミニズム的読解とは	フェミニズム的な読解の体験として、短編作品の一つ読み、ディスカッションを行う。2週目の作品と比較することで、個々の文学作品独自の意味生産の仕組みに対する意識を高める。
第4回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	Contemporary women's writingにおける帝国の遺産、人種とアイデンティティーについての探究の試みを学ぶ。現代文学出版における人種、ジェンダー、市場の原理についても考える。
第5回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	作品の一部を視聴し、ディスカッションを行う。
第6回	帝国と人種 作品（映）：Andrea Levy, <i>Small Island</i> (2009)	作品の一部を視聴し、ディスカッションを行う。
第7回	ジェンダー、人種 作品：Jackie Kay, <i>Trumpet</i> (1998)	ジェンダーと人種がアイデンティティーをどう形成するかを考える。イギリス帝国の歴史の現代的意義についても考える。
第8回	ジェンダー、人種 作品：Jackie Kay, <i>Trumpet</i> (1998)	作品を詳細に読み、ディスカッションを行う。

第9回	ジャンルとフェミニズム：SF 作品: Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> (1985)	SFやファンタジーのジャンルがフェミニズムの思想・議論の発展や表現に果たしている可能性について考える。
第10回	ジャンルとフェミニズム：SF 作品: Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> (1985)	作品についてディスカッションを行う。
第11回	ジャンルとフェミニズム：推理小説 作品（映）：Elizabeth Is Missing (2019)	エイジング、病い、ケアのテーマに推理小説というジャンルが果たしている役割について考える。
第12回	ジャンルとフェミニズム：推理小説 作品（映）：Elizabeth Is Missing (2019)	作品についてディスカッションを行う。
第13回	復習と授業内期末試験	学期中の学習内容を復習。授業内期末試験を行う。
第14回	まとめとフィードバック	授業内期末試験に対するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッション前の標準的な準備内容は下記です。（目安：作品を読む・視聴する時間＋1-2時間）
1. 授業で扱う作品を事前に読む、視聴する。小説作品は日本語翻訳を読んでも構いません。映画作品は英語字幕付きで視聴可能です。但し、授業内で参照するのは英語版です。短編は翻訳がないものを扱う場合があります。
2. 事前にワークシートを配布します。ワークシートにはいくつかの問いが提示されています。これらの問いは、作品を読む際の着眼点を提示し、ディスカッションの方向性のある程度整えるために準備されたものです。これらの問いを念頭に、作品を読み、視聴してください。
3. 作品読解に必要と思われる歴史文化背景・事象があれば、調べる。
4. ワークシートの問いに対する自分の見解を書く。その他に気づいたこと、疑問に思うことなどもメモをし、授業内でのディスカッションに備える。

【テキスト（教科書）】

指定教科書はありませんが、授業で扱う小説作品（下記）については、紙媒体の英語版を購入してください。
Jackie Kay, *Trumpet*
Margaret Atwood, *The Handmaid's Tale*

【参考書】

参考文献・資料は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：
①プレゼンテーション（3分程度）：15％
②レスポンスペーパー（A4半分～1枚）二回：15％
③ワークシート、ディスカッションへの参加度：20％
授業準備ができていないか、ワークシートの問いに対して自分なりの考えをもって答えられているか、ディスカッション・グループワークを通じて積極的に参加しているか、自分の見解を正確に、分かりやすく他の人に説明できているか。
④授業内期末試験：50％
作品を読み（視聴し）、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム使用予定。

【その他の重要事項】

本科目は、文学作品を読むことが好きな方、作品について他者と意見交換をすることが好きな方に向いています。

【Outline (in English)】

This course will consider some examples of post-war/contemporary women's writing and films in English and explore issues that relate to feminism. Reading the selected texts in close relation to social and cultural contexts, we will explore issues such as gender, sexuality, the body, class, ageing and care. Although this course mainly focuses on the British context, it is hoped that students will gain insights that will be relevant to some other societies and literatures. Students will typically spend 1-2 hours (excluding the time needed to read/watch an assigned text) to prepare for each class meeting. - Before class discussion on the chosen text, students will be expected to have read/watched the text, completed a worksheet that will be provided by the instructor and researched on contexts that are relevant to the text. Final grades will be decided on the following: Presentations (15%); 2 Response Papers (15%); In-class participation & contribution (20%) and in-class term-end examination (50%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。また、英語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクションペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態についてはHoppiiで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第2回	英文法の問題	実際に英語の問題を解いてみよう
第3回	品詞	英語の品詞について
第4回	英語の文型	5文型の分析
第5回	自動詞と他動詞	他動性について
第6回	意味役割	意味役割とは何か
第7回	テンス（1）	現在時制
第8回	テンス（2）	過去時制と未来表現
第9回	アスペクト（1）	進行相
第10回	アスペクト（2）	完了相
第11回	モダリティ（1）	法助動詞
第12回	モダリティ（2）	準助動詞
第13回	態	受動態
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、参考書などをもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験と平常点で、総合的に判断します。
 期末試験60％、平常点40％

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。
 4回以上欠席した場合はD評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語学講義 B

北澤 茉奈

授業コード：A2912 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、異文化コミュニケーションの場面を念頭に置き、英語のさまざまな実例を取り上げながら、必要に応じて日本語とも対照しつつ、言語を通して人の認知や人を取り巻く社会のあり方について考察する。あわせて、ことばの選択やコミュニケーションの取り方の背後にどのような要因が関わっているのかを分析するための基本的な考え方を学ぶ。英語学、とりわけ認知言語学・社会言語学・語用論などの開放系言語学の視点を基盤として、ことばと人、ことばと社会との関係を多角的に理解し、異文化間の相互理解や円滑なコミュニケーションを考えるための基礎的な視点と知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】

認知言語学・社会言語学・語用論などの開放系言語学の基本的な考え方を理解し、英語を中心とした言語使用と人の認知や社会との関わりについて説明できるようになる。また、異文化コミュニケーションや日常的な言語使用の具体例について、自身の関心に基づいて分析の観点や手法を選び、簡単な分析を行うことができるようになる。さらに、ことばの選択やコミュニケーションの取り方が意味や人間関係に与える影響を意識し、状況や相手に応じた表現やコミュニケーションの選択肢を考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、教科書の内容を基礎としつつ、それを発展させた内容について、パワーポイントを用いた講義形式で進める。あわせて、学生には事前に教科書内容の簡単な整理や、実例に関する気づきをまとめてもらい、授業内で一部の学生に紹介してもらうことがある。また、授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーの内容をいくつか取り上げ、全体に向けたフィードバックを行う。リアクションペーパーや課題における優れた視点やコメントは授業内で共有し、理解の深化や議論の発展につなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的・内容、評価方法の説明 ／「英語学」とは何か
第2回	英語学の視点	英語学の歴史と対照研究の考え方
第3回	カテゴリー化	古典的カテゴリー理論とプロトタイプ理論
第4回	事態把握	出来事の捉え方とそれを反映する言語表現
第5回	メタファー	概念メタファー、メトニミー、シネクドキ
第6回	文法化	語や表現が文法的要素へ変化するプロセス
第7回	構文	形式と意味の対応関係
第8回	メンタルコーパス	用法基盤モデルと言語知識
第9回	イメージ・スキーマ	イメージ・スキーマと意味拡張
第10回	言語のバリエーション	World Englishes と英語の多様性
第11回	コードスイッチング	言語選択とアイデンティティ
第12回	ポライトネス	協調の原理と対人関係における言語使用
第13回	言語とコミュニケーション	文化の次元とコミュニケーション・スタイル
第14回	期末試験	試験・全体のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に先立ち、教科書の該当箇所に目を通し、内容の概要を把握しておく。また、授業で扱うテーマに関連する身近な言語使用の実例を探し、簡単に整理・まとめる。授業後は、講義内容や配布資料、授業内での議論を振り返り、理解を深めるとともに、リアクションペーパーや課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『実例で学ぶ英語学入門 ―異文化コミュニケーションのための日英対照研究―』
多々良 直弘・松井 真人・八木橋 宏勇(著)
朝倉書店

【参考書】

小池 生夫 編『応用言語学辞典』研究社
辻 幸夫 編『新編 認知言語学キーワード事典』研究社
井上 逸兵 著『英語の思考法 ―話すための文法・文化レッスン』ちくま新書
鈴木 孝夫 著『日本語と外国語』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験40%、授業内課題 30%、平常点（参加度、リアクションペーパー等）30%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を参考にしながら、可能な範囲で皆さんの意見や希望を授業に反映していきたいと考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic concepts and approaches in English linguistics, focusing on language itself and how it reflects human cognition, social relationships, and communication. Through examples mainly from English, and occasional comparison with Japanese, students examine how meaning is shaped not only by language use as a tool, but also by the ways people understand, interpret, and categorize the world through language, especially in intercultural contexts.

The aim of this course is to help students develop a basic understanding of how language relates to human thought and society, drawing on perspectives from cognitive linguistics, sociolinguistics, and pragmatics. Students are expected to read assigned materials before class, review lecture content after class, and complete short reaction papers or assignments. The standard amount of preparation and review time is approximately two hours per class.

Final grades will be evaluated based on the following criteria: final examination (40%), in-class assignments (30%), and class participation including reaction papers (30%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義 I A

石川 潔

授業コード：A2913 | 曜日・時限：月3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（英語学習者または英語教師になる人のための）音声知覚、単語の聞き取りや文理解に関する心理言語学の入門

【到達目標】

（英語学習／教育にも役立つはずの）人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得

言語研究にも役立つけど、社会人一般にも役立つ、データ分析の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、実習（やグループ・ディスカッション？）を行う回もあります。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です（フィードバック方法は内容／文量によります）。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業全体の説明
第2回	<i>Olympic</i> を片仮名表記するとしたら、「オリンピック」と「オリムピック」の、どっちにすべき？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その1）
第3回	<i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れないで発音できる？	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓（その2）
第4回	「しおり」は可愛い……のかな？ 比較対象は？	実験と統計分析の必要性：統制条件、仮説と予測
第5回	強形と弱形	syllable の概念が必要な理由、英語の stress の物理的実体
第6回	英語のリズム	知識を得た上で、聞き取り実習
第7回	英語のLとR、聞き分けられる？	フォルマント（遷移）の概念
第8回	英語その他での「有声・無声」の違い	VOT の概念
第9回	音響情報のままには聞き取れない場合	語彙効果など
第10回	「発音できたら聞き取れるようになる」って本当？	Motor Theory が解決してくれる／くれないこと
第11回	その単語、どういう意味？（その1）	意味ブライミング（その1）：単語検索
第12回	その単語、どういう意味？（その2）	意味ブライミング（その2）：ambiguity resolution
第13回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください（理由は、授業を受ければわかる……はず）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

1.（特に）専門用語で苦勞するケースがあるようなので、そちらへの対策を特に考えたいと思います。

2.「授業で出てくる音声ファイルを pdf ファイルに埋め込んでほしい」という声がありましたが、以下、A～Cに分けてお答えすると……

A：ネットにあるものについてはリンクを貼ってあります。

B：自前のものについては、最近、手元のソフトで埋め込みがうまくいっていないのです。ちょっと検討します。

C：ネットにもなくて、自前でもないものは、著作権問題があり、学習支援システムで配布するのは難しいのです……（教室で聴かせるのは問題ないけど、学習支援システムでの配布はなぜか「公衆送信」扱いとなる）。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception, auditory word recognition and sentence processing (for English learners as well as prospective teachers of English).

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing on the other.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English! (Why sing? Well, join the class to find out!)

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義 I B

石川 潔

授業コード：A2914 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を「文法」の面から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主として講義の予定です。
リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。
学生の理解度や要望などに応じて、計画は柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文法に関する日英比較の導入1：英語の「助動詞」って何なのか、改めて考える	統語論的な規則性と意味的な「直感」とのズレ
第2回	文法に関する日英比較の導入2：英語の「主語」、日本語の「主語」	「主語」は、「行為をする人」という意味では、ないです。
第3回	英語の時制とアスペクト1	述語の2分類
第4回	英語の時制とアスペクト2	英語の進行形の基本
第5回	英語の時制とアスペクト3	英語に「未来形」ってあるのか？
第6回	英語の時制とアスペクト4	英語の完了形の基本
第7回	英語の時制とアスペクト5	英語の完了形の応用
第8回	日本語の時制とアスペクト1	日本語に「現在形・過去形」はない？
第9回	日本語の時制とアスペクト2	telicity
第10回	日本語の時制とアスペクト3	主観 対 客観
第11回	日本語の時制とアスペクト4	絶対テンス 対 相対テンス
第12回	日本語の時制とアスペクト5	テイルの意味（基本編）
第13回	日本語の時制とアスペクト6	(un)accusative vs. (un)ergative
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日英語の文法比較のうち授業でカバーできるのは、ごく一部ですが、授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、見つけてください（きっと見つかるはず）。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります）。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは回答率が低くてあまり情報量がないのですが、理解度向上のため、コロナ禍の頃の「読むテキスト」の（部分的な）復活も検討します。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese "grammars." (Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills. (Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom. (Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月4/Mon.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。春学期はとくに形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学を概観します。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	形態論(1)	形態素の種類
第3回	形態論(2)	派生と語の内部構造
第4回	形態論(3)	造語
第5回	統語論(1)	文の構成素分析
第6回	統語論(2)	句構造規則で文を作る
第7回	統語論(3)	変形規則で文を変える
第8回	意味論(1)	語、句、文の意味
第9回	意味論(2)	直喩、隠喩、換喩
第10回	語用論(1)	協調の原理と会話の公理
第11回	語用論(2)	発話行為、ポライトネス
第12回	社会言語学(1)	地域や人種による言語の変異
第13回	社会言語学(2)	ジェンダーと言語
第14回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006

『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。秋学期はとくに音声学、音韻論、歴史言語学、心理言語学を概観します。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	音声学(1)	母音、子音
第3回	音声学(2)	自然類
第4回	音韻論(1)	弁別素性
第5回	音韻論(2)	音素と異音
第6回	音韻論(3)	音韻規則
第7回	音韻論(4)	強勢
第8回	歴史言語学(1)	イギリス史、語彙変化
第9回	歴史言語学(2)	音声変化、統語変化、意味変化
第10回	歴史言語学(3)	言語の系統
第11回	心理言語学(1)	文の解析
第12回	心理言語学(2)	言語習得
第13回	機能主義	機能主義的な文法現象の説明
第14回	秋学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようになります。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919 | 曜日・時限：木2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学び、日本語・英語の基礎的な音声・音韻構造の知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第2回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第3回	発声・調音 (2)	調音器官
第4回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第5回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第6回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第7回	中間テスト	中間テスト
	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第8回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第9回	日本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第10回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第11回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第12回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第13回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第14回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

中間テスト・・・20％
 学期末試験・・・80%

【学生の意見等からの気づき】

今後ともできる限り質問などしやすい雰囲気になるよう心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。配付資料閲覧のためにはPDFやWebサイト閲覧のための情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are expected to study at least 4 hours a week outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Mid exam 20% Final exam 80%

LIN100BD（言語学 / Linguistics 100）

英語音声学B

川崎 貴子

授業コード：A2920 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。日本語と英語の音声学・音韻論の基礎知識を習得し、日本語と英語の音声学・音韻論の違いが日本語母語話者の英語学習にどのような影響を与えるかを理解することを目標とします。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロンディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	音声学の基礎（1）	日・英の子音・母音
第2回	音声学の基礎（2）	音節構造・モーラなど
第3回	音声規則（1）	音素・音声変化の記述
第4回	音声規則（2）	英語の音声変化—気音化
第5回	音声規則（3）	英語の音声変化—flapping
第6回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第7回	中間テスト& 日本語のプロンディー	中間テスト& モーラとアクセント
第8回	英語のプロンディー（1）	英語の音節タイプとストレス
第9回	英語のプロンディー（2）	英語のストレスルール
第10回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第11回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第12回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第13回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第14回	まとめ	音声規則、モーラ、プロンディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学A」の内容を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

中間テスト...20 %
学期末試験...80 %

【学生の意見等からの気づき】

理解がより深まるよう、練習問題を増やしつつ、話し合う時間・質問しやすい時間を増やしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。配付資料閲覧のためにはPDFやWebサイト閲覧のための情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学A」（木曜日）と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetics and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

LIT200BD（文学 / Literature 200）

文学研究方法論 A

小島 尚人

授業コード：A2969 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくれることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらふ。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英米文学研究にまつわる4つの問い
第2回	「メディアを読む」こと	形式と内容、その連関 「メディアはメッセージである」とは ミッキーはなぜ口笛を吹くのか
第3回	作品解釈と歴史的コンテキスト	
第4回	解釈は推理で（も）ある①	「モルグ街の殺人」における犯人特定のプロセス
第5回	解釈は推理で（も）ある②	「モルグ街の殺人」のさまざまな解釈の実例
第6回	はじめてのナラトロジー	物語の組み立てを知る 『ピーナッツ』の主人公は誰か
第7回	「語られたもの」のナラトロジー	物語の組み立てを知る 順序、提示方法、速度
第8回	「語るもの」のナラトロジー	語れるものと語れないもの 人称、視点人物、焦点化
第9回	ナラトロジー応用編	「信頼できない語り手」とは何か
第10回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第11回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』②	感想からレポートへ：5つのステップ
第12回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第13回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』②	感想からレポートへ：5つのステップ
第14回	まとめ：文学・文化研究のススメ	さまざまな面白さと役立て方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1時間）

②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1時間）

③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50％
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50％
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論B」と連続履修してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final exam (50%)

LIT200BD（文学 / Literature 200）

文学研究方法論B

波戸岡 景太

授業コード：A2970 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

教材は、短編小説と映像作品を中心に用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の関係から、主にアメリカ文学・文化に関わる作品を扱うが、理解促進のため日本のコンテンツも比較対象として使用する。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

O・ヘンリーの2つの短編（「賢者の贈り物」、「最後の一葉」）とレイモンド・カーヴァーの2つの短編（「風呂」、「ダンスしないか？」）を主なテキストとして、タイトル、プロット、キャラクター、テーマ……といった物語の基本的な要素を講義形式で分析する。ワークシートの記入や物語の試作を実施した際には、授業内でそれらの成果物について教員からの総合的なフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	物語の基本について	「泣ける」が生まれる仕組みを明らかにする
第2回	物語の構成について	「賢者の贈り物」の仕組みを明らかにする
第3回	応用される物語構造について	「賢者の贈り物」とアニメ『君の名は。』を比較する
第4回	五幕構成と対比構造について	「最後のひと葉」の仕組みを明らかにする
第5回	アダプテーションについて	映画『人生模様』と「最後のひと葉」を比較する
第6回	創作と批評について	アニメ『トイ・ストーリー』を批評する
第7回	物語の放物線について	カーヴァーの「風呂」の仕組みを明らかにする
第8回	文体について	『数字が明かす小説の秘密』と『翻訳夜話』を読む
第9回	登場人物たちの交差について	「風呂」と『アナと雪の女王』を比較する
第10回	「反小説」について	「ダンスしないか？」の仕組みを明らかにする
第11回	物語の時間について	「最後のひと葉」と「ダンスしないか？」を比較する
第12回	「自分だけの体験」を伝えることについて	「ダンスしないか？」とアニメ『となりのトトロ』を比較する
第13回	物語の細部について	カーヴァーの言葉のセンスを明らかにする
第14回	まとめ／期末試験	「語られていない部分」の発見を文学研究につなげるための方法論／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（2時間）

・授業で学んだ作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献・映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

石原千秋『読者はどこにいるのか：読者論入門』（河出文庫、2021年）
カーヴァー、レイモンド『愛について語るときに我々の語ること』（村上春樹訳、中央公論新社、2017年）
クロン、リサ『脳が読みたくなるストーリーの書き方』（府川由美恵訳、フィルムアート社、2016年）
廣野由美子『批評理論入門：「フランケンシュタイン」解剖講義』（中公新書、2005年）
ブラット、ベン『数字が明かす小説の秘密：スティーヴン・キング、J・K・ローリングからナボコフまで』（坪野圭介訳、DU Books、2018年）
ヘンリー、O『O・ヘンリー ニューヨーク小説集 街の夢』（青山南他訳、ちくま文庫、2022年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：70％
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：30％

【学生の意見等からの気づき】

文学作品の研究方法はもちろんのこと、映像作品の読解方法についても詳しく知りたいという声が多かったため、文字テキストと映像テキストの比重を調整しました。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in. Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor. Grades will be determined based on the following:
1) Participation and in-class assignments (70%)
2) Final exam (30%)

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語の文法力Ⅰ

廣田 友晴

授業コード：A2977 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、英文法を実際の英語使用と結びつけて捉えることを目的として、英語学研究の知見にも適宜触れながら、高校までに学習した英文法の知識を整理・復習します。あわせて、現代英語のバリエーションや変化への理解を深めることを目指します。

【到達目標】

高校までに学んだ英文法知識を再確認・整理することで、英語力向上の基礎を固めます。また、現代英語の研究にも触れることで、柔軟な言語観を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、予習・復習・課題を組み合わせてながら授業を進めます。学生によるプレゼンテーションも実施します。課題および試験に対するフィードバックは、授業内での講評に加え、必要に応じて学習支援システムやメールを通じて行います。

少人数での演習形式を予定しているため、履修希望者が多数の場合は選抜を実施することがあります。履修を希望する場合は、必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の授業の進め方、教科書、履修条件について
第2回	「文法」とは	「規範文法」と「記述文法」について
第3回	動詞の基礎と文型	動詞の基礎と文型についての講義・演習
第4回	動詞	動詞についての講義・演習
第5回	時制（1）	学生のプレゼンテーション、時制についての講義・演習
第6回	時制（2）	学生のプレゼンテーション、時制についての講義・演習
第7回	助動詞（1）	学生のプレゼンテーション、助動詞についての講義・演習
第8回	助動詞（2）	学生のプレゼンテーション、助動詞についての講義・演習
第9回	名詞・冠詞・代名詞（1）	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての講義・演習
第10回	名詞・冠詞・代名詞（2）	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての講義・演習
第11回	形容詞と副詞（1）	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての講義・演習
第12回	形容詞と副詞（2）	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての講義・演習
第13回	春学期の振り返り	春学期の内容についての復習と演習
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当部分や補助資料を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備学習で気づいた点や疑問に思ったことなどがあれば、授業で積極的に提起してください。また、授業後の復習や自主的な演習も心がけるようにしてください。本科目の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

町田健・豊島克己（2014）『大学生のための英文法再入門』研究社。

【参考書】

必要場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

本科目の担当は今年度が初めてです。授業計画については、みなさんのバックグラウンドや理解度に応じて、柔軟に変更・対応したいと思っています。気づいた点などがあれば、授業内外でお気軽にお知らせください。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「英語の文法力Ⅱ」とあわせて履修することをおすすめします。

【Outline (in English)】

This course reviews and organizes the knowledge of English grammar acquired through secondary education, while relating grammatical concepts to actual language use. Drawing on insights from English linguistics where appropriate, the course also aims to deepen students' understanding of variation and change in contemporary English.

Students are required to read the relevant textbook chapter before class and review the content covered after class. Students are expected to spend approximately four hours per class.

Assessment is based on the following two components: participation (40%) and final examination (60%).

LIN200BD（言語学 / Linguistics 200）

英語の文法力 II

廣田 友晴

授業コード：A2978 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、英文法を実際の英語使用と結びつけて捉えることを目的として、英語学研究の知見にも適宜触れながら、高校までに学習した英文法の知識を整理・復習します。あわせて、現代英語のバリエーションや変化への理解を深めることを目指します。

【到達目標】

高校までに学んだ英文法知識を再確認・整理することで、英語力向上の基礎を固めます。また、現代英語の研究にも触れることで、柔軟な言語観を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、予習・復習・課題を組み合わせて授業を進めます。学生によるプレゼンテーションも実施します。課題および試験に対するフィードバックは、授業内での講評に加え、必要に応じて学習支援システムやメールを通じて行います。

少人数での演習形式を予定しているため、履修希望者が多数の場合は選抜を実施することがあります。履修を希望する場合は、必ず初回授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2回	態	態についての講義・演習
第3回	否定・疑問	否定・疑問についての講義・演習
第4回	準動詞（1）	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての講義・演習
第5回	準動詞（2）	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての講義・演習
第6回	関係詞（1）	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての講義・演習
第7回	関係詞（2）	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての講義・演習
第8回	形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句	形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句についての講義・演習
第9回	比較（1）	学生によるプレゼンテーション、比較についての講義・演習
第10回	比較（2）	学生によるプレゼンテーション、比較についての講義・演習
第11回	仮定法	学生によるプレゼンテーション、仮定法についての講義・演習
第12回	倒置、要素の移動、強調、省略	学生によるプレゼンテーション、倒置・要素の移動・強調・省略についての講義・演習
第13回	秋学期の振り返り	秋学期の内容についての復習と演習
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当部分や補助資料を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備学習で気づいた点や疑問に思ったことなどがあれば、授業で積極的に提起してください。また、授業後の復習や自主的な演習も心がけるようにしてください。本科目の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

町田健・豊島克己（2014）『大学生のための英文法再入門』研究社。

【参考書】

必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

本科目の担当は今年度が初めてです。授業計画については、みなさんのバックグラウンドや理解度に応じて、柔軟に変更・対応したいと思っています。気づいた点などがあれば、授業内外でお気軽にお知らせください。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「英語の文法力I」とあわせて履修することをおすすめします。

【Outline (in English)】

This course reviews and organizes the knowledge of English grammar acquired through secondary education, while relating grammatical concepts to actual language use. Drawing on insights from English linguistics where appropriate, the course also aims to deepen students' understanding of variation and change in contemporary English. Students are required to read the relevant textbook chapter before class and review the content covered after class. Students are expected to spend approximately four hours per class. Assessment is based on the following two components: participation (40%) and final examination (60%).

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディア・リテラシー I

田中 邦佳

授業コード：A2979 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとも方に何らかの意図が込められている場合もあります。

本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。

【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合に合ったデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

演習形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介します。参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。課題のフィードバックは授業内で行います（解答例のファイルを配布することもあります）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明
第2回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第3回	棒グラフ	棒グラフを学ぶ
第4回	ヒストグラム	ヒストグラムを学ぶ
第5回	折れ線グラフ	折れ線グラフを学ぶ
第6回	2つの手法が組み合わされたグラフ	2つの手法が組み合わされたグラフを学ぶ
第7回	散布図	散布図を学ぶ
第8回	円グラフ	円グラフを学ぶ
第9回	適しているグラフ、適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方を学ぶ
第10回	データを表にする	データを表にする方法を学ぶ
第11回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点を学ぶ
第12回	平均値と中央値	平均値と中央値を学ぶ
第13回	標準偏差	標準偏差を学ぶ
第14回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります（各手法でのデータ分析の復習・練習も必要です）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

特にありません。

個別の項目に対し、参考になりそうな情報は授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

40%: 期末課題

60%: 授業内外の課題

以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。

・授業での課題の未提出が4回に達した場合

【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。

【その他の重要事項】

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

【Outline (in English)】

Course outline: In the class, (1) as a receiver of data, students will learn how to read various types of graphs and what to pay attention to when reading them. (2) As an analyzer of data, each student will learn what methods of visualizations are appropriate for different types of data.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to do the followings:

- (1) Read various types of graphs.
- (2) Make graph data according to specific cases.
- (3) Report data objectively in writing.
- (4) Summarize some data in a poster.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, each student are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final Assignment 40%, Class Assignment 60%

BSP200BD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディア・リテラシー II

吉川 純子

授業コード：A2980 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるようになり、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりません。発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロダクション	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
第一回	過労死しないために	過労死を防ぐにはどうしたらいいのか
第二回	移民問題	移民が増えると何が起ころのか
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起ころのか
第四回	棄民世代	ロスジェネ世代はなぜ貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	健康保険	健康保険の仕組み
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	コロナ禍とワクチン	コロナ禍とワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	食品添加物、農薬、遺伝子組み換え食品など
第十回	テクノ封建制	デジタル化と監視社会
第十一回	ショック・ドクトリンと新自由主義	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回にリーディングリストを配布します。

【参考書】

初回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表30%、授業への貢献度30%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

「情報強者への一歩を踏み出せた」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただいて、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なものばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline (in English)】

We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

We are going to grow out of "the information-illiterate", who never doubt what they have learned at school or from the mass-media, and become "the information-literate", that is, those who have media literacy, can make research on, think about, and discuss various important topics, and choose appropriate information on the mass-media.

Presenters need to make research on the assigned topic, and prepare for their presentations. The other students also need to make research on the same topic, and think about it. Preparation and the review of each class takes 4 hours.

Grading criteria of this course consist of presentation(30%), contribution to the class(30%), and a report at the end of the semester(40%).

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国の暮らしのなかでも、特に「音楽（歌）」に注目し、日本の音楽文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1）英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2）アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3）英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4）多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5）以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国との比較を念頭に置きながら、「音楽（歌）」を中心とした様々な文化的事象を学ぶ。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。実施されたプレゼンテーションについては、授業参加者全体でフィードバックを行い、最後に担当教員から総評を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	履修者の自己紹介、日米の音楽文化史を学ぶ上での見取り図を提示する
第2回	ワークショップ①「身近なアメリカ音楽の発見」	比較文化を学ぶ前提として、自分たちのこれまでの音楽体験の中の「アメリカ」を振り返る
第3回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング①	第2回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第4回	アメリカの「戦争」と歌	愛国歌、行進曲、そしてアメリカ国歌の誕生
第5回	アメリカの「労働」と歌	西部開拓、鉄道敷設、奴隷労働
第6回	アメリカの「宗教」と歌	讃美歌、黒人霊歌、ゴスペル・ソング
第7回	ワークショップ②「日本の歌謡曲・ポップスとアメリカ」	グループワークを通じてプレゼンテーションの準備をする
第8回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング②	第7回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第9回	アメリカの「スポーツ」と歌	草競馬、野球、バスケット、アメフト
第10回	アメリカの「舞台」と歌	ミンストレル・ショーからブロードウェイ・ミュージカルまで
第11回	アメリカの「映画」と歌	ハリウッド映画史を「歌」の側面から考察する
第12回	ワークショップ③「音楽と異文化交流・異文化理解」	グループワークを通じてプレゼンテーションの準備をする
第13回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング③	第12回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第14回	まとめと期末試験	音楽・歌を用いた教授法を考える／授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）

- ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）
- ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】

教員が作成したプリントを授業開始時に配付します。

【参考書】

ウェルズ恵子『アメリカを歌で知る』（祥伝社新書、2016年）
大和田俊之『アメリカ音楽史——ミンストレル・ショー、ブルースからヒップホップまで』（講談社選書メチエ、2011年）
輪島裕介・永富真梨（編）『入門ポピュラー音楽の文化史——〈戦後日本〉を読み直す』（ミネルヴァ書房、2024年）

【成績評価の方法と基準】

授業内ワークショップ・プレゼンテーション：50%

授業内期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできませんが、他の担当科目同様、発言しやすい環境をつくるように努めます。

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American music, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final exam (50%)

ARS200BD

英米文化概論A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19世紀末から20世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	帝国主義とは
第2回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第3回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第4回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第5回	戦争詩人	第一次世界大戦
第6回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第7回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第8回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第9回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第10回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第11回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第12回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第13回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと移民
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%

期末テスト 70%

原則、未提出のリアクションペーパーが4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論B

勝田 悠紀

授業コード：A2983 | 曜日・時限：火3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが「リアルだな」と感じるのはどんな時でしょうか。それは文化的にどのように価値づけられ、どのように達成されてきたのでしょうか。考えてみると、私たちがそのような感覚を持つのは、絵画や文学や映画に対して、いわゆる芸術作品に限定しないとしてもなんらかの作り物に対してであることがしばしばです。それゆえリアルとは何かという問いは、フィクションとは何かという問いと不可分だということになります。

文学史を振り返ると、古くから詩作は現実の模倣を意味する「ミメシス」として理解され、近代小説は「リアリズム（現実－主義）」をその特徴とされてきました。いまでも続けられている活動です。しかしここでいう現実は何を指し、それは時代を通じてどのように変化してき、その技法にはどのようなものがあるのでしょうか。

結局のところ、歴史的に見て、また現代の私たちにとって、現実とは何なののでしょうか。本講義では、関連するテキストを取り上げながら、この問いをいろいろな角度から考えてみたいと思います。

【到達目標】

英米文化への理解を深める。

英米文化におけるリアリズムやミメシスに対する理解を深める。

あることについて考えたい、知りたいと思ったときに、読むべき文献を調べ、その文献を読んでいく能力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義

課題に対しては適宜授業中にコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の説明
2	現実と虚構（1）	主要な概念の導入
3	現実と虚構（2）	現代の事例の検討
4	プラトン『国家』	プラトンの虚構観
5	アリストテレス『詩学』	アリストテレスの虚構観
6	アウエルバッハ『ミメシス』	2つのミメシスの型
7	「小説の勃興」論（1）	イアン・ワットの理論
8	「小説の勃興」論（2）	デフォー『ロビンソン・クルーソー』
9	「小説の勃興」論（3）	リチャードソン『パメラ』
10	「陰謀論」論（1）	陰謀論の歴史
11	「陰謀論」論（2）	陰謀論と「現実」
12	「陰謀論」論（3）	「信用できない語り手」と陰謀論
13	まとめ	学期全体の振り返り
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、それぞれ約2時間を標準とします。

テキストを読む。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時に出す課題（30％）

期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course examines the question of when and how we come to perceive something as “real.” It explores how such a sense of reality has been culturally valued and historically produced. Notably, this experience of the “real” is often associated not with everyday life itself, but with constructed forms—such as painting, literature, and film, or other kinds of made artifacts more broadly. From this perspective, the question of reality is inseparable from the question of fiction.

In literary history, poetry has traditionally been understood as mimesis, or the imitation of reality, and the modern novel has been closely associated with realism as a defining mode. These practices continue into the present. However, what has counted as “reality” in different historical periods? How has this notion changed over time, and what representational techniques have been developed to produce effects of realism?

By reading and discussing a range of texts, this course invites students to reconsider what “reality” has meant historically and what it means for us today.

Students are expected to deepen the understanding of realism and mimesis, and to develop the ability to identify relevant literature on a topic they get interested in and to read those works closely.

Grading will be decided based on short reports (30%) and the term-end examination (70%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本考古学

高橋 健

授業コード：A3113 | 曜日・時限：月2/Mon.2
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
 日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を理解し、歴史学・考古学の研究を行う上で不可欠な歴史的事実の解釈方法を身につけることを目標とする。

【到達目標】

考古学的な成果に基づいて、各時代における文化的な特色について説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広がった弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が発達した古墳時代までの展開について、考古資料を中心として学ぶ。また稲作導入後に異なる歴史をたどった北海道島についても扱う。

授業方法はパワーポイントを使用する講義形式で行う。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・概要説明	授業の方法・評価基準 この授業で扱う時代の概説
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の展開
第4回	縄文文化の姿	地域的・时期的な多様性と共通性
第5回	縄文文化の生業	狩猟・漁労と採集・栽培
第6回	縄文文化の社会	集落と墓からみる社会
第7回	弥生文化の成立	稲作の伝来と社会の変化
第8回	弥生のムラの姿	環濠集落と集団関係
第9回	青銅器と貝製品	遠くに運ばれる儀礼の道具
第10回	古墳の成立と社会	前方後円墳の成立と波及
第11回	続縄文文化	稲作を行わなかった地域
第12回	オホーツク文化とは何か	北からの外来文化
第13回	擦文文化とアイヌ文化	アイヌ文化の成立過程
第14回	総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代ごとの特徴を理解すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

佐藤宏之（2019）『旧石器時代 日本文化のはじまり』敬文舎
 今村啓爾（2017）『縄文文化 考古調査ハンドブック17』ニューサイエンス社
 石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書
 その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績の50％は期末試験とする。平常点は50％とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業開始前にWebClassに講義資料のデータをアップロードし、授業を受けながら参照できるようにする。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will cover the historical development of Japan from the Paleolithic to the Kofun period.

(Learning Objectives)

Based on archaeological findings, students will be able to explain the cultural characteristics, of each era,

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the characteristics of each era.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on term-end test (50%) and in class contribution (50%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本古代史

春名 宏昭

授業コード：A3114 | 曜日・時限：水5/Wed.5
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の説明
第2回	〈時代〉の変化	ワンランク上の国家を目指して
第3回	官人たちの変化	良吏政治のスタート＝大同元年勅
第4回	天皇の性格変化	桓武天皇と平城天皇
第5回	良吏政治の展開	嵯峨朝への政策継承
第6回	良吏政治の実践	弘仁三年勅から天長元年官符へ
第7回	承和の変の前奏（1）	嵯峨朝の政治状況
第8回	承和の変の前奏（2）	淳和朝の政治状況
第9回	承和の変の前奏（3）	仁明朝の政治状況
第10回	承和の変	母橘嘉智子と娘正子内親王
第11回	貴族の時代へ	文徳朝・清和朝の様相
第12回	応天門の変	安定の時代、摂関政治へ
第13回	藤原基経の国政運営	清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廃位
第14回	平安前期という時代	平安時代史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要です。奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解が必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はだいぶ違います。この講義では、通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第5巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。また、講義内容が分かりにくかった時には、私の〈春名宏昭〉『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

中央公論社(文庫)・小学館(文庫)・集英社・講談社(文庫)から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りませんが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The Heian period and the aristocracy”. This course introduces how should be the nation and aristocrats in the former term of the Heian period to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand the essence of the nation and politics. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read the textbook and one of reference books introduced. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115 | 曜日・時限：火4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の16世紀末～17世紀初頭は築城の時代であり、現代人が思い浮かべる城郭はほとんどがこの時期に建設された。それはまた徳川家康が「天下人」として君臨した時期にちょうど重なる。なぜこの時期に築城が盛んに行われたのだろうか。史料の読解を通じて、徳川権力の確立過程を築城と関連させて考える。

【到達目標】

16世紀末～17世紀初頭の築城に関連する書状など文献史料とともに絵図・絵画などの画像史料の読解を通じて、当該期の政治・経済・社会のあり方を学び、併せて史料読解の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義形式で行うが、前もって関連史料のプリントを配布し、参加者には史料の音読と解釈をしてもらう。それに対して訂正・補足説明（フィードバック）して、さらにその内容を参考史料を提示しながら解説する。併せてそれぞれの史料が持つ城郭史における意義を政治・社会の状況と関連付けて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスーなぜ築城かー	授業のテーマ・進め方、授業で築城を取り上げる意図について説明する。
第2回	天下人家康の時代	関ヶ原の戦い前後の政治的課題について解説する。
第3回	公儀普請（天下普請）による城郭建設	主に家康による公儀普請について概説する。
第4回	伏見城の修築①	慶長七年（1602）の伏見城の修築前後の築城について解説する。
第5回	伏見城の修築②	慶長七年（1602）の伏見城の修築について解説する。
第6回	江戸城の巡見	江戸城（皇居東御苑）の石垣・堀を実地見学する。
第7回	江戸城の築城①	慶長八年（1603）・慶長十一年（1606）の江戸城の築城について解説する。
第8回	江戸城の築城②	慶長十九年（1614）の江戸城の築城について解説する。
第9回	駿府城の築城	慶長十二年（1607）・慶長十三年（1608）の駿府城の築城について解説する。
第10回	築城の風景①	名古屋博物館所蔵「築城図屏風」を読み解く。
第11回	名古屋城の築城①	慶長十五年（1610）の名古屋城の築城について大名細川家の史料を用いて解説する。
第12回	名古屋城の築城②	慶長十五年（1610）の名古屋城の築城について細川家以外の大名の史料を用いて解説する。
第13回	築城の風景②	靖国神社遊就館所蔵「名古屋御城石垣絵図」を読み解く。
第14回	期末試験ーまとめー	期末試験を実施し、天下人家康の時代についておさらいする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料読解の予習・復習が必要である。（合計4時間程度）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、史料プリントを配布する。

【参考書】

及川亘「名古屋御城石垣絵図を読む」（名古屋城調査研究センター編『史料が語る 名古屋城石垣普請の現場』名古屋城調査研究報告3史料調査研究報告書1、2022年）
同「「公儀御普請」一現場監督する大名」（『城郭史研究』41号、2022年）
北原糸子『江戸城外堀物語』ちくま新書、1999年

斎藤慎一・向井一雄『日本城郭史』吉川弘文館、2016年

白峰旬『日本近世城郭史の研究』校倉書房、1998年

同『豊臣の城・徳川の城』校倉書房、2003年

『日本名城集成 江戸城』小学館、1986年

『日本名城集成 名古屋城』小学館、1985年

『日本名城集成 大坂城』小学館、1985年

『大御所徳川家康の城と町』（駿府城関連史料調査報告書）静岡市教育委員会、

1999年

など

【成績評価の方法と基準】

平常点30％、期末試験70％で評価する。

積極的な授業参加を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、参考史料なども提示しながらそれらなるべく分かりやすく整理して解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The late 16th century to the early 17th century was an era of castle construction in Japan, and most of the castles that modern Japanese think of were built during this period. This also coincides with the period when Tokugawa Ieyasu reigned as "the ruler of Japan". Why was castle construction so active during this period? Through reading historical documents, we will consider the process of the Tokugawa's establishment of power in relation to castle construction.

【Learning Objective】

Through reading and interpreting written historical documents such as letters relating to castle construction from the late 16th century to the early 17th century, as well as visual historical materials such as drawings and paintings, students will learn about the state of politics, economy, and society during that period, and also acquire the basic skills of handling historical materials.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 4 hours of preparation and review of reading comprehension of historical materials is required.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation is based on 30% of the average score and 70% of the final exam.

Expect active class participation.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。論文講読の回は、事前に論文を読んでいることを前提に授業する。hoppiiに教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。13回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	都市とは何か
第2回	江戸前史	地層と地形
第3回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第4回	徳川の御威光	論文講読（渡辺浩「『御威光』と象徴」）
第5回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第6回	チョウの誕生	論文講読（朝尾直弘「惣村から町へ」）
第7回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第8回	日用層	論文講読（吉田伸之「日本近世都市下層社会の存立構造」）
第9回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第10回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第11回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第12回	公共空間の維持管理	道・橋・堀
第13回	総括	まとめ
第14回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会、1989～1990年）

吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社、1992年）

松本剣志郎『江戸の都市化と公共空間』（塙書房、2019年）

大石学・落合功編『江戸東京移行期論』（戎光祥出版社、2024年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant books. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近代史

内藤 一成

授業コード：A3117 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を、立憲政治の観点から、立法院を中心に読み解いていく。帝国議会は貴族院と衆議院により構成されるが、本講義では、特に貴族院に注目して考察をはかる。授業を通じて、実証研究の蓄積が学問領域に新たな地平を開くことを明らかにしていく。

【到達目標】

①日本近代史を立憲政治の観点から理解する。②帝国議会を構成する貴族院・衆議院について、特に前者の役割について理解を深める。③歴史の連続性について考える手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	日本における議会制の導入	欧米の議会制度と日本での導入をめぐる議論について論じる
第3回	憲法の制定と帝国議会の発足	大日本帝国憲法の制定と帝国議会について考察する
第4回	初期議会	初期議会の政府と帝国議会について考察する
第5回	藩閥と政党	藩閥政府と議会の関係を考察する
第6回	桂園時代	桂園時代の歴代政権と帝国議会の関係について考察する
第7回	転換期としての大正	大正政変とその後の政治の推移について帝国議会の見地から考察する
第8回	大正デモクラシー	原敬内閣の誕生を機に起きた帝国議会の変化を考察する
第9回	政党内閣期	第二次護憲運動後に到来した政党内閣期における帝国議会について考察する
第10回	昭和初期の政治	昭和初期、政党政治が揺らぐなかでの帝国議会のあり方を考察する
第11回	軍部の台頭と帝国議会	軍部が台頭するなか、帝国議会のあり方を考察する
第12回	大戦下の議会	第二次世界大戦下における帝国議会について考察する
第13回	帝国議会から国会へ	第二次世界大戦後、帝国議会から国会への変遷を考察する
第14回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する資料には必ず目を通しておく。授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通しておく。平素より参考文献を読んでおくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要な文献等がある場合には、講義の際、指示する。

【参考書】

『貴族院』（同成社）、原口大輔『貴族院議長・徳川家達と明治立憲制』（吉田書店）、西尾林太郎『大正デモクラシーと貴族院改革』（成文堂）西尾林太郎『貴族院議員水野直とその時代』（芙蓉書房出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史科学」（秋学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅰ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course examines the modern era of Japan with a focus on the Imperial Diet. In particular, I will focus on the character of the House of Peers and the role it played in history. What is particularly important in this course is the correct and historical understanding of the development of modern Japanese history and constitutional politics. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understanding modern Japanese history through the development of constitutional politics.
- B. Deepening understanding of the role of the Imperial Diet centered on the House of Peers.
- C. Get clues to think about the continuity of history.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

日本現代史

劉 傑

授業コード：A3118 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を読み解く方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「昭和」という時代（1）	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第2回	「昭和」という時代（2）	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第3回	「昭和」という時代（3）	メディアと政治について討論する。
第4回	外務省と軍部	外務省の歴史を概観し、日本外交の特徴を理解する。
第5回	外務省とメディア	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第6回	昭和初期の外務省と外交官（1）	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第7回	昭和初期の外務省と外交官（2）	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第8回	山東出兵と日本外交（1）	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第9回	山東出兵と日本外交（2）	田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策について討論する。
第10回	満洲事変と日本外交（1）	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第11回	満洲事変と日本外交（2）	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第12回	満洲事変と日本外交（3）	満洲国の成立、満洲国が目指したものの、満洲国の評価について討論する。
第13回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第14回	試験・まとめと解説：昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行い、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。

配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年））

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007年）

井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）

川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）

劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006年）

劉傑・川島真『1945年の歴史認識』（東京大学出版会、2009年）

劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013年）

波多野澄雄・中村元哉『日中戦争はなぜ起きたのか』（中央公論新社、2018年）

川島真・岩谷将『日中戦争研究の現在』（東京大学出版会、2022年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験7割、平常点3割。

【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器を用意してほしい。

教材や課題の指示は、学習支援システムを利用する。見落とさないように注意し、指示にしたがって講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.

Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination: 70%. Short reports and regular assessments:30%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本古代史科学 I

春名 宏昭

授業コード：A3121 | 曜日・時限：水5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『続日本紀の史料学』と題して講義を行ないます。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができます。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組む必要があります。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	続日本紀とはどのような史料か？
第2回	ガイダンス（2）	続日本紀のテキスト
第3回	オオキミへの疑念（1）	続日本紀の宣命と稲荷山古墳鉄剣銘
第4回	オオキミへの疑念（2）	天皇と親王・諸王
第5回	天平二年の太政官奏（1）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第6回	天平二年の太政官奏（2）	続日本紀の3つのテキスト
第7回	天平二年の太政官奏（3）	わずか31文字の史料の“奥行”
第8回	慶雲元年の公解銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第9回	慶雲元年の公解銀（2）	公解銀から見えてくるもの
第10回	左右京尹の設置（1）	天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介
第11回	左右京尹の設置（2）	左右京尹に対する理解
第12回	左右京尹の設置（3）	左右京尹の新たな性格分析
第13回	税司主鑑（1）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第14回	税司主鑑（2）	大宝令施行直後の地方政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを書いていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に平凡社『続日本紀』、現代思潮社『続日本紀』があります。一般啓蒙書として、中央公論社(文庫)・小学館(文庫)・集英社・講談社(文庫)から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作ってください。 ”自分で考える”がキーワードです。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉日本古代政治史
〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制
〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』(吉川弘文館)

『平城天皇』(吉川弘文館)

『皇位継承 歴史をふりかえり変化を見定める』(共著、山川出版社)

『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』(吉川弘文館)

【Outline (in English)】

This lecture is offered under the title of “The world of Shokunihongi”. It deals with key aspects of ancient Japanese history, particularly referring to “shokunihongi”. By the end of the course, students will be able to understand how to make a new approach to historical sources. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (70%) and usual contribution (30%).

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近世史科学 I

松本 剣志郎

授業コード：A3124 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていてもらいたい。

【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピーをHoppiiにアップするので、まずは自力で読解に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。なお受講希望多数の場合、抽選とする。その際、近世史ゼミ生を優先する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第2回	古文書読解入門	近世史科学講義
第3回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第4回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第5回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第6回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第7回	領知宛付状読解	大名家領の安堵
第8回	年貢割付状読解	年貢請求書
第9回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第10回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第11回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第12回	変体仮名読解	俳句をよむ
第13回	金子借用証文読解	年貢滞納
第14回	試験とまとめ	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新編古文書読解辞典』（柏書房、1993年）¥3,107

辞書は必須。毎回持参のこと。

【参考書】

『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近世史料学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125 | 曜日・時限：月4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史料学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppiiに古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で読解に取り組む。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書読読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。なお受講希望者が多数の場合、抽選とし、その際近世史ゼミ生を優先する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発句読解	変体仮名
第2回	離縁状読解	三行半
第3回	触書読解（1）	ペリー来航
第4回	触書読解（2）	株仲間再興
第5回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第6回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第7回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第8回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第9回	漢詩読解	七言絶句
第10回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第11回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第12回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第13回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第14回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新編古文書解読字典』（柏書房、1993年）¥3,107

辞書は必須。毎回持参のこと。

【参考書】

『くずし字用例辞典』（東京堂出版）ほか

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本近代史料学

内藤 一成

授業コード：A3126 | 曜日・時限：月2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史研究では、数多くの、かつさまざまな史（資）料を駆使して議論を組み立てることが珍しくない。本授業では各種の史（資）料を取り上げ、それぞれの特色や限界を明らかにしていく。さらに自ら史料発掘やオーラルヒストリーに取り組むときの手順についても学ぶことで、実践的なスキルを磨くことができるようにする。

【到達目標】

①一次・二次史料の違いとそれぞれの特色を理解する。②公文書・私文書の違いとそれぞれの特色を理解する。③文字・非文字資料の違いと、それぞれの特色を理解する。①～③を総合し、近代史（資）料について基礎的な理解をはかる。また独自に史（資）料調査を行う際に必要となる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義形式をとる。板書とパワーポイントを併用する。授業で使用する史（資）料は、学習支援システムを利用して配布する。史（資）料は授業時に音読したり、内容の検証を行う。状況が許せば学外で行う講義もある。また講義時には、質疑応答の時間を設けるほか、学習支援システムに課題の回答を掲示するなどフィードバックに関しても適宜対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	書簡研究（1）	近代の書簡の形態・書式等について
第3回	書簡研究（2）	近代の書簡の内容について（政治家の書簡を読む）
第4回	書簡研究（3）	近代の書簡の内容について（文化人の書簡を読む）
第5回	日記研究（1）	近代の日記の形態・書式等について
第6回	日記研究（2）	近代の日記の内容について（政治家の日記を読む）
第7回	日記研究（3）	近代の日記の内容について（文化人の日記を読む）
第8回	公文書研究	さまざまな公文書の特色について
第9回	新聞、雑誌、書籍の世界	新聞、雑誌や各種書籍といった活字資料の特色と歴史研究での活用法について学ぶ
第10回	史料調査の世界	史料調査の手順や注意点について学ぶ
第11回	オーラルヒストリーの世界	オーラルヒストリーとは何か、調査の手順、注意点について学ぶ
第12回	金石文の世界	金石文の特色について、フィールドワークとともに学ぶ
第13回	編纂史料の世界	翻刻された史料や伝記などの編纂物の特色について
第14回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史（資）料には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストに使用する史（資）料は、学習支援システムにより事前に配布する。

【参考書】

五味文彦・杉森哲也編『日本史史料論』（放送大学教育振興会）、中村隆英・伊藤隆隆『近代日本研究入門 [増補版]』（東京大学出版会）、佐々木隆「近代文書と政治史研究」（『日本の時代史30 歴史と素材』吉川弘文館）、御厨貴編著『近現代日本を史料で読む』（中公新書）、『日記に読む近代日本』全5巻（吉川弘文館）、御厨貴編『オーラル・ヒストリーに何ができるか』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史」（春学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅱ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムのお知らせ機能や、授業内掲示板機能を利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】
(Course outline)

In this course, I will explain the characteristics and limitations of each of the various modern Japanese historical materials while analyzing them in detail. I will also teach you the steps to discover historical sources and conduct oral history research yourself. Through the lessons, you will gain basic knowledge and understanding of historical materials. (Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS300BE（史学 / History 300）

日本現代史料学

劉 傑

授業コード：A3127 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。
具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。

昭和12年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

また、戦後の日本外交は対米関係を軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解説し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第2回	史料で学ぶ日中戦争と外交(1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第3回	史料で学ぶ日中戦争と外交(2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第4回	史料で学ぶ外交官と戦争(1)	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第5回	史料で学ぶ外交官と戦争(2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第6回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(1)	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第7回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(2)	対中外交を軍人の報告書で読む。
第8回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交(3)	占領地政権問題を日記で考える。
第9回	史料で学ぶ終戦外交(1)	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第10回	史料で学ぶ終戦外交(2)	外交記録で終戦を読む。
第11回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交(1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第12回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交(2)	中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。
第13回	史料で学ぶ日中国交回復とアジア外交の新展開	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第14回	試験・まとめと解説：近代日本のアジア外交	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。

配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとし、便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年）

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007年）

井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）

川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）

劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006年）

劉傑・川島真『1945年の歴史認識』（東京大学出版会、2009年）

劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013年）

波多野澄雄・中村元哉『日中戦争はなぜ起きたのか』（中央公論新社、2018年）

川島真・岩谷将『日中戦争研究の現在』（東京大学出版会、2022年）

【成績評価の方法と基準】

毎回授業時間内に討論か、小レポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし（50％）、試験（50％）とともに成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器を用意してほしい。

教材や課題の指示は、学習支援システムを利用する。見落とさないように注意し、指示にしたがって講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn how to research and read historical materials of the modern history of Japan. Also, think about Japanese diplomacy in historical materials.

Specifically, we will learn how to find and analyze documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.

In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋古代史

大島 誠二

授業コード：A3135 | 曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、古代中国文明の成立を扱う。文献史料と考古学資料を重ね合わせながら、中国古代社会の成立過程を追ひ、考察する。中国世界がどのように成立したのか、またその領域がどのように広がってきたのか、時間的・空間的にとらえることで、古代中国文明の特質を理解する。

【到達目標】

- ①中国古代文明の成立過程を理解する。
- ②中国古代文明の特徴を理解する。
- ③文献史料と考古学資料を用いた分析手法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に、パワーポイントを用いながら講義形式で進める。受講生には、資料プリントを配布する。リアクションペーパー、課題、質問などに対するフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	東洋とは何かを考える
第2回	古代史とは	時代区分から古代社会の特徴を考える
第3回	中国文明の萌芽	良渚文化・石峁遺跡・陶寺遺跡から、中国文明の初期の姿を追う
第4回	二里头文化の出現	中国古代社会において二里头文化出現の意義を考える
第5回	二里头文化とその広がり	二里头文化時代の中国世界の様相を追う
第6回	殷王朝の社会	殷王朝の支配体制を探る
第7回	殷王朝の文化	甲骨と青銅器を中心に、殷王朝の文化の特徴を考える
第8回	三星堆文化の発見	三星堆文化を紹介し、殷王朝時代の中国世界について考える
第9回	周王朝の成立	周王朝が、中国文明の中で果たしている役割について考える
第10回	周王朝の封建支配	周王朝の支配体制の実態を探る
第11回	春秋戦国時代の地域性と文化圏	春秋戦国時代の多様な様相を探る
第12回	春秋戦国時代の社会変化	分裂から統一に向かう中で生じた社会変化を考える
第13回	秦帝国の成立	統一帝国が成立した意義を考える
第14回	まとめと試験	春期の振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する参考書には、興味のある部分だけでも良いので目を通してもらいたい。授業で取り上げるのは、今の中国世界が成立する過程の最初の部分である。現代の中国に関する情報にも、関心を示してほしい。

考古学資料を扱うので、履修者には博物館や美術館に足を運び、中国の文物に親しんでももらいたい。東京では、上野の東京国立博物館東洋館、鶯谷の台東区立書道博物館、表参道の根津美術館、有楽町の出光美術館などがおすすめである。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

宮本一夫『中国の歴史1 神話から歴史へ 神話時代 夏王朝』講談社学術文庫 2020（原本刊行は2005）
平勢隆郎『中国の歴史2 都市国家から中華へ 殷周 春秋戦国』講談社学術文庫 2020（原本刊行は2005）
小澤正人・谷豊信・西江清高『中国の考古学』（世界の考古学7）同成社 1999

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の提出物 30% 期末試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料などを用いて、わかりやすい授業を心がけたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the formation of ancient Chinese civilization. By examining both written historical sources and archaeological materials together, it traces and analyzes the process through which ancient Chinese society developed. By considering how the Chinese world was formed and how its sphere expanded, both temporally and spatially, the course aims to deepen understanding of the distinctive characteristics of ancient Chinese civilization.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To understand the process of the formation of ancient Chinese civilization.
- B. To understand the characteristics of ancient Chinese civilization.
- C. To learn methods of analysis using both written historical sources and archaeological materials.

【Learning activities outside of classroom】

Before after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report 30%, and Exam 70%.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋中世史

宇都宮 美生

授業コード：A3136 | 曜日・時限：木4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方を学習する。また、与えられた資料を使って、分析する方法を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	水問題	水問題と学習の意義
第2回	河川史1	黄河
第3回	河川史2	長江
第4回	河川史3	渭水
第5回	河川史4	洛水
第6回	運河史1	運河の構造
第7回	運河史2	運河の発展
第8回	穀倉	穀物の運搬と保管
第9回	船舶史	船舶の種類と発展
第10回	水軍史	水上の軍事行動
第11回	農業史	灌漑と水車
第12回	庭園	庭園の種類と発展
第13回	水害	災害と防災
第14回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で資料、論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版
富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と筆記試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいので、写真撮影を禁じる。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（あれば青色）：作業をしてもらう。

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

中国史（都城史、水利史、交通史）、日中交流史

【事務への連絡事項】

プロジェクターのある教室の使用とPCの貸し出しを希望

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋古代史

内田 康太

授業コード：A3143 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政ローマの終焉とカエサル」を取り上げる。伝統的秩序の破壊者とも評されるカエサルの生涯を時系列に沿って分析することにより、共和政末期ローマの歴史の概要を学習するとともに、彼が目指した新しい統治機構の姿とその実際を探索する。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。
 ・共和政末期ローマの歴史について基礎的知識を習得する。
 ・一次資料の扱い方を習得し、カエサルが共和政の終焉に対して果たした役割について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は主として講義形式で行うが、受講生による史料分析・ディスカッションの時間も用意する。また、授業時間内に質疑応答の機会を設けるとともに、終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	古代ローマ史のなかのカエサル
第2回	生い立ち	共和政末期という時代
第3回	政治家への道	カエサルの政治戦略と経歴
第4回	政治的台頭	第1回三頭政治の形成とカエサルの執政官職
第5回	軍事的功績	第1回三頭政治の持続とカエサルのガリア遠征
第6回	内乱の前夜	第1回三頭政治の崩壊とカエサルのルビコン渡河
第7回	内乱の推移と結末	対ポンペイウス戦争の展開とカエサルの勝利
第8回	カエサルの時代（1）	カエサルによる諸改革
第9回	カエサルの時代（2）	独裁官カエサル
第10回	カエサルの時代（3）	カエサルの暗殺
第11回	新たな内乱	暗殺者たちの行方と後継者争い
第12回	人物と評価（1）	カエサルは共和政ローマの破壊者であったか？
第13回	人物と評価（2）	カエサルは共和政ローマの再建者であったか？
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

小池和子『カエサル 内戦の時代を駆けぬけた政治家』、岩波新書、2020年。
 長谷川博隆『カエサル』、講談社学術文庫、1994年。
 長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）
 リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

一次資料（日本語訳）を読み解く技術を身につけられるように、講義に史料分析を組み合わせる授業形式を継続する。また、リアクションペーパーを通じた質疑応答を積極的に利用し、受講生の関心にも沿ったかたちで授業を進める。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the fall of the Roman Republic and Caesar's role in it. Analyzing chronologically the life of Caesar, the destroyer of the traditional order, it helps students learn the outline of this period and explore the new system he schemed and its reality.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of the late Roman Republic.

- Using primary sources properly, students are able to estimate the role of Caesar played in the fall of the Roman Republic.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE（史学/History 200）

西洋中世史

内川 勇太

授業コード：A3144 | 曜日・時限：水5/Wed.5
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アングロ＝サクソン期イングランドの歴史を、写本や文書などの文字資料・貨幣・考古学資料等の画像を積極的に活用しながら概観する。前半において政治史を中心に歴史的展開を整理したのち、後半においてテーマ別にアングロ＝サクソン期イングランドの諸側面を考察する。

【到達目標】

アングロ＝サクソン期イングランド（450年頃から1066年）の歴史的展開を、政治・宗教・社会・文化等の諸側面から説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体に共有すべき質問等は次回の授業冒頭において取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アングロ＝サクソン期イングランドの概要
第2回	イングランドの政治的統合過程①	アングロ＝サクソン人の移住と諸王国の成立
第3回	イングランドの政治的統合過程②	キリスト教への改宗と教会組織の整備
第4回	七王国（ヘプターキー）概念とブリテンの覇者（ブレトワルダ）概念	歴史学用語としての七王国（ヘプターキー）とブリテンの覇者（ブレトワルダ）の成立とその是非
第5回	イングランドの政治的統合過程③	マーシア王国の覇権
第6回	イングランドの政治的統合過程④	ヴァイキングの侵入
第7回	イングランドの政治的統合過程⑤	ウェセックス王国によるイングランド地域の政治的統合
第8回	イングランドの政治的統合過程⑥	デーン人とノルマン人による2度の征服とアングロ＝サクソン期イングランドの終焉
第9回	物質文化	アングロ＝サクソン期の考古学的遺物と写本
第10回	ラテン語と古英語	アングロ＝サクソン期イングランドのラテン語・古英語併用状況
第11回	集会を通じた統治と文書利用	アングロ＝サクソン期イングランドの集会における文書利用を通じた統治
第12回	貨幣	アングロ＝サクソン期イングランドの貨幣の発掘、貨幣の種類、貨幣制度の発展
第13回	『アングロ＝サクソン年代記』の2つの「十字」と天文・大気光学現象	『アングロ＝サクソン年代記』の2つの「十字」が指す天文・大気光学現象とその科学史上の意義
第14回	まとめ	授業の復習とレポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の予習、授業内容の復習、参考書等の学修を合わせて各回4時間以上の予習・復習を行う。

【テキスト（教科書）】

講義で使用する資料は全てpdfあるいはパワーポイント形式で配布する。

【参考書】

- 近藤和彦編『イギリス史研究入門』山川出版社2010
- 青山吉信編『世界歴史体系イギリス史1：先史-中世』山川出版社1991
- トマス・チャールズ＝エドワーズ編・常見信代監訳『オックスフォードブリテン諸島の歴史2：ポスト・ローマ』慶應義塾大学出版会2010
- ウェンディ・デイヴィス編・鶴島博和監訳『オックスフォードブリテン諸島の歴史3：ヴァイキングからノルマン人へ』慶應義塾大学出版会2015
- 川北稔編『新版世界各国史11イギリス史』山川出版社1998

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)、毎回のリアクションペーパー(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参考資料のアクセシビリティを改善する必要があると感じた。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を参照可能な機器（パソコン、タブレット、スマートフォン等）。

【Outline (in English)】

Course outline:An overview of the history of Anglo-Saxon England will be presented by using written sources, coin finds and archaeological finds. The first part concerns with the political development of the period while the second part considers its various aspects.

Learning Objectives:This course aims to outline the history of Anglo-Saxon England (c. 450-1066) from political, religious, social and cultural perspectives.

Learning activities outside of classroom:reading of the text before and after each class, reading of references

Grading Criteria/Policy:Report(70%), Reaction Papers(30%)

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋近代史

中嶋 毅

授業コード：A3145 | 曜日・時限：金3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ロシア帝国の形成から第一次世界大戦に至るまでのロシア近代史を概観し、ヨーロッパの政治発展の一類型としてのロシア世界を検討することを通じて、近代世界の発展の様々な特徴を多面的に考察する。

【到達目標】

近代ロシア帝国の歩みを、主に政治社会史の観点から検討し、近代国家の特徴を比較考察する視角を習得する。また、ロシア近代史の経験を近代世界の中に位置づける作業を通じて、歴史的思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業の最後に小課題を提示し、Hoppiiで提出してもらう。その際、授業および課題作成にあたっての質問を随時記載してもらい、次回授業時までに回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の概要と授業の進め方
第2回	近代国家の形成過程	近代ヨーロッパの国家編成
第3回	ロシア帝国の形成（1）	ピョートル1世と帝国の形成
第4回	ロシア帝国の形成（2）	ピョートルからエカチェリーナへ
第5回	ロシア帝国の形成（3）	エカチェリーナ2世とロシア帝国の発展
第6回	19世紀前半のロシア帝国（1）	ナポレオンを破った大国ロシア
第7回	19世紀前半のロシア帝国（2）	ニコライ1世と帝国の安定化
第8回	ロシア帝国の近代化（1）	アレクサンドル2世の「大改革」
第9回	ロシア帝国の近代化（2）	近代化の苦悩
第10回	近代ロシアの成熟	19世紀末のロシア帝国
第11回	近代ロシアの危機	ニコライ2世のロシア帝国
第12回	第一次世界大戦とロシア帝国	総力戦への対応
第13回	二月革命	ロシア帝国から共和制ロシアへ
第14回	全体のまとめ	近代ロシアの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代ロシア史の概説書を読み、歴史の大まかな流れを理解する。また、授業の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。配布資料を用いて授業を進める。

【参考書】

和田春樹編『ロシア史』上・下（山川セクション）山川出版社、2023年。田中陽児・倉持俊一・和田春樹編『世界歴史大系・ロシア史』全3巻（山川出版社、1994-97年）。

【成績評価の方法と基準】

授業中に課する課題の提出（50％）と学期末レポート（50％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course will introduce students to the modern history of Russia from the formation of the Russian empire to the First World War. The Russian world as a type of European political development will be considered.

Students will acquire knowledge about various aspects of the Russian Empire. In doing so they will acquire a perspective to compare and consider the characteristics of modern nations.

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Assignments (50 %), term paper (50 %)

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋現代史

古川 高子

授業コード：A3146 | 曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】

西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、国民国家の形成とその変遷や地球全体にまたがる人の移動等の歴史の変容過程を学ぶことで、現在の新自由主義時代に生じている諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義等の諸概念に関する歴史上の議論を紹介するとともに、西洋諸国が支配した地域における問題も含めた近現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。

・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトまたはダウンロードして、授業にそれを利用すること。
・講義において疑問に感じたことについては授業の最後の時間に質問時間を設けるのでそこで行うこと。時間不足で解答できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	試験等の受け方、書評の行い方、註の付け方等の説明
第2回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第3回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとってのフランス革命
第4回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848年革命、ウィーンの労働者街区
第5回	自由主義と国民主義	ハプスブルク君主国における自由主義と国民主義
第6回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第7回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第8回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第9回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの14箇条、マイノリティ保護
第10回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第11回	冷戦時代のヨーロッパ	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第12回	冷戦時代のアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向、アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第13回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第14回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に用いない。

【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。

但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。
・小沢弘明「東欧における地域とエトノス」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000年 国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237。
・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）。

【成績評価の方法と基準】

・レポート（書評論文）を含む平常点（40％）および筆記試験（60％）による総合評価を行う。

【レポート（書評論文）】は、講義で示す参考書から各自の選好に従って、2冊選んで読み、相互に結びつけながら書評を行った上で、評者=学生の意見まで入れたものとする。それを学習支援システムを通じて提出（提出時期は講義開始時に指示）。書評「論文」であることに注意せよ。

【筆記試験】は、ノート・レジュメのみ、持ち込み可の論述試験。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記・レポート試験に臨むこと。試験当日に参考文献を読んでも間に合わない知識と思考力および論理力を試す試験を行うので、必ず参考書を読んでおくこと。試験は暗記したものを記すものではないので、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【注意】レポート（書評論文）において、参考文献を利用した場合は、かならず、出典（頁も含む）および引用註を付けること。剽窃が判明した場合は、全体の評価しないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

レポート（書評論文）に生成AIを利用しないこと。利用したことが判明した場合はレポートの評点はゼロとなる。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Studying history from the perspective of nation-states, nations, ethnic groups and areas. And enhancing the thinking ability and understanding the meanings and roles of various events in the world history of 19. and 20. century.

【Learning objectives and methods】

Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups. Basically lectures, including answering questions.

【Learning activities outside of classroom】

Reading suggested books in the class to learn and understand historical concepts and events.

【Grading criteria/policy】

40 % from contributing through positive attitude in class and book reviews, 60% from a writing test with notes, reports and summary.

HIS200BE（史学 / History 200）

考古学概論

高橋 健

授業コード：A3152 | 曜日・時限：月2/Mon.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考古学の基礎的な方法論の概要を学ぶ。
 モノである考古資料からどのように過去の人間集団の行動を研究するか、考古学の研究に不可欠な資料の解釈方法を理解し、身につけることを目的とする。

【到達目標】

考古学における調査と研究の方法を理解する。考古学の論文や専門書を読み解き、発掘調査報告書から必要とする情報を引き出すのに必要な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	考古学とは何か
第2回	考古学の研究素材	考古資料の種類と特性
第3回	考古学の研究史	研究方法がどのように発展してきたか
第4回	考古学における調査	発掘調査と整理作業の手順
第5回	考古学的な時代区分	どうやって時代を区分するか
第6回	分類と型式学	モノをどう分けるのか
第7回	層位学	考古学的な年代決定の方法
第8回	年代測定法	自然科学的な年代測定の方法
第9回	年代をめぐる論争	日本考古学において展開された年代論争
第10回	資料の解釈①	資料の分布とその変化は何を意味するか
第11回	資料の解釈②	発掘された遺構をどう読み解くか
第12回	資料の解釈③	型式と人間集団の関係
第13回	考古学と文献史学	文字資料のある時代の考古学
第14回	まとめ	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、考古学の方法についての理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『考古学概論』山本孝文・青木敬・城倉正祥・寺前直人・浜田晋介、ミネルヴァ書房、2022年

【参考書】

参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末に筆記試験を行う。試験は成績評価の50%とする。平常点は成績評価の50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業開始前にWEBに講義資料のデータをアップロードし、授業を受けながら参照できるようにする。

【その他の重要事項】

※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will learn an overview of the basic methodology of archaeology.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand how to study past human activities using archaeological materials, which is essential for conducting archaeological research.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the archaeological method.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on term-end test (50%) and in class contribution (50%).

HIS200BE（史学 / History 200）

史学概論

齋藤 勝

授業コード：A3153 | 曜日・時限：木1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学という学問の特性について認識を深める。
 自らの歴史研究のあり方や位置づけを省みるために、歴史学という学問の持つ特性を多角的に学ぶ。

【到達目標】

歴史学という学問の性質、方法、潮流、他の学問との関係等についての理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。質問等は原則として授業の前後に行って下さい。課題等に対するフィードバックは、学習支援システムを通じて行います。なお、授業の進度等により授業計画が変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文学部史学科の位置づけ	伝統的な学問の分類と文学部史学科
第2回	歴史学の流れと現在	史学概論の扱う課題
第3回	史学概論と歴史学①	史学概論の位置づけ・目的と歴史学の特性
第4回	史学概論と歴史学②	歴史学の可能性と限界、約束ごと
第5回	歴史学の目的①	学問の効用・意義と目的
第6回	歴史学の目的②	歴史学の目的の主要な三区分
第7回	歴史学の目的③	三つの歴史学の相互関係
第8回	歴史学の目的④	歴史学の効用
第9回	歴史学の対象①	歴史学の対象の設定
第10回	歴史学の対象②	事実についての問題
第11回	歴史学の対象③	事実の種類
第12回	歴史学の対象④	史料による事実の確認と復元
第13回	歴史学の対象⑤	事実の認識
第14回	まとめ	歴史学の特性と研究の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 予習・復習として指定された関連文献を読むことが求められます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験もしくはレポート100%。
 試験かレポートかは授業の進展に応じて決めていきます。
 講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とする予定です。
 決定や変更については、試験実施もしくはレポート提出期限の二週間前までに告知します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with characteristics of the study of history.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider characteristics, methods and history of the study of history and relations with other academic fields.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or examination(100%)

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅰ

大橋 幸泰

授業コード：A3154 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近世（いわゆる江戸時代）は、平和な時代であったとイメージされがちである。確かに、江戸時代が対外・対内を問わず戦争のない時代であったことは確かであるが、その一方で、徳川幕府が軍事政権であったことも事実である。軍事体制のもとで、なぜ200年以上にわたって「惣無事」という戦争のない時代が継続したのか。その条件を考えることは、今後、平穏な世界を実現するために、現代人である私たちに何が求められているのかを考えることにつながる。こうした課題意識により、本講義では近世日本の宗教や民衆運動を主な材料として、この時代の「惣無事」の条件について検討しようと思う。それは同時に、近世人の秩序認識を理解することにもなる。以上のような本講義の考察にあたって主軸にすえるのが、民衆史研究と属性論という方法である。

【到達目標】

いつの時代でも人々は何かによって拘束されている。人々が何ものにも拘束されない時代など存在しない。ただし、人々が何によって拘束されているのかは、それぞれの時代によって異なる。過去の人々を取り巻く秩序と人々の秩序認識について正確に知るには、その時代固有の条件にそくして考えることが求められる。現代人である私たちの常識を基準に近世人の思考や行動を理解することはできない。現代とは異なる近世の秩序を知ることは、現代人の秩序認識のどこにどんな問題があるかを知ることにつながる。本講義の到達目標は、近世の人々の秩序認識を理解し、それを比較の対象として現代に生きる私たちの秩序認識を相対化できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による講義を基本とするが、受講生には毎回200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。第7回と第13回では、講義内容をめぐってディスカッションする時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスー民衆史研究という方法	本講義の目的と概要について説明するとともに、史学史を振り返りながら民衆史研究の方法について講義します。
2	近世人の常識(1)一支配イデオロギーと所有観念	近世人の政治常識である仁政という支配イデオロギーと所有観念について講義します。
3	近世人の常識(2)一東アジアのなかのキリシタン禁制	東アジアの政治思想におけるキリシタン禁制の論理について講義します。
4	近世人の常識(3)一身分と属性	近世人の身分と属性について講義します。
5	島原天草一揆と近世秩序(1)一揆の性格	島原天草一揆の性格について講義します。
6	島原天草一揆と近世秩序(2)一近世人の一揆認識	近世人の一揆認識について講義します。
7	中間小活一近世人の常識／近世秩序をめぐる議論の時間	中間小活として、近世人の常識と近世秩序について受講生とともに議論します。
8	異端的宗教活動と近世社会(1)一宗門改と類族改	宗門改と類属改について講義します。
9	異端的宗教活動と近世社会(2)一潜伏キリシタン	潜伏キリシタン存続の条件について講義します。
10	異端的宗教活動と近世社会(3)一隠れ／隠し念仏	隠れ念仏・隠し念仏について講義します。
11	近代移行期の秩序認識(1)一近世宗教の明治維新	近世宗教の明治維新について講義します。
12	近代移行期の秩序認識(2)一民衆宗教の登場と「信教の自由」	民衆宗教の登場と「信教の自由」について講義します。
13	総括一属性論の射程／近世宗教をめぐる議論の時間	総括として、属性論と近世宗教について受講生とともに議論します。

14 総復習(試験を含む) 総復習とともに試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義と並行して、教科書として指定した大橋幸泰著『潜伏キリシタン 江戸時代の禁教政策と民衆』（講談社学術文庫、2019年）を読み進めるとともに、講義の予習として同書の該当箇所を熟読してくることを求める。授業後は、講義中に紹介した参考文献の他、関連する研究文献を自分で探して知見を広げてほしい。事前・事後の学習はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大橋幸泰著『潜伏キリシタン 江戸時代の禁教政策と民衆』（講談社学術文庫、2019年）【要購入】

【参考書】

大橋幸泰・深谷克己編『〈江戸〉の人と身分6 身分論をひろげる』（吉川弘文館、2011年）
大橋幸泰著『近世日本邪正論 江戸時代の秩序維持と隠れ／隠し念仏』（勉誠社、2024年）
そのほか、適宜、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験60％／近世日本の宗教・身分・民衆運動の基本的な概念を理解できているかが試される。
レポート30％／学期末までに、講義に関する文献を論評するレポートを求める。
平常点評価10％／毎回、200～400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。
その他／レポートを提出した者が試験の受験資格を有する。平常点が0点である場合、単位の取得は困難であることを付記する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士で議論してもらう際に、教員から適切なテーマを提供することが議論の活性化につながると気づいたので、工夫したい。

【Outline (in English)】

Japan's early modern period (the so-called Edo period) is often thought of as a time of peace. While it is true that the Edo period was free of war, both domestic and international, it is also true that the Tokugawa shogunate was a military regime. How did this war-free period of "sōbuji" (all peace and security) continue for over 200 years under a military regime? Considering the conditions under which this continued war-free period led to a consideration of what is required of us as modern people to realize a peaceful world in the future. With this in mind, this lecture will examine the conditions for "sōbuji" (all peace and security) during this period, primarily using religion and popular movements in early modern Japan as materials. This will also help us understand early modern people's perception of order. The methods used in this lecture, which address the above points, are based primarily on the study of popular history and attribution theory.

In parallel with the lectures, students are required to read the assigned textbook, "Hidden Christians: The Prohibition of Christianity and the Common People in the Edo Period" (Kodansha Academic Library, 2019) by Ohashi Yukihiko, and to thoroughly read the relevant sections of the book in preparation for the lecture. After class, students are expected to expand their knowledge by independently researching related research literature in addition to the references introduced during lecture. The standard is two hours of pre- and post-class study.

Exam: 60% - This tests your understanding of the basic concepts of religion, social status, and popular movements in early modern Japan.
Report: 30% - A report critiquing literature related to the lecture is required by the end of the semester.

Classroom Assessment: 10% - Students are required to submit a lecture record summarizing the lecture, approximately 200-400 letters in Japanese, for each session.

Other: Students who submit a report are eligible to take the exam. Please note that students who receive a zero point rating about classroom assessment will not be able to earn credits.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世前期（平安時代後期から南北朝時代）の日中文化交流についての理解を深めるため、中国（南宋）文化に関係する題材を取り上げ、伝記や図像なども活用して多角的に学ぶ。あわせて、史料を読解して史実を追及し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

経済的関係に起因する日中間の交通が、中世前期の社会・国家に及ぼした影響の実態について、文化交流史の視点から説明することができる。日本中世の漢文史料を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。パワーポイントの文面については、事前に章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章ごとに計7回の小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次回の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中世前期の唐船貿易と僧侶（1）	履修のガイダンス・日中間の貿易と僧侶の往来
第2回	中世前期の唐船貿易と僧侶（2）	日中間の貿易と僧侶の往来（小テスト1）
第3回	鎌倉時代の宋式喫茶（1）	喫茶文化の伝播と受容
第4回	鎌倉時代の宋式喫茶（2）	喫茶文化の伝播と受容（小テスト2）
第5回	鎌倉仏教と印刷メディア（1）	仏教勢力による印刷メディアの活用
第6回	鎌倉仏教と印刷メディア（2）	仏教勢力による印刷メディアの活用（小テスト3）
第7回	日宋の王権と仏牙舍利信仰（1）	ブツダの歯への信仰と日中の王権
第8回	日宋の王権と仏牙舍利信仰（2）	ブツダの歯への信仰と日中の王権（小テスト4）
第9回	渡唐天神説話と神仏習合（1）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第10回	渡唐天神説話と神仏習合（2）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰（小テスト5）
第11回	日本の宝篋印塔と中国の阿育王塔（1）	特異な舍利塔図像の伝播と受容
第12回	日本の宝篋印塔と中国の阿育王塔（2）	特異な舍利塔図像の伝播と受容（小テスト6）
第13回	鎌倉時代の唐物と文化伝播（1）	授業内容の総括
第14回	鎌倉時代の唐物と文化伝播（2）	授業内容の総括（小テスト7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。プリント、ノート等を用いて復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章ごとにプリント（PDFファイル）を配布する。

【参考書】

『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史21 鎌倉時代4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013年）
 大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、2017年）
 その他は、章ごとに提示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの問題と採点を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードする。また、「学習支援システム」から期限内に小テストを提出する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS200BE (史学 / History 200)

日本史特講IV

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世日本の18世紀ないし19世紀前期という時期は、文字文化の局部的一層の浸透と徐々なる拡散を力として、日本という枠組みの中で身分共通の文化の体现、ひいては常識の形成が進む時代であったのではないかと考えられる。殊にすでに文字の使用を前提とする支配の文化の中に生きることとを所与としていた支配層にかかわってはなお一層そうであったのではないかと考えられる。事実、18世紀中期には歴史的テキストの中に再発見した伝統文化を当該のテキストに忠実に体现するように要求する権力の出現があり、「和」の一語をもって括る復元的次元の文化のすり込み共有によって文化的統合を図らんとしたかと思わせる動きが活発化していた。

当科目では、このような理解の基底の共有を前提として、幕府医員丹羽貞機が延享五年（1748）に朝鮮国王派遣の通信使随行人に接触し、医員趙崇寿ら数人との間で行った筆談の再現の記録「両東筆語」の読解に挑戦する。そして支配層において「和」の一語へ引き寄せる形で文化的統合への動きを目立たせはじめた時期の医員個人の日本表示のあり様を確かめる。

【到達目標】

①近世の日本人と朝鮮人との間で共有されていたとみられる対話のための作法、秩序について理解を深め、かつ対話の構造、布置秩序を説明することができる。

②一定の布置秩序の中ではじめて実現しえたと考えられる差異可視化の場面に注目し、その段階にいかなる形の日本表示が示されていたか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「両東筆語」は、丹羽本人が持ち帰った筆談紙をもとに後日場面再現された編集物とみるべき史料である。このため、当書には明らかに構成がある。ゆえに後日の作為等の有無について不注意であったはいけなない。ただし、当書に確認されるその構成は、編集上の後日の作為というより、むしろ近世の日本人と朝鮮人との間で共有されていた、対話を成り立たせるための対談構成の作法の投影ではないか。当科目では一応このような立場をとる。要するに、対談、問答は思いつくままに進められるというのではなく、構成適合的に布置されるべきものと考えられており、その布置秩序に基づいて進められた。ゆえに後日の再現的編集も容易であったのではないかと考える。当科目では、このような観点から当書の構成順序を重視し、それ自体を講義順序として史料の読解に臨む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	(1) 18世紀日本の集中傾向について (2) 先行研究にみる筆談記録の歴史的意義、論点等
2	史料成立の背景	(1) 丹羽正伯と野呂元丈 (2) 延享五年の通信使
3	史料の特性	(1) 文章の実態 (2) 構成
4	一日目の記録	(1) 対談申し入れと当座の目的伝達 (2) 当座の目的に沿う暫時の筆談
5	一日目の記録（続）	(3) 仕掛けによる誘導 (4) 本当の対談目的の共有 一自己表明への一階梯— (5) 仮交渉、そして酬唱
6	二日目の記録	(6) 熱意の本交渉 (7) 間章—知識の交流、あふれ出る私のコトバー
7	二日目の記録（続）	(8) 学士・書記官との面会 一自己表明の徹底—
8	三日目の記録	(9) 間章—お互いの違いの確認— (10) 議論への展開予兆 (コラム) 趙崇寿「貴国では金銀を糞土のように扱ふと聞く、本当か」の意義
9	三日目の記録（続）	(11) 主張含みの議論の展開

10	三日目の記録（続）	(12) 間章（歓談）—緊張解放— (13) 肉親紹介
11	四日目の記録	(14) 間章—知識の交換— (15) 抱って立つ知識基盤をめぐる本格的討論の展開
12	四日目の記録（続）	(16) 酬唱 (17) 肉親をめぐる相互理解、交情確認
13	五日目・六日目の記録	(18) 筆談その後の行方
14	おわりに	(1) 相互理解の素地、知恵 (2) 丹羽正伯による日本表示のあり様

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習（事前配布資料の読解）・復習：各2時間

②参考書等にもとづく自習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。各回用のプリントを配布する。

【参考書】

初回授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 (10%)

(2) 小レポート2回 (40%)

第1回 「両東筆語」にみる筆談の構成について

第2回 討議の内容について

※いずれも設題は授業実施期間中に提示する。

(3) 期末レポート (50%)

12月中に到達目標を満たす設題を提示する。

【学生の意見等からの気づき】

つねに講義が一方通行的となりがちなので、史料読解に参加形式を検討する。演劇活動等や何等か発話にかかわるサークル活動をしている学生がいれば積極的に補助をお願いしたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The period of early modern Japan, roughly covering the 18th century to the early 19th century, can be seen as an era in which the partial penetration and gradual spread of a literate culture served to advance the embodiment of a culture shared across social classes within the framework of Japan, and ultimately the formation of common sense. This was particularly true for the ruling class, who were already accustomed to living within a culture of governance premised on literacy. Indeed, by the mid-18th century, there emerged authorities demanding that rediscovered traditional culture in historical texts be faithfully embodied in those texts, and there was an active movement that appears to have sought cultural integration through the shared inculcation of a restorative dimension of culture encapsulated by the term “Wa” (harmony).

In this subject, based on the assumption of a foundational shared understanding, we will attempt to interpret the recreated record of written conversations called ‘Ryoto Shitsugo,’ in which the shogunate physician 丹羽貞機 (正伯), in Enkyō 5 (1748), interacted with the envoys sent by the Korean king and a few physicians including 趙崇寿 (活庵). We will also examine how individual physicians represented themselves in Japan during a period when the ruling class began to prominently show movements toward cultural integration, drawing everything under the single concept of ‘harmony.’

(Learning Objectives)

1. Deepen understanding of the writing-based communication practices that are believed to have been shared by Japanese and Koreans in the early modern period. Also, be able to explain the rules for topic development that were actually used to make dialogue possible.
2. Focus on the instances in which early modern Japanese and Koreans consciously made their differences visible, and in particular, be able to explain what claims the Japanese of the 18th century made about their own country in such instances.

(Learning activities outside of classroom)

1. Pre-study of the materials distributed in advance and review after class: 2hours
2. Self-study on the history of interactions between early modern Japan and Korea based on reference books, etc.

(Grading Criteria /Policy)

• Two midterm paper (40%)

1. Creating a report explaining the content and structure of historical documents distributed as teaching materials.

2. Create a report explaining the content of discussions that took place between Japanese and Koreans in the early modern period, as found in the historical documents distributed as teaching materials.

• term paper (50%)

The report assignment to achieve the learning objectives is scheduled to be given in December.

• Willingness to participate in class (10%)

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅴ

宮間 純一

授業コード：A3158 | 曜日・時限：月1/Mon.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代日本の発端として位置づけられてきた明治維新の具体相を学ぶことで、近世・近代移行期における日本社会の歴史像を構築する力を身につける。

【到達目標】

講義で解説された明治維新に関するさまざまな事象を単に暗記するのではなく、日本史上における明治維新の位置づけを把握し、独自の歴史意識を持てるようになる。また、その歴史意識を言語化し、明瞭に論述できるようになる。具体的なテーマとしては、天皇・武士・公家・ジェンダー・被差別民等の問題を扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施する。折に触れてショートレポートの提出を求め、その内容に対して次の授業時間にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	明治維新像の変遷	戦前以来の明治維新像の変遷を歴史研究の動向を踏まえながら解説する。
第2回	天皇と明治維新	近世には「みえない」存在であった天皇が国家元首となるまでの過程を解説する。
第3回	公家の明治維新	公家の明治維新について鷲尾隆聚という下級公家を中心に解説する。
第4回	大名の明治維新	大名の明治維新について下総佐倉藩堀田家を中心に解説する。
第5回	武士の明治維新	旧秋田藩士・旧幕臣を中心に武士の明治維新について解説する。
第6回	志士の明治維新	幕末維新期に現れた志士の動向について解説する。
第7回	外交儀礼と明治維新	明治初期における日本の外交儀礼の形成について解説する。
第8回	宗教と明治維新	明治政府の神道国教化政策、キリスト教の黙許などについて解説する。
第9回	書物・記録と明治維新	幕府が管理していた文庫や明治政府が設置した書籍館について解説する。
第10回	文明開化と明治維新	文明開化について違式註違条例など生活に関わる問題を中心に解説する。
第11回	遊女の明治維新	吉原の明治維新を芸娼妓解放令を中心に解説する。
第12回	被差別民の明治維新	被差別民の明治維新を「身分解放令」や新政反対一揆を中心に解説する。
第13回	記憶にみる明治維新	明治維新の顕彰による集合的記憶の形成について新選組などを事例に解説する。
第14回	まとめと成果確認	達成度を確認するための試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配布するテキストに事前に目を通すこと。
準備・復習時間は講義1回につき4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用せず、毎回レジュメを配付する。

【参考書】

都度紹介するが、さしあたり以下の文献をあげておく。
宮間純一『明治維新という物語』（中央公論新社、2025年）
宮地正人『幕末維新変革史』上・下（岩波書店、2012年）
井上清『明治維新』（日本の歴史20、中央公論新社、2006年）
松尾正人『維新政権』（吉川弘文館、1995年）
井上勲『王政復古』（中公新書、1991年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）・ショートレポート（20%）・授業に対する取り組み方（10%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付、リアクション・ペーパーの提出に際して、学習支援システムを利用することがある。

【Outline (in English)】

This course introduces Meiji Restoration to students taking this course. The goal of this course is to understand the Meiji Restoration. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講VI

米崎 清実

授業コード：A3159 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解説、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】

- ・地域史研究の意義を理解します。
- ・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
- ・地方文書を解説し、分析できる力を修得します。
- ・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
- ・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に関東の地方文書の解説、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解説し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業終了後に課した課題に対する提出物やリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第2回	近世の支配体制と地方文書	近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第3回	近世村落の成立と検地	検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第4回	百姓の家	宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第5回	村の法・財政と村落運営	村議定、村入用、村役人の家、村役人制
第6回	村組と地域格差	村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第7回	支配のしくみと地域社会	幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特徴
第8回	百姓の年貢諸役	年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識
第9回	地域社会の身分集団	地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団
第10回	村人の信仰と文化活動	村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動
第11回	村の祭りと若者仲間	村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識
第12回	村社会の生業と百姓意識	村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち
第13回	村社会と家の秩序	村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第14回	まとめ	近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付する史料（活字にした近世の地方文書）について意見を求めたり、解説してもらった課題を課します。配付史料上のわからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。史料を配付します。

【参考書】

木村礎『近世の村』（1980年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』（1987年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000年、けやき出版）、大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003年、山川出版社）、水本邦彦『村—百姓たちの近世—』（2015年、岩波新書）その他授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）、平常点（20％）。
全授業回数の2／3以上の出席を期末試験受験の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

史料（活字にした近世の地方文書）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

史料の配付、課題の提出は学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline (in English)】

Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan. In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents. In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

The goals to be achieved in this course are the following five points.

- ・ Understand the significance of regional history research.
- ・ Understand the significance of the creation and transmission of various modern local documents.
- ・ Acquire the ability to decipher and analyze local documents.
- ・ Apprehend modern nations and societies through analysis of local documents.
- ・ Cultivate a perspective to think about today's community development and local culture.

Assignment:

Before the class, please check the words you do not understand in the dictionary to be able to understand handouts. The standard preparation & review time for this course is 2 hours each.

Grade evaluation: Final exam (80%), usual performance score (20%)

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅶ

山田 康弘

授業コード：A3160 | 曜日・時限：金1/Fri.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦国時代とは、どのような時代であったのか——本講義では、このことを受講生諸君と考えていく。

戦国時代といっても「戦国大名たちがいつも戦争ばかりしていた」わけではなかった。大名といえども、互いに争ってばかりいては自滅は免れない。だから、大名たちは近隣の者同士で協調しあうこともあったのだ。また、この時代に生きた人びとにとって「強いが弱い」かや「得か損か」だけでなく、「それは正か不正か」ということも重要な行動基準であった。このように戦国時代は、私たち現代人が一般にイメージしているものとは大きく異なっている。

では、こうした、戦国時代の「構造」（＝戦国時代全般にわたって継続した、社会の「骨組み」）を深く理解するには、どうしたらよいのだろうか？。そのひとつの方法は、この時代を代表する人物の生涯を追ってみる、ということである。そこで本講義では、一般にはあまり注目されていないが、戦国時代の「構造」を考えるうえで欠かせない何人かの者たちを取りあげ、その生涯を概観していく。そしてそのうえで、こういった戦国時代の「構造」を知ることが、令和の時代に生きる現在の私たちにとっていかなる「意味」があるのか、ということについて考えていく。

【到達目標】

歴史学の実在意義を認識するとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ（史料）の正しい取りあつかい方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができる。さらに、歴史学研究の「社会的使命」をきちんと理解したうえで、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方などを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

2部構成とし、講義形式で進める。すなわち、第1回で戦国時代の全体像を確認したうえで、第2～6回において、戦国時代前期・中期に活躍した人物を取りあげる。次いで第8～12回において、戦国時代中期・後期に活躍した人物を取りあげていく予定である。なお、その際には、国際政治学や社会心理学の知見を取りいれながら解説し、受講生たちと議論していく。

また、毎回、講義の最後にその日の講義内容を確認する「小テスト」を実施する（6問程度。4問以上正解で合格）。なお、講義では配布プリントを使って解説していく。出席カードやリアクションペーパーに記入された疑問点については、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦国時代とはいかなる時代か。	戦国時代とは「戦争の時代」だったのか？。ここでは、戦国時代の三つの側面——「力」と「利益」と「価値」の側面を説明し、「現在の国際社会との類似点は何か」といった問題を考える。
第2回	足利義政——「家臣団が主君をコントロールする」とは。	なぜ義政は応仁の乱を防げなかったのか？。ここでは、主君と家臣たちとの関係がいかなるものであり、主君が指導力を発揮しうるのはどのような場合であったのか、といったことを考えていく。
第3回	日野富子——御台所は「単なる将軍正妻」にあらず。	なぜ御台所・富子は政治面で活躍しえたのか？。ここでは、中世後期社会における「妻」、とくに「後家」の地位に注目し、現代とは異なるその大きな権能を説明していく。
第4回	足利義植——「大名たちが求めていた将軍」とはいかなるものか。	なぜ義植は「明応の政変」で廃位となったのか？。ここでは、義植がなぜ諸大名から好まれなかったのか、大名たちにとっていかなる将軍が適切だったのか、といったことを考える。

第5回	戦国の人びと——なぜ「喧嘩両成敗」だったのか。	なぜ「喧嘩両成敗」という考え方が戦国時代に広まったのか？。ここでは「復讐は美德」という思想や「集団本位」の考え方を説明することで、この謎についてのひとつの答えを示していく。
第6回	ザビエル——なぜ「キリスト教は禁止になった」のか。	なぜ日本ではキリスト教が禁止になるのか？。ここでは、宣教師たちが日本人から受けた「誤解」をどう解消しようとしたのか、という問題を考えることで、禁止理由を検討していく予定である。
第7回	（特別講義）考えるための「型」とは何か。	ここでは「歴史学の柱とは何か？」「考える「型」とはいかなるものか？」「自分なりに問題を発見するにはどうすべきか？」「歴史修正主義にはどう立ち向かうべきか？」といった問題を考える。
第8回	本願寺証如（前編）——「相手と信頼しあう」にはどうすべきか。	戦争を防ぐにはどうすべきか？。ここでは「相手の意図がわからない」状況に、大名たちがどう対応していたのかを、大坂本願寺と諸大名との外交交渉から読み解いていく予定である。
第9回	本願寺証如（後編）——「相手の暴走を止める」方法とは何か。	「警察」も「司法機関」もない戦国期の大名間関係において、相手の「裏切り」や「暴走」はどう抑止されていたのか？。ここでも、大坂本願寺と諸大名との外交交渉からこの問題を考える。
第10回	足利義輝——将軍はいかにして「大名間の和平調停」を進めたのか。	なぜ将軍は戦国大名たちから和平調停を依頼されたのか？。ここでは「権威」と「権力」を定義したうえで、大名たちにとって将軍が「戦争を回避するための知恵」のひとつであったことを考える。
第11回	足利義昭——なぜ「信長包囲網」はうまくいかなかったのか。	台頭する織田信長に対し、ミドルパワーの大名たちは互いに連携して対抗しようとした。しかし、うまくいかなかった。一体、どうしてだろうか？。ここでは、「協力のむずかしさ」を考えていく。
第12回	戦国時代の天皇たち——なぜ「生き残った」のか。	なぜ天皇・朝廷は滅亡しなかったのか？。ここでは、中世英仏の「ロイヤル・タッチ」などを参照しながら、歴代の武家政権が天皇をどのように「利用」していたのかを考えていく予定である。
第13回	歴史学の目的は「過去を知るだけ」なのか。	戦国時代を知って未来を予測したり、教訓を得たりすることができるのか？。歴史学の「歴史」とは「過去」ということなのか？。ここでは、歴史学の実在意義を考え、また、なぜ歴史学を学ぶうえで「現在を知る」ことが重要なのかを説明していく。
第14回	試験	論述問題（1～2問）を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリント、ノートを見直して復習する。また、毎日、必ず新聞を読むこと。歴史学は「過去を知り、過去を使って現在（現代）をより深く知る」ことを目的のひとつとしている。したがって「現在に無関心」というのでは、歴史学を学ぶことはできない。現在に関心をもつためには、毎日、新聞を読むことが最適である。それゆえ、受講生には新聞を読むことを求める（全国紙ならどれでもよい。なお、読み方は授業時に指示する）。

本授業のために、準備学習・復習時間は、合計2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下の二冊は必読文献である。必ず一読しておくこと。

- ①山田康弘『足利将軍たちの戦国乱世』（中公新書、2023年）。
- ②なだいなだ『権威と権力』（岩波新書、1974年）。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数50％、小テスト20％、レポート20％、平常点10％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席の場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていく。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

毎回講義の最後に、その日の講義内容を確認する「小テスト」を実施する（6問程度。4問以上正解で合格）。また、必読文献、および毎日の新聞は必ず読むこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

This course introduces “What kind of era was the Sengoku period?”, and “Historical research methods” to students taking this course.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The goals of this course are to know and understand what History is and how we study it.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Mini exams: 20%、Short reports : 20%、
in class contribution: 10%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講 I

大島 誠二

授業コード：A3162 | 曜日・時限：月2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、①漢字の成立過程、②皇帝陵の成立過程という二つのテーマを通して、秦漢帝国の統治構造を考察する。①では、中国古代社会において文字がさまざまな役割を果たしながらどのように発展してきたのかを紹介する。②では、皇帝陵の形態に着目し、その造営が当時の社会にどのような影響を及ぼしたのかを考える。

文字と皇帝陵を手がかりとして、帝国支配体制の一端を明らかにすることを目的とする。

【到達目標】

- ①古代社会での漢字の字体の変遷と社会における役割を理解する。
- ②皇帝陵の様相と皇帝陵の造営が与えた影響を理解する。
- ③文献史料と考古学資料を用いた分析手法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に、パワーポイントを用いながら講義形式で進める。受講生には、資料プリントを配布する。リアクションペーパー、課題、質問などに対するフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国的世界の広がり	中国的世界の特徴とその領域を考える
第2回	漢字文化の発展①	甲骨文字の出現とその特徴
第3回	漢字文化の発展②	青銅器銘文の役割と変化
第4回	漢字文化の発展③	春秋戦国時代の字体の多様化
第5回	漢字文化の発展④	秦帝国の出現による文字の統一
第6回	漢字文化の発展⑤	秦漢帝国の行政文書
第7回	漢字文化の発展⑥	印綬の役割と使用方法
第8回	漢字文化の発展⑦	印綬と冊封体制
第9回	皇帝陵の系譜①	春秋戦国時代の各国の王陵
第10回	皇帝陵の系譜②	戦国秦の王陵の様相
第11回	皇帝陵の系譜③	始皇帝陵の出現
第12回	皇帝陵の系譜④	漢代の皇帝陵
第13回	皇帝陵の系譜⑤	厚葬と薄葬、曹操高陵の様相
第14回	まとめと試験	秋期の振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する参考書には、興味のある部分だけでも良いので目を通してもらいたい。授業で取り上げるのは、今の中国世界が成立する過程の最初の部分である。現代の中国に関する情報にも、関心を示してほしい。

考古学資料を扱うので、履修者には博物館や美術館に足を運び、中国の文物に親しんでもらいたい。東京では、上野の東京国立博物館東洋館、鶯谷の台東区立書道博物館、表参道の根津美術館、有楽町の出光美術館などがおすすめである。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

平勢隆郎『中国の歴史2 都市国家から中華へ 殷周 春秋戦国』講談社学術文庫2020（原本刊行は2005）

鶴間和幸『中国の歴史3 ファーストエンペラーの遺産 秦漢帝国』講談社学術文庫 2020（原本刊行は2004）

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の提出物 30% 期末試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料などを用いて、わかりやすい授業を心がけたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course examines the structure of governance in the Qin and Han Empires through two themes: (1) the process by which Chinese characters were formed, and (2) the development of imperial mausoleums.

The first theme introduces how writing evolved in ancient Chinese society while fulfilling a variety of roles.

The second focuses on the forms of imperial mausoleums and considers how their construction influenced society at the time.

Using written language and imperial mausoleums as points of reference, the course aims to elucidate one aspect of the imperial system of rule.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

① To understand the historical changes in the forms of Chinese characters in ancient society and the roles they played within that society.

② To understand the characteristics of imperial mausoleums and the impact that their construction had on society.

③ To learn analytical methods using both textual (literary) sources and archaeological materials.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend four hours before and after each class meeting to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report 30%, and Exam 70%.

HIS200BE（史学 / History 200）		
東洋史特講Ⅱ		
山元 貴尚		
授業コード：A3163 曜日・時限：水2/Wed.2 秋学期授業/Fall・2単位 配当年次：2～4年		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本講義では中国古代史を対象とし、近年陸続と発掘・公表された多岐にわたる出土史料や考古学的発掘の成果を用いて、中国古代の政治や社会を学習します。特に、中国古代の統一王朝である秦および漢の時代に関する最新の研究状況やその方法論について、定説やこれまでの研究手法を紹介しつつ、比較しながら学習してゆきます。		
【到達目標】 考古学資料の扱いや出土文字史料を読む力を身に付け、新しい認識を持つことができます。 歴史学的手法を用いて多角的な視点を身に付け、課題に対して自ら思考し、考えを文章として表現する力を身に付けることができます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 PowerPointを用いた講義形式で進めてゆきます。 先史時代から殷王朝・周王朝の甲骨文字や青銅器に記された金文を概観しつつ、秦・漢時代の木簡・竹簡を中心とする簡牘史料に触れ、中国における統一王朝の諸相を多角的な視点から理解してゆきます。 課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 古代とは何か？	授業の具体的な進め方を説明し、歴史学の時代区分と古代とはどのような時代かを学習する。
第2回	中国考古学と発掘された史料の扱い方	中国古代の歴史を学ぶ上で利用するために必要な考古学的資料や発見された文字史料の取り扱い方について学習する。
第3回	夏王朝から殷王朝へ	先史時代から歴史時代への転換点とみられる二里頭遺跡から、夏王朝の存在や中国初期王朝について考える。
第4回	甲骨文字からみる殷王朝の政治と社会	殷王朝で発明された漢字の起源ともいえる甲骨文字から、殷王朝の神権政治や社会状況を考える。
第5回	出土文字史料からみる周王朝の統治	青銅器に刻印された銘文や後世の簡牘史料に記された周王朝の歴史や統治について考える。
第6回	簡牘史料にみえる中国古代の統治体制	新たに出土した木簡・竹簡の記述内容から、中国の中央政府や地方行政を考える。
第7回	中国の法治体制の確立と律令	新たに出土した木簡・竹簡に記された中国の律令条文から、法律に基づく統治体制の確立について考える。
第8回	簡牘史料にみえる裁判記録	新たに出土した木簡・竹簡にみえる中国の裁判記録から、当時の司法について考える。
第9回	中国における身分制度	新たに出土した木簡・竹簡に散見する人々の地位や爵位から中国の身分制度の基盤ともいえる身分制度について考える。
第10回	中国王朝による人の支配	新たに出土した木簡・竹簡にみえる戸籍関連史料より、王朝がいかにして人々を管理したか考える。
第11回	中国の税制	中国の統一王朝が人々から徴収する税について考える。
第12回	中国王朝の国防体制	中国統一王朝である秦・漢王朝と北方遊牧民族の興亡について、いかにして統治領域を防衛したか、中国の西北地域で発見された簡牘史料を用いて考える。
第13回	中国統一王朝と周辺民族との関係	簡牘史料にみえる周辺民族との関係性や、中国王朝へ帰順を申告した周辺民族をどのように対処したか考える。
第14回	中国古代における人々の生活	出土資料に散見する中国古代の社会状況からそこで生活人々について考える。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 多くの学生はインターネットに記載がなく、AIが解答できない最新の研究に触れることはほとんどないと思います。そのため、事前に配布される授業資料や紹介する参考書籍を読んで講義に臨んでほしいと思います。また、学習した内容を自らフィードバックすることも重要です。これら事前学習と事後フィードバックを合わせておおよそ4時間程度の学習時間を設けるとよいでしょう。		
【テキスト（教科書）】 特に教科書は使用しません。 毎回の講義で資料を配布いたします。		
【参考書】 各テーマごとに随時紹介しますが、飯島武次著『中国考古学のてびき』（同成社、2015年7月）、松丸道雄著『甲骨文の話』（大修館書店、2017年7月）、中国出土資料学会編『地下からの贈り物―新出土資料が語るいにしへの中国―』（東方書店、2014年6月）、大庭脩著『木簡学入門』（志学社、2020年11月）等を読んでおくことが望ましい。		
【成績評価の方法と基準】 毎回講義内容から設問を提示しますので、自らの考えを200字以上で提出し、あわせて期末レポートを課します。前者は50％、後者は50％として評価します。		
【学生の意見等からの気づき】 初めて触れる内容が多いと思いますので、できる限りわかりやすく説明します。		
【その他の重要事項】 質問については講義の前後で受け付けますが、学習支援システムを通じてメール等でも受け付けます。		
【Outline (in English)】 【Course outline】 This course examines the political and social structures of ancient China by drawing upon a wide range of excavated historical materials and archaeological findings that have been unearthed and published in recent years. Particular attention will be given to the Qin and Han dynasties, the major unified empires of ancient China, with a focus on the latest research trends and methodological approaches in the field. 【Learning Objectives】 Students will acquire the ability to handle archaeological materials and to read excavated written sources, enabling them to gain new insights. They will also develop a multifaceted perspective through historical methods, and cultivate the ability to think independently about academic issues and to express their ideas in written form. 【Learning activities outside of classroom】 Most students have few opportunities to engage with the latest research that is not yet available on the internet and cannot be answered by AI. Therefore, you are expected to read the course materials distributed in advance and the recommended references before attending each lecture. It is also important to review and reflect on what you have learned on your own. In total, it is advisable to allocate approximately four hours for this combination of preparatory study and post-class review. 【Grading Criteria /Policy】 For each class session, a question based on the lecture content will be provided, and students are required to submit their own response in at least 200 Japanese characters. In addition, a final report will be assigned at the end of the course. The former will account for 50% of the grade, and the latter for the remaining 50%.		

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金2/Fri.2
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展の側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。

丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70%

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

中国経済の動向に合わせて、授業計画を一部変更する可能性がある（授業内で通知）。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern Chinese economy. The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講IV

塩沢 裕仁

授業コード：A3165 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第2回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第3回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第4回	後漢三国・北朝の都城	許昌と鄴都
第5回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第6回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第7回	仏教文化1	西域・敦煌・麦積山石窟
第8回	仏教文化2	雲崗・龍門石窟
第9回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第10回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第11回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第12回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第13回	白磁	定窯と景德鎮窯
第14回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）には目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100％。

授業内で重点的な課題を提示します。試験では、それらを踏まえて自らの考えを示せるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、博物館のほか百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講 I

内田 康太

授業コード：A3168 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「元首政ローマの誕生とアウグストゥス」を取り上げる。帝政の創始者とも評されるアウグストゥスの生涯を時系列に沿って分析することにより、共和政終焉期から元首政初期に至るローマの歴史の概要を学習するとともに、彼が目指した新しい統治機構の姿とその実態を探究する。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- ・共和政終焉期から元首政初期に至るローマの歴史について基礎的知識を習得する。
- ・一次資料の扱い方を習得し、アウグストゥスが元首政の誕生に対して果たした役割について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は主として講義形式で行うが、受講生による史料分析・ディスカッションの時間も用意する。また、授業時間内に質疑応答の機会を設けるとともに、終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	古代ローマ史のなかのアウグストゥス
第2回	生い立ち	内乱の一世紀という時代
第3回	政界への進出	オクタウィアヌスの経歴と養父カエサル
第4回	カエサル暗殺と内乱の行方（1）	後継者争いと第2回三頭政治の形成
第5回	カエサル暗殺と内乱の行方（2）	第2回三頭政治の崩壊とオクタウィアヌスの勝利
第6回	アウグストゥスの誕生	内乱の終焉と共和政体の復活
第7回	アウグストゥスの時代（1）	権威（アウクトリタス）と権力（ポテスタス）
第8回	アウグストゥスの時代（2）	政治家アウグストゥス
第9回	アウグストゥスの時代（3）	軍人アウグストゥス
第10回	アウグストゥスの時代（4）	建築事業と文化活動
第11回	継承と持続	アウグストゥスの家系と後継者問題
第12回	人物と評価（1）	アウグストゥスは帝政ローマの創始者であったか？
第13回	人物と評価（2）	アウグストゥスは共和政ローマの再建者であったか？
第14回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

バーバラ・レヴィック『アウグストゥス：虚像と実像』（マクリン富佐訳）、法政大学出版局、2020年。
 ロナルド・サイム『ローマ革命—共和政の崩壊とアウグストゥスの新体制』（逸身喜一郎ほか訳）上・下、岩波書店、2013年。
 長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

一次資料（日本語訳）を読み解く技術を身につけられるように、講義に史料分析を組み合わせる授業形式を継続する。また、リアクションペーパーを通じた質疑応答を積極的に利用し、受講生の関心にも沿ったかたちで授業を進める。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the birth of the Principate and Augustus' role in it. Analyzing chronologically the life of Augustus, the founder of the monarchic government, it helps students learn the outline of this period and explore the new system he schemed and its reality.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of Rome from the late Republic to the Principate.

- Using primary sources properly, students are able to estimate the role of Augustus played in the birth of the Principate.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅱ

伊丹 聡一郎

授業コード：A3169 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、9-16世紀にかけてのルーシ地域と周辺諸地域との相互関係について概観した上で、そこから現在のロシア国家へと繋がるモスクワ政治権力が分かれ出てきた歴史の経緯について論じる。

【到達目標】

1. 「ルーシ」から「ロシア」へと至る歴史的経緯を包括的に理解できる。
2. 北欧、ビザンツ、モンゴルがルーシの歴史に与えた影響を理解できる。
3. 14世紀ルーシにおける政治秩序の再編とその歴史的意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は講義形式で実施する。授業で配布したプリントをその都度見返し、さらに参考文献を読むことで、授業内容についての理解を定着させること。なお、毎回リアクションペーパーを配布・回収し、翌週の講義冒頭でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的と概要、授業の進め方について
第2回	ロシア中世史概論	歴史学研究において「ルーシ」はどのように見られてきたのか
第3回	ヴァイキングとルーシ①	ヴァイキングの登場と東方進出について
第4回	ヴァイキングとルーシ②	キエフ大公国の成立と発展にヴァイキングが果たした役割について
第5回	ビザンツとルーシ①	ビザンツ帝国を中心とする東方正教世界の特徴について
第6回	ビザンツとルーシ②	ルーシのキリスト教化にビザンツ帝国が果たした役割について
第7回	モンゴルとルーシ①	モンゴル帝国によるルーシ支配の展開について
第8回	モンゴルとルーシ②	モスクワ大公国の台頭とその後の対モンゴル関係について
第9回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編①	14世紀以前のノヴゴロド共和国による河川網を通じた北方地域進出について
第10回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編②	ヴォルガの河川賊ウシクイニクの活動について
第11回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編③	全ルーシ府主教座の政治的役割及び修道院運動の展開について
第12回	14世紀ルーシにおける政治秩序の再編④	ベルミの宣教師ステファンの活動について
第13回	「ルーシ」から「ロシア」へ	15世紀以降のモスクワによる河川網を通じたシベリア進出について
第14回	試験・まとめと解説	本講義の総括及び授業内レポート試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：事前に参考書の関連箇所を読み、授業内容の背景を理解しておく。
 復習：配布資料を用いて授業内容を振り返る。
 本授業の準備学習・復習時間は1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

【参考書】

田中陽児・倉持俊一・和田春樹共編『世界歴史体系 ロシア史1：9～17世紀』山川出版社、1995年。
 宮野裕『世界史リテラシー 「ロシア」はいかにして生まれたのか：タタールのくびき』NHK出版、2023年。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）
 リアクションペーパーを用いた平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture will provide an overview of the interrelationships between the Rus' and the surrounding areas from the 9th to the 16th centuries, and then discuss the historical process through which Muscovite political power emerged from the Rus', eventually leading to the present Russian state.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand medieval Russian history, understand the influence of neighboring powers on the Rus', and understand the restructuring of the political system in 14th century Rus' and its historical significance.

(Learning activities outside of classroom)

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts and reading the bibliography.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 80%, in class contribution: 20%

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅳ

皆川 卓

授業コード：A3171 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世から近代までの歴史を通してヨーロッパの「国家的アイデンティティ」(national identity) を学びます。最初に近代の「ナショナリズム」の構造を紹介し、近代人の中にも無限に多様な「ナショナリズム」があること、しかしそれにも拘わらず何らかの歴史的事情によって一定の地域毎に統合されていることを確認します。そののちそれぞれタイプの異なるフランス、ブリテン（イギリス）およびドイツ（旧神聖ローマ帝国）の状況を概観し、何がそれぞれをまとめるのかを学びます。

【到達目標】

「ナショナリズム」が近代主権国家の諸条件のもとで成立すること、その方向性が各国の近世の歴史的発展に依拠することを学ぶとともに、そこで創られたさまざまなコンセプトが、どのようなメカニズムのもとで国への感情的執着に発展するのかを、それぞれタイプの違う近世史を抱えるヨーロッパ三か国の例から理解し、歴史的観点から合理的・客観的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「国家的アイデンティティ」(national identity) とは何か	受講者が日々触れる現代生活における文化と情念の関係を分析しながら、社会秩序や社会的価値への愛情が成立・発展する心的条件を論じます。
第2回	ナショナリズムの光と影	ナショナリズムの出发点となる情念が社会価値化するメカニズムを解析し、ナショナリズムの多義性と多様性を各国近世・近代史の特徴的な出来事から明らかにします。
第3回	近代以前に国民主義は存在するか（1）	ナショナリズム現象とされる活動を歴史の諸例から取り上げ、ゲルナー、ホブズボーム、アンダーソン、スミスなど近年の諸説に照らしながら、その類型を提示します。
第4回	近代以前に国民主義は存在するか（2）	前近代史の中に、近代になって初めてナショナリズムの神話形成に用いられるトピックが多数あることを確認します。
第5回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（1）	現代ヨーロッパにおける遺伝子ビッグデータの成果などから、「民族」が文化的集団であることを確認し、その基準であるエスニシティとは何かを、機能的な側面から分析します。
第6回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（2）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第7回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（1）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第8回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「王国」のフランス（2）	君主の血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながら、普遍的な性格を持つ新しいエスニシティを発見する過程を分析します。

第9回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（1）	「議会の中の王」「幸いなる島国」「反カトリシズム」「商業国家」など多様なエスニック要素を組み合わせて小国を束ね、大国化したブリテン（イギリスの）例を紹介しします。
第10回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「帝国」のブリテン（2）	ブリテンに束ねられたスコットランド、アイルランドなどの小国の視点とそれらのリアクション形成、そしてそこから生じる垂直的・水平的なアイデンティティの多元性を論じます。
第11回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（1）	統一的な主権国家とは異なり、新旧の要素が同居する多層的な秩序を生み出した神聖ローマ帝国の特徴と、それをサポートするものとして生み出された「ドイツ」の観念の起こりを紹介しします。
第12回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（2）	神聖ローマ帝国の国家連合化によるアイデンティティの空白を埋める目的で「ドイツ」が文化的共同体に発展する過程を論じます。
第13回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試みー「民族」のドイツ（3）	「ドイツ」アイデンティティが他国との関係に対する優越的価値「民族」となり、秩序も個人もそれに支配されていく過程を分析します。
第14回	総合評価とまとめー「愛国」のカルテ	近世ヨーロッパ各国の国家的アイデンティティを構成する要素とその組み合わせのタイプを振り返り、それらとの比較から歴史的な「愛国」とは何かを、「少数民族」の観点も展望しながら相対化し、批判的にまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】

E. ホブズボーム／T. レンジャー『創られた伝統』紀伊国屋書店 1992
E. ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店 2000
B. アンダーソン『想像の共同体』NTT出版 1997
A.D. スミス『ネイションとエスニシティー歴史社会的考察』名古屋大学出版会 1999
F. ブローデル『フランスのアイデンティティ』（第1篇・第2編）論創社 2015
H. トーマス『中世の「ドイツ」ーカール大帝からルターまで』創文社 2005
松本彰・立石博高『国民国家と帝国』山川出版社 2005
谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社 1999
指昭博編『王はいかに受け入れられたかー政治文化のイギリス史』刀水書房 2008
岩井淳・指昭博編『イギリス史の新潮流ー修正主義の近世史』彩流社 2000
その他教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

・評価は平常点（30%）、単元毎の小テスト（20%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ナショナリズムを含む国家的アイデンティティの歴史の変遷を知識として正確に把握できているか【第1評価プロセス：単元毎の小テスト20%に照応】、各時代の国家的アイデンティティを歴史学の方法に従って経験科学的・論理的に分析し、説明できるか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

・欠席者がついて行けなくなる事態を防ぐため、最初に15～20分程度、前回の内容の復習時間を取ることになります。
・小テストの回答はある程度時間を取っていますが（2週間程度）、事情により遅れても提出できるようにします（ただしやむを得ない事情以外、期日を守っている受講生の公平性を考慮し、一定の減点をします）。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

This course will explore European national identity through history from the Middle Ages to the modern era. First, we will introduce the structure of modern nationalism, and confirm that there are infinitely diverse nationalities among modern people, but that they are nonetheless integrated into certain regions due to certain historical circumstances. We will then provide an overview of the different types of nationalism in France, Britain (England), and Germany (the former Holy Roman Empire), and learn what unites them. (Learning activities outside of classroom)

- ・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and have a general understanding of the content (1 hour each time).
 - ・ Before class, look up any new terms or names you only vaguely know using reference books or the internet, and take notes on the handout (1 hour each time).
 - ・ After class, research any points you didn't understand during the lesson or ask the teacher questions (1 hour each time).
 - ・ Take notes on the points you thought about while listening to the class to prepare for writing the final report (1 hour each time).
- (Grading Criteria /Policy)
- ・ Evaluation will be based on a combination of regular class participation (30%), quizzes for each unit (20%), and the final report (50%).
 - ・ The criteria are whether students can accurately grasp, as knowledge, the historical changes in national identity including nationalism [Evaluation Process 1: Corresponding to unit quizzes 20%], and whether they can analyze and explain the national identity of each era in an empirical and logical manner according to historical methodology [Evaluation Process 2: Corresponding to the final report 50%].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅴ

皆川 卓

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパにおける社会的流動性（social mobility：地位、身分、職業や職場、信仰、居住地などの変更）が、人や人の集団同士の生活やアイデンティティ、仕組みに与えた影響かについて、近年の研究成果を紹介します。受講者はそこから、社会的流動性が歴史の発展に深くかかわっていることを学ぶとともに、さまざまな成長期の社会に生きる人々が、いかにして社会に前向きに関われるかを省察します。

【到達目標】

近世ヨーロッパの人々は、現代から見れば経済成長率が極端に低い中であっても、自ら身分や地位、職業や活動地域の変更を求め、異なる環境の衝撃に耐えて自らを活かす可能性を拓くばかりでなく、自分の求めた自己を実現する社会的枠組みをも形成していった。この近世ヨーロッパ「社会」の動的側面の実相と、それが近代の形成に果たした役割を多角的に学び、社会的流動性が持つ可能性を客観的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会的流動性とは何か（1）	社会的流動性（社会移動）は人間生活の活力を左右する基礎的条件ですが、それが分析の対象となることは多くありません。身近な生活を例に、社会的流動性とは何かを簡単に紹介します。
第2回	社会的流動性とは何か（2）	社会的流動性を歴史的に見ると、どのようなことが分かってくるかを、高校までの既習知識の中にある事例から指摘し、それが過去の社会の分析に有効であることを論じます。
第3回	中近世ヨーロッパの「社会」編成（1）	中世ヨーロッパの厳格な身分が、権力者に強制された制度ではなく、むしろ職業教育の未発達やコミュニケーションの未熟な中、人々自身から作られたものであることを論じます。
第4回	中近世ヨーロッパの「社会」編成（2）	中世後期に徐々に活発化する社会的流動性が、人々の認識の変化を促し、それが社会の集団意識に逆反射して、仕組みや制度をも徐々に変えていく実態を紹介します。
第5回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（1）	近世ヨーロッパの人々に自分の生活環境を変えるチャンスとなった様々な場の中で、キリスト教の教会組織と信仰によるネットワークが大きな影響を及ぼしたことを論じます。
第6回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（2）	教会組織や信仰のネットワークにおける社会的流動性が、次第に既存の組織の持つバイアスを変化させ、教会の改革や信仰の自由に導いていく展開を説明します。
第7回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（1）	近世の厳格な身分の壁を超える場の一つに、権力者が宮廷と軍隊がありました。そのうち宮廷に注目し、どのような人材がそれを利用して流動性の波に乗れたのかを詳しく論じます。

第8回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（2）	前回到続いて軍隊に注目し、そこでどのような能力が評価されたのか、またそこにはどのような限界があり、結果として軍隊の流動性はどのようなものになったのかを分析します。 第9回対面/face to face社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（1）近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。 第10回対面/face to face社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（2）都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。 第11回対面/face to face社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（1）近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。 第12回対面/face to face社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（2）近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。 第13回対面/face to face社会的流動性の変質と「社会」の誕生近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み（ハビトゥス）や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。 第14回対面/face to face総合評価とまとめ近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。
第9回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（1）	近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。
第10回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（2）	都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。
第11回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（1）	近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。
第12回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（2）	近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。
第13回	社会的流動性の変質と「社会」の誕生	近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み（ハビトゥス）や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。
第14回	総合評価とまとめ	近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
- ・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。（レジュメがテキストの機能を担います）

【参考書】

清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』講談社 2021
成瀬治『近代ヨーロッパへの道』講談社 2011
高澤紀恵／G・カレ『「身分」を交差させる－日本とフランスの近世』東京大学出版会 2023
J. ヴェルジェ（野口洋二訳）『ヨーロッパ中世末期の学識者』創文社 2005
L・ストーン（佐田玄治訳）『エリートの攻防－イギリス教育革命史』お茶の水書房 1985
角山栄他『生活の世界歴史(10)産業革命と民衆』河出書房新社 1992
Ch・ハルツィヒ他（大井由紀訳）『移民の歴史』筑摩書房 2023

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は平常点（30%）、単元毎の小テスト（20%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
- ・ヨーロッパ近世史の中に展開される社会的流動性の概要を理解することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト20%に照応】、そこから歴史のマクロ的な動きを読み取り、受講者の活きる現代社会と比較・相対化することで、歴史を客観的に論じるための俯瞰的な視点をどれだけ達成しているか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】をみます。

【学生の意見等からの気づき】

- ・様々な研究対象を持つ受講生の理解のために、現代社会や他の時代・地域との比較を交えながら論じます。
- ・受講生が欠席のため授業内容について行けなくなる事態を抑制するため、授業の最初に15～20分の復習を行います。そのため進度は多少変動します。
- ・学生が小テストやレポートにAIを使用するようになったため、成果物がそのまま学生の理解を反映しなくなっています。AI使用を前提とし、成果物をリアクションペーパーなどと照合し、学生の思考の足跡をも平常点に反映します。また自ら問いを立てる能力を計測できるよう、小テストや期末レポートの内容を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

This course will introduce recent research findings on the impact of social mobility (changes in status, status, occupation, workplace, faith, place of residence, etc.) in early modern Europe on the lives, identities, and structures of individuals and groups of people. Participants will learn how social mobility is deeply connected to historical development and reflect on how people living in societies of various growth periods can positively interact with society.

(Learning activities outside of classroom)

- ・ Be sure to read the handouts distributed in advance before class and have a general understanding of the content (1 hour each time).
- ・ Before class, look up any new terms or names you only vaguely know using reference books or the internet, and take notes on the handout (1 hour each time).
- ・ After class, research any points you didn't understand during the lesson or ask the teacher questions (1 hour each time).
- ・ Take notes on the points you thought about while listening to the class to prepare for writing the final report (1 hour each time).

(Grading Criteria /Policy)

- ・ The evaluation is based on a combination of normal scores (30%), quizzes for each unit (20%), and year-end reports (50%).
- ・ You will be able to understand the outline of social mobility that unfolds in early modern European history, and you will be able to understand how much you have achieved a bird's-eye view to objectively discuss history by reading the macro movements of history from there and comparing and relativizing it with the modern society in which the students are alive [2nd evaluation process: corresponding to 50% of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講VI

鰐淵 秀一

授業コード：A3173 | 曜日・時限：木2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの植民地時代を大西洋史という枠組みの下で概観する。合衆国の成立以前、ヨーロッパやアフリカとの関係の中でアメリカ世界が形成されていく過程を検討する。近年、この時代のアメリカ像は、従来の一国的な枠組みから解放され、大西洋史および大陸史という新しい空間的アプローチの登場によって大きな変化を遂げている。最新の研究動向によりながら、新たな初期アメリカ史像を提示する。

【到達目標】

- ・ナショナル・ヒストリーの枠組みを脱却して、近世世界の広がりの中でアメリカ史の経験を捉え直せるようになる
- ・白人男性のみを主体とした歴史ではなく、女性、先住民、黒人奴隷、非英語話者といったさまざまな主体の経験を理解できるようになる
- ・現代アメリカの社会を理解するために、歴史的知識を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週の授業後にリアクションペーパーを提出する。また、数週に一度、まとまった時間をもって史料の読解を行なってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論 1	イントロダクション
第2回	総論 2	初期アメリカ史像の再構築
第3回	～16世紀 1	旧世界と新世界
第4回	～16世紀 2	イングランドの帝国と植民
第5回	17世紀 1	プランテーション植民地の形成
第6回	17世紀 2	ピューリタンと大西洋世界
第7回	17世紀 3	毛皮交易の世界
第8回	中間試験	記述試験と解説
第9回	18世紀 1	イギリス帝国の誕生
第10回	18世紀 2	大西洋奴隷貿易と奴隷制の世界
第11回	18世紀 3	消費革命とイギリス化
第12回	18世紀 4	啓蒙と大覚醒
第13回	18世紀 5	帝国とフロンティア
第14回	期末試験	記述試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

遠藤泰生編『史料で読むアメリカ文化史 1 植民地時代』東京大学出版会、2005年

『フランクリン自伝』岩波文庫、1957年

遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2023年

和田光弘『植民地から建国へ 19世紀初頭まで』（シリーズアメリカ合衆国史①）岩波書店、2019年

アラン・テイラー、橋川健竜訳『先住民vs.帝国 興亡のアメリカ史』ミネルヴァ書房、2020年

バーナード・ベイリン、和田光弘・森丈夫訳『アトランティック・ヒストリー』名古屋大学出版会、2007年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 20%

中間試験 40%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

この授業ではPCやスマホを机の上に出す必要はありません。

【Outline (in English)】

This course provides an overview of the colonial period of American history through the lens of Atlantic history, examining how the American world took shape in relation to Europe and Africa prior to the founding of the United States. Recent scholarship on this period has been fundamentally transformed, breaking free from conventional national historiography through innovative spatial frameworks — Atlantic and continental histories. Engaging with current historiographical trends, the course offers a fresh interpretation of early American history.

Learning Objectives

- ・ Students will be able to reexamine early American history within the context of the early modern world
- ・ Students will be able to understand the experiences of diverse actors — including women, Indigenous peoples, enslaved Africans, and non-English speakers — rather than focusing solely on white men as historical subjects.
- ・ Students will be able to apply historical knowledge to understand contemporary American society.

Grading Criteria/Policy

- ・ Weekly Reaction Papers 20%
- ・ Mid-term Exam 40%
- ・ Final Exam 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅶ

鰐淵 秀一

授業コード：A3174 | 曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は、アメリカ革命（独立革命）を大西洋革命論という枠組みから検討する。春学期に扱った植民地時代のアメリカと同様、アメリカ革命史研究においても、大西洋史やグローバル史といった新たなアプローチの興隆によって既存のイメージとは異なる歴史像が描かれつつある。帝
国史や大西洋史といった広域的視点から新しいアメリカ革命史像を提示する。

【到達目標】

- ・大西洋革命論の枠組みの中にアメリカ革命を位置づけられるようになる
- ・白人男性エリートを主体とした革命史ではなく、女性、先住民、黒人奴隷、非英語話者といったさまざまな主体の革命における経験を理解できるように
- ・現代アメリカの社会を理解するために、歴史的知識を活用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週の授業後にリアクションペーパーを提出する。また、数週に一度、まとまった時間をもって史料の読解を行なってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総論 1	イントロダクション
第2回	総論 2	アメリカ革命史研究の現在
第3回	革命の背景 1	七年戦争と北米大陸の再編
第4回	革命の背景 2	イギリス帝国の統治改革
第5回	帝国の危機 1	自治と抵抗の論理
第6回	帝国の危機 2	連合帝国論から独立論へ
第7回	革命の思想	自然権思想と共和主義
第8回	中間試験	記述試験と解説
第9回	独立戦争 1	帝国の内戦
第10回	独立戦争 2	国際戦争としての独立戦争
第11回	革命の帰結 1	憲法制定と共和国の建設
第12回	革命の帰結 2	アメリカ革命と奴隷制
第13回	革命の帰結 3	大西洋革命
第14回	期末試験	記述試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

斎藤眞・五十嵐武士編訳『アメリカ革命』（アメリカ古典文庫16）研究社、1978年
ジェイ、ハミルトン、マディソン『ザ・フェデラリスト』岩波書店、1995年
上村剛『アメリカ革命』中央公論新社、2024年
有賀貞『アメリカ革命』東京大学出版会、1988年
デイヴィッド・アーミテージ、平田雅博ほか訳『独立宣言の世界史』ミネルヴァ書房、2012年
バーバラ・W・タックマン、大社淑子訳『最初の礼砲 アメリカ独立をめぐる世界戦争』ちくま学芸文庫、2020年

Taylor, Alan. American Revolutions: A Continental History (New York, 2016)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 20%

中間試験 40%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

この授業ではPCやスマホを机の上に置く必要はありません。

【Outline (in English)】

The fall semester explores the American Revolution within the framework of Atlantic Revolutions. Scholarship on the American Revolution has been fundamentally transformed by emerging approaches in Atlantic/Continental and global history, generating interpretations that are significantly different from traditional narratives. Drawing on imperial and Atlantic perspectives, the course offers a fresh understanding of the American Revolution.

Learning Objectives

- ・ Students will be able to situate the American Revolution within the context of the Atlantic Revolutions
 - ・ Students will be able to understand the revolutionary experiences of diverse actors — including women, Indigenous peoples, enslaved Africans, and non-English speakers — rather than focusing solely on white men as historical subjects.
 - ・ Students will be able to apply historical knowledge to understand contemporary American society.
- Grading Criteria/Policy
- ・ Weekly Reaction Papers 20%
 - ・ Mid-term Exam 40%
 - ・ Final Exam 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講IX

内藤 一成

授業コード：A3201 | 曜日・時限：木3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日露戦後の日本について、青年のまなざしと活動を通じて歴史的に考察する。具体的には、三島弥彦と石川啄木、立場も経歴もまったく異なる二人の青年の日記をもとに明治41年を体験する。授業を通じて、歴史を教科書や年表に記された事実の羅列ではなく、多面かつ重層的な世界であることが理解できるようにすることをめざす。

【到達目標】

①歴史を単なる過去ではなく、実感を持ったものとして理解する。②史料の多彩な読み方を理解する。③近代日本の歩みを歴史的にとらえ、未来を展望する上での示唆を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	明治41年7月の弥彦と啄木（1）	西洋文化としてのスポーツの受容と定着など
第3回	明治41年7月の弥彦と啄木（2）	近代青年をめぐる友情の世界など
第4回	明治41年8月の弥彦と啄木（1）	避暑と避暑地の世界など
第5回	明治41年8月の弥彦と啄木（2）	都市生活の諸相など
第6回	明治41年9月の弥彦と啄木（1）	スポーツをめぐる国際交流など
第7回	明治41年9月の弥彦と啄木（2）	地方出身者の上京生活など
第8回	明治41年10月の弥彦と啄木（1）	米国艦隊の来日とその反響など
第9回	明治41年10月の弥彦と啄木（2）	明治の文学者の生活など
第10回	明治41年11月の弥彦と啄木（1）	陸上競技の国際化への道のりなど
第11回	明治41年11月の弥彦と啄木（2）	園遊会と社交をめぐる世界など
第12回	明治41年11月の弥彦と啄木（1）	明治の大学生生活など
第13回	明治41年12月の弥彦と啄木（2）	明治青年の日常など
第14回	まとめ	総括と質疑応答 講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史料等には必ず目を通しておく。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特には用いない。

【参考書】

『三島弥彦一伝記と史料』（芙蓉書房出版）、ドナルド・キーン『石川啄木』（新潮社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能なIT機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
 ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
 ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, I will consider Japan after the Russo-Japanese War. Specifically, we will focus on Yahiko Mishima(1886-1954) and Takuboku Ishikawa(1886-1912), analyze their 1908 diaries, and compare them. Through this lecture, I aim to be able to understand history as a multifaceted and multi-layered one.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講 X

森田 貴子

授業コード：A3202 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本経済史について、研究史上、重要な課題とされてきた問題を軸に理解を深める。

【到達目標】

本講義は、日本経済を歴史的にとらえ、研究史上、重要な課題とされてきた問題について、理解を深めることを目標とする。日本の近現代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

近現代の日本経済について、経済と社会の関連に注目しながら、時系列的に講義を進める。

毎回、リアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーへのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業について。近代日本経済史について。現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。
第2回	日本資本主義論争	「日本資本主義論争」について、論争の過程で提出された論点について考える。
第3回	華族資本	華族が日本の工業化・資本主義化に対して果たした役割について考える。
第4回	松方財政	激しいデフレを招いた松方財政について、その意義と社会との関連について考える。
第5回	日清戦争と戦後経営	1 日清戦争と財政について考える。
第6回	日清戦争と戦後経営	2 日清戦争と戦後経営の特徴と内閣・政党との関連を考える。
第7回	日露戦争と戦後経営	1 日露戦争と国際情勢について考える。
第8回	日露戦争と戦後経営	2 日露戦争と日露戦後経営の特徴について考える。
第9回	第一次世界大戦と戦後恐慌	第一次世界大戦時の経済状況と、戦後恐慌について考える。
第10回	金融恐慌	金融恐慌の実状と日本銀行の役割、財閥の形成について考える。
第11回	昭和恐慌	昭和恐慌の実状と政府・軍部・財閥の関連について考える。
第12回	占領期の日本経済	1 第二次世界大戦後の占領期の経済政策について考える。
第13回	占領期の日本経済	2 第二次世界大戦後の占領下の経済政策について考える。(財閥解体、等)
第14回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースの経済面を、積極的に読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。
資料レジュメを配布する。

【参考書】

教場で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と、学期末の試験1回（60％）による。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業を予定していますが、事情によりオンライン（リアルタイム）での実施へ変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できるパソコン。

【その他の重要事項】

評価には、3分の2以上（9回以上）のリアクションペーパー（小レポート）の提出と、学期末試験を受けることを必須とする。

【Outline (in English)】

This course aims for students to study modern Japanese economic history, focusing on issues that have been regarded as important issues in research history. The goals of this course are to understand from multiple perspectives such as the role of Aristocratic Capital in Japan's Industrialization, the formation of Zaibatsu, Economic policy after World War II, etc. Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports: 40%.

HIS300BE（史学 / History 300）

日本古代史科学Ⅱb

武井 紀子

授業コード：A3205 | 曜日・時限：水4/Wed.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本古代史で扱う史料のうち、木簡・漆紙文書・墨書土器などの出土文字資料を取り上げて、その史料的特質や扱い方、研究の視角などについて学びます。

【到達目標】

出土文字資料は、古代社会の実像を今に伝える貴重な資料です。一点一点の史料から導き出せる事柄は少ないですが、そこに書かれた文字情報だけではなく、大きさや形状の特徴、出土した遺跡や遺構の性格、文献資料との比較など、様々な側面から検討することで、より豊かな情報を私たちにもたらししてくれます。本講義では、出土文字資料に対する考え方を学び、文字資料から情報を引き出し古代史研究に活かす手法を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。必要に応じて、講義内容の理解度を問う小課題やリアクションペーパーの提出を求めます。また、実際に出土文字資料を読む練習を行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー古代史の史料についてー	授業の目標と進め方の説明、一次史料と二次史料、出土文字資料と古代史研究
第2回	木簡(1)	木簡の資料的特徴、宮都木簡と地方木簡
第3回	木簡(2)	文書木簡を読む
第4回	木簡(3)	荷札・付札木簡を読む
第5回	木簡(4)	帳簿木簡を読む
第6回	木簡(5)	その他の木簡
第7回	漆紙文書(1)	漆紙文書の資料的特徴
第8回	漆紙文書(2)	漆紙文書を読む
第9回	墨書土器(1)	墨書土器の資料的特徴
第10回	墨書土器(2)	墨書土器を読む
第11回	遺跡と出土文字資料(1)	具体的な遺跡を取り上げ、そこから出土した文字資料から遺跡の性格を探索
第12回	遺跡と出土文字資料(2)	具体的な遺跡を取り上げ、そこから出土した文字資料から遺跡の性格を探索
第13回	出土文字資料の広がり	列島の南北と出土文字資料、東アジアの文字資料
第14回	まとめ	講義のまとめとレポート課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱う内容は、高校教科書程度の知識を前提とします。講義内容をよりよく理解するために、日本古代史に関する概説書などに目を通して置いてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に担当教員が作成した資料を配付します。

【参考書】

木簡学会編『木簡から古代がみえる』（岩波書店、2010年）
 渡辺晃宏『平城京と木簡の世紀』（講談社、2001年）
 平川南・沖森卓也・榮原永遠男・山中章編『文字と古代日本』1～5（吉川弘文館、2004～2006年）
 鐘江宏之『日本史リブレット15 地下から出土した文字』（山川出版社、2007年）
 吉村武彦・吉川真司・川尻秋生編『シリーズ古代史をひらく 文字とことば』（岩波書店、2020年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業への積極的な貢献度（20%）、および小課題レポート（30%）、期末レポート（50%）によって行います。
 小課題レポートは授業の進捗に合わせて、2～3回出す予定です。

【学生の意見等からの気づき】

講義のみにならないように、資料の解説やディスカッションなども取り入れていきます。

【Outline (in English)】

This course will examine excavated written materials— such as wooden tablets, lacquered paper documents, and ink-inscribed pottery — used in the study of ancient Japanese history. We will explore their characteristics as historical sources, methods for handling them, and perspectives for research.

To better understand the lectures, please review introductory texts on ancient Japanese history beforehand. Standard preparation and review time for this course is approximately 2 hours each.

Grades will be determined based on active participation in class (20%), short assignment reports (30%), and the final report (50%).

Short assignment reports will be assigned two to three times throughout the course as the material progresses.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋考古・美術史

塩沢 裕仁

授業コード：A3209 | 曜日・時限：木3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
 近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	中国考古学の現状
第2回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物1	仰韶文化と彩陶
第3回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物2	竜山文化と灰陶、黒陶
第4回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚・陶寺・石峁遺跡
第5回	中国王朝の曙	二里头遺址と出土遺物
第6回	殷王朝の文化1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第7回	殷王朝の文化2	殷墟の甲骨と青銅器
第8回	周王朝の文化1	周原の遺跡と出土遺物
第9回	周王朝の文化2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第10回	春秋戦国の文化1	曾公乙墓と出土遺物
第11回	春秋戦国の文化2	曲阜孔廟と関連遺産
第12回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第13回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第14回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

授業内で重点的な課題を提示します。試験では、それらを踏まえて自らの考えを示せるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、博物館のほか百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講VII

久野 美樹

授業コード：A3217 | 曜日・時限：木1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド、中央アジア、中国の美術史を学びます。

【到達目標】

アジアの物質文化、思想を理解し、さらに日本文化とアジアの文化の関係を知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回配布するレジュメ（授業の要約）を基にスライドを見ながら学んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	美術史学について 仏教、仏教美術の基本	美術史学とはどのような学問かを学ぶ 上座部仏教と大乘仏教、その美術
第2回	B.C.3.-A.D.2c.の北西インド	仏像出現以前、以後の北西インド
第3回	大乘の仏像の誕生	A.D.1c.に仏像が誕生し、大乘仏教が興起して造られた仏像をみる
第4回	インドの石窟寺院	インドを代表する石窟寺院アジャンタ石窟、エローラ石窟を学ぶ
第5回	中央アジアの美術	西域北道クチャの美術、西域南道ホータンの美術
第6回	敦煌莫高窟初期窟	現存A.D.5c.-6c. 背半の敦煌莫高窟初期窟の造形と信仰を学ぶ
第7回	漢民族様式と北方民族様式	魏晋南北朝絵画にみる漢民族様式と北方民族様式
第8回	北魏の漢化と雲岡石窟	北魏の祭天儀礼の漢化と雲岡石窟概説
第9回	龍門石窟北魏窟	北魏龍門石窟の代表：古陽洞と皇帝勅願窟の賓陽中洞
第10回	唐代龍門石窟奉先寺洞像	日本奈良東大寺大仏像の思想的淵源である龍門奉先寺洞像の造形と思想的背景を学ぶ
第11回	敦煌莫高窟A.D. 6 c. 前半西魏時代窟第285、249窟	莫高窟第285窟の造形に西方（インド・中央アジア）様式、漢民族様式を学ぶと共に、そこで修行していた僧たちの信仰を考える
第12回	唐時代敦煌莫高窟の大画面形式の壁画	日本の仏教信仰にも大きな影響を与えた観音信仰、阿彌陀信仰を敦煌の壁画に学ぶ
第13回	密教と曼荼羅	大乘仏教が進み生み出された密教と曼荼羅を学ぶ
第14回	期末試験	配布するプリントにある5枚の図について解説していただく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書に挙げた『世界美術大全集 東洋編』小学館を中心に読むことで、授業後4時間以上復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『世界美術大全集 東洋編』全18巻各国・時代別有 小学館 1997 - 2001、
 『中国の美術』昭和堂 2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局 2016、
 『増補新訂 カラー版東洋美術史』美術出版社 2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術 2012、『中国石窟 キジル石窟』全3巻 平凡社 1983 - 1985、『中国石窟 敦煌莫高窟』1巻 - 3巻 平凡社 1980 - 1981、高田修『アジャンタ』平凡社 1971、久野美樹『中国の仏教美術』東信堂 1999、
 『日本美術全集3 東大寺・正倉院と興福寺』小学館 2013

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、小テスト30%。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業終了後に質問を受け付けます。どのようなことでも遠慮なく質問してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)/This course introduces Art History of India, Central Asia and China to students taking this course.

(Learning Objectives)By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding Asian Material Culture, Asian Thought and the Relationship between Japanese and Asian Culture.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:70%, Short reports:30%.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講VIII

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島の預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生による課題の作成・提出で構成されます。課題は毎回の授業内容に関する論述です。提出された課題については次の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第2回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第3回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第4回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第5回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第6回	統一の崩壊と再生	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第7回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第8回	ウマイヤ朝の限界	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第9回	ウマイヤ朝の衰退、アッバース朝の誕生	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第10回	アッバース朝カリフ権力の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第11回	革命をもう一度	アミーンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第12回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第13回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出した課題を再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次のキーワードについて調べることが予習になります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書

小杉泰,『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）, 講談社, 2016年。
菊地達也編著,『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年。

・工具書

大塚和夫ほか編,『岩波イスラーム辞典』, 岩波書店, 2002年。
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出の課題（50％）、期末レポート（50％）

課題については毎回素点をつけ、その累積を成績評価の50％に換算します。期末レポートについては、レポート作成要領を5月中に配布するので、それに基づいて計画的にレポート作成に取り組んでください。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価します。レポートの点数を成績評価の50％に換算します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDF ファイルを閲覧できるPC やスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講IX

篠原 琢

授業コード：A3219 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2025年は第二次世界大戦終結の80周年を迎えた年だった。しかし周年記念行事や記念出版の数は少なく、行われたとしても比較的小さな規模でしかなかった。第二次大戦を直接経験し、記憶を継承できる人々がこの世をさつつあるからばかりではない。ロシアのウクライナ侵攻やガザ戦争によって、第二次世界大戦後に成立した国際秩序の基礎が根本的に脅かされ、第二次世界大戦の終結を現代世界の出発点と考える歴史像が揺るがされているからでもある。

第二次世界大戦は計画的組織的な大量殺戮、大量破壊によって終末論的破局をもたらした。戦後秩序は（少なくともヨーロッパ半島、東アジアでは）、こうした破局を繰り返さないという前提の下に構築された。冷戦体制は「核戦争の恐怖」によって支えられていたばかりではない。二次大戦の経験が根本に置かれたのである。冷戦体制は第二次世界大戦の勝者の歴史像を規範的な語りとしていたが、1980年代以降、第二次世界大戦を過去に葬るために、さまざまなトラウマ的過去が想起され議論されるようになった。

中央ヨーロッパではナチの人種的社会的改造、ソ連の社会主義的実験、複雑な内戦状況の連鎖のなかで、破壊と暴力の急進化が進み、「歴史の断絶」といえるほどの破局がもたらされた。冷戦の終結前後から、中央ヨーロッパ社会はこの破局に社会的に向き合うことを求められたのであった。授業では第二次世界大戦の記憶をめぐる1980年代以降今日にいたる激しい議論を検討し、第二次大戦を「過去に葬る」努力とは何だったのか、歴史と記憶をめぐる議論が中央ヨーロッパ社会の未来の構想にどのように結びついていたのかを考える。戦争の影が濃くなる今日、第二次世界大戦の記憶を改めて見直し、歴史を現代社会の課題に結びつけて考えることが授業の目標である。

【到達目標】

中央ヨーロッパにおける第二次世界大戦を歴史的に理解するのに必要な知識を身につける。
過去と現在の対話を観察することで歴史のなかに未来像を考えることができる。
社会における「集合的記憶」の機能を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	1. イントロダクション	集合的記憶をめぐる和解と紛争について解説する。
講義	2. 中央ヨーロッパにおけるユダヤ人／ユダヤ教徒の略史	中央ヨーロッパで大きな存在感をもったユダヤ教徒／ユダヤ人の社会の歴史を略述する。
講義	3. 「植民地戦争」としてのナチ・ドイツの東欧支配	ナチ・ドイツの東欧占領政策を植民地的略奪の観点から考える。
講義	4. 絶滅政策の展開と東欧社会	ユダヤ人絶滅政策（ホロコースト）の焦点となった東欧社会の占領政策について講義する。

講義	5. 戦後の「記憶」	戦争経験者の「個人的記憶」のあり方を考える。
講義	6. ドイツ歴史家論争（1986／87年）何が問題だったのか。	ドイツ歴史家論争の論点とその意義を明らかにする。
講義	7. 東西ドイツの統合とナチズム・絶滅政策の過去	「歴史家論争」が統一ドイツにどのように引き継がれたのか検討する。
講義	8. 「多方向的な記憶」 移民国家としてのドイツにおける絶滅政策の記憶	「移民国家」となったドイツにおいてナチズム、ホロコーストの記憶をどのように継承すべきかの議論を跡づける。
講義	9. 「哀れなポーランド人がゲッソーを見つめている」（1987）	冷戦末期に論じられるようになったポーランドにおけるユダヤ人と絶滅政策の記憶の問題を考える。
講義	10. イェドヴァブネ論争から『夜は続く』まで	ポーランド社会に大きな波紋を呼んだ、絶滅政策に対する「ポーランド人の関与」について考える。
講義	11. 東部境界地域（Kresy）・西部「回復領」をめぐる	第二次世界大戦後、ポーランドからソ連に割譲された東部地域、ドイツからポーランドに移管された西部「回復領」をめぐる歴史の語りを検討する。
講義	12. チェコスロヴァキア異論派におけるドイツ人追放問題論	チェコスロヴァキアからのドイツ系住民の追放問題について、異論派（社会主義体制に抗議する人々）の批判的言論を検討する。
講義	13. スロヴァキア独立国の評価	ナチ・ドイツの後見の下に独立したスロヴァキア独立国家の評価をめぐる議論を考える。
講義	14. 「歴史家論争2.0」とまとめ	1980年代の「歴史家論争」を参照しながら戦わされた現代ドイツのホロコーストの記憶をめぐる議論を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する文献で予習・復習してください。本授業の標準的な準備・復習時間は100分程度です。The standard time for the preparation and the review of each lecture is about 100 min.

【テキスト（教科書）】
授業内で指示します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメントシート全部で50%、期末のレポートで50%で評価します。
Comment sheets: 50% and Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
The year 2025 marked the 80th anniversary of the end of World War II. However, commemorative events and publications were few in number, and those that did occur were relatively small in scale. This is not solely because those who directly experienced World War II and could pass on their memories are gradually passing away. It is also because Russia's invasion of Ukraine and the Gaza War have fundamentally threatened the foundations of the international order established after World War II, shaking the historical narrative that views the end of World War II as the starting point of the contemporary world.

World War II brought about an apocalyptic catastrophe through planned, systematic mass murder and mass destruction. The postwar order (at least in the European peninsula and East Asia) was built on the premise of preventing such a catastrophe from recurring. The Cold War system was not sustained solely by the “fear of nuclear war.” The experience of World War II was placed at its very foundation. While the Cold War system adopted the victors’ historical narrative as its normative discourse, from the 1980s onward, various traumatic pasts began to be recalled and debated in an effort to bury World War II into the past.

In Central Europe, amid Nazi racial social engineering, the Soviet socialist experiment, and a chain of complex civil wars, destruction and violence radicalized, bringing about a catastrophe that could be called a “rupture in history.” From around the end of the Cold War, Central European societies were compelled to confront this catastrophe socially. This course examines the intense debates surrounding the memory of World War II from the 1980s to the present. It explores what the effort to “bury the war in the past” entailed and how discussions about history and memory were linked to visions for the future of Central European societies. As the shadow of war grows darker today, the course aims to reexamine the memory of World War II and connect history to the challenges of contemporary society.

Learning activities outside of classroom: The standard time for the preparation and the review of each lecture is about 100 min.

Grading criteria: Comment sheets: 50% and Final report: 50%

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

地球科学概論 I

穴倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：「地球科学概論 I」の受講者は原則として秋学期授業/Fallの「地球科学概論 II」も連続して受講し、1年を通じて受講すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や津波の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震のメカニズムなど、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。
毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また挑戦課題として授業内容に応じた課題を設定するので、提出することで加点される。
提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第2回	宇宙の中の地球	地球のでき方、太陽系の惑星との比較、宇宙の中での地球の位置について説明する。
第3回	地球の構造	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第4回	地球に働く力	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第5回	プレートテクトニクス1	プレートテクトニクス理論の誕生の背景、メカニズムと諸現象について説明する。
第6回	プレートテクトニクス2	日本におけるプレートテクトニクス理論の受容と拒絶、付加体地質学の誕生について説明する。
第7回	地球誕生からの歴史	地球誕生46億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第8回	地震の基礎1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第9回	地震の基礎2	地震のメカニズム、地震活動、活断層などを説明する。
第10回	地震の基礎3	地震の予測と観測、国が公表する地震の情報などに関する説明を行う。
第11回	グループワーク（地震）	地震予測をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとにスライドにまとめる。
第12回	津波1	津波発生のおしくみ、警報・注意報発令のおしくみ、津波の高さの定義などについて説明する。

第13回	津波2	過去の津波災害や津波堆積物について説明する。
第14回	グループワーク（津波）	津波災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとにスライドにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のおしくみと生命進化の46億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>
穴倉正展「巨大地震をはり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
全14回（予定）の授業のうち2/3以上の出席およびレポート提出をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは積極的に参加する者とそうでない者の差があり、前者の負担が大きくなるという意見があった。そこでなるべく少人数でそれぞれの顔が見える形にすることや、ディスカッションテーマもなるべく広く関心が持てる内容を設定することを目指している。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に学習支援システムを用いたアンケートを行ったり、グループワーク時にはGoogleスライドで作業をしたりするので、ノートPCやタブレット端末、スマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は80名程度とし、第1回の授業において80名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、可否は第2回授業までに教員より連絡する。
また地球科学概論 I の受講者は原則として秋学期の地球科学概論 II も連続して受講し、1年を通じて受講すること。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関や自治体等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]

The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and tsunamis and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

[Learning Objective]

The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend and submit a report more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

地球科学概論 II

宍倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：この授業は原則として春学期授業/Springの「地球科学概論 I」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地殻変動や火山活動とそれが生み出す資源、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みをもたらしている。本講義では地球科学概論 I において学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また挑戦課題として授業内容に応じた課題を設定するので、提出することで加点される。提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として14回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地殻の様々な動き 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は観測でわかる緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。
第2回	地殻の様々な動き 2	地形や生物に記録された過去の地殻変動を紹介する。
第3回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズム、噴火予測などについて説明する。
第4回	火山 2	破滅的巨大大噴火や火山災害に関する説明を行う。
第5回	地球の資源と活用	地球上で得られる資源の種類とその成因、活用について説明する。
第6回	大気と海洋	大気と海洋の構造、表層や深層の循環などについて説明する。
第7回	気候変動 1	10万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第8回	気候変動 2	急激な気候変動の歴史と現在の地球温暖化について考える。
第9回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとにスライドにまとめる。
第10回	侵食と堆積 1（山・斜面）	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動とそれに伴う災害について説明。
第11回	侵食と堆積 2（河川）	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。
第12回	侵食と堆積 3（海岸・海底）	地球表層で生じる外的作用として海岸・海底の侵食・堆積について説明。

第13回	グループワーク（気象災害）	気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとにスライドにまとめる。
第14回	地球科学と防災教育	地球科学の防災教育上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害、資源などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店
<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房
<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90％）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10％）。
全14回（予定）の授業のうち2/3以上の出席とレポート提出をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に学習支援システムを用いたアンケートを行ったり、グループワーク時にはGoogle スライドで作業をしたりするので、ノートPCやタブレット端末、スマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論 I を受講した者以外は受講を認めない。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関や自治体等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Phenomena occurring in the atmosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Crustal deformation, volcanic activity and related resources, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.

[Learning Objective]

The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to collect information on recent topics related to volcanic eruptions, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).

Only those who attend and submit a report more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

自然環境論

福與 直人

授業コード：A3417 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模および地域的な環境変動に焦点を当て、自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とします。過去の環境変動から現代の環境問題までを縛らずに抽出し、持続可能な未来に向けた課題を考察します。これにより、現代社会における環境問題を多角的に理解する能力を養います。

【到達目標】

過去の地球環境変動についての基礎知識を理解できる。
現代の環境問題とその背景を説明できる。
持続可能な社会に向けた課題について論述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、毎回スライドを投影します。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法を説明する。
2	地球環境の基礎1	現在の地球環境がどのように成り立っているのかを概説する。
3	地球環境の基礎2	現在の地球環境がどのように維持されているのかを概説する。
4	地球環境の基礎3	現在の地球環境がどのように維持されているのか、主に炭素に着目して概説する
5	過去の環境をどう確かめるか	過去の地球環境をどのように復元するのか学ぶ。
6	繰り返す寒冷期と温暖期: "長時間"スケールの地球環境変動	比較的安定的な地球環境も「長時間」スケールでは変動してきたことを学ぶ。
7	気候が急に変わるとき: "短時間"スケールの地球環境変動	「短時間」スケールでも地球環境は変動してきたことを学ぶ。
8	環境の変化が社会に関わる時	主に近代以前の環境変動と人類社会との関わりについて学ぶ。
9	社会が環境を変えるとき	主に近代以降の環境変動と人類社会との関わりについて学ぶ。
10	地球温暖化(1)	地球温暖化の実態やメカニズムについて学ぶ。
11	地球温暖化(2)	地球温暖化に対する影響と将来予測について学ぶ。
12	地球温暖化と環境問題	地球温暖化に対する緩和策と適応策、その他の環境問題について学ぶ。
13	人新世とはなにか	「人新世」と呼ばれる時代区分について概観する。
14	最終試験とまとめ	最終試験を行い、授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習し、授業で習った内容に関連することを自ら図書館やインターネットで自分なりに調べて、理解を深める努力が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目に従い、評価を行います。

平常点：10%

毎回のリフレクションペーパーによる評価：40%

期末試験：50%

なお、出席率が2/3に達しない者は評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

リフレクションおよび期末テストに関してはアンケートを踏まえ、実施方法を改善する。
前年度よりも内容を絞り、より基本的な事項から立ち返って説明する。

【学生が準備すべき機器他】

文系系系問わず、また高校時代に地理や地学を履修していない学生も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course focuses on global and regional environmental changes, providing students with foundational knowledge about the natural environment. By examining past environmental changes and modern environmental issues, students will develop a multifaceted understanding of current environmental challenges and explore pathways toward a sustainable future.

Learning Objectives

By the end of this course, students should be able to:

Understand the fundamental knowledge of past global environmental changes.

Explain the background and causes of current environmental problems. Critically analyze and discuss challenges for achieving a sustainable society.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class, students are expected to review the course materials and independently research topics related to the lecture content using library resources or the internet. Students should dedicate at least 2 hours of preparation and review for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be calculated as follows:

Class participation: 10%

Reflection papers: 40%

Final examination: 50%

GEO200BF (地理学 / Geography 200)

世界地誌 (4)

堤 純

授業コード：A3446 | 曜日・時限：火1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「温暖な気候に恵まれ、豊富な農産・鉱物資源に恵まれ、陽気でフレンドリーなオージーの暮らす大らかで豊かな国」という印象の強いオーストラリアだが、1970年代中盤までは、白豪主義を掲げ、アジア系移民を受け付けず、全くの「別人」だった。そのオーストラリアが、日本と「相思相愛」の関係になるまでの道は決して平坦ではなかった。この授業では、自然条件、歴史、文化的背景、経済状況、そして国際社会における役割など多様な視点から地誌学 (地域地理学) 的に、この国の素顔に迫る。

【到達目標】

1. オーストラリアの自然、歴史、文化的な特徴を説明できる。
2. オーストラリア建国時と今日の外交上のスタンスの変化を説明できる。
3. オーストラリアの都市社会が抱える諸問題とその解決策について一例を挙げて説明できる。

1. Students will be able to explain the nature, history, and cultural characteristics of Australia.

2. Students will be able to explain changes in the diplomatic stance of Australia between the time of the beginning and today.

3. Students will be able to explain the urban social problems in Australia by giving some concrete examples.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面による授業を予定していますが、担当教員の都合により3回程度のオンデマンドの回がある見込みです。いまのところ、授業形態としては、ひとまずすべて対面と表記しますが、前述の通り、オンデマンドの回がある見込みです。詳細は、法政大学のルールに従うことにします。どの回が対面で、どの回がオンデマンドになるかは、初回の授業時 (初回は必ず対面) にアナウンスします。リアクションペーパー (500字未満) は毎回書く事を求めます。詳しくは、【成績評価の方法と基準】欄も併せて参照して下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オーストラリアとはどんな国か？	オリエンテーション
2	オーストラリアの自然環境の特殊性 (5500万年の大陸移動と厳しい乾燥)	乾燥が激しいオーストラリアの自然環境は、人が住む大陸の中で最も厳しい一方で、固有の動植物を生み出してきた重要な条件となってきた背景について講義する。
3	多様な気候条件と固有種 (なぜコアラとカンガルーが大繁殖したか)	自然環境と固有種の関係について、前回授業の内容をさらに深掘りする。

4	映画に描かれたオーストラリア社会の表象①-Harsh History of Immigrants-	移民によって作られたオーストラリアにおいても、イングランド系移民とアイルランド系移民の間で厳しい対立があった背景について講義する。
5	映画に描かれたオーストラリア社会の表象②-Stolen Generations-	先住民のアボリジナルな人々と白人との混血児を強制的に親から離し、白人社会の中で育てていた政策について講義する。
6	広大な大地と Dreaming Story -Aboriginal Culture-	文字をもたない文化ゆえに優れた芸術性をもったアボリジナル・アートについて講義する。
7	植民地の成立とオーストラリア政治 - ゴールドラッシュと白豪主義-	白豪主義が成立した背景と、1970年代に白豪主義が撤廃されるに至った経緯について講義する。
8	イギリスとの「決別」とアジア・太平洋地域への接近 -国家アイデンティティの確立-	オーストラリアがなぜアジアの一員になったのかについて、社会・経済条件の観点から講義する。
9	オーストラリアの農業 -もはや「羊の背中にのった国」ではない？ -	降水量とライフスタイルに強く規定されるオーストラリアの農業の特徴について講義する。
10	オーストラリアの都市社会① (鉄鉱山への FIFO「飛行機通勤」で発展するパース)	パースとその周辺地域の特徴について講義する。
11	オーストラリアの都市社会② (グローバル都市・シドニー)	シドニーとその周辺地域の特徴について講義する。
12	オーストラリアの都市社会③ (伝統と最新が調和する都市・メルボルン)	メルボルンとその周辺地域の特徴について講義する。
13	Lovely Aussie Lifestyle (wagyu, バーベキュー, LOHAS な休日, LGBTQ 社会, 観光など)	豊かでゆっくりと時間が流れるオーストラリアの休日の風景について講義する。
14	試験・まとめと解説	試験実施 (LMS にレポートを提出するスタイルを予定)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で使うパワーポイントのスライド (空欄穴埋め式) はおおむね当該授業の前週の授業日までにはLMS上にアップされているので、次週の授業までの間にあらかじめ目を通して、空欄に入る用語を予習した上で当日の授業に臨むとよい (2時間)。パワーポイントの内容と、授業時の教官の口頭説明や板書内容を書き取った自筆ノートとを比較しながら復習する (2時間)。

The PowerPoint slides (filling-blank-space type) to be used in the class are subject to be uploaded on the LMS by the week before the class, so it is recommended that students read through the slides before the next class and try to find the terms that fits blanks before attending the class (2 hours). Review the contents of the PowerPoint slide by comparing your answer with the instructor's oral explanations (2 hours).

【テキスト (教科書)】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

堤 純 編 (2018) 『変貌する現代オーストラリアの都市社会』筑波大学出版会, ISBN 4904074467

竹田いさみ・永野隆行 (2023) 『物語 オーストラリアの歴史 新版 イギリス植民地から多民族国家への200年』中央公論社, ISBN 978-4121027412

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーで50%、期末試験（LMS にレポートを提出するスタイルを予定）にて50%。

50% on the reaction paper assigned in each class, and 50% on the final exam (report will be submitted to the LMS).

【学生の意見等からの気づき】

この授業は2023年度に初めて実施しました。まだアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

LMS上にアップされる資料を閲覧できる端末（PCやタブレット等）。

【その他の重要事項】

毎回の授業で用いる教材（パワーポイント資料、授業動画）は、LMS上で公開します。

担当教官は非常勤講師ゆえ、オフィスアワーはありません。質問・連絡事項がある場合は、メール（jtsu@geoenv.tsukuba.ac.jp）で受け付けますが、その際、必ず「PCのメールアドレス（GmailなどのWebmail可）」から送信して下さい。未着トラブルが多いので、携帯ドメイン（docomo, ezweb, softbank 等）からのメールには返信しません。

【Outline (in English)】

Australia is often recognised as a generous and prosperous nation blessed with a warm climate, abundant agricultural and mineral resources, and cheerful, friendly Aussies. Yet until the mid-1970s, it was a completely different place, implementing White Australia policy and refusing to accept Asian immigrants. The path for Australia to develop a relationship of mutual affection with Japan was by no means smooth. This course will explore the true nature of the country through the lens of regional geography, examining diverse perspectives including natural conditions, history, cultural background, economic circumstances, and its role within the international community.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）		
世界地誌（5）		
吉村 郊子		
授業コード：A3447 曜日・時限：木4/Thu.4 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業では、アフリカについて自然・生態・文化・社会・歴史・現代における諸課題や他地域とのかわりなど、さまざまな観点から学びます。地誌学や地域研究・人類学他の関連諸分野の手法を参照しつつ、アフリカの特色と多様性について理解を深めましょう。そして、アフリカのみならず、さまざまな地域や対象を俯瞰的に捉える視座と思考力を養ってほしいと思います。		
【到達目標】 アフリカの特色と多様性について理解を深めましょう。その過程を通して、地誌学や関連諸分野における理論や手法を学び、それらを活用して検討し理解する力を養ってください。そして、アフリカ以外のさまざまな地域や事象にも目を向けつつ、多様な環境と人間のあり方を俯瞰的に捉え、自らが理解し考察したことを伝えることができるようになります。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 パワーポイントを使用して、講義形式で進めます。授業回によっては映像も活用します。また、授業回あるいはテーマごとに必要な教材資料を配布します。なお、提出物や課題などへのフィードバックについては、その内容やタイミングに応じて、授業の場または学習支援システムを利用する予定です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
第1回	テーマ イントロダクション アフリカのイメージは？	内容 授業の概要と進め方について、説明します。アフリカと聞いて、あなたはどのようなイメージを思い浮かべますか。
第2回	アフリカの概要 1	地形・気候・植生など、アフリカの自然環境を概観し、学びます。また、自然と深くかわり暮らししてきた人びとの映像もみてみましょう。
第3回	熱帯雨林における自然と人のかかわり	湿潤な熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の事例を取りあげます。彼らの暮らしとその変遷について、学びます。
第4回	アフリカの概要 2	人口・言語・文化・歴史など、アフリカにおける人の営みの側面を概観し、学びます。
第5回	乾燥帯・半砂漠における自然と人のかかわり 1	乾燥帯に暮らす狩猟採集民の事例を取りあげます。まずは、彼らの暮らしの概要をみてみましょう。
第6回	乾燥帯・半砂漠における自然と人のかかわり 2	乾燥帯に暮らす狩猟採集民の歴史と変容を、湿潤帯における事例とも比較しながら学びます。
第7回	ドメスティケーションと農耕・牧畜 1. 乾燥サバンナにおける自然と人のかかわり	ドメスティケーションについて学びます。また、乾燥サバンナに暮らす牧畜民の事例を取りあげます。
第8回	ドメスティケーションと農耕・牧畜 2. 湿潤サバンナにおける自然と人のかかわり	湿潤サバンナに暮らす農耕民の事例を取りあげます。また、これまでに見てきたさまざまな事例から、アフリカにおける人びとの暮らしの多様性について理解を深めます。
第9回	植民地としての歴史とその変遷 自然環境の変動や近年の砂漠化	アフリカの植民地としての歴史を概観し、その変遷について学びます。また、補足的なトピックスとして、自然環境の変動について、さらには近年の砂漠化とそれに対する人びとの取り組みについても、みてみましょう。
第10回	人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかわり 1	これまでの授業内容をふまえつつ、本テーマについて三回にわたって学びます。まず、対象地域の歴史を概観してみましょう。
第11回	人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかわり 2	今につながる歴史という観点から、植民地統治時代の出来事が、どのように現代に表象されているかをみてみましょう。
第12回	人びとの暮らしと自然環境・歴史・国家や開発とのかわり 3	独立後の現代国家や開発と人びとの暮らしのかかわりについて、また、それらと歴史のかかわりについて学びます。
第13回	アフリカにおける現代的な課題	これまでの授業内容をふり返りつつ、アフリカにおける現代的な課題にも目を向けてみたいと思います。
第14回	まとめ	まとめの回です。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業の内容をふり返って復習する他に、ご自身の興味・関心や授業テーマに関連したさまざまな書籍・文献資料・映像資料・その他の情報資料などにも目を向けて、視野を広げてください。そして、課題に取り組んでください。本授業の準備学習・復習および課題への取り組み時間は、4時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 『世界地誌シリーズ8 アフリカ』島田周平・上田元編、朝倉書店、2017年（定価3,400円＋税）。 準備学習や復習および課題（発展学習を含む）への取り組みに際して必要な補助教材です。積極的に活用してください。		
【参考書】 授業の内容と進捗状況に応じて適宜、紹介します。		
【成績評価の方法と基準】 期末試験（100%） 教室での筆記試験を予定しています。普段から主体的に準備学習や復習・課題などに取り組むつつ、期末試験に備えてください。		
【学生の意見等からの気づき】 多様な資料を活用して工夫しつつ、できるだけわかりやすい授業の進行を心がけます。		
【学生が準備すべき機器他】 授業外でのおしらせや資料配布などに、学習支援システムを利用することがあります。		
【その他の重要事項】 質問などがある場合は、授業時に声をかけるか、メールでおしらせください。なお、この科目は教室での対面授業を基本としていますが、回によってはオンラインに変更する場合がありますことを、ご了承ください（例えば、初回授業時に受講者全員を収容可能な教室を確保できなかった場合；その他、やむを得ない事情が生じた場合など）。授業形態を変更する場合は事前にお伝えします。 初回到授業の概要と進め方について説明しますので、受講を考えている方はできるだけ出席してください。		
【Outline (in English)】 Course outline: This course introduces Africa from various perspectives such as nature, ecology, culture, society, history, transitions and other issues. Students will learn about the diverse of Africa and acquire methods of some disciplines such as regional geography, area studies, anthropology, and so on. Learning objectives: This course aims for students to understand Africa properly with its characteristics and diversity; to learn methods of regional geography and other related disciplines; and to make use of those methods and knowledges for other various themes. Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course content. Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination (100%)		

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

世界地誌（6）

呉羽 正昭

授業コード：A3448 | 曜日・時限：月5/Mon.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパの性格を形成している、自然環境、文化要素、人口、都市、農村、ツーリズムなどの地域的特徴を理解するとともに、さまざまな空間スケールで具体的な地域事例を把握することを通じて、ヨーロッパの地域性について考えます。

【到達目標】

ヨーロッパとはどのような地域であるのかを理解することを目標とします。同時に、世界の自然環境、それを舞台に展開される人間活動を多角的に探求し、地域を考える総合的な知識と思考力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。予習課題と当該回の理解度を問う課題のまとめに使用するとともに、講義内容に関する質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ヨーロッパとは何か	ヨーロッパとはどのような地域なのかについて解説します
第2回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの自然環境の地域的特徴について解説します
第3回	ヨーロッパの言語と宗教	ヨーロッパの言語と宗教の地域的特徴について解説します
第4回	ヨーロッパの民族と人口	ヨーロッパの民族と人口の地域的特徴について解説します
第5回	ヨーロッパの国家と政治	ヨーロッパの国家と政治の地域的特徴について解説します
第6回	ヨーロッパの農業・農村	ヨーロッパの農業・農村の地域的特徴について解説します
第7回	ヨーロッパの都市	ヨーロッパの都市の地域的特徴について解説します
第8回	ヨーロッパの都市：ウィーン	ウィーンを事例に都市の特徴について解説します
第9回	ヨーロッパのツーリズム	ヨーロッパのツーリズムの地域的特徴について解説します
第10回	ヨーロッパの世界遺産	ヨーロッパの世界遺産の地域的特徴について解説します
第11回	アルプスのツーリズム	アルプスのツーリズムの地域的特徴について解説します
第12回	オーストリアの山岳リゾート（冬季）	オーストリアの山岳リゾートにおける冬季ツーリズムの特徴について解説します
第13回	オーストリアの山岳リゾート（夏季）	オーストリアの山岳リゾートにおける夏季ツーリズムの特徴について解説します
第14回	まとめ：ヨーロッパの地域構造	ヨーロッパがどのような地域なのか、その地域構造をもとに解説します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に既存文献やインターネットなどで自ら調べます。この予習課題の内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

・ジョーダン著、山本正三・石井英也・三木一彦訳（2005）『ヨーロッパ：文化地域の形成と構造』二宮書店
・加賀美雅弘編（2019）『世界地誌シリーズ 11 ヨーロッパ』朝倉書店
・淡野明彦編（2016）『観光先進地ヨーロッパ』古今書院

・浮田典良・加賀美雅弘・藤塚吉浩・呉羽正昭（2015）『オーストリアの風景』ナカニシヤ出版
・呉羽正昭（2017）『スキーリゾートの発展プロセス 日本とオーストリアの比較研究』二宮書店

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験と平常点で評価します。期末試験の評価割合は全体の60%です。リアクションペーパーに記載された毎時間の講義内容の理解度を問う小課題と次回の講義内容に関する予習課題の内容をそれぞれ点数化し、両者を合わせて平常点（評価割合は全体の40%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline (in English)】

Students can study regional characteristics of Europe through understanding regionality of various components (physical environment, religion, language, agriculture, rural village, urban area, tourism, etc.). Students also learn some regional examples on various spatial scales necessary for understanding geography of Europe.

At the end of the course, students are expected to understand the methodology of regional geography and the regional characteristics of Europe.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60% and Short reports: 40%.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

自然地理学特講（2）

宮下 雄次

授業コード：A3452 | 曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学の一分野である水文学を中心とした講義です。
水文学が研究対象とする地下水や湧水、河川水などを調べる様々な調査手法の習得を目的とします。
また、環境問題の1つである地下水や土壌汚染の現状や調査法についても習得します。

【到達目標】

地下水や湧水、河川水などの水文調査を行う際に必要な、水質の分析方法や作図法、地下水面図の作成や流動解析、ボーリング調査や揚水試験の実施方法・解析法など、水文調査における主な調査手法を理解し、習得することが出来ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面で実施します。講義内容に応じて、作図や計算等の作業を行いますので、筆記具が必要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	水文調査法概論	主な水文調査手法の概要と解説
第2回	水試料の採取方法と現地測定	河川水や地下水中の溶存成分（水質）等の特徴や成り立ち、水試料の採取方法
第3回	水質分析と表示方法	水質分析法の紹介、野外調査で得た水質データの解析・作図手法
第4回	河川流量調査	河川流量の計測方法の紹介、計測した河川流量データの解析
第5回	水文調査における測量	各種の測量・測位方法（水準測量・GNSS測位・航空写真測位）の紹介と解析
第6回	地下水面図と地下水の流動	地下水位測定、地下水位データの解析、地下水面図の作成
第7回	水頭分布図と地下水流動系	地下水頭測定法、地下水頭分布図、地下水流動系
第8回	地下水調査におけるボーリング調査	ボーリング調査の概要及び、ボーリング孔を利用した原位置試験法
第9回	地下水調査における土質試験・透水試験	土壌の三相分布と土質試験法、土質の透水係数と透水試験法
第10回	観測井を用いた揚水試験・温度検層	地下水観測井を用いて行う各種試験法の紹介と解析
第11回	ボーリング以外の地質調査方法	地下水調査に用いられる物理探査手法（比抵抗探査・微動探査）の概要と解析方法
第12回	日本の地下水汚染の歴史と現状	日本の地下水汚染と対策、関係法令・条例
第13回	地下水汚染の調査と対策	日本における地下水汚染調査と対策手法の解説と事例紹介

第14回 土壌汚染対策法による調査
土壌汚染対策法による調査手法の解説と事例紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、配布資料に沿って講義を行います。

【参考書】

新版 水環境調査の基礎 鈴木裕一ほか著 古今書院
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験（70%）+平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

本講義の教員は地方自治体（神奈川県）における防災・環境分野の試験研究機関に所属し、長く地下水関係の調査研究を行っています。
また、地方自治体における土壌・地下水汚染や、地下水資源の保全などの行政課題に対し、調査研究の実施や科学的な知見を元にした行政への支援や、審議委員会等におけるアドバイス等を行っています。
これらの実務経験を踏まえ、単なる調査手法・技術の習得ではなく、課題解決型の調査研究課題の立案や、具体的な調査実施に向けた手順など、課題設定から調査を行い、取りまとめるまでの一連の手法の習得を目指します。
なお、授業時以外で教員にコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付けます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire of several hydrological survey methods. It also provides an overview of groundwater and soil contamination.

HUG300BF（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学特講（2）

久保 倫子

授業コード：A3456 | 曜日・時限：火3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人文地理学、特に都市地理学における基礎的な理論を理解し、都市的地域の特性を理解する。

【到達目標】

人文地理学、特に都市地理学における基礎的な理論を理解し、説明できる。都市的地域が抱える課題に関心をもって、都市の特性を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義による。都市的地域が直面する課題について、学生と議論する時間を設ける。また、リアクションペーパーの提出を課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要と地理学の基礎①
2	人文地理学の基礎	地域
3	都市の特性①	都市の定義
4	都市の特性②	都市の立地
5	都市の特性③	都市計画
6	都市の特性④	都市の機能
7	都市化①	都市と交通網の発展
8	都市化②	都市化のライフサイクル理論
9	都市化③	縮退都市論
10	日本の都市化①	明治期～昭和初期
11	日本の都市化②	1960～1980年代
12	日本の都市化③	1990年代以降
13	都市の内部構造	同心円構造モデル～多核心モデル
14	都市システム	階層性、グローバリゼーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献として挙げた書籍や講義資料を読み、予習復習に充てること（各回2時間程度）。都市に出て、講義で取り上げた地域や現象を確認する（全体で10時間程度）。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めないが、講義資料内に参考文献を記載する。

【参考書】

高橋伸夫ほか「新しい都市地理学」東洋書林
 藤井正・神谷浩夫「よくわかる都市地理学」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

試験（80％）、リアクションペーパーや講義への参加態度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

講義資料等はpdfで公開するため、各自で印刷して持参するか、パソコン、タブレットなど閲覧可能な機器を持参すること。

【Outline (in English)】

Students are expected to understand basic concepts in Human and Urban Geography and characteristics of urban areas.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

文化地理学（1）

村田 陽平

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を理解することを目的とする。

【到達目標】

空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、文化地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、文化地理学とジェンダー、セクシュアリティをわかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の全体像の提示
第2回	文化地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第3回	文化地理学とセクシュアリティ(1)	LGBTの空間経験(1)
第4回	文化地理学とセクシュアリティ(2)	LGBTの空間経験(2)
第5回	文化地理学とセクシュアリティ(3)	「女性専用車両」の意味
第6回	文化地理学とポリティクス(1)	政治という場所
第7回	文化地理学とポリティクス(2)	男性・異性愛の空間構造
第8回	文化地理学と広告(1)	自然な風景
第9回	文化地理学と広告(2)	身体と空間
第10回	文化地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第11回	文化地理学と女性	地理学界のジェンダー
第12回	文化地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第13回	文化地理学と現象学(1)	空間の認識論
第14回	文化地理学と現象学(2)	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会、¥3800円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100％）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

文化地理学 (2)

村田 陽平

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学の概要について学ぶ。基本的には、指示するテキストの講読という形で、1980年代以降大きな変貌を遂げた「新しい」文化地理学の内容を知り、その批判的受容につとめることを目的とする。

【到達目標】

新しい文化地理学についての知識を得るとともに、それを基軸にして地球大の人間の生活空間を認識する視点を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

下記に指示するテキストを精読する。担当者が担当部分を読み、それに適宜解説を加えながら、議論していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的の確認
第2回	序章	読解と発表, 議論①
第3回	テキスト第1章	読解と発表, 議論②
第4回	テキスト第2章①	読解と発表, 議論③
第5回	テキスト第2章②	読解と発表, 議論④
第6回	テキスト第3章	読解と発表, 議論⑤
第7回	テキスト第4章①	読解と発表, 議論⑥
第8回	テキスト第4章②	読解と発表, 議論⑦
第9回	テキスト第5章①	読解と発表, 議論⑧
第10回	テキスト第5章②	読解と発表, 議論⑨
第11回	テキスト第6章	読解と発表, 議論⑩
第12回	テキスト第7章①	読解と発表, 議論⑪
第13回	テキスト第7章②	読解と発表, 議論⑫
第14回	テキスト終章	読解と発表, 議論⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。事前の文献読み込みが必須である。それをもとに授業で不明な箇所などを読み解き理解してゆく。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2012）『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』世界思想社

【参考書】

特に指定はしない。

【成績評価の方法と基準】

口頭の発表時の準備状況と問題設定(50%)、授業時の議論の内容(50%)を斟酌して判断・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>文化地理学

<研究テーマ>健康の地理学、感情の地理学、空間の男性学

<主要研究業績>

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会

村田陽平（2012）『受動喫煙の環境学：健康とタバコ社会のゆくえ』世界思想社

【Outline (in English)】

This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography. The aims and goals of this seminar are to comprehend and present and discuss about contents of selected texts. In addition, for students who must write a graduation thesis can get some practical supports. Grading will be decided based on in-class contribution. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

自然地理学特講（4）

近藤 博史

授業コード：A3488 | 曜日・時限：水2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上には未知種を含め、数百万～数千万種の生物が存在すると考えられている。生物は植物の生産（一次生産）や分解、土壌形成、水循環・炭素循環などを通じて環境を変え、逆に気候・地形・土壌・攪乱（洪水、雪崩、火山、台風など）や土地利用の変化が、生物の分布や個体数、群集構造を規定している。生態学は、この「生物と環境」の相互作用を、個体・個体群・群集・生態系といった複数の階層（スケール）で理解する学問である。本授業では、生態学の基礎概念（ニッチ、適応、競争、捕食、攪乱と遷移、多様性、物質循環など）を体系的に学ぶとともに、地理学が重視する空間スケール（地点～流域～地域～地球規模）や地域差の視点を取り入れ、実際の自然環境で起こっている現象の解明、ならびに環境保全・資源管理・気候変動への適応などの課題を考えるための知識と思考力を養う。

【到達目標】

- ・生態学の基本的理論・概念を理解し、説明できる。
- ・多様な地域・スケール（個体～生態系、局所～地球規模）における生態系の仕組みを理解し、整理できる。
- ・世界各地で生じている環境諸問題について、その背景（自然条件・人間活動・地域性）を生態学的・地理学的視点から理解し、考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義期間の前半では、生態学を学ぶ上で重要な考え方や基本理論を解説する。後半では、身近な現象から世界規模の事例までを取り上げ、最新の研究成果も参照しながら生態学的に解説する。各回の授業では資料を配布し、スライドを用いて講義を行う。授業中には必要に応じて学生に意見を求め、ディスカッションを行う。授業後には、リアクションペーパー提出を求める（提出をもって出席とする）。毎回の内容に関連した簡単な課題を出題し、次回授業までに提出してもらう。

生態学にこれまで触れたことがない学生や、数式・専門用語が苦手な学生でも関心を持てるよう、具体例を交えながら授業を進める。自然地理学的・人文地理学的背景にも触れ、それらと生態系との関わりを扱うことで、地理学分野で学んできた知識を活かせる授業とする。

授業に関する質問・相談がある場合は、リアクションペーパー、もしくは毎回の課題に設ける「質問・コメント欄」に記入して提出すること。提出された内容には次回授業までに回答し、返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：生態学って何？（授業の全体像）	生態学は「生き物と環境の関係」を、個体→個体群→群集→生態系→生物圏という階層で考える学問であることを確認する。生態系を成り立たせる要素（生産者・消費者・分解者、非生物環境）と、エネルギーの流れ・物質循環の基本を導入する。地理学とつながる視点（気候・地形・土壌・土地利用が生物分布を左右する）も例で示す。また、授業の進め方を説明する。
第2回	生物多様性とは（何が「多様」なのか）	生物多様性を「生態系の多様性」「種多様性」「遺伝的多様性」の3つに分けて理解する。地域によって種の組み合わせが違う理由（気候、標高、隔離、土地利用）を考える。多様性の測り方（種数、均等度、 $\alpha/\beta/\gamma$ 多様性など）を簡単に扱い、スケールによって見え方が変わることを学ぶ
第3回	地球の生命史（環境変動と生物の関係）	地質時代の枠組みを押さえ、生命の誕生から現在までの大きな流れを概観する。大量絶滅とその後の繁栄が手がかりに、環境の変化が生物に与える影響を理解する。現代の環境問題（温暖化など）が生態系に与える影響を考える土台を作る。
第4回	進化のしくみ（進化とは何か）	突然変異と自然選択を中心に、進化が起こる基本メカニズムを学ぶ。加えて、遺伝的浮動・遺伝子流動など、個体群の遺伝的構成が変わる要因を整理する。性比の決まり方や性選択にも触れ、「環境が違えば形質が変わりうる」ことを具体例で理解する。進化を「個体の変化」ではなく「集団の変化」として捉えられるようにする。
第5回	生活史と繁殖戦略（生き方のトレードオフ）	成長・成熟・繁殖・死亡の配分（生活史）を、資源配分のトレードオフとして理解する。 r/K 戦略や生存曲線を学び、環境の安定性や攪乱との関係を考える。個体数の増減を説明する基本用語（密度、分布、環境収容力 K ）も整理する。生物の「増え方・減り方」を説明できる基礎を固める。
第6回	生き物どうしの関係（競争・捕食・寄生・共生）	競争・捕食・寄生・共生など、生物間相互作用の種類と特徴を学ぶ。ニッチ（すみわけ）の考え方を導入し、共存が成り立つ条件を例で理解する。食物網（だれがだれを食べるか）を通して、エネルギーの流れと生態系機能（生産・分解・循環）を整理する。生物同士の関係が群集全体の構造を作ることを理解する。

第7回	森林の生態学（森はどう変わり、どう保たれるか）	森林の遷移・更新（若い森→成熟した森、ギャップ動態など）を学ぶ。台風・雪害・土砂移動などの自然攪乱と、伐採・植林などの人為攪乱を比較し、森の姿がどう変わるかを考える。森林を「時間と空間の変化」として説明する視点を身につける。近年発表された森林生態学に関する研究論文についても言及する。
第8回	身近な自然の生態学（里地里山を生態学で読む）	水田・ため池・草原・雑木林などを例に、人の管理（草刈り、火入れ等）が生物多様性に与える影響を学ぶ。管理が弱まったときに起こる変化（草原の森林化など）も扱い、遷移とのつながりを理解する。景観のモザイク・パッチという考え方を紹介し、身近な地域を生態学的に観察する視点を作る。日常で見つけた事例を授業内で共有する。
第9回	都市の生態学（都市化が自然をどう変えるか）	都市の空間構造（中心部・郊外・緑地）と、都市化による環境変化（ヒートアイランド、断片化など）を学ぶ。都市で生き残る生物の特徴、外来種が入りやすい理由も扱う。都市の生態系サービス（暑さの緩和、雨水流出の抑制、健康・景観など）を理解し、都市と自然の共生を考える。
第10回	島の生態学（隔離された環境で何が起きるか）	島の生物地理学として、種数が決まる仕組み（移入・定着・絶滅のバランス）を学ぶ。島の面積や隔離度が種数に影響することを理解する。固有種が生まれやすい理由（隔離と進化）や、島が外来種に弱い理由も扱う。島の考え方を、都市の孤立緑地や保護区の「断片化」に応用できることを示す。
第11回	外来種（なぜ広がり、何が問題か）	外来種が導入→定着→拡大する流れと、その背景（輸送、人の移動、土地利用変化）を理解する。在来種への影響（捕食、競争、病気、交雑など）を具体例で整理する。国内外来種にも触れ、「外来＝海外由来だけではない」ことを確認する。対策の基本（早期発見、拡大防止、優先順位付け）を学ぶ外来種に関する研究論文についても言及する。
第12回	海の生態学（海の食物網と物質循環）	海洋空間の構造を理解したうえで、海洋生態系の基盤であるプランクトンの一次生産と、食物連鎖・食物網の特徴を学ぶ。海流・湧昇・水温などの環境が生物分布を左右することを理解する。沿岸と外洋、表層と深海で生物相がどう違うかを概観する。
第13回	生態系の保全（何を守るのか、なぜ守るのか）	生態系サービス（自然がもたらす恵み）を整理し、保全が人間社会とも直結することを学ぶ。レジリエンス（回復力）やレジームシフト（戻れない変化）の考え方を導入し、保全の難しさを理解する。保護区の考え方（代表性、連結性、緩衝域など）を簡単に扱う。地域の自然と社会条件を踏まえた保全の視点を持つ。

第14回	生態系の管理（守るだけでなく、整える）	生態系管理を「目標設定→調査→対策→評価→改善」の循環として理解する（順応的管理）。モニタリング（何を、どこで、どれくらい測るか）の重要性を学ぶ。野生動物管理（個体数調整）、外来種対策、復元など代表的な方法を紹介する。管理は科学だけでなく、地域の合意形成が重要である点も確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、当日の授業テーマに関する内容やキーワードを簡単に調べておくことを推奨する。
日常生活の中にも生態学的事例は数多く存在する。授業内容に関連する現象や事例を見つけた場合は、気づいた点をメモしておく、レポート作成やディスカッションの際に役立つか。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定教科書は使用しない。
授業に必要な資料は毎回配布し、適宜オンラインでも提示する。

【参考書】
参考書は授業中に随時紹介する。入門としては、以下の参考書が有用である。
・日本生態学会（編）『生態学入門』東京化学同人
・デイヴィッド・サダヴァほか（著）『アメリカ版 大学生物学の教科書 第5巻 生態学』ブルーバックス
鷲谷 いづみ（著）『大学1年生の なっとく!生態学』講談社

【成績評価の方法と基準】
成績評価：期末試験（50％）と課題（50％）の合計により評価する。期末試験：期末試験は試験期間中に実施する。資料の持ち込みは原則として認めない。
課題：各回の授業内容に関連した簡単なテーマを出題し、期日までに提出する形式で行う。課題はオンラインで出題する場合と、授業時に課題プリントを配布する場合がある。
平常点・授業参加度（＋α）：授業時の質疑応答や発言、リアクションペーパーの内容等は随時記録し、授業参加度として加点評価する。

【学生の意見等からの気づき】
例年、受講生から質疑応答の時間を増やしてほしいとの要望が多いため、可能な限り講義中および講義後にリアクションペーパーの提出、および質疑応答・ディスカッションの時間を設ける。あわせて、学習内容や課題に関する相談等についても、可能な範囲で個別対応を行う。生態学に関する疑問や関心があれば、基礎的な内容から発展的な内容までできる限り丁寧に対応するので、遠慮なく相談してほしい（ただし、返答までには時間を要する場合もある）。

【学生が準備すべき機器他】
特別な機器は必要ない。もし、必要があれば時間に余裕を持って授業前に指示する。

【その他の重要事項】
授業の理解度を高める目的での生成AIの使用は、原則として制限しません。ただし、生成AIを用いて作成した課題・提出物については、その内容や使い方によって評価が上がる場合も下がる場合もあります（例：授業内容を踏まえた根拠づけや誤りの点検に活用している場合は加点要素になり得る一方、一般論の貼り付け、事実誤認、出典不備、課題条件の不遵守がある場合は減点となり得ます）。使用は各自の責任において行ってください。詳細は授業内で説明します。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Ecology is the study of interactions between organisms and their environment across multiple levels of biological organization — from individuals and populations to communities and ecosystems. Earth is thought to harbor millions to tens of millions of species, including many that remain undescribed. Organisms modify their environment through processes such as primary production, decomposition, soil formation, and the cycling of water and carbon. Conversely, climate, topography, soils, natural disturbances (e.g., floods, avalanches, volcanic activity, typhoons), and changes in land use strongly shape the distribution, abundance, and community structure of organisms.

This course provides a systematic introduction to fundamental ecological concepts (e.g., niche, adaptation, competition, predation, disturbance and succession, biodiversity, and biogeochemical cycles). Drawing on a geographical perspective — especially spatial scale (from local sites to watersheds, regions, and the globe) and regional variation — the course also develops the knowledge and critical thinking skills needed to explain real-world ecological phenomena and to consider solutions to contemporary environmental challenges, including conservation, resource management, and climate-change adaptation.

【Learning Objectives】

This class aims to help students grasp the basics and key concepts of ecology, with the goal of developing the necessary knowledge and analytical skills to explain natural phenomena and address various ecological challenges in real-world environments.

【Grading Criteria /Policy】

The final exam accounts for 50% of the total score, while the remaining 50% is assigned to short report assignments.

Short reports: students are expected to address candid questions presented by the instructor related to the class content. Students are obligated to submit their short reports by the following lecture.

【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to conduct brief research on keywords relevant to the day's class topic in advance. The standard time allocated for preparation and review in this class is two hours.

HUG300BF（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学特講（４）

加藤 幸治

授業コード：A3489 | 曜日・時限：水2/Wed.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：3・4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイスの地域構造に関して、その特徴や現状、そしてその形成要因について、経済地理学的視点から学ぶ。

【到達目標】

- ・スイスの地域構造の特徴について説明できるようになる。
- ・スイスの地域間格差の特徴について説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に教科書にそった形の講義形式で授業を進める。やや一方的な講義に陥りやすいため、授業の主題に関して能動的に取り組もうという積極性がないと、「おもしろくない」授業と感じがちではあろう。主体的取り組みを期待したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・講義の概要	授業概要などの説明とイントロダクション。
第2回	・ヨーロッパとは ヨーロッパと EU	ヨーロッパの定義、三大共通要素 講義。「ヨーロッパは一つ」とされる
第3回	その地域間格差 スイスという国	要因とそれがもたらす課題 講義。スイスの多様性とその歴史的
第4回	スイスの人口地理的特徴	要因 講義。スイスの人口に関してその地
第5回	スイス経済の空間的 秩序 1 農業・移牧	理的特徴をみる 講義。スイスの農業地理学的特徴を
第6回	スイス経済の空間的 秩序 2 製造業の立地とその「棲 み分け」	みる 講義。スイスの工業地理学的特徴を、 日本との比較も交えてみる
第7回	スイス経済の空間的 秩序 3 製造業の立地を特徴付 ける要因	講義。スイスの工業地理学的特徴の 形成要因を探る
第8回	スイス経済の空間的 秩序 4 第三次産業の遍在と偏在	講義。スイスの第三次産業の立地・ 配置の特徴をみる
第9回	スイス経済の空間的 秩序 5 スイスにおける農業と 観光の共生	講義。スイスの第三次産業、とりわ け観光業と農業との関係をみる
第10回	スイス経済の空間的 秩序 6 第三次産業の立地・配置 と地域経済	講義。スイスの第三次産業の立地・ 配置の特徴がもたらす地域経済への 影響をみる
第11回	スイス経済の空間的 秩序 7 地域間格差と国内人口 移動	講義。スイスの地域構造の特徴と国 内人口移動の特徴についてみる
第12回	スイス経済の空間的 秩序 8 地域間格差と人口流入	講義。スイスの地域構造の特徴と国 外からの人口移動の特徴についてみ る
第13回	スイス経済の空間的 秩序 9 チューリッヒ一極集中	講義。チューリッヒへの一極集中の 状況とその地理的インパクトをみる
第14回	スイスの地域構造の特徴	講義。スイス経済の空間的秩序に関 するまとめと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

説明しきれない部分・理解できていない部分について、教科書等で確認する等の復習を行うこと。簡単・概要的な内容ではないので、復習等しないと内容が理解しがたくなりがちな講義である。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

加藤幸治（2018）：『スイスの謎』春風社

教科書の図表等を参照しながら講義を展開するため、教科書がないと内容はほぼ全く理解不能になる。入手法についてはガイダンスにおいて説明する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 80～100 %
- ・小レポートを課すことがある（0～20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度の新規担当者につき、とくになし。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to study the characteristics, current state, and formative factors of Switzerland's regional structure from an economic geography perspective.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to explain the followings.

1. Describe the characteristics of Switzerland's regional structure.
2. Describe the characteristics of regional disparities within Switzerland.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the followings.

Term-end examination: 80-100%、Short reports : 0-20%

GEO300BF（地理学 / Geography 300）

地理学史

杉山 和明

授業コード：A3513 | 曜日・時限：金5/Fri.5
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代地理学の枠組みを踏まえつつ、地理学史への理解を深めることを目的とする。学術誌の読解を通じて、時代と地域を縦横に行き来しながら、さまざまな地理思想を学んでいく。地理学史のなかでこれまで蓄積されてきた学説や知見を、自らの関心と関連づけて考察できるようになることを目指す。

【到達目標】

地理学史・地理思想の大枠を理解し、それらと受講生自身の地理学的な問題関心とのつながりを主体的に探求できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・まず、地理学史の概要を把握する。次に、一般社団法人 人文地理学会が発行する学術誌『人文地理』の「学界展望（「総説」「学史・方法論）」の読解を行い、さまざまな時代と地域のなかで、固有の地理思想が構築されてきた過程を学んでいく。

・優秀な「小レポート」については講義中に紹介し、さまざまな見解・意見を受講者のあいだで共有していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の対象・課題、進め方、評価方法
第2回	地理学史の見取り図（1）	古代・中世の地理思想、近代地理学の成立、現代地理学の体系
第3回	地理学史の見取り図（2）	古代・中世の地理思想、近代地理学の成立、現代地理学の体系
第4回	地理学史の見取り図（3）	日本における地理学の成立と展開
第5回	学史（1）	『人文地理』62巻3号
第6回	学史（2）	『人文地理』63巻3号
第7回	学史（3）	『人文地理』64巻3号
第8回	学史（4）	『人文地理』65巻3号
第9回	学史（5）	『人文地理』66巻3号
第10回	学史（6）	『人文地理』67巻3号
第11回	学史（7）	『人文地理』68巻3号
第12回	学史（8）	『人文地理』69巻3号
第13回	学史（9）	『人文地理』70巻3号
第14回	まとめ	これからの地理学に向けて、重要事項の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。
・提示された資料を事前に読んで内容を十分に理解しておくこと。未知の語句については自主的に調べておくこと。
・「小レポート」の下書きを授業中に手書きで執筆したうえで、講義後2日以内に学習支援システムを用いて提出すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

【参考書】

・人文地理学会編 2013. 『人文地理学事典』丸善出版。
・日本地理学会編 2023. 『地理学事典』丸善出版。
・野間晴雄・香川貴志・土平 博・小原丈明・吉田国光編 2026. 『ジオ・パル NEO 第3版 地理学・地域調査便利帖』海青社。
・ノートン, W., ウォルトン=ロバーツ, M. 著, 山本正三ほか訳 2024. 『文化地理学—環境, 景観, アイデンティティ, 不平等』二宮書店。
・森 正人 2021. 『文化地理学講義—〈地理〉の誕生からポスト人間中心主義へ』新曜社。
・Couper, P. 2014. A Student's Introduction to Geographical Thought. SAGE Publications.
・Cresswell, T. 2013. Geographic Thought: A Critical Introduction. Wiley-Blackwell.
・Holt-Jensen, A. 2018. Geography: History and Concepts. SAGE Publications.

※その他、参考文献・資料は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・毎回提出する「小レポート」を一つにまとめた「最終レポート」（95％）を中心に、「自己紹介レポート」（5％）の内容も踏まえたうえで、総合的に判断する。
・「小レポート」は計9回以上の提出を必須とする。下書きに用いたA4用紙も提出してもらう。
・「最終レポート」は3,000字以上を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のフィードバックから得られた知見をもとに、次回の授業を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布・課題提出のために学習支援システムなどを活用する。
・視認性・一覧性に優れた情報機器（ノートPCなど）を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

講義計画に従って進める予定だが、進行の具合、時事問題への言及などに応じて、順序や同一テーマの回数を変えることがある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the history of geography, while keeping in mind the framework of contemporary geography. Through the reading of academic journals, students will learn about various geographical thoughts as they move vertically and horizontally between different ages and regions. The course aims to enable students to consider the theories and findings accumulated so far in the history of geography in relation to their own interests.

(Learning Objectives)

The aim is to understand the broad outlines of the history of geography and geographical thought, and to be able to actively explore the connections between these and the students' own geographical concerns. (Learning activities outside of classroom)

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・Please read the materials provided in advance and make sure you fully understand the content. If there are any unfamiliar words, please look them up on your own.

・Please write a "short report" (200 characters or more) each time and submit it using the learning support system within 2 days after the lecture.

(Grading Criteria /Policy)

・The final report (95%), which is a compilation of the short reports submitted each time, will be the main factor in the overall assessment, along with the content of the self-introduction report (5%).

・It is compulsory to submit a total of at least 9 short reports.

・The final report must be at least 3,000 characters long.

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

心理学概論

福田 由紀

授業コード：A3601 | 曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより、日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また、法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①心理学の基礎知識が身につく。
- ②心理学的な見方ができる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

＊講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。
＊授業の最後に、その日の内容に関する小テストを Web Class を通じて行います。Web Class に入れるように、【スマートフォンやPCを各自で用意】してください。授業時間内に解説をします。
＊【授業後】に、来週の授業内容に関する宿題を Web Class から回答してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、心理学的な見方	授業の進め方の説明、心理学的な見方とは
第2回	感覚・知覚	知覚の特性、視覚システムの特徴
第3回	行動の形成	遺伝－環境論争、人間の行動の特徴
第4回	学習理論とその応用	古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第5回	記憶とその変容	ワーキングメモリ、記憶の変容
第6回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第7回	思考	問題解決、人の思考のクセ
第8回	自他のこころの理解	自己意識の発達、心の理論
第9回	動機づけ	動機づけの機能と種類、ストレス
第10回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理論的な考え方
第11回	集団の中の個人	集団の圧力、研究の倫理的な問題
第12回	帰属過程	帰属理論、帰属のバイアス
第13回	性格	性格の記述の考え方、性格測定法
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＊オリエンテーションのアジェンダにしたがい、次の授業の該当章を読んで、予習をしてください。

＊次週の授業内容にあわせて以下のような宿題が出ます。期限内に（オリエンテーションで説明します）Web Class から提出して下さい。

- 宿題1 心の在りかについて省察する。
- 宿題2 自分の知能を決定している要因について省察する。
- 宿題3 錯視を体験する。
- 宿題4 自分の日常行動を振り返る。
- 宿題5 目撃者証言の意味について考える。
- 宿題6 文を読む際、自然と行間を理解していることを体験する。
- 宿題7 覆面算を体験する。
- 宿題8 日常のストレス状態を省察する。
- 宿題9 一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
- 宿題10 自分とは何かについて省察する。
- 宿題11 保存課題を体験する。
- 宿題12 質問紙法について省察する。

＊本授業の準備時間・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「心理学要論-こころの世界を探る- 改訂版」福田由紀編 培風館 2022年

【参考書】

適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択でマークシート方式です。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」9割超え、「授業を受けてよかった」も9割超えと回答してくれました。ありがとうございます！主に1年生が受講している授業です。法政大学では100分授業。高校までよりかなり長いですね。そのために、授業を2ないしは3分割して、そこまでのまとめを自分で書いてもらう活動を入れています。その活動に関する自由記述です。「パート分けしてちょいちょいまとめに入るのが理解しやすかったです。」「ある程度内容が進んだら、振り返りやまとめてくださるので、聞き逃したところ理解が甘かったところを減らすことができる」等です。例年、まとめの時間は役立っているというコメントが多いです。まとめを入れることには学習効果がありそうなので、続けていきますね。

【学生が準備すべき機器他】

小テストに回答するために、スマートフォンやPCを各自で用意してください。

【その他の重要事項】

【受講希望者へ】

心理学概論では広い分野を扱います。そのため、1回目の授業から実質的な内容となります。また、オリエンテーションも行います。そのため、【初回から参加】してください。また、毎回異なったテーマを扱いますので、各授業がそれぞれ重要となります。さらに、授業中作業をする機会がありますので、積極的に参加してください。そして、小テストによって自分の学習活動状況をその都度確認しましょう。

【授業内容に関する注意点】

大学の授業では、高校までの授業とは異なり、科目担当者の専門性に反映した内容が取り上げられます。そのため、類似した科目名であっても重点が置かれている内容が異なります。例えば、心理学に関する授業はILAC科目や総合科目、教養ゼミなどがあります。シラバスの内容をよく読んで、履修可能性年次も考慮しつつ、自分の興味にあった科目を選択して下さい。

また、本授業は、様々な分野を抱えている心理学全般に関する入門的な内容になっています。そのため、授業の中で、心理学科に置かれている2年次以降に履修できる基礎科目や専門科目を紹介します。特定の授業回で興味を持った場合には、それらの科目を受講してください。

【教員の実務経験】

- ・第五次東京都子供読書活動推進計画検討委員会 2025年10月7日－
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- － A. deepen their understanding about psychology
- － B. broaden their perspectives form psychology
- － C. take memos while hearing
- － D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

認知心理学

竹島 康博

授業コード：A3620 | 曜日・時限：木2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学において人間の認知機能がどのように研究されてきたのかを解説します。この授業を通じて、実験を中心に進められてきた認知心理学という分野の特徴やその研究法について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間の感覚情報処理について、主に高次な認知機能に関連した情報処理やその研究方法について理解を深める。人間の感覚情報処理が心理実験を中心に研究されてきた背景を学ぶことにより、物事を科学的に捉える思考力を身に付けることを目指す。認知心理学における専門用語を理解し、基礎的な現象について適切に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

高次な認知機能に関連した情報処理の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する。また、認知心理学の研究の中で用いられてきた実験手法を体験する機会を設け、学術的な問いに対してどのような手法で解決していくことができるのかについて学ぶことも重視した授業を実施する。各授業の最後に理解度の確認を兼ねてコメントペーパーを提出してもらう。コメントペーパーのフィードバックは毎回まとめて授業資料としてアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方を説明、認知心理学の歴史についての解説
第2回	記憶の機能（1）	物事を記憶する一連の過程や仕組みについて解説
第3回	記憶の機能（2）	記憶したことの忘却や変容の過程について解説
第4回	注意の機能（1）	情報処理における「注意」の機能について解説
第5回	注意の機能（2）	視覚的な注意を中心とした注意の研究法について解説
第6回	感情と認知機能	感情と注意および記憶といった機能との関連を解説
第7回	感覚情報処理（1）	順応や恒常性といった感覚全般の持つ基本特性について解説
第8回	感覚情報処理（2）	知覚と呼ばれる主観的な経験を可視化する研究方法について解説
第9回	異種感覚間相互作用	異なる感覚情報を統合した知覚の処理についての解説
第10回	感性情報処理	美感を中心とした感性情報処理について解説
第11回	良さと選好	「対象を好む」という心理プロセスについて解説
第12回	心的イメージ	心的イメージの機能について解説
第13回	問題解決と意思決定	問題解決および意思決定の過程について解説
第14回	授業内試験と全体の総括	全体の総括として授業内で試験を行ったうえで、その解説を行うことでまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

御領謙・菊地正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太『最新 認知心理学への招待 [改訂版]——心の働きとしくみを探る——』2016 サイエンス社
横澤一彦・藤崎和香・金谷翔子『感覚融合認知』2023 勁草書房
行場次郎・箱田裕司（編）『新・知性と感性の心理——認知心理学最前線——』2014 福村出版

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーによる授業の理解度の評価点を40%、学期末に行う授業内試験の成績を60%とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からコメントペーパーを利用して各回の授業の理解度を確認して、それを平常点の評価に使うようにしました。授業を聞きながらまとめられるスタイルにしたのが学習の補助になったようなので、今年度も同様のやり方で進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

コメントペーパーはGoogle Formsを使って提出していただきますので、PCやタブレットを使って入力したい人は自分で持ってきてください。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進行等によって変更する場合があります。教員への連絡はメールで行ってください。メールアドレスはtakeshima[at]hosei.ac.jp です（[at]を@マークに置き換えてください）。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with human information processes, especially with higher-order cognitive processing.

[Leaning objectives]

The goals of this course are to understand psychology of cognition.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on class contribution (40%) and term-end examination (60%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

認知科学入門

田嶋 圭一

授業コード：A3621 | 曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を読む、覚える、考える、他者とかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを、様々な学問的視点から追究する認知科学について学びます。

【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験などを踏まえて他者に的確に説明できるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、授業活動結果をHoppiiに書き込んだりするなど、授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	シラバスの説明、「認知科学」とはどんな学問か、認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第2回	認知科学の歴史	心理学の略歴、認知科学の誕生、認知科学の諸分野
第3回	知覚	心への入口としての感覚と知覚、感覚の範囲、物理量と心理量の関係、感覚のしくみと種類
第4回	視知覚	感覚の一般的特性、形の知覚と知覚的体制化
第5回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚、高次知覚過程（パターン認識、トップダウン処理とボトムアップ処理、文脈効果）、顔の表情認知
第6回	聴知覚	音の正体、音の大きさ・高さ・音色の知覚、聴覚情景分析
第7回	中間テスト、視聴覚の統合	選択的注意、音声の知覚、視覚と聴覚の統合
第8回	言語	言語とはどんなものか、言語知識、言語獲得
第9回	記憶	記憶の流れと区分、短期記憶と長期記憶、日常生活と記憶、記憶の変容
第10回	知識	概念やスキーマとしての知識、心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか）、命題や文の心的表象
第11回	思考	思考、推論、問題解決
第12回	情動	情動とは、情動と脳、情動を認知するためのメカニズム、情動の変化を定量的に捉える
第13回	社会的認知	社会的認知とは何か、社会的条件の影響、対人認知、認知科学の今後の展望
第14回	期末テスト、授業の総括	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされた資料を読んだり、動画を視聴したり、授業後に課題に取り組んだり内容を振り返ったりすることで、毎回の授業の予習・復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料を学習支援システム経由で配布します。

【参考書】

行場 次郎・箱田 祐司（編）（2014）.『新・知性と感性の心理 ー認知心理学最前線ー』福村出版。
北原 義典（2022）. イラストで学ぶ認知科学 講談社。
鈴木 宏昭（2016）.『教養としての認知科学』東京大学出版会。
内村 直之・植田 一博・今井 むつみ・川合 伸幸・嶋田 総太郎・橋田 浩一（2016）.『はじめての認知科学』新曜社。
大津 由紀雄・波多野 諠余夫（編著）（2004）.『認知科学への招待 ー心の研究の面白さに迫るー』研究社。
都築 誉史（編）（2002）.『認知科学パースペクティブ ー心理学からの10の視点ー』信山社。
大島 尚（編）（1986）.『ワードマップ：認知科学』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題25%、中間テスト25%、期末テスト50%の割合で評価する予定です。原則として、正当な理由なく4回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

回答者68名のうち、「履修してよかった」と回答してくれた人が54名（79%、前年88%）、「理解できた」が53名（78%、前年84%）、「工夫されていた」が59名（87%、前年89%）でした。昨年度に比べて少し下がった項目がありました（残念）。授業外学習時間については「30分～1時間」が38%、「1～2時間」が34%でした。「ほとんど行っていない」が昨年度は11%でしたが今年度は18%に増えました（課題の量を変えていないのに、です！）。「教え合いの時間があるおかげで分からない点が再確認できより理解が深くなった」「資料やレジュメなどもわかりやすく、とても勉強しやすかった」「課題の問題数もほどよくやりやすかった」「課題が何度でもできるのでテスト勉強に役立った」といった肯定的なご意見をたくさんいただきました。一方、「レジュメが難解だった」といった感想や、WebClassに関するクレームもありました。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to cognitive science, an interdisciplinary field that studies the inner workings of the mind, that is, the mental processes that enable people to engage in everyday activities such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and interacting with others.

[Learning objectives]

Through this course, students should be able to understand and explain based on their own experiences the mechanisms underlying mental processes such as visual and auditory perception, language, memory, reasoning, and social cognition.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

[Grading criteria/policy]

Your overall grade will be determined based on class participation and homework (25%), midterm test (25%), and final test (50%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：他学科生の配当年次は3・4年生です
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】
心の発達について興味関心を高め、各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。
(1) 人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
(2) 人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
(3) 生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるように視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから2回の仮登録までを履修者として、以降制限する。課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第1回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第2回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第3回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するかを理解する。
第4回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第5回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第6回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第7回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。
第8回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第9回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。

第10回	意欲・動機づけの発達	やる気のメカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。
第11回	自我の発達	一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。
第12回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。
第13回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第14回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。動画教材でポイントは理解し、関連の書籍や論文を読んで、理解を深めたい。わからないことは支援システムなどで質問するようにし、授業後は復習する。予習復習には、各2時間(合計4時間)をかけるようにする。

【テキスト（教科書）】
必ず使用する。
『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）2020

【参考書】
『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）2020
『よくわかる発達心理学』渡辺弥生監修（ナツメ社）2021
『まんがでわかる発達心理学』渡辺弥生監修（講談社）2019

【成績評価の方法と基準】
1回目から必ず出席してください。ミニクイズ10回（正答かどうかによって配点が異なります。提出したから得点になるとは限りません）と課題2回の総合点で評価する。ミニクイズの評価は70%。課題の評価は30%。ただし、成績評価の対象は「ミニクイズを6回以上かつ課題を2つとも締め切り内に提出した人のみ」となります。それ以外の場合は成績を評価しません。また課題の提出ミスなどは考慮しませんので正確に提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
授業外の予習および復習をする上でより意欲的に取り組める課題を考え、自分で時間をかけて調べつつ自分のフィルターを通して理解できるように促したい。

【学生が準備すべき機器他】
テキストを持参すること。学習支援システムに入ること。

【その他の重要事項】
学習支援システムに登録すること。初回は必ず出席。

【Outline (in English)】
・ The aims of this course are to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified, from the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly.
・ By the end of the course, students are expected to consider how to contribute to society by the researches in this area.
・ Students will be expected to have completed the required assignments before /after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
・ The grade will be based on the total score of 10 mini-quizzes (the points will vary depending on whether the answers are correct or not) and 2 assignments. The mini-quiz will be graded at 70%. The assignment will be graded at 30%. However, only those who submit at least 6 mini-quizzes and both assignments will be graded. Otherwise, no grade will be given.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

教育心理学

福田 由紀

授業コード：A3623 | 曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は、発達心理学や学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日、皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
- ②学べる教える関係に関して、心理学的な観点から分析できる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

＊講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。
＊授業の最後に、その日の内容に関する小テストをWeb Classを通じて行います。Web Classに入れるように、【スマートフォンやPCを各自で用意】してください。

Web Classに入れるように、【スマートフォンやPCを各自で用意】してください。授業時間内に解説をします。

＊【授業後】に、来週の授業内容に関する宿題をWeb Classから回答してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明，教育心理学の目標・対象・研究法，教育心理学への3つのアプローチ
第2回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第3回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達，道徳性の発達
第4回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達，他者理解の発達，円滑なコミュニケーション
第5回	深い理解とは	適応的熟達者，知識のネットワーク
第6回	読み書きからの学習	文章による学習，読解力，書くことの学習
第7回	学校不応とその予防	いじめのメカニズム，いじめ防止策
第8回	上手に教える1	授業過程，伝統的な教授法
第9回	上手に教える2	最近流行の教授法，素朴概念への挑戦
第10回	上手に学ぶ	メタ認知，学習方略
第11回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第12回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第13回	学習障がいとその支援	学習障がい，ADHDなど
第14回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＊オリエンテーションのアジェンダにしたがい，次の授業の該当章を読んで，予習をしてください。

＊次週の授業内容にあわせて，以下のような宿題が出ます。期限内（オリエンテーションで説明します）にWeb Classから提出して下さい。

- 宿題1 自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達について省察する。
- 宿題2 理想の聞き手の行動について省察する。
- 宿題3 自分の小学校高学年時代の担任のリーダーシップについて内省する。
- 宿題4 認知地図について体験する。
- 宿題5 素朴概念について体験する。
- 宿題6 読書の有用性について省察する。
- 宿題7 授業形式について省察する。
- 宿題8 自分の性格特性について内省する。
- 宿題9 既有知識の活用について体験する。
- 宿題10 テストによる点数以外の評価法を体験する。
- 宿題11 いじめ防止について省察する。

宿題12 学習障がいについて省察する。

＊本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「教育心理学」 原田・福田・森山（編） 大学教育出版 2022年

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの代替措置は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択でマークシート方式です。

【学生の意見等からの気づき】

「大変工夫していた/工夫していた」が90%越え。「大変理解できた/理解できた」が80%越えでした。様々な学科の人が受講している授業なので、これらの結果は嬉しいです。授業プリントに関するコメントがありました。「授業プリントに色のついた厚紙が用いられているのがよかったです。丈夫だけでなく目立つので、管理しやすかったです。」狙い通りです。ほほ。しかも、しっかり自己管理しているのですね。福田の想像以上の成果です。一方、「専用の資料（ノート）を配布してくださるのは非常にありがたいです。ただ、スライドに表示される豆知識や補足も書きたいのに、書くスペースがなくて、情報を取捨選択しなければいけないことがありました。余分なスペースを作ってくださいとありがたいです。」という声も。レイアウトを考えますね。ありがとうございました。

【学生が準備すべき機器他】

小テストに回答するために、スマートフォンやPCを各自で用意してください。

【その他の重要事項】

授業のテーマにも記しましたが、教育心理学は応用心理学の一つです。そのために、心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には、心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また、授業では、時間の制約のために、基礎知識については扱いません。オリエンテーションで詳細を説明しますので、必ず【初回から参加】してください。

【教員の実務経験】

- ・第五次東京都子供読書活動推進計画検討委員会 2025年10月7日－
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline：This course introduces educational psychology.

Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:

- － A. deepen their understanding about educational psychology
- － B. analyze educational activities in terms of educational psychological perspective
- － C. take memos while hearing
- － D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom：Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

学習心理学

藤田 哲也

授業コード：A3624 | 曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に応用できるレベルで理解します。そうすることで、自分の生活をより有意義なものにしていくという考え方を身につけます。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていることが到達目標です。
1. 学習に関する心理学的な現象や理論について、概要を適切に説明すること。
2. 自分自身の日常生活に、学習に関する心理学的な現象や理論をどのように応用可能なかを説明すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、ペア・ワークなどを用いて、受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つける機会をできるだけ提供します。

毎回提出を求めるリアクションペーパー（感想用紙）に対しては、次の授業回到授業通信でフィードバックを行います。成績評価の対象となるレポートについては、評価基準を説明し自己評価をしてもらった上で、教員評価もフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第2回	古典的条件づけ	〇〇恐怖症の原因
第3回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第4回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第5回	動機づけの基礎	やる気のメカニズム
第6回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第7回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第8回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第9回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第10回	学習方略	自律的な学習のために
第11回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第12回	これまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第13回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第14回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、一回の授業で教科書の1章分進み、毎回の授業は、予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく、内容を把握することを目的意識を持って、予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために、毎回「予習シート」を完成させ、授業の二日前までに学習支援システムに提出したうえで授業に臨んでください。また、毎回発行する「授業通信」を読んで、前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に2回、それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絶対役立つ教育心理学[第2版] 実践の理論, 理論の実践」藤田哲也(編)(2021) ミネルヴァ書房

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也(編)(2006)北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）…授業の二日前までに予習シートを学習支援システムに提出すること、授業へ出席し積極的にペアワークに参加すること、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することのすべてがそろっている場合に、その授業回分の平常点を付与します。

期末レポート（60％）…授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度の授業改善アンケートから：毎年高い評価を得ているので、授業内容には大きな変更はしませんでした。が、「履修してよかった」は4.83で第点といえるでしょう。「理解度」は昨年とほぼ同じ4.50でしたが、一人だけ1をつけていたのが気になります（それ以外は4か5）。これは「授業外学習時間」が「週1時間未満」の人がいたことと関連があるかもしれません（例年は全員1時間以上）。自由記述は9名からもりましたが、概ね肯定的な内容でした。予習課題について、最初はハードルが高く感じるのには理解できますし、そこを受講生がうまく乗り越えられるように、初回のガイダンスで丁寧に説明しようと思います。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をします。受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。初回はオンラインで行いますが、2回目からは対面形式を予定しています。この授業の運営の仕方それ自体が、学習心理学の教材となっていますので、毎回、積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし、解説もしていきますので、授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1.Students can properly explain the outline of psychological phenomena and theories related to learning.

2.Students can explain how psychological phenomena and theories about learning can be applied to one's own daily life.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students are expected to read the textbook and then submit their preparatory sheets. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667 | 曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起こっているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言葉の働きについて、心理学的な見方でできる。
- ③聞きながらメモをとることができる。
- ④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

＊講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。
＊授業の最後に、その日の内容に関する小テストを Web Class を通じて行います。Web Class に入れるように、【スマートフォンやPCを各自で用意】してください。

Web Class に入れるように、【スマートフォンやPCを各自で用意】してください。授業時間内に解説をします。

＊【授業後】に、来週の授業内容に関する宿題を Web Class から回答してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方、心的表象の特徴と種類
第2回	言語力の発達	語彙の発達、読み書きの発達の概観
第3回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第4回	単語認知に影響する要因	心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？
第5回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第6回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文、作業記憶量
第7回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか、読み手の推論の力
第8回	文章理解に影響する要因1：既有知識	物語文法、物語スキーマ
第9回	文章理解に影響する要因2：既有知識	スクリプト、視点
第10回	文章の理解モデル	状況モデル
第11回	状況モデルの新たな展開1：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第12回	状況モデルの新たな展開2：対象の広がり	メタ認知、自己概念、感情
第13回	状況モデルの新たな展開3：日常生活への応用	広告の作成や教育
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

＊オリエンテーションのアジェンダにしたがひ、次の授業の該当章を読んで、予習をしてください。
＊次週の授業内容にあわせて以下のような宿題が出ます。期限内に（オリエンテーションで説明します）Web Class から提出して下さい。

- 宿題1 読み手の視覚的イメージについて省察する。
- 宿題2 自らが使用している日本語のモラ数のカウントを体験する。
- 宿題3 単語の類似性について省察する。
- 宿題4 単語の派生ルールについて体験する。
- 宿題5 悪文を修正する体験する。
- 宿題6 文章における推論を省察する。
- 宿題7 文章の記憶の特性を体験する。

- 宿題8 スクリプについて内省する。
 - 宿題9 視覚的イメージの活用について体験する。
 - 宿題10 読みやすい文章について省察する。
 - 宿題11 読み手の感情について省察する。
 - 宿題12 読み手の特性について省察する。
- ＊本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編 培風館 2012年

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を80%として、総合点により決定されます。期末テストの代替措置は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容、自分で教科書を読んだ内容、そして応用問題が問われます。形式は多肢選択でマークシート方式です。

【学生の意見等からの気づき】

「工夫していた」と「理解できた」が9割越え、「授業を受けてよかった」も9割弱と回答してくれました。ありがとうございます！この授業は、心理学科生以外に他学科の学生の受講が多い科目です。その中の例を紹介します。「現在自分で英語学習をしていて自分の言語処理について関心があったため、非常に面白い授業だった。構造的なノートを授業中に取りようにというお話があったが、実際にテスト勉強の際に役立った。」このように、自学科の授業だけではなく、他学科の授業を取ることで、世界が広がりそうですね。履修する際に、考えてみてください。また、「文章を読む・書く際に何に気をつけると伝わりやすいのかについて、漠然としたものではなく、証拠によって説明してもらえた。」のように、エビデンスを重要視している心理学のいいことが伝わったかなと思いました。

【学生が準備すべき機器他】

小テストに回答するために、スマートフォンやPCを各自で用意してください。

【その他の重要事項】

【教員の実務経験】

- ・第五次東京都子供読書活動推進計画検討委員会 2025年10月7日－
- ・文化審議会臨時委員（国語分科会）2016年3月20日－2023年3月31日
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会言語能力の向上に関する特別チーム 2014年10月21日－2017年2月14日
- ・小学校国語教科書編集委員（教育出版）1996年4月1日－2015年3月31日

【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline：This course introduces various activities of language in terms of psychological perspective.

Learning Objectives：By the end of the course, students should be able to do the following:

- － A. deepen their understanding about psychology of language
- － B. analyze various activities of language in terms of psychological perspective
- － C. take memos while hearing
- － D. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom：Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria：Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

行動分析学特講

島宗 理

授業コード：A3669 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行動分析学は「人はなぜそのように行動するのか？」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」の発展コースとして、実験的行動分析学、応用行動分析学、理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し、掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に応用できるようにマスターすることを目的とします。

また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

【到達目標】

以下の2つを目標とします。

- (1) 発達、記憶、言語などに関する、人や動物の認知的な現象について、行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
- (2) 日常生活における行動問題に対し、ABC分析やAB分析を駆使して、原因推定し、解決策を立案できるようになる。
- (3) 日常場面における行動の測定、記録、データの視覚化、シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

発達臨床（自閉症やADHD）、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。

毎回、「じぶん実験」に関する演習を行います。そして学期末には「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出してもらいます。演習課題やレポートへのフィードバックは授業およびGoogleクラスで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・発達障害に関する基礎について講義します。
第2回	発達臨床I	・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。 ・じぶん実験の標的行動を決定します。
第3回	発達臨床II	・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。 ・じぶん実験の記録方法を決めます。
第4回	“理解”の行動分析学	・以下の内容について学びます：刺激般化、刺激等価性、関係フレーム理論。 ・じぶん実験でベースラインを測定します。
第5回	組織行動マネジメント I	・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。
第6回	組織行動マネジメント II	・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。
第7回	シングルケースデザイン法	・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。 ・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数をABC分析で見つけることを学びます。

第8回	広告と消費者行動 I	・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。 ・じぶん実験で介入計画を立てます。
第9回	広告と消費者行動 II	・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、般化、意味による般化、刺激クラス。 ・じぶん実験で介入計画を実施します。
第10回	“記憶”の行動分析学	・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。 ・じぶん実験で介入の効果を実証し、検証します。
第11回	行動的コーチング I	・行動的コーチングの演習を行います。 ・じぶん実験の結果から制御変数にいて考察します。
第12回	行動的コーチング II	・行動的コーチングの演習を行います。 ・じぶん実験の結果から制御変数にいて考察します。
第13回	“動機づけ”の行動分析学	・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。 ・じぶん実験の結果を発表します。
第14回	プレゼンテーションとまとめ	・じぶん実験のレポートを作成し、提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、「じぶん実験」に関する課題を出します。教科書を読みながら課題に取り組んで下さい。最終的に「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出して下さい。

本授業の準備・復習時間はあわせて平均4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014年 ちくま書房

【参考書】

○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010年 光文社新書
○『行動分析学入門』杉山ら 1998年 産業図書
○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016年（改訂版）培風館
他にも、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

○じぶん実験に関する課題（最終レポートを含めて50%）、その他の授業内課題（50%）で採点し、獲得得点率で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はサバティカルで授業を担当しませんでした。

【その他の重要事項】

○本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。
○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の3限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までにメールで連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Behavior analysis is a field of psychology that experimentally investigates the question "Why do people behave the way they do?" As an advanced course building on "Behavior Analysis," this course introduces and explores various topics that have been examined in experimental behavior analysis, applied behavior analysis, and theoretical behavior analysis. The aim is to master the principles and laws discovered through research so that students can understand complex human behavior and apply this knowledge to solving social problems.

In addition, each student will conduct a "self-experiment" on their own behavior. Topics that students have worked on in the past include dieting, self-directed learning, romantic relationships, and saving money, among others. Since we value each individual's interests, please consult with the instructor to decide on your topic.

【Learning Objectives】

The following objectives are set for this course:

- (1) To be able to interpret cognitive phenomena in humans and animals — such as those related to development, memory, and language — using basic concepts and terminology from behavior analysis.
- (2) To be able to identify probable causes of behavioral problems in daily life and develop solutions by utilizing ABC analysis and AB analysis.
- (3) To be able to measure and record behavior in everyday settings, visualize data, and evaluate outcomes using single-case research designs.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 4 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Task completion in self-experiment (50%) and other task completion (50%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

行動分析学

島宗 理

授業コード：A3670 | 曜日・時限：木3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。

【到達目標】

○基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）、課題分析、ABC分析、AB分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。
 ○標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。
 ○日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】
 L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。授業に関する連絡、授業内演習課題の配布、課題へのフィードバックはGoogleクラスで行います。Googleクラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。 ・個人攻撃の罠について学びます。
第2回	「問題」とは？	
第3回	心と行動の区別 好子と嫌子	・生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。
第4回	強化と弱化	・基本的な行動随伴性について学びます。
第5回	課題分析	・標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。
第6回	シェイピング	・新しい行動レパトリーを教えるシェイピングの技法を学びます。
第7回	ABC分析#1	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC分析の手法を学びます。
第8回	ABC分析#2	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC分析の手法を学びます。
第9回	AB分析#1	・オペラントとレスポンドの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。
第10回	AB分析#2	・情動の条件づけや知覚学習について学びます。
第11回	ABC分析#3	・ABC分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。
第12回	観察法	・インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。
第13回	シングルケースデザイン法	・行動分析学の研究によく用いられるシングルケースデザイン法について学びます。
第14回	まとめ	・授業で学んだ行動分析学の考え方を使得って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、webクイズに取り組んで予習してきます。
 本授業の準備・復習時間はあわせて平均4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○『パフォーマンス・マネジメントー問題解決のための行動分析学ー 第2版』島宗 理（著）2022年 米田出版
 *教科書は第2版を使います。ご注意ください。

【参考書】

○『使える行動分析学ーじぶん実験のすすめー』島宗 理（著）2014年 ちくま書房
 ○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのかー素朴な疑問から考える「行動の原因」ー』島宗 理（著）2010年 光文社新書
 ○『行動分析学入門（第2版）』杉山ら 2023年 産業図書
 ○『行動の基礎ー豊かな人間理解のためにー』小野浩一（著）2016年（改訂版）培風館

【成績評価の方法と基準】

○授業内演習課題（60%）およびwebクイズの得点（40%）から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はサバティカルで授業を担当しませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやGoogleクラスへのアクセスや課題の作成、提出などにPCやスマホ/タブレットを多用します。

【その他の重要事項】

○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
 ○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の3限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までにSlackのDMで連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to master basic principles, procedures, and research methods pertaining to applying behavior analysis in everyday life. Student will learn the terminology and use them to conduct functional analyses of behavioral problems.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) measure target behaviors, and 4) visualize data.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 4 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Class participation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）

社会心理学特講

島宗 理、福田 由紀、田嶋 圭一、木村 健太、竹島 康博

授業コード：A3687 | 曜日・時限：土3,4,5（隔週）/Sat.3,4,5（隔週）

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様化、高齢化が急速に進む現代社会においては、わが国の歴史や文化に対する理解を深めながら、広い視野を持ち、自分とは異なる価値観や考えを持つ他者と共生していけること、すなわち、良識ある公民たることが求められます。

本授業では、現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、これに対する心理学からのアプローチを紹介します。

【到達目標】

様々な社会的問題を、1) 先行研究や統計資料などのデータを活用して記述し、2) 多面的、客観的、主體的に考察し、3) 他者との議論を活かしながら、公正な判断を下せるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は変則的な隔週のオムニバス形式の授業として開講します。2～3回の授業時限を1単元とし、単元ごとに1つの社会的問題や課題を取り上げ、これに関連する心理学の研究や実践などについて担当教員が講義します。学生はこれをもとに、自らの考えをまとめ、授業内で討論します。さらに、自らの考えを他者に伝え、他者の考えを積極的に聞く練習をしながら、最終的に単元ごとにレポートを作成して提出します。

レポートの提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

第01回（2026/09/26：対面）持続可能な社会と心理学：講義（島宗） 3, 4, 5 時限

第02回（2026/10/17：対面）異文化・言語と心理学：講義（田嶋） 3, 4, 5 時限

第03回（2026/11/07：対面）社会への適応を支える心理・生物学的基盤：講義（木村） 3, 4 時限

第04回（2026/11/28：対面）共生社会における相互理解と心理学：講義（福田） 3, 4, 5 時限

第05回（2026/12/12：対面）対人環境の心理学：講義（竹島） 3, 4, 5 時限

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	現代社会が直面する問題について概観し、本授業の進め方やレポート課題、成績評価方法などについて説明する。
第2回	対人環境の心理学(1)	「自分の周囲に他者がいる」という対人環境が個人に与える様々な影響について、影響の受けやすさに関連する個人特性も含めて解説する。
第3回	対人環境の心理学(2)	自分の個人特性を理解し、対人環境からの影響の受けやすさを理解した上で、そのような環境下でどのように行動するかを受講生同士で議論する。他者とのインタラクションや集団内での行動の背後にある心や脳のメカニズムについて、研究のアプローチや最新の知見も含めて解説する。
第4回	社会への適応を支える心理・生物学的基盤(1)	人の社会の中での活動を支える心理・生物学的な基盤を理解した上で、個々人の社会への適応のあり方を受講生同士のグループディスカッションを通して考える。
第5回	社会への適応を支える心理・生物学的基盤(2)	言語はなぜ文字通りに伝わらないのか、しゃべっていないのになぜ伝わるのか、言語によって相手や自分にどのように気を配っているか、特に異文化間の違い注目しながら考える。異文化あるいは同一文化の相手と誤解なくかつ円滑に意思疎通を図るにはどのようにすればよいか、議論しながら考える。
第7回	異文化・言語と心理学(2)	

第8回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第9回	共生社会における相互理解と心理学(1)	既有知識がある場合と無い場合における相手とのコミュニケーションを体験して、共有された世界を構築するために何が必要なのかを考える。異文化あるいは同一文化の相手と誤解なくかつ円滑に意思疎通を図るにはどのようにすればよいか、チームで議論し、レポート作成の準備を行う。
第10回	共生社会における相互理解と心理学(2)	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第11回	テーマ別調べ学習とレポート作成	いじめ、不審者侵入などあらゆる種類の学校危機に対する予防のあり方をエビデンスをもとに解説する。
第12回	危機予防の心理学(1)	心理的な危機を予防するためにどのようなアプローチやプログラムが可能かを議論し、具体案を作成する。
第13回	危機予防の心理学(2)	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第14回	テーマ別調べ学習とレポート作成	必要に応じて講義担当教員へ質問し、最終的にレポートをまとめ、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にも調べ学習などの時間をとってありますが、単元ごとに提出するレポートの作成には図書館へ行ったり、文献を検索したり、レポートを書く時間を確保しておきましょう。

本授業の準備・復習時間はあわせて1コマあたり平均4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考文献を紹介します（以下は一例です）。

○Chance, P., &Heward, W. L. (2010). Climate Change: Meeting the Challenge. The Behavior Analyst, 33, 197– 206.

○Abrahamse, W., Steg, L., Vlek, C., &Rothengatter, T. (2005). A review of intervention studies aimed at household energy conservation. Journal of Environmental Psychology, 25, 273-291.

○山崎 勝幸・戸田 有一・渡辺 弥生 (2013). 世界の学校予防教育 金子書房

○Brock, S.E, &Jimerson, S. R. (Eds.) (2012). Best Practices in School Crisis Prevention and Intervention 2nd edition, National Association of School Psychologists.

○石原 邦雄 (2008). 家族のストレスとサポート 放送大学教育振興会

○井出 祥子・平賀 正子 (2005). 講座社会言語科学〈第1巻〉異文化とコミュニケーション ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

テーマ別レポート（全5題）をそれぞれ20点満点で採点し、合計得点が満点（100点）に占める割合で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

1つの講義で多くの教員の話が聞ける点が良いようですので、今年度も教員5名によるオムニバス形式で行います。変則的な隔週開講の授業ですので、授業日や課題の提出日にご注意ください。

【その他の重要事項】

代表として島宗のオフィシアワーを掲載しておきます。他の教員のオフィシアワーについては各自が担当する授業シラバスを参照して下さい。

○オフィシアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の3限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までにメールで連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's rapidly diversifying and aging society, we need to be sensible citizens, who understand our country's history and culture, have a broad perspective, and can coexist with others who have different values and ways of thinking from our own. The purpose of this course is to learn research-based psychological solutions to various social problems that modern society is facing such as energy consumption, family issues, risk management at schools, communication, and cross-cultural understanding.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to discuss, in their own words, the research-based psychological solutions to today's social issues covered in this class.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to 1) read the materials distributed in class, 2) search and read relevant papers and articles, and 3) write and submit reports. 4 hours of study per class is expected.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the total score of five reports (20% x 5 =100%).

PSY200BG（心理学 / Psychology 200）			第5回		テーマパークその2：東京ディズニーリゾートの取組み	TDRにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS：Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金となる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES：Employee Satisfaction）、ロイヤルティ
産業組織心理学			第6回		業績評価指標（KPI）とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介しします。これに関連して、経営目標（売上、利益、粗利、利益率などなど）、目標管理制度（MBO）、バランス・スコアカード（BSC）、PDCAサイクル（Plan-Do-Check-Actionサイクル）などについて学びます。
島宗 理			第7回		企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力報酬不均衡モデル、日本の雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合（連合）と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム（EAP）、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。			第8回		働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進
【到達目標】 企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。			第9回		特別講義（内容は未定です）	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話をうかがいます。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			第10回		広告とブランドづくりその1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドロッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱：QSP、マーケティング・チャネル、コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション（C、T、F、Mなど）、AIDMA、ローランド・ホール
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture			第11回		広告とブランドづくりその2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、バプロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポナント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告（質問紙法）の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMAからAISAS/AISCEASへ、商品価値、有形価値（プロダクト）、無形価値（ブランド）、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略
【授業の進め方と方法】 講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。 講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。 毎回行うテストの得点はGoogleクラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。 新型コロナウイルス感染拡大状況にもよりますが、2023年度は授業内演習を取り入れることを計画しています。授業計画に変更がある場合には、Google Classroomを使って連絡します。学習支援システムのこの授業科目のトップページでGoogle Classroomの登録コードなどを案内しますので確認し、登録してからこの授業を受講してください。 学習支援システム：https://hoppii.hosei.ac.jp/portal Google Classroom：https://classroom.google.com/			第12回		産業組織心理学は役に立つのか？	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No						
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No						
【授業計画】 授業形態：対面/face to face						
回	テーマ	内容				
第1回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。 ビジネス心理学の概要について講義します。				
第2回	小売業その1：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。 価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）				
第3回	小売業その2：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。 ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング				
第4回	テーマパークその1：東京ディズニーリゾートの取組み	TDRにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。 リーダー、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント、計算的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析				

第13回	グローバル化とローカリゼーション	日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバル化、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャンネル（コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル）、AISASモデル、BOPビジネス、CSR
第14回	まとめと振り返り	今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。

○授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので、自習を含めた復習をしてください。

○本授業の準備・復習時間はあわせて平均4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。

○山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト

○リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社

○森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫

○島宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

○毎回行われるクイズ（50%）と授業内演習の得点（50%）で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はサバティカルで授業を担当しませんでした。

【その他の重要事項】

○本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。

○オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の3限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。訪問希望者は前日までにSlackのDMで連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

1) describe overall topic of interests in industrial/organizational psychology, 2) explain basic concepts and terms in business, and 3) give examples of business practices based on psychological research.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 4 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Grades are based on weekly tests (50%) and in-class assignments (50%).

PSY100BG（心理学 / Psychology 100）

ブレインサイエンス

木村 健太

授業コード：A3743 | 曜日・時限：金3/Fri.3
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学が扱うさまざまな心の働きについて、ブレインサイエンス（脳の科学）という観点から基礎的な知見を学びます。脳の構造や機能について学ぶだけでなく、心理学の中でもブレインサイエンスからのアプローチが盛んなトピックを取り上げて、具体的な研究成果の紹介を通して心の働きと脳の関係性について広く学びます。また、ブレインサイエンスが社会においてどのような役に立てられているか、産業やサービス、健康分野等における応用例についても学びます。

【到達目標】

- 心の働きに関わる脳神経基盤を明らかにするための認知神経科学的な方法について、それぞれの方法の長所・短所とともに説明できるようになる。
- 認知や感情などさまざまな心の働きに関わる脳神経基盤の概略について、具体的な研究知見を交えて説明できるようになる。
- ブレインサイエンスの実社会応用例について説明できるとともに、その制限・課題を理解することで適切な態度（科学リテラシー）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 講義形式で基礎的な知識を学びます。講義はスライドや動画といった視覚教材を活用して実施します。
- 毎回の授業で出席確認と理解度テストを行います。
- 授業中に出される課題への回答や授業に関する疑問・感想を記載したリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業で疑問や感想に対するフィードバックを含めた授業を実施します。
- 講義の中で、簡単なワークやペアでの意見交換の機会を取り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と授業目標の確認、心理学で「ブレインサイエンス」を学ぶ意義
第2回	心はどこから生まれるか	心を生じる脳と身体の仕組みと働き
第3回	脳を科学する方法	神経活動記録、脳波、脳機能イメージングなどの認知神経科学的な研究方法
第4回	認知する脳	視覚や聴覚を中心とした知覚・認知を支える脳神経基盤
第5回	学び、覚える脳	学習、記憶を支える脳神経基盤
第6回	実行する脳	目標指向行動、実行機能、意思決定を支える脳神経基盤
第7回	ここまでの授業内容の確認	中間テストとその解説
第8回	感じる脳	恐れや怒りといった感情を生み出す脳神経基盤
第9回	せめぎ合う脳	感情の抑制や制御を支える脳神経基盤
第10回	共存する脳	他者との相互作用や集団行動など社会生活を支える脳神経基盤
第11回	脳だけでいいのか？	心の働きと内臓、内分泌、免疫系の生理活動の関連性
第12回	脳の個人差	パーソナリティや遺伝と脳神経基盤の個人差の関連性
第13回	ブレインテック	実社会でのモノづくりやサービスへのブレインサイエンスの応用
第14回	まとめ	期末テストとその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間合計4時間を標準とします。
- 次回の授業内容について参考図書等を読むなどの事前学習を行ってください。
- 授業内で解説した脳の科学的知見を、日常の自分や他者の行動に当てはめて考えることが知識の定着のための復習になります。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した資料を配布します。

【参考書】

リタ・カーター（著）養老孟司（監修）（2022）ブレインブック（原書第3版）みえる脳 南江堂

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点30%（理解度テスト等）、中間テスト20%、期末テスト50%として総合点により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度の授業改善アンケートから、「単なる講義形式ではなく、簡単なワークをいくつか行うことで理解が促進した」「講義の流れが前回授業の復習、授業内容の説明、理解度テストと構造化されていて受講しやすかった」といった好意的なコメントを多くいただきました。一方、神経など生物の知識を覚えることに苦手意識をもつ方も多かったようです。2026年度では学習効果が高まるよう、授業の構成や内容の伝え方をさらに工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で行う出席確認と理解度テストは、Google Forms等のウェブ形式で行います。情報機器端末（スマートフォン、パソコン、タブレット等）を準備して受講してください。

【その他の重要事項】

- 授業の進め方や授業計画、授業目標の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。
- オフィスアワー：春・秋学期ともに木曜日3限（BT1109研究室）。訪問希望者は、メール（k.kimura[at]hosei.ac.jp）等で前日までに連絡してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will learn basic findings from brain science including cognitive neuroscience research. In addition, we will learn about the relationship between the brain and the mind through the introduction of specific research results on topics in psychology that have been actively approached from the perspective of brain science. We will also learn how brain science is utilized in society and how it is applied in industry, services, health, and other fields.

(Learning Objectives)

- To be able to explain the methodology of cognitive neuroscience for clarifying the neural basis of mental functions, along with the advantages and disadvantages of each method.
- To be able to explain the neural basis of various mental functions, such as cognition and emotion, with specific research findings.
- We will be able to explain examples of real-world applications of brain science and develop appropriate attitudes (scientific literacy) by understanding the limitations and challenges of these applications.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (30%) and examinations (70%).

HUG200BA (人文地理学 / Human geography 200)

歴史地理学 (1)

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅰ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史地理学について説明します。2. 日本における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。
大学の方針で、対面授業を基本としますが、オンライン授業も導入します。学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします。授業の効率化のため紙での配布しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など
第2回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論、歴史地理学史を学ぶ
第3回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第4回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ ヒロシマの原爆ドーム、姫路城などの事例を学ぶ
第5回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第6回	奈良の歴史地理	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第7回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第8回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、江戸時代の京都の名所、近代・現代の歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第9回	伏見の歴史地理	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第10回	江戸東京の歴史地理①	江戸の都市構造、江戸の名所について学ぶ

第11回	江戸東京の歴史地理②	東京の都市構造、東京の名所、人々の観光行動の変化について学ぶ
第12回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第13回	大阪の歴史地理②	近代以降の大坂城の意義、大阪のまちづくり
第14回	歴史観光都市・観光地の取り組み	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験50%、平常点50%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。ビデオなど映像教材も活用します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認することができるよう、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.
【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and practice about historical geography of heritage and tourism.
【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end examination:50% and in class contribution:50%

HUG200BA (人文地理学 / Human geography 200)

歴史地理学 (2)

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。大学の方針により、対面授業としますが、オンライン授業も導入します。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。授業の効率化のため、紙での配布はありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について
第2回	画像資料を通して地理的認識をめぐる歴史地理学	画像資料の利用方法を中心に、新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する

第14回 日本におけるアイヌ民族の政策と実態 日本における先住民族政策史をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的状况についておさえる
北海道平取町、白老町のウポポイについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局を使います。授業に持参してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、平常点50%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで捕捉しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination: 50% and in class contribution:50%

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地誌学概論

南 春英

授業コード：A3901 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：2022年度以前入学生は「地誌学概論（2）（A3409）」を履修する（配当年次は2～4）
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学は地誌学と系統地理学とに大別されます。本講義の到達目標は、講義を通して地誌学のアプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌のアプローチを組み合わせて対象とする地域を説明できるようになります。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

【到達目標】

本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていく。講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。途中、授業理解の促進のために、DVD等を使用する予定です。

毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行います。ミニ課題は授業支援システムを通して提出してもらいます。

受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションやミニ課題の提出をお願いすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	イントロ	授業内容の説明
対面	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
対面	地誌学と国際理解教育	アジアにおける地誌教育
対面	身近な事例	原宿：歴史と若者の街
対面	世界の多様性①	生活と環境
対面	世界の多様性②	世界の食肉文化
対面	グローバル地誌①	現代世界のグローバル化地誌
対面	グローバル地誌②	グローバリゼーションと日本
対面	テーマ別地誌①	中国の多民族と文化の多様性
対面	テーマ別地誌②	中国の都市化と課題
対面	比較交流地誌①	朝鮮半島の文化
対面	網羅累積地誌①	アメリカ合衆国の多様性
対面	地域差①	自然環境と歴史からうまれた北京と上海の住民の省民性
対面	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ2時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱ってきたい。可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社
河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房
菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店
国立国語院（2006）『韓国伝統文化事典』教育出版
高井潔司・藤野 彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための40章』明石書店
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域NOW』帝国書院
帝国書院編集部（2020）『新・世界の国々＜9＞ 世界各地の生活と環境』帝国書院
藤野 彰（2018）『現代中国を知るための52章』明石書店

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店
立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題）：40％、期末試験（持ち込み不可）：60％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (40%), term-end examination (60%)

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）		
社会経済地理学A（1）		
坪本 裕之		
授業コード：A3905 曜日・時限：火4/Tue.4		
春学期授業/Spring・2単位 配当年次：2～4年		
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この講義の中心的なテーマは、働く場たる「オフィス」の視点からの、就労・居住を中心として構成される現代都市空間の理解である。高次経済機能と就労の接点が、物理的空間としての「オフィス」である。21世紀に入ると、オフィスは「ワークプレイス」とも称されているが、それは「ワーカー」の存在によって成立しているからであり、ホワイトカラーの働く場としてより強く意識されるようになってきた。それは、グローバルスケール、国土スケールでは大都市に、都市内部では都心に立地し集積する。高次の経済機能はワーカーによって具現化され現実の都市空間に結びつき、オフィスというミクロな空間の集積によって地理的空間として認識される。経済のグローバル化、高度化が進行する中で、ホワイトカラーの働く場所のあり様も変化し多様化しているが、未だオフィスを旧態前とした画一的な性格の前提で立地や都心地域が語られることが多い。さらにオフィスの立地は、郊外住宅地の発生とともに職住分離を進行させ、都市域の拡大に寄与し居住にも強く影響してきたが、近年は都心居住が進み職住近接への変化が指摘されている。この講義では、大都市都心を中心として集積するオフィスを、立地をベースとして企業組織や場の構築など多様な視点から捉え、それが集積する「働く場所」としての業務地域＝地理的空間の特徴を考察する。加えて、働く場所のフィルターを通じて、これまで就労とは関係性が意識されず語られてきた都市居住も捉え直す。さらに授業では、「都心回帰」や「ジェントリフィケーション」「働き方改革」さらにはコロナ禍を経た働く場所のあり様の変容など、近年の都市をめぐる重要なトピックも取り上げる。近年の地域問題が発生するメカニズムについて考察する契機にして欲しい。それが、問題への対処や解決への道筋を考える一助となると考える。		
【到達目標】 （1）大都市の地理的拡大・再編プロセスや地理学の基礎概念を踏まえて、地域の問題を理解し説明すること、（2）経済活動に伴うグローバル、国土、都市内部といった多面的な空間スケールとその関係性を理解すること、（3）地理学的な図表を読み込み理解出来ること、を到達目標とする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 対面型授業を行う。授業資料の配布と課題の提出、課題についての個別の講評をToyoNet-Aceで行い、総評を授業内で行う。15回の講義とは別に、授業の理解を深めるため、希望者を対象として東京もしくは東京周辺地域を対象とした半日程度の日帰り巡検を予定している。詳細は授業内で告知する（希望者のみ、出席点・成績評価の対象としない）。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と内容、進め方、評価について解説する。
2	都市内部構造と都市の成長拡大	基本的な内部構造モデルと成長モデルをもとに、広域な都市地域の形成、特に職住分離が形成されるメカニズムについて考える。
3	「オフィス」をめぐる地理学的研究	オフィスの定義をもとに、都市システムの視点：国土スケール、都市内部スケールで立地する場所について考察する。
4	オフィス立地の広域的展開	国土スケールで階層的に拡大してきたオフィス立地について考える。
5	都市中心部の構築と再編	企業活動の広域化を前提とした、広域中心都市における都心部の形成と更新について紹介する。
6	産業の立地拡大と大都市の拡大管理	自然地理学的な視点を踏まえつつ、東京大都市圏が形成された過程と都市域のコントロールについて概説する。都心地域の再開発が進む東京都心の産業構造や就業構造の変化について概説する。加えて、再開発に伴う企業不動産の再構築過程についても取り上げる。
7	東京都心の空間再編	
8	新たなオフィス空間の創出と企業組織	知識産業の成長に伴う企業組織の変化と、新しいオフィス形態の具体的導入事例を紹介する。その下で起こる、大都市圏空間の再編や国土スケールでの立地の変化の可能性について考える。
9	企業移転：大手生命保険会社の事例	郊外移転した企業の具体的事例、移転に至るまでの経緯と地元自治体の対応、移転のメリットとデメリットを考える。
10	オフィス空間のグローバリ化・サービス化と都市空間	都市再生化にあるグローバル企業のオフィス戦略、「フレキシブルオフィス」のありようを紹介し、働く場所の今後を予測する。
11	大都市周辺都市の再編：横浜の事例	周辺都市の機能変化、特に「オープンノベーション」を前提としたまちづくりについて考える。
12	郊外住宅地の形成	東京多摩地域における住宅地域の形成過程について、職住分離に着目して考察する。
13	郊外住宅地の高齢化と持続性	12の内容を踏まえて、郊外住宅地の課題について近年の動向も併せて考察する。
14	都市中心地域の人口増加とジェントリフィケーション	仕事の変化に伴う居住の変化とそれに伴う働く場所との関係性について、人口の「都心回帰」現象を踏まえて考察する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 複数回で課題（作業時間2時間程度）を出すので期限までに提出すること。下記の通り、事前に配布する資料を読んでおくこと（1時間程度）。加えて、最終課題レポートに向けて、授業で紹介する事例と対比できるよう、居住地や大学周辺の地域の問題についても適宜、新聞記事やwebなどの情報を集めておいて欲しい。（各回当たり1時間程度）。		
【テキスト（教科書）】 事前に配布する資料をもとに授業を進める。		
【参考書】 藤井 正・神谷浩夫編著（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房（定価2,860円＋税） 藤塚吉浩・高柳長直編著（2016）『図説 日本の都市問題』古今書院（定価2,750円＋税） 藤本典嗣（2017）『テキスト都市地理学』中央公論社（定価2,750円＋税）		
【成績評価の方法と基準】 最終課題レポートの得点を70％、課題の提出状況出席点として30％とし、合計して法政大学の成績評価基準に基づき評価する。ただし、課題の3分の2以上が未提出の場合、最終課題レポートを受理しない。		
【学生の意見等からの気づき】 本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。		
【その他の重要事項】 非常勤のためオフィスアワーは特に設けていません。連絡や相談は、授業前後もしくはメール（htsubo@tmu.ac.jp）までお願いします。		
【Outline (in English)】 The main goal of this course is to understand the concept of the "office" as a modern urban space where one works and lives. The office is a physical space where higher economic functions and actual work coincide. In the 21st century, the office has come to be called a "workplace" because it was established by the existence of "workers," and has become increasingly recognized as a place for white-collar workers. Globally and nationally, these are located and concentrated in the centers of big cities and towns. Workers embody higher economic functions and form connections with this urban space, while workplaces are seen to consist of geographic locations formed of accumulated micro-spaces called offices. White-collar workplaces are changing and diversifying with the globalization and acceleration of the economy, but it is still often the case that offices are mainly located in the city center, as they have tended to be for years. Office locations have promoted the separation of workplaces and residences along with the emergence of suburban residential areas. They have contributed to the expansion of urban areas and have greatly affected housing and living arrangements, causing a shift in the proximity of workplaces and residential areas. This course will focus on offices concentrated in central areas of the metropolis. The construction of corporate organizations and venues, etc. will be viewed from various perspectives with location in mind. Business areas will be considered as the geographic locations where "workplaces" have accumulated. Students will understand urban living as it relates to workplaces in ways that they had not previously realized. This course will cover important current topics related to cities, such as "re-urbanization," "gentrification," "work-style reform," and so on. Students are encouraged to take this opportunity to investigate the reasons behind the occurrences of recent regional problems. By doing this, students will learn ways to deal with and solve problems.		

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学A (2)

堤 純

授業コード：A3906 | 曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（1）(A3426)」として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本と世界の都市を事例に、都市の発達によって生じる様々な変化と、それに伴う諸問題について理解を深める。また、都市の発達に影響を与えてきた交通機関の影響や、都市に暮らす人々のライフスタイルやマインドの変化などの視点から、現代の都市および将来の都市の姿について展望する。

【到達目標】
1. 都市の形態的・機能的な特徴を説明できる。
2. 都市内部の構造や、各都市の性格を形成する諸要因について具体例を挙げて説明できる。
3. 都市に暮らす人々の視点から、現代の都市の特徴について一例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
対面による授業を予定していますが、担当教員の都合により3～5回程度のオンデマンドの回がある見込みです。いまのところ、授業形態としては、ひとまずすべて対面と表記しますが、前述の通り、オンデマンドの回がある見込みです。詳細は、法政大学のルールに従うことにします。どの回が対面で、どの回がオンデマンドになるかは、初回の授業時（初回は必ず対面）にアナウンスします。リアクションペーパー（500字未満）は毎回書く事を求めます。詳しくは、【成績評価の方法と基準】欄も併せて参照して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この授業で扱う内容や履修上の重要事項について解説する。
2	城下町と近代都市（東京、松山ほか）	日本の県庁所在都市の大半が城下町時代に起源があることとをふまえ、現代都市の発展に必要な諸要因について講義する。
3	都市の発達と発展サイクル（交通）	一般的に都市は誕生から成長、発展、衰退、そしてまた回復するライフサイクルがあることについて講義する。
4	地価と都市空間の立体化	利便性の高い土地には需要が集中し、その度合いは地価という指標で表すことができることを講義する。
5	世界と日本の都市システム（支店経済都市と世界都市）	都市は単体で存在するのではなく、他都市との関係性の中で成り立っていることを講義する。
6	都市の内部構造	都市の内部構造を示す代表的な3つの古典モデルを取り上げ、共通点と相違点について講義する。
7	インナーシティ問題とセグレーション	世界の大都市はインナーシティ問題を共通して抱えていることを講義する。
8	都市再開発とジェントリフィケーション	グローバリゼーションとともに急速に増加したジェントリフィケーションの功罪について講義する。
9	都市住民のライフスタイルからみた商業地域構造	日本の地方都市でとくに深刻化する空洞化や商業・サービス業の変化について、都市住民のライフスタイルの観点から講義する。
10	都市の時間と空間（時間地理学）	人々はさまざまな制約の中で合理的な選択を行うことを演繹的に説明した時間地理学のモデルについて講義する。
11	都市のイメージと文化景観	都市の発達は、社会・経済・歴史・文化などの側面から多様な形態をとることを講義する。
12	都市成長と移民（New York）	世界で最も魅力的な都市の一つであるニューヨークについて講義する。

13	新しい都市の形（サステナブルシティ、コンパクトシティ、スマートシティ）	これからの都市の将来像について講義する。
14	試験・まとめと解説	試験実施（LMSにレポートを提出するスタイルを予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で使うパワーポイントのスライド（空欄穴埋め式）はおおむね当該授業の前週の授業日までにはLMS上にアップされているので、次週の授業までの間にあらかじめ目を通して、空欄に入る用語を予習した上で当日の授業に臨むとよい（2時間）。パワーポイントの内容と、授業時の教官の口頭説明や板書内容を書き取った自筆ノートとを比較しながら復習する（2時間）。
The PowerPoint slides (filling-blank-space type) to be used in the class are subject to being uploaded on the LMS by the week before the class, so it is recommended that students read through the slides before the next class and try to find the terms that fit blanks before attending the class (2 hours). Review the contents of the PowerPoint slide by comparing your answer with the instructor's oral explanations (2 hours).

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。

【参考書】
特定の参考書は使用しない。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーで50%、期末試験（LMSにレポートを提出するスタイルを予定）にて50%。
50% on the reaction paper assigned in each class, and 50% on the final exam (report will be submitted to the LMS).

【学生の意見等からの気づき】
この授業は2026年度が初回につき、まだアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
LMS上にアップされる資料を閲覧できる端末（PCやタブレット等）。

【その他の重要事項】
毎回の授業で用いる教材（パワーポイント資料、授業動画）は、LMS上で公開します。
担当教官は非常勤講師ゆえ、オフィスアワーはありません。質問・連絡事項がある場合は、メール（jtsu@geoenv.tsukuba.ac.jp）で受け付けますが、その際、必ず「PCのメールアドレス（GmailなどのWebmail可）」から送信して下さい。未着トラブルが多いので、携帯ドメイン（docomo, ezweb, softbank等）からのメールには返信しません。

【Outline (in English)】
Using cities in Japan and around the world as case studies, I will explore our knowledge of the various urban changes brought about by urban development and the associated issues. Furthermore, I will explore the future of cities from the perspectives of transport systems, urban lifestyles, and urbanites' mindsets.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学B (1)

甲斐 智大

授業コード：A3907 | 曜日・時限：火4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（2）（A3427）」として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「所得機会—消費機会—共同生活機会」の関係性の変化を手がかりに、地域社会がどのように形成・変容してきたのかを解説する。その際、地域の変化と、人々の労働（生産）や子育て・食料消費（再生産）/といった実践が相互に影響しあうプロセスに注目する。さらに、統計や景観に表れる現象の背後で作用する社会的調整や排除・包摂のメカニズムを検討することで、資本主義社会における地域課題の発生メカニズムへの理解を深める。

【到達目標】

1 空間や地域をつくる過程において、非市場的な原理がいかに影響を与えるのかを理解する。
 2 名目的な「公正さ」を担保する過程で、いかなる「不公正」が生じているのかを理解する。
 3 多様な立場の人々の実践を分析することで、現代社会における社会的排除と包摂のメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行う。ただし、講義は学生の意見を確認しながら進める。また、講義中に学生同士での意見交換を行うことがある。一部ゲスト講師を招聘する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地理学における本講義の位置づけを解説する。
第2回	ローカルな共同体の中で成立した経済システムと保育	度経済成長期以前の地域社会における労働力調整と社会再生産の仕組みについて解説する。
第3回	郊外空間の成立と女性の働き方	日本の住宅政策と働き方の変化について整理し、郊外での子育ての特徴を整理する。
第4回	都心回帰時代の保育サービス需給のミスマッチ 1	都心回帰の背景と、それが保育サービス需給に与えた影響について解説する。
第5回	都心回帰時代の保育サービス需給のミスマッチ 2	世界都市の労働市場の特徴とそこでの保育サービス需給をめぐる課題について解説する。
第6回	外国人集住地区と子育て	多様な経済モデルを用いて、統計などに現れない外国人家族の子育ての困難さと、それを支える見えない社会的調整メカニズムの存在とその限界点を解説する。
第7回	日雇い労働が創り出した空間	家族形成から排除された労働者の空間の特徴とジェントリフィケーションについて解説する。
第8回	派遣労働と地域	派遣労働の地方への拡大の背景とリーマンショックが地方農村部に与えた影響について解説する。
第9回	農と食べ物と食文化	農と食べ物と食文化の関係性を解説する。
第10回	農，食，食文化を切り離したもの	農，食，食文化を切り離しが生じたメカニズムを解説する。
第11回	経済成長と食の変化	経済成長による食の変化について解説する。
第12回	農業の競争力を決めるもの	農業政策の変化を踏まえつつ、農業の競争力がいかに規定されているかを解説する。
第13回	情報を消費する食	情報化と食の関係について
第14回	まとめ	現代社会における地域課題を理解する枠組みについて整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義中に適宜示す。

【成績評価の方法と基準】

・各回の内容に関するコメントカード内容（毎回ではありません） 30%
 ・講義の全体に関する試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本講義では複数回の休講—補講を予定している。
 詳細については初回の講義で説明する。

【Outline (in English)】

This course explores how regional societies are formed and transformed through changes in the relationships among income opportunities, consumption opportunities, and opportunities for collective life. It focuses on the ways in which regional change and people's everyday practices — such as work (production) and childcare and food consumption (reproduction)— interact with one another. The course also examines the underlying mechanisms of social coordination, exclusion, and inclusion that shape regions beyond what is visible in statistics or landscapes, in order to better understand the emergence of regional issues in contemporary capitalist societies.

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学B (2)

甲斐 智大

授業コード：A3908 | 曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、2014年以降の地方創生政策を中心に、現代日本の地域政策と地域労働市場の実態を社会経済地理学の視点から批判的に検討する。具体的にはグローバル・国家・地域・個人の各スケール間での複雑な権力関係と相互作用を分析することで、東京一極集中の是正を謳う地方創生政策が、実際には地域間格差・地域内格差を拡大させる逆説的側面を内包していることを理解させる。同時に、政策の隙間を縫って展開される地域独自の生存戦略―過疎ビジネス、ヤンキー文化、介護労働市場、特定地域づくり協同組合など―に着目し、中央の政策論理では捉えきれない地域社会の複雑な適応メカニズムについて解説する。

【到達目標】

- 1 多様な経済モデルとマルチスケール分析による分析視角を身につける。
- 2 地方創生政策の持つ「逆説的側面」や「利用される地方」という批判的分析の内容を理解できる。
- 3 画一的な政策論理では捉えきれない地域独自の適応戦略の意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では学生の意見を確認しながら講義を進める。場合によってはペアワークなどを実施することも想定される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	氷山モデルとマルチスケール概念について解説する。
第2回	地方への人口流出のメカニズム	高度経済成長期以降、地方から都市部への人口移動が本格化した要因を解説する。
第3回	国土政策と地方1	国土政策によって発展した地方都市について解説する。
第4回	国土政策と地方2	地方における公共事業に意義と問題点について解説する。
第5回	国土政策と地方3	国土政策によって発展した地方都市が抱える現代的課題を解説する。
第6回	地方消滅論と地方間格差	特定地域づくり事業協同組合制度を事例に社会連帯経済と地方間格差の発生要因について解説する。
第7回	地方創生と不良文化	地域の担い手として元不良をどの様に位置づけるかについて解説する。
第8回	地方創生と不良文化	不良文化と独自の教育システムが支える地方の労働市場について解説する。
第9回	地方創生政策と人的資源の外部調達	地方創生に関わる政策とこれに関わる多様な主体の役割について解説する。
第10回	特産品を起点とする地域活性化	産業集積と地域活性化について解説する。
第11回	国際情勢の変化が地方にもたらすもの	トランプ関税を含む国際情勢による地域産業への影響について解説する。
第12回	産業・地域・行政 DX の推進と地方の課題	DXが推進される社会的背景を踏まえつつ、地方におけるこうした取り組みの必要性を解説する。
第13回	地方創生施策の問題点	ふるさと納税やデジタル田園都市国家構想がもたらす逆説的側面について解説する。
第14回	まとめ	本講義で登壇したゲスト講師を含めたディスカッションを行い、各回の内容を理論的に位置付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「新産業都市大分の60年」 2026年8月末発売予定

【参考書】

講義中適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の内容に関するコメントへの記入 30%
期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ゲスト講師の登壇を予定している。

【Outline (in English)】

This course examines regional policy and labor markets in contemporary Japan through the lens of socio-economic geography, focusing on local revitalization policies introduced since 2014. By analyzing interactions and power relations across global, national, regional, and individual scales, the course highlights the paradox that policies intended to reduce Tokyo-centered concentration may actually deepen regional and local inequalities. In addition, the course explores region-specific survival strategies — such as depopulation-related businesses, Yankii youth culture, care labor markets, and special regional cooperative schemes — that develop outside formal policy frameworks, shedding light on the complex ways in which regional societies adapt to changing conditions.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学C（1）

佐々木 達

授業コード：A3909 | 曜日・時限：火3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済現象は地域性をどのように作り出すかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて、地域社会や地域経済の変容メカニズムについて企画的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】

到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。

到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること

到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域の特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理の見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。

授業開始時には、前回のリアクションペーパーに基づいて、講義内容に関する質問や感想について答える。また、講義内容に関する理解度を推し量るために、小問題を課し、回答をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済現象の地域性の説明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第2回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第3回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく、作られるものである。
第4回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第5回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第6回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第7回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第8回	食のグローバル化はどう進んだか？	グローバル商品としての「醤油」を事例に
第9回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第10回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第11回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第12回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第13回	土地利用を読み解く地図学習の方法	仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？
第14回	試験とまとめ	試験を実施し、まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から日本経済新聞等に目を通して、社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

中澤高志『経済地理学とは何か』、旬報社、2021年

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2020年

竹中克行編著『人文地理学への招待』、ミネルヴァ書房、2015年

竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本 第9版』、東洋経済新報社、2014年

松原宏編著『地域経済論』、古今書院、2014年

川端基夫『改訂版立地ウォーズ』、新評論、2013年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（50%）、期末試験（50%）に基づいて総合的に成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic framework of economic geography.

【Learning Objectives】There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the basic characteristics of economic geography.

2. Understanding the mechanisms of regional socio-economic transformation.

3. Understanding the explanation of industrial location theory.

【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学C (2)

佐々木 達

授業コード：A3910 | 曜日・時限：火3/Tue.3
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（3）（A3428）」として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌
 到達目標①：日本経済の変化とそのもとの国土空間の利用の特徴を理解すること
 到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること
 到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本の経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生産構造と国土利用	近代的産業、植民地、地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年、食料消費の多様化、食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978年
 石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』、古今書院、1986年
 生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011年
 吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012年
 増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014年
 中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（50%）、試験（50%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use
2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.
3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）

小川 憲彦

経営学科専門科目200番台経営学科専門科目200番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位 〔秋学期授業 / Fall〕

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

【到達目標】

- ①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
- ②社会人との交流が適切に行えること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

なお、FBを行う際は次回授業内もしくはリアペに対するFBを教材にUPする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と30代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト（人事系コンサル）	性 コンサルタント・マネジャー40代男性
第6回	ゲスト（企業家）	サラリーマンから起業した40代男性
第7回	ゲスト（IT）	30代営業職OG（以下OB／OG表記は法政大学出身者）
第8回	ゲスト（不動産）	東急リバブル50代男性
第9回	ゲスト（メーカー）	㈱サトー人事室長50代男性
第10回	ゲスト（金融）	日本政策金融公庫勤務20代OG
第11回	ゲスト（証券）	SMBC日興証券20代OB
第12回	ゲスト（税理士）	杉浦税務会計事務所社長
第13回	ゲスト（菓子メーカー）	ヨックモックHD人事部長
第14回	ゲスト（サービス）	CCC㈱（蔦屋書店FC）管理者50代男性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポートや課題図書）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) might be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】

授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。

鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル—職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（リアクションペーパーや小レポート等含む）

- ・出席は取りません
- ・高い評価を目指す方や単位が心配な方向けに任意のレポートを設ける予定です。

ただし内容が不十分であれば加点にはなりません。

（質の低さ、コピー、読めないものなど）

- ・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。

- ・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments (100%).

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】

各回の内容は過年度のものです。ゲストは基本的に毎年変更しています。

参加上の注意点は以下です。常識的に参加すれば問題ありません。

- ①初回講義で具体的な注意など示します。以後は1度は注意をしますが、2回目以降は②のような対応をします。なお、スマホ（携帯電話）で写真や動画をとったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサンングラスをしない等は基本です。

- ②仮に1度目であっても、度を越えた不適切な参加態度であると私がみなした場合は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。

関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
- (2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

Learning activities outside of the class

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

経営組織論 I

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

(1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。

(2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。

(3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期の授業（経営組織論 I）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①個人の振る舞い、②キャリア開発、③集団の振る舞い、④組織と個人の関係、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行い、振り返りレポートを作成します。受講者が主体的に考え、発言する機会（X：旧twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。ゲスト講義終了後にリアクションペーパーを提出します。

提出された振り返りレポートについては、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	個人の振る舞い①	仕事の中の「学習と成長」に関する基礎概念
第3回	個人の振る舞い②	組織における「モチベーション」に関する基礎概念
第4回	事例研究①	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第5回	キャリア開発①	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第6回	キャリア開発②	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第7回	事例研究②	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第8回	集団の振る舞い①	経営学における「グループ」の意味／意義／位置づけ
第9回	集団の振る舞い②	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第11回	組織と個人の関係①	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第12回	組織と個人の関係②	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第13回	事例研究④	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義

第14回 ラップアップ

春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

(2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

(3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。

(4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

(1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社

(2) ロビンス、S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

(3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

(1) 最終レポート（1回）：40％

(2) 振り返りレポート（4回）：40％

(3) ゲスト講義のリアクションペーパー（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

(1) zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。

(2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧twitter（X）を活用する予定です。受講者は旧twitter（X）のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。

(3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

(1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。

(2) 『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

(1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>

(2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>

(3) FACEBOOK
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>

(4) X (旧twitter)
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this class are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

経営組織論 II

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

(1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。

(2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。

(3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業（経営組織論 II）では、「変わる社会、変わる組織」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①組織構造、②組織文化、③社会と組織、④変化と適応、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2 週を 1 モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行い、振り返りレポートを作成します。受講者が主体的に考え、発言する機会（X：旧 twitter を使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。ゲスト講義終了後にリアクションペーパーを提出します。

提出された振り返りレポートについては、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	組織構造①	組織設計の視点とピラミッド型組織の基本原則
第3回	組織構造②	組織形態のフラット化・ネットワーク化の進展
第4回	事例研究①	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第5回	組織文化①	企業文化論から見た日本の経営の特長と問題点
第6回	組織文化②	国際化・情報化の進展による日本の経営の変容
第7回	事例研究②	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第8回	社会と組織①	技術的進化和制度的変化（第四次産業革命とSDGsの影響）
第9回	社会と組織②	ダイバーシティ・マネジメントの可能性と課題
第10回	事例研究③	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第11回	変化と適応①	組織変革を阻む要因（問題解決症候群；有能さの罠）
第12回	変化と適応②	学習忘却（アンラーニング）と越境活動の意味と方法

第13回 事例研究④

第14回 ラップアップ

「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義

秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

(2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

(3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40%）。

(4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

(1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
 (2) ロビンス、S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
 (3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

(1) 最終レポート（1回）：40%
 (2) 振り返りレポート（4回）：40%
 (3) ゲスト講義のリアクションペーパー（4回）：20%

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

(1) zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。

(2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧 twitter (X) を活用する予定です。受講者は旧 twitter (X) のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。

(3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

(1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。

(2) 『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

(1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
 (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
 (3) FACEBOOK
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
 (4) X (旧 twitter)
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this class are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

人的資源管理 I

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。

人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個人々に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。そのためには様々な工夫と配慮が必要となります。

この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

- 1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- 2) 人的資源管理の個別の領域のうち、①社員格付け制度、②雇用区分、③採用管理、④要員管理、⑤労働時間管理について学ぶ。
- 3) これら 1) と 2) の学習をつうじて、人的資源管理の広い領域に関して基本的な考え方を体系的に理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。①教科書による学習と、②教科書に準拠した学習支援システム上の教材（スライド資料を音声解説した映像資料、および穴埋め式スライド資料）による学習を各自、進めてください。学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

小テストについては、WebClass 上で提出後に正しい答えを確認できる仕組みとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン / online

回	テーマ	内容
第1回	人的資源管理の考え方①：人的資源管理の目的と役割	「人的資源管理 I」の概要、人的資源管理の目的、人的資源管理の基本的な役割、など
第2回	人的資源管理の考え方②：人的資源管理の範囲	人事管理から人的資源管理へ、人的資源管理の意味の広がり、など
第3回	人的資源管理のコンテキスト①：経営戦略と人的資源管理の関係	経営戦略との「ベストフィット」、人的資源管理の「ベストプラクティス」、など
第4回	人的資源管理のコンテキスト②：労使コミュニケーション	労使コミュニケーションの効果、日本企業での労使コミュニケーション、など
第5回	社員格付け制度①：社員格付け制度の機能と条件	社員格付け制度の機能、社員格付け制度の条件、など

第6回	社員格付け制度②：社員格付け制度の変化と多様性	「成果主義」と社員格付け制度の変化、仕事にもとづく格付けと能力にもとづく格付け、など
第7回	雇用区分①：雇用区分の機能と組み合わせ	雇用区分による社員の位置づけ、2つの「柔軟性」と「柔軟な企業」モデル、など
第8回	雇用区分②：日本企業における「雇用区分型」管理の特徴	日本企業における「雇用区分型」管理の特徴、多様なキャリア志向と雇用区分、「雇用区分型」管理と「個別型」管理、など
第9回	採用管理①：採用計画と採用対象	採用計画、採用対象（新卒採用と中途採用）、など
第10回	採用管理②：人材の募集と選考	人材を募集する、選考プロセスと選考基準、など
第11回	要員管理①：要員計画と要員管理	要員計画の立て方、日本企業の要員計画と要員管理、など
第12回	要員管理②：雇用保障と雇用調整	「終身雇用」と雇用保障、雇用保障と雇用調整、など
第13回	労働時間管理①：労働時間の長さの管理	労働時間の長さの管理、労働時間の長さのワークライフバランス、など
第14回	労働時間管理②：労働時間のタイミングの管理	労働時間のタイミングの管理、労働時間の柔軟性、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。①各回の授業（映像資料にて実施）に対応する教科書の章・節を各自読むことで理解を確実なものとする。②本授業で学習したテーマや論点に関して、日頃から新聞記事等を読んで理解を深める。③インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎（2025）『人的資源管理一事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】

発展的な学習に向けては、人事管理に関わる学術雑誌である『日本労働研究雑誌』や『日本労務学会誌』に掲載の論文を読むことが、人的資源管理についての関心を広げ、理解を深めるうえで有益です。いずれもバックナンバーはフリーで読むことができるので、雑誌名で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30 %

期末試験：70 %

小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「人的資源管理Ⅰ」と秋学期に開講の「人的資源管理Ⅱ」の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】

【Course Description】

The aim of the course is to learn and understand basic human resource management theory and practice. HRM practices in Japanese companies will be discussed from a comparative perspective; HRM practices can be understood as a system. The course will focus on each of the areas of HRM that make up a system.

【Learning objectives】

(I) Understand and be able to explain the basic concepts of human resource management.

(II) Learn about the areas of HRM: (1) ranking system, (2) employee classification, (3) recruitment, (4) workforce management, (5) working time management, (6) training, (7) reassignment, (8) internal promotion, (9) personnel evaluation, (10) wage management, (11) employee benefits and (12) diversity management.

Human Resource Management I focuses on (I) and (1) to (5) in (II), while Human Resource Management II focuses on (6) to (12) in (II).

(III) Students will understand systematically and be able to explain the basic concepts of each field.

【Learning outside the classroom】

(1) Read the textbook to ensure understanding of what is studied in the video materials.

(2) Deepen the understanding of the themes and issues studied in the lectures by reading newspaper articles on a daily basis.

(2) Deepen understanding of the learning content by reflecting on the realities and issues of human resource management based on the theories learned in the lectures while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs and circle activities.

The standard preparation and review time for lectures is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

人的資源管理Ⅱ

佐野 嘉秀

経営学科専門科目300番台経営学科専門科目300番台 経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM=Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。

人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。そのためには様々な工夫と配慮が必要となります。

この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

- 1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- 2) 人的資源管理の個別の領域のうち、①教育訓練、②配置転換、③昇進管理、④人事評価、⑤賃金管理、⑥福利厚生について学ぶ。
- 3) これら1)と2)の学習をつうじて、人的資源管理の広い領域に関して基本的な考え方を体系的に理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。①教科書による学習と、②教科書に準拠した学習支援システム上の教材（スライド資料を音声解説した映像資料、および穴埋め式スライド資料）による学習を各自、進めてください。学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

小テストについては、WebClass上で提出後に正しい答えを確認できる仕組みとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	教育訓練①：人材育成の役割	「人的資源管理Ⅱ」の概要、能力の可変性と人材育成、人材育成の多様な役割、など
第2回	教育訓練②：OJTの進め方と促進条件	OJTの進め方、知的熟練と幅広いOJT、OJTを促す条件、など
第3回	教育訓練③：教育訓練の多様な方法と教育訓練投資	Off-JTと自己啓発支援、教育訓練への投資、など
第4回	配置転換①：配置転換の機能と範囲	配置転換の機能、配置転換の範囲、配置転換の範囲、など
第5回	配置転換②：配置転換の決定方法と出向・転籍	配置転換の決定と人事部門の関わり、社員の意向の配置転換への反映、出向と転籍、など
第6回	昇進管理①：昇進・昇格の仕組みと機能	2重のランキング・システム、昇進における選抜の機能、など
第7回	昇進管理②：昇進選抜のタイミングの管理	昇進選抜のタイミング、「遅い」選抜の合理性、日本企業における昇進選抜の変化、など

第8回	人事評価①：人事評価の機能と評価方法	個別管理の手段としての人事評価、絶対評価法と相対評価法、など
第9回	人事評価②：人事評価制度の設計	評価要素の選択と組み合わせ、「成果主義」と目標管理制度、人事評価制度の設計と運用、など
第10回	賃金管理①：賃金水準の設定と人件費	人材確保と賃金相場、賃金と人件費、賃金の構成要素、など
第11回	賃金管理②：賃金の総額管理と個別管理	総額賃金管理と総額人件費管理、個別賃金管理と賃金制度、など
第12回	賃金管理③：雇用関係と賃金制度	雇用関係の性格、雇用関係と賃金制度、賃金の「決め方」と「上がり方」、など
第13回	福利厚生①：法定福利と法定外福利	法定福利と法定外福利、法定外福利の多様な施策、など
第14回	福利厚生②：法定外福利・退職金・企業年金の機能	法定外福利の効果と課題、退職金と企業年金、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。①各回の授業（映像資料にて実施）に対応する教科書の章・節を各自読むことで理解を確実なものとする。②本授業で学習したテーマや論点に関して、日頃から新聞記事等を読んで理解を深める。③インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】

発展的な学習に向けては、人事管理に関わる学術雑誌である『日本労働研究雑誌』や『日本労務学会誌』に掲載の論文を読むことが、人的資源管理についての関心を広げ、理解を深めるうえで有益です。いずれもバックナンバーはフリーで読むことができるので、雑誌名で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「人的資源管理Ⅰ」と秋学期に開講の「人的資源管理Ⅱ」の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】

【Course Description】

The aim of the course is to learn and understand basic human resource management theory and practice. HRM practices in Japanese companies will be discussed from a comparative perspective; HRM practices can be understood as a system. The course will focus on each of the areas of HRM that make up a system.

【Learning objectives】

(I) Understand and be able to explain the basic concepts of human resource management.

(II) Learn about the areas of HRM: (1) ranking system, (2) employee classification, (3) recruitment, (4) workforce management, (5) working time management, (6) training, (7) reassignment, (8) internal promotion, (9) personnel evaluation, (10) wage management and (11) employee benefits.

Human Resource Management I focuses on (I) and (1) to (5) in (II), while Human Resource Management II focuses on (6) to (11) in (II).

(III) Students will understand systematically and be able to explain the basic concepts of each field.

【Learning outside the classroom】

(1) Read the textbook to ensure understanding of what is studied in the video materials.

(2) Deepen the understanding of the themes and issues studied in the lectures by reading newspaper articles on a daily basis.

(2) Deepen understanding of the learning content by reflecting on the realities and issues of human resource management based on the theories learned in the lectures while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs and circle activities.

The standard preparation and review time for lectures is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB（経営学 / Management 300）

税務会計論Ⅰ

藤井 誠

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識の習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業の論点との相違に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。

国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法における出題論点を扱う。このうち、税務会計論Ⅰでは、基本論点を中心に学習する。

【到達目標】

税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。

ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。

税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。

学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。課題等に対するフィードバックとして、次の回の講義冒頭または LMS（Hoppii）において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび条文の読み方	講義の概要説明を行い、法人税法の読み方の基礎を学習する。
第2回	法人税の概要	法人税の種類および性質、法体系構造を学習する。
第3回	法人税の税率構造	法人税の税率構造と実効税率について学習する。
第4回	所得計算の通則①	課税所得計算における「益金」「損金」の意味と所得計算の基本構造を学習する。
第5回	所得計算の通則②	公正処理基準、資本等取引について学習する。
第6回	税務会計の一巡	所得計算および税額計算の一巡の流れを学習する。
第7回	法人概念と受取配当等の益金不算入制度	法人税法における「法人観」とそれに基づく所得概念を学習する。
第8回	所得税額控除制度、外国税額控除制度	所得税や外国法人税に関係する二重課税調整について学習する。
第9回	棚卸資産、有価証券	棚卸資産および有価証券の課税関係について学習する。
第10回	減価償却資産	減価償却の対象となる資産の課税関係について学習する。
第11回	圧縮記帳制度	法人税法および租税特別措置法に規定されている圧縮記帳制度について学習する。
第12回	同族会社関連規定	同族会社の定義および関連規定について学習する。
第13回	寄附金および交際費	寄附金および交際費の損金不算入制度について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用して確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧めたい。

【テキスト（教科書）】

講義レジュメをPDFファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じて PowerPoint のスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】

大下勇二著（2019）『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。

坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（50%）と定期試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、オンライン授業動画を視聴するための PC またはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4 サイズの PDF をスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。

「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。

本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting. When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate issues as necessary.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

税務会計論Ⅱ

藤井 誠

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、学生が、税務会計論の中心である「法人税」について、企業会計との関連に触れながら、体系的な理解と知識を習得することを目的とする。各論点の学習に際しては、必要に応じて、対応する企業会計の論点との関連に触れながら、損益計算構造理論および所得計算構造理論の理解を深める。国家試験との関連においては、主に、税理士試験の法人税法および公認会計士試験の租税法における出題論点を扱う。このうち、税務会計論Ⅱでは、応用論点を中心に学習する。

【到達目標】

税務会計論の前提となる簿記論および財務会計論の内容について、税務会計の観点から再確認し、知識の定着を図ることができる。
ビジネスの現場において必須といえる税務申告書の作成に関する理論と技法を習得することができる。

税理士試験（法人税法）、公認会計士試験（租税法）、司法試験（租税法）、国税専門官試験等の職業会計人として求められる高度な知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。
学習支援システムにおいて、講義レジュメと小テストをアップロードするので、講義を受けた後に、小テストを受ける形で学習を進める。

また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしている。

課題等に対するフィードバックとして、次の講義冒頭またはLMS (Hoppii) において解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと税務貸借対照表	講義の概要説明を行い、税務貸借対照表の存在意義とその構造について学習する。
第2回	給与、租税公課	給与および租税公課に関する課税関係について学習する。
第3回	貸倒損失、引当金	貸倒損失と法人税法上の引当金について学習する。
第4回	移転価格税制	移転価格を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第5回	過少資本税制	過少資本を利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第6回	タックス・ヘイブン税制	タックス・ヘイブンを利用した国際的租税回避防止規定について学習する。
第7回	株式交換・株式移転	株式交換や株式移転が行われた場合の課税関係を学習する。
第8回	企業組織再編税制	合併や分割等の企業組織再編税制を学習する。
第9回	グループ法人通算税制	親子会社等の企業集団課税について学習する。
第10回	グループ法人税制	親子会社間の内部取引に関わる課税関係について学習する。
第11回	収益認識と益金の関係	企業会計における収益認識基準と税務会計における益金との関係について学習する。
第12回	繰延資産、リース取引、外貨建取引	法人税法上の繰延資産、リース取引、外貨建取引の課税関係について学習する。
第13回	ヘッジ取引	ヘッジ取引の課税関係について学習する。
第14回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中の解説や自分で考えたことを講義レジュメやノートにメモし、それらについて「なぜそのような規定が設けられるに至ったのか」を考えながら復習することが期待される。その際、講義で学習した内容を理解できているかを確認し、理解できていないあるいは理解が十分ではない用語や規定については、参考図書や図書館等を利用して確認することが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧める。

【テキスト（教科書）】

講義レジュメをPDF ファイルにて配信し、これを用いながら、必要に応じてPowerPointのスライドを用いて講義を行う。なお、講義レジュメには十分な余白を設けているので、講義中のメモ等を書き込む（タブレット端末の利用も可）ことを推奨する（別途ノートを用意しても構わない）。

【参考書】

大下勇二著（2019）『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵・生協販売）。

坂本雅士編著（2025）『現代税務会計論』（最新版が望ましい）中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（50%）と定期試験（50%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するためのPCまたはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4サイズのPDFをスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第1回授業の際に説明する。

税務会計論は、簿記論および財務会計論の知識の上に成り立つ科目であることから、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。

「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を未履修であっても、本講義を履修することができるが、その場合、各自でこれらの科目に相当する学習を並行して進めることを勧める。

本講義の履修に際しては、相乗効果が期待されるため、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を履修することを勧める。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to acquire a systematic understanding and knowledge of "corporate tax," which is the core of tax accounting theory, while touching on its relationship with corporate accounting. When studying each topic, students will deepen their understanding of the profit and loss accounting structure theory and the income accounting structure theory, while touching on the differences with the corresponding corporate accounting topic as necessary.

In relation to national examinations, the course will mainly deal with topics that appear in the Corporate Tax Law of the Tax Accountant Examination and the Tax Law of the Certified Public Accountant Examination. Of these, Tax Accounting Theory II will focus on applied topics.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (50%) and regular exams (50%).

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学

奥西 好夫

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業 / Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。中間課題は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第3回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン (1)	・組織構造
第10回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものだ。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に1回課題提出を行い、それと期末試験の合計得点（ウェイトは50：50）で成績を評価する。

・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。

・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently.

・The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・The final grade depends on the total points of the assignment and the final exam (the weights are 50:50).

ECN300FB（経済学 / Economics 300）

組織経済学Ⅰ（2018年度以前入学者）

奥西 好夫

経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システムにアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等は学習支援システムを通じて指示する。中間課題は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第2回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第3回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第4回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第6回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第7回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第8回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第9回	組織デザイン（1）	・組織構造
第10回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第11回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第12回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第13回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第14回	講義内容のまとめ	・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に学習支援システムにアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は学習支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものだ。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に1回、課題提出を行い、それと期末試験の合計（ウェイトは50:50）で成績を評価する。

・課題や試験は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021年度は、全てZoomで行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。同じ用語でも、日常的な意味と経済学の専門用語としての意味が異なる場合があるので注意されたい。

・2022年度以降は、全て対面で行っているが、月曜1限（2025年度は金曜1限）ということもあり、出席状況は良くなかった。実質的には少人数授業なので、積極的に出席し不明な点は質問等をしてもらいたい。特に、上記で指摘した用語の意味などは授業中に詳しく説明している。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムへのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能なPCないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、IIの通年開講授業であったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となった。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用の「HRM I/II」（Iは秋学期、IIは春学期）でカバーしている。

履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit assignments diligently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・The final grade depends on the total points of the assignments and the final exam (the weights are 50:50).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

日本経営史Ⅰ

二階堂 行直

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化→ビジネス・チャンスの発生→企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2回を予定／提出期限あり）をこなす。
③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
・授業動画は、100分×14回の形でアップロードするのではなく、各章ごとにアップロードします。ただし、総時間数は1400分以内になるようにします。
・「100分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。
・質疑応答は、基本的にはメールで対応します。全員に周知すべき質問は、別途取り上げます。受講者数がかなりの多数に上り、かつ課題の分量自体が多いため、提出された課題への一律・個別のフィードバックは困難な状況です。ご希望がありましたら、個別にメールをいただければ、可能な限り対応します。
・提出された課題において、不正行為が発覚した場合は、厳正に対処します。
※不正行為の定義・処分基準： https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第2回	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
第3回	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
第4回	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
第5回	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
第6回	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
第7回	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
第8回	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と広瀬宰平
第9回	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
第10回	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
第11回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
第12回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
第13回	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
第14回	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に18世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。

・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）
- ②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会）
- ③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）
- ④三和良一（2012）『概説日本経済史 近現代（第3版）』（東京大学出版会）
- ⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）
- ⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）
- ⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）
- ⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）
- ⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橋川武郎（2023）『日本経営史〔第3版〕』（有斐閣）
- ⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

・論述課題60％（実施回数で均等配分）、期末課題40％で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が60点以上であること、の2点です。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。
・毎回の課題では、授業内容を理解しているかを確認する問題のほか、刊行物・記事・論文・インターネット上などさまざまな情報源を活用し、独自の考察を行っていただく問題を出題します。後者の配点が極めて高いので、受講される方は十分に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
・障害者学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。
・昨年度は、授業動画のアップロードを「Youtube」のみを通じて行っていたため、勘弁に視聴できるという意見があった一方で、動画再生中に広告が頻繁に再生されるため集中できないとの声もありました。アップロード先を複数用意するなどの対処法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末課題を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。
https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

- ・産業史Ⅰ／Ⅱ
- ・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
- ・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.

- ・ Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.

- ・ Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

- ・ Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

- ・ After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

- ・ To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.

- ・ When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.

- ・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

日本経営史Ⅱ

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19世紀後半～20世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化→ビジネス・チャンスの発生→企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2回を予定／提出期限あり）を何回かこなす。
③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
・授業動画は、100分×14回の形でアップロードするのではなく、各省ごとにアップロードします。ただし、総時間数は1400分以内になるようにします。
・「100分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。
・質疑応答は、基本的にはメールで対応します。全員に周知すべき質問は、別途取り上げます。受講者数かなりの多数に上り、かつ課題の分量自体が多いため、提出された課題への一律・個別のフィードバックは困難な状況です。ご希望がありましたら、個別にメールをいただければ、可能な限り対応します。
・提出された課題において、不正行為が発覚した場合は、厳正に対処します。
※不正行為の定義・処分基準： https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第2回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
第3回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
第4回	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
第5回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済①
第6回	両大戦間期の経営	概説：1920～30年代の日本経済②
第7回	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
第8回	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
第9回	戦後期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
第10回	戦後期の経営	概説：高度成長の終焉と日本経済
第11回	戦後期の経営	概説：バブルの発生と崩壊
第12回	戦後期の経営	大衆消費社会の到来
第13回	戦後期の経営	規制緩和によるビジネス・チャンス
第14回	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に18世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

①経営史学会編（2004）『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）
②三和良一・原朗編（2010）『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会）
③宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣）
④三和良一（2012）『概説日本経済史 近現代（第3版）』（東京大学出版会）
⑤粕谷誠（2012）『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会）
⑥宮本又郎（2013）『企業家たちの挑戦』（中央公論新社）
⑦沢井実・谷本雅之（2016）『日本経済史』（有斐閣）
⑧武田晴人（2019）『日本経済史』（有斐閣）
⑨宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎（2023）『日本経営史〔第3版〕』（有斐閣）
⑩谷本雅之（2024）『日本経済の比較史』（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】

・論述課題60%（実施回数で均等配分）、期末課題40%で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が60点以上であること、の2点です。
・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。
・毎回の課題では、授業内容を理解しているかを確認する問題のほか、刊行物・記事・論文・インターネット上などさまざまな情報源を活用し、独自の考察を行っていただく問題を出題します。後者の配点が極めて高いので、受講される方は十分に注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説してほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。
・昨年度は、授業動画のアップロードを「Youtube」のみを通じて行っていたため、動画中に視聴できるという意見があった一方で、動画再生中に広告が頻繁に再生されるため集中できないとの声もありました。アップロード先を複数用意するなどの対処法を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や諸連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

・産業史Ⅰ／Ⅱ
・日本経営論Ⅰ／Ⅱ
・日本経済論Ⅰ／Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.
・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.
・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.
・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.
・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

- ・ After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.
- ・ To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.
- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
- ・ When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.
- ・ Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC（経営学 / Management 300）

企業評価論 I

青淵 正幸

経営戦略学科専門科目300 番台経営戦略学科専門科目300 番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論 I では、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論 II では、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論 I の授業では、はじめに企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記 2 の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えて、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

授業内で課した演習については、次回の授業内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第2回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第3回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第4回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第5回	事業の理解（3）	セグメント分析
第6回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第7回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第8回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第9回	会計分析（4）	キャッシュ・フロー計算書の見方
第10回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROAとROEの関係、ROEの基本分解
第11回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第12回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第13回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第14回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内藤文雄著『会計学エッセンス（第6版）』、中央経済社、2025年、2,860円（税込）。

【参考書】

青木茂男編著『要説経営分析（六訂版）』、森山書店、2022年。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H.ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 evalによる財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015年。

K.G.パレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門 I/II、会計学入門 I/II）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論 I/II、国際会計論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

- 1.Understand financial statements in relation to corporate activities
- 2.Understand major financial ratios and performance indicators
- 3.Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis (Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

企業評価論Ⅱ

青淵 正幸

経営戦略学科専門科目300 番台経営戦略学科専門科目300 番台 経営戦略学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROEを事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級ROE分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響がROEに与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業（株主）価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則、講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

授業内で課した演習については、次の授業内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習（2）	ROEの基本分解を復習する
第4回	収益性の分析（1）	純事業資産利益率を理解する。
第5回	収益性の分析（2）	ROEの上級分解（1）：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析（3）	ROEの上級分解（2）：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第7回	収益性の分析（4）	ROEの上級分解（3）：純金融資産の保有がROEに与える影響を理解する
第8回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第9回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第10回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第11回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第12回	株主価値評価の理論（1）	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第13回	株主価値評価の理論（2）	超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する
第14回	貸借対照表項目と損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表と損益計算書を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内藤文雄著『会計学エッセンス（第6版）』、中央経済社、2025年、2,860円（税込）。

【参考書】

青木茂男編著『要説経営分析（六訂版）』、森山書店、2022年。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models. (Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. Prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析論Ⅰ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、原則として製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（1）財務諸表分析の基本的な枠組み（2）データベースを利用した財務指標の算出、（3）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈の仕方について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できうる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMSを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFSおよび基礎統計学の適用	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その2	エクセルのゴールシークを用いた損益分岐点の算出
第14回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部忠彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用』(朝日新書)朝日新聞出版、2012年。
- 7) 烏邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析論 II

福多 裕志

経営戦略学科専門科目300番台経営戦略学科専門科目300番台 経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、幾つかの株価関連財務比率を計算し、その後、不確実性の下での意思決定原理や創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（１）株価関連指標、（２）総合評価の方法、（３）確実性、リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、（４）創出した情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できうる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMSを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	統計手法の確認、一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理の考え方
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012年.
- 7) 烏邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社, 2006年.
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会, 2003年.
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅰ（2018年度以前入学者）

青淵 正幸

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅰでは、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論Ⅱでは、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論Ⅰの授業では、はじめに企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記2の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えて、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

授業内で課した演習については、次回の授業内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第2回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第3回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第4回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第5回	事業の理解（3）	セグメント分析
第6回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第7回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第8回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第9回	会計分析（4）	キャッシュ・フロー計算書の見方
第10回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROAとROEの関係、ROEの基本分解
第11回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第12回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第13回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第14回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内藤文雄著『会計学エッセンス（第6版）』、中央経済社、2025年、2,860円（税込）。

【参考書】

青木茂男編著『要説経営分析（六訂版）』、森山書店、2022年。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H.ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 evalによる財務分析と評価』、マグローヒル・エデュケーション、2015年。

K.G.パレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

- 1.Understand financial statements in relation to corporate activities
- 2.Understand major financial ratios and performance indicators
- 3.Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis (Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅱ（2018年度以前入学者）

青淵 正幸

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROEを事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級ROE分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響がROEに与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業（株主）価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則、講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

授業内で課した演習については、次回の授業内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習（2）	ROEの基本分解を復習する
第4回	収益性の分析（1）	純事業資産利益率を理解する。
第5回	収益性の分析（2）	ROEの上級分解（1）：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析（3）	ROEの上級分解（2）：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第7回	収益性の分析（4）	ROEの上級分解（3）：純金融資産の保有がROEに与える影響を理解する
第8回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第9回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第10回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第11回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第12回	株主価値評価の理論（1）	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第13回	株主価値評価の理論（2）	超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する
第14回	貸借対照表項目と損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表と損益計算書を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内藤文雄著『会計学エッセンス（第6版）』、中央経済社、2025年、2,860円（税込）。

【参考書】

青木茂男編著『要説経営分析（六訂版）』、森山書店、2022年。

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. Prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

Please review the content of the class and do the exercises/assignments. Standard preparation and review time for this course is 4 hours per class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the final exam (100%).

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析III（2018年度以前入学者）

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、原則として製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（１）財務諸表分析の基本的な枠組み（２）データベースを利用した財務指標の算出、（３）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈の仕方について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMSを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFSおよび基礎統計学の適用	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ROS、ROE、ROA等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その2	エクセルのゴールシークを用いた損益分岐点の算出
第14回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用』(朝日新書) 朝日新聞出版、2012年。
- 7) 烏邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC（経営学 / Management 300）

経営分析Ⅳ（2018年度以前入学者）

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今から40年以上も前の1982年、ピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下すことになる。

本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、幾つかの株価関連財務比率を計算し、その後、不確実性の下での意思決定原理や創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（１）株価関連指標、（２）総合評価の方法、（３）確実性、リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、（４）創出した情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。課題等に対する回答や解法は、できうる限り出席者間で共有し、そのうちの幾つかを授業支援システム（LMS）上に掲載する。LMSを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	統計手法の確認、一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理の考え方
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店, 2022年.
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995年.
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社, 1999年.
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002年.
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994年.
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012年.
- 7) 烏邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996年.
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社, 2006年.
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会, 2003年.
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社, 2010年.

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験80%、発表20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、授業へPCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く姿勢を維持していただきたい。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

[Course outline and objectives]

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester. Responses and solution methods to assignments will, as far as possible, be shared among the participants, and selected examples will be posted on the Learning Management System (LMS).

[Learning activities outside of classroom]

Participants are expected to ensure that they prepare for and review each class by solving assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論 I

金 容度

市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特異性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、毎週授業で講義についての質問を提出してもらい、次の授業でその質問について答える。それに、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第2回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第3回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリアパス、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第4回	トップマネジメントの日米比較	20世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第5回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス（企業統治）の特徴を検討する。
第6回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第7回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第8回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第9回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究開発活動の特徴を講義する。
第10回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本の経営の「3種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。
第11回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70年代まで、労使関係・人的資源管理上にどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第12回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第13回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第14回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は毎週授業支援システムに掲載する。

【参考書】

①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直(2018)『現代日本経済第4版』有斐閣

②金容度(2021)『日本の企業間取引』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験（70％）、授業中の小試験（30％）である。授業中の小試験は3回行われる。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文（1回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】

【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on business management in Japan. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論Ⅱ

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 200 番台 市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間の取引のケースが取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点与えられる。また、毎週授業で講義についての質問を提出してもらい、次の授業でその質問について答える。それに、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第2回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第3回	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第4回	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第5回	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第6回	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第7回	自動車部品の企業間取引1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第8回	自動車部品の企業間取引2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900年代～1910年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第9回	自動車部品の企業間取引3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920年代～40年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第10回	自動車部品の企業間取引4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
第11回	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第12回	鉄鋼の企業間関係2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第13回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、その企業間取引を検討する。
第14回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①金容度(2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
 ② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
 ③金容度(2006)『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験70%、授業中の小テスト30%(1回10%×3回)。ディスカッション時の発言者には加算点与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文(1回)についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】

【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on the inter-firm relationships. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

山 寄 輝

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 〔春学期授業/Spring〕

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。最初に「デリバティブとは何か？」という基本的な問いから講義を始めますが、その後、金融や財務のさまざまな場面でデリバティブ取引がどのように活用されているかを具体的に理解していきます。本授業の主な目的は、ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提としたデリバティブの価格決定理論を学ぶことです。同時に、金融実務における活用例も詳しく解説します。さらに、デリバティブ理論の応用として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」といったトピックについても取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や著名な事件なども適宜紹介し、理論と実務の両面から学びを深めます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にもつながる知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	金融・証券市場の概観、直接金融と間接金融、発行市場と流通市場、金融市場の規制と監視
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	債券市場、債券の種類、利付債と割引債、国債と社債の発行市場、債券の流通市場
第4回	金融・証券市場の基礎知識（3）	株式市場、株式の種類、普通株と優先株、株式の発行市場、株式の流通市場、株式市場の再編
第5回	金融・証券市場の基礎知識（4）	外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場、デリバティブに関連する事件
第6回	キャッシュフローと現在価値（1）	金融取引の基礎概念、キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用
第7回	キャッシュフローと現在価値（2）	付利期間、半年複利、キャッシュフローの価値比較、割引因子とその性質
第8回	効率的市場と無裁定価格理論	ケインズの美人投票、効率的市場仮説、裁定取引、無裁定条件、無裁定価格理論
第9回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約のしくみ、為替予約のペイオフ、為替予約によるヘッジ取引と投機取引
第10回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、為替予約と無裁定条件、金利パリティ、フォワード・プレミアム・パズル
第11回	債券と金利の関係（1）	債券の価格公式、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート、イールドカーブ

第12回	債券と金利の関係（2）	フォワードレート、ブートストラップ法、短期金利と将来価値・現在価値
第13回	先渡取引（3）	金利先渡取引、FRAのしくみ、FRAのペイオフ、FRAによるヘッジ取引と投機取引
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、FRAと無裁定条件、先渡金利の公式、中央銀行の金融政策と先渡金利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（90％、対面試験）と授業期間中の小テスト（10％、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

ECN200FD（経済学 / Economics 200）

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

山 寄 輝

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目200番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。特に、デリバティブの中でも最も重要とされる「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的です。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例についても詳しく解説します。

さらに、デリバティブ理論の応用として、「さまざまな相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買付（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げ、理論と実務の両面から学びを深めます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や重要な事件も適宜紹介し、背景知識の理解を助けます。

本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先物取引やスワップ取引、オプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) オプション取引の関する簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	キャッシュフローと現在価値、無裁定条件、無裁定価格理論、スポットレート、短期金利
第3回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物、債券先物、値洗いと証拠金、先物によるヘッジ取引と投機取引
第4回	先物取引（2）	先物価格の決定理論、日経平均先物と無裁定条件、レバレッジ型投資信託と先物
第5回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、金利スワップとその活用方法、通貨スワップとその活用方法
第6回	スワップ取引（2）	IRSとスワップレート、スワップレートの決定理論、固定・変動利付債の同時取引、パーレート、ブートストラップ法
第7回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、代表的なオプション取引、コールとプット、オプションのペイオフ
第8回	オプション取引（2）	オプションのペイオフ関数、複製戦略、プット・コール・パリティ、オプションによる取引戦略
第9回	確率論の基礎（1）	確率論の基礎概念、確率とその性質、確率変数、無裁定価格理論と確率
第10回	確率論の基礎（2）	期待値、分散、標準偏差、平均リターン、ボラティリティとリスクの概念
第11回	オプション価格理論（1）	オプション価格の決定問題、1期間2項モデル、複製ポートフォリオと無裁定条件

第12回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率と期待収益率、オプション価格理論を用いたTOB（株式公開買付）の分析
第13回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデル、複製ポートフォリオの組み替えと無裁定条件
第14回	オプション価格理論（4）	動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタ、ブラック・ショールズ理論の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（90%、対面試験）と授業期間中の小テスト（10%、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

産業組織論 I

大木 良子

市場経営学科専門科目300番台市場経営学科専門科目300番台 市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の実証手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。春学期の産業組織論Ⅰでは、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや価格差別など市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・ものの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場を分析し、自分の考えを論述することができるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施する。全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また対面での期末試験を行うことを予定している。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか？ 企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
第2回	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 完全競争市場、独占市場それぞれのメカニズムを確認する。
第3回	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違いとは？ なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
第4回	価格差別（1）	価格差別の定義と経済モデルの紹介
第5回	価格差別（2）	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
第6回	価格差別（3）	価格差別の現実の事例を理論的に分析する（携帯電話や飛行機チケットなど）
第7回	中間試験	オンラインで中間試験を実施。これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出题。試験終了後解説を行う。
第8回	寡占（1）	数量を決定して競争する場合（クールノー競争）企業の数が増えたり減ったりすると競争はどのように変わっていくか？
第9回	寡占（2）	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い

第10回	ゲーム理論（1）	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
第11回	ゲーム理論（2）	いろいろなゲームの均衡を求める。
第12回	ゲーム理論（3）	ゲーム理論を用いて寡占市場における数量競争・価格競争を再考する。
第13回	競争政策と産業組織論・事例分析	競争政策の基礎を学ぶ。 現実の競争政策上問題とされた事件を産業組織論を用いて分析する。
第14回	問題演習	春学期に学んだ内容について練習問題を解き解説する。対面で実施予定の期末試験の概要を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018年
『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004年
『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013年
『産業組織の経済学 第2版』長岡・平尾著、日本評論社、2013年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016年
『競争政策論 第2版』小田切宏之著、日本評論社、2017年
『経営の経済学 第3版』丸山雅祥著、有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %
中間試験 15 %
期末試験 65 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画の URL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）
この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies. Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and homework (20%) and mid-term exam (15%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

産業組織論Ⅱ

大木 良子

市場経営学科専門科目300番市場経営学科専門科目300番 市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の実証手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

秋学期の産業組織論Ⅱでは、春学期の産業組織論Ⅰで学んだ内容を前提とし、製品差別化や垂直的な取引制限など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようにすることを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全14回、YouTubeによる動画配信で授業を実施する。

全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また対面で実施予定の期末試験を行う。

学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	近年競争政策上問題となった事例の紹介
第2回	競争政策の復習	競争政策と産業組織論の関係について、春学期に学習した内容を概観し、秋学期の内容の位置づけを確認する。
第3回	製品差別化と競争（1）	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
第4回	製品差別化と競争（2）	垂直的な製品差別化の経済モデルの紹介
第5回	製品差別化と競争（3）	水平的な製品差別化の経済モデルの紹介
第6回	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどうに決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
第7回	合併	合併の経済モデルの紹介、合併が市場競争に与える影響を検討する。
第8回	中間試験	オンラインで中間試験を実施する。これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
第9回	垂直的な取引制限（1）	垂直的な取引制限とはなにか？ 競争政策上問題とされる具体的な事例の紹介
第10回	垂直的な取引制限（2）	様々な垂直的な取引制限と市場競争との関係を理論分析する。
第11回	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係を考察する。
第12回	ネットワーク外部性（1）	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる具体的な市場の紹介（検索エンジンやSNSのビジネスモデル）
第13回	ネットワーク外部性（2）	プラットフォーム間競争と競争政策、最近の事例の紹介

第14回 事例研究

これまでの学習内容を最新の競争政策上問題とされた企業の事例を用いて考察する。対面で実施予定の期末試験の概要を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018年
『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004年
『ブラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013年
『産業組織の経済学 第2版』長岡・平尾著、日本評論社、2013年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016年
『競争政策論 第2版』小田切宏之著、日本評論社、2017年
『経営の経済学 第3版』丸山雅祥著、有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】

宿題20%

中間試験15%

期末試験65%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画のURL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。

宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。

学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。

産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and homework (20%) and mid-term exam (15%).

COT300FD（計算基盤 / Computing technologies 300）

情報技術論 I

入戸野 健

市場経営学科専門科目300 番市場経営学科専門科目300 番 市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材(講義資料)の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
第2回	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
第3回	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
第4回	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
第5回	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
第6回	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
第7回	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
第8回	基数の変換	数の表現方法として10進数・2進数などの性質や変換の方法について解説する。
第9回	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
第10回	コンピュータの構成装置(1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
第11回	コンピュータの構成装置(2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
第12回	周辺機器の接続とインターフェース	各種機器をPCへ接続するためのインターフェースについて説明する。
第13回	ICとデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路(IC)の基礎について解説する。
第14回	デジタル機器とデジタル家電	PCやスマートフォンと連携する各種の身の回りのデジタル家電を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておいてください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%) : 毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート (15%) : 授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で2～3回程度出題します。

期末考査 (70%) : 期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎 I / II

プログラミング言語 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

COT300FD (計算基盤 / Computing technologies 300)

情報技術論 II

入戸野 健

市場経営学科専門科目300 番台市場経営学科専門科目300 番台 市場経営学科専門科目 3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材(講義資料)の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ソフトウェアとプログラム	ソフトウェアの特性について解説する。
第2回	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
第3回	プログラミング言語の概要	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
第4回	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷について概観する。
第5回	LANとその発展	LANや小規模なネットワークからその発展による広域化について解説する。
第6回	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
第7回	Web技術とeコマース	Webによるサービスの展開方法を解説しeコマースの事例を考察する。
第8回	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要となる各種の技術について解説する。
第9回	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
第10回	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
第11回	情報とセキュリティ	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティについて考察する。
第12回	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。
第13回	情報化と社会活動	新しい情報ツールが日常生活や組織活動へ与える影響について展望する
第14回	応用と展望	IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)等の応用技術を考察し今後を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習を行ってください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%) : 毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート (15%) : 授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で2～3回程度出題します。

期末考査 (70%) : 期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎 I / II

プログラミング言語 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

経営のための経済学

宮澤 信二郎

市場経営学科専門科目300番市場経営学科専門科目300番 市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の経営者あるいは部門の責任者は、どのようなことに注意して、どのように行動したら良いのでしょうか。どのような人を雇って、どのように処遇したら良いのでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いのでしょうか。この授業では、ミクロ経済学の考え方を企業の取引関係、人事・組織、財務に関するさまざまな問題に当てはめる（応用する）、いわゆる、「企業の経済学」、「経営の経済学」について、その初歩を学びます。同時に、最適化理論、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論といった理論の基礎を学びます。

【到達目標】

以下の3点をこの授業の到達目標とします。

- 1) 企業の取引関係、人事・組織、財務に関して、どのようなことに注意して、どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。
- 2) 関連する経済学の考え方、つまり、最適化、ゲーム、契約の理論に関して、その基本を押さえ、具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。
- 3) 複雑な状況の本質を押さえて、より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマについて、具体的な状況の例を挙げながら、基本的な考え方を説明します。説明にあたっては、概念図や簡単なグラフなどを用い、なるべく直観的に理解できるようにします。各回とも、質疑・応答の時間を十分に取ります。また、簡単な例題を出題し、授業内で参加者の解答と正解を確認します。これらにより、受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は、毎回、授業内容の復習をすることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論：企業を経営する	企業の経営に関して、まず何を把握しなくてはいけないのかについて考えたうえで、経営の意思決定の基礎を学びます。
2	生産：何をどうやって作るか	生産技術と生産の決定に関して学びます。
3	販売：誰にいくらで売るか	市場の環境に応じて、誰にいくらで売ることになるのかについて学びます。
4	交渉：儲けはどうやって分け合うか	特定の相手との間の交渉について学びます。
5	リスク：先のことはよくわからない	企業が直面する様々なリスクについて確認したのちに、リスクに直面するときの意思決定に関して学びます。
6	情報：相手のことはよくわからない	取引相手との間で情報の非対称性があるときにどのような問題が起こるのかについて学びます。また、これらの問題に対する対応方法について検討します。
7	中間試験と振り返り	第6回までの内容について試験を実施したうえで、これまでの振り返りを行います。
8	採用（1）：学歴で選ぶのはあり？	労働者の能力に関する情報の問題を確認したうえで、学歴のシグナリング機能に関して学びます。
9	採用（2）：仕事を選んでもらおう！	コース別採用のスクリーニング機能について学びます。
10	人材（1）：仕事を頑張ってもらおう！	労働者の努力に関する情報の問題を確認したうえで、成果給の役割と限界について学びます。
11	人材（2）：スキルアップしてもらおう！	能力開発における企業と労働者との利害関係と待遇上の工夫について学びます。
12	財務（1）：いいビジネスなんだけどお金はどうする？	企業が必要な資金を調達する手段として、負債と株式の違いについて学びます。

13 財務（2）：どうしたらお金を出してもらえるの？

資金を調達する際にどのような問題が起こり得るのかについて学び、どのように資金調達をしたら良いのかについて検討します。また、企業の財務危機についてどのように考え、どのように対応したらよいのかについて学びます。

14 期末試験とまとめ

期末試験を実施したうえで、全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容の復習をしてください。それ以外では、他の授業の復習や新聞を読んだりニュースを聞いたりする中で、この授業で扱っている内容と関連がある話を探し、当てはめて考える訓練を試みてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣（2012年）
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス（第2版）』日本経済新聞出版（2021年）
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000年）
デイビッド・ベサンコほか（奥村昭博・大林厚臣監訳）『戦略の経済学』ダイヤモンド社（2002年）
エドワード・ラジャー、マイケル・ギブス（樋口美雄監訳）『人事と組織の経済学実践編』日本経済新聞出版社（2017年）
などです。必要に応じて授業中に追加を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、中間試験（30％）、期末試験（40％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過年度の授業中に回収したリアクションペーパーへの記載内容等を踏まえ、学生が興味を持つような内容を、より丁寧に説明しようと思います。また、可能な限り、双方のやり取りをする時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出に学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

1) 専門入門科目の「経済学入門」と「ミクロ経済学入門Ⅰ／Ⅱ」（旧カリキュラムの学生の場合は専門基礎科目A群）を履修している、あるいは同等以上の内容を学習していることが望ましいです。
2) 関連する専門科目として、「産業組織論」、「組織経済学」、「コーポレートファイナンス入門」（旧「企業財務論」）、「金融論」、「日本経済論」、「国際経済論」などがあります。
3) 担当者は銀行において貸出業務に従事した実務経験を有しています。これに関連して、企業の資金調達（銀行借入を含む）に関する授業を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this class, you will learn various applications of basic ideas of microeconomics on corporate management regarding (i) trade relation, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance. You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A) Analysing various matters regarding trade relation, personnel and organization, and corporate finance, by themselves.
- B) Investigating various practical situations based on the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.
- C) Understanding the essence of complex situations and thinking more logically.

[Learning activities outside of classroom] Students are required to review the lesson contents after each class meeting. Further they will be expected to find some contents related to what they have learned in this class in other classes of lessons and daily news, and to train themselves to apply the ideas they have learned. Before/after each class meeting, they will be expected to spend four hours to practice the above activities. [Grading Criteria/Policy] Final grade will be decided based on the mid-term examination, (30%), term-end examination (40%), and in class contribution (30%).

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。最初に「デリバティブとは何か？」という基本的な問いから講義を始めますが、その後、金融や財務のさまざまな場面でデリバティブ取引がどのように活用されているかを具体的に理解していきます。本授業の主な目的は、ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提としたデリバティブの価格決定理論を学ぶことです。同時に、金融実務における活用例も詳しく解説します。さらに、デリバティブ理論の応用として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」といったトピックについても取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や著名な事件なども適宜紹介し、理論と実務の両面から学びを深めます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にもつながる知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	金融・証券市場の基礎知識 (1)	金融・証券市場の概観、直接金融と間接金融、発行市場と流通市場、金融市場の規制と監視
第3回	金融・証券市場の基礎知識 (2)	債券市場、債券の種類、利付債と割引債、国債と社債の発行市場、債券の流通市場
第4回	金融・証券市場の基礎知識 (3)	株式市場、株式の種類、普通株と優先株、株式の発行市場、株式の流通市場、株式市場の再編
第5回	金融・証券市場の基礎知識 (4)	外国為替市場、短期金融市場、デリバティブ市場、デリバティブに関連する事件
第6回	キャッシュフローと現在価値 (1)	金融取引の基礎概念、キャッシュフロー、将来価値、現在価値、複利運用
第7回	キャッシュフローと現在価値 (2)	付利期間、半年複利、キャッシュフローの価値比較、割引因子とその性質
第8回	効率的市場と無裁定価格理論	ケインズの美人投票、効率的市場仮説、裁定取引、無裁定条件、無裁定価格理論
第9回	先渡取引 (1)	先渡取引の概要、為替予約のしくみ、為替予約のペイオフ、為替予約によるヘッジ取引と投機取引
第10回	先渡取引 (2)	先渡価格の決定理論、為替予約と無裁定条件、金利パリティ、フォワード・プレミアム・パズル
第11回	債券と金利の関係 (1)	債券の価格公式、複利最終利回り、所有期間利回り、スポットレート、イールドカーブ
第12回	債券と金利の関係 (2)	フォワードレート、ブートストラップ法、短期金利と将来価値・現在価値

第13回	先渡取引 (3)	金利先渡取引、FRAのしくみ、FRAのペイオフ、FRAによるヘッジ取引と投機取引
第14回	先渡取引 (4)	先渡金利の決定理論、FRAと無裁定条件、先渡金利の公式、中央銀行の金融政策と先渡金利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（90%、対面試験）と授業期間中の小テスト（10%、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

ECN300FD（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

山 寄 輝

市場経営学科専門科目 3～4年次／2単位 〔秋学期授業/Fall〕

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を扱います。特に、デリバティブの中でも最も重要とされる「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的です。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例についても詳しく解説します。さらに、デリバティブ理論の応用として、「さまざまな相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買付（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げ、理論と実務の両面から学びを深めます。また、デリバティブに関連する歴史的な出来事や重要な事件も適宜紹介し、背景知識の理解を助けます。本授業の内容は、「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」など、金融実務に関連する資格試験にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先物取引やスワップ取引、オプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論を理解し、説明できる。
- (4) オプション取引の関する簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、講義概要、到達目標、授業計画、成績評価基準、資格試験との関連性
第2回	デリバティブ入門Ⅰの復習	キャッシュフローと現在価値、無裁定条件、無裁定価格理論、スポットレート、短期金利
第3回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物、債券先物、値洗いと証拠金、先物によるヘッジ取引と投機取引
第4回	先物取引（2）	先物価格の決定理論、日経平均先物と無裁定条件、レバレッジ型投資信託と先物
第5回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、金利スワップとその活用方法、通貨スワップとその活用方法
第6回	スワップ取引（2）	IRSとスワップレート、スワップレートの決定理論、固定・変動利付債の同時取引、パーレート、ブートストラップ法
第7回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、代表的なオプション取引、コールとプット、オプションのペイオフ
第8回	オプション取引（2）	オプションのペイオフ関数、複製戦略、プット・コール・パリティ、オプションによる取引戦略
第9回	確率論の基礎（1）	確率論の基礎概念、確率とその性質、確率変数、無裁定価格理論と確率
第10回	確率論の基礎（2）	期待値、分散、標準偏差、平均リターン、ボラティリティとリスクの概念
第11回	オプション価格理論（1）	オプション価格の決定問題、1期間2項モデル、複製ポートフォリオと無裁定条件

第12回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率と期待収益率、オプション価格理論を用いたTOB（株式公開買付）の分析
第13回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデル、複製ポートフォリオの組み替えと無裁定条件
第14回	オプション価格理論（4）	動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタ、ブラック・ショールズ理論の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2024-2025年版』、2024年、日本経済新聞出版
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（90%、対面試験）と授業期間中の小テスト（10%、Webテスト）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例を多く紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 90%, short examination: 10%.

LAN100ZA
English Test Preparation for IELTS
Marcus Lovitt
Credit(s) : 2 Semester : 春学期授業/Spring Year : 1～4
Day/Period : 火2/Tue.2
Notes : Not Available for ESOP Students.
その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

English Test Preparation for IELTS is designed to teach language skills, effective test-taking techniques, and strategies for the IELTS examination.

【Goal】

This course is designed for students who are interested in improving their English test scores or who want to study in the United Kingdom, Australia or New Zealand in the future. Its purpose is to help you attain advanced command of English, which shall be reflected in your IELTS test scores.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 4”.

【Main Teaching Method】
S 演習/ゼミ/Seminar

【Method(s)】

Students will learn effective strategies for increasing scores in each section of the IELTS through class discussion and exercises throughout the course. These include becoming familiar with the test format, understanding question types, and learning how to expand speaking and writing responses. Personal advice on methods of individual study (which is strongly recommended) will be given as required. As this is a skills-based course, emphasis will be placed on practical skills rather than class lectures. To this end, students will also participate in regular vocabulary and idiom quizzes, as peer review activities. Feedback on coursework will be given during class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり/Yes

【Fieldwork in class】
なし/No

【Schedule】Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Writing I	・ Introduction to the writing section. The class will look at question types, scoring and test strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
3	Speaking I	・ Introduction to the speaking section. The class will study question types, scoring and test strategies ・ Practice for Speaking Part 1 ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
4	Listening I	・ Introduction to the listening section. We will cover questions types, scoring and test strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
5	Reading I	・ Introduction to the reading section. The class will cover question types, scoring and strategies ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
6	Writing II	・ Practice for writing task 1. The class will study language for summarizing data. ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
7	Mid-term examination; Speaking II	・ This class will consist of a short exam to test student progress ・ Practice for speaking part 2
8	Listening II	・ The class will undertake listening and summarizing exercises ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz

9	Reading II	・ The class will do exercises for the reading section and practice techniques such as skimming and scanning ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
10	Writing III; Speaking III	・ Practice for writing task 2. The class will study opinion techniques, paraphrasing etc. ・ Practice for speaking parts 2 & 3 ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
11	Listening III; Reading III	・ Practice for listening tasks 3 & 4 ・ Practice for reading section (timed exercises, etc.) ・ Vocabulary and idiomatic expression quiz
12	Writing IV; Speaking IV	・ Review of the writing and speaking sections
13	Listening IV; Reading IV	・ Review of the listening and reading sections
14	Final Examination and Wrap-Up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

1. Pauline Cullen, Amanda French, et al. The Official Cambridge Guide to IELTS Student's Book with Answers with DVD-ROM. Cambridge English (Feb 27, 2014)

【References】

1. Essential Words for the IELTS: With Downloadable Audio by Lin Lougheed Ph.D. Barrons Educational Series. Third edition (December 1, 2016)
2. Cambridge Univ Press. IELTS 14 Academic Student's Book with Answers with Audio: Authentic Practice Tests (Jun 20, 2019)

【Grading criteria】

Assessment will be based on the following:

1. Class participation and homework (30%)
2. Mid-term exam / practice test (30%)
4. Final exam (40%)

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable

【Prerequisite】

None.

PRI100ZA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

Introduction to Statistics

Adam Randall Smith

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木1/Thu.1

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course introduces students to fundamental statistical concepts and methods used in data analysis. Students will learn how to organize, summarize, and interpret data using statistical techniques. The course covers descriptive and inferential statistics, including probability, hypothesis testing, and correlation. The focus is on real-world applications in a variety of disciplines, preparing students to use statistical reasoning in decision-making and research.

【Goal】

By the end of this course, students should be able to:

1. Understand and apply descriptive statistics, including measures of central tendency and variability.
2. Interpret data visualizations such as histograms, scatter plots, and bar graphs.
3. Conduct basic inferential statistical tests, including t-tests and regression analysis.
4. Use probability concepts to make informed decisions.
5. Differentiate between population vs. sample and understand the significance of sample distributions.
6. Apply statistical reasoning in various fields, including business, social sciences, and health sciences.
7. Gain familiarity with statistical processing software, especially Microsoft Excel, R, and ChatGPT.
8. Enjoy statistics; if you can truly understand basic statistics, you will see the world in a new and beautiful way!

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course uses a lecture-based approach combined with interactive problem-solving activities. Students will engage in real-world examples, in-class exercises, and discussions. The use of statistical software and spreadsheets will be introduced but a full understanding of these programs is not required (i.e., you will only be taught as much as is necessary for each topic). Homework assignments reinforce concepts covered in class, and students are encouraged to actively participate and ask questions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Statistics & Course Overview	What is statistics? Why does it matter? Overview of course structure, grading, and key concepts. Basic introduction to data types.
2	Descriptive Statistics (1)	Understanding measures of central tendency (mean, median, mode) and their significance. Data visualization techniques (histograms, box plots).
3	Descriptive Statistics (2) & Variability	Understanding variability: range, interquartile range (IQR), variance, and standard deviation. The importance of data spread.
4	Correlation & Scatter Plots	Understanding relationships between two variables. How to interpret scatter plots and calculate correlation coefficients.
5	Population vs. Sample & Probability Basics	Introduction to probability concepts. Understanding populations, samples, and the importance of representative sampling.

6	Probability Distributions & Z-scores	Normal distribution, standardization, and Z-scores. How to compare individual scores to a population.
7	Hypothesis Testing: Concepts & Framework	Understanding null vs. alternative hypotheses, Type I & Type II errors, and p-values. Interpreting statistical significance.
8	Midterm Exam (In-Class)	Assessment covering descriptive statistics, probability, correlation, and hypothesis testing. Designed to gauge progress before moving into inferential statistics.
9	T-tests (1): Understanding Mean Comparisons	When and why we use t-tests. Introduction to one-sample and independent-samples t-tests.
10	T-tests (2): Paired Samples & Applications	Understanding paired t-tests and how they apply to repeated measures. Practical examples and real-world applications.
11	Regression Analysis (1): Understanding Relationships	Introduction to simple linear regression. How to interpret regression equations and coefficients.
12	Regression Analysis (2): Multiple Regression & Predictions	Expanding to multiple predictors. Interpreting R-squared, coefficients, and making data-driven predictions.
13	Common Statistical Misconceptions & Real-World Applications	Exploring how statistics are misused in media, politics, and research. Common pitfalls in data interpretation and how to spot misleading statistics.
14	Preparing for the Final Exam	Review of key topics. Practice problems, common mistakes, and strategies for success on the Final Exam. Q&A session.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete weekly homework assignments that reinforce key concepts covered in class. These assignments will involve problem-solving, data analysis, and interpretation of statistical results. Additionally, students are encouraged to review their lecture notes and handouts after each class.

Students should expect to spend at least 2 hours per week on assignments, reviewing concepts, and practicing problems outside of class.

Regular practice is essential for developing a solid understanding of statistical methods and their applications.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【References】

References will be introduced in class.

【Grading criteria】

Students will be evaluated on the basis of active participation and assignments given in each class (40%). There will also be two exams, a Midterm Exam (30%) and Final Exam (30%). The purpose of the Midterm Exam is to assure you are learning at a suitable pace, and identify any potential learning problems early.

No credit will be given to students with more than two unexcused absences.

【Changes following student comments】

Not applicable

【Others】

This course is strongly recommended for students interested in various disciplines in the social sciences. It will be particularly useful for students intending to conduct their own research as part of a seminar, psychology courses, or related fields.

Additionally, students will be encouraged to use AI tools such as ChatGPT and statistical software to enhance their learning. AI can assist with data visualization, summarizing concepts, and generating study resources. However, its use should remain supplementary — not a replacement for critical thinking and problem-solving.

Rules regarding AI use:

1. AI-generated responses must be fact-checked and not used blindly.
2. AI tools may not be used during exams.
3. If AI is used, students must cite AI contributions in assignments (e.g., "ChatGPT was used for initial topic brainstorming").

By engaging critically with both statistical methods and modern tools such as AI, students will develop a deeper understanding of data analysis and research design while strengthening their ability to navigate technological advancements in the field.

Final note: I am an Assistant Professor of Psychology at ICU; I typically teach over 150 students in my Introductory Statistics Courses. Therefore, I am very much looking forward to teaching a smaller group of students at Hosei! Either way, please feel free to reach out to me any time.

【Prerequisite】

None.

CAR100ZA (キャリア教育 / Career education 100)

Professional Communication

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木3/Thu.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Communication is one of the key skills employers look for in potential employees. The rapid diversification of global communications and the collapse of traditional professional working practices in the first two decades of the twenty-first century have made these skills even more salient; modern employers increasingly demand transferrable skills, interdisciplinary knowledge and an ability to address a diverse audience. At their very heart, these competencies are enhanced by an ability to understand, construct and manipulate written information in order to use them in a variety of situations.

【Goal】

Graduates with a good command of English are likely to end up in the global job market, so this course aims at giving students a competitive edge when embarking upon their chosen career path. This course will help students prepare for the English-language job hunting process and provide an overview of the key professional communication styles, as well as a chance to see how these have a real application in the professional world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The first half of the course will look at the English-language job hunting process, from analysing a job advertisement to creating a CV (résumé) and cover letter. Students will learn how to make their application documents stand out from the crowd and then participate in a mock interview for the job. These documents and skills can be used in a real-life job, or internship, application. The second half of the course then aims to build familiarity in some of the key forms of professional communication, such as press releases, emails and business documents. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Job Hunting: Job Advertisements	Looking at the features of job advertisements
3	Job Hunting: Writing a CV I	Explanation of the features of a good CV (résumé)
4	Job Hunting: Writing a CV II	Producing an English language CV (résumé)
5	Job Hunting: The Cover Letter I	Explanation of the features of a good cover letter
6	Job Hunting: The Cover Letter II	Writing an original cover letter
7	Job Hunting: Preparing for an Interview	What will they ask?
8	Mock Job Interviews	Students will participate in an online mock job interview
9	Formal Emails	Striking the right tone in communication
10	Editing	Common errors and ways to improve written English
11	Press Releases	The basics of how to prepare information for publication
12	Reports	Communicating business information
13	Agendas and Minutes	Outlining standard layouts of everyday documents
14	Final Exam and Wrap Up	Written examination and summary

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

【References】

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.Garner, B. (2012). *Harvard Business Review guide to better business writing*. Boston, US: Harvard Business Review Press.Marsen, S. (2020). *Professional writing (fourth edition)*. London, UK: Palgrave Macmillan.Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

【Grading criteria】

Class participation (10%), assignments (25%), CV and cover letter (20%), mock interview (20%), final exam (25%).

【Changes following student comments】

The mock interviews will be conducted via Zoom as the medium allows students to be immersed in an authentic-looking interview environment. The interviews are recorded and shared with the student for self-reflection and critical analysis.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop will be required in most sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

ART100ZA (芸術学 / Art studies 100)			2	Gesture drawing	This class emphasizes capturing the energy and movement of a subject through quick, expressive sketches. Students will explore gesture drawing as a way to convey the essence and action of a scene. Practical Exercise: Using a variety of live models or reference images to create a series of quick gesture drawings, focusing on capturing the overall movement and flow of the subjects.
Introduction to Fine Art					
Timothy Betjeman					
Credit(s) : 2 Semester : 秋学期授業/Fall Year : 1~4					
Day/Period : 月4/Mon.4					
その他属性 : <優>					
【Outline and objectives】			3	Shapes and forms/ light and shadow	Building on the foundations of Weeks 1 and 2, this class delves into the use of shapes and forms in drawing. Students will experiment with geometric and organic shapes, under various lighting conditions, understanding how they contribute to creating a sense of volume and three-dimensionality. Practical Exercise: Drawing a still life with a strong light source
In this course, students will develop their knowledge of fine art actively by exploring the fundamental principles of drawing. The course is structured to provide a comprehensive overview of various drawing techniques, materials, and concepts, catering to individuals with diverse backgrounds and interests.			4	Tools of mark making	This session encourages students to experiment with a variety of drawing tools and mark-making techniques to describe forms, express emotions and convey a sense of energy and movement in their drawings. Practical Exercise: Choose a subject that evokes a specific emotion and create a drawing using expressive marks to capture the mood and atmosphere.
The outline of the course encompasses a progression from basic line drawing to more complex compositions, through reference to contemporary and art historical examples and live demonstrations, encouraging students to develop their observational skills and artistic intuition. Through guided practice, discussions, hands-on exercises and engaging projects, participants will gain a solid foundation in drawing while fostering their personal expression and visual communication abilities.			5	Understanding proportions and scale	This week focuses on honing observational skills by exploring proportions and scale in drawing. Students will engage in exercises aimed at accurately representing the relationships between objects and their sizes in a composition. Practical Exercise: Self-portrait
【Goal】			6	Introduction to perspective drawing	Students will delve into the basics of linear perspective, learning how to create depth and space in their drawings. This class introduces one-point, two-point, and unconventional perspective techniques. Practical Exercise: Construct a simple interior or exterior scene using one-point or two-point perspective, applying the principles learned in class.
The primary goal of this introductory course is to provide a comprehensive foundation in drawing skills, working toward both technical proficiency and individual expression. Throughout the course, students will engage in a series of progressively challenging exercises and projects aimed at developing their observational abilities, understanding of composition, and creative mark-making techniques. A key focal point of the course is the cultivation of a personal portfolio, wherein students will compile a selection of their best works across various themes and techniques explored during the semester, and have an opportunity to benefit from a discussion/critique with their peers on the work. The ultimate objective is for students to present a cohesive and compelling portfolio that reflects their artistic growth, visual literacy, and the application of learned concepts, showcasing the diverse ways in which drawing can be a powerful tool for communication and self-expression.			7	Exploring texture and detail	This session emphasizes the importance of texture in drawing and introduces techniques for capturing fine details. Students will explore various mark-making methods to convey different textures realistically. Practical Exercise: Choose an object with interesting textures (e.g., fabric, tree bark, or a feather) and create a detailed drawing, focusing on the texture and surface qualities.
【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】			8	Creative composition	This class focuses on the principles of composition in drawing, including balance, harmony, and focal points. Students will explore how these elements contribute to the overall visual impact of their work. Practical Exercise: Compose a drawing using found objects, arranging them in a visually interesting way, and paying attention to the overall balance and flow of the composition.
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.					
【Main Teaching Method】					
S 演習/ゼミ /Seminar					
【Method(s)】					
Classes will begin with a brief lecture, slideshow, or screening introducing the week's topic, with reference to artists and/or artistic traditions. This will be followed by a guided practical activity, involving an extended focus on a given subject.					
Students will be expected to keep a sketchbook and journal, and weekly drawing/writing assignments completed outside of class will form an important part of the structure of the course.					
Students will receive critical feedback on their work in the form of in class critiques, group discussions, and grades or written comments on assignments submitted online.					
【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】					
あり / Yes					
【Fieldwork in class】					
なし / No					
【Schedule】 Class form : 対面/face to face					
No.	Theme	Contents			
1	Introduction to drawing	This session provides an overview of the course, introducing basic drawing materials and techniques. Students will engage in simple line exercises to familiarize themselves with the act of mark-making and begin developing hand-eye coordination. Practical Exercise: Creating a series of contour drawings focusing on everyday objects, emphasizing the importance of observation and the relationship between eye and hand.			

9	Negative space and figure-ground relationship	Students will explore the concept of negative space and how it contributes to the overall composition. This class also introduces the figure-ground relationship and its importance in creating dynamic and visually engaging drawings. Practical Exercise: Create a drawing that emphasizes the negative space, incorporating both positive and negative shapes to define the subject matter.
10	Color in drawing	Introducing color into the drawing process, this class explores the use of various drawing media to add vibrancy and dimension to artwork. Practical Exercise: Experiment with colored pencils, pastels, gouache, or watercolor to add color to a previously created drawing, exploring the effects and possibilities of each medium.
11	Portfolio preparation	Group discussions reviewing drawings produced so far.
12	Portfolio review	In class portfolio presentation and critique for all students. Individual presentations to the class.
13	Portfolio review	In class portfolio presentation and critique for all students. Individual presentations to the class.
14	Portfolio review/ interdisciplinary applications	Individual presentations and critiques continue, followed by a discussion and reflection on drawing as a mode of thought, and how it might be applied in situations outside the scope of fine arts.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are be required to complete practical activities outside of class time.

In addition to class activities and regular notebook work, students will be required to spend time every week working towards their portfolio before the final review.

Research on an artist selected by the student will also be expected.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Berger, John (1977) Ways of Seeing, Penguin Books. · Dexter, Emma (2005) Vitamin D: New Perspectives in Drawing. Phaidon Press.

Ingold, Tim (2007) Lines: A Brief History. Routledge Classics.

Weschler, Lawrence (1982) Seeing is Forgetting the Name of the Thing One Sees, UCLA Press.

Weschler, Lawrence (2009) True to Life: 25 Years of Conversations with David Hockney, UCLA Press.

【Grading criteria】

Participation and attitude - 25%

Tasks - 30%

Completed portfolio - 30%

Presentation - 15%

【Changes following student comments】

More time has been allocated for in-class projects and portfolio review presentations.

【Equipment student needs to prepare】

A sketchbook (A3) and notebook (A5-A4) with plain white paper.

Loose sheets of paper for quick sketching.

Basic drawing materials:

Pencils (ex. 2B, 4B, 6B)

Black ball-point pen

30cm ruler

Gum (putty) eraser, block eraser

Charcoal or chalk pastels

Additional materials will be specified throughout the course as required.

【Prerequisite】

None.

FRI100ZA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 100)

Introduction to Programming

Alfons Josef Schuster

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Today, computers and computer programs (software) are omnipresent in the world around us. This course is an introductory course on computer programming. Programming is a creative activity, and the course emphasizes hands-on computer programming. The course aims to familiarize students with fundamental programming concepts such as Variables, Strings, Arrays, Operators, Conditional Statements, Loops, Functions, and so on. The course also aims to apply these basic programming concepts to computer-based problem-solving methods.

【Goal】

By the end of the semester, students should: (i) understand fundamental programming concepts shared by most programming languages, (ii) be able to apply these concepts to a wide range of problem situations, and (iii) have gained an understanding of the popular Python programming language.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2” and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

The main elements of the course are lectures, assignments, programming exercises, and in-class discussions. The lectures relate to the topics mentioned in the course schedule below. A class typically provides feedback and guidance on assignments. In addition, each class provides various programming exercises that allow students to engage actively, discuss, and practice current issues in computer programming.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course.	Introduction to the course and to programming in Python.
2	Introduction to basic programming elements.	Inputs, outputs and variables. Programming exercises.
3	Introduction to basic programming elements.	Data types and operations. Programming exercises.
4	Introduction to basic programming elements.	Selection. E.g., if, else, or elif. Programming exercises.
5	Introduction to basic programming elements.	Iteration. E.g., for loops, and while loops. Programming exercises.
6	Introduction to basic programming elements.	Review and consolidation of material so far. Programming exercises.
7	Review and midterm exam.	Review and final tips. Midterm exam.
8	Introduction to basic programming elements.	Data structures. E.g., lists, tuples, sets, or dictionaries. Programming exercises.
9	Introduction to basic programming elements.	Subroutines. E.g., functions, methods, or modules. Programming exercises.
10	Introduction to basic programming elements.	File handling. E.g., reading from and writing to text files. File management. Programming exercises.
11	Introduction to more advanced Python programming elements.	Making programs robust. E.g., validation, debugging, or exception handling. Programming exercises.
12	Introduction to more advanced Python programming elements.	Algorithms. E.g., searching and sorting. Programming exercises.

13	Introduction to more advanced Python programming elements.	Review and consolidation of material so far. Programming exercises.
14	Final examination & wrap-up.	Review and final tips. Final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Class preparation and review for this class are 2 hours each. Students are expected to read various course related materials carefully to acquire a thorough understanding of the ideas and concepts presented to them in class. In addition, students are given weekly assignments. These assignments are an important element in the course and contribute to the overall mark that a student may achieve.

【Textbooks】

Python For GCSE Computer Science, by CGP Books (2024), ISBN-10: 1789088623, ISBN-13: 978-1789088625.

【References】

In addition, the course uses various online materials such as tutorials or videos. Handouts and other reading materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Participation (10%).
Assignments (20%).
Midterm exam (30%).
Final exam (40%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

The first class provides instructions about setting up a Python working environment on a PC/laptop.

【Prerequisite】

None.

MAN100ZA (経営学 / Management 100)

Leadership and Career Development

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 5/Mon.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

The primary objective of this course is to provide students with a deep understanding of entrepreneurship, and careers in both Japanese global companies and foreign affiliated companies. The knowledge and insights based on the real-life experiences of GGLI Fellows will assist students in learning the necessary skills, strategies, and thought processes for success in today's business environment. This course covers everything from the fundamentals of starting a business to actual business case studies, with the aim of integrating theory with practice. Furthermore, the global perspectives offered by GGLI Fellows, who come from diverse cultural backgrounds, will deepen students' understanding of how to thrive in international markets. Through this course, students will learn about adapting business models in different markets, the importance of intercultural communication, and ways to demonstrate leadership in various business environments. Additionally, for students aspiring to pursue entrepreneurship or careers in the global arena, this course will also provide opportunities for contemplation on career paths through these experiences.

【Goal】

The key learning objectives to be achieved through this course are as follows:

1. Understanding Entrepreneurship: Students will understand the skills, strategies, and mindset required to be a successful entrepreneur and learn how to actualize their own ideas.
2. Adaptability in a Global Business Environment: Students will grasp the complexities of conducting business across cultures and acquire the knowledge and skills necessary for adapting business models in international markets.
3. Leadership and Problem-Solving Skills: Students will learn how to exhibit leadership and propose innovative solutions to complex problems in real business scenarios.
4. Discovering and Planning One's Career Path: Based on their strengths and interests, students will learn how to plan their career path as entrepreneurs or in Japanese global corporations and multinational companies, and take the first steps toward it.
5. Adapting to Real Business Environments: Students will learn how to respond to challenges in real business environments through actual business case studies.

Upon completing this course, students will have established a foundation for thriving in the modern business environment and will be able to take practical steps toward shaping their future careers.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ/Seminar

【Method(s)】

The teaching method of this course emphasizes a practical and interactive approach. GGLI Fellows will bridge the gap between theory and practice by sharing their own experiences and expertise. Through lectures and interactive discussions, students will have opportunities to analyze real business scenarios and develop problem-solving skills.

This course encourages active participation and self-expression from students, and has the aim of deepening their thinking and enhance their skills. Each week, following the lecture by a Fellow, the instructor will facilitate interaction between the Fellow and the students. By the end of the course, students will have acquired practical knowledge and confidence for success in a global business environment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	Entrepreneurship & IT (1)	Explore entrepreneurial career pathways, including founding ventures, setting up a Japan entity, and exits such as buyouts.

3	Global Business & International Expansion	Examine how Japanese companies expand globally and the strategic and operational challenges they face.
4	Multinational Corporations & HR	Consider what it is like to work in foreign-owned firms and how HR practices are designed and managed in multinational settings.
5	Government & Entrepreneurship	Discuss government policies and initiatives that support entrepreneurship and startups.
6	Entrepreneurship & IT (2)	Gain a broader view of entrepreneurship as a career, including the skills, decisions, and trade-offs entrepreneurs face.
7	Japanese Firms & Overseas Subsidiaries (Manufacturing) (1)	Look at roles, responsibilities, and career development in overseas subsidiaries of Japanese manufacturing companies.
8	Japanese Firms & Overseas Subsidiaries (Finance) (1)	Explore work practices and career paths in overseas subsidiaries of Japanese financial institutions.
9	Entrepreneurship & African Business	Examine entrepreneurship opportunities in Africa and key trends shaping the future of African business.
10	Entrepreneurship & Emerging Technologies	Review business cases where emerging technologies are leveraged to create new products, services, and business models.
11	AI & Society	Explore the relationship between AI and society, including opportunities, risks, and governance considerations.
12	Japanese Firms & Overseas Subsidiaries (Finance) (2)	Deepen understanding of roles and career trajectories in overseas subsidiaries of Japanese financial institutions through additional cases and perspectives.
13	Japanese Firms & Overseas Subsidiaries (Manufacturing) (2)	Further examine work and career development in overseas subsidiaries of Japanese manufacturing companies, with a focus on practical insights and examples.
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Each week, students are required to review the lecture materials and prepare for the upcoming week's lecture. Preparatory study and review time for this class are expected to be 2 hours for each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

References will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on a reaction paper submitted after the lectures (70%) and an essay in the final exam (30%). Grades will not be assigned from A to E, but will be determined as pass or fail. The passing criteria is set at a score of 70% or above.

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

None

【Others】

This course is available to GIS sophomores, juniors, seniors, and others (GIS freshmen and students from other faculty /departments) and accepts more students than the standard number of students at GIS. However, the priority for enrollment will be in the following order: GIS juniors, seniors, sophomores, freshmen, and then students from other departments if the number exceeds the limit. We may impose enrollment restrictions by grade level.

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA (中国語 / Chinese language education 100)

Chinese A I

Nao Sato

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

この授業は、中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、中国語を使って初級レベルの意思疎通ができるようになることを目的とする。授業では、指定の教科書に沿って文法を解説し、「読む・書く・聞く・話す」練習をおこなうことで、中国語の基礎を身につけていく。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to help students acquire basic communication skills in Chinese. In every class, the lecturer will explain the grammar in line with the textbook and students will practice reading, writing, listening and speaking, in order to improve their basic skills in Chinese.

【Goal】

この授業の到達目標は以下のとおりである。

1. 中国語の発音と文法の基礎を理解し、正しくもちいることができる。
2. 基本的な中国語の読み書き、聞きとり、会話によって、日常的な場面において初級レベルの意思疎通ができる。

The goals of this course are as follows:

1. Students will become able to understand the basics of pronunciation and grammar of Chinese and use them precisely.
2. Students will become able to communicate with others at a basic level by reading, writing, listening and speaking in everyday situations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

- ・基本的には、指定の教科書に沿って毎回1課ずつ進める。まず担当講師が文法を解説し、その内容を理解してもらったうえで、学生に教科書の練習問題を解いてもらう。
- ・発音と文法に慣れるため、授業では講師が学生を指名するので、音読や回答をしてもらう。また、前に出て板書してもらったり、学生どうしで会話練習してもらったりする機会も設ける。
- ・継続的な学習が必要となるため、毎回の授業の初めに小テストをおこなう。担当講師は、添削した小テストを学生に返却し、まちがいの多かった問題については随時解説する。
- ・授業で学んだ項目の定着を図るため、自宅でeラーニングに取り組んでもらう。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第1課あるいは第2課	発音 (一) [簡体字とピンイン]、発音 (二) [声母]
3	第3課あるいは第4課	発音 (三) [韻母]、発音 (四) [二音節語の声調20パターン]
4	第5課あるいは第6課	自己紹介 [您贵姓?], 動詞述語文 [你学习什么?]
5	第7課あるいは第8課	形容詞述語文 [北京大学很大]、名詞述語文 [我十八岁]
6	第9課あるいは第10課	主述述語文 [你哪儿不舒服?], 連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第11課あるいは第12課	補語 [你每天看几个小时?], 動詞述語文 (一) [她是谁?]
8	第13課あるいは第14課	動詞述語文 (二) [这是什么?], 動詞述語文 (三) [你有铅笔吗?]
9	第15課あるいは第16課	動詞述語文 (四) [你家有几口人?], 動詞述語文 (五) [这儿有邮筒吗?]
10	第17課あるいは第18課	動詞述語文 (六) [请再念一次], 動詞述語文 (七) [去中国干什么?]
11	第19課あるいは第20課	完了態 [这本书你看了吗?], 変化態 [快要考试了]
12	復習①	Spring学期の学習項目の総復習
13	復習②	Spring学期の学習項目の確認
14	総括	これまでの学習内容の総括

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・毎回の授業で学んだ事項の復習をしっかりとこなうこと。中国語の発音や文法に慣れるため、繰り返しデジタル教材およびeラーニング教材 (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei>) を活用してほしい。
- ・予習および復習の合計時間は、毎回1時間を標準とする。
- ・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei>)
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良ほか『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010年

【References】

とくになし。必要があれば授業中に紹介する。

【Grading criteria】

毎回の授業の初めにおこなう小テストの平均点で100%評価し、学期末試験はおこなわない。小テストは100点満点とし、そのうち40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

【Changes following student comments】

正しい文法と発音を身につけてもらうため教科書の解説の時間を確保するが、可能なかぎり学生が中国語を話す時間をとりたい。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書やeラーニングを活用するため、PCなどの機器を使用する予定である。詳細は授業時に説明する。

【Others】

- ・この授業はすべての回の出席を評価の前提とするので、欠席は原則として認めない。体調不良などのやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自でしかるべき対応をとること。
- ・小テストは毎回授業の最初におこなうので、遅刻は厳禁である。
- ・オンライン授業が実施される場合には、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。こうした変更についての連絡は学習支援システムで連絡する。
- ・授業にかんする連絡や指示は学習支援システムをつうじておこなうことができるので、学習支援システムを随時確認すること。
- ・必ずChinese B I と同 semester で履修すること。2015年以前に入学した学生は、2単位となる。

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA (中国語 / Chinese language education 100)

Chinese A II

Nao Sato

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1～4
Day/Period : 金3/Fri.3
Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

この授業は、中国語を使って初級レベルの意思疎通ができるようになることを目的とする。授業では、指定の教科書に沿って文法を解説し、「読む・書く・聞く・話す」練習をおこなうことで、中国語の基礎を身につけていく。
The aim of this course is to help students acquire basic communication skills in Chinese. In every class, the lecturer will explain the grammar in line with the textbook and students will practice reading, writing, listening and speaking, in order to improve their basic skills in Chinese.

【Goal】

この授業の到達目標は以下のとおりである。

1. 中国語の発音と文法の基礎を理解し、正しくもちいることができる。
2. 基本的な中国語の読み書き、聞きとり、会話によって、日常的な場面において初級レベルの意思疎通ができる。

The goals of this course are as follows:

1. Students will become able to understand the basics of pronunciation and grammar of Chinese and use them precisely.
2. Students will become able to communicate with others at a basic level by reading, writing, listening and speaking in everyday situations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

- ・基本的には、指定の教科書に沿って毎回1課ずつ進める。まず担当講師が文法を解説し、その内容を理解してもらったうえで、学生に教科書の練習問題を解いてもらう。
- ・発音と文法に慣れるため、授業では講師が学生を指名するので、音読や回答をしてもらう。また、前に出て板書してもらったり、学生どうしで会話練習してもらったりする機会も設ける。
- ・継続的な学習が必要となるため、毎回の授業の初めに小テストをおこなう。担当講師は、添削した小テストを学生に返却し、まちがいの多かった問題については随時解説する。
- ・授業で学んだ項目の定着を図るため、自宅でeラーニングに取り組んでもらう。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	既習項目の復習・確認	Spring 学期の既習項目（第1課～第20課）の復習と確認
2	第21課あるいは第22課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
3	第23課あるいは第24課	形容詞述語文（一）[水饺好吃吗?]、形容詞述語文（二）[明天比今天还热]
4	第25課あるいは第26課	形容詞述語文（三）[比泰山高一点儿]、名詞述語文（一）[今天几月几号?]
5	第27課あるいは第28課	名詞述語文（二）[现在几点?]、名詞述語文（三）[这只手表多少钱?]
6	第29課あるいは第30課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第31課あるいは第32課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
8	第33課あるいは第34課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
9	第35課あるいは第36課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第37課あるいは第38課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受け身表現 [衣服被淋湿了]
11	第39課あるいは第40課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習①	Fall 学期の学習項目の総復習
13	復習②	Fall 学期の学習項目の確認
14	総括	これまでの学習内容の総括

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・毎回の授業で学んだ事項の復習をしっかりとおこなうこと。中国語の発音や文法に慣れるため、繰り返しデジタル教材およびeラーニング教材 (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei>) を活用してほしい。
- ・予習および復習の合計時間は、毎回1時間を標準とする。
- ・After every class, students review the items they have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei>)
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良ほか『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）2010年

【References】

とくになし。必要があれば授業中に紹介する。

【Grading criteria】

毎回の授業の初めにおこなう小テストの平均点で100%評価し、学期末試験はおこなわない。小テストは100点満点とし、そのうち40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

【Changes following student comments】

正しい文法と発音を身につけてもらうため教科書の解説の時間を確保するが、可能なかぎり学生が中国語を話す時間をとりたい。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書やeラーニングを活用するため、PCなどの機器を使用する予定である。詳細は授業時に説明する。

【Others】

- ・この授業はすべての回の出席を評価の前提とするので、欠席は原則として認めない。体調不良などのやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自でしかるべき対応をとること。
- ・小テストは毎回授業の最初におこなうので、遅刻は厳禁である。
- ・オンライン授業が実施される場合には、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。こうした変更についての連絡は学習支援システムで連絡する。
- ・授業にかんする連絡や指示は学習支援システムをつうじておこなうことができるので、学習支援システムを随時確認すること。
- ・必ずChinese B IIと同セメスターで履修すること。2015年以前に入学した学生は、2単位となる。

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA (中国語 / Chinese language education 100)

Chinese B I

Shota Watanabe

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 木4/Thu.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) Spring学期の学習を完了した段階で、HSK1級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 3".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

- ・授業は基本的にテキストに沿って毎回1課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1.小テスト(約20分)、2.前回の復習(約10分)、3.テキストの学習(約40分)、4.問題演習・コミュニケーション活動など(約30分)。
- ・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
- ・この授業ではブレンド型学習(教室での対面学習と自宅でのeラーニングを組み合わせた学習方法)を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
- ・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答すること随時フィードバックを行う。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音 (一) [簡体字とピンイン]、発音 (二) [声母]
3	第三課あるいは第四課	発音 (三) [韻母]、発音 (四) [二音節語の声調20パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動詞述語文 (一) [她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文 (二) [这是什么?]、動詞述語文 (三) [你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文 (四) [你家有几口人?]、動詞述語文 (五) [这儿有邮局吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文 (六) [请再念一次]、動詞述語文 (七) [去中国干什么?]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変化態 [快要考试了]

12	復習	Spring学期の学習項目の総復習
13	HSK1級問題	HSK1級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及びeラーニング教材 (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
- ・予習/復習の時間は毎回1時間を標準とする。
- ・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>)
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010年

【References】

- 有用な文法書として以下のものをあけておく。
- ・劉月華 (他) 2019 『實用現代漢語語法 (第三版)』北京: 商務印書館
- ・相原茂 (他) 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京: 同学社
- ・守屋宏則 (他) 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京: 東方書店

【Grading criteria】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。
The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

【Changes following student comments】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書やeラーニングを活用するため、PC等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【Others】

- ・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、HSK (中国語版TOEFLと呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSKは、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSKのホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。
- ・必ずChinese A I と同セメスターで履修すること。2015年度以前に入学した学生は、2単位となる。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Outline】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>)
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading criteria】

- ・The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc100ZA (中国語 / Chinese language education 100)

Chinese B II

Shota Watanabe

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木4/Thu.4
Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) Fall 学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 3”.

【Main Teaching Method】
S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

- ・授業は基本的にテキストに沿って毎回1課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1.小テスト(約20分)、2.前回の復習(約10分)、3.テキストの学習(約40分)、4.問題演習・コミュニケーション活動など(約30分)。
- ・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
- ・この授業ではブレンド型学習(教室での対面学習と自宅でのeラーニングを組み合わせた学習方法)を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
- ・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	既習項目の復習・確認	既習項目(第一課～第二十課)の復習と確認
2	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持續態 [你在做什么呢?]
3	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
4	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
5	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
6	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
8	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我错了]、方向補語 [你退回去吧]
9	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]

11	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習	Fall 学期の学習項目の総復習
13	HSK2 級問題	HSK2 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及びeラーニング教材 (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
- ・予習/復習の時間は毎回1時間を標準とする。
- ・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>)
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

【References】

- 有用な文法書として以下のものをあけておく。
- ・劉月華 (他) 2019 『実用現代漢語語法 (第三版)』北京: 商務印書館
- ・相原茂 (他) 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京: 同学社
- ・守屋宏則 (他) 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京: 東方書店

【Grading criteria】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。 The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

【Changes following student comments】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【Equipment student needs to prepare】

デジタル教科書やeラーニングを活用するため、PC等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【Others】

- ・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応をとること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、HSK (中国語版TOEFLと呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSKは、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。
- ・必ずChinese A II と同セメスターで履修すること。2015年度以前に入学した学生は、2単位となる。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Outline】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 2 by the end of the fall semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<https://hosei-ch.xsrv.jp/hosei/>)
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading criteria】

- ・The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANf100ZA (フランス語 / French language education 100)

French A I

Masamichi Suzuki

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 木3/Thu.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication.

In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

【Goal】

The goal of this course is to develop basic daily communication skills:

asking for information, answering questions, speaking about oneself, and understanding simple texts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 3".

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

Mr.Okamura (French BI) and I will use the same textbook (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning the grammar. It is therefore required that the students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g., role-playing), but for understanding of French culture or that of other French-speaking countries.

The students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS).

During the semester, the students are required to submit several assignments, which I will correct and give you back.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation - Initiation 1 Bonjour.	Orientation - Initiation 1 Greetings.
2	Initiation 2 Je suis français.	Self introduction
3	Lesson 1 Il s'appelle comment?	Introduction; Asking questions about people
4	Lesson 2 Qu'est-ce qu'elle fait dans la vie?	Asking about jobs
5	Lesson 2 Vous parlez anglais?	Expressions about jobs
6	Lesson 3 Vous connaissez Omar Sy?	"Do you know...? "

7	Lesson 3 Quelle langue est-ce qu'on parle au Canada?	"What language do they speak?"
8	Lesson 4 Qu'est-ce que vous aimez?	Expressing likes and dislikes
9	Lesson 4 Qu'est-ce que vous préférez, la mer ou la montagne?	Expressing preferences
10	Lesson 5 Qu'est-ce que vous aimez faire le week-end?	Expressing what one likes to do
11	Lesson 5 Tu voudrais faire quoi ce week-end?	Expressing what one wants to do
12	Lesson 6 Vous aimez le golf?	Explaining the reason for preferences
13	Terminal examination Lesson 6 Comment est-ce qu'elle est?	Terminal examination Describing a person
14	Review of the examination Lesson 6 Elle n'est pas sérieuse.	Review of the examination Describing a person

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1st week: Review of greetings and preparation for the next lesson

2nd week: Homework and preparation for the next lesson

3rd week: Review of introductions and preparation for the next lesson

4th week: Review of expressions of jobs and preparation for the next lesson

5th week: Homework and preparation for the next lesson

6th week: Homework and preparation for the next lesson

7th week: Review of expressions of likes and preparation for the next lesson

8th week: Homework and preparation for the next lesson

9th week: Homework and preparation for the next lesson

10th week: Review of expressions for phone conversation and preparation for the next lesson

11th week Review of expressions for favorite activities and preparation for the next lesson

12th week: Preparation for the examination

13th week: Review of description of persons /

Preparation for the next lesson

14th week: Total review

Preparatory study and review time for this class is 1 hour.

【Textbooks】

Spirale: nouvelle édition 『新スピラルー日本人初心者のためのフランス語教材』, Gaël Crépieux, Philippe Callens, 高瀬智子, 根岸純, アシェット・ジャポン (Hachette Japon), 2015年

【References】

『英語がわかればフランス語はできる』久松健一、駿河台出版社、1999年

French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway, McGraw-Hill, 2007

【Grading criteria】

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination will be held. Continuous assessment: 40%; term-end examination: 60%. Students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral or writing class activities. Active participation in role-playing is important.

【Changes following student comments】

It is sometimes difficult to animate oral exercises during the class. I will try to create an optimum situation which can facilitate students' class performance.

【Others】

Students should also attend Mr.Okamura's course French BI.

【Prerequisite】

None.

LANf100ZA (フランス語 / French language education 100)

French A II

Masamichi Suzuki

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 月5/Mon.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication.

In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

【Goal】

The goal of this course is to develop basic daily communication skills:

asking for information, answering questions, speaking about oneself, and understanding simple texts.

The students must make an effort to reach the level A1 of CEFER.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 3".

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

As in the spring semester, Mr. Okamura (French BII) and I will use the same textbook (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning of the grammar. It is therefore required that the students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g., role-playing), but for understanding of French culture or that of other French-speaking countries.

The students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS).

During the semester, the students are required to submit several assignments, which I will correct and give you back.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, Lesson 7 Quel âge avez-vous?	Orientation, Lesson 7 Asking about someone's age
2	Lesson 7 Vous avez quels cours le mardi matin?	University life
3	Lesson 8 Est-ce que vous avez une voiture?	Describing objects
4	Lesson 8 Excusez-moi, vous avez un stylo, s'il vous plaît?	In the class

5	Lesson 9 Le Louvre, qu'est-ce que c'est?	Describing sights
6	Lesson 9 Est-ce qu'il y a un restaurant italien dans le quartier?	Asking for directions
7	Lesson 10 Madame, qu'est-ce que vous faites demain?	Asking about activities
8	Lesson 10 Qu'est-ce que vous lisez en ce moment?	Asking for more details about activities
9	Lesson 11 Est-ce que vous faites du sport?	Speaking about one's activities
10	Lesson 11 Quels sports est-ce que les hommes font en général en France?	Speaking about statistical data
11	Lesson 12 Tu habites avec ta famille?	Speaking about one's family
12	Lesson 12 Qu'est-ce que vous avez fait?	Past tense 1
13	Terminal examination Lesson 13 Où allez-vous ce week-end?	Terminal examination Asking about one's plan
14	Review of the examination Lesson 13 Est-ce que vous êtes sorti ce weekend?	Review of the examination Past tense 2

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1st week: Homework and preparation for the next lesson

2nd week: Homework and preparation for the next lesson

3rd week: Review of expressions for sightseeing and preparation for the next lesson

4th week: Review of expressions for directions and preparation for the next lesson

5th week: Review of expressions for activities and preparation for the next lesson

6th week: Homework and preparation for the next lesson

7th week: Homework and preparation for the next lesson

8th week: Homework and preparation for the next lesson

9th week: Reviews of expressions for family members and preparation for the next lesson

10th week: Reviews of expressions for E-mail and preparation for the next lesson

11th week: Review of expressions for destination and preparation for the next lesson

12th week: Preparation for the examination

13th week: Review of the past tense

14th week: Total review

Preparatory study and review time for this class is 1 hour.

【Textbooks】

The same textbook that is used during the first semester:
Spirale, Nouvelle édition, Gaël Crépieux, Philippe Callens,
Tomoko Takase, Jun Negishi, Hachette, 2015

【References】

『英語がわかればフランス語はできる』久松健一、駿河台出版社、
1999年

French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway,
McGraw-Hill, 2007

【Grading criteria】

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination will be held. Continuous assessment: 40%; term-end examination: 60%.

The students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral class activities. Active participation in role-playing is important.

【Changes following student comments】

It is sometimes difficult to animate oral exercises during the class. I will try to create an optimum situation which can facilitate students' class performance.

【Others】

The students should also attend Mr.Okamura's course French BII .

【Prerequisite】

None.

LANf100ZA (フランス語 / French language education 100)

French B I

Tamio Okamura

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 水4/Wed.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students study Elementary French grammar.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学びます。時間の許すかぎり、フランス語圏の社会・歴史・文化についても学びます。

【Goal】

フランス語初級文法の習得。初級レベルのオーラル能力の獲得。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

French AI と連動し、『Spirale Nouvelle édition』を学習し、練習問題を解きます。また『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』を併用し、体系的な文法学習を補います。各課終了ごとに小テスト(10点満点)を行います。フィードバックは講義と hoppii を通して行います。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス Initiation 1	-ガイダンス -挨拶① -数0～5
2	Initiation 2	-挨拶② -数6 10 -動詞 être -動詞 aller
3	Leçon 1	-動詞 faire -否定形①
4	Leçon 1	-疑問文
5	Leçon 2	-所有形容詞
6	Leçon 2	-名詞・形容詞の男性形/女性形①
7	Leçon 3	-動詞 connaître -人称代名詞 on
8	Leçon 3	-定冠詞 -国名
9	Leçon 4	-動詞 aimer
10	Leçon 4	-否定形② -動詞 préférer
11	Leçon 5	-aimer 不定法
12	Leçon 5	-vouloir の条件法現在
13	期末テスト	-期末テストの実施
14	復習 Leçon 6	-期末テストの返却と答え合わせ -形容詞の男性形/女性形② -trouver の用法

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

前回の復習。ときどき宿題。また各課終了ごとに小テストを出すのでその準備をしてください。 Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale Nouvelle édition 新スピラール日本人初学者のためのフランス語教材 』(アシェット・ジャポン、2015年、3025円)

『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』(白水社、2003年、2640円)

【References】

講義内で適宜指示します。

【Grading criteria】

授業内評価50%+期末試験50%。

【Changes following student comments】

宿題に関して、hoppiiで添削を示すか、正答を示します。

【Others】

『Spirale』という同一教科書を French AI と交互にレリーしながら使用するので、必ず French AI と合わせて履修してください。なおBIでは『フランス語トレーニング・コース』も使用します。2冊の教科書を使用するので、早めに生協で購入してください。

LANf100ZA (フランス語 / French language education 100)

French B II

Tamio Okamura

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 水2/Wed.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学びます。時間の許す限りでフランス語圏の社会・歴史・文化についても学びます。

We study Elementary French grammar.

【Goal】

フランス語初級文法の習得。初級のオーラル能力の獲得。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 3".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

French AII とリレーしながら、『Spirale Nouvelle édition』を学習し、練習問題を解きます。また『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』を併用し、体系的な文法学習を補います。各科ごとに小テストを行います。フィードバックは講義と hoppii を通じて行います。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Leçon 6	-形容詞の男性形/女性形③
2	Leçon 7	-自分について話す (年齢、学年) -科目について話す
3	Leçon 7	-時間の使い方・時間割について話す
4	Leçon 8	-持っているもの -所有形容詞
5	Leçon 8	-物を借りる
6	Leçon 9	-場所について説明する -il y a
7	Leçon 9	-場所についてたずねる -savoir
8	補習	-avoir型の複合過去
9	Leçon 10	-何をするか尋ねる、答える -sortir, lire, faire, voir
10	Leçon 10	-否定形② -詳しく書く -指示形容詞 -部分冠詞
11	Leçon 11	-趣味・余暇について話す -faire de, jouer de
12	Leçon 11	-頻度を表す -習慣について話す -jouer à
13	期末テスト	期末テストの実施
14	復習	期末テストの返却と答えあわせ

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

復習。ときどき宿題。各課終了ごとに小テストを行います。 Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale 新スピラルー日本人初心者のためのフランス語教材 Nouvelle édition』(アシェット・ジャボン、2015年、3025円)

『新版 3段階式フランス語トレーニング・コース』(白水社、2003年、2640円)

【References】

授業内で適宜指示します。

【Grading criteria】

授業内評価 50 % + 期末試験 50 %

【Changes following student comments】

宿題に関して、hoppii で添削を示すか、正答を示します。

【Others】

『Spirale』という同一教科書を French A II と交互にリレーしながら使用するので、必ず French A II と合わせて履修してください。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students study Elementary French grammar.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANs100ZA (スペイン語 / Spanish language education 100)

Spanish A I

Taiga Wakabayashi

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 金 5/Fri.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
	Alphabet	The Spanish alphabet
2	Pronunciation and Accent	Rules of Spanish pronunciation and spelling
3	Gender, Singular and Plural	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish
4	Definite and Indefinite Articles	Singular and plural form of nouns Definite (“el”, “la”, “lo”) and indefinite (“un”, “una”) articles Their distinction and singular / plural forms
5	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
6	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
7	Conjugation of the Verb “ser”	Conjugation of the verb “ser” which expresses nature and quality
8	Mid-term Exam	Practice of self-introduction in Spanish
	Self-introduction	Asking and telling the place of origin
9	Conjugation of the Verb “estar”	Conjugation of the verb “estar” which expresses state and condition
	Expression of Existence	The phrase “Hay ...” which expresses “There is ...”
10	Existence, Quality and State	How to differentiate among “ser”, “estar” and “hay”
		Prepositions and pronouns
11	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with “-ar”, “-er” and “-ir” terminations
12	Expression of Time I	Expression of time to say “at ... o'clock”
	Numbers I	Numbers from 1 to 12
13	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives (“este/a”, “ese/a”, “aquel/lla”) and pronouns (“esto”, “eso”, “aquello”)

14

Final Exam & Wrap-up

Final exam (written) Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary using a dictionary.

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』(白水社)、2011年、2,310円(税込)

ISBN: 978-4-560-01679-4

【References】

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required,『西和中辞典』(小学館) is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【Grading criteria】

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish BI と同セメスターで履修すること。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA (スペイン語 / Spanish language education 100)

Spanish A II

Taiga Wakabayashi

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 金5/Fri.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course begins where “Spanish AI” and “Spanish BI” ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting. The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Class overview
	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives (“mi”, “nuestro/a”, “tu”, “vuestro/a”, “su”) Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense
	Expression of Obligation and Necessity	Expression of obligation and necessity (“tener que ...”)
4	Numbers IV	Numbers from 100 to 999
	Direct and Indirect Objective Pronouns	Direct and indirect objective pronouns (“me”, “nos”, “te”, “os”, “lo/le/la”, “los/les/las”)
5	Verb “gustar”	Use of the verb “gustar” which expresses “like (to) ...” or “love (to) ...”
6	Other Verbs of “gustar” Type	Verbs of “gustar” type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun “se”
8	Mid-term Exam	Expression of time to say “It’s ... o’clock” and “do ~ at ... o’clock”
	Expression of Time II	Expression of weather I
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather I	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
12	Months	Names of months in Spanish

13	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense
14	Final Exam & Wrap-up	Final exam (written) Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』(白水社)、2011年、2,310円(税込)
ISBN: 978-4-560-01679-4

【References】

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required,『西和中辞典』(小学館) is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【Grading criteria】

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ずSpanish BIIと同セマスターで履修すること。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA (スペイン語 / Spanish language education 100)

Spanish B I

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Alphabet Pronunciation and Accent	Guidance to the class Spanish alphabet Rules of Spanish pronunciation and spelling
2	Gender, Singular and Plural of Nouns	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish Singular and plural form of nouns
3	Definite and Indefinite Articles	Definite (“el”, “la”, “lo”) and indefinite (“un”, “una”) articles Their distinction and singular / plural forms
4	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
5	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
6	Conjugation of the Verb “ser”	Conjugation of the verb “ser” which expresses nature and quality
7	Self-introduction	Practice of self-introduction in Spanish Asking and telling the place of origin
8	Conjugation of the Verb “estar” Expression of Existence	Conjugation of the verb “estar” which expresses state and condition The phrase “Hay …” which expresses “There is …”
9	Existence, Quality and State	How to differentiate among “ser”, “estar” and “hay” Prepositions and pronouns
10	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with “-ar”, “-er” and “-ir” terminations
11	Expression of Time I Numbers I	Expression of time: “at … o’clock” Numbers from 1 to 12
12	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives (“este/a”, “ese/a”, “aquel/lla”) and pronouns (“esto”, “eso”, “aquello”)

13 Numbers II

Numbers from 13 to 30

Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam

Review and Final Exam (written)

14 Review and Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社) ISBN : 9784560016794

【References】

『西和中辞典』 (小学館)

『わかるスペイン語文法』 西川喬 (同学社)、2010年

授業中の携帯電話やノートパソコンを利用したのオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

The first class will be meeting in person, not online.

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish AI と同セメスターで履修すること。

2015年度以前に入学した学生は、2単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA (スペイン語 / Spanish language education 100)

Spanish B II

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 火4/Tue.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course begins where “Spanish AI” and “Spanish BI” ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Class overview
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives ("mi", "nuestro/a", "tu", "vuestro/a", "su") Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II Expression of Obligation and Necessity	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense Expression of obligation and necessity ("tener que ...")
4	Numbers IV Direct and Indirect Objective Pronouns	Numbers from 100 to 999 Direct and indirect objective pronouns ("me", "nos", "te", "os", "lo/le/la", "los/les/las")
5	Verb "gustar"	Use of the verb "gustar" which expresses "like (to) ..." or "love (to) ..."
6	Other Verbs of "gustar" Type	Verbs of "gustar" type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun "se"
8	Expression of Time II Expression of Weather I	Expression of time to say "It's ... o'clock" and "do at ... o'clock"
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Expression of weather I Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather II	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense) Months	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense Names of months in Spanish
12	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense

13	Differences between Indefinite and Preterite Past Tenses	Proper use and differentiation of the indefinite / preterite tenses Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam (written)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Work to be done outside of class":
"Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社) ISBN : 9784560016794

【References】

『西和中辞典』(小学館)等

『わかるスペイン語文法』 西川喬 (同学社)、2010年

授業中の携帯電話やノートパソコンを利用するのオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

The first class will be meeting in person, not online.

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ずSpanish AIIと同セメスターで履修すること。

2015年度以前に入学した学生は、2単位となります。

【Prerequisite】

None.

PHL200ZA (哲学 / Philosophy 200)

Political Philosophy

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Humans are deeply social creatures. Unlike other social creatures, humans create and exist within complex and dynamic political arrangements with laws, customs, institutions, and designated sources of authority. This situation presents us with the question of how we should arrange ourselves politically. The rational inquiry into this question is the primary task of political philosophy. In this course, we will explore a variety of topics in political philosophy with an emphasis on the social contract tradition and theories of justice.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will acquire knowledge about the various and diverging views on political philosophy. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning about political philosophy. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will begin with a one-hour lecture with interactive slides. In many meetings, an in-class activity will accompany the lecture. These activities are interactive and require active participation. Each class will end either (1) with a discussion about the course content or (2) an open discussion about the in-class activity for that day. Students will prepare questions for the discussion period as homework before coming to class. Finally, there are two in-class exams. These exams will include multiple choice, short answer, and essay questions. Students will receive written feedback on their exams.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is political philosophy?
2	The Social Contract 1	The need for a state
3	The Social Contract 2	The legitimacy of political authority
4	The Social Contract 3	Property and the state
5	The Social Contract 4	The nature of consent
6	The Social Contract 5	The corrupting influence of the state
7	The Social Contract 6	Political pessimism
8	Midterm	Review and midterm exam
9	Political Values 1	Freedom
10	Political Values 2	Equality
11	Justice 1	Liberal Egalitarianism
12	Justice 2	Libertarianism
13	Justice 3	Socialism
14	Final Exam and Review	Wrap-up, review, and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

【Grading criteria】

Class Participation (15%), Discussion Questions (15%), Midterm Exam (30%), Final Exam (40%)

【Changes following student comments】

Students evaluated this class positively in the previous year. There will be no significant changes to the course.

【Others】

There are no phones, laptops, or tablets allowed in class. The one exception is that students will need to use their phones for an in-class activity during Week 4. Students may use an electronic dictionary during lectures and discussions, though.

【Prerequisite】

There is no prerequisite for this course. Students who intend to register for this course are required to attend the first class (online). A screening will be conducted in the class if necessary.

PHL200ZA (哲学 / Philosophy 200)

Topics in Philosophy

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月1/Mon.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Philosophy & Aesthetics

Whether in nature or art, humans love beauty. In fact, appreciating and taking pleasure in beautiful things seems central to what it means to be a human. But what is beauty? What is art? Does art need to be beautiful? What is the value of art and beauty? What's the relation between the value of beauty and other values, like moral value? Why is art so important to us? These questions are the primary concern for the branch of philosophy called "aesthetics." In this course, we will investigate these questions in depth by exploring various texts on aesthetics from the history of philosophy. Philosophers surveyed in this course include Plato, Aristotle, Francis Hutcheson, David Hume, Immanuel Kant, G.W.F. Hegel, Arthur Schopenhauer, Friedrich Nietzsche, Leo Tolstoy, and Ludwig Wittgenstein.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on aesthetics. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their communication skills to present complex ideas clearly and confidently in written and spoken forms.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will begin with a one-hour interactive lecture that includes discussion periods. Students will prepare questions for the discussion period as homework before coming to class. However, for meetings 5-13, student presentations will precede the lecture. Each student must present once throughout the semester. Student presentations apply the course's various theoretical topics and ideas to analyze the students' choice of some piece(s) of art. The instructor will provide more detailed instructions on Hoppii. In addition to presentations, there will be a final exam in the last meeting. The final exam will consist of essay questions. Students will receive written feedback on the presentation. Feedback for the exam will be provided on Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is aesthetics?
2	The Value of Beauty 1	Plato, Hippias Major and Ion
3	The Value of Beauty 2	Plato, Republic
4	The Value of Beauty 3	Aristotle, Poetics
5	Aesthetic Pleasure 1	Francis Hutcheson, excerpts from various works
6	Aesthetic Pleasure 2	David Hume, "Of the Standard of Taste"
7	Aesthetic Pleasure 3	Immanuel Kant, excerpts from the Critique of Judgment
8	Beauty Beyond Pleasure 1	G.W.F. Hegel, excerpts from Introductory Lectures on Aesthetics
9	Beauty Beyond Pleasure 2	Arthur Schopenhauer, excerpts from The World as Will and Representation
10	Beauty Beyond Pleasure 3	Friedrich Nietzsche, excerpts from Twilight of the Idols
11	What is Art? 1	Leo Tolstoy, excerpts from What is Art?
12	What is Art? 2	Ludwig Wittgenstein, Lectures on Aesthetics
13	What is Art? 3	Clive Bell, excerpts from Art
14	Final Exam and Review	Review, wrap-up, and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

【Grading criteria】

Class Participation (15%), Presentations (30%), Discussion Questions (15%), Final Exam (40%)

【Changes following student comments】

Students evaluated this class positively in the previous year. As such, there are no changes from the previous year.

【Others】

There are no phones, laptops, or tablets allowed in class. Students may use an electronic dictionary during lectures and discussions, though.

【Prerequisite】

None

PSY200ZA (心理学 / Psychology 200)

Applied Psychology

Sayaka Aoki

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course focuses on how psychology can be applied in our lives. Students will learn new concepts and theories that are useful to understand their daily experiences from psychological perspectives. They will acquire some psychological skills that can be applicable in their daily life.

【Goal】

Upon completion of this course, students will have

-learned some psychological concepts and theories that are applied in the clinical, educational, and workplace settings

-acquired basic knowledge about how one's psychological characteristics are assessed and mental and behavioral problems are treated, and

-developed an array of skills that can be used to understand one's psychological characteristics and handle mental problems in daily life

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught primarily through lectures and in-class activities students are expected to be engaged in. At the end of each class, students complete a brief reflection paper, which will be graded and returned with feedback comments from the lecturer by the beginning of the next class. In the middle of the course, students are also asked to work on a small project, which is directly related to the contents of the final exam.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of the course	Introduction of the course
2	Assessment (I)	Overview of psychological assessment - How do we know ourselves?
3	Assessment (II)	Psychological tests (i)
4	Assessment (III)	Psychological tests (ii)
5	Assessment (IV)	Questionnaire
6	Assessment (V)	Interview
7	Assessment (VI)	Observation
8	Intervention (I)	Overview of psychological intervention - How do we change ourselves?
9	Intervention (II)	Cognitive behavior therapy
10	Intervention (III)	Dialectic behavior therapy
11	Intervention (IV)	Behavioral management
12	Intervention (V)	Motivation control
13	Intervention (VI)	Techniques to “apply” psychological skills Oral presentation

14 Final Exam & Review and Final exam
Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to print out and read over the slides for the class in advance, which are uploaded on the class website. Reading assignments, links to relevant websites for the next class, will be also included in the last slide. Students are also expected to consider the answers for the essay questions in the final exam which are shared in the beginning of the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No specific textbooks are used; class materials are uploaded in the class website.

【References】

Braden, J. P. (2013). Psychological assessment in school settings. In J. R. Graham, J. A. Naglieri, & I. B. Weiner (Eds.), *Handbook of psychology: Assessment psychology* (pp. 291 – 314). John Wiley & Sons, Inc..

Spiegler, M. D., & Guevremont, D. C. (2015). *Contemporary behavior therapy*, 6th ed. Belmont, CA, : Wadsworth/Cengage Learning.

Beck, J.S. (2021). *Cognitive behavior therapy*, Basics and beyond, 3rd ed. Guilford Press.

【Grading criteria】

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) active participation, preparation, and engagement (10%); (b) In-class activities and home assignment (35%); (c) Oral presentation (15%) Final exam (in-class report) (40%)

【Changes following student comments】

For the final exam, students are expected to start preparation well in advance, as they need to develop their own answers through experiences of practicing what they learned in the classes in on their own lives. For this purpose, the questions are shared in the beginning of this course.

【Equipment student needs to prepare】

Bringing one's computer/tablet to the classes is recommended.

【Others】

None

【Prerequisite】

None

PSY200ZA (心理学 / Psychology 200)

Quantitative Research Methods

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金2/Fri.2

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

The goal of this course is to introduce the students to various quantitative research methods used in the social sciences. When making important decisions, be it choosing a strategy to increase the sales of a product, implementing an intervention program to boost people's well-being, or selecting a school program to increase students' learning, people can rely on their intuition and experience, or they can base their decisions on facts: data. In this course, students will develop skills to obtain valid and reliable data through experimental and survey methods. The course will also cover topics related to research ethics, some basic statistics, and APA-style writing.

【Goal】

This course provides an overview of the 'how's and 'why's of quantitative research in social sciences, and it covers such topics as design, ethics, and APA-style writing and such strategies as field experiments and surveys. Students will develop the ability to design, conduct, evaluate, and report empirical studies. By developing hypotheses and critically assessing information, students will improve on their critical thinking skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ/Seminar

【Method(s)】

The course consists of lectures, in which general ideas and methods of research will be presented, and hands-on applications of the methods, in which student's research projects will be planned and presented. Although some of the class time will be set aside for planning students' research, the majority of it will be done as assignments to be completed outside class. Feedback for research will be given during class time and through documents posted on Google Drive. Comments for individual papers will be given via Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり/Yes

【Fieldwork in class】

なし/No

【Schedule】Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is research? Why should we care?
2	The Fundamentals of Research	How do we define variables? How do we measure them? What is good research? How do I know if I can trust the findings?
3	Common Experimental Designs	Evaluating causal claims with experiments: random assignment and control
4	Understanding Research Paper	Understanding the structure of a research paper
5	Experimental Research I	Presentation of the research question, hypotheses, and theories
6	Experimental Research II	Identifying the various threats to internal validity
7	Data Analyses I	Understanding the basics of inferential statistics
8	Correlational Research I	How are the two variables associated? How can we write clear questions?
9	Correlational Research II	Presentation of the research question, hypotheses, and theories
10	Correlational Research III	Creating a questionnaire
11	Sampling Issues and Validities	How generalizable are my findings?

12	Data Analyses II	Computing reliabilities and correlations
13	Data Analyses III	Data analysis workshop using a statistical software
14	Students Poster Presentations	Poster presentations of group research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will have to complete the assigned homework on time to successfully complete the class. They will be asked to do the readings, create research materials, collect data, etc. outside the class. Please bear in mind that the course will require that students spend a considerable amount of time outside class (at least 2 hours every week, sometimes more). Most work will be done in small groups, suggesting that students need to be flexible in finding time to meet other students during the week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks required.

【References】

Morling, B. (2021). *Research methods in psychology: Evaluating a world of information* (4th ed.). New York, NY: W.W. Norton & Company.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

The reference books are available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail. Handouts and reading materials are on the course website.

【Grading criteria】

Final grades are based on two research papers (20% and 30%), a poster presentation (20%), and the quality and timeliness of group work done outside class (30%).

【Changes following student comments】

Students in previous years found this course very demanding but rewarding. Because most of the work was done in small groups, some students found it challenging to coordinate their work and ensure that everyone contributed equally. The grades for the group work will take into consideration the amount of contribution of individual student.

【Equipment student needs to prepare】

For some weeks, students will be asked to bring laptop computers. Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Others】

Students who have successfully completed Statistics will be given priority during enrollment.

Students must take and pass this course if they wish to enroll in the Self and Culture seminar. Students who plan to enroll in other seminars in social sciences are also strongly encouraged to take this course.

【Prerequisite】

none

PSY200ZA (心理学 / Psychology 200)

Social Psychology I

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2～4

Day/Period : 火2/Tue.2

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC 860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This is an introductory course in social psychology, the scientific study of how we view and influence one another. Students are introduced to the theories, research methods, and seminal findings of social psychology. Social Psychology will primarily focus on how we think about the social world, how we come to understand others, and how we exert influence on others' thoughts, feelings, and behaviors. Topics include perceptions of others and the self, attitudes, conformity, obedience, and persuasion. Social Psychology II will focus on social relations and intergroup dynamics, covering topics such as helping and aggression, group influence, self, emotion, and prejudice. These two courses will complement each other to provide an overview of the main content areas of social psychology.

【Goal】

This course will introduce students to the perspectives, research methods, and empirical findings in the field of social psychology and cultivate skills in analyzing the social situations and events that we encounter in our everyday lives. By the end of the course, students will be able to (1) identify and understand major theories, principles, and research findings in the field of social psychology, (2) apply social psychological theories and principles to real life experiences, and (3) critically evaluate social psychological theories and research. In Social Psychology I, students will be able to answer the following questions: How are we influenced by our environment and by other people? How do we explain others' behavior? What are attitudes and how do they affect us? What leads to conformity and obedience? When are people persuaded by differing opinions and when are they not?

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Methods of instruction include lectures, films, individual and small group activities, and discussions. Students will engage in various hands-on activities and experiments to experience the concepts they learn in class. Students will be asked to reflect on their daily experiences and share examples that illustrate these concepts. Feedback for the quizzes and midterm exams will be given in class. Students are also encouraged to take advantage of the office hours should they wish to get more personalized feedback on how to improve their performance.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Methods in Social Psychology	How do social psychologists study behaviors?
3	Social Cognition I	How do we perceive our social world?
4	Social Cognition II	How do we make sense of our social world?
5	Attitudes and Behaviors I	When do attitudes predict behaviors?
6	Attitudes and Behaviors II	When do behaviors predict attitudes?
7	Attitudes and Behaviors III	How much is the social world "out there" vs. "in our head"?
8	Review & Midterm Exam	What have we learned so far? Multiple choice and short-essays
9	Conformity I	Why do people conform? Informational social influence
10	Conformity II	Why do people conform? Normative social influence

11	Obedience	What leads to attitude change
12	Persuasion I	When do people get convinced? Elaboration likelihood model
13	Persuasion II	How can you persuade others? Persuasion technique
14	Review & Final Exam	What have we learned so far? Multiple choice and short-essays

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should review their notes and read the assigned readings before each class and be able to explain the major concepts and theories they have learned. If there are any parts they do not fully understand, students are encouraged to consult the instructor during class, email the instructor, or go through related references. They must also download and print out handouts prior to each class and bring them to class to take notes. Occasionally, students will also be assigned homework (worksheets, questionnaires, etc). Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

Myers, D. G. & Twenge, J. (2022). *Social Psychology* (14th ed.). McGraw-Hill.

The reference book is available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail. Handouts and reading materials are on the course website.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on midterm and final exams (35% each), in-class activities and quizzes (20%), and class participation (10%).

【Changes following student comments】

Students usually find this course interesting and eye-opening. I hope to continue engaging students with materials through various hands-on activities and discussions.

【Others】

Social Psychology I and II can be taken in reverse order (II and then I). Students who have taken and passed Statistics and introductory courses in psychology (e.g., Introduction to Psychology I/II, Developmental Psychology) may be given priority in the selection. Students are strongly encouraged to take this class if they intend to enroll in Self and Culture seminar or Advanced Topics in Social Psychology (300-level)

【Prerequisite】

None.

PSY200ZA (心理学 / Psychology 200)

Social Psychology II

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月2/Mon.2

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This is an introductory course in social psychology, the scientific study of how we view and influence one another. Students are introduced to the theories, research methods, and seminal findings of social psychology. Social Psychology II will focus on social relations and intergroup dynamics, covering topics such as close relationships, helping and aggression, group influence, prejudice, and peacemaking. Social Psychology I and II will complement each other to provide an overview of the main content areas of social psychology.

【Goal】

This course will introduce students to the perspectives, research methods, and empirical findings in the field of social psychology and cultivate skills in analyzing the social situations and events that we encounter in our everyday lives. By the end of the course, students will be able to (1) identify and understand major theories, principles, and research findings in the field of social psychology, (2) apply social psychological theories and principles to real-life experiences, and (3) critically evaluate social psychological theories and research. In Social Psychology II, students will be able to answer the following questions: How are we influenced by our environment and by other people? What causes relationships to begin or fail? Why are people sometimes helpful, but at other times aggressive or even cruel? How does the presence of others influence individual performance and decision? What leads to prejudice and what can be done about this problem?

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Methods of instruction include lectures, films, individual and small group activities, and discussions. Students will engage in various hands-on activities and experiments to experience the concepts they learn in class. Students will be asked to reflect on their daily experiences and share examples that illustrate these concepts. Student will receive feedback from the lecturer in the form of in-class comments, feedback to comments/questions posted online, and written comments to any assignments that are handed in.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Attraction	What increases liking?
3	Close Relationships 1	What causes relationships to begin or fail?
4	Close Relationships 2	Group Work I
5	Prosocial Behavior	When and why we help (or don't help)?
6	Aggression	What are the determinants of aggression?
7	Review and Midterm Exam	Review and midterm exam (weeks 1-6)
8	Group Influence 1	Task performance in groups
9	Group Influence 2	Decision-making in groups
10	Group Influence 3	Group Work II
11	Stereotyping and Prejudice 1	What causes stereotypes? What are the consequences?
12	Stereotyping and Prejudice 2	Group Work III
13	Stereotyping and Prejudice 3	What causes prejudice? How can we prevent it?
14	Review and Final Exam	Review and final exam (weeks 8-13)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should review their notes and read the assigned readings before each class and be able to explain the major concepts and theories they have learned. If there are any parts they do not fully understand, students are encouraged to consult the instructor during class, email the instructor, or go through related references. They must also download and print out handouts prior to each class and bring them to class to take notes. Occasionally, students will also be assigned homework (worksheets, questionnaires, etc). Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used.

【References】

Myers, D. G. & Twenge, J. (2022). Social Psychology (14th ed.) McGraw-Hill.

The reference book is available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail. Handouts and reading materials are on the course website.

【Grading criteria】

Students are evaluated by means of two exams (25% each), in-class activities/online quizzes (20%), group work (20%), and class participation (10%).

【Changes following student comments】

Some students found the readings for the group presentation challenging. I hope to encourage students to start their preparation early so that they can ask me questions beforehand.

【Others】

Social Psychology I and II can be taken in reverse order (II and then I). Students who have taken and passed Statistics and introductory courses in psychology (e.g., Introduction to Psychology I/II, Developmental Psychology) may be given priority in the selection. Students are strongly encouraged to take this class if they intend to enroll in Self and Culture seminar or Advanced Topics in Social Psychology (300-level).

【Prerequisite】

None.

EDU200ZA (教育学 / Education 200)

English Teaching in Primary School

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火4/Tue.4

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

The course is designed for students interested in exploring teaching English to young learners (TEYL) in primary education, with a particular focus on Japan and selected international contexts. It offers a historical and theoretical overview of how children learn a second language (L2) in primary school, examining second language learning (SLL) from psychological, educational, and linguistic perspectives, and considering how this differs from language learning by adolescents and adults. The course aims to develop a holistic understanding of primary English education by linking theories of language development in young learners with primary education at various levels: core issues in language policy and assessment, pedagogical approaches, and various materials that can be integrated into primary English practices. Students will examine current trends and debates in Japan and overseas, as well as the aims and requirements of recent curriculum guidelines. Throughout the course, they will be encouraged to critically evaluate existing practices, materials, and instructional decisions from both teacher and learner perspectives. By the end of the course, students are expected to develop an evidence-informed understanding of effective approaches to teaching English to young learners and to articulate context-sensitive ways of supporting primary pupils' language learning. They should be able to connect related theories and research to practical decision-making and to formulate their own perspectives on how primary English education can contribute to coherent language learning pathways from primary to secondary levels in Japan and in other educational contexts.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to:

1. Develop and explain an understanding of major second language learning (SLL) theories relevant to young learners and the core issues they address.
2. Explain and compare psychological, educational, and linguistic perspectives on L2 education in primary schools.
3. Analyse relationships between L2 education for young learners and primary school pedagogy in Japan and selected international contexts.
4. Apply the related theories to evaluate and propose context-sensitive TEYL pedagogical approaches across different levels of primary education.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【Method(s)】

For the completion of this course, students are required to undertake daily independent tasks by selecting a topic related to the lectures. A presentation, final examination, and written assignment are also required at the end of the course. Students will choose one of the course topics, deliver a presentation, and submit a corresponding written assignment. Detailed requirements, submission procedures, and feedback will be provided through the learning management system (e.g., WebClass).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Rationales of English Teaching in Primary School(1)	Issues in the historical overview of primary English education in Japan and overseas
3	Rationales of English Teaching in Primary School(2)	Issues in primary English education from different perspectives (1)
4	Rationales of English Teaching in Primary School(3)	Issues in primary English education from different perspectives (2)

5	SLL of Young Learners (1)	Issues in L2 pedagogical approaches (1)
6	SLL of Young Learners (2)	Issues in L2 pedagogical approaches (2)
7	Primary L2 Education (1)	Issues in teaching four skills (1)
8	Primary L2 Education (2)	Issues in teaching four skills (2)
9	Primary L2 Education (3)	Issues in teaching four skills (3)
10	Primary L2 Education (4)	Issues in assessing primary pupils
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for group discussion on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Textbooks】

Annamaria Pinter. (2017). *Teaching young language learners*. Oxford University Press.

【References】

1. Cameron, L. (2001). *Teaching languages to young learners*. Cambridge University Press.
2. Bland, J & Lütge, C. (eds.). (2013). *Children's literature in second language education*. Bloomsbury USA Academic.
3. Coyle, D., Hood, P., & Marsh, D. (2010). *CLIL: Content and language integrated learning* (1st ed.). Cambridge University Press.
4. Curtain, H. & Dahlberg, A. C. (2009). *Languages and children: Making the match, new languages for young learners, grades K-8* (4th ed.). Allyn & Bacon.
5. Ellis, G., Brewster, J., & Girard, D. (2002). *The primary English teacher's guide*. (New). Penguin English Guides.
6. Garton, S. & Copland, F. (eds.). (2018). *The Routledge handbook of teaching English to young learners*. Routledge.
7. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
8. 『創造的な学びを育む初等英語教育—時代を超えて生き続ける理論と実践—』(2022) 津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会 (編) 朝日出版社.
9. 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説外国語活動・外国語編』 開隆堂.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (20%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Final Exam (20%)

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising various functions of LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

【Others】

Recommended to complete at least one of the courses presented below:

1. TESOL II
2. Comparative Education

【Prerequisites】

Required to complete at least one of the courses presented below:

1. TESOL I
2. Second Language Acquisition

LAN200ZA

Digital Writing and Publication

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Technological advances have pushed society toward an ever-more participatory global culture; we both consume and create vast quantities of the written word on our phones, laptops and tablets. These digital texts have expanded the definition of what we call writing and what we can do with it. This course will look more closely at how this kind of digital copy is produced and the way it impacts our daily life. Together, we will examine the planning, writing and publication stages of digital content creation, as well as the practical and ethical issues that are involved.

【Goal】

Frederich Nietzsche once said, “it is my ambition to say in 10 sentences what others say in a whole book,” and that is what we will aim to do: produce clear and concise written communication. As part of this process, we will:

- Examine how technology has profoundly altered traditional writing practices
- Learn how to deliver content to a brief, within set style guidelines
- Be engaged in the analysis and production of digital writing, both individually and as part of a team
- Consider the fundamentally new set of ethical issues the online world has created.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Digital Writing and Publication has a focus on quality rather than quantity; in today's digital world, information must be conveyed quickly and attractively. An assignment may be as short as 50 words, but students will learn how to make those 50 words count. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. We will look at practices that promote a collaborative approach toward a common goal via technology. Students will also learn industry-standard practices, such as writing to a specific style guide and for a specific audience.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	AI and Writing	Addressing the fundamental impact new technology has had on content creation
3	Identifying the Audience	Before we write a single word, we need to answer three questions: who is our audience? What do they need? What is our purpose?
4	Writing to a Brief and AP Style	Introducing the idea of a brief and using the standard AP stylebook
5	SEO	Getting a page seen
6	SERP Snippets	The importance of the search engine results page
7	Editing	A dive into the world of content editing
8	Review and Midterm Exam	Review and written examination of content thus far
9	Visual Style and Publication I	An examination of the interplay between text, images, video and colour
10	Visual Style and Publication II	Analysis of web page design
11	Collaborative Working Practices I	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
12	Digital Ethics	Current debates regarding copyright, fair use and ethics
13	Collaborative Working Practices II	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content

14	Final Presentations and Assessment	Student presentations and take-home assessment

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

【References】

Alexander, J., & Rhodes, J. (2018). *The Routledge handbook of digital writing and rhetoric*. New York, US: Routledge.
 Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
 Beach, R. (2014). *Understanding and creating digital texts: an activity-based approach*. Lanham, US: Rowman & Littlefield.
 Carroll, B. (2017). *Writing and editing for digital media (third edition)*. New York: Routledge.
 DeVoss, D., Eidman-Aadahl, E. and Hicks, T. (2010). *Because digital writing matters*. San Francisco, US: Jossey-Bass.
 Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

【Grading criteria】

Class participation 15%, assignments 10%, midterm exam 20%, collaborative project/presentation 30%, final exam 25%.

【Changes following student comments】

The course has been restructured. The impact of AI on content creation will be discussed early in the course to better inform students on the current situation.

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

East Asian Popular Culture

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水3/Wed.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This class will examine popular culture across Asia, focusing on the region of East Asia, specifically media and cultural practices in South Korea, China, Taiwan, and Japan. Over this semester we will examine how various media — music, film, TV dramas, and internet videos — are part of local cultural practices in each place. This will include an examination of their histories in the area, their connections to society, and what cultural practices they accompany. However, instead of focusing exclusively on different countries, we will concentrate on how these cultural products work across borders, operating transnationally. By close examination of the production, distribution, and consumption of these media across East Asia, students will gain insight into connections beyond the countries they are usually associated with. In other words, this class will analyze the links between these countries that are facilitated by the media. With this in mind, this class will ultimately consider how media flows across national boundaries and engages with cultural regionalism.

【Goal】

In addition to teaching the students about contemporary East Asian societies and media, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine popular culture from Asia; 2) explore the histories of various popular cultural products from Asia; 3) examine how cultural practices cross national boundaries and interact; 4) consider how these cultural products engage with regionalization in Asia.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will be discussion-based, with visual material such as clips of films and animation. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based off of the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Feedback will be given throughout the course via discussion topics. Students will be assessed on their understanding of the readings and discussions through their presentations and exam.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Nationalism and Popular Culture	Readings on how popular culture influences our everyday lives
3	Early Asian Film Practices	Wartime/postwar film industries in Asia
4	Film Adaptation Across Borders	Pan-Asian Hong Kong films
5	Postwar Western Influences in Asia	American culture in Japan
6	Television in Japan	Japanese drama and modernity
7	Midterm review	Midterm exam
8	Japanese Popular Culture in Asia	Manga and Jpop across Asia
9	Online Fan Practices of Asian popular Culture	Online circulation of Japanese popular media
10	New Developments of the 21st Century	Changes in Asian entertainment industries
11	Korean Wave/Korean Drama	Transnational Korean media
12	Globalization of Cool Japan	Cultural policy changes in Asia
13	Hybrid Asian Popular Culture	New developments in race/gender/national identities

14 Final review Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Various articles will be uploaded on Hoppii.

【Grading criteria】

Participation (10%)

Reading/viewing assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and class behavior (20%)

Midterm exam/assignment (20%)

Final exam/assignment (30%)

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

【Others】

This course requires students to have intermediate knowledge of media culture and globalization. Previously taking classes on media, race and gender, and East Asian history will enhance the learning experience for this class.

Do not miss the first class as there will be a selection process. Students may not join the class after the first class date/selection process. The content of this syllabus may be subject to change.

【Prerequisite】

Previously taking classes on media, race and gender, and East Asian history will enhance the learning experience for this class

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

Japanese Popular Culture

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水4/Wed.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

When asked to speak about Japan, individuals often turn to pop-cultural phenomena, such as manga, anime, or cosplay. This implies a link between culture and nation that is vital, yet ambiguous. What do folks mean when they say they like Japanese culture? Why has Japan become so popular?

Drawing on cultural and media studies, this course will explore the historical and theoretical study of Japanese popular culture. Lectures and discussions will engage with media forms and case studies from many eras, covering topics ranging from Takarazuka theater and pre-war radio culture to anime fandom and the so-called “golden age of Japanese cinema.” The course culminates with students delivering a presentation and submitting an essay on a pop-cultural phenomenon not covered in depth during a class session.

【Goal】

Students will learn many of the key theories, terms, and arguments of cultural studies, especially as those ideas relate to Japan. Students will practice analyzing, historically contextualizing, and writing about specific pop-cultural phenomena. Students should leave the course with a refined ability to define and discuss abstract concepts such as nation, culture, and what it means for something to be “Japanese.”

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will combine lectures, discussions, and student presentations. In addition to reading critical and theoretical texts, students are expected to experience, or refer back to their past experiences with, cultural objects and practices in question, and analyze them in a global context in their final papers. Students will also conduct research for the final paper. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. In-class oral feedback will be provided for presentation assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Why study popular culture?
2	"Japanese" and Nihonjinron	Readings on Nihonjinron
3	The Image of Japan	Theories
4	Visualizing Modernity	Japanese cinema
5	Development of Television	Postwar TV culture and nationalism
6	Popular Television Programs	NHK morning dramas, variety programs
7	Midterm review	Midterm review
8	Popular Music	Jpop and idol culture
9	"Cute" Culture	Shoujo culture and Hello Kitty
10	Manga	History of boys and girls manga
11	Anime	Globalization of Anime
12	Otaku culture	Subculture and gender
13	Globalization of Japanese Popular Culture	Japan brand strategy
14	Final review	Final review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to complete reading assignments so that they are ready for class discussions. Students will regularly be asked to summarize and reflect upon the weekly articles. There will be a midterm and final exam. Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Reading materials will be provided by lecturer in PDF format.

【References】

All reading material will be uploaded to HOPPII.

【Grading criteria】

Class participation (10%)

Reading/viewing assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and class behavior (20%)

Midterm exam (20%)

Final exam (30%)

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

【Others】

Do not miss the first class as there will be a selection process. Students will not be accepted after the first class/selection process. The content of this syllabus may be subject to change.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

Art and Design

Timothy Betjeman

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火5/Tue.5

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Art and design play important roles in society. This is true not only for the 21st century, as art and design have been formative in the shaping of the history of societies throughout the world for centuries. This course introduces students to the fields of art and design, identifying and exploring the differences and the overlaps between them.

【Goal】

Through this course, students will learn about the relationship between art and design and society, while also gaining an understanding of concepts relating to aesthetics, media studies, art history and contemporary art and design. Through the ideas introduced in this course, students will become more aware of the impact of art and design in the world around them, and equip themselves with the knowledge and vocabulary to engage in discussions related to the topics raised.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

In addition to attending lectures on art and design, students will engage in weekly tasks in response to the subjects of the lectures. As the first half of the course concludes, the students are expected to choose a topic for their final presentation.

The presentation of the project will be a combination of oral presentation, slides(optional) and presentation of preparatory notebook work.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

Feedback on presentations will be given in class. Separate feedback will be given via email or the Learning Management System if required.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The functions of art	What does/should art do? What should art not do? Considering aesthetics, entertainment politics, ritual and other functions of art in society.
3	The functions of design	The purpose of design and the various roles within its production. Considering branding, products, and their impact on society.
4	Authorship in art and design	From the author as genius to the anonymous company designer, considering the importance of authorship in art and design
5	Art objects	Exploring art objects as commodities
6	Beyond function	Creativity in design and how design is not always functional
7	Mid-term presentations	Students present their proposed topic in a group and discuss how to develop each person's topic towards the final presentation.
8	Focus on media art	Art beyond the art object: technology in art
9	Focus on technology in design	Cutting-edge technology and new materials in design
10	Innovation	Innovation in art and design in the 21st century:
11	Entertainment becomes art	Examples in computer games, cinema, etc.

12	Future Trajectories	Examine the potential of cutting-edge technologies and materials, works of science fiction, speculative inventions, and theories about the evolution of art in society.
13	Final Presentations	End of term presentations and discussion 1
14	Final Presentations	End of term presentations and discussion 2

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used.

The instructor will provide digital notes through Google Classroom, as well as access to reading materials.

【References】

Manoich, Lev (2002) *The Language of New Media*, MIT Press. Berger, John (2012/1972) *Ways of Seeing*, Penguin. Lidwell, William, et al. (2010) *Universal Principles of Design*, Rockport. Meggs, Philip, Purvis, Alston (2016) *Meggs' History of Graphic Design*, Wiley. Wagner, Richard (1993/1849) *"The Art-Work of the Future" and Other Works* < . >

【Grading criteria】

Participation:

Includes classroom activities, assigned readings, weekly submitted tasks/response.

Final Presentation: Students choose examples of "innovative" art or design they have experienced or engaged with directly. The presentation should include key points such as innovation, value, authorship, the user/viewer experience, and also logically reason the work's appeal to them and to the general public. In addition to the presentation itself, preparatory work in a notebook will be assessed to form the final grade. Students are free to choose their topic, but must present the chosen topic in class during the first half of the semester.

Final assessment is based on:

Active participation 60% (including weekly tasks submitted through Google Classroom =50% and mid-term presentation/discussion =10%), Final Project 40% (Presentation =30% preparatory notebook work = 10%)

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Students will need a computer, a notebook (e.g. sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape). A digital notebook/tablet is also acceptable.

Students will need access to a camera or scanner to submit digital images of their notebook work online.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

Drama Workshop

John Wescott Oglevee

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
 Day/Period : 水1/Wed.1
 Notes : < GIS students> 2023年度までの入学者は配当年次1~4年
 その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is a practical, semester-long practice of noh-gaku and contemporary performance.

We will have hands on experience of the following:

1. Noh dance and chant
2. Group movement improvisation and deep listening exercises
3. Noh instruments
4. Kyogen style speech and movement

【Goal】

By the end of this course, students will have:

1. Memorized the movement and chant for one noh shimai (short dance) and one kyogen komai.
2. Be familiar with the flute, and hand drums of noh.
3. Be able to chant in a group of a short excerpt from a full noh.
4. Be able to differentiate between noh and kyogen.
5. Be familiar with a group of exercises called "viewpoints" which highlights group listening, responding and reacting as improvisation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【Method(s)】

1. This course will use traditional teaching methods of hands on experiential practice.
2. Students will be using their voices and bodies to repeat the techniques learned in class and express themselves.
3. Traditional techniques of noh instruction will be utilized. For instance, students will be required to sit on the floor (seiza) (exemptions will be made for those with physical limitations).
4. Feedback from the teacher will be given in class as well as to the students in response to their journal submissions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview of syllabus as well as brief history of noh-gaku.
2	Shimai / utai day 1 Theater listening	Shimai / utai day 1 Deep Breathing, relaxation, memory game.
3	Shimai / utai day 2 Theatre exercises	Shimai / utai day 2 Zip Zap Zup, Mirroring
4	Shimai / utai day 3 Viewpoints intro	Shimai / utai day 3 Group jump, lanes.
5	Shimai / utai day 4 Viewpoints	Shimai / utai day 4 Group jump, lanes
6	Shimai/utai day 5 hayashi day 1 Viewpoints	Hayashi day 1 Flute
7	Shimai/utai day 6 Hayashi day 2 Viewpoints	Shimai/utai day 5 Hayashi day 2 Viewpoints
8	Shimai/utai day 7 Hayashi day 3	Hayashi day 3
9	Kyogen day 1 Viewpoints	Kyogen day 1 Viewpoints
10	Kyogen day 2 Viewpoints	Kyogen day 2 Viewpoints
11	Shimai / utai / komai practice Viewpoints	Students will prepare for in-class recital (happyokai)
12	Shimai / utai / komai practice	Students will prepare for in-class recital (happyokai)
13	Shimai / utai / komai practice Final practice	Students will perform shimai for the class

14	Final Performances. Viewpoints and class evaluations.	Students will have the opportunity to try their dance with a mask as well as fill out class evals. The evaluations will then be submitted at the conclusion of the class

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must practice what they have learned in class on their own. The physical movement and chant style of noh takes time to develop and only comes with repetition. Students should be prepared to practice noh a minimum of 15 minutes EACH DAY.

Students will be required to keep an "experience journal" an example of which will be distributed on the first day of class.

Total preparatory study and review time/practice for this class are 2 hours each week.

【Textbooks】

Material will be provided by the instructor and distributed in class.

【References】

A list of related references - when and if necessary - will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Participation 50%
 Experience journal 30%
 Final recital 20%

【Changes following student comments】

n/a

【Equipment student needs to prepare】

Students must come to class if possible in white indoor tabi. If the student has trouble acquiring them, please ask the teacher for assistance. If it is impossible to purchase tabi, students must come to class in socks. Another essential tool for practicing noh is a noh fan. Orders for fans will be taken on the first day of class. For students not able to purchase one, alternatives will be suggested.

【Others】

Students must come to class with clothes they can move in. Short skirts or restrictive jeans are not acceptable. We will be sitting and moving a lot as well as sitting on the floor.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA (芸術学 / Art studies 200)

Japanese Art History

Alberto Carrasco Lara

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
 Day/Period : 金1/Fri.1
 Notes : < GIS students> 2023年度までの入学者は配当年次1~4年
 その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

What do terms like 'tradition,' 'modernity,' 'postmodernity,' and 'contemporary' really mean, and how do these concepts shape our understanding of a nation or its people? This course explores the intersection of art, aesthetics, tradition, modernity, and postmodernity in Japan. By examining the development of art history in Japan, we aim to address key questions related to these concepts. Our focus spans from the Meiji period to the present, highlighting key artists, movements, and cultural expressions.

We will study the paradigm shifts that occurred during both the pre-war and post-war periods, exploring how the introduction of modernity transformed Japanese aesthetics. This will involve analyzing the interpretations and manifestations of this change. At the same time, we will critically assess how ideas of tradition, modernity, and Japaneseness have been utilized in nation-building and identity formation.

Additionally, we will examine the work of prominent scholars who have theorized the creation of Japan as a cultural space and the role of art in Japan before and after the advent of modernity.

Throughout the course, students will develop the tools for visual analysis and critical thinking, equipping them with the skills needed for in-depth cultural analysis.

【Goal】

General Objectives:

- Differentiate between modern and contemporary Japanese art: Explore the transformation of aesthetics in Japan from the Meiji period to the present, focusing on how modernity and postmodernity have been introduced and interpreted within Japanese art.
- Critically engage with culture and art:

Evaluate scholarly perspectives on modernity, postmodernity, and the transition between them in the context of Japanese visual arts. Challenge conventional ideas of 'art,' 'tradition,' 'modernity,' and 'contemporary culture.'

- Identify key political and historical events that shaped art movements: Analyze the major shifts in Japanese art within specific historical and political contexts, exploring the relationship between politics and aesthetics in the development of artistic movements.

- Develop skills in visual analysis and critical thinking: Cultivate the ability to analyze visual form and think critically through the study of key art movements, events, and cultural expressions in Japan, enabling deeper engagement with the subject matter.

Specific Objectives:

- Recognize major art movements, events, and artists in Japan: Identify the key artists, movements, and cultural expressions in Japanese art history, understanding their role in shaping modernity and postmodernity within Japanese aesthetics.

- Understand the global context of Japanese art: Explore the broader cultural, linguistic, and geographic contexts in which Japanese art developed, recognizing the interconnectedness of the global art world and how international exchanges influenced Japanese aesthetics.

- Analyze the relationship between politics and aesthetics: Examine the impact of political and historical events on Japanese art, and explore the complex ways in which politics and aesthetics intersect in shaping artistic developments in Japan.

- Compare modern and contemporary art in Japan: Compare and contrast the characteristics and processes of modern and contemporary Japanese art, focusing on the transition between artistic periods and the influence of global trends and popular culture on Japanese art practices.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
 Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Class format:

Each session will be divided into two parts. The first part of the session is comprised by the lecture on the assigned topic/theme. The second part of the session is devoted to class discussion. *During the discussion, students will follow the lead of the student in charge of the assigned reading. After the initial discussion, the instructor will join to answer and pose questions to students. (*Contingent on the number of students enrolled in the course.)

At the beginning of each class, individual and general feedback will be given to students regarding their assignments. The subsequent questions will be part of the class discussion and students will be able to address the questions of their peers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Mapping Tradition: the myth of the origin	Readings: Excerpts from: Anderson, Benedict, Imagined Communities: Reflections on the Origin and spread of Nationalism, Verso, 1983. Excerpts from: Hobsbawm, Eric and Ranger, Terence, The Invention of Tradition, Cambridge University Press, 1983. Excerpts from: Hudson, Mark J., Ruins of Identity: Ethnogenesis in the Japanese Islands, Hawaii University Press, 1999.
3	Traditional Arts of Where? The making of Japan as an homogeneous space	Readings: Vlastos, Stephen, "Tradition: Past, Present Culture and Modern Japanese History", in: Mirror of modernity: invented traditions of modern Japan, edited by Stephen Vlastos, University of California Press, Berkeley, 1998. Morris, Low, "Physical Anthropology in Japan: The Ainu and the Search for the Origins of the Japanese" in: Current Anthropology, Vol. 53, No. S5, The Biological Anthropology of Living Human Populations: World Histories, National Styles, and International Networks (April 2012), pp. S57-S68, University of Chicago Press.
4	The Invention and Reification of Culture: Japanese identity in traditional Art	Readings: Morris-Suzuki, Tessa, "The Invention and Reinvention of "Japanese Culture" in: The Journal of Asian Studies, Vol. 54, No. 3 (Aug., 1995), pp. 759-780, Duke University Press. Excerpts from: Addiss, Stephen; Groemer, Gerald and Rimer, J. Thomas (ed.), Traditional Japanese Arts and Culture, University of Hawaii Press, 2006. Excerpts from: Lebra Sugiyama, Takie, The Japanese Self in Cultural Logic, University of Hawaii Press, 2004.
5	Popular Media in Premodern Japan	Readings: Guth, Christine. "Development in Woodblock Prints: 1660– 1760," in Art of Edo Japan: The Artist and the City 1615– 1868 (New York: Harry N. Abrams, Inc., 1996) 99– 117. Burnham, Helen and Jane E. Braun. "Introduction: The Allure of Japan," in Looking East: Western Artists and the Allure of Japan from the Museum of Fine Arts, Boston, edited by Endo Nozomi, Kato Aya, Ozaki Masato et al. (NHK Promotions, 2014) 226– 229.

6	Modernity and Aesthetics in Japan	Readings: Excerpts from: Sato, Doshi, <i>Modern Japanese Art and the Meiji State: The Politics of Beauty</i> , Getty, 2011. Excerpts from: Marra, Michele, <i>Modern Japanese Aesthetics: a reader</i> , University of Hawaii Press, 2001.	• Adrian, Favell. "Resources, Scale, and Recognition in Japanese Contemporary Art: 'Tokyo Pop' and the Struggle for a Page in Art History." • Anderson, Benedict. <i>Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism</i>. Verso, 1983. • Brandes, Kerstin. <i>Morimura/Duchamp: Image Recycling and Parody</i>. Edinburgh University Press, 2003. • Burnham, Helen, and Jane E. Braun. "Introduction: The Allure of Japan." In <i>Looking East: Western Artists and the Allure of Japan from the Museum of Fine Arts, Boston</i>, edited by Endo Nozomi, Kato Aya, and Ozaki Masato et al., 226–229. NHK Promotions, 2014. • Chino, Kaori. "Gender in Japanese Art." In <i>Gender and Power in the Japanese Visual Field</i>, edited by Joshua Mostow, Bryson Norman, et al. University of Hawaii Press, 2003. • Conant, Ellen P. "Japanese Painting from Edo to Meiji: Rhetoric and Reality." In <i>Since Meiji: Perspectives on the Japanese Visual Arts, 1868–2000</i>, University of Hawaii Press, 2011. • Guth, Christine. "Development in Woodblock Prints: 1660–1760." In <i>Art of Edo Japan: The Artist and the City 1615–1868</i>, 99–117. New York: Harry N. Abrams, Inc., 1996. • Hobsbawm, Eric, and Terence Ranger, eds. <i>The Invention of Tradition</i>. Cambridge University Press, 1983. • Hudson, Mark J. <i>Ruins of Identity: Ethnogenesis in the Japanese Islands</i>. University of Hawaii Press, 1999. • Ivy, Marilyn. <i>Discourses of the Vanishing</i>. University of Chicago Press, 1997. • Jameson, Frederic. <i>Postmodernism, or the Cultural Logic of Late Capitalism</i>. Verso, 1992. • Kinsella, Sharon. "Cuties in Japan." In <i>Women, Media and Consumption in Japan</i>, edited by Lise Skov and Brian Moeran, 220–254. Honolulu: University of Hawaii Press, 1995. • Lamarre, Thomas. <i>The Anime Machine: A Media Theory of Animation</i>. University of Minnesota Press, 2009. • Lebra Sugiyama, Takie. <i>The Japanese Self in Cultural Logic</i>. University of Hawaii Press, 2004. • Marra, Michele, ed. <i>Modern Japanese Aesthetics: A Reader</i>. University of Hawaii Press, 2001. • Morris, Low. "Physical Anthropology in Japan: The Ainu and the Search for the Origins of the Japanese." <i>Current Anthropology</i> 53, no. S5 (April 2012): S57–S68. University of Chicago Press. • Morris-Suzuki, Tessa. "The Invention and Reinvention of 'Japanese Culture'." <i>The Journal of Asian Studies</i> 54, no. 3 (August 1995): 759–780. Duke University Press. • Mostow, Joshua, Bryson Norman, et al., eds. <i>Gender and Power in the Japanese Visual Field</i>. University of Hawaii Press, 2003. • Murakami, Takashi. <i>Little Boy: The Arts of Japan's Exploding Subculture</i>. Yale University Press, 2005. • Sato, Doshi. <i>Modern Japanese Art and the Meiji State: The Politics of Beauty</i>. Getty, 2011. • Vlastos, Stephen, ed. <i>Mirror of Modernity: Invented Traditions of Modern Japan</i>. University of California Press, Berkeley, 1998. • Winther-Tamaki, Bert. <i>Maximum Embodiment: Yoga, the Western Painting of Japan, 1912–1955</i>. University of Hawaii Press, 2012.
7	Nihonga: the new Japanese art of the empire	Readings: Ellen P. Conant, "Japanese painting from Edo to Meiji: rhetoric and reality" in <i>Since Meiji: perspectives on the Japanese visual arts, 1868-2000</i> , University of Hawaii Press, 2011.	
8	Yoga, Western Visuality in Japanese Arts	Readings: Excerpts from: Winther-Tamaki, Bert, <i>Maximum Embodiment: Yoga, the Western Painting of Japan, 1912-1955</i> , University of Hawaii Press, 2012. Excerpts from: Mostow, Joshua, Norman, Bryson, et al., <i>Gender and Power in the Japanese Visual Field</i> , University of Hawaii Press, 2003.	
9	Towards a Postmodern Turn (?)	Readings: Excerpts from: Jameson, Frederic, <i>Postmodernism, or the Cultural Logic of Late Capitalism</i> , Verso, 1992. Ivy, Marilyn, <i>Discourses of the Vanishing</i> , University of Chicago Press, 1997.	
10	Postmodernity Art and Subculture	Readings: Murakami, Takashi, <i>Little Boy: The Arts of Japan's Exploding Subculture</i> , Yale University Press, 2005. Excerpts from: Lamarre, Thomas, <i>The Anime Machine: a media theory of animation</i> , University of Minnesota Press, 2009. Movie: Mamoru Oshii, <i>Ghost in the Shell</i> , (1995). & Katsuhiro Otomo, <i>Akira</i> (1988).	
11	Queer Art and the Postmodern Condition, Yasumasa Morimura and the Pastiche	Readings: Brandes, Kerstin, <i>Morimura/Duchamp: Image Recycling and Parody</i> , Edinburgh University Press, 2003. Chino Kaori, "Gender in Japanese Art", in <i>Gender and Power in the Japanese Visual Field</i> , Mostow, Joshua, Norman, Bryson, et al. University of Hawaii Press, 2003. Kinsella, Sharon. "Cuties in Japan." In <i>Women, Media and Consumption in Japan</i> , edited by Lise Skov and Brian Moeran, 220-254. Honolulu: University of Hawaii Press, 1995.	
12	Pop Culture, the State and Cultural Identity	Readings: Adrian, Favell, <i>Resources, Scale, and Recognition in Japanese Contemporary Art: "Tokyo Pop" and the Struggle for a Page in Art History</i> .	
13	Japanese Art History Today	Readings: TBA	
14	Wrap up Session	Open class	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to complete the assigned readings in advance and come to class ready to participate in class discussion. Students will complete homework assignments and reading responses in addition to conducting research for the final paper. Preparatory study and review time for this class are 2-3 hours each.

[Textbooks]

Required Readings:

All required readings for this course will become available on HOPPII as PDF file unless otherwise specified. It is the student's responsibility to access and make a copy of the assigned texts. Please make sure to bring to class the required reading(s) for that day. I also reserve the right to introduce additional readings throughout the semester.

[References]

Bibliography:

• Addiss, Stephen, Gerald Groemer, and J. Thomas Rimer, eds. *Traditional Japanese Arts and Culture*. University of Hawaii Press, 2006.

[Grading criteria]

Grading Policy:

Reading responses: 40%

Midterm assignment: 15%

Final assignment: 30%

Participation: 15%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Prerequisite]

None.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

American History and Society

Robert Sinclair

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月4/Mon.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the culture and society of the United States, focusing primarily on events of the 20th and 21st century. A central theme will be the idea of America as a place of unlimited possibility and opportunity. This idea presents the United States as a new type of social experiment, where true freedom is available and where everyone can look to a better future. As we examine this perspective on America, we will further explore the conflict between American ideals and social reality as seen in the tensions between continuity and change, individualism and community, consensus and diversity.

【Goal】

Students will acquire knowledge about various aspects of America and American life, including its history, geography and political system, as well as its economic, educational, social and foreign policy. Students can then expect to (1) acquire general knowledge of the society and people in contemporary America, (2) learn how America developed from a small British colony into a major superpower, and (3) examine the new realities facing America and its global influence. We will be especially interested in understanding the consequences of the current US administration.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Students will attend lectures, read related material, give a class presentation and have two written examinations. Concerning assignments, students will receive feedback in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	American History: An Overview	American Revolution, Civil War, Reconstruction, Gilded Age, Progressive Era, The New Deal, rise as a superpower, The Cold War, recent developments
3	People	Native Americans, African Americans, immigration
4	US Political Institutions	The US Constitution, Federal Government, branches of government
5	US Religious Culture	US religions, church and state, religion and education
6	US Education	The American education system, education and democracy, recent problems
7	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject
8	US Economy	Economic Liberalism, social class and economy, the contemporary economy
9	US Foreign Policy	History of American foreign policy
10	Student Presentations	Students will discuss current issues in American Society.
11	Student Presentations	Students will discuss current issues in American Society.
12	Student Presentations	Students will discuss current issues in American Society.
13	Student Presentations	Students will discuss current issues in American Society.
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Contemporary America. 4th edition, Russell Duncan and Joe Goddard, 2013, Palgrave Macmillan.

American Civilization: An Introduction, 7th Edition, David Mauk and John Oakland, 2017, Routledge.

【References】

A - Z of Modern America, Alicia Duchak, 1999, Routledge.

Oxford Guide to British and American Culture, Jonathan Crowther, 2005, Oxford University Press.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (10%) class presentation (30%) and two exams (50%).

【Changes following student comments】

Some of the topics and readings covered in the class have been changed.

【Prerequisite】

None.

CUA200ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

Cultural Studies

Muge Igarashi

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Cultural studies analyzes the relationship between representation and power. It provides a variety of theoretical perspectives to understand how culture in the form of movies, advertising, music, everyday commodities, and other mediums combines with institutions of power in shaping how we communicate with others, interpret our social world, and formulate our identities.

In this class we will analyze things such as how media becomes a communication tool; how the commodities you consume communicate your social status to others; and how discourse and ideologies formulate your ideas on race, ethnicity, and gender.

【Goal】

Equip students with a variety of theories through which to interpret and critique the language, symbols, and visual images that we encounter and unconsciously internalize in our everyday lives.

To examine how economics, politics, and culture exert power over what and how we think.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

Classes consist of lectures and discussion. Much of class time is devoted to examining images, videos, and other media forms. Each class will introduce a major theory from cultural studies, which students will apply both individually and in groups to a particular cultural case study. Individual and detailed feedback will be provided through google classroom for each student.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory I: Representation	Examination of different understandings of this keyword.
3	Theory II: Language and Linguistics	Ferdinand de Saussure and the language of signs (the signifier and the signified).
4	Theory III: Semiotics	Roland Barthes and semiotics. Four Steps to analyzing cultural objects.
5	Theory IV: Discourse	Michel Foucault and discourse.
6	Culture and Ideology	Louis Althusser and interpellation.
7	Capitalism, Economy, Marxism	Basics of Marxist theory.
8	Consumption and Identity	Relation between consumption and identity formation.
9	Review and midterm	Summary, review, and midterm
10	Ethnicity, Race, Nation	Self identity and social identity. Typing and stereotyping.
11	Sex, Gender, Body I: Femininities	Social construction of femininity and its reflection in the media.
12	Sex, Gender, Body II: Masculinities	Social construction of masculinity and its reflection in the media.
13	Kawaii Fashion and Culture	What is "kawaii"? What does "kawaii" do? Is it different from the western notion of "cute"
14	Final exam & Wrap-up	Concluding remarks and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read before each lesson and come to class prepared to discuss them. Preparatory study and review time for this class are two hours per week.

【Textbooks】

Readings as well as relevant media will be uploaded to Google Drive.

【References】

- Hall, Stuart, Jessica Evans, and Sean Nixon. 1997. Representation: Culture Representation and Signifying Practice, First Edition. Sage Publications Ltd. ISBN: 9780761954323.

- Barker, Chris. 2012. Cultural Studies: Theory and Practice, Fourth Edition. Sage Publications Ltd. ISBN: 9780857024800.

- Lewis, Jeff. 2008. Cultural Studies: The Basics. 2nd edition. Sage Publications Ltd. ISBN: 1412922305

【Grading criteria】

Participation 10%

Assignments 30%

Midterm 30%

Final exam 30%

【Changes following student comments】

None.

【Prerequisite】

None

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Education and Society

Kohei Takagi

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金4/Fri.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

In this course, students are introduced to a broad range of topics, issues and theories regarding education and its relationship with society. The course focuses on higher education. It examines how universities are influenced by social changes such as globalization, technological advancement, and transition to a knowledge society, as well as how universities themselves are agents of these changes.

While the course primarily looks at Japanese higher education, it incorporates international and comparative perspectives. Through the assessment of various topics, students will reflect on and critically evaluate their educational experiences and their connection to broader social changes.

【Goal】

Students will gain an understanding of key issues related to higher education and society. They will be able to critically assess how social changes impact educational institutions and, consequently, their learning within them. They will also develop research and collaborative skills by conducting research projects, delivering presentations, and initiating in-class discussions.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course consists of lectures, in-class discussions, and group work. Students are given reading assignments and are expected to come prepared for discussions.

For topics in Weeks 8-12, students will conduct group research projects and present their findings to the class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the course, key concepts and topics to be explored.
2	Who goes to university?	Characteristics of university students in Japan and comparison with other countries.
3	Values of Higher Education	What are social and economic values of higher education?
4	Education and Career	Is university education relevant to your career? Assessing characteristics of Japanese perceptions based on international surveys.
5	Higher Education and Globalization I	Student mobility and internationalization of universities from historical perspectives.
6	Higher Education and Globalization II	University ranking and the race for world class universities. What are the implications to teaching and research?
7	Higher Education and Local Community	The town-gown relationship. How universities contribute to and are supported by local communities.
8	Teaching and Learning	Changing university education and student learning in relation to technological transformation, such as generative AI.
9	Diversity and Inclusion I	Gender, sexuality, and disability. Analyzing gender disparity, LGBTQ+ inclusion, and accessibility policies in Japan.
10	Diversity and Inclusion II	Racial/ethnic minority experiences and campus environment in Japan.
11	University Sports	Functions of university sports and experiences of student-athletes.

12	Student Activism	Students' engagement in social issues on and off campus.
13	Academic Disciplines	Relevance and values of disciplinary knowledge in today's society.
14	Do we need universities?	Concluding discussion on values of universities.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory reading for class and willingness to engage in discussion are expected. Students are required to participate in group discussions and to conduct a group research project.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no textbook for this class.

【References】

Snowden, P. (Ed.). (2021). Handbook of Higher Education in Japan. Japan Documents.

【Grading criteria】

Weekly writing assignments 40%

Group research project 40%

Final essay 20%

【Changes following student comments】

NA

【Equipment student needs to prepare】

NA

【Others】

NA

【Prerequisite】

None

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Gender, Sexuality and Society

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月1/Mon.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course serves as an introduction to the sociology of gender and sexuality. The first half of the course covers the sociology of gender, and the second half of the course covers the sociology of sexuality. While a range of issues relevant to gender and sexuality will be taken up, this course focuses on the perspectives offered by relevant social science theories and concepts to interpret findings from social science research. In this course, students will learn to look at gender and sexuality issues critically and understand the subtle social processes through which taken-for-granted ideas and practices about gender and sexuality are created.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify the difference between sex, gender, and sexuality, (2) define the key theories and concepts of gender and sexuality (remembering/understanding), (3) apply those concepts to understand how gender and sexuality affect individuals' experiences embedded in structures of power (applying), and (4) analyze the ways in which sex, gender, and sexuality are socially constructed (analyzing).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught primarily through interactive lectures. A variety of active learning techniques, such as in-class writing assignments, small group discussions, and comment sheets, are used to accommodate diverse student learning styles. In-class quizzes are held occasionally so that students understand their own level of understanding of the course materials at the moment. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Also, feedback for the previous class is given at the beginning of each class. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is gender? What is sexuality?
2	Sexing the Body	How is sex determined in human beings?
3	Feminist Thought and Movements	How has feminism shaped our understanding of gender?
4	Gender and Family	Why does housework remain "women's work"?
5	Gender and Education	What are the major sources of gender inequality in education?
6	Gender and Labor	What do we know about gender inequality at work?
7	Review & Midterm Exam	Course review, students' inquiries, and midterm exam
8	Dimensions of Sexuality	What is the social construction of sexuality?
9	History of LGBTQ movements	How do LGBTQ movements advocate for the human rights of LGBTQ people in society?
10	Same-Sex Marriage	How might same-sex marriage oppress those who are most marginalized within the LGBTQ community?
11	Discrimination against Transgender People	What social-institutional barriers do transgender people face?
12	Sexual/Gender Minorities and Social Attitudes	Is Japan "tolerant" of non-normative gender and sexuality?

13	Demography of Sexual Orientation and Gender Identity	How many people are LGBTQ? Do LGBTQ people earn more or less than non-LGBTQ people?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review the lecture slides and other course materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Electronic slides will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

In-class quizzes: 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Prerequisite】

None.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Gender, Sexuality and Society

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月1/Mon.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course serves as an introduction to the sociology of gender and sexuality. The first half of the course covers the sociology of gender, and the second half of the course covers the sociology of sexuality. While a range of issues relevant to gender and sexuality will be taken up, this course focuses on the perspectives offered by relevant social science theories and concepts to interpret findings from social science research. In this course, students will learn to look at gender and sexuality issues critically and understand the subtle social processes through which taken-for-granted ideas and practices about gender and sexuality are created.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify the difference between sex, gender, and sexuality, (2) define the key theories and concepts of gender and sexuality (remembering/understanding), (3) apply those concepts to understand how gender and sexuality affect individuals' experiences embedded in structures of power (applying), and (4) analyze the ways in which sex, gender, and sexuality are socially constructed (analyzing).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught primarily through interactive lectures. A variety of active learning techniques, such as in-class writing assignments, small group discussions, and comment sheets, are used to accommodate diverse student learning styles. In-class quizzes are held occasionally so that students understand their own level of understanding of the course materials at the moment. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Also, feedback for the previous class is given at the beginning of each class. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is gender? What is sexuality?
2	Sexing the Body	How is sex determined in human beings?
3	Feminist Thought and Movements	How has feminism shaped our understanding of gender?
4	Gender and Family	Why does housework remain "women's work"?
5	Gender and Education	What are the major sources of gender inequality in education?
6	Gender and Labor	What do we know about gender inequality at work?
7	Review & Midterm Exam	Course review, students' inquiries, and midterm exam
8	Dimensions of Sexuality	What is the social construction of sexuality?
9	History of LGBTQ movements	How do LGBTQ movements advocate for the human rights of LGBTQ people in society?
10	Same-Sex Marriage	How might same-sex marriage oppress those who are most marginalized within the LGBTQ community?
11	Discrimination against Transgender People	What social-institutional barriers do transgender people face?
12	Sexual/Gender Minorities and Social Attitudes	Is Japan "tolerant" of non-normative gender and sexuality?
13	Demography of Sexual Orientation and Gender Identity	How many people are LGBTQ? Do LGBTQ people earn more or less than non-LGBTQ people?

14 Review & Final Exam What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review the lecture slides and other course materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Electronic slides will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

In-class quizzes: 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Prerequisite】

None.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Media Effects

Muge Igarashi

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Media such as news, movies, and the Internet affect us both individually and socially. On the one hand media shapes our everyday lives at the individual level through our inspirations, career goals, and consumption patterns. On the other hand, at the social level, media can influence our perceptions on political decisions, leaders, economic performance, our global allies and/or enemies.

This course examines both of these individual and social effects of media, offering students a toolbox of terms and theories in order to recognize, analyze, and personally manage the pervasive effects of media in our lives.

【Goal】

- 1) Introduce basic terms and theories of media effects research.
- 2) Provide case studies on major topics in media effects research such as violence, consumer desire, nationalism, gender, and culture industries.
- 3) Equip students with basic skills to recognize and manage media effects on a personal level.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

This course focuses on the impact of the mass media on individuals and society. An overview of the history of media effects research will be presented and dominant theories in the field will be introduced.

Classes will also often include the textual reading of a particular media such as advertisements, TV shows, films, or web pages.

Students should be eager to participate in class discussion and share their ideas and experiences.

Students are required to submit three assignments and to participate in a group presentation.

Feedback on each assignment will be provided individually through Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Media as Medium	"The medium is the message" (McLuhan)
3	Media Effects	Introduction to media effects theories.
4	Media Influence	Brief historical overview of media influence on individuals and society.
5	Media Theory I	Cultivation Theory - Student presentations.
6	Media Effects: Case Study I	Media effects of violent and sexual content - Student Presentations. Assignment #1 due.
7	Media Theory II	Agenda setting and framing - Student presentations.
8	Media Theory III	Uses and gratifications - Student presentations. Assignment #2 due.
9	Media Effects: Case Study II	Media effects of Gaming and the Internet - Student presentations.
10	Media Effects: Case Study III	Media Effects of anime and manga - Student presentations.
11	Society, Culture, and Mass Media	Culture industries - Student presentations.
12	Media Effects in Japan	Idols and the entertainment industry - Student presentations.
13	Group Discussion	Group discussion on media effects. Assignment #3 due.
14	Wrap-up and Final Exam	Wrap-up and Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review class materials, complete assignments, and find relevant material for their presentations. Preparatory study and review time for this class are two hours per week.

【Textbooks】

There is no single textbook required for this course. Readings as well as relevant media will be uploaded to Google Drive.

【References】

- Jennings Bryant, Susan Thompson, and Bruce Finklea. (2013). Fundamentals of Media Effects. Second Edition. Waveland: Illinois.
- Potter, James. (2012). Media Effects. Sage Publications: UK, India, Singapore.

【Grading criteria】

Participation 10%
Presentation 10%
Group Discussion 10%
Assignments 45%
Final Exam 25%

【Changes following student comments】

None.

【Prerequisite】

None.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : <優> <S> <ダ> <未>

【Outline and objectives】

This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social inequality (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social inequality to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various dimensions of social inequality (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on social inequality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: "Academic Reading"	What reading strategies can help us understand academic texts in the social sciences accurately and systematically?
3	Foundation: "Inequality"	What do we mean by inequality?
4	Foundation: "Class"	How do major social scientists conceptualize social class?
5	Social Stratification in Japan	What does social stratification in Japan look like?
6	Foundation: "Race"	What are the main theoretical approaches to race?
7	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
8	Foundation: "Gender"	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: "Sexuality"	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexual Orientation and Gender Identity in Japan	How to measure sexual orientation and gender identity on surveys in Japan?
12	Foundation: "Disability"	What is the social model of disability?
13	Foundation: "Intersectionality"	What is intersectionality?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further references may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Others】

Students are strongly encouraged to take "Race, Class and Gender II" after completing "Race, Class and Gender I." Students who have passed "Race, Class and Gender I" will be given admission priority to the seminar "Intersectionality: Multiple Inequalities."

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Introduction to Sociology" and "Introduction to Social Research Methods."

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Accounting II

Noriaki Okamoto

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The main objective of this course is to theoretically and practically understand the new trends in accounting: accounting for sustainability and social impact. After taking this course, students will gain relevant knowledge about accounting for corporate sustainability and social impact. More specifically, students can learn the basics of how to recognize, measure, and report corporate sustainability and social impact.

【Goal】

This course consists of accounting for sustainability and social impact, both of which have recently gained prominence in corporations and attracted stakeholders' attention. By taking this course, students can understand theories and academic findings regarding accounting for sustainability and social impact. Moreover, students can discuss practical topics such as specific institutions (some frameworks to calculate sustainability and social impact) and real leading companies' practices.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught through lectures, discussions and exercises. At my discretion, I may assign one or more mini-projects to be completed during, or outside of, the class. Occasionally, students are required to submit reaction papers (mini-essay) at the end of the session. Students are also encouraged to ask questions and to request that particular points be explained if they remain confused or uncertain about items discussed during the class. Feedback on the students' performance in the assignments during the course will be given. At the end of the course, final exam and (individual or group) presentation will be assigned.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview and introduction	General explanation of the course overview and structure
2	Accounting for Sustainability: Historical Development and Background ①	Review and discuss the historical development of accounting for sustainability (handouts/slides)
3	Accounting for Sustainability: Historical Development and Background ②	Understand global diffusion of accounting for sustainability (handouts/slides)
4	Accounting for Sustainability: Key Concepts and Theories ①	Learn the basic conceptual basis for accounting for sustainability (handouts/slides)
5	Accounting for Sustainability: Key Concepts and Theories ②	Discuss and analyze the theoretical framework for accounting for sustainability (handouts/slides)
6	Accounting for Sustainability: Sustainability Reporting ①	Learn the current state of accounting for sustainability (handouts/slides)
7	Accounting for Sustainability: Sustainability Reporting ②	Understand and discuss different types of accounting for sustainability (handouts/slides)
8	Accounting for Sustainability: Sustainability Reporting ③	Consider the structures and effects of accounting for sustainability (handouts/slides)

9	Accounting for Social Impact ①	Understand the significance of impact investment and accounting for social impact (handouts/slides)
10	Accounting for Social Impact ②	Understand the different types of accounting for social impact (handouts/slides)
11	Accounting for Social Impact ③	Consider and discuss the measurement of social impact (handouts/slides)
12	Accounting for Social Impact ④	Analyze and discuss some cases of social impact measurement (handouts/slides)
13	Review exam	Comprehensive review exam
14	Final presentation	Final presentations (individual/group) and Q&A

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the assigned handouts (textbook chapters, etc.) before each class. Also, in addition to the preparation for presentations, there will be homework during the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no specific textbook students should get. Necessary chapters from references will be given (will be uploaded on the course website).

【References】

Matias Laine, Helen Tregidga, and Jeffrey Unerman (2022), *Sustainability Accounting and Accountability* 3rd edition, Routledge.
Gunnar Rimmel (2020), *Accounting for Sustainability*, Routledge.
Stewart Jones, Helena de Anstiss, and Carman Garcia (2022), *Social Impact Investing: An Australian Perspective*, Routledge.
Ronald Cohen (2020), *Impact: Reshaping Capitalism to Drive Real Change*, Ebury Press.

【Grading criteria】

Projects / homework 30%,

Class participation / discussion 20%, Review exam 30%, and Final presentation 20%

【Changes following student comments】

None

【Equipment student needs to prepare】

A calculator

【Others】

Purchasing the textbook is not required.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Brand Management

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

To explore effective management for building a strong corporate / regional brand. Brand strategy has been receiving attention since the 1980s, after the innovative concept of brand equity became an important part of marketing strategy, helping companies and local governments to survive a competitive marketplace. In this course, students will examine some significant theories by Aaker and Keller, who are eminent researchers in this field. Basic / advanced theories by other researchers will also be explored.

【Goal】

The purpose of this course is to develop an understanding of branding and branding strategy. Students will learn effective ways to build a strong brand.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

In this course, students will read theories, discuss and analyze some case studies to find out the most suitable processes for building a strong brand, which will be helpful in increasing domestic and overseas sales. Moreover, as a wrap-up, we will also discuss the future outlook of brand management from a strategic viewpoint. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is a Brand?	Learn how the definition of "brand".
3	Brand Equity	Learn how new brand equity is a set of assets.
4	Brand Loyalty	Learn new brand loyalty is one of the brand assets, and key considerations when placing a value on a brand that is to be bought or sold.
5	Brand Awareness	Learn new brand awareness and the strength of a brand's presence in the consumer's mind.
6	Perceived Quality	Learn about how new perceived quality is a brand association that is elevated to the status of a brand asset.
7	Brand Associations	Learn how new brand equity is supported in great part by associations that consumers make with a brand.
8	Name, Symbol and Slogan	Learn how the new name, symbol and slogan are the basic core indicators of a brand.
9	Brand Extension	Learn about line extensions, brand stretching, brand extensions, and co-branding.
10	Brand Identity	Learn the definition of brand identity and related concepts.
11	Brand Personality	Learn how new brand personality is a set of human characteristics associated with a given brand.
12	Brand Strategies over Time	Learn the reason why consistency is good.

13	Managing Brand Systems	Learn how to manage brands in a complex environment.
14	Review and Final Exam	Review of what students have learned from this course and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

Aaker, D.A (1991) *Managing Brand Equity: Capitalizing on the Value of Brand Name*, Free press.

Aaker, D.A (1996) *Building Strong Brand*, Free press.

Keller, K.L (1998) *Strategic Brand Management: Building, Measuring, and Managing Brand Equity*, Prentice-Hall, Pearson Education.

【Grading criteria】

Class participation (20%)

Assignment (20%)

Final exam (60%) (Midterm reviews will cover some questions in the final exam)

【Changes following student comments】

The course structure and content was favorably evaluated.

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Business Negotiation

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

Negotiation is an interdisciplinary study (psychology, business management, economics, politics, law, etc.) which has been developed since the 1970s, when Harvard University started researching negotiation in a systematic manner. The study of this has become increasingly significant to global society. This course introduces students to the basic negotiation theories and techniques.

【Goal】

The purpose of this course is to learn basic negotiation theories and techniques, and utilize them in both business negotiations and daily life.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

In this course, students will learn basic negotiation theories, read and discuss case studies, and study consensus building so as to be able to interact with different societies. Feedback can be given verbally in class, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is Negotiation?	Learn the definition of negotiation.
3	Negotiation and Conflict	Learn how negotiation is a method to resolve conflicts.
4	Win-Lose Negotiation (distributive bargaining)	Learn Win-Lose negotiation (theory and techniques).
5	Case Study (1)	Read and discuss case studies of Win-Lose negotiation.
6	Win-Win Negotiation (integrative bargaining)	Learn Win-Win negotiation (theory and techniques).
7	Case Study (2)	Read and discuss case studies of Win-Win negotiation.
8	Pareto-Optimal Solution	Learn how to search for Pareto-Optimal solutions in negotiation.
9	Negotiation Strategy and BATNA	Learn why BATNA is important in negotiation.
10	Case Study (3)	Read and discuss BATNA case studies.
11	Case Study (4)	Read and discuss BATNA case studies.
12	Consensus Building	Learn how to build consensus while negotiating complex issues.
13	Intercultural Negotiation	Learn cultural differences and effective intercultural negotiation methods.
14	Review and Final Exam	Review and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

Fisher, Roger and William Ury. *Getting to Yes: Negotiating Agreement Without Giving In* New York: Penguin Books, 1983.

Wheeler, Michael. *The Art of Negotiation: How to improvise Agreement in a Chaotic World* New York: Simon and Schster, 2013.

Bazerman, Max and Margaret Neale. *Negotiating Rationally* Free Press, 1994.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation (20%), a writing assignment (20%), and the final exam (60%)(Midterm reviews will cover some questions in the final exam)

【Changes following student comments】

The lecturer will provide more business negotiation tips.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Creative Industries

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

In this class, we will explore different elements of contemporary creative industries and their surrounding cultures in Japan. This will include examining the differing conceptions of creativity they enable, and how this is connected to changes in media technologies and business strategies. Over the course of the semester we will explore the history of the idea of creative industries, examining specific industries in Japan. We will be focusing on the areas that are currently promoted locally and globally as key cultural industries in Japan. This includes anime, manga, toys, and the character business, exploring how these industries interacted and influenced one another. We will then move on to see how this connects to other industries, such as tourism. Lastly, we will examine the Japanese fashion industry in detail. For each of these commercial industries, we will analyze their production, distribution, and consumption as we examine different approaches to branding and creativity.

【Goal】

In addition to teaching the students information on the cultural production, economics, and marketing of the creative industries, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) critically engage with the concept of creativity; 2) learn the history of different creative industries and their shifts in business strategies and marketing; 3) explore how these shifts reflect societal changes in Japan.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions and analyses on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Anime's Business Structure	History and technology
3	Media-mix and Marketing I	Case study I
4	Media-mix and Marketing II	Case study II
5	Media-mix and Marketing III	Anime tourism
6	(Re)Conceptualizing Creativity I	Creativity and branding
7	(Re)Conceptualizing Creativity II	Robots and creativity
8	Smartphone Games	Production and problematics
9	Kawaii Culture	Local and global branding successes
10	Fashion I	Fashion and lifestyle branding
11	Fashion II	Branding Japanese Americana
12	Student Presentations	Feedback and Discussion
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Steinberg, Marc. *Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan*. University of Minnesota Press, 2012.

Marx, W. David. *Ametora: How Japan Saved American Style*. Basic Books, 2015.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Entrepreneurship and New Ventures

Sean Michael Hackett

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 土2/Sat.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is an active learning course centered on the fundamentals of entrepreneurship and entrepreneurial management. The course is positioned as an entry point for learners who think that they might want to start their own business “someday,” and want to learn about — and practice elements of — the lean startup process now. Specifically, the course is designed to help learners develop a better understanding of how to find, frame, and solve problems; generate and/or discover business ideas; articulate and evaluate business concepts; convert surviving business concepts into business opportunities through creativity, market analysis and segmentation, design thinking, lean startup customer development processes and business model design while searching for a validated business model; and then prepare to drive sales while leveraging a digital presence and infrastructure.

【Goal】

The learning goal of the course is developing entrepreneurial management competency. The learning objectives for this course include the following: developing an entrepreneurial mindset; understanding various frameworks; developing critical thinking, communication, leadership, teamwork, and ethical reasoning skills; developing a practice of reflection.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【Method(s)】

- Preparation. Students should complete the assigned reading before each class.
- Class. In the first half of each class, there is a lecture. After the lecture, students break into groups to complete experiential exercises that require students to apply key concepts from the lecture and the assigned reading.
- Review & Reflect. After each class, students should review their notes and teams must submit the results of their in-class experiential exercise.
- The Mid-Term is a Short Paper that includes a description of a Business Concept and a 5Cs analysis.
- The Final Deliverable in the course is a Business Model Canvas and Executive Summary.
- Feedback. Feedback is provided via the grade book feature in the Learning Management System (LMS) used by the Professor. Additionally, when warranted, comments are provided by the Professor via the LMS.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	The Fundamentals of Entrepreneurship.
2	Finding, Framing, and Solving Problems Worth Solving	Frameworks that entrepreneurs use in the initial stages of the entrepreneurial process.
3	Recognizing & Shaping Opportunities for a New Business	Distinguishing among business ideas, business concepts, and business opportunities; brainstorming skills and discovery skills.
4	Creativity and Business Concepts	How creativity can strengthen a business concept and help entrepreneurs discover transformative strategies.
5	Segmenting, Targeting, Customer Value Propositioning, and Positioning	Market analysis; positioning and customer value propositioning for targeted customer segments.
6	Business Models	Business models.
7	Design Thinking & New Product Development	The design thinking process as it is applied to new product development.

8	Lean Start-Ups &The Business Model Canvas	The three core elements of lean startups: business model canvas; customer development model; and agile development.
9	Customer Experience	How good customer experience design and good website design can translate into more sales.
10	Leveraging Cloud Computing, AI, and Workflow Automations	How cloud computing, AI, and workflow automations can be harnessed by entrepreneurial managers.
11	Go-to-Market Strategy	Go-to-Market Strategy.
12	SEO Marketing + Social Commerce	Using a case study to explore the potential for using SEO Marketing, Social Commerce, and an Entrepreneurial Mindset to compete against large enterprises.
13	Counterfeit Goods & System D	The logic of counterfeiters and the challenge of competing against them and System D (the informal economy).
14	Course Wrap Up	This session is a review of the course.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Before each class, participants complete the assigned reading(s).

After each class individual students review their notes and reflect on what they learned; teams submit the results of their experiential exercise.

【Textbooks】

The instructor will create an online coursepack of readings from the Harvard Business School Publishing repository. The cost of the coursepack is approximately US \$60. (Note: Payments for the coursepack can be made with either a credit card or a debit card).

【References】

If you want to read a book before taking the class, I recommend the new expanded edition of Disciplined Entrepreneurship by William Aulet.

【Grading criteria】

- LMS registration: REQUIRED
 - Attendance: REQUIRED
 - Class Participation & Attitude: 130 points (16%)
 - Group Experiential Exercises: 165 points (21%)
 - Mid-Term Short Paper: 105 points (13%)
 - Final Deliverable: 400 points (50%)
- Total Available Points: 800 (100%)
(% is rounded)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

- A credit or debit card to pay for the online coursepack.
- A PC & internet connection.

【Others】

• IMPORTANT: Before the first class, please complete the Onboarding Survey which is located at <https://hackettlabs.com/gis/>. Also, this course does not use WebClass. Instead, this course uses Canvas, a global Learning Management System (LMS).

【Prerequisite】

None

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Marketing Research

Kayhan Tajeddini

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木5/Thu.5

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course will provide an introduction to market research as a business decision-making tool. The primary goal of this course is to equip students with an understanding of how market research can help them make business decisions and how they can transform research findings into actionable business insights. The course also aims to help students gain the ability to evaluate and interpret research designed and conducted by outside providers. During the course, we will discuss a wide range of research methods, including in-depth interviews, focus groups, surveys and modeling, and their application to the services and non-profit sectors. We will also discuss data sources and data collection methods. Students will have the opportunity to define a business problem, develop a research plan, collect and analyze data and present findings and their implications as a class project.

This course aims to help students:

- (1) Discuss what market research is and how, why, and when it's useful.
- (2) Identify a range of market research tools (e.g., focus groups, interviews, surveys), consider their strengths and weaknesses, and discuss when it would (and wouldn't) make sense to use each.
- (3) Use these tools to solve business problems and craft business strategies.

【Goal】

At the completion of this course, students are expected to be able to:

- (1) Understand the importance of marketing research
- (2) Formulate a research problem
- (3) Design a questionnaire
- (4) Collect respondent data
- (5) Enter respondent data into a computerized spreadsheet
- (6) Analyze respondent data with statistical software
- (7) Write a research report
- (8) Make a in-class presentation about the findings

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Overview of Marketing Research Process	This session gives an overview of the process of marketing research and an introduction on research design.
3	Secondary Data and Research Question	This session explains the role of secondary data and how to clarify research question from secondary data.
4	Measurement	This session discusses measurement and measurement scales.
5	Data Gathering Instrument	This session introduces two important groups of data gathering instrument: (1) Survey and interview (2) Questionnaire.

6	Sample	This session discusses sample method and sample size.
7	Midterm Exam Basic Statistics	Midterm exam This session offers a crash course in basic statistics useful in marketing research.
8	Statistical Software	This session offers a crash course in how to use SPSS effectively.
9	Analyzing and Interpreting Data	This session introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Preparation and description (2) Exploring and displaying.
10	Analyzing and Interpreting Data	This is a follow up session of week 9 and introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Hypothesis testing (2) Measures of association.
11	Presenting Findings	This session discusses how to present findings by oral presentation and written report.
12	Review and Case Study	This session reviews the course contents by studying a complete case.
13	Student Presentation	Reserved for students to present their work.
14	Course Review Final Written Exam & Wrap-up	Course Review Final written exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Attendance is required at all scheduled class sessions, presentation and examinations. Students are expected to conduct their own project, write a report, and make a presentation. The project should begin after lecture 3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

- Naresh K. Malhotra (2015) *Essentials of Marketing Research: A Hands-On Orientation*, Prentice Hall, New Jersey.

- Alvin C. Burns, Ann Veeck, Ronald F. Bush (2016) *Marketing Research (8th Edition)*, Prentice Hall, New Jersey.

Students will be advised in the first week on whether they need to purchase the textbook(s).

【References】

Burns A. C. & Bush, R. F. (2014): *Marketing Research (7th Edition)* Prentice Hall, New Jersey.

【Grading criteria】

Quiz: 20%

Presentation: 20%

Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Others】

This course is self-contained. Basic knowledge in statistics is desirable but not necessary.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Organizational Behavior

Junko Shimazoe

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金5/Fri.5

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

In this course, students learn (1) why modern organizations behave as they do, (2) how the behavior emerges from inside the organization, and (3) how exogenous forces influence formation of the behavior. Since studies of organizations are fundamentally cross-disciplinary, this course approaches organizations from sociological, social psychological, public policy, and psychological perspectives about organizational behavior. For the same reason, examples covered in this course include organizations in the public, private, and non-profit sectors. At the end of this course, students will develop a multifaceted view of their own to explain various problems of modern organizations.

【Goal】

This course has three goals. First, students are expected to understand the scientific approach to study organizations. For example, what does it mean to study organizational behavior in a scientific manner? What are the objects of studying, organizational structure, performance, routines, or interactions among people and organizations? How is it possible to explain the relationship between behavior of people and organizational behavior? Second, students are expected to understand “organic aspects” of organizations. Organizations are more than machines whose structures and rules repeatedly generate intended results. Members interact with each other and in organizational contexts, from which unintended outcomes may emerge. In addition, organizations are influenced from temporal, geographical, and other environmental conditions. It is important for students to understand organizations as evolving and interactive actors with members and other organizations. Finally, students are expected to become able to explain problems caused by modern organizations in their own words. Regardless of their career after graduation, organizations are everywhere in modern life, and students may encounter minor to major issues caused both in and by organizations. It is essential for students to apply concepts that they learn in this course to organizational behavior that they observe in real life.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Finish them before class.

Active participation in class is required. In this course, we will use lectures by the instructor, audiovisual materials, discussion, and group presentations. The contents covered in class will go beyond assigned readings of the week. In the case of being unable to come to the class, send an e-mail in advance to the lecturer unless the reason is that you are sick.

In this course, students work together to study and make a presentation about organizational accidents. In the group presentation, explain the probable causes of the accidents and their implications to society using the knowledge from this course. Do not simply repeat what the internet sources, books, or other authorities say about the problems. Build your own explanation based on what you learn in this course. Students will receive feedback on their presentations in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
なし / No

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Diversity in an Organization	- Diversity and its challenges
3	Individual Differences #1	- Values - Personality
4	Individual Differences #2	- Perception - Work attitudes and behaviors
	Attitudes and Behaviors	- Psychological contract - Relationships at work - OCB

5	Motivating Work Environment	- Job design - Goal setting - Performance appraisals - Performance incentives
6	Motivation	- Maslow's Hierarchy - EPG theory - Theory X, Theory Y
7	Stress and Emotion at Workplace	- Stress - Stress process - Workplace stressors - Role demands - Outcomes of stress - Individual differences in experiences and managing stress - Organizational approaches to managing stress - Emotions - Emotional contagion - Emotions at work - Emotional labor
8	Groups and Teams	- Groups - Development stages - Cohesion - Problems of too much cohesion - Teams - Team roles - Types of teams - Designing effective teams
9	Decision Making	- Decision making - Ideal process - Reality - Game plan?
10	Organizational Accident and Learning	- Organizational accident - Risk vs. uncertainty - Normal accident - Organizational learning - Barriers to organizational learning - high-reliability organization
11	Power in an Organization Knowledge Management	- Power - Sources and conditions of power - Knowledge management - Intellectual capital - Organizational memory
12	Leadership Organizational Change	- Traits for leadership - Types of leadership - Process and forces of organizational change
13	Organizational Culture	- Organizational culture - Types of organizational culture - Why culture matters - Weakness of the strong culture - Strength of the adaptive culture - Organizational socialization - Outcomes
14	Group Presentations	- Presentations - Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Students have to finish them before they come to the class. Students are also required to understand distributed materials in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

University of Minnesota Libraries. (2017). Organizational Behavior (University of Minnesota Libraries Publishing Edition). Minneapolis: online textbook available at <https://open.lib.umn.edu/organizationalbehavior/>. (Original author removed at request of original publisher.)

【References】
N/A

【Grading criteria】
- Class participation (15%)
- Group presentation (40%)
- Final paper (45%)

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Prerequisite】
None

MAN200ZA (経営学 / Management 200)

Principles of Marketing

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2～4

Day/Period : 火2/Tue.2

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

Learning the fundamental concepts of marketing. This is a basic-level marketing course that focuses on the concepts and approaches that constitute contemporary marketing theory as well as its applications in practical business circles. The purpose of this course is to provide the students with a keen understanding of the marketing functions in business and the knowledge of developing and implementing successful marketing strategies.

【Goal】

This course introduces students to the fundamental concepts of marketing, its functions and organizations, marketing strategies companies use, and the role of marketing in society. Students learn how to understand the marketplace, how to create customer value, how to target and segment the market, and how to build customer relationships.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught primarily through lectures and presentations. Feedback is given during class time and through using other tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course, syllabus.	Read all materials posted on Hoppii.
2	Chapter 1: Marketing	Creating and capturing customer value.
	Chapter 3: Analyzing the marketing environment	Understanding the marketing environment.
3	Chapter 5: Consumer markets and consumer buyer behavior.	Understanding the marketplace and customers.
4	Group presentations on Chapter 5.	Case studies based on marketing strategies related to consumer buying behavior.
5	Chapter 7: Creating value for the target customer	Understanding market segmentation, targeting, differentiation and positioning.
6	Group presentations on Chapter 7	Case studies based on marketing strategies for the target customers.
	Assignment 1 (due)	
7	Chapter 8: Products, services and brands	Understanding product, services and brands.
8	Chapter 9: New product development and product life-cycle strategies	Understanding new product development and product life-cycle strategies.
9	Chapter 11: Pricing Strategies	Understanding pricing strategies.
10	Group presentations on Chapter 11	Case studies based on companies' pricing strategies.
11	Chapter 13: Retailing and Wholesaling	Understanding retailing and wholesaling.
12	Chapter 15: Advertising and Public Relations	Understanding advertising and public relations
13	Trends in marketing. Review for final exam.	Discussion

14 Final Exam

Assessing the degree to which you understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Download the lecture slides, read the assigned textbook chapters, and complete any assigned work. Almost every week, there is a pop quiz based on the previous week's material. The preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Textbooks】

Not required.

【References】

1. Further materials will be provided by the instructor.

2.Kotler, Phillip and Armstrong, Gary. *Principles of Marketing*, 17th Edition, Pearson Education, 2017. **You are not required to buy the textbook. There are copies available in the library.**

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (15%), group presentation (20%), pop quizzes (21%), and final exam (44%).

【Changes following student comments】

Students evaluated this class positively in the previous year. There will be no significant changes to the course.

【Others】

Students who are interested in taking this course must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

Students are recommended to have taken Introduction to Business or other 100-level business courses.

【Prerequisite】

None

ECN200ZA (経済学 / Economics 200)

Development Economies

Delgado Narro Augusto Ricardo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2～4

Day/Period : 木5/Thu.5

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This is an introductory course to the field of Economic Development. This course aims to understand the main issues of development economics, analyze the economic problems of developing countries, and discuss strategies for achieving inclusive growth and reducing poverty and extreme inequality. This understanding will help the students answer key questions: Why do some countries achieve high levels of economic development and others do not? What policies can governments implement to change their countries' growth path? This course will start from a "macro" perspective and later introduce a "micro" viewpoint of the problems to explore the socioeconomic factors that affect economic development. This course will cover economic growth, agricultural development, food security, population, education, migration, poverty reduction, informality, and more.

【Goal】

1. Understand: (1) why some emerging countries have been successful in catching up with rich countries in per capita income while others are left behind, (2) why half of humanity remains poor, and many of them are living with less than \$2 per day, and (3) why environmental degradation and resource exploitation are commonly associated with income growth.
2. Understand: what can be done to promote development through policies. Learn to analyze the economic and social impacts of specific initiatives.
3. Use data to conduct development analyses such as growth diagnostics, poverty assessments, impact analysis of development projects.
4. Encourage students to explore alternative paths of economic development that promote the well-being of individuals and communities.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course combines lectures and student presentations. The first part of the course will be conducted through lectures with the objective of learning, understanding, and using the fundamental concepts of development economics. Additionally, we will analyze some applications of our learned concepts. Students are encouraged and expected to participate in classes.

In the last part of our course, we will have presentations depending on the number of students. Feedback will be given to students at the end of each presentation.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview of the course.
2	Growth & Development. Economic Growth Theories.	-Link between Economic Growth and Development Economics (Income Inequality and Poverty). -Economic Growth Theories: Exogenous and Endogenous.
3	Economic Convergence and the Middle-Income Trap.	-Evidence of the Economic Growth Models. -Economic Convergence: Absolute and Relative Convergence. -New Economic Convergence View: Clubs of convergence. -The role of external economic shocks.
4	Inequality and Poverty.	-Income Inequality. -Poverty. -Poverty and Income Inequality.
5	Review of Classes 1-4. Quiz 1.	Assess students' understanding of the 1st half of course materials (Week 1-4)

6	Food and Nutrition.	-Food and Nutrition. -Basic Model. -Food-based poverty trap.
7	Population, Migration, and Cities.	-Role of population on the Development Process. -Migration and its impact. -Cities and Economic Development.
8	Education and Health.	-Human Capital Concept. -Role of Education. -Role of Health.
9	Illegal and Informal Economy.	-Informal Economy. -Illegal Economy. -Measurement and basic concepts.
10	Review of Classes 6-9. Quiz 2.	-Assess students' understanding of the 2nd half of course materials (Week 6-10)
11	Presentations Groups 1	-Presentations of Groups. -Q&A from the class. -Feedback.
12	Presentations Groups 2	-Presentations of Groups. -Q&A from the class. -Feedback.
13	Presentations Groups 3	-Presentations of Groups. -Q&A from the class. -Feedback.
14	Presentations Groups 4	-Presentations of Groups. -Q&A from the class. -Feedback.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the assigned materials (textbook/articles/cases), participate in class discussion, and make a presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Ray, Debraj. (1998), Development Economics, Princeton University Press.

I highly recommend to buy this book for better understanding and complement our classes.

【References】

Additional references will be provided in the class.

【Grading criteria】

1. Quiz 1: 25%
2. Quiz 2: 25%
3. Presentation: 40%*
4. Class Participation: 10%**

* Presentation is divided into two sections: 30% for a presentation at his/her corresponding time and 10% for participating during classmates' presentations by making comments or questions.

** Class participation refers to student's participation during lectures.

【Changes following student comments】

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

【Others】

Quiz 2 is scheduled to be taken in class on the 10th. However, depending on the number of students, time, and number of groups, Quiz 2 may be changed to class 11th.

【Prerequisite】

None

ECN200ZA (経済学 / Economics 200)

Foundations of Finance

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉〈未〉

【Outline and objectives】

Learning the fundamental concepts of finance. This is a finance course that focuses on the core principles of finance, including financial statements, financial performance, time value of money financial assets such as bonds, stocks, and risk analysis. Even if you are not planning a career in finance, a working knowledge of finance will help you to understand and interpret financial information around you.

【Goal】

This course presents the fundamental concepts of finance to students. The goal of this class is to understand corporate finance analyses that are used in business. At the end of this course, students will learn how to construct financial statements, calculate various financial ratios, and understand financial assets such as bonds and stocks. Students will acquire the analytical skills necessary to make good financial decisions.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught primarily through lectures. Feedback is given during class time and through tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Financial Statements (1)	Construct the Income statement and Balance Sheet
3	Financial Statements (2)	Construct the Statement of Cash Flow
4	Financial Performance (1)	Calculate financial ratios
5	Financial Performance (2)	Analyzing financial ratios
6	The Time Value of Money (1)	Calculate present value, future value, and annuity
7	The Time Value of Money (2)	Understand interest rate, uneven cash flow and amortization table
8	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which you understand the subject
9	Financial Markets (1)	Learn the different financial institutions and the stock market
10	Financial Assets (1)	Understand the determinants of interest rate
11	Financial Assets (2)	Learn about bonds valuation and rating
12	Financial Assets (3)	Understand and calculate stand-alone risk
13	Financial Assets (4)	Understand and calculate risk in a portfolio context
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which you understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to download the lecture slides, read the textbook, and complete any assignments given. Since the finance materials are quite dry and challenging, the preparatory study and review time for this class is at least two hours.

【Textbooks】

Brigham, Eugene, Houston, Joel F. *Essentials of Financial Management*, 4th Edition, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2018.

You are not required to buy the textbook. There are older editions available in the library.

【References】

Further materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (10%), assignments (20%), midterm exam (35%) and a final exam (35%).

【Changes following student comments】

Students in previous years found this course quite challenging but extremely useful and rewarding.

【Equipment student needs to prepare】

You will need to bring a calculator with roots and powers functions during the final exam.

【Others】

This course requires students to like “numbers” because it involves a lot of calculations and analysis. Students who are interested in taking this course must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

【Prerequisite】

None

ECN200ZA (経済学 / Economics 200)

Macroeconomics II

Karen Kai Lin Lai

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水3/Wed.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course will provide students with more knowledge of the core theories in macroeconomics, particularly on the economics of open economies, unemployment, monetary growth and inflation, and the model of aggregate demand and supply. Moreover, the role of fiscal and monetary policy to stimulate the economy will be discussed.

To prepare students for embarking confidently on their journey in the world of economic analysis and for seriously analyzing the economic signals and data we all face daily to be able to justify views and opinions with sound economic reasoning.

【Goal】

By the end of this course, students should be able to:

1. Apply macroeconomic knowledge to analyze contemporary macroeconomic issues and real-world problems.
2. Learn and apply the theory of the open economy to understand the factors that affect the economy's trade balance and exchange rate.
3. Understand the determinants of inflation, and apply the money-demand-and-supply model and the quantity equation to explain increases in the level of prices as well as its consequences.
4. Understand unemployment and the main factors that contribute to structural and frictional unemployment.
5. Learn the most important macroeconomic (Keynesian) model that is used by governments (policymakers) to formulate fiscal and monetary policies that stimulate the economy.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will be mainly conducted through lectures, with analysis of appropriate case studies related to each topic. Students are expected to read the required material prior to the lecture to discuss and solve problems in class. Assignments and related feedback will be given via the learning-management system. Additionally, midterm-exam and in-class-assignment feedback will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course (Syllabus)	Introduction to the Course (Syllabus)
	Application: International Trade (Ch9)	The determinants of trade The winners and losers from trade
2	Application: International Trade (Ch9)	The effects of a tariff The international flows of goods and capital
	Open-economy macroeconomics (Ch31)	The prices for international transactions

3	Open-economy macroeconomics (Ch31)	A first theory of exchange-rate determination
	International economics (Wheelan, 2019)	
4	Theory of the open economy (Ch32)	Supply and demand for loanable funds and the foreign-currency exchange Equilibrium in the open economy
5	Theory of the open economy (Ch32)	How policies and events affect an open economy
	International economics (Wheelan, 2019)	
6	Unemployment (Ch28)	Identifying unemployment Frictional unemployment Structural unemployment
7	Review & midterm exam	Assess students' performance for the 1st half of the course (week 1-6).
8	Money Growth and Inflation -1 (Ch30)	The classic theory of inflation
9	Money Growth and Inflation -2 (Ch30)	The cost of inflation Case study
10	Aggregate demand and aggregate supply -1 (Ch33)	Economic fluctuations The aggregate demand curve The aggregate supply curve
11	Aggregate demand and aggregate supply -2 (Ch33)	The aggregate supply curve Two causes of economic fluctuations Problems
12	The influence of monetary and fiscal policy on aggregate demand (Ch34)	How monetary policy influences aggregate demand
13	The influence of monetary and fiscal policy on aggregate demand (Ch34)	How fiscal policy influences aggregate demand
14	Wrap up & final exam	Assess students' performance for the 2nd half of the course (week 8-13).

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the relevant material (textbook/articles/cases) and participate in class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Mankiw, N. Gregory. *Principles of Economics*, 9th Edition. Cengage, 2021. (ISBN-13: 9780357562833). Digital version. MindTap-access code included and required to submit your assignments. (Required; sold as a bundle by Cengage at <https://www.cengageasiaestore.com/jp/principles-of-economics-mindtap-12-months-digital-access.html>). Importantly, students of Macroeconomics I who bought 24-month-access codes last year should not buy the code again.

Other students should not buy the physical copy of the textbook. You should buy MindTap, 12-month-digital access, which includes the eText for "Principles of Economics", from Cengage through the link shared above. This is the REQUIRED material to submit assignments.

Cengage provides a 60% discount on the purchase to Hosei University students when using the following discount code: JPCFE2024SP (Available till 2024/5/20) Special Price: 7,120 JPY (before tax) 7,832 JPY (with tax). To obtain the discount, add the product to the cart and then apply the discount code before proceeding to checkout.

【References】

Principles of Macroeconomics, by Stevenson and Wolfers, Worth Publishers, Second Edition (2023).

Macroeconomics, by Blanchard, Pearson, 8th Edition (2021).

Wheelan, C., "Naked Economics: Undressing the Dismal Science", Fully revised and updated, WW Norton & Company (2019).

【Grading criteria】

1. Participation: 10%
2. Homework: 20%
3. Midterm exam: 35%
4. Final exam: 35%

【Changes following student comments】

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

【Equipment student needs to prepare】

A calculator and a ruler are required.

【Others】

None

【Prerequisite】

Macroeconomics I. Students who have taken other economics courses need to discuss with the instructor for permission.

ECN200ZA (経済学 / Economics 200)

Microeconomics II

Delgado Narro Augusto Ricardo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This is the second part to an introductory course in microeconomics. (See prerequisite below.)

In this semester, we will continue covering fundamental concepts and principles in microeconomics. This time, we will focus on producer and consumer theory and the labor market. In the first half of the semester, we will study firm behavior and market structures. In the second half of the semester, we will discuss consumer theory. The labor market and income determination will also be examined.

【Goal】

The intention of this course is to integrate theory and application. At the end of the course, students should grasp and be able to discuss fundamental concepts in microeconomics, i.e. how different market structures affect producers and consumers and how the labor market works. Students should be able to examine issues related to consumption, production, the labor market, income inequality, and poverty.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	-Introduction to the course. -Explanation of the grading system and course knowledge requirements.
2	Consumer Theory 1: Utility maximization.	-Preferences (Chapter 21). -Utility Curves. -Marginal Rate of Substitution.
3	Consumer Theory 2: Budget Constrains.	-Budget Constrains. -Coupons and discounts. -Price Ratio.
4	Consumer Theory 3: Labor.	-Labor demand and supply (Chapter 18). -Labor vs Leisure. -New budget constrain.
5	(*) Review of previous topics. (*) Quiz 1.	-Practical Applications of learned topics.
6	Perfect Competition.	-Perfect Competition assumptions and implications.
7	Producer Theory 1: Profit Maximization.	-Economic Profits. -Profit Maximization problem.
8	(*) Producer Theory 2: Cost Minimization	-Economic Costs. -Factors versus Inputs. -Cost Minimization problem.
9	(*) Review of previous topics. (*) Quiz 2.	-Practical Applications of learned topics.
10	Non-Competitive Markets 1: Monopoly.	-Monopolistic competition (Chapter 16) -Differences with other systems.
11	Non-Competitive Markets 2: Oligopoly and Monopolistic Competition.	-Oligopoly (Chapter 17) -Monopolistic Competition. -Differences with other systems.
12	Non-Competitive Markets 3: Industrial Organization.	-Cournot competition. -Bertrand competition. -Bertrand Paradox. -Hotelling Linear City.

13	(*) Review of previous topics. (*) Quiz 3.	-Practical Applications of learned topics.
14	(*) Final Comments. (*) Q&A	-Final Comments. -Review of main topics. -Learning agenda.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Readings - Students are expected to read the textbook chapters carefully and to prepare for the lecture. Special attention should be paid to understanding the tables and the graphs.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Mankiw, Gregory. N. (2015) *Principles of Microeconomics*, 7th edition, Cengage Learning.

【References】

Other materials, if any, will be given by the instructor or shall be announced in class.

【Grading criteria】

Class Participation: 10%

Quiz 1: 30%*

Quiz 2: 30%

Quiz 3: 30%

*Quizzes are, in principle, individual; however, depending on the number of registered students, these may change to be held in small groups.

【Changes following student comments】

The lecture schedule may be adjusted depending on the pace of the class or at the discretion of the instructor. Any changes will be announced in class.

【Others】

This course requires students to have a good understanding of mathematics and graphic analysis.

【Prerequisite】

Microeconomics I, Understanding Microeconomics or an equivalent introductory course in microeconomics or economics.

FRI200ZA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

Big Data and Analytics

Alfons Josef Schuster

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火1/Tue.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Big data and analytics is an approach to deal with, and to make sense of, the huge volumes of data that are generated daily, at unprecedented rates, worldwide. The course aims to generate a solid understanding of the wider big data and analytics environment. To deepen this understanding, the course provides an opportunity for students to experience, on a basic level, some of the tools, techniques and frameworks underpinning the rich, and challenging field of big data and analytics.

【Goal】

By the end of the semester, students should be familiar with the history and evolution of the field of big data and analytics and understand fundamental concepts and process of the wider big data and analytics environment. In addition, students should be familiar with some of the main tools, techniques, and frameworks of big data and analytics through various computer-based (programming) exercises. Finally, students should have gained an awareness of the impact big data and analytics has on modern society, humanity, and, perhaps, the world at large.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

The main elements of the course are lectures, assignments, computer-based (programming) exercises, and in-class discussions. The lectures relate to the topics mentioned in the course schedule below. A class typically provides feedback and guidance on assignments. In addition, classes provide an opportunity for students to learn and understand current issues in big data and analytics via a range of hands-on, computer-based (programming) exercises.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course.	Course overview and course requirements. Introduction to big data and analytics.
2	Introduction to big data.	The nature and characteristics of big data. Applications and challenges. Computer/programming exercises.
3	Introduction to big data and analytics.	History and evolution of big data and analytics. E.g., early data processing, the Internet, world wide web, cloud computing, data science, or the internet of things. Computer/programming exercises.
4	Introduction to big data and analytics.	History and evolution of big data and analytics. E.g., early data processing, the Internet, world wide web, cloud computing, data science, or the internet of things. Computer/programming exercises.
5	Introduction to big data analytics.	Introduction to fundamental big data analytics concepts and processes. Computer/programming exercises.
6	Introduction to big data analytics.	Introduction to fundamental big data analytics concepts and processes. Computer/programming exercises.
7	Review and midterm exam.	Review and final tips. Midterm exam.

8	Big data and analytics, tools, techniques, and frameworks.	Introduction to big data and analytics, tools, techniques, and frameworks. E.g., statistics, R, machine learning, AI, generative AI, or data science. Computer/programming exercises.
9	Big data and analytics, tools, techniques, and frameworks.	Introduction to big data and analytics, tools, techniques, and frameworks. E.g., statistics, R, machine learning, AI, generative AI, or data science. Computer/programming exercises.
10	Big data and analytics, tools, techniques, and frameworks.	Introduction to big data and analytics, tools, techniques, and frameworks. E.g., statistics, R, machine learning, AI, generative AI, or data science. Computer/programming exercises.
11	Big data and analytics, tools, techniques, and frameworks.	Introduction to big data and analytics, tools, techniques, and frameworks. E.g., statistics, R, machine learning, AI, generative AI, or data science. Computer/programming exercises.
12	Big data and analytics and society.	Considering the impact big data and analytics has on modern society, humanity, and, perhaps, the world at large.
13	Course summary.	Course summary. Conclusions, outlook, and the future of big data and analytics.
14	Review and examination.	Review and final tips. Final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Class preparation and review for this class are 2 hours each. Students are expected to read various course related materials carefully to acquire a thorough understanding of the ideas and concepts presented to them in class. In addition, students are given weekly assignments. These assignments are an important element in the course and contribute to the overall mark that a student may achieve.

【Textbooks】

Big Data: A Very Short Introduction. Author: Dawn E. Holmes. Publisher: OUP Oxford (2017). ISBN-10: 0198064128. ISBN-13: 978-0198779575.

【References】

(1) Big Data and Analytics: The key concepts and practical applications of big data analytics. Authors: Jugnesh Kumar, Anubhav Kumar, Rinku Kumar. Publisher: BPB Publications (March 5, 2024). ISBN-10: 9355516177. ISBN-13: 978-9355516176.

(2) TCP/IP in 24 Hours, Sams Teach Yourself. Author: Joe Casad. Publisher: Sams Publishing; 6th edition (9 Mar. 2017). ASIN: B0CLKXLCZ2.

(3) Python Basics: A Practical Introduction to Python 3. Authors: David Amos, Dan Bader, Joanna Jablonski, Fletcher Heisler. Publisher: Real Python (realpython.com). ISBN-10: 1775093328. ISBN-13: 978-1775093329. (16 Mar. 2021).

【Grading criteria】

Participation (10%)

Assignments (20%)

Midterm Exam (30%)

Final exam (40%)

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

It is highly recommended that, before taking this course, students should have completed the course “Introduction to Programming”.

【Prerequisite】

None.

SES200ZA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200)

Environment and Development

Stephen Chitengi Sakapaji

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水1/Wed.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course examines the complex relationship between environmental issues and development processes, focusing on the interplay between economic development, environmental degradation, and social well-being. The course integrates theoretical perspectives from political ecology, sustainable development, and environmental governance with real-world case studies from both the Global North and South. Students will critically explore themes such as climate change, natural resource management, biodiversity conservation, environmental justice, and sustainable development.

【Goal】

By the end of the course, students will:

1. Understand the key concepts and debates in the field of environment and development.
2. Critically assess the environmental impacts of various development models.
3. Explore the role of international, national, and local institutions in managing environmental challenges.
4. Analyze case studies from different regions and assess sustainable development initiatives.
5. Evaluate policy responses to environmental challenges and their implications for equity and social justice.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course will be structured around weekly lectures, class discussions, presentations, debates, and readings from textbooks and articles. Each session will focus on a specific theme or case study, allowing students to delve into the core concepts and engage critically with the material. Feedback will be given through the following:

- Comments from submitted reaction papers and insightful comments from reaction papers will be introduced in class and used in deeper discussions.
- Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.
- In the final class, comments and explanations will be given for assignments (tests and reports, etc.) for all classes taken/held during the semester.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Environment and Development	Overview of course themes and objectives. Key concepts: development, sustainability, and political ecology.
2	Theories of Development and Environmental Change	Historical perspectives on development and environmental degradation. Development paradigms: modernization, dependency theory, and neoliberalism.
3	Sustainable Development and Global Environmental Governance	The concept of sustainable development: critiques and alternatives. Global institutions and agreements: UN, SDGs, and international conventions.
4	Climate Change and Development	Climate change science, impacts, and global inequalities. Policy responses: mitigation, adaptation, and climate finance.
5	Conservation and Development	The politics of conservation: biodiversity, protected areas, biodiversity offsets, and community-based conservation.

6	Environmental Justice and Development	Environmental justice: North-South inequalities, vulnerable populations, and activism. Case studies: Industrial pollution, deforestation, and climate displacement.
7	Mid-term Exam	Covering topics discussed from week 1-6
8	Natural Resource Management and Development	The political economy of natural resources: Land, water, and energy. Case studies: Land grabs, mining, and deforestation in the Global South
9	Agriculture, Food Security, and Development	Industrial agriculture vs. sustainable agriculture. Case studies: agroecology, food sovereignty, and corporate farming.
10	Urbanization, Development, and the Environment	Urban sustainability: green cities, infrastructure, and social equity. Case studies: Mega-cities and informal settlements in the Global South
11	Water Security, Development, and Conflict	Water as a critical resource: access, privatization, and conflict. Case studies: water rights and hydropower projects.
12	Globalization, Trade, and the Environment	The impact of globalization on the environment: trade, consumption, and environmental degradation. Case studies: Supply chains, trade agreements, and ecological footprints
13	Environmental Movements and Social Change	Grassroots movements, activism, and environmental resistance. Case studies: Indigenous movements, climate protests, and ecofeminism.
14	Final Exam and a discussion on the future of environment and development	. The final exam will comprise of questions from selected class-discussed topics to be communicated in advance . The questions will include multiple-choice questions, short-answer questions and essays, and one long essay.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; preparation of discussion talking points and questions; group report/presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Required Readings:

Robbins, P., Hintz, J., & Moore, S. (2014). Environment and Society: A Critical Introduction (2nd Edition). Wiley-Blackwell.

【References】

Additional Readings:

- Escobar, A. (1995). Encountering Development: The Making and Unmaking of the Third World. Princeton University Press.
- Guha, R., & Martinez-Alier, J. (1997). Varieties of Environmentalism: Essays North and South. Earthscan.
- Adams, W. M. (2009). Green Development: Environment and Sustainability in a Developing World (3rd Edition). Routledge.
- Peet, R., & Watts, M. (2004). Liberation Ecologies: Environment, Development, and Social Movements. Routledge.
- Shiva, V. (2016). Who Really Feeds the World? The Failures of Agribusiness and the Promise of Agroecology. North Atlantic Books.
- Weekly articles, reports, and multimedia sources will also be assigned, and all readings will be available via the course learning management system.

【Grading criteria】

1. Class Participation, attendance, weekly reflection paper responses, debates & class discussions (25%): Active participation in class discussions/presentations/reflection papers/debates and demonstrating engagement with class readings is one of the key parts for this course.
2. Group Presentation (15%): Students will be assigned topics to present on. Grading of group presentations will be based on individual input and output and group coordination (teamwork).
3. Mid-term Exam (20%) (covering work covered from week 1-6) The format of the exam to be communicated in class
3. Final Exam (40%): A mix of multiple-choice questions and short essay questions covering key concepts from five key topics discussed in class.

【Changes following student comments】

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

【Equipment student needs to prepare】

None

【Others】

Instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course.

【Prerequisite】

None.

SES200ZA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200)

Environment and Society

Stephen Chitengi Sakapaji

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月4/Mon.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course examines how social, political, economic, and cultural systems shape human relationships with the environment. Using perspectives from sociology, anthropology, political ecology, and environmental justice, students analyze contemporary environmental problems and explore pathways toward more just and sustainable societies.

【Goal】

By the end of the course, students will be able to:

1. Explain how social structures influence environmental outcomes
2. Analyze environmental issues through power, inequality, and governance lenses
3. Critically assess environmental policies and social movements
4. Connect local environmental experiences to global processes

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course will be delivered through a combination of traditional lectures and active student participation in class discussions. There will be weekly group presentations based on selected topics and weekly lecture reflection responses, quizzes, a midterm exam, and a final exam. These will be communicated during classroom sessions or via the Hosei Learning Management System/Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	To include: ・ What is “environment” in social terms? ・ Environment vs. society: false separation ・ Environmental Studies vs. Environmental Science ・ Overview of key concepts and course themes
2	Nature, Culture, and the Social Construction of Nature	・ Overview of environmental sociology ・ Society-environment interactions ・ How societies define and value nature ・ Environmental challenges in contemporary society
3	Biodiversity and Endangered Species Conservation	・ Significance of biodiversity in sustaining life and ecosystem services ・ Threats to biodiversity and endangered species ・ Conservation strategies for endangered species and biodiversity
4	Valuing Nature and Ecosystem Services	・ Approaches to valuing natural capital and ecosystem services ・ Sustainable development paradigms ・ Economic valuation methods and controversies
5	Socio-Economic Policies and Environmental Impact	・ Role of socio-economic policies in environmental impact ・ Case studies on policy-environment interactions ・ Economic growth vs. environmental sustainability

6	Interdisciplinary Approaches for Sustainability	・ Integration of societal, economic, and environmental aspects ・ Building a sustainable society ・ Technological innovations for sustainability
7	Globalization and Environmental Change	・ Global perspectives on environmental change ・ Effects of globalization on the environment ・ International environmental policies and agreements
8	Midterm Exam	Mid-term Exam (based on already covered/discussed topics)
9	Population, Consumption, and Capitalist Systems	・ Population debates and environmental limits ・ Consumption patterns and inequality ・ Capitalism, growth, and ecological crises
10	Urbanization and Environmental Challenges	・ Urbanization and associated environmental challenges ・ Urban sustainability initiatives ・ Urban planning for environmental conservation ・ Group discussions I: Future Societies
11	Environmental Movements and Political Ecology	・ History and impact of environmental movements ・ Political dimensions of environmental issues ・ Environmental justice movements and their impact ・ Community-based approaches to environmental justice ・ Power, politics, and environmental access ・ Winners and losers in environmental change ・ Colonialism, land, and resource control
12	Global Perspectives on Environment-Society Relationships	・ Global challenges and solutions for sustainable development ・ The role of multilateral organizations in environmental governance ・ Ethical considerations in international environmental agreements
13	Climate Change as a Social and Political Issue	・ Climate change beyond science ・ Climate knowledge, uncertainty, and values ・ Politics of climate responsibility (global south vs global north)
14	Final Exam & Wrap-up of the course	Final exam and course review & future prospects in the relationship between environment & society

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are anticipated to dedicate time to reading and/or conducting research assignments as preparation for lectures, as well as reviewing materials post-class. Additionally, they are encouraged to utilize this time outside of class for researching and composing essays. The expected time allocation for these preparatory and review activities for this course is approximately 2 hours each. Students are expected to complete all the assignments and quizzes on time.

【Textbooks】

This course does not require a specific textbook. Handouts and other relevant materials will be distributed in class.

【References】

Bullard, R. D. (2001). “Environmental Justice in the 21st Century.” Environmental Law.
Hannigan, J. (2022). Environmental sociology. Taylor & Francis.
Dasgupta, P. (2021). The economics of biodiversity: the Dasgupta review. Hm Treasury
Miller, G. T., & Spoolman, S. E. (2021). Living in the Environment. Cengage Learning.
Robbins, P. (2012). Political Ecology: A Critical Introduction (Chapter 1).
Schlosberg, D. (2013). “Theorising Environmental Justice.” Environmental Politics.

【Grading criteria】

The following are the primary assessment methods:
Class participation, attendance, debates & discussions: 15%
Weekly reflection paper responses: 10%
Group Presentation: 15%
Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

Midterm and final exams will be paper tests.

【Changes following student comments】

In response to student feedback and my own reflections, I have implemented two key enhancements to the course:

1. Group Project on Designing Future Cities: Students will collaborate to design future urban environments that address current and anticipated environmental challenges. This project encourages innovative thinking and practical application of course concepts.
2. Weekly group presentation: Each week, students will prepare a group presentation on solutions to assigned discussion questions related to course material and present them in the following class. This initiative aims to foster critical thinking, active engagement, and collaborative learning.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

American Politics and Foreign Policy

Jonathan Seth Snider

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The purpose of this introductory course is to facilitate a broad understanding of the theories, concepts and issues associated with a sub-discipline of Political Science – American Politics. Research within this large and extensive field of study holds many points of applications, including various inputs into policymaking. Generally, the study of this discipline at the undergraduate level entails a broad range of political, military and institutional issues at a fairly theoretical level. Throughout the course, this approach will be complemented by a deeper dive into several real-world case studies from the perspective of the theoretical tools learned.

【Goal】

- 1) Students are expected to develop an understanding of basic structure of the United States government.
- 2) Students are expected to gain knowledge of the ways in which different branches of the United States government interact and impact foreign policy.
- 3) Students are expected to understand and critically analyze how governmental and non-governmental factors influence American politics and foreign policy.
- 4) Students are expected to understand some of the political ideals that have influenced American politics since the country's founding.
- 5) Students are expected to develop their ability to engage in academic research and writing through the completion of short essays.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will be structured around lectures.

There will also be discussion questions for each week's lecture topic. Although time will be given in class to answer these questions, the questions will be posted on Hoppii each week. Students will be expected to post answers to these questions.

Feedback: Assignments will be submitted on Hoppii, and feedback will be included.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Pilgrims, Puritans and The Fight for Independence	The City on a Hill Redcoats and Revolutionary Ideas
2	Structural Dimensions of American Political System	The US Constitution Federalism
3	Civil Rights and Civil Liberties	Bill of Rights and Various Freedoms Civil Disobedience
4	The Presidency and Congress	Executive Powers Commander in Chief Branches and Powers of Congress Committee System Law Making
5	Bureaucracy, Judiciary and Interest Groups	Government Departments Supreme and Federal Courts Lobbying
6	Midterm Exam	Exam: short-answer questions and short-essays
7	Rhetoric, Mass Media and Political Culture	The Role of the Media Misinformation and Political Debate
8	Modern Presidents and Presidential Power	The Presidency in the Modern Era Imperial Presidency?
9	Principles, Pragmatism and Engagement	Exceptionalism, Isolationism and Expansionism The American Century

10	Cold War, Containment and Nuclear Weapons	Truman Doctrine, Korean War and Cuban Missile Crisis Strategic Doctrines in the Cold War Context
11	Military Force and Diplomacy After the Cold War	Conventional Military Power International Diplomacy
12	Terrorism, Proliferation and Arms Control	War on Terrorism The Control of Nuclear Weapons Case Study: A World Without Nuclear Weapons?
13	Future Challenges in U.S. Foreign Policy	An Evolving Global Security Landscape Climate Change Technology and War
14	Final Exam	Exam: short-answer questions and short-essays

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to have completed the readings before class. Expect roughly 15-30 pages of reading per week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All course reading materials will be uploaded to the course website.
Kernell, Samuel et al. The Logic of American Politics, 11th Edition (Thousand Oaks: CQ Press, 2024).
Kaufman, Joyce P. A Concise History of U.S. Foreign Policy, Fourth Edition (Lanham: Rowman & Littlefield, 2017).
McDougall, Walter. Promised Land, Crusader State: The American Encounter with the World Since 1776 (Boston: Houghton Mifflin, 1997).
Crenson, Matthew and Benjamin Ginberg. Presidential Power: Unchecked and Unbalanced (New York: W.W. Norton & Company: 2007).

【References】

The following books will prove to be good reference materials.

【Grading criteria】

Participation: 10%
Quizzes – 20%
Midterm Exam – 30%
Final Examination – 40%

【Changes following student comments】

Documentary responses will replace reading responses to reduce the reading load for two weeks.

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

China's Domestic Politics and Foreign Policy

Zhihai Xie

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月1/Mon.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course will address the basic knowledge, theoretical models and perspectives of Chinese domestic politics and foreign policy. For domestic politics, this course will introduce the Chinese political ideology and party-state structure, and analyze the current political institution and leadership system, as well as its political struggle and possible agenda for political reform. For foreign policy, this course will shed some light on the black box of Chinese foreign policy decision-making process, elaborate the hot topics related to Chinese foreign policy including nationalism, maritime ambition, the Belt and Road Initiative (BRI) strategy, and finally provide some detailed analysis on China's most two important bilateral foreign relations: China-US relations and China-Japan relations.

【Goal】

To help students gain basic knowledge, theoretical models and perspectives of Chinese domestic politics and foreign policy. Students will obtain the ability and skills to analyze issues related to Chinese politics and foreign policy. Students will also be able to deepen their understanding about what is happening related to China nowadays.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

Lectures will be conducted based on PowerPoint slides every week. Students are required to read related materials to prepare for classes in advance. There will be also time for team discussion in class. Students are also required to do the assignments weekly. Feedbacks and comments for assignments of previous class are given at the beginning of class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Orientation	Introduction and Orientation
2	Chinese Political Ideology and the Party-State Structure	This theme deals with the role of Marxism-Leninism in Chinese politics and party-state system.
3	The Collective Leadership and Chinese Political Institution	This theme deals with the so-called collective leadership and the operating political institution.
4	Factions in CPC: Princelings VS Communist Youth League; Beijing VS Shanghai	This theme deals with the power struggle among different political factions in Chinese Communist Party.
5	The Anti-Corruption Campaign and Chinese Political Struggle	This theme covers the anti-corruption campaign and its relationship with China's political struggle.
6	The Agenda of Chinese Economic and Political Reform	This theme deals with China's economic and political reforms.
7	Chinese Social Structure and State-Social Relations	This theme deals with China's social structure and hierarchy.
8	The Black Box of Chinese Foreign Policy	This theme deals with the decision-making process of foreign policy.
9	Decision-Making Nationalism, Public Opinions and Chinese Foreign Policy	This theme deals with China's nationalism and its influence on foreign policy.

10	China's Rising Maritime Strategy and Territorial Disputes in the Seas	This theme deals with China's maritime strategy and ambitions.
11	Belt and Road Initiative (BRI), Asian Investment Bank (AIIB), and China's New Foreign Strategy	This theme deals with China's newly initiated BRI project, AIIB and its related foreign strategy.
12	New Type of Great Power Relations?: China-US Relations	This theme deals with China-US relations.
13	Two Tigers Can't Share One Mountain?: China-Japan Relations	This theme deals with China-Japan relations.
14	Course Wrap-up and Final Exam	Wrap-up and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read the designated materials for each topic in advance. Details are included in the References. Students are also required to do weekly assignments and submit in class. Preparatory study and assignment time for this course is about four hours per week.

【Textbooks】

No textbooks. Handouts will be distributed every week.

【References】

References exclusively for each theme:

Week 2: Guo, Sujian (2013), *Chinese Politics and Government: Power, Ideology and Organization*, New York: Routledge. Chapter IV Political ideology, pp89-128.

Week 3: Nikkei Asian Review (2017), *Xi Jinping and the end of collective leadership*, October 23

Week 4: Lai (2012), Alexis, *One party, Two coalitions: China's factional politics*, CNN, Nov.9

Week 5: Fabre (2017), Guilhem, *Xi Jinping's Challenge: What is behind China's anti-corruption campaign*, Journal of Self-Governance and Management Economics, 5(2), 7-28.

Week 6: Yu, Keping, *What political reform looks like in China*, Huffington Post, https://www.huffingtonpost.com/keping-yu/china-political-reform_b_6075464.html

Week 7: Jakobson (2016), Linda and Ryan Manuel, *How are foreign policy decisions made in China?*, Asia and the Pacific Policy Studies, Vol. 3 No. 1, pp101-110.

Week8: Lu (2014), Rachel, *China's new class hierarchy: A guide*, Foreign Policy, April 25.

Week 9: Pang (2017), Qin, and Nicholas Thomas, *Chinese nationalism and trust in East Asia*, Journal of Contemporary Asia, Vol. 47, Issue 5, pp 815-838.

Week 10: Xie (2014), Zhihai, *China's rising maritime strategy: Implications for its territorial disputes*, Journal of Contemporary East Asian Studies, Vol.3, Issue 2, pp 111-124.

Week 11: Ploberger (2017), Christian, *One Belt, One Road-China's new grand strategy*, Journal of Chinese Economic and Business Studies, Vol. 15, Issue 3, pp 289-305.

Week 12: Bo (2017), Zhiyue, *Xi Jinping's US policy: Building a 'new type of major-country relationship'*, in Bo Zhiyue ed., *China-US Relations in Global Perspective*, Victoria University Press

Week 13 : Zhao (2016), Suisheng, *China's difficult relations with Japan: Pragmatism, superficial, and historical memories*, Asian Journal of Comparative Politics, Vol. 1, Issue 4, pp335-353.

Week 14: Xie (2011), Zhihai, *The Rise of China and Its Growing Role in International Organizations*, ICCSJournal of Modern China Studies, Vol. 4(1), pp85-96.

Other general references:

Bo (2017), Zhiyue ed., *China-US Relations in Global Perspective*, Victoria University Press.

Guo (2013), Sujian, *Chinese Politics and Government: Power, Ideology and Organization*, New York: Routledge.

Lampton (2014), David M., *Following The Leader: Ruling China, from Deng Xiaoping to Xi Jinping*, University of California Press.

Lynch (2015), Daniel C., *China's Futures: PRC Elites Debate Economics, Politics, and Foreign Policy*, Stanford University Press.

Shambaugh (2014), David, *China Goes Global: The Partial Power*, Oxford: Oxford University Press.

Shirk (2008), Susan L., *China: Fragile Superpower*, Oxford: Oxford University Press.

【Grading criteria】

Class Performance 20%; Weekly Assignments 40%; Final Exam 40%.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Foreign Policy Analysis

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2～4

Day/Period : 火3/Tue.3

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course delves into the study of Foreign Policy Analysis (FPA), a field that investigates how governments make foreign policy decisions. It scrutinizes the interaction of various individual, domestic, and international factors that influence foreign policy, including the ideologies and personalities of political leaders, the functions and peculiarities of bureaucracies, the roles of mass media and public opinion, and the structural distribution of state capabilities.

【Goal】

The course objectives are:

- (1) to enable students to demonstrate an understanding of the processes involved in foreign policy decision-making;
- (2) to enable students to demonstrate an understanding of the contexts, pressures and constraints with which policy-makers must deal;
- (3) to enable students to demonstrate their ability to engage in comparative analysis of the foreign policies of major countries.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will begin by exploring the key concepts and theories in foreign policy analysis (FPA), which are crucial for comprehending the contexts, pressures, and constraints that policymakers face. These include the Rational Actor Model, cognitive and psychological approaches, bureaucratic politics approaches, the influence of history and identity on foreign policy, and other internal and external factors affecting foreign policy decisions. Following this exploration of major FPA approaches, students will engage in case studies. For this task, students are required to deliver a group presentation based on readings related to the foreign policies of major states. Feedback on assignments will be provided during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Actors and Structures	Identifying the actors and (domestic and international) structures influencing foreign policy
3	The Rational Actor Model	Examining models and approaches to foreign policy decision-making from a rational actor perspective
4	Cognitive and Psychological Approaches I (Cognitions, Emotions, Perceptions)	Examining cognitive and psychological models which identify boundaries to rational decision-making (Cognitions, Emotions, Perceptions)
5	Cognitive and Psychological Approaches II (Leader's personality and Leadership styles)	Examining cognitive and psychological models that identify boundaries to rational decision-making (Leader's personality and Leadership styles)
6	The Role of Advisers and Bureaucracies	Examining the role of bureaucracies in foreign policy decision-making

7	Domestic Influences: Public Opinion, Media, Interest Groups	Examining the role of the public, the media and interest groups in foreign policy decision-making
8	External Influences: The Impacts of International Structures	Examining how the structural distribution of states' capabilities constrains the policy options that are realistically available to policy-makers
9	Case Studies I: The Cuban Missile Crisis	Case studies based on a group presentation and discussion
10	Case Studies II: The United States and the Iraq War	Case studies based on a group presentation and discussion
11	Case Studies III: Strongman Politics and China's Foreign Policy	Case studies based on a group presentation and discussion
12	Case Studies IV: Modi's Foreign Policy and India-China Relations	Case studies based on a group presentation and discussion
13	Case Studies V: Russian Invasion in Ukraine	Case studies based on a group presentation and discussion
14	Final exam	Review weeks 1-13

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be required to pore over the chapters of the books listed in the reference section before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Students are expected to prepare for their presentations under the instructor's guidance.

【Textbooks】

No textbook will be used. However, students are required to read some chapters of the books listed in the reference section.

【References】

Steve Smith, Amelia Hadfield, and Tim Dunne, eds, *Foreign Policy: Theories, Actors, Cases*. Fourth edition. Oxford University Press, 2024.
 Juliet Kaarbo and Cameron Theis, eds, *The Oxford Handbook of Foreign Policy Analysis*. Oxford University Press, 2024.
 Jean-Frédéric Morin, and Jonathan Paquin, *Foreign Policy Analysis: A Toolbox*. Palgrave Macmillan, 2018.
 Valerie M. Hudson *Foreign Policy Analysis: Classic And Contemporary Theory*. Third edition. Rowman & Littlefield Pub, 2019.
 Alden, Chris and Amnon, Aran. (eds), *Foreign Policy Analysis: New Approaches*. Second edition. Routledge, 2017.
 Neack Laura, *Studying Foreign Policy Comparatively: Cases and Analysis*. Fourth edition. Rowman and Littlefield, 2018
 Breuning, Marijke, *Foreign Policy Analysis: A Comparative Introduction*. Palgrave Macmillan, 2007.
 Mintz Alex and DeRouen, Karl R. Jr, *Understanding Foreign Policy Decision Making*. Cambridge University Press, 2010.

【Grading criteria】

Contributions to class discussion and group presentations (35%), Final exam (65%).

Regarding the group presentation, the performance of each student will also be assessed by the Group Evaluation Form. Students in the same presentation group will be required to evaluate each other independently and confidentially so that the instructor can effectively assess individual contribution to the group.

【Changes following student comments】

Nothing in particular.

【Equipment student needs to prepare】

Some course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】

Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

International Organizations

Heiko Lang

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火4/Tue.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course provides students with the fundamental knowledge of the role and activities of International Organizations, with a focus on the United Nations System.

The course consists of four parts. The first part lays the foundations by discussing the theoretical basis of the study of International Organizations. In the second part, we will examine the activities of the United Nations in the field of peace and security. The third part will deal with human rights. In the fourth part, we examine the impact of the UN in the field of development, including contemporary issues such as climate change and global health governance.

【Goal】

The aim of the course is to provide students with theoretical and empirical knowledge about the role of the United Nations on important issues of relevance to their future roles as global citizens.

Students who have completed this course will be able to

- explain the basic theories and approaches in the study of International Organizations,
- explain the main roles and functions of the UN in the field of peace and security, human rights, and development, and
- critically assess the effectiveness and impact of the UN on contemporary issues and real-life global problems.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The teaching method will be based on a combination of lectures and discussion. You will be encouraged to engage in critical debate, thorough textual analysis, guided research and group work.

Classes are generally divided into three parts. The first part consists of a short warming-up discussion of the reading material, where we identify the main issues. This will be followed by a lecture by the instructor about the session's topic. In the third part, discussion activities will give you the chance to ask questions and share your opinions with the class. You will be given timely feedback on your essays through Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Why Do We Study International Organizations?	Introduction: Why do we study International Organizations?
2	Foundations (1): The Emergence of International Organizations	Historical overview over the emergence of today's International Organizations
3	Foundations (2): Theories and Concepts	Examining key theories and concepts of the study of International Organizations
4	Foundations (3): The UN System	Examining the United Nations System
5	Peace and Security (1): The Fundamentals of Conflict Management	Examining the role of the UN in the area of conflict management until the 1990s
6	Peace and Security (2): Humanitarian Interventions and R2P	Examining contemporary challenges in the area of peace and security
7	Mid-Term Exam	Mid-term exam
8	Human Rights (1): Overview	Examining the role of the UN in the area of human rights
9	Human Rights (2): Human Security	Examining the concept and politics of Human Security
10	Human Rights (3): International Justice	Examining the role of the International Court of Justice

11	Development (1): Sustainable Development	Examining the role of the UN in the area of sustainable development
12	Development (2): Global Health	Examining the role of the UN in the area of global health
13	Development (3): Environment and Climate Change	Examining the role of the UN in the area of global environment protection and climate change
14	Conclusion	Review of the course content and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students are expected to closely read the assigned texts before class, submit discussion points, and to be ready to engage in discussion each week.

【Textbooks】

There is no need to buy a textbook.

【References】

A detailed list of required and recommended readings, and further materials for reference, will be distributed in class. All required texts will be uploaded to the online course management system.

For the weekly readings, we will mainly rely on the following books:

Ian Hurd (2017): International Organizations: Politics, Law, Practices, Cambridge: Cambridge University Press.

Weiss, Thomas G. et al. (2020): The United Nations and Changing World Politics, New York/London: Routledge.

The lecturer will provide further materials of interests (such as newspaper articles and UN documents) on a case-by-case basis.

【Grading criteria】

Participation and discussion: 20%

Mid-Term Exam: 40%

Final Exam: 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

International Security

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : <優> <未>

【Outline and objectives】

This course delves into the approaches to security studies, a sub-discipline of International Relations (IR). Security studies primarily explore topics such as the causes of interstate and intrastate wars, the conditions necessary for international peace, and the strategies employed by states and non-state actors to ensure their survival and security. Additionally, it examines methods for managing and resolving international and domestic armed conflicts, as well as the impact of new technologies, weapons, and ideas on how states engage in warfare.

【Goal】

The course objectives are:

- (1) to enable students to gain a broader understanding of the key theories and concepts in security studies;
- (2) to empower students to examine major security challenges in the international arena through the lens of relevant theories and concepts;
- (3) to equip students with the ability to formulate their own answers to enduring and contemporary questions inherent in international security studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course is divided into two segments: The first segment introduces major theories and concepts in security studies, essential for comprehending contemporary security policies and issues. The second segment delves into contemporary security challenges, including armed conflicts, the arms trade and military competition, nuclear proliferation, genocide and mass killings in intrastate wars, and terrorism. Feedback on assignments will be provided during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Military Security	Exploring the concepts of military security
3	Regime Security	Exploring the concepts of regime security
4	Societal Security	Exploring the concepts of societal security
5	Human Security	Exploring the concepts of human security
6	Environmental Security	Exploring the concepts of environmental security
7	Review and Mid-term exam	Review and Written test
8	The Evolution of Modern Warfare	Examining changes in warfare
9	The Arms Trade	Examining the key aspects of the contemporary arms trade
10	Nuclear Proliferation	Examining the important aspects of nuclear proliferation
11	Humanitarian Intervention	Providing an overview of the heated debate in terms of the validity of humanitarian intervention
12	Terrorism	Analyzing the threat that terrorism poses to countries and the world
13	Review and Preparation for the final exam	Review of major topics covered by week 9-13
14	Review and Final Exam	Review and Written test

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to have read the relevant chapters for the books listed in both the textbook and reference sections before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Allan Collins (ed). *Contemporary Security Studies*, Seventh edition. Oxford University Press, 2025.

【References】

Paul D Williams and Matt McDonald, ed. *Security Studies: An Introduction*. Fourth edition. Routledge, 2023.

John Baylis, James J. Wirtz and Colin S. Gray *Strategy in the Contemporary World*. Seventh Edition. Oxford University Press, 2022.

【Grading criteria】

Contribution to discussion (10%), mid-term examination (45%), final examination (45%)

【Changes following student comments】

Nothing in particular

【Equipment student needs to prepare】

Some course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】

Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

【Prerequisite】

none.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Japan's Foreign Policy

Heiko Lang

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火4/Tue.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course offers an overview over the main issues that inform Japan's contemporary diplomatic relations. After reviewing theories of international relations and critically discussing their value for analysing international relations in East Asia, a brief historic overview will introduce the main topics of Japan's modern foreign relations. After this, the course proceeds by looking into several case studies of Japan's foreign policy, focussing on bilateral and multilateral relations. Topics discussed include Japan's territorial disputes with its neighbours, Japan's efforts to manage the rise of China, aspects of Japan's efforts in the field of international cooperation, Japanese proposals for fostering regionalization in Asia, and its efforts to tackle the growing global climate crisis.

【Goal】

Students who have completed this course should be able to:

- understand the main issues that inform Japan's international position and develop individual research interests
- understand the variables that shape Japan's present foreign relations
- critically assess the various interests of the major regional powers in Asia, including Japan
- gain an understanding of the most prominent theories of international relations, and be able to relate them to contemporary issues

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Students are required to read mandatory assignments each week. Lectures will be used to introduce each topic; afterwards, a critical discussion will take place where students are strongly encouraged to voice their own opinions. In the second half of the semester, depending on the number of participants, students will have the opportunity to give individual or group presentations on a topic of their interest. Students are required to hand in discussion points for the reading before each class, which will be the basis for the in-class discussion. Teacher feedback will be given during the discussions and after the optional presentations; comments on the results of the two examinations will be given in written form in a timely manner.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Topics in Japan's Foreign Relations	Topics in Japan's Foreign Relations
2	International Relations Theory, East Asia, and Japan	Understanding “International Relations” and Japan's policies theoretically
3	Main Issues of Japan's Post War Diplomacy	Turning points and continuous characteristics of Japan's foreign policy after 1952
4	Recent Strategic Shifts	Assessing the recent strategic changes in Japan's Foreign Policy orientation since the 2000s
5	Japan and Regionalism in East Asia	Japan's efforts to influence the emerging regional political and economic order in East Asia
6	Japan and the United States	The shifting alliance between Japan and the United States
7	Mid-Term Exam	Exam and summary of the course content so far
8	Japan and China	Japan's relations with China
9	Japan and the Korean Peninsula	Japan's relations with North and South Korea
10	Japan and Russia	Japan's relations with the Russian Federation
11	Japan and ASEAN	Japan's relations with Southeast Asia

12	Japan and International Cooperation	Japan's policies in international organizations
13	Japan and Climate Security	Japan's policies in tackling different dimensions of climate change
14	Conclusion and Final Exam	Wrap-up of course content and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are expected to closely read the assigned texts before class and to be ready to engage in discussion each week. Students are also required to prepare questions and discussion ideas based on interesting and/or problematic points of the assigned texts.

【Textbooks】

There is no need to buy a textbook.

【References】

A list of assigned readings and further materials for reference will be distributed at the beginning of the semester. All required texts will be uploaded to the online course management system.

The readings for this course will largely rely on the following textbooks:
-Brown, James D. J. and Kingston, Jeff (eds.) 2017: Japan's Foreign Relations in Asia, New York: Routledge.

-McCarthy, Mary M. (ed.) 2018: Routledge Handbook of Japanese Foreign Policy, London and New York: Routledge

-Pekkanen, Robert J. and Pekkanen, Saadia M. (eds.) 2022: The Oxford Handbook of Japanese Politics, Oxford: Oxford University Press.

The relevant chapters will be uploaded to the course website.

【Grading criteria】

Participation and discussion: 20%

Mid-term exam: 40%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

For GIS students who entered in 2012 - 2019:

This course is regarded as 100-level Introductory Courses.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Development Studies

Norio Usui

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月4/Mon.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The course centers on Asia, the most dynamic region in the world, to derive core policy lessons for economic development in the global context. Asia has achieved a remarkable growth during the past five decades, and its success has been referred to as a “miracle”. However, not all Asian economies have attained the same degree of success. The objective of this course is to learn how a group of Asian countries made it from low income into high income in a single generation. A key feature of the successful Asian economies has been their focus on structural transformation, that is, their capacity to shift resources from sectors of low productivity into sectors of high productivity, and upgrade the production and export baskets. After reviewing conventional development/growth theories, this course assesses Asia's development from the lens of changing production and employment structures, and discusses implications for long-term growth and poverty reduction. The course pays due attention to the heterogeneity of Asian economies in their level of development and clarifies major causes of the divergence. This course is unique in its persistent focus on structural transformation and its applications of several new analytical tools originated from the network theory in physics.

【Goal】

Students who have taken this course should be able to:

- (1) understand the main growth mechanism: structural transformation, in the development process;
- (2) understand differences in development through the lens of structural transformation;
- (3) understand what the government can do to facilitate the process of structural transformation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

The intent of this course is to expose students to a range of ideas and issues in economic development. Students will be provided an opportunity to learn, think and discuss broadly and deeply about development issues across various development systems through lectures, discussions, group work, presentations and homework. Comments will be provided to assignments. Good works will be presented in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Guidance and Introduction	Course Guidance and Introduction
2	The Asian miracle	Why was it labeled a miracle?
3	Development theories 1	Harrod-Domar, Two-Gaps, and Revised Minimum Standard Model (RMSM)
4	Development theories 2	Solow's surprise and beyond (Institutions)
5	An introduction to structural transformation and productivity	What is the structural transformation? and Why we focus on productivity?
6	Decomposition of productivity growth	Sectoral productivity growth and structural transformation, and case studies (China and India)
7	The Product Space	Visualizing the process of diversification and upgrading
8	Case studies	China, Thailand, Malaysia, Indonesia, Philippines, Pakistan, Nigeria etc.
9	Case studies	Students' presentations
10	Leapfrogging manufacturing?	Modern services, and a case study of the Philippines' business process outsourcing (BPO)

11	The paradox of plenty	Dutch disease and the resource curse
12	Case studies	Indonesia, Mongolia, Kazakhstan, Mexico, and Nigeria
13	Recap	What did we learn in the course?
14	Final exam & wrap-up	Final exam & wrap up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Assigned readings and preparation of group work, exercises and presentations and homework. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required. Necessary materials will be provided before or during the class. Students are highly recommended to review readings from the reference listed below.

【References】

Mankiw, N.G., D. Romer, and D.N. Weil (1992), “A Contribution to the Empirics of Economic Growth”, *The Quarterly Journal of Economics*, 107(2):407-437. (for Class 4).
 Caselli, F. (2004), “Accounting for cross country income differences”, NBER Working Paper 10828. (for Class 4).
 Dollar, D., and W. Easterly (1999), “The Search for the Key: Aid, Investment and Policies in Africa”, *Journal of African Economies*, 8 (4): 546-577. (for Class 4).
 Acemoglu, D., S. Johnson, and J.A. Robinson (2001), “The Colonial Origins of Comparative Development: An Empirical Investigation”, *American Economic Review*, 91 (5): 1369-1401. (for Class 3&4)
 N. Usui (2012), “Taking the Right Road to Inclusive Growth: Industrial Upgrading and Diversification in the Philippines”, *Asian Development Bank*. (for Classes 5-8, and 10).
 Felipe, J., Kumar, U., N. Usui, and A. Abdon (2013) “Why has China succeeded? And Why it will continue to do so”, *Cambridge Journal of Economics*, 37 (4): 791-818, (for Class 8).
 N. Usui (1998), “Dutch Disease and Policy Adjustments to the Oil Boom: A Comparative Study of Indonesia and Mexico”, *Resources Policy*, 23 (4): 151-162, (for Classes 12).

【Grading criteria】

The following criteria will be used to evaluate students:

- Class contribution (ex. Questions, Presentations, Discussions) 40%
- Final Exam 60%

【Changes following student comments】

Student requests and comments will be taken into consideration.

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

- (1) week 1 attendance is mandatory to register for this class.
- (2) students are allowed a maximum of 2 unexplained absences. More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
- (3) students should have enough English capacity to join in-class discussions.

As an economist in Asian Development Bank, the instructor worked for over 20 years for economic development in Asia and the Pacific. This course combines theories and practices based on the real-world development experiences of the instructor.

【Prerequisite】

None

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Japanese Politics

Romeo Marcantuoni

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金1/Fri.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is an introduction to Japanese politics. The first part focuses on tracing historical developments from the Meiji period to the present day and describes the key features of postwar Japan's democratic institutions. After a mid-term examination on the content of the first part, the course then moves on to a number of important themes in Japanese politics.

【Goal】

Students who have completed this course will be able to

- understand the basics of Japan's political system,
- understand the main issues in contemporary Japanese politics,
- develop informed opinions on these issues, and
- critically assess the policies taken by the Japanese Government in response to these issues.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

This class will primarily revolve around lectures with some opportunities for discussion and group work where appropriate. Interaction is encouraged. The last 10 to 15 minutes will be dedicated to writing a short reaction papers. At the beginning of each class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. Specific comments are given during office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Japanese Politics	Introducing the main issues in Japanese politics
2	Japanese Imperialism and the American Occupation	The Meiji restoration, imperialism, and Japan's transformation into a democracy Reading: - Chapter 1 – 2
3	Postwar Politics and the 1955 System	The formation of the LDP and the 1955 system Reading: - Chapter 3
4	From System Breakdown to Revitalising Japan	The Heisei reforms and the end of the 1955 system Reading: - Chapter 4
5	Japan's Postwar Democratic Institutions and Actors (1)	The Diet, the electoral system, and the bureaucracy Reading: - Chapter 5 – 6
6	Japan's Postwar Democratic Institutions and Actors (2)	Local government and non-state actors Reading: - Chapter 7 – 8
7	Mid-term examination	Mid-term examination on the content of the first part of this course
8	Religion and Politics	Soka Gakkai, Aum Shinrikyō, and Shinto Renmei
9	Foreign and Security Policy	From Yoshida doctrine to collective self-defense Reading: - Chapter 9
10	Japanese Capitalism	Industrial policy and pollution Reading: - Chapter 10 – 11
11	Social Welfare Policies	Health, pensions, and social welfare Reading: - Chapter 12

12	Feminism and Minority Rights	Gender equality and human rights Reading: - Chapter 13
13	Japan as a Harbinger	How what happens in Japan is relevant for the rest of the world Reading: - Chapter 14
14	Conclusion and Final Exam	Wrap-up of the course content and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each week. Students are expected to closely read the assigned texts before class, submit discussion points on the readings before each class, and to engage in discussion.

【Textbooks】

The weekly readings will mainly rely on the following book:

Neary, Ian (2019): The State and Politics in Japan, Cambridge etc.: Polity Press

【References】

Mandatory articles will be provided.

Kim, Hoi-eun. 2013. "Cure for Empire: The 'Conquer-Russia-Pill', Pharmaceutical Manufacturers, and the Making of Patriotic Japanese, 1904 – 45." *Medical History* 57 (2): 249 – 68. <https://doi.org/10.1017/mdh.2012.105>.Lipsy, Phillip Y. 2023. "Japan: The Harbinger State." *Japanese Journal of Political Science* 24 (1): 80 – 97. <https://doi.org/10.1017/S1468109922000329>.Klein, A. (2012). Twice Bitten, Once Shy; Religious Organizations and Politics after the Aum Attack. *Japanese Journal of Religious Studies* 39/1. Kyoto: Nanzan Institute for Religion and Culture. [77-98].Larsson, E. (2017). Jinja Honcho and the Politics of Constitutional Reform. *Japan Review*, 30 (Special Edition). [227-252]Reed, Steven R., Ethan Scheiner, and Michael F. Thies. 2012. "The End of LDP Dominance and the Rise of Party-Oriented Politics in Japan." *The Journal of Japanese Studies* 38 (2): 353 – 76. <https://doi.org/10.1353/jjs.2012.0037>.Htun, Tin Tin. 2022. "Preserving the Status Quo: Japan's Laws and Policies on Ethnic and Sexual Minorities." In *Japan in the Heisei Era* (1989 – 2019). Routledge.Pempel, T.J. 1997. "Regime Shift: Japanese Politics in a Changing World Economy." *Journal of Japanese Studies* 23 (2).

【Grading criteria】

Participation and attitude: 20%

Mid-term exam: 40%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

(not applicable)

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Politics of Africa

Kinyua L Kithinji

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course aims to introduce students to key concepts, themes, and approaches to African politics using the interdisciplinary methods of global studies. The course has, among others, objectives such as: a) to create awareness and an understanding of major issues in African politics; and b) to familiarise the students with the approaches and theories applied by political scientists in analysing the political development in Africa.

【Goal】

This course will focus on building academic skills by encouraging students to acquire analytical skills on a variety of issues in the discipline of global studies through the study of politics in Africa. Furthermore, students will be exposed to readings and discussions that will develop and improve academic reading and writing skills in the social sciences, with the goal of sparking an interest in conducting social research. Overall, this course will also encourage students to develop an interest in and inclinations towards Africa-related issues, including areas beyond politics, in order to expand their capacity for wider course selection and career prospects.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will focus on building an academic exchange and having discussions on each week's thematic areas. As an exercise to help students acquire reading and comprehension skills for academic articles, students will be expected to submit five key terms and one thesis statement from each assigned reading. The key terms and thesis statement will form the basis for in-class discussions. Students are also expected to familiarise themselves with the contemporary political discourse in Africa via BBC Focus on Africa. Although the instructor will use most of the time to explain the content of the class, students are encouraged to keep in mind that the style of the class is not a monologue but a discussion format. Students' input will be through class discussions and a research-based essay to be submitted for final evaluation. For all written assignments, students will receive written feedback with corrections and recommendations from the instructor. Students are also encouraged to consult the instructor after the class session (the instructor will be available for 30 minutes after class) or make an appointment through email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction I	a) Introduction to the course.b) Africa is not a country: states, capitals, people groups, languages.
2	Introduction II	Africa in global political discourse (reading James Ferguson's Global Shadows and Binyavanga Wainaina's How to Write About Africa).
3	Nation building in Africa	Emergence and crisis of the nation-state and its trajectories.
4	The politics of state in Africa I	Nationalism, one-party states, and military rule.
5	The politics of state in Africa II	Federalism, decentralization, neopatrimonialism, and political regimes.
6	Democracy and electoral politics I	Multiparty democracy, clientelism, and ethnicity.
7	Democracy and electoral politics II	Elections and electoral authoritarianism.
8	Review &Mid-term	In-class formulation of research questions and issues, context, and background.

9	Politics of conflicts and revolts in Africa I	African civil wars and military coups d'état in post-independent states.
10	Politics of conflicts and revolts in Africa II	Post-conflict resolution, peacebuilding, power sharing, and transitional justice.
11	The politics of identity in Africa	Class, ethnicity, politics of belonging, religion and politics, and women in politics.
12	Regionalization and globalization in Africa.	The African Union (AU), the Common Market for Eastern and Southern Africa (COMESA), the East African Community (EAC), the Economic Community of Central African States (ECCAS), the Economic Community of West African States (ECOWAS), the Intergovernmental Authority on Development (IGAD), and the Southern African Development Community (SADC).
13	Japan and China in Africa	The African resource question; the Tokyo International Conference for Africa Development (TICAD) process; and the Forum on China-Africa Cooperation (FOCAC).
14	Conclusion and End-term	Reflections on Africa in global political discourse &End-term evaluation report (an improved version of the mid-term report in essay format).

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

In order for the students to participate and express their thoughts in class and in writing, they need to make adequate preparations. Students are advised to set aside 4 hours of preparatory study and review time for this class. The instructor will issue guiding questions at the end of every class for the next reading. Attempting to answer these questions will help the students grasp the main theme of the assigned readings. At least twice in the semester, students will be asked to watch recommended news items and documentaries outside of class.

【Textbooks】

The following text books will be reserved in the library for students' reference. Those who can manage to purchase the books are encouraged to do so. Cheeseman, N., Anderson, D., &Scheibler, A. (Eds.). (2017). Routledge Handbook of African Politics, Routledge.

【References】

A wide range of diverse materials and recommended readings may be provided in class for every session. Nevertheless, these two texts are highly recommended. a) Thomson, A. (2016). An Introduction to African Politics (4th ed.). London: Routledge. b) Englebert, P., &Dunn, K. (2014). Inside African politics. Cape Town: UCT Press.

【Grading criteria】

20%: Identification of key terms and the main claim of the assigned readings.

20%: Pop Quizzes.

20%: Mid-Term Report.

40%: End-Term Evaluation Report (an improved version of the mid-term report).

The purpose of pop quizzes is to enhance students' comprehension of key concepts covered in the class. There will be five pop quizzes. The dates and timing of the pop quizzes will not be disclosed to the students. Out of the five pop quizzes, only the top four will be used for grading. Pop quizzes will be ten short answer identification questions that will cover the contents discussed in the class.

Both the midterm and end-term evaluations will be a reflection on the topics we have covered in class, emphasising the context, causes, and consequences of political themes from the lecture materials and required readings. While previewing the questions is not encouraged, the themes for essays may be provided ahead of time to allow students to conduct prior research.

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

Students' personal learning materials such as A4 folders, pens, and pencils.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Politics of Southeast Asia

Nguyen Hoang Thanh Danh

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火1/Tue.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course introduces undergraduate students to the politics of Southeast Asia, one of the most politically, culturally, and economically diverse regions in the world. The course examines how contemporary political systems in Southeast Asia have been shaped by colonial legacies, post-independence state-building, and ongoing processes of regime change and political contestation.

Through comparative analysis of countries in the region, students will develop an understanding of key political institutions, ideologies, and actors, as well as the challenges facing governance and democratization in Southeast Asia today.

【Goal】

The primary objectives of this course are:

To introduce students to the Southeast Asian states and their contemporary political systems.

To explore the connections between the colonial period and modern Southeast Asia, as well as the interactions among Southeast Asian countries.

To enhance students' critical thinking skills by encouraging them to analyze current political issues in Southeast Asia, identify challenges, and propose solutions.

By the end of this course, students will be able to:

Describe and compare the political systems of Southeast Asian states.

Explain how colonial history and post-colonial state formation have influenced contemporary politics in the region.

Analyze major political challenges facing Southeast Asia.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ/Seminar

【Method(s)】

This course covers a number of topics about Southeast Asia through a historical lens. During the first segment of the course (Week 1 to 4), an overall introduction to Southeast Asia and its history is provided. This serves as the context for the next segment (Week 5 to 10), which further discusses nationalism and ethnicity, politics and religions in Southeast Asia. The last segment of the course (Week 11 to 13) examines the establishment and the role of ASEAN, outside political influence over Southeast Asia, and non-traditional security threats facing the region.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System so please make sure to check the course's website each week before class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Course Outline	A brief introduction about the course

2	An Introduction to Southeast Asia	An overall introduction to Southeast Asia
3	History of Southeast Asia I	Pre-colonial History of Southeast Asia
4	History of Southeast Asia II	History of Southeast Asia from Colonial Period until Modern Times
5	Nationalism and Ethnicity I	Nationalism and Ethnicity in Southeast Asia I
6	Nationalism and Ethnicity II	Nationalism and Ethnicity in Southeast Asia II
7	Nationalism and Ethnicity II	Political Systems in Modern Southeast Asia
8	Politics in Modern Southeast Asia II	The Political Economy of Southeast Asia
9	Politics in Modern Southeast Asia III	The Coexistence of Democracy and Authoritarianism in Southeast Asia
10	Religions in Southeast Asia	Islam, Buddhism, Catholicism and Regional Religions in Southeast Asia
11	Southeast Asia and Regionalism	The Establishment and the Role of ASEAN
12	The U.S., China, and Japan's Involvement to South East Asia	The U.S., China, and Japan's Involvement to South East Asia
13	Modern Non-military Security Threats	Climate Change, Resource Depletion, Cross-border Environmental Degradation, Terrorism, and Infectious Diseases
14	Final Exam and Review/Wrap Up	Final Exam and Review/Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Quizzes will be conducted before certain lessons to assess students' preparedness and basic understanding of the material covered in the previous class. These short tests will also serve as a method of taking attendance. Students are expected to review the materials distributed during the previous week to prepare for the quizzes. On average, students should allocate approximately two hours each week for preparatory study and review.

【Textbooks】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【References】

No single textbook is required for this course. Instead, selected readings and materials will be provided before each class.

The below textbooks are for references only, students are not required to purchase them or read them beforehand.

Ba, Alice D., and Mark Beeson, eds. Contemporary Southeast Asia: the politics of change, contestation, and adaptation. Macmillan International Higher Education, 2017.

Rush, James R. Southeast Asia: A very short introduction. Oxford University Press, 2018.

Case, William. Politics in Southeast Asia: democracy or less. Routledge, 2013.

【Grading criteria】

Weekly short quizzes or tests (30%)

Class participation, including discussion and group activities (20%)

Final examination (50%)

【Changes following student comments】

Student comments will be considered for course management.

【Equipment student needs to prepare】

None

【Others】

None

【Prerequisite】

None

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Public Policy

Romeo Marcantuoni

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is an introduction to public policy. Its aim is to give students a sense of what the process of policy formulation is like, who has influence over them, how they are implemented, and how their effects are measured. It will equip students with the tools (concepts, theories, and methods) to analyze important questions of global significance.

【Goal】

By the end of this course students will:

- understand the processes of policy formulation
- have knowledge on the main actors involved in public policy
- be familiar with tools to analyze important questions in the field

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. Specific comments are given during office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Chapter 1: What is public policy?
2	The Nature of Public Policies	Chapter 2: The nature of public policies, typologies, dimensions, and styles
3	The Context for Policy-Making: Central Institutions and Actors	Chapter 3: The context for policy making, institutions, and actors
4	Theoretical Approaches to Policy-Making	Chapter 4: Theoretical approaches such as structure-based models, institution-based models, and interest-based models
5	Problem Definition and Agenda-Setting	Chapter 5: The process of defining a problem and the roles of actors and interests
6	Decision-Making	Chapter 6: Determinants and procedures
7	Midterm exam	Midterm examination on the content seen so far
8	Implementation	Chapter 7: Who is involved in implementation and what determines success?
9	Evaluation	Chapter 8: Types of evaluation
10	Governance: A Synoptic Perspective on Policy-Making	Chapter 9: Ideal types of governance
11	Public Policies beyond the Nation State	Chapter 10: Public policy on the international stage
12	Policy Change and Policy Convergence	Chapter 11: Policy change theories, management, and general patterns
13	Conclusions: Theoretical Insights and Practical Advice	Chapter 12: What have we learned?
14	Final exam	Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are required to come to class having completed the mandatory readings.

【Textbooks】

Knill, C., & Tosun, J. (2020). Public Policy: A New Introduction (2nd ed.). London: Red Globe Press.

【References】

Other articles will be provided.

Edmonds, Will. 2026. “The Social Cost of the UK’s Approach to Transport Policy.” The Loop, January 7. <https://theloop.ecpr.eu/the-social-cost-of-the-uks-approach-to-transport-policy/>.

Mahoney, James. 2012. “The Logic of Process Tracing Tests in the Social Sciences.” Sociological Methods & Research 41 (4): 570 – 97. <https://doi.org/10.1177/0049124112437709>.

Bevir, Mark. 2003. “Narrating the British State: An Interpretive Critique of New Labour’s Institutionalism.” Review of International Political Economy 10 (3): 455 – 80. <https://doi.org/10.1080/09692290308428>.

Shinoda, T. (2020) The Policymaking Process in Japan. In Pekkanen, R.J. & Pekkanen, S.M. (Eds.), The Oxford Handbook of Japanese Politics. Oxford: Oxford University Press.

Leheny, David. 2003. “Chapter 1: Guns, Butter, or Paragliding?” In The Rules of Play: National Identity and the Shaping of Japanese Leisure, by David Leheny. Cornell University Press. <https://doi.org/10.7591/9781501731891>.

Pader, Ellen. 2014. “Seeing with an Ethnographic Sensibility: Explorations Beneath the Surface of Public Policies.” In Interpretation and Method, 2nd ed. Routledge.

【Grading criteria】

Participation and attitude: 20%

Mid-term exam: 40%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Religion and Politics

Christopher Kavanagh

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月4/Mon.4

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

This course introduces students to the complex relationships between religion and politics, drawing on cross-cultural case studies that range from the premodern to the contemporary period. The course takes a cross-disciplinary approach, examining research from anthropology, sociology, psychology, and history.

"Religion" refers not only to doctrinal beliefs and formal institutions but also to informal supernatural beliefs, ritual practices, and the subcultures and social dimensions of religious communities. The principal aim of the course is to explore how religions, as cultural systems, interact with and affect political systems and nation-states. By the end of the course, students will understand the relationships that religious groups, institutions, and larger traditions have with political systems. Students will critically engage with a wide range of theoretical perspectives, analyze the role of religion in both fostering political cohesion and inciting conflict, and assess contemporary issues where religion and politics intersect. The course aims to improve students' analytical skills, increase cross-cultural awareness, and equip them to understand the significance of religion in global and local political contexts.

[Goal]

By the end of the course, students will be able to:

- 1) Analyze and discuss the roles that religion has played historically and cross-culturally in politics and public life.
- 2) Explain the diverse ways that religion and politics can interact in different cultural and historical contexts.
- 3) Critically evaluate scholarly research and media accounts that explore issues of religion and politics, identifying biases and methodological strengths or weaknesses.
- 4) Compare and contrast various theoretical models of religion and politics, articulating the key arguments and implications of each.
- 5) Apply theoretical frameworks to contemporary case studies and assess real-world interactions between religion and politics.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

The course uses a combination of lectures, class discussions, and small group activities. Each session begins with a lecture introducing key concepts and case studies, followed by class and group discussions based on the assigned readings. Students submit reaction papers online to reflect on specific topics covered in selected classes. Each student will also select a topic related to the course content and prepare an oral presentation. Presentations must be accompanied by a written script, and students will receive written feedback on both the content and delivery of their presentations and reaction papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Religion and Politics: Course Introduction and Overview	Religion and Politics: Course Introduction and Overview
2	Defining Religion and Politics	An examination of the debates surrounding how to define religion and politics and the associated theoretical approaches.
3	The evolutionary role of religion in society	Exploring the role of religion in human societies from a cultural evolutionary perspective. Discussing its potential role in enabling large scale cooperation.
4	Religion and the State: Compatibility, Conflict, and Convergence	An examination of the varied relationships between religions and states, drawing on historical and contemporary examples.

5	Secularization Thesis	A critical assessment of the secularization thesis and the evidence presented for and against the position.
6	Resurgent Religiosity	An examination of contemporary claims of resurgent religiosity and growth in alternative religious beliefs.
7	Mid-term Exam & Course Review	Mid-term Exam and Course Review
8	Religious Identity & Intergroup Conflict	Exploring the role of religious identity in conflicts through case studies: 1. Buddhist nationalism and Hindu minority identities in Sri Lanka. 2. The role of Catholic & Protestant identity in the Northern Irish 'Troubles' 3. Religious identities in the Palestine/Israel Conflict
9	Religious Activism and Social Protest	Exploring the ability for religion to function as a source of activism including as an anti-state counter-hegemonic, emancipatory force.
10	Online Gurus, Conspiracy Cults, & New Political Movements	Reviewing new interactions between religion and politics in the contemporary world, especially in the online sphere.
11	State Religion & War	Examining the nature of state religions through a case study of State Shinto & Buddhist institutions involvement in WW2.
12	Religious Extremism & Terrorism	A critical examination of the role that religious doctrines and personal beliefs play in terrorism.
13	Religion and Social Issues: Evolution, Abortion, and Same-Sex Marriage	Investigating the role that religion plays in controversial social issues. Focusing on debates surrounding the teaching of evolution, abortion, and same sex marriage.
14	Final Exam & Wrap-up	Course wrap up and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete their weekly reading assignments and reaction papers, participate in class discussions and prepare a 15-20 minute oral presentation on a topic of their choice. For selected weeks students will be asked to summarise key readings. Preparatory study/reading and review time for this class is estimated to be at least 4 hours per week.

[Textbooks]

All readings will be distributed by the instructor on the online platform for class material.

[References]

Haynes, J. (Ed.). (2008). Routledge handbook of religion and politics. Routledge.

Fox, J. (2018). An introduction to religion and politics: Theory and practice. Routledge.

These books are useful references but not necessary to purchase.

[Grading criteria]

Presentation 25%
Mid-term exam 25%
Final exam 25%
Reaction Papers 25%

[Changes following student comments]

Some collective preparation for group discussion tasks will be set instead of reaction papers to provide some variation. More details will be provided on presentation and essay structure early in the course.

[Equipment student needs to prepare]

Students do not need any specialist equipment beyond access to a PC/laptop & the internet. Students will need to complete readings before each class and submit reaction papers online via Google Classroom. At various points in the semester, students should be prepared to participate in discussions of ideas and concepts covered in readings.

[Prerequisite]

None.

HIS200ZA (史学 / History 200)			6	Interpreting Visual Evidence seminar: Conflict and Consent	In the fifteenth and sixteenth centuries, European overseas empires came into conflict with indigenous societies, decimating the Amerindian population and drafting African slaves to perform labor the remaining Amerindians refused. This resulted in societies in the Americas that initially had extremely pronounced cultural differences.
European History					
Brian Sayers					
Credit(s) : 2 Semester : 秋学期授業/Fall Year : 2~4					
Day/Period : 木2/Thu.2					
その他属性 : <優>			7	Exchanges and Expansions in North America	Although the search for precious metals or water routes to Asia had initially spurred British, French, and Dutch efforts to establish New World colonies, colonizers soon learned that only by exploiting other resources could they generate profits.
【Outline and objectives】			8	The Slave Trade and Africa	Although the slave trade began in the mid-fifteenth century, only in the seventeenth and eighteenth centuries did the numbers of human exports from Africa begin to soar. By 1820, four slaves had crossed the Atlantic for every European. Those numbers were essential to the prosperity of Europe's American colonies.
As the world becomes an increasingly globalized place, the study of history is more relevant than ever to understand the forces that have shaped our society. This course will chart some of the major political, social, and economic changes that took place in Europe from the fourteenth to the nineteenth century and assess their impact upon the rest of the world. It will adopt a thematic and broadly chronological approach.			9	Interpreting Visual Evidence seminar: A World of Goods	As overseas trade generated new wealth, elites displayed this wealth in diverse ways. Ranging from the purely ornamental to the modest and practical, material objects reflected the identities of the people who bought and displayed them, as well as the identities of the producers who made them.
【Goal】			10	The Enlightenment in Europe	The Enlightenment was an extraordinary cultural flowering, driven by trade and internal commerce, which blossomed in Europe during the seventeenth and eighteenth centuries. This era encompassed broader developments, such as the expansion of literacy, the spread of critical thinking and the decline of religious persecution.
The aim of this course is to enable students to reach a deeper understanding of the key events in European History from the fourteenth to the nineteenth century. In doing so they will enhance their ability to think critically about historical events. Students will also develop their interpersonal skills through group discussions in the classroom.			11	Consequences of the Enlightenment	The Enlightenment - or, more properly, Enlightenments, as there was much variation across Europe - was a movement with numerous ambivalent consequences, both for religious and political institutions and for Europe's relationship with the rest of the world.
【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】			12	Interpreting Visual Evidence seminar: Envisioning the World	Although maps give the impression of objectivity and geographic precision, the arrangement of names and locations, as well as the areas placed at the center and the margins, reveal the mapmakers' views of the world. In most cultures, official maps located their own major administrative and religious sites at the center of the universe and reflected local elites' ideas about how the world was organized.
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".			13	Revolutionary Transformations and the New Language of Freedom	Late in the eighteenth century, revolutionary ideas spread across the Atlantic world following the trail of Enlightenment ideas about political freedom and reason. The slogans of independence, freedom, liberty, and equality seemed to promise an end to oppression, hardship, and inequities.
【Main Teaching Method】					
S 演習/ゼミ /Seminar					
【Method(s)】					
Classes will be held in both lecture and seminar style. PowerPoint lectures will be followed by small group discussions in which students will compare their answers (written in note form, and submitted to the lecturer on Hoppii, before class) to questions on the assigned readings for each lecture. The discussion findings will then be reported by a member of each group and students from the other groups will be encouraged to contribute to the class discussion. Finally, feedback will be given by the lecturer to each group. Students will also receive individual feedback on Hoppii.					
【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】					
あり / Yes					
【Fieldwork in class】					
なし / No					
【Schedule】 Class form : 対面/face to face					
No.	Theme	Contents			
1	The Catholic Church, State Building, and Economic Recovery after the Black Death	The Catholic Church, State Building, and Economic Recovery after the Black Death			
2	The Renaissance	As Europeans rebuilt after the devastation of the plague, a movement called the Renaissance revived Europe's connections with its Greek and Roman past and produced masterpieces of art, architecture, and other forms of thought.			
3	Interpreting Visual Evidence: Marking Boundaries, Inspiring Loyalty	The fourteenth century witnessed the emergence of dynastic states across Afro-Eurasia that endured for centuries. Rulers used a careful mixture of privilege and punishment to create a sense of unity among their subjects while at the same time justifying their own right to rule and reinforcing traditional social hierarchies.			
4	European Exploration and Expansion	By opening new sea-lanes in the Atlantic, European explorers set the stage for a major transformation in world history: the establishment of overseas colonies for the purpose of enriching themselves and their monarchs.			
5	The Reformation	In sixteenth century Europe frequent warfare centered on purely European concerns, above all on a religious split within the Roman Catholic Church, known as the Reformation.			

14	Interpreting Visual Evidence seminar: Framing the Subject	Important currents of Enlightenment thought stressed the autonomy of the individual. Painters sought to capture and reflect an independent, external, stable reality - this in a period before photography. It was a confident but also a self-centered view of the world.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Students are expected to complete weekly reading assignments.

【Textbooks】

No textbook will be used.

Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【References】

Students will receive information about essential reading for this course at the first session.

【Grading criteria】

Marks will be allocated on exercises submitted before class (20%), participation in class (20%), a quiz (20%) and two short essays (40%)

【Changes following student comments】

Students will submit exercises on Hoppii before the class. They will also answer a quiz and write two short essays, to ensure that they get continuous feedback about their performance in class during the course.

【Equipment student needs to prepare】

Please bring reading materials provided by the lecturer together with completed assignments each week to class.

【Prerequisite】

None.

TRS200ZA (観光学 / Tourism Studies 200)

Tourism Development in Japan

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : <優><実>

【Outline and objectives】

The post-coronavirus recovery of inbound tourism to Japan has surpassed expectations and 2025 was another record-breaking year for visitor numbers and spending.

After a consideration of historical tourism development, this course will examine a range of topical issues, including relations with South Korea, the Tokyo Olympics in 2021 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation of Mt. Fuji. We will analyze different management and marketing approaches of tourism in different prefectures. We will consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake and how Japanese tourism may develop in 2026 and beyond.

【Goal】

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand how tourism in Japan has developed into its present form
- 2) Understand some of the key stakeholders involved in planning tourism in Japan
- 3) Consider destination management and how to harness the social and economic potential of tourism for revitalizing Japan at local level
- 4) Critically analyze prefectural and national government tourism management and marketing initiatives
- 5) Critically analyze sustainable tourism development in different prefectures

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to have group and class discussions. A range of case studies can help students consolidate their learning by illustrating the lecture content with real examples.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular prefecture, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted and returned, with feedback, via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format and a consideration of contemporary tourism in Japan
2	The Roots of Japanese Travel Culture and Tourism Development	Exploring the historical development and evolution of the tourism sector in Japan, and the emergence of the 'leisure concept' in Japan in the 1970s
3	Destination Management and Marketing	Analysis of destination competitiveness, and an introduction to some of the key organizations involved in tourism management and planning in Japan
4	Rural Japan: Tourism as an Economic and Social Lifeline	Exploring destination management and tourism sustainability. Also the economic potential of niche tourism for local and regional development 'off the beaten track' to tackle serious demographic problems.
5	Tourism Marketing I	Considering marketing strategy and different approaches to tourism marketing

6	Tourism Marketing II: Prefectural Campaigns	Analyzing examples of prefectural marketing campaigns
7	Japan and Asia. Case Study: Japan and South Korea	Examining the current & historical connections with some of Japan's close neighbors, with a particular focus on South Korea
8	Tourism Resources: Events	Analyzing how Japan's rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
9	Tourism Resources: Natural, Built and Cultural	Analyzing the tangible and intangible resources in Japan, with a particular focus on World Heritage Sites. We will consider Mt Fuji from a sustainable tourism management perspective.
10	Tourism Focus: Niche Tourism	Considering different forms of tourism including ecotourism, gastronomic tourism, indigenous tourism (the Ainu) and cultural tourism related to anime, manga, movies and TV shows.
11	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
12	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
13	Disaster Management and Recovery	Analyzing how destinations can manage disasters. The response to the Great East Japan earthquake in 2011 will be considered, as will the rapid recovery from the coronavirus pandemic.
14	Examination & Course Wrap Up	Course examination and wrap up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

Various reference books are available in the library and in the GIS Reference Room, including:

Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures*. Berghahn: New York
 Sharpley, R. and Kato, K. (2020) *Tourism Development in Japan: Themes, Issues and Challenges (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism and Mobility)*. Routledge: London

【Grading criteria】

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group project (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures. *To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.*

【Changes following student comments】

From the 2026 academic year, as a general rule, students will not be permitted to use laptops or other devices during class. Lecture slide handouts will be provided to help students follow the lecture. Students may only use devices for specific tasks when requested to do so by the instructor.

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

I can draw from my experience as marketing director of a tourism business and event organizer in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Although not essential, students are encouraged to have taken (or concurrently take) the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' course.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

English as a Lingua Franca

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木2/Thu.2

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

The ratio of L1 to L2 English speakers worldwide is roughly estimated to be 1:3 or 1:4. However, it was only towards the turn of the century that sociolinguists and applied linguists took a keen interest in the expanding use of English as a lingua franca (ELF), which is due to the globalisation in all aspects of society, including mass media and pop culture. Arguably, some Expanding Circle countries, where English does not have an official language status, have recently overshadowed the Outer Circle ones in proficiency and frequency of use.

The first section of the course situates English in the international contexts, mainly among non-native speakers. It also refers to the limitations in the traditional models of World Englishes put forward by Kachru and other scholars. The middle section discusses native-speakerness, native-speakerism and their influence on pedagogical practices, suggesting how these notions could/should be modified from an ELF perspective. Finally, the course concludes with an analysis of the status and function of English in Asia and Japan, before looking towards future directions.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- Understand key terminology and concepts in ELF and World Englishes
- Have an awareness of the wider use of English in non-native speaking contexts
- Become confident in engaging with, and critiquing, key theories.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Lectures and readings will introduce key concepts and theories related to ELF and its role in international communication. Discussions and practical exercises will then allow students to engage with primary texts and case studies in order to examine how ELF operates across diverse social, cultural, and institutional contexts. Students will apply practical analytical tools to explore how English is used, negotiated, and adapted in real-world interactions, whilst critically reflecting on their own relationship with ELF. Feedback will either be given online or collectively in class, depending on the assignment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Outlining the course content and defining ELF
2	World Englishes	Kachru's Three-Circle Model and the historical, social and political context of English
3	Limitations of the Three-Circle Model	The limitations of Kachru's model and alternative conceptual models
4	English as a global language: issues and attitudes	A lingua franca or linguistic imperialism?
5	Variation in “native” English	Exploring variation in the inner circle
6	Variation across postcolonial Englishes	Pidgin, creole and variation in the outer circle
7	English as an international lingua franca	The nature of ELF communication
8	Midterm exam	Examination of the content thus far
9	Native Speakerness	The native/non-native dichotomy and how a language is learned

10	Native Speakerism and Education	Examining the value of “native” in English language teaching
11	English in Asia	Exploring variation in the expanding circle
12	ELF in Japan	English as an international language in the Japanese context
13	The direction of ELF	Possible future scenarios
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to complete assignments so that they can actively participate in discussions. Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All materials are posted online, while additional materials will be provided in the classroom.

【References】

Detailed references and suggestions for further reading are listed on each chapter handout. The following books will be helpful as a general introduction.

Galloway, N., & Rose, H. (2015). *Introducing global Englishes*. Routledge.

Jenkins, J. (2015). *Global Englishes: A resource book for students* (3rd ed.). Routledge.

Jenkins, J., Baker, W., & Dewey, M. (2018). *The Routledge handbook of English as a lingua franca*. Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on in-class and online discussions and participation (20%), a midterm exam (40%), and a final exam (40%). Attendance at the first class is mandatory. Having more than two absences is likely to result in failing the course.

【Changes following student comments】

This course is under new instruction, so this is the first time this course has run in this format.

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor. Please do not take out your laptops, phones or tablets during the class, unless I request that you do so. This is to try and foster an atmosphere where everyone is focused on the lesson, rather than a device.

【Others】

It is highly recommended that students have completed 100-level linguistics courses with a good understanding. This course is cross-listed with the Global Open Program. Non-GIS students may join if they demonstrate solid background in linguistics and meet the minimum English proficiency requirement: TOEFL iBT 80 or IELTS 6.0.

【Prerequisite】

No prerequisite is required.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

English as a Lingua Franca

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

The ratio of L1 to L2 English speakers worldwide is roughly estimated to be 1:3 or 1:4. However, it was only towards the turn of the century that sociolinguists and applied linguists took a keen interest in the expanding use of English as a lingua franca (ELF), which is due to the globalisation in all aspects of society, including mass media and pop culture. Arguably, some Expanding Circle countries, where English does not have an official language status, have recently overshadowed the Outer Circle ones in proficiency and frequency of use.

The first section of the course situates English in the international contexts, mainly among non-native speakers. It also refers to the limitations in the traditional models of World Englishes put forward by Kachru and other scholars. The middle section discusses native-speakerness, native-speakerism and their influence on pedagogical practices, suggesting how these notions could/should be modified from an ELF perspective. Finally, the course concludes with an analysis of the status and function of English in Asia and Japan, before looking towards future directions.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- Understand key terminology and concepts in ELF and World Englishes
- Have an awareness of the wider use of English in non-native speaking contexts
- Become confident in engaging with, and critiquing, key theories.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Lectures and readings will introduce key concepts and theories related to ELF and its role in international communication. Discussions and practical exercises will then allow students to engage with primary texts and case studies in order to examine how ELF operates across diverse social, cultural, and institutional contexts. Students will apply practical analytical tools to explore how English is used, negotiated, and adapted in real-world interactions, whilst critically reflecting on their own relationship with ELF. Feedback will either be given online or collectively in class, depending on the assignment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Outlining the course content and defining ELF
2	World Englishes	Kachru's Three-Circle Model and the historical, social and political context of English
3	Limitations of the Three-Circle Model	The limitations of Kachru's model and alternative conceptual models
4	English as a global language: issues and attitudes	A lingua franca or linguistic imperialism?
5	Variation in “native” English	Exploring variation in the inner circle
6	Variation across postcolonial Englishes	Pidgin, creole and variation in the outer circle
7	English as an international lingua franca	The nature of ELF communication
8	Midterm exam	Examination of the content thus far
9	Native Speakerness	The native/non-native dichotomy and how a language is learned
10	Native Speakerism and Education	Examining the value of “native” in English language teaching

11	English in Asia	Exploring variation in the expanding circle
12	ELF in Japan	English as an international language in the Japanese context
13	The direction of ELF	Possible future scenarios
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to complete assignments so that they can actively participate in discussions. Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All materials are posted online, while additional materials will be provided in the classroom.

【References】

Detailed references and suggestions for further reading are listed on each chapter handout. The following books will be helpful as a general introduction.

Galloway, N., & Rose, H. (2015). *Introducing global Englishes*. Routledge.

Jenkins, J. (2015). *Global Englishes: A resource book for students* (3rd ed.). Routledge.

Jenkins, J., Baker, W., & Dewey, M. (2018). *The Routledge handbook of English as a lingua franca*. Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on in-class and online discussions and participation (20%), a midterm exam (40%), and a final exam (40%). Attendance at the first class is mandatory. Having more than two absences is likely to result in failing the course.

【Changes following student comments】

This course is under new instruction, so this is the first time this course has run in this format.

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor. Please do not take out your laptops, phones or tablets during the class, unless I request that you do so. This is to try and foster an atmosphere where everyone is focused on the lesson, rather than a device.

【Others】

It is highly recommended that students have completed 100-level linguistics courses with a good understanding. This course is cross-listed with the Global Open Program. Non-GIS students may join if they demonstrate solid background in linguistics and meet the minimum English proficiency requirement: TOEFL iBT 80 or IELTS 6.0.

【Prerequisite】

No prerequisite is required.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Language, Social Media and Society

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The world of social media has led to a revolution in how we express ourselves and interact with others; the way we consume and disseminate information grows ever more complex. This increased use of computer-mediated communication means that analysis is now more critical than ever. This course aims to make sense of our digital lives by joining the dots between language, the parts of the web we use in daily life and its impact on our world.

【Goal】

By the end of the course, students will be able to:

- Understand the use of social media from an academic perspective
- Engage in scholarly discussion about social media, using appropriate ideas and terminology
- Interpret linguistic analysis on social media discourse
- Consider the wider social implications of the lives we lead online

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The classes will be a mixture of lecture-based teaching and discussion, with students invited to share their own experiences. Each week we will actively engage with a social, political or ethical question regarding social media use and how it shapes our world. We will also look at the theoretical approaches scholars use to investigate the impact of the language we use on the web. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	From Myspace to TikTok	How did social media evolve? What is its place in the wider historical context of computer-mediated communication?
3	Social Media and Linguistics	How does a linguist approach social media and the different aspects of language?
4	Netspeak: Changes in Language	From LOL to the emoji – how has the internet shaped the way in which we communicate?
5	Communicating IRL	Is social media “ruining” language?
6	The Power of Social Media	What part did social media play in world events?
7	Review and Midterm midterm assessment	In-class review and midterm task based on content thus far
8	English as a Lingua Franca and Code Switching	Does the internet further the global dominance of English?
9	Self-representation I	Can we ever be “ourselves”?
10	Self-representation I	How is an online identity constructed?
11	The Great Privacy Debate	What are the implications of social media on privacy?
12	Anti-social Social Media	What can be done about online negativity?
13	Constructing Virtual Communities	How do we use language to form groups?
14	Final Exam and Wrap Up	End-of-course assessment and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

【References】

Crystal, D. (2006). *Language and the Internet (Second Edition)*. Cambridge, England: Cambridge University Press.
Jones, R. H., & Hafner, C. A. (2021). *Understanding digital literacies: A practical introduction (Second edition)*. London, England: Routledge, Taylor & Francis Group.
Cover, R. (2023). *Identity and Digital Communication* London, England: Routledge, Taylor & Francis Group.
Tagg, C. (2015). *Exploring digital communication: Language in action*. London, England: Routledge, Taylor & Francis Group.
Tagg, C., Seargeant, P., & Brown, A. A. (2017). *Taking offence on social media: Conviviality and communication on Facebook*. Cham, Switzerland: Palgrave Macmillan.
Zappavigna, M. (2015). *Discourse of Twitter and social media: How we use language to create affiliation on the web*. London, England: Bloomsbury.

【Grading criteria】

Class participation 15%, assignments 15%, midterm exam 30%, final exam 40%

【Changes following student comments】

Following student suggestions, there will be more time allocated for group discussions to facilitate a sharing of ideas and experiences.

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Psycholinguistics

Mako Ishida

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course will cover the basic notions of psycholinguistics – how languages are acquired, learnt, used, and understood in daily situations. It primarily focuses on human speech communication - how auditory and visual information is processed and integrated in the human brain. We will explore research findings in linguistics, acoustics, psychology, and neuroscience.

【Goal】

There are three main goals:

- (1) Students understand the basic structures of language.
- (2) Students understand communication strategies including auditory and optical illusion.
- (3) Students understand the basic brain structure and functions for human speech communication.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course consists of lectures, discussions, pop-quizzes, and midterm/final reviews. Handouts and worksheets are provided in class. Students are expected to actively participate in class: take notes, be responsive to questions, and work in pairs and groups. Feedback for course contents and assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Language Acquisition	How did we acquire a first language?
3	Speech Communication 1	The basic components of language 1
4	Speech Communication 2	The basic components of language 2
5	Speech Communication 3	The basic components of language 3
6	Speech Communication 4	The basic components of language 4
7	Checkpoint	Review and midterm exam
8	Speech Chain 1	Speech production
9	Speech Chain 2	Physical and psychological properties
10	Speech Chain 3	Speech perception
11	Neuroscience 1	Basic brain anatomy and function
12	Neuroscience 2	Auditory illusions
13	Neuroscience 3	Optical illusions
14	Checkpoint	Review and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review what was covered in class every week. If you miss a class, please be sure to contact your classmates or the course instructor about lecture notes and assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and worksheets are provided in class.

【References】

Berninger, V.W., & Richards, T.L. (2002). Brain literacy for educators and psychologists. San Diego, CA: Academic Press.
Carroll, D.W. (2008). Psychology of language (5th edition). Belmont, CA: Cengage Learning/Wadsworth.
O'Grady, W., Dobrovolsky, M., & Katamba, F. (1996). Contemporary linguistics: An introduction. Essex: Pearson Education.

【Grading criteria】

Attitude and participation (20%), Pop quizzes (20%), Midterm exam (30%), Final exam (30%).

Please be sure to attend every class. Three absences without prior and reasonable notice will result in failure of the course. Tardiness may be counted as an absence. Pop quizzes are “open-notes” (not “open-book”), and they are intended to assess your comprehension of the materials.

【Changes following student comments】

No particular change.

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable.

【Others】

Students who are interested in human speech communication are welcome.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Semantics and Pragmatics

Nobumi Nakai

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Semantics is the study of meaning in language. Pragmatics is the study of the ways people use language in actual conversations. The aim of this course is to provide students with an essential understanding of semantics and pragmatics, with examples drawn from English and Japanese.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) Have a general understanding of the interface between semantics and pragmatics.
- (2) Understand key concepts and major theories in the fields.
- (3) Survey the wide range of semantic and pragmatic phenomena in all their richness and variety.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

This course begins by covering some essential issues of semantics. In subsequent lectures, we will discuss how the identification of the semantic contribution of words and sentences gets us only partway to understanding what an utterance means. The course is a combination of lectures, group discussions, and review exercises. Feedback will be given during class discussions as necessary.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	An Overview of Semantics	Describes the components of linguistic meaning and introduces lexical and compositional semantics.
3	Lexical Semantics (1): The Meanings of Words	Examines the different ways that word senses could be represented in the mind of a language user and discusses the types of reference that words can have.
4	Lexical Semantics (2): Word Relations	Discusses the kinds of meaning relationships that exist between words.
5	Compositional Semantics (1): The Meanings of Sentences	Introduces propositions, truth values, and truth conditions, and discusses relationships between propositions.
6	Compositional Semantics (2): Putting Meanings Together	Introduces the Principle of Compositionality in more detail and discusses different ways that lexical meanings combine to give rise to phrasal meanings.
7	Practice (1)	Provides exercises, discussion questions, and activities.

8	Language in Context	Explores several ways in which context can affect the meaning of utterances, and introduces the idea of felicity in discourse.
9	Rules of Conversation	Discusses why conversation needs to follow rules, and introduces Grice's maxims for cooperative conversation.
10	Drawing Conclusions	Shows ways in which language users may employ context to convey or derive meaning that is not part of an utterance's entailed meaning.
11	Speech Acts	Outlines many of the jobs that speakers accomplish with language and the ways in which they accomplish them.
12	Presupposition	Discusses another precondition for felicity.
13	Practice (2)	Provides exercises, discussion questions, and activities.
14	Examination & Wrap-up	Semester-end exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read the relevant reading materials carefully in advance so that they can actively participate in discussions. Practice problems will be assigned occasionally. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All reading materials and exercises will be provided in class or/and through Hoppii.

【References】

The following books will be helpful for a general understanding of the fields.

- (1) Griffiths, Patrick & Cummins, Chris (eds.). An Introduction to English Semantics and Pragmatics (3rd ed.). Edinburgh Textbooks on the English Language. Edinburgh: Edinburgh University Press, 2023.
- (2) Kroeger, Paul. Analyzing Meaning: An Introduction to Semantics and Pragmatics (3rd ed.). Berlin: Language Science Press, 2022.

【Grading criteria】

Student evaluations are based on class participation (30%), in-class assignments (30%), and a final exam (40%). More than two unexcused absences will result in failure of the course. Attendance at the first and second classes is mandatory.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Teaching Pronunciation

Katsuya Yokomoto

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2～4

Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course will cover the theoretical and practical aspects of pronunciation teaching. We will look at pronunciation variations, and explore possible obstacles that adults and children come across in speech perception and production. We will discuss how teachers can help students learn and understand the articulation of English sounds.

【Goal】

At the end of this course, students will be able to:

- (1) Understand and explain the articulation of individual sounds in English,
- (2) Understand and explain the basic rules about the connected speech, rhythm, and intonation in English,
- (3) Understand the common challenges that learners encounter in learning pronunciation in English, and
- (4) Apply the knowledge about the English pronunciation and learners' difficulties into pronunciation teaching.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is offered through lectures and discussions in class. Handouts are provided in class, and students are expected to participate in all class activities actively. Individual members' contributions to group work are vital to successful learning. Please make sure to complete preparatory study to maximize your contributions to class members and therefore learning outcomes. Good comments in group discussions will be introduced to the class for further discussions, and comments and explanations for tests will be given either in class or in a recording. Written feedback on microteaching will be given to individual students.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction: Pronunciation and pronunciation teaching
2	The consonant system in English	Phonetic symbols of English consonants How to pronounce consonants in English
3	Practical issues in teaching consonants in English	How to teach English consonants Practice planning a lesson on teaching English consonants
4	The vowel system in English	Phonetic symbols of English vowels How to pronounce vowels in English
5	Practical issues in teaching English vowels	How to teach English vowels Practice planning a lesson on teaching English vowels
6	Practice teaching segmentals	Microteaching: Consonants and vowels
7	Review: Teaching segmentals	Review and midterm examination
8	Connected speech in English	Basic rules of connected speech in English Practice planning a lesson on connected speech
9	Stress in English	Word stress and sentence stress in English Practice planning a lesson on stress in English
10	Practice teaching connected speech and stress in English	Microteaching: Connected speech and stress in English

11	Prominence in English	Roles of prominence in English Practice planning a lesson on prominence in English
12	Intonation in English	Basic rules about intonation in English Practice planning a lesson on intonation in English
13	Practice teaching prominence and intonation	Microteaching: Prominence and intonation
14	Review: Teaching suprasegmentals	Review and final examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read handouts thoroughly and think about the questions and issues in the handouts before class. Students are also expected to refer to recommended readings when necessary as preparatory study for class discussion. If you miss a class, please make sure to contact your classmates or the instructor about lectures, discussions, and assignments. Students are expected to spend 2 hours for preview and 2 hours for review.

【Textbooks】

No textbook will be used.

【References】

Levis, J. M. (2018). Intelligibility, oral communication, and the teaching of pronunciation. Cambridge University Press.
Murphy, J. (2013). Teaching pronunciation. TESOL International Association.
Murphy, J. (Ed.). (2017). Teaching the pronunciation of English: Focus on whole courses. University of Michigan Press.
Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., Goodwin, J. M., & Griner, B. (2010). Teaching pronunciation: A course book and reference guide. Cambridge University Press.

【Grading criteria】

Participation (20%), Microteaching (20%), Midterm exam (30%), and Final exam (30%)

Students are expected to attend every class. When you have legitimate reasons for being absent, please notify your instructor of your absence prior to class. Being absent three times without reasonable notice will result in the failure of this course. Students will choose a teaching focus (e.g., consonants) for microteaching, and rubrics for microteaching will be provided in advance.

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Students are encouraged to bring their own devices to class.

【Others】

Students who are interested in teaching English and/or teaching pronunciation are welcome.

【Prerequisite】

None

LIN200ZA (言語学 / Linguistics 200)

Topics in English Linguistics

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金3/Fri.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

“Language” is much more than simply words, symbols and grammar. Discourse analysis explores how these tools are used in real life to construct meaning in everyday exchanges. This course is an introduction to the central analysis methods and how they can be applied to examine the interplay between language use, social structures, and power dynamics. Students will explore theoretical frameworks and methodological practices, before applying them to discourse across different forms of communication. Through this theoretical and practical engagement, students will develop an understanding of the nuances of how discourse operates in the real world.

【Goal】

The course goal is to impart competence in the following:

- Understanding the foundations of discourse analysis
- Applying different analytical frameworks to discourse
- Examining naturally occurring discourse across contexts
- Developing research and analytical skills

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Lectures and readings will introduce the concepts and theories on how discourse analysis can contribute to our understanding of language and the world. At the beginning of each session, concepts from the previous class are reviewed and checked through an exploration of ideas generated in take-home assignments. Discussions and practical exercises allow students to engage with primary texts and case studies to understand how discourse analysis can be used for critical engagement with discourse. Then, students can apply practical tools to understand how language shapes and reflects the world around them, whether analysing a political speech, a newspaper front page, or a casual conversation.

Information on feedback methods will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Overview of the weeks ahead
2	What is discourse?	Definition of key terms and the relationship between context and language
3	Discourse & Genre I	Steps in genre analysis
4	Discourse & Genre II	Applying a genre analysis and consideration of social and cultural context
5	Critical Discourse Analysis I	Principles of CDA
6	Critical Discourse Analysis II	An examination of ideology and power
7	Multimodal Discourse I	Kress and van Leeuwen on multimodality
8	Multimodal Discourse II	Multimodality in our world
9	Midterm Assessment	Assessment of theoretical and methodological knowledge
10	Discourse and Conversation I	Aspects of conversation analysis
11	Discourse and Conversation II	Analysis of a conversation
12	Discourse and Society I	An exploration of language, identity and gender
13	Discourse and Society II	Linguistic landscapes
14	Final Assessment	Assessment of theoretical and methodological knowledge

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

【References】

Fairclough, N. (2013). *Critical Discourse Analysis: The Critical Study of Language*. New York: Routledge.
 Gee, J. (2014). *An Introduction to Discourse Analysis: Theory and Method*. Routledge
 Hutchby, I., & Wooffitt, R. (2008). *Conversation Analysis* (2nd ed.). Cambridge: Polity Press.
 Jones, R. (2024). *Discourse analysis: A resource book for students*. New York: Routledge.
 Kress, G., & Van Leeuwen, T. (2021) *Reading images: The grammar of visual design* New York: Routledge
 van Dijk, T. (2008). *Discourse and Power*. New York: Palgrave Macmillan.
 Paltridge, B. (2022) *Discourse analysis: an introduction*. London: Bloomsbury.

【Grading criteria】

Participation and Discussion (20%) – Engagement in class discussions and application of concepts to real-world examples.

Assignments (10%) – Short critical reflections on readings and class discussions.

Midterm Assessment (20%) – Assessment of theoretical and methodological knowledge.

Conversation analysis (20%) – Writing up and analysing a student conversation

Final Assessment (30%) – Assessment of theoretical and methodological knowledge

【Changes following student comments】

Following feedback comments received last year, the midterm and final exam structure will be redesigned.

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Performance Studies

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This class will explore performance studies, an interdisciplinary field which uses various conceptions of performance to analyze the world around us. To perform can mean many things: to execute (to perform an action), to bring about (to perform a ritual: "I hereby pronounce the official beginning of the Olympics"), to judge ("how well did she perform at the Olympics?"). This includes performance in the traditional sense, such as in the theater, but also in everyday life, in our societies and daily practices of living, how we think about ourselves and our relationship to society: how are we performing when we use SNS or when we change our behavior with friends or family? How can thinking about the world as a series of performances allow us to analyze the news, public elections, gender, branding, and technology. Throughout the class we will be using Richard Schechner's textbook, developed to introduce Performance Studies, to guide the course. We will look at an overview of the major approaches used in the field, examine their theories, and explore how they can reveal important insights about our world.

【Goal】

In addition to teaching the students about the fundamentals to performance studies, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn various methodologies and theories about performance; 2) explore how to apply these concepts to other subject matter beyond the theater; 3) to learn how to articulate what, where, how, and why we are performing; 4) learn how to conduct analyses on various topics by applying the concepts from performance studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as video clips and images. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be assigned a section from Schechner's book. This reading will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	What is Performance?	Performance beyond the theatrical stage
3	Conceptualizing Performance	Ways of examining performances around us
4	Ritual Practices	Types of rituals across cultures
5	Modern Rituals	Regular practices in modern society
6	Playing and Performance	Thinking about "playing" beyond games
7	Philosophies of Play	Gradients of playfulness in various contexts
8	Performativity of Language	How are words active on us
9	Performativity of Gender	How gender is constituted as practice
10	Ways of Performing	Types of acting and their implications on us
11	Shifting Frames of Reference	Stages in everyday life and how they effect us

12	Intercultural Performances	Performance on the global stage
13	Student Presentations I	Student presentations
14	Student Presentations II	Student presentations; final paper submission

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Schechner, Richard. *Performance Studies: An Introduction*. 3rd ed., Routledge, 2013.

【References】

Bial, Henry. *The Performance Studies Reader*. 3rd ed., Routledge, 2013.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Topics in English Literature

Miui Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2～4

Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course examines the evolution of literary tradition through the lens of the Arthurian legend, one of the most enduring and adaptable narratives in Western literature. Using key texts from the medieval, Victorian, and modern era, students will explore how themes such as love, loyalty, and moral conflict are reimagined across time. The course also introduces critical approaches to reading texts and other forms of storytelling in modern popular culture, focusing on issues of genre, gender, and the construction of myth. Through this case study, students will develop a deeper understanding of how literary traditions are shaped, adapted, and interpreted. Designed for students with a general interest in literature and mythology, this course builds on foundational skills in literary analysis.

【Goal】

The goal of this course is to:

- Develop an understanding of how themes, characters, motifs evolve across different periods and genres, using the Arthurian legend as a case study for broader literary developments.
- Understand key themes and literary devices of English literary tradition.
- Foster interdisciplinary approaches to literature, connecting literary analysis to history, film criticism, and cultural studies to understand how stories transcend their original medium.
- Develop transferrable skills, such as critical reading and academic writing, developing persuasive arguments supported by textual evidence and critical scholarship.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Each class session will begin with a lecture by the instructor, introducing students to key concepts and providing literary and/or historical context for the relevant work(s). This will be followed by interactive activities, including discussions, group-work, close analytical reading, etc. Students will also be required to regularly submit reaction papers. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course description; introduction to literary tradition
2	History and Myth-Making	Historical and cultural origins; issues of historicity
3	Genre	Courtly romance
4	<i>Le Morte d'Arthur</i> (1)	Historical context; close reading
5	<i>Le Morte d'Arthur</i> (2)	Presentations; discussion of main themes
6	Victorian Arthur (1)	Arthurian Revival; close analytical reading of <i>Idylls of the King</i>
7	Victorian Arthur (2)	Cultural context of <i>Idylls</i> ; discussion of themes
8	Mid-Term	Mid-Term course review; Q&A Session
9	Adaptation: 20th Century Novels	Adapting literary traditions in modern fiction
10	Adaptation: Feminist Re-imaginings	Gender and power dynamics in <i>Mists of Avalon</i>
11	Adaptation: Satire and Parody	Social commentary in <i>A Connecticut Yankee in King Arthur's Court</i>
12	Adaptation: Film and Popular Culture	Arthurian motifs in modern media
13	Course Synthesis	Essay preparation; Q&A Session
14	Wrap-Up	Review of entire course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all assigned readings before each class and arrive prepared to contribute to discussions. Additionally, they will be required to submit assignments, write reaction papers, and prepare for class activities on designated topics. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None. Reading material will be provided by the instructor.

【References】

Lacy, Norris J., editor. *The New Arthurian Encyclopedia*. Garland Publishing, 1996.

Birch, Dina, editor. *The Oxford Companion to English Literature*. 7th ed., Oxford University Press, 2009.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation (30%), group presentations (20%), reaction papers (30%), and the final essay (20%). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

Additional course time to provide support with challenging texts.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Topics in English Literature

Miui Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月5/Mon.5

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course examines the evolution of literary tradition through the lens of the Arthurian legend, one of the most enduring and adaptable narratives in Western literature. Using key texts from the medieval, Victorian, and modern era, students will explore how themes such as love, loyalty, and moral conflict are reimagined across time. The course also introduces critical approaches to reading texts and other forms of storytelling in modern popular culture, focusing on issues of genre, gender, and the construction of myth. Through this case study, students will develop a deeper understanding of how literary traditions are shaped, adapted, and interpreted. Designed for students with a general interest in literature and mythology, this course builds on foundational skills in literary analysis.

【Goal】

The goal of this course is to:

- Develop an understanding of how themes, characters, motifs evolve across different periods and genres, using the Arthurian legend as a case study for broader literary developments.
- Understand key themes and literary devices of English literary tradition.
- Foster interdisciplinary approaches to literature, connecting literary analysis to history, film criticism, and cultural studies to understand how stories transcend their original medium.
- Develop transferrable skills, such as critical reading and academic writing, developing persuasive arguments supported by textual evidence and critical scholarship.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Each class session will begin with a lecture by the instructor, introducing students to key concepts and providing literary and/or historical context for the relevant work(s). This will be followed by interactive activities, including discussions, group-work, close analytical reading, etc. Students will also be required to regularly submit reaction papers. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course description; introduction to literary tradition
2	History and Myth-Making	Historical and cultural origins; issues of historicity
3	Genre	Courtly romance
4	<i>Le Morte d'Arthur</i> (1)	Historical context; close reading
5	<i>Le Morte d'Arthur</i> (2)	Presentations; discussion of main themes
6	Victorian Arthur (1)	Arthurian Revival; close analytical reading of <i>Idylls of the King</i>
7	Victorian Arthur (2)	Cultural context of <i>Idylls</i> ; discussion of themes
8	Mid-Term	Mid-Term course review; Q&A Session
9	Adaptation: 20th Century Novels	Adapting literary traditions in modern fiction
10	Adaptation: Feminist Re-imaginings	Gender and power dynamics in <i>Mists of Avalon</i>
11	Adaptation: Satire and Parody	Social commentary in <i>A Connecticut Yankee in King Arthur's Court</i>
12	Adaptation: Film and Popular Culture	Arthurian motifs in modern media
13	Course Synthesis	Essay preparation; Q&A Session
14	Wrap-Up	Review of entire course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all assigned readings before each class and arrive prepared to contribute to discussions. Additionally, they will be required to submit assignments, write reaction papers, and prepare for class activities on designated topics. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None. Reading material will be provided by the instructor.

【References】

Lacy, Norris J., editor. *The New Arthurian Encyclopedia*. Garland Publishing, 1996.

Birch, Dina, editor. *The Oxford Companion to English Literature*. 7th ed., Oxford University Press, 2009.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation (30%), group presentations (20%), reaction papers (30%), and the final essay (20%). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

Additional course time to provide support with challenging texts.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Topics in Japanese Literature I

Kevin Thomas Niehaus

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金4/Fri.4

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course examines the social, political, and cultural forces that shape the canon of Japanese literature available in English translation. In particular, we will focus on translations published in the United States in the postwar period. How did publishers determine which authors to introduce to an American audience, and how did those choices influence our image of Japanese literature in Japan, the US, and globally?

【Goal】

Students will think critically about the discourses of translation, publication, and world literature. Students will also develop critical reading and writing skills through class assignments.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will consist of lectures followed by group discussions. Quizzes will be used to check reading comprehension, and students will complete two papers for midterm and final evaluations. In-class feedback will be given for daily reaction papers, and students will receive personal feedback on written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the class and selection exam
2	The Postwar Translation Project	Knopf and the Japanese literature publication project
3	Osaragi Jiro and Postwar Narratives	Osaragi, <i>Homecoming</i>
4	Traditional Aesthetics	Tanizaki, <i>In Praise of Shadows</i>
5	Visions of Modernity	Tanizaki, <i>In Praise of Shadows</i>
6	Visions of Japan in the Postwar US	Loti, <i>Madame Chrysantheme</i>
7	Tanizaki and Orientalism	Tanizaki, <i>In Praise of Shadows</i> (1954 translation)
8	Review and Midterm Examination	A review of topics covered in the first half of the course
9	Negotiating Japanese and Western Modernities	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
10	Orientalism and Self-Orientalism	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
11	O-Hisa and Femininity	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
12	Reconsidering the “Return to Japan”	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
13	Tanizaki in Translation	Primary sources related to Tanizaki's introduction in the US
14	Final Synthesis	A review of the major themes of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You are expected to perform close readings of all assigned texts and come to class prepared to engage in discussions with classmates and the instructor. As you read, take notes and jot down any questions you may have. These will be helpful during discussions and allow you to make a positive contribution to the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Tanizaki, Junichiro. *In Praise of Shadows*. Vintage, 2001.

Tanizaki, Junichiro. *Some Prefer Nettles*. Vintage, 2001.

Other readings will be provided as handouts in class.

【References】

References will be announced in class.

【Grading criteria】

Class contribution (15%), response papers and written assignments (20%) reading quizzes (15%), midterm paper (25%), final paper (25%)

【Changes following student comments】

None.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Topics in Japanese Literature II

Kevin Thomas Niehaus

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This class considers the development of Modern Japanese literature through a close examination of the literature and thought of the Meiji Era (1868-1912). Through a reading of many of this era's canonical works of fiction, this class will familiarize students with the many and variegated attempts of writers to craft a distinctly modern Japanese literature (from 1868 to 1912), and it will consider the literary, cultural, and socio-historical frames through which scholars have subsequently analyzed these texts.

【Goal】

1. Become familiar with canonical texts in modern Japanese literature
2. Become conversant in contemporary methods of literary analysis
3. Encourage critical thinking and the exchange of ideas
4. Improve one's writing about literature

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Literature classes thrive upon lively and informed conversations. In order to facilitate discussion, students are encouraged to read and think about the readings before class. Students will also be prohibited from using smartphones during class.

Tablets and other devices, however, may be used to access the readings. Additionally, students are required to submit a short reaction paper by midnight of the day before class. Reaction papers should be 250 words (or more), contain an argument about the text, and include evidence to support that argument. Reaction papers should be uploaded to Hoppii. Finally, depending on the size of the class, students may be asked to read and present on critical texts that have informed how we understand the literature of the Meiji period.

Feedback on assignments will come in several forms. Comments on student writing will be uploaded to Hoppii by the professor, and particularly enlightening comments from the response papers will be introduced in class to deepen discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Greetings	Introduction and Syllabus
2	Between Premodern and Modern	Higuchi Ichiyo
3	Between Premodern and Modern	Koda Rohan
4	First Experiments	Futabatei Shimei and Tsubouchi Shoyo
5	First Experiments	Futabatei Shimei and Tsubouchi Shoyo
6	The Modern Subject	Mori Ogai
7	Naturalism and Romanticism	Kunikida Doppo
8	Naturalism and Romanticism	Izumi Kyoka
9	The I-novel	Tayama Katai
10	The Modern Subject	Natsume Soseki
11	The Modern Subject	Natsume Soseki
12	Women's Writing	Tamura Toshiko
13	Early Modernism	Tanizaki Junichiro
14	The End of Modern Literature	Mori Ogai

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

All readings must be completed before class. Students will also be required to write a reaction paper and submit it to Hoppii midnight of the day before class.

【Textbooks】

All course materials will be available for download on Hoppii. The uploaded materials will be English translations of the original Japanese fictions, but if students wish, they may also read the original Japanese and discuss that text in class.

【References】

None

【Grading criteria】

50% — In-class participation and attendance. Missing more than two classes in a grade reduction, and missing four classes will result in failure of the course

25% — Reaction papers

25% — Final paper (details to be announced)

【Changes following student comments】

None

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

British Myths and Culture

Miui Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course explores the enduring power of myths and legends, moving beyond simple storytelling to examine how these narratives have functioned throughout history. The course surveys the evolution of British imagination, beginning with foundational origin myths and folklore of the Middle Ages, before examining how these ancient stories were reimagined in the modern era. Myths are not static relics of the past, but living narratives that adapt to reflect the anxieties and ideals of their specific historical moments. By engaging with a wide spectrum of texts including chronicles, ballads, romances, and modern short stories, students will consider how British myths express universal human concerns while serving distinct cultural purposes.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- Gain knowledge of key figures and narratives that constitute the British mythic tradition.
- Understand the social and political functions of myth, e.g., establishing authority, processing cultural trauma, defining social boundaries.
- Be able to analyse how traditional stories are adapted and transformed over time to suit new historical contexts and cultural values.
- Develop transferrable skills, including critical reading, group collaboration, and the ability to synthesise complex ideas through oral presentations and academic writing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will consist of introductory lectures by the instructor, followed by group/class discussions, group activities, and presentations. Feedback on assignments will be provided through the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course description; introducing key concepts
2	Myth-Making (1) - Origin Myths	Inventing the nation; myth as political legitimacy
3	Heroes	Social ideals and resistance to authority
4	Others and Monsters	Boundary delineation through myth
5	Fairy-Lore	Myth as moral education; explaining human and natural mysteries
6	Transformation of Myth	Transforming pagan motifs into Christian morality tales; when iconography become mythologised
7	Sacred Spaces	Mythologising of natural places
8	Mid-Term	Presentations; review of first half of course
9	National Myth	Political utility of myth
10	Modern Myths and Urban Legends	Persistence of myths in the industrial/digital age
11	Myth-Making (2) - 'Artificial' Myths	Creating an 'English mythology'; response to cultural trauma
12	Modern Retellings	Deconstructing old myths to subvert/challenge values
13	Final Presentations	Presentations; evolution of a legend
14	Wrap-Up	Review of entire course; in-class written assessment

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all assigned readings for each week and arrive prepared to contribute to class discussions. Additionally, they will be required to prepare two group presentations throughout the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None. Reading material will be provided by the instructor.

【References】

Larrington, Carolyne. *The Land of the Green Man: A Journey Through the Supernatural Landscapes of the British Isles*. Bloomsbury Academic, 2019.

Armstrong, Karen. *A Short History of Myth*. Canongate Canons, 2022.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class preparation and contribution (30%), reaction papers (30%), written assessments (20%), mid-term and final presentation (20%). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

Not Applicable.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA (文学 / Literature 200)

Texts and Contexts

Miui Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course examines how travel writing represents cultural encounters. Focusing on both non-fictional and fictional texts, the course explores how travelers narrate unfamiliar places, peoples, and experiences, and how literary strategies such as authority, description, perspective, and genre shape what can be seen and known. The course is organised around a series of core conceptual questions that guide students in analysing how different narrative strategies shape cultural encounters, and how similar techniques operate across genres. Through close reading, discussion, and comparative analysis, students will develop tools for understanding how narratives of travel construct meaning and selfhood.

【Goal】

By the end of the course, students will be able to:

- Use conceptual vocabulary to articulate how travel texts shape cultural encounters.
- Identify and analyse key narrative strategies used in travel writing to establish credibility, authority, and perspective.
- Compare fictional and non-fictional texts by examining how similar representational techniques operate across different genres.
- Conduct close readings of literary texts, paying attention to voice, description, structure, and tone.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will consist of introductory lectures by the instructor, followed by group/class discussions, pair activities, and presentations. Feedback on assignments will be provided through the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course description; introducing key concepts
2	Travel Writing as Genre	Reading travel writing as a literary genre
3	Authority and Voice (1)	Authority, credibility, and narrative voice
4	Authority and Voice (2)	Genre and reader trust; <i>Gulliver's Travels</i>
5	Description and World-Making (1)	Naming, classification, and ownership
6	Description and World-Making (2)	Description as imaginative construction
7	Mid-Term Review & Synthesis	Comparative discussion across texts
8	Perspective and Position (1)	Self-awareness in narration
9	Perspective and Position (2)	Shifting perspectives; <i>Gulliver's Travels</i> revisited
10	Travel and Selfhood (1)	Travel as self-reflection
11	Travel and Selfhood (2)	Travel as transformation
12	Travel in a Globalised World (1)	Displacement and belonging in modern travel writing
13	Travel in a Globalised World (2)	Genre boundaries; future of travel writing
14	Wrap-Up and Review	Course synthesis

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all assigned readings for each week and arrive prepared to contribute to class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None. Reading material will be provided by the instructor.

【References】

Youngs, Tim, editor. *The Cambridge Introduction to Travel Writing*. Cambridge University Press, 2013.

Thompson, Carl. *Travel Writing*. Routledge, 2011. The New Critical Idiom.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation and classwork (30%), reaction papers (25%), written assessments (35%), and a self-reflection learning portfolio at the end of term (10%). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

Not Applicable.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA (政治学 / Politics 200)

Politics and Identity

Romeo Marcantuoni

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木1/Thu.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the role of identity in contemporary politics. It should be self-evident to most informed citizens that identities matter. What we believe about who we are and the groups we belong to affects how we develop our political identity. Political leaders, bureaucrats, lawmakers, and other political elites also believe things about their roles. Even nations themselves appear to have identities, ones that seem continuously under threat by opposing narratives championed by rival nations.

This course is designed to provide a broad overview, from political behavior in elections to political memory and national trauma.

【Goal】

By the end of the course students will

- understand the importance of identity in the political process
- be able to recognize identity as a complex social phenomenon
- be familiar with the different methods one could use to analyze identity

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

This class will primarily revolve around lectures with opportunities for discussion on the weekly readings. Participation is strongly suggested. Students will have to decide on a research topic for a final presentation. Specific comments are given during office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is "identity" and why does it matter?
2	Theories and Methodologies	How do we analyze identity?
3	Nationalism and Patriotism	Why do people feel attached to the nation-state?
4	Class and Post-Materialism	What is class and how does it shape (or not shape) collective identities?
5	Measuring Political Identities	Ideology as a measure of political identity
6	Interpreting Political Identities	The interpretive method of analyzing political identity (ethnography, interviews, and participant observation)
7	Reading Political Emotion	The role of emotions in politics
8	War Memory and Reconciliation	The state and collective memories

9	Ontological Security	Why do nations try to defend their identities?
10	The political mobilization of identity	How can actors mobilize identity for political gain?
11	Presentations and discussions	Group presentations followed by open discussions
12	Presentations and discussions	Group presentations followed by open discussions
13	Review of the semester	A review and discussion of the content of the semester
14	Final examination and wrap up	Final examination on the content of the semester and wrap up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are required to come to class having completed the mandatory readings. Students will also have to engage in research for their final presentation.

【Textbooks】

There is no textbook for this course

【References】

Articles will be provided by the instructor

Abdelal, Rawi, Yoshiko M. Herrera, Alastair Iain Johnston, and Rose McDermott. 2006. “Identity as a Variable.” *Perspectives on Politics* 4 (04): 695-711. <https://doi.org/10.1017/S1537592706060440>

Chapters 2 of Anderson, Benedict. 2006. *Imagined Communities*. Verso.

Inglehart, Ronald. “Post-Materialism in an Environment of Insecurity.” *American Political Science Review* 75, no. 4 (1981): 880– 900. <https://doi.org/10.2307/1962290>.

Asano, Taka’aki. 2022. “Ideological Extremism and Political Participation in Japan.” *Social Science Japan Journal* 25 (1): 125-40. <https://doi.org/10.1093/ssjj/jyab045>

Chapter 1 of Cramer, Katherine J. 2016. *The Politics of Resentment: Rural Consciousness in Wisconsin and the Rise of Scott Walker*. University of Chicago Press.

Chapter 4 of Kertzer, David I. 1996. *Politics and Symbols: The Italian Communist Party and the Fall of Communism*. Yale University Press.

Chapters 1 and 2 of David Leheny, *Empire of Hope: The Sentimental Politics of Japanese Decline* (Cornell University Press, 2018)

He, Yinan. 2007. “Remembering and Forgetting the War: Elite Mythmaking, Mass Reaction, and Sino-Japanese Relations, 1950– 2006.” *History and Memory* 19 (2): 43-74. <https://doi.org/10.2979/his.2007.19.2.43>

Suboti Ć, Jelena. 2020. “Political Memory, Ontological Security, and Holocaust Remembrance in Post-Communist Europe.” In *Ontological Insecurity in the European Union*. Routledge.

Maly, Ico. 2023. “Guillaume Faye’s Legacy: The Alt-Right and Generation Identity.” *Journal of Political Ideologies* 28 (1): 35-61. <https://doi.org/10.1080/13569317.2022.2045460>

【Grading criteria】

Participation: 20%

Group presentation: 40%

Finals: 40%

【Changes following student comments】

N/A

【Prerequisite】

None.

PHL300ZA (哲学 / Philosophy 300)

Advanced Topics in Philosophy I

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月1/Mon.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Philosophy of Love

Love comes in many forms: romantic love, familial love, and friendship are some examples. Moreover, love and loving relationships play important roles in human life and well-being, and because of this, many of us are familiar with love. Despite love's familiarity, puzzling philosophical questions arise when reflecting on its nature. What exactly is love? Is love irrational? Can it be immoral? How do advances in technology alter or shape how we think about love? These are all questions that we will explore in this course.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on the philosophy of love. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning, especially in the context of philosophical debate. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will begin with a one-hour interactive lecture that includes discussion periods. Students will prepare questions for the discussion period as homework before coming to class. However, for meetings 5-13, student presentations will precede the lecture. Each student must present once throughout the semester. The instructor will provide more detailed instructions on Hoppii. The instructor will provide written feedback on the presentations. In addition to presentations, there will be a final paper. For the final paper, students are required to produce a paper proposal. They are also required to share a draft of their paper with classmates and provide a peer-review report. Feedback for the proposal, peer-review report, and final paper will be provided on Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Love, society, and biology
2	Love and rationality 1	Irrational love
3	Love and rationality 2	Loving humanity
4	Love and rationality 3	Love and relationships
5	Love and rationality 4	Loving someone for their good qualities
6	Love and rationality 5	Love and time
7	Love and morality 1	Partiality
8	Love and morality 2	Immoral Love
9	Love and morality 3	Moral Love
10	Love and happiness 1	Love and pleasure
11	Love and happiness 2	Love and meaningfulness
12	Love and Applied Ethics 1	Love, robots, and AI
13	Love and Applied Ethics 2	Love drugs
14	Love and Applied Ethics 2	The right to be loved

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study time for this class is 3-4 hours, and review time for this class is 2 hours.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

The philosopher Jim Pryor has created helpful guides for writing and reading philosophy papers. Writing: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html> Reading: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

【Grading criteria】

Participation (15%), Discussion questions (20%), Presentation (25%), Paper Proposal (5%), Peer-review report (10%), Final paper (25%)

【Changes following student comments】

A presentational component has been added.

【Others】

There are no phones, laptops, or tablets allowed in class. Students may use an electronic dictionary during lectures and discussions, though.

【Prerequisite】

None

PHL300ZA (哲学 / Philosophy 300)

Advanced Topics in Philosophy II

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火1/Tue.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Foundations of Ethics

This course examines whether religion is necessary for a coherent moral framework through the lens of analytic philosophy of religion and contemporary metaethics. The course begins by investigating attempts to ground morality in religion, focusing on Divine Command Theory, moral realism, and the problem of evil. Students will analyze logical and evidential arguments from evil and assess whether theistic accounts can reconcile divine goodness with moral facts and pervasive suffering. The second half of the course turns to secular alternatives, exploring whether morality can be objective without religion. Topics include moral realism and anti-realism, naturalism, constructivism, error theory, and reasons-based ethics. Throughout, emphasis is placed on careful argument reconstruction, conceptual clarity, and the evaluation of competing grounding claims.

【Goal】

This course aims to equip students to analyze foundational questions about moral value, obligation, and authority by engaging both religious and secular moral frameworks; to evaluate the role religion has played in grounding moral norms and shaping moral reasoning, particularly in light of challenges from naturalism, evolution, and moral disagreement; to examine the problem of evil as a central moral and philosophical test case for religious moral frameworks and competing secular accounts; and to develop advanced skills in critical thinking, close reading of philosophical texts, clear and persuasive philosophical writing, and sustained, respectful discussion, including the ability to articulate arguments charitably and respond thoughtfully to opposing views.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will begin with a one-hour interactive lecture that includes discussion periods. Students will prepare questions for the discussion period as homework before coming to class. However, for meetings 5-13, student presentations will precede the lecture. Each student must present once throughout the semester. The instructor will provide more detailed instructions on Hoppii. The instructor will provide written feedback on the presentations. In addition to presentations, there will be a final paper. For the final paper, students are required to produce a paper proposal. They are also required to share a draft of their paper with classmates and provide a peer-review report. Feedback for the proposal, peer-review report, and final paper will be provided on Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	The Euthyphro Dilemma
2	Unit 1 - The Problem of Evil	The Metaethical Argument for Theism
3	Unit 1 - The Problem of Evil	The Logical Problem of Evil
4	Unit 1 - The Problem of Evil	The Free Will Defense
5	Unit 1 - The Problem of Evil	The Inductive/Evidential Problem of Evil
6	Unit 1 - The Problem of Evil	Epistemic Limits and Skeptical Theism
7	Unit 1 - The Problem of Evil	Theodicy and the Problem of Horrendous Evils
8	Unit 2 - Secular Foundations and Metaethics	Non-Naturalism and the Naturalistic Fallacy
9	Unit 2 - Secular Foundations and Metaethics	Non-Cognitivism and Moral Language
10	Unit 2 - Secular Foundations and Metaethics	Moral Error Theory and Ontological Queerness

11	Unit 2 - Secular Foundations and Metaethics	Neo-Aristotelian Naturalism
12	Unit 2 - Secular Foundations and Metaethics	Kantian Constructivism
13	Unit 2 - Secular Foundations and Metaethics	Evolutionary Debunking and Moral Skepticism
14	Unit 2 - Secular Foundations and Metaethics	Non-Metaphysical Moral Realism

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study time for this class is 3-4 hours, and review time for this class is 2 hours.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>
The philosopher Jim Pryor has created helpful guides for writing and reading philosophy papers. Writing: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html> Reading: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

【Grading criteria】

Participation (15%), Discussion questions (20%), Presentation (25%), Paper Proposal (5%), Peer-review report (10%), Final paper (25%)

【Changes following student comments】

I have weighted assignments more to assessments of student discussion rather than a final paper project.

【Others】

There are no phones, laptops, or tablets allowed in class. Students may use an electronic dictionary during lectures and discussions, though.

【Prerequisite】

None

PHL300ZA (哲学 / Philosophy 300)

Existentialism

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Existentialism is a branch of philosophy that confronts some of the most problematic aspects of existence. These include the value of freedom and rationality, whether living an authentic life is achievable, whether life can be meaningful, the nature of absurdity, whether modern life is nihilistic, and the role of emotions in ethics. This course is an in-depth exploration of several themes from existentialist thought. This course focuses on the philosophical writings of Albert Camus, Søren Kierkegaard, Friedrich Nietzsche, Jean-Paul Sartre, Keiji Nishitani, Simone de Beauvoir, and Iris Murdoch.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on the philosophy of existentialism. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging philosophical and literary texts. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Each meeting will include an interactive lecture with slides and a discussion period. The lectures will occupy roughly one hour of each meeting. Each class will end with a discussion about the lecture content for that day. Students will prepare questions for the discussion period as homework before coming to class. Exams are comprised of short and long essay questions. Students will receive written feedback on their exams for the midterm. For the final exam, they will receive feedback via Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is existentialism?
2	Albert Camus	Life without objective meaning
3	Søren Kierkegaard 1	The paradox of faith
4	Søren Kierkegaard 2	Teleological suspension of the ethical
5	Friedrich Nietzsche 1	The death of God
6	Friedrich Nietzsche 2	Eternal recurrence and the affirmation of life
7	Midterm exam	Review and midterm exam
8	Jean-Paul Sartre 1	Existence precedes essence
9	Jean-Paul Sartre 2	Bad faith
10	Keiji Nishitani	Buddhism and existentialism
11	Simone de Beauvoir 1	Existentialist ethics
12	Simone de Beauvoir 2	Existentialism and politics
13	Iris Murdoch	The selfishness of existentialism
14	Final Exam	Review, wrap-up, and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study time for this class is 3-4 hours, and review time for this class is 2 hours.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>
The philosopher Jim Pryor has created helpful guides for writing and reading philosophy papers.

Writing: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Reading: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

【Grading criteria】

Class Participation (15%), Discussion Questions (15%), Midterm Exam (30%), Final Exam (40%)

【Changes following student comments】

In previous semesters, students were required to submit 3 short papers. These have been replaced by a midterm exam.

【Others】

There are no phones, laptops, or tablets allowed in class. Students may use an electronic dictionary during lectures and discussions, though.

【Prerequisite】

There is no prerequisite for this course.

PHL300ZA (哲学/Philosophy 300)

Readings in Philosophy

Robert Sinclair

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Capitalism – Its Nature and Its Replacement

This course explores the systemic problems of the 21st century – including wealth inequality, global warming, and social alienation – through the combined lenses of Buddhist and Marxist philosophies. Students will examine how these two seemingly disparate traditions provide complementary insights into the nature of human suffering and the socio-economic structures that perpetuate it. The first half of the course focuses on "Right View," analyzing the internal and external causes of our current crisis. The second half, "Right Action," incorporates anarchist thought to investigate the transition toward a more rational, humane, and bottom-up post-capitalist society.

【Goal】

By the end of the course, students will be able to:

1. Analyze Core Philosophies: Explain the fundamental elements of Marxist, Buddhist, and anarchist thought as they relate to political economy and ethics.
2. Identify Complementarity: Demonstrate how Buddhist and Marxist notions of the "self" and "interdependence" can mutually supplement each other to guide political praxis.
3. Critique Capitalist Structures: Evaluate the role of capitalism in creating contemporary socio-economic problems, environmental degradation, and race or gender-based oppression.
4. Deconstruct Power: Analyze the corrosiveness of top-down power structures and the psychological effects of power on individuals and society.
5. Propose Alternatives: Investigate the viability of bottom-up organizational models, such as self-organizing cooperatives (SOCs), as replacements for existing state and market structures.
6. Apply Ethical Mindfulness: Discuss how changing the self through mindfulness and the cultivation of virtues is necessary for effective social and political change.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Students will attend lectures, read related materials and have two written examinations. Feedback on completed assignments will be given in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: The Crisis &The Synthesis	Crisis of Capitalism; Buddhism, Marxism and Anarchism
2	Elements of Buddhist Philosophy	The Four Noble Truths, Compassion, and Interdependence
3	Elements of Marxist Philosophy	Capital, its effects on people, and its role in environmental catastrophe
4	The Nature of the Self &Social Relations	Anatman (Non-self) and Gattungswesen (Species-being)
5	The Complementary Framework	Society, Ethics, and the convergence of Buddhist/Marxist elements
6	The State of the World &Farewell to Capital	Socio-economic, environmental, and political critiques with "2020 Vision"
7	Review &Midterm Exam	Review
8	Transitioning to Action &Power Dynamics	Power and the Psychology of Oppression
9	Building from the Bottom Up	Self-Organising Cooperatives (SOCs) and Solidarity

10	Radical Action &The New Society	Reforming vs. Radical action and dismantling old structures
11	Ideology, Consciousness, and Education	The propagation of capitalist ideology and its dismantling
12	Changing Oneself: Praxis &Mindfulness	Cultivating virtues, mindfulness within/without, and Interbeing
13	Matters Arising & Global Challenges	Race, Gender, War, the Environment, and the Epilogue
14	Final Exam & Wrap-up	Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Priest, Graham. Capitalism – Its Nature and Its Replacement: Buddhist and Marxist Insights. Routledge, 2022.
All readings and handouts will be made available in class or through Hoppi.

【References】

Marx and Engels, The Communist Manifesto
Buddhist Scriptures, Lopez, Penguin Books.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (10%) midterm exam (40%) and final exam (40%).

【Changes following student comments】

Some changes have been made to the topics covered in the class.

【Others】

This course is intended for the those new to the philosophical study of society, political economy, and Buddhism presupposing little or no background in philosophy.

【Prerequisite】

none.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Advanced Topics in Social Psychology

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

We all want to live a happy life and yet we may be inadvertently creating obstacles to achieving happiness. In this course, students will learn how we get to know ourselves, the maladaptive habits that our minds develop to protect the self from various ego threats, and various ways to improve psychological well-being of the self and others.

【Goal】

Upon completion of the course, students should be able to:

- Identify and explain classic and contemporary theories relating to the self.
- Critically analyze and synthesize empirical research in social psychology.
- Apply their learning to their own life to critically evaluate and explain interpersonal experiences during daily life.
- Verbally present their reactions and experiences to course content.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course mostly combines lectures and student-led class discussions on assigned readings. Students will receive oral and written feedback on their discussion questions and reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Overview of course and review of syllabus
2	Know Thyself	How do we get to know ourselves? How accurate is our understanding? What are the consequences of knowing ourselves?
3	Evaluating Ourselves (1)	What is self-esteem?
4	Evaluating Ourselves (2)	What is self-esteem for?
5	Evaluating Ourselves (3)	Is it better to have high self-esteem?
6	The Vulnerable and Maladaptive Self (1)	What causes our self-esteem to be vulnerable?
7	The Vulnerable and Maladaptive Self (2)	What do people do to maintain self-esteem? What are the consequences of protecting self-esteem?
8	Self-Analysis Workshop	What causes anxiety? What do I do to protect myself?
9	Reducing Self-Threats (1)	What can we do about our vulnerable self-esteem?
10	Reducing Self-Threats (2)	How can I be compassionate to myself?
11	The Self in the Ecosystem (1)	How can we promote our well-being without worrying about self-esteem?
12	The Self in the Ecosystem (2)	How does supporting others help us?
13	The Self in the Ecosystem (3)	How do compassionate goals allow us to take interpersonal risks?
14	Transcending the Self	What have we learned so far and where do we go from here?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should review their notes and be able to explain the major concepts and theories they have learned in previous lectures. They will read the assigned readings before each class and prepare a reaction paper and discussion questions based on the readings. They must also download and print out handouts prior to each class and bring them to class to take notes. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

The assigned readings will be uploaded on Hoppii.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on a final paper (25%), in-class quizzes (10%), discussion questions (15%), reaction papers (30%), and class contribution (20%).

【Changes following student comments】

Some students found it easier to have discussions in small groups while others preferred discussions in a larger group. In fact, several students pointed out that changing the format of the discussion can be refreshing and motivating. I will continue experimenting with the format of the discussions to ensure that everybody feels comfortable sharing their experiences and thoughts during class.

【Others】

Students will be asked to reflect on their daily experiences and share examples that illustrate various concepts and theories covered in the course.

Students who have taken and passed courses in psychology and statistics may be given priority in student selection.

【Prerequisite】

Students must have taken and passed one of the following courses: Social Psychology 1, Social Psychology 2, or Cultural Psychology.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Clinical Psychology

Keiko Ito

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月6/Mon.6

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

Major topics include definition, psychological assessment methods, psychotherapy approaches, along with the history of treatment and the role of science in clinical psychology. The course also explores some of the most common mental illnesses.

[Goal]

Major Course Objectives.

By the end of the course, you should be able to:

- Demonstrate an understanding of how clinical psychologists approach mental health from a biological, cognitive, and social perspective.
- Explain the importance of the scientist-practitioner model of clinical psychology.
- Describe the types of questions clinical psychologists ask and realize that appropriate research methods must be employed in order to answer them.
- Identify the major tasks and responsibilities of clinical psychologists as health care professionals.
- Engage with the ethical framework for the practice of psychology.
- Identify diversity issues as they relate to clinical psychology.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

Through a series of lectures, readings, exercises, films, and group projects, this course introduces and provides a broad overview of the field of clinical psychology. 1. Final Project -presentation
The final project is to be completed in small groups of students (if you want to do it individually, you must clear it with myself). The goal of the final project is for students to research and present information about the topic of clinical psychology in class by using power-point slides. Projects will focus on and cover the specific topic of clinical intervention. Possible examples of the projects include: Person-centered therapy, Psychodynamics therapy, Humanistic & Existential Psychotherapies, Behavior therapy, Cognitive-Behavioral therapy, Child & Family therapy, Couple therapy, Psychopharmacology, etc.

The topic could be a specific issues in clinical psychology other than intervention, but those who wants to do so must consult myself in advance.

2.Movie Report: A list of movies will be provided in class.

3. Exams: There will be no exam, but a brief final paper will be assigned.

4. Research Article Summary: In order to help you develop your understanding of psychological findings and methodology, you will be required to complete a brief (2 to 5 pages) summary of a research article. Articles appropriate for this paper can be found on the website or in library. Use an article of interest to you as long as it is appropriate to the course content and relevant to the field of clinical psychology. Insightful comments from reaction papers will be introduced in class and used in deeper discussions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Guidance.	Orientation & Guidance.
2	History	The history of psychiatry and clinical psychology.
3	Group project discussion / Library research	Assessment of psychopathology and personality
	Overview of Assessment (1)	Projective tests personality test
4	Overview of Assessment (2)	Intelligence testing
		Neuropsychological assessment, behavioral assessment
5	Major Psychiatric Disorder (1)	DSM & ICD 10
		Anxiety disorder(includes panic/ OCD / PTSD)

6	Major Psychiatric Disorder (2)	Mood disorder (depression / bipolar)
7	Major Psychiatric Disorder (3)	Schizophrenia
8	Developmental Disorders	ADHD Learning disorder Autistic syndrome
9	Culture Issues in Clinical Psychology	Multicultural counseling Therapists' culture identity development
10	Stress management	Stress and its coping methods
11	Clinical Interventions/ Therapies	Psychoanalytic Therapy, Person Centered Therapy, CBT, Behavior Therapy, and other psychological interventions
12	Group Project Presentation (1)	Topics in clinical psychology and its intervention (2)
13	Group Project Presentation (2)	Topics in clinical psychology and its intervention (3)
14	The Road to Becoming a Clinical Psychologist	Wrap up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- Class Preparation: An active learning approach requires students to prepare the readings and assignments BEFORE class.
- Group Project: Students should expect to allocate time outside of class to meet with their group members to discuss/ prepare project assignment.
- Movie assignments: Write reflection essays on the movie.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

None.

[References]

- Class handouts will be provided in class.
- Supplemental readings will be provided in class.
- There will be an instructions session for how to find the research article assignment and articles to use in class.
- The APA Ethics Code including 2010 amendments can be downloaded for free directly from the APA website: <http://www.apa.org/ethics/code/index.aspx>.

[Grading criteria]

Participation: 20%

Reaction Papers: 10%

Movie Report (2): 10%

Group (or individual) Project: 35%

Research Article Summary: 10%

Final Report: 15%

Total: 100%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Not in particular (there will be a power point presentation in class).

[Others]

Dates and contents of a class may change somewhat depending on our progress in covering the material.
Office hours (contact by email).

[Prerequisite]

None.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Community Psychology

Alma Jeftic

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月4/Mon.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a rigorous undergraduate-level introduction to the theories and methods of community psychology. Community psychology is concerned with person-environment interactions and the ways society impacts individual and community functioning. The field focuses on social issues, social institutions, and other settings that influence individuals, groups, and organizations. Community psychology aims to optimize the well-being of individuals and communities with innovative alternative interventions designed in collaboration with affected community members and with other related disciplines inside and outside of psychology. Students are expected to gain a comprehensive understanding of working knowledge and skills in community psychology, as practiced around the world.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to develop an understanding of the role of social-historical factors in the development of community psychological perspectives while dispelling the popular myth about the field;
- (b) to gain a working knowledge of different theoretical approaches for prevention of social and psychological problems in the community and begin to think about how these can be practically implemented and evaluated;
- (c) to critically analyze the literature in community psychology; and
- (d) to understand the nature of professional careers and practices in community psychology.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including lectures, class discussion, film discussion, and small group work. The requirements of the course include: (a) active participation, preparation, and engagement in class, (b) in-class and take-home exercises, and (c) midterm and final exam. Feedback will be provided via individual face-to-face sessions and/or the Hosei Hoppi System.

Required Readings

Students are expected to come to class fully prepared to participate in class discussion and other activities. In order to do so, students are required to have read the readings for each module prior to coming to class sessions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Overview	Introduction & Overview
2	Community Psychology (CP): History, Values, & Assumptions	Introduces and discusses key historical events, values and assumptions in CP practice and research
3	Embracing Social Change	Discusses the nature of social change and theories
4	Empowerment	Introduces several empowerment models and theories of empowerment
5	Community and Citizen Participation	Discusses theoretical frameworks for community and citizen participation
6	Ecological and Environmental Approaches (1)	Introduces ecological models for understanding life space
7	Ecological and Environmental Approaches (2)	Discusses ecological interventions and a video presentation
8	Midterm Review	In-Class Review and/or Film Review

9	Appreciating and Affirming Human and Cultural Diversity	Discusses models of human diversity and interventions around the world
10	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (1)	Discusses key concepts in prevention science
11	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (2)	Introduces “best practices” in prevention interventions
12	Stress & Coping Approaches	Compare and contrast several clinical approaches to stress and coping with CP approaches
13	Social Justice Approaches	Introduces the idea of social justice for community psychology
14	Emerging Trends in Community Psychology	Ends the course with discussion on several recent trends and future directions in CP research and practice; Final Exam will be given at the end.
	Final Exam	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments, and are prepared to engage in class activities and discussion. The course requirements and assignments are explained above in the Method(s) section, but depending on the level of students' preparation and interest, chances are that some of the requirements may be subject to change slightly, if not entirely. Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

【Textbooks】

Class readings will be available online. Some of the chapters will be drawn from the following textbooks, and from American Journal of Community Psychology, American Psychologist, Journal of Community Psychology, etc.

Kelly, J.G. et al. (2004). Six community psychologists tell their stories: History, contexts, and narratives. Binghamton, NY: Haworth Press.

Jason, L. A. et al. (2019). Introduction to community psychology. Downloadable free of charge from <https://press.rebus.community/introductiontocommunitypsychology/>

【References】

Additional references and readings will be introduced and/or provided in class.

【Grading criteria】

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) Active Participation, Preparation, and Engagement (30%); (b) In-class and take-home Exercises (30%) and (c) Midterm (20%) and Final (20%). Please note that students are expected to be actively involved in class by sharing your ideas and thoughts, reactions to lectures and class discussion, based on careful reading of the assigned materials.

【Changes following student comments】

From time to time during class sessions, ideas and opinions are solicited from students regarding the class structure and format.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

Successful completion of general psychology, social psychology, clinical psychology, or a few psychology-related courses may be assumed and desirable, but not required. Additional coursework in sociology, education, social work, public health, international relations, anthropology, etc. would be useful.

Use of Internet technology esp. AI (Chat GPT particularly) must comply with Hosei University's guidelines.

【Prerequisite】

It would be helpful if any intro, social, or developmental psych courses were taken previously.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Cultural Psychology

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course introduces the perspectives and major research findings of cultural psychology. The course will introduce general theories and perspectives underlying cultural psychology, explore cultural influences on a wide range of psychological processes, including socialization, self-concept, motivation, emotion, and cognition. The course will also explain the mechanisms underlying cultural differences and examine the process of acculturation and biculturalism in an increasingly diverse world. Throughout the course, students will learn how culture (i.e., institutions, social interactions, and cultural ideas) shapes the way we think and behave and how we, at the same time, shape these cultures.

【Goal】

One of the aims of this course is to introduce students to the perspectives, research methods, and findings of cultural psychology. Another equally important aim of this course is cultivating students' abilities to understand and deal with variations in psychological processes across cultural and ethnic groups, as well as to gain an understanding of the cultural groundings of their own experiences and actions. By the end of the course, students will be able to demonstrate understanding of how cultural systems influence individuals' psychological processing, including development, self-concepts, motivation, emotion, and cognition. They will also critically engage and analyze cultural products, such as books, films, and advertisements.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ/Seminar

【Method(s)】

Instructional methods include lectures, films, discussion over assigned readings, and small group activities. Feedback on the assignments will be given on Hoppii and also verbally in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり/Yes

【Fieldwork in class】

なし/No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is culture? Why is cultural psychology important?
2	Models of Person, Self, and Agency I	How are different "selves" constructed?
3	Models of Person, Self, and Agency II	What are the independent models and their consequences?
4	Models of Person, Self, and Agency III	What are the interdependent models and their consequences?
5	Culture and Emotion I	How does culture shape our emotions?
6	Culture and Emotion II	How does culture shape how we should feel?
7	Review and Midterm Exam	What have we learned so far? Multiple choice and short-essays
8	Culture and Cognition I	How does culture shape what we perceive in the world?
9	Culture and Cognition II	How does culture shape how we make sense of others' behaviors?
10	Culture and Cognition III	Where do these cultural differences come from?
11	Socialization I	How do cultural practices shape us?
12	Socialization II	How does education shape us?
13	Review and Final Exam	What have we learned so far? Multiple choice and short-essays
14	Acculturation and Biculturalism	How do we adjust ourselves to the cultural contexts?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should review their notes before each class and be prepared to explain the major concepts and theories they have learned. Students must download and print out the handouts before each class and bring them to class to take notes. Students are required to do the assigned readings and submit reaction papers during the term. Each student will be asked to find and share an example of a cultural product or practice and connect it to the course material.

【Textbooks】

None.

【References】

Heine, S. J. (2015). *Cultural Psychology*. New York: Norton.Cohen, D. & Kitayama, S. (2019). *Handbook of cultural psychology*. Second edition. New York: Guilford Press.Markus, H. R., & Conner, A. (2013). *Clash! 8 cultural conflicts that make us who we are*. New York: Hudson Street Press.

The reference books are available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail. Handouts and reading materials are on the course website.

【Grading criteria】

Final grades are based on two exams (25% each), reaction papers for assigned readings (30%), presentation over a cultural product (10%), and class participation (10%).

【Changes following student comments】

Students found this class difficult but appreciated the challenge. A lot of the class materials have been updated to address the dynamics of culture and individuals, going beyond the comparisons between cultures.

【Prerequisites】

Students must have taken and received credits in at least one (preferably both) of the following courses: Social Psychology I, Social Psychology II. Exception applies to those who have done study abroad the previous year(s). Please ask the instructor for permission on the first day of class.

PSY300ZA (心理学 / Psychology 300)

Topics in Morality

Christopher Kavanagh

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月3/Mon.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course introduces students to the major theoretical perspectives and empirical research on morality, with a primary focus on psychological approaches. In recent decades, there has been a renaissance in research exploring morality and its associated psychological aspects. Accordingly, this course will emphasize psychological research from a variety of fields, including cognitive psychology, comparative psychology, social psychology, developmental psychology, and evolutionary psychology, while also incorporating discussions of related work in philosophy, animal behavior, economics, and neuroscience.

The course provides an introductory overview of morality and related research while also addressing core questions, such as: What is morality? Where does it come from? Do humans have core innate moral intuitions, or are they socially learned and culturally dependent? Is there evidence of morality in any other species?

By the end of the course, students will be better equipped to evaluate answers to these questions and the ongoing debates that surround them.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to:

- 1) Recognise and explain key terms and major theoretical approaches in the study of morality, with a focus on psychological perspectives.
- 2) Discuss relevant empirical studies, identifying strengths and weaknesses in their methodologies and theoretical models.
- 3) Compare and contrast different theories of morality and evaluate their application to selected scenarios and real-world situations.
- 4) Critically assess key theoretical approaches from various disciplines and consider their relevance to everyday moral judgments and decision-making.
- 5) Apply theoretical frameworks to case studies and assess real-world interactions by integrating psychological and interdisciplinary perspectives.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course uses a combination of lectures and group discussions. Each class begins with lectures introducing key topics and theories, followed by group discussions focusing on related readings and debates. Reaction papers will be assigned for selected topics to encourage deeper engagement with the material. Over the course of the semester, students will prepare an oral presentation discussing the research on a topic of their choice covered in the course. Midterm and final exams will consist of questions evaluating lecture content and core readings. Readings, reaction papers, and feedback will be provided via the online class platform.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Psychology of Morality	Introduction to Psychology of Morality
2	What is morality?	Introducing key psychological theories of morality, including classical approaches & moral foundations theory.
3	Where does morality come from?	Exploring the evolutionary origins of morality and comparative research on morality in non-humans.
4	Morality and religion	Examining the complex relationship between religion and morality and the impact of concepts like supernatural punishment and High Gods.
5	Person Centred Morality	Exploring how Virtue Ethics and Person-Centred Approaches offer an alternative to deontological and utilitarian perspectives.

6	Developmental Psychology and Morality	Addressing the evidence for innate moral intuitions in infants.
7	Mid-Term Exam & Review	Mid-Term Exam & Review
8	Emotions and Moral Judgments	Examining the role that emotional responses, especially disgust, play in determining moral judgments and the social intuitionist model
9	Mind Perception and Moral Judgement	Reviewing how perception of intentionality & agency impact moral judgements and the Dyadic Morality model
10	Empathy: For & Against	Exploring the arguments for and against empathy as a core component of ethical moral systems.
11	The role of punishment in morality	Examining the role of punishment in moral systems and how it influences psychological responses
12	Moral Responsibility, Free Will & Determinism	Addressing the various perspectives on free will and how they impact concepts of moral responsibility.
13	Morality and Politics	Exploring the role that moral sentiments play in determining political beliefs and moral outrage debates.
14	Final Examination & Wrap-up	Final Exam & Course Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete weekly reading assignments, participate in class discussions, and prepare an oral presentation on a topic of their choice. Reaction papers will be assigned for specific weeks and can be submitted online via Google Classroom. Preparatory study and review time for this class will be at least 4 hours per week.

【Textbooks】

All readings will be distributed by the instructor.

【References】

Joshua Greene (2014). *Moral Tribes: Emotion, Reason and the Gap Between Us and Them* (English Edition), Penguin Books.

Valerie Tiberius (2014). *Moral Psychology: A Contemporary Introduction* (First Edition), Routledge Contemporary Introductions to Philosophy).

These books are not necessary to buy but provide good introductions to the topics covered on the course.

【Grading criteria】

Presentation 25%

Mid-term exam 25%

Final exam 25%

Reaction papers & In-class participation 25%

【Changes following student comments】

More details will be provided earlier in the course in regards to the presentations and essay structures required for the course. And earlier classes will devote some time to quizzes and discussions that ensure that students have understood the core approaches before the second half of the course.

【Equipment student needs to prepare】

There is no specialist equipment required beyond a PC/laptop and access to the internet. Some classes may be held online. Weekly readings and reaction papers will be distributed via Google Classroom.

【Others】

None.

【Prerequisite】

You must have taken and received credits in at least 2 courses in psychology.

EDU300ZA (教育学 / Education 300)

English Teaching in Primary School: Advanced

Tomoko Shigyo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is for students intending to teach English to young learners as primary pupils. It provides an overview of the curriculum development of the teaching of English in primary school based on second language learning (SLL) theories to primary pupils. Its purpose is to cultivate skills to implement second language (L2) education in primary school appropriately. It particularly looks at how to design English classes to facilitate literacy skills (reading and writing) of primary pupils with consideration to make consistency in L2 education from the primary to secondary levels. Students are encouraged to develop their own perspectives on designing English classes and practice modern EFL pedagogy such as content and language integrated learning (CLIL) and using picture books.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand how children learn to read and write.
2. Understand how to link picture books with curriculum.
3. Develop curriculum of CLIL using picture books.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Developing a lesson plan, micro-teaching and final assignment are required for the completion of this course; students are to create their lesson plans and demonstrate their English lessons based on the plans. They are required to reflect on their lessons in class and to revise their lesson plans based on the reflection in the final assignment. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance
2	Issues in Children Learning L2: Literacy	Phonological awareness and children's development
3	Issues in Children Learning L2: Literacy (1)	For starting to read and write in English
4	Issues in Children Learning L2: Picture books	Development of children's literacy-picture books
5	Issues in Children Learning L2: Stories (1)	Learning through stories
6	Issues in Children Learning L2: Stories (2)	Language and stories
7	Lesson Planning (1)	Curriculum development (1)
8	Micro-teaching (1)	Micro-teaching (1), review and discuss(1)
9	Issues in Children Learning L2: CLIL	Introduction of CLIL
10	Issues in Children Learning L2: CLIL with picture books	CLIL and picture books
11	Issues in Children Learning L2: Assessment	CLIL and assessment
12	Lesson Planning (2)	Curriculum development (2)
13	Micro-teaching (2)	Micro-teaching (2), review and discuss(2)

14 Consolidation of English Teaching in Primary School: Advanced Reflection & Summary

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week before attending class, students are expected to have completed the assigned readings. Students are required to choose a topic, prepare a presentation, and write a reflective paper. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Cameron, L. (2001). Teaching Languages to Young Learners. Cambridge University Press.

【References】

1. Coyle, D., Hood, P., Marsh, D. (2010). CLIL: Content and language integrated learning. Cambridge.
2. Dale, L. and Tanner, R. (2012). CLIL Activities: A resource for subject and language teachers. Cambridge University Press.
3. Mehisto, P. (2008). Uncovering CLIL: Content and language integrated learning in bilingual and multilingual education. MacMillan Education, Limited
4. Jalongo, M. R. (2004). Young children and picture books. Naeyc.
5. Fresch, M. J. and Hakins, P. (2009). The power of picture books: Using content area literature in middle school. NCTE.
6. 吉田真理子・佐藤佳子・執行智子 (2021) 『小学校英語に児童文学をー絵本・ナーサリーライム・ストーリーテリングの世界に遊ぶ』春風社
7. 津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会 (編) (2022) 『創造的な学びを育む初等英語教育ー時代を超えて生き続ける理論と実践』朝日出版社
8. 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説外国語活動・外国語編』開隆堂

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (30%)
2. Micro-teaching (30%)
3. Final assignment (40%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. on Hoppi.

【Prerequisite】

None.

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

East Asian Cinema

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木3/Thu.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course offers a historical study of cinemas in East Asia. Spring 2026 will mainly focus on the themes and visualities of Korean cinema in relation to other East Asian cinematic developments. Korean cinema has witnessed a remarkable growth both domestically and internationally during the past two decades. This course will follow the historical development of Korea's film industry during the 20th and 21st Century beginning with early films from the 1930s to the mega blockbusters of the 1990s-2000s. Themes such as modernity, gender and masculinity, nationalism as well as globalization and localization will be covered.

【Goal】

By the end of the course, students will be able to

- ・ Understand the historical development of Korean cinema in relation to East Asian cinematic development
- ・ Engage in academic discourses regarding East Asian cinema at large
- ・ Improve critical thinking, oral and writing skills and demonstrate this ability by constructing strong arguments during class discussions and papers

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will be discussion-based, with visual material such as clips of films and videos. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based on the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Feedback will be given throughout the course via discussion topics. Students will be assessed on their understanding of the readings and discussions through their midterm and final assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Early Korean cinema	Readings on early Korean cinema
3	Under the Japanese empire	Readings on Korean cinema during the colonial era
4	Postwar cinema	Readings on 1950s Korean films
5	Cinema renaissance	Readings on 1960s Korean films
6	Melodrama modernity	Readings on Korean melodrama films
7	Midterm review	Midterm assignment
8	Redefining film industry	Readings on 1970s Korean cinema
9	Military censorship	Readings on 1980s Korean films
10	Feminism and new Korea	Readings on 1990s Korean films
11	New Wave cinema	Readings on New Millennial Korean cinema

12	Era of blockbusters	Readings on 2000s Korean films
13	Globalization of Korean cinema	Readings on 2010s Korean films
14	Final review	Final assignment

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are total 5 hours (2 hours for at-home film viewing and 3 hours for reading assigned articles).

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Assigned articles will be uploaded to HOPPII.

【Grading criteria】

Class participation (10%)

Reading/Viewing assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and class behavior (20%)

Midterm assignment (20%)

Final assignment (30%)

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

【Others】

Do not miss the first class as there will be a selection process. Students will not be accepted after the first class/selection process. The content of this syllabus may be subject to change. Any changes in the syllabus will be notified during class and a new syllabus will be updated on HOPPII.

【Prerequisite】

This course requires students to have intermediate knowledge of the history of cinema and East Asian media culture.

CUA300ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

Media Research

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course aims at helping students historicize and contextualize the socio-political and economic influences that media technology has had on our everyday lives and how that influence manifested itself in media representations. The study of media technology as material culture through its production, dissemination and uses has become more urgent as new forms of media are created faster than ever. In this course, students will analyze how media technology has developed throughout history and will further examine the pros and cons, social embracement and anxieties associated with each technology and their representations. Students will apply what they learn about the development of media technology and how it has been represented from a historical and socio-economic perspective and reflect it in their research projects.

【Goal】

By the end of the course, students will be able to,

- understand the history of media technology and its institutional development through their research projects
- learn theories regarding the development of media technology and learn how the technological development of media and its institutions has informed human perception, anxieties, body, gender and politics throughout history
- improve critical thinking ability about how the historical development of media technology has changed the institutional landscape as we know it and demonstrate that understanding by constructing strong arguments during class discussions

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course will cover the historical development of media technology through required readings and watching relevant media examples. The class will be centered on student discussions related to the required readings and topics and the instructor will guide the discussions accordingly.

Comments/feedback for assignments (tests and reports, etc.) are written directly on their assignments, or if students want, may be given during office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Print culture	Readings on print culture
3	Photography	Readings on photography
4	Film	Readings on cinema
5	Telegraph	Readings on telegraph
6	Telephone	Readings on telephone
7	Midterm review	Midterm review
8	Radio	Readings on radio
9	Television	Readings on television
10	Computers	Readings on computers
11	Video games	Readings on video games
12	Internet	Readings on the Internet
13	Digital divide	Readings on the influence of the Internet
14	Final review	Final research project & wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 3 hours each. Students will be expected to complete weekly readings and therefore, must read all required readings before class.

【Textbooks】

No text book required. Instructor will provide reading material.

【References】

All reading material will be uploaded to HOPPII.

【Grading criteria】

Class participation (10%)

Reading assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and class behavior (20%)

Midterm research project (20%)

Final research project (30%)

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

【Others】

Do not miss the first class as there will be a selection process. Students will not be accepted after the first class/selection process.

The content of this syllabus may be subject to change. Any changes in the syllabus will be notified during class and a new syllabus will be updated on Hoppii.

【Prerequisite】

None.

CUA300ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

Postcolonial Studies

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course will introduce students to essential critical theories, ranging from Marxism, psychoanalysis, gender and sexuality, racism, postcolonialism to postmodernism. Critical theory contextualizes, examines, and theorizes culture as it influences and shapes our everyday lives and social structures. Students will learn about the various academic approaches on how to analyze culture based on the canonical works of critical theories, especially focusing on postcolonial studies, and learn how to apply such critical theories to our everyday lives.

【Goal】

In addition to teaching the students about critical theories and postcolonialism and related media examples, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will:

- ・ learn methodologies to analyze various media through the lens of postcolonial theories
- ・ examine the specific operations of how postcolonial concepts influence media representations
- ・ learn how to analyze the postcolonial relationships to self and society
- ・ improve critical thinking ability and demonstrate that ability by constructing strong arguments during class discussions and through written class assignments

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will be discussion-based, with visual material such as images and clips of news, films, popular culture, etc. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based on the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the readings through class discussions and presentations. In class, feedback is given using some comments in relation to student questions and comments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Ideology	Readings on ideology
3	Hegemony	Readings on hegemony
4	Psychoanalysis	Readings on psychoanalysis
5	Structuralism	Readings on structuralism
6	Poststructuralism	Readings on poststructuralism
7	Midterm review	Midterm exam
8	Feminism	Readings on feminism
9	Gender & Sexuality	Readings on gender and sexuality
10	Race & Racism	Readings on racism
11	Postcolonialism	Readings on colonialism and its aftermath
12	Orientalism	Readings on orientalism
13	Postmodernism	Readings on postmodernism
14	Final review	Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are about 3 hours each.

【Textbooks】

Storey, John (2021). Cultural theory and popular culture: An introduction (10th ed.). Routledge.

【References】

Additional reading material will be provided on HOPPII.

【Grading criteria】

Class participation (10%)

Reading assignments (20%)

Asking questions, speaking up during class discussions, and class behavior (20%)

Midterm exam (20%)

Final exam (30%)

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Pen and paper notebook. Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class so students must take notes by hand in class. They are also responsible for bringing hard copies of the required readings to class.

【Others】

Do not miss the first class as there will be a selection process. Students may not join the class after the first class date/selection process. The content of this syllabus may be subject to change.

【Prerequisite】

None.

CUA300ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

Qualitative Research Methods

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course introduces students to qualitative research methods and provides them with experience in conducting qualitative research. The course begins with research problems, questions and design considerations. The course follows with training, through lecture, group work and hands-on experiences, in data collection methods commonly used in qualitative research, such as field observation, interviews, and the use of documents and archival data. Students will undertake a pilot research study as part of the course requirements. This includes designing a research question, doing a literature review, creating a questionnaire, observing a field setting, analyzing field notes, and presenting on preliminary research findings. The exercises are intended to develop the mindset required to think through, design, and execute a qualitative study.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to understand the basic principles of qualitative research design and methods, formulate research questions, select appropriate research sites or communities, and know how to conduct original qualitative research. Students will also be able to address key theoretical, ethical, and practical issues and present their empirical findings in an academically appropriate manner.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering your critical ideas and interpretation about student projects, practical fieldwork issues, and lectures on other fieldwork techniques. Submission of assignments and feedback will be via Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course, requirements and expectations.
2	Research Designs	Types of research, research process steps, structure of an empirical research paper.
3	Literature Review and Citation/Reference	Setting up a research topic, reviewing existing scholarly work, formulating research questions, learning about conceptual and theoretical frameworks.
4	Research Ethics	Research dilemmas, bias anonymity, confidentiality, positionality, and data management.
5	Data Collection Methods	Types of data, data collection and sampling methods
6	Writing a Research Proposal	Question, design, site, data collection methods, ethical issues, contribution
7	Presentation of Research Proposal	Students will give a presentation of their research proposal.
8	Interviews I (fieldwork)	Types of interviews (structured to unstructured). How to create an interview guide and conduct interviews, online and offline interviews, interview workshop.
9	Interviews II	Preparing interview transcripts, and types of analysis
10	Observation (fieldwork)	Types of observation, note-taking, and analyzing social settings

11	Films, Documents, and Internet data	Collecting and analyzing media and textual data using content analysis
12	Writing tips and Wrap-up	Communicate the findings in an academic and effective way
13	Student Presentations I	Student presentations on a pilot research project and feedback
14	Student Presentations II	Student presentations on a pilot research project and feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to come to class having completed the assigned readings and prepared to discuss them. The course also requires students to conduct research outside of class. Students should plan to spend approximately 2 hours on preparatory study and review for each class session.

【Textbooks】

Berg, B. L. (2004). Qualitative Research Methods for the Social Sciences (4th ed). Allyn & Bacon. (The PDF version will be uploaded to Hoppii.) All the materials will be uploaded to Hoppii.

【References】

References will be shared in class.

【Grading criteria】

Participation: 10%

In-class quiz: 20%

Mid-term research proposal and oral presentation: 20%

Final paper and oral research presentation: 50%

More than three unexcused absences will result in an incomplete grade. Please contact the instructor and provide documentation if you need to be absent from class for medical reasons, job interviews and family emergencies. If you arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence.

Inappropriate use of AI tools in written assignments will result in a failing grade.

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

None. You may use laptop or tablet to take notes.

【Others】

Slight modifications in the schedule may be expected.

Students with special needs should notify the instructor in advance.

Qualitative research is time-consuming, and students should expect to spend more time on this course than on a typical 300-level course, as they will be required to carry out a pilot research project.

Admission priority will be given to students who are affiliated with a seminar and are conducting or plan to conduct qualitative research. In addition, students who have passed "Introduction to Social Research Methods" will be given priority.

Students with only a general interest in social research methods should consider taking "Introduction to Social Research Methods" first.

【Prerequisite】

See, "others"

LIT300ZA (文学 / Literature 300)

Realism and Cinema

Catherine Munroe Hotes

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 1/Wed.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course will examine how reality is depicted on film, from the advent of cinema to contemporary forms of online media. We will look at how the tropes of documentary fiction and non-fiction were developed and changed with new technologies.

【Goal】

Students will learn documentary film theory and narrative film theory with particular emphasis on how cinematography, mise-en-scène, sound, editing and other techniques are used by filmmakers in both fiction and non-fiction films to give the impression of realism. We will also discuss the ethics of depicting the lives of real people and events on film. Students will learn to engage critically with media and learn how to determine fact from fiction.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Lecture, readings, film analysis, quizzes, group work, exam, and essay writing. Lectures take a hybrid form that actively encourages student participation in discussion. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System or Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction & Introduction to Documentary Theory	Course introduction & Introduction to Documentary Theory
2	Kino Pravda	Man with a Movie Camera (Dziga Vertov, 1929)
3	Docudrama	Nanook of the North (Robert J. Flaherty, 1922)
4	Propaganda	Triumph of the Will (Triumph des Willens, Leni Riefenstahl, 1935)
5	Ethnographic Filmmaking & Indigenous Perspectives	Selection of National Film Board of Canada shorts
6	Introduction to Direct Cinema & Cinéma Vérité	Cinéma Vérité: Defining the Moment (Peter Wintonick, 1999)
7	Midterm Exam, Direct Cinema and Cinéma Vérité	The exam will consist of a terminology quiz and a short essay response to a short film that will be played in class.
8	First Person Narration	Waiting for Fidel (Michael Rubbo, 1974) and Fahrenheit 9/11 (Michael Moore, 2001)
9	Re-Enactments of True Events	The Thin Blue Line (Errol Morris, 1988)
10	Manufacturing Consent	A discussion of how the media manufactures consent in the context of the 1991 NFB documentary about Noam Chomsky.
11	Historical Dramas: Re-Viewing the Past	Hidden Figures (Theodore Melfi, 2016)
12	Biographical Films	The Stories We Tell (Sarah Polley, 2012)
13	Animated Documentaries: Capturing Psychological Reality on Film	A selection of animated films from the 2000s & 2010s
14	How AI is changing Cinematic Reality	A selection of clips from recent TV series and movies.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading academic texts and answer comprehension questions (4 hours each week). The estimated preparation time includes watching video clips.

【Textbooks】

Nichols, Bill. Introduction to Documentary. 3rd ed. Bloomington: Bloomington UP, 2017. (available as an ebook)

【References】

Bordwell, David. The Way Hollywood Tells It: Story and Style in Modern Movies. Berkeley: U of California P, 2006.

Bordwell, David, Kristin Thompson and Jeff Smith. Film Art: An Introduction. 12th ed. New York: McGraw-Hill, 2019.

Other materials will be made available using online library resources or shared files.

【Grading criteria】

Midterm Exam (week 7) 30%

Film Responses (Weeks 1, 3, 5, 10, 11) 50%

Group Tasks (Weeks 8 and 13) 20%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring their device (laptop, tablet, et al.) to class in order to refer to course readings if necessary.

【Others】

Enrollment is limited to 3rd and 4th year students.

【Prerequisite】

None

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

Art in Everyday Life

Timothy Betjeman

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火4/Tue.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Despite art being a part of human culture and civilisation for millennia, the art world is often looked upon as something disconnected from everyday life. In this course, we will examine how art and everyday life are intertwined. This will be followed by study on the forms art takes in contemporary society, the value of art, spaces for art, and case studies on how artists live and work in contemporary society.

【Goal】

Through this course, students will gain an understanding of the role of contemporary art in society.

An important aspect of this study is to comprehend the processes of creation and the thinking behind public exhibitions, the multifaceted approaches of artists, the infrastructure of the world of contemporary art in Japan and abroad, and how the art world is connected to the "real" world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

In addition to lectures on relevant topics, students will take part in practical exercises to gain first-hand knowledge and experience of the processes involved in contemporary art-making.

- ・ Drawing to communicate
- ・ Collating images to create narrative
- ・ Combining text and images to change meaning
- ・ Action-based art

Students will also research a living artist working now, and will make a presentation on the results of this research.

In addition to the above, students must keep track of their weekly learning by collating images and text in a class notebook, 2 pages (minimum) per week that are relevant to the course material.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

Feedback on presentations will be given in class. Separate feedback will be given via email or the Learning Management System if required.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Art as communication	Sharing experiences through drawing. Practical activity to explore the communicative qualities of images.
3	Worthless art(?)	Artists with subversive approaches to value: Marcel Duchamp, Andy Warhol, Jeff Koons, Tracy Emin, etc.
4	Art with value	Group and class discussion on artworks with value for the 21st century
5	Connecting with the land	Connecting art practices with pre-historic art and ritual. Artists who work directly in the landscape: Robert Smithson, Richard Long, Christo and Jean Claude, Nancy Holt, etc.
6	Originality: It's all been done before	Tracing the thread of an idea in art; redefining originality
7	Art as action	Performance art and happenings, activism as art, and the importance of documentation
8	A working artist	A visit from, or case study of, an artist, discussing their works and career

9	Text and Images: Making meaning	Study of examples from art and online media. Practical exercises in making meaning
10	Outside of the gallery system	Artist-led initiatives and unconventional art spaces in Japan and abroad
11	Curation as practice	How curation creates meaning. Planning a fictional exhibition.
12	Student Presentations I & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
13	Student Presentations II & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
14	Final discussion and review	Presentation of notebooks and group discussion on art in the real world

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to prepare a notebook and basic writing and drawing materials. Reading and preparation activities will be assigned on a weekly basis.

Students are also expected to visit at least one art exhibition and conduct research in preparation for a presentation (suggestions will be provided).

Students are also expected to use their notebook to keep a record of ideas, samples of artworks, and other experiences throughout the semester. A digital notebook is acceptable.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Lecture slides/notes/other materials will be provided online.

【References】

Berger, John. *Ways of Seeing*, Penguin Books (1972)

Sontag, Susan. *On Photography* (1977)

Benjamin, Walter. *Art in the Age of Mechanical Reproduction* (1935)

Debord, Guy. *The Society of the Spectacle* (1967)

Krauss, Rosalind. *Sculpture in the Expanded Field* October, vol. 8, 1979, pp. 31–44.

Shifman, Limor. *Memes in Digital Culture*, The MIT Press (2013)

Foster, Hal. *Art Since 1900: Modernism, Antimodernism, Postmodernism*. London: Thames & Hudson (2004)

Weschler, Lawrence. *Seeing is Forgetting the Name of the Thing One Sees*. University of California Press (1982)

Weschler, Lawrence. *True To Life* University of California Press (2009)

【Grading criteria】

Participation:

This applies to class activities, assigned readings, exhibition visit and regular contribution to the group discussions.

Weekly submitted responses:

This is a requirement to submit weekly assignments. Examples of weekly assignments are: Pages from your workbook; a written response to class contents, a response to an assigned reading, evidence of activities completed in class that week.

Presentation: each student must make a short presentation on a living, working artist within the context of the course.

The final grade is calculated as follows:

Active participation 30%

Weekly submitted responses 40%

Presentation 30%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Students will need a class notebook (e.g. A5-A4 sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, scissors). A digital notebook is also acceptable. Access to a computer, as weekly responses and submissions will be digital only.

Details of other items required will be given as required.

【Others】

You do not need to be "good at art" or have previous practical experience in art to take this class.

What is essential for this class is to be curious and open-minded about what art can be, and to be willing to engage in discussions on topics that are new and, at times, challenging.

Students are expected to be punctual. As many of the topics are open for debate, participation in group and class discussions will be expected of all students.

Weekly responses must be submitted before the next week's class, through an online system.

【Prerequisite】

None.

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

Contemporary Art

Utako Shindo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金4/Fri.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Since the late 19th century we have witnessed the dynamic shift in the field of Fine Art, from Modernism Art to Contemporary Art. The course looks at this shift in details; the influential Cezannism, the birth of Abstraction and Minimal art, the expansion of New media and Interdisciplinary practice, the rise of Conceptual and Critical work, and towards more Participatory and Collaborative approaches. In so doing, we also pay attention to what remains unchangeable, hence, essential to Art. You, as a valuable audience member, is encouraged to gain more nuanced understanding of art, through asking what it is to experience art, and how it can inspire the sense of us being in this life-world. Artworks of different origins, and referential texts and audio-visual materials will be studied together.

【Goal】

- You will become familiar with some key works, artists' voices and aesthetic concepts from the modernism art to the contemporary art.
- You will become aware of and comfortable with your ways to engage with art and express your appreciation in writing and conversation.
- You will gain artistic perspectives that can be practiced in your everyday, to live the world through creative and critical thinking and gesture.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【Method(s)】

- Referential materials such as texts, videos and class slides will be shared through Google Classroom for each class. In the class we will look into them together to learn and discuss how certain artistic expressions were nourished and also understood in a certain milieu. Unless your question involves something personal, please ask any questions during the class so we can share some ideas and information. In/After-Class exercise will be offered as an opportunity to experiment with ideas and ways of writing.

- You are also asked to visit an exhibition or a relevant artistic location off-campus, which will be determined by the instructor. If you would like to visit somewhere else, please consult with me. Based on your visit, you will give a short presentation about an artwork that you saw and engaged most strongly. The presentation will be developed into a research paper to be submitted at the end of the semester.

- During the semester, we will also do some experiments together to explore our own creative possibilities.

NOTE 1: The feedbacks to the discussions, the presentations and the experiments will be provided during the class or through the Google Classroom.

NOTE 2: The schedule and the content may change in response to the students' needs. The change will be notified in the classes as well as through the Google Classroom.

NOTE 3: Please be aware that some works shown in the class may address controversial issues and may include nudity.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course; being 'contemporary', Richard Tuttle (*a selection process may occur.)
2	New ways of Perception	Before and Post Impressionism; Gustave Courbet, Claude Monet, Paul Cézanne, Pablo Picasso; Merleau-Ponty
3	Cezannism to Abstraction	Spirituality, Geometry and War; Maurice Denis, Henri Matisse, Piet Mondrian; Wassily Kandinsky
4	Europe to USA	Art Informel to Abstract Expressionism; Jean Fautrier, Mark Rothko, Jackson Pollock ; Clement Greenberg

5	Explosion of New Media	Minimalism to Post Minimalism; Frank Stella, Donald Judd, Robert Morris, E.A.T., Fujiko Nakaya; Agnes Martin
6	Institutional Critique	Dada to Conceptual Art; Marcel Duchamp, Joseph Kosuth, John Cage, Micheal Asher, High Red Center; Lucy Lippard
7	Questioning Norms	Fluxus, Pop to Post-Conceptual; Yoko Ono, Jenny Holzer, Yasumasa Morimura, Felix Gonzales=Torres; Jose Esteban Munoz
8	Problem of Representation	Counter Monument, Postmodern Architecture; Isamu Noguchi, Rachel Whiteread, Daniel Libeskind
9	Ways of story telling	New Painting, Video Installation; Lorna Fencer Napurrula, William Kentridge, Shirin Neshat, Christian Marclay
10	Attempts for living together	Relational Art, Collaboration, New Technology and Craft; Rirkrit Tiravanija, Koki Tanaka, Grayson Perry
11	Short Presentation 1	Student presentations 1
12	Short Presentation 2	Student presentations 2
13	Short Presentation 3	Student presentations 3
14	Reflection and Experimentation	Reflect through your interdisciplinary perspectives, Experiment with your own creative possibilities

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Students are encouraged to engage with the class materials (readings, audio-visual references) and to be prepared for class discussions and activities. Additionally, students are required to make at least one visit to an art exhibition or art related location suggested by the instructor, as a preparation for their presentations and research papers. Preparatory study and review time for this class are a maximum of 1.5 hours each.

- No textbook will be used. Readings will be made available on Google Classroom.

- References will be made available on Google Classroom.

【Textbooks】

No textbook will be used. Readings will be made available on Google Classroom.

【References】

References will be made available on Google Classroom.

【Grading criteria】

Participation (30%) : Actively attend the class to study the referential materials. You are encouraged to express your thoughts and feelings through discussion and in/after-class exercise.

Short Presentation (25%) : Discuss the chosen artwork from your visit that interested you most. Please refer to at least one idea/notion studied in the class.

Project Paper (30%) : Develop your presentation into a research paper: compare your chosen artwork with an artwork studied in the class, and review an article that discusses the artwork or the artist you selected.

Experimentation (15%) : Reflect on an idea/artwork that inspired your own interdisciplinary interest during the course. Carry out experiments together to use your imagination and practice your creativity.

【Changes following student comments】

I have updated some class contents to make it more accessible for students with diverse interests.

I have updated some class contents to make it more possible to learn deeper into each topic.

【Others】

Do not miss the first class as a selection process may occur.

【Prerequisite】

None.

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

Special Topics in Art I

Gary Mcleod

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 土2/Sat.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

How can photography help to understand the world around us? Can it support or shape the way in which we interact with it? This course looks at the role of photography in an increasingly digital and time-poor society. Through “rephotography”, a set of visual practices for expanding conversations about place over time, the course explores the dual pressures upon today’s camera users to evidence and record reality while embodying authentic acts of personal expression.

【Goal】

Students carry out an independent rephotography project from conception to publication under a broader research agenda to visually record time and place in Tokyo. Through producing a photo book, students will develop critical perspectives toward contemporary image-making while learning to articulate research methodologies and give constructive feedback.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course uses a practical approach. Workshops, assignments and supporting lectures are employed to develop students’ understanding of contemporary photography and improve critical skills regarding the production of images (i.e. visual literacy). Students produce and print a contact sheet of 35 photographs every week which is used for discussion in class. Final submission comprises a photo book and evidence of participation (12 submitted contact sheets). Attendance is recorded weekly using visual media (e.g. photograph). Feedback is given through ongoing dialogue between students and instructor during production of the contact sheets and photobook.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Slow Glass	Introducing photography as a visual methodology.
2	Looking Again	Photographing the campus ‘in’ time.
3	The Landscape of Rephotography	Discussing rephotography as a diverse set of visual strategies.
4	Re-entering the Past	Discussing the relationship between rephotography and place.
5	Now and Again	Discussing the relationship between rephotography and time.
6	Conversations with the future	Sharing ideas for visually exploring time and place in Tokyo.
7	Photo Book Research	Analysing photo books in the university library.
8	Developing Strategies	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of strategies.
9	Developing Sequences	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of sequences.
10	Refining Selections	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of selections.
11	Expanding Horizons	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of outcomes.
12	Draft Photobook	Making preparations for producing a booklet.
13	Photobook Review	Reviewing reflection and notation in workbooks.
14	Final Photobook Review	Making final improvements to books prior to submission.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must regularly take photographs throughout the semester. Every week students are required to bring a contact sheet containing 35 photographs made during the week before, which will be discussed in class. They are also expected to use the photo book resource in the library and do assigned readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be will be uploaded on Hoppii or distributed in class.

【References】

Batchen, Geoffrey (2008) *William Henry Fox Talbot*, Phaidon.
 Berger, John (1977) *Ways of Seeing*, Penguin Books.
 Flusser, Vilém (2014) *Gestures*, University of Minnesota Press.
 Ruetz, Michael (2008) *Eye on Infinity*, Steidl.
 Ritchin, Fred (2013) *Bending the Frame*, Aperture.
 Sagami, Tomoyuki (2018) *YKTO*, Steidl.
 Tomiyasu, Hayahisa (2018) *TTP*, Mack Books.
 Watanabe, Toshiya. (2018) *Thereafter*, Steidl.
 Additional references will be provided by the instructor in class.

【Grading criteria】

Participation: This applies to weekly contact sheets (minimum of 12) More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
 Photo book: each student must produce a small photo book (min. 96 pages) that communicates ideas relating to the city and time.
 The final grade is based on: Participation 40% and Photo book 60%. As a variety of predictable and unpredictable factors are involved in the process of creating a photobook, evaluation considers a blend of concept, research, originality, visual communication ability and tenacity.

【Changes following student comments】

Changes have been made in response to student feedback, thank you.

【Equipment student needs to prepare】

Students will need a laptop with photo-editing software and a camera. Please note that the use of a smartphone camera is acceptable for this course. However, if you have regular access to other kinds of cameras (and wish to use them), please bring them to class and the instructor will happily show you how to use them.

【Others】

Being naturally creative is not a requirement for this course. However, students are expected to come to class on time, participate and demonstrate an active interest.

【Prerequisite】

None.

ART300ZA (芸術学 / Art studies 300)

Twentieth Century Film Studies

Catherine Munroe Hotes

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the study and analysis of film. Over the course of the semester you will be exposed to key critical and theoretical approaches in 20th century film studies (genre, auteur theory, realism, formalism, etc.), in addition to gaining further knowledge into world cinema history and major film movements. All films screened in class are in their original language with English subtitles.

【Goal】

(1) Students will learn the basic terminology of film form in order to describe and analyse films. (2) Students will learn the key concepts of film authorship and genre. (3) Students will gain an understanding of film history and major film movements. (4) Students will learn, practice, and improve their film writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1” and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Each class consists of a lecture (50%), film clips (30%), and discussion (20%). Feedback on quizzes and written assignments will be sent via the Learning Management System or Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: What is Film Studies?	Introduction: What is Film Studies?
2	Early Film History and Approaches to Film	A selection of early shorts (Lumière, Edison, Méliès, Alice Guy-Blaché) and film excerpts (D.W. Griffith, Edwin S. Porter, Mack Sennett, Germaine Dulac)
3	Classical Hollywood, the Studio System, and Mise-en-scène	Cleopatra (Cecil B. DeMille, USA, 1934); Casablanca (Michael Curtiz, 1942)
4	Soviet montage and the Kuleshov Effect	Mother (Vsevolod Pudovkin, 1926)
5	Cinematography, Composing the Frame, and Authorship	North by Northwest (Alfred Hitchcock, 1959)
6	Narrative Form I	Citizen Kane (Orson Welles, 1941)
7	Narrative Form II	Midterm Scene Analysis (20%) I've Heard the Mermaids Singing (Patricia Rozema, 1987) Rashomon (Akira Kurosawa, 1950)
8	Editing, and Camera Movement, and the Long Take	Touch of Evil (Orson Welles, 1958) and Jeanne Dielman, 23 quai du Commerce, 1080 Bruxelles (Chantal Akerman, 1975)
9	Sound and Colour (Genre 1: Musicals)	Singin' in the Rain (Stanley Donan, 1952) The Godfather (Martin Scorsese, 1972),
10	Art Cinema and the Festival Circuit 1	Hiroshima mon amour (Alain Resnais, 1959), La Jetée (Chris Marker, 1962)
11	Colour (Genre 2: Melodrama)	Written on the Wind (Douglas Sirk, 1945)
12	The New American Cinema	The Godfather (Francis Ford Coppola, 1972)
13	French New Wave	Cléo de 5 à 7 (Agnès Varda, 1962, France).
14	Final Exam	You will be shown clips in class and be asked answer multiple choice questions or to write short responses.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

【Textbooks】

Materials will be made available using online library resources or shared files.

【References】

Bordwell, David, Kristin Thompson & Jeff Smith, Film Art: An Introduction, 12th ed. New York: McGraw-Hill Education, 2020.

Pramaggiore, Maria & Tom Wallis, Film: A Critical Introduction, 2nd ed. Pearson, 2008.

【Grading criteria】

Film Responses (5x10%): 50%

Midterm Scene Analysis (Week 7): 20%

Final Exam (Week 14): 30%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Students will need to access class materials and submit assignments online. Students may bring their device (laptop, tablet, et al.) to class in order to refer to course readings if necessary.

【Prerequisite】

None.

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Advanced Topics in Critical Theory I

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Students will learn the fundamental concepts of feminist theory, which has been attracting attention in recent years not only in the humanities but also in the social sciences. In this year's class, in addition to the foundational texts of feminist studies, students will read texts in feminist methods and Chicana feminist theory to acquire proficiency in the consideration of social phenomena related to gender and sexuality.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes of feminist theory (remembering/understanding), (2) apply feminist theory to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various strands of feminist theory (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on gender and sexuality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory as Liberatory Practice	What is the role of theory in feminist studies?
3	Black Feminist Thought	What is Black feminist theory?
4	Intersectionality as Critical Social Theory	What are some of the unsolved issues with the intersectionality framework?
5	Transgender Feminism	Who are included as women in feminism?
6	Marxist Feminism	What is the relationship between feminism and Marxism?
7	Postcolonial Feminism	What is the relationship between feminism and nation?
8	Feminism in Japan	What does feminism in Japan look like?
9	Feminist Methods	How does feminist theory inform research methods?
10	Gender and Science	How has feminism changed science?
11	Chicana Feminist Theory I	What are the characteristics of Chicana feminism? What is "la conciencia de la mestiza"?
12	Chicana Feminist Theory II	What is the "methodology of the oppressed"?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for the final paper
14	Theory in Action	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 30%

Final paper: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Advanced Topics in Critical Theory II

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火1/Tue.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Students will learn the fundamental concepts of queer theory, which has been attracting attention in recent years not only in the humanities but also in the social sciences. In this year's class, in addition to the foundational texts of queer studies, students will read Black queer studies and queer demography literature to acquire proficiency in the consideration of social phenomena related to gender and sexuality.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes of queer theory (remembering/understanding), (2) apply queer theory to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various strands of queer theory (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on gender and sexuality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり /Yes

【Fieldwork in class】

なし /No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The Development of Queer Thinking	Why can't sexuality be properly studied within gender studies?
3	Gender Performativity	How does gender performativity differ from gender performance?
4	Homosexuality	What is homosexuality?
5	Compulsory Sexuality and Amatonormativity	What does asexuality offer queer theory?
6	Black Queer Studies	How does sexuality intersect with race?
7	HIV/AIDS in the '80s	How does the HIV/AIDS crisis affect queer theory?
8	HIV/AIDS in the '00s	How does a queer theoretical understanding of barebacking subculture differ from an epidemiological understanding?
9	Trans Politics	What does critical trans politics envision?
10	Homosexuality	What happens when neoliberalism meets LGBT movements?
11	Homosexuality	What happens when nationalism meets LGBT movements?
12	Queer Demography	How can LGBTQ populations be studied from a queer theoretical perspective?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for the final paper
14	Theory in Action	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 30%

Final paper: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed “Race, Class and Gender I.”

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Migration and Diaspora

Chris Park

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Scholarship on diaspora has drastically increased in the last three decades, and the issues pertaining to immigration and exile, as well as nation-state, nationalism, citizenship, identity and belonging have been explored and examined through a lens of diaspora in various academic disciplines. The course will address various issues that constitute diaspora such as the process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities, as well as identity formation, cultural hybridization, and cultural/knowledge productions – all of which are informed by race, gender, sexuality, class, religion, language and others.

In so doing, the class will first locate the roots of diasporas. As early historical references of the Jewish diaspora and the Black diaspora suggest, the displacement of people and communities from the original homeland often involved both internal and external forces that rendered them “exiles” or “slaves” against their will. Similarly, more recent diasporas emerge as a result of conflicts, wars, colonization, decolonization and globalization that result dispersion of people as “immigrants,” “refugees” and “adoptees.” Situating diaspora in broader projects of nation-building and empire-building, the course will ask and complicate the questions not simply about who, but also when, how, and under what circumstances people become diaspora, as well as how they (re)construct diasporic subjectivity and identity. Finally, the course will have a special focus on women’s experiences and voices.

【Goal】

At the end of this course, students should be able to:

- Explain such concepts as nationalism, citizenship, identity and belonging
- Explain historical and contemporary issues faced by various displaced people categorized as “immigrants,” “refugees,” and “adoptees” in their process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities
- Analyze various data sources including policies, legislations, historical facts, popular cultural production and personal narratives
- Use intersectionality as a lens of analysis to discuss issues pertaining to identity formation

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering critical ideas and interpretation. In addition, a small group of 3-5 individuals will work on a project and present findings and analyses on a topic of their choice. Further directions will be given in class.

In addition, it is possible that some comments from the reaction papers may be introduced in class to elaborate on each lecture and to facilitate discussions.

Comments for assignments and the final reports are given through email.

Students are expected to regularly check (at least once or twice a week) their university email account and Hoppii for course announcements and updates.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview & Self-introduction	Course Overview & Self-introduction
2	Definitional Questions	Theories and concepts: Migrant categories, return migration, migrants to citizens, diasporas and transnational communities.

3	Identity/ies for Diasporic Subjects	Why the poorest don't migrate: examining systems, links, chains, routes, networks and diverse migrant motivations.
4	"Military Wives"	Japanese women's departure, becoming American, the "modernized subjects"
5	"To Save the Children"	Origin of international adoption
6	Militarized Process of "Leaving"	How "refugee" subjects are created and mobilized through spaces and modernity.
7	War, Racism and Incarceration	Japanese American internment experience during WWII
8	Forced Identity	Representation of "Good" & "Grateful" minority
9	Racialized as "Invisible Asians"	Korean adoptees' experience
10	Orphan with Two Mothers	Film: Liem, Deann Borshay, First Person Plural (2000)
11	Diasporic Homecoming	Homecoming experiences: Japanese Brazilians v. Japanese Americans
12	Between Home and Homeland	Film: Yang, Yonghi. Dear Pyongyang (2005)
13	Group Presentations I	Student presentations
14	Group Presentations II	Student presentations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

In addition to preparing for discussions, students are expected to review class materials after each class, note down reflections on the videos shown in class, and do the prescribed readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts, readings and other materials will be distributed in class and/or uploaded on online course management system.

【References】

Espiritu, Y. *Home bound Filipino American lives across cultures, communities, and countries*. UC Press, 2003.

【Grading criteria】

Participation: 30%

Reading and Writing Assignments: 20%

Presentation on Weekly Reading: 20%

Group Project: 30%

Students are not allowed for more than 2 unexcused absences. These exclude absences due to medical reasons, job interviews, but include those due to family emergency and train delays. If students arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. If students miss 20 min of class time, it will be considered as 1 absence. 3 or more absences will result in not-passing. Students must complete all the assignments to pass the course. If students have special needs, exceptions may be made. Contact the instructor no later than Week 3.

【Changes following student comments】

NA

【Equipment student needs to prepare】

NA

【Others】

Changes to the above class schedule may take place. For example, the schedule for group presentations may be given depends on the number of enrolled students.

Students who intend to enrol in this class are expected to have passed or taken Understanding Society or Introduction to Sociology.

This prerequisite may be waived through consultation with the instructor.

【Prerequisite】

NA

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木1/Thu.1

その他属性 : <優> <S> <ダ> <未>

【Outline and objectives】

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social demography (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social demography to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various population processes and population structures (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on population issues (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Intersectionality as an Integrative Framework for Race, Class and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Population Processes	What is demography? How do demographers study population processes?
4	Population Structures	What is demography? How do demographers study population structures?
5	Theories of Population	How do populations grow and shrink?
6	Fertility	What determines how many children people have?
7	Mortality	Why do people die, and how does mortality vary across populations?
8	Migration	What drives people to move from one place to another?
9	Demography of Race and Ethnicity	How do race and ethnicity shape population patterns and inequalities?
10	Demography of Gender	How do gender shape population patterns and inequalities?
11	Demography of Sexuality	How do sexuality shape population patterns and inequalities?
12	Population Issues in Japan I	Why is Japan experiencing declining fertility?
13	Population Issues in Japan II	Why is Japan experiencing rising anti-immigrant sentiment?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Social Theory: Perspectives on Inequality

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : <優><S>

【Outline and objectives】

Social inequality has always been a part of human society, and social scientists have invested much effort into “figuring out” why there is social inequality and how social inequality is sustained and reproduced. Earlier efforts focused mostly on socioeconomic inequality, while later endeavors explored racial, gender, sexual inequalities and their interconnections. These efforts resulted in classical and contemporary social theories on inequality. In this course, students will learn these theories, which are interesting in and of themselves, but more importantly, they will learn to think about inequality deeply and sophisticatedly.

Many theories covered in this course come from Western scholars. Therefore, it is important to explore their limitations in non-Western contexts and to consider the possibility of alternative perspectives.

【Goal】

In mastering the social theories covered in this course, students will hone their critical thinking skills, develop their own theories of various aspects of society and the world and consider solutions to lessen inequality. Students will acquire the skills to engage with complex ideas and think systematically and logically, and remaining aware of social injustices and problems. By the end of the course, students should be able to form and support their opinions with ease.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught through a combination of lectures interwoven with short discussions, student presentations based on readings, and post-presentation discussions.

After the active learning section, the instructor will give feedback to each student personally in verbal or written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	What is social theory?
2	The Trio in Classical Theories (1)	Karl Marx on social class and capitalism
3	The Trio in Classical Theories (2)	Karl Marx on ideology and Louis Althusser on state apparatuses
4	The Trio in Classical Theories (3)	Max Weber on class, status, and party, and on power, state and bureaucracy.
5	The Trio in Classical Theories (4)	Emile Durkheim on the division of labor in society
6	Student Presentation and Discussion (1)	Student presentation and discussion on Davis and Moore's structural-functionalist theory and Tumin's critique
7	Modern social theories on inequality (1)	Ralph Dahrendorf's theory of the origin of inequality or continue with the trio
8	Modern social theories on inequality (1)	Pierre Bourdieu's <i>Distinctions</i> and the significance of taste and lifestyle
9	Race and inequality (1)	Theories related to racial inequality: The work of W.E.B. Du Bois, Michael Omi & Howard Winant
10	Race and inequality (2)	Theories related to racial inequality: Joe Feagin Theories related to racial inequality: Critical Race Theories (CRT)
11	Student presentation (2)	Student presentation and discussion on CRT, focusing on storytelling and counter-storytelling approaches

12	The "F" word: "Classic" Feminist Theories on Gender Inequality	What is feminism? Liberal Feminism: <i>the</i> feminist theory? Mary Wollstonecraft, John Stuart & Harriet Taylor Mill, and Betty Friedan Black Feminist Standpoint Theory: Patricia Hill Collins Intersectional Theories: understanding multiple inequalities
13	Student presentation (3)	Student presentation and discussion on intersectionality and privilege
14	Theories on Inequality: One More Time	What have we learned? Where to go from here? Short presentation and discussions of "favorite concepts"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Since the class is centered on reading and discussion, students are expected to do the readings before class and also review materials after each class. Every effort will be made to keep the amount of readings reasonable and enjoyable. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

The instructor will prepare materials to be distributed in class or downloaded from the university portal.

【References】

Grabb, Edward G. 2007. *Theories of Social Inequality*. 5th edition. Toronto, Canada: Thomson Nelson.

【Grading criteria】

Presentations (20%), reading assignments (40%), take-home examination (30%), class participation (10%).

Inappropriate use of AI tools in assignments and exams will result in a failing grade. The final exam will include an oral component to measure students' understanding.

【Changes following student comments】

No feedback has been made (a new instructor).

【Others】

If you enjoy reading, thinking, and discussion, this course may be a good fit for you. Students who have taken and enjoyed courses in political theory, philosophy, cultural anthropology, or sociology are also likely to find this course engaging. However, students without any sociological background are encouraged to take a relevant introductory or intermediate course first, as this is an advanced sociology course.

Also, students who have passed *Introduction to Sociology* and *Race, Class, Gender I* will be given admission priority.

【Prerequisite】

See "others"

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

Corporate Social Responsibility

Sairan Hayama

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce and explore the diversified perspectives and understandings on Corporate Social Responsibility (CSR). We are going to develop an understanding of CSR in the global context and learn why and how modern corporations are managing CSR in their business activities. The major topics dealt with in this course will be Defining CSR, CSR Concepts and Theories, Cases for and against CSR, CSR-Related Concepts (CSV, ESG & Sustainability), CSR to Stakeholders, CSR in the Marketplace, and CSR in the Workplace.

【Goal】

The goal of this course is to help students build the basic understanding of CSR, know how CSR is applied in different arenas of business and explore CSR management in companies. Students will be able to define CSR and explain the meanings of CSR strategic practices in modern corporations after taking this course.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 / Lecture

【Method(s)】

The class format consists of lecture and discussion, group work, class presentation, assignments, quizzes, and exams. In order to develop a global vision and analytical thinking, students will be encouraged to discuss their findings from the course materials and compare their own personal cultural views with those of their peers. Therefore, regular attendance is required for this course. Feedback will be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Introduction	Orientation & introduction
2	CSR in a Global Context	Introduce the key concepts in corporate social responsibility, the essential issues relevant to the responsible management of businesses.
3	The Cases for and against CSR-1	Discuss different perspectives for and against arguments regarding CSR. (lecture & discussion)
4	The Cases for and against CSR-2	Discuss different perspectives for and against arguments regarding CSR. (lecture & discussion)
5	CSR-Related Concepts and Theories-1	Explore the concepts and related theories of CSR. (lecture & discussion)
6	CSR-Related Concepts and Theories-2	Explore the concepts and related theories of CSV. (lecture & discussion)
7	Responsibilities to Stakeholders-1	Who are the stakeholders? How should companies respond to these stakeholders? (lecture & discussion)
8	Responsibilities to Stakeholders-2	What are the responsibilities of companies for stakeholders? (lecture & discussion)
9	Case Study-1 Mid-term Exam	Company A regards employees as No.1 stakeholders and adopt stakeholder-oriented management philosophy and implement CSR positively.
10	CSR and ESG in the Marketplace	How to improve the triple(ESG) bottom line by implementing an engaging, authentic, and business-enhancing CSR program that helps staff and business thrive.(lecture & discussion)

11	Case Study-2	Company B - BOP business in Africa. A case study on the business designed for people who live at the bottom of the base pyramid.
12	CSR and SDGs	Discuss human rights ,work-life balance and SDGs related issues. (lecture & discussion)
13	Case Study-3	Company C - family friendly company. A case study on the work-life balance implementations.
14	Case Study-4 Final Exam (Presentation)	Company D - corporate citizenship in the community. A case study on corporate citizenship and sustainable development.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to prepare for each class by reading the handouts and reviewing the companies' CSR implementations assigned by the instructor. The reference books recommended by the instructor are listed in the syllabus. The recommended time for preparatory study and review is two hours each.

【Textbooks】

Handouts and reading materials will be provided by the instructor in face-to-face class meetings.

【References】

1. Andrew Crane & Dirk Matten (2016), Business Ethics: Managing Corporate Citizenship and Sustainability in the Age of Globalization, Oxford Univ. Printing.
2. Andrew Crane, Dirk Matten and Laura J. Spence (2014), Corporate Social Responsibility: Readings and Cases in a Global Context, Routledge.
3. Charlotte Walker & John D. Kelly edited (2015), Corporate Social Responsibility? : Human Rights in the New Global Economy, University of Chicago Press.
4. Jeremy Moon (2015), Corporate Social Responsibility: A Very Short Introduction, Oxford Univ. Printing.
5. J.Okpara & S.O. Idowu edited (2016), Corporate Social Responsibility: Challenges, Opportunities and Strategies for 21st Century Leaders(CSR, Sustainability, Ethics & Governance), Springer.
6. Peter Baines (2015), Doing Good By Doing Good: Why Creating Shared Value is the Key to Powering Business Growth and Innovation, Wrightbooks.

【Grading criteria】

Participation and Attitude: 30%

Assignment/Report/Presentation: 30%

Midterm: 20%

Final Exam: 20%

1. According to GIS policy, only two unexcused absences are acceptable.
2. Maintaining a positive learning environment is important. Please be aware that leaving the classroom without permission will negatively affect your grade and will be considered an early departure. Leaving and reentering the classroom during a lecture disturbs the class.
3. Avoid making basic grammatical errors when submitting assignments or exams. These errors will negatively affect your grade.

【Changes following student comments】

Students taking this course are required to have basic business management knowledge.

【Equipment student needs to prepare】

To help you stay focused during lectures and group discussions, please follow the instructor's instructions about using personal computers in class.

【Others】

A formal document of proof is necessary when you are absent from the class meetings because of recruiting interviews which are on an assigned date by the company. Absences for free selection group interviews will not be given consideration since the needs of the class have priority.

【Prerequisite】

None.

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

Financial Statement Analysis

Karen Kai Lin Lai

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course introduces students to the interpretation and analysis of corporate financial statements. Emphasis is placed on understanding financial position, operating performance, cash flows, and financial risk through ratio analysis, trend analysis, and integrated financial statement analysis. The course develops students' ability to think analytically and apply financial information to decision-making contexts.

【Goal】

The goals of this course are to:

1. Understand the structure and content of financial statements.
2. Apply financial ratios and analytical techniques to assess company performance.
3. Conduct comprehensive financial analysis for decision-making processes.
4. Demonstrate critical thinking and communication skills through case studies and discussion.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The class is conducted mainly through lectures and discussions. I highly recommend that students make full use of the lecture slides available on the Hosei Learning Management System (HOPPII), both during and after class.

Feedback on Assignments:

Model answers will be provided after submission, and key points will be reviewed and discussed in class to ensure that students clearly understand the appropriate approaches and underlying reasoning.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Financial Analysis & Financial Thinking	Purpose of financial analysis; users; role of finance; abstraction; analytic reasoning
2	Balance Sheet and Income Statement Fundamentals	Assets, liabilities, equity; revenues and expenses; accrual accounting; statement relationships
3	Liquidity and Short-Term Financial Health	Working capital, current and quick ratios, short-term solvency
4	Profitability and Operating Performance	Profit margins; ROA; ROE; interpreting performance

5	DuPont Framework and Return Decomposition	ROE decomposition: links between profitability, efficiency, and leverage
6	Efficiency and Asset Utilization Analysis	Asset turnover, inventory, and receivables management
7	Review and Midterm Examination	In-class midterm examination
8	Leverage, Capital Structure, and Financial Risk	Debt financing; leverage ratios; interest coverage (Assignment released)
9	Cash Flow Statement and Cash Flow Analysis	Operating, investing, and financing cash flows; earnings vs cash
10	Trend and Comparative Financial Analysis	Horizontal analysis; vertical analysis; peer comparison
11	Integrated Financial Statement Analysis	Combining liquidity, profitability, efficiency, leverage, and cash flow analysis
12	Introduction to Forecasting and Valuation Concepts	Pro-forma thinking; assumptions; valuation intuition (Assignment submission deadline)
13	Applied Practice and Group Discussion	Group discussion, applied review, and feedback
14	Wrap-Up and Final Examination	Wrap-Up and Final Examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to spend approximately two hours per week on review and two hours per week on preparation for upcoming classes.

【Textbooks】

Main Text

Bigel, K. S. (n.d.). Introduction to financial analysis. Open Textbook Library.

【References】

Subramanyam, K. R., & Wild, J. J. (2020/2023). Financial statement analysis (10th or 11th ed.). McGraw-Hill Education. (Students are not required to purchase the supplementary text; the instructor may provide selected references.)

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on the midterm examination (35%), final examination (35%), case study assignment (20%), and class participation (10%)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

None.

【Prerequisite】

Basic knowledge of accounting principles and financial reporting is preferred.

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

International Finance

Keiichiro Omae

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火6/Tue.6

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is an advanced class to learn key concepts of international finance. We cover topics such as financial markets (money, foreign exchange, bonds, stocks, etc.) and roles of financial institutions (commercial banks, investment banks, insurance companies and various types of funds (hedge funds, pension funds, etc.)). We also cover variety of financial products such as derivatives (futures, options), structured products and cryptocurrencies.

Regardless of whether you want to work in financial industry or not, in your future professional career, you will work with global financial institutions and be impacted by international financial markets in various situations no matter what type of business you engage in. Through this course, you will obtain deep and practical understanding of financial markets, institutions and products that will be a great asset for your future career.

【Goal】

You should be able to apply theories and knowledge we learn in the class in a real-world situation. The goal of this course is to prepare yourselves to start your professional career successfully in international business environment.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

This class consists of lecture and discussion based on real-world examples. In addition to a Final Exam, several mini tests (quiz) will be conducted from time to time to check your understanding of basic concepts. While class participation is also an important component of the entire grade, adoption of “cold call” or “warm call” will be decided depending upon the preparedness and enthusiasm of registered students. Feedback is given in class or after class on a group or an individual basis.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction and review of key concepts
2	Basics of Finance and Market	Understand the role of finance and market in the economy
3	The Stock Market	Understand how the stock market works including roles of Stock Exchange
4	The Bond Market	Understand how the bond market works and how the interest rates are decided
5	The Foreign Exchange Market	Understand how the foreign exchange market works
6	Derivatives	Understand derivatives such as futures, forwards and options
7	Financial Institutions and Funds	Understand roles and characteristics of financial institutions
8	Valuation (1)	Learn valuation using Discount Cash Flow method
9	Valuation (2)	Learn valuation using comparable method
10	Option (1)	Learn concept of option including “real option”
11	Option (2)	Learn option pricing model
12	Recent Topics in International Finance	To apply learned concepts to real world financial economy
13	Wrap Up	Review all concepts learned
14	Final Exam and Review	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You will be expected to read and digest materials distributed before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

It is also expected to prepare questions in case you do not fully understand the facts or concepts in the materials. Detail of expected preparation for the following class will be provided in each class.

【Textbooks】

There are no textbooks required. Handouts and case studies will be distributed in advance for each class.

【References】

Zvi Bodie, Alex Kane, and Alan J. Marcus. (2021). Essentials of Investments 12th ed. McGraw-Hill. (ISBN: 978-1260772166)

Zvi Bodie, Alex Kane, and Alan J. Marcus. (2023). Investments 13th ed. McGraw-Hill. (ISBN: 978-1266837319)

(The textbooks below are discontinued and available only in libraries)

Bodie, Zvi, Robert C. Merton, and David L. Cleeton. (2009). Financial Economics. 2nd ed. Prentice Hall. (ISBN: 978-0131579521)

(Japanese Translation)

『現代ファイナンス論』(原著第2版) ボディ、マートン、クリートン著

大前恵一朗訳 ビアソン (2011) (ISBN: 978-4864010160)

【Grading criteria】

The grading will be based on the final exam (50%), quizzes/assignments (30%) and class participation (discussion, etc.) (20%).

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

Using a laptop PC in class is permitted but not required.

【Others】

There is no prerequisite in terms of financial knowledge to take this course.

However, because this is an advanced class, basic understanding of economics and financial statements is preferred, but not required.

The first class will be held in person in class. However, please pay attention to the announcement in Hoppi and/or the class management system to confirm the format of the first class.

【Prerequisite】

None.

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

Services Marketing

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木1/Thu.1

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

What are services? The service sector, which includes finance, education and tourism, now accounts for around 80% of developed countries' economies and today's graduates are highly likely to be employed in such organizations. The purpose of this course is to provide students with an in-depth understanding of the theoretical and practical processes of marketing services, with a particular focus on tourism. Driven particularly by more demanding customers and advances in technology, organizations are pursuing closer and more interactive relationships with their customers, with important consequences for marketing. It is essential for companies and destinations to understand the impact of these changes in order to maintain and develop competitive advantage.

This course will consider strategic issues in services marketing; we will also consider micro-marketing issues relating to service design, the service experience, tourist behavior and the challenges and opportunities for managers presented by recent technological developments.

Students will engage in additional learning opportunities such as group discussions and presentations. We will analyze a number of tourism-related case studies in addition to other service sectors.

【Goal】

This course aims to give students insights into the particular characteristics of marketing services such as tourism. After exploring current marketing theory on destination marketing, consumer value creation and the consumer experience, the course will apply these to the management and marketing of services.

From the consumer perspective, students will learn about consumer behavior, the impact of the service environment and forming relationships with service providers. From an organizational perspective, we will consider managing the service environment, innovation and developing service brands in order to facilitate consumer value creation and provide more memorable and rewarding experiences.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

Classes will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation in addition to lectures. In group projects, students will gain an in-depth understanding of a particular organization/destination and must then present the results of their analysis.

Assignments will be submitted and returned, with feedback, via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of services marketing
2	Marketing Intangible Experiences	Considering the challenges of marketing intangible experiences and utilizing the 7Ps
3	Consumer Value Creation	Considering the concept of value, and analyzing theories relating to the new marketing paradigm of value co-creation
4	The Experience Economy	Analyzing this seminal text and considering the implications for service providers as economies evolve beyond goods and services

5	The Service Experience and the Servicescape	Exploring the design of the service environment and the impact on service consumption & customer satisfaction. In addition, considering the various stages of service delivery.
6	Case Study I	An in-depth analysis of service marketing & management: examining the role of employees in facilitating consumer value creation, including intercultural sensitivity
7	Consumer Decision Making	Examining the influences on consumer decision-making and how organizations can manage these
8	Service Quality and Service Delivery	Examining consumer perceptions of quality and organizational strategy
9	Case Study II	An in-depth analysis of contemporary service marketing & management: The Kiwi Experience
10	Innovation and New Service Development	Considering the challenges and opportunities for organizations in developing new services: focus on Airbnb
11	Developing Service Brands	Investigating branding and differentiation as well as recent developments in CSR.
12	Group Presentations I	Student group presentations
13	Group Presentations II	Student group presentations
14	Examination & Course Wrap Up	Examination & wrap up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned both individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: RoutledgePalmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing*. London: McGraw HillPine, J. and Gilmore, J. (2011) (Updated Edition). *The Experience Economy*. Harvard: Harvard University Press

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30% - individually assessed)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

More examples have been included to reflect the growing interest in sustainability and its importance on services marketing.

From the 2026 academic year, as a general rule, students will not be permitted to use laptops or other devices during class. Lecture slide handouts will be provided to help students follow the lecture. Students may only use devices for specific tasks when requested to do so by the instructor.

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

Students are strongly encouraged to have taken/concurrently take **at least one** other tourism-related courses, such as the 100-level 'Introduction to Tourism Studies', the 200-level 'Event Management' and 'Tourism Development in Japan' courses or the 300-level 'Cultural Tourism' course.

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

None.

MAN300ZA (経営学 / Management 300)

Supply Chain Management

Kayhan Tajeddini

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木6/Thu.6

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Global supply chains interact with all facets of business and society. In this interdisciplinary course, students will gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations. Students will explore the interrelationships between global supply chains, logistics operations, society, and the environment. The study of business operations will be set in the context of social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade. Students will examine the impacts of current trade systems on both production and consumption regions and the human and environmental consequences of trade patterns.

【Goal】

1. For students to gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations through understanding how modern, global supply chains and logistics networks operate.
2. For students to understand the multi-disciplinary facets of how a global supply chain can be viewed, analyzed, and operated.
3. For students to explain multiple key social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade, and apply them to the analysis of supply chains.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introductory Session Operations and Productivity	Introductory session - operations and productivity
2	Project Management	Demand forecasting in a supply chain
3	Design of Goods and Services	Concepts for product and service design that include a supply chain perspective
4	Managing Quality, Statistical Process Control	The use of statistical techniques to control a process or production method
5	Process Strategy and Sustainability	The development and implementation of process strategy the development
6	Capacity and Constraint Management, Location Strategies	Incorporating capacity issues into management
7	Midterm Exam Layout Strategies	Midterm Exam How to develop an economic layout
8	Human Resources, Job Design, and Work Measurement	How human resources, job design, and work measurement affect the organizational effectiveness
9	Supply-Chain Management	Main components of supply chain management

10	Outsourcing as a Supply Chain Strategy Inventory Management	Manage, improve and optimize the supply chain by hiring a third-party company
11	Aggregate Planning Material Requirements Planning (MRP) and ERP	Understanding the difference between ERPs and MRPs in managing different levels of performance and capabilities
12	Short-Term Scheduling, JIT and Lean Operations	Different types of production system
13	Maintenance and Reliability	The importance of maintenance and reliability management in any well-functioning production
14	Course Review Final Exam	Course review Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete regular reading assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Jay Heizer, Barry Render, 2011, Operations Management, 10e
Principles of Operations Management, 8e
Pearson Education, Inc. publishing as Prentice Hall
ISBN-13: 9780135107263

【References】

Chopra, Sunil and Peter Meindl, *Supply Chain Management*, Sixth Edition, Person Education, Inc., Upper Saddle River, NJ, 2015.
Johnsen, Thomas, Mickey Howard, and Joe Miemczyk, *Purchasing and Supply Chain Management: A Sustainability Perspective*, Routledge, 2014.

【Grading criteria】

Quiz: 20%

Presentation: 20%

Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

【Changes following student comments】

Student requests and comments will be taken into consideration.

【Prerequisite】

None

ECN300ZA (経済学 / Economics 300)

International Economics

Karen Kai Lin Lai

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The course provides a thorough exploration of international trade, including core principles, theories, and practical aspects. It covers topics such as the Ricardian and Heckscher-Ohlin models, trade policies, and the functions of international economic institutions. Additionally, it addresses crises and responses within the realm of international trade. While the course primarily involves lectures, I highly encourage active participation and class discussions.

【Goal】

The goals of this course are to:

- 1.Understand the fundamental principles, theories, and practical aspects of international trade.
- 2.Evaluate the impact of various trade policies on international trade flows and economic welfare.
- 3.Examine the roles and functions of international economic institutions, identify crises, and analyze their responses."

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

At the start of each class, quizzes will be distributed, or group discussions will be held to reinforce key concepts before introducing a new chapter. Feedback will be provided after the quizzes: answers will be provided, followed by a brief discussion and review. I highly recommend that students make use of the lecture slides available on the Hosei Learning Management System (HOPPII) both during and after class. As the assignments emphasize discussion and conceptual understanding, key points will be reviewed and discussed in class to ensure that students clearly understand the appropriate approaches and underlying reasoning.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course	Introduction to the course
2	Absolute Advantage	Absolute Advantage
3	Ricardian Model of Comparative Advantage	Ricardian Model of comparative advantage
4	Heckscher-Ohlin Model of Comparative Advantage	Heckscher-Ohlin Model of comparative advantage
5	Intra-Industry Trade	Intra-Industry Trade
6	The Political Economy of Trade	The Political Economy of Trade
7	Midterm exam (Assignment 1)	Midterm exam (Assignment 1)
8	Trade Policy Analysis(Assignment 1 due)	Trade Policy Analysis(Assignment 1 due)
9	The World Trade Organization	The World Trade Organization
10	Preferential Trade Agreements	Preferential Trade Agreements
11	Multinational Enterprise and Foreign Direct Investment (Assignment 2)	Multinational Enterprise and Foreign Direct Investment (Assignment 2)
12	Crises and Responses (Assignment 2 due)	Crises and Responses (Assignment 2 due)
13	Review and Discussion (Global Value Chains)	Review and Discussion (Global Value Chains)
14	Wrap-up and the Final Exam	Wrap-up and the Final Exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review are required. Students are expected to spend two hours per week on review and two hours per week on preparation.

【Textbooks】

The primary materials for the course are the lecture slides.

【References】

For reference, please consult "An Introduction to International Economics" by Kenneth A. Reinert, Second Edition.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on Class participation (20%), Assignments (20%), Midterm exam (30%) and Final exam (30%)

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Attendance Policy

Students are permitted a maximum of two absences per semester. Those exceeding this limit must schedule a consultation with me.

Important Note:

If you have been enrolled in this class but wish to drop it, please send me an email before the second week of class.

Students who did not attend the first week (selection week) are not eligible to enroll in this class.

【NONE】

Basic knowledge of business, economics, and finance is preferred.

ECN300ZA (経済学 / Economics 300)

Stock Investment

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This is an advanced level finance course that focuses on the concepts of stock investment: characteristics of stocks, the market, stock valuation and dividend policy. Students will also apply investment theories into practice based on a virtual stock market simulation.

【Goal】

The end goal of the class is to apply the strategies of stock investment into an actual stock portfolio based on a virtual stock market simulation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

This course is taught primarily through lectures and discussions. Feedback is given during class, using tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and overview
2	Basics of Stock Investing (1)	Setting up your virtual account Common approaches and risks
3	Basics of Stock Investing (2)	Snapshot of the market
4	Basics of Stock Investing (3)	Investing for growth and income
5	Investment Strategies (1)	Technical analysis (MACD, Volume, and RSI)
6	Investment Strategies (2)	Technical analysis (Dow Theory)
7	Investment Strategies (3)	Ten challenges and opportunities for stock investors
8	Investment Strategies (4)	"The Intelligent Investor" by Benjamin Graham
9	Financial Assets (1)	Financial markets and institutions
10	Financial Assets (2)	Stocks and their valuations
11	Financial Assets (3)	Valuing constant growth stocks and non-constant growth stocks
12	Distribution to Shareholders	Dividends versus capital gains
13	Stock Market Discussion	Stock market booms and crashes
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which you understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Read the chapters in the assigned reference book and the textbook. Update and monitor your stock portfolio constantly. The preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Mladjenovic, Paul. *Stock Investing For Dummies*, 2016.
Graham, Benjamin. *The Intelligent Investor: The Definitive Book On Value Investing*, 2016 (Revised Edition).
Brigham, Eugene, Houston, Joel F. *Essentials of Financial Management*, 4th Edition, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2018.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (12%), in-class pop quizzes (18%), portfolio report (35%), and one final exam (35%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Preference will be given to students who have taken 'Foundations of Finance' because we will be utilizing knowledge of financial statement analysis and time value of money in this course.

Students who are interested in taking this course must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

【Prerequisite】

Foundations of Finance.

SES300ZA (環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300)

International Environmental Policy

Stephen Chitengi Sakapaji

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木1/Thu.1

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course explores opportunities and challenges for international environmental regulations, examining the interactions between international organizations, national governments, NGOs, multinational corporations, and local communities in global environmental rule-making. Students will engage in a detailed analysis of global environmental governance, addressing key sectors such as agriculture, forestry, biodiversity, climate, urbanization, and trade. Through case studies, policy analysis, and simulations, students will develop a critical understanding of the complex dynamics involved in shaping international environmental policy.

【Goal】

By the end of this course, students should be able to:

1. Understand the historical evolution and current state of global environmental governance.
2. Identify the roles of key actors in the international environmental policy arena.
3. Analyze the interaction between global environmental policies and national/local governments.
4. Critically evaluate the effectiveness of various international environmental agreements.
5. Develop and propose policy solutions to address global environmental challenges.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course consists of short lectures and interactive class discussions and presentations in which students address, from a critical perspective, the topics covered each week (prepared prior to class). Feedback will be given through the following:

- Comments from submitted reaction papers and insightful comments from reaction papers will be introduced in class and used in deeper discussions.
- Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.
- In the final class, comments and explanations will be given for assignments (tests and reports, etc.) for all classes taken/held during the semester.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to International Environmental Policy	Overview of key themes, historical evolution of governance, introduction to key actors
2	Global Environmental Governance Frameworks	Discussion on multilateral environmental agreements (MEAs), principles of environmental governance
3	Role of International Organizations	Group presentations on the role of international organizations
4	National Governments and Environmental Policy	Case study: U.S. withdrawal from the Paris Agreement
5	The Role of NGOs in International Env-policy Discussions	Case study: Greenpeace's impact on global climate policy
6	Multinational Corporations and Environmental Governance	Debate on the role of corporations in environmental governance
7	Group Presentations	Group Presentations
8	Biodiversity and International Environmental Policy	Case study: International efforts to protect endangered species

9	Agriculture, Forestry, and Environmental Governance	Role-playing simulation on international deforestation negotiations
10	Urbanization, Trade, and Environmental Policy	Case study: Sustainable urban development in megacities
11	Trade and Environmental Conflicts	Case study: The tuna-dolphin dispute between the US and Mexico
12	Local Communities and International Policy	Case study: Indigenous rights in international climate policy
13	Global Environmental Justice and Equity	Group discussion on global environmental equity
14	Conclusion	Reflections on the course and the way forward for int. env. policy

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; Preparation of discussion talking points and questions; Group report/presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

1. Biermann, F., & Pattberg, P. (Eds.). (2012). Global Environmental Governance Reconsidered. MIT Press.
2. Carter, N. (2021). The Politics of the Environment: Ideas, Activism, Policy (4th ed.). Cambridge University Press
3. Chasek, P. S., Downie, D. L., & Brown, J. W. (2020). Global Environmental Politics (8th ed.). Routledge.
4. IPCC reports, WTO case files, and other supplementary articles will be provided weekly.

【References】

Various references will be noted within the course materials. Each week's materials would include essential resources that would be accessed through reputable platforms such as UNEP, IPCC, CBD, WTO, and academic journals like Global Environmental Politics and Environmental Politics. These would provide comprehensive overviews, case studies, and frameworks for deeper understanding.

【Grading criteria】

1. Class Participation (30%): Active participation in class discussions/presentations/reflection paper/debates and demonstrating engagement with class readings.
2. Group Presentation (30%): Students will be given a topic from a given list of discussed class topics to present.
3. Final Exam (40%): A mix of multiple-choice questions and short essay questions covering key concepts from key topics discussed in class.

【Changes following student comments】

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

【Equipment student needs to prepare】

Computer

【Others】

The instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course of the semester. Students will be promptly informed of any such changes in class.

【Prerequisite】

none

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Globalization and Politics

Jenny Balboa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 4/Tue.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course examines major contemporary global political issues and their relationship to globalization, with a particular focus on how globalization has reshaped democratic politics. It explores the rise of populism and authoritarianism, political polarization in the United States, and the impact of Brexit in Europe. The course analyzes how misinformation, post-truth politics, and declining trust in institutions have affected civic engagement and democratic governance. It considers how the uneven impacts of globalization — such as rising inequality, cultural tensions, and value-based divisions — have contributed to social fragmentation and political polarization, as well as challenges to democratic institutions. In addition, the course addresses ongoing conflicts and their implications for global stability and the rules-based international order. Students will critically assess these developments and evaluate possible policy responses to their social, economic, and political consequences.

【Goal】

In examining globalization and politics, the course is organized around three guiding questions:

- 1) What are the impacts and consequences of globalization?
- 2) What are the recent trends in global politics? and
- 3) What is the future of globalization and global politics?

Globalization has created opportunities for international cooperation, economic integration, and greater inclusion of marginalized voices. At the same time, it has also generated significant domestic and global tensions. The course recognizes that globalization produces both positive and negative consequences. We will explore how its benefits can be maximized while critically assessing how its harmful effects can be managed, mitigated, or reduced.

This course will help students develop a deeper understanding of contemporary political issues and strengthen their ability to analyze the significance of major global events. Through lectures, discussions, and active learning activities, students will enhance their critical thinking skills and improve their ability to articulate their ideas and reflections on course readings and current affairs. The final examination will consist of both objective and essay components based on lectures and class discussions.

Active learning will include group discussions and individual student presentations designed to build confidence in expressing ideas clearly, logically, and persuasively.

To receive credit for the course, students are required to attend lectures, participate in active learning tasks, submit a mid-term reflective essay, and pass the final examination, which will require careful reading and reflection on assigned materials.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【Method(s)】

The class combines lectures with active learning tasks, such as group reports, discussions, and individual presentations. We will also be watching videos and analyzing news and academic papers. To make the class more lively and interesting, you are encouraged to participate actively and share your opinion regarding the topic of the day and the reading materials. The first half of the course tackles the nature, impact, and consequences of globalization. The second half of the course examines the recent trends and future direction of globalization and politics.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Feedback will be provided in the Midterms and Final Exams.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Outline of the course, definition of terms, explanation of course requirements
2	Impact and Consequences of Globalization (a)	Nature and consequences of globalization/Group assignments are decided
3	Impact and Consequences of Globalization (b)	Globalization and inequality/Individual report topics are discussed and decided
4	Impact and Consequences of Globalization (c)	Global rift, resistance and backlash/Individual Report topics are discussed and decided
5	Active Learning 1: Task Group presentation	Group Presentation and Discussion
6	Recent Trends in Global Politics (a)	Post-truth politics and Identity politics
7	Recent Trends in Global Politics (b)	Populist and authoritarian leaders
8	Recent Trends in Global Politics (c)	Illiberal democracy
9	Recent Trends in Global Politics (d)	Brexit and the Far Right Movement in Europe
10	Active Learning Task: 1st Group	Individual student report
11	Active Learning Task: 2nd Group	Individual student report
12	Active Learning Task: 3rd Group	Individual student report
13	The Future of Globalization and Politics and Wrap-up/Review	Strategies to counter populism, illiberalism and deniers of history and science & Wrap-up discussion
14	Course Review	Final examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class is at least 2 hours each for every meeting. The students are expected to read the assigned materials prior to class and conduct research for the active learning tasks.

【Textbooks】

Class materials will be provided by the Instructor.

【References】

Arendt, Hannah. 1967. Truth and Politics. The New Yorker. February 25, 1967. Accessed at <https://www.newyorker.com/magazine/1967/02/25/truth-and-politics>

Case, Anne & Angus Deaton. 2020. Deaths of Despair and the Future of Capitalism. Princeton University Press.

Davos 2026: Special address by Mark Carney, Prime Minister of Canada. <https://www.weforum.org/stories/2026/01/davos-2026-special-address-by-mark-carney-prime-minister-of-canada/>

Frieden, Jeffry. 2017. The Politics of Globalization and Backlash: Sources and Implications. Conference Paper, American Economics Association, January 6, 2018. <https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020>

https://scholar.harvard.edu/files/jfrieden/files/the_political_economy_of_the_globalization_backlash.pdf

Fukuyama, Francis. 2018. Against Identity Politics: The New Tribalism and the Crisis of Democracy. Council on Foreign Relations: Foreign Affairs. <https://www.foreignaffairs.com/articles/americas/2018-08-14/against-identity-politics-tribalism-francis-fukuyama>

- Huntington, Samuel. 1991. *Democracy's Third Wave*. Journal of Democracy. Spring 1991.
- Huntington, Samuel. 2011. "The Clash of Civilizations?" In *Essential Readings in World Politics*. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics. (pp. 159-166)
- Kyle, Jordan and Brett Meyer. 2020. *High Tide? Populism in Power, 1990-2020*. Tony Blair Institute for Global Change. Accessed at <https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020>
- Milanovic, Branko. 2016. *Global Inequality*. Cambridge, Massachusetts, London: The Belknap Press of Harvard University Press. Chapters 1&3.
- Milner, Helen. 2018. *Globalization and its Political Consequences: The Effects on Party Politics in the West*. APSA Conference Paper, 2018. https://scholar.princeton.edu/sites/default/files/hvmilner/files/milner_globalization_political_consequences.pdf
- OECD. 2024. *The OECD Reinforcing Democracy Initiative: Monitoring Report — Assessing Progress and Charting the Way Forward (OECD Public Governance Reviews)*. OECD Publishing. <https://doi.org/10.1787/9543bcfb-en>
- Rodrik, Dani. 2000. "Has Globalization Gone Too Far?". In *The Global Transformations Reader*. David Held and Anthony McGrew (Eds). Polity Press. Chapter 28.
- Sen, Amartya. 2004. "How to Judge Globalism." In *The Globalization Reader*. Frank Lechner and John Boli (Eds). Blackwell Publishing.
- Sen, Amartya. 2004. "Universal Truths: Human Rights and Westernizing Illusion". In *Essential Readings in World Politics*. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics.
- Zakaria, Fareed. 1997. *The Rise of Illiberal Democracy*. Accessed at <https://www.foreignaffairs.com/articles/1997-11-01/rise-illiberal-democracy>

【Grading criteria】

Grading Criteria:

- 1) Class participation — 10%
- 2) Active learning tasks — 30%
- 3) Midterm Reflective essay— 20%
- 4) Final Examination ——— 40%

Notes:

- a) For the active learning tasks, other than applying what you learned in class, the activities also aim to enhance your presentation and teamwork skills. Excellent marks will be given to well-prepared, interesting presentations.
- b) Class participation – excellent marks will be given to those who raise relevant issues, contribute to class discussions in ways that reflect the reading materials, and treat the opinions of others with respect.

【Changes following student comments】

The active learning tasks may change depending on class size.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

There are strict university guidelines about plagiarism and AI (ChatGPT, Grammarly, etc) use. You may not use AI-generated work and pass it as your own for your class reports and essay tests. This would qualify as cheating and could result in disciplinary action. If you are using the work of others, including AI use, you need to cite them in your essay and reports.

【Prerequisite】

None.

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Advanced Comparative Politics

Sam-Sang JO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This advanced comparative politics course is designed to significantly enhance students' comprehension of the subject matter by broadening and deepening their knowledge, as well as enhancing their problem-solving abilities. Building upon the foundational concepts covered in "Introduction to Comparative Politics," the course navigates into more intricate aspects, facilitating a comprehensive exploration of the crises and challenges faced by political institutions. Specifically, the course undertakes a nuanced examination of the causes of crises and challenges to political institutions, requiring students to engage in a profound study encompassing modernization theory, its critics, nation-building, political development, parliamentary government, presidency, authoritarian institutions, regional institutions, the crisis of democracy, the populist explosion, a third wave of autocratization, and inequality. The goal is not only to develop a nuanced understanding of these critical topics but also to present a promising avenue for enhancing students' problem-solving abilities. This strategic approach aims to empower students with the tools to address real-world challenges within political institutions and to actively contribute to the improvement of political institutions, fostering a comprehensive skill set that goes beyond theoretical knowledge.

【Goal】

The overarching goal of this course is to deepen students' understanding of key crises and challenges faced by political institutions while enhancing their problem-solving abilities. Additionally, the course aims to refine students' skills as critical thinkers, analysts, and effective communicators. It is hoped that by the end of the semester students will find the course to be informative, interesting and enjoyable.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ/Seminar

【Method(s)】

Students are expected to engage in an appropriate amount of reading and will be evaluated through class participation, a mid-term exam, presentation, and short essay. Feedback on assignments will be provided through the online system.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり/Yes

【Fieldwork in class】

なし/No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theoretical Approach: Modernization Theory and its Critics	Samuel P. Huntington. 2006. "Political Order and Political Decay." In <i>Political Order in Changing Societies</i> . New York: Yale University Press.
3	The Historical Context: Nation-Building and Political Development	Francis Fukuyama. 2015. "What is Political Development?" In <i>Political Order and Political Decay: From the Industrial Revolution to the Globalization of Democracy</i> . New York: Profile Book.
4	Parliamentary Government	Arend Lijphart. 2012. "The Westminster Model of Democracy." In <i>Patterns of Democracy: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries</i> . Yale University Press.
5	Presidency	Matthew Soberg Shugart. 2008. "Comparative Executive-Legislative Relations." In <i>The Oxford Handbook of Political Institutions</i> . R. A. W. Rhodes and Sarah Binder (eds.). Oxford: Oxford University Press.

6	Authoritarian Institutions	Daniel Bell. 2016. "Preface to the Paperback Edition." In <i>The China Model: Political Meritocracy and the Limits of Democracy</i> . New Jersey: Princeton University Press.
7	Beyond the Nation-State: Regional Institutions	Donald J. Puchala. 2000. "Building Peace in Pieces: The Promise of European Unity." In <i>The Global Agenda</i> , Charles Kegley and Eugene Wittkopf (eds.). New York: McGraw-Hill, Inc.
8	Mid-term exam	Review
9	The Crisis of Democracy: Political Decay	Francis Fukuyama. 2015. "America the Vetocracy." In <i>Political Order and Political Decay</i> .
10	The Populist Explosion: Populism and Euroscepticism	John B. Judis. 2016. "The Rise of European Populism." In <i>The Populist Explosion: How the Great Recession Transformed American and European Politics</i> . Columbia Global Reports.
11	A Third Wave of Autocratization	Sergei Guriev and Daniel Treisman. 2023. "Fear and Spin." <i>Spin Dictators: The Changing Face of Tyranny in the 21st Century</i> . New Jersey: Princeton University Press.
12	Industrial Policy and Its Discontents: Inequality and Supercapitalism	Robert Reich. 2008. "The Paradox." In <i>Supercapitalism: The Transformation of Business, Democracy, and Everyday Life</i> . New York: Vintage.
13	An Alternative to Electoral Democracy?	No readings assigned Recommended: Daniel Bell. 2016. "Is Democracy the Least Bad Political System?" In <i>The China Model: Political Meritocracy and the Limits of Democracy</i> . New Jersey: Princeton University Press
14	Oral Presentation	Students must present your chosen essay topics to your peers. You are expected not only to provide an analysis for the identified issue but also to propose fresh ideas for the improvement of political institutions. The oral presentation should be around 5-6 minutes.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

In order to get the most out of class, you must be prepared when you come to class. Students are required to complete the readings prior to class meetings and to come to class ready to discuss them. I expect everyone to participate actively in the discussion of the day. The class is organized around the required readings and their topics. Every student should be able to summarize, analyze, synthesize, and evaluate each assigned reading by addressing the following questions:

- What is the author's purpose?
 - What is the basic theme(s) or argument(s) of the reading?
 - What are the most important historical events, information, concepts, etc. discussed in the reading?
 - How does this reading relate to the other readings and to the central themes of the course?
 - How powerful or weak is the argument and the evidence? Why?
- Students are expected to spend two hours per week on preparation.

【Textbooks】

A course packet containing assigned articles and book chapters will be posted in Hoppii.

【References】

Francis Fukuyama. 2015. *Political Order and Political Decay: From the Industrial Revolution to the Globalization of Democracy*. New York: Profile Book.

【Grading criteria】

class participation (20%), a mid-term exam (30%), presentation (20%), and short essay (30%)

【Changes following student comments】

Nothing in particular.

【Others】

・ If you have any questions or complications that we should be aware, feel free to contact me. The best way to contact me is probably through email. My email address: sam-sang.jo.86@hosei.ac.jp

・ The class will be structured around what I call a class dialogue in which information, knowledge, and thought will be generated through lecture, discussion and, in particular, the Socratic method. I will often play the role of provocateur and advocate to stimulate participation. The class dialogue emphasizes the importance of student participation and active learning as a means to improve one's skills, interest, information, knowledge, and, ultimately, understanding. In essence, class discussions will consist of an active exchange between the student and professor.

【Prerequisite】

None.

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Global Political Economy

Nathalie Cavasin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水4/Wed.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

We will examine the structure of the contemporary global political economy. Students will be introduced to the theories, debates and paradigms using case studies to develop an understanding of the global political economy. Students will also debate on the new political economy landscape and its effect on the global supply chain, the war in Ukraine, the war in the Middle East, the global rise in resource nationalism, the increase of state intervention in the economy, the global environmental governance among other topics. Specific attention will be put on the role of China and its increased participation in the global political economies, the rise of the “illiberal international”, the geopolitical tensions in the world and the recent trends regarding India's motivation to be a player in the yet to be multipolar global order.

【Goal】

Students through the assignments that are based on current events in the world (analysis with back-up from recent news) will be able to learn to express their opinions and develop their critical thinking skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【Method(s)】

Each week, in addition to readings to be done, written assignments will be assigned. These written assignments are mandatory as they are included in the evaluation. In addition, there will be an individual essay with a group presentation (topic to be decided later with the supervision of the professor) a book review project (on selected chapters) to be written and a critical written assignment during the last class. Students will receive written feedback (eventually oral feedback and mini-discussions with the professor in class) from the professor.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Introduction and overview of the course
2	Understanding the Evolution of the World Economy	Evolution of the world economy from the industrial revolution
3	Post-war Global Economy	The global economy: from 1945 to today
4	International Trade Patterns	International trade
5	Transnational Production Systems	Transnational production - Discussion on the impact of transnational corporations
6	How the Global Financial System Operates	The global financial system Decision on the topics for the essay-presentation project
7	International Division of Labor Analyzing Women in the World Economy	The international division of labor
8	Understanding the Notion of Development Today	Economic development
9	Discussion and Debate Essay - Submission (group 1 and 2)	Political economy of gender

10	What are the Most Challenging Environmental Issues Today in the World? Essay-Presentation (group 1 and 2) Essay - Submission (group 3 and 4)	Global environmental changes
11	Essay-Presentation (group 3 and 4) Essay - Submission (group 5 and 6) Looking at the Security in Political Economy	Political economy of global security
12	Ideas on global political economies Essay-Presentation (group 5 and 6)	Theoretical perspectives on global political economy
13	Book Review Assignment in Class	Governing the global political economy I
14	Critical Review of an Academic Paper: In-class Assignment	Governing the global political economy II

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Be always ready by preparing the pages of the readings given in advance before coming to the next class. Additional homework will be assigned such as preparing an update with a current affair in the world related to the discussion/class contents. It is expected to read newspapers and news magazines several times a week. Students will need to update themselves with current news to stay informed about key issues and debate both within Japan and in the world. Students should prepare the work for the essay and book review at the date defined in the course agenda table. Preparatory study and review time for this course are an average of 4 hours each week.

【Textbooks】

O'Brien R., and Williams M., *Global political economy: evolution and dynamics*, London, Bloomsbury Academic, 2022.

Additional materials will be distributed in class by the professor.

【References】

Examples of on-line websites to access the news:

- The Financial Times
- The New York Times
- The Financial Times
- The Guardian
- The Economist
- Foreign Affairs
- The Wall Street Journal
- Time
- Nikkei Asia
- Foreign Policy

【Grading criteria】

Participation (10%)

Participation (news debriefing report and one news report presentation, presentation related to homework) (20%)

Book Review (25%) (written assignment in Class 13)

Essay (20%) (Submission from Class 9 to 11(according to group number))

Final: (Written assignment in class-14 critical review of an academic paper) (25%)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

The professor may request that you use a computer, tablet or smartphone in order to access the Internet to prepare for the discussion or fact-check during the class. Otherwise, such devices cannot be used.

【Others】

- Taking photos in class (the slides or notes on the board or in the class) is not allowed unless requested by Hosei University. Recording in class is not allowed.

- AI (Artificial Intelligence) type of software is not allowed to be used for discussions in class or for written assignments in this course. Write all the assignments in your own words by using appropriately the academic sources from scientific journals.

【Prerequisite】

N/A

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

International Development Policy

Ippeita Nishida

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金2/Fri.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

International development policies have been formulated along two domains, one by the donor coordination group (i.e. providers of Official Development Aid), traditionally represented by the OECD-DAC and another at the multilateral agenda setting forum such as the United Nations. Then, increasingly, voices of the emerging economies such as India are assuming more weight than before. While these serve the purpose of advancing the lives of people and discussions are mutually-related, each has distinct interests and constraints. In this course, we aim to understand how international development policy/agenda is being formulated and what the current (and future) issues are. Specifically, students will explore: (1) the rationale and evolution of development policies by the donor community, (2) the more holistic and people-centered agenda setting at the United Nations and (3) interests of the emerging donors and current policy issues that would impact on the policies of international development, such as the "Global South" debate, impact of the Trump US and deterioration of international cooperation, etc.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To enable students to assess the development policy debates from multiple aspects.
- 2) To make students able to differentiate development agenda formulation process at different stakeholder groups.
- 3) To equip students with the holistic understanding of the ongoing issues that affect on the process of global development, through groupwork and discussion.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This class will have lectures and interactive discussions, as well as group/individual presentations where appropriate. Active participation is required. Students will undertake a final exam and have occasional quizzes and short papers to write. In addition to general feedback, insightful comments may be introduced in class to deepen discussions.

The course is composed of three parts. The first part (weeks 3-6) will have lectures on debates among traditional donors. In the second part (weeks 7-9), lectures will cover key discourses at the United Nations such as the basic human rights and the Sustainable Development Goals. The third part (weeks 10-13) will examine current policy issues that are related to development. Students may be tasked to do small researches and make individual/group presentations.

Except the first day, in principle, this class will adopt the face-to-face format, to allow students' direct interaction. Yet, it may use the online platform when necessary (in such case, students will be notified in advance). When possible and appropriate, on-going global events that relate to the course's subject will be touched. Also, pending on students' interests and availabilities of the host, one or two fieldwork trips may be introduced.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	・ Introduction
2	Overview of Discourse	・ History and institutions, and stakeholders ・ Emergence of the voice from "the South"
3	Concept of Aid	・ Concept of helping others, aid by state
4	Foreign Aid and ODA	・ Uses of "aid" in foreign policy ・ "Official Development Assistance (ODA)", Role of DAC
5	Debates over the Responsibility	・ Aid effectiveness ・ Financing aid ・ Common But Differentiated Responsibility (CBDR)
6	Donors' Policy	・ National agenda and policy orientation (case studies)
7	United Nations	・ Mandates and structure for development ・ Human rights and people-centric approach
8	SDGs	・ Formulating the "Sustainable Development Goals (SDGs)"
9	Synthesis Discussion 1	・ Reconciling states' interests and global agenda
10	Current Policy Issues 1	Contesting strategy and approaches to development: China's BRI and Japan's FOIP
11	Current Policy Issues 2	・ Debates on the "Global South"
12	Current Policy Issues 3	・ Impact of emerging donors ・ Impact of Trump 2.0 on international cooperation
13	Synthesis Discussion 2	・ Considering the world we live and the role of development cooperation
14	Final Exam & Wrap-up	・ In-class ・ Review of the learnings.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Occasional reading and writing assignments. Individual and/or group work for presentation. Preparatory study and review time for this class are expected about 2 hours each.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course. Students are required to read handouts and suggested articles/chapters from the references. Students may also be requested to watch short online videos at home.

【References】

Students are encouraged to read following references to further their understandings.

OECD (2006), *DAC in Dates: The History of OECD's Development Assistance Committee*

(available online at www.oecd.org/dac/1896808.pdf)

Lancaster, Carol (2007), *Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Politics*, University of Chicago Press

UN Document, A/RES/70/1, 21 October 2015 *Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development* (available online at <http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>)

Sachs, Jeffrey D (2015), *The Age of Sustainable Development*, Columbia University Press

Wickstead, Myles A. (2015) *Aid and Development: A Brief Introduction*, Oxford University Press

Hynes, W. and S. Scott (2013), *The Evolution of Official Development Assistance: Achievements, Criticisms and a Way Forward*, OECD Development Co-operation Working Papers, No. 12, OECD Publishing

(available at <http://dx.doi.org/10.1787/5k3v1dv3f024-en>)

【Grading criteria】

Class Participation: 20%

Quiz, Short Papers, etc.: 40%

Final Exam: 40%

【Changes following student comments】

Constructive comments and feedback from students are always welcomed and will be taken into consideration.

【Equipment student needs to prepare】

None in the class.

But, access to PC/electric device and Wi-Fi may be required, when class is held on-line (e.g. first class).

【Others】

For students to successfully complete the class, basic understandings of the development theory, development thoughts as well as international relations are needed. GIS students wishing to register for this class are recommended to have taken "Introduction to Development Studies" and/or "Development Studies". Also, knowledge of international relations, international organizations and foreign policy will be of benefit, etc. Those who are keen to learn on-going global affairs may also find some of the class contents interesting.

【Prerequisite】

None (see "Others" for recommended classes).

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

International Law

Kiyoshi Adachi

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木4/Thu.4

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with a basic understanding of international law, with a particular emphasis on the impact that international law instruments and practices have on national laws and policies. The course begins with an introduction to general principles of international treaty and customary law, examining important cases and doctrines that have developed over time. The first part of the course will conclude with a framework of analysis that students may consider in assessing both the respective merits and limitations of international law instruments. The second part of the course will look at how international law has attempted to shape the world we live in by examining selected areas where it has tried to influence human behavior, including security, human rights, the environment, health, trade/investment and other commercial issues, and the global commons. This year's course will be offered online by a Legal Officer of the United Nations.

【Goal】

At the end of the course, students should be able to have a basic understanding of international law instruments, with an emphasis on recognizing the impact and limitations of treaties in their historical, economic, social and political contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

The course will be conducted using lectures, group discussion and exercises, and one negotiation simulation exercise. As an online course, students will need access to the Internet. Writing assignments will include a case brief, mid-term exam and final exam. All assignments will be returned graded with feedback within a week.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction to International Law	Introduction to International Law
2	Treaties	A Brief History of Treaties The Vienna Convention; How to Read Cases and Write a Case Brief
3	Resolving International Disputes	International, Regional and National Courts, Arbitration, Jurisdiction
4	Treaties Related to Security Issues	Treaties and Wars – Versailles, Potsdam and San Francisco; The UN Charter; Treaties Limiting Arms (Nuclear Arms, Chemical/Biological Weapons, etc); Bilateral and Multilateral Approaches
5	Treaties Related to Humanitarian Issues	The Geneva Conventions; The 1951 Refugee Convention and 1967 Protocol Group Exercise: Applying the Refugee Convention; A Framework for Analyzing Treaties
6	Human Rights	Universal Declaration of Human Rights; International Covenant on Civil and Political Rights International Covenant on Economic and Social Rights; Convention on the Rights of the Child; Convention on the Elimination of All forms of Discrimination against Women

7	Mid-Term Examination and Health-related Treaties	Examination will be distributed to students at the beginning of the period
8	Review Mid-Term Examination, Health-related Treaties (continued)	The UN Drug Control Conventions (1961, 1971 and 1988); Case Study - The Curious Case of Cannabis; Framework Convention on Tobacco Control
9	Treaties on Economic, Commercial and related Issues	Policy Space and Developing Countries; The WTO Agreements - Multilateral Agreement on Trade in Goods; Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights; Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements; US, Japanese and European Bilateral Agreements; CPTPP; Interface between Commercial and other issues
10	Treaties on Economic, Commercial and related Issues	Policy Space and Developing Countries; The WTO Agreements - Multilateral Agreement on Trade in Goods; Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights; Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements; US, Japanese and European Bilateral Agreements; CPTPP; Interface between Commercial and other issues
11	Group Simulation Exercise	Case Study: Plain Packaging of Tobacco Products in Australia Simulation Exercise Negotiating a Bilateral Trade Agreement
12	Environmental Treaties	CITES, Convention on Biological Diversity, UNFCCC/Paris Agreement
13	Global Commons	Law of the Sea – UNCLOS World Heritage, Antarctica
14	Final Examination and Wrap Up	Examination will be distributed to students at the beginning of the period

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to attend the online classes and read weekly assignments ahead of the session for which it is assigned.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Klabbers, *International Law*, 4th Ed., Cambridge University Press.
case readings, treaty text, articles as assigned

【References】

Additional reference material will be provided in class.

【Grading criteria】

1 Case Brief Writing Assignment 10%

1 Mid-Term Examination 35%

1 Final Examination 35%

Group Work and Participation 20%

【Changes following student comments】

n/a

【Equipment student needs to prepare】

As an online course, students should have access to the internet and a quiet place to listen to the lectures, participate in group work, as well as to take the mid-term and final examinations.

【Prerequisite】

None.

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Peace Building

Aigul Kulnazarova

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木2/Thu.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course examines the evolving field of peacebuilding in international relations, with a focus on the social, economic, legal and political forces shaping war and peace, conflict prevention, resolution, management and transformation, alongside the use of force, and other related concepts. The course is designed for upper-level undergraduate students specializing in global studies, international relations, security studies, and similar programs. Building on lectures, discussions, readings, presentations, and cases, the course aims to enhance students' understanding of critical issues and challenges related to international peacebuilding processes, as well as their transformation in today's global politics. Students will engage with theoretical and policy debates while developing analytical skills essential for evaluating peacebuilding efforts at international, regional, national and local levels.

【Goal】

By the end of the course, successful students will be able to:

- Explain various theoretical frameworks of peacebuilding in international relations.
- Analyze the legal, political, and ethical aspects of armed conflicts and their resolution under international law.
- Identify links between humanitarian interventions and prospects for sustainable peacebuilding.
- Understand the growing role of humanitarian factors and their specific challenges and constraints in postconflict peacebuilding.
- Integrate knowledge, skills, and competencies in peace and conflict studies, international relations, international law, and the evolving field of peacebuilding.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

Z その他 /Other

【Method(s)】

This course will utilize a blend of lectures, interactive discussions, and other active learning methods, adapted for each class. Sessions are 100 minutes long and held weekly. Roughly half the time will be for lectures, with the other half reserved for student presentations, Q&A, and group case study work relevant to the week's topic.

There will be two timed exams, one in Week 7 and another in Week 14. Each exam will include multiple-choice, true/false, and short-answer questions. Additionally, the final exam will feature two essay questions. Both exams will be timed, closed book, and will take place during class sessions. No class materials, including student notes, as well as laptops and other electronic devices will be allowed during the exams (For additional information about the exam policy, see “Others”).

The midterm exam (Week 7) will cover the lectures from weeks 1 through 6, while the final exam (Week 14) will cover the lectures from weeks 1 through 13. Retakes will not be allowed. Students are expected to attend classes, take notes, and review the content covered to succeed in these exams.

In the interim between the two exams, there will be short-response assignments in Week 2, Week 4, and Week 10 to test students' cognitive, independent learning, and critical thinking skills. These assignments will reflect the topics covered during those weeks, as well as the associated reading materials. Alongside exams and short-response assignments, students will analyze a journal article chosen from the weekly schedule (“Readings”). Beginning in Week 3, one-third of each class will be allocated for individual presentations on chosen journal articles (“Discussion paper”). A detailed handout outlining guidelines will be distributed during the first session.

Feedback will be provided after student presentations, discussions, and group work (“good” or “what needs to be improved,” etc.). Scores and/or comments on written assignments, including exams, will be provided individually via Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Peacebuilding	What is peacebuilding? Definition and elements, and their significance in international relations. Historical context: peacebuilding in the post-World War II era. Key concepts: war, peace, security. Course organization and content.
2	Theoretical Diversity: Conflict and Peace	Theories of conflict. Theories of peace. Practical approaches to peace. Key concepts: peacemaking, peacekeeping, peacebuilding. Definition and instruments of conflict prevention.
3	Conflict Prevention and Early Warning Systems	Role of diplomacy and international organizations. Early warning signs. Discussion paper presentations.
4	The Role of the United Nations in Peacebuilding	Overview of UN peacekeeping and peacebuilding operations. Case studies: Bosnia, Rwanda, and East Timor. Criticisms and reforms of UN peacebuilding efforts. Discussion paper presentations.
5	Use of Force	Legal and ethical considerations of the “use of force.” Just War theory. UN Charter, state sovereignty, and military interventions. Case studies: Iraq, Afghanistan, Russia – Ukraine war. Discussion paper presentations.
6	Humanitarian Intervention	The evolution of humanitarian intervention. Responsibility to Protect (R2P). Sovereignty vs. human rights: dilemmas and debates. Role of international organizations and coalitions in humanitarian intervention. Case studies: Kosovo, Libya, Syria. Discussion paper presentations.
7	Review. Midterm Exam	Review (Weeks 1-6). Timed, closed-book exam. No presentations.
8	Peace Agreements	Nature and structure of peace agreements. Mediation and negotiation. Case studies: Dayton Accords, Good Friday Agreement, Sudan Peace Agreement. Challenges of implementation and enforcement. The role of spoilers. Discussion paper presentations.
9	Peacebuilding I: International and Regional Frameworks	UN peacebuilding architecture. The UN in peace processes: Rwandan Genocide, East Timor. Regional peacebuilding architectures: African Union, ASEAN, LAS, SAARC, etc. Discussion paper presentations.
10	Peacebuilding II: Local Contexts, Peace, and Development	Role of “The Local” in peacebuilding. Resources and processes. Dilemmas of humanitarian relief and foreign aid. The documentary film in-class, “Poverty, Inc.,” drawing from 200 interviews conducted in 20 countries, reveals a less-discussed and perhaps uncomfortable truth about international aid and development programs in the Global South. No presentations.

11	Peacebuilding III: Human Security, Human Rights, and Global Governance	Human security – human rights synergy: Article 28 of the UDHR. Dimensions of human security: UNDP Human Development Report 1994. Human security – peacebuilding nexus. Discussion paper presentations.
12	Peacebuilding IV: Women, Peace, and Security	Feminist peace theory. Human security, women's security and gender justice. The UN Security Council Resolution 1325. Gender-sensitive approaches to conflict resolution and peacebuilding. Discussion paper presentations.
13	Challenges of Peacebuilding for the 2020s. The Future of Peacebuilding	New forms of violence: terrorism, social protests, and unconventional warfare. Emerging security threats: climate change, cyber conflicts, AI in warfare. The crisis of multilateralism and the future of international peacebuilding. Discussion paper presentations.
14	Wrap-Up. Final Exam	Review (Weeks 1– 13). Timed and closed book exam. No presentations.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class is at least 2 hours per week.

[Textbooks]

There are no required textbooks for this course.

[References]

Weekly readings, selected from academic journals will be posted on Google Classroom.

[Grading criteria]

Weekly class reflections, participation, learning attitude and attendance: 10%

Short-response assignments: 10%

Discussion paper and presentation: 20%

Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

IMPORTANT NOTE:

The final reflects weekly class participation, learning attitude, and attendance, which are assessed as part of the course grading criteria above. For additional information about the exams, see “Others.”

[Changes following student comments]

Any changes made to the syllabus are based on the instructor's reflection and not directly influenced by student input.

[Equipment student needs to prepare]

Students are NOT allowed to use electronic devices (including smartphones, PCs, etc.) during class. They are strongly encouraged to take notes from lectures each week using a good set of pens and notepads to pass exams. No lecture material will be posted online.

[Others]

CLASS POLICIES

Exam Policy

The midterm and final exams are closed book. Students will be prohibited from using notes, textbooks, electronic devices, or any external materials during the exams. Any student found violating this rule will be disqualified from the exams and will receive a score of zero (0) for that assessment. Cases of academic misconduct will be reported under university policies.

Attendance Policy

Attendance in all classes is expected as part of the university's academic regulations. Absences without legitimate documentation, such as a doctor's certificate, will not be accepted. Under the GIS rules, absences related to job hunting or similar activities will not be considered valid excuses.

No-Laptop/Digital Device Policy

To create a focused and distraction-free learning environment, personal laptops, phones, tablets, and other digital devices are strictly prohibited during class sessions, unless explicitly permitted by the instructor for specific activities. Students should keep all devices turned off and stored away. Those who repeatedly disregard this rule will face point deductions that will be reflected in their final grade.

Concerning the Use of Generated AI Tools

In line with Hosei University's “Basic Approach to Generative AI Tools” and academic integrity, in this course students shall refrain from using AI-generated text in their written assignments, midterm and final exams. Students may use generative AI/LLMs, but only as auxiliary tools for editing, translation and similar purposes. In no case should coursework content be generated (created) by generative AI tools. Any work detected as excessively generated by AI-powered programs will cause a failing grade.

[Prerequisite]

No course prerequisites are required.

TRS300ZA (観光学 / Tourism Studies 300)

Cultural Tourism

Yiyang Sun

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月1/Mon.1

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

Cultural tourism is defined as “A form of tourism that relies on a destination’s cultural heritage assets and transforms them into products that can be consumed by tourists.” (du Cros &McKercher, 2015: p.6).

Regarded as one of the oldest forms of tourism, it exists in many forms. This course will cover the 4 elements within the definition: (i) Cultural tourism within the broader field of tourism, (ii) Utilization of destinations’ Cultural Assets, (iii) Consumption of Cultural Tourism Experiences, and (iv) Tourists and the Host Community.

We will consider the importance of cultural assets: as a way to define and understand nations, as a manifestation of people’s ethnicities and identities as well as a vital driver of tourism. To do so, we will analyze the role played by various stakeholders, such as governments, businesses, the media, NGOs and conservation organizations such as UNESCO &ICOMOS.

【Goal】

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand the various forms of cultural tourism
- 2) Understand the key organizations involved in providing and conserving cultural tourism at local, national and international level
- 3) Understand the role of cultural tourism in destination branding and marketing
- 4) Understand the role of cultural resources in forming people’s national and local identity, and how these are preserved and managed
- 5) Understand the complexities of stakeholder relations in the management of cultural tourism resources

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A broad range of case studies can help students consolidate their learning.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a selected destination through a case study, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted and returned with feedback via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Cultural Tourism and the Class Format	Introduction to the course content, the class format and the field of cultural tourism (CT)
2	Cultural Tourists & Host Communities	Analyzing tourist demand for CT and the role of CT in destination management & development. Also, considering the important socio-cultural role of CT from the host community’s perspective.
3	Cultural Tourism and Authenticity	What is an ‘authentic’ experience? Considering the authenticity of tangible and intangible resources, and the importance of authenticity for visitors & local communities.
4	Impacts of Cultural Tourism	Considering the economic and socio-cultural impacts of CT on host communities
5	Culture & Nation Branding	Considering the strategic role of culture for developed & developing countries’ destination brands and tourism ‘portfolios’

6	Politics of Cultural Tourism & Dark Heritage Sites	Considering the role of socio-political attitudes in influencing how culture is interpreted and the subjectivity of history: whose version of history prevails and from what perspective(s) is it presented?
7	World Heritage Sites 1	Considering concepts and definitions of heritage tourism, and the management of built and natural heritage resources
8	World Heritage Sites 2	Considering the value of heritage resources for host communities, and the management and preservation of heritage sites
9	Cultural Visitor Attractions	Considering the educational and conservational role of cultural visitor attractions. Also the range of management issues, including developing an engaging visitor experience and designing effective interpretation.
10	The Marketing of Cultural Tourism	Considering the challenges & issues relating to the marketing of CT
11	Gastrotourism & The Future of Cultural Tourism	Considering the role of food & drink as cultural resources. Also possible ways cultural tourism may develop in the future.
12	Group Presentations I	Presentations on group case study destinations
13	Group Presentations II	Presentations on group case study destinations
14	Final examination and wrap up	Open-book format; students must answer 2 essays from a choice of 5 essay questions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned reading individually and in groups as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. *Please note, as a 300-level class the reading load is heavy.*

【Textbooks】

There is no set textbook. The course will refer frequently to the textbook by Park (2014; see below), which can be bought or rented through the publisher’s website, or accessed via the Hosei library. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

du Cros, H. and McKercher, B. (2015). *Cultural Tourism* (2nd Edition). London: Routledge
Jimura, T. (2019). *World Heritage Sites: Tourism, Local Communities and Conservation Activities*. London: CABI
Park, H. (2014). *Heritage Tourism*. London: Routledge

【Grading criteria】

1. Class participation & assignments (30%)
2. Group project (40%)
3. Term paper (30%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures. Students are expected to complete a lot of reading for this course!

To improve students’ group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

Although not essential, this course will be more accessible for students who have taken other tourism-related courses. As such, students are strongly recommended to have taken one or more of the following: 100-level Introduction to Tourism Studies or the 200-level Event Management or Tourism Development in Japan courses.

【Prerequisite】

None

LIN300ZA (言語学 / Linguistics 300)

Advanced Topics in English Linguistics

Yuta Sakamoto

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

In this course, we discuss formalisms for analyzing syntactic/grammatical phenomena including, e.g. the distribution of pronouns, WH movement, etc (see the contents in the schedule below) within the framework of generative grammar. Examples will be drawn mainly from English but, whenever necessary, from a wide variety of other languages.

【Goal】

In the end of this class, students are expected:

1. to understand the basics of syntactic theories.
2. to obtain techniques and formalisms for analyzing various syntactic phenomena.
3. to be able to investigate their interest in a certain syntactic phenomenon.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

I will give lectures on syntax within the framework of generative grammar to students based on the three textbooks listed in the references. Each lecture will be accompanied by in-class exercise in order for me to check students' understanding of the class materials. In the end of this class, each student is expected to write a short squib on the basis of their own interest in syntactic phenomena. Depending on the number of registered students, I will give feedback to students either by email or in person before/after class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Class outline
2	Review 1	Review of "Introduction to Syntactic Theory"
3	Review 2	Review of "Introduction to Syntactic Theory"
4	Binding Theory	The distribution of pronouns (e.g. John believes that Nancy hates him vs. *John believes that Nancy hates himself)
5	Head Movement	Verb movement, question formation, and VSO language (e.g. Why do we sometimes need "do" in the sentence-initial position of a question sentence?)
6	NP Movement	Case, Passive, and Raising (e.g. Why do the passive construction look "similar" across languages?)
7	WH Movement	Wanna contraction, locality, and island (e.g. Who do you wanna visit? vs. *Who do you wanna visit Fred?)
8	Logical Form	Wh-in-situ and scope (e.g. Why is the sentence "Someone loves everyone" ambiguous?)
9	Exam	Written exam for the content #3-8
10	Raising vs. Control	Movement, empty category, and idiom (e.g. John is likely to leave vs. John is reluctant to leave)
11	Double Object Construction	Ditransitive Verb (e.g. theoretical problems with Vs taking two objects)
12	Ellipsis	Silent structure in language (e.g. What did John agree to see, and what did he refuse to vs. *what did he refuse?)
13	Preparation for Presentation	Presentation outline

14 Student Presentation Short oral presentation for a squib

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students need to review handouts after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None. Handouts will be distributed in class.

【References】

Radford, Andrew. 1988. Transformational Grammar: A First Course. Cambridge University Press.

Haegeman, Liliane. 1990. Introduction to Government and Binding Theory (2nd ed.). Wiley-Blackwell.

Carnie, Andrew. 2021. Syntax: A Generative Introduction (4th ed.). Wiley-Blackwell.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation (20%), the exam (40%), and the final squib (40%).

【Changes following student comments】

N/A

【Prerequisite】

None. However, students are highly recommended to have already taken the "Introduction to Syntactic Theory" class.

LIN300ZA (言語学 / Linguistics 300)

Language Policy

Geraldo Faria

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火5/Tue.5

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

In this course, you will learn how Language Policy is defined as an academic subject. This course will cover major concepts behind language policies. By drawing on various topics related to language variation (e.g. social class and gender), this course will provide an accessible and engaging overview of Language Policy.

【Goal】

The understanding of language policies that cause and result in linguistic mechanisms utilized by particular members of a given society so as to distinguish themselves from societal members. The broad goal of this course is to promote social understanding and justice in schools, communities, and corporations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

After an introduction to the topics in the form of mini-lectures, examples of policies or general concepts will be presented for discussion, activity, and analysis. This course will contain assignments and writings outside of class, which may be presented in class. Note that the suggested topics may vary slightly depending on the number of registered students and their interests. Finally, submissions of assignments and their feedback will be via Google docs (unless students are notified previously).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Concepts	Language overview and policies that affect its use by members of a given society
3	Language Planning	Language policies prescribed by governments to standardize language use
4	Language and Social Class	Social stratification and linguistic differentiation within a society
5	Language and Geography	National languages (standard registers) versus dialects
6	Designing a Project Related to Language Policy	Preparation for a study (requirements, data, analysis, text production, and presentation)
7	Language and Gender	Constraints (types, consequences, and formation of gender-neutral language) imposed by the gender of speakers.
8	National Policies on Foreign Language Studies	Mid-term review quiz Implications of governmental regulations on the choice of foreign language studies
9	Multilingualism	The language of minority groups within a larger society
10	Endangered Languages and Fieldwork Studies	Assimilation, language death, linguistic and societal implications / Language policy research models
11	Migrations and Pidginization of Languages	Human migration and its effects on language (second language, linguistic transition, and the language of the next generation)
12	Profession-specific Registers	Specialized language as a means to distance groups from non-specialists
13	Presentations of group projects	Students will give short academic presentations, followed by feedback
14	Consolidation	End-of-course assessment, feedback, and wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete weekly reading assignments before class and review previous handouts before the following class. They should also organize their notes in the form of a notebook or a computer file. Students must choose a topic, and prepare a presentation with a handout, which will be delivered in class.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. The teacher will provide handouts, reading material, and links to online data.

【References】

Crystal, David. *The Cambridge Encyclopedia of Language*. Third Edition. Cambridge University Press, 2010 ISBN 9780521516983

Finegan, Edward. *Language: Its Structure and Use*. Harcourt Brace Jovanovich, 1992 ISBN 0729512681

Johnson, David. *Language Policy*. Palgrave MacMillan, 2013 ISBN 9781403911858

Pereltsvaig, Asya. *Languages of the World*. Cambridge University Press, 2014 ISBN 9780521175777

Yule, George. *The Study of Language*. Fifth Edition. Cambridge University Press, 2014 ISBN 9781107044197

The teacher will suggest material appropriate to the students' projects and interests through either the Internet or reference books available at the library.

【Grading criteria】

Grades will be based on exams (mid-term 30% and final 30%), assignments 30%, and participation 10%.

【Changes following student comments】

No feedback yet received.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop or smartphone may be used to research an in-class assignment. Students may choose to take notes using their laptops.

【Others】

Students should have an enthusiasm to investigate (in)formal language policies that affect social justice globally.

【Prerequisite】

None

LIT300ZA (文学 / Literature 300)

Advanced Topics in English Literature

Miui Watanabe

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月2/Mon.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Medieval and Early Modern English literature had a profound impact on the English language, and its literary and cultural legacy pervades modern popular culture, from fantasy novels to Hollywood blockbusters. The course introduces students to some of the canonical texts of English literature, beginning with Old English poetry and concluding with writers from the English Renaissance, such as Shakespeare and Spenser. By providing students with the opportunity to engage with texts across a wide spectrum of genres, periods, and languages, the course facilitates a deeper understanding of how English literature emerged and developed during this crucial period in literary history. The writings will be studied with regard to their literary and socio-historical context, making reference to topics including class, religion, gender, and other thematic concerns. In addition to close analytical readings of the texts in modern English translations, students will also be introduced to literary forms and practices of pre-modern English literature through the examination of works in their original language. Prior experience in a literature course is strongly recommended.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- Gain basic knowledge of the major works and the cultural and historical circumstances of their production/reception.
- Understand key concepts and terms of literary studies, particularly those crucial to understanding medieval and early modern literature.
- Be able to analyse texts and make critical interpretations.
- Develop transferrable skills, including critical reading and academic writing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will consist of introductory lectures by the instructor, followed by discussions, presentations, and/or close analytical reading of the text. Feedback on assignments will be provided through the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course description; introduction to early English literature
2	Old English Poetry	Introduction to Old English poetry
3	<i>Beowulf</i> (1)	Historical context; structure and style
4	<i>Beowulf</i> (2)	Scholarship; issues of translation; class discussion; quiz
5	<i>Sir Gawain and the Green Knight</i> (1)	Introduction to romance; alliterative revival
6	<i>Sir Gawain and the Green Knight</i> (2)	analytical reading; presentations
7	Mid-Term	Course review; Q&A Session; quiz
8	14th Century Moral Texts	Social commentary; allegory; <i>Piers Plowman</i>
9	<i>The Canterbury Tales</i> - Nun's Priest's Tale (1)	Social/historical context; beast fable
10	<i>The Canterbury Tales</i> - Nun's Priest's Tale (2)	Close analytical reading session
11	<i>The Canterbury Tales</i> - Nun's Priest's Tale (3)	discussion of themes; review of text
12	English Renaissance (1) - Sonnets	From Middle English to Early Modern; learning to read sonnets

13	English Renaissance (2) - Theatre	Mystery & Morality Plays; <i>William Shakespeare</i>
14	Course Review	Review of entire course; Q&A Session

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all assigned readings for each week and arrive prepared to contribute to class discussions. Additionally, they will be required to submit written assignments, and prepare to lead a close reading session of an assigned passage in Week 10. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None. Reading material will be provided by the instructor.

【References】

Alexander, Michael. *A History of English Literature*. 3rd ed., Palgrave Macmillan, 2013.
 Goring, Paul, et al, editors. *Studying Literature: The Essential Companion*, 2nd ed, Bloomsbury Academic, 2010.
 Lapidge, M., et al., editors. *The Wiley Blackwell Encyclopedia of Anglo-Saxon England*, 2nd ed. Wiley, 2013.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation (30%), reading quizzes (20%), written assignments (20%), mid-term exam and final exam (30%). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

Additional review time has been incorporated throughout the course to support student comprehension.

【Prerequisite】

None.

LIT300ZA (文学 / Literature 300)

Advanced Topics in Japanese Literature

Kevin Thomas Niehaus

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金2/Fri.2

Notes : TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module) band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

How do we process the experience of encountering a new language and culture? How does that process in turn affect our own personal language and identity? In this course, we will read translations of personal essays and fiction written in the Japanese language by contemporary authors undergoing such experiences, including Japanese authors living abroad and non-Japanese authors writing in their adopted language. As we compare their stories and observations, we will also consider how the act of writing provides each author with a space to form and perform new cultural identities and personal idioms.

【Goal】

Students will practice reading and writing critically as they explore dynamics of culture, language, and identity in modern Japanese literature.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Classes will be divided roughly evenly between lectures and guided discussions. Short quizzes will be given to assess comprehension of weekly readings. Students will submit midterm and final papers. In-class feedback will be given for reaction papers, and students will receive personal feedback on written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction and selection exam
2	Transnational Literature and the Modern Canon	Considering the place of the stories in this class in “Japanese literature”
3	Culture Shock and Interpretation	Tawada, <i>Where Europe Begins</i>
4	Exophony and Border Crossing	Tawada, <i>Where Europe Begins</i>
5	Language, Literature, and Imagined Communities	Mizumura, <i>A True Novel</i>
6	Language and the Construction of Identity	Mizumura, <i>The Fall of Language in the Age of English</i>
7	Review and Midterm Examination	A review of topics covered in the first half of the course
8	Language and Belonging	Levy, <i>A Room Where the Star-Spangled Banner Cannot Be Heard</i>
9	The Right to Language	Levy, <i>A Room Where the Star-Spangled Banner Cannot Be Heard</i>
10	Transnationalism and Ideology	Zoppetti, <i>Ichigensan</i>
11	Writing within the Canon	Zoppetti, <i>Ichigensan</i>
12	Modern Trends I	Yang, <i>Wan-chan</i>
13	Modern Trends II	Li, <i>Solo Dance</i>
14	Final Synthesis	Review major themes of the course and discuss new frontiers in transnational Japanese literature

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of weekly reading assignments and prepare to actively engage in class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Readings will be distributed through Hoppii.

【References】

Li, Kotomi. *Solo Dance*. World Editions, 2022.

Levy, Ian Hideo. *A Room Where The Star-Spangled Banner Cannot Be Heard: A Novel in Three Parts*. Columbia University Press, 2011.

Mack, Edward. *Manufacturing Modern Japanese Literature: Publishing, Prizes, and the Ascription of Literary Value*. Duke University Press, 2010.

Mizumura, Minae. *A True Novel*. Other Press, 2014.

Mizumura, Minae. *The Fall of Language in the Age of English*. Columbia University Press, 2015.

Tawada, Yoko. *Where Europe Begins*. New Directions, 2007.

Zoppetti, David. *Ichigensan: The Newcomer*. Ozaru Books, 2011.

【Grading criteria】

Class contribution (15%), response papers and written assignments (20%), quizzes (15%), midterm paper (25%), final paper (25%)

【Changes following student comments】

None.

【Others】

The readings and schedule are subject to modification at the instructor's discretion. Any changes will be announced in the first week of the course.

【Prerequisite】

None.

POL300ZA (政治学 / Politics 300)

Politics and Media

Romeo Marcantuoni

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火2/Tue.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

Politics is a public affair, but it is one that is more often than not experienced through print, newspapers, radio, television, or social media. Ideally, media informs citizens about the world, but the information we receive is never neutral. That brings with it certain political effects. Media can, for instance, transform niche political issues into the main theme of an election by giving some stories more attention than others; or, social media influencers can recruit young men into their far-right ideology while they accrue advertising money. One invariably shapes the other.

This course is about the various ways that media and politics intersect. It will focus on how older forms of media have lost their ability to "gatekeep" issues and ideas from entering public sphere, thereby giving space to new political actors to set the agenda and find electoral success. It will also pay close attention to the still emerging dynamic between political challengers and alternative media.

【Goal】

By the end of the course students will

- be better equipped to deal with the current media and information environments
- understand the role of information and media in the political process
- be able to empirically analyze both traditional emerging forms of media

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

This class will primarily revolve around lectures with opportunities for discussion on the weekly readings. Participation is strongly suggested. Students will have to decide on a research topic for a final presentation. Specific comments are given during office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What are the political roles of media?
2	Traditional Media	The evolution of media from printing press to televised political debates
3	Public Opinion	How does the media shape public opinion?
4	Social Media and Algorithmic Politics	Politics under Web 2.0 and beyond
5	The Influencer Industry	How has the influencer industry transformed political communication?
6	Political Parties and Technology	How do parties use media technology to win elections
7	Social Media and Elections: The Case of Japan	A look at the role of social media in Japanese politics from 2024 to today
8	Fake News and Disinformation	How do states use fake news and disinformation to pursue their interests?
9	Conspiracy Theories	What are conspiracy theories and why do they damage democracy?
10	Radicalization on the Net	How does the internet recruit and radicalize users into extremist ideologies?
11	Presentations and Discussion	Group presentations and open discussion
12	Presentations and Discussion	Group presentations and open discussion
13	Media in the Age of AI	Wrap-up of the course and a discussion of the evolving role of AI in media
14	Final examination and wrap up	Finals on the content of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are required to come to class having completed the mandatory readings. Students will also have to engage in research for a final presentation.

【Textbooks】

There is no textbook for this course

【References】

Readings will be provided by the instructor

"A Propaganda Model, by Edward Herman and Noam Chomsky (Excerpted from Manufacturing Consent)." n.d. Accessed January 16, 2026. <https://chomsky.info/consent01/https://chomsky.info/consent01/>
Soroaka, Stuart N. 2012. "The Gatekeeping Function: Distributions of Information in Media and the Real World." The Journal of Politics, ahead of print, April. New York, USA. <https://doi.org/10.1017/S002238161100171Xhttps://doi.org/10.1017/S002238161100171X>
Szebeni, Zea, Ilana Hartikainen, Sophie Schmalenberger, and Michael Cole. 2025. "Banana Populism: Exploring the Emotionally Engaging, Authentic, and Memeable Rhetoric of Populist Visual Communication." Social Media + Society 11 (1): 20563051251313847. <https://doi.org/10.1177/20563051251313847https://doi.org/10.1177/20563051251313847>

Rasheed, Huma et al. 2025. "From Punchlines to Politics: The Joe Rogan Experience as a Case Study of the Politicization of Apolitical Spaces in the U.S." APSA Preprints. doi: 10.33774/apsa-2025-v05hb. Chapter 3 of Dommett, Katharine, Glenn Kefford, and Simon Kruschinski. 2023. Data-Driven Campaigning and Political Parties: Five Advanced Democracies Compared. 1st ed. Oxford University Press. New York. <https://doi.org/10.1093/oso/9780197570227.001.0001https://doi.org/10.1093/oso/9780197570227.001.0001>

Vaccari, Cristian, and Augusto Valeriani. 2016. "Party Campaigners or Citizen Campaigners? How Social Media Deepen and Broaden Party-Related Engagement." The International Journal of Press/Politics 21 (3): 294– 312. <https://doi.org/10.1177/1940161216642152https://doi.org/10.1177/1940161216642152>

Fahey, Robert A. 2023. "Social Media in the 2021 Election Campaign." In Japan Decides 2021: The Japanese General Election, edited by Robert J. Pekkanen, Steven R. Reed, and Daniel M. Smith. Springer International Publishing. https://doi.org/10.1007/978-3-031-11324-6_13https://doi.org/10.1007/978-3-031-11324-6_13

Fahey, Robert A. 2025. "Social Media in the 2024 General Election." In Japan Decides 2024, edited by Kenneth Mori McElwain, Robert J. Pekkanen, and Daniel M. Smith. Palgrave Macmillan.

Taylor, Charlotte. 2023. "Disinformation and Immigration Discourses." In The Routledge Handbook of Discourse and Disinformation. Routledge.

Marcantuoni, Romeo, and Robert A. Fahey. 2025. "Fighting the Cabal from the Diet: Sanseitō and the Role of Conspiracy as Political Ideology." Asia-Pacific Journal: Japan Focus 23 (September): 1–17. <https://doi.org/10.1017/apj.2025.10018https://doi.org/10.1017/apj.2025.10018>

Munger, Kevin, and Joseph Phillips. 2022. "Right-Wing YouTube: A Supply and Demand Perspective." International Journal of Press/Politics 27 (1): 186 – 219. <https://doi.org/10.1177/1940161220964767https://doi.org/10.1177/1940161220964767>

Maly, Ico. 2020. "Metapolitical New Right Influencers: The Case of Brittany Pettibone." Social Sciences 9 (7): 113. <https://doi.org/10.3390/socsci9070113https://doi.org/10.3390/socsci9070113>

【Grading criteria】

Participation: 20%

Group presentation: 40%

Finals: 40%

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

N/A

【Prerequisite】

None.

EAE300ZA（環境解析学 / Environmental analyses and evaluation 300）

ST I : Analysis of Environmental Cases

Yen-Chu Weng

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course draws on a range of natural and social science disciplines to address complex environmental issues. A socio-environmental synthesis framework is introduced to guide students through the process of analyzing environmental cases. Students will practice integrating information from diverse sources and stakeholder perspectives to present evidence-based arguments and policy recommendations. Through in-depth case studies from the East Asian region, students will gain a deeper understanding of how environmental issues are shaped by interconnected ecological, social, cultural, political, and economic factors. The course culminates in a multi-phase group project that emphasizes research, interdisciplinary synthesis, presentation, and collaboration skills.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to:

- Identify and critically evaluate information from scholarly articles, government publications, public media, corporations, and private organizations.
- Analyze environmental issues from diverse perspectives, including social, economic, cultural, political, environmental, scientific, and technological dimensions.
- Synthesize information from varied sources and stakeholder perspectives to present comprehensive reviews of environmental cases.
- Apply academic research skills to identify high-quality sources and develop evidence-based analyses of environmental cases.
- Collaborate effectively in teams to achieve shared project goals and deliver professional presentations

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【Method(s)】

This course is delivered primarily through interactive lectures that incorporate a variety of active learning strategies, including in-class worksheets, small-group discussions, and problem-solving activities to enhance student engagement and understanding. In-class responses, quizzes, and homework assignments are given periodically as formative assessments to gauge students' grasp of the material. Feedback is provided both verbally during class discussions and in writing, including through platforms such as Hoppii. Students are encouraged to attend office hours for personalized guidance. The Group Case Study Presentations and Reports serve as summative assessments, allowing students to demonstrate their level of achievement of the course learning objectives. Multiple check-in assignments will be used to guide students through the research project.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course introduction What are case studies? What can we learn from case studies?
2	Dimensions of analysis	What are the key dimensions involved in analyzing environmental cases?
3	Socio-environmental Synthesis	What are socio-environmental systems (SESs)? What are the key features of SESs?
4	Socio-environmental Synthesis	How to synthesize diverse factors in SESs? How to model the interactions among factors in SESs?
5	Case Study 1: Social-Ecological Research in Changhua Coast, Taiwan	Understand the context and explore the key research questions.

6	Case Study 1: Social-Ecological Research in Changhua Coast, Taiwan	Analyze how socio-environmental factors and stakeholder perspectives are synthesized to address key research questions.
7	Group Project Introduction	Introduce the main objectives and requirements. Set up the groups and identify the case study topics.
8	Stakeholder Analysis	How to identify relevant stakeholders and their main interests and concerns? How to evaluate the relative influences of stakeholders?
9	Stakeholder Analysis	How to map stakeholder relationships and evaluate conflicts and synergies? What are methods for stakeholder engagement and deliberation?
10	Group Project Work Time	Guided group work time to assist students in formulating research questions and identifying relevant sources.
11	Case Study 2: The Case of Minamata Disease in Japan	Understand the context and explore the key research questions.
12	Case Study 2: The Case of Minamata Disease in Japan	Analyze how socio-environmental factors and stakeholder perspectives are synthesized to address key research questions.
13	Case Study Presentations	Group project presentations: feedback and discussions
14	Case Study Presentations	Group project presentations: feedback and discussions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review the lecture slides and other course materials (e.g. readings) after each class. Download the lecture slides, review lecture notes, read the reference readings, and complete assignments. Preparatory study and review time for this class is approximately 2 hours each. In the second half of the semester, students will work on a group project on an environmental case study. Additional research and project work time will be required outside of class (approximately 10 hours total).

【Textbooks】

No

【References】

Reference readings will be shared as webpage links or PDFs through the online learning management platform, such as Hoppii.

【Grading criteria】

Homework, worksheet, short papers: 20%

Quizzes: 15%

Environmental Case Study Presentation: 25%

Annotated Bibliography: 10%

Final Essay: 10%

Attendance and Participation: 20%

【Changes following student comments】

The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

No

【Others】

No

【Prerequisite】

No

EDU400ZA (教育学 / Education 400)

Seminar: Language Teaching and Learning I

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金2/Fri.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is designed for students interested in exploring second language (L2) education through both global and Japanese research perspectives. It delves into both the theoretical and practical aspects of second language learning (SLL). The course investigates effective strategies for teaching and learning languages in in-person, online, and hybrid environments. This course also addresses educational inequality through language education on a global scale. Special emphasis is placed on comparative studies conducted in Japanese and overseas educational contexts, including research on primary, secondary, and higher education settings, as well as community-based and out-of-school learning spaces. It caters to a diverse range of L2 learners within and outside traditional classroom settings. A key focus of the course is the core issues affecting L2 education, including exploring various teaching approaches and multimodal resources related to L2 motivational issues, educational settings with particular attention to the role of digital technologies, and more, that support and foster successful second language learning (SLL). The seminar also examines core issues influencing L2 learning success, including instructional design, learner autonomy, assessment, and sociocultural factors. Students will analyse similarities and differences between Japan and other educational contexts in terms of policy, equity, and access to technology-enhanced learning opportunities. They are expected to discuss and evaluate strategies for translating theory into effective pedagogical practice across varied learning situations. They are also encouraged to consider their potential contributions to learner support and reflect on future professional pathways in the related educational fields worldwide.

【Goal】

The course provides opportunities to:

1. Understand and explain key issues and challenges in global and Japanese L2 education.
2. Examine studies of second language learning (SLL) to inform effective L2 learning environments.
3. Acquire and summarise theoretical knowledge of core issues in L2 education.
4. Discuss and analyse connections between SLL theories and diverse L2 pedagogical approaches, including ICT-mediated and multimodal practices.
5. Apply basic principles of effective L2 education to support learners in Japanese and global contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【Method(s)】

This seminar is conducted through interactive reading, discussion, and research-based activities, and active participation in Q&A is expected throughout the semester. Each week, students will engage in text-reading sessions using several core texts on key issues in L2 education. Students are required to take turns selecting and sharing chapters or sections, presenting the main contents and raising questions for discussion. In parallel, each student will carry out an individual research project on a self-selected topic related to the seminar theme, which will form the basis for their seminar presentation, short reports, writing assignments, and final seminar paper. Fieldwork will occasionally be required to support these research tasks and to connect theory with practice. Detailed information will be provided via the learning management system (e.g., WebClass). Students will receive brief weekly formative feedback through in-class reflection sessions and via the LMS within a set timeframe after submitting weekly tasks, to support iterative improvement. Peer feedback will also be incorporated regularly. For major assignments (e.g., presentation materials and the final seminar paper), students will receive: 1) analytic written feedback aligned with the assignment criteria, and 2) several short individual feedback conferences to discuss revision strategies.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	SLL approaches (1)	Studies of learning environment (1)
3	SLL approaches (2)	Studies of learning environment (2)
4	SLL approaches (3)	Studies of learning environment (3)
5	SLL approaches (4)	Studies of learning environment (4)
6	L2 learners (1)	Studies of L2 motivation (1)
7	L2 learners (2)	Studies of L2 motivation (2)
8	L2 learners (3)	Studies of L2 motivation (3)
9	L2 learners (4)	Studies of L2 motivation (4)
10	paper research (1)	Studies of the related topics (1)
11	paper research (2)	Studies of the related topics (2)
12	paper research (3)	Studies of the related topics (3)
13	paper research (4)	Studies of the related topics (4)
14	Consolidation of Seminar I	Reviews and final discussion, and next steps towards Seminar II

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before class, students are required to carefully read and understand the assigned readings, be prepared to give short presentations, and participate in group discussions on related topics.
2. Students are also expected to prepare for any assigned fieldwork.
3. Students are required to spend approximately 4 hours per week on preparation and review for this class.

【Textbooks】

1. Gegenfurtner, A. & Kollar, I. (2024). *Designing effective digital learning environments*. Routledge.
2. Hubbard, P., & Levy, M. (Eds.). (2017). *The Routledge Handbook of Language Learning and Technology*. Routledge.
3. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2021). *Teaching and researching motivation*. (3rd ed.). Cambridge UP.

【References】

1. Baker, C. (2021). *Foundation of bilingual education and bilingualism*. Multilingual Matters.
2. Chapelle, C. A. (2016). *Technology in Language Teaching* (2nd ed.). Cambridge University Press.
3. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
4. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
5. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
6. Hagenauer, G., Lazarides, R. & Järvenoja, H. (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights*. Routledge.
7. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
8. Mäkitalo, A., Nicewonger, E. T. & Elam, M. (2019). *Designs for experimentation and inquiry: Approaching learning and knowing in digital transformation*. Routledge.
9. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.
10. Schunk, D. H. (2013). *Motivation in education: Theory, research, and applications*. (4th ed.). Pearson.
11. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.
12. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
13. Walker, R. & Adelman, C. (1992). *A guide to classroom observation*. Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Reading tasks (10%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Educational practices & fieldwork (30%)

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising various functions of LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

【Others】

1. Students are expected to be actively involved in various seminar activities, including fieldwork targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels to ensure the related studies examined in the seminar.
2. Information about details of the seminar activities is provided and discussed in class.

【Prerequisites】

1. Required to complete both TESOL I & II (priorities on those who also completed TESOL III and TESOL IV)
2. Required to complete at least one of the following courses (priorities on courses taught by the seminar instructor): Comparative Education, English Teaching in Primary School & its advanced course and Second Language Acquisition

EDU400ZA (教育学 / Education 400)

Seminar: Language Teaching and Learning I

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This course is designed for students interested in exploring second language (L2) education through both global and Japanese research perspectives. It delves into both the theoretical and practical aspects of second language learning (SLL). The course investigates effective strategies for teaching and learning languages in in-person, online, and hybrid environments. This course also addresses educational inequality through language education on a global scale. Special emphasis is placed on comparative studies conducted in Japanese and overseas educational contexts, including research on primary, secondary, and higher education settings, as well as community-based and out-of-school learning spaces. It caters to a diverse range of L2 learners within and outside traditional classroom settings. A key focus of the course is the core issues affecting L2 education, including exploring various teaching approaches and multimodal resources related to L2 motivational issues, educational settings with particular attention to the role of digital technologies, and more, that support and foster successful second language learning (SLL). The seminar also examines core issues influencing L2 learning success, including instructional design, learner autonomy, assessment, and sociocultural factors. Students will analyse similarities and differences between Japan and other educational contexts in terms of policy, equity, and access to technology-enhanced learning opportunities. They are expected to discuss and evaluate strategies for translating theory into effective pedagogical practice across varied learning situations. They are also encouraged to consider their potential contributions to learner support and reflect on future professional pathways in the related educational fields worldwide.

【Goal】

The course provides opportunities to:

1. Understand and explain key issues and challenges in global and Japanese L2 education.
2. Examine studies of second language learning (SLL) to inform effective L2 learning environments.
3. Acquire and summarise theoretical knowledge of core issues in L2 education.
4. Discuss and analyse connections between SLL theories and diverse L2 pedagogical approaches, including ICT-mediated and multimodal practices.
5. Apply basic principles of effective L2 education to support learners in Japanese and global contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【Method(s)】

This seminar is conducted through interactive reading, discussion, and research-based activities, and active participation in Q&A is expected throughout the semester. Each week, students will engage in text-reading sessions using several core texts on key issues in L2 education. Students are required to take turns selecting and sharing chapters or sections, presenting the main contents and raising questions for discussion. In parallel, each student will carry out an individual research project on a self-selected topic related to the seminar theme, which will form the basis for their seminar presentation, short reports, writing assignments, and final seminar paper. Fieldwork will occasionally be required to support these research tasks and to connect theory with practice. Detailed information will be provided via the learning management system (e.g., WebClass). Students will receive brief weekly formative feedback through in-class reflection sessions and via the LMS within a set timeframe after submitting weekly tasks, to support iterative improvement. Peer feedback will also be incorporated regularly. For major assignments (e.g., presentation materials and the final seminar paper), students will receive: 1) analytic written feedback aligned with the assignment criteria, and 2) several short individual feedback conferences to discuss revision strategies.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	SLL approaches (1)	Studies of learning environment (1)
3	SLL approaches (2)	Studies of learning environment (2)
4	SLL approaches (3)	Studies of learning environment (3)
5	SLL approaches (4)	Studies of learning environment (4)
6	L2 learners (1)	Studies of L2 motivation (1)
7	L2 learners (2)	Studies of L2 motivation (2)
8	L2 learners (3)	Studies of L2 motivation (3)
9	L2 learners (4)	Studies of L2 motivation (4)
10	paper research (1)	Studies of the related topics (1)
11	paper research (2)	Studies of the related topics (2)
12	paper research (3)	Studies of the related topics (3)
13	paper research (4)	Studies of the related topics (4)
14	Consolidation of Seminar I	Reviews and final discussion, and next steps towards Seminar II

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before class, students are required to carefully read and understand the assigned readings, be prepared to give short presentations, and participate in group discussions on related topics.
2. Students are also expected to prepare for any assigned fieldwork.
3. Students are required to spend approximately 4 hours per week on preparation and review for this class.

【Textbooks】

1. Gegenfurtner, A. & Kollar, I. (2024). *Designing effective digital learning environments*. Routledge.
2. Hubbard, P., & Levy, M. (Eds.). (2017). *The Routledge Handbook of Language Learning and Technology*. Routledge.
3. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2021). *Teaching and researching motivation*. (3rd ed.). Cambridge UP.

【References】

1. Baker, C. (2021). *Foundation of bilingual education and bilingualism*. Multilingual Matters.
2. Chapelle, C. A. (2016). *Technology in Language Teaching* (2nd ed.). Cambridge University Press.
3. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
4. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
5. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
6. Hagenauer, G., Lazarides, R. & Järvenoja, H. (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights*. Routledge.
7. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
8. Mäkitalo, A., Nicewonger, E. T. & Elam, M. (2019). *Designs for experimentation and inquiry: Approaching learning and knowing in digital transformation*. Routledge.
9. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.
10. Schunk, D. H. (2013). *Motivation in education: Theory, research, and applications*. (4th ed.). Pearson.
11. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.
12. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
13. Walker, R. & Adelman, C. (1992). *A guide to classroom observation*. Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Reading tasks (10%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Educational practices & fieldwork (30%)

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising various functions of LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

【Others】

1. Students are expected to be actively involved in various seminar activities, including fieldwork targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels to ensure the related studies examined in the seminar.
2. Information about details of the seminar activities is provided and discussed in class.

【Prerequisites】

1. Required to complete both TESOL I & II (priorities on those who also completed TESOL III and TESOL IV)
2. Required to complete at least one of the following courses (priorities on courses taught by the seminar instructor): Comparative Education, English Teaching in Primary School & its advanced course and Second Language Acquisition

EDU400ZA (教育学 / Education 400)

Seminar: Language Teaching and Learning II

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金2/Fri.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

This course is designed for students interested in exploring second language (L2) education through both global and Japanese research perspectives. It delves into both the theoretical and practical aspects of second language learning (SLL). The course investigates effective strategies for teaching and learning languages in in-person, online, and hybrid environments. This course also addresses educational inequality through language education on a global scale. Special emphasis is placed on comparative studies conducted in Japanese and overseas educational contexts, including research on primary, secondary, and higher education settings, as well as community-based and out-of-school learning spaces. It caters to a diverse range of L2 learners within and outside traditional classroom settings. A key focus of the course is the core issues affecting L2 education, including exploring various teaching approaches and multimodal resources related to L2 motivational issues, educational settings with particular attention to the role of digital technologies, and more, that support and foster successful second language learning (SLL). The seminar also examines core issues influencing L2 learning success, including instructional design, learner autonomy, assessment, and sociocultural factors. Students will analyse similarities and differences between Japan and other educational contexts in terms of policy, equity, and access to technology-enhanced learning opportunities. They are expected to discuss and evaluate strategies for translating theory into effective pedagogical practice across varied learning situations. They are also encouraged to consider their potential contributions to learner support and reflect on future professional pathways in the related educational fields worldwide.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. Understand and explain key issues and challenges in global and Japanese L2 education.
2. Examine studies of second language learning (SLL) to inform effective L2 learning environments.
3. Acquire and summarise theoretical knowledge of core issues in L2 education.
4. Discuss and analyse connections between SLL theories and diverse L2 pedagogical approaches, including ICT-mediated and multimodal practices.
5. Apply basic principles of effective L2 education to support learners in Japanese and global contexts.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

[Method(s)]

This seminar is conducted through interactive reading, discussion, and research-based activities, and active participation in Q&A is expected throughout the semester. Each week, students will engage in text-reading sessions using several core texts on key issues in L2 education. Students are required to take turns selecting and sharing chapters or sections, presenting the main contents and raising questions for discussion. In parallel, each student will carry out an individual research project on a self-selected topic related to the seminar theme, which will form the basis for their seminar presentation, short reports, writing assignments, and final seminar paper. Fieldwork will occasionally be required to support these research tasks and to connect theory with practice. Detailed information will be provided via the learning management system (e.g., WebClass). Students will receive brief weekly formative feedback through in-class reflection sessions and via the LMS within a set timeframe after submitting weekly tasks, to support iterative improvement. Peer feedback will also be incorporated regularly. For major assignments (e.g., presentation materials and the final seminar paper), students will receive: 1) analytic written feedback aligned with the assignment criteria, and 2) several short individual feedback conferences to discuss revision strategies.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Design (1)	Essay writing: topics and methods (1)
3	Research Design (2)	Essay writing: topics and methods (2)
4	Research Design (3)	Essay writing: topics and methods (3)
5	Research Design (4)	Essay writing: topics and methods (4)
6	Research Design (5)	Reviews and discussion
7	Exploring L2 Education Research Studies (1)	Individual topics (1)
8	Exploring L2 Education Research Studies (2)	Individual topics (2)
9	Exploring L2 Education Research Studies (3)	Individual topics (3)
10	Exploring L2 Education Research Studies (4)	Individual topics (4)
11	Exploring L2 Education Research Studies (5)	Individual topics (5)
12	Consolidation (1)	L2 education: review and discussion (1) & Final presentation
13	Consolidation (2)	L2 education: review and discussion (2) & Final presentation
14	Consolidation (3)	L2 education: review and discussion (3) & Final presentation

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Every week before class, students are required to carefully read and understand the assigned readings, be prepared to give short presentations, and participate in group discussions on related topics.
2. Students are also expected to prepare for any assigned fieldwork.
3. Students are required to spend approximately 4 hours per week on preparation and review for this class.

[Textbooks]

1. Creswell, W. J. & Creswell, J. D. (2018). *Research Design*. (5th ed). SAGE.

[References]

1. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
2. Dörnyei, Z., & Taguchi, T. (2009). *Questionnaires in second language research: construction, administration, and processing*. Routledge.
3. Hagenauer, G., Lazarides, R. & Järvenoja, H. (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights*. Routledge.
4. Hubbard, P., & Levy, M. (Eds.). (2017). *The Routledge Handbook of Language Learning and Technology*. Routledge.
5. Gegenfurtner, A. & Kollar, I. (2024). *Designing Effective Digital Learning Environments*. Routledge.
6. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
7. Mäkitalo, Å., Nicewonger, E. T. & Elam, M. (2019). *Designs for experimentation and inquiry: Approaching learning and knowing in digital transformation*. Routledge.
8. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.
9. Schunk, D. H. (2013). *Motivation in education: Theory, research, and applications*. (4th ed.). Pearson.
10. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Reading tasks (10%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Educational practices & fieldwork (30%)

[Changes following student comments]

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising various functions of LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

【Others】

1. Students are expected to be actively involved in various seminar activities, including fieldwork targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels to ensure the related studies examined in the seminar.
2. Information about details of the seminar activities is provided and discussed in class.

【Prerequisites 】

1. Required to complete all the following courses: Seminar I, TESOL III and TESOL IV
2. Required to complete at least one of the following courses (priorities on courses taught by the seminar instructor): Comparative Education, English Teaching in Primary School & its advanced course and Second Language Acquisition

EDU400ZA (教育学 / Education 400)

Seminar: Language Teaching and Learning II

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

This course is designed for students interested in exploring second language (L2) education through both global and Japanese research perspectives. It delves into both the theoretical and practical aspects of second language learning (SLL). The course investigates effective strategies for teaching and learning languages in in-person, online, and hybrid environments. This course also addresses educational inequality through language education on a global scale. Special emphasis is placed on comparative studies conducted in Japanese and overseas educational contexts, including research on primary, secondary, and higher education settings, as well as community-based and out-of-school learning spaces. It caters to a diverse range of L2 learners within and outside traditional classroom settings. A key focus of the course is the core issues affecting L2 education, including exploring various teaching approaches and multimodal resources related to L2 motivational issues, educational settings with particular attention to the role of digital technologies, and more, that support and foster successful second language learning (SLL). The seminar also examines core issues influencing L2 learning success, including instructional design, learner autonomy, assessment, and sociocultural factors. Students will analyse similarities and differences between Japan and other educational contexts in terms of policy, equity, and access to technology-enhanced learning opportunities. They are expected to discuss and evaluate strategies for translating theory into effective pedagogical practice across varied learning situations. They are also encouraged to consider their potential contributions to learner support and reflect on future professional pathways in the related educational fields worldwide.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. Understand and explain key issues and challenges in global and Japanese L2 education.
2. Examine studies of second language learning (SLL) to inform effective L2 learning environments.
3. Acquire and summarise theoretical knowledge of core issues in L2 education.
4. Discuss and analyse connections between SLL theories and diverse L2 pedagogical approaches, including ICT-mediated and multimodal practices.
5. Apply basic principles of effective L2 education to support learners in Japanese and global contexts.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

[Method(s)]

This seminar is conducted through interactive reading, discussion, and research-based activities, and active participation in Q&A is expected throughout the semester. Each week, students will engage in text-reading sessions using several core texts on key issues in L2 education. Students are required to take turns selecting and sharing chapters or sections, presenting the main contents and raising questions for discussion. In parallel, each student will carry out an individual research project on a self-selected topic related to the seminar theme, which will form the basis for their seminar presentation, short reports, writing assignments, and final seminar paper. Fieldwork will occasionally be required to support these research tasks and to connect theory with practice. Detailed information will be provided via the learning management system (e.g., WebClass). Students will receive brief weekly formative feedback through in-class reflection sessions and via the LMS within a set timeframe after submitting weekly tasks, to support iterative improvement. Peer feedback will also be incorporated regularly. For major assignments (e.g., presentation materials and the final seminar paper), students will receive: 1) analytic written feedback aligned with the assignment criteria, and 2) several short individual feedback conferences to discuss revision strategies.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Design (1)	Essay writing: topics and methods (1)
3	Research Design (2)	Essay writing: topics and methods (2)
4	Research Design (3)	Essay writing: topics and methods (3)
5	Research Design (4)	Essay writing: topics and methods (4)
6	Research Design (5)	Reviews and discussion
7	Exploring L2 Education Research Studies (1)	Individual topics (1)
8	Exploring L2 Education Research Studies (2)	Individual topics (2)
9	Exploring L2 Education Research Studies (3)	Individual topics (3)
10	Exploring L2 Education Research Studies (4)	Individual topics (4)
11	Exploring L2 Education Research Studies (5)	Individual topics (5)
12	Consolidation (1)	L2 education: review and discussion (1) & Final presentation
13	Consolidation (2)	L2 education: review and discussion (2) & Final presentation
14	Consolidation (3)	L2 education: review and discussion (3) & Final presentation

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Every week before class, students are required to carefully read and understand the assigned readings, be prepared to give short presentations, and participate in group discussions on related topics.
2. Students are also expected to prepare for any assigned fieldwork.
3. Students are required to spend approximately 4 hours per week on preparation and review for this class.

[Textbooks]

1. Creswell, W. J. & Creswell, J. D. (2018). *Research Design*. (5th ed). SAGE.

[References]

1. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
2. Dörnyei, Z., & Taguchi, T. (2009). *Questionnaires in second language research: construction, administration, and processing*. Routledge.
3. Hagenauer, G., Lazarides, R. & Järvenoja, H. (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights*. Routledge.
4. Hubbard, P., & Levy, M. (Eds.). (2017). *The Routledge Handbook of Language Learning and Technology*. Routledge.
5. Gegenfurtner, A. & Kollar, I. (2024). *Designing Effective Digital Learning Environments*. Routledge.
6. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
7. Mäkitalo, Å., Nicewonger, E. T. & Elam, M. (2019). *Designs for experimentation and inquiry: Approaching learning and knowing in digital transformation*. Routledge.
8. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.
9. Schunk, D. H. (2013). *Motivation in education: Theory, research, and applications*. (4th ed.). Pearson.
10. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Reading tasks (10%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Educational practices & fieldwork (30%)

[Changes following student comments]

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising various functions of LMS and in-person information to:

- 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
- 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

【Others】

1. Students are expected to be actively involved in various seminar activities, including fieldwork targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels to ensure the related studies examined in the seminar.
2. Information about details of the seminar activities is provided and discussed in class.

【Prerequisites 】

1. Required to complete all the following courses: Seminar I, TESOL III and TESOL IV
2. Required to complete at least one of the following courses (priorities on courses taught by the seminar instructor): Comparative Education, English Teaching in Primary School & its advanced course and Second Language Acquisition

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <S>

【Outline and objectives】

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In this process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

【Goal】

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Seminar members will conduct original research over the course of two years as their graduation project. The final research paper may be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase their research skills and academic interests during job hunting. In the first year, seminar members will develop research questions, identify gaps in the existing literature, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss their findings, and write up the research paper.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Doing Social Research	Overview of social research
	Critiquing Academic Works	Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

【References】

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.

Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.

Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.

Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.

Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.

Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

【Grading criteria】

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussion presentation (24%)

Critiques on readings (18%)

Research topic presentation and research paper presentation (10%)

Research paper (40%)

【Changes following student comments】

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

【Others】

Students are expected to have passed Introduction to Sociology and Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who will study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】

See "Others".

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <S>

[Outline and objectives]

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In this process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Seminar members will conduct original research over the course of two years as their graduation project. The final research paper may be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase their research skills and academic interests during job hunting. In the first year, seminar members will develop research questions, identify gaps in the existing literature, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss their findings, and write up the research paper.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Doing Social Research	Overview of social research
	Critiquing Academic Works	Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.

Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.

Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.

Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.

Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.

Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussion presentation (24%)

Critiques on readings (18%)

Research topic presentation and research paper presentation (10%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

[Others]

Students are expected to have passed Introduction to Sociology and Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who will study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優><S>

【Outline and objectives】

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

【Goal】

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Seminar members will conduct original research over the course of two years as their graduation project. The final research paper may be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase their research skills and academic interests during job hunting. In the first year, seminar members will develop research questions, identify gaps in the existing literature, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss their findings, and write up the research paper.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted. Talks by seminar alumni on their careers and connection of the seminar to their work will be scheduled in November and December. An updated schedule will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality

9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions
14	Research Paper Presentations (2)	Research paper presentations and discussions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

【References】

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
 Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
 Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
 Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
 Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
 Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
 Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

【Grading criteria】

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (24%)

Critiques on readings (18%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (10%)

Research paper (40%)

【Changes following student comments】

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

【Others】

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I. Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】

See "Others".

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <S>

【Outline and objectives】

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

【Goal】

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Seminar members will conduct original research over the course of two years as their graduation project. The final research paper may be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase their research skills and academic interests during job hunting. In the first year, seminar members will develop research questions, identify gaps in the existing literature, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss their findings, and write up the research paper.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted. Talks by seminar alumni on their careers and connection of the seminar to their work will be scheduled in November and December. An updated schedule will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality

9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions
14	Research Paper Presentations (2)	Research paper presentations and discussions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

【References】

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.

Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.

Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.

Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.

Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.

Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

【Grading criteria】

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (24%)

Critiques on readings (18%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (10%)

Research paper (40%)

【Changes following student comments】

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

【Others】

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I. Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】

See "Others".

PSY400ZA (心理学 / Psychology 400)

Seminar: Self and Culture I

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, by drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the spring, class time will be devoted to group discussions on assigned readings. In addition, third-year students will decide on the research questions, hypotheses, and theories of the research they will pursue in the seminar. Fourth-year students will collect data by running an experiment or a survey and will analyze them using a statistical package of their choice (JASP, HAD, SPSS, or R).

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) To develop a working knowledge of different approaches and methods of social and cultural psychology;
- (c) To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- (d) To develop research skills and knowledge to apply selected social psychological theories to a real-life context;
- and
- (e) To develop skills in data analyses.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course combines several pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and weekly reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, and requirements
2	Seminar Reading and Discussion (1)	Student presentations and discussions of assigned readings
3	Seminar Reading and Discussion (2)	Student presentations and discussions of assigned readings
4	Proposing Research Ideas	Discussing students' research proposals
5	Seminar Reading and Discussion (3)	Student presentations and discussions of assigned readings
6	Seminar Reading and Discussion (4)	Student presentations and discussions of assigned readings
7	Proposing Research Questions	Discussing students' research proposals
8	Seminar Reading and Discussion (5)	Student presentations and discussions of assigned readings
9	Seminar Reading and Discussion (6)	Student presentations and discussions of assigned readings
10	Proposing Research Hypotheses	Discussing students' research proposals
11	Seminar Reading and Discussion (7)	Student presentations and discussions of assigned readings
12	Seminar Reading and Discussion (8)	Student presentations and discussions of assigned readings
13	Seminar Reading and Discussion (9)	Student presentations and discussions of assigned readings
14	Final Synthesis	What have we learned and what are the next steps?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments, write weekly reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third-year students will formulate research questions and hypotheses based on a comprehensive review of relevant literature on the topic. Fourth-year students are expected to run their survey or experiment and collect data for their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

none

【References】

The weekly readings and other resources will be posted on the course website.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

【Grading criteria】

Progress on research 30%

Weekly questions & papers 30%

Contribution to discussion 20%

Final synthesis paper 10%

Leading discussion 10% (3rd year students)

Research support 10% (4th year students)

【Changes following student comments】

Students found the readings challenging but appreciated that they were able to read faster and still able to grasp the main points. Students also appreciated the opportunities to discuss their research multiple times over the semester.

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PsycINFO database from the library.

【Others】

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. Instructor's permission is required.

【Prerequisites】

none

PSY400ZA (心理学 / Psychology 400)

Seminar: Self and Culture I

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, by drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the spring, class time will be devoted to group discussions on assigned readings. In addition, third-year students will decide on the research questions, hypotheses, and theories of the research they will pursue in the seminar. Fourth-year students will collect data by running an experiment or a survey and will analyze them using a statistical package of their choice (JASP, HAD, SPSS, or R).

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) To develop a working knowledge of different approaches and methods of social and cultural psychology;
- (c) To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- (d) To develop research skills and knowledge to apply selected social psychological theories to a real-life context;
- and
- (e) To develop skills in data analyses.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course combines several pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and weekly reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, and requirements
2	Seminar Reading and Discussion (1)	Student presentations and discussions of assigned readings
3	Seminar Reading and Discussion (2)	Student presentations and discussions of assigned readings
4	Proposing Research Ideas	Discussing students' research proposals
5	Seminar Reading and Discussion (3)	Student presentations and discussions of assigned readings
6	Seminar Reading and Discussion (4)	Student presentations and discussions of assigned readings
7	Proposing Research Questions	Discussing students' research proposals
8	Seminar Reading and Discussion (5)	Student presentations and discussions of assigned readings
9	Seminar Reading and Discussion (6)	Student presentations and discussions of assigned readings
10	Proposing Research Hypotheses	Discussing students' research proposals
11	Seminar Reading and Discussion (7)	Student presentations and discussions of assigned readings
12	Seminar Reading and Discussion (8)	Student presentations and discussions of assigned readings
13	Seminar Reading and Discussion (9)	Student presentations and discussions of assigned readings
14	Final Synthesis	What have we learned and what are the next steps?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments, write weekly reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third-year students will formulate research questions and hypotheses based on a comprehensive review of relevant literature on the topic. Fourth-year students are expected to run their survey or experiment and collect data for their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

none

【References】

The weekly readings and other resources will be posted on the course website.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

【Grading criteria】

Progress on research 30%

Weekly questions & papers 30%

Contribution to discussion 20%

Final synthesis paper 10%

Leading discussion 10% (3rd year students)

Research support 10% (4th year students)

【Changes following student comments】

Students found the readings challenging but appreciated that they were able to read faster and still able to grasp the main points. Students also appreciated the opportunities to discuss their research multiple times over the semester.

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PsycINFO database from the library.

【Others】

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. Instructor's permission is required.

【Prerequisites】

none

PSY400ZA (心理学 / Psychology 400)

Seminar: Self and Culture II

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the fall, class time will be devoted to group discussions on assigned readings related to students' research interest as well as to group discussions on student led research. Third year students will design and prepare an experiment or a survey to be conducted the following year; fourth year students will analyze their data and write a research paper in APA-style. Students will receive guidance on each step of research, from identifying and refining a research question, conducting a literature review, to creating a questionnaire, analyzing data, and reporting their results.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- (c) To design and implement a small-scale empirical study on the basis of previous research and skills;
- (d) To analyze and interpret collected data using statistical software (e.g., JASP, SPSS, R, HAD, JAMOVI); and
- (e) To write up a research paper formatted in APA style (for fourth year students).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, & requirements
2	Seminar Reading and Discussion (1)	Discussion of readings relevant to students' research interest
3	Developing Research Procedure (1)	Shares and gets feedback on the progress of student research
4	Seminar Reading and Discussion (2)	Discussion of readings relevant to students' research interest
5	Developing Research Procedure (2)	Shares and gets feedback on the progress of student research
6	Seminar Reading and Discussion (3)	Discussion of readings relevant to students' research interest
7	Analyzing and Interpreting Data (1)	Shares and gets feedback on data analyses
8	Seminar Reading and Discussion (4)	Discussion of readings relevant to students' research interest
9	Analyzing and Interpreting Data (2)	Shares and gets feedback on data analyses
10	Seminar Reading and Discussion (5)	Discussion of readings relevant to students' research interest
11	Developing Research Materials (1)	Shares and gets feedback on research materials
12	Developing Research Materials (2)	Shares and gets feedback on research materials
13	Research Presentation (1)	Reviews the entire semester, and shares research findings
14	Research Presentation (2)	Reviews the entire semester, and shares research findings

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments, write reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third-year students will design an experimental or survey study, prepare research materials, and write up a research proposal. Fourth-year students will collect and analyze data, and write up their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

Readings and other resources will be provided on the course website.

Additional references will be introduced in class.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on their research (70%, see below for the specific components), contribution to the seminar (20%), and contribution to the discussion on the assigned readings (10%).

For graduating students, their research grade (70%) will be based on progress and punctuality (30%), final draft (30%), and final presentation (10%).

For third-year students, their research grade (70%) will be based on consistent progress (30%), research proposal (20%), ethics approval form (10%), and final presentation (10%).

【Changes following student comments】

Students appreciated that they had multiple opportunities to present their work and discuss their research designs. They also appreciated the one-on-one consultations with the instructor.

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Others】

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. Instructor's permission is required.

【Prerequisite】

None.

PSY400ZA (心理学 / Psychology 400)

Seminar: Self and Culture II

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the fall, class time will be devoted to group discussions on assigned readings related to students' research interest as well as to group discussions on student led research. Third year students will design and prepare an experiment or a survey to be conducted the following year; fourth year students will analyze their data and write a research paper in APA-style. Students will receive guidance on each step of research, from identifying and refining a research question, conducting a literature review, to creating a questionnaire, analyzing data, and reporting their results.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- (c) To design and implement a small-scale empirical study on the basis of previous research and skills;
- (d) To analyze and interpret collected data using statistical software (e.g., JASP, SPSS, R, HAD, JAMOVI); and
- (e) To write up a research paper formatted in APA style (for fourth year students).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, & requirements
2	Seminar Reading and Discussion (1)	Discussion of readings relevant to students' research interest
3	Developing Research Procedure (1)	Shares and gets feedback on the progress of student research
4	Seminar Reading and Discussion (2)	Discussion of readings relevant to students' research interest
5	Developing Research Procedure (2)	Shares and gets feedback on the progress of student research
6	Seminar Reading and Discussion (3)	Discussion of readings relevant to students' research interest
7	Analyzing and Interpreting Data (1)	Shares and gets feedback on data analyses
8	Seminar Reading and Discussion (4)	Discussion of readings relevant to students' research interest
9	Analyzing and Interpreting Data (2)	Shares and gets feedback on data analyses
10	Seminar Reading and Discussion (5)	Discussion of readings relevant to students' research interest
11	Developing Research Materials (1)	Shares and gets feedback on research materials
12	Developing Research Materials (2)	Shares and gets feedback on research materials
13	Research Presentation (1)	Reviews the entire semester, and shares research findings
14	Research Presentation (2)	Reviews the entire semester, and shares research findings

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments, write reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third-year students will design an experimental or survey study, prepare research materials, and write up a research proposal. Fourth-year students will collect and analyze data, and write up their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

Readings and other resources will be provided on the course website.

Additional references will be introduced in class.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on their research (70%, see below for the specific components), contribution to the seminar (20%), and contribution to the discussion on the assigned readings (10%).

For graduating students, their research grade (70%) will be based on progress and punctuality (30%), final draft (30%). and final presentation (10%).

For third-year students, their research grade (70%) will be based on consistent progress (30%), research proposal (20%), ethics approval form (10%), and final presentation (10%).

【Changes following student comments】

Students appreciated that they had multiple opportunities to present their work and discuss their research designs. They also appreciated the one-on-one consultations with the instructor.

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PsycINFO database from the library.

【Others】

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. Instructor's permission is required.

【Prerequisite】

None.

POL400ZA (政治学 / Politics 400)

Seminar: International Relations I

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木4/Thu.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic shifts in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States in world politics is declining vis-à-vis rising states, represented by BRICS. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values - such as democracy, the rule of law, and human rights- that have constituted an important feature of the existing international order are being contested by the rise of alternative norms and values, championed by authoritarian rising states. This trend is further bolstered by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, once dominated by states, is now increasingly populated by non-state actors, including multinational corporations (in particular giant IT companies), non-government organizations, and transnational terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will the world order look like in the 21st century?

To address this question, this seminar will explore the following topics:

- 1) Changes in power distribution among major powers and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance, including issues like climate change, trade and investment, and financial crises.
- 3) The intersection of new technology and geopolitics, focusing on rivalries among major powers over AI and clean energy technologies, as well as the roles of "Big Tech" companies.
- 4) The political implications of economic globalization, such as the rise of populism and the decline of democracy in key countries.
- 5) Competition among differing norms and values, including disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in world politics.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To equip students with the foundational knowledge necessary for future careers in fields such as government, international organizations, business, and media, where articulate and clear-thinking individuals with an understanding of contemporary international relations (IR) are essential;
- 2) To prepare students to build a solid foundation for pursuing IR studies at the graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate their mastery of the course material by expressing relevant factual knowledge and comprehending pertinent theory, applied with appropriate analytical skills, as evidenced through discussions, oral presentations, and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

During the spring semester, students will engage in in-depth discussions on topics related to the seminar's main theme and are required to write several short essays on these subjects. An extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester. In the fall semester and during the summer camp, students will embark on their own research projects, with the research paper due by late January 2027. They can select any topic within the IR discipline, with the research paper needing to be at least 4,000 words long. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects throughout the year, which can cover any subject within the IR discipline. The dissertation must be at least 8,000 words, excluding the bibliography but including notes, appendices, and tables. Seminar participants will also engage in group work related to their research topics, including role-playing and simulation studies during the semester. Feedback on assignments is provided during class and office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Review of IR Theories	Reviewing IR theories
3	Seminar Topic 1	Discussion on the assigned topic
4	Seminar Topic 2	Discussion on the assigned topic
5	Debate 1	Debate
6	Seminar Topic 3	Discussion on the assigned topic
7	Seminar Topic 4	Discussion on the assigned topic
8	Debate 2 and the Mid-term Presentation (4th year students)	Presenting preliminary research proposal
9	Seminar Topic 6	Discussion on the assigned topic
10	Seminar Topic 7	Discussion on the assigned topic
11	Debate 3	Debate
12	Seminar Topic 8	Discussion on the assigned topic
13	Seminar Topic 9	Discussion on the assigned topic.
14	Final Research Proposal Presentation (Fourth- year students)	Presenting a research proposal

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer. No textbook is required.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Essays (45%), Presentations and Discussions (35%), Debate (20%). Fourth year students: Class Contributions (15%), Mid-Term and Final Presentations (25%), Research Proposals (60%).

[Changes following student comments]

Nothing in particular

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed "Introduction to International Relations" .

POL400ZA (政治学 / Politics 400)

Seminar: International Relations I

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木5/Thu.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic shifts in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States in world politics is declining vis-à-vis rising states, represented by BRICS. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values - such as democracy, the rule of law, and human rights- that have constituted an important feature of the existing international order are being contested by the rise of alternative norms and values, championed by authoritarian rising states. This trend is further bolstered by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, once dominated by states, is now increasingly populated by non-state actors, including multinational corporations (in particular giant IT companies), non-government organizations, and transnational terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will the world order look like in the 21st century?

To address this question, this seminar will explore the following topics:

- 1) Changes in power distribution among major powers and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance, including issues like climate change, trade and investment, and financial crises.
- 3) The intersection of new technology and geopolitics, focusing on rivalries among major powers over AI and clean energy technologies, as well as the roles of "Big Tech" companies.
- 4) The political implications of economic globalization, such as the rise of populism and the decline of democracy in key countries.
- 5) Competition among differing norms and values, including disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in world politics.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To equip students with the foundational knowledge necessary for future careers in fields such as government, international organizations, business, and media, where articulate and clear-thinking individuals with an understanding of contemporary international relations (IR) are essential;
- 2) To prepare students to build a solid foundation for pursuing IR studies at the graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate their mastery of the course material by expressing relevant factual knowledge and comprehending pertinent theory, applied with appropriate analytical skills, as evidenced through discussions, oral presentations, and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

During the spring semester, students will engage in in-depth discussions on topics related to the seminar's main theme and are required to write several short essays on these subjects. An extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester. In the fall semester and during the summer camp, students will embark on their own research projects, with the research paper due by late January 2027. They can select any topic within the IR discipline, with the research paper needing to be at least 4,000 words long. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects throughout the year, which can cover any subject within the IR discipline. The dissertation must be at least 8,000 words, excluding the bibliography but including notes, appendices, and tables. Seminar participants will also engage in group work related to their research topics, including role-playing and simulation studies during the semester. Feedback on assignments is provided during class and office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Review of IR Theories	Reviewing IR theories
3	Seminar Topic 1	Discussion on the assigned topic
4	Seminar Topic 2	Discussion on the assigned topic
5	Debate 1	Debate
6	Seminar Topic 3	Discussion on the assigned topic
7	Seminar Topic 4	Discussion on the assigned topic
8	Debate 2 and the Mid-term Presentation (4th year students)	Presenting preliminary research proposal
9	Seminar Topic 6	Discussion on the assigned topic
10	Seminar Topic 7	Discussion on the assigned topic
11	Debate 3	Debate
12	Seminar Topic 8	Discussion on the assigned topic
13	Seminar Topic 9	Discussion on the assigned topic
14	Final Research Proposal Presentation (Fourth- year students)	Presenting a research proposal

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer. No textbook is required.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Essays (45%), Presentations and Discussions (35%), Debate (20%). Fourth year students: Class Contributions (15%), Mid-Term and Final Presentations (25%), Research Proposals (60%).

[Changes following student comments]

Nothing in particular

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed "Introduction to International Relations" .

POL400ZA (政治学 / Politics 400)

Seminar: International Relations II

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 木4/Thu.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic shifts in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States in world politics is declining vis-à-vis rising states, represented by BRICS. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values - such as democracy, the rule of law, and human rights- that have constituted an important feature of the existing international order are being contested by the rise of alternative norms and values, championed by authoritarian rising states. This trend is further bolstered by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, once dominated by states, is now increasingly populated by non-state actors, including multinational corporations (in particular giant IT companies), non-government organizations, and transnational terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will the world order look like in the 21st century?

To address this question, this seminar will explore the following topics:

- 1) Changes in power distribution among major powers and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance, including issues like climate change, trade and investment, and financial crises.
- 3) The intersection of new technology and geopolitics, focusing on rivalries among major powers over AI and clean energy technologies, as well as the roles of "Big Tech" companies.
- 4) The political implications of economic globalization, such as the rise of populism and the decline of democracy in key countries.
- 5) Competition among differing norms and values, including disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in world politics.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To equip students with the foundational knowledge necessary for future careers in fields such as government, international organizations, business, and media, where articulate and clear-thinking individuals with an understanding of contemporary international relations (IR) are essential;
- 2) To prepare students to build a solid foundation for pursuing IR studies at the graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate their mastery of the course material by expressing relevant factual knowledge and comprehending pertinent theory, applied with appropriate analytical skills, as evidenced through discussions, oral presentations, and written work.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

During the spring semester, students will engage in in-depth discussions on topics related to the seminar's main theme and are required to write several short essays on these subjects. An extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester. In the fall semester and during the summer camp, students will embark on their own research projects, with the research paper due by late January 2027. They can select any topic within the IR discipline, with the research paper needing to be at least 4,000 words long. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects throughout the year, which can cover any subject within the IR discipline. The dissertation must be at least 8,000 words, excluding the bibliography but including notes, appendices, and tables. Seminar participants will also engage in group work related to their research topics, including role-playing and simulation studies during the semester. Feedback on assignments is provided during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Revised Research Proposal I	Revised Research Proposal I
2	Revised Research Proposal II	Presenting revised research proposals
3	Newspaper Content Analysis I	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
4	Role play I	A simulation and role play exercise
5	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
6	Mid-term Presentation on Research Papers (Third-year students)	Reporting progress on research papers
7	Mid-term Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Reporting progress on dissertations
8	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
9	Role play II	A simulation and role play exercise
10	Newspaper Content Analysis II	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
11	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
12	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
13	Final Presentation on Research Papers (Third-year students)	Presenting research papers
14	Final Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Presenting dissertations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. For this reason, students are expected to organize study groups (sub-seminars) outside of class. This seminar will host a summer camp. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer. No textbook is required.

【References】

Information relating to references will be provided during the course.

【Grading criteria】

Third year students: Research Papers (including Mid-Term and Final Presentations) (70%), Newspaper Content Analysis (20%), Role Play (10%).

Fourth year students: Role Play (10%), Newspaper Content Analysis (10%) Dissertations (including Mid-Term and Final Presentations (80%).

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Course materials will be delivered via Hoppii.

【Prerequisite】

Students wishing to take this seminar are required to have completed either "Introduction to International Relations " or "World Politics."

POL400ZA (政治学 / Politics 400)

Seminar: International Relations II

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 木5/Thu.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic shifts in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States in world politics is declining vis-à-vis rising states, represented by BRICS. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values - such as democracy, the rule of law, and human rights- that have constituted an important feature of the existing international order are being contested by the rise of alternative norms and values, championed by authoritarian rising states. This trend is further bolstered by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, once dominated by states, is now increasingly populated by non-state actors, including multinational corporations (in particular giant IT companies), non-government organizations, and transnational terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will the world order look like in the 21st century?

To address this question, this seminar will explore the following topics:

- 1) Changes in power distribution among major powers and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance, including issues like climate change, trade and investment, and financial crises.
- 3) The intersection of new technology and geopolitics, focusing on rivalries among major powers over AI and clean energy technologies, as well as the roles of "Big Tech" companies.
- 4) The political implications of economic globalization, such as the rise of populism and the decline of democracy in key countries.
- 5) Competition among differing norms and values, including disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in world politics.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To equip students with the foundational knowledge necessary for future careers in fields such as government, international organizations, business, and media, where articulate and clear-thinking individuals with an understanding of contemporary international relations (IR) are essential;
- 2) To prepare students to build a solid foundation for pursuing IR studies at the graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate their mastery of the course material by expressing relevant factual knowledge and comprehending pertinent theory, applied with appropriate analytical skills, as evidenced through discussions, oral presentations, and written work.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

During the spring semester, students will engage in in-depth discussions on topics related to the seminar's main theme and are required to write several short essays on these subjects. An extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester. In the fall semester and during the summer camp, students will embark on their own research projects, with the research paper due by late January 2027. They can select any topic within the IR discipline, with the research paper needing to be at least 4,000 words long. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects throughout the year, which can cover any subject within the IR discipline. The dissertation must be at least 8,000 words, excluding the bibliography but including notes, appendices, and tables. Seminar participants will also engage in group work related to their research topics, including role-playing and simulation studies during the semester. Feedback on assignments is provided during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Revised Research Proposal I	Revised Research Proposal I
2	Revised Research Proposal II	Presenting revised research proposals
3	Newspaper Content Analysis I	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
4	Role play I	A simulation and role play exercise
5	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
6	Mid-term Presentation on Research Papers (Third-year students)	Reporting progress on research papers
7	Mid-term Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Reporting progress on dissertations
8	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
9	Role play II	A simulation and role play exercise
10	Newspaper Content Analysis II	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
11	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
12	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
13	Final Presentation on Research Papers (Third-year students)	Presenting research papers
14	Final Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Presenting dissertations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. For this reason, students are expected to organize study groups (sub-seminars) outside of class. This seminar will host a summer camp. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer. No textbook is required.

【References】

Information relating to references will be provided during the course.

【Grading criteria】

Third year students: Research Papers (including Mid-Term and Final Presentations) (70%), Newspaper Content Analysis (20%), Role Play (10%).

Fourth year students: Role Play (10%), Newspaper Content Analysis (10%) Dissertations (including Mid-Term and Final Presentations (80%).

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Course materials will be delivered via Hoppii.

【Prerequisite】

Students wishing to take this seminar are required to have completed either "Introduction to International Relations " or "World Politics."

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. The post-coronavirus recovery process offered a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices, but it's clear that many destinations are returning to 'business as usual'. Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be the completed during the second year of the seminar.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, Airbnb, overtourism, indigenous tourism and niche tourism development.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced valuable research and analytical skills that will be of great use in their future. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ/Seminar, T 卒業論文/卒業研究/卒業制作/Thesis

【Method(s)】

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, junior students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, they will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, senior students will research and write their extended research paper.

While seminars will be partly instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise on their subject areas and research methods with the other students.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり/Yes

【Fieldwork in class】

あり/Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the seminar: format & expectations
2	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism & stakeholder management
3	Seminar Reading 2	Case study 2: branding & an introduction to a sustainable tourism framework
4	Seminar Reading 3	Case study 3: sustainability & marketing

5	Research Methods	Tourism management: stakeholder relations
6	Seminar Reading 4	Introduction to research methods
7	Seminar Reading 5	Case study 4: destination management. Also a focus on research methods.
8	Research Project	Case study 5: tourism focus in Japan
9	Seminar Reading 6	Case study 6: authenticity & indigenous tourism
10	Seminar Reading 7	Focus on research methods
11	Research Workshop and Consultation	Case study 7: niche tourism
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Case study 8: destination marketing issues
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations workshop
14	Final Discussion	Group presentations & discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must complete the assigned Core Reading(s) as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Hoppii.

【References】

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

【Grading criteria】

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Update (40%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

【Changes following student comments】

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to take both a summer trip and undertake field work during the semester.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】

Seminar students **must** concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

As well as tourism-related courses, seminar students are encouraged to take a broad selection of courses including, but not limited to, 'culture', 'sustainability', 'politics', 'media', 'psychology' and 'marketing'.

*As mentioned, the AY2026 fall semester and AY2027 spring semesters will be taught by Professor Seaton, while I am on sabbatical leave.

【Prerequisite】

Students should have taken at least 2 of my courses (confirmed during selection interview).

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. The post-coronavirus recovery process offered a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices, but it's clear that many destinations are returning to 'business as usual'. Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be the completed during the second year of the seminar.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, Airbnb, overtourism, indigenous tourism and niche tourism development.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced valuable research and analytical skills that will be of great use in their future. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ/Seminar, T 卒業論文/卒業研究/卒業制作/Thesis

【Method(s)】

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, junior students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, they will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, senior students will research and write their extended research paper.

While seminars will be partly instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise on their subject areas and research methods with the other students.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり/Yes

【Fieldwork in class】

あり/Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction to the seminar: format & expectations
2	Seminar Reading 1	Case study 1: tourism & stakeholder management
3	Seminar Reading 2	Case study 2: branding & an introduction to a sustainable tourism framework
4	Seminar Reading 3	Case study 3: sustainability & marketing

5	Research Methods	Tourism management: stakeholder relations
6	Seminar Reading 4	Introduction to research methods
7	Seminar Reading 5	Case study 4: destination management. Also a focus on research methods.
8	Research Project	Case study 5: tourism focus in Japan
9	Seminar Reading 6	Case study 6: authenticity & indigenous tourism
10	Seminar Reading 7	Focus on research methods
11	Research Workshop and Consultation	Case study 7: niche tourism
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Case study 8: destination marketing issues
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations workshop
14	Final Discussion	Group presentations & discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must complete the assigned Core Reading(s) as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge.
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

In alternate years we will use one of the above textbooks so you will need to have both. More details will be provided in class.

Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Hoppii.

【References】

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

【Grading criteria】

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Update (40%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

【Changes following student comments】

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will hope to take both a summer trip and undertake field work during the semester.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】

Seminar students **must** concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

Students are expected to study in the seminar for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

As well as tourism-related courses, seminar students are encouraged to take a broad selection of courses including, but not limited to, 'culture', 'sustainability', 'politics', 'media', 'psychology' and 'marketing'.

*As mentioned, the AY2026 fall semester and AY2027 spring semesters will be taught by Professor Seaton, while I am on sabbatical leave.

【Prerequisite】

Students should have taken at least 2 of my courses (confirmed during selection interview).

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

Seminar: Tourism Management II

Philip Seaton

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火1/Tue.1

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be the completed during the second year of the seminar.

Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management (with a focus on cultural and heritage tourism). These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work or graduate school.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to cultural and heritage tourism.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to cultural heritage tourism in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, senior students will research and write their 5000-word extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via email; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Update	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
2	Cultural Tourism: Seminar Reading 1	Reading Jimura "Cultural Heritage" Lecture/Discussion: What is contents tourism?
3	Cultural Tourism: Seminar Reading 2	Reading Jimura "Cultural Heritage" Role play: What if Hosei University was a tourist site?
4	Cultural Tourism 3: Seminar Reading	Reading Jimura "Cultural Heritage" Case Studies of Heritage and/or Contents Tourism
5	Fieldwork Preparation	Preparatory lecture and discussion about the fieldwork site

6	Fieldwork (off-campus)	Fieldwork at a tourist site
7	Fieldwork Review	Student presentations about their fieldwork
8	Research Methods: Questionnaires 1	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group work: designing a questionnaire
9	Research Methods: Questionnaires 2	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group work: questionnaire data analysis
10	Research Methods: Questionnaires 3	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group work: results presentation
11	Discussions on Students' Research Projects	Discussions on students' individual research projects
12	Research Methods: Tourism Statistics Analysis 1	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group work: gathering tourism statistics
13	Research Methods: Tourism Statistics Analysis 2	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group presentations: tourism statistics
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and wrapping up the year

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must complete the assigned Core Reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Takamitsu Jimura (2022) *Cultural Heritage and Tourism in Japan* Abingdon: Routledge.

Other open access articles will be distributed in class and/or available on the course website. <https://philipseaton.net/undergraduate-teaching/hosei-university/>

【References】

Takayoshi Yamamura and Philip Seaton (eds) (2020) *Contents Tourism and Pop Culture Fandom: Transnational Tourist Experiences* Bristol: Channel View Publications

Philip Seaton, Takayoshi Yamamura, Akiko Sugawa-Shimada and Kyungjae Jang (2017) *Contents Tourism in Japan: Pilgrimages to "Sacred Sites" of Popular Culture* Amherst NY: Cambria Press

【Grading criteria】

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and 5000-word Final Paper (50%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

【Changes following student comments】

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will undertake field work during the semester.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】

Class homepage: <https://philipseaton.net/undergraduate-teaching/hosei-university/>

【Prerequisite】

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

TRS400ZA (観光学 / Tourism Studies 400)

Seminar: Tourism Management II

Philip Seaton

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火2/Tue.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be the completed during the second year of the seminar.

Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management (with a focus on cultural and heritage tourism). These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work or graduate school.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to cultural and heritage tourism.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to cultural heritage tourism in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, senior students will research and write their 5000-word extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via email; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Update	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
2	Cultural Tourism: Seminar Reading 1	Reading Jimura "Cultural Heritage" Lecture/Discussion: What is contents tourism?
3	Cultural Tourism: Seminar Reading 2	Reading Jimura "Cultural Heritage" Role play: What if Hosei University was a tourist site?
4	Cultural Tourism 3: Seminar Reading	Reading Jimura "Cultural Heritage" Case Studies of Heritage and/or Contents Tourism
5	Fieldwork Preparation	Preparatory lecture and discussion about the fieldwork site

6	Fieldwork (off-campus)	Fieldwork at a tourist site
7	Fieldwork Review	Student presentations about their fieldwork
8	Research Methods: Questionnaires 1	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group work: designing a questionnaire
9	Research Methods: Questionnaires 2	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group work: questionnaire data analysis
10	Research Methods: Questionnaires 3	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group work: results presentation
11	Discussions on Students' Research Projects	Discussions on students' individual research projects
12	Research Methods: Tourism Statistics Analysis 1	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group work: gathering tourism statistics
13	Research Methods: Tourism Statistics Analysis 2	Reading Jimura "Cultural Heritage" Group presentations: tourism statistics
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and wrapping up the year

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must complete the assigned Core Reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Takamitsu Jimura (2022) *Cultural Heritage and Tourism in Japan* Abingdon: Routledge.

Other open access articles will be distributed in class and/or available on the course website. <https://philipseaton.net/undergraduate-teaching/hosei-university/>

【References】

Takayoshi Yamamura and Philip Seaton (eds) (2020) *Contents Tourism and Pop Culture Fandom: Transnational Tourist Experiences* Bristol: Channel View Publications

Philip Seaton, Takayoshi Yamamura, Akiko Sugawa-Shimada and Kyungjae Jang (2017) *Contents Tourism in Japan: Pilgrimages to "Sacred Sites" of Popular Culture* Amherst NY: Cambria Press

【Grading criteria】

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and 5000-word Final Paper (50%).

Students must submit weekly reports on the reading and self-assess their seminar performance.

【Changes following student comments】

Case studies will vary year to year depending on students' interests. We will undertake field work during the semester.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】

Class homepage: <https://philipseaton.net/undergraduate-teaching/hosei-university/>

【Prerequisite】

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Entrepreneurship & Innovation I

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with fundamental theories, and contemporary practices of entrepreneurship and innovation. Students will learn the importance of entrepreneurship and innovation to a country's economic growth. In addition, through case studies, students will learn how firms use innovation to create new products, new markets, new organizations, new business model and new industries.

Spring Innovation Themes: Japanese Entrepreneurs, Creating New Ventures.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught primarily through presentations and discussions. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email. Students give presentations on selected readings as well as on their own research.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (1)	Schumpeter on innovation and entrepreneurship
3	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (2)	The discipline of innovation
4	Innovative Entrepreneurs in Japan (1)	Case studies: Kiichiro Toyoda, Konosuke Matsushita
5	Innovative Entrepreneurs in Japan (2)	Case studies: Masaru Ibuka, Akio Morita, Soichiro Honda, Takeo Fujisawa
6	Innovative Entrepreneurs in Japan (3)	Case studies: Toshifumi Suzuki, Tadashi Yanai
7	Creating New Ventures (1)	Business ideas and business models
8	Creating New Ventures (2)	Business planning and pitches
9	Creating New Ventures (3)	Incubators and accelerators
10	Creating New Ventures (4)	Funding for start-ups
11	Creating New Ventures (5)	Exiting mechanisms
12	Presentation (1)	Business plan presentations
13	Presentation (2)	Business plan presentations
14	Review	Review and discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/ presentation. Students are required to read the assigned readings and case studies thoroughly to engage in active class discussion. The preparatory study and review time for this class is 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Christensen, Clayton. *The Innovation Dilemma*, Harvard Business Review, 2013

Chesbrough, Henry. *Open Innovation: The New Imperative for Creating and Profiting from Technology*, Harvard Business Review, 2006

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley, 2016

Kikkawa, Takeo. *History of Innovative Entrepreneurs in Japan*, Springer, 2019

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), group assignments and discussions (25%), review tests (25%), and a final paper and presentation (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Prerequisite】

Students who passed the interview for this seminar.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Entrepreneurship & Innovation I

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金2/Fri.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with fundamental theories, and contemporary practices of entrepreneurship and innovation. Students will learn the importance of entrepreneurship and innovation to a country's economic growth. In addition, through case studies, students will learn how firms use innovation to create new products, new markets, new organizations, new business model and new industries.

Spring Innovation Themes: Japanese Entrepreneurs, Creating New Ventures.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught primarily through presentations and discussions. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email. Students give presentations on selected readings as well as on their own research.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (1)	Schumpeter on innovation and entrepreneurship
3	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (2)	The discipline of innovation
4	Innovative Entrepreneurs in Japan (1)	Case studies: Kiichiro Toyoda, Konosuke Matsushita
5	Innovative Entrepreneurs in Japan (2)	Case studies: Masaru Ibuka, Akio Morita, Soichiro Honda, Takeo Fujisawa
6	Innovative Entrepreneurs in Japan (3)	Case studies: Toshifumi Suzuki, Tadashi Yanai
7	Creating New Ventures (1)	Business ideas and business models
8	Creating New Ventures (2)	Business planning and pitches
9	Creating New Ventures (3)	Incubators and accelerators
10	Creating New Ventures (4)	Funding for start-ups
11	Creating New Ventures (5)	Exiting mechanisms
12	Presentation (1)	Business plan presentations
13	Presentation (2)	Business plan presentations
14	Review	Review and discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/ presentation. Students are required to read the assigned readings and case studies thoroughly to engage in active class discussion. The preparatory study and review time for this class is 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Christensen, Clayton. *The Innovation Dilemma*, Harvard Business Review, 2013

Chesbrough, Henry. *Open Innovation: The New Imperative for Creating and Profiting from Technology*, Harvard Business Review, 2006

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley, 2016

Kikkawa, Takeo. *History of Innovative Entrepreneurs in Japan*, Springer, 2019

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), group assignments and discussions (25%), review tests (25%), and a final paper and presentation (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Prerequisite】

Students who passed the interview for this seminar.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Entrepreneurship & Innovation II

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

This is a continuation of the seminar from the Spring semester. We will continue to learn concepts and theories related to entrepreneurship and innovation but more emphasis will be placed on case studies. Students will refine their skills in discussion and presentation. Students will also conduct their own research related to a theme in this seminar.

Fall Innovation Theme: Industry Analysis, Resources and Capabilities, Competitive Advantage, and External Growth Strategies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Students will further examine the theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation through case studies. Students will read and discuss papers and research conducted in this area. In the process, they will acquire tools and perspectives to formulate a research question and to apply what they have learnt to their own research. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Strategy (1)	What is strategy?
3	Industry Analysis	The fundamental of industry analysis
4	Industry Analysis (2)	Case studies
5	Resources and Capabilities (1)	From theory to practice
6	Resources and Capabilities (2)	Case studies
7	Competitive Advantage (1)	From theory to practice
8	Competitive Advantage (2)	Case studies
9	Competitive Advantage (3)	Blue ocean strategies
10	External Growth Strategy (1)	From theory to practice
11	External Growth Strategy (2)	Case studies
12	Company visit/Guest speaker	Company visit
13	Final Presentation (1)	Term paper and research paper presentation
14	Final Presentation (2)	Term paper and research paper presentation

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings and case studies thoroughly to engage in active class discussion.

The preparatory study and review time for this class is 4 hours each.

【Textbooks】

No particular textbook.

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley. 2016

Portales, Luis. *Social innovation and social entrepreneurship: Fundamentals, Concepts, and Tools*, Palgrave Macmillan. 2019

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), group assignments and discussions (25%), review tests (25%), and a final paper and presentation (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

This seminar is only for GIS students who passed the seminar interview and have taken Seminar: Entrepreneurship and Innovation I.

【Prerequisite】

Seminar: Entrepreneurship and Innovation I

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Entrepreneurship & Innovation II

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金2/Fri.2

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

This is a continuation of the seminar from the Spring semester. We will continue to learn concepts and theories related to entrepreneurship and innovation but more emphasis will be placed on case studies. Students will refine their skills in discussion and presentation. Students will also conduct their own research related to a theme in this seminar.

Fall Innovation Theme: Industry Analysis, Resources and Capabilities, Competitive Advantage, and External Growth Strategies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Students will further examine the theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation through case studies. Students will read and discuss papers and research conducted in this area. In the process, they will acquire tools and perspectives to formulate a research question and to apply what they have learnt to their own research. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Strategy (1)	What is strategy?
3	Industry Analysis	The fundamental of industry analysis
4	Industry Analysis (2)	Case studies
5	Resources and Capabilities (1)	From theory to practice
6	Resources and Capabilities (2)	Case studies
7	Competitive Advantage (1)	From theory to practice
8	Competitive Advantage (2)	Case studies
9	Competitive Advantage (3)	Blue ocean strategies
10	External Growth Strategy (1)	From theory to practice
11	External Growth Strategy (2)	Case studies
12	Company visit/Guest speaker	Company visit
13	Final Presentation (1)	Term paper and research paper presentation
14	Final Presentation (2)	Term paper and research paper presentation

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings and case studies thoroughly to engage in active class discussion.

The preparatory study and review time for this class is 4 hours each.

【Textbooks】

No particular textbook.

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley. 2016

Portales, Luis. *Social innovation and social entrepreneurship: Fundamentals, Concepts, and Tools*, Palgrave Macmillan. 2019

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), group assignments and discussions (25%), review tests (25%), and a final paper and presentation (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

This seminar is only for GIS students who passed the seminar interview and have taken Seminar: Entrepreneurship and Innovation I.

【Prerequisite】

Seminar: Entrepreneurship and Innovation I

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on "Global Marketing Strategy", including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager's perspective, (f) making presentations and discussion based on "facts and data" and "experience", (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Methods	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.

- ・Students need to make good preparations for individual / group study.
- ・Students are encouraged to join the summer training camp.
- ・Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Individual Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year students) (40%)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on "Global Marketing Strategy", including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager's perspective, (f) making presentations and discussion based on "facts and data" and "experience", (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Methods	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.

- ・Students need to make good preparations for individual / group study.
- ・Students are encouraged to join the summer training camp.
- ・Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Individual Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year students) (40%)

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None.

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies / local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

【Goal】

By the end of the seminar, students will gain (1) academic knowledge about international / global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking, (4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) — Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2) — Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3) — Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4) — Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion

10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint
11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present on what they have learned in this course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- Students need to prepare for individual / group study and presentations.
- Students are encouraged to join the summer training camp.
- Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) — 40%

Assignment — 20%

Interim Report (3rd year students) — 40%

Final Report (4th year students) — 40%

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Prerequisite】

Global Strategic Management I

MAN400ZA (経営学 / Management 400)

Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <実>

【Outline and objectives】

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies / local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

【Goal】

By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international / global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking, (4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) — Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2) — Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3) — Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4) — Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion

10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint
11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present on what they have learned in this course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- Students need to prepare for individual / group study and presentations.
- Students are encouraged to join the summer training camp.
- Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) — 40%

Assignment — 20%

Interim Report (3rd year students) — 40%

Final Report (4th year students) — 40%

【Changes following student comments】

N/A

【Equipment student needs to prepare】

N/A

【Prerequisite】

Global Strategic Management I

LIT400ZA (文学 / Literature 400)

Seminar: Literature in Theory and Practice I

Kevin Thomas Niehaus

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水3/Wed.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

Presentation: 25%

Final paper: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literature and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar.

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. What separates a strong reading from a weak reading? How do critics and theorists evaluate and discuss a text? What tools and methods do researchers employ to deepen our understanding of a work of literature and its context? In this course, we will be exploring these questions through reading, researching, and discussing a selection of modern and contemporary pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) grasp the basic theory and methodology of literary research
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This seminar will be primarily based around reading short fiction and essays. Students will conduct independent research on assigned short stories, which they will then present in class. These presentations will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class participation, presentations, and written submissions. Feedback on presentations and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Methods	An introduction to methods and resources for literature research
3	Reading Literary Research (1)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
4	Reading Literary Research (2)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
5	Reading 1	Presentation and discussion related to student research
6	Reading 2	Presentation and discussion related to student research
7	Reading 3	Presentation and discussion related to student research
8	Reading 4	Presentation and discussion related to student research
9	Reading 5	Presentation and discussion related to student research
10	Reading 6	Presentation and discussion related to student research
11	Reading 7	Presentation and discussion related to student research
12	Reading 8	Presentation and discussion related to student research
13	Reading 9	Presentation and discussion related to student research
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent research project. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Texts will be provided through Hoppii.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

LIT400ZA (文学 / Literature 400)

Seminar: Literature in Theory and Practice I

Kevin Thomas Niehaus

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水4/Wed.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

Presentation: 25%

Final paper: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literature and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar.

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. What separates a strong reading from a weak reading? How do critics and theorists evaluate and discuss a text? What tools and methods do researchers employ to deepen our understanding of a work of literature and its context? In this course, we will be exploring these questions through reading, researching, and discussing a selection of modern and contemporary pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) grasp the basic theory and methodology of literary research
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This seminar will be primarily based around reading short fiction and essays. Students will conduct independent research on assigned short stories, which they will then present in class. These presentations will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class participation, presentations, and written submissions. Feedback on presentations and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Methods	An introduction to methods and resources for literature research
3	Reading Literary Research (1)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
4	Reading Literary Research (2)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
5	Reading 1	Presentation and discussion related to student research
6	Reading 2	Presentation and discussion related to student research
7	Reading 3	Presentation and discussion related to student research
8	Reading 4	Presentation and discussion related to student research
9	Reading 5	Presentation and discussion related to student research
10	Reading 6	Presentation and discussion related to student research
11	Reading 7	Presentation and discussion related to student research
12	Reading 8	Presentation and discussion related to student research
13	Reading 9	Presentation and discussion related to student research
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent research project. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Texts will be provided through Hoppii.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

LIT400ZA (文学 / Literature 400)

Seminar: Literature in Theory and Practice II

Kevin Thomas Niehaus

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 水4/Wed.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. How do authors approach the composition of a text? How does a text change through the revision process? How does the act of writing transform how we read literature? In this seminar, students will put their research from the spring into practice by creating their own pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) practice planning, composing, revising, and workshopping prose fiction
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Students will utilize the theories and examples covered in the spring to write their own pieces of short fiction, which they will present, workshop, and revise. Students will also be responsible for providing constructive feedback to their classmates each week. These workshops will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class contributions, workshops, and written submissions. Feedback on workshops and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theories of Writing 1	An introduction to various approaches to composing prose fiction
3	Theories of Writing 2	An introduction to various approaches to composing prose fiction
4	Practice Workshop	An introduction to the format and structure of fiction workshops
5	Workshop 1	Reading, discussing, and revising student compositions
6	Workshop 2	Reading, discussing, and revising student compositions
7	Workshop 3	Reading, discussing, and revising student compositions
8	Workshop 4	Reading, discussing, and revising student compositions
9	Workshop 5	Reading, discussing, and revising student compositions
10	Workshop 6	Reading, discussing, and revising student compositions
11	Workshop 7	Reading, discussing, and revising student compositions
12	Workshop 8	Reading, discussing, and revising student compositions
13	Workshop 9	Reading, discussing, and revising student compositions
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent composition assignment. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Readings will be provided in class by the instructor.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

Workshop draft: 25%

Final draft: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literature and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar. However, this course is intended to be taken in tandem with Seminar: Literature in Theory and Practice I in the spring semester.

LIT400ZA (文学 / Literature 400)

Seminar: Literature in Theory and Practice II

Kevin Thomas Niehaus

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 水5/Wed.5

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. How do authors approach the composition of a text? How does a text change through the revision process? How does the act of writing transform how we read literature? In this seminar, students will put their research from the spring into practice by creating their own pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) practice planning, composing, revising, and workshopping prose fiction
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

Students will utilize the theories and examples covered in the spring to write their own pieces of short fiction, which they will present, workshop, and revise. Students will also be responsible for providing constructive feedback to their classmates each week. These workshops will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class contributions, workshops, and written submissions. Feedback on workshops and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theories of Writing 1	An introduction to various approaches to composing prose fiction
3	Theories of Writing 2	An introduction to various approaches to composing prose fiction
4	Practice Workshop	An introduction to the format and structure of fiction workshops
5	Workshop 1	Reading, discussing, and revising student compositions
6	Workshop 2	Reading, discussing, and revising student compositions
7	Workshop 3	Reading, discussing, and revising student compositions
8	Workshop 4	Reading, discussing, and revising student compositions
9	Workshop 5	Reading, discussing, and revising student compositions
10	Workshop 6	Reading, discussing, and revising student compositions
11	Workshop 7	Reading, discussing, and revising student compositions
12	Workshop 8	Reading, discussing, and revising student compositions
13	Workshop 9	Reading, discussing, and revising student compositions
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent composition assignment. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Readings will be provided in class by the instructor.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

Workshop draft: 25%

Final draft: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literature and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar. However, this course is intended to be taken in tandem with Seminar: Literature in Theory and Practice I in the spring semester.

CUA400ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

Seminar: Media Across Borders I

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

It has often been noted that animation is the dominant medium of the current era. For instance, Disney is the world's largest media company, anime is a globally popular media, and we even use animated LINE stamps to communicate with each other. Considering how our lives are now so "animated" as the point of departure, this seminar will explore ways of thinking about media broadly, including anime and films, manga and music, games, lifestyle, fashion, and SNS. Learning various theoretical and methodological approaches, this seminar will explore how different media are both affected by and affect the global societies we live in.

[Goal]

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Reading Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies

9	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project
10	Reading Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Reading Research VII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
13	Reading Research VIII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
14	Research Project Workshop II	Presentations and discussions on students' own research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Hansen, Mark B. N., and W. J. T. Mitchell. *Critical Terms for Media Studies*. Chicago and London: The University of Chicago Press, 2010.
 Jin, Dal Yong. *Transmedia Storytelling in East Asia: The Age of Digital Media*. New York: Routledge, 2020.
 Manovich, Lev. *The Language of New Media*. Cambridge: MIT Press, 2000.
 Ngai, Sianne. *Ugly Feelings*. Cambridge, Mass.; London: Harvard University Press, 2007.
 Santiago Iglesias, José Andrés, and Ana Soler Baena, eds. *Anime Studies: Media-Specific Approaches to Neon Genesis Evangelion*. Stockholm: Stockholm University Press, 2021.
 Silvio, Teri. *Puppets, Gods, and Brands: Theorizing the Age of Animation from Taiwan*. Honolulu: University Press of Hawai'i Press, 2019.
 Storey, John. *Cultural Theory and Popular Culture: A Reader*. New York: Routledge, 2019.

[Grading criteria]

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 15%, Group activity II 15%, Research plan 30%

[Changes following student comments]

The professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

[Others]

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.
 Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

[Prerequisite]

None.

CUA400ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

Seminar: Media Across Borders I

Stevie Suan

Credit(s): 2 | Semester: 春学期授業/Spring | Year: 3~4

Day/Period: 金4/Fri.4

Notes: Not Available for ESOP Students.

その他属性: <優>

[Outline and objectives]

It has often been noted that animation is the dominant medium of the current era. For instance, Disney is the world's largest media company, anime is a globally popular media, and we even use animated LINE stamps to communicate with each other. Considering how our lives are now so "animated" as the point of departure, this seminar will explore ways of thinking about media broadly, including anime and films, manga and music, games, lifestyle, fashion, and SNS. Learning various theoretical and methodological approaches, this seminar will explore how different media are both affected by and affect the global societies we live in.

[Goal]

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?] Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form: 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Reading Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies

9	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project
10	Reading Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Reading Research VII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
13	Reading Research VIII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
14	Research Project Workshop II	Presentations and discussions on students' own research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Hansen, Mark B. N., and W. J. T. Mitchell. *Critical Terms for Media Studies*. Chicago and London: The University of Chicago Press, 2010.
 Jin, Dal Yong. *Transmedia Storytelling in East Asia: The Age of Digital Media*. New York: Routledge, 2020.
 Manovich, Lev. *The Language of New Media*. Cambridge: MIT Press, 2000.
 Ngai, Sianne. *Ugly Feelings*. Cambridge, Mass.; London: Harvard University Press, 2007.
 Santiago Iglesias, José Andrés, and Ana Soler Baena, eds. *Anime Studies: Media-Specific Approaches to Neon Genesis Evangelion*. Stockholm: Stockholm University Press, 2021.
 Silvio, Teri. *Puppets, Gods, and Brands: Theorizing the Age of Animation from Taiwan*. Honolulu: University Press of Hawai'i Press, 2019.
 Storey, John. *Cultural Theory and Popular Culture: A Reader*. New York: Routledge, 2019.

[Grading criteria]

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 15%, Group activity II 15%, Research plan 30%

[Changes following student comments]

The professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

[Others]

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries. Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

[Prerequisite]

None.

CUA400ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

Seminar: Media Across Borders II

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 金3/Fri.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This class is the second semester in the Media Across Borders seminar. As such, it will build on what the students learned in the spring semester. This semester will continue the exploration and examination of various theories and methods pertaining to media studies, and in particular, animation as broadly conceived. There will also be more focus on students' research projects, with the students presenting their research projects in a more extended form at the end of the semester and submitting their final written versions. There will also be the opportunity to get more feedback on their topics as it develops across the semester

【Goal】

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading, Applying, Critiquing Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading, Applying, Critiquing Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading, Applying, Critiquing Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies

8	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project
9	Reading, Applying, Critiquing Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
10	Reading, Applying, Critiquing Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading, Applying, Critiquing Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Research Project Workshop II	Research project presentations and feedback
13	Research Project Workshop III	Research project presentations and feedback
14	Research Project Workshop IV	Research project presentations and feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students in their group, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Chung, Hye Jean. *Media Heterotopias: Digital Effects and Material Labor in Global Film Production*. Durham: Duke University Press, 2018.

Durham, Meenakshi Gigi, and Douglas Kellner. *Media and Cultural Studies: Keywords*. Malden: Wiley-Blackwell, 2012.

Heise, Ursula. *The Routledge Companion to the Environmental Humanities*. New York: Routledge, 2017.

Heise, Ursula K. *Sense of Place and Sense of Planet: The Environmental Imagination of the Global*. Oxford, New York: Oxford University Press, 2008.

Morton, Timothy. *All Art Is Ecological*. London: Penguin Books, 2021.

Roudometof, Victor. *Glocalization: A Critical Introduction*. New York: Routledge, 2016.

【Grading criteria】

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 10%, Group activity II 10%, Research Presentation 10%, Research Paper 30%

【Changes following student comments】

The professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

【Others】

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.

Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

【Prerequisite】

None.

CUA400ZA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400)

Seminar: Media Across Borders II

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金4/Fri.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優>

【Outline and objectives】

This class is the second semester in the Media Across Borders seminar. As such, it will build on what the students learned in the spring semester. This semester will continue the exploration and examination of various theories and methods pertaining to media studies, and in particular, animation as broadly conceived. There will also be more focus on students' research projects, with the students presenting their research projects in a more extended form at the end of the semester and submitting their final written versions. There will also be the opportunity to get more feedback on their topics as it develops across the semester

【Goal】

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading, Applying, Critiquing Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading, Applying, Critiquing Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading, Applying, Critiquing Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies

8	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project
9	Reading, Applying, Critiquing Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
10	Reading, Applying, Critiquing Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
11	Reading, Applying, Critiquing Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Research Project Workshop II	Research project presentations and feedback
13	Research Project Workshop III	Research project presentations and feedback
14	Research Project Workshop IV	Research project presentations and feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students in their group, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Chung, Hye Jean. *Media Heterotopias: Digital Effects and Material Labor in Global Film Production*. Durham: Duke University Press, 2018.

Durham, Meenakshi Gigi, and Douglas Kellner. *Media and Cultural Studies: Keywords*. Malden: Wiley-Blackwell, 2012.

Heise, Ursula. *The Routledge Companion to the Environmental Humanities*. New York: Routledge, 2017.

Heise, Ursula K. *Sense of Place and Sense of Planet: The Environmental Imagination of the Global*. Oxford, New York: Oxford University Press, 2008.

Morton, Timothy. *All Art Is Ecological*. London: Penguin Books, 2021.

Roudometof, Victor. *Glocalization: A Critical Introduction*. New York: Routledge, 2016.

【Grading criteria】

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 10%, Group activity II 10%, Research Presentation 10%, Research Paper 30%

【Changes following student comments】

The professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

【Others】

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.

Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

【Prerequisite】

None.

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

日本語の世界 L A

尾形 太郎

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya

備考（履修条件等）：定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC
科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語、特に日本語の文法について考え、学ぶ授業です。
「文法について学ぶ」といっても、中学校や高校で学ぶような用語（主語、述語、修飾語、〇〇活用等々）や、日本語学校での勉強や日本語能力試験のための勉強のような文型の用法を暗記することがこの授業の目的ではありません。

本授業の目的は、普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、私たちの日常的な日本語運用の中に隠れているメカニズムに迫ることにあります。

例えば、私たち（日本語話者）は探し物を見つけたとき「あった！」と言いますが、なぜ現に目の前に目当てのものがあるにもかかわらず、「ある！」ではなく、「あった！」と言ってしまうのでしょうか？あるいは、私たちは何かを言おうとして、「あー」とか、「えー」と言ってしまうことがあります、両者には何か違いがあるのでしょうか？

（答えを先取りすると、両者には違いがあります。では、どのような違いがあるのでしょうか？）

この授業では、こういった身近な日本語を題材に、日本語について、普段とは違う観点から少しだけ深く考えてみたいと思います。

その際、日本語学、認知言語学、語用論などの知見を参照しますので、これら学問の基本的な考え方（のいくつか）についても学ぶことができます。

ただし、受講に当たって言語学の知識は全く必要ありません。日本の大学で日本語で学ぶに十分な日本語能力さえあれば、どんな人でも受講可能です。

【到達目標】

1. 日本語文法への理解を深める。
2. 日本語学におけるいくつかの基本的概念や理論を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

資料を用いた学習・議論➡課題

各回の課題へのフィードバックは授業中に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業ガイダンス	授業ガイダンス
②	日本語における格 「♪私だけ愛してた」 ～誰が誰を愛してた？	日本語における格を考える
③	「大学へ行った」は ○、「風呂へ入った」 は△、「電車へ乗った」は×	「へ」「に」「で」から場所に関連する助詞の機能の違いを考える
		「た」は×、の不思議

- ④ 「Switch、また売り 場所を表す助詞ニとデの違いを切れだって」「え、昨 考える
日、ヨドバシ {に／
で} あったよ。」～こ
ういう場合、デでも
OKなんですかね？
- ⑤ 「(Switch、) ヨドバシ 場所を表す助詞ニとデの違いを
であったよ」とは言 考える
えても、「(Switch、)
ノートPCコーナーの
隣であったよ」とは
言えないのはなぜ？
- ⑥ 「あ、お湯がわいて 「てい(る)」と「た」の違いか
(い)る」vs「あ、お ら日本語における出来事の様相
湯がわいた」は同じ の捉え方を考える
出来事を表してい
る？
- ⑦ 「あ、レポート、今日 「た」から日本語の時間認識を考
までだった！」～今 える
日のことなのに何で
タって言うの？
- ⑧ 「犯人はルパンだ」vs 「は」と「が」の機能の違いを考
「犯人がルパンだ」、 える
「ルパンが犯人だ」vs
「ルパンは犯人だ」
- ⑨ で、「は」と「が」っ 日本語学習者に「は」と「が」
どうやって使いわ の違いを教えるにはどうすれば
ければいいの？ いいか考える
- ⑩ 「あ～何だか体がだる 「はずだ」の意味と機能を考える
い。風邪を引いたは
ずだ。」とは言えない
のはなぜ？
- ⑪ 学生「先生、「あ 「あの一」と「えーと」の機能を
のー」の意味ってな 考える
んですか？」
先生「えーと、「あ
の一」の意味はです
ね、あの一…」
- ⑫ 「あ、0点」vs「え、0 感動詞が表す「心の働き」を考
点」vs「お、0点」 える
- ⑬ A「この授業、退屈 「でも」と「ところが」の違いを
だね」 考える
B「うん。{でも／??
ところが}、試験は簡
単らしいよ。」
- ⑭ 学期のまとめ まとめと期末課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の文法を観察・内省し、自分なりの問いを立てること。
本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（毎回の課題、事前課題）50%、期末課題50%で、評価を決める。

期末課題は選択制（複数の課題の中から2つ選び、授業内容を踏まえ解答する）。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」と言った肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきたいと思っています。

また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れているメカニズムに好奇心を持って迫ってみてください。

言語学や日本語学についての特別な知識はありません。

日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について少し詳しく知りたい日本語母語話者、日本語教育に関わりたい人などにとって興味深い授業となるよう努めます。

言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。

なお、授業計画は、一部変更することがあります。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are expected to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced through the task, students can learn some basic ideas in these fields.

Goal : (1) Deepen understanding of Japanese grammar
(2) Learn some basic concepts and theories in the field of the Japanese linguistics

Work to be done outside of class (preparation, etc. : one hour

Grading criteria : Participation (50%), Final report (50%)

ARSe200LA (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 200)

日本語の世界 L B

尾形 太郎

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya

備考 (履修条件等)：定員制 (30名) / 2017年度以降入学者_ILAC
科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語、特に日本語の文法について考え、学ぶ授業です。

「文法について学ぶ」といっても、中学校や高校で学ぶような用語 (主語、述語、修飾語、〇〇活用等々) や、日本語学校での勉強や日本語能力試験のための勉強のような文型を暗記することがこの授業の目的ではありません。

本授業の目的は、普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、私たちの日常的な日本語運用の中に隠れているメカニズムに迫ることにあります。

例えば、私たち (日本語話者) は、「ねえ、昨日、あの後、どうなった?」「昨日のあれ、まだある?」のように「あの」や「あれ」を使い、コミュニケーションができてしまうことがあります。

この時、聞き手には「あの」や「あれ」が何を表しているのか、はっきりと示されていないにもかかわらず、言いたいことが伝わってしまうのはなぜでしょうか?

また、なぜ「ねえ、昨日、その後、どうなった?」「昨日のそれ、まだある?」とは言わないのでしょうか?

あるいは、アルバイトで仕事を終え帰ろうとしているところに、同僚から「もう帰るつもりなの?」と言われると、同僚に責められているような気がしてしまうのはなぜでしょうか?

(ちなみに「もう帰るの?」と言われた場合、言い方にもよりますが、あまり責められているようには感じないのではないのでしょうか。)

本授業では、このような身近な日本語を題材に、普段とは異なる視点から、少しでも深く日本語文法について検討します。

その際、日本語学、認知言語学、語用論、日本語教育学などの知見を参照しますので、これら学問の基本的な考え方 (のいくつか) についても学ぶことができます。

ただし、受講に当たって言語学の知識は全く必要ありません。日本の大学で日本語で学ぶに十分な日本語能力さえあれば、どんな人でも受講可能です。

また、春学期の授業 (日本語の世界 LA) を受講していない人でも受講可能です。

【到達目標】

- 1) 日本語文法への理解を深める
- 2) 日本語学におけるいくつかの基礎的な概念や理論について学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題→教材を用いた学習・議論→課題

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業ガイダンス 世界の言語の中の日本語	授業の進め方の説明 今までに学んだ言語と日本語を比べる／先学期と今学期の授業内容の紹介

②	「彼女にふられた (涙)」vs「彼女は私をふった」 ～日本人は受身がち?	ヴォイス (態) について「視点」概念から考える
③	～「あ、黒猫が黒猫を追いかけてる」vs「あ、黒猫が黒猫に追いかけてられてる」 ～能動/受動はどのように使い分けられているのか	ヴォイス (態) について「人称階層」概念から考える
④	A「ここ、涼しいね」 B「うん、ここ、涼しい」 A「ここ、涼しいね」 B「え、そこ、涼しいの?」 こは暑いよ」～	「こそあ」の「対立型」「融合型」について考える
⑤	(壁に飾られた絵を見かける) A「{その/あの} 絵、私が描いたんです。」 ～「その」と「あの」のあいまいな(?)境界	「こそあ」について「注意」概念から考える
⑥	「昨日、キャンパスですごい人見たんだ。あの人、リクルートスーツを着てるのに、頭はモヒカン刈りなんだよ。」の「あの人」に違和感を感じませんか?	「こそあ」について「知識説」「体験/概念」説から考える
⑦	孫「おじいちゃんが学生の時ってどんなだった?」祖父「学生の頃か…、{あの/??} その} 頃はな…」～なぜアは自然、ソは不自然なのか～	「こそあ」について複数の心的領域説から考える
⑧	「あ、(私の猫がみかんを) 食べてる」が、 My cat is eating an orange. を意味しないのはどんな時?	「Vている」の意味と機能を分類する
⑨	(科学者が実験室の明かりを消して)「さあ、これで何も {見えます/見えていません}」～「ている」が使えるのはどんな時?	「Vている」の意味と機能を「証拠性」の観点から考える
⑩	車内放送で「この電車は終点東京まで各駅に止まるつもりです。」と言われたら、ちょっと心配になってしまうのはなぜ?	「つもり」の意味と機能を分類する
⑪	先生「Aさん、予習しましたか?」 学生A「はい、しました。」 先生「ふーん、それでしたつもりですか。」 ～「～つもりですか」と言われると責められている気がするのはなぜ?	発話における「つもり」の機能を語用論的に考える

- ⑫ 学生「先生、すみません、これ、先週締め切りのレポートです。」 vs 「先生、すみません、これは、先週締め切りのレポートです。」～「は」がないほうがいいように感じませんか？
- ⑬ 「そうですね」 vs 「そうですね」 vs 「そうですね」 終助詞の機能の違いをグループで議論し、仮説を立てる
- ⑭ ヨトネには色々な説 終助詞の機能の違いを「情報のあります {よ／ね} 管理権限」から考える
～諸説を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の文法を観察・内省し、自分なりの問いを立てること。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（討論での発言、リアクション・ペーパーなど）60%、
期末レポート40%で、評価を決める。
出席率が70%以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」といった肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきたいと思っています。

また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れているメカニズムに好奇心を持って迫ってみてください。

言語学や日本語学についての特別な知識は必要ありません。

日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について少し詳しく知りたい日本語母語話者、日本語教育に携わりたい人などにとって興味深い授業となるよう努めます。

言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。

なお、授業計画は、一部変更することがあります。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are expected to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced through the task, students can learn some basic ideas in these fields.

Goal : (1) Deepen understanding of Japanese grammar
(2) Learn some basic concepts and theories in the field of the Japanese linguistics

Work to be done outside of class (preparation, etc. : one hour

Grading criteria : Participation (50%), Final report (50%)

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200)

日本の文化と社会 L A

尾形 太郎

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya

備考（履修条件等）：定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC

科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれませんが、そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれません。

しかし、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することです。

端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることです。

具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討します。

【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。

ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないが、安楽死肯定論は、なぜ安楽死に限り「死なせる」ことが許容されると考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。

だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもよい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見過ごしている。

また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘します。

また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介します。

【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。

一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつもの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。

授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつです。

ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたいと思います。

いただいたコメントは次回の授業で紹介します。

【キーワード】

安楽死・尊厳死、オランダの安楽死制度、自己決定、社会的弱者、障害者、差別解消法、合理的配慮、思いやり批判、マジョリティの特権

【到達目標】

1. 安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。
2. 安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。
3. 日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解すること。
4. 「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。
5. 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。
6. マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。
7. 「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

②その日のテーマに関する講義

③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える

⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める
⑪	みえない特権とは何か (学生の文献紹介を含む)	「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」概念に基づき考える
⑫	マジョリティ/マイノリティの非対称性 (学生の文献紹介を含む)	マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討 (学生の文献紹介を含む)	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	まとめとディスカッション	今学期の内容について振り返るとともに、学生が提案したテーマについて議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店

荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200）

日本の文化と社会 L B

尾形 太郎

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya

備考（履修条件等）：定員制（30名）／2017年度以降入学者_ILAC
科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれませんが。そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれません。

しかし、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方から多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することです。

端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることです。

具体的には、本授業は、①ジェンダー格差、②性的マイノリティに対する差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討します。

【ジェンダー格差】

日本のジェンダー格差は国際的に見ても小さいとは言えない（例えば、世界経済フォーラム（WEF）が毎年公表しているジェンダーギャップ指数（GGGI）の日本の指数は0.666で148か国中118位）。このことについて、聞いたことがある、何となく知っているという人は多いだろう。

だが、どこに、どのような意味で、ジェンダー格差が存在するのか、なぜ格差はなかなか解消しないのか、格差の背景には何があるのか、知っているという人、学んだことがあるという人は少ないのではないだろうか。

本授業では、様々な調査や先行研究に基づき、現代日本社会におけるジェンダー格差の現状を把握すると同時に、「家族」「労働（雇用・キャリア）」「教育」といった観点からその背景を探る。

【性的マイノリティに対する差別】

近年、「LGBTQ+」「SOGI」といった言葉は日本社会に広く浸透しているように思われる。

しかし、これらの言葉の正確な定義を把握したうえで、これらの概念が何を問題にしているのか十分に理解されているとは言いがたい。端的に言えば、これらの概念は、異性愛やシスジェンダー（出生時に割り当てられた性別と自分の性自認が一致している性自認のあり方）を「普通」と見なし、そのことによって、異性愛以外の性愛やシスジェンダー以外のジェンダーに排除的な従来の社会のあり方を批判している（もし、この文章を読んでいるあなたが、ここに書かれていることが実感できないのであれば、あるいはそもそも何が言いたいのか意味が理解できないのであれば、本授業は自分自身の「普通」を問い直すきっかけ、知らず知らず「差別的」であるかもしれない自分の考え方を問い直すきっかけとなるかもしれない。）

本授業では、これらの批判の含意を検討し、同時に同性婚や性別変更に関する日本の法制度の現状に関する理解を深める。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。

授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつです。

ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたいと思います。

いただいたコメントは次回の授業で紹介します。

【キーワード】

ジェンダー格差、性別役割分業、近代家族、フェミニズム、インターセクショナリズム、なぜ理系を学ぶ女子学生は少ないのか、性的指向、異性愛規範、同性婚、性自認、シス／トランスジェンダー、性別変更、カミングアウト、アウティング

【到達目標】

1. 日本社会におけるジェンダー格差の現状を把握したうえで、その背景を家族・雇用・教育といった観点からどのように議論されているのか、基本的な知識を身に付けること。
2. 「異性愛」以外の性愛のあり方に関する基本的な知識を身に付けること。
3. 性自認の多様性に関する基本的な知識を身に付けること。
4. 日本における同性婚をめぐる論点を把握すること。
5. 日本における性別変更をめぐる論点を把握すること。
6. トランスジェンダー当事者が直面する様々な困難や差別に関する知識を深めること。
7. カミングアウトとは何か、単なる「秘密の告白」とは何が異なるのか理解を深めること。
8. アウティングとは何か、どのような点で問題なのか、理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

②その日のテーマに関する講義

③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション／ジェンダー格差・差別について、身近な言葉から考える	授業の進め方を説明する。それぞれの興味関心を共有する／「〇〇男子/女子」という言い方は問題か？
②	日本における「性別役割分業」の実態	日本において、性別役割分業は「解決済み」の問題なのか、統計データをもとに考える
③	「家族」という観点からジェンダーを考える／第2波フェミニズムの主張	「近代家族」における「母親」の役割／第2波フェミニズムはなぜ性別役割分業を批判した（する）のか
④	「日本型雇用」という観点からジェンダー格差を考える	「日本型雇用慣行」の特徴、あるいは「メンバーシップ型」雇用と呼ばれる雇用のあり方がジェンダー格差どのように影響するのか探る
⑤	ステレオタイプはキャリアにどのような影響を与えるか	ステレオタイプとは何か／リーダーに関するジェンダーバイアスとその形成要因／何が女性の管理職志向を妨げるのか／好意的性差別主義とは何か
⑥	理系の女性はなぜ少ないのか	教育におけるジェンダー格差の現状／数学ステレオタイプの様々な影響／格差解消のために必要なこと
⑦	そもそも「ジェンダー」とは何か	社会構築主義の立場から「ジェンダー」概念を捉える
⑧	「性的マイノリティ」について、SOGIから考える	SOGI概念を理解し、性的マイノリティを考える上で必要な基本的な考え方を理解する

⑨	性的指向の多様性と異性愛中心主義について考える	性的指向の多様性（異性愛・同性愛・両性愛・無性愛など）を理解し、既存の社会制度が規範の異性愛中心主義であることを検討する
⑩	日本における同性婚をめぐる論点	「同性愛」の病理化・脱病理化の過程／同性婚が合法化が認められていない現状は憲法に反しているか（「結婚の自由をすべての人に」訴訟から考える）
⑪	「トランスジェンダー」概念	「生物学的性の多様性」、「出生時に割り当てられた生」、「性別違和」等の概念からトランスジェンダーとは何か学ぶ
⑫	トランスジェンダーに対する差別（学生による文献紹介を含む）	「教育」「医療」「法律」「労働」の観点からトランスジェンダーに対する差別の実態を考える
⑬	「カミングアウト」と「アウティング」（学生による文献紹介を含む）	「カミングアウト」とはどのような行為なのか、なぜ「カミングアウト」するのか、また「アウティング」の暴力性について事例を通して考える
⑭	学生による発表	履修生が、学期中に扱ったテーマに関する文献紹介または自由発表（レポートの構想）・質疑応答を行う

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下を紹介しておきます。

周司あきら・高井ゆと里（2023）『トランスジェンダー入門』集英社

新々江章友（2022）『クィア・アクティヴィズム』花伝社

牧野百恵（2023）『ジェンダー格差』中央公論新社

森山至貴（2017）『LGBTを読みとくクィア・スタディーズ入門』

筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題（50%）、期末レポート（50%）

出席率が70%以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントがあったため、今後も「考えるきっかけ」を与えられるよう心がけたい。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat Gender disparity and sexual minority discrimination issues in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 最大6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半に行うグループワークを通じJICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめる。そのため、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。

第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講師から資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20％。課題パワーポイント作成と発表課題50％、課題レポート：30％。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining and accommodating cultural differences. The main focus of the lectures is given to the official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.

4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.

Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.

Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 最大6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立って学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半に行うグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめる。そのため、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。

第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
 2. Understand the reality of studying abroad.
 3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.
 4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.
- Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.
Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆の市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆の市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002年）

【成績評価の方法と基準】

平常点10％と期末の論述試験90％。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	15%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	5%
(F) 総合デザイン能力	5%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002年）

【成績評価の方法と基準】

平常点10%と期末の論述試験90%。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史の変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002年）

【成績評価の方法と基準】

平常点10％と期末の論述試験90％。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は講義終了後に学習支援システムにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will explore global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will examine the scientific background, mitigation technologies, policies, and other factors related to global environmental challenges.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of issues related to human activities, energy, and the environment, to understand the background behind these issues, and to learn frameworks for thinking about possible solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Class participation and engagement will account for 80% of the grade, and attendance will account for 20%. More than four absences will not be accepted.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動(人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動)は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響(大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など)は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。

○資料の提供は、当該授業終了後に学習支援システムにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは利用しません、毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20％）により評価します。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will explore global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will examine the scientific background, mitigation technologies, policies, and other factors related to global environmental challenges.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of issues related to human activities, energy, and the environment, to understand the background behind these issues, and to learn frameworks for thinking about possible solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Class participation and engagement will account for 80% of the grade, and attendance will account for 20%. More than four absences will not be accepted.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は講義終了後に学習支援システムにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。
環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will explore global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will examine the scientific background, mitigation technologies, policies, and other factors related to global environmental challenges.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of issues related to human activities, energy, and the environment, to understand the background behind these issues, and to learn frameworks for thinking about possible solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Class participation and engagement will account for 80% of the grade, and attendance will account for 20%. More than four absences will not be accepted.

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

ジオロジカルエンジニアリング

中谷 匡志

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】

1. 土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2. 調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3. 地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4. 基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5. 講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地質情報概論（0.5回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかわり考える。

地質の基礎知識（1.5回）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。
特別講義（2回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。
地質調査・試験（1回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。
ダムと地質情報（2回）、トンネルと地質情報（2回）、構造物基礎と地質情報（1回）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をDVDなどで紹介し、理解を深める。

のり面と地質情報（2回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
地すべりと地質情報（1回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形的特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。

最終の講義では、上記14回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。

授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識(1)	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識(2)	岩盤の風化・変質、地質構造。
	地質の基礎知識を習得する。	

3	特別講義(1) 「地球の動き／地震」の解釈の歴史の変遷、現状を理解する。	地震・活断層、津波、プレートテクトニクス、地震予知。
4	地質調査・試験 代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。
5	地盤の分類（岩盤分類） 岩盤を定量的に区分する方法について理解する。	岩盤分類法、海外の岩盤分類。
6	ダムと地質情報(1) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。
7	ダムと地質情報(2) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。
8	特別講義(2) 「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。	原子力発電所の地震対策、津波対策、再稼働方法。
9	トンネルと地質情報(1) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、切羽前方探査。
10	トンネルと地質情報(2) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	日本で最も長い青函トンネルと大規模地下空洞である小丸川地下発電所の施工事例。
11	構造物基礎と地質情報 橋梁の歴史的変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。
12	のり面と地質情報(1) 掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。	掘削のり面の基本、岩盤の異方性と掘削のり面の安定性との関係。
13	のり面と地質情報(2) のり面の安定対策方法と設計方法を習得する。	掘削のり面の安定対策、直線すべりの安定計算。
14	地すべりと地質情報 地すべり地形的特徴と見方と安定計算方法を習得する。	地すべり地形的特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 教科書全体の通読、教科書1章地盤の地質の予習・復習
 2. 教科書1章地盤の地質の予習・復習
 3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 4. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 5. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 6. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
 7. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
 8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 9. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 10. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 11. 教科書6章基礎と地盤地質の予習・復習
 12. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
 13. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
 14. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤 光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院を使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で実施する演習問題（記述・作図・計算など）の提出により習得度を評価し、その合計から評価点（100点満点）を算出する。
合否の基準は、100-90点をS、89-87点をA+、86-83点をA、82-80点をA-、79-77点をB+、76-73点をB、72-70点をB-、69-67点をC+、66-63点をC、62-60点をC-とし合格とする。59.0点または欠席4回以上をD、未受講、採点不能をEとし不合格とする。
期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

演習については、十分な時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】

現役の建設会社に勤務する博士（学術）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。なお、質問がある場合は、随時電子メール等で受け付ける。

【Outline (in English)】

Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the basic of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.

At the end of the course, students are expected that understand the importance of ground evaluation in each process of survey, design and construction, and its method and contents.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on evaluating by submitting exercises to be conducted in each lecture. No final exam will be held.

DES100NA（デザイン学 / Design science 100）

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出したのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて、誰によってか判明しているかしていないかにかかわらず、人間によって「デザインされたもの」と言ってもいいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また3学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「書く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4月8日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120名を超える場合は抽選方式）、デザイン文化論とはどのような授業か、その他注意事項など。
4月15日	イントロダクション	教員の自己紹介 第4週からの課題の説明
4月22日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か?	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを指すというのはどういうことなのか？ 今尚現代の建築家やデザイナーに影響を与えているダ・ヴィンチの功績をみる。
5月13日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月20日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月27日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月3日	課題のプレゼンテーションと自己紹介4	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月10日	課題のプレゼンテーションと自己紹介5	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月17日	西洋文化の源流 ギリシア神話と神々の住むところ	人の作品を鑑賞する。 ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明について考える。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。

6月24日	都市施設の観察 1 鉄道遺産 日本	我が国の鉄道遺産を考える。 高輪築堤とその後。江戸から明治維新、そして東京へと変わる風景。
7月1日	都市施設の観察 2 鉄道遺産 日本以外の国	鉄道遺産の活かし方を台湾に、また公共交通機関のデザインを、フィンランドに見る。
7月8日	千田 勝 フランスからのリモート授業 「パリから東京の未来を考える」	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田 勝氏。環境への影響や社会的な課題にも考慮したパリの都市政策について。
7月15日	フィンランドのデザイン	モダニズム建築の雄アルヴァー・アアルトからJKMMの活動まで。
7月22日	都市施設の観察 3 図書館	デジタルな情報社会が進む現代、書の宝庫図書館はどのような道を進んでいるのか？ 世界各国の例を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成5時間、レポート作成8時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート40%、一部授業後の提出物30%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。

フランスから教室内のモニターにリモートで、千田勝氏にレクチャーをしてもらう予定だが、スケジュールについては変更する可能性もある。
授業時間内はスマートフォンの使用を禁止する。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We human beings have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything that comes into our eyes can be said to be 'designed' by humans, whether it is known who designed it or not.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100NA（デザイン学 / Design science 100）

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出したのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて、誰によってか判明しているかしていないかにかかわらず、人間によって「デザインされたもの」と言ってもいいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。また3学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「描く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4月8日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120名を超える場合は抽選方式）、デザイン文化論とはどのような授業か、その他注意事項など。
4月15日	イントロダクション	教員の自己紹介
4月22日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か?	第4週からの課題の説明 現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ 今尚現代の建築家やデザイナーに影響を与えているダ・ヴィンチの功績をみる。
5月13日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月20日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月27日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月3日	課題のプレゼンテーションと自己紹介4	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月10日	課題のプレゼンテーションと自己紹介5	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月17日	西洋文化の源流 ギリシア神話と神々の住むところ	人の作品を鑑賞する。 ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明について考える。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月24日	都市施設の観察 1 鉄道遺産 日本	我が国の鉄道遺産を考える。 高輪築堤とその後。江戸から明治維新、そして東京へと変わる風景。
7月1日	都市施設の観察 2 鉄道遺産 日本以外の国	鉄道遺産の活かし方を台湾に、また公共交通機関のデザインを、フィンランドに見る。
7月8日	千田 勝 フランスからのリモート授業 「パリから東京の未来を考える」	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田 勝氏。環境への影響や社会的な課題にも考慮したパリの都市政策について。

7月15日	フィンランドのデザイン	モダニズム建築の雄アルヴァー・アアルトからJKMMの活動まで。
7月22日	都市施設の観察 3 図書館	デジタルな情報社会が進む現代、書の宝庫図書館はどのような道を進んでいるのか？ 世界各国の例を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成5時間、レポート作成8時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート40%、一部授業後の提出物30%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。

フランスから教室内のモニターにリモートで、千田勝氏にレクチャーをしてもらう予定だが、スケジュールについては変更する可能性もある。

授業時間内はスマートフォンの使用を禁止する。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We human beings have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything that comes into our eyes can be said to be 'designed' by humans, whether it is known who designed it or not.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100NA（デザイン学 / Design science 100）

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出したのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて、誰によってか判明しているかしていないかにかかわらず、人間によって「デザインされたもの」と言ってもいいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また3学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「描く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4月8日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120名を超える場合は抽選方式）、デザイン文化論とはどのような授業か、その他注意事項など。
4月15日	イントロダクション	教員の自己紹介 第4週からの課題の説明
4月22日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か?	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ 今尚現代の建築家やデザイナーに影響を与えているダ・ヴィンチの功績をみる。
5月13日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月20日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月27日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月3日	課題のプレゼンテーションと自己紹介4	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月10日	課題のプレゼンテーションと自己紹介5	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月17日	西洋文化の源流 ギリシア神話と神々の住むところ	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明について考える。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月24日	都市施設の観察 1 鉄道遺産 日本	我が国の鉄道遺産を考える。 高輪築堤とその後。江戸から明治維新、そして東京へと変わる風景。

7月1日	都市施設の観察 2 鉄道遺産 日本以外の国	鉄道遺産の活かし方を台湾に、また公共交通機関のデザインを、フィンランドに見る。
7月8日	千田 勝 フランスからのリモート授業 「パリから東京の未来を考える」	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田 勝氏。環境への影響や社会的な課題にも考慮したパリの都市政策について。
7月15日	フィンランドのデザイン	モダニズム建築の雄アルヴァー・アアルトから JKMM の活動まで。
7月22日	都市施設の観察 3 図書館	デジタルな情報社会が進む現代、書の宝庫図書館はどのような道を進んでいるのか？ 世界各国の例を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成5時間、レポート作成8時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート40%、一部授業後の提出物30%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。

フランスから教室内のモニターにリモートで、千田勝氏にレクチャーをしてもらう予定だが、スケジュールについては変更する可能性もある。
授業時間内はスマートフォンの使用を禁止する。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We human beings have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything that comes into our eyes can be said to be 'designed' by humans, whether it is known who designed it or not.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

色彩論

大高 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が受け取る情報の8割以上が五感の「視覚」に頼っている。人が1日に触れる色の数は1000万色とも言われる。光・場所・メディア・材質など、様々な要因で変化する「モノや色が見えるしくみ」から、色がもたらす意味・効果・色彩情報・色彩計画表現に不可欠な「色彩の基礎」を学ぶ。

【到達目標】

講義から多角的な視点で色彩の概念・本質・知識を理解する。
講義をもとに課題制作を通して、微妙な色の識別判断や色の認知、色彩表現技術を体験し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

色彩の知識があることと色彩が使えることは異なるため、段階的に幅広く両者を習得できる手法で進める。
・各回のテーマに沿った講義形式を軸にした授業を行う。
・微妙な色彩の識別判断や色彩表現を学習しながら手作業による課題制作を実施する。
・各回のテーマにかかわる様々な色彩の現物サンプルを提示する。
・提出された課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対して講評する。
・提出された発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を集計し、全体に対してフィードバックする。
・随時、発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方と方法についての説明と確認
2	色彩の始まりと色彩学の基本	自然から学ぶ色彩と古代の色彩 光の干渉・回折などの光学研究の分野を切り開いたニュートンの光学 色彩感情・心理を最初に論じたゲーテの色彩論
3	色の成り立ちとHVC表現	光と色の三原色 色の三属性HVC（色相・明度・彩度） 色相環
4	色彩の尺度	様々なカラーオーダーシステムと様々な業界のカラーチャートによる色の数値化表現
5	色の見え・1	色の認知と行動 色覚説モデル 様々な順応・対比 補色・残像 明るさ・色の対比
6	色の見え・2	光源による色の見え 色覚特性 安全と色彩

7	色彩文化・1	西洋文化におけるカラーコミュニケーションの歴史
8	色彩文化・2	日本文化におけるカラーコミュニケーションの歴史
9	情報と色彩	色彩心理 色彩戦略
10	風土と都市と色彩	環境色彩 スーパーグラフィック 景観法の色彩
11	モノとコトと色彩	流行色 イロモノ家電 色の常識 色の可能性
12	イメージの色彩・1	イメージからの色彩配色コンボジション・1
13	イメージの色彩・2	イメージからの色彩配色コンボジション・2
14	今期まとめ	全講義内容、課題の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・身の周りの色彩観察
・各回ごとの授業の復習
・手作業による課題制作
・発想練習、リアクションペーパー、アンケート等の作成
本授業の復習、課題制作時間、発想練習等の作成は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【参考書】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と取り組みによる平常点（40％）、および各課題の完成度（60％）を考慮し総合的に評価する。
課題の内容、数に応じて配分を割り振る。
※未提出物がある学生、4回以上欠席した学生は評価の対象としない（D評価）。遅刻・早退は2回で欠席1回と換算する。（ただし正当な理由がある場合は遅刻・早退、欠席ともその限りではない）

【学生の意見等からの気づき】

講義では色彩の基礎のほか、学生に身近な話題についても多角的な視点から毎年豊富に導入・改善を試みている。
課題を通して色彩認識が深まるため、学生が興味を持ち達成感を得られる内容としている。

【学生が準備すべき機器他】

・課題制作は手作業のためハサミやカッター、定規、ノリなど紙を切り貼りするための道具を使用。
・提出物は学習支援システムを利用する。
・提出物の内容によりスキャンすることがある。

【その他の重要事項】

・授業終了後に教室で質問を受け付ける。
・初回ガイダンスで発想練習、アンケートを実施する。
・授業の進捗、学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更することがある。
・プロダクトデザイナーとしてのメーカー勤務経験、デザインディレクターとしての現在の経験を活かし、多角的に幅広く色彩に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Over 80 percent of the information which humans receive rely on the perception known as "sight". It is said that everyday we encounter 10 million different colors.

From the sources of changing light and objects such as light, places, media and materials, students will learn the fundamental principles indispensable for describing the implications, effect, information and design of color.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 1 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

assignment :60%、 in class contribution: 40%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山 肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化ようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点から整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会における都市デザインのあり方を考える。

13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④ まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらい。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
- ・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."

[learning goal]

This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form. [Learning activities outside the classroom]

The standard time for preparation and review for this class is one hour each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding. Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山 肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題②	多様化するまちづくりの課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④ まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
- ・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."

[learning goal]

This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form. [Learning activities outside the classroom]

The standard time for preparation and review for this class is one hour each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding. Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山 肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④ まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."

[learning goal]

This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form. [Learning activities outside the classroom]

The standard time for preparation and review for this class is one hour each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding. Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

GEO200NA（地理学 / Geography 200）

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70％、ミニレポート30％

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination: 70 %, Short reports: 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

To understand the methods and basic techniques of communication through visual representation of spatial information.

GEO200NA（地理学 / Geography 200）

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、ミニレポート30%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination: 70%, Short reports: 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

To understand the methods and basic techniques of communication through visual representation of spatial information.

GEO200NA（地理学 / Geography 200）

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、ミニレポート30%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination: 70 %, Short reports: 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

To understand the methods and basic techniques of communication through visual representation of spatial information.

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考える。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現状分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク・ボストン）、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：	30%
②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：	30%
③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：	30%
④授業内演習	10%
- 欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

- report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかわる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表

13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Q&A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：	30%
②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：	30%
③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：	30%
④授業内演習	10%
- 欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

- report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現状分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Q&A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：30%
- ④授業内演習 10%

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing. 30%

report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%

report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 学科共通の学部科目であり、3 学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性や機能を分析し、社会的背景と合理的判断に基づき街づくりの方向性提案ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題対象地を訪問し、対象となる公共空間やその場での利用者のふるまいを観察する。

課題対象地の歴史的背景や都市計画等の行政計画について調査する。

提案内容の素案（エスキス）を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

日本建築学会，コンパクト建築設計資料集成 [都市再生]，丸善出版，2014
都市景観対象ウェブサイト（国土交通省「景観まちづくり」ウェブ）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape-tk_000022.html

土木学会デザイン賞ウェブサイト

<https://design-prize.sakura.ne.jp>

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員や、建築・ランドスケープ等のデザイン実務経験のある教員が指導を行う。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 学科共通の学部科目であり、3 学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性や機能を分析し、社会的背景と合理的判断に基づき街づくりの方向性提案ができるようになる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大きな小まを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題対象地を訪問し、対象となる公共空間やその場での利用者のふるまいを観察する。
課題対象地の歴史的背景や都市計画等の行政計画について調査する。
提案内容の素案（エスキス）を作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

日本建築学会、コンパクト建築設計資料集「都市再生」、丸善出版、2014
都市景観対象ウェブサイト（国土交通省「景観まちづくり」ウェブ）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape_tk_000022.html
土木学会デザイン賞ウェブサイト
<https://design-prize.sakura.ne.jp>

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員や、建築・ランドスケープ等のデザイン実務経験のある教員が指導を行う。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 学科共通の学部科目であり、3 学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性や機能を分析し、社会的背景と合理的判断に基づき街づくりの方向性提案ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題対象地を訪問し、対象となる公共空間やその場での利用者のふるまいを観察する。

課題対象地の歴史的背景や都市計画等の行政計画について調査する。

提案内容の素案（エスキス）を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

日本建築学会、コンパクト建築設計資料集成 [都市再生]、丸善出版、2014
都市景観対象ウェブサイト（国土交通省「景観まちづくり」ウェブ）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape-tk_000022.html

土木学会デザイン賞ウェブサイト

<https://design-prize.sakura.ne.jp>

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員や、建築・ランドスケープ等のデザイン実務経験のある教員が指導を行う。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

デザイン思想史概論

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーヴメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーヴメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーヴメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンライン（遠隔授業）で講義を実施します。
講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョア階級の台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユージン・シュティール、AEG社、パウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	パウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。

10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。
13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。
指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は講義中に示します。

【参考書】

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店
「デザインの歴史」 暮沢剛巳、伊藤潤、山本政幸、天内大樹、高橋裕行 学芸出版社
その他の参考書は講義中に示します。

【成績評価の方法と基準】

授業は毎回必ず参加してください。
最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポート及び最終レポート課題です。
レポート：80％
—授業で取り上げたポイントへの理解度：80％のうちの2割
—各事象のつながり（デザイン史の理解度）：80％のうちの7割
—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度：80％のうちの1割
平常点：20％
—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンラン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきますので、必要に応じて速やかに再視聴してください。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止します。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。
ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリ（主にMicrosoft Wordで提出）を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

教員の実務経験：デザインジャーナリストとして主に雑誌やウェブメディアにて、国内外のデザインを考察して記事を執筆しています。
・ウェブメディア「JDN」 注目のデザイナー担当キュレーター
・雑誌「PEN」 デザイン連載ページ担当
初回の授業でも、これまでの実務からいくつかを自己紹介として短くお伝えします。
オフィスアワー：オンライン授業の場合は、講義中にチャット欄から随時質問してください。また、毎回講義終了後にも質問を受け付けます。講義全体に関することは、Hoppiiの掲示板に書き込んでも構いません。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.
Attendance in every class is required.
Lectures will be conducted online.
Students are required to attend the lectures and submit a mini-report each time.
Themes and issues to be covered in the mini-reports will be presented during the class, so please pay attention and concentrate on the class.
Unauthorized recording or screenshots of the class is prohibited.

The greatest emphasis will be placed on the mini-report and final report assignment to be submitted after each class.

Report: 80%.

—Comprehension of points covered in class: 20% of 80

—Connectedness of each event (understanding of design history): 70% of 80%.

—Readability of the mini-report, accuracy of Japanese: 10% of 80

Ordinary score: 20% of 80%.

— Attendance in class (listening to online lectures) will be scored here.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

デザイン思想史概論

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーブメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーブメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーブメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンライン（遠隔授業）で講義を実施します。
講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探索。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョア階級の台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG社、パウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	パウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。

12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。
13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探索。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。
指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は講義中に示します。

【参考書】

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店
「デザインの歴史」暮沢剛巳、伊藤潤、山本政幸、天内大樹、高橋裕行 学芸出版社
その他の参考書は講義中に示します。

【成績評価の方法と基準】

授業は毎回必ず参加してください。
最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポート及び最終レポート課題です。

レポート：80%

- 授業で取り上げたポイントへの理解度：80%のうちの2割
- 各事象のつながり（デザイン史の理解度）：80%のうちの7割
- ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度：80%のうちの1割

平常点：20%

- 授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきますので、必要に応じて速やかに再視聴してください。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止します。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。
ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリ（主にMicrosoft Wordで提出）を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

教員の実務経験：デザインジャーナリストとして主に雑誌やウェブメディアにて、国内外のデザインを考察して記事を執筆しています。
・ウェブメディア「JDN」注目のデザイナー担当キュレーター
・雑誌「PEN」デザイン連載ページ担当
初回の授業でも、これまでの実務からいくつかを自己紹介として短くお伝えします。
オフィスアワー：オンライン授業の場合は、講義中にチャット欄から随時質問してください。また、毎回講義終了後にも質問を受け付けます。講義全体に関することは、Hoppiiの掲示板に書き込んでも構いません。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

Attendance in every class is required.

Lectures will be conducted online.

Students are required to attend the lectures and submit a mini-report each time.

Themes and issues to be covered in the mini-reports will be presented during the class, so please pay attention and concentrate on the class. Unauthorized recording or screenshots of the class is prohibited.

The greatest emphasis will be placed on the mini-report and final report assignment to be submitted after each class.

Report: 80%.

- Comprehension of points covered in class: 20% of 80

- Connectedness of each event (understanding of design history): 70% of 80%.

- Readability of the mini-report, accuracy of Japanese: 10% of 80
- Ordinary score: 20% of 80%.
- Attendance in class (listening to online lectures) will be scored here.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

デザイン思想史概論

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。
国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーブメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーブメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーブメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンライン（遠隔授業）で講義を実施します。
講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探索。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョア階級の台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG社、パウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	パウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。

12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。
13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探索。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。
指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は講義中に示します。

【参考書】

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店
「デザインの歴史」暮沢剛巳、伊藤潤、山本政幸、天内大樹、高橋裕行 学芸出版社
その他の参考書は講義中に示します。

【成績評価の方法と基準】

授業は毎回必ず参加してください。
最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポート及び最終レポート課題です。

レポート：80%

- 授業で取り上げたポイントへの理解度：80%のうちの2割
- 各事象のつながり（デザイン史の理解度）：80%のうちの7割
- ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度：80%のうちの1割

平常点：20%

- 授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきますので、必要に応じて速やかに再視聴してください。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止します。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。
ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリ（主にMicrosoft Wordで提出）を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

教員の実務経験：デザインジャーナリストとして主に雑誌やウェブメディアにて、国内外のデザインを考察して記事を執筆しています。
・ウェブメディア「JDN」注目のデザイナー担当キュレーター
・雑誌「PEN」デザイン連載ページ担当
初回の授業でも、これまでの実務からいくつかを自己紹介として短くお伝えします。
オフィスアワー：オンライン授業の場合は、講義中にチャット欄から随時質問してください。また、毎回講義終了後にも質問を受け付けます。講義全体に関することは、Hoppiiの掲示板に書き込んでも構いません。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

Attendance in every class is required.

Lectures will be conducted online.

Students are required to attend the lectures and submit a mini-report each time.

Themes and issues to be covered in the mini-reports will be presented during the class, so please pay attention and concentrate on the class. Unauthorized recording or screenshots of the class is prohibited.

The greatest emphasis will be placed on the mini-report and final report assignment to be submitted after each class.

Report: 80%.

- Comprehension of points covered in class: 20% of 80

- Connectedness of each event (understanding of design history): 70% of 80%.

- Readability of the mini-report, accuracy of Japanese: 10% of 80
- Ordinary score: 20% of 80%.
- Attendance in class (listening to online lectures) will be scored here.

ADE100NB（建築学 / Architecture and building engineering 100）

建築のしくみ

安藤 直見

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は建築を学び始める学生が建築のしくみ（物的構成）の基本を知ることとを目的としています。「巨匠たちの住宅」（国内および海外の著名な建築）を題材として、その形態構成・空間構成と架構法・ディテールとの関係を理解しながら、建築の主要な架構形式である鉄筋コンクリート壁式構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、木造軸組構造、鉄骨構造の基本的なしくみについて学びます。

（以下、教科書の「はじめに」より）

本書の2章以降では、「住吉の長屋」、「サヴォワ邸」、「ファンズワース邸」、「白の家」といった20世紀を代表する住宅を実例として取り上げ、その形態・空間がどのような建築のしくみによって成立しているかを解説している。取り上げた住宅は、それぞれ、鉄筋コンクリート壁構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、鉄骨構造、木造軸組構造という異なった構造形式でつくられている。それらは現代においても（変更：現在の）建築の主要な構造形式であるから、これらの住宅を学ぶことで、建築の主要なしくみがどのように形態・空間を構成しえるかを理解することができると思う。

さて、しかし、取り上げた住宅が、主要な建築のしくみを学ぶために適した実例であるかどうかという点には疑問の余地があるかもしれない。これらの住宅が、後に続く建築に、決定的な影響を与えた建築であることに間違いはないのだが、これらの住宅は、研ぎ澄まされた形態と空間をもつがゆえに、建築の特殊解（変更：例）だといえなくもないからだ。街にあふれる多くの建築では、建築を物的に構成する柱や壁が見えない部分に隠されていることが多いのだが、これらの住宅は、そういった建築とはいささか異なっている。しかし、建築のしくみという視点（変更：観点）でいえば、4つの住宅が、街にあふれる多くの建築とまったく異なっているわけではない。現代の建築技術は、産業革命以降に発展した工業技術に根ざしているから、4つの住宅と街にあふれる多くの建築は同一の技術に基づいて成立している。両者が異なっているのは、4つの住宅では、建築のしくみが至高の形態と空間に昇華しているという点だけだ。本書で取り上げる4つの住宅は、建築を架構する壁や柱の構成が建築の形態・空間を決定づけているという意味において「裸の建築」と呼ぶこともできると思う。これらの住宅は、「裸」であるからこそ美しい。建築のしくみを形態・空間と関連づけ、すなわち、建築のしくみを建築の美しさと関連づけて学んで欲しいことも本書のねらいである。

【到達目標】

建築にしくみに関する以下の知識の習得が目標です。

1. 鉄筋とコンクリート
2. 壁構造とラーメン構造
3. 基礎・壁・床・屋根・開口部・その他の各部の構成
4. 鉄骨の形状と接合方法
5. ガラスの構成
6. 木造の基礎・床組・軸組・小屋組

（以下、教科書の「はじめに」より）

建築のしくみは建築の技術の一端である。一つの考え方として、建築のしくみは先行したデザインの後からついていくものであり、しくみの積み重ねによってデザインが生まれることはないという考え方があると思う。その考え方に従えば、しくみを表す図面・模型よりも、細部の構成にはこだわらない1枚のスケッチこそが建築デザインにとってもっとも重要だということになる。そのことに間違いはないと思うのだが、だからといって、建築のしくみを学ばなくてもいいということにはならない。この先に描かれるであろう1枚のスケッチがどのようなしくみによって成立するかは未知のことであっていいが、現在の建築が（現代に多大な影響を与えた建築が）どのようなしくみによって成立しているかを理解することは、建築を学び始める学生にとって重要であるはずだ。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、各回のテーマに関する解説に続いて、学習支援システムを利用して、授業内オンラインテストを実施します。解説は教科書に沿って進めるので、重要なポイントにマークをするなどして、教科書に書かれていることをよく理解してください。その上で、教科書を参照しながら、テストに解答し、重要なポイントを再確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建築の主要な架構形式	ガイダンス
2	住吉の長屋(1)：鉄筋コンクリート壁構造による建築架構の概要	教科書2章1節～2節（住吉の長屋と壁構造の概要）
3	住吉の長屋(2)：コンクリート打放しと壁仕上げ、断熱材、建具の納まりなど	教科書2章3節（平面の構成）
4	住吉の長屋(3)：基礎、壁、床、天井、屋根の架構法など	教科書2章4節～5節（断面と立面の構成）
5	サヴォワ邸(1)：鉄筋コンクリートラーメン構造による建築架構の概要	教科書3章1節～3節（サヴォワ邸とラーメン構造の概要）
6	サヴォワ邸(2)：構造壁と間仕切り壁などについて学ぶ	教科書3章4節～6節（1階・2階・屋上の構成）
7	サヴォワ邸(3)：鉄筋コンクリートによる造作（開口部など）	教科書3章7節～9節（立面・断面・窓の構成）
8	これまでのまとめ：鉄筋コンクリート構造による建築の工事現場の事例	スライドレクチャー（予定）
9	ファンズワース邸(1)：鉄骨構造による建築架構の概要など	教科書4章1節～2節（ファンズワース邸と鉄骨構造の概要）
10	ファンズワース邸(2)：鉄骨フレームのしくみなどについて学ぶ	教科書4章3節～4節（鉄のフレームと床・屋根）

- 11 ファンズワース邸(3) 教科書4章5節～7節（ガラスの壁・階段・設備コア）
ガラスのディテール。
カーテンウォールのディテールなど
- 12 白の家(1)： 教科書5章1節～3節（白の家と木造軸組構造による建築架構の概要。ツーバイフォー構法、パネル構法などの概要）
- 13 白の家(2)： 教科書5章4節～5節（基礎と床軸組、床組、軸組部材の名称と役割）
- 14 白の家(3)： 教科書5章6節～8節（軸組・小小屋組、軸組構造の枠廻り、壁、床、天井の仕上げ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書該当部分の予習と復習が必要です。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家」（安藤直見・柴田晃宏・比護結子著、丸善、2008年）※
※この教科書は1年次配当科目（必修科目）である「デザインスタジオ1（建築）」でも使用します

【参考書】

- 安藤忠雄、安藤忠雄のディテール／原図集／六甲の集合住宅・住吉の長屋、彰国社、1984年
 - GAディテール No.1／ミース・ファン・デル・ローエ／ファンズワース邸／1945－50, A.D.A. EDITA Tokyo Co., Ltd., 1976年
 - 篠原一男、白の家・上原通りの住宅、世界建築設計図集、同朋舎、1984年
 - 篠原一男、住宅論、SD選書 No.49、鹿島出版会、1970年
 - (5) エドワード・R・フォード、巨匠たちのディテール、八木幸二監訳、丸善、1999年
 - 安藤直見・石井翔太・浅古陽介・種田元晴、建築のカタチ：3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現、丸善、2020年
 - 内田祥哉他、建築構法（第五版）、市ヶ谷出版社、2007年
 - 建築構造ポケットブック（第4版）、共立出版、2006年
 - 加藤道夫、建築における三次元空間の二次元表現／ショワジー『建築史』における軸測図の使用について、図学研究、第32巻3号、日本図学会、1998年9月
 - 佐々木睦朗、私のベストディテール／接合部の痕跡を消す、日経アーキテクチュア No.709（2002年1月7日号）
 - サヴォワ邸／1931／フランス／ル・コルビュジエ、パナナブックス、2007年
 - Jacques Sbriglio, Le Corbusier: La Villa Savoye, Foundation Le Corbusier, Birkhäuser, 1999
 - Werner Blaser, Mies van der Rohe, Farnsworth House: weekend house, Birkhäuser, 1999
- ▼参考ホームページ
- ファンズワース・ハウス（アメリカ・イリノイ州）：<http://www.farnsworthhouse.org/>
 - フランス国立モニュメントセンター：<http://www.monuments-nationaux.fr/>
 - ル・コルビュジエ財団（パリ）：<http://www.fondationlecorbusier.asso.fr/>
 - ル・コルビュジエ アーカイブ（大成建設）：<http://www.taisei.co.jp/galerie/archive.html>
- ▼教科書「建築のしくみ～」の中国語版
建筑构造-从图例模型3D图解世界四大名宅安藤直見・柴田晃宏・比護結子・陶新中（校）・董新生（校）、中国建筑工业出版社（2016年1月）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業にて実施する授業内テストにより評価します（100％）。
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートに「眠くなる」という回答がありました。授業の前日には十分な睡眠をとってください。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で、学習支援システム（hoppii）を用いた「テスト」（演習）を実施します。「テスト」を受けるには、ノートパソコンまたはスマートフォンが必要となります。
また、授業時に、学習支援システムを通して、3DモデルのCGデータ（スケッチアップのファイル）などの資料を配布します。CGデータを参照すると、建築の構成がよくわかります。ノートパソコン等を用意して、CGデータを参照してください。

【その他の重要事項】

この授業の題材とする4つの住宅のうちの「サヴォワ邸」（フランス・パリ近郊）と「ファンズワース邸」（アメリカ・シカゴ近郊）は文化財として一般に公開されているので、ぜひ実物を見に行ってください。教科書では、4つの住宅の図面・模型・CG（Computer Graphics）の製作方法について解説しています。ぜひ図面を描き、模型を作ってみてください。また、教室の中で建築の実物を工事することは不可能ですが、コンピュータ上でなら組み立てることができます。CGの制作にもチャレンジしてください。3年次以上秋学期配当科目（選択科目）である「デジタルスタジオ」は、実在の建築のCGを制作する演習を含んでいるので、ぜひ受講をしてください。
授業後および授業支援システムにて質問に対応します。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course aims to provide students, who have started architectural studies, with knowledge of fundamental building constructions.

[Learning objectives]

Through understanding the relationship between forms and spacial compositions as well as framework and details in construction, students will learn the basic structures, such as reinforced concrete wall structure, reinforced concrete frame structure, steel frame structure, and wooden frame structure.

[Learning activities outside of classroom]

Prepare and Review online tests

[Grading criteria/policy]

Grading is based on the evaluation of online tests (100%)

DES100ND (デザイン学 / Design science 100)

デザイン理論 (SD)

秋元 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は『デザインの現在地を知る基礎講座』です。デザインが対象とする領域と事象、デザインに対する解釈、それぞれが拡がっている現在におけるデザインの理論＝「デザインを成り立たせている骨格としての考え方」を理解します。ここでの理論は大きく2つの方向性を想定します。ひとつは「デザインという営みの基盤を成す普遍としての理論＝考え方」であり、もうひとつは「多種多様なデザインそれぞれを成り立たせている個別解としての理論＝考え方」です。今日のデザインはそれらの理論＝考え方の上に立って、さまざまな手法を通じて展開され、さまざまな成果を社会へもたらしていると考えられます。

いま、人間が誰もがより良く希望をもって生きられる社会であるために「デザインをする」人が社会に増えています。「デザインをする」ことは必ずしも「デザイナーになる」ということと同義ではなく、デザインという営みの本質的な意義を理解して、その価値を社会のさまざまな場面に主体的に生かせることです。この授業では、受講生の皆さんがこれから「ものごとをデザインする」という姿勢のもとで、デザインと主体的に関わりながら社会へ働きかけていくための後押しができれば、と考えています。

【到達目標】

今日の社会におけるデザインの位置づけと、デザインが社会でどのように機能しているかを一人ひとりが理解して、今後自らがデザインと主体的に関わっていくうえでの視野を養い、実践へ向けた素地をつくるのが、この授業の目的です。そのために、時代・社会の変化とデザインの変化との相関を知ることで、デザインの社会的な役割を認識します。特にさまざまな領域における具体的なデザインの実践内容を知ることを通じて、いかに多様なデザインの担い手がそれぞれの目的意識を持ってデザインに臨んでいるかに気づき、デザインが持つ可能性への開眼につなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半で「社会とデザイン」の関係を理解するための基礎的な講義を実施します。まず、時代と社会の変化と歩調を合わせてきたデザインの変化を、1950年代以降のグッドデザイン賞受賞デザインなどを題材に解説します。これにより現在に至る私たちの社会を築いてきたデザインの時系列的な役割の進化をまず理解します。さらに、デザインの概念の変化について解説し、いまの社会においてデザインが担うことに関する基礎的な理解をもたらします。

後半ではさまざまな分野の近年のグッドデザイン賞受賞事例を題材にしなから、そこから読み取れる特色、目的性、可能性などについて掘り下げていきます。授業で取り上げるデザインの事例やテーマは、なるべくその時々々の社会の状況に則した旬なものを選択していきます。

なお通期で不定期にリアクションペーパーへの対応を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／グッドデザイン賞の紹介	・講師自己紹介 ・グッドデザイン賞に関する説明（歴史および概念など）
2	社会の変化とデザインの変化	グッドデザイン賞の受賞事例を通じた社会の変化とデザインの変化との相関に関する解説
3	デザインの現在地1	「上乗せ」のデザインから「かけ合わせ」のデザインへ
4	最新グッドデザイン賞に見るデザインの諸相	最新グッドデザイン賞受賞対象から見えてくること
5	デザインの現在地2	「人間中心」の思想
6	デザインの現在地3	「可視化」という役割
7	中間まとめ	最新グッドデザイン賞受賞展示会場の見学（外部実習）
8	いまデザインが向き合うテーマ1	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介1
9	いまデザインが向き合うテーマ2	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介2
10	いまデザインが向き合うテーマ3	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介3
11	いまデザインが向き合うテーマ4	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介4
12	いまデザインが向き合うテーマ5	今日の社会における顕著なテーマに向き合うデザイン事例の紹介5
13	デザインへの批判	「人間中心」に関する省察的考察
14	最終まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「デザインは社会に相関する」「誰に対しても・どの」のようなことに対してもデザインは関わる」という認識のもと、自らが関心のある事象に対して「デザインの対象として捉えてみる/そこにデザインがどのように関わるか考えてみる」という視点をつねに持ち続けてください。特に、つねに社会の動向と人々の関心・行動を意識して、デザインがそれらとどのように関わっているかに目を向けるようにしてください。そうした関心に応えられる授業内容を目指したいと思います。

授業内で紹介したデザインの事例について、積極的に追加情報を得て自らの関心事となるように心がけてください。

2026年11月に東京都内で開催予定の、最新グッドデザイン賞受賞作の紹介イベントを視察することを勧めます。各領域のデザインの最新の実践事例に触れることができます。

【テキスト（教科書）】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【参考書】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【成績評価の方法と基準】

授業の期間中を通して1回課すレポートの成果を主体に、授業への参加度も加味して総合的に判断のうえで評価を実施します。レポートに課すテーマは、授業への参加度合いが著しく低い場合には対応が難しい内容を想定しています。出席数が多くてもレポートの提出が行われない場合は合格評価はしません。さらにレポートが提出されても、授業への参加度、授業内容の理解度・解釈度が著しく希薄な内容であるとみなされる場合(授業内容を踏まえずに書けるような一般的な内容に終始している場合など)も合格評価をしないことがあります。

レポートを課す際は、原則的に提出締め切り日の一ヶ月前に告知を行います。

なおテストは行わない予定です。

評価の内訳：レポート提出（85%）、出席と不定期でのリアクションペーパー提出（15%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに務めています。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で取り上げる事例に関する情報補足を行えるよう、各自で情報端末を都度用意してください。

【その他の重要事項】

担当講師がグッドデザイン賞の運営に携わっているため、この授業で扱う内容は、基本的にグッドデザイン賞を通じたことがベースになる点を前提として承知しておいてください。ファッションやエンターテインメント、サブカルチャー分野のデザインに関することはほとんど話題にしません。なお、グッドデザイン賞はデザインのあり方や価値を定める絶対的な正解ではありませんから、この授業で受講者の皆さんへ「正しいデザインを教える」といった意図はありません。あくまでも皆さんのデザインの見方や考え方のサポートとなるべく、グッドデザイン賞を通じたケーススタディを提示していると理解して、授業に臨んでもらえるのがよいでしょう。一方で、グッドデザイン賞に対する本質的な疑問や不信感を持つ人だと、授業内容への関心が持てないことが予想されるため履修は薦められません。

この授業では実技習得目的での描写や造形や編集行為などに関する演習・ワークショップ・グループワーク類は実施しません。毎回とも座学形式での進行となります。また回により学外での実習や、外部ゲストを講師に招く場合があります。

このシラバスで記した「授業計画」(スケジュール)に関して、取り上げる事例のテーマや順番は、その時々为社会情勢や講師の都合などを反映して、シラバスでの想定から変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course is a foundational lecture on understanding the current state of design. We will explore the expanding domains and phenomena design addresses, interpretations of design itself, and the theories underpinning design today — the fundamental concepts that form its structural framework. These theories are broadly divided into two directions. One is “the universal theory/concept forming the foundation of the practice of design,” and the other is “the individual solutions/theories/concepts enabling each diverse form of design.” Contemporary design is understood to be built upon these theories/concepts, unfolding through various methods and delivering diverse outcomes to society.

Today, more people are engaging in “design” to create a society where everyone can live better and with hope. “Designing” is not necessarily synonymous with “becoming a professional designer”; it means understanding the essential significance of the design process and proactively applying its value in various societal contexts.

In this course, we hope to support you as you take on the attitude of “designing things,” engaging proactively with design to influence society.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築生理心理 1

加用 現空

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体と建築空間の間では、熱や空気などの物質・エネルギーが常にやりとりされており、建築デザインは人間の生命活動や感覚に深く関わっている。また、建築空間は周辺環境との相互作用の中で成立し、その重なりの中で住環境や都市空間が形成される。本講義では、こうした身体―建築―環境の関係を環境とシステムの入れ子構造として捉え、履修者が建築環境と身体との関係を理解し、建築設計を考えるための基礎的な建築環境学の知識と視座を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・ 建築環境をシステムとして捉え、身体・建築・周辺環境の関係を説明できる。
- ・ 建築デザインと環境要素（熱・空気など）のふるまいとの関係を説明できる。
- ・ 建築環境と身体との関係を検討するための基礎的な手法を用いることができる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		◎		○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は配布しないが、講義後復習用に講義録画リンク（Zoom）を公開する。講義は座学を中心に進めるが、授業内演習などを含む。受動的に聴講する授業形式ではなく、履修者同士で話し合いながら理解を深める授業形式を目指す。他履修者の妨げとなる私語は避け、相互に学びを深める学修環境構築への協力を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要
2	環境（1）	温冷感とエネルギー収支
3	環境（2）	人体のエネルギー収支
4	環境（3）	水蒸気のふるまい（空気線図、水蒸気分圧）
5	環境（4）	太陽光（太陽光、散乱、放射と波長、空の温度）
6	環境（5）	植物と光・エネルギー収支
7	建築（1）	環境と建築形態（境界のデザイン）
8	建築（2）	アクティブシステム：太陽光パネルと電灯照明
9	建築（3）	パッシブシステム：昼光利用
10	建築（4）	アクティブシステム：換気の原理
11	建築（5）	パッシブシステム：自然換気のエネルギー収支
12	都市（1）	屋外の熱環境1（放射環境、形態係数、熱影響）
13	都市（2）	屋外の熱環境2（風圧係数、気流）
14	まとめ	建築設計に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に授業終了時点で理解が十分でない部分については次回授業までに理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『人・建築・地球とエクセルギー―環境物理学入門』 宿谷昌則著(2024) 建築資料研究社
『エクセルギーと環境の理論: 流れ・循環のデザインとは何か』 宿谷昌則著(2010) 井上書院

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す演習課題（30%）、授業後のフィードバックフォームの記入内容（30%）、講義終了後の期末試験（40%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: The architectural design takes an important role to create a secured and sanitary environment for our body system. The course focuses on the behaviour of mass and energy between the human body and the architectural space. Also, the behaviour can be seen between the architecture and the environment. The aim of the course is to understand the nested structure of the systems and the environment and connections between architectural space and our body system.

Learning Objectives: 1) To understand the concept of "System and the Environment", 2) To understand the behaviour of physical elements in the architecture, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.

Learning Activities Outside of The Classroom: The preparation and review time for each lecture is about 2 hours. In particular, students, who don't have a sufficient understanding of the issue at the end of the lecture, are recommended to deepen their understanding before the next lecture.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by the results of assignments during the course (30%), quality and quantity of the feedback form at the end of each lecture (30%), and the result of the final examination at the end of the course (40%). Grades will not be given to students who have not taken the examination or submitted the assignments.

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.

Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】

During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.

前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

1. 学生の会話能力向上
2. 様々な建築領域の語彙提供
3. 学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
						○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.

Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details. The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries. The students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture. The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements. Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class. The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features. The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city. The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor. The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class. The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	
Class 8	Micro Architecture	
Class 9	Micro Architecture; Presentation	
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	

Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.
Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】

During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.

前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

The teacher is working in an international architectural practice. 国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.

Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】

During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.

前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

数値計算法

酒井 久和

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学の分野において、数学を用いる場面は多岐にわたる。また、簡易な計算はプログラミングを習得することにより、計算ミス、作業時間の大幅な短縮が可能である。本講義では、基礎的な数値解析手法を学習するとともに、実務で必須となるExcelの高度利用として、マクロを利用したプログラミング技法を習得する。

【到達目標】

授業で紹介した数値解析手法を道具として活用し、Excelの効率的な使用方法とプログラミング技術を習得することで、様々な工学問題が解けるようになるとともに、研究や実務での効率向上可能な技術を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

工学分野の基礎的な数値解析手法として、ベクトルと行列、連立一次方程式の解法、非線形方程式の解法、補間、数値積分、数値微分を紹介する。講義の後、講義内容に関する演習を行うことにより、知識としての定着を図る。解析ツールとしてExcelを使用する。

授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Excelの基本的な使い方、マクロ	講義内容の紹介。講義で使用するExcelの基本的な使い方とマクロの使用方法についての解説する。
第2回	数値解析の基礎	数値解析の基礎として、アナログとデジタルの違い、有効数字について解説する。
第3回	関数の近似と補間	テーラー展開、補間について解説する。
第4回	演習	第3回講義内容に関する演習問題を解く。
第5回	微分	差分近似、3点差分公式、5点差分公式について説明する。
第6回	演習	第5回講義内容に関する演習問題を解く。
第7回	数値積分	長方形近似、台形近似、シンプソン公式について解説する。
第8回	演習	第7回講義内容に関する演習問題を解く。
第9回	非線形方程式	ニュートン・ラフソン法、2分法、はさみうち法
第10回	演習	第9回講義内容に関する演習問題を解く。
第11回	ベクトルと行列	ベクトルの演算、行列の演算
第12回	演習	第11回講義内容に関する演習問題を解く。
第13回	連立一次方程式	ガウスの消去法、非線形連立方程式の解説
第14回	演習	第13回講義内容に関する演習問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中または講義後に演習課題の実施、数回の課題の提出を求める。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊津野和行、酒井久和：Excelではじめる数値解析、森北出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出による評価40%、期末試験60%で総合的に評価する。4回以上欠席したものは単位の取得を認めない。

期末試験は、教科書、自分で行った演習課題を参照、PC持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を確認しながら授業を進めているが、1週間ごとの授業では前回の内容を忘れる学生がいる。そのため1週間に2コマの授業で1コマ目は講義、2コマ目は演習を中心に授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを必ず持参すること。

【Outline (in English)】

The main objectives of the Numerical Calculation Method Program are the following:

1) Understanding of fundamental numerical calculation methods.

2) Utilization of Microsoft Excel.

3) Acquisition of skills for creating macros in Excel.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 60% + Report 40% =100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

HUI200ND（人間情報学 / Human informatics 200）

インタフェースデザイン

土屋 雅人

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、各種電子機器の操作は複雑なヒューマンインタフェース（以下インタフェース）を通して行なわれることが多いため、インタフェースデザインが製品の評価を決める重要な要素になっている。インタフェースデザインの各種事例を通して、デザインに必要なヒューマンファクターを理解し、その体系的なデザイン手法を学習する。

【到達目標】

インタフェースデザインに必要なヒューマンファクターを理解する。
 インタフェースの設計方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

インタフェースデザインは、ひとつひとつの操作を積み重ねる時間軸を持つことが特徴である。そのため、一連の操作を通して問題点を把握し、新たなデザインを提案するプロセスの実体験が重要である。本授業では、身近な機器を題材にして、インタフェース設計ガイドラインやユーザビリティ評価手法等を導入し、「身体的」「認知的」「感性的」側面から、インタフェースデザイン方法論を体感的に学習する。授業の中では、前半にインタフェースの問題抽出と解決方法を事例を通して解説し、後半で自ら実製品のインタフェースデザインを演習的に体験する。複数の演習課題に対して、その特徴的なレポートを抽出し、授業の中で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方、授業評価について説明する。
2	インタフェースデザインとは	インタフェースデザインの概論、歴史、手法等について解説する。
3	身の回りのインタフェース	事例を通してインタフェースデザインの重要性を解説する。
4	アンソロポメトリ	インタフェースに係わる人間工学的課題を解説する。
5	視覚・反応	視覚感覚の特性について解説する。
6	認知・判断 1	人の認知について解説する。
7	知覚・認知・判断 2	事例を通して人の情報処理の流れを解説する。
8	記憶・意思決定	記憶の特性と意思決定の特徴について解説する。
9	インタフェースデザインプロセス	インタフェースデザインのプロセスを解説する。
10	ユーザビリティ評価	事例を通してユーザビリティ評価を解説する。
11	ヒューマンエラー 1	ヒューマンエラーの事例について解説する。
12	ヒューマンエラー 2	ヒューマンエラーの構造について解説する。
13	インタフェースデザインの課題	課題の発表、評価を行う。

14 インタフェースデザイン 次世代の入出力デバイス等今後の方向性を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別講義では、講師の指示する課題を授業時間外に対応すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてテキストを配布する。

【参考書】

こんなデザインが使いやすさを生む、三菱電機デザイン研究所、工業調査会

ユーザビリティテスト、黒須正明、共立出版
 デザインと感性、井上勝雄、土屋雅人他、海文堂出版
 ユーザビリティハンドブック、共立出版

【成績評価の方法と基準】

各課題の達成度、および授業態度を総合して評価する。
 授業の中でのインタフェースデザイン技術に関する課題を課し、その内容を評価に加える。
 平常点（20％）＋課題合計（40％）＋試験（40％）＝合計100％

【学生の意見等からの気づき】

指示した場合を除き、ノートパソコンによる講義録メモや、デジタルカメラによる授業資料撮影を禁止する。

【学生が準備すべき機器他】

課題によってノートパソコンを使用する（授業の中で指示する）。

【Outline (in English)】

Electronic devices need complicated human interfaces to perform high level functions in recent years, and interface design is becoming more important for the evaluation of products. Through various examples of interface design, we will study the human factors which are necessary for the design and learn systematic design methods.

After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

In class contribution:20%, Short reports: 40%, Term-end examination:40%.

MTL200ND（材料工学 / Material engineering 200）

材料と構造のデザイン（2022年度以前入学生）

武居 秀樹

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外力の作用が構造物や機械（および部品）などの実際の「もの」に対して、どのように影響するかを理解するための基礎的知識や解析方法を学ぶ。さらに、力やモーメントの作用によって構造物や機械（および部品）がどのように変形し、内部にどのような力が発生するかを学ぶ。

【到達目標】

講義と演習をとおして、力やモーメントの釣り合いに関する原理を応用することができる能力を開発し、現実の構造物や機械部品などをデザインするための力学的解析が行えるようになるとともに安全性を評価できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義2コマ続きで1つのテーマの学習を行う。はじめに、講義資料を用いて学べるべき内容の解説を行い、その後、講義で学んだ知識をもとに演習を行う。演習時にはヒントを出すものの、自ら演習課題を解くことで、問題を解決するためのスキルを身につける。演習課題の解答は、授業中に解説したり授業支援システムに掲載する。また、レポートについては、添削の上返却する。なお、学生の理解度に応じて、次回講義の最初に追加説明を行うことがある。

授業中の演習は、授業中に解説する。また、宿題となった課題については、次回の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	空間の力（1）（2）	①空間における力 ②空間における合力 ③力の水平、垂直成分 講義内容についての演習
2	空間の力の釣り合い（1）	①モーメントと外積 ②偶モーメントの合力 ③力の縮約
3	空間の力の釣り合い（2）	前回の講義内容についての演習
4	断面の性質（1）	①図心 ②断面諸量 ③断面の主軸
5	断面の性質（2）	前回の講義内容についての演習
6	材料の力学的性質（1）	①応力とひずみ ②フックの法則 ③弾性係数とポアソン比
7	材料の力学的性質（2）	前回の講義内容についての演習
8	組み合わせ応力（1）	①応力の座標変換 ②主応力 ③モールの応力円
9	組み合わせ応力（2）	前回の講義内容についての演習
10	はりのデザイン（1）	①断面力 ②断面力図 ③はりの応力度 ④はりの変形
11	はりのデザイン（2）	前回の講義内容についての演習
12	柱のデザイン（1）	①柱の種類 ②短柱 ③長柱 ④トラス構造
13	柱のデザイン（2）	講義内容についての演習
14	理解度確認試験	講義1～13に関する授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを用いて講義資料を事前に配布するので、各自で事前にダウンロードし、予め目を通し、下記の参考書等を用いて予習を行っておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストをpdfファイルにしたものが学習支援システムに登録されているので必要に応じてダウンロード可能である。

【参考書】

R.C.Hibbeler：Statics and Mechanics of Materials, 5/e, Prentice Hall Intl. Edition

工業力学，材料力学，構造力学，応用力学などの参考書

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%） 授業中における学習状況や参加度を評価する。
演習状況（25%） 決められた時間内に演習課題を処理する能力を評価する。

理解度確認試験（50%） 全体を通して得た知識を活用して、応用問題を解決できる能力を評価する。

ただし、出席日数が全体の2/3に満たない学生は評価の対象外(E)とする。
なお、1時間目に30分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、その日は欠席扱いとする。（原則、欠席理由の連絡は翌週の講義終了までとする。）

【評価基準】

履修の手引きに記載されているS～Eまでの12段階評価基準に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は添削して返却するので、復習しておくこと。

授業内試験は資料持ち込み不可のため、講義資料の例題と演習問題の内容を復習しておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

演習時に、関数電卓を使用するので、毎回持参すること。なお、携帯電話や、事務用の電卓では、計算できない課題もあるため、必ず、関数電卓を用意すること。試験の際にも関数電卓を使用する（試験の際にスマートフォンを持ち込むのは禁止）。

授業内で使用する資料は、全て学習支援システムより配布を行う。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this program, students acquire basic knowledge and analytical methods on structural and materials mechanics in order to understand the effects of external forces on structures and machine elements. In addition, students acquire knowledge about deformation and internal forces when a load acts on structures or machine elements.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1)Application of principles regarding equilibrium of forces and moments
- 2)Mechanical analysis for designing structures and machine elements
- 3)Assessment of the safety of structures and machine elements

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on short reports (30%), term end examination (50%), and in class contribution (20%).

MEC300ND（機械工学 / Mechanical engineering 300）

熱と流れのデザイン

坂間 清子

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身のまわりの物体は、運動したり、変形したり、状態（温度、圧力、体積など）が変化したりする。製品をデザインするためには、こうした物体の力学的な特性や状態変化を十分に理解しておくことが重要である。

本授業では、はじめに、このような物体の運動や変形、状態の変化を、自然科学や工学技術における考え方の発展を踏まえつつ、「熱」や「流れ」の力学としてとらえる。次に、これらの現象を数式を用いて表現するための基本的なモデル化の考え方を学び、計算例やモデル例から得られる結果をもとに、現象を理解し、考察する力を養う。さらに、具体的な実習課題を通して、熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすための基礎的な考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解できること。
- ・熱と流れに関する課題について、計算例やモデル例、簡易的なシミュレーション等を用いて現象を理解し、考察や説明ができること。
- ・熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすことができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するため、授業の前半では、熱と流れの力学に関する自然科学および工学的な考え方の背景に触れながら、物体の運動や状態変化にともなう現象を、「流体」や「流れ」という概念でとらえる。あわせて、流れの性質や、それらを表現するための基礎的な数学的表現について解説する。

授業の後半では、物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を対象とし、巨視的な状態量、仕事およびエネルギーの概念を用いて熱現象をとらえる。熱の特徴的な性質や熱力学の基本法則、ならびにパワーサイクルの考え方について概観する。

講義内で実施・指示する課題や小テストに取り組むことで理解の定着を図る。また、「流れ」および「熱」に関する理解度を確認するため、試験期間に理解度確認試験を実施し、学習到達度を評価する。必要に応じて、レポート等を課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物体の運動と状態の変化	物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解する。熱や流れの力学を自然科学や技術の変遷の中で理解する。単位系とその考え方を理解する。 ・力学の学問体系 ・流体力学と熱力学 ・単位系とその考え方
2	流体の性質、静水力学	変形しながら運動する物体（流体）に特徴的な性質を理解する ・圧力 ・密度と比重 ・粘性と圧縮性 ・静水圧 ・マンメータ ・パスカルの原理と力増幅装置 ・浮力
3	流れの基礎事項	流れの数学的な表現の中で重要となる連続の式と運動量保存則について、力学的な視点で理解する ・流速と流量 ・連続の式（質量保存則） ・レイノルズ数 ・オイラーの運動方程式

4	エネルギー保存則とベルヌーイの式	前回に引き続き、流れの数学的な表現の中で重要となるエネルギー保存則を理解する。さらに圧力の測定方法や流れの表現方法（可視化手法）についても理解する） ・エネルギー保存則 ・ベルヌーイの定理 ・動圧と静圧 ・ピトー管と圧力の測定法 ・流れの可視化と表現法
5	流体の運動量・レイノルズの相似則	流体の特徴的な性質である粘性と圧縮性について、その役割や基礎事項について理解する ・粘性の役割 ・流れの相似則 ・層流と乱流 ・圧縮性
6	管路内流れと損失	工学的な流れの基本となる管路内流れについて、その基礎事項を理解する ・管路内流れ ・管摩擦損失 ・境界層
7	物体まわりの流れ	流体中に置かれた物体に働く力や流れの様子についての基礎事項を理解する ・物体周りの流れ ・抗力と揚力 ・第1回～7回のもつとめ
8	物質の熱力学的特性	物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を「熱学」という物体の巨視的な状態変化と仕事やエネルギーの概念として理解する ・物体の状態変化 ・熱と仕事 ・圧力と体積と温度
9	伝熱と熱の移動	熱の移動に関する基礎事項を熱の利用の観点から理解する ・伝熱の形態 ・熱輻射 ・熱伝導 ・熱伝達 ・断熱
10	理想気体の状態変化と仕事	理想気体の状態変化と仕事に関する基礎事項を熱と仕事の等価性の関係で理解する ・理想気体の状態変化 ・熱と仕事
11	熱エネルギーの状態変化と仕事	熱と仕事とエントロピーに関する基礎事項を理解する ・熱と仕事とエントロピー ・熱力学の第一法則 ・準静的変化 ・可逆変化と不可逆変化
12	熱力学の法則とパワーサイクル	熱力学の法則と熱エネルギーを利用したパワーサイクルの考え方について理解する ・様々なプロセス ・熱力学の法則
13	様々な熱機関のパワーサイクル	身の周りの様々な熱機関をパワーサイクルの観点で理解する ・オットーサイクル ・ディーゼルサイクル ・スターリングサイクル ・ブレイトンサイクル ・ランキンサイクル ・ヒートポンプ
14	熱と流れの統合的理解とまとめ	第1回～14回の内容を整理し、得られた知見の応用手法について検討する ・授業全体のまとめ ・熱と流れの関係の整理 ・応用例の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の内容の事前確認および事後の復習

講義内で指示する課題や演習への取り組み

提出した課題の見直しと内容の整理

試験に向けた復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜、プリントや演習問題を配布する。

すべての教材や演習問題は授業支援システムを用いて電子媒体で配布する。

【参考書】

日本機械学会編・JSMEテキストシリーズ：流体力学

日本機械学会編・JSMEテキストシリーズ：熱力学

【成績評価の方法と基準】

本授業では、以下の方法により成績評価を行う。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

・期末試験（60％）

到達目標①「物体の運動や変形、状態の変化を『熱』や『流れ』の力学として理解できること」、および到達目標②「熱と流れに関する現象を数式やモデルを用いて理解し、説明できること」について、理解度を評価する。

・平常点（40％）

講義内で実施・指示する課題、演習、小テスト、レポート等を通して、到達目標②および到達目標③「熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすための基礎的な考え方を身につけること」に対する理解度、および授業内容への取り組み状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

熱や流れの現象の理解には、演習課題や例題を用いた説明が有効であると考えられる。基礎的な現象理解に役立つ課題を設定し、演習内容の解説を充実させていく。

【学生が準備すべき機器他】

大学から配布されたノートPCを使用する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces fundamental concepts of fluid dynamics and thermodynamics for students in engineering and design-related fields. The course focuses on understanding the motion, deformation, and state changes of physical objects, such as changes in temperature, pressure, and volume, from the viewpoints of heat and fluid flow.

Through lectures, examples, and simple practical exercises, students learn how physical phenomena related to fluids and heat are described using basic models and equations. The course also emphasizes the application of these fundamental concepts to product design and engineering practice.

【Learning Objectives】

1. Understand basic physical phenomena related to fluid flow and heat transfer based on fundamental concepts of fluid dynamics and thermodynamics.
2. Interpret physical phenomena using simple mathematical models and calculation examples.
3. Apply basic properties of fluids and heat to introductory considerations in product design and engineering.

【Learning Activities Outside of the Classroom】

Students are expected to review lecture materials, work on assigned exercises, and prepare for examinations. Independent study outside the classroom, amounting to more than two hours per week, is required to reinforce understanding of the lecture content.

【Grading Criteria / Policy】

The overall grade will be determined based on the following components:

- Term-end examination: 60%

- Exercises and assignments: 40%

The examination evaluates students' understanding of fundamental concepts in fluid dynamics and thermodynamics. Exercises and assignments are used to assess engagement with lecture content and basic application of concepts.

SSS200ND（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 200）

オペレーションズリサーチ

野々部 宏司

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーションズリサーチ（Operations Research, OR）とは、「実社会における問題解決や意思決定を支援するための数理的・科学的な方法論や技法」を対象とする研究分野である。ORの幾つかの代表的テーマについて基礎知識・技能を学ぶ。

【到達目標】

- 線形最適化問題、整数最適化問題、割当て問題、最短路問題などの代表的な最適化問題を理解している。
- Microsoft Excel のソルバー機能（Excel ソルバー）を用いて最適化問題を解くことができる。
- 安定マッチングを理解している。
- Excel を用いて簡単なシミュレーションを行うことができる。
- 待ち行列理論の基礎を理解している。
- 不確実性下での意思決定について、代表的な意思決定原理を理解している。
- リスクのもとでの多段階意思決定にディシジョンツリーを利用することができる。
- AHP を利用した意思決定を行うことができる。
- ゲーム理論の基礎を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週2コマ連続で実施する（2コマ×7週）。

具体的なテーマとして、「数理最適化」「グラフ・ネットワーク」「シミュレーション」「待ち行列」「不確実性下での意思決定」「階層化意思決定法（AHP）」「ゲーム理論」を取り上げ、これらの基礎知識と代表的な手法について説明する。

理解度確認のための演習（テーマによってはノートパソコンを使用）や小テストを適宜授業時間内に行う。また、授業外に行うべき課題を各テーマごとに課す。課題の回収や小テストの実施には学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的・進め方について説明した後、例題を示しながら授業で扱う内容の概説を行う。
2	数理最適化（線形最適化問題）	数理最適化とその代表的な手法である線形最適化について学ぶ。意思決定問題を最適化問題として定式化し、Excel ソルバーを用いてその問題を解く練習を行う。
3	数理最適化（感度分析）	線形最適化問題における感度分析について、潜在価格の活用方法を中心に学ぶ。
4	数理最適化（整数最適化問題）	線形最適化よりも適用範囲が広い整数最適化について、バイナリ変数の活用方法を含めて学ぶ。Excel ソルバーを用いた演習を行う。
5	割当て問題	数理最適化の応用例として割当て問題を取り上げ、例題を用いた演習を行う。また、安定マッチングについて学ぶ。
6	グラフ・ネットワーク	代表的なグラフ・ネットワーク問題である最短路問題と最小費用流問題について、応用例とともに学ぶ。
7	シミュレーション（決定論的シミュレーション）	問題解決や意思決定のためのシミュレーションについて学ぶ。決定論的シミュレーションの演習を Excel を用いて行う。
8	シミュレーション（確率的シミュレーション）	確率的シミュレーションについて、モンテカルロシミュレーションを中心に学ぶ。Excel を用いた演習を行う。

9	待ち行列（シミュレーション）	数理モデルを通して混雑や待ちの現象を解析し問題解決に役立てる手法として、待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくにシミュレーションを用いた分析を行う。
10	待ち行列（理論的解析）	待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくに M/M/1 待ち行列システムを中心に理論的解析について学ぶ。
11	不確実性下での意思決定（意思決定原理）	不確実性やリスクのもとでの意思決定原理について、代表的なもの（マクシミン原理、マクシマックス原理、ミニマックス後悔原理、ラプラスの原理、期待値原理、期待値・分散原理、最尤未来原理、要求水準原理）とそれらの性質について学ぶ。
12	不確実性下での意思決定（ディシジョンツリー・効用）	リスクのもとでの意思決定（とくに多段階の意思決定）に用いられる代表的なツールであるディシジョンツリー（決定木）、および人が感じる満足度を数値によって表す概念である効用について学ぶ。
13	AHP（階層的意思決定法）	評価基準が複数存在する中で、複数の代替案から1つ（もしくは幾つか）を選択したり代替案を順位づけたりするためのツールとして AHP（階層的意思決定法）について学ぶ。
14	ゲーム理論（非協力ゲーム）	ゲーム理論（複数の意思決定者が合理的な行動をとる状況を論理的に取り扱うための方法論）の基礎知識として、非協力ゲームの初歩について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 事前学習（基礎知識の習得）
 - 授業内容の復習
 - 演習課題の実施と提出
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。資料を配布する。

【参考書】

- 藤澤克樹・後藤順哉・安井雄一郎：「Excel で学ぶ OR」，オーム社，2011.
 - 今野浩・後藤順哉：「意思決定のための数理モデル入門」，シリーズ〈オペレーションズ・リサーチ〉5，朝倉書店，2011.
 - 森雅夫・松井知己：「オペレーションズ・リサーチ」，朝倉書店，2004.
 - 松井泰子・根本俊男・宇野毅明：「入門オペレーションズ・リサーチ」，東海大学出版会，2008.
 - 高橋幸雄・森村英典：「混雑と待ち」，朝倉書店，2001.
 - 藤田忠・熊田聖：「意思決定科学」，第2版，泉文堂，2001.
 - 宮川公男：「意思決定論—基礎とアプローチ」，中央経済社，2005.
 - 渡辺隆裕：「図解雑学ゲーム理論」，ナツメ社，2004.
 - 逢沢明：「ゲーム理論トレーニング」，かんき出版，2003.
- など。その他、授業内に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出物により、以下の割合で評価する。

- 演習課題：60%
- 最終課題：40%

ただし、授業を4回以上欠席した場合は評価の対象外（E判定）とする。特別な理由がない限り30分以上の遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- edu2025 貸与ノートパソコン：演習・小テスト等に利用する。毎回持参すること。
- 学習支援システム：お知らせの配信・資料やスライドの配布・課題の提示や回収・授業内小テスト等に利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces several topics in Operations Research (OR). OR provides mathematical tools for problem-solving and decision-making in real-world situations. The goal of this course is to gain fundamental knowledge and skills in OR.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on assignments in each class (60%) and the final report (40%).

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

デザインケーススタディ

土屋 雅人、大西 景太、SEONG YOUNG AH

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインケーススタディは、一部演習を交えた講義形式の授業となります。

授業は3部構成となり、3名の教員が交代で行います。

本授業では、複雑化するデザインの開発領域において、実際の製品やサービスの事例を挙げながら、今日のデザインの社会的意義(デザインファンクション)、技術と社会との関係(デザインインターセクション)、および市場ニーズの分析手法(デザインマーケティング)を学びます。

第一部:デザインファンクション

第二部:デザインインターセクション

第三部:デザインマーケティング

【到達目標】

デザインファンクションおよびデザインインターセクション、デザインマーケティングの開発手法、開発理念に関する知識と今後のデザインのあり方を考察する能力を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本に行います。

講義全体は三部構成となり、第一部は1回目より5回目、第二部は6回目から9回目、第三部は10回目から14回目の講義となります。1回目はガイダンスが含まれます。

それぞれの講義概要は次の通りです。

第一部:デザインファンクションでは、今日のデザインが社会に与える役割、働き、価値などを、様々なデザイン領域の事例を通して解説し、その意義を学びます。

第二部:デザインインターセクションでは、技術変革と社会変動がデザインの創作/活用/評価にどのような影響を与え、議論を起こしながら相互発展してきたかについて解説し、その意義や使い方について学びます。

第三部:デザインマーケティングでは、デザイン開発に求められるユーザーニーズの分析手法として、多変量解析を用いた主観評価手法を事例を通して学習し、マーケット分析方法とコンセプトプランニングを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス グラフィックデザイン1 大西景太	この授業の要点、注意事項の説明をします。 広告、ブランディングなどのグラフィックデザインの実例を解説します。
2	グラフィックデザイン2 大西景太	新しいグラフィック表現の開発とその活用例を解説します。
3	タイムベースドデザイン1 大西景太	CM、MV、TV コンテンツなど映像デザインの事例を解説します。

4	タイムベースドデザイン2 大西景太	AR、VR、MR に関するデザイン事例を解説します。
5	タイムベースドデザイン3 大西景太	web やアプリ、展示空間などノンリニア映像の事例を解説します。
6	デザインとテクノロジー1 ソン ヨンア教授	AIが生成する創作物について最新事例を解説します。
7	デザインとテクノロジー2 ソン ヨンア教授	インタフェースや分析ツールの変革が影響を与えたデザイン史について解説します。
8	デザインと社会1 ソン ヨンア教授	Technocracy の概念を紹介し、Speculative Design など技術と未来社会との関係を問うデザイン分野について解説します。
9	デザインと社会2 ソン ヨンア教授	持続可能性、共生社会に向けたデザインの事例を解説します。
10	感性価値、ニーズ分析1 土屋雅人教授	価値の多様性とユーザーニーズを学習します。
11	ニーズ分析2 土屋雅人教授	身近な商品を題材としたニーズ分析、商品地図法を学びます。
12	ニーズ分析3 土屋雅人教授	多変量解析（クラスター分析）を学びます。
13	ニーズ分析4 土屋雅人教授	多変量解析（主成分分析）を学びます。
14	ニーズ分析5 土屋雅人教授	多変量解析（クラスター分析、主成分分析）を組み合わせたニーズ分析を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「デザインファンクション」「デザインインターセクション」「デザインマーケティング」の講義の中核は、デザイン活動が社会に与える役割や創造活動への貢献であり、デザインシンキングの視点から多面的な学習を行ってください。

授業内容の理解を促す課題（レポート等）には、指示に従って提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示します。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。5回以上欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない）。

成績は平常点30%、課題40%、試験30%です。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容をよく理解するためにも、参考図書、資料等の紹介を行う。

【学生が準備すべき機器他】

「第三部:デザインマーケティング」(担当土屋)ではノートPCを使いますので、必ず持参してください。

その他、ノートPC (Windows) を用いる箇所がありますので、教員の指示に従ってください。

【その他の重要事項】

A/B期で授業の曜日、時限がかわることに注意してください。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the social significance of design (Design Function), the relationship between technology and society (Design Intersection) and the analysis method of market needs (Design Marketing), while giving examples of actual products and services in the complicated design development.

Part 1: Design Function

Part 2: Design Intersection

Part 3: Design Marketing

After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

In class contribution:30%, Short report:40%, Term-end examination:30%.

MAN300ND（経営学 / Management 300）

情報システムデザイン

藤井 新吾

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、企業活動における情報システムの役割を、実務の視点から体系的に学ぶ。
企業の現場で実際に発生している課題や困りごとを起点に、情報システムをどのように位置づけ、どのように価値創出や組織の成長につなげていくのかを理解する。
理論の詳細な掘り下げよりも、As-Is／To-Beの整理、KPI設計、改善サイクルを継続的に回すための考え方など、実践的な思考プロセスの習得に重点を置く。
また、生成AIを補助的なツールとして活用し、課題整理や検討の質を高める方法についても扱う。
本授業を通じて、学生が情報システムを単なるIT技術としてではなく、経営・業務・人・組織文化と結びついた価値創出の仕組みとして捉え、自ら考え行動できる力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本授業を履修することで、学生は以下のことができるようになる。
1. 企業や組織における業務の流れと情報システムの関係の説明ができる。
2. 現場の課題をAs-Is／To-Beとして整理し、構造的に表現できる。
3. 改善や価値創出のためのKPIを設定し、その意義を説明できる。
4. サイクルマネジメントの考え方をういて、改善が継続する仕組みを構想できる。
5. 生成AIを補助的なツールとして活用し、課題整理や検討の質を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義を中心に進めるが、多くの回において演習や短時間のワークを取り入れ、理解を深める。各回では、まず考え方や全体像を講義で示し、その後、企業の実務事例や仮想ケースを用いて具体的に検討する。
授業を通じて、生成AIを補助的なツールとして継続的に活用し、課題整理、As-Is／To-Beの検討、改善案のたたき台作成などを行う。一方で、最終的な判断や意思決定は人が行うものとし、AIと人の役割分担についても常に意識させる。
学生には、講義内容を踏まえて自ら考え、発言や演習に主体的に参加することを求める。
情報システムを価値創出の仕組みとして捉え、実務で応用できる思考力の習得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／情報システムと企業活動	企業や組織の現場で課題や困りごとがどのように発生するか事例を通じて考える。「問題が見えない」状態に潜む構造的な課題を理解する。
第2回	企業の業務と情報システムの全体像	企業における業務プロセスと情報システムの関係を整理する。基幹系・情報系・業務支援系システムの違いを理解し、企業全体の中で情報システムがどのように活用されているかを学ぶ。
第3回	情報システムを構成する要素と役割	人・業務・データ・アプリケーション・インフラといった情報システムの構成要素を整理する。システムデザインにおいて技術以前に検討すべき視点を、実務例を交えて解説する。
第4回	企業現場における課題の発見	企業や組織の現場で課題や困りごとがどのように発生するか事例を通じて考える。「問題が見えない」状態に潜む構造的な課題を理解する。
第5回	As-Is分析の考え方と整理方法	現状（As-Is）を整理するための視点と手法を学ぶ。業務の流れ、関係者、情報の流れを可視化し、どこに課題があるのかを構造的に捉える。

第6回	To-Be 構想と価値創出	As-Isを踏まえて目指す姿（To-Be）を描く方法を学ぶ。誰にとってどのような価値が生まれるのかを明確にし、現実的なTo-Beを構想する。
第7回	サイクルマネジメントの基本	改善や変革を一度で終わらせず、継続的に回すためのサイクルマネジメントの考え方を学ぶ。As-Is、To-Be、実行、評価、改善のつながりを整理する。
第8回	KPI設計と効果測定	改善や価値創出を測定するためのKPI設計について学ぶ。KGI・KPIの違いや、指標がない改善活動が続かない理由を理解する。
第9回	改善が止まる構造と続く構造	多くの改善活動が途中で止まってしまう要因を整理する。改善が回り続けている組織の特徴を、サイクルマネジメントの視点から考察する。
第10回	生成AIの基礎と活用ポイント	生成AIの基本的な仕組みと特徴を理解する。業務や改善活動の中で、生成AIが有効に機能する場面と、人が担うべき判断領域を整理する。
第11回	生成AIを用いたAs-Is／To-Be演習	生成AIを補助ツールとして活用し、As-Is整理やTo-Be検討を行う演習を実施する。AIと人の役割分担を体験的に理解する。
第12回	仮想組織シミュレーション演習	仮想的な企業・組織を設定し、情報システムと改善サイクルを設計する演習を行う。意思決定やKPI設定が組織の成長に与える影響を考える。
第13回	総合演習・発表	授業内容を踏まえ、課題整理から改善案までをまとめる。発表を通じて相互にフィードバックを行い、理解を深める。
第14回	まとめと振り返り	授業全体を振り返り、情報システムデザインを今後どのように実務や将来に活かすかを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配布資料の事前確認
- ・演習課題に関する簡単な調査・整理
- ・授業内容の振り返り（各回30～60分程度）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（講義資料を配布する）
・授業支援システムより教材パワーポイント等をダウンロード

【参考書】

- ・ITコーディネータ協会編『デジタル経営推進プロセスガイドライン（PGL4.0）』
<https://www.itc.or.jp/news/20240830.html>
- ・その他、必要に応じて授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】

下記により総合的に評価する。
1. 授業への参加度・貢献度 30%
2. 課題・レポート 40%
3. 最終課題（演習・発表） 30%

【学生の意見等からの気づき】

企業の実務事例や仮想ケースを通じて、情報システムを技術だけでなく業務や組織の視点から捉える気づきが得られることを期待している。
また、生成AIを補助的なツールとして活用することで、課題整理や考えの可視化が進み、学生自身の思考を深めるきっかけになると考えている。
授業を通じて得られた学生の意見や反応を踏まえ、内容や進め方の改善につなげていく。

【学生が準備すべき機器他】

- ・パワーポイント、エクセル、その他インターネット上のツール等を活用するためノートPC必須
- ・インターネット接続環境
- ・生成AIサービス（大学で許可されたもの、または無料利用可能な範囲）
- ・生成AI（ChatGPT）の無料アカウントの取得
- ・その他、必要に応じて無料利用可能な範囲で取得

【その他の重要事項】

- ・理論中心ではなく、実践的・対話的な授業を行う
- ・グループワークや簡単な発表を行う場合がある
- ・企業事例や実体験に基づく内容を扱うため、積極的な参加を求める

【Outline (in English)】
Course Outline

This course examines how information systems are designed and utilized in real business environments. Students will learn practical approaches to identifying organizational issues, structuring problems, and creating value through continuous improvement cycles and the use of digital technologies, including generative AI.

Learning Objectives

Students will learn how to analyze business processes, design information systems, and propose practical improvement solutions.

Learning Activities outside of Classroom

Students are expected to review lecture materials, complete short assignments, and reflect on case studies discussed in class.

Grading Criteria / Policy

Grades are based on class participation, assignments, and a final project.

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

プロダクトデザイン理論

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、プロダクトデザイン（以下PD）の創造性にとって重点な基礎知識・理論を学ぶ。
人間の創造行為としてのPDの歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PDと人間工学、PDに多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解する。

【到達目標】

インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。
プロダクトデザイン開発プロセス概要の理解。PD企画の理解。PDの形状・造形の理解。PDと素材、素材表面処理の理解。PDの量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

AB期14回（金曜日5限）

講義ノートを必ずとる事。

プロダクトデザインと基礎技術：

PD設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学ぶ事が出来ます。

プロダクトデザインの基礎歴史的な文脈：

現代のプロダクトデザインが成立するまでの様々な取り組み事例や思想、近代デザインの歴史的な文脈を学ぶことが出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス プロダクトデザインの 原点 プロダクトデザインの 対象	デザインの黎明から現在までを俯瞰し、プロダクトデザインという概念について紹介する。
2	プロダクトデザインの 目的	事例を通してプロダクトデザイン目的、価値を考察する。
3	Thonet と 大量生産の デザイン	Thonet の開発した大量生産技術により開かれた、デザインの可能性について解説する。
4	W.Morris と アーツ・ アンド・クラフツ運動	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景・思想・作品をW.Morris の生涯と共に紹介する。
5	モダンデザインへの展開	モダニズムへの過渡期に興った様々な思想と取り組みを紹介する。
6	ドイツ工作連盟	ドイツ工作連盟の思想・取り組み・後年への影響などを取り上げる。
7	バウハウス	バウハウスによって確立され、世界に多大な影響を及ぼしたデザインと思想について紹介する。
8	アメリカデザインの黎明	米国から生まれたデザインの思想と事例を紹介する。
9	縄文時代のものづくり	縄文時代のものづくり、加工法などを紹介する
10	民芸運動	民芸運動を近代日本のプロダクトデザインの潮流のひとつと捉え、紹介する
11	現代におけるプロダク トデザイン事例 ①	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。
12	家具デザインと工法	家具デザインを通し、様々な工業生産技術を紹介する。
13	現代の展開と課題	プロダクトデザインにおける現在の取り組みと課題について紹介する。
14	現代におけるプロダク トデザイン事例 ②	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ノートを取り、内容について復習する

2週に1回、課題レポートの提出を求める

課題に要する時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】

「もの」はどのようにつくられているのか？、Chris Lefteri 著、オライリー・ジャパン

心を動かすデザインの秘密、荷方邦夫著、実務教育出版

プロダクトデザイン 101 のアイデア、スン・ジャン マシュー・フレデリック著、フィルムアート社

世界デザイン史、安倍公正監修、美術出版社

他

【成績評価の方法と基準】

講義全体で4回以上の欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。欠席一回につきー4点、遅刻-2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）

評価； 出席（50%）レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

説明をよりゆっくと進める

【その他の重要事項】

英国、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn the basic theory behind fundamental requirements in Product Design and creativity.

【Learning Objectives】

The aims of this course are the following:

- Understanding the cultural context of industrial design from modern times to today.

- Understanding the overview of the product design development process.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to submit an assignment report every two weeks. The standard time required for the homework is approximately two hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading Evaluation: Attendance (40%), Report assignment (60%)

MEC200ND（機械工学 / Mechanical engineering 200）

メカニカルデザイン

山田 泰之

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物体と物体の動きの関係を定める機構（メカニズム）に焦点をあてる。様々な機械に用いられる機構を中心に、機構をつくる材料特性、加工、生産性などの多角的視点から学ぶ。また実際に具体化させるための基礎的、応用的知識と実践方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 基本的な機械の機構（メカニズム）が理解できる。
- 2) メカニカルデザインを具体化するために必要は材料，加工法等の実設計について理解できる。
- 3) 1)と2)の学修を通じて、機械の機構を企画・設計（デザイン）する手法の基礎を理解し、応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

動きをともなうあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する。機構は製品を企画・設計（デザイン）するにあたり、エンジニアはもちろん、デザイナーも理解しておかなければならない重要な要素である。本講義では、リンク機構、カム機構、伝動装置、歯車、流体駆動、ロボットなど、主なメカニズムの基礎と、その具体化にかかわる材料や加工法の選定などを含めたメカニカルデザイン全般について学ぶ。講義は対面を主体に実施するが、状況をみてオンラインやコンテンツ配信なども併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	・機械設計とは何か，身近な機械機構，材料と加工法の事例紹介
第2回	設計基礎	図面とCADを用いた機械設計と設計プロセス
第3回	機械要素	機械要素や規格品の活用（締結要素や材料規格）
第4回	機械要素	構造と材料の選定について
第5回	伝達機構	機械要素：ギヤ 様々な伝達機構や，柔軟伝達機構について説明する．
第6回	カム機構	・カム機構
第7回	リンク機構 液体伝達機構	・リンク機構、緩衝装置 液体伝達要素を利用したメカニカルデザイン
第8回	アクチュエータ 中間課題	アクチュエータのメカニカルデザインについて紹介する． 中間課題
第9回	材料	様々な材料を利用したメカニカルデザイン
第10回	構造	機械の様々な構造
第11回	機械加工・工具	様々な部品の機械加工方法や道具の紹介
第12回	移動機構	移動機構のメカニカルデザインについて紹介する．
第13回	応用的なメカニカルデザイン	応用的なメカニカルデザインについて紹介する．
第14回	期末課題	期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) シラバスの内容を事前に確認する
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な教材，資料は随時で紹介する。
参考図書の機構学（ISBN-13: 978-4627668911）は，学内あるいはVPN接続により，電子書籍で閲覧可能です。
https://kinoden.kinokuniya.co.jp/hosei_u/bookdetail/p/KP00031635/
参考図書の基礎機械材料は図書館にあります。

【参考書】

- 1) 機構学 ISBN-13: 978-4627668911
- 2) 基礎機械材料 ISBN-13: 978-4563069216

【成績評価の方法と基準】

平常点・確認小テスト（20％）
課題提出と期末テストにより（80％）
により総合的に評価する。
出席回数の少ない学生は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

学習内容が，「実際にどのような商品や製品に応用され活用されているのかが，イメージできない」との指摘があった。事例紹介を増やし，学習内容と実社会で利用されている技術の関連付けを明確にしながら説明するよう心がける。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to apply basic principles of geometry and general mechanics to various mechanical problems. Students will solve problems by modeling motion phenomena using simulation software and visualization techniques. Through the above process, they will understand the basics of methods for designing highly functional mechanisms through lectures and practical training. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

HUI300ND（人間情報学 / Human informatics 300）

スマートマシンデザイン

矢作 優知

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「プリント基板デザイン入門」を今年のテーマとする。
この授業では電子回路の小型化や安定動作を実現できるプリント基板のデザインを学ぶ。ブレッドボードでの試作に加えて、プリント基板を設計制作できるようになることで、より多様なプロダクトを実装できるようになることを目指す。今回は回路の小型化が求められるスマートマシンであるウェアラブルデバイスの実装を事例として取り上げ、実践的にプリント基板デザインを学ぶ。

【到達目標】

履修学生が以下の項目を学習することを目標とする。

1. 電子回路用 CAD を操作して回路図を CAD 上で作成できる
2. 電子回路用 CAD を操作してデザインルールを満たす回路パターンをデザインできる
3. 実際の電子部品と配線を接続して動作する回路を構成できる
4. 授業で取り扱う電子部品の機能や使用方法を部品の説明資料から読み取って説明することができる
5. 電圧や回路の特性を計測する機器を適切に使用することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

CAD や実物の回路の制作などの実習を中心に授業を行う。制作課題の取り組み結果はレポートとして提出することを求める。授業中に実習が終わらなかった場合は宿題となる。さらに最終課題としてプリント基板のデザインか、ウェアラブルデバイスの分解解説に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンス・プリント基板設計用 CAD の導入	本授業の大まかな流れの説明を受けます。プリント基板を設計するための CAD の機能紹介をします。そして Autodesk Fusion（予定）を自分の PC にインストールします。
2	電池で動作する回路の制作と電圧計測の演習	プリント基板の設計に向けて、個別の部品を組み合わせて電子回路を作成する方法を学びます。電池から電力を供給する回路を実際に制作します。また、マルチメーター（テスター）で電圧を計測する方法を学びます。
3	回路図の作成	CAD で回路図を作成するための操作方法を学びます。
4	回路パターンの作成	CAD で回路パターンを作成するための操作方法を学びます。CAD にデザインルールを入力して設計したプリント基板が製造する際の制約を満たすかを確認する方法を学びます。また、回路パターンをデザインする際の注意事項やポイントを解説します。
5	機械系 CAD と電子回路 CAD の連携	他の授業で学ぶ機械系の CAD と電子回路 CAD を連携して、基板の 3D データを機械設計に取り込む方法にも触れます。
6	ガーバーデータの出力	自分の設計データから、プリント基板の製造指示を工場や基板切削機に伝達するためのファイル形式であるガーバーデータを出力するための方法を学びます。
7	プリント基板の発注	最終課題のためにデザインしたプリント基板を工場に発注して作成してもらう方法を学びます。
8	プリント基板の発注	最終課題のためにデザインしたプリント基板を工場に発注して作成してもらう方法を学びます。

9	半田付け演習と導通チェックの演習	電子部品をプリント基板に固定する半田付けの練習をします。また、マルチメーター（テスター）で半田付けが適切に行われ電気が通る状態になっているかを確認する方法を学びます。
10	半田付け演習と導通チェックの演習	電子部品をプリント基板に固定する半田付けの練習をします。また、マルチメーター（テスター）で半田付けが適切に行われ電気が通る状態になっているかを確認する方法を学びます。
11	「いろいろな電子工作」の講義	導電糸を使って裁縫により電子回路を作る E テキスタイル、特殊なペンを使って回路が作れる回路マーカー、3D プリンターで印刷する回路など、電子工作とクラフトやデジタルファブリケーションを融合させる手法に関する研究を紹介します。
12	個別相談会と制作	最終課題の実装に関するトラブルの相談にのります。
13	最終発表会（発表・講評）	最終課題を講師と他の受講者に向けて発表します。
14	最終発表会（発表・講評）	最終課題を講師と他の受講者に向けて発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 毎回：コメントシートとして各回の授業で新たに学んだこと・授業にたいする気持ちや感想をそれぞれ 150 文字程度で記入。記入内容は授業の内容や進度の調整、改善の参考にします。

- ほぼ毎回：各回の課題（回路制作や基板デザイン）に取り組んだ結果を提出する。授業中に演習が終わらなかった場合は授業時間外に行うこと。

- 最終課題：授業時間外にも課題に取り組み中間発表会と最終発表会でプロジェクトの発表をしていただきます。最終課題は個人プロジェクトの予定です。最終課題の内容は 1) ウェアラブルデバイスのプリント基板のデザインと制作、または 2) 既製品の分解と内蔵されているプリント基板の解説の 2 つのうち、どちらか 1 つを選択できるようにする予定です。授業の進行や履修者との相談、その他機材や材料の調達状況に応じて変更する可能性もあります。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業スライドを PDF として配布するので、特別テキストの購入の必要はありません。

【参考書】

- Platt Charles. 2020. Make: Electronics 第2版 作ってわかる電気と電子回路の基礎。オライリー・ジャパン、東京。https://www.ohmsha.co.jp/book/9784873118970/

- 石川大樹, ギャル電, 藤原麻里菜. 2023. 雑に作る：電子工作で好きなものを作る近道集。オライリー・ジャパン、東京。https://www.oreilly.co.jp/books/9784814400492/

- 小林茂. 2017. Prototyping Lab 「作りながら考える」ための Arduino 実践レシピ。オライリー・ジャパン、東京。https://www.ohmsha.co.jp/book/9784873117898/

- ThousanDIY. 2020. 「100円ショップ」のガジェットを分解してみる! 工学社。
- ThousanDIY. 100円ショップのガジェットを分解してみる。note（ノート）。https://note.com/tomorrow56/m/ma0073059b5ac

【成績評価の方法と基準】

- 毎回の課題：50%

コメントシートの提出をもって出席とします。また、毎回の演習課題の達成度を制作レポートに基づいて評価します。

- 最終課題：50%

最終課題として取り組んだプロジェクトの成果物（基板）と発表および提出された発表資料と CAD データに基づいて評価します。

- 各到達目標と評価の対応は次のようになっています。以下の観点から評価を行う予定です。

1. 演習課題および最終課題として提出された回路図における部品の接続が適切であるかを評価します。

2. 演習課題および最終課題として提出された回路パターンにデザインルールエラーがないことを確認します。また、パターンのデザインに工夫が見られたり、分解解説において既製品の工夫に気づいたりできた場合には高く評価します。

3. 演習課題および最終課題の制作物が意図通りに動作しているかを確認します。

4. 演習課題でデータシートを正しく読み取れているかを評価します。また、演習課題や最終課題の回路図・回路パターン・実物の回路が適切であるから間接的に評価されます。

5. 演習課題で機器を使用した様子を報告していただき、その様子から評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業後に学生の皆さんにコメントシートを記入していただきます。そこでいただいたフィードバックを授業に反映します。

【学生が準備すべき機器他】

- 電子部品はAtomLiteなど法政大学で配布したものを用います。また、追加で必要な電子部品が発生した場合はご相談ください。

- CADとしてTinkerCADとAutodesk Fusionを使用予定です。インストールして使用できるPCを用意してください。

- マルチメーター（テスター）、半田ごて、オシロスコープなどについて、使い慣れた工具がある人は持参することをおすすめします（必須ではありません）。

【その他の重要事項】

- プリント基板を実際に製造することを目指している授業ですが、授業開催時の状況によってはCAD上での設計までを授業内で行い、製造は学生個人が任意で行う可能性があります。また、回路制作や計測機器の使いか演習の一部がオンラインシミュレーターでの実施になる可能性もあることをご承知ください。

- 本講義の履修に際しては、電気回路・電子回路に関する基礎的な知識が必要である（必要に応じて授業中に復習も行う）。

- また、以下の授業を受講していることが望ましいが、必須ではない。

「エレクトロニクス基礎」「メカトロニクス」「メカトロニクス演習」

- 授業終了後に質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The theme for this year is "Introduction to Printed Circuit Board (PCB) Design."

In this course, students will learn how to design PCBs that enable the miniaturization and stable operation of electronic circuits. In addition to prototyping on breadboards, acquiring the skills to design and fabricate PCBs will allow students to implement a wider variety of products. This time, we will take the implementation of wearable devices— smart machines that require circuit miniaturization— as a case study to learn PCB design practically.

FRI300ND（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300）

ゲームプログラミング

岩月 正見

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）の技術がどのような原理によって実現され、いかにしてゲーム開発に応用されているかについて、ゲーム開発統合環境Unityを用いて、実際に3Dシーンを構築し、プログラミングを行いながら具体的に理解していく。また、3Dオブジェクトに物理属性を与えたり、インタラクティブな操作を行ったりする手法についても学ぶ。

【到達目標】

本授業は、3DCG技術を用いて自分のアイディアに基づくゲームや3Dコンテンツを具体的に制作できるようになることを目標とする。特に、現在多くの開発者に利用されているゲーム開発統合環境Unityを利用することにより、3Dゲームやインタラクティブな3Dコンテンツが容易に開発できることを実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

チュートリアルビデオを見ながら、ゲーム開発統合環境Unityの操作方法を学び、3DCGゲームを開発するための具体的に制作しながら学んでいく。また、各チュートリアルの詳細な解説と補足説明も行い、使われている素材の入手方法や作成方法についても詳しく解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゲームプログラミングとは	ゲーム制作の要素 1. グラフィクス 2. サウンド 3. UI 4. プログラミング
2	ゲーム開発統合環境Unityの基礎	ゲーム開発統合環境Unityのインストールを行い、各パネルの役割や操作方法の基本を学ぶ。
3	オブジェクトの物理属性と衝突判定	オブジェクトを剛体として、質量や反発係数などの物理特性を与える方法を学ぶ。また、オブジェクト間の衝突を判定する方法を学ぶ。
4	外部入力検出とブレハブ	キーボード入力によってオブジェクトを操作する手法を学ぶ。また、ブレハブと呼ばれる使いまわしのできるプロトタイプオブジェクトを利用する方法を学ぶ。
5	オブジェクトの生成と消滅およびタイマー	スクリプトによってオブジェクトを動的に生成・消滅させる方法を学ぶ。また、ゲームに欠かせないタイマーを利用する方法を学ぶ。
6	オブジェクトの基本的な移動と力の与え方	オブジェクトの3次元的な移動方法を学ぶ。また、オブジェクトに力を与える方法を学ぶ。
7	演習	これまでの知識を総合してボーリングゲームを作成する。
8	マテリアル属性とオーディオの基礎	オブジェクトにテクスチャを貼る方法を学ぶ。また、オーディオを生成する方法を学ぶ。
9	ジョイントと矢印キーによる入力	複数のオブジェクトを結合したり、関節でつなぎ合わせる方法を学ぶ。また、矢印キーによる入力方法について学ぶ。
10	トリガー衝突判定とGUIおよびカウンター	オブジェクトが衝突したことを通知するトリガーを使う方法を学ぶ。グラフィカルユーザインタフェース(GUI)を作成する方法とカウンターの使い方を学ぶ。
11	スクリプトによるコンポーネントの追加とシーンの切り替え	スクリプトによって、オブジェクトの属性を与えるコンポーネントを動的に追加する方法を学ぶ。また、ゲームの終了時などのためのシーンの切り替え方法を学ぶ。

12	スクリプトによるコンポーネント属性の調整およびローカル・グローバル座標	スクリプトによって、コンポーネント属性の内容を調整する方法を学ぶ。また、シーン中のローカル・グローバル座標について学ぶ。
13	オブジェクトへの視線追跡とIF条件節	主オブジェクトを追跡するLookAt()関数の使い方について学ぶ。また、IF条件節について学ぶ。
14	最終作品発表	これまで学んだ知識を駆使して、各自オリジナル作品を制作し、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミング（C#, C++, Java等）の基礎を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しない。講義資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（20%）＋講義内での演習（40%）＋最終作品（40%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の持ち込むPCによって動作に不具合や差が出るため、それらを配慮して演習を考える。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand how to create 3DCG game applications by using Unity, a cross platform game engine. Students will acquire game programming skills through exercises for creating various game scenes with a physics engine and interactive user interface. Students should have a basic understanding of programming (C#, C++, Java, etc.).

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be made on the basis of the assignments (60%) and the evaluation of the student's work on the final project and the achievement and explanations at the presentation (40%).

HUI300ND（人間情報学 / Human informatics 300）

ARプログラミング

馬場 祐人

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SNSやニュースアプリ、スマホゲームなどWeb上で提供されるサービスやソフトウェアをWebアプリと呼ぶ。常時インターネットにつながった環境が当たり前となった今、PCやスマホといったクライアントと、サーバとでデータを通信して、様々な情報を随時やり取りすることが可能である。本授業では、Webアプリの開発に必要なフロントエンドとバックエンドの技術を習得してWebアプリを開発する方法を実際に制作しながら学ぶ。

【到達目標】

本授業では、Webアプリ開発環境「Next.js」を用いて、Webアプリケーションの応用的な開発手法を習得できる。Webアプリ開発に必要なフロントエンド、バックエンドの技術、具体的にはJavaScript、HTML、CSS、データベースエンジンに関する構成と概要を理解し、設計技術を習得し、実際にプログラミングしながら実装手法を理解する。そして各自のアイデアに基づいてオリジナルのWebアプリを制作できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Webプログラミングに関する幅広い領域の専門用語や技術構成を適宜解説する。講義時間内で、持参したノートPCを用いて、実際に様々な機能をプログラムとして実装しながら、Webアプリの開発手法を理解する。理解度を把握するため、演習作品を提出し、最終成果物として披露してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webアプリとは	Webアプリとは何か。どのように構成されているかを学ぶ
第2回	開発環境(Next.js, Docker)の準備	Webアプリ開発環境(Next.js, Docker)をインストールする
第3回	フロントエンドとバックエンド	フロントエンドとバックエンドの違い、それぞれの役割について学ぶ
第4回	簡単なWebアプリの開発	単純なWebアプリを制作する
第5回	バックエンド開発	バックエンドのシステム開発について学ぶ
第6回	データベースの構成	バックエンドで用いるデータベースを構築する
第7回	フロントエンド開発	フロントエンドに必要なUIデザインについて学ぶ
第8回	クライアント側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのフロントエンドを設計する
第9回	WebアプリのUI制作	フロントエンドとなるUIをHTML、CSS、JavaScriptで制作する
第10回	サーバ側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのバックエンドを設計する
第11回	Webアプリのデータベース設計	Webアプリのバックエンドで情報を記録するデータベースを設計する
第12回	Webアプリのセキュリティ	Webアプリを作るにあたって考慮すべきセキュリティの基礎対策について学ぶ
第13回	Webアプリのテスト	制作したWebアプリをテストする
第14回	最終作品発表	これまで学んだことの集大成として最終作品を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講に当たりJavaScript、HTML、CSSそれぞれのプログラミングの基礎を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

自ら課題設定したWebアプリに必要な設計を組み立て、Webアプリとしてプログラムできることを達成目標とする。

成績評価は、平常点(講義内演習等での貢献・取り組み態度)(30%)、各授業ごとの演習課題提出(30%)、最終作品と発表(40%)を基準として、総合的に判断し評価する。
最終作品についてはプレゼンテーション形式の発表を実施する。発表は試験に相当する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートを踏まえて、円滑な授業進行と授業の内容の改善に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC（貸与PCもしくはWindows パソコン使用を推奨）。各自のPCに、ソフトウェアをインストールして演習を行なう。PCにソフトウェアをインストールするためにSSD/HDDの空き容量を3GBほど確保しておくこと。資料配布、課題の提出などに、授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・本講義は秋学期開講の「コンテンツプログラミング演習」の応用的な内容となる。受講に当たっては「コンテンツプログラミング演習」の受講を推奨する。
・プログラミング言語処理系やWeb技術に関する実務経験を有する教員の観点から、Webアプリ開発の基礎的な概念や技術要素を解説する。
・授業終了後時間が許す範囲で、教室で質問を受け付ける。またHoppiiに記載したメールアドレスにて質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Services and software provided on the Web, such as SNS, news apps, and smartphone games, are called web applications. Web applications communicate various information and constantly exchange data between clients such as PCs and smartphones and servers. In this class, you will learn how to develop web applications by acquiring the front-end and back-end technologies necessary for developing web applications.

Assessment will be made as follows: In-class contributions 30%, in-class-hours practices 30%, final presentation 40%.

Before/after each class-hours, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

BME200NA (人間医工学 / Biomedical engineering 200)

福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイborg：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。

13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイborg：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA (人間医工学 / Biomedical engineering 200)

福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電氣的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電氣的現象について講義する。
4	生体計測3：電氣的計測	生体から電氣的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

ランドスケープデザイン

大木 一、保 清人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ランドスケープデザインの基礎知識や事例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】

ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎		○			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ，ゲストによるレクチャー等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	事例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	ファーストインプレッション	調査した内容を踏まえ、各自で提案方針の発表を行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表1・ゲストレクチャー	ゲスト講師を招いてのミニレクチャーと中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインの内容を深化させる
(10)	ゲストレクチャー/講評	ランドスケープデザインのゲスト講師を招いてのレクチャーとミニ講評を行う
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	設計演習/ブラッシュアップランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ

(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 2 課題対象地の敷地分析
- 3・4 設計コンセプト案の検討
- 5 ゾーニング・配置計画の検討
- 6 中間発表準備
- 7・8 配置計画・空間デザインの検討
- 9 空間デザインの検討
- 10 中間発表準備
- 11・12 提案内容のブラッシュアップ
- 13 講評会準備
- 14 最終提出物の作成

本授業の準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）他

【成績評価の方法と基準】

中間発表の内容（30%），最終講評および成果品の内容（70%）による。発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ分けのタイミングを個人の提案後に行う。

【学生が準備すべき機器他】

設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。オフィスアワーについて、質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

(Learning activities outside of classroom)

- 2 Site analysis of the subject site
- 3 & 4 Examination of proposed design concept
- 5 Examination of zoning and layout plan
- 6 Preparation for interim presentation

7 &8 Study of layout plan and spatial design

9 Examination of space design

10 Preparation for mid-term presentation

11 &12 Brush up on proposals

13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission

The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.

Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.

Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).

No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

ランドスケープデザイン

大木 一、保 清人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ランドスケープデザインの基礎知識や事例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】

ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ、ゲストによるレクチャー等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	事例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	ファーストインプレッション	調査した内容を踏まえ、各自で提案方針の発表を行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表1・ゲストレクチャー	ゲスト講師を招いてのミニレクチャーと中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインの内容を深化させる
(10)	ゲストレクチャー/講評	ランドスケープデザインのゲスト講師を招いてのレクチャーとミニ講評を行う
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	設計演習/ブラッシュアップランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 課題対象地の敷地分析

3・4 設計コンセプト案の検討

5 ゾーニング・配置計画の検討

6 中間発表準備

7・8 配置計画・空間デザインの検討

9 空間デザインの検討

10 中間発表準備

11・12 提案内容のブラッシュアップ

13 講評会準備

14 最終提出物の作成

本授業の準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）

長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）

小野寺康：広場のデザイン（彰国社）

武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）

JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I、II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】

中間発表（2回）の内容（30%）、最終講評および成果品の内容（70%）による。

発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。

中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ分けのタイミングを個人の提案後に行う。

【学生が準備すべき機器他】

設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。

検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。

オフィスアワーについて、質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

(Learning activities outside of classroom)

2 Site analysis of the subject site

3 & 4 Examination of proposed design concept

5 Examination of zoning and layout plan

6 Preparation for interim presentation

7 & 8 Study of layout plan and spatial design

9 Examination of space design

10 Preparation for mid-term presentation

11 & 12 Brush up on proposals

13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission

The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.

Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.

Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).

No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA (デザイン学 / Design science 200)

ランドスケープデザイン

大木 一、保 清人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ランドスケープデザインの基礎知識や事例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】

ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義、見学会、設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ、ゲストによるレクチャー等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	事例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べ必要な機能を検討する
(4)	ファーストインプレッション	調査した内容を踏まえ、各自で提案方針の発表を行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表1・ゲストレクチャー	ゲスト講師を招いてのミニレクチャーと中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインの内容を深化させる
(10)	ゲストレクチャー/講評	ランドスケープデザインのゲスト講師を招いてのレクチャーとミニ講評を行う

(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	設計演習/ブラッシュアップランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 2 課題対象地の敷地分析
- 3・4 設計コンセプト案の検討
- 5 ゾーニング・配置計画の検討
- 6 中間発表準備
- 7・8 配置計画・空間デザインの検討
- 9 空間デザインの検討
- 10 中間発表準備
- 11・12 提案内容のブラッシュアップ
- 13 講評会準備
- 14 最終提出物の作成

本授業の準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
 長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
 小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
 武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
 JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I, II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】

中間発表（2回）の内容（30%）、最終講評および成果品の内容（70%）による。
 発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
 中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
 欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ分けのタイミングを個人の提案後に行う。

【学生が準備すべき機器他】

設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
 検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
 オフィスアワーについて、質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.
 (Learning Objectives)

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

(Learning activities outside of classroom)

2 Site analysis of the subject site

3 & 4 Examination of proposed design concept

5 Examination of zoning and layout plan

6 Preparation for interim presentation

7 & 8 Study of layout plan and spatial design

9 Examination of space design

10 Preparation for mid-term presentation

11 & 12 Brush up on proposals

13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission

The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.

Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.

Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).

No credit for more than four absences (grade D) will be given.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返し特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱、空気、光、音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】

環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにおける環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01 温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02 光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03 空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04 音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05 健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01 太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02 熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03 空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04 環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01 身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02 建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03 建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂4版]』、井上書院
萩原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』、彰国社

【成績評価の方法と基準】

課題、最終プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】

Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱、空気、光、音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】

環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01 温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02 光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03 空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04 音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05 健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01 太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02 熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03 空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04 環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01 身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02 建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03 建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂4版]』、井上書院
萩原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』、彰国社

【成績評価の方法と基準】

各回の課題、最終プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を聞くだけでなくとどめず、理解した内容を取にすることが重要である。

【Outline (in English)】

Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱、空気、光、音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】

環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	30%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01 温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02 光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03 空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04 音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05 健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01 太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02 熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03 空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04 環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01 身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02 建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03 建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂4版]』、井上書院
萩原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』、彰国社

【成績評価の方法と基準】

課題、最終プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】

Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

PR1200NA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。

※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。

※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。

※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。

※授業中およびメールやVシートの提出によって質問等を行う。

配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともになる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。

13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★事前に公開した講義教材を読んで予習する。

★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。

★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはVシートにて連絡する。

★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。

★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）

★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）

★統計学基礎（統計検定3級・2級対応）日本統計学会

★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント

テスト2：40パーセント。

課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。

講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材提示、課題提出等を行う。
※授業中およびメールやVシートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。

11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
 - ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
 - ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはVシートにて連絡する。
 - ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメント についての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウン マネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの 新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの 演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの 管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウン マネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタ ウンマネジメントの概 要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマ ネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの 先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの 先進的な取り組みと課 題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表

14	タウンマネジメント講 義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
 2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
 3. HPなどで事例検索
 4. 演習課題をまとめる
- 本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくり成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意
レポート 85%
演習課題 15%
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動し続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.
Report 85%
Exercises 15%

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメント についての概略	タウンマネジメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成

3. HPなどで事例検索

4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85%

演習課題 15%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメント についての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85%

演習課題 15%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

西洋建築史

稲益 祐太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の建築や都市の歴史に関するものです。建築はそれぞれの時代や地域における文化や社会のあり方を示しており、その発展・変容・多様化の歴史的背景と変遷を理解することは、建築に対する多面的な見方を養うことに繋がります。そして、先人たちの歩んできた道（過去）を学ぶことは、未来をつくることと言えます。そこでこの授業では、時代を追って西洋建築の様式とその成立と変容の背景を学びます。

【到達目標】

西洋建築の様式を理解し、建てられた時代や地域が見分けられるようになります。また、その成立の背景についても理解できるようになります。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。参考資料を配り、スライドで画像を投影しながら説明していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のねらい
2	古代ギリシア建築	西洋建築の原点、美の規範、オーダー、神殿、アクロポリスとアゴラ
3	古代ローマ建築	建設技術と材料の発達、建築空間の洗練、豊かな市民生活、人間のための空間、凱旋門、バシリカ、劇場、競技場、市場、浴場
4	古代地中海世界の都市	都市計画、広場、聖域、住宅、集合住宅、インフラ、ポンペイとオステリア
5	初期キリスト教建築とビザンチン建築	バシリカ形式、モザイク、集中式プラン、ドーム
6	イスラーム建築	モスク、ドーム、中庭建築、庭園、幾何学的構成、迷宮都市の構造、パザール、隊商宿
7	ロマネスク建築	修道院と巡礼路教会、ヴォールト天井、空間構成
8	ゴシック建築	大聖堂の象徴性、構造の美学、垂直性、ステンドグラス、光の演出
9	初期ルネサンス建築	フィレンツェ、ルネサンスの勃興とその背景、ブルネレスキの活躍、アルベルティ、パラッツォ、ヴィッラ、祝祭・演劇、パトロンと建築家
10	盛期ルネサンス建築と理想都市	万能の人、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ブラマンテ、古典主義の確立、集中式プラン
11	マニエリスム建築	マニエリスム 形式の組み替え・手法、ヴィニョーラ、ジュリオ・ロマーノ、パラディオ、ミケランジェロ
12	バロック建築1	ローマ・バロック、バロックの背景、永遠の都ローマの都市改造、舞台としての都市空間、ベルニーニとボッロミーニ
13	バロック建築2	他都市のバロック、多様なバロック、サヴォイア家トリノ、祝祭都市ヴェネツィア、レッツェ・バロック、シチリア南東部、ナポリ
14	新古典主義・歴史主義	理論、プロジェクト、実践、リヴァイヴァル、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本建築学会編『西洋建築史図集 三訂版』彰国社、1983年、2750円【推薦図書】

陣内秀信他『図説 西洋建築史』彰国社、2005年、3080円

吉田銅市『西洋建築史』森北出版、2007年、2640円

ベグスナー『ヨーロッパ建築序説』彰国社、1989年、5170円

コストフ『建築全史』住まいの図書館、1990年、24563円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）の合計で評価し、60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course students will learn about historical European architecture and cities. Architecture is an expression of the culture and society of each period and region, and an understanding the historical background and transitional flow of developments/changes/diversification allows one to obtain a multifaceted point of view. Studying the (past) path travelled by our forerunners is how we build our future.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B.

-A. Students be able to understand Western architectural styles and identify the period and region in which they were built.

-B. Students will also be able to understand the background of the formation of the style.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%).

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

日本建築史

高村 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則対面で行います。

以下に概要と目的を示します。

日本の建築の歴史を神社、寺院、廟、住宅、都市から理解し、それらが成立した背景を重点に考える。テーマは、上記の内容を各回において詳細に解説する。

【到達目標】

日本建築全般の基礎学力を身に着けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本の建築の歴史を見ながら、建築の歴史の大筋を把握するとともに、時代が超えても変わらない本質的なものが存在することを理解し、その様々な歴史的要素がいかに現代に受け継がれているかを論じてみたい。毎回、スライドを見ながら、視覚的に内容を把握し、次にその背景を捉えなおし本質的な意味を探る方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本建築史序説 講義全体の流れを理解する。	建築史の意義と目的、日本とアジアの建築の関係、なぜ今建築史か？
2	日本建築の特質 日本建築の特徴を概観し理解する。	「建物につくられた空間」と「空間につくられた建物」、羅列的、面的、洗練とは？
3	古代の形式化 神社の特徴とその成立背景を知る。	建築の誕生、神の社、神明、大社、遷宮、形式の確立、意味の継承、聖と俗、橋－柱－端－簷－梯。
4	外来文化の受容 仏教建築が求めた意味を探る。	仏教建築、法隆寺、薬師寺、東大寺、隋・唐の仏寺、雲中供養菩薩が語る意味、重力からの解放。
5	和様・大仏様・禅宗様 寺院建築の様式に隠された意味を考える。	架構と空間、重源と陳和卿、組物、伽藍配置の世界観、宋の建築技術、構造美とは？
6	近世の霊廟と宗教建築 江戸時代の意味を宗教建築から探る。	日光東照宮、善光寺、権現造り、生産力の進展、ブルーノ・タウト、歌舞伎座、仏壇、霊柩車、天海。
7	中間試験 どこまで理解できたかを自分で知る。	ここまでの内容による中間試験。
8	日本の都市 都城と城下町	日本の都市の歴史を知る。藤原京から平城京、平安京、そして城下町へ
9	風水都市・江戸と聖地・日光 江戸時代の都市計画に隠された風水を読み解く。	人がつくる風水、藤堂高虎、天海、見立ての富士山、宮内庁の陰謀。
10	都市の聖地 一水系と地質から読む都市の環境空間―「地質聖地論」の試み	見えない都市、新たな都市解説の方法を探る、聖地の意味論、環境空間を浮かび上げさせる
11	日本住宅の源流 日本の住宅のオリジナルを見る。	寝殿造り、空間の建築、宮殿との関係、中国建築との関係、対象から非対称へ、日本の変容へ。
12	住空間の変容と茶室 現代に結びつく住宅建築の歴史を知る。	書院造り、装置の建築、より自由で日本的なものへ、装飾と区画、現代日本住宅への影響。

13	文化財建造物の保存と修復 文化財保存の制度や実情を理解する。	保存の意義、移築保存、選定－解体－組立－再生へ。
14	総合質疑 日本建築の歴史とは何だったのかを探る。	これまでの講義を総合的に考え、日本の建築の歴史を再読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日本建築の歴史について興味を持つ。
 2. 参考文献などから、日本建築を調べてみる。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. これまでの配布プリントを再読する。
 8. 配布プリントの意味を再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 配布プリントの意味を再読する。
 13. 配布プリントの意味を再読する。
 14. 講義の内容を総合的に考え直してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布。

【参考書】

太田博太郎『日本建築史序説』彰国社、日本建築学会『日本建築史図集』彰国社。

【成績評価の方法と基準】

中間試験および期末試験からなる総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、教員はPCを使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course students will consider Japan's architectural history from the beginnings of its shrines, temples, houses and cities. Topics will involve the detailed understanding of each of these areas.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn basic scholastic ability of the overall Japanese building.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria /Policy : ill be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the midterm examination and term-end examination.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築計画 1

岩佐 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は建築設計初学者を対象とし、身近な事例を手がかりに建築空間とその決定原理の関係を理解するとともに、建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・設計事例からその空間の意図を読み取るとともに、そこで行われる活動を想定する技術を身につける。
- ・建築空間を規定する原理や根拠を理解する。
- ・建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を身につける。
- ・設計根拠の導出を通して社会・文化と建築設計を接続して思考する視点を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
		○		◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行う。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。
- ・「建築計画 2」と併せて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／建築設計と決定根拠	身近な場所に学ぶ空間の決定原理 DS3課題の補足解説
第2回	住む1／住戸・住宅	環境の中の距離・寸法 用途や動作で規定される空間
第3回	住む2／住宅＋α	図式化による空間の理解
第4回	働く1／オフィス・コワーキングスペース	用途や動作で規定される空間 室と場面
第5回	働く2／オフィス・コワーキングスペース	知的生産性と環境 ワーケーション
第6回	育てる1／幼稚園・保育園・こども園	目的・制度・ユーザー・行為から考 える幼稚園 DS3課題の補足解説
第7回	育てる2／幼稚園・保育園・こども園	子供環境を考える DS3課題の事例解説
第8回	知る1／図書館	プログラムと建築 情報媒体の進化と建築の変化
第9回	知る2／図書館	蔵書の拡大と建築の変化
第10回	知る3／図書館	機能分化と平面計画
第11回	知る4／図書館	知の広場としての図書館 「本」の役割の変化
第12回	教える・学ぶ1／学校・ラーニングセンター	学びと環境
第13回	教える・学ぶ2／学校・ラーニングセンター	教育システムと建築
第14回	災害と建築／避難所	セーフティネットと建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く 12章」朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50％）
- ・レポート課題（50％）
- ・レポートに関しては、インターネットの記事や他に提出されたレポートに基
だしく類似した内容のものは評価外とする。
- ・合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PCの使用は必須である。
資料配布はpdfで行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用すること
で準備すること。

【その他の重要事項】

- ・DS3に関連した項目を取り扱うため、DS3と併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不
能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・レポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学
生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various decision-making principles such as human dimensions, motion characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is intended for beginning architectural designers to understand the relationship between architectural space and its decision-making principles using familiar examples, and to learn the basics of applying decision-making principles appropriately in architectural design.

【Learning Objectives】

To understand the intention of the space from design examples and to acquire the skills to envision the activities that will take place in the space.

To understand the principles and rationale that define architectural space.

To acquire the basis for applying the principles of decision making appropriately in architectural design.

To acquire the viewpoint to think about the connection between society and culture and architectural design through the derivation of design rationale.

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp your knowledge by doing your own research after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Exercises in the lecture (50%)

Report assignment (50%)

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築計画 2

岩佐 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は「建築計画学1」で学んだ知識を更に発展させ、より広範な社会の仕組みや制度と建築空間の関係を理解するとともに、建築設計を通して社会に貢献していくための手法を学ぶ。

【到達目標】

- ・建築空間を規定する原理や根拠の理解を通して、建築と社会・文化とのつながりを学ぶ。
- ・空間の意図やそこで行われる活動を建築設計にフィードバックする技術を身につける。
- ・社会の課題解決の手法としての建築設計の役割を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・「建築計画1」が履修済みであることが望ましい。
- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行う。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会と建築は合せ鏡である DS4 課題解説
2	集う1／集合住宅・住宅地	住宅供給と社会
3	集う2／集合住宅・住宅地	住戸配置の計画 住戸のアクセス形式
4	集う3／集合住宅・住宅地	住戸の平面計画 都市と集合住宅
5	鑑る1／美術館・博物館	美術館の歴史 DS4 課題解説
6	鑑る2／美術館・博物館	美術館の計画（展示室）
7	鑑る3／美術館・博物館	第4世代の美術館
8	住の多様性1	コーポラティブ住宅 シェアハウス
9	住の多様性2	暮らし方と住宅計画
10	住の多様性3	ポストコロナの建築計画
11	セーフティネット1／応急仮設	応急仮設住宅 危機的環境移行を支える建築
12	セーフティネット2／災害復興	復興公営住宅
13	セーフティネット3／高齢社会	グループホーム コレクティブハウス
14	演じる／劇場	演劇空間の計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く12章」朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌

建築と都市のパブリックスペース（鹿島出版会）
アクティビティを設計せよ（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
- ・レポート課題（50%）
- ・レポートに関しては、インターネットの記事や他に提出されたレポートに基だしく類似した内容のものは評価外とする。
- ・合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PCの使用は必須である。
資料配布はpdfで行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】

- ・DS4に関連した項目を取り扱うため、DS4と併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・レポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various determinants such as human dimensions, behavioral characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is designed to further develop the knowledge acquired in "Architectural Planning 1" to understand the relationship between architectural space and broader social systems and institutions, and to learn methods to contribute to society through architectural design.

【Learning Objectives】

To understand the connection between architecture and society and culture through an understanding of the principles and rationale that define architectural space.

To acquire the skills to feed back the intention of space and the activities that take place in it to architectural design.

To understand the role of architectural design as a method of solving social problems.

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp the knowledge by doing your own research after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Exercises in the lecture (50%)

Report assignment (50%)

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

木造建築の構法

網野 禎昭

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。

Understanding traditional wooden building constructions in Japan and in Europe. Understanding the evolution of constructions and contemporary varieties including industrialized building systems.

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎	○		◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベティブな事例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民家 1	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家 2	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家 3	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋 1	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋 2	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋 1	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋 2	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋 3	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaari の各塔他
10	大型スパン建築 1	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、 張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築 2	折板、吊屋根、シェル等、様々な面 構造システム
12	非戸建木造 1	木造集合住宅
13	非戸建木造 2	木造によるオフィス、学校建築など の最新事例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

木造建築の挙動を実感するために、「壁－1 グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Observing “Kabe-1 grand prix” is recommended to understand the behavior of wooden structures. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】

期末試験結果（100％）による

Evaluate the final exam result.

期末試験の得点60%以上を合格とします。

A passing score of the final exam is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】

写真や図版などの映像資料の質の充実

教員による実作の詳細解説

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】

This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

空間の構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史の変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】

建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎	◎		○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらに応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マガサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、ブラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンションリング
10	シェル構造	曲面の分類、EPシェル、HPシェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力攪乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B.フラー、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1方向、2方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッションリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築 耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム、超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川口衛 他：建築構造のしくみ 力の流れとかたち 第2版（建築の絵本）、彰国社

【参考書】

授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：40%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）

定期試験：60%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

なお、5回以上欠席したものは成績評価しない

評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form. In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important. This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.

Learning Objectives:

The goal of this course is to provide students with the basic architectural knowledge to the extent that they can describe and express the various structural elements and structural system concepts that form the basic framework of buildings using sketches, diagrams, etc.

Learning activities outside of classroom:

Students will observe exemplary structural design examples introduced in class or collect materials from architectural journals.

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築生理心理 2

加用 現空

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、建築環境と身体との関係を理解する基礎的な知識を踏まえ、それらを建築デザインとして具体化するための方法を学ぶ。体感的な環境経験と建築環境学の知識を統合し、数理的な視点から建築環境のふるまいを捉えることで、身体と環境のつながりをデザインとして構築するための思考と技術を、履修者が身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・身体と環境の關係に着目し、建築環境の状態を構造的に捉えて説明できる。
- ・建築環境のふるまいを表現するための基礎的な数理モデルを構築できる。
- ・モデル化した建築環境を用いて、建築デザインの検討を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
		◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は配布しないが、講義後復習用に講義録画リンク（Zoom）を公開する。講義は座学を中心に進めるが、授業内演習などを含む。受動的に聴講する授業形式ではなく、履修者同士で話し合いながら理解を深める授業形式を目指す。他履修者の妨げとなる私語は避け、相互に学びを深める学修環境構築への協力を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要、プログラムイン ストール
2	数理モデリング基礎 （1）	建築環境学の数理モデリング、環境 とシステム、入力と出力
3	数理モデリング基礎 （2）	収支式、差分方程式
4	モデリング演習（1）	Grasshopper プログラミング基礎
5	モデリング演習（2）	Grasshopper プログラミング実践
6	パラメトリックスタディ	目的関数、設計変数、制約条件
7	演習（1）	建築形態のデザイン検討（太陽軌道、 日射熱取得量）
8	熱収支のモデル化	伝導、対流、放射
9	演習（2）	屋根面構成のデザイン検討
10	光の振る舞いのモデル化	反射、吸収、透過
11	演習（3）	昼光導入のデザイン検討
12	空間換気特性のモデル化	圧力エネルギー、運動エネルギー、 熱エネルギー
13	演習（4）	開口位置と開口面積のデザイン検討
14	まとめ	建築デザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は共有しないが、講義後復習用に講義録画（Zoom）リンクを公開する。講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】

『人・建築・地球とエクセルギーー環境物理学入門』 宿谷昌則著 (2024) 建築資料研究社
『エクセルギーと環境の理論: 流れ・循環のデザインとは何か』 宿谷昌則著 (2010) 井上書院
『建築環境デザインのディテール 光・熱・風・水・音』 荻原廣高 (他) 著 (2024) 彰国社
『Parametric Design with Grasshopper 建築／プロダクトのための、Grasshopper クックブック [改訂第3版]』 石津優子、堀川淳一郎著 (2024) ビー・エヌ・エヌ

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す演習課題（30%）、授業後のフィードバックフォームの記入内容（30%）、講義終了後の期末試験（40%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: In the course "Physiology and Psychology in Building 1", The knowledge about the basics on building physics which focuses on the connection between the human body and the environment. To apply this knowledge in architectural design, the mathematical modelling method is needed. However, the recent computational simulation tools are highly developed and its algorithms are in the black boxes. The aim of the course is to integrate sensitive recognition by the human body and the knowledge of building physics, and to learn applying mathematical modelling methods into architectural design with deductive approach. Learning Objectives: 1) To acquire the scope to understand the status of the built environment, 2) To understand the basics of mathematical modeling, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.

Learning Activities Outside of The Classroom: The preparation and review time for each lecture is about 2 hours. In particular, students, who don't have a sufficient understanding of the issue at the end of the lecture, are recommended to deepen their understanding before the next lecture.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by the results of assignments during the course (30%), quality and quantity of the feedback form at the end of each lecture (30%), and the result of the final examination at the end of the course (40%). Grades will not be given to students who have not taken the examination or submitted the assignments.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

光・視環境

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築における光環境として日照、日射、自然採光、人工照明を対象とし、光や熱に対する理論を学習し、人間の視覚特性を理解しながら、建築デザインに生かす手法を習得する。

【到達目標】

到達目標は下記の通り。

- 1) 太陽位置を把握して、日影や日照時間、日射熱量、建築の日射受熱量などの算定方法を習得する。
- 2) 測光量と単位、採光・照明の基礎理論を理解し、照明計画などの応用手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1 回の授業はテーマを明確にし、2 回目以降は基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。予め、テキストの該当部分を予習し、主体的に講義を受けて理解し、限られた時間内で演習を行い、そのテーマを習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス、太陽位置算定に必要な時刻表現	地方真太陽時、地方平均太陽時、中央標準時均時差
2 回	太陽位置の算定方法	太陽方位角、太陽高度、太陽赤緯
3 回	日影図	日影図、日影曲線、日影時間曲線
4 回	日差し曲線	日差し曲線、日照図表
5 回	各平面への日影	水平面・鉛直面への影
6 回	日射量	直達日射、天空日射、全天日射、日射受熱量
7 回	日除けの設計	庇、袖壁、ルーバー、ブリーズソレイユ
8 回	光の物理表記と単位	光束、照度、光束発散度、光度、輝度
9 回	点光源による照度・均等拡散面の性質	入射の余弦定理、完全拡散面、反射、吸収、透過、拡散
10 回	光束法	光束法を用いた照明計画
11 回	昼光照明	昼光率、立体角投射率
12 回	X Y Z 表色系	R G B 表色系、X Y Z 表色系、xy 色度図
13 回	色彩調和理論	視覚心理、視認性・誘目性、色調、色彩調和理論、色彩計画
14 回	総復習	光環境・視環境の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での演習問題の復習を十分行っておくこと。さらに、身近な例を学習関連する新聞記事を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六他著『最新 建築環境工学』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習点：20%、期末試験点：80%の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

- ・太陽光は地球環境と密接に関係しているので、そのつもりで履修すること。
- ・光環境は、熱環境とも関連しているので、建築気候の熱環境の分野も復習すること。
- ・授業は遅刻をしないこと。
- ・日影図は、単純な幾何なのに従来から理解していない学生が多いので、注意すること。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を必ず持参すること。また、教員の指示に応じて製図用具等を準備すること。

【Outline (in English)】

This course focuses on sunlight, solar radiation, daylighting, and artificial lighting as light environments in architecture. Students will learn theories of light and heat, understand human visual characteristics, and acquire methods to apply them to architectural design.

Through this class, students will be able to:

(1) Understand the position of the sun and learn how to calculate shading, hours of sunlight, solar heat capacity, and the amount of heat received by buildings by solar radiation.

(2) To understand the basic theory of photometric quantities and units, lighting, and illumination, and to master applied methods such as color planning based on color psychology by understanding the color system.

The course comprises a lecture on fundamental theory and exercises with a clear theme. Students are expected to prepare the relevant part of the textbook in advance, attend and understand the lecture independently, and master the theme by doing exercises within a limited time. Students are expected to review the exercises in the class sufficiently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the following ratios: 20% for the exercises in each class and 80% for the final examination.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

音・振動環境

星 和磨

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外部からの騒音に悩まされない住宅、響きが良いコンサートホール、声がよく通る教室等、建築物の設計に際して内部で実現される音環境への配慮は大変重要である。音は、人々に快感から不快感まで幅広い感覚刺激を呼び起こす。従って、機能、用途毎に音質が的確に対応していなければならない。そのためには音とは何かという基本的理解が必要である。また、音の取り扱いと振動の取り扱いに関しては類似する点も多いことから、講義の後半では遮音の原理を通じて振動現象に関する基礎についても学ぶ。本講義では、音・振動環境に関する基礎的な知識を習得し、その後空間形態、建築用途に対応する理想的設計要件を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

- ・音が物体の中を伝わる振動現象であるという物理現象を理解する。
- ・音、振動に関わる特徴的な単位、演算方法を習得する。
- ・吸音、遮音のための物性、構法などを基礎知識として理解する。
- ・建築設計の際に音・振動を考慮することが重要であることを認識する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

予め穴埋め形式講義ノートをデジタルで配布するので、適宜メモを取り、穴を埋めながら講義を受けること。
また授業の最後に演習問題を解きながら、授業内容の理解を深める。
講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	音波の物理	振動の物理、音の物理、音波、波の表し方
3	音の大きさとレベル	ウェーバ・フェフィナーの法則、物理量から感覚量への変換、音圧と音圧レベル、音響インピーダンス
4	ラウドネスとA特性補正	耳の構造、ラウドネスとラウドネスレベル、当ラウドネス曲線、オクターブバンドとオクターブバンドレベル
5	様々な騒音とその評価	騒音の定義と種類、等価騒音レベル、単発騒音暴露レベル、騒音にかかる環境基準、静ひつ性の評価
6	様々な音源と距離減衰	点音源、線音源、面音源から放射される音の減衰
7	定常波と質の固有振動	管の共鳴、部屋共鳴、軸・接線・斜めモードとその周波数、室寸法と縮退の関係
8	吸音率と響きの長さ	吸音率の定義、残響時間の定義、W.C.Sabineの功績、残響時間の予測
9	音響エネルギー密度と室内平均音圧レベル	拡散音場とは、音響エネルギー密度と平均音圧レベルの関係、直接音レベルと反射音レベル、臨界距離
10	吸音機構と吸音材料	吸音の仕組みと建築材料（内装材）、吸音不足による室性能の低下、吸音に配慮した設計事例の紹介
11	遮音の基礎と質量則	吸音と遮音の違い、等価エネルギーと等価損失、等価損失の周波数特性を決める法則
12	二重壁の遮音と空気音遮断性能の評価	中空二重壁の共鳴透過現象とその対策、複層ガラスのメリットとデメリット、空気音遮断性能の評価
13	床衝撃音とその評価	集合住宅における騒音問題、軽量床衝撃音と重量床衝撃音の違いとそれらの対策

14 試験・まとめと解説 これまで13回の内容に関する理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は暗記内容、計算問題ともに多いので講義終了後に知識定着のために各自帰宅後に内容を復習すること。建築士試験の問題として出題される内容も多く取り扱うことから、ここで知識を体系的に定着させておくことが望ましい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

独自に作成した講義資料を講義前に配布する。
また、「最新建築環境工学（改訂第4版）」田中俊六 他著（井上書院）を適宜参照しながら進める

【参考書】

「建築音響」阪上公博 編著（コロナ社）
「建築・環境音響学」前川純一 他著（共立出版）
「建築音響と騒音防止計画」木村翔 著（彰国社）
「コンサートホールの科学」日本音響学会 編著（コロナ社）

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す演習課題（50%）と講義終了時課す最終課題または試験（50%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業演習用紙の下部に、授業の理解度評価とコメントを記述する欄を設けている。
このアンケートにもとづき、次回授業に改善を図るとともに、質問に回答する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

音環境は光環境とは違い直接目に見えない。そのため音響設計は後回しにされることが多く、結果として、音響的な検討が足りないことがある。そのような場合、竣工後にクライアントや周辺住民から音に関する苦情があることも少なくなく、場合によっては大幅な改修を余儀なくされる。
このように音環境は室内外の快適性に大きく影響する。この科目はエンジニアリング（工学）系の科目だが、意匠設計を志す学生も含めた全ての学生に受講していただきたい。そして音環境に関する基礎知識をもって様々な立場で活躍する人材になってほしい。
オフィスアワー：授業の前後あるいはLMSで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Overview: It is very important to consider the sound environment that will be realized when designing buildings, such as houses that do not suffer from inside and outside noise, concert halls with rich sound, and classrooms with a good speech intelligibility. Sound evokes a wide range of sensations, from pleasure to discomfort. Therefore, the sound quality must be precisely tailored to each function and application. This requires a basic understanding of what sound is. In addition, since there are many similarities between sound and vibration, students will learn the basics of vibration phenomena in the second half of the lecture. The goal of this course is to acquire a basic knowledge of sound and vibration environments and then to learn ideal design requirements according to spatial form and architectural use.
Learning Objectives: 1) Understand the physical phenomenon that sound is a vibrational phenomenon transmitted through an object, 2) Understand the physics of sound and vibration, 3) Understand the basic knowledge of physical properties and construction methods for sound absorption and sound insulation, 4) Understand the importance of considering sound and vibration in building design.
Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, students are encouraged to deepen their understanding before the next class if they do not have a sufficient understanding of the subject matter at the end of the class.
Grading Criteria/Policy: Grades will be determined by a final exam at the end of the lecture (50%) and exercises assigned during the lecture (50%). Grades will not be given to students who have not taken the examinations or submitted the assignments.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

都市建築史

高村 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、原則対面でを行います。

以下に概要と目的を記述します。

日本を含むアジアも近現代の都市と建築を対象に、それらがつくられた背景を理解する。また、現代建築のデザインに見られる歴史の稀薄性について、ディズニーランドなどを例に解説していく。テーマは、各回において、上記の内容ごとに見ていく。

【到達目標】

こうした講義を通じて、見た目だけではなく、都市や建築の本質を見ようとする姿勢を身に付けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本を含めたアジアに注目しながら、劇場、庭園、商業施設、遊園地の成り立ちについて、比較の視点を持ちながら見ていきたい。また、失われた都市と建築の歴史を知るために、絵巻物に描かれた世界の解説も行う。さらに、現代の日本の都市と建築が、いかに歴史的なつながりの中で成立しているのか、近代都市や娯楽施設の歴史を通して考えていく。各回、スライドを見ながら視覚的に把握し、その背景にある本質を解説する方法をとる。

授業は三つのステージからなり、古代から近世の世界観、宇宙観、自然観、近代の建築と都市の象徴性、現代の排除の構造がテーマとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス この授業では何を学ぶのかを理解する。	近現代のアジアにおける都市と建築の歴史をいかに考えるか？
2	アジアの劇場建築 近世以前の建築について、劇場を考える。	能舞台、歌舞伎の演劇空間、世界の演劇空間比較、演出効果、宇宙観
3	日本の能舞台 能舞台と劇場空間の歴史を解説する。	中世から近世への都市変容、洛中洛外図屏風、江戸図屏風、都市と自然
4	庭園文化の空間史 近世以前の建築について、庭園を考える。	ゆがめられた空間、日中欧庭園比較論、エロスと誕生、庭園の持つ意味、宇宙観。
5	絵巻物から読む都市 世界Ⅰ 近世以前の都市について、絵巻物から比較する。	幕末の「弘化勸進能図」を解説しながら、劇場に秘められた世界観を見ていく。
6	絵巻物から読む都市 世界Ⅱ 近世以前の都市について、絵巻物を読む。	『清明上河図』を読む、閉鎖型社会からの開放、中世都市の空間と人々の暮らし
7	東京の古代地形と文化的景観	神田明神から見たもの、どこから江戸城は見たのか、地形を読み込んで成立する江戸東京の聖地
8	疾走する城塞都市－香港 近代の都市とは建築の本質とは何かを学ぶ。	植民都市としての香港、ネオバロックとアールデコの対決、摩天楼対決、田園と都市、近代の理想
9	享楽のアジア近代－新世界 近代における民間側の都市と建築の理念を学ぶ。	理想としての近代、欲望の象徴としての塔、大阪新世界から浅草・上海を経て北京へ！

10	山下啓次郎と明治の刑務所 近代日本のアジアの関係を刑務所を通して知る。	明治の建築世界、薩長と出身地、明治に課せられた課題、文明国としての日本の誇示、近代デザイン
11	東京－都市美の戦後 現代に結びつく戦後の東京の都市美に課せられた役割を建築的に解説する。	戦後復興に夢見た「都市美」、失われゆく水辺空間、露店収容建築、水上居住者、時計塔、街路照明
12	広がる虚像の世界 現代のデザイン論についてディズニーを通して考える。	ディズニーランド、ラブホテル、マクドナルド、パチンコ、サティアン、ピーナスフォート
13	講義再読 古代から近世	世界観、宇宙観、自然観。
14	講義再読 近代から現代	建築と都市の象徴性とは。排除の構造。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 古代から近現代の都市と建築の歴史について興味を持つ。

2. 配布プリントの意味を再読する。

3. 配布プリントの意味を再読する。

4. 配布プリントの意味を再読する。

5. 配布プリントの意味を再読する。

6. 配布プリントの意味を再読する。

7. 配布プリントの意味を再読する。

8. これまでの配布プリントを再読する。

9. 配布プリントの意味を再読する。

10. 配布プリントの意味を再読する。

11. 配布プリントの意味を再読する。

12. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。

13. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。

14. 講義以外のテーマについて自分で解説してみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

高村雅彦編『アジアの都市住宅』（勉誠出版）、『『清明上河図』を読む』（勉誠出版）

【成績評価の方法と基準】

期末記述試験60％。

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。

ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

教員は毎回PCを使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course students will understand the background behind Japan and Asia's modern cities and architecture. In addition, in regards to the sparse design history of modern architecture, examples such as Disneyland will be examined. Topics will be assigned according to each of these areas.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn the posture that is going to watch a city and the essence of the building.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria /Policy : Your overall grade in the class will be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the term end.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力

(D) 専門基礎学力

30%

(E) 専門知識の活用・応用力

40%

(F) 総合デザイン能力

30%

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクロモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版
など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives: 1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院

猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？

ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？

建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？

建築でも土木でもない新しい分野とは？

アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？

今日コミュニティはどのような意味をもっているか？

こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しの特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。

フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。

6回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90%）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10%）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

【Learning Objectives】

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返し特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にすることだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時間分に当たること、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

MAN200ND（経営学 / Management 200）

アントレプレナーシップ

姜 理恵

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アントレプレナーシップ（起業家精神）の基礎理論を学んだのち、大学生に向けたアントレプレナーシップ教育プログラム案をグループで作成し、教育会社に向けてプレゼンし、フィードバックをもらうことを通じて、知識の定着と理解を深める。

ここでいうアントレプレナーシップ（起業家精神）とは、企業を自分で起こすことに限定しない。イノベーションを産むすべての活動に必要な精神を指す。これを学び、実践し、身につけることは、コロナ禍を経て不確実性を増す現代社会に対応できるようになることでもある。

いつか自分で会社を設立したい方、変化の速いスタートアップの世界で働きたい方、企業の中から行動を起こしたい方など、その立場を問わず歓迎する。この科目では機会を特定し、行動を起こすための方法を扱う。この科目は座学やディスカッション、プレゼンテーションだけにとどまらず、実際に自分が行動することを通して学んだり、チームと協力して深刻な問題を特定し、革新的なソリューションを開発することに挑戦する。

これを通して、科学としてのアントレプレナーシップに対する知識を高めると同時に、マインドセットの成長を目指す。この科目を通じて行動と内省を繰り返すことで、アントレプレナーシップが自分のキャリア形成にどのように影響するか、強い確信を得ることを期待する。

【到達目標】

社会に新しい価値をもたらすというアントレプレナーシップの本質を、現在の自分自身に照らし合わせて理解することを目的とする。「大学生向けの起業家精神教育プラン」を作成することで、自分ごととして、起業家精神を考えることができる。

それにより、今後のキャリアプランと併せて考えられるようになり、さまざまな企業の新規事業や起業家の活動を、起業家精神の視点から観察し、議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義、演習、実習、発表などを組み合わせて授業を進める。科目の特性上、通常の科目よりも更に積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ビジネスゲーム1	授業の進め方 商才とは何か いかに意思決定を行うか
2	ビジネスゲーム2 姜とゲームで対決する	ビジネスでのリスクをいかに取るかをゲーム上で再現する
3	起業家の特性、天才研究、創造性	起業家は天才か？ 後から起業家になれるのか？ 創造性は先天的か後天的か？
4	発想のプロセス 発想の元となるアイデアの源泉、その育て方	良い発想はどうやって生まれるのか？ アイデアを取捨選択する方法
5	発想ワークショップ	良いアイデアを生み出すワークを実践してみる

6	起業家マインド セット 何があっても折れない心 はがねのメンタル	起業家の強いメンタルはいかにして成立するか
7	起業家的になれない人々 リスクが取れない 安定を選ぶ心理	創造性も、強いメンタルも持てない人々は、どうしたらいいのか
8	起業家の弱点	起業家の弱みを探る それをいかに克服するか理論と事例
9	起業家精神を教える、学ぶ、教えながら自分も育つ	姜研究室が実践している子どもや女性に起業家精神やベンチャーを教えている事例を紹介 カリキュラムの構成を学ぶ
10	教育プログラムの開発1	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
11	教育プログラムの開発2	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
12	教育プログラムの発表	開発したプログラムを研修会社や大学教員などに発表 フィードバック
13	起業家精神を学んだ人々の成長 授業のまとめ	起業家精神を学んだことも、女性、学生の学びのプロセス、実体験を整理
14	期末試験	持ち込み可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前・事後の配布資料リーディング、課題などを授業内で指示。本授業の準備学習・課題への対応時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

Neck, H. M., Neck, C. P., & Murray, E. L. (2024). Entrepreneurship: The practice and mindset. Sage publications.
洋書なので英語が得意な人はチャレンジしてみてください

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（出席、コミットメント） 50%
2. 期末テスト（持ち込み可、理解と思考を問う） 50%

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックの機会を複数設け、授業の進め方や内容の参考にする。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC持参のこと

【Outline (in English)】

In this course, you will develop an entrepreneurial mindset through the creation of an entrepreneurial program for undergraduate students. You will learn, practice, and acquire entrepreneurial skills to create and discover solutions to an increasingly complex and uncertain post-Corona society. You will learn how to identify opportunities and take action, whether you want to start your own business one day, work in the fast-paced startup world, or work within a company. This course is not limited to classroom lectures, discussions, and presentations. It also includes learning by doing and the challenge of working with a team to identify a serious problem and develop an innovative solution. The goal is to increase the knowledge of entrepreneurship as a science and at the same time to grow in the mindset of entrepreneurship. Through repeated action and reflection, you are expected to develop a strong belief in how entrepreneurship can impact your career development. Students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019～2022年度入学生）

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればよいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立ち、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、計算や図の作成、意見の書き出しなどを通じて手を動かしながら学ぶ。授業時には上記の実習結果やリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学という学問のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ等の基本概念
2	自然選択による進化	現在の生物多様性を創り出した自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生存のための戦略
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスク
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然。近郊都市緑地のフィールドワークを予定。	現地での観察内容をもとにした簡易レポートを課す。（病欠者には代替措置あり）
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動。小テスト。	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環。講義内で小テストとふり返りを実施する。（病欠者には代替措置あり）
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災

12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	演習	具体的な内容は開講後に伝達
14	演習	具体的な内容は開講後に伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。（必要箇所は資料配布する）

【参考書】

鷲谷いづみ. (2017). 大学1年生の なっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、小テスト30%、期末レポート30%、フィールドワーク簡易レポート10%

上記4項目の合計点で評価し、60点以上を合格とする。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【内訳】

- 平常点
講義内提出物で評価する。
- 小テスト
「理解度を確認するテスト」の点数で評価する。（2025年度は25問のテストを実施）
- フィールドワーク簡易レポート
生物種の同定や知識量ではなく観察や考察の具体性を評価対象とする。
- 期末最終レポート
内容・形式の面から評価する。（2025年度はグリーンインフラの提案）

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。またノートパソコンがあった方が便利（授業中にもHoppiiの資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画に携わった経験や、1級ビオトープ計画管理士資格等を活かして実務にも触れた講義をする。
特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらう。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Ecology examines the interactions between organisms and their environment as an integrated ecosystem. Effectively managing these dynamic systems has become a global priority for human sustainability. This course focuses on the core principles of fundamental and conservation ecology, providing students with the foundational knowledge required to meet these challenges in future research and practice.

[Learning Objectives]

Students will learn the mechanisms of ecosystems through generalized models and numerical data. This approach is intended to help students effectively communicate these concepts to others in the future.

Furthermore, students will explore how ecosystem utilization benefits both biodiversity and human interests, such as disaster risk reduction and health promotion, while developing problem-solving skills specific to urban environmental design and engineering.

[Learning activities outside of classroom]

Yes

[Your required study time]

At least one hour for each class

[Grading Policy]

Active Class Participation: 30%

Short Tests: 30%

Final Paper: 30%

Fieldwork Short Report: 10%

Total Score &Attendance:

Passing requires a total score of 60 or above. Students with four or more absences will result in a failing grade (Grade D).

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019～2022年度入学生）

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればよいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立ち、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、計算や図の作成、意見の書き出しなどを通じて手を動かしながら学ぶ。授業時には上記の実習結果やリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学という学問のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ等の基本概念
2	自然選択による進化	現在の生物多様性を創り出した自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生存のための戦略
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスク
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然。近郊都市緑地のフィールドワークを予定。	現地での観察内容をもとにした簡易レポートを課す。（病欠者には代替措置あり）
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動。小テスト。	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環。講義内で小テストとふり返りを実施する。（病欠者には代替措置あり）
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災

12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	演習	具体的な内容は開講後に伝達
14	演習	具体的な内容は開講後に伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。（必要箇所は資料配布する）

【参考書】

鷲谷いづみ. (2017). 大学1年生の なっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、小テスト30%、期末レポート30%、フィールドワーク簡易レポート10%

上記4項目の合計点で評価し、60点以上を合格とする。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【内訳】

- 平常点
講義内提出物で評価する。
- 小テスト
「理解度を確認するテスト」の点数で評価する。（2025年度は25問のテストを実施）
- フィールドワーク簡易レポート
生物種の同定や知識量ではなく観察や考察の具体性を評価対象とする。
- 期末最終レポート
内容・形式の面から評価する。（2025年度はグリーンインフラの提案）

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも学習支援システムを活用した資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画に携わった経験や、1級ビオトープ計画管理士資格等を活かして実務にも触れた講義をする。
特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらう。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Ecology examines the interactions between organisms and their environment as an integrated ecosystem. Effectively managing these dynamic systems has become a global priority for human sustainability. This course focuses on the core principles of fundamental and conservation ecology, providing students with the foundational knowledge required to meet these challenges in future research and practice.

[Learning Objectives]

Students will learn the mechanisms of ecosystems through generalized models and numerical data. This approach is intended to help students effectively communicate these concepts to others in the future.

Furthermore, students will explore how ecosystem utilization benefits both biodiversity and human interests, such as disaster risk reduction and health promotion, while developing problem-solving skills specific to urban environmental design and engineering.

[Learning activities outside of classroom]

Yes

[Your required study time]

At least one hour for each class

[Grading Policy]

Active Class Participation: 30%

Short Tests: 30%

Final Paper: 30%

Fieldwork Short Report: 10%

Total Score &Attendance:

Passing requires a total score of 60 or above. Students with four or more absences will result in a failing grade (Grade D).

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

生態学概論

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればよいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立ち、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、計算や図の作成、意見の書き出しなどを通じて手を動かしながら学ぶ。授業時には上記の実習結果やリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学という学問のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ等の基本概念
2	自然選択による進化	現在の生物多様性を創り出した自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生存のための戦略
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスク
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然。近郊都市緑地のフィールドワークを予定。	現地での観察内容をもとにした簡易レポートを課す。（病欠者には代替措置あり）
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動。小テスト。	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環。講義内で小テストとふり返りを実施する。（病欠者には代替措置あり）
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災

12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	演習	具体的な内容は開講後に伝達
14	演習	具体的な内容は開講後に伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。（必要箇所は資料配布する）

【参考書】

鷲谷いづみ. (2017). 大学1年生の なっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、小テスト 30%、期末レポート 30%、フィールドワーク簡易レポート 10%

上記4項目の合計点で評価し、60点以上を合格とする。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【内訳】

- 平常点
講義内提出物で評価する。
- 小テスト
「理解度を確認するテスト」の点数で評価する。（2025年度は25問のテストを実施）
- フィールドワーク簡易レポート
生物種の同定や知識量ではなく観察や考察の具体性を評価対象とする。
- 期末最終レポート
内容・形式の面から評価する。（2025年度はグリーンインフラの提案）

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。またノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画に携わった経験や、1級ビオトープ計画管理士資格等を活かして実務にも触れた講義をする。
特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらう。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Ecology examines the interactions between organisms and their environment as an integrated ecosystem. Effectively managing these dynamic systems has become a global priority for human sustainability. This course focuses on the core principles of fundamental and conservation ecology, providing students with the foundational knowledge required to meet these challenges in future research and practice.

[Learning Objectives]

Students will learn the mechanisms of ecosystems through generalized models and numerical data. This approach is intended to help students effectively communicate these concepts to others in the future.

Furthermore, students will explore how ecosystem utilization benefits both biodiversity and human interests, such as disaster risk reduction and health promotion, while developing problem-solving skills specific to urban environmental design and engineering.

[Learning activities outside of classroom]

Yes

[Your required study time]

At least one hour for each class

[Grading Policy]

Active Class Participation: 30%

Short Tests: 30%

Final Paper: 30%

Fieldwork Short Report: 10%

Total Score &Attendance:

Passing requires a total score of 60 or above. Students with four or more absences will result in a failing grade (Grade D).

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

生態学概論

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればよいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立ち、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、計算や図の作成、意見の書き出しなどを通じて手を動かしながら学ぶ。授業時には上記の実習結果やリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学という学問のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ等の基本概念
2	自然選択による進化	現在の生物多様性を創り出した自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生存のための戦略
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスク
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然。近郊都市緑地のフィールドワークを予定。	現地での観察内容をもとにした簡易レポートを課す。（病欠者には代替措置あり）
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動。小テスト。	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環。講義内で小テストとふり返りを実施する。（病欠者には代替措置あり）
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災

12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	演習	具体的な内容は開講後に伝達
14	演習	具体的な内容は開講後に伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。（必要箇所は資料配布する）

【参考書】

鷲谷いづみ. (2017). 大学1年生の なっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、小テスト 30%、期末レポート 30%、フィールドワーク簡易レポート 10%

上記4項目の合計点で評価し、60点以上を合格とする。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【内訳】

○平常点

講義内提出物で評価する。

○小テスト

「理解度を確認するテスト」の点数で評価する。（2025年度は25問のテストを実施）

○フィールドワーク簡易レポート

生物種の同定や知識量ではなく観察や考察の具体性を評価対象とする。

○期末最終レポート

内容・形式の面から評価する。（2025年度はグリーンインフラの提案）

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。またノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画に携わった経験や、1級ビオトープ計画管理士資格等を活かして実務にも触れた講義をする。

特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらう。

オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Ecology examines the interactions between organisms and their environment as an integrated ecosystem. Effectively managing these dynamic systems has become a global priority for human sustainability. This course focuses on the core principles of fundamental and conservation ecology, providing students with the foundational knowledge required to meet these challenges in future research and practice.

【Learning Objectives】

Students will learn the mechanisms of ecosystems through generalized models and numerical data. This approach is intended to help students effectively communicate these concepts to others in the future.

Furthermore, students will explore how ecosystem utilization benefits both biodiversity and human interests, such as disaster risk reduction and health promotion, while developing problem-solving skills specific to urban environmental design and engineering.

【Learning activities outside of classroom】

Yes

[Your required study time]

At least one hour for each class

[Grading Policy]

Active Class Participation: 30%

Short Tests: 30%

Final Paper: 30%

Fieldwork Short Report: 10%

Total Score &Attendance:

Passing requires a total score of 60 or above. Students with four or more absences will result in a failing grade (Grade D).

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

生態学概論

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学は「生物と環境との関係」を主に扱う学問である。両者は一体のシステム、つまり生態系として捉えられる。そのダイナミックな働きを巧く管理し利用することが今後の人の生活にとっても重要だという考え方が世界的な潮流になっている。しかしそれが何故必要なのか？ どう活用すればよいのか？ その本質的な問いに答え、今後の研究や実践に活かしていくには基礎生態学、保全生態学の知識が必要となる。本講義は、そのための基礎知識の習得を目指すものである。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得した上で、生態系がどう成立ち、今何がどう問題になっているか、どのような再生技術があるのか学ぶ。その際、一般化したモデルや分かりやすい数値で理解する。これは自身が今後説明する側になる際にも役に立つ。また、生態系を活用することが生物のみならず、減災や健康増進など人間の利益にもなるという視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進めるが、計算や図の作成、意見の書き出しなどを通じて手を動かしながら学ぶ。授業時には上記の実習結果やリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学という学問のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ等の基本概念
2	自然選択による進化	現在の生物多様性を創り出した自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生存のための戦略
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスク
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然。近郊都市緑地のフィールドワークを予定。	現地での観察内容をもとにした簡易レポートを課す。（病欠者には代替措置あり）

9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動。小テスト。	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環。講義内で小テストとふり返りを実施する。（病欠者には代替措置あり）
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	演習	具体的な内容は開講後に伝達
14	演習	具体的な内容は開講後に伝達

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ.（税込 3,025 円）をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。（必要箇所は資料配布する）

【参考書】

鷲谷いづみ. (2017). 大学1年生の なっとく!生態学（税込 2,420 円）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、小テスト 30%、期末レポート 30%、フィールドワーク簡易レポート 10%

上記4項目の合計点で評価し、60点以上を合格とする。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【内訳】

- 平常点
講義内提出物で評価する。
- 小テスト
「理解度を確認するテスト」の点数で評価する。（2025年度は25問の小テストを実施）
- フィールドワーク簡易レポート
生物種の同定や知識量ではなく観察や考察の具体性を評価対象とする。
- 期末最終レポート
内容・形式の面から評価する。（2025年度はグリーンインフラの提案）

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも学習支援システムを活用した資料取得や提出ができるため）。

【その他の重要事項】

建設コンサルタントの環境部署にて生態系再生や管理計画に携わった経験や、1級ビオトープ計画管理士資格等を活かして実務にも触れた講義をする。特に昨今、ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ等に係る動きや、ビッグデータを活用した生物情報の解析も活発であるため、随時最新の潮流も紹介して、学生の今後の研究に活かしてもらおう。オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Ecology examines the interactions between organisms and their environment as an integrated ecosystem. Effectively managing these dynamic systems has become a global priority for human sustainability. This course focuses on the core principles of fundamental and conservation ecology, providing students with the foundational knowledge required to meet these challenges in future research and practice.

[Learning Objectives]

Students will learn the mechanisms of ecosystems through generalized models and numerical data. This approach is intended to help students effectively communicate these concepts to others in the future.

Furthermore, students will explore how ecosystem utilization benefits both biodiversity and human interests, such as disaster risk reduction and health promotion, while developing problem-solving skills specific to urban environmental design and engineering.

[Learning activities outside of classroom]

Yes

[Your required study time]

At least one hour for each class

[Grading Policy]

Active Class Participation: 30%

Short Tests: 30%

Final Paper: 30%

Fieldwork Short Report: 10%

Total Score & Attendance:

Passing requires a total score of 60 or above. Students with four or more absences will result in a failing grade (Grade D).

MEC200ND（機械工学 / Mechanical engineering 200）

メカトロニクス

伊藤 文臣

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メカトロニクスとは、機械工学(メカニズム)と電気電子工学(エレクトロニクス)の合成語であり、これらの学問の融合により、高い柔軟性と信頼性を有する機器を作る技術やその技術により作製された機器を指す。メカトロニクスを修学するにあたり、機械工学、電気電子工学に加え、ソフトウェアによる制御やシステム全体の設計、運用などの幅広い知識が要求される。そこで、本授業では、メカトロニクスの各位要素技術に関する概念を理解し、学問分野全体の基礎的な知識を身に着けることを目的とする。

【到達目標】

授業終了時点において、以下に列挙する事項に関する理解を目標とする。

- 1) メカトロニクスシステムの構成と各要素。
- 2) アクチュエータとセンサの原理、種類、用途。
- 3) 機械要素の原理、種類、用途。
- 4) 電気電子回路部品の原理、種類、用途。
- 5) コンピュータ上での信号処理と計算。
- 6) 制御工学の基礎。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面式・オンラインのどちらかで実施する。

【対面式の場合】授業はスライドを使ったプレゼンテーション、板書および口述によって進められる。授業の内容が理解できているかを確認するため、各回で小テストの実施もしくは課題の出題がある。

【オンラインの場合】授業はオンラインツールを用いてプレゼンテーション（スライド）によって進められる。授業内容の理解度の確認のため、各回で課題が出される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メカトロニクスの概要	メカトロニクスの基本概念とその意義を、実例を交えながら解説し、メカトロニクスを支える基本技術とその体系について説明する。
第2回	メカトロニクスで必要となる数学・物理	メカトロニクスにおける各要素の理解に必要な数学や物理（力学・電磁気学）について説明する。
第3回	アクチュエータの概要	メカトロニクスシステムにおけるアクチュエータの概要と分類を説明する。
第4回	アクチュエータの原理	電磁アクチュエータ、空気圧アクチュエータを代表として、これらアクチュエータの基本的な動作原理について説明する。
第5回	センサの概要	メカトロニクスシステムにおけるセンサの概要と分類を説明する。
第6回	センサの原理	複数の代表的なセンサについて、基本的な計測原理を説明する。
第7回	アナログ電子回路―受動素子	アナログ電子回路を設計する上で必要となる知識・技術を説明する。主に受動素子を用いた直流および交流回路を対象とする。

第8回	アナログ電子回路―能動素子	能動素子を用いた、特定の機能を持った回路について解説する。各種能動素子がどのような原理で機能を発現しているかを含めて説明する。
第9回	デジタル回路とコンピュータ	デジタル回路とコンピュータの基本的な構成と仕組みについて解説する。また、デジタル信号の通信方法を説明する。
第10回	アナログ信号とデジタル信号の相互変換	センサ・アクチュエータで使われるアナログ信号と、コンピュータが扱うデジタル信号がどのように変換されるかについて説明する。
第11回	機構の基礎	機構を構成する機械部品について、その種類と仕組み、用途について説明する。
第12回	機械の設計	機械部品の組み合わせにより、機械的なシステムを構築する手法について説明する。
第13回	制御工学の基礎	制御の基本概念、フィードバック制御の意味、古典制御理論と現代制御理論の違いと特徴を説明する。
第14回	システム設計と開発の事例 まとめ	各種メカトロニクスシステムの応用事例・最先端の研究例などを紹介する。また総まとめとして、学習範囲の要点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校レベルの物理学（特に、力学、電磁気学分野）を復習して初回授業に臨むとより深い理解が可能となる。

本授業では、予習・復習にそれぞれ2時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・渋谷恒司「メカトロニクスの基礎」森北出版
- ・初澤毅「メカトロニクス入門」培風館
- ・見崎正行／小峯龍男「よくわかるメカトロニクス」東京電機大学出版局
- ・百目鬼英雄、坪井和男「小形モータ入門」オーム社

【成績評価の方法と基準】

平常点および授業中の小テストもしくは課題の評価を40%、期末試験もしくは最終課題の評価を60%として総合評価点を算出して評価する。総合評価点を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義の進行（板書等）が早いために理解が追いつけなくなることが無いよう、説明などの時間を多く取るとともに、講義外の時間でも質問を受け付けることができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

筆記具とノート
パソコン

【その他の重要事項】

メカトロニクスに関する研究に従事している教員が、実際にメカトロニクスシステムを構築するために必要な技術を紹介しながら講義を進める。オフィスアワーとして、授業終了後に教室で質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Mechatronics, a term synthesized from mechanics and electronics, signifies the technology employed in the creation of devices distinguished by their exceptional flexibility and reliability, realized through the integration of these fields. It requires expertise in both the techniques for producing such devices and the resulting products. Proficiency in mechatronics demands a comprehensive knowledge spectrum, encompassing mechanics, electronics, and an in-depth understanding of software-oriented control, comprehensive system design, and functional principles. As a result, this course is structured to enhance understanding of the basic concepts that underpin each component technology within mechatronics and to nurture an elementary comprehension of the wider academic discipline.

【Learning Objectives】

By the end of the class, students should understand the following topics:

- A) The components and elements of mechatronic systems.
- B) Principles, types, and applications of actuators and sensors.
- C) Principles, types, and applications of mechanical elements.
- D) Principles, types, and applications of electrical and electronic circuit components.
- E) Signal processing and computation on computers.
- F) Fundamentals of control engineering.

【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to review high school level physics, particularly in mechanics and electromagnetism, before the first class to facilitate a deeper understanding. It is necessary to dedicate 2 hours for both preparation and review per class.

【Grading Criteria /Policy】

The overall evaluation will be calculated as follows: 40% for regular assessment points and short exams or assignments during the class, and 60% for the final exam or the last assignment. The total evaluation score will be out of 100 points, with a passing grade set at 60 points or above.

ELC300ND（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

システム工学

森 健一郎

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システム工学は、システムを成功裏に実現するための複数の分野にまたがるアプローチおよび手段である。1つのシステムは様々な要素と要素間の関係によって構成され、異なる工学分野の集合体といえる。現代では、情報通信、生産、流通、電力、ガス、水道、航空、宇宙、鉄道、金融、会社組織などの大規模システムなしでは、私達は到底生きていくことができない。

これらのシステムを実際に設計・構築するためには、要求定義に始まり、ハードウェア設計、ソフトウェア設計、構築、検証などのステップを踏んでいき、ようやくシステム運用の段階となる。いくつものステップをシステムチェックに進めていくためには、そのシステムのモデルを作成し、科学的手法を活用できる高度な能力が求められる。学術・産業界の両方で求められているのは、Digital Transformation, Digital Twins, Cyber Physical SystemsなどのSystem of Systemsを、一から設計し構築できる柔軟な能力である。

この30年間で、大規模システムであるインターネットがシステム構築され、人類の活動の膨大な知識とデータが蓄積されてきた。この大規模データを学習した生成AIが、私たちの全ての活動を根本から変えようとしている。システム工学の習得は、これからの社会的要求に応え、AIと共に課題を解決する世代の、必須のアイテムと言えよう。

本授業では、システムを設計構築するための手順を理解し、いくつかの手法を体験することで、実社会においてシステム工学を活用するための基本を習得することを目的とする。

【到達目標】

- A. システムを設計、構築、実施・検証するための基礎的な手法を理解している。
- B. ダイナミックシステムや確率システムの数理モデルが説明できる。
- C. 図やモデリングの手法を使って、システムの構造、機能、性能などを把握できる。
- D. 実社会で使われるシステム構築のための基本的な考え方ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で実施するが、授業時間内に演習も行う。システム工学の理論は、数学や物理学を応用・展開することが多い。そこで、理解を深めるため、できるだけ具体的なシステム事例を紹介する。基礎的な手法については、演習課題を与え、簡易な実際のモデル化を体験する。演習課題を通じて、理論と実際の両面からシステムの本質をつかみ、システムを考える力を養うことができる。

システム工学では、問題を発見し、課題を設定し解決するスキルが重要である。しかし、問題に対する「正解」がないこともある。具体的な境界条件や制約条件を明らかにして、代替案を考え出し「最適解」を求めていくような基本的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	システム工学とは何か	複雑な人工システムを最適に設計し、構築するためには、問題を発見、課題を設定し、解決するプロセスが必要となる。それらのプロセスは、イノベーションの基本となる。なぜ、システムの視点や考え方が重要なのかを理解しよう。
2	システムの計画と評価	システム設計・構築を行うための手順、ライフサイクルマネジメントについて概要を理解する。プロジェクト計画とシステムの評価の各手法について学ぶ。 ＜課題演習(1)＞
3	システムの要求定義	利害関係者の要求からシステム要求を作成し、システムの機能を分析する。システム要求では、システムが提供すべき機能と、システムが備えるべき性能、コストなどを定めることを事例で理解する。
4	システムアーキテクチャの構築	システムの機能・構造の考え方を学ぶ。目的に応じて、システムの図的な表現によってモデルを作成する。挙動については、状態遷移図を作成することにより理解を深める。 ＜課題演習(2)＞
5	システムの安定性	システムを安定にする制御の基本となる考え方がフィードバック制御である。システム制御を表現するためにブロック線図とシステムの伝達関数を導入し、フィードバック制御によるシステムの安定性を解析する。
6	システム制御のモデリング	フィードバック制御器の1つとしてPIDコントローラのモデルを学ぶ。実際の倒立振り装置のシステム制御をモデリングしてみる。 ＜課題演習(3)＞
7	システムの安全性	システムの安全性の概念の1つであるフェールセーフについて理解し、これを論理的・物理的なシーケンス制御システムとして設計・実装する。
8	システムの最適化	システム設計・構築において、プロジェクトリーダーは、常に問題解決を迫られる。その合理的な意思決定を支援するのが数理最適化である。その手法として連続最適化と離散最適化の計算モデルの初歩を学ぶ。応用として、ニューラルネットワーク(Deep Learning)の学習に、最適化計算が適用されていることを理解する。 ＜課題演習(4)＞

9	確率システム	様々な事象に対して、確率的なルールを定義することでモデリングする手法を学ぶ。正規分布、ポアソン分布、指数分布など各種分布の特徴や確率過程の基本について理解する。
10	統計的データ解析	Internet of Thingsによるデータ解析では、統計解析モデルが使われる。相関関係と因果関係の違いなどの基本的な考え方を学ぶ。機械学習による異常検知のモデルを事例で理解する。 < 課題演習(5)>
11	システムの信頼性	信頼度や故障率を確率モデルで表現し、評価することを学ぶ。部品やサブシステムの構成により、信頼性を向上させる方法を理解する。
12	信頼性解析	システムの故障の原因やその影響を、システマチックに追及する方法として、FMEA、FTA、およびリスク分析の手法を理解する。 < 課題演習(6)>
13	ネットワークの性質	ネットワークとは、ノードとリンクによって構成されるシステムのモデルである。大規模なネットワークの特徴量を抽出することで、システム全体に現れる性質が把握できる。
14	ネットワークの構造	ネットワークの局所的な性質に着目し、構造がどのように構成されているかを学ぶ。ネットワークの様々なモデルについて概観し、実社会のネットワークがどのような特徴を持つかについて理解する。 < 課題演習(7)>

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でいくつかの課題演習が出されるので、自分の手で書き、自分の頭で考えることで、簡単なモデルを設計したり計算してみる。授業時間内では完成しないので、提出期日までの宿題とする。（次週の授業開始時に提出。期日厳守。）

将来、皆さんが社会人となったときに、手と頭を使って考えたことは、簡単に思い出すことができるので、とても役立つ。提出された課題レポートは講師が採点評価し、フィードバックを行うことで学習をさらに深めることができる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。授業に必要な資料は配布する。

【参考書】

木村英紀著「現代システム科学概論」（2021年）東京大学出版会
橋本、石井、小林、大山共著「Scilabで学ぶシステム制御の基礎」（2007年）オーム社
室津、大場、米澤、藤井、小木曾共著「システム工学 第2版」（2006年）森北出版
大橋、鳥海、白山共著「システム理論Ⅱ」（2016年）丸善出版

【成績評価の方法と基準】

1. 授業に対する意欲・態度などの平常点を重視する。平常点は、授業への取り組み姿勢や質問票の提出を反映する。
2. どのくらい理解できたのか、課題演習の得点を総合評価する。（期末試験は無し）
3. 課題は授業で配布する用紙に記入し、決められた提出日に必ず提出すること。
4. 成績評価は100点満点とし、平常点と課題演習の得点は各50%の配点とする。

【学生の意見等からの気づき】

モデリングのために数式を使うこともあるが、丁寧に、かつ、できるだけ学生にとってわかりやすいように講義をすすめていく。

【学生が準備すべき機器他】

1. パソコンでExcelやシミュレーションソフトを使うので、授業に持参すること。
2. 講義に使用するプレゼンテーション資料は、授業支援システムからダウンロードすること。

【その他の重要事項】

メーカーの研究開発・商品開発部門に、39年を超える勤務経験のある教員が、多数のシステム設計およびプロジェクトリーダーの経験に基づき講義を行う。オフィス・アワーについては、この授業の期間のみ、電子メールによる質問を受付ける。

【Outline (in English)】

Systems engineering is a multidisciplinary approach and methodology for successfully realizing complex systems. A system consists of various elements and the relationships among them and can be regarded as an integration of multiple engineering domains. In modern society, it is impossible for us to live without large-scale systems such as information and communication networks, manufacturing and distribution systems, electric power, gas, water supply, aviation, space, railways, finance, and corporate organizations.

To design and build such systems, one must proceed through a series of steps — beginning with requirements definition, followed by hardware design, software design, implementation, and verification — before finally reaching the operational stage. Advancing through these steps systematically requires the ability to model systems and apply scientific methods effectively. Today, both academia and industry demand flexible capabilities to design and construct “System of Systems,” including Digital Transformation, Digital Twins, and Cyber-Physical Systems.

Over the past 30 years, the Internet — one of the largest systems ever built — has been developed, accumulating vast amounts of human knowledge and data. Generative AI, trained on this large-scale data, is now transforming every aspect of human activity. Mastering systems engineering is becoming an essential skill for the next generation, who will work alongside AI to address societal challenges.

The goal of this course is to provide students with a foundational understanding of systems engineering by learning the procedures for system design and construction, and by experiencing several key methods used in real-world practice.

The goals of this course are to A,B,C and D:

- A. Students understand the basic methods for designing, building, implementing and validating systems.
- B. Students can explain mathematical models of dynamic systems and stochastic systems.
- C. Students can use diagrams and modeling techniques to understand the structure, function and performance of the system.
- D. Students will be able to develop basic ideas for building systems used in the real world.

Final grade will be calculated according to the following process: Assignments or short reports (50%) and in class contribution (50%).

MTL300ND（材料工学 / Material engineering 300）

素材と機能

堀井 辰衛

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活において視界に入るモノ、実際に身体に触れあうモノを構成する材料として高分子材料は多くの割合を占め、我々の生活と切り離せない素材の一つです。広い視点で見れば私たちの身体を構成するタンパク質や、植物を構成する多糖類も高分子ですし、繊維や飲料水ボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）や蓋などのパッキンに使われるゴムも高分子です。たんぱく質や多糖から成る高分子は天然高分子の一種であり、PETやゴム（天然ゴムを除く）は合成高分子の一種です。このように、一口に「高分子」と言っても様々な種類があり、それぞれに個性があります。本講義では、高分子材料の分類と基礎的な物性について概説します。次に、様々な高分子材料（主に合成高分子）の、「実際に身の回りに使われている（実用例）」側面と、「工夫次第で使えるかもしれない（研究例）」側面について解説する予定です。

【到達目標】

素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのような高分子材料が存在し、どのような物性を持ち、どのように利用されているのかを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に座学で高分子材料に関する知識を深める。さらにR7年度より、学生同士のグループディスカッションを含むアクティブラーニングも取り入れることで、学生の自発的な高分子材料の特徴とその利用についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子と社会との繋がり・高分子の分類と構造	高分子の簡単な歴史をひも解き、高分子の基本的な分類や構造について解説します。
2	どんな高分子があるか？	身の回りで頻繁に用いられている「汎用プラスチック、エンジニアリングプラスチック」について紹介し、それぞれの特徴について解説します。
3	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
4	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
5	機能性高分子～電気を流す高分子～	機能性高分子の一種である導電性高分子、半導体高分子について解説します。
6	機能性高分子～電気を流す高分子～	導電性高分子、半導体高分子がどのように使われるか、使われているかについて解説します。

7	機能性高分子～刺激に反応する高分子～	光や熱、pHなどに反応して形を変える高分子について解説します。
8	高分子ゲル	高分子ゲルの特徴と、その実応用例、研究例について解説します。
9	生化学・医療へ貢献する高分子	生体適合性を有する高分子材料について、実応用例や研究例と共に解説します。
10	環境にやさしい高分子・関連技術	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について解説します。
11	グループワーク～テーマ策定、グループ内討論～	履修者全員を10グループ程度に分け、各グループ内にて討議していただきます。（実際の履修者数を鑑みて人数を割り当てます。） 本授業で得た知見を活かして、各グループには高分子材料の特徴を生かした自由なテーマ設定を自発的に行ってもらい、グループ内で討論していただきます。
12	グループワーク～テーマ策定、グループ内討論～	履修者全員を10グループ程度に分け、各グループ内にて討議していただきます。（実際の履修者数を鑑みて人数を割り当てます。） 本授業で得た知見を活かして、各グループには高分子材料の特徴を生かした自由なテーマ設定を自発的に行ってもらい、グループ内で討論していただきます。
13	グループワーク発表会（前半）	12回目の授業で各グループで討論していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ1～4）
14	グループワーク発表会（後半）	12回目の授業で各グループで討論していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ5～7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題や12～14回目授業のグループワークに向けた復習が必須。

【テキスト（教科書）】

教科書は基本的には授業用のスライドを用います。また、グループワークでは履修者各自でJ-Stageや査読付き科学雑誌を調査してもらうことも考えています。

【参考書】

松浦和夫，尾崎邦弘，「高分子材料が一番わかる」，技術評論社，2011。
井上和人，清水秀信，岡部勝，「基礎からわかる高分子材料」，森北出版株式会社，2015。

東信行, 松本章一, 西野孝, 「高分子科学 合成から物性まで」, 講談社, 2016.

【成績評価の方法と基準】

1. グループ討議・発表 50%

1 3, 1 4 回目授業でグループワークの内容の発表を各グループに行ってもらいます。(発表10分、質疑応答5分)

発表の内容、ロジックについて評価する予定です。また、他グループの発表への質問の内容と積極性についても考慮する予定です。

2. 各講義での課題 20%

本授業は毎週2回の授業を行います。毎週課題を出しますので翌週の授業日(水曜日)までにPDF形式ファイルにて提出していただきます。(合計7課題)

3. 授業参加への貢献度 30%

【学生の意見等からの気づき】

有機化学や物理学の履修経験がなくても理解できるように、有機高分子の基礎や実応用例について取り上げる。自発的に高分子材料を理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

現在のところ予定していません。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

また、担当講師は、導電性高分子インクの合成と高導電化に関する内容で学位を取得後、電気化学、人工筋肉(ポリマーアクチュエータ、アシストウェア開発)、フレキシブルセンサなどの分野で研究を進めてまいりました。そのため、高分子材料の基礎に偏った内容となります。

【Outline (in English)】

Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.

Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.

The goals of this course are to acquire basic engineering knowledge for utilizing materials, learn tools for understanding the functions of materials, learn the basics of interaction using physical properties, and learn the basics of prototyping and presentation skill.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term reports (20%), term-end report (80%).

MAN200ND（経営学 / Management 200）

コストマネジメント

北山 一真

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業において、コストは重要な存在です。しかし、多くの人はコストに対して苦手意識があり、専門分野のため自分には関係ないと思い、思考停止に陥っています。

本講義では、難しい専門用語や専門的な計算手法の習得ではなく、いかにコストを活用し良い製品開発を行うか、よいマネジメントを行うかについて学びます。

様々な企業改革を担当している現役コンサルタントの立場から、「理論」だけでなく、実際の企業での活用方法や悩みを交えた「現実」の両側面を解説し、社会で活かすことができる実践的な学びができます。

また、コストを理解することは、ものづくりプロセスやテクノロジーについて理解することにもなり、「現場 × 経営」「プロセス × テクノロジー」「データ × マネジメント」の総合的な理解を深めることにも繋がります。

- ・人はなぜコストを嫌うのか？
 - ・コストは、イノベーションを阻害するのか？
 - ・なぜ理論どおりに活用できないのか？
 - ・専門家の難しい言葉に言いにくめられないために必要最低限な知識とは？
- 製造業、IT、コンサル、起業家など、どのような立場になったとしても必要なコストの知識を、理論と現実の両方の側面から総合的に習得することを目的とします

【到達目標】

< 基礎知識 >

- ・コストの基本用語・基礎理論を説明できる
 - ・コストを理解する前提となる、ものづくりプロセスとテクノロジーについて説明できる
 - ・コスト分析に必要な基礎的な統計理論を説明できる
- < 応用技能 >
- ・コストの視点で企業を分析し、基本的な課題抽出と対応仮説を整理することができる
 - ・コストマネジメント手法と、ビジネス実務における阻害要因を説明できる
 - ・コストに対して苦手意識を持たず、コストについて自ら調べることができ、コストの専門家と最低限の会話ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

学生はビジネス実務の経験はないですが、コストを意識しイメージできることは身近に存在します。それらを例題にしながら、講義で得た知識の定着を促し、今後社会に出た際に、知識や問題解決能力を活かすことができるように進めます。

授業は、各回テーマを決め、講義とグループディスカッションで構成します。毎回簡単な課題を出し、学生の理解度を確認します。

< 講義構成 >

全14回の講義の構成は、以下の3部で構成されます。

①基礎：ものづくりとコストの概要（第1回～5回）
コストとは何か？ものづくりのプロセスは？どんなコストが発生しているか？演習やグループ討議通じて、基礎的な部分の学習を進めます。

また、ものづくり企業のIT/テクノロジーの実態や、ものづくりDXについても学びます

②基本：コストマネジメントの基本（第6回～9回）
原価計算の基本的な知識を学びます。また、ケーススタディを通じて、コストマネジメントの基本的な考え方や活用方法について理解を深めます。

③実践：コストマネジメントの実践（第11回～14回）
人はなぜコストを嫌うのか？

なぜ理論どおりに実務では活用されていないのか？
コストの活用として重要な、「予算」と「原価企画」について、ケーススタディを通じて、コスト活用方法とその難しさと学びます

（補足）「コストと財務分析」（第10回）
補足講義として、コストから少し大きな概念となりますが、Appleのキャッシュフロー戦略などを例題にし、関連する「財務分析」の基礎的な部分も学びます。

< キーワード解説 >

実務ではほとんど使わないが、知っておいたほうが良い理論も学び、概念だけは理解できるようにします。

- ・品質原価計算
- ・環境コストマネジメント
- ・ライフサイクル・コストینگ
- ・MFCA
- ・ABC/ABM
- ・埋没費用/機会原価

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎1： コストの基礎	本講義の目的やコストを学ぶ意味意義を確認します。またコストにおける全般的な基礎知識を理解します ・コストはなぜ嫌われるのか ・コストは、イノベーションを阻害するのか ・コストはなぜ重要か ・コストは組織の行動を変えてしまう ・専門家以外でも、身につけるべきコストの知識とは
2	基礎2： ものづくりの形態 (企画量産型のバリューチェーン)	コストを理解することは、ものづくり企業活動（バリューチェーン）を理解する必要があります。 スマホや自動車のような一般消費者向け商品を提供する企業（BtoC、MTS、企画量産型企業）を例にとり、ものづくりの活動の全体を理解します < 授業課題 > ・マーケティング・企画～開発～生産準備～調達・製造～検査～販売・出荷などのバリューチェーンを考える ・開発プロセスの特徴を考える ・生産プロセスの特徴を考える < キーワード解説1 > ・品質原価計算
3	基礎3： ものづくりの形態 (個別受注型のバリューチェーン)	バリューチェーン解説の2回目は、一般消費者には馴染みのない、半導体製造装置や造船などの企業（BtoB、ETO、個別受注企業）を例にとりものづくりの活動の全体を理解します。個別受注企業は一般には馴染みがありませんが、世の中の多くはこの個別受注企業となります。 < 授業課題 > ・引合・見積～仕様確定～設計～調達・製造～検査～立会～出荷～据付～試運転などのバリューチェーンを考える ・設計プロセスの特徴を考える ・生産プロセスの特徴を考える < キーワード解説2 > ・環境コストマネジメント
4	基礎4： バリューチェーンとコスト	第2回、第3回で学んだバリューチェーンに対して、どのようなコストが発生するかを理解します。 < 授業課題 > ・各プロセスで発生するコストを考える ・企画量産型と個別受注型で、コスト発生の違いを考える < キーワード解説3 > ・ライフサイクル・コストینگ
5	基礎5： ものづくりとDX (テクノロジーを知る)	ものづくりで使われているITを理解します。ITの理解は、問題点の把握や今後の生産性の向上を考える上で必要な知識です。 ものづくり企業における一般的なシステムの基礎を理解します。 ・ものづくりとDX ・CRM-PLM-ERP ・CAD/BOM/PDM

6	実践1： 原価計算の基本	コストを考える上で、「原価計算」の方法の理解が必要です。ただし、詳細な計算は、専門家(経理部や原価管理部など)に任せればよいです。そのため、基本的な用語の理解と、ざっくりとどんな計算をしているのかの概念の理解が重要となります。用語と概念を知っておけば、問題点の把握と専門家とある程度会話をすることができます。 < 授業課題> ・総合原価計算を理解する(家電のような大量生産品) ・等級別総合原価計算を理解する(食品のような大量生産品) ・個別原価計算を理解する(造船・大型構造物の一品生産) < キーワード解説4> ・MFCA	12	応用2： 原価企画 (概要とプロセス)	製品開発段階で、コストをコントロールする手法として重要な「原価企画」について触れます。実際にものを作る前にコストを計算の難しさや、製品競争力を高めるために必要な手法を理解します。 ・原価企画のプロセスと運用の難しさ ・原価企画に必要なデータや手法 ・原価企画と採算判断 < 授業課題> 新商品開発を題材にし、原価企画のプロセスを考える
7	実践2： コストマネジメント (原価維持・改善)	コストを用いて組織やプロジェクトをマネジメントしていく必要性を理解します。 企画量産型は、生産前のマネジメント(原価企画)と、生産後のマネジメント(原価維持/改善)の2つに分けられます。それらの特徴やマネジメントの概要を理解します < 授業課題> ・コストマネジメントの3つの基本プロセスを考える ・生産後のコストマネジメント(原価維持/改善活動)を考える < キーワード解説5> ・ABC/ABM	13	応用3： 原価企画 (コストテーブル)	原価企画の中でも重要なデータの1つである「コストテーブル」について解説します。重回帰分析などを用いたコストテーブルの作成方法や活用方法を理解します。 ・コストテーブルとは何か? ・重回帰分析を用いたコストテーブルの概要 < 授業課題> 重回帰分析に基づいたコストテーブルを考える
8	実践3： コストマネジメント (原価企画)	前回に続き、コストマネジメントの理解を深めます。 < 授業課題> ・生産前のコストマネジメント(原価企画活動)を考える < キーワード解説6> ・埋没費用/機会原価	14	応用4： 開発におけるコストマネジメントと意思決定	これまで学習した「予算」「原価企画」「コストテーブル」「標準原価」「CVP」「ライフサイクルコスト」などの内容を加味しながら、開発におけるコストマネジメントの全体を理解する < 授業課題> 新商品開発を題材にし、コストシミュレーション・コストマネジメント・意思決定のを考える
9	実践4： ライフサイクルコスト (期間損益とプロダクト損益)	コストも、開発・生産など製品だけで考える時代ではなく、ライフサイクルでのトータルコストを考える時代になっています。 製品出荷後の保守・サービスで儲ける時代において、ライフサイクルコストを理解します ・ライフサイクルコスト ・固定費マネジメント < 授業課題> ・身近な家庭用プリンタを例にとり、ライフサイクルコストを考える	【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】 基礎的な部分から学習を進めるため、コストに関する予備知識は不要です。講義が、「基礎→基本→実践」と、学習内容が積み重なっていきます。復習は必ず行ってください。また、次の授業につながる簡単な復習課題を出します。準備学習(復習課題)は、2時間を標準とします。 【テキスト(教科書)】 毎回の講義資料を授業支援システムを通じて事前配布します 【参考書】 必要に応じて参考図書を指定します 【成績評価の方法と基準】 授業への積極的な参加(授業課題) 40 % 授業の復習課題 20 % 中間テスト 20 % 最終テスト 20 % 【学生の意見等からの気づき】 特になし 【学生が準備すべき機器他】 講義テキストのダウンロード、Google クラウドームでの課題実施、Google スプレッドシートでのグループワークを実施しますので、パソコンを持参してください。 【その他の重要事項】 随時、電子メールで質問を受け付けます 【Outline (in English)】 Cost management is important for businesses. In this lecture, you will learn how to use costs effectively for good product development. You can learn basic terminology and basic theory about cost. You will also learn various cost management methods such as target-costing and lifecycle cost management. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution.(40%), Group Work Reports(20%), Mid-term examination (20%), and final examinations(20%).		
10	補足： コストと財務分析 (企業のコスト構造)	補足的な講義として、コストが最終的にどのような財務に影響するのか? コストが最終的にどのような企業収益や財務に影響を及ぼすか企業全体の視点を持てるように理解を深めます。 ・なぜ黒字倒産が起きるのか? ・債務超過とは? ・安全性・収益性とは? < 授業課題> Appleのキャッシュフロー戦略を参考にした財務分析を行う			
11	応用1： 予算と採算判断	予算は、それを達成できるか/できないかで、自分の評価に直結するため、非常に重要な仕事の1つとなります。予算の算出方法、納得性の高い予算のあり方などについて理解します。 ・期間別の予算と、製品開発段階で考える予算 ・予算の計算ロジックからくる歪み ・予算と標準原価 ・CVP分析と直接原価計算 ・製品別予算と開発の意思決定 < 授業課題> トヨタ自動車の予算(目標原価割付)を参考にした、平等感をもった予算のあり方を考える			

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのものの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。

13 品質管理の考え方（2） 管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。

14 本講義のまとめ まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山隼子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：40%、演習レポート：60%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

- ・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
- ・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算方法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。

13 品質管理の考え方（2） 管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。

14 本講義のまとめ まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山隼子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：40%、演習レポート：60%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

- ・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
- ・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management. [Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのものの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。

11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山禎子：ベシク品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

- ・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
- ・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management. 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

SSS300ND（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

プロジェクトマネジメント（SD）

川村 武也

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簡易な機械電気システムをチームで作上げていく過程を想定して、演習も行うことにより、学生がプロジェクトマネジメントおよびシステム工学の大まかな枠組みと主要な技法とを理解し、大学院進学後の研究開発活動や就職後の実務でも役立てられるようになることを目指す。

【到達目標】

学生が、デザイン工学におけるプロジェクトマネジメントの必要性とプロジェクトマネジメントの枠組みとを理解できるようになり、大学での学びや就職後の実務においてプロジェクトに積極的に参画あるいはリードしていけるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講座は2コマ/回 x7回=計14コマで構成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	システム工学とプロジェクトマネジメントとの関係	ある目的を達するために必要な人員、物資、資金などをかき集め、一定の期間内に成果や価値を生み出していくことが、プロジェクトマネジメントです。また、集めたヒト、モノ、カネの流れなどをモデル化してコンピューター分析やシミュレーション等を行うことをシステム工学と言います。初回は、こうしたプロジェクトマネジメントとシステム工学との密接な関係を解説します。
2	システム工学とプロジェクトマネジメントとの関係	第1回の後半
3	ワークブレイクダウンストラクチャー(WBS)	プロジェクトマネジメントとシステム工学をつなぐ基本的なツールと技法として、ワークブレイクダウンストラクチャー（WBS：作業分解構成）があります。第2回では、身近な機械電気製品を一から作るというケースを想定しながら、WBSを構築していく考え方、手順および検討課題を解説します。
4	ワークブレイクダウンストラクチャー(WBS)	第2回の後半
5	プロジェクトの立上げと要求事項収集	プロジェクトを始める第一歩は目的意識を共有するメンバーを募ってチームを編成することです。第3回では、プロジェクト立上げの際に不可欠な「プロジェクトチャーター」とチャーターの中に盛り込むべき要求事項の収集方法などについて解説します。
6	プロジェクトの立上げと要求事項収集	第3回の後半
7	プロジェクトの進捗とコミュニケーションの管理	プロジェクトがいったん始まったら、各メンバーが極力自由に活動を進められるようにしつつ、チーム全体としての進捗を管理し、日々更新される情報を共有することが重要です。第4回は、第2回で解説したWBSを進捗管理にどう活用していくか、クラウドサービスなどを情報共有にどう活用していくかを簡単な演習も交えて解説します。
8	プロジェクトの進捗とコミュニケーションの管理	第4回の後半

9	プロジェクトのリスク管理	始めた時に予測しない不具合などが頻繁に起こるのもプロジェクトの特徴です。第5回は第2回で解説したWBSおよび第3回で解説したプロジェクトチャーターとをリスク管理にどう活用していくかを簡単な演習も交えて解説します。
10	プロジェクトのリスク管理	第5回の後半
11	グループ演習	身近な機械電気製品を一から作るというプロジェクトを立ち上げて、実行し、成果発表するまでを3ないし5名程度のグループに分かれて演習し発表して頂きます。
12	グループ演習	第6回の後半
13	グループ演習の解答と補足	第6回で演習した結果を振り返り、補足説明を行います
14	グループ演習の解答と補足	第7回の後半

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前に通読して、講義中にわからない点を質問できるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

- 1) プロジェクトの概念 第2版、日本プロジェクトマネジメント協会編 神沼靖子監修、2018年、近代科学社（税込み2,750円）
 - 2) 世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書、佐藤知一著、2015年、技術評論社（税込み1,958円）
- 講義資料はPDFで授業支援システムに事前にアップします。

【参考書】

- 1) NASAを築いた人と技術、佐藤靖著、2007年、東京大学出版会（税込み4,620円）
- 2) PMI Lexicon of Project Management Terms（英語29ページ） <https://www.pmi.org/standards/lexicon> よりダウンロード

【成績評価の方法と基準】

1. 授業課題の学習と理解（60%）
各授業での積極的な参加を成績評価の対象とします。
2. グループ演習の発表(40%)
グループ演習の積極的な推進、貢献および発表内容を成績評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義への積極的な参加と講義内容への質問・意見により、理解を深め、「考える力」を成長させることを目標にしています。授業内容をきっかけに、自分の意見を持つようにしてください。授業の初めに、前回の授業で受講生から提出されたリアクションペーパーの質問や意見を取り上げ、フィードバックします。

【学生が準備すべき機器他】

WBSの演習ではエクセルファイルの使用を、進捗管理の演習ではクラウドサービスの利用を行います。これらが操作できるノートパソコンあるいはタブレット端末を各自準備して下さい。

【その他の重要事項】

種々の機械システム開発を経験したエンジニアが、基本知識の説明と自身の経験に基づいた解説や演習を行います。授業終了後に教室で質問を受け付けます。随時、電子メールで質問も受け付けます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the general understanding of the framework, fundamental tool and techniques of the Project Management in relationship with the System Engineering which are useful for future career as a researcher and/or a practitioner.

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイborg：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイborg：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。

13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

MTL300ND (材料工学 / Material engineering 300)

素材と機能のデザイン

堀井 辰衛

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活において視界に入るモノ、実際に身体に触れあうモノを構成する材料として高分子材料は多くの割合を占め、我々の生活と切り離せない素材の一つです。広い視点で見れば私たちの身体を構成するタンパク質や、植物を構成する多糖類も高分子ですし、繊維や飲料水ボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）や蓋などのパッキンに使われるゴムも高分子です。たんぱく質や多糖から成る高分子は天然高分子の一種であり、PETやゴム（天然ゴムを除く）は合成高分子の一種です。このように、一口に「高分子」と言っても様々な種類があり、それぞれに個性があります。本講義では、高分子材料の分類と基礎的な物性について概説します。次に、様々な高分子材料（主に合成高分子）の、「実際に身の回りに使われている（実用例）」側面と、「工夫次第で使えるかもしれない（研究例）」側面について解説する予定です。

【到達目標】

素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのような高分子材料が存在し、どのような物性を持ち、どのように利用されているのかを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に座学で高分子材料に関する知識を深める。さらにR7年度より、学生同士のグループディスカッションを含むアクティブラーニングも取り入れることで、学生の自発的な高分子材料の特徴とその利用についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子と社会との繋がり・高分子の分類と構造	高分子の簡単な歴史をひも解き、高分子の基本的な分類や構造について解説します。
2	どんな高分子があるか？	身の回りで頻繁に用いられている「汎用プラスチック、エンジニアリングプラスチック」について紹介し、それぞれの特徴について解説します。
3	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
4	高分子ってどんなもの？	熱的、力学的、光学的な性質、またどのように作られているかについて解説します。
5	機能性高分子～電気を流す高分子～	機能性高分子の一種である導電性高分子、半導体高分子について解説します。
6	機能性高分子～電気を流す高分子～	導電性高分子、半導体高分子がどのように使われるか、使われているかについて解説します。

7	機能性高分子～刺激に反応する高分子～	光や熱、pHなどに反応して形を変える高分子について解説します。
8	高分子ゲル	高分子ゲルの特徴と、その実応用例、研究例について解説します。
9	生化学・医療へ貢献する高分子	生体適合性を有する高分子材料について、実応用例や研究例と共に解説します。
10	環境にやさしい高分子・関連技術	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について解説します。
11	グループワーク～テーマ策定、グループ内討論～	履修者全員を10グループ程度に分け、各グループ内にて討議していただきます。（実際の履修者数を鑑みて人数を割り当てます。） 本授業で得た知見を活かして、各グループには高分子材料の特徴を生かした自由なテーマ設定を自発的に行ってもらい、グループ内で討論していただきます。
12	グループワーク～テーマ策定、グループ内討論～	履修者全員を10グループ程度に分け、各グループ内にて討議していただきます。（実際の履修者数を鑑みて人数を割り当てます。） 本授業で得た知見を活かして、各グループには高分子材料の特徴を生かした自由なテーマ設定を自発的に行ってもらい、グループ内で討論していただきます。
13	グループワーク発表会（前半）	12回目の授業で各グループで討論していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ1～4）
14	グループワーク発表会（後半）	12回目の授業で各グループで討論していただいた内容についてスライドにまとめていただき、各グループそれぞれ10分程度の発表、5分程度の質疑応答をしていただきます。（グループ5～7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題や12～14回目授業のグループワークに向けた復習が必須。

【テキスト（教科書）】

教科書は基本的には授業用のスライドを用います。また、グループワークでは履修者各自でJ-Stageや査読付き科学雑誌を調査してもらうことも考えています。

【参考書】

松浦和夫，尾崎邦弘，「高分子材料が一番わかる」，技術評論社，2011。
井上和人，清水秀信，岡部勝，「基礎からわかる高分子材料」，森北出版株式会社，2015。

東信行, 松本章一, 西野孝, 「高分子科学 合成から物性まで」, 講談社, 2016.

【成績評価の方法と基準】

1. グループ討議・発表 50%

1 3, 1 4 回目授業でグループワークの内容の発表を各グループに行ってもらいます。(発表10分、質疑応答5分)

発表の内容、ロジックについて評価する予定です。また、他グループの発表への質問の内容と積極性についても考慮する予定です。

2. 各講義での課題 20%

本授業は毎週2回の授業を行います。毎週課題を出しますので翌週の授業日(水曜日)までにPDF形式ファイルにて提出していただきます。(合計7課題)

3. 授業参加への貢献度 30%

【学生の意見等からの気づき】

有機化学や物理学の履修経験がなくても理解できるように、有機高分子の基礎や実応用例について取り上げる。自発的に高分子材料を理解できるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

現在のところ予定していません。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

また、担当講師は、導電性高分子インクの合成と高導電化に関する内容で学位を取得後、電気化学、人工筋肉(ポリマーアクチュエータ、アシストウェア開発)、フレキシブルセンサなどの分野で研究を進めてまいりました。そのため、高分子材料の基礎に偏った内容となります。

【Outline (in English)】

Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.

Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.

The goals of this course are to acquire basic engineering knowledge for utilizing materials, learn tools for understanding the functions of materials, learn the basics of interaction using physical properties, and learn the basics of prototyping and presentation skill.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term reports (20%), term-end report (80%).

HUI200ND (人間情報学 / Human informatics 200)

Webアプリプログラミング演習

馬場 祐人

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SNSやニュースアプリ、スマホゲームなどWeb上で提供されるサービスやソフトウェアをWebアプリと呼ぶ。常時インターネットにつながった環境が当たり前となった今、PCやスマホといったクライアントと、サーバとでデータを通信して、様々な情報を随時やり取りすることが可能である。本授業では、Webアプリの開発に必要なフロントエンドとバックエンドの技術を習得してWebアプリを開発する方法を実際に制作しながら学ぶ。

【到達目標】

本授業では、Webアプリ開発環境「Next.js」を用いて、Webアプリケーションの応用的な開発手法を習得できる。Webアプリ開発に必要なフロントエンド、バックエンドの技術、具体的にはJavaScript、HTML、CSS、データベースエンジンに関する構成と概要を理解し、設計技術を習得し、実際にプログラミングしながら実装手法を理解する。そして各自のアイデアに基づいてオリジナルのWebアプリを制作できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Webプログラミングに関する幅広い領域の専門用語や技術構成を適宜解説する。講義時間内で、持参したノートPCを用いて、実際に様々な機能をプログラムとして実装しながら、Webアプリの開発手法を理解する。理解度を把握するため、演習作品を提出し、最終成果物として披露してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webアプリとは	Webアプリとは何か。どのように構成されているかを学ぶ
第2回	開発環境(Next.js, Docker)の準備	Webアプリ開発環境(Next.js, Docker)をインストールする
第3回	フロントエンドとバックエンド	フロントエンドとバックエンドの違い、それぞれの役割について学ぶ
第4回	簡単なWebアプリの開発	単純なWebアプリを制作する
第5回	バックエンド開発	バックエンドのシステム開発について学ぶ
第6回	データベースの構成	バックエンドで用いるデータベースを構築する
第7回	フロントエンド開発	フロントエンドに必要なUIデザインについて学ぶ
第8回	クライアント側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのフロントエンドを設計する
第9回	WebアプリのUI制作	フロントエンドとなるUIをHTML、CSS、JavaScriptで制作する
第10回	サーバ側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのバックエンドを設計する
第11回	Webアプリのデータベース設計	Webアプリのバックエンドで情報を記録するデータベースを設計する
第12回	Webアプリのセキュリティ	Webアプリを作るにあたって考慮すべきセキュリティの基礎対策について学ぶ
第13回	Webアプリのテスト	制作したWebアプリをテストする
第14回	最終作品発表	これまで学んだことの集大成として最終作品を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講に当たりJavaScript、HTML、CSSそれぞれのプログラミングの基礎を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

自ら課題設定したWebアプリに必要な設計を組み立て、Webアプリとしてプログラムできることを達成目標とする。

成績評価は、平常点(講義内演習等での貢献・取り組み態度)(30%)、各授業ごとの演習課題提出(30%)、最終作品と発表(40%)を基準として、総合的に判断し評価する。
最終作品についてはプレゼンテーション形式の発表を実施する。発表は試験に相当する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートを踏まえて、円滑な授業進行と授業の内容の改善に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC(貸与PCもしくはWindowsパソコン使用を推奨)。各自のPCに、ソフトウェアをインストールして演習を行なう。PCにソフトウェアをインストールするためにSSD/HDDの空き容量を3GBほど確保しておくこと。資料配布、課題の提出などに、授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・本講義は秋学期開講の「コンテンツプログラミング演習」の応用的な内容となる。受講に当たっては「コンテンツプログラミング演習」の受講を推奨する。
・プログラミング言語処理系やWeb技術に関する実務経験を有する教員の観点から、Webアプリ開発の基礎的な概念や技術要素を解説する。
・授業終了後時間が許す範囲で、教室で質問を受け付ける。またHoppiiに記載したメールアドレスにて質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Services and software provided on the Web, such as SNS, news apps, and smartphone games, are called web applications. Web applications communicate various information and constantly exchange data between clients such as PCs and smartphones and servers. In this class, you will learn how to develop web applications by acquiring the front-end and back-end technologies necessary for developing web applications.

Assessment will be made as follows: In-class contributions 30%, in-class-hours practices 30%, final presentation 40%.

Before/after each class-hours, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

MTL200ND（材料工学 / Material engineering 200）

材料と構造のデザイン

武居 秀樹

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外力の作用が構造物や機械（および部品）などの実際の「もの」に対して、どのように影響するかを理解するための基礎的知識や解析方法を学ぶ。さらに、力やモーメントの作用によって構造物や機械（および部品）がどのように変形し、内部にどのような力が発生するかを学ぶ。

【到達目標】

講義と演習をとおして、力やモーメントの釣り合いに関する原理を応用することができる能力を開発し、現実の構造物や機械部品などをデザインするための力学的解析が行えるようになるとともに安全性を評価できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義2コマ続きで1つのテーマの学習を行う。はじめに、講義資料を用いて学ぶべき内容の解説を行い、その後、講義で学んだ知識をもとに演習を行う。演習時にはヒントを出すものの、自ら演習課題を解くことで、問題を解決するためのスキルを身につける。演習課題の解答は、授業中に解説したり授業支援システムに掲載する。また、レポートについては、添削の上返却する。なお、学生の理解度に応じて、次回講義の最初に追加説明を行うことがある。

授業中の演習は、授業中に解説する。また、宿題となった課題については、次回の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	空間の力（1）（2）	①空間における力 ②空間における合力 ③力の水平、垂直成分 講義内容についての演習
2	空間の力の釣り合い（1）	①モーメントと外積 ②偶モーメントの合力 ③力の縮約
3	空間の力の釣り合い（2）	前回の講義内容についての演習
4	断面の性質（1）	①図心 ②断面諸量 ③断面の主軸
5	断面の性質（2）	前回の講義内容についての演習
6	材料の力学的性質（1）	①応力とひずみ ②フックの法則 ③弾性係数とポアソン比
7	材料の力学的性質（2）	前回の講義内容についての演習
8	組み合わせ応力（1）	①応力の座標変換 ②主応力 ③モールの応力円
9	組み合わせ応力（2）	前回の講義内容についての演習
10	はりのデザイン（1）	①断面力 ②断面力図 ③はりの応力度 ④はりの変形
11	はりのデザイン（2）	前回の講義内容についての演習
12	柱のデザイン（1）	①柱の種類 ②短柱 ③長柱 ④トラス構造
13	柱のデザイン（2）	講義内容についての演習
14	理解度確認試験	講義1～13に関する授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを用いて講義資料を事前に配布するので、各自で事前にダウンロードし、予め目を通し、下記の参考書等を用いて予習を行っておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストをpdfファイルにしたものが学習支援システムに登録されているので必要に応じてダウンロード可能である。

【参考書】

R.C.Hibbeler：Statics and Mechanics of Materials, 5/e, Prentice Hall Intl. Edition

工業力学，材料力学，構造力学，応用力学などの参考書

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%） 授業中における学習状況や参加度を評価する。
演習状況（25%） 決められた時間内に演習課題を処理する能力を評価する。

理解度確認試験（50%） 全体を通して得た知識を活用して、応用問題を解決できる能力を評価する。

ただし、出席日数が全体の2/3に満たない学生は評価の対象外(E)とする。
なお、1時間目に30分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、その日は欠席扱いとする。（原則、欠席理由の連絡は翌週の講義終了までとする。）

【評価基準】

履修の手引きに記載されているS～Eまでの12段階評価基準に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は添削して返却するので、復習しておくこと。

授業内試験は資料持ち込み不可のため、講義資料の例題と演習問題の内容を復習しておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

演習時に、関数電卓を使用するので、毎回持参すること。なお、携帯電話や、事務用の電卓では、計算できない課題もあるため、必ず、関数電卓を用意すること。試験の際にも関数電卓を使用する（試験の際にスマートフォンを持ち込むのは禁止）。

授業内で使用する資料は、全て学習支援システムより配布を行う。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this program, students acquire basic knowledge and analytical methods on structural and materials mechanics in order to understand the effects of external forces on structures and machine elements. In addition, students acquire knowledge about deformation and internal forces when a load acts on structures or machine elements.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1)Application of principles regarding equilibrium of forces and moments
- 2)Mechanical analysis for designing structures and machine elements
- 3)Assessment of the safety of structures and machine elements

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on short reports (30%), term end examination (50%), and in class contribution (20%).

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して解析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 40%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※授業中およびメールやVシートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。

9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
 - ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
 - ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはVシートにて連絡する。
 - ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応）日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:
In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.
Learning Objectives:
At the end of the course, students are expected to A and B.
Learning activities outside of classroom:
Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination:40%、Term-end examination: 40%、Short reports and in class contribution: 20%.

PR1200GA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

統計処理法

吉田 一星

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、インターネット・新聞・テレビなどを通してデータに日々接しています。大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方を学んでいきます。

また、自然言語処理技術の研究開発の実務に携わっている講師が、現在ブームとなっている生成AIに使われている確率統計の考え方を紹介したいと思います。

例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLMを理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLMの中で使われている確率統計の考え方を学び、LLMを実現する仕組みへの理解を深めます。

【到達目標】

- ・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・データを解釈する方法を身につける
- ・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
- ・確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する
- ・生成AIの仕組みと確率・統計との関係を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。

期末試験とその他の課題のフィードバックは、主に学習支援システムを通して行います。また、みなさんからの質問・コメントに対する解説・補足を授業内で随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとデータの理解方法1	授業の進め方についての説明・数値データの可視化・度数分布表とヒストグラム
第2回	データの理解方法2	データの代表値とその性質
第3回	データの理解方法3	散布図と相関係数
第4回	データの理解方法4	回帰分析
第5回	確率1	確率の定義
第6回	確率2	確率の様々な計算方法
第7回	確率3	条件つき確率とベイズの定理
第8回	確率分布1	確率変数と確率分布
第9回	生成AIの仕組み	生成AIの仕組みと確率・統計との関係 期待値と分散 二項分布
第10回	確率分布2	連続型確率変数と正規分布
第11回	確率分布3	確率分布の応用
第12回	確率分布4	期末試験
第13回	確率分布5	
第14回	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。本授業のそれぞれの回は前回までの内容の理解を前提として進めますので、自分の理解度に応じて必ず自習して下さい。また、わからない点をそのままにせず、自分で調べても不明な場合は教員に積極的に質問して下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】

以下の参考書をお勧めします。
"経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ", 竹内広宜著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う小テストなどの平常点と期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、平常点30%、期末試験70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が毎回好評ですので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。電卓がないと計算できないような問題は演習内では扱いませんが、授業に電卓などの情報機器を持ち込んでも構いません。ただし試験（小テスト・期末試験）での情報機器の持ち込みは不可です。

【その他の重要事項】

担当教員は、情報科学技術、とくに人工知能（Artificial Intelligence; AI）の研究開発を行う企業に所属しており、自然言語処理・機械学習分野に関して新技術の開発や製品化の実務経験を有しています。

例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLMを理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLMの中で使われている確率統計の考え方を学び、LLMにできることとそうでないことを理解します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

[Learning Objectives]

Students should be able to do the followings at the end of this course:

- Master basics of data visualization (graphs)
- Understand some ways of interpreting results of data analytics
- Understand basic statistical values (mean, variance, correlation coefficient, etc.)
- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems
- Understand the relationship between statistics and how generative AI works

The lecturer has practical experience in research and development of generative AI, especially large language models (LLMs). He will introduce how probability and statistics are used in LLMs to generate natural language responses to queries by a human user.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to complete homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is two hours.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

システム論

甲 洋介

サブタイトル：人の営み、文化を『システム』という考え方から捉え直す
配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● あなたの身近な『システム』たち
コンピュータやSNSばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの『システム』に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

● 『家族』もシステム？
暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国間関係にしても、うまく機能している間は人々は気づかない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかなくなった時に問題は顕在化する。

● 「システムという考え方」を学ぶ
本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。システムとは何か。文化の中の様々な物事をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きほぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上がらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

● システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる
人が作ったモノだけでなく、『家族』や『社会』も一種のシステムである。たとえば『家族』とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅すると何が変わるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対する *questions* を整理し、明確化することにもつながる。

社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらが発見する作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

・まずシステムの基本的な考え方を学び、要点を理解できるようになる。
・次に、簡単な事例であれば、「システムの考え方」を用いて、問題を解きほぐしながら複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導く方法を組み立てられるようになる。
・本講義を終える頃には、社会の、またはあなたが着目する一見複雑に見える問題に対し、その問題を捉えやすく整理し直し、システムの考え方を用いて、自分なりの答えを系統立てて考えられるようになる、ことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。
(1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション（約15分）
(2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65分）
(3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成（20分）
講義と小課題の演習を組み合わせる。授業冒頭(1)で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義(2)につなぐ。各自の内容理解を小演習(3)で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。
授業中の討議を通じて、他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ、他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	システムは難しくない。本講義の狙いと、進め方

第2回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか
第3回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム
第4回	システム、という考え方	システム思考の基礎。複雑そうな事を、要素の間の関係性として捉え直してみる
第5回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第6回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムから捉えると
第7回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第8回	人と道具のシステム論 －文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第9回	社会というシステム ～個人から社会へ（パースンズの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第10回	社会のシステム論(1) －ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第11回	社会のシステム論(2) －コミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや『分化』をどのように捉えるか
第12回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第13回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第14回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いる。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マトゥラーナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

・レスポンスシートや、授業・討議における積極的な貢献度合い（60％）、
・期末レポートまたは期末試験（40％）

で総合的に評価します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。 基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要です。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きほぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会、表象文化の専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory. By the end of the course, students should be able to practice basic principles of "Systems Thinking," and to re-examine some selected social issues by applying the methods of "Systems Thinking". Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on (1) final report/exam (40%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (60%).

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ITを過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることがなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとにITの本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義はPowerPointと教科書を用いて行う。PowerPointの資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でてくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化 デジタルの利点と欠点
2回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4回	安全な通信と暗号その1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5回	安全な通信と暗号その2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局

6回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTMLとXML
7回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ
11回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子出版 電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12回	3次元CG、デジタルマップとGIS	3次元GC デジタルマップとGIS
13回	サイバービジネス、ユビキタスコンピューティング	電子商取引 電子マネー・電子取引のセキュリティ ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタスID
14回	人工知能、データサイエンス	人工知能、データサイエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するPowerPointの資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/sigesada/>

いくつかの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。

レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って事例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPointを使って資料を提示しながら授業を行う。

【その他の重要事項】

生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Distribution.

Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.

Grading Criteria

Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.

Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.

The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2026年度の本授業では、「Art and Cosmotekhnics」というテーマで、西洋芸術の論理と中国芸術の論理を形式化し、現在のテクノロジーの新たな方向性を哲学的に考察することから「文化情報学」にアプローチしていきます。

本授業で取り上げるのは、最近、活躍の著しい中国人哲学者・ユク・ホイ氏の著書『芸術と宇宙技芸』（春秋社、2024年）です。

《授業の目的》

本科目では、「芸術と宇宙技芸」に関するユク氏のテキストを読むことを通じて、現在の情報社会で生じている文化事象について考えていきます。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」を構築するにあたって、私たちが、「いかにして〈ヴァーチャリティ社会〉を生き抜くか」という実践的な問いについて、各自が自らの生き方を反省的に考察することにあります。

【到達目標】

- (1) 本科目の到達目標は、現代社会を〈ヴァーチャル社会〉として捉えることによって、現代の情報文化の中で、私たちがどのように〈ヴァーチャリティ〉と関わっていくかを考えるを身につけることを目指します。
- (2) 情報哲学のテキストを哲学的に読むことができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。

- (1) テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みます。
- (2) 受講生各自の授業内容に関する理解を確認するために、リアクションペーパーを用います。
- (3) リアクションペーパーの内容について、ディスカッションすることも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第2回	『芸術と宇宙技芸』読解	0. はじめに
第3回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第一節 悲劇的宇宙の歴史心理学

第4回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第二節 悲劇の芸術における再帰的論理
第5回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第三節 芸術的経験の諸相
第6回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第四節 道家の宇宙技芸 対悲劇者の宇宙技芸
第7回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第五節 再帰的機械が凌駕する
第8回	『芸術と宇宙技芸』読解	1. 序論 感性の教育について 第六節 ヨーロッパ、芸術、哲学のうとで
第9回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第七節 哲学の終わりのあとの芸術
第10回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第八節 芸術からのもうひとつの始まり
第11回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第九節 人工物のなかの真理
第12回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第十節 思考と絵画
第13回	『芸術と宇宙技芸』読解	第1章 世界と大地 第十一節 芸術と宇宙的なもの
第14回	まとめ	これまでの授業の総括——〈ヴァーチャル社会〉を生きるとは どうということか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

① ユク・ホイ『芸術と宇宙技芸』春秋社、2024年

【参考書】

1. ユク・ホイ『中国における技術への問い 宇宙技芸論』, genron, 2022年
2. ユク・ホイ『ポストヨーロッパ』岩波書店、2026年

【成績評価の方法と基準】

- (1) テキストの読解などを行うことで授業の理解度を確認する。
- (2) 学期末に試験（レポート）を課すことで、授業における達成度を測る。
- (3) リアクションペーパーによって、授業に対する姿勢を問う。
- ※ 両者の結果から総合的に判断する。

三者の配分は、下記の通り。

(1) 小テスト・リアクションペーパーによる平常点（30％）

(2) 期末試験（70％）

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータやタブレット（可能な限りスマートフォン）は、授業時間中に授業担当者が許可しない限り、原則として使用不可です。

・情報哲学を学ぶこと、情報機器を用いることは異なります。大学で学ぶために必要なのは五感と〈ひらめき〉（＝直感・直観）であり、情報機器は「道具」（紙と筆記用具）の延長に過ぎません。

【その他の重要事項】

【注意点】

- (1) 「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。。
- ・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
- (2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】

・概論としては内容も含めて授業は極めて難しいです。それゆえ、大人数にはならないとは思いますが、今流行りのVtuberなどに言及するからと言って、興味本位だけの人は、なるべく参加をご遠慮ください。

- ・受講生数が多い場合は、教室のキャパシティーとは無関係に初回に選抜テストを実施します。受講希望者は、初回の授業に必ず出席してください。
- ・議論は大いに推奨しますが、仲間同士の「私語」は厳禁です。居眠りは「受講拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course is an “introduction” to the study of “Informatics of culture” proposed by the Faculty of Intercultural communication. “Informatics of Culture” is the study of various cultural phenomena as cultural information.

In the 2025 academic year, under the theme of “Cultural Philosophy of Virtual Society,” we will position the current information society as a “virtual society” and approach “Informatics of Culture” by philosophically examining the various cultural phenomena that arise in this society.

The “virtual society” discussed in this class is the subject of a book written by philosopher Takehiko Daikoku (Professor at Meiji University, 1961-), in which he discusses specific themes related to “virtuality”. For example, “mode,” VR, surveillance society, metaverse, generative AI, and so on.

In this class, in addition to these, we will consider the cultural philosophy of “virtual society” with a view to “Theory of Vtubers” and “Philosophy of Vtuber,” which are derived from the discussion of metaverse.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine a theory of visual culture.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

情報産業論

今和泉 仁

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

現代生活において、情報産業やメディア産業は非常に重要な役割を担っている。また情報産業は、高度に技術革新することにより、常に変化し続けている。これらの構造や課題、将来を理解することは、消費者やビジネスマンとして、技術や市場トレンドの動向に対応して、より良い判断をするために重要である。本講座では、メディアを中心とする情報産業における産業構造、ビジネスモデル、問題点、未来の展望などを理解することを目指す。授業の中では、業界トレンド、テクノロジーの進化、市場動向、企業戦略などについて学習することができる。

【授業の目的（何を学ぶか）】

1. メディア産業の変遷と現状：過去から現在までのメディア産業の変遷を追う、現在のメディア産業の状況を理解する。
2. メディア技術の変革：情報技術の進歩によって、メディア産業にもたらされた影響と、それによって変革されたメディア技術、その光と影について理解する。
3. メディアビジネスモデル：新たなメディア技術に伴い、メディアビジネスモデルが変革していることを理解する。また、有料・無料・広告収入などのメディアビジネスモデルの種類と特徴について学ぶ。
4. メディア業界のグローバル化：メディア産業はグローバルな市場を持つようになっており、欧米におけるメディア産業の状況と、国内市場に与える影響、各国間でのメディアの共有・流通に関連する課題について理解する。

【到達目標】

- 下記の各項目についてデジタル技術がもたらしたメディア産業全体への変化を理解する
- 4K/8K、HDR、VoIP、クラウド・プロダクションなどの放送を変革する技術動向への理解
 - CES、MWC、NAB、IBCなどの海外見本市からメディア関連産業がどのように変容しようとしているのかについての理解
 - OTT、SVOD、AVOD、FAST、D2Cなどの新しいメディアビジネスモデルの理解
 - NetflixやAmazon Prime Videoなどの欧米のメジャープレイヤーとTVerやAbemaなど国内の事業者の現状への理解
 - 生成AIがメディア産業にもたらす変化と社会への影響についての理解
 - IoT、自動運転、ヒューマノイド、Smart Cityなど、情報技術の革新がもたらす社会の変化についての理解
 - インターネットによるメディア産業への負の影響としての違法配信とその対策についての理解
 - 地球温暖化対策が求められる中でメディア産業の対応の状況と将来の課題への理解
 - 放送事業者にとってのdigital-firstとは何か、放送の将来像への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業については対面授業を基本とし、基本的に、コロナ禍対策（消毒およびソーシャルディスタンスの確保等）を講じた上で、プロジェクターを使用してPCでのスライドや動画を活用します。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介いたします。ただし第3回講義は講師が米国ラスベガスで開催されるメディア関連見本市NAB2026参加のため対面授業ができないので、オンデマンド授業とします。講師はCES（米国ラスベガスで1月開催）、IES（スペイン・バルセロナで2月開催）Mobile World Congress（スペイン・バルセロナで3月開催）、NAB（米国ラスベガスで4月開催）、IBC（オランダ・アムステルダムで9月開催）、CEATEC（日本・幕張で10月開催）、InterBEE（日本・幕張で11月開催）などの国内外で開催されるメディア系見本市で取材した最新動向、海外のスタートアップ企業への取材結果など、他では得られない生の情報を紹介します。一方的に情報を伝えるだけでなくできるだけリアクティブな授業としたいので、毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次の授業冒頭で答えていく形を基本とします。また、例年5月末に開催されているNHK放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開に各自参加してもらい、持ち出し授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル技術とメディアの変遷	自己紹介を兼ね、講師が担当した様々な放送・メディア関連事業からメディアの変遷やトレンドの全体像について触れ、講座全体を概観する（この回のみオンデマンド授業）
第2回	放送事業を変革する最新技術の理解	4K/8K、HDR、VoIP（Video over IP）、クラウド・プロダクション等、今日の放送事業に大きな影響を与えている技術動向を紹介
第3回	コンテンツ販売ビジネスについて知っておくべきこと（オンデマンド講義）	放送コンテンツの二次利用としてのコンテンツ販売における著作権処理、メディア素材の管理、デリバリー方法などについて知る
第4回	NetflixとVOD事業の構造	Netflix、Amazon Prime Video等のVOD事業の構造、変遷、トレンド、Netflixがメディア産業に与えたインパクトについて理解する
第5回	Connected TVとFASTチャンネル	Connected TVとは何か？ FASTとは何か？ メディア業界で始まっている新しいビジネスモデルと変わる広告マーケット
第6回	放送はこれからどう変わっていくのか	英国ではBBCなどの放送局が電波による伝送からネットオンリーの伝送へ移行しようとしている。放送事業はこれからどうなっていくのか
第7回	NHK技研公開持ち出し授業	5月下旬に開催されるNHK技研公開に各自参加し、そこで見たものについてレポートを提出
第8回	国内外のメディア関連見本市から①	最新エレクトロニクス展示のCES2025とモバイル技術展MWC2025、及びCEATEC2024から
第9回	IoTと自動運転、スマートシティ	モノのインターネット（IoT）技術や自動運転技術などで未来の都市はどう変わっていくのか
第10回	バーチャルプロダクションの世界	撮影時のCO ₂ 排出量削減に寄与するバーチャルプロダクションとは？ その背景技術とトレンドを紹介。
第11回	国内外のメディア関連見本市から②	欧州の放送機器展（IBC2024）と米国の放送機器展（NAB2025）およびInterBEE2024から
第12回	メディアビジネスとAI	ChatGPTやBard、DALL-EなどのAIがメディアビジネスに与える影響
第13回	メディア産業のネットゼロ対策	コンテンツ制作時における温暖化ガス排出量削減を図るための諸外国の取り組みと日本の現状について紹介
第14回	ストリーミングによる負の影響・違法配信の実態と対策	日本の放送が海外でも視聴できてしまう・著作権を無視した違法配信の実態と、それに対する対策について紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、国内の各メディア・サービスの状況について、実際に利用し、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。毎回パワーポイントのスライドや動画を活用します。

【参考書】

テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。TVer、Abema TVなど国内で提供されているメディア関連サービスを実際に体験しておくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70％）、期末のレポート（30％）によって成績を評価します。レポート提出は必須です。期末レポートを提出しない場合は出席点があっても合格としません。期末レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解し自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果になったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成したと判断した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

毎回講義終了後に、掲示板に授業の感想と質問を投稿してもらいます。講義から1週間以内に投稿があった場合、出席とみなします。感想や質問については、基本的に次の授業冒頭に取り上げ、質問内容に答えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、NetflixやAmazon Prime Videoなどの有料サービスに体験加入して見ることをオススメします。

【その他の重要事項】

実務家教員による授業

NHK及びNHK関連会社で放送・インターネット等のメディア業界で長年勤務してきた教員が実際に担当した業務や経験・知見からメディア産業の現状について解説する

パワーポイントのスライドや動画を多用し、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業とする予定

【Outline (in English)】

【Course outline】

The information and media industries play a very important role in modern life. In addition, the information industry is constantly changing due to high levels of technological innovation. Understanding their structure, challenges and future is important for making better decisions as consumers and business people in response to technological and market trends. This course aims to provide students with an understanding of the industrial structure, business models, issues and future prospects in the media and other information industries. During the course, students will learn about industry trends, technology evolution, market trends and corporate strategies.

Objectives of the class (what you will learn).

- 1.The evolution and current state of the media industry: to follow the evolution of the media industry from the past to the present and to understand the current state of the media industry.
- 2.Understanding the impact of advances in information technology on the media industry, and the ways in which media technology has been transformed by these advances, its lights and shadows.
- 3.Media business models: understand how media business models are being transformed by new media technologies. Also, learn about the types and characteristics of media business models such as paid, free and advertising revenue.
- 4.Globalisation of the media industry: the media industry has become a global marketplace, and students will understand the state of the media industry in Europe and the US, its impact on domestic markets, and issues related to the sharing and distribution of media between countries.

[Learning activities outside the classroom].

To deepen your understanding of the current development of media services on a daily basis by always being interested in newspaper, television and internet news sites. To deepen your understanding by revising the questions answered in class and the materials distributed. The standard study and revision time for each lesson is 2 hours.

[Grading Criteria / Guidelines]

Grades are determined by class attendance (40%), number of questions submitted per class session (10%), a short report on the NHK Science & Technology Lab Open House (10%), and an end-of-term report (40%).

FRI200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

ネット文化論

神戸 雅一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常活動に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、対面で実施します。感染症の拡大などあった場合にはリアルタイムオンライン講義を実施することもあります。ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介し、プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。講義の初めに、前回のミニレポートの内容を取りまとめ、受講者の方にフィードバックします。

期末に、ネット文化に関し自らの意見を論じるレポートの提出を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。

2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、ECなどのビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。
9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネット文化論のまとめ	12回までの講義のエッセンスをまとめて補足説明します。
14	ネットワーク時代の金融サービス	ネットワークやAIが金融サービスに与えた影響について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマを紹介し、各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持ち、準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。ネット文化に関係するニュースやWebサイト等を日頃から関心を持って読み・聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介し、

【成績評価の方法と基準】

期末レポートの提出を単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1. 期末レポート：70%
講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。
2. 平常点：15%

講義への関心、参加度を評価し平常点とします。

3. ミニレポート 15%

毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。

この成績評価をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次回の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面講義としますが、感染症の拡大などによりリアルタイムオンライン講義で実施する場合があります。そのためZoom等で講義を視聴できる受講環境をご用意ください。

【その他の重要事項】

本講義は原則として対面で実施します。対面での参加ができない場合には各回の講義で使用するプレゼンテーション資料の大半をPDFで配布しますので、それをもとに講義の内容を学習してください。各回のミニレポートでの生成AIの利用は禁止します。各回の内容に基づいた設問に対して受講者の経験、意見を自由に書いてください。期末レポートでの生成AIの利用は、提出するレポートの執筆前の調査や思考の整理については許可します。生成AIによる自動生成された文章や画像を、受講者自身で確認や吟味をすることなく利用することは許可しません。

虚偽の情報(例えば、学術情報や文献情報)の記載といった禁止した行為と思われる行為を検知した場合には、担当講師は大学により公開されている「試験等における不正行為の処分基準」に従い処分をする方針です。

【Outline (in English)】

-Course outline

This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of “information network society.”

-Learning Objectives

In order to act rationally in the ever-changing Internet society, the goal of this course is to acquire the way of thinking to continuously construct criteria for selecting information that is important to oneself. The course also aims to enable students to logically explain their own opinions on the cases of the Internet society dealt with in the lecture, and to set up issues and consider solutions.

-Learning activities outside of classroom

In the first lecture, I will introduce the areas covered in this course and the lecture themes for each session. Students are expected to pay attention to events related to each lecture theme on a daily basis, and to prepare and review for the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Please read, listen to, and think about news and websites related to Internet culture with interest on a daily basis, and reflect them in the mini-report to be submitted at the end of each lecture and in the final assignment.

-Grading Criteria /Policy

Submission of a final report is a condition for obtaining credits. The grading criteria will be based on the following ratios.

1. Final report: 70%

Please logically write your opinion on the topic of Internet culture theory throughout the lectures.

2. Ordinary points: 15%.

Students will be evaluated on their interest and participation in the lecture.

3. Mini-report: 15%.

Students are expected to understand the content of each lecture, and submit a mini-report describing their opinions on questions related to the lecture content.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

The use of generative AI is prohibited for each mini-report. Please write based on the questions in each session and your own experience and opinions.

For the final report, the use of Generative AI is permitted for research and thought-organizing purposes before submitting the report. However, it is not permitted to use text or images automatically generated by generative AI for final reports without students personally reviewing and examining them.

If any prohibited behavior, such as providing false information (for example, academic or literature information), is detected, the instructor will take disciplinary action in accordance with the university's published "Criteria for Disciplining Cheating in Examinations, etc.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

表象文化概論

大嶋 良明、岡村 民夫、林 志津江、深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次開講の「国際文化情報学入門」に後続する、表象文化科目群の導入のための科目です。4 人の教員が扱う専門分野の表象・文化現象の分析・読解を通じて、表象文化論の基本を学ぶことを目的とします。

「表象文化」とは、人間が様々なメディアや方法によって創造する行為、またその行為を通じて生み出されたものを指します。さらに個々の「表象文化」における表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、それらが内包する意味、欲望、人々に与える影響の読解と解明を目指すのが「表象文化論」です。本科目の講義では、様々な芸術様式概念や文芸批評理論、メディア論、文化記号論など、「表象文化論」で必要となる理論の導入に加え、文学や造形芸術、演劇、映像／映画、音楽、非言語的コミュニケーション、建築など、様々な文化現象・芸術様式について幅広く横断的に検証していきます。

【到達目標】

本科目では、入門科目である「国際文化情報学入門・表象文化科目群」に引き続き、表象文化論の基礎を学びます。本科目をきっかけに、履修者がさまざまな「表象」に対する理解を深め、国際文化学部が開講する複数の「表象文化科目群」科目を効果的に履修・学修できること、さらには各自の専門領域の開拓に向け、基礎的な知識を獲得しその定着を図れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

初回は、4 名の担当教員が各自の講義について詳しく解説します。第 2 回～第 1 3 回までは、各担当教員が 3 回ずつ講義を行います。課題は各教員から出され、フィードバックも各教員から行います。第 1 4 回は応用編として、4 名の担当教員がそれぞれの研究分野について紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 担当：全員	「表象文化概論」の4名の担当者が、それぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について説明します。
第2回	欲望の音楽（1） 担当：林志津江	「私が主人公」？：市民階級と啓蒙の世紀に向けて／合唱とフランス革命と「第九」／「私の思いを音楽に託す」？
第3回	欲望の音楽（2） 担当：林志津江	「国民的音楽」とヴィルトゥオーゾの19世紀：「音楽学校」とは何か？／作曲家と演奏家と聴衆の分離／「美しい芸術が私の人生を充実させる」？

第4回	欲望の音楽（3） 担当：林志津江	「アイデンティティ」あるいは「プロパガンダ」：近代戦争の果ての「クラシック音楽」／録音術と再生術が決定的に変えたもの／音楽がもたらす「一体感」？ ル・コルビュジエとフランク・ロイド・ライト
第5回	モダニズム建築の始まり 担当：岡村民夫	前川国男と丹下健三
第6回	日本のモダニズム建築 担当：岡村民夫	
第7回	ヴァナキュラーな建築 担当：岡村民夫	関東大震災後のバラックと看板建築
第8回	電子音楽とコンピュータ（1） 担当：大嶋良明	電子音楽の発展史を概観し、電子楽器やコンピュータとの関連性を学ぶ。
第9回	電子音楽とコンピュータ（2） 担当：大嶋良明	テルミン（Theremin）、ハモンドオルガン、モーグシンセサイザーなど電子楽器の系譜を学ぶ。
第10回	電子音楽とコンピュータ（3） 担当：大嶋良明	電子音楽の学際的研究拠点 CCRMA が及ぼした影響とその功績を、デジタルシンセサイザーの開発研究とコンピュータ音楽の制作環境を中心に学ぶ。
第11回	映画とキリスト教（1） 担当：深谷公宣	ユダヤ教とキリスト教の教えの違いを確認し、20世紀半ばに主にハリウッドで制作された叙事詩映画（例：『十戒』など）で聖書やユダヤ教、キリスト教に関連する人物がどのように表象されているのかを検討する。また、そうした映画に当時のアメリカの政治状況（共産主義批判）がどのように反映しているのかを探る。
第12回	映画とキリスト教（2） 担当：深谷公宣	福音の概念、黙示思想と終末論について確認し、これらをテーマ、モチーフにしたいいくつかの映画を検証する。イエス＝キリストの磔刑にみる身体表象や再臨のストーリーがどのように映画に描かれているか、事例を参照したうえで、米国トランプ政権の支持母体ともいわれる福音派の思想についても概観し、現代社会を取り巻く国際政治状況への理解も深める。余裕があれば、教派の違いについても触れる。
第13回	映画とキリスト教（3） 担当：深谷公宣	アガペーとエロスの違いを確認し、前者が社会を救う鍵として、後者が社会を乱す要因として描かれている作品の事例を検証する。また、キリスト教をテーマとしていない映画において、キリストの人物（女性や子供を含む）が登場し、社会や人間関係を修復していく様子を描いた作品について紹介する。（例：『櫻の園』、『ヤンヤン 夏の想い出』など）
第14回	表象文化概論発展編 担当：全員	4 人の担当教員が、それぞれの研究分野について紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各担当教員が指示します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業全体を通して用いるテキストはありません。
各担当教員が初回の講義時に指示します。

【参考書】

参考書については各担当教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

各担当者が担当回の成績を25点満点で示し、合計で100点満点で成績をつける。

平常点、課題、試験の割合や評価方法については、各教員が授業開始前までに伝える。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しません。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・初回のガイダンスにかならず出席してください。初回の授業の課題提出が選抜試験を兼ねるので、受講希望者の初回授業の出席は必須です（受講者数上限は今年度授業実施教室の収容可能人数と同数）。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: This is an introductory course of the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, music, nonverbal communication, and architecture. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.

・ Learning Objectives: On the basis of the skills and perspectives acquired in the 'Introduction to Intercultural Communication', students will be expected to understand various ideas of representational culture to use for further study in the advanced courses. Four instructors will help students find interesting subjects they can explore in a more specific field.

・ Learning activities outside of the classroom: Follow the instructions provided by each instructor.

・ Grading Criteria/Policy: Four instructors will give students marks in their own way, and the sum of the marks will be the final. For a detailed scoring policy, ask each instructor.

DES200GA (デザイン学 / Design science 200)

メディアと情報

君塚 洋一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下3点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や組織・共同体の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性和問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この科目は、各テーマにおいて、対面授業による説明や解説、質疑、受講生のコメント紹介、映像の鑑賞、簡易なグループワークなどを行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）から何人かのコメントを取り上げ（匿名）、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定で。

＊

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、ブランド、SNSなどの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。

テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第2回	メディアとは何か	メディアとは何か？／何がメディアになるのか？／メディアの類型（タイプ）

第3回	コミュニケーションとは何か-1	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その規定要因（1）：物理的環境／社会的制御など
第4回	コミュニケーションとは何か-2	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その規定要因（2）：多層性・文脈／交話など
第5回	情報とは何か（「ニュース」を題材に）	情報とは何か？／どんな要件を満たせばニュースになるのか？／社会におけるニュースの役割・機能／マス・メディアの報道
第6回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ（宣伝）と広報（PR）／近年の推奨コミュニケーションの問題
第7回	パブリック・メディア-2	マーケティング・コミュニケーションとブランド
第8回	ふりかえりレポート-1	第1回～第7回のふりかえりレポート
第9回	ソーシャル・メディア	ソーシャル・メディアのはたらきと問題
第10回	観光とメディア	メディアが観光の対象をつくる／「聖地巡礼」／大衆と対象物
第11回	メディアと感情	メディアとしての芸術作品と「ノスタルジー」
第12回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？
第13回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第14回	まとめ ふりかえりレポート-2	情報源＝メディアの識別利用／ファクトチェック／メディアと感情／メディアのはたらきへの補論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) インターネット、マスメディア、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。

2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手（媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。

3) 前半の1回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・稲増一憲『マスメディアとは何か 影響力の正体』中公新書、中央公論社、2022年
- ・法政大学大学院メディア環境設計研究所編『アフターソーシャルメディア 多すぎる情報といかに付き合うか』日経BP、2020年
- ・ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義——メディア・テクノロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論1』北樹出版、2005年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレットNo.982、岩波書店、2018年
- ・石井淳彦『ブランド 価値の創造』岩波新書、1999年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約30％）、ふりかえりレポート（2回：約70％）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。ただし、7～8割以上の小課題の提出、2回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

さまざまなメディアやコンテンツに興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、対面授業、授業内課題、ふりかえりレポートの3つで成り立つ。テーマについて高い関心を持ち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【Outline (in English)】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

＊

Learning Objectives

(1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.

(2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.

(3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.

＊

Learning activities outside of classroom

(1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.

(2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).

(3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

＊

Grading Criteria/Policy

Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

社会と美術

平野 真弓

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部 「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。

第二部 「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、 写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進화가、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体现していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代Ⅰ フォービズム、表現主義、キュビズム	
第4回	アバンギャルドの時代Ⅱ 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイディアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワークショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代Ⅰ、アバンギャルドの時代Ⅱの復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。	第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、パブリッシング、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ポーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、ハプニングやパフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。	第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖化と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に対話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャルリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）とリレーショナルアートについての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。	第13回	感染症の時代	2020年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにとってパンデミックはすでに少し以前にあった出来事のように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第9回	ワークショップ2 ・単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。			
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることとなります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。	第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
 デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
 『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
 『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
 『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

実務経験のある教員による授業

平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

メディアと社会

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。「メディアと社会」では、メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようなようになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。

「現代メディア史」「メディア論」「メディアと表象」の3つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

メディアの歴史

古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。

メディア論

社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。

メディアと表象

メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。

【到達目標】

過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見出すことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

・受講希望者が1000人を超える場合、抽選を行います。

・オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google Sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Forms で課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画
第2回	メディアの歴史1 絵と文字	今からおよそ6万6000年前に人類は言語能力を獲得したと言われています。（諸説あり）その後、絵や文字を使って記録するようになりました。ここでは文字の誕生とその発達の歴史について学びます。
第3回	メディアの歴史2 文字の進化	活字誕生以前の印刷技術、紙の誕生、活字の誕生と書体とフォントについて学びます。文字の発明により、私たちは様々な情報を記録として残すことが可能になりました。その後、記録を残すための技術が発達していきます。
第4回	ワークショップ（1） 単元の復習：絵と文字、文字の進化	タイポグラフィについて 書体とフォント フォントデザイン
第5回	メディアの歴史3 計算・通信・検索	メディアと歴史をテーマに、コンピュータの発明につながる技術と計算・通信・検索のもたらす社会の変化について学びます。
第6回	メディアの歴史4 マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）	新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどのマスメディアの起源について学びます。
第7回	ワークショップ（2） 単元の復習：計算・通信・検索、マスメディア	ワークショップ・未来のコミュニケーション
第8回	メディア論1 マクルーハンのメディア論	「メディアはメッセージ」、「グローバルヴィレッジ」など、メディアに関する新しい概念を発信したマクルーハンの理論やチョムスキーのメディアについてのメッセージについて学びます。
第9回	メディア論2 インターネット	1995年以降のインターネットの進化について、地域社会を取り巻くメディアの役割と課題について学びます。
第10回	ワークショップ（3） 単元の復習：マクルーハンのメディア論、インターネット	ワークショップ・インターネット
第11回	メディアと表象1 デジタルコンテンツの誕生	1877年のトーマス・エジソンによる録音技術の開発以降、アナログレコードやテープレコーダー、さらにデジタル技術の発展。2000年代から拡大したMP3プレーヤーやインターネットでの音楽配信サービスに至るまでの歴史について学びます。
第12回	メディアと表象2 プロパガンダ・コマーシャル	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて
第13回	メディアと表象3 メディアとアミューズメント	日本におけるクリスマスの受容の歴史について、また料理番組やレストラン批評、ネットでの料理の検索など料理をめぐるメディア論について学びます。

第14回 ワークショップ(4) メディアと社会をめぐるディス
単元の復習：デジタル カッション
ルコンテンツの誕生、ワークショップ・デジタルのイ
プロパガンダ・コ メージ
マーシャル、メディ
アとアミューズメン
ト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google Sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。美術展や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

マーシャル マクルーハン『メディア論—人間の拡張の諸相』みすず書房、1987年
吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話』有斐閣、2004年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』見洋書房、2001年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性や積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思います。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.

This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.

Focusing on the three themes of "History of Contemporary Media," "Media Theory," and "Media and Representation," we will consider and discuss issues and issues from keywords in each area.

1. Media history

Learn about the history of the media from ancient times to the present.

2. Media theory

We will clarify the media that work in society and their problems.

3. Media and representation

Read and understand various expressions from the perspective of the media.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of media and society from the past to the present. This lecture aims to find universal and social issues from everyday issues.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimental and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

身体表象論

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員60名。それを超えたら選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

視覚芸術・文化に表現された身体を手がかりに、身体をみる／みせるとはどういうことかについて学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置づけられたいのか、受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】

- ・芸術、文化における身体運動の表象形式を理解することができる。
- ・身体表象の特徴を、歴史的、社会的に位置づけることができる。
- ・作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
- ・リアクション・ペーパーのコメントを授業内で適宜、紹介することにより、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 絵画における身体（1）	基本概念・用語の説明。参考文献の紹介。遠近法、聖母子像について考える。ジョット、ラファエロなど。
2	絵画における身体（2）	ヴィーナスの表象について考える：ポッティチェリ、ティッツィアーノ、ジョルジョーネ、マネなど。
3	彫刻における身体（1）	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考える。ミケランジェロ、ベルニーニなど。
4	彫刻における身体（2）	日本における仏像の歴史と特徴的な姿勢について紹介する。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える。スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える。シェイクスピア、宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情と「自己」について考える。アウグスト・ザンダー、ダイアン・アーバス、シンディ・シャーマンなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える。アンリ＝カルティエ＝ブレッソン、ロバート・フランクなど。
9	映像における身体（1）	映画における身体表象を鑑賞するのに必要な知識として、ショットとアングルの効果について確認し、具体例を用いながら考える。小津安二郎、溝口健二など。
10	映像における身体（2）	映画における人種の表象について考える。『招かれざる客』、など。
11	服飾における身体（1）	西洋における服飾の歴史的変遷を概観する。
12	服飾における身体（2）	日本における服飾の歴史的変遷を概観する。
13	舞踊における身体（1）	モダンダンスについて概観し、それが映画に取り入れられていく事例を考察する。マヤ・デレン、『ダンシング・チャップリン』など。

14 舞踊における身体（2） 前回に引き続き、モダンダンスについて概観し、その一部が取り入れられたミュージック・ビデオの文化的意義について紹介する。授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に記載の資料を出来るだけ読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』（東京大学出版会）
諸川春樹他『彫刻の解剖学―ドナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
清水真澄『仏像の顔』（岩波新書）
飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
西村清和『視線の物語 写真の哲学』（講談社メチエ）
森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（見洋書房）
蓮實重彦『監督 小津安二郎 〔増補決定版〕』（ちくま学芸文庫）
ジル・ドゥルーズ『シネマ』（1・2）（法政大学出版局）
矢田部英正『たたずまいの美学』（中公文庫）
スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
鷲田清一『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）
ジョン・バージャー『イメージ』（PARCO出版）
ダムタイプ『メモランダム 古橋悌二』（リトルモア）

【成績評価の方法と基準】

平常点30%：毎月1回のペースで、リアクション・ペーパーを3回提出する。各回について、それまでの講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

学期末レポート70%：身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の進行状況により、扱うテーマや作品を変更することがあります。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: Through examining a form of body representation in visual art and culture, this course aims to introduce students to the way of viewing or showing the human body. With the idea of a historically or culturally defined boundary between the body and society, students will develop their own way of viewing the human body from a social perspective.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to understand the various styles in body representation seen in the field of art and culture and connect such styles with historical and social background. As a result, they will be able to provide a critical insight into the bodies in the work of art.

・ Learning activities outside of the classroom: read the recommended books in the 'References'.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 30%, Final paper 70%.

LIT200GA（文学 / Literature 200）

比較文化

岩下 弘史

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストコロニアリズム、オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの「理論」にも目くばせをしながら、比較文学・比較文化に必要な基礎を学ぶとともに、それらの理論を文学や映像作品など実際の芸術作品の比較分析に応用していきます。

【到達目標】

文化を比較するにあたって、単なる相違の指摘に留まらず、より深い社会的・文化的な背景の考察へと思考を深めていくときに役にたつのが、様々な「理論」です。この授業では、文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、具体的な作品分析への応用を通じてその理解を深めます。

授業での学びを通じて、学生は、ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになるとともに、様々な「理論」を理解し、作品分析に応用できるようになることを目指します。
また「理論」は必ずしも文化を理解するのに万能ではありません。「理論」の限界とそれ以外の文化研究の手法についても学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業資料を元に講義をおこないます。事前に課題図書を読む必要がある回もあります。また講義の残り15分ほどで、講義についての課題を提出してもらいます。
フィードバックとして、毎回次の授業の際に前の授業で出された課題への回答にコメントをしていきます。また授業冒頭では皆さんが提出した回答のなかで重要な論点につながるものを取りあげて、復習もします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初回説明	授業の概要を説明する。
2	比較文学・比較文化研究の歴史・概要	比較文学・比較文化研究の歴史・概要について理解する
3	比較文学研究と関わる「理論」について①	比較文学研究と関わる「理論」、主にポストコロニアリズムについて学ぶ
4	比較文学研究と関わる「理論」について②	比較文学研究と関わる「理論」、主にフェミニズムについて学ぶ
5	文学と思想のかかわり①——夏目漱石の『こころ』とウィリアム・ジェイムズの宗教思想との関わり	夏目漱石の『こころ』とウィリアム・ジェイムズの宗教思想との関わりについて学ぶ
6	文学と思想のかかわり②——夏目漱石の『三四郎』とフェミニズムとの関わり	夏目漱石の『三四郎』と同時代思想ならびにフェミニズムとの関わりについて学ぶ
7	国境を越える芸術作品——翻訳研究①（谷崎潤一郎『痴人の愛』、吉本ばなな『キッチン』などについて）	翻訳研究の実践から学ぶ
8	国境を越える芸術作品——翻訳研究②（多和田葉子『ええクソフォニー』を読む）	翻訳の意義について考える
9	国境を越える芸術作品——翻訳研究②（『フィッツジェラルド』『グレート・ギャツビー』と村上春樹らによる翻訳の検討）	翻訳研究の実践から学ぶ

10	アダプテーション研究——ジャンルを越境する文化①（『グレート・ギャツビー』の映画化についての背景）	アダプテーション研究や理論の概要を学ぶ
11	アダプテーション研究——ジャンルを越境する文化②（『グレート・ギャツビー』原作と映画の比較）	アダプテーション研究の実際の例を見て学ぶ
12	アダプテーション研究——ジャンルを越境する文化③（英米テレビドラマの比較）	アダプテーション研究の実際の例を見て学ぶ
13	比較文化研究の紹介——比較文化研究の実践に学ぶ	比較文化研究の実際の例を見て学ぶ
14	まとめと期末試験	授業のまとめをおこないつつ、期末試験に取り組む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・課題図書が出た場合は必ずそれを読んでください。
・4回以上課題を出さなかった場合、あるいは授業を欠席した場合単位修得の権利を失います。
・本授業の準備・復習時間は、約4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にないですが、各回に用いる資料は印刷して、あるいは学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1995）、佐々木英昭編『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996）、Ben Hutchinson, *Comparative Literature: A Very Short Introduction* (Oxford UP, 2018) など。その他適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・毎週の課題ならびに授業への参加（平常点）：65%
・期末試験：35%
・100点満点で60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

もう少しコメントを書く時間をとりたい。

【その他の重要事項】

受講者の人数や進度によって扱う題材に若干の変更があるかもしれません。あらかじめご了承ください。また成績のつけかたに若干の変更があるかもしれません。その際には必ず1～3回目の授業で繰り返しお伝えいたします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, students will learn the basics of the comparative literature and culture and finally how to analyze literary works and movies.

【Learning Objectives】

Students will learn how to compare and analyze literary works and movies in various viewpoints.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.

【Grading Criteria/Policy】

Assignments and active participation in class discussion: 65%
Final exam: 35%

LIT200GA（文学 / Literature 200）

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接なかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となります。皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、原則として毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。リアクションペーパーのコメントや質問については次回授業で取り上げてフィードバックをおこないます。また復習を兼ねたミニレポートを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／イントロダクション	授業計画の説明＋4つの「ポスト状況」と現代思想の問い（テキスト第1章）（リアルタイムオンラインで実施）
2	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
4	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
5	ことばとしての文化	構造主義革命と一般記号学（テキスト第5章）
6	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
7	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
8	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第9章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
10	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章）

11	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章）
12	「人文知」のあり方の転換(1)	20世紀思想の問題圏（テキスト第15章）
13	「人文知」のあり方の転換(2)	ポスト・ヒューマニズムをめぐる
14	学期授業の総括	学期末試験・振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストや事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までに作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平15章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010年）
※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】

・岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015年）
・石田英敬『記号論講義——日常生活批判のためのレッスン』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2020年）
※その他、授業で随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50％）をあわせて評価します。評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
- 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
- 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもてているか。
- 4) 授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者による自発的・主体的な問題発見や取り組みをさらに促すように努めたい。またクラス規模を考慮したうえで、出席者による議論や意見交換の機会を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料の配付や提出物の回収、授業に関する連絡など、学期を通じて学習支援システムを利用します。小テスト等で利用することがありますので、指示があった場合は授業にデバイス端末（PCやタブレットなど）を持参してください。

【その他の重要事項】

・初回授業はリアルタイムオンラインで実施します（詳細は秋学期開始時に学習支援システムに掲示します）。万一受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題にもとづき選抜をおこないます。
・履修者数などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

【Outline (in English)】

This course outlines the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called “linguistic turn” on the humanities. The goals of this course are to obtain basic knowledge of 20th-century cultural and social theories and theorists, to understand the inextricable relationship between language and culture, and to have a critical awareness toward the issues of the contemporary world. Students are expected to come to class well prepared by completing the required assignments; the required study time is more than four hours per class. The overall grade will be decided based on class participation (50%) and the final examination (50%).

PHL200GA（哲学 / Philosophy 200）

現代思想

森村 修

サブタイトル：「生まれてこない方がよかった」とはどういうことか？ ―― 反出生主義入門
配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年／隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】

本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。

2026年度も、デイヴィッド・ベネター（1966-）の『生まれてこないほうが良かった――存在してしまうことの害悪』（2006/邦訳新訂版2024）を通じて、世界中にさまざまな影響を与えた思想としての「反出生主義」について哲学的に考察する。その際に、ベネターのテキストを十分に理解するために、ベネターのテキストを翻訳した小島和男氏（学習院大学教授）の『反出生主義入門――「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか』（2024）を用いて授業を進める。

【到達目標】

(1) 「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができるようになる。
(2) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の方法】

毎回、授業概要を講義形式で行い、テキストの読解を授業内で試み、その理解を深める。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー	・授業の概要説明 ・デイヴィッド・ベネターとは誰か？
2	『反出生主義入門』①	I. 反出生主義にふみ込む前に① 1. なぜ倫理の問題を考えなければならないのか？ 2. 中絶は不道徳か否か？
3	『反出生主義入門』②	I. 反出生主義にふみ込む前に② 3. 未来への責任はあるか？
4	『反出生主義入門』③	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ① 1. 『生まれてこないほうが良かった』全体の構成 2. 可能的存在についての価値判断
5	『反出生主義入門』④	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ② 3. 基本的非対称性とその説明力
6	『反出生主義入門』⑤	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ③ 4. 快が苦を打ち消せば良いのはいかという反論
7	『反出生主義入門』⑥	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ④ 5. 人生の質の評価と世界における苦痛
8	『反出生主義入門』⑦	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ⑤ 6. 子どもを作る権利について 7. 妊娠中絶賛成派

9	『反出生主義入門』⑧	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか？ ⑥ 8. 段階的絶滅 9. 子どもを持たないことへの偏見とベネターの思い
10	『反出生主義入門』⑨	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと① 1. 『生まれてこないほうが良かった』がミソジニーである理由
11	『反出生主義入門』⑩	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと② 2. 自殺について
12	『反出生主義入門』⑪	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと③ 3. 親を責めても良いのか？
13	『反出生主義入門』⑫	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと④ 4. 子どもを作っては絶対にいけないのか？ 5. 「始める価値」と「続ける価値」の違いをベネターが強調しない理由
14	反出生主義とは何だったのか――総括	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと⑤ 6. パズル解きか実存的な自分の問題か？ 7. 反出生主義と教育、それと養子について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

(1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった――存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2024年
(2) 小島和男『反出生主義入門――「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか』、青土社、2024年

【参考書】

(1) David Benatar, *Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence*, Harvard University Press, 2006.
(2)
※ テキスト以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験・レポート（30％）、授業内レポート・レジュメ（30％）、平常点（40％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】

※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】

1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
3. テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第1回目の授業には必ず参加すること。
4. 2025年度では、受講生数が多すぎたため、事前に「選抜テスト」を行った。2026年度も同様の事態が危惧されるため、受講生が多数の場合には授業登録前に「選抜テスト」を行う予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about origin and essence of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the thought of modern trends. The purpose of this class is to philosophically examine "anti-natalism" through David Benatar's (1966-) "Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence" (2006/New Revised Japanese Edition 2024).

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

GDR200GA (ジェンダー / Gender 200)

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月9日（木）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（木）に学習支援システムでアップロードされる登録希望票を記入してください。締切は4月11日（土）の午前10時です。4月12日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。

●一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。

●毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形で提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル (role model)」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトウルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャルティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャルティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。

4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係性について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2025年）。
 千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。
 江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。
 高橋幸、永田夏来『恋愛社会学：多様化する親密な関係に接近する』（ナカニシヤ出版、2024年）。
 木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。
 伊藤 公雄、樹村 みのり、國信 潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月9日（木）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（木）に学習支援システムでアップロードされる登録希望票を記入してください。締切は4月11日（土）の午前10時です。4月12日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire basic methods of discourse analysis and conduct basic discourse analysis on various gender-related issues.

Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.

The final grade will be decided by the reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

LIN200GA (言語学 / Linguistics 200)

異文化間コミュニケーション

副島 健作

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化背景の異なる個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築くというのは、人や情報の往来が加速度的に増す今日、もはや特別なことではない。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどうことが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どのような知識や心構えが必要だろうか。事例に基づくケーススタディを通して、この問いをコミュニケーションの観点から考えていく。

【到達目標】

1. コミュニケーション分野の主要な理論や概念を学び、文化が私たちのコミュニケーションに及ぼす影響について理解を深める
2. 実際の異文化接触場面で活用していけるような知識を修得する。
3. 多角的な視点を獲得し、「相手」とのインターアクションを通じて関係を改善する能力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本人と外国人がコミュニケーションをする上で、また、性別や年齢、地域性や社会的役割などの文化差が起因となる諸問題について、ケーススタディに取り組んでいく。学期末には、授業のまとめの活動として受講生自身で身近な異文化摩擦や誤解のケースを収集し、討論や考察をすすめていく。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について解説する
2	「文化とコミュニケーション」について	「文化」をどうとらえるかについて講義する
3	判断保留・多面的思考の重要性について	現代社会を概観し、文化、コミュニケーション、異文化コミュニケーションの概念を整理する
4	事例研究① 海外旅行に関するケース	海外旅行で起きるすれ違いや摩擦
5	事例研究② 海外留学に関するケース	海外留学で起きるすれ違いや摩擦
6	事例研究③ 海外赴任に関するケース	海外赴任で起きるすれ違いや摩擦
7	事例研究④ 帰国日本人に関するケース	帰国日本人が経験する摩擦
8	事例研究⑤ 日本在住外国人に関するケース	日本在住外国人が経験する摩擦
9	事例研究⑥ 異文化に関するケース	異文化の違いによって起きるさまざまな問題

9	事例研究⑦ 国際協力に関するケース	国際協力における交流の諸相
10	事例研究⑧ 国際交渉に関するケース	国際交流における交流の諸相
11	事例研究⑨ マスメディアの影響に関するケース	メディア報道における交流の諸相
12	受講生による事例報告①：受講生のうち半数が発表	文化の体現者であるということ、異文化を理解するというところにおける問題点を考えながら報告するー受講生を半分に分け、前半グループが報告する
13	受講生による事例報告②：残りの半数が発表	文化の体現者であるということ、異文化を理解するというところにおける問題点を考えながら報告するー受講生を半分に分け、後半グループが報告する
14	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず教材の該当箇所を読んだ上で授業に参加し、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。また、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披露できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

石井敏・久米昭元(他)(2013)『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション-多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣選書

久米昭元・長谷川典子(2007)『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書

八代京子 ほか(2001)『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社

【成績評価の方法と基準】

平常点30%

提出物20%

事例報告20%

期末試験またはレポート30%で評価します。

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業なので、学生への質問も活発に行い、グループワークも適宜取り入れます。コミュニケーションが苦手な学生でも積極的に参加しようとする姿勢を評価します。一方、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢が少しでも見られれば、その受講生は教室内に存在していないとみなします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's world, where the traffic of people and information is increasing at an accelerating pace, it is no longer unusual for individuals with different cultural backgrounds to meet and build mutually understandable relationships.

When people from different cultures meet, what happens because of the different cultures in their backgrounds? What kind of knowledge and preparation is necessary to avoid the worst communication break? Through case studies based on actual examples, we will consider these questions from the perspective of communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn the major theories and concepts in the field of communication and gain an understanding of how culture affects our communication

2. To acquire knowledge that can be applied in actual cross-cultural contact situations
3. To gain multiple perspectives and develop the ability to improve relationships through inter-action with the "others".

【Learning activities outside of classroom】

Be sure to read the relevant parts of the study materials before participating in the class, and be prepared to raise questions about the content, discuss related topics, and make comments. In addition, students are expected to collect information so that they can express their own opinions on the set topics.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 30%, Case study report: 20%, Assignments: 20, in class contribution: 30%

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

国際関係学概論 I

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学とは国際・文化学？、国際文化・学？、それとも…？ また、「国際」とは何でしょうか。これらの問いを念頭におきながら、「国際関係」に文化からアプローチするための前提となる学びとして、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた／いるか、またその時代ごとの特徴、そして現代世界とその諸課題の所在、分析方法について学びます。対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要がある場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでいることを前提に進める。
3. 授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State Systemの特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。

3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家（nation state）の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家（nation state）及びnationというactorの登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
5	帝国主義と国際関係① 「つながる/つなげられる」	世界の一体化が進んだゆえの「分断」を学び、現代世界のグローバル化との関係を理解する。
6	帝国主義と国際関係② 「へだてる/へだてられる」	当時行われた「植民地」、「帝国主義」を対象とする研究やから、国際関係認識や分析の特徴を学び、現代世界でのそれらとの関係を考える。
7	帝国主義と国際関係③ 国際関係研究への視座	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
8	帝国主義と「民族」- 実態と概念①	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
9	帝国主義と「民族」- 実態と概念②	人類初の「総力戦」がもたらした国際関係の変化を、民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。
10	帝国主義と「民族」- 実態と概念③	国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障を中心に学ぶ。
11	第一次世界大戦と国際関係① 近代国際関係の再編	委任統治制度を中心に学ぶ。
12	第一次世界大戦と国際関係② 国際組織と安全保障	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認。
13	第一次世界大戦と国際関係③ 植民地支配体制の再編	
14	春学期の授業の総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に準備をする（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る。ただし証明資料を提出しない場合は認めない。）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに出された質問、その時々国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
2. 授業の2回目以後は対面授業を行うが、予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
3. Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたりして用いることは認めない。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.

It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学とは国際・文化学？、国際文化・学？、それとも…？ また、「国際」とは何でしょうか。これらの問いを念頭におきながら、「国際関係」に文化からアプローチするための前提となる学びとして、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた／いるか、またその時代ごとの特徴、そして現代世界とその諸課題の所在、分析方法について学びます。対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点、学際的な捉え方）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでいることを前提に進める。
3. 授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらい。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係	ヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊から第二次世界大戦に至る過程、第二次世界大戦の特徴を学ぶ。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合、人権を重視する諸政策、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。

4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設、新植民地主義につながる国際関係の特徴を学ぶ。
5	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT体制、冷戦的思考など冷戦体制の特徴、これらを対象とする戦後国際関係研究の特徴を学ぶ。
6	冷戦と国際関係②—核開発と管理	核管理をめぐる東西両陣営の対応、核抑止力を機能させた核実験の実態を学び、現在に続く核と「平和」の関係を考える。
7	冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した「熱戦」を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題	A・A会議、非同盟運動、新国際経済秩序など第三世界の動き、南北問題をめぐる「開発」と「発展」の問い直しを中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題の“解決”をめぐる	「南」から提起された「開発」、「発展」の問い直しと「平和」概念の変化を学び、現代国際関係にて多用されるようになった「グローバルサウス」概念との関係を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③—米ソ関係及び東西両陣営内の変化	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	新冷戦から冷戦体制の崩壊過程を崩壊後に持ち越された問題を中心に学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバル化	ポスト冷戦体制の国際関係を、新自由主義に基づく市場経済の拡大、世界各地で激化したかにみえる「紛争」、「9.11」と以後続くいくつもの「戦争」、安全保障体制の変化を事例に、現代国際関係の特徴を学ぶ。
13	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを取り上げ現代国際関係への理解を深める。
14	秋学期の授業の総括	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み込み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に臨む（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに出された質問、その時々国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
2. 予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
3. Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。
5. 「国際関係学概論Ⅰ」未受講者も受講可能であるが、「国際関係学概論Ⅰ」既習を前提に進める。未受講者はⅠのシラバスを参照し、テキストや参考書の関係箇所を読んで受講することを強く推奨する。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOC200GA（社会学 / Sociology 200）

国家と民族

宮本 佳和

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人（あるいはご自身のルーツを踏まえて考えてみてください）とは誰を指すのだろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れているかもしれません。しかし、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもあります。本授業では、日本とアフリカの事例をもとに、近代国家の成立過程、ナショナリズム、エスニシティ、植民地主義、移民問題などを取り上げ、国家と民族がいかに形成され、再編され、対立や共存を生み出してきたのかを考察します。

【到達目標】

- ・人種、民族、国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
- ・自明視されがちな「違い」を批判的に捉え直し、多文化共生社会を考えるための基礎的視座を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	国家とは何か	国家の定義、近代国家の特徴
第3回	民族とは何か	民族、エスニック集団、国民の基本概念
第4回	人種とは何か	創られた人種概念
第5回	エスニシティの社会的構築	境界線はいかに引かれるか
第6回	ナショナリズムの理論	創造の共同体、国民の形成、民族の統合・排除
第7回	中間テスト	第2回～第7回の内容の理解度テストと解説
第8回	近代日本の国家形成	明治維新と「日本人」の誕生
第9回	「単一民族」という神話	日本の中のアイヌと沖縄
第10回	アフリカ分割と創られた「部族」	分割統治と民族
第11回	ジェノサイドの過程とその後	ルワンダとナミビアの事例

第12回	アパルトヘイト後の南アフリカ	人種、民族を超えた国家統合の試み
第13回	日本の中の「外国人」	在日コリアン、ニューカマー
第14回	期末テストと総括	第9回～第13回の内容の理解度テストと解説、授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業内容の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト:25%、期末テスト:25%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:50%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）の提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
- ・初回授業において教室定員の都合で着席できなかった学生がいた場合は、当該学生に対してオンデマンドで授業資料を後日提供します。なお、第2回以降は教室を変更する予定です。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20%以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the basic concepts and theories of nation, ethnicity and Nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine theoretical perspectives, drawing on abundant empirical studies from Japan and Africa.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to understand how a nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours studying the course content.

[Learning Activities Outside of the Classroom]

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours studying the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid- and final examinations (25% each) and in-class contributions (50%).

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
(1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
(2) 国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
(3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
(4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture
【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー 国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際文化
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力ー期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%。
・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）。
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない。
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個人々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。単に学生が意見を言うだけでなく、それをもとに教員とやり取りを行うことで考えが深まると、学生から好評。

【学生が準備すべき機器他】
・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】
NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA (政治学 / Politics 200)

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実際に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高

めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとするについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内討論への参加度）20%、授業後課題30%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。

・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。

・学生からは「学びが大きい」「思考が深まる」というフィードバックが多いので、毎回のグループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・国際開発協力NGOやNHK記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
- 2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
- 3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA（社会学 / Sociology 200）

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月10日（金）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（金）に学習支援システムからアップロードされ登録希望票を記入してください。締切は4月12日（日）の午前10時です。4月13日（月）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。

●毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。

4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。
なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016年）。
- 伊藤雅之『現代スピリチュアリティ文化論：ヨーガ、マインドフルネスからポジティブ心理学まで』（明石書店、2021年）。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』（ミネルヴァ書房、2007年）。
- ロバート・D・パットナム、デイヴィッド・E・キャンベル『アメリカの恩寵—宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』（柏書房、2019年）。
- 石井研士『メディアと宗教』（弘文堂、2024年）。

- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）。
- 諸岡了介『世俗化論の生成：宗教という問いのゆくえ』（ミネルヴァ書房、2023年）。
- 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島蘭進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
- ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
- ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- ポール・シーブライト（黒輪篤嗣訳）『ビジネスとしての宗教』（東洋経済新報社、2025年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。
- 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月10日（金）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（金）に学習支援システムからアップロードされ登録希望票を記入してください。締切は4月12日（日）の午前10時です。4月13日（月）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.

Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

Religion and Society

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：25人程度。希望者多数の場合には、入学
 時以降のTOEFLやTOEICなど標準的なテストの結果と初回授業
 へのコメントを総合的に評価して選考します。

備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力
 基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level 1 500-539、TOEFL
 ITP Level 2500、TOEIC 675-819、IELTS 6.0、英検準1級程
 度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、
 担当教員に相談すること。

Courses in Intercultural Communication need the higher English
 proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP
 Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819,
 IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score
 mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to provide students with a comprehensive exploration of the complex intersections between society and religion in the context of a globalizing world. As globalization continues to shape and redefine human interactions, this course seeks to critically analyze the multifaceted roles that religion plays in influencing and responding to global dynamics. Students will explore issues such as immigration, nationalism, conflict, gender, sexuality, tourism, consumerism, and citizenship, all within the broader context of contemporary global society.

【到達目標】

By the end of this course,

- ① Students will have gained a nuanced understanding of the intricate connections between society and religion in the age of globalization, enabling them to critically engage with the complex issues that arise in our increasingly interconnected world.
- ② Through a multidisciplinary approach, students will be equipped with the knowledge and analytical tools to address the challenges and opportunities presented by the dynamic interplay of society, religion, and globalization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」
 に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The first part of class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course
2	Religion and Tourism	Modern Pilgrimage in Japan
3	Religion and Sport	Affinities in Religion and Sport
4	Religion and Gender	Anti-Hijab Protests in Iran
5	Religion and Diplomacy	Russian Orthodox Church and Soft Power
6	Religion and Sexuality	LGBTQ and Post-Colonialism in Africa
7	Religion and Nationalism	Yoga and Indian National Identity
8	Religion and Globalization	Mid-term examination
9	Religion and Global Capitalism	Consumer Jihad in Turkey
10	Religion and Immigration	Anti-Muslim Sentiments in Europe
11	Presentation ①	Oral presentation of final papers (Group 1 students)
12	Presentation ②	Oral presentation of final papers (Group 2 students)
13	Presentation ③	Oral presentation of final papers (Group 3 students)
14	Presentation ④	Oral presentation of final papers (Group 4 students)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read the assignments and be ready for class discussions. Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course web site.

【参考書】

Jayeel Cornelio, François Gauthier, Tuomas Martikainen and Linda Woodhead, eds., Routledge International Handbook of Religion in Global Society (Routledge, 2022).

【成績評価の方法と基準】

- ① Class participation 20%
- ② Mid-term examination (approximately one page in length) 20%
- ③ Final paper presentation 20%
- ④ Final paper (2-3 pages in length) 40%

Based on the grading criteria set by the instructor, students who successfully achieve 60% or more of the course goals will earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

LIN300GA（言語学 / Linguistics 300）

世界の言語Ⅱ

内山 政春

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・この授業は「世界の言語Ⅰ」と交替で隔年開講されています。「世界の言語Ⅰ」がヨーロッパ諸言語に関する内容であるのに対して、この授業ではアジアの言語、特に東アジア漢字文化圏各国（日本、南北朝鮮、中国、台湾、ベトナム）の言語を中心に取り上げたいと思います。しかしそれに限らず、言語をとりまくさまざまな現象に関して言及しながら、みなさんの学習言語が何語であれ、その学習に少しでも役立つような話をしたいと思っています。人工言語として知られるエスペラントについても取り上げる予定です。

【到達目標】
・言語について公平な視点をもてるようになること（一例をあげれば「日本語は非論理的、英語は論理的」のような俗説に惑わされないようになること）。そして学習言語と日本語をさまざまな側面から対照できる力をつけること。以上のことを目標にして履修してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・基本的には講義形式で行ないますが、SA先の言語に関して言及するときは、該当する学生に質問することもあるでしょう。毎回のみなさんの感想や質問は、次の授業で言及する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	言語と方言—ひとつの「ことば」とは—	・世界の国家数と言語数 ・言語と方言 ・日本の言語
2	言語の分類—やさしい言語と難しい言語—	・やさしい言語と難しい言語 ・系統論による分類 ・類型論による分類 ・外国語の難しさと文法
3	音声と音素—同じ「音」と異なる「音」—	・日本語のローマ字表記 ・音声と音素 ・ローマ字表記と音素 ・外国語学習と音
4	言語と文字—文字は「音」をあらわすものか—	・言語数と文字数 ・文字の系統と分類 ・ローマ字の広がり ・文字の目的
5	漢字と漢字文化圏	・言語としての漢字文化圏 ・中国語と漢字 ・漢字の伝播 ・表音文字の発達 ・漢字のしくみ ・形を失った漢字 ・漢字圏での固有名詞の読み方
6	中国語とその周辺 1	・「中国語」とは？ ・「中国語」の表記
7	中国語とその周辺 2	・「中国語」の用いられる地域 ・「中国語」は存在するか？
8	中国語とその周辺 3	・中国語を用いる2つの国家
9	台湾の言語 1	・台湾の中国語
10	台湾の言語 2	・「多言語国家」としての台湾
11	朝鮮語とその周辺 1	・朝鮮語の使用領域 ・言語と文字の名称 ・歴史と系統 ・朝鮮語の表記
12	朝鮮語とその周辺 2	・ハングルの出現 ・近代の朝鮮語 ・戦後の朝鮮語 ・ハングルの海外「進出」 ・南北の朝鮮語のちがひ ・語彙と文法

13	ヨーロッパの諸言語と文法カテゴリー	・ヨーロッパ諸言語の系統 ・ヨーロッパ諸言語の話者数 ・ヨーロッパ主要言語の語彙 ・語彙の借用 ・文法カテゴリー
14	エスペラント	・人工言語の試みとエスペラント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・SA先の言語はもちろん、その他の外国語にも、そして日本語にも、ことばと名のつくものに広く関心を持ってください。関連する本を積極的に読んでください。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特にありません。

【参考書】
・特に指定はしませんが、各項目に関して興味のある人は『言語学大辞典』（三省堂）を参照してください。

【成績評価の方法と基準】
・従来の対面授業では、毎回の授業の終わりに講義に関する感想や質問を書いてもらっていましたが、今回は授業では出席確認のみにし、感想や質問はHoppiiで提出してもらうことにしようと思います。その方が時間の余裕をもってまとまったことを書けると思うからです。リアクションペーパーの内容は最低字数を定め（200字）、毎回の内容を総合して評価します（100%）。100点満点で60点以上を合格とします。
・あまりにも出席が少ない場合、リアクションペーパーの内容があまりにもいかにげん場合には、毎回の提出評価の対象から外することもあります。

【学生の意見等からの気づき】
・授業が始まっているのに遅刻者が教室にゾロゾロ入ってくると、他の学生の迷惑にもなり、授業の進行も遅れがちになります。授業開始の時点で学生が着席しているのは「あたりまえ」のことです。それが守れない人、また私語をする人は、他の学生に迷惑となりますので、受講しないでください。

【学生が準備すべき機器他】
・教員が準備した映像資料を見てもらいながら話を進めます。

【その他の重要事項】
・順序と内容に若干の変更がある可能性があります。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire general knowledge about languages in Asia, especially East Asia, including Japan, Korea, China, Taiwan and Vietnam.
This course will also deals with so-called constructed language "Esperanto".
< Learning Objectives >
The goal of this course is to acquire a fair perspective on language.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to submit a reaction paper after class.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on your reaction papers.

LIN300GA（言語学 / Linguistics 300）

世界の英語

小中原 麻友

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化社会の現在、「英語」ほど広範に使用されている言語はありません。しかし、その「英語」とは一体どのようなものなのでしょうか。World EnglishesやEnglish as a lingua francaという言葉聞いたことがありますか。

英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、フィリピン、マレーシア等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらはWorld Englishes（世界の諸英語）と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展は、ビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような国際的な場において英語は、言語・文化の異なる者同士のコミュニケーションにおいて「共通語（a lingua franca）」として幅広く使用されています。本講義では、World EnglishesとEnglish as a lingua francaという2つの視点から、一見自明とも思われる「世界の英語」の実態について迫っていきます。

【学期前半】社会・人・言語へのグローバル化の影響や英語の国際的普及の過程を概観した後、特に、英米などの英語を母語とする国々やアジア諸国の多様化した英語変種の言語的特徴について、その歴史・社会・文化的背景にも触れながら学んでいきます。

【学期中盤】標準英語イデオロギーやネイティブスピーカー主義、英語帝国主義論、言語差別などの概念や現象について学習し、「英語」を取り巻く問題について理解を深めます。

【学期後半】ヨーロッパやアジア諸国での実際のコミュニケーションの事例を紹介しながら、ビジネスや高等教育等の国際的な場において言語文化を異にする者同士が、英語を共通語として使用してどのようにコミュニケーションを図っているのかについて、特にコミュニケーション・ストラテジーの使用を中心にその特徴を学んでいきます。

最終的には、学習内容に基づき、グローバル化社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察できるようにすることを目指します。

【到達目標】

1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴（音声の仕組み、および文法等）とその歴史・社会文化的背景について、具体的に説明することができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴について、具体的に説明することができる。
3. 標準語イデオロギーやネイティブスピーカー主義などの「英語」を取り巻く問題や重要性を批判的に考察し、説明することができる。
4. 上記1-3を踏まえた上で、グローバル化社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力・異文化理解力について批判的に考察し、自分の意見を具体的かつ論理的に述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・授業は、PPTとオンライン上で配布するワークシートを使用した講義の他、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、リーディング、リスニング等の活動も取り入れて進めます。
・授業毎に提出するリアクションペーパーに、個別にフィードバックを行います。また良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・本講義では、課題の提示や提出、フィードバックなどに、Google Classroomを使用します。法政大学のGmailアカウントで利用が可能です。アクセスコードは、初回授業までに学習支援システムよりお知らせしますので、事前に登録をしておいてください（一度登録しても、後から登録を取り消すことが可能です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介・履修条件、導入（選抜）アンケート
第2回	講義・ディスカッション（1）	The influence of globalization: Linguistic diversity and English users （グローバル化の影響：言語的多様性と英語使用者）
第3回	講義・ディスカッション（2）	The global spread of English （英語の地球規模の普及）
第4回	講義・ディスカッション（3）	Diversification of English and preparation for group presentations （英語の多様化、グループプレゼン準備）
第5回	グループ・プレゼンテーション（1）	Varieties of English (1): Englishes in the UK, the US, and Canada （英語変種（1）：イギリス、アメリカ、カナダの英語）
第6回	グループ・プレゼンテーション（2）	Varieties of English (2): Englishes in Australia, New Zealand, India, and Thailand （英語変種（2）：オーストラリア、ニュージーランド、インド、タイの英語）
第7回	グループ・プレゼンテーション（3）	Varieties of English (3): Englishes in Vietnam, Malaysia, Singapore, and Indonesia （英語変種（3）：ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアの英語）
第8回	講義・ディスカッション（4）	The legacy of colonialism, native speakerism and standard language ideology （植民地化の遺産、ネイティブスピーカー主義、標準語イデオロギー）
第9回	講義・ディスカッション（5）	Native-speakerism and language attitudes （ネイティブスピーカー主義と言語態度）
第10回	講義・ディスカッション（6）	English as a lingua franca (ELF) communication (1): Introduction （共通語としての英語（ELF）でのコミュニケーション（1）：導入）
第11回	講義・ディスカッション（7）	ELF communication (2): Communication strategies (CS) for supporting meaning-making （ELFでのコミュニケーション（2）：話し手の発話を支援するコミュニケーション方略）
第12回	講義・ディスカッション（8）	ELF communication (3): CS for coping with communication problems （ELFでのコミュニケーション（3）：コミュニケーション上の問題に対処する方略）

第13回	講義・ディスカッション（9）	ELF communication (4): CS for facilitating communication (ELFでのコミュニケーション（4）：コミュニケーション上を促進する方略）
第14回	期末試験（あるいは期末レポート）、および総括	期末試験の実施（あるいは期末レポートの提出）とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間/1回）を標準とします。
＜準備学習＞

1. リーディング課題（第3回、9回授業開始時まで；全2回予定）：指定の資料を読み内容を把握し、まとめる。
2. フィールドワーク（第2回、9回、12回授業開始時まで；全3回予定）：授業前までにインストラクションに沿って簡単なデータ収集・分析を行い、それに基づき考察を書く。
3. グループ・プレゼンテーション準備（第5～7回授業開始時まで）：グループごとのプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンの準備には、原則、学術的な図書や論文、あるいはウェブサイトを使用し、学術的根拠に基づいていない個人の作成したウェブサイトやブログ等は使用しないこと。

＜復習＞

1. 授業毎のリアクションペーパー（第2～14回；全13回予定）：第2回以降、授業毎に学習内容を振り返るコメントを書き、次回授業開始前日までにGoogle Classroomの指定のフォームから提出する。
2. その他、期末試験、あるいは期末レポートに向け、適宜、復習する。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書指定なし。ただし、以下の新書の一部を第2回のリーディング課題として使用予定。図書館にも所蔵はありますが、図書館へのアクセスが難しい学生については購入することを推奨します。
→ 久保田竜子, 2018. 『英語教育幻想』. 筑摩書房, 東京. (参考：アマゾンにて新書902円、Kindle 770円)
- ・その他、テーマごとに参考文献を紹介しします。配布資料やスライドは、原則英語です。
- ・授業のPPTは、授業終了後に、オンライン上で公開します。

【参考書】

＜World EnglishesとEnglish as a lingua francaについての背景知識＞

1. Crystal, D. (2003). English as a global language (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.
2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). Introducing global Englishes. London; New York, NY: Routledge.
3. Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students (3rd ed.). London; New York: Routledge. (Companion website: <http://www.routledge-textbooks.com/textbooks/9780415638449/default.php>)
4. Jenkins, J., Cogo, A., & Dewey, M. (2011). Review of developments in research into English as a lingua franca. Language Teaching, 44(03), 281-315.
5. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes paperback with audio CD: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge, UK; New York: Cambridge University Press.
6. Murata, K. (2015). Exploring ELF in Japanese academic and business contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications: Routledge.
7. Murata, K., & Jenkins, J. (2009). Global Englishes in Asian contexts: Current and future debates. Houndmills ; New York: Palgrave Macmillan.
8. Seidlhofer, B. (2011). Understanding English as a lingua franca. Oxford: Oxford University Press.
9. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). International English: A Guide to the Varieties of Standard English (4th ed.). London: Arnold.
10. 唐澤一友. (2016). 『世界の英語ができるまで』. 東京: 亜紀書房.
11. 末延寿生. (2010). 『ニホン英語は世界で通じる』. 東京: 平凡社.
12. 田中春美, 田中幸子 (2012). 『World Englishes – 世界の英語への招待』. 京都: 昭和堂.
13. 鳥飼玖美子 (2011). 『国際共通語としての英語』. 東京: 講談社.
14. 本名信行 (2002). 『事典アジアの最新英語事情』. 東京: 大修館.
15. 本名信行 (2003). 『世界の英語を歩く』. 東京: 集英社新書.
16. Jenkins, J. & Panero, S. M. [野上陽子 監訳] (2026). 『グローバルな英語たち：Global Englishes』 関西学院大学出版会.

＜リスニング教材＞

1. 榎木園鉄也 (2012). 『インド英語のリスニング』. 東京: 研究社.
2. 榎木園鉄也. (2016). 『インド英語のツボ：必ず聞き取れる5つのコツ』. 東京: アルク.
3. 柴田真一. (2016). 『アジアの英語』. 東京: コスモビア.
4. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008). 『いろんな英語をリスニング』 東京: 研究社.
5. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008). 『ダボス会議で聞く世界の英語』. 東京: コスモビア.
6. 平本照磨 (2010). 『究極の英語リスニング Worldwide』. 東京: アルク.
7. 里井久輝 (2019). 『世界の英語リスニング』. 東京: アルク

＜参考ウェブサイト＞

1. ACE. (2013). The Asian Corpus of English. Retrieved 23rd September 2014 <http://corpus.ied.edu.hk/ace/index.html>
2. IDEA (2017). International Dialects of English Archive. Accessed 20th September 2017 from <http://www.dialectsarchive.com/dialects-accents>
3. Sekiya, Yasushi, Kawaguchi, Yuji, Saito, Hiroko, Yoshitomi, Asako, Yazu, Norie, & Marphey, Phillip. (2006). World Englishes: English modules dialog based on research into sociolinguistic variation [Shakai gengogakuteki heni kenkyuu ni motoduita eigo mojuru] Retrieved 16th August 2016, from <http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>
4. VOICE. (2013). The Vienna-Oxford International Corpus of English (version 2.0 Online). Retrieved 23rd January 2013 from <https://www.univie.ac.at/voice/>

【成績評価の方法と基準】

＜平常点：5%＞

- ・「平常点」とは、出席率でなく授業内活動や質疑応答などへの積極的な貢献度を意味します。ディスカッションに積極的に貢献して下さい。
- ・授業毎のリアクションペーパーの提出率も平常点に含みます。
- ・遅刻2回（ただし、電車遅延は除く）で、欠席1回とみなします。

＜試験：50%＞

学期末（第14週）に試験を行うか、期末レポートを提出し、学習内容の理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。（補足：試験 or レポートの実施は履修者数によって決定しますが、参考までに、これまではレポートとなるケースが多かったです。）

＜その他授業内外課題：45%＞

- ・授業毎のリアクションペーパーの内容に加え、リーディング課題、フィールドワーク、グループ・プレゼンテーションでの学習内容の理解度と考察内容を総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

音声データ、録画データ等を使用して、多様な英語変種やそのような英語での実際のコミュニケーションを聞く機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末を持参してください。

【その他の重要事項】

※※重要：初回授業について※※※

受講希望者数が、例年より多くなった場合は、初回授業で選抜を実施します。よって、受講を希望する学生は、必ず初回授業に参加し、導入/選抜アンケートを提出してください。選抜を実施した場合、その結果は初回授業終了後、速やかに、各学生にメール等で通知します。

※※※※※※※※※※※※※※※※

授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In today's globalized world, English is one of the dominant tools for intercultural communication. But what exactly is this "English"?

Have you heard terms like "World Englishes" and "English as a lingua franca"? The global spread of English has given rise to diverse English varieties shaped by local sociocultural factors. These include not only the Englishes of so-called "English-speaking countries" such as the United States, the United Kingdom, Canada, Australia, and New Zealand but also English varieties spoken in Asian countries such as India, Singapore, the Philippines, and Malaysia. Collectively, these varieties are referred to in the plural form as "World Englishes". Moreover, globalization has significantly expanded international exchange and cooperation in business and education, leading to the widespread use of "English as a lingua franca"– a common language among people from different linguistic and cultural backgrounds. This course aims to explore the reality of "English", which may initially seem straightforward, through the lenses of "World Englishes" and "English as a lingua franca". By the end of the course, students will critically examine the role of English and the communication competences required in the globalized world, building the knowledge gained throughout the semester.

[Learning Objectives]

1. Students can explain in detail the phonological and grammatical features of English varieties that have emerged through its global spread, as well as their historical, social, and cultural backgrounds.
2. They can describe in detail the realities and characteristic features of communication in English as a lingua franca.
3. They can critically analyze and explain issues surrounding English, such as standard language ideology and native-speakerism, and their significance.
4. Building on their understanding of the above points, they can critically examine the role of "English" and communication competences in English required in the globalized world, articulating their opinions in a specific and logical manner.

[Learning Activities outside of Classroom]

The standard preparation and review time for this course is set at two hours each (a total of four hours per session).

< Preparation >

1. Reading Assignment (by the beginning of Sessions 3 & 9): Read the assigned reading materials.
2. Fieldwork and Report (by the beginning of Sessions 2, 9 & 12): Carry out fieldwork three times.
3. Preparation for a Group Presentation (by the beginning of Session 5/6/7): Prepare presentation slides for your group presentation about varieties of English.

< Review >

1. Weekly comments (Sessions 2-14): Reflect on what you've learned in each session, and write comments in a designated form on Google Classroom. Submit the comment one day before the next session each week.
2. Preparation for final exam (or a term paper): Prepare for the final exam (or a term paper) by reviewing what you've learned in each of the sessions.

[Grading Criteria / Policy]

1. Class contribution (5%): Active contribution to class will be evaluated. Students are expected to contribute to discussion actively. The submission rate of weekly comments is counted here.
2. Final exam/term-end paper (50%): Exam answers (or term-end paper) will be evaluated in their contents.
3. Other tasks (45%): Weekly comments, reading assignment, fieldwork reports, group presentations will be evaluated in their contents.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）	
メディア表現法	
大嶋 良明	
配当年次／単位：2～4年／2単位	
旧科目名：	
旧科目との重複履修：	
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall	
人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。	
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい	
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう

PCを使つてのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。**Photoshop** を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組む。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、**Web** やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるのかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法(講義と実習)

・デザインの基礎と **Photoshop** の応用技法

- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用

- レイヤー、マスク、フィルタの技法

- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、**Photo-realistic** な

作品作りに必要な写真理論

- **DTP** に向けてのスクリーン、プリンタの利用法

●クリティーク（合評）と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

・デジタル写真のリタッチ

・ポスター作り (**Photoshop** + 大判プリンタ・**Web**)

・写真表現の作品化 (アルバム・**Web**)

・自由なテーマによる最終課題 (**Photoshop** + 大判プリンタ・**Web**)

●大事にしたいこと

・誰もが自分だけの **something** を持っている。みんなで学ぼう。

・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。

・「コンピュータに簡単に打ち込めない世界」を大事にしよう。

・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理 (近接、反復、整列、コントラスト) を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前 2 回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。

4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。
5	メディア処理ソフトウェアの実践－画像レタッチソフト（ Adobe Photoshop CC ）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。 Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第 9 回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、 DuoTone	RGB 、 HSB 、 CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、 DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携行し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを平日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop5.5 and

Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X

制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop

Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

制作テキスト (CMYK 変換、色域外警告について参照)：Adobe Photoshop

Classroom in a Book (2022 release): ISBN-13: 978-0137621101

デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：

R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、

ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社(2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性,30%)、クリティーク(課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作(35%)、ePortfolio 個人の作品集づくり、20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。2023 年度は印刷出力に関し色域外警告の取り扱いと **CMYK** への変換について説明内容を増補充実させた。また 2022 年度より継続的に PC 実習機の問題解消に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

素材撮影のためにデジタルカメラが必要、光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。制作のためのフォトリント用紙など課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。提出作品はePortfolioにて保存公開する。

【その他の重要事項】

【重要】生成AIの出力をそのまま作品またはその一部に使用することは禁じる。受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshopの応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique and review: 15%

Homework and in-class assignment: 35%

Individual e-Portfolio: 20%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

プログラミング言語基礎

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義ではオンライン併用環境であることを考慮し、使用言語をJavaScriptとする。ただし、基本的なプログラミング言語とも云えるC言語についても、データ型の概念、配列、関数、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学ぶために適宜補足として取り入れる。JavaScriptやC言語を実際に使いながら基礎的な概念を学び、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。

【到達目標】

プログラミングの基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。
具体的には、プログラミングで用いる用語や概念を理解し、独力でプログラミングに関する本を読んで理解できるようになること、かつ簡単なアルゴリズムを学習することで簡単なプログラムを実装できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、(1)プログラミング言語仕様や構造の理解、(2)具体的な文法の学習、(3)プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をとおして学習結果を確認する。

情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにとまなう各回の授業計画の修正については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。抽選の可能性があるので、履修予定者は必ず初回授業前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方、目的などを確認する
2	JavaScript 概説	JavaScript のプログラム（ソースコード）を記述するための環境（実装環境）および実行環境を確認する
3	変数、データ型	使用できる変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
4	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
5	文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
6	条件分岐	if文用法を学習し、具体的問題を作成してみる
7	繰り返し	for文、while文の構造を学習し、問題に適用する
8	基本的なアルゴリズム（1）	並べ替えを例に、同じ問題であっても対応するアルゴリズムが複数あることを学ぶ
9	基本的なアルゴリズム（2）	アルゴリズムを学んだ上で、それをコードとしてどう表現するのかを学習し、試す
10	アルゴリズムの実装	データの並べ替えを行う簡単なプログラムを実装する
11	関数（1）	関数の概念と文法（形式）を学ぶ
12	関数（2）	実際に自分で関数を作ったり、すでに用意されている関数を使ったりして、目的を達成するコード作成を目指す

13	正規表現	正規表現の概念を学習し、パスワード強度チェックなど実際のサンプルコードを使ってを試行する
14	テストと授業のまとめ	授業での学習内容について、理解度を確認するためのテストを行う。また、テストの解説を行うことで授業をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を復習し、課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【参考書】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点（授業に対する貢献など）20%、課題 30%、期末テスト 50%、で行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

対面での期末テストの実施が困難であればオンライン試験を代替として行う。この場合は、期末テストの配分を下げ、小テスト・課題・レポート、授業内掲示板のコメントや情報共有を平常点を相対的に上げる予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、テキストエディタを用いることを前提としている。

オンライン併用の場合は、実習の質問対応も含めて適宜Zoomを用いる可能性がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席し、資料等を閲覧・確認すること。

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録してから、初回授業に参加すること。

【前提科目】

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will focus on the programming language specification and syntax of JavaScript and C language, which is one of the most famous programming languages, and learn the basics concepts related to programming.

(Learning Objectives)

To understand how to write and execute basic programming constructs and basic grammar, and to acquire the ability to create simple programs.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end report (50%).

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

社会とデータサイエンス

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業ではIoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】

ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義はPCを使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、課題・小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。
情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにとまう各回の授業計画の修正については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。抽選の可能性があるので、履修予定者は必ず初回授業前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。
課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoTとビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	4つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	標本調査における無作為抽出と標本誤差について学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ

12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する
13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する
14	議論と考察、授業のまとめ	授業内で扱ったデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。 また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指定する。

【参考書】
授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点20%、小テスト20%、プレゼンテーション30%、レポート30%で総合的に行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、Excelでデータ分析ができる環境を前提としている。
最終課題となるプレゼンテーションは対面授業であってもZoomを用いることを想定している。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者数が定員を超過する場合は抽選を行う。
初回授業はZoomを用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録した上で初回授業に出席すること。
詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。
授業内容は、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進みます。

【Outline (in English)】
(Course outline)

In this class, you will learn how data, which may be obtained not only from data created by computers, but also from various sensors, human behavior, and information released by public institutions as "open data", is used in social activities. The keywords are "data science", "Internet of Things (IoT)", "open data" and "big data". Students will learn and practice the handling and visualisation of various types of data.
(Learning Objectives)

- Learn about some examples of data science as a way to make use of the vast amounts of data described by terms such as Big Data, IoT and Open Data.

- We will learn about the common properties of data with different contents and formats, and statistics.

- Learn and practice how the same data can be communicated in different ways depending on how it is visualised.
(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the mid-term exam (20%), in-class contribution(20%), and the term-end preseentaion (30%) and report (30%).

HUI200GA (人間情報学 / Human informatics 200)

道具による感覚・体験のデザイン

甲 洋介

サブタイトル：カラダの『体験』から空間をデザインする

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「体験」という個人的な出来事を、受講生がアタマとカラダを使って「体験し直す」ことを目指す科目である。

● 日常の体験こそ奥が深い

体験という言葉からあなたが思い浮かべるのは、忘れられない出来事、驚いたこと、可笑しい体験、つらかったことなど、ほとんどが『非日常的な』体験ではないだろうか。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の豊かな体験にこそ目を向けるべきである。本講義によって受講生は、一見些細に思える日常の体験においてさえ、身体のださまざまな感覚は研ぎ澄まされ、わずかな世界の変化を感じ取り、豊かに感情が湧き起こり、体験が生み出されていくさまを理解できるようにする。

● 『体験』から、空間をデザインする

今年度は、「空間の体験」を取り上げる。本講義を通じて受講生は、人間は他人との間にある距離・空間を絶妙にコントロールしながら、互いに巧みな空間行動をしていることを理解できるようにする。たとえばキャンパス、マーケット、カフェ、広場、駅ナカなど、多くの人々が行き交う場は、人間の空間行動の特性を観察し、解析するには格好の空間である。

身体は空間を感じ、体験を生み出す。空間のデザインによって、そこでの体験はどのように変化するか。この理解をベースにし、日常の空間をデザインし直すことに取り組む。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。

● 体験をデザインする、ということ

「経験」「体験」(experience) が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される。仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」は急速に変化し、どこまでが想像で、どこからが本当の体験なのか、その境界は曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、“あたかも体験したかのように”受け入れていることに気づく。本講義を通じて、この現象を、デザインの視点から批判的に問い直すことになる。

【到達目標】

受講生はつぎの3つについて、基本用語を使って簡潔な説明ができるようになる。

- 1) 体験するとはどのようなことか
- 2) 人間は、どのように空間を身体で感じ、感情を働かせながら、人との距離や空間を互いに調節し、巧みな空間行動をしているか
- 3) 空間の体験は、その空間のデザインによってどのように変化するか。そして、これらの知識を用いて具体的対象に対して基本を実践できるようにする。これを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせで展開させる。講義で取り上げる3つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回内容のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。

● 【講義の3つのテーマ】

- (a) 身体と感覚、体験するということ
- (b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
- (c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

● 【デザインワークショップ】

さらに上記テーマのうち(b)空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス

第2回	[A] 身体、感覚、体験	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚
第3回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験
第4回	感情の科学：感情をともなう体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム
第5回	[B] 人間の空間行動と空間体験のデザイン	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）
第6回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動
第7回	人間の空間行動～パーソナルスペース	空間行動は、文化の中に組み込まれている
第8回	デザインワークショップ1	からだが『空間を体験する』
第9回	[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す	体験experienceから、空間をデザインする
第10回	空間の体験 ～道具によって空間の体験を作る	学校という空間、カフェという場所。空間体験から考え直す
第11回	身体からみた『日本庭園』～日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第12回	デザインワークショップ2	カフェ、オフィス、学校、『場所』のデザイン、発表と討議
第13回	空間体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。スヌーズレン。仮想現実VR、拡張現実AR、ミックスリアリティMR、代替現実SR
第14回	まとめ：身体、感覚、体験-revisit -	生きられた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・デザイン課題、発表のための資料づくりがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示をする。

【参考書】

- ・「経験としての芸術」(J. デューイ) 講談社学術文庫, 2004
- ・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
- ・「空間の経験—身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート、作品制作 (50%)
 - ・コメントシート、発表、討議への積極的な参画、平常点 (50%)
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システムを利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

講義を言葉で理解するだけではなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、闇の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【重要な関連科目】

「道具のデザイン学」「こころの科学」「仮想世界研究」と組合せ受講することが望ましい。それらで学んだ知識を用いて、この講義および実習をより深い理解に基づいて進めることができるようになる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

P Cおよび、D V D、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn (a) the basic concepts of experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) the “design of experience”. This year, we will focus on human spatial experience and the design of spatial experience.

By the end of the course, students should be able to (a) explain the relationship between experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) practice basic principles of “experience-based design” based on the understanding of the above basic concepts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/work product (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

メディアアートの世界

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう
本講義では芸術表現のためのプログラミング言語Processingのプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつあるp5.js環境でのProessing流プログラムのWeb環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】
メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。
Processingの制作環境での描画や対話機能を身に着け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。
IoTやMakerムーブメントなどWebと現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
情報実習室において講義と実習を行う。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
Processingプログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。
●ePortfolioによる学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Processing入門	Processingとは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processingの基礎（1）：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題からProcessingプログラミングの基礎を習得する。
3	Processingの基礎（2）：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processingの基礎（3）：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース【制作課題1】	マウス追従、キーボード入力などユーザのGUI操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題1】 習得した技法を総合して写真コンテンツのWebを制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出【制作課題2：学習成果のまとめとWeb化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。 【課題】 学習成果を活用してProcessing作品を制作する。p5.jsによるWeb化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。

10	オブジェクト【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】 学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用なビスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON形式の外部データ、API経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】 制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduinoマイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアをProessing作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processingをはじめよう 第2版 (Make: PROJECTS)」、オライリージャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】
【Processing】
Daniel Shiffman (著)、尼岡 利崇 (翻訳)、「初めてのProcessing」、オライリージャパン (2018)、ISBN-13 : 978-4873118611
【p5.js プログラミング】
Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之 (監修)「Generative Design with p5.js—ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974
【メディアアートのためのプログラミング】
Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design — Processingで切り拓く、デザインの新たな地平」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134
【ジェネラティブ・アート】
マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修)、沖 啓介 (翻訳)、「普及版」ジェネラティブ・アート—Processingによる実践ガイド」、ピー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業参加の積極性,20%)、中間課題(30%)、最終課題(40%)、相互批評(10%)を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定しProcessingの可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できるPCとWeb環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。メディアアートの動向にも触れる機会としたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室において授業を行う。各自のPCや携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(WebClass)に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】
自分できざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。
情報系教員によるクラス授業であり、Webを基盤とするICTの活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。
関連科目：「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】
担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Critique: 10%

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2026/5/1

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーション I

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

備考（履修条件等）：※国際文化学部のみ履修可能。

※「Art, Rebellion and Advertising」と同一の科目です。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine certain cultural phenomena that impact our lives. Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere appearance. The notion of 'possibility' will be used to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course is designed to improve students' critical thinking ability by challenging their belief systems while examining three cultural phenomena – art, rebellion and advertising.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Emphasis throughout this course will be on the notion of 'possibility' – the exercise of looking beyond mere surface appearance. We will use this notion of 'possibility' to explore three major themes – art, rebellion, and market advertising. Each theme will be explored through short authentic readings, visual material, and music CDs, all of which will be used to set the groundwork for group discussions and an exchange of viewpoints. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Theme: Art Topic: Symbols and Logos	English lecture, reading, discussion and written assignment on symbols and logos.
Week 3	Theme: Art Topic: Symbols and meanings in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'	English reading, lecture and discussion on the symbols and their means in Vincent van Gogh's 'Peasant Shoes'.
Week 4	Theme: Art Topic: Analysis of Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'	English lecture, reading, discussion and written assignment on Vincent van Gogh's 'Wheatfield with Crows'.
Week 5	Theme: Art Topic: A Comparison of Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'	English reading, lecture and discussion on Edward Hopper's 'Nighthawks' (1942) and Archibald J. Motley Jr.'s 'Nightlife'.

Week 6	Theme: Art Topic: Art and Function: Can functional objects be works of art?	English lecture, reading, discussion and written assignment on whether functional objects can be considered works of art.
Week 7	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s	English reading, lecture and discussion on the music of Woody Guthrie and the Dustbowl of the 1930s.
Week 8	Theme: Rebellion Topic: Music as means to change – Bob Dylan and Neil Young	English lecture, reading, discussion and written assignment on the music of Bob Dylan and Neil Young as a stimulus for social change.
Week 9	Theme: Rebellion Topic: Martin Luther King: 'I have a dream' speech	English reading, lecture and discussion of Martin Luther King's 'I have a dream' speech.
Week 10	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising techniques.
Week 11	Theme: Advertising Topic: Advertising techniques continued	English reading, lecture and discussion of more techniques used in advertising.
Week 12	Theme: Advertising Topic: Advertising vs Branding	English lecture, reading, discussion and written assignment on advertising and branding.
Week 13	Theme: Beliefs Topic: Is the unexamined life worth living?	English reading, lecture and discussion on the underlying beliefs people seldom consider.
Week 14	Theme: Final remarks and discussion	Final remarks and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Student presentations are to be researched outside class. Most presentations will have both a written and visual component. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

Students are required to give presentations based on topics discussed in class. The purpose of the presentations is to further class discussion. Students are required to complete all assigned presentations to receive a passing grade. Class grade is based on presentations and participation in class discussions.

Presentations – 70%

Class Participation – 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

None

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅡ

K r e g g J o h n s t o n

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to help students accomplish the following: 1) develop their knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics, 2) understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically, and 3) analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. Students read individual chapters in the book.
 2. A teacher-led discussion on the material from each chapter is held.
 3. Student-led discussions in small groups covering self-check questions, review questions, and critical thinking questions are held.
 4. End of chapter quizzes are taken.
 5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter) are given.
 6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting) are assigned and given.
- Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is Important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture and on why it is important for everyone to be able to understand Economics.
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories & Models/ Economic Systems	English reading, discussion and written assignment on economic systems.
Week 4	Choice in a World of Scarcity: Choice & Budget Constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets.
Week 5	Choice in a World of Scarcity: Social Choices & Objections to the Economic Approach	English reading, discussion and written assignment on economic & social choices.

Week 6	Demand & Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/ Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of supply and demand.
Week 7	Demand & Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with demand & supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	Elasticity: Price Elasticity of Demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand.
Week 9	Elasticity: Price Elasticity of Supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply.
Week 10	Cost & Industry Structure: Explicit & Implicit Costs/ Accounting & Economic Profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit.
Week 11	Cost & Industry Structure: The Structure of Costs in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs.
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm Output	English reading and lecture on the concepts of market competition.
Week 13	Perfect Competition: Entry & Exit Decisions in the Short Run & Long Run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close.
Week 14	Examination/ Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Read the assigned chapters in the book.
 2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
 3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
 4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class.
- The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. <<http://cnx.org/content/col11627/latest/>> .

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Quizzes 50%
- ・ Participation 20%
- ・ Homework 15%
- ・ Written Assignments 15%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring a digital device to class, such as a computer or iPad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅢ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth Culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, selfies, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth Employment: Where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly Trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and Employment: Working life What is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research Habits: Conducting group research-different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.

Week 6	Alternative Career Tracks: Unusual fields for employment Outlining of Presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Medical Advances: How medical technology is shaping our world of diseases & viruses Presentation Tip—Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Medical Research: Big pharma and how medicine changes our reality Presentation Tip—Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.
Week 9	Health Issues: Diet considerations for life stages Presentation Tip—Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Mental Health Considerations: Overworking, group and relationship stresses Presentation Tip—Group Work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.
Week 11	Technology in Our Blood: Technology changes Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up Presentation Tip—Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	Youth Trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes	Student Group Presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes	Student Group Presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course Overview Discussions: Discussion of life themes used in the semester	Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
 25% Short Presentations

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact

kasmersensei@gmail.com

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅣ

ウォルター・カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Describing Your Life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.
Week 3	Describing Other Lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.
Week 4	Explaining Customs in Your Country: Holidays, national/regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.
Week 5	Explaining Customs in Selected Asian Countries: Holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research—different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.

Week 6	Explaining Customs in Selected Western European Countries: Holidays, national/regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Discussion of Asian and Western National Differences: National holidays, national/regional habits Presentation Tip—Explanation of Structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Discussion of South American Customs in Selected Countries: Discussing cultural difference Presentation Tip—Use of Voice and Posture: Voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.
Week 9	Discussing Food Habits: Diet and how it affects customs Presentation Tip—Use of Slides: Slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Habits of Selected Parts of Africa: National holidays, national/regional habits Presentation Tip—Group Work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.
Week 11	Examination of Sports by Continent in Selected Countries: Sports comparison by types, number of players Presentation tip—Final Slide Editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	African Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What would you do? — Culture clash examples	Student Group Presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	South American Presentations with Discussion of Main Themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules	Student Group Presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 14	Course Overview Discussion of Contrasting Presentation Themes: Discussion of cultural contrasts from country to country and region to region	Recap lecture and group discussion of the cultural and regional themes covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)

25% Short Presentations

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅤ

ジョナサン・エイブル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pair work and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pair work practice of a preassigned conversation, (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic, (d) a news item pair work reading and listening, and (e) a task-based pair work activity. Students' progress in pair work activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Money & Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1
Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood.' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2

Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if...?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'What if...?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8
Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9

Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session – Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion – Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/ Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Final Exam – 30%
- ・ Weekly Conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests – 40%
- ・ Class Participation – 20%
- ・ Word-up Tests – 10%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションVI

ラスカイル L.ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal Peoples, Canadian Arts, Multiculturalism and English/French Culture.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Canadian Life course explores Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Canadian Geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada – The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada – Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada – The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation

Week 6	Regions of Canada – Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation
Week 7	Canadian Art – The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art – Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation
Week 9	Canadian Music – Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music – Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Conversation: 'Trudeaumania!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Skiing Mt. Whistler' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Question & Answer Session – Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

Students will be graded on their
 1. Bi-weekly Presentations – 70%
 2. Weekly Quizzes – 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションVII

ANDREW JONES

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

60% Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).

20% Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.

20% Portfolio of notes taken during lectures.

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションVIII

DANIEL G DUSZA

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse using a variety of communication methods related to presentations and discussions of both Japanese and foreign cultural topics. Students will discuss and present from a selection of topics provided in each class. Following each presentation, there will be a brief lecture and Q&A session. Students will then write a reflection, which will be submitted as homework.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is to discuss, research, present, and report cultural topics of interest at a level for academic writing or presentation. Students will have opportunities to practice and improve these skills in each class. Cultural issues will be drawn predominantly from news and advertising media.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第2回	Presentation Introduction: How to format and deliver an academic presentation	Introduction to key vocabulary in presentations: cohesive devices, transition statements, and signposting.
第3回	Traditional Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第4回	Contemporary Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第5回	Future Themes: Cultures, Lifestyles, and Kind Acts of Humanity	Presentation on a News Article. Note-taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment.
第6回	Present Theme of Choice	Student skills will be assessed by delivering two presentation summaries in class. The first will be chosen from one of their previous works, and the second will be from a unique set of themes.

第7回	National Festivals and Events (Descriptive)	Students prepare a descriptive presentation of a chosen national event, depending on their nationality, present it to the group, and fill out a reflection of what they have learned from their peers.
第8回	International Festivals and Events (Comparative)	Students prepare a comparative presentation of a favorite national event, depending on their nationality, present it to the group, and fill out a reflection of what they have learned from their peers. This presentation has a research component.
第9回	National and International Customs (Process)	Students prepare a presentation or essay explaining two kinds of processes (i.e., directional and informational). At the end of the class, students reflect and summarize what they learned from their peers.
第10回	Introduction to Debating and Arguing: Traditional Cultural Themes	Students learn a framework for preparing a single-sided argument. A debate topic will be chosen from a list and will prepare their single-sided argument manuscript or presentation.
第11回	Practicing Debate and Argument: Contemporary Cultural Themes	Students use the single-sided argument framework to present or write about a contemporary issue of their choice.
第12回	Introduction to Presenting a Two-sided Argument: Contemporary Global Themes	Students learn a framework for preparing a two-sided argument on a topic related to "Making a Better Future for Humanity." Students will choose their topic (e.g., cultural, economic, political, and environmental) and provide a summary of what they would like to discuss. Students will then develop support for their two-sided argument essay/presentation/speech/poster presentation.
第13回	Delivering a Two-sided Argument	Students will continue developing their two-sided argument by adding opposing evidence from interviews, web searches, AI interactions, and research. Referencing, cohesive devices, and formatting will be discussed. Students will then have one week to complete their artifact for final assessment.
第14回	Comments/ Summaries/ Conclusions	Students will receive detailed feedback and comments regarding their achievements and how to continue to improve their academic communication skills in the future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading and research on assigned topics.
 The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Material will be sourced online or provided in class.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.
 Weinschenk, S. (2012). 100 things every presenter needs to know about people. New Riders.

【成績評価の方法と基準】

30% Class Participation (Miscellaneous)
 30% Written Assignments (Summaries)
 40% Presentation(s) (Speech, Presentation, Poster, Essay)
 Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションIX

MARK E FIELD

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

備考（履修条件等）：※国際文化学部のみ履修可能。

※「The History of Tourism」と同一の科目です。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will explore the history of tourism and its continued expansion in a constantly globalizing world. All third and fourth-year students in the Faculty of Intercultural Communication have some experience with International Travel and living in a Foreign Country through their Study Abroad experience, which is an Intercultural Communication Activity sometimes described as Cultural or Educational Tourism.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The theme of this English Application course is to explore how the world continues to become increasingly interconnected due to better communication systems and increasing opportunities for international travel. It will also examine how more people around the world are experiencing interactions with people from different countries and cultures, i.e., directly experiencing Intercultural Communication through tourism.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In this course, we will first look at the historical development of tourism and its expanding cultural significance. Later participating students will be asked to investigate potential areas and/or sites where tourism is developing or may be developed in the future. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	History of Tourism: World Tourism Day	Brief English lecture on UNWTO. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	History of Tourism: Global Code of Ethics for Tourism	Brief English lecture on UNWTO's Code of Ethics, students take notes, then discuss parts of the code and their practical meaning.
Week 4	History of Tourism: The Development of Mass Tourism	Brief English lecture on the technological and economic changes that made modern mass tourism possible. Students take notes, followed by class discussion, and Q&A session.

Week 5	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourist destinations incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 6	Tourist Markets: Transportation & Infrastructure	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 7	Tourist Markets: Accommodations	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 8	Tourist Markets: Attractions & Activities	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 9	Expanding Roles of Tourism: Student Presentations	Students make presentations on specific tourism related topics incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 10	New Modes of Tourism: Cruises	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 11	New Modes of Tourism: Thematic Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 12	Business Constraints: The Economics of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 13	Social Considerations: The Environmental and Cultural Impacts of Tourism	Brief English lecture. Students take notes, followed by small group discussions, and Q&A session.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review vocabulary and previous lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material early in the semester, and participating students will generate more course material as the semester progresses.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)

20% Short Presentations

40% Final Examination/Term Project

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance. The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】

OHC and PC presentations.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

LANe300GA (英語 / English language education 300)

英語アプリケーションⅩ

ラスカイル L.ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 4	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: Create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 5	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.

Week 6	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 7	Mid-term Presentations	Individual Student Presentations to the class
Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint.
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition.
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations.

The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework
 20% In Class Work
 30% Midterm Presentation
 30% Final Presentation

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）		
ドイツ語アプリケーション		
林 志津江		
配当年次／単位：3～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
これまでのドイツ語学習やSAプログラム・派遣留学などを通じて獲得したドイツ語運用能力を維持向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く・話す楽しみをともに味わって参りましょう。		
【到達目標】		
1) A2 B1 レベルのドイツ語テキストを辞典類を用いて読解し、その表現を用いて自らもドイツ語で叙述・表現することができる。		
2) ドイツ語で読んだテキストを関連付け、ドイツ語圏の生活、文化、社会など各種トピックについての理解を深めることができる。		
3) 特定のテーマについてドイツ語で意見を述べたり聞き取ったり、平易なレベルの議論を行うことができる。		
4) まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。各参加者のドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、テキストの理解を深めていきます。		
・各回、指定されたドイツ語テキストを前もって読んでおきます（予習）		
・授業は各回、テキストの読解分析が中心です。テキストの内容と重要概念（語彙）を確認しつつ、読解で確認した構文を使った作文練習をします。		
・ペアワーク、グループワークと並行して、学期中に各参加者はプレゼンテーションを行います。		
・プレゼンテーション課題の詳細と担当割り振りは授業第1回目に説明・確認します。		
・LMSとして、Google Classroomを使用します。連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。		
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、全体と個別に向けて行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などを確認します。
2	Moderne Geschichte: Vom Reich zur Republik	ドイツ近代の歴史：ドイツ帝国の成立 — 激動の19世紀、そして第1次世界大戦
3	Der Anfang vom Ende - Die Weimarer Republik	ヴァイマル共和国 — 黄金の20年代・終わりの始まり
4	Terror und Vernichtung - Der Dritte Reich	第3帝国下のドイツ — 恐怖政治と絶滅政策

5	Politik und Parteien / プレゼンテーション (1)	選挙には行きますか？
6	Krisen und Konflikte (I)	ドイツにはどんな社会問題が？？！
7	Krisen und Konflikte (II) プレゼンテーション (2)	ドイツにはどんな社会問題が？？！
8	Beginn der Moderne: Vom Mittelalter zur Romantik	近代の始まり — 中世からロマン派の時代
9	Bildung als Lebenssinn / プレゼンテーション (3)	人生の意義としての教養・ウィーンと音楽
10	Das Paradigma der Moderne - Bis heute	学問と表現の自由 — 科学の発展と表現主義、バウハウス
11	Kunst und Wissenschaft (I) プレゼンテーション (4)	「芸術」の様式とは？！
12	Kunst und Wissenschaft (II)	「芸術」の様式とは？！
13	Im Nordwesten von Deutschland(I) プレゼンテーション (5)	ドイツ北西部とはどんなところ？
14	Im Nordwesten von Deutschland(II)	リュネブルクってどんなところ？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各1時間以上を標準とします。
- ・授業ごと所定の予習・復習課題を行い提出します。授業時間外の課題（プレゼンテーションの分担）については別途指示します。
- ・インターネットやSNS等も使ってドイツ語圏のメディアに積極的にアクセスしてみましょう。新聞（日刊紙）などのニュース記事にチャレンジできればなお良しです。

【テキスト（教科書）】

„ Dreimal Deutsch“ (Klett) (2025年度「ドイツ語7」使用教科書)
ISBN: 978-3-12-675237-4

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献：50%、プレゼンテーションおよび提出課題：50%を合わせ、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典および1～2年次で使用したドイツ語文法の教科書は必携です。

【その他の重要事項】

- ・指定教科書をお持ちでない方については、科目担当者が販売します。履修登録・初回授業参加時にお知らせください。
- ・本科目はドイツ語圏SAプログラム参加学生や派遣留学を目指す方、学部専門科目に役立つドイツ語読解能力を身に付けたい方にフィットしています。目安としては4セメスター以上のドイツ語学習経験があるのですが、学習進度には個人差もあります。迷う場合はぜひ担当者にご相談ください。
- ・授業内容（テーマ）と順序等はクラスの状況によって変更されることがあります。

- ・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受験を推奨します。以上の受験結果は2026年7月25日頃（予定）までに担当者に通知された場合のみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。
- ・質問・相談などは担当者宛にメールで、あるいは授業の前後にも受け付けます。

【Outline (in English)】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
- ・To be able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
- ・To be able to write texts of a certain length in German.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
- ・There are prescribed preparation and review tasks.
- ・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
- ・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of some ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of the others (presentations, submitted assignments).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300GA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語アプリケーション

小川 敦

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Gymnasium等、ドイツ語圏の中等教育（中学校・高校）で用いられる地理や歴史、公民の教科書を、辞書や文法書を用いながらじっくり読むことでこれまでに身につけたドイツ語力をさらに高めます。

【到達目標】
語彙や文法の複雑なドイツ語テキストにじっくり向き合うことでレベルの高いドイツ語を読めるようになる。ドイツ語圏に生きる人々の意識を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
内容を吟味しながらテキストを読んでいきます。また、学生と教員、学生同士で解釈に違いが出た場合はじっくり議論し解決していきます。
試験の返却の際に間違えやすいポイントを解説します。
受講生の関心や授業の進度に応じて、内容のある程度柔軟に修正・変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教材や授業の進め方の確認
2	ドイツ語圏の教科書を読む・その1	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。関係代名詞に注意して読みます。
3	ドイツ語圏の教科書を読む・その2	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き関係代名詞に注意して読みます。
4	ドイツ語圏の教科書を読む・その3	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。書き言葉としての受動態に注意して読みます。
5	ドイツ語圏の教科書を読む・その4	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き書き言葉としての受動態に注意して読みます。
6	ドイツ語圏の教科書を読む・その5	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。zu 不定詞句の使い方に注意して読みます。
7	ドイツ語圏の教科書を読む・その6	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いて zu 不定詞句の使い方に注意して読みます。

8	中間のまとめ、および読解の続き	前半で扱ってきたことのまとめを行います。
9	ドイツ語圏の教科書を読む・その7	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。属格に注意して読みます。
10	ドイツ語圏の教科書を読む・その8	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に続いて属格に注意して読みます。
11	ドイツ語圏の教科書を読む・その9	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。英語にはない修飾語句に注意して読みます。
12	ドイツ語圏の教科書を読む・その10	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いて英語にはない修飾語句に注意して読みます。
13	ドイツ語圏の教科書を読む・その11	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。ざっと読んで内容を把握する練習をします。
14	授業の最終的なまとめ	学期後半で学んだことを中心に、授業で扱ったまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の教材や資料は、学習支援システムで配布します。予習・復習ともに重要です。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は用いません。地理、歴史、政治をテーマとした教材をこちらで用意します。
辞書（独和辞典）は必須です。紙媒体でもアプリ（有料のものに限る）でも構いません。

【参考書】
・1回生で用いたドイツ語文法を扱った教科書
・中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加30%、中間試験30%、期末試験40%とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】
教材は基本的に電子データでの配布となります。授業にはスマートフォンではなくタブレットまたはPCを持参してください。

【その他の重要事項】
内容は決して難しいものではありませんし、扱うテキストの性格上、機械翻訳を用いればほとんどの日本語訳はできると思います。授業ではドイツ語の文そのものを文法的に解析する力や多様な語彙力を身につけるようにしてください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Students further develop their German language skills through close reading of geography and history textbooks used in secondary education in German-speaking countries, using dictionaries and grammar books.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students learn to read German texts with complex vocabulary and grammar at a high level. Students will also gain an insight into the attitudes of people living in German-speaking countries.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】
Active participation 30%
Midterm examination 30%
Final examination 40%

LANd300GA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語アプリケーション

Schmidt Ute

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Alltagskultur im deutschen Sprachraum

ドイツ語圏の日常文化 — 日本と比べてのぞいてみよう

この授業では、日常のちょっとした話題から最新の時事問題まで、ドイツ語圏の多彩なテーマを取り上げます。受講者はそれらを理解するだけでなく、自分自身の経験や日本の社会と比較しながら考え、意見を交換していきます。

簡単なディスカッションにも挑戦し、「違い」を楽しみつつ、物事を批判的に捉える力や、自分の生活文化をあらためて見つめ直す視点を養います。

また、本授業は Goethe-Institut などのドイツ語検定試験の準備としても役立つ内容です

【到達目標】

- 1) 中級以上のテキストを理解できる。
- 2) 様々な領域の語彙を習得する。
- 3) 基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
- 4) 幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、
長所、短所を挙げることができる。
- 5) 簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
- 6) 簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

中級レベルの教科書のテキスト、新聞や雑誌の記事、音楽、テレビなどを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは授業中または「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	Einstufung Selbstvorstellung
第2回	Stadt oder Land	Vorteile und Nachteile vergleichen und vorstellen
第3回	Männer und Frauen	Über Klischees sprechen Statistiken und Grafiken beschreiben
第4回	Hast du Netz ?	Mediensprache
第5回	Tiere	Die Tierliebe der Deutschen Adjektive Wiederholung

第6回	Reparieren und Selbermachen	Etwas reklamieren Passiv Wiederholung
第7回	Musik	Festivalsommer Deutschsprachige Hits Liedtexte verstehen
第8回	Filme	Mein Lieblingsfilm Filme vorstellen
第9回	Regional - global	Eine Region vorstellen
第10回	Lebensträume	Glück als Schulfach
第11回	Klima und Umwelt	Nachrichten verstehen Widersprüche, Bedingungen und Konsequenzen ausdrücken
第12回	Ein Blick in die Zukunft	Prognosen
第13回	Wie peinlich!	Knigge interkulturell
第14回	Präsentation	Vortrag und Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

予習はテキストを事前に読むと、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業での発言 (30%)、宿題提出 (30%)、プレゼンテーション (40%))

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will explore a wide range of topics related to the German-speaking world, from familiar aspects of everyday life to current social issues. Students will not only work to understand these topics, but also compare them with their own experiences and with contemporary Japanese society, and exchange opinions on each theme.

We will also try out simple discussions, fostering a critical approach to social issues as well as encouraging students to reflect on their own everyday culture.

This course will also be useful as preparation for German language proficiency examinations, such as those offered by the Goethe-Institut.

Grading will be decided based on class participation (30 %), homework (30 %) and presentation (40%)

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野 ブレンダン

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que le concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.

Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。

課題等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation des participants Organisation et calendrier des activités
2	La famille	Famille recomposée, vie de famille
3	DELF B1	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°1)
4	Caricatures ① Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
5	Question de génération	Participe passé Génération et éducation
6	Des amis pour toujours	Discours indirect au présent Différentes définitions de l'amitié

7	Vidéo ① Contenu informatif	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	Se retrouver et se séparer	Rencontres, désaccords, disputes
9	DELF B1	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°2)
10	Vidéo ② Contenu humoristique	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
11	Caricatures ② Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
12	La famille: bilan	Révisions: passé composé, plus-que-parfait, participe passé, pronoms personnels...
13	Projet	Présentons nos proches
14	Caricatures ③ Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので、法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い、本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】

Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.

Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題、ミニ発表、クラス内業務、その他の小テスト：約 25 %
- ・リーディングマラソン(フランス語多読)：約 25 %
- ・作文：約 25 %

・平常点(授業への参加状況)：約25%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分以上の遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、特に工夫する必要のある点がないように思いました。改善を全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

- ・Homework, short tests and presentations: app.25 %
- ・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
- ・Essays: app.25 %
- ・Class participation: app.25%。

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野 ブレندان

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que du concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.

Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン（フランス語多読）のような課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。
 課題等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Quoi de neuf? (vacances) Présentation des participants, organisation et calendrier des activités
2	Les clés du bonheur	Se changer les idées, se divertir: loisirs créatifs
3	DELF B1 (ou B2) ①	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°1)
4	Caricatures ① Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
5	Art de vivre	Conditionnel présent et expression du souhait
6	Action!	Sports extrêmes Il faut / il ne faut pas + subjonctif
7	Vidéo ① Contenu informatif	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	Activité physique	Donner des conseils, demander des informations
9	DELF B1 (ou B2) ②	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°2)
10	Vidéo ② Contenu humoristique	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
11	Caricatures ② Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité

12	Les clés du bonheur: bilan	Verbes prépositionnels, souhait, conditionnel...
13	Projet	Organisons une activité de plein air
14	CBC/Radio Canada	Compréhensions orale et écrite

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので、法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い、本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】

Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.

Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】

・宿題、ミニ発表、クラス内業務、その他の小テスト：約 25 %

・リーディングマラソン（フランス語多読）：約 25 %

・作文：約 25 %

・平常点（授業への参加状況）：約 25%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特になく思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.

Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, short tests and presentations: app.25 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %

・Essays: app.25 %

・Class participation: app.25%

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

カレンス フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること
その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年間学んだフランス語の知識（語彙や文法など）を生かして、フランス語のコミュニケーション能力を高める授業です。日常の場面に応じて、フランス語で様々な練習問題を行い、フランス語を話す力を強めます。文法を復習しながら、新しい語彙や表現を覚えながら、フランスとフランスの文化についてもっと詳しく学びます。

【到達目標】
授業の目標はコミュニケーションの力を上げることです。
次の三つのポイントに重点を置きます。
1. フランス語の日常会話をもっと聞き取れるようにする。
2. フランス語の文法の知識を高め、色々な練習に通じて強化する。
3. フランス語の語彙や言い方を増やして、使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行することがあったら、お知らせします。学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。
授業の内容に関しては、まず、テキストを見ずに対話を聞き、理解し、少しずつ繰り返し音読します。その後、テキストを見ながら再び音読します。さらに、内容と関連がある練習問題を行います。最後に学んだものをもう一度使い、ロールプレーをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications du programme L1 p10 Chez le traiteur la quantité encore/ne … plus) pronom “en” L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	自己紹介 プログラムの説明 1課 素材屋で 部分冠詞 量の表現 “en” 代名詞
②	L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	2課 食事の注文 願う
③	L3 p18 A la boutique de bijoux pronoms démonstratifs	3課 宝石のブチックで 指示代名詞
④	L5 p22 Modifier une réservation (table ou chambre) verbe conjugués +verbe infinitif	5課 予約の変更 レストラン／ホテル 動詞＋不定詞
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom: “de”	6課 銀行で 名詞補語 “de”
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	7課 交換する 返済してもらう 時間の表現＋複合過去
⑦	Révisions Test de mi-trimestre	復習 中間テスト

⑧	L9 p32 Faire des comparaisons verbes construits sur des adjectifs, comparatif superlatif	9課 比較する 比較法 最上級
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte L11 p40 Localiser prépositions/adverbes de lieu	10課 問い合わせする 間接法 11課 位置、 場所を突き止める 場所の前置詞と副詞
⑩	L12 p44 A l'agence immobilière Subjonctif/indicatif	12課 不動産屋で 接続法か直接法
⑪	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive Révisions Test final	15課 窃盗の被害届 される 受動態 復習 期末テスト
⑫	Correction du test Culture française	テストの返却 フランスの文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（宿題）を出すので、よく復習してください。
本授業の宿題・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio, Editions Clé International, Claire MIQUEL (ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくとう便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【成績評価の方法と基準】
1. 中間テスト・期末試験:60 %
2. 課題:30 %
3. 積極性:5 %
4. 平常点:5 %

【学生の意見等からの気づき】
より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。
さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panels of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture. Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination: 60 %, Assignments: 30 %, and in class contribution 10 %.

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし、維持することを第一の目的とします。ロシア語の動画を視聴してロシアやエストニアの文化や社会に触れ、ロシア語の文法力とリスニングの力を高めると同時に慣用表現、決まった口語表現を覚えて使えるようにします。

【到達目標】

ロシア語能力検定試験3級程度、またロシア語検定試験（ТРКИ）基礎レベル（A2）から第1レベル（B1）のロシア語運用能力（聴解と文法）を身につけること、その能力の維持を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語の動画を視聴して質疑応答に答え、文法とリスニングの力がつくように進めます。映像や説明文を通して、ロシアやエストニアの文化や慣習を楽しみながら知ることも可能となります。小テストのフィードバックは翌週の教場で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。 使用教材、視聴覚資料の確認。
第2回	What Estonians Think about Russian? 1	エストニアのロシア語話者、移民へのロシア語でのインタビュー。リスニングと質疑応答。
第3回	What Estonians Think about Russian? 2	エストニアのロシア語話者、移民へのロシア語でのインタビューの続き。リスニングと質疑応答。
第4回	What Estonians Think about Russian? 3	エストニアのロシア語話者、移民へのロシア語でのインタビューの続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第5回	Narva: What Is It Like to Live at the Border with Russia? 1	エストニアとロシアの国境の都市ナルヴァのロシア語話者へのインタビュー。リスニングと質疑応答。
第6回	Narva: What Is It Like to Live at the Border with Russia? 2	エストニアとロシアの国境の都市ナルヴァのロシア語話者へのインタビューの続き。リスニングと質疑応答。

第7回	Narva: What Is It Like to Live at the Border with Russia? 3	エストニアとロシアの国境の都市ナルヴァのロシア語話者へのインタビューの続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第8回	Эстонцы - "Балтийские тигры". Почему они так успешны? 1	「バルトの虎」の異名をとるエストニア人、その成功の理由を探る概説。リスニングと質疑応答。
第9回	Эстонцы - "Балтийские тигры". Почему они так успешны? 2	「バルトの虎」の異名をとるエストニア人、その成功の理由を探る概説の続き。リスニングと質疑応答。
第10回	Эстонцы - "Балтийские тигры". Почему они так успешны? 3	「バルトの虎」の異名をとるエストニア人、その成功の理由を探る概説の続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第11回	Минусы жизни в Эстонии 1	エストニアでの生活、そのデメリットに関する概説。リスニングと質疑応答。
第12回	Минусы жизни в Эстонии 2	エストニアでの生活、そのデメリットに関する概説の続き。リスニングと質疑応答。
第13回	Минусы жизни в Эстонии 3	エストニアでの生活、そのデメリットに関する概説の続き。リスニングと質疑応答。重要フレーズの暗記。
第14回	これまでのまとめ	これまで培ってきたロシア語の表現を確認する簡単な小テストの実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で視聴した動画内容の習得のために、1回につき1.5時間程度の予習・復習が必要となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付、もしくはは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

教場、もしくはは学習支援システムを通して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、小テスト20%とし、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

みなさん一人ひとりのロシア語運用能力に合わせたテキスト選びを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

予習と復習の際、ネット上の動画を視聴する環境が必要となります。教場では、PC持参の必要はありません。

【Outline (in English)】

● Course outline

The aim of this course is to maintain and improve Russian grammar and listening skills. We would like to share the pleasure of learning about the culture and customs of Russia and Estonia through the short movies in Russian.

● Learning Objectives

The purpose is to further develop and maintain the Russian language proficiency that has been cultivated so far(A2 to B1 in the CEFR) .

● Learning activities outside of classroom

It takes about 1.5 hours for class review.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80%) and quizzes(20%). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）		
ロシア語アプリケーション		
佐藤 千登勢		
配当年次／単位：3～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
ロシア映画を3編とりあげ、それぞれの作品に関する解説文をロシア語で読み、これを確認するかたちで映画作品を部分的に鑑賞します。ロシア語の読解力と聴解力を身につけること、維持することが目的となります。読解についてはＴＰＫИ第1レベル程度の力をつけることが可能となり、ロシアやウクライナの日常や慣習、歴史について知識を得ることができるでしょう。		
【到達目標】		
読解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めるために、ロシア(ソ連)映画の解説文・作品論をロシア語で読み、これを確認するかたちでロシア映画の珠玉に触れます。そうすることで、ＴＰＫИ第1レベルの読解力、文法力を身につけると同時に、ロシアの文化や世相に関する知識を獲得できるでしょう。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
ロシア（ソ連）映画の3つの作品に関する資料を講読します。みなさんの予習に基づいて進め、文法事項や文章の構造の説明をおこないます。作品に関する情報を把握した後、これを確認するために実際の映画作品を部分的に鑑賞します。課題は授業で確認と解説を行うかたちでフィードバックします。『火の馬』（1964）は、ウクライナの少数民族の神秘的な伝説を描いた不朽の名作。『太陽に灼かれて』（1994）はスターリン体制下の人間模様を描いた歴史的心理ドラマ。『夏の終り符』（2010）はソ連時代を象徴する上司と新生ロシアを象徴する実習生の青年、ただ二人によって展開される驚くべき心理劇です。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。資料配付。
第2回	映画"Тени забытых предков"について1	"Тени забытых предков"の内容について読解。映画の一部を鑑賞。
第3回	映画"Тени забытых предков"について2	"Тени забытых предков"の内容と反響について読解。映画の続きを鑑賞。
第4回	映画"Тени забытых предков"について3	"Тени забытых предков"の内容と反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第5回	映画"Утомлённые солнцем"について1	"Утомлённые солнцем"の概要と内容について読解。映画を鑑賞。
第6回	映画 "Утомлённые солнцем"について2	"Утомлённые солнцем"の内容について続きを鑑賞。
第7回	映画 "Утомлённые солнцем"について3	"Утомлённые солнцем"の内容、反響について読解の続き。映画の続きを鑑賞。
第8回	映画 "Утомлённые солнцем"について4	"Утомлённые солнцем"の反響について続きを鑑賞。映画の続きを鑑賞。
第9回	映画 "Утомлённые солнцем"について5	"Утомлённые солнцем"の反響について続きを鑑賞。映画の続きを鑑賞。
第10回	映画 "Как я провёл этим летом"について1	"Как я провёл этим летом"を分析した論文を読解。映画の一部を鑑賞。
第11回	映画 "Как я провёл этим летом"について2	"Как я провёл этим летом"を分析した論文の続きを鑑賞。映画の続きを鑑賞。
第12回	映画 "Как я провёл этим летом"について3	"Как я провёл этим летом"を分析した論文の続きを鑑賞。映画の続きを鑑賞。
第13回	映画 "Как я провёл этим летом"について4	"Как я провёл этим летом"を分析した論文の続きを鑑賞。映画の続きを鑑賞。
第14回	まとめと確認	小テストと解説（フィードバック）
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
映画作品に関するテキスト読解の予習に、1回につき2時間程度が必要となります。		
【テキスト（教科書）】		
適宜、教場で配付、もしくは学習支援システムを通して配付します。		
【参考書】		
教場、もしくは学習支援システムを通して紹介します。		
【成績評価の方法と基準】		
平常点80％、小テスト20％とし、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とします。		
【学生の意見等からの気づき】		
ロシア語の読解力向上とロシア映画鑑賞、双方への希望があったので、これに応じるような授業を組みました。		
【その他の重要事項】		
生成AI翻訳機能等の使用は、履修者の読解力向上にはまったく役に立ちません。辞書をひき、考えながら読む努力を惜しまないでください。		
【Outline (in English)】		
●Course outline		
We will pick up some Russian film works, read the texts about them in Russian, and watch some scenes from the films while checking the texts. You will acquire reading comprehension and listening comprehension skills. You will be able to gain knowledge about the daily life, customs and history of Russia and Ukraine.		
●Learning Objectives		
Students will acquire the level of CEFR B1 of reading comprehension and grammar, as well as knowledge of Russian culture and social conditions.		
●Learning activities outside of classroom		
It takes about 1.5 hours to prepare for reading comprehension of texts about the Russian movies.		
●Grading Criteria /Policy		
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(80％) and quizzes(20％). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.		

LANr300GA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語アプリケーション

エレナ 三神

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで培ってきたロシア語の運用能力をさらに伸ばし維持することを第一の目的とします。ロシア語ネイティブ講師との会話、リスニング練習、簡単な作文課題によりロシア語のコミュニケーション力を楽しくのびましょう。以前ロシア語短期語学研修に参加した学生は、培ったロシア語運用能力の維持のため履修を勧めます。

【到達目標】

ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ТРКИ）の基本レベル（CERF A2）又は第1レベル（CEFR B1）のロシア語運用能力（聴解と会話）を身につけるべく頑張ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。教材データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、提出した課題に関するコメントなどの方法で行います。教員のフィードバックは課題内容によって授業時または学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介（復習）	インテラクティブな教材を使って初めて会った学生同士のスモールトークを練習する。
第2回	友達を作る	挨拶や簡単なフレーズを使って相手と自分について話す。使える表現幅を拡大する。
第3回	大学での勉強	学習を表す動詞を使い分けて勉強などについて話す。聴解、会話練習。
第4回	移動動詞の復習	移動を表す動詞を使って行ったや行きたいところについて話す。聴解、会話練習。
第5回	会話のエチケット	ロシア語の会話エチケットについて学ぶ。読解、会話練習。
第6回	海外旅行- 1	移動の動詞を使って旅行のルートについて話す。聴解、会話練習。
第7回	海外旅行- 2	移動の動詞を使い分けて移動手段について話す。聴解、会話練習。

第8回	海外旅行- 3	接頭辞のある移動の動詞を使って細かく移動を説明する。聴解、会話練習。
第9回	交通案内	接頭辞のある移動動詞を使って交通機関の使い方などについて話す。聴解、会話練習。
第10回	海外から来たお客の出迎え	位置と行き方について話す。聴解、会話練習。
第11回	待ち合わせ	時間表現を使い分けて「時間」と「期間」について話す。聴解、会話練習。
第12回	友達のところで- 1	所有表現を使って友達との会話をすすめる。聴解、会話練習。
第13回	友達のところで- 2	お客としてロシアの家を訪ねる。聴解、会話練習。
第14回	これまでのまとめと試験	これまで培ってきた会話表現を確認する試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に扱った単語の復習、作文又は聴解宿題があります。授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配布もしくは学習支援システムを通して配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

宿題30%、授業への取り組み30%、期末試験40%とし、総合的に判断します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

期末テストの範囲はもっと明確にするようにします。

【Outline (in English)】

●Course outline

The aim of this course is to further develop and maintain the Russian language skills. Through conversation and listening practice with a native Russian-speaking instructor, students will enjoy improving their Russian communication skills. Students who participated in a Russian language program abroad are encouraged to take this course to improve their Russian language skills.

●Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test ТРКИ A2-B1.

●Learning activities outside of classroom

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for some lessons to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

●Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination 40%, in class contribution 30% homework 30%

To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)
中国語アプリケーションⅣ
鈴木 靖
配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。

中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主にe-Learningを利用した「聞く」力と「読む」力を重点的に育成する。

【到達目標】

HSK4・5級の高スコア取得に必要な「聴力」（リスニング力）と「閲読」（リーディング力）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はe-Learningや過去問による事前学習と教室での発音練習や解説を組み合わせて行う。

授業の具体的な進め方は、次のとおり。

〔授業前の事前学習〕

授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSKの「聴力」問題の指定範囲のディクテーションと「閲読」問題の予習を行う

〔授業の進め方と方法〕

- ①前回の復習のための小テスト
- ②「聴力」問題のリピート練習と解説
- ③「閲読」問題の解答と解説

〔課題等に対するフィードバックの方法〕

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加するLINEのグループを用意し、これを通じて全員または個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明した後、事前学習に使用するe-Learning教材の利用方法を解説する
第2回	HSK4級対策①	・聴力問題第一部分
第3回	HSK4級対策②	・閲読問題第一部分 ・聴力問題第二部分（上）
第4回	HSK4級対策③	・閲読問題第二部分 ・聴力問題第二部分（下）
第5回	HSK4級対策④	・閲読問題第三部分（上） ・聴力問題第三部分（上）
第6回	HSK4級対策⑤	・聴力問題第三部分（中） ・聴力問題第三部分（下）
第7回	HSK4級模擬試験	・閲読問題第三部分（下） HSK4級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う
第8回	HSK5級対策①	・聴力問題第一部分（上）
第9回	HSK5級対策②	・聴力問題第二部分（下） ・閲読問題第二部分（上）
第10回	HSK5級対策③	・聴力問題第二部分（上） ・閲読問題第二部分（下）
第11回	HSK5級対策④	・聴力問題第二部分（中） ・聴力問題第三部分（上） 4
第12回	HSK5級対策⑤	・聴力問題第三部分（下） ・聴力問題第三部分（中）
第13回	HSK5級対策⑥	・書写 ・聴力問題第三部分（下） ・閲読問題第三部分（下）

第14回 HSK5級模擬試験 HSK5級対策の学習成果を確認するため、過去問を使って模擬試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に下記の事前学習を行うこと。

①教材ページ上に用意されたe-Learning教材を使い、HSKの「聴力」問題の中から毎回指定された範囲のディクテーションを行う

②教材ページ上に用意された問題冊子を使い、HSKの「閲読」問題の中から毎回指定された範囲の予習を行う

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教材用ページに用意したe-Learning教材やHSKの問題冊子などを利用する。教材用ページのURLと利用方法については、第一回のガイダンス時に説明する

【参考書】

- ・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）
- ・中国教育部中外語言交流合作中心著・株式会社スプリックス編『中国語検定 HSK公式過去問集4級 2021年度版』（スプリックス、2021年）
- ・中国教育部中外語言交流合作中心著・株式会社スプリックス編『中国語検定 HSK公式過去問集5級 2021年度版』（スプリックス、2021年）

【成績評価の方法と基準】

①事前学習（ディクテーション・リーディング）の実施状況と小テストの成績（60％）

③HSK模擬試験の成績（40％）この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

HSKの必修単語を覚えるのが難しいという声が多く寄せられたので、単語やフレーズを復習するe-Learningを用意した。

【学生が準備すべき機器他】

e-Learningによる事前学習にはパソコンが必要となる。

【Outline (in English)】

〔Course outline〕

Chinese Application I ~ IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I ~ IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four language skills, of listening, speaking, reading and writing.

This course will focus mainly upon improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams.

Chinese Application IV is a Chinese course designed specifically for the students who want to prepare for the HSK, Chinese proficiency test, level 4 and 5. This course will focus upon expanding vocabulary and improving listening and reading skills through the use of e-Learning and past exams. Students will also do mock examinations of the HSK through the use of a test simulator to help students prepare for the HSK tests.

〔Learning Objectives〕

The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use Chinese language at a level required of the HSK6.

〔Learning activities outside of classroom〕

Students will be expected to have completed the required assignments before each class. These assignments are expected to require four or more hours for students to complete.

〔Grading Criteria /Policy〕

Grading will be decided based on assignments(80%) and mock examinations(20%).

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語アプリケーションIII

周 重雷

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学期中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである：

- 1、正確な発音で中国語を話す。
- 2、日常会話を流暢に話す。
- 3、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
 - 2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
 - 3、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
 - 4、総括する。
- 課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1、シラバスの配布 2、中国語による自己紹介
第2回	文章の読解・日常用語（1）	1、短い文章を読み、文法の基本を確認する 2、簡単な日常会話を練習する
第3回	文章の読解・日常用語（2）	1、会話文を朗読し、発音をチェックする 2、言い回しを使って日常会話を練習する
第4回	文章の読解・日常会話（3）	1、文章を読み、文法の基本を確認する 2、簡単な日常会話を練習する
第5回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第6回	文章の読解・日常用語（4）	1、文章を朗読し、発音をチェックする 2、日常会話を練習する
第7回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第8回	実力テスト	HSK問題を解く
第9回	解説	HSK問題の解説を行う
第10回	文章の読解・日常会話（5）	1、文章の読解をする 2、日常会話の練習をする

第11回	授業内発表（3）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第12回	文章の読解・日常会話（6）	1、長文を読む 2、日常会話を練習する
第13回	授業内発表（4）	スピーチの個人発表をする
第14回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。本授業の準備時間は2時間を標準とします。
 また作文の課題も2回ほど課される。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布

【参考書】

劉月華 他『実用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館
 日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

【学生の意見等からの気づき】

要望に応じて会話パターンの変更も可能。
 基本は対面授業。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験を推奨される。
 留学生の受講をも歓迎する。

【Outline (in English)】

Chinese Application I ~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.

We should achieve to these levels:

Talk by accurate pronunciation.

Talk the daily conversation well.

Achieve to the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

We maybe do the task of writing about two times.

Term-end test:60%

presentation:40%

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語アプリケーションⅡ

張 勝蘭

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。具体的には、作文や翻訳を行う際に注意すべきことをルール化して編纂されたテキストを用い、そこに提示されたルールを講師が解説し、そのルールを応用した各種の練習問題に取り組むことで作文力の育成を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題等の練習を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認（本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など）
2	第1課、第2課	中国語作文をする際に必要となる基本的文法事項の確認
3	第3課、第4課	存在・存在の表現、程度副詞“很”の機能、“吗”の使用条件、日中両言語の勧誘表現、「何か／どこか／だれか」の訳し方
4	第5課、第6課	疑問詞＋名詞の用法、疑問詞呼応構文、動詞の省略可能性、適切な動詞を補う必要性
5	第7課、第8課	多用される“来”と“去”、「動目」構造の語の特徴、「思う」を表す語の種類、動詞の重ね型
6	第9課、第10課	文脈に隠れた代名詞、“这么／那么”が必要な場合、副詞“就”の用法、副詞“才”の用法
7	第11課、第12課	副詞“都”の用法、副詞“只”の用法、副詞“也”の用法、副詞“再／又／还”の用法、副詞“再”の用法
8	第13課、第14課	「…から」と“从…”の対応関係、「…まで」と“…到”の対応関係、動詞後の“…到”、日中両言語のコピュラ文、“是…的”構文
9	第15課、第16課	「で／に／から／と／まで」を表す中国語の介詞、介詞句を含む文の否定、「…について」の表し方、「ちょっと・少し」の表し方、形容詞の動詞化および命令化

10	第17課、第18課	量詞の出現情況、数量の位置、形容詞を用いた過去事態の表現法、結果状態を表す“了”、過去の習慣的動作と“了”
11	第19課、第20課	補語の使用における動詞の重要性、日本語の観点からは訳出しにくい補語、“要”の使用条件、可能性を表す“会”、可能を表す“能”“会”“可以”
12	第21課、第22課	“被”構文の諸特徴、日本語の受身表現と“被”構文の対応関係、日本語の自動詞受身文の中国語での表現法、“把”構文の使用条件、“把”構文の使用制限
13	第23課、第24課	授受表現の特徴、目的表現の後置、将来表現、主表現としての“人”、道具・手段や原因を表す“で”、否定と肯定の入れ替え、逆転の発想
14	全体のまとめ	試験とその解説、学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業開始後は、テキストの復習を十分にを行い、学習内容の定着を図ること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂（著）2006『作文ルール66 日中翻訳技法』朝日出版社（2,300円＋税）

【参考書】

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹2017『中国語はじめての一步（新版）』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしく かわいい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点を50%、期末試験を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、原則として日本語母語話者向けの授業である。そのため、中国語母語話者（留学生等）の受講は推奨しない。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。
- ・適宜、補足資料を配付することもあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。
- ・授業の進み具合により、授業内容を調整することがありますが、必ず事前に周知する。

【Outline (in English)】

【Outline】

Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, students will mainly improve their writing skills. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To understand the Chinese grammar through reading explanations shown in the textbook.
- (2) To be able to appropriately compose complicated Chinese sentences through exercises such as Japanese-Chinese translation, word order, etc.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・After every class, students are required to review the textbook.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

- ・Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end test (50%).

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to raise the level of the Spanish language of each student, through reading and analysis of written and oral texts, etc.

【到達目標】

Improve your communication skills through the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	Lectura y discusión: El español en el mundo. Spanglish
3	Aplicación	Presentación del español de un país determinado
4	Aplicación	El origen de los nombres del mundo hispano. Los hipocorísticos (nombres de cariño)
5	Aplicación	La familia I
6	Aplicación	La familia II
7	Aplicación	La residencia de ancianos
8	Aplicación	Examen Parcial Proyección de la película "El agente topo" I
9	Aplicación	Proyección de la película "El agente topo" II Discusión
10	Aplicación	Idiomas originarios del mundo hispano
11	Aplicación	El idioma quechua y su resistencia a través de la música
12	Aplicación	Presentación de un idioma originario
13	Aplicación	Las universidades de Hispanoamérica
14	Aplicación	Examen final: Presentación de una universidad de Hispanoamérica

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to maintain and raise the level of the Spanish language that students have reached during their learning either in Japan or in a Spanish-speaking country. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as far as possible: oral and written comprehension, grammar, and vocabulary. At the end of this course, students will be able to communicate in Spanish, both written and orally, in specific and daily life situations.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Lectura y análisis del cuento
3	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Hablar del club al que integra.
4	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto Redacción de cuando era estudiante de instituto
5	Aplicación "Mis galletas"	Pretérito indefinido Lectura y análisis del cuento
6	Aplicación "Mis galletas"	Hablar sobre lo que se hizo la semana pasada. Escribir un texto usando el pretérito indefinido.
7	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Pretérito perfecto y pluscuamperfecto. Lectura y análisis del cuento
8	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Hablar de lo que se hizo esta semana.
9	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Redacción de un usando el pretérito pluscuamperfecto.
10	Aplicación "El último trabajo"	Lectura y análisis del cuento. Pretéritos de indicativo
11	Aplicación "El último trabajo"	El relativo "que" y "que"
12	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento.El reflexivo "se"
13	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar de la comida favorita. Escribir una receta
14	Examen final	Examen (Presentación de un cuento del mundo hispano)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

CUÉNTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento. El reflexivo "se"
3	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar sobre la comida favorita. Receta de cocina
4	Aplicación "La morcilla"	Lectura y análisis de cuento Introducción al presente del subjuntivo
5	Aplicación "La morcilla"	Hablar sobre deseos y anhelos.
6	Aplicación "La morcilla"	Opiniones sobre diversos temas de la actualidad
7	Aplicación "La morcilla"	Escribir una carta a un amigo.
8	Aplicación "El pintor Nocha"	Lectura y análisis del cuento Futuro/condicional
9	Aplicación "El pintor Nocha"	Hablar sobre su futuro
10	Aplicación "El pintor Nocha"	Hacer suposiciones del futuro.
11	Aplicación "El rabino"	Lectura y análisis del cuento
12	Aplicación "El rabino"	Pretéritos imperfecto y pluscuamperfecto de subjuntivo.
13	Aplicación "El rabino"	Hablar sobre lo que harán con el español aprendido
14	Aplicación	Examen final (Presentación del cuento redactado por los mismos alumnos)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

CUÉNTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

SHOGAKUKAN DICcionario ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANk300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に身につけている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出ていない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現を学んで自ら表現できることを目指します。授業は朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】

朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。また、自分の意見を自信をもって積極的に話したり、討論に積極的に参加できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

韓国の映像や資料などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通して話す力を定着していきます。

授業は、朝鮮語で進めていきます。

課題等に対するフィードバック方法は、リアクションペーパー提出や学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第2回	日韓の違いについて	内容を読んで意見を話し合います。
第3回	韓国だけの文化などについて	内容を読んで意見を話し合います。
第4回	韓国の映像を見る	韓国の映像を見て、内容を把握します。
第5回	韓国語の随筆を読む	韓国の随筆を読みます。
第6回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第7回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第8回	韓国の映像を見る	韓国の話題の映像を見て内容を把握します。
第9回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第10回	韓国の映像を見る	韓国の映像を見ます。
第11回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第12回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第13回	韓国語で発表する	討論をする。
第14回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国のコンテンツを利用したり、新聞、小説などを読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント、インターネットなど。

【参考書】

韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を話したり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して(50%)と、期末レポート(50%)と、これらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

多様な主題を活用すべきことなど。

また、この授業は、出席して授業での討論や意見交換などを重要視しております。

そのために、平常点が50%になっております。出席が大事です。欠席が成績評価に大きく反映されるということです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。あまり欠席をしないでください。

【Outline (in English)】

< Course outline > We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.

< Learning Objectives >

The goal is to speak your opinion with confidence. Please actively participate in the discussion.

< Learning activities outside of classroom >

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination : 50 %, little exams and in class contribution: 50%.

LANk300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一定のテーマを決めてディスカッションを実施したり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】

積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。

映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。課題等に対するフィードバック方法は、リアクションペーパー提出や学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第3回	話題のテーマについて	意見交換する
第4回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第5回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第6回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第7回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第8回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第9回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第10回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第11回	個別プレゼンテーション	意見交換をする
第12回	個別プレゼンテーション	グループワーク
第13回	個別プレゼンテーション	討論をする
第14回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で説明します。

【参考書】

韓国の近代文学作品
湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して(50%)、期末レポート(50%)、など、これらの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。
また、この授業は、出席して授業での討論や意見交換などを重要視しております。
そのために、平常点が50%になっております。出席が大事です。欠席が成績評価に大きく反映されるということです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。あまり欠席をしないでください。

【Outline (in English)】

< Course outline > To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.
< Learning Objectives >

Please actively participate in the discussion in Korean.

The goal is to be able to read Korean literary works as well.

< Learning activities outside of classroom >

Check out the content of the theme. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination (100%)

LANk300GA（朝鮮語 / Korean language education 300）

朝鮮語アプリケーション

李 蕙臣

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、朝鮮語中上級学習者を対象とし、韓国の文学作品を読み進めることを通じて、朝鮮語の世界の広がりを体験することを目的とする。文学作品に込められた韓国人の情緒や価値観に触れながら、言語理解のみならず文化への理解を深めていく。

【到達目標】

韓国の文学作品を読むことを通じて、朝鮮語による比較的易しい長文を読み進める力を身につける。中級レベルの語彙や表現を復習しながら、より高いレベルの新しい語彙や文法事項を習得する。
また、朝鮮語で韓国の文学作品を読むことにより、韓国文化への理解を深める。さらに、作品の内容について、クラスメートに朝鮮語で質問したり、意見交換を行ったりすることができる運用能力を養う。加えて、同じジャンルの文学作品について調査し、その内容を朝鮮語で発表できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各作品のテーマやジャンルについて簡単なウォーミングアップを行った後、テキストに沿ってリーディングを進め、語彙や表現を学習しながら、朝鮮語を翻訳に頼らず理解する練習を行う。あわせて、内容理解を確認するための問題演習を行う。
また、作品に対する自身の感想を朝鮮語で書いたり発表したりする活動を通じて、表現力の向上を図る。さらに、同じジャンルの文学作品について調査し、朝鮮語によるプレゼンテーションにも取り組む（期末プレゼンテーション1回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 韓国の随筆を読む①	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	韓国の随筆を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
3	韓国の小説を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
4	韓国の小説を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
5	韓国の詩を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
6	韓国の詩を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
7	韓国の古典小説を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
8	韓国の古典小説を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
9	韓国の建国神話を読む	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
10	韓国の映画評論を読む①	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
11	韓国の映画評論を読む②	・講義と質疑応答。 ・意見発表及びディスカッション。
12	期末プレゼンテーション	個人による発表を行う。
13	期末プレゼンテーション	個人による発表を行う。
14	期末試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、作品を読み、新出語彙や表現を調べる予習が必要です。本授業の準備、復習時間は各2時間を標準とします。
期末プレゼンテーションの準備（原稿、PPT）が必要です。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末プレゼンテーション50％、期末筆記試験30％、平常点20％

期末プレゼンテーションおよび試験は必須とし、いずれか一方を欠いた場合は、単位修得の要件を満たさない。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

期末プレゼンテーション用の機器は各自が用意すること。

【Outline (in English)】

< Course outline and Learning Objectives >

This course is designed for upper-intermediate learners of Korean and aims to broaden students' understanding of the Korean language through the reading of literary works written in Korean. By engaging with the emotions and values embedded in these literary texts, students will deepen not only their linguistic competence but also their cultural understanding.

In this course, students will present their own reflections on the literary works in Korean, as well as research other works within the same genre and present their findings in Korean. Through these activities, the course seeks to reinforce previously acquired speaking and writing skills and to develop students' ability to independently interpret and express ideas within the Korean linguistic and cultural world.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
final presentation 50%, final exam 30%, attendance & participation (continuous assessment) 20%.

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

文化情報のデザインワークショップ

松田 美奈子

サブタイトル：ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ
配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：情報コミュニケーションI
旧科目との重複履修：毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザーの体験をデザインする『面白さ』と『奥深さ』を、実践的に学ぶ科目 私たちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

このワークショップでは、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。 道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。

● ユーザー調査を行い、特性を理解し、道具を使いやすくデザインする 講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。

私たちの日常を様々な側面で支えてくれる道具たちを、使いやすく魅力あるのするにはどうすればよいのか？ その鍵は、ユーザの特性と、ユーザに起こっている出来事の的確な理解にある。 道具のデザインを改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする 講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。

まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？ その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。 利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この2つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。

● 2つのテーマは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようになる。

● グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の工夫を学び、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この2つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的な方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。

● 各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイデアを深められるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン
2	道具の使いやすさ	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ（理論編）

3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	「未来のモノのデザイン」の考え方	未来に向けたデザインとHCD（人間中心設計）プロセス
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイディア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013。
・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕」（ティム・ブラウン著、早川書房）2019
・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA編、ワークスコーポレーション）2014。
他については適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・レスポンスシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合い（50％）
・課題レポート、プロトタイプなど制作物（50％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義と実習を効果的に組み合わせ、理解がより深まるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

「文化情報学の実践」科目群〔共通のテーマ〕

「文化情報学の実践」科目群では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告などを実践的に学ぶ。
実務経験のある教員による授業
教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【前提科目と関連科目】

「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

P C、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline (in English)】

This class provides you with an unique "Design Workshop". This class allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User Experience (UX) Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

文化情報のためのネットワーク技法

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションII

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に着ける（旧科目：情報コミュニケーションII）

【旧科目：情報コミュニケーションI～III共通テーマ】

文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。

【本科目の学習の目的】

本講義の前半において、Study Abroad環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと、研究倫理・データ倫理に基づいた問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。GAS (Google Apps Script) を使った Google Workspace の統合・自動化の実習を例に、SA等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SAや卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に着ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通してSA等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。

課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにとまなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。抽選の可能性があるため、履修予定者は必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体）インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体）インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IPアドレス枯渇とその対応技術、無線LANの利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IPアドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の対応を考える。また大学VPN環境を確認する。
4	情報活用のための実践知識（2）	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、問題点を整理・理解する。
5	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
6	文化研究にむけての準備	質的研究と量的研究の違いを学び、取り組みたい研究課題とその手法の計画を立てる。

7	研究倫理・データ倫理	大学の研究倫理規定を参照し、研究倫理やデータ倫理の意味や目的、あるいはその手続きを確認する。
8	研究課題の計画	各々の研究課題に沿った調査計画とその中間報告を行う。
9	研究調査成果の蓄積・共有方法の検討	Google フォームやGoogle ドライブを用い、研究調査や情報共有を確認・実践する。
10	蓄積した情報の統合・自動化	GAS (Google Apps Script) を用いて Google フォームやメールなどの統合・自動化を学ぶ。
11	情報公開の手法	調査研究の結果の公開対象や手法を検討し、準備する。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。進捗と問題点を報告する。
13	研究計画の確認と成果の公開	調査研究成果を Google サイトを用いて限定公開し、互いに議論する準備を行う。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前の研究計画を基に研究の進め方や問題を振り返り、SA研究計画との接続を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。

1. (SA準備として)個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
 2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
 3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
 4. 個人研究テーマの検討
 5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
 6. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーカー書を持って街へ出よう」、新曜社；増訂版（2006/12/20）ISBN 978-4788510302

水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業参加（20%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（30%）、発表（10%）を目安とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、学習支援システムで公開する資料等を教室PCあるいは持ち込みPCで確認しながら使用して進める。

オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、PCを用いて大学のGoogle Workspaceを利用して作業することを前提とする。

最終課題となる発表や授業の補足はZoomあるいはWebexを用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者数が定員を超過する場合は抽選を行う。

初回授業はZoomを用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録した上で初回授業に出席すること。

詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。

SAをはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。

Webを基盤とする高度なICTの活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。

SA環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を前提、あるいは並行履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The first half of the course reviews practical techniques of digital network communication, research and data ethics.

In the second half, students learn how to use GAS and other tools for editing cultural information.

(Learning Objectives)

- To acquire a methodology for research and study of cultural information.

- To make full use of the internet environment to publish and accumulate the results of their studies.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the practical assignments (20%), in-class contribution(30%), and term-end presentation (10%) and content creation(40%).

DES200GA (デザイン学 / Design science 200)

視覚デザインと文化情報

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションIII

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：席数を超えた場合選抜

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「視覚デザインと文化情報」は、情報デザインに関する入門的かつ実験的な実習科目です。ロゴタイプ、シンボルマーク、ピクトグラム、イラストレーションなどを題材に、デザインやアートに関わる基礎的なトレーニングを行います。

【到達目標】

作品制作と並行して行う毎回の対話を通じて、デザインの概念や視覚言語に関する理解を深め、人と人とのコミュニケーションを円滑にする視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。あわせて、創作活動全般にも通じる、クリエイティブな造形表現に必要な知識・感覚・技術を養います。

また、絵を描くことに苦手意識のある人や、デジタルによる写真加工やデザイン制作が初めての人も、難しく考えずに積極的に手や体を動かすことで、「つくること」の楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、視覚言語の基礎となる以下の3つのテーマを中心に、課題制作を行います。

1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィ）
 2. ピクトグラム（インフォグラフィックス）
 3. イラストレーションとデザイン（グラフィックデザイン）
- 各課題に取り組むにあたっては、課題の意義や制作の進め方について講義を行うとともに、制作のポイント、使用する材料・道具、ソフトウェアの操作方法について説明します。各課題の最終段階では、作品発表（プレゼンテーション）および講評・フィードバックを実施します。

実習では、実習室に設置されている **Adobe Illustrator** を使用します。また、授業を円滑に進めるため、以下のオンラインツールを活用します。

- ・ Google Sites（授業関連コンテンツの配信）
- ・ Google Classroom、Google Forms（課題提出およびフィードバック管理）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要
第2回	ロゴタイプとシンボル (1)	講義 ロゴタイプとシンボルマーク ワークショップ 基本的な図形の書き方とシンボルマーク
第3回	ロゴタイプとシンボル (2)	講義 フォントと書体 ワークショップ ロゴタイプの制作 (1)

第4回	ロゴタイプとシンボル (3)	ワークショップ ロゴマークの制作 (2)
第5回	ピクトグラム (1)	講義 ピクトグラムとは ワークショップ ピクトグラムの模写
第6回	ピクトグラム (2)	講義 オリンピックのピクトグラム ワークショップ スポーツ・文化をテーマとしたピクトグラムの作成
第7回	ピクトグラム (3)	ワークショップ 大学構内の案内用サインの作成
第8回	インフォグラフィック (1)	講義 インフォグラフィックについて ワークショップ 気になったポスターをコピーする
第9回	インフォグラフィック (2)	講義 ZINEについて ワークショップ ZINEの制作1
第10回	インフォグラフィック (3)	ワークショップ ZINEの制作2
第11回	レイアウト (1)	講義 インフォグラフィックを元としたイラストの作成 ワークショップ パンフレット表紙レイアウト (1)
第12回	レイアウト (2)	ワークショップ パンフレット表紙レイアウト (2)
第13回	レイアウト (3)	ワークショップ パンフレット表紙レイアウト3 作品の制作 (3)
第14回	作品の講評	課題作品のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

街の中のサインやポスター、本や雑誌、さまざまなプロダクトなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫を意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのもよいと思います。

また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思うものをスマートフォンやデジタルカメラ等で撮影し、ストックしておいてください。制作の材料として使用します。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

永井 弘人「デザイナーになる！ 伝えるレイアウト・色・文字の大切な基本と生かし方」エムディエヌコーポレーション
原研哉「デザインのデザイン」岩波書店
ロビン・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」マイナビ出版
坂本伸二「デザイン入門教室〔特別講義〕確かな力を身につけられる ～学び、考え、作る授業～」SBクリエイティブ

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点 (50%)
2. 課題とレポート (50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ソフトの操作や専門用語などをわかりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

使用するソフトは以下の通りです。

Adobe Illustrator（イラストレーションを描くためのソフト）
また、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】

初心者の方には、各ソフトを用いた作品制作のコツをまず掴み、さらに完成度を高めていく方法をお伝えします。技術的な経験は問いませんので、アートやデザインの作品制作に自信のない人も、ぜひチャレンジしてみてください。

課題制作については、各受講者の能力やそれぞれが取り組みやすい進め方などを考慮し、毎回の内容や目標を固定的に定めていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。

初回のオンラインによるガイダンスには必ず出席してください。

登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜を行います。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティストです。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で行っており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】**Outline and objectives**

This practical lesson is an introductory and experimental valuable lesson on information design. Basic training related to design and art such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustrations.

Learning Objectives

Through each lecture held in parallel with the production of the work, we will deepen the understanding of the design concept and visual language and provide basic training on visual expression that facilitates communication between people. In addition, we will cultivate the knowledge, sense, and skills necessary for creative modelling expression that is familiar to all creative activities.

People who are not good at drawing or are new to digital photo processing and design production will experience the joy of making by actively moving their hands and body without thinking difficult.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

FRI300GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300）

情報アプリケーション I

重定 如彦

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットの発達により、ウェブページを取り巻く技術は近年ますます発展しており、その重要性も増している。近年では、どのような職業であれ、ウェブページの技術と無縁の職業はありえないといっても過言ではないだろう。ウェブページを記述するHTMLは近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新のHTMLをベースに、CSSやJavaScriptなどを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。JavaScriptやCSSの技術を使えば、アニメーションを表示することも簡単にできるようになっている。最終的にはHTML5を使って簡単な3Dグラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす（完成例としては<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/sigesada/software/maze/maze.html>を参照のこと）。

【到達目標】
ウェブページを記述する言語であるHTMLについて理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。
CSSを使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。
JavaScriptを使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。
Three.jsを使って3Dグラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。
インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業の前半でHTMLなどに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。
学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5とはどういうものかについて学ぶ HTMLの基礎知識について学ぶ
2	タグその1	見出し、段落、箇条書きなどのHTMLの基本的なタグについて学ぶ
3	タグその2	その他のHTMLの代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascriptの基礎について学ぶ
6	Javascriptを使ったグラフィックス	HTMLのCanvasタグとJavascriptを使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascriptの3DグラフィックスのライブラリであるThree.jsについて学ぶ
8	3Dグラフィックスの基礎	3Dグラフィックスの基礎について学ぶ
9	3Dグラフィックスアニメーション	3Dグラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピューターで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の2Dグラフィックス	コンピューターで表現した迷路を2Dグラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の3Dグラフィックス	コンピューターで表現した迷路を3Dグラフィックスで表現する方法について学ぶ

13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピューターに自動生成させる方法について学ぶ
14	迷路の中を動き回る	コンピューターが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、授業が終わった後に復習を行うこと。
また、課題として自分のオリジナルのウェブページと迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切までに制作を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示する。

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10% 課題 90%（ウェブページの課題 50%、迷路の課題 40%）
課題は授業内で適宜指示する。
2つの課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自1台のコンピューターを使って授業を行う。

【その他の重要事項】
プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。
課題で生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用した課題の提出は原則として認めない。
本授業では取り扱いませんが、プログラミングに関連するものとしてPythonで○×ゲームのAIを作成する記事を下記のURLで連載しているので興味がある方は参考にして下さい。
<https://qiita.com/ysgeso/items/04deccdf7ec15314c48>

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to acquire skills and knowledge about web technology such as HTML, CSS and Javascript.
At first, this class learns about HTML and CSS, and create simple web page. Next, this class learns about javascript and create a interactive web page of 2D maze game. Finally, this class learns about webgl technology and create web page of 3D maze game.
Each student is required to review his or her work after the class.
In addition, you are required to create your own original maze page as a final project. Please do so by the deadline (one week after the last class).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Ordinary points 10%, Assignments web page 50%, maze 40%.
Assignments will be given in class as needed.
The final assignment will be used as a substitute for the regular exam, so no exam will be given. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class based on this grading method are considered to have passed the class.

COT300GA（計算基盤 / Computing technologies 300）

情報アプリケーションⅡ

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、**Maker**ムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法（意外と簡単！）やマイコン上のAI技術の活用法、スマホ、インターネットと連携したIoTの構築などを学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】

Makerムーブメントの背景と現状について理解する。
楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。
Arduinoマイコンによるセンサー入力の処理方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。
課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容はPBLの考え方にもとづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。作りながら考える、考えながら作るをモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要となる部品は、既製品を分解する、100均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： Arduino 入門	授業内容の説明と導入、 Maker ムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。 開発環境 Arduino IDE の使い方と Tinkercad を併用した学習環境を学ぶ。
2	初歩の実習：LEDの点滅実験（Lチカ）	Arduino を用いたLEDの点滅実験（Lチカ）をする。ブレッドボードでの配線を学ぶ。
3	光らせてみよう：LEDの点滅、明暗、色の表現	スイッチ、抵抗、可変抵抗、LEDの回路構成と配線方法を学美、 Arduino での制御方法を学ぶ。
4	ディスプレイを作ろう：表示の高機能化、文字やグラフィックスの電光表示	LCD、LED、OLEDディスプレイの活用と Arduino での実現方法を学ぶ。
5	いろいろ測ってみよう：各種センサーの活用	温度センサー、圧電センサー、距離センサー、人感センサー、加速度センサーなど外界の状態を入力する方法を学ぶ。
6	音を出してみよう、メロディを演奏しよう：ブザー音や音階の出力	圧電ブザーやスピーカーから音階を出力する方法、メロディの演奏を Arduino での実現する方法を学ぶ。
7	演奏を自動化しよう：シークエンサーの製作	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
8	人間の動作を取り込もう：ゲームパッド、ジョイスティックの利用	タッチスイッチ、ゲームパッド、ジョイスティックなどインタラクティブな操作情報を利用する方法を学ぶ。

9	IoT を実現しよう（1） ：センサー情報の取得	IoT マイコンを使って各種センサー情報を取得、蓄積し送信する。
10	IoT を実現しよう（2）	IoT マイコンを使って送信したセンサー情報をスマホ、インターネットと連携させる。
11	身近なAI（1）：顔認識による人物検出	AIマイコン上でニューラルネットワーク TensorFlow Lite を使った顔認識による人物検出を稼働させる。
12	身近なAI（2）：音声認識によるコマンド	AIマイコンで登録済み音声による起動ワード認識を稼働させる。
13	身近なAI（3）：手指のジェスチャー認識	AIマイコンのセンサーでジグザグ、円環、斜線など簡単な空間描画を認識させる。
14	ハード、ソフトの相互接続：MIDIとOSC	MIDIやOSCによるコンピュータ、楽器、電子装置の相互接続と制御の仕組みを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【手を動かすことを大事にしよう】

Arduinoマイコンの開発環境はフリーソフトでWindows、Mac、Linuxいずれの環境でも利用可能です。また実習で使う**Arduino**は互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使って応用力を身につけてください。

【感性を磨こう】

「**Make:**」の関連書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介します。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。**Maker**ムーブメント（モノづくりの世界）を楽しく学べる2冊と電子楽器の自作やプロトタイピングについての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。

【何か作りたい！でも何を作ろう…？】

Karen Wilkinson(著), Mike Petrich(著), 金井哲夫(訳)、「ティンカリングをはじめようーアート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン(2015)、ISBN:978-4873117263

【**Arduino**＋音楽】

中西宜人、「**Arduino**ではじめる手作り電子楽器」、工学社(2015)、ISBN: ISBN978-4-7775-1916-3

【モノづくり＋デバイスアート】

青木直史(著)、「**Arduino**とProcessingではじめるプロトタイピング入門」、講談社(2017)、ISBN: 978-4061565692

小林茂(著)、「Prototyping Lab 第2版ー「作りながら考える」ための**Arduino**実践レシピ」、オライリージャパン(2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、学期末に提出する作品発表(30%)、合評(10%)により評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。2020年度からは実機の**Arduino**とクラウド上のシミュレータ**Tinkercad**を併用することで自宅での学習環境も整備されています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用し、実習に必要なPC、**Arduino**など共通の電子部品と配線材は用意します。
課題作成時および提出時には貸与PCまたは個人PCが必要になります。

【その他の重要事項】

情報アプリケーション科目は情報学の総合力を育む科目であり、本科目ではモノづくりのための発想、知識、スキルの全てを身につけることを目指して欲しい。
受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with the creative development of original digital gadgets such as electronic percussion and sensory lights, gesture detection, wake word speech recognition, IoT applications by using various sensor devices, interactive human interface devices and display devices enabled by **Arduino** and RP2040-based micro-controllers. Students will become well familiar with the **Arduino IDE** (Integrated Development Environment) in a small classroom workshop environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 30%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2026/5/1

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

こころの科学

岡本 郁子

サブタイトル：こころが生み出す「体験のリアリティ」
配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 感動の想い出は、なぜかスローモーション
あなたが日々体験している「まさに今、私のこころがはたらいている」という実感を手掛かりにして、「こころ」という不思議なはたらきと、その面白さを様々な角度から理解することを目指す科目である。
● 「こころ」がはたらいている、と実感するのはどんな時？
「こころ」とはいったい何だろう。「こころ」についてよく知っているつもりなのに、いざ説明しようとするとうまく説明できない。なぜなら、自分の「こころがはたらいている」ことをあまりに当然に考えているから。
しかし、「こころ」がうまくはたらかない時や、あなたにとって初めての事、思いもよらない事に出会った時、その“存在”に気づくのである。実際に、あなたの「こころ」にとって想定外の現象は多く発生している。
● 「こころ」とはいったい何だろう
「こころ」のしくみを理解する上で基本となる「気づく」「覚える」「わかる」「誤る」「問題を解く」「感情がわく」に着目し、解説を加える。学術的な説明の前に、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することから出発しよう。大切なのは、こころがうまく機能している状態だけでなく、「こころが上手くはたらかない」現象にも光をあてることである。
ロボットや人工知能の分野では「こころを作ってみる」試みが急速に進む。一方で、「こころ」の探求は、単一の学問領域だけで本質に迫るのは難しい。心理学に加え、脳科学、人類学や言語学など様々な角度からアプローチが試みられ成果を上げている。「こころの科学」では、関連領域の知見を踏まえ、学際的な視点から「こころの科学」の基礎を学ぶ。

【到達目標】

・気づく、覚える、わかる、誤る、問題を解く、感情がわく等、「こころ」のしくみを理解する上で基本となる事柄について、その要点を説明できるようになる
・感情の役割、アフォーダンス概念など、講義で解説される基本主題について、それらが「こころの理解」にどのような新たな視点を与えるのか、その意義を簡潔に述べることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「こころ」のはたらきとして、気づく、覚える、わかる、誤る、問題を解く、感情がわくに着目し、関連分野の知見を整理して一つ一つ解説を加える。学術的な説明だけでなく、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することにも力点を置く。
こころがうまく機能している状態だけでなく、こころが上手くはたらかない現象にも着目する。たとえば、「記憶する」だけでなく「忘れる」重要性、「わかる」だけでなく「間違える」プロセスにも着目する。それによって「こころ」の理解は面白くなるし、奥深さを学べる。
各講義の最初に、受講生のコミュニケーション・シート（小レポート）の内容を踏まえながら前回のおさらいと解説を行い、受講生の理解がさらに深まるように工夫する。
授業での問いかけや、コミュニケーション・シート（小レポート）を通して、受講生が一方的に知識を受け取るのではなく、自ら考え、内なる自分と対話をすることで、こころについての理解を深めていくように設計されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義のアウトラインと進め方
2	こころについて、どのような理解を目指すのか	「こころのはたらき」を理解するための枠組みを準備する
3	気づく、対象を捉える、気づいてないのに分かっている	感覚から知覚、知覚から認知へ、意識、潜在認知
4	覚える、忘れる、覚えることは皆同じ？	記憶のしくみ、誤って覚える、忘却する

5	わかる、知らない、わからない	概念の形成、知識獲得と学習、言語の役割
6	間違える、「間違え」から分かるこころ	認知における無意識的な偏り、日常で起きる間違い
7	考える、問題を解く	『問題』とは何か、問題解決する、推論する
8	感情が生まれる、感情をはたらかせる ～感情の役割の発見へ	感情の彩り、人類に共通する感情、感情を生み出す仕組み
9	感情に促される、影響される、感情に対する気づき	感情の果たす役割、感情の調節
10	脳からみた、こころ 人工物ではたらく、こころ	人工知能の仕組みと人間の直感的理解の違い
11	人間と環境との相互作用を基本視点とする生態学的アプローチ	生態学的視覚論（ギブソン）の基本的な考え方、アフォーダンス
12	社会・文化に埋め込まれた、こころ ～個人から社会の視点へ	状況に埋め込まれた学習、正統的周辺参加、社会的実践としての学習
13	自分への理解を深める	自分を客観視する、自己理解を深める
14	「こころ」について再考する	こころについて学びの振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コミュニケーション・シート（小レポート）作成を含め、準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

・日常と非日常からみる こころと脳の科学（宮崎真ほか著、コロナ社）2018

【成績評価の方法と基準】

・授業への参画、コミュニケーション・シート（小レポート）提出を含む平常点 50 %
・中間および期末：課題レポートまたは試験 50 %
上記を総合的に評価し、評定を決める。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際の現象を理解しやすいように、できる限り実験例や具体例の提示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

コミュニケーション・シート（小レポート）、課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「文化情報のデザインワークショップ」と組み合わせると、理解が多角的になり面白くなる仕組みになっている。
・「こころとからだの現象学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basics of science of the mind. It also aims to provide you with a new perspective of the mind by re-examining your real-world experiences in your "mind".
By the end of the course, students should be able to explain overview of fundamental elements of science of the mind including attention, emotion, concept learning, problem solving, mistake, and affordance.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

FRI300GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300）

ゲーム構築論

重定 如彦

配当年次／単位：3～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさをコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはワープロ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。

実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作ることができるようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになる。

日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？ 本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

コンピュータゲームの題材としては主に、古いや数当てゲームなどの初歩的なものからはじめ、最終的にはマインスイーパーやテトリスなどの知名度の高いゲームを扱う予定である。

【到達目標】

コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身に着けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業ではコンピュータプログラミングの入門用言語として Javascript を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。

前半では、「古い」、「数当てゲーム」といった簡単なゲームを扱うことによってプログラミングの基礎を学ぶ。

後半では「マインスイーパー」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。

実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。 Javascript の基礎について学ぶ
2	古い	変数、乱数、条件分岐について学び、古いのゲームを作成する
3	数当てゲームその 1	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する
4	数当てゲームその 2	数当てゲームを完成させる
5	マインスイーパーその 1	配列変数について学び、マインスイーパーの盤面をどのように表現するかについて学ぶ
6	マインスイーパーその 2	グラフィックスについて学び、マインスイーパーの画面の表示方法について学ぶ

7	マインスイーパーその 3	マウスイベントについて学び、画面上をクリックすることによってマインスイーパーのマスを開く方法について学ぶ
8	マインスイーパーその 4	マスを開いた際の処理、旗の処理、ゲームのクリアの判定方法について学ぶ
9	マインスイーパーその 5	マインスイーパーを完成させる
10	テトリスその 1	テトリスの盤面を表現する方法、様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
11	テトリスその 2	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ
12	テトリスその 3	ブロックがくっついた時の処理、ブロックを消す方法について学ぶ
13	テトリスその 4	ブロックを時間経過によって移動させるというアニメーションの手法を学ぶ
14	テトリスその 5	その他、点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を予習復習し、各自制作の実習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生のための JavaScript 重定 如彦 著 東京電機大学出版局
授業で使用するので、受講する場合は必ず各自で入手する事

【参考書】

必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 90%

課題は授業内で適宜指示する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストを使用し、各種ソフトウェア等を用いて進める。

【その他の重要事項】

熱意があればプログラミングの未経験者でもテトリスを完成させることが可能です。プログラミングやコンピューターゲームに興味がある方はぜひ受講してみてください。

マインスイーパーやテトリスの完成版を見たい方は、<https://web.tdupress.jp/downloadservice/ISBN978-4-501-55770-6/> からウェブ教材をダウンロードし、下記の操作を行ってください。なお、このウェブ教材はフリーソフトにしましたので、教科書を購入せずにダウンロードしても OK です。

マインスイーパー

- ・上部の 11 章をクリックする
 - ・左の項目の一番下にある解答例 (J) をクリックする
- テトリス
- ・上部の 15 章をクリックする
 - ・左の項目の一番下にある解答例 (J) をクリックする

なお、この解答例では 2 色のブロックしか落ちてきませんが、少しプログラムを記述するだけでブロックの種類を増やすことができます。その他の章も同様に解答例をクリックすることで、各章の章末問題の解答例を実際に見ることができます。

生成 AI を補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用した課題の提出は認めない。

本授業では取り扱いませんが、プログラミングに関連するものとして Python で ○ × ゲームの AI を作成する記事を下記の URL で連載しているので興味がある方は参考にして下さい。

<https://qiita.com/ysgeso/items/04deccdf7ec15314c48>

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn the enjoyment and difficulty of creating computer software by applying informatics.

The theme of computer software is entertainment. Starting from simple fortune telling software, this class deals with number guessing game, minesweeper, and tetris.

Students will prepare and review the textbook and practice their own work. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Ordinary points 10%, Assignments 90%.

Assignments will be given in class as appropriate. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

PHL300GA（哲学 / Philosophy 300）

こころとからだの現象学

森村 修

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こころとからだの関係を考える

あなたたちには「こころ」が「あります」か？多くの人が「こころがある」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「こころがある」ならば、それは「どこにあります」か？」。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「脳にある」と答えるかもしれません。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、こころと脳とは、どのように関係していますか？。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか？」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどのようにして「ある」と言えるのでしょうか？あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから」「こころはある」のですか？それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか？こころで体験するのですか？からだで体験するのですか？

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という本科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していく、現象学（Phänomenologie）（独）という哲学的立場から考察する科目なのです。

「こころ」は存在しない

人間が思考する能力が始まって以来、「こころ」（魂）について徹底的に考えられました。それにもかかわらず、「こころ」を十分に理解できたという学説は、自然科学も含めて存在しません。いまだに、「こころ」と「からだ」の関係すら明らかになったとは言えません。「こころとからだの現象学」では、「こころの哲学」の歴史から様々な哲学者の見解をおさらいし、「こころの哲学」が具体的にどのような問題に取り組んできたかを学びます。そして、20世紀後半から現在に至るまで、認知科学や「こころの科学」と言われる分野と交流をしながら、新しい「こころとからだの哲学」を学んでいきます。

【到達目標】

- ・「こころの哲学」の歴史を学ぶことによって、「こころとからだ」の関係について、哲学的に説明できるようになる。
- ・哲学的な立場としての「現象学」の基礎を学ぶことができる。
- ・「こころとからだの現象学」を通じて、科学的にアプローチする「こころの科学」との関係性を明らかにすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本科目は、原則的には講義形式で行います。また、必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生1人ひとりが自分の「こころとからだの関係」に対して自覚的になるように、授業を進めます。というのも、現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場だからです。

- ・事前に文献の一部を読んできてもらい、文献の内容を深く理解してもらうために、授業で文献内容についての要約を試みます。
- ・受講生の要約やコメントを受講生全員で検討し、互いの読解力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	こころとからだについての基本的な講義の概略と進め方
2	講義の概略と進め方 こころの働きは、ア・プリオリ（非経験的）のものか、ア・ポステリオリ（経験的）なものか？	考え方 認識の働きは、科学的に解明できるのか？ —— カントとヴァント
3	意識の働きは、どのように記述できるのか？	意識の志向性 —— フッサール超越論的現象学(1)

4	楽しい時はすぐに時間が過ぎるのに、退屈な時はなかなか時間が過ぎないのはなぜ？	時間意識の現象学 —— フッサール超越論的現象学(2)
5	からだは「存在する」のに、こころは「存在する」とはなかなか言えないのはなぜ？	世界内存在と道具 —— ハイデガー実存的現象学(1)
6	私が生きているうちは「存在する」なら、私が死んだら、私は存在しないのか？	実存的自己と死への「不安」 —— ハイデガー実存的現象学(2)
7	私たちの知覚は、どのように環境と関わるのか？	原子論の心理学への批判 —— ゲシュタルト心理学
8	私たちの知覚は、どのように身体に根ざしているのか？	現象学と心理学 —— メルロ＝ポンティの現象学(1)
9	私たちのからだは、どのようにして生きているのか？	身体の現象学 —— メルロ＝ポンティの現象学(2)
10	自己はひとりぼっちなのか？	自己の存在論 —— サルトルの現象学的実存主義
11	知覚は環境との相互作用なのか？	生態学的心理学 —— ジェームズ・J・ギブソンの生態学的心理学
12	コンピュータには何ができないか？	認知主義への現象学的批判 —— ヒューバート・ドレイファスの哲学
13	こころとからだの現象学に向けて	エナクティヴィズム —— 現象学的身体性認知科学
14	総合討議と、まとめ	「こころとからだ」について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で用いる文献を事前に読んでもらうことがある。
- ・また、各講義に生じた疑問について、そのつど発表できる準備をしておく。

【テキスト（教科書）】

・ステファン・コイファー&アントニー・チェメロ『現象学入門——新しい心の科学と哲学のために』田中彰吾・宮原克典訳、勁草書房、2018年 (Stephan Käufer and Anthony Chemero, *Phenomenology: An Introduction*, Polity Press, 2015.)

【参考書】

- ・ショーン・ギャラガー&ダン・ザハヴィ『現象学的な心——心の哲学と認知科学入門』石原孝二他訳、勁草書房、2011年 (Shaun Gallagher and Dan Zahavi, *The Phenomenological Mind: An Introduction to Philosophy of Mind and Cognitive Science*, Routledge, 2008/2nd Edition, 2012.
- ・Tim Bayne and Michelle Montague eds. *Cognitive Phenomenology*, Oxford University Press, 2011.

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%：討議への参画、小レポートを含む)と、試験あるいは課題レポート(60%)。以上を総合的に評価し、評定を決める。

【学生の意見等からの気づき】

「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる（甲先生）。

・「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているので、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」はこころとコミュニケーションの関係をテーマにしていますし、「文化情報の哲学」は、精神異常や発達障害など「こころ」が病んだり障碍したり、また遺伝的に脳が障碍したりした人と精神やこころとの関係を論じています。

【Outline (in English)】

In this class, through the history of "phenomenological philosophy", we will confirm how "the relationship between mind and body" has been discussed and examine what kind of problems the phenomenological philosophy has tackled concretely. And from the latter half of the 20th century to the present, we will learn a new "phenomenology of mind and body" evolving under the influence of cognitive science and "mental science".

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

道具のデザイン学

松田 美奈子

サブタイトル：魅力的な体験をデザインする、という考え方
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：ヒューマンインターフェイス論
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
旧：ヒューマンインターフェイス論の修得者は履修不可
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● デザイナーだけではない。利用者の視点がデザインに役立つ！
日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、面倒な操作で不快になった体験もあるだろう。

● デザインすると、暮らしはもっと快適になる

暮らしの道具やサービスを使いやすい・魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザからの視点が非常に役立つことが分かってきた。

● ユーザの体験（エクスペリエンス）をデザインする、という考え方ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすく、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

【到達目標】

UXデザインの基礎が身につく

- ・使いやすい魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。
- ・デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
- ・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス(experience=体験)の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。

●各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイデアがさらに得られるように工夫する。

●「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する
特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	暮らしはデザインの可能性であふれている
2	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
3	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい

4	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
5	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
6	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
7	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① <i>User Experience (UX) Design</i>	ユーザの特性を理解し、体験 (<i>experience</i>) をデザインする、という考え方
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	<i>UX Design</i> の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
10	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
11	道具のデザイン実習①商品の企画、ユーザー分析	魅力ある企画書を作るためにユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習②デザインプロセス	ユーザの快適な体験 (<i>experience</i>) をデザインする
13	道具のデザイン実習③評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を兼ねて、課題練習を少しずつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「誰のためのデザイン」(D.A. ノーマン、新曜社) 2015

【参考書】

- ・「ユーザーインタビューをはじめよう」(ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社) 2017
- ・「ユーザビリティエンジニアリング」(樽本徹也、オーム社)2014
- ・「UXデザインの教科書」(安藤昌也著、丸善出版) 2016
- ・NPO 人間中心設計推進機構： <http://www.hcdnet.org/>
- ・ユーザインタフェースと認知モデル (甲洋介、人工知能学会論文誌)
- ・「人間計測ハンドブック」(甲ほか、朝川書店) 2013

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシート、授業・討議における積極的な貢献度合い(50%)
- ・発表とレポート(50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

【実務経験のある教員による授業】

教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【履修条件】

- ・国際文化学部生は「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。
- ・他学部生（国際文化学部生以外）は初回の授業に出席し必ず先生に履修の許可について相談すること。

【関連科目】

・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PC、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

情報セキュリティとプライバシー

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PCや携帯電話などのようにネットワーク接続する情報機器を使用する際、ウィルスなど意図しないプログラムを引き込んで、被害にあうことがある。情報技術が社会基盤となり、広く一般に利活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや脅威を学習し、情報セキュリティやプライバシー、および匿名性に関する議論を行い、有効にネットワークを使用するため、ネットワークユーザー個人として、あるいは組織のネットワーク管理者としての基本的な知識と情報管理技術を身につけることを目標とする。ネットワーク上のウィルス等の脅威から身を守るためには、ファイアウォールやアンチウィルスソフト等に代表される情報システムの手法と、ルールや法律によりそれを抑止する手法がある。両者を解説する。

【到達目標】
・PC等、個人情報情報機器を利用する上で、必要な情報セキュリティ知識を身につける。
・より高いセキュリティを実現する方策を立案できる。
・セキュリティを守るためにどのような社会制度があるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにもなう各回の授業計画の修正については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。抽選の可能性があるので、履修予定者は必ず初回授業前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。前半は主に講義中心に進めるが、途中で実習とその内容に関する課題がある。課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について説明し、スケジュール、テキスト等の紹介する。
2	自分のPCを守る	アンチウィルスソフト、ファイアウォール、アップデート。
3	アタックのパターン(1)	個人PCを狙う攻撃。「強い」パスワードとは。コンピューターウィルスやパスワードクラッキング。
4	アタックのパターン(2)	WEBを使う攻撃。クロスサイト・スク립ティング、DNSキャッシュポイズニング。
5	仮想世界の「名前」とアクセス制限	情報サービス上で用いている「名前」とプライバシー、匿名性について。また、データアクセスの制限の必要性とその手法。
6	インテリジェンス、OSINT	インテリジェンスとは。またその中で特にインターネットに親和性の高いOSINT（Open Source Intelligence）について。
7	暗号とは(1)	暗号の歴史と基礎理論。ハッシュ、電子署名などその応用。
8	暗号とは(2)	共通鍵暗号法の原理と実践（実習）。
9	暗号とは(3)	公開鍵暗号法の原理と実践（実習）。
10	電子署名と認証	電子署名とは。SSHによるネットショッピング。
11	組織としてのセキュリティ対策(1)	情報漏洩の事例紹介。
12	組織としてのセキュリティ対策(2)	CSIRTの必要性和その適応範囲。

13	法制度による情報安全対策	国際的なサイバー犯罪に関する法規・法律。
14	期末試験、授業のまとめ	授業内容の理解度を確認するための試験を実施。情報セキュリティの考えかたの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会生活を送る上で、情報セキュリティとしてどんなリスクや脅威があり、そのためにどんな対策があるのか意識する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に必要としない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%）と課題（またはレポート）（30%）、期末テストの成績（50%）を併用した評価を行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
対面での期末テスト実施が困難な場合は、オンライン試験に切り替えた上で、小テスト・課題・レポートの配点を若干上げる可能性がある、また掲示板などのコメントや情報共有を平常点として加点する。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のパソコンを使用した実習を伴う授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用し進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。
基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、CUIコマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種shellが利用できる環境）を前提としている。
毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】
受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。
初回授業はZoomを用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録すること。詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。
授業は「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進めます。また、授業内容に関連するので「ネットワーク基礎」の履修、あるいは並行履修を推奨します。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, we learn the risks and threats to the information services that we are using closely. We will also discuss information security, privacy, and anonymity, with the goal of acquiring basic knowledge and skills for information management.
(Learning Objectives)
- To acquire the necessary information security knowledge for the use of personal information devices such as PCs.
- To be able to plan measures to achieve higher security.
- Understand what social systems are in place to protect security.
ks and related information technologies.
(Learning activities outside of classroom)
You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end exam (50%).

BIO200GA (その他の総合生物・生物学 / Biology 200)

文化と生物

島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、松崎 素道、鈴木 忠、富川 光

サブタイトル：生活にいかす生物との関わり

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：バイオインフォマティクス

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化という視点からみた生命の実像を学ぶ。

内容は大きく2つに分けて、(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と、(III-V)「生物それ自体とその進化」について講義を行う。分野は衛生学、美術、生物学、農業にわたり、生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ。

【到達目標】

ヒトの生活と生物にまつわる歴史、文化そして、現代的な問題を解決する方法について、考え理解する。生物の多様性や進化について、考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について、現代生物学の手法を体験し、現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。

講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。11回までは、講義が中心ですが、特に、5-8回は、討議なども入れたアクティブラーニングの手法もちいます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。最後の実習（12回以降）は、実際にパソコンのソフトを用いて、外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います。

メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）、②食中毒とは何か、③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か、②食同源は健康的な食生活の基本、③人々の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態、②ダニ・昆虫アレルギーについて、③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ）、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤とIPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実態と対策、③害虫被害の実態と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物～歴史を作る影の立役者～ 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用

7	(II) 生物の進化と塩基配列情報 (1) 塩基配列情報によって進化を推定する。 担当教員：島野	生物の進化を推定する。生物の遺伝子DNAの塩基配列情報から作成された系統樹から何がわかるのか。
8	(III) 動物とは？ (1) 死と復活 担当教員：鈴木	自然発生論争と蘇生論争
9	(III) 動物とは？ (2) 未発見の生物を発見するために、冒険に出よう。 担当教員：鈴木	生物と名前。なぜ生物に名前があるのか。どのように名前を付けるか。
10	(II) 生物と生態系 (1) 生物と環境の共進化 担当教員：松崎	生命の起源、共生による生物進化、地球環境の改変と適応
11	(II) 生物と生態系 (2) 生態系と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置と役割（生態系改変や宿主操作）
12	(II) 生物と生態系 (3) 食文化と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物と食文化との関わり
13	(IV) 生物の分類と命名 (1) 人間生活と生物の分類 担当教員：富川	生物を分類し、名前を付けることの意味について、人間生活と関連付けて考える。
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1) 無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし、様々な形態や筋肉のつき方、動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想、小テストなど)(40%)も加え、総合的に評価する。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度、カリキュラムを大幅に改訂し、国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。

受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用します。パソコンにインストールされているソフトを元に、実習します。遺伝子データベース <http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html> を使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で行うことに注意してください。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced to how humans use biological information for culture through hygiene, art, biology, agriculture, etc., and the real image of life from the perspective of culture.

The content is divided into two major sections: (I-II) "Culture and organisms surrounding humans" and (III-V) "Organisms themselves and their evolution. The fields of study include hygiene, art, biology, and agriculture, and we will learn how humans use biological information. Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively. Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と環境情報

島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂、吉川 翠、長谷川 真紀子

サブタイトル：人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのか

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】

人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生態系、地球環境と、人間生活、食文化、病気などについて、現代生物学、栄養学、医学、保全生態学の観点から現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらう。講義が中心だが、討議なども入れたアクティブラーニングの手法ももちいる。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介する。メールの添付などの方法をもちいて課題等に対するフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 生物多様性と持続可能性 (1) 生物多様性はなぜ必要なのか。 担当教員：島野	講義内容のあらすじ ①生物多様性条約 ②食文化（乳製品）と生物多様性 ③分類学と生物多様性
2	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (1) SDG s de 地方創生ワークショップ 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGsを「まちづくり」や「地方創生」の身近な“プロジェクト”に引き寄せながら“自分事として体感”する。地域で暮らす市民、事業者、NPO、自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する。 ①「SDGs de 地方創生」②まちづくり③地方創生④人口減少
3	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (2)Change for the blue（海洋プラスチック課題）ワークショップ 担当教員：中西	「Change for the blue」を通して、海洋プラスチック削減のために、企業・組織の一員としてできること、一市民としてできることについて考え、市民意識、技術、経済状況等も踏まえて、ごみ削減を体感する。 ①Change for the blue②海洋プラスチック③ごみ削減
4	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (3)レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のMethodと教材を活用したワークショップ（ありたい未来の世界を考える） 担当教員：中西	レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のメソッドと教材を活用し、ありたい未来の世界の姿についてコンストラクショニズムに基づき、作品を作成し、内省し、対話を行う。①レゴブロック②コンストラクショニズム③対話の世界を考える

5	(III) 感染症と日本社会 (1) 野生動物とヒトの間の感染症 担当教員：島田	日本の原風景である里山では、人々の生活様式の変化に伴う荒廃が進み、野生動物が増加している。イノシシやシカを用いたジビエ料理の文化も交え、野生動物とヒトの間を行き来する人獣共通感染症について考える。
6	(III) 感染症と日本社会 (2) 新興感染症 担当教員：忽那	①新型コロナウイルス感染症とは？ ②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション ③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響
7	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (1) 土壌汚染 担当教員：長谷川	人間活動の影響によりおこる、化学物質や薬品、畜産などによる土壌汚染問題について学ぶ。また、汚染土壌中に棲む土壌動物の特徴について理解する。
8	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (2) 近代以前の日本と現代の日本 担当教員：長谷川	①人間活動の問題点 ②土壌汚染の具体例 ③汚染物質の土壌動物への影響 江戸時代の暮らしや環境について学び、現代日本の社会生活の特徴について理解する。
9	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (4) 1日の生活様式と食生活を振り返る（生活活動調査&食事バランスガイド） 担当教員：中西	①江戸時代の暮らし②循環型社会③江戸時代の農業 生活活動調査と食事バランスガイドの調査用紙に回答し、一日の身体活動量を算定、エネルギー必要量や必要な食事バランスを知るとともに、各自の一日の食事を振り返り、どのような栄養バランスの食事をしているのか知り、改善点を考える。①身体活動量②推奨エネルギー摂取量③食事バランスガイド
10	(III) 感染症と日本社会 (3) エイズと社会 担当教員：塚田 ※この回は、オンラインに変更する可能性があります。事前にお知らせしますので注意してください	①「エイズ」ってなんだろう②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの
11	(I) 生物多様性と持続可能性 (2) 霊長類の生物多様性 担当教員：吉川	霊長類の社会：ヒトは霊長類の1種であるという視点から、ヒトを含めた霊長類の社会や行動の違い、共通点を学ぶ。また、環境への適応について、ヒトの進化の隣人といわれるアフリカのチンパンジー等の行動生態の研究事例を学び、理解を深める。
12	(V) 自然環境と文化 (1) 保全・再生 担当教員：佐々木	①ヒトと、ヒト以外の霊長類について②霊長類の行動と生態 水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ。 さらに、新潟市佐潟の「潟普請」、習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して、湿地の保全や再生にかかわる文化について考える。
13	(V) 自然環境と文化 (2) wise use（ワイズユース） 担当教員：佐々木	ラムサール条約が推進するワイズユース（賢明な利用）について学ぶ。さらに、大崎市の「ふゆみずたんぼ米」、檜枝岐村の尾瀬と温泉による観光、豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる文化を考える。
14	(V) 自然環境と文化 (3) CEPA 担当教員：佐々木	ラムサール条約が進めるCEPA（コミュニケーション、力量形成、学習・教育、普及活動）について学ぶ。さらに、高島市の「ふるさと絵屏風」、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」、日本湿地学会の活動などの事例に即して、CEPAにかかわる文化を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げている。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想,小テストなど)(40%)も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善に努めている。
受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコンやタブレット）などを準備して下さい。

【その他の重要事項】

※講義10回目、塚田先生ご担当回 オンラインに変更する可能性があります。事前にお知らせしますので注意してください。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced that living organisms have evolved in biological diversity as a result of their suitability to their respective living environments. Humans, living under diverse environmental conditions, have created a variety of technologies and thoughts to adapt to their environment.

The goal of this course is to understand the origins of culture and sustainable society with information obtained from the environment surrounding humans from multiple perspectives in the natural sciences and humanities and social sciences, with a particular focus on culture constructed through the interaction between human activities and the environment.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

HUI300GA（人間情報学 / Human informatics 300）

文化情報空間論

甲 洋介

サブタイトル：人工知能について考える、人間を捉える新たな視点
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を捉える新たな視点として、『人工知能による人間と社会の拡張』の問題を取り上げる。時間軸の異なる3つの技法に着目する。

- 人工物を次々に生み出すことで自らの限界を超える
人間は自然界で非力な存在である。人工物を次々に生み出すことで、自分の身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。その結果、この世界は自然の世界と言えなくなりつつある。私たちは自ら作り出した人工の世界に生きている、と考えるほうがむしろ自然だろう。
- 3つの『知』の仕組みに焦点をあてる そしてどこに向かう？
知的人工物は、ロボットのように人間から独立した分かりやすいモノだけではない。身体に装着したり、服に埋め込んだり、脳波で作動させたり、ヒトの身体や能力と一体化して機能する人工物も存在する。知的人工物は日常生活の至るところに埋め込まれ、暮らしと一体化することだろう。その時に、何が起ころか。
- これは人間の拡張なのか、人工的世界の拡張なのか
まず「人工物の科学」(H.A.サイモン)を理解することから始め、それをベースとして「知的人工物との暮らしのデザイン」について学ぶ。講義の終わりには、「都市」や「社会」もある意味で空間化した知的人工物として捉えることができるようになる。

【到達目標】

- ・人工物とは何か、それはどのように登場し、人間のもつ制約をどのように拡張してきたのか、「人工物の科学」の基礎を理解する。
- ・人工物が知的に振舞う技法として、知識表現、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズム、3つの仕組みの基礎を理解する。
- ・人間と人工物の共生を捉える幾つかの分析観点を学び、ある具体的な場面を切り出して、人工物によって拡張された暮らしのデザインに取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、受講生と教員の対話に加え、受講生どうしが討論し合い共に学び合う場を作りながら進める。

まず「現在」を人間と知的な人工物との共生社会として捉えることから始まる。そして、私たちの生活空間のさまざまな局面に人工物が浸透する状態に着目し、

- ①人間と独立したモノとして存在するいまの人工物、
 - ②人間の身体や能力と一体化して作動し、人間を拡張する人工物、
 - ③空間化し人間を包み込む環境として存在する人工物、
- の3つの存在形態について検討する。

これらの人工物が日常生活に埋め込まれることによって、私たちの生活習慣や文化はどのように変容し、生活空間はいかに拡張されるのか。最後に、幾つかの生活場面を取り上げ、人間と社会の拡張を具体的にデザインすることに取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	知的人工物との暮らし ～サイバーパンクSFを超えて
2	暮らしの人工物のサイエンス	日常生活を構成する人工物
3	暮らしの人工物のサイエンス②	人工物を科学する、とはどのようなことか
4	人間のもつ制約を超える	人間の身体・感覚・認知の諸特性を拡張する人工物と、その方向性
5	変化に適応する人工物	環境を感じとり、身体を持つ知能としてのロボット
6	環境を感じ取り適応する知的な人工物	ニューラルネットワーク（神経回路網）モデル

7	環境を感じ取り適応する知的な人工物②	自然淘汰と遺伝的アルゴリズム
8	人間と一体化する人工物	身体と人工物の境界はすでにあいまいである
9	人間と一体化する人工物②	人間の知覚、感覚的諸能力との一体化
10	人間と協調する知的人工物	人間の認知的諸能力と一体化する
11	人間と協調する知的人工物②	人工物に感情は必要か
12	空間化する知的人工物	情報化する空間と、空間化する情報
13	人工物との暮らしのデザイン	具体的な場面を切り出して、人工物との暮らしをデザインする
14	まとめ	人間拡張学に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に、講義と討議を通じて各自で考えた事柄をまとめ、学習支援システムに蓄積する。受講生からのコメントは講義で活かされる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・システムの科学 第3版 (H.サイモン著、パーソナルメディア) 1999. 可能なら、The Sciences of the Artificial (The MIT Press, English Edition) 2019 が良い。J.E.Lairdによる序文が追補された。
- 他については、講義の進行に応じて指示する。

【参考書】

- ・「複雑さと共に暮らす」(D.A. ノーマン、新曜社)2011.
- ・「深層学習：ディープラーニング」(麻生英樹他、近代科学社)2015.
- ・Society 5.0 (内閣府・科学技術政策) https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
- ・「攻殻機動隊」(監督：押井守、ワーナー) 他一連の作品群
- 他については、講義の進行に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポートまたは試験(50%)、
 - ・授業・討議における積極的な貢献度合い（発表、レスポンスシートを含む）(50%)
- を総合して評価する。
期末レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を増やし、分かりやすい説明を試みる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

こころ、空間デザイン、人工知能、ロボットに興味のある皆さんに参画を期待する。

【履修条件】

- ・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「仮想世界研究」「こころの科学」「システム論」と組み合わせで受講することにより、履修効果が高まるようにデザインされている。

【Outline (in English)】

This class addresses the "Augmented Human", "Virtual Society" and "Intelligent Artifacts", as one of the essential issues of our modern society. It allows you to learn basic principles for designing the symbiosis and augmentation of human, society, and artifacts.

By the end of the course, students should be able to (a) explain basic concepts and framework of the augmentation of human and the intelligence of artifacts, and (b) discuss the design of the symbiosis of the "Augmented Human/Society" and "Intelligent Artifacts".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA（計算基盤 / Computing technologies 300）		
コンピュータ音楽と音声情報処理		
大嶋 良明		
配当年度／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：		
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい		
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 PCでシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語であるPure Data(Pd)を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時にMIDIやOSCによる他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoTなど現代的な利用のあり方を学ぶ。		
【到達目標】 コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd)に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしてのPdの利点を認識し、Windows、MacなどOSや機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 ビジュアルプログラミング言語Pdを使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pdによる音響モデリングの先端的な実現例をAndy Farnellのサンプルプログラムから学ぶ。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびPureData(Pd)の概要	【講義と実習】PureData(Pd)とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。【音響モデリング】DTMF トーン（ブッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pdの基礎	【講義と実習】パッチ（Pdのプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。
3	音を出す	【音響モデリング】ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。【講義と実習】音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。
4	メトロノームを作る	【音響モデリング】雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。【講義と実習】音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【音響モデリング】時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。【講義と実習】オーディオサンプルの再生や録音した音をPdで使う方法を学ぶ。【音響モデリングの世界】ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。
7	リズムマシン (2)	【音響モデリング】ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。【講義と実習】リズムマシン基本形を发展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。
8	シンセサイザーとMIDI(1)	【音響モデリング】人間の歌声のモデル化を学。【講義と実習】波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDIによる電子楽器の制御方法を理解する。
9	シンセサイザーとMIDI(2)	【音響モデリング】ロボット（スターウォーズR2D2）の応答のモデル化を学ぶ。【講義と実習】シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。
10	音響効果の実装：リバーブ、ディレイ、フランジャー	MIDI信号による制御を付加する。【講義と実習】ディレイ音と直接音かなる音声再生と聴感上の効果の関係理解し、空間系エフェクトの実装に組み込む。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。【講義と実習】音に映像を連携させる手法を学ぶ。
12	ネットワーク環境への拡張	Webカメラから信号をPdで加工する方法やPdで映像を制御する方法を学ぶ。【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数のPdパッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
14	まとめ	【講義と実習】Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motionなどフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。PduinoによるPdとArduinoの連携方法を学ぶ。学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。PdはオープンソースのソフトウェアでありWindowsでもMacでもフリーで配布されており、情報カフェテリアのPCにもインストールされている。スマホ用にもPdの実行環境は提供されている。授業時間外でのPdの実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 実習内容を記したプリントを配布する。		
【参考書】 参考書・参考資料等 【Pure Data】 美山千香土、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424 松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Dataではじめるサウンドプログラミング』、ピー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804 中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821 【音響モデリング】 Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410		
【成績評価の方法と基準】 平常点（30％）、課題（30％）、最終課題の評点（40％）で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】 講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人のPCを利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。またWeb公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。		

期中アンケートにおいて音楽知識に関する意見を貰ったので改めて明記するが、普通科での音楽の知識や簡単なポピュラー音楽用語のみで受講には十分であり、高度な楽典知識は前提としていない。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のデスクトップPCを使用する。Pdはフリーにダウンロードできるので個人PC（Mac版、Linux版もある）にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

実務経験のある教員による授業：

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理（特にデジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識）、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI300GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300)

コネクション・デザイン

川村 たつる

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：ハイパーテキスト論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員35名 定員を超えた場合は選抜を行いますので、初回授業には必ず出席してください。

備考（履修条件等）：旧：ハイパーテキスト論の修得者は履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本の住宅の変遷から見た家族関係の変化や現代の公共施設の在り方、シェアリング・エコノミー、ソーシャルネットワーク等の事例を見ていながら、1989年にアメリカの社会学者によって提唱された「第三の居場所（サード・プレイス）」のような機能は、現代においてはどのように形を変え、どのような役割を持つことができるのかを考察していながら、これからの“人と人”や“人と社会”の繋がり方を考えていきます。

【到達目標】

いろいろな事例を見ていながら、受講者それぞれが“これからの第三の居場所（サード・プレイス）”を考えていくことで、社会における自身と他者の在り方を再考察できることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture、Z その他 / Other

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

本授業は、受講者により提出された課題の講評会を授業内で行う関係上、定員を35名とします。

※定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講を希望される方は必ず初回授業に出席してください。

■授業の進め方

①授業は対面を基本としており、講義形式と2回のグループワーク、2回の講評会で構成されます。

②課題として、中間と最終の計2回のレポートを作成し、それぞれ2回の講評会で発表を行います。

③授業ごとに授業内容に関する授業リアクションの提出を必須とします。※提出されたリアクションは、全員の分の内容を提出者の名前を外して配布し、受講者全員で共有できるようにします。

※オンライン受講、オンデマンド受講について

本授業は対面を基本としていますが、特別な事情で対面で授業が受けられない場合は、オンライン受講、もしくは授業録画を視聴するオンデマンド受講が可能です。

オンライン受講、オンデマンド受講を希望される場合は、必ず事務に相談の上、必要書類を提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	①授業の進め方とルール説明を行います。 ②この授業を進めていく上で参考となる世の中の動きを紹介し、考察をしてみます。
第2回	考察1「サード・プレイス」	1989年にアメリカで提唱された“サード・プレイス”という考えから、現代における第三の居場所の役割を考察をしてみます。
第3回	考察2「家族の在り方」	日本の住宅の変遷や現代における多様化する住まい方から“家族の在り方”を考察をしてみます。
第4回	考察3「パブリックス・スペース」	公共施設の事例から、これからの“公共性”とは何かを考察をしてみます。
第5回	考察4「共有する時代」	シェアリング・エコノミーなどの事例から“共有する時代”とは何かを考察をしてみます。
第6回	グループワーク①	中間レポートのためのグループワーク
第7回	中間レポート講評会	他の受講生の中間レポートを読み、意見交換

第8回	考察6「ネットワーク」	グラフ理論やスモールワールドモデル、経済学的理論などの基本的な概念から、“ネットワーク”を再考察をしてみます。
第9回	考察7「ソーシャルネットワーク」	ソーシャルネットワークを、インターネットの集団力学やネット炎上の研究、オンライン人格等の心理学的視点から考察をしてみます。
第10回	考察8「人と人との繋がりの方」	発達心理学の視点から、発達段階で変化していく“仲間関係”を考察をしてみます。
第11回	考察9「ダイアログとモノログ」	「オープンダイアログ」というフィンランドで行われている統合失調症の治療手法と、引きこもりを抱える家族の高齢化問題という視点から考察をしてみます。
第12回	グループワーク②	最終レポートのためのグループワーク
第13回	最終レポート講評会	他の受講生の最終レポートを読み、意見交換
第14回	これからの「サード・プレイス」とは？	最終レポートの内容からいくつか選び、これからの“サード・プレイス”を全員で考察をしてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業リアクションは、授業後に各自が授業内容を振り返り、授業支援システムで提出を行うこととします。

●映像資料（20～30分）がある場合は、授業までに各自でオンライン視聴して来てもらいます。

●課題は、各自が授業外で行うこととします。

●本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『サードプレイス—コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ著（みすず書房/2013年）、『新ネットワーク思考』アルバート＝ラズロ・バラバシ著（NHK出版/2002年）、『複雑な世界、単純な法則』マーク・ブキャナン著（草思社/2005年）、『インターネットの心理学』パトリシア・ウォレス（NTT出版/2018年）、『つながっているのに孤独』シェリー・タークル著（ダイヤモンド社/2018年）、『オープンダイアログとは何か』斎藤 環著＋訳（医学書院/2015年）等。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価を行うには、授業へ11回以上の出席を必要とします。

②授業リアクションの提出を必須とし、その内容から授業の理解度を評価（70%）します。

③課題である中間レポート、最終レポートの提出は必須とします。

④課題であるレポートに対して受講者自身がどのようにアプローチができたかを評価（30%）します。

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを十分に考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

また、グループワークの時間を十分に確保し、意見交換が効果的にできるように工夫していきたい。

【その他の重要事項】

こどものワークショップの企画運営や、視覚に障がいを持つアテンドが暗闇でツアーを行うドイツ発祥のイベントの企画運営、異業種協業を模索する企業団体の運営などに関わった経験から、人と人の繋がりの方や人と社会の繋がりの方を事例を見ながら考察していきます。

【Outline (in English)】

In this class, we will examine how people are connecting with each other, which is changing in various ways in the modern age, and consider what form and role a "third place" will take in the future, which is needed by people apart from home and work. The goal of the class is to examine the "third place" in today's world.

The goal of the class is to enable students to reconsider how to connect people with each other and with society, while considering the "third place" in the modern age.

Reactions to the class content will be submitted online after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on 70% regular marks and 30% assignments.

DES300GA (デザイン学 / Design science 300)

情報の編集論

川村 たつる

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報編集論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：定員40名 定員を超えた場合は選抜を行います。定員40名 定員を超えた場合は選抜を行いますので、初回授業には必ず出席してください。

備考（履修条件等）：旧：情報編集論の修得者は履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、解決をしたい目的のために「情報」を収集・分析し、効果的な表現を行う「デザイン」という方法論を手掛かりに、普段何気なく見ている広告（ポスターや新聞、雑誌等の広告）やテレビコマーシャル（映像広告）、商品パッケージなどをあらためて考察していきます。
また、近年散見される「広告」の炎上の事例を見ていきながら、どのように炎上が起こったのか、何が炎上を引き起こしているのかも考察していきます。これらを題材に、「情報」の意味を考え、「情報の編集」を学んでいきます。

【到達目標】

普段何気なく見ている日常の中に、「情報」が編集され存在していることを認識し、受講者それぞれがその意味を考察できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

本授業は、受講者により提出された課題の発表を授業内で行う関係上、定員を35名とします。
※定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講を希望される方は必ず初回授業に出席してください。

■授業の進め方

- ①授業は、対面の講義形式で行います。
 - ②広告、映像広告、商品パッケージをテーマにした3回の課題設定し、提出された課題は発表を行い、受講者全員で共有します。
 - ③授業ごとに授業内容に関する授業リアクションの提出を必須とします。
- ※提出されたリアクションは個人情報を外して配布し、受講者全員で共有できるようにします。

※オンライン受講、オンデマンド受講について

本授業は対面を基本としていますが、特別な事情で対面で授業が受けられない場合は、オンライン受講、もしくは授業録画を視聴するオンデマンド受講が可能です。

オンライン受講、オンデマンド受講を希望される場合は、必ず事務に相談の上、必要書類を提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	①授業の進め方とルール説明を行います。 ②この授業を進めていく上で必要な言葉の整理を行い、「ラスコー洞窟壁画」の事例や書籍の事例を見ながら考察してみます。
第2回	「デザイン」とは何か？	デザインに関係する用語の整理や方法論の解説、分類を行い、それぞれサンプルを使って、「デザインとは何か」を考察してみます。
第3回	「情報の編集」を考える	コンサートに関する駅貼りポスターの実例を比較しながら、「情報の編集」ということを考察してみます。
第4回	「最近気になる広告」を持ち寄って考える	受講者が最近気になっている「広告デザイン」を持ち寄り、「人は広告の何に惹かれるのか」を考察してみます。

第5回	「広告」とは何か？	広告に関係する用語の整理や分類を行い、サンプル事例を使って確認します。 さらに日本、韓国、アメリカ、イギリスの公共広告の事例を見ながら「広告とは何か」を考察してみます。 昭和初期から現代までの代表的な広告デザインを見ていきながら、「広告の中の情報とは何か」を考察してみます。
第6回	「広告」のこれまでに振り返る	1990年～現在までの代表的なテレビコマーシャルを観ていきながら、「映像広告の中の情報とは何か」を考察してみます。
第7回	「最近気になるテレビコマーシャル」を持ち寄って考えてみる	受講者が最近気になっている「テレビコマーシャル」を持ち寄り、「人は映像広告の何に惹かれるのか」を考察してみます。
第8回	「映像広告」のこれまでに振り返る	1990年～現在までの代表的なテレビコマーシャルを観ていきながら、「映像広告の中の情報とは何か」を考察してみます。
第9回	「広告」の炎上（前編）	ジェンダー視点から整理された「広告の炎上パターン」を見ていきながら、「なぜ広告は炎上するのか」を考察してみます。
第10回	「広告」の炎上（後編）	さらに範囲を広げた炎上事例を見ていきながら、分析的視点で「広告の炎上」を再考察してみます。
第11回	「広告」と費用	広告の種類毎に費用の目安を見ていきながら、「広告」を再考察してみます。
第12回	「最近気になる商品パッケージ」を持ち寄って考えてみる	受講者が最近気になっている「商品パッケージ」を持ち寄り、「人は商品パッケージの何に惹かれるのか」を考察してみます。
第13回	「商品パッケージ」とは何か？	牛乳パッケージデザインの比較やロングセラー商品のパッケージデザイン、ブランディングの事例を見ていきながら、「パッケージの中の情報とは何か」を考察してみます。
第14回	芸術作品としての「写真」「映像」の中の情報とは何か？	芸術作品としての「写真」や「映像」を見ていきながら、「芸術の中の情報とは何か」を考察してみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業リアクションは、授業後に各自が授業内容を振り返り、授業支援システムで提出を行うこととします。
 - 課題は、各自が授業外で行うこととします。
 - 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- ※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫/2001年）、「Design Rule Indexーデザイン、新・100の法則」ウィリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN/2004年）、「デザイン思考が世界を変える」ティム・ブラウン著（早川書房/2010年）等。

【成績評価の方法と基準】

- ①成績評価を行うには、授業へ11回以上の出席を必要とします。
 - ②授業リアクションの提出を必須とし、その内容から授業の理解度を評価（70%）します。
 - ③全3回の課題をすべて提出し、その課題に対して受講者自身がどのようなアプローチができたかを評価（30%）します。
- 以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で応用できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

工業デザイン、インテリアデザイン、グラフィックデザイン、Webデザインなどを手掛けてきた現役デザイナーが、それぞれ専門分野における経験から講義を行います。

【Outline (in English)】

In this class, students will study "information editing" by examining advertisements and product packages that they usually see without thinking, using the methodology of design to collect, analyze, and express "information" as a clue.

The goal of the class is for students to be able to recognize that information is edited and exists in the things they casually see, and to be able to think about the meaning of such information.

As learning outside of class, students are required to submit their reactions to the class content online after class.

Assignments are to be done outside of class by each student.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be based on 70% regular marks and 30% assignments.

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）		
文化情報の哲学		
森村 修		
サブタイトル：		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
《授業の概要》		
本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。		
そこで、本授業では、テクノロジーの進歩が私たちの生活のみならず社会構造を大きく変えていく現状を、「テクノロジーの哲学」の観点から考察していきます。特に、私たちの社会とテクノロジーとの関係を中心に、哲学理論研究から実際のテクノロジーの進歩がどのように社会を変えてきているか、また私たちの意識や心までも変化させているかを哲学的に考えていきます。		
【授業の目的】		
そこで、本授業では、マーク・クーケルバーク（Mark Coeckelbargh, 1975-）の「テクノロジーの哲学」を取り上げ、テクノロジーの進歩と社会との関係、さらには私たちの心や意識の問題から道徳や倫理、社会制度の問題にまで、テクノロジーが関わっていることを考察します。クーケルバークは、日本語翻訳が次々と出版されており、「テクノロジーの哲学」研究の分野では大いに議論されているベルギーの哲学者です。		
【到達目標】		
(1) 21世紀を生きる私たちにとって、テクノロジーを「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。		
(2) 哲学的思考を身につけることができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
【授業の方法】		
講義形式で行う。その際に、必要に応じてテキストの読解を行う。また、テキストについて教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション ・「テクノロジーの哲学」 講義①	・本科目の意図の説明など 第Ⅰ部「テクノロジーの哲学」とは何か？ 第1章「テクノロジーを考える」とは？
2	「テクノロジーの哲学」 講義②	第2章 「テクノロジーの哲学」の歴史と背景 1. テクノロジーの哲学の成り立ち 2. テクノロジーの哲学の背景
3	「テクノロジーの哲学」 講義③	第Ⅱ部 理論からテクノロジーを考える 第3章 現象学と解釈学 1. ハイデガーの「テクノロジーへの問い」 2. マクルーハンのメディア論 2. テクノロジーの現象学
4	「テクノロジーの哲学」 講義④	第4章 ポスト現象学・物質的解釈学・媒介理論 1. ドン・アイディのポスト現象学 2. フェルバークのポスト現象学 3. 物質的道徳性
5	「テクノロジーの哲学」 講義⑤	第5章 批判理論とフェミニズム 1. マルクスとテクノロジー 2. テクノロジーをめぐるフェミニズムの思考 3. フェミニズムの「テクノロジーの哲学」
6	「テクノロジーの哲学」 講義⑥	第6章 プラグマティズム、分析的アプローチ、異文化間・文化横断的な「テクノロジーの哲学」 1. プラグマティズム 2. 間文化的な「テクノロジーの哲学」
7	「テクノロジーの哲学」 講義⑦	第Ⅲ部 具体的な技術から考える 第7章 情報テクノロジーから哲学、そして情報倫理へ 1. フロリディの情報哲学・情報倫理 2. フェイクニュースとインターネット
8	「テクノロジーの哲学」 講義⑧	第8章 ロボット工学とAIから道徳的地位と人間関係をめぐる考察 1. モラル・マシーン 2. 道徳的被行為者性 3. セックスロボットと人間関係
9	「テクノロジーの哲学」 講義⑨	第9章 遺伝子工学とサイボーグからトランスヒューマニズムとポストヒューマニズム 1. トランスヒューマニズムとヒューマン・エンハンスメント 2. ポストヒューマニズムとサイボーグ
10	「テクノロジーの哲学」 講義⑩	第10章 気候変動とジオエンジニアリングから「自然」への問いと「人新世」の考察 1. 「自然」の問題 2. 人新世——哲学からの応答
11	「テクノロジーの哲学」 講義⑪	第11章 テクノロジーの哲学を超えてテクノロジーを考える 1. ソーシャルメディアと道徳哲学 2. 哲学的人間学 3. 言語の考察とテクノロジーの考察
12	「テクノロジーの哲学」 講義⑫	第12章 テクノロジーの哲学とその他の学問 1. ロボット工学 2. 社会科学 3. 人文学
13	「テクノロジーの哲学」 講義⑬	第13章 テクノロジーの哲学とアカデミア外の実践 1. イノベーション、政策 2. 芸術 ・「テクノロジーの哲学」研究の未来と教育への応用
14	「テクノロジーの哲学」 講義——総括	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・必要に応じて配布された資料に基づいて、レジュメを作成する。		
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
M・クーケルバーク『技術哲学講義』直江清隆・久木田水生監訳、丸善出版、2023		
【参考書】		
① M・クーケルバーク『AIの倫理学』直江清隆他訳、丸善出版、2020年		
② M・クーケルバーク『AIの政治哲学』直江清隆他訳、丸善出版、2023年		
③ M・クーケルバーク『デジタルテクノロジーと時間の哲学』直江清隆他訳、丸善出版、2024年		
④ M・クーケルバーク『ロボット倫理学——ソーシャルロボットから軍事ドローンまで』田畑暁生訳、青土社、2024年		
【成績評価の方法と基準】		
・期末テスト（70％）、授業内（30％）		
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする		
※要注意【変更】		
リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。		
【学生の意見等からの気づき】		
特になし。		
【学生が準備すべき機器他】		
・テクノロジーを哲学的に考察するためには、皆さんの頭脳と身体があれば十分です。		
【その他の重要事項】		
・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩ですので、考えることを実践してみましょう。		
・授業担当者（森村）の他の科目との関連が極めて強いので、他の科目も併せて受講することをお勧めします。		
1. 「文化情報学概論」は、科目名からも近いように、「文化情報学」の基礎を学ぶ科目です。そこでは、テクノロジーが情報社会と密接に関わっている点を、〈ヴァーチャル社会〉という観点から哲学的に捉えていきます。		
2. 「ところどころからの現象学」では、私たちの「ところ」がどのように、私たちの〈外〉にある〈ヴァーチャル社会〉から影響されているかを哲学的に考えていきます。		

3.「現代思想」では、「生まれてこないほうがよかった」という反出生主義を哲学的に考えていきます。そこでは、人工妊娠中絶などテクノロジーが関わる医療問題を取り上げていきます。

4.ILAC科目「倫理学」では、ロボットを使用する際の倫理問題や、テクノロジーによる自動運転の行為者責任などについて、倫理学・道徳哲学からアプローチするための、基礎的な倫理学的思考を学びます。

5.ILAC科目「倫理学L」では、「ケアの倫理学」という観点から、テクノロジー機器による介護・看護の問題から、「ケアする」側は、なぜ「人間」でなければならないのか、また介護ロボットの倫理的問題などについても考察していきます。

【哲学することの姿勢について】

・本授業は、テキストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。

・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテキストを正確に読めること、第二に、正確なテキスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".

In this class, based on the perspective of "philosophy of technology," we will examine the current situation in which technological progress is drastically changing not only our lives but also the social structure.

In particular, we will focus on the relationship between our society and technology, and philosophically consider how actual technological advances are changing our society and even our consciousness and minds.

【Objective of the class】

This class will therefore focus on Mark Coeckelbargh's (1975-) "Philosophy of Technology" to examine the relationship between technological progress and society, and how technology is involved in issues ranging from our minds and consciousness to morality, ethics, and social institutions. Coeckelbargh is a Belgian philosopher whose work has been published in a series of Japanese translations and is much discussed in Philosophy of Technology.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. to learn how important it is for us to philosophize.
- B. to learn to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

SES300GA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

ソーシャル・プラクティス

稲垣 立男

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報デザイン

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティス、あるいはソーシャル・エンゲージド・アートと呼ばれる、環境や政治、コミュニティ、ジェンダーなど、さまざまな社会的問題に直接働きかけるアートの分野について学びます。社会と直接関わる現代アートのアプローチに関する理論と実践を扱い、ワークショップ形式の実習授業を行います。

【到達目標】

この授業では、下記の3つのテーマで実習を行います。

1. 環境と社会
2. 共生社会
3. 政治課題

自分たちを取り巻くさまざまな社会的課題を捉え直し、調査を基に各自が課題を設定し、それを作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施し、グループワークによる調査やディスカッションを経て、さまざまな発表形式による作品制作を行います。ワークショップの冒頭では、課題と関連した社会的課題に関する解説を行うとともに、美術史や美術理論に関する基本的な知識を確認します。

次に、資料調査や大学内外でのフィールドワークを通じて問題を探ります。

最後に、各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使用します。

Google Sites（授業の基礎となるコンテンツの配信）

Google Classroom、Google Form（課題提出、そのフィードバック、質問など）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
第2回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 講義と対話	地球温暖化、原発問題、海洋汚染など環境問題に関する対話
第3回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 グループワーク	言語による表現を通じて環境に関するテーマについて考える

第4回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション1	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（1）
第5回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション2	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（2）
第6回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 講義と対話	コミュニティの崩壊、移民、難民問題など共生と社会に関する対話
第7回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 グループワーク	視覚表現を通じて共生社会について考える
第8回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作1	映像による作品制作と対話（1）
第9回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作2	映像による作品制作と対話（2）
第10回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス 講義と対話	ジェンダー、貧困問題、表現の自由などに関するテーマについて考える
第11回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス グループワーク	インスタレーション・パフォーマンスによるプレゼンテーションと対話
第12回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション1	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（1）
第13回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション2	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（2）
第14回	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義について、参考例を見ながら振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google Sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会を多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice (Berg Pub Ltd)

パブロ・エルゲラ『ソーシャル・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社、2015年
アート&ソサイエティ研究センター SEA研究会『ソーシャル・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』フィルムアート社、2018年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】**Course outline**

We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through group work surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.

Learning Objectives

In this course, we will practice the following three themes.

1. Environmental problems and society
2. A symbiotic society
3. Political issues

We will re-examine the various social issues surrounding us and develop the ability to set problems and express them as works based on research.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

パフォーマンスの美学

森村 修

サブタイトル：〈おぞましさ〉と〈かわいい〉の美学

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：パフォーマンス・スタディーズ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり・選抜試験

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「パフォーマンスの美学」では、いわゆる「身体表現」だけでなく、思考を表現した作品・対象（=オブジェ, objet）も、何らかの「実演＝パフォーマンス」として捉え、そこに内在する感性学=美学（aesthetics）を考察することを目的とする。それゆえ、いわゆる芸術表現としての「パフォーマンス・アート」には一般的には属さない「ファイン・アート」や、デザイン、詩などの文藝作品も、何らかの実演された表現として捉え、そこに見出せる「美」や「美意識」について哲学的に考察する。また、いわゆる「前衛芸術」や「実験芸術」など、政治的・イデオロギー的・宗教的な理由などで従来の学校教育では取り上げることがないアート運動や表現活動も「パフォーマンス」として含めて考察する。

2026年度は、山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』（青弓社、2026年）を参照しながら、フェミニズム美学における〈おぞましさ〉と〈かわいい〉の理解を検討する。

【授業の意義】

フェミニズム美学の手法を用いて、少女表象が展開する美術作品、映像作品などを通じて、少女表象が単なる〈かわいいさ〉だけを追求しているのではないことを明らかにする。その際に、「パフォーマンスの美学」という観点から、現代の美意識や美の価値観ではなかなか捉えにくい〈おぞましさ〉を探ることが、本授業の意義である。

【到達目標】

- (1) 既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
- (2) 自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
- (3) 高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点でアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
- (4) アートの領域の内部で生じた、20世紀以降のさまざまな変遷を辿ることで、「前衛芸術」のあり方について、現在のアートのあり方を予測することができる。
- (5) 「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

本講義では、「フェミニズム美学」の観点から、少女表象が〈おぞましさ〉とともに展開する美術作品や映像作品を取り上げ、少女表象に何が託されているかを、学生と議論していく。

【授業の方法】

- ①基本的には、授業は「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行う。特に文学（俳句・短歌・詩）作品については、教員による解釈を提示しながら、受講生の感想・解釈を積極的に取り入れていく。
- ②少女表象が典型的に見られる代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・寺山修司の略歴紹介 ・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・パフォーマンス・スタディーズの歴史について概観する。
3	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・パフォーマンス・スタディーズの概念について概観する。
4	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・フェミニズム美学研究①
5	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・少女／アブジェクト
6	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・文化論としての少女論
7	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・「少女趣味」とは何か
8	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・日本美術における少女
9	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・フェミニズム・アートの分析①
10	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・フェミニズム・アートの分析②——現代芸術の「アニメ化」
11	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・少女たちの自己主張
12	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・少女のアブジェクト
13	山田萌果の『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』を読む	・少女の怪物化
14	〈おぞましさ〉と〈かわいい〉	・総括とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・なるべく多くの作品に触れるようにしてもらいたい

【テキスト（教科書）】

山田萌果『おぞましさと戯れる少女たち——フェミニズム美学から読む日本現代美術の少女表象』（青弓社、2026年）

【参考書】

その都度指示する

【成績評価の方法と基準】

【成績評価】

①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（30％）

②期末レポート（70％）

【評価基準】

①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。

②期末レポートは、あくまで「批評 (critique)」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準 (criterion)」が前提されている必要がある。寺山修司の生き方や作品について「批評文」を書くためには、次の4点が明確に意識されていることが、本科目の「成績の評価基準」になっている。

【学生の意見等からの気づき】

学生からのリアクション・ペーパーを活用する

【学生が準備すべき機器他】

映像作品の上映があるので、各自がPCやタブレットを持参する必要がある。逆に、それらを使用することによって、授業に集中できない可能性もあるため、持参しなくても構わない。

【その他の重要事項】

・本講義がめざしているのは、受講生の美意識や価値観の問い直しである。そこで、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。

・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性 (presentation)」は「表象 (representation)」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「現場性」・「直接性」・「現在性」に特化した「パフォーマンス性 (performativity)」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。

・「表象文化概論」(特に、森村担当「現代視覚文化論」)も合わせて受講することで、「パフォーマンス・スタディーズ」や「パフォーマンスの美学」という考えが、いわゆる視覚重視の「表象文化」を批判する視座をもつことを確認してもらいたい。

【お知らせ】

・「パフォーマンスの美学」という科目は、授業担当者(森村)の他の科目との関連が強いように思われるかもしれませんが、しかし、実は深いところで、他の科目と関わっているため、他の科目と併せて受講することをお勧めします。

1. 「文化情報学概論」は、科目名からも近いように、「文化情報学」の基礎を学ぶ科目です。そこでは、テクノロジーが情報社会と密接に関わっている点を、〈ヴァーチャル社会〉という観点から哲学的に捉えていきます。〈ヴァーチャリティ〉と〈リアリティ〉の関係が深く関わっており、身体を媒介する「パフォーマンス」と2Dの世界観がどのように関わるか学ぶことができます。

2. 「こころとからだの現象学」では、私たちの「こころ」と「からだ」に着目することによって、私たちの〈外〉にある〈ヴァーチャル社会〉と身体とその表現の問題を哲学的に考えていきます。

3. 「現代思想」では、「生まれてこないほうがよかった」という反出生主義を哲学的に考えていきます。そこでは、誕生や死について身体を含めて取り上げていきます。

4. ILAC科目「倫理学」では、身体によるパフォーマンスや言葉によるパフォーマンスが「暴力」として発現する可能性があることを倫理学・道徳哲学からアプローチします。

5. ILAC科目「倫理学Ⅰ」では、「ケアの倫理学」という観点から、さまざまなパフォーマンスが「ケア」として倫理的問題を引き起こすことなどについても考察していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this course, "Aesthetics of Performance," is to consider all forms of expression as a kind of "performance" and to philosophically examine the "beauty" inherent in it. Therefore, by expanding the concept of "performance", not only "physical expression", but also works of art and objects (objet) that express thoughts will be considered as a kind of "performance" or "result of performance".

Therefore, "fine art," design, poetry, and other works of literature and art that do not generally belong to the so-called "performance art" as artistic expressions are also regarded as a kind of performed expression, and the "beauty" and "aesthetics" found in them are philosophically discussed.

In addition, art movements and expressive activities such as the so-called "avant-garde art" and "experimental art", which are not covered in conventional school education for political, ideological, or religious reasons, will also be considered as "performance".

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

現代美術論

平野 真弓

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術の分野（美術、建築、音楽、パフォーマンス、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術の多様性に焦点を当て、理論と実践の両面から探求します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学など他の領域かと対比しながら分析し、その中で多文化主義・関係性・コミュニケーションなどのテーマを読み解いていきます。こうしたアプローチを通じて、現代美術がどのように社会的、文化的な変化と相互作用しているかを深く理解するための基盤について学びます。学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料などの授業コンテンツを Google sites 全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40- 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について	講義内容について 授業の進め方と方法について 評価方法と基準
第2回	メディアとアート 絵画・彫刻・ドローイング、写真・映像・インスタレーション	美術における様々な技法やメディアの探究について、その発展と変遷を詳細に考察します。 この授業ではメディアの歴史の変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。美術の歴史的なコンテクストの中で、異なる技法やメディアがどのように位置付けられ、進化してきたのかについて、探究していきます。
第3回	20世紀の美術 未来派・ダダ、シュルレアリスム、アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。第二次世界大戦で壊滅的なダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような従来の絵画や彫刻にとらわれない表現様式が多く登場します。これらの表現は、芸術の領域に現代的な多様性をもたらしました。
第4回	21世紀の美術 新表現主義、YBA、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。新表現主義は、表現主義的なスタイルを追求し、絵画における感情的な表現と物質的な豊かさを再評価しました。また、ミレニアム前夜には、イギリスやフランスを中心に、二つの重要な芸術運動が登場しました。「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）」と呼ばれる運動で、若手アーティストの作品が国際的な注目を集めました。「リレーションアル・アート」は観客との関係性や環境との対話を重視することで、芸術の社会的な役割を再考しました。2010年代には「ソーシャリー・エンゲージド・アート」と「ソーシャル・プラクティス」という、社会的な関与をテーマにした芸術運動が注目を集めています。これらは芸術を社会問題に関与させ、社会的な変化を促すことに焦点を当てています。
第5回	ワークショップ1 単元のまとめ・ワークショップ	メディアとアート、20世紀の美術、21世紀の美術の講義内容の確認をします。

第6回	現代アートとパフォーマンス1 パフォーマンス・アートの始まり／アクション、ハプニング、インスタレーション	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カブローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
第7回	現代アートとパフォーマンス2 社会と関わるアート／ビデオパフォーマンス、エンデュランスアート、テクノロジーとパフォーマンス、芸術と社会、委託されたパフォーマンス	ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第8回	身体とパフォーマンス パフォーマンス・パフォーミング・アーツ、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏	パフォーマンス・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第9回	音とパフォーマンス 現代音楽 ミュージック・コンクリート、フルクサス、ミニマル・ミュージック	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクリート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んで行きます。
第10回	言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第11回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	現代美術とパフォーマンス1、現代美術とパフォーマンス2、身体とパフォーマンス、音とパフォーマンス、言葉とパフォーマンスの講義内容の確認をします。
第12回	アートのある場所 美術館、国際展、アーティスト・イン・レジデンス、アート（アーティスト）・コレクティブ、オルタナティブスペース	ワークショップ・パフォーマンス アートの生まれる場所について、美術館・国際展のような公的な場所、そしてアーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティブやオルタナティブスペースなど。それぞれの場所とそれに関わる人々について学びます。
第13回	批評/キュレーション 批評、モダンアートとコンテンポラリーアート、キュレーション	キュレーターは学術的な専門知識によって美術資料の収集や保管、展覧会の企画や構成、運営などを担当します。また、作品の理解や価値判断に関する美術批評のあり方について学びます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	美術のある場所、批評/キュレーションの授業内容の確認をします。

ワークショップ・スライス・オブ・ライフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sites で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sites を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroom を使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をお願いいたします。
実務経験のある教員による授業
平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is about contemporary art theory and practice. Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields. The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

Learning Objectives

The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas. It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

マルチメディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：人数制限あり (15名)。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。

備考 (履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習です。わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Webマルチメディア、DTPなどの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品やDTP作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、レーザー加工、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法(講義と実習)

- ・デザインの基礎
- ・ポスター作り (Photoshop・Web)
- ・多様な出力形態 (大判ポスター、アクリル板彫刻)
- ・写真技法：ライティング、構図、光の読み方
- ・写真表現の作品化 (アルバム・Web・アクリルパネル)
- ・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム

●クリティーク

各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・ポスター作り (Photoshop+大判プリンタ・Web)
- ・レーザーカッターによるアクリル板彫刻
- ・写真表現の作品化 (アルバム・Web)
- ・Jingle (短い15秒程度のCM的映像)
- ・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。

●大事にしたいこと

- ・コンピュータ上でのメディアデータの特性とtangibleなモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
- ・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
- ・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAPの原則を学ぶ。 【写真課題：line、pattern、texture】

2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：line、pattern、texture 各自の写真作品を合評する。【写真課題：モノクロ、ライティング】
3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド 実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：モノクロ、ライティング 【写真課題：人物ポートレート、ライティング】
4	コミュニケーションデザインの手法－Web	Webの特性とデザインについて理解する。 【写真課題 (承前)：人物ポートレート、ライティング】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア (CD、DVDなど)の構成法を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Premiereによる短いビデオ 【課題：Premiere オンライン教材の学習】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース	【学期末課題：ショートムービー】 情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Preziによるオンライン・プレゼンテーション 【課題：Web写真アルバム】
7	タイポグラフィの基礎	タイポグラフィの基礎を学ぶ。 クリティーク：各自のWebポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 【課題：紙の写真アルバム】
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク：Webアルバム 【課題：ポスターのデザイン】
9	多様な出力形態 (1): DTP	【学期末課題：企画書・絵コンテ提出】 印刷についての知識を学、DTP作業のワークフローを理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	モノづくりとマルチメディア	Makerムーブメントを題材とするモノづくりとマルチメディアの関係を学ぶ。 クリティーク：広告 【学期末課題：予告編ジングル仮提出】
11	多様な出力形態 (2): レーザー加工	レーザー加工機による 【実習】簡単な版下の作成とレーザーカッターによるアクリル板加工 【課題】アクリル板切り出しと表面彫刻のためのレーザーカッター版下の作成
12	コンテンツプラットフォームとしてのインターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。 【実習】各自デザインによるアクリル板のレーザー加工
13	コンテンツの流通、管理、知的所有権とメディア表現	コンテンツの流通、管理の仕組みとクリエイティブ・コモンズの考え方を学び、オンラインメディアの知的所有権の扱いを理解する。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力やWeb上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するにはDTPやWeb制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

【マルチメディア全般】

参考書 (1) CG-ARTS協会、「第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8

参考書 (2) CG-ARTS協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1

※上記2冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

【デザイン技法】

Robin Williams (著), 吉川 典秀 (翻訳)、「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ(1998)、ISBN-13: 978-4895630078

【写真技法】

キット タケナガ (著) 東京写真学園 (監修)、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社(2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3

【ショートムービー制作】

ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956

【DTP、印刷】

松田 哲夫 (著), 内澤 旬子 (イラスト)、「印刷に恋して」、晶文社 (2002)、ISBN: 978-4794965011

【オンライン・プレゼンテーション】

吉藤 智広 (著)、「あなたのプレゼンが劇的に変わる！ Prezi デザインブック」、日経BP (2018)、ISBN-13: 978-4822254520

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点(20%)、中間課題(30%)ならびに最終課題(20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

2011年度までは3～4年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を取り入れ、また教学上の配慮も含め、2012年度より2年次より履修可能とした。2017年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけでなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

本科目は国際文化学部・情報セミナー室 (BT#0704) にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。

長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびにePortfolioに提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】

【重要】生成AIの出力をそのまま作品またはその一部に使用することは禁じる。学生へのメッセージ：Adobe系アプリはじめ様々なツールを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。

情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて本科目では学生の就業力育成を支援します。

受講希望者は初回授業に出席すること。少人数ワークショップなので受講希望者が受入可能な上限人数を超える場合には抽選を実施することがある。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）

Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【教員の実務経験】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, laser engraving, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 20%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

フィールドワークと表現

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：メディア表現ワークショップ1

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、表現活動へとつながるフィールドワークを中心とした実習科目です。各回の実習はワークショップ形式で行います。教室および大学構内外をフィールドとし、「カメラを持って旅に出よう」「スケッチブックに記録しよう」「動きや音を拾うことから」という3つのテーマに基づいたフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションとして発表します。

【到達目標】

みなさんは各課題を通じて、さまざまな表現活動に通じる取材・調査の方法や、複数のメディアを用いた表現方法を学びます。課題に取り組むにあたっては、自由な発想と臨機応変な対応が求められます。柔軟な姿勢をもって、積極的に（楽しみながら）課題に取り組んでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

下記の3つの内容に基づいて、制作実習をします。

第1課題 カメラを持って旅に出よう。

記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。

第2課題 スケッチブックに記録しよう。

スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録していきます。

第3課題 動きや音を拾うことから。

拾った動きや音をきっかけとして、何かを始めてみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
第2回	カメラを持って旅に出よう。(1)	課題説明と講義 記録としての写真
第3回	カメラを持って旅に出よう。(2)	ワークショップ 私の決定的瞬間
第4回	カメラを持って旅に出よう。(3)	ワークショップ 写真による「組曲」
第5回	カメラを持って旅に出よう。(4)	ワークショップ 私の原風景
第6回	スケッチブックに記録しよう。(1)	講義 スケッチの技法
第7回	スケッチブックに記録しよう。(2)	ワークショップ シュルレアリスムの実験
第8回	スケッチブックに記録しよう。(3)	ワークショップ 架空の研究
第9回	スケッチブックに記録しよう。(4)	ワークショップ 就職するためのスケッチ
第10回	動きや音を拾うことから。(1)	課題説明と講義 音や映像による記録

第11回	動きや音を拾うことから。(2)	ワークショップ 日常の音に注目してみよう
第12回	動きや音を拾うことから。(3)	ワークショップ 反復する音
第13回	動きや音を拾うことから。(4)	ワークショップ 社会人になるための音
第14回	講評会	課題作品の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにあまり経験してこなかった表現の基となる取材活動に取り組めます。また、調べることに積極的な人、面白いことを知ることが好きな人は受講してみてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史—欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

藤田 結子『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践（ワードマップ）』新曜社、2013年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんにとってわかりやすく、取り組みやすい課題とします。

楽しい授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

スケッチブック及びスマートフォンが必要となります。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

This course is a practical training course centred on fieldwork that leads to expressive activities. Each session is conducted in a workshop format.

Using classrooms and locations both on and off campus as fields of practice, students carry out fieldwork based on three themes: Going on a journey with a camera

Recording in a sketchbook

Starting from capturing movement and sound

The outcomes of this fieldwork are presented in the form of presentations.

Through the course, students engage in research and investigative activities that form the basis of creative expression, including approaches they may not have previously experienced. Students who are proactive in research and enjoy discovering new and interesting perspectives are encouraged to enrol.

The standard amount of preparation and review time for this course is two hours per session.

Grades are determined by a combination of class participation and assignments/reports, with particular emphasis placed on experimental approaches and active engagement. The grading breakdown is as follows:

1. Class participation (50%)
2. Assignments and reports (50%)

Students who achieve 60% or more of the course learning objectives, based on this evaluation method, will receive a passing grade.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

映像文化論

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員60名。それを超えたら選抜

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高畑勲・宮崎駿の作品を、欧米や日本のアニメ映画と比較しながら、主に彼らの作品のスタイルや映画史・アニメーション史上の位置を学習します。

【到達目標】

1960年代～2020年代の日本のアニメの映画的・アニメの特徴や制作体制について学び、現代のアニメ状況がどのように形成されたのかを知ることができます。またアニメや映画のスタイルを分析できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週、アニメの制作体制、表現技術、スタッフ、制作体制などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行います。そして鑑賞した映画について気づいたことを、学習支援システムを通じて書いてもらいます。それらのフィードバックは授業およびhoppiiを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび選抜	授業の内容、進め方について説明後、アニメを15分ほど鑑賞してもらい映像的分析を提出し、それをもとに受講資格者を選抜する。
第2回	古典的アニメーション映画と高畑勲の初監督映画の差異	『ピノキオ』『雪の女王』『太陽の王子ホルスの大冒険』
第3回	日常生活と心象の表現	『アルプスの少女ハイジ』『赤毛のアン』
第4回	海外ロケーション	
第4回	宮崎駿の独立	『未来少年コナン』『ルパン三世 カリオストロの城』
第5回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えた外国のアニメーションと実写映画	『王と鳥』『市民ケーン』
第6回	高畑勲・宮崎駿の日本回帰	『ジャリ子チエ』『さらば愛しきルパンよ』
第7回	スタジオジブリの誕生	『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』
第8回	東京西郊外の里山	『となりのトトロ』『平成狸合戦ぽんぽこ』
第9回	聖地巡礼とロケハンアニメ	『耳をすませば』『パトレイバー 2 the Movie』
第10回	メタモルフォーゼ	『崖の上のポニョ』『ハウルの動く城』

第11回	戦争・災害の表現	『火垂るの墓』『風立ちぬ』
第12回	高畑勲の影響	『マイマイ新子と千年の魔法』『この世界の片隅に』
第13回	宮崎駿の影響	『時をかける少女』『天気の子』
第14回	まとめ	レポート提出 レポートについての総評 補習：その他関連作品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で部分的に観た映画を、できるかぎり自主的に鑑賞することを望みます。

【テキスト（教科書）】

随時、プリントを配布します。

【参考書】

高畑勲『映画を作りながら考えたこと』岩波文庫

宮崎駿『出発点』徳間書店

叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社

ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト宮崎駿 奇異なもののボエジー』みすず書房

ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト高畑勲 アニメの現代性』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）とレポート（50％）。

平常点は出席だけでなく、コメントを通して評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

なおコメントシートのフィードバックは、授業支援システムや授業を通じて行います。

【学生の意見等からの気づき】

授業時に積極的に意見を求める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回に選抜テストを実施するので、必ず出席し試験を受けること。講義の重点は映像の形式面にあります。

【旧科目との重複履修】

なし。

【Outline (in English)】

In this class, we study Isao Takahata and Hayao Miyazaki's work, through their style and their position in the history of animation and movie.

【Learning Objectives】At the end of course, students are expected to understand the history and style of the Japanese animation from the 50's to 90's.

【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】Term-end report : 50%, in class contribution: 50%

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

映像と文学

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テキスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しうるものについて、自ら考えを深めていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】

- 1) さまざまな文学作品や映画に触れながら、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
 - 2) 「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学やアダプテーションの理論の基本を学ぶこと。これは読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
 - 3) 美的形式（表象）の分析を通じ、古典的なメディア論のテーゼの真意を理解すること。
 - 4) 「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
 - 5) この授業の経験を、どんな分野であれ、ゼミ論や卒論執筆その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。
- その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しく思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・各回、対面授業で行います。
- ・理論的導入の後、文学作品とその映像化（劇映画）、ないし文学作品と文学作品に触発されて作られた翻案映画作品の組み合わせについて、特定の部分・シーンを対照的に検討する作業を繰り返しながら、文学作品と劇映画の形式、双方から読み取れるものについて考察します。
- ・扱う文学作品のテキストについてはご自分で用意していただきます。図書館で借りる形で構いません。
- ・授業ごと、所定の課題を作成・提出します（文学作品が手元にないと作成できません）。
- ・LMSとして、主にGoogle Classroomを使用します（予定）。
- ・提出物のフィードバックは、適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（1）	この授業について・文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入

2	オリエンテーション（2）	メディアと技術革新が可能にしたもの・文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入（2）
3	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説1995年、映画2001年）その1	ファンタジー小説V.S.映像テクノロジー・人物と背景を構成するためのメディア（1）
4	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説1995年、映画2001年）その2	「魔法（使い）」の表象・「見えないはずのもの（が見える）」の表現
5	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説1967年、映画1983年）その1	身体感覚の記憶の表現・人物と背景を構成するためのメディア（2）
6	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説1967年、映画1983年）その2	時間芸術と「タイムトラベル」・「ラブシーン」の成立条件・科学と私たちの未来
7	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説2006年、映画2009年）その1	青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）・人物と背景を構成するためのメディア（3）
8	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説2006年、映画2009年）その2	「空想の事物」の表象・コンピュータゲームが変えた映像の知覚
9	S. フィッツジェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画1974年）その1	「悩める若者たち」・人物と背景を構成するためのメディア（4）
10	S. フィッツジェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画1974年）その2	作品解釈の歴史が映画化に与える影響
11	S. フィッツジェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説1925年、映画2013年）	「時代を超えた真実」V.S.「現代風にアレンジ」
12	R. ブラッドベリ／F. トリュフォー『華氏451（度）』（小説1955年、映画1966年）その1	サイエンス・フィクションとディストピアの表現、メディアによるメディア批判
13	R. ブラッドベリ／F. トリュフォー『華氏451（度）』（小説1955年、映画1966年）その2	メディア批判から政治批判へ・政治批判から愛の物語へ
14	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・授業で扱う文学作品をあらかじめ読んで準備してください。

【テキスト（教科書）】

- ・授業資料および授業内で視聴・確認する映像はこちらで用意します。
- ・授業で扱う文学作品5点（文庫本・全て日本語）
 - ①J. K. ローリング著（松岡佑子訳）『ハリー・ポッターと賢者の石』（静山社）1997年
 - ②筒井康隆『時をかける少女』（角川書店）1967/2006年
 - ③万城目学『鴨川ホルモー』（角川書店）2006年
 - ④スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）1974／2013年
 - ⑤レイ・ブラッドベリ（伊藤典夫訳）『華氏451度（新訳版）』（早川書房）2003/2014年

(図書館等を利用する形で全く問題ありません)

文学作品のテキストが手元にないと、各回の提出課題は作成・提出できません。

【参考書】

- ・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など(浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション(1)(2)』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収)
 - ・M・マクルーハン(栗原裕ほか訳)『メディア論』(みすず書房)1987年
 - ・F・キットラー(石光泰夫・石光輝子訳)『グラモフォン・フィルム・タイプライター』(筑摩書房)1999年
 - ・L・ハッチオン(片渕悦久・鴨川啓信・武田雅史訳)『アダプテーションの理論』(晃洋書房)2012年
 - ・J・ヘーリッシュ(川島建太郎・津崎正行・林志津江訳)『メディアの歴史ービッグバンからインターネットまで』(法政大学出版局)2017年
 - ・A・バザン(野崎歓ほか訳)『映画とは何か(上)(下)』(岩波文庫)2015年
 - ・R・バルト(蓮實重彦ほか訳)『映像の修辞学』(ちくま学芸文庫)2005年
 - ・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』(ちくま学芸文庫)1990年
 - ・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 映画のなかの社会/社会のなかの映画』(ミネルヴァ書房)2011年
 - ・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 交錯する映画ーアニメ・映画・文学』(ミネルヴァ書房)2013年
 - ・波戸岡景太『映画原作派のためのアダプテーション入門: フィッツジェラルドからピンチンまで』(彩流社)2017年
 - ・岩田和男・武田美保子・武田悠一(編)『アダプテーションとは何か 文学/映画批評の理論と実践』(世織書房)2017年
 - ・小川公代・吉村和明(編)『文学とアダプテーションIIーヨーロッパの古典を読む』(春風社)2021年
 - ・小倉孝誠(編)『批評理論を学ぶ人のために』(世界思想社)2023年
 - ・民間の各種映像ストーリーミングサービス(あればベターです)
- その他、適宜授業内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業毎作成・提出課題(平常点)100%

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・紙媒体にて使用できる筆記用具
 - ・授業で扱う文学作品5点(文庫本・全て日本語・図書館等利用可)
- ①J. K. ローリング著(松岡佑子訳)『ハリー・ポッターと賢者の石』(静山社)1997年
 - ②筒井康隆『時をかける少女』(角川書店)1967/2006年
 - ③万城目学『鴨川ホルモー』(角川書店)2006年
 - ④S・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』(新潮文庫)1974/2013年
 - ⑤R・ブラッドベリ(伊藤典夫訳)『華氏451度(新訳版)』(早川書房)2003/2014年
- (詳細は授業支援システム上で、秋学期開始前に周知します)

【その他の重要事項】

- ・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
- ・理由なく提出期限を経過した課題、所定のルート以外の方法で提出された課題は、原則として受理しません。欠席の代替措置(未提出課題の埋め合わせ)等も特に用意しません。
- ・部活動の公欠届や、就職活動を理由にした欠席届等の類の提出や通知は不要です。
- ・授業の進め方や課題に関する詳細は、第1回目の授業で説明します。質問や疑問のある方はできるだけ第1回目の授業に参加してください。

【Outline (in English)】

Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film adaptation or film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above, especially about literature, films and its adaptation.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on 100% of ordinary marks (submitted assignments/report) as a result of active participation.

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

ポピュラー音楽論

大 高 徹

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後から平成期にかけての日本の大衆音楽、ポピュラー音楽を歴史的に学ぶ。歌謡曲やアイドルやロックなどは、いまでも娯楽として聴かれ続けている一方で、すでに多くの評論やファンの語りによって意味づけられてきた、歴史的な音楽でもある。本授業では、そうした語りを前提としながら、なぜ、どのようにして私たちの日常に浸透している音楽を「歴史」として語ることができるのかを、社会史、文化理論、文化産業論などの論点を交えて検討する。現代の音楽観を歴史の中に置き直すことで、日本の音楽文化をめぐる理解の前提そのものを問い直す。

【到達目標】

- ・戦後～平成期の日本の大衆音楽の変遷を、年代・社会的背景・音楽様式を結びつけて大まかに概説できる。
- ・複数の理論的視点から現代の音楽観を相対化して捉えた上で、個別の作品や現象について客観的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。リアクションペーパー等で質問を受け付け、授業内で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	授業の目的と概要の説明
2回	戦前戦後の連続と断絶 ：ラジオ放送とレコード産業	GHQ 占領期のレコード産業とラジオ放送を対象に、音楽をめぐるメディア・制度・実践の戦前からの連続と断絶について。
3回	進駐軍施設の文化的影響	進駐軍キャンプ内の音楽施設を中心に、占領が残した音楽文化への直接的な影響について。
4回	美空ひばりの戦後像	1940～50年代における美空ひばりの伝承のかつ雑食的な音楽性と戦後文化について
5回	音楽産業の構造転換	テレビ時代における音楽産業の構造転換と、専属契約制度の解体・外部制作システムの形成について。
6回	ロカビリーからGSまで	産業構造転換期における洋楽風流行歌（ポップス）について。
7回	歌謡曲の音楽生産	テレビメディアを集約点とする1970年代の音楽生産について
8回	テレビ芸能界の「偶像」 生産：アイドル	日本型アイドルの歴史と特徴について。
9回	日本調歌謡の再編：演歌	「日本の心の歌」として商業的に再編された演歌について。
10回	前衛と大衆	前衛（政治／芸術）が大衆と接続した動きである「うたごえ運動」と「大阪万博」について。
11回	対抗文化と資本主義① ：関西フォークと ニューロック	1960年代アメリカ合衆国を中心に開花した対抗文化の日本への移入について。
12回	対抗文化と資本主義② ：70年代フォークと ニューミュージック	フォーク／ロックが音楽産業と折衝し、理念と商品化のあいだで変容する諸相について。
13回	都市オムニボアの正統性： はっぴいえんど史観と渋谷系	外来音楽を雑多に取り込み再編する都市音楽が、混淆の過程そのものを通じて獲得した〈本物らしさ〉の系譜について。
14回	Jポップとは何か	1990年代以降の主流的な大衆音楽＝Jポップの歴史的経緯とその特徴について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読み直しながら音源を聴く。配布資料掲載の参考文献を読む。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポート50%。

リアクションペーパー50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに返答する時間を設けるなどして、学生からの要望や質問に応じられるよう工夫する。

【Outline (in English)】

This course examines Japanese popular music from the postwar period through the Heisei era from a historical perspective. Genres such as kayōkyoku, idol music, and rock continue to be enjoyed today as forms of entertainment, yet they are also historical forms of music whose meanings have long been shaped by criticism, commentary, and fan discourses.

Building on these existing narratives, the course explores why and how music that permeates our everyday lives can be discussed and analyzed as history. Drawing on perspectives from global music history, social history, cultural theory, and cultural industry studies, students will critically examine the historical positioning of popular music. By situating contemporary understandings of music within a broader historical context, the course aims to reconsider the underlying assumptions through which Japanese music culture has been understood.

【Grading Criteria /Policy】

Report assignment: 50 %
Reaction paper for each class 50 %
Preparatory study and review time for this class are 2 hours.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

コミックス論

野田 謙介

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で日本のマンガが人気だという話をしばしば耳にします。実際、日本のアニメ・マンガを原語で楽しむために日本語を学ぶ外国の若者は、おどろくほど多いです。しかしながら海外における日本マンガ受容の実態を、わたしたちは本当に知っていると言えるのでしょうか。あるいは、そもそも日本語における「マンガ」は、どこまでを指し示せる言葉なのでしょう。

本授業では、マンガを理論的、歴史的、社会的な側面から概観します。そうすることによって、自覚的／客観的に「マンガ」をとらえなおすきっかけを提供したいと考えています。

【到達目標】

- ◆マンガの歴史について基礎的な知識を身につける。
- ◆マンガが自明な概念でないことを理解し、社会的な観点から説明できるようになる。
- ◆普段なにげなく読んでいるマンガについて、その表現の仕組みを理論的に分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式です。毎回リアクションペーパーの提出をお願いします。リアクションペーパーや提出課題は適宜授業内でとりあげ、フィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： まんが、マンガ、漫画、 コミックス？	マンガの呼称と現状
2	マンガの読み方Ⅰ	マンガの要素について
3	マンガの読み方Ⅱ	時間/運動、音について
4	マンガの読み方Ⅲ	世界制作の方法
5	マンガの歴史	起源について
6	マンガの歴史：日本編Ⅰ	戦前
7	マンガの歴史：日本編Ⅱ	戦前から80年代まで
8	マンガの歴史：日本編Ⅲ	80年代以降
9	マンガの歴史：日本編Ⅳ	コミケ
10	マンガとアニメーション	マンガ版とアニメ版の『ナウシカ』比較
11	マンガの歴史：海外編Ⅰ	日本マンガの受容史
12	マンガの歴史：海外編Ⅱ	米・仏のマンガ史
13	マンガの読み方Ⅳ	翻訳についてと授業内試験
14	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定作品を読んで/見てきてもらい、設定した質問に口頭で答えてもらうことがあります。また、課題を提出してもらうことがあります。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要なテキストについては適宜配布します。

【参考書】

各回のテーマにそって、授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（60%）、提出物（30%）、授業内発言（10%）。

文化を相対化する視点と分析的に漫画を読む方法を身につけたかどうかを評価基準とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者人数がそれほど多くなければ、出席者の発言をより促す工夫をします。

【Outline (in English)】

It is widely recognized that Japanese manga enjoys significant popularity in foreign countries. Indeed, many young people outside Japan study the Japanese language in order to engage with Japanese anime and manga in their original form. However, do we really know the actual situation overseas? First of all, what is "Manga" in Japanese? This course provides an overview of manga from a theoretical, historical, and social points of view, giving clues for rethinking the manga that has been considered to be self-evident.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- have a basic knowledge on the history of manga.
- understand that manga is not an obvious concept, and explain it from a social perspective.
- analyze the mechanism of expression of manga, which we usually read unconsciously.

You may be asked to read the assigned works as a preparatory activity and answer the questions orally in class. You may also be asked to submit assignments.

Term-end examination: 60%, Short reports: 30%, in-class remarks: 10%

The evaluation criterion will be whether or not the student has acquired the perspective of relativizing own culture and the means of reading manga consciously. Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will be considered to have passed the class.

GDR300GA (ジェンダー / Gender 300)

Gender and Japanese Culture

LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level 1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、IELTS 6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。

Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, we will analyze how gender and sexuality issues manifest throughout culture in Japan. Why do we need to discuss gender and sexuality in relation to Japanese contemporary culture? Who do we talk about when we discuss such issues? We will approach these questions from different perspectives and disciplines, such as history, literature, media, etc. While the main focus of this course is the representation of gender and sexuality in contemporary Japanese society, we will also address these issues in a global context.

【到達目標】

1. To become familiar with historical sources and social and political elements in regard to the construction of gender within contemporary Japanese society.
2. To develop critical thinking strategies and apply them in order to understand how gender and sexuality are represented within contemporary Japanese media.
3. To incorporate a gender perspective while participating in academic discussions, presenting on a selected topic, and writing analytical papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

I will lecture to situate our readings and discussions or to clarify concepts, but in general, students should come prepared to contribute seriously to the learning community by actively joining the discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Introduction to the course, syllabus, and course expectations
第2回	Introduction to gender studies	Lecture on the basic concepts in gender studies
第3回	Japanese femininities	Lecture on femininities in contemporary Japan
第4回	Gender, media, and misogyny in Japan	Lecture on the #MeToo Movement in Japan
第5回	Masculinity studies	Lecture on masculinities in contemporary Japan
第6回	Gender and the family	Lecture on marriage and work-life balance in contemporary Japan
第7回	Idol culture	Lecture on the reproduction and subversion of gender models within the idol culture
第8回	Midterm exam	Summary of the first half of the course and in-class midterm exam to assess students' understanding of the topics discussed.
第9回	LGBTQ+ issues in contemporary Japan	Lecture on the progress of LGBTQ+ rights in Japan

第10回	Heteronormativity in contemporary Japan	Lecture on the reproduction of heteronormative/cisnormative models in Japanese society and the media
第11回	Food, gender, and family	Lecture on the representation of food, gender, and family in contemporary culture
第12回	Asexuality in Japan	Lecture on asexuality/aromanticism and its representation in contemporary culture
第13回	Final exam	Summary of the second half of the course and in-class final exam to assess students' understanding of the topics discussed.
第14回	Queer Japan	Screening: "Queer Japan" (directed by Graham Kolbeins, 2019)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read the reference material (in English) by the next session, submit comment sheets, and work on their midterm exam, final exam, and final essay (one to three hours for every session).

【テキスト（教科書）】

Photocopies of readings will be distributed by the instructor.

【参考書】

Coates, Jennifer, Fraser Lucy, and Pendleton Mark (eds.), The Routledge Companion to Gender and Japanese Culture, Routledge, 2020
 Kazuyoshi Kawasaki, Stefan Würrer (eds.), Beyond Diversity Queer Politics, Activism, and Representation in Contemporary Japan, Dusseldorf University Press, 2024.
 Steger, Brigitte, Koch, Angelika (eds.), Manga Girl Seeks Herbivore Boy. Studying Japanese Gender at Cambridge, LIT Verlag, 2013
 Steger, Brigitte, Koch, Angelika (eds.), Cool Japanese Men. Studying New Masculinities at Cambridge, LIT Verlag, 2017
 Steger, Brigitte, Koch, Angelika, Tso, Christopher (eds.), Beyond Kawaii: Studying Japanese Femininities at Cambridge, LIT Verlag, 2021

【成績評価の方法と基準】

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes. Students who are more than 15 minutes late will be marked as absent.

Mid-term exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Group discussions help students to deepen their understanding of the course topics.

This course readings and classroom discussions will often focus on difficult and potentially challenging topics. Since readings and discussions might trigger strong feelings, content warnings will be given so that students will be prepared in advance.

【学生が準備すべき機器他】

Laptop to take the in-class exams and write the final essay.

【Outline (in English)】

In this course, we will analyze how gender and sexuality issues manifest throughout culture in Japan. Why do we need to discuss gender and sexuality in relation to Japanese contemporary culture? Who do we talk about when we discuss such issues? We will approach these questions from different perspectives and disciplines, such as anthropology, history, literature, media, etc. While the main focus of this course is the representation of gender and sexuality in contemporary Japanese society, we will also address these issues in a global context.

Learning goals

1. To become familiar with historical sources and social and political elements in regard to the construction of gender within contemporary Japanese society.
2. To develop critical thinking strategies and apply them in order to understand how gender and sexuality are represented within contemporary Japanese media.
3. To incorporate a gender perspective while participating in academic discussions, presenting on a selected topic, and writing analytical papers.

Grading policy

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via the Hosei University Learning Management System at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes. Students who are more than 15 minutes late will be marked as absent.

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2026/5/1

Mid-term exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

LIT300GA（文学 / Literature 300）

世界の中の日本文学

LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一つの国、一つの言語、一つの文化に限定されない国境を越えた文学について学びます。さまざまな作家・作品を読みながら、日本文学における世界/世界文学における日本について考えます。また、現代小説を分析しながら世界における日本文学の位置付けについて考え、現代社会を考察するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) 現代日本文学についての基礎的な知識を身につける。
- 2) 日本文学のテキストを分析できるようになる。
- 3) 文学と社会の関連性について学び、世界から見た日本/日本から見た世界について自分の考えをまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。
第2回	移動する文学	バイリンガルな文学について考える。
第3回	バイリンガルな文学：多和田葉子	多和田葉子の作品を取り上げる。
第4回	バイリンガルな文学：水村美苗	水村美苗の作品を取り上げる。
第5回	移動する女性作家たち	須賀敦子の作品を取り上げる。
第6回	李良枝を読む	李良枝の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第7回	温又柔を読む	温又柔の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	文学における震災	震災文学論について考える。
第10回	多和田葉子と川上弘美の震災文学	多和田葉子、川上弘美の作品を取り上げる。
第11回	川上未映子の震災文学	川上未映子の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第12回	世界における日本文学（1）	日本国外における村上春樹文学のブームや村田沙耶香の小説の翻訳とその受容について考える。
第13回	世界における日本文学（2）	松田青子、小山田浩子、柚木麻子らの小説の翻訳やその受容について考える。
第14回	期末試験	第9回～第13回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてPDFでテキストを配布します。

【参考書】

辛島デイヴィッド『Haruki Murakamiを読んでいるときに我々が読んでいる者たち』（みすず書房、2018年）
辛島デイヴィッド『文芸ビープル「好き」を仕事にする人々』（講談社、2021年）
木村朗子『震災後文学論ーあたらしい日本文学のために』（青土社、2013年）
木村朗子『その後の震災後文学論』（青土社、2018年）
木村朗子、アンヌ・バヤール＝坂井（編）『世界文学としての〈震災後文学〉』（明石書店、2021年）

郭南燕（編）『バイリンガルな日本文学ー多言語多文化のあいだ』（三元社、2013年）
鴻巣友季子『なぜ日本文学は英米で人気があるのか』（早川書房、2025年）
新・フェミニズム批評の会（編）『現代女性文学論』（翰林書房、2024年）
高橋源一郎、斎藤美奈子『この30年の小説、ぜんぶー読んでしゃべって社会が見えた』（河出新書、2021年）
山出裕子『移動する女性たちの文学ー多文化時代のジェンダーとエスニシティ』（御茶の水書房、2010年）

【成績評価の方法と基準】

グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー：20%
中間試験：30%
期末試験：30%
期末レポート：20%
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解を深めるためにグループディスカッションが効果的だという意見が多かったため、引き続きグループで作品分析の時間を確保したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成のためのパソコン。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を紹介することもあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of contemporary society through literature. In this class, we will learn about literature that transcends national borders and is not limited to one country, one language, or one culture. While reading various authors and their works, we will consider the world in Japanese literature and Japanese literature in the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Have basic knowledge of contemporary Japanese literature.
- b) Analyze texts of Japanese literature.
- c) Understand the relationship between literature and society.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session and submit comments sheets (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

ARSx200GA（地域研究（その他） / Area studies(Others) 200）		
世界とつながる地域の歴史と文化		
高柳 俊男		
配当年度／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：選抜		
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
この授業は、2012年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「S J国内研修」（S J＝Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである（留学生必修）。		
「S J国内研修」とは、一般学生のS Aに相当するもので、地方の中山間地域で見聞・交流・発表等の諸活動を経験することで、留学生にとってのS Aとも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考えうる目を養うことを趣旨としている。		
したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8泊9日程度の「S J国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係、および文化活動に重点を置きながらみていく。		
【到達目標】		
授業の進展につれ、南信州の中山間地域である飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「S J国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。		
「S J国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に、日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を身につけることが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他地域を考える際にも有効に機能するであろう。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、適宜織り交ぜる。		
特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、重要な固有名詞（地名、人名など）は覚えることが前提となる。		
毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	導入	本授業と「S J国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第2回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある1市3町10村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第3回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937年に成立した当初の市域に、1950年代以降、周辺の15の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。
第4回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。中心的に扱う戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。
第5回	飯田線建設史①	現在のJ R飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。
第6回	飯田線建設史②	前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』の映像を鑑賞しながら、再度考える。
第7回	満州移民の歴史①	1930年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。
第8回	満州移民の歴史②	前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』を鑑賞しながら、再度考える。
第9回	満州移民の歴史③	現在、この地域の人々が、満蒙開拓団の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・残留婦人、中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭についても知る。
第10回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人強制労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第11回	飯田・下伊那の文化①	人形浄瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それを背景とする現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内で活動する黒田人形・今田人形をはじめとする伊那谷4座について、映像で確認する。
第12回	飯田・下伊那の文化②	この地域の特徴ある文化活動として、通巻1000号超の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の刊行や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第13回	飯田・下伊那の文化③	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平の3人について、自校教育の観点も含めて取り上げる。
第14回	まちづくりや自然との共生	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから2週間後）。		
従来は授業期間中に、この授業と関連した学部イベントを実施してきたが、コロナ期に中断して今に至っている。今年度は、状況を見ながら実施するかどうか考えたい。		
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、A 3で表裏1枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場でも持参して活用すること。		
かつては留学生の自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州大好き』（2010年）を当方で人数分用意して各人に差し上げていたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数冊あるので、そちらで適宜利用してほしい。		

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、B T 20階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍2,000冊以上、映像DVD約350点所蔵）に収められている。飯田市以外ではこれだけ揃った場所はないともいわれるこれら関連資料を、ぜひ大いに活用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40%、途中での中間課題20%、学期末のレポート40%を目安とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

S J国内研修に参加せず、1つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれない。ただし、特定の一地域へのアプローチの仕方や、「個別を極めることを通して普遍に至る」という学び方は、他の分野にも幅広く応用が利くであろうと思われる。

それに関連して、昨年度の授業改善アンケートに、以下のような自由記述があったことを紹介しておきたい。

「留学生向けの授業ではあるが、日本人学生こそ本授業を履修すべきだと、一日本人学生として感じた。自分の住んでいる国に、どんな地域があるのか、どんな歴史があるのか、改めて学ぶべきだと考えさせられたことが何度もあった。また、南信州の地域の歴史や文化を深く知る中で、歴史の教科書やテレビにおける「真実」「事実」とは何か、改めて考えさせられた。

教授自身の実体験も授業の中で多数紹介されるため、全体的に非常に興味深い授業であった。」

【学生が準備すべき機器他】

上述のように、学習支援システムをもう一つの教室として活用する。新型コロナウイルスやインフルエンザの感染状況等により、対面授業が難しい場合はzoomを使用する。

【その他の重要事項】

「S J国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。

S Jの実施時期は9月上～中旬で、出発前最終ミーティングを例年、春学期試験期間終了翌日に実施している。ボランティア補助員や一般参加者も含めた募集は、7月初旬から開始する。

【選抜の有無】

留学生、およびS J参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline (in English)】

This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.

Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class. For those students, the goal is to develop an eye for perceiving Japan from multiple perspectives.

Self-study assignments will be given in the handouts distributed in each class. Please try each time if possible to deepen what you have learned. Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

ARSe200GA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）			第3回	政治： 多民族国家—中国	多民族国家である中国社会を理解するために、国家統合においてきわめて重要な民族問題について知っておく必要がある。「民族識別」工作や「民族区域自治」制度、「優遇政策」に焦点をあて、それらが民族間関係にどのように関わってきたのかを考察する。
中国の文化Ⅰ（現代中国社会）			第4回	民族①： マジョリティの漢族について—少数民族社会との関わりから	現代中国社会を理解するには、まず中国総人口の九割以上を占める漢族を理解することが不可欠である。中国社会における漢族とは何かについて整理したうえで、漢族のサブグループとされる客家人を事例として取り上げ、少数民族社会との関わりについても検討する。
張 勝蘭			第5回	民族②： 漢族の伝統文化と多様な地域性	漢族の主な伝統文化について、衣・食・住の側面から整理し、そこにみられる多様な地域性について講義する。
配当年次／単位：1～4年／2単位			第6回	経済： 改革開放と経済格差	中国経済の大転換である改革開放政策の実施を概観し、それに伴って生じた内陸部・沿岸部、都市部・農村部の経済格差の拡大について講義する。併せて三農問題、出稼ぎ者、留守児童、ポイント制度といった具体的な事例に焦点を当て、社会の構造的課題について考察する。
旧科目名：			第7回	社会構造： 拡大する「中間層」の実態	経済発展と共に形成されてきた「中間層」（中等収入者）の実態、そして、彼らは海外との接触などにより、人権意識をはじめとする社会的政治的意識の変化について講義する。
旧科目との重複履修：			第8回	教育： 超学歴社会と教育格差	現代中国は熾烈な学歴社会となっており、教育をめぐる格差が拡大しつつある。進学をめぐる競争、若者の就職難といった問題を通じて、その背景と実態について考察する。
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring			第9回	環境： 南・北の違いと「南水北調」	中国の多様な風土や地域差に着目し、それらが社会に与えた影響について考える。経済発展と共に喫緊の課題となっている「水資源問題」について、「南水北調」プロジェクトを事例として取り上げ、考察する。
人数制限・選抜・抽選：			第10回	文化①： 「80後」・「90後」・「00後」の「新人類」文化から見る日中交流	1980年代、1990年代、2000年代に生まれの、いわゆる「新人類」と呼ばれる世代の文化に注目する。特にアニメ・コスプレなどのサブカルチャーを通して、中国と日本の間で生まれている新たな文化交流のあり方について講義する。
その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉			第11回	文化②： 中国の言語文化	漢語から少数民族の言語に至るまで中国における多様な言語文化を概観する。併せて、現代の世相や社会状況を反映する「新語」などにも注目し、言語と社会の関係について講義する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
本講義は、現代中国社会に関する基礎知識を習得し、歴史・政治・経済・民族・文化などの側面から、現代中国を総合的に理解することを目的とする。現代中国の社会と文化の多様性に加え、日本を中心とする東アジアとの繋がりにも注目し、多角的視点から思考を深める。					
具体的には、社会の各側面や文化的現象を取り上げ、その背景となる歴史的・政治的・経済的要因や日中関係について解説する。					
個別のトピックを通じて、固定的なイメージにとらわれない、等身大の中国社会を理解することを目指す。					
【到達目標】					
①現代中国社会に関する基礎知識を習得する。					
②現代中国社会に関する重要な事柄について、多角的視点から根拠に基づいて考察し、自らの見解を論理的に説明できるようになる。					
③等身大の中国を知り、中国に関するマスメディアの情報を客観的かつ多角的に捉える力を身につける。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
本講義では、歴史・政治・民族・経済・社会構造・教育・環境・文化・日本と中国の関係といった観点から、現代中国社会の現状と変化を概観する。					
一般民衆の暮らしに焦点を当て、社会の変容や価値観の変化について考察を行う。					
質問の受付および課題へのフィードバックは、授業内のほか、学習支援システムおよびメールを通じて行う。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
なし / No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
第1回	導入	「現代中国社会」のアウトラインを説明し、行政区分・地域区分とその特徴、多民族の状況といった予備知識を紹介する。併せて授業の進め方、シラバスの使い方、成績評価について説明する。			
第2回	歴史： 中華人民共和国の成立とその後の歩み	現代中国社会を理解するために、まず「中国とは何か」という問いを出発点として、その歴史的背景に触れた上で、中華人民共和国成立の経緯、及び成立後から現在に至るまでの歴史を概観する。			

第12回	日本と中国①： 近代の日中関係	近代における日中関係の形成過程を、西洋との接触という国際環境の変化を背景に考察する。「開国」した日本が「和魂洋才」を掲げ、和製漢語を通じて西洋文化を吸収していった。「開港」した中国は「中体西用」を基本方針とし、西洋文化との距離を保とうとした。こうした対応の違いのもとで、日本と中国の間に様々な対立が生じる一方、多くの協力関係も形成された。中国社会の近代化における日本の影響について考察する。
第13回	日本と中国②： 戦争から国交正常化・日中協力へ	日中戦争を経て、日中関係が長く凍結された後、1972年に国交正常化が実現した。その後、1978年から中国では経済の大転換となる「改革開放」政策が実施され、日本はその過程において重要な役割を果たした。戦争の記憶を含め、この時期の日中関係が中国社会にどのような影響を与えたのかについて考察する。
第14回	日本と中国③： 戦略的互恵関係	改革開放を経て、世界第二の経済大国に成長した中国は、日本の最大貿易相手国となっている。また日本も中国にとって重要な貿易相手国である。両国は様々な問題を抱えながらも、戦略的互恵関係の構築を模索してきた。民間交流に注目し、現在の日中関係とそれが中国社会にどのような影響を与えているのかについて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppiiにアップロードされた講義資料を参照し、シラバスに記載された参考書および各回で提示する追加参考文献の該当箇所を読むことで、授業内容への理解を深める。

受講者は、各回につき事前・事後あわせておおむね2時間を目安に、関連知識の予習および授業内容の振り返りを行い、理解の深化に努める。また疑問点を整理し、まとめることが求められる。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。毎回、事前に講義資料をHoppiiにアップロードする。

【参考書】

中国研究所編『中国年鑑』（2025年版）明石書店、2025年
エズラ・F・ヴォーゲル/益尾知佐子訳『日中関係史—1500年の交流から読むアジアの未来』、2019年

藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
富坂聡『中国の論点』角川oneテーマ21、2014年

毛里和子/園田茂人編『中国問題—キーワードで読み解く』東京大学出版、2012年

家近亮子・唐亮・松田康博編著『5分野から読み解く現代中国—歴史・政治・経済・社会・外交』（改訂版）晃洋書店、2009年

興梠一郎『中国激流—13億のゆくえ』岩波書店、2005年

また授業時に各テーマについての参考文献を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①現代中国社会に関する基礎知識が習得できているか。

②授業で扱った重要な現代中国社会の問題や文化事象を理解し、根拠に基づき論理的に説明できているか。

以上の2点に着目し、期末レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、受講態度（授業中の発言・質問）（20%）を用いてその到達度を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるため、音声・映像などのコンテンツを適宜活用する。私語等について注意を行い、受講者が授業に集中しやすい学習環境の維持に努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the changing values and lifestyle of Chinese people from viewpoints of politics, nation, economy, social structure, education, environment, culture, Japan-China relations to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to comprehensively understand the real China.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and write the reaction paper. Your required study time is two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: term-end report (60%), reaction paper (20%), and in-class contribution (20%).

ARSe200GA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）				
中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）				
張 勝蘭				
配当年次／単位：1～4年／2単位				
旧科目名：				
旧科目との重複履修：				
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall				
人数制限・選抜・抽選：				
その他属性：〈他〉〈優〉				
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】				
中国文明は、多様な風土のもとで、独自の歴史と文化を築いてきた様々な民族が、交流・衝突・融合を繰り返すなかで形成されてきた。				
1949年中華人民共和国成立後、かつて400以上あるとされたエスニック・グループは、国家制度である「民族識別」によって、55少数民族として再編され、人口の90％以上を占める漢族とあわせて新たな「中華民族」という枠組みが提唱された。広大な領土に内包している複雑な民族間のせめぎ合いは、現代中国社会が抱える重要な課題である。				
本講義の目的は、歴史および伝統文化の側面から中国における民族の多様性を理解するとともに、20世紀以降、国家統合を進める中で少数民族社会に生じた変化を検討することである。そのうえで、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、ならびに民族意識の現状について考察し、多民族社会としての中国を多角的に理解する力を養う。				
【到達目標】				
「民族」をキーワードとして中国社会を読み解く力を養う。特に、民族の多様性と国家統合との関係およびその現状について理解を深め、異文化理解・多文化共生の視座から中国社会を捉えることができるようになることを目標とする。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。				
【主な授業方法】				
L 講義 /Lecture				
【授業の進め方と方法】				
本講義では、絶対多数を占める漢族をはじめ、西南部において内部に多様なサブグループを抱えるミャオ族、ならびに比較的高度な同一性を有する東北部のモンゴル族などを取り上げ、地域ごとの代表的な少数民族の歴史、社会、伝統文化について講義する。				
これらの事例を通じて、辺境地域の人々がどのようにして独自の存在を維持してきたのかを検討し、政治的統一性と文化的多様性との関係に着目しながら、異文化理解および多文化共生のあり方について考察する。				
質問の受付および課題へのフィードバックは、授業内およびHoppiiを通じて行う。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
なし / No				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
第1回	イントロダクション	本講義「多民族社会中国」の全体像を説明するとともに、中国における多民族の状況を概観する。併せて、授業の進め方、シラバスの使い方、成績評価について説明する。		
第2回	中国の民族識別と民族政策	中国の民族問題を理解するために、中国における「民族識別」工作とは何かを確認したうえで、現在の民族政策の内容について整理する。		
第3回	マジョリティー：漢族①	中国全人口の9割以上を占めるマジョリティーである漢族について概観する。特に、「漢人」という名称の由来とその拡大過程、ならびに「漢族」という民族カテゴリーが形成されていくプロセスを考察する。		
第4回	マジョリティー：漢族②	漢族の伝統文化について、秦漢時代にまで遡る「歳時風俗」を手がかりに講義する。そのうえで、地域差や生活様式の違いに着目し、現代における漢族の多様性を検討する。		
第5回	西南地域の少数民族：ミャオ族①	中国南部を代表する少数民族であるミャオ族について、その歴史と伝統文化を概観する。あわせて、進化論・人種論に基づく「ミャオ族先住説」をめぐる議論を紹介し、近代国民国家の形成過程におけるミャオ族の位置づけについて考察する。	第6回	西南地域の少数民族：ミャオ族②
			第7回	西南地域の少数民族：ミャオ族③
			第8回	西南地域の少数民族：ミャオ族④
			第9回	西南地域の少数民族：イ族
			第10回	西南地域の少数民族：チベット族
			第11回	西北地域の少数民族：ウイグル族
			第12回	西北地域の少数民族：回族
			第13回	東北地域の民族：モンゴル族
			第14回	東北地域の少数民族：満族
			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】	
			Hoppiiにアップロードされた講義資料を参照し、シラバスに記載された参考書および各回で提示する追加参考文献の該当箇所を読むことで、授業内容への理解を深める。	
			受講者は、各回につき事前・事後あわせておおむね2時間を目安に、関連知識の予習および授業内容の振り返りを行い、理解の深化に努める。また疑問点を整理し、まとめることが求められる。	
			【テキスト（教科書）】	
			特に定めない。毎回、事前に講義資料をHoppiiにアップロードする。適宜プリントも配布する。	
			【参考書】	
			費孝通編著（西澤治彦・菊池秀明・塚田誠之・吉開将人・曾士才共訳）『中華民族の多元一体構造』風響社、2008年	
			未成道男・曾士才編『世界の先住民族―ファースト・ピープルの現在 01 東アジア』明石書店、2005年	
			毛里和子『現代中国の構造変動7 中華世界―アイデンティティの再編』東京大学出版会2001年	
			毛里和子『周縁からの中国―民族問題と国家』東京大学出版会、1998年	
			可児弘明・国分良成・鈴木正崇・関根政美編『民族で読む中国』朝日新聞社、1998年	
			松村一弥『中国の少数民族―その歴史と文化および現況』毎日新聞社、1983年	
			また授業時に各テーマについての参考文献を適宜紹介する。	
			【成績評価の方法と基準】	
			①中国の多民族社会に関する基礎知識が習得できているか。	
			②授業で扱った代表的な民族を通して、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、ならびに民族意識の現状を理解し、根拠に基づき論理的に説明できているか。	
			以上の2点に着目し、期末レポート（60％）、リアクションペーパー（20％）、受講態度（授業中の発言・質問）（20％）を用いてその到達度を総合して評価を行う。	

【学生の意見等からの気づき】

授業の理解度を高めるため、音声・映像などのコンテンツを適宜活用する。私語等について注意を行い、受講者が授業に集中しやすい学習環境の維持に努める。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the ethnic diversity in China, especially focus on history, traditional culture and the changing values and lifestyle of them under the national integration of China to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to obtain basic knowledge about ethnic minorities in China, and also to be able to evaluate the relationship between ethnic diversity and national integration in China.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and write the reaction paper. Your required study time is two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: term-end report (60 %), reaction paper (20 %) , and in-class contribution (20 %) .

HIS200GA（史学 / History 200）		第5回	（9世紀～13世紀）民間交流の時代へ	唐の衰退により遣唐使の派遣を停止した日本は、やがて独自の文化や技術を生み出していく。民間交流を通じて中国に輸出された日本の製品は、中国で高い評価を受ける。 【キーワード】 ・菅原道真 ・仮名文字 ・扇子
中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）				
鈴木 靖				
配当年次／単位：1～4年／2単位				
旧科目名：				
旧科目との重複履修：				
毎年・隔年：毎年開講 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring				
人数制限・選抜・抽選：				
その他属性：〈他〉〈優〉				
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 二千年以上に及ぶ交流の中で、中国の人々は日本にどのようなイメージを持ってきたのか。各種文献や映像資料を通じて、古代から現在までの対日イメージの変遷を概観し、そこから何を学ぶことができるか考える。				
【到達目標】 中国の人々の対日イメージがどのように変遷してきたのか、また、いかなる要因によって変化したかを歴史的に理解することにより、この隣国の人々とどのようにつきあっていくべきかについて、適切な判断ができる力を身につける。 By the end of the course, students will be able to: Understand the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are perceived by China and Taiwan from a historical perspective. Take appropriate actions to build good relations with both China and Taiwan.				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。				
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture				
【授業の進め方と方法】 授業はスライドを使い、映像資料などを併用して行う。 課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通して行う。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
第1回	日本人とは？	人類史の視点から“人種”、“民族”、そして“日本人”とは何かを考える 【キーワード】 ・分子人類学 ・日本人三重構造説		
第2回	（1世紀～6世紀）日本語文化圏「倭」の登場	縄文文化や弥生文化、古墳文化を築いた人々は、遺伝的にはアジア各地にルーツを持つ多様な集団であった。彼らはやがて日本語を共通言語とする独自の文化圏「倭」を形成し、中国大陸や朝鮮半島との交流を開始する。 【キーワード】 ・漢委奴国王金印 ・稲荷山古墳出土金錯銘鉄剣 ・江田船山古墳出土銀象嵌銘大刀 ・南朝梁蕭繹「職貢図」		
第3回	（6世紀末）朝貢から外交へ	東海に浮かぶ一朝貢国に過ぎなかった倭は、隋がおよそ二百七十年ぶりに中国全土を統一したのを機に、使節を送り、対等な外交関係を求める。 【キーワード】 ・遣隋使 ・渡来人		
第4回	（7世紀～9世紀）遣唐使の時代	日本は中国の先進的な制度や文化を学ぶため、多くの優れた学生や学僧を中国に派遣する。彼らの勤勉で礼儀正しい行動は、中国の対日イメージを大きく変えていく。 【キーワード】 ・遣唐使 ・阿倍仲麻呂 ・鑑真		

- 第13回 (1952～72) 日中国交正常化と「二分論」 1937年から終戦まで8年に及んだ日中戦争は、戦場となった中国の人々の心に大きな傷を残した。一方、戦後の東西冷戦の中で、日本との早期講和を求めた中国政府は、「二分論」によって国民の理解を求め、72年の国交正常化を実現する。しかし、この「二分論」に対する日中双方の認識の違いが、やがて両国民の間に新たな対立を生じさせることになる。
- 【キーワード】
・田中角栄
・周恩来
- 第14回 (1972～現在) 今日の日中関係 日中両国の関係にいまも影を落とす歴史問題、領土問題、台湾問題という三つを取り上げ、その原因と解決方法について考える。
- 【キーワード】
・靖国問題
・尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題
・台湾有事

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の前に教材用ページの資料で事前学習を行う。本授業の準備学習時間は4時間を標準とする。

Students will be required to have completed the given, relevant assignments before each class. Study and class preparation will amount to at least four hours per class.

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、事前学習の資料として、下記のページに資料を掲載しているので必ず参照すること。

<https://hosei-ch.xsrv.jp/wp>

【参考書】

- ①王勇『中国史のなかの日本像』（農山漁村文化協会、2000年）
- ②王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）
- ③柳本通彦『台湾・霧社に生きる』（現代書館、1996年）
- ④服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中公新書、2011年）
- ⑤孫崎亨『日本の国境問題』（ちくま新書、2012年）

【成績評価の方法と基準】

成績は以下の2つの基準をもとに評価する。

- ①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパーの内容（80％）

- ②期末レポート（20％）

これらの成績をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

Final grade will be calculated according to the following process:

1. Reaction papers(80%)
2. Term-end report (20%)

【学生の意見等からの気づき】

授業の復習に必要なとの要望があったため、授業用スライドのPDFを配布することにした。

【学生が準備すべき機器他】

授業用サイトを通じて資料の配布を行う。サイトへのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【Outline (in English)】

How does Japan's self image differ from the ideas and opinions held by the people of China and Taiwan throughout history?

What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?

Understanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by China and Taiwan through the use of text and visual materials.

By the end of the course, students will be able to:

Understand the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are perceived by China and Taiwan from a historical perspective.

Take appropriate actions to build good relations with both China and Taiwan.

Students will be required to have completed the given, relevant assignments before each class. Study and class preparation will amount to at least four hours per class.

Final grade will be calculated according to the following process:

1. Reaction papers(80%)
2. Term-end report (20%)

LANc300GA（中国語 / Chinese language education 300）
中国の文化Ⅳ（中国語の構造）
渡辺 昭太
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
- (2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・本授業は、授業方法分類上は「講義」であるが、ディスカッションを行う機会や練習問題の解答を学生が発表する機会も適宜設け、講義形式と演習形式を組み合わせた形で行う予定である。
・練習問題へのフィードバック（解説・コメント等）や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。

12	その他の重要表現・構文 1	「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要表現・構文 2	「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
14	まとめ	授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

・大石智良 他 2010 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
・相原茂 他 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017 『中国語ははじめの一步 [新版]』(ちくま学芸文庫) 東京：筑摩書房
・三宅登之 2012 『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店
・劉月華 他 2019 『実用現代漢語語法 (第三版)』北京：商務印書館
・朱德熙(著)、杉村博文・木村英樹(訳) 1995 『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説一』、東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

・期末レポートを50%、平常点（練習問題への取り組み状況等）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業では期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To review grammatical items learned in Chinese course for beginners.
- (2) To learn advanced grammatical items and systematically understand Chinese grammar.
- (3) To be able to properly understand and express difficult Chinese sentences.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・After every class, students are required to review the materials.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

・Grading will be decided based on term-end report (50%) and in-class contribution (50%).
・No final exam will be held in this course.

LANc300GA (中国語 / Chinese language education 300)

中国の文化Ⅴ (中国語と日本語)

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級中国語の学習を終えて、中級段階に進んだ際に、難易度の高い中国語の意味を取り違えたり、中国語作文において間違った表現を使った経験がある人は多いだろう。また、中国人日本語学習者の日本語に触れた時、その日本語が不自然だと思いつつもその理由をうまく説明できないという経験をした人もいるかもしれない。本授業では、このような誤用例にスポットをあて、なぜそのような誤用が起きるのか、どのような表現にすれば適切な中国語／日本語表現になるのかを的確に分析できる力を養う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 中国語／日本語学習者の誤用例の検討を通じて、その原因を自分なりに説明できる。
(2) 授業資料に示された事柄の考察等を通じて、日中両言語の文法的諸特徴を適切に理解する。
(3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・本授業は、授業方法分類上は「講義」であるが、ディスカッションを行う機会や練習問題の解答を学生が発表する機会も適宜設け、講義形式と演習形式を組み合わせた形で行う予定である。
・練習問題へのフィードバック (解説・コメント等) や質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	動詞関連表現 1	中国語／日本語のアスペクト表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
3	動詞関連表現 2	中国語／日本語の助動詞、副詞的表現、否定表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
4	形容詞関連表現 1	中国語／日本語の形容詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
5	形容詞関連表現 2	中国語／日本語の比較表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
6	名詞関連表現 1	中国語／日本語の名詞、数量詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
7	名詞関連表現 2	中国語／日本語の連体修飾に関する誤用例の分析と考察を行う。
8	補語 1	中国語の結果補語、方向補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
9	補語 2	中国語の可能補語、数量補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
10	様々な構文 1	中国語の把構文、受身文、使役文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
11	様々な構文 2	中国語の存現文、是…的構文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。

12	日本語と中国語の表現論的特徴 1	日本語と中国語の表現論的相違 (相対的表現と絶対的表現など) に関して考察する。
13	日本語と中国語の表現論的特徴 2	日本語と中国語の表現論的相違 (言語と文化など) に関して考察する。
14	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

・大石智良 他 2010 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
・相原茂 他 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017 『中国語はじめての一步 [新版]』(ちくま学芸文庫) 東京：筑摩書房
・三宅登之 2012 『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019 『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店
・寺村秀夫 1982, 1984, 1991 『日本語のシンタクスと意味Ⅰ～Ⅲ』東京：くろしお出版
・寺村秀夫 1992, 1993 『寺村秀夫論文集Ⅰ, Ⅱ』東京：くろしお出版
・劉月華 他 2019 『実用現代漢語語法 (第三版)』北京：商務印書館
・朱德熙 (著), 杉村博文・木村英樹 (訳) 1995 『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』, 東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

・期末レポートを50%、平常点 (誤用例分析への取り組み状況や考察内容、発表・質疑応答内容など) を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業は期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生 (SA中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など) がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
・中国語の文法知識があること (最低1年以上の中国語学習歴があること) を前提に授業を行う。
・本授業は、誤用例の分析を手がかりに、日中両言語の諸特徴を考察する授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

In this course, we will acquire the basic skills of contrastive study of Chinese and Japanese. Especially, by analyzing various misuses of Japanese and Chinese, we will try to explain why learners make these mistakes and consider how to correct them.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To be able to explain the cause in your own way by examining examples of misuses by Chinese / Japanese learners.
- (2) To understand the grammatical features of both Japanese and Chinese languages.
- (3) To be able to properly understand and express difficult Chinese sentences.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・After every class, students are required to review the materials.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

・Grading will be decided based on term-end report (50%) and in-class contribution (50%).
・No final exam will be held in this course.

LIT300GA（文学 / Literature 300）		
中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）		
横打 理奈		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
このコースでは、中国の古典を幅広く紹介します。代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『孟子』『史記』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら中国の古典は古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。また、『唐詩』などの文学についても幾つか取り上げ、現在の我々がいかに中国の古典との接点を持っているのかを理解できるようになります。		
【到達目標】		
＊中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯		
＊中国古典を現代語訳で読むときの注意点		
＊中国古典の背景となる当時の社会環境		
以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回アクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『孟子』『史記』の全体像を説明します。また唐詩など文学についても説明します。
2	『論語』と孔子、その学び	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
3	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
4	『易経』の世界観と実践	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。またテキストを使って、実際に易占いを行います。
5	『孟子』を読み、内容を	孟子の中にあるよく知られている故
6	『孟子』と日本の関わり	孟子の中にあるよく知られている故
7	『孟子』を読み、内容を	孟子の中にあるよく知られている故
8	『孟子』と日本の関わり	孟子の中にあるよく知られている故
9	『孟子』を読み、内容を	孟子の中にあるよく知られている故
10	『孟子』と日本の関わり	孟子の中にあるよく知られている故
11	『孟子』を読み、内容を	孟子の中にあるよく知られている故
12	その他の文学（1）志怪小説と伝奇小説	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	その他の文学（2）四大奇書など	『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』などについて簡単に説明します。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）		
『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）		
『孟子』（佐野大介、角川ソフィア文庫、2015）		
『史記』（福島 正、角川ソフィア文庫、2010）		
『老子・莊子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）		
『唐詩選』（深澤一幸、角川ソフィア文庫、2010）		
※初回の授業で説明します。		
【参考書】		
必要に応じて紹介します。		
【成績評価の方法と基準】		
リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）50％、期末試験50％で成績を評価します。		
なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。		
【学生の意見等からの気づき】		
高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。		
【Outline (in English)】		
Course outline		
This course provides a wide-ranging introduction to the Chinese classics, focusing on the Analects, the Book of Changes, the Mencius, and the Records of the Grand Historian.		
We will also cover some literary works such as Tang poetry, allowing you to understand how we today have a connection with Chinese classics.		
Learning Objectives		
To be able to deeply understand modern Japanese society by learning the basic knowledge of Chinese philosophy.		
Learning activities outside of classroom		
Read the parts of the textbooks that were not mentioned in the lesson to supplement the understanding of the lesson contents. The standard time for preparation and review outside of class is two hours each.		
Grading Criteria/Policy		
Grades will be evaluated with 50% reaction paper (submitted each time at the end of class) and 50% final exam.		
If you are absent five times or more, you will not be eligible to take the final exam. In addition, if you are late for class twice, it will be counted as one absence.		

LIT300GA (文学 / Literature 300)

中国の文化Ⅷ (現代文学)

桑島 道夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1949年「新中国」建国後から現在までの文学を振り返ります (数篇、映画も取り上げます)。中国大陸に限らず、中国語圏である香港や台湾の文学を含みます。

【到達目標】

中国現代文学とその時代的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国現代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。

授業でコメントを求めることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります (毎回というわけではありません)。次回の授業の初めにコメントペーパーをいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

あるいは、事前に課題 (作品の読み込み) に対してコメントペーパーを書いてもらい、授業の解説の際にそのなかからいくつか取り上げ、全員に向けてフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに——中華人民共和国建国後の政治と文学	胡風批判、反右派闘争ほか
2	文化大革命	白毛女の表象——民間伝承、集団創作歌舞劇、映画、そして革命現代京劇へ
3	みづからの言葉を取り戻す文学者たち	1970年代の傷痕文学から新時期文学へ
4	中国の不条理の表現——モダニズムの復活	王蒙「胡蝶」、高行建「ある男の聖書」、残雪「黄泥街」ほか
5	土着の習俗や民間伝承を取り込む情念——ルーツ文学派	莫言「赤い高粱」
6	もの言う農民作家	閻連科「人民に奉仕する」「丁庄の夢」「四書」ほか
7	中国の前衛作家群像——先鋒派	余華、蘇童、格非ほか
8	女性が自己を語る意味——女性作家の作品に表現された内面	鉄凝「大浴女」
1		

9	女性が自己を語る意味——女性作家の作品に表現された内面	林白「たったひとりの戦争」、陳染「プライベートライフ」
2		
10	女性が自己を語る意味——女性作家の作品に表現された内面	衛慧「上海ベイベー」、棉棉「上海キャンディ」、アニー・ 베이「さよなら、ピピアン」「蓮の花」
3		
11	「80後」(80年代生まれ)の青春小説	韓寒「三重の門」、郭敬明「悲しきは逆流して河になる」
12	香港文学と中国映画	李碧華「ルージュ」「さらばわが愛——霸王別姫」ほか
13	台湾文学	李昂「夫殺し」ほか
14	おわりに	中国現代文学の特殊性と普遍性

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして (調べて) もらうことがあります。併せて2時間程度でしょうか。

【テキスト (教科書)】

随時配布。

【参考書】

『原典で読む：図説中国20世紀文学』(中国文芸研究会、白帝社、1995年)、『中国語圏文学史』(藤井省三著、東京大学出版会、2011年)、『「規範」からの離脱——中国同時代作家たちの探索』(尾崎文昭編、山川出版社、2006年)ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：60%

コメントペーパー・平常点：40%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上に達した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

中国現代文学・文化のおもしろさをまだまだ伝えきれていないのでは、と自問する一方、皆さんの主体的な参加によってそれは「発見」されるものだとも感じます。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course introduces modern Chinese literature through an examination of social developments in China since the early twentieth century.

Learning Objectives

The goal of this course is to help students understand modern Chinese society and culture.

Learning Activities Outside the Classroom

Before each class meeting, students are expected to read the assigned chapter(s) from the text. Students should plan to spend at least two hours preparing for each class session.

Grading Criteria / Policies

The final grade for this course will be determined as follows:

・ Term-end examination: 60%

・ Short reports and in-class participation: 40%

HIS200GA（史学 / History 200）		
朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）		
神谷 丹路		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 ｜ 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
朝鮮半島は、日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です。この授業では、朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます。近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増えています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探索することを目的とします。		
【到達目標】		
朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって、日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します。さらに興味のある分野について、自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
基本的な流れは、以下の通りである。 朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し、基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに、一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の2つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百濟・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮（王宮の再建から王妃虐殺事件まで） ・徳寿宮（大韓帝国の近代） ・昌徳宮（最後の国王、植物園、動物園）
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労働動員 ・38度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族 ・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成 ・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明（歴史の再評価）
8	解放から1950年代	・朝鮮沿岸漁業の百年 ・20世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女 ・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
9	1960年代、70年代	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン ・韓国と日本との関係
10	1980年代、90年代、2000年代	・海外留学期末試験
11	朝鮮沿岸漁業の百年	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 朝鮮語の知識は必要ありません。朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち、関連する本を積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。 【テキスト（教科書）】 毎回、授業資料を配布します。 【参考書】 参考文献はその都度指示します。 『新訂増補 韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）2014年 『日韓でいっしょに読みたい韓国史』（明石書店）2014年 『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編下』（青木書店）2006年 『学び、つながる日本と韓国の近現代史』（明石書店）2013年
12	歴史の和解とは	【成績評価の方法と基準】 授業の理解度を確認するために、随時、課題、小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。課題および小テスト（30%）、期末試験（70%）で評価する方針である。 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。 【学生の意見等からの気づき】 現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。
13	世界のコリアン・韓国の外国人	【学生が準備すべき機器他】
14	まとめ	【その他の重要事項】 S A韓国2年生はかならず受講してください。他学部の学生の受講も歓迎します。なお順序と内容に若干の変更がある場合があります。 【Outline (in English)】 < Course outline > In this class, the students will learn the basics of culture, history, and society on the Korean Peninsula. < Learning Objectives > The aim of this course is to help to acquire a historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia. < Learning activities outside of classroom > Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. < Grading Criteria/Policy > Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 70%, Assignments & little exams : 30%.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

アジアの伝統芸能

鈴木 靖

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国には「戯曲」と総称される300種あまりの伝統歌劇と「曲藝」と総称される400種ほどの語り物がある。こうした芸能を通じて、中国庶民の文芸世界を垣間見ようというのが本講義の目的である。中国の庶民が、どのような物語に笑い、怒り、涙したのかを、彼らの一番身近にあったメディアを通じて追体験していく。

【到達目標】

この授業を通じて、中国の伝統芸能の全体像とその代表的作品、演出・技法などを体系的に学び、そうした伝統文化が新たな文化の創出にどのような役割を果たすかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義とリアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせて行う。講義では、できるだけ多くの映像資料を使い、中国の伝統芸能とそこから生まれた音楽や映画などの世界を体感していきたい。

課題などへのフィードバックは、授業中またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに～講義の目的と内容について	中国の伝統芸能を学ぶ目的と意義について考える
第2回	中国の伝統芸能とは	中国の伝統芸能にはどのようなものがあるのかを概観する
第3回	伝統芸能の美～川劇「白蛇伝」を例に	魯迅が祖母から聞いたという杭州の雷峰塔にまつわる伝説を紹介した後、四川省の地方劇である川劇「白蛇伝」の第一幕から第二幕までを鑑賞しながら、雲牌という表現技巧を例に、「有声必歌、無動不舞」（声あれば必ず歌い、舞わざる動きなし）といわれる中国伝統演劇の特色について学ぶ
第4回	川劇「白蛇伝」の世界（一）	川劇「白蛇伝」の第三場から第五場前半までを鑑賞しながら、中国伝統演劇の表現技法である翎子功、船槳、臉譜、水袖功について学ぶ
第5回	川劇「白蛇伝」の世界（二）	川劇「白蛇伝」の第五場後半から第八場までを鑑賞しながら、中国伝統演劇の表現技法である假嗓、水袖功、水旗、毯子功を学んだ後、川劇独自の特殊技法である開慧眼、変臉について学ぶ
第6回	白蛇故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「白蛇伝」の歴史の変遷について学ぶ
第7回	現代によみがえる伝統芸能～映画「舞台姐妹」から見た中国伝統演劇の世界	中国の伝統演劇の役者たちはどのような暮らしをしていたのか。越劇の女優たちを描いた映画「舞台姐妹」を通じて、役者たちの近代への歩みを学ぶ
第8回	現代によみがえる伝統芸能～越劇から西洋音楽へ	越劇と西洋音楽を融合させ、梁山伯と祝英台の伝説を音楽によって克明に描き出したバイオリン協奏曲「梁祝」と、その誕生の背景についての学ぶ
第9回	現代によみがえる伝統芸能～映画「梁祝 Butterfly Lovers」を例に（一）	「梁祝」故事の映画化の歴史を学ぶとともに、バイオリン協奏曲「梁祝」をテーマ曲として、この故事に新たな解釈を加えた映画「梁祝 Butterfly Lovers」の前半を鑑賞する

第10回	現代によみがえる伝統芸能～映画「梁祝 Butterfly Lovers」を例に（二）	映画「梁祝 Butterfly Lovers」の後半を鑑賞するとともに、バレエやドラマなど、この故事に取材した新たな作品について学ぶ
第11回	梁祝故事の変遷	中国の四大民間故事の一つである「梁祝故事」の歴史の変遷について学ぶ
第12回	日本の伝統芸能とアジア（一）狂言「附子」「鏡男」を例に	19世紀の末、敦煌莫高窟から発見された敦煌写本『啓顔録』を通して、日本の狂言と中国との関わりについて学ぶ
第13回	日本の伝統芸能とアジア（二）落語・歌舞伎「牡丹灯籠」を例に	（明）瞿佑の怪異小説集『剪灯新話』を淵源とする日本の三大怪談の一つ「牡丹灯籠」を例に、中国の物語が、日本の落語や歌舞伎など古典芸能の演目となった歴史を学ぶ
第14回	伝統芸能を学ぶ意義とは	日米間の演劇交流の架け橋となったフォービアン・パワーズを例に、異文化としての伝統芸能を学ぶ意義について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に使用したスライドは、教材のページにアップしていく。これを参考に復習を行い、講義への理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

・村松一弥『中国の音楽』（勁草書房、1965年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のような基準で行う。

①毎回の授業後に提出するリアクションペーパー（80％）

②期末レポート（20％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

隔年開講科目のため、昨年度は未開講。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In China, there still remains more than three hundred forms of theatres and around four hundred types of traditional performing arts. This course aims to increase students' knowledge and understanding of Chinese folk literature through appreciating and studying these performing arts.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to gain a deeper understanding of Chinese traditional performing arts and their original literary works and stagecraft. By the end of the course, students should be also able to understand the contribution of Chinese traditional performing arts as sources of popular culture.

【Learning activities outside of the classroom】

Before each class, students will be expected to have read the relevant article(s). Required study/preparation time will be four, or more, hours per class.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on reflection essays (80%) and an end of term report(20%).

ARSB300GA（地域研究（ロシア・スラブ地域） / Area studies(Russia/Slab) 300）

ロシア・中央アジアの文化

佐藤 大雅

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・「ロシア・中央アジアの文化」は、主にロシア・中央アジア（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズスタン（キルギス）、タジキスタン、トルクメニスタン）・南コーカサス（アゼルバイジャン、ジョージア（グルジア）、アルメニア）と呼ばれる地域を対象に、旧ソヴィエト連邦構成国の文化を広く取り上げる入門的な授業です。本授業ではソ連時代を中心に、ロシア帝国から現代に至るまでの文化とその背景について学んでいきます。

・ロシアとその「周辺」地域（中央アジア、南コーカサス等）は、歴史・政治・経済的な繋がりを背景に、相互浸透的にその文化を構築してきました。この地域の文化の特殊性は、ある文化的事象をひとつ切り取るだけでは理解することが難しく、常に近隣諸国との関係の中で捉える、広い視座を必要とします。

・この授業では、それぞれの国の政治・経済等の特徴に加え、文学／美術／建築／音楽／映画／思想などの分野における重要な人物や事柄に触れる機会を提供したいと思います。皆さんの興味の引き出しを増やしつつ、文化についての見方や考える力を深めてほしいと思います。

・本講義は、SAロシアの事前学習科目なのでSAエストニア（SAロシア代替）の2年生は必ず履修してください。

【到達目標】

- (1) ロシア・中央アジア・南コーカサスの文化について、その背景と共に理解できるようになる。
- (2) ロシア・中央アジア・南コーカサスの文化の重要な事項について、簡単な説明ができるようになる。
- (3) 文化の考え方・論じ方について知見を深め、批判的思考ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には講義形式で授業を行います。加えて、適宜学生との議論や、グループディスカッションの時間を設けることもあります。
- ・授業毎にコメントシートを作成・提出してもらいます（成績評価の要件）。
- ・前回授業時のコメントシートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法についてのガイダンスを行う。
第2回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：①ロシア	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。①では、この授業で扱う地域の総合的な把握を行うと共に、ロシアの現在の概況について学習する。

第3回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：②中央アジア	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。②では、中央アジア5か国（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズスタン、タジキスタン、トルクメニスタン）の現在の概況について学習する。
第4回	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現在：③南コーカサス	ロシア・中央アジア・南コーカサス諸国の現状について、政治・経済・地理・文化の概要を理解する。③では、南コーカサス3か国（アゼルバイジャン、ジョージア、アルメニア）の現在の概況について学習する。
第5回	国家・民族とは何か	ロシアとその「周辺」地域を理解する上で必要な、国家・民族の概念について学習する。
第6回	帝政期の文化	ロシア帝国における文化の展開を幅広く学習する。
第7回	ロシア革命とソヴィエト政権の樹立：ロシア・アヴァンギャルドの時代	ロシア・アヴァンギャルド芸術の展開について学習する。
第8回	スターリン時代：社会主義リアリズムの誕生	スターリン期のソヴィエト文化について学習する。
第9回	「雪どけ」期の文化①	ソ連における「雪どけ」期の文化：雪どけ期の文化とは何か？
第10回	「雪どけ」期の文化②	「雪どけ」以降の文化の一例として、ソ連でロック／ジャズは可能だったのか？
第11回	「雪どけ」期の文化③	「雪どけ」以降の「公式芸術」の展開を見ることで、社会主義リアリズムがソ連の芸術に与えた影響について学習する。
第12回	ソ連の「非公式芸術」	ソ連の「非公式芸術」を学習することで、ソ連における「公式」と「非公式」の間の対立を考える。
第13回	「民族文化」の現在	後期ソ連～ソ連崩壊後にかけて、それぞれの「民族文化」がどのように展開してきたかについて学習する。
第14回	まとめ・振り返り	本授業で学習した内容を振り返ると共に、文化研究への取り組み方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示した参考文献等をもとに、自分なりに興味を抱いた内容について図書館等での文献調査や読書をしてほしいと思います（この作業は、期末レポートの題材選定や執筆の準備を兼ねています）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。授業で使用する資料は、適宜紙媒体または学習支援システム等で配布します。

【参考書】

参考文献は適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、①平常点（授業への取り組み姿勢、および授業後のコメントシート提出）：50%、②期末レポート：50%、に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出のために学習支援システム等を利用します。なお、授業時のPC持参は不要です。

【その他の重要事項】

生成AIツール（ChatGPT等）に関する注意事項：本授業では、成績評価対象となる期末レポートの作成に使用することは禁止とします。期末レポートの要件については、別途授業内で詳細に指示しますが、正確な引用注の記載や参考文献の表示等、内容の正確性を検証可能な条件を付けて出題することとします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces students to the cultural history of Russia, Central Asia, and the South Caucasus, especially in the Soviet period.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- (1) Have a basic knowledge of the cultural history of Russia, Central Asia, and the South Caucasus.
- (2) Briefly explain the important cultural phenomena of these regions.
- (3) Think critically about cultural phenomena.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Class Participation / Reaction Paper: 50%
- ・ Final Essay: 50%

AR5b300GA（地域研究（ロシア・スラブ地域） / Area studies(Russia/Slab) 300）
ロシア・東欧の文化
佐藤 千登勢
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方がEU加盟を果たした東欧諸国。しかしそのなかで経済的に「優等生」と位置付けられてきたハンガリーが政治的にはEUにおいて足並みを揃えない傾向にあったり、ポーランドでは宗教的倫理観に根差した法令が制定され、女性の権利が縮小される傾向も見られます。この講義では、ロシアと東欧諸国（おもに、ハンガリー、ポーランド、チェコ）と今では北欧に分類されるエストニアのそれぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を概観すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の民族が共生するとはどういうことかをみなさんに考えてほしいと思います。本講義はSAロシアの事前学習科目であるため、SAエストニア（SAロシア代替）の2年生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞したりするのではなく、多数の情報から自身の見解を導き、適切な文章でこれらをまとめる力をコメントシートを通して養うことを目的としています。学生のみなさんは、つねに問題意識をもちながら授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義で扱う「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及）。さらに、北欧に属するエストニアについても講義を行います。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、美術）、社会情勢を視聴覚資料を通して概観しながら東欧諸国とロシア（ソ連）との関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや現代の社会問題を提起していきます。私たちににとってもアクチュアルな問題として考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに見解をまとめてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、翌週の授業でフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと東欧諸国の言語・宗教／日本とポーランドの関係の一面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、ヨーロッパ・ピクニック事件など。

第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉文化について映像をまじえて解説。
第4回	ハンガリー：音楽と映画をめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ペーラらの独特な作風の映画を紹介。地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所について。伝統音楽からショパンの作品を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。アンジェイ・ワイダ作品の一部を鑑賞しながら史実を後世に伝える映画の力について考える。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	ポランスキー、ケシロフスキ、スコリモフスキ、シュモフスカ、パヴリコフスキらの映画を一部鑑賞しつつ、そこに描かれる社会情勢を汲みとる。
第6回	ポーランド：街並みと風土、そして歴史からみる音楽と映画	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『ブラハ！』に描かれるチェコ事件について。
第7回	ポーランド：社会を反映する映画	ブラハ、チェスキー・クルムロフの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第8回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	ブラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリヤ、愛のブラハ』を紹介。
第9回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのバペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第10回	チェコ：文学と映画をめぐって	被抑圧の歴史からe-Estoniaの社会に至るまでの軌跡。
第11回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	首都タリンの旧市街、カドリオルグ宮殿、「歌と踊りの祭典」、世界遺産について。
第12回	エストニアの歴史外観：ソ連・ロシアとの関係	キヴィラフク、クロス、ヘインサーの文学、映画『ノベンバー』（サルネット監督）／アルボ・ペルトの音楽を通してエストニアの精霊信仰や死生観について考える。
第13回	エストニア：街並みと風土	
第14回	エストニア：文学と映画、音楽をめぐって	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品のDVDソフトは大学のAVライブラリコーナー、もしくは国際文化学部資料室にある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。予習・復習を行う時間には毎回4時間以上、期末レポートの作成には、1週間以上かけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、コメントシート 30 %、期末レポート 20 %に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

静かな環境で講義を進められるよう、配慮しますが、何よりも、皆さんの協力を期待します。

【Outline (in English)】**● Course outline**

The course covers the history, culture and art of Russia and Eastern Europe (Hungary, Poland and the Czech Republic), as well as Estonia. In the process, students will understand and appreciate the domination and nationalism of the satellite countries.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia, Eastern Europe and Estonia, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Students should have the opportunity to re-watch the films, literary works, and music introduced in class. DVD software for movie works can be found in the AV library of the university or in the library of the Faculty of Intercultural Communication, and literary works can be borrowed at the library. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Please take about a week to create the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (50 %), Short reports (30 %) and term-end reports (20 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSa300GA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)
ドイツ語圏の文化 I
林 志津江
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【近現代ドイツの歴史と文化】

ドイツ語圏のうち、主に近現代のドイツとオーストリアを扱います。18～20世紀のドイツ語圏の人々のライフスタイルや価値観から、21世紀の日本に住む私たちがどのような示唆に与ることができるのでしょうか。この授業ではドイツ帝国の成立から二度の大戦、東西冷戦と東西ドイツ国家・ドイツ再統一に至る歴史を、文化現象と芸術作品を通じて概観します。

【到達目標】

- 1) 近現代ドイツ語圏の歴史と文化に関する理解を深めるとともに、抽象的な概念や文化に対する知的なアプローチの方法を学ぶ。
- 2) ナショナル・アイデンティティの実体や困難に対する思考・反省能力の涵養：「ドイツっぽい」と同様、「日本ならではの…」の正体もそこまで安心・確実なものではないかもしれません。
- 3) 言語テキスト、文化現象や芸術の形式・分析の分析を通じて、抽象的な議論に慣れる：文化や芸術と呼ばれる現象を知的に理解し楽しめる能力は、人生を楽しく豊かに彩るため（だけ）にあるのではなく、むしろ21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・18世紀後半～20世紀のドイツ語圏における文化現象を、時系列に沿って扱います。
- ・各回、担当者による解説やテキスト講読を中心とする講義が中心ですが、適宜ベアワーク、グループワークの時間も設け、参加者が相互に授業内容の理解を深める機会を持ちます。
- ・LMSとしてGoogle Classroomを使用します。連絡手段として、学期を通じて法政Gメールをチェックしてください。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、全体と個別に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第2回	「皇帝」から「フォルク（Volk）へ」 — 「ドイツ人」って誰ですか	ハイドン『弦楽四重奏曲第77番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランツを守り給え」（1797年）／H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841年）
第3回	都市化するベルリン — 歴史を伝える絵画	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947年）／『サンスーン宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）／『鉄圧延機工場』（1872-1875年）
第4回	革命あるいは父と息子の確執 — ヴィーンのワルツ・ビジネス	「リング」の建設／J. シュトラウス『ラデッキー行進曲』（1848年）／J. シュトラウス2世『美しき蒼きドナウ』（1867年）
第5回	自然への脱出（1） — 「芸術家」になるために	「青騎士」と「ブリュッケ」／O・ミュラー『水浴する風景』（1906年）、E.L. キルヒナー『フレンドルフ広場』（1912年）、『ポツダム広場』（1914年）など
第6回	自然への脱出（2） — 徒歩旅行と合唱の「運動」	「現実から逃避したい」／感情と行動の共同体／「ヴァンダーフォーゲル」から「自由ドイツ青年」へ
第7回	審美眼から機能主義へ — 「バウハウス」の誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919年）／G. ムヒエ「ハウス・アム・ホルン」（1923）／O. シュレンマー『トリアディック・パレエ』（1922年）など

第8回	女性と創造性（1） — 機械の時代の芸術	O. ディックス『大都会』（1927/28年）／C. シャート『ソーニャ』（1929年）／A. ザンダー『20世紀の人々』（1929年）など
第9回	女性と創造性（2） — 「デザイン」と「広告」	デッサウのバウハウス校舎（1925年）／バウハウスの織物工房・金属工房・タイポグラフィと写真について
第10回	ナチの権力掌握とプロパガンダ（1） — 「ドイツ的な芸術」？！	「表現主義」をどう理解するか／「頽廃芸術展」（1937年）
第11回	ナチの権力掌握とプロパガンダ（2） — 「ユダヤ系」の意味	ジャズとダンスホールの行方／「私は音楽がやりたいだけなので」？！
第12回	ドイツにモダニズムを取り戻す — 経済の奇跡と「過去の克服」	カッセルの「庭園見本市」から「ドクメンタ」へ／J. ボイス『7000本の樫の木』（1982-1987年）など
第13回	闘争の音・ベルリンの壁 — 「聴いてはいけない音楽」からのクラブカルチャー	Th. プルスキヒ『太陽通り』（1999年）／「ラブ・パレード」（1989-2010）
第14回	まとめ	今学期のまとめ・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

- ・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読み、次授業に備えて準備すること。
- ・首都圏近郊の美術館（「キャンパス・メンバーズ」を活用）等で実際に様々な作品に触れること。

【テキスト（教科書）】

各回こちらからプリントを配布します。

【参考書】

- ・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017年
 - ・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
 - ・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001年
 - ・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
- その他、適宜授業内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への積極的な参加と貢献・提出課題の作成（50%）
- ・筆記試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具およびWiFiの受信可能なデジタルガジェット

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】

This course introduces the art scene in German-speaking areas and countries from the end of the 19th century (modernism) to the present era. It deals with mainly fine arts (including architecture and handicrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (German-like)" as concepts that we may feel we understand, but that are actually difficult to grasp without careful reflection. The work in this class will also lead us to reconsider general ideas and categorical ways of thinking, such as "Japanese," "Japan," or "Japanese-like."

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・To be able to reflect on issues such as national identity or representational culture, express their own opinions and write texts of a certain length on the themes mentioned above.

ARSa300GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 300）

スペイン語圏の文化Ⅰ

久木 正雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅰ（多言語国家スペイン）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを超えた場合は抽選とする

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スペインの歴史と、そこに生きる人々が織り成す社会、そして彼らが生み出した有形・無形の文化遺産について学ぶ。とりわけ、スペインを構成する諸地域および言語・民族の多様性と、それらの歴史的層性への理解を得ることを目的とする。また、バルセロナ大学へのSAに参加する2年生は、バルセロナとカタルーニャへの理解と関心を、空間的にも時間的にも広い視野の中で深めてもらいたい。

【到達目標】

スペインの歴史・文化・社会が放つ多彩な魅力と、そこに付随する諸問題への理解と関心を深め、各自の考えをプレゼンテーション、ディスカッション、学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションとディスカッションを中心に行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	「多様」で「異質」なスペイン文化	しばしば他のヨーロッパ諸国の文化と比して「多様」で「異質」なものとして語られるスペイン文化について、その諸要素と言説形成の過程を批判的に考察する。
3	スペイン文化総論：19世紀末～20世紀前半	王政復古体制期、第二共和政期、内戦期のスペイン史に関する理解を得ながら、近現代のスペイン文化を概観する。
4	スペイン文化総論：20世紀後半	フランコ体制期から民主化への移行期までのスペイン史に関する理解を得ながら、現代のスペイン文化を概観する。
5	スペインの諸言語	スペインで用いられている諸言語と、それらの歴史的・政治的位置への理解を深める。

6	宗教と人々	カトリック教会と国家、社会、そして人々との関係について、近現代を中心に考察する。
7	祝祭	いわゆる三大祭りを題材として、地域ごとに趣を異にするスペインの祝祭への理解を深める。
8	伝統芸能	フラメンコと闘牛を題材として、それらの地域性と「国民的」な伝統芸能としての側面について考える。
9	都市と建築	バルセロナに焦点を当てて、都市計画とアントニー・ガウディの建築に代表される文化とその背景への理解を深める。
10	内戦と芸術	内戦とその記憶の問題について、文学、絵画、映画といった芸術作品との関係の中で考える。
11	サッカー	スペインの国民的スポーツと言えるサッカーの、娯楽としての側面と政治的な側面について考える。
12	ジェンダーと文化	スペインにおけるジェンダーと文化との関係について、主に女性史の観点から考察する。
13	世界の中のスペイン	ヨーロッパの一国としての、そしてスペイン語圏の一国としての、現在のスペインの姿について考える。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を熟読しておくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高編著『概説 近代スペイン文化史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2015年、ISBN9784623066759、本体価格3,200円。

【参考書】

- 田澤耕『カタルーニャを知る事典』平凡社新書、2013年、ISBN9784582856743、本体価格860円。
- 立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、ISBN9784750344157、本体価格2,000円。
その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30%、ディスカッションへの参加度：30%、学期末レポート：40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用のPC（本体）は各自が用意すること。ケーブルやアダプターといった周辺機器は教員が用意する。

【その他の重要事項】

- 履修希望者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨を初回授業の前日のうちに同システムで通知する。
- この授業は春学期で完結し、秋学期開講の「スペイン語圏の文化Ⅱ」（授業コード：C0946、担当教員：佐々木直美）との直接の連続性はない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of various aspects of Spain and its regions: histories, societies and cultures.

《Learning Objectives》

Students will gain basic knowledge of the histories, societies, and cultures of Spain and its regions, as well as the ability to express their ideas accurately in presentations, discussions, and an end-of-term report.

《Learning activities outside of classroom》

Students are expected to complete the required assignments before and after each class meeting. Each class will require more than four hours of study time.

《Grading Criteria / Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assigned presentation (30%), in-class contribution (30%), and end-of-term report (40%).

ARSd300GA (地域研究 (中・南アメリカ) / Area studies(Middle and South America) 300)

スペイン語圏の文化Ⅱ

佐々木 直美

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを越えた場合は抽選とする

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「食」と「音楽」を通じて、スペイン語圏の社会と文化を理解することを目的とします。授業ではスペイン語のテキストやスペイン語の歌を数多く取りあげますが、スペイン語学習歴がなくても授業を理解できるように丁寧に説明するため、スペイン語既修者でなくても受講に問題はありません。「食」と「音楽」に関心があり、視野を広げる好奇心がある方なら大歓迎です。各テーマに関連する料理と歌を手がかりに、ラテンアメリカを理解するためのいくつかの重要なテーマについて一緒に考えましょう。

【到達目標】

- ①スペイン語圏の代表的な料理について、その社会の歴史と関連付けて理解できる。
- ②スペイン語圏の代表的な歌と音楽について、それが誕生し、広く支持された社会的背景を説明できるようになる。
- ③スペイン語の正しい発音を習得できるようになる。
- ④スペイン語圏の出来事について、積極的に関心を持ち、自身の意見を述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講生同士のグループワークを組み合わせで行います。各回のテーマについて、毎回音楽や映像資料を活用した講義のあと、グループ・ワークを行い、最後に各人がリアクションペーパーを提出することが必須です。授業内で提出する課題や発言などは平常点として評価します。課題等に関するフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アンデス文化（ペルー）	◆ジャガイモ料理の代表（パパ・ア・ラ・ワンカイナ） ◆アンデス音楽と祭り
2	都市と農村（ペルー）	◆チチャとは？ トウモロコシのお酒と同じ名前の音楽
3	ペルー海岸地域（ペルー）	◆ペルー料理の代表（セビーチェ） ◆国民的舞踏マリネラ
4	首都リマ（ペルー）	◆トウモロコシを使った人気料理（タマレス） ◆行商人の歌声：プレゴネス ◆クリオーリョ音楽
5	ペルーにおけるアフリカ文化（ペルー）	◆黒人たちの料理（モンドongo） ◆スサナ・バカ
6	民衆の声（アルゼンチン）	◆アルゼンチン国民のシチュー（ロクロ） ◆南米のフォルクローレ ◆メルセデス・ソーサ
7	新しい歌（チリ、アルゼンチン、キューバ）	◆人生をありがとう ◆ビオレッタ・バラ ◆メルセデス・ソーサ ◆パブロ・ミラネス ◆シルビオ・ロドリゲス
8	移民Ⅰ（1960年代～アメリカ）	◆サルサ ◆映画「ウエスト・サイド・物語」が描くヒスパニック
9	移民Ⅱ（1960年代～アメリカ）	◆映画「ウエスト・サイド物語」 ◆ウィリー・コロソ
10	移民Ⅲ（2000年代以降アメリカ）	◆映画「イン・ザ・ハイツ」が描くヒスパニック
11	移民Ⅳ（2000年代以降アメリカ）	◆映画「イン・ザ・ハイツ」と「ウエスト・サイド物語」の比較

12	カリブ諸国（キューバとドミニカ）	◆コーヒー ◆グロリア・エステファン ◆フアン・ルイス・ゲーラ
13	ラテンアメリカのクリスマス（メキシコ）	◆チレス・エン・ノガータ ◆マリアッチ ◆ルイス・ミゲル
14	境のないスペイン語圏文化	◆ペルー料理 ◆パッド・バニー ◆シャキータ ◆レナタ・フローレス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示する資料を読んだり鑑賞したりすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

購入が必要な教科書はありません。

参考図書や映像資料は授業内で適宜指示するので、図書館や大学のAVライブラリーなどを上手に活用すること。

【参考書】

伊藤嘉章・岡本郁生監修 『ラテン音楽入門』世界文化社、2025年。
そのほか、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題や授業内での貢献を含む平常点70%、期末レポート30%を総合して評価します。

4回以上の欠席は評価「不可」とします。

また、15分以上の遅刻は2回で1回分の欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【その他の重要事項】

受講者はスペイン語既修者に限らない。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to understand Spanish-speaking society and culture through < food > and < music > .

We use teaching materials in Spanish and a lot of Spanish songs, but even if you don't understand Spanish, we will explain everything carefully. It doesn't matter if you have no prior experience of studying Spanish. We welcome anyone who is interested in food and music and has curiosity to broaden their horizons.

Using recipes and lyrics related to each lesson's theme as clues, students will learn about topics that will help them understand Spanish-speaking countries and communities.

< Learning activities >

Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria/Policy >

Short reports: 70%, in class contribution: 30%.

HUMc200GA	
北米文化論（ケベック講座）	
廣松 勲	
配当年次／単位：1～4年／2単位	
旧科目名：	
旧科目との重複履修：	
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall	
人数制限・選抜・抽選：	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈カ〉	
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】	
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。	
本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。	
なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。	
【到達目標】	
本授業の到達目標は、以下の通りである。	
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。	
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。	
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。	
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】	
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。	
【主な授業方法】	
L 講義 /Lecture	
【授業の進め方と方法】	
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。	
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。	
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。	
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】	
あり / Yes	
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】	
なし / No	
【授業計画】 授業形態：対面/face to face	
回	テーマ 内容
第1回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？ 説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？ ・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②
第4回	ケベック州の地理
第5回	授業内の講演会 ・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語 ・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治① ・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治② ・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題① ・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題② ・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化① ・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。

第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第14回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。		
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。		
【参考書】		
・各分野の参考書は、各授業において提示する。		
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。 小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための56章【第2版】』エリアスタディーズ・72巻，明石書店，2023年。		
【成績評価の方法と基準】		
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。		
①平常点（コメントシートなど）：40%		
②期末レポート：60%		
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】		
・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。		
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。		
【その他の重要事項】		
・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。		
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。		
【Outline (in English)】		
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.		
The goals of this course are to understand and explain the socio-cultural situation of Quebec. Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading the relevant documents. Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.		

LIT200GA (文学 / Literature 200)

フランス語圏の文化III (歴史)

ル ルー 清野 プレンダン

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではフランス語圏の歴史を、フランスの植民地帝国という導きの糸に沿って、様々なテーマについて考えながら勉強していきます。現在の「フランス語圏」(pays / régions francophones)のほとんどがフランスの植民地帝国にその由来をたどることができますので、フランスの植民地帝国を勉強することにより世界各地に広がるフランス語圏の諸地域との関係性が明らかになるはずです。

【到達目標】

この授業では、学生達はフランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する様々な側面を探索したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

- ①フランスの植民地帝国について基本的知識を獲得し、説明できる。
- ②植民地の概念を概ね理解できる。
- ③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
- ④フランス語圏への留学に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な資料(歴史的文章、論文、図や絵画など)を分析し、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し、質問に答えることで、フランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する共通の知識を築いていくことを目指します。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。歴史や資料、特にフランスの植民地帝国及びフランス語圏の歴史に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えます。

また、「フランス語圏の文化」という授業題名ですので使用する資料の多くはフランス語になりますが、必ずしもそれらを完璧に読解する必要はありません(並行して訳文を使う場合もあります)ので、フランス語の能力というよりはフランス語(圏)への興味が重要です。この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのグループワーク等のアクティビティに積極的に参加することです。課題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業紹介 植民地とは何か①	シラバスの確認 授業運営の紹介 植民地の定義、概要
②	植民地とは何か②	植民地の類型①
③	植民地とは何か③	植民地の類型②
④	植民地とは何か④	植民地(化)は過去の現象なのか？

- ⑤ フランス植民地帝国の オランジーナ名残①
- ⑥ フランス植民地帝国の バナニア、ビスケット、遊園地名残②
- ⑦ フランス植民地帝国の 北米の地名名残③
- ⑧ まとめと中間テスト 「植民地とは何か」及び「フランス植民地帝国の名残」(前半)
- ⑨ フランス植民地帝国の 言語状況について①北米①名残④
- ⑩ フランス植民地帝国の 言語状況について②北米②名残⑤
- ⑪ フランス植民地帝国の 言語状況について③アフリカ名残⑥
- ⑫ Nouvelle-France開拓 「新」大陸への探検への道①
- ⑬ Nouvelle-France開拓 「新」大陸の探検と開拓への道②
- ⑭ まとめと期末テスト 「フランス植民地帝国の名残」(後半)及び「Nouvelle-France開拓への道」

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト(教科書)】

授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

Pierre Singaravélou (dir.), "Colonisations. Notre histoire", éditions du Seuil, 2023

それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・中間テスト：30 %
- ・期末テスト：30 %
- ・発表やリフレクションシートなどの課題：20 %
- ・平常点(授業への参加状況)：20 %

※ 尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分以上の遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。何らかの理由で欠席した・する場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特に明記されていないように思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

前もって合意した特別な状況以外は、授業中の電子機器(スマホ、パソコン等)の使用を認めません。ただし、資料を解説するための電子辞書の使用は認めます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about the history of the French colonial empire. One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written mainly in French.

It is not a goal of this course to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading (or watching...) various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the the history of the French colonial empire and its links to the "francophone" world.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

The grading criteria shall be as follows:

- ・Mid-term exam: 30%
- ・Final exam: 30%

- ・ Presentations, reflection papers, and/or other activities: 20 %
- ・ Class participation: 20%

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)

カタルーニャの文化Ⅰ (言語A)

PLAZA BALAGUE Marta

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本コースは、初級レベル (A1) のカタルーニャ語を対象とした実践的な入門講座です。コミュニケーションアプローチを採用し、日常生活における基本的な場面で簡単なやり取りができるようになること、また、簡単なメッセージの理解と発信を通じてカタルーニャ語への基礎的な理解を育むことを目的としています。

この授業の続きとして「カタルーニャの文化Ⅱ (言語B)」もあるので、関心を持った学生はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会A)」および「カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会B)」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

本コース修了時には、以下のことができるようになります。

- 挨拶や自己紹介ができる。
- 基本的な個人情報を伝えられる。
- 人物や日常の行動を簡単に説明できる。
- 好みや嗜好を表現できる。
- 簡単な情報のやり取りができる。
- 近い将来の予定を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本コースではタスク中心のコミュニケーションアプローチを採用し、聞く力と話す力を重視します。文法はガイド付きのアクティビティを通して機能的かつ帰納的に導入します。

- 授業態度：授業の内容を理解したり深めたりすること、カタルーニャ語圏の社会・文化に触れようとする等、興味を持って授業に参加すること。
- 自己紹介の発表：自己紹介の短い個人発表を行います。
- 期末試験。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	カタルーニャ語入門。	挨拶と自己紹介。
2	個人情報①	アルファベット。発音と表記。 動詞 ser、dir-se、人称代名詞。
3	個人情報②	疑問文、否定文、数字。
4	人と家族①	語彙と動詞 tenir。
5	人と家族②	人物の描写、基本的な所有表現 および指示表現。
6	日常生活	生活習慣と直説法現在形。頻度 副詞。
7	街	場所・施設、道案内。前置詞と 位置表現。情報を尋ねる。

8	食事と飲み物	食事と飲み物：好みと嗜好の表現。動詞 agradar、voler。数量表現。
9	余暇	余暇：趣味や活動。動詞 agradar とその類似表現。
10	時間と予定	曜日、時刻、スケジュール管理。動詞 anar、fer。
11	予定を立てる	近接未来 (anar a + 不定詞)。
12	買い物	数量と価格。動詞 voler、necessitar。
13	総復習と口頭表現。	自己紹介。
14	期末試験。	期末試験。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に重要です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト (教科書)】

配布資料 (文法・練習・語彙を含みます)。

【参考書】

詳細な参考書リストは授業で提示します。
田澤耕 (2002) 『カタルーニャ語辞典』大学書林。
—— (2007) 『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。
—— (2013) 『カタルーニャ語小辞典』大学書林。
—— (2013) 『カタルーニャを知る事典』平凡社。

Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, *Catalan: An Essential Grammar*, Routledge.

Baptista Xuriguera, Joan, 2007, *Els Verbs Catalans Conjugats*, Claret.

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参加度および評価課題: 30 %
- 2) 口頭表現評価 (第13回) : 30 %
- 3) 期末試験: 40 %

成績は100点満点とし、本コースの合格基準は60点以上とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院 (Institut Ramon Llull) の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides a practical introduction to the Catalan language at A1 level, following a communicative approach. Its main objective is to enable students to interact in very basic everyday situations, understand and produce simple messages, and develop an initial awareness of the Catalan language. Finally, this class is followed by “Catalan Culture II (Language B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture III (History and Society A)” and “Catalan Culture IV (History and Society B)” as well.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

- Greet others and introduce themselves
- Provide basic personal information
- Describe people and daily routines
- Express likes and preferences
- Ask for and give simple information
- Make immediate plans

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】

1. Class participation and assessed coursework: 30%
2. Oral production assessment (Session 13): 30%
3. Final exam: 40%

The maximum score is 100 points. A minimum score of 60 points is required to pass the course.

LANs300GA (スペイン語 / Spanish language education 300)		
カタルーニャの文化Ⅱ (言語B)		
PLAZA BALAGUE Marta		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】		
本コースは、カタルーニャ語入門コース (A1) の継続講座として設計されており、カタルーニャ語への学習経験が非常に限られている学習者を対象としています。CEFRのA2～pre-B1レベルに位置づけられ、これまでに習得したコミュニケーションの基礎を定着させるとともに、表現の幅を広げ、口頭表現における自立性を高めることを目的としています。		
本コースでは、コミュニケーションかつタスク中心のアプローチを採用し、聞く力と話す力を特に重視します。文法は段階的かつ機能的に導入され、常に実際のコミュニケーション場面と結びつけて学習します。過去の経験の語り、意見や必要性の表現、助言や推薦の表現に加え、接続法、関係文、間接話法といった文法構造も、ガイド付きで導入します。		
本コースの目的はB1レベルを完全に習得することではなく、B1への確かな移行を支援し、日常のおよび簡単な学術の場面における自信と対話能力を育成することにあります。		
最後に、カタルーニャ語はその政治的かつ社会的な状況を知ることが特に欠かせない言語であるため、並行して「カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会A)」および「カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会B)」を履修することを強く推薦します。		
【到達目標】		
本コース修了時には、以下のことができるようになります。		
- 日常生活および基本的な学術の場面で自信をもってやり取りができる。		
- 構成がやや複雑な短い口頭・筆記テキストを理解・作成できる。		
- 過去の経験を語り、日常的な状況をより正確に描写できる。		
- 意見、必要性、義務、助言を明確に表現できる。		
- 簡単な関係文を用いて人・物・状況を説明できる。		
- 間接話法の導入を通して、他者の発言内容を伝えることができる。		
- 口頭表現における一貫性と流暢さの基本的な戦略を身につける。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
コミュニケーションかつタスク指向型の教授法を採用します。聞く・話す・読む・書く技能を統合的に扱います。文法は機能的かつ文脈に沿って導入します。動画、短い文章、音声などの実際の資料を学習者向けに調整して使用します。学生の積極的な参加と協力的学習を重視します。		
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	もう一度はじめよう！	カタルーニャ語の復習と経験の共有、A1内容の定着と拡張、直説法現在形の復習、 ser / estar 、基本的なコミュニケーション戦略、自己紹介を広げる語彙

2	昔と今	過去、思い出、経験、変化について話す、習慣、比較、頻度・様態の副詞、比較級・最上級、時間表現、形容詞の一致
3	人生の物語	経歴や出来事を語る、過去①：現在完了、現在完了の形成、規則・不規則過去分詞、時間表現、最近の経験の語り
4	今と昔の姿	人・場所・状況をより詳しく描写する、過去②：線過去 (未完了過去)、形成と用法、文脈と描写、現在完了との対比
5	意見と視点	意見、賛成・反対を表現する、談話の構成、時間接続詞、物語構成、弱形代名詞の機能的導入 (em, et, li, en, hi)
6	出来事の流れ	時間・原因・結果による構成、意見と評価の表現、意見動詞 (pensar, creure, trobar など)、 que を用いた構文、賛成・反対、従属構文への導入
7	現代の日常生活	生活習慣と文化比較、接続法①：願望・必要性・助言、接続法現在の形成、 voler que / cal que / és important que 、助言や願望の表現
8	わかり合える？	依頼、助言、必要性の表現、接続法②：意見と感情、感情・評価の動詞、直説法と接続法の使い分け、実際の場面での練習
9	人や物を説明する	関係文による精密な表現、関係文①、 que / on / qui 、関係文の機能、人・場所・物の描写
10	こう言っていました…	間接話法で伝える、関係文②、前置詞付き関係文、 el qual / la qual (限定的使用)、描写の精度向上
11	感情と願い	実際の文脈での接続法、より複雑な状況、問題と解決策の表現、 haver de / caldre / poder 、口頭相互作用の戦略
12	起こりうる状況	簡単な仮定・条件・反応、間接話法 (導入)、 dir / explicar / preguntar + que / si 、メッセージの言い換え、他者の発言の伝達
13	口頭発表	口頭発表
14	期末試験	期末試験
【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】		
少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。		
【テキスト (教科書)】		
配布資料 (文法・練習・語彙を含みます)。		
【参考書】		
詳細な参考書リストは授業で提示します。		
田澤耕 (2002) 『カタルーニャ語辞典』大学書林。		
—— (2007) 『日本語カタルーニャ語辞典』大学書林。		
—— (2013) 『カタルーニャ語小辞典』大学書林。		
—— (2013) 『カタルーニャを知る事典』平凡社。		
Dols, Nicolau, and Richard Mansell, 2017, <i>Catalan: An Essential Grammar</i> , Routledge.		
【成績評価の方法と基準】		
①授業参加度および授業内課題：30%		
②口頭発表 (第13回)：30%		
③期末試験：40%		
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。		

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは、授業の進度および学生の関心に応じて変更される場合があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院 (Institut Ramon Llull) の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is a continuation of the introductory Catalan language course (A1) and is designed for students with very limited prior exposure to Catalan. It is positioned between A2 and pre-B1 levels of the CEFR and aims to consolidate previously acquired communicative foundations, expand expressive resources, and develop greater oral autonomy.

The course follows a communicative, task-based approach, with a clear priority given to oral comprehension and production. Grammar is introduced progressively and functionally, always linked to real communicative situations. The course works on, among other aspects, narrating past experiences, expressing opinions and needs, making recommendations, as well as a guided introduction to structures such as the subjunctive, relative clauses, and indirect speech.

The goal is not to achieve full mastery of the B1 level, but rather to facilitate a solid transition towards it, strengthening students' confidence and their ability to interact in everyday and simple academic contexts.

Finally, Catalan is a language that particularly cannot be isolated from its political and social circumstances, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture III (History and Society A)" and "Catalan Culture IV (History and Society B)" as well.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

- Interact confidently in everyday and basic academic situations.
- Understand and produce short oral and written texts with a more developed structure.
- Narrate past experiences and describe habitual situations with greater precision.
- Express opinions, needs, obligations and recommendations clearly.
- Describe people, objects and situations using simple relative clauses.
- Convey information and report what others have said through an introduction to indirect speech.
- Develop basic strategies for coherence and fluency in oral production.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the "amount" of time, but also to its "quality". Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】

1. Class participation and in-class tasks: 30%
2. Oral presentation (Session 13): 30%
3. Final exam: 40%

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

HIS300GA (史学 / History 300)

カタルーニャの文化III (歴史・社会A)

PLAZA BALAGUE Marta

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本コースは、歴史的・社会的・文化的観点からカタルーニャ文化を総合的に紹介することを目的としています。学生は、言語、伝統、芸術、現代社会に特に焦点を当てながら、カタルーニャのアイデンティティを形作る主要な要素について学びます。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化IV (歴史・社会B)」もあるので、関心を持った人はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャの世界に本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化I (言語A)」および「カタルーニャの文化II (言語B)」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

本コース修了時に、学生は以下のことができるようになります。

- カタルーニャ文化の主な特徴を理解する。
- 社会におけるカタルーニャ語の役割を理解する。
- カタルーニャの主要な歴史的出来事を把握する。
- 伝統、芸術表現、社会的慣習を解釈する。
- 現代のカタルーニャ社会を分析する。
- 特に日本との比較を通して、自身の文化的背景と照らし合わせながら異文化理解を深める。

本コース修了時には、学生はグローバルかつ異文化的な視点のもとで、現代社会におけるカタルーニャ文化について基礎的かつ体系的な理解を示すことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 視聴覚資料を用いた参加型の講義。
- 文化的テキストやメディア資料の分析。
- 指導付きディスカッションおよび異文化理解を促す振り返り活動。
- 言語能力の習得を目的としない、文化理解に重点を置いたアプローチ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	コース導入+カタルーニャと言語 (1)	コースの目的と進め方の説明。カタルーニャの地理的位置、社会的多様性、使用されている言語の概要。
2.	カタルーニャと言語 (2)	現代のカタルーニャ語。多言語社会としてのカタルーニャと言語・アイデンティティの関係。
3.	カタルーニャの歴史 (1)	起源から18世紀までの歴史の流れ。主要な歴史的出来事の整理。
4.	カタルーニャの歴史 (2)	19世紀以降の歴史：産業化、内戦、フランコ独裁政権、民主化、現代社会。

5.	伝統と祝祭 (1)	年間行事と祝祭のカレンダー。宗教行事と市民的祝祭の役割。
6.	伝統と祝祭 (2)	昔から続いている民俗文化：カステルニャス (人間の塔)、火祭り、地域協会の文化。
7.	芸術と文学 (1)	カタルーニャ文学の概要と文化的背景。代表的な作家と作品。
8.	芸術と文学 (2)	音楽、映画、視覚芸術など現代カタルーニャ文化の表現。
9.	現代のカタルーニャ社会 (1)	日常生活、家族観、教育、労働、社会的価値観。
10.	現代のカタルーニャ社会 (2)	現在の社会的課題と議論 (若者、ジェンダー、多文化共生など)。
11.	カタルーニャと日本	歴史的接点、文化交流、相互イメージと比較の視点。
12.	世界の中のカタルーニャ	国際的な発信、文化外交、カタルーニャのイメージとブランド。
13.	映画鑑賞&ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。
14.	口頭発表	コース全体で学習した中で、事前に教師とトピックを決め、口頭発表を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に重要です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

教場では細かい参考書リストを提供します。

田澤耕 (2013) 『カタルーニャを知る事典』平凡社。

—— (2019) 『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。

立石博高/奥野良知編 (2013) 『カタルーニャを知るための50章』明石書店。

Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell & Brewer.

Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

1) 授業への参加と授業内活動：30%

2) 小課題／振り返り：30%

3) ミニテスト：10%

4) 最終プレゼンテーション：30%

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは、授業の進度および学生の関心に応じて変更される場合があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院 (Institut Ramon Llull) の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides a general introduction to Catalan culture from a historical, social and cultural perspective. Students will explore the key elements that shape Catalan identity, with particular attention to language, traditions, the arts and contemporary society. The course adopts an intercultural and comparative approach, especially suited to an international university context.

Finally, this class is followed by “Catalan Culture IV (History and Society B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

- Understand the main features of Catalan culture.
- Identify the role of the Catalan language in society.
- Recognise key historical milestones in Catalonia.
- Interpret traditions, artistic expressions and social practices.
- Analyse contemporary Catalan society.
- Develop intercultural awareness through comparison between Catalonia and their own cultural background, with particular reference to Japan.

Upon completion of the course, students will demonstrate a solid introductory understanding of Catalan culture and its contemporary context within a global and intercultural framework.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】

- Participation and in-class activities: 30%
- Short assignments / reflections: 30%
- Minitests: 10%
- Final presentation: 30%

The maximum score is 100 points. A minimum score of 60 points is required to pass the course.

HIS300GA（史学 / History 300）

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会B）

PLAZA BALAGUE Marta

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本コースは、現代カタルーニャ社会と文化について、歴史的・政治的・社会的・文化的な主要プロセスを通して深く学ぶことを目的とする。特に、産業化の時代から現代に至るまでの期間に焦点を当て、フランコ独裁体制、民主化への移行、現代の政治的議論、そして集団的アイデンティティの形成に関わる日常的実践を重点的に扱う。本コースでは、歴史分析と文化・社会的視点を組み合わせ、スポーツ、食文化、言語、社会運動などの具体例を用いることで、カタルーニャ社会を文脈的かつ批判的に理解することを目指す。

最後に、カタルーニャの世界を本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）」および「カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】

コース修了時に、学生は以下のことができるようになる：

- 1) 現代カタルーニャ社会を形成してきた主要な歴史的プロセスを理解する。
- 2) フランコ独裁体制および民主化移行期がカタルーニャに与えた影響を分析する。
- 3) 現在のカタルーニャの政治制度および社会的議論の主要要素を把握する。
- 4) スポーツや食文化を文化的・アイデンティティ的表現として解釈する。
- 5) カタルーニャの社会的・言語的・文化的多様性について、批判的かつ情報に基づいた視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、参加型活動、テキスト分析、映像資料、ガイド付きディスカッション、個人またはグループによる短いリフレクション課題を組み合わせて行う。学生の積極的な参加と批判的思考の育成を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	産業化と社会的闘争（19世紀～20世紀初頭）Ⅰ	コースⅡ導入＋社会的闘争と文化の枠組み
2.	産業化と社会的闘争（19世紀～20世紀初頭）Ⅱ	産業化と社会的闘争（19世紀～20世紀初頭）
3.	フランコ独裁体制、抑圧と文化的抵抗Ⅰ	フランコ独裁体制Ⅰー政治・文化・言語の抑圧
4.	産業化と社会的闘争（19世紀～20世紀初頭）Ⅱ	フランコ独裁体制Ⅱー文化的抵抗と日常生活

5.	民主化移行、自治とグローバル化	民主化移行、自治の復活、新しい社会運動
6.	カタルーニャ政治と独立運動Ⅰ	現代カタルーニャ政治ー制度と政治体制
7.	カタルーニャ政治と独立運動Ⅱ	独立運動ー歴史、重要人物、現代の議論
8.	経済・日常生活・アイデンティティ：スポーツと食文化Ⅰ	カタルーニャ経済ー産業化、内戦、自治
9.	経済・日常生活・アイデンティティ：スポーツと食文化Ⅱ	移民、多文化共生、カタルーニャ・アイデンティティ
10.	経済・日常生活・アイデンティティ：スポーツと食文化Ⅲ	スポーツ・経済・アイデンティティーFCバルセロナ
11.	経済・日常生活・アイデンティティ：スポーツと食文化Ⅳ	日常文化とカタルーニャの食文化
12.	言語・ジェンダー・将来展望Ⅰ	現代のカタルーニャ語ー使用、教育、将来の課題
13.	言語・ジェンダー・将来展望Ⅱ	ジェンダー、フェミニズム、LGBTI+
14.	口頭発表	口頭発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に重要です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】

配布資料。

【参考書】

詳細な参考書リストは授業で提示します。

田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。

——（2019）『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。

立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための50章』明石書店。

Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell & Brewer.

Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

評価は以下に基づいて行う：

- 授業参加およびクラス内活動：50%

- ミニテスト：20%

- 教員と事前に決めたテーマに基づく口頭発表：30%

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは、授業の進捗および学生の関心に応じて変更される場合があります。

【助成機関】

本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers an in-depth approach to contemporary Catalan society and culture through the main historical, political, social and cultural processes that have shaped present-day Catalonia. Particular emphasis is placed on the period from industrialization to the present, with special attention to the Franco dictatorship, the democratic transition, contemporary political debates, and everyday practices that contribute to the construction of collective identity.

The course combines historical analysis with a cultural and social perspective, incorporating concrete examples such as sport, gastronomy, language and social movements in order to foster a contextualised and critical understanding of Catalan reality.

Finally, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

1. Understand the main historical processes that have shaped contemporary Catalan society.
2. Analyse the impact of the Franco dictatorship and the democratic transition in Catalonia.
3. Identify the key elements of the current Catalan political system and ongoing social debates.
4. Interpret everyday practices such as sport and gastronomy as cultural and identity expressions.
5. Develop a critical and informed perspective on the social, linguistic and cultural diversity of Catalonia.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

【Grading Criteria / Policy】

1. Active participation and in-class activities: 50%
 2. Mini-tests: 20%
 3. Oral presentation on one of the course topics, previously agreed with the instructor: 30%
- 100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)
英語圏の文化Ⅰ（文化史）
宇治谷 義英
配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世イギリス演劇の事情について、基本的な情報を学んだ後、英語で書かれた論文を読むことで、各時代状況の中で、英米のみならず日本などの異文化圏においても、それらの演劇作品がどのように変化をして大衆に受け入れられてきたか、そしてその今日性について、他者とのディスカッションもおこなうことによって、学生一人一人が確認していく。

【到達目標】

異文化間における交流、つまり異文化間コミュニケーションを図るためには、異なる文化的背景を持った者同士が、お互いの文化を理解し合うことが必須である。そして、異なる文化的背景を持つ他者の文化的生産物(cultural products)を受容、理解するためには、その異文化間に横たわる文化的境界を越境するもの、つまり架け橋のような要素の存在が重要である。

本授業では、時代を超えて英語圏を代表する作家であるWilliam Shakespeareの演劇を中心とした近世イギリス演劇を、「異文化圏間」、「異時代間」を縦横に巡る「越境性」、「今日性」をキーワードに、変化する時代、そして異文化圏、特に日本の文化と関連させて把握できるようになること、そして演劇のみならず、時代の変革期における大衆文化と社会を関連づけて考えられるようになることを目指す。

さらには、英文で書かれた関連する論考を自分で読み解くこと、また特定のShakespeare作品の「越境性」「今日性」について受講生同士、そして外国人等の異なる文化的背景を持った人とのディスカッションを通して、自身による異文化の「越境」を体験することも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的な事項の講義の後、あらかじめ割り当てられた受講生に劇作品および論文について発表をもらう。毎回リアクションペーパーの提出は必須とする。出されたリアクションペーパーは次の授業で取り上げてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「演劇から始める異文化理解」	その目的、今日まで廃れない理由について、日本における歌舞伎、新劇、小劇場文化、同時に各受講者の身近な演劇体験と比較しながら考察する
第2回	「劇場」	近世イギリスの劇場と現代との違い、そして日本の劇場との類似性について
第3回	「テキスト」	近世イギリス演劇の上舞台本の事情と現代との違いと類似性について
第4回	「文化と社会」	文化的生産物(cultural products)から当時の社会状況を割り出す意義
第5回	「近世イギリス演劇の今日性」	文化的生産物(cultural products)が持つ、異文化間、異なる時代と場所を越える要素を見つける方法について
第6回	異文化間交流の実体験(1)	事前に決めたShakespeare作品に関して、第1回から5回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって、お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する。そこから受講生自身も含めて、異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える
第7回	論文の解説A(1)	Shakespeareの「越境性」について、劇団と劇場から考える
第8回	論文の解説A(2)	Shakespeareの「越境性」について、演劇性から考える

第9回	論文の解説A(3)	Shakespeareの「越境性」について、大衆及び社会秩序との関連性から考える
第10回	論文の解説A(4)	Shakespeareの「越境性」について、メディアの問題から考える
第11回	論考の解説A(5)	Shakespeareの「越境性」について、文学作品の観点から考える
第12回	論考の解説B(1)	文化的生産物(cultural products)の異文化圏における受容の課題と意義について、第二次大戦前から1960年代以前のShakespeare作品を題材にした米ブロードウェイ・ミュージカルから考える
第13回	論考の解説B(2)	文化的生産物(cultural products)の異文化圏における受容の課題と意義について、1960年代以降のShakespeare作品を題材にした米ブロードウェイ・ミュージカルから考える
第14回	異文化間交流の実体験(2)	事前に決めたShakespeare作品に関して、第7回から13回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって、お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する。そこから受講生自身も含めて、異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 講義形式の授業では内容に関して毎回課題を与えられる。論考を扱う授業では前もって当てられた範囲について発表できるように準備する。発表では前もってテーマを決めて準備しておく。 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 特に使用しない。		
【参考書】 <i>The Cambridge Companion to Shakespeare and Popular Culture</i> , ed. Robert Shaughnessy (Cambridge: Cambridge University Press, 2007). <i>The Cambridge Companion to English Renaissance Drama</i> , eds. A.R. Braunmuller, Michael Hattaway (Cambridge: Cambridge University Press, 1990).		
【成績評価の方法と基準】 リアクションペーパー等課題の提出およびプレゼンによる平常点(20%)と試験(80%)。なお、教員による講義中および受講生による発表中の私語、やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁。		
【学生の意見等からの気づき】 担当した文献の英語について、教員から前もってある程度の道しるべ的な助言を与えるようにしたいと思っています。		
【Outline (in English)】 In this course, students will learn about early modern English drama and how it was/is received through discussion with others. The goal of this course is to acquire the above-mentioned knowledge and the ability to discuss it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end exam: 80%, assignments: 20%		

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)		
英語圏の文化Ⅲ（現代事情）		
栗飯原 文子		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
英語圏世界とは、むしろイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含むこと。したがって、英語圏世界について学ぶことは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視座から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。		
【到達目標】		
・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。 ・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。 ・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。毎週金曜日に「お知らせ」を配信するので確認すること。 ・毎回視聴覚資料を配信する。各自で学習して、期限までに課題を提出すること。 ・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準などについて説明。まず、「英語圏の文化」とはなにか考える。
第2回	英語圏とはなにか	英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。
第3回	第一次世界大戦後の世界—民族自決	第一次世界大戦のとらえ方、1919年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。
第4回	反帝国主義連盟	植民地地域から多数の代表が集まった1927年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。
第5回	第二次世界大戦後の世界—独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第6回	アジア・アフリカ会議	1955年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第7回	アフリカ諸国独立	1957年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第8回	非同盟諸国運動	1961年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。
第9回	キューバ革命と三大陸人民会議	1959年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。
第10回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。
第11回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第12回	構造調整の時代—第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。
第13回	現代の諸問題	現在の英語圏および旧植民地地域について概観する。
第14回	期末課題の説明とまとめ	全体の復習をおこない、期末課題について説明する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。 また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
資料を配布する。		
【参考書】		
授業中に紹介する。		
【成績評価の方法と基準】		
成績評価の方法と基準は次の通り。 ・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（60％） ・期末課題（40％） この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】		
ひとりひとりの疑問点を解決できるように、全体と個別のフィードバックを丁寧におこないたい。		
【その他の重要事項】		
・初回の授業資料は4月10日（金）13時にアップロードします。 受講希望者は必ず、この時間までに、Hoppiiの「講義内情報」を読んで、登録をおこなってください。 ・受講希望者が多い場合、抽選をおこないます。		
【Outline (in English)】		
[Course outline] This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries. [Learning objectives] Students will be expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the "Third World" and thus a different perspective on World History. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to review the audio-visual materials and the handouts. The required study time is at least four hours for each class session. [Grading policy] Final grade will be decided based on the following: short reports 60% and term-end examination 40%.		

LIT300GA（文学 / Literature 300）

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）

須藤 祐二

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写から読み取れるアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、絵画、映画、音楽などどのような影響を相互に及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】

受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

第1回授業で、いくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマから、アメリカの文学が文化や社会環境とどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察するというプロセスが繰り返されるだろう。時間的な制約から、時系列に沿ったアメリカ史全体の説明はできない。受講生はアメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。最終授業でそれまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてもフィードバックとしてもう一度解説をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第3回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特徴をヨーロッパのゴシック小説と比較して、前者における恐怖の描き方から「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品が当時のアメリカの拡大志向やエスニシティへの意識をどのようにに反映しているのかを考察する。
第7回	時間、都市、産業化	19世紀後半以降のアメリカの都市化や産業化の進展、そして、社会における時間表象や都市表象がどのようにに変化したのかを紹介し、それらがモダニズムの文学作品にどのようにに反映されているのかを考察する。

第8回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのようにに変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのようにに表象されているのかを考察する。
第9回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのようにに変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第10回	観念としての「黒人」は誰のものか	20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのようにに位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第11回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのようにに表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第12回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのようにに描いているかを検討する。
第13回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する、併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第14回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で資料を配布するため、授業後に復習としても読み込むこと。また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習が重要である。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は配布する。

【参考書】

有賀夏紀（編）油井大三郎（編）『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年
亀井俊介（編）『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006年
板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991年
鈴木透『実験国家アメリカの履歴書——社会・文化・歴史にみる統合と多元性の軌跡（第2版）』慶應義塾大学出版会、2016年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（授業の理解度を測る）を70％、課題図書/映画レポートを30％とする。両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

例年、視覚資料が理解に役立ったという感想があるため、今年度も積極的に使用するつもりである。

【Outline (in English)】

【Course Outline】
This course is designed to introduce students to the history of American literature and, through it, provide insight into various aspects of American culture and society. Students will not only explore the critical perspectives of authors as expressed in their works but also examine how American society during different historical periods is reflected in the underlying themes of these writings. Additionally, the course aims to deepen students' appreciation of American literature by examining its influence on visual arts, film, and music across different eras.

【Learning Objectives】
By the end of this course, students should be able to explain key characteristics of American literature and its cultural significance.

【Learning Activities Outside the Classroom】
Students are expected to spend approximately two hours before or after each class reviewing and engaging with the course materials to fully grasp the content.

【Grading Criteria】
First Report: 30%, Second Report: 70%

LIT300GA (文学 / Literature 300)

英語圏の文化Ⅴ (文学と社会B)

北 文美子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

18世紀から20世紀にかけての英語圏 (イギリスとアイルランド) の文学作品を取り上げ、各作品の社会的・文化的・歴史的背景を考察しながら、文学を理解するうえでの知的視野を広げることをめざします。

【到達目標】

それぞれの文学作品にうかがえる文体・人物造型・風景描写などを仔細に検討することで、時代の思想を読み解き、近代・現代における文学と社会のつながりについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回講義内容に対する各自の理解を確認するため、授業で扱った作品の引用をテキスト分析し、リアクション・ペーパー (課題) としてまとめ、提出してもらいます。レビュー・ウィークにリアクション・ペーパーをもとにしながら内容の復習をします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション	コース概要について説明します。
2回	デフォーと近代資本主義	『ロビンソン・クルーソー』と資本主義社会・合理精神について考察します。
3回	メアリー・シェリーと近代ロマン主義	『フランケンシュタイン』とロマン派の興隆について考察します。
4回	マックファーソンとケルティシズム	『オシアン』とケルティシズム、オリエンタリズムとの関係を考察します。
5回	マッシュ・アーノルドと帝国主義	『ケルト文学研究』と帝国主義、社会ダーウィン主義について考察します。
6回	バーナード・ショーと地方主義	『ピグマリオン』と帝国主義、標準英語化の動きについて考察します。
7回	レビュー	前半のまとめをします。
8回	イェイツと民族主義	『ケルトの薄明』と民話蒐集の政治的意図について考察します。
9回	ジョイスとモダニズム	『ユリシーズ』とモダニズム運動について考察します。
10回	ベケットとポストモダニズム	『モロイ』とポストモダニズム思想について考察します。
11回	アンジェラ・カーターとフェミニズム	『血染めの部屋』とフェミニズム思想、童話の脱構築について考察します。

12回	ブライアン・フリー ルとポストコロニア リズム	『トランスレーションズ』とアイルランドの植民地経験について考察します。
13回	レビュー	後半のまとめをします。
14回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回取り上げる作品を原書あるいは翻訳で事前に読んでおいてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

各回、プリントを配布します。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、リアクション・ペーパー (25%)

試験 (75%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参考文献の紹介に加えて、内容についての簡潔な解説も付け加えます。

【Outline (in English)】

(Course Outline) This course aims to deepen the understanding of British and Irish Literature from the 18th century to the 20th century, and to examine social, cultural and historical backgrounds of each literary work.

(Learning Objective) By the end of the semester, students are expected to make themselves familiar with the history of British and Irish Literature and to acquire an understanding about the relation between social, cultural and historical backgrounds and literary works.

(Learning activities outside of classroom) Students should read the relevant literary materiel beforehand, and spend more than one hour preparing for each class.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 30% Exam 70%

LIT300GA（文学 / Literature 300）

英語圏の文化VI（文学と社会C）

中和 彩子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名誉革命後の18世紀イギリスで発展した小説という文学ジャンルは、進歩と科学の世紀でもあった19世紀、とりわけヴィクトリア時代(1837-1901)の間に作品も媒体も、そして読者も多様化し、影響力のある一大文化産業となる。この授業では、19世紀末のイギリス小説に焦点を当て、さまざまな不安——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖——を描いた代表的な作品を読むことを通じて、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。

作品と作者の文学史における位置づけを理解する。

イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講者が、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートに沿って準備学習をしていることを前提として授業を進める。グループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理し解説を加えるというのが授業の基本的な進め方であるが、講義を中心とする回もある。

授業の終わりに、理解の確認のためのリフレクションペーパーを課す場合がある。

提出されたワークシートやリフレクションペーパーへのフィードバックは、翌週の授業内に行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス イントロダクション(1) イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	イントロダクション (2) 19世紀後半のイギリス文学・文化	授業で扱う作品、作家、その背景についての概説
3	ロバート・ルイス・スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』(1886年) 小説前半	演習（小説前半の分析）
4	『ジキル博士とハイド氏』(1886年) 小説後半	演習（小説後半の分析）
5	『ジキル博士とハイド氏』(1886年) 全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
6	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』(1890年) 小説前半	演習（小説前半の分析）
7	『四つの署名』小説後半	演習（小説後半の分析）
8	『四つの署名』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
9	H.G. ウェルズ『タイム・マシン』(1895年)	演習（原文抜粋の分析）・講義
10	H.G. ウェルズ『モロー博士の島』(1896年)	演習（原文抜粋の分析）・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』(1902年) 小説前半	演習（小説前半の分析）
12	『闇の奥』小説後半	演習（小説後半の分析）
13	『闇の奥』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
14	まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の準備学習として、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートの問題に解答し、提出すること。

本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。なるべく準備学習に重点を置くことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

(1) 3作品については、以下の邦訳の紙の書籍を使用する。受講許可を受けたあと、授業の予習に間に合うように、大学生協等で購入すること。

①スティーヴンソン、村上博基訳『ジキル博士とハイド氏』光文社古典新訳文庫、2009.

②アーサー・コナン・ドイル、日暮雅通訳『四つの署名』新訳シャーロック・ホームズ全集、光文社文庫、2007.

③コンラッド、黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫、2009.

(2) その他の作品については抜粋を配布する。

【参考書】

石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014.

※そのほか随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ワークシートやリフレクションペーパー等の提出物 70%）と、試験の成績（30%）の総合評価。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

・互いのワークシートの内容を共有することで、より多角的にテキストを理解できるので、グループワークの時間を長めにとる。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを利用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC等の端末（デバイス）を持参してください。

【その他の重要事項】

・授業に関する連絡は、学習支援システム（Webclass）を通じておこないます。
・初回授業について

受講希望者多数の場合、授業の最後に作成・提出してもらったペーパーをもとに、選抜をおこないます。

初回授業をやむを得ず欠席した受講希望者（仮登録者）は、当日中にWebclassを通じて仮登録者宛に出される「メッセージ」の指示にしたがってください。Webclassの「教材一覧」でも同じ指示を見られるようにしておきます。万が一「メッセージ」が届かなかった場合は、そちらを確認し、指示に従ってください。

選抜を実施した場合、追加で受講者希望者を受け入れることはできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: “Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will analytically and critically read some representative British literary works, published around the turn of the 20th century, that are obsessed with Victorian fin-de-siècle anxieties, and be introduced to their social and cultural contexts.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following: 1) understand the details of each novella/novel, and its cultural and historical context. 2) understand these works and their authors in the context of British literary history. 3) read and understand parts of each work, in English.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to come to each class meeting well prepared by reading the assigned part of the text and doing the worksheet, given online, in advance. The required study time is about 4 hours per class.

Grading Policies: Grading will be decided based on worksheets and reflection papers (70%), and the term-end examination (30%)

LANe300GA（英語 / English language education 300）		
英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）		
興石 哲哉		
配当年次／単位：3～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
本授業は、学生が現代英語の構造について、様々な面から考察するを目標にするものです。良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は、どのような言語であるのか、学生は、担当者とともに、授業を通じて考察していきます。		
【到達目標】		
1. 学生が英語の音声面、文法面等の構造について、知識を得られること。 2. 学生が英語の構造についての研究の仕方について、ある程度の知識を得られること。 3. 学生が英語という言語に関しての様々な問に対して、答えるべき道筋をつけられること。 4. 併せて、学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること。 なお、上記の1、2で述べた知識ですが、ヤマとなる点は以下の通りです。 a) 音声器官、発音記号。 b) 音素の考え方（構造主義）。 c) 言語の知識を構成する各部門の考え方。 d) 記述上のさまざまな単位。 e) 統語範疇（品詞論）。 f) 直接構成要素分析、句構造。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 / Lecture		
【授業の進め方と方法】		
この授業は原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。 現時点で考えていることは以下の2点です。 1. 当面の間は学習支援システムを用いて学習に必要な資料を配布していきますが、質問、コメント等を受け付けることによって可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思います。 2. 何をトピックにするか明確にし、履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います。 課題等のフィードバックについては、「学習支援システム」や、個人メール等により行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方、教材について説明します。後半は、英語という言語について、どこでどのように話されているかなどを見た上で、英語史について簡単に触れます。英語の音声について、その特徴を学んでいきます。言語音声に関する初回になりますので、音声研究において必要な調音器官などの用語、発声の原理について学びます。
2	英語の音声について（1）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。今回は、英語を離れ、一般的に単音の記述について見た後、子音・母音の分類原理について学習します。
3	英語の音声について（2）	英語の音声について学ぶ3回目です。英語の母音について、その分類を学んだ後、各母音について見ていきます。英語の音声について学ぶ4回目です。二重母音、弱母音等について触れ、その後、フォニックスについて学習します。
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ5回目です。母音についてまとめ、英語の子音を見ていきます。
5	英語の音声について（4）	
6	英語の音声について（5）	
7	英語の音声について（6）	英語の音声について学ぶ6回目です。子音についてまとめた後、音節、音結合について触れます。最後に、かぶせ音素（アクセント、リズム、イントネーション等）について解説します。
8	英語の文法について（1）	英語の文法について学ぶ1回目です。初回ですので、文法という用語の伝統的な意味と、新しい意味、生成文法の考え方等について学びます。
9	英語の文法について（2）	英語の文法について学ぶ2回目です。日英の語順の相違について概観した後、形態素、語、語彙素といった基本的な用語について学びます。
10	英語の文法について（3）	英語の文法について学ぶ3回目です。統語範疇という概念について概観します。具体的に、形容詞を例にとって、いかに統語範疇が規定されるか、検討します。
11	英語の文法について（4）	英語の文法について学ぶ4回目です。形容詞についての話をまとめ、他の統語範疇と形容詞の関係について学びます。英語の辞書の記述についても、検討します。
12	英語の文法について（5）	英語の文法について学ぶ5回目です。構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます。そして、不連続構成素をどのように扱うかについての話をします。
13	英語の文法について（6）	英語の文法について学ぶ最後の回です。この回は、SVO+不定詞という構文を例にとり、それがどのように分析されるか、検討します。
14	まとめ～今後につなげて	これまでの授業を総括し、その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか、授業で学んでいきます。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みますので、学生は、基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。		
【参考書】		
授業中、随時指定いたしますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。 ・加島祥造 (1976). 『英語の辞書の話』。東京：講談社[のちに講談社学術文庫に収載。] ・加島祥造 (1983). 『新・英語の辞書の話』。東京：講談社[のちに講談社学術文庫に収載。] ・竹林滋・斉藤弘子 (1998). 『改訂新版 英語音声学入門』。東京：大修館書店。 ・中島文雄 (1991). 『英語学とは何か』。東京：講談社[講談社学術文庫]。 ・田中菊雄 (1992). 『英語研究者のために』。東京：講談社[講談社学術文庫]。 ・竹林滋 (1991). 『英語発音に強くなる』。東京：岩波書店[岩波ジュニア新書]。		
【成績評価の方法と基準】		
試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、5で失格、というのを一応の目安とします。） 基本的に、最終試験で評価をいたします。その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します。） この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。		
【学生の意見等からの気づき】		
本年度授業担当者変更により、特にありません。		
【学生が準備すべき機器他】		
パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。		
【その他の重要事項】		
1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。 2. 本科目はグローバル・オープン科目のStructure of Englishと内容が同一ですので、重複履修はできません。 3. 初回授業に必ず参加してください。 4. かなり速いペースで進みますので、真面目な態度で出席しないと履修は困難です。 ● 授業形態については、「対面」となっていますが、場合によっては周知の上、「オンライン」も採り入れていきたいと思っています。したがって、その点を考慮の上、履修をお願いします。		

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。(科目の性質上, SA英語圏の履修者が多いことが予想されます。)英語の構造をひと通り駆け足で学び、言語文化演習(あるいは卒業研究)へ結びつける科目です。半期ですので、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の構造について、基本的な知識は網羅するように心がけます。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of the course, students will be able to:

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English should be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

【到達目標 (Learning Objectives)】

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:

- a) articulatory organs and phonetic symbols,
- b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
- c) modular approach to linguistics,
- d) various units in linguistic description,
- e) syntactic categories (parts of speech),
- f) immediate constituent analysis, phrase structural analysis.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:

- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LANe300GA（英語 / English language education 300）		
英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）		
興石 哲哉		
配当年次／単位：3～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
英語の歴史は、ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります。本授業では、担当者とともに、学生は、本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから、どのような変化を遂げて、21世紀の今のような国際的な言語となっていったか学んでいきます。		
【到達目標】		
1. 学生が英語の歴史について、ひと通りの知識を得ること。 2. 学生が英語の歴史に興味を持ち、現代英語の様々な事象について、歴史的な説明を試みること。 3. 学生が言語の歴史研究について、その大まかな方法論を知ること。 4. 学生が英語の運用力をつけること。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
この授業は原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。		
本授業では、担当者が授業用に用意したスライドを用いて講義型の授業をします。受講生は、講義に出席しつつ、併せて教材（以下の教科書）を各自読みすすめてください。読みやすい教材ですので、基本的な事柄の把握に重点をおきつつ読んでいってください。		
各授業のフィードバックについては、「学習支援システム」にて詳細に行いますので、そちらを読んで内容の把握に努めてください。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説。 - 現代英語の状況、話者数、分布等。 - 英語史上の時代区分。
2	EARLY HISTORY 1	- IE studies & comparative linguistics - Proto-Indo-European
3	EARLY HISTORY 2	- Proto-Indo-European (cont'd) - Celts - Romans
4	OLD ENGLISH 1	- Latin influence on English - Anglo-Saxon invasion - Germanic languages sub-divisions
5	OLD ENGLISH 2	- Place name studies - <i>Angli vs wealas</i> - Christianisation - Viking raids - King Alfred's reign - OE runic inscriptions - Undley Bracteate and Franks Casket - OE pronunciation - 'Back to front' movements of OE pronunciation
6	OLD ENGLISH 3	- OE documents and poems (Law of Æthelberht, Gospels, <i>Beowulf</i>) - Oral tradition, alliteration, and OE compounding
7	OLD ENGLISH 4	- OE poems and alliteration - Norman Conquest - Social bilingualism in England
8	OLD ENGLISH 5	- ME: social bilingualism - English started to be spoken! - ME grammar, lexis - OE and ME dialects - Word order
9	MIDDLE ENGLISH 1	- ME documents (<i>Sumer Is Icumen In</i> , <i>The Canterbury Tales</i> , <i>Piers Plowman</i>) - Social changes - Great Vowel Shift
10	MIDDLE ENGLISH 2	- Great Vowel Shift (cont'd) - English becoming commoner! - Borrowed words - Shakespeare and the King James Bible
11	MIDDLE ENGLISH 3	- Biblical parallel text for comparison of OE, ME, and ModE - Shakespeare in original pronunciation - Spelling innovations
12	MODERN ENGLISH 1	- The first dictionaries (<i>A Table Alphabeticall</i> , Johnson's dictionary) - Linguistic prescriptivism - New words - <i>The Oxford English Dictionary</i>
13	MODERN ENGLISH 2	The Oxford English Dictionary (cont'd) - Received pronunciation and General American - Regional varieties - Regional varieties (cont'd)
14	MODERN ENGLISH 3	- Jargon and slang - The future of English
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
学生は、まず、テキストを読んでくることから始めてください。この際、批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか、曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと）、出てくる用語等を資料、ネット等を用いて調べること、を意識的に行うことが重要です。授業後、復習をして固めれば、理解力が高まります。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
Viney, Brigit (2008). <i>The History of the English Language</i> . Oxford University Press.		
【参考書】		
授業中、随時指定しますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。 ・北村達三 (1980). 『英語を学ぶ人のための英語史』。東京：桐原書店。（内容として一番標準的ですが、最近の英語についての記述が少々足りません。） ・寺沢盾 (2008). 『英語の歴史 過去から未来への物語』。東京：中央公論新社[中公新書]。 ・中尾俊夫, 寺島廸子 (1988). 『図説 英語史入門』。東京：大修館書店。 ・ブラッドリ, H. 寺澤芳男訳 (1982). 『英語発達小史』。東京：岩波書店[岩波文庫]。		
【成績評価の方法と基準】		
試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、5で失格、というのを一応の目安とします。） 基本的に、最終試験で評価をいたします。その他のプロジェクト等を課す際には事前に周知します。） この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。		
【学生の意見等からの気づき】		
昨年度休講のため、特にありません。		
【学生が準備すべき機器他】		
パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「学習支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。		
【その他の重要事項】		
1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。 2. 本科目はグローバル・オープン科目の <i>History of English</i> と内容が同一です。このため、重複履修はできません。 3. 今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました。 4. 「英語史」と「英国史」とは異なります。ことばに焦点を当てる授業です。 5. 初回授業に必ず参加してください。		
【カリキュラム上の位置づけ】		
本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。（科目の性質上、SA英語圏の履修者が多いことが予想されます。）英語の歴史をひと通り駆け足で学び、言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です。半期のため、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。		
【Outline (in English)】		
【授業の概要（Course Outline）】		
Towards the end of this course, students will be able to:		
1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and		

2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The following are the concrete goals of this course:

1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students are expected to visit the relevant LMS site and get as much information as needed.

Admittedly, this is not an easy course with all those unfamiliar terms and concepts. So, it is strongly recommended to read the relevant materials suggested on the LMS site posted immediately after each class session by the instructor. Approximately two hours of preparation and reviewing are necessary for this course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.

- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

ARSA200GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈D〉〈C〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界5大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。

具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】

- (1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知る。
- (2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知る。
- (3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。

2～3コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説 ・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニック島】 ・フランス語とクレオール語の関係
2	I. カリブ海域諸島①	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
3	I. カリブ海域諸島②	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり ・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明
4	I. カリブ海域諸島③	【ケベック】 フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
5	II. カナダ・ケベック州①	【ケベック】：インテリカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係 【移動するエキリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
6	II. カナダ・ケベック州②	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
7	II. カナダ・ケベック州③	
8	III. マグレブ（北アフリカ諸国）①	

9	III. マグレブ（北アフリカ諸国）②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
10	III. マグレブ（北アフリカ諸国）③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	IV. サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	IV. サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	V. ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	V. ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。

授業で言及・提示する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。

本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・特になし。
- ・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】

授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。

- ・鳥羽美鈴著、『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。
- ・平野千香子著、『フランス植民地主義の歴史』人文書院、2002年。
- ・中村隆之著、『カリブー世界論』人文書院、2013年。
- ・小畑精和著、『ケベック文学研究』御茶の水書房、2003年。
- ・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
- ・鶴戸聡著、「アラブ・フランコフォニーと越境の文学」『反響する文学』（土屋勝彦編、名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号）、風媒社、2011年。
- ・梶茂樹・砂野幸稔編著、『アフリカのこぼれと社会：多言語状況を生きるということ』三元社、2009年。
- ・岩本和子著、『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷』松籟社、2007年。
- ・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマン文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】

- ・評価配分は、以下の通り
 - ①平常点（コメントシートなど）：30%
 - ②期末レポート：70%

・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料に基づいた説明が緩慢にならないように、できる限り映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつけるようにする。

【その他の重要事項】

フランス語の知識は前提としません。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

in class contributions: 30%, term-end reports: 70%.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

- ・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に着ける。
- ・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。

毎回、課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを準備してから授業に出席することが必須です。回答は、授業前に提出してもら場合も、また、授業内で書いてもらう場合（小テスト）もあります。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズムⅠ	オペラ『蝶々夫人』台本分析
3	オリエンタリズムⅡ	オペラ『蝶々夫人』演出分析
4	オリエンタリズムⅢ	映画『ラスト・サムライ』鑑賞
5	オリエンタリズムⅣ	映画『ラスト・サムライ』分析
6	オリエンタリズムⅤ	映画『ベイマックス』鑑賞
7	オリエンタリズムⅥ	映画『ベイマックス』分析
8	ジェンダー論Ⅰ	「シンデレラ」コンプレックス
9	ジェンダー論Ⅱ	アニメ『シンデレラ』鑑賞
10	ジェンダー論Ⅲ	アニメ『シンデレラ』分析
11	ジェンダー論Ⅳ	映画『エバーアフター』鑑賞
12	ジェンダー論Ⅴ	映画『エバーアフター』分析
13	ジェンダー論Ⅵ	バレエ「シンデレラ」分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、課題（SQ）への回答を準備しておくこと。事前提出が求められる課題には、定められた期限までに学習支援システムにレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・提出課題と授業内小テスト：50%
- ・積極的な授業参加（ディスカッション）：20%
- ・期末テスト：30%
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ・4回以上欠席した場合は、単位修得の権利を失います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の回答を授業内で多く紹介します。

【その他の重要事項】

履修希望者の数によっては初回の課題をもとに選抜を行いますので、必ず初回授業後、定められた締切日までに課題を提出してください。
本授業の課題への回答作成にあたって、生成AIを含むオンライン上の資料収集は固く禁止します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

【Learning Objectives】

Students will learn how to compare and analyze films and theatrical performances while taking into consideration their sociohistorical contexts.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.

【Grading Criteria/Policy】

Assignments and review exams: 50%

Active Participation in class discussion: 20%

Final exam: 30%

PSY200GA (心理学 / Psychology 200)
異文化適応論
浅川 希洋志
配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考える傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるオンライン授業や課題提示によるオンデマンド授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD等があれば適宜紹介する。

期末試験や課題等のフィードバックは、ポイントをまとめた文書を作成し、学習支援システムを用いて受講生に配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第2回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第3回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第4回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第5回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第6回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第7回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第8回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知らう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第9回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。

第10回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係の、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第11回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係の、感情の情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第12回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第13回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004年）、増田貴彦著『ボスだけを見る欧米人みんなの顔を見る日本人』（講談社＋α新書、2010年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、学習支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

異文化と身体表現

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の諸地域にみられる舞踊の発生経緯、発展プロセス、文化的意義について学ぶ。表現技法を細かく分析するのではなく、宗教、性、習俗、観光化といった身体にまつわる社会的な問題を、舞踊を通して、異文化という視点から理解する。

【到達目標】
・舞踊の歴史的・文化的背景を叙述することができる。
・諸地域ごとの舞踊の知識を踏まえ、日本の伝統的な舞台芸術の特徴を日本文化を知らない人に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
・リアクション・ペーパーのコメントを授業内で適宜、紹介することにより、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考図書等の紹介。
2	ポリネシア（ハワイ）	ハワイのフラを取り上げる。王国の歴史・自然観・宗教観との関わり、フラ・カヒコとフラ・アウアナの違いなど。
3	アメリカ（1）南米（アルゼンチン）	アルゼンチン・タンゴを取り上げる。発生経緯、コンチネンタル・タンゴへの展開など。
4	アメリカ（2）北米（アメリカ合衆国）	ジャズ・ダンス、タップ・ダンスを取り上げる。音楽としてのジャズの歴史、ミンストレル・ショー、アイリッシュ・ダンスとの関わりなど。
5	映画にみるダンス（1）	『街の灯』、『フットルース』、『ダーティ・ダンシング』などの映像クリップを鑑賞し、各作品の背後にある社会・文化的特徴を考える。
6	ヨーロッパ（1）スペイン	フラメンコを取り上げる。ロマの踊りからの発展とフランコ体制における観光化など。
7	ヨーロッパ（2）ドイツ、オーストリア	ワルツを取り上げる。民俗舞踊（レントラー）、宮廷舞踊（メヌエット）との関わり、19世紀における発展経緯など。
8	ヨーロッパ（3）フランス、ロシア	バレエを取り上げる。バレエ・ダクシオンからロマンティック・バレエ、クラシック・バレエ、バレエ・リュスまでの歴史的展開など。
9	映画にみるダンス（2）	『赤い靴』、『ブラック・スワン』の映像クリップを鑑賞し、職業としてのダンサーと、プロデューサー、指導者との力関係について考える。
10	アジア（1）インド	インドの伝統舞踊を取り上げる。宗教観との関わりや性の問題など。
11	アジア（2）中国	京劇を取り上げる。時の権力者からの庇護・排除により、時代の変遷のなかでどう扱われたかなど。
12	アジア（3）日本	能を取り上げる。能の歴史の変遷、W・B・イエイツによる評価など。

13	映画にみるダンス（3）	『六つの顔』、『八月十五夜の茶屋』などの映像クリップを鑑賞し、これまで授業で扱った西洋の身体表象と日本の身体表象の違いを考える。
14	ケーススタディ／授業のまとめ	授業のまとめを兼ねたトピックを選定して講ずる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記【参考書】に記載の書籍を読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
ジェラルド・ジョナス『世界のダンスー民族の踊り、その歴史と文化』（大修館書店）
邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
渡辺保『日本の舞踊』（岩波新書）
渡辺保『身体は幻』（幻戯書房）
三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』（吉川弘文館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）
矢口祐人『ハワイとフラの歴史物語』（イカロス出版）
生明俊雄『タンゴと日本人』（集英社新書）
有本紀明『フラメンコのすべて』（講談社）
加藤雅彦『ウィenna・ワルツーハプスブルグ帝国の遺産』（NHKブックス）
宮尾慈良『舞踊の民族誌ーアジア・ダンスノート』（彩流社）
宮尾慈良『これだけは知っておきたい 世界の民族舞踊』（新書館）
皆川厚一『インドネシア芸能への招待ー音楽・舞踊・演劇の世界』（東京堂出版）
魯大鳴『京劇入門』（音楽之友社）
白洲正子『能の物語』（講談社文芸文庫）
『野村萬斎 What is 狂言？』（繪書店）
Patricial Leigh Beam, World Dance Cultures: From Ritual to Spectacle. Routledge.

【成績評価の方法と基準】
平常点30%: 毎月1回のペースで、リアクション・ペーパーを3回提出する。各回について、それまでの講義内容を把握し、自分なりに解釈できてきているかを評価。
学期末レポート70%: 異文化と舞踊に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
授業の進行状況により、扱うテーマや作品を変更することがあります。

【Outline (in English)】
・ Course outline: A survey course that studies a wide range of dance across cultures and time periods. We will explore the process of its development and the cultural values. Instead of analyzing the details of body mechanics, this course will focus on the social dimensions of dance in terms of religion, sex, habits, tourism and try to elicit its intercultural aspects.
・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to understand and describe dance history and culture. They will also be able to explain about traditional Japanese performances to those who do not know them.
・ Learning activities outside of the classroom: read the recommended books in the 'References'.
・ Grading Criteria/Policy: Class participation 30%, Final paper 70%.

LIT300GA（文学 / Literature 300）		
実践翻訳技法		
深谷 公宣		
配当年次／単位：3～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：春学期授業/Spring		
人数制限・選抜・抽選：受講者の人数制限および選抜もありうる。		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
完璧な翻訳は存在しない。だからこそ、翻訳は楽しい。この授業では、英語（など）を日本語に、日本語を英語（など）に置き換えることをひたすら繰り返しながら、言葉の仕組みについて学び、またその仕組みが文化ごとにどのように異なるのかを考える。なお、本授業はあくまでも言葉についての理解を深めるための授業であり、職業的な翻訳家の養成を目指すものではないが、そのような志望をもつ学生にとっても有益な内容であることは言うまでもない。		
【到達目標】		
日本語と英語を中心に、言語の仕組みや文化との相関について理解し、具体的な言葉で説明できるようになる。翻訳はもちろん、比喩などの文彩についても学び、実践を重ねることで、言語運用能力の本質的な向上を図る。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
毎回のテーマに沿った簡単な講義のあと、個人やグループで翻訳課題に挑戦し、その成果を発表してもらう。教員やクラスメイトからの講評を受けて、ディスカッションを繰り返しながら理解を深めてゆく。また授業外の時間を使って、個人での翻訳プロジェクトを進めてもらう。具体的には、ある程度の分量のテキストを翻訳し、推敲を重ね、一つの作品に仕上げることになる。		
2026年度は、授業担当者が学生時代に教えを受けた安西徹雄氏と須賀敦子氏の著作を教材に取り上げる。各回授業の前半は『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』（安西徹雄・著、パベル・プレス）の解説と演習をおこない、後半は『大司教に死来る』（ウィラ・キャザー・著、須賀敦子・訳、池澤夏樹・監修、河出書房新社）の訳文を検討する。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明 教材と著者の業績紹介
2	翻訳英文法（１）	翻：名詞の中に文を読み／主語を『大司教に死来る』（１）表わす所有格 大：Book Nine 1の須賀訳を検討
3	翻訳英文法（２）	翻：目的語を表わす所有格／of +『大司教に死来る』（２）名詞（主語を表わす場合） 大：Book Nine 2の須賀訳を検討
4	翻訳英文法（３）	翻：無生物主語の構文／"A Good Swimmer"の型 大：Book Nine 3の須賀訳を検討
5	翻訳英文法（４）	翻：人称代名詞、指示代名詞／反復を避けるためのThat, One 大：Book Nine 4の須賀訳を検討
6	翻訳英文法（５）	翻：関係代名詞（１）（接続詞を補う）／関係代名詞（２）（分解する） 大：Book Nine 5の須賀訳を検討

7	翻訳英文法（６）	翻：形容詞・副詞を述語に『大司教に死来る』（６） 大：Book Nine 6の須賀訳を検討
8	翻訳英文法（７）	翻：形容詞を副詞に（All, Every, Each）／比較級・最上級 大：Book Nine 7の須賀訳を検討
9	翻訳英文法（８）	翻：否定のからんだ比較表現／as『大司教に死来る』（８） ... asの構文 大：Book Nine 8の須賀訳を検討
10	翻訳英文法（９）	翻：受動態（１）（自動詞を使って能動態に）／受動態（２）（By～を主語にして能動態に） 大：個人プロジェクトの報告（１）
11	翻訳英文法（１０）	翻：受動態（３）（暗示されたby～を主語にして）／受動態（４）（受動態のまま） 大：個人プロジェクトの報告（２）
12	翻訳英文法（１１）	翻：仮定法（１）（主語に仮定のふくまれている場合）／仮定法（２）（副詞句に仮定のふくまれている場合） 大：個人プロジェクトの報告（３）
13	翻訳英文法（１２）	翻：話法（１）（直接話法を生かす）／話法（２）（直接話法を掘り起こす） 大：個人プロジェクトの報告（４）
14	授業のまとめ	プロジェクトの振り返り／授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文学を中心に活字に触れる習慣をつけ、言葉への感度を高める。個人プロジェクトは授業時間外に責任をもって進めること。本授業の準備学習・復習時間は週４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料は教員が配布する。ただし使い慣れた辞書は必須。紙・電子・アプリなど、形態は問わない。

【参考書】
主要教材
・安西徹雄『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』（パベル・プレス）
・ウィラ・キャザー著、須賀敦子訳、池澤夏樹監修『大司教に死来る』（河出書房新社）
・Cather, Willa. Death Comes to the Archbishop. Penguin Vitae.
参考書
・安西徹雄『英文翻訳術』（ちくま学芸文庫）
・須賀敦子『須賀敦子を選んだ日本の名作 60年代ミラノにて』（河出文庫）

【成績評価の方法と基準】
毎回のクラス内の課題50％、個人プロジェクト50％
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
・受講者の人数制限および選抜もありうる。
・発表・ディスカッションに積極的になれない者は履修しないこと。

【Outline (in English)】
This course invites the students to participate in the rigorous yet fulfilling challenge of translation. Students are to tackle different assignments each week to appreciate various aspects of language and its relation to culture, while working on their own projects outside the classroom that are to be handed in by the end of the term.
Students will be able to renew their knowledge on language and how it relates to each culture. This class offers an opportunity to vastly improve the command of both English and Japanese, by working individually and in groups.
The students are expected to spend a total of 4 hours in reviewing and preparing for each class meeting, and working on their individual projects.
The grading criteria is as follows: 50% weekly in-class assignments, 50% individual project. Students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LIN200GA（言語学 / Linguistics 200）

言葉と社会

小川 敦

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言葉と社会」「多言語社会」「言語（教育）政策」をテーマに、言語と社会がどのように関わっているのか、社会において言語はどのような役割を果たしているのかなどについて考えていきます。「標準語と方言」「二言語併存」「国語」「少数言語」などの基本的な概念について解説し考察した上で、歴史的な経緯でいくつもの言語が用いられる社会、移民が多く住む社会での言語の話題について多く取り上げます。

【到達目標】

- ・社会的なコンテキストで言語がどのような役割を担っているかを理解する。
- ・それぞれの社会において言語の持つ役割や重要性が異なっていることを理解する。
- ・言語に対する価値観は人によって異なることを理解し、相対化して考えるべきことを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式ですが、できるだけ授業中にも学生同士で話し合うようにします。授業の最後にならずリアクションペーパーを書いてもらいます。授業の最初にリアクションペーパーに対してこちらからコメントをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：言語と国家	言語についている名前と国家の名前が必ずしも一致しないことや、「〇〇人なら〇〇語を話す（べき）」といった言説が自明ではないことを理解し、これからの授業につなげていきます。
第2回	言語と変種（標準語と方言）	日常的に「標準語」「方言」と呼んでいるものの実態について扱い、さらに社会集団語などのさまざまな言語変種について扱います。
第3回	国家と言語、標準語と方言の関係	前回に引き続き、何が変種を「方言」「言語」とらしめるのかについて、社会や国家との関係から考えます。
第4回	方言のイメージ	地域変種（「方言」）に対して抱くイメージがどのように形成されてきたのかを考えます。また、「方言コスプレ」と呼ばれる現象について、「役割語」の視点も踏まえて見ていきます。

第5回	言語とジェンダー	これまでのテーマと関連付けて、言語をジェンダーの視点から考えます。
第6回	危機言語	アイヌ語や琉球諸語から、危機に瀕する言語について考えます。
第7回	少数言語・言語権	少数言語の定義を見た上で、言語に対する権利や法律上の位置づけなどについて考えます。
第8回	移民社会としての日本と言語	日本では移民背景を持つ人がますます増えています。日本社会の対等な一員とするための言語的な配慮や権利について考えます。「やさしい日本語」についても扱います。
第9回	言語景観と言語サービス	前回の授業を踏まえて、多民族化・多言語化する日本社会における「言語景観」について考えます。何気なく通り過ぎていた標示について、この授業を機に気をつけるようにしてください。
第10回	ケーススタディ：フランス・アルザスの言語教育とアイデンティティ	フランスの東部、ドイツに接するアルザス地方の言語の歴史を見た上で、今日のフランス語とドイツ語の二言語教育、そしてアルザス人の言語アイデンティティについて考えます。
第11回	ケーススタディ：イタリア・南チロルの言語問題	イタリアの最北端に位置する南チロル地方（アルト・アディジェ）ではドイツ語系住民とイタリア語系住民が長年対立と和解を繰り返してきました。複数の言語集団の共存について、言語教育の点から考えます。
第12回	ケーススタディ：「方言」から「言語」を創り出した国家、ルクセンブルク	フランス語、ドイツ語、民衆の言語であるルクセンブルク語を公用語とする、多言語社会であるルクセンブルクを扱います。複数の言語を使えることを標榜しながら、アイデンティティの象徴として独自の言語を創り出してきた歴史を見ていきます。
第13回	ケーススタディ：「移民国家」としてのルクセンブルク	前回に続いてルクセンブルクを扱います。ルクセンブルクは人口の半数近くが外国籍であり、言語教育の面で課題に向き合っています。最近の事例を紹介しながら、ルクセンブルクでの課題と日本社会への示唆について考えます。
第14回	本講義のまとめ	講義でこれまでに扱ってきたテーマをもとに、試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の書籍を購入する必要はありません。こちらに紹介した文献や授業中に紹介した文献について、できるだけ図書館やインターネットで探して勉強してください。

【参考書】

以下のようなものが挙げられますが、全て読みましようというわけではありません。そのほか、授業中に紹介します。

- ・井上・田邊（編著）『社会言語学の枠組み』くろしお出版、2022年
- ・柿原・仲・布尾・山下『対抗する言語 日常生活に潜む言語の危うさを暴く』三元社、2021年
- ・言語権研究会（編）『ことばへの権利』三元社、1999年
- ・佐野直子『社会言語学のまなざし』三元社、2015年
- ・真田信治（編）『社会言語学の展望』くろしお出版、2006年
- ・杉野（監修）田中・波多野（編著）『言語と教育 多様化する社会のなかで新たな言語教育のあり方を探る』明石書店、2017年

・平高・木村（編）『多言語主義社会に向けて』くろしお出版、2017年
・田中・木村・宮里（編）『移民時代の言語教育－言語政策のフロントニア(1)』ココ出版、2009年
・三宅・新井『境界と周縁－社会言語学の新しい地平』ひつじ書房、2025年

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、コメントペーパーを含めた授業への参加40%とします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。
初回授業には必ず参加してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンだけでなくPCやタブレット端末を準備すると受講しやすいです。

【その他の重要事項】

履修の条件として、第1回の授業には必ず参加してください。
授業中はよく話を聞き、ノートをとることに専念してください。
受講生の関心にあわせて、授業内容を柔軟に変更・修正することもありますので、ご承知おきください。
教員の専門の関係もあり、事例紹介ではヨーロッパ、とりわけドイツ語圏の話題が多くなりがちですが、受講生は必ずしも英語以外にドイツ語や他のヨーロッパ語を学んでいる必要はありません。言語と社会の関係に関心がある人、多言語社会や言語政策に関心がある人はご検討ください。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (plan du cours)】

Dans ce cours, nous explorerons la relation entre la langue et la société, ainsi que le rôle que celle-ci y joue. Après avoir présenté divers concepts de base, nous traiterons plusieurs questions linguistiques liées aux régions multilingues historiques ainsi qu'aux zones à forte population immigrée.

【到達目標 (Objectifs d'apprentissage)】

À l'issue de ce cours, les étudiants seront capables de comprendre les fonctions du langage dans les contextes sociaux. Ils prendront également conscience de la diversité des valeurs associées au langage et développeront un esprit critique et comparatif.

【授業時間外の学習 (Travail hors séance)】

Il est attendu des étudiants qu'ils consacrent deux heures à la préparation et à la révision de chaque cours.

【成績評価の方法と基準 (Critères d'évaluation)】

Participation active 40%

Examen final 60%

HIS300GA（史学 / History 300）

宗教社会論Ⅱ

佐々木 一恵

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
- 各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。
- 提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。

4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	キリスト教とセクシュアリティ	キリスト教とセクシュアリティの関係を歴史的に概したのち、昨今のクィア神学の取り組みについて議論する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

○岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。

- 田村秀夫『千年王国論—イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
- 小檜山ルイ『帝国の福音—ルーシー・ビーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019年。
- グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。
- アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。
- Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).
- ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教—近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。
- パトリック・S・チェン（工藤万里江訳）『ラディカル・ラブクィア神学入門』新教出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（30％）

2. 期末試験（70％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.

Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.

Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

HIS300GA（史学 / History 300）

宗教社会論III（イスラーム思想）

久木 正雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：宗教社会論III（イスラーム思想）

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム学に初めて触れる学生が、イスラームの教義と思想およびムスリムの歴史、社会、文化に関する基本的な知識を得るとともに、他の宗教や宗派・教派といった「異文化」との関係性について考える。

【到達目標】

イスラームとムスリムへの理解と関心を深めるとともに間文化的な視点を養い、各自の考えをリアクションペーパーと学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回の授業の最後に学生からリアクションペーパーを提出してもらい、次の回の授業の中でそれに対するフィードバックを行う。リアクションペーパーの提出とフィードバックに関しては、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	世界の諸宗教とイスラーム	世界のさまざまな宗教の中でイスラームが占める位置と、それらの関係性について学ぶ。
3	イスラームの成立	ムハンマドの人物史を主軸に据えて、イスラームの成立過程について歴史的な観点から学ぶ。
4	六信五行	イスラームの世界観と価値観、そしてそれらに基づいたムスリムの生活について知る。
5	ウンマ／ハラール	イスラームにおける共同体をめぐる思想と、「合法」と「非合法」の概念について学ぶ。
6	クルアーン／ハディース	イスラームの二大聖典であるクルアーンとハディースについて、それぞれの成立過程、形態、概略的な内容を知る。
7	シャリーア	シャリーア（イスラーム法）と法学者および諸学派について学ぶ。
8	イスラーム諸宗派	イスラームの諸宗派について、二大宗派であるスンナ派とシーア派を中心に、それぞれの成立過程と特徴を学ぶ。
9	スーフィズム	スーフィズム（イスラーム神秘主義）について、成立過程と文化的・社会的な広がりを知る。

10	「イスラーム世界」と「西洋世界」	「イスラーム世界」と「西洋世界」の関係について、これらの用語を批判的に定義した上で考察する。
11	日本におけるイスラーム	日本におけるイスラームの受容について、歴史と現在の姿を知る。
12	イスラームと女性	イスラームにおけるジェンダーについて、イスラーム世界の内外双方からの女性表象を中心に考察する。
13	イスラームと現代世界	現代におけるイスラームの姿について、他の宗教や文化圏との関係の中で考察する。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に配布した資料や指示した参考書を熟読しておくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

- 東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社（世界史リブレット）、1996年、ISBN9784634341500、本体価格729円。
- 『クルアーン 日本語読解』東京ジャーミイ出版会、2022年、ISBN9784910474007 (https://tokyocamii.org/wp-content/uploads/2024/07/QuranNihongoDokkai_edition01_03.pdf)。その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーに基づく平常点：40%、学期末レポート：60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の多様な問題関心を、リアクションペーパーなどを通じて恒常的にすくい上げ、授業に反映させることに努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- この授業は、偶数年度の春学期にのみ開講する隔年開講の授業である。奇数年度となる来年度は開講されないため、履修計画を立てる上で注意すること。
- この授業では、イスラームに関してもその他の宗教に関しても宗教教育を目的とせず、宗教とその信仰集団を専ら学問の対象としてのみ扱う。
- アラビア語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of Islam and Muslims, and intercultural perspectives to other religions and denominations.

《Learning Objectives》

Students will gain basic knowledge of the religion, history, society and culture of Islam and Muslims, and the intercultural perspectives between different religions and denominations, as well as the ability to express their ideas accurately in reaction papers, and an end-of-term report.

《Learning activities outside of classroom》

Students are expected to complete the required assignments before and after each class meeting. Each class will require more than four hours of study time.

《Grading Criteria / Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Reaction papers (40%), and end-of-term report (40%).

POL200GA (政治学 / Politics 200)

国際関係研究 I

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究 I（アクターに着目した理論の捉え方）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：×

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係で、オンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業内討論：毎回グループ討議・発表を行い、教員がフィードバックする。また、数回は演習型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム（アプローチ）であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGOとは何か	NGOの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのNGO	国際社会におけるNGOの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGOは国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans)のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにNGOが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のNGO活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。

14 まとめ（プライベートレゲーム） 「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編（2013）『NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—』ミネルヴァ書房。

【参考書】

毛利聡子（2011）『NGOから見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内討論への参加度）20%、授業後課題30%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・特になし。

【その他の重要事項】

・長年NGOとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくNGOの現状を交えて講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
- 2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
- 3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSf200GA（地域研究（東南アジア） / Area studies(Southeast Asia) 200）

国際関係研究Ⅱ

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】

(1) 「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
(2) メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
(3) 演習型（ゼミ形式）の反転学習を通して、国際関係研究としての「地域」を分析するための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。履修者は最低1回は発表を担当する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。大学2年生でも理解できる文献の講読、発表、グループ討議といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。
■発表担当者：2人1組となって担当する。事前にレジュメを準備し共同で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジーム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。

12	重複の機能（メコン全体）	メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
13	歴史から考えるメコン開発（メコン全体）	ここまで取り上げた事例を解釈学、系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
14	開発と責任（メコン全体）	開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当にあたっていない場合でも、必ず課題文献は読んできて下さい。比較的短い日本語で書かれた文章です。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、発表20%、グループ討議への貢献度20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求めます。レポートの狙いや書き方は、授業の中で丁寧に説明します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の感想は、後日学習支援システムに掲載します。受講前は、課題文献や発表を恐れていた学生もいましたが、実際にやってみると、読みやすい文献で、発表もいい経験になったという声がほとんどです。一方的に話をする講義ではないので、演習（ゼミ）に近い、大学生らしい学びができたという意見も多いです。どんな文献を読むのかは、履修を検討する際に、学習支援システムを通じて共有しますので、あまり心配はいりません。

【学生が準備すべき機器他】

課題文献を入手するために、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録して下さい。

【その他の重要事項】

■第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席して下さい。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡して下さい（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。
■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の講義形式の授業や、演習（ゼミ）とも異なる学びがあります。
■メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた実務家教員が、その活動経験を事例や余談に組み込みながら授業を進めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
- 2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
- 3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)		
人の移動と国際関係Ⅱ		
高柳 俊男		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：人の移動と国際関係Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）		
旧科目との重複履修：×		
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：×		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
朝鮮民族のディアスポラ（離散）について考察する。 私たちの暮らす日本社会には、「在日韓国人」「在日朝鮮人」「在日コリアン」などと呼ばれる韓国・朝鮮系の人々が大量に住んでいるが、同様の現象は中国・旧ソ連・アメリカなど、世界各地で見られる。これらの人々が朝鮮半島を離れ、各地に移住した歴史やその後の変化、とくに現地社会での他民族との衝突や共生の営みを、各種の研究成果や教員自身の見聞をもとに、ともに考える。 朝鮮民族の移動と定着という個別のテーマを探究することを通して、移民過程や移住地での多文化共生・文化の変容という、世界に普遍的にみられる現象への理解につながるようにする。		
【到達目標】		
・各地に暮らす朝鮮民族について、その形成の歴史や現状の概略を理解する。 ・それらをもとに、朝鮮民族のディアスポラ（離散）全体について考察する。 ・朝鮮民族の事例を普遍化し、移民や多民族共生全般について考えを深める契機をつかむ。 ・とりわけ私たちの住む日本における移民や多民族共生について、具体性を伴いつつ考えられるようにする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
世界各地に散らばっている朝鮮民族について、中国・旧ソ連・日本・アメリカを中心に、各数回ずつ取り上げて講義する。関連する映像資料を随時使用し、条件が許せばゲストをお招きした授業を実施したこともある。 毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次の授業冒頭で活用するなど、限定的ながら双方向的な授業になるよう心がけたい。 また、ネット上の学習支援システムを、もう1つの授業の場として活用し、授業の補足や発展に資したい。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
第1回	テーマ 導入	内容 授業計画の解説、参考書紹介、受講理由書の記入など。導入として、日本の各界で活躍する外国ゆかりの人物について触れる。
第2回	概況	ディアスポラ概念および朝鮮民族のディアスポラの概要について、まず学ぶ。
第3回	朝鮮内ディアスポラ	朝鮮内における歴史的な人口移動の典型として、火田民・土幕民の存在とその実態を知る。
第4回	中国の朝鮮族①	多民族国家中国の少数民族の一つに位置づけられる朝鮮族について、その概要を知る。
第5回	中国の朝鮮族②	前回学んだ中国の朝鮮族について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第6回	旧ソ連の高麗人①	旧ソ連の高麗人（朝鮮系の人々）について、その概要を知る。とくに1937年、スターリンによる極東から中央アジアへの強制移住について学ぶ。
第7回	旧ソ連の高麗人②	前回学んだ旧ソ連の高麗人について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第8回	在日韓国・朝鮮人①	私たちにとって一番身近であるはずの在日韓国・朝鮮人については、回数をかけて重点的に学ぶ。今回はまず、その概要として、形成史を知る。
第9回	在日韓国・朝鮮人②	在日韓国・朝鮮人史に関して、とくに海峡を越えた人の移動の観点から再整理する。
第10回	在日韓国・朝鮮人③	海峡を越えた人の移動の一つで、現在にも大きな影響を及ぼしている1959年からの北朝鮮帰国事業について、詳しく学ぶ。
第11回	在日韓国・朝鮮人④	在日韓国・朝鮮人についてここまで学んできた内容を、映像視聴を通してまとめる。
第12回	在日韓国・朝鮮人⑤	在日韓国・朝鮮人についての最終回として、若い世代の複合的なアイデンティティについて考察する。
第13回	在米コリアン	在米コリアンについて、ごく大まかな概要と、とくに1992年のロス暴動に関して学ぶ。
第14回	海外養子問題	韓国から戦後、孤児や私生児などが多数、養子として欧米に送られた。近年、当事者自らによってつくられた映画も紹介しながら、この問題を重点的に考察してまとめとする。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
毎回配付するプリントに「自習課題」を設定し、同じものを学習支援システム上にも載せる。これは「自習」なので必ずしも提出を要しないが、認識を深化させるためにもやってみることをお勧めする。提出した学生には、たとえば就職活動による授業の欠席などを補う要素として加味する。		
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
特定の書籍をテキストとしては使用せず、毎回、A3で表裏1枚のプリントを作成して配付する。		
【参考書】		
参考文献はそのつど指示するが、事典として『韓国朝鮮を知る事典（新版）』（平凡社）、『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』（岩波書店）、『世界民族問題事典』（平凡社）、『世界民族事典』（弘文堂）、『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』（丸善出版）などを適宜参照すること。		
【成績評価の方法と基準】		
毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40%、学習支援システムを利用した中間での小課題20%、学期末のレポート40%を基準とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】		
過去のアンケートでは、以下のような好評をいただいた。 今回も、そうした授業になるよう努力したい。 ・リアクションペーパーに毎回フィードバックしてくれたので、他の学生がどのように考えたのかを知れてよかった。 ・映像資料が普段では見れないものが見れて良かった。 ・ゲストを招いた講義が面白かった。 ・学部の中でもすばらしい授業の一つ。		
【その他の重要事項】		
朝鮮半島の歴史や文化についての一定の知識を前提に話を進める、やや応用篇の授業である。事前に、毎年開講の「朝鮮語圏の文化Ⅰ 朝鮮半島の文化史」を受講しておくことが望ましい。未受講の場合は、そうした前提知識を自分で補うよう努めながら授業に臨むこと。 また、中華系や日系の移民を扱う「人の移動と国際関係Ⅰ」「人の移動と国際関係Ⅲ」（ともに隔年開講）も用意されているので、あわせて受講することをお勧めする。		
【Outline (in English)】		
This class examines the history and present condition of Korean residents living in various countries around the world. Through the case of Koreans, students are expected to think universally about the migration, settlement, ethnic conflicts, and integration. Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.		

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中 一彌

配当年度／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。
授業を紹介する動画を2つ用意しました。ぜひご覧ください：
《なぜ国は買えないのか》 <https://x.gd/aZ8no> ※学内者限定
《西ヨーロッパと自由》 <https://x.gd/6bP6e> ※学外からも閲覧できます。
学内には他にもヨーロッパ関連の科目があります。これらの授業と比較しながら、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足を置きつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、2025年度にひきつづき、2026年度も、リアルタイム・オンラインで実施します。
- ・授業時間（100分）の前半65分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（45-50分）にあてています。
- ・授業時間（100分）の後半35分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料はGoogle Classroomをつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppi利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界

5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、チューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲慘を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲慘」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
- 2. グループ・ディスカッションの課題の提出（授業時間内に提出まで至らなかった場合のみ）
- 2. 本学学習基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。Google Classroom上で資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末テストは行いません 0%
- 2. 期末レポートは出題しません 0%
- 3. 小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※1）】60%
（※1）小テストは授業の復習であり、授業で配る資料をみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
- 4. オンライン授業への参加【リアルタイム・オンライン授業＝月4限のZoomミーティングへの各学生による接続（※2）】20%
（※2）ただし、第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）の活動についてのみ、この項目●4.ではなく、●6.における評価対象といたします。
- 5. グループ・ディスカッション&学生間の共働【グループ・ディスカッションにおける意見交換への積極的参加や、グループ・ディスカッションにおける学生間のやりとりのとりまとめ、所定のGoogleフォームを用い、とりまとめた成果物を教員に提出（送信）する、等（※3）】20%
（※3）グループ・ディスカッションは、3～6人程度の学生グループをZoomのブレイクアウト・ルーム機能を用いて毎回新たに作り、複数人の共同作業として行っています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループとして提出した成果物に記載されていれば、加点されます。
- 6. その他【1.～5.の合計100%には含めず、その外枠で10%程度まで加算します。】
（ア）運営への協力（協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、WebClassやGoogle Classroom等のLMSの設定の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象）
（イ）第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）と関連する活動への参加
（ウ）小テスト以外の提出物（アンケート等）で加点対象とするものが提出された場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることで参加のハードルを下げ、そうした方（かた）が必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやWebClassを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合ください。

- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Word ファイル）<https://x.gd/1W2Mf>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).

1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考えられる。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに短く書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。

12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。あらかじめ何に留意して読むかは教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W.エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、授業内試験は紙媒体のものは全て持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

- ・100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、初めのうちは、1つのケースに授業2回分を充てる。
- ・教員から指定される分析をグループ討議で行い、その結果を発表した上で、全体でも討論をするのには100分間は非常に短いという声が多い。その一方で、短時間で深い議論を行い、一定の結論をグループで出す訓練の場になるという意見も聞かれる。そうした力を大学時代に養いたい学生にはお勧めの授業と言えそうである。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】

■国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例も議論のためのケースとして取り上げる。

■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、なるべく出席すること。

■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは2-3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
- 2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
- 3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.

【Learning activities outside of classroom】

-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.

-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

-Totally, your study time will be at least four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

SES200GA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

持続可能な社会

中西 由季子

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数によっては選抜する。初回授業に出席すること。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsの実現には、持続可能な社会づくりが重要である。SDGsとは何かをカードゲームや対話を通して体感しながら、持続可能な社会づくりを構成する「6つの視点」を軸にして、持続可能な社会づくりに関わる課題を見出し、その課題解決に向けて考察する。

【到達目標】

1. サステナブルとは何かを理解し、説明できる。
2. SDGsとは何かを理解し、説明できる。
3. グループワークや対話を通して、批判的に考える力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する力、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度を身につける。
4. 自ら課題を見出し、その解決に向けての対策を考案することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

カードゲームやブロックによる表現、対話（ダイアログ）を伴うワークショップ形式を中心とした講義・演習授業を実施する。各回授業後には、Goal Formによるリアクションペーパー提出を求めます。適宜、課題提出を求めることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続可能な社会とは	持続可能な社会とは ブロックを使用した対話
第2回	SDGs概要	MDGsからSDGsへ SDGsとは
第3回	SDGsを体感する①	「2030SDGsカードゲーム」を通して、SDGsを体感する。
第4回	SDGsを体感する ②一振り返り	ゲームを通して、感じたこと・考えたことを振り返り、現実世界においてできることを考える
第5回	貧困と飢餓	世界および日本における貧困と飢餓の現状と展望
第6回	地球の限界	アースオーバーシュートデー エコロジカルフットプリント
第7回	自然災害＝命を守る行動①	風水害24により迫りくる大型台風直撃前後の過ごし方を体感し、自然災害時に潜む危機を知る
第8回	自然災害＝命を守る行動②振り返り	風水害を含め、災害に対する予備の行動、災害時の行動、被災避難時の行動について考える
第9回	食品ロス削減	食品ロスと気候変動
第10回	マイクロプラスチック課題	2050年プラスチックの海 ブロックを使用した対話
第11回	アンコンシャスバイアス	アンコンシャスバイアス ジェンダー平等 マイクロアグレッション
第12回	カーボンニュートラル①	2050カーボンニュートラルを実施し、炭素循環について考える
第13回	カーボンニュートラル ②振り返り	ゲームを振り返り、脱炭素社会について考え、対話する
第14回	SDGsウォッシュ	SDGsウォッシュ・グリーンウォッシュの概念を理解し、判断力を身につける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回のテーマに関する関連資料（新聞記事・書籍など）を読む。
授業後に示されるリアクションペーパー、課題等を期日までに提出する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

持続可能な地域づくり方——未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン
寛裕介
英治出版（2019/5/9）
ISBN-10：4862762514
ISBN-13：978-4862762511

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言など）30%、各回毎のレフレクションペーパー50%、最終レポート20%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ゲームやレゴブロックを活用し、対話を含めたアクティブラーニングの授業については、評価が高く安心している。
一方で、座学と対話のみの授業については、改善の希望コメントもあり、座学の時間を短く、対話の回数・時間を増やして主体的に参加できるようにしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業には、主としてパワーポイント映像およびビデオ資料を用います。グループワーク時にPCを用いることがあります。
レフレクションペーパーおよび課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Creating a sustainable society is important for the realization of SDGs. While experiencing what the SDGs are through card games and dialogue, we will find issues related to the creation of a sustainable society centered on the "six perspectives" that make up a sustainable society, and work toward solving those issues.
At the end of the course, students are expected to be able to do the followings,
1.To understand and explain what sustainable means.
2.To Understand and explain what SDGs are.
3. To acquire the ability to think critically, multilaterally and comprehensively, to communicate, to cooperate with others, to respect connections, and to participate willingly through group work and dialogue.
4. To identify problems and devise measures to solve them.
Expected learning activities outside of classroom will be collecting information, leading papers, doing homework,preparing your presentation.
It will be taken for 2 hours each lecture.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Usual performance score 50%, Reports 50%.
To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

— 992 —

SOC300GA（社会学 / Sociology 300）

実践社会調査法

松本 悟

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質的社会調査の実践と量的社会調査のリテラシーを学ぶことで、卒業研究などで活かせるような研究方法を身に付けることを目指す。なお、量的社会調査についてはリテラシーを学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】
(1) 統計的な社会調査データの読み取りができる。
(2) 質的調査（ドキュメント調査、ライフストーリーインタビュー調査）を実践できる。
(3) 卒業研究などに必要な、問いの構想、妥当な調査、収集したデータを適切に使った論文を執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：①事前課題をもとに議論と講義を行う反転授業、②学生が提出した原稿などを全員で事前に読んできてコメントし合う方法、③教員が用意した課題をもとにしたグループ討議・発表などアクティブラーニングをフルに導入する、④文章力を向上するために、受講生が書いた文章に丁寧なコメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、履修希望者が40人を超える場合は選抜のための課題に取り組む。
2	社会調査とは何か？	事前課題文献を読んだ上で、今まで思っていた社会調査との違いを議論する。
3	問いについて考える	社会調査はただ何かを調べることではない。必ず問いが必要である。調査をする際のよい問いとは何かを議論する。
4	ライフストーリーインタビュー調査の問いと構想	ライフストーリーインタビュー調査で明らかにする問いの発表とグループ討議。ライフストーリーインタビュー調査の方法と研究倫理に関する講義。
5	ドキュメント調査の問いと構想	ドキュメント調査で明らかにする問いの発表とグループ討議。ドキュメント調査の方法に関する講義。
6	プレゼンテーション	調査結果をどのように発表すると効果的かを演習形式で考える。
7	ライフストーリーインタビュー調査結果の口頭発表	ライフストーリーインタビュー調査の結果を口頭発表し議論する。
8	ドキュメント調査結果の口頭発表	ドキュメント調査の結果を口頭発表し議論する。
9	論文作法	これから執筆する論文の技法について講義と実習を行う。
10	執筆	ライフストーリーインタビュー調査もしくはドキュメント調査の結果を論文にする。
11	ライフストーリーインタビュー調査論文初稿	ライフストーリーインタビュー調査を選択した履修者の論文を事前に読んできて、グループでコメントし合う。

12	ドキュメント調査論文初稿	ドキュメント調査を選択した履修者の論文を事前に読んできて、グループでコメントし合う。
13	量的調査のリテラシー	数量化された量的調査の読み取り方を演習形式で学ぶ。
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをKJ法を用いて整理する。論文の最終稿提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題は多いが、その分まちがいがなく実践的な力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
大谷他（2005）『社会調査へのアプローチ―論理と方法［第2版］』ミネルヴァ書房。
鹿島茂（2003）『勝つための論文の書き方』文春新書。
その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】
ライフストーリーインタビュー調査論文もしくはドキュメント調査論文の最終稿が60%、口頭発表など授業課題が40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文を書く意思のある2～4年生を主な対象とした授業であり、履修者は確実にその力がついている。毎年、授業で書いた論文をもとに法政大学懸賞論文に応募した受講生数名が入賞している。一方で学生の負担が大きいため、2025年度から、口頭発表まではライフストーリーインタビュー調査とドキュメント調査の両方を習得するが、執筆するのはライフストーリーインタビュー調査論文かドキュメント調査論文のどちらか1本とするやり方に変更した。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】
1. 調査のハウツーを学ぶ授業ではない。論文を目的とした調査法の授業である。
2. この授業はアンケート（質問紙）などを使った統計分析は行わない。実践するのは質的調査法である。
3. 履修の意思があるものの初回授業に出席できない場合は、必ず初回授業より前に担当教員にその旨を伝えること（smatsumoto[at]hosei.ac.jp）。
4. 事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
5. 課題は比較的多いが、その分学びも大きい。
6. 遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。
7. 担当教員は社会調査士の資格を持ち、海外での質的社会調査を実践してきた。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course contains lecture / practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as life-story interview and document analysis and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) develop their literacy skills to understand the quantitative data.
2) practice the qualitative research (life-story interview and/or document analysis).
3) acquire the academic skills to develop a research question, an appropriate research method and write a short paper in academic manner.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the assigned book chapter, to write a draft paper or to have completed the required assignments and so on.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following one research paper: 60%, class assignments: 40%

HIS300GA (史学 / History 300)

The Global South: History and Politics

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level 1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、IELTS 6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。

Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course takes up current social, economic, and political issues related to "the Global South," such as climate change, immigration, tourism, pandemics, repatriation of art and cultural artifacts, and Black Lives Matter, from a transnational and cross-cultural perspective, incorporating the historical past.

By discussing various topics associated with the Global South, students will gain knowledge of important contemporary phenomena, acquire concepts and theories for analyzing these phenomena, and be able to research issues related to the Global South.

【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- ・ Understand the issues surrounding the Global South and their historical background.
- ・ Analyze issues related to the Global South using concepts and theories from the framework of global and transnational history.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The first part of the class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings and important concepts and theories related to the topic. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of the course.

Week2	Climate Change	Explores the impact of climate change on the Global South and discusses the conflict between the Global South and developed countries over environmental issues.
Week3	Tourism	Traces the images of Africa as a tourist destination created by the West in the past and discusses how such images are currently being renovated and/or reframed.
Week4	Pandemics	Explores the pandemics that have historically plagued Latin America and discusses the problems caused by Covid-19.
Week5	Representation	Analyzes exotic advertising using Edward Said's notion of Orientalism and discusses how such images are now being appropriated by the Global South.
Week6	The midterm	The Practice of Analyzing Primary Sources and a Quiz
Week7	Immigration and Citizenship	Takes up the case of past migrants from India to East Africa and discusses their current situation as citizens in African countries.
Week8	Repatriation of Cultural Heritage	Using the case of museums in Germany that own artifacts confiscated from colonies, discusses the repatriation of cultural heritage.
Week9	Black Lives Matter Movement	Explores the current controversy over public history and monuments in the wake of the Black Lives Matter movement.
Week10	Final Paper Presentation 1	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week11	Final Paper Presentation 2	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week12	Final Paper Presentation 3	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week13	Final Paper Presentation 4	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Class14	Wrap up	Summary of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions, and also write a paper analyzing assigned primary sources.

Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course site.

【参考書】

○Carina Schmitt, eds. From Colonialism to International Aid

External Actors and Social Protection in the Global South (Palgrave Macmillan, 2020).

○Danielle Watson, et al. Policing the Global South: Colonial Legacies, Pluralities, Partnerships, and Reform (Routledge, 2023).

【成績評価の方法と基準】

- ① Class participation 30%
- ② Primary document analysis quiz 20%
- ③ Presentation 20%
- ④ Final Paper 30%

Based on the grading criteria, students who successfully achieve 60% or more of course goals will earn a passing grade.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

ICT devices such as laptops and tablets.

CUA200GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

国際関係研究IV

宮本 佳和

サブタイトル：家族と結婚の人類学

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究VII

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「夫婦」「親子」「血縁」「性別役割」などの概念を自明視しがちですが、これらは社会や時代によって多様な形をとってきました。本授業では、文化人類学の理論や民族誌的事例を通して、世界各地の多様な親族体系、婚姻形態、生殖技術、そしてケアのネットワークを概観します。血のつながりとは何か、家族を定義するのは何かという問いを通じ、現代社会における家族の変容（非婚化、共同養育、LGBTQ+の家族形成など）を相対化し、批判的に考察する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
- ・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
- ・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族は普遍的か？
第3回	家族と親族②	生物学的父と法的父という考え方
第4回	家族と親族③	親子の絆とは何か
第5回	性と婚姻①	生殖技術と現代社会
第6回	性と婚姻②	LGBTQ+の家族形成と選ばれる家族
第7回	中間テスト	第2回～第6回の内容の理解度テストと解説
第8回	婚姻をめぐる社会関係①	インセストタブーと交換
第9回	婚姻をめぐる社会関係②	体系的な親族組織
第10回	婚姻の諸形態①	一夫多妻、一妻多夫、通い婚
第11回	婚姻の諸形態②	結納、婚資、持参金
第12回	血縁を超えた関係①	擬制的親族関係
第13回	血縁を超えた関係②	ケアと共同性

第14回 期末テストと総括 第8回～第13回の内容の理解度テストと解説、全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト:25%、期末テスト:25%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:50%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）の提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
- ・初回授業において教室定員の都合で着席できなかった学生がいた場合は、当該学生に対してオンデマンドで授業資料を後日提供します。なお、第2回以降は教室を変更する予定です。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20%以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course covers the basics of social and cultural anthropology, which seeks to understand social and cultural diversity around the world. We focus especially on parent-child relationships, kinship, and marriage to understand social relations that connect people in everyday life.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from an anthropological perspective.

[Learning Activities Outside of the Classroom]

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours studying the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid- and final examinations (25% each) and in-class contributions (50%).

OTR200GA（その他 / Others 200）

インターンシップ事前学習

岩下 弘史

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生が「国際文化学部に関与性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師が登場する「オムニバス授業」です。

本学部学生の中には、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている方もいるかもしれません。本授業を通じて、いくつかの業界は国際文化学部との親和性が高いものであることを理解するでしょう。

またそうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞きすることで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。
※なお本授業は2026年度で終了いたします。

【到達目標】

- 1) 国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。
- 2) 実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。
- 3) 国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、初回を除いて外部講師によるオムニバス授業となります。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。毎回、授業時間内にコメントシートに記載してもらいます。
- ・各授業の最後に質疑応答時間を設け、履修者からの質問を受け付けます。その場で外部講師の方にフィードバックをして頂きます。
- ・もし質疑応答時間後に質問が生じた場合（あるいは時間の都合で質疑応答時間中に質問できなかった場合）は本授業担当教員までメールで連絡ください。できる限り外部講師の方にご回答いただき、履修者にフィードバックするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明 ・成績評価の詳細
第2回	榎本裕洋氏（株式会社丸紅経済研究所、研究主幹）	総合総社とはなにか
第3回	代島裕世氏（サラヤ株式会社、コミュニケーション本部、本部長）	SARAYAのSDGsビジネス

第4回	梅野太輝氏（株式会社朝日広告社、プランナー）	広告について
第5回	山崎はずむ氏（株式会社ナレッジワーク、CAIO(Cief AI Officer)）	「労働は苦役なり」を乗り越える ナレッジワークの挑戦
第6回	松江陽一郎氏（株式会社テレビ朝日、お客様フロント部、部長）、菅原知広氏（株式会社テレビ朝日、アナウンサー）	テレビ局の仕事とは
第7回	松山匡延氏（M-wing合同会社（青年海外協力隊ルワンダOV会、NPO法人LeaD）、代表）	国際協力事業における教育分野での活動について
第8回	武田伸也氏（アムネスティ・インターナショナル日本、キャンペーン部門マネージャー）	ストリートバスケットと人権活動
第9回	藤下超氏（NHK、メディア総局、特別主幹、解説委員）	公共放送の現在と未来
第10回	水野義弘氏（ANA総合研究所、産学連携部、主席研究員）	航空業界の概要と今後
第11回	畑中晴雄氏（花王株式会社、ESG部門ESG戦略部ESG戦略スペシャリスト）	Kirei Lifestyle Plan: 花王のESG戦略と具体的取組
第12回	市川明代氏（毎日新聞社、人事本部、採用研修担当部長）	メディアの役割
第13回	深澤孝之氏（出版社代表）	群れから逸れて生きるための出版ビジネス戦略
第14回	片貝悠氏（株式会社インターネットイニシアティブ、ITサービスインテグレーション本部 兼 広報部リードエンジニア）	ネット社会を支えるネットワークエンジニアのお話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の配布資料については、しっかりと再読すること。
- ・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はとくにありません。授業内において関連資料を配布します。

【参考書】

- ・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・「平常点（出席&コメントシート）60%」と「期末レポート40%」による総合評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ・第14回目授業後に期末レポートの提出。締切期日・分量・提出方法など詳細については初回授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てたりするなど、今後も授業運営を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・質疑応答等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。
- ・本授業は「実務経験のある教員による授業」です。企業・団体の勤務実績があり、第一線で活躍されている外部講師らが業界分析・企業研究などを行います。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce professional works which have affinity with educations and researches in the Faculty of Intercultural Communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some Japanese company or international organization. The goals of this course are to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating in internship programs or job hunting in the future. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

LAW200HA（法学 / law 200）

民事法 I

中川 義宏

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では毎回アクションペーパーを提出してもらう。提出後の授業または学習支援システムにおいて提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第3回	民法総則(1)	民法の総則規定である、権利の主体（自然人・法人）、物、意思表示による権利変動について学習する。
第4回	民法総則(2)	民法の総則規定である、意思表示の瑕疵（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）、契約の不当性について学習する。
第5回	民法総則(3)	民法の総則規定である、無効と取消し、代理、時効について学習する。
第6回	物権	民法の「物権法」と呼ばれる領域に関し、物権の意義と種類、物権変動、占有権・所有権について学習する。
第7回	担保物権	民法の「担保物権法」と呼ばれる領域に関し、担保物権の意義と種類、抵当権について学習する。
第8回	債権総論	民法の「債権法」と呼ばれる領域に関し、債権関係とその内容、債務の不履行、弁済、相殺、債権譲渡、保証債務について学習する。

第9回 契約(1)

民法を理解するうえで大切な「契約法」と呼ばれる領域に関し、契約の意義と種類、契約の成立、契約の解除について学習する。

第10回 契約(2)

民法に規定された「典型契約」のうち、贈与、売買、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用について学習する。

第11回 事務管理・不当利得

民法の「事務管理」、「不当利得」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨について学習する。

第12回 不法行為(1)

民法の「不法行為法」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨、要件について学習するとともに、プライバシー侵害、名誉棄損に関する裁判例を概観する。

第13回 不法行為(2)

民法の「不法行為」の一類型である、使用者責任、工作物責任、製造物責任について学習する。

第14回 試験及び解説

試験を実施し、その解説をしながら、民事法 I の総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間外の準備学習として、授業内で取り上げる裁判例を事前に読んで検討してもらうことがあります。また、民法に関する記事や裁判は新聞で取り上げられることが多いので、普段から新聞に目を通すようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。

【参考書】

民法（全）【第3版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣）。
鳥瞰民法（全）（著者：河上正二、発行所：信山社）。
六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly contract law and tort law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA (法学 / law 200)		
民法法Ⅱ		
中川 義宏		
配当年次／単位：1～4年／2単位		
開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木5/Thu.5		
備考（履修条件等）：環コア：経、口		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。		
【到達目標】		
我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
課題提出後の授業または学習支援システムにおいて提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。		
授業内では適宜質問して答えてもらうなど双方向の参加型授業を目指します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第3回	親族・戸籍と氏	民法の「親族法」と呼ばれる領域に関し、その基本的概念となる親族、戸籍と氏の考え方について学習する。
第4回	婚姻(1)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の意義、婚姻の成立要件、婚姻の効果について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第5回	婚姻(2)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の無効と取消し、夫婦財産制について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第6回	離婚、内縁・事実婚	民法が規定する親族法のうち、離婚の方法（協議離婚、調停離婚等）、内縁・事実婚の意義について学習するとともに、離婚に関する裁判例を概観する。
第7回	親子（実親子関係）(1)	民法が規定する親族法のうち、実親子関係（母子関係、父子関係）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第8回	親子（実親子関係）(2)	民法が規定する親族法のうち、嫡出子、婚外子（非嫡出子）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第9回	養子	民法が規定する親族法のうち、養子の種類（普通養子、特別養子）、養子縁組の要件と効果、離縁について学習する。
第10回	親権、後見・保佐・補助、扶養	民法が規定する親族法のうち、親権の内容、制限行為能力（未成年・後見・保佐・補助）の制度、扶養について学習する。
第11回	相続の開始と相続人、相続の効力	民法が規定する相続法のうち、相続の開始と相続人、相続の効力（相続財産の包括承継、遺産共有、相続分、遺産分割）について学習する。
第12回	遺言、遺贈	民法が規定する相続法のうち、遺言制度と遺言の方式（自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言）、遺言の執行、遺贈について学習するとともに、遺言に関する裁判例を概観する。
第13回	配偶者居住権、遺留分	民法が規定する相続法のうち、配偶者居住権、遺留分の意義について学習するとともに、遺留分に関する裁判例を概観する。
第14回	試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民法Ⅱの総括、社会生活における法律の役割について考える。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間外の準備学習として、授業内で取り上げる裁判例を事前に読んで検討してもらうことがあります。また、家族法に関する記事は新聞で取り上げられることが多いですので、普段から新聞に目を通すようにしてください。		
【テキスト（教科書）】		
特に指定はしない。		
【参考書】		
民法（全）【第3版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円＋税）。		
鳥瞰民法（全）（著者：河上正二、発行所：信山社、定価：1700円＋税）。六法。		
【成績評価の方法と基準】		
講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】		
特になし。		
【Outline (in English)】		
This course introduces civil code(mainly family law and inheritance law) to students taking this course. The goals of this course are to get the legal mindset. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).		

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環17：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに 国際法の構造	本講義の対象範囲 国際法の内容、近代国際法の特徴
第2回	法源	条約、国際慣習法、法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第3回	条約法	締結手続、留保、効力、無効、改正と終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第6回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第10回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第11回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第12回	国家責任法（1）	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第13回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法 [第2版]』東京大学出版会、2023年。4,840円。
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選 [第3版]』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 瑠・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society.

By the end of this course, students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper(100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法Ⅱ

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環37：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
第4回	南極、空域、宇宙	国際化地域、国際航空法、宇宙空間
第5回	個人	国籍、外国人の地位、難民
第6回	国際人権法（1）	人権保障の歴史、条約による人権保障
第7回	国際人権法（2）	国際組織による人権保障、履行確保、人道的介入
第8回	国際刑事法	国際犯罪、国際刑事裁判所
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続、裁判的手続
第11回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第12回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第13回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法〔第2版〕東京大学出版会、2022年。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選〔第3版〕』有斐閣、2021年。
 繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
 その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環37：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律（公的ルール）のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなものなのでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例を通じて、私たちの社会における刑法の意義と役割とを学びます。

犯罪に関するニュースなどを観ていると、法では、加害者を裁けなかったり、軽い処罰しかなされなかったりするときがある。法は加害者に甘すぎる！ それでは被害者（遺族含む。）が浮かばれない！ このように考える人が少なくないかもしれません。

犯罪の被害者に同情・共感することは、もちろん大切です。しかし、だからといって、その加害者を「敵」として、とにかく重く厳しく罰さえすれば、社会は安心・安全になるのでしょうか。加害者の立場・境遇にも思いをはせ、その言い分にも耳を傾けることも必要なのではないでしょうか。また、法が加害者に「甘い」ように見えるとしても、それはなぜなのでしょう。そして、それは本当に不当な「甘さ」なのでしょうか。

これらのことを冷静に考えるためには、刑法の意義・役割、またその原則の下で、どのような場合に「犯罪」が成立し、また「刑罰」が科されるのか。このことをきちんと理解する必要があります。その理解をせずに、ともかく加害者を徹底的に攻撃して社会から排除し、また加害者に「甘い」法には「不備」があるとして、犯罪の重罰・厳罰化を一方的に求めるのは、単なる「思考停止」です。それでは犯罪の根本的な原因を考えてこれを解消することもできず、犯罪による被害を真に防ぐことも難しくなるのではないのでしょうか。

この意味で、刑法の概要を学ぶことは、犯罪の加害者と被害者との関係をはじめとする現在の国内外の様々な「対立」と「分断」を乗り越え、私たちの誰もが他の人と仲良く共存しながら、自由に幸せに生きていける安心・安全な社会を築くためのヒントになるかもしれません。

【到達目標】

法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割・限界、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係を踏まえて、刑法の一般原則及び犯罪の一般的・個別的な成立要件等や、さらにこれに関する判例（裁判所の判断）及び学説（研究者の見解）を理解し、これらの基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

レジュメには、〔確認問題〕・〔検討問題〕を適宜設けます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解し、それを文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レジュメ中の具体的事例を検討しながら、各回のテーマごとの理解をはかります。適宜コメントなどを提出してもらうことがあります。

小テスト（4回予定）については、解答期限後の授業ないし学習支援システムを通じて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系及び「刑法」の意義と刑罰の限界を学ぶ。
第2回	殺人罪（1） －犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件及び刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などを学ぶ。
第3回	殺人罪（2） －犯罪の故意・過失	刑法の故意犯処罰の原則や犯罪の故意と過失の成立要件などについて学ぶ。
第4回	殺人罪（3） －胎児性致死傷	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などを学ぶ。
第5回	傷害罪	傷害の意義及び傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などを学ぶ。
第6回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義及び同意の有効性などを学ぶ。
第7回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などを学ぶ。
第8回	刑罰論	国家が市民に刑罰を科すことへの正当化根拠論などについて学ぶ（学習支援システムでアップする録音を聴いてもらう予定）。
第9回	脅迫罪・強要罪・監禁罪	意思決定の自由の罪の基礎を学ぶ。
第10回	不同意（強制）わいせつ罪・不同意（強制）性交等罪	性的自由に対する罪の基礎を学ぶ。
第11回	住居侵入罪	住居権・住居の平穩に対する罪の基礎を学ぶ。
第12回	名誉毀損罪・侮辱罪 真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎及び刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係を学ぶ。
第13回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則及び個別の犯罪の基礎を学ぶ。
第14回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をしてください。特に復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

特に指定はしません。お薦めの参考書は、開講時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業で扱った基礎知識を問う定期試験70％、学習支援システム上での小テスト20％、平常点（講師からの質問への回答など）10％の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、教材も含め事例が多くわかりやすく、受講前は難しいと思っていたが、ためになった、など好意的な意見をもらうことができました。これを本年度も維持できるよう努めます。特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけます。

一方で、授業でどこを扱っているのかわからないときがあった、授業についていくのが難しかった、との意見もありました。状況に応じて改善します。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウィルスの感染予防及び省資源の観点から、レジュメを印刷して直接配布することはしません。学習支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、他の法律系科目もあわせて履修しておく
と、この授業の理解が一層深まるでしょう。また、私が担当する秋
学期開講の「環境法Ⅳ」では、「環境刑法」を扱います。「刑法の基
礎」を履修しておけば、同授業の理解が比較的容易になるかと思
います。

なお、刑法に限らず、法学は、自分のこれまでの断片的な知識・
思い込みによる私見だけを一方的に主張しても、修得したことには
なりません。条文、判例、学説を十分に理解することが必要です。受
講にあたり、また小テスト・定期試験受験時には、このことをよく
理解しておいてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What kind of action is subject to punishment
as a crime? What is the basic principle of criminal law to
consider crime and punishment? We will learn it through
concrete examples. And we will think the meaning and role
of criminal law in society.

Learning criminal law may be a hint to overcome various
divisions and build a society where everyone can live happily
while coexisting with others.

【Learning Objectives】 Acquiring basic knowledge of criminal
law is the goal of this class. [Confirmation question] and
[Examination question] are described in the resume. At the
end of this course, students are expected to understand answer
and its reason for each question and to be able to explain them
correctly in sentences.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each
class meeting, students will be expected to spend four hours to
understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will
be decided based on the following Termed examination:80%,
mini exam:20%

LAW300HA（法学 / law 300）

環境法Ⅳ

渡辺 靖明

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環Ⅲ：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法は、「犯罪」と「刑罰」を定める法律（公的ルール）です。環境保全のためにも、刑法上様々な行為が犯罪とされ、刑罰（罰則）の対象とされています。しかし、環境を著しく汚染、破壊した人を犯罪者として重く罰しても、失われた環境は回復しません。それにもかかわらず、環境保全のために刑法（罰則）を用いることが常に必要かつ有用なののでしょうか。さらに言えば、「環境」は、身近なゴミのポイ捨てによっても、生成AIの利用に伴う電力の大量消費によっても、また攻撃（防衛）の兵器を用いた戦争によっても害されます。刑法を含めた「法」だけがこうした多様な環境破壊を防ぐための「最適解」なののでしょうか。

これらのことを考えるためには、刑法自体の目的・役割・機能と限界を知り、さらに刑法以外の民法や行政法による環境保全の規制との関係を正しく理解する必要があります。何より、現在の環境保全のための刑法（罰則）ひいては法の制度全体及び社会の在り方自体を広い視野で見ること欠かせません。それは、（生成AI（チャット））は決して教えてくれないであろう「環境」を「なぜ」、「どのように」保全すべきなのかについて、深く考えることにきっとつながるでしょう。

この授業では、刑法の基礎知識を学びつつ、法による環境保全の在り方と限界を理解して、私たち一人ひとりが環境保全のために何をすべきかを多角的な観点から考えられるようになることを目指します。

【到達目標】

法の保全の対象となる「環境」の意義や、環境保全をめぐる「刑法」（罰則）の体系、関連する基本的な判例（裁判所の法的判断）や学説（研究者の見解）を正しく理解して、環境保全への実践的な法の基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

基礎知識修得の目安は、各回の教科書やその補充・追加のレジュメの内容を理解し、基本的な用語や概念の意味、具体的な事例や問題について、文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書とその補充・追加のレジュメをもとに、各回のテーマごとの理解をはかります。適宜コメントなどを提出してもらうことがあります。

小テスト（4回予定）については、解答期限後の授業ないし学習支援システムを通じて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」の意義と限界	法（律）の意義、法の体系及び「刑法」の意義と限界を学ぶ。
第2回	「公害罪法」の挫折	「公害罪法」の意義と問題点を具体的な刑事裁判例を通じて学ぶ。
第3回	環境保全と刑法（1）－「環境」の意義	公害防止と環境保全との違いや、法における「環境」の意義などを学ぶ。

第4回	環境保全と刑法（2）－罰則の基礎	環境保全のための罰則の基礎として、刑罰と行政上の制裁との区別、両罰規定、直接罰と間接罰、危険犯の意義などを学ぶ。
第5回	環境保全と刑法（3）－自然生態系の保護	自然生態系（大気・水・土）の保護に関する法律と罰則の基礎を学ぶ。
第6回	環境保全と刑法（4）－動物愛護	動物をめぐる法の体系と罰則を通じて、「動物愛護」の意義を学ぶ（学習支援システムでアップする録音を聴いてもらう予定）。
第7回	廃棄物処理法の罰則（1）－廃棄物の処理体系と罰則	廃棄物処理法上の廃棄物の処理体系及びこれに関する罰則の基礎を学ぶ。
第8回	廃棄物処理法の罰則（2）－「廃棄物」	廃棄物処理法上の「廃棄物」の意義を刑事裁判例を通じて学ぶ。
第9回	廃棄物処理法の罰則（3）－廃棄物の「再生・循環利用」	廃棄物の「再生・循環利用」の法体系と関連する刑事裁判例を学ぶ。
第10回	廃棄物処理法の罰則（4）－不法投棄罪	廃棄物処理法上の不法投棄罪の基礎と関連する刑事判例及び学説を学ぶ。
第11回	廃棄物処理法の罰則（5）－不法焼却罪と業法違反の罪	廃棄物処理法上の不法焼却罪及び業法違反の罪の基礎と関連する刑事裁判例を学ぶ
第12回	リサイクル法・省エネ法の罰則	各種リサイクル法と省エネ法の体系と罰則の基礎を学ぶ。
第13回	刑事手続の概要	環境法上の犯罪を素材として、捜査・起訴・公判の刑事手続の基礎を学ぶ。
第14回	まとめにかえて一環境保全と民主政治・社会倫理	環境保全を支える民主政治の機能と社会倫理とは何かを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、配布レジュメで予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

長井圓編著、渡辺靖明ほか『未来世代の環境刑法1 Textbook 基礎編』（信山社、2019年）4,620円（税込）。

※下記参考書の『2』と間違えないように注意してください。

【参考書】

長井圓『未来世代の環境刑法2 Principles 原理編』（信山社、2019年）4,180円（税込）。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業で扱った基礎知識を問う定期試験70%、学習支援システム上での小テスト20%、平常点（講師からの質問へのコメントなど）10%の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、レジュメで重要な部分が簡潔にまとめられるなど見やすく工夫されていて満足している、定期的に質問に答えてもらったのでわからないところをそのままにせず理解することができた、など好意的な意見をもらうことができました。これを本年度も維持できるよう努めます。特に最初は難しく感じるかもしれませんが、理解度を確認しながら、楽しく学べるよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウィルスの感染予防及び省資源の観点から、レジュメの直接配布はしない予定です。学習支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、「環境法」等の他の法律系科目もあわせて履修しておく、この授業の理解が一層深まるでしょう。特に私が担当する春学期開講の「刑法の基礎」を履修しておけば、この授業の理解が比較的容易になるかと思います。

なお、刑法に限らず、法律学は、自分のこれまでの断片的な知識・思い込みによる私見だけを一方的に主張しても、修得したことにはなりません。条文、判例、学説を十分に理解することが必要です。受講にあたり、また小テスト・定期試験受験時には、このことをよく理解しておいてもらいたと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 We will study about “environmental criminal law”.

We will learn about the various meaning's environment and purposes of environmental conservation through law. And we will think the relationship and differences between criminal law and other laws, and especially the roles and limit of criminal law in environmental conservation.

【Learning Objective】 Our goal is able to consider from a broader perspective about why and how the environment should be conserved, taking into account the roles and limit of environmental conservation (criminal-) laws.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following Termed examination:80%, mini exam:20%.

LAW200HA（法学 / law 200）

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環17：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と 接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ、 共通に有しているが差異ある責 任、人類共通の関心事
第8回	国際環境法の定立形 式	枠組条約と議定書
第9回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第10回	国際環境法の手続的 義務	事前通報・協議制度、報告・審 査制度、情報交換、事前の情報 に基づく同意、環境影響評価、 モニタリング
第11回	国際環境法上の義務 の履行確保	不遵守手続
第12回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第13回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間
は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック
国際環境法』（東信堂、2026年）。
その他、授業内に指示する。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環
境法』東信堂、2020年。2,800円。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。
期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はでき
ない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照して
ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the theory of international
environmental law. Students may learn the specific legal
framework of international environmental issues and gain
better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after
the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

LAW300HA（法学 / law 300）

労働環境法

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2
備考（履修条件等）：環37：経
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、労働者として自律的なキャリアを形成していく上で必要な労働法の基礎知識の習得を目指します。労働法の役割は、使用者と比べて相対的に立場の弱い労働者を保護し、労使対等の理念を実現することであり、全ての労働者が知っておくべき法律であるといえます。社会に出る前に労働法の基礎知識を習得しておくことは、将来的に自身の身を守ることにもつながります。

【到達目標】

労働法の基礎知識の習得を通じて、身近な労働に関する諸問題について、法的に説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的に講義形式となります。授業ごとに、小テストを課すことを予定しています。小テストの内容は、講義の中で解説をします。また、最終講義では論述試験を行います。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境法の全体像	労働関連法令の構成や全体像、役割等について学ぶ
第2回	労働者、使用者の概念と労働条件の決定	労働法のアクターである労働者や使用者の概念を学ぶとともに、労働条件の決定に関するプロセスを理解する。
第3回	募集・採用と様々な雇用形態	募集・採用時のルールや、採用内定および試用期間の法的性格、有期労働契約の特徴等について学ぶ。
第4回	賃金と労働時間・休憩・休日	賃金・労働時間・休日・休憩に関する基本的な法的ルールを学ぶ。
第5回	様々な働き方と労働時間制度	フレックスタイム制や裁量労働制等といった労働時間管理の諸制度の構造について学ぶ。
第6回	時間外労働と割増賃金の考え方	時間外労働や割増賃金に関する考え方等を学ぶ。
第7回	配置転換・労働条件の変更	配置転換や出向・転籍等の命令権に関する法律上の考え方を理解するとともに、労働条件を変更する際の手続について学ぶ。
第8回	安全衛生と労災補償	使用者の安全配慮義務や労災補償制度の概要を学ぶ。
第9回	労働組合の役割	労働組合の加入や脱退、権利の概要を学ぶとともに、団体交渉の意義や労働協約の法的効力等について学ぶ。
第10回	労働契約の終了：解雇規制と定年退職	解雇に関する法的な規制や定年退職および定年後の再雇用等に関するルールについて学ぶ。

第11回	労働者の人権保障とハラスメント規制	労働者の人権や労働契約上の権利義務、ハラスメントに関する法的規制の現況等について学ぶ。
第12回	平等原則と差別の禁止（女性、障害者、年齢、国籍等）	男女雇用機会均等法および障害者雇用促進法の制定や改正を中心として、労働法上の平等原則や均等待遇、差別禁止に関連する法令の全体像や概要を学ぶ。
第13回	新しい働き方と労働法の現代的課題	非典型雇用の他、フリーランス、ギグワーカー等といった新しい働き方を取り巻く労働環境や法の適用状況等について学ぶ。
第14回	期末テスト	授業内でテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の終わりに、次回講義に向けた予習内容を指示しますので、指示に従って該当箇所を熟読してから講義に臨むようにしてください。予習内容は、次週の講義内で紹介する判例を読み込んでもらうことを予定しています。また、復習を行う場合は、レジュメや教科書に目を通すだけでなく、講義内で紹介した判例の内容をしっかりと理解するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しませんが、労働法の基本書を1冊購入することを推奨します。推奨図書は、参考書の欄をご参照ください。

【参考書】

水町 勇一郎『労働法〔第10版〕』（有斐閣、2024年）※第11版が2026年3月発刊予定。
浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』（有斐閣アルマ、2023年）
中窪裕也・野田進『労働法の世界（第13版）』（有斐閣、2019年）
判例を学習する際の参考書として、『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに行われる小テスト（基本的な法規制や重要判例についての理解を確認するための選択・穴埋め式問題）を50%、期末試験を50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、法律科目の初學者向けに、必要に応じて期末テスト前に法律科目の試験答案の書き方等に関する説明を行う予定です。

【その他の重要事項】

本講義は、労働環境論Ⅰ、Ⅱと関係しています。本講義は主に「法律」に焦点を当てますが、労働環境論Ⅰ、Ⅱの講義を通じて、法律の背景にある労働環境の現状や変遷について学んでおくと、より理解が深まると思います。
また、本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しています。本講義では、担当教員の経験を交えながら、将来、学生の皆さんが企業等で働く上で必要となる法的知識を重点的に取り上げます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide students with the basic knowledge of labor law necessary to develop an autonomous career. The role of labor law is to protect workers who are in a relatively weaker position compared to employers and to realize the principle of equality between workers and employers, and it is a law that all workers should know. It is important for all workers to have a basic knowledge of labor law before starting their careers, so that they can protect themselves.

【Learning Objectives】

Students will be able to legally explain various labor-related issues in their daily lives through acquiring a basic knowledge of labor law.

【Learning activities outside of classroom】

At the end of each lecture, students will be given instructions on how to prepare for the next lecture (e.g., the relevant pages in the textbook). Please follow the instructions and read the relevant sections carefully before attending the lecture.

When students review the lectures, they should not only read through the resumes and textbooks, but also make sure that they fully understand the content of the precedents introduced in the lectures.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The quiz given in each class (multiple choice/fill-in-the-blank type questions to check understanding of basic laws and regulations and important judicial precedents) will be 50%, and the final exam will be 50%.

POL300HA（政治学 / Politics 300）		
地球環境政治論		
横田 匡紀		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
開講セメスター：春学期授業/Spring 曜日・時限：月2/Mon.2		
備考（履修条件等）：環37、グ、サ		
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGsや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGsなどを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障、コロナ禍やウクライナ情勢の影響といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題やSDGsなど）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。小課題などに対するフィードバックは授業支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界、地球環境ガバナンスへの逆風

第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで
第3回	気候変動ガバナンス(1)	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第4回	気候変動ガバナンス(2)	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント、温暖化懐疑論
第5回	地球環境ガバナンスの課題(1)：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題(2)：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH、ドラギレポート
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧(Haze)
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、第2次トランプ政権、エネルギー政策、環境正義、温暖化懐疑論
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(1)	NGOや企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(2)	NGOや企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約、グリーントランスフォーメーション
第13回	地球環境政治の見方(1)	リアリズムとリベラリズム
第14回	地球環境政治の見方(2)	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄・山本直編『国際関係論（第4版）』弘文堂、2025年

【参考書】

高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021年
宮永健太郎『持続可能な発展の話』岩波書店、2023年
東京大学 気候と社会連携研究機構編『気候変動と社会』東京大学出版会、2024年
服部崇『気候変動規範と国際エネルギーレジーム』文真堂、2021年
渡邊智明『有害廃棄物に関するグローバル・ガバナンスの研究』ミネルヴァ書房、2022年
舩方周一郎『つながりと選択の環境政治学』晃洋書房、2022年
宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書、2020年
鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ3版』有斐閣、2023年
前田幸男『「人新世」の惑星政治学』青土社、2023年
多湖淳『国際関係論』勁草書房、2024年
大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年

西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021年。
 山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年
 草野大希ほか編『国際関係論入門』ミネルヴァ書房、2023年
 関山健『気候安全保障の論理』日経BP、2023年
 小田桐確編『安全保障化の国際政治』有信堂、2023年
 藤原帰一編『気候変動は社会を不安定化させるか』日本評論社、2022年
 西村智朗『気候変動問題と国際法』信山社、2024年
 藤田大智『国家平等の形成と課題』信山社、2023年
 畠山武道『アメリカ環境政策の展開と規制改革』信山社、2022年
 蓮見雄・高屋定美編『カーボンニュートラルの夢と現実』文眞堂、2025年
 庄司真理子ほか編『新グローバル公共政策(改訂第3版)』見洋書房、2025年
 田所昌幸『世界秩序』中央公論社、2025年
 赤星聖ほか『国際機構論』法律文化社、2025年
 吉沢晃『はじめての国際政治経済学』法律文化社、2025年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験90%、平常点10%で評価する。期末試験についてはレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

毎回の小課題の提出が不十分だと成績評価の対象となりませんので注意してください。

学習したことを評価するので、学習していないということのないように注意してください。

課題・レポート作成時における生成AIの使用は認めていません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。進度により講義内容を変更することがあります。

課題提出と資料配布は学習支援システムを通じて行う。

感染症対策には十分な配慮をします。

半数以上の授業回を対面で実施します。前半を対面、後半以降はオンラインとする予定です。授業回の半数以上での対面受講を求めます。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations
 Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Students will be able to understand the mechanisms of consensus building on global environmental issues from the perspective of international relations, using the Paris Agreement, climate change issues, and SDGs as examples.
- ・ To be able to understand the activities of various actors such as international organizations, environmental NGOs, and corporations in relation to global environmental issues.
- ・ To be able to understand recent global environmental governance issues such as SDGs and plastic pollution.

・ Understand the global environmental diplomacy of Japan and the United States

・ To be able to understand the current status of various environmental governance systems at the regional level in Europe and Asia.

・ To be able to understand the perspectives of international relations theory, such as global governance and global environmental governance.

・ Students will be able to understand the impact of the Trump administrations on global environmental policy.

・ To be able to understand the mechanism of consensus building on complex issues such as trade and environment, environment and security.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students should be able to understand each item in the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Assessments will be made on the basis of a final exam (90%) and a normal score (10%). The final exam will be a report test. Ordinary points will be based on the submission of small assignments and their contents. Feedback on small assignments will be provided on the class website upon request from students.

MAN200HA（経営学 / Management 200）

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsやパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGsやカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の目的・進め方
	企業経営は何か	株式会社の基本機能
第2回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
	ケーススタディ①サントリー	ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第3回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
	ケーススタディ②本田技研工業	ケーススタディ：ステーションワゴンの開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生	所有と経営の分離
	ケーススタディ③キヤノン	ケーススタディ：デジタルカメラの開発
第5回	企業規模の拡大と組織	規模の利益と経営の効率化
	ケーススタディ④スズキ	ケーススタディ：原付自転車の開発

第6回	日本の経営の構造 ケーススタディ⑤黒川温泉（熊本県）	日本の経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生
第7回	経営戦略の基本 ケーススタディ⑥ミツカン	長期的な企業価値向上戦略とは ケーススタディ：納豆食品のマーケティング
第8回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第9回	デジタル・トランスフォーメーション（DX）と企業経営 ケーススタディ⑦日清食品	AI・IoTの活用と経営変革 ケーススタディ：カップ麺の開発
第10回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑧ユニクロ	市場競争力の本質 ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第11回	株式市場と企業価値 ケーススタディ⑨ジブリ	企業価値の源泉とは何か ケーススタディ：創造力の源泉とは
第12回	製品開発戦略 ケーススタディ⑩	製品開発のコンセプトとプロセス：アサヒが業界トップになった要因
第13回	シェアリングエコノミー	消費志向の変化「所有から使用へ」
第14回	SDGsと企業経営 日経ストックリーグへの挑戦	学生が選ぶサステナビリティ企業とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂，2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂，2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂，2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂，2016年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：90%

特別講義レポート：10%

期末レポートは講義内容に関する理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【担当教員の専門領域】

＜専門領域＞

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.

This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the special lecture report (10%) and the final report (90%).

MAN200HA（経営学 / Management 200）

経営学入門

豊田 太郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/.Sat.2

備考（履修条件等）：環17：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の環境変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで本講義では、経営学が学問として登場した背景をなすアメリカ・ビッグビジネス（巨大企業）の出現・成長・確立のプロセスを長期的・歴史的に追いつつ、関連する現代経営学の重要概念についても理解を深めることにしたい。

【到達目標】

本講義では、企業経営における理論的な内容だけではなく、実践的取り組みにも触れながら、変化する環境のなかで企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を歴史を通して理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面を実施する。
- ・毎回講義は配布資料をもとに進めていく。
- ・対面または学習支援システムを通じて、授業内容についての質問を受け付け、フィードバックを行う。
- ・初回授業は必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方とともに、経営学を学ぶことの意義を説明する。
第2回	ビッグビジネスの出現と展開	全国市場の形成
第3回	ビッグビジネスの出現と展開：技術革新の展開①	自動化・連続化が進展した職場
第4回	ビッグビジネスの出現と展開：技術革新の展開②	自動化・連続化が困難な職場
第5回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの出現①	環境・戦略・組織
第6回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの出現②	US スチール
第7回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの出現③	スタンダードオイル・トラスト
第8回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの展開①	寡占体制へ

第9回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの展開②	鉄鋼業、石油産業
第10回	ビッグビジネスの出現と展開：経営者企業の形成①	組織、トップマネジメント
第11回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの展開②	ミドルマネジメント
第12回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスの展開③	ローママネジメント
第13回	ビッグビジネスの出現と展開：ビッグビジネスと社会	ビッグビジネスの規制と容認
第14回	試験	理解度の確認・評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するプリント等を通じて予習・復習に努めること。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

（100点に満たない場合、平常点を取得していれば加算する）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

- ・私語を繰り返す、スマホを常に操作するなど、常識的ルールを守れない者は受講しないこと。執拗に退室を迫られることになる。
- ・積極的な質問を歓迎する。
- ・原則として30分以上遅刻した者は入室できない。また、無断の（一時）退出も認めない。
- ・重要連絡は学習支援システムで配信するので、必ず定期的に確認すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts of Business Administration through the history of Big Businesses. The goals of this course are to understand those basic concepts. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents. Generally, your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 100%.

MAN200HA（経営学 / Management 200）

環境経営と会計

岸田 隆行

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環17：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計を利用することによって企業内で行われる活動を一律に貨幣という尺度で表すことによって、企業が全体としてどのような状態にあるのかを把握することができますようになります。環境への配慮は一般に企業のコストを増加させますが、環境コストを把握し管理することで、事業の効率性と環境への配慮を両立させる試みが環境管理会計です。

ではまず会計の基礎（何を記録し、どのように報告するか）を学んだあとで、環境管理会計の技法について学習していきます。

【到達目標】

- ・複式簿記による記録の方法、財務諸表に記載された内容を理解することができる。
- ・基本的な管理会計の手法を理解することができる。
- ・環境への配慮と事業の効率性を両立するための環境管理会計の考え方を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行います。

配布するプリントをもとに会計の基本的な仕組み、環境経営へのかかわりを説明していきます。

小テスト複数回行い、知識の定着を図ります。小テストのスケジュールは学習支援システムを通じて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	会計とは何か、環境経営と会計の関係について説明する。
第2回	会計の基礎	会計公準、会計の関係する制度、財務諸表について説明する。
第3回	複式簿記	複式簿記の特徴、帳簿への記入方法について説明する。
第4回	会計基準（1）一般原則	7つの一般原則について説明する。
第5回	会計基準（2）貸借対照表原則と損益計算書原則	貸借対照表と損益計算書の表記方法、資産の評価基準、収益・費用の認識基準について説明する。
第6回	財務諸表の読み方	実際の損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書の読み方について説明する。
第7回	原価計算の基礎	原価計算の簡単な計算方法について説明する。
第8回	管理会計（1）原価管理・利益管理	原価管理と利益管理の方法について説明する。
第9回	管理会計（2）意思決定会計	業務的意思決定と設備投資意思決定における会計の役割を説明する。
第10回	環境管理会計	環境管理会計の概要について説明する。

第11回	マテリアルフローコスト会計	マテリアルフローコスト会計の考え方と環境経営との関連性について説明します。
第12回	ライフサイクルコストリング	ライフサイクルコストリングと環境経営との関連性について説明します。
第13回	原価企画	原価企画と環境経営との関連性について説明します。
第14回	まとめ	本講義で学習した内容を整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するプリントについてしっかりと予習復習をすることはもちろんですが、環境保全に関するニュース等についても目を通しておいってください。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%

期末レポート 70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

By utilizing accounting to express all internal corporate activities through a uniform monetary standard, it becomes possible to grasp the overall status of a company.

While environmental considerations generally increase corporate costs, Environmental Management Accounting is an approach aimed at reconciling business efficiency with environmental care by identifying and managing these environmental costs.

Therefore, we will first study the fundamentals of accounting (what to record and how to report it), and subsequently learn about the specific techniques used in Environmental Management Accounting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz: 30%

Final Report: 70%

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅰ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環37：経、ゲ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅰにおいては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。

第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）
正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環37:経,ゲ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1）社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2）持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。

第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インドー目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイー東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナムー戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジルー南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカーアパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナー資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義内容にメリハリをつけるとともに、学生からの質問コメントへのフィードバックを充実する予定です。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam.

Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

MAN300HA（経営学 / Management 300）

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金1/Fri.1

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを考える題材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスの視点から多様な企業活動を観察することで、環境問題に関する総合的な理解を深めるとともに、企業のビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れつつ、汎用性の高いツールとしてファイナンスや経営学の基本的な視点を学ぶことで、「企業を見る目」を養い、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。併せて、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論／	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集めるESG金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。

第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。
第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：気候変動対策ビジネス①（再生可能エネルギー）	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース2：気候変動対策ビジネス②（省エネビジネス、適応ビジネス）	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCOなどを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。また、今後拡大が期待される適応領域にも触れる。
第8回	ケース3 3Rビジネス1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、3Rからサーキュラーエコノミー（CE）に至るビジネス環境の変化を学ぶ。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第9回	ケース3 3Rビジネス2／企業分析プレゼン②	前回の続きとして、容器包装リサイクル、食品リサイクル、金属リサイクル等の各論を観察する。
第10回	ケース4：環境リスク管理ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第11回	ケース5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めているESG投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	まとめ	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスを含めて予備知識は一切不要です。復習による定着を重視して下さい。自分が関心を持つ業界／企業が環境問題にどう関わっているか、という問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。

講義が大企業等を素材にすることが多い分、毎回ベンチャー企業等を素材とするミニレポートを課題として課します（翌週までに提出）。また、チーム又は個人で企業分析・プレゼンしてもらいます。質疑、講師や他の受講生からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で4時間程度を標準としますが、これとは別にプレゼン準備には相応の時間が必要です。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html

このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

この講義では、一方通行の座学ではなく、ディスカッション等を通じた知識の定着を重視しており、授業に出席することが評価の大前提となります。そのうえで、企業分析・プレゼンテーション（50%）、毎回課すベンチャー企業などの環境ビジネスを素材とする課題（30%）、講義でのディスカッションへの貢献度（20%）などに基づき、総合的に判断します。なお、プレゼンテーション等に関して個別に指導を行う関係上、受講希望者が多い場合には人数調整を行うことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン後の振り返りなど、ディスカッションや対話の時間をより充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

講義の性格上、対面式を原則とします。個別の事情がある場合には別途相談して下さい。分析・プレゼンの件数や対象は受講生数に応じて増減します。受講者が多い年はチームを編成して、最大6～7件程度になり、少ない場合は、受講者一人で1社を担当してもらいます。

教員は銀行員として、環境ビジネスの調査企画、ESG評価等に長く従事した実務経験に加え、数多くの政府委員会に委員として参加しています。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムです。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc., we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

【Learning Objectives】

By observing environmental businesses, you will be able to deepen a comprehensive understanding of environmental issues, analyze a company's business model, and discuss its growth potential and risks in detail. Develop corporate analysis skills by experiencing various corporate activities and learning the basic perspectives of finance and business administration. Improve presentation ability through company analysis and presentation.

【Methods】

First, understand the overall picture of the environmental business, such as market size, composition, and employment. Next, you will learn through case studies on themes such as energy, resource recycling, risk management, water, and natural capital conservation. At the same time, learn the basic idea of finance and basic analysis tools. In addition, by being in charge of individual company analysis and presentations, you will be able to experience the real image of environmental business using actual companies as materials, and to develop his presentation ability through feedback from faculty members.

【Learning Activities Outside of Classroom】

No prior knowledge is required, including finance. Emphasis is placed on fixing by review. There are many things you can get by attending a lecture with an awareness of how the industry / company you are interested in is involved in environmental issues.

Since lectures are often made from large companies, we will impose a mini-report on venture companies as an issue every time (submit by the next week). In addition, we will ask you to analyze and present the company as a team or as an individual. Many past students recall that this experience was useful, including questions and feedback from teachers and other students. The standard for each preparatory study / review and homework is about 1 hour, but apart from this, it takes a considerable amount of time to prepare for the presentation. It is necessary to actively participate in the creation of such analysis and presentation materials.

【Grading Criteria/Policy】

This lecture emphasizes the establishment of knowledge through discussions, etc., rather than one-way classroom lectures, and attending classes is a major premise for evaluation. After that, make a comprehensive judgment based on company analysis / presentation (50%), issues related to environmental businesses such as venture companies imposed each time (30%), and contribution to discussions in lectures (20%). increase. Due to individual guidance regarding presentations, etc., the number of participants may be adjusted if there are many applicants.

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論Ⅰ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性、人権等に関する課題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式で行いますが、双方向的な学びを促進するため、授業中にオンラインツールを用いたクイズやアンケート等を適宜実施します。また、毎回の授業の最後に、その回の内容に関する小課題を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第2回	「社会を社会的に考える」とは	社会学的想像力
第3回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第5回	資本主義と労働、格差の再生産	労働、階級、ハビトゥス、文化資本
第6回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第7回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第8回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクシュナリティ
第9回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	異性愛規範、シスノーマティシティ
第10回	ポストコロニアリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第11回	人種と民族	歴史的背景、マイクロアグレッション、日本におけるレイシズム

第12回	インターセクシュナリティ	権力、アイデンティティ、個人の経験
第13回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論、人権、民主主義を考える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣
クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎週の小課題を含む）50%、試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

課題に書かれた考えや質問を共有しコメントする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics to be covered include modernization, inequality, identity, education, and diversity. Each class consists of lectures and activities to apply theories to social issues we have today.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including small weekly assignments) 50%;
Exams 50%

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論Ⅱ

島袋 海理

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代社会における重要なトピックである、ジェンダー／セクシュアリティに関する問題を扱う。ジェンダー／セクシュアリティの視点は、現代社会における日常生活の出来事からマクロな社会問題まで、幅広い課題を考えるツールとなる。本授業では、ジェンダーのみならずセクシュアリティ（第4回）、また性的マイノリティ（第3-5回）についても紹介する。また、生物学（第6回）や教育社会学（第8-10回）、家族社会学（第13回）など、ジェンダー／セクシュアリティをめぐる問題が多様な学問領域を背景にして成立し、時には学問の垣根を越えて展開されてきたことを紹介する。さらに、ジェンダーの関わる問題は日常生活の様々な場面において現れることを示すために、（学校）教育（第8-9回）、大学（第10回）、労働（第11-12回）、結婚・出産（第13回）といった、多くの人々の人生に関わる問題について、ジェンダー／セクシュアリティの観点から考えていく。

【到達目標】

- ①現代社会をジェンダー／セクシュアリティの観点から捉えることができる
- ②現代社会におけるジェンダー／セクシュアリティ問題の射程の広さや議論・立場の多様さを理解する
- ③ジェンダー／セクシュアリティが関わる問題を自分事として考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 基本的に講義形式（対面またはオンライン）を採用する。
- 第1回目はオリエンテーションとして、授業の目標と内容、計画等を詳述する。
- 第2回目以降は、以下のように進める。
- (1)前回の授業のコメントシートの内容を取り上げ、前回の復習を行う（10-20分）
 - (2)担当教員から、当該授業回のテーマについてレクチャーを行う（60-70分）
 - (3)当該授業の内容に関する小課題を提示し、提出する（20分）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要、講義の進め方
第2回	ジェンダーの定義①	<分類>としてのジェンダー、フェミニズム【教科書ははじめに・1章】
第3回	ジェンダーの定義②	インターセックス／性分化疾患、アイデンティティ【教科書2章】
第4回	ジェンダーとセクシュアリティ①	トランスジェンダー、ジェンダー・マイノリティ【教科書3章】
第5回	ジェンダーとセクシュアリティ②	同性愛者・両性愛者、セクシュアル・マイノリティ【教科書4章】
第6回	生物学とジェンダー／セクシュアリティ	性差と性役割、生物学のジェンダー的偏見【教科書5・6章】

第7回	前半のまとめ、中間試験	前半で扱った内容について問う試験と解説
第8回	教育学とジェンダー	進路の性差、学校文化とジェンダー【教科書7章】
第9回	教育学とセクシュアリティ	青少年の性行動、性教育と家族・国家【教科書8章】
第10回	性暴力／ハラスメントと大学	被害者と加害者の視点、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント【教科書9・10章】
第11回	仕事とジェンダー	「女性優遇」、男女間の賃金格差【教科書11章】
第12回	仕事とセクシュアリティ	性別役割分業、マタニティ・ハラスメント【教科書12章】
第13回	結婚・出産とジェンダー／セクシュアリティ	母性愛神話、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ【教科書13章】
第14回	後半のまとめ、期末試験	後半で扱った内容を中心に問う試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、次回授業のテーマが扱われている教科書の章を事前に講読し、授業テーマについて予習することが求められる（1時間）。本講義は教科書の予習を必須としているため、教科書の事前講読がない場合、授業についていけなくなる可能性がある。また、担当教員が指定するテーマやキーワードについて調べたり、近年起こった事件について調べてもらったりすることが求められる（1時間）。復習としては、授業で取り上げた内容についての振り返りが必要である（1時間）。さらに、教科書や授業内で紹介した参考書を講読することを通じて、当該テーマについて考える時間が必要である（1時間）。参考書に関するレポートの提出が成績評価にも含まれる。

【テキスト（教科書）】

加藤秀一『はじめてのジェンダー論 改訂版』有斐閣、2025年 [ISBN: 9784641151413]

※2017年に出ている初版 [ISBN: 9784641150393]ではなく、2025年の改訂版を使用する。

※本講義は予習必須である。受講生は第2回目以降の授業に臨むにあたって、事前に教科書の指定された範囲を講読する必要がある。講義では教科書の内容についても触れるが、教科書を講読したことを前提に発展的な内容を扱うため、予習をしなければ授業についていけなくなる可能性がある。

【参考書】

<新書>

大越愛子『フェミニズム入門』筑摩書房、1996年 [ISBN: 4480056629]

若桑みどり『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』筑摩書房、2003年 [ISBN: 9784480061157]

荻野美穂『女のからだ：フェミニズム以後』岩波書店、2014年 [ISBN: 9784004314769]

森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』筑摩書房、2017年 [ISBN: 9784480069436]

清水晶子『フェミニズムって何ですか？』文藝春秋、2022年 [ISBN: 9784166613618]

周司あきら・高井ゆと里『トランスジェンダー入門』集英社、2023 [ISBN: 9784087212747]

デボラ・キャメロン『はじめてのフェミニズム』筑摩書房、2023年 [ISBN: 9784480684622]

<入門書・教科書>

加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』朝日新聞出版、2006年 [ISBN: 9784023303737]

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013年 [ISBN: 9784641177161]

風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018年 [ISBN: 9784589039705]

石田仁『はじめて学ぶLGBT：基礎からトレンドまで』ナツメ社、2019年 [ISBN: 9784816365829]

新々江章友『クィア・アクティビズム：はじめて学ぶクィア・スタディーズ』花伝社、2022年 [ISBN: 9784763420022]

三橋順子『これからの時代を生き抜くためのジェンダー&セクシュアリティ論入門』辰巳出版、2023年 [ISBN: 9784777829484]

池田緑『ジェンダーの考え方：権力とポジショナリティから考える入門書』青弓社、2024年 [ISBN: 9784787235497]

守如子・前川直哉編著『基礎ゼミ ジェンダー・スタディーズ』世界思想社、2025年[ISBN: 9784790717997]

上掲以外の参考文献については、適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー・小課題の内容：30%

＊コメントペーパーは、毎回の授業内容に関する小課題が含まれる。
＊①小課題の内容を理解した上で記述できているか、②授業で紹介した基本概念や語句を援用して説明できているか、③自分と身近な問題と関連して記述できているか、という3つの観点から評価する。

レポート課題：20%

＊教科書で紹介されている参考文献、あるいは授業中で紹介される参考文献を講読したうえで、その文献に関するレポートを課す。

＊レポートでは、①授業で学んだ内容と選定した文献の関連、②文献から学んだ重要なポイント、③文献から得られた知識や視点を応用して、現代社会における問題に対する論評、の3つの内容が含まれる必要がある。

筆記試験：中間20%、期末30%

＊概念や語句を問う問題と、論述問題で構成される。

＊①授業で紹介した基本概念や語句の意味を理解しているか、②設問の意図を理解したうえで論述できているか、③ジェンダー／セクシュアリティの観点を援用して論述できているか、という3つの観点から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2回目以降の授業の冒頭にて、前回の授業で提出されたコメントシートへのフィードバックを行い、受講生との対話の機会を確保する。
上掲機会とは別に、受講生から授業に対する肯定的・否定的フィードバックを定期的に求める。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに接続可能なデバイス（パソコン、スマートフォン、タブレット端末等）：出欠をオンラインで確認するため（ただし、やむを得ない事情に応じて、紙による提出も認める）。

【その他の重要事項】

・本授業では、教科書の予習を求める。授業は教科書を読んでいることを前提に発展的な内容を取り扱うため、読まずに参加した場合、授業についていけなくなる可能性が高い。

・授業ではからかいやいじめ、差別や暴力、性的な描写や話題について扱うことがある。そうした際は事前に告知するが、授業の途中で居心地が悪くなったりいたたまれなくなった場合、また気分が悪くなった場合には、担当教員の許可なしに離席しても構わない。その他、配慮を求める場合は遠慮なく申し出て欲しい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will address issues related to gender/sexuality, an important topic in contemporary society. By acquiring a perspective on gender/sexuality, students will acquire the tools to think about a wide range of issues in contemporary society, from everyday life events to macro social problems.

Learning Objectivities: (1) View contemporary society from the perspective of gender/sexuality, (2) understand the wide scope of gender/sexuality issues in contemporary society, and (3) consider issues related to gender/sexuality as one's own personal matter

Learning Activities outside of Classroom: Students are required to read the relevant textbook chapter before class. After class, they are expected to read suggested references and explore articles related to the class theme.

Grading Criteria/Policy: Comment Papers and Short Assignments (30%), Short Report (20%), Written Exams (50%): Midterm (20%) and Final (30%)

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角的に理解していることで、社会との向き合い方の幅を広げることができます。

日本において、NPOが一般的になってきたのは、ここ25年ほどです。ボランティアは、「奉仕」を越えて、現代社会におけます重要性を増しています。また、NPO・ボランティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。

この授業では、NPOやボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs達成に向けて活動する、NPOの実践者、ボランティアの実践者からの情報提供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

- ・NPOの意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めます。
- ・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPOとの関係について理解するとともに、SDGsとボランティア、SDGsと市民について、考えます。
- ・日本社会においては、1990年代からNPO・ボランティアが取り組んできた社会課題解決への理解を通して、現代の社会の変化やなぜ社会の持続可能性やSDGsへの貢献が重要なのかについて、問題意識が持てるようになります。
- ・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいのか。市民一人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
- ・毎回、ランダムな小グループで話し合い、グループの意見をグループスプレッドシートに書き、授業中にディスカッションする時間を設けます。
- ・出欠を兼ねたリアクションペーパー（感想・質問・意見）を毎回提出してもらいます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。
- ・NPO・ボランティア活動の実践を聞く機会として、ゲスト講師をお呼びします。事前に質問を集めます。
- ・リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを学びあいます。
- ・毎回の授業で、ノートパソコン、タブレットなどを使って記入していただく時間がありますので、準備して参加してください。
- ・授業の資料は教材にあげますが、プリントアウトしませんので、必要な方は、自身でプリントアウトしてください。
- ・履修人数によって、12回、13回、14回の授業の持ち方は変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティア、 NPO、SDGsに関する基礎知識	・授業の目標、内容、進め方についての説明 ・私たちの生活と、持続可能性
第2回	NPOの基礎知識～ NPOとは何か	・NPO歴史的背景 ・NPOの意味と意義 ・日本社会におけるNPO種類（NPO、NGO、CSOなど）
第3回	SDGsの基礎知識～ SDGsとは何か	・SDGsの歴史的背景 ・SDGsの意味と異議 ・SDGsの担い手としてのNPO、ボランティアの意味
第4回	ボランティア・ボランティア活動とは何か？	・ボランティアの歴史的背景 ・ボランティアの意味と意義 ・個人、組織や法人格とは
第5回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して①	差別/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第6回	課題設定	5回の授業を通して、グループもしくは自身が解決したい、社会課題を設定します。
第7回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して②	環境問題（プラスチックごみ問題）と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（クリーンアップ等）を通して、持続可能性について考える
第8回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して③	生物多様性と向き合うNPO・ボランティアの実践事例（希少種保全等）を通して、持続可能性について考える
第9回	市民社会とは何か	・市民社会とは ・行政組織や企業組織との違い ・連携について
第10回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して④	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題と向き合うNPO・ボランティアの実践事例（学習支援等）を通して、持続可能性について考える
第11回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して⑤	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第12回	授業の振り返りと発表①と補足	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表①
第13回	授業の振り返りと発表②	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表②
第14回	パートナーシップ	・パートナーシップによって課題を解決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパートナーシップの概念を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。
- ・各回のレジュメ（パワーポイント資料）配布するので、授業後、各自授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してみる。疑問点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。
- ・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておくこと。
- ・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。
- ・各自で、関心のある分野のNPOの事例をインターネット等で調べたり、NPO支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのかSDGs」SDGs市民社会ネットワーク発行 1000円

「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円

その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれかを購入するか、各自でNPOに関する本や小冊子入手し、授業とあわせて理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言、リアクションペーパーの提出、参加姿勢、グループワークへの参加など）：40%

テスト・レポート：60%

なお、原則として、自分都合で4回以上欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の時間、ゲスト講師からのインプットには高評価が得られている

【学生が準備すべき機器他】

授業中に、学習支援システムからアンケートを実施したり、グーグルスプレッドシートに記入したりするため、ノートパソコンやタブレットなどを持参して授業を受講してほしい。

【その他の重要事項】

- ・講師自身は、現在もSDGsを達成するために活動しているCSOのネットワーク組織で普段は活動をしています。
- ・また、20年間、NPOとしてNPOを支援し、活動を行ってきた経験また、現在の活動先であるSDGs市民社会ネットワークの活動をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。
- ・学生による発表がありますので、授業計画を一部変更することもあります。
- ・履修人数により、グループワークや発表方法などを変更します。

【Outline (in English)】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The lecturers are required to prepare for and review the lectures by using the materials introduced in the lectures.

After the class, each student should review the lecture content, understand the content well, and organize his/her own ideas.

If you have any questions, please submit them in the reaction paper for the next class.

If you are absent from class, download the resumes from the class support system to grasp the contents of the class.

Students are expected to deepen their understanding of the contents of the class by reading the related contents in reference books, etc.

It is recommended that you research NPOs in your field of interest on the Internet, gather information at NPO support centers, etc., and actually participate in volunteer activities.

Grading criteria

Ordinary points (in-class comments, submission of reaction papers, participation attitude, etc.): 40

Tests and reports: 60

As a general rule, students who are absent four or more times will not be graded.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：環17：口、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域には、様々な人が存在していることを知り、お互いにその存在を認め合い、共存するあり方について、主に福祉的な観点から学ぶ。
2. 自分が暮らそうと思う地域を、だれもが自分らしく「暮らしたい場所」とするために、どうすればよいか。福祉的な観点から学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はずれにされないためにどうすればよいか、その技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。授業はすべて講義形式で行い、毎回リアクションペーパーの提出を伴う。リアクションペーパーに記述された学生の問題意識をもとにして、授業内容を再構成して実施したり、課題を再設定する回もあるため、積極的な記述をしてほしい。代表的な問題意識や感想などは、授業の冒頭で教員から受講生に共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方「地域福祉」とは～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認 地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類(ICF)に基づいて、「本人と他者(地域社会)との関わり」を考える。

第2回	優生思想・差別・偏見と私たち	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。
第3回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」について学ぶ。
第4回	障害のある人たちと地域福祉①	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第5回	障害のある人たちと地域福祉②	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害（各種依存症を含む）・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第6回	社会的孤立・生活困窮者と地域福祉	野宿生活者などを含めた生活困窮者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。
第7回	外国にルーツを持つ人と地域福祉	日本に暮らす外国にルーツを持つ人の置かれている現状と、私たちが地域で共に生きるあり方について学ぶ。
第8回	認知症と地域福祉	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第9回	高齢者と地域福祉	高齢者の気持ち、置かれている社会的な状況などから、制度や政策、さらに地域におけるインフォーマルサポートなど、地域社会の関わりのあり方考える。
第10回	子ども・家庭と地域福祉①	児童虐待・子どもの愛着形成を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第11回	子ども・家庭と地域福祉②	社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第12回	多様な性と地域福祉	13人に1人と言われるLGBTについて知り、地域社会で共に幸せに暮らすための方策を探る。
第13回	地域福祉の推進主体～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司	地域福祉を推進する中心的な団体である「社会福祉協議会」、地域福祉を推進するNPOのほか、「民生委員・児童委員」「保護司」など、公的なボランティアや、ボランティア活動について学ぶ。
第14回	地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク	住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
授業時間内、また、課題において視聴覚教材を多用します。

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』1～27巻(講談社)、『ヘルプマン！！』1～10巻(朝日新聞)
さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』(青泉社)
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』(小学館) 他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回、授業のリフレクションを短くまとめる課題)が50%、学期末レポート50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください(あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えられません)。

授業のリフレクションの小レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

1. 授業についてのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。
2. 授業は、①授業で得た学びを短くまとめ、合わせて②復習または翌週までの予習として映像を視聴し、そこから得た学びを小レポートにまとめる、という双方について学習支援システムに期限内に提出することをもって、授業1回ごとの出席とします。
3. 授業の記録は原則的に手書きとします。ノートPCもしくはタブレット、携帯電話のご使用はご遠慮ください。(事情がある方には対応しますので、遠慮なくご相談ください)

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about people who need some kind of help and people who need help but are unable to receive services due to the gap between systems, and learn about how they can live in their own way in the community.

Classes are conducted in a lecture format, and students have the opportunity to present what they have learned as necessary. Study using many audiovisual materials, and submit a small report each time about your impressions. At the end of each class, submit a reaction paper. Based on the student's problem awareness written in the reaction paper, there are times when the class content is reorganized and implemented, and the assignment is set again, so I would like you to write positively. At the beginning of the class, teachers share their thoughts and impressions about typical problems with students.

【Learning Objectives】

Learn about people with various attributes, deepen your understanding of "social inclusion" in which people live while accepting and including each other in society, think about what you can do, and put it into practice become able to.

【Learning activities outside of classroom】

Please collect information about welfare, such as newspapers and news, and attend classes with more interest. In addition, we will give you a pre-work assignment, so please work on it.

【Grading Criteria /Policy】

50% for regular grade and 50% for term papers.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・

時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：環37：口、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まずコモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。毎回授業後には、授業内容を踏まえた課題を課し、そのレポートを次の授業までに提出してもらう。次の授業、または学習支援システムにおいて課題への解答からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コモンズとは何か？ (1)	コモンズの定義について説明する。
第2回	コモンズとは何か？ (2)	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第3回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第4回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第5回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第6回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第7回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第8回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第9回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。

第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。
第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバリゼーションによる食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで授業において紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に課す課題レポートの内容を80%として評価する。さらに学期末に課すレポート（4千字以上）の内容を20%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【その他の重要事項】

開講は、9月14日（月）～17日（木）の予定。

【Outline (in English)】

This class engages with studies on “local commons.” The goal of the lesson is to understand the content of the local commons and their sustainable use. As learning outside of class hours, I would like to review the class and read the literature introduced in the class. The standard time for preparation and review of classes is two hours each. Regarding the method and criteria for grade evaluation, the content of the report submitted at the end of the semester will be evaluated as 20%, and the content of the reaction paper imposed after class will be evaluated as 80%.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

環境社会論Ⅰ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】

日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

2026年度春学期は、Zoomでのリアルタイム配信によるオンライン授業を予定している。大学で受講する場合は、薩埵ホールなどのオンライン受講スペースを利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジー的近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモングの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。

第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	外来種問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥／まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。 環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。

平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions for solving them based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the history of environmental problems and policies in Japan.

- Point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.

- Propose actions for solving environmental problems.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅱ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。

第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。
坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is neither the government nor the business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.
- Propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be class participation and submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

N G O 活動論

小野 行雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環17：グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のアクターとしてのNGOの立ち位置を確認した上で、NGOの方法と目指すものについて理解する。日本のNGOおよび世界のNGOの歴史と現状について学び、社会におけるNGOの役割、さらには市民としての自分自身の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行を決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回授業後は学習システムを利用してふりかえりレポートを提出することを必須とする。次の授業では、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	グループづくりワークショップ
	NGOの基礎	NGOとNPOについて講義
第2回	市民社会1	社会における市民社会の位置と役割に関するワークショップと講義
第3回	NGOの支援方法	インド山岳民族支援をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」
第4回	開発と近代	インド山岳民族支援をめぐる介入と近代化についてグループ討議
第5回	NGOケーススタディ1	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するワークショップ「ミッション・チョコレート」
第6回	NGOケーススタディ2	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するグループ討議
第7回	NGOの資金	フィリピン支援事例についてシミュレーションワークショップとグループ討議
第8回	市民社会2	ボランティアと寄付について講義とグループ討議

第9回	日本のNGO 1	日本NGO史について講義と日本のNGOについてのグループ調査
第10回	日本のNGO 2	日本NGOについてグループ調査発表と講義
第11回	世界のNGO 1	世界NGO史について講義と世界のNGOについてのグループ調査
第12回	世界のNGO 2	世界のNGOについてのグループ調査発表と講義
第13回	ゲスト講義	NGOで活動してきた方をゲストに迎えて講義と討論
第14回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。ふりかえりシートを重視するので、自身のそれまでの知識・経験を学んだことと結びつけたていねいなふりかえりを時間をかけて行い学習システムにて提出すること
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。ふりかえりシートによるレポート80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

ふりかえりシート作成にあたり毎回ポイントを提示する

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートホン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 Understanding the position of NGOs as social actors and the methods and objectives of NGOs. Studying the history and current status of NGOs in Japan and in other countries, Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, considering the role of NGOs in society, and reflecting on your own roles as citizens.

【到達目標（Learning Objectives）】

- 1 To understand modern issues of the world and the their relations.
- 2 To understand the past and present of the NGOs and civil society and acquire broad view of the world citizens.
- 3 To acquire a strong sense of citizenship and positive attitude to get involved in the society.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content. Prepare the class by skimming through the materials provided. After the class, take time to write a reflection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation to the class and thoughtful reflection is important.

Reflection report after every class 80%

Term-end report 20%

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

川副 早央里

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害はどの地域においても、誰にでも起こりえることです。大規模な災害が起こると、地域社会が大きな打撃を受け、急激な地域変容が生じます。そこで暮らしていた人びとは、生命、仕事、財産、家族や友人関係、自然環境などさまざまなものを失う経験をします。災害は平常時の社会のあり方や構造を露わにします。災害時に発生するこうした諸問題を理解するときには、災害前から社会に潜んでいた問題に着目する視点が求められます。

本講義では、地域社会やそこで暮らす人々の視点から災害と地域復興を捉え、いくつかのテーマと実際の事例から、災害政策が形成されてきた背景やプロセス、残された課題について検討し、私たちが生きる社会について改めて考えたいと思います。東日本大震災のほか、一部海外の事例も取り上げます。

【到達目標】

- (1) 災害復興のリアリティに触れ、災害時の社会状況についての想像力を養う。
- (2) 「災害」「復興」の概念を理解し、災害時に生じる諸課題の背後にある社会構造を学ぶ。
- (3) 災害時の政策が形成された背景、経緯、残された課題を理解する。
- (4) 災害を日常の延長にあるものとして捉え、災害という切り口から日常生活や地域社会の在り方を見直す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を基本としますが、できるだけ多くのグループディスカッションを行いたいと考えています。また、さまざまなドキュメント資料や映像資料を活用して、できるだけ被災地域および被災者の置かれた実状に触れ、災害と復興について考えたいと思います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。次の授業の冒頭にその内容を振り返り、問題意識を共有し補足説明も行いながら、災害に関する理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方を確認する。
第2回	災害とは何か	災害とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第3回	避難（1）：緊急避難	災害発生から避難に至る過程と課題を学ぶ。
第4回	避難（2）：広域的長期的避難	長く広域に避難した被災者の生活実態と課題を学ぶ。
第5回	地域コミュニティの変容（1）：分断と喪失	災害後のコミュニティの分断や喪失の実態を学ぶ。
第6回	地域コミュニティの変容（2）：再編と創造	災害後のコミュニティの再編や創造の実態を学ぶ。

第7回	被災地・被災者支援（1）：支援の実際	被災地および被災者の復興における支援の実際と課題を学ぶ。
第8回	被災地・被災者支援（2）：多様な支援	多様な支援の事例を紹介し、被災地・被災者復興に求められる支援について検討する。
第9回	災害とジェンダー・多様性（1）：災害時のジェンダー課題	災害時のジェンダー課題への対応の実際と課題を学ぶ。
第10回	災害とジェンダー・多様性（2）：災害時の多様性配慮	災害時に求められる多様性への配慮について学び、議論する。
第11回	復興とは何か（1）	復興とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第12回	復興とは何か（2）	復興の事例を紹介し、実際の復興状況と課題を検討する。
第13回	授業内試験	授業内試験を行う
第14回	試験の講評と補論	試験に関する講評と授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・適宜授業のなかで関連する参考文献や資料を紹介するので、事前に学習してから受講すること（60分程度）。
- ・授業中に配布するレジュメと自身のメモ・ノートをもとに復習し、リアクションペーパーの提出により学習内容や自分の考えを整理するとともに、理解できていない部分を確認すること（40分程度）。
- ・各回の授業に関する課題として、授業内で扱った知識や概念を応用させた課題に取り組み、授業内容の理解を深めること（90分程度）

【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は、授業前にWebClassに掲載する。

予習・復習については、配布資料を使って学習するほか、授業内で紹介する参考書や各種情報を参照すること。

【参考書】

大矢根淳ほか（2007）『災害社会学入門（シリーズ災害と社会）』弘文堂。

その他は授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（リアクションペーパーおよび授業への参加度）：60%
 - ・授業内期末試験：40%
- ＊期末試験未受験の場合には成績評価の対象とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、履修生の理解度を確認しながら授業を進めていく。具体的には、学生同士のディスカッションやリアクションペーパーの提出を通じて、意見を共有するほか、質問への回答や補足説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用するPDF資料は、事前にWebclass上に掲載します。紙資料は配布しないので、必要に応じてPCやタブレットを持参して受講してください。

【Outline (in English)】

Disasters can strike anywhere and affect anyone. When a large-scale disaster occurs, local communities suffer significant damage and undergo rapid transformation. People living there experience the loss of life, livelihoods, property, family and friends, and the natural environment. Disasters lay bare the nature and structure of society during normal times. Understanding the problems that emerge during disasters requires a perspective that focuses on issues latent within society before the disaster struck. This lecture will examine disasters and regional recovery from the perspective of local communities and their residents. Through several themes and real-world case studies, we will explore the background and processes behind the formation of disaster policies, the challenges that remain, and rethink the society in which we live. In addition to the Great East Japan Earthquake, we will also cover some international examples.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環17：グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性はSDGsの随所に見られる。しかし、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。本科目では、SDGsを意識しつつ、世界の現状、社会開発の枠組みを学び、先進国の私たちの役割を考察する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

1. SDGsに関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
2. 途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
3. 想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。第1に、社会開発の概要として様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第2に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。第3に、学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループで共有し、個別の発表を行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。

各回で、SDGsの関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当するSDGsの目標番号【 】で記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入 社会開発の概要1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs全体】
第2回	社会開発の概要2 国連とSDGs	国連のSDGsの枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs全体】
第3回	社会開発の概要3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数(HDI)、ジェンダー開発指数(GDI)などの主な国際指標を理解する。【SDGs 目標1, 2, 3, 4 & 5】
第4回	社会開発の概要4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs 目標17】
第5回	社会開発の概要5 市民、NGO	NGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs 目標16】

第6回	社会開発の分野1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs 目標1 & 11】
第7回	社会開発の分野2 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs 目標1】
第8回	社会開発の分野3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs 目標10】
第9回	社会開発の分野4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs 目標8 & 10】
第10回	社会開発の分野5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs 目標3 & 5】
第11回	社会開発と社会変容1 教育・識字の役割	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs 目標4】
第12回	【グループ発表】 課題レポートの発表	課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。
第13回	社会開発と社会変容2 ネパールの債務労働者	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。【SDGs 目標8】
第14回	期末のまとめ	全体の内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業計画に記載された語句などをあらかじめ調べておく。
復習・宿題：授業で配布する資料で復習し、随時課題レポートの準備を進める。

各回の配布資料に、テーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解と理解を深める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。
授業内容が依拠する引用文献は、各回で配布する資料にリスト化する。

【参考書】

新村恵美（2023）「SDGsとは何か：起源と概要、達成状況」、佐藤龍三郎・松浦司編『SDGsの人口学』人口学ライブラリーNo.23、第2章。

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者

高柳彰夫・大橋正明編（2018）「SDGsを学ぶ-国際開発・国際協力入門」法律文化社

南博・稲場雅紀(2020)「SDGs-危機の時代の羅針盤」、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%

期末試験：40%

毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当しています。これまでに、SDGsに関連付けたことが学びやすさにつながった、提出したレポートを互いに発表し合いコメントし合う機会が学びにつながったとのコメントがみられました。今後も履修学生との対話をとおして、授業を作ってゆきたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

レポート提出などでパソコンを使用し、学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to learn the theory and practice of social development.

It is structured as follows:

1. Students will review the definition and the history of social development, the theories that influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc.
2. Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).
3. Several case studies are introduced so that students can discuss the practice of social development.

Students are expected to be cooperative and active during group discussions and presentations.

【Learning Objectives】

1. To acquire basic knowledge of the concept of social development;
2. To understand "poverty" not in terms of dichotomies, such as developing countries and developed countries, people concerned and supporters, and without othering people who are in different positions from oneself; and
3. Use your imagination to realize that social development is something that brings about human change.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on

1. Mid-term report(30%),
2. Final exam(40%), and
3. submission of feedback paper in each class(30%).

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論Ⅰ

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術と社会は相互に複雑に作用し、その相互作用からさまざまな社会問題が生じています。本講義では、そうした問題が生じる背景や原因について、具体例を取り上げながら、専門家と市民の両方の観点から考察できるようになることを目指します。それを通して、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

- ・科学技術がもたらす社会問題について、具体例を挙げながら説明できる。
- ・科学技術がもたらす社会問題について、専門家および市民の立場から考察できる。
- ・科学技術がもたらす社会問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッション（ケースメソッド学習）を行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	ケースメソッド授業①	事例を通して、専門家としての意思決定を疑似体験し、そのあり方を考察します。
第3回	巨大技術システムがもたらす問題	スペースシャトル・チャレンジャー号事故を取り上げて、巨大技術システムがもたらす問題について説明します。
第4回	ケースメソッド学習②	事例を通して、先端技術がもたらす可能性のある問題について考察します。
第5回	ケースメソッド学習③	先端技術がもたらす可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。

第6回	ケースメソッド学習④	先端技術がもたらす可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第7回	科学技術社会における専門家の役割	専門家のあり方について、具体例を取り上げながら考察します。
第8回	科学技術とリスク	具体例を取り上げながら、科学技術とリスクの問題について説明します。
第9回	科学技術社会における市民の役割	科学技術の発展と市民の役割について、具体例を取り上げながら考察します。
第10回	ケースメソッド学習⑤	事例を通して、企業が直面する可能性のある問題について考察します。
第11回	ケースメソッド学習⑥	企業が直面する可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。
第12回	ケースメソッド学習⑦	企業が直面する可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術について専門家と市民の協働の観点から考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編『科学技術者倫理：本質から考え行動する』白桃書房、2017年
 札幌順編著『新しい時代の技術者倫理』放送大学教育振興会、2015年
 小林傳司『誰が科学技術について考えるのか：コンセンサス会議という実験』名古屋大学出版会、2004年
 金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology and society interact with each other in a complex manner, and various social issues arise from this interaction. The aim of this course is to enable students to consider the background and causes of such issues from the perspectives of both experts and citizens, taking up specific examples. By doing so, students will build a foundation for thinking about how to deal with future social issues related to technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social issues brought about by technology, giving specific examples.
- Examine social issues brought about by technology from the perspective of experts and citizens.
- Think critically about the social issues that technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

SHS300HA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 300）

科学技術社会論Ⅱ

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を生きる上で科学技術は不可欠の存在です。しかし、科学技術は常に新しい事態をもたらし、時にそれを振興すべきか規制すべきかといった意思決定を迫ります。本授業では、科学技術をめぐる社会的決定に参加する一市民あるいは専門家として、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方、態度、行動について具体例を通して学びます。

なお、「科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ」と「技術哲学Ⅰ・Ⅱ」は問題意識を共有していますが、違いを示せば、以下のとおりです。

【科学技術社会論Ⅰ・Ⅱ】

①実践的側面を考察、②過去の事例を中心に考察、③ディスカッションがメイン

【技術哲学Ⅰ・Ⅱ】

①理論的側面を考察、②現在進行中の事例を中心に考察、③講義＋ディスカッション

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

- ・科学技術がもたらす光と影について、具体例を挙げながら説明できる。
- ・科学技術がもたらす新しい事態について、批判的に思考できる。
- ・本授業で扱う事例について、自らの意思決定を他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、毎回実施するミニ・ペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。ミニ・ペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	科学技術と社会をめぐる諸理論	パラダイム論、社会構成主義、モード論などについて説明します。
第3回	「公害」から学ぶ	公害を取り上げながら、科学および科学者の役割などを考察します。
第4回	「遺伝子組み換え作物」から学ぶ	遺伝子組み換え作物を取り上げながら、フレーミングの問題などを考察します。
第5回	「BSE問題」から学ぶ	BSE問題を取り上げながら、専門家と市民の協働などを考察します。

第6回	「Winny事件」から学ぶ	Winny事件を取り上げながら、最先端技術と法の関係について考察します。
第7回	「地球温暖化」から学ぶ	地球温暖化を取り上げながら、通訳不可能性や合理性などについて考察します。
第8回	「動物実験」から学ぶ	動物実験を取り上げながら、二重基準や自然さからの議論などについて考察します。
第9回	「チャレンジャー号事故」から学ぶ	チャレンジャー号事故を取り上げながら、巨大技術システムの問題を考察します。
第10回	「モーゼスの橋」から学ぶ	モーゼスの橋の事例を取り上げながら、技術の政治性の問題を考察します。
第11回	事例分析に向けて	各自で実施する事例分析について、方法論やアプローチの仕方を説明します。
第12回	プレゼンテーション「事例分析」	各自で実施した事例分析について、クラス内で発表・議論します。
第13回	これからの科学技術と私たち	こらからの科学技術にどのようにかかわるのかについて考察します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005年
伊勢田哲治[ほか]編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年
藤垣裕子責任編集『科学技術社会論とは何か』（科学技術社会論の挑戦1）東京大学出版会、2020年
平川秀幸『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』（生活人新書）日本放送出版協会、2010年
金光秀和『技術の倫理への問い』勁草書房、2023年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、講義・対話への参加度合や毎回実施するミニ・ペーパーの提出によって平常点を評価します（60％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（20％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループで行うディスカッションなどが好評でしたので、引き続き対話や双方向性を意識した授業運営を行います。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology is an essential part of living in modern society. However, technology always bring new situations and sometimes force us to make decisions about whether to promote or regulate them. In this course, we will learn how to deal with future social problems related to science and technology as a citizen or an expert who participates in social decisions about science and technology through specific examples.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the light and shade brought about by technology, giving specific examples.
- Think critically about new situations brought about by technology.
- Explain your own decision-making to others regarding the cases covered in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (20%), and in class contribution (60%).

LIT200HA（文学 / Literature 200）

日本詩歌の伝統

日原 傳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環37：文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」「川柳」などの実作を体験する機会も設ける予定である。実作の手助けになるように、多くの先人の作品を紹介し、鑑賞したい。

【到達目標】

- ・定型詩（俳句・短歌・漢詩など）の規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にほぼ毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	俳句の三要素	俳句の約束事～定型・季語・切れ 俳句の片言性
第2回	季語の重層性	俳句のみなもと（和歌・連歌・俳諧）、俳諧の発句、季題と季語、歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第4回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第5回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第6回	子規の俳句革新	子規の生涯、子規山脈、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第7回	短歌と俳句／子規の後継者Ⅰ	短歌と俳句の違い／虚子とその弟子たち／実作（短歌・俳句）
第8回	俳句と川柳／子規の後継者Ⅱ	俳句と川柳の違い／碧梧桐の傾向俳句・自由律／実作（俳句・川柳）
第9回	漢詩（近体詩）の規則	子規が初めて作った漢詩の紹介／漢詩（近体詩）の格律／実作（漢詩・俳句）
第10回	俳句の技法Ⅰ／近代の俳句①	比喩（直喩・隠喩）、擬人法／鑑賞（伝統俳句）／実作（俳句）

第11回	俳句の技法Ⅱ／近代の俳句②	字余り・字足らず・句またがり／鑑賞（新興俳句・前衛俳句）／実作（俳句）
第12回	海外俳句／国際俳句／俳句を読むということ	芭蕉「古池や・・・」の翻訳／『台湾歳時記』の紹介／漢俳／実作（俳句）
第13回	現代俳句／青春俳句／文人俳句／子規と漱石	観賞（現代俳句・青春俳句・俳句甲子園）／子規と漱石の交流／実作（俳句）
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で紹介された資料を導きに自分の好きな作家を見つけ、その作品を読む。
- ・自作の俳句（毎回2～3句ほど）を作って提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、前後2時間ずつを標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
『合本 俳句歳時記 第五版』（角川書店）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）
日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）
岸本尚毅『文豪と俳句』（集英社新書）
佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）
馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・提出作品）40％
自信作10句（春学期に作った自作10句）10％
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50％

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作について解説する時間を多くとりたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination (or Term-end report) : 50%、Short reports: 10%、in class contribution: 40%

ART200HA（芸術学 / Art studies 200）

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環37：文／定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、とても密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回の講義後、学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第3回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第4回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第5回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、など、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第6回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第7回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第8回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第9回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第10回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。『平家物語』の原話「敦盛最期」から歌舞伎『熊谷陣屋』へ。

第11回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。「敦盛最期」から能『敦盛』へ。最終的に、同じ原話から生まれた歌舞伎と能のそれぞれの作品を比較考察します。
第12回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第13回	総括	春学期の学習内容の復習をします。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	期末試験（記述式）と復習	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URLおよび関連動画については、必ず予習・復習をしてください。日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBSブリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%

参加態度・ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて提出します。）

【期末試験】50%

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムを利用します。Zoom講義でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You can learn basic knowledge about each genre of mainly traditional performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

ART300HA（芸術学 / Art studies 300）

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環37：文／定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。各回の講義後、学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第3回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第4回	ギリシャ悲劇：ソフォクレス作『オイディプス王』	オイディプス王の物語とギリシャ悲劇の特色を学びます。
第5回	ジャンル横断的考察（1）	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第6回	ジャンル横断的考察（2）	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第7回	ジャンル横断的考察（3）	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第8回	ジャンル横断的考察（4）のための基礎講義	文案というジャンルの基礎知識を学びます。
第9回	ジャンル横断的考察（4）	文案と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第10回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。

第11回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第12回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第13回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察をまとめます。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	復習と期末試験	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URLおよび関連動画については、必ず予習・復習をしてください。日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBSブリタニカ

野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%

参加態度・ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて提出します。）

【期末試験】50%

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施します。学習支援システムを利用します。Zoom講義でも頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。
・ただし、能や歌舞伎など伝統芸能の基礎知識を前提に授業を進めるので、春学期の「比較演劇論Ⅰ」と併せて履修することを強く勧めます。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You are encouraged to enhance your insight into performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

環境倫理学 I

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環17：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。メールで質問を募り、授業に反映させる。チェックテストとレポートについては個別にメールで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と倫理学的論	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	環境問題と現代社会	環境問題が「現代社会」の仕組みに由来する問題であることを示す
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理と自然の権利	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」と「自然の権利」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
7	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
8	公害の環境倫理	公害に関する映画を見て意見交換する
9	環境正義	環境正義について議論する
10	リスク論	リスク論の概要を紹介する
11	中間チェックテスト	ここまでの内容を理解しているかを確認する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（序章、第4章～第10章）

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40点）と書評レポート（60点）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

環境倫理学Ⅱ

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環17：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市の環境倫理」について学ぶ。その中で、哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論などを紹介する。さらに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二と桑子敏雄の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する
10	環境と観光:白川郷と妻籠	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
11	環境と観光:湯布院の地域づくり	湯布院のドキュメンタリーを見て議論する
12	アメニティマップの発表(1)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表(2)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップの発表(3)全体の講評	アメニティマップについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第11章～第14章）

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（40％）とマップ作成（60％）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with urban environmental ethics. At the end of the course, students are expected to understand human environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, amenity map:50%, term-end examination:50%.

HIS300HA（史学 / History 300）

ヨーロッパ環境史論Ⅰ

辻 英史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：グ、文

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界（Lebenswelt）がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性についての理解を広げるための視座を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第2回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第3回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第4回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第5回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大

第6回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第7回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。
第8回	都市と自然・災害	都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。
第9回	都市と緑	都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。
第10回	20世紀の都市問題	20世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。
第11回	田園都市と郊外の開発	20世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。
第12回	20世紀後半の都市改造	第二次世界大戦後の都市では、戦災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。
第13回	現代における都市の再生	1980年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。
第14回	まとめ：日本とヨーロッパの都市社会と環境	ヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のレジュメや資料を使用して復習をすること。

授業期間中に2回、授業内容に関するミニレポートを作成し、提出すること。

そのほか、授業中に紹介する文献を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のミニレポート（40％）と学期末の筆記試験（60％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度休講につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

History of daily life and environment in European cities from the middle ages to the 20th century.

By examining the historical development of European cities, how the lifeworlds (Lebenswelten) of their inhabitants have changed over time, and how the relationship between humans and the natural environment has changed, we will provide a perspective that will broaden our understanding of the history and cultural uniqueness of urban societies not only in Europe but also in other parts of the world, including Japan.

Students should review using the lecture resume and materials. In addition, students are required to prepare and submit mini-reports on class content twice during the semester. Reading the literature introduced in class will enhance your understanding of the course content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be based on two mini-reports (40%) and a written exam at the end of the semester (60%).

HIS300HA（史学 / History 300）

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

伊東 直美

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環17：G,文

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進むなか、世界各地で移民・難民排斥運動、外国人嫌いの風潮が高まり、極右政党が台頭した。もはや我々の社会を考える際に、移民の存在を無視することは出来ない。しかしこの現象は今に始まったことではない。歴史的にどこで、どのような時、人とモノは大きく移動した、もしくは移動せざるを得なかったのか。その結果として何が生じたのか。ヨーロッパにおける人とモノの流れを分析することで、現代における我々の移民との共生の可能性を探ることを授業の目標とする。

【到達目標】

本講義ではヨーロッパ近現代を中心とした歴史を環境との関わりから考えていく。最近の歴史学の動向を学び、理解を深めることにより、現代社会の問題について比較検討する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

映像資料を使った講義を行う。毎回リアクションペーパーを提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オリエンテーション	移民と私たち	日本の場合
歴史学の成立	歴史学の動向	なぜ歴史を学ぶのか
産業革命	産業革命1	大いなる分岐
産業革命	産業革命2	なぜイギリスで起きたのか
啓蒙主義	啓蒙のヨーロッパ1	知の転換
啓蒙主義	啓蒙のヨーロッパ2	探検と「文明化」使命
フランス革命	フランス革命とそのインパクト	フランス革命の影響
奴隷制	奴隷制とその廃止	現代奴隷制を考える
ナポレオン	ナポレオンの台頭と没落	フランス革命後のヨーロッパ
ジャガイモ飢饉	ジャガイモ飢饉と1848年革命	1848年革命の影響
長い19世紀	ホブズボームの解釈1	第一次大戦以前
短い20世紀	ホブズボームの解釈	第一次大戦
ナチスの台頭	ヒトラーの権力掌握	ナチズム
第二次大戦	第二次大戦の始まり	戦争について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は西洋近現代史に関する授業となっている。『世界史リブレット』（山川出版社）などの該当巻を読むことでよりよい理解が得られる。

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

レジュメをhoppiiより配布する。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（40％）、学期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Anti-immigrant and anti-refugee movements, xenophobia, and far-right parties have risen globally. We can no longer ignore the presence of immigrants. However, this phenomenon is not new. Historically, when did large-scale movements of people and goods occur? What resulted from them? By analyzing the flow of people and goods in Europe, this lecture aims to explore the possibility of coexistence with immigrants in our contemporary world.

This course examines modern and contemporary European history through its relationship with the environment. Students will develop the ability to study history and critically compare and analyze issues in contemporary society.

Standard preparation and review time is two hours each.

Grading will be based on reaction papers (40%) and the final exam (60%).

CUA200HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

環境人類学 I

高橋 五月

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

備考（履修条件等）：環17：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学 I は、人間と環境の関係についての文化的側面を探究する学問である環境人類学の基礎を学ぶ講義科目です。文化人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景のもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。本授業の目的は、文化人類学的な視点を用いて身近な環境の文化的側面について理解を深めることです。

【到達目標】

本授業では、文化人類学的な視点について基礎的な知識を身につけること、また身近な環境について文化人類学のアプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係の文化的側面についての知識とクリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は映像資料を随時活用しながらオンデマンド形式で行います。また、クリティカルシンキングを育てることを目的とし、ディスカッションコメントを課題とします。この課題では、講義内で出題する講義内容に関連する「お題」に対して、学生が各自ディスカッションコメントとして回答を授業支援システムにて提出します。この課題を通して学生は「お題」に対する自らの考えを言語化するスキルを向上するだけでなく、他学生の回答を通して多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方、課題、成績評価の方法について説明します。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第3回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・スチュワードの研究を紹介します。
第4回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介します。
第5回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介します。
第6回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義します。
第7回	複合社会	文化的変容が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第8回	中間試験	試験・まとめと解説
第9回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点について講義します。

第10回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義します。
第11回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第12回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第13回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義します。
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料、課題、課題の振り返りを通して必ず予習・復習をすること。
（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献がある場合は授業前までに読んでおきましょう。
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションコメント（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

文化人類学は初めて聞く学問で難しそうだったという学生も少なくないですが、履修したら異文化だけでなく自分の身の回りの「当たり前」について考えることができて面白かったというコメントも多いです。
講義で使用するスライドを「ハンドアウト」として授業支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモを取り、自分なりの授業ノートを完成させてください。
映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。
ディスカッションコメントの回答例紹介コーナーは他学生や教員の意見を知ることができるので楽しく、より深く考える機会になるという意見をたくさんいただいたので、今後も続けていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学 I では、資料配布、お知らせ配信、ディスカッションコメントの提出は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn about environmental anthropology and related discussions on human-environment relations. The main goal of this course is to help students obtain basic knowledge of environmental anthropology and develop critical thinking skills by asking questions that require them to apply course materials and lectures for their thoughts on human-environment relations and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams and post discussion commentaries on Hoppii. A study time for a class, on average, is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and discussion commentaries (30%).

CUA300HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環17：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱは、「サステナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在はどのような課題が生じているのか、事例と文化人類学的アプローチをもとに講義し、議論します。本授業の目的は、講義で紹介する文化人類学的アプローチを参考にしながら、学生たちが自ら「サステナビリティ」とは何かという問いに向き合い、理解を深めることです。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または授業支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します。
第2回	サステナビリティとは？（1）	サステナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義します。
第3回	サステナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義します。
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論します。
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論します。
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論します。

第7回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇と海洋汚染などの問題と持続可能な水産業について講義・議論します。
第8回	中間試験	中間試験と前半の振り返り。
第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論します。
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します。
第11回	災害	災害とサステナビリティの関係について講義・議論します。
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します。
第13回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論します。
第14回	期末試験	期末試験と後半の振り返りをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配付します

【参考書】

授業中に提示します

【成績評価の方法と基準】

講義中にディスカッションコメントの提出（30％）、中間・期末筆記試験（70％）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、ディスカッションコメントの課題などを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後もできるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。教室内でも学生同士がディスカッションできる機会が欲しいとの声があったので、適宜そうした時間も設けます。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、リアクションペーパー提出は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability." The main goal of this course is to help students to obtain basic knowledge of environmental anthropology and also to develop critical thinking skills by asking questions which require them to apply course materials and lectures for their own thoughts on sustainability and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams in addition to submit weekly commentaries by the deadline. A study time for a class on average is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and weekly commentaries (30%).

TRS200HA（観光学 / Tourism Studies 200）

環境表象論Ⅰ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環17：口、文

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にとどめ、捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好箇のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。
・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながる可以多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	ユネスコの「世界遺産」概説 その2	前回の補充（授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など）

第4回	文化財保護法の既存の文化財との比較（1）	日本の文化財の種類、内容
第5回	文化財保護法の既存の文化財との比較（2）	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第6回	文化的景観の多面的効用（1）	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第7回	文化的景観の多面的効用（2）	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材／「原風景」
第8回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（1）	重要文化的景観第1号のまちの市民活動の歴史、特色
第9回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（2）	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第10回	精神文化と一体の景観（1）	熊野三山（世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）
第11回	精神文化と一体の景観（2）	沖縄の御嶽、富士山
第12回	精神文化と一体の景観（3）	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第13回	精神文化と一体の景観（4）	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第14回	総集編	初回～13回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『『文化的景観』の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第I部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験55%、毎回の小テスト、中間レポート45%。毎回の小テストと中間レポートの総得点が6割に満たない場合は筆記試験を受ける資格がありません。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習することへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる（実際に行ってみたくなる）といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサスティナビリティーの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サスティナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

Goal

- ・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

- ・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 55%, each quiz and interim report 45% If your total score for each quiz and midterm report is less than 60%, you will not be eligible to take the written exam.

TRS300HA（観光学 / Tourism Studies 300）

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環37:口,文

その他属性：〈優〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景：

「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特色ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

- ・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
- ・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
- ・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることにメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「環境表象論Ⅰ」の概要／循環する自然に即した生活文化の遺産
第2回	有機的に進化する景観（1）	ユネスコの定義の意味／「観光文化」／四万十川の事例
第3回	有機的に進化する景観（2）—うつぐみの島・竹富島（前編）	景観の有形部分の真正性
第4回	有機的に進化する景観（3）—うつぐみの島・竹富島（後編1）	景観の有形部分を支える無形文化の厚み（伝統祭事等）
第5回	有機的に進化する景観（4）—うつぐみの島・竹富島（後編2）	島の子供からみる文化継承、持続可能な「観光」のとりくみと課題
第6回	伝統継承の階層的発想、無形文化尊重の潮流	「文化財」概念の進化に関する日本人の好適性
第7回	「五感」のエコロジーと文化的景観（前）	「五感」の視点の概説、視覚・聴覚・嗅覚の事例

第8回	「五感」のエコロジーと文化的景観（後）	触覚、味覚の事例
第9回	光と影・闇（前）	「光環境」という視点、夜の灯りに関するとりくみ事例
第10回	光と影・闇（後）	伝統文化における「闇・影」、星空、エコの視点からの重要性
第11回	音風景とは何か	サウンドスケープの概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第12回	「残したい日本の音風景100選」から（1）文化	「自然・生き物」の音風景と伝統
第13回	「残したい日本の音風景100選」から（2）その他	伝統的な生業に関わる音風景
第14回	総括—人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『『文化的景観』の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第Ⅰ部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（教室筆記）55%、毎回の小テスト、中間レポート45%。小テストと中間レポートの総得点が6割に満たない場合は、筆記試験を受ける資格がありません。

【学生の意見等からの気づき】

環境表象論Ⅰとはほぼ同様で、オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、紹介された場所に実際に行ってみたくなる、といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses"

For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (=the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.

Goal

- ・ This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"
- ・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").

・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and inconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each

Grading criteria

final exam 55%, each quiz and interim report 45% If your total score for each quiz and midterm report is less than 60%, you will not be eligible to take the written exam.

BSC200HA (基礎化学 / Basic chemistry 200)

サイエンスカフェ I

石井 利典

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/.Sat.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

2026年度の授業は、すべて対面での講義を予定しています。各回の授業では、化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。提出された課題（確認テストなど）からいくつかのポイントを取り上げ、課題提出後の授業、または学習支援システム、Google Classroomにおいて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1章 原子の構造と性質	原子の構造、放射線、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液pH値、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元（1）	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元（2）	COD(化学的酸素要求量)値およびDO(溶存酸素量)値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎（1）	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎（2）	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物（1）	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物（2）	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物（3）	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物（4）	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム
第12回	第7章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第13回	第8章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ

第14回 期末テスト（60分間）、まとめ・解説 第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト、およびまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。授業終了後に10分間程度で解答できる確認テストを実施します。提出は必須ではありませんが、提出されたものについては採点し、成績評価時に加点します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを使用します。授業で取り扱うすべてのプリント類は、学習支援システムまたはGoogle Classroomから各自ダウンロードしてください。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

入手先は、<https://www.daiichikyokasho.co.jp> を参照

【成績評価の方法と基準】

講義内で実施する確認テスト（10分間程度で解答×13回）：20％、期末テスト（60分間で解答×1回）：60％、課題レポート（800字程度×2）：20％の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムとGoogle Classroomとにアクセスできる情報機器と通信環境が必要です。

受講予定者は、Google Classroomのメンバーへの登録が必須になりますので、第1回講義がスタートする前にメンバー登録をお願いします。メンバー登録方法・登録可能期間は学習支援システムで予告します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand basic theory of chemistry and biochemistry for "Environmental chemistry I", "Environmental chemistry II" and "Environmental chemistry III".

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:60%, Short reports:20%, in class contribution:20%

BLS200HA（生物科学 / Biological science 200）

サイエンスカフェ II

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、学生は高校の生物学の知識を基本として、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学、疾患の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】
学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。
対面講義とオンデマンド講義により授業を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞

第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞
第11回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚 ビデオ鑑賞
第13回	発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・
第14回	まとめ（授業内試験またはレポート提出）	講義のまとめ、授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
最終講義における授業内試験、または学期末に提出を求めるレポートにより評価を行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology. This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.
Learning Objectives
Students will acquire a broad knowledge of histology and physiology necessary to understand the structure and mechanisms of their own bodies and to nurture good health.
The ultimate goal is to maintain and improve health and prevent diseases, which are important for students to live in the future.
Learning activities outside of classroom
Be curious about and observe your own body on a daily basis. Collect knowledge on related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Policy
Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the semester (100%).

BAB200HA（基礎生物学 / Basic biology 200）

サイエンスカフェIII

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みと、地球における生物の進化と適応、生物多様性について、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、生態学と生物多様性に関する基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物1	クジラとイルカの生態

第12回	海洋と沿岸の生物2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第13回	生物多様性1	3つの生物多様性、レジリエンスとは
第14回	生物多様性2	日本が世界の生物多様性ホットスポットとなっている理由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as wildlife and ecosystems in Japan, biological evolution, biodiversity.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

PLN200HA（地球惑星科学 / Earth and planetary science 200）

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環17：G,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には（１）気候変動科学のこれまでの経緯、（２）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（３）温暖化予測の概要、（４）大気と海洋の循環と熱収支、（５）炭素循環、（６）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。毎回実施するミニテストからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要（１）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要（２）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要（３）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要（４）	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。

第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。
第11回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第12回	放射平衡	大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第13回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第14回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

EAE200HA（環境解析学 / Environmental analyses and evaluation 200）

気候変動論 II

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環17：G,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体には（１）気温の変化とその測定方法、（２）温室効果ガスの増加とその原因、（３）エアロゾルの影響、（４）降水・積雪への影響、（５）海洋への影響、（６）気候変動の予測と不確実性、（７）適応策・緩和策、（８）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。最新の研究や観測の結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動論Iを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。毎回実施するミニテストからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（１）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（２）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（１）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（２）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。

第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。
第12回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を紹介する。
第13回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第14回	まとめ	講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストでは携帯電話やスマートフォンを用いる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Advanced knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境政策論 I

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：口,サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な自然環境保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第4回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第5回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第6回	自然環境をめぐる難題：貴重種1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第7回	自然環境をめぐる難題：貴重種2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第8回	自然環境をめぐる難題：外来種1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例

第9回	自然環境をめぐる難題：外来種2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など
第10回	日本の自然環境保全政策1	ワイルドライフマネジメント
第11回	日本の自然環境保全政策2	自然公園、自然環境保全地域など
第12回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など
第13回	里山	里山の特徴と変貌
第14回	生物多様性	生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17:グ,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ1	フランスの地方自然公園とエコミューゼ、ドイツのピオトーブ

第7回	海外の自然環境政策に学ぶ2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ3	欧州の農業環境政策、環境支払い
第9回	国際的な取り組み1	ラムサール条約、世界遺産条約
第10回	国際的な取り組み2	ワシントン条約と生物多様性条約
第11回	国際的な取り組み3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	地域資源の活用とエコツーリズム	エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光、自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりに生かす試み
第13回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、自然資本
第14回	生物多様性と政策	生物多様性オフセット、ピオトーブ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしてしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学 I

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。本授業・環境科学Ⅱを通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。

環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】

本授業では、主に地球規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。

具体的には、（１）気候変動、（２）生物多様性、（３）化学物質汚染について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を行う。

資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	気候変動（１）	気候変動の歴史、IPCCの将来予測
第3回	気候変動（２）	エネルギー資源
第4回	気候変動（３）	再生可能エネルギー
第5回	気候変動（４）	緩和策
第6回	気候変動（５）	適応策
第7回	気候変動（６）	国際環境政策の変遷、国連気候変動枠組条約の仕組み
第8回	気候変動（７）	日本国内における取り組み（気候変動適応法など）
第9回	気候変動（８）	気候変動と防災・減災
第10回	生物多様性（１）	生物多様性の意義、現状と課題
第11回	生物多様性（２）	国内外の取り組み（生物多様性条約・生物多様性基本法など）
第12回	化学物質汚染（１）	化学物質汚染の現状と課題
第13回	化学物質汚染（２）	国内外の取り組み（水俣条約・POPs条約など）
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門 [第3版]』 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a global scale.

[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.

[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。環境科学Ⅰ・本授業を通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。

環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】

本授業では、主に地域規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。

具体的には、（１）大気環境汚染、（２）水環境汚染、（３）土壌・地下水汚染、（４）廃棄物処理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を行う。

資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	大気環境汚染（１）	大気環境汚染の歴史と現状
第3回	大気環境汚染（２）	大気環境汚染のメカニズム、硫酸化物（SO _x ）、窒素酸化物（NO _x ）、微小粒子状物質（PM _{2.5} ）
第4回	大気環境汚染（３）	大気環境汚染への対策
第5回	水環境汚染（１）	水環境汚染の歴史と現状
第6回	水環境汚染（２）	水環境汚染のメカニズム、富栄養化、BOD、COD
第7回	水環境汚染（３）	水環境汚染への対策
第8回	土壌・地下水汚染（１）	土壌・地下水汚染の歴史と現状
第9回	土壌・地下水汚染（２）	土壌・地下水汚染のメカニズム、土壌環境基準
第10回	土壌・地下水汚染（３）	土壌・地下水汚染への対策
第11回	廃棄物処理（１）	廃棄物処理の歴史と現状
第12回	廃棄物処理（２）	日本における廃棄物の定義・区分
第13回	廃棄物処理（３）	廃棄物対策
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門 [第3版]』 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a regional scale.

[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution. [Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

SOM300HA（社会医学 / Society medicine 300）

衛生・公衆衛生学 I

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

備考（履修条件等）：環17：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探るところまで進んでいる。本講座において学生は、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

学生は、各種の健康問題の実情を学び、必要とされる健康行動について考えていく。

たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起こるのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に付けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～IIIの内容は若干重複することがある。授業において感想文などの提出を求めた場合には授業内でコメントをするなどのフィードバックを適宜行う。

対面とオンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるので、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第2回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第3回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第4回	ライフスタイルと生活習慣病③	活性酸素と水素 生活習慣病各論
第5回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第6回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第7回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について

第8回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第9回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第10回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第11回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第12回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第13回	感染症	性感染症・食中毒
第14回	まとめ	まとめ、レポート提出、または授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

人生100年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement. In this course, students will learn the basic concepts of preventive medicine and will acquire the knowledge on various health-related issues that are latent in modern society. The aim of the course is to raise health awareness and to acquire the skills necessary for individuals to manage their own health.

Learning Objectives

Students will learn about the realities of various health problems and think about the health behaviors required from younger age. For example, students will learn what happens to their bodies when they consume alcohol, which is often a problem in their daily lives, and will be able to think about specific ways to develop healthy behaviors to prevent problems related to drinking. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA（社会医学 / Society medicine 300）

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環17：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。本講義で学生は、健康に生きていくための公衆衛生についての重要な知識を身に着けることが可能となる。

学生は疫学の知識を身に着けることにより、ヘルスリテラシーを高める。また、生命倫理について深く学び、いかに健康に生きるかということを考えることを目標とする。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。また、学生は日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。さらに学生は生命倫理の諸問題について学び、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。映画の視聴に際し、感想文の提出を求めた際には講義の中でコメントを行う。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。対面と、オンライン（オンデマンド）を組み合わせる講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件

第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	社会保障	日本の医療制度について
第10回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務 安楽死・尊厳死 医療訴訟
第11回	生命倫理②	遺伝子関連問題
第12回	生命倫理③	遺伝病、色覚異常
第13回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第14回	まとめ	講義のまとめ、授業内試験、またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, students will have the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

Learning Objectives

In this course, students will learn the process of using epidemiology, health statistical methods, and sociological methods to investigate and raise issues, as well as to take further action. This will enable students to evaluate and discard health information that they come into contact with in their daily lives, and to take appropriate health actions.

In addition, students will learn about the current state of medical care in Japan and consider appropriate treatment behavior as a patient. Students will also learn about bioethical issues and consider how to live and how to die.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA（社会医学 / Society medicine 300）

衛生・公衆衛生学III

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環17：文、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。

現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり2025年度には2万人を切って過去最低となったが、いまだ若者の自殺は増加傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルヘルスケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を変えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンライン、オンデマンドによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について

第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ
第8回	精神障害④	摂食障害について
第9回	精神障害⑤	不安障害
第10回	精神障害⑥	統合失調症
第11回	精神障害⑦	発達障害と就労問題
第12回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実践について（有効な疾患）
第13回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実践について（サプリメント）
第14回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.

Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends. Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.

Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.

Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.

Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.

Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす可能性のある自然現象は繰り返して発生しており、将来も発生すると考えられる。防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「何が」「どこで」「いつ」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどのように備えるか。自然災害のリスクとその低減に向けた取り組みを見つめなおす。

【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。

災害リスクを低減させる取り組みについて自然と社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は主に自然界のもたらすハザードを扱い、後半はそれを踏まえて人間社会の取り組みについて検討する。講義形式。図表等の資料も活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第2回	土地条件評価	地形、表層地盤、活断層
第3回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地震発生繰り返しモデル、長期評価
第4回	地震災害の諸相（1）	地殻変動、地震動、液状化
第5回	地震災害の諸相（2）	地震火災、津波、津波火災
第6回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第7回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第8回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流
第9回	土地利用と社会基盤（1）	災害危険区域、津波災害警戒区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転、流域治水
第10回	土地利用と社会基盤（2）	耐震基準、活断層と土地利用
第11回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、特別警報、気象警報・注意報、緊急地震速報、津波警報・注意報、噴火警報・注意報
第12回	避難	避難情報、避難場所、避難所、警戒レベル

第13回	災害の歴史・災害経験の継承	記録と記憶、災害史、碑、災害遺構、活断層の保存
第14回	ハザードマップと防災教育	ハザードマップ、災害図上訓練（DIG）、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable society. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster risk. Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain what determine the risk of natural disasters, and (2) to explain efforts to mitigate natural-disaster risk from the perspective of the natural environment and human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環17：G,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通して共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	海洋島の自然	海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	世界の自然とツーリズム	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論 I

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

備考（履修条件等）：環コア：経,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、PFAS（ペルフルオロアルキル化合物）に代表される残留性有機化合物やマイクロプラスチックによる水質汚染が国際的に注目されている。気候変動による豪雨や淡水の枯渇により利用できる水が減少しており、水危機の時代ともいわれている。人間は水が無いと生きていけないが、我々が日々安全で安心な水を利用するためには水源である河川や地下水を汚染しないことが重要である。日本は1960年代に水俣病に代表されるような甚大な産業公害を経験し、現在は水質保全のための法律が整備され、工場による法順守が徹底されることで公害防止が行われている。本講座では水質保全のために企業が行うべき水環境管理について学ぶ。具体的には、水質汚濁防止に関する法律、水質汚染の現状と発生源、水質汚染機構と健康影響、水の浄化技術と水質測定について学ぶ。

【到達目標】

水質汚濁防止に関連する法律や工場内における公害防止管理者の役割について理解する。工場から排出される汚染物質の種類とその処理方法について理解する。具体的には水質を管理するための指標となるBOD、COD、SS等の専門用語、凝集沈殿処理、活性汚泥法等の水処理の基本的技術の概要を理解する。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルを養う。講義内で公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練を行い、授業終段階では、水質概論及び汚水処理特論の問題を7割程度正解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

公害防止管理者試験水質1種及び2種に出題される問題が解けるレベルの水質概論、汚水処理技術及び水質測定の知識を効率的に取得するため、毎回、講師の作成したパワーポイントを用いて要点を絞った講義を行う。講義内で公害防止管理者国家試験の過去問題に挑戦することで、出題傾向を知り、解答テクニックを取得する。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	公害の歴史と公害防止管理者の役割	日本の環境問題の変遷と公害防止管理者法について学ぶ。
2	水質汚濁の発生源、汚濁機構、環境影響	水質汚濁の発生源と富栄養化、赤潮発生、生物濃縮、地下水汚染等の環境影響について学ぶ。
3	水質汚濁に関連する法律	環境基本法及び水質汚濁防止法について学ぶ。
4	演習1 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（水質概論の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
5	汚水処理を学ぶための基礎知識	BOD、COD等の用語定義を学び、溶解度、酸とアルカリ、酸化還元、化学反応、錯体とキレート等の化学の基礎を復習する。

6	汚水処理1 排水処理計画、沈降分離	工場における水利用の考え方について学ぶ、排水の基本処理である沈殿分離について理解する。
7	汚水処理2 凝集分離と浮上分離	凝集分離及び浮上分離の原理と装置構成を学ぶ。
8	汚水処理3 ろ過分離、化学処理	砂ろ過の機構、中和、酸化還元、活性炭吸着等の各種物理・化学処理について学ぶ。
9	汚水処理4 生物処理法（活性汚泥法）	生物処理法の概要、活性汚泥法の原理や装置について学ぶ。
10	汚水処理5 生物処理法（嫌気処理法）	嫌気処理法の原理や装置について学ぶ。
11	汚水処理6 窒素及びリンの処理、汚泥の脱水	生物処理による脱硝脱窒方法およびリン除去技術、汚泥の脱水技術について学ぶ。
12	演習2 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（汚水処理技術の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
13	水質測定	公害防止管理者試験に出題される、BOD及びCOD等の水質測定項目に的を絞って学ぶ。
14	期末テスト	本講座で学んだ、法律および排水処理、水質測定に関連する問題に関する理解度を確認するテストを行う。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義で配布するパワーポイントを講義前に学習支援システムにアップするので、ダウンロードして予習する。「新・公害防止技術と法規（水質編）」のテキストで講義に関連する箇所を予習、復習する。授業の予習は1時間、復習も2時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】

基本的に講義毎にパワーポイントの資料を配布する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（水質編） （一社）産業環境管理協会 出版

【成績評価の方法と基準】

演習の講義で小テストを行う。その点数を20点満点とする。期末テストは80点満点とする。課題と期末テストの合計（100点満点）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

排水処理技術は化学式や計算が多く出てくるため、化学知識がゼロベースの学生にも分かりやすく、基礎から教えるよう心掛ける。講義内で大学教養レベルの化学の基礎知識について適宜、復習する。文系の学生にも興味を持ってもらえるよう、近年の水質汚染が社会に与える影響なども交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

講師は中国及びタイ、カンボジア、ミャンマー、カンボジア等の東南アジアにおいて、公害防止管理者制度及び公害防止技術の移転事業に18年携わっており、さらに、水質測定の日本産業標準規格（JIS）及びISO（国際標準化機構）において水質測定関連の規格開発を長年行っている。これらの経験を活かし、学生には、国内だけでなく、国際的視点で水質汚濁問題をとらえるような講義を行う。関連資格は公害防止管理者資格（水質）、関連する科目は環境法規、環境ビジネスなどである。

【Outline (in English)】

In recent years, water pollution by persistent organic compounds represented such as PFAS (perfluoroalkyl compounds) and microplastics has attracted international attention. Heavy rainfall and the depletion of fresh water due to climate change have reduced the amount of available water, and we are said to be in an era of water crisis. Humans cannot live without water, but in order for us to use safe and secure water on a daily basis, it is important not to pollute rivers and groundwater, which are the sources of water. Japan experienced enormous industrial pollution in the 1960s, as exemplified by Minamata disease, and now laws have been established to protect water quality, and pollution is being prevented through thorough compliance with the law by factories. In this course, students learn about water environment management that companies should implement to protect water quality. Specifically, students learn about laws related to water pollution control, the current status and sources of water pollution, water pollution mechanisms and health effects, water purification techniques, and water quality measurement.

The evaluation for this course is as follows: Students should perform a report assignment. Submission of the assignment can be worth a maximum of 20 points. The final exam is worth a maximum of 80 points. The grade will be based on the sum of the assignments and the final exam. You should spend about one hour preparing for class and two hours reviewing.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：経,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を抑制、管理するための関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。

公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題（その1）	気候変動とエネルギー問題、環境関連の国際的な取組について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題（その2）	国内の大気の状態について、環境基準の達成率やPM2.5及び光化学オキシダント生成、水銀排出等の問題について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。

第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第6回	アクティブラーニング 課題1	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第7回	燃焼管理技術	カーボンニュートラル達成のための新技術について触れながら、日本のエネルギー事情について学ぶ。また、燃料の種類や効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第10回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第11回	アクティブラーニング 課題2	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第12回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第13回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第14回	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味のもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新・公害防止の技術と法規（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（大気編）発行所（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート2回の評価 各20(%)×2 期末テスト60(%)

【学生の意見等からの気づき】

化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で配布した資料

【その他の重要事項】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

Course outline：

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities. The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives :

-To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.

-To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.

-To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.

-To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom :

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Each Report : 20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

SEE300HA（科学教育・（教育工学） / Science education/ Educational technology 300)

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

今年度は特に「自然とかかわる環境教育（自然体験）」がテーマです。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

また、環境問題および環境教育・ESDを「自分とは無関係な知識」ではなく、自らの立場・経験・価値観と結びつけて捉え、批判的かつ建設的に評価できる力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業形態は、講義のほか参加型（グループワークなど）を行う。詳細は、授業支援システムで連絡する。

リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と導入
第2回	環境教育の基礎（講義）	環境教育についての基礎（定義・歴史・特徴および実践事例）
第3回	環境教育の変遷～知識教授から参加体験型へ	環境教育は、なぜ知識教授だけでなく参加体験型の方法をとるのか？
第4回	環境教育の実践例ー自然体験学習	自然とかかわりや自然を守る環境教育の事例を学ぶ
第5回	持続可能な開発のための教育（ESD）	持続可能な開発のための教育について解説 最近の環境教育の特徴を紹介
第6回	環境教育を「評価する視点」	良い環境教育とは何か、環境教育を評価するとはどういうことか考える
第7回	中間課題準備：環境教育施設を調べよう	環境教育施設を調べ、訪問し、発表の準備を行います
第8回	中間課題発表	第7回までに調べた環境教育施設について発表（プレゼン）を行う
第9回	環境教育を深める・1～持続可能な開発と環境正義	環境教育への理解を発展させる キー概念を学ぶ

第10回	ゲストスピーク「地域で取り組む環境教育の事例」	地域に根差した環境教育の意義や可能性を学ぶ
第11回	ソーシャルアクションワークショップ	環境問題を解決するアクション（行動）について考える
第12回	環境教育を深める～子どもの権利の視点から	子どもの権利の視点から、環境教育をとらえなおす
第13回	環境教育を深める～自然学校の事例から	教育と地域の持続可能性について実践事例を通じて考える
第14回	まとめ・論述試験	これまでの学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。

環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず授業内で資料を適宜配布・紹介する

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版

『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編

『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版

『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

『知る・わかる・伝えるSDGs I』、阿部治・野田恵編著、学文社

『知る・わかる・伝えるSDGs II』阿部治、二ノ宮リムさち編著、学文社

『子ども白書2024』子どもを守る会編、かもがわ出版

【成績評価の方法と基準】

詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。

・平常点：授業参加度、学習状況、授業内小テスト（5％×10回＝50％）

※授業内で、毎回（第6、7、8、14回は除く）コメントペーパー又は小課題を出します

・中間課題：環境教育施設を訪問しレポート、授業内（第8回）で発表する（35％）

※課題の内容と発表方法は、授業内で詳しくお知らせします

・最終論述テスト：第14回に、授業内で論述試験を行います。（15％）

※持ち込み可、スマホPC使用不可

授業のねらいが「自分なりの考えを持つこと」なので、生成AIの使用防止のため

対面授業内で論述試験に取り組む

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評だったので、引き続き取り入れる。課題が多かった、文字制限が厳しかったという意見があったので改善する。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。

資料やお知らせは、WebClass経由で配布します。授業時間中にアクセスできるようにパソコンやスマホ・タブレットなども機器を準備してください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.

【Learning activities outside of classroom Before/after】 each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Policies】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (35%), term-end examination (15%), and in-class contribution with comment sheet.

CAR200HA（キャリア教育 / Career education 200）

キャリア入門

櫻井 洋介

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、これから社会に出て自身のキャリアを形成していく学生が、自らの意思で自律的なキャリアを構築できるように、キャリアに関する必要な理論や基礎知識の習得を目指します。また、講義の後半には、自分自身のキャリアを考えてもらう機会を提供します。

【到達目標】

自らの意思で自律的にキャリアを形成していくため、キャリア論や労働環境に関する基礎知識を習得すること。自身のキャリア展望について、理論をもとに考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は講義形式で進めます。受講人数にもよりますが、後半は個人ワークやグループワーク等を通じて、自身のキャリアについて考えていただき、個人発表またはグループ発表を行ってもらいます。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方等に関して説明を行う。
第2回	キャリアとは何か	キャリア概念の定義や特徴、キャリア研究のアプローチ方法等について学ぶ。
第3回	ライフサイクルと組織内キャリア形成	ライフサイクルの進展に合わせたキャリアの発達について学ぶ。
第4回	就職活動とインターンシップ	近年の就職活動の動向や求職市場にインターンシップ制度の役割等について学ぶ。
第5回	日本の雇用慣行と組織制度	日本の雇用慣行や変遷、組織制度について学ぶ。
第6回	伝統的キャリアから現代的キャリアへ	バウンダレス・キャリア、プロティアン・キャリアといったような現代的なキャリア観を学ぶ。
第7回	ワークライフバランスとメンタルヘルス	ワークライフバランスに関する近年の動向や労働者の価値観、企業の取り組み等について学ぶとともに、メンタルヘルスの重要性についても取り上げる。
第8回	キャリアの発達と自己実現	自身のキャリア発達が成功であると感じる要素は何か、先行研究等をもとに考える。
第9回	労働関連法規と労働者の権利	自律的にキャリアを構築していく上でおさえておくべき労働関連法規の基礎や、労働者としての権利（キャリア権等）について学ぶ。
第10回	持続可能なキャリア（サステナブルキャリア）とは	近年、注目を集めるサステナブルキャリアの概念について考える。

第11回	人と組織に関する現代的課題	人的資本経営の推進や最新技術の導入による働き方の変化、それによる労働者への影響等、人と組織を取り巻く現代的課題について考える。
第12回	自身のキャリアについて考える①（個人ワーク、グループディスカッション）	これまで学んできたことをもとに、自己理解のための個人ワークやグループディスカッションを通じて、自身のキャリアを考える。
第13回	自身のキャリアについて考える②（個人発表またはグループ発表）	個人あるいはグループで発表を行い、ディスカッションを実施する。
第14回	自身のキャリアについて考える③（個人発表またはグループ発表）	自身のキャリアについて考える③（個人発表またはグループ発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料や参考書等をもとに予習・復習をお願いします。毎回の講義の後に、予習箇所は指示します。また、個人発表やグループ発表に向けて、授業時間外にも準備をしていただくことになります。講義の最後に、ワークや発表の成果をレポートの形でまとめてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

柏木仁『キャリア論研究 補訂版』（文眞堂, 2020）

【成績評価の方法と基準】

平常点（講義やディスカッションへの参加、貢献）を20%、個人ワークやグループワーク等の成果発表を30%、レポート課題を50%とします（レポートは、個人ワークやグループワークの成果発表の内容をまとめて頂くことを想定しています）。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて、プレゼンテーション発表の前に「プレゼンテーションの方法」に関する解説講義を行うこととします。

【その他の重要事項】

本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture aims to provide students who are going to develop their own careers with the necessary theories and basic knowledge so that they can build autonomous careers on their own initiative. The lectures also provide students with an opportunity to consider their own careers.

【Learning Objectives】

To acquire basic knowledge of career theory and the working conditions in order to develop their own career autonomously on their own initiative.

To be able to consider their own career prospects based on the theory.

【Learning activities outside of classroom】

Please prepare and review based on the handouts and reference books. Preparation materials will be given after each lecture. In addition, students are expected to prepare for individual and group presentations outside of class time. At the end of the lecture, students will be required to write a report on the results of their work and presentations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

20% will be given for usual performance score (participation and contribution to lectures and discussions), 30% for presentation of individual and group work, and 50% for reports (the summary of the results of individual and group work).

ASS300HA（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300）

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：環17：経,口,グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを目指す。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガFTAの締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点や今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面形式による講義を実施する。不定期にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ：農業問題と農業政策	経済発展が先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第2回	国際農産物貿易交渉の展開過程	1980年代のGATTウルグアイ・ラウンドから近年のFTAに至る過程を、世界経済の構造転換に注目しながら解説する。
第3回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加したTPP及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第4回	アメリカ農業の歴史と現状①	日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。
第5回	アメリカ及びカリフォルニアの稲作	日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。
第6回	アメリカ農業の歴史と現状②	アメリカの食料・農業問題を扱ったDVDを鑑賞し、第4～5回授業の理解を深める。

第7回	国際農産物市場と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易の状況を開設するとともに、食料自給率と食料自給力に示される食料安全保障のあり方について考察する。
第8回	日本経済の動向と食料消費	日本経済の構造転換、及び家族関係の変化の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第9回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに登場してきた集落営農組織、農外企業の企業参入等の農業の担い手について、地域的多様性や農地制度改革に注目して検討する。
第10回	農業労働力の脆弱化と確保の課題	農業労働力が昭和一代や団塊世代の高齢化・引退によって枯渇していること、新規就農者や外国人労働者等によって確保が試みられていることを説明する。
第11回	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。
第12回	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯する日本の農山村再生のために求められる政策について、近年の田園回帰の動向に注意を払いながら検討する。
第13回	エピローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。
第14回	授業内試験	授業内試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。学生は、授業の前にポータルシステムにアップされる講義資料を予め読んでおく、また授業後に見返しておく。また、授業中に紹介される参考書を読むことも推奨される。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことも望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を事前にポータルシステムにアップするので、各自プリントアウト等をして授業に臨むこと。授業内では配布しない。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012年（本体2,600円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年（4,200円＋税）。
- ④農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100%（授業内試験を予定。実施方法は授業中に指示する）

【学生の意見等からの気づき】

実際の受講者に対して教室が広すぎ、学生との意思疎通が難しかった。機会があれば、小さい教室を利用したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料や連絡事項をポータルシステムにアップするので、定期的にチェックをすること。また、公開期限を過ぎた資料は再度アップしないので注意されたい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization caused by mega FTAs.

[Learning objectives]

Students will be expected to 1) have basic knowledge of agricultural economics and politics, 2) have thoughts about issues and future directions of Japan's agriculture, and 3) be able to express them logically.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to study for two hours outside of classroom through reading class materials uploaded on the Hoppii.

[Grading criteria/policy]

Grading will be given based on term-end examination (100%).

ASS300HA（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300）

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で受講生は「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を検討し、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

【到達目標】

受講生はフィールドワークにもとづいた食と農の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農と環境の関係の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な限り、対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー1番身近なSDGs	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える。
第2回	食と農の現代的課題	身近な現代的課題から食と農とSDGsについて考えるきっかけを得る。
第3回	環境を考える「環」の視点ー私たちは何者なのか	食するという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える。
第4回	近世日本の食と農と環境ー下肥の世界	近世日本の人びと、食と農と環境の関係について考える。
第5回	近代日本における循環構造の再編ー都市化と疫病と衛生観	都市化と疫病と衛生観について考える。
第6回	戦後日本の環境行政ー清掃事業をめぐって	戦後日本の食と農と環境の関係を清掃事業から考える。
第7回	講義前半についてのオープンダイアログ	簡単なワークショップを実施する予定。
第8回	現代日本の食と農と環境ー「環」の世界は今	現代日本の現状を再考する。
第9回	食べものはどこから来たのかー「種子」から考える	現代の食と農について考える。
第10回	食べものとは何か（1）ー胃袋と社会	地域社会事業と食と農の関係について考える。
第11回	食べものとは何か（2）ー土と農業	戦後農政と農村について考える。
第12回	食べものはどこへ行くのか（1）ー食の再考	食べもの、食べること関わる現代社会の状況を把握する。

第13回 食べものはどこへ行くのか（2）ー食の可能性

第14回 私たちはどこへ行くのか 講義内容を総括し、今後の課題を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち考察を深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

・湯澤規子、伊丹一浩、藤原辰史編著『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、2024年
 ・湯澤規子『胃袋の近代ー食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
 ・湯澤規子『7袋のポテトチップスー食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
 その他、随時紹介します。
 ・湯澤規子『ウンコはどこから来てどこへ行くのかー人糞地理学ことはじめ』ちくま新書、2020年
 ・佐藤大介『13億人のトイレー下から見た経済大国インド』角川新書、2020年
 ・真田純子・湯澤規子『地球のまかないごはんー食・農・風景をめぐる往復書簡』農文協、2026年

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）によって評価します。試験は持ち込み不可の筆記試験です。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な資料を用いた講義が好評でしたので、引き続き活用したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆Course outline

In this lecture, students will examine the history of society and economy from the perspective of "food" and "agriculture," with the aim of gaining a perspective on contemporary society and its future.

◆Learning Objectives

Students are expected to think about food and agriculture issues from a multifaceted and multifaceted perspective, based on fieldwork-based research in regional economics, as well as knowledge and results from geography, history, anthropology, sociology, and ethnography.

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Please pay attention to newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to the lecture content and deepen your consideration. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on reaction papers (30%) and final report (70%).

ASS300HA（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300）

食と農の環境学III

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史という縦軸、地域という横軸にもとづいて、地域の「食べもののがたり」を知り、考える。「食」と「農」の関係を考える視座を共有し、持続可能な「環境」やこれからの社会について議論する。

【到達目標】

受講生は「食」と「農」をつなげて「環境」や「地域」の魅力を理解し、説明し、発想・構想・実践できる知識と能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	食と農の「今」に関わるトピックを紹介する。
第2回	地域の「食べもののがたり」	知っている、経験したことがある地域の「食べもののがたり」について話し合う。
第3回	食を生み出す地域を歩く（1）	歴史・自然・技術を複合的に理解し、食と農と環境の関係を論じる。
第4回	食を生み出す地域を歩く（2）	歴史・自然・技術を複合的に理解し、食と農と環境の関係を論じる。
第5回	食と農の歴史をひもとく（1）	歴史的な視座から食と農を論じる。
第6回	食と農の歴史をひもとく（2）	歴史的な視座から食と農を論じる。
第7回	食と農のローカルとグローバルを再考する（1）	身近な事象から食と農のローカルとグローバルを考える。
第8回	食と農のローカルとグローバルを再考する（2）	身近な事象から食と農のローカルとグローバルを考える。
第9回	食と農をジェンダーで読み解く（1）	食と農に潜むジェンダーの問題を議論する。
第10回	食と農をジェンダーで読み解く（2）	食と農に潜むジェンダーの問題を議論する。
第11回	食と農の学びと探究をひらく（1）	食と農と環境を様々な分野へつなげて考える。
第12回	食と農の学びと探究をひらく（2）	食と農と環境を様々な分野へつなげて考える。
第13回	食と農の人文学としての環境学	これまでの講義内容をふまえて、現代的な社会課題について議論する。
第14回	まとめ	総括と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や指定教科書等を使用して必ず予習・復習をすること。

「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

・湯澤規子『7袋のポテトチップスー食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年

その他、随時紹介します。

・湯澤規子『胃袋の近代一食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年

・金田章裕『和食の地理学ーあの美味を生むのはどんな土地なのか』平凡社新書、2020年

・湯澤規子、伊丹一浩、藤原辰史編著『入門 食と農の人文学』ミネルヴァ書房、2024年3月刊行

・真田純子・湯澤規子『地球のまかないごはんー食・農・風景をめぐる往復書簡』農文協、2026年

【成績評価の方法と基準】

期末試験100％によって評価します。試験は持ち込み不可の筆記試験です。

【学生の意見等からの気づき】

食と農に関する身近な話題を入口にして、いくつかの基本的な理論を紹介します。やや難しい理論も分かりやすく伝えるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆Course outline

In this lecture, students will learn and think about the "food story" of the region based on the vertical axis of "history" and the horizontal axis of "region". We will share the perspective of thinking about the relationship between "food" and "agriculture" and discuss sustainable "environment" and future society.

◆Learning Objectives

Students will acquire the knowledge and ability to understand, explain, conceive, conceptualize, and practice the appeal of "environment" and "region" by connecting "food" and "agriculture".

◆Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Be interested in newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to "food" and "agriculture", and if possible, actually visit, eat, and experience them through the five senses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the following criteria:100% for final examination.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑十次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義（1）	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトルの思想（1）：『存在と無』と『嘔吐』を中心に（i）
第3回	個人の自由と反植民地主義（2）	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトルの思想（1）：『存在と無』と『嘔吐』を中心に（ii）
第4回	個人の自由と反植民地主義（3）	ライシテとフランス現代社会（i）
第5回	個人の自由と反植民地主義（4）	ライシテとフランス現代社会（ii）

第6回	個人の自由と反植民地主義（5）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）——ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に（a）
第7回	個人の自由と反植民地主義（6）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）——ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に（b）
第8回	個人の自由と反植民地主義（7）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）——ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に（b）
第9回	個人の自由と反植民地主義（8）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）——ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に（c）
第10回	個人の自由と反植民地主義（9）	実存と人種差別・植民地主義の問題（II）——フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（a）
第11回	個人の自由と反植民地主義（10）	実存と人種差別・植民地主義の問題（II）——フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（b）
第12回	実存とフェミニズム（1）	実存・フェミニズム・老い——シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想（1）：『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に（a）
第13回	実存とフェミニズム（2）	実存・フェミニズム・老い——シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想（1）：『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に（b）
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100 %

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近現代社会哲学・思想（「規律と権力」、「記憶のエチカ、歴史のエチカ」）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期については、前半はミシェル・フーコーの思想を中心に、規律と権力の関係について考察します。後半は、私たちが、「記憶」と「歴史」をめぐる、過去の出来事を語るときにどのようなかたちで語るのか？、また、無数ある出来事と記憶とのどのような関係をもつのか？ などについて討究します。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第3回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（1）
第4回	権力と規律社会（3）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（2）
第6回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバルの市民権論
第7回	記憶と語り	長崎原爆の言説の変遷

第7回	全体主義批判と人間性の問題（1）	フランク・パプロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』などを中心に
第8回	全体主義批判と人間性の問題（2）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅰ）
第9回	全体主義批判と人間性の問題（3）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅱ）
第10回	全体主義批判と人間性の問題（4）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅲ）
第11回	全体主義批判と人間性の問題（5）	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』、『エルサレムのアイヒマン』
第12回	全体主義批判と人間性の問題（6）	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』
第13回	歴史的建造物の修復	ヴィオレ＝ル＝デュクの仕事
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

進捗と学生の理解度、双方を勘案して、シラバスの授業計画通りに進められるようにする。

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100 %

PSY100MA (心理学 / Psychology 100)

キャリアと心理学

岩本 慧梧

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学とは、心のメカニズムを科学的な手法を用いて明らかにすることを旨とする学問である。この授業では、人の「キャリア」を理解する上で必要となる心理学の基礎的な概念や理論を広く紹介することで、受講生が心理学の学術知を活かしたキャリアデザインの実践や、キャリアデザイン研究をおこなうための土台となる知識の獲得を目指す。

【到達目標】

- ①受講生が自身や他者のキャリアデザインをおこなう際に、心理学の知識を活かした実践ができるようになること
- ②キャリアデザイン研究をおこなう際に、必要となる心理学の研究を自ら参照する上で必要となる知識の土台を身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業内課題やリアクションペーパーの提出には、Google Formを活用する予定である。提出された課題やリアクションペーパーの内容については、講師が授業内で積極的に紹介し、双方向性のある授業の実施を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・心理学を学ぶ意義	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及び心理学を学ぶ意義について説明する。
第2回	記憶・思考	人間の記憶のメカニズム、日常の中での思考の働きについて説明する。
第3回	知的能力と発達	知能の定義および測定法について説明する。また、人の生涯での成長や発達に関する基本的な理論やそれらを捉える上で重要な概念について解説する。
第4回	パーソナリティ	自己概念とパーソナリティに関する基礎的な理論を説明する。
第5回	24の強み	ポジティブ心理学における24の強み研究とキャリアデザインとの関連について説明する。
第6回	非認知能力	非認知能力が注目されるようになった展開と、非認知能力として扱われている心理学的概念について紹介する。
第7回	モチベーション（1）	モチベーションの基礎的な理論について説明する。
第8回	モチベーション（2）	モチベーションの理論をキャリアデザイン支援にどのように活かすかについて説明する。
第9回	対人認知	人が他者に関わる理解する際に特有の人の認知のメカニズムに関する基礎的な理論を説明する。

第10回	コミュニケーション	コミュニケーションの機能や、親しみのあるコミュニケーションの特徴について説明する。
第11回	集団	援助行動、社会的促進など他者存在の影響に関する研究を説明する。
第12回	心の健康	ストレスに関する基礎的な理論と支援について説明する。
第13回	ウェルビーイング	ウェルビーイングに関する基礎的な理論と、代表的な介入方法について説明する。
第14回	まとめと総括	講義内容についての振り返りを行う。受講生の要望に応じて、13回の講義で取り上げられなかった心理学のトピックについて補足を行う場合もある。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の参考書の指定は行わない。

【参考書】

授業内容をさらに深く理解する助けになるテキストについては、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施される「理解度テスト」（計2回を予定、合計70%）、および授業外「レポート課題」（1回、30%）に基づいて評価される。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

授業内でリアクションペーパーはオンラインで提出を求めため、パソコンやスマートフォンの利用環境を整えておくことが求められる。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces foundational psychological concepts and theories necessary for understanding human career development. By broadly covering key ideas in psychology relevant to “career,” the course aims to help students build a solid knowledge base that supports (1) applying academic psychological knowledge to practical career design and (2) conducting research on career design informed by psychological science.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to:
apply psychological knowledge to the practice of designing their own and others' careers.

acquire a foundational understanding that enables them to independently locate, read, and refer to psychological research necessary for conducting career design research.

Learning activities outside of classroom

Course materials will be uploaded to the learning management system. Students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class meeting.

Grading Criteria / Policies

Final grades will be determined based on the following components:

Understanding tests (two tests in total): 70%

Report assignment (one out-of-class report): 30%

LAW200MA（法学 / law 200）

キャリアと労働法

砂押 以久子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な法律の知識を習得することを目的とします。

【到達目標】

現在、就労をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において、「働き方改革」が断行されたわけですが、この「働き方改革」をめぐるっては、新たにいくつかの問題が提起されており、議論の必要性が指摘されています。

また、非正規雇用の問題に関しては、さまざまな法規制がなされてきてはいますが、非正規社員と正規社員との間の格差は依然として存在し、問題が解決されているとはいえません。この問題について、どのような解決法が考えられるか、今後のあり方について、検討を加えたいと考えます。

このほか、雇用におけるジェンダーギャップの問題も完全に解決されたわけではありません。

さらに、わが国の生産性が国際的にどんどん低下する中、雇用の流動性なども図られるべきではないか等の議論もなされています。

この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学び、上記のような雇用をめぐる現代の問題をも検討しつつ、実施の就労の現場で、働く者として不利益を被らないために必要となる知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授業計画に示します。

教科書を用い、教科書の内容に沿って授業を進めていきます。

テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提出してもらったリアクションペーパーに関しては、次の授業において可能な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論を深めることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス 労働法とは？	授業をどのように行うかについての詳細を示します。 雇用に関するルールの概要を学びます。
第2回	採用から入社まで	採用内定取消しなどの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
第3回	賃金	賃金保障がどのようになされているか学びます。
第4回	労働時間	労働時間規制がどのようになされているかについて学びます。
第5回	長時間労働をめぐる問題①	長時間労働をめぐるどのような問題が生じているかを指摘します。

第6回	長時間労働をめぐる問題②	長時間労働をいかに防ぐかについて検討します。
第7回	家庭と仕事の両立	休暇制度の仕組みについて学びます。少子化対策で様々な法制度ができていますが、実際にはどのような問題が起きているのか学びます。
第8回	雇用差別	雇用におけるさまざまな差別問題を取り上げ、検討します。
第9回	人事制度	人事制度をめぐるさまざまなルールを学びます。
第10回	懲戒制度と内部告発（公益通報）	懲戒制度に関し具体的な問題を取り上げ、学びます。なかでも、最近問題になっている内部告発（公益通報）について検討します。
第11回	ハラスメント	職場におけるハラスメントの実態とその予防について学びます。
第12回	雇用の終了	雇用の終了の仕方には、解雇・合意解約・退職があります。それぞれの問題について学びます。
第13回	非正規雇用	正社員と有非正規社員の違い及びその問題について学び、今後の解決策について検討します。
第14回	試験・まとめと解説	授業の内容が理解できたかについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

砂押以久子『教えて！働くなら知っておきたい法律の知識 労働法講義』自由国民社（2024年）1800円

【参考書】

菅野和夫『労働法〔第13版〕』弘文堂
荒木尚志『労働法〔第6版〕』有斐閣
浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法〔第6版〕』有斐閣アルマ
別冊ジュリスト『労働判例百選〔第10版〕』有斐閣
『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を実施します。
平常点（リアクション・ペーパーなど）（20％）と試験の点数（80％）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

取り上げるテーマに関して、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題なのか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。受講生からの質問・意見を受け付け、フィードバックを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じDVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】

授業内容については、シラバスに示した内容に沿って行うことを前提としますが、授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があること、それに伴い、オンライン授業・対面授業も変更になることを予め承いたいただきたく存じます。なお、授業内容に変更がある場合は、できるだけ早い段階で、事前にお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire getting the fundamental legal knowledges - especially labor law related mattes.

【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire the correct legal knowledge of labor law to avoid suffering disadvantage as a worker in real business world.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 80%, Short reports : 20%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ファシリテーション論

徳田 太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5030

科目名：ファシリテーション論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5030

科目名：ファシリテーション論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞＜実＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
- ・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
- ・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
- ・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
- ・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
- ※第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
- ※大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
第2回	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）

第3回	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
第4回	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
第5回	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
第6回	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
第7回	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
第8回	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
第9回	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
第10回	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ（講義・演習）
第11回	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
第12回	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
第13回	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
第14回	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

- ・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）
- ・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）
- ・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

若者と自立支援

大山 宏

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土2/Sat.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。

この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態については基本的に対面の講義形式で行う。ただし授業の進捗に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性がある。また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認をしておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第2回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワードの整理
第3回	「就業」と生きづらさ	「就業」を基盤とした自立についての検討
第4回	若者の生きづらさへの対応	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第5回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第6回	困難を有する若者への支援	若者世代が抱えやすい課題の整理と、課題を抱えた若者への対応について
第7回	参画支援	若者と社会の関係性について

第8回	対話への参加	相互に影響を与え合う関係性に、若者が参加していく構造について
第9回	現代的な自立の検討	現代社会における自立概念の射程について
第10回	若者と社会	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第11回	社会の創り手としての若者	自立として若者に求められる要件を、社会への適合と、社会の変革の双方の視点から整理する
第12回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第13回	若者支援の範囲	若者支援の領域で対応すべき課題の多様さについて
第14回	総括 若者の自立支援とは	自立の要件 若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファーロン/フレッド・カートメル・大月書店
など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：40％
レポート：60％

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例について触れることが、理解度の向上につながるという意見が多数寄せられており、今年度もできるだけ具体的に現場の様子等が伝えられるように授業を行っていく。また、前年度は毎回の授業で提出してもらったリアクションペーパーに対する返しを重点的にを行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは授業前に学習支援システムにアップロードするので、それを見られるようにすること。また、レポート提出等にも学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following reports : 60%, in class contribution: 40%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

労働市場と職業選択

上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から、また労働市場の動向との関連において理解し検討できるようにすることを目指します。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか、企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのかを理解し、近年の変化にも目を向けます。

さらに、アルバイトのトラブルを手がかりに、労働法への理解を促し、職場の労務管理や労働条件に注目することの必要性を理解します。

【到達目標】

個人のキャリアにおける大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意味と課題を、一步引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。

大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計6回、授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。加えて中間と期末、2回の授業内試験（論述試験）を実施します。

初回の授業はオンライン（Zoom）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介（Zoomで実施）
第2回	大卒労働市場を考える	卒業生の進路状況と早期離職状況、社会情勢との関係
第3回	企業は採用選考で何を評価しているのか	採用プロセスと選抜
第4回	新卒採用と中途採用／ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	ジョブ型雇用・メンバーシップ型雇用の特徴と日本の現状
第5回	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力、企業の人材育成方針
第6回	アルバイトから考える労働問題	アルバイト就労の現状と問題
第7回	アルバイトと労働法	アルバイトのトラブルに即して労働法を理解する
第8回	職場の問題への向き合い方	「嫌ならやめればいい」のか、を考える
第9回	中間試験	中間試験実施
第10回	「まともな職場」とは	労働組合の役割、長時間労働と職場内規制

第11回	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の重要性
第12回	労働条件・職場実態に関する客観情報の活用	「就職四季報」「女性の活躍推進企業データベース」などの活用
第13回	内定・就職をめぐるトラブル	労働契約としての就職／内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
第14回	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

中間試験・期末試験に向けて、授業内容を振り返り、理解を深めておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブルQ&A』旬報社
- ・駒川智子・金井郁（2024）『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社
- ・東洋経済新報社編『就職四季報 総合版』東洋経済新報社
- ・厚生労働省「知って役立つ労働法」WEB公開

【成績評価の方法と基準】

授業内外で計6回実施するミニ・レポート（配点50点）と中間試験（配点20点）、期末試験（配点30点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられる。

ミニ・レポートの執筆とフィードバックに加え、アクティブラーニングの機会を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布を行う。

オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of the transition from school to work. The main topics include characteristics of the transition from school to work in Japan, career decisions, labor issues, and labor laws.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand various issues related to employment and early careers, and apply them to their own employment.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination: 30%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ジェンダーと労働

上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて考えます。ワーク・ライフ・バランスへの配慮や雇用形態の多様化は、評価しうるものなのか、どこに課題があるのか、理解を深めることを通して、現実的なキャリア選択をみずから考えられるようになること、さらに、働き方の改善に社会人としてみずからかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて理解する。
雇用形態の多様化が若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。
まともな働き方を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計6回、授業内外で書きます。雇用と労働をめぐる歴史的推移と現状を理解した上での考察であることを重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。加えて中間と期末、2回の授業内試験（論述試験）を実施します。
初回の授業はオンライン（Zoom）で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介（Zoomで実施）
第2回	女性の働き方をめぐる法制度の変遷	男女雇用機会均等法と育児・介護休業法
第3回	コース別雇用管理	統計的差別／コース別雇用管理の実態
第4回	コース別雇用管理の変容と企業による女性活用の現在	正社員女性の戦力化の現状
第5回	派遣労働を考える	派遣労働の歴史的推移と問題点
第6回	雇用ポートフォリオと非正規労働	雇用ポートフォリオ／企業と労働者の双方から見た非正規雇用
第7回	中間試験	中間試験実施
第8回	非正規雇用の処遇改善／雇用によらない働き方	無期転換と同一労働・同一賃金／雇用によらない働き方の特徴と課題
第9回	男女の働き方とワークライフバランス	ケアレスマン・モデルと夫婦の生活時間・仕事時間
第10回	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態
第11回	長時間労働の規制と労働時間管理	働き方改革と勤務間インターバル規制
第12回	女性の管理職登用	女性の管理職登用とクリティカル・マス、男女の賃金格差の是正
第13回	転勤を考える	転勤をめぐる課題と企業の対応
第14回	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

中間試験・期末試験に向けて、授業内容を振り返り、理解を深めておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・川人博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
- ・メアリー・C・プリントン（2022）『縛られる日本人』中公新書
- ・駒川智子・金井郁（2024）『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社
- ・厚生労働省「知って役立つ労働法」WEB公開
- ・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブルQ&A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で計6回実施するミニ・レポート（配点50点）と中間試験（配点20点）、期末試験（配点30点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

働き方をめぐる歴史的変化と今日的な働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。
ミニ・レポートのフィードバックに加え、アクティブラーニングの機会を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布を行う。
オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず出席すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。
春学期の「労働市場と職業選択」（「職業選択論Ⅰ」）を受講した上での受講が望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of changes in the labor market and working styles. The main themes include diversification of employment patterns, long working hours, work-life balance, and gender equality.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand issues related to changing labor market and work styles, and to apply the knowledge to realize decent work.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 30%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ライフコース論

百瀬 由璃絵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5034
科目名：ライフコース論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5034
科目名：ライフコース論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：＜優＞＜S＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個々人が人生の各段階でどのような課題を担っているのか、個々人の人生の様々な段階における経験や選択が、その後のキャリアや生活にどのように影響するのかを理解するための基礎的な知識を獲得します。特に、出生から高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに注目し、その時代的な変化、国際比較等によるライフコースの多様性についての思考力を深めます。それとともに、ライフコースに関わる様々なデータの見方や解釈の仕方についても学ぶことで、実証的なアプローチ方法についても理解し、活用できるようにします。これにより、経営戦略論やキャリア開発論などのほかの理論の基盤となる知識を学んでいきます。個々人がどのようにして職業上のスキルや知識を習得し、キャリアを構築していくのかといったキャリア開発を考えるうえで、個々のライフステージやキャリアを考慮することが可能となります。また、従業員が人生の各段階で異なるニーズや価値観を持つことを理解することは、企業にとって、従業員のライフステージに応じた働き方や人材の最適な配置などの経営戦略を考えるうえでも重要です。

【到達目標】

この授業は、個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、個人の生き方や社会システムを検討することを目的とします。ライフコースの時代的な変化とその背景、国際比較を通じた社会構造とライフコースの関係性について理解を深め、少子化、雇用不安、格差問題といった現代社会の問題が、どのような社会的状況から生じているのか、その解決のために今何が求められているのか、といった課題設定を行い、それに「ライフコース」の視点からアプローチができるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義を中心に進めますが、グループディスカッションや発表、適宜ミニレポート等を書くことにより、出席を確認することもあります。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：ライフコースとは何か？	授業のオリエンテーション、ライフコースの概念
第2回	なぜ今ライフコース・アプローチなのか？	ライフサイクルとライフコースの違い、ライフコースの考え方の背景
第3回	ライフコース論の基礎	ライフコース論をとらえる視点、ライフコースへのアプローチの方法

第4回	児童期から青年期へ	児童期の変化、国際比較、ポスト青年期の登場
第5回	青年期から成人期へ	学校から職業への移行期の変化
第6回	社会変動とライフコース	社会変動がライフコースに及ぼす影響
第7回	ジェンダーとライフコース	ジェンダー概念、ジェンダーによるライフコースの特徴
第8回	成人期・家族形成	家族の形成(結婚)、結婚をめぐる変化、国際比較
第9回	成人期：出産、子育て	出産行動の変化とその背景、課題、少子化について
第10回	働き方	雇用システムの特徴、働き方との関わり、働き方の課題
第11回	女性のライフコース	女性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
第12回	男性のライフコース	男性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
第13回	高齢期	就業から引退へ、高齢期の就業、引退後の生活構造
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料は適宜配布する予定ですが、授業前に文献講読（英語を含む）などを求めることもあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業で適宜紹介します。

【参考書】

グレン・H・エルダー, Jr., ジャネット・Z・ジール編著・登張真穂ほか訳(2013)『ライフコース研究の技法－多様でダイナミックな人生を捉えるために』明石書店。

武石恵美子(2023)『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う(第2版)』中央経済社。

Buchmann, M. (1989). The script of life in modern society. Entry into adulthood in a changing world. Chicago, Ill.: University of Chicago Press.

その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、試験結果と授業出席内容で行います。出席内容(ミニレポート形式、内容も重視する)は平常点として50%、期末試験50%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students acquire the knowledge about the theme that an individual faces at each life stage, the understanding about the resource included the social system. Conventionally, the life has been caught by the word "life cycle", but the life is unique individually, and the same pattern is not repeated. Students will be able to understand the background where "life course" came to attract attention of and understand the basics about the concept of "life course". In addition, they will learn about the way of a viewpoint and the interpretation of various data about life course.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the diversity of career patterns that arise in the interaction between individuals and society, and to examine individual lifestyles and social systems.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (60%) and in-class contribution(40%)

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

生活設計論

高尾 真紀子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの人生を考える上で将来の社会構造とリスクを理解し、リスクに備える必要があります。日本の人口減少と少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっています。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の経済・社会への影響について理解し、子育て支援、年金、医療、介護・福祉などの社会保障制度について必要な知識と多角的な考え方を学びます。知識や多角的な視点を心得、自分自身の生活設計に活かすとともに、どのような制度が望ましいのか等について議論し、考えを深めます。

【到達目標】

日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解し、社会保障の基本的な考え方と子育て支援、年金、医療、介護・福祉等の現状と制度について基礎的な知識を習得します。さらに社会保障制度について自分なりの考え方をもち、自分の生活設計に活用できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式を中心としますが、講義の内容を踏まえてグループディスカッション等を行います。リアクションペーパーのコメントや質問については適宜全体にフィードバックして議論を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要や授業の進め方について説明する
第2回	人口減少と少子高齢化	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。
第3回	未婚化・少子化の背景と影響	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
第4回	少子化対策と子育て支援策	少子化対策と子育て支援策の現状について議論する
第5回	社会保障の基本的な考え方とウェルビーイング	社会保障の基本的な考え方とウェルビーイングについて議論する
第6回	格差と貧困	格差と貧困の連鎖の問題について議論し、生活保護等の制度を理解する
第7回	年金制度①現状と背景	日本の年金制度の現状と制度創設・制度改革の背景について理解する
第8回	年金制度②世界各国の制度と制度改革	各国の年金制度の比較等を通じて、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
第9回	医療制度①特徴と課題	日本の医療の特徴とその背景、医療保険制度の課題について理解する。

第10回	医療制度②制度改革の方向性	各国の医療政策を比較し、どのような医療政策が望ましいのか議論する。
第11回	介護保険制度①創設の背景と現状	公的介護保険創設の背景と介護の現状について理解する
第12回	介護保険制度②課題と改革の方向性	公的介護保険制度の課題について理解し、どのような介護政策が望ましいか議論する。
第13回	障害者福祉と就労支援	障害者の福祉や就労支援について理解し、誰もが地域で暮らせる共生社会について議論する。
第14回	授業内試験	各回の内容を踏まえた論述形式の試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくに役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。毎回レジュメや参考資料を配布します。

【参考書】

エスピン＝アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』2001年、ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』2008年、岩波新書 『子どもの貧困Ⅱ』2014年、岩波新書
池上直己『日本の医療と介護』2017年、日本経済新聞社
大竹文雄・平井啓(編著)『医療現場の行動経済学 すれちがう医者と患者』2018年、東洋経済新報社
香取照幸『教養としての社会保障』2017年、東洋経済新報社
酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保障』2020年、慶應義塾大学出版会
柴田悠『子育て支援が日本を救う』2016年、勁草書房
筒井淳也『仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』2015年、中公新書
筒井淳也『未婚と少子化 この国で子どもを産みにくい理由』2023年、PHP新書
中室牧子『「学力」の経済学』2015年、ディスカヴァー・トゥエンティワン
広井良典『日本の社会保障』1999年、岩波新書
広井良典『創造的福祉社会―「成長」語の社会構想と人間・地域・価値』2011年、ちくま新書
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019年、光文社新書
山口 慎太郎『子育て支援の経済学』2021年、日本評論社
山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』2017年、中公新書
その他、授業の中でテーマごとに参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(20%) 各回の課題(30%) 期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

学生から授業中に自分の考えを発言でき、他の学生の考えを知ることができたことが気づきにつながったとの感想があったので、今後も参加型の授業を続けていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will understand the economic and social impact of Japan's declining birthrate and aging population, and learn the necessary knowledge and multifaceted perspectives on social security systems, including childcare support, pensions, medical care, and long-term care and welfare. Students will gain knowledge and multifaceted perspectives to apply to their own life planning, as well as to discuss and deepen their ideas about what kind of systems are desirable.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students will be able to understand basic issues such as changes in Japan's population structure, and acquire basic knowledge of the current situation and systems of social security, childcare support, pensions, medical care, and long-term care and welfare. Furthermore, students are expected to have their own ideas about the social security system and apply them to their own life planning.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. It is advisable to have an awareness of social security issues through daily contact with newspapers and news reports. It is also helpful to read the books listed in the reference list on topics of interest to you.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアモデル・ケーススタディ

梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5036

科目名：キャリアモデル・ケーススタディ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5036

科目名：キャリアモデル・ケーススタディ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分のキャリアをデザインするにあたって、さまざまな生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ること是有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々に教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネスなど様々な分野で活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深め、以後の学部での学びに活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出していきます。課題等の配布・提出は「学習支援システム」で行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。振り返りでは業界や職業知識の解説を適宜行い、理解の深耕、ゲストの仕事観の違いなどを説明します。ゲスト講師の回以外の授業では参加受講者同士で、簡単なワークを行うと認識しておいてください。授業は、対面を中心としながら、オンラインで講義する日もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第2回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第3回	下調べの方法	キャリアに関する下調べのしかたを説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第4回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第5回	聴く力、下調べ、インタビュー術の実践	これまでの学びを、デモ講義を通して実践し、次回以降のゲスト講師授業準備等に活かす

第6回	ゲスト講師①	NPO分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第7回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第8回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第9回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第10回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第11回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第12回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第13回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第14回	ゲスト講師⑤⑥の振り返りとまとめ	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ→インタビュー→解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。授業での投影資料は終了後に配布します。

【参考書】

特になし。必要場合は適宜知らせる。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50%）と最終講義日に提出するレポート（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のリアクションペーパーを通じてみなさんの要望を反映します。昨年は質疑応答の仕方を工夫したことで議論が活発になりました。「意見を伝える」習慣を授業でも身につけていただきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PCの持ち込みは可能です。

【その他の重要事項】

履修希望者はなるべく初回から出席すること。特に2回～4回目までは授業の基本的な進め方について説明及び実習を行うので、2回～4回までに欠席した場合は、単位の取得は不利となる

【Outline (in English)】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

外書講読A【2025年度以降入学
生用】

長岡 智寿子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火2/Tue.2 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5037

科目名：外書講読A

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C7153

科目名：外書講読B（発達・教育）

※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会的な視点から検討するものである。具体的には、本授業の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料や映像資料なども活用しながら理解を深めていく。

【到達目標】

本授業では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習活動について、その今日の課題を問い直すことを目的とする。とりわけ、成人期の学習の必要性について、開発途上諸国の事例をもとにジェンダーの視点から事例検討を行う。授業の到達目標としては、下記のとおり。

- ・生涯学習の理念について、国際的な観点から説明することができるようになること。
- ・成人期の学びの必要性を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらなる議論に活かします。
- ・授業内で求めた課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要説明をオンラインにて行います。
第2回	Background：data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第3回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第4回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会的視点から理解
第5回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第6回	Stories of imagination (2) Life skill	Literacy and Life s kills

第7回	Stories of imagination (3) human rights	About employment rights with literacy for poor women
第8回	Stories of imagination (4) Minority	Women and Literacy in post-conflict
第9回	Stories of imagination (5) Knowledge for safe	Children's nutrition and literacy learning
第10回	Stories of imagination (6) Learning for life	Literacy and learning for young women
第11回	Stories of imagination (7) Learning for health	Learning reading, writing and health
第12回	Stories of imagination (8) Social empowerment	Community Empowerment
第13回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第14回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業で使用する英文資料について、事前に準備学習として必要な箇所に目を通しておくことを求めます。また、授業後は、内容の整理、把握を行うことを求めます。各2時間を標準としますが、詳細は各回にて説明いたします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストは無し。

【参考書】

本授業で使用する英文資料は、下記のとおりです。

- ・『Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration』, UNESCO Institute for Lifelong Learning, 2013
- ・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』, Commonwealth of Learning, 2012

上記の資料を予定しています。詳細は初回のオリエンテーションの際に説明します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は、授業態度や平常点（40%）、期末レポート（60%）により、総合的に評価します。積極的に授業に参画されることを求めます。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course examines the current state and challenges of international educational development from a sociological perspective, with a focus on understanding the nature of lifelong learning throughout the human lifespan. Specifically, we will deepen our understanding by utilising English-language materials relevant to the course content, alongside related literature and visual resources. (Learning Objectives)

- ・ To be able to explain the principles of lifelong learning from an international perspective.
- ・ To be able to explain the necessity of learning in adulthood. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process
report (60%) and in-class contribution (40%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

キャリアコミュニケーション
(英語)

福田 紀子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化(開発)に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards）のテキストやHuman Rights Based Developmentの研修素材を通して、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重の基本的な概念を理解し、どのように伝えようとしているのかをテキストとアクティビティからとらえます。そして、自分たちの社会にある人権問題への理解と関与につなぐ力をつけることを目指します。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材から、ジェンダーをはじめとする脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワメントなど市民社会と人権に関わるに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを 自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。

授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートの中からも、考えを深めたり、関連情報について取り上げていきます。その中でのディスカッション、フィードバックは基本的に日本語で行いますが、参加者の希望によっては一部英語でのセッションも可能です。

課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation Background of Participatory Approach for Empowerment	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。様々な分野、テーマの参加とエンパワメントのための学習を概観します
第2回	World Studies/Global Education- Educational framework, dimensions and Activities	80年代英国で実践された教育運動の素材から、(学校)教育の場で新しい課題に対応するために必要な概念、枠組み、側面とアクティビティを知ります。

第3回	Peace Education pathway for cultural peace-Difing Peace, A Typology of Violence	2000年代フィリピンの平和教育のテキストから平和の定義、暴力の類型を通して「平和」について考えます。
第4回	PRA/PLA- Participatory Learning approach for Community through discussion tools for visualization and empowerment	60～70年代の経験（失敗）を踏まえて生まれた住民の主体的参加による学習過程からの開発手法の一つであるPRA/PLAについて、共有のtools(手法)、ファシリテーターの態度、参加の場のあり方について学びます。
第5回	PRA/PLA : Tools Practice	PRA/PLA 実践 様々なツールで参加型課題分析を行います ファシリテーター実践準備
第6回	Shpere Standards- Humanitarian Response with Rights Base Approach～Core Humanitarian Standards/CHS flower &reality	東日本大震災(2011)以降日本でも広がった人道支援の国際基準スフィアの基本理念、行動綱領、権利原則、必須基準などについて概説します
第7回	From Poverty To Dignity-a learning manual on human rights based development, introduction	From Poverty To Dignityの概説、構成を概説します ファシリテーション実践準備
第8回	Facilitaion Practice: Global Education 1	ファシリテーション実践 ／国際理解教育・グローバル教育
第9回	Facilitaion Practice: Global Education 2	ファシリテーション実践 ／国際理解教育・グローバル教育
第10回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches : Non-discrimination &Attention to Vulnerable Group	ファシリテーション実践 ／脆弱性の理解に必要なパワーとエンパワメント,Intersectionality,などについても考えます
第11回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity : Participatio	ファシリテーション実践 ／参加、Citizenship、Advocacy等について考えます
第12回	Facilitaion Practice:From Poverty To Dignity-Human : Rights Based Approaches- Module9: empowerment	ファシリテーション実践 ／empowermentについて考えます
第13回	CHS constraction and Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について、スフィア必須基準と「対立から学ぼう」の枠組みから考えます
第14回	CHS constraction and Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ②	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ／パートナーとの発表の準備が必要となります。

国際的な出来事、国内で起こる問題のグローバルなつながり、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。（レポート課題作成を除く）

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は授業の中で配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

『ワールドスタディーズ教養学方学び方ハンドブック』『参加型で考える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『Global Teacher, Global Learner』（Graham Pike & David Selby）
<https://archive.org/details/globalteacherгло0000pike/page/2/mode/2up>

『Participatory Learning and Action- A Traing Guide』（IIED）
<https://www.iied.org/sites/default/files/pdfs/migrate/6021IIED.pdf>

『The Sphere Handbook』（2018）
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf

『From Poverty To Dignity : LEARNING MANUAL ON HUMAN RIGHTS BASED DEVELOPMENT』

<https://wunrn.com/2009/01/poverty-to-dignity-learning-manual-on-human-rights-based-development/>

以下参考文献：

Microaggressions in Everyday Life /

Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman

Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)

Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;

[http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/](http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf)

ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf

『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 50 %

翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業等） 10 %

2回のレポート（中間／最終） 40 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと思います。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への関与を重視します。授業の進行によって分担の発表日を変更することもあります。

なお、担当教員は人道支援団体、参加型人権教育ファシリテーター、複数の自治体の男女共同参画センターを経て、現在スフィアトレーナーとして、また大阪西成区釜ヶ崎の支援団体の職員として活動するものです。様々な課題を抱える現場に共通して求められる「人権」「人権尊重」の実践力につながる学びについて取り組んでいます。

【Outline (in English)】

Course outline : Texts on this class would be the Global Education and Peace Education as pedagogy. And as andragogy, the handbook of Participatory Learning and Actions, SPHERE Handbook for HUMANITARIAN STANDARD, FROM POVERTY TO DIGNITY for development workers.

All those texts are suggesting the framework, contents and approaches for the people's participation and empowerment through educational efforts. We try to grasp the meaning and approach of Participation as the basement of social justice and human rights.

Learning Objectives : Getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.

Learning activities outside of classroom : Students are expected to

read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.

Grading Criteria /Policy

Participation in class, the feedback sheet for each class 50%

Assigned Translation & Group Presentation/ Facilitation 10%

Midterm/Final Report 40%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

生涯発達心理学

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は誕生から死に至るまで生涯にわたり、どのように発達し変化するのか、それぞれの発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点から研究する。またキャリア発達の観点から、生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】

誕生から死にいたるまでの生涯発達、その特性を深く学生が理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。

生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。

毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発達段階と発達課題	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第2回	遺伝と環境	人間の発達を左右する遺伝的な要因と環境的な要因について学ぶ
第3回	新生児・乳児期	誕生から約1歳半までの乳幼児の発達特性について学ぶ
第4回	幼児期	2歳から5歳の子どもの発達特性について学ぶ
第5回	児童期	小学生の発達特性について学ぶ
第6回	アイデンティティとは	エリクソンのライフサイクル（心理社会的発達）理論やモロトリアムについて、具体例とともに学ぶ
第7回	思春期・青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、プロスの分離個体化などを学ぶ
第8回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』（村上龍）から中年危機が家族全員にあたえる影響、崩壊から再生について考える
第9回	男性の発達、父性の観点	「スターウォーズ」「エヴァンゲリオン」「鬼滅の刃」から父性について考える
第10回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの2つの軸、個としての達成／関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ

第11回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第12回	中年、老年期の発達とキャリア発達 生涯キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアについて考える
第13回	老年期の発達課題	「老年の超越」について学ぶ
第14回	ストレスマネジメント	発達段階ごとの課題とストレスを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連図書の予習、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考文献はその都度紹介します。

【参考書】

- ・発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編 東京大学出版会
- ・発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編 東京大学出版会
- ・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む（愛甲修子）言視舎
- ・父滅の刃 消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析（樺沢紫苑）みらいパブリッシング
- ・エヴァンゲリオンの心理学（樺沢紫苑）
- ・＜ほんとうの自分＞のつくり方（榎本博明）講談社現代新書
- ・私とは何か 個人から分人へ（平野啓一郎）講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

毎回の感想レポート（60％）

期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course explores the processes of human development and change across the entire lifespan, from birth to death. From a psychological perspective, students will examine the specific developmental tasks and characteristics unique to each life stage. Additionally, the course analyzes how individuals evolve and progress through the lens of career development.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students will be able to:

Understand the psychological stages of development and their associated tasks.

Reflect on their own lives, family dynamics, and social relationships from a developmental viewpoint.

Identify personal or professional issues to facilitate further self-growth and career development.

(Learning Activities outside of classroom)

Students are expected to engage in the following:

Reviewing lecture materials and psychological theories discussed in class.

Reflecting on personal experiences to prepare for weekly class reports.

Conducting research and literature reviews for the comprehensive term-end report.

(Grading Criteria / Policy)

Final grades will be calculated based on the following components:

Weekly Class Reports (60%): Evaluation of understanding and reflection submitted after each session.

Term-end Report (40%): A final cumulative report demonstrating the integration of course concepts.

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

キャリアカウンセリング I

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5040

科目名：キャリアカウンセリング I

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5040

科目名：キャリアカウンセリング I

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、学生はまず、キャリアカウンセリングとは何かを理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、傾聴技法などについて理解することを授業の到達目標とします。

【到達目標】

学生はキャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、キャリアの理論、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件などに対する理解ができるようになることを達成目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には教室でリアル対面で行います。

毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、傾聴しながら、相談者を理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいのか、そのステップはどのような過程をたどるのか、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス キャリアと転職	コロナ禍という変化の時代において、キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第2回	今なぜ、キャリアカウンセリングか	ワークシートに記入しながら見つけた自分のキーワードを仕事につなぐ考え方を取り入れる
第3回	キャリア理論 1	パーソンズとスーパの紹介

第4回	キャリア理論 2	ホランド、ブリッジス、ハンセン、シュロスバークの紹介
第5回	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法、傾聴、受容共感、無条件の肯定的配慮などについて
第6回	キャリア理論 3	クランボルトの紹介、危機・転機、変化対応力について
第7回	キャリアカウンセリングのプロセス	キャリアカウンセリングのプロセスを逐語録により具体的に検討する
第8回	ゲスト講師	ハローワークでの経験からの事例紹介
第9回	自律型キャリア、嫌われる勇気、同調圧力	日本において自律型キャリアを根付かせていくために必要なマインドとスキルと行動について考える
第10回	キャリア理論 4	サビカスのナラティブ・アプローチの紹介
第11回	ソーシャル・ジャスティスとキャリア	社会的公平さの視点とキャリアカウンセリングについて
第12回	ゲスト講師	大学のキャリアセンターの事例紹介
第13回	キャリア転機とストレスマネジメント	転機にはストレスが掛かりやすいのでうまく対処する方法を解説する
第14回	まとめ	期末レポートの課題のポイントの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

木村周著「キャリアカウンセリング」 1997、雇用問題研究会

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート（60％）

期末レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する。前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、双方向型の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン利用の場合はZOOMが利用できる環境と端末

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
(Course outline)

This course explores the processes of human development and change throughout the lifespan, from birth to death. From a psychological perspective, students will examine the specific developmental tasks and characteristics unique to each life stage. Furthermore, the course integrates theories of career counseling and development to analyze how individuals evolve, manage various life roles, and achieve personal growth. (Learning Objectives)

By the end of this course, students will be able to:
Understand the psychological stages of development and their associated tasks.
Demonstrate a foundational knowledge of career counseling and development theories.
Analyze the interrelationships between work, family, and other life roles and factors.
Reflect on their own lives and social relationships from a developmental viewpoint to facilitate further self-growth.
(Learning activities outside of classroom)
To ensure a deep understanding of the course content, students are expected to engage in the following:

Spend approximately two hours of independent study before and after each class meeting.

Complete assigned readings from related books and reference materials prior to each session.

Reflect on personal experiences to prepare for the weekly class reports.

(Grading Criteria / Policy)

Final grades will be determined based on the following components:

Weekly Class Reports (60%): Evaluation of understanding and reflection submitted after each session.

Term-end Report (40%): A cumulative final report demonstrating the integration of course concepts and personal insights.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

臨床教育学

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響力は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】

学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。

それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。

実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。

以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義科目であり、オンラインと対面との組み合わせで進める。オンラインでは、知識習得を目的とし、映像学習に加えて自身の調べ学習が含まれる。

対面時は、毎回グループワークがある。グループワークに参加することを単位履修の必須要件とする。またグループワークのために事前に課題を課すことがある。

オンラインと対面にかかわらず、毎回授業後に提出課題がある。課題等については、授業内で一部の意見を取り上げて紹介するほか、寄せられた質問やコメントについては授業資料に回答を明記して配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業実施の方法	授業の概要と進め方についての説明
第2回	学校内の人間関係 （事例検討）	「学校の機能」に関する検討 共通の場所にいるように見えて学校という空間およびその人間関係の見え方は立場によって大きな違いがある。映像資料をもとに立場ごとに学校経験にどのような違いがあるのかを考える。
第3回	若者の人間関係形成の力学とその変化 （講義）	「スクールカースト」「キャラ化」などの「若者論」の展開について学び、世代ごとの「若者」がその後どのようなキャリアに向かっていくのかを歴史的に追っていく。

第4回	教室空間と感覚過敏 （事例検討）	不登校の原因の一つとして、視線恐怖などの社交不安障害や、感覚過敏などの発達障害がある。当事者の空間感覚を映像や文章から読み取る。
第5回	認知特性と空間環境が不登校等の学校適応に及ぼす影響（講義）	認知特性の構造や影響を理解し、学校適応の条件を捉える。また、不登校に関する近年の傾向をデータから読み取る。
第6回	ヤング・ケアラー （事例検討）	経済的な貧困に加え家族のケアを子どもながら担う人はどのような人生観を抱くのかをインタビューデータから読み取る。
第7回	貧困と社会関係資本 （講義科目）	家計が学力に与える影響と、その後のキャリアに与える影響とを、様々なデータから読み取る。
第8回	過保護がキャリアに与える影響（事例検討）	過保護な環境で育つことの功罪についてインタビュー調査から読み取る。
第9回	文化資本と教育虐待 （講義）	教育に正の影響を与えるときみなされやすい文化資本の高さがキャリアに与える影響と教育虐待との関係についてデータから読み取る。
第10回	受験がキャリアに及ぼす影響（事例検討）	思春期に大きな影響を及ぼす「受験」に関する事例を検討する。
第11回	地方・複線系学校システム・カリキュラム（講義）	都市部と地方における受験の違いや、進学校と進路多様校のカリキュラムの違いから、受験がキャリアに与える影響を捉える。
第12回	学歴がキャリアに及ぼす影響（事例検討）	学歴に翻弄された人生の事例を検討する
第13回	日本と海外における学歴の意味の違い（講義）	学歴がキャリアに与える影響を国際比較して捉える。
第14回	総括・ふりかえり	本講義全体を通して学校がキャリアに与える影響を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

特にありません。必要に応じて講義内で配布します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の事後課題39%、対面授業におけるグループワークの成果18%、期末テスト43%

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク時には学生間の意見交換が深まるようにプログラムを組みます。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業時は、パソコン（タブレット可）を持参してください。大学のGoogleアカウントにサインインできるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて授業のテーマは変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

Course outline: As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

Learning Objectives: Students are required to get skill to read the culture, sports, science and technology data regarding career development in school life. presented by the Ministry of Education and the Ministry of Health, Labor, and Welfare. They are also required to understand how these data are positioned in academic precedent research and to acquire knowledge about school conditions in other countries and Japan. These requires are for students to be able to express their own opinions by reading case studies related to actual school life. By realizing the above goals, we aim to understand from various perspectives how school education and school life affect career development.

Learning activities outside of classroom :

You will be instructed in advance about the examples to be read in the group work along with the assignments, so please be sure to prepare for the lessons. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Group work results in class: 18%, post-work assignments: 39%, final exam: 43%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

キャリア教育

児美川 孝一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】

① キャリア教育とはなにか、その教育方法はいかにあるべきか、なぜキャリア教育が必要なのか等について、基本的な概念や考え方を理解する。

② 日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について、基本的な事実、データ、社会的背景等を知るとともに、現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業であるが、可能な範囲で、受講者からの質疑や意見を求めたり、小課題の提出を求めたりする。

諸外国におけるキャリア教育の展開について、比較研究的な視点を持つことは重要であるが、本授業の対象は、主要には日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については、日本との対比において参考になる点を示唆するととどめる。

本授業の守備範囲は、日本におけるキャリア教育の歴史、理論、政策、学校レベルにおける施策である。

提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、今回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画について概説するとともに、基本概念である「キャリア教育」について、本講義における共通理解の前提を確かめる。
第2回	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し、職業教育とキャリア教育との異動について解説する。
第3回	権利としてのキャリア教育	いま、なぜキャリア教育が必要なのかという点とかかわって、権利としてのキャリア教育について解説する。
第4回	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し、それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
第5回	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして、1990年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
第6回	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして、政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。

第7回	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し、その特徴と問題点について考察する。
第8回	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて、現状と課題を考察する。
第9回	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について、現状と課題を考察する。
第10回	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じたキャリア教育について、現状と課題を考察する。
第11回	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について、現状と課題を考察する。
第12回	外部との連携	キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について、いくつかの事例を踏まえて、考察する。
第13回	諸外国におけるキャリア教育	諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ、日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し、今後の課題について考察する。
第14回	授業のまとめと試験	授業のまとめと試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業内容については、学習支援システムにおいて予告されるので、自分なりの問題関心を深め、事前に資料・データ等を調べたうえで、授業にのぞむこと。

それぞれの授業時に紹介される参考文献については、自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店

児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター

児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまブリマー新書

児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書

児美川孝一郎『キャリア教育がわかる』誠信書房

授業時にも、随時、紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）

授業内試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】

受講者に対するフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

この授業は、情報の読解・分析力、課題発見・解決力の養成につながる諸課題を、授業運営の中に組み込んでおり、広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline (in English)】

This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.

The goal of this course is to understand the theory and practice of career education.

Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and term-end report (60%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

メディアリテラシーA

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論的枠組みを学び、その背景にあるシティズンシップやデジタル・シティズンシップなどの概念を理化する。その方法論として、広告や新聞、SNSなどのメディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、デジタル・シティズンシップ、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】

多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。

グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

シティズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、私のメディア史
第2回	メディア情報リテラシー（MIL）研究の理論的枠組み	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
第3回	MILEとシティズンシップ①	メディアとシティズンシップに関する歴史的、文化的、社会的、政治的論点と課題
第4回	MILEとシティズンシップ②	グローバルシティズンシップにおけるデジタル・シティズンシップとMIL

第5回	世界のMIL	ヨーロッパ、とくにイギリス及び北米（アメリカ・カナダ）のMILの現状
第6回	日本のMIL	日本におけるMILの歴史、現状と課題について
第7回	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力（ジェンダー視点から見たビジュアルの力）、特に広告の分析
第8回	メディア・情報のリプレゼンテーション②（中間報告の提出）	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード、特に新聞コンテンツの分析
第9回	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
第10回	グループ活動②	グループごとに多様性、シティズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
第11回	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
第12回	研究発表① 多様性	平等・公正・正義に関するテーマのメディア分析 グループ発表(1)、全体討論、振り返り
第13回	研究発表② 若者とシチズンシップ	若者とシティズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表(2)、全体討論、振り返り
第14回	研究発表③ プロパガンダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表(3)、全体討論、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。授業のレジメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人の課題（分析）や中間報告などの提出物（30%）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業の参加貢献度（20%）、個人レポート（50%）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ学習でのコミュニケーションツールとして、Hoppiiのグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINEの活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ（メディアと教育Ⅱ）」をセットで履修することが望ましい。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生でなおかつ出席が8割以上できる学生から受講者を確定する。出席8割が難しい学生や下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline) : In class, we will study the theoretical framework based on the UNESCO “Media and Information Literacy” curriculum, and understand the concepts of citizenship and digital citizenship that lie behind it. As a methodology, we will analyze media such as advertisements, newspapers, and social networking services. Specifically, in the first half of the class, we will learn the theoretical background of important concepts in media and information literacy education (such as citizenship, digital citizenship, and representation). In the second half of the class, we will acquire comprehensive knowledge and skills in media and information literacy by analyzing media related to a specific theme in groups and presenting the results of our group debates.

(Learning Objectives) : Through analysis of diverse media, students can develop the following four competencies of media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class may be required depending on the situation. Active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be based on individual assignment (analysis) (30%), group work and presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class attendance and participation contribution (20%), and individual reports (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

市民社会における学びと実践

池田 佳代

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的事業（社会課題を積極的に解決しようとする取り組み）の担い手は、行政・企業そして市民という3つのセクターに分類できる。各セクターは単独で事業を行うだけでなく、協働・助成・委託といった枠組みによって事業を行うことを通して、より丁寧に社会のニーズに応えようとする実態もみられる。それは市民的権利に基づく相互扶助の実践であり、共生社会の実現を目指す営みともいえる。本授業では環境・平和・地域福祉の分野で活動する市民セクターに注目し、社会課題に向けた実践の意義や可能性を検討する。それを踏まえて、それぞれの現場で“働く”人々の学びや市民セクターが果たす役割の重要性について理解することを目的とする。

関連するキーワード：コミュニティ、社会運動、非営利、市民社会、環境、平和、福祉

【到達目標】

1, 「働くこと」や市民セクターにかかわる用語の意味や概念、活動形態や内容・メンバーシップ・社会問題への取り組みについて理解する。それにより多様なアクター・組織・イデオロギーのもとで社会が動いていることを洞察する力を育む。

2, 与えられた情報をもとに調べ・話し合い・発表し合うことにより学びを発展させる力（アカデミック・スキル）を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

1, 講義のほかグループワーク、ワークショップ等の主体的な学びの方法（アクティブ・ラーニング）を取り入れる。それに向けた自主的なフィールドワークを推奨する。

2, 学生はグループワークに向けた資料の作成、授業の成果物としてレポートを提出する。

3, 発表及び提出物についてのフィードバックは授業中或いはHoppiiにおいて行う。

4, 必要に応じて取り上げる事例に詳しい実践家や専門家を招聘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ～働くとは	1, 授業計画 2, 「働くこと」に関わる言葉の意味や概念から考える
第2回	市民セクターの種類・制度・活動形態～	1, 自主事業・行政や企業との協働・助成・委託など多様な実践から考える 2, グループワークの進め方／アイスブレイク
第3回	環境分野の市民セクター（1）	未来へのアジェンダ～地域NPOが担う環境行政関連事業＜国内事例＞
第4回	環境分野の市民セクター（2）	大学生が始めた脱炭素運動／鉱山開発による生活の破壊をデータで指摘する＜国際環境NGOの事例＞

第5回	環境分野の市民セクター（3）	気候危機とSDGs～グローバルな人権問題と脱炭素に向けたエネルギー政策及び民間の取り組み
第6回	ワークショップ	気候正義に向けて私たちにできること～討論及び発表
第7回	平和分野の市民セクター（1）	米軍基地と住民そして日本政府～生活の現場からの訴え：何が変わり何が変わらないのか
第8回	平和分野の市民セクター（2）	核兵器禁止条約と地域安全保障の枠組み～被ばく者とNGOの国際的な連携が生み出した変化
第9回	平和分野の市民セクター（3）	市民による外交・核兵器・平和構築～歴史を踏まえた教育的活動
第10回	ワークショップ	平和な未来をどう創る？ 市民セクターの課題と可能性：討論及び発表
第11回	地域福祉分野の市民セクター（1）	地域力で貧困の連鎖を断ち切る～多様なニーズに寄り添う学習支援活動
第12回	地域福祉分野の市民セクター（2）	住まいがない！～不動産業界とNPOの協働による居住支援活動
第13回	地域福祉分野の市民セクター（3）	ワークショップ：子どもの話を聴く活動～子どもの権利どう守る？
第14回	グループワーク（最終）	地域福祉分野の市民セクター調べ（自主・助成・委託・連携・協業の実践）に関する討論及び発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間には各2時間を標準とします。文献を読み、調べ、レポートにまとめて提出する活動を繰り返し行います。

【テキスト（教科書）】

各回の内容に合わせて使用する文献は参考書欄に記載している。そのうちの一部はプリント資料として配布するが、事前に入手することを推奨する。大学図書館や公共図書館などを通して事前に参照しておくこと。

【参考書】

1, アクティブラーニングの方法：ハード・ガブリエレ著 2016年『環境メディア・リテラシー—持続可能な社会に向かって』関西学院大学出版会（授業では特にp.48-70を参照します）

2, 働くことに関する用語：レイモンド・ウィリアムズ著 2011年『完訳 キーワード辞典』平凡社

3, 環境分野：平田仁子/豊田陽介/ギャッチ・エバン/三谷優衣子著

2023年『気候変動を学ぼう—変化の担い手になるために』合同出版

4, 平和分野：ピースアルマナック刊行委員会編著 2025年『ピースアルマナック 核兵器と戦争のない地球へ』緑風出版

5, 地域福祉分野：川崎あや著 2020年『NPOは何を変えてきたか—市民社会への道のり』有信堂

ほか授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と運営への貢献、レポート等の提出：70%
最終レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

「働くという言葉は複数あり、そこに歴史的な経過が関連していることがわかった」「自分の将来をより幅広く展望することにつながった」「グループワークでは異なる意見を聞くことで刺激を受けた」「サステナブルキャンパスを調べたことで地球温暖化に対して自分にもできることがあると感じられた」「反戦デモなどに今までは無関心だったが、平和にむけて多くの取り組みを知り、自分事としてとらえることができた」「空き家は戸建てだけではなく知り、メディア報道ではなぜ空き家＝戸建てという視点でしか伝えていないのか疑問に思った」「子どもを支援する活動について理解が深まった。今後は地域レベルの取り組みをさらに調べたい」などの意見がありました。グループワークを取り入れたことにより、自分一人の調査ではとらえられなかった情報を得ること、話し合いを通じてさまざまな視点や意見に接することにより理解力が上がったというコメントが多くありました。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・授業計画等の変更等に関する連絡は授業中もしくは学習支援システムの「タイムライン」を主に使用します。
- ・提出されたレポートについては、必要に応じて類似性や剽窃、AIの誤用なども意識しながらチェックします。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will focus on the civil society sector, which is active in community welfare, the environment, and peace-building. Learn how the three sectors of government, business and citizens complement each other in order to meet the needs of society. Furthermore, understand that these activities lead to mutual assistance and joint growth in civil society.

(Goal)

1. Understanding of the meaning of terms, and develop the ability to gain insight into how society operates under the influence of diverse actors, organizations, and ideologies.
2. Students develop their learning ability (academic skills) by investigating, discussing and presenting based on the information provided.

(Learning activities outside of classroom)

Lecture :Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than two hours to understand the course content or to read, research, write.

(Grading Criteria /Policy)

Active participation and contribution, submission of reports:
70%

Final Report: 30%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

格差社会の家族と教育

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、今日の格差社会における家族の生活、子育て、教育の実態について扱う。

2000年代以降、格差や貧困の問題が重要な社会問題としてクローズアップされるようになっていく。この授業では、データで格差や貧困の現状を捉えることから始め、格差や貧困が家族関係や子どもの発達、進路選択、キャリア形成に及ぼす影響を学び、格差・貧困の是正にむけて、（学校）教育は何ができるかについて考える。社会的な不平等について、家族と教育に焦点をあてて考える基礎的な科目である。

【到達目標】

- ①今日の格差社会における家族の生活、子育て、教育の実態に関する知識を獲得し、格差は正に向けた自身の意見を持つ。
- ②他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。
- ③適切な官公庁統計データを探し、利用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面による講義とグループワークを用いる。資料配布は学修支援システムを通じて行うので、各自でダウンロードしたりプリントしたりすること。

専門用語を用いるので、リアクションペーパーを通じて理解度の把握に努める。またフィードバックを授業内で丁寧に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	導入として、格差と不平等をテーマに据える意義について述べる。授業の進め方の説明、授業の概要と目的の理解。
第2回	データで見る格差社会	貧困、格差、家族、地域、文化、機会
第3回	家族になることと格差	結婚、経済力、夫婦関係
第4回	子育てと格差	子どもの貧困、時間的貧困、家庭教育、食育、保育園という選択
第5回	グループワーク①	1000人の中学生の進路選択
第6回	進路選択と格差	トラッキング、学歴、ペアレントクラシー
第7回	貧困と学校	学校生活、体験、アイデンティティ、進路選択
第8回	学校の役割	反貧困教育、学校の荒れと国語学力、福祉と教育、部活動の意義
第9回	差異化と教育	家庭教育の格差、教育を用いた差異化戦略、「お受験」、留学
第10回	グループワーク②	四年制大学進学と格差
第11回	地域移動と格差	地域移動できる人、できない人、親子関係、ジェンダー

第12回	大人になることと格差	学校から職業への移行、子ども期から大人への移行、ヤングケアラー
第13回	格差の是正に向けて	教育費負担、所得の再配分、学校教育の見直し、「能力」再考
第14回	試験と全体の振り返り	授業内試験を実施するとともに、全体の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎的な知識を扱う科目なので、知識の定着を求める。グループワーク課題によっては、授業時間外の予習を求めることがある。その場合、事前に指定された準備をしてこないとグループワークに十分に参加できないので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。フィードバックについて、次の授業の初めにリアクションペーパーやミニ課題のいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

配布資料中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワーク課題40%、最終試験60%。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course covers the realities of family life, child-rearing, and education in today's society with inequality. Learning Objectives:

- (1) Acquire knowledge about the realities of family life, child-rearing, and education in today's society with inequality, and develop personal opinions on how to reduce this disparity.
- (2) To be able to utilize group work in collaboration with others as an opportunity for learning.
- (3) To be able to search for appropriate government statistics, understand their contents, and use them.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: Group Work Assignments: 40%, Final Exam: 60%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

ダイバーシティと学校

松尾 知明

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ダイバーシティと学校をテーマに、児童生徒の多様なニーズに対応して、学校ではさまざまな特色ある学びの経験が提供されていることについて考察する。前半では、自分自身の学校での学びの体験を振り返るとともに、他の受講生の体験と比較することを通して、学校での学びの経験は人それぞれに異なっていることを知る。後半は、自らの学校経験を踏まえ、国内外のさまざまな特色ある学校について学びながら、自分にとっての理想の学校の企画書を作成する。

【到達目標】

- ・自分自身の学校体験を振り返り、他者の体験と比較することで、学校での学びの経験は人それぞれに異なっていることに気づくことができる。
- ・自分自身の学校体験を踏まえ、多様な特色ある学校のビジョンや特徴を学ぶとともに、自分にとっての理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、グループワークを中心に進めていく。グループで、課題について発表し合ったり、文献や動画をもとに意見交換をしたりする。また、自分自身の学校体験についてのスライド、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。なお、対面で授業を実施し、授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。また、学習支援システムを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方
第2回	学びとは何か	学びの場としての学校
第3回	ライフコースと学校	就学前の学校・施設での学びとは
第4回	ライフコースと学校	小学校での学びとは
第5回	ライフコースと学校	中学校での学びとは
第6回	ライフコースと学校	高等学校での学びとは
第7回	学校と私	学びの履歴
第8回	理想の学校を構想する	枠組みと構想
第9回	特別なニーズと学校	多様なニーズと夜間学校
第10回	特別なニーズと学校	グローバル化と学校
第11回	特別なニーズと学校	不登校とフリースクール
第12回	特別なニーズと学校	問題行動と学校
第13回	理想の学校を提案する	発表と質疑

第14回 授業のまとめ

授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、テーマについて調べ、課題に答えたり、パワーポイントスライドを作成したりする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】

文部科学省「学習指導要領」。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加の姿勢（30%）、課題（50%）、テスト（20%）をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自分の学校体験の振り返りを踏まえたグループワークの進め方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This lesson examines the theme of diversity and schools and how schools offer a variety of distinctive learning experiences in response to the diverse needs of pupils. In the first half of the course, students will reflect on their own school learning experiences and, through comparison with the experiences of other students in the course, learn that school learning is different for everyone. In the second half, the students learn about various distinctive schools at home and abroad, drawing on their own school experiences, and prepare a proposal for an ideal school for themselves.

【到達目標（Learning Objectives）】

- By reflecting on their own school experiences and comparing them with the experiences of others, they are able to realise that learning in schools is different for everyone.
- Based on their own school experiences, they can effectively prepare an ideal school proposal for themselves, referring to the visions and characteristics of a diverse range of distinctive schools.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to read materials, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation. The standard preparation and review time is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (50%) and term-end examination (20%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育社会学【2025年度以降入学生用】

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5057
科目名：教育社会学
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7197
科目名：教育社会学Ⅰ
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育は社会のなかでどのような機能を果たしてきたのでしょうか。「社会で求められる態度や価値観を生徒に伝えてきた」「社会の高度化にともない、それに必要な能力とスキルを生徒に教えてきた」。このようなありきたりの見方こそ、学校教育が教え込んできたのです。しかし、学校教育は決して価値中立的ではありません。だから学校教育を裏返してよく見てみる必要があります。この相対化こそ、AIに使われるだけの人間にならないためのトレーニングです。一緒に「教育社会学」しましょう。

【到達目標】

- ・「教育のべき論」に飛びつかない——社会的現実を質的／量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
- ・「社会」のパーツを掘り下げる——「社会」という"big word"だけで考えていても理解は深まらない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI化・・・社会的な知識と理解を徐々に習得し、教育と結びつけて考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

第1,7,14回をのぞき、対面授業を行ないます。

この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメのQuestionを毎回こなして「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるのではなく、それを発展させ深めます。授業で提出されるリアクションペーパーについては、その次の回の冒頭でいくつか取り上げてリプライをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第2回	中学校長「二人以上産む 最も大切」—どう思う？	社会科学の表現作法（テキスト第1章）、学校の諸機能
第3回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？	社会化とAIのインパクト（テキスト第6章）
第4回	どうしても働かないきゃダメ？	社会統制と「労働の道徳化」（テキスト第5章）
第5回	大学と大学生、どのように増えてきた？	グラフの作成・記述・考察
第6回	大学と大学生、なぜこんなに増えてきた？	機能主義、アクター理論

第7回	男女別学高校、なぜ・どのように減ってきた？	第5,6回で得たスキルと知識の応用エクササイズ
第8回	経済と労働と教育、どう変わってきた？	近過去に関する基礎知識の習得（テキスト第1,4章）
第9回	男女雇用機会均等法はいつ・なぜ制定された？	近過去に関する重要知識の習得
第10回	大学生の進路、なぜ・どのように変わってきた？	「能力」の構築主義的理解
第11回	やっぱり男性のほうが女性より仕事ができる？	統計的差別、ジェンダー化された能力、葛藤理論
第12回	給料2割減、週20時間労働を選ぶ？	ライフコース展望の男女差とその変化（テキスト第4章）
第13回	扶けてくれる人はどこにいる？	社会関係資本の脆弱化・偏在と包括支援政策（テキスト第7章）
第14回	まとめ	基礎概念の再確認、期末試験に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。予習レジュメのQuestionをこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】

駒川智子・金井郁編（2024）『キャリアに活かす雇用関係論』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

みなさん、授業を一緒に楽しみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレットを持ってくる。授業のプリント等上での配布はしません(すべてオンラインで掲載)。グラフ作成なども授業中にやります。

【Outline (in English)】

What role has school education played in society? "Schools have taught students the attitudes and values that society expects," "As society becomes more advanced, schools have taught students the abilities and skills that are necessary." These are the commonplace views that school education has instilled in you. However, school education is by no means value-neutral. That's why we need to look at school education from the inside out. This relativization is the very training that will keep you from becoming someone who is merely used by AI. Let's do "the sociology of education" together.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your total study time will be four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the final exam (100%).

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育経済学

孟 碩洋

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5058
科目名：教育経済学
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5058
科目名：教育経済学
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深める。大学へ進学する理由や、政府が学校や教育政策を運営し学費補助に税金を用いる理由といった問いを手がかりに、日本国内だけでなく国際的な視野から教育と経済の関係を比較・検討し、自身や次の世代の学びに関する論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学ぶ。

【到達目標】

本講義を通じて、主に次の2点を到達目標とする。第一に、身近な学校教育や大学教育に係る諸問題について考察を深め、自身の大学生活を捉え直すことができるようになる。第二に、経済学的なものの見方や分析方法を身につけ、教育を含む社会問題を論理的に考察し、分析を読み解き、適切な選択を行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は講義（インプット）を中心としつつ、受講人数に応じて受講者によるコメント発表、ミニディスカッション等を取り入れて進めます。講義回においても、演習問題やリアクションペーパー等の課題を課し、授業内容の理解と応用を確認します。授業への積極的な参加（発言、課題への取り組み等）を求めます。
なお、大学の方針や社会状況、教室事情等により、授業形態をオンライン（同時配信等）に変更する場合があります。変更が生じる場合は、学習支援システムおよび授業内で事前に周知します。
課題等に対するフィードバックは、講義時間内に教室で講評・解説を行うほか、学習支援システムを通じて返却・コメントを行う場合があります。受講人数が多い場合等には、必要に応じてオフィス・アワーを設け、課題の講評や質問対応をまとめて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「経済学」で教育を捉えるとは。講義全般のテーマ・問題意識の紹介。履修案内、リアクションペーパーの説明。
第2回	教育投資の基礎理論（1）	なぜ人は教育を受けるのか。進学の意味決定、教育の効果（消費と投資）。人的資本理論の導入。
第3回	教育投資の基礎理論（2）	人的資本理論を基に教育の便益を考える。教育投資収益率の考え方と基本的な測り方。
第4回	教育投資の基礎理論（3）	学歴と賃金格差を説明する理論を含む他の見方の紹介。

第5回	教育投資の基礎理論（4）	基礎理論の整理とまとめ。中間レポート課題の説明（テーマ例・評価基準・提出方法）。
第6回	教育投資の基礎理論（5）	国内外の教育経済学実証研究の系譜と主要トピックの紹介。
第7回	復習・補足（中間）	第1～6回のリアクションペーパーをもとに、質問の多かった論点を解説。中間レポート作成に向けたQ&A。
第8回	教育政策の経済学的評価（1）	政策評価の観点：効率性と公平性。教育効果を「測る」発想。教育生産関数の導入。
第9回	教育政策の経済学的評価（2）	教育生産関数の考え方を深める。相関と因果の違い、相関分析の基礎。
第10回	教育政策の経済学的評価（3）	学力等アウトカムの測定。実験的手法・準実験の手法の考え方を紹介。
第11回	教育政策の経済学的評価（4）	日本・世界の政策評価研究の紹介。費用対効果分析の基本的な考え方。
第12回	教育政策の経済学的評価（5）	政策評価（効率性・公平性、因果推論、費用対効果等）の観点をを用いて、近年の主要論点（ジェンダー格差、国際化と人材移動、AIと学習・評価）を整理し、代表的な研究・政策論点を批判的に検討する。
第13回	教育政策の経済学的評価（6）	理論と実証の知見を用いて、教育政策を総合的に評価し、選択する枠組みを学ぶ。期末レポート課題の説明。
第14回	まとめ・補足	第7～13回のリアクションペーパーをもとに、質問の多かった論点を解説。期末レポート課題に向けた総括とQ&A。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定ですが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。
・講義で取り上げた内容に関わる論文、調査、学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身に着けた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。
・講義内容に係る演習問題の回答や、自身の考察をまとめたレポートの提出。
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。
・自主的に課題に取り組む姿勢が求められます。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に用いません。

【参考書】
授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点：40％程度（講義内での演習問題およびリアクションペーパーへの回答、授業内での発言等の積極的な参加）
レポート：60％程度（中間レポート、期末レポート）

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新たに担当するため、前年度の授業改善アンケート結果に基づくフィードバックは行えない。代替として、各回のリアクションペーパーおよび授業内の質疑を通じて学生の理解度・要望を把握し、次回以降の講義内容（説明の補足、進度、演習量等）に反映する。

【その他の重要事項】

この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。よって、予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。このため、履修希望者は、必ず第1回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（200～400字）を提出していただきます。提出方法は、講義開始の一週間ほど前に学習支援システムよりアナウンスいたします。第1回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメールにて連絡をください。

【Outline (in English)】

Outline

This course introduces key concepts and analytical approaches in economics and applies them to major issues in education. The course examines why individuals invest in education and why governments design education policies and provide financial support. Drawing on examples from both Japan and other countries, the course explores the roles and effects of schooling and higher education and develops an evidence-informed perspective on education and society.

Goals

By the end of the course, students will be able to:

1. Analyze contemporary issues in schooling and higher education using basic economic reasoning and concepts.
2. Explain major rationales for educational investment and public intervention in education.
3. Read and interpret empirical findings in education-related studies at an introductory level.
4. Evaluate education policies by considering efficiency and equity and make reasoned judgments based on evidence.

Methods

Classes are primarily lecture-based, supplemented by short student comments/presentations and brief in-class discussions depending on class size. Students will complete exercises and reflection/reaction papers to consolidate understanding and practice applying concepts. Feedback will be provided in class and/or through the learning management system; office hours may be arranged when needed. If required by university policy or logistical reasons, the class format may shift to an online synchronous mode, with prior notice provided via the learning management system and in class.

Assessment

Participation and in-class work: approx. 40% (in-class exercises, reaction papers, and active participation such as contributing to class discussions)

Written assignments: approx. 60% (midterm paper and final paper)

EDU200MA（教育学 / Education 200）

教育政策

村上 純一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5059
科目名：教育政策
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5059
科目名：教育政策
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれません。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察したのち、今日における教育に関する諸問題をそれに関連する政策の観点から考え、理解を深めていきます。

【到達目標】

- 以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。
- 1) 今日の教育政策における課題・問題点
 - 2) 公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
 - 3) 個々人のライフキャリアにおける各教育段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は主に対面での講義形式で実施します。講義形式中心ではありませんが、授業時間中の質疑応答も随時取り入れ、教員の講話一辺倒ではなく双方のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も適宜ご紹介し、視聴覚教材を通じた理解の深化も図っていきます。各回、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を求めます。いただいたリアクションペーパーは翌週の授業でご紹介することでフィードバックし、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第2回	国と地方の教育行政のしくみ	教育政策の実施主体としての教育行政について、国レベルおよび地方自治体レベルそれぞれの構造および政府間関係を、近年の改革動向も含めて理解する。
第3回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第4回	初等中等教育政策	初等中等教育（小中高）段階における政策を、教育課程・教員・財政などの視点から理解する。

第5回	高等教育政策	大学入試改革など近年の諸改革も含め、高等教育をめぐる政策の変遷を理解する。
第6回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第7回	教育課程・カリキュラムに関する政策	最新の学習指導要領改訂、ICT教育や外国語教育の拡充など、教育課程・カリキュラムに関する最新の政策動向を学力調査との関連も踏まえて理解する。
第8回	学校の「安心・安全」に関する政策	教育現場の「安心・安全」を守るための政策上の工夫や課題を考える。
第9回	「開かれた学校づくり」に関する政策	学校と地域社会との連携・協働に関する政策の変遷や現状、課題について理解する。
第10回	いじめ・不登校・「子どもの貧困」に関する政策	いじめ問題をめぐる政策の動向や、不登校対策、「子どもの貧困」対策として策定・実施されている諸政策を、関連する法制度も踏まえ理解する。
第11回	学校の「働き方改革」	今日の学校教員の勤務実態と、その改善方策として考案されている政策について理解する。
第12回	学校部活動に関する政策	地域移行など、学校部活動をめぐる今日の政策動向について、部活動の歴史等も踏まえて考察・理解する。
第13回	少子化に関する教育政策	学校統廃合など、少子化に関連する教育政策について理解する。
第14回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。各回、資料を配布します。

【参考書】

資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業各回のリアクションペーパーと学期末レポートを総合して行います。比率はリアクションペーパーの合計40%、期末レポート60%です。

【学生の意見等からの気づき】

授業は基本的に「一話完結」で様々なテーマを扱っていきます。2025年度の授業ではこれに対し、「色々なトピックを幅広く学べた」というご意見を複数いただきましたので、今年度も各回のテーマ設定は「一話完結」の形を踏襲しています。また各回の授業内容については、特に映像資料の活用が理解を深める上で有意義であったというお声を沢山頂戴しました。これを踏まえ、頼り過ぎないように注意しつつ、2025年度も映像資料の積極的な活用を図っていきたいと思います。一方、受講される方の人数に拠る部分もありますが、受講生同士での対話の機会がもっと欲しかったというご意見をいただきましたので、2026年度は受講生同士でのコミュニケーションを通じて理解を深める機会を多く設けられるよう工夫してまいります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education. Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

【Learning Objectives】

Understanding three points below.

- i) Issues of today's education policy
- ii) Ideals of education policy
- iii) The importance and roles of each school stages

【Learning Activities outside of Classroom】

It takes two hours to make a preparation of one lesson, and it also takes two hours to review one lesson.

【Grading Criteria／Policy】

Comments of each lessons (40%) & Terminal Report (60%)

EDU200MA（教育学 / Education 200）

市民社会と教育改革

仲田 康一

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公教育は、人々の教育を受ける権利を保障していくために標準的で公的な仕組みを整えてきましたが、その制度的保障を発展させる形で、学校と地域社会の連携、そしてNPO・企業の学校への参入を通じて、多様な取り組みが進められています。

本講義では、以上に説明したような市民社会に根ざした独自の取り組みが公教育制度の中で進展することの意義と課題について、教育学のみならず、社会学・行政学・政治学等の社会科学的な観点からも考察を行うことで、教育に関して一段深い意見を持てるようになる手がかりを獲得してもらうことを目的とします。

【到達目標】

受講者には、授業終了までに次の3つの目標を達成できることを期待します。

- 1) 日本における公教育の制度的特徴を、子どもの学習権保障との関わりで説明することができる
- 2) 地域社会と連携して行われる教育実践や学校経営が、子ども・学校・地域・自治体・保護者等にとってどのような意義と課題を有するか、具体的な実践例を挙げながら説明することができる
- 3) 民間企業やボランティアなどの私的セクターが学校教育に参入しつつある状況を、社会学・行政学・教育学の視座や概念により分析することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業ですが、受講者からの質疑や意見を求めたり、グループ形式での意見交換や、学生によるプレゼンテーションを組み込みます。オンラインでリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業の最初にまとめてフィードバックを行います（必要に応じて個別にもフィードバックします）。

天候等の理由により、臨時にオンラインに変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について説明・合意する
第2回	日本の公教育の基盤	公教育制度の歴史的な成り立ちを論じる
第3回	戦後の学校制度と公教育の課題	憲法・教育基本法・国際人権規範に焦点を当てて、公教育の課題を説明する
第4回	母校研究（1）	母校についてのケース・スタディ（＝母校研究）を交流し、学びのキャリアを振り返る
第5回	母校研究（2）	母校研究について代表者の発表を共有する
第6回	「一条校」を中心とした教育保障	戦後の学校制度に焦点を当てて、公教育の課題を説明する

第7回	学校-地域連携政策①	公教育改革の一環としての学校-地域連携について、学校支援や学校ガバナンスの観点から論じる
第8回	学校-地域連携政策②	学校-地域連携の課題の焦点として、教育課程マネジメントの問題を論じる
第9回	学校-地域連携政策③	過疎地域における学校地域交流について論じる
第10回	市民セクター(NPO等の非営利団体)による教育分野への関与	困窮家庭の支援における市民セクターの関与に関する実態と課題を論じる
第11回	企業セクターの教育分野への関与	デジタル化、探究学習などにおける企業参入の実態と課題を論じる
第12回	セクター間協働の課題	VCSEセクターと公的セクターの今後の課題についてまとめる
第13回	レポートの授業内吟味	レポートの第1次提出を行い、受講生による相互吟味・批評を行う
第14回	まとめと内省	授業全体を振り返り、レポートの講評と最終提出までの指示を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下のような課題を所定の期日までに実施してもらいます。

- ・レジメの再読、まとめ（毎時）
- ・アテンダンスチェック課題の提出（毎時）
- ・母校研究の実施（所定締切日まで）
- ・最終レポートの作成（所定締切日まで）

これらを通じた準備学習・復習時間は各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

『コミュニティと教育』（仲田康一・大木真徳編著／放送大学教育振興会／2024年）

『地域教育経営論』（荻野亮吾・丹間康仁編著／大学教育出版／2022年）

『コミュニティ・スクールのポリティクス』（仲田康一著／勁草書房／2015年）

【成績評価の方法と基準】

各回の参加度（主にアテンダンスチェック課題やディスカッションへの参加状況にて把握）を40%、母校研究の成果を30%、最終レポートを30%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生相互の意見発表機会を大切にし、また、適切なフィードバックを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレットを使用することがあります。スマホだと小さいためおすすめしません。

【その他の重要事項】

教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Public education has long established standard, official systems to guarantee children's right to learn. Now, as a way of developing this institutional framework, collaborations with communities, as well as with the voluntary and social enterprise sectors, are advancing, leading to a variety of new initiatives.

This course will examine the significance and challenges of these collaborations with the VCSE sector within the public education system, not only from an educational studies perspective but also from the viewpoints of social sciences such as sociology, public administration, and political science.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students are expected to be able to achieve the following three objectives:

1) To be able to explain the institutional characteristics of public education in Japan in relation to securing children's right to learn.

2) To be able to examine the significance and challenges of school-community collaboration, referring to specific cases.

3) To be able to analyse how private sector entities, such as private companies and volunteers, are entering the school education system, using perspectives and concepts from sociology, public administration, and education.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before and/or after each class, students are required to have completed the required assignments such as

- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.
- Conducting case study

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Overall grade in the class will be decided based on the following:

Attendance Check: 40%, Case study report: 30%, End of semester report: 30%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

学習の社会史A

山口 真里

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5061

科目名：学習の社会史A

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5061

科目名：学習の社会史A

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、歴史的にどのような「学び」を経験してきたのでしょうか。また、現在の「教育」や「学習」のありかたは、どのような経緯で形作られてきたのでしょうか。

この授業では、おもに西洋における「学び」の展開を時代背景や地域的な事情に照らしながら辿り、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。また、現代の「教育」や「学校」が直面する多くの問題が、それらの歴史とどのように関わっているのかを掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることにより、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

- ・西洋における学びや教育の変遷を、背景にある歴史事象と共に理解する。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業が中心ですが、必要に応じてオンラインで授業を行います。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・授業内容の理解を深めるため、リアクションペーパーを実施します。提出されたリアクションペーパーは、次の授業で適宜コメントし、フィードバックします。
- ・講義中心ですが、授業に関わるテーマをグループでディスカッションし、他の受講生がどのように考察したのかを共有する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第2回	近代以前の子育てと 徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第3回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第4回	近代における子どもの 発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざし の変化
第5回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第6回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育

第7回	家庭、主婦の誕生と 子どもの教育	家庭における女性の位置づけと 教育の変容
第8回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第9回	近代学校の成立と子 どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第10回	民衆学校の進展と義 務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第11回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救 済事業 権利主体としての子どもと「子 どもの権利条約」
第12回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第13回	現代の子どもの学び と諸問題	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第14回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業資料を用いて復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の学習準備・復習時間は各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題60%、リアクションペーパー30%、授業への意欲・貢献・平常点10%を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の2/3以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からのフィードバックを重視し、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom使用）を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
- ・オンラインの授業およびグループ・ディスカッションは、カメラおよびマイクをONにできる環境で受講してください。
- ・授業についてのお知らせや資料配布・課題提出等に、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

In this course, we will trace the development of "learning" mainly in the West in the light of historical backgrounds and regional circumstance, and examine how schools as institutions for children's learning were established and developed.

In addition, we will delve into the many issues facing "education" and "schools" today and consider how these issues relate to history.

(Learning Objectives)

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

(Learning activities outside of classroom)

After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学習の社会史B

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5062
科目名：学習の社会史B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5062
科目名：学習の社会史B
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：＜他＞＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。

【到達目標】
授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史の基礎的な知識をベースとし、現代の教育問題と関連付けて考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
必要な資料は事前に学習支援システムで配布する。履修者は必要に応じて適宜ノートをとること。
授業内で課題提出を課すことがある。また、知識の定着を促すため、中間まとめの小テストを二度、課す。
課題提出は授業支援システムを通じて行う。課題や小テストに対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。（オンデマンド）
第2回	教育制度と学歴	近・現代社会における教育の役割について、教育制度と学歴という観点から考える。 古代、中世、近世における諸制度と教育機関について振り返る。
第3回	学歴主義の誕生	立身出世主義、受験生をキーワードに、近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第4回	教育制度の成立過程と学校間格差	学校間の威信の格差について、学校教育制度の成立過程から考える。
第5回	中間まとめ①教育制度と学歴主義	小テストを実施し、その後、教育生徒と学歴主義に関する内容を復習する。
第6回	学校という場の権力性	学校が持つ規律訓練の力について考える。
第7回	試験と競争	学力や学歴をめぐる競争の仕組みの誕生について、試験制度を切り口に学ぶ。

第8回	学校の教育と村の教育	学校の教育と村の教育は何が異なっていたのか、考える。
第9回	中間まとめ②学校と試験	小テストを実施し、その後、学校と試験に関する内容を復習する。
第10回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第11回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第12回	女性にとっての成功	女性が学歴をめぐる競争にいかに関与されていったのかについて学ぶ。
第13回	女子の身体観をめぐる教育の葛藤	女子の制服と運動用制服の成立過程を通して、女子の身体観をめぐる学校教育の役割について考える。
第14回	まとめと試験	制度の成立は我々の学ぶという行為にどのような影響を及ぼしたのか、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定文献や配布資料の精読を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト40％、提出課題10％、試験50％

【学生の意見等からの気づき】
学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.
Learning Objectives: To be able to explain historical events using the concepts and theories learned in the class.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: In-class review mini-test and assignment submission 50%, final report 50%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

外書講読B【2025年度以降入学
生用】

相澤 鈴之助

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5063
科目名：外書講読B
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7253
科目名：外書講読B（ビジネス）
※入学年度によって授業コード・科目名が異なります
その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は大幅に広がります。この授業では、当初、平易な英字新聞記事を取り上げた後、経営学に関する古典的な研究論文に挑戦していきます。経営学の代表的な英語論文に実際に触れ、学問の意義や楽しさを体験してもらいたいと考えています。

【到達目標】

英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。履修を希望する人は必ず第1回目の授業に必ず出席してください。なお、受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。
大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像と目標、講義内容の紹介を行います。
第2回	英字新聞記事を読む(1)	英字新聞の社会問題に関する記事の抜粋を読みます。
第3回	英字新聞記事を読む(2)	英字新聞のビジネスに関する記事の抜粋を読みます。
第4回	研究論文を読む(1)	英語文献Abell(1980)Defining the Businessの導入のp.xiiiを読みます。
第5回	研究論文を読む(2)	Abell(1980)Defining the Businessの導入のpp.3～4を読みます。
第6回	研究論文を読む(3)	Abell(1980)Defining the Businessの導入のpp.4～5を読みます。

第7回	研究論文を読む(4)	Abell(1980)Defining the Businessの導入のpp.5～6を読みます。
第8回	研究論文を読む(5)	英語文献Barney(2001)の抜粋を読みます。
第9回	研究論文を読む(6)	Barney(2001)の抜粋のp.638を読みます。
第10回	研究論文を読む(7)	Barney(2001)の抜粋のp.630を読みます。
第11回	研究論文を読む(8)	英語文献Porter(2003) Competitive Strategyの導入を読みます。
第12回	研究論文を読む(9)	Porter(2003) Competitive Strategyの導入のpp.ix～xを読みます。
第13回	研究論文を読む(10)	Porter(2003) Competitive Strategyの導入のpp.x～xiを読みます。
第14回	本講義のレビュー	これまでの講義内容のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、次のとおりです。

- ①授業における発言、提出物 70%
- ②平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

英語を深く読むことができたという意見が多かったので、これまでの方針を継続していきます。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】

・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
・生成AIの取り扱いについて
大学における学修は学生が主体的に学ぶことが本質であり、生成AIから出力された内容をそのまま用いるなど、学生自らの手によらずにレポート等を作成することは、学生自身の学びを深めることに繋がらないため、本講義では利用を禁止します。
また、生成AIから出力された内容に著作物の内容がそのまま含まれていた場合、これに気付かずレポート等に用いると剽窃に当たる可能性があるため注意してください。
・受講希望者が30名を超えた場合には、受講者の選抜を行います。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

If we can read not only Japanese but also literature written in English, the range of knowledge that we can acquire will be greatly expanded. In this lesson, initially, we will focus on plain English newspaper articles, before moving on to classic research papers on business administration. We would like students to experience the significance and enjoyment of learning by actually touching representative English papers on business administration.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.Understand the concepts and backgrounds necessary for business in English.
- B.Able to read academic literature written in English.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 70%、in class contribution: 30%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

人材育成論Ⅰ

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5064

科目名：人材育成論Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5064

科目名：人材育成論Ⅰ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論Ⅰでは、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。現代産業社会では、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の現代人は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
- (2) 日本の組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状及び政策課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

人材育成論Ⅰは、ビジネス領域での人材育成の基本パターンを、長期の職業キャリアの中で、OJT（仕事を通じた訓練）、Off-JT（研修など仕事を離れた訓練）、自己啓発（自学、自習など個人の主体的な学び）をベースに、職業能力の開発をはかることと捉えます。その上でこの人材育成の基本パターンが、技術革新の中でどう変化しているのか、働く者の性別や年齢、職業、勤務先の規模、業種などによりどのような違いがあるのか、についてその現状と課題を学習します。

授業内での発表はとくに求めませんが、毎回授業終了時に、①その日の授業についての感想、コメント、質問をリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。また②学習支援システムに授業内容の理解度を問う課題を課します。次回授業の冒頭にリアクションペーパーへのリプライ及び学習支援システムの課題の解答例を解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ人材育成について学ぶか。 講義の進め方。参考文献の指示など

第2回	日本の人材育成システムの特徴——国際比較の視点から	1 日本の人材育成システムの特徴：職業教育訓練への公的関与が低く、初期職業教育訓練への企業の関与が高い 2 学校教育システムの特徴：入学試験難、進級・卒業容易、職業教育より一般教育重視 3 教育システムと雇用システムの補完性
第3回	能力開発とキャリア——これからのキャリア形成	1 これまでの雇用慣行と能力開発の基本パターン：新卒採用、異動・昇進というキャリア形成： 2 能力開発の方法：OJT、Off-JT、自己啓発 3 企業主導型能力開発と個人のキャリア形成との関係
第4回	技術革新と技能の変化	1 学説：高度化説と単純化説；技術決定論と社会決定論 2 戦後日本の技術革新と仕事・職場の変化：オートメーション化、ME化段階、IT化段階、AI段階 3 情報技術の進展とホワイトカラーの仕事・職場の変化 4 情報技術の進展と新しい働き方——テレワーク
第5回	女性の職域とキャリア形成	1 性別職域分離とその理論：統計的差別理論 2 国際比較でみた性別分離：水平分離と垂直分離 3 職域統合へ向けて：M字型就労カーブ、男女雇用機会均等法、ポジティブアクション
第6回	失業・転職とキャリア形成	1 失業について：失業者の定義 2 失業とセーフティネットのしくみ：失業のダメージ緩和のための雇用保険 3 転職について：入職経路としてのソーシャルネットワーク、「友人・知人」の重要性
第7回	若者のキャリア形成——学校から職場へ	1 「就社」社会とその得失 2 初期キャリア問題の諸レベル：早期離職問題；正社員への移行困難問題；就業形態間の賃金格差問題；学校から職場への移行困難な者の階層格差問題 3 若者のキャリア形成問題への対応の方向性
第8回	非典型労働者のキャリア形成	1 非典型雇用の様々な働き方 2 企業の視点からみた非典型雇用：賃金節約；仕事の繁閑への対応 3 働く側からみた非典型雇用：家計の補助；都合のよい時間に働ける 4 問題への対応の方向性：非正規雇用に関わる法的規制と正社員への転換
第9回	高齢化とキャリア形成	1 高齢化と仕事からの引退過程：日本の特徴 2 定年制とライフスタイルの変化；就労・非就労の規定要因 3 安定した高齢期生活を支える政策課題：高齢者雇用安定法の改正

第10回	事務系ホワイトカラーのキャリア形成	1 「ホワイトカラー」とは：職業大分類の4つの職種の総称 2 企業内キャリアをみる視点：キャリアのタテ（昇進）とヨコ（異動） 3 国際比較からみた日本の特質：「遅い」昇進選抜と「幅広い」異動 4 人材育成からみたポイントと課題
第11回	技術系ホワイトカラーのキャリア形成	1 専門的・技術的職業従事者の増加 2 技術系ホワイトカラーの初期キャリア管理の重要性 3 研究・開発技術者のキャリア形成面での国際比較：日本の特徴 4 日本の技術者のキャリア形成上の特徴と課題
第12回	中小企業労働者のキャリア形成	1 中小企業の労働市場の特徴 2 中小企業の人事管理、人材育成の取組みの特徴 3 中小企業従業員の就業意識：組織との関係認識、職場の雰囲気 4 事業主からみた望ましい能力開発の方法、職業キャリア及び職業資格
第13回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	1 いまなぜワーク・ライフ・バランス（WLB）か 2 仕事と生活が両立しにくい現実 3 WLBを支える制度及び現状と目標 4 WLB施策実現にむけての課題——仕事の進め方の効率化と長時間労働の抑制
第14回	講義のまとめと試験について	1 講義全体の振り返りとまとめを行う 2 定期試験の傾向と対策 3 受講生との質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内容のかなりの部分は、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣（2014年）に準拠しているので、各自購入の上、受講と合わせて読むことが望ましいです。

【参考書】

佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂（2011年）、佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）を購入し、併読することが望ましいです。

【成績評価の方法と基準】

・現時点での成績評価の方法と基準は以下のようです。

毎回授業終了時に提出するリアクションペーパー及び学習支援システムの課題への回答をもって平常点とします（30点）。中間レポートを7回目の授業時に中間レポートを課します（20点）。期末に定期試験を実施します（50点）。

【学生の意見等からの気づき】

前回の講義の質問や感想について紹介し、簡単な振り返りを行う。毎回の講義のねらいを授業開始時に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

人材育成論Ⅰと人材育成論Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students can learn the importance and the way how employees work with firm develop their vocational skills and abilities in each organisations. In industrial society in modern society, human resource development may be indispensable for business activities of firms, on the other hand, working employees also depend on firms that employ them. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop their skill.

【Learning Objectives】

(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages.

(2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.

(3) Understand the impact of vocational education and training on skill formation and career development, and deepen awareness of the current situation and policy issues in which the labor market and career development are diversifying.

【Learning activities outside classroom】

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1 Submit of Reaction paper and problem of Hoppii in each class. The standard is 30 points.

2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.

We conduct a regular test at the end of the term, The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

人材育成論Ⅱ

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5065

科目名：人材育成論Ⅱ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5065

科目名：人材育成論Ⅱ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論Ⅱでは、人々が企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の方法と課題についての基礎を学びます。また講義の後半では、国際比較を通じて、日本の人材育成とキャリア形成の特徴を学びます。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。(2) 日本組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解する。
- (4) あわせて人材が育成されていくプロセスであるキャリア形成過程と労働市場が多様化している現状について、国際比較を通じた日本の特徴についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

人材育成論Ⅱでは、日本の人材育成とキャリア形成について概論及び特徴を学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の概論について学びます。

講義の後半では、日本の人材育成とキャリア形成の特徴について国際比較を通じて理解することに努めます。

授業内での発表はとくに求めませんが、毎回授業終了時に、①その日の授業についての感想、コメント、質問をリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。また②学習支援システムに授業内容の理解度を問う課題を課します。次回授業の冒頭にリアクションペーパーへのリブライ及び学習支援システムの課題の解答例を解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ——人材育成論Ⅱの 進め方	講義の進め方、概要、成績評価 の仕方などを説明します。 なお、この講義の前半とは、第1 回から第6回までを、また後半 とは第7回から第13回までを指 します。

第2回	組織のなかで人を育てること	第2回では、以下のことを学びます。 1 組織内人材育成の要点。人材育成に関連する用語 2 人材育成を考えるための枠組み 3 人材開発の実践モデル 4 人材開発の二つの視点 5 企業の実践事例にみる実践モデルと二つの視点 6 日本の人材育成研究の蓄積にみる二つの視点の意義と課題
第3回	日本企業の人材育成の特徴とは—— OJT、Off-JTと人事制度の関係	第3回では以下のことを学びます。 1 職業能力開発システムの国際比較と日本の特徴 2 日本の企業内能力開発のしくみ：OJT、Off-JTの意義と課題 3 企業主導型キャリア管理と個人主導型キャリア開発 4 マネージャーやリーダーの育成（ブレインゲーマネージャー）
第4回	大企業の人材育成の事例	第4回では以下のことを学びます。 1 人事制度と教育訓練体系の事例 2 教育訓練体系の概要：フォーマルなOJTとインフォーマルなOJT 3 インフォーマルなOJTとしての職場学習：仕事管理のPDCAサイクル 4 インフォーマルなOJTとしてのキャリア：大企業部長のキャリア事例
第5回	大企業マネージャーのキャリア形成	第5回では以下のことを学びます。 1 インフォーマルなOJTとしてのキャリアを見る意義及び成長・発達・学習する側の視点 3 インタビュー調査の対象と調査項目 4 マネージャーの育成に必要なもの
第6回	タレントマネジメントとリーダー人材育成—これまでの人材育成の課題	第6回では、これまでの人材育成の課題としてのタレントマネジメントとリーダー人材育成について学びます。
第7回	雇用制度と職業教育訓練制度の国際比較——日本の位置と特徴	第7回から第13回までが後半となります。国際比較による日本の人材育成とキャリア形成の特徴を様々な角度から学びます。第7回は以下のことを学びます。 1 スキル形成、雇用制度の国際比較研究 2 職業教育訓練（VET）の国際比較研究 3 日本の位置と特徴

第8回	企業コミュニティの変化とキャリア形成・キャリア自律	第8回では以下のことを学びます。 1 企業コミュニティと個人のキャリア 2 内部労働市場の生成と衰退 3 キャリア形成と人材育成を考える三つの視点 4 企業コミュニティの変化と初期キャリア 5 企業コミュニティの変化と中期キャリア 6 企業コミュニティの変化と後期キャリア 7 「新しい」コミュニティとキャリア形成	第12回	職業教育訓練と労働市場との関係の最近の変化——ドイツとの比較を中心に	第12回では以下のことを学びます。 1 今回のフレームワーク——ドイツと日本の職業教育訓練システムと労働市場システム 2 ドイツにおける職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 3 日本における職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 4 まとめ
第9回	企業コミュニティと人事方針及び人材育成——実証データによる英独日比較	第9回では以下のことを学びます。 1 労働者の意識についての国際比較研究（一覧） 2 人事管理の方針・個人と組織の関係認識・職場の雰囲気についての英独日比較 3 「人事管理による勤労意欲引き出し」仮説はイギリスやドイツでもあてはまるか？ 4 人事管理方針や人材育成の取組は勤労意欲（会社の発展のために自身の最善を尽くしたい）に影響を及ぼすか？——英独日比較 5 考察とまとめ——日本と英独との差異の背景にあるものは何か？	第13回	日本の特徴と歴史的背景。生涯学習（リカレント教育）に対する含意	第13回では以下のことを学びます。 1 後半の講義（日本の特徴）の主な事実発見 2 日本の特徴の意味するもの——生涯学習（リカレント教育）に対する含意 3 日本の特徴の歴史的背景——徒弟制の歴史にみる英独日の差異 4 最後に——日本の課題 講義全体の振り返りとまとめを行います。 定期試験（もしくは最終レポートの課題）について説明します。 学生との質疑応答を行います。
第10回	ホワイトカラーのキャリア形成とキャリア自律に関する英独日比較——大企業管理職を中心に	第10回では以下のことを学びます。 1 ホワイトカラーのキャリア形成の国際比較研究 2 ホワイトカラー及び大企業管理職の組織内キャリア 3 リーダーシップの特定と開発—— 4 イギリス、ドイツ、日本のホワイトカラーのキャリア観 5 望ましいキャリアコース	第14回	人材育成論Ⅱのまとめ	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。 【テキスト（教科書）】 講義前半のテキストとして佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）、佐藤厚・田中秀樹『人材開発とキャリア自律』中央経済社（近刊予定）を使用する。また講義後半のテキストとして佐藤厚『日本の人材育成とキャリア形成：英独日比較』中央経済社、2022年を使用する。なお、毎回、講義の骨子および統計データや調査結果を要約したpptレジメを配布（配信）する。また人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。 【参考書】 人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。
第11回	職業資格の日本の特質——独英との比較を中心に	第11回では以下のことを学びます。 1 日本の職業資格制度の理念と概要 2 職業資格制度と教育制度及び労働市場との関連——ドイツの特徴と日本の特徴 3 職業資格制度と労働市場との関係についての研究 4 教育制度と職業資格との関連——日独比較、日英比較の視点から 5 まとめ——教育システムと雇用システムの補完性の意義。雇用システムと職業資格の共振可能性			【成績評価の方法と基準】 1 毎回の授業時のリアクションペーパー提出及び学習支援システムの課題への回答をもって平常点とします。基準は30点です。 2 授業の前半が終わるころに中間レポートを課します。授業前半の振り返りが目的です。基準は20点です。 3 期末に定期試験を実施する。授業で取り上げた内容の理解度を問うのがねらいです。基準は50点です。 【学生の意見等からの気づき】 各論について出来る限り調査データや海外の事例等を織り交ぜて解説します。 【授業中に求められる学習活動】 C,D 【Outline (in English)】 【Course outline】 In Human Resources Development Theory II, you will learn the significance, methods, and challenges of people forming vocational abilities in corporate society. In the first half of the lecture, you will learn the basics of human resource development and career development methods and issues for Japanese companies. In the latter half of the lecture, we will learn the characteristics of human resource development and career development in Japan through international comparison.

【Learning Objectives】

The learning goals of this class are as follows.

- (1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages. (2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.
- (3) Understand the effects of vocational education and training on skill development and career development.
- (4) To deepen awareness of the characteristics of Japan through international comparisons regarding the career development process, which is the process of developing human resources, and the current situation of the diversified labor market.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1 Submit of Reaction paper and problem of Hoppii in each class. The standard is 30 points.

2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.

We conduct a regular test at the end of the term, The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

産業・組織心理学Ⅰ

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5066

科目名：組織行動論Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5066

科目名：組織行動論Ⅰ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目的は以下の2点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
- (2) 産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
- (3) 産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第2回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第3回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第4回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第5回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別的关系性の重視
第6回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第7回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第8回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第9回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第10回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由

第11回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第12回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人の間の暗黙の関係
第13回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第14回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

山口裕幸・金井篤子編

『よくわかる産業・組織心理学』 2007年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 80%

授業内で実施するリアクションペーパー 20%

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業についての学生からの感想・質問を参照して、テーマについての補足ならびに解説を追加する。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

授業計画は予定となります。1-2回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性があります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%、Short reports :20%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

組織行動論 I

古田 克利

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要

組織行動論の基礎としてモチベーション論、組織社会化論、キャリア発達論等の理論を学ぶ

授業の目的・意義

組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明し、それらにもとづき個人を分析し課題を抽出できるようになることを目指す

【到達目標】

- ・組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
- ・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき個人の行動を分析できる
- ・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき個人の課題を抽出できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義および講義内容に基づく個人演習とグループ討議を行います。授業内での発表や質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に行います。

リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	組織内キャリア（1）	キャリア発達段階の視点から個人の組織内キャリアを分析する
第3回	組織内キャリア（2）	キャリアアトラクションの視点から個人の組織内キャリアを分析する
第4回	組織行動の実際（1）	実際の組織行動についてディスカッションする
第5回	モチベーション（1）	目標設定の視点から個人のモチベーションを分析する
第6回	モチベーション（2）	自己決定の視点から個人のモチベーションを分析する
第7回	組織行動の実際（2）	実際の組織行動についてディスカッションする
第8回	組織適応（1）	6次元モデルの視点から個人の組織社会化を分析する
第9回	組織適応（2）	沈黙動機の視点から個人の組織適応を分析する
第10回	組織適応（3）	援助希求行動の視点から個人の組織適応を分析する
第11回	組織行動の実際（3）	実際の組織行動についてディスカッションする
第12回	課題解決演習（1）	個人の課題について組織行動論の視点から分析する
第13回	課題解決演習（2）	個人の課題解決について組織行動論の視点から検討する

第14回 課題解決演習（3） 組織行動論の視点から個人の課題解決結果を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前資料による事前学習
- ・講義内容の復習
- ・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

適宜、学習支援システム上にて配付します

【参考書】

適宜、学習支援システム上で紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（配点60％）

期末レポート（配点40％）

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやペアワークを積極的に取り入れたいと考えています

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください

【Outline (in English)】

Course outline

This course covers basic constructs and theories of organizational behavior, focusing on motivation theory, organizational socialization theory, and career development theory.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of organizational behavior.

Can analyze individuals based on the constructs and theories of organizational behavior.

Can identify individual issues based on the constructs and theories of organizational behavior.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures.

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria

In-class Assignment: 60%

Final report: 40%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

簿記 I

赤城 諭士

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記 I では、簿記をはじめて学ぶ人を対象に、簿記一巡の手続きについて学習します。簿記は、会社が財産の管理を行ううえでも役立ちますが、現在では、「損益計算書」と「貸借対照表」と呼ばれる2つの表（「財務諸表」と呼ばれる）を作成する役割が重視されています。この財務諸表を作成するための手順が「簿記一巡の手続き」と呼ばれるものです。

財務諸表は、今後、会計学（特に財務会計）を学ぶうえでも重要です。簿記・会計学の基礎を身につけるために簿記一巡の手続きにしたがって、自分で処理を行い、財務諸表を作成できるようにしていきます。

【到達目標】

簿記一巡の手続きにしたがって、取引を処理し、財務諸表の作成までできるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

配布資料にもとづいて説明し、問題演習を通じて当日の説明内容を確認する。また、授業の開始時に前回までの学習内容に関する小テストを実施し、知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、簿記とは	・授業の進め方・成績評価方法の説明。 ・簿記の役割および手続きに関する説明。
第2回	貸借対照表①	・個人商店を前提に、資産・負債・資本について説明。
第3回	貸借対照表②	・財産法による純損益の計算 ・貸借対照表の作成。
第4回	損益計算書	・収益・費用についての説明 ・損益法による純損益計算 ・損益計算書の作成。
第5回	財務諸表の作成に必要な情報とその記録	・財務諸表を作成するのに必要な情報は何かを考える。 ・取引要素の分解
第6回	総合問題演習①	第1回から第5回までの説明内容に関わる問題演習。
第7回	第1回授業内試験	第1回から第6回までの授業内容に関わる試験と総括。
第8回	勘定口座を用いた記録	・勘定への記入のルール ・取引要素の結合関係
第9回	仕訳と転記	・仕訳と転記 ・仕訳の役割
第10回	試算表	・試算表の役割 ・合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の作成
第11回	精算表、決算手続き①	・精算表の役割および作成方法 ・収益・費用勘定残高の損益勘定への振替仕訳

第12回 決算手続き②

- ・損益勘定残高の資本金勘定への振替。
- ・総勘定元帳の締め切り。
- ・繰越試算表の作成。
- ・財務諸表の作成。

第13回 総合問題演習②

第8回から第12回までの説明内容に関わる問題演習。

第14回 第2回授業内試験

第2回から第13回までの授業内容に関わる試験と総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを通じて事前配布する説明資料をあらかじめ読んでおくとう理解が深まります。ですが、簿記では予習以上に復習が重要です。授業での説明内容を確認し、問題演習を繰り返すことで、簿記の手続きを身につけていってください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

使用しない（配布資料にもとづいて説明および演習を行う）。

【参考書】

渡部裕亘、片山寛、北村敬子編著『検定簿記講義3級（2026年度版）』中央経済社。

渡部裕亘、片山寛、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級（2026年度版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

（1）成績評価方法

授業内で実施する2回の試験の結果に基づいて評価する。

（2）成績評価基準・評価の配分等

第1回試験（40％）、第2回試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（問題を解く際に必要となります。また、試験では電卓の持ち込みを認めます。）

【Outline (in English)】

Bookkeeping I is designed for beginners learning bookkeeping, covering the procedures for a full cycle of bookkeeping. While bookkeeping aids companies in managing their assets, its primary role today is to prepare financial statements. The procedures for preparing financial statements are referred to as the “full cycle of bookkeeping.”

Financial statements are also crucial for future studies in accounting (especially financial accounting). To master the fundamentals of bookkeeping and accounting, learn how to prepare financial statements.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

簿記Ⅱ

赤城 諭士

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅱでは、簿記Ⅰで学んだ簿記一巡の手続きを用いて、株式会社が行う様々な取引を処理していきます。例えば、商品の購入や設備投資を行った際の代金の決済方法には様々なものがあります。この授業では日本商工会議所主催の日商簿記検定試験3級の試験範囲に該当する取引を取り上げます。取引の処理を通じてビジネス実務に関する知識も身につけていきましょう。また、決算手続きについても、決算整理手続きを加えた方法を学んでいきます。

【到達目標】

株式会社を前提とした各種の取引について適切に処理できるようになる。また、決算整理を含めた財務諸表の作成を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストの内容を踏まえてパワーポイント等を用いて説明し、ワークブック等を利用した問題演習を通じて当日の説明内容を確認する。また、授業の開始時に前回までの学習内容に関する小テストを実施し、知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	（1）ガイダンスと簿記一巡の手続きに関する復習	・ 授業の進め方・評価方法の説明。 ・ 問題演習を中心とした簿記一巡の手続きの復習。
第2回	商品売買取引①	・ 分記法と三分法
第3回	商品売買取引②	・ 返品、商品売買に伴う運送費等の処理
第4回	商品売買取引③	・ 当座預金と小切手 ・ 小切手を用いた代金決済とその処理
第5回	商品売買取引④	・ 約束手形を用いた代金決算とその処理 ・ 電子記録債権・債務
第6回	商品売買取引⑤	・ 代金の前払・前受があった場合の処理 ・ 商品券に関わる処理
第7回	商品以外の売買	・ 固定資産の売買 ・ 固定資産の売買代金の授受を後日とした場合の処理
第8回	金銭の貸借	・ 借用証書を用いる場合 ・ 約束手形を用いる場合 ・ 役員との間で生じる金銭の貸借
第9回	その他の取引	・ 従業員との関係で生じる取引（仮払金・仮受金等） ・ 小口現金
第10回	株式会社特有の処理	・ 株式を用いた資金調達 ・ 剰余金の配当と利益準備金の積み立て

第11回	決算整理①	・ 売上原価の計算 ・ 貸倒れの見積り ・ 固定資産の減価償却
第12回	決算整理②	・ 収益・費用の繰り延べ ・ 収益・費用の見越し ・ 現金過不足の処理
第13回	伝票および補助簿	・ 伝票を用いた記帳方法 ・ 補助簿の意義と商品有高帳の記入方法
第14回	授業内試験	第1回～第13回までの授業内容に関わる試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストの該当箇所をあらかじめ読んでおくとう理解が深まります。ですが、簿記では予習以上に復習が重要です。授業での説明内容を確認し、問題演習を繰り返すことで、簿記の手続きを身につけていってください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義3級（2026年度版）』中央経済社。

渡部裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック3級（2026年度版）』中央経済社。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- （1）成績評価方法
授業内で実施する試験の結果に基づいて評価する。
- （2）成績評価基準・評価の配分等
授業内で実施する試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（問題を解く際に必要となります。また、試験では電卓の持ち込みを認めます。）

【その他の重要事項】

現在、手形制度の変更が進められている関係上、今年度より簿記のテキストの内容が大幅に変更されることが予想されます。シラバス執筆時点ではまだ新しいテキストが発売されていないので、このシラバスでは従来のテキスト（2025年度版）の内容に従って各授業内容を説明しています。ですが、実際の授業は2026年度版のテキストの内容に沿って進める予定ですので、その点を了承しておいてください。

【Outline (in English)】

In Bookkeeping II, we will process various transactions conducted by corporations using the full cycle of bookkeeping procedures learned in Bookkeeping I. Through processing these transactions, you will also gain knowledge about business practices. Furthermore, regarding year-end closing procedures, we will learn methods that incorporate financial statement adjustment procedures.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

経営統計

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excelの基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立ちます。

【到達目標】

統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを経験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
第2回	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、MS-Excel、統計ソフトRの基本操作について学びます。
第3回	記述統計(1)	中心的尺度（平均、中位数、最頻値）について、企業データを用いて学びます。
第4回	記述統計(2)	ちらばりの尺度（レンジ、分散、標準偏差）について企業データを用いて学びます。
第5回	記述統計(3)	標準化（Z値）について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
第6回	記述統計(4)	2変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
第7回	回帰分析(1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
第8回	回帰分析(2)	重回帰について学びます。目的変数と複数の独立変数との関連性について理解できるようになります。

第9回 回帰分析(3)

ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。

第10回 回帰分析(4)

回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。

第11回 回帰分析(5)

回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。

第12回 各種検定(1)

平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。

第13回 各種検定(2)

分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるかどうかについて理解できるようになります。

第14回 各種検定(3)

回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まるでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業における発言、取り組み: 25%
- ②授業内レポート: 45%
- ③授業内テスト: 30%

【学生の意見等からの気づき】

統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】

・本講義は、「キャリア研究調査法（量的調査）」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。

・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法（量的調査）」を履修していない人でも大丈夫です。

・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には選考を行います。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to master the basics of statistics. No prior basic knowledge is required.

*Learning Objectives

The goal of this class is to enable students to analyze and interpret large quantitative data on their own. This class will cover descriptive statistics, statistical tests and regression analysis.

*Learning activities outside of classroom

If you are interested in how statistical data is used in the media, it will be useful for your studies. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 25%. in class Reports: 45%, in class a
test: 30%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

経営分析Ⅰ【2025年度以降入学者用】

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5072

科目名：経営分析Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C7268

科目名：経営分析論Ⅰ

※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）の情報を適切に収集および分析するための基本的な考え方や計算手法を習得することを目的とします。この授業では、財務諸表分析における収益性、安全性、効率性および成長性などに関する伝統的な分析方法を中心に学びます。また、設例や実際のデータを用いて演習を行います。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。

- ①基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
- ②財務数値の意味を理解する。
- ③企業の財務数値を用いて、受講者自身が分析を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

財務諸表分析等の説明を行った上で、各自、実際に分析を行い、実習により理解していくことを基本とします。授業内レポートのフィードバックは、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
第2回	財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法
第3回	財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第4回	貸借対照表データによる安全性分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第5回	損益計算書データによる収益性分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第6回	相互関係比分析による収益性分析(1)	・相互関係比と収益性分析について
第7回	相互関係比分析による収益性分析(2)	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解 ・ROAとROEの関係

第8回	中間レビュー	第7回までの学習内容についてレビューを行います。
第9回	効率性分析(1)	・使用総資本回転率 ・回転期間の分析
第10回	効率性分析(2)	・増加運転資本
第11回	キャッシュ・フロー・データによる分析(1)	・キャッシュ・フローと会計利益 ・活動区分別キャッシュ・フロー
第12回	キャッシュ・フロー・データによる分析(2)	・キャッシュ・フロー・データによる分析
第13回	キャッシュ・フロー・データによる分析(3)	・フリー・キャッシュ・フローの算定
第14回	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・復習をこまめに行うことが知識の定着に有効です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

乙政正太 著『財務諸表分析(第4版)』同文館出版、2024年。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のとおりです。

- ①平常点30%（授業内のQuiz、レポートの得点）
- ②定期試験70%

【学生の意見等からの気づき】

- ・抽象度の高い概念について、具体的な事例を用いた説明をすることを心がけます。
- ・また、事例を多く取り上げ、受講者が主体的に取り組めるように工夫します。

【その他の重要事項】

・本講義は、経営分析Ⅱの基礎となります。会計学は専門性が高いですが、一度身に着けると、ずっと使うことができるやりがいのある勉強です。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to help students acquire Business Analysis. The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.

*Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to review the class on a regular basis. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Quiz and short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営分析Ⅱ【2025年度以降入学者用】

平井 裕久

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5073

科目名：経営分析Ⅱ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C7269

科目名：経営分析論Ⅱ

※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。

財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。

- ①基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
- ②財務数値の意味を理解する。
- ③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。また数回のリアクションペーパー提出を行って頂き、進捗スピードや内容の理解度について確認をおこなっていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義や関連する研究の紹介などについて解説する。
第2回	第7章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・キャッシュフローと会計利益 ・活動区分によるキャッシュフロー
第3回	第7章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・フリーキャッシュフロー ・キャッシュコンバージョンサイクル(CCC)
第4回	財務諸表分析の基礎的確認	・財務諸表の確認 ・財務諸表分析の意義 ・分析手法
第5回	第9章 成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性

第6回	第10章 付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第7回	第13章 利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法と行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第8回	中間テスト	中間テストの実施および解説
第9回	第8章 損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第10回	補章 貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第11回	第11章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・ファンダメンタル分析 ・企業価値評価の簡便法
第12回	第11章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・配当割引モデル ・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第13回	第12章 会計利益に基づく価値評価	・会計利益と株式価値評価 ・残余利益と株式価値評価モデル ・価値関連性分析 ・株価説明力に影響を及ぼす要因
第14回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。

講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

乙政正太 著『財務諸表分析(第4版)』同文館出版，2024

【参考書】

桜井久勝『財務諸表分析（第5版）』中央経済社，2012

佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第5版）』日本経済新聞出版社，2012

森田松太郎『経営分析入門（第4版）』日本経済新聞出版社，2009

パレブ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第2版）』

東京大学出版会，2001

平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版，2009

ペンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房，2005

【成績評価の方法と基準】

定期試験(60%)・中間テスト(30%)・平常点(10%)による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

引き続き具体的な企業のデータを用いて、イメージしやすい講義をしたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】

受講に際して、簿記の基礎的な知識(日商簿記3級程度)はあることが望ましい。

授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop students' ability to analyze corporate performance through information obtained from financial statements, including balance sheets, income statements, and cash flow statements. By examining key management indicators derived from these statements, students will learn to observe the actual financial condition of companies and identify underlying managerial issues.

The course focuses primarily on traditional methods of financial statement analysis, such as evaluating profitability, safety, efficiency, and growth. In addition, the course will also cover corporate valuation, a topic that has attracted increasing attention in recent years, using practical examples and data from publicly listed companies.

Students are expected to spend approximately four hours before and after each class meeting to review and deepen their understanding of the course content.

Final grades will be determined based on the following components:

- Term-end examination: 60%
- Short reports: 30%
- In-class contribution: 10%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

経営組織論Ⅰ

梅木 眞

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5074

科目名：経営組織論Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5074

科目名：経営組織論Ⅰ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人及び小集団に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。授業内に行う小課題などに関しては、講義の際に随時対面にてフィードバックを行う。期末試験の講評に関しては授業支援システムにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
第2回	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
第3回	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
第4回	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
第5回	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
第6回	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
第7回	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
第8回	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
第9回	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
第10回	動機付けの実践（2）	動機付けの実践/職務設計理論他
第11回	個人の意思決定（1）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
第12回	個人の意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
第13回	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス

第14回 集団行動（2）

集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。

皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブンP.ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

（講義で用いるテキストのglobal versionです）

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で80％評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかでを行います（決定次第、授業支援システムで告知します）。また、授業中の小課題で20%の加点を行います。

成績評価基準は以下の通りです。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例などを取り上げつつ、できるだけわかりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

【Outline (in English)】

Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In spring term, we focus on individuals within the organization.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory. As a member of a corporate organization, acquire the knowledge necessary to increase the productivity of working people.

Outside of classroom, deepen your understanding if you take the course while imagining the group to which you belong and the organization that you will find employment in the future. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Lecture will proceed according to the textbook, so read the instructed part in advance.

90% will be evaluated in the final exam. The final exam will be held either face-to-face or online (as soon as it is decided, it will be announced on the class support system). Additionally, 10% points will be added for small assignments during class.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A+

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

経営組織論Ⅱ

梅木 眞

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5075

科目名：経営組織論Ⅱ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5075

科目名：経営組織論Ⅱ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。授業内に行う小課題などについては、講義の際に対面にて随時フィードバックを行う。期末試験の講評については授業支援システム内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
第2回	チーム	チームを理解する
第3回	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
第4回	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
第5回	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
第6回	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
第7回	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
第8回	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
第9回	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
第10回	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
第11回	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
第12回	人材管理	採用・育成・業績評価
第13回	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
第14回	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブンP.ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

（講義で用いるテキストの global version です）

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で80%評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかでを行います（決定次第、授業支援システムで告知します）。また、授業中の小課題で20%評価します。成績評価基準は以下の通りです。成績評価基準は以下の通りである。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的な事例、手法などを示すことによってわかりやすい授業を心がけていきます。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を学習支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

【Outline (in English)】

In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory.

The lecture will proceed according to the text, so read the instructed part in advance. Please attend the lecture while always thinking about how to think and act if you are yourself. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

90% will be evaluated in the final exam. The final exam will be held either face-to-face or online (as soon as it is decided, it will be announced on the class support system). Additionally, 10% points will be added for small assignments during class.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A+

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA（経営学 / Management 200）

マーケティング論

小川 浩孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5076

科目名：マーケティング論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5076

科目名：マーケティング論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞＜実＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティング」という概念は1900年代初頭にアメリカで生まれ、1950年代から順次体系化・学習され実務に利用されてきた。日本でも60年代ごろから徐々に浸透を始め、今では企業や組織で働く人たちにとって必須の知識・ツールと理解されるようになってきた。しかしながら、「マーケティングとは何か？」「どんな要素が含まれているのか？」と聞かれても明確に答えられる人は意外と少ない。販売や広告活動、あるいは経営陣が決定する（一社員である自分とは無関係な）企業戦略だと混同している人たちも多い。また、マーケティングは営利企業の「販売拡大」「儲ける」ための概念・ツールであり、非営利組織や政府機関には関係ないと思っている人たちも多い。大学卒業後に皆さんが進む道は様々だろうが、この授業が、誰にとっても必須の知識・ツールとしての「マーケティング」への入口となり、変化の激しい社会にあっても活かせる原理として習得されることを目指す。さらに、秋学期に実施される「マーケティング・リサーチ（旧 流通・マーケティング戦略論）」へと発展的にコネクトすることで、理論のより深い理解や適用能力の向上を目指す。

【到達目標】

1. マーケティングに関する基本的な用語を理解し説明できるようになる
2. マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する
3. 社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する
4. 最先端のマーケティング分野（SDGs、ソーシャルマーケティング、AIを用いたマーケティング、DIYマーケティングなど）の一旦に触れる
5. 日本国内にとどまらず、海外の最新のマーケティング課題・事例にも触れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義/Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、テキストを用いた講義、グループディスカッション、グループワーク、個人による課題への提出、グループワークによる課題提出を併用する。

個人による課題提出はA4 1枚程度にまとめた課題に対するペーパーの提出（授業2-3回に1回程度の頻度）となる。またグループワークの結果による課題提出はプレゼンテーションの作成と授業内での発表による。これらに対するフィードバックは都度授業の中において行うか、もしくは個別にコメントなどを付けて返送する。講義にあたってはできる限り事例を用いてわかりやすく説明する。事例には、実務家による講演や実務家の登場するビデオの鑑賞（日本語・英語）などを予定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業と教員の紹介。マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングが、どのような活動なのかを理解する。マーケティングをとりまく価値交換、顧客価値について理解する。
第2回	セグメンテーションとターゲティング	マーケティングにおける基本的概念のひとつであるSTPのうち、セグメンテーション(市場細分化)とターゲティングの重要性について考察する。
第3回	ポジショニング	STPのうち、競争するにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスであるポジショニングを理解する。マーケティング戦略の基本となる差別化を決定づけるポジショニングの重要性を理解する。
第4回	マーケティング・ミックス	マッコーシーの4Pといわれる近代マーケティングを支える概念を理解する。マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていくことが求められる現代の経営について理解する。
第5回	プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて理解する。またアイディア発想のグループワークを行う。ブレインライティング、デザイン思考、オズボーンのチェックリストなどのメソッドなども取り入れながらグループに分かれて取り組む。
第6回	コミュニケーション（プロモーション）	企業のプロモーション、広告について理解する。営業などのセールスも含め幅広くプロモーションについて理解する。
第7回	プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを理解する。消費者視点、企業視点、競争視点などから価格決定プロセスを理解する。
第8回	マーケティングと会計	売上・原価・粗利・営業利益、資産と負債などマーケティング戦略の計画決定と成果を測る上で不可欠な会計の基礎的知識を理解する。
第9回	チャネル（プレイス）	販売チャネルの種類、どのような製品であればどのような店舗で売ったらいいか、どのようなチャネルが有効なのか等の概要を理解する。消費者向け（B2C）、産業向け・ビジネス向け（B2B）による違いも理解する。
第10回	消費者心理と消費者行動	消費者行動理論とマーケティングとの関わりについて理解する。購買心理や行動経済学などの著作にも触れ、購買行動の背後に働く心理を理解できるようにする。
第11回	顧客リレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを理解する。
第12回	マーケティング・リサーチの実際とブランドマネジメント	マーケティングリサーチの基礎概念・種類や特徴について理解する。また、ブランド、信頼がいかに関与しているかを事例をもとに理解する。

第13回	今日のマーケティング	ソーシャルマーケティング、 グSDGsに関わるマーケティング、SNSやAIを用いたマーケティング、DIY マーケティングなど、マーケティングの最新領域に触れる。
第14回	まとめと解説・筆記試験	ここまでの話を総括し、これからのマーケティングを展望する。授業内で最終筆記試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書を読み質問等をまとめておいてください。日頃から新聞やニュースに目を通し、日々の社会・経済の動きに注意を払ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。2-3回に1回程度、A4で1ページほどの簡単な提出物があります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめてもらう場合もあります。毎回授業開始の直前に授業で使用するスライドのPDFをHoppiiに掲載します。ダウンロードしてメモを取るなどに利用してください。

【テキスト（教科書）】

恩蔵直人『マーケティング第2版』日本経済新聞出版、2019/2/1 990円

【参考書】

Kotler, P., Armstrong, G., Opresnik, M.O., Principles of MARKETING 18e GLOBAL EDITION, Pearson Education, 2020

和田充夫他『マーケティング戦略第6版(有斐閣アルマ)』2022、有斐閣

鹿毛康司『「心」が分かるとモノが売れる』2021、日経BP

相良奈美香『行動経済学が最強の学問である』2023、SBクリエイティブ

越智 啓太『買い物の科学：消費者行動と広告をめぐる心理学』2024、実務教育出版

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、

1. マーケティングに関する基本的概念を習得したか
2. マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか
3. 社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか
4. 最新のマーケティング分野を理解したか

の4点を試験によって評価する方法で行います。

成績評価は、平常点60%、最終試験40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度(Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の貢献評価をミックスして行います。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

教員からの一方的な説明だけでなく、グループワークやグループディスカッション、地方の農家や海外ブランドのマーケティング上の具体的事例が刺激となり、学びが深まったという意見が見られました。出来るだけこのような要素を取り入れた授業構成をします。また、授業に双方向なコミュニケーションを取り入れるようにします。受講生の多い授業ですが、出来るだけこのような形での授業運営をしたいと思いますので、バラバラに教室の後方に着席するのではなく、参加しやすいように教室の前の方に固まって着席するよう協力をお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システムHoppii、googleclassroomを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなどで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【その他の重要事項】

東京周辺の店舗に見学に行くグループ課題実施の可能性がありますが。交通費等は自己負担となります。また、訪問日程などは、店舗側やグループメンバーと調整し決定することになります。

教員は長年にわたり外資系企業のマーケティング部門や経営幹部を務め、現在は自身の中小企業（輸出入・卸小売・製品開発）を経営する実務家教員です。米国でMBAを取得し、その後、会社勤めをしながら法政の博士後期課程（経営学専攻）に通いました。経験した業界は、市場調査、消費財、産業財、医療機器、ラグジュアリーブランドなど多岐にわたります。

授業内容には出来るだけ実務経験を反映させ、皆さんの将来の進路に役立つものになるように心がけています。また、毎年留学生の受講も多い授業です。視野を大きく持ち、国境を超えた視点で世界を見、考える力を身に着けましょう。皆さんも貴重な時間とお金を大学での学習に投資しているわけなので、無駄にせず意味ある投資となるよう一緒に頑張りましょう。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

The concept of "marketing" originated in the United States in the early 1900s and has been gradually systematized, studied, and applied in practice since the 1950s. It began to gradually spread in Japan around the 1960s, and is now recognized as essential knowledge and a tool for those working in companies and organizations. However, surprisingly few people can clearly answer the questions, "What is marketing?" and "What elements does it include?" Many confuse it with sales and advertising activities, or with corporate strategies decided by management (which have no relevance to them as employees). Many also believe that marketing is a concept and tool used by for-profit companies to "expand sales" and "make money," and is unrelated to non-profit organizations and government agencies. While you may choose different paths after graduating from university, this class will serve as a gateway to "marketing" as essential knowledge and a tool for everyone, and will help you master the principles that can be applied in a rapidly changing society. Furthermore, by connecting this course to "Marketing Research (formerly Distribution and Marketing Strategy)" offered in the fall semester, you will deepen your understanding of the theory and improve your ability to apply it.

< Learning Objectives >

1. Be able to understand and explain basic marketing terminology.
2. Acquire general knowledge about marketing and understand its role and basic theory.
3. Understand marketing activities currently being practiced in society while linking them to theory.
4. Expose yourself to cutting-edge marketing fields (SDGs, social marketing, AI-based marketing, DIY marketing, etc.).
5. Expose yourself to the latest marketing issues and case studies not only in Japan but also overseas.

< Learning Methods >

Classes will combine lectures using textbooks, group discussions, group work, individual assignments, and group work assignments.

Individual assignments will consist of submitting a paper on approximately one A4 page (approximately once every 2-3 classes). Assignments resulting from group work will consist of creating a presentation and giving it in class. Feedback on these will be provided during each class, or will be returned individually with comments. Lectures will use case studies wherever possible to make explanations easy to understand. Case studies will include lectures by practitioners and the viewing of videos (in Japanese and English) featuring practitioners.

< Learning Activities Outside of Classroom >

Please read the textbook in advance and prepare any questions you may have. Regularly read the newspaper and news, and pay attention to daily social and economic trends. The standard preparation and review time for this class is two hours. Approximately once every two or three classes, you will be required to submit a simple one-page A4 assignment. You may also be divided into groups to discuss an assignment and work together to compile an assignment. Just before each class begins, a PDF of the slides used in class will be posted on Hoppii. Please download it and use it to take notes, etc.

< Grading Criteria/Policy >

Students will be graded on the following four points:

1. Have you mastered the basic concepts of marketing?
2. Have you fully understood and can explain marketing theory?
3. Have you understood the role of marketing in society and can explain actual marketing activities in relation to theory?
4. Have you grasped the latest developments in the field of marketing?

Grades will be based on 60% class attendance and 40% final exam. Class attendance will be determined by attendance rate, class participation, assignment submission rate, and assignment submission content. For group assignments, evaluation will be based on a combination of the assignment itself and the mutual contributions of group members. Grades will be out of a total of 100 points, with a score of 60 or above being a pass.

< Others >

There may be a group assignment involving visiting stores around Tokyo. Students will be responsible for their own transportation costs. The visit schedule will be determined through coordination with the store and group members.

The instructor is a practitioner who has worked in the marketing department and as a senior executive at foreign-affiliated companies for many years. He currently runs his own small business (import/export, wholesale/retail, and product development). He earned an MBA in the United States and then studied for a doctorate in business administration at Hosei University while working for companies. His experience spans a wide range of industries, including market research, consumer goods, industrial goods, medical devices, and luxury brands.

The course content reflects his practical experience as much as possible, ensuring that it is useful for students' future careers. This class also attracts many international students every year. Students will develop the ability to broaden their perspective and see and think about the world from a transnational perspective. You are investing your valuable time and money in your university studies, so let's work together to make it a worthwhile investment.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

マーケティング・リサーチ

小川 浩孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業や組織が行うマーケティング活動の様々な局面においては、情報に基づいた意思決定（データ・ドリブン・マーケティング）が極めて重要であり、そのツールの一つが「マーケティング・リサーチ」である。日本語では「市場調査」と呼ばれているが、そのカバーする領域は「市場を調べる」という一言では括れないほど幅広く、深い。マーケティング・リサーチは適切に用いることが出来れば、意思決定を正しく行い、リスク要因を減らす手助けになるが、間違っ使用すれば、誤った意思決定を招き、大きな損失をもたらす可能性もある。さらに言えば、利己的な利益誘導のために用いることすら可能である。

従って、正しいマーケティング・リサーチの利用について基本を理解しておくことは大変重要である。マーケティング・リサーチには企画・実施・分析・解釈・報告・提案といったプロセスや、多様な手段・手法があり、それらの基礎や適切な利用について学ぶのが本授業の目的である。

また、主な調査方法には思考や行動などの質的（定性的）側面について理解・分析する質的調査と、数量データを収集・分析する量的調査とがある。量的調査の分析にあたっては、統計的知識と解析が不可欠であるが、文系の学生たちにとっては苦手な分野かもしれない。本授業では高度な統計処理を学ぶことはせず、基本的概念を文系の学生にも平易に理解できる形で講義する。

併せて、事象・本質の深い理解に不可欠な消費者行動、社会心理学、行動経済学などの関連分野についても学習時間を設ける。

また、現在は、IT（SNS・AIを含む）の進化により日常生活の中で無意識のうちにデータ・情報が収集され利用されている。これらの活用や倫理的側面についても理解できるようにする。

【到達目標】

- 1 マーケティング活動における課題を理解し、課題を解決するために最適な調査の方法や仮説設定ができるようになる。
- 2 適切な調査を設計し、実施、データや情報を収集できるようになる。
- 3 得られたデータを分析できるようになる。
- 4 分析した結果を正しく解釈し、報告できるようになる。
- 5 マーケティング・リサーチの質を向上させるために、関連する分野についての基礎的概念を理解出来るようになる。
- 6 ITを用いたデータ収集・活用における手法や倫理的側面的重要性を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業は、テキストを用いた講義、グループディスカッション、グループワーク、個人による課題への提出、グループワークによる課題提出を併用する。

個人による課題提出はA4 1枚程度にまとめた課題に対するペーパーの提出（授業2-3回に1回程度の頻度）となる。またグループワークによる課題提出は作業と授業内での発表による。これらに対するフィードバックは都度授業の中において行うか、もしくは個別にコメントなどを付けて返送する。関連分野の学習にあたっては入門書を購読し、感想や学んだことを課題提出・発表してもらう。講義にあたってはできる限り事例を用いてわかりやすく説明する。また事例紹介においては、実務家による講演や実務家の登場するビデオの鑑賞（日本語・英語）なども予定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方	マーケティング・リサーチとは
第2回	課題（仮説）設定と調査手法	マーケティング課題の設定とそれに応じた調査手法の選択を理解する。
第3回	調査手法：質的調査（1）	質的調査の種類や実施にあたってのポイントについて理解する。
第4回	調査手法：質的調査（2）	質的調査の各種類についてさらに詳しく学ぶ。授業内での実習を含む。
第5回	調査手法：量的調査（1）	量的調査の種類、標本数、調査項目の立て方について理解する。
第6回	調査手法：量的調査（2）	質問の種類と作成について理解する。授業内での実習を含む。
第7回	調査に役立つ関連分野の理解	消費者行動、社会心理学、行動経済学などについて各自事前に読んだ参考書をもとに、概略を理解する。
第8回	統計処理の基礎概念（1）	初心者向けの入門書を使い、データ分析に用いられる統計概念（標準偏差、信頼区間など）を理解する。
第9回	統計処理の基礎概念（2）	初心者向けの入門書を使い、データ分析に用いられる統計概念（標準偏差、信頼区間など）を理解する。
第10回	多変量解析	因子分析、クラスター分析、重回帰分析など、多変量解析の種類や活用方法について理解する。
第11回	アンケート調査の企画と実施（1）	グループに分かれ、オンラインアンケートを作ってみる。それに基づいてアンケート調査を実際に行ってみる。
第12回	アンケート調査の企画と実施（2）	実際に収集したデータをもとにExcelなどを使い集計し、グループごとに発表する。
第13回	デジタルデータ収集やAIを利用したマーケティング・リサーチ	ホームページやSNSの閲覧、移動データなどのビッグデータがどのように利用されているか理解する。また、AI活用によるリサーチプロセスの効率化と制約について理解する。
第14回	まとめと最終試験	授業のまとめの後、試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書を読み質問等をまとめておいてください。日頃から新聞やニュースに目を通し、日々の社会・経済の動きに注意を払ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。2-3回に1回程度、A4で1ページほどの簡単な提出物があります。また、グループに分かれて作業をすることもあります。毎回授業開始の直前に授業で使用するスライドのPDFをHoppiiに掲載します。ダウンロードしてメモを取るなどに利用してください。時間外に店舗見学を行う外出があります。数名のグループに分かれ指定された店舗の見学に出かけ、レポートにして発表・提出を行います。

【テキスト（教科書）】

なし None

【参考書】

星野崇宏、上田雅夫『マーケティング・リサーチ入門』2018、有斐閣
米田恵美子『「専門家」以外の人のためのリサーチ&データ活用の教科書：問題解決マーケティングの秘訣は、これだ!』2022、東洋経済新報社
大上丈彦『マンガでわかる統計学 ストーリーだから最後まで読める』2025、SBクリエイティブ
小島 寛之『完全独習 統計学入門』2006、ダイヤモンド社

佐々木弾『イラスト&図解 知識ゼロでも楽しく読める! 統計学のしくみ』2021、西東社

鹿毛康司『「心」が分かるとモノが売れる』2021、日経BP

相良奈美香『行動経済学が最強の学問である』2023、SBクリエイティブ

越智 啓太『買い物の科学：消費者行動と広告をめぐる心理学』2024、実務教育出版

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点60%、最終試験40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度(Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の貢献評価をミックスして行います。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

教員からの一方的な説明だけでなく、グループワークやグループディスカッションが刺激となり、学びが深まったという意見が見られました。出来るだけこのような要素を取り入れた授業構成をします。また、授業に双方向なコミュニケーションを取り入れるようにします。受講生の多い授業ですが、出来るだけこのような形での授業運営をしたいと思いますので、バラバラに教室の後方に着席するのではなく、参加しやすいように教室の前の方に固まって着席するようにご協力をお願いします。またグループに分かれて課題を行う場合は、一部の学生だけに負荷がかからないよう配慮したグループ分けを行います。また、学生同士相互に連絡が取りやすいよう連絡網の共有などを行います。

また、発表に時間がかかることが見られたため、タイムマネジメントに配慮した授業運営を行います。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システムHoppii、googleclassroomを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなどで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【その他の重要事項】

東京周辺の店舗に見学に行くグループ課題があります。交通費等は自己負担となります。また、訪問日程などは、店舗側やグループメンバーと調整し決定することになります。

教員は長年にわたり外資系企業のマーケティング部門や経営幹部を務め、現在は自身の中小企業（輸出入・卸小売・製品開発）を経営する実務家教員です。米国でMBAを取得し、その後、会社勤めをしながら法政の博士後期課程（経営学専攻）に通いました。経験した業界は、市場調査、消費財、産業財、医療機器、ラグジュアリーブランドなど多岐にわたります。

授業内容には出来るだけ実務経験を反映させ、皆さんの将来の進路に役立つものになるように心がけています。また、毎年留学生の受講も多い授業です。視野を大きく持ち、国境を超えた視点で世界を見、考える力を身に着けましょう。皆さんも貴重な時間とお金を大学での学習に投資しているわけなので、無駄にせず意味ある投資となるよう一緒に頑張りましょう。

統計については苦手意識を持つ人も多いと思いますが、初学者にも理解しやすく興味が持続できるよう、出来るだけ平易に講義することを心がけます。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

Informed decision-making (data-driven marketing) is crucial in various aspects of marketing activities conducted by companies and organizations, and one of the tools used to achieve this is "marketing research." While known as "market research" in Japanese, the scope of this research is so broad and deep that it cannot be summed up simply as "researching the market."

When used appropriately, marketing research can help make correct decisions and reduce risk factors, but when used incorrectly, it can lead to incorrect decisions and result in significant losses. It can even be used for selfish gain.

Therefore, a basic understanding of how to properly use marketing research is extremely important.

Marketing research involves processes such as planning, implementation, analysis, interpretation, reporting, and proposals, as well as a variety of tools and techniques. The purpose of this class is to learn the basics of these and their appropriate use.

The main research methods are qualitative research, which understands and analyzes qualitative aspects such as thoughts and behaviors, and quantitative research, which collects and analyzes quantitative data. Statistical knowledge and analysis are essential when analyzing quantitative surveys, but this may be an area that is difficult for students in the humanities. This class will not cover advanced statistical processing, but will instead lecture on basic concepts in a way that is easy to understand even for students in the humanities.

In addition, there will be time set aside to study related fields such as consumer behavior, social psychology, and behavioral economics, which are essential for a deep understanding of phenomena and their essence.

Furthermore, with the evolution of IT (including social media and AI), data and information are now being collected and used unconsciously in everyday life. Students will also be able to understand how this information is used and the ethical aspects involved.

< Learning Objectives >

1. You will be able to understand the issues facing marketing activities and develop the most appropriate research methods and hypotheses to solve them.
2. You will be able to design and conduct appropriate research and collect data and information.
3. You will be able to analyze the data obtained.
4. You will be able to correctly interpret and report the results of analysis.
5. You will be able to understand basic concepts in related fields in order to improve the quality of marketing research.
6. You will understand the importance of methods and ethical aspects when collecting and utilizing data using IT.

< Learning Methods >

Classes will combine lectures using textbooks, group discussions, group work, individual assignments, and group work assignments.

Individual assignments will consist of submitting a paper on approximately one A4 page (approximately once every 2-3 classes). Group work assignments will consist of work and presentations in class. Feedback on these will be provided in class or returned individually with comments. When studying related fields, students will be required to subscribe to introductory books and submit assignments and presentations on their impressions and what they have learned. Lectures will use case studies wherever possible to make explanations easy to understand. Case studies will also include lectures by practitioners and videos featuring practitioners (in both Japanese and English).

< Learning Activities Outside Of Classroom >

Please read reference books and prepare any questions you may have in advance. Regularly read newspapers and the news, and pay attention to daily social and economic trends. The standard preparation and review time for each class is two hours. You will be required to submit a simple one-page A4 assignment approximately once every two or three classes. You may also work in groups. Just before each class begins, a PDF of the slides used in class will be posted on Hoppii. Please download them and use them for taking notes. There will be an outing to visit a store outside of class time. You will be divided into several groups and will go on a tour of a designated store, where you will then write a report to present and submit.

< Grading Criteria >

Grades are calculated based on 60% regular class points and 40% final exam points. Regular class points are determined based on attendance rate, class participation, assignment submission rate, and assignment submission content. For group assignments, the grade is a combination of the assignment itself and the mutual contributions of group members. The maximum grade is 100 points, with a score of 60 or above being a pass.

< Others >

This group assignment involves visiting stores around Tokyo. Students are responsible for their own transportation costs. The schedule and schedule of visits will be determined through coordination with the stores and group members.

Instructor is a practitioner who has worked in the marketing department and as a senior executive at a foreign-affiliated company for many years. He currently runs his own small business (import/export, wholesale/retail, and product development). He earned his MBA in the United States and then studied for his doctorate in business administration at Hosei University while working for companies. His experience spans a wide range of industries, including market research, consumer goods, industrial goods, medical devices, and luxury brands.

We strive to incorporate our practical experience as much as possible into the course content to ensure it is useful for your future career. This class is also attended by many international students every year. Students should broaden their perspective and acquire the ability to see and think about the world from a transnational perspective. You are investing your precious time and money in your university studies, so let's work together to make sure it is a meaningful investment and not a waste.

While statistics may be challenging for many students, we will strive to make our lectures as easy to understand as possible, so that beginners can easily understand and maintain interest.

ECN200MA（経済学 / Economics 200）

仕事の経済学

梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関するテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況と歴史を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や労働問題の時代背景についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】

ビジネスキャリアに関連する経済理論や社会環境を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例、労働問題を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な概念を理解し、人間が、どのような社会環境の中で、どのようにキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、（１）テキストを使用し、一つのトピックスに関して、仕事映画の紹介します。（２）その解説を前提に続いて、経済理論や時代背景、社会問題を解説します。（１）はオンライン、（２）はオンラインでの授業を考えております。労働問題を参加学生と一緒に考察することを目指します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味、仕事映画について説明。
第2回	新規学卒労働市場の事例	仕事映画「何者」を紹介し、自分を「売る」とは何かを解説する。
第3回	新規学卒労働市場の理論と実証	前回の講義を続けて、新規学卒市場に関する研究を説明する。
第4回	現場主義の改善活動の事例	仕事映画「スーパーの女」と「県庁の星」を紹介し、企業の競争力を支える人材マネジメントを解説する。
第5回	現場主義の改善活動の理論と実証	第4回に続いて、企業の競争力と人材マネジメントに関する研究を説明する。
第6回	仕事配分と昇進システムの事例	仕事映画「ワーキング・ガール」と「9時から5時まで」を紹介し、昇進と昇格のメカニズムを解説。
第7回	仕事配分と昇進システムの理論と実証	第6回に続いて、仕事配分と昇進システムに関する研究を説明する。
第8回	ワークライフバランスの事例	仕事映画「下町の太陽」を紹介し、女性のキャリアデザインやワークライフバランスについて解説する。

第9回	ワークライフバランスの理論と実証	女性のキャリアデザインやワークライフバランスに関する研究を説明する。
第10回	雇用社会の誕生の事例	仕事映画「スーダラ節 わっちゃんいけどやめられねえ」を紹介し、雇用社会の形成を解説する。
第11回	雇用社会形成の理論と実証	雇用社会形成の歴史研究を説明する。
第12回	自己投資と転職の事例	仕事映画「マイレージマイライフ」を紹介し、自己投資と転職に関して解説する。
第13回	自己投資と転職の理論と実証	自己投資と転職に関する研究を説明する。
第14回	様々なキャリア	最終回のみ、振り返りと復習確認のために、オンライン・オンデマンドで行います。今後の雇用社会を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梅崎修・松繁寿和・協坂明『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内作業(40%)と学期末のレポート(60%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。仕事経験が少ない学生に対して、職場の現実を伝えつつ、労働経済学の理論を学んでもらう。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

この講義では、労働経済学者による仕事映画解説を学びながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。毎回出席し、労働問題を把握しつつ、学問の考え方を身につけて下さい。

【Outline (in English)】

It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it, and the historical background of labor issues.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

ブランド創造論

石原 篤

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5079

科目名：ブランド創造論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5079

科目名：ブランド創造論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物や情報が溢れる時代に、人は何を基準に買い物をしたり、情報を取捨選択していくか。ブランドは人の気持ちを動かしたり、行動を生み出していく上で大きな役割を果たしています。

かつてブランド創造は、対象となるブランドに対する良質なイメージをつくること、表面を装うことだと誤解されていました。例えば、ブランドロゴやビジュアルづくりだけがブランド創造だとされていたのもその現れです。一方で、いま皆さんがブランドに触れる時にどこに目を向けるか。おそらくブランドの態度や行動ではないでしょうか。ブランドの表面だけではなく内面に目が向けられているわけです。このようにブランド創造の形はここ数十年で大きく変化し、現在も進化を続けています。

この講義では、ブランドとは何か、ブランドをどうつくるか、などを論理的な観点だけでなく、ブランドづくりの現場の実態や実情なども踏まえながら学んでいきます。

また、企業のマーケティング活動におけるブランドのあり方・つくり方を理解するだけでなく、受講生が一人の人間として自分自身のブランドをどのようにつくり上げていくかを学ぶことも目的とします。

【到達目標】

- (1) ブランドとは何かを理解し、説明できる。
- (2) ブランド創造のアプローチを理解し、実践する。
- (3) ブランド創造に必要な合意形成ツール「企画書」の作成方法を、身につける。
- (4) 正解のない多様性の時代の中で、セルフブランディングの重要性を理解し、実践してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
- ・前半の授業は、論理と事例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。
- ・中盤から後半の授業は、リアリティのあるブランドづくりを学ぶために、広告業界・エンタメ業界・飲食業界でブランド創造に従事する方や、クリエイター・アーティストとして活動される方をゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）
- ・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
- ・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立てます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、講義の狙いと授業計画の説明、講義に期待するアンケートの回答
第2回	ブランド創造概論	ブランディング、マーケティング、コミュニケーションなどのキーワードの実践的な分類と関係性
第3回	ブランド創造史	1980年から2025年まで45年間にわたる日本のブランディングの変遷
第4回	ブランド創造とコピーライティング 【ゲスト講義】	言葉を起点にブランドをつくり出す方法論 ※ゲストとしてコピーライターの方にお越しいただきます
第5回	ブランド創造とアートディレクション 【ゲスト講義】	ブランドづくりにおけるアートディレクションという方法論 ※ゲストとしてアートディレクター/デザイナーの方にお越しいただきます
第6回	ブランド創造の新しい潮流①	地球環境・社会環境の変化に伴うサステナブルなブランド創造
第7回	ブランド創造の新しい潮流②	WEB3.0時代におけるリアルとデジタルの境界線のないブランド創造
第8回	社会と接続するブランド創造【ゲスト講義】	ブランドづくりにおけるPR（パブリックリレーションズ）という方法論 ※ゲストとしてクリエイティブディレクター/PRディレクターの方にお越しいただきます
第9回	ブランド戦略とアイデアのつくり方	ブランドづくりをしていくための戦略構築とアイデアのつくり方 「ブランド創造実習」課題発表
第10回	商品とブランド創造 【ゲスト講義】	わたしが欲しい！を、みんなが欲しい！に昇華させるブランドづくり ※ゲストとしてD2Cブランドのブランドディレクターの方にお越しいただきます
第11回	お店とブランド創造 【ゲスト講義】	店舗を起点にしたniko and ...のブランド創造 ※ゲストとしてライフスタイルブランドのブランドディレクターの方にお越しいただきます
第12回	社会とブランド創造 【ゲスト講義】	社会課題を解決し実現したい世界をつくるためのブランドづくり ※ゲストとして社会起業家の方にお越しいただきます
第13回	ブランド創造実習講評	実習課題で提出された企画書を紹介しながら講評
第14回	セルフブランディングのススメ	ブランド創造に関わる働き方と受講生自身のセルフブランディングの方法論 ゲスト）株式会社電通 ビジネスプロデュース局所属 桑原卓也氏（法政大学経済学部卒業生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。
- (2) また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- (3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。
- (4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- ・これからの「売れるしくみ」のつくり方 石原篤
- ・手書きの戦略論 「人を動かす」7つのコミュニケーション戦略 磯部光毅
- ・私とは何か 「個人」から「分人」へ 平野啓一郎
- ・なめらかなお金がめぐる社会。あるいは、なぜあなたは小さな経済圏で生きるべきなのか、ということ。 家入一真

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

実習課題の提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

演習課題にかける時間がもう少し欲しかったという意見をいただきましたので、課題発表を前倒しした授業スケジュールに変更しています。

【Outline (in English)】

■ Course outline

In this age of overflowing goods and information, what do people base their shopping and information choices on? Brands play a big role in moving people's minds and creating behavior. There used to be a misconception that brand creation was about creating a good image of the target brand, that is, creating a surface. For example, the fact that only brand logos and visuals were considered brand creation is a manifestation of this. On the other hand, where do you pay attention when you look at brands today? Perhaps it is the attitude and behavior of the brand to which you direct your attention? In other words, you are looking inside the brand, not just on the surface. Thus, the nature of brand creation has changed dramatically in recent decades and continues to evolve.

In this course, students will learn what a brand is and how to create a brand, not only from a logical point of view, but also by taking into account the actual situation and realities in the field of brand creation.

In addition to understanding how brands work in corporate marketing and how to create them, this course also aims to help students learn how to build their own brand as a person.

■ Learning Objectives

- (1) To be able to understand and explain what a brand is.
- (2) Understand and practice the brand creation approach.
- (3) Learn how to create a "project proposal," a consensus-building tool needed to create a brand.
- (4) In an age of diversity without a right answer, understand the importance of self-branding and practice it.

■ Learning activities outside of classroom

- (1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
- (2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
- (3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
- (4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."

■ Grading Criteria /Policy

Regular marks: 50%

Submissions for practical training assignments: 50%

MAN200MA（経営学 / Management 200）

国際経営論

森 直子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5080

科目名：国際経営論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5080

科目名：国際経営論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の受講生は、ダイナミックにグローバル展開されている国際経営とは何かを理解するための背景と基礎知識を得ることができます。

また、代表的な経営分析モデル・手法を学びます。

こうした基本的な知識の理解度は、短い授業のまとめの提出を通して評価されます。

さらに授業で学んだ知識をもとに、国際的な企業経営が持つ意味を理解するための視角、考え方を学ぶことができます。

最終的には、グローバル時代の現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】

国際経営を経営分析する代表的なモデル・手法を学び、企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状を知ること、国際経営とはどのような経済活動なのかを理解することができる。また、国際ビジネスを形成する多様な複雑な要素、背景を知ること、複雑化する世界で生きる人としての視野・視点を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に対面授業形式で進める予定です。（ただし、第1回はオンデマンド）

全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。そのうち1回は、複雑化する世界を読み解く目を養うことについての特別講義をおこなう予定です。この回で、簡単なグループディスカッションをしたいと思います。また、毎回の授業で簡単な課題（クイズ）を出します。

さらに月に1回程度はクイズの代わりに短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。学期末レポートの提出は授業時間内に行う予定です。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論を学ぶということ	授業の概要説明（オンデマンド配信）
第2回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ

第3回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT化社会以降のグローバルな企業活動
第4回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第5回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第6回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第7回	国際M&A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第8回	研究開発と国際経営	R&Dと立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理
第9回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第10回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第11回	国際協力と国際ビジネス	ODA事業と国際ビジネスの関係、BOPビジネス、ソーシャルビジネス
第12回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第13回	【特別講義】複雑化する世界を読み解こう	複雑化、不安定化する世界をどのように理解していくのか、考える
第14回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

月1回程度の提出が要求される授業のまとめの準備をするため、復習は必須です。また、企業活動のグローバル化に関する知識を高めるため、参考文献について図書館等を活用して読んだり、新聞・雑誌（オンライン配信含む）等で国際ビジネスのニュースに目を通してください。可能であれば、関連の学術論文にも目を通すことが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にもちいず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

【参考書】

吉原英樹（2021）『国際経営〔第5版〕』有斐閣アルマ
三浦佳子・森内泰編著（2025）『入門テキスト国際経営』
大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学2、ミネルバ書房

【成績評価の方法と基準】

（1）授業への積極的な貢献 60 %
（2）学期末レポート 40 %
※学期末レポートだけでは、単位はもらえません。
※（1）の内訳：
各回の授業で出すクイズへの回答提出 19 %
計4回提出する「授業のまとめ」 32 %
授業への積極的なフィードバックなど貢献点 9 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn the background of global business unfolding worldwide in the rapidly and dynamically transforming business environment. Students will also learn major business analysis models and methods.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the basic history, current status, and way of perceiving the global corporate activities, and to acquire a perspective and viewpoint as an international person.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 40% and Active contribution to the class: 60% (quizzes in each class (19%), class summaries (32%), in class contribution (9%))

MAN200MA（経営学 / Management 200）

サービスビジネス論

村田 茂

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト（DX化）の影響で、新しく生まれた産業もあれば、滅びゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けたサービス産業の中で、メディア産業と流通産業を重点的に取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

【到達目標】

本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予見する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア（ビジネスモデル）の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。

①サービスビジネスに関する一般の知識、基本的用語を説明できるか

②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか

③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が展開する講義資料に基づき授業を実施します。毎回ではありませんが、リアクションペーパー、アンケートを実施します。実施方法は基本的にはネット、システムを活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力 ②本質を見抜く力 ③問題意識を持つ力 ④未来を予想する力
第2回	サービスビジネス業界研究①	第1回目は、出版業界（雑誌、コミック、電子書籍）
第3回	サービスビジネス業界研究②	第2回目は、新聞業界。
第4回	サービスビジネス業界研究③	第3回目は、放送業界（テレビ、ラジオ）。
第5回	web1.0、web2.0、web3.0の理解	サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりからAI、ブロックチェーン、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。
第6回	クリエイターエコノミー＝個人発信（SNS）	SNSの普及による個人発信の時代が到来。UGCサイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。
第7回	サービスビジネス業界研究④	第4回目は、eコマース業界。

第8回	サービスビジネス業界研究⑤	第5回目は、インターネット広告業界。
第9回	新しいビジネスモデルの発明（ゲストスピーカー）	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は？ ゲストスピーカーの就活・ビジネス経験談とともに、サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第10回	デジタルマーケティング	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第11回	業界研究のまとめ	これまでの学習について総括します。
第12回	知の探究①…ビジネス環境変化、ビジネストレンド	グローバルで激変するビジネス環境、トレンドを理解し、俯瞰で考える力を学修します。
第13回	知の探究②…ビジネス論、ビジネス用語	ビジネス論（古典から現代まで）の基礎と、重要なビジネス用語（定番からトレンドまで）から、ビジネス構造を理解する力を学修します。
第14回	試験・課題レポート	試験と課題レポートを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から情報メディア（ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌）に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分は何で、このアプリを活用しているのか？ このビジネスはどのように成り立っているのか？ を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。
毎回、参考資料を用意します。

【参考書】

毎回、参考資料を用意します。
さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の3点を評価します。

- ①サービスビジネスに関する一般の知識、基本的用語を説明できるか
- ②サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
- ③サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか

授業内容からの小課題 50%

授業内容からの中課題 20%

総括レポート（大課題） 30%

成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生が明確に興味を持っている事象については、重点的に解説すべく授業内容をアップデートしています。また、ゲスト会については、事前に「興味のある業界」「就職先候補の業界」についてアンケートを取り、招聘。授業内容と連動するかたちでリアルな現場の声を聞きます。

【学生が準備すべき機器他】

主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

<実務経験のある教員による授業>

出版・放送メディアや出版・音楽・映像制作などのエンタテインメントビジネスと、eコマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
- ② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
- ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?

【Learning activities outside of classroom】

Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on the following three points.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the service business
- ② Can you understand and explain the structure of the service business?
- ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the service business?

Small assignments in class 10%

Test 40%

Issue 50%

The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

外書講読C【2025年度以降入学
生用】

門脇 仁

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5083

科目名：外書講読C

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C7302

科目名：外書講読A（ライフ）

※入学年度によって授業コード・科目名が異なります

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する。

【到達目標】

英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標（速読スピード、TOEICスコアなど）を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回A 4版1～2枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。
リアクションペーパーでの質問に対する回答や、個人発表についてのコメントといったフィードバックは、授業内で随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法を紹介。また、海外の情報ソースから情報検索する際の手順をアローダイアグラムつきで解説。
第2回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー（自伝）の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。

第3回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第4回	インタビューの聴解・読解	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。
第5回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第6回	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第7回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第8回	ルポルタージュの視点	National Geographic誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第9回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。
第10回	プレゼンテーションの聴き方とシャドーイング	TED Conferenceで行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、シャドーイングによる英語イントネーションの実践方法などを学ぶ。
第11回	TOEICの活用法	TOEICの各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。
第12回	メッセージを読み解く	2016年にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーティストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達メカニズムを探る。
第13回	広告の英語	海外の商品広告、求人広告、テレビCMなどの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
第14回	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。

【テキスト（教科書）】

『広葉樹の国フランス』（門脇仁著、築地書館）

【参考書】

Tree Thieves—Crime and Survival In North America's Woods (Lyndsie Bourgon, Little, Brown Spark)
『エコカルチャーから見た世界』（門脇仁著、ミネルヴァ書房刊）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験(50%)、平常点(50%)

リアクションペーパーの内容を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながる。ので、これまでよりも一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

教室設置のPC、プロジェクター、DVD プレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】

全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】

課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline (in English)】

How is information sent and shared to move our society?
How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.

By the end of this course, students are expected to do followings:

- Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.
- Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.
- Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%

Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

コミュニティ社会論Ⅰ

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5085

科目名：コミュニティ社会論Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5085

科目名：コミュニティ社会論Ⅰ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜他＞＜優＞＜ア＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通した異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

（１）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。

（２）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。

オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめて提出してもらいます。次の回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第2回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史的変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する

第4回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワークングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第3回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第11回	歴史と社会を見る目（１）	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第12回	歴史と社会を見る目（２）	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第13回	歴史と社会を見る目（３）	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第14回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70％）、平常点（30％）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons. (Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

若者文化論

玉川 博章

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5086
科目名：若者文化論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5086
科目名：若者文化論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在社会において、エンタテインメントメディアは政治、経済的な側面を持ちながら、多くの人に受容され若者文化を創り上げてきました。本講義では、メディアの送り手の産業的側面（産業構造やビジネスモデル）と、その受容者の消費の両面に焦点を当てます。日本の1960年代以後の若者文化を、雑誌やテレビなどのマスメディアと、そこにかかわる広告や消費なども視野に入れ、分析していく。その際には、ポストフォーディズムやリキッドモダニティなど社会学にて議論されている現代社会の変化を前提に、我々を取り巻く日本の音楽・出版、映画などのエンタテインメント、キャラクター、アイドルを事例としたメディアの消費社会論から若者文化を考えます。

【到達目標】

日本の1960年代以後の若者文化を中心に、その特徴と背後で深く関係するメディアと政治、経済、文化の関係性を理解し、社会学や社会批評、文化批評などの学説を身につけることで、作品そのものやメディア産業のみにとらわれない社会に対する批判的思考ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業のため（初回など一部授業回を除く）、基本的に講義形式となり、資料配付をした上で、視聴覚資料も織り交ぜながら、事例や学術的な分析・理論などを紹介していく。なお、オンラインの場合は、動画視聴と配付資料によるオンデマンド方式を前提とします。なお、簡単なレポート、感想などの課題を適宜実施したい。提出課題については、いくつか代表的な内容等を次回・次々回に紹介しコメント等も付加してフィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション メディアと若者文化 （サブカルチャー）	授業概要説明と若者文化・サブカルチャーとは何なのかを先行研究も踏まえ紹介
第2回	文化と消費：消費社会論の基礎	若者文化分析の基盤となる文化と消費の関係性についての顕示的消費や文化資本の概念を紹介
第3回	物語消費論	大塚英志による1980年代若者文化を分析した物語消費論を紹介
第4回	80年代のバブル・消費文化	1970～80年代の若者文化の象徴的事例である「新人類」などバブル文化と雑誌やメディアとの関係性

第5回	80年代における「オタク」と消費文化	1980年代における「新人類」と「オタク」という対照的サブカルチャーの対比的分析と島宇宙化・若者文化の細分化について消費社会論とここまでの事例分析を踏まえて、ブランドや権利ビジネスとメディアや文化との関係を考察
第6回	現代社会における文化とブランド、キャラクタービジネス	現代社会の変化を捉える学説であるポストフォーディズムやリキッドモダニティの議論について学ぶ
第7回	後期近代の概論 ポストフォーディズム、リキッドモダニティ	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1960年代の子供向けアニメと広告・消費、文化との関係を分析
第8回	メディアミックス① 手塚など	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1970-80年代の映画と出版、音楽との関係を分析
第9回	メディアミックス② 角川商法（映画と出版）	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1980年代～2000年代のアニメ・マンガについて
第10回	メディアミックス③ 角川（アニメ・ゲーム・コミック）とネットによる参加型モデル	アイドル文化が戦後～現在の社会状況においてどのように考えられるのかを分析
第11回	アイドルとメディア	アイドル文化が趣味集団、そして消費とどう関係しているのかを分析
第12回	アイドルと「消費者」（オタク）	モノから体験、コミュニケーションへと変化する消費と若者文化について
第13回	コミュニケーションと消費：ブランド、ネット文化、アイドル	これまでの授業内容の整理と発展的議論ならびに授業の理解度確認
第14回	まとめ サブカルチャーと後期近代	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に配付資料や受講時にとったメモ・ノート等を利用して復習し、授業で紹介した視聴覚資料や事例などについてインターネットなどで調べ確認、視聴すること。また、授業で取り上げた映像作品を鑑賞してみるとよいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。
また、指示をした場合には予習として事前に資料等を閲覧・視聴する、課題の指示をした場合には自宅で作業し提出すること。

【テキスト（教科書）】
なし。原則的に資料を配布する予定。

【参考書】
大塚英志『物語消費論』、大塚英志『シン・モノガタリ・ショウヒ・ロン』、マーク・スタインバーグ『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』、北田暁大・解体研編著『社会にとって趣味とは何か』、宮台真司『制服少女たちの選択』、貞包英之『サブカルチャーを消費する』、中西新太郎『「問題」としての青少年』、大澤真幸『電子メディア論』、中川佑介『角川映画 1976-1986』、森貴史『〈現場〉のアイドル文化論』など。他にも講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加・提出物（小テストや感想、小レポート等提出課題）50%＋試験（または期末レポート）50%
試験・期末レポートは授業で説明した社会学や文化研究の概念を理解した上で若者文化を分析できるかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
大人数講義が予想されるが、一方通行とならないように、複数回の課題のフィードバックや授業時のアンケートなどでインタラクションを取るようし、受講生の動向や意見も参考にしつつ授業を進行したい。また、初めに注意もしているが私語などは厳禁でお願いしたい。
なお、各自で複数の資料や論文を読むことにより理解が深まる内容の場合はオンデマンドのオンライン授業として、対面と組み合わせるので注意して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用

【Outline (in English)】

Entertainment media and youth culture has a political and economic side, and has been accepted by many people. This lecture will focus on both the industrial side (industrial structure and business model) and the consumption of its audience. We will analyze Japanese youth culture since the 1960s, including mass media industry such as magazines and television, as well as advertising and consumption.

In this lecture, referring to modern society theories such as Post-Fordism and liquid modernity, we think about youth culture and entertainment such as movies, anime characters, and idols from the theory of consumer society.

Students will be expected to search and watch websites and audiovisual materials introduced in class, after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Exams(or reports) assess your ability to analyze youth culture with an understanding of the theory of sociology and cultural studies.

Grading will be decided based on Term-end exams(or term-end reports)50% and in class contribution(Quizzes or comment tasks) 50%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

身体表現論

叶 雄大

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5087
科目名：身体表現論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5087
科目名：身体表現論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演劇的手法を使ったエクササイズを通して、自己の感性を磨き、自己の表現を再発見する。様々な表現方法を体験することで、自分の表現に自信を持ち、他者とのより良いコミュニケーションについて考える。

【到達目標】

自己の感覚力や表現方法を再発見する。感性を磨き自分なりの表現方法を獲得する。自己と他者を共に尊重しながらコミュニケーションをとる力を深める。
・自己肯定感（自尊感情） ・自己表現 ・想像 ・他者理解 ・コミュニケーション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書内にある身体を動かすエクササイズの中で、感覚や身体に集中し自分自身の能力を再確認する「自己発見」を第一期として、想像の活動を通じて他者との表現の違いや考え方を知る「他者理解」を第二期。グループディスカッションやインプロヴィゼーションの活動からのグループ創作から「共感・共有・伝え合う」事と「コミュニケーション」について考える第三期。第四期ではそれらのまとめとして、「多様性」や「生きる力」について考え、テーマを定めた「創作創造」を体験する。フィードバック方法として、毎回の授業後に、フィードバックペーパーを作成し提出する。また、最終日にまとめのレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と全体の概要を説明。アンケート。
第2回	コンディショニングづくり	表現をするための身体と心を整えるためのエクササイズを体験・考察。
第3回	身体・感覚1	身体を使ったエクササイズを体験・考察。
第4回	身体・感覚2	感覚の一つを遮断する事で、他の感覚に集中するエクササイズを体験・考察。
第5回	身体・感覚3	リズムや音・音楽を使ったエクササイズを体験し、グループでの創作を行う。
第6回	表現力を高める為に	感覚・感性を磨き表現力を高めるエクササイズの概要と考え方の講義。

第7回	コミュニケーション	コミュニケーションのエクササイズを体験・考察。
第8回	声・距離	他者との違いを楽しみながら、自分の特性を知るエクササイズを体験・考察。
第9回	インプロヴィゼーション1基礎	創作創造活動の基本をインプロヴィゼーションのエクササイズを通して体験・考察。
第10回	インプロヴィゼーション2言語	言語表現と劇作法の基礎のエクササイズと講義
第11回	インプロヴィゼーション3非言語	言語を使わない表現を体験し、グループでの創作創造活動を行う。
第12回	グループ創作	グループで創作テーマを話し合い、短いパフォーマンスを創作する
第13回	グループ創作と発表	創作したパフォーマンスを見せ合い、話し合う。
第14回	まとめと試験	全体のまとめと試験課題(30分程で課題に対して自由筆記のレポート)及び授業に対するアンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義内に講義に対するフィードバックペーパーを提出。フィードバックペーパーの返却は行わないので、提出前に写真を撮るなど記録を残しておく事。本講義の復習・予習時間は、各2時間を標準とする。授業の記録を元に、復習として2時間、授業で学んだ事を普段の生活に応用し、身体や感覚を意識して生活する事。また、予習として2時間、次の授業のテーマについて、現時点での自身の考えや自身の表現方法の傾向を考えて、まとめておく事。その経験を含めたレポートを最終回の課題をふまえて作成・提出。また学期の途中で授業に関連した課題からレポートを提出。

【テキスト（教科書）】

アイデアとバリエーションで広がる表現活動プログラムレシピBOOK 太宰久夫（監修）大塚恵美子・叶雄大・下川涼子・中根久寧（共著）アートインライフ刊 2023年11月12日初版 3600円（送料込み）
<http://www.artinlife.jp/books.html>

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、原則として1/5以上欠席すると単位取得は不可とする。平常点として授業への参加姿勢70% レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度好評だったエクササイズは今年も同様に行います。その他のエクササイズは差し替える可能性があります。体験を重視しつつ、理論についてのガイダンスも適宜入れ、体験した事の理解を深めるため、教科書を使った予習・復習のアナウンスを充実していきます。初回ガイダンス時と最終回に表現に関する簡単なアンケートを取ります。

【学生が準備すべき機器他】

教科書。筆記用具。水分補給用の飲み物など

【その他の重要事項】

教室のサイズにより、受講者数を制限（選抜）することがあります。履修希望者は初回のオンラインガイダンスに必ず出席してアンケートを提出してください。動きやすい服装(体操着・レオタード等の着用の必要はない)で参加する事。また、水分補給用の飲み物を持参する事を推奨します。授業後にミニレポートがあるため筆記具を持参してください。体験を通して気がついた事、感じた事、考えた事を元に、自分自身の表現方法を発見していきましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Drama In Education :beginner's class.Classes will be held in a workshop style. **【Learning Objectives】** Improving communication skills from consideration of self and others' expressions **【Learning activities outside of classroom】**Find out what you did in the 2-hour class in real life. Use 2 hours to summarize your thoughts on the subject of the lesson**【Grading Criteria /Policy】**Class attitude and attendance 70%.In-class report and Last day free writing report 30%

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

地域文化論

八田 益之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5088

科目名：地域文化論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5088

科目名：地域文化論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の地域文化は、全体としては経済的に下り坂の状況にあり、「こうすればうまくいく」という教科書的な正解は存在しない。一方で、逆風の中でも持続的に発展している地域やコミュニティの成功事例も数多く存在する。

本講義では、そうした実践者との対話や、受講者自身の越境体験を通じて、地域コミュニティがどのように社会的・経済的に持続され、成長しているのか、また、そこに個人がどのように関わりうるのかを探究する。なお「地域文化」とは、主に日本の地方文化を想定するが、日本的な郷土文化・伝統文化に限定せず、「Community Culture」として、社会的・経済的持続性を含めて広く捉える。

【注意】

このテーマに確たる正解は存在しない。価値は「テーマに迫る試行錯誤の過程」にある。そのため、本講義自体を「試行錯誤のプロセス」と位置づける。

よって本シラバスは、出発時点における仮説であり、社会の変化、受講者の関心、講義の進行状況等に応じて、適宜更新する（変更時には説明を行う）。「完成品を一方的に求める」のではなく、「教室全体で共に試行錯誤を楽しむ姿勢」で参加してほしい。

【到達目標】

1. 地域コミュニティを「正解が存在する場」ではなく「人との関係性を更新し続ける場」として捉え直す視点
2. 他者との対話を通じて、自身の思考を更新し続ける能力
3. 未完成なアイデアを、社会の中で試行し改善していく姿勢
4. 自身の関心・経験・価値観をもとに、10年単位でキャリアを構想・説明できる力
5. 越境体験を通じて、多様な立場や価値観を理解し、翻訳・調整できる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ① 実践者ゲストとの対話：さまざまな地域・コミュニティで活動する実践者を招き、現場の経験や葛藤を共有してもらう。学生は事前調査を行い、主体的に質問・対話を行う。
- ② 越境型学習の重視：学生自身の越境体験（旅・アルバイト・活動参加等）を学習資源として活用し、経験の言語化と再解釈を行う。
- ③ 協働的思考の促進：グループワークや相互コメントを通じて、他者の視点を取り込みながら思考を深める。完成度よりも、仮説設定・試行・改善のプロセスを重視する。
- ④ 最終課題：「10年後の地域文化論構想」をテーマに、自身の立場と経験に基づいた提案をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／越境とは何か	授業方針説明・地域文化＝コミュニティ文化の再定義
第2回	【第1サイクル：越境実践者】①（予習）	対象地域・実践者事例の事前調査と問い設計
第3回	越境実践②（ゲスト）	異文化・異地域での信頼構築と実践プロセス
第4回	越境実践③（振り返り）	関係構築・失敗・成果の分析と個人化
第5回	【第2サイクル：越境翻訳者】①（予習）	企業・制度・地域連携事例の分析
第6回	越境翻訳②（ゲスト）	組織と地域をつなぐ意思決定と調整
第7回	越境翻訳③（振り返り）	制度制約と創造性との関係整理
第8回	【第3サイクル：現場更新者】①（予習）	地域資源・既存制度の再編集事例研究
第9回	現場更新②（ゲスト）	意味更新・価値転換の実践プロセス
第10回	現場更新③（振り返り）	文脈転換と持続性の検討
第11回	【統合・応用フェーズ】統合分析	3類型比較と自己ポジショニング
第12回	構想設計①	対象地域の課題整理と資源分析
第13回	構想設計②	持続可能なコミュニティ構想の設計
第14回	振り返り	成果発表・学習プロセスの内省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じ紹介・資料配布

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献、各回の参加レポート、途中のレポート、で評価。期末試験は行わない。点数配分は、講義進行により変化する（都度説明）。現時点での配分案は以下：

- ・講義出席＋貢献点：20％（ゲスト講師回での事前質問・当日質問等、講義への貢献度合いを評価）
- ・各回参加レポート：40％
- ・最終レポート：40％

評価基準は、講義中に実レポートを使用し随時説明。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のレポート等から、参加学生の意識と行動変容について、以下の重要な示唆が得られた。

- ① 「正解志向」から「試行志向」への転換：多くの学生が、未完成でも提案する姿勢や、失敗を前提とした行動の重要性を実感した。
 - ② 地域理解の質的变化：地域を「課題解決の対象」として見る視点から、「関係性の蓄積として捉える視点」へと変化が見られた。
 - ③ 対話を通じた思考深化：他者の意見を資源として活用する能力が向上し、個人思考から協働思考への移行が確認された。
 - ④ 行動意欲の向上：応募・参加・相談など、実際の行動に移す学生が増加した。
 - ⑤ 講義への参加意識の変化：講義を「受けるもの」から「共につくるもの」と捉える意識が形成された。
- これらの結果を踏まえ、次年度以降は、未完成アウトプットの制度化、失敗共有の機会拡充、越境体験の早期導入などを通じて、より実践的な学習環境の構築を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ（またはタブレット・PC等）は毎回使用

【その他の重要事項】

講師は、大人の趣味スポーツの社会学について探求している。マラソンやトライアスロンなどの大会とは、単なるスポーツではなく、地域特有の課題を解決するための経済的社会的な活動である。また当学部では「ライフキャリア入門A」「質的調査法」ほか講義経験があり、キャリアデザインの視点をかけあわせてゆく。人が身体を以って体験したことは、AIに奪われることはなく、むしろAI時代により重要度を高めるはずだ。この発想を出発点として、「AIを使いこなす側」となるための場としていきたい。

【Outline (in English)】

This course explores Community Culture, focusing mainly on local communities in Japan, while not limiting the discussion to traditional or heritage culture.

Many local communities in Japan face economic and social challenges, and there is no single correct solution for sustainable development. At the same time, there are successful cases in which communities continue to grow under unfavorable conditions.

Through dialogue with practitioners and students' own boundary-crossing experiences, this course examines how community culture can be socially and economically sustainable, and how individuals can engage with local communities.

The course emphasizes learning through trial and error, collaborative discussion, and reflective writing. Students are encouraged to develop their own perspectives through observation, dialogue, and practice.

Rather than providing fixed answers, the course is designed as an exploratory and experimental learning process. This syllabus represents an initial hypothesis and may be updated according to social changes, student interests, and class progress.

By the end of the course, students are expected to enhance their ability to analyze community issues, communicate with diverse stakeholders, and design long-term career perspectives.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

アート・マネジメント論

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5089

科目名：アート・マネジメント論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5089

科目名：アート・マネジメント論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜他＞＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートの持つ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。

なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。個別の質問等は随時教室内やメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第2回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第2回	ポストコロナにおけるアートの現状と変化	ポストコロナにおける文化芸術の現状と変化について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第3回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。

第4回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第5回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第6回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第8回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第9回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第10回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実際について学ぶ。
第11回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第12回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこの課題や問題点を学ぶ。
第13回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。
第14回	授業のまとめ・最終課題 説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールド活動の際に、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布したり読むべきリンク先を指示したりします。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）

『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（45％）と最終課題（55％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

美術、デザイン、舞台芸術、様々なアートにかかわる事象を紹介しながら学んでいきます。また、授業内のゲストは、皆さんの関心に応じて決定していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

- Learning activities outside of the classroom : Students will be expected to research art sites such as museums, theatres, live music venues, music festivals and local art projects and conduct field research on various aspects of art and its challenges in contemporary Japan. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on regular marks such as in-class short reports and assignment reports (45%), and the final assignment (55%).

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

メディア文化論

堤 信子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5090

科目名：メディア文化論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5090

科目名：メディア文化論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていこう傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。

【到達目標】

各種メディアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。また、プロのアナウンサーの指導により、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定しています。表現力を磨くための演習をも取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。全講義内容の解説や、アンケートの実施も。
第2回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第3回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取りあげ、雑誌の成り立ちや紙面構成などを分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第4回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析し、またラジオに関するDVD視聴などを通し、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。

第5回	テレビメディアの文化論	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組み、そして視聴率の裏側を知ること、メディアにおけるテレビの立場を紐解く。
第6回	テレビメディアの文化論②	テレビ局勤務のゲストを迎えて、局員としての仕事や、テレビ局の今後の役割と、番組フォーマット販売の裏側などについて紐解く。
第7回	書籍メディアの文化論	書籍の成り立ちや歴史、出版本の制作秘話を交え、取材や執筆のルール、出版までの流れを知ることを通し、書籍メディアを理解する。
第8回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談1	大手出版社で働くプロをゲストにお迎えし、出版社の現状や様々な仕事の内容などについて理解する。
第9回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談2	通信社の現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第10回	ウェブメディアの文化論	ウェブメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。統計の専門家やウェブメディア編集長をゲストに迎えることも。
第11回	アナウンサー対談	現役アナウンサーをゲストに迎え、その仕事の裏側、心構えなどについて、同じくアナウンサーである講師と対談する。
第12回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談3	テレビ番組の制作に携わる放送作家などをゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第13回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談4	ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場、音声メディアの今後などについて理解する。
第14回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、表現力を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時々、レポート提出もあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、「発信する人のためのメディアリテラシー」晶文社を時々使用
パワーポイント中心です。

【参考書】

堤信子著「100人中99人に好かれるありがとう上手の習慣」ディスカヴァー21

堤信子著「旅鞆いっぱい京都・奈良」エイ出版社

「旅鞆いっぱいバリふたたび」実業之日本社

「旅鞆いっぱい京都ふたたび」実業之日本社

「東京文具雑貨散歩～旅鞆いっぱいの東京」辰巳出版

「暮らしの図鑑～手紙の楽しみ」翔泳社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業のコメントカードや授業態度）50%と 最終課題レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

学生とのやりとりを重視した授業にしていきたいと思っています。

メディア各方面から多彩なゲストをお迎えする対談を通し、社会人基礎力、キャリア形成に役立つ知識や考え方を学ぶ内容が、毎年好評ですので、2026年度も引き続きそのような内容についても充実させていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントやDVD映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

- ・ By understanding the contents of various media, you can learn how to interact with various media, which will become more diverse in the future.

In addition, we aim to improve each person's expressiveness and communication skills through the guidance of professional announcers .

- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

- ・ Grading will be decided based on term-end report (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab & lab reports (50%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

文化マーケティング論

横石 崇

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5091

科目名：文化マーケティング論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5091

科目名：文化マーケティング論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「文化志向のマーケティング」をテーマに学びます。近年、社会環境の変化とともに、消費者の価値観やライフスタイルは大きく変容しています。こうした時代背景のもと、「文化」と「産業」が交差する領域の重要性は、これまで以上に高まっています。企業が生活者と持続的で良好な関係を築くためには、製品やサービスを単なる機能や利便性として捉えるのではなく、文化的な視点から捉え直し、社会的意義や物語性を備えた価値として提示することが求められています。

現代のマーケティングにおいては、戦略立案や商品開発といった実務的な手法に加えて、「なぜそのプロジェクトに取り組むのか」「そのプロダクトは社会にどのような意味を持つのか」といった根源的な問いに向き合い、明確なコンセプトを構築する力が不可欠です。こうした思考は、ブランドの信頼性や共感を生み出す基盤となります。本授業では、現代社会の動向や事例を踏まえながら、「なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが求められているのか」を理解する視点と、それを具体的な形へと落とし込むための思考力・表現力を身につけることを目的とします。授業を通じて得られる視点やスキルは、マーケティング分野にとどまらず、変化の激しいビジネス環境において幅広く応用可能なものとなるでしょう。本授業を通して、文化と産業が交わる領域における新たな価値創造の可能性を、受講者の皆さんと共に探究していきます。

【到達目標】

キャリアデザインとコミュニケーションデザインの視点を通じて文化志向のマーケティングを捉え直し、近い将来この分野で活躍するために必要となる考え方や方法論を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、マーケティングと文化を包括的かつ動的に捉え、それらの相互結合を図る。マーケティングの基礎知識を身につけるとともに、講師による事例紹介や、文化とマーケティングが交わる領域で活躍する実践者をゲストとして迎え、講義およびディスカッションを行う。授業ごとに授業内レポートや課題の提出を指示し、特に優れたコメントや内容については授業内で紹介し、さらなる議論の発展に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の説明（第1回のみオンライン授業）
第2回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論

第3回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（ポジショニング戦略）
第4回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ブランド戦略）
第5回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方（エンゲージメント戦略）
第6回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（コミュニティ領域）
第7回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（広告・メディア領域）
第8回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第9回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（コミュニティ領域）
第10回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第11回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第12回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第13回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第14回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、実施（参考資料持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加70%、授業内レポートの提出30%）

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義形式に限らず、実際に記述作業を行いながら双方向性を重視し、文化マーケティング論の習得を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット

【Outline (in English)】

① Course Outline

In today's society, rapid social changes have led to significant shifts in consumer values and patterns of consumption. As a result, the intersection of culture and industry is becoming increasingly important for companies seeking to build meaningful and sustainable relationships with consumers. In the field of marketing — expected to grow ever more complex — practical approaches such as strategy development and product planning remain essential. At the same time, the ability to develop strong concepts by deeply considering social significance, purpose, and context has become a critical competency.

This course examines these issues within the framework of contemporary society. Students will be encouraged to reflect on fundamental questions such as Why is this needed? For what purpose? And for whom? Through this process, the course aims to cultivate the ability to critically assess whether and how culture-oriented marketing is necessary in today's world.

② Learning Objectives

By the end of this course, students will have gained an understanding of the core concepts, perspectives, and methodologies of culture-oriented marketing, and will be able to apply this way of thinking to real-world contexts.

③ Learning Activities Outside of the Classroom

Students are expected to complete assigned readings and short assignments after each class session. The estimated study time outside the classroom is more than two hours per class.

④ Grading Criteria / Policy

Final grades will be determined based on the following components:

- Short reports: 30%
- In-class participation and contribution: 70%

HUG200MA (人文地理学 / Human geography 200)

進歩と平和

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では人類の社会がどのように発展してきたか、それに合わせてどのように平和になっていったのかを、人文地理学的観点から解説する。合わせてそれが道徳や規範、犯罪に関する心理メカニズムに与えた影響についても解説する。受講生は現代社会の平和がどのように達成されたかについて理解し、現代社会の問題について考えることができるようになることが本講義の目的である。

【到達目標】

受講生は人類社会がどのように変化してきたか、そしてそれが社会をどのように平和にしてきたかについての基本的知識を身につけ、現代社会の問題についてその知識を活かして議論できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業内課題はHoppiiを利用して提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第2回	人間の自己家畜化①	集団内の暴君に対する排除過程について解説する。
第3回	人間の自己家畜化②	協力とフリーライダー問題について解説する。
第4回	集団と社会の拡大	集団の規模拡大から生じた変化について解説する。
第5回	超部族と国家	国家と官僚制の登場が犯罪と戦争に与える影響について解説する。
第6回	脱家父長制的血族主義	教会の婚姻・家族プログラムが都市化と市場に与えた影響について解説する。
第7回	WEIRDの誕生	新しい社会観をもつWEIRDな人々の誕生について人文地理学的観点から解説する。
第8回	WEIRDの影響	WEIRDな人々が社会と平和に与えた影響について解説する。
第9回	平和化①	平和化の全体的な変化について解説する。
第10回	平和化②	平和化に対して文明の発達が与えた影響について解説する。
第11回	平和化③	平和に対する人道主義の影響について解説する。
第12回	平和化④	権利意識の変化が平和化に与えた影響について解説する。
第13回	平和化⑤	平和化に対して現代社会が直面している問題について解説する。

第14回 まとめ

講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で40%、学期末試験（授業内試験を予定しているが、受講者数などによっては試験期間での実施へ変更することもある。また突発的な事態が生じた場合はレポート課題にて代替する可能性もある）60%の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題はインターネットへの接続が必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、Google classroomを利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内やHoppii等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

This course explains how human societies have developed over time and how they have become increasingly peaceful, from a human geographical perspective. It also examines how these developments have influenced psychological mechanisms related to morality, social norms, and crime. The objective of this course is for students to understand how peace in contemporary society has been achieved and to develop the ability to think critically about issues facing modern society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 40%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

多文化社会論A

安藤 優子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自分らしく在りたい」という言葉は今や一種の「流行」のように使われているが、果たして「自分らしい」とは具体的にどのような在りようを意味しているのか。本講義では、「らしく在る」ことを多角的に分解・分析して考察することによって、「らしさ」とは何かをもとに考えていく。

一般に個人が自分の行動様態や意見を決定するときに、無意識に、あるいは潜在的意識として、「女らしさ」や「男らしさ」に代表されるような、性別に基づく社会通念的規範—ジェンダー—に実は大きく影響されている。しかしながら、社会通念は実際には正体不明であり、単なる多数派の意見であったりする。よって、本講義ではまず学生自身がどんな「らしさ」に規定されているかを知る、気づくことを目的とし、それにより「自分らしさ」を形成する際に何が阻害要因になっているかをはっきりと認識することになる。

【到達目標】

本講義の到達目標は、学生が「自分らしさ」の形成のためには「自他の区別」ができるようになることが土台であることを理解することである。「自他の区別」とは自分は自分であるという「自己受容」を容易にし、同時に自分とは異なる「他者」を受容することになるからである。つまり、「他者」との比較では「自分らしさ」の形成はできないという「らしさ」の本質に気づくことを目標にしているのである。また、「常識」「あたりまえ」「ふつう」といういわゆる「多数派の正解」が唯一の正解ではないことに気づくことにより、自分の「正解」を導き出す力を養うことも重要な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は毎回各テーマについて具体例を挙げながら講師のレクチャーが基本であるが、必要に応じてさらに思考を深めるために他受講生とのグループディスカッションを実施し、多様な視点からの論点整理に役立てる。

授業において、学生に求められるのは、能動的な参加姿勢と自分で考え、独自の視点を形成することである。また講義内容への感想、疑問、意見などを講義終了前にコメントシートに記入してもらい、重要な論点や理解への齟齬などは次の講義冒頭でフィードバックする。講義では、板書とスライド資料を併用し、画像や映像も適宜使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章：本講義の概要と意義について	講義の進め方についての説明・評価やレポートについて。講師の紹介
第2回	マジョリティーとマイノリティー	自分はマジョリティーなのか、それともマイノリティーなのか。その区分は属するコミュニティーによって変化することを理解する

第3回	「ふつう」「あたりまえ」「みんな」というお化け	「らしさ」や「べき」論は、「ふつう」とか「あたりまえ」という概念の延長上にある。「みんな」の実体は？ 多数派の正解という「お化け」を考える
第4回	公的領域（ポリス）と私的領域（オイコス）	公的領域は政治・経済という公的組織に属する男性領域で、私的領域はイエにて無償のケア全般を担う女性領域とされる。つまり、性別役割分業の基本概念について学ぶ。
第5回	ゲタと落とし穴—女性の社会進出と「同化」「従属」	講師の40年以上に及ぶテレビ報道でのキャリア形成過程において、個人が何をなしたかよりも「女性」がやったという割増評価（ゲタ）とその反動（落とし穴）について。
第6回	日本の女性認識はどこから—日本型福祉社会論	戦後日本の社会通念としての「女性認識」はどこに起源を求めべきか。日本型福祉社会論が規定した「女性認識」を紐解く。
第7回	究極のボーイズクラブ—政治の世界と女性性の利用	公的領域の主たる分野としての政治の世界。日本初の女性総理が誕生して見えてきた女性性の利用。しかし女性性の利用は、裏返せば男性性の規定でもあることを理解する。
第8回	キャリアの梯子を昇ってみたものの・・・	女性リーダーたちが今なお深刻な問題として直面している、同性間の分断、ミソジニー、インポスター症候群など、「ガラスの天井」とは何かを論じる。
第9回	自分は自分—自他の区別と自己受容	自分らしさの形成には、自分と他者を「区別」することが欠かせない。なぜならば、「らしさ」の形成は自己受容であるから。自分と他者の区別がなぜ必要かを共に考える。
第10回	多様性と公平・平等	「らしさ」の形成で欠かせないのは、「何が真の平等であるか」という根源的な問いに向き合うことである。制度（フォーマル）と暗黙のルール（インフォーマル）な制度が機会の均等を阻むことを理解する。
第11回	無意識の偏見（差別）と隠された攻撃性	無意識の偏見・差別は主にマイクロアグレッション（小さな攻撃性）として日々の個々人の言動に表出している。他方隠された攻撃性は、意識的に歪曲した表現で他者を攻撃する。この両者の表現について気づきを喚起する。
第12回	違いはちがひ	「らしさ」の形成は自己受容を土台とするのは先行講義にて理解を得たが、それでは他者を受容することはどういうことなのだろうか。違いはちがひという、シンプルな答えを具体的に例示する。
第13回	多数派の正義は「正解」ではない—同調圧力に屈しない	講義のまとめとして、「らしさ」を形成するためには、自己受容し、他者との比較に陥らないことを学んできたが、同時に多数派に「同調」する圧力に屈することが「没個人」であることをあらためて認識する機会とする。
第14回	全講義を通じてのキーワードの整理と質疑応答	講義内容の総括としての、質疑など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の「らしさ」に向き合うことは、誰もが気づかないまでも日々の暮らしで実践していることである。その意味では、学生は講義内で出てきたキーワードを自分自身の身のまわりに置き代えて考えることを日常的にしての「気づき」として欲しい。また資料として毎講義に提示する PowerPoint の内容は必ずあらためて目を通して、自分なりの解釈を進めて欲しい。参考文献については、必要に応じて提示するので、関係箇所を読むことは必須であり、さらに自分の関心において必要と思われる文献を読むなど、講義の前後に2時間程度は自分の思考を深める学習をして欲しい。

【テキスト（教科書）】

毎講義において必要な文献を提示する。

【参考書】

参考書は特に提示はしないが、必読の文献の他にさらなる理解を広げる参考文献も講義に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

本講義で最も重要視する点は、「自ら考える」ことである。そのため、毎講義の終了直前にミニコメントを記入する時間を設け、提出することを義務付ける。コメントは、質問、意見、感想など、自身の講義に対する「考え」をまとめることを目的としている。このミニコメントが評価の30%。

さらに、講義への積極的な参加姿勢も評価の対象とする。講義内での意見の提示、質問、グループワークへの積極参加などである。当然出席率も「積極姿勢」の評価に含まれるが、受動的な参加ではなく、共に講義内容を深め、理解をしていく協調姿勢を評価する。30%。期末レポートは40%。受講生全員に同一テーマを提示し、文字数なども含めて講義終盤に詳細を提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの授業担当となるので、アンケートは実施していませんので、特にありません。

【その他の重要事項】

相山女学園大学 外国語学部客員教授 2023年4月～2026年3月
主に、ジェンダーとメディア論、コミュニケーション論、国際関係論を講義。

この「らしさ」の形成と阻害要因の講義では、ジェンダーとコミュニケーション論において核となった「らしさ」の形成と、それを阻害するもの—社会通念や同調圧力などについてあらためて考えを深めていくことを、学生と共に試みたい。

【Outline (in English)】**Course outline**

The phrase "I want to be myself" is now used almost like a trend, but what exactly does "being oneself" mean in concrete terms? In this lecture, we will explore what "being oneself" entails by deconstructing and analyzing it from multiple angles.

Generally, when individuals decide their behavior patterns or opinions, they are often unconsciously or subconsciously influenced by socially conditioned norms based on gender — such as "femininity" or "masculinity"— which are deeply ingrained. However, societal norms are often ill-defined and may simply represent majority opinion. Therefore, this lecture aims first to help you recognize and understand what kind of "typical" expectations define you. This awareness will clarify the obstacles that hinder the formation of your own unique self.

Learning outcomes

The foundation for forming one's own identity is the ability to distinguish between self and others. This lecture aims to help students understand that distinction facilitates self-acceptance while simultaneously enabling acceptance of others who are different.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to go over the materials shown in the previous class and try to rebuild own opinion about the lecture. Students are required to spend more than two hours before and after the class.

Grading criteria/Policies

your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini comment submitting at the end of each class, 30%, active class participation 30%, Term-end report 40%.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

多文化社会論B

挽地 康彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、19世紀後半以降の植民地統治期から第二次大戦後の高度成長期までの期間を対象にして、近代日本における民族関係を歴史的に考察する。人口移動の観点からみると、帝国日本の内地では、海外諸国や旧植民地へ「日本人」が移出し、旧植民地からは植民地支配を受けた「朝鮮人」や「台湾人」が移入するなど、国際移動と多文化状況が一般的であった。他方、帝国が崩壊する第二次大戦後では、外地からの引揚げ、内地から帰国、開拓移民、海外移民、出稼ぎ労働など、戦前とは異なる人口移動をともしながら、戦後日本社会の内部に社会的弱者と民族的マイノリティを生み出していった。授業では、近代日本における政治的情勢の変化と多様な人口移動を視野に入れつつ、帝国日本の「内地」や「外地」で、そして戦後日本社会の内部でどのような民族関係が編み出されたのかを検証し、その特徴と現代的意味を考えることを目的とする。

【到達目標】

近代日本の移民史に依拠しながら、異民族間に生じた諸問題を植民地支配、戦争、開拓、労働、入管、ナショナリズムなどの観点から検討することで、単一民族国家の神話に囚われない歴史観の習得をめざす。具体的には、「日本人」とは誰か、「移民」とはどういう存在だったのか？ 近代日本における異民族間の社会関係はいかなるものだったか？ 戦後における民族的マイノリティの位置づけと外国人労働者の受け入れにはどのような関係にあったのか？ といった問いを追究することで、現代日本の移民問題を考えるうえでの基礎的な力を養っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業を基本とし、半期のうち7回までの授業を同時双方向型のオンライン授業（Zoom）で行う。各回の授業資料は、データ（PDF）で配信しながら進める（受講者が多いため、紙資料の配布は行わない）。

ZoomのURLとパスコードは、以下のとおりです。
<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/88696120263?pwd=JCGhab1RhhkBsA3rUj7IsVnPbbGld2.1>

ミーティングID：886 9612 0263

パスコード：099223

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	過去という〈外国〉への旅
第2回	近代日本における移民の動態	近代初頭の日本において「移民」とは誰を指していたのか。当時の認識枠組みを踏まえ、移民動向を数的な規模から確認する。
第3回	戦前日本の民族関係①：朝鮮	帝国日本の「内地」と、その「外地」であった朝鮮。その2つの社会空間における異文化接触と民族関係を多角的に考察する。

第4回	戦前日本の民族関係②：満州	1920年代以降の移民送出の社会的背景を概観しながら、戦前の満州移民事業と戦後の中国残留邦人の歴史について学ぶ。
第5回	「帝国」外部への移住	「帝国」外部への移住が示していた〈過去〉とはどのようなものか。中南米出身の日系人の〈現在〉から、その歴史を振り返る。
第6回	敗戦と引揚げ	日本敗戦にともなう膨大な人口移動と社会的混乱を「引揚げ」の観点から捉え、占領期の絡み合った民族関係に着目する。
第7回	帝国崩壊と帰国	帝国日本の崩壊による旧植民地出身者の「帰国」にフォーカスしながら、おもに在日朝鮮人の「解放」の意味を問う。
第8回	ポストコロニアル・キャンプ	占領初期の入管政策を貫いた「内なる敵」のポリシングという問題を、管理・収容・送還の諸側面から批判的に検討する。
第9回	玄界灘における民族関係史	朝鮮戦争下の北九州を舞台に繰り広げられた帝国主義と軍事史のレイシズムを、虐げられた者たちの文化実践から読み解く。
第10回	開拓と移民	戦後日本の開拓史と移民史の交点に見出される出郷者たちの姿に焦点をあてて、戦後復興の裏面史を描いていく。
第11回	戦後日本の海外移民	戦後復興と成長の陰で再開された、知られざる中南米への海外移住の歴史について当時の国際関係と文芸作品から掘り起こす。
第12回	経済成長と民族的マイノリティ	戦後日本の経済成長期において外国人労働者を代替したのは誰だったのか？ 当時の底辺労働者の供給メカニズムを説明する。
第13回	アメラジアンとは誰か？	沖縄に特有の民族関係の問題を考えるために、「アメラジアン」と呼ばれる人びとの置かれた状況を複眼的に解読していく。
第14回	まとめ／帝国の逆襲	厳格化の一途をたどる現代の入管政策やヘイトが蔓延する社会状況と結びつけながら、これまでの授業内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に2時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に2時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】

参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（20%）、学期末に提出を求める課題レポートの内容（70%）、平常点（10%）で評価する。

学期末レポートの課題は、提出期限の約1カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の3つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。なお、小テストや学期末レポートの課題は、授業に出席しないと作成困難な内容となる。配信する授業レジュメのパッチワークでは単位取得の基準をクリアできない。とりわけ、期末レポートでは課題を正確に理解したうえで、受講者自身が主体的に調べ考察した内容が展開されてはじめて基準をクリアできる。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解に不安を感じる学生がいることから、学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。また、学習効果の高さの理由の他に、体調の優れない受講者が授業参加を希望するケースが少ないことから、7回分の授業をオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業（Zoom）の場合

- ・パソコン（カメラ付き）
- ・インターネット接続が可能な環境
- ・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

- ・本科目では、初回授業を含めた7回分の授業をZoomを用いたオンライン形式で行う。
- ・初回の授業は、4月7日（火）3限（13:10～14:50）にオンラインで行う。
- ・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】

Course outline :

This course will historically examine ethnic relations in modern Japan, covering the period from the colonial rule after the late 19th century to the period of rapid economic growth after World War II. From the perspective of population movement, international migration and multicultural conditions were common in the main islands of imperial Japan, with “Japanese” moving out to overseas countries and former colonies, and “Koreans” and “Taiwanese” moving in from the former colonies under colonial rule. On the other hand, after World War II, when the empire collapsed, the population movements differed from those of the prewar period, such as repatriation from the overseas territories, returnees from the main islands of Japan, pioneer immigrants, overseas immigrants, and migrant labor, creating socially vulnerable groups and ethnic minorities within postwar Japanese society. The purpose of this class is to examine what kind of ethnic relations were developed in the “inner” and “outer” regions of imperial Japan and within postwar Japanese society, and to consider their characteristics and contemporary significance, while taking into account the changing political situation and diverse population movements in modern Japan.

Learning Objectives :

By relying on the history of immigration in modern Japan and examining various issues that arose among different ethnic groups from the perspectives of colonial rule, war, settlement, labor, immigration, and nationalism, the course aims to develop a historical perspective that is not limited by the myth of a racially homogeneous nation. Specifically, the following questions will be pursued in order to cultivate basic skills for thinking about immigration issues in contemporary Japan. Who are “Japanese”? What kind of people were “immigrants”? What were the social relations between different ethnic groups in modern Japan? What was the relationship between the position of ethnic minorities and the acceptance of foreign workers in postwar Japan?

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies :

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(20%), term-end report(70%) and in-class contribution(10%).

The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

多文化社会論C

挽地 康彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、かつて多民族・多文化社会の指針として位置づけられた「多文化主義」(multiculturalism) について批判的に検討し、その後に提起された「間文化主義」や「多自然主義」などの新たな知見を吟味することを目的とする。文化の多様性と価値の平等を認め、互いのアイデンティティの尊重を唱える多文化主義は、民主主義国家における統合政策の精神であったが、西洋社会では他者への不寛容と排斥が蔓延し、多文化主義は失敗したと認識された。多文化主義はなぜ行き詰まったのか。多文化主義による社会統合を後退させた要因は何だったのか。そして多文化主義を乗り越えるために、今日どのような考え方が提起されているのか。授業では、上記の観点めがって議論しながら、日本版多文化主義でもある「多文化共生」についても、あわせて考察する。

【到達目標】

多文化主義の盛衰をめぐる歴史的・社会的な背景を踏まえながら、まずは、①多文化主義とそれに関連する諸概念との関係性を理解し、つぎに②多民族・多文化社会において多文化主義が失速するに至ったメカニズムと要因を多角的に捉えられるようになることが求められる。そのうえで、③ポスト多文化主義の思想的潮流についての知見を習得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業を基本とし、半期のうち7回までの授業を同時双方向型のオンライン授業（Zoom）で行う。各回の授業資料は、データ（PDF）で配信しながら進める（受講者が多いため、紙資料の配布は行わない）。

ZoomのURLとパスコードは、以下のとおりです。

https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/84630179315?pwd=

XHbl87wCGeIpe3yrumMqgbO7nEe1YP.1

ミーティングID：846 3017 9315

パスコード：041116

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業方針の確認と問題提起
第2回	欧州移民政策の変遷①	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第3回	欧州移民政策の変遷②	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第4回	エスニック・リバイバル①	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。

第5回	エスニック・リバイバル②	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第6回	多文化主義の盛衰	多文化主義の諸特徴と意義、その台頭から後退までの経緯について共有する。
第7回	多文化社会の構成原理	同化主義、文化多元主義、文化相対主義などの諸概念を多文化社会の構成原理として分類しながら、多文化主義との関係を整理する。
第8回	多文化主義論争①	多文化主義に内在する困難性を、文化的固有性と普遍的価値の間のジレンマ（多文化主義と普遍主義の対立）の観点から概説する。
第9回	多文化主義論争②	多文化主義に内在する困難性を、文化的差異と分離・分裂の間のジレンマ（多文化主義と分離主義の対立）の観点から概説する。
第10回	多文化主義論争③	多文化主義に内在する困難性を、文化的共同体と個人の自由の間のジレンマ（多文化主義と個人主義の対立）の観点から概説する。
第11回	日本における多文化共生①	日本が移民国家へ転換するなかで、いかなる目的で「多文化共生」が唱導されたのかを、欧米社会の多文化主義と比較しながら確認する。
第12回	日本における多文化共生②	日本の多文化共生が空虚なスローガンで終始している問題点を、90年代以降の入管行政や日本型排外主義との関係から考察する。
第13回	ポスト多文化主義	多文化主義を批判的に乗り越えるための契機として、間文化主義、ノマディズム、コスモポリタニズム、多自然主義などの思潮を検討する。
第14回	まとめ	「要塞化」するホスト社会と「破局」に直面する難民との間にあ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に2時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に2時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】

参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（20%）、学期末に提出を求める課題レポートの内容（70%）、平常点（10%）で評価する。

学期末レポートの課題は、提出期限の約1カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の3つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。

なお、小テストや学期末レポートの課題は、授業に出席しないと作成困難な内容となる。配信する授業レジュメのパッチワークでは単位取得の基準をクリアできない。とりわけ、期末レポートでは課題を正確に理解したうえで、受講者自身が主体的に調べ考察した内容が展開されてはじめて基準をクリアできる。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解に不安を感じる学生がいることから、学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。また、学習効果の高さの理由の他に、体調の優れない受講者が授業参加を希望するケースが少ないことから、7回分の授業をオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業（Zoom）の場合

- ・パソコン（カメラ付き）
- ・インターネット接続が可能な環境
- ・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

- ・本科目では、初回授業を含めた7回分の授業をZoomを用いたオンライン形式で行う。
- ・初回の授業は、9月22日（火）3限（13:10～14:50）にオンラインで行う。
- ・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to critically examine multiculturalism, which was once positioned as a guideline for a multiethnic and multicultural society, and to examine new findings such as "interculturalism" and "multinaturalism" that have been raised since then. Multiculturalism, which recognizes cultural diversity and equality of values, and advocates respect for each other's identity, was the spirit of integration policies in democratic countries, but intolerance and exclusion of others became widespread in Western society, and multiculturalism was recognized as a failure. Why has multiculturalism stalled? What were the factors that led to the regression of social integration through multiculturalism? And what ideas are being proposed today to overcome multiculturalism? In this course, we will discuss the above perspectives, and also consider "multicultural conviviality," which is the Japanese version of multiculturalism.

Learning Objectives :

Based on the historical and social background of the rise and fall of multiculturalism, students will first understand the relationship between (1) multiculturalism and related concepts, and then (2) the mechanisms and factors that led to the failure of multiculturalism in multi-ethnic and multicultural societies from multiple perspectives. In addition, the course aims to provide students with an understanding of (3) the ideological trends of post-multiculturalism.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies :

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(20%), term-end report(70%) and in-class contribution(10%).

The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

ARS200MA

アジア社会論Ⅰ

日下部 尚徳

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火1/Tue.1 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5099

科目名：アジア社会論Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5099

科目名：アジア社会論Ⅰ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深めることを通じて、文化の根底にある価値観の多様性を学びます。南アジアは、アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカの8つの国家群によって構成される地域を指します。南アジアの人口は15億人を超過しており、世界人口の5分の1以上がこの地域で暮らしています。講義では、南アジア地域がかかえる貧困や紛争などの社会的課題とともに、今後日本との関係が深まっていくことが予想される同地域に住む人びとが置かれている社会的状況について学びます。講義は、講義形式の授業を通じて南アジア社会経済への理解を深めると同時に、南アジア社会と我々の社会の関連性を自ら考える力を養うことを目的としています。

【到達目標】

1. 南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深める
2. 南アジアにおける貧困や紛争などの社会的課題を構造的に理解する
3. 南アジア社会と日本社会の関わりを自らの言葉で具体的に論じられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	南アジア社会の学び方	異文化理解とは何か：異なる社会の学び方
第2回	世界の中の南アジア	日本と世界と南アジア
第3回	南アジアの社会構造	宗教・民族の視点から
第4回	南アジアの経済事情	インド・バングラデシュの経済状況
第5回	南アジアの政治構造	インド・バングラデシュの選挙制度
第6回	映像から考える南アジア①宗教	映像にみる南アジアの宗教
第7回	映像から考える南アジア②貧困・紛争	映像にみる南アジアの貧困・紛争
第8回	南アジアの紛争課題	バングラデシュの民族紛争から考える平和構築

第9回 グローバリゼーションのなかの南アジア

第10回 南アジア社会各論①

バングラデシュの歴史と文化
歴史と文化

第11回 南アジア社会各論②

バングラデシュの経済発展
経済発展

第12回 南アジア社会各論③

南アジアの農村事例から考える
貧困 貧困

第13回 南アジアと開発援助

南アジア社会とわたしたちのつ
ながり第14回 まとめと授業内レ
ポート解説

まとめとレポート解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための66章』（明石書店、2017年）

【参考書】

外川昌彦・杉江あい・日下部尚徳編『現代バングラデシュ——経済成長と激動する社会』（東京大学出版会、2025年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー／Reaction paper/in-class assignments
(56%)レポート課題／Report assignments, mid-term/final paper
(44%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The course aims to deepen students' comprehensive understanding of the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia. On this basis, students will learn about social situations faced by people in South Asia, mainly social challenges such as poverty, conflicts, and environmental issues.

Learning Objectives

1. To be able to understand basic words relating to the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia.
2. To understand the modern history of South Asia.
3. To be able to discuss social issues in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56%)

Report assignments, mid-term/final paper (44%)

ARS200MA

アジア社会論Ⅱ

日下部 尚徳

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火2/Tue.2 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5100

科目名：アジア社会論Ⅱ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5100

科目名：アジア社会論Ⅱ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南アジアの国々の事例を通じて、日本も含めたアジアの貧困問題や災害被害、紛争問題に関する理解を深めます。同時に、それぞれの問題に対して、どのような対策がとられているのかについても学びます。本年度は特に災害としての新型コロナウイルスがアジアの国々の社会問題にあたえた影響についても議論を深めます。

【到達目標】

1. 南アジアの国々における社会的課題を具体的に論じられるようになる
2. アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかわるべきかを考えられるようになる
3. 南アジアの社会、文化に対する理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	南アジア地域の特徴と学び方
第2回	南アジアの地域概要	政治と経済（インド・パングラデシュを中心に）
第3回	南アジアと新型コロナウイルス：インドを中心に	インドの新型コロナウイルス対応
第4回	南アジアと新型コロナウイルス：パングラデシュを中心に	パングラデシュの新型コロナウイルス対応
第5回	南アジアの貧困とその背景	貧困課題と児童労働
第6回	南アジアの貧困とその対策	女子児童労働の課題
第7回	南アジアの貧困と世界の貧困	南アジアと世界の児童労働
第8回	南アジアの災害とその背景	サイクロン災害を事例に
第9回	南アジアの災害とその対策	パングラデシュにおけるサイクロン対策を事例に
第10回	南アジアの紛争とその背景	チッタゴン丘陵問題を事例に

第11回	南アジアの難民問題とその背景	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民問題がおきる背景を学びます。
第12回	南アジアの難民問題への対応	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民対応の現状と課題を学びます。
第13回	南アジアの難民問題のこれから	ロヒンギャ難民問題を事例に、今後われわれがアジアの難民問題とどう向き合っていくべきか、議論を深めます。
第14回	南アジアの社会問題のまとめとレポート解説	アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかわるべきかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

- ①日下部尚徳『わたし8歳、職業、家事使用人。——世界の児童労働者1億5200万人の1人』（合同出版、2018年）
- ②日下部尚徳『自分ゴトとして考える難民問題——SDGs時代の向き合い方』（岩波書店、2025年）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー／Reaction paper/in-class assignments

(56%)

レポート／Report assignments, mid-term/final paper (44%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of issues affecting the world, including Japan, such as poverty, disaster damage, and conflict through the cases of those in South Asia. It also looks at what kinds of countermeasures are taken to tackle each problem.

Learning Objectives

- 1 To be able to concretely discuss social issues of so-called developing countries in South Asia.
- 2 To be able to consider how to get involved with social issues of so-called developing countries in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56%)

Report assignments, mid-term/final paper (44%)

ARS200MA

国際関係論Ⅰ

岩田 哲弥

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5101

科目名：国際関係論Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5101

科目名：国際関係論Ⅰ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、国際関係論を専門理論の体系として学ぶのではなく、基礎理論としての「国際社会を読み解くための基本的な『見方・考え方・整理の仕方』を身につけること」を目的とする。現代社会では、外交や国際政治に限らず、企業活動、メディア、NPO、自治体など、あらゆる分野が国際環境と結びついている。本授業では、学生の生活経験に近いテーマ（文化、SNS、旅行、ニュース等）を入口に、国際社会を「地理・文化・歴史」という三つの視点から因数分解して理解する。国際関係論の基礎的な視座を通じて、国際ニュースを立体的に読み解き、異なる立場や価値観を踏まえて考える力を養い、将来のキャリア形成に資する国際的素養を培う。

【到達目標】

本授業の修了時に、受講生は以下を達成することを目指す。

1. 国際社会を理解するための基本的な視点を説明できる
2. 国際ニュースや社会現象を背景要因から整理できる
3. 主要地域（欧米・アジア・太平洋・中東・アフリカ）の基礎的特徴を理解できる
4. 異文化や価値観の違いによるズレや誤解を説明できる
5. 国際関係と自らの将来のキャリアとの接点を考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、写真・映像資料、ニュース事例、簡単なディスカッションを組み合わせて進めます。抽象的な概念は、具体例に置き換えて説明し、理解を深めるようにします。なお、発言や発表は、強制する形ではなく段階的・希望制とし、学生の心理的負担に配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜第Ⅰ部：国際関係論への導入（見方を身につける）＞	授業の進め方 キャリアと国際社会のつながり の見方を学ぶ
第2回	ガイダンス：国際関係論とは何か	
第2回	文化の「当たり前」はどこから来るのか	日常経験から考える価値観の違い
第3回	食文化・祝日から見る国際社会	宗教・気候・歴史との関係
第4回	SNS・ポップカルチャーと国際関係	ソフトパワーと価値観の可視化

第5回	＜第Ⅱ部：異文化理解と国際ニュースの読み方＞ 海外旅行・日常トラブルから学ぶ国際関係	異文化コミュニケーションのズレ
第6回	日本の「暗黙のルール」を国際比較する	時間感覚・責任・謝罪の違い
第7回	国際ニュースの読み方	背景を「地理・文化・歴史」に分解する
第8回	メディアと国際社会	情報の切り取り方と受け止め方
第9回	＜第Ⅲ部：地域理解と国際社会の構造＞ 国際関係論から見たアメリカ・ヨーロッパ	価値観、多様性、統合と分断
第10回	アジアと中国をどう理解するか	歴史、人口、社会構造
第11回	中東・アフリカ・太平洋が示す国際関係の構造 （かつて「周縁」と呼ばれた地域と国際社会）	宗教、資源、環境、日本との関係
第12回	＜第Ⅳ部：国際関係とキャリアへの接続＞ 企業・国際協力・NPOと国際関係	ビジネスと国際社会の接点
第13回	国際社会と価値観	ジェンダー、宗教、文化的配慮
第14回	まとめ：国際社会をどう読み、どう関わるか	振り返りとキャリアへの接続

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 講義の準備学習・復習時間は、4時間程度を標準とします（纏まった時間でなくて良いです）。

予習：①自分自身が興味のある国際関係分野について、常に情報をアップデートしておきましょう。②前回までの講義内容を次の講義前に見直しておくようにしてください。

復習：社会・文化背景や時代背景の理解をイメージしてもらうために、講義の中で、古今東西の映画・音楽等を紹介することがあります。それらを視聴することも復習の一つとなります。理由は、講義の中で、その都度お話しします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。毎回、講義用スライドおよび配布資料を使用します。

【参考書】

・講義回ごとに、必要に応じて紹介します。
・『国際学を学ぶーグローバル化時代を学び始める人へ』（小林浩史郎／JIPAS）は、ある太平洋島嶼国研究ではトップクラスの学者が、学際レベルを超えるため敢えてペンネームで書いた著書です。国際学入門より、もう一つ手前の入門書です。国際学の入門書として、背景理解の補助となる文献です。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパー・授業参加・小課題：40%

・期末レポート（または最終課題）：60%

※知識量ではなく、理解の深さ、考察力、自分の言葉で語れるようになることを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

・講義中に配布・回収するリアクションペーパーや簡易コメント用プリント（コンセプトペーパー）を通じて、学生の理解度や関心分野を把握し、それを踏まえて授業内容や説明方法の改善に反映する予定です。

・学生からの質問や意見を参考に、具体例の追加や説明の補足を行うなど、理解の深化につながる工夫を継続的に行っていきます。

【その他の重要事項】

・質問などに関しては、授業の前後の口頭だけでなく、コメントペーパー的なものも検討します。

・シラバスで記載している講義計画については、若干変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with fundamental perspectives and ways of thinking for understanding contemporary international affairs. By analyzing global issues through elements such as states, regions, culture, history, and institutions, students will develop the ability to interpret international news and global trends.

The course avoids excessive reliance on specialized theories and instead uses maps, case studies, and current events to support step-by-step learning. Students are encouraged to connect global issues with their own lives and career paths, forming a foundation for further academic study.

ARS200MA

国際関係論Ⅱ

岩田 哲弥

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5102

科目名：国際関係論Ⅱ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5102

科目名：国際関係論Ⅱ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「国際関係論Ⅰ」で身につけた国際社会の基本的な見方・考え方を踏まえ、より具体的な国際課題や現実の場面に应用する力を養うことを目的とする。学生の皆さんが、近い将来経験するであろう企業活動、国際協力、メディア、行政、NPOなど、実社会における国際的な場面では、単なる知識ではなく、「状況をどう読み、どのように判断し、どう行動するか」が問われる。本授業では、国際ニュース、地域課題、価値観の衝突、危機管理などを題材に、国際関係論の視点をういた思考訓練を行う。最終的には、国際社会と自らのキャリアを具体的に結びつけ、社会に出た後も再現可能な「考え方の型」を獲得することを目指す。

【履修上の注意】

「国際関係論Ⅱ」は、「国際関係論Ⅰ」で扱う国際社会の基本的な見方・考え方を前提として進める科目です。そのため、「国際関係論Ⅰ」を履修していることが望まれます。やむを得ず本授業のみを履修する場合には、授業内で提示される資料や説明を参考にしながら、国際ニュースの背景を「地理・文化・歴史」の視点で整理することを意識してください。不明点がある場合は、授業後やオフィスアワー等での質問を歓迎します。

【到達目標】

本授業の修了時に、受講生は以下を達成することを目標とする。

1. 国際関係論の視点をを用いて、具体的な国際課題を分析できる
2. 立場や利害の異なる主体（国家・企業・個人等）を整理して説明できる
3. 国際社会における対立や協調の背景を論理的に考察できる
4. 国際的な課題と自らの将来の進路・キャリアとの関係を説明できる
5. 関心のある国際関係について自分の考えを文章や口頭で分かりやすく表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、写真・映像資料、ニュース事例、簡単なディスカッションを組み合わせて進める予定です。

抽象的な概念は、具体例に置き換えて説明し、理解を深めるようにします。また、ディスカッションや簡単な発表は、強制する形ではなく段階的・希望制とし、学生の心理的負担に配慮します。

国際関係論Ⅰで学んだ「因数分解の視点（地理・文化・歴史）」を常に意識して活用する方針です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	＜第Ⅰ部：国際関係論Ⅰの視点を応用する＞ ガイダンス：国際関係論ⅠからⅡへ	・授業の進め方 ・「見る」から「考え、判断する」へ
第2回	国際社会の主体を整理する	国家・企業・国際機関・市民社会
第3回	国際社会での利害と立場の違いを読む	なぜ意見は対立するのか
第4回	＜第Ⅱ部：現代の国際課題を読み解く＞ 「国際安全保障」をやさしく理解する	紛争・抑止・平和構築の基本
第5回	「グローバル経済」と国際関係	サプライチェーンと私たちの生活
第6回	「環境・気候変動」と「国際協力」	なぜ合意は難しいのか
第7回	人権・価値観と国際社会	普遍性と文化差のあいだ
第8回	＜第Ⅲ部：地域・事例から考える国際関係＞ アジア太平洋地域の国際関係	日本を取り巻く環境（太平洋島嶼国の事例も扱う）
第9回	中東・アフリカをどう理解するか	紛争・資源・歴史的背景
第10回	国際ニュースのケース分析	背景・主体・選択肢を整理する
第11回	＜第Ⅳ部：国際関係とキャリアへの接続＞ 仕事の現場における国際関係	企業・行政・国際分野の実例
第12回	「危機管理」とコミュニケーション	誤解・情報・判断の重要性
第13回	国際社会と自分のキャリアを考える	関心分野への応用
第14回	まとめ：国際社会とどう向き合うか	振り返りと将来への展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 講義の準備学習・復習時間は、4時間程度を標準とします。（纏まった時間でなくて良いです）。

予習：①自分自身が興味のある国際関係分野について、常に情報をアップデートしておきましょう。②前回までの講義内容を次の講義前に見直しておくようにしてください。

復習：社会・文化背景や時代背景の理解をイメージしてもらうために、講義の中で、古今東西の映画・音楽等を紹介することがあります。それらを視聴することも復習の一つとなります。理由は、講義の中で、その都度お話しします。

【テキスト（教科書）】

・教科書は指定しません。毎回、講義用スライド、配布資料、ニュース記事等を使用します。

【参考書】

・講義回ごとに、必要に応じて紹介します。

・『国際学を学ぶ—グローバル化時代を学び始める人へ』（小林浩史郎／JIPAS）は、ある太平洋島嶼国研究ではトップクラスの学者が、学際レベルを超えるため敢えてペンネームで書いた著書です。国際学入門より、もう一つ手前の入門書です。国際学の入門書として、背景理解の補助となる文献です。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパー・小課題：30％
・授業参加・簡易発表（希望制）：20％
・期末レポート（または最終課題）：50％

※国際情勢は常に変化します。よって（基本的な知識を除く）知識の正確さよりも、考え方の整理、論理性、自分の言葉での説明を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義中に配布・回収するリアクションペーパーや簡易コメント用プリント（コンセプトペーパー）を通じて、学生の理解度や関心分野を把握し、それを踏まえて授業内容や説明方法の改善に反映する予定です。
- ・学生からの質問や意見を参考に、具体例の追加や説明の補足を行うなど、理解の深化につながる工夫を継続的に行っていく予定です。

【その他の重要事項】

- ・質問などに関しては、授業の前後の口頭だけでなく、コメントペーパー的なものも検討します。
- ・シラバスで記載している講義計画については、若干変更する可能性があります。
- ・履修上の留意事項として、「国際関係論Ⅱ」は、「国際関係論Ⅰ」で扱う国際社会の基本的な見方・考え方を前提として進める科目です。そのため、「国際関係論Ⅰ」を履修していることが望まれます。やむを得ず本授業のみを履修する場合には、授業内で提示される資料や説明を参考にしながら、国際ニュースの背景を「地理・文化・歴史」の視点で整理することを意識してください。不明点がある場合は、授業後やオフィスアワー等での質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

This course builds on the perspectives and ways of thinking acquired in “International Relations I” and aims to develop students’ ability to apply them to concrete international issues and real-world situations.

In the near future, students are likely to engage in various international contexts, such as business activities, international cooperation, media, public administration, and work in NGOs. In such settings, what matters is not merely possessing knowledge, but being able to understand situations, make appropriate judgments, and take responsible action.

Through the analysis of international news, regional issues, value conflicts, and crisis management, this course provides practical training in analytical thinking based on international relations.

Ultimately, the course aims to help students connect global issues with their own career paths and acquire transferable ways of thinking that can be applied after graduation.

[Course Prerequisite]

This course is designed on the assumption that students have completed “International Relations I”.

Therefore, prior completion of “International Relations I” is strongly recommended.

Students who take this course without having completed “International Relations I” are expected to review the provided materials carefully and organize international news using the perspectives of geography, culture, and history.

Questions are welcome after class or during office hours.

ARS200MA
国際地域研究Ⅰ
福井 令恵
単位数：2単位 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5103
科目名：国際地域研究Ⅰ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5103
科目名：国際地域研究Ⅰ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に着目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちとつながりのある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】

「地域」や「国家」という概念を検討し、社会の多様性を理解する力を身につけることを目標とする。アイルランド島とグレートブリテン島における諸地域の関係性に注目し、歴史や社会構造を踏まえながら理解を深め、対象の社会や人々を多面的に捉えることができる。また、「ブレグジットとその影響」「文化ナショナリズム」「社会的包摂と排除」といった現代社会が抱える課題について、理解と考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。授業内でグループワークやディスカッションを行う場合があります。毎回、授業で各自の気づきやコメントをリアクションペーパーとして提出してもらいます（単なる感想やまとめではなく、授業内容をふまえた自身の問いや考えといった記述内容を評価します。）リアクションペーパー等における良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更（テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替え）する場合があります。変更がある場合は、授業内やHoppiiで連絡をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。

第2回	地域とヨーロッパ	＜国家＞の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの＜地域＞の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。
第3回	イギリスを構成する諸地域	＜地域＞という概念をもとにイギリス（UK）の諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っている事やイメージについて、それらがどこから得られているのか考える。
第4回	イングランド社会・文化①	イギリス（UK）内の＜地域＞の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第5回	イングランド社会・文化②	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド問題を考える。
第6回	ウェールズ社会・文化	ウェールズの歴史文化を概観する。また、言語（ウェールズ語）に注目し、文化ナショナリズムについて考察する。
第7回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。特にイングランドとの関係性から検討する。
第8回	スコットランド社会・文化②	ブレグジットと近年の独立機運の高まり、EUとの関係性について考える。
第9回	英国のまとめ	現代英国社会が抱える課題についての理解を深める。
第10回	アイルランド社会・文化①	アイルランドの国としての成り立ちについて、学ぶ。なぜ現在、アイルランド島に二つの国があるのか理解する。
第11回	アイルランド社会・文化②	アイルランド独立後のアイルランド社会・文化について学ぶ。文化ナショナリズムと現代アイルランド社会の変容を考える。
第12回	北アイルランド社会	北アイルランド社会に存在する分断を考える。またブレグジットの影響について理解する。
第13回	アイルランドのまとめ	大きく変動するアイルランドの現在と課題について理解する。
第14回	まとめ	まとめ・試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。授業後にはリアクションペーパーの提出をする。またミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義に関連した資料を配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】

長谷川貴彦、『イギリス現代史』、2017年 岩波新書。
井野瀬 久美子編、『イギリス文化史』、2010年、昭和堂。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（リアクションペーパー・ミニレポートの内容、授業への積極的参加）：40％
・期末試験：60％

＊原則5回以上欠席の場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

＊受講者数に応じて授業の内容は一部変更する可能性がある。

＊初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修を検討している人は必ず参加すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to reconsider the concepts of “region”(or“sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. The course will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). At the end of the course, students are expected to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.

Grading criteria: 1) Term-end examination 60%, 2) Short reports and in class contribution 40%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ARS200MA		
国際地域研究Ⅱ		
福井 令恵		
単位数：2単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火5/Tue.5 配当年次：2～4年 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞ 授業コード：C5104 科目名：国際地域研究Ⅱ ＜2024年度以前入学者＞ 授業コード：C5104 科目名：国際地域研究Ⅱ ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称 その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。 主たる事例として、イギリスとアイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドを取りあげる。そこでは、〈異〉文化と〈異なる〉国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きる道を模索してきた。 本コースではその事例を通して、共存（異なる立場や記憶を抱えながらも、暴力を避け、対話と制度を通じて日常生活を共有していく）という、今日の社会が直面する重要な課題——日本社会にも関わる問題——について考察する。		
【到達目標】 現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 授業は、パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。授業内でグループワークやディスカッションを行う予定です。 毎回、授業で各自の気づきやコメントをリアクションペーパーとして提出してもらいます（単なる感想やまとめではなく、授業内容をふまえた自身の問いや考えといった記述内容を評価します。） リアクションペーパー等における良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。 なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更（テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替え）する場合があります。変更がある場合は、授業内やHoppiiで連絡をします。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方・方針	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法・また対象地域の概要について説明する。 エスニック集団間関係について概説する

第2回	北アイルランドの成り立ちと歴史	エスニック集団間関係について考える（アイルランド島にある二つの国の歴史背景を理解する）。
第3回	住民集団間関係と紛争	対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第4回	国家の境界とその間	アイルランド、イギリス、北アイルランドの関係を考える。
第5回	和平合意と集合的アイデンティティ	どのような仕組みで和平が可能になったのかを理解する。国籍と帰属意識について考える。
第6回	レビュー	前半のまとめを行う。
第7回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係について、具体的な例をもとに考える。
第8回	紛争経験の表象	「当事者」はどのように紛争経験を捉えているのだろうか。コミュニティメディアから考える。
第9回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第10回	学校教育と＜歴史＞（前半）	実際の教材をもとに、歴史教育について検討する。
第11回	学校教育と＜歴史＞（後半）	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題についてまとめる。
第12回	社会的記憶	集合的記憶の果たす機能について考える。
第13回	地域を読み解く視点	ブレグジットで再び顕在化したアイルランド国境問題と、近年注目される分断を越える新たなつながり・協力について考える。
第14回	まとめ	まとめ・試験
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 配布した資料、関連文献を読む。 授業後には毎回リアクションペーパーの提出をする。また、ミニレポートの提出がある場合は、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 テキストは特に指定しませんが、授業ではほぼ毎回プリント資料を配布します。		
【参考書】 ・尹 慧瑛 『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きる人びと』 2007年 法政大学出版局。 ・福井令恵、『紛争の記憶と生きる：北アイルランドの壁画とコミュニティの変容』、2015年、青弓社。 その他、授業内で適宜紹介する。		
【成績評価の方法と基準】 平常点（授業への積極的参加、ミニレポート・リアクションペーパーの内容）：40％ 期末試験：60％ ＊原則5回以上欠席の場合、単位取得の資格を失う。		
【学生の意見等からの気づき】 受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。受講者の人数等にもよりますが、受講者が主体的に参加できるようにディスカッションやグループワークの時間を取りたいと思います。		
【その他の重要事項】 ＊受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。 ＊初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず当日参加すること。 ＊本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、春学期の授業内容と関連する点があるため、国際地域研究Ⅰを受講していることが望ましい。		

【Outline (in English)】

In this course, students consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years of conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), the momentous peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. At the end of the course, students will be able to explain their thoughts on what is important for understanding others and building better relationships.

Grading: 1) Term-end examination 60%, 2) Short reports and in-class contributions 40%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

PSY300MA (心理学 / Psychology 300)

キャリアカウンセリングⅡ
(ケーススタディ)【2025年度以降入学生用】

宮脇 優子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：3～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5105
科目名：キャリアカウンセリングⅡ（ケーススタディ）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C7160
科目名：キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）
※入学年度により授業コード・科目名が異なります
その他属性：＜優＞＜実＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。
まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景、また現在のニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

- 【到達目標】
- ・キャリアカウンセリングの基礎的な事項（その独自性、起源と発展の経緯、社会から求められる理由）について理解できている。
 - ・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
- ①現代の産業組織において働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できている。
②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助のあり方・援助方法への理解ができている。
- 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

- 【授業の進め方と方法】
- ・前半（第1回～第5回）のキャリアカウンセリングの基礎的な事項については講義を中心として進める。第6回以降のケーススタディ（事例検討）は、講義に加え、個人ワークとグループでの意見交換及びグループ発表をおこなって行う。
 - ・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の中で前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、全体共有・質問に対するフィードバックを行う。
 - ・第10回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、アセスメントツール（キャリア・インサイト）をキャリア情報ルームにて体験していただく（希望者）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、キャリアカウンセリ ングとは何か	授業の目的と進め方、成績評価について説明。 カウンセリング、キャリアカウ ンセリングの定義と独自性（特 徴）について学ぶ。
第2回	カウンセリングの起 源と発展	カウンセリング誕生の背景、発 展の経緯、産業組織における発 達史を学ぶ。

第3回	働く人を取り巻く社 会経済・雇用環境の 変化とキャリアカウ ンセリングの役割①	社会経済・雇用環境の変化、現 在に至る経緯を知り、産業組織 におけるキャリアカウンセリン グの果たせる役割を理解する。
第4回	働く人のメンタルヘ ルスの現状とキャリ アカウンセリングの 役割②	働く人のメンタルヘルスの現状 を理解し、産業組織における キャリアカウンセリングの果た せる役割を理解する。
第5回	キャリアカウンセ ラーに必要とされる 能力	キャリアカウンセラーに必要と される能力（技能）、要件を学ぶ。
第6回	キャリアカウンセリ ングの具体的展開と ケーススタディ①	キャリアカウンセリングの具体 的な進め方（プロセス）を学ぶ。 ケースを読み、ケースの読み取 り方・見立て方を学ぶ。
第7回	キャリアカウンセリ ングのケーススタディ ②	C.R. ロジャーズの理論を学ぶ。 若者への就職支援のケースを検 討する。
第8回	キャリアカウンセリ ングのケーススタディ ③	転職に纏わる支援のケース、職 場の人間関係問題への支援の ケースを検討。心理学理論を応 用したアプローチを学ぶ。
第9回	子育てしながら働く 女性へのキャリア支 援④	子育てしながら働く女性のキャ リアの現状及びキャリア支援の あり方について学ぶ。
第10回	キャリアカウンセリ ングにおける心理ア セスメント/ケースス タディ⑤	キャリアカウンセリングにおけ る心理アセスメントの意義、心 理検査の活用方法、職業選択理 論を学ぶ。心理検査を用いた ケースを検討し、キャリアカウ ンセリングにおける効果的な心 理検査の活用を学ぶ。
第11回	キャリアカウンセリ ングのケーススタディ ⑥	職業性ストレスモデルを学び、 職場不適応のケースを検討する。
第12回	キャリアカウンセリ ングのケーススタディ ⑦	ストレス、ストレス・コーピン グについて学び、職場不適応の ケース（管理職編）を検討する。
第13回	キャリアカウンセリ ングのケーススタディ ⑧	職場のメンタルヘルス問題への 対応、キャリアカウンセリング の組織開発への活用について、 ケースを通して学ぶ。
第14回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返りと総 括のフィードバックを行う。 また、期末レポート作成にあ たっての復習ポイントを解説す る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回講義資料の復習、各回の講義に該当するテキスト部分の予習・復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「働く人へのキャリア支援－働く人の悩みに応える27のヒント」
宮脇優子編著 金剛出版 2015

【参考書】
「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス－基礎知識と実践」
宮脇優子・廣 尚典著 金子書房 2021

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度及び取り組み姿勢）50％
期末レポート課題 50％

【学生の意見等からの気づき】
産業組織領域、心理学領域の専門用語やトピックは理解度を確認しながら進めます。ケーススタディは、グループワークでの意見交換・発表も取り入れながら、授業内容への体験的な理解、より深い理解を目指した授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

第1回の授業のみオンライン授業（オンデマンド形式）となります。オリエンテーション・講義資料（パワーポイントPDF）は学習支援システムへの掲載となるため、学習支援システムからの読み取りに情報機器（パソコン、スマートフォン等のデバイス）が必要になります。

【その他の重要事項】

担当教員は、人材採用広報及び人事教育・人事コンサルティング事業を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての23年の経験で支援してきた人は5,000人を超える。

上記の実務経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人々の様々な心理的問題に焦点を当て、それらに対するキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）の援助の実際について授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling. The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases.

By the end of the course, students should be able to do followings:

- Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.
- Through case studies of career counseling,

① Understand aspects of modern industrial organizations , especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.

② Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.

Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting, Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

EDU300MA（教育学 / Education 300）

メディアリテラシーB

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや映像制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】

デジタルストーリーテリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際に学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリー等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3回目の授業でアンケート調査を行う。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス（オンライン）	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
第2回	メディア情報言語①	多様なメディア情報的テキストのなかのコードときまり
第3回	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
第4回	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
第5回	広告②	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA）とはなにか（分析と企画）
第6回	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動（絵コンテ、ストーリー展開）
第7回	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
第8回	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
第9回	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスト等の制作

第10回	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスト等の最終確認）
第11回	課題発表①（くじで発表初回となった班の発表）	課題のグループ発表(1)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）、グループ発表の評価
第12回	課題発表②（くじで発表二回目となった班の発表）	課題のグループ発表(2)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）、グループ発表の評価
第13回	課題発表③（くじで発表3回目となった班の発表）	課題のグループ発表(3)、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）、グループ発表の評価
第14回	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人による課題制作物（個人のデジスト・動画作品、他授業での課題）（30%）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業への参加・出席（30%）、個人レポート（40%）によって総合的に評価する。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は80%を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30%）」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（Hoppii）上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline): Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.

(Learning Objectives) : Through the production of digital storytelling, students will acquire four skills in media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class will be included. In addition, active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be made based on individual project work (individual digital and video works, assignments) (30%), group project work, presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class participation (30%), and individual reports (40%).

EDU300MA (教育学 / Education 300)

リスク社会における包括支援と教育

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は「リスク社会」であり、「能力をつけて良い会社に就職する」といった自助戦略はさほど有効ではありません。誰もがいつ何時、自治体や地域の手厚い助けが必要な、人生の困難に遭遇しかねません。だから、私たちは公助・共助がきちんと機能する社会を再創造する必要があります。自治体や地域が現在、就労困難者・生活困窮者に対してどのような包括支援や教育訓練を展開しているのかを、社会学的な視点から具体的に学ぶなかで、より善い社会のデザインします。

【到達目標】

就労困難者・生活困窮者への包括支援や教育訓練というと、「どう接したら／教えたらよいか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。同時に理解すべきなのは、人・モノ・カネ・情報といった諸資源の組織化のありよう、教育の意義や機能や形態の変化、実現されるべき諸価値、といった点です。このクラスでは、ミクロな次元から、自治体やビジネス、NPOや地域社会、組織や制度へと社会学的な視野を広げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

第10回と第14回をのぞき対面で実施します。

毎回、冒頭に前回リアベへのリプライ・導入解説、次に班やペアでの話し合い、続いてその報告と授業者の発展的解説、というスタイルです。毎回のミニ予習課題をやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論の密度が濃くなり、充実感が得られ、実力がつきます。

中間レポートにはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「リスク社会」がもたらしたものと社会の反応・対応
第2回	自治体による就労・生活支援とは何か	自治体の新たな役割と求められる支援の包括性（テキスト序章）
第3回	国の福祉政策・労働政策はなぜ・どう変わってきたか	労働市場と福祉供給の劣化とそれへの対応（テキスト第2章）
第4回	シングルマザーを支援する飲食店	ビジネスは福祉を代替するか？（テキスト第9章）
第5回	横浜市の生活保護受給者への就労支援	行政セクターにおける就労支援の展開と課題（テキスト3章第3節）
第6回	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるか（レポート作成のコツ）
第7回	就労・生活支援の営利組織への委託	行政と民間の「パートナーシップ」が孕む課題（テキスト第4章）
第8回	支援と銘打たない支援	スモールステップを踏んだ支援と教育訓練、自治体の福祉・労働部門の連携（テキスト第8章）

第9回	就労・生活支援の「出口」をどう創るか	中小企業支援の福祉的性質（テキスト第7章）
第10回	地域のニーズを掘り起こす	雇用創出と就労につなげるには（テキスト第11章）
第11回	高齢者と生きづらい若者とをつなぐ	協同労働の可能性と課題（テキスト第5章）
第12回	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	より善い社会（とくに労働と福祉と教育の領域）に向けた諸価値（テキスト序章）
第13回	誰もが働き、生きていける社会とは	より善い社会をデザインする（テキスト終章）
第14回	期末試験に向けて	基礎概念などの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回1章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み——』勁草書房。

【参考書】

授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

中間レポート30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーでは、「自分が住んでいる自治体があんなにも就労支援に取り組んでいるとは知らなかった」「役所と言えば保守的で官僚的で旧態依然としていたと思っていたが違った」「気がつかないだけで、どれだけ自分が社会保障や社会福祉に支えられているかを知った」「賃労働だけでは生きていけないことがよく分かった」など、＜眼からウロコン＞系コメントも多いです。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレットを持参のこと。

【Outline (in English)】

Course Outline Learning:

The Japanese society is "the risk society," and self-help strategy (Be more competent, and you will get a job in a prestigious company) is not so effective. Everyone may meet at anytime disorienting dilemma which needs enough support from the municipality and the local community. Therefore, we should recreate our society where the public and mutual support function well.

Objectives Learning

The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for comprehensive support of the people with difficulties in work and life. The goal is to widen your sociological perspective and to design a better society.

Activities Outside of Classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume."

Grading Criteria/Policy

Your study time will four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and term paper 70%.

EDU300MA (教育学 / Education 300)

現代的教育思想

岩本 俊一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】

一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに - 本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第2回	序論 - 教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第3回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第4回	現代社会における教育の諸問題(1) - 「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第5回	現代社会における教育の諸問題(2) - 公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第6回	現代社会における教育の諸問題(3) - 「特別の教科 道徳」の問題	上記5を踏まえ、「特別の教科 道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第7回	現代社会における教育の諸問題(4) - 教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題 - 日本における教員養成政策の変質について論じる。
第8回	教育におけるヒューマニズムの探究(1) - 近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第9回	教育におけるヒューマニズムの探究(2) - 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。

第10回	教育におけるヒューマニズムの探究(3) - ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第11回	教育における体罰の問題(1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論一体罰は教育的情熱の発露である一の本質的問題点について論じる。
第12回	教育における体罰の問題(2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第13回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第14回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。

【参考書】

参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験100%で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、慎重に検討しつつ、真摯に改善に努める予定である。

【Outline (in English)】

Outline:

In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.

The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

Goal:

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

Learning activities outside of classroom:

After the lecture, try to understand the contents.

Grading Criteria /Policy:

Grade only in the final exam.

Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

PSY300MA (心理学 / Psychology 300)

産業・組織心理学Ⅱ

今城 志保

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：金1/Fri.1 | 配当年次：2025年度以降入学者：3～4
 2024年度以前入学者：2～4年
 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
 授業コード：C5110
 科目名：産業・組織心理学Ⅱ
 ＜2024年度以前入学者＞
 授業コード：C5110
 科目名：産業・組織心理学Ⅱ
 ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を考えられるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で、学んだ概念を用いることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。授業の中で、オンラインのアンケートフォームを用いて、概念の確認や自分の考えを深めるために、数項目の質問に回答していただきます。回答内容については、適宜次の授業の中で、フィードバックを行います。また、アンケートフォームでは任意の質問を記入できますので、そこに質問が記入された場合は、翌授業回の冒頭に、全体に対して回答を行います。7回目か8回目の授業で、グループ課題をお知らせします。グループ課題は、原則授業外の時間を使って進めていただきます。最終日に、グループ課題をまとめたレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリアに関する主な理論を学びます
第3回	キャリアを理解する②	日本企業のホワイトカラーのこれまでの典型的なキャリアと今後の可能性について考えます
第4回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第5回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第6回	ダイバーシティ①	ダイバーシティに関する理論や研究知見を紹介します

第7回	ダイバーシティ②	比較文化心理学の知見を用いて、文化の異なる人とともに働くことについて考えます
第8回	ダイバーシティ③	女性のキャリアについて考えます
第9回	ダイバーシティ④	高齢者就労について考えます
第10回	職場の学習・職場以外の学習①	大人の学びについて考えます
第11回	職場の学習・職場以外の学習②	企業における研修や能力開発について、紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習③	経験学習について考えます
第13回	予備	上記の授業での積み残しや遅れを回収するための時間にあてます
第14回	グループ課題の発表	各グループから口頭で、グループ課題について、報告していただきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP新書
 守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫
 外島 裕・田中 堅一郎 産業・組織心理学エッセンシャルズ 2019 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中のアンケートで60％、グループ課題で作成したレポートとその発表の評価を40％とします。なお、グループ課題については、自身と他のメンバーの課題への貢献度合いを申告してもらい、それを加味したうえで、グループ課題の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

Students will study major topics in industrial/organizational psychology. Psychology II will focus specifically on career-related areas and human resource management.

The three objectives of this class are as follows.

- (1) To understand the main concepts of industrial/organizational psychology and to be able to think about various organizational problems using these concepts.
- (2) To be able to understand the impact of various HR practices on employees.
- (3) To be able to use the concepts learned in considering one's own career.

Take an interest in the environment surrounding our careers. Read widely newspaper and magazine articles on careers, "working," and "human resource management." Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The evaluation will be based on a questionnaire given in each class (60%) and a report and presentation on a group assignment (40%). For group assignments, I will ask each student to report the degree of their own and other members' contribution to the assignment, which will be taken into account in the evaluation of the group assignment.

MAN300MA（経営学 / Management 300）

キャリア開発論

高崎 美佐

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
 ～4 2024年度以前入学者：2～4年
 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
 授業コード：C5111
 科目名：キャリア開発論
 ＜2024年度以前入学者＞
 授業コード：C5111
 科目名：キャリア開発論
 ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、キャリアに関する理論の基礎を学びつつ、企業側の人材開発（HRD）や人事管理のメカニズムの中で、個人のキャリアがどのように開発・形成されるのかを考えます。「会社に入れば一生安泰」という時代は終わり、「人生100年」となり、働く期間は長期化しています。
 そういった環境の変化の中で、従来のように組織にキャリアをゆだねるだけでなく、自律的にキャリアを形成していくことが求められるようになってきています。
 本講義では、個人のキャリアという視点だけでなく、社会や雇用の仕組みとともに学ぶことで、より実態に即したキャリア開発の視点を身に付けることを目指します。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- ①キャリアに関する基礎的な理論や知識の習得し、働くことと関連させて考えられる
- ②個人のキャリア開発においての日本型雇用システムのメリットとデメリットを説明できる
- ③個人のキャリア開発に関する課題を発見し、それをマネジメントし解決する方法がわかる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発関連した理論等の概説や講義を中心に進めますが、ディスカッションや発表も取り入れることがあります。授業中にミニレポートを書いていただく等によって出席確認をします。ミニレポートの内容は、授業中などに全体に対してフィードバックすることがあります。
 使用する資料等は、「学習支援システム」において事前に提供します。授業に出席する際には、事前に目を通し、必要に応じてご自身で準備をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、オリエンテーション。 キャリア開発と人材開発	講義の進め方と評価方法を理解する。キャリア開発と人材開発の違いを学ぶ。（テキスト第1章）
第2回	キャリア開発に関する理論	主要なキャリア理論を学ぶ。（テキスト第1章）

第3回	日本型雇用と個人のキャリア	日本型雇用の特徴を把握し、個人のキャリア開発への影響を考える。キャリア開発の主体についての考え方を整理する。（テキスト第2・3章）
第4回	キャリア自律	キャリア自律の考え方について学び、支える仕組みについて知る。（テキスト第4章）
第5回	大学から社会への移行	大学までの学びと就職後のキャリア形成について学ぶ
第6回	ライフイベントとキャリア	結婚・出産等の転機と、キャリア継続の課題を整理する（テキスト第8章）
第7回	仕事と生活の両立とキャリア	仕事と生活の両立によってキャリア継続を支える法制度や、企業の具体的な支援策を理解する。（テキスト第9・10章）
第8回	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題について考える。（テキスト第7章）
第9回	多様な人材を活かす	多様な人材を活かす、ダイバーシティ経営について学ぶ。（テキスト第5章）
第10回	正社員の多元化とそのキャリア	正社員の働き方の現状、限定正社員等多元化の動向、勤務地政策の現状について学ぶ。（テキスト第9章）
第11回	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題を知る。（テキスト第11章）
第12回	管理職と専門職	組織内での昇進や、専門性を追求するキャリアの存在とその違いを理解する。
第13回	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処について知る（テキスト第12章）
第14回	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
 事前にテキスト（教科書）や資料に目を通して授業に臨んでください。また、キャリア開発に関する企業事例やトピックスの収集も行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（第2版）』（中央経済社）です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果60％と、平常点（授業への主体的な参加、ミニレポート等の提出やその内容）40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】

各回の内容は、進捗状況などに応じて、変更・調整する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The learning objectives for this course are as follows:

- ① Acquire fundamental theories and knowledge about careers and be able to relate them to working life
- ② Explain the advantages and disadvantages of the Japanese employment system in the context of individual career development
- ③ Identify challenges in individual career development and understand methods to manage and resolve them

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN300MA（経営学 / Management 300）

組織行動論 II

古田 克利

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：

組織行動論の基礎としてリーダーシップ論、人事評価論、組織文化論等の理論を学ぶ

授業の目的・意義：

組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明し、それらにもとづき組織を分析し課題を抽出できるようになることを目指す

【到達目標】

- ・組織行動論に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
- ・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき組織を分析できる
- ・組織行動論に関する基礎的な概念、理論にもとづき変革を提案、実行できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義および講義内容に基づく個人演習とグループ討議を行います。授業内での発表や質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に行います。

リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	マネジメント論（1）	自組織のマネジャーの役割を分析する
第3回	マネジメント論（2）	自組織のリーダーの行動を分析する
第4回	組織プロセス（1）	6つの戦術の視点から自組織の組織社会化の仕組みを分析する
第5回	組織プロセス（2）	自組織のメンタルモデルを分析する
第6回	組織行動の実際（1）	実際の組織行動についてディスカッションする
第7回	人材マネジメント（1）	自組織の職務特性を分析する
第8回	人材マネジメント（2）	自組織の人事評価の仕組みを分析する
第9回	人材マネジメント（3）	自組織のコンピテンシーを分析する
第10回	組織行動の実際（2）	実際の組織行動についてディスカッションする
第11回	課題解決演習（1）	自組織の課題について組織行動論の視点から分析する
第12回	課題解決演習（2）	自組織の課題解決について組織行動論の視点から検討する
第13回	課題解決演習（3）	組織行動論の視点から自組織の課題解決結果を発表する
第14回	まとめと試験	まとめと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前資料による事前学習
- ・講義内容の復習
- ・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

適宜、学習支援システム上にて配付します

【参考書】

適宜、学習支援システム上で紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（配点60％）

期末レポート（配点40％）

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやペアワークを積極的に取り入れたいと考えています

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください

【Outline (in English)】

Course outline

This course covers fundamental theories of organizational behavior, focusing on leadership theory, performance appraisal theory, organizational culture theory, and related concepts.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of organizational behavior.

Can analyze an organization based on the constructs and theories of organizational behavior.

Can identify organizational issues based on fundamental concepts and theories of organizational behavior.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures.

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria

In-class Assignment: 60%

Final report: 40%

SOS300MA (その他の社会科学 / Social science 300)

職業キャリア政策論

岩月 真也

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する国際比較を含む情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
- ②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
- ③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討や国際比較の観点を通じて、今後の職業キャリアに向けての気づきや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ①初回はオンライン型、それ以外は原則として対面方式の授業を予定しています。
- ②毎回学習支援システムに授業の資料（PDFファイル）を、授業前にアップします。資料をご覧いただきながら授業を受講してください（資料は投影しますが、紙では配布しませんので、ご自身で打ち出していただくか、当日ノートパソコン上でご覧いただけるようにご準備ください）。
- ③オンライン型の回については、ZoomのURLを学習支援システムでご案内しますので、事前にご確認ください。当日は授業時間の5分前に接続可能な状況としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
- ④原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポートの提出を求めます。課題レポートは2回程度の提出を予定しています。
- ⑤確認テスト・リアクションペーパーや課題レポートに対して、授業の中でフィードバックを行います。
- ⑥受講の状況などによって、授業計画を一部変更することがあります。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (同時双方向型)	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション
第2回	日本的雇用システムと職業	①日本的雇用システムの現状と課題 ②新卒採用と職業
第3回	賃金制度と職業	①賃金制度の仕組み ②国際比較
第4回	仕事の仕組みと職業	①仕事の仕組み ②国際比較 ③課題レポート1の説明
第5回	労働時間制度と職業	①労働時間制度の類型 ②実態と課題

第6回	AI活用と職業	①影響を受ける職業 ②AI導入後の変化 ③国際比較
第7回	若年者と職業	①採用 ②離職 ③世代間の相違
第8回	ジェンダーと職業	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える
第9回	高齢者と職業	①定年、継続雇用 ②人的資源管理
第10回	ダイバーシティと職業	①雇用類型 ②技能実習制度 ③特定技能制度
第11回	職業人の講話～公共的職業を事例として	①職業人の講話 ②意見交換
第12回	職業の国際比較①～米国教員を事例として	①米国教員の報酬制度 ②米国教員の労使関係
第13回	職業の国際比較②～日本教員を事例として	①日本教員の報酬制度 ②日本教員の労使関係 ③課題レポート2の説明
第14回	授業の振り返り	①課題レポートに関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーの提出を求めます。

また、課題レポート（1500字程度で2回提出を想定）については、授業時間外で作成いただくことになります。

本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば4時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料は授業前に学習支援システムにアップします。

【参考書】

授業のなかで必要に応じてご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート2本（各30%、計60%）、確認テスト・リアクションペーパーおよび質問・意見交換（40%）で評価します。

課題レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティといった内容面および見出し・段落設定といった様式面を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうか評価対象とします）。

課題レポートは必ず期限までにご提出いただきますようお願いいたします（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。

また、課題レポートは配点60点の範囲で評価・採点しますので、課題レポートの提出のみでは不可になる可能性が高いことにご留意ください。確認テスト・リアクションペーパー及び質問・意見交換に積極的に参加ください。

【学生の意見等からの気づき】

職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, students learn about the relationship between jobs and society, the labor market, companies, and individuals.

< Learning Objectives >

The goal is to have a basic knowledge of the profession and to be able to think about your future career.

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on reports (60%), and verification tests and reaction papers (40%).

SOC300MA (社会学 / Sociology 300)

コミュニティ社会論Ⅱ

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
～42024年度以前入学者：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5115
科目名：コミュニティ社会論Ⅱ
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5115
科目名：コミュニティ社会論Ⅱ
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業（Zoom）を行う可能性もあります。
オンライン授業におけるZoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第2回	近代社会とアイデンティティ	

第3回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第4回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第5回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第4回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第6回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第7回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第6回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第8回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第9回	社会史的視点（1）	19世紀末から20世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第10回	社会史的視点（2）	20世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第11回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する
第12回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第13回	歴史と社会の再生産	第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第14回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70％）、平常点（30％）。
期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。
欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思っています。

【Outline (in English)】
(Course outline)

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC300MA（社会学 / Sociology 300）

家族論

笠原 良太

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
～42024年度以前入学者：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5116
科目名：家族論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5116
科目名：家族論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
家族社会学の基本概念・理論を学んだうえで、ライフコースの視点から家族について考察する。ライフコースは単なる「人生」ではなく、生涯にわたる社会的役割・役割移行からなる軌道に関する社会的・文化的パターンである。家族の各メンバーの発達過程を捉え、社会と家族との関連をさまざまな角度から考察する。

【到達目標】
・家族社会学の基本概念・理論について理解する
・ライフコースの視点から、ライフステージごとの発達課題、人生移行のあり方を社会学的視点から捉えることができる
・家族に関する一次資料をもとに、各時代・地域の家族生活および家族戦略を読み解き、社会と家族との関連を多面的・動態的に捉える視角を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、家族に関する映像資料や日記・生活文などを活用しながら、家族の実態にせまる。具体的なトピックスは、ライフステージの移行、発達、ライフイベントである。それぞれについて、性別、階層、地域、産業ごとの多様性に着目する。また、後半には現代家族の問題や多様な家族のあり方を理解し、「家族」を社会的な対象として捉える想像力を身につける。個人・グループワークの時間を設け、主体的な学を促進する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的と概要、導入
第2回	家族とは何か	家族の成立、親族と家族
第3回	家族の歴史	どのように変化してきたのか
第4回	ライフコースの方法・道具	役割、年齢、コーホート、世代、重要な他者、人間行為力
第5回	社会変動と家族	時代状況の整理、多面的な時間枠組み、タイミング
第6回	子どもの教育と家族	子どもの社会化、階層・文化の再生産、子どもの貧困
第7回	青年の自立と家族	高学歴化、前期親子関係、世代間移動
第8回	配偶者選択と結婚	晩婚・非婚化、夫婦関係、離婚・再婚
第9回	親なり・子育て	少子化、性別役割分業、育児ネットワーク
第10回	仕事と家庭	生活時間、ワークライフバランス、家族の産業・地域特性

第11回	子どもの巣立ち	中年期親の発達課題、子どもの離家と空間的距離、定年退職
第12回	家族の介護と福祉	中期・後期親子関係、ケアとジェンダー、「老老介護」
第13回	高齢期を生きる	祖父母・孫関係、配偶者の死と未亡人期、人生の再検討
第14回	理解度の確認	まとめと理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、指定されたものを遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて、資料を配布する

【参考書】
日本家政学会編，2018,『現代家族を読み解く12章』丸善出版（ISBN：9784621303436）.
西野理子・米村千代編，2019,『よくわかる家族社会学』ミネルヴァ書房（ISBN：9784623085514）.
嶋崎尚子，2008,『ライフコースの社会学』学文社（ISBN：9784762018022）.

【成績評価の方法と基準】
授業内のワークおよびリアクションペーパー（40%）、最終課題（授業内試験）（60%）

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を真摯に受け止め、学生の視線に立った授業を展開したい

【Outline (in English)】
First, we will learn the fundamental concepts and theories of family sociology and examine the family from a life course perspective. The life course is not merely a “life span,” but rather a social and cultural pattern concerning the trajectory of social roles and role transitions throughout one’s lifespan. We will capture the developmental processes of each family member and examines the relationship between society and the family from various angles.

SOC300MA (社会学 / Sociology 300)

プログラム評価論

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ライフキャリア課題の解決を目的とした対人・コミュニティ援助のあり方について学び、プログラム評価(program evaluation)のスキルを習得する。※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については、世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。

【到達目標】

①地域や社会の課題と連動したライフキャリアの捉え方や課題解決の方法が分かる。

②対人援助やコミュニティ援助を目的としたプログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教育機関や企業組織そして地域コミュニティには、人材育成・組織開発・地域活性化などを目的とした多種多様な実践活動が存在します。そして対人援助やコミュニティ援助という形で実践されるこれらの活動について、説明責任（アカウンタビリティ）や科学的根拠（エビデンス）が求められる時代となっています。この講義では、主にライフキャリア課題の解決を目的とするプログラムを客観的に捉え、その成果や効果を評価し、実践の質向上につなげるための方法論を学びます。プログラムの価値や意義は、経済的指標などで捉えることが困難な個人や集団に対する教育的・心理的效果として現れることが多いため、社会調査・実験心理学・心理測定といった方法論との親和性が高くなります。この授業では、プログラムを客観化・可視化する手順をまず習得したうえで、具体例を通してプログラムを実証的に評価するための方法を学びます。演習としてグループワークを頻繁に行うため、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、授業のディスカッションに活かします。※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については、世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。よって各回で扱うライフキャリア課題や支援プログラムの例は世代間交流の内容を含むものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第2回	理論的背景①	学際的視点からライフキャリア課題について学ぶ①（事例：駄菓子屋）。
第3回	理論的背景②	学際的視点からライフキャリア課題について学ぶ②（課題学習文献：プログラム評価の学び）。
第4回	理論的背景③	ライフキャリア課題におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第5回	理論的背景④	アイデンティティとライフキャリア課題（事例：シェアハウス）。

第6回	理論的背景⑤	超高齢社会におけるライフキャリア課題（事例：高齢者施設）。
第7回	実践的課題	プログラム開発に向けたライフキャリア課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第8回	プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第9回	プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みからプログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第10回	プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第11回	プログラムの評価①	プログラムのプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第12回	プログラムの開発②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスチョンの設定）。
第13回	プログラム評価計画の発表	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第14回	まとめ	授業全体を振り返り、各課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料等を使用する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」(安田節之, 2011, 新曜社)

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(50%)、グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）(30%)、授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)(20%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【その他の重要事項】

※2027年度までの科目移行期間(旧：世代間交流論→新：プログラム評価論)については、世代間交流論の内容を踏まえた講義とする。

【Outline (in English)】

Theories and applications of program evaluation (PE) will be covered in this class, where students are expected to learn how problems and targeted issues are addressed, goals and programs are defined and developed, and appropriate methods of PE are applied in evaluating programs.

PSY300MA (心理学 / Psychology 300)

社会心理学

奥山 智天

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学とは、個人の「こころ」がどのように社会に影響を与え、また、社会がどのように個人の「こころ」に影響を与えるのかという、個人と社会の相互作用を探究する学問である。社会心理学を学ぶことで、身近な社会現象がどのようなメカニズムで生じ、人々の心理や行動にどのような影響を与えているのかを理解するための一つの視点を獲得することが可能となる。

本講義の目的は、①いくつかの重要な実証研究を通して社会心理学における主要な理論を学び、②それらの理論を用いて日常生活における社会現象を説明できる能力を身に付けることにある。

本講義では、まず社会的認知などの「個人レベル」の心理現象を学び、その後、社会的アイデンティティ理論などの主要概念について学びながら、個人の心理が「集団レベル」や「文化レベル」の社会現象とどのように結びついているのかというグループ・ダイナミックス（集団力学）について理解を深める。

【到達目標】

- ①様々な実証研究を通して、社会心理学の重要な理論が理解できるようになる。
- ②社会心理学の理論を用いて、身近な社会現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。毎回の授業で、リアクションペーパー（小課題を含む）への回答を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
第2回	個人レベルの心理① ：同調と社会的認知	人はなぜ同調するのか？
第3回	個人レベルの心理② ：ステレオタイプと社会的推論	偏見や差別はなぜ生じるのか？
第4回	個人レベルの心理③ ：気分と感情	天気が良いと気分も良い？
第5回	個人レベルの心理④ ：態度と説得	どうすれば人を説得することができるのか？
第6回	集団レベルの心理① ：対人行動	人はなぜ他者を助けるのか？
第7回	集団レベルの心理② ：人間関係	人はなぜ人間関係に葛藤を抱えるのか？
第8回	集団レベルの心理③ ：組織と集団過程	どのようなリーダーが好まれるのか？
第9回	集団レベルの心理④ ：集団間葛藤	社会的アイデンティティ理論とは何か？
第10回	文化レベルの心理① ：文化と自己	日本人とアメリカ人は何が違うのか？
第11回	文化レベルの心理② ：文化と感情	アメリカでは名誉が大事？

第12回 文化レベルの心理③ 日本の幸福度はなぜ低い？
：文化と幸福

第13回 文化レベルの心理④ 稲作が日本文化を作った？
：社会生態学的アプローチ

第14回 期末試験 （対面で実施予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に講義内容の復習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各回4時間以上を標準とする。期末試験の前には講義内容を総復習し、試験対策を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。授業時間外に自主学習する際の参考書籍は【参考書】の欄を参照。なお、関連する学術論文は授業内で適宜紹介する。

【参考書】

初學者向け

- ・「社会心理学キーワード」、山岸俊男、有斐閣双書
- より詳しく学びたい方向け
- ・「社会心理学概論」、北村英哉・内田由紀子編、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業で課されるリアクションペーパーへの回答（40％）
- ・期末試験の成績（60％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため、該当しない。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、講義内容が一部変更になる場合があります。

【Outline (in English)】

- This course introduces several key theories in social psychology through various empirical studies.
- At the end of the course, students are expected to understand key theories in social psychology and acquire skills to explain social phenomena using the theories.
- After each class, students will be expected to spend four hours understanding the course content. Before the final exam, students will be expected to spend sufficient time reviewing the course content.
- Your overall grade will be determined based on the in-class reflection paper (40%) and the final examination (60%).

SOC300MA (社会学 / Sociology 300)

文化経営論

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
 ～4 2024年度以前入学者：2～4年
 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
 授業コード：C5119
 科目名：文化経営論
 ＜2024年度以前入学者＞
 授業コード：C5119
 科目名：文化経営論
 ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
 その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

【到達目標】

文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメント（経営）する」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のNPOなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定で、オンデマンドと対面のハイブリッド型で進行します。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。個別の質問等は随時教室内やメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明するほか、授業への関心についての簡単なアンケートを行う。
第2回	今日の文化政策	文化政策の現在の動向を概観する。
第3回	日本の文化政策のなりたち	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史について学ぶ。
第4回	オンライン/online	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。

第5回	日本の文化政策④	「文化芸術基本法」をはじめ、文化の振興を支える法的基盤について学ぶ。
第6回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイズについて理解する。
第7回	文化と経済②	文化産業／創造産業について、ゲストによる事例をもとに考察する。
第8回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第9回	フィールドワーク	公立セクターが主体となった芸術文化事業を自身の関心に応じて視察・見学する。
第10回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりについて、ゲストによる事例をもとに考察する。
第11回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化的アプローチについて、ゲストによる事例をもとに考察する。
第12回	文化経営の可能性①	ファッションとサステナビリティに関わる観点から、ゲストによる事例をもとに考察する。
第13回	文化経営の可能性②	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。
第14回	授業内試験	授業内試験を実施し、これまでの学びを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に文献を配布したり必要なリンク先を提示します。

【参考書】

授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（40％）と最終試験（60％）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】

In the mature society of the 21st century, “culture” has become an important factor. Culture here includes not only artistic culture such as art, music, and theater, but also daily life culture, traditional culture, youth culture and popular culture such as movies, animation, and fashion, as well as cityscapes and landscapes. We consider them as cultural “resources” and think about how to “manage” them so that they can be utilized for town development, people development, and business, including cultural industries.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・ Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on regular marks such as in-class short reports and assignment reports (40%) and the final examination (60%).

LANe100MA (英語 / English language education 100)

国際コミュニケーション語学
(英語 I)

JUSTIN FALKUS

単位数：1単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5293

科目名：国際コミュニケーション語学（英語 I）

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5293

科目名：国際コミュニケーション語学（英語 I）

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this class is to greatly develop students' English communication skills, thereby increasing their self-confidence as foreign language speakers.

【到達目標】
The goal of the Spring course is to get students to communicate in smooth, natural English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
(学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。 /If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.
Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice. Feedback about student answers will be given by the teacher, during classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	Orientation & introducing yourself	Introduction to the course & the basics of self-introductions
第2回	Talking about 'me', and asking about 'you'	Talking about hobbies, interests, family and so on
第3回	Things I did, things I've done	Talking about important past events and experiences
第4回	The world around me	Using 'There is/are' and 'X is Y' to describe your world
第5回	Short Speaking Task 1: Speech	Very short speech, reviewing work covered so far
第6回	My 'certain' future	Talking about schedules and fixed plans
第7回	My 'uncertain' future	Talking about possibilities
第8回	Short Speaking Task 2: Pair Role Play	Short role-play with a partner
第9回	Intonation: Focus on rhythm	Learning to speak with a natural English rhythm

第10回	Intonation: Focus on 'information'	Learning how to divide your speech into information units
第11回	Discussion Skills 1	Learning how to engage in enthusiastic English discussions
第12回	Discussion Skills 2	Preparing for the Discussion task
第13回	Short Speaking Task 3: Small-Group Discussion	Short Discussion Task, in groups of 3 or 4 students
第14回	Course Overview	Going over what we have learned, and discussing the summer holidays

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
The teacher will provide his own materials.

【参考書】
There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】
Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%
Speaking Tests: 70%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course, students will gain confidence in English communication through tasks focussing on meaningful and relevant topics
Learning Objectives: The objective of this class is to greatly develop students' English communication skills, thereby increasing their self-confidence as foreign language speakers.
Learning Activities Outside Of Classroom: Students should take time to review all material covered in class, work on homework tasks, and prepare adequately for the short speaking tasks.
Grading Criteria: Students will be assessed via several speaking tasks; active and enthusiastic participation in class activities will also be taken into account.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅱ)

JUSTIN FALKUS

単位数：1単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5294
科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5294
科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this class is to further develop students' English communication skills, helping them to identify without reservation as 'English speakers'.

【到達目標】

The goal of the Autumn course is to encourage and facilitate students' smooth transition to being confident and competent English speakers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

（学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。 /If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.

Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice. Feedback about student answers will be given by the teacher, during classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation & review	Introduction to the course; Overview of what was covered in Semester 1
第2回	My Part-Time Job: Obligations & Duties	Learning to control modal verbs for 'Obligation' – must, have to, should, can't, etc.
第3回	What do you think I should do?	Extending the concept of Obligation to include Advice, Suggestions, Requests, etc.
第4回	Short Speaking Task 1: Speech	Very short speech, reviewing work covered so far
第5回	English for practical situations 1	Dealing with 'communication situations' that commonly arise when travelling in a foreign country
第6回	English for practical situations 2	Dealing with more 'communication situations' that commonly arise when travelling in a foreign country

第7回	English for practical situations 3 – Preparing the role play	In pairs, writing and rehearsing a short script that covers 2-3 'communication situations'
第8回	Short Speaking Task 2: Pair Role Play	Short role-play with a partner
第9回	Intonation: Focus on Tone	Learning to control the Primary Tones of English
第10回	Intonation: Focus on Information Structure	Learning about 'New' and 'Given' information
第11回	The 'culture' of being an English speaker	Speaking with commitment
第12回	The 'culture' of being an English listener	Asking questions to show interest
第13回	Small-Group Discussion Tas	Short Discussion Test, in groups of 3 or 4 students
第14回	Course Overview	Going over what we have learned, and discussing students' future plans

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

The teacher will provide his own materials.

【参考書】

There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: (including the timely completion of all home-work assignments) 30%

Speaking Tests: 70%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students should always bring pens and paper to class, along with a decent-quality binder containing previously received handouts

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, students will gain confidence in English communication through tasks focussing on meaningful and relevant topics

Learning Objectives: The objective of this class is to greatly develop students' English communication skills, thereby increasing their self-confidence as foreign language speakers.

Learning Activities Outside Of Classroom: Students should take time to review all material covered in class, work on homework tasks, and prepare adequately for the short speaking tasks.

Grading Criteria: Students will be assessed via several speaking tasks; active and enthusiastic participation in class activities will also be taken into account.

LANe100MA (英語 / English language education 100)			Week 3		
国際コミュニケーション語学 (英語Ⅲ)			The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech		
Kregg Johnston			Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech		
単位数：1単位 開講セメスター：春学期授業/Spring			Week 4		
曜日・時限：月3/Mon.3 配当年次：1～4年			The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech		
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞			Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard & visuals		
授業コード：C5295			Week 5		
科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅲ）			The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech		
＜2024年度以前入学者＞			Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts		
授業コード：C5295			Week 6		
科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅲ）			The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts		
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称			Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations & visual aids for 2-country speech		
その他属性：＜優＞			Week 7		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review		
様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法を基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう（詳細は以下の英文の記載を読んでもください）。			Review Units 1-5 Compare/ contrast 2 countries		
To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.			Week 8		
【到達目標】			The Story Message Organization of a speech		
This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.			Presentation organization Components of presentation script		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			Week 9		
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連			The Story Message Introduction Unit 6 quiz		
【主な授業方法】			Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation		
L 講義 /Lecture			Week 10		
【授業の進め方と方法】			The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech		
The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.			Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech		
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.			Week 11		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech		
あり / Yes			Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			Week 12		
なし / No			Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			Review presentation components Prepare for final presentations		
回	テーマ	内容	Week 13		
Week 1	Course Intro & level check	Ice breakers Course objectives	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)		
	Extemporaneous speeches	Vocabulary management	Week 14		
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class.
本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2021, Harrington, LeBeau
ISBN 9784863123854

【参考書】

Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2021, Harrington, LeBeau
ISBN 9784863123854

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-20%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 45%

*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】

Added emphasis on eye contact and use of transitions in presentations.

【学生が準備すべき機器他】

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA（英語 / English language education 100）		
国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）		
Kregg Johnston		
単位数：1単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
曜日・時限：月3/Mon.3 配当年次：1～4年		
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞		
授業コード：C5296		
科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）		
＜2024年度以前入学者＞		
授業コード：C5296		
科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）		
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称		
その他属性：＜優＞		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
アカデミック・スキルズ（講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、賛否・意見の述べ方など）を学び、伸ばします。また、語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。		
Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary		
【到達目標】		
In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.		
Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course & assess vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 1: Happiness Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary Signal phrases for intro Unit 1 lecture preview
Week 3	Unit 1: Happiness Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: state opinion, agree, disagree
Week 4	Unit 1 Quiz Unit 2: Learning styles Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 1 quiz Unit 2 introduction of topic & AWL Vocabulary Lecture: Rhetorical questions
Week 5	Unit 2: Learning styles Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: asking for opinions
Week 6	Unit 2 Quiz Unit 3 Sleep Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 2 Unit 3: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Signal phrases for details
Week 7	Unit 3: Sleep Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: State opinion & paraphrasing
Week 8	Unit 3 quiz Unit 4: Negotiating Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 3 Unit 4: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Listing of ideas
Week 9	Unit 4: Negotiating Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Clarifying & Confirming
Week 10	Unit 4 quiz Unit 5: Modern Art Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 4 Unit 5: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Defining terms
Week 11	Unit 5: Modern Art Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Disagreement
Week 12	Unit 5 quiz Unit 6: Robots Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 5 Unit 6: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Intonation of numbers
Week 13	Unit 6: Robots Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering examples/facts
Week 14	Unit 6 quiz Vocabulary quiz U 1-6	Unit 6 quiz Course Review & wrap-up
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。 / University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.		
【テキスト（教科書）】		
Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost ISBN: 9780134400648		
【参考書】		
Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost		

ISBN: 9780134400648

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-60%

Homework-20%,

Participation 10%

Presentations/ Discussion activities 10%

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion in small groups of issues brought up in the lectures and vocabulary development

【学生が準備すべき機器他】

【教室必要備品】 OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

【キャリアデザイン学部より】

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅴ)

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5297

科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5297

科目名：国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校までに学んだ英語と文法の知識を定着させながら、自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書けるようになることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

- 【到達目標】
After taking this course, the students should have learned the following:
1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences, and concluding sentences
 2. the mechanics of typing and formatting a composition
 3. how to edit one's own and others' compositions
 4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.
Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.
Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第2回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第3回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences

第4回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft
第5回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Preparation for peer review Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第6回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第7回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第8回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第9回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第10回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs
第11回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第12回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第13回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第14回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework exercises contained in the course digital handouts
Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。 / University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Handouts and reading material will be provided by the lecturer and will be distributed through Google Classroom for this course

【参考書】
<http://my.vocabularysize.com/>
<http://quizlet.com>
www.englishgrammar.org
Google Classroom: Registration details will be provided on the Hosei LMS and at the first class meeting

【成績評価の方法と基準】
Participation in class: 10%
Two in-class quizzes on the homework: 20%
Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased work on paragraph development and referencing outside sources as evidence.

【学生が準備すべき機器他】

Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, and submitted through the Google Classroom page for the course. All students taking the class will need to join the Google Classroom page, for which details will be provided in the first week of class.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

上西 充子、梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5298

科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5298

科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン(労働組合) リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義していただきます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
第2回	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 (2025年度ゲストは教育文化協会)
第3回	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。(2025年度ゲストは生保労連)
第4回	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。(2025年度ゲストは伊藤ハム米久労働組合)
第5回	【ケーススタディ③】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差は正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。 (2025年度ゲストは自治労)
第6回	【ケーススタディ④】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 (2025年度ゲストはKDDI労働組合)
第7回	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに生き生きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 (2025年度ゲストは全労金)

第8回	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。サブライヤーを多く抱える中小企業労組が働く者の労働条件改善に向けてどのような取り組みを実施しているのか、事例を聞き、理解してもらう。 またJAMで働く若手職員とのグループディスカッションを通じて、現場の実態について理解を深める。(2025年度ゲストはJAM。若手職員を含めたグループディスカッションあり)。
第9回	【課題への対応①】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。(2025年度ゲストは連合総合組織局)
第10回	【課題への対応②】 働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。(2025年度ゲストは連合 労働条件・中小地域対策局)
第11回	【課題への対応③】 あらゆるハラスメントの根絶に向けた労働組合の取り組み	セクハラ・パワハラをはじめとするあらゆるハラスメントは人権をも脅かす重大な問題であり、誰もがいきいきと働き続けられる社会の実現に向けてはあらゆるハラスメントの根絶が必要不可欠である。あらゆるハラスメントの根絶に向けて労働組合がどのような取り組みを実施しているのか、連合もしくは産別の取り組みを聞き、その重要性を理解してもらう。(2025年度ゲストは連合 ジェンダー平等・多様性推進局)
第12回	【課題への対応④】 国際労働運動の役割 ～グローバリゼーションへの対応～	進行するグローバリゼーションに労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関の役割や、多国籍企業問題に対する取り組み、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割・取り組みについて考えてもらう。(2025年度ゲストはITUC)
第13回	【修了講義】 連合運動の現在と未来 ～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。(2025年度ゲストは連合事務局)
第14回	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	担当教員が、ケーススタディー「働くということ」と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全14回の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】

授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association.

Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples.

Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace.

In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.

They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class contributions (including comments): 50%

Term-end report: 50%.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅰ

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5299

科目名：就業応用力養成Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5299

科目名：就業応用力養成Ⅰ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

※「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
⇒組織を効率よく運営参画するスキル
⇒社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
⇒データの収集（質問票調査）を行う定量調査スキル
⇒フィールドワークによる定性調査スキル
⇒定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
⇒共感・質問・提言する個別対人スキル
⇒カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
⇒社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
⇒チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
⇒モチベーション・マネジメント
⇒4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
⇒キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
⇒自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
⇒暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
⇒メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（レポート&プレゼンテーション）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

※受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
第2回	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレインストーミング
第3回	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
第4回	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力
第5回	上司を動かす力とは ビジネス事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	・顧客満足向上とは 起業家精神 ・ベンチャー企業 ・株主重視経営 ・MBA
第6回	ビジネス事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
第7回	社会人ケーススタディ－1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
第8回	食品関連業界事例研究 世界に通用するBtoB技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
第9回	文房具旅行用品業界事例研究 モノづくりの魅力 企業提案ワーク ショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
第10回	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ

第11回	社会人ケーススタ ディー2 20代のキャリア形成 副業・兼業・越境 学習 コンサルティング業 界とは	新しい就労形態 ・パラレルキャリア ・進路の意志決定 ・大学生活とビジネスの接続
第12回	プロジェクトベース ラーニング（PB L）-2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
第13回	金融業界事例研究 地方創生事業の実例 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
第14回	プロジェクトベース ラーニング（PB L）-3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

- ・「大学とは何か」吉見俊哉（岩波新書）
- ・「論文・レポートの基本」石黒圭、日本実業出版社
- ・「大学生のためのレポート・論文の書き方」石井一成、ナツメ社
- ・「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン（新潮新書）

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容）⇒30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒30点
- ・授業期間中レポート⇒20点
- ・期末レポート⇒20点

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、学習支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。

PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。

＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。

＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

(Learning Objectives)

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

(Learning Activities Outside of Classroom)

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Grade score

- ・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks / contribution in group work) ⇒ 30 points
- ・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
- ・ Report during class period ⇒ 20 points
- ・ Term-end report ⇒ 20 points

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA（キャリア教育 / Career education 300）

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5300

科目名：就業応用力養成Ⅱ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5300

科目名：就業応用力養成Ⅱ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜他＞＜優＞＜実＞＜未＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組めます。

未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。

アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行います。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

＊受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アカデミックスキル 大学生で学べきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
第2回	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 共感・質問・提案	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング ・コンサルティング
第3回	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
第4回	ライフスタイル 研究－1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
第5回	21世紀の生き方へ ライフスタイル 研究－2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
第6回	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
第7回	課題レポート&プレゼンテーション－1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
第8回	ライフスタイル 研究－3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
第9回	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
第10回	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
第11回	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
第12回	人生の3つのカーブ 文献・統計・フィールドワークのデータ	世代別の課題 ・J字カーブ（20代） ・M字カーブ（30代） ・X字カーブ（40代）

第13回	課題レポート&プレゼンテーション-2 法政大学の実践知とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
第14回	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテーション力 ・課題確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

- ・「大学とは何か」吉見俊哉（岩波新書）
- ・「リーダーシップの心理学」國分康孝、講談社新書
- ・「性格スキル」鶴光太郎 祥伝社新書
- ・「成功するプレゼンテーション」箱田忠明、日本経済新聞社
- ・「ファシリテーターの道具箱」森時彦、ダイヤモンド社
- ・「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン（新潮新書）

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容）⇒30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒30点
- ・グループワークでの貢献度⇒20点
- ・期末レポート⇒20点

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのことでした。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、学習支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。

大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学のテーマである「実践知育成授業」を目指します。

＊ゲスト招聘者・企業は、先方の都合により変更になる場合があります。

＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

(Learning Objectives)

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

(Learning Activities Outside of Classroom)

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 20 points

・ Term-end report ⇒ 20 points

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

MAT200XE（数学 / Mathematics 200）

数論

永井 彰

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、整数の初等的性質を学ぶことを通して、将来、科学者・技術者・理系教員などとして各分野で活躍するために必要な基礎的素養を身につけることにあります。整数論を単なる計算技術としてではなく、問題解決のための体系的な学問として理解し、実社会との接点も意識しながら学習します。

■ 素養(1) 問題解決力

実社会の課題を数学的に定式化し、方程式へと落とし込む力を養います。特に、2元1次方程式の整数解を、効率的かつ網羅的に求める方法を学び、問題を論理的に解決できる力を身につけます。

■ 素養(2) 他科目と併せた有機的理解および総合力

整数論の対象を幾何学的に解釈したり、線形代数の観点から捉え直したりすることで理解を深化させます。また、整数論のアルゴリズムを実際にプログラムとして実装し、理論と計算の両面から総合的に扱える力を養います。

■ 素養(3) 社会課題への応用に関する教養

整数論の道具や技法が、方程式の解法にとどまらず幅広い分野で活用されていることを学びます。暗号技術などの具体例を通して、整数論と社会との関係性を理解します。

■ 素養(4) 初等整数論の体系的学識

初等整数論で用いられる概念・道具・技法を、方程式の解法との関連を軸に整理し、それらの相互のつながりを意識しながら、体系的な学問的知識として身につけます。

■ 素養(5) 固定観念に囚われない柔軟性

最大公約数といった基本概念について、これまで当然と考えてきた前提を改めて問い直します。既成概念に固執せず、新たな視点や拡張的な考え方を受け入れる柔軟な思考力を養います。

【到達目標】

2元1次不定方程式の整数解や整数係数の多項式乗算を効率的に求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

全週の授業を対面で行います。講義スライドは電子的に配布します。100分の授業を前半と後半に分け、50分前後の中間点でリアクションペーパーの時間を取ります。前半の内容と後半の内容の間には区切りがあり、それぞれ教科書では別々の章に対応します。

■ 基本

全週の授業を対面で実施し、多くの章ではスライドによる講義を中心とします。これらの章の講義スライドは共有します。授業計画の回数はあくまでも目安であり、テーマで扱う内容、学習すべき項目の量や理解度に応じて進み方は調整します。

■ 例外

章によっては例題を解いてみる時間があります。今まで解いたことのないような問題を、まずは自分で考えてみる時間です。場合によってはグループで共有する時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概要・ガイダンス／2元1次不定方程式を解く基本戦略	シラバスについて補足説明を行います。2元1次不定方程式を解く基本戦略を立てます。

2	割り算アルゴリズムと最大公約数（1）	方程式を解くのに必要となる最大公約数について学びます。また割り算の原理について考え直します。
3	割り算アルゴリズムと最大公約数（2）	1変数多項式の割り算アルゴリズムと最大公約数をプログラミングと絡めて理解します。
4	ユークリッド互除法	最大公約数を効率的に求めるユークリッド互除法のアルゴリズムについて、プログラミング、多倍長整数と絡めて理解します。2元1次不定方程式の全ての整数解を効率的に求められるようにします。
5	拡張ユークリッド互除法	合同（式）について学びます。
6	法の世界（合同記号と1次合同式）	拡張ユークリッド互除法を用いて逆元を求めます。また、実用上利用される Binary GCDなども学びます。
7	法の世界における逆元計算	冪乗剰余を効率的に計算します。また、フェルマーの小定理を理解するために、オイラー関数を学びます。
8	冪乗剰余の計算／オイラー関数	フェルマーの小定理を用いて逆元を求めます。また、実用上利用される加算チェーンなども学びます。
9	フェルマーの小定理と逆元計算	カラツバ法、Toom-Cook法についてプログラミングと絡めて理解します。
10	1変数多項式の乗算法（1）	TMVP法（Toeplitz Matrix Vector Product）についてプログラミングと絡めて理解します。
11	1変数多項式の乗算法（2）	これまで学んだこと的应用例として公開鍵暗号について学びます。
12	暗号技術への応用（1）	量子計算機を用いた攻撃にも耐性のある耐量子計算機暗号と、その1つである格子暗号について学びます。
13	暗号技術への応用（2）	耐量子計算機暗号である格子暗号についてプログラミングと絡めて理解します。
14	暗号技術への応用（3）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

■ 予習

0時間。事前学習は不要です。

■ 復習

4時間が標準。ただし休憩等を考慮して45～50分を1時間と看做します。復習は次の三つからなります。

[1] 教科書（講義スライドとは異なります）の読解 1時間が標準

[2] 事後学習（宿題）の実施 1時間が標準（週によっては2時間）

[3] 自己調整学習 残りの時間

自己調整学習は、その内容が自分に最も適したものになるよう、皆さん自身で組み立てるものです。その多くの部品（選択肢）について、初週のガイダンスで十分に説明します。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。担当教員が作成した教材を電子的に配布します。他に整数論の参考書が無くても、配布テキストだけで充分に理解できるようにします。

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】**■ 基本**

- 50点 提出物（事後学習）

- 50点 期末試験

合計点＝提出物の得点＋期末試験の得点で成績を評価します。これは飽くまで基本であって、教育実習等やむを得ず事後学習が提出できない場合は措置を講じますので心配無用です。また病気等で成績評価が不安になるような状況に陥った場合は、躊躇せず速やかに相談してください。最大限の配慮をします。

■ 到達目標との対応

到達目標ができるようになる（1次方程式の整数解を求められることや多項式乗算を効率的に計算できる）ことの目安は60点です。

■ 事後学習50点の詳細

- 27点 練習問題・演習問題（3点×9週）

- 8点 プログラミング（8点×1週）

- 15点 調べ学習（5点×3週）

事後学習の履行点（基準点）は次のとおり30点です。本科目での履行点とは、事後学習を指示どおり実施して提出した場合に、答案の正誤や完璧さに関係なく付与されるものです。白紙答案や明らかに時間不足と考えられる答案には付与しません。

- 18点 練習問題・演習問題（2点×9週）

- 3点 プログラミング（3点×1週）

- 9点 調べ学習（3点×3週）

■ 期末試験50点の詳細

- 30点 必須問題

- 20点 選択問題（問題を選択できるという意味であって、解答が選択式という意味ではないので注意）

必須問題と選択問題いずれも答案記述式です。必須問題30点は1次方程式の整数解や多項式乗算を求めるだけの単純な内容です。選択問題20点は素養(2)(3)(4)(5)に関する内容です。

【学生の意見等からの気づき】**■ 次の流れに陥らないよう注意します**

- 公理 → 定義 → 定理 → 補題 → 証明 → 系

むしろ次の流れになるよう心掛けます

- 問題・目標 → 考察 → 定義・定理 → 応用・次の狙い

■ 社会との繋がりを強く意識し、応用例を紹介します（暗号技術）**■ 自己調整学習を推し進めるのを助けるため期末試験にインセンティブを設けます（詳しくはガイダンスで説明します）****■ 授業を前半と後半に分け、それぞれの内容の間に明確な区切りができるようにします****■ 提出物（事後学習）の明確な配点と基準を予め周知します****【学生が準備すべき機器他】****■ 授業に持参すべきもの**

- 講義スライドを閲覧するための端末（ノート型パソコン・タブレット端末・スマホなど）

- リアクションペーパーを提出するための機器（同上、ネットワーク接続が不可の場合は紙でも提出可、その場合は筆記具を持参）

- 例題を解くための紙ノートおよび筆記具（タブレット端末とタッチペンでも可）

- 計算機（関数電卓・ノート型パソコン・スマホなど）

■ 事後学習の際に準備すべきもの

- 教科書を閲覧するための端末

- 事後学習を提出するためのネットワーク接続機器

- プログラミングをするためのパソコンもしくは関数電卓

- 調べ学習をするためのインターネット端末

【その他の重要事項】**■ 前提条件**

履修条件は設けませんが以下を前提とします。

- 前提〈1〉基礎的な数学知識・スキル

・ 数式、図形、集合、論理の扱い

・ 1次関数および2次関数のグラフ描画および読取り

- 前提〈2〉線形代数（大学初年次で習う内容の初歩）

・ ベクトル・行列・行列式の基本的な計算

・ 多変数の1次式および1次方程式の行列表現

- 前提〈3〉プログラミング（大学初年次で習う内容の初歩）

・ 簡単なプログラムの作成および実行（言語の種類は自由）

・ 条件分岐・繰返し処理・関数定義の組合せ

※ なお互除法や合同式など整数の性質に関する事前知識・スキルは不要です。本科目で一から学びます。

■ 担当教員の実務経験

担当教員は暗号の研究者です。企業において15年以上、暗号の研究開発や国際標準化に携わっています。

■ 生成AIの取り扱い

事後学習の際の生成AIの利活用は自由です。

■ オフィスアワー

授業のある日（木曜日）の15～17時（講師室）あるいは授業後18:40～（教室内）です。事前アポは無くても構いません。その他の時間帯の連絡はEメールでお願い致します。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The purpose of this course is to enable you to acquire the skills necessary to be a scientist, engineer, teacher, or other professional in your future career by learning about the elementary properties of integers.

【Learning objective】

The minimum goal is to become able to find efficiently all integer solutions to general linear equations and to some simple quadratic equations.

【Learning activities outside of classroom】 In principle, students are expected to spend four hours studying after each class.

【Grading criteria / policy】

Homework 50%

Final exam 50%

COT200XE (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング言語 J A V A

山口 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Webアプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語であるJava言語について学習する。

今日用いられているプログラミング言語のほとんどがオブジェクト指向プログラミングをサポートする。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できる。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的なJavaアプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的なJavaアプリケーションの設計および実装ができる
- ・新たなJavaアプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分かれる。

前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理などのJava言語固有の内容(JavaSE API)を学ぶ。Javaの言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学ぶ。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深める。

後半では、オブジェクト指向に基づいたプログラムの設計・実装の方法を学ぶ。また、プログラムの検証やテストの方法について学ぶ。講義内の演習や課題を通じてJavaアプリケーションの設計、実装、テストを実践することで、理解を深める。

各講義の終わりには復習のための宿題を課す。次の講義までに提出すること。

フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自PCの開発環境の整備、学習支援システムの使い方の説明、簡単な演習を実施する。
第2回	基本的な書き方	Javaの基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得する。
第3回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得する。
第4回	配列とコレクション	まとまったデータを扱う方法として、配列、List、Map等を理解することで、その使い方を習得する。

第5回	ストリーム処理	まとまったデータを逐次処理するストリーム処理について学習し、その使い方を習得する。
第6回	例外	Javaの例外について学習する。try-catch構文を用いて適切に例外を捕捉する方法を習得する。
第7回	文字列	文字列の操作方法と文字コードについて学習し、理解を深める。日付処理の方法を習得する。
第8回	日付処理	ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する。
第9回	ファイル操作とデータ形式	Javaの多相性について理解し、プログラムの枠組みをインターフェースや抽象クラスで表現することで実装を見通しよく進める方法を習得する。
第10回	多相性とソフトウェア設計	デザインパターンを用いたソフトウェアの設計、実装の方法を習得する。
第11回	デザインパターン	ソフトウェアの検証およびテストについて理解する。また、JUnitを使用した単体テストの方法を習得する。
第12回	ソフトウェア検証・テスト	ここまで学習した内容を復習する。
第13回	これまでの復習	構文・意味論・型システムに着目し、特徴的なプログラミング言語のいくつかを紹介する。
第14回	さまざまなプログラミング言語	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「Java本格入門」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology株式会社 監修 技術評論社 発行 2980円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施できる場合

- ・授業の内容を理解していることを確認するための期末試験(50%)
- ・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題(50%)

期末試験を実施できない場合

- ・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、Eclipseという統合開発環境を用いて、プログラムを作成する。大学から貸与されているノートPCを必ず毎回各自持参すること。なお、他学科からの履修などの理由で、PCにEclipseがインストールされていない場合がある。第一回の授業でフォローする予定であるが、授業開始までにEclipseをインストールしておくことをすすめる。

<https://www.eclipse.org/>

Eclipseが動くPCであれば、大学から貸与されたノートPCでなくてもよい。また、この場合にはWindowsでなくてもよい。

演習と宿題の提出には授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- 本講義では、C言語などで手続き型言語を学んだことがあり、C++言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提する。
- 企業で用いられるソフトウェア開発支援技術の研究開発に従事する教員が、開発現場で用いられているJava言語の基礎について講義・演習を行う。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定である。
- オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認することを心がけること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications.

Most programming languages today support object-oriented programming. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Understand and modify the source code of basic Java applications based on object-oriented.
- ・ Design and implement basic Java applications based on object-oriented.
- ・ You can design new Java applications and write source code by yourself.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

You must submit the homework required for each class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

When taking a final exam

- ・ Final exam to confirm that you understand the lesson. (50%)
- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself. (50%)

If we do not or cannot take the final exam

- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself. (100%)

COT200XE (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング言語 J A V A

山口 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Webアプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語であるJava言語について学習する。

今日用いられているプログラミング言語のほとんどがオブジェクト指向プログラミングをサポートする。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できる。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的なJavaアプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的なJavaアプリケーションの設計および実装ができる
- ・新たなJavaアプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分かれる。

前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理などのJava言語固有の内容(JavaSE API)を学ぶ。Javaの言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学ぶ。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深める。

後半では、オブジェクト指向に基づいたプログラムの設計・実装の方法を学ぶ。また、プログラムの検証やテストの方法について学ぶ。講義内の演習や課題を通じてJavaアプリケーションの設計、実装、テストを実践することで、理解を深める。各講義の終わりには復習のための宿題を課す。次の講義までに提出すること。

フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自PCの開発環境の整備、学習支援システムの使い方の説明、簡単な演習を実施する。
第2回	基本的な書き方	Javaの基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得する。
第3回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得する。
第4回	配列とコレクション	まとまったデータを扱う方法として、配列、List、Map等を理解することで、その使い方を習得する。

第5回	ストリーム処理	まとまったデータを逐次処理するストリーム処理について学習し、その使い方を習得する。
第6回	例外	Javaの例外について学習する。try-catch構文を用いて適切に例外を捕捉する方法を習得する。
第7回	文字列	文字列の操作方法と文字コードについて学習し、理解を深める。日付処理の方法を習得する。
第8回	日付処理	ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する。
第9回	ファイル操作とデータ形式	Javaの多相性について理解し、プログラムの枠組みをインターフェースや抽象クラスで表現することで実装を見通しよく進める方法を習得する。
第10回	多相性とソフトウェア設計	デザインパターンを用いたソフトウェアの設計、実装の方法を習得する。
第11回	デザインパターン	ソフトウェアの検証およびテストについて理解する。また、JUnitを使用した単体テストの方法を習得する。
第12回	ソフトウェア検証・テスト	ここまで学習した内容を復習する。
第13回	これまでの復習	構文・意味論・型システムに着目し、特徴的なプログラミング言語のいくつかを紹介する。
第14回	さまざまなプログラミング言語	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「Java本格入門」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology株式会社 監修 技術評論社 発行 2980円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施できる場合

- ・授業の内容を理解していることを確認するための期末試験(50%)
- ・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題(50%)

期末試験を実施できない場合

- ・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、Eclipseという統合開発環境を用いて、プログラムを作成する。大学から貸与されているノートPCを必ず毎回各自持参すること。なお、他学科からの履修などの理由で、PCにEclipseがインストールされていない場合がある。第一回の授業でフォローする予定であるが、授業開始までにEclipseをインストールしておくことをすすめる。

<https://www.eclipse.org/>

Eclipseが動くPCであれば、大学から貸与されたノートPCでなくてもよい。また、この場合にはWindowsでなくてもよい。

演習と宿題の提出には授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- 本講義では、C言語などで手続き型言語を学んだことがあり、C++言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提する。
- 企業で用いられるソフトウェア開発支援技術の研究開発に従事する教員が、開発現場で用いられているJava言語の基礎について講義・演習を行う。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定である。
- オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認することを心がけること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications.

Most programming languages today support object-oriented programming. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Understand and modify the source code of basic Java applications based on object-oriented.
- ・ Design and implement basic Java applications based on object-oriented.
- ・ You can design new Java applications and write source code by yourself.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

You must submit the homework required for each class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

When taking a final exam

- ・ Final exam to confirm that you understand the lesson. (50%)
- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself. (50%)

If we do not or cannot take the final exam

- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself. (100%)

MAT200XG (数学 / Mathematics 200)

複素関数論

西村 滋人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微積分で学んだ実変数の三角関数、指数関数等を複素変数に拡張するところから始めて、複素関数の微分や積分について学ぶ。とくに応用上大切な有理関数の積分について、負冪を許して冪級数に展開し、閉曲線に沿って項別積分することによって、積分の計算が留数の計算に帰着されることを示す。

【到達目標】

- (1) 複素初等関数の取り扱いに習熟する。
- (2) 留数を計算して複素関数の積分を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	複素数の定義と四則演算	複素数の取り扱いについての簡単な復習。
2	複素指数関数	指数関数の複素変数への拡張。
3	複素三角関数	三角関数の複素変数への拡張。
4	対数関数と無理関数	対数関数の複素変数への拡張。
5	Cauchy-Riemann の方程式	複素微分の定義と実部虚部に課される制約の説明。
6	複素積分の定義	複素平面上の線積分。
7	複素積分の性質	微分と積分の関係など複素積分の基本性質。
8	コーシーの積分定理	閉曲線に沿った積分が零になるための条件の考察。
9	コーシーの積分表示	正則関数とその導関数の積分表示式。
10	整級数展開	テイラー級数とローラン級数。
11	特異点	ローラン級数の主要部の考察。極と零点。
12	留数定理	留数の求め方と複素積分の計算。
13	複素積分の応用	有理関数の無限積分など実積分の計算への応用。
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
計算練習は十分な量を各自でこなしておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

学力試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course we will learn differentiation and integration of functions in one complex variable.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) to be capable of performing basic operations on complex functions, and
- (2) to master the method of residues.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Term-end examination:100%.

MAT200XB (数学 / Mathematics 200)

応用数学 (機械)

坂田 繁洋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、常微分方程式の解法を学ぶ。常微分方程式とは、1変数関数およびその導関数の間の等式である。1変数関数およびその導関数の間の等式が与えられたとき、一般には特別な関数だけがその等式をみたす。この意味で、そのような等式を方程式とよび、その等式をみたす特別な関数を解とよぶ。この授業では、1階および2階の導関数までを含む常微分方程式を中心に、解の求め方を学ぶ。また、Laplace変換(関数が与えられたとき、それを用いて新しく関数を作る方法の1つ)を用いた常微分方程式の解法も学ぶ。
この授業の目的は、具体的な常微分方程式の解を求められるようになること、および求めた解の性質を調べられるようになることである。

【到達目標】

- (1) 基本的な常微分方程式の解を求められるようになる。
- (2) 基本的な常微分方程式の解の性質を説明できるようになる。
- (3) 具体的な関数の Laplace 変換を計算できるようになる。
- (4) Laplace 変換を用いて、基本的な常微分方程式の解を求められるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

黒板を用いて、講義形式で行う。講義内容の理解を深めるために、適宜、質疑・応答・演習の時間を設ける。質問と課題に対して、授業中に口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	入門, 変数分離形方程式	基本的な専門用語, 変数分離形方程式の解法と解のグラフ
第2回	定数変化法, 定数係数2階線形方程式	定数変化法による1階線形方程式の解法, 定数係数2階線形方程式の解法
第3回	Newtonの運動方程式, 微分方程式の解の存在について	具体的な運動方程式の解法, 微分方程式の解の存在についての一般論
第4回	解とそのグラフの幾何的な考察	微分方程式を具体的に解けなくとも解のグラフの概形を調べる方法
第5回	1階連立系の線形微分方程式, 定数変化法	1階連立線形微分方程式の解法と解の性質, 1階連立線形微分方程式の一般解
第6回	2階線形微分方程式, 1階連立および高階の線形微分方程式	2階線形微分方程式の解法と解の性質, 高階の線形微分方程式の解法と解の性質
第7回	定数係数高階線形微分方程式	定数係数高階線形微分方程式の一般解
第8回	定数係数連立方程式と行列の指数関数	定数係数連立方程式の解法, 行列の指数関数
第9回	減衰振動と連成振動	減衰振動と連成振動の運動方程式の解法と解の性質
第10回	Laplace変換の定義と計算	Laplace変換の定義, Laplace変換が定義できるための十分条件, 具体的な関数の Laplace 変換

第11回	Laplace 変換の性質	導関数の Laplace 変換, 積の Laplace 変換, 積分の Laplace 変換, 合成積の Laplace 変換, 逆 Laplace 変換
第12回	微分方程式への応用	Laplace 変換による微分方程式の解法例
第13回	積分方程式への応用	Laplace 変換による積分方程式の解法例
第14回	まとめと理解度の確認	学習内容のまとめ, 各事項に対する理解度の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
(準備学習)

各回に対応する教科書の節を読み、新しく学習するキーワードを把握する。

各回の理解に必要な微分積分・線形代数の既習事項を指示するので、それを確認・記憶する。

(復習)

各回で学んだ定理の仮定と結論を確認し、記憶する。

各回で扱った計算例にもう一度取り組む。

(宿題)

授業で扱った例題の類題を提示するので、それに取り組む。

【テキスト (教科書)】

神保秀一著「微分方程式概論[新訂版]」(数理工学社)

【参考書】

柳田英二・栄伸一郎共著「常微分方程式論」(朝倉書店)

【成績評価の方法と基準】

(成績評価の方法)

レポート 20%, 期末テスト 80%

(成績評価の基準)

具体的な微分方程式の解を指定された方法で求められるかどうかをレポートで評価する。

具体的な微分方程式の解を求められるかどうか、解の性質を説明できるかどうか、具体的な関数の Laplace 変換を計算できるかどうか、Laplace 変換を用いて微分方程式を解けるかどうかについて、総合的な習熟度を期末テストで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ノート、筆記用具(電子端末でもよい)

【その他の重要事項】

数学の授業です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is that students obtain the necessary knowledge and skills to solve ordinary differential equations by the methods of separation of variables, changing of variables, applying the Laplace transformation and so on. In this course, participants will consider some mathematical exercises to calculate the solutions by hand. This course also deals with some ordinary differential equations in mechanics.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to deduce the general solution formulas of some ordinary differential equations and to be able to solve linear ordinary differential equations.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to complete the assignments given in the classes and submit them by the deadlines. And, before/after each class meeting, students will be expected to have 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports 20%, Term-end examination: 80%.

MAT200XB (数学 / Mathematics 200)

応用解析 (機械)

坂田 繁洋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、Fourier級数の基本的な計算方法・性質を学び、基本的な偏微分方程式の初期値・境界値問題の解法を学ぶ。また、基本的な偏微分方程式の解の性質を学ぶ。

この授業の目的は、具体的な初期値が与えられたとき、熱方程式や波動方程式のDirichletまたはNeumann初期値・境界値問題の解を求められるようになることである。また、偏微分方程式の解の性質を調べ、基となる現象を説明できるようになることである。

【到達目標】

- (1) 与えられた関数のFourier係数・Fourier級数を計算できるようになる。
- (2) Fourierの方法に基づき、基本的な偏微分方程式の解の存在を説明できるようになる。
- (3) 基本的な偏微分方程式の解の性質を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

授業中に、適宜、計算練習と質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	熱方程式の導出, 熱方程式に対するFourierの方法	熱方程式の導出方法, 熱方程式の解の探し方
第2回	波動方程式の導出, 波動方程式に対するFourierの方法	波動方程式の導出方法, 波動方程式の解の探し方
第3回	三角関数系の直交性	Eulerの公式, 実変数複素数値関数の微分, 三角関数系の直交性
第4回	Fourier級数の定義と例	Fourier係数・Fourier級数の定義と計算例
第5回	複素Fourier級数	実変数複素数値関数のFourier係数・Fourier級数の定義と例
第6回	Fourier正弦級数, Fourier余弦級数	正の実数に対して定義された関数の奇関数拡張・偶関数拡張, それらのFourier係数・Fourier級数
第7回	Fourier級数のL2最良近似性とBesselの不等式	Fourier級数のL2最良近似性, Besselの不等式, Riemann-Lebesgueの補題
第8回	Fourier級数の各点収束定理	Fourier級数の各点収束定理の理解と証明
第9回	Fourier級数の各点収束定理から得られる公式	Fourier級数の各点収束定理を用いて具体的な級数を求める
第10回	熱方程式に対するFourierの方法(つづき), 波動方程式に対するFourierの方法(つづき)	熱方程式のDirichlet初期値・境界値問題の解の存在の証明, 波動方程式のDirichlet初期値・境界値問題の解の存在の証明

第11回	熱方程式の解の一意性	Energy法による熱方程式の解の一意性の証明
第12回	最大値原理と比較定理	最大値原理, 最大値原理による熱方程式の解の一意性の証明, 比較定理
第13回	波動方程式の解の一意性	Energy法による波動方程式の解の一意性の証明
第14回	まとめ, 理解度の確認	学習内容の総括と理解度の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】(準備学習)

各回に対応する教科書の節を読み、新しく学習するキーワードを把握する。

各回の理解に必要な微分積分・線形代数・微分方程式論の既習事項を指示するので、それを確認・記憶する。

(復習)

各回で学んだ定理の仮定と結論を確認し、記憶する。

各回で扱った計算例にもう一度取り組む。

(宿題)

授業で扱った例題の類題を提示するので、それに取り組む。

【テキスト (教科書)】

倉田和浩著「フーリエ解析の基礎と応用」(数理工学社)

【参考書】

谷島賢二著「数理物理入門」(東京大学出版会)

【成績評価の方法と基準】

(成績評価の方法)

演習課題20%, 期末テスト80%、

(成績評価の基準)

具体的な関数のFourier係数・Fourier級数を計算できるかどうかを演習課題で評価する。

具体的な関数のFourier係数・Fourier級数の計算を基に、具体的な偏微分方程式の初期値・境界値問題の解を求められるかどうかを期末テストで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

適宜、授業中に計算練習の時間を設けます。

【その他の重要事項】

数学の授業です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about the basics of the theories of Fourier series and partial differential equations. The aim of this class is to acquire the necessary knowledge and skills to solve some basic partial differential equations such as the heat and wave equations. In this class, we give participants the mathematical exercises to calculate the solutions by hand. (Learning Objectives)

The goals of this class are to deduce the general solution formula of partial differential equations and to be able to solve some basic partial differential equations. (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. And, before/after each class meeting, students will be expected to have 4 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class decided based on the following: Short reports 20%, Term-end examination: 80%.

MAT200XD（数学 / Mathematics 200）

複素関数論（電気）

岩城 敏

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変数の範囲を複素数に拡張した関数を扱う複素関数論の初歩を学ぶ。これにより、2年次後期に履修する、フーリエ解析・ラプラス変換等を理解するための基礎数学の習得、さらには将来の高度な電気電子系専門技術を理解するための基礎知識を身に着ける。

【到達目標】

複素数の性質、複素関数、複素積分、複素微分、コーシーの積分定理と積分公式、留数定理等を基本からしっかりと理解し、基本的な問題を確実に解くための力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交互に行うと共に、理解度チェックのため小テストも適宜行う。受講者は実際に手を動かし練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画説明・概論・勉強の動機付け・1年次の基礎数学知識の確認
第2回	複素数の四則演算とドモアブルの定理	複素数に関する初歩的知識として、四則演算とドモアブルの定理の確認
第3回	オイラーの公式と三角関数との関係	指数関数・三角関数の級数展開を複素数に拡張しオイラーの関係式を導く
第4回	様々な複素関数	指数関数・三角関数・対数関数・べき乗関数を学ぶ
第5回	複素微分とコーシーリーマンの定理	複素微分の定義を示し、微分可能性に関する重要なコーシーリーマンの定理を学ぶ
第6回	線積分とグリーンの定理	複素積分を理解するための準備として、線積分と面積分との関係を表すグリーンの定理を学ぶ
第7回	複素積分	複素積分の定義を理解し、線積分による計算法を学ぶ
第8回	コーシーの積分定理	グリーンの定理とコーシーリーマンの定理から、コーシーの積分定理を導出する
第9回	コーシーの積分公式（積分表示）	コーシーの積分定理を基に、コーシーの積分公式を導出する
第10回	テイラー展開	実数のテイラー展開を複素数に拡張する
第11回	ローラン展開と特異点	テイラー展開を特異点周辺に拡張するローラン展開を導出し、特異点との関係を理解する
第12回	留数定理	留数の定義を示し、複数の孤立特異点を内在する閉領域における積分値を計算するための留数定理を学ぶ

第13回 留数定理を用いた実定積分計算

留数定理を用いて、実定積分を計算する手法を学ぶ

第14回 総合演習

講義の要点の復習と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

理解度チェックのためのレポート課題を適宜与える。

準備・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回PDF形式の資料をWEBCLASSから配信します。

【参考書】

矢野・石原

解析学概論

裳華房

【成績評価の方法と基準】

複素数の性質、複素関数、複素微分、複素積分、コーシーの積分定理と積分公式、留数定理に関して、本質を理解し基本的な問題を確実に解けるかどうかを期末試験で判断する。成績は期末試験得点が80%、小テスト・レポートその他平常点20%を目安に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの自由記述アンケートでは、スライドを用いた穴埋め形式は分かりやすいなどの高評価を得た。一方、教材のPDF容量が重いとの指摘があったので、次回は改善する。総合評価としては本授業の平均が4.35、全授業の平均が4.17なので、価値のある授業を提供できたと思われる。2026年度初回講義において、受講生の1年時数学系科目の知識レベルを確認し、本講義全体のレベル調整を行います。

【その他の重要事項】

情報通信系民間企業で研究を経験した教員が、電気電子系研究活動の基盤として複素関数論が重要であることを、具体的な研究テーマを基に紹介する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the basics of the complex function theory.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Acquiring the differentiation and integration of complex functions

2) Understanding (complex) exponential, triangular, and logarithmic functions and their calculation

3) Understanding Cauchy integral formula and residue theorem, and their applications

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the

exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination 100%.

MAT200XD (数学 / Mathematics 200)

応用数学 (電気)

鳥飼 弘幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

理工系の多くの分野の基礎となる微分方程式の解法を学ぶとともに、簡単な物理現象を微分方程式を使って解析する方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 典型的な1階微分方程式の解法を理解し、物理現象の解析への応用を理解する。
2. 定数係数線形微分方程式の解法を理解し、具体的な問題を解くことができる。
3. ラプラス変換を用いて微分方程式を解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は座学形式で実施され、講義中に演習にも取り組む。レポートの提出も複数回ある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微分方程式とは何か	微分方程式の導出の例や微分方程式からわかることの例を知る
第2回	1階線形微分方程式 (1)	変数分離形微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第3回	1階線形微分方程式 (2)	1階線形微分方程式の解の公式を導く
第4回	1階線形微分方程式 (3)	完全微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第5回	定数係数2階線形微分方程式 (1)	同次方程式と非同次方程式、定数係数2階線形微分方程式の解空間の構造を理解し解法の一般論を知る
第6回	定数係数2階線形微分方程式 (2)	定数係数線形同次微分方程式の解法を理解する
第7回	定数係数2階線形微分方程式 (3)	消去法を用いて定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第8回	定数係数2階線形微分方程式 (4)	定数変化法による定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第9回	線形微分方程式の応用	線形微分方程式の応用を知る
第10回	ラプラス変換 (1)	ラプラス変換の定義および基本性質を知る
第11回	ラプラス変換 (2)	基本的な関数のラプラス変換の求め方を理解する
第12回	ラプラス変換の応用	ラプラス変換を応用した初期値問題の解法を理解する
第13回	定数係数連立線形微分方程式	定数係数連立線形微分方程式の解法に触れる
第14回	微分方程式の応用	様々な微分方程式の応用を知る

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業中に小テストを行う場合がある。その準備として事前に解いておくべき問題を指定するので解いておくこと。

【テキスト (教科書)】

矢野・石原共著、新装版 解析学概論、裳華房
(黄色い表紙の古い版の「矢野・石原共著、解析学概論 (新版)、裳華房」も内容は同一なので使用可能)

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(80%)と、講義中に出題されるレポート(20%)で評価を行う。単位の取得のためには、全てのレポートを提出する必要がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Differential equations are used in various fields of science and engineering. The aim of this course is to help students acquire an understanding of solving methods of differential equations and analysis methods of simple physical systems by differential equations.

(Learning objectives)

By the end of the course, students are expected to acquire following skills

- Understanding of solutions of ordinary differential equation
- Understanding of Laplace transform and its inverse

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Moreover, additional work is expected in case the report is assigned as homework.

(Grading Criteria)

Term-end examination: 60%, In class contributions including mini exams: 40%

MAT200XD（数学 / Mathematics 200）

確率統計（電気）

斉藤 利通

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電気電子工学における各種データ処理やその理解のために、確率統計の基礎力を養成する。

【到達目標】

講義、例題、演習。

対面授業の場合は、各自の演習問題や例題への直接コメントします。オンライン授業の場合は、各自が提出した演習問題へのコメント（フィードバック）を学習支援システム（Hoppii）を通じて行います。詳細はHoppiiの記載事項を熟読してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本事項の講義、基礎問題の演習、質疑応答、節目での復習、総復習等を、学生の理解のレベルに応じて適用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	確率関数	イントロ、ヒストグラム、基本統計量
2	確率関数	二項分布
3	確率関数	ポアソン分布
4	情報理論入門	エントロピー、ハフマンコード
5	確率密度関数	平均、分散、累積分布関数
6	確率密度関数	正規分布、中心極限定理
7	推定－検定	母集団比率、標準正規分布
8	推定－検定	母分散、 χ^2 二乗分布
9	推定－検定	母平均、t分布
10	ニューロンモデル	相関学習
11	相関	相関係数
12	相関	回帰直線
13	相関	主成分分析
14	総復習	重要事項のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書の復習

【テキスト（教科書）】

和達、十河：キーポイント確率統計、岩波書店、ISBN4-00-007866-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

方法：定期試験かレポート。基準：標準化点数6割以上が合格の目安。

【学生の意見等からの気づき】

重要な基礎事項は、学力不足の学生にも理解できるように説明する。

【Outline (in English)】

Course outline: In order to understand data processing technique and feature extracting technique in electrical and electronica engineering, this lecture studies basic concepts of probability and statistics.

Learning Objectives: Mastering basic concepts in probability and statistics.

Learning activities outside of classroom: Consideration of key concepts in probability and statistics.

Grading Criteria /Policy: Academic/technical skills evaluated in term examination.

PHY200XD (物理学 / Physics 200)

応用物理学

加来 滋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量子物理学について学び、それがどのように電子・光デバイスに応用されているのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・量子物理学に基づく電子状態の考え方を理解する。
- ・量子物理学に基づいて、物質中の電子の性質(電子物性)を理解する。
- ・半導体を中心に、機能的な応用材料の動作を電子物性の視点で理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。内容の理解を助けるため必要に応じて演習問題を実施するとともにレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	量子力学の導入	量子力学への歴史的経緯
2	シュレディンガー方程式	時間に依存しないシュレディンガー方程式
3	波動関数とエネルギー固有値の計算	量子井戸 トンネル効果
4	シュレディンガー方程式の3次元への拡張	極座標表示への変換 球面調和関数
5	水素原子 1	原子の電子軌道
6	水素原子 2、中間まとめ	原子の電子軌道 授業の中間まとめ
7	量子力学の固体電子論への適用	原子から分子、結晶への拡張 水素分子の電子状態
8	周期ポテンシャル中の電子状態	ブロッホ関数 クローニッヒ・ペニーモデル
9	固体電子論の基礎	バンド構造 フェルミ球 電子状態密度 固体中の輸送現象
10	半導体における電子物性	半導体のバンド図 p型、n型半導体 エピタキシャル結晶成長とヘテロ構造
11	半導体の界面	pn接合 ショットキー接合 接合界面と電流- 電圧特性
12	半導体の応用	LED、太陽電池、トランジスタ
13	低次元物質の応用	Graphene等の2次元材料とその応用
14	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習などの授業時間外学習は、4時間を標準とする】
多くの数式を用いるので、物理的な概念と数式との関係が理解できるよう、事前に予習するとともに、よく復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】

量子力学 裳華房 小形正男 著
基礎からの量子力学 裳華房 上村洸・山本貴博 共著
よくわかる量子力学 東京図書 前野昌弘 著
固体電子論 裳華房 金持徹 著
基礎から学ぶ強相関電子系 内田老鶴圃 勝藤拓郎 著

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験(70%)、平常点・レポート (30%)
評価基準：設定された目標に対して、60%以上達成している場合に合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

難しい電子軌道の概念を視覚的に理解できるよう VR を活用した講義を取り入れる。

【Outline (in English)】

This course introduces quantum physics and teaches how it is applied to electronic and photonic devices.

MAT200XE（数学 / Mathematics 200）

応用数学（情報）

陸名 雄一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然科学や社会科学における多くの現象が微分方程式によって表現されており、微分方程式に関する知識・解法の修得は現代科学を学ぶ者にとって欠かせないものになっている。当科目では、基本的な常微分方程式の解法を修得する。

【到達目標】

1. 常微分方程式の基本的な解法を身に付ける。
2. その実行に必要な計算力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	常微分方程式の定義と解	常微分方程式を定義し、その解の種別について解説する。
第2回	変数分離形	変数分離形の解法について解説する。
第3回	同次形	同次形の解法について解説する。
第4回	一階線形	一階線形の解法について解説する。
第5回	完全微分形	完全微分形の解法について解説する。
第6回	第1回から第5回までのまとめと演習	第1回から第5回までのまとめとして、演習を実施する。
第7回	関数の一次独立性	関数の一次独立性について解説する。
第8回	線形微分方程式の解空間	定数係数斉次形の解法を解説する。線形写像のファイバーについて復習し、線形常微分方程式の解空間について解説する。
第9回	微分作用素	線形微分作用素を導入し、線形微分方程式への応用について解説する。
第10回	逆作用素	ラプラス変換による線形微分方程式の解法について解説する。
第11回	連立線形微分方程式・定数変化法	ラプラス変換による連立線形微分方程式の解法について解説する。定数変化法による線形常微分方程式の解法について解説する。
第12回	級数解法	微分方程式の級数解法について解説する。
第13回	第7回から第12回までのまとめと演習	第7回から第12回までのまとめとして演習を実施する。
第14回	総合演習	当科目の総まとめとして演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

資料を提供する。

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

常微分方程式の基本的解法の理解度・実践力を期末試験の成績（100%）によって評価する。

※ 期末試験を公欠した場合は、第14回演習（筆記試験形式で実施する）の成績を期末試験の成績と見なす。

【学生の意見等からの気づき】

学習の習慣化が不十分である。履修内容の理解・定着に必要な学習方法・分量について真剣に考えてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器（対面講義中の使用は想定していない）。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Many phenomena in the natural and social sciences are expressed by differential equations. The acquisition of knowledge related to them is indispensable for those who study modern science.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Understanding the fundamental concepts of ordinary differential equations

2) Solving basic ordinary differential equations, such as variables separable, homogeneous, exact, and linear ones.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam.

MAT200XE（数学 / Mathematics 200）

応用解析（情報）

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フーリエ級数・フーリエ変換・ラプラス変換の基礎事項を概説する。基本理論の理解と併せて、微分方程式・積分方程式への応用に必要な計算力を修得する。

【到達目標】

1. フーリエ級数の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
2. フーリエ変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
3. ラプラス変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
4. これらの微分方程式・積分方程式への応用について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・フーリエ級数の概要	フーリエ級数の概要を紹介する。
第2回	フーリエ級数の定義	フーリエ係数・フーリエ級数を定義し、基本的な関数のフーリエ級数を計算する。
第3回	フーリエ級数の性質	奇関数・偶関数のフーリエ級数を計算する。
第4回	複素フーリエ級数	複素フーリエ級数を定義し、基本的な関数の複素フーリエ級数を計算する。
第5回	フーリエ級数の大域的性質	フーリエ級数の収束とパーセバルの等式について解説し、無限級数の計算に応用する。
第6回	フーリエ変換	フーリエ変換を定義し、基本的な関数のフーリエ変換を計算する。
第7回	偏微分方程式への応用	フーリエ変換による偏微分方程式の解法を解説する。
第8回	第1回から第7回のまとめと演習	第1回から第7回のまとめとして、演習を実施する。
第9回	ラプラス変換の定義	ラプラス変換の定義と基本的性質について解説し、基本的な関数のラプラス変換を計算する。
第10回	ラプラス変換の性質	畳み込み積分や階段関数・デルタ関数・周期関数のラプラス変換を計算する。
第11回	ラプラス逆変換	ラプラス逆変換の定義と性質について解説し、基本的な関数のラプラス逆変換を計算する。
第12回	ラプラス変換の応用	微分方程式・積分方程式のラプラス変換による解法を解説する。
第13回	第9回から第12回のまとめと演習	第9回から第12回のまとめとして、演習を実施する。

第14回 総合演習

これまでの総まとめとして、演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。】
一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

資料を提供する。

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

フーリエ級数・フーリエ変換・ラプラス変換の理解度・計算力・応用力を期末試験の成績（100%）によって評価する。
※ 期末試験を公欠した場合は、第14回演習（筆記試験形式で実施する）の成績を期末試験の成績と見なす。

【学生の意見等からの気づき】

学習の習慣化が不十分である。履修内容の理解・定着に必要な学習方法・分量について真剣に考えてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器（対面講義中の使用は想定していない）。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the basic concepts of Fourier series, Fourier transformations and Laplace transformations.
(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the fundamental concepts of Fourier series, Fourier transformations and Laplace transformations.
- 2) Calculating Fourier series, Fourier transformations and Laplace transformations for basic functions.
- 3) Applying those techniques to solve differential or integral equations.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam.

MAT200XF (数学 / Mathematics 200)

数値解析 (経営)

土屋 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代においてコンピュータシミュレーションは、自然科学や工学、社会科学から医療に至るまで様々な分野で用いられ、我々の生活を基礎から支えている。授業では、コンピュータシミュレーションを行う際、現象を記述する方程式をどのようにして計算機上で計算すればよいのか、また、元の問題の解と計算機で計算した解にはどのような関係があるのか等、数値計算にまつわる諸問題について説明する。一つの単元が終わるごとに演習を行い、実際にコンピュータプログラムを作成する。

【到達目標】

さまざまな方程式の数値解法を理解し、さらに実際に計算機上でプログラムを組み、数値計算結果を得ることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に講義を行う。レポート (5回程度) でプログラミングの演習を出題する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	数値解析の概要、計算環境などの紹介
第2回	連立1次方程式1	行列とベクトル、連立一次方程式の復習、ガウスの消去法の原理の概要
第3回	連立1次方程式2	行列やベクトルのノルム、共役勾配法の収束について
第4回	連立1次方程式3	連立一次方程式についてまとめ
第5回	非線形方程式1	二分法、ニュートン法の原理
第6回	非線形方程式2	ニュートン法の誤差と収束
第7回	数値積分1	中点則、台形則、シンプソン則の誤差評価、周期関数に対する台形則
第8回	数値積分2	オイラーマクローリンの総和公式
第9回	常微分方程式1	常微分方程式の解説
第10回	常微分方程式2	オイラー法、修正オイラー法、ルンゲクッタ法の紹介、オイラー法の収束証明
第11回	常微分方程式3	2点境界値問題に対する有限差分法
第12回	常微分方程式4	2点境界値問題に対する有限要素法
第13回	偏微分方程式2	熱方程式に対する陽解法、陰解法、クランク・ニコルソン法
第14回	偏微分方程式3	偏微分方程式に関する数値計算演習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
線形代数、微積分、微分方程式、プログラミングなど、いずれも大学初年度程度の知識を仮定する。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定せず、講義資料を電子媒体で配布する。

【参考書】

数値解析について詳しく知りたい場合は以下を参考にすること

森正武「数値解析」(共立出版)

山本哲朗「数値解析入門」(サイエンス社)

齊藤宣一「数値解析入門」(東京大学出版会)

皆本晃弥「C言語による数値計算入門」(サイエンス社)

【成績評価の方法と基準】

(1) 4～5回程度のレポート課題 (50%)

(2) 期末試験 (50%)

を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって理解が難しい箇所は資料を改善したり等の対処を行った。

【学生が準備すべき機器他】

自己のPCや大学の共同設備などプログラミング (MATLAB, python 等) をできる環境の準備。

【その他の重要事項】

授業における演習ではプログラミング言語として MATLAB を用いるが、レポート課題については好きな言語を用いてよい。ただし、あまりに特殊な言語では評価できない場合があるので、特殊な言語を使いたい場合は、あらかじめ相談してください。

【Outline (in English)】

(1) Course outline: This course introduces Numerical Analysis to students.

(2) Learning objectives: The goal of this course is to learn the computational and theoretical methods to solve mathematical problems in natural sciences, engineering, social sciences.

(3) Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students are expected to spend at least four hours studying the course content.

(4) Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50%, Reports (4 to 5 times): 50%

MAT200XF (数学 / Mathematics 200)

常微分方程式

磯島 伸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

常微分方程式とは、1変数の未知関数とその導関数が満たす方程式であり、理工学の様々な場面で登場する。この授業では、基本的な常微分方程式の解法を学ぶ。

【到達目標】

基本的な常微分方程式の解法を理解し、その実行に必要な計算力を身につける。

具体的には次の通りである。

- 1) 種々の1階常微分方程式を解けるようになる。
- 2) 定数係数2階線形微分方程式（同次、非同次）を解けるようになる。
- 3) 定数係数連立微分方程式を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的な常微分方程式の解法を講義形式で解説する。講義内容に対応する演習課題をほぼ毎回出題してその理解と定着を図る。

課題の出題やそのフィードバックは、学習支援システムを通して行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	微分方程式の基礎用語
2	1階微分方程式(1)	変数分離形および同次形方程式の解法
3	1階微分方程式(2)	1階線形方程式およびベルヌーイの方程式の解法
4	1階微分方程式(3)	全微分方程式の解法
5	2階線形斉次方程式(1)	線形方程式の基礎事項、特性解が異なる2実数の場合の解法
6	2階線形斉次方程式(2)	複素数、特性解が共役な複素数の場合の解法
7	2階線形斉次方程式(3)	特性解が実2重解の場合の解法、 n 階方程式
8	線形方程式の一般論	解空間の線形性、解の重ね合わせ
9	2階線形非斉次方程式(1)	未定係数法による解法(非同次項が基本解でない場合)
10	2階線形非斉次方程式(2)	未定係数法による解法(非同次項が基本解の場合)
11	連立微分方程式(1)	対角化による解法（固有値が異なる実数の場合）
12	連立微分方程式(2)	行列の指数関数による解法（固有値が異なる実数の場合）
13	連立微分方程式(3)	対角化による解法（固有値が重複する実数の場合）
14	連立微分方程式(4)	対角化による解法（固有値が共役な複素数の場合）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題に取り組む。

必要に応じて微分積分学・線形代数学の復習を行う。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

磯島伸、村田実貴生、安田和弘 共著『常微分・偏微分方程式の基礎』（培風館）2020年、2420円。

【参考書】

泉英明 著『[第2版] コア・テキスト 微分方程式』（サイエンス社）2025年 ￥2035

バージェス、ポリー 共著『微分方程式で数学モデルを作ろう』（日本評論社）1990年 ￥3850

寺田、坂田、曾布川 共著『演習と応用 微分方程式』（サイエンス社）2000年 ￥1980

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の成果30%、期末試験70%の割合を基本とし、種々の常微分方程式の解法を習得したか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【Outline (in English)】

(Course outline)

An ordinary differential equation is an equation that one unknown function of a single variable and its derivatives satisfy, and appears in various science and engineering scenes. In this lesson, you learn the solution of basic ordinary differential equations.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to solve the following differential equations:

- 1) Various 1st order ordinary equations
- 2) 2nd order linear equations with constant coefficients
- 3) Systems of linear differential equations with constant coefficients

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to work on the assignments.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short report (30%), Term-end examination (70%).

MAT200XF（数学 / Mathematics 200）

複素関数（経営）

勝島 義史

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複素関数とは、複素数を変数とし、複素数値を返す関数のことである。複素関数に対しても極限を用いて微分可能性が定義されるが、特に各点で微分可能である複素関数を正則関数と呼ぶ。正則性は「各点で微分可能である」というだけの性質であるが、実数の場合と異なり実はとても強い条件であり、例えば、正則関数は各点でべき級数に展開できたり、領域の一点の近くの関数の値だけで、全体での振る舞いが決まってしまう。

関数の定義域を複素数の世界にまで広げることにより、実数の世界でだけ考えていたときよりも関数の特性が明確になることも多い。例えば、煩雑であったり技巧的であったりした実関数の定積分の積分も、複素領域における特異点の情報を利用することにより、驚くほど簡単に計算できたりする。

この講義では、上に述べた性質を含む複素関数の基本的かつ重要な性質を学び、複素数の一変数関数の微分積分を理解し計算できるようになりたい。

【到達目標】

- (1) 複素数の表し方と計算規則を理解する。
- (2) 有理関数、三角関数、指数関数をはじめ、基本的な複素関数の値や極限を計算できる。
- (3) 正則性、複素解析性、複素線積分、孤立特異点、留数など、基本的な用語の定義を理解する。
- (4) 講義で扱う、正則性と関係する重要な性質（Cauchy-Riemannの関係式、Cauchyの積分定理、Cauchyの積分公式、留数定理など）を理解し、具体的な設定のもとで利用できる。
- (5) 留数定理の利用により、実関数の積分を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

複素数の性質、複素関数、複素関数の微分（指数関数、三角関数、対数関数）、コーシーの積分定理と積分公式、整級数展開（テーラー展開）、ローラン展開、留数定理とその応用を主に講義する。授業は講義と演習を組み合わせる。講義は毎回講義ノートを配布する。演習は授業時間中に20分程度を取り回答してもらい、毎回回収し、次の回に採点したものを返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	複素数の定義、極形式、ド・モアブルの定理	高等学校で学んだ複素数を改めて定義し、その演算などを学ぶ。また、極形式による複素数の表示を確認し、複素数の積と偏角の関係をみる。ド・モアブルの定理を見る。
第2回	複素数における極限	複素数列の極限を導入する。複素関数を定義し、その極限と連続性について述べる。
第3回	複素微分と正則性	複素関数の微分および正則性を定義し、正則関数の満たす関係式（Cauchy-Riemannの関係式）を導く。

第4回	正則関数の微分に関する諸公式、基本的な正則関数	正則関数の積や合成関数などについての微分公式を見る。また、複素関数としての指数関数を定義し、その正則性をCauchy-Riemannの関係式を用いて示す。
第5回	複素平面上の曲線、複素関数の線積分	複素平面上の区分的に滑らかな曲線を定義する。また、複素関数の曲線に沿った積分（線積分）を定義し、具体的な関数の線積分を計算する。
第6回	Jordan 閉曲線、Green の定理	Jordan 閉曲線を定義する。また、ベクトル解析の定理である、Green の定理（ベクトル場の一周積分がスカラー関数の重積分として書かれること）を紹介する。
第7回	Cauchy の積分定理、積分路変更の原理	Green の定理およびCauchy-Riemann の関係式を用い、正則関数の一周積分が0となること（Cauchy の積分定理）を示す。また、積分定理を用い、関数が正則な範囲で積分路が変更できることを見る。応用例として、Gauss 関数のFourier 変換の計算を行う。
第8回	Cauchy の積分公式	積分路変更の原理を用いることにより、正則関数の積分表示式である、Cauchy の積分公式を示す。
第9回	導関数の積分表示、べき級数、収束半径	Cauchy の積分公式から直ちに得られる、正則関数の高階導関数の積分表示式を求める。また、べき級数を定義し、その収束を議論する。
第10回	解析関数、常微分方程式への応用	正則関数が各点で収束べき級数に展開できることを、Cauchy の積分公式を用いることにより示す。それがマクローリン展開となることも見る。また、正則性と解析性が同値であることを用い、複素領域での簡単な常微分方程式のべき級数解を求める。関数が正則でない点のうち、簡単な場合である孤立特異点を定義する。また、孤立特異点周りでの負べきを含むべき級数展開（Laurent 展開）をCauchy の積分公式より導く。留数を定義する。
第11回	孤立特異点、Laurent 展開、留数	高々孤立特異点しか持たない関数の一周積分が、留数の和の定数倍となることを示す。
第12回	留数定理	Liouville の定理、および代数学の基本定理を示す。これを用い、有理関数の極を議論する。また、有理関数の増大度評価を行い、留数定理を広義積分の計算に応用する。
第13回	代数学の基本定理、留数定理の応用 1	

第14回 留数定理の応用例2 三角関数の有理関数の周期積分を、複素関数の留数計算に落とし込む。また、極を持つ関数のFourier変換の計算を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。高等学校や大学ですでに学んだ事柄を復習しておく。

特に、マクローリン展開は、関数が与えられたときにスムーズに行えることが望ましい。 e^x , $\sin x$, $1/(1-x)$ のマクローリン展開は（何度か自身で導いた結果として）覚えていることが望ましい。

各回の復習は、以下の要領で行う。

（１）講義で学んだ用語の定義を説明できるようにする。

（２）講義で扱った命題・定理の主張を説明できるようにする。定理の利用例を挙げてみる。

（３）講義資料に記載の演習問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、講義ノートを配布する。

【参考書】

神保道夫「現代数学への入門 複素関数入門」（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

演習の提出30%、期末試験70%を基本に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

A complex function is a function that takes a complex number as a variable and returns a complex number. Differentiability is also defined for complex functions using limits, and in particular, complex functions that are differentiable at each point are called regular functions. For example, a regular function can be expanded into a power series at each point, and the behavior of the function as a whole can be determined by the value of the function near a point in the domain.

By extending the domain of a function to the world of complex numbers, the properties of the function often become clearer than if it were considered only in the world of real numbers. For example, the integrals of definite integrals of real functions, which used to be complicated and technical, can be calculated surprisingly easily by using the information of singularities in the complex domain.

In this lecture, we would like to learn the basic and important properties of complex functions, including the properties mentioned above, and to be able to understand and calculate the differential and integral of complex univariate functions.

(Learning Objectives)

(1) Understand the representation and calculation rules of complex numbers.

(2) To be able to calculate the values and limits of basic complex functions including rational, trigonometric, and exponential functions.

(3) Understand the definitions of basic terms such as regularity, complex analyticity, complex line integral, isolated singularity, and residue.

(4) Understand important properties related to regularity (Cauchy-Riemann relation, Cauchy's integral theorem, Cauchy's integral formula, residue theorem, etc.) and be able to use them in specific settings.

(5) To be able to integrate real functions by using the residue theorem.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the

exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

APC100YC（複合化学 / Applied chemistry 100）

グリーンケミストリ

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリとは“環境にやさしいものづくりを目指す化学”である。現在の経済発展による豊かさを追求する社会経済システムには限界があり、今後は持続可能な循環型社会経済システムへ変革していく必要がある。資源・エネルギーは可能な限り循環させ、環境負荷をできる限り小さくすることが望まれている。ものづくりにおいては、優れた材料特性を持つとともに、低環境負荷な設計や合成プロセス、廃棄物の再資源化などが求められている。本授業ではグリーンケミストリの12箇条の概念を具体的な例を挙げて解説するとともに、過去と現在の環境問題、省エネを含めた定量的な取り扱い、廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法、個々の環境物質の測定法、及びエコマテリアルについて解説する。

【到達目標】

この授業では、グリーンケミストリの概念を理解するとともに、これまでの環境汚染や公害問題の歴史、汚染化学物質の性質について学ぶ。さらに省エネルギー、省資源を含め再生可能なシステム、メカニズムを理解することで、身近な具体的な環境問題について化学的知見に基づき応用可能な能力を身に付けることを目標としている。

以下に達成目標を記す。

1. グリーンケミストリの概念について例を挙げて説明できる。
2. これまでの環境汚染および公害の歴史を説明できる。
3. 環境の現状と対策について説明できる。
4. 環境汚染物質の種類やそれらの特性および省エネを含めた定量的な取り扱いができる。
5. 廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法について説明できる。
6. 個々の環境物質の測定法を説明できる。
7. エコマテリアルについて例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。アクティブラーニングで実施した演習問題を含む聴講ノート提出してもらい。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の全体的な説明、グリーンケミストリとは	本講義の全体的な説明とグリーンケミストリの概念（12箇条）について説明する。
2	環境問題の歴史	これまでの環境問題および公害の歴史について4大公害病を中心に説明する。
3	環境保全に関する法律	環境基準について説明する（アクティブラーニング（演習））。
4	環境における化学物質の挙動（1）	大気圏における化学物質の挙動について説明する。
5	環境における化学物質の挙動（2）	土壌圏、水圏における化学物質の挙動について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6	環境の現状と対策について（1）	大気環境の現状と対策について説明する。
7	環境の現状と対策について（2）	水環境と土壌環境の現状と対策について説明する。（アクティブラーニング（演習））
8	廃棄物の再資源化	都市資源としての廃乾電池などやバイオマスについて、それらの再資源化について説明する。
9	環境汚染物質の測定法－大気、水質、土壌中の汚染物質の測定法	主な環境測定法について説明する（アクティブラーニング（演習））。

10	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（1）－1～6条	グリーンケミストリの12箇条の中の1～6条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））
11	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（2）－7～12条	グリーンケミストリの12箇条の中の7～12条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））
12	環境とエネルギー－省エネも含めた定量的な取り扱い	原子力エネルギー、新エネルギー（太陽光、太陽熱、風力、バイオマス、地熱）、燃料電池について説明する。
13	エコマテリアル－環境負荷の少ない機能性材料について	エコマテリアルについて、光分解性、生分解性プラスチック、多孔質材料について説明する。（アクティブラーニング（演習））。
14	まとめ	本講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】環境を化学の視点から捉えることから、化学の基礎を十分理解しておく必要がある。そのためには、基礎となる高校の化学の習得および大学1年での化学を並行して学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

J. E. Andrews et al.“An Introduction to Environmental Chemistry”Blackwell Pub., “環境化学概論”田中稔ら、丸善, “環境と化学 グリーンケミストリー入門”荻野和子ら、東京化学同人, “陸水環境化学”藤永薫ら、共立出版, “環境白書”環境省編。

【成績評価の方法と基準】

演習問題を含む聴講ノートの提出（10%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、期末テスト（50%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Green chemistry is the study of chemical products and processes that reduce or eliminate the generation of substances hazardous to humans, animals, plants, and the environment. This course covers basic fundamentals of green chemistry, through the 12 design principles of green chemistry, and explores relevant examples of their practical use in commercial applications.

The goals of this course are to

- (1) be able to explain the 12 design principles of green chemistry,
- (2) be able to explain relevant examples of their practical use in commercial applications.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

BOA100YD（境界農学 / Boundary agriculture 100）

環境と人間

植田 央

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会で問題となっている環境がもたらすヒト生体への影響について学ぶ。現在、人類をとりまく生活環境、社会環境の変化が著しい。そこで、様々な環境の変化のうち特に運動・身体活動の観点から考察し、生体への影響をマクロ・ミクロの視点から学習する。

【到達目標】

様々な環境やその変化がヒト生体に及ぼす影響について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、生体に関する基礎的な内容を解説する一方で、環境と人間との関係の具体例を概説する。最新時事の話題を取り上げる場合があるため、講義内容の一部変更があり得る。但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン・オンデマンド型授業となる場合は、詳細について「学習支援システム」にて周知する。また、授業中に出された質問等に対するフィードバックは、次回授業の冒頭に解説することで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに、講義の概要	環境と人間との関連性を概観する
2	環境が人間に及ぼす影響 1	休養・睡眠
3	環境が人間に及ぼす影響 2	食生活と運動習慣による肥満と痩せへの影響
4	環境が人間に及ぼす影響 3	現代の生活環境と身体活動の変化
5	運動・身体活動と環境 1	筋の構造と機能
6	運動・身体活動と環境 2	運動と骨格筋の適応
7	運動・身体活動と環境 3	運動時におけるエネルギー供給機構
8	運動・身体活動と環境 4	運動と呼吸調節
9	運動・身体活動と環境 5	運動と循環調節
10	環境が人間に及ぼす影響 4	生活環境と骨粗鬆症・サルコペニア
11	環境が人間に及ぼす影響 5	運動がもたらす疾患への効果 1
12	環境が人間に及ぼす影響 6	運動がもたらす疾患への効果 2
13	環境が人間に及ぼす影響 7	低酸素環境と運動
14	環境が人間に及ぼす影響 8	暑熱環境と運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義内容に関連する参考書などを読み、関連事項の概要の把握に努める。また、講義中に紹介される参考図書は、関心の深い図書を選択して、内容の理解に努める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて学習支援システム、または授業中に資料を配付する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

1) 平常点および授業後に実施されるクイズなど: 60%

2) 学期末レポート: 40%

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

資料調査やプレゼンなど自主的な学習を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン授業時には貸与パソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce the relationship between human body and environmental condition to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should be able to explain physical response to different environmental situations.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

PPE100YA（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物薬理学

鈴木 聡

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食料増産に貢献している植物薬理剤（農薬）について、その開発の歴史、農薬の種類、作用機構、製剤技術、法的規制、農薬の安全性評価、環境評価と規制等について学び、農薬に関する幅広い専門知識を学ぶ。

【到達目標】
農薬に関する専門知識を学び、環境に対する影響、食の安全に関する項目を学習して、植物保護における農薬の必要性和役割を理解する。実現場で正しく農薬を使用できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
初回講義で、農薬の役割、安全性、規制法の概要を解説する。各論として、農薬の種類と作用機構、製剤の種類についての講義を行う。また、農薬の使用による薬剤抵抗性・耐性菌の出現とその対応策についての講義を行う。更に、環境影響や生態毒性に関する概論を説明して、環境と調和した使用法について講義する。フィードバックとして、授業の初めに前回の授業内容の再確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	農薬の必要性	農薬の歴史、役割、種類、使用法
第2回	農薬の法制度および安全性評価	農薬取締法等の解説、農薬登録の仕組みおよび食品農薬残留に係わる農薬の安全性評価と法規制
第3回	生物農薬の開発	タロラマイセスフラバス水和剤の開発経緯
第4回	法政大学オリジナル新規防除剤の開発	ミョウバン、ラウリン酸カリウムによる病害防除
第5回	殺菌剤の種類	殺菌剤の作用機構、分類
第6回	殺虫剤の種類	殺虫剤の作用機構、分類
第7回	除草剤の種類	除草剤の作用機構、分類
第8回	植物生育調節剤の種類	植物生育調節剤の作用機構、分類
第9回	農薬の製剤および農薬抵抗性害虫・耐性菌	農薬製剤の種類、使用方法および農薬使用に伴う抵抗性害虫・耐性菌の発生
第10回	植物保護の新技術	物理的防除、生物的防除、天敵利用による防除、有機農法
第11回	農薬と組換え植物	遺伝子組換え植物と農薬の役割
第12回	農薬の環境動態	農薬の土壌、大気、水系における挙動と規制
第13回	農薬の生態影響	農薬の生態に対する影響と規制
第14回	新規農薬の開発	探索研究、開発手順、知的財産権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回、授業開始までにアップロードされた資料を一読する。授業終了後に講義内容の復習を行い、理解を深める。本授業の復習時間は4時間とする。

【テキスト（教科書）】
配布する資料を用いて授業を行うので、教科書は特に指定しない。

【参考書】
難波成任監修「植物医科学」（養賢堂）
梅津憲治著 「農薬と食の安全・信頼」（日本植物防疫協会）
佐藤仁彦、宮本徹編「農薬学」（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（70％）および平常点（30％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容が理解しやすいように、配布する資料の記載を工夫する。講義で使
用した専門用語を平易に解説して、講義全体の理解が深まるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
第3回、第4回の授業は外部講師（石川成寿：元法政大学生命科学部教授）が担当する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In the Plant Pharmacology class, students will learn a wide range of basic knowledge about pesticides that contribute to food production. Students will learn about the following aspects related to pesticides. History of pesticide development, types of pesticides, and mechanisms of action of pesticides, formulation technology, laws and regulations, safety assessment, environmental assessment, etc.

【Learning Objectives】
In the Plant Pharmacology class, students will learn the expertise of pesticides and aim to reach a level where they can play an active role in the field of agriculture.

【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria /policy】
Your overall grade in the class will be decided based on report assignment (70%) and learning attitude (30%)

APC100YB（複合化学 / Applied chemistry 100）

グリーンケミストリ

利谷 翔平

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリは「環境にやさしいものづくりの化学」であり、グリーン・サステナブル・ケミストリとも呼ばれている。地球は誕生から46億年かけて生命が快適に住めるような自然環境を築いてきた。人類は約6,500万年前に誕生したと考えられているが、人間は産業革命以後わずか250年で地球環境を大きく変化させた。またそこには化学反応が大きく関わっている。目的物質だけに目がいて、その結果放出された副生成物は環境汚染物質として公害の原因物質となった。グリーンケミストリでは、化学の観点から環境を捉え、人体や生態系に対するリスクの低減と環境負荷の少ない化学反応の開発やエネルギー問題などについて学ぶ。それを理解するためには、地球がどのように誕生したかを知ることは重要であり、現在地球を取り巻いている様々な環境問題について十分理解することが必要である。

【到達目標】

過去の公害問題を知り、現代の環境問題についてそのメカニズムを科学的に説明でき、解決するための知識を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日常的に何らかの環境問題が話題となっていることから、見聞きする機会が多い事項である。個々人がもっている環境に対する基礎知識をより深め、化学の観点から環境問題が理解できるように学習する。毎回講義資料をプリントにして配布する。また自学自習が行えるように適宜演習問題や課題を与え、初回の講義で前回の問題の解説や課題についてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題の歴史	公害とは、何故起こったのか、過去・現代の環境問題について解説
第2回	グリーンケミストリ	グリーンケミストリとは、グリーンケミストリにおける12原則について解説
第3回	大気汚染	大気汚染物質とは、それに関係する環境問題について解説
第4回	酸性雨	酸性雨のメカニズム、その影響と現状について解説
第5回	オゾン層の破壊	発生のメカニズム、光化学反応、生体に及ぼす紫外線の影響について解説
第6回	地球温暖化	地球温暖化のメカニズム、温室効果ガス、地球温暖化の影響について解説
第7回	森林の減少・砂漠化	森林減少および砂漠化の原因、人間生活への影響について解説
第8回	有害化学物質	POPs（残留性有機汚染物質）とは何か、汚染の現状と生物への影響について解説
第9回	放射線	放射線とは、放射線被爆、半減期について解説
第10回	水環境	水について知る、水質汚濁の現状と対策、環境基準と排水基準について解説
第11回	環境問題における微生物の役割	環境問題に関わる微生物やそれらが担う反応について解説
第12回	エネルギー問題	エネルギー問題を理解し、現状と未来のエネルギーについて解説
第13回	資源問題	鉱物資源や廃棄物のリサイクルについて解説
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】毎回の授業内容の理解度を確認するために、授業内容に則した演習問題を解く。また理解が不十分であったところは、復習として配布資料を見直し、再度演習問題を解くようにする。

【テキスト（教科書）】

講義内容が一冊の教科書で対応できないため教科書は使用しない。

毎回講義に則した資料を配布するので、各自必要に応じて参考書を参照する。

【参考書】

- ①「グリーンケミストリー 社会と化学の良い関係のために」共立出版、日本化学会編、御園生 誠著
- ②「環境化学（エキスパート応用化学テキストシリーズ）」講談社サイエンティフィック、坂田昌弘 編著

【成績評価の方法と基準】

授業後の確認問題 20%

期末テスト 40%

レポート 30%

上記に授業平常点 10%を考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to learn the global environmental problems and to consider how to establish the sustainable environment and energy from the standpoint of chemistry.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to learn past pollution problems, explain chemically the mechanisms of modern environmental problems, and acquire the fundamental knowledge to solve those problems.

(Learning activities)

In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the practice problems given in the handouts. If some problems are difficult to solve, you should review the handouts so that you can get correct answers for all the problems. You are expected to spend four hours for a class.

(Grading Criteria)

Final grade will be decided based on midterm examination (20%), term-end examination (40%), reports (30%), and in-class contribution (10%).

MAC300YC（材料化学 / Materials chemistry 300）

高分子化学

渡辺 敏行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高分子の特徴を理解し、その利用方法を学習する。
様々な高分子の合成法について学ぶ。

【到達目標】

高分子の定義を理解しているか。
高分子の原料と化学構造の関係を理解しているか。
立体規則性を理解しているか。
平均分子量を理解しているか。
重縮合を理解しているか。
重付加、付加縮合を理解しているか。
ラジカル重合を理解しているか。
ラジカル共重合を理解しているか。
イオン重合を理解しているか。
開環重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
立体規則性重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
新しいラジカル重合法を理解しているか。
導電性高分子の電気伝導の原理を理解しているか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書および授業支援システムの資料をベースにすすめる。授業中ではレ
ポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子の利用方法	高分子がどのように世の中で活用さ れているかを解説する。
2	高分子とは	高分子（ポリマー）とは何か？ そ の特徴を学ぶ。高分子の定義、高分 子の化学構造と高分子の用途を知る。
3	高分子化学の歴史	高分子の歴史を伝え、学問としての 確立過程と有機材料として日常生活 との関りを広く理解する。高分子の 原料と化学構造を学ぶ。
4	立体特異性	五大汎用高分子、エンジニアリング プラスチックについて学ぶ。立体配 置、立体配座とは、高分子特有の立 体規則性 (iso,syndio,atact) を実例 に基づき説明する。
5	高分子の特性・分子量	高分子の特性と平均分子量(Mn,Mw) の考え方を説明し、高分子の分子量 測定法を示す。
6	結晶性と結晶構造	結晶、非晶、液晶の違いについて解 説する。高分子の結晶構造がどのよ うにして決まるかを解説する。高分 子の密度を結晶構造から求める。
7	熱的性質	高分子のガラス転移温度、融解現象 について解説する。耐熱性高分子の 分子設計法を熱力学的に理解する。
8	まとめ1	前半の授業のまとめを行う。
9	重縮合、重付加、付加縮 合	反応度と分子量の関係、化学平衡、 重縮合の速度論、分子量分布、重縮 合高分子の具体例について学習する。 重付加および付加縮合について学習 する。
10	ラジカル重合	付加重合（連鎖重合）について学習す る。ラジカル重合の素反応、速度論、 重合度と連鎖移動について学習する。
11	イオン重合	アニオン重合、カチオン重合、イオ ン重合の速度論について学習する。

12	遷移金属触媒重合、開環 重合	チーグラー・ナッタ重合、開環重合 の特徴、開環重合性、について学習 する。
13	ラジカル共重合	ラジカル共重合の速度論的取り扱い、 共重合組成式と Q-e スキームについ て学習する。 共重合によって得られる構造につい ても学習する。
14	生体高分子&新しいラ ジカル重合法&導電性 高分子	生体高分子の化学構造と特徴を学習 する。新しいラジカル重合法の原理 および導電性高分子の電気伝導の原 理を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に
指定された課題を次の授業までにレポートとして提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本高分子化学
柴田充弘著 三共出版 2012 年刊
ISBN-13. 978-4782706749

【参考書】

高分子化学 合成編 中條善樹、中健介 著
丸善株式会社 ISBN978-4-621-08259-1
液晶・高分子入門 竹添秀男、渡辺順次著、裳華房(2004)

【成績評価の方法と基準】

試験とテストおよびレポートと授業中の小テストの合計点より総合的に判断
する。
(中間試験＋期末試験) 80 点満点、(レポート) 10 点満点、(小テスト) 10 点
満点

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて演習問題を課す。

【その他の重要事項】

ビデオ教材、Power point、講義実験などにより、理解を深める。

【Outline (in English)】

Understand the characteristics of polymers and learn how to use them.
Learn about synthetic methods of various polymers.

MAC200YC（材料化学 / Materials chemistry 200）

環境安全化学

大波 英幸、福島 由美子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で直面している様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを理解してもらう。また、身近に存在する化学物質等のヒトの健康や環境に及ぼすリスクやその評価手法を理解することにより、環境汚染問題の解決・防止のための基礎的知識を得ようとするものである。さらに、菌や黴などが関係する環境衛生学の基礎知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

環境問題の現状と課題を把握するとともに、環境衛生について考える知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

2人の教員で授業は行う。また、1～5回の5週は環境衛生学で微生物による水汚染対策について学習し、その期末試験がB評価以上で、且つ全体の成績評価がC以上の場合、「水利用設備環境衛生士」の資格取得優待となる。6～14回の9週は、様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを学習する。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境衛生序論	微生物が起因する諸問題について解説
第2回	環境微生物	真菌・細菌について解説
第3回	薬剤	微生物制御薬剤の基礎について解説
第4回	設備	設備の具体的な汚染と対策について解説
第5回	まとめ	その汚染と対策
第6回	環境安全化学の関連法令など	授業の概要と進め方、および環境安全化学の関連法令等について
第7回	環境汚染（公害問題）と化学物質	日本の公害問題の歴史（原因と影響など）
第8回	地球温暖化（ヒートアイランド）とオゾン層破壊	・地球温暖化などの気温上昇に関連する環境問題の原因と影響 ・オゾン層破壊の原因と影響
第9回	様々な大気汚染	PM2.5、NO _x 、SO _x 、酸性雨などの大気汚染の原因と影響
第10回	土壌環境汚染	土壌汚染の原因と影響
第11回	水環境問題	水質汚染・汚濁の原因と影響
第12回	廃棄物問題	廃棄物と残留性有機汚染物質の原因と影響
第13回	エネルギー資源	エネルギー資源と環境問題について
第14回	まとめ	6～13回の講義のまとめなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
化学と環境について現在各自が問題意識としている点を考えておくこと。

【テキスト（教科書）】

パワーポイント資料等を必要に応じて電子媒体などで配布する。
またテキストに準ずるものについては、授業中に適宜紹介する。

【参考書】

参考となる書籍等は授業中に適宜紹介する。
・環境社会検定試験（eco検定）の公式テキスト：環境に係る問題等が網羅的に示されており入門書としておすすめ。

【成績評価の方法と基準】

1～5回（5週）については、毎回の理解度確認テストと期末レポートを総合して全体の1/3で成績評価する。
6-14回（9週）については、出席と毎回の演習問題等を総合して全体の2/3で成績評価する。
最終的に両評価を合計して成績判定を行う。

【学生の意見等からの気づき】

膨大な内容をできるだけ分かり易く解説したい。

【その他の重要事項】

講義全体の内容は変わらないが、進行状況によっては講義内容の順番などを変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Understand the cause and effect of various environmental problems occurring on a global scale.

【Learning Objectives】

Understand the relationship between environmental pollution and chemical substances. Obtain basic knowledge for solving and preventing environmental pollution problems. In addition, acquire the basic knowledge of water environment hygiene related to bacteria and fungus.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

First half(1-5th class) examination: 34 %, Second half(6-14th class) examination : 66 %

MAC200YB（材料化学 / Materials chemistry 200）

環境安全化学

吉原 利一

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて「公害」と呼ばれた様々な環境問題があった。「公害」の特徴は、原因と結果のつながり、および被害者と加害者が明らかなことである。しかし、現在我々が直面する温室効果ガスやPM2.5、マイクロプラスチックなどの問題では一人一人が被害者であると共に問題を生じさせる加害者となっている。また、これらは国境を越えて広がるため、従来とは異なるアプローチが求められている。このため、これらの問題は単一の因果論としての自然科学ではなく、エネルギー論から地球物理学や遺伝学を含めた総合的な自然科学、そして経済・政治から個人のライフスタイルといった社会科学の知見との統合によってようやく解決できるものとなっている。そこで、「環境科学」という学問がある。本講義では、まず人類の発展と共に変遷してきた環境問題を題材に基礎を学ぶ。そして環境を安全に保つこととは何か、我々が現在直面している、あるいは子孫が将来直面するかもしれない環境問題について解決・回避のために何が必要なのかなどについて考える。一方、近年SDGsと呼ばれる国際的な取り組みの一環として様々な分野において環境保全への関心が高まっている。あるいはESGとして国や企業、個人の活動の正当性、継続性を担保するための取り組みがある。本講義では、このような近年の環境問題を取り巻く変化に対応しながら、また最近進歩の著しいChatGPTなどのAIを活用しながら、関連した情報の収集と分析、および発信のための基礎を習得することを目指す。

【到達目標】

1. 種々の環境問題に関する基礎的な知識を身につける、2. 社会的、科学的視点の双方から問題の本質を理解する、3. 他人の考えとのギャップを知ることにより、独善を排して問題解決のための方向性を見出す術を身につける、以上を総合することによって自らの社会的価値を高めるとともに、リーダーとしての襟標を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・授業形態

講義（第1～11回） 本シラバスに示した内容に沿って進めていく。予・復習のために、グループディスカッションを除く第11回までの講義内容の概要を記した資料を、学習支援システムにアップロードする。
グループディスカッション（第12～14回） 数人の小グループに分かれて、与えるテーマについて学生同士意見を交わしてもらい、情報の収集・分析・発信の方法を身につける。また、同じテーマに関して個々人が収集した情報の違いや、同じ情報に接したときの他我のとらえ方の違いなどを知る。さらに、グループごとに結論をまとめて発表を行う。基本的に対面での講義を行う。
・レポート

受講生は、課題についてレポートを提出して成績評価を受ける（成績評価の項を参照）。講義回ごとに迅速に評価し、個別にフィードバックを行う。なお、質問は4月1日以降、メール（宛先：toshihiro.yoshihara.65@hosei.ac.jp）にて随時受け付ける。なお、従来のレポート作成に代えて、ChatGPTなどのAIを活用したレポートの作成を課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと概要	授業の概要と進め方、成績評価などについて概説する。また、環境とは何かについて考える。
2	環境を形作るもの	元素、化合物、計量単位、化学の基礎などについて今後の授業において必要な知識を思い出す。特に近年話題となっているレアアースについて、環境への懸念と政治的な思惑（資源ナショナリズム）の中で製造されていることについて考える。
3	環境と生態系 I	生態系とは何かについて学ぶ。特に、土地の生産性とは何かを地理的な気候区分や具体的な農業生産の例などを通して考える。

4 環境と生態系 II

なぜ多様性が生じたのか、多様性を守る価値とは何か、種の進化と絶滅はなぜ生じるのかなどを学ぶ。特に多様性を守る価値については経済的な視点などを交えた多面的な考察を試みる。また、近年環境を語るキーワードとしてよく目にする“SDGs”と“ESG”、およびこれに関連した“LCA”について概説する。
大気の構造、構成要素と循環、公害と呼ばれたかつての大気汚染について学ぶ。
オゾン層の破壊、および温室効果ガスと地球温暖化についてそのメカニズムを学び、種々の情報の真偽を考える。また、エネルギー問題、食糧問題（フードマイレージ）など我々の暮らしとの関わりを知る。
水の物理・化学的性質と生命の発生について学ぶ。また、大気を介した水の循環、水質とは何か、および水の利用にかかわる問題（水利権、仮想水）について考える。
水の汚染や水質を守るための取り組みについて学ぶ。特に富栄養化、生物濃縮、環境ホルモンなど、これまで問題となった個々の事例について身近な浄水場や浄化槽の仕組みなどを通じて理解を深める。
生物濃縮の問題について、かつて大問題となり現在でも尾を引く水俣病やイタイイタイ病、および原発事故で拡散した放射性セシウムの事例をもとに学ぶ。また、酸性雨の問題について、森林の役割、衰退と環境への影響について学ぶ。
土とは何か、土の構成成分と構造・機能、土の汚染について学ぶ。特に農業による汚染について、および近年深刻化している砂漠化、土壌劣化、塩類集積などの問題について知見を深める。
植物における養分の吸収・蓄積とカドミウム・セシウム等の有害元素の吸収と蓄積・耐性について、およびこれらに関する分子機構について学ぶ。また、植物を使って土をきれいにする方法＝ファイトレメディエーションについて知る。
グループディスカッションへの導入（ディスカッション手法＝KJ法についての説明、例示など）、ディスカッションの開始。
ディスカッションの継続、発展（新たな視点の追加と活性化）。
グループごとのディスカッションのまとめと要旨の発表、④成績の基礎となるレポートについての説明。

5 大気の汚染 I

6 大気の汚染 II

7 水の汚染 I

8 水の汚染 II

9 水の汚染 III

10 土の汚染 I

11 土の汚染 II

12 グループディスカッション I

13 グループディスカッション II

14 グループディスカッション III

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回のテーマについて、予習としてWEBでキーワード検索を行ったり、講義資料や参考書を読んだりする。また、復習としてレポートを書いて提出する。さらに、講義で得られた知識の確認・深化のために参考書・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

講義において常時使用する教材としてのテキストは指定しない。

【参考書】

吉原利一編 地球環境テキストブック 環境科学 オーム社 ¥3300に準拠した形で講義を進める（講義はこの情報を更新する形で進める）。また、各回講義資料に加えて参考となる様々な文献をPDFなどとして配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、講義回ごとに課すものと学期の終わりに課すものの2種類のレポートの提出によって行う。期末の試験は実施しない。講義回（第1回～第10回）ごとに課すレポートは講義資料末尾の演習問題として示すテーマから一つ選択し、指定された内容・字数を守って記述する。学期の終わりに課すものは、グループディスカッションの内容の要約、テーマに関するグループ員同士の意見の違い、総合的な考察などを基本骨格として記述する。字数は問わない。いずれも期限内に提出されないものは受け付けない。レポートの採点においては、①正確な情報と分析に基づくこと（主な出典の明記等）、②テーマに回答した論旨の明確さ・一貫性・新奇性、③文章の読みやすさ（誤字脱字等がないこと、表現力）、の3項目をそれぞれ5段階で評価し、レポート別にその点数を合計する（最大15点）。科目としての成績評価では、講義回ごとのレポートの平均点と学期末のレポートの点数を50：50として総合する。

【学生の意見等からの気づき】

実例をもとに詳述するスタイルの講義と丁寧なレポートの個別フィードバック、およびグループディスカッションを基本とした毎年度の講義は全体的に好評である。今期も同様に進める。一方、ChatGPTなどのAIの活用は未だ手探りの状態であるが、今期も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。資料配布等に学習支援システムを使用。グループディスカッションの発表ではパワポファイルを作成してもらう。

【その他の重要事項】

本講義を担当する教員は、電力中央研究所等において30年以上にわたり研究業務に携わっているほか、樹木医としての活動を行っている。これらの経験を活かし、東京電力福島原子力発電所事故における帰還困難区域でのフィールドワークや天然記念物の保護活動など、研究者や樹木医を目指す学生の参考となる事例を随所で取り上げる。また、投稿論文等に掲載された「自らが得たデータ」を多く引用する。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

Even in developed countries, they had once caused many environmental problems so called “pollutions” in their economically/idealistically immature eras. These experiences are now commonly utilized not only to keep their domestic environments, but also to solve similar problems in developing countries. A common issue of such “pollutions” is understandable as a clear relationship between the cause and the result and/or between the perpetrator and the victim. However, such a clear relationship would be disappeared, and at the present time, all humankind is simultaneously a perpetrator and a victim when we face to newly happening environmental problems, such as greenhouse gas problems, PM2.5, and micro-plastics. Thus, we are still seeking for the way to solve them, which may stand on a different approach than ever. Studying the environmental sciences could lead us to the answer. It is not a sole but a total natural science, and sometimes, it includes social sciences like economy, politics, and cultural anthropology. Here, this lecture provides you a basis of “the environmental sciences” (e.g., history of pollutions and how mankind solve the problems). In addition, the lecture may promote you to deepen your mind, what is the safety in environment and how to solve environmental problems at the present time and/or in future we will face in a mean of SDGs.

The learning schedule is showing below. The numbers are showing each lecture session.

1. Guidance and Introduction - What is the Environment?
2. What makes the environment – In relation to so-called “resource protectionism”
- 3-4. The Environment and the Ecosystem - What is the productivity of the land? Is it anything with the value to protect variety, How the variety occurred?
- 5-6. Pollutions of the air - Atmospheric structure, Component and circulation, Former air pollution, Depletion of the ozone layer, and the Mechanism of the greenhouse gas effect and global warming
- 7-9. Pollutions of the water - Outbreak of physics, chemical property and the life of the water, Pollutions of the water and Approach to keep the quality of the water, Biological concentration
- 10-11. Pollutions of the soil – What is pollutions of the soil, Components, structure, and functions of the soil, Absorption and accumulation of nutrients and tolerance of toxic elements in plants in relation to our foods and health
- 12-14. Group Discussion (or debate)

[Learning Objectives]

1. To have basic knowledge for the past and the present problems
2. To understand the nature of the problems from the social and the scientific background
3. To know methodology to solve the problems without self-righteousness

[Grading Criteria /Policy]

The grading is based on reports after each lecture session and group discussion. The semester test will not be conducted. The reports are graded by following three points of views; 1. Analyzed with a correct data/information (indicate the reference), 2. Written in clear, consistent, and original sentences in response to the theme, 3. Easy to read without wrong character. It is notable that utilization of Chat GPT-like AI will be acceptable/forced by case.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

分析化学

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「分析化学」とは化学的な現象や物理的な現象を利用して、物質の組成や状態を探索する方法を学ぶ科目である。それらの現象がどのように分析に生かされているかを勉強してもらいたい。授業では、大学で学ぶ必要のある範囲の基礎分析化学を中心に講義・演習を行い、高級技術者、研究者としての基礎的な分析化学の知識を習得する事を目標とする。さらに環境分析に必要な重要な機器の一部を取り上げて機器分析化学の基礎を習得することも目標とする。

【到達目標】

1. 酸塩基反応と中和滴定について理解し計算することができる。
2. 沈殿形成について、溶解度積の観点から理解でき、計算することができる。
3. 錯形成反応を酸塩基反応として理解でき、滴定の計算をすることができる。
4. 酸化還元反応と滴定について、化学反応を理解し計算することができる。
5. 環境分析に用いる機器の原理と特徴を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中に実施する演習や発表について、学習支援システムを用いてフィードバックすると共に教員が学生に問いかけを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	この科目の授業概要	授業の進め方、予習と復習、評価方法について解説する。 化学における分析化学の役割（化学分析は、社会で何に役立っているかを考える。）について解説する。
2	測定値の精度および正確度、化学式量とモル、溶液と濃度、電解質の溶液とイオンの活量	化学分析における測定値の正しい扱い方（精度、正確度、標準偏差など）、分析化学で用いる単位、イオンと活量について学ぶ。
3	酸塩基反応と酸塩基滴定（1）	酸塩基の定義とその内容、電離平衡について学ぶ。
4	酸塩基反応と酸塩基滴定（2）	強塩基と弱酸の中和滴定および強酸と弱塩基の中和滴定曲線について学ぶ。
5	酸塩基反応と酸塩基滴定（3）	塩の加水分解、電解質溶液のpH計算法、指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
6	第1回小テスト 沈殿と重量分析（1）	第1回小テストを実施する。 沈殿の生成機構、溶解度積について学ぶ。
7	沈殿と重量分析（2）	水酸化物の沈殿と硫化物の沈殿生成をpHの面から考える。アクティブラーニング（演習）を実施する。
8	錯化合物とキレート滴定（1）	配位結合を酸塩基反応ととらえる。キレートの種類を学ぶ。
9	錯化合物とキレート滴定（2）	EDTAのキレート滴定の条件および金属指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
10	第2回小テスト 酸化還元反応と酸化還元滴定（1）	第2回小テストを実施する。電極電位とネルンストの式、酸化還元滴定の条件について学ぶ。
11	酸化還元反応と酸化還元滴定（2）	酸化還元電位（大小）の理解とその活用について学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
12	機器分析（1）	クロマトグラフィーの原理と特徴について学ぶ。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。

13 機器分析（2）

紫外可視分光光度法、原子吸光分析法及び発光分光分析法の原理と特徴について学ぶ。検量線による濃度計算を行う。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。
本授業を振り返り、まとめを行う。

14 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】分析化学は基礎学問であり、無機化学、有機化学、物理化学の基礎知識が必要となるので高校化学の知識をしっかりと身につけておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

分析化学の基礎 木村優、中島理一郎 共著、裳華房

【参考書】

クリスチャン分析化学 I 基礎編

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10%）、レポート（20%）、小テスト（30%）、定期試験（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【Outline (in English)】

Analytical chemistry is the study of methods of separation, identification and quantification of the chemical composition and structure of materials through chemical and physical phenomena. This course covers the basis of fundamental analytical chemistry, through the study of treatment of experimental error, acid-base equilibria, solubility equilibria, complexation equilibria, and oxidation-reduction equilibria. It also enhances the development of students' skill in carrying out an analytical chemical experiment. Other topics addressed include the basis of fundamental instrumental analytical chemistry, the basic principles of UV visible spectroscopy and different kinds of chromatography.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 40%, Quiz: 30%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

APC200YC（複合化学 / Applied chemistry 200）

バイオエンジニアリング

稲本 進

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、実例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から論ずる。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する
- 5) 生体触媒を改良するためのバイオ技術について習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論、生体触媒の改良に用いられるバイオ技術など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。講義は基本的に対面で行い、毎回課題を出します。課題の提出は「学習支援システム」を通じて行い、その答え合わせは次回の講義の中で行う予定です。なお、感染症の広がりなどの場合、オンライン授業を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論／食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎（1）	生体を構成する主な物質群、特に糖、アミノ酸、タンパク質、脂質などについて講述する
3	バイオサイエンスの化学的基礎（2）	生体を構成する主な物質、特にDNAやRNAの性質、それらからタンパク質が合成される過程について講述する
4	生体触媒の特徴（1） 酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
5	生体触媒の特徴（2） 微生物、動物細胞、植物細胞、ウイルス	生体触媒としての微生物と動物細胞と植物細胞とウイルスの特徴について講述する
6	酵素・微生物を利用するバイオプロセス：エネルギー関連のプロセスを例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として、バイオエタノール製造、藻類バイオ燃料、バイオ電池について紹介する
7	酵素反応速度論（1） ミカエリス・メンテンの式	ミカエリス・メンテンの式を中心として、酵素反応速度論の基礎を講述する
8	酵素反応速度論（2） 酵素反応の阻害	酵素反応の阻害について、各種の様式とその速度論を講述する
9	細胞が関連する生化学反応速度論	微生物の増殖速度とその影響因子について講述する

10	バイオリアクターの形式と操作設計	（1）酵素反応リアクターの各種形式とその特徴、形式別の操作設計の基礎および、（2）生体触媒の固定化法について講述する
11	生体触媒の制御と改良技術（1）代謝制御発酵	バイオインダストリーで重要な代謝制御発酵とそこで用いられる育種技術について講述する
12	生体触媒の制御と改良技術（2）遺伝子組換え技術	生体触媒の改良に使われる遺伝子組換え技術の基礎を講述する
13	生体触媒の制御と改良技術（3）ゲノム科学の進歩	ゲノム編集や次世代DNAシーケンサーなど最新のゲノム科学で用いられる技術の基礎を講述する
14	まとめ	今までの講義内容の補足と復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。各回の授業内容に応じて、別途課題を与える。本授業の復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業前に授業支援システムに講義資料をアップするのでダウンロードしてください。

【参考書】

Essential細胞生物学 原書第5版（中村桂子/松原謙一/榊佳之/水島昇・監訳）南江堂
 新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）講談社サイエンティフィク
 生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書
 新生物化学工学 第3版（岸本通雅／堀内淳一／藤原伸介／熊田陽一・著）三共出版

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の課題（約13%）とレポート課題（約12%）および期末試験（約75%）を総合して評価する。但し、出席が半分以下の場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の答え合わせをもう少し時間をかけてやることにする。声が聞き取りにくいと言う人もいたので、前の方に座るようにアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the basic knowledge about bioprocesses. To this end, students will learn examples of various bioprocesses as well as methods for their quantitative analysis. The course focuses especially on processes for the production of food and medicine from the aspect of biochemical industry.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

物質構造化学

緒方 啓典

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈美〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、物質の様々な性質を理解するうえで必要とされる結晶構造学の基礎を理解し、結晶構造を記述する上で必要な事項について学ぶとともに、X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析方法について学ぶ。

【到達目標】

授業の到達目標

- 1) 結晶構造を理解する上で必要な事項、用語を理解し、それらを用いて結晶構造を記述することができる。
- 2) 結晶中に存在する対称性および対称操作について理解し、3 2 結晶点群の対称性を分別する。また、空間群を理解し、結晶構造の表記法について学ぶとともに、結晶学パラメータに基づいて回折強度を計算する方法を学ぶ。
- 3) X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析に応用できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

物質の結晶構造は、物質のさまざまな性質と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、自ら合成した物質の結晶構造を解析する能力が必要とされる。本講義では結晶構造の基礎を系統的に学び、X線回折法に代表されるいくつかの構造解析法の基礎理論および応用例について学ぶ。具体的な授業の実施方法については、学習支援システムを通じて適宜提示します。

本講義は環境応用化学科の主要専門科目および「物質創成化学コース」の推奨科目です。（本講義の内容を理解するためには、有機化学、無機化学、物理化学に関する講義を受講しているか、それらの内容を理解していることが必要です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要説明、結晶構造解析の重要性について述べる。
2	結晶学の歴史	結晶学の歴史、有理化指数の法則、晶帯則、対称性の発見、X線結晶学の歴史について学ぶ。
3	結晶格子と単位格子	結晶の要素、対称性と対称操作、対称要素、単純格子と複合格子、晶系、ブラベ格子、結晶の面指数および方向指数について学ぶ。
4	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-01	結晶中で許される対称操作と表記方法、非対称単位、対称操作の組み合わせと点群、空間群について学ぶ。
5	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-02	対称操作の組み合わせと点群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
6	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-03	対称操作の組み合わせと空間群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
7	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-04	分率座標、占有率、Z値について学び、具体的な物質について結晶構造の表記方法について学ぶ。
8	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-05	International Tables for Crystallographyの見方について学ぶ。
9	回折現象を理解するための数学	ベクトルの内積、外積、三重積、フーリエ級数とフーリエ変換、関数の畳み込み等について学ぶ。
10	X線の散乱と回折-01	原子によるX線の散乱、原子散乱因子、結晶によるX線の回折、結晶構造因子について学ぶ。
11	X線の散乱と回折-02	ブラッグの条件、逆格子の概念とエwald球の関係について学ぶ。

12	X線回折法による結晶構造解析の原理-01	回折強度と結晶構造因子の関係、消滅則、熱振動の表し方（温度因子）等について学ぶ。
13	X線回折法による結晶構造解析の原理-02	位相問題、フーリエ合成、構造精密化等、実際の結晶構造解析の手順に沿った基礎事項について学ぶ。
14	X線回折法による結晶構造解析の実際	単結晶試料および粉末試料について実際の結晶構造解析の流れの実例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で使用する資料 (ppt) は事前に授業支援システムを通じて受講者に配布を行う。受講者は事前にそのファイルをダウンロードし、目を通すとともに、参考書の関連ページを読んでおくこと。授業には資料をプリントアウトして持参すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

- ・「X線構造解析」、早稲田嘉夫・松原英一郎著、内田老鶴園
- ・「X線結晶構造解析」大橋裕二著、裳華房
- ・「結晶化学」基礎から最先端まで 大橋裕二著 裳華房

【成績評価の方法と基準】

授業内に対面で実施する小テスト (40%) および期末試験の結果 (60%) を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。理解できないことは放置せず、こまめに質問に来ること。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料は事前に授業支援システムを通じて配布する。関数電卓は準備すること。

【その他の重要事項】

講義のキーワード：結晶構造、対称性、単位格子、ブラベ格子、点群、空間群、X線、回折、実格子、逆格子、構造因子、フーリエ変換、電子密度分布
自然科学分野の国立研究機関で勤務経験を持つ教員が、その経験を生かして結晶化学の基礎的知識について講義を行う。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to present the basic concepts needed to understand the crystal structure of materials. Fundamental concepts including lattices, symmetries, point groups, and space groups will be discussed and the relationship between crystal symmetries and physical properties will be addressed. The theory of X-ray diffraction by crystalline matter along with the experimental x-ray methods used to determine the crystal structure of materials will be covered.

・ Achievement goal of class

1) To be able to understand the matters and terms necessary for understanding the crystal structure and to describe the crystal structure using them.

2) Understand the symmetries and symmetry operations that exist in crystals and discriminate the symmetries of the 32 crystal point group. You will also understand space groups, learn notations for crystal structures, and learn how to calculate diffraction intensities based on crystallographic parameters.

3) Understand the measurement methods and principles of crystal structure analysis by X-ray diffraction, and acquire knowledge that can be applied to actual measurements and analyses.

・ Learning outside of class

Materials (ppt) used in class will be distributed to students in advance through the class support system. Participants should download the file in advance, read through it, and read the relevant pages of the reference book. Print out the materials and bring them with you to class.

・ Class evaluation methods and standards

Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams conducted face-to-face in class.

APC200YC（複合化学 / Applied chemistry 200）

機器分析学

橋本 伸哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機器分析学は分析化学の一部であり、分析機器を用いて試料中の化学種や元素の状態や濃度を把握することを目的とします。この授業では、機器を用いる分離分析法の原理、適用範囲、機器分析の基礎について学びます。この授業の主な目的は、ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー、質量分析、反応速度論、酵素反応などの基礎を学び、それらを理解し、説明できるようになることです。

【到達目標】

機器を用いる分離分析法の原理、適用範囲、機器分析の基礎について学び、試料を分析する場合の分析方法の選択などについて自分で組み立てられるようになること。分析者として機器分析における用語について誤解のないように誰にでも説明できること。分析装置の原理、構成をなぜ知る必要があるのかを説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プロジェクターと黒板を使う講義形式をとる。毎回、短い小テストを授業内で行う。小テストについては、基本的に次の授業の最初に解説を行い、また質問についても受け付ける時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クロマトグラフィーの原理と理論（クロマトグラフィーの歴史・分離の原理・カラム効率）	分離分析で用いるクロマトグラフィーについて、その歴史・分離の原理・カラム効率等について講義する。
2	クロマトグラフィーの原理と理論（速度論的理論・有効段数・分離度）	クロマトグラフィーにおける速度論的理論・有効段数・分離度等について講義する。
3	ガスクロマトグラフィー（分離・カラム）	機器分析で使用する基本装置のうちガスクロマトグラフィーに関して、分離・カラム等について講義する。
4	ガスクロマトグラフィー（検出器・定量法）	ガスクロマトグラフィーに関して、検出器・定量法等について講義する。
5	ガスクロマトグラフィー（試料の導入方法・微小内径カラム・キラル化合物の分離）	ガスクロマトグラフィーに関して、試料の導入方法・微小内径カラム・キラル化合物の分離等について講義する。
6	ガスクロマトグラフィー（二次元ガスクロマトグラフィー）・中間テスト	二次元ガスクロマトグラフィーについて講義する。その後、これまでの範囲を対象に中間テストを実施する。

7	中間テストの解説、液体クロマトグラフィー（高速液体クロマトグラフィー・固定相）	中間テストの解説を行い、その後、機器分析で使用する基本装置のうち液体クロマトグラフィーに関して、高速液体クロマトグラフィー・固定相等について講義する。
8	液体クロマトグラフィー（送液システム・カラム・検出器）	液体クロマトグラフィーに関して、送液システム・カラム・検出器等について講義する。
9	液体クロマトグラフィー（ポストカラム反応）、電気泳動法	液体クロマトグラフィーに関してポストカラム反応、電気泳動法等について講義する。
10	質量分析法（原理・分解能・ガスクロマトグラフィー質量分析法・液体クロマトグラフィー質量分析法）	質量分析法に関して、原理・分解能・ガスクロマトグラフィー質量分析法・液体クロマトグラフィー質量分析法等について講義する。
11	質量分析法（誘導結合プラズマ質量分析法・四重極質量分析装置・飛行時間型質量分析装置・タンデム質量分析）	質量分析法に関して、誘導結合プラズマ質量分析法・四重極質量分析装置・飛行時間型質量分析装置・タンデム質量分析等について講義する。
12	反応速度分析（一次反応・酵素反応・ミカエリス定数・臨床化学で定量される酵素・基質）	反応速度分析に関して、一次反応・酵素反応・ミカエリス定数・臨床化学で定量される酵素・基質等について講義する。
13	測定の自動化（自動化設備・プロセス制御・連続分析・ディスクリット式分析・フローインジェクション分析）	測定の自動化に関して、自動化設備・プロセス制御・連続分析・ディスクリット式分析・フローインジェクション分析等について講義する。
14	期末テスト・解説	これまでの範囲を基に期末テストを行い、その解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業内で毎回小テストを行うので、各自それについて復習すること。授業に使用するファイルを事前に提示するので目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

クリスチャン 分析化学Ⅱ機器分析編 丸善出版 など

【成績評価の方法と基準】

毎回小テスト、中間テスト、期末テストを行う。中間テスト、期末テストでは、自筆のノートのみ持ち込み可とする。覚えているかより、内容を理解して考えているかを重点的にみる。誤字脱字、意味不明の文章などは減点対象とする。授業参画度：出席点および毎回の小テストに対する解答を授業参画度としても評価する（30%）。中間テスト（各30%）。期末テスト（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テスト回答提出時に、授業に対する意見などを記してもらう。随時、質疑応答の時間を設ける予定でいる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

Instrumental analysis is a part of analytical chemistry and involves the use of analytical instruments to determine the state and concentration of chemical species and elements in a sample. The main objective of this course is to understand the fundamentals of gas chromatography, liquid chromatography, mass spectrometry, reaction kinetics, and enzymatic reactions. At the end of this course, students are expected to be able to understand and explain them. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant PDF document. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term examination: 30%, term-end examination: 40%, and in class contribution: 30%.

APC200YB（複合化学 / Applied chemistry 200）

機器分析学

猿渡 茂、野口 恵一、加藤 敏代

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義では、核磁気共鳴分光法（NMR）、X線結晶構造解析、電子顕微鏡観察などの計測法及びそれら生体高分子への応用について解説する。

【到達目標】

機器分析法の原理と生物試料への応用の基本的な考えを理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書を使用する。パワーポイントファイルを配布し、説明をする。説明に基づいてメモを取ることが期待されている。質問は、授業中及び授業後に受け付ける。オムニバス形式。授業時間の最後に小テストを行い、次回の授業のはじめに解説や授業の補足説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	蛋白質構造の基礎と計測法	アミノ酸、2次構造、3次構造など（野口）
第2回	核磁気共鳴(NMR)の基本	歴史、原理、装置の構成、試料の調製（加藤）
第3回	NMR スペクトル	NMR スペクトルから読み取る情報（加藤）
第4回	NMR スペクトル解析	低分子有機化合物の構造解析演習（加藤）
第5回	NMRの応用例	定量分析、混合物分析、固体NMRなど（加藤）
第6回	蛋白質への応用	2次元NMR（加藤）
第7回	X線結晶構造解析の基本原理（1）	X線の発生、結晶によるX線の回折（野口）
第8回	X線結晶構造解析の基本原理（2）	X線結晶構造解析の基礎（野口）
第9回	X線結晶構造解析の実際（1）	X線回折測定の流れ（野口）
第10回	X線結晶構造解析の実際（2）	結晶構造解析の方法（野口）
第11回	X線結晶構造解析の応用	蛋白質の構造解析の実例紹介（野口）
第12回	透過電子顕微鏡の基礎	電子顕微鏡の原理と試料調製（野口）
第13回	透過電子顕微鏡の応用	電子顕微鏡観察の実例紹介（野口）
第14回	最近の研究課題から及び後半テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業支援システムで配布したプリント資料を受講後に復習する。宿題・レポートの提出は成績評価に使用する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

- 1) 「いきなりはじめる構造生物学」（神田大輔著、学研メディカル秀潤社）
- 2) 「分析化学実技シリーズ 機器分析編 3 NMR」（田代充・加藤敏代 著、共立出版）

【成績評価の方法と基準】

出席点（25%）、小テストとレポート及び宿題（25%）、前半と後半のテスト（50%、再試験なし）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The objectives of this class are to learn the basic principles of structure determination of biomacromolecules by NMR spectroscopy, X-ray diffraction method and electron microscopy. It is important for all students to have an understanding of the basis, strengths, precision and limitations of these technique. After class, please review the materials distributed through the class support system. Attendance (25%), quizzes and reports (25%), first and second half tests (50%, no retests)

APC200YB（複合化学 / Applied chemistry 200）

バイオエンジニアリング

松田 寛子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、実例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から理解する。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。毎回の授業の最後に小テスト（クイズ）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論／身近な食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎	生体を構成する物質の化学的性質について講述する
3	生体触媒の特性（1）酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
4	生体触媒の特性（2）微生物・動植物細胞	生体触媒としての微生物や動植物細胞の特徴について講述する
5	酵素を利用するバイオプロセス-異性化糖の製造を例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として異性化糖の製造を紹介する
6	固定化酵素（固定化生体触媒）	固定化酵素について講術する
7	酵素反応速度論（1）物質収支&ミカエリス-メンテンの式	酵素反応を定量的に考えるうえで重要となる物質収支の概念と、ミカエリス-メンテンの式について講術する。
8	酵素反応速度論（2）阻害反応	ミカエリス-メンテンの式に基づき、酵素反応の阻害の形式とその特徴を講述する。酵素反応阻害にの重要性についても述べる。
9	酵素反応速度論（3）エクセルによる酵素反応速度論解析の実践	酵素反応速度論の理解向上を目指して、エクセルを使用して、酵素反応速度論的な解析を行う。
10	非水系における酵素反応&細胞が関連する生化学反応速度	非水溶媒系の酵素反応の特徴と実例、および微生物の増殖速度とその影響因子、基質と生産物の変化速度の基本的考え方について講述する
11	バイオリアクターの形式と反応操作設計の基礎	酵素反応リアクターの各種形式とその特徴について講述する。
12	微生物を利用するバイオリアクターの設計と操作	微生物を利用するリアクターの形式と操作について、特に廃水処理に利用される活性汚泥法を例として、連続培養法の基礎を講述する
13	バイオセンサー	バイオセンサーの原理・特徴とその具体例について講述する
14	バイオエンジニアリングとコンピュータサイエンスの関わり（シミュレーション、人工知能）	バイオエンジニアリングにおける、コンピュータサイエンス（シミュレーション技術、人工知能(AI)）の応用例を紹介し、バイオエンジニアリングの将来展望を講述する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。特に、授業時に実施した小テストの内容については十分に理解しておくことが、単位取得のためには必要である。各回の授業内容に応じて、別途課題を与えることがある。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを介した、配布資料を主に使用する。

【参考書】

- ・新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）講談社サイエンティフィク
- ・生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書
- ・他、授業（配布資料）内で紹介した動画

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験（80%）と小テスト・レポート（20%）を総合して評価する。
- ・30分を超える遅刻をした授業日の小テストの点は評価に加えない。
- ・期末試験を受験するためには3分の2以上の出席が必要である。3分の2以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。
- ・出席の確認は、構内での出席登録と小テスト・レポートへの回答の両方で行う。両方で出席が確認できた場合のみ、出席したものと判定する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・小テスト・レポートに加えて課題を出す、動画を積極的に使用することにより、理解をより深化できるように配慮する。
- ・授業内容の他に、理系分野には欠かせない「レポートの書き方の基本」や「データ解析する際のエクセル活用方法」についても併せて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（学習支援システムを介して、資料を配布したり課題提出を求める）

【その他の重要事項】

- ・交通機関の遅延等で授業の出席が遅れた場合は、交通機関の発行する遅延証明書を授業終了時に必ず提出すること。
- ・体調不良で欠席した場合は、所属学部窓口に相談へ行き、頂戴した指示に従って対応すること。
※学校保健安全法に定める感染症に該当するか否かが判断される。
- ・3分の2以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。
- ・「小テストへの回答だけで大丈夫だと思っていました。」「出席管理システムのチェックだけで大丈夫だと思っていました。」等の言い訳は一切考慮しない。
- ・上記内容以外で、相談や連絡したいことがあれば、しっかり話しを聞くので申し出ること。
- ・その他、一生懸命に講義を聞いている学生への迷惑行為に当たる行動は、減点し評価へ反映させる。

【Outline (in English)】

The aims of this class are:

- (1)To learn the fundamentals of bioprocess for quantitative analys and design of the process.
- (2)To understand the current status of biotechnology application for practical production.
- (3)To understand the bioprocess in food and pharmaceutical industries from the view point of biochemical engineering

MAC200YB（材料化学 / Materials chemistry 200）

分析化学

宮村 一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命物質や環境物質を正しく評価するために必要な分析化学の基礎を学習する。

【到達目標】

各分析手順について、その原理や要点をマスターすることを目指す。具体的には、実験計画法、試料採取法、試料調製法、分離、検出と計測、データ処理法、化学診断法に関する系統的な知識の習得を到達目標とする。特に、データの取り扱い方、化学平衡、抽出分離など、生命科学研究に用いる分析手法の原理を学び、将来的に研究を遂行していくために必要な知識の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- (1) 生命科学や環境科学をはじめ、様々な分野の基礎となる分析化学の基礎を学習する。
- (2) 必要に応じてプリントを配布するとともに、スライドによる講義を行う。
- (3) 課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方解説
第2回	データ処理	平均値、標準偏差、誤差とガウス関数、有効数字
第3回	化学診断	真度と精度、過誤、リスク管理、バリデーション
第4回	試料採取と試料調製	均一試料と不均一試料、溶液と化学平衡
第5回	電解質溶液	化学ポテンシャル、イオン強度、
第6回	有機物試料の試料調製	酸と塩基、酸塩基平衡、pH、緩衝溶液、
第7回	錯イオン平衡	金属イオンと配位子、錯形成反応、安定度定数
第8回	沈殿分離	溶解度曲線と沈殿曲線、溶解度積、金属イオンの分属、重量分析
第9回	電解分離	電気化学、電子の移動と酸化還元、標準酸化還元電位
第10回	抽出分離	分配平衡、キレート抽出、マスキング、協同効果
第11回	クロマトグラフィー	スラブ型とカラム型、移動相と固定相による分類、
第12回	電気泳動法	ゾーン電気泳動、キャピラリー電気泳動、等速電気泳動
第13回	分光法の基礎	光子エネルギーと物質への作用、ランバートベールの法則
第14回	分光法	X線分析、原子分光、ほか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回テーマが変わるので、授業後の復習により知識を確実にすることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

分析化学 黒田六郎ほか 裳華房
 分析化学II 北森武彦ほか 丸善

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）試験ではA 5判のメモ 1 枚持ち込み可。

基礎的な内容が中心です。講義の中で必ず理解しておかなければならない内容の確認です。

【学生の意見等からの気づき】

プリントを必要に応じて配る。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

生命機能学科および応用植物学科および環境応用化学科を対象とする。

【Outline (in English)】

This class is learned about a basis of analytical chemistry,for understanding about bioscience and applied chemistry.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

物質機能化学

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の持つ様々な物性や機能は、物質の電子状態、結晶構造、凝集状態等と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、それらの機能がどのようなメカニズムで生じているか基礎的な知識が必要とされる。本講義では物質を構成する原子・分子・電子の状態、エネルギーの観点から物質の持つ様々な機能の発現メカニズムと具体的な機能性物質への応用例について学ぶ。本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目です。本講義の内容を理解するためには、物理化学、有機化学、無機化学等、化学の専門科目を受講しているか、それらの内容に関する基礎知識を持っていることが必要です。

【到達目標】

物質のもつ様々な性質（物性）について理解する。
物質の電子状態について理解する。
物質の構造、電子状態と物性の関係を理解する。
新規機能性物質開発の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜提示します。授業の資料は各自ダウンロードし、印刷したものを見て自習してください。さらに、参考書等を用いて自分で調べたことなど適宜書き込みを行い、自分のノートを作成してください。授業内容について不明な点がございましたら、いつでもメールで質問を受け付けています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス-講義概要	ガイダンスにて講義概要の説明を行う。
2	物質の階層性と機能性-電子-原子-結合-凝縮状態が生み出す機能性	電子-原子-結合-分子間相互作用の観点から、凝縮状態が生み出す機能性について学ぶ。
3	機能性から見た物質-物質の力学的性質-01-	物質の硬度の起源、力学的性質の表記方法、弾性変形と塑性変形について学ぶ。
4	機能性から見た物質-物質の力学的性質-02-	弾性変形および塑性変形の微視的メカニズム、マルテンサイト変態と超弾性等について学ぶ。
5	機能性から見た物質-物質の熱的性質-01-	ミクロから見た熱と温度、固体の熱的性質を支配する因子、固体の熱容量と熱伝導率の微視的機構について学ぶ。
6	機能性から見た物質-物質の熱的性質-02-	固体の熱膨張と融点の関係、低熱膨張合金等、応用例について学ぶ。
7	機能性から見た物質-物質の電気的性質-01-	物質の電気的性質とバンド構造について学ぶ。
8	機能性から見た物質-物質の電気的性質-02-	金属および超伝導体の性質およびメカニズムについて学ぶ。
9	機能性から見た物質-物質の電気的性質-03-	半導体の電子的性質について学ぶ。
10	機能性から見た物質-物質の電気的性質-04-	半導体の応用例について学ぶ。
11	機能性から見た物質-物質の光学的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
12	機能性から見た物質-物質の光学的性質-02-	ミクロな観点から見た光学的特性のメカニズムについて学ぶ。
13	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
14	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-02-	前回に引き続き、ミクロな観点から見た磁性のメカニズムと磁気的相互作用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に学習支援システムを通して配布されるプリントおよび下記参考書等を用いて準備学習および復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

「物性化学」：松永義夫著 裳華房
「固体の電子状態と化学」：P.A.COX 著（魚崎浩平他訳） 技報堂出版
「分子結晶」：J.D.Wright 著 化学同人
「物性論入門」：石井晃著 共立出版
「現代物性化学の基礎-化学結合論によるアプローチ-」：小島憲道編 講談社
「化学者のための電気伝導入門」：小林浩一著 裳華房
「実験化学講座第5版 27巻 機能性物質」
「固体有機化学」小林啓二、林直人著 化学同人
「基礎量子化学・Hartree-Fock 編」中井浩巳著 丸善出版
「格子振動と構造相転移」石橋善弘著 森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内に対面で実施する小テスト(40%)および期末試験の結果(60%)を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

講義に必要な資料は全て学習支援システムを利用して配布を行う。

【その他の重要事項】

本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目となっています。将来、新物質の開発や材料化学に関する研究開発に興味がある学生は履修することをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course is designated in the order of firstly studying important fundamental theories for understanding materials. This course offers a description of how the mechanical, thermal, electronic, optical and magnetic properties of materials originate from their electronic and molecular structure and how these properties can be designed for particular applications.

・ Attainment target

- 1)Understand various properties (physical properties) of materials.
- 2)Understand the electronic states of materials.
- 3)Understand the relationship between the structure of materials, electronic state, and physical properties.
- 4)Understand the basics of developing new functional substances.

・ Learning outside of class

Use the handouts distributed in advance through the learning support system and the following reference books to prepare for and review.

・ Grading methods and standards

Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

物質変換化学

奥村 和

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のような物質文明に生きる私たちにとって、化学反応を利用した物質変換技術は必要不可欠な技術である。地球温暖化抑制や資源枯渇対策が急務となっている現代社会にとって、効率的に化学物質を製造する技術こそ、地球環境保全に必要な不可欠な技術といえる。実用化されている化学反応のほとんどは触媒反応が採用されている。触媒には反応速度の加速・減速を通して、目的とする特定の反応のみを効率的に促進させる機能がある。従って触媒技術は人間生活に必要なさまざまな化学物質の効率的な製造技術として重要な位置を占めてきた。一方、環境に悪影響を及ぼす化学物質を分解除去する目的にも大いに用いられている。本講義では、実用化されているものから将来の実用化が期待されているものまで、いくつかの化学工業や環境浄化に用いられる触媒技術を取り上げながら解説し、現在社会における触媒を用いた物質変換技術の重要性やその内容を学生が理解することを目的とする。

【到達目標】

触媒を用いた反応プロセスを例に挙げ、触媒の性能（活性、選択性、寿命）や反応機構に関する知識や考え方を学生が習得する。触媒の定義、種類、理論、役割、評価法など触媒に関する基礎的な知識や考え方を学生が習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い、教室における講義を主体として進行する。授業時間内にレポート等の課題を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたレポートからいくつかの解答例を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	触媒の種類と歴史	触媒の分類および歴史に関する解説
2	不均一系触媒の概要と解説	アンモニア合成を例にした不均一系触媒の概要と特徴に関する解説
3	触媒反応の方法	触媒反応の方法と触媒活性の評価方法に関する解説
4	吸着 1	吸着のメカニズム、物理吸着と化学吸着の違いと特徴に関する解説
5	吸着 2	吸着等温式、吸着熱、比表面積の計算に関する解説
6	反応速度	速度定数、反応次数、活性化エネルギーなどの求め方に関する解説
7	触媒調製	触媒の調製方法に関する解説
8	キャラクターゼーション技術	触媒の組成や構造などを決定する方法に関する解説
9	石油精製	原油から化学品にいたる石油の分離および反応プロセスに関する解説
10	接触分解と脱硫	石油の接触分解と脱硫における反応、触媒、機構に関する解説
11	金属触媒	金属触媒の特徴と触媒作用に関する解説
12	酸化触媒	酸化触媒の活性、生成熱と触媒活性に関する解説
13	環境触媒	環境触媒の種類と触媒作用に関する解説
14	均一系触媒	均一系触媒の代表例と反応メカニズムに関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が参考書や講義ノートを利用した予習・復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新しい触媒化学＜新版＞』、菊地英一ら著、三共出版、3,080円

【参考書】

『触媒化学 (化学マスター講座)』、江口浩一ら著、丸善出版、3,740円

『触媒化学 ―基礎から応用まで―』(エキスパート応用化学テキストシリーズ) 田中康裕ら著、講談社、3,300円

【成績評価の方法と基準】

試験の結果(70%)を主とし、これに平常点(30%)を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を深めるための復習の機会を充実する。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】

Course outline:

For us living in substance civilization like present, material conversion technology using chemical reaction is indispensable technology. For modern society in which global warming prevention and resource depletion countermeasures are an urgent task, technologies for efficiently manufacturing chemical substances are indispensable technologies for protecting the global environment. Most of the chemical reactions that have been put to practical use are catalytic reactions. The catalyst has a function of efficiently promoting only a specific reaction of interest through acceleration / deceleration of the reaction rate. Therefore, catalyst technology has occupied an important position as an efficient manufacturing technology of various chemical substances necessary for human life. On the other hand, it is also used for the purpose of decomposing and removing chemical substances which adversely affect the environment. In this lecture, we will explain from practical use to what is expected to be put to practical use in the future, taking up some chemical industry and catalyst technology used for environmental purification, Understand the importance of conversion technology and its contents.

Learning Objectives:

Taking the reaction process using a catalyst as an example, students will acquire knowledge and ideas about catalyst performance (activity, selectivity) and reaction mechanism. Students acquire basic knowledge and ideas about catalysts such as catalyst definitions, types, theories, roles, and evaluation methods.

Learning activities outside of classroom:

Students will prepare and review using reference books and lecture notes. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy:

The test results (70%) are the main factors, and the normal score (30%) is added to the evaluation.

MAC300YC（材料化学 / Materials chemistry 300）

物質循環化学

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上においては様々な物質が変質を起しながら循環をしている。本授業では、主に鉱物資源循環の観点から、物質循環学を学ぶ。本授業で得られる知識が、環境に配慮した循環型社会の理解や構築に役立つことを望む。

【到達目標】

無機工業化学と化学工学を軸に、地球上における鉱物資源の物質循環を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書を中心として、板書とスライドを用いた講義を行う。基本的に毎回の授業中に演習を行い、授業内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論（地球と人類、経済）、放射性炭素年代測定法	地球と人類との関わりについて講義する。環境経済学に関しても触れる。また、放射性炭素年代測定法を理解する。
2	地球の放射年代測定（アイソクロン法）	地球の年代測定のためのアイソクロン法を学ぶ。
3	固体地球の構成	固体地球の構成とともに、どのようにしてその構成を明らかにしたかを紹介する。
4	鉱物の分類、対称性	鉱物の種類と鉱物結晶の対称性について学ぶ。
5	火成岩	火成岩とその生成機構について学ぶ。
6	変成岩、堆積岩	変成岩と堆積岩とそれらの生成機構について学ぶ。
7	地球の変動(1)	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
8	地球の変動(1)	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
9	地球の誕生と進化	地球の誕生と進化について学ぶ。
10	生命の誕生と進化	生命の誕生と進化および大量絶滅事変について学ぶ。
11	鉱物・エネルギー資源	地球における鉱物・エネルギー資源の生成過程について学ぶ。
12	地球内部での鉱物循環	地球内部での鉱物循環について学ぶ。
13	流体シミュレーション（1次元）の基礎	1次元の流体シミュレーションを行う。
14	流体シミュレーション（2次元）への導入	2次元の流体シミュレーションの導入を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回までの講義内容を復習して、理解を深めておくこと。また、授業の進捗状況に合わせて、次の演習で出題される範囲を予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「地球・環境・資源－地球と人類の共生をめざして－第2版」
内田 悦生・高木 秀雄編 高木 秀雄・山崎 淳司・円城寺 守・小笠原 義秀・太田 亨・守屋 和佳・内田 悦生・大河内 博・香村 一夫著、ISBN:978-4-320-04734-1

【参考書】

現代地球科学入門シリーズ9巻「地球のテクトニクスⅠ 堆積学・変動地形学」共立出版
現代地球科学入門シリーズ11巻「結晶学・鉱物学」共立出版
現代地球科学入門シリーズ12巻「地球化学」共立出版
現代地球科学入門シリーズ15巻「地球と生命－地球環境と生物圏進化－」共立出版
現代地球科学入門シリーズ16巻「岩石学」共立出版
「地球46億年 物質大循環 地球は巨大な熱機関である」月村勝広著、ブルーバックス、ISBN:978-4-06-534672-3

【成績評価の方法と基準】

試験(80%)と演習問題(20%)と授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、対面授業と演習を基本的に毎回実施する。
演習課題の解答例は、次々回の授業後にHoppiiにアップロードすることとする。
2025年度に、熱力学と流体力学と物性の話を省き、地球内部での鉱物循環の内容を加えることとした。2026年度はこれを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【その他の重要事項】

無機工業化学と化学工学を軸にした物質循環化学の講義を行っている。また、鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、資源や化学工学の観点からの講義も行う。

【Outline (in English)】

(Course outline) During various materials are circulating on the earth, the character of the materials, such as shape, microstructure, phases, and crystal structure, are changing. This class mainly focuses on the circulation of mineral resources on the earth. The knowledge will help us to understand and create recycling-oriented and sustainable society.

(Learning Objectives) Students are expected to understand the chemical reaction and mechanical changes on the earth, and fundamental of introduction of computational fluid dynamics. (Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class. (Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (20%), term-end examination (80%), and in-class contribution.

APC300YA（複合化学 / Applied chemistry 300）

バイオマテリアル

張 民芳

開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオマテリアルは材料科学と生物学の融合領域を扱うため、材料と細胞や組織との相互作用などを理解することが重要である。この授業では、バイオマテリアルの化学・物理、バイオマテリアルに対する生体応答、さらに実用化の現状に関して広く学ぶことによりバイオマテリアル研究開発に役立つ知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

バイオマテリアルサイエンスでは、人工心臓などのようなマクロサイズなものから、薬剤送達システムといったミクロサイズのものまでを対象として研究・開発が進められている。そこで使われている材料は、金属などの無機物、高分子などの有機物、細胞など多種類に及んでいる。本授業では、こうした現状を理解すること、バイオマテリアルに関する基礎知識を獲得すること、それにより医療の発展に貢献できる能力を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は主にパワーポイントを使って行い、内容は教科書に沿って進める。リアクションペーパーあるいは課題解答を提出してもらい、それらのフィードバックを次回授業または学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	バイオマテリアルサイエンスの概観
第2回	生体の仕組み 1	分子から細胞、組織までの基礎知識
第3回	生体の仕組み 2	組織と臓器の構造と機能
第4回	生体応答	生体適合性、炎症反応、免疫応答について
第5回	免疫系	免疫細胞の種類と役割。（参考書「図解 免疫学入門」）
第6回	バイオマテリアル 1	金属・セラミックス・炭素材料（物理化学的基礎、生体応用に適した特徴）
第7回	バイオマテリアル 2	高分子材料（合成と構造、生体応用に適した高分子）
第8回	生体由来バイオマテリアル	細胞外マトリックス、機能性タンパク質からみた細胞と組織の機能
第9回	バイオマテリアルの性質と解析技術	バイオマテリアルの物理的特性（力学、熱、表面）および生物学的解析技術について
第10回	医療機器	人工臓器、医療機器と材料
第11回	ドラッグデリバリーシステム	薬物送達システム（DDS）の必要性、DDS作製、体内動態、薬剤徐放、ターゲティング
第12回	再生医療	再生医療の現状
第13回	診断とバイオマテリアル	生化学検査や医用イメージング技術、カーボンナノチューブなどのバイオマテリアルの医療応用について
第14回	期末試験	授業全般の内容に関して試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする。バイオマテリアルと生体の相互作用では免疫応答がカギとなるので「図解 免疫学入門」にも目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「バイオマテリアルサイエンス 基礎から臨床まで 第2版」東京化学同人（山岡哲二、他、2018年、価格2600円＋税）をテキストとして使用し、このテキストにそって授業を行う。

【参考書】

「図解 免疫学入門」東京化学同人（David Male 著、山本和夫訳）、2018年、価格2300円＋税）

【成績評価の方法と基準】

主に記述式および選択式の試験により成績評価を行う。小テストを2回、期末試験を1回実施する。配点は、小テスト（各20％、計40％）、期末試験（40％）、平常点（20％）とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業はテキストに沿って行うが、免疫系については適宜解説を追加する。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助プリントがある場合には、授業支援システムを通じて事前あるいは事後に配布する。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Since bio-material deals with the interdisciplinary area of material science and biology, it is important to understand the interaction between materials and cells or tissues. In this class, students will learn chemistry and physics of bio-materials, response of biological systems to the bio-materials, and recent advances of bio-materials application to medical science. The knowledge obtained from these learning will be useful to develop the research and application of new bio-materials.

MAC300YB (材料化学 / Materials chemistry 300)

分子エレクトロニクス

見附 孝一郎

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子エレクトロニクスデバイスの基礎に関する授業である。

有機分子や金属錯体分子などの基本を学び、有機機能物質を概観し、具体的なデバイス例をとおして、構造化技術、有機・無機ナノデバイスの基礎と応用を修得する。金属、半導体、分子性固体の多様な物性を認識し、機能性物質としての応用や有機分子デバイスの開発の背景までの広範囲の知識を得る。とくに有機高分子エレクトロニクスの近年の活況に関する講説を受ける。

【到達目標】

ヒュッケル近似を核とする量子論、及び固体電子論等の基礎を復習するとともに、それらが分子エレクトロニクスという実応用においてどのように役立つかを考究する。多様な物質の電子構造に基づく光物性・導電性・磁性を考察する。対象となる物質は、有機化合物、遷移金属錯体、無機化合物、ナノ粒子などである。分子エレクトロニクスデバイス実装例から、「材料としての機能性分子開発」と「デバイスとしての機能発現」、そして「デバイスを実現するための技術開発」を総合的に理解し、背景にある物理学と化学を把握することを目指す。機能性固体の利用例として、有機EL、半導体レーザー、有機太陽電池などのクリーンエネルギー技術についても学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

8月上旬の連続した3日間の集中講義形式で授業を行う。

- ・学生の学修支援のため、WebClassを利用する。
- ・初日の午前と午後、2日目の午前と午後、3日目の午前に演習問題が課される（時間は30分程度）。学生はそれら5回の演習問題に解答し答案を提出する。第1回から第4回までは、採点された答案を学生が受け取ることでフィードバックが実施される。各人の解答に教員のコメントや提案が付けられることもある。第5回の演習問題に限っては、解答例のみ配布する。
- ・最終日の3日目の午後に、「共役ポリエンにおけるヒュッケル近似、遷移金属錯体の物性、光学遷移の選択則を題材にした試験」を行う（60分程度）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入ガイダンス、序論	物性とは何か。対象物質、光物性、導電性、磁性に関し特徴的な例を挙げる
2	物質の電子構造	分子軌道論、変分法やハートリーフォック近似
3	ヒュッケル近似に基づいた軌道安定化	クーロン積分、共鳴積分、重なり積分。永年方程式を解き、軌道間相互作用を学習する
4	共役ポリエンのヒュッケル近似	鎖状 π 共役ポリエンの固有エネルギーと固有関数。エチレンとブタジエンを例にとる

5	環状 π 共役ポリエンの電子構造、ヒュッケル則	ドナー・アクセプター分子の設計指針。共役ポリエンの光物性。ベンゼンやシクロブタジエンを例に取る。
6	遷移金属錯体論、幾何構造とエネルギー分裂	命名法と化学式。配位子と構造。結晶場理論と分光化学系列
7	遷移金属錯体の電子構造と物性	分子軌道法に基づいた配位子場理論。遷移金属錯体の光物性と磁性。スピントロニクス
8	機能性分子の光物性	HOMO→LUMO遷移の遷移双極子モーメント。光学遷移の選択則。ブタジエンやヘキサトリエン
9	光誘起や脱励起の物性現象	エキシマーまたは励起子の形成。光励起電子移動。ヤブロンスキー図を理解する
10	金属や半導体の電気伝導	固体物性の基礎。バンド構造、フェルミ準位、仕事関数や真空準位の説明
11	ポリエンの電気伝導度と電子移動度	ポリチオフェンのパルス電解生成。電気化学測定の実例
12	半導体の基本理論、電子と正孔およびPN接合について	PN接合の平衡状態、順方向と逆方向のバイアス、有機半導体と金属の界面のエネルギー構造、ショットキーモデル
13	発光・受光素子、有機EL、半導体レーザー	発光素子の動作原理。分子間エネルギー移動、電子と正孔の再結合、有機ELの発光機構
14	色素増感太陽電池、有機薄膜太陽電池、ペロブスカイト太陽電池	太陽電池の作製法と評価法。励起子の輸送と電荷分離

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業前に、これまでに履修している科目の復習をしておいて欲しい。特に量子力学（水素分子、エチレンなど）、指定した参考書、または配位子場理論、固体物理等の入門書などに目を通しておくと、授業内容が頭に入りやすい。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めない。

【参考書】

キッテル固体物理学入門 第8版（上・下）C. キッテル著 宇野、他訳（丸善）
現代物性化学の基礎 第3版 小川・小島編（講談社）
分子エレクトロニクスの基礎 森健彦（化学同人）
有機半導体のデバイス物性 安達編（講談社）
物性化学 菅原正著（裳華房）
自然科学ヒストリア、16章、見附著（瀬谷出版）ISBN978-4-902381-44-3

【成績評価の方法と基準】

講義中に例題や演習を適宜行って、以下の項目に基づいて評価する。

- （1）授業中の質問に対する学生の応答 20%
- （2）5回の演習問題に対する解答内容から理解度を測る 50%
- （3）3日目午後の「共役ポリエンにおけるヒュッケル近似、遷移金属錯体の物性、光学遷移の選択則を題材にした試験」 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業担当前任者からの申し送りとして、学生の理解を深めるために確認問題や演習問題の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

講義形式で授業を進める。主にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

授業中の質問は随時可能。質問はメールやWebClassでも受け付ける。5回の演習においては周りの受講生と議論しても構わないが、まずは自分でしっかり考えてみることを望ましい。3日目午後の試験では、独力で問題に取り組まなければならない。

【Outline (in English)】

This class covers the fundamentals of organic and inorganic electronics.

Students will learn the basics of organic molecules and transient metal complex molecules, take an overview of organic functional materials, and through specific device examples, study the fundamentals and applications of structuring technology and organic and inorganic nano-devices.

Students will recognize various physical properties of metals, semiconductors, and molecular solids. They will gain a wide range of knowledge, from their applications as functional materials to the context of the development of organic molecular devices. In particular, students will receive lectures on recent topics in electrical and electronic properties of polymer and organics.

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

蛋白工学

竹田 哲也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タンパク質の機能を理解し、それを改変・最適化・創出する技術について学ぶ。遺伝子組換え技術を基盤として、変異導入、指向性進化、抗体工学など、実用化されている技術を中心に扱う。タンパク質の細胞内での品質管理機構や翻訳後修飾など、細胞生物学的観点も含め、医療・産業分野での応用例を通じて、タンパク質工学の社会的意義を理解する。

【到達目標】

以下の能力を習得する：

1. タンパク質の構造と機能の関係を理解し、改変の戦略を立てられる
2. 組換えタンパク質の生産・精製技術、および細胞内品質管理機構を説明できる
3. 変異導入と指向性進化の原理と応用を理解する
4. 抗体工学とタンパク質医薬の開発プロセスを説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面講義形式で行う。資料はHoppiiシステムを通じて配布する。小テストや課題を通じて理解度を確認し、次回講義でフィードバックを受ける。授業中の質疑応答やディスカッションへ積極的に参加することが期待される。なお、本年度は新担当教員による初回のため、授業内容は進捗状況や学生の理解度に応じて調整する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	タンパク質工学の概要、歴史、応用分野
2	タンパク質の構造と機能	構造の基礎、構造-機能相関、データベース
3	タンパク質の安定性とフォールディング	フォールディング、安定化要因、シャペロンの役割
4	タンパク質の品質管理	小胞体でのフォールディング、ERAD、UPR、凝集
5	組換えタンパク質生産 (I)	発現系の選択、ベクター設計
6	組換えタンパク質生産 (II)	精製技術、品質評価、封入体とリフォールディング
7	翻訳後修飾と発現系	糖鎖修飾、リン酸化、発現系による違い
8	変異導入技術	部位特異的変異、ランダム変異、DNAシャッフリング
9	指向性進化 (I)	原理と方法論、ノーベル賞研究
10	指向性進化 (II)	ディスプレイ技術と応用
11	酵素工学	酵素改変、産業応用
12	抗体工学	抗体の基礎、作製技術、抗体医薬
13	タンパク質医薬と最新技術	タンパク質医薬の開発、AI・計算科学、デノボ設計、総括
14	総括	講義全体の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
事前配布資料に目を通してから授業に臨む。課題や小テストは評価に反映されるため、期限内に提出する。生化学の基礎（特にタンパク質の構造と機能）については復習しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『レーニンジャーの生化学（上・下）』第7版、廣川書店（2019）
Lehninger Principles of Biochemistry, 8th ed., W.H. Freeman & Co. (2021)
『基礎からしっかり学ぶ生化学』羊土社（2014）
『細胞の分子生物学 原書第7版』メディカル・サイエンス・インターナショナル（2025）
Molecular Biology of the Cell, 7th ed., W.W. Norton & Co. (2022)

【成績評価の方法と基準】

期末試験：60%

小テスト・レポート課題：20%

授業への積極的参加：20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新担当教員による講義となり、内容を一部見直した。学生からの意見や要望を積極的に取り入れ、授業内容や進め方を適宜改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC等（Hoppiiシステムへのアクセスのため）

【その他の重要事項】

本年度より担当教員が変更となる。

【Outline (in English)】

In this course, students will explore the principles behind protein function and the technologies used to modify, optimize, and create proteins from scratch. Starting from the foundation of recombinant DNA technology, students will engage with cutting-edge techniques that have already found real-world applications, from site-directed mutagenesis and directed evolution to antibody engineering. Beyond the bench, students will also examine how cells themselves manage protein quality and apply post-translational modifications, bringing a cell biology perspective into the picture. Through case studies drawn from medicine and industry, students will come to appreciate not only the technical power of protein engineering, but also its broader significance for society.

APC300YA（複合化学 / Applied chemistry 300）

生物有機化学

芝 清隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 学生は、生命をその構成要素である「有機化合物」と、それらの相互作用によって形成される「システム」の両面から理解することを目指します。授業前半では、細胞を構成する「有機化合物」（脂質、糖、タンパク質、核酸など）について基礎的理解を深めます。後半では、これらの相互作用から生まれる生命活動を、遺伝情報の複製・転写・翻訳、エネルギー獲得システム、高次生命情報の生成などの観点から探求します。本授業では、「有機化合物」を静的な物質としてではなく、宇宙誕生からの138億年、生命誕生からの40億年といった多様な時間スケールの中で脈動する「動的な存在」として捉えます。また、未来の生命科学を先取りするため、代謝経路、信号伝達経路、ゲノム構造などの公共ナレッジ・プラットフォームを用いた実践的なネットでの演習を体験します。これにより、生命科学の基礎知識に加え、これまでの暗記中心の学びとは一線を画す「ちょっと大人の生物学」という新たな視座を獲得することができます。		2	混沌 ～分かんると分かんなく なる～	地球上の無数の生物が持つ「多様性」と「同一性」の問題を理解します。科学における「分けること」と「理解すること」といったあたりまえの作業と、「細部が分かるほど、全体が見えなくなる」という認識論の大問題との関係で考察します。この問いは、第12回で扱う「ゲノムの全容が判明すると、いっそう謎が深まる」という現代科学の逆説へと繋がる重要な視座となります。
【到達目標】 本講義の履修を通じて、学生は以下の能力を身につけることを目標とします。 - 宇宙誕生から現在に至る時間軸の中で、生体有機化合物がどのように形成・進化してきたのかを体系的に説明できる。 - 「分子の階層性」という視座を用いることで、複雑な生命現象がシンプルな構築原理から生まれていることを論理的に理解し、説明できる。 - 生命科学の知が集結するナレッジ・プラットフォーム（KEGG, Reactome, AlphaFold等）に触れることで、生命システムの進化や複雑性について、具体的な事例を挙げて考察できる。 - 生物学の歴史的変遷を学ぶことで、人類の「知」の探究がどのように進化してきたかを理解し、未来の科学技術のあり方について自身の見解を述べることができる。 - 多角的な視点から生命を捉え直すことで、既存概念にとらわれない「生命に対する新たな見方（大人の智慧）」を修得し、それを自らの言葉で表現できる。		3	HORTA ～シンプルなのに複雑～	細胞を構成する多種多様な有機化合物も、実はわずか6種類の元素（H, C, N, O, P, S）の組み合わせに過ぎません。宇宙誕生から続く「階層性」と「創発性」の原理を解き明かします。「水」と「油」という視点から、複雑な生体有機化合物の本質に迫ります。分子構造の根底にある「電子の偏り」を理解することで、多様な名称に惑わされない統一的な視点を導入します。中世の錬金術師による「人工生命」への挑戦を紹介し、生命はいかにして誕生したのかという人類普遍の問いに迫ります。それに対し、科学の歴史がどのように客観的な実験を通じて答えを導き出そうとしてきたかを概観します。同時に、現代科学の思考基盤である「演繹」と「帰納」について深い知識を身につけ、実証的な知のあり方を学びます。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 DP2		4	Moby Dick ～全ては電子の偏り～	生物学史上最大の発見の一つである「DNA二重らせん構造」を追体験します。20世紀前半の物理・化学・生物学がどのように結晶化し、分子生物学という新たな扉を開いたのかを紐解きます。
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		5	ホームクルス ～禁忌への挑戦～	遺伝情報の複製・転写・翻訳を復習します。また、DNA構造に潜む黄金比や10進法、単位系との不思議な関係やピタゴラスの神秘的な観察を紹介。「我々は実験と観察だけで、経験を超えた絶対的真理に到達できるのか？」という根源的な問題を考えてみます。第1回で学んだ細胞の定義を振り返り、生命を「区切る」脂質膜の物理的・化学的役割から生命誕生の起源を再考します。さらに、現代のゲノム操作技術へと視点を移し、絶滅種の復活計画やクローン技術、ゲノム編集による遺伝病治療の最前線を紹介します。生命の根源に触れるこれらの技術に対し、かつては不可侵（Sacrosanct）とされた領域へ我々はどこまで踏み込むべきなのか、各自の倫理観を問い直します。
【授業の進め方と方法】 学生は、事前に配布される授業資料を予習した上で講義に臨みます。講義では、最新のトピックス紹介や多角的な視点からの解説を通じて、生命科学への理解を深めます。 毎回の授業冒頭では、前回の課題解説や受講生からの質問に対する回答を行い、学習状況に応じたフィードバックを実施します。小テストは学習支援システムを用い、授業内回答のものと、授業後提出の課題の2種類で行います。本授業では、生成AIを「知的な対話パートナー」として活用することを強く推奨します。難解な課題に対してAIと議論を交わし、自らの思考を深めるプロセスを重視します。ただし、AIの回答には誤りが含まれる可能性（ハルシネーション）や倫理的な課題といった「危険性」についても詳しく解説します。これらを通じて、AI時代の社会人に必要な批判的思考力を養います。後半の授業では、公共の生物系各種ナレッジ・プラットフォームを用いた実習を行います。スマートフォンでも対応可能ですが、複数の画面を並行して扱う操作性や視認性を考慮し、可能であればノートPCやタブレットの持参を推奨します。		6	1953 ～4から∞～	宇宙138億年の歴史の中で、生命の誕生は偶然か必然か。ダーウィンの進化論の本質を捉え直し、生命の連続性と変化のメカニズムについて、科学的かつ壮大な文脈から検討を加えます。「生命は負のエントロピーを食べている」という物理学者シュレーディンガーの洞察を手がかりに、生命現象をエネルギー論的に理解します。生命が「秩序」を維持するために、どのように宇宙のエネルギーを取り込んでいるのかを探求します。さらに、「生命の進化」を「宇宙の進化」の大きな文脈の中で捉え直すことで、より高次元視点から世界を理解する能力を養います。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		7	DNA 教 ～美は真実?～	「生命は負のエントロピーを食べている」という物理学者シュレーディンガーの洞察を手がかりに、生命現象をエネルギー論的に理解します。生命が「秩序」を維持するために、どのように宇宙のエネルギーを取り込んでいるのかを探求します。さらに、「生命の進化」を「宇宙の進化」の大きな文脈の中で捉え直すことで、より高次元視点から世界を理解する能力を養います。
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		8	ユカちゃん ～Sacrosanct：踏み込むべきか？～	
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		9	心霊現象研究協会 ～未完の自由～	
回	テーマ	内容		
1	修道院 ～すべての細胞は細胞から～	授業全体の概要と評価方法を解説。 生物学の基本原則「すべての細胞は細胞から」を軸に、細胞の発見と認識の歴史を科学的観点からたどり、生命に対する新たな視座を獲得します。		
			10	負のエントロピーを食す ～秩序の創発と方向性～

- 11 エレクトロンパレード
～力が先か、知恵が先か～
- 12 たった2万数千個
～ゲノムという他者～
- 13 北京の蝶
～因果から相関へ～
- 14 サイバネティクス
～世界はただ、そういうふうになっているのだ～
- 第4回で学んだ「電子の偏り」をより大きな枠組みで再考し、生命の本質における「エネルギー」と「情報」の関係性を探究します。情報の担い手であるDNAが注目された20世紀の生物学に対し、本講では「生物はエネルギー変換を行う精緻な機械である」という別視点を提示します。エネルギーが先か情報が先かという起源学上の難問を考察し、生物系ナレッジ・プラットフォームの実習を通じて、これら両面を統合した現代の生命情報活用の実践を学びます。ヒトゲノムが持つ意外な「単純さ」と、その98.5%を占める非コード領域の謎に迫ります。ウイルス等の外来DNAの痕跡を含むゲノムの実態から、生物進化の驚くべき姿を理解します。また、「ゲノムは我々の設計図なのか、それとも我々はDNAの乗り物に過ぎないのか」「我々は遺伝子によってどの程度規定されているのか」といった難問を考察し、解析が進むほどに深まる生命の不可思議について考えます。
- 20世紀の生物学が「因果関係」を追究する学問であったのに対し、今世紀の生物学はビッグデータに基づき「相関関係」を重視する新しい科学へと変貌を遂げました。この変化に伴い、現代における「科学的真理」の定義がどう整理されるべきか、またAIテクノロジーがこの流れをどのように加速させているのかを学びます。医療現場や疾患研究の最前線を例に、複雑系としての生命を理解するための新たな思考法を身につけます。生命をシステムとして捉える科学は、戦後の「サイバネティクス」から、複雑性の科学、システムバイオロジー、ゲノムサイエンスへと姿を変えながら進化してきました。本講では、物質から情報、そしてマインド（心）を一貫通貫に理解しようとする人類の智慧の歩みを辿ります。爆発的な進化を遂げるAIがこの探求に何をもたらすのか、そして生命がデジタル知性と共生することで、宇宙誕生138億年目にして新たな「生命体」が創発するのか。次世代を担う若者たちへ、未来を展望する広い視野を提示します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1回につき4時間を標準とします。学生は以下のサイクルを通じて、授業内容の定着と深化を図ります。

【予習】事前に配布される授業資料を読み込み、専門用語や論理の構成について十分に予習した上で講義に臨みます。

【確認と復習課題】授業中、および終了時に、学習支援システムを通じて提示される課題に取り組み、指定された締め切りまでに回答を提出します。

【フィードバックの活用】授業内容に関する疑問点は、授業後に学習支援システムを用いて質問します。提出した質問や課題に対する次回の授業冒頭での解説を確認することで、自らの理解をより確かなものにします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません

【参考書】

学生が授業の理解を深め、自主学習を進める上で有効な文献として以下を挙げます。

『入門 生化学』出版社：裳華房、著者：佐藤 健 生化学の基礎を体系的に学ぶための標準的な参考書です。プリント版：2,640円 / 電子版：2,376円（2026年調べ）

『細胞の分子生物学』出版社：ニュートンプレス、翻訳第7版 世界的に定評のある生命科学のバイブルです。非常に高価であるため、個人で購入する必要はありません。大学の図書室などで必要な箇所を適宜参照し、深い知識を得るために活用してください。

その他 各回の授業内容に関連する図書やウェブサイトの情報は、その都度、学習支援システムで紹介します。自身の知的好奇心に従って視野を広げたい学生は、それらの情報を参考してください。

【成績評価の方法と基準】

本講義の「到達目標」の達成度を測るため、以下の配分で総合的に評価を行います。

【平常点】（70％） 毎回の授業中に実施する小テスト、および授業終了時に学習支援システムを通じて提示する「理解度確認課題」の結果を評価対象とします。これらを通じて、各回のテーマに対する理解度等を評価します。

【期末テスト】（30％） 学期の最後に、講義内容全体を総括する試験を学習支援システムを通じて実施します。生命を分子とシステムの視点から捉える「新たな視座」が身についているかを確認します。

【判定基準】合計100点満点とし、60点以上の得点をもって合格と判定します。【欠席時の取扱い】授業への出席は単位修得の前提条件ですが、病欠、学会・試合への出場など、やむを得ない事情で欠席する場合は、必要書類を提出した受講者に限り代替課題を課し、これを平常点の評価対象とします。欠席時の具体的な手続きや代替課題の詳細については、学習支援システムにて周知します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生からは、「AIツールを用いた演習が刺激的だった」「広い視点で生命を捉え直すことができた」という高い評価を得ました。一方で、AIが生成する情報の真偽に戸惑う声も寄せられました。

これらを踏まえ、今年度はAIの活用をさらに深め、単なる便利ツールとしての利用に留まらず、「科学における真理とは何か」という本質的な問いを考える材料とします。AIのハルシネーションや、判別不可能な生成動画などの具体例を通じ、プラトン、カント、そしてデカルトらが問いつけた「真理のあり方」について議論します。

とりわけ、全ての既成概念を一度「疑う」ことから出発し、揺るぎない『明晰』さを希求したデカルトの態度は、情報が氾濫する現代を生きる若者にとって、今最も必要とされる教えであると考えます。

学生がAIとの対話や批判的検証を繰り返すプロセスを通じて、科学上の「絶対的真理」を疑い、自らの頭で「真実」を模索する「知の誠実さ」を身につけることを目指します。また、学生からのリクエストには随時応え、最新のトピックスを柔軟に授業へ反映させていきます。

【学生が準備すべき機器他】

【学習支援システム（Hoppii）へのアクセス環境】授業中に行う小テストや、資料の閲覧、課題の提出に学習支援システムを利用します。必ずこれらにアクセス可能な状態で出席してください。

【通信機器（ノートPC・タブレット・スマートフォン）】後半の授業では、生命科学の知が集結するナレッジ・プラットフォーム（KEGG, Reactome, AlphaFold等）を活用した実習を行います。スマートフォンでも受講可能ですが、視認性、操作性を考慮し、可能であればノートPCやタブレットの持参を強く推奨します。

【生成AIの利用環境】授業で推奨する生成AIの利用にあたっては、大学が提供するアカウントや、各自で利用可能な無料プランの範囲内で対応可能です。特定の有料プランへの加入は必要ありません。

【その他の重要事項】

●昨年度本授業を履修した学生さんたちの感想です

*「大学の講義」というイメージにぴったりな幅広い分野の知識を得ることができました。生物学の知識はもちろん、教養を深めたい人におすすめです。

*講義名ほど堅苦しい内容ではなく、身近な事象や哲学に結び付けて砕けた内容として学ぶことができる、非常に興味深い講義でした。

*生物学の歴史を、アリストテレスから現代まで一つの大きな物語として学ぶことができます。単なる暗記ではなく、発見の「流れ」を理解したい人に最適です。

*理系の分野だけでなく、歴史や哲学などいろんな視点から生物を学びたい人におすすめ。今まで学んだことのない方向から生命を捉え直せます。

*授業の冒頭で流れる映像や、さまざまなサイトでのシミュレーションが特徴的で、視覚的にも飽きることなく楽しめます。

*授業開始時に「普段見ないような動画」からスタートするので新鮮味があります。初学者にも分かりやすく丁寧な解説なので安心です。

*環境応用化学科ですが、普段の専門授業では学べないような刺激の内容をたくさん学べました。他学科の学生にもぜひ受けてほしいです。

*生物未履修の化学科でしたが、タメになる余談が多く、楽しく学べました。授業をしっかりと聞いていれば単位を落とすこともないので、気軽に挑戦できます。

*歴史も含めた生物学を包括的に学べるだけでなく、学生のささいな質問にも真剣に答えてくれる先生の姿勢がとても良かったです。

*毎回の授業中に小テストがあるため、その日の重要なポイントが把握しやすく、復習の効率も非常に高い授業です。

【Outline (in English)】

In this course, students will explore "life" from the dual perspectives of its fundamental building blocks—organic compounds—and the dynamic "systems" created through their interactions.

The first half of the course focuses on developing a foundational understanding of the organic compounds that constitute cells, such as proteins, lipids, and carbohydrates. In the second half, students will investigate life activities emerging from these interactions, including genetic replication, transcription, translation, energy acquisition systems, and the generation of higher-order biological information.

A key feature of this course is that students will not view organic compounds as static matter, but as "dynamic entities" pulsating within vast timescales: 13.8 billion years since the birth of the universe and 4 billion years of biological evolution. To stay ahead in the future of life sciences, students will gain hands-on experience using cutting-edge tools, such as cancer genome databases and AI applications like AlphaFold.

By the end of the course, students will acquire a new perspective called "Biology for Adults"—a framework that moves beyond rote memorization to dynamically interpret the logic of life within a cosmic context.

AGC300YA（農芸化学 / Agricultural chemistry 300）

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持てるようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、講義資料は学習支援システムを介して配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－ 小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（60%）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

For this lecture, a work outside of class is not needed particularly, but the content of the lecture may be familiar for you and your daily life. So, the knowledge you will get in the lecture may be anticipated to be applicable for your healthy life.

For grading, your attitude in the class (10%), midterm test (30%), and final test (60%) will be evaluated. Both the midterm test and the final test will assess the level of understanding of the lecture content.

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

生体超分子

曾和 義幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

酵素反応・エネルギー変換・情報伝達などの多くの機能を内包する生体分子モーターに着目し、生体内で機能するタンパク質複合体について学ぶ。また、生体分子モーターの研究とともに発展した1分子計測技術の基本を学ぶ。

【到達目標】

細胞内における分子の動きに注目し、その動きを捉えるために必要な知識を得る。近年発展している生物学とナノテクノロジーの融合分野について知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、定量的に生命現象を理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体超分子について概説する。
2	生体を構成する分子の特徴とスケール	生物にみられる階層性とそのスケールについて概説する。
3	生体分子モーターの基本	生体分子モーターの種類・エネルギー源・構造などの基本情報を概説する。
4	細胞内における分子のブラウン運動(1)	分子の動きについて流体力学的観点から概説する。
5	細胞内における分子のブラウン運動(2)	分子の動きについて理解するために、1次元ランダムウォークを導入する。
6	細胞内における分子のブラウン運動(3)	演習をおこなう。表計算ソフトを利用して、1次元ランダムウォークを発生させる。その計算結果を検討し、分子運動への理解を深める。
7	細胞内における分子のブラウン運動(4)	細胞内でランダムウォークする分子の具体例をあげて、その動きを計算する。
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
9	生体分子モーターの計測手法	生体分子モーターの動きを計測する手法について概説する。
10	蛍光観察法	蛍光観察法の利点・生物学への応用例について解説する。
11	分子イメージング	1分子の蛍光分子を見る手法について解説する。超解像顕微鏡について概説する。
12	分子操作・ナノ計測	分子を操作する技術、分子の動きをナノメートルの精度で計測する技術の解説をおこなう。

13	生体分子モーターの研究	生体分子モーターの機能解析の歴史について概説する。
14	総括	講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、物理的な視点で生体分子の動きをとらえるために、簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。また、各講義で取り扱うトピックに関連して紹介した論文を読む。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

大沢文夫「講座：生物物理学」丸善
石渡信一編「生体分子モーターの仕組み」共立出版
など

【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、試験を実施できない事情があった場合、適宜課す予定のレポート・演習で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義でおこなう演習の例数を増やし、できる限り丁寧に紹介したい。また、PCを使った演習も引き続きおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

演習で貸与PCを用いる。

【その他の重要事項】

元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から、生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of single molecule biology. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (50%) and term-end examination (50%).

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

基礎有機化学 I

河内 敦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学 I および II を通して有機化学の基本事項について学ぶ。

2022年度から新しい教科書になりました。それにともない講義の方法も変えました。

これまで、教科書の要点を資料（パワーポイント）にまとめてそれを講義で説明するという方式をとってきました。パワーポイントはあくまで要点をまとめたもので、受講生は講義後に教科書の該当箇所を読んで復習することを前提としていました。しかしいつのまにか、パワーポイントに書いてあることだけを勉強すればいいのだという風潮が出てきました。ことあるごとに教科書を読むようにと訴えてきましたがあまり通じなかったようです。そこで2022年度から、基本的には資料（パワーポイント）を用いずに、教科書をもとに講義を進めていきます。教科書をスクリーンに投影しての授業になりますので、教科書を持っていることが前提になります。受講生には「教科書をよく読む」という姿勢を身につけてもらいたいです。それにより有機化学の体系化を目指します。

【到達目標】

(1) 有機化合物の種類と性質について基本的な事項を理解する。
 (2) 有機化合物の構造、反応および合成についての基本事項を学ぶ。
 個々の事項を暗記するのではなく、有機化学全体を貫く考え方を身につけることを目標にしたい。そのために、教科書を繰り返し読んで、有機化学の論理体系（考え方の筋道）を身につけてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「スクリーンへ教科書を投影する」及び「黒板へ板書する」ことを中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。
 授業の理解度をチェックするために「演習シート」（紙媒体）を用いて基本事項の確認を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	有機化学の歴史
第2回	1章 化学結合と混成軌道(1)	原子と原子軌道，電子配置
第3回	1章 化学結合と混成軌道(2)	化学結合と原子価，分子の極性，Lewis 構造式
第4回	1章 化学結合と混成軌道(3)	分子の形と軌道（混成軌道）
第5回	2章 有機化学に関する基礎知識	表記法，構造異性体，酸化数，共鳴，有機化学反応の基礎
第6回	3章 酸と塩基	酸と塩基の定義，強さの尺度，酸性度，塩基性度，pKa
第7回	4章 アルカンとシクロアルカン(1)	アルカンの命名法，立体配座
第8回	4章 アルカンとシクロアルカン(2)	シクロアルカンの形，立体配座
第9回	4章 アルカンとシクロアルカン(3)	置換シクロアルカンの異性体
第10回	5章 有機立体化学(1)	キラリティー，CIP 順位則
第11回	5章 有機立体化学(2)	エナンチオマー，Fischer 投影式
第12回	8章 有機ハロゲン化合物(1)	構造，命名法，合成
第13回	8章 有機ハロゲン化合物(2)：置換反応	二分子求核置換反応，
第14回	8章 有機ハロゲン化合物(3)：置換反応	単分子求核置換反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
 教科書，板書ノート，配布プリントを復習する。特に教科書は繰り返し読んで、自分の中に有機化学の一本の筋道を作ること。

【テキスト（教科書）】

・松島芳隆，渡邊総一郎，古荘義雄著「基礎講座 有機化学」化学同人

【参考書】

サブテキストとして：

・赤染元浩，河内敦，松本祥治，三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率および課題提出率が6割に満たない場合は成績評価の対象としない。
 成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。

期末試験(80%)＋課題(20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項を確実に理解させることに努める。

【Outline (in English)】

(Course outline)

You learn basic organic chemistry through "Basic Organic Chemistry I"(spring term) and "Basic Organic Chemistry II"(fall term).

In "Basic Organic Chemistry I"(spring term), you can learn the basic concepts of organic chemistry including bonding in organic molecules, nomenclature of organic compounds, stereochemistry, acids and bases, nature and reactions of alkanes, alkenes, and alkynes.

(Goal)

(1) Students will understand basic types and nature of organic compounds.

(2) Students will learn structures, reactions, and synthesis of organic compounds.

Students should read the textbook repeatedly to learn the concept of organic chemistry consistently.

(Work to be done outside of class)

Students should review the textbook, note, and printed matter.

(Grading criteria)

Students must attend the class (60%) and submit the assignment

Term-end examination: 80%; Assignments: 20%

(Schedule)

1. Introduction
2. Chemical Bonding and Hybrid Orbitals(1)
3. Chemical Bonding and Hybrid Orbitals(2)
4. Chemical Bonding and Hybrid Orbitals(3)
5. Basic Knowledge of Organic Compounds
6. Acids and Bases
7. Alkane and Cycloalkane(1)
8. Alkane and Cycloalkane(2)
9. Alkane and Cycloalkane(3)
10. Organic Stereochemistry(1)
11. Organic Stereochemistry(2)
12. Organohalides(1): Substitution Reactions
13. Organohalides(2): Substitution Reactions
14. Organohalides(2): Substitution Reactions

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

基礎有機化学 I II

河内 敦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学 I に続いて有機化学の基本事項について学びます。そのため、春学期の基礎有機化学 I を受講していることが前提になります（基礎有機化学 I 未受講者に対する特別な配慮はおこないません）。

2022年度から新しい教科書になりました。それにともない講義の方法も変えました。これまで、教科書の要点を資料（パワーポイント）にまとめてそれを講義で説明するという方式をとってきました。パワーポイントはあくまで要点をまとめたもので、受講生は講義後に教科書の該当箇所を読んで復習することを前提としていました。しかしいつのまにか、パワーポイントに書いてあることだけを勉強すればいいのだという風潮が出てきました。ことあるごとに教科書を読むようにと訴えてきましたがあまり通じなかったようです。そこで2022年度から基本的には資料（パワーポイント）を用いずに、教科書をもとに講義を進めていきます。教科書をスクリーンに投影しての授業になりますので、教科書を持っていることが前提になります。受講生には「教科書をよく読む」という姿勢を身につけてもらいたいです。それにより有機化学の体系化を目指します。

【到達目標】

(1) 有機化合物の種類と性質について基本的な事項を理解する。
(2) 有機化合物の構造、反応および合成についての基本事項を学ぶ。
個々の事項を暗記するのではなく、有機化学全体を貫く考え方を身につけることを目標にしたい。そのために、教科書を繰り返し読んで、有機化学の論理体系（考え方の筋道）を身につけてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「スクリーンへ教科書を投影する」及び「黒板への板書する」ことを中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。
授業の理解度をチェックするために「演習シート」（紙媒体）を用いて基本事項の確認を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	8章 有機ハロゲン化合物(1)	有機ハロゲン化合物の復習：置換反応
第2回	8章 有機ハロゲン化合物(2)	二分子脱離反応と単分子脱離反応
第3回	9章 アルコールとフェノール(1)	アルコールおよびフェノールの構造と命名法、物理的性質
第4回	9章 アルコールとフェノール(2)	アルコールおよびフェノールの合成と反応
第5回	10章 エーテルとエポキシド(1)	エーテルの構造と命名法、合成、反応
第6回	10章 エーテルとエポキシド(2)	エポキシドの構造と命名法、合成、反応
第7回	6章 アルケンとアルキン(1)	アルケンの命名法、立体配置、求電子付加反応
第8回	6章 アルケンとアルキン(2)	アルケンの反応と合成（求電子付加反応を中心に）
第9回	6章 アルケンとアルキン(3)	アルキンの反応と合成
第10回	7章 芳香族化合物(1)	ベンゼンとベンゼン環
第11回	7章 芳香族化合物(2)	芳香族求電子置換反応
第12回	7章 芳香族化合物(3)	芳香族求電子置換反応における置換基効果
第13回	15章 アミンとそれに関連した窒素化合物(1)	アミンの構造と命名法、性質
第14回	15章 アミンとそれに関連した窒素化合物(2)	アミンの塩基性と求核性、合成と反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書、板書ノート、配布プリントを復習する。特に教科書は繰り返し読んで、自分の中に有機化学の一本の筋道を作ること。

【テキスト（教科書）】

・松島芳隆、渡邊総一郎、古荘義雄著「基礎講座 有機化学」

【参考書】

サブテキストとして：

・赤染元浩、河内敦、松本祥治、三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率および課題提出率が6割に満たない場合は成績評価の対象としない。
成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。

期末試験(80%)＋課題(20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項の理解に努める。

【Outline (in English)】

(Course outline)

You learn basic organic chemistry through "Basic Organic Chemistry I"(spring term) and "Basic Organic Chemistry II"(fall term).

In "Basic Organic Chemistry II"(fall term), you can learn the basic concepts of organic chemistry including synthesis, reactions, structures, and natures of aromatic compounds, alcohols, ethers, epoxides, ketones, aldehydes, carboxylic acids, carboxylic acid derivatives, and amines.

(Goal)

(1) Students will understand basic types and nature of organic compounds.

(2) Students will learn structures, reactions, and synthesis of organic compounds.

Students should read the textbook repeatedly to learn the concept of organic chemistry consistently.

(Work to be done outside of class)

Students should review the textbook, note, and printed matter.

(Grading criteria)

Students must attend the class (60%) and submit the assignment

Term-end examination: 80%; Assignments: 20%

(Schedule)

1. Review of Organic Halides
2. Organic Halides: Elimination Reactions
3. Alcohols and Phenols(1)
4. Alcohols and Phenols(2)
5. Ethers and Epoxides(1)
6. Ethers and Epoxides(2)
7. Alkenes and Alkynes(1)
8. Alkenes and Alkynes(2)
9. Alkenes and Alkynes(3)
10. Aromatic Compounds(1)
11. Aromatic Compounds(2)
12. Aromatic Compounds(3)
13. Amines and Other Nitrogen Compounds(1)
14. Amines and Other Nitrogen Compounds(2)

APC200YC（複合化学 / Applied chemistry 200）

応用環境化学

渡邊 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題で、汚染物質（化学物質）が環境中に放出された場合の汚染物質の挙動、正確な分析法と処理法について学ぶ。また汚染状況を事前に推定するために必要な汚染物質の定量的な取り扱いと、問題解決のためのモデルの立て方について学ぶ。

【到達目標】

環境中での汚染物質の挙動を理解できる。
汚染物質の正確な分析法と処理法を理解できる。
汚染物質の定量的な取り扱いができる。
環境問題解決のためのモデルの立て方とその解析法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、毎時間アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中におこなう演習について、学習支援システム等を利用してフィードバックすると共に教員が学生に問いかけをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	序論	授業の概要、進め方について説明する。
2回	汚染物質の水環境中での挙動	汚染物質の水環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
3回	汚染物質の大気環境中での挙動	汚染物質の大気環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
4回	汚染物質の土壌環境中での挙動	汚染物質の土壌環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
5回	大気、水、土壌のサンプリング	大気、水、土壌のサンプリング手法について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6回	水質分析①	BOD、COD、DO等の水質分析法について化学式を用いて説明する。
7回	水質分析②、大気分析、土壌分析	湖沼等の富栄養化の主因である窒素、リンの水質分析法、大気、土壌の分析法について化学式を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
8回	水質汚染物質の基本的処理法①	凝集沈殿、ろ過、イオン交換について説明する。
9回	水質汚染物質の基本的処理法②	吸着、触媒、酸化還元、抽出について説明する。（アクティブラーニング（演習：エクセルを用いた吸着等温式の作成））
10回	水質汚染物質の基本的処理法③	電解、蒸発、晶析、脱水（汚泥処理）について説明する。
11回	水質データの処理法	ヘキサダイアグラム等水質データの処理方法について学ぶ。（演習：エクセルを用いたヘキサダイアグラムの作成））
12回	排水モデル	都市や工場から排出された汚染物質の処理効率と河川・湖の汚染状況を解析する。
13回	地球環境モデル	地球を大気、水、生物、土壌相を含む地球環境モデルを想定し、それら環境中での汚染物質の濃度を、各種条件下で解析する。（アクティブラーニング（演習））
14回	まとめ	本授業を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】化学反応速度、吸着、物質移動係数などの化学的基礎を学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。資料がある場合、適宜配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10%）、レポート（20%）、小テスト（20%）、定期試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Environmental chemistry is the study of chemical and biochemical phenomena that occur in natural places. Applied environmental chemistry is the study of how chemistry is applied to measuring, estimating and predicting chemical phenomena in air, soil, and water environments. This course covers basic applied environmental chemistry, through the study of, behaviors of pollutants, quantitative analytical methods of pollutants and environment evaluation models. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

分子生物学 I

細谷 茂生

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細菌からヒトに至るまで、様々な生命現象を理解するには分子レベルでのメカニズムを知る必要があり、得られた知見は、医療、医薬品、食品、農業などあらゆる分野で役立てられている。本授業では、遺伝情報の複製、転写、翻訳、発現制御を中心として、様々な生命現象の分子レベルでのメカニズムについて基本的事項を学び、理解することを目的とする。

【到達目標】

受講生は様々な生命現象の分子のメカニズムを理解し、将来、社会で向き合う生命科学関連の時事問題や技術等について正しく理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

高校で生物を履修しなかった学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。毎回、リアルタイムで理解度チェックや小テストを行い、理解度を確認しながら授業を進める。また、毎宿題を実施して復習することにより、身につけた知識を定着させる。

小テスト等の結果に対するフィードバックは、授業中の他、学習支援システムを用いて行う。

本授業はZoomまたはWebexと学習支援システムによるオンラインで行い、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、細胞の成り立ち	学習のポイント、原核細胞と真核細胞の構造、細胞小器官の構造とはたらき
第2回	生物を形作る物質1（生体膜、DNA）	生体膜の構造と性質、細胞膜の役割と物質輸送、DNAの構造と性質
第3回	生物を形作る物質2（タンパク質）	タンパク質の種類と構造、酵素を中心としたタンパク質の機能とはたらき
第4回	遺伝情報の分子機構1（複製）	DNAの複製、複製のメカニズム
第5回	遺伝情報の分子機構2（組換え、転写）	相同組換えと部位特異的組換えのメカニズム、DNAと遺伝情報、転写のメカニズム、真核生物における転写の特徴
第6回	遺伝情報の分子機構3（翻訳）	翻訳のメカニズム、翻訳後修飾、突然変異、翻訳と抗生物質
第7回	遺伝情報の分子機構4（発現制御、ゲノム）	原核生物と真核生物における遺伝子発現の制御、ゲノムとは、様々な生物におけるゲノムの特徴
第8回	分子レベルで学ぶ生命の仕組み1（バクテリアとウイルス）	バクテリアの特徴と遺伝学、ウイルスの特徴とライフサイクル
第9回	分子レベルで学ぶ生命の仕組み2（シグナル伝達、神経系・内分泌系）	細胞のシグナル伝達、神経系と内分泌系のメカニズム
第10回	分子レベルで学ぶ生命の仕組み3（免疫）	免疫の全体像、自然免疫、獲得免疫、免疫と病気
第11回	バイオテクノロジー1（基礎編）	DNAやタンパク質を扱う主な実験手法の原理と概要
第12回	バイオテクノロジー2（応用編）	遺伝子組換え技術の基礎と応用例、ゲノム編集技術の概要、バイオテクノロジーの医療への応用
第13回	遺伝情報の伝達1（細胞分裂、発生）	細胞分裂と細胞周期、体細胞分裂と減数分裂、発生のメカニズム
第14回	遺伝情報の伝達2（進化）	進化のメカニズム、種分化、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習：学習支援システムにアップロードしてある資料を用いて学習する。復習においては、毎回の小テストに回答する。

予習・復習時間：各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、参考書に挙げた書籍が学習の参考になる。

【参考書】

BLUE BACKSアメリカ版 新・大学生生物学の教科書第1、2、3巻D・サダヴァ他編（講談社）
基礎分子生物学 第5版 田村隆明、村松正實 著（東京化学同人）

【成績評価の方法と基準】

小テスト（宿題）成績（30%）、期末試験成績（20%）、小テスト（授業内）成績（20%）、理解度チェックとクイズの実施（20%）、平常点（10%）で評価する。詳細はガイダンスで連絡し、変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストについて、学習支援システムを通してフィードバックを行うとともに、毎回の授業において解説と復習を行う。また、授業の始めにその回の重要なキーワードと学習のポイントを示す。

更に、クイズや理解度チェックを通し、授業内容への興味を引き出したり理解度を確認したりする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムとオンライン授業に円滑に接続できる情報機器（貸与PC等）と良好な通信環境が必要。

課題等への解答は、エラーを避けるため貸与PCを用いること。

【その他の重要事項】

ガイダンス資料の内容を必ず把握すること。また、宿題等をそのままAIアシスタントツールに回答させないこと。

第1回授業前に法政大学Gメールアドレスを取得し、そのメールアドレスで法政大学Zoom及びWebexアカウントを取得しておく。また、Zoom及びWebexアプリケーションをインストールしておく必要がある。可能な限り第1回授業から出席すること。

【Outline (in English)】

To understand various life phenomena, from bacteria to humans, it is necessary to understand the mechanisms at the molecular level, and the knowledge is useful in all fields such as medical care, medicine, food, and agriculture. The aim of this course is to help students acquire the basic matters of the mechanisms of various life phenomena at the molecular level, focusing on the replication, transcription, translation, and regulation of genes.

The goals of this course are to understand the molecular mechanisms of various life phenomena and correctly understand current topics and technologies related to life sciences.

Preparation and review: Students will be expected to have studied using files uploaded to the learning management system. In the review, you need to answer each quiz. Your required study time is at least one hour before/after each class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short exam after each class: 30%, term-end examination: 20%, short exam in class: 20%, comprehension checks and quizzes: 20%, and in-class contribution: 10%. Details will be contacted through guidance, and if there are any changes, informed in the learning management system.

BLS100YD (生物科学 / Biological science 100)

分子生物学 I

片山 映, 山中 幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の情報は全てゲノムに組み込まれている。生物は、ゲノムの遺伝情報を利用して蛋白質を合成し、蛋白質が多種多様な生体分子を合成することで、生命活動が営まれる。これら遺伝情報や生体分子の概要と、細胞機能との関連について解説する。

【到達目標】

遺伝子の構造と発現調節機能について、さらに生物を構成する基本物質の構造と機能について概説し、ゲノムから多種多様な生体分子が合成され細胞が構築される過程を統合的に理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

生体の分子構成の全体像を概観し、構成成分それぞれの構造と機能の特性を解説する。生体構成分子に関する授業内容に関連した自己学習を奨励する。また、分子生物学関連の最新の話題についても背景や原理、解析技術について解説・討論する。講義で実施する確認問題、演習、アンケートの内容に応じて、解説等のフィードバックを学習支援システムとオンライン講義にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命分子の原理	生命分子の起源と進化、細胞の構成成分
第2回	生体高分子	生体を構成する高分子の特性
第3回	核酸の分子生物学	DNA・RNAの構造と機能
第4回	蛋白質の分子生物学	蛋白質の構造と合成と機能
第5回	遺伝情報(1)	ゲノムの構造
第6回	遺伝情報(2)	ゲノムの機能
第7回	遺伝情報(3)	遺伝子発現の制御
第8回	糖質の分子生物学(1)	糖質の構造と機能
第9回	糖質の分子生物学(2)	糖質の代謝
第10回	脂質の分子生物学(1)	脂質の構造と機能
第11回	脂質の分子生物学(2)	脂質の代謝
第12回	細胞の構造と機能(1)	原核生物・古細菌
第13回	細胞の構造と機能(2)	真核生物
第14回	ゲノミクスとプロテオミクス、他	分子生物学的解析法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本講義で扱う種々の分子の複雑な構造と機能は、いずれもその構成要素の科学的性質によってもたらされるものである。したがってそれらのはたらきを理解するために、生物学と化学の基本的な知識をもつことが必須である。一般教養の関連科目を習得しているレベルが必要である。

【テキスト（教科書）】

＜教科書＞特定の教科書は指定しない。

＜具体的教育方法＞ 視覚的教材を多用して理解を深める方策を導入する。生命現象の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【参考書】

＜参考書＞

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。可能な限り、英語教科書に慣れることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞

講義後の演習問題(50%)と、期末試験(50%)の結果から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より基礎的な内容や関連した分野の説明も交えて、バックグラウンドから理解できるようにする。

【Outline (in English)】

The genome contains all biological information of an organisms. In life activities, diverse biochemical reactions are caused by synthesized proteins based on genetic information. This lecture will provide the outline of genetic information and biomolecules, and the relation with intracellular biochemical reaction. The final grade will be determined based on a comprehensive evaluation of post-lecture exercises (50%) and the final examination (50%).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

分子生物学 I I

木口 悠也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の設計図であるゲノムには生物の機能や表現型の違いを反映する遺伝情報が記述されている。本講義ではこれまでに解き明かされた遺伝情報の構造と機能の根拠となる科学的発見とそれに関連する手法論を紹介する。本講義の履修者はゲノムに関連する分子生物学の基礎知識を学び、最先端のゲノム科学を理解し発展させる素養を身につけることを目的とする。

【到達目標】

メンデル遺伝に端を発する「遺伝子の構造と機能」について、主要な科学的発見の背景と実証、用いられた技術および考察を通して、正確に理解する。これらを踏まえ、生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを分子レベルで理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の連絡や課題は学習支援システムを介して行う。授業は講義形式で行う。教員がアメリカ在住のため全て zoom による遠隔授業とする（講義の前日までに講義の zoom リンクを送信する）。特定の教科書は用いない。授業は「学習支援システム」を活用する。各授業は、それぞれで配布する資料（スライド資料）を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	分子生物学の勃興	分子生物学の歴史
第2回	遺伝子の構造と機能（1）	メンデル遺伝
第3回	遺伝子の構造と機能（2）	染色体説
第4回	遺伝子の構造と機能（3）	二重らせん構造
第5回	遺伝情報の維持（1）	レプリコン説
第6回	遺伝情報の維持（2）	複製フォーク
第7回	遺伝情報の発現（1）	一遺伝子一酵素説
第8回	遺伝情報の発現（2）	ウイルス合成の調節
第9回	遺伝情報の発現（3）	オペロン説と転写反応
第10回	遺伝情報の発現（4）	リボソームと mRNA
第11回	遺伝情報の発現（5）	遺伝暗号とアダプター分子
第12回	遺伝情報の発現（6）	コドン
第13回	まとめ	「遺伝子の構造、機能、維持、発現」のまとめ
第14回	最新研究の紹介	分子生物学に関連する最新の研究事例を紹介する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業で提示する宿題により、それぞれの内容を復習する。また、本科目を受講するには、専門科目「分子生物学 I」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることが必要である。また、「生物化学 I」、「細胞生物学 I」、「生物物理学 I」も修得し、本講義と関連する内容を理解していることを想定している。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「Essential 細胞生物学 原書第4版」（著者：B. アルバート等 監訳：中村桂子・松原謙一 南江堂）
「エッセンシャル 遺伝学」（著者：D.L. ハートル・E.W. ジョーンズ 監訳：布山喜章・石和貞男 培風館）
「第7版 ワトソン遺伝子の分子生物学」（著者：J.W. ワトソン等 監訳：中村桂子 東京電機大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

分子生物学に関する重要な発見の内容を理解した上で、「遺伝子の構造と機能」および生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを正しく捉えることができていないかを基準に、授業の取り組みや宿題を「取り組み度」（30%）、「達成度」（30%）、「理解度」（40%）としてまとめ、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システム活用に関して、「課題」機能は利用せず、「テスト／アンケート」機能のみを利用する。授業のグループワーク活用と宿題のラーニングサポーター活用を推進する。

【学生が準備すべき機器他】

zoom を使用できる PC 環境を用意すること。

【その他の重要事項】

最先端のゲノム解析技術（ハイスループットシーケンサー）を活用した細菌叢（マイクロバイオーーム）解析を専門とする研究者としての経験と知識に基づき、技術論および最新の研究トピックスにも言及する授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline] The genome is the blueprint of living organisms and contains genetic information contributing to differences in biological functions and phenotypes. This course introduces the scientific discoveries related to the basic structure and functions of genetic information and the methodologies associated with these discoveries.

[Learning Objectives] The objective of this course is to learn basic knowledge of molecular biology related to genomics and train to understand not only state-of-the-art genomic science but also develop this field of science.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with your work (30%), achievement (30%), and understanding (40%) in class assignments.

BLS100YD（生物科学 / Biological science 100）

分子生物学 I I

小見 美央

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要 本講義では、生命の連続性と多様性を支える遺伝情報の分子メカニズムを解説します。**DNA**の構造、複製、転写そして翻訳に至る情報の流れの基礎を固めた上で、メンデルの遺伝法則や、集団内での遺伝子頻度の変化を扱う集団遺伝学へと視野を広げます。さらに、最新のゲノム編集技術やバイオテクノロジーの社会的応用についても触れます。生成**AI**を活用した論文要約演習や**3MT**形式のプレゼン演習を取り入れ、多角的な理解を目指します。**授業の目的** 学生は、**DNA**という目に見えない小さな分子に刻まれた情報がいかになって個体の形質を作り出し、世代を超えて集団全体へと受け継がれていくのかという、生命の設計思想を理解することを目指します。単なる知識の暗記に留まらず、遺伝情報の変異や多様性が進化において果たす役割を考察する力を身につけ、より発展的な専門領域を理解するための基礎力を養成します。さらに、複雑な生命現象を専門外の人にも分かりやすく伝える表現力の習得も目指します。

【到達目標】

本講義終了までに、学生が以下のことをできるようになることを目標とします。
・核酸（**DNA/RNA**）の化学的特性と、遺伝情報の保持・伝達における役割を説明できる。
・セントラルドグマ（複製・転写・翻訳）の各プロセスを、分子レベルで図解・解説できる。
・メンデルの法則を理解し、家系図や交配実験から形質の遺伝様式を論理的に推定できる。
・ハーディー・ワインバークの法則に基づき、集団内での遺伝子頻度の計算と進化要因の考察ができる。
・自ら選定した英語論文について、生成**AI**を適切に活用して正しく理解し、要約を作成できる。
・複雑な遺伝現象や最新技術の意義を、専門外の人にも分かりやすく伝えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業、オンライン授業ともに講義を基本とします。複製や翻訳といった目に見えない動的なプロセスを視覚的に理解するため、動画資料を積極的に活用します。また、複雑なトピックを扱う回はオンライン開講とし、講義録画を繰り返し視聴可能にすることで、各自のペースでの理解を助けます。

演習として、課題解決型学習（**PBL**）を取り入れ、学生自身が主体的に学ぶ機会を設けます。

論文要約演習：生成**AI**を活用し、最新の英語論文の核心を捉えて論理的に整理するプロセスを経験します。

3MT プレゼン：「**3 Minute Thesis**」形式を採用し、複雑な遺伝学や分子生物学のトピックを専門外の人にも3分間で分かりやすく伝える科学コミュニケーション能力を養成します。

フィードバック方法：毎回の授業後に提出されるレスポンスペーパーに寄せられた質問や意見に対しては、次回の授業冒頭で回答し、受講者全員で共有します。プレゼン演習では、教員による講評に加え、学生同士でもフィードバックしてもらうことで、自身の発信能力を客観的に振り返る機会を提供します。クイズや中間テストの結果、および論文要約課題やプレゼンへのフィードバックは随時返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	ガイダンス 分子生物学の歴史 ゲノムの基礎	コース・評価基準の説明 歴史的な実験 ゲノムの比較 ゲノムの内訳
第2回	核酸の構造と複製	核酸の化学 ワトソン・クリック メッセルソン・スタール 半保存の複製
第3回	論文要約演習	生成 AI を活用した文献の調査・要約・理解促進

第4回	DNA複製と修復 細胞周期の制御	娘鎖合成のメカニズム テロメア DNA損傷と修復機構 チェックポイント 転写の3つの段階 転写後修飾
第5回	転写とプロセッシング	コドン ニーレンバーグ 翻訳に関わるRNA リボソーム
第6回	翻訳	16回の復習とテスト オペロン エンハンサー フィードバック機構 モルフォゲン・Hox
第7回	中間試験	遺伝子配列によらない発現制御 X染色体の不活化 インプリンティング
第8回	転写制御と発生	遺伝的多様性を維持するメカニズム メンデル・非メンデル 連鎖 組換え ゲノム解析、遺伝子操作技術
第9回	エビジェネティクス	HWの法則 中立進化説 進化の要因
第10回	減数分裂と多様性	第2回プレゼン発表会
第11回	遺伝学 分子遺伝学の応用	総復習とテスト
第12回	集団遺伝学	
第13回	プレゼン発表会	
第14回	復習&テスト	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義の内容を身につけるためには以下の授業時間外学習が必要となります。
・レスポンスペーパーの提出：講義で学んだことや疑問点をレスポンスペーパーに記入し提出する。
・講義の復習とクイズ、試験への準備：講義資料を読み直し、毎回のクイズや中間試験・期末試験に備える。
・プレゼン準備：自身が関心をもったトピックについて学術的根拠に基づいた調査を行い、専門外の人にもわかるようなプレゼン資料と科学的な背景を詳細に記述したレポートを作成する。
・生成**AI**を活用した論文要約課題：指定ジャーナルから論文を選び、生成**AI**に要約させ、それを批判的に検証した上で、それらを踏まえて自身の言葉で要約しまとめる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

本講義は春学期水曜1限の細胞生物学Iと合わせて**Life: The Science of Biology, Twelfth Edition** のPart 1～5をカバーするように設計されています。その他、以下が参考書としておすすめです。
1）ブルーバックス カラー図解 新・大学生物学の教科書 第1～3巻（「**Life: The Science of Biology Twelfth Edition**」の抜粋和訳版）
2）理系総合のための生命科学第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会／編
3）**Biology: A Global Approach, Global Edition**

【成績評価の方法と基準】

試験 50%
論文要約課題 15%
プレゼン課題&レポート 15%
平常点（ミニクイズ、レスポンスペーパー） 20%

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション課題や講義冒頭のQ&Aコーナーが好評だったので、引き続き今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

毎週のミニクイズは**Google form**を使って実施するのでスマートフォンまたはパソコンから回答する必要があります。資料配布や課題提出には**Hoppii**を使用します。

【その他の重要事項】

高校までで生物未履修の人の履修も歓迎です。本講義は春学期・水曜1限開講の細胞生物学Iと連動しています。春学期に細胞というハードウェアの成り立ちを理解し、本講義ではそのハードの上で機能する遺伝情報というソフトウェアの制御系（保守・発現・継承）を詳しく紐解きます。これら2科目を連続して履修することで、世界標準の教科書**"Life: The Science of Biology"**のPart 1～Part 5の内容を修得することを目指します。連続した履修をおすすめしますが、どちらかだけの履修も歓迎します。

生成AIの活用ポリシー：論文要約課題は生成AIの使用を必須とします。その他のレスポンスペーパーや3MTに関連する詳細レポートにおいて、自身の思考を伴わないAI生成物のそのままの提出（コピペや丸投げ）は厳禁。AIはあくまで調査・推敲の補助ツールとして活用し、最終的な論理構成と記述は自身の責任で行ってください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course explores the molecular logic of life. We will examine how genetic information is stored, maintained, and accurately expressed. Key topics include DNA replication, repair mechanisms, and the regulatory circuits that control the cell cycle and gene expression. The latter half of the course extends these molecular principles to inheritance and population genetics, incorporating modern genomic technologies such as CRISPR-Cas9. Through a combination of lectures, active learning (PBL), and a 3-minute thesis (3MT) presentation, students will develop a comprehensive understanding of how molecular processes govern life and evolution. While the primary language of instruction is Japanese, questions in English are welcome.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to:

1. Explain the molecular mechanisms of DNA replication and repair.
2. Describe the precise steps of transcription and translation, including the mechanisms of gene regulation in both prokaryotes and eukaryotes.
3. Analyze the principles of Mendelian inheritance, linkage, and the molecular basis of meiosis that generates genetic diversity.
4. Evaluate the impact of modern genomic technologies (NGS, CRISPR) on medicine and society.
5. Apply population genetics principles (such as the Hardy-Weinberg equilibrium and the neutral theory of molecular evolution) to explain the mechanisms of evolution and genetic drift.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend 4 hours per week on post-class review. This includes submitting reflection papers after each session, reviewing lecture slides for quizzes/exams, preparing for a presentation, and conducting an AI-assisted literature review.

【Grading Criteria /Policy】

Exams (50%), AI-assisted literature review (15%), Presentation (15%), Participation (quizzes and Reflection papers) (20%).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物化学 I

廣野 雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、生体を構成する主要な分子である低分子有機酸、糖、タンパク質などの構造的特徴と、それらが生体内でどのように代謝され、機能発現し、エネルギー産生に関与するかを学ぶことを目的とする。物質代謝とエネルギー産生の代表例として呼吸を取り上げ、ATPに代表されるエネルギー通貨の産生機構、ならびにそれを支える共役反応や電子伝達系の基本的な考え方を解説する。

【到達目標】

以下の事項を達成できることを目標とする：生体を構成する主要な分子（低分子有機酸、糖、タンパク質など）の構造的特徴を説明できる；これらの分子が生体内でどのように代謝され、機能を発現するかを基本的なレベルで説明できる；呼吸を例として、物質代謝とエネルギー産生の全体像を説明できる；ATPに代表されるエネルギー通貨の概念と、その産生機構を説明できる；共役反応の概念を理解し、エネルギー変換との関係を説明できる；電子伝達系の基本的な構成要素と役割を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で講義する。講義の前日までに資料（PDFファイル）を学習支援システムにアップロードするので、受講の際はそれをプリントアウトするかまたはPC等で参照できるようにしておくこと。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問を学習支援システムを通して提出する。クイズの回答およびすべての質問に対する回答一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	生物化学とは、生体物質に見られる主な官能基
第2回	細胞の構造と主な構成物質	細胞説、生体膜、真核細胞の構造
第3回	タンパク質の構造と機能（1）	標準アミノ酸の構造とペプチド結合
第4回	タンパク質の構造と機能（2）	アミノ酸配列とフォールディング
第5回	タンパク質の構造と機能（3）	タンパク質の階層的な立体構造・タンパク質の解析法
第6回	中間試験	中間試験
第7回	酵素（1）	触媒機能の特性と調節
第8回	酵素（2）	反応速度論
第9回	単糖と多糖	単糖の構造と異性体、単糖の反応性、多糖の構造
第10回	呼吸（1）	代謝反応とエネルギー通貨
第11回	呼吸（2）	嫌気条件の糖代謝
第12回	呼吸（3）	好気条件の糖代謝
第13回	呼吸（4）	解糖系と糖新生
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後に資料とノートを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義についての質問に対して回答の一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料を前日までに学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

Albert Lehninger：「レーニンジャーの新生化学 第7版」（廣川書店）

成田 央, 山口 雄輝：「基礎からしっかり学ぶ生化学」（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。学期の後半に質問数が減少する傾向があるが、ぜひ大いに利用してほしい。

授業で配布する資料が見やすいという評価を得ている。復習がしやすいようにさらに改良した。

【学生が準備すべき機器他】

資料をプリントアウトしたものを持参しない場合は、PDFファイルが見られるPC等を持参すること。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an understanding of the structural features of major biomolecules, including low-molecular-weight organic acids, carbohydrates, and proteins, and of how these molecules are metabolized, give rise to biological functions, and contribute to energy production in living systems. Cellular respiration is introduced as a representative example of metabolism and energy production, with emphasis on the mechanisms of energy currency production, exemplified by ATP, as well as the fundamental concepts of coupled reactions and the electron transport chain.

Students are expected to spend approximately four hours per week outside of class on preparation and review. After each lecture, students should review the lecture materials and notes and consult reference textbooks as needed. A list of questions related to the lecture and their answers will be uploaded to Hoppii within a few days. Students are encouraged to read questions and answers submitted by other students to deepen their understanding.

Course evaluation will be based on assignments submitted for each class (10%), the mid-term examination (40%), and the final examination (50%).

BLS100YD (生物科学 / Biological science 100)

生物化学 I

田島 寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は膨大な数の化学反応の集合体である。生物が「生きている」状態を可能にする仕組みを、分子レベルの化学反応、および、細胞レベルの化学反応回路として理解し、生物に関する理解を深める。

【到達目標】

生命の物質的な成り立ちを理解し、生体構成分子の構造と機能から、細胞、組織、器官、個体の各階層で高次の生命機能が発現される仕組みを解析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初の数回でアミノ酸などの生体分子の基本的性質について学習する。その後、タンパク質の性質等、応用的な内容について学習する。学生側からの質問は講義中に随時受け付ける。また、指名して質問することもある。質問に対しては、その場でディスカッションするか、または関連事項を含めた解説を行うことによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	生命を構成する物質
2	生命と水	水分子の性質と生命現象での影響
3	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸とタンパク質の性質と働き
4	脂質・糖	脂質および糖の生体での役割
5	核酸1	核酸の性質、DNA複製機構
6	核酸2	DNAの複製、転写、翻訳
7	振り返り	ここまでのまとめ
8	反応速度論	ミカエリスメンテンの式
9	生体高分子の分析	タンパク質の精製、SDS-PAGE, PCR
10	細胞膜1	細胞膜の構造、電気化学的勾配と膜輸送
11	細胞膜2	膜タンパク質とシグナル伝達
12	呼吸1	解糖系・クエン酸回路・電子伝達系
13	光合成	明反応と暗反応
14	振り返り2	最終まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間程度を標準とする。配付資料と授業ノートをよく読み返し、内容を十分に理解すること。書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に中間試験(30-40%)および学期末試験(60-70%)で評価する。

授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

板書の内容について改善する。

【Outline (in English)】

【Outline】

Living organisms are aggregates of vast numbers of chemical reactions. In this course, students will understand the mechanisms that make living organisms possible as chemical reactions at the molecular level and chemical reaction circuits at the cellular level, and deepen their understanding of living organisms.

【Objectives】

To understand the material origin of life and the mechanisms by which higher life functions are expressed through the structure and function of the molecules that constitute life at the cellular, tissue, organ, and individual levels.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read to deepen your understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

蛋白質構造機能学 I

廣野 雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、タンパク質の構造と機能についての基礎的理解を身につけることを目的とする。アミノ酸の構造および化学的性質、タンパク質の一次構造と機能の関係、タンパク質の折りたたみに関与する化学的相互作用、タンパク質の階層構造、球状タンパク質および繊維状タンパク質、酵素の構造と触媒機能、ならびに抗体の構造と機能を主な講義内容とする。

【到達目標】

以下の事項を達成できることを目標とする：アミノ酸の構造および化学的性質を説明できる；タンパク質の一次構造と機能の関係を、具体例を挙げて説明できる；タンパク質の折りたたみに関与する主要な化学的相互作用（疎水性相互作用、水素結合、静電相互作用など）を説明できる；タンパク質の階層構造（一次～四次構造）の概念を理解し、各階層の特徴を説明できる；球状タンパク質と繊維状タンパク質の構造的・機能的違いを説明できる；酵素の構造と触媒機能の基本的な仕組みを説明できる；抗体の構造と機能の基本的特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で講義する。講義の前日までに資料（PDF ファイル）を学習支援システムにアップロードするので、受講の際はそれをプリントアウトするかまたは PC 等で参照できるようにしておくこと。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答を学習支援システムを通して提出する。講義内容への質問があれば同時に提出する。クイズの回答およびすべての質問に対する回答一覧を学習支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	タンパク質とは、無細胞実験系
第2回	アミノ酸とペプチド	発見と研究の歴史、アミノ酸の化学構造、ペプチド結合、生理活性ペプチド
第3回	タンパク質の生化学的分析法	タンパク質の粗分画法、カラムクロマトグラフィー、電気泳動
第4回	タンパク質の一次構造	タンパク質の機能と一次構造、アミノ酸配列の決定法、細胞内局と一次構造、系統解析
第5回	タンパク質の立体構造と化学結合	コンフォメーション、水素結合、疎水性相互作用、イオン性相互作用、ファンデルワールス力、ジスルフィド結合
第6回	タンパク質の二次構造-1	α ヘリックスの構造的特徴、アミノ酸配列と α ヘリックス
第7回	タンパク質の二次構造-2	β シート、 β バレル、 β ターンの構造的特徴
第8回	繊維状タンパク質の三次構造	コイルドコイル、ケラチン、コラーゲン、絹フィブロイン
第9回	球状タンパク質の三次構造	構造モチーフ、ドメイン、構造に基づく球状タンパク質の分類
第10回	タンパク質の四次構造、天然変性タンパク質	サブユニット、天然変性領域
第11回	タンパク質のフォールディングと変性	アンフィンゼンのドグマ、フォールディングの速さと経路、シャペロン、ミスフォールディング
第12回	免疫グロブリン	免疫を担う細胞、免疫に働く分子の多様性、抗原-抗体結合、抗体の利用
第13回	酵素の触媒作用機構	発見と研究の歴史、活性化エネルギーと触媒作用、酵素-基質の結合エネルギー、誘導適合、脱溶媒和
第14回	アクチン	ミオシン、アクチン、アクチンの重合、アクチン-ミオシンの力発生機構、アクチン-ミオシン相互作用の調節

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後には、配布資料や講義ノートの復習、参考書の読解などを行うこと。講義内容に関する質問とその回答一覧は、数日以内に Hoppii に掲載する。他の受講生による質問および回答にも目を通し、理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料を前日までに学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

「レーニンジャーの新生化学 第5版」（廣川書店）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。学期の後半に質問数が減少する傾向があるが、ぜひ大いに利用してほしい。授業で配布する資料が見やすいという評価を得ている。復習がしやすいようにさらに改良した。

【学生が準備すべき機器他】

資料をプリントアウトしたものを持参しない場合は、PDF ファイルが見られる PC 等を持参すること。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】

This course provides a fundamental introduction to the structure and function of proteins. Topics covered include the structure and chemical properties of amino acids; relationships between protein primary structure and function; chemical interactions involved in protein folding; the hierarchical organization of protein structure; globular and fibrous proteins; the structure and catalytic function of enzymes; and the structure and function of antibodies.

Students are expected to spend approximately four hours per week outside of class on preparation and review. After each lecture, students should review the lecture materials and notes and consult reference textbooks as needed. A list of questions related to the lecture and their answers will be uploaded to Hoppii within a few days. Students are encouraged to read questions and answers submitted by other students to deepen their understanding.

Course evaluation will be based on assignments submitted for each class (10%), the mid-term examination (40%), and the final examination (50%).

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

蛋白質構造機能学 II

曾和 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タンパク質は、生命機能を発現するために必要な構成要素である。個々のタンパク質は独自の立体構造を持ち、機能と密接に関連している。タンパク質の構造と機能の関係を、具体的な例を挙げつつ講義する。

【到達目標】

本講義全体を通して、タンパク質の特徴・構造・機能について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、タンパク質の構造・機能について理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	タンパク質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介する。
2	タンパク質の基本	タンパク質を理解するための基本的な情報について概説する。
3	タンパク質の構造	タンパク質構造について概説する。
4	タンパク質構造の決定法	タンパク質構造解析について概説するとともに、構造予測についても触れる。
5	リガンド結合1	タンパク質のリガンド結合について概説する。
6	リガンド結合2	結合サイトが複数あるタンパク質-リガンド結合について概説する。
7	協同性	ヘモグロビンを例にとり、協同性について概説し、協同性のモデルについて議論する。
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
9	生体エネルギー論	ギブズ自由エネルギーについて概説する。
10	酵素	生化学反応を触媒する酵素について概説する。
11	速度論	化学反応の速度論の基本を概説する。
12	酵素反応	酵素反応速度論について概説する。
13	阻害剤の影響	阻害様式について概説する。
14	総括	講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、講義内容の理解を助けるための簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

一般的な生化学の教科書（レーニンジャーの新生化学など）

【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、テストを実施できない場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説を丁寧におこなう。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与PCを用いる。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental relationship between protein structure and function. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(50%) and term-end examination(50%).

PHA300YC（薬学 / Pharmacy 300）

分子薬理学

小藤 智史

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

薬理学とは薬が作用するメカニズムを解明する学問である。初めに、生理機能の概要を学ぶ。次に、これまでに学習してきた生物化学・分子生物学等の知識を基礎として、「薬」が私たちの体でどのように働き、生理機能の恒常性の維持に寄与するのかについて、分子レベルのミクロな視点と個体レベルのマクロな視点で学び、生命現象を総合的に理解することをめざす。

【到達目標】

体の仕組みおよび薬が作用するメカニズムを分子・個体レベルで正しく理解し、人に説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、PC制御プロジェクターと配布資料を用いる。理解度を確認したり、わからなかった点、気づいた点などを記載するリアクションペーパーを提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	薬理学総論	薬理学とは何か、薬物と受容体との関係および濃度-反応曲線を学ぶ
2	自律神経・体性神経系に作用する薬	自律神経系の形態と機能について理解し、自律神経系と体性神経系に作用する薬物について学ぶ
3	中枢神経系に作用する薬（統合失調症、うつ）	中枢神経系に作用する薬物の基礎と統合失調症やうつ病に対する薬について学ぶ
4	中枢神経系に作用する薬（睡眠、てんかん、鎮痛）	中枢神経系に作用する薬物（睡眠、てんかん、鎮痛）について学ぶ
5	循環器系に作用する薬	循環器系に作用する薬物について学ぶ
6	消化器に作用する薬	消化器に作用する薬物について学ぶ
7	中間試験・まとめと解説	範囲:第1回から第6回。教科書・資料等の持ち込み不可
8	利尿薬と泌尿器・生殖系に作用する薬	利尿薬と生殖系に作用する薬物について学ぶ
9	呼吸器系・血液に作用する薬	呼吸器系と血液に作用する薬物について学ぶ
10	代謝性疾患とその治療の治療薬	糖尿病・脂質異常症治療薬の作用機序を学ぶ
11	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬の作用機序を学ぶ
12	感覚器・感染症治療薬	感覚器に作用する薬物と感染症治療薬の作用機序を学ぶ
13	抗癌薬	抗癌薬の作用機序を学ぶ
14	期末試験	範囲:全講義の内容。教科書・資料等の持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】受講前にシラバスや教科書の該当する章を読み講義内容を把握しておいて下さい。受講後は講義時に配布された資料や自筆ノートを見直したり、教科書等を使用して復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

薬の基本とはたらきがわかる薬理学 柳田俊彦／編（羊土社、2023年10月30日発行、本体3,000円＋税）

【参考書】

はじめの一步の薬理学 第2版 石井邦雄・坂本謙司著（羊土社、2020年01月14日発行、本体2,900円＋税）

【成績評価の方法と基準】

中間試験（5月に実施。45点満点。）

期末試験（7月に実施。45点満点。）

平常点（リアクションペーパーの提出等。10点満点。）

で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ解説をしたところ、好評だったので、本年度も継続して行う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

[Learning Objectives]

Pharmacology is the study to learn the mechanisms by which drugs work. First, we will overview the physiological functions. Next, students will learn how drugs work in our bodies and contribute to the maintenance of homeostasis of physiological functions based on the molecular level and the whole body level. In this class, we aim to understand the biological responses against drugs in our bodies by using basic knowledges of biochemistry, molecular biology and so on.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

mid-term examination: 45%、final examination: 45%、Short reports : 10%

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

構造生物学

金丸 周司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体高分子、特に蛋白質や核酸の高次立体構造の研究におけるX線結晶構造解析、NMR解析、クライオ電顕解析による構造解析法を中心に概説する。さらに立体構造情報に基づいた構造の推定や分子間相互作用などの応用研究、そして、これらの方法論に加えて、構造を解くことで何が分かるかを学ぶ。

【到達目標】

本講義全体を通して、生体高分子、特に蛋白質の高次構造から、特徴・機能・性状について学び、その構造解析法を理解する。それをふまえて、構造生物学から得られた知見をどのように解釈し利用していくかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードする。毎回、授業のはじめに前回の授業の課題の講評と解説を行う。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	蛋白質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介し、蛋白質研究の歴史を紹介する。
2	蛋白質の一次構造と二次構造	蛋白質を理解するための最も基本的な情報として、一次構造と二次構造の知識を得る。
3	蛋白質の二次構造のモデル作成	分子模型を用いて二次構造モデルを実際に作成し、二次構造の理解を深める。
4	蛋白質の高次構造	蛋白質の実体を理解するために不可欠となる高次構造について紹介する。
5	構造解析法1	X線結晶構造解析法による解析法について紹介する。
6	構造解析法2	NMR解析法について紹介する。
7	構造解析法3	電子顕微鏡による解析法やその他の構造解析法について紹介する。
8	核酸の構造	核酸（主にDNA）の構造とそれに結合する蛋白質について紹介する。
9	酵素	酵素の構造生物学的知見を紹介する。
10	膜蛋白質	膜蛋白質の構造生物学的知見を紹介する。
11	電子密度マップへの蛋白質モデル構築	各自のパソコンを用いて、結晶構造解析より得られた電子密度マップに原子モデルを構築する。
12	立体構造情報の利用	立体構造情報、主にPDBファイルの詳細を解説し立体構造の可視化方法（ソフトウェア）を紹介する。
13	立体構造予測	AlphaFoldなどの各種立体構造予測手法を紹介し体験する。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 指定した参考書などを参照し、毎回配布するプリントと小テストを復習してください。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する

【参考書】

有坂文雄著「バイオサイエンスのための蛋白質科学入門」（裳華房、2006）
神田大輔著「いきなりはじめる構造生物学」（秀潤社、2011）
田中勲・三木邦夫訳 「構造生物学」（化学同人、2012）

【成績評価の方法と基準】

生体高分子の立体構造とその構造解析法について理解し、構造生物学から得られる知見と生命現象とを結びつけて理解しているかを評価する。

【成績評価】 期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布するので、復習時に役立ててほしい

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（第11回、第13回で使用）

【Outline (in English)】

I will outline the structure determination methods by X-ray crystal structure analysis, NMR analysis and cryo-electron microscopic analysis in the analysis of higher order tertiary structures of biopolymers, especially proteins and nucleic acids.

Furthermore, you learn applied research such as structure prediction based on three-dimensional structure information and intermolecular interaction, and learn what you can understand by solving the structure with these methodologies.

【Learning activities outside of classroom】 The standard study period outside of class time for preparation, review, etc. for the class is about four hours. Review the handouts and quizzes distributed each time.

【Grading Criteria /Policy】 Final exam, 100%.

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物医科学概論

鍵和田 聡、津田 新哉、池田 健太郎、舟木 康郎、廣岡 裕吏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学の考え方や技術、食の安全や環境保全・社会経済との関わりを学び、植物保護の原点を探る。

【到達目標】

植物医科学という新しい学問分野の概要を把握し、植物医科学分野の専門科目を学ぶための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

植物病とその歴史、植物医科学の意義、植物病の種類、病気の診断技術、植物病害の治療・防除・予防技術などについて最新の成果も交えながら広く解説する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物医科学とその重要性	食料・環境問題と植物医科学、その重要性
第2回	植物の生育障害と症状の特徴	植物の生育障害の種類、原因、症状、病名
第3回	菌類病	微生物病の種類、菌類の分類、生活環、菌類病の種類と特徴
第4回	細菌病	細菌の分類、細菌病の種類と特徴、ファイトプラズマ病
第5回	ウイルス病、線虫害	ウイルスの分類、ウイルス病の種類と特徴、ウイロイド病、線虫害の種類と特徴
第6回	発生生態と被害解析	発病の条件、伝染方法、発病動態とその環境、被害解析
第7回	生理障害	生理障害の種類、肥料に関わる障害、薬害、環境条件、管理作業
第8回	害虫と雑草	害虫の種類、生態的特徴、被害とその解析、加害様式、雑草の種類、特徴、防除対策
第9回	診断の意義と工程	診断の意義と重要性、診断の工程、問診と診断の実際
第10回	分離と接種による診断	微生物の分離と維持、接種、微生物の同定技術
第11回	血清診断、遺伝子診断	血清診断の種類と各技術の特徴、遺伝子診断の種類と各技術の特徴
第12回	薬剤防除	農薬の種類、選択、製剤化、使用法、安全性評価、関連法令
第13回	IPM	植物の病虫害と防除法、総合的病虫害管理（IPM）
第14回	植物医科学の社会的役割	植物防疫に関わる法令、病虫害の発生予察、植物検疫、食の安全

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書に沿って講義を進める。講義内容に該当する部分をよく読むことにより予習、復習する。

【テキスト（教科書）】

増補改訂・植物医科学の世界（植物医科学叢書10;大誠社）

【参考書】

植物医科学（第2版）（養賢堂）
その他適宜講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約30%）、試験（約70%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿って丁寧に説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う。

【その他の重要事項】

応用植物科学必修科目。

樹木医補資格関係専門科目。

植物病診断・防除の現場の実務経験のある教員により、その経験を踏まえた技術の詳細を紹介する。
質問など不明点あれば、鍵和田まで問い合わせること。オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

This course introduces the concepts and technologies of 'clinical plant science', and its relationship with food safety, environmental conservation and social economy. Participants understand the outline of a new discipline field, 'clinical plant science', and acquire the foundation for learning special subjects in the field of clinical plant science. It explains plant disease science and its history, significance of clinical plant science, kinds of plant diseases, diagnostic technology of diseases, treatment, control and prevention technology of plant diseases. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物病学概論

濱本 宏

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈美〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

【到達目標】

ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したり、TEDやYouTubeなどのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中に教員から質問することで理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「課題」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第2回	ウイルス・ウイロイド病	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第3回	ウイルス・ウイロイド病	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第4回	細菌・ファイトプラズマ病（1）	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類とその性状
第5回	細菌・ファイトプラズマ病（2）	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第6回	菌類病（1）	植物病原菌類の分類・命名とその性状
第7回	菌類病（2）	植物菌類病の病徴と伝染様式
第8回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第9回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第10回	植物感染生理（1）：病原性	病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第11回	植物感染生理（2）：抵抗性	病原微生物に対する宿主の抵抗性の種類とそれらの機構
第12回	植物感染生理（3）：バイオテクノロジー	従来の育種技術とAI育種、遺伝子組み換え技術
第13回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除の技術、総合的病害虫管理（IPM）
第14回	植物病学の最新トピックと総合まとめ	植物病学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

植物医科学（難波成任 監修），養賢堂，2022

【参考書】

植物病理学 第2版（眞山滋志、土佐幸雄 編），文永堂出版，2020.

植物病理学 第2版（大木理 著），東京科学同人，2019.

Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.

Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

【成績評価の方法と基準】

期末試験：80%、平常点20%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に、配布プリントを見やすくすることと、学習支援システムへのタイミン グ良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

【その他の重要事項】

化学業界に勤務経験のある教員が、特に農業の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to obtain basic knowledge of the plant pathogens, how they cause plant disease and how the plants resist to the attack of the pathogens.

【Learning activities outside of classroom】

In this course, to know the scientific terms are important and review the meanings of the terms that you didn't know.

【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物分子細胞生物学

鍵和田 聡

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物は光合成を行って二酸化炭素を固定するなど、動物など他の生物とは異なった生理機能をもって生活している。こうした植物の持つ様々な生理機能について、細胞レベル・分子レベルでのメカニズムを理解することによって、植物の健全な育成を行うための基礎的な考え方を習得する。現在、植物の生理的变化や、形態形成のメカニズム、さらには植物の環境応答のしくみを明らかにするための研究が進んでおり、本講義でもこれらの最先端の知見を紹介する。これらの内容は植物の生理的障害の分子機構、あるいは病原体に対する植物の防御応答のメカニズムなど、幅広い分野を理解するための基礎となる。

【到達目標】

植物を構成する細胞の役割や機能、また植物の代謝や環境応答などの生理について、基本的な分子レベル・細胞レベルから理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い講義を行う。適宜ノートを取り、毎回振り返って復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。また内容について理解が進んでいくか、数回行う確認テストで検討すること。レポート課題、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物の構造（1）	植物組織の特徴
第2回	植物の構造（2）	植物の細胞
第3回	植物の代謝経路（1）	光合成と物質移行
第4回	植物の代謝経路（2）	糖、脂質
第5回	植物の代謝経路（3）	窒素、リン酸の代謝と共生微生物
第6回	二次代謝産物（1）	テルペノイド、フェノール性物質の代謝経路と機能
第7回	二次代謝産物（2）	アルカロイド、およびその他の物質の代謝経路と機能
第8回	遺伝子発現	核酸、タンパク質と遺伝子発現調節機構
第9回	シグナル伝達の分子機構	植物のシグナル伝達系、およびその制御の分子機構
第10回	植物の発生と成長	植物の一生と初期発生、細胞分裂と成長
第11回	形態形成の遺伝子	花器等の形態形成に関わる遺伝子と発現制御
第12回	植物ホルモン	植物ホルモンの化学構造と生理作用
第13回	非生物ストレス	環境ストレスに対する応答機構
第14回	生物ストレス	抵抗性、過敏感反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。レポート課題（1題）、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題（1題）を行う。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「植物生理学—分子から個体へ—」 幸田ら、三共出版

「植物生理学概論」 桜井ら、培風館

その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約15%）、レポート課題と補習問題（約15%）、期末試験（約70%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

Plants have physiological functions different from animals, such as carbon dioxide assimilation by photosynthesis. By understanding the mechanisms at the cellular level and molecular level of various physiological functions of plants, students learn the fundamental idea for growing healthy plants. The contents of this class form the basis for understanding physiological phenomenon of plants such as the molecular mechanism of physiological disorders of plants and the defense response of plants against pathogens. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%), reports (15%) and in-class contribution (15%).

COT100YB (計算基盤 / Computing technologies 100)

計算機科学概論 II

豊田 太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、研究や学術活動において、コンピュータとインターネットは、情報の収集および処理の必須ツールです。秋期の計算機科学概論 II と合わせて、コンピュータとインターネットの仕組みから、主要なアプリ、プログラミング（Python 3）の扱い方まで理解し身に着けるのが当授業の大きな目的です。

【到達目標】

秋期の計算機科学概論 II と合わせて、コンピュータとインターネットに関する基礎知識および基本操作、プログラミングを学びます。受講者が、進学後に研究室配属されてこれらを自在に扱えるようになる準備を完了するのが目標です。本講義では、主要なアプリとプログラミング（Python3）を実際に使って身に着けることが主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

貸与ノートPCを用いた演習を主体とする授業です。キーボード操作によってコンピュータとインターネットを扱うことを体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。

課題の提出・フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	勉強と研究の違い、PCとは何か、貸与PCで何ができるのか
第2回	インターネットと情報ベース	学術資料と文献の調べ方、“論文”とは何か
第3回	主要アプリの使い方(1)	Word, Excelを使ってやりとりゲームをしよう
第4回	主要アプリの使い方(2)	Word, Excelを使ってやりとりゲームを予想しよう
第5回	主要アプリの使い方(3)	Word, Excelを使ってやりとりゲームを発展させよう
第6回	Python3の紹介と導入	Python3の説明、環境設定、簡単な使い方
第7回	Python3の簡単な使い方	エディタを用いた文字表示
第8回	Python3による計算	関数電卓としての使い方を説明する
第9回	Python3によるプログラムの基本	変数、順次、分岐、反復というプログラミングの基本を説明する
第10回	Python3でデータをまとめる	平均、標準偏差、直線回帰を説明する
第11回	Python3でグラフを表示する	グラフ表示のやり方を説明する
第12回	Python3で対話的プログラムをつくる	対話的プログラムの基本を説明する
第13回	Python3による演習(1)	Python3でアニメーション作成を行う

第14回 Python3による演習 Python3でゲームプログラミングを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】学習順を考慮した内容が多い授業です。前回の授業を前提として次の学習(演習)があります。遅刻(授業途中からの参加)や欠席が不理解の原因となる場合があります。不明・不理解あるいは操作が追いつかないなどの場合は、助けを求めるなど、後回しにせずその時点で要求してください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業の教材として講義資料を毎回配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果をレポートとして全ての回で提出してもらい、評価の対象とします。最終の総合試験は行いません。評価基準：演習レポート70%、平常点30%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなります。理解/操作不能となった場合には理解/操作不能のままにせず、自身で調査したり質問をしてください。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCまたは貸与PC相当のPC

【その他の重要事項】

演習が主体の講義ですので、実際に自身の手を動かして積極的に操作してください。

【Outline (in English)】

For utilizing computer and internet, students are expected to understand and learn them and used to them practically by softwares and programing training through this course. The goals of this course are to understand fundamentals of computer and internet, to practice major softwares of Microsoft windows, and to learn the elementary skills of programming using Python 3. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours or more for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports : 70%, in class contribution: 30%.

COT100YB (計算基盤 / Computing technologies 100)

計算機科学概論 II

豊田 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春期の計算機科学概論 I と合わせて、コンピュータを自在に扱って研究や学術活動を進めることができるようになる準備を完了するのが当授業の大きな目的です。特に、画像解析を中心にした簡単なプログラミングについて理解しプログラムを作成します。

【到達目標】

コンピュータとインターネットに関する基礎知識および基本操作を学びます。受講者が、進学後に研究室配属された際にこれらを自在に使えるようになる準備を完了するのが目標です。特に、画像解析の基本操作と、関連するプログラミングの基礎の習得が主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

貸与ノート PC を用いた演習が主体の授業です。生命科学部学生にとっての実用を目的とした基本的スキルの学習が中心となります。プログラミングによる画像データ処理を体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	コンピュータとインターネット、画像情報の基本、Image J-Fiji のインストール
第2回	ImageJ-Fiji の静止画解析(1)	イメージ（静止画）の解析の手順を説明する。前処理のやり方を説明する
第3回	ImageJ-Fiji の静止画解析(2)	イメージ（静止画）の解析としてマスク作成（二値化）を説明する
第4回	ImageJ-Fiji の静止画解析(3)	イメージ（静止画）の解析として後処理を説明する
第5回	ImageJ-Fiji の静止画解析(4)	スケールバーおよび粒子解析などを説明する
第6回	ImageJ-Fiji の動画解析	動画解析（トレース機能）を説明する
第7回	Python3 の導入と簡単な使い方	Python3 の導入、プログラミングの基本。
第8回	Python3 による静止画解析(1)	イメージ（静止画）の解析として、前処理、マスク作成を説明する。
第9回	Python3 による静止画解析(2)	イメージ（静止画）の解析として、後処理を説明する。
第10回	Python3 でグラフ表示する	グラフ表示および統計処理の基本を説明し、機械学習の基本についても扱う
第11回	中間演習	Fiji-ImageJ と Python3 を併用して静止画解析する

第12回 Python3 で関数をつくる 関数の定義について学ぶ

第13回 Python3 と生成 AI 生成 AI を通してプログラミングを学ぶ

第14回 学期末演習 Python3 による画像解析を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】春期授業を前提としていますが、講義の途中など必要な際に、春期の復習も行います。したがって春期の計算機科学概論 I を未受講の人でも、学習できるように配慮します。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業の教材として必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果をレポートとして全ての回で提出してもらい、評価の対象とします。最終の総合試験は行いません。評価基準：演習レポート 70%、平常点 30%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなりやすいです。理解/操作不能となった場合には講義中に挙手して、TA の支援も仰いでください。理解/操作不能のままにしておかないこと。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC または貸与 PC 相当の PC

【その他の重要事項】

(1) 演習が主体の講座ですので、遅刻による講義途中からの参加は学習の進行に大きな障害となる場合があります。
(2) 春学期の計算機科学概論 I を受講していなくとも、本講義内容を学ぶことができるように講義資料等が準備されています。

【Outline (in English)】

For utilizing computer, students are expected to perform image analysis through using Fiji-Image J and Python 3. The goals of this course are to understand fundamentals of digital data of images and to practice image analysis software, Fiji-Image J, and related programming skills by Python 3. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours or more for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports : 70%, in class contribution: 30%.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

発生生物学

小林 麻己人、川岸 万紀子

開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発生生物学は古代ギリシアにルーツをもち、古来から生物学者の興味を引いてきた学問分野である。しかし、20世紀末に分子生物学の導入により個体発生のメカニズムが分子レベルで明らかになるにつれ、その制御システムがヒトの疾患や作物の収獲などに密接に関連することがわかり、発生生物学は単なる学術的興味にとどまらず、医療や農業などの産業にも重要な情報を提供するものとなった。本授業では、発生生物学の概要を、分子レベルの切り口も含めて紹介し、再生・進化・医学・農学など他分野との関連にも言及する。

【到達目標】

近年における発生生物学の全容と発展、さらには他分野、特に医学と農学との関連性を理解することを目指す。具体的には、以下の4つの項目を到達目標とする。1) 受精から老化に至る発生生物学の全体像を理解し、イメージできる、2) 体軸形成・細胞分化・誘導シグナル・ゲノム遺伝子の発現などの重要性を学び、それぞれで活躍する代表的な遺伝子・タンパク質の名前を習得する、3) 発生工学的及び実験胚発生の手法が、現在の生命科学の発展にどのように貢献してきたかを理解する、4) 医学・薬学・農学において、発生生物学に関連する知識や技術がいかに重要であるかを理解し、自身のキャリアに活かす。その上で、受講後も継続して自主学習する受講生がでてくることが期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的な進行方針としては、発生の基本概念、分子レベルでの理解、他分野への応用、の順で授業を進めるが、厳密には区別せず、それぞれを組み合わせで説明する。授業方法としては、プリント配付とPCプロジェクター映写を組み合わせで使用するが、状況や内容に応じて、板書などの工夫も取り入れる。受講者との積極的なやりとりを期待する。授業の前半では、動物発生と医学との関連性を小林が担当し、後半では植物発生と農学との関連性を川岸が担当する。

各授業の進め方としては、最後に小テストを実施して学生の理解度を確認する。解答解説は、次の授業の開始時に行う。また、3日間の集中形式で行うが、各日の最終授業で中間試験を実施し、その日全体の理解度を確認する。解答解説は翌日の最初の授業で行う。中間試験時にはリアクションペーパーも提出していただく予定である。解答解説時に関連する内容を合わせて紹介したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	動物の発生と体軸形成	ヒトの発生、ゼブラフィッシュの発生、植体軸形成
第2回	体軸形成のしくみ	受精、βカテニン、Wnt経路、がん、Nodal、中胚葉誘導、ニューコープセンター、抗BMP4、オーガナイザー、神経誘導
第3回	細胞運命と遺伝子破壊	着床前診断、体外受精、細胞運命、原腸形成期、細胞分化、分化万能性、転写因子、ノックアウトマウス、ノックダウン
第4回	遺伝子機能とモデル動物	遺伝子機能、発生工学、ヒト突然変異、モデル動物、オルガノイド
第5回	中間試験1	前半の学習内容
第6回	トランスジェニック動物と遺伝子発現	トランスジェニック動物、過剰発現解析、異所的発現解析、診断、創薬、進化、レポーター動物、コンディショナルノックアウトマウス、イメージング
第7回	再生と老化と今後の医療	再生、再生医療、老化、カロリー制限、健康寿命、機能性食品、早老症、Nrf2経路
第8回	植物の発生と進化	植物の進化系譜、被子植物の特徴、植物の遺伝情報
第9回	植物の細胞と成長	被子植物の受精、胚発生、後胚発生、栄養成長と生殖成長
第10回	中間試験2	中盤の学習内容

第11回	植物遺伝子工学	緑の革命、植物の遺伝子組換えとゲノム編集、農作物の品種開発
第12回	植物の環境応答と農作物の改良	植物の環境応答、よりよい植物をつくる、品種の育成
第13回	まとめ	全体の学習内容の復習
第14回	最終試験	全体の学習内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に準備学習は必要としない。分子生物学や細胞生物学の基礎的理解があれば十分。授業では膨大な範囲からの抜粋になるため、全てを詳細に説明することはできない。したがって、興味をもった箇所に関しては、授業後の自主学習を期待する。

【テキスト（教科書）】

指定せず

【参考書】

モリス生物学（八杉・園池・和田訳）
東京化学同人社
ギルバート発生生物学第2版（阿形・高橋訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
ウォルバート発生生物学第4版（武田・田村訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
老化生物学（McDonald 著・近藤訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
新・生命科学シリーズ 植物の成長（西谷著）
裳華房社

【成績評価の方法と基準】

最終試験の成績で評価する。加えて、小テスト、及び、中間試験、の結果も加味する。要素毎の配分は、最終テスト（80%）、小テスト（10回、1%ずつ）、中間テスト（2回、5%ずつ）である。各テストは「到達目標」に合わせ、発生生物学の基礎的事項に加え、他分野、特に医学と農学とのつながり、に関わる問題を授業で教えた内容から出題する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講師は、筑波大学医学医療系の教員および農業・食品産業技術総合研究機構の研究員が担当する。本科目は、夏季休業期間中の9月3日（木）から5日（土）にかけて、集中講義として開講される。3日間連続で5限（最終日の5日（土）のみ4限）の講義となるため、短期間で集中的に学習できる一方、連日長時間の講義となり、相応の集中力と体力を要する。その一方で、履修期間が限られており、学習計画を立てやすい点は本講義の特徴である。講義内では、理解の定着を目的とした解説や確認の時間を設け、学習内容を整理しながら進める。なお、履修にあたっては、3日間すべての講義に参加することが求められる。

【Outline (in English)】

Developmental biology is an academic field that has intrigued biologists since ancient times. By the end of the 20th century, the mechanisms underlying developmental processes became clear at the molecular level, revealing close associations with human diseases, crop yields, and more. Therefore, the study of developmental biology provides valuable information for medical and agricultural applications. In this lecture, we offer an overview of developmental biology and examine its connections with other fields such as regeneration, evolution, medicine, and agriculture.

Outside classroom learning for this course, such as preparation and review, is set at a standard of 4 hours. No preparatory learning is required. A basic understanding of molecular biology and cellular biology is sufficient. Due to the vast scope covered in the class, it is not possible to explain everything in detail. Therefore, independent learning after class is expected, especially regarding areas of personal interest.

The evaluation will be based on the final exam results. Additionally, the scores from each quiz and the results of the two midterms will also be taken into consideration. The weightage for each component is as follows: final exam (80%), quizzes (10 quizzes, 1% each), midterms (2 exams, 5% each).

MAC200YB (材料化学 / Materials chemistry 200)

物理化学概論 I

見附 孝一郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な米国の教科書を用いて物理化学と無機化学の初歩を学ぶ。一見、各論的な化学の背後には普遍的な原理や法則が存在することを知り、それらによって原子や分子の性質が合理的に説明されることを理解する。とくに、原子、単体、化合物中の電子の運動や安定性が、元素の周期律および化学結合の本質と深く関わっていることを納得する。一方で、あらゆる原理や法則は、定量的実験によってその真偽が確かめられてきたことにも注意する。また、基礎的な一般化学に関する例題、とくに計算問題に対して、単位や有効数字を意識しながら解答に到達できるまで習熟することも大事な目標である。

【到達目標】

原子、分子、物質（モル）の概念に慣れ親しむ。元素の性質とその周期律が原子中の電子の運動に関わっていること（原子の電子構造）、とくに最外殻の原子価電子の配置が鍵となることを知る。化学結合にはイオン結合と共有結合があり、オクテット則に基づいたルイス構造を描くことで、精密な理論がなくても、結合の性質、共鳴、電子の偏りを議論できること、それらは物質の物理的性質にも密接に結びついていることをしっかりと把握する。さらに、電子対反発理論から分子やイオンの構造を予言でき、この理論が原子価結合理論での混成軌道による化学結合の説明と相補性を持つことを理解し、いくつかの実例でそのことを検証する。最後に、2原子分子と3原子分子を例に取って、分子軌道理論の基礎概念を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）を教科書として使用します。主にパワーポイントを使って説明を聴き、式変形の詳細などは黒板書きで説明を受けます。パワーポイントの全内容を4スライド分1ページにまとめた資料がWebClassの教材に掲示されます。人数にもよりますが、ときどき質問を投げかけられ、答えや解答方針を口頭で説明するよう指示を受けます。

2回に1回の割合で、授業終わりの20分間に演習問題を解いて教員に提出します。採点済答案と解答例は、次週以降に配布されます。アクティブラーニングを意識した授業進行が予定されています。

・問答法（演習問題の正解率と学習理解状況が参考とされます）
・学生の応答などのフィードバックが授業の構成要素に取り込まれます。

6月4日第8回のみオンデマンド配信の授業となる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業を始めるに当たり、測定と単位	1.4～1.6節、アンケート、教科書の説明、13回分の講義の紹介、SI単位系、SI接頭語、単位の変換、演習問題1
2	元素と周期表、分子と化学式、化学反応式	2.1～2.4節、周期表に基づいて元素を分類する、化学反応式の両辺で原子を釣り合わせる

3	モルと物質質量、実験式と分子式、化学反応での化学量論計算	3.1～3.7節、モルと物質質量の概念、分子量、化合物の組成を決める、限定物質を見定める、演習問題2
4	原子模型と原子スペクトル	7.1～7.3節、水素原子のスペクトルおよび光の波長と振動数、ボーアのモデルから遷移エネルギーを計算する
5	物質波、波動力学、量子数	7.4～7.5節、物質波の考え方と電子の波動性を理解する、離散的な電子エネルギー、電子の軌道を量子数で識別する、演習問題3
6	原子中の軌道、原子の電子配置、周期表	7.6～7.8節、電子スピンによって原子の磁性が生ずる、主殻と副殻に電子を詰めていく、周期表の周期と族、電子配置を予測する
7	電子の空間分布、化学結合、周期表と元素の特性	7.9～7.10節、原子軌道の密度分布、原子核の正電荷が内殻電子によって遮蔽される、イオン化エネルギーと電子親和力の定義、演習問題4
8	化学結合の種類、ルイス記号（6月4日は学会参加のためオンデマンド配信の予定）	8.1～8.4節、イオン結合と共有結合、価電子をルイス記号で表す、オクテット則とは？
9	共有結合とルイス構造	8.5, 8.7節、オクテット則に基づきルイス構造を描く、結合の性質と結合次数を関連付ける。演習問題5
10	極性分子、電気陰性度、共鳴	8.6, 8.8, 8.9節、原子が共有結合電子を引き付ける力、双極子モーメントの定義、ルイス構造による共鳴構造を図解する
11	共有結合と分子の形、VSEPR理論	9.1, 9.2節、分子の形を分類分けする、電子群の数と取りうる分子構造との関連性、VSEPR理論で分子やイオンの形を予言する。演習問題6
12	分子の極性、原子価結合法	9.3～9.5節、分子の極性を予言する、化学結合は原子軌道同士の重なりで形成される、軌道準位図
13	混成軌道、多重結合、共鳴	9.6節、混成軌道とVSEPR理論、σ結合とπ結合を区別する、多重結合を説明する、分子内の各原子が利用する混成軌道を判別する、演習問題7
14	分子軌道論、全講義の振り返り	9.7節、分子軌道論の概念を学ぶ、二原子分子の結合と軌道相互作用を説明する、後半全体のまとめ、演習問題8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】WebClassにアップロードされている教材の該当箇所を読んで予習・復習をする。ほぼ2週に1回の割合で出される演習問題に関しては、後日、配布された解答例も参考にして、自力で正解に行き着けるまで繰り返し解いてみる。

【テキスト（教科書）】

「ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）」、小島憲道 監訳、東京化学同人、税抜3200円 できるだけ早めに購入してください。購入方法は専任の先生の方針や指示に準じます。

【参考書】

「P. Atkins・J. Paula 物理化学(上)」、千原・中村訳、第8版、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、授業内の演習問題（30%）、授業中の質疑応答（20%）に基づいて成績を評価します。期末試験では電卓のみ持込み可能です。

【学生の意見等からの気づき】

2015年度後期に上記内容の講義を行ったところ、「もっと前に習いたかった」という意見が出たので、「物理化学概論Ⅰ」と「同Ⅱ」でお互いの内容を交換することとした。続いて、2016、2017年度は本質的な改善を求める意見は見当たらなかった。ブラディの教科書は概して好評であった。2018年度の途中で、期末試験での主評価だけでは試験範囲が広すぎて平均点が極めて低くなる恐れがあると懸念し、急遽、中間試験を「持ち込みなし」に変え、期末試験と中間試験の二つで成績を等配分で評価することとした。2019年度は特段の意見はなかった。2021年度と2022年度は好評だった（高校で学習した化合物について様々な観点で知ることができた。暗記していた事柄の理屈を知ることができ、興味をもって受講できた、質問しやすい雰囲気だし教員も丁寧に答えてくれた、など）。課題テストのフィードバックでは、正解であっても復習用に解説を付けて欲しいとの意見があったので、2023年度は、適宜ピックアップして受講者の希望に答えた。2024年度と2025年度は2回に1回のペースで、演習問題を解いてもらい、採点済みの解答にコメントを付けて次の回の冒頭に返却した。学生の学習意欲と理解レベルが著しく向上したように感じる。

【学生が準備すべき機器他】

WebClassに登録し、メールでの「お知らせ」や新たな教材があった際には、それに対応してください。

【その他の重要事項】

第8週を除いた13回はすべて対面授業です。今のところ、第8週（6月4日）はオンデマンド配信の予定なので、対面授業はありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to obtain basic chemical knowledge so that the students can understand familiar chemical phenomena and can reflect it in future academic research.

(Learning Objectives)

Students will receive education about the basic fields of chemistry. You can develop not only study skills required in university-level science courses but also critical thinking skills enabling them to solve chemistry problems with incorporating their accumulated knowledge.

Topics to be covered in this course are the periodic table, stoichiometry, introductory quantum theory, atomic structure, and the basics of chemical bonding.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignment tests in class meeting every two week. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50 %; Required assignment tests 30 %; In-class contribution 20 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at WebClass.

物理化学概論 I I

見附 孝一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の化学を学ぶ上で必要とする化学の知識を再認識する。あわせて、身近な化学的現象や専門分野での化学が理解できる化学的基礎知識を修得して、化学を通して社会人として必要な教養と人としての素養を培っていくことを目的とする。

【到達目標】

- 1) 化学反応におけるエネルギー授受を定量的に取り扱える。
- 2) エントロピーと化学変化の自発性について説明できる。
- 3) 化学平衡と自由エネルギーの関係を知り、平衡定数や反応商を計算できる。
- 4) 溶液の各種濃度を計算し変換できる。酸と塩基の定義を複数列挙できる。
- 5) 中和反応の当量計算や pH の対数計算ができる。
- 6) 酸化と還元における電子授受を説明できる。
- 7) イオンの伝導率が計算でき、活量の意味を理解する。
- 8) イオン化傾向と標準電極電位について説明できる。
- 9) 電池の標準起電力を求められる。ネルンストの式に親しむ。
- 10) 成分濃度の時間変化から反応速度式を組み立てられる。
- 11) 反応速度の解析からエネルギー障壁の情報を得られる。
- 12) 遷移金属錯体の主たる配位子を知り、名称と化学式を関連付けられる。
- 13) 遷移金属錯体の光物性と磁性を電子構造から説明できる
- 14) 高分子化合物の重合方式と物理的・科学的性質を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントと黒板書を中心に行う。ほぼ毎回、授業の内容に沿った演習問題を課す。次の回の授業冒頭に前回の演習問題の全体あるいは一部を説明し、当該テーマに対する理解を深められるように進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業方針の説明、反応熱、エンタルピー変化	定圧等温条件での反応熱、エンタルピー変化、標準生成エンタルピー、燃焼エンタルピー
第2回	エントロピー、平衡熱力学	熱力学第二法則、ボルツマンの式、孤立系の自発変化、 ΔS の計算
第3回	ギブズ自由エネルギー、化学平衡	定圧等温条件下の閉鎖系の自発変化、 ΔG の計算、化学平衡の法則
第4回	溶液の濃度、酸と塩基	質量パーセント濃度、体積モル濃度、質量モル濃度、酸と塩基の3種類の定義
第5回	中和反応、pH	中和滴定、体積モル濃度の計算、緩衝液、pHの計算
第6回	酸化と還元、酸化数	酸化数の求め方、酸化剤と還元剤、酸化還元滴定

第7回	イオンの輸送と電離平衡	イオンの伝導率と移動度、イオンの独立運動則、活量、イオン強度
第8回	イオン化傾向、標準電極電位	標準水素電極、化学電池の陽極（負極）と陰極（正極）
第9回	電極反応と外部電流、電気分解	各電極で起こる反応、塩橋、標準起電力の計算、ファラデーの式
第10回	化学反応速度論の基礎	反応速度式、濃度の時間変化、化学量論数と反応進行度
第11回	化学反応速度論の応用	一次反応と二次反応、定常状態近似、アレニウスの式と活性化エネルギー
第12回	遷移金属錯体の定義と概要	配位子の種類、化学式と命名法、配位数と幾何構造
第13回	遷移金属錯体の電子配置と物性	配位子場分裂と分光化学系列、結晶場理論、電子配置と磁性、分子軌道法に基づく配位子場理論
第14回	高分子化合物、ポリマー	付加重合、縮合重合、開環重合、共重合、合成ゴム、合成樹脂、合成繊維、生体分子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
- ・教科書の該当する項目を予習・復習する。
- ・学習支援システムなどで課された確認問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

ブラディ・ジェスパーセン、一般化学 上・下（東京化学同人）

【参考書】

P.Atkins・J.Paula 物理化学(上)、千原・中村訳、第8版、東京化学同人
化学のコンセプト、舟橋、小林、秀島著（化学同人）
基礎物理化学演習、尾崎・末岡・宮前・見附著（三共出版）
自然科学ヒストリア、見附著（瀬谷出版）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点の評価方法：パワーポイント中の課題にWebClassのクリッカーで答える方式などで受講態度を評価する。
- ・評価割合：学期末テスト 50%、毎週の演習問題 40%、平常点 10%
- ・評価基準：60点以上で合格

【学生の意見等からの気づき】

2016年度には、「抽象的な法則の説明が多いのもっと実例をあげて欲しい」との意見が出された。試験答案をみると、繰り返し言及したことについても抜け落ちている学生が多いので、内容を少し平易にし、要点を集中的に学んでいただくのがよいと考えた。その後は、そういった対策が実を結びつつあると感じている。2017年度以降の3年間は特段のコメントはなかった。
2021年度はハイフレックス授業になったが、総じて好評だった。コメント例は次の通り。
・内容は難しかったが、授業の録画が公開されているので、復習するときに何度も見直して勉強できてとても良かった。
・対面で授業を行っている数少ない講義の一つで、毎週水曜日がとても楽しみだった。
2022年度はアンケート回答数こそ少なかったが、授業は十分に双方向的であり、90分間を通して学生からの活発な質問や意見が多く投げかけられた。2024年度には毎回、演習問題を解いてもらい、採点済みの解答にコメントを付けて次の回の冒頭に返却した。学生の学習意欲と理解レベルが著しく向上したように感じる。

2025年度まで、主題は平衡熱力学であったが、生命機能学科の1年生科目の編成を検討した結果、2026年度は電気化学、反応速度論、遷移金属錯体を追加することにした。ただし、生命現象においてもギブズ自由エネルギーを軸とした熱力学は主要な役割を果たしているとして、その部分を強調した授業計画を立てている。

【学生が準備すべき機器他】

授業および課題等では、種々の計算を必要とするので、関数電卓を準備すること。スマートホンやタブレットは定期試験には持ち込めない。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to obtain basic chemical knowledge so that the students can understand familiar chemical phenomena and can reflect it in future academic research.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should gain the following abilities:

- 1) to evaluate the energy exchange in chemical reactions.
- 2) to explain the entropy and spontaneity of chemical processes.
- 3) to understand the relation between chemical equilibrium and change in Gibbs free energy, and to calculate the equilibrium constants and reaction quotients.
- 4) to calculate various type of concentrations of solutions, and to list three different definitions of the acids and bases.
- 5) to handle the equivalent of a neutralization reactions and calculate the logarithm of pH.
- 6) to explain the electron transfer and transport in the oxidation and reductions.
- 7) to calculate the conductivities and activities of the ions in solutions.
- 8) to explain ionization tendency and the standard electrode potentials.
- 9) to calculate the standard electromotive force of chemical cells.
- 10) to make rate equations from time-dependence of the concentrations of components.
- 11) to get information on the activation energies using Arrhenius Law.
- 12) to acquire knowledge about principal ligands appearing in transition metal complexes, and relate their nomenclature with chemical formulae.
- 13) to explain the optical properties and magnetism of transition metal complexes from their electronic structures.
- 14) to understand the polymerization methods and physical or chemical properties of polymer compounds.

(Learning activities)

In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the preparatory exercises given in the WebClass. If some of them are difficult to solve, you should review your class note and handouts so that you can get correct answers for all the problems. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Students will be expected to have completed the required assignment tests in class meeting every week.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50 %; Required assignment tests 40 %; In-class contribution 10 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at WebClass.

BAM200YB（基礎医学 / Basic medicine 200）

生理病理学

丸井 朱里

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生理学」とは、主に生体の機能や作用についての学問であり、さまざまな病理・病態を理解する上での基礎となる学問である。「生理学的」という言葉は、生体内での正常な過程を意味し、しばしば「病理学的」という言葉の対語として用いられる。本講義では、生理学の基礎的な内容について幅広く取り扱い、生理機能についての体系的な理解を目指す。また、生活習慣病などの、身近な疾病に関する病理・病態についても取り上げる。

【到達目標】

生理学の基礎的な内容について体系的に理解すること。また、生理機能の異常により生じるさまざまな疾患の病理・病態について理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

神経系、骨格系、循環・呼吸系、内分泌系などの生理機能について、基礎的な内容を解説する。それぞれの生理機能の異常により生じる疾患の病理・病態についても紹介していく。授業終盤に、講義の理解度を把握するために小テストもしくはミニレポートを各回実施する。また講義後には質問や感想を提出してもらい、学生の理解度を考慮しながら講義を進めていく。適宜、課題に対する講評や解説について全体にフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	生理学、病理学の基礎	恒常性の維持
2	血液と体液	体液区分、血液細胞
3	循環系	心臓の循環調節
4	呼吸系	ガス交換と呼吸運動の調節
5	消化系	消化器の運動・吸収
6	神経系	神経系の基礎、自律神経系
7	脳	ヒトの脳、睡眠
8	尿の生成、排泄	腎機能、体液調節
9	代謝	基礎代謝、代謝測定
10	内分泌系	ホルモンの種類と作用
11	体温調節	熱収支、概日リズム、性周期
12	感覚系	視覚・聴覚などの感覚器
13	筋収縮	骨格筋、心筋、平滑筋
14	まとめ	これまでの講義内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各講義の内容は互に関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。各回の小テストやミニレポートは成績評価に用いません。内容理解・復習に役立ててください。

【テキスト（教科書）】

特になし。講義内容に関連する資料を適宜配布する。

【参考書】

やさしい生理学 彼末一之・能勢博 編 南江堂
はじめの一歩のイラスト病理学 深山正久 編 羊土社

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30％）、期末レポート（60％）、平常点（10％）の成績により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の量やスピードに注意する。オンデマンド形式のため、わかりやすい動画作成を心がける。

【Outline (in English)】

Physiology is an academic discipline for understanding of function of organisms, is a basis for understanding of various pathologies. The term “physiological” means a normal body condition, and is often used as a term opposite to the term “pathological”. In this lecture, we deal with fundamental contents of physiology broadly and aim at systematic understand of physiological functions. We will also cover the pathology related to familiar diseases. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (60%), and in-class contribution (10%).

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

細胞工学

廣野 雅文

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、細胞構成分子の機能解析に用いられる細胞工学的技術について、その原理的背景を理解することを目的とする。DNA導入、蛍光タンパク質による標識、細胞融合、細胞操作などの代表的な技術を取り上げ、それらの基盤となる細胞膜および細胞骨格の構造と性質を学ぶことで、各技術がどのような原理に基づいて成立しているかを解説する。

【到達目標】

以下の事項を達成できることを目標とする：代表的な細胞工学的技術（DNA導入、蛍光標識、細胞融合、細胞操作など）の目的と概要を説明できる；細胞膜の構造と性質を、細胞工学的技術との関連において説明できる；細胞骨格の構造と機能を、細胞操作や細胞形態制御との関係から説明できる；各細胞工学的技術が、どのような細胞構造・性質に基づいて成立しているかを原理的に説明できる；細胞工学的技術が、細胞構成分子の機能解析に果たす役割を理解し、具体例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードしてフィードバックする。また、講義内容の資料は、PDFファイルとして学習支援システムにアップロードする。各回の授業方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	工学と理学の違い，細胞質工学とは，細胞質工学に用いる技術
第2回	生体膜の重要な性質	選択的透過性，エネルギー変換，情報伝達，電気的興奮
第3回	生体膜の基本的な構造	リン脂質，脂質2分子層構造と解明の歴史，膜の流動性，流動モザイクモデル
第4回	膜の透過性	Fickの式，透過係数
第5回	膜の輸送-1	受動輸送と能動輸送，単純拡散，促進拡散，担体輸送，チャンネル輸送
第6回	膜の輸送-2	一次能動輸送，二次能動輸送，膜動輸送
第7回	膜電位	膜電位の発見，Nernst 電位，静止膜電位，活動電位
第8回	微小管の構造と性質	チューブリンと微小管の構造，チューブリンの重合，微小管の動的不安定性
第9回	細胞内微小管	微小管結合タンパク質による微小管形成の調節，gamma-チューブリン環状複合体
第10回	微小管モータータンパク質	キネシンの分子構造と多様性，キネシンと微小管の相互作用，ダイニンの分子構造，ダイニン-微小管の相互作用
第11回	キネシン、ダイニンが担う細胞運動	色素細胞の色素胞輸送機構，軸索輸送機構，鞭毛内輸送機構
第12回	有糸分裂における微小管の機能	紡錘体，有糸分裂の過程，紡錘体の構造と形成機構，染色体の分離機構
第13回	中心体	中心体・中心子・PCM，中心子と繊毛，中心子の基本構造，中心子の複製と新規形成，複製回数の制御
第14回	繊毛の構造と機能	運動性繊毛と非運動性繊毛，繊毛の機能，繊毛の構造，繊毛の運動機構

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容に関する質問とその回答一覧は、数日以内に Hoppii に掲載する。他の受講生による質問および回答にも目を通し、理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義資料（PDF）を Hoppii にアップロードする。

【参考書】

Bruce Alberts：「細胞の分子生物学」第5版，ニュートンプレス

Benjamin Lewin：「細胞生物学」東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題10%、中間試験40%、期末試験50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。学期の後半に質問数が減少する傾向があるが、ぜひ大いに利用してほしい。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an understanding of cell engineering techniques used to analyze the functions of cellular components and the principles underlying these technologies. Representative methods, including DNA introduction into cells, fluorescent protein tagging, cell fusion, and cell manipulation, will be introduced. To clarify the technical principles of these approaches, the course will cover the structure and properties of biomembranes and the cytoskeleton, which form the fundamental basis of these techniques.

Students are expected to spend approximately four hours per week outside of class on preparation and review. After each lecture, students should review the lecture materials and notes and consult reference textbooks as needed. A list of questions related to the lecture and their answers will be uploaded to Hoppii within a few days. Students are encouraged to read questions and answers submitted by other students to deepen their understanding.

Course evaluation will be based on assignments submitted for each class (10%), the mid-term examination (40%), and the final examination (50%).

BLS300YB (生物科学 / Biological science 300)

細胞情報学

川岸 郁郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての細胞は、自らをとりまく環境や細胞内の環境変化を感知し、それに対して適切な応答を引き起こす「シグナル伝達」という能力を備えている。本講義では、細胞生物学 I, II, 生物化学 I, II, 分子生物学 I, II, 生物物理学 I, II, および細胞構造機能学 I, II, 蛋白質構造機能学 I, II, ゲノム構造機能学 I, II で学んだ内容を踏まえ、真核細胞・原核細胞における細胞外刺激受容と細胞内シグナル伝達の分子機構およびその研究方法について、具体例（とくに感覚応答系）とともに学ぶ。

【到達目標】

細胞内シグナル伝達の基礎的概念および基本的な研究方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

あらゆる細胞は細胞外からのシグナルを受け取りそれに応答する。その仕組みを理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、シグナル伝達の原理について概説し、真核細胞および原核細胞におけるシグナル伝達の分子機構について解説する。とくに感覚応答系については詳述する。

講義は対面で行う予定であるが、状況によってはオンライン（Zoom リアルタイム）、または対面とオンラインの併用となる可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、授業支援システムにて提示する。いずれの場合でも、スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。各回終了後にリアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行うことで、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	受容体と細胞内シグナル伝達系
第2回	受容体-序論	受容体の分類と構造・機能
第3回	受容体-1	イオンチャネル共役型受容体
第4回	受容体-2	Gタンパク質共役型受容体
第5回	受容体-3	酵素共役型受容体
第6回	中間テスト-1	ここまでの講義内容に関するテスト
第7回	受容体下流の経路-1	二次メッセンジャー
第8回	受容体下流の経路-2	蛋白質キナーゼカスケード
第9回	受容体下流の経路-3	アダプター、足場タンパク質など
第10回	中間テスト-2	ここまでの講義内容に関するテスト
第11回	真核細胞の感覚応答系-1	視覚
第12回	真核細胞の感覚応答系-2	嗅覚・味覚
第13回	真核細胞の感覚応答系-3	その他の感覚

第14回 原核細胞の環境応答 二成分制御系等系

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】配付資料、標準的な教科書、小テストなどを通して、授業で扱った内容を復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

エッセンシャル 細胞生物学 原書第5版 B. Alberts 他著 南江堂
ストライヤー 生化学 第10版 東京化学同人
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞中間テスト(20%)・期末テスト(70%)の成績を総合し、平常点(10%)を加味して評価する。

＜評価基準＞細胞内シグナル伝達機構の基本概念を理解しているか。その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニタする。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline (in English)】

Signal transduction in a cell or between cells is essential for any biological phenomena. The aim of this lecture is to learn general mechanisms underlying cellular signal transduction, with considerable emphasis on animal and bacterial environmental sensory systems, and approaches to study them, based on the knowledge gained from the lectures, Cell Biology I, II, Biological Chemistry I, II, Molecular Biology I, II, Biophysics I, II as well as Cell Structure and Function I, II, Protein Structure and Function I, II, and Genome Structure and Function I, II.

Review and deepen understanding of the material covered in class through handouts, standard textbooks, quizzes, etc.

The evaluation will be based on the mid-term exam (20%) and the final exam (70%), with a 10% regular grade added.

The evaluation criteria are as follows: Does the candidate understand the basic concepts of intracellular signal transduction mechanisms? Can the student apply this knowledge to the interpretation of specific cases?

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

神経科学

高田 耕司

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要：本授業では、脊椎動物の中枢神経系および末梢神経系の構造と機能を体系的に学ぶ。まず、神経系の解剖学的構造と生理学的機能、神経興奮の伝導およびシナプス伝達の分子機構を理解するとともに、神経細胞の電気的性質を反映する等価回路の基本原則を学ぶ。さらに、神経回路の理解が機械学習の原点とどのように関わっているかにも触れる。これらの基礎知識を基盤として、知覚と運動の制御機構、記憶形成の神経基盤、依存症・気分障害・神経変性疾患などの成り立ちを概観し、近年の神経科学研究の成果と研究手法を踏まえながら、神経系の理解を現代生命科学の文脈の中で学習する。

目的・意義：学生は、本授業を通して、神経系の基本原則を分子・細胞から個体レベルまで統合的に理解し、神経科学的現象を研究的視点から考察する力を身につける。これにより、神経系の理解を通して人間の行動や認知の仕組みを科学的に捉え、人間の本質的な理解に資する視座を養うとともに、科学的問いを設定し先行研究を踏まえて論理的に思考する基盤を形成する。最終的に、卒業研究をはじめとする生命科学研究に主体的に取り組むための基礎的素養を獲得する。

【到達目標】

- 1：中枢神経系および末梢神経系の構造と機能を説明できる。
- 2：神経細胞およびグリア細胞の特徴と機能を説明できる。
- 3：活動電位の発生と神経伝導の関係を説明できる。
- 4：神経細胞の電気的特性を等価回路モデルを用いて説明できる。
- 5：シナプスにおける神経伝達の分子機序を説明できる。
- 6：神経伝達物質とその受容体の種類および特性を説明できる。
- 7：感覚情報処理の神経機構と知覚形成の関係を説明できる。
- 8：神経系による運動制御の基本機構を説明できる。
- 9：記憶および学習の神経基盤と分子機構を説明できる。
- 10：嗜癮および依存症と脳内報酬系の関係を説明できる。
- 11：気分障害と神経系の関係を説明できる。
- 12：神経変性疾患とプロテオスタシスの関係を説明できる。
- 13：主要な研究史に基づいて今後の研究課題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

特別な指示が無い限り、授業は登校で行います。授業は開始時に配付する資料に沿って進め、パワーポイントと板書で解説します。資料は、随時、学習支援システムにアップロードします。最後の10分間は課題の回答と質問をまとめる時間とし、グループディスカッションを推奨します。質問には次週の授業時に必ず回答し、要望にも可能な限り応えます。提出後の課題は評価後、期末試験前に返却し、解説等のフィードバックを行います。補講は動画と資料を使ったオンデマンド授業で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	神経系の基本 1	中枢神経系の構成と構造
2	神経系の基本 2	末梢神経系の構成と構造
3	神経系の基本 3	ニューロンとグリアの特質と機能、ニューロンが伝える電気シグナル
4	興奮の伝導 1	静止電位と等価回路、ニューロンの特性と電気シグナル
5	興奮の伝導 2	活動電位と電位依存性チャネルの多様性

6	シナプス伝達 1	神経伝達物質の全体像、シナプス伝達概論
7	シナプス伝達 2	シナプスの成り立ちとイオンチャネル型受容体
8	シナプス伝達 3	代謝調節型受容体と低分子量伝達物質の動態
9	知覚と運動 1	感覚と知覚の関係
10	知覚と運動 2	運動の制御機構
11	脳の高次機能 1	学習と記憶の成り立ち
12	脳の高次機能 2	学習と記憶のメカニズム
13	神経系の疾患 1	嗜癮と報酬回路、気分障害等
14	神経系の疾患 2	神経変性疾患とプロテオスタシス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外学習は、2時間を標準とします。授業時には次週に向けた予習および復習用の課題を発表します。受講者は自習によって解答を用意し、次回授業時のリアクションペーパーに記述して提出します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考書欄を参照ください。

【参考書】

資料の大半の図表は次の書籍からの引用です。同書は図書館に蔵書されており、予習・復習に有用です。カンデル神経科学 Sixth Edition 日本語版 第2版 宮下監修、メディカルサイエンスインターナショナル社

【成績評価の方法と基準】

期末試験に基づいて授業内容の理解度を測り、到達目標への達成度を評価します。平常点は、出席時に提出された課題の内容にもとづいて求めます。欠席時の課題を後日提出した場合、原則として評価の対象としません。成績は、定期試験 70%、平常点 30% で算定します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート（回収率 21%）では、Q1 資料・スライドの工夫、Q2 授業内容の理解、Q4 履修した感想の各項目において、順に 4.75、4.50、4.75 の評価を受けました。個別のコメントは、「①神経科学について網羅的に学べることが出来て良かった」、「②生物の神経作用が肉体的だけでなく精神面にも関与している事がよくわかりました」、「③配布資料の図でコントラストがわかりにくい部分があったため、カラーがよいと思いました」、の3件でした。上記の評価と①②の意見から、今年度の授業も概ね昨年度の内容に沿って行う予定です。③については事務と交渉の上、可能な範囲で学生の意見を反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

ノート、筆記具に加え、資料を整理・保持する A4 判ホルダーが必要です。補講のオンデマンド授業では、学習支援システムを利用するため、インターネット環境と資料印刷用のプリンターが必要です。

【Outline (in English)】

Overview: This course systematically covers the structure and function of the central and peripheral nervous systems in vertebrates. Students will first learn the anatomical structure and physiological functions of the nervous system, understand the molecular mechanisms of nerve impulse conduction and synaptic transmission, and study the fundamental principles of equivalent circuits reflecting the electrical properties of neurons. Furthermore, it touches upon how understanding neural circuits relates to the origins of machine learning. Building on this foundational knowledge, the course provides an overview of the control mechanisms for perception and movement, the neural basis of memory formation, and the development of conditions such as addiction, mood disorders, and neurodegenerative diseases. It explores the understanding of the nervous system within the context of modern life sciences, incorporating recent advances in neuroscience research and research methodologies.

Objectives and Significance: Through this course, students will gain an integrated understanding of the fundamental principles of the nervous system from the molecular and cellular levels up to the organismal level. They will develop the ability to examine neuroscientific phenomena from a research perspective. This will enable them to scientifically grasp the mechanisms of human behavior and cognition through understanding the nervous system, fostering a perspective that contributes to an essential understanding of humanity. It will also establish a foundation for formulating scientific questions and thinking logically based on prior research. Ultimately, students will acquire the fundamental skills necessary to actively engage in life science research, including their graduation research.

BAM300YB（基礎医学 / Basic medicine 300）

分子免疫学

岩瀬 忠行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの身体は、絶えず外部からの病原体（細菌・ウイルス等）や、内部で発生する変異細胞（がん細胞）の脅威にさらされています。免疫学は、これらの脅威から個体の恒常性を維持する生体防御システムを解明しようとするものです。本講義では、免疫系が「自己」と「非自己（異物）」をいかにして厳密に識別し、排除へと至るのか、そのメカニズムについて概説します。また免疫反応の原理を応用した様々な分析技術（ELISAやフローサイトメトリー等）や、mRNAワクチンやがん免疫療法（免疫チェックポイント阻害剤や光免疫療法等）といった最新のトピックについても紹介します。これらを通じて学ぶことで、免疫学をより深く理解するための基盤形成を目指します。

【到達目標】

免疫、免疫学とは何かを学び、私たちの身体への理解を深め、また関連する分析技術や医療についての知識を得ることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイントで作成された資料および配布資料、板書にて説明します。授業中に行う10～20分程度の出席票を兼ねる簡単な理解度確認やアンケート、あるいはA4用紙1枚程度のレポート課題が必要に応じて課されます。これらは授業の理解を深める目的で行われ、加算対象とします。中間試験及び、最後の授業で期末試験を行い、下記基準に沿って成績評価を行います。中間・期末試験: 40 %, 小テスト/レポート: 40 %, 出席・授業態度・発現内容など: 20 %。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	免疫、免疫学とは	免疫系の概要と免疫学の歴史
2	免疫（自然免疫と獲得免疫）	獲得免疫と自然免疫の違い、免疫細胞
3	自然免疫	自然免疫のシステム
4	獲得免疫	獲得免疫のシステム
5	免疫学的分析技術	ELISA法の原理と診断への応用、フローサイトメトリーによる細胞解析
6	中間試験	習熟度の確認
7	感染症	様々な感染症について
8	ワクチン	従来型ワクチンとmRNAワクチンの比較など
9	免疫異常	アレルギー反応と自己免疫疾患の病態
10	免疫許容と抑制	制御性T細胞（Treg）による自己攻撃の防止など
11	がん免疫（1）	免疫監視機構とがんの免疫逃避戦略など
12	がん免疫（2）	免疫チェックポイント阻害剤と光免疫療法など
13	総括	これまでの振り返り、まとめ
14	期末試験	習熟度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業に必要な準備・復習のための授業時間外学習は2～4時間程度を基本とします。出席点となる簡単な理解度確認やアンケート、あるいは次回の講義までに作成可能なA4用紙1枚程度のレポート等を必要に応じて課します。これらは理解度の確認と知識の定着を目的として行われ、加算対象とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

休み時間の免疫学（講談社サイエンティフィク）他、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

理解度、表現力、発想力を重視し、レポート・小テスト（約40%）、中間・期末試験（約40%）、出席および授業中の発言・質問などの授業への貢献（20%）にて評価します。授業の進捗によっては中間試験を行わない場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

講義というスタイルを取りますが、双方向的な演習の良さを期待し、自発的かつ積極的な参加が望まれます。より効果的、効率的な講義に活かすため、随時アンケートや理解度の確認が行われます。

【学生が準備すべき機器他】

PC、スマートフォン等、Web検索及びオンライン時授業時に必要なデバイス。

【その他の重要事項】

フィードバックを希望するものについては別途指示します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course explores how the immune system maintains homeostasis by distinguishing "self" from "non-self" and orchestrating the elimination of threats. Students will learn about essential analytical applications and the clinical translation of immunology through latest advancements such as mRNA vaccines, immune checkpoint inhibitors, and photoimmunotherapy.

[Learning Objectives]

This course aims to provide a comprehensive understanding of the fundamentals and applications of immunology. By the end of this course, students will be able to explain the molecular and cellular mechanisms of immune responses and their significance in modern medical treatments.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Students are expected to spend approximately 2 to 4 hours per week on review and preparation. This includes reviewing lecture notes, reading assigned textbook chapters, and preparing for short tests or reports to reinforce their understanding of complex immunological pathways.

[Grading Criteria/Policies]

Your final grade will be calculated based on the following components:

- ・ Term-end Examination: 40%
- ・ Short Tests or Reports: 40%
- ・ In-class Contribution: 20% (including participation in discussions and reaction papers)

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

バイオイメーjing

笠井 倫志、矢島 潤一郎、藤原 敬宏、吉澤 亮

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物試料を拡大して詳しく調べるための顕微鏡技術は古くから存在しましたが、近年、生物学における基礎的な観察技術として大きく発展し、様々な展開を見せています。生物顕微鏡技術の基礎から最先端まで、原理と具体的な応用例をわかりやすく紹介します。

【到達目標】

生物学の広い分野において必須の研究機器となっている光学顕微鏡の原理や歴史と、最新の発展・応用例を学ぶことで、自身が顕微鏡を使うとき、あるいは顕微鏡を使った先端研究論文を読むときに、仕組みの理解に基づいた適切な判断ができるようになることを目指します。顕微鏡を用いた生物試料の観察における意義や、技術的な限界の理解を通じて、光学顕微鏡観察における"Seeing is believing."とは何か、を理解してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義

中間試験

期末試験

試験結果と通常点を総合的に考慮して成績をつけます。通常点は、講義でのレポートを想定しています。

講義に関する質問はメールで受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の概要と目的についての紹介と、光学顕微鏡技術の歴史などの概説。
第2回	光学の基礎	光学顕微鏡の基礎となる光学の基本知識と関連技術を解説する。
第3回	光学顕微鏡の概説 1	位相差顕微鏡、微分干渉顕微鏡、蛍光顕微鏡など基本的な光学顕微鏡技術を紹介する。
第4回	光学顕微鏡の概説 2	最新の顕微鏡観察の基本となる蛍光顕微鏡を取り上げ、原理や関連する技術までを広く紹介する。
第5回	最先端の顕微鏡技術の概説 1	共焦点顕微鏡や多光子顕微鏡、蛍光 1 分子顕微鏡など、最先端の顕微鏡観察法を紹介する。
第6回	最先端の顕微鏡技術の概説 2	顕微鏡の分解能についての議論と、その限界を超える超解像観察法など、先進的な観察技術法を紹介する。
第7回	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
第8回	生細胞内での 1 分子バイオイメーjing I	細胞中の分子の動態を蛍光 1 分子観察することで、分子や細胞の働き方を理解する研究を紹介する。
第9回	生細胞内での 1 分子バイオイメーjing II	超高速での生細胞蛍光 1 分子追跡／超解像観察技術の開発と、それにより細胞内分子の組織化／機能制御機構を解明する研究を紹介する。
第10回	生細胞内での定量バイオイメーjing	共焦点顕微鏡観察による、細胞内分子の定量計測に基づいた研究を紹介し、バイオイメーjing技術を用いた生物学研究の一例を解説する。
第11回	個体レベルのバイオイメーjing	バイオイメーjing技術を用いた、個体レベルや細胞小器官レベルでの運動を計測する研究を紹介する。
第12回	リニアモータータンパク質のバイオイメーjing	in vitroでの蛍光 1 分子観察による、モータータンパク質の動作原理を解明する研究を紹介する。
第13回	期末試験	講義の後半についての理解度をチェックする。

第14回 総括

光学顕微鏡を用いたバイオイメーjingを改めて解説し、講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】もしも、自分の研究課題で顕微鏡を使うなら、どういう顕微鏡をどのように使うかを想像し、講義に望んでください。現在、顕微鏡を用いた研究を行っている場合は、どのような関連技術が自身の研究に活かそうかを考えてみてください。講義中や講義資料に設問がある場合は、まず取り組んでみてください。また、授業中には、実際の研究の現場でも参照される文献を、参考文献として紹介することがありますので、読んで理解してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

none

【参考書】

1. 光の教科書 黒田和男他 オプトロニクス社
2. 改訂顕微鏡の使い方ノート 野島博編 羊土社
3. Fundamentals of Light Microscopy and Electronic Imaging, second edition Douglas Murphy, Michael Davidson Wiley-Blackwell
4. ビデオ顕微鏡 その基礎と活用法 / Shinya Inoue, Kenneth Spring, 寺川進他 共立出版
ほか

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、中間試験（30%）、期末試験(30%)の合計で判定します。

【学生の意見等からの気づき】

現場の研究者による丁寧な解説と、実際の実験の画像データを必要に応じてわかりやすく紹介することで、最先端のバイオイメーjingとは何かを学んでもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

大学生の教養初等レベルの分子生物学、細胞生物学、生化学などの基本知識、また、高校生レベルの光学、数学、顕微鏡の知識を前提にしています。

【Outline (in English)】

The technology of optical microscopy for observing tiny biological objects has a long history and continues to evolve with innovative ideas. This course introduces the fundamental principles of optics and microscopy, and various applications of biological optical microscopy, covering topics from the basics to the latest advancements. To enhance learning, leading-edge researchers will present the newest images and movies of biological samples captured using advanced microscopy techniques. Students will be encouraged to explore how microscopy can be applied to their own research. Reference papers and books will be introduced during class, and students are expected to study them independently outside of class. Grades will be based on class participation and report (40%), the midterm exam (30%), and the final exam (30%).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物化学 I I

西川正俊

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の根幹をなす代謝の生物化学的理解を通じて、複雑な生命科学の専門的な内容を理解するための基礎知識を習得する。

【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学IIでは多種の酵素による反応素過程が集積して実現される代謝経路について、制御機構と反応様式を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	生物化学における基本概念の確認
2	基本概念1	代謝経路の反応が示す不可逆性と自発性について
3	基本概念2	代謝経路に現れる反応モチーフについて
4	生体のエネルギー変換機構	酸化的リン酸化とエネルギー変換
5	糖代謝1	解糖系について
6	糖代謝2	糖新生について
7	糖代謝3	解糖系と糖新生の制御機構について
8	TCA サイクル	TCA サイクルで生じる反応の不可逆性とその制御
9	まとめと演習	好気呼吸の制御と収支について
10	脂質代謝1	脂肪酸分解
11	脂質代謝2	脂質の合成
12	代謝制御	代謝経路のホルモン制御
13	光合成1	明反応
14	光合成2	暗反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】ノートや参考書を用いた復習をすること。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ストライヤー生化学, J. M. Berg 他

レーニンジャーの新生化学, David L. Nelson 他

【成績評価の方法と基準】

成績評価法；期末テスト（60%）、レポートや中間テスト：（40%）の結果をもとに総合的に評価する。

評価基準；細胞内で起こっている代謝反応がどのように起こっているかの理解度

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生の質問を引き出せるような授業にする。

【その他の重要事項】

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to biochemistry of metabolism, with the aim of understanding how a cell establishes its living states through chemical reactions mediated by enzymes. Specifically, the goal of the course is to acquire chemical insights on reaction networks and their precise regulations on metabolic pathways. Participants are expected to spend four hours to summarize the contents provided in the classes. Grades will be determined based on the points of two exams (mid-term 40 %, term-end 60 %).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物物理学 I

西川正俊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は生命システムの研究において必要となる物理の基礎を学ぶ。前半で力学について基本から解説し、巨視的なスケールのバイオメカニクスについて学ぶ。後半ではニューロンの生物物理について解説し、活動電位発生の物理を理解する。

【到達目標】

この授業では、さまざまな生命現象を物理学的な視点から理解するために必要な力学を基本から学ぶ。細胞内における分子の動きやエネルギー共役を定量的に議論する基盤を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	生物物理学とは何か？ について解説する。
第2回	運動について	分子・細胞・個体のスケールで見る運動の違いについて解説する。
第3回	力学1	単位系について解説する。
第4回	力学2	運動について解説する。
第5回	力学3	力と運動方程式について解説する。
第6回	力学4	運動量とエネルギーの保存法則について解説する。
第7回	力学5	過減衰系の運動について解説する。
第8回	まとめと演習1	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう。
第9回	ニューロンの生物物理1	細胞の電気的性質と電子回路の基礎について解説する。
第10回	ニューロンの生物物理2	ネルンストの式を導出する。
第11回	ニューロンの生物物理3	膜電位について解説する。
第12回	ニューロンの生物物理4	イオンチャネルの物理について解説する。
第13回	ニューロンの生物物理5	活動電位について解説する。
第14回	まとめと演習2	ニューロンの生物物理についてのまとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】生物現象に見られる力学についての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

ゼロからの力学I, II, 岩波書店,
Essential細胞生物学 原書第2版, 南江堂

【成績評価の方法と基準】

レポートや中間テスト(40 %)と期末試験(60 %)の結果を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を通じて具体的な理解をめざす。

【その他の重要事項】

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the physics of biological systems. We will establish an understanding of the basic concepts of mechanics at macroscopic scale and then will build the understanding of underlying physics of action potential. Specifically, the goal of the course is to acquire physical insights on molecular movement driven by chemical energies inside cell. Participants are expected to spend four hours to summarize the contents provided in the classes. Grades will be determined based on the points of two exams (mid-term 40 %, term-end 60 %).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

生物物理学 I I

曾和義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物物理学は、物理学的な考え方や手法を用いて生命現象を理解しようとする学問である。講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成や、タンパク質のエネルギー変換機構について概説する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体エネルギー論を基本から解説する。

【到達目標】

この授業では、タンパク質の立体構造形成やエネルギー共役について知識を深めること、生体エネルギー論の基本を学び、生体内における化学反応について物理学的な視点から理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成について概説し、生体内で起こるエネルギー変換の例を紹介する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体熱力学を基本から解説する。基本的な考え方や手法を解説するとともに、最先端の技術についてもトピックスとして紹介する。講義内では授業内またはレポートとして演習をおこなうが、提出後に解説をおこなってフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体内の化学反応について概説する。
2	タンパク質の構造 1	アミノ酸の性質とタンパク質構造の階層性について復習する。
3	タンパク質の構造 2	タンパク質の構造についての基礎について復習する。
4	タンパク質の構造 3	タンパク質の構造解析について概説する。
5	生体熱力学の基礎 1	熱力学の法則について概説する。
6	生体熱力学の基礎 2	熱力学第一法則を概説する。
7	まとめと演習 1	タンパク質と生体熱力学の基礎のまとめと演習テストをおこなう。
8	生体熱力学の基礎 3	熱力学第二法則を概説する。
9	生体熱力学の基礎 4	ギブズの自由エネルギーについて概説する。
10	生体熱力学の基礎 5	反応ギブズエネルギーについて概説する。
11	生体熱力学の基礎 6	化学ポテンシャルについて概説する。
12	細胞内の代謝	細胞内の代謝について熱力学の観点から概説する。
13	細胞のエネルギー通貨	ATPの構造と加水分解エネルギーとほかの過程のエネルギー共役について解説する。
14	まとめと演習 2	生体熱力学のまとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】生体エネルギーについての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では、視覚的教材やプリントを使用する。

【参考書】

Essential細胞生物学 第2版, 南江堂

細胞の分子生物学 第5版, ニュートンプレス

物理化学や化学熱力学の一般的な参考書

【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題について、計算を丁寧に解説する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用することがある。

【Outline (in English)】

The course deals with the basis of biophysics, with fundamental thermodynamics in biology. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination (50%) and term-end examination (50%).

BLS100YB（生物科学 / Biological science 100）

細胞生物学 I

金子 智行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

遺伝情報の収納庫としての「核」を中心とした細胞の構造と機能について学ぶ。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成と、細胞としての反応性や細胞単位での生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

生命体の最小基本単位である細胞を構成する小器官の構造と機能や生体反応の仕組みを学ぶことによって、生命機能発現の仕組みと制御機構の基礎を理解することを目指す。授業中に適宜課題を与えレポート提出を求め、2回の中間試験で理解到達度を測り、理解度を鑑みながら授業を進める。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞の進化	原始地球における生命の誕生から多細胞生物への進化の過程
2	核の構造と機能	核の基本構造と特徴
3	原核生物と真核生物	原核生物と真核生物の違い
4	真核生物の染色体	染色体の構造と機能
5	ミトコンドリア・葉緑体のDNA	細胞内小器官に独自に存在する遺伝情報
6	核輸送、小胞輸送	核膜を通した核輸送やゴルジ・小胞体による輸送
7	中間試験-1	ここまでの理解到達度確認と試験の解説および補足
8	細胞表層や核内の受容体	細胞表層や核内にある受容体の構造や機能
9	細胞分裂や生殖と減数分裂	有糸分裂の機構や減数分裂の意義や仕組み
10	細胞周期	細胞周期チェックポイントやガン・アポトーシスのメカニズム
11	細胞間コミュニケーション	細胞間接着やシグナルを伝達する仕組み
12	細胞から個体へ	幹細胞を用いた再生医療への応用
13	中間試験-2	中間試験-1以降の理解到達度確認と試験の解説および補足
14	まとめと解説	全体の理解度確認と解説および補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

1. 予習と復習
2. 授業中適宜与えられた課題についてのレポート作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

石崎・丸山 監訳・翻訳 「アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学」 講談社
エッセンシャル 細胞生物学 原書第5版 B. Alberts 他著 南江堂
他は授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験50％・中間試験（1と2）20％・レポート課題15％・平常点15％の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

PowerPoint図の印刷体配布要望があったが、授業中に紹介した参考書を紐解けば見つかる図表が大部分であるので、自主的学習能力を亢進させる為には望ましくないと判断しました。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業内での質問を随時受け付ける。

財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with the structure and function of the cell mainly on "the nucleus" as the storage of the genetic information.

The goals of this course are to understand the process of expression of biological functions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (50%), mid-term report (20%), short reports (15%), and in class contribution (15%).

BLS100YD（生物科学 / Biological science 100）

細胞生物学 I

小見 美央

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要 本講義では、生命の基本単位である細胞の構造と機能を分子レベルで解説します。まず生体高分子（タンパク質・糖・脂質等）の特性を整理した上で、細胞膜の機能、細胞小器官による物流、エネルギー代謝、そして細胞の増殖と死に至る一連のプロセスを扱います。また、自ら設定した課題を調査・発表するプレゼン演習を取り入れ、多角的な理解を目指します。
授業の目的 学生は、細胞という極小のシステムがいかにして秩序を保ち情報を処理しているのかという、生命の設計思想を理解することを目指します。単なる知識の暗記に留まらず、細胞機能の不全のメカニズムやそれがもたらす影響を考察する力を身につけ、より発展的な専門科目の内容を理解するための基礎力を身につけます。さらに、複雑な現象を専門外の人にも分かりやすく伝える表現力の習得も目指します。

【到達目標】

本講義終了までに、学生が以下のことをできるようになることを目標とします。
・生命を構成する生体高分子の化学的特性と役割を説明できる。
・主要なオルガネラの構造を理解し、その機能不全がもたらす影響について解説できる。
・細胞内の物流、骨格の動態、およびエネルギー代謝（解糖系・電子伝達系）のしくみを分子レベルで解説できる。
・細胞間コミュニケーションや細胞周期の調節機構を理解し、その破綻が招く結末を考察できる。
・自ら設定した課題について調査し、調査結果を論理的に整理してプレゼンテーションできる。
・複雑な生命研究の核心を捉え、専門外の人に対してもその重要性を伝えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面・オンライン回ともに講義形式を基本とします。視覚的な理解を助ける動画資料を多用し、動的なプロセスの理解を助けます。演習として2回プレゼン発表の機会を設け、能動的なアウトプットを促します。
課題解決型学習（PBL）：与えられたテーマに沿って自ら調査・分析・発表を行うプロセスを経験してもらいます。2回の発表のうち1回目は正確性を重視する学術的報告、2回目は伝える力を重視する3MT（3 minute thesis形式）とし、科学コミュニケーション能力を養成します。
フィードバック方法：毎回の授業後に提出されるリアクションペーパーに寄せられた疑問に対し、次回の授業冒頭で回答し、受講者全員で共有します。プレゼン演習は、教員による講評に加え、学生同士でもフィードバックすることで、自身の発信能力を客観的に振り返る機会を提供します。クイズや中間テストの結果、プレゼンへのフィードバックは随時返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 生命の分子基盤	講義の進め方・評価基準の説明 細胞説 原核細胞・真核細胞
第2回	細胞膜	流動モザイクモデル 能動輸送 受動輸送
第3回	細胞の骨組みと輸送	細胞骨格 モータータンパク質
第4回	内膜系オルガネラと物流 細胞内共生説	小胞体・ゴルジ体 分泌・取り込み ミトコンドリア 葉緑体
第5回	核と細胞内環境の維持	核の構造 リソソーム・ペルオキシソーム・液胞
第6回	プレゼン1	プレゼン発表と相互評価
第7回	プレゼン予備日 代謝（1）	酵素と解糖系
第8回	中間試験	15回（+7回）までの内容の復習とテスト

第9回	代謝	（第7回で終わっていないければ）解糖系 クエン酸回路 ETC 細胞間シグナル伝達 細胞内シグナル伝達
第10回	シグナル伝達	
第11回	細胞の増殖と死	有糸分裂 プログラムされた細胞死
第12回	3MT プレゼン発表会	プレゼン発表と相互評価
第13回	プレゼン予備日	ウイルス
第14回	細胞の応答 期末試験	自然免疫 テストと総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義の内容を身につけるためには以下の授業時間外学習が必要となります。
・レスポンスペーパーの提出：講義で学んだことや疑問点をレスポンスペーパーに記入し提出する。
・講義の復習とクイズ、試験への準備：講義資料を読み直し、毎回のクイズや中間試験・期末試験に備える。
・プレゼン準備：自身が関心をもったトピックについて学術的根拠に基づいた調査を行い、プレゼンテーション資料を作成する。2回目のプレゼン課題では科学的な背景を詳細に記述したレポートの執筆も行う。
・（任意）意欲的な学生に向けた、生成AIを活用した最新の英語学術論文の要約課題。これは強制ではなく、提出することでボーナス加点が得られる。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

本講義は秋学期木曜1限の分子生物学IIと合わせてLife: The Science of Biology, Twelfth Edition のPart 1～5をカバーするように設計されています。その他、以下が参考書としておすすめです。
1）ブルーバックス カラー図解 新・大学生生物学の教科書 第1～3巻（「Life: The Science of Biology Twelfth Edition」の抜粋和訳版）
2）理系総合のための生命科学第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会／編
3）Biology: A Global Approach, Global Edition

【成績評価の方法と基準】

試験50%
プレゼン課題#1 15%
プレゼン課題#2&レポート 15%
平常点（クイズ、レスポンスペーパー）20%

【学生の意見等からの気づき】

2回のプレゼンとテストの解き直しシステムが好評なので引き続き実施します。また、複雑なトピックを扱う回はオンライン・オンデマンド開講とし、講義録画をYouTubeにアップロードして繰り返し視聴可能にし、理解を助けます。

【学生が準備すべき機器他】

毎週実施する復習クイズはGoogle formを使って実施予定なのでスマートフォンまたはパソコンから回答する必要があります。資料配布や課題提出にはHoppiiを使用します。

【その他の重要事項】

高校までで生物未履修の人の履修も歓迎します。この講義は秋学期・木曜1限開講の分子生物学IIと連動しています。春学期は生命の最小単位である細胞というハードウェアの成り立ちや、エネルギー代謝の仕組みを紐解きます。続く秋学期では、そこで展開される遺伝情報というソフトウェアの制御系を詳しく学ぶというつながりがあり、この2科目を合わせて履修することで、世界で広く使われている「Life: The Science of Biology」のPart1～Part5の主なチャプターの内容をカバーできます。連続した履修をおすすめしますが、どちらかだけの履修も歓迎します。
生成AIの活用ポリシー：レスポンスペーパーや3MTに関連する詳細レポートにおいて、自身の思考を伴わないAI生成物のそのままの提出（コピペや丸投げ）は厳禁。AIはあくまで調査・推敲の補助ツールとして活用し、最終的な論理構成と記述は自身の責任で行ってください。ボーナス課題（論文要約課題）は生成AIの使用を必須とします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course delves into the molecular design of the cell, examining how its structures and organelles cooperate as a functional unit of life. We begin by analyzing the chemical properties of biological macromolecules, then explore the formation of cell membranes, intracellular transport systems, metabolism, and the dynamic processes of cell proliferation and death. Along with lectures, the course incorporates presentation exercises where students research and report on self-selected topics, fostering a multi-faceted understanding of modern biology. While the primary language of instruction is Japanese, questions in English are welcome.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to:

1. Identify and describe the structure and function of major organelles and their direct links to human "organelle diseases."
2. Explain the molecular mechanisms of cellular logistics, including cytoskeletal transport and energy transformation processes.
3. Analyze the regulation of cell communication and the cell cycle, and how their failure leads to programmed cell death or cancer.
4. Master basic scientific presentation skills by creating logical slide-based reports on organelle pathology.
5. Communicate complex biological topics effectively through the "3-Minute Thesis (3MT)" format.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend 4 hours per week on post-class review. This includes submitting "reflection papers" after each session, reviewing lecture slides for quizzes/exams, and preparing for two presentations. An optional advanced task involving AI-assisted literature review is available for extra credit.

【Grading Criteria / Policy】

Exams (50%), Presentation 1 (15%), Presentation 2 (15%), Participation (Weekly quizzes and Reflection papers) (20%). Bonus points (up to 10%) can be earned through optional advanced research tasks.

BLS100YB (生物科学 / Biological science 100)

細胞生物学 I I

川岸 郁朗

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の基本単位である細胞の構造を理解する。とくに、生体膜と細胞骨格の構造と性質およびそれらが関与する細胞機能について理解する。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成、および細胞としての反応性や細胞単位の生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

細胞は生物の基本単位であり、その構造と機能を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、おもに真核生物の細胞の構造について、とくに生体膜と細胞骨格に重点を置いて概説する。さらに、生体膜と細胞骨格が関与する代表的な細胞機能として、細胞のシグナル伝達や細胞運動のメカニズムについて概説する。

講義は対面で行う予定であるが、状況によってはオンライン（Zoomリアルタイム）、または対面とオンラインの併用となる可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、授業支援システムにて提示する。いずれの場合でも、スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。各回終了後にリアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行うことで、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	生命の階層性、細胞とは（大きさ、形）、細胞小器官の構造、細胞内区画化の意義
第2回	生体膜-1	脂質二重層
第3回	生体膜-2	脂質二重層の流動性
第4回	生体膜-3	膜蛋白質
第5回	これまでの復習-1	中間テスト
第6回	膜輸送-1	生体膜の透過性
第7回	膜輸送-2	受動輸送、イオンチャネル
第8回	膜輸送-3	能動輸送
第9回	細胞のシグナル伝達-1	受容体
第10回	細胞のシグナル伝達-2	細胞内シグナル伝達因子
第11回	これまでの復習-2	中間テスト
第12回	細胞骨格-1	微小管
第13回	細胞骨格-2	ミクロフィラメント、中間径フィラメント
第14回	細胞骨格-3	細胞骨格の動態、モータータンパク質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
配付資料、標準的な教科書、小テストなどを通して、授業で扱った内容を復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

Essential細胞生物学 原書第5版 Bruce Alberts 他 南江堂
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第5版 和田勝 羊土社
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価基準＞中間テスト(20%)・期末テスト(70%)の成績を総合し、平常点(10%)を加味して評価する。

＜評価基準＞細胞の構造、とくに生体膜と細胞骨格の構造と機能について理解しているか。その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか。よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニタできるようにする。ただし、小テストの点数は成績評価には含めない。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向性を確保する。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand basic structural features of the cell, a smallest unit of any organisms, with much emphasis on structures and functions of biomembrane and cytoskeleton.

Review and deepen understanding of the material covered in class through handouts, standard textbooks, quizzes, etc.

The evaluation will be based on the mid-term exam (20%) and the final exam (70%), with a 10% regular grade added.

The evaluation criteria are: 1) The student's understanding of the structure and function of cells, especially the biological membrane and cytoskeleton. 2) The student's ability to apply this knowledge to the interpretation of specific cases. 3) The student's ability to actively investigate and discuss unfamiliar points on his/her own.

PRI100YB（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

生物統計学

谷合 弘行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計的推測の基本的な考え方を理解し、データ分析における標準的な手法を習得します。

【到達目標】

まず、記述統計の手法を習得し、得られたデータの傾向などを読み取る操作ができるようになります。

そして、統計的推測の仕組みを理解することで、データを生成しているであろう構造についての推定や検定について考えられるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

統計学とは得られたデータへ我々が与える解釈に関する方法論のことですが、統計的手法は多岐にわたります。本講義ではそれら手法を多く紹介して慣れることよりも、それらの基礎にある考え方の理解を目指します。授業はスライドの提示とそのPDFファイルを配布して行います。試験は資料持ち込み可ですが、問題としては基本的なものを予定しています。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	準備としての確率論 (1)	確率の意味、積分
2	準備としての確率論 (2)	分布、期待値、分散
3	準備としての確率論 (3)	二項分布、正規分布
4	準備としての確率論 (4)	条件付き確率、共分散
5	準備としての確率論 (5)	正規分布の意味
6	統計モデルと統計量	母集団と標本、最小二乗法
7	統計的推定 (1)	推定量の良さ、最尤推定量
8	統計的推定 (2)	信頼区間、母平均の区間推定、標本数の決定
9	統計的推定 (3)	カイ二乗分布、t分布、母分散未知での推測
10	仮説検定 (1)	検定の考え方、検定の良さ
11	仮説検定 (2)	母平均に関する検定（母分散既知/未知）
12	回帰分析 (1)	線形回帰、重回帰
13	回帰分析 (2)	線形回帰の応用
14	その他の話題	その他の話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義で話されたことで興味を持ったことがあれば、参考書などを参照して復習しながら理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

藤澤洋徳（2006）『確率と統計』、現代基礎数学 13、朝倉書店。

宮田庸一（2012）『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション。

Bruce et al. (2020) 『データサイエンスのための統計学入門 第2版』、オライリージャパン。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)。期末に行う筆記試験（資料持込可）の結果のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めてもらうための例題をさらに増やし、かつ時間も割いて丁寧に解いて見せるように改善する予定です。難易度も若干下げる予定です。Excelだけでなく、PythonあるいはRによるデータの扱い方についても触れる予定です。

【Outline (in English)】

[Course outline]

We will learn the basic idea of statistical inferences and master standard methods in data analysis.

[Learning Objectives]

You will

* learn descriptive statistics techniques and be able to read trends in the obtained data;

* understand how statistical inference works;

* be able to draw reasonable conclusions about the data generating structures.

[Learning activities outside of classroom]

If you are interested in something that was discussed in the lecture, you can refer to the books or materials referred in this class.

[Grading Criteria / Policy]

Final exam (100%).

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

ゲノム構造機能学 I

今村 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命情報はゲノムに刻み込まれている。生命活動を分子レベルで理解するためには、ゲノムを構成する遺伝子の働きとネットワークを理解することが不可欠である。本講義は、生命活動をゲノムの構造と機能の面から理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では生物がもつゲノムの遺伝子構成とそれぞれの機能についての包括的な理解を目指す。また、この講義で学んだ知識を日々の研究活動で実践するに至るまで深化させることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、ゲノム構造と機能について、特にゲノムの構造に力点を置き、生物がもつゲノムの遺伝子構成や、進化の過程でのゲノム構造の変化について解説する。Zoomを用いたオンラインで説明する。授業の内容に関する演習問題を学習支援システムから提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ゲノムの捉え方	ゲノム構造機能学Iの概要・授業の進め方について説明し、ゲノム、核酸、DNAについて復習する。
第2回	原核生物の遺伝子構造	原核生物の遺伝子を構造という視点から解説する。
第3回	原核生物のゲノム構造	原核生物のゲノムを構造という視点から解説する。
第4回	オペロンの構造（転写制御）	ラクトースオペロンの発現制御機構を中心に解説する。
第5回	遺伝子の相同性	ゲノムや遺伝子の相同性、相同遺伝子、分子時計について解説する。
第6回	様々なゲノム解析	コアゲノム、パンゲノムなどについて解説する。
第7回	中間テスト	中間テストを行う。
第8回	コアゲノムの分子系統解析	分子進化とコアゲノムを用いた分子系統解析について解説する。
第9回	生物集団の進化1	進化の過程を経た、生物集団のゲノム変化について解説する。
第10回	生物集団の進化2	進化の過程を経た、生物集団のゲノム変化について解説する。
第11回	生物集団の進化3	進化の過程を経た、生物集団のゲノム変化について解説する。
第12回	ゲノム配列から得られる情報	ゲノム配列から得られる様々な情報について解説する。
第13回	ゲノム構造変化の検出	ドットプロットなどのゲノム構造変化の検出方法について解説する。
第14回	期末テスト	期末テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業中に提示する演習問題を当日中に学習支援システムから提出する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

特定の参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を70%、演習問題や中間テストを30点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomを用いてオンラインで講義を進める。資料は学習支援システムにアップロードする。

【Outline (in English)】

A genome is the complete set of genetic information in an organism. This course introduces genomic science to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand the function and structure of the genomes in organisms. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70%), Mid-term examination and in-class contribution (30%).

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

ゲノム構造機能学 I I

山中 幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象に関わる全ての遺伝情報はゲノムに搭載される。本講義では、ゲノムの構造と機能、および機能発現制御について解説します。分子生物学の基本概念に基づき、「ゲノムの構造機能」について「遺伝子の構造機能」とともに紹介します。さらに、全ゲノム情報から展開される「ポストゲノム」について展望していきます。

【到達目標】

ゲノムの構造について、染色体からゲノム上の塩基配列までを統合的に理解する。加えて、ゲノムの機能について、ゲノム複製とゲノム情報発現を分子レベルで理解する。これらのゲノムの知識から、ヒトを含めた多種生物ゲノムの全遺伝情報解読からゲノム構造解析、さらなるゲノム機能解析への変遷について正しく理解する。その上で、現在展開されている新しいゲノム生物学の学術的意義や応用的展望を正しく考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は「学習支援システム」でその都度提示します。また、毎回の授業に対して、小テストにより学習到達度を確認していきます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、それぞれの課題で記述してもらうコメントや質問について、それらの主な解説を全体ヘフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ゲノム生物学の勃興	分子生物学からゲノム生物学へ
第2回	遺伝子の構造機能（1）	DNA複製
第3回	遺伝子の構造機能（2）	DNA情報発現
第4回	ゲノム情報（1）	分子生物学のゲノムへの挑戦
第5回	ゲノム情報（2）	DNA構造の解説
第6回	ゲノム情報（3）	ゲノム情報の解説
第7回	ゲノム情報（4）	ゲノムの全遺伝情報
第8回	ポストゲノム（1）	オミクス解析
第9回	ゲノムの構造機能（1）	機能的RNAとENCODE
第10回	ゲノムの構造機能（2）	エピジェネティックスの概要
第11回	ゲノムの構造機能（3）	真核生物染色体の階層構造
	ゲノムの構造機能（4）	原核生物の核様体
第12回	ゲノムの構造機能（5）	エピジェネティックスの分子機構
第13回	ポストゲノム（2）	ゲノム解読の超高速化
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の学習は、小テストで確認します。また、本科目を受講するには、専門科目「ゲノム構造機能学Ⅰ」「生体分子分析学Ⅰ」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることを想定しています。また、「細胞構造機能学Ⅰ」「蛋白質構造機能学Ⅰ」も修得し、本講義と関連する内容も理解していることを想定します。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「ゲノム4」（著者：T.A. ブラウン 監訳：石川冬木・中山潤一 メディカルサイエンスインターナショナル）
 「細胞の分子生物学 第6版」（著者：B. アルバート・A. ジョンソン・J. レービン・D. モーガン・M. ラフ・K. ロバーツ・P. ウォルター 監訳：中村桂子・松原謙一 ニュートンプレス）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の小テスト（65%）と期末テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。なお、期末テストは一定期間を設けたWeb試験を予定しています。一定期間の受験機会があるため、再試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料のブラッシュアップ

【Outline (in English)】

[Course outline] Genome is defined as the complete sequence of nucleotides in an organism and includes both genes and the noncoding sequences. This course introduces the structure and function of genome and the regulation of genome expression, based on the basis for molecular biology. The latter looks at a view of epigenomics followed by genomics.

[Learning Objectives] The goals is to understand molecular mechanism of genomic replication and expression.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the short examinations after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with in-class contribution (65%) and term-end examination (35%).

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

細胞構造機能学 I

川岸 郁朗

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、タンパク質と脂質、糖など様々な物質が複雑に入り混じり維持されている。よって、細胞の構造と機能を学び、生命現象を理解することは生命科学研究に必須である。本講義では、細胞・細胞膜の構造（真核生物、細菌、ウイルス）、タンパク質による物質の輸送、タンパク質の選別とその輸送、細胞運動、細胞骨格、それらに関連した疾病・生命現象や生命科学研究の手法について学ぶ。

【到達目標】

生命の基本となる細胞の構造と機能、特に細胞膜と細胞における空間的な自己組織化について、タンパク質の選別と輸送、動態の面から理解する。具体的には下記に記す内容について理解を深める。

- 1) 細胞膜における脂質の性質と境界としての役割
 - 2) タンパク質による物質輸送が担う生体維持の仕組み
 - 3) 合成されたタンパク質の適切な輸送と局在、内部構造の配置・再編の仕組み
 - 4) これらに関連した疾病とその機序
 - 5) 様々な研究手法がどのように生命科学の発展に寄与したか
- また、知識の詰め込みのみにならないよう、授業で得た知識を元に様々な視点から科学的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

特定の教科書は用いず、毎回配布する資料を元に講義として授業を行う。各講義では理解度確認のために簡単な演習を行い、次の講義で解説する。

基本的には各回ごとに系統立てて講義を進めるが、完全には分けていない。特に関連疾病や研究手法などはまとめずに各講義回に織り交ぜ解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：細胞の化学	細胞の内部構造と生体物質の化学に関する基礎
2	生体膜と生体エネルギー	細胞膜の構造とエネルギー代謝に関する概説、細胞の物理化学的解釈
3	タンパク質による物質輸送-1	境界としての細胞膜、膜を横断する物質の輸送、一次性・二次性能動輸送
4	タンパク質による物質輸送-2	物質の輸送体としてのタンパク質の役割、ポンプと細菌の薬剤耐性化
5	中間テスト-1	これまでの講義内容の理解度の確認
6	タンパク質の選別とその輸送-1	細胞のコンパートメント、タンパク質の選別シグナルと輸送の仕組み

7	タンパク質の選別とその輸送-2	ウイルスの膜構造、ミトコンドリアのタンパク質輸送と膜への挿入
8	タンパク質の選別とその輸送-3	分子シャペロンと品質管理機構、小胞体におけるタンパク質輸送、エンドサイトーシス
9	タンパク質の選別とその輸送-4	小胞輸送と膜融合、ゴルジ体におけるタンパク質輸送、糖鎖修飾、オートファジー
10	中間テスト-2	これまでの講義内容の理解度の確認
11	真核生物の細胞骨格と運動-1	細胞骨格と運動：アクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメント
12	真核生物の細胞骨格と運動-2	分子モーター：ミオシン、キネシン、ダイニン、鞭毛と繊毛
13	タンパク質の動態とヒトの疾病	タンパク質輸送や細胞骨格・運動に関連した疾病とその機序
14	細胞研究手法	細胞生物学的、生物物理学的、生化学的、分子生物学的、疫学的な研究手法・アプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し理解を深める。

【テキスト（教科書）】

教科書使用なし。

【参考書】

Essential細胞生物学 原書第5版 Bruce Alberts 他 南江堂
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第5版 和田勝 羊土社
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞
中間テスト(45%)、期末テスト(45%)、平常点(10%)を元に総合的に評価する。

＜評価基準＞
到達目標に記載した内容について理解し考えることができるか。また、答えのない科学的疑問について自ら積極的に学び、考察することができるか。

【学生の意見等からの気づき】

適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関係する連絡などに授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等を元に調整する。
細胞構造機能学I、蛋白質構造機能学I、ゲノム構造機能学Iで学んだ内容を踏まえ、講義を進行する。
大学、民間企業、国立研究所における研究経験を活かし、身近な生活やキャリアに役立つ講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The cell is the basic unit of living organisms and is maintained by a complex mixture of various substances such as proteins, lipids, and sugars. Therefore, learning the structure and function of cells is essential for life science research. In this lecture, students learn about the structure of cells and cell membranes (eukaryotes, bacteria, and viruses), transport of substances by proteins, sorting and transport of proteins, cell motility, cytoskeleton, diseases and life phenomena related to these structures and functions of the cell, and methods of life science research.

【Learning objectives】

The goals of this course is to understand the structure and function of the cell, which is the basis of life, especially the cell membrane and spatial self-organization in the cell, in terms of protein sorting, transport and dynamics. Specifically, students will deepen their understanding of the following topics.

- (1) The nature of lipids in cell membranes and their role as boundaries.
- (2) The mechanism of biological maintenance by the transport of substances by proteins.
- (3) Mechanism of proper transport and localization of synthesized proteins, and arrangement and reorganization of their internal structures.
- (4) Diseases related to the above and their mechanisms.
- (5) How various research methods have contributed to the development of life sciences.

In addition, students will acquire the ability to think scientifically about things from various perspectives based on the knowledge gained in the class, so that they do not just cram knowledge into their minds.

【Learning activities outside of classroom】

In this course, students are expected to study for 4 hours outside of class time in preparation.

Students are expected to review by lecture materials, reference books, original papers, etc. to deepen their understanding of the contents instructed in the class.

【Grading criteria /Policies】

< Evaluation method >

Overall evaluation based on mid-term test (45%), final test (45%), and in-class contribution (10%).

< Evaluation criteria >

Students have to understand and think about the contents described in the learning objectives.

In this class, we also emphasize the importance of being able to actively learn and think for oneself about scientific questions that have no answers.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

細胞構造機能学 II

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、その構造を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、原核生物および真核生物の細胞の構造、構造を維持するための仕組み、細胞周期や幹細胞および細胞研究方法について学ぶ。その際、生物の階層構造に留意し、複合的な視点から生命現象を捉えることを目指す。さらに、ワークショップ型の授業形態を通して、プレゼンテーションやグループワーク等、相手に理解してもらう能力を養う。

【到達目標】

生物の基本単位である細胞の構造や機能を理解する。とくに、細胞の構造を維持する仕組みや細胞の機能発現および細胞研究方法について理解する。さらに、ワークショップ型の授業形態を通して、自分の考えを他の人に理解してもらうためのスキルを養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、ワークショップ型の授業の進め方について説明し、テーマに沿った意見交換や発表を通して、その内容の理解を深める。テーマの内容は生命の起源、細胞内の核構造、細胞周期、細胞骨格、幹細胞、細胞研究法や光学顕微鏡について最新の知見をまじえて議論する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、試験やレポート等の詳細な講評はオフィス・アワーを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ワークショップ型授業の進め方についての説明と実践	授業の進め方を解説した後、生命の起源について議論
2	核の構造と機能	真核細胞の核の構造や核膜、核輸送について調べ議論
3	細胞周期-1	細胞周期のチェックポイントについて調べ議論
4	細胞周期-2	がん、アポトーシスについて調べ、その内容について発表し議論
5	細胞接着	細胞間接着因子や細胞外マトリックスについて調べ議論
6	細胞間シグナル伝達	細胞間にシグナルを伝達する仕組みについて調べ議論
7	中間テスト1	前半の講義内容の復習
8	中間テスト1の復習	中間テストのポイントと重要点について解説
9	細胞骨格	微小管やアクチンの重合・脱重合のメカニズムについて調べ議論
10	幹細胞研究	幹細胞研究の応用や問題点について調べ、その内容について発表し議論

11	再生医療	最新の再生医療について調べ、その内容について発表し議論
12	超解像光学顕微鏡	光学顕微鏡の超解像技術について調べ、その内容について発表し議論
13	中間テスト2	後半の講義内容の復習
14	まとめと解説	これまでの講義のポイントと重要点について解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業中に指示する内容について、参考書等で予習し、理解を深めるとともに、授業中にプレゼンテーションできるようにパワーポイント等にまとめておく。授業中に不定期に出される課題に対して、指定の期日までにまとめてレポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】

細胞の分子生物学 原書第7版 B. Alberts 他著 メディカル・サイエンス・インターナショナル

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験30％・中間試験20％・レポート課題10％・平常点40％の成績を総合して評価する。

＜評価基準＞原核細胞と真核細胞の構造や細胞構造を維持するための機構や細胞研究法について理解しているか。よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。自分の考えを他の人に説明できるか。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップ型の授業はモチベーションを保ちやすいが、参加するためのハードルが高いことが問題である。プレゼンテーションのみではなく、グループワーク等の全員で調べて議論する回を増やす等の参加しやすい環境を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。授業内で自分の意見をプレゼンテーションする場合に用いる貸与パソコン等の機器

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with the structure of a prokaryotic and eukaryotic cell, a cell cycle, a stem cell, and a method of a cell study.

The goals of this course are to understand the structure and function of the cell.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short reports (10%), and in class contribution (40%).

BLS200YB (生物科学 / Biological science 200)

生体分子分析学 I

豊岡 博子 (Hiroko KAWAI-TOYOOKA)

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体を構成する高分子のうち、核酸（DNA・RNA）を対象とした分析技術について、その背景、原理、手法および応用などを体系的に学び、核酸研究への理解を深める。

【到達目標】

それぞれの核酸分析法の特性や原理を理解し、基本的なものについては説明できる。各手法によって得られるデータを読み取り、その意味を理解できる。これらの技術が生命科学の発展にどのように役立ってきたのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で講義を行う。講義前までに資料（PDFファイル）を学習支援システムにアップロードするので、講義中はそれを参照して受講する。リアクションペーパーに授業内容に関する感想や質問等を記入し、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	核酸の基本構造と機能、分析の重要性
第2回	核酸の抽出と定量	DNA・RNAの抽出、吸光度による濃度測定
第3回	DNAの切断と分離	制限酵素処理、アガロースゲル電気泳動、DNAの可視化
第4回	PCRの基礎	基本原理、ポリメラーゼの種類、プライマー設計、Tm値
第5回	PCRの応用	変異導入、逆転写PCR、リアルタイムPCR
第6回	DNAシーケンシング	サンガー法の原理、キャピラリー電気泳動、データ解析
第7回	分子クローニング	制限酵素を用いたクローニング、PCRクローニング、シームレスクローニング
第8回	中間テスト	ここまでの理解到達度の確認
第9回	次世代シーケンシング1	ショートリード（Illumina）の原理
第10回	次世代シーケンシング2	ロングリード（PacBio/Nanopore）の原理
第11回	遺伝子発現解析	ノーザンハイブリダイゼーション、定量RT-PCR、マイクロアレイ、RNA-seq
第12回	変異体解析・ゲノム編集技術	変異導入と原因遺伝子の同定、CRISPR-Cas9によるゲノム編集
第13回	エピジェネティクス	基本概念、DNAメチル化の検出法、ノンコーディングRNAの種類と機能
第14回	期末テスト（授業内テスト）	授業全体を通じた総合的理解の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 各回の講義内容を復習し、それぞれの技術の原理や応用の理解を深める。また、疑問点を明確にした上で、次のリアクションペーパーで質問できるよう準備する。

【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料（PDFファイル）を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、中間テスト40%、期末テスト50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーにより理解度を確認しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム上にアップロードされた講義資料（PDFファイル）を閲覧できるPC等の端末を持参し、講義中に参照できるようにすること。

【その他の重要事項】

実務経験：基礎生物学研究所 特別研究員、理化学研究所 ユニット研究員、東京大学 特任研究員。各機関での研究経験をもとに、実際の実験例を挙げながら講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline

This course introduces fundamental techniques in nucleic acid analysis, including extraction, electrophoresis, PCR, and sequencing. It also helps students develop the ability to interpret experimental data and understand the significance of these techniques in life sciences.

Learning Objectives

The goals of this course are to:

- Understand the principles and applications of nucleic acid analysis techniques.
- Accurately interpret experimental data obtained from these techniques.
- Understand how these techniques have contributed to breakthroughs in life sciences.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content and identify any unclear points to ask questions in the next class.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in-class contribution (10%), mid-term examination (40%), and term-end examination (50%).

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

生体分子分析学 I I

林 勇樹

開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学
生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体高分子、特に蛋白質にフォーカスを当てた分析学を学ぶ。まずは蛋白質の構造、性質に関して基本的なことを学習する。それを踏まえて、蛋白質の分離精製、定量、電気泳動法など基本的分析法、そして蛋白質の構造解析、可視化、質量分析、蛋白質間相互作用解析など、最先端の装置を用いた分析法について学び、論文におけるデータ（図）を理解できるようにする。また、一連の講義を通じて、蛋白質研究の基礎力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
背景の生化学、物理化学、熱力学を理解し、蛋白質に関する基礎を身につけた上で、蛋白質を扱った実験の内容を理解できるようになる。また、論文中にある図（機器分析によるデータ）を理解できるようにする。そして、実際に実験をするときに、どのようにして実験を進めるか、自分で立案、計画できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義の形式は基本的にはすべて zoom で行う予定であるが、一部オンデマンドになる可能性もある。講義の形式に変更がある場合は連絡するので hoppii を毎週確認すること。
パワーポイントスライドなどのプレゼンテーションを行う。適宜、演習やレポート課題などを課す。講義情報を随時、学習支援システムで周知する。基本的には授業計画に則って授業を進行するが、学習状況、理解度、進捗状況に応じて、内容を変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要説明 蛋白質に関する基本的な用語、性質、特徴について概説する。
第2回	蛋白質の物理化学的な性質について	蛋白質を構成するアミノ酸残基間に働く相互作用について説明する。 続いて、蛋白質特有の性質である、フォールディングと変性について説明する。
第3回	蛋白質の電気泳動	蛋白質研究において基本的な実験手法である SDS-PAGE、Native-PAGE、Blue-Native PAGE、二次元電気泳動について説明する。
第4回	蛋白質の検出技術	代表的な蛋白質検出手法である Western blotting について説明する。
第5回	蛋白質の精製	さまざまな蛋白質の精製方法について説明する。
第6回	蛋白質の定量方法	さまざまな蛋白質の定量方法について説明する。
第7回	蛋白質間相互作用解析	Two-hybrid, SPR、FRET、ITC 等、蛋白質間相互作用解析法について述べる。
第8回	酵素反応速度論	触媒活性を持つ蛋白質「酵素」の活性測定方法について説明する。
第9回	蛋白質の構造解析その1	蛋白質の一次構造、二次構造の解析方法について説明する。
第10回	蛋白質の質量分析	蛋白質の質量を調べる方法について説明する。
第11回	蛋白質の立体構造解析	蛋白質の三次構造、四次構造を解析する方法について説明する。
第12回	脂質分析	生体を構成する脂質について概説する。 食品分野、医療分野における脂質分析の解説を行う。
第13回	糖鎖分析	「第3のバイオポリマー」である糖鎖について概説する。
第14回	まとめ	本講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】紹介するテキストや参考書による学習。講義で用いたプリントによる復習など。

【テキスト（教科書）】
特になし。プリントやプレゼンテーションスライドの簡易版を授業支援システムで配布する。または、授業中に適宜紹介する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中に行う練習問題や、各回の課題、課題の提出状況、学習状況、参加度）と、レポート課題などで総合的に評価する。
平常点【40-60点】+レポート点【40-60点】=合計【100点】として成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義中のディスカッション、小テスト、レポートなどで学生からの意見や要望を集める。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使うスライド資料を学習支援システムにアップロードする。
印刷して持参したり、各自の端末（PC、タブレット、スマートフォン等）で閲覧するなど、利用して頂きたい。

【その他の重要事項】
研究論文の探し方、論文の読み方、最先端の蛋白質研究情報なども提供する。

【Outline (in English)】
This course will show you how to analyze biopolymers, especially proteins. This course covers protein properties and structure, protein purification, protein quantitative analysis, electrophoresis, protein structural analysis, mass spectrometry, protein-protein interaction analysis. The course aims to enable students to get a basic knowledge and understanding about protein research.
【Learning activities outside of classroom】
Learning outside of class hours =4 hours, including preparation and review for this class.
This includes learning from textbooks and reference materials as well as reviewing lecture slides.
【Grading Criteria /Policy】
Grades are assessed comprehensively based on regular performance (including in-class exercises, assignments, submission status, learning progress, and participation), as well as report assignments.
The regular performance 【50 points】+the report assignments 【50 points】=a total of 【100 points】 for the overall evaluation of grades.

BLS200YB（生物科学 / Biological science 200）

分子微生物学

山中 幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微生物は生命科学の理解に大きな影響を及ぼしている。分子微生物学では、人類が「微生物を認知」し、発見された「微生物の多様な機能」に対する「遺伝的な分子構造機能」「生理的な分子構造機能」を通し、近年明らかとされている「ゲノム機能」を紹介する。それぞれを契機とした生命科学へのインパクトも具体的に紹介する。

【到達目標】

「コッホの原則」に基づいた微生物の認識から、「ドメイン説」「コアゲノム／パンゲノム」を介した現代生物学における微生物の位置付けを正確に認識する。さらに、講義中に紹介するウイルス、細菌、古細菌、真菌の多様な遺伝機能と生理機能について分子レベルで理解する。その上で、微生物間相互作用や環境ゲノムを正しく考察する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は「学習支援システム」でその都度提示します。また、毎回の授業に対して小テストにより学習到達度を確認していきます。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、それぞれの課題で記述してもらったコメントや質問について、それらの主な解説を全体へフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	認知（1）	微生物の発見
第2回	認知（2）	微生物の分類
第3回	多様性（1）	多様な微生物
第4回	多様性（2）	元素循環
第5回	多様性（3）	抗生物質
第6回	遺伝機能（1）	ドメイン説
第7回	遺伝機能（2）	微生物の分子遺伝学
第8回	遺伝機能（3）	微生物の遺伝機能
第9回	生理機能（1）	微生物の環境応答
第10回	生理機能（2）	微生物の分子機能の応用
第11回	ゲノム機能（1）	微生物のゲノム全塩基配列の決定
第12回	ゲノム機能（2）	微生物の水平伝播
第13回	ゲノム機能（3）	環境ゲノム
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業の復習は、小テストで到達度を確認していきます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「ブラック微生物学 第2版」（著者：J. G. ブラック 監訳：林英生・岩本愛吉・神谷茂・高橋秀実 丸善）

「微生物学 第5版」（著者：R.Y. スタニエ・J.L. イングラム・M.L. ウィーリス・P.R. ベインター 共訳：高橋甫・斎藤日向・手塚泰彦・水島昭二・山口英世 培風館）

「微生物の地球化学」（著者：T. フェンチェル・G.M. キング・T.H. ブラック バーン 訳：太田寛行・難波謙二・諏訪裕一・片山葉子 東海大学出版部）

「培養できない微生物たち」（著者：R.R. コールウェル・D.J. グリメス 監訳：清水潮）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の小テスト（65%）と期末テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。

なお、期末テストは一定期間を設けたWeb試験を予定しています。一定期間の受験機会があるため、再試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料の見直し

【Outline (in English)】

[Course outline] Microbe are major group in living organism on the earth. This course introduces you to the research findings and experiments, representing the discovery of diverse microbes, the molecular function of genetic and physiological mechanisms in microbes, and the structure and function of microbial genomes.

[Learning Objectives] The goals is to understand molecular mechanism of genetic and physiological functions in bacteria, archaea, fungi.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the short examinations after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with in-class contribution (65%) and term-end examination (35%).

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

バイオインフォマティクス

豊岡 博子（Hiroko KAWAI-TOYOOKA）

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の生命科学では、解析技術の急速な進歩により、多様で大規模な分子レベルの「情報」が蓄積している。これらの「情報」から生物学的な意味を引き出し、新たな知見を得るためには、バイオインフォマティクス（生命情報科学）の技術が必要である。本講義では、バイオインフォマティクスの基本的な方法論を実践的に学び、その有用性を深く理解することを目的とする。

【到達目標】

データ解析の基礎的な手法を習得し、それを通じてバイオインフォマティクスの基本的な考え方を理解する。また、バイオインフォマティクスの解析技術にはどのようなものがあり、それらがどのように生命科学研究に貢献しているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で講義を行う。講義前までに資料（PDF ファイル）を学習支援システムにアップロードするので、講義中はそれを参照しながら受講する。講義では、解説に加えて、各自のPCを使用した実践的な解析も行う。また、リアクションペーパーに授業内容に関する感想や質問等を記入して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	バイオインフォマティクスとは何か？
2	塩基配列とアミノ酸配列	配列データの取得と取り扱いの基礎
3	配列類似性検索の基礎	BLASTの基本原理、E-value、BLAST2による配列比較
4	BLASTによるデータベース検索	各種BLASTの使い分け、データベース検索の実際
5	マルチプルアライメント	Clustal Omegaによるマルチプルアライメント
6	分子系統解析の基礎1	系統樹の基本概念、距離法による系統樹構築
7	分子系統解析の基礎2	系統樹推定法の比較、同義置換・非同義置換
8	中間テスト	ここまでの理解到達度の確認
9	タンパク質の機能予測	InterProを用いた機能ドメイン予測、翻訳後修飾・細胞内局在の予測
10	ゲノム解析	次世代シーケンサーによる配列取得、ゲノムアセンブリの基礎
11	トランスクリプトーム解析	RNA-Seqによる網羅的遺伝子発現解析
12	プロテオーム・インタラクトーム解析	質量分析によるタンパク質の網羅的解析、BioIDによる相互作用タンパク質の検出
13	構造バイオインフォマティクス	AlphaFoldを用いたタンパク質立体構造の予測

14 期末テスト（授業内 授業全体を通じた総合的理解のテスト） 評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各回の講義内容を復習し、疑問点を明確にした上で、次のリアクションペーパーで質問できるよう準備する。講義で取り上げる解析のうち、各自のPCで実行可能なものは、繰り返し行い、操作に慣れることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内容に沿った資料（PDF ファイル）を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点10%、中間テスト40%、期末テスト50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーにより理解度を確認しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCもしくは個人所有のPCを持参すること。

【その他の重要事項】

実務経験：基礎生物学研究所 特別研究員、理化学研究所 ユニット研究員、東京大学 特任研究員。これらの経験で実際に行ったバイオインフォマティクス解析に基づく知見を講義内で適宜紹介する。

【Outline (in English)】

Course outline

Recent advances in high-throughput technologies have led to the rapid accumulation of diverse molecular data in life sciences. To extract meaningful insights from this vast amount of data, bioinformatics has become an essential tool. The aim of this course is to help students understand the importance of bioinformatics and acquire fundamental skills through hands-on practice.

Learning Objectives

The goals of this course are to:

-Understand the fundamental concepts of bioinformatics and acquire basic technical skills.

-Acquire knowledge of various bioinformatics techniques and understand how they contribute to life science research.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content and identify any unclear points to ask questions in the next class. Students should also practice applicable analyses on their own computers to become familiar with the operations.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in-class contribution (10%), mid-term examination (40%), and term-end examination(50%).

BMS300YB (生体分子化学・ケミカルバイオロジー / Biomolecular science 300)

ケミカルバイオロジー

影近 弘之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ケミカルバイオロジーは、化学、特に人工的な化合物を用いた生命科学研究であり、化学、生物学、医学、薬学など他分野にまたがる学際研究分野である。本講義では、ケミカルバイオロジー分野の研究手法を理解するための有機化学、分光学の基礎を学んだ上で、ケミカルバイオロジーの研究手法やその応用分野である創薬を志向した医薬化学研究について学ぶ。

【到達目標】

ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学、分光学などの基礎的な知識を習得するとともに、ケミカルバイオロジー研究や創薬を志向した医薬化学研究の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学(構造、反応、合成)、分光学(光物性)などの基礎知識を講義する。ついで、これらの化学的知識と技術が、生命科学研究にどのように生かされているか、また、その応用研究としての創薬を志向した医薬化学研究についても概説する。なお、講義中の演習などで理解度を確認し、それを勘案して授業計画を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	分子の構造と機能 1	授業説明と有機化合物の構造と性質
2	分子の構造と機能 2	有機化合物の異性体と機能、有機反応と生体内反応
3	光と物性	蛍光とその応用
4	蛍光ラベル化法 1	蛍光ラベル化法概論
5	蛍光ラベル化法 2	蛍光ラベル化法の先端研究の論文を読む
6	バイオイメーキング 1	蛍光センサーの基礎
7	バイオイメーキング 2	蛍光センサーの構造と機能
8	バイオイメーキング 3	Bioorthogonalな反応の基礎とその応用
9	中間試験	理解到達度判定
10	ケミカルバイオロジーと創薬 1	化合物ライブラリー
11	ケミカルバイオロジーと創薬 2	医薬品開発とメディシナルケミストリー
12	ケミカルバイオロジーと創薬 3	Activity-based protein profiling の基礎と応用
13	ケミカルバイオロジーと創薬 4	メディシナルケミストリーの基礎
14	ケミカルバイオロジーと創薬 5	生理活性物質の設計と合成・創薬最先端研究紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】与えた課題についてのレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

「入門ケミカルバイオロジー」(オーム社)
 蛋白質核酸酵素増刊「ケミカルバイオロジー」長野哲雄他編(共立出版)
 「ケミカルバイオロジー:成功事例から学ぶ研究戦略」長野哲雄・萩原正敏監訳(丸善出版)
 「創薬化学」野崎正勝、長瀬博(化学同人)
 「ライフサイエンスのための基礎化学」影近弘之、平野智也訳(東京化学同人)

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート及び中間試験（20%）、期末試験（60%）を基準として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

化学の苦手な人にも理解できるように心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: The purpose of this course is to understand the basic and application about chemical biology field. Chemical biology is a new and significant field of bioscience. This field includes the research to solve the biological problems at the molecular level or to regulate the biological systems by using the techniques, knowledge and ideas of chemistry. This course deals with the overview of the chemical biology and medicinal chemistry including some topics of recent research.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have study the handouts to be available in advance. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report/examination (20%), term-end examination (60%), and in-class contribution (20%).

BLS300YB（生物科学 / Biological science 300）

バイオエナジェティクス

竹田 哲也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命活動を支えるエネルギーとは何か。本講義では、既習の生化学知識を基盤に、熱力学の基礎から分子機構まで、定量的かつ統合的な理解を目指す。重要な概念は繰り返し扱い、単なる代謝経路の暗記ではなく、「なぜその反応が進むのか」「どのように制御されているのか」という本質的な理解を深める。身近な現象や生理的状況と関連づけながら学び、確実な知識の定着と科学的思考力の養成を目標とする。

【到達目標】

1. 生体エネルギー論の熱力学的基礎を理解し、自由エネルギー変化を用いて反応の進行方向を予測できる。
2. エネルギー代謝の主要経路について、反応機構と調節を説明でき、定量的なエネルギー収支を計算できる。
3. ATP合成の分子機構と化学浸透説を理解し、その実験的証明法を説明できる。
4. 代謝調節の仕組みと生理的・病態生理学的意義を理解し、応用できる。
5. 実験データや論文の図表を批判的に読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、演習問題やディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実施する。授業資料は学習支援システムHoppiiを通じて配布する。定期的に小テストやレポート課題を課し、次回授業で解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論：生命とエネルギー	バイオエナジェティクスの全体像、生化学の基礎復習
2	熱力学の基礎(1)	自由エネルギー、エンタルピー、エントロピーの概念
3	熱力学の基礎(2)	化学平衡と生命系の特性、共役反応
4	酸化還元反応とATP	レドックス電位、ATPの構造と機能
5	生体内電子伝達	電子伝達体の種類と役割
6	糖質代謝(1)	解糖系の反応機構とエネルギー収支
7	糖質代謝(2)	グリコーゲン代謝、糖新生
8	TCAサイクル	クエン酸回路の反応と調節
9	電子伝達系	ミトコンドリアにおける電子伝達
10	酸化的リン酸化	ATP合成の分子機構、化学浸透説
11	脂質代謝	脂肪酸の酸化と合成、ケトン体代謝
12	アミノ酸・タンパク質代謝	アミノ酸分解、尿素回路
13	代謝の統合と調節	代謝経路の相互関係、調節機構、代謝状態による変化
14	総括	全体の統合的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回の授業後、配布資料を見直し、不明点を整理すること。推奨する教科書や無料オンライン教材を活用し、理解を深めること。定期的に課される小テストやレポート課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。授業資料をHoppiiで配布する。

【参考書】

以下の参考書・参考資料を適宜参照することを推奨する：
 「レーニンジャーの新生化学（第8版）」廣川書店 (Lehninger Principles of Biochemistry, 8th ed., W.H. Freeman)
 「細胞の分子生物学（第6版）」東京化学同人 (Molecular Biology of the Cell, 6th ed., Garland Science)
 「基礎からしっかり学ぶ生化学」羊土社
 Khan Academy、MIT OpenCourseWare等の無料オンライン教材
 ※授業の進行に応じて、追加の参考資料を紹介する場合がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の要素を総合的に評価する：

授業への参加：20%

小テスト（3～4回程度）およびレポート課題：20%

期末試験：60%

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、学生の意見を積極的に取り入れ、改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ノートパソコンまたはタブレット端末（演習・資料閲覧用）
- ・計算機（スマートフォンアプリ可）

【その他の重要事項】

本科目では知識の確実な定着を最重視し、重要事項は繰り返し扱う。疑問点は授業中・授業後に積極的に質問すること。オフィスアワーを設定し、個別質問にも対応する。

【Outline (in English)】

What is the energy that sustains life? This course aims for a quantitative and integrative understanding, from the fundamentals of thermodynamics to molecular mechanisms, building upon students' existing knowledge of biochemistry. Key concepts will be revisited throughout the course, with an emphasis not on the mere memorisation of metabolic pathways, but on developing a deep, essential understanding of why a given reaction proceeds and how it is regulated. By connecting these principles to familiar phenomena and physiological contexts, the course is designed to foster both solid knowledge retention and the cultivation of scientific thinking.

BME300YB（人間医工学 / Biomedical engineering 300）

医用生体工学

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】

生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメージング技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン(Zoom)でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第2回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第3回	脂質とリボソーム	脂質膜やリボソームの形成法、安定性
第4回	リボソームの応用技術	リボソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第5回	細胞の再構築	リボソーム内タンパク質発現や機能性リボソーム
第6回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第7回	中間テストの解説	中間テスト-1の解説と結果に基づいた補足
第8回	微細加工技術	光リソグラフィ、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第9回	ES細胞・iPS細胞	ES細胞やiPS細胞を中心とした幹細胞やMuse細胞などの最新のトピックス
第10回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第11回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第12回	再生医療	最新の再生医療技術について
第13回	中間テスト-2	中間テスト-1以降の理解到達度確認
第14回	中間テストの解説	中間テスト-2の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験30％・中間試験(1と2)20％・発表点30％・平常点20％の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】

学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.

The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

栽培植物学

佐野 俊夫

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、私たちの食料となる作物（穀物、野菜、果実）にはどのような種類があるのかを学び、それぞれの作物がもつ成育特性を理解する。さらに、これらの作物が世界および日本国内でどのように栽培されているのかを知り、栽培における課題とその解決方法について学習する。

【到達目標】

食料・資源として利用されている栽培植物の栽培特性および食料・資源としての価値を理解する。そしてそれらの作物栽培にはどのような配慮が必要であり、どのような問題があり、今後どのような変化が予想されるかについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、毎授業で課題を出します。その授業のポイントの復習に充てているので、課題解答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	栽培植物学とは	栽培植物学とはどのような学問か、主要栽培植物を紹介する
第2回	イネの来た道	日本で栽培されるイネの起源、世界のイネ、コメの性質、これからの稲作について説明する
第3回	コムギ、オオムギの栽培と利用	コムギ、オオムギの日本、世界での栽培、利用、性質を説明する
第4回	マメ科植物の栽培と利用	日本と世界のマメ科植物栽培、およびその加工利用方法について説明する
第5回	トウモロコシの栽培と利用	世界のトウモロコシ栽培、日本での利用、これからの栽培について説明する
第6回	いも類の栽培と利用	主にジャガイモ、サツマイモの栽培と利用について説明する
第7回	油料作物、嗜好料作物の栽培と利用	植物油に加工される油料作物、および、嗜好料作物として主にチャ、コーヒーについて説明する
第8回	世界で栽培されている野菜類	世界で栽培されている野菜類について説明する
第9回	アブラナ科野菜の栽培と利用	主要なアブラナ科野菜であるダイコン、キャベツ、カラシナの栽培と利用について説明する
第10回	ナス科野菜の栽培と利用	主要なナス科野菜である、トマト、ナス、ピーマンの栽培と利用について説明する
第11回	果実栽培と利用（1）	主要な果実である、リンゴ、かんきつ類、ブドウの栽培と利用について説明する
第12回	果実栽培と利用（2）	果樹の生育、果実の成熟と老化、その保存方法について説明する
第13回	花きの栽培と利用（1）	花きの園芸的分類、および主要な花きである、キク、カーネーションについて説明する
第14回	花きの栽培と利用（2）	球根類、花木類、ランの栽培と利用について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる課題内容はその回の重要事項であり、課題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑地、果樹園等には本講義で紹介する作物が栽培されていると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

・「作物学概論」第2版 朝倉書店
・「図説園芸学」第2版 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に解説することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In this course, we explore the major types of crops that serve as our food sources, including cereals, vegetables, and fruits, and examine the growth characteristics of each. We also study how these crops are cultivated around the world and within Japan, identifying key challenges in crop production.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72%、Assignments given during each lecture: 28%

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物病原菌類学

廣岡 裕吏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病原菌類の基礎知識（形態、生態、生理的特徴や分類体系等）を修得する。「樹木医補」資格取得のメニュー科目でもある。

【到達目標】

植物病原菌の植物への寄生能力を知ることで、植物医科学の応用技術を修得できる。あわせて、樹木医補等の資格に適應する技術を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず、菌類とヒトや文化との関わり、菌類の働きを学び、次いで、植物医師（技術士、樹木医）の基礎となる植物病原菌類の分類・形態・生態等を学習する。また、本講義を植物医科学基礎実験・応用実験の内容に反映できるよう、様々な植物菌類病の症状や病原菌類の観察方法などについても理解を深める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要と授業の進め方
第2回	菌類とは（1）	菌類とヒトや文化とのかかわり
第3回	菌類とは（2）	自然界での菌類の働き（森林を例として）
第4回	菌類の分類	生物界の中での菌類の位置とその特徴
第5回	植物病原菌（1）	変形菌・根こぶ病菌の特徴とその病害
第6回	植物病原菌（2）	水を泳ぐ卵菌類の特徴とその病害
第7回	植物病原菌（3）	ツボカビ・接合菌の特徴とその病害
第8回	植物病原菌（4）	子囊菌の特徴とその病害
第9回	植物病原菌（5）	担子菌の特徴とその病害
第10回	植物病原菌（6）	不完全菌（分生子果不完全菌）の特徴とその病害
第11回	植物病原菌（7）	不完全菌（不完全糸状菌）の特徴とその病害
第12回	菌類の多様性（1）	植物内生菌について
第13回	菌類の多様性（2）	培養法に基づいた菌類の解析
第14回	菌類の多様性（3）	非培養法に基づいた菌類の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義のポイントを提示するのでまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

菌類のふしぎ（東海大学出版会）、植物病原菌類の見分け方（大誠社）、植物医科学実験マニュアル（大誠社）、菌類の生物学（共立出版）など、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(約20%)、課題や試験(約80%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足、ほぼ満足するとの結果が大半を占める。菌類の形態的多様性に魅せられたとのアンケートも多く寄せられており、菌類の恩恵（利用場面）も含めて講義を広げる。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for study of the plant pathogenic fungi. The goals are to obtain the basic knowledge of plant pathogenic fungi such as morphology, ecology, physiological characteristics, classification system, etc. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination and short reports: 80%, in class contribution: 20%.

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物病防除学

池田 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病を防除することの重要性を認識し、どのような手法で植物病が防除できるのかを知る。また、様々な防除技術の特徴や、植物病の病原菌や害虫の発生生態に基づいた防除対策の策定および社会的ニーズに基づいた防除技術開発とその実例を学ぶ。

【到達目標】

植物病の防除技術の種類と特徴を知り、植物病の発生生態を踏まえて、農業生産者のニーズを満たした防除方法を提案できる。また、植物病の防除技術開発に携わることのできる基礎的な知識を習得して

いる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

生産現場で実際に発生した植物病の事例を紹介し、防除対策導入のポイントを解説する。その際に、これまでの研究成果などから推察される植物病の発生生態を踏まえ、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	防除のはじまりと意義・重要性
第2回	防除技術の種類と選択・導入	病原菌の生活環を考慮した防除方法と対策の導入
第3回	化学的防除法1（農薬一般）	農薬の一般知識、防除器具の種類、耐性菌の発生
第4回	化学的防除法2（防除の実例）	化学農薬を使った植物病の防除事例
第5回	耕種的防除法1	圃場衛生と抵抗性品種の活用
第6回	耕種的防除法2	輪作による植物病の防除
第7回	物理的防除法1	熱や光質を活用した植物病の防除
第8回	生物的防除法	微生物を活用した植物病の防除
第9回	持続的な防除技術	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と重要性と実例の紹介
第10回	防除のための情報の取得	防除技術を選択・導入する上で必要な情報の取得
第11回	植物病の伝染環と拡大様式	モノサイクリック病害とポリサイクリック病害の防除対策
第12回	防除に関わる最新技術	防除に関わるゲノム編集、バイオスティミュラント、スマート農業について
第13回	防除技術開発のための研究計画とデータ解析	On-farm researchと防除技術の評価に必要な解析
第14回	防除技術開発の実例	実用化された防除技術開発の経緯と社会への貢献について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
重要な専門用語について、複数のソース（書籍、事典、websiteなど）を用いて復習する。また、実験実習科目とも関連付けて、本授業内容の理解に努めること。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は学習支援システムに掲載する。

【参考書】

米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）

Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』（APS PRESS）
難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）、課題・レポート（30％）、平常点（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際の農業生産現場で発生する植物病害を授業の対象として、植物病を防除するために植物医師として必要不可欠な知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】

国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】

Students will recognize the importance of controlling plant diseases and learn what methods are used to control plant diseases. They will also learn the characteristics of various control techniques and the formulation of control measures based on the life cycle of plant disease pathogens and pests, as well as the development of control technologies for social needs. It is important to know the types and characteristics of plant disease control techniques and to propose control methods that meet the needs of farmers based on the life cycle of plant disease pathogens. In this course, cases of plant diseases that have occurred in agricultural production will be introduced and key points for the introduction of control measures will be explained. Students can learn what kind of control measures are effective, based on the life cycle of plant disease. Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

AGC100YD（農芸化学 / Agricultural chemistry 100）

土壌科学

亀和田 國彦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土壌は、「地球の皮膚」とも称され、地球の陸域にごく薄く分布します。陸上の植物は、直接に、また、人類を含めて動物は、植物を介してその生命の維持を土壌中の養分に依存し、この点で、我々はミミズと同じく土壌の生き物と言えます。

植物の必須元素として17元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の14元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、土壌の基本的な構造と機能ならびに植物への養分供給能力や環境との関わりをとおして、土壌の役割を学びます。

【到達目標】

まず、土壌の構造と機能を学び、それら性質が、地理的分布と生成因子に関連づけられていることを理解します。つづいて、それら性質が、植物への養水分供給能力と植物の生育に大きく影響することを理解します。そのような植物と土壌との関わりをなかで、植物の健全な生育を支えるために、土壌の性質がどうあるべきかを学び、不良土壌の判断と改良対策を示すことができ、植物医科学分野に有効な知識を習得します。

さらに、土壌をケミカルリアクターまたはバイオリアクターとして捉え、植物の健全な生育を実現しながら、地域生態系と地球環境を長期的に維持するための土壌の役割と、それを実現するための管理手法のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。

対面授業とオンデマンドを組み合わせる。

学習支援システムにより資料を提供する。

対面授業では、リアクションペーパーを、オンデマンドでは授業レポートの作成と提出を求める。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地球と土壌	土と土壌 土壌機能概観 土壌と文明
第2回	土壌の材料	一次鉱物と二次鉱物 風化と二次鉱物の生成 粒形組成
第3回	土壌の物理性	腐植の生成と性質 三相分布 土壌空気
第4回	土壌の化学性	水の保持と水分張力 化学性を構成する各種性質 pH 酸化和還元 イオン吸着
第5回	土壌の荷電特性	定荷電と変位荷電 リンの特異吸着
第6回	土壌の生物性	陽イオンの固定 土壌生物の種類と機能 土壌生物を介する物質循環 微生物バイオマス
第7回	土壌の生成と分類	風化と土壌生成 土壌の生成因子 土壌の種類 分類体系
第8回	水田土壌	酸化還元に伴う物質の形態変化 水田土壌の生成分類と特徴
第9回	森林土壌と畑地土壌	腐植の集積と分解 炭素循環 養分の流亡 畑地の層位分化 土壌類型区分と利用形態の違いによる特徴付け

第10回	土壌中養分の可給性	pHの変化に伴う各種養分の可給性の変化 リンの難溶化 窒素の無機化と有機化 土壌の緩衝能力
第11回	土壌診断	土壌分析 分析値の評価と対策 土壌溶液 容量因子と強度因子
第12回	土壌診断演習	土壌改良 改良資材の特徴と選択 事例と演習
第13回	物質循環	窒素の有機化と無機化 窒素循環 リンの循環 カリウムの循環 原始地球と石灰 環境容量
第14回	環境と土壌	我が国の農耕地土壌の実態と変化の趨勢 土壌調査 地球環境の変動が土壌に与える影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

土壌サイエンス入門 第2版 木村直人・南條正巳編、2018、文永堂出版
土壌学概論 犬伏和之編、2020年、朝倉書店
土壌学の基礎 松中照夫、2012年、農文協

【成績評価の方法と基準】

期末試験60％、リアクションペーパーおよび授業レポートによる平常点40％による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで質問や提案を受け、できる限り次の授業で回答し反映する。

【その他の重要事項】

春学期開講の植物栄養学を併せて受講することにより、理解が深まる。

【Outline (in English)】

Soil, also known as the "skin of the Earth," is the outermost layer of the planet. This thin layer of living material averages only 18 centimeters in thickness, yet it exerts a critical influence on the processes that occur on the Earth's surface. Soil is our life support system. It provides anchorage for roots, holds enough water for plants to use, and holds nutrients that support life. We are "soil animals" as well as "earthworms." Myriad microorganisms perform a range of biochemical transformations, from fixing atmospheric nitrogen to decomposing organic matter and other organisms. Most biodiversity is found in the soil, not above ground. You will study a range of soil functions and capabilities.

[Learning Objective]

First, you will learn about the structure and function of soil. You will understand that its properties are related to geographic distribution and growth factors.

Then, you will learn how these properties influence the soil's ability to provide plants with nutrients and water. Through studying the relationship between soil and plants, you will learn which soil properties are necessary for healthy plant growth. With this knowledge, you will be able to evaluate soil quality and determine how to improve it. These skills are essential in botanical science.

Additionally, you will reflect on the role of soil in sustaining the regional ecosystem and global environment in the long term, considering soil as a chemical or bioreactor and how it should be managed to achieve healthy plant growth.

[Out of Class Learning Activities] Review the lecture content using the lecture notes and reference books. Four hours is the standard for out-of-class learning, including preparation and review, for this course.

[Grading Criteria/Guidelines] Grading will be done using a comprehensive method based on 60% of the final exam and 40% of the normal grade, including the reaction paper submitted each time.

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

診断技術論

大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕吏、酒井 啓充

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病（微生物病、害虫による被害、生理障害等）が発生したとき、あるいは発生前に予防手段を取る際に欠かせないのが植物病の正確な診断である。診断法には症状の目視のみならず、様々な方法が開発されてきており、実際の診断は迅速性、確実性などの必要に応じていくつかの方法を組み合わせることで診断することになる。それら様々な診断法と診断の流れを理解するとともに、植物病の診断法の今後について考察する。

【到達目標】

植物医科学の基礎としての植物病の病原（菌類、細菌、ウイルス、昆虫、ダニ、線虫など）の観察・同定法を修得する。あわせて、樹木医補、自然再生士補等の資格取得の基礎となる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

圃場診断、問診のあらましを学び、次いで、症状により原因の目安を付け、微生物病、害虫や線虫およびその被害の診断ポイントなど基本的な方法や手順を修得する。さらに、電子顕微鏡観察、化学的診断、血清学的診断や遺伝子診断など、より詳細な診断技術を学習する。また、伝統的診断技術と先端的診断技術の融合や今後の診断連携等を論議する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	植物医科学における診断の重要性と診断の流れ
第2回	診断の手順	問診、病原微生物の検査法
第3回	微生物病の診断	病気ごとの診断・コッホの原則
第4回	害虫の診断(1)	診断と同定、害虫診断法
第5回	害虫の診断(2)	画像による害虫診断法、診断・同定依頼法
第6回	主要害虫、植物ダニの診断	形態、分類、生態
第7回	植物被害等からの診断	害虫による植物被害等の特徴
第8回	線虫概論	分類・形態・生態等、検診技術（土壌・植物体の調査法）
第9回	主要な植物寄生性線虫(1)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第10回	主要な植物寄生性線虫(2)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第11回	顕微鏡の仕組みと観察	光学顕微鏡と電子顕微鏡による観察・診断
第12回	血清学的診断法	ELISA法など
第13回	遺伝子診断法	PCR法など
第14回	診断システムの概要	診断のシステム化、ネットワーク化、遠隔診断システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義のポイントをまとめておくこと。課題に関して自己学習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

植物医科学(第2版)（養賢堂）、植物医科学実験マニュアル（大誠社）等、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(約20%)、課題や試験(約80%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

植物医科学の基礎となる診断技術に特化した科目であり、詳細な技術を把握できるとの回答が多くある。今後は具体例などをさらに充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面を用いて講義を進める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for the diagnostic methods of the plant diseases. The goals are to receive the knowledge of the various diagnoses. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination and short reports: 80%, in class contribution: 20%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物生理生態学

佐野 俊夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、植物の発生・成長・分化といった基本的な生理機能を理解するとともに、環境変化に適応しながら生育する植物の生態的なしくみを学ぶ。植物の正常な生理・生態を理解してこそ、病害や生理障害などの異常な状態を正しく把握することができる。特に、移動できない植物は環境変化に 대응するための高度な機構を発達させており、その理解のために植物ホルモンの作用機構を中心に学習する。

【到達目標】

植物が様々な環境変化（水、光、接触、乾燥など）に対応して、どのような生理的变化を示すかを理解し、その変化の背景には植物ホルモンなどの働きがあることが理解する。また、これらの生理的变化をもたらし、環境刺激から植物成長に至る信号伝達の基本についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。また、毎授業に課題を出し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題解答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物細胞の特徴	植物細胞の特徴と細胞観察のための顕微鏡技術について説明する
第2回	植物細胞の成長と植物成長	植物細胞がどのように成長すること、植物個体が成長するのかを説明する
第3回	植物細胞の分裂	植物細胞分裂と分裂にかかわる細胞骨格、微小管の機能を説明する
第4回	組織、個体における物質輸送	水、イオン、生体高分子の細胞間の移動、および組織間の移動のしくみを説明する
第5回	光合成と地球環境	光合成しくみ、光合成様式の違いによる植物の生存戦略を説明する
第6回	植物ホルモン（1）、オーキシンの作用	植物ホルモンであるオーキシンの化学的性質、および植物での作用機作を説明する
第7回	植物ホルモン（2）、サイトカイニンの作用	サイトカイニンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第8回	植物ホルモン（3）、ジベレリンの作用	ジベレリンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第9回	植物ホルモン（4）、エチレンの作用	エチレンの生理作用と信号伝達経路を説明する。
第10回	植物ホルモン（5）、アブシシン酸の作用	アブシシン酸の生理作用と信号伝達経路を説明する。
第11回	花成とフロリゲン	花成をもたらし環境刺激とその植物内での信号伝達経路を説明する
第12回	形質転換と遺伝子組換え作物	植物の形質転換に用いられるTiプラスミドと、作出された遺伝子組換え作物について説明する
第13回	植物の環境応答	植物生育のストレスとなりうる環境要因とそれに対する植物の応答を説明する
第14回	植物の病害応答	植物病に 대응するしくみを植物生理学知見から説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる課題の内容はその回の重要事項であり、課題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける道端、庭等に生育する植物は常に環境に対応しながら成長しているので、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回、講義資料を配布する。

【参考書】

- ・「植物の成長」裳華房
- ・「植物の生態－生理機能を中心に－」裳華房
- ・「植物生理学」第2版 三村徹郎 化学同人
- ・「ティツ ザイガー 植物生理学・発生学」培風館

【成績評価の方法と基準】

期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の課題はその日の授業のポイントがわかると好評であることから続けている。また、穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に解説することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In this course, we aim to understand the fundamental physiological functions of plants, including development, growth, and differentiation, as well as the ecological mechanisms that enable plants to adapt to environmental changes. As plants cannot move, they have evolved sophisticated mechanisms to perceive and respond to environmental fluctuations. To understand these adaptive systems, the course focuses particularly on the mechanisms of action of phytohormones. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 72 %, Assignments given during each lecture: 28%

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

雑草学

佐野 俊夫、村岡 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雑草とは、作物の生育を妨げたり、景観を損ねたりする植物の総称である。本講義では、まずどのような植物が雑草と呼ばれ、どのような生育特性によって作物より優位に立ち、生育を阻害するのかを学ぶ。さらに、これらの雑草を防除するための方法として、機械的手法、化学的手法、生態学的手法について理解を深める。

【到達目標】

雑草学では雑草の生育特性を植物生態学的に理解し、そしてその特性を理解したうえで、雑草防除方法を生化学、分子生物学的に理解する。また、除草剤を使う際の安全性への配慮、環境への影響に対して配慮すべきことを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

雑草生育と除草剤作用機構の生理生態学的部分を佐野が、雑草防除の現状、具体的な防除例を村岡が説明します。
講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、毎授業で課題を設定し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題回答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	雑草とはなんだろう	雑草とはどのような植物なのか、また、雑草学とはどのような学問であるかを概説する
第2回	身近な雑草の生き方	身近に存在する雑草がどのような生存戦略をとっているのかを説明する
第3回	水田雑草の生理生態学	水田に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第4回	畑地雑草の生理生態学	畑地に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第5回	除草剤作用の生理学	一般的に用いられる除草剤の作用機構を説明する
第6回	形質転換と除草剤耐性作物	除草剤耐性作物の作出方法とその原理について説明する
第7回	雑草防除と有機農業	一般的な雑草防除法と除草剤を使わない有機農業法の違いを説明する
第8回	雑草防除の歴史	かつては人力で行われていた雑草防除の変遷を説明する
第9回	雑草になる植物（1）畑地	農地により雑草の種類は異なり、畑地での例を紹介する
第10回	雑草になる植物（2）水田	水田の雑草は他とは異なる特徴を有するのでその概要を説明する
第11回	雑草の防除手法	現在行われている雑草の除去の具体的方法を説明する
第12回	雑草の化学的防除法（1）	農業として最初に使われた2,4-Dと、除草剤の変遷を説明する
第13回	雑草の化学的防除法（2）	前回の続きであるが、特に環境への配慮について触れる。
第14回	雑草の総合的防除法	環境に配慮した、生態的防除法とその工夫を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中には本講義で紹介する雑草と呼ばれる植物が多く生育していると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回講義資料を配布する。

【参考書】

松中昭一、きらわれものの草の話、岩波ジュニア新書

山口裕文、雑草学入門、講談社
浅井元朗、植調 雑草図鑑、全国農村教育協会

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に課す課題 28%、で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

Weeds are a general term for plants that hinder crop growth or spoil the landscape. In this course, we first examine what kinds of plants are referred to as weeds and which growth characteristics allow them to interfere with crop development. We then study methods for controlling these weeds, focusing on mechanical, chemical, and ecological approaches.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Assignments given during each lecture: 28%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物医科ビジネス論

宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、植物医科学に関連するビジネス概況の理解を目標とする。講義テーマは、主に農業、園芸、食品、環境に関するものとし、実際のビジネスの現場で活躍する人材を講師として呼び、今後の発展を議論する。

【到達目標】

植物医科学に関連するビジネス分野を知り、それぞれの事業分野の要諦を知る。講義終了時にはレポートをまとめ、学生ひとりひとりが将来の自分のキャリアについて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

植物は食料生産のみならず、公園など屋外公共空間の景観形成や事業所ビル内外の装飾、あるいは家庭における園芸など現代社会のあらゆる場面で利用されている。その際、植物が健康に生育していることが必要であり、植物が利用されるあらゆるビジネスで植物医科学が必要とされる。植物医学が活用できる業界の具体的な動向や今後の戦略などを民間からの講師を交えて論じる。また、新たなビジネスの創造についても議論する。なお、課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	植物医科学に関連するビジネス全般を解説し、講師が行っている事業についても紹介する。
第2回	種苗ビジネス	種苗系ビジネスの概要を紹介し、キーとなる技術を解説する。
第3回	農業ビジネス	近年増加する農業法人による生産活動の概略を解説し、その中で植物医科学が果たす役割について学ぶ。
第4回	肥料ビジネス	健全な土壌を維持するために必要な技術を学び、実際のビジネス現場についても解説する。
第5回	農業ビジネス	農業ビジネスの実際を解説し、農業に関連する法規についても理解する。
第6回	アグリベンチャービジネス	アグリ系のベンチャーの取り組みについて学ぶ。
第7回	まとめ	これまでの学んだ内容を踏まえて10年後の農業についてグループディスカッションと発表を行う。
第8回	食品ビジネス	食品産業において原料としての植物の重要性を学び、ビジネスとして成立させるために重要なポイントを解説する。
第9回	農業機器ビジネス	農業におけるIoT、ICTを活用について解説する。
第10回	機能性食品ビジネス	植物由来の機能性食品ビジネスについて解説する。
第11回	植物工場ビジネス	植物工場の仕組みおよび活用について解説する。
第12回	バイテクビジネス	農業における遺伝子組み換え技術とその活用について解説する。
第13回	農業計測ビジネス	農業現場へのドローンやセンシングを活用した取り組みについて学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの講義を通じて学んだ内容を踏まえて未来の農業についてグループディスカッションと発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習は必要としないが、日頃から新聞やインターネット等で植物に関連するビジネスについての情報に触れておくことを推奨する。

【テキスト（教科書）】

なし。適宜、資料を配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、質疑およびレポートにより総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義内での質問の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

全ての回でPCが必要である。また、カメラをオンにできる通信環境を整えて参加すること。

【その他の重要事項】

本講義の教員は全員植物医科ビジネスの実務経験を有する。実際のビジネスの現場について紹介するとともに、将来について受講者とディスカッションする。

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim to understand business overview related to plant medicine science. Lecture themes mainly relate to agriculture, horticulture, food and environment, and we will talk about the company who conducts plant related business. Grading will be comprehensively decided based on the reports and in-class contribution (100%).

AGC200YD（農芸化学 / Agricultural chemistry 200）

フードセーフティ論

八戸 真弓、稲津 康弘、久城 真代、川崎 晋、宮ノ下 明大、高畠 令王奈

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食品の安全性確保に重要な危害要因（化学物質、自然毒、微生物、放射能など）の特性とリスク低減対策の概要について学ぶ。また、対策の基本となるリスク分析の考え方を理解する。これらの知識をもとに、食品安全や食料安全保障についての理解を深める。

【到達目標】

食品安全は単に食品衛生上の技術問題の解決だけでは達成できないことを理解する。行政とフードチェーン（生産・加工・流通・販売・消費）に係わる全ての関係者（ステークホルダー）の意思疎通および連携・協力が食品安全問題の解決には必要不可欠であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

農作物の重金属、カビ毒汚染問題や有害微生物による大規模食中毒事件の発生など食品安全問題は消費者の関心が高い。食品安全を確保するためには、従来の食品衛生上の品質管理手法に加え、国際的な取組としてのリスク分析導入によるリスク評価、リスク管理およびリスクコミュニケーションが重要である。政策上も重要な課題となっている食品安全について、その背景と現状、将来の方向性について議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	食品安全総論（1）	危害要因とリスク、リスク分析
第2回	食品安全総論（2）	日本の食品安全行政・レギュラトリーサイエンス
第3回	食品安全各論（1）	食品の重金属汚染
第4回	食品安全各論（2）	食品の微生物制御と衛生管理（1）
第5回	食品安全各論（3）	食品の微生物制御と衛生管理（2）
第6回	食品安全各論（4）	カビ毒・ポストハーベスト（1）
第7回	食品安全各論（5）	カビ毒・ポストハーベスト（2）
第8回	食品安全各論（6）	遺伝子組換え食品（1）
第9回	食品安全各論（7）	遺伝子組換え食品（2）
第10回	食品安全各論（8）	異物となる食品害虫の種類・昆虫誤食の健康被害
第11回	食品安全各論（9）	食品への昆虫混入事例・防止対策
第12回	食品安全各論（10）	放射性物質の基礎知識
第13回	食品安全各論（11）	食品の放射性物質汚染
第14回	食品安全各論（12）	リスク心理学・リスクコミュニケーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
マスコミに取り上げられる食品安全問題に関してはその内容、背景などの理解に努める。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

食品衛生学 補訂版（新スタンダード栄養・食物シリーズ8）

ISBNコード（ハイフンなし）：9784807916795

出版社：東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

受講姿勢（講義ごとの小テスト等20%、出席率40%）及び最終総合レポート（各教官からの複数課題に関するレポート作成、40%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an overview of the measures and characteristics of hazards (chemical substances, natural poisons, microorganisms, radioactivity etc.), and also the concept of risk analysis important for securing food safety. The aim of this course is to help students deepen the understanding of food safety and food security, based on these knowledge. Students are expected to spend approximately four hours per week on out-of-class learning activities, including preparation and review for this course. Final grade will be calculated according to the learning attitude—including short reports (20%) and attendance (40%)—and a final report (40%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物バイオテクノロジー概論

川合 伸也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物バイオテクノロジーは、最先端の生命科学を基盤として、21世紀における人類の食料の確保、燃料や薬品などの有用物質の生産、木材や繊維の生産、地球環境の保全と改善などに幅広く役立つ画期的な生物工学技術である。本授業では、植物バイオテクノロジーの背景、基礎、応用についての専門基礎的な知識を広く身につける。

【到達目標】

受講者は、この授業を受講することにより、
1 細胞融合・遺伝子組換え植物の作製法の原理を理解できる。
2 個別の遺伝子組換え作物が開発された背景、導入された遺伝子と新たな形質との関係を理解できる。
3 New Plant Biotechnologyとして、植物のゲノム編集、ウイルス・ベクターの利用の利点を理解できる。
4 食品の安心と安全の違いと科学的な安全性評価を理解できる。
Learners who successfully complete this course will be able to:
・Recognize breeding methods of transgenic plants and cell fusions
・Recognize down- and up-regulations of plant genes and gene disruption methods
・Recognize genome editing methods and application of virus vectors
・Recognize principles and mechanisms of genetically modified foods and phytoremediation

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業形式で行う。ただし、オンラインでライブ配信と録画のオンデマンド配信も予定している。
リアクションペーパー提出や課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入編 Introduction	遺伝子組換え作物の栽培の現状と、 遺伝子組換え作物と慣行栽培や有機栽培との比較 Statistics of genetically modified foods, comparison to non-genetically modified foods, and regulations.
第2回	基礎編 1 Basics 1	組織培養と細胞融合と遺伝子導入系（パーティクルガン法） Structure of plant cell, totipotency of plant cell, dedifferentiation and redifferentiation, tissue culture and plant hormones, cell fusion and cybrid, principles of plant genetic engineering, and particle gun.
第3回	基礎編 2 Basics 2	遺伝子導入系（アグロバクテリウム法）と導入された遺伝子の選択系と複製系とカルスからの個体再生系 Transformation methods with binary vectors of Agrobacterium, including the selection and regeneration systems.
第4回	基礎編 3 Basics 3	アグロバクテリウム法とパーティクルガン法の比較、マーカーフリー組換え体の作出法 comparison between Agrobacterium and Particle gun methods, and Selective marker-free transgenic plants.

第5回 基礎編 4
Basics 4

ゲノム編集 (ZFN と CRISPR-Cas9) と遺伝子発現抑制法 (遺伝子破壊法と RNAi) と CRES-T 法による遺伝子発現抑制、T-DNA tagging とその利点
Principles and applications of reverse genetics and genome editing, and T-DNA tagging method.

第6回 応用編 1-1
Application 1-1

第一世代組換え食品：エチレン生合成制御による果実の成熟制御と Bt などによる害虫抵抗性

Control of fruit riping by down-regulation of ethylene synthesis, insect tolerance.
第一世代組換え食品：除草剤耐性作物 1・・・耐性化機構の分類とグリフォセート耐性、グルフォシネート耐性、・スルフォニルウレア系除草剤耐性と選択的遺伝子置換、プロモキシル耐性、2,4-D 耐性、イソキサフルトール耐性

第7回 応用編 1-2
Application 1-2

Herbicide tolerance (glyphosate, glufosinate, sulfonylurea, 2,4-D).
第一世代組換え食品：ウイルス抵抗性及びディフェンシン生産作物、barstar と barnase を用いた雄性不稔作物

第8回 応用編 1-3
Application 1-3

Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS, R gene, chitinase, plant defensin) and Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS)

第9回 応用編 1-4
Application 1-4

第二世代組換え食品：ゴールデンライス、ビタミン E 強化ダイズ、油脂の改変、デンブンの改質、スギ花粉症緩和米、経口ワクチン含有作物

第10回 応用編 2-1
Application 2-1

The second generation of genetically modified foods (Golden Rice, oleate rich soy bean, tryptophan rich rice, ferritin-containing rice, rice to repress cholesterol, low allergen-containing rice, 花色と改変 1・・・植物色素の種類と青色の発現機構とデルフィニジン生合成による花色改変

第11回 応用編 2-2
Application 2-2

Alternation of flower color (pigments of flower, pH theory, metal chelate theory, copigment theory, anthocyanidin biosynthetic pathway, delphinidin, F3'5'H, blue carnation and rose).
花色と花型の改変 2・・・オーロン生合成による花色の改変と花の ABC モデルと花型の改変、FT と TFL による開花制御
Control of flowering (leafy, FT, TFL, and ALSV) and flower shapes (leafy, needly, ABC model, superman)

第12回	応用編3 Application 3	ストレス耐性植物（低温耐性）・・・ ホスファチジルグリセロールの改変 と脂肪酸の改変と適合溶質と活性酸 素除去、(乾燥・浸透圧耐性、重金属 耐性)・・・適合溶質と活性酸素除去、 鉄欠乏耐性、亜硫酸ガス耐性植物 Stress tolerance 1(cold, drought, freezing, salinity, high temperature, inhibition of photosynthesis, compatibe solute, GPAT, phosphatidyl glycerol, light
第13回	応用編4 Application 4	植物による環境浄化・・・水銀浄化と 重金属超蓄積植物、ファイトケラチ ン、ハロゲン置換炭化水素や芳香族 化合物浄化作物、排気ガス浄化作物 Air pollution tolerant plants, tolerance to iron-deficiency (mugineic acids) and Phytoremediation (phytochelatin, mercury tolerance, arsenic tolerance, heavy metal tolerance, volatile enviro
第14回	総括 Conclusion	全体の復習と練習問題の解説 Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】参考書などによる予習および復習が必要である。授業のパワーポイント資料を学習支援システムにアップロードしておくので各自ダウンロードして予習するとともに、授業にはダウンロードしたPCを持参する。分子生物学や遺伝子工学の基礎を既に理解しているという前提で授業内容を組んでいるので、授業中に簡単には説明するが、それらの分野の知識が足りないと自覚したら、自習する。In addition to the class, students are recommended to prepare for the class using pre-distributed Power Point files.

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。パワーポイント資料が実質的な教科書である。パワーポイントのファイル自体を学習支援システムから各自ダウンロードして勉強する。なお、授業の終盤には、出題する可能性の高い問題をアップロードしておく。

None

【参考書】

*植物の生化学・分子生物学 (Buchanan, B.B. 編, 杉山 達夫 監修, 学会出版センター, 2005.

*Wikipedia 遺伝子組み換え作物 (川合が大部分を書き込み編集したので、授業内容の理解に役立つ。(http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%81%BA%E4%BC%9D%E5%AD%90%E7%B5%84%E3%81%BF%E6%8F%9B%E3%81%88%E4%BD%9C%E7%89%A9)

【成績評価の方法と基準】

試験100%。配布のプリント、参考書など、ノート、プリントアウト等の紙類及び通信機能のない電子辞書の持ち込み可。また、授業最終回には、試験の傾向と対策についての説明を行う。

test (100%). At the exam, you can bring and read books, printouts and notes.

【学生の意見等からの気づき】

- ・ゆっくり話すようにする。
- ・アンケートでは授業レベルはこのままで良いという意見と高度すぎるという意見に分かれているので、解説を増やすとともに授業内容の厳選を行う。
- ・量が多過ぎる(範囲が広すぎる)という批判があるが、この授業は概論であり、所々内容を深く講義することはあっても、広く浅く講義せざるを得ない。予習復習したり発展的に勉強したりする上で書籍をできるだけ購入しなくてもすむように関連情報も載せているし、リンク先もパワーポイントファイルに埋め込んである。
- ・特に重要なスライドについては、授業中に注意喚起する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業用のパワーポイント資料をアップロードしているので、パワーポイントまたは互換性のあるソフトウェアをインストールしてあるノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

講義内容は必要に応じて変更することがある。質問等は授業中や授業終了後に行うことが望ましいが、メール(skawai@cc.tuat.ac.jp)でも受け付ける。その際、用件と所属をタイトルに記入すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with basics and applications of plant biotechnology and plant molecular biology. The topics covered are both principles of plant transformation and cell fusion methods and their applications. Students will learn to recognize the statistics of genetically modified foods in Japan and the world, stress tolerance, phytoremediation, and flower color alternation.

GNM300YD (ゲノム科学 / Genome science 300)

植物メディカルゲノム学

大島研郎、濱本宏

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、シーケンス技術の向上に伴い、植物や植物病原体のゲノム情報が急速に蓄積されつつある。本授業では、ゲノム解読・ポストゲノム解析の手法や、ゲノムデータベースの利用法を学ぶとともに、ゲノム情報が様々な分野に応用されていることを理解することを目的とする。

【到達目標】

ゲノム解読の手法やゲノムの構造的特徴を理解するとともに、ゲノムデータベース等を活用するためのスキルを身につける。また、トランスクリプトーム解析など、ゲノム情報を利用した網羅的解析の手法を理解する。植物病の防除・診断技術へゲノム情報を活用するための知識・技術の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とZoomを併用した「ハイフレックス形式」で講義を行う。各回の授業の終わりに課題を掲示し、提出された解答で理解度を確認しながら進める。また、授業内に前回の課題について講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体の説明
第2回	ゲノム配列の解析法 (1)	塩基配列決定の原理と手法
第3回	ゲノム配列の解析法 (2)	ショットガンシーケンス
第4回	ゲノム配列の解析法 (3)	次世代シーケンサー
第5回	ゲノム配列の解析法 (4)	ゲノムデータベース
第6回	ゲノム解析の実例 (1)	植物細菌のゲノム解析
第7回	ゲノム解析の実例 (2)	真核生物のゲノム解析
第8回	ポストゲノム解析 (1)	遺伝子発現解析 ～ マイクロアレイ
第9回	ポストゲノム解析 (2)	遺伝子発現解析 ～ プロテオーム
第10回	ポストゲノム解析 (3)	ゲノム進化・遺伝子診断
第11回	ゲノム情報の利用 (1)	後天的ゲノム修飾のメカニズム
第12回	ゲノム情報の利用 (2)	遺伝子組換え作物
第13回	ゲノム情報の利用 (3)	ゲノム編集技術
第14回	総括	講義内容の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業内で掲示された課題を解き、解答を提出する。また、講義資料、例題などを復習し、良く理解しておく。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第2版（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)、レポート課題(36%)、平常点(14%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器（貸与パソコン）を活用した演習を取り入れるとともに、講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して、課題の掲示や講義資料の配布を行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the genomics associated to plants and plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of sequencing of genomes. It also enhances the development of students' skill in the applied biology by using genomic data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (36%), term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物細菌学

大島 研郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物を病気から守るためには、病原体が植物に感染するメカニズムを分子レベルで明らかにすることが重要である。本講義では、微生物の中でも特に細菌に焦点を当て、細菌が植物に感染するために進化させてきた巧みな寄生戦略を理解することを目的とする。

【到達目標】

植物に病気を引き起こす細菌や、植物と共生する細菌について、形態、分類、病徴、宿主範囲、検出診断法、防除法など、基本的な知識を身につける。また、細菌が植物に感染するために用いる分子装置や、植物が細菌から身を守るために進化させてきた免疫システムを学習することで、細菌と植物が繰りひろげる攻防を分子レベルで理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業とZoomを併用したハイフレックス形式で講義を行う（URLなど詳細については学習支援システム・植物細菌学のページを確認してください）。
- ・各回の終わりに穴埋め問題などの課題を提示し、学習支援システムを通して回答してもらう。
- ・授業の初めに前回の課題の答えを解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体のガイダンス、細菌とはどのような生物か？
第2回	細菌の培養と代謝	細菌の培養法と、おもな代謝経路
第3回	細菌の分子生物学	細菌のDNA複製、転写・翻訳など遺伝子発現の特徴
第4回	細菌の分類、系統	細菌の分類法、細菌の分子進化学
第5回	植物細菌 1	野菜を溶かす微生物：ペクトバクテリウム属細菌
第6回	植物細菌 2	タンパク質を注射して植物に感染する微生物：シュードモナス属細菌
第7回	植物細菌 3	道管を詰まらせて植物を病気にする微生物：ラルストニア属細菌
第8回	共生細菌	植物と共生して生きる微生物：リゾビウム属細菌
第9回	難培養性の植物細菌 1	花を葉に変える微生物：ファイトプラズマ属細菌
第10回	難培養性の植物細菌 2	昆虫によって媒介される微生物：グリーニング病細菌
第11回	植物細菌の同定・診断	植物細菌の同定法、免疫学的診断法、遺伝子診断法
第12回	植物細菌病の予防技術	植物を病気から守るためのさまざまな予防技術

第13回 植物の防御システム 植物免疫：植物はどうやって病気から自らの身を守るのか？

第14回 細菌と植物の分子攻防 植物と病原細菌のはてしなき軍拡競争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
- ・課題を解くことで授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第2版（養賢堂）
植物医科学の世界（大誠社）
植物医科学実験マニュアル（大誠社）
植物病理学 第2版（文永堂出版）
植物たちの戦争 病原体との5億年サバイバルレース（講談社 ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)、課題(36%)、平常点(14%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the bacteriology associated to plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of culture method, classification, pathogenicity, diagnosis, and pest control. This course also enhances an understanding of the plant-microbe interaction at molecular level. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (36%), term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物ウイルス学

津田 新哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病理学・植物医科学分野の中で、農作物の重要病原の一種である植物ウイルス等の歴史、分類、病気の種類、診断法、防除法さらに最新の分子生物学に至るまでの基礎・応用・実用研究の最前線を解説する。さらに、ウイルス等の生物学的特徴を説明するとともに、生命科学をリードするウイルス等研究の役割について講義する。

【到達目標】

植物ウイルス病研究の歴史、現在のウイルス等の分類、分子構造、生物学的特徴、発生生態、媒介様式、さらに防除方法等について理解する。さらに、ウイルス遺伝子とその産物であるタンパク質の機能、それら高分子と植物遺伝子等との相互作用を通じて生命現象の仕組みを学習する。また、ウイルス感染から発病に至るまでの経緯を連続的に捉え、ウイルス病防除の技術的課題の抽出と農作物の安定生産に向けた対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物ウイルス病とウイルス学の歴史	植物ウイルス病とウイルス等研究の歴史について概説する。
2	植物ウイルスの分類	植物ウイルス等の分類方法の変遷と分類基準についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物ウイルスの構造	ウイルス粒子の形態、ウイルス粒子の化学組成、ウイルスゲノムの遺伝子構造について解説する。
4	植物ウイルスの遺伝と変異	ゲノムの異なるウイルスの遺伝子発現様式、ゲノム上で起こる遺伝子変異について解説する。
5	植物ウイルスの精製と定量	植物ウイルスの精製方法と定量方法について具体的な実験事例を示しながら解説する。
6	植物ウイルスの感染と増殖（1）	植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
7	植物ウイルスの感染と増殖（2）	引き続き、植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。

8	植物ウイルスの病徴	植物ウイルスが感染することによって表れる様々な病徴を理解し、その病徴発現の仕組みについてグループディスカッションで理解を深める。
9	植物ウイルスの伝染	植物ウイルスの自然界における伝染実態を紹介するとともに、異なる生き物により媒介されるその様式の多様性を説明する。
10	植物ウイルスの干渉	植物ウイルス間で起こる干渉作用を理解する。
11	植物の抵抗性と植物ウイルス病の疫学	植物遺伝子が引き起こす抵抗性反応を解説する。また、植物ウイルスの自然界における生活環と流行、さらに調査方法を解説する。
12	植物ウイルス病の診断と防除	植物ウイルスの病原体としての診断法と、その伝染環に基づく総合防除体系について説明する。
13	植物ウイルスの生物工学	生命科学におけるウイルス学の果たすべき役割と生物工学研究での社会モラルについて解説する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子や複製、翻訳などについては、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回の授業終了後に時間内で提示した資料を学習支援システムで公開する。各自でダウンロードし復習に役立てる。

【参考書】

「植物ウイルス学第2版」(朝倉書店、ISBNコード：978-4-254-42050-0 C3061)を推奨する。また、関係学術雑誌や専門書、実験技術マニュアルなども参考にする。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料の参考資料等については、学習支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関における植物ウイルス病の診断・防除に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】

This course provides a comparative examination of plant virus life cycles, with particular emphasis on the mechanisms by which viruses infect host plants and replicate within them. The course covers virus structure and classification, as well as the molecular bases of viral replication, evolution, and assembly, virus – host interactions, epidemiology, and strategies for the prevention and control of viral diseases. The expected total study time for this course is approximately four hours, including both preparation and review. Although no prior preparation is required before lectures, students are strongly encouraged to familiarize themselves with relevant technical terminology using appropriate reference materials. In particular, consultation of standard biochemistry and molecular biology textbooks is recommended to obtain a basic understanding of genes, replication, and protein synthesis. Each class session concludes with a question-and-answer period, during which students are encouraged to participate actively, including by asking questions related to previously covered material. Assessment is based on a final examination (50%), quizzes and reports (30%), and class attendance (20%). The final examination evaluates both comprehension of individual lectures and an integrated understanding of the course as a whole.

AGC200YD（農芸化学 / Agricultural chemistry 200）

微生物生態学

堀 知行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土壌や水界などのあらゆる環境に多種多様な微生物が生息している。これらの微生物は主要元素の循環に重要な役割を担っており、地球環境の恒常性の維持に不可欠である。加えて、微生物は植物や動物の生存にさまざまな影響を及ぼしている。本授業では、微生物と地球環境との関係性、微生物と高等生物との相互作用を研究する微生物生態学について、微生物の性質と分類、微生物と高等生物との共生、極限環境での微生物の生存戦略、環境微生物解析手法、微生物利用の可能性を中心に講義し、SDGsへの貢献など今後の研究展開について考える。

【到達目標】

微生物の基礎的知識を得るとともに、自然・工学的環境に生息する多種多様な微生物の生理生態学的な特徴を理解する。環境微生物解析手法について理解を深めるとともに、地球環境の恒常性や保全に果たす微生物の役割について学び、今後の微生物利用の展開を考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使った通常の講義（対話形式）とする。オンラインでの開講を基本とするが、詳細は開講前に学習支援システムを参照のこと。フィードバックは、授業時間内に実施する小テストの分析と解説、授業時間外に受ける質問への回答と解説を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	微生物生態学とは	微生物とは？ 生命の3ドメイン 栄養と代謝
第2回	微生物細胞の構造と機能	生体高分子 細胞膜と輸送 細胞壁の特徴
第3回	微生物の生息環境	水界、土壌、極限環境 バイオフィーム環境
第4回	微生物群集の構造と機能	微生物の系統学 培養できない微生物とその解析法
第5回	微生物の一次生産	一次生産と光栄養 植物プランクトンとブルーム
第6回	微生物の有機物分解	有機物分解と炭素循環 高分子有機化合物の分解
第7回	嫌気環境の微生物呼吸	いろいろな電子受容体 メタンと微生物
第8回	窒素循環と微生物	硝化と脱窒 アノモックス 窒素固定
第9回	硫黄循環と微生物	硫黄酸化と硫酸還元 海底堆積物の微生物
第10回	金属と微生物	鉄酸化と鉄還元 バクテリアリーチング
第11回	植物・動物と微生物の共生	菌根菌 根粒菌 微生物と動物・昆虫
第12回	微生物を用いた環境浄化	バイオレメディエーション 水処理・浄化
第13回	微生物利用の将来	地球環境と微生物活性 循環型社会に向けた微生物利用
第14回	理解度確認	授業内容の理解度確認 レポート課題説明または試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。専門用語などについて、配布する授業資料や参考書などを用いて復習する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

- ・Block 微生物学 Michael T. Madigan 他著 室伏きみ子他監訳 オーム社 2003年 18000円
- ・微生物の地球化学 元素循環をめぐる微生物学 T.Fenchel 他著 太田寛行 他訳 東海大学出版部 2015年 3200円
- ・授業の際に、それぞれの話題に則した学術論文などを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に実施する小テストによる平常点（40%）ならびにレポート課題（60%）をもとに、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックは、授業時間内に実施する小テストの分析と解説、授業時間外に受ける質問への回答と解説を通して行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するためのパソコンまたはタブレット等。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

A variety of microbes co-exist in natural environments, such as soil and water ecosystems. These microbes play important roles in the key element cycles in the environments, being indispensable to maintain the homeostasis of the earth. In addition, they have various influences on the existence of plants and animals. In this class, I lecture on microbial ecology, including the character and classification of microbes, the symbiosis of microbes with plants and animals, the microbial behavior in extreme environments, the microbial community analyses, the possible use of microbes for the global issues, e.g., SDGs. The learning objectives are (i) to gain the fundamental knowledge about microbes, (ii) to understand the distinctive characters of various microbes in natural and engineered environments, (iii) to expand an understanding of molecular tools in environmental microbiology and (iv) to learn the roles of microbes in the maintenance of the homeostasis and environment of the earth. The standard learning activities outside of classroom are assumed to be 4 hours of the preparation and review for one class. Reviewing important information, such as technical term, using the textbook and references is necessary. The grading criteria/policy is to comprehensively evaluate the achievements based on the quiz performed in each class (40%) and the term paper (60%).

BOA300YD（境界農学 / Boundary agriculture 300）

環境昆虫学

望月 文昭

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昆虫は、原生自然から農地、都市環境などさまざまな環境に生息している。このように多様な環境で進化した昆虫がどのような形態的・生態的特徴をもち、どのような生活を送っているかその概要を学ぶ。多様な環境で進化した昆虫の形態や生態を知ること、私たち人間の生活にとっても健全な環境や生態系が不可欠であること、そして、昆虫もそのような環境を構成する重要な要素であることを理解する。

【到達目標】

さまざまな環境に生息する昆虫の種類や目（もく）レベルのおおまかな分類群を識別できるようになり、身近な昆虫にも親しみを持つようになる。また昆虫の特徴的な行動や生活史を知ることによって生態系の中の昆虫の位置づけを理解し、人間にとって最も重要な環境について考える切っ掛けを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は要点をまとめた資料を配布した上でパワーポイントを使って進めます。また数回の授業ごとに小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業計画、学生の昆虫に対するイメージの確認
第2回	昆虫の系統分類	昆虫の系統進化と各分類群の特徴について（安田耕司先生）
第3回	身近な環境に生息する昆虫	庭や街路樹、家屋内など身近な環境にみられる昆虫や人間の生活に深く関わる昆虫について
第4回	農作物の害虫	作物や野菜、果樹等の主要害虫の種類と生態について
第5回	外来昆虫	海外から日本に侵入した昆虫や侵入が警戒される昆虫の種類と生態について
第6回	昆虫の発育・生理	発育速度や休眠など、昆虫の基本的な発育生理について
第7回	環境が昆虫の生態に及ぼす影響	特に昆虫の多型現象や相変異について
第8回	昆虫にみられる擬態	昆虫にみられる様々な擬態とその進化について
第9回	昆虫における遺伝と進化	昆虫にみられる進化や適応の遺伝的基礎について
第10回	地球温暖化と昆虫	地球温暖化が昆虫の分布や生態に及ぼす影響について
第11回	昆虫による生態系サービス	近年劣化が懸念されている生態系サービス（花粉媒介）について
第12回	外来生物が生態系に及ぼす影響	侵入昆虫をはじめとする外来生物が生態系に及ぼす影響について（安田耕司先生）
第13回	農業生態系に生息する昆虫	農業生態系の特徴とそこに適応した昆虫の生態について
第14回	講義内容の補足と期末試験	講義内容についての補足説明、および講義内容の理解度を確認するための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】庭や街路樹、屋内など身近にいる昆虫に興味を持ち、それらの名前を図鑑やインターネット等を用いて調べる経験をもつ。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

1. 応用昆虫学の基礎、後藤哲雄・上遠野富士夫、農山漁村文化協会、2019
2. 外来種ハンドブック、日本生態学会編、地人書館、2002
3. 地球温暖化と昆虫、桐谷圭治・湯川淳一編、全国農村教育協会、2010

4. 「ただの虫」を無視しない農業、桐谷圭治、築地書館、2004

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）、小テスト（20％）、平常点（20％）
ただし今後、状況が変わった場合は変更の可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を基本的なところで誤解している例も見受けられたことから、簡単な内容でも丁寧に説明するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Insects inhabit a variety of environments, from natural habitats to agricultural land and urban areas. Students will learn about the morphological and ecological traits that insects have evolved in diverse environments and how they survive and thrive in these environments. By learning about the characteristics of insects, students will understand that healthy environments and ecosystems are essential both for insects and for human life, and that insects are an important component of such ecosystems. Final grade will be calculated as follows: Mid-term examination(20%), term-end examination(60%), in-class contribution(20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

媒介システム学

津田 新哉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病原微生物が植物から植物へと自然界において媒介される実態を解説する。特に、植物病の主たる媒介者である昆虫の分類を事例として、媒介生物と植物病原微生物、さらに植物との三者間の伝染環に基づく相互作用を説明し、植物を病気から保護する技術的対策について論説する。

【到達目標】

植物病の主たる媒介生物である昆虫とそれに媒介される病原微生物の自然界における相互作用を理解し、それらの媒介に関連する生体高分子間の反応の実態を学習する。また、植物、病原微生物、媒介生物の三者間の連鎖により成立する伝染環を把握し、媒介様式に着目した病害制御対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物病害における伝染環研究の歴史	植物病害伝染環の研究史と病原微生物の伝播の基礎知識を概説する。
2	植物病原微生物の伝染様式	植物病原微生物の自然界における伝染様式についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物病原微生物の媒介様式	植物病原微生物の媒介生物による伝染経路を説明する。
4	植物病原微生物の媒介生物（1）	植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
5	植物病原微生物の媒介生物（2）	引き続き、植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
6	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（1）	媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
7	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（2）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
8	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（3）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
9	生物によるウイルス媒介の分子機構	媒介生物体内におけるウイルス等の局在、増殖、移動などについての分子機構を説明する。

10	植物病原体の種子伝染機構	植物種子により伝染する病害を解説するとともに、ウイルス等を事例にした種子伝染の分子機構を説明する。
11	媒介昆虫の生態と植物病害発生との相互関係	媒介昆虫の生活環の変転に伴う植物病害の発生の変化についてグループディスカッションで理解を深める。
12	植物病原体-媒介生物-宿主植物の相互作用の解析	三者間の相互作用により発生する植物体の生物反応について解説する。
13	植物病原体の薬剤耐性とその対処法	植物病原微生物の薬剤耐性能の発達とその対処法を説明する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子、タンパク質などの生体高分子の機能については、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回の授業終了後に時間内で提示した資料を学習支援システムで公開する。各自でダウンロードし復習に役立てる。

【参考書】

関係学術雑誌や専門書、実験技術マニュアルなどを参考にする。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料の参考資料等については、学習支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関において植物病の伝染環制御に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】

The primary objective of this course is to provide students with a comprehensive understanding of the transmission mechanisms of diseases caused by plant-associated microorganisms. Particular emphasis is placed on interactions between plant viruses and their insect vectors, as well as on strategies for plant protection. To this end, the course examines the ecological relationships between plants and their surrounding environment, including interactions with other plants and microorganisms. The expected total study commitment for this course is approximately four hours, including time allocated for preparation and review. Although no advance preparation is required prior to lectures, students are expected to review relevant technical terminology using appropriate reference materials. In particular, students are encouraged to consult standard textbooks in biochemistry and molecular biology to acquire a foundational understanding of the roles of biological macromolecules, such as genes and proteins. Each class session includes a question-and-answer period at the conclusion of the lecture, during which students are encouraged to participate actively, including by raising questions related to material covered in previous sessions. Course assessment consists of a final examination (50%), quizzes and written reports (30%), and class attendance (20%). The final examination evaluates both students' understanding of individual lectures and their overall, integrated comprehension of the course content.

BOA300YD（境界農学 / Boundary agriculture 300）

植物メディカルシステム学

濱本 宏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（ICT）の活用は、今後の農業の発展に不可欠である。農林水産省の食料・農業・農村白書には、古くからロボット技術やICTを活用したスマート農業などが紹介されてきた。本授業では、農業の中でも植物医科学分野に関わるICT技術として、フィールドサーバーやドローンなど農業データの取得にかかわるハード面と、データ処理技術、機械学習、人工知能(AI)などデータの利用にかかわるソフト面について、これら農業に革命をもたらす技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

農業や植物医科学におけるICTの利用例をもとに実務的な知識を身につける。また、その基盤をなす情報科学の基礎知識を得る。特に、関連する情報の検索とその活用、ゲノム情報の活用、画像解析技術の活用について具体的な例を学びながら最新の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

情報科学の基礎と、画像解析技術の応用、農業や植物医科学における情報取得とその活用、遺伝子情報の植物医科学への応用などを順次学ぶ。授業の内容によって、コンピュータを持参し実際の作業を行う回も設定する。さらに、情報科学を活用することで、どのようなことが実現可能なのか、何がメリットで何が問題点なのか、今後農業や植物医科学にどのように活用できるのかを考える。また、データ解析の手法について簡単な演習を交えて解説する。区切りごとに課題を設定し提出させ、次の授業冒頭に解説を加えることでフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方、授業概要の解説など ガイダンス
第2回	現代社会と情報科学	現代社会・特に農業関係で使われている 情報技術・情報通信技術について
第3回	情報技術の発達史	コンピュータの歴史やインターネットの普及など 情報技術発達史の歴史
第4回	農業とICT	農業に求められるICT技術とは何か
第5回	農業ICTに必要な情報の取得と利用	フィールドサーバー、ドローン、人工衛星などからデータを取得方法とその利用・生産環境制御
第6回	実際に現場作業する農業ICT技術	無人トラクター、ドローン、自動収穫機など
第7回	農業経営や生産管理におけるICT利用	以前より経営・生産管理、流通管理（トレーサビリティ）などに用いられてきたICT技術
第8回	植物医科学で用いる農業ICT関連データベース	病名目録、農薬登録情報、その他 オープンデータ紹介
第9回	植物医科学に用いられる遺伝子情報	ゲノム関連データベースの利用、AI育種など
第10回	植物医科学とAI	特にChatGPTなど生成AIをいかに植物医科学に利用するか
第11回	植物医科学で有用なwebsite等の紹介と活用	今昔の関連website/商品等紹介、簡単な実際の検索/解析
第12回	データ解析の手法（1）	データ取得、統計処理とデータサイエンス
第13回	データ解析の手法（2）	画像取得・画像処理とデータサイエンス
第14回	植物医科学に関連するネットワーク・総合討論	ICTと植物医科学の接点に位置する最新Topicsの解説と総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に紹介したデータベースやシステム等を、復習の際に実際に使用し、利用するとともに、他の授業や実習の予習、復習等の際に利活用することを心がける。

【テキスト（教科書）】
資料配布を基本とする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験とレポート課題：80%、平常点20%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解を深めるために、実際にPCを利用した実習を活用する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指示するので、PCを持参する。

【その他の重要事項】

民間企業に勤務した教員が、開発された新技術に関してビジネス的な観点も取り入れいち早く説明する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students study the technologies for data acquisition (field server, multirotor, next-generation sequencer, etc) and data processing (including the utilization of AI).

【Learning Objectives】

To obtain the ICT skills that can be used in the research works of clinical plant science and the clinical applications for the agriculture.

【Learning activities outside of classroom】

Browse the websites introduced in the class, try to find appropriate website for further information, and analyze the data obtained from the database.

【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination and reports (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物感染生理学

鍵和田 聡

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物と病原体は様々な相互作用を行っており、病原体の感染戦略と植物の抵抗性の攻防の結果として植物病害が引き起こされる。その発生メカニズムを分子レベルで理解するとともに、植物の防御機構を利用した防除法についても学ぶ。

【到達目標】

植物の抵抗性と植物を加害する病原体の感染生理を分子レベルから理解する。これを通じて植物と病原体の攻防についての理解を深め、防除のための基礎的な知識とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業計画に従って講義を行う。まず植物と微生物の関係について概説し、植物の抵抗性について述べる。次いで種々の病原体の感染戦略とそれに対する植物の防御応答について解説する。また、これを踏まえた上で防除戦略についてもいくつかの事例を紹介して考察する。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは授業内にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	植物感染生理学とは
第2回	植物と病原体	抵抗性と罹病性
第3回	植物の静的抵抗性	物理的、化学的抵抗性
第4回	植物の動的抵抗性（1）	抵抗性遺伝子、過敏感細胞死
第5回	植物の動的抵抗性（2）	抗菌性物質
第6回	菌類病の感染生理（1）	細胞壁分解酵素
第7回	菌類病の感染生理（2）	宿主特異的毒素
第8回	細菌病の感染生理（1）	侵入、認識、増殖
第9回	細菌病の感染生理（2）	発病因子、病原性遺伝子
第10回	ウイルス病の感染生理（1）	侵入、複製
第11回	ウイルス病の感染生理（2）	移行、ジーンサイレンシング
第12回	線虫病と害虫	適応、三者系、抵抗性
第13回	防除戦略（1）	プラントアクチベーター、生物防除
第14回	防除戦略（2）	分子育種

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

毎回資料・ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストを活用して振り返ること。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「分子レベルからみた植物の耐病性」島本ら、秀潤社

「植物病理学」眞山ら、文永堂

その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約20%）、期末試験（約80%）により総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、確認テストは授業支援システムにて行うため、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

Plants and their pathogens are interacting in various ways, causing plant diseases as a result of battle between infection strategies of pathogens and plant resistance. Students understand their mechanisms at the molecular level and learn about the disease control method using the defense mechanism of plants. By understanding the resistance of plants and the infection physiology of pathogens at the molecular level, students deepen the basic knowledge to prevent the plant diseases. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物臨床医科学

池田 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病の実践的な診断および防除の事例、最先端の防除技術を学び、植物医師として問題解決に必要な不可欠な知識と技術を修得する。

【到達目標】

農業生産の現場で発生する頻度の高い植物病の診断方法、およびその発生生態に関する知識を身につける。また適切な防除対策を策定し、生産者へ提案、実践する技術を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

生産現場で実際に発生した植物病の症例を写真で示し、診断のポイントを解説する。加えて、これまでの研究成果などから推察される発生生態を、図やイラストを用いて説明した後に、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物臨床医科学とは？	診断・防除対策の提案に必要な知識と技術
第2回	植物病の診断	圃場診断・植物体診断、問診や情報の活用
第3回	葉に発生する植物病（菌類）	うどんこ病、べと病などの診断、防除対策
第4回	葉に発生する植物病（菌類2）	トマト葉かび病やキュウリ褐斑病などの診断、防除対策
第5回	葉や茎などに発生する植物病（菌類）	子囊殻、分生子殻を形成する植物病の診断、防除対策
第6回	葉に発生する植物病（細菌）	斑点性の細菌病、黒腐病の診断・防除対策
第7回	葉に発生する植物病（ウイルス）	葉に発生するウイルス病の診断・防除対策
第8回	導管閉塞を伴う植物病（菌類1）	Verticillium属菌による土壌病害の診断・防除対策
第9回	導管閉塞を伴う植物病（菌類2）	Fusarium属菌による土壌病害の診断・防除対策
第10回	導管閉塞を伴う植物病（細菌）	土壌伝染する病原細菌による植物病の診断・防除対策
第11回	菌核で伝染する植物病（菌類）	白絹病、菌核病などの診断・防除対策
第12回	根および地際部の植物病（菌類）	Rhizoctonia属菌などによる植物病の診断、防除対策
第13回	根および地際部の植物病（その他）	Pythium属菌やPhytophthora属菌による植物病の診断、防除対策
第14回	地上部に発生する植物病（生理障害・薬害）	気象要因や施肥に起因する生理障害、薬害の診断・対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各講義の重要なポイントをまとめること。関連の課題に関して自己学習を行う。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を学習支援システムにアップする。

【参考書】

米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫 伝染病・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）

Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』（APS PRESS）

難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）、課題・レポート（30％）、平常点（20％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際の農業生産現場で発生する植物病を授業の対象として、「植物臨床医科学」が単なる学問に終わらず、社会で役立つ知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】

国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】

Students will learn practical cases of diagnosis and control of plant diseases, and study skills essential for problem-solving as plant doctors. The goal of this course is to acquire diagnostic methods and knowledge of the life cycle of plant diseases that frequently occur in agricultural production. In addition, the objectives are to gain the ability to choose and determine the best disease control measures based on the life cycle of plant diseases and to acquire the skills to propose and implement such measures to growers.

Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）
生物制御化学
望月 文昭
開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然選択の結果として現存する生き物たちは、実にさまざまな化学物質を巧みに利用して生きている。それは、自らが作り出す化学物質でもあり、ある場合は、他の生物が作り出す化学物質でもある。本授業では昆虫をおもな対象として、情報化学物質（セミオケミカル）が彼らの生態においてどのような役割を果たしているのかを理解するとともに、我々人間が害虫管理にそれを応用してきた経緯を知る。

【到達目標】

到達目標を以下の2点におく。①セミオケミカルの定義とその分類を正確に理解し、該当する研究論文の内容を理解する。②セミオケミカルを利用した害虫制御のメカニズムを理解し、持続可能な農業に寄与していることを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

昆虫をおもな対象として、「到達目標」を達成できることを念頭においた講義を主体とする。

理解の助けとして、研究結果をわかりやすく要約したスライド画像を多く用いる。また、研究の実際をイメージできるように、授業に関連して教員自身が直接・間接に経験した研究事例を随時織り込んでわかりやすく紹介する。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	「生物制御化学」とは何か、および、情報化学物質（セミオケミカル）とは何かを説明する。
第2回	フェロモン研究の歴史	日本人研究者によるブレイクスルーを紹介し、ガルの性フェロモンの基本構造を概説する。性フェロモンが一般的に複数成分の混合物で構成されていることを理解してもらう。
第3回	性フェロモンの同定方法と触角の役割	果樹害虫スモモヒメシクイを例に性フェロモンがどのような手順で同定されているか解説する。また、野菜害虫シロイチモジヨトウを例に、オス触角に存在する性フェロモンを専用に受容する感覚細胞の働きについて解説する。
第4回	同種他個体に作用する情報化学物質（フェロモン）	階級分化フェロモン、性フェロモン、集合フェロモン、警報フェロモン、道しるべフェロモン、密度調整フェロモン、これらの具体例を示し、フェロモンの全体像が理解できるよう解説する。

第5回	異種間に作用する情報化学物質（カイロモン）	食物連鎖の上位にいる生物は、下位生物の匂いを餌探しに利用している。このような匂いをカイロモンという。講義では、植食性昆虫、捕食性昆虫、寄生蜂、これらカイロモンに関する研究論文を解説する。
第6回	異種間に作用する情報化学物質（シノモン）	植物一植食者一天敵、3つの栄養段階にまたがる生物相互作用系における植物の匂いHIPVs (Herbivore-Induced Plant Volatiles:) に関する研究を説明する。
第7回	中間テスト	信号を発する植物、それを受け取る天敵の双方にとって利益をもたらすHIPVsはシノモンの一形態である。
第8回	植物間のコミュニケーションとアレロパシー	第1回～第6回の講義の理解度をテストする。また、テスト終了後に復習を兼ねた問題の解説を行う。
第9回	害虫防除への利用	植物が生産する化学物質が、他の植物体や捕食者に対しどのような影響を及ぼしているか実例を示し解説する。
第10回	社会性昆虫の情報化学物質（炭化水素）	情報化学物質を有効成分とした害虫防除剤について概説する。そのなかで特に普及している性フェロモン剤について、①モニタリング、②大量誘殺、③アトラクト&キル、④交信かく乱を紹介する。
第11回	侵略的外来アリの制御化学	社会性を維持するためにハチやアリが利用している様々な情報化学物質について概説する。また、巣仲間認識に重要な役割をもつ体表に存在する炭化水素が、共生者や捕食者といった異種間にも特別な作用を持つことを紹介する。
第12回	異種間に作用する情報化学物質（アロモン）	わが国で問題のアルゼンチンアリ、ヒアリ、アシジロヒラフシアリの3種を取りあげ、生態とアリ用ベイト剤による防除、ならびにアルゼンチンアリにおける道しるべフェロモン剤によるユニークな交信かく乱防除の試みを紹介する。
第13回	期末テスト	情報化学物質を放出する側に利益があり、受け手に不利益があるアレロケミカルをアロモンという。毒 (Poison, Venom) ・忌避 (Refuge) ・ごまかし (Deception)、以上3つに大別した後具体的に紹介する。

第8回～第12回講義の理解度をテストする。また、テスト終了後に復習を兼ねた問題の解説を行う。

- 第14回 交信かく乱剤に起こった問題
- 抵抗性： 性フェロモン剤（交信かく乱剤）は実用から40年経過し数多くの商品が販売されているが、抵抗性が確認されたのは1例だけである。この抵抗性に関する研究を概説する。
効くはずなのに効かない虫：果樹害虫トビハマキについてみつけた交信かく乱効果を阻害する物質を発見した経緯と実験結果を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

1. 受講前および受講期間中に教科書などで次の分野の基礎を学んでおく：「昆虫学」

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用：毎回の講義時に用いる資料は学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

1. 「化学生態学」中牟田潔編、朝倉書店、2024
2. 「化学生態学への招待」古前恒監修、三共出版、1996
3. 「香君」1-4 上橋菜穂子、文春文庫、2024
4. その他、講義において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間・期末テストによって「到達目標」に掲げた2つの項目ごとに基本的な事項の理解ができているかどうかを評価する。

要素ごとの配分と評価基準

- ・ 中間試験（32%）、期末試験(32%): 得点による
- ・ 平常点(36%): 授業に取り組む姿勢とミニテスト

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

The lectures for this course will encompass concepts of insect chemical ecology and their application for insect pest management. Students will understand “pheromones” which mediate intraspecific communication and “allelochemicals” mediating interspecific communication. Furthermore, students will understand the application of semiochemicals in insect pest management. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term examination (32%), term-end examination (32 %), and in-class contribution (36%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物医科学法論

大友 哲也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1 植物医科学、植物防疫の考え方を理解し、関連の法制度について知る。
- 2 植物医科学、植物防疫をめぐる国際的な動きを理解する。
- 3 病害虫および鳥獣による被害とその防除について知る。
- 4 農業に関する行政制度、安全性確保対策について知る。
- 5 植物検疫制度とその実施について知る。

【到達目標】

植物医科学、植物防疫に関する基本的な考え方及び知識を身につける。
植物防疫制度、農業取締制度及びリスクアナリシスの基礎的な概念について理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義（対面授業）を中心とし、機会に応じ動画など視聴覚機材を使用する。
授業の中で2回の小レポート課題を実施する。
講義資料及び小レポート課題は学習支援システムに掲載する。
第14回目の授業において、まとめと試験を行う。
なお、フィードバック方法として、第14回目の授業において、それまでの授業の中で行った小レポート課題に対する講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	植物医科学と植物防疫	植物医科学と植物防疫の基本的な考え方、植物防疫を支える組織、関係法令、国際条約。
2回目	植物医科学と関係法令	植物防疫法、農業取締法の概要。
3回目	植物医科学とリスクアナリシス	SPS協定、リスクアナリシスの概念、食品安全分野及び植物防疫分野への適用。
4回目	有害動植物の防除1（総合防除と発生予察）	防除を巡る現状と課題、総合防除（基本指針・計画）、指定有害動植物、発生予察情報の目的、種類と実際。
5回目	有害動植物の防除2	都道府県の防除（防除基準、防除暦、要防除水準）、最近の病害虫の発生動向、多様な防除手法。
6回目	有害動植物の防除3	総合的病害虫・雑草管理(IPM)、農林航空事業、薬剤抵抗性対策。
7回目	有害動植物の防除4及び小レポート課題①	マイナー作物向け防除対策、農産物輸出促進のための防除対策、野生鳥獣被害防除対策。 あわせて、総合防除、発生予察等の防除に関するレポート課題①の提示。
8回目	農業	農業の歴史、農業の生産・開発の動向、農業取締制度の歴史、農業取締法の規定のポイント。
9回目	農業の安全性1	リスクアナリシスの農業安全性への適用、ポジティブリスト制度。
10回目	農業の安全性2	農業の登録審査、登録拒否の基準、表示制度、使用規制、適正使用に係る各種施策。
11回目	植物検疫1	植物検疫の歴史、輸入植物検疫。

12回目	植物検疫2及び小レポート課題②	輸出検疫、国内検疫（種苗の検査、移動規制、侵入調査）、緊急防除。あわせて、農業安全性及び検疫に関するレポート課題②の提示。
13回目	植物検疫3	輸出入木材梱包材の検査、船舶の検査、車両の検査等多様な植物検疫、植物検疫リスク管理情報の収集・分析。
14回目	植物医科学法論のまとめ、小レポート課題の解説及び期末試験	講義全体の総括、2回の小レポート課題の講評・解説、及び、期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
次回講義のテーマに関連する農林水産省等の規制当局のホームページや、参考資料の該当部分をみっておくこと。
また、毎回の授業後、教材を十分に復習しておくこと。関連する新聞報道等に注意を払って調べてみる。2回の小レポート課題に対応すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
毎回、教材を学習支援システムに掲載する。

【参考書】

農業概説2024（日本植物防疫協会）、[逐条解説]植物防疫法（㈱大成出版社）

【成績評価の方法と基準】

2回の小レポート課題で40%、試験で60%の評価配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

「社会で生きる植物医科学」の観点から、適宜、病害虫防除、農業安全性確保及び植物検疫に関する現場での事例、国の政策の動き、国際的な動向等を紹介して、理解を深めてもらえるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course covers the fundamentals of the Plant Protection Act, the Agricultural Chemical Regulation Law, the Food Sanitation Act, and the Food Safety Basic Law.

The course also introduces the concepts of food-safety risk analysis and pest risk analysis.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to explain the systems of plant protection, agricultural chemical regulation, and risk analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to master the course content.

【Grading Criteria/Policy】

The final grade will be based on a term-end examination (60%) and short reports (40%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

ポストハーベスト論

廣岡 裕吏、宮ノ下 明大

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

青果物の生理的品質劣化やカビ、害虫による被害について理解し、品質を維持するための流通、貯蔵、防除技術を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

青果物の生理的品質劣化やカビ・害虫による被害の現状を理解する。そして、その予防、防除に関する技術、方法を学ぶ。また、青果物の商品価値とそのコストとのバランス、穀物病虫害を中心にした植物検疫の現状を踏まえて理解し、食品安全に関わる考え方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は時に小テストやリアクションペーパー等を用いながら、パワーポイントを使って行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/青果物の品質と機能	青果物の品質と機能
第2回	ポストハーベストと害虫①	ポストハーベストと害虫：植物検疫の目的としくみ
第3回	ポストハーベスト害虫②	米の害虫と防除法
第4回	ポストハーベスト害虫③	貯穀害虫の新しい殺虫技術：高圧炭酸ガス・低酸素殺虫法
第5回	ポストハーベスト害虫④	チョコレート・カップ麺製品の害虫と侵入防止法
第6回	ポストハーベスト害虫⑤	香辛料の害虫と侵入防止法
第7回	食品に対する異物混入⑥	粉体食品の害虫とアレルギー
第8回	植物検疫の現場と害虫問題	中国への精米輸出とカツオブシムシ、ペルー産マンゴウの輸入解禁
第9回	青果物の品質変化①	生理的な4つの要因
第10回	青果物の品質変化②	青果物の輸送・貯蔵方法
第11回	青果物の品質変化③	品質保持能力の高い青果物の作出と青果物の品質を保つ加工
第12回	ポストハーベストとカビ①	カビによる腐敗
第13回	ポストハーベストとカビ②	カビ毒
第14回	ポストハーベストとカビ③	カビとその診断・予防・防除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義のポイントをまとめておくこと。課題に関して自己学習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(約20%)、課題や試験(約80%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足、ほぼ満足するとの結果が大半を占める。授業の前に前回の復習の時間を確保することで、授業内容の理解が深まるとのコメントが多い。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for the distribution, storage and control technique to maintain good quality of harvested fruits, vegetables and crops from physiological deterioration, fungi and pests. The goals are to receive the knowledge of these studies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%、in class contribution: 20%

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物生理病学

佐野 俊夫、亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病には、菌類などの伝染性病原体による病気だけでなく、土壌・大気・水分などの不適切な生育環境によって生じる生理障害（生理病）も含まれる。本講義では、これらの具体例と、それを引き起こす環境要因について学ぶ。また、植物生理病の診断方法とその対処法に関する知識を身につける。

【到達目標】

各肥料要素の過不足による植物生理障害症状およびそれらの生理障害症状を引き起こす環境要因を理解する。また、各肥料要素が植物にどのように取り込まれ、利用されるかを学ぶことで、各要素の過不足がそれぞれの生理障害を引き起こすしくみを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

植物栄養学および肥料学の内容を基盤として、土壌中の無機栄養素の過不足が生理障害を引き起こすしくみと、それらの栄養素が植物体内でどのように利用されるかについては主に佐野が解説する。一方、土壌汚染・水質汚染・大気汚染といった環境要因が生理障害をもたらすしくみについては、主に亀和田が解説する。

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。

また、授業終わりに課題を課し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題回答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生体を構成する元素	必須元素と必須微量元素
第2回	生体膜の性質	膜輸送タンパク質の構造と機能
第3回	土壌無機栄養素（1）	窒素の吸収と代謝
第4回	土壌無機栄養素（2）	リンの吸収と代謝
第5回	土壌無機栄養素（3）	カリウムの吸収と利用
第6回	土壌無機栄養素（4）	カルシウムの吸収と利用
第7回	土壌無機栄養素（5）	マグネシウムの吸収と利用
第8回	植物生理障害を引き起こす環境要因（1）	土壌汚染と生理障害
第9回	植物生理障害を引き起こす環境要因（2）	水質汚染と生理障害
第10回	植物生理障害を引き起こす環境要因（3）	大気汚染と生理障害
第11回	土壌無機栄養素（6）	イオウ、鉄の吸収と利用
第12回	土壌無機栄養素（7）	微量元素の欠乏・過剰と生理障害
第13回	土壌無機栄養素（8）	ホウ素、ケイ素の利用とアクアポリン
第14回	土壌無機栄養素（9）	アルミニウムと塩ストレス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑等の作物には本講義で紹介する生理障害が生じている可能性があり、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

原色 野菜の要素欠乏・過剰症 渡邊和彦 農文協
植物生理学 第2版 三村徹郎 化学同人

【成績評価の方法と基準】

期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In addition to infectious diseases caused by pathogenic organisms such as fungi, plants also suffer from physiological disorders that result from unsuitable growing conditions, including soil quality, atmospheric factors, water availability. This course examines specific examples of such disorders and the environmental factors that trigger them. Students will also learn methods for diagnosing physiological disorders in plants and strategies for managing and preventing them.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Assignments given during each class: 28%.

ASS100YD（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 100）

国際食料需給論

鶴岡 康夫

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての人は、食生活の必要と嗜好に合致した十分な食料を得る権利および飢餓からの解放という基本的な権利を持ち、安全で栄養に富んだ食料を入手する権利を有するとされている。一方、世界の食料需給は不均衡状態にあり、栄養不足と飽食が併存している。この課題を解決するためには、深刻化する資源・環境制約の下で持続的な農業発展の方向を探究すると共に、食料の公正で効率的な分配を実現することが求められている。歴史的、政策的、社会的視点、あるいは増大する不確実性を踏まえながら、日本を含む世界の食料需給の動向、農業の生産性、農産物や食品の流通や貿易、今日の食料をめぐる課題について検討し、理解を深めていく。

【到達目標】

- ①日本、および世界の食料問題の現状について、関連文献や統計資料などをもとに、理解を深め、自ら考察できる。
- ②食料需給とそれに影響を及ぼす要因の関係を論理的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員による講義形式で進める。また、授業内で適宜質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。課題の提出、フィードバックなどは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、イントロダクション、複合的食料危機
第2回	食料需要	人口の変化・予測と食料需要
第3回	①世界の人口	
第4回	食料需要	経済成長、消費構造の変化、南北問題と食料需要
第5回	②経済、社会	
第6回	食料供給	農地面積の変化・予測と食料供給、農地・土壌の劣化
第7回	①農地・土壌	
第8回	食料供給	技術革新、育種、緑の革命、気候変動と食料供給
第9回	②作物収量	
第10回	三大穀物	特徴、起源、主要な産地
第11回	食料と貿易	農産物貿易のグローバル化と食料安全保障、穀物の生産と資源の配分
第12回	不確実性と食料需給	気候変動の原因と影響、土壌・水資源システムの劣化、環境保全型農業の展開
第13回	①地球環境	
第14回	不確実性と食料需給	世界情勢変動の影響
第15回	②世界情勢変動	
第16回	不確実性と食料需給	食料安全保障、Food Security、食料政策
第17回	③食料安全保障	
第18回	日本の食料需給	農地施策、農業基本法、米価政策、土地改良、食料・農業・農村基本法
第19回	①農業、食料政策	

第12回 日本の食料需給 農業構造変化の過程と要因

②生産の変化

第13回 日本の食料需給

③消費の変化

家計消費の変化、食の外部化、食の安全、食と環境、フードシステム

第14回 試験・まとめと解説 まとめと今後の論点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習に2時間、復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を理解する。
2. 新聞、ニュース、文献を参照し、現実の問題や社会の動向を理解する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

以下に一例を挙げる。

- ・高橋正郎・清水みゆき（2016）『食料経済（第5版）』オーム社
- ・薬師寺哲郎・中川隆（2019）『フードシステム入門』健帛社
- ・時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博（2019）『フードシステムの経済学（第6版）』医歯薬出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）の習得を前提とする。その上で課題・レポート・授業時のプリント（30％）と、期末試験（50％）を総合し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイントで講義を進める。講義資料は「学習支援システム」によりPDFで配布するので、ノートPC等を持参し講義中に参照する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

All people are considered to have the fundamental right to obtain sufficient food that meets their dietary needs and preferences, as well as the basic right to be free from hunger, and the right to access safe and nutritious food. On the other hand, the global food supply and demand are in an imbalanced state, with undernutrition and overconsumption coexisting. To address this issue, it is necessary to pursue directions for sustainable agricultural development under increasingly severe resource and environmental constraints, while ensuring fair and efficient distribution of food. Taking into account historical, policy, and social perspectives, as well as growing uncertainty, we will examine and deepen our understanding of trends in global food supply and demand, including Japan, agricultural productivity, the distribution and trade of agricultural products and food, and contemporary challenges related to food.

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物管理技術論

安達 俊輔、桂 圭佑、若林 侑

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の長い歴史の中で選り抜かれてきた作物は、我々が生きていくために必要な食料や工業原料を提供しています。本授業では、そのような各種作物の基本的な特徴や栽培手法を平易に解説します。学生のみなさんには、普段何気なく利用している作物を正しく理解し、農業という基幹産業に対する想像力に関心を持っていただくことを期待します。

【到達目標】

食用、飼料、工業目的で栽培される各種作物の起源、特徴、栽培技術、利用や関連する課題について学び、自ら説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により授業を進める。質問があれば毎回の授業後に所定のりリアクションペーパーに書き込む。成績評価は、すべて学期末テストにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび総論	授業構成の説明および作物の種類、作物の栽培化
2	イネ (1)	イネの起源、世界の生産状況、栽培方法
3	イネ (2)	イネの発達段階と形態
4	イネ (3)	イネ栽培をめぐる日本における課題
5	イネ (4)	イネの収量を増大させるための最新研究
6	豆類	ダイズをはじめとする豆類の種類、生理、形態と栽培
7	麦類	コムギ、オオムギやその他麦類の種類、生理、形態と栽培
8	飼料作物	青刈飼料作物と牧草の種類、調製の方法
9	雑穀類	トウモロコシをはじめとする雑穀類の生理、形態と栽培
10	工芸作物 (1)	油料作物、糖料作物の種類、生理、形態と栽培
11	芋類	ジャガイモ、サツマイモなど芋類の種類、生理、形態と栽培
12	工芸作物 (2)	嗜好料作物、繊維料作物の種類、生理、形態と栽培
13	世界の作物	世界の過酷な環境で栽培される作物を紹介
14	授業のまとめならびに試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努めること。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

農学基礎シリーズ 作物学の基礎Ⅰ 食用作物, 農文協

農学基礎シリーズ 作物学の基礎Ⅱ 資源作物、飼料作物, 農文協

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業ごとにコメント・質問をオンラインで受け付ける。

【Outline (in English)】

Crops, which have been selected over the long history of mankind, provide food and industrial raw materials to us. In this lecture, the basic characteristics and cultivation methods of various such crops will be explained. We hope that students will gain a deeper understanding of the crops, and develop an imaginative interest in agriculture.

BOA100YD（境界農学 / Boundary agriculture 100）

基礎植物害虫学

大井田 寛

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農耕地に栽培される農作物や森林、都市空間などに植栽される樹木、草花に被害を引き起こす害虫の分類、生理、生態などについて学習し、植物医科学が目指す植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士に必要とされる、害虫に関する基礎的な知識を習得する。

【到達目標】

植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士としての活動する者に不可欠な、害虫に関する幅広い知識を身につける。診断の基礎となる害虫の形態や分類学的位置を理解できるほか、各種防除技術の根拠となっている害虫や天敵の生理・生態に関する基礎知識を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く提示しながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび植物害虫の概説	科目の内容や進め方を紹介。また、植物害虫全般について概説
第2回	昆虫類の進化と繁栄	昆虫がどのように進化してきたか、今日の繁栄をもたらした原因
第3回	昆虫類の外部形態	分類の基礎となる昆虫の外部形態
第4回	昆虫類の内部形態	昆虫の生理等に関連する内部形態
第5回	昆虫類の分類	有害・有益動物（線虫、ハダニ等も含めた害虫の分類学的位置）
第6回	昆虫類の擬態、昆虫類の発育	昆虫の擬態、昆虫の発育（脱皮、変態）、呼吸、神経
第7回	昆虫類の生殖	昆虫の生殖様式、生殖戦略
第8回	昆虫類の食性	昆虫の植生の多様性、摂食、栄養
第9回	昆虫類の生理	昆虫の感覚、情報伝達物質（ホルモン、フェロモン）
第10回	昆虫類の生理	昆虫の環境適応、休眠
第11回	昆虫類の行動	昆虫の日周期性、習性
第12回	昆虫類の個体群動態	昆虫の個体群密度の増殖、変動、密度効果
第13回	昆虫類の相互作用	生態系における昆虫群集、生物間相互作用（寄生、捕食、競争）
第14回	まとめ、試験	全体のまとめ、確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、レポートなどで40%、平常点10%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【その他の重要事項】

植物病の診断に携わる者は病気と害虫についての幅広い知識を習得しておくことが重要であるため、多くの学生が履修することを期待する。また、害虫防除について解説する応用植物害虫学を理解するために、履修することを推奨する。なお、自然再生士補の資格を得たい学生は、できるだけ履修されたい。

【Outline (in English)】

This course deals with classification, physiology and ecology of agricultural pests. It also enhances the development of students' skill in diagnosis of plant damages caused by pests as plant clinical scientists.

The goal of this course is to acquire knowledge about pests, which is essential for those who are involved in the diagnosis and control of plant diseases and those who work as engineers, arborists, and natural regeneration specialists. Through this class, students will understand the morphology and taxonomic position of pests, which are the basis for diagnosis, and acquire basic knowledge of the physiology and ecology of pests and natural enemies, which are the basis for various control techniques.

Students are not required to prepare for the class but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

ASS100YD（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 100）

グリーン経済学

鶴岡 康夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題は深刻さを増し、私たちの社会・経済・生活の様々な部分に影響を与えている。本講義は、環境問題への理解を深めることを目的とし、環境経済学の視点を主として、これまでの経過、現状と動向、原因・対応・施策等を概観する。また、環境と食料・農業の課題についても言及する。

【到達目標】

1. 環境経済学の考え方を理解し、それを用いて個別の問題を考察できるようになる。
2. 環境問題に関する最新情報や施策について、自然科学、及び社会科学の両視点から考察し、自らの見解を述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。また、授業内で適宜質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的, グリーン経済
第2回	地球環境問題	地球環境問題への世界の取り組みの歴史的経過と動向
第3回	科学と社会・経済	資源循環, 地球温暖化問題, 再生可能エネルギー
第4回	①気候変動 科学と社会・経済	生物多様性, 生態系サービス,
第5回	②生物多様性 環境問題発生メカニズム	生物多様性国家戦略 環境問題の図解
第6回	①経済と社会と環境 環境問題発生メカニズム	外部経済について, 市場の失敗について
第7回	②外部経済と市場の失敗 環境問題への対応	汚染者の責任, 直接規制について, 環境税について, 補助金について, 排出権取引制度について
第8回	①外部不経済の内部化・政策手段 環境問題への対応	企業のSDGs, 社会的責任, ESG投資, CSV
第9回	②環境問題と企業 環境問題への対応	ポーター仮説, 政策と技術革新
第10回	③技術革新 環境問題への対応	Covid-19 パンデミック, グリーンリカバリー, 欧州グリーン・ディール, 様々な主体による行動, 環境クズネッツ仮説
第11回	④グリーンリカバリー 持続的農業・食料システム	農業と環境, 環境保全型農業の現状と課題
第12回	①環境問題と農業・食料	

第12回 持続的農業・食料システム 農業の多面的機能, 多面的機能の特徴, 多面的機能の評価

②農業の多面的機能

第13回 持続的農業・食料システム フードレジーム, 食料危機, 不確実性と食料, 食料安全保障, 食料主権, アグロエコロジー

③農業食料の変革方向

第14回 試験・まとめと解説 まとめと今後の論点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習に2時間、復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を理解する。
2. 新聞、ニュース、関連する文献を参照して、現実の問題や社会の動向を考える。

【テキスト（教科書）】

指定なし。

【参考書】

以下に一例を挙げる。

- ・植田和弘・落合仁司他（1991）『環境経済学』有斐閣
- ・ウィリアム・ノードハウス（2023）『グリーン経済学』みすず書房
- ・栗山浩一・馬奈木俊介（2020）『環境経済学をつかむ（第4版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）の取得を前提とする。その上で課題・レポート・授業時のプリント（30％）、及び期末試験（50％）を総合し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイントで講義を進める。講義資料は「学習支援システム」によりPDFで配布するので、パソコン等を持参し講義中に参照する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Environmental issues are becoming increasingly serious, affecting various aspects of our society, economy, and daily lives. This course aims to deepen understanding of environmental problems, primarily from the perspective of environmental economics, and provides an overview of their historical progress, current status and trends, causes, responses, and policies. It also addresses the challenges related to the environment and food and agriculture.

AGC100YD（農芸化学 / Agricultural chemistry 100）

植物栄養学

亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類を含めて動物は、エネルギーの獲得およびその他の栄養素の多くを食料として植物に依存しています。植物が必要とする栄養素「植物栄養」は、植物の健全な生育を確保するため、最も基本的な環境要因です。植物の必須元素として17元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の14元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、それら元素の植物体内での機能や根による吸収過程について学びます。その上で、植物栄養面から植物生育を評価し、またはコントロールするため、植物生育と植物栄養との関わりと管理手法を学びます。

【到達目標】

植物が生育するために必要な17種の必須元素の機能を光合成や体内代謝の植物生理的現象と関連づけて学び、理解します。また、植物根による養水分吸収機作と各種養分の土壌中での動態を学び、植物生育のコントロールのための、養水分管理の考え方や方法を理解します。栄養成分の欠乏や過剰による植物生育の障害は植物病と同程度に重要です。それら障害の発生を土壌中での各養分の挙動に関連づけて理解し、植物医科学分野に必要な知識を習得します。さらに、植物を中心とした地域生態系での物質循環を学び、植物の生育と環境保全の両面を維持するための地力保全のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。対面授業とオンデマンド授業を組み合わせる。学習支援システムにより、資料を提供する。対面授業ではリアクションペーパー、オンデマンドでは授業レポートの提出を求める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物と植物栄養	植物栄養学の発展 植物の構造の概観 無機栄養概観 植物根の構造
第2回	植物による水の吸収	根による水分吸収と体内での輸送 水と植物細胞 植物の水収支
第3回	植物による養分吸収と物質輸送	土壌-植物-大気連続体 根と土壌 根圏 受動および能動的輸送 養分の膜を介したイオン輸送 篩部転流 ソースからシンクへの輸送様式
第4回	窒素とイオウ	光合成産物の分配 土壌および環境中の窒素 窒素の生理機能 硝酸とアンモニウムイオンの同化 タンパク質の分解と合成 共生窒素固定 硫酸イオンの吸収と同化 イオウの生理機能 窒素の過剰と欠乏 イオウの過剰と欠乏
第5回	リン	土壌中のリン リンの吸収と輸送 リンの同化と生理機能 体内代謝と移行 ミコリザ リンの過剰と欠乏
第6回	カリウムとナトリウム	カリウムの吸収と生理機能 カリウムの過剰と欠乏 ナトリウムの吸収と生理機能

第7回	カルシウムとマグネシウム	カルシウムの吸収と生理機能 カルシウムの過剰と欠乏 マグネシウムの吸収と生理機能 マグネシウムの過剰と欠乏
第8回	微量元素1	鉄の吸収と移行 鉄の生理機能 ホウ素の吸収と移行 ホウ素の生理機能 マンガン モリブデン
第9回	微量元素2	ニッケル 亜鉛 銅および塩素の吸収と生理的機能 微量元素の過剰と欠乏
第10回	有用元素	ケイ素の吸収と移行 ケイ素の生理機能 ケイ素集積 酸性土壌とアルミニウム毒性 植物のアルミニウム耐性 土壌溶液イオン組成 溶液栽培のイオン組成 栄養診断 土壌診断
第11回	土壌溶液と養液栽培	化学肥料の種類と性質 有機質肥料 肥料取締法 植物による養分吸収速度 施肥法 地域環境 農業環境 地球環境における植物栄養を中心とした物質循環(炭素、窒素、リン、カリウム) 塩類集積や重金属汚染に対する植物の反応
第12回	肥料	
第13回	施肥	
第14回	物質循環と環境	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

植物栄養学 第2版 間藤・馬・藤原編、文永堂出版、2011
新植物栄養・肥科学 米山・長谷川・関本・牧野・間藤・河合著、朝倉書店、2012
植物生理学・発生学 リンカーン・テイツ、エドゥアルド・ザイガー、イアン・M・モラー、ガス・マーフィー編集、講談社、2017

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、リアクションペーパーおよび授業レポートによる平常点40%による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出の小レポートで質問や提案を受け、できる限り次回の授業までに回答し、次の授業に反映する。

【その他の重要事項】

秋学期開講の土壌科学を併せて受講するとより、理解が深まる

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Animals and humans depend on plants for energy and other essential nutrients. The "plant food" they require is the most basic environmental factor for healthy growth.

There are 17 essential elements for plant nutrition. Fourteen of these elements, other than carbon, hydrogen, and oxygen, are absorbed by the roots from the soil.

In this course, you will learn about the functions of the 17 essential elements necessary for plant growth and their relation to physiological processes such as photosynthesis and metabolism. You will also learn the mechanisms of nutrient uptake by plant roots, the dynamics of nutrients in the soil, and the concepts and methods of nutrient water management to control plant growth.

[Learning Objectives]

Plant growth disorders due to nutrient deficiencies or excesses are as important as plant diseases. You will understand the occurrence of these disorders in relation to the behavior of each nutrient in the soil and acquire the necessary knowledge for the field of botanical science.

You will also study the nutrient cycle in regional ecosystems with a focus on plants, and consider ideal ways to manage soil to maintain plant growth and environmental health.

[Out-of-class learning activities]

Review the lecture content using the lecture notes and reference books. Four hours is the standard for out-of-class learning, including preparation and review for this course.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a comprehensive method, with 60% based on the final exam and 40% based on the normal score, including the reaction paper submitted each time.

BOA200YD（境界農学 / Boundary agriculture 200）

応用植物害虫学

大井田 寛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学として必要なことは、的確な診断と防除である。防除には農業や天敵など色々な手段が用いられるが、近年は、環境負荷の小さい方法として、複数の手段を合理的に組み合わせた総合的病害虫・雑草管理（IPM）、さらには生物多様性保全を含めた総合的生物多様性管理（IBM）の実践が多くの場合で求められる。本授業では、IPMやIBMを構築する各種の害虫防除法について体系的に学ぶ。

【到達目標】

植物医科学における基幹技術の一つである農林害虫および緑化植物害虫の防除に関する基本事項を習得する。各種防除法を的確に理解することにより、農業生産現場や緑化管理に関係する業務に携わる際に、実践的な指導を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く取り入れながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を学習支援システム等で配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、害虫とは	授業の主旨、進め方、害虫と益虫、植物保護と日本の環境
第2回	防除の歴史、被害と損害	害虫防除の歴史、被害と損害の関係
第3回	化学的防除1	薬剤の特性、作用機作など
第4回	化学的防除2	薬剤抵抗性、リサージェンス、残留毒性など
第5回	生物的防除1	生物的防除の原理と歴史、伝統的生物的防除
第6回	生物的防除2	放飼増強法（生物農薬の利用）
第7回	生物的防除3	保全的生物的防除（土着天敵の保護・強化）など
第8回	物理的防除1	遮断法、光などの手段による防除
第9回	物理的防除2	熱、音などの手段による防除
第10回	耕種的防除	被害回避、輪作、抵抗性品種の利用など
第11回	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と総合的生物多様性管理（IBM）	IPM、IBMの概念と方法
第12回	グループ発表	IPMの実践について
第13回	発生予察	発生予察の方法と利用
第14回	まとめ、試験	授業の理解度をテストする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）
仲井まどか・日本典秀編 バイオロジカル・コントロール 第2版（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、レポートなどで40%、平常点10%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【Outline (in English)】

A accurate diagnosis and control of crop pests is important for plant clinic. There are various pest control methods such as using pesticides, using natural enemy and so on. Recently, IPM (Integrated Pest Management) and IBM (Integrated Biodiversity Management) are focused as pest control methods in agriculture of environmental conservation type. The aim of this course is to help students acquire knowledges about various pest control methods consisted for IPM or IBM systematically.

The objective of the class is to acquire basic information on the control of agricultural and forestry pests and greening plant pests, which is one of the core technologies in plant clinical science. Through this course, students are expect to gain understanding of various pest control methods and will be able to provide practical guidance when working in agricultural production and greening management.

Students are not required to prepare for the class but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

ASS200YD（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 200）

食料・地域政策論

鶴岡 康夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の農業は、農業者人口の減少や荒廃農地の増加など、様々な困難に直面している。このままでは、「食」の基本となる食料生産が危うい。講義では、日本の農業が直面する様々な問題について理解を深めることを目的とし、農業・農村・食料に関わる諸問題、及びそれらに対する各種政策や取組み事例について概観する。

【到達目標】

日本の農業・農村・食料が直面する様々な問題に対して、

- ①問題の本質を理解し、説明できるようになる。
- ②今後の在り方などについて、自ら考察し、見解を構築できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員による講義形式で進める。また、授業内で適宜質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的、食料・農業・農村の現状認識
第2回	農業・食料政策	日本の農業政策の歴史的経過、食料・農業・農村基本法、農業政策と課題
第3回	農業・農村問題 ①生産構造の変化と主体の育成	農地の減少、荒廃農地、担い手問題、農業経営体・農業従事者の動向
第4回	農業・農村問題 ②生産基盤	基盤整備事業、土地利用の再編
第5回	農業・農村問題 ③条件不利地域	中山間地域農業の現状、政策の対応
第6回	農業・農村問題 ④都市農業	都市農業の特徴
第7回	農業・農村と環境 ①多面的機能	農業の多面的機能
第8回	農業・農村と環境 ②環境問題	環境保全型農業技術、有機栽培、持続的農業
第9回	新しい農業経営の担い手 ①先進的な経営事例	規模拡大、複合化、多角化
第10回	新しい農業経営の担い手 ②課題	生産基盤の整備、技術革新、雇用・人材の育成
第11回	農業技術の革新	農業改良助長法、スマート農業、情報通信技術、人工知能、ロボット技術、技術革新の過程
第12回	食料問題 ①安全保障と食料	食料需給、食料安全保障

第13回	食料問題 ②消費の変化	農業と食品産業、食の外部化と業務・加工需要、フードロス
第14回	試験・まとめと解説	講義内容の振り返り、今後の農業政策と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。予習に2時間、復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を拡充する。
2. 新聞や関連する文献を参照し、現実の問題や社会の動向に関心を持つ。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

以下に一例を挙げる。

- ・藤田・内藤・細野・岸上（2018）『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房
- ・荏開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学（第5版）』岩波書店
- ・農林水産省（2025）『令和6年度食料・農業・農村の動向』https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r6/zenbun.html

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）の習得を前提とする。その上で課題・レポート・授業時のプリント（30％）と、期末試験（50％）を総合し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイントで講義を進める。講義資料は「学習支援システム」によりPDFで配布するので、パソコン等を持参し講義中に参照する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Japanese agriculture is facing various challenges, such as a declining farming population and an increase in abandoned farmland. At this rate, food production, which forms the foundation of our diet, is at risk. The lecture aims to deepen understanding of the various issues facing Japanese agriculture and provides an overview of the problems related to agriculture, rural areas, and food, as well as various policies and initiatives addressing these issues.

BOA200YD（境界農学 / Boundary agriculture 200）

自然再生学概論

大井田 寛、橋本 智美、鶴岡 康夫、北澤 哲弥

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然は人間が生きていくために欠かせない存在である。しかし、開発などによって自然生態系が破壊されている。それゆえ、良好な自然を次世代へ継承するためには、自然環境の保全・再生・創出など、生態系を人為的に復元する必要がある。そこで本科目は、自然再生の背景や理念、自然環境の評価方法や再生技術など、自然再生士補として必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

自然再生の意義や理念を理解し、自然再生士補合格に必要な最低限の知識や技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各方面における専門分野の担当者によるオムニバス講義形式で進める。授業では、適宜資料を配布する。また、授業内で適宜、質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（鶴岡）	講義の内容や進め方、地球環境・生物多様性の危機、自然再生事業、自然再生士資格制度
第2回	自然再生の意義（北澤）	生物多様性とウェルビーイング、ネイチャーポジティブの潮流、自然再生の主流化、井の頭公園の取組概要
第3回	井の頭公園現地視察（北澤・鶴岡）	自然再生の現場視察（井之頭公園現地）、レポート作成
第4回	井の頭公園の取組に学ぶ自然再生の進め方（北澤）	ミニワークショップ、井の頭公園の取組に学ぶ自然再生の進め方
第5回	農業生態系の成り立ち（安田）	環境に対する人間活動の影響と農業生態系の成り立ち
第6回	生物多様性と生態系サービス（大井田）	生物多様性と生態系サービスの関係
第7回	生物多様性の指標生物と農業における利用（大井田）	指標生物を用いた生物多様性の評価
第8回	自然再生技術（橋本）	自然再生における計画・設計、施行・管理
第9回	里山の恵みと災い（小林）	丘陵地二次林の再生と気候変動適応
第10回	生活環境の保全（柴田）	都市環境の現状から見た快適な暮らしの基盤の構築
第11回	人間の暮らしに及ぼす植物の癒し効果（柴田）	ガーデニング、寄植え等の作業や香り等の直接的な効果
第12回	企業による生態系サービス活用事例（綿田）	企業による生物多様性への取り組み事例

第13回 生物多様性・自然再生と施策（鶴岡） 生物多様性条約、生物多様性基本法、生物多様性国家戦略、自然再生法

第14回 自然再生の取り組みと課題（鶴岡） 自然再生事業、環境創造型農業などでみる自然再生の取組みと課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回で配布される資料をもとに、講義のポイントをまとめておく（1時間）。図書館で関連図書を探したり、WEBサイトで関連情報を調べ、講義内容の更なる理解に努める（3時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

最新の知識を伝えるために、必要に応じて資料を配布する。各回の参考書は各担当者が紹介する。参考までに、自然再生士に関する文献として以下を挙げる。

- ・亀山章・倉本宣・日置佳之（2013）『自然再生の手引き』一般財団法人日本緑化センター
- ・一般財団法人日本緑化センター（2013）『自然再生ガイドライン（改訂2版）』一般財団法人日本緑化センター
- ・一般財団法人日本緑化センター（2012）『自然再生副読本 自然再生事例集1』一般財団法人日本緑化センター

【成績評価の方法と基準】

「講義内容が理解できているか」「自然再生士補として必要とされる基礎知識を修得しているか」の2つの観点から、各担当者がレポートや小テストにより評価し、それらを総合して80%、授業態度など平常点20%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Nature is indispensable for human survival; yet natural ecosystems are being destroyed in the name of development. In order to regain ground and pass down a healthy ecosystem to future generations, we must actively conserve, regenerate, and create what is being depleted. In this course, students will study the background and philosophy of nature restoration and learn about assessment methods and the technology of nature restoration. They will gain knowledge indispensable to become nature restoration promoters.

Students are expected to summarize the contents of the lecture with the handout distributed in advance. Students are also needed to search for reference books at Hosei university library and to find out the related information about the lecture content on the WEB, into achieving further their understanding.

Each instructor will grade reports or short tests of students who take the course. Then final grade will be evaluated twofold: whether you can understand the contents of the lesson and whether you can obtain the essential knowledge for passing the examination of assistant nature restoration. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Reports or short tests: 80%, in class contribution: 20%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

ホーティカルチャー論

津田 新哉、鈴木 栄、彦坂 晶子、堀内 尚美

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

園芸作物である果樹、野菜、花きは、人々に健康や豊かな生活をもたらすものとして、古くから栽培・利用されてきた。これら園芸作物の生産と消費にとって重要な局面、特に育種・栽培・流通に関する研究と技術開発を行うのがホーティカルチャーサイエンス（園芸学）である。本授業では、園芸作物に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく栽培管理技術、さらに、収穫物の品質に関係する重要形質とその制御技術について、基礎的な知識を学ぶ。

【到達目標】

果樹、野菜、花きは、幅広い種から構成されており、品目ごとに様々な成長と発育の特性を持つ。そのため、栽培体系、育種技術も非常に多岐にわたっている。しかし、その背景には共通のいくつかの要素があり、それらの組み合わせで技術体系が成り立っていることを理解できるように努める。この理解により、園芸作物が示す多種多様な現象に対して応用できる基礎的な知識と考え方の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料等を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッション等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ホーティカルチャーの定義と野菜の分類	ホーティカルチャーおよび農業に関する基本的な定義と、利用部位による野菜の分類、成長ステージ別の特徴などを解説する。
2	品種開発から流通までのプロセスと要素技術	野菜の品種開発から流通に関する現状と、各要素技術などを解説する。
3	野菜生産1（施設栽培および養液栽培）	野菜の生産方法に関して、露地と施設の比較から、それらの目的と環境制御の特徴を解説する。
4	野菜生産2（植物工場）	究極の施設園芸である植物工場の特徴を解説し、野菜生産の現状と最新の研究開発のトピックを紹介する。
5	果樹栽培と生理特性1	果樹の種類や主産地などについて触れた後、果樹の年間の生育サイクルおよび休眠、開花、結実の生理特性について解説する。
6	果樹栽培と生理特性2	果実の肥大や成熟の生理特性や、果樹の光合成および同化産物の分配について解説する。
7	果樹生産と環境	気象条件や土壌条件が果樹生産に及ぼす影響について解説する。また、高品質な果実を生産するための栽培管理法について触れる。
8	果樹の育種	果樹における各樹種の出産地や育種の歴史について触れると共に、育種方法や繁殖方法について解説する。
9	花き園芸学序論	花きにはどのような種類があり、どのような歴史を経て発展してきたかについて解説する。
10	花きの生育と開花	花き類に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく、実際の品目の栽培体系について解説する。
11	花きの品質と観賞性1	花きの品質を構成する3大要素である形、色、香りがどのような仕組みで発現し、観賞性にどのように貢献するのかについて解説する。
12	花きの品質と観賞性2	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎について各品目ごとに解説する。
13	花きの品質と観賞性3	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎に加え、花き生産の将来についても解説する。

14 まとめ

これまでの授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業内容を適宜復習するとともに、興味を惹かれる内容に関しては、関連する文献を調べるなど積極的に理解を深める。もしも状況が許せば、果樹、野菜、花きのうち、どれかひとつでもよいので自分で栽培してみる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。教科書は使用しない。

【参考書】

作物の生育と環境（西尾道徳 著）農山漁村文化協会
施設園芸学 植物環境工学入門（後藤英司／編）朝倉書店
農学基礎シリーズ 果樹園芸学の基礎（伴野 潔，山田 寿，平 智編著），農文協，2013
農学基礎シリーズ 野菜園芸学の基礎（篠原温編著），農文協，2014
農学基礎シリーズ 花卉園芸学の基礎（腰岡政二編著），農文協，2014
このほか、より深く知りたい内容がある場合には、文献を紹介するので、お問い合わせください。

【成績評価の方法と基準】

定期テスト（各分野30点、計90点）と平常点10点の合計により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本授業で扱う園芸植物は、果樹、野菜、花きの非常に広い範囲にわたりますが、限られた授業時間の中で、これらの植物の生産の基礎が理解できるように努めたいと思います。

【その他の重要事項】

「授業計画」の開講順は変動することがある

【Outline (in English)】

Horticultural crops, i.e. fruit trees, vegetables and flowers, have been cultivated and used for a long time as they bring healthy and rich lives to people. Horticultural science is the research and technology development concerning important aspects of production and consumption of horticultural crops, especially breeding, cultivation, and distribution. The aim of this course is to help students acquire fundamental understandings about the mechanism of growth and development of horticultural crops, cultivation management technology, and control of important traits related to harvest quality. The standard preparation and study time for this class is 4 hours each. In addition to reviewing the contents of the class as necessary, students are expected to actively research related literature to deepen their understanding of the content of interest. If the situation permits, try to grow one of the fruit trees, vegetables, or flowering plants by yourself. Evaluation will be based on a total of 25 points for attendance and a regular test (25 points for each field, 75 points in total).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

実践植物遺伝学

坂井 真、黒羽 剛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イネやコムギなどの作物は人類の農耕の始まりの過程で栽培化され、長い年月をかけて改良されてきました。農業生産の生産性を高め、安定化させるための基盤、あるいは食生活に豊かさをもたらす存在として各種作物の優良な品種は欠かせません。近代以降、遺伝学の発達とともに品種改良の手法は体系化され、また最近ではバイオテクノロジーの発達で品種改良の手法も大きな進歩を遂げています。一方で、気候変動や環境の変化により世界的に農業を取り巻く状況も大きく変化し、そうした事態に対応した新たな品種改良とその手法が求められています。

本講義では、農業技術を支える品種を改良する手法や事例、品種改良の社会への貢献について基礎的な知識と方法を学びます。前半（1～7回）は、作物の栽培化の過程や品種改良の発達史を含めた植物育種学の基礎を学びます。後半（8～14回）ではバイオテクノロジーの基本的な技術である、遺伝子解析手法や遺伝子組換え、ゲノム編集の基本的な手法とそれらを活用した品種改良の新しい手法について学びます。

【到達目標】

イネ、コムギ等の農作物の品種改良の基礎となる遺伝学の基礎的な理論、品種改良の実際の手法とその発達史について知る。品種改良の目的、品種改良の素材となる遺伝資源の重要性、育成された品種の活用や農業への貢献の実例について理解する。育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造、およびその解析法についてその発達史、基本原理、最近開発された手法について理解する。DNAマーカー、遺伝子組換え、ゲノム編集など新しい育種技術の基礎的な理論や手法、事例について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業またはオンライン授業を予定しており、授業では主に資料を配布または画面共有してそれに基づいて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	育種(品種改良)とは	品種改良＝育種の歴史、農作物の品種改良の意義、遺伝学の基礎、生物の遺伝子型と表現型について学習する。
第2回	育種における遺伝資源	遺伝資源の重要性と農作物の栽培化、組織的な品種改良が始まる前の作物の歴史について学習する。
第3回	育種組織と育種目標	公的機関(国・地方自治体)の組織的な品種改良の歴史と、そこで実施されてきた品種改良について学習する。農作物に求められる特性(収量性、耐病性、ストレス耐性、品質成分)の改良について学習する。

第4回	育種の基本的な操作・手法	品種改良の基本的な手法としての、人工交配、突然変異、遺伝子組換え等の遺伝変異作出方法について学習する。
第5回	圃場での選抜手法	品種改良の基本的な手法としての選抜手法のうち、圃場（水田や畑）で行う生産力検定試験、特性検定試験、地域適応性試験、現地試験について、試験の意味や必要性、試験を行う環境の重要性について学習する。
第6回	室内での選抜手法	品種改良の基本的な手法としての選抜手法のうち、実験室や解析施設で行う種子成分の分析、品質分析、加工試験、食味試験やDNAマーカーによる選抜の意味や必要性について学習する。
第7回	品種登録と品種の普及	品種を普及させ夜に広めてゆくための、品種登録の意義や制度、種苗の増殖、生産者や加工業者への普及、流通制度等について学習するとともに、前半のまとめを行い、品種改良の社会的意義について考える。
第8回	DNA、遺伝子、染色体、ゲノムの構造	育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造について学習する。
第9回	作物の遺伝子解析手法	DNAシーケンシング、ハイブリダイゼーション、PCRなど、分子生物学的解析法の歴史と原理について学習する。
第10回	DNAマーカー	連鎖解析に用いるDNAマーカーの歴史と原理、応用例について学習する。
第11回	遺伝子の機能解析	「突然変異型の遺伝解析から原因遺伝子を同定する手法（フォワードジェネティクス）」と「対象遺伝子の変異体を探索・作成し、その機能を同定する手法（リバースジェネティクス）」について学習する。また、研究対象となる遺伝子の機能解析手法についても紹介する。
第12回	遺伝子組換え作物およびゲノム編集技術	遺伝子組換え作物の作成手法について学習する。また、より新しいアプローチとして注目されているゲノム編集技術について学習する。
第13回	ゲノム解析の新技術	マイクロアレイや次世代シーケンサーを用いた新しいゲノム解析技術について学習する。
第14回	ゲノム研究における新発見	サイレンシング、クロマチン修飾等のエピジェネティクス、RNAやタンパク質の安定性制御など、ゲノム科学における新発見について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努める。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（５０％）と期末試験（５０％）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、授業支援システムも活用しつつ、学生の理解を促進したい。
また、ポイントを把握できるように、専門用語をていねいに解説するとともに、板書の明確さやマイク音量、平易な言葉遣い等にも配慮する。

【その他の重要事項】

小テストを行い、重要なポイントの確認に役立てる。また講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

Excellent varieties of crops are essential for increasing and stabilizing agricultural production and for providing food diversity. In this class, we aim to study basic knowledge and methods in breeding (#1 - #7) and molecular genetics (#8 - #14) for crop improvement. Students will be expected to study the relevant knowledge of this class. Grading will be decided based on term-end examination (50%) and short reports (50%).

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

化学熱力学 I

森 隆昌

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学熱力学はあらゆる工学の基礎であるとともに、近年のエネルギー、環境、資源問題との関わりも深く、非常に重要な基礎科目である。しかし多くの学生にとって難解で取っつきにくい学問でもある。本講義では化学熱力学の基礎重要事項を集中して丁寧に講義し、さらに演習問題を数多くこなすことで、化学熱力学の重要概念を理解できるようにする。

【到達目標】

熱力学第1, 第2, 第3法則を理解する。
様々な熱力学量の定義、求め方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

化学熱力学を学ぶ上で最低限必要な基本事項について学習した後に、化学熱力学の基礎事項である熱力学第1, 第2, 第3法則、エンタルピー、エントロピーの基本概念について丁寧に解説する。授業毎に課題を設定し、演習問題に取り組むことで、化学熱力学に慣れ、重要概念を理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	イントロ、基本用語、単位換算	熱力学の概要、基本用語を学び、単位換算の演習を行う。
第2回目	熱力学第一法則と閉じた系のエネルギー収支	熱力学第一法則、閉じた系でのエネルギー収支式を学ぶ。
第3回目	流れ系のエネルギー収支	流れ系でのエネルギー収支式を学ぶ。
第4回目	機械的エネルギー収支式とベルヌーイの法則	機械的エネルギー収支式、ベルヌーイの法則を学ぶ。
第5回目	熱容量	熱容量とは何か、及び、定容熱容量、定圧熱容量の定義を学ぶ。
第6回目	顕熱、潜熱、反応熱	顕熱、潜熱、反応熱について学ぶ。
第7回目	反応プロセスのエネルギー収支	反応プロセスのエネルギー収支式について学ぶ。
第8回目	これまでのまとめ	これまでの授業のまとめと中間試験を行う。
第9回目	理想気体の法則	理想気体の法則について学ぶ。
第10回目	理想気体のエネルギー	理想気体の等温変化、断熱変化について学ぶ。
第11回目	実在気体	実在気体の圧力-体積-温度の関係、及び、フガシティーについて学ぶ。
第12回目	カルノーサイクルと熱機関の効率	カルノーサイクルと熱機関の効率について学ぶ。
第13回目	エントロピー	エントロピーについて学ぶ。
第14回目	熱力学第二法則	熱力学第二法則について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業では、入門的なことを丁寧に述べるため教科書の一部のみを講ずる。そのほかの部分についても学ぶこと。

【テキスト（教科書）】

「第2版 演習 化学工学熱力学」大竹伝雄，平田光穂共著，丸善出版

【参考書】

物理化学のテキスト（例えば アトキンス 物理化学（上） 東京化学同人）
化学熱力学のテキスト（例えば 原田義也 化学熱力学 裳華房）

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業の終わりには演習（計算問題）を行うため電卓を持参すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Chemical thermodynamics can be defined as the science of energy. This course will introduce students to the basics of chemical thermodynamics, such as the first law of thermodynamics, the second law of thermodynamics, and entropy.

(Learning Objectives) Students are expected to understand the following subjects; the first, the second, and the third laws of thermodynamics, and the definitions of various thermodynamic quantities.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination (30%) and term-end examination (40%) and the required assignments (30%).

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

化学熱力学 I I

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①熱力学関数を用いて、熱力学的諸性質を記述する。
- ②理想的なサイクルを組み立てている熱力学的諸過程について学ぶ。
- ③化学平衡（反応平衡）を数学的に記述する方法を理解する。

【到達目標】

化学熱力学 I で学んだ 3 つの基本法則（第 1、第 2、第 3）をベースに、熱力学をより理論的に取り扱うことができるようになること。種々の熱力学関数を導出し、熱力学の概念を一般化するとともに、現実的な課題を取り扱う方法を思考できるようになること。具体的には、化学プロセスおよび化学装置の設計や最適運転法について、その基礎となる考え方を提案できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

化学熱力学 I で学んだ「自由エネルギーが最小で平衡となる」という考え方を相分離、溶液の性質や、化学反応に適用し、実用的なレベルで計算を行う。無味乾燥な数式の羅列にならぬように、演習問題を抱負に取り入れながら、理論の具体的な活用法について学ぶ。

本講義は、教室での対面式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	化学熱力学 I の復習 (I)	教科書第 1 章：速度論と平衡論の違いを中心に、熱力学の存在意義を考える。
第 2 回	化学熱力学 I の復習 (II)	教科書第 2、3 章：例題を使って、熱力学の第 1 法則を復習する。
第 3 回	化学熱力学 I の復習 (III)	教科書第 4、5 章：P-V-T 関係の例題を解く。
第 4 回	化学熱力学 I の復習 (IV)	教科書第 6 章：例題を使って、熱力学の第 2 法則を復習する。
第 5 回	エンタルピーとエントロピーの計算および自由エネルギーと内部エネルギーの計算	教科書第 7 章：エンタルピー、エントロピー、自由エネルギー、内部エネルギーについて、熱力学関数間の関係を明らかにする。
第 6 回	水蒸気表と熱力学線図	教科書第 7 章：水蒸気表と熱力学線図の利用法について、例題で学ぶ。
第 7 回	定圧比熱と定容比熱	教科書第 7 章：定圧比熱と定容比熱を含め、状態量の相互関係について学ぶ。
第 8 回	理想的なサイクルを組み立てている過程	教科書第 8 章：3 つの過程（等温圧縮（膨張）、断熱圧縮（膨張）、等圧変化）の違いについて学ぶ。

第 9 回	サイクル	教科書第 8 章：理想的なサイクル、クリアランスのあるサイクル、多段圧縮（膨張）、Joule-Thomson 膨張について学ぶ。
第 10 回	流れ過程	教科書第 8 章：流れ過程の圧縮膨張に続いて、ヒートポンプの計算を行う
第 11 回	相平衡の条件と相律	教科書第 9 章：相の概念と平衡の概念を理解し、相間に成り立つ関係式（相律）を学ぶ。
第 12 回	フガシティー、活量、活量係数	教科書第 9 章：実在気体の取り扱いについて学ぶ。
第 13 回	化学平衡と平衡定数	教科書第 10 章：化学反応系での平衡を平衡定数を導入して、定量的に取り扱う。
第 14 回	平衡組成の計算	教科書第 10 章：系が平衡に到達した後の組成を取り扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業中に課題を科す他、適宜、演習問題のレポートを科す。

【テキスト（教科書）】

化学熱力学 I で用いた

大竹伝雄、平田光穂共著：第 2 版演習 化学工学熱力学、丸善を教科書として用いる（第 7 章～第 10 章）。

【参考書】

1. アトキンス：物理化学（上）第 10 版、東京化学同人
2. 相良紘：化学工学のための熱力学、日刊工業新聞社
3. 原田義也：化学熱力学、裳華房

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施し、期末試験（50%）および課題レポート（50%）で評価する。加えて、講義中に実施する演習問題、活動・発言を加味して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を振り返るために、不定期にレポートの提出を求める。このレポートに寄せられた意見を参考に、毎週の講義を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

演習問題を解くために、必ず毎回の講義に電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

熱力学では多くの抽象的な概念を定義するが、その理解のために行う問題の演習は、受講者にとって重要であり、講義には積極的に参加する必要がある。

【Outline (in English)】

1.Outline and objectives

- ① To state thermodynamic properties by using the thermodynamic functions.
- ② To learn various thermodynamic processes by constructing ideal thermodynamic cycles.
- ③ To understand how to state chemical (reaction) equilibria mathematically.

2.Learning Objectives

Students are required to handle thermodynamic problems more theoretically using three basic principles (1-st, 2-nd, and 3-rd laws). Students are also requested to derive various thermodynamic functions to understand the basic concept, through which they can solve realistic engineering problems on chemical thermodynamics. Eventually, students must be able to design and operate chemical apparatus in chemical plants and factories.

3.Learning activities outside the classroom

All the students must submit their papers on homework problems given in class or through HOPP II system.

4.Grading Criteria /Policy

A grading rule is the following, i.e.,

Final exam 50% + HW problems 50%.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

新入生であることから、少人数グループによる共通のテーマに対して、共同作業によるグループプレゼンテーションを通じて学生間での信頼感を深めること。さらには、各自興味あるテーマについて個々にプレゼンテーションを行なうことで、大学では自らが積極的に自己啓発しなければならないことを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	全体の概要と自己紹介
2	研究室紹介 1	研究室の見学および研究内容の紹介
3	研究室紹介 2	研究内容の紹介
4	キャリア教育 1	キャリア教育を行う。
5	研究室紹介 3	研究内容の紹介。
6	論文購読	化学系論文の購読を行う。
7	パワーポイント使用法 2	人前での発表手段のパワーポイントの使用方法を習得する。
8	パワーポイント使用法 2	人前での発表手段のパワーポイントの使用方法を習得する。
9	テーマ設定	グループ毎のテーマ設定を行う。
10	プレゼンテーション	グループのテーマについて発表を行う。
11	テーマ設定	各自興味あるテーマの設定を行う。
12	プレゼンテーション	各自興味あるテーマについて、パワーポイントで発表およびディスカッションを行う。
13	キャリア教育 2	キャリア教育を行う。
14	キャリア教育 3	キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校化学の基礎を十分理解する必要がある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のプレゼンテーション内容、および的確なディスカッション内容を総合して決める

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年次教育の一環として、レポートの書き方、文献検索の方法、プレゼンテーションの準備、など多くの実践を繰り返すことにより、大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学生と信頼関係を築くために、できるだけ対話形式で講義を行う。学生に文献検索の方法を伝授するとともに、プレゼンテーションの技術を教授し、そのスキルを磨くように配慮する。

本講義は、教室での対面式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	科目登録と履修の方法 エンジニアの役割 研究倫理教育	入学後直ちに行う必要がある科目登録の重要性を議論する。また、資格取得、文系と理系の役割分担、起業などについて議論する。 技術者・研究者として備えるべき、倫理観について学ぶ。
第2回	化学英語。 最終報告課題の公表。	化学の基礎的な事項を、英語を通して理解する。また、第11～12週で行う最終プレゼンテーションの課題を公表する。
第3回	Nature Chemistry 誌を用いた文献検索の演習、および報告課題の公表。	Nature Chemistry 誌へのアクセス方法、文献の検索方法を教授する。最終プレゼンテーション用の課題を公表する。
第4回	化学基礎の演習（1）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第5回	化学基礎の演習（2）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第6回	化学基礎の演習（3）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第7回	Nature Chemistry 誌掲載論文の紹介： 学生による発表（1）	Nature Chemistry 誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。
第8回	Nature Chemistry 誌掲載論文の紹介： 学生による発表（2）	Nature Chemistry 誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。

第9回	単位の換算・次元解析（1）	工学的に重要な量である長さ、質量、力。エネルギーなどの単位の換算を確実にできるようにする。一般化された概念としての次元について考える。
第10回	単位の換算・次元解析（2）	工学的に重要な量である長さ、質量、力。エネルギーなどの単位の換算を確実にできるようにする。一般化された概念としての次元について考える。
第11回	課題報告（1）	与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。
第12回	課題報告（2）	与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。
第13回	キャリア教育（1）	学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。
第14回	キャリア教育（2）	学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

事前に配布する英語、計算問題などのプリントを学習しておくこと。後半のプレゼンテーション課題では、パワーポイントの利用が必須なので、その利用方法について習熟しておくこと。1回目のプレゼンテーションでは、化学に関する最新の原著論文の紹介、2回目のプレゼンテーションでは選択課題の中から自由研究に基づく成果を報告する。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

講義資料は配布する。

【参考書】

特に必要ない。

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み態度（50%）と2回のプレゼンテーションを含む演習問題のでき（50%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この科目は少人数のゼミ形式の講義であり、今後の学生生活に確実に役に立つスキルが身につくように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

後半の講義では、ノート型パソコンを用いたプレゼンテーションが大きなウェイトを占めるので、パソコンの基本的な使用法の理解が前提となる。

【その他の重要事項】

受講者全員が、パワーポイントを使った発表を少なくとも2回経験するので、パワーポイントを含むソフトウェアに習熟していることが望ましい。

本講義は日米の大学および民間研究所での実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義する。その中で、日米の文化の違い、あるいは大学の違いなどを実感できるように配慮する。また、技術者・研究者として必要な倫理観についても、実例を交えて解説する。

【Outline (in English)】

1.Course outline

This course is a first-year education program, aiming to provide learning skills for students by training academic writings, searching technique of appropriate literatures and preparation of oral presentations.

2.Learning Objectives

Students learn basic skills in the university, including how to obtain necessary information, how to register classes, and how to make scientific presentations.

3.Learning activities outside the classroom

All the students must make two presentations, the one on a new article from Nature Chemistry and the one on his/her current interest. Students must prepare presentation files outside the class. Students are also required to answer many questions from the instructor in class.

4.Grading Criteria /Policy

Two presentations 50 %

Positiveness in class 50 %

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。少人数によるセミナー形式の授業を体験させることにより、高校までの受動的な学習方法から大学での能動的かつ自律的な学習方法へと意識を切り替えることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究室所属後に行われる研究成果報告、英文教材輪読、英文雑誌紹介の準備として、実験データ解析・発表、英文化学教科書輪読、英字記事等紹介を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の進め方を説明し、化学に関する英文教材を指定する。
第2回	不純物添加によるセラミックスの着色(1)：実験条件検討	セラミックスの着色のために添加する物質やその混合比を決める。
第3回	不純物添加によるセラミックスの着色(2)：実験条件再検討、英字記事調査	セラミックスの着色のための条件を再検討する。また、科学技術に関する英文記事を選ぶ。
第4回	不純物添加によるセラミックスの着色(3)：合成	セラミックスに酸化物を添加・混合し、成型する。
第5回	カウンセラー講習	カウンセラーによる講習を行う。
第6回	不純物添加によるセラミックスの着色(4)：評価	焼成によって得られる着色セラミックスの評価を行う。
第7回	実験予備日または実験発表と英字記事調査発表の準備	実験予備日とする。または、実験発表のためのスライドと英文記事の和文要約を作成する
第8回	セラミックスの着色実験の発表(1)：前半	PowerPointのスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第9回	セラミックスの着色実験の発表(2)：後半	PowerPointのスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第10回	英字記事紹介(1)：前半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第11回	英字記事紹介(2)：後半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第12回	英文教材輪読	化学に関する英文教材の音読と和訳をローテーションを組んで行う。
第13回	キャリア教育(1)	キャリア教育を行う。

第14回 キャリア教育(2) キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 環境問題に関する一般的な知識の習得、文献等の調査およびPowerPointのスライド作成は授業外に行う。また、英文教材中の不明な単語の発音と意味を調べておき、内容を理解し、授業内に音読と和訳をできるように準備しておく。英文新聞記事の内容理解・関連情報の調査・英文新聞記事の和文要約作成も授業外に行う。

【テキスト（教科書）】

化学に関する英文教材は第1回目の授業時に指定する。英文記事は法政大学図書館HP等からダウンロードする。

【参考書】

無機化学や物理化学に関する教科書、酸化物質材料（またはセラミックス材料）の応用に関する文献。

【成績評価の方法と基準】

実験結果の発表と討論内容(40%)、英文記事の和文要約と発表と討論内容(40%)、英文教材の音読と和訳(20%)と授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

セラミックスの着色実験の時間に多くの時間を費やし、第7回を実験予備日とする可能性を想定して、第7回には「実験予備日または実験発表と英字記事調査発表の準備」を行うこととする。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（PowerPoint使用）。

【その他の重要事項】

カウンセラー講習とキャリア教育の日程に関しては、変更の可能性あり。授業第1回目までにはスケジュールが確定する見込み。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to acquire active learning method in University.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to presentation and discussion of experimental results (40%), understanding of an article in Nature Chemistry (40%), and Japanese translation of a chemistry textbook written in English (20%) and in-class contribution.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

河内 敦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得，調査研究能力，化学ツールの活用，およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- (1) 化学情報（文献）の取り方について学ぶ
- (2) 化学関連のソフトウェアの使い方を習得する。
- (3) プレゼンテーションの基礎技術を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介，本授業の進め方
第2回	化学文献，情報検索，図書館（1）	化学に関する情報の集め方
第3回	化学文献，情報検索，図書館（2）	化学に関する情報の集め方
第4回	大学カウンセラーによる講演会	大学生活について
第5回	化学ツールを使いこなす（1）	化学構造式描画ソフト ChemDraw を使う (1)
第6回	化学ツールを使いこなす（1）	化学構造式描画ソフト ChemDraw を使う (2)
第7回	化学ツールを使いこなす（2）	PowerPoint によるビジュアルデザイン (1)
第8回	化学ツールを使いこなす（2）	PowerPoint によるビジュアルデザイン (2)
第9回	化学ツールを使いこなす（3）	テーマを決めて文献調査～資料作成～プレゼンテーション (1)
第10回	化学ツールを使いこなす（3）	テーマを決めて文献調査～資料作成～プレゼンテーション (2)
第11回	化学ツールを使いこなす（3）	テーマを決めて文献調査～資料作成～プレゼンテーション (3)
第12回	化学ツールを使いこなす（3）	テーマを決めて文献調査～資料作成～プレゼンテーション (4)
第13回	キャリア教育（1）	キャリア教育に関する講演 (1)
第14回	キャリア教育（2）	キャリア教育に関する講演 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】配布資料を事前に読む。課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

配付資料

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度(70%)，課題・制作物(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に授業へ参加できるための工夫をおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（必要なときは持参することを事前に指示する）

【Outline (in English)】

(Outline)

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Goal)

Students will learn basic knowledge, ability for research, tools for chemistry, skills for presentation in higher education.

(Work to be done outside of class)

Students should learn printed matter.

(Grading criteria)

attending class (80%); assignments (20%)

MAC100YC（材料化学 / Materials chemistry 100）

応用化学基礎

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代化学は、基礎分野では生物学、物理学との境界・融合領域で著しい進展を達成しており、応用分野では環境、エネルギー問題の解決に欠くことの出来ない存在となっている。本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行う。また、初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連した文献の精読を行い、自ら参考文献を調べ、自分が理解した内容を powerpoint を用いたプレゼンテーションおよび討論を行うことにより、プレゼンテーション技術を習得するとともに、大学での学習の基本姿勢を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	単位制に関する説明。自己紹介。集合写真の撮影。授業の進め方に関するガイダンス。
第2回	化学研究成果の社会発信	化学研究成果の社会発信としての学術論文、特許、学会発表について学ぶ。
第3回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第4回	メンタルヘルスケア	学生相談室主任心理カウンセラーによる、メンタルヘルスケアに関する講義。
第5回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第6回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第7回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第8回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第9回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第10回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第11回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。

第12回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第13回	キャリア教育（1）	キャリア形成の意義について学ぶ。
第14回	キャリア教育（2）	キャリア形成の具体例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】指定したテキストおよび資料を十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての確にプレゼンテーションを行うために powerpoint による資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、授業支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

出席回数、プレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表能力の養成を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に必要な補助資料は、授業支援システムを通して配布を行う。また、プレゼンテーションに当たっては貸与パソコンを用いて資料作成を行う。

【その他の重要事項】

本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行います。

【Outline (in English)】

・ Course description

Modern chemistry has achieved remarkable progress in the boundary and fusion areas with biology and physics, and has become indispensable in solving environmental and energy problems in applied fields. In this lecture, in a seminar format with a small number of students, we will provide education to understand the academic system that forms the basis of applied chemistry, deepen interest in applied chemistry, and prepare basic academic skills for specialized subjects. In addition, as part of the first-year education, students acquire the active learning methods necessary for university students by repeating many practices such as how to write reports and give presentations.

・ Attainment target

Acquire basic knowledge, investigative research skills, and presentation skills necessary for learning higher education.

・ Learning outside of class

Read the specified text and materials carefully, research related references, understand the content, and create materials using powerpoint in order to give an accurate presentation on the content you have understood.

・ Grading methods and standards

Evaluation will be based on the number of times attended, the content of presentations, and the content of questions and answers.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

藤井 孝太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、化学に関する学習への取り組み方、図表作成のやり方、レポートの書き方、プレゼンテーションの基礎技術などを学び、実践を通して大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、化学ツールの活用、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- (1) 化学実験・研究の進め方、まとめ方を学ぶ。
- (2) 化学関連のソフトウェアの使い方を習得する。
- (3) レポート作成、プレゼンテーションの基礎技術を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	担当教員の紹介、自己紹介、授業の進め方。
第2回	学術論文の読み方	学術論文を具体的に見て読み方を学ぶ。わかりやすい結果のまとめ方を知る。
第3回	文献の検索方法	与えられたキーワードをもとに考えたテーマに沿って文献を調べ、紹介する文献を決める。
第4回	大学カウンセラーによる講演	大学生活についての講演。
第5回	化学分野における表・グラフのまとめ方	Excelなどの使い方を学び、わかりやすい表やグラフの作成方法を学ぶ。誤差について学ぶ。
第6回	図のまとめ方	PowerPoint、分子・結晶構造描画ソフトなどの使い方と、わかりやすい図の作成方法を学ぶ。
第7回	プレゼンテーションの準備法	作成した図表を活用し、スライドとしてまとめる方法を学ぶ。
第8回	文章・スライドのまとめ方	作成した図表を活用し、文章としてまとめる方法を学ぶ。Wordの基礎的な使い方を学ぶ。
第9回	文献紹介 プレゼンテーション1	化学に関する学術論文を紹介し、その内容について議論する。
第10回	文献紹介 プレゼンテーション2	化学に関する学術論文を紹介し、その内容について議論する。
第11回	文献紹介 プレゼンテーション3	化学に関する学術論文を紹介し、その内容について議論する。
第12回	化学分野における学習・実験・研究に取り組むための心構え	事前学習・実験ノート、試料・データ・ファイルの管理方法、安全・倫理の重要性について学ぶ。
第13回	キャリア教育 (1)	キャリア教育に関する講演(1)
第14回	キャリア教育 (2)	キャリア教育に関する講演(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】配布資料・講義内容で学んだことを具体的な課題を通して復習し、プレゼンテーション・レポートの準備をする。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布する資料。

【参考書】

授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションおよびレポートの内容、質疑応答の内容を基準として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、Excel、PowerPoint、Wordなどを使用する。

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation. The goals of this course are to acquire basic knowledge, research ability, and presentation skills necessary for learning university education.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

森 隆昌

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

課題ごとに学生自身によるプレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	イントロダクション	授業の進め方に関する説明。
第2回目	キャリア教育	キャリア教育を行う
第3回目	英文教材輪読1	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第4回目	英文教材輪読2	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第5回目	英文教材輪読3	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第6回目	英文教材輪読4	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第7回目	英文教材輪読5	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第8回目	英語文献調査・要約	与えられた課題に合致する英語文献を自ら調査し、その内容を要約する。
第9回目	文献紹介1	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第10回目	文献紹介2	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第11回目	文献紹介3	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第12回目	文献紹介4	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第13回目	キャリア教育2	キャリア教育を実施する。
第14回目	キャリア教育3	キャリア教育を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】輪読の準備・予習。
英語文献の要約・プレゼン資料の作成。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（資料の内容、発表の内容）50%、ディスカッション（質問の数、内容、回答の内容）40%、課題10%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand fundamental knowledges for higher education and master basic skill for presentations.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have complete the required assignments and prepare the presentation. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the term-end presentation (50%), the in-class contribution (40%) and the assignments (10%).

MAC100YC（材料化学 / Materials chemistry 100）

応用化学基礎

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連したテキストの精読を行い、自ら参考文献を調べたりグループ調査などにより自分が理解した内容についてpowerpointを用いたプレゼンテーションにより発表すると同時に他の参加者を交えた討論を行う。授業の初めに、前回の授業の議論内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	単位制に関する説明。担当教員の紹介。自己紹介。授業の進め方に関するガイダンス。
第2回	プレゼンテーション演習 (1)	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ
第3回	プレゼンテーション演習 (2)	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ
第4回	総合的な学修指導	心身両面から健康的に学修を進めるための指導を専門家からのガイダンスも交えて行う。
第5回	文献検索演習	化学や周辺学問領域に関する学術情報検索方法としてオンラインデータベースなどへのアクセス方法などを専門家の講習なども交えながら学ぶ
第6回	現代化学に関するディスカッション (1)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第7回	現代化学に関するディスカッション (2)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第8回	現代化学に関するディスカッション (3)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第9回	現代化学に関するディスカッション (4)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第10回	現代化学に関するディスカッション (5)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第11回	現代化学に関するディスカッション (6)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。

第12回	現代化学に関するディスカッション (7)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第13回	キャリア教育 (1)	化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講習も交えて学ぶ
第14回	キャリア教育 (2)	化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講習も交えて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】指定したテキストを十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての確にプレゼンテーションを行うために配布印刷物、powerpointなどによる資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、オンラインジャーナルの指定および学習支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

各授業回におけるプレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

好評であったため、引き続き英語文献の内容理解に重点をおく

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによる資料の配布、課題の提出を行うため、履修者はシステムの利用に習熟しておく必要がある

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Quality of discussions and presentations in each lesson.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学基礎

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

化学論文の読解力を養うため、与えられた論文の内容を一人ずつ発表する。化学に関するテーマに沿って各自が調査研究を行い発表する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明・自己紹介
2	メンタルヘルスケア	心理カウンセラーによるメンタルヘルスケアの講義。
3	高分子化学入門	身近な高分子化合物について学ぶ。
4	実験	高分子化合物に関する基礎的な化学実験を体験する。
5	化学論文の読み方（1）	化学論文の構成について学ぶ。
6	化学論文の読み方（2）	化学論文で使われる専門用語や表現について学ぶ。
7	論文検索	学術論文の検索法について学ぶ。
8	プレゼンテーション資料の作成法	PowerPointの基本的な使用方法について学ぶ。
9	プレゼンテーション（1）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第1組1回目）
10	プレゼンテーション（2）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第2組1回目）
11	プレゼンテーション（3）	1回目の講評を踏まえ、改訂版を発表する（第1組2回目）
12	プレゼンテーション（4）	1回目の講評を踏まえ、改訂版を発表する（第2組2回目）
13	キャリア教育（1）	キャリア形成の意義について学ぶ。
14	キャリア教育（2）	キャリア形成の具体例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】配布資料を読み、与えられた課題を調べ、プレゼン資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

配布資料

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料の充実

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPC

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand fundamental knowledges for higher education and master basic skill for presentations.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have complete the required assignments and prepare the presentation. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the term-end presentation (50%) and the in-class contribution (50%).

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

無機化学概論

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関する基本的な内容を深くに理解することを到達目標とする。

物質を構成する基本単位である原子の構造を理解し、各原子が持つ性質が原子核を取りまく電子の振る舞いによることを理解すると共に、それらの原子の組み合わせから成る様々な無機化合物の構造および性質について学ぶ。また、多様な化学結合様式（イオン結合、共有結合など）が物質の性質と密接に関係していることを理解する。

【到達目標】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関して基本的なことを十分に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

量子化学を基礎として、原子の構造や電子軌道についての理論的な講義を行う。すなわち、ボーアの原子モデルに基づく電子軌道から、シュレーディンガーの方程式から導かれる電子軌道に発展するまでの過程を、板書とスライドを用いて時系列的に説明する。また、共有結合に関しては、オクテット則に基づく理解から、分子軌道法による解釈へと発展させる。イオン結合に関しては、結晶性固体中におけるイオン結合の理論について講義する。さらに、二原子分子の結合に関しては、分子軌道の模式図とエネルギー準位図に基づいて、定性的な講義を行う。

な

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論、原子（1）	原子の構造、原子核の崩壊
第2回	原子（2）	水素の発光スペクトル
第3回	原子（3）	ボーアの原子モデル
第4回	電子（1）	シュレーディンガーの波動方程式、一次元の箱の中の粒子（1回目）
第5回	電子（2）	一次元の箱の中の粒子（2回目）、複素数による波動の理解
第6回	原子軌道（1）	水素原子の中の電子、動径波動関数、球面調和関数
第7回	原子軌道（2）	電子の軌道（s軌道、p軌道、d軌道、f軌道）
第8回	原子軌道（3）	電子スピン、パウリの排他原理、構成原理、フントの規則
第9回	中間テスト	原子と電子と原子軌道に関する理解度を確認する。
第10回	イオン結合（1）	イオン化エネルギー、遮蔽、電子親和力、格子エネルギー
第11回	イオン結合（2）	ボルン-ハーバーサイクル、有効核電荷
第12回	電子配置	電子配置、構成原理
第13回	共有結合（1）	等核二原子分子
第14回	共有結合（2）	異核二原子分子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回までの講義内容を復習し、理解を深めておくこと。特に、講義中で解けなかった演習問題は、ノート・テキスト・参考書を参照して解けるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

基礎無機化学－構造と結合を理論から学ぶ、山田・秋津著、(株)化学同人、ISBN:9784759815306。

【参考書】

・無機化学－その現代的アプローチ：平尾一之、中平敦、田中勝久著、東京化学人。
・アトキンス物理化学第10版（上）：千原秀昭・中村亘男訳、東京化学同人。
・ヒューイ無機化学（上）：小玉剛二・中沢浩訳。

【成績評価の方法と基準】

中間試験(35%)、期末試験(60%)、演習問題(5%)、授業への取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に毎回行っている演習課題の解答例を、次々回の授業後にHoppiiにアップロードすることとする。球面調和関数の理解を深めるための実演を継続する（4年目）。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓使用。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、無機化学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this class is to understand the structure of atom, atomic orbitals, orbital interaction for the formation of diatomic molecules, and crystal structure of ionic compounds.

(Learning Objectives) Students are expected to understand atomic structure, electron configuration, diatomic molecules, and ionic crystals.

(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (5%), mid-term examination (35%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

MAC100YC (材料化学 / Materials chemistry 100)

応用化学入門

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境応用化学科の専門科目を理解する上で必要な数学と物理・物理化学・情報処理の基礎について焦点を絞って学ぶ。

【到達目標】

数学の式と物理・化学の式の関係、物理・化学における単位とその換算、物理量の次元、化学におけるグラフの描き方、微分の考え方、座標変換、自然法則と微分方程式の関係などを理解し、化学に現れる様々な現象を定量的に理解し、厳密に記述するための前提となる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学での化学の専門科目を学ぶために必要な物理・数学・物理化学、情報処理の基本的な事項をPC上での数値計算を中心とした実習形式で学ぶ。また演習問題を解き、学習支援システム上にレポートを提出する。さらに関連事項についての宿題も課す。授業の初めに、前回の授業で提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	科学的視点の文書作成	科学的文書の作成、情報機器、計算機器の使用法
2	数値の取り扱い	科学的な数値の取り扱い
3	化学における式	数学の式と物理・化学の式、物理量の単位と次元、単位換算の方法
4	化学における変数と関数	データおよび化学構造の視覚化、定量的な化学の問題の解き方
5	統計による考え方	基本統計量の計算
6	数値的微分法	速度・加速度・1次元における運動方程式、差分、二階微分
7	中間試験	前半の復習・総合演習
8	中間試験講評・科学的プレゼンテーションの技法	中間試験の結果を題材とした統計処理の復習に関する解説・スライド作成の解説と実習
9	関数の局所近似	テイラー展開と近似式
10	非線形方程式の解法	二分法、割線法、ニュートン法の原理
11	偏微分と化学への応用	熱力学な量の変化、偏微分を用いた表現法
12	相関係数と最小二乗法	相関係数、最小二乗法
13	非線形方程式への最適化	ゴールシーク、ソルバーの利用した非線形方程式への最適化、高度なデータ処理と既習の原理との関係
14	総合演習	全ての授業回の内容に関する復習と総合演習を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の内容を復習する。

授業中に解説された例題の続きと宿題を解く。

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキストを毎回、学習支援システムを通じて配布する

【参考書】

化学系学生のためのExcel/VBA入門 - Office 2007 対応 -, 寺坂宏一, コロナ社

アトキンス物理化学〈上〉P.W. Atkins, Julio de Paula(著), 千原秀昭, 中村亘男(訳), 東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容の達成度を測定するために課す授業内演習課題と宿題（60%）、中間試験と期末試験の成績（40%）を統合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回事前に配布するオリジナル教材による授業実施が好評であるため、引き続き実施する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、各学生が大学貸与のノートPCを使用して授業に参加する。学習支援システムで説明のファイルを事前配布し、レポートを学習支援システムに提出する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of selected topics about basic knowledge on Mathematics, Physics, Physical Chemistry, and Information Technology required for understanding other classes in the Department of Chemical Science and Technology.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Exercise given in each lesson: 60%, Midterm and Final examinations: 40%.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

物理化学 I

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子が関与する物理的/化学的性質および諸現象を理解するために必須の学問である量子物理化学の基本事項について解説する。まず、量子力学の基本原則がどのような考え方に基いているかを詳述し、波動方程式、波動関数の概念とその使い方を説明する。さらに量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、そのエネルギー状態について学ぶ。

【到達目標】

量子論の根幹をなす主要な概念を理解する。
量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、その状態を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的にアトキンスの教科書（物理化学（上）第12版）の内容に沿って行う。授業開始前に必ず教科書を入手しておくこと。1ヵ月に1回程度理解度を確認するための小テストを実施する。実際の授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜アナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	量子論:序論と原理1	古典物理学の復習から入り、古典物理学が破綻する実験事実について講義を行う。
第2回	量子論:序論と原理2	第1回に引き続き、古典物理学の破綻と量子論が生まれる過程について講義を行う。
第3回	量子論:序論と原理3	第2回に引き続き、量子論の必要性、古典論と量子論との定性的、定量的比較を行う。
第4回	量子論：原理1	波動および波動方程式についての復習、量子力学の基本方程式であるSchrodinger方程式の導出を行う。
第5回	量子論：原理2	波動関数の物理的意味、波動関数から具体的な物理量をいかにして導き出すことができるか等に関する講義を行う。
第6回	量子論：原理3	量子力学の原理（固有値、固有関数、演算子、不確定性原理）などについて講義を行う。
第7回	量子論：手法と応用（1-1）	自由空間および有限の空間に粒子が閉じ込められた際の粒子の並進運動の量子力学的取り扱いについて、Schrodinger方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第8回	量子論：手法と応用（1-2）	粒子の量子力学的トンネル効果について、Schrodinger方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第9回	量子論：手法と応用（1-3）	2次元および3次元空間における粒子の並進運動の問題におけるSchrodinger方程式の解法および縮退について学ぶ。
第10回	量子論：手法と応用（2-1）	粒子の並進運動の問題におけるSchrodinger方程式の解法およびトンネル現象について学ぶ。
第11回	量子論：手法と応用（2-2）	粒振動運動についての古典力学の復習および量子力学による取扱いの基礎について学ぶ。
第12回	量子論：手法と応用（2-3）	粒子の振動運動をSchrodinger方程式に適用し、その解の波動関数、振動エネルギー、振動量子数の導出とその意味について学ぶ。
第13回	まとめおよび復習	これまでの授業での学習内容の復習および総括を行う。

第14回 まとめおよび質疑応答 これまでの授業内容に関する質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書アトキンス「物理化学（上）第12版」の練習問題を用いて各自予習および復習を行うこと。講義に関連した補助プリントを授業支援システムを通じて事前に配布を行うので各自、プリントアウトして事前に目を通し、講義に臨むこと。毎回の講義の最後に講義内容に関連した課題を出すので、提出期限までに学習支援システムを通じて提出すること。

【テキスト（教科書）】

＜教科書＞P. W. Atkins 著、(千原・中村 訳)「物理化学（上）」 第12版、東京化学同人。

【参考書】

＜参考書＞ 原田 義也著、「量子化学」 裳華房

【成績評価の方法と基準】

基本的概念を理解し、それに基づいて問題解決ができるかどうかを小テスト(40%)および期末試験(60%)の結果を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

物理化学Iの内容は、単に授業を受動的な立場で受講しているだけでは理解することは困難です。授業外での予習・復習は必要不可欠です。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助資料を学習支援システムを通じて事前に配布を行う。

【その他の重要事項】

＜具体的教育方法＞毎回の授業の理解度を確認するために課題を出し、理解度を確認しながら授業を進める。

＜継続的改善＞ 質問は随時電子メールで受け付ける。質問受付のメールアドレスは第1回目の講義資料に記載します。

物理化学Iの授業内容をよく理解するためには、関連した演習科目「物理化学演習」を履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

This course will provide the fundamentals of quantum physics, which is an essential learning to understand the physical and chemical properties and phenomena involving atoms and molecules. First, you will learn in detail what the basic principle of quantum mechanics and the Schrodinger equation, the concept of wave function and its physical meaning. Furthermore, you will learn the application of quantum mechanics to translational motion, molecular vibration and rotational motion and learn about their energy states.

・ Attainment target

1) Understand the key concepts underlying quantum theory.

2) Applying quantum mechanics to the translational motion of particles, the vibrational and rotational motions of molecules, and gaining a proper understanding of their states.

・ Learning outside of class

Prepare and review on your own using exercises from the textbook Atkins "Physical Chemistry (Part 1) 10th Edition". Supplementary printouts related to the lecture will be distributed in advance through the class support system. At the end of each lecture, assignments related to the content of the lecture will be given, so please submit them through the learning support system by the submission deadline.

・ Grading methods and standards

Comprehensively evaluate whether students can understand the basic concepts and solve problems based on them based on the results of assignments, quizzes, and final exams.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

物理化学 I I

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校における数学 I・A・II・B・III・C，物理・物理基礎，化学・化学基礎，および物理学基礎 I・II，物理化学 I など2年次春学期までの科目での既習事項にもとづいて，量子物理化学の応用事項の解説を行う。

【到達目標】

量子物理化学の基礎を理解し，水素型原子の電子状態を定量的に記述できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書であるアトキンス物理化学に沿ってスライドおよび板書で基本事項を説明する。原則，各回の授業の終盤では，講義内容に対応した演習問題を課すが，学習内容を定着させるために，必要に応じて宿題や中間課題も課す。また，授業の初めに，前回の授業で提示した課題についての解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	物理化学Iの復習	量子力学の基本原理解および並進運動についての復習を行う。
第2回	量子論：調和振動子	振動運動に対する量子力学の適用を行う。
第3回	量子論：調和振動子の性質	量子力学的振動子のエネルギー・波動関数などについての性質を学ぶ。
第4回	量子論：2次元の回転運動（1）	2次元の円周上の粒子の回転運動について古典的取扱いの復習と量子論的考察を行う。
第5回	量子論：2次元の回転運動（2）	量子力学的回転運動のエネルギー・角運動量について学ぶ。
第6回	量子論：3次元の回転運動（1）	3次元球面上の粒子の回転運動の量子力学的取り扱いおよび必要な数学的知識について学ぶ。
第7回	量子論：3次元の回転運動（2）	3次元の回転運動についての波動関数・エネルギーの性質について学ぶ。
第8回	量子論：3次元の回転運動（3）	粒子の回転運動に基づく角運動量について詳述し，スピン角運動量の概念について導入する。
第9回	原子構造と原子スペクトル：水素型原子（1）	原子スペクトルに観察に関する歴史的背景とボーア模型にもとづく水素型原子軌道の古典的な取り扱いについて学ぶ。
第10回	原子構造と原子スペクトル：水素型原子（2）	水素型原子の電子構造について波動方程式を解いて波動関数と固有エネルギーを導出する。
第11回	原子構造と原子スペクトル：水素型原子（3）	水素原子中の電子の波動関数エネルギーおよび原子スペクトルとの対応について説明する。
第12回	原子構造と原子スペクトル：水素型原子（4）	水素原子軌道における動径関数の性質を学ぶ。
第13回	原子構造と原子スペクトル：水素型原子（5）	原子オービタルの概念を導入し，s,p,d,f軌道の性質について紹介する。
第14回	原子構造と原子スペクトル：多電子原子	多電子系の量子力学の初歩を導入するとともに多電子原子の性質について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各回4時間を標準とする】

- 教科書・配布資料を読むだけではなく，実際に例題を解いて予習する。
- 前回の範囲のノート・配布資料・教科書を読むだけではなく，実際に章末問題など解いて復習する。
- 宿題および中間課題を解いて締切までに学習支援システムに提出する。

【テキスト（教科書）】

アトキンス 物理化学（上）第12版 P. Atkins, J. de Paula, J. Keeler 著 中野元裕，上田貴洋，奥村光隆，北河康隆 訳，東京化学同人

【参考書】

P. Atkins, J. de Paula, J. Keeler, "Atkins' Physical Chemistry" 12th ed., Oxford University Press

物理化学演習 片岡・山田 三共出版

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題・中間課題（40%）および期末試験の結果（60%）を総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

原理だけではなく，具体的な実験手法や現象との対応の紹介も取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は学習支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

予備知識と講義内容の理解度を確認するため日常的に演習問題あるいは宿題を出す。これらは自分で解けない時は教員や教務助手，TAに質問して，理解してから解答すること。

受講にあたっては，高校における数学 I・A・II・B・III・C，物理・物理基礎，化学・化学基礎，および1年次における物理学基礎 I・II などでの既習事項を理解していることが前提となるので，理解が不足している項目があれば各自で受講前に復習しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of principles of advanced issues on quantum physical chemistry based on the fundamental contents of other classes such as Physical Chemistry I opened by the spring semester in the second grade year and high school courses.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Exercise in each lesson and Midterm homework: 40%, and Final examination: 60%.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

無機化学 I

藤井 孝太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質を構成する多彩な元素の成り立ちや性質を学び、それらがどのように作用し合って様々な無機物質の構造や性質につながるかを学ぶ。

【到達目標】

原子の成り立ち、化学結合、周期表に沿った元素の特性を理解し、溶液化学、酸・塩基、酸化・還元の方法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義資料を使い教科書の内容に沿って講義を進める。重要な事柄に関して課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・原子の構造 1	無機化学分野と学習範囲の紹介、原子の成り立ち
第2回	原子の構造 2	原子軌道、電子配置
第3回	周期律	周期表、原子の基本的性質
第4回	化学結合 1	化学結合の種類、分子軌道
第5回	化学結合 2	分子の構造
第6回	化学結合 3	イオン結合と格子エネルギー
第7回	元素の性質と化合物 1	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解：水素、希ガス
第8回	元素の性質と化合物 2	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解：アルカリ金属、アルカリ土類、13族、14族、15族
第9回	元素の性質と化合物 3	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解：16族、17族
第10回	元素の性質と化合物 4	原子の電子構造に基づく周期律表および元素特性の理解：遷移金属、ランタノイド、アクチノイド
第11回	溶液の化学	化学平衡、溶解度、理想溶液、非理想溶液、活量
第12回	酸と塩基	酸・塩基の定義、HSAB則
第13回	酸化・還元	標準電極電位、電池
第14回	無機化学研究の実際	先進的な無機化学研究における学習内容の活用事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に教科書の講義内容に該当する部分を予習し、講義後に復習することで学習内容の理解を深める。

【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人

講義資料を配付する

【参考書】

「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版。
「アトキンス・無機化学 第6版(上)・(下)」田中他訳、東京化学同人。
「コットン・ウィルキンソン・ガウス基礎無機化学」中原訳、培風館。

【成績評価の方法と基準】

課題・レポート・中間試験（40%）、期末試験（60%）を基本とし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the characters of each element and how they interact with each other to form the structures of inorganic materials and give them specific properties.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

無機化学 I I

藤井 孝太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機化学 I で学んだ「元素の成り立ちと特性」，「原子や分子の相互作用（化学結合）」などの知識を基に，配位化学の基礎的な内容，無機固体物質の成り立ちや特性について学ぶ．先進的な材料（特に環境，エネルギーに関連するもの）の具体的な例を示し，学習した内容を実験材料分野で活用する方法を学ぶ．

【到達目標】

配位化学の基礎的な内容，無機固体物質の成り立ちや捉え方を理解し，様々な特性が現れる要因を理解する．無機材料化学に関する研究へと展開していくための基礎知識と感覚を習得する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義資料を使い教科書の内容に沿って講義を進める．重要な事柄に関して小テストやレポート課題を課す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	学習範囲の紹介，原子の成り立ち・原子軌道・分子軌道・化学結合・元素の性質について復習
第2回	配位化学 1	配位結合，結晶場理論
第3回	配位化学 2	配位子場理論
第4回	配位化学 3	配位子置換反応
第5回	配位化学 4	配位化合物の実例
第6回	固体の成り立ち	固体における化学結合
第7回	結晶構造	周期的構造，結晶構造の記述方法
第8回	代表的な結晶構造	代表的な結晶構造とその派生構造の紹介，格子欠陥，固溶体，転位
第9回	固体物質の分類と一般的性質	結晶性固体と非晶質固体，格子振動と熱的性質
第10回	固体の電子構造と電気伝導	自由電子，バンド構造，半導体，イオン伝導体
第11回	固体材料の様々な性質	誘電的性質，磁氣的性質，光学的性質
第12回	生体に関連した無機化学	金属タンパク質，金属酵素，光合成，アパタイト系材料，バイオマテリアル
第13回	環境と無機化学	光触媒，太陽電池，環境関連材料
第14回	無機材料の実例	有機無機ハイブリッド材料，ポリマー，ゼオライト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，4時間を標準とする】
事前に教科書の講義内容に該当する部分を予習し，講義後に復習することで学習内容の理解を深める．

【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人
講義資料を配付する

【参考書】

「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版。
「アトキンス・無機化学 第6版(上)・(下)」田中他訳、東京化学同人。

【成績評価の方法と基準】

課題・レポート・中間試験（40%），期末試験（60%）を基本とし，総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Based on the knowledge from "Inorganic Chemistry I", this lecture aims to learn the fundamentals of coordination chemistry and the structure and properties of inorganic solid-state materials. This knowledge is then applied to understand advanced materials, especially those related to energy and the environment.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

有機化学 I

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合について理解している。
- (2) 有機化合物の化学的性質を理解している。
- (3) 化学反応式を用いて様々な有機化合物の反応を記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学I・II」が既習であることを前提とする。

テーマとする有機化合物の物理的性質や特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、化学反応式を用いた記述が重要である。資料を学習支援システムにアップロードするので、予習に役立てること。

確認問題（学習支援システム）を解き、授業内容の理解度を確かめる。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	電子構造と結合・酸と塩基	有機化合物の結合形成、酸と塩基の性質について学ぶ（1、2章）
2	アルケン（1）	アルケンの構造と性質、反応を学ぶ（5、6章）
3	アルケン（2）	アルケンの反応の詳細を学ぶ（6章）
4	アルキン	アルキンの構造と性質、反応を学ぶ（7章）
5	ハロゲン化アルキルの置換反応	S_N1 反応および S_N2 反応を学ぶ（9章）
6	ハロゲン化アルキルの脱離反応	$E1$ 反応および $E2$ 反応を学ぶ（10章）
7	試験・まとめと解説	授業内試験を実施する
8	アルコール・エーテル・エポキシド	アルコール、エーテルおよびエポキシドの構造と性質、反応を学ぶ（11章）
9	アミン	アミンの構造と性質、反応を学ぶ（11、20章）
10	有機金属化合物	有機リチウム試薬、有機マグネシウム試薬を用いた反応を学ぶ（12章）
11	芳香族化合物（1）	芳香族性および芳香族求電子置換反応の基礎を学ぶ（8、19章）
12	芳香族化合物（2）	芳香族求電子置換反応の詳細を学ぶ（19章）
13	芳香族化合物（3）	多置換ベンゼンの合成を学ぶ（19章）
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

(準備学習)教科書の対応ページを読む。授業支援システムに用意されている資料を参照すること。本文中の例題を解くことが望ましい。(復習)講義ノート、参考資料を見ながら、教科書の重要ポイントにマークを入れる。教科書の章末問題を解くことが望ましい。

(宿題)確認問題（学習支援システム）を解き、期限までに提出する。

【テキスト（教科書）】

Paula Y. Bruice (著)、ブルース有機化学（第7版）[上] [下]、化学同人

【参考書】

・赤松元浩・河内敦・松本祥治・三野孝（著）、スパイラル有機化学、筑波出版会

・J. McMurry（著）、マクマリー有機化学 第9版、東京化学同人

・山口泰史（著）、大学生のための有機反応問題集、三共出版

・畔田博文・鈴木秋弘・高木幸治・川淵浩之（著）、これでわかる基礎有機化学演習、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題（20%）、中間・期末試験（80%）に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand the chemical structure of organic compounds and describe the organic reactions.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the required assignments (20%) and the mid-term and term-end examinations (80%).

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

有機化学 I II

杉山 賢次

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合について理解している。
- (2) 有機化合物の化学的性質を理解している。
- (3) 化学反応式を用いて様々な有機化合物の反応を記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学I・II」および「有機化学I」が既習であることを前提とする。

テーマとする有機化合物の物理的性質や特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、化学反応式を用いた記述が重要である。資料を学習支援システムにアップロードするので、予習・復習に役立てること。

確認問題（学習支援システム）を解き、授業内容の理解度を確かめる。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルデヒドとケトン (1)	アルデヒド・ケトンと求核試薬との反応を学ぶ (17章)
2	アルデヒドとケトン (2)	イミン、エナミン、アセタールの生成反応を学ぶ (17章)
3	アルデヒドとケトン (3)	アルデヒド・ケトンの様々な反応を学ぶ (17章)
4	カルボン酸とその誘導体 (1)	カルボン酸およびニトリルの反応を学ぶ (16章)
5	カルボン酸とその誘導体 (2)	酸ハロゲン化物および酸無水物の反応を学ぶ (16章)
6	カルボン酸とその誘導体 (3)	エステルおよびアミドの反応を学ぶ (16章)
7	試験・まとめと解説	授業内試験を行う
8	カルボニル化合物のα炭素の反応 (1)	ケト・エノール互変異性、α炭素の修飾反応を学ぶ (18章)
9	カルボニル化合物のα炭素の反応 (2)	カルボニル縮合反応を学ぶ (18章)
10	カルボニル化合物のα炭素の反応 (3)	エノールを経由した種々の反応を学ぶ (18章)
11	合成高分子	重合反応を学ぶ (27章)
12	ペリ環状反応 (1)	分子軌道法の基礎と電子環状反応を学ぶ (28章)
13	ペリ環状反応 (2)	付加環化反応とシグマトロピー転位を学ぶ (28章)
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各回4時間を標準とする。

(準備学習)教科書の対応ページを読む。授業支援システムに用意されている資料を参照すること。本文中の例題を解くことが望ましい。

(復習)講義ノート、参考資料を見ながら、教科書の重要ポイントにマークを入れる。教科書の章末問題を解くことが望ましい。

(宿題)確認問題（学習支援システム）を解き、期限までに提出する。

【テキスト（教科書）】

Paula Y. Bruice (著)、ブルース有機化学 (第7版) [上] [下]、化学同人

【参考書】

・赤松元浩・河内敦・松本祥治・三野孝 (著)、スパイラル有機化学、筑波出版会

・J. McMurry (著)、マクマリー有機化学 第9版、東京化学同人

・山口泰史 (著)、大学生のための有機反応問題集、三共出版

・畔田博文・鈴木秋弘・高木幸治・川淵浩之 (著)、これでわかる基礎有機化学演習、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題 (20%)、中間・期末試験 (80%) に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand the chemical structure of organic compounds and describe the organic reactions.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the required assignments (20%) and the mid-term and term-end examinations (80%).

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

コンピュータ利用化学

小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学を学び、研究する上で必要なコンピュータ技術を学ぶことを目的とする。
特に、コンピュータシミュレーションにより化学現象を理解する方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・化学におけるコンピュータシミュレーションの重要性・有用性を理解する。
- ・コンピュータシミュレーションの基本的な方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各自のPCを用いて、実習形式により授業を進める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	化学におけるコンピュータ利用の重要性について紹介する。
第2回	量子力学の基礎	量子力学の基礎を復習する。
第3回	分子軌道法の基礎	分子軌道法の基礎を復習する。
第4回	量子化学計算用アプリのインストール	シミュレーションに必要なアプリを各自のPCにインストールする。
第5回	分子のモデリング	様々な分子をコンピュータ上に作成する方法を学ぶ。
第6回	シミュレーション演習	分子のモデリングに関する演習。
第7回	分子の構造最適化	分子の自然な構造をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第8回	シミュレーション演習	分子の構造最適化に関する演習。
第9回	分子振動	分子振動をシミュレーションする方法と結果の可視化について学ぶ。
第10回	シミュレーション演習	分子振動のシミュレーションに関する演習。
第11回	分子軌道のエネルギーと波動関数	分子のエネルギー準位と波動関数をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第12回	シミュレーション演習	分子軌道のエネルギーと波動関数のシミュレーションに関する演習。
第13回	発展的内容	量子化学の発展的内容に関するシミュレーションについて学ぶ。
第14回	総合演習	授業内容に関する総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業後、その日のうちに授業内容を必ず復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

はじめの授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)とレポート課題や宿題(60%)により総合的に評価する。評価する際のポイントは

- ・学んだことをきちんと再現できる
- ・学んだことを応用することができる

である。

【学生の意見等からの気づき】

好評につき、これまで同様教員と一緒に実習形式に進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PC、あるいは同等のスペックを有するPC。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to learn the computer technology necessary for studying and researching chemistry. In particular, students will learn how to understand chemical phenomena through computer simulations. (Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of computer simulations described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports : 60%、in class contribution: 40%.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

電気化学

片山 英樹

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電気化学は、電子移動反応を通じた化学エネルギーと電気エネルギーの相互変換や化学情報と電気信号の相互変換を扱う学問です。電気化学は様々な分野で重要な役割を担っており、酸化還元反応、電気分解、電池、センサーなどのほか、生体系では代謝、光合成、神経伝達などにも応用されている。これらを理解するためには電気化学的な考え方や方法論を身につけることが不可欠である。本講義では、電位が熱力学量（平衡論）、電流が反応速度（速度論）を表すパラメーターとなる電気化学の基礎を身につけることを狙いとする。

【到達目標】

電気化学における平衡論と速度論を十分に理解するとともに、電気化学測定に必要な基礎知識、電気化学の応用分野について理解を深めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面での講義を基本とし、教科書に沿って進めます。内容の理解を深めるため、教科書に掲載されている演習問題を授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	電気化学の概要	講義を始めるに当たり、電気化学が用いられる分野を紹介する。
2回	電気化学系の姿 1	電気分解を例に挙げ、固体と液体の界面での挙動について概説する。
3回	電気化学系の姿 2	電気分解の進み方とそれに伴う固体と液体の界面での挙動の変化について説明する。
4回	物質のエネルギーと平衡 1	化学変化とエネルギーの関係について説明する。
5回	物質のエネルギーと平衡 2	化学平衡とエネルギーの関係について説明する。
6回	標準電極電位 1	電位と電位差の違い、標準電極電位が持つ意味を説明する。
7回	標準電極電位 2	ネルンストの式を導出するとともに、式の持つ意味を説明する。
8回	電解電流 1	電位によって決定される電流について説明する。
9回	電解電流 2	物質輸送によって変化する電流について説明する。
10回	電解液 1	物質や電解液の導電性について説明する。
11回	電解液 2	イオンの移動度と電解液の導電性の関係について説明する。
12回	電気化学測定	電気化学測定に必要な基礎知識について説明する。
13回	腐食電気化学 1	腐食科学における電気化学について概説する。

14回 まとめ・試験

電気化学の基礎知識に対する到達度試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
予習ではテキストを事前に読み、授業内で行う演習問題について復習することで授業内容を確認・理解する。

【テキスト（教科書）】

渡辺 正・金村聖志・益田秀樹・渡辺正義共著「電気化学」（丸善）および配布資料（web添付）

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、レポート課題（10％）、期末試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】

教科書を中心に進めますが、重要な部分やわかりにくい部分はPPT資料での説明も行います。また、詳細な計算などについては必要に応じて板書も併用します。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に演習問題を解くため、計算機が必要です。

【Outline (in English)】

Electrochemistry deals with the interconversion of chemical and electrical energy through electron transfer reactions and the interconversion of chemical information and electrical signals. Electrochemistry, which plays an important role in various fields, is applied to redox reactions, electrolysis, batteries, and sensors, as well as metabolism, photosynthesis, and neurotransmission in biological systems. To understand these applications, it is essential to acquire electrochemical concepts and methodologies. The aim of this lecture is to learn the basics of electrochemistry, in which a potential is a parameter that represents thermodynamic quantities (equilibrium theory) and a current is a parameter that represents reaction rates (kinetics).

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

反応工学

小堀 深

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は化学工業における装置設計やプロセス構築を行う学問である。そこには様々な単位操作が存在するが、なかでも反応装置は化学プロセスの中心に位置する、いわば化学プラントの心臓部に当たる重要な部分である。この反応装置を設計するための工学分野が「反応工学」である。受講生は化学工学の基礎（収支・平衡・速度）を十分理解し、装置設計に対して「数値データ」として明確に表現できなければならない。本講では反応装置を中心に述べるが、見方を変えれば同一手法で大気（地球）環境や生体科学分野等に発展させることが可能である。

【到達目標】

- (1) 反応装置に関する物質収支、熱収支が計算できる
- (2) 装置のスケールアップを理解し、その解析手法が理解できる。
- (3) 場面に則した反応装置の設計が出来る。
- (4) 反応工学手法を用いることで、大気環境、海洋環境あるいは地球環境等、いわゆるグリーンケミストリー分野への展開ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とする。

- (1) 基本的な考え方や基礎方程式の誘導について授業中に行う
- (2) 適宜、簡単な練習問題を解く
- (3) 毎回講義の最後に理解度確認テスト（小テスト）を実施する
- (4) 授業の初めに、前回の小テストの結果からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学工学入門	化学工学の基本概念である収支・平衡・速度の初歩を実例を通して学ぶ。
第2回	流れ、ベルヌーイの定理	身の回りや生体に見られる流れ現象を例として、流れについての基本的な原理や法則を理解する。
第3回	流れ、層流と乱流、摩擦損失	流れの状態を表す無次元数の導入と、摩擦によるエネルギー損失の計算を学ぶ。
第4回	熱の移動	熱移動は、伝導、対流、放射によるが、その物理的プロセスに関する基本を理解する。
第5回	熱交換器	熱の移動で得た知識を応用し、熱交換器の解析を数式を用いて定量的に理解する。
第6回	反応工学とは	反応工学の基礎概念を確認し、応用への基礎を固める。
第7回	反応速度の定義、温度依存性	反応速度の表現法を学び、定常状態と非定常状態、さらに反応速度の温度依存性について理解する。
第8回	反応速度の導出法	積分法や微分法など、反応速度を導出する方法を学ぶ。
第9回	反応器設計の基礎式	様々な反応器を設計する前提としての基礎式の導出と応用を理解する。
第10回	回分反応器の設計	回分反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第11回	連続槽型反応器の設計、管型反応器の設計	連続槽型反応器と管型反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第12回	複雑な反応器の取り扱い	反応器の多段化、リサイクル反応器などを定量的に理解する。
第13回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が逐次的に起こる場合	発汗による体温調整と、化学反応で促進される物質移動について理解する。
第14回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が同時に起こる場合	生体肺における酸素移動の解析を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- 第1回 予習:教科書の「化学工学入門」を通読 復習:テストの見直し
- 第2回 予習:教科書の「流れ」を通読 復習:テストの見直し
- 第3回 予習:教科書の「流れ」を通読 復習:テストの見直し
- 第4回 予習:教科書の「熱の移動」を通読 復習:テストの見直し
- 第5回 予習:教科書の「熱の移動」を通読 復習:テストの見直し
- 第6回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
- 第7回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
- 第8回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
- 第9回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
- 第10回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
- 第11回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
- 第12回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
- 第13回 予習:教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
- 第14回 予習:教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

【テキスト（教科書）】

化学工学、酒井清孝、朝倉書店、2005年、3600円＋税

【参考書】

反応工学、橋本健治、培風館、1993年、2900円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業後理解度確認テスト(100)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓またはそれに類するもの

【Outline (in English)】

【Course outline】

Overall rate of chemical reactions is affected not only by individual reactions but also by mass and heat transfer. This lecture will cover reaction engineering, which are essential for the design of chemical processes and the determination of reaction rates.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to grasp the overall phenomena occurring in reactors, analyze individual processes quantitatively, select reactor type suitable for the target, and make simple design quantitatively.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

A comprehension test will be given at the end of each lecture, and the final grade will be calculated based on the total of these scores.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

量子化学

野口 真理子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量子力学の原理を用いて、水素型原子および多電子原子の電子構造を記述し、それぞれの原子スペクトルを理解する。さらに、二原子分子、多原子分子の電子構造の量子力学的取り扱いについて演習を交えながら学習する。この講義により、学生は、これまでに学んだ量子力学の原理が、化学において原子や分子の構造や反応を理解するために重要な役割を果たしていることを学ぶ。

【到達目標】

量子力学の考え方をを用いて、原子および分子の電子構造を記述できる。関連する演習問題を正しく解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書9章「原子の構造とスペクトル」と10章「分子構造」を取り扱う。対面での開講となる。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

開講方法は、以下の通りである。講義では、黒板での板書またはPowerPointで作成したスライド資料を用いて、量子化学について解説する。授業内容と関連した演習問題を講義内で解く時間を設け、解答してもらい、その場で解説を行う。

必要に応じて、課題や内容についての質問は、授業時間内に随時受け付ける。当日または後日授業内で解説やさらなる質問の機会を設けることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、水素原子スペクトル（教科書9章）	この講義の進め方について説明する。水素の原子スペクトルとスペクトル系列について学ぶ。（教科書9章、9A）
第2回	水素型原子の電子構造	水素型原子のシュレディンガー方程式の解法について学ぶ。（教科書9章、9A・1）
第3回	原子軌道関数とそのエネルギー	水素型原子の波動関数（原子軌道関数）の特徴について学ぶ。（教科書9章、9A・2）
第4回	ヘリウム原子の電子構造	最も単純な多電子原子であるヘリウム原子のシュレディンガー方程式とその近似的解法について学ぶ。（教科書9章、9B・1）
第5回	多電子原子の電子構造	電子のスピン、パウリの原理、フントの規則について学び、多電子原子の電子配置について理解する。（教科書9章、9B・1、9B・2）
第6回	多電子原子の化学的性質の周期性	多電子原子の電子配置と、原子の化学的性質（イオン化エネルギーおよび電子親和力）の周期性の関係を理解する。（教科書9章、9B・2、9B・3）
第7回	原子のスペクトル	水素型原子および多電子原子のスペクトルと、原子の電子配置とエネルギーの関係を理解する。（教科書9章、9C・1、9C・2）
第8回	原子価結合法	原子価結合法の概要を二原子分子と多原子分子を例に理解する。（教科書10章、10A・1、10A・2）
第9回	分子軌道法の原理	電子を一つ含む最も単純な分子である水素分子イオンを例にとり、分子軌道法の原理について理解する。（教科書10章、10B・1、10B・2）
第10回	等核二原子分子の構造	多電子分子の中で最も単純な等核二原子分子を分子軌道法で取り扱い、その電子配置を理解する。（教科書10章、10C・1）

第11回	異核二原子分子の構造	異核二原子分子としてHF分子を例に、極性結合を分子軌道法で記述し、分子軌道エネルギーの近似解を得る方法を理解する。（教科書10章、10D・1、10D・2）
第12回	多原子分子の構造	ヒュッケル近似を用いて、多原子分子の分子軌道のエネルギー準位図を求める手順を学ぶ。さらに、ヒュッケル法を応用すれば、共役ポリエンのいくつかの性質を説明できることを理解する。（教科書10章、10E・1、10E・2）
第13回	9章、10章のまとめ	教科書9章「原子の構造とスペクトル」および教科書10章「分子構造」において重要な問題の解説を行う。教科書9章「原子の構造とスペクトル」および教科書10章「分子構造」において重要な問題の授業内テストを行う。
第14回	授業内テスト	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に教科書を読み、掲載されている問題は可能な限り解いておく。

【テキスト（教科書）】

Peter Atkins・Julio de Paula 著、中野元裕・上田貴洋・奥村光隆・北河康隆 訳、アトキンス物理化学（上）第10版、東京化学同人

【参考書】

D. A. McQuarrie・J. D. Simon 著、千原秀昭・江口太郎・齋藤一弥 訳、マッカーリ・サイモン物理化学 上 分子論的アプローチ、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

講義での学習状況および参加度（30％）、授業内テスト（70％）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布および課題提出のために、学習支援システムを活用する場合がある。そのため、学習支援システムにアクセス可能な情報機器（パソコンまたはスマートフォンなど）を準備する必要がある。

【その他の重要事項】

質問は、学習支援システム上で随時受け付ける。

【Outline (in English)】

You will be able to understand about quantum mechanics for chemistry after you take all these lectures. I will explain about the hydrogen-like atom, multi-electron atoms, and their molecular structures.

MAC300YC（材料化学 / Materials chemistry 300）

錯体化学

田所 誠

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

錯体化学は、分子を取り扱う無機化学の中で最先端の分野であり、有機金属化学・生物無機化学・錯体物性科学に分けられる。本講義では、「錯体がなぜきれいな色をしているのか?」「磁石はなぜくっつくのか?」など、皆さんの基礎的な疑問に基づいて、錯体化学の基礎を知ることができる。そのために、配位立体化学・配位子場理論・分子磁性・錯体分光についての考え方や理解を深めることを目標とする。また、トピックスとして錯体がどのように生体系と関係づけられるのか、応用面ではどのように用いられているのかなど、「生物無機化学」や「錯体物性科学」の最前線も紹介したい。

【到達目標】

錯体化学を学ぶことによって、化学分野ではなじみの薄い金属を含む固体物性科学の基礎や考え方を学ぶことができる。分子レベルの配位子場理論による考え方は、錯体による色の変化の起源、磁石としての相互作用のあり方、触媒反応のメカニズム、生体金属酵素の反応の基礎、場合によっては電子伝導性の基礎なども学ぶことができる。本授業ではこのような物性化学の詳細までの講義は行わないが、その考え方の基礎を錯体を通して学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は出席と講義にて行う。板書の量が多いのでノートを必ず用意しておくこと。また、より高学年における無機化学であることを念頭におき、できるだけ自発的な学習と、授業外での知識の吸収・興味の発展を期待する。授業中にできればトピックスとしてはじめの15分ぐらい最先端な話をしたいが、前回授業の復習問題なども踏まえて基礎的な授業にするつもりである。配布する資料のとおりに進んでいくので、授業を休んで資料がもらえなかったときは、友達に借りてコピーしてもらうこと。また、かならず出席はしておくこと。出席率に応じてテストの時に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	錯体化学とは	・配位化学 ・分析化学と錯体 ・金属イオンの効果
2	Werner型錯体	・配位説 ・配位化合物の異性体（溶媒異性・イオン化異性・配位異性・連結異性）
3	Werner型錯体	・配位化合物の異性体（立体効果・共生理論・Pearsonの法則）
4	Werner型錯体	・連結異性の応用 ・立体異性（平面4角形・6配位8面体・鏡像異性体） ・光学分割
5	原子価結合モデル	・原子価結合法 ・混成と軌道の占有
6	結晶場理論	・結晶場の理論とスピン磁性 ・高スピンと低スピン ・磁化率とスピン軌道相互作用
7	結晶場理論	・配位子場安定化エネルギー（水和エンタルピー・イオン半径） ・分光化学系列 ・各種配位構造と結晶場の分裂
8	結晶場理論	・Jahn-Teller効果 ・配位子のπ結合性 ・分光化学系列の理論
9	配位子場理論	・分子軌道での取り扱い ・配位子場理論でのπ結合
10	錯体の電子スペクトル	・配位子場遷移 ・項という考え方 ・スピン軌道相互作用とスペクトル
11	錯体の電子スペクトル	・微視的状態の分離 ・基底状態のエネルギー項
12	錯体の電子スペクトル	・Hundの規則の定量的な解釈 ・選択律 ・弱い場と強い場（相関図）

13 錯体の電子スペクトル ・分裂エネルギー準位図（Orgel 図）

・田辺-菅野の図

14 錯体の反応

・置換不活性

・トランス効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】通常、テストは自筆ノート持込可にしてあるので、授業中に黒板に書いてあることを、先生の説明をよく聞いて、口頭の内容もメモを進める。復習を重点的に、ノートに書いてあることを中心に勉強し、さらに参考書などで知識を確認して、重要点をメモしておくことが望ましい。テストは必ず説明問題で答えさせるので、解答の文章を予めノートに自分で用意しておくことと時間に余裕ができる。通常、授業では演習問題も含めるため、配位子場理論までで終えることが多い。

【テキスト（教科書）】

主に、「現代無機化学」（裳華房）田所誠著 にて行う。

【参考書】

「基礎無機化学」F.A.コットン・G.ウィルキンソン・P.L.ガウス（培風館）

「無機化学（下）」シュライバー・アトキンス第4版（東京化学同人）

「無機化学（下）」ダグラス・マクダニエル第3版（東京化学同人）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(60%)と平常点(40%)で評価する。授業中に行った小テストからも試験を出すので復習しておくこと。試験に出るポイントを指摘して、説明させる文章問題のみ出題する。必ず、最終回あるいは最終回前の講義には出席すること。テスト問題に関する重要なアドバイスをする。解答は皆さんが同じような解答ばかりだと、暗記しただけと見なし、減点がある。自分のオリジナルな解答を書くこと。図だけであったり、ノートの丸写しは×必ず説明や理由について文章で書くこと。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートでは、錯体化学をこれまで習ってこなかったもので、理解することが難しいという意見が多く聞かれた。そのため、より簡単に要点を絞って、皆さんに錯体とは何かを伝えていきたいと考えている。また、授業中に演習問題を行うことで、教えた知識を完全なものにすることを旨とする。そのため、錯体スペクトルまでは進まないことが多いので、配位子場理論までしっかり勉強させることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

通常、対面型で授業を行うが、オンライン授業の場合には、ipadを黒板代わりに授業を行う。

【その他の重要事項】

平常点だけで単位がもらえると考えてるようであるが、試験問題も解かないと落ちることがある。期末試験の1発勝負なので必ず、試験では解答を日本語文章で書けることが要求される。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces Coordination Chemistry to students taking this course.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand Coordination stereochemistry, Ligand field theory, Molecular magnet and Coordination spectroscopy.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the required assignments after the lecture. Your study time will be more than two hours for the lecture.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following in the class contribution 40%, and term-end examination 60%.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

化学統計力学

藤森 裕基

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質を構成する原子、分子、電子等の量子力学的エネルギー状態を基に、統計学的手法を用いて物質の熱力学的性質、巨視的物性をミクロな立場から説明する学問体系である統計力学の基礎について講義および演習を通じて学習する。

【到達目標】

ボルツマン分布と分配関数について理解する。
分配関数と各種熱力学関数の関係を理解する。
具体的な各種熱力学関数を自ら計算する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面授業で行うが、場合によってはzoom等を用いたオンライン授業やオンデマンド授業で行う場合もある。詳細は学習支援システムで連絡する。

演習や小テスト（またはリアクションペーパー）に関しては、授業時間内または翌週の授業の際に取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・ボルツマン分布 1	統計的ものの見方、配置と重み
2	ボルツマン分布 2	ボルツマン分布の導出
3	分子分配関数 1	分配関数の重要性
4	分子分配関数 2	並進運動・回転運動からの寄与
5	分子分配関数 3	振動・電子状態からの寄与
6	分子のエネルギー 1	エネルギーの基本式
7	分子のエネルギー 2	並進運動・回転運動からの寄与
8	分子のエネルギー 3	振動・電子状態・スピンからの寄与
9	正準アンサンブル 1	アンサンブルの概念
10	正準アンサンブル 2	平均エネルギーの導出
11	内部エネルギー	内部エネルギーの計算と熱容量の導出
12	エントロピー	エントロピーと分配関数
13	熱力学関数	熱力学関数の導出
14	演習・テスト	演習およびテスト等によりこれまでの理解度の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。教科書および参考書を基に準備学習、復習等を行うこと。学習支援システムを通じて、小テスト等を行う場合もある。

【テキスト（教科書）】

<教科書> アトキンス「物理化学（第10版）」下 東京化学同人

【参考書】

マッカーリ化学数学 Donald A. McQuarrie (著), 藤森裕基 (訳), 松澤秀則 (訳), 筑紫格 (訳) (丸善)

【成績評価の方法と基準】

到達度目標をクリアできているかどうかを演習や小テスト及び期末テスト（またはレポート）により確認する。成績は授業内の演習や小テスト（30%）及び期末テスト（またはレポート）（70%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習や小テスト（またはリアクションペーパー）の解答を見ながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

統計力学は、量子力学とともに物質のマクロな性質および分光学の基礎を学ぶうえでも必要不可欠な学問分野である。質問は授業時随時受け付ける。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of statistical mechanics used in chemistry. It also enhances the development of students' skill in simple numerical method.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

物質設計化学

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質設計を考えるうえで必要となる基本的な概念・知識を習得し、さまざまな物質の性質の発現原理についての理解を深める。

【到達目標】

物質の性質についての諸原理について、特に物質を構成する基本粒子間の相互作用に着目して、これまで必修の授業で学んだ内容との関連性を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書などに沿ってスライドおよび板書にて物質の性質に関する背景について解説する。宿題を解き提出する。授業の初めに、前回の授業での議論内容および提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物質設計化学の導入	これまで受講した基礎分野の必修科目との対応づけから物質設計の概念について学ぶ
2	物質の結合	原子間の結合の種類
3	金属結合	自由電子モデル、ドゥルーデモデル
4	金属の性質	電気伝導
5	金属の性質	フェルミ分布・状態密度
6	金属の性質	熱容量
7	金属の性質	熱伝導・熱電変換材料との対応
8	半導体の性質	光吸収・発光と電子デバイスとの対応
9	イオン結合	電気陰性度・イオン結合
10	分子間力	ファンデルワールス力、水素結合
11	多電子原子の電子状態	一般の原子の性質、周期律、可視紫外分光、変分法、摂動法、XPSとの対応
12	分子の電子状態	ボルンオッペンハイマー近似、分子の電子構造、赤外吸収・Raman 分光との対応
13	共有結合	分子・高分子の電子状態と結合
14	物質と磁場	磁性の基礎・核磁気共鳴、電子スピン共鳴の原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】物理化学 I,II, 無機化学概論, 無機化学 I,II, 化学熱力学 I・II, 有機化学 I, II の復習
中間課題への解答と学習支援システムを通じた締め切りまでのレポート提出

【テキスト（教科書）】

高井和之他 著, 「ナノカーボン ― 炭素材料の基礎と応用」近代科学社
永田一清 著 「物性物理学」裳華房 (2009)

【参考書】

Kazuyuki TAKAI et al, "Graphene: Preparations, Properties, Applications, and Prospects", Elsevier (2019)

【成績評価の方法と基準】

中間課題の評価 (66%) を中心に期末試験の採点結果 (34%) にもとづき評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

3 年春学期までの必修の授業内容の復習を中心に物質の性質との対応づけを行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、授業支援システムで資料を配布する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic concept and knowledge required for Material Design, including deep understanding of a principle of emerging various materials properties.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Midterm homework: 66%, Final examination: 34%.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

エネルギー環境化学

打越 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギー資源の供給や地球環境の破壊という課題に焦点を当てつつ、環境化学におけるエネルギー面の問題を広く議論する。また、これらの問題の背景や各種エネルギー資源の長所や短所を知り、現代社会におけるエネルギー・環境問題の重要性の理解を促す。さらに化学の知識に立脚した技術的対応法や社会システム上の検討課題についても学び、今後のエネルギー社会のあるべき姿を考える機会とする。

【到達目標】

地球環境問題やエネルギー資源問題の歴史的背景、自然界が人間圏に課す制約、そしてエネルギー利用に関わる様々な物理化学的技術の現状について理解を深めることにより、地球環境とエネルギー資源の諸問題への対応を、政治・経済の現状を踏まえた幅広い視点から考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義資料を配布しその内容に沿って講義を進める。学生からの疑問、質問は、翌週の授業で取り上げ解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週 /100分	人間活動と環境のかかわり	環境化学とは、人間の活動と環境変動、公害・環境問題の歴史
第 2 週 /100分	地球上の資源	各種エネルギー資源、鉱物資源、生物資源
第 3 週 /100分	資源エネルギー問題	資源・エネルギーと経済・産業の関係、日本の資源事情、世界の電力供給とエネルギー問題、省エネルギー
第 4 週 /100分	地球大気の変異	大気汚染、地球温暖化、異常気象
第 5 週 /100分	水質汚染と土壌汚濁	地球の水事情、河川や湖沼の汚染、海洋汚染、土壌汚染の要因、土壌汚染の対策及び浄化技術
第 6 週 /100分	飲料水と食品と環境	地球における水問題、食料供給の危機、バイオテクノロジーと食料問題、食品汚染
第 7 週 /100分	化学物質による汚染	重金属、農薬、界面活性剤、製品に使用されている化学物質
第 8 週 /100分	放射能汚染	原子力発電の仕組み、放射線が人体に及ぼす影響、原発事故
第 9 週 /100分	プラスチックの利用と環境	世界のプラスチック生産量と廃棄量、海洋プラスチックごみ問題
第 10 週 /100分	ごみ・廃棄物問題とリサイクル	廃棄物の分類と処理、食品ロス、廃棄物の減量・再利用・リサイクル
第 11 週 /100分	汚染物質の毒性と生体内での代謝	重金属の毒性、化学物質の免疫毒性、毒性評価法

第 12 週 内分泌攪乱物質 /100分

内分泌攪乱現象、内分泌攪乱物質問題に関する国内外の取り組み

第 13 週 経済と環境 /100分

経済活動による環境への負荷、法律の整備、環境修復と環境アセスメント、企業の取り組み

第 14 週 水素社会 /100分 全体のまとめ

水素社会の実現に向けた取り組み
地球環境とエネルギー資源問題の解決に寄与する化学の重要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とします。配布する資料を参考に講義の内容をよく復習し、分からなかった点を質問すること。

【テキスト（教科書）】

なし。関連資料を毎回配布(学習支援システムにアップロード)する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

理解度チェックを兼ねた毎週の簡単な課題テスト（30%）と期末試験（70%）の合計点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年もあらゆる質問に真摯に答えます。いい質問を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Energy issues in environmental chemistry will be widely discussed with a focus on issues such as the supply of energy resources and the destruction of the global environment. In addition, we will learn the background of these problems and the advantages and disadvantages of various energy resources, and deepen our understanding of the importance of energy in modern society. It will also be an opportunity to learn chemistry knowledge and technical measures based on issues to be considered in the social system, and to think about the ideal future energy society.

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

触媒化学

藤井 孝太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

触媒は、化学反応を効率的に進めるために不可欠であり、物質生産や環境対策など幅広く利用されている。本講義では、触媒の特徴・機能、反応、調製法についての基礎知識を学ぶ。また、実社会で使われている触媒から環境対策などにも用いられる先進的な触媒の実例を紹介し、具体的な触媒の活用方法や研究・開発の方向性について学ぶ。

【到達目標】

触媒の必要性・成り立ち・捉え方を学び、様々な特性が現れる要因を理解する。触媒反応の基礎を習得する。先進的な触媒化学について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義資料を使い教科書の内容に沿って講義を進める。重要な事柄に関して小テストやレポート課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論・触媒とはなにか	触媒化学分野と学習範囲の紹介、触媒の重要性
2	触媒の歴史と役割	触媒の化学と技術、その発展の歴史
3	固体触媒の表面	固体触媒の形態、表面の構造
4	固体触媒表面の電子状態	バンド構造、表面におけるバンド構造
5	固体触媒反応の素過程：吸着	固体表面での素過程、吸着とその速度論
6	固体触媒反応の素過程：脱離	脱離とその速度論、吸脱着平衡
7	固体触媒反応の速度論	固体触媒反応における反応速度論、定常近似、律速過程
8	触媒反応機構	素反応の組み立て、反応機構決定法
9	触媒反応機構の実例	アンモニア合成、一酸化炭素の水素化反応、炭化水素の反応
10	触媒反応場の構造と物性	触媒機能を支配する要因、活性点
11	触媒の構造とキャラクター化	表面積、細孔構造、工業触媒の構造
12	触媒の調製	触媒調製法
13	触媒反応特性の評価	触媒の活性試験、選択性、寿命、試験装置
14	環境・エネルギーと触媒	自動車触媒、排ガス浄化触媒、光触媒、燃料電池、水素製造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
事前に教科書の講義内容に該当する部分を予習し、講義後に復習することで学習内容の理解を深める。

【テキスト（教科書）】

「触媒化学」(応用化学シリーズ6) 上松, 中村, 内藤, 三浦, 工藤 共著, 朝倉書店 (2004)

【参考書】

「新版 新しい触媒化学」菊地、射水、瀬川、多田、服部 共著、三共出版。

「触媒・光触媒の科学入門」山下、田中、三宅、西山、古南、窪田、玉置 共著、講談社。

「触媒化学」田中ら 共著、講談社。

【成績評価の方法と基準】

課題・レポート・中間試験（40%）、期末試験（60%）を基本とし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Catalysts are essential for efficient chemical reactions and are widely used for material production and environmental protection. In this lecture, students will learn basic knowledge of the characteristics and functions of catalysts, reactions and preparation methods. Examples of practical catalysts and research trends will be introduced, and students will learn how to utilize specific catalysts and the direction of research and development.

MAC200YC (材料化学 / Materials chemistry 200)

環境化学工学概論

森 隆昌

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は工業製品を製造するために必要な基礎知識，理論を学ぶ学問である。本講義では化学工学の基本となる 1. 物性、2. 収支、3. 流動、4. 熱の考え方を理解し、各単位操作の基礎について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

物質収支、エネルギー収支を理解する。

流動の基礎理論を理解する。

伝熱の基礎理論を理解する。

蒸留の基礎理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、物性、収支、流動、熱の基礎理論について講義するとともに、各単位操作の基礎について演習を交えて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	イントロ、化学工学を学ぶための基礎知識	化学工学とは 化学工学に必要な物理量と単位、単位換算
第2回目	物質収支	定常状態（物理プロセス）の物質収支
第3回目	物質収支	定常状態（反応プロセス）の物質収支
第4回目	物質収支	非定常状態の物質収支
第5回目	流体輸送	輸送機器、物質収支
第6回目	流体輸送	エネルギー収支、ベルヌーイの定理
第7回目	流体輸送	ハーゲン・ポアズイユの式
第8回目	これまでの授業のまとめ	習熟度・理解度のチェック、試験
第9回目	熱の移動	伝導伝熱
第10回目	熱の移動	対流伝熱
第11回目	熱の移動	熱交換器
第12回目	物質移動	単蒸留
第13回目	物質移動	連続精留
第14回目	物質移動	蒸留塔の設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】レポート課題を解いて授業時に提出する。

【テキスト（教科書）】

ビギナズ化学工学 林順一・堀河俊英著 化学同人

【参考書】

化学工学のテキスト

移動現象（輸送現象）に関する参考書

伝熱に関する参考書

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（35%）、期末試験（35%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では計算問題を解くため電卓を持参すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Chemical engineering has to do with industrial processes in which raw materials are changed or separated into useful products. In this course students will learn the basic principles of chemical engineering, such as material balance, fluid flow, heat transfer, and mass transfer.

(Learning Objectives) Students are expected to formulate and solve material and energy balances on chemical process systems. Students are also expected to understand the basic theories for transport phenomena, heat conduction and distillation.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria / Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination (35%) and term-end examination (35%) and the required assignments (30%).

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

環境化学工学応用

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学の基礎理論は、輸送現象論、反応工学、化学熱力学に集約される。この講義では、輸送現象論のうち特に、流動と伝熱について取り上げ、基礎理論から実装置の設計・解析の手法までを学ぶ。

【到達目標】

管内の流れを運動量輸送の観点で捉え、流れに層流、遷移流、乱流の区別があること、速度分布があること、を知ることを通じて流れの特性について理解する。また、伝熱に関しては、伝導、対流、輻射の3つのメカニズムの数学的な取り扱いを理解し、最終的には熱交換器など、実装置の設計ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

解析に必要な系は、図としてスクリーンに表示することで、まず全体像を明らかにする。板書による講義が主体となるが、数式の導出過程は極力丁寧に示すことで対応する。内容の理解のために、問題演習が大きなウェイトを占める。

本講義は対面式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学工学と輸送現象論 輸送現象論の中の流動および伝熱	化学工学の基礎理論を概説し、その中で輸送現象論が果たす役割について述べる。
第2回	流動（1）：流れの分類、力と運動量	流動は運動量輸送、伝熱はエネルギー輸送として捉える。そのための基本法則について考える。
第3回	流動（2）：平板上の流れ	平板上の流れについて、速度分布を求め、最終的には体積流量を導出する。
第4回	流動（3）：円管内流動	円管内流動について、速度分布を求め、最終的には体積流量（ハーゲン・ポアズイユの法則）を導出する。
第5回	流動（4）：乱流、ベルヌーイの定理	。乱流を含む、やや複雑な流れ系について考える。ベルヌーイの定理を導出する。
第6回	流動（5）：ベルヌーイの定理（続き）	ベルヌーイの定理を用いる例題を解く。さらに、充填層の圧力計算について言及する。
第7回	流動（6）：運動量輸送方程式	運動量輸送方程式の一般形として、Navier-Stokesの方程式について概説する。
第8回	伝熱（1）：伝熱メカニズム	伝熱の3つのメカニズムについて、基本法則を復習する。
第9回	伝熱（2）：伝導伝熱	電流による発熱を伴う伝導伝熱について、温度分布を考える。
第10回	伝熱（3）：伝導伝熱の例題	伝導伝熱に関する複数の例題を学ぶ。

第11回	伝熱（4）：対流伝熱	対流伝熱のメカニズムおよび熱伝達係数の推算について学ぶ。
第12回	伝熱（5）：熱交換器	熱交換器の設計方程式を導出する。
第13回	伝熱（6）：輻射伝熱	輻射伝熱のメカニズムについて考える。対流と輻射の同時進行形について考える。 エネルギー方程式を用いて例題の別解を考える。
第14回	伝熱（7）：対流と輻射による伝熱	複合伝熱および複合伝熱係数について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
内容の理解には、レポート課題の遂行が必須である。したがって、履修者は全員、全課題について、解答の義務を負うものとする。
課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

藤田重文著：化学工学演習、東京化学同人

【参考書】

Bird, Stewart, Lightfoot: Transport Phenomena 2-nd edition, Wiley

藤田重文著：化学工学I（第2版）、岩波全書（絶版）

相良 紘著：よくわかる 化学工学計算の基礎、日刊工業新聞社（絶版）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 50%

定期(期末)試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、着目している系の数学的取扱いは避けられないが、無味乾燥な数式の導出にならぬよう、現実に近い系で、得られた数式の有用性を確認できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンによる着目系の表示と、板書またはパワーポイントによる。

【その他の重要事項】

演習問題を遂行するために、関数電卓の携帯は必須である。

本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。

【Outline (in English)】

1.Course outline

Basic principles in chemical engineering include transport phenomena, chemical reaction engineering, and chemical thermodynamics. This course teaches the fluid flow dynamics and heat transfer usually categorized in transport phenomena. Students will learn basic theories as well as designing and analyzing procedures of real industrial devices used in chemical plants and factories.

2.Learning Objectives

Students understand the behavior of the fluid from the viewpoint of momentum transport and understand also that there is a velocity distribution in the fluid for the first half period. About the energy transport in the second half, students must learn mathematical treatment of three mechanisms of heat transfer in order to design real chemical plant devices, including heat exchangers.

3.Learning activities outside of classroom

Students must solve all the homework problems outside the class and hand in their papers before the due.

4. Grading Criteria / Policy

A grading policy is the followings, i.e.,

Final exam 50% + Homework 50%

MAC300YC (材料化学 / Materials chemistry 300)

無機素材反応化学

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機素材を取り扱う技術者・研究者として必要な状態図と熱力学の基礎を学び、演習により理解を深める。

【到達目標】

状態図を駆使して無機素材のプロセッシングや評価を行える能力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

擬一元系状態図から擬三元系状態図までの演習を段階的にを行い、状態図に関する理解を深める。解説の後に演習を行い、学生の解答状況に合わせて適宜解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	相律	相の数え方、示強変数と示量変数の違い、Gibbsの相律、Gibbsの相律の使い方を、演習を通して学ぶ。
第2回	擬一元系状態図(1)：作図	ファンデルワールスの状態方程式を用いて、CO ₂ の $p(\text{圧力})$ - $V(\text{体積})$ 図を作成し、擬一元系状態図の読み方を、演習を通して学ぶ。
第3回	擬一元系状態図(2)：図の理解	CO ₂ の $p(\text{圧力})$ - $V(\text{体積})$ 図とCO ₂ の $T(\text{温度})$ - $p(\text{圧力})$ 図の関係を、演習問題を解くことで理解を深める。
第4回	二元系状態図(1)：正則溶液	二元系の正則溶液の混合ギブズエネルギー曲線を作図し、モル分率と温度の状態図を作製する。
第5回	二元系状態図(2)：酸化還元	金属の酸化反応のギブズエネルギー変化の計算し、自発的な反応が進む方向を決定する。
第6回	二元系状態図(3)：エリンガム図	金属と酸化物共存状態における平衡酸素分圧を計算するとともに、エリンガム図の使い方を演習する。
第7回	中間試験（前半のまとめ）	前半の演習の理解度をチェックする。
第8回	二元系状態図(4)：てこの原理	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した際の状態変化を理解する。また、状態図のてこの原理も理解する。
第9回	二元系状態図(5)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した際の状態変化を理解する。
第10回	二元系状態図(6)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した際の状態変化に関する理解を深める。

第11回	擬三元系状態図：昇温および冷却過程における状態の変化	三角図の読み方を演習を通して学び、酸化物の擬三元系状態図の液相面を解説する。
第12回	熱力学計算の実際(1)：レアメタルの分離・回収	蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、気相を介したレアメタルの分離・回収を理解する。
第13回	熱力学計算の実際(2)：酸素濃淡電池 熱力学計算の実際(3)：固体微粒子の熱力学的安定性	水素-水蒸気混合雰囲気における平衡酸素分圧を計算し、酸素濃淡電池の起電力を計算する。 固体微粒子の界面エネルギーを計算し、熱力学的安定性を考察する。
第14回	熱力学計算の実際(4)：非酸化物材料の高温酸化	非酸化物/酸化物界面における蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、高温酸化挙動を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回の授業中に課題する演習問題による評価が大部分を占める。したがって、前回までの講義内容を復習して理解を深めておくこと、講義の進捗状況に合わせて次回に課題される範囲を予習しておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

・アトキンス 物理化学（上）第10版：中野元裕、上田貴洋、奥村光隆、北河康隆 訳、東京化学同人
・見方・考え方 合金状態図：三浦憲司・小野寺秀博・福富 洋志 著、オーム社
・プログラム学習 相平衡状態図の見方・使い方：山口明良 著、講談社サイエンティフィク

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中に課題する演習問題(10%)、中間試験(40%)、期末試験(50%)、授業への取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、対面授業と演習を基本的に毎回実施する。
演習課題の解答例は、次々回の授業後にHoppiiにアップロードすることとする。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓。テスト以外ではノートパソコンを持ち込んでも良い。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、材料開発のために必要となる状態図の読み方や熱力学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this class is to learn thermodynamics and phase diagrams for engineer and researcher to fabricate and handle inorganic materials. For deep understanding, many exercises will be used.
(Learning Objectives) Students are expected to understand thermodynamics and phase diagrams,
(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (10%), mid-term examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

MAT200XG (数学 / Mathematics 200)

フーリエ変換

西村 滋人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フーリエ解析とは、周期関数を三角関数を用いて表現する理論で、波動現象全般を解析する基本的な手法として多方面で活用される。この授業では、フーリエ級数、フーリエ変換、およびラプラス変換の基礎とその基本的な応用例を学ぶ。

【到達目標】

1. 周期関数をフーリエ級数に展開することができるようになる。
2. フーリエ変換の仕組みと工学的な意味を理解する。
3. ラプラス変換を計算して微分方程式を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

板書による講義。演習も適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	周期関数	三角関数の周期についての復習
2	フーリエ級数	三角関数の直交性および周期関数の三角関数による表示
3	フーリエ級数の計算例	フーリエ係数の計算についての例題の解説
4	正弦展開と余弦展開	奇関数ないし偶関数のフーリエ展開
5	Gibbs 現象	不連続点付近でのフーリエ級数の挙動についての注意
6	フーリエ級数の収束	Dirichlet 積分核、パーセバルの等式など
7	演習 1	講義前半のまとめ
8	複素フーリエ級数	周期関数の複素指数関数による冪級数表示
9	フーリエ変換	周期的でない関数の取り扱い
10	フーリエ変換の性質	フーリエ変換の様々な公式の紹介
11	ラプラス変換	定義および初等関数のラプラス変換の計算
12	逆ラプラス変換	原関数の復元と微分方程式への応用
13	演習 2	講義後半のまとめ
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
フーリエ級数や

フーリエ変換は関数を積分変換して自然現象を解析する手法で、微分積分学で学んだ事項が活用されます。必要に応じて各自復習すると同時に、定義や用語はきちんと確認して問題の要求を正しく把握し、関連のありそうな事項はまめに見直して、試行錯誤を厭わず問題解決の道筋を探る姿勢を身につけてください。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

大石進一「フーリエ解析」（理工系の数学入門コース新装版）（岩波書店）

国分雅敏「ラプラス変換」（数学のかんどころ 13）（共立出版）

【成績評価の方法と基準】

学力試験 80 % レポート課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces Fourier series and Fourier transforms.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) to calculate Fourier series expansion of periodic functions,
- (2) to apply methods of Fourier transform in engineering, and
- (3) to solve ordinary differential equations by using Laplace transform.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Term-end examination:80%, Short reports:20%.

MAT200XG (数学 / Mathematics 200)

空間の幾何

福島 荘之介

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は数学教職科目「幾何」を念頭におく測地天文系の専門科目である。授業では立体の数学と測地を中心に、衛星測位や特殊相対論で使用する幾何数学を学ぶ。

【到達目標】

本授業が、空間の幾何学を通して現代科学で駆使される科学観測や物理学の理解への橋渡しとなることを目指す。修了後に速やかに様々な科学観測や衛星測位、特殊相対論などを学べるようになっていることを目指す。そのため、主に衛星測位の原理を理解すること、特殊相対論などを学ぶための幾何の基礎知識の獲得を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義では宇宙や地球観測の事例を幅広く紹介し、様々な分野において共通に使われる幾何の知識を有用な道具として学べるようにする。具体的には現代において地球や宇宙がどのように観測されているかを、測地と空間幾何の観点から学ぶ。

可能な限り基礎的な幾何の練習問題を用意し、これを確実に身に付けていくことで学習を進める。

毎回授業アンケートや感想を出席の確認に提出してもらっており、授業の進め方の希望や特に興味のある話題などを書いてもらい、授業に取り入れるようにしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地球・宇宙の数学的記述	地球や宇宙の観測において必要となる数学について概観する
第2回	三角関数とベクトル	測地で用いる三角関数とベクトルについての復習
第3回	三角測量と基準	三角測量における基準について学ぶ
第4回	三角形と多角形	測地における三角形や多角形の使い方を学ぶ
第5回	球面幾何と緯度経度	球面幾何による緯度経度の表し方を学ぶ
第6回	地球座標系と地球楕円体	地球上のある地点を表す様々な方法を学ぶ
第7回	幾何変換	様々な幾何変換とその方法を学ぶ
第8回	地図の投影	地図の投影方法について学ぶ
第9回	球面幾何と天球座標	天球座標の表し方について学ぶ
第10回	天体の位置決定と天文航法	宇宙空間での天体の位置決定の方法と天文航法について学ぶ
第11回	天体の距離決定	宇宙空間で天体の距離をどのように測定しているかについて学ぶ
第12回	衛星測位とGPS	衛星測位の考え方とGPSの原理について学ぶ
第13回	衛星測位とGPS	衛星測位の考え方とGPSの原理について学ぶ
第14回	まとめ	各回の課題から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】課題として幾何数学の前提となる基礎知識を確認してもらうことがある。準備としてこれまでに高校や一般教養科目で学んできた数学を、目的をもって復習することで、授業内容の理解が深まるように進めたい。

【テキスト（教科書）】

日本測地学会のテキストを参考にする。

<http://www.geod.jp/web-text/index.html#gsc.tab=0>

【参考書】

必要に応じて講義で示す。

【成績評価の方法と基準】

課題として出す練習問題を確実に解けるようになること。

まとめではこれから出題する。

評価基準は課題が40%期末試験が60%とし、期末試験の合格点は60点以上とする。

課題の提出、発表状況に応じて成績をプラスαする。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題を可能な限り提供したい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと筆記用具は必須。パソコンを使う回もある。

【その他の重要事項】

数学的な厳密さより、数学の実践的な使用方法を学ぶ。講義は時間に限りがあり、すべての重要事項を盛り込むことは難しい。授業内容は変更になることもある。

【Outline (in English)】

In this class, we learn space geometry by understanding the practical geodesy and elements of global navigation satellite system (GNSS).

This class aims to be a bridge to the understanding of scientific observation and physics used in modern science.

In the lecture, we will introduce a wide range of cases of space and earth observation so that we can learn the knowledge of geometry commonly used in various fields as a useful tool. Specifically, we will learn how the earth and the universe are observed in modern times from the viewpoint of geodesy and spatial geometry.

Being able to solve the exercises that are given as assignments, and questions will be asked from these in final exam.

The evaluation criteria are 40% for assignments and 60% for final exams, and the passing score for final exams is 60 points or higher.

MAT200XG (数学 / Mathematics 200)

対称性と構造

長谷 正司

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2016年度のノーベル物理学賞の受賞者の1人であるホールデンは、1次元格子の格子点に、電子（のスピン）を奇数個づつ置く場合と偶数個づつ置く場合で、性質が大きく異なることを示した（ホールデン予想）。多くの人が疑念を抱いたが、その後の研究の進展により、その予想が正しいことが証明された。実は、対称性を考慮すると、その予想が妥当であることが容易に理解できることも分かった。対称性は色々な分野で重要な概念である。対称性を理解するためには、群論という数学を理解することが重要である。本授業では、できるだけ例を挙げながら、群論に関して学ぶ。

【到達目標】

本授業を履修し理解することで、学生は、群の定義に始まり、どのような群が存在し、どのような性質を持つかを理解することができる。対称性の概念は、多くの人が特に意識せずに使っている。例えば、正三角形は重心まわりに120度回転させると元の正三角形と重なるなどである。群論を理解すれば、対称性を体系立てて理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心とする。原則的には対面授業である。課題等については翌週の授業の中で講評する。講義期間中に節目での小テストも行う。授業計画の変更等があれば、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	対称性が重要な役割を果たす物理について紹介する。また、正四面体などを例に挙げて、どのような対称性があるかを示して、対称性という概念に慣れてもらう。
2	群の公理、数の集合	群の公理を学ぶ。また、実数全体の集合などを使って、群の公理の理解を深める。
3	2面体群	2面体群について学ぶ。また、2面体群を用いて、可換ではない対称性の群について学ぶ。
4	部分群と生成元	ある群では、その部分集合も群（部分群）になることがある。部分群について学ぶ。また、部分群に関する幾つかの定理を学ぶ。
5	置換	置換の集合も群となることを学ぶ。また、偶置換と奇置換の概念について学ぶ。
6	同型写像	見た目では異なる2つの群も、群の性質としては同じであることがある（同型）。同型と同型写像について学ぶ。また、同型写像に関する幾つかの定理を学ぶ。
7	中間まとめ	今までに学んだことをまとめる。

8	プラトンの立体とケイリーの定理	5つの凸な正多面体（プラトンの立体）の回転対称性のなす群がどの群と同型かを学ぶ。また、関連する定理を学ぶ。
9	行列群	行列の集合も群になり得ること、どのような行列群が存在するかを学ぶ。
10	群の直積	群の直積の概念と関連する定理を学ぶ。
11	ラグランジュの定理	ラグランジュの定理と関連する定理を学ぶ。
12	分割	分割の概念と関連する定理を学ぶ。
13	コーシーの定理	小さな位数（8まで）の群は、どのような群と同型になるかを学ぶ。
14	まとめ	授業内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義内容の理解を深めるため、授業ノートと配布資料を勉強することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

対称性からの群論入門、M.A. アームストロング(著)、佐藤信哉(訳)、丸善出版。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験得点75%、講義期間中の小テストを含む平常点25%。

【学生の意見等からの気づき】

例を多用しながら、分かり易い授業になるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【Outline (in English)】

The concept of symmetry is important in various fields. It is important to study group theory in order to understand symmetry. In the lectures, I will explain group theory using various examples. The goals of this course are to understand group theory and symmetry. Students will be expected to study a lecture notebook and documents distributed in lectures. Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (75%) and mid-term examination (25%).

COT111KA-CS-100 (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報科学入門

日高 宗一郎

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるよう、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎(1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎(2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	アルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムをプログラミングする。
5	計算とは(1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは(2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムをチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。

10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。
12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の振り返り	第12回の講義で行った演習課題を振り返る。発表会を行う可能性もある。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター(著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英(訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
川合慧(編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
山口和紀(編), 情報 第2版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
山口泰(編), 情報 第3版, 東京大学出版会, 2025. ISBN 978-4-13-062468-8
和達三樹, 物理のための数学(物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
デヴィッド・バージェス モラグ・ポリー(著), 垣田 高夫(翻訳), 大町比佐栄(翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733
阿部 彩芽(著), 笠井 琢美(著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3
猪股 俊光(著), 山田 敬三(著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710
John MacCormick(著), 松崎 公紀(監修), 長尾高弘(翻訳), 計算できるもの、計算できないもの, オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

高度な内容については適宜補足を加える。
学習支援システム上の課題受付締切設定についての説明を詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【その他の重要事項】

本講義の内容は、担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのプログラミング言語設計に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.
- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-100 (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報科学入門

坂本 寛

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるよう、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎(1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎(2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	アルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムをプログラミングする。
5	計算とは(1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは(2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムをチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。

10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。
12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の振り返り	第12回の講義で行った演習課題を振り返る。発表会を行う可能性もある。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター(著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英(訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
川合慧(編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
山口和紀(編), 情報 第2版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
山口泰(編), 情報 第3版, 東京大学出版会, 2025. ISBN 978-4-13-062468-8
和達三樹, 物理のための数学(物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー(著), 垣田 高夫(翻訳), 大町比佐栄(翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733
阿部 彩芽(著), 笠井 琢美(著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3
猪股 俊光(著), 山田 敬三(著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710
John MacCormick(著), 松崎 公紀(監修), 長尾高弘(翻訳), 計算できるもの、計算できないもの、オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

高度な内容については適宜補足を加える。
学習支援システム上の課題受付締切設定についての説明を詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.

- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-102 (計算基盤 / Computing technologies 100)

コンピュータシステム入門1

高村 誠之

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、情報科学を学ぶうえで不可欠となるコンピュータリテラシーの基礎を修得するとともに、データ駆動型社会（Society 5.0）を支える情報技術の基本的な考え方を理解することを目的とする。コンピュータを単なる操作対象としてではなく、「多様なデータを表現・処理・活用するための基盤」として捉え、その仕組みと役割を学ぶ。

これらを通じて、後続の専門科目を学ぶための基礎的知識と実践的スキルを養い、情報科学的な視点からデータを理解・活用できる基礎力の育成を目指す。

【到達目標】

- ・データ駆動型社会におけるコンピュータの役割を理解し、情報技術の基本的な考え方を説明できる。
- ・ファイル管理や基本操作など、大学での学修に必要なコンピュータリテラシーを身につける。
- ・LaTeX等を用いた文書作成およびオフィスツールの基本的な利用方法を理解し、適切に活用できる。
- ・HTMLおよびCSSの基礎を理解し、基本的なウェブページ構造を作成できる。
- ・Unixコマンドおよびシェル操作の基礎を理解し、簡単なデータ操作を行うことができる。
- ・数値・文章・画像・音声・動画など、多様なデータがコンピュータ上でどのように表現・処理されるかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは学習支援ツールおよびその他教員が指定するツールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データ駆動型社会と Society 5.0	データ駆動型社会とは何か、Society 5.0 の背景（IoT・AI・クラウド）、なぜ情報科学を学ぶのか、コンピュータ＝「データ処理装置」という視点を身につける。
2	PC 操作 1	効率的な入力作業のために、ファイル操作とタッチタイピングの基本スキルを習得する。
3	PC 操作 2	ファイル・フォルダ・データ管理の習得、データとは何か、拡張子やデータ形式等を習得する。
4	文書データと LaTeX (1)	学術文書作成に必要な LaTeX の実践的機能を扱う。文書もデータであること、構造化文書とは何か、LaTeX 基本構造等を習得する。

5	文書データと LaTeX (2)	数式・図表・参考文献、レポート作成、PDF 生成の仕組みを習得する。
6	Office ツール	PowerPoint、Word、Excel を通して、図表やプレゼン、文書作成、数値データ操作など、Office ツールの使い方の基礎について学ぶ。
7	Web とテキストデータ (HTML & CSS)	HTML の基本タグと文書構造を理解し、簡単なウェブページを作成する。CSS によるレイアウト・装飾の基礎を学び、見やすいウェブページへと発展させる。
8	Unix コマンド 1	ls や ln などの基本コマンドを通じて、Unix 環境でのファイル操作の基礎を学ぶ。CLI とは何か、GUI との違い、ファイル操作とパス概念を理解する。
9	Unix コマンド 2	パイプやリダイレクトを用いたコマンド連携により、効率的な処理手法を身につける。grep や sort を用いたテキスト処理、プロセス制御、シェルスクリプトによる処理自動化の基本を学ぶ。
10	コンピュータで扱うデータ 1 数値データ	計算機がどのように数値を扱うかを、ビットと数値表現、整数・浮動小数点表現、誤差の発生理由を理解する。
11	コンピュータで扱うデータ 2 文章データ	計算機がどのように文字を扱うかを、ASCII / Unicode、文字コード問題、検索・自然言語処理の基礎を通して学ぶ。
12	コンピュータで扱うデータ 3 画像・音声	計算機がどのように画像・音声を扱うかを、画像の行列データとしての理解、RGB 色表現、画素と解像度、音声のサンプリング、ビット深度、圧縮の概念 (JPEG/MP3) を通して学ぶ。
13	コンピュータで扱うデータ 4 動画	計算機がどのように動画・マルチメディアを扱うかを、動画＝時間方向データとしての理解、フレーム・符号化の概念、ストリーミング、AI 生成メディアなどを例に学ぶ。
14	ビッグデータ活用事例	実世界でビッグデータがどのように使われているか、医療・交通・SNS やデータ倫理・プライバシーの課題、AI 社会の課題、情報科学の将来像について考察する。また本講義全体を振り返り、学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題 40 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与Note PCを使用する。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での映像情報処理に関する研究開発に関する知見を元に、実務に必要な情報科学技術に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

This course aims to develop fundamental computer literacy essential for studying information science, while fostering an understanding of the basic principles of information technologies that support a data-driven society (Society 5.0). Students will learn to view computers not merely as tools for operation, but as platforms for representing, processing, and utilizing diverse types of data, and will study their underlying mechanisms and roles.

Through this course, students will acquire foundational knowledge and practical skills necessary for subsequent specialized subjects, and develop the ability to understand and utilize data from an information-science perspective.

COT111KA-CS-102 (計算基盤 / Computing technologies 100)

コンピュータシステム入門1

坂本 寛

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、情報科学を学ぶうえで不可欠となるコンピュータリテラシーの基礎を修得するとともに、データ駆動型社会（Society 5.0）を支える情報技術の基本的な考え方を理解することを目的とする。コンピュータを単なる操作対象としてではなく、「多様なデータを表現・処理・活用するための基盤」として捉え、その仕組みと役割を学ぶ。

これらを通じて、後続の専門科目を学ぶための基礎的知識と実践的スキルを養い、情報科学的な視点からデータを理解・活用できる基礎力の育成を目指す。

【到達目標】

- ・データ駆動型社会におけるコンピュータの役割を理解し、情報技術の基本的な考え方を説明できる。
- ・ファイル管理や基本操作など、大学での学修に必要なコンピュータリテラシーを身につける。
- ・LaTeX等を用いた文書作成およびオフィスツールの基本的な利用方法を理解し、適切に活用できる。
- ・HTMLおよびCSSの基礎を理解し、基本的なウェブページ構造を作成できる。
- ・Unixコマンドおよびシェル操作の基礎を理解し、簡単なデータ操作を行うことができる。
- ・数値・文章・画像・音声・動画など、多様なデータがコンピュータ上でどのように表現・処理されるかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは学習支援ツールおよびその他教員が指定するツールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データ駆動型社会と Society 5.0	データ駆動型社会とは何か、Society 5.0 の背景（IoT・AI・クラウド）、なぜ情報科学を学ぶのか、コンピュータ＝「データ処理装置」という視点を身につける。
2	PC 操作 1	効率的な入力作業のために、ファイル操作とタッチタイピングの基本スキルを習得する。
3	PC 操作 2	ファイル・フォルダ・データ管理の習得、データとは何か、拡張子やデータ形式等を習得する。
4	文書データと LaTeX (1)	学術文書作成に必要な LaTeX の実践的機能を扱う。文書もデータであること、構造化文書とは何か、LaTeX 基本構造等を習得する。

5	文書データと LaTeX (2)	数式・図表・参考文献、レポート作成、PDF 生成の仕組みを習得する。
6	Office ツール	PowerPoint、Word、Excel を通して、図表やプレゼン、文書作成、数値データ操作など、Office ツールの使い方の基礎について学ぶ。
7	Web とテキストデータ (HTML & CSS)	HTML の基本タグと文書構造を理解し、簡単なウェブページを作成する。CSS によるレイアウト・装飾の基礎を学び、見やすいウェブページへと発展させる。
8	Unix コマンド 1	ls や ln などの基本コマンドを通じて、Unix 環境でのファイル操作の基礎を学ぶ。CLI とは何か、GUI との違い、ファイル操作とパス概念を理解する。
9	Unix コマンド 2	パイプやリダイレクトを用いたコマンド連携により、効率的な処理手法を身につける。grep や sort を用いたテキスト処理、プロセス制御、シェルスクリプトによる処理自動化の基本を学ぶ。
10	コンピュータで扱うデータ 1 数値データ	計算機がどのように数値を扱うかを、ビットと数値表現、整数・浮動小数点表現、誤差の発生理由を理解する。
11	コンピュータで扱うデータ 2 文章データ	計算機がどのように文字を扱うかを、ASCII / Unicode、文字コード問題、検索・自然言語処理の基礎を通して学ぶ。
12	コンピュータで扱うデータ 3 画像・音声	計算機がどのように画像・音声を扱うかを、画像の行列データとしての理解、RGB 色表現、画素と解像度、音声のサンプリング、ビット深度、圧縮の概念（JPEG/MP3）を通して学ぶ。
13	コンピュータで扱うデータ 4 動画	計算機がどのように動画・マルチメディアを扱うかを、動画＝時間方向データとしての理解、フレーム・符号化の概念、ストリーミング、AI 生成メディアなどを例に学ぶ。
14	ビッグデータ活用事例	実世界でビッグデータがどのように使われているか、医療・交通・SNS やデータ倫理・プライバシーの課題、AI 社会の課題、情報科学の将来像について考察する。また本講義全体を振り返り、学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題 40 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与Note PCを使用する。

【Outline (in English)】

This course aims to develop fundamental computer literacy essential for studying information science, while fostering an understanding of the basic principles of information technologies that support a data-driven society (Society 5.0). Students will learn to view computers not merely as tools for operation, but as platforms for representing, processing, and utilizing diverse types of data, and will study their underlying mechanisms and roles.

Through this course, students will acquire foundational knowledge and practical skills necessary for subsequent specialized subjects, and develop the ability to understand and utilize data from an information-science perspective.

COT111KA-CS-200 (計算基盤 / Computing technologies 100)

コンピュータシステム入門2

小池 崇文

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OSやインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

まず、実際のOSの例を見ながら、OSの役割の概要を理解する。また、多くのOSが備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OSとは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OSの仮想化・抽象化	OSの主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OSによる機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS演習	OSの使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング・ユビキタスコンピューティング・IoT	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	人工知能	人工知能(AI)の概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

入門マルチメディア [第二版], CG-ARTS 協会, 2023. ISBN978-4-903474-67-0

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

PRI110KA-CS-103 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

離散構造 1

佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学び活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、ベイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中に認定試験を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合の基礎(1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎(2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係(1)	組、順序対、直積、 n 項関係、2項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係(2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ(1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの3角形、2項定理
9	数え上げ(2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認

11	離散型確率(1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度
12	離散型確率(2)	条件付き確率、ベイズの定理、独立性、条件付き独立性
13	離散型確率(3)	離散型確率分布、期待値、分散
14	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監 (訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 2022. ISBN 978-4-274-22820-9

【成績評価の方法と基準】

レポート課題20%, 試験(中間, 期末)60%, 平常点20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce mathematical foundations need to study and utilize computer and information sciences.

Learning Objectives: Students will learn sets, counting, and discrete probability

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report: 20%, Final exam: 60%, Contribution to the class: 20%

PRI110KA-CS-103 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

離散構造 1

小池 崇文

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学び活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、ベイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中に認定試験を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合の基礎(1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎(2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係(1)	組、順序対、直積、 n 項関係、2項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係(2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ(1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの3角形、2項定理
9	数え上げ(2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認

11	離散型確率(1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度
12	離散型確率(2)	条件付き確率、ベイズの定理、独立性、条件付き独立性
13	離散型確率(3)	離散型確率分布、期待値、分散
14	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監 (訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 2022. ISBN 978-4-274-22820-9

【成績評価の方法と基準】

レポート課題20%, 試験(中間, 期末)60%, 平常点20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を基に実務に必要なコンピュータシステムに関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce mathematical foundations need to study and utilize computer and information sciences.

Learning Objectives: Students will learn sets, counting, and discrete probability

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report: 20%, Final exam: 60%, Contribution to the class: 20%

PRI110KA-CS-104 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

離散構造2

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

離散構造1の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出現する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	命題論理(1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第2回	命題論理(2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第3回	命題論理(3)	含意、必要条件、十分条件
第4回	述語論理(1)	述語論理の構文論
第5回	述語論理(2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第6回	証明法(1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第7回	証明法(2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第8回	グラフ(1)	グラフの基礎概念
第9回	グラフ(2)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第10回	グラフ(3)	平面的グラフ
第11回	グラフ(4)	木グラフ
第12回	グラフ(5)	有向グラフ
第13回	グラフ(6)	有限状態機械
第14回	総括	論理学、グラフのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出題する演習課題に取り組むこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が配布するオンライン資料

【参考書】

S. Lipschutz, M. Lipson 著, 渡邊均訳：マグロウヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－(改訂2版)」, オーム社, 2022年。

C. L. Liu 著, 成嶋弘／秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」, オーム社

【成績評価の方法と基準】

中間試験および定期試験による(100%)。ただし、平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline (in English)】

- In this course, students will learn basic concepts of graph theory and logic.
- At the end of the course, you are expected to understand basic concepts of graph theory and logic, and get accustomed to handle symbols, expressions and diagrams that are essential in those concepts.
- Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (100%).

PRI110KA-CS-104 (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

離散構造2

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

離散構造1の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出現する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	命題論理(1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第2回	命題論理(2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第3回	命題論理(3)	含意、必要条件、十分条件
第4回	述語論理(1)	述語論理の構文論
第5回	述語論理(2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第6回	証明法(1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第7回	証明法(2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第8回	グラフ(1)	グラフの基礎概念
第9回	グラフ(2)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第10回	グラフ(3)	平面的グラフ
第11回	グラフ(4)	木グラフ
第12回	グラフ(5)	有向グラフ
第13回	グラフ(6)	有限状態機械
第14回	総括	論理学、グラフのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出題する演習課題に取り組むこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が配布するオンライン資料

【参考書】

S. Lipschutz, M. Lipson 著, 渡邊均訳：マグロウヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－(改訂2版)」, オーム社, 2022年。

C. L. Liu 著, 成嶋弘／秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」, オーム社

【成績評価の方法と基準】

中間試験および定期試験による(100%)。ただし、平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline (in English)】

- In this course, students will learn basic concepts of graph theory and logic.
- At the end of the course, you are expected to understand basic concepts of graph theory and logic, and get accustomed to handle symbols, expressions and diagrams that are essential in those concepts.
- Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
- Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (100%).

COT111KA-CS-111 (計算基盤 / Computing technologies 100)

論理回路入門

李 亜民

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要な論理ゲートやブール代数、ド・モルガンの法則、カルノー図、フリップフロップ、有限状態機械（状態遷移図）などを用いた論理回路の設計方法を学びます。

【到達目標】

すべてのデジタルデバイス装置の基礎となる論理回路について学びます。また、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要なブール代数を理解します。さらに三つの論理ゲート（AND、OR、NOT）のみを用いて、全加算器、マルチプレクサ、デコーダ、エンコーダ、N進カウンタや交通信号機制御システムなど様々なデジタル回路を設計します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

全14回の内容は以下の通り：論理回路基礎5回、組み合わせ回路4回、順序回路4回、論理回路の総括1回。AND ゲートや OR ゲート、NOT ゲート、ブール代数、全加算器、マルチプレクサ、デコーダ、エンコーダなどの簡単なデジタル回路設計から始まり、N進カウンタや交通信号機制御システムなどの複雑な回路設計も行います。また、論理回路の設計と動作検証の方法についても学びます。講義の冒頭で、前回の宿題の答えを説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	論理回路基礎1：論理回路、論理演算と論理ゲート	0と1の表現、論理演算とAND、OR、NOTゲート、真理値表、論理式と論理回路
2	論理回路基礎2：論理ゲートのCMOSトランジスタ構成	NOT、NAND、NORのCMOS型構成、およびNANDのトランジスタ型とNMOS型構成
3	論理回路基礎3：ブール代数、完全系、NANDのみ回路	ブール代数の定理とド・モルガンの法則、完全系、NANDゲートのみで構成した回路
4	論理回路基礎4：論理式の積和標準形と和積標準形	最小項と最大項、論理式の積和形と和積形、積和形と和積形の変換
5	論理回路基礎5：カルノー図と論理式の簡易化	カルノー図、グレイコード、2進数、半加算器と全加算器の回路
6	組み合わせ回路1：マルチビット加算回路、CLA加算器	リプルキャリリアダーとキャリールックアヘッドアダーの回路
7	組み合わせ回路2：加算器を利用した減算器と加減算回路	負の整数、2の補数で表現する方法、加算器を利用した減算と加減算回路
8	組み合わせ回路3：マルチプレクサ、バレル・シフタ、7セグメントLED点灯回路、ALUの回路	マルチプレクサ、バレル・シフタ、7セグメントLED点灯回路、ALUの回路
9	組み合わせ回路4：デコーダとエンコーダ	イネーブル付きデコーダとデマルチプレクサ、プライオリティエンコーダの回路

10	順序回路1：ラッチとフリップフロップ（FF）	記憶できるRSラッチ、Dラッチ、DFF、JKFF、TFFとレジスタ・ファイルの回路
11	順序回路2：Mealy型とMoore型順序回路	順序回路の構成、有限状態機械、状態遷移図、順序回路の例
12	順序回路3：交通信号機制御システムの回路	順序回路の設計と交通信号機制御システムの回路
13	順序回路4：N進カウンタと7セグメントLED	N進カウンタ、DFF、JKFF、TFFを用いた計数器と7セグメントLED点灯回路
14	論理回路の総括：まとめ	論理回路（組み合わせ回路と順序回路）のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各週につき4時間。講義資料を事前に目を通します。また、レポート（宿題）を完成します。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載。

<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/lectures/logic/>

【参考書】

デジタル回路設計とコンピュータアーキテクチャ 第2版 単行本（ソフトカバー 672ページ）出版社：翔泳社（2017/9/11）

Sarah L. Harris (著), David Money Harris (著), 天野 英晴 (翻訳), 中條 拓伯 (翻訳), 鈴木 真 (翻訳), 永松 礼夫 (翻訳)

ISBN-10: 4798147524

ISBN-13: 978-4798147529

【成績評価の方法と基準】

課題レポート成績＊60％＋期末試験成績＊40％（期末試験：参照不可）。

【学生の意見等からの気づき】

サンプルレポートを用意します。
乗算器とウォレスツリー乗算器を削除します。
順序回路を一回追加します。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCをクラスに持ち込みます。

【Outline (in English)】

1. Course outline:

We will teach the fundamentals of logic operations, Boolean Algebra, Gray Code, Karnaugh Map, logic gates, flip-flops, finite state machine, and their use in implementing digital circuits.

2. Learning Objectives:

Students will learn how to use AND gates, OR gates, and NOT gates to design combinational circuits and sequential circuits. The combinational circuits include the full adder, subtracter, carry-lookahead adder, multiplexer, demultiplexer, barrel shifter, ALU (Arithmetic Logic Unit), decoder, and priority encoder. The sequential circuits include latches, flip-flops, register files, counters, and a traffic light system.

3. Learning activities outside of the classroom:

Students will be expected to spend more than four hours studying each theme per week.

4. Grading Criteria/Policy:

Grades are calculated based on homework (60%) and the final exam (40%).

COT111KA-CS-101 (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門1

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Aクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理、値と変数、条件分岐	プログラミングの基本を学ぶ。コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方と状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
2	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
3	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

4	オブジェクトとクラス	オブジェクトとクラスの概念を理解し、使いこなす方法を学ぶ。
5	グラフィックス 1	turtleモジュールを用いた幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
6	グラフィックス 2	tkinterモジュールを用いて初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101 (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門1

黒木 帝聡

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Bクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理、値と変数、条件分岐	プログラミングの基本を学ぶ。コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方と状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
2	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
3	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

4	オブジェクトとクラス	オブジェクトとクラスの概念を理解し、使いこなす方法を学ぶ。
5	グラフィックス 1	turtleモジュールを用いた幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
6	グラフィックス 2	tkinterモジュールを用いて初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101 (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門1

西田 圭吾

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Cクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいます。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理、値と変数、条件分岐	プログラミングの基本を学ぶ。コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方と状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
2	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
3	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

4	オブジェクトとクラス	オブジェクトとクラスの概念を理解し、使いこなす方法を学ぶ。
5	グラフィックス 1	turtleモジュールを用いた幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
6	グラフィックス 2	tkinterモジュールを用いて初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101 (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門1

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Dクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理、値と変数、条件分岐	プログラミングの基本を学ぶ。コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方と状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
2	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
3	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

4	オブジェクトとクラス	オブジェクトとクラスの概念を理解し、使いこなす方法を学ぶ。
5	グラフィックス 1	turtleモジュールを用いた幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
6	グラフィックス 2	tkinterモジュールを用いて初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Aクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。

4	応用(1)ピンポンゲーム	これまで学んできた内容に基づき、実際のプログラムの作成にチャレンジする。 まず、ピンポンゲームに必要な部品を用意する。
5	応用(2)ピンポンゲーム	ピンポンゲームの動作を定義する。
6	応用(3)ピンポンゲーム	ピンポンゲームに応用機能を付加する。
7	講義の総括と試験	これまで学んできた内容の復習を行う。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

黒木 帝聡

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Bクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。

4	応用(1)ピンポンゲーム	これまで学んできた内容に基づき、実際のプログラムの作成にチャレンジする。 まず、ピンポンゲームに必要な部品を用意する。
5	応用(2)ピンポンゲーム	ピンポンゲームの動作を定義する。
6	応用(3)ピンポンゲーム	ピンポンゲームに応用機能を付加する。
7	講義の総括と試験	これまで学んできた内容の復習を行う。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

西田 圭吾

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Cクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。

4	応用(1)ピンポンゲーム	これまで学んできた内容に基づき、実際のプログラムの作成にチャレンジする。 まず、ピンポンゲームに必要な部品を用意する。
5	応用(2)ピンポンゲーム	ピンポンゲームの動作を定義する。
6	応用(3)ピンポンゲーム	ピンポンゲームに応用機能を付加する。
7	講義の総括と試験	これまで学んできた内容の復習を行う。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Dクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。

4	応用(1)ピンポンゲーム	これまで学んできた内容に基づき、実際のプログラムの作成にチャレンジする。 まず、ピンポンゲームに必要な部品を用意する。
5	応用(2)ピンポンゲーム	ピンポンゲームの動作を定義する。
6	応用(3)ピンポンゲーム	ピンポンゲームに応用機能を付加する。
7	講義の総括と試験	これまで学んできた内容の復習を行う。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101b (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門3

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：Aクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門1,2で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AIのための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語としてPythonを用いて授業を進める。
- ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
- ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
- ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。

課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラミング入門1,2の復習を行う。とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向(1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向(2)(オブジェクトコンポジション/ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向(3)(継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習(1)	1～6の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎(1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎(2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う

10	データサイエンス基礎(3)	データの可視化手法を学ぶ
11	データサイエンス基礎(4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ
12	データサイエンス基礎(5)	基本的な仮説検定を扱う
13	データサイエンス基礎(6)	回帰分析の処理について学ぶ
14	復習(2)	8～13の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門1,2の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Pythonによるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版) Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳) オーム社、2025

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する。

- 試験（中間、期末）60%

- 課題およびレポートの取り組み 40%

ただし、平常時における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業での研究開発の経験に基づくものである。

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.

・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

・ Your overall grade will be decided based on the followings.

- mid- and end-term examinations (60%)

- assignments (40%)

COT111KA-CS-101b (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門3

小林 郁夫

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：Bクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門1,2で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AIのための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語としてPythonを用いて授業を進める。
- ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
- ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
- ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。

課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラミング入門1,2の復習を行う。とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向(1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向(2)(オブジェクトコンポジション/ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向(3)(継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習(1)	1～6の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎(1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎(2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う

10	データサイエンス基礎(3)	データの可視化手法を学ぶ
11	データサイエンス基礎(4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ
12	データサイエンス基礎(5)	基本的な仮説検定を扱う
13	データサイエンス基礎(6)	回帰分析の処理について学ぶ
14	復習(2)	8～13の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門1,2の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Pythonによるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版) Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳) オーム社、2025

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する。

- 試験（中間、期末）60%

- 課題およびレポートの取り組み 40%

ただし、平常時における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業での研究開発の経験に基づくものである。

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.

・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

・ Your overall grade will be decided based on the followings.

- mid- and end-term examinations (60%)

- assignments (40%)

COT111KA-CS-101b (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門3

馬 建華

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：Cクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門1,2で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AIのための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語としてPythonを用いて授業を進める。
- ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
- ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
- ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。

課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラミング入門1,2の復習を行う。とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向(1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向(2)(オブジェクトコンポジション/ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向(3)(継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習(1)	1～6の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎(1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎(2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う

10	データサイエンス基礎(3)	データの可視化手法を学ぶ
11	データサイエンス基礎(4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ
12	データサイエンス基礎(5)	基本的な仮説検定を扱う
13	データサイエンス基礎(6)	回帰分析の処理について学ぶ
14	復習(2)	8～13の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門1,2の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Pythonによるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版) Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳) オーム社、2025

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する。

- 試験（中間、期末）60%

- 課題およびレポートの取り組み 40%

ただし、平常時における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業での研究開発の経験に基づくものである。

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.

・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

・ Your overall grade will be decided based on the followings.

- mid- and end-term examinations (60%)

- assignments (40%)

COT111KA-CS-101b (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門3

高村 誠之

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：Dクラス

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門1,2で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AIのための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語としてPythonを用いて授業を進める。
- ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
- ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
- ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。

課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラミング入門1,2の復習を行う。とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向(1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向(2)(オブジェクトコンポジション/ポリモーフィズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向(3)(継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習(1)	1～6の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎(1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎(2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う

10	データサイエンス基礎(3)	データの可視化手法を学ぶ
11	データサイエンス基礎(4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ
12	データサイエンス基礎(5)	基本的な仮説検定を扱う
13	データサイエンス基礎(6)	回帰分析の処理について学ぶ
14	復習(2)	8～13の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門1,2の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Pythonによるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570
たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版) Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳) オーム社、2025

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する。

- 試験（中間、期末）60%

- 課題およびレポートの取り組み 40%

ただし、平常時における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業での研究開発の経験に基づくものである。

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.

・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

・ Your overall grade will be decided based on the followings.

- mid- and end-term examinations (60%)

- assignments (40%)

PRI210KA-CS-161（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

データ構造とアルゴリズム1

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は情報科学の基礎・中核をなすデータ構造およびアルゴリズムの入門科目である。整列問題や最短経路問題などの基本的かつ重要な問題を通して、効率的なアルゴリズムとはどのようなものであるか、また、その評価尺度である計算量について学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で必要な「データ構造とアルゴリズムの基礎」を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
3	漸近的表記	アルゴリズムの計算量解析に頻用される関数の漸近的表記（ランダウの記号）を学ぶ。
4	マージソート	マージソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
5	ヒープソート	ヒープソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
6	クイックソート	クイックソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	4種類のソートの実装	これまでに学んだ4種類の整列アルゴリズムを実装し、実行時間を比較する。
8	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタック、キューを学ぶ。
9	優先度付きキュー・連結リスト	基本的なデータ構造である優先度付きキューと連結リストを学ぶ。
10	辞書1	重要なデータ構造のひとつである辞書の概念を理解する。
11	辞書2	辞書を実現する手法としてチェイン法およびオープンアドレス指定法を学ぶ。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解する。

13	単一始点最短経路問題	グラフに関する代表的なアルゴリズムである単一最短経路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
14	ダイクストラ法のプログラミング	ダイクストラ法の実装を通してグラフアルゴリズムへの理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第1巻 基礎・ソートと順序統計量・データ構造・数学的基礎 第4版

著者: Thomas H. Cormen 他

翻訳: 浅野他

出版社: 近代科学者

出版年: 令和5年

【参考書】

書名: アルゴリズムとデータ構造

著者: 大槻兼資・秋葉拓哉

出版社: 講談社

出版年: 令和2年

【成績評価の方法と基準】

定期試験(100%)。ただし、授業における平常点を一部加味する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電気をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

This course is an introductory subject in data structures and algorithms, which form the foundation and core of computer science. Through fundamental problems such as sorting and shortest path problems, we will learn what constitutes an efficient algorithm and study computational complexity, the metric used to evaluate their performance.

Students will be expected to study the topic given in the class for around four hours each week. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

PRI210KA-CS-161 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

データ構造とアルゴリズム1

坂本 寛

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は情報科学の基礎・中核をなすデータ構造およびアルゴリズムの入門科目である。整列問題や最短経路問題などの基本的かつ重要な問題を通して、効率的なアルゴリズムとはどのようなものであるか、また、その評価尺度である計算量について学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で必要な「データ構造とアルゴリズムの基礎」を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
3	漸近的表記	アルゴリズムの計算量解析に頻用される関数の漸近的表記（ランダウの記号）を学ぶ。
4	マージソート	マージソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
5	ヒープソート	ヒープソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
6	クイックソート	クイックソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	4種類のソートの実装	これまでに学んだ4種類の整列アルゴリズムを実装し、実行時間を比較する。
8	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタック、キューを学ぶ。
9	優先度付きキュー・連結リスト	基本的なデータ構造である優先度付きキューと連結リストを学ぶ。
10	辞書1	重要なデータ構造のひとつである辞書の概念を理解する。
11	辞書2	辞書を実現する手法としてチェイン法およびオープンアドレス指定法を学ぶ。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解する。

13	単一始点最短経路問題	グラフに関する代表的アルゴリズムである単一最短経路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
14	ダイクストラ法のプログラミング	ダイクストラ法の実装を通してグラフアルゴリズムへの理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第1巻 基礎・ソートと順序統計量・データ構造・数学的基礎 第4版

著者: Thomas H. Cormen 他

翻訳: 浅野他

出版社: 近代科学者

出版年: 令和5年

【参考書】

書名: アルゴリズムとデータ構造

著者: 大槻兼資・秋葉拓哉

出版社: 講談社

出版年: 令和2年

【成績評価の方法と基準】

定期試験(100%)。ただし、授業における平常点を一部加味する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電気をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

This course is an introductory subject in data structures and algorithms, which form the foundation and core of computer science. Through fundamental problems such as sorting and shortest path problems, we will learn what constitutes an efficient algorithm and study computational complexity, the metric used to evaluate their performance.

Students will be expected to study the topic given in the class for around four hours each week. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

PRI210KA-CS-251 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

最適化

佐川 浩彦

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説

13 線形計画法

線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法

14 多目的最適化、まとめ

多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料（学習支援システムに掲載）

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）＋演習課題（20%）＋授業への参加度（20%）で採点します。
参加度は授業中の態度（積極的に演習の解答例紹介を行うかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で、（手話認識、AR技術などの）研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems.

The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week.

Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

PRI210KA-CS-251 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

最適化

佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説

13 線形計画法

線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法

14 多目的最適化、まとめ

多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料（学習支援システムに掲載）

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）＋演習課題（20%）＋授業への参加度（20%）で採点します。
参加度は授業中の態度（積極的に演習の解答例紹介を行うかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で、（汎用型ニューロコンピュータ、生体情報を用いた個人認証システムなどの）研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems.

The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week.

Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

COT211KA-CS-201 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング1(C/C++)

廣津 登志夫、佐藤 周平

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／4単位 | 開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではプログラミング言語C/C++を学び、これらを用いて簡単なプログラム作成を行う。ここでは単にプログラムを書くことだけが目的ではなく、C/C++によるプログラミングで重要となるプログラム実行時にどのようにメモリが利用されているかを理解することを重視する。コンピュータの仕組みを考えながら、プログラムがどのように動作しているのかを考え、正しく動作するプログラムとは何かを判断できるようになることをめざす。

【到達目標】

- ・ インタープリタ言語とコンパイラ言語の違いを説明できる。
- ・ C/C++ のソースコードとコンパイルの関係を説明できる。
- ・ if文、for文を使った C/C++プログラムを作成することができる。
- ・ 関数を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 構造体を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 変数とポインタ、メモリアドレスの関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この講義はオンデマンド形式で実施する。週ごとに開示される講義映像を視聴し、その中で提示されている演習のプログラムを各自で動かして学習内容を理解する。そのうえで課題のプログラミングに取り組み、め切までにそのプログラムを提出する。課題の提出・チェックや質問の方法については、CIS Moodle経由で指示する。質問内容からのフィードバックについては、必要に応じて CIS Moodle から提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	C/C++言語の導入	コンパイラとインタープリタの違いを学ぶ C/C++の開発環境を理解する 最初のプログラムを作成し、実行させる
第2回	C/C++言語の基本形	インクルードファイルの書き方を学ぶ main 関数の書き方を学ぶ 変数宣言について学ぶ
第3回	標準入出力	C言語の出力方法である printf の使い方を学ぶ C++言語の標準入出力である cin, cout の使い方を学ぶ C/C++における加減乗除の方法を学ぶ
第4回	算術演算子	演算子の優先順位について理解する
第5回	条件分岐	if else を用いた条件分岐のあるプログラムの書き方を学ぶ switch 文について学ぶ
第6回	繰り返し制御	for, while を使った繰り返し方法を学ぶ break, continueにより繰り返しの中断や継続を行う方法を学ぶ

第7回 文字列と配列

配列の宣言と利用方法を学ぶ
配列とメモリマップの関係について学ぶ

第8回 変数とメモリ

配列と文字列の関係を学ぶ
変数とメモリの関係について学ぶ

第9回 関数

&演算子によりメモリアドレスを確認する方法を学ぶ
sizeof演算子により変数領域の大きさを求める方法を学ぶ
関数定義と関数呼び出しの方法を学ぶ

第10回 変数のスコープ

プロトタイプ宣言について学ぶ
変数のスコープについて学ぶ
ローカル変数、グローバル変数について学ぶ

第11回 構造体

変数のメモリ割り当て方法の違いについて学ぶ
構造体の定義方法と参照方法を学ぶ

第12回 ポインタ

構造体とメモリの関係を学ぶ
ポインタとメモリアドレスの関係を学ぶ

第13回 ポインタ演算

ポインタ変数の使い方を学ぶ
ポインタと配列の関係を学ぶ
ポインタを使った構造体の参照方法を学ぶ

第14回 ファイル入出力

ポインタの加算について学ぶ
ポインタを引数にした call by reference による関数呼び出しの方法を学ぶ
ファイルのオープンとクローズ方法を学ぶ
ファイルへの値の書き出し方法を学ぶ
ファイルからの値の読出し方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。
映像資料で学習し演習プログラムを実行した上で、課題に取り組みめ切までに提出する。

【テキスト（教科書）】

講義テキストは CIS Moodle より配布するが、C++について網羅的に記載された書籍を持っておくことを強く推奨する（参考書に挙げた書籍以外でも好みに合ったもので構わない）

【参考書】

柴田望洋, “新 明解 C++ 入門”, ソフトバンククリエイティブ. 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4
柴田望洋, “新・明解C言語 入門編 (第2版)”, ソフトバンククリエイティブ. 2021. ISBN: 978-4-8156-0979-5

【成績評価の方法と基準】

講義映像の視聴と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。
期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を70%、課題提出を30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報科学部貸与PCを利用してプログラミングを行う。
他学部から受講する場合は、各自のPC上に自身で実習環境を用意すること。

【その他の重要事項】

この講義内容は「プログラミング入門1/2/3」を学び、Pythonによるプログラミングに関する知識を有していることを前提として構成されている。

なお、本講義はオンデマンドで実施されるが、質問対応については指定の講義時限に小金井キャンパス内（教室またはGBC）で対応する（遠隔対応はない）。

期末試験にも小金井キャンパスにおいて対面・PC利用で実施する（時間割は小金井の定期試験時間割で確認すること）

【Outline (in English)】**[Course outline]**

Students learn the basic skills for writing programs in Programming Language C/C++. They not only study the grammar of Programming Language C/C++, but also study the memory management and program execution architecture of current computer system.

[Learning Objectives]

Students expected to understand core concepts and functionality of C and C++. They also expected to build program using C-level core functionalities, such as control flow, function call, data structure and pointer.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend eight hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT211KA-CS-202 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング2(C/C++)

相島 健助、廣津 登志夫

必選区分： | 配当年度／単位：2～4 年次／4 単位 | 開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業はプログラミング1(C/C++)の後続科目として、C++を用いたオブジェクト指向プログラミングにより小規模のプログラムを作成できるようにすることを目的とする。学習においてはオブジェクト指向プログラミングの基本概念を意識し、コンピュータの仕組みと結びつけて、プログラムの動作を理解する視点を獲得することめざす。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向の基本的な考え方を説明できる。
- ・C++ を用いて、オブジェクト指向に沿ったクラス設計を行うことができる。
- ・オブジェクトのポインタを用いたプログラムを作成・理解できる。
- ・オブジェクトの継承を理解し、プログラムを作成できる。
- ・カプセル化を意識したプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義は本科目の前段科目であるプログラミング1(C/C++)と同様に、オンデマンド形式で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オブジェクト指向の基本	オブジェクト指向の考え方を理解し、メンバ変数、メンバ関数を持ったクラスを作成し、オブジェクトを生成する。
第2回	コンストラクタ	オブジェクトの初期化手順として、デフォルトコンストラクタ、コピーコンストラクタ、変換コンストラクタの作成方法を学ぶ。
第3回	カプセル化、演算子関数	クラスのカプセル化について public と private の使い分け、ヘッダファイルとソースファイルの分割について学ぶ。
第4回	静的メンバ、コンストラクタ初期化子	静的メンバと動的メンバの違いを理解する。代入演算子 (operator=)、入れ子のクラス構造とコンストラクタ初期化子について理解する。
第5回	定値オブジェクト、friend 関数	定値オブジェクトを有効に扱うためのメンバ関数定義法を学ぶ。friend 関数も紹介する。また、変換関数、演算子関数を学ぶ。
第6回	クラスの継承	派生クラスへの継承について学ぶ。継承の本質、継承の仕組み、および継承の表現し方などを理解する。
第7回	仮想関数とポリモーフィズム	virtual 関数を作成して、動的な型情報によるプログラミング手法を学ぶ。ポリモーフィズムを理解する。
第8回	抽象クラス	純粋仮想関数を理解し、抽象クラスの設計と使い方を学ぶ。

第9回	ヒープメモリとポインタ	ヒープメモリとポインタを使ったオブジェクト管理を学ぶ。 new 演算子を使って生成されたオブジェクトはヒープメモリに管理する仕組みを理解し、メモリの解放方法も学ぶ。
第10回	例外処理	例外処理の書き方について学び、標準の例外クラスを使えるようになる。
第11回	クラステンプレート	クラステンプレートと関数テンプレートを活用したプログラミング手法を学ぶ。
第12回	ベクトルライブラリ	可変長配列などのベクトルライブラリの使い方を学ぶ。
第13回	ベクトル以外のコンテナ	リストやスタックマップなどデータ構造の設計と使い方を学ぶ。
第14回	関数ポインタ	関数ポインタによる関数の入れ替え手法を学ぶ。文字列クラスの使い方も学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。

映像資料で学習し演習プログラムを実行した上で課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

講義テキストは CIS Moodle より配布するが、C++について網羅的に記載された書籍を持っておくことを強く推奨する（参考書に挙げた書籍以外でも好みに合ったもので構わない）

【参考書】

柴田望洋, "新・明解C++で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN : 978-4-7973-9716-1
柴田望洋, "新 明解 C++ 入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN : 978-4-7973-9463-4 (2年春に使用したもの)

【成績評価の方法と基準】

全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。
期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を70%、課題提出を30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報科学部貸与PCを利用してプログラミングを行う。他学部から受講する場合は、各自のPC上に自身で実習環境を用意すること。

【その他の重要事項】

プログラミング1(C/C++)の講義内容を理解していることを前提とする。

なお、本講義はオンデマンドで実施されるが、質問対応については指定の講義時限に小金井キャンパス内（教室またはGBC）で対応する（遠隔対応はない）。
期末試験にも小金井キャンパスにおいて対面・PC利用で実施する（時間割は小金井の定期試験時間割で確認すること）

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course aims to learn general principle and techniques of object-oriented programming in C++, as the advanced course of Programming1(C/C++). In the lectures of the course, the computer structure and its relation to programming in C++ are also explained and discussed. The students are expected to learn the basic concepts and mechanisms of C++ and to gain sufficient ability to construct simple programs in C++. They are also expected to build up their ability for understanding the behaviors of programs in C++.

[Learning Objectives]

Students expected to understand the basic concepts and functionality of object-oriented programming using C and C++. They also expected to build program using object-oriented manner, such as class, inheritance and encapsulation.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend eight hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT311KA-CS-201e (計算基盤 / Computing technologies 300)

プログラミング演習(C/C++)

廣津 登志夫

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度規模の大きいプログラムを書くことを通じて、高度なソフトウェアをプログラミングすることに対する理解を深める。プログラミング言語の文法だけではなく、実行環境や開発環境を含めた汎用的なプログラミング環境に慣れ、実際のプログラミングを学ぶ。

【到達目標】

前段科目である「プログラミング2(C/C++)」で学んだプログラミング技術を用いて、目的に応じた中規模のソフトウェア（アプリケーション）が作成できるようになること。ソフトウェア開発の考え方や手順を理解ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前半は、文書処理のプログラムを通じて、既に使用として定まったフォーマットのデータの処理方法を学ぶ。後半は前半で作成した文字列処理の機能を活用して、基本的な文書処理の手順についてのプログラミングを行うと共に、STLを用いたデータ管理の実装に取り組む。

内容については、事前に映像資料が公開されるので、それを視聴した上で演習課題に取り組む。授業時間は演習プログラミングの時間を確保するとともに、課題についての質問状況に応じて、内容の補足説明などのフィードバックを随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	開発環境とディレクトリ階層の理解
2	文字列処理 (1)	「人工無能」の基本インタラクションルーチンとマルチバイト文字の処理
3	文字列処理 (2)	UTF-8を対象とした構造データの読み込みと処理
4	文字列処理 (3)	UTF-8クラスの拡張
5	文字列処理 (4)	2-gramと3-gramの実装
6	文字列処理 (5)	汎用アルゴリズムライブラリによるソートの実現
7	性能評価：実行時間の測定	複数の実装による実効性能の理解
8	中間まとめ	ここまでの内容の総括と質問への対応
9	STLの復習	データ管理に使うSTLの復習
10	文生成 (1)	STLを用いた基本的な辞書構造の実現
11	文生成 (2)	文字選択のための辞書のSTLによる実現
12	文生成 (3)	形態素解析と文生成のためのデータ構造
13	文生成 (4)	形態素解析を用いた文生成
14	まとめ	講義の演習全体の総括と質問への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

準備学習として、前段科目であるプログラミング2(C/C++)の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、講義中に完了しなかったプログラミング課題およびレポート作成に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

説明資料をオンライン配布する

【参考書】

柴田望洋, “新 明解 C++ 入門”, ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4 (2年春科目参考書)

柴田望洋, “新・明解C++で学ぶオブジェクト指向プログラミング”, ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN: 978-4-7973-9716-1 (2年秋科目参考書)

富永和人, 権藤克彦, “例解 UNIX/Linux プログラミング教室: システムコールを使いこなすための12講”, オーム社, 2018. ISBN: 978-4-274-22210-8.

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。各回で出題するプログラム課題に対する取り組み(40%)、およびレポート課題(60%)から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを利用してプログラミングを行う。

対面・オンラインにかかわらず、質問対応にはZoomによる画面共有を使用することがあるので、講義で指示があった場合にはZoomに接続すること。

【その他の重要事項】

プログラミング1(C/C++)、プログラミング2(C/C++)の講義内容を理解していることを前提とする。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This is an introductory course to understand C/C++ programming Language. With writing middle-scale software using actual development environment, students will deepen their understanding for the scheme and processes of the software development.

[Learning Objectives]

Students expected to build middle-scale program using object-oriented manner.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to program the exams.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; final report (60%), and homework (40%).

PRI210KA-CS-151 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

形式言語とオートマトン

松下 智

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトン・チューリングマシンの様相表記・構成ができること
- 2) 正規言語・文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するたために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。

なお、毎回の講義では、説明のなかで30分程度を小テストに充てる。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第2回	有限オートマトン(1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第3回	有限オートマトン(2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第4回	有限オートマトン(3)	1. 有限オートマトン演習
第5回	非決定性有限オートマトン(1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第6回	非決定性有限オートマトン(2)	1. 空動作を伴うオートマトン 2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性 5. 正規表現から非決定性オートマトンに 6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第7回	中間試験	
第8回	プッシュダウンオートマトン	1. 決定性プッシュダウンオートマトン 2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5. 非決定性プッシュダウンオートマトン 6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第9回	チューリングマシン(1)	1. 決定性チューリングマシン
第10回	チューリングマシン(2)	1. 非決定性チューリングマシン
第11回	文法(1)	1. 正規文法 2. 言語の生成装置としての形式文法 3. オートマトンと文法の対比・階層性 4. 文脈自由文法
第12回	文法(2)	1. 文法の種類 2. 文脈自由文法の例 3. 文脈自由文法と木構造 4. 2分木からチョムスキー標準形に 5. 文脈依存文法
第13回	文法(3)	1. 文法演習
第14回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1. 正規表現による正規言語の表現 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法・繰り返し定理 3. 閉包性 4. チョムスキー標準形 5. グライバッハ標準形 1 - 14回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J.ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論I」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論(第2版・新装版)」森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内諸テスト、課題で40%。期末試験で60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのオートマトンを応用したグラフ変換に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to

1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines
2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars

Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

PRI210KA-CS-151 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

形式言語とオートマトン

日高 宗一郎

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトン・チューリングマシンの様相表示・構成ができること
- 2) 正規言語・文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するたために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。

なお、毎回の講義では、説明のなかで30分程度を小テストに充てる。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第2回	有限オートマトン(1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第3回	有限オートマトン(2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第4回	有限オートマトン(3)	1. 有限オートマトン演習
第5回	非決定性有限オートマトン(1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第6回	非決定性有限オートマトン(2)	1. 空動作を伴うオートマトン 2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性 5. 正規表現から非決定性オートマトンに 6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第7回	中間試験	
第8回	プッシュダウンオートマトン	1. 決定性プッシュダウンオートマトン 2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5. 非決定性プッシュダウンオートマトン 6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第9回	チューリングマシン(1)	1. 決定性チューリングマシン
第10回	チューリングマシン(2)	1. 非決定性チューリングマシン
第11回	文法(1)	1. 正規文法 2. 言語の生成装置としての形式文法 3. オートマトンと文法の対比・階層性 4. 文脈自由文法
第12回	文法(2)	1. 文法の種類 2. 文脈自由文法の例 3. 文脈自由文法と木構造 4. 2分木からチョムスキー標準形に 5. 文脈依存文法
第13回	文法(3)	1. 文法演習
第14回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1. 正規表現による正規言語の表現 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法・繰り返し定理 3. 閉包性 4. チョムスキー標準形 5. グライバッハ標準形 1 - 14回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J.ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論I」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論」(第2版・新装版) 森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内諸テスト、課題で40%。期末試験で60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのオートマトンを応用したグラフ変換に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to

1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines
2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars

Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

COT211KA-CS-211 (計算基盤 / Computing technologies 200)

コンピュータ構成と設計入門

八巻 隼人

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算機の基本構成要素であるプロセッサ(CPU)、メモリ、入出力装置の機能と動作、またそれぞれの要素間の相互関係をソフトウェア、ハードウェアの両観点から理解する。特に、計算機がプログラムを実行する際の各要素の役割、プログラムの実行を高速化する技術について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、大きく分けて2つのテーマを扱う。まず、前半の授業では、計算機内部におけるデジタルデータの取り扱いについて学ぶ。これはすなわち、計算機が数値表現や数値同士の計算をどのように扱っているのか、“2進数”や“浮動小数点数”、“加算器”といったキーワードを基に学習し、計算機が扱うデータについて理解できるようになることを目標とする。次に、授業後半では、計算機の構成要素であるCPU、メモリ、入出力装置について計算機全体の中のそれぞれの役割を学ぶ。最終的には、これらの理解を併せ、我々が作成したプログラムが計算機でどのように実行されるのか、各自が説明できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を基にした講義が主となる。特に前半の進数変換や数値の計算は、手を動かさなければ理解が進まないと思うので、適宜、演習問題の配布やレポート課題等も予定している。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、データの表現、位取り記数法	本講義の概要とその進め方、評価法、演習との関係など / 2進数と10進数 / N進数への変換法
第2回	整数の計算機内部表現	符号絶対値表現 / 補数表現 / 嵩上げ表現
第3回	加減算器、論理演算、シフト	論理回路の復習 / 符号付き整数の加減算 / 演算のオーバーフロー / 論理演算とシフト
第4回	算術論理演算回路 (ALU)	ALUの構成 / 正負判定、0判定など
第5回	実数の計算機内部表現	浮動小数点表現 / 表現出来る値とエラー検出
第6回	計算機の構成と動作原理	CPUの構造 / バスの構造 / 命令サイクルとパイプライン
第7回	中間試験	中間試験実施予定
第8回	計算機の命令	具体的な計算機の機械語命令
第9回	基本命令セット 1	命令形式 / 基本的な命令 / 簡単なプログラム
第10回	基本命令セット 2	算術論理演算命令 / 分岐命令 / アセンブリ言語
第11回	機械語命令形式と機械語の実行	アドレッシングモードの実現 / サブルーチンの実現

第12回	割り込み	割り込みの概念 / 割り込み要因・動作 / OSの役割・機能 / 割り込み用命令と割り込みベクトル
第13回	メモリ	メモリ階層 / キャッシュの動作 / キャッシュアルゴリズム
第14回	マルチコア/プロセッサとネットワーク	並列処理 / ネットワーク / キャッシュコヒーレンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容に疑問点を残さないよう復習をすること。授業の理解を深めるため、適宜、演習問題やレポート課題等の配布を行なう。各回の講義は前回までの内容が理解できていないとついて行けなくなるので、疑問点を残さないよう努力すること。本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、毎回授業資料をHoppii上で配布する。

【参考書】

「コンピュータの構成と設計」、パターソン・ヘネシー著、日経 BP
「コンピュータアーキテクチャ」、馬場敬信、オーム社、
「プロセッサを支える技術」、Hisa Ando, 技術評論社
など

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けますので気軽にメールしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the operation of CPUs, memories, and I/O devices and interrelationship among them from the viewpoints of the hardware and software.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to help students acquire an understanding of the roles of each computer element when a program is executed and methods for accelerating program execution.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term examination (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

COT311KA-CS-341 (計算基盤 / Computing technologies 300)

コンパイラ

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンパイラをはじめとする計算機言語処理系は、情報科学の分野でもっとも重要なソフトウェアの一つである。本講義では、コンパイラの基本概念について説明するとともに、コンパイラの各構成要素における理論と技法について説明する。また、簡単な言語に対するコンパイラの実現を例題として、コンパイラの全体像の理解を深める。

【到達目標】

- (1) コンパイラの基本概念を説明できる。
- (2) 与えられた字句定義および構文定義から、対応するプログラミング言語の構文を説明できる。
- (3) 字句、構文定義からそれぞれ字句解析および構文解析プログラムを作成できる。
- (4) プログラムの構文要素に対するコードの生成方法が理解できる。
- (5) 簡単な言語に対するコンパイラを実現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

コンパイル処理は、いくつかのフェーズ(Phase)と呼ばれるプロセスで構成される。各フェーズの実装方法は、オートマトンをはじめとする言語の理論によって裏付けられている。講義前半（第1～9回）では、各フェーズに対して、(1)フェーズを裏付ける理論の学習、(2)理論に対するプロセスの実装方法（アルゴリズム）の学習、というステップで理解を深めていく。講義後半では、前半で学んだそれぞれのフェーズを統合することで、一つのコンパイラを構成できることを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「CIS moodle」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	コンパイラと計算機言語処理系の概要
2	言語と文法	文脈自由文法と解析木
3	字句解析	正規表現とオートマトンによる字句解析の定式化
4	字句解析器の実装	字句解析プログラムの導出
5	構文解析	下向き構文解析
6	構文解析器の実装	再帰降下構文解析器の導出
7	意味解析	名前の解決処理、型、静的意味検査
8	中間コード生成	中間コードの種類と生成の基礎
9	実行時環境	実行時記憶、活性レコード（関数フレーム）、手続き呼び出しのプロセス
10	通訳系（インタプリタ）	VM(Virtual Machine)
11	コンパイラの実装(1)	式のコンパイル
12	コンパイラの実装(2)	変数機能の実現
13	コンパイラの実装(3)	制御構造のコンパイルと関数機能の実現
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回では配布する資料を読み授業に備える。また、資料内の例題プログラムは事前に入力し実行すること。授業後は、課題のプログラミングおよびレポート作成に取り組む。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したオンラインテキストおよび配布する印刷物

【参考書】

中田育男、コンパイラの構成と最適化、(2版、2009)、朝倉書店
佐々政孝、プログラミング言語処理系、(1989)、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

試験(70%), レポート課題(30%)により評価。一部、講義における積極性などを紙加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

レポート問題の解説時間を多めにとる

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPC、ネットワーク接続、学習支援システム利用

【Outline (in English)】

- In this course, students will learn compilers and compilation process.
- At the end of the course students will understand the overall structure of a compiler as a system through realizing a simple language,
- Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.
- Grading will be decided based on mid- and term-examinations (60%), reports (30%), and in-class contribution(10%)

PRI210KA-CS-261 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

データ構造とアルゴリズム2

首藤 裕一

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データ構造とアルゴリズムの基礎を身につけることは計算機科学を深く理解するための必要条件である。本講では、春学期開講の「データ構造とアルゴリズム1」でアルゴリズムや計算量に関する基本的な概念を習得していることを前提として、アルゴリズムの基本的な設計技法や、計算機科学を学ぶ者なら誰もが知っておくべき著名なアルゴリズム群を学ぶ。

【到達目標】

計算機科学を学ぶ上で必須となるデータ構造とアルゴリズムの基礎を理解するとともに、典型的なアルゴリズム設計技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・振り返り	本授業のガイダンスを行うとともに、「データ構造とアルゴリズム1」の内容を振り返る。
2	二分探索	頻用技法である二分探索を学ぶ。
3	演習（二分探索）	例題を通して二分探索に慣れ親しむ。
4	動的計画法	頻用技法である動的計画法を学ぶ。
5	演習（動的計画法1）	例題を通して動的計画法に慣れ親しむ。
6	演習（動的計画法2）	例題を通して動的計画法に慣れ親しむ。
7	素集合データ構造	有用なデータ構造である素集合データ構造（Union-Find）を学ぶ。
8	演習（素集合データ構造）	例題を通して素集合データ構造の活用を学ぶ。
9	最小全域木構成	素集合データ構造の典型的な活用例として最小全域木構成アルゴリズムを学ぶ。
10	演習（最小全域木構成）	例題を通して最小全域木構成に慣れ親しむ。
11	平衡二分探索木（1）	有用なデータ構造である平衡二分探索木について学ぶ。
12	平衡二分探索木（2）	有用なデータ構造である平衡二分探索木について学ぶ。
13	最大流問題	最大流問題と関連する諸問題について学ぶ。
14	振り返り	本授業で学んだことを振り返り、アルゴリズムへの理解を定着させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習等の授業時間外学習は各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムとデータ構造

著者: 大槻兼資・秋葉拓哉

出版社: 講談社

出版年: 令和2年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90%）、および、課題の提出状況や講義への貢献などの平常点（10%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電氣をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

Mastering the basics of data structures and algorithms is a prerequisite for a deep understanding of computer science. In this course, students will learn basic design techniques of algorithms and well-known algorithms that every student of computer science should know, assuming that they have already mastered the basic concepts of algorithms and computational complexity in "Data Structures and Algorithms 1," a course of the spring semester.

Students will be expected to study the topic given in the class for four hours each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 90%, short reports and in-class contribution: 10%

MAT247KA-CS-252 (数学 / Mathematics 200)

統計学2

高村 誠之

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：ABクラス（※上位科目。受講方法は履修ガイド参照。）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的な技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語MATLABを用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方およびMATLABの使い方の説明
第2回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第3回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第4回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第5回	線形モデルと最小二乗法(1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第6回	線形モデルと最小二乗法(2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第7回	線形モデルと最小二乗法(3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第8回	最尤推定法(1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第9回	最尤推定法(2)	線形判別分析
第10回	線形判別分析の応用(1)	手書き数字の2カテゴリ分類
第11回	線形判別分析の応用(2)	手書き数字の多カテゴリ分類
第12回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法

第13回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第14回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いたMATLABプログラミングの習得
- [4] 計算問題やMATLABプログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内Webサイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」、東京大学出版会、1991年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」、オーム社、2009年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ」、岩波書店、2009年。
- [4] 上坂吉則著：「MATLABプログラミング入門」改訂版、牧野書店、2011年。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、レポート課題40%、期末試験40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] MATLABを使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内Webサイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLABプログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 20%, mid-term reporting 40%, term-end examination: 40%.

MAT247KA-CS-252 (数学 / Mathematics 200)

統計学2

川畑 史郎

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：CDクラス（※上位科目。受講方法は履修ガイド参照。）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的な技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語MATLABを用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方およびMATLABの使い方の説明
第2回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第3回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第4回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第5回	線形モデルと最小二乗法(1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第6回	線形モデルと最小二乗法(2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第7回	線形モデルと最小二乗法(3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第8回	最尤推定法(1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第9回	最尤推定法(2)	線形判別分析
第10回	線形判別分析の応用(1)	手書き数字の2カテゴリ分類
第11回	線形判別分析の応用(2)	手書き数字の多カテゴリ分類
第12回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法

第13回 ノンパラメトリックカーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
な確率密度関数の推定法

第14回 まとめ 学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
[2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
[3] オンラインマニュアルを用いたMATLABプログラミングの習得
[4] 計算問題やMATLABプログラミングなどの課題への取り組み
[5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内Webサイトに公開。

【参考書】

[1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」，東京大学出版会，1991年。
[2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」，オーム社，2009年。
[3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ－」，岩波書店，2009年。
[4] 上坂吉則著：「MATLABプログラミング入門」改訂版，牧野書店，2011年。

【成績評価の方法と基準】

平常点20％、レポート課題40％、期末試験40％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

[1] MATLABを使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
[2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
[3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内Webサイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLABプログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 20%, mid-term reporting 40%, term-end examination: 40%.

PRI210KA-CS-207 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報基礎学A

尾花 賢

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、情報科学の基礎的な理論を理解するために必須となる計算の複雑さの理論を学ぶ。

【到達目標】

計算の複雑さの理論における基本的な概念である時間計算量、領域計算量、多項式時間帰着などを学ぶとともに、P, NP, PSPACE, EXPなどの重要な計算量のクラスを理解する。また、SATのNP完全性の証明などを通じてP vs NP問題に対する解決のアプローチの歴史を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を通して、計算の複雑さの理論の基本を理解してもらう。重要なポイントでは演習を行い、講義で学習した内容を実感することで理解を深める。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義で学ぶことがらを説明する
2	計算とは何か	情報科学における計算の理論的扱いについて学び、チューリングマシン、万能チューリングマシンの概念を理解する。
3	計算可能性の理論と対角線論法	チューリングマシンの停止性判定問題を例に計算可能性の理論と対角線論法について学ぶ。
4	計算の複雑さ	計算の複雑さがチューリングマシンの実行ステップ数などによって定義されることを理解する。
5	計算の複雑さ演習	演習を通じて、具体的なアルゴリズムの計算の複雑さを評価する手法を学ぶ。
6	計算にまつわる諸概念	時間計算量、領域計算量など、計算の複雑さを理解する上で重要な概念について学ぶ。
7	階層定理	時間階層定理、領域階層定理の証明とその意味を理解する。
8	時間計算量のクラス、領域計算量のクラス	P, NP, EXP, NEXPなど時間計算量を理解する上で重要となるクラスについて学ぶ。
9	P対NP問題	P対NP問題と、関連の深い概念であるNP完全性、NP困難性について学ぶ。
10	多項式時間帰着	二つの問題を解く困難さを比較する指標となる多項式時間帰着について学ぶ。

11	多項式時間帰着に関する演習	具体的な問題の多項式時間帰着可能性を考えることにより、多項式時間帰着に対する理解を深める。
12	計算の複雑さに関する命題の証明手法	演習問題を例に計算の複雑さに関する命題を証明する手法を学ぶ。
13	Cook-Levinの定理とSATのNP完全性	論理式の充足可能性問題(SAT)がNP完全問題であることを理解する。
14	計算の複雑さと暗号理論	計算の複雑さの理論と公開鍵暗号の関係について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくことは必須。また、講義期間中に複数回出す課題を提出すること。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムから配布する。

【参考書】

Michael Sipper 著, 太田 和夫, 田中 圭介, 阿部 正幸 訳, 計算理論の基礎 [原著第2版] 3. 複雑さの理論, 共立出版 ISBN 978-4-320-12209-3

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度, レポート20%, 定期試験80%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるため、計算の複雑さの理論における命題の証明法に関する回を追加した。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。また、チューリングマシンの演習等においては貸与PCを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は、担当教員の企業での暗号および情報セキュリティの研究開発に関する経験に基づき実施する計算量理論の基礎に関する講義である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic concept of complexity theory for understanding theoretical computer science.

Learning objectives: Students will learn time complexity, space complexity, complexity classes (such as P, NP, PSPACE, EXPTIME, etc.), polynomial-time reduction, etc.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report & Contribution to the class: 20%, Final exam: 80%

PRI310KA-CS-208 (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

情報基礎学B

川畑 史郎

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算と論理の基礎、関数型及び論理型プログラミングの基礎を学ぶ。
また、量子コンピュータの基礎と量子プログラミングについても学ぶ。

【到達目標】

計算可能性、命題論理、関数型プログラミング、論理プログラミングなどの基本知識とプログラミング技術を習得する。また、量子コンピュータの基礎と量子プログラミング技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

計算と論理とはなにかを学ぶとともに、関数型プログラミング、論理型プログラミング、量子コンピュータの基礎について理解する。体系的な知識を具体例を挙げながら伝えるとともに、プログラミング実習を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の目指すもの、想定される受講者の興味・関心を明確にし、科目選択のための情報を提供する。
第2回	計算のモデルとチューリング機械	計算とチューリング機械の概念を知る。
第3回	計算可能性と計算量	計算可能性と計算量理論の基礎を知る。
第4回	命題論理	命題論理の基礎を学ぶ。
第5回	SAT	SAT (Satisfiability Problem、充足可能性問題) の基礎を学ぶ。
第6回	関数型プログラミングとラムダ計算	関数型プログラミングの基礎とラムダ計算を学ぶ。
第7回	ラムダ計算とLISP	ラムダ計算のプログラミングとLISPの基礎を学ぶ。
第8回	述語論理	述語論理の基礎を学ぶ。
第9回	論理型プログラミング	論理型プログラミングとPrologの基礎を学ぶ。Prologプログラミング実習を行う。
第10回	量子コンピュータの基礎(1)	量子コンピュータの基礎と最新動向について学ぶ。
第11回	量子コンピュータの基礎(2)	量子コンピュータを理解するための数学と物理の基礎について学ぶ。
第12回	量子ビットと量子論理回路	量子ビット、量子チューリング機械、量子論理回路の基礎について学ぶ。
第13回	量子アルゴリズムと量子プログラミング	量子アルゴリズムと量子プログラミングの基礎について学ぶ。
第14回	まとめ	期末試験で取り上げる題材を用いて、全トピックの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。また、課題やレポートが出たものについては必ず予め切までに提出すること。

【テキスト（教科書）】

オンライン教材を使用する。

【参考書】

「情報の数理 計算論理入門」田中尚夫 著 裳華房 2018 (ISBN 978-4-7853-0637-3)

「計算モデル入門」井田哲雄・浜名誠著 サイエンス社 2006 (ISBN 978-4-7819-1135-9)

「はじめてのLISP関数型プログラミング」五味弘著 技術評論社 2016 (ISBN 978-4774180359)

「基礎から学ぶ 量子計算」西村治道著 オーム社 2022 (ISBN 978-4-274-22969-5)

「量子計算」西野哲朗・岡本龍明・三原孝志著 近代科学社 2015 (ISBN 978-4764904866)

「量子アルゴリズム」中山茂著 技報堂出版 2014 (ISBN 978-4765533430)

【成績評価の方法と基準】

レポート課題と講義貢献度20%、定期試験80%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プログラミング実習を行うので、貸与ノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we study basics of computation and logic. The series of lectures covers computational complexity, propositional logic, functional programming, and logic programming with Prolog.

In addition, basics of quantum computing and quantum programming is introduced. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short reports : 20%.

COT211KA-CS-212 (計算基盤 / Computing technologies 200)

コンピュータ構成と設計

李 亜民

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では RISC-V 命令セットアーキテクチャ、アセンブリ言語プログラム、シングル・マルチサイクル CPU のデータパスと制御ユニット設計、パイプライン CPU のデータパスと制御ユニット設計（内部フォワーディングとパイプラインストール）、整数乗除回路、浮動小数点演算装置FPU、メモリ、キャッシュ、仮想メモリ、TLB、入出力システム、コンピュータの性能評価と高性能コンピューティング（スーパースカラ、マルチスレッド、マルチコア、相互接続ネットワーク、スーパーコンピュータ）について学びます。

【到達目標】

コンピュータの物理的な仕組みと設計方法の理解。ハードウェアレベルのプログラミング言語であるアセンブラプログラミングについても学び、プロセッサの基本動作を理解します。さらに、シングルサイクル CPU、マルチサイクル CPU、パイプライン CPU、FPU、キャッシュ、TLB、マルチスレッド CPU、マルチコア CPU などの設計方法を理解します。そして、現代のコンピュータにおいて高速化の鍵となっている記憶階層についての理解、外部記憶その他の周辺装置や高性能コンピュータ構成と設計についても理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

RISC-V シミュレータ Rivasim (<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/rivasim/>) を使用して、命令の意味と使い方を理解します。コンピュータを構成するプロセッサ内部のデータの流れ（データパス）とその制御ユニットに関して、具体的な構成方法と設計の原理を理解します。さらに iverilog と gtkwave を使用してプロセッサを設計し動作検証シミュレーションを行います。講義の冒頭で、前回の課題について説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	命令セットアーキテクチャ（1）	命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（算術、論理、シフト演算命令）及び Rivasim シミュレーターの使い方
2	命令セットアーキテクチャ（2）	命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（関数の呼び出し、条件分岐、無条件ジャンプ、メモリ load、store 命令）
3	コンピュータの基本的な回路設計	回路図と Verilog HDL を用いた基本的な回路（バレルシフタや ALU など）設計
4	シングルサイクル CPU 設計（1）	シングルサイクル CPU の構成とレジスタファイルの設計とシミュレーション
5	シングルサイクル CPU 設計（2）	シングルサイクル CPU のデータパスと制御ユニットの設計とシミュレーション
6	シングルサイクル CPU 設計（3）	シングルサイクル CPU + メモリ + テストプログラム、整数乗除/剰余回路

7	マルチサイクル CPU 設計（1）	マルチサイクル CPU のデータパスの設計とシミュレーション
8	マルチサイクル CPU 設計（2）	マルチサイクル CPU の制御構造とコンピュータの設計とシミュレーション
9	パイプライン CPU 設計	パイプライン CPU（内部フォワーディングとパイプラインストール）の設計とシミュレーション
10	浮動小数点数と FPU 設計	IEEE 754 浮動小数点数と FPU（浮動小数点数の加減乗除と平方根の回路）の設計とシミュレーション
11	メモリ階層とその管理	メモリ階層（SRAM、DRAM、キャッシュ、仮想記憶、MMU、TLB）の設計とシミュレーション
12	入出力システム	入出力システム（入出力割込み、キーボードと VGA のインターフェースコントローラ）の設計とシミュレーション
13	性能評価と高性能コンピューティング	性能評価と高性能コンピューティング（スーパースカラ、マルチスレッド、マルチコア、相互接続ネットワーク、スーパーコンピュータ）
14	まとめとクイズ	まとめと筆記クイズ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。講義資料を事前に目を通すこと。また、レポート（宿題）を完成させて提出すること。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載

<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/lectures/cod/>

【参考書】

1. コンピュータの構成と設計：ハードウェアとソフトウェアのインタフェース RISC-V版, Morgan Kaufmann, 2017.
2. Computer Principles and Design in Verilog HDL, Wiley, 2015.

【成績評価の方法と基準】

課題レポート70%＋クイズ30%

【学生の意見等からの気づき】

課題の難易度を調整します。設計サンプルを追加します。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCをクラスに持参してください。

【Outline (in English)】

The objective of this lecture is to understand the fundamentals of the computer system and its design method. The contents of the lecture contain RISC-V instruction set architecture, assembly language programming, datapath and control unit design of single-cycle and multiple-cycle CPUs, design of pipelined CPU with internal forwarding and pipeline stall mechanism, memory, caches, virtual memory management, TLB (Translation lookaside buffer), input/output interface controller, interrupt, computer performance evaluation, superscalar, multithreading, multicore, interconnection network, and supercomputers. The CPUs will be designed in Verilog HDL and simulated with iverilog and gtkwave. Students will be expected to spend more than four hours studying each theme per week. Grading will be decided based on the homework (80%) and a quiz (20%).

PRI210KA-CS-351 (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報理論

尾花 賢

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の数学的定義および、エントロピーの概念、情報の圧縮の方法、通信路における誤り訂正の方法等を理解する。

【到達目標】

エントロピーの概念、および、情報理論における基本的な定理である情報源符号化定理、通信路符号化定理を理解するとともに、具体的な情報源符号化法や通信路符号化法(誤り訂正符号)の構成法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

情報とは何か、情報はどのように数学的に定義されるかを学ぶとともに、情報の符号化、情報通信の基礎理論を理解する。授業の理解を深めるため、講義の後半に適宜課題を解く時間を設ける。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報の概念とエントロピー	情報量の定式化、エントロピーの概念を理解する。
2	条件付きエントロピー・相互情報量	確率の基本的な性質の復習を行った後、条件付きエントロピー、相互情報量の概念を理解する。
3	エントロピー、条件付きエントロピー、相互情報量の復習	重要な概念である各種エントロピーに関して、演習問題を通して理解を深める。
4	クラフトの不等式	符号の瞬時復号可能性、一意復号可能性とクラフトの不等式について理解する。
5	情報源符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである情報源符号化定理を理解する。
6	情報源符号化法	具体的な情報源符号化法であるシャノン符号、ファノ符号、ハフマン符号を理解する。
7	ハフマン符号のコンパクト性, Elias符号	ハフマン符号のコンパクト性, および算術符号の一種であるElias符号を理解する。
8	符号構成法の復習	演習を通していくつかの重要な情報源符号化法に関する理解を深める。
9	通信路符号化のモデル	通信路符号化のモデルについて理解する。
10	通信路符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである通信路符号化定理を理解する。
11	誤り訂正符号の基礎	通信路符号化定理と関連の深い、誤り訂正符号の概念を理解する。

12	謝り訂正符号の例	ハミング符号、拡大ハミング符号の構成法と、その符号化法、復号法を理解する。
13	通信路符号化・誤り訂正符号の復習	演習を通して、情報源符号化法と誤り訂正符号に関する理解を深める。
14	情報理論と暗号	暗号通信のモデルと、完全秘匿性を有する暗号方式について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくこと。授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Webからの配布による。

【参考書】

情報理論 ー基礎から応用までー、中川聖一著 (近代科学社)

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度、課題の出来20%、定期試験80%によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義中に演習問題を提示することで理解を高める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は、担当教員の企業での暗号および情報セキュリティの研究開発に関する経験に基づき実施する情報の基礎理論に関する講義である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce basic concepts of information theory.

Learning objectives: You will learn mathematical definitions of information, the concept of entropy, methods of data compression, and error correction etc.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading Criteria: Short report & contribution to the class: 20%, Final exam: 80%

COT311KA-CS-242 (計算基盤 / Computing technologies 300)

オペレーティングシステム

山田 浩史

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーティングシステム(OS)の基本概念と実装技術，およびその内部構造についての基礎知識を学ぶ。OS は，裸のままでは扱いにくいハードウェアを抽象化し，より扱いやすい仮想的なコンピュータをユーザに見せるソフトウェアである。Linux や Windows 8 がその代表格である。OS はハードウェアとアプリケーションを繋ぐ要のような役割を担っており，コンピュータが動作する仕組みを知るには OS の理解が必須である。

【到達目標】

OS の概念，実装技術，および内部構造についての基礎知識を身につけることを目標とする。また，OS の理解を通じて，コンピュータの動作原理についての理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

OS の基本概念を講義していく。具体的には，プロセスやスレッド，スケジューリング，同期，仮想記憶，割り込み処理，ファイルシステムといった内容について講義を行う。また，進捗を見つつ，理解を深めるために適宜プログラミング演習を行ってレポートを課す。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ，授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	OS の基本概念について学ぶ。
2	I/O デバイスと割り込み	I/O デバイスや割り込みを OS がどのように制御するかについて学ぶ。
3	ファイルシステム(1)	OS のディスク管理方法について学ぶ。ファイルという考え方やファイルの管理方法について学ぶ。
4	ファイルシステム(2)	前回の続き。
5	システムコールと保護	システムコールの基本概念、OS によって達成される保護について学ぶ
6	プロセスとスレッド	プロセスとスレッドの基本概念、違いについて学ぶ。
7	演習(1)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。
8	スケジューリング	OS の CPU 管理方法について学ぶ。スケジューリングの基本概念について学ぶ。
9	相互排除と同期(1)	相互排除の基礎を学ぶ。クリティカルセクション、ロック等の考え方を学ぶ
10	相互排除と同期(2)	前回の続き。
11	演習(2)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。

12 仮想記憶(1)

OS のメモリ管理方法について学ぶ。仮想/物理アドレス，ページング，スワッピングについて学ぶ

13 仮想記憶(2)

前回の続き。

14 演習(3)

これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習時に課されたレポートを行う。本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

河野健二著，オペレーティングシステムの仕組み，朝倉書店
Abraham Silberschatz 著，Operating System Concepts 9th Edition.
詳解 Linuxカーネル 第3版，オライリージャパン

【成績評価の方法と基準】

レポート 50%，試験 50 %，出席で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習課題の解説分量を増やすようにする。

【その他の重要事項】

C 言語を用いたプログラミングをこなせること，および計算機アーキテクチャの基礎知識を必須とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basics of operating systems, such as their concepts, designs, and implementation. The operating system is a fundamental software layer that controls applications and underlying hardware. It abstracts bare-metal hardware and provides intelligent interfaces to applications.

【Learning Objectives】

You will learn basics of 1). concept of the operating system, 2). its abstraction of the hardware such as CPU, memory, and storages, 3). its policies and mechanisms for assigning hardware resources to applications. See the Curriculum maps.

【Grading criteria/Policy】

Report (50%) and paper test(50%).

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to spend four hours to pre/post-study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

COT311KA-CS-243 (計算基盤 / Computing technologies 300)

型システムと関数型言語

日高 宗一郎

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

型システムと関数型プログラミングの諸概念を代表的な言語である Haskell を用いて学ぶ。Functor, Applicative, Monad, Monoid などの概念を多数の具体例の計算を通して理解する。

【到達目標】

学生は関数型言語の型システムとその上で実行される入出力や状態をもつ計算の仕組みを理解し、副作用のない純粋な関数型の計算から副作用を隔離する機構である Monad を適切に使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Haskell によるプログラミング体験を通じて型システムの実地を知る。型推論の意義と問題点を理解する。授業中にプログラミングを行うため PC を持参する必要がある。授業中の議論に受講生の積極的な参加を求める。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と方法を説明する。履修すると判断した場合は次回までに Haskell の開発環境を構築しておく。 教科書 chapter 1.
第2回	Believe the Type	Type variable, type class を学ぶ。
第3回	Syntax in Functions	Pattern matching, guards, where, let, case などの用法を学ぶ。
第4回	Hello Recursion!	Recursion に親しむ。Quick sort を例にとる。
第5回	Higher Order Functions	Curried function, lambda expression, fold, (\$) などについて学ぶ。
第6回	Modules	Module の扱いと作成方法を学ぶ。
第7回	Making Our Own Types and Type classes	新しい type や type class の作成方法を学ぶ。Functor という type class に触れる。型の型である Kind を理解する。
第8回	Input and Output	Pure な世界と副作用のある世界の分離を monad 機構で実現する。
第9回	More Input and More Output	乱数の扱いに触れる。簡単なゲームを作成する。
第10回	Functionally Solving Problems	逆ポーランド電卓、経路探索などへの簡単な応用。
第11回	Applicative Functors	Functor をさらに強化する機構について学ぶ。
第12回	Monoids	Monoid は様々な場面で登場する計算パターンであることを学ぶ。
第13回	A Fistful of Monads	Monad 則について学ぶ。

第14回 まとめ

期末試験で取り上げる題材をもとに全てのトピックのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題への取り組み。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Learn You a Haskell for Great Good!,

Miran Lipovaca,

No Starch Press.

Kindle 版もある。PDF is freely available.

【参考書】

Simon Thompson, Haskell - the craft of functional programming (3rd edition),

Addison Wesley

その他、授業内で指示

【成績評価の方法と基準】

期前レポート(30%), 期末試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業担当者変更によりフィードバックできませんでした。また、アンケート結果では特に意見はありませんでしたが、講義後等に受けた質問を通じて理解度を確認し、授業に反映させます。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を授業中に使用する

【Outline (in English)】

We study a type system and functional programming with Haskell. The concepts of functor, applicative, monad, and monoid are treated with concrete examples. Students will be able to write their own functors and monads. They will also be able to trace recursive calls typical in the "fold" design pattern. All these abilities are checked by the term examination (50%) and the weekly assignments (50%), in each of which an average student spends four hours.

COT311KA-CS-244 (計算基盤 / Computing technologies 300)

ソフトウェア工学

栗田 太郎

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトウェア工学の基本概念とその重要性を理解した上で、ソフトウェア開発プロセス、アジャイル開発とスクラム、要求の獲得と分析、要求の仕様化、仕様書の記述、形式手法と形式仕様記述、検証と妥当性確認、プログラムの設計と実現、レビューとテスト、プロジェクトと品質のマネジメント等について学び、実践的なソフトウェア開発やシステム開発、他者と協働するチーム開発に向けた基礎的な力を養成する。

【到達目標】

本授業を受講すると、ソフトウェア工学の基本事項、様々な開発プロセス、開発の各工程における様々な技法、背景にある考え方等について理解し、その重要性も含めて他者に説明できるようになる。そして、受講後のソフトウェア開発において、様々な有機的な知識に基づいた、開発の特性に合わせた技法の組み合わせや開発計画の立案、実践等を行い始めることができるようになる。さらに、ソフトウェア工学やシステム工学に関する発展的な事項について独習を行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、ソフトウェア工学についての基本的な知識や発展的な事項、とくに複数人で行う実開発の理想と現実について学ぶ。さらに、授業時間や授業時間外における演習、演習課題、授業時間における受講生同士の議論・対話により、設計に関する知識への理解を有機的に深めながら、様々な技法の実践、仕様書をはじめとする文書の品質、品質やプロジェクトのマネジメント、様々なトレードオフ等について考えていく。

また、受講生が課題やリアクションペーパーに書いた質問や意見を、講師が授業時間において受講生のプライバシーに配慮しつつ紹介・回答することで、疑問点を解消したり、クラス全体で学びを深めたりする。

授業は、基本的にはオンラインで行うが、第3回、第8回、第13回は対面で実施する予定である。対面授業の実施に関する最終的な決定は初回の授業までに行い、受講生に伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ソフトウェア工学の概要	オリエンテーションの後、ソフトウェア工学の概要と歴史。技術者と倫理、第2回以降で取り扱う事項の紹介を行う。
2	ソフトウェア開発プロセス 1	ソフトウェア開発プロセスの概要、その種類と特性について解説する。
3	ソフトウェア開発プロセス 2	プロセスの開発と改善に関する演習を行う。各自がデザインしたプロセスモデルを、グループでレビューし合ったり、議論したりする。
4	アジャイル開発プロセス 1	アジャイル開発とスクラムの基礎について解説する。

5	アジャイル開発プロセス 2	スクラムに関する演習を行う。振り返り等の関連事項についても紹介する。
6	要求工学 1	要求工学の概要を紹介するとともに、システムおよびソフトウェアの開発の全体像と要求工程との関係性について解説する。要求を獲得・分析するための様々な技法について説明する。関連して、人間中心設計についても紹介する。
7	要求工学 2	第7回までの講義内容に関する演習を行う。グループで討議し、要求獲得における課題を整理していく。
8	ワークショップ 1	要求の仕様化と仕様の記述・検証について解説する。検証と妥当性確認の違いについても述べる。
9	仕様書の記述と検証	厳密な仕様を記述するための形式手法、形式仕様記述言語等について事例を交えて解説する。ソフトウェアの設計、実現とテストに関する技法や課題について説明する。レビューについても触れる。
10	形式手法と形式仕様記述	プロジェクトマネジメントとシステムの品質について説明する。セーフティやセキュリティについても触れる。
11	ソフトウェアの設計、実現とテスト	第12回までの講義内容に関する演習を行う。グループワークを通して、コミュニケーションの課題を体験・考察する。
12	プロジェクトと品質のマネジメント	発展的な内容について紹介するとともに、授業全体の振り返りとまとめを行う。
13	ワークショップ 2	
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回開始以降、授業資料を用いて、授業後の復習、他受講生との議論・対話の内容の整理、授業前の準備学習、演習課題への取り組み等を行う。本授業の予習・復習等の時間は、1回につき、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。授業にて資料を提示する。

【参考書】

Ian Sommerville: Software Engineering (10th Edition), Pearson (2015).
玉井 哲雄: ソフトウェア工学の基礎 改訂新版, 岩波書店 (2022).
Roger S. Pressman, Bruce R. Maxim: 実践ソフトウェアエンジニアリング (第9版), オーム社 (2021).
中谷 多哉子, 中島 震: ソフトウェア工学, 放送大学教育振興会 (2019).
荒木 啓二郎, 張 漢明: プログラム仕様記述論, オーム社 (2002).
マイケル・ジャクソン: ソフトウェア要求と仕様 - 実践, 原理, 偏見の辞典 -, エスアイビー・アクセス (2014).
SQuBOK 策定部会: ソフトウェア品質知識体系ガイド (第3版) - SQuBOK Guide V3 -, 日科技連出版社 (2020).

【成績評価の方法と基準】

平常点: 30%
レポート課題: 30%, 最終課題: 40%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業，対面授業のいずれの場合においても閲覧しやすい，また，授業の後に復習や参照がしやすい配付資料を作成する．

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具およびノート PC 等

【その他の重要事項】

正しい知識と基礎的な実践力を身につけると同時に，正解がないことに関して，他受講生との対話を通して，考察を深めていくことが重要である．

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the basic concepts and various techniques for software engineering, including software development process, agile development and scrum, requirements elicitation and analysis, description of specification, formal methods and formal specification, verification and validation, program design and implementation, review and testing, project management, and quality management. Students are expected to learn the basics of these issues and techniques, and to build up their ability to apply them in practice.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Explain what is written in the course outline.
2. Plan and use software engineering methods in small projects.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%

Short reports: 30%

In-class contribution: 30%

COT311KA-CS-311 (計算基盤 / Computing technologies 300)

並列分散処理

八巻 隼人

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、そして今後の情報基盤アーキテクチャの根幹を成す「並列処理」と「分散処理」についてその基礎から学ぶ。スマートフォンや携帯ゲーム機からパソコン・スーパーコンピュータに至るまで、現在使われている殆どの計算機システムは、複数の処理列を同時に実行させて処理を進める並列分散処理の構成になっている。本講義では、並列・分散システムの基盤技術を俯瞰することにより、ハードウェアからOS・アプリケーションに至るまでの様々なレイヤにおける並列・分散処理について学ぶ。

【到達目標】

本講義では、並列分散処理に関わるハードウェアやソフトウェアがいかにして並列化を実現しているか、またそれに伴う諸問題についても理解することを最終的な目標とする。その過程で、プロセス・スレッドレベルでの簡単な並列プログラミング手法についても修得する。学生は本講義を通じて、OSやプロセッサ、またよりスケールの大きいクラスタレベルの並列化技術について知識を得るだけでなく、プロセス・スレッドのプログラミング技術を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は主に配布資料を用いた講義形式により行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

進み具合に応じて数回の理解度チェック課題を課す。

また中間課題として課す演習においては、並列分散処理ライブラリ等を利用したプログラミングを行うことから、C/C++の基本的なプログラミング知識を有することを前提とする。

試験は期末のみを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	並列分散処理の目的と歴史的経緯	並列分散処理についてのイントロダクション。 それらの歴史的な技術の変遷を辿り技術領域を明らかにする。
第2回	OSレベルの並列化1（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	OSが行う並列処理技術として、プロセス・スレッドを用いたマルチタスク実行が挙げられる。 まずプロセスとスレッドの概念について学ぶ。
第3回	OSレベルの並列化2（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	第2回に引き続き、プロセスとスレッドを理解する上で欠かせない、OSの仮想メモリ技術について学ぶ。
第4回	OSレベルの並列化3（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	プロセスとスレッドをユーザが生成するためのプログラミング技術について学ぶ。
第5回	OSレベルの並列化4（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	共有メモリ型並列計算における共有メモリアクセス、メモリー貫性の問題について、スレッドを例として挙げながら学ぶ。

第6回	分散メモリ型並列計算1（MPI）	分散メモリ型並列計算のモデルとMPI（Message Passing Interface）について学ぶ。
第7回	分散メモリ型並列計算2（MPI）	分散メモリ型並列計算の実装方法としてOpen_MPIを用いたプログラミングについて学ぶ。
第8回	命令レベルの並列化1（VLIW、スーパースカラ）	プログラム実行を高速化する技術として、CPUが命令レベルで実行を並列化するスーパースカラ等の技術がある。まず、命令の並列実行と命令依存の関係について学ぶ。
第9回	命令レベルの並列化2（VLIW、スーパースカラ）	スーパースカラやVLIWといった複数命令を同時実行する技術、またそれらを効率化するコンパイラ技術等について学ぶ。
第10回	ネットワークと通信プロトコル1	分散システムで欠くことのできないネットワークとその通信プロトコルについて学ぶ。本回では主にネットワークのトポロジと、それによる性能差について学ぶ。
第11回	ネットワークと通信プロトコル2	分散システムで欠くことのできないネットワークとその通信プロトコルについて学ぶ。本回では主に通信プロトコルについて学ぶ。
第12回	高信頼化・高性能化技術（RAID）	よりスケールの大きい分散システムとしてストレージ機器の並列分散化であるRAIDを例に挙げ、システムの信頼性について学ぶ。
第13回	時刻同期（時計、スナップショット）	分散システムにおける時刻同期の難しさと、それによる問題、解決策について学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、並列分散処理に関する様々な技術をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は講義前にWeb配布するので、必要に応じて予習しておくこと。

前述したように数回のレポート課題を課す予定なので、その場合にはしっかりとレポートを作成すること。本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキスト、参考書は指定しない。講義資料は講義前にHoppii上にアップロードする。

【参考書】

参考書は必要があれば講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを60%、中間レポート・出席レポートを含む平常の学習状態や授業への積極性を40%の配点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けるので気軽にメールすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In recent years, most computer systems, such as mobile phones, PCs, and supercomputers, use technique of parallel and distributed processing for high-speed and multi-task processing. This course introduces the basic techniques of "parallel processing" and "distributed processing" for various layers (from a hardware layer to an OS/application layer).

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand how parallel and distributed systems are realized and performed and to be able to point out problems in these systems.

[Learning activities outside of classroom]

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policies]

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and in-class contribution (40%), term-end examination (60%).

COT211KA-CS-206 (計算基盤 / Computing technologies 200)

情報・ネットワークセキュリティ入門

青木 慧、和田 紘帆、前田 智紀

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、情報システムやネットワークシステムおよびそれらを通じて提供される様々なサービスに存在する脆弱性やリスク、それらに対応するためのセキュリティ対策の基礎を解説する。情報システムやネットワークシステムの利用者および開発者として、情報セキュリティをどのように考慮すべきかを学ぶ。

【到達目標】

情報システムが私たちの日々の暮らしを支える社会基盤となった情報化社会で、安全で快適な生活をおくるための、また社会人として情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に駆使し活動できるための、基本的知識の習得と対策方法の理解を目標とする。更に、主要なマルウェアや攻撃手法などの特徴を説明でき、それらの被害にあわないための対策や留意点について説明できることを、目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まずは、情報化時代に生きる学生、社会人として必要な情報セキュリティに関する知識、被害にあわないための情報セキュリティ対策の基本について、(独)情報処理推進機構がまとめたテキストをベースに説明する。

次に、情報セキュリティ対策を構成する主要な情報セキュリティ要素技術の基本的メカニズムを説明する。

最後に、実際の情報サービスを構成する、サーバー、ネットワーク、クライアントのそれぞれが、実際に直面する脅威の説明とその対策技術の概要について説明する。

授業中に課した課題等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報セキュリティリテラシー（1）	「ガイダンス」の説明 ・本授業の概要、目的、目標、進め方、レポート、試験の扱いなど 「今日のセキュリティリスク」の説明 ・Webサイト改ざん、フィッシング詐欺、ビジネスメール詐欺、ランサムウェア、闇バイト、テレワーク 「情報セキュリティの基礎」の説明 ・機密性、完全性、可用性 ・情報資産、脅威、脆弱性、インシデント、リスク

2	情報セキュリティリテラシー（2）	「見えない脅威とその対策」の説明 ・マルウェア ・共通のセキュリティ対策 ・標的型攻撃と誘導型攻撃への対策 ・フィッシング詐欺、ワンクリック請求、スマートフォン、無線LANへの対策
3	情報セキュリティリテラシー（3）	「組織の一員としての情報セキュリティ対策」の説明 ・情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS） ・PDCAサイクル ・情報セキュリティの心得
4	情報セキュリティリテラシー（4）	「もっと知りたいセキュリティ技術」の説明 ・アカウント、ID、パスワード ・攻撃手法 ・ファイアウォール ・暗号化とデジタル署名
5	情報セキュリティリテラシー（5）	「情報セキュリティ関連の法規と制度」の説明 ・国際標準ISO/IEC 27000シリーズ ・国際標準ISO/IEC 15408 ・刑法、不正アクセス禁止法、電子署名法、個人情報保護法、サイバーセキュリティ基本法 ・著作権法、不正競争防止法、迷惑メール関連法 「暗号技術体系、AESなどの共通鍵暗号、RSAなどの公開鍵暗号」の説明 ・暗号とは ・共通鍵暗号（ストリーム暗号、ブロック暗号） ・公開鍵暗号（RSA暗号） 「認証、改ざん検証」の説明 ・ハッシュ関数、メッセージ認証符号、デジタル署名
6	セキュリティ要素技術（1）	「公開鍵基盤（PKI）とその応用」の説明 ・公開鍵基盤（PKI）とは ・Online Certificate Status Protocol ・電子証明書
7	セキュリティ要素技術（2）	「バイオメトリクス認証技術」の説明 ・バイオメトリクス認証とは ・様々なバイオメトリクス認証（指紋認証、顔認証など）
8	セキュリティ要素技術（3）	「耐タンパー性、情報ハイディング技術」の説明 ・暗号技術における鍵管理 ・耐タンパー性とは ・秘密計算、秘密分散、マルチパーティ計算 ・電子透かし、ステガノグラフィ
9	セキュリティ要素技術（4）	

10	サーバーのセキュリティ (1)	「サーバー側の基本的な対策」の説明 ・セキュリティ対策の分類 ・サーバーの適切なアクセス制御 ・サーバーの情報漏えい防止 ・サーバーの情報の完全性保証 ・物理的アクセス制御 (入退室管理)
11	サーバーのセキュリティ (2)	「Webサーバーに関する脅威とその対策」の説明 ・Webサーバーとは ・Webアプリケーション開発とセキュア開発 (バッファオーバーフロー、クロスサイトスクリプティング対策) ・フィッシング詐欺、ファームウェア ・安全なWebサイトをつくるために
12	ネットワークのセキュリティ (1)	「TLS、VPNなどのネットワークセキュリティ技術」の説明 ・インターネットとは ・IPv4、IPv6 ・SSL (Secure Socket Layer)、TLS (Transport Layer Security) ・VPN (Virtual Private Network) ・無線LANセキュリティ
13	ネットワークのセキュリティ (2)	「不正アクセスとその対策」の説明 ・不正アクセスとは ・ファイアウォール、IDS (Intrusion Detection System) ・サービス妨害とその手法・対策
14	クライアントのセキュリティ	「クライアント側の基本的な対策」の説明 ・クライアントPCの課題 ・クライアントPC向けマルウェア ・クライアントPCにおける情報漏えい ・シンクライアント

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①テキストに指定した「情報セキュリティ読本 七訂版 -IT時代の危機管理入門-」の内容は、社会人には必須の情報セキュリティの常識、是非熟読していただきたい。
- ②TV、新聞等で報道される情報セキュリティに関する事件・事故・課題などについても関心を持ち、現社会の状況を理解しておいていただきたい。
- ③本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ①「情報セキュリティ読本 七訂版 -IT時代の危機管理入門-」、(独)情報処理推進機構著、実教出版発行、ISBN 978-4-407-36670-9
- ②講義で使用する資料 (各回の講義前にネット経由配布)

【参考書】

- ①「情報セキュリティ教本 改訂版 -組織の情報セキュリティ対策実践の手引き-」、(独)情報処理推進機構著、実教出版発行、ISBN 978-4-407-31696-4
- ②「図解即戦力 暗号と認証のしくみと理論がこれ1冊でしっかりわかる教科書」、光成滋生著、技術評論社発行、ISBN 978-4-297-12307-9
- ③「デジタル署名と暗号技術 第2版: 安全な電子商取引のためのPKI(公開鍵基盤)、セキュリティシステム、法律基盤」、ウォーウィック フォード著、桐原書店発行、ISBN 978-4894715127
- ④「よくわかる生体認証」、日本自動認識システム協会著、オーム社発行、ISBN 978-4274507267

- ⑤「サイバーセキュリティにおける生体認証技術」、瀬戸 洋一著、共立出版発行、ISBN 978-4320120495
- ⑥「電子透かし技術 -デジタルコンテンツのセキュリティー-」、画像電子学会著、東京電機大学出版局発行、ISBN 978-4501323202
- ⑦「情報ハイディングの基礎 ユビキタス社会の情報セキュリティ技術」、松井 甲子雄著、森北出版発行、ISBN 978-4627828315
- ⑧「安全なウェブサイトの作り方」、独立行政法人情報処理推進機構著、独立行政法人情報処理推進機構発行、<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/websecurity/about.html>

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験(100%)で評価する。ただし、合格基準に若干満たない場合 (10点まで) は、授業での学習状況や参加度を平常点として加味して評価しなおす (最大60点)。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生が授業に集中しやすい環境づくりを意識する
- ・配布資料はPDFファイルに統一する
- ・教科書をベースに授業方針や授業の位置づけ (教科書との対応や補完部分) を学生が理解しやすいよう工夫する
- ・授業理解向上のため、授業中・授業外の課題を用意し、参加しやすい仕組みを提供する
- ・授業での学習状況や課題などへの参加度合いを成績評価に考慮する

【学生が準備すべき機器他】

教育支援サーバー (WebClass、CIS Moodle) 等を資料配布、課題、期末試験等に利用する。
授業内の演習や期末試験では、貸与パソコンを利用する。

【その他の重要事項】

本授業は、担当教員の企業での情報・ネットワークセキュリティの研究開発に関する経験に基づく実践的なセキュリティ技術に関する講義である。
実務経験

- ・制御システムセキュリティに関する研究開発
- ・脆弱性検査の実施及び研究開発
- ・ペネトレーションテストの実施及び研究開発
- ・社内外向けセキュリティ教育の作成・講師

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces the basics of security against vulnerabilities and risks that exist in information systems and network systems to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire security skills as users and developers of information systems and network systems.

Learning Objectives:

The goals of this course are to acquire basic knowledge of security as user and developer in IT society.

Furthermore, the goal is to be able to explain the characteristics of major malware, attack methods, and countermeasures.

Learning activities outside of classroom:

1. Students will be expected to read the textbook thoroughly, because it includes a common sense of information security and essences for working adults.
2. Students will be expected to take an interest in incidents, accidents, and issues related to information security reported on TV, newspapers, etc., and understand the current situation of society.
3. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

COT211KA-CS-203a (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング2(Java)

松下 智

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／4単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムの構築を目的として、プログラミング1 (Java)の発展的観点から、Java 言語によるプログラミングを学ぶ。

【到達目標】

プログラミング1 (Java)の発展的観点から、Java 言語によるプログラミングを理解する。特にJava 言語の発展的機能とオブジェクト指向プログラミングの発展的知識を修得する。さらに具体的な情報システムを構築する発展的なプログラミング技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Java 言語の発展的機能、オブジェクト指向プログラミングの発展的知識として、型推論、レコード、ジェネリクス、ラムダ式、ストリーム、正規表現等を扱う。これらに並行して、データベース、人工知能、形式言語等に関連する情報システムを構築する課題を課す。授業で課した課題等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Javaの基礎再説	授業のガイダンス、Java 言語の基礎の再説
2	型推論	型推論の利用
3	カプセル化	カプセル化の利用
4	復習(1)	復習と発展課題(1)
5	再帰(1)	再帰の利用(1)
6	再帰(2)	再帰の利用(2)
7	ジェネリクス(1)	ジェネリクスの利用(1)
8	復習(2)	復習と発展課題(2)
9	復習(2)(続き)	発展課題(2)の続き
10	ジェネリクス(2)	ジェネリクスの利用(2)
11	ラムダ式とストリーム	ラムダ式とストリームの利用
12	正規表現	正規表現の利用
13	復習(3)	復習と発展課題(3)
14	まとめ・成果発表	授業内容のまとめと発展課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムを作成すること。準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

川場隆, 新わかりやすいJava—オブジェクト指向徹底解説第2版, 秀和システム, 2022. ISBN 9784798065007 (電子版も可)

他にも必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題(30%)と試験(60%)に加え、平常点(10%)を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを使用する。

【その他の重要事項】

プログラミング1 (Java)の講義内容を理解していることを前提とする。

【Outline (in English)】

Students will learn programming in the Java language with the view of constructing information systems. The goal of this course as the successor of Programming 1 (Java) especially includes acquiring advanced knowledge of Java, advanced knowledge of object-oriented programming, and advanced technology for constructing concrete information systems. The students are expected to spend typically 8 hours for preparation, review, and assignments for each class meeting. Grading will be decided based on assignments (30%), the final examination (60%), and in-class contribution (10%).

HUI212KA-CS-231 (人間情報学 / Human informatics 200)

ヒューマンコンピュータインタラクション

黒木 帝聡

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人とコンピュータの対話とその媒介手段についての理解を目的として、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)とユーザインタフェース(UI)を学ぶ。

【到達目標】

UIの設計・開発・評価に必要な考え方を身に付け、実際にグラフィカルユーザインタフェース(GUI)のプログラミングと評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

人とコンピュータの対話を意味するHCIとその媒介手段であるUIについて学ぶ。最初にHCIの基本として、その概要と歴史、人のインタフェース特性、人と人工物のインタフェースを学ぶ。次に具体的なUIに関して、現在一般的なUIのデバイスとハードウェア、代表的UIであるGUIの概要を学んだ後、イベント駆動とオブジェクト指向の考え方に基づくGUIのプログラミングに関する演習を行う。GUIのプログラミングにはPython言語を用いる。さらにUIの使いやすさの評価方法を学んだ後、先の演習で作成したGUIの評価に関する演習を行う。最後にGUIに限らないHCIの様々な手法と今後のHCIについて学ぶ。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HCIとは？	授業のガイダンス、HCIの概要と歴史
2	人のインタフェース特性	人の感覚、言語能力、記憶、情報処理
3	人と人工物のインタフェース	アフォーダンス、ユーザモデル、デザインモデル
4	UIのデバイス	キーボード、マウス、ディスプレイ等のデバイス
5	UIのハードウェア	1ビット・多ビットの入出力、シリアルフィン多フェース、ディスプレイドライバ、入出力サブシステム
6	GUI	GUIの画面、特徴、短所と対策
7	GUIプログラミング	イベント駆動とオブジェクト指向によるGUIのプログラミング
8	GUIプログラミング演習	GUIプログラミングの演習
9	UI評価	UIの使いやすさの評価方法
10	UI評価演習(1)	先の演習で作成したGUIの評価
11	UI評価演習(2)	先の演習で作成したGUIの評価(続き)
12	HCIの手法	GUIに限らないHCIの手法
13	次世代UI	GUIに限らない今後のHCI
14	まとめ・成果発表	授業内容のまとめと課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムとレポートを作成すること。

準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

椎尾一郎, ヒューマンコンピュータインタラクション入門, サイエンス社, 2010. ISBN 9784781912608

他に担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題(30%)と試験(60%)に加え、平常点(10%)を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを使用する。

【Outline (in English)】

Students will learn human-computer interaction (HCI) and user interfaces (UIs) with the view of understanding how and by what means humans and computers interact. The goals of this course especially include acquiring the knowledge and skill of the design, development, and evaluation of UIs and becoming able to actually develop and evaluate graphical user interfaces (GUIs). The students are expected to spend typically 4 hours for preparation, review, and assignments for each class meeting. Grading will be decided based on assignments (30%), the final examination (60%), and in-class contribution (10%).

COT211KA-CS-241 (計算基盤 / Computing technologies 200)

データベース

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語SQLの問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと3層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。

14 ビッグデータとNoSQLおよびまとめ

ビッグデータとNoSQLについて学ぶ。
本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。

課題が指示された場合は、課題レポート提出。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門[第2版]

増永良文著

サイエンス社

(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第3版, サイエンス社 (2017)

吉川 正俊, IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験(30%)、定期試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

COT211KA-CS-241 (計算基盤 / Computing technologies 200)

データベース

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語SQLの問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと3層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。

14 ビッグデータとNoSQLおよびまとめ

ビッグデータとNoSQLについて学ぶ。
本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。

課題が指示された場合は、課題レポート提出。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門[第2版]

増永良文著

サイエンス社

(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第3版, サイエンス社 (2017)

吉川 正俊, IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験(30%)、定期試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

HUI213KA-CS-221（人間情報学 / Human informatics 200）

人工知能

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。
人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。
計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。
例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に着けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでももらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用AI・特化型AI等についての知識を学びます。
第2回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第3回	探索プログラム	探索手法を実際のプログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第4回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。

第5回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や $\alpha\beta$ 枝刈り法などについて学びます。
第6回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。
第7回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第8回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第9回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第10回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原理を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第11回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第12回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第13回	命題論理、述語論理	命題論理や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第14回	まとめ、人工知能研究の展望	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。特に、社会での活用が広がる生成AIについては、基礎知識と今後の展望について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。
教科書として指定したテキスト、Web上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第2版
谷口忠大
講談社、2020年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第2版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を40%、期末試験の成績を60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用(任意項目)

ネットワークを利用

演習にはノートPCを利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence.

Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence necessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria / policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

HUI213KA-CS-221（人間情報学 / Human informatics 200）

人工知能

松下 智

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：CD クラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。

人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。

計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。

例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでももらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用AI・特化型AI等についての知識を学びます。
第2回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第3回	探索プログラム	探索手法を実際のプログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第4回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。

第5回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や $\alpha\beta$ 枝刈り法などについて学びます。
第6回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。
第7回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第8回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第9回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第10回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原理を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第11回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第12回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第13回	命題論理、述語論理	命題論理や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第14回	まとめ、人工知能研究の展望	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。特に、社会での活用が広がる生成AIについては、基礎知識と今後の展望について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第2版

谷口忠大

講談社、2020年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第2版

Stuart Russel, Peter Norvig

共立出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を40%、期末試験の成績を60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用(任意項目)

ネットワークを利用

演習にはノートPCを利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence.

Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence necessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria / policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

COT311KA-CS-204 (計算基盤 / Computing technologies 300)

プログラミング3(Java)

馬 建華

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／4単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To learn important programming techniques for making practical information systems using Java APIs of GUI, file operations, multi threads, socket-based communications, and Web server-client programming.

【到達目標】

Students should master basic knowledge and skills for practical GUI implementation, file I/O programming, file text programming, thread programming, typical animation control, basic server-client network programming, and typical Web programming techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

The course will start from GUI programming using Java Swing and JavaFX, then file I/O operations and network programming using sockets and threads, to Web programming using Java Servlet and JSP. When learning the associated programming knowledge, students will do related programming drills, and complete many programming exercises. In each class, students are requested to make practice of given programs and then complete assignments within a week. The performance and problems in students' assignments will be feedbacked to students in the next classes. Students are encouraged to ask questions and inform their problems encountered in doing programming drills in class, and send their questions after class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Basic Java programming review and course teaching guidance
2	GUI Basic	Simple GUI by Swing and AWT
3	GUI Event	Java event handling and graphic panels
4	GUI Component and Layout	Various Java Swing components and layouts
5	GUI by JavaFX (I)	JavaFX components and layouts
6	GUI by JavaFX (II)	JavaFX controls and events
7	GUI and Animation	GUI review, and GUI-based animation programs
8	File Operations	File I/O, streams, read and write
9	Multi-Thread Programming	Thread, multi threads, thread programming, and animations
10	Basic Network Programming	HTTP, Web server access APIs, and socket communications

11	Threaded Network Programming	Server-client sockets programmed using threads
12	Web Programming - Servlet	HTML, HTTP, servlet APIs, session, and program
13	Web Programming - JSP	Java sever pages, JSP APIs, and JSP programming
14	General Review	Review of GUI, file, thread, and network programming

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will do preview before class and do review and assignment after class. Eight hours will be necessary to do the preview, review and assignment/homework in each week.

【テキスト（教科書）】

Lecture notes and programs made by this instructor.

【参考書】

高橋麻奈, やさしいJava 活用編 第5版, 2016.

【成績評価の方法と基準】

Overall evaluation (100%) will be based on

- learning performance (10%)
- programming assignments (40%)
- term exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Give more explanations and hints in doing homework.

【学生が準備すべき機器他】

Bring Note PC to the class.

【その他の重要事項】

Submit homework before the deadline.

Ask the teacher and TAs when having any questions in teaching content and programming.

【Outline (in English)】

In this course, students will learn programming knowledge and techniques covering GUI with Swing and JavaFX, basic animation programming, file operations, thread usage, socket programming for file transfer and group communications, and Web programming with servlet and JSP. In each class, this instructor will first teach necessary programming techniques together with related programs, and then students will do programming drills. Students will be requested to complete the program assignment after each class. At least eight hours must be spent each week according to university criterion policy. Overall evaluation (100%) will be based on learning performance, programming assignments and term exam.

COT211KA-CS-342 (計算基盤 / Computing technologies 200)

コンピュータネットワーク

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を支える重要なインフラストラクチャの一つであるインターネットについて、その仕組みと構成を学ぶ。ネットワークは独立したシステムが相互に情報をやり取りすることから、ハードウェアからアプリケーションに至るまで様々なところで取り決め（プロトコル）がある。ここでは、その個々の機能を理解すると同時に、取り決めとなるプロトコルとの関係にも触れる。

【到達目標】

現在のインターネット社会を支える TCP/IP を中心に、その仕組みとアプリケーションとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では Internet の仕組みについて、まず、アプリケーション側から理解をすすめて、socket API などのアプリケーションプログラミングの観点から見たネットワークを理解する。さらに、Ethernet, WiFi, 5G といったネットワークを構成するハードウェアについても学び、特定のハードウェアに依存しない、インターネット層の IP やトランスポート層プロトコルの中心である TCP へと学習を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ネットワークとは何か？	通信とその目的を考え、ネットワークの基本的な考え方を学ぶ
2	インターネットの概観	要素技術を理解する前提として、インターネット技術を概観する
3	アプリケーション層：WWW	アプリケーションの挙動の典型例として Web 技術を学ぶ
4	アプリケーション層：DNS, Mail	DNS による名前解消など通信の基本となるアプリケーションを知る。また他のアプリケーション通信についても触れる。
5	ネットワーク層プロトコル：IP	インターネットの通信の核をなす IP の基礎を学ぶ
6	ネットワーク層プロトコル：IPv6/ICMP	現在移行が進みつつある IPv6 について学ぶ
7	トランスポート層プロトコル：TCP の基礎	端末間の通信環境を提供するトランスポートプロトコルの代表である TCP の基礎について学ぶ
8	トランスポート層プロトコル：フロー制御と輻輳制御	TCP の重要な機能である、フロー制御と輻輳制御について学ぶ
9	トランスポート層プロトコル：UDP	様々な場面で活用される UDP について学ぶ
10	Socket	プログラムからみたネットワークインタフェースである Socket をの概念とそれを使ったプログラミングを学ぶ
11	通信を支えるメディア	通信の基盤となるメタル線・光ファイバ・電波などの通信メディアについて知る。

12	有線ネットワーク：Ethernet	広く使われている有線ネットワークである Ethernet について学ぶ
13	無線ネットワーク：WiFi/5G	WiFi や 5G といった無線通信技術について学ぶ
14	まとめ	全体を概観してまとめの話をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

課題を課した週についてはメッキリまでに終わらせて提出すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は用いず、講義資料を投影する。

必要と考えられる部分は講義後に CIS Moodle から提供するが、基本的にノートを取って内容を把握すること。

【参考書】

講義中にも適宜紹介するが、必要と思う場合は以下のものを薦める。
・J.Kurose, K. Ross, "Computer Networking –Top-Down Approach–", Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn about the Internet, one of the key infrastructures in the current society, its structure and configuration. Computer networks exchanges information between independent systems, thus there are some specific protocols in various layers of the system from hardware to applications. This lecture is designed to understand their individual functions and the relationship with the protocols for each.

[Learning Objectives]

Students expected to understand core concepts of Internet, its mechanism and relation ship between application and protocol layers.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of exams and reports are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT311KA-CS-343 (計算基盤 / Computing technologies 300)

サービスコンピューティング

松下 智

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネット上に展開される様々なサービスと、それを支えるWebシステムについての各種の基本技術を学び、実サービス構築で求められるセキュリティ技術、脆弱性対策、セッション管理、データ表現方式について理解する。

手元のPC上で簡単なWebサイトを動作させながら個々のWeb技術の理解を深める。

さらに、最近のサービス事例を通じて、サービス改善やサービス創出の課題理解に役立つ、顧客体験の視点、社会的受容性、情報技術の考え方の基礎を身につける。

【到達目標】

Webシステムの基本技術について理解し、HTTP、HTML、CSSなどの役割を説明できる。

WebシステムにおけるブラウザとWebサーバの役割、サーバ構築方法、ブラウザ操作言語、Webセキュリティ等の主要な技術について説明できる。

Webシステムにおけるサービス構成方法について説明できる。クラウドコンピューティングに代表される最新のサービスコンピューティング技術について基本部分を説明できる。

様々なサービスの実情、課題、サービスモデルについて基本部分を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Webシステムの仕組みを、HTMLやプログラミング言語を用いて実装を交えて説明する。また、実際にオープンソースのさまざまなツールを用いて簡易のWebシステムの動作確認による演習を行う。様々なサービス事例の紹介を通じて、その背景(課題等)と技術の関係を知ってもらう。

各自の理解度を知るために、授業内の小テスト等を活用する。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サービスとは何か	サービス視点、顧客体験視点の重要性、およびサービス産業の動向やIT(情報技術)との関係について紹介する。
第2回	Webの基本技術 1	Webを支える基本技術として、WebサーバからWebブラウザに情報が表示されるまでの仕組みについて学ぶ。
第3回	Webの基本技術 2	Webサーバの基本的なアーキテクチャについて学ぶ。また、オープンソースのWebサーバを立ち上げる。
第4回	Webの基本技術 3	簡単なWebサイト構築と動作確認を行う。
第5回	Webセキュリティ 1	共通鍵・公開鍵方式等の暗号技術の基礎と、Webを支える暗号通信について学ぶ。

第6回	Webの状態管理	Cookie、Sessionを用いて状態を保持したWebシステムの構築手法を学ぶ。
第7回	データベースとWebサーバ	データベースとWebサーバを使って、動的なWebページを作成する技術について学ぶ。
第8回	Webセキュリティ 2	Web構築の際に考慮すべきセキュリティ事項を明らかにする。そのための対処法も学ぶ。
第9回	DOMとAJAX	Web文書のオブジェクトモデルと非同期通信を用いたWebページの更新方式としてAJAXを学ぶ。
第10回	データ表現	さまざまなデータ表現の方法を学ぶとともに、XMLの基礎と文書のスキーマ定義等について理解する。
第11回	サービスコンピューティング基盤技術	インタフェースの重要性、クラウドコンピューティングとNoSQL等の様々な最新技術について学ぶ。
第12回	サービスイノベーション 1	サービス事例(決済、物流、店舗、交通等)を通じて、サービスイノベーション、今後の方向性と課題、技術との関わりについて知る。
第13回	サービスイノベーション 2	サービス事例(続)、各種サービスモデル、サービスドミナントロジックに代表されるサービスサイエンスについて学ぶ。
第14回	総復習	全講義を通じて重要事項の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の小テスト等を利用して自己の理解度を把握すること。講義資料を活用して理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料を用いる。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

講義内で紹介する（書籍、Webリンク他）。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 期末試験の成績 (80%程度)
- ・ 講義内小テスト他 (20%程度)

【学生の意見等からの気づき】

実際のWebサイトを使った動作確認により、理解を助ける工夫をする。

講義の冒頭で必要に応じて前週の復習と確認を行う。

講義中の小テスト等により、内容の理解度の確認を行う。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワークを利用

Webサイト使用には各自のノートPCを用いる

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を基に実務に必要なコンピュータシステムに関する講義を行う。

【Outline (in English)】

* Course outline

This course provides an overview of the basic technologies of various services on the Internet and the Web systems, as well as web security, vulnerability management, session management, and data representation methods expected in the building of actual services.

Students will also learn about Web technologies by running a simple website on their own PC.

Furthermore, through recent service trends and case studies, students will learn about the fundamentals of the user experience perspectives, social acceptability, and the information technology, useful for understanding issues in service improvement and service creation.

* Learning Objectives

Learn about the basic technologies of Web systems.

Acquire the knowledge to explain the roles of browsers and Web servers, server architecture, browser manipulation methods, Web security, and other major Web technologies.

Understand the basics of various service practices, issues, and service models.

* Learning activities outside of classroom

Use in-class tests to assess your comprehension level.

Use the lecture materials to improve your understanding. The standard preparation and review time is 4 hours every week.

* Grading Criteria / Policy

Examination scores (about 80%)

Report scores and in-class tests (about 20%)

COT310KA-CS-253 (計算基盤 / Computing technologies 300)

オペレーションズリサーチ

小西 克巳

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な意思決定問題に対する数理モデルの構築やその解決を扱うオペレーションズリサーチについて学ぶ。問題を定式化するための知識、および、それらを解くための最適化手法や機械学習手法について学び、意思決定問題の抽象化や既存の解法から適切なものを選び求解し、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【到達目標】

様々な意思決定問題の抽象化ができ、既存の解法から適切なものを選び求解し、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、必要に応じて演習も行う。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の構成と進め方に関するガイダンスおよびオペレーションズリサーチの概説
2	モデル化と数理計画問題	オペレーションズリサーチにおけるモデル化と数理計画問題の概要
3	線形計画法	線形計画法の概要、シンプレックス法の原理とシンプレックス法による線形計画問題の解法
4	整数計画法	双対問題、相補性条件
5	多変量解析	多変量解析の基礎と応用
6	主成分分析	主成分分析の基礎、教師なし学習としての主成分分析
7	クラスタリング	データのクラスタリング手法、教師なし学習とクラスタリング
8	これまでの復習と演習	第1回～7回までの復習と演習
9	ネットワーク最適化	最短経路問題などのネットワーク最適化問題と解法
10	ゲーム理論(1)	ゲーム理論の概要
11	ゲーム理論(2)	単純な問題とその解法、安定結婚問題
12	マルコフモデル	マルコフモデルの基礎
13	待ち行列理論(2)	待ち行列モデルの理論
14	総復習と演習	第1回～13回までの復習と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考資料の予習、復習、課題への取り組み。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義にて指示。

【成績評価の方法と基準】

到達目標への達成状況を確認する期末試験の成績を100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（適宜指示する）

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of operations research to students and aims to help students acquire an understanding of mathematical formulation of the problem and methods to solve these problems. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 100%

COT311KA-CS-301 (計算基盤 / Computing technologies 300)

オブジェクト指向プログラミング

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オブジェクト指向開発におけるデザインパターンを Java 言語を通じて学ぶ。

【到達目標】

GOF のパターンのうち特に多く使われているパターンに習熟し、オブジェクト指向開発でパターンを意識した設計やプログラミングができるようになる。デザインパターンの言葉設計者・プログラマーの間のコミュニケーションツールとして使いこなせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、1つか2つのパターンを取り上げ、解説する。適宜、適用例をめぐって討論を行う。毎回、授業外で行うべき課題が出される。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オブジェクト指向言語の復習	オブジェクト指向言語について復習し、簡単なクラス設計を行う。
第2回	オブジェクト指向パラダイム、デザインパターン、UML	デザインパターンの考え方についての考え方を学ぶ。UMLの基本的な記法を理解する。
第3回	デザインパターン、Facade パターン	デザインパターンの考え方について基礎を学ぶ。その一例として、Facade パターンについて理解する。
第4回	Bridge パターン、Adapter パターン	Bridge パターンと Adapter パターンについて理解する。
第5回	リファクタリング	プログラムを見やすく書き換えるためのリファクタリングの概念と方法を学ぶ。
第6回	Strategy パターン	Strategy パターンについて、理解する。
第7回	Abstract Factory パターン	Abstract Factory パターンについて、理解する。
第8回	Decorator パターン	Decorator パターンについて、理解する。
第9回	Observer パターン	Observer パターンについて、理解する。
第10回	Template Method パターン	Template Method パターンについて、理解する。
第11回	Singleton と Double Checked Locking、Object Pool パターン	Singleton と Double Checked Locking、Object Pool パターンについて、理解する。
第12回	Factory Method、Iterator パターン	FactoryMethod パターンについて、理解する。
第13回	Composite パターン	Composite パターンについて、理解する。

第14回 デザインパターンの様々なデザインパターンの関係まとめを復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題に取り組む。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オブジェクト指向のころ

アラン・シャロウェイ, ジェームズ・R・トロット
丸善出版

【参考書】

増補改訂版 Java 言語で学ぶデザインパターン入門,
結城浩,
SoftBank

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)

レポート課題(30%)

【学生の意見等からの気づき】

授業時間内で実例を交えて説明することを心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン。

【Outline (in English)】

* Course outline

We study design patterns in object oriented software developments using the Java language. We focus on famous design patterns mostly in GOF book.

* Learning Objectives

Students will be able to write OOP systems using the patterns. They will also be able to explain the effects of abstraction that are at the core of the patterns.

* Learning activities outside of classroom

Use in-class tests to assess your comprehension level.

Use the lecture materials to improve your understanding. The standard preparation and review time is 4 hours every week.

* Grading Criteria / Policy

All these abilities are checked by the term examination (70%) and the weekly assignments (30%), in each of which an average student spends four hours.

COT311KA-CS-262 (計算基盤 / Computing technologies 300)

情報検索

相島 健助

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報検索の基盤となるアルゴリズム、手法、評価方法を理解することを目標とする。情報検索とは、google などの検索サービスの根幹となる技術であり、現在の情報アプリケーションの中で最も重要な技術の一つである。この技術は、全文検索と呼ばれる技術を基盤とし、様々な技術を加えて進歩してきた。本講義では、それらのうち中心的な技術の数理的な意味を理解することを目標とする。また、リコメンデーションなどの応用的な話題も紹介する。

【到達目標】

単に google などのしくみを理解するだけでなく、大量のテキスト情報を扱うアプリケーションを扱うための基本スキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

卒業研究などで実践的に役立つ技能の習得のために、取り上げる手法は、実際のデータが処理できる簡単なプログラミング例と関連付けて学びます。紹介する手法を簡単に実行するために、MATLABなどのプラットフォームや java のライブラリなどを利用します。演習課題を通して、処理手法の基礎を身に付けることを目標とします。課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法として、授業の初めに、前回の授業内で行った試験や小レポート等、課題からいくつか取り上げ、全体に対して講評と解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義の意義とどのような内容をカバーするかを説明します。
2	情報検索概論	情報検索とは何かについて学びます。
3	検索キーワードと索引付け	情報検索に利用する検索キーワードの選定方法と、それを用いて、文書を索引付けする方法を学びます。
4	キーワードのスコア	検索キーワードのスコア付けの方法として TF/IDF 法などを学びます。
5	検索結果の改善法	検索結果の改善方法として、関連性フィードバックやクエリ拡張について学びます。
6	文書の信頼性尺度	文書の信頼性尺度として Pagerank について学びます。
7	検索結果の評価	検索結果の評価尺度や評価方法について学びます。
8	簡単な検索演習	これまでに学んだことを実際にプログラミングする演習を行います。
9	画像の特徴量について	検索において重要な画像の特徴量について学びます。
10	画像の検索	画像の特徴量により、画像間の類似度を定義し、検索する手法について学びます。

11	商品の類似性、利用者の類似性	利用者の嗜好情報、購買履歴などのデータから、商品の類似性、利用者の類似性を計算する方法を理解します。
12	リコメンデーション	商品や利用者の類似性に基づき、利用者にリコメンデーションの商品を決定する方法を学びます。
13	クラスタリング	大量の多次元のベクトルであらわされた利用者の嗜好情報から、似た嗜好をもつグループをクラスタ化する方法を学びます。
14	まとめ	課題の講評などを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関する課題を復習として出題する。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

書名: Introduction to Information Retrieval

著者名: Christopher D. Manning/Prabhakar Raghavan/Hinrich Schütze

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2008

備考: <http://nlp.stanford.edu/IR-book/information-retrieval-book.html> で内容を確認することができる。

日本語版は「情報検索の基礎」（共立出版）

書名: 集合知プログラミング

著者名: Toby Segaran

出版社: オライリー・ジャパン

出版年: 2008

【成績評価の方法と基準】

定期試験の点数（60%）と課題（40%）を総合して決定する。いずれかを行わなかったものは不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

難しい概念が多いため、説明のための具体例や演習の例題を多く示すことにする。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを用いて演習を行う。学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

「統計学1」、「線形代数の応用2」を履修しておくこと。

【Outline (in English)】

This course covers algorithms, techniques, and evaluation methods for information retrieval. The information retrieval is a fundamental technique to search engines such as google, which is one of the most important techniques in current information applications. Since this kind of technique is based on full-text search, it is now successfully applied to other content-based searching. The purpose of this course is to understand mathematical aspects of the information retrieval. In addition, this course covers more advanced contents such as recommender systems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end examination (60%) and lab reports (40%).

HUI311KA-CS-322 (人間情報学 / Human informatics 300)

ユビキタスインテリジェンス

馬 建華

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course covers ubiquitous computers, devices, networks, applications and key technologies in ubiquitous intelligent systems and services. Students are expected to learn a systematic knowledge on ubiquitous intelligence as well as various content-aware smart computing technologies.

【到達目標】

This course attempts to provide a unified overview of the broad field of ubiquitous intelligent computing. Students are expected to understand ubiquitous smart devices from RFID, sensors, wearables, various networks, as well as key intelligent technologies including context-awareness, smart u-things, IoT, security, privacy, social issues, and activity and emotion recognition, etc.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This course will first give general introductions of ubiquitous computing, essential devices, important networks and representative services, and then check various ubiquitous intelligent devices including RFID, e-tag, sensors, handhelds, wearable devices, robots, IoT, etc. as well as their representative applications. The context as a special kind of information in ubiquitous intelligence will be described in details and related context-aware intelligent technologies, systems and application will be presented. Various key issues in ubiquitous computing smartness, intelligence, security, safety, trust and related social issues will be discussed. In each class, a student is requested to write a summary of main content learnt in the the class. Students are also requested to write five reports corresponding to the different parts of this course. Students are encouraged to ask questions in class and via email after class. The students' reports will be checked and feedbacked to students in next classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Ubiquitous Computing and Intelligence	History & features of ubiquitous computing (ubicomp), and ubiquitous intelligence
2	Intelligent Ubiomp Devices, Networks and Services	Various ubiquitous computing and intelligent devices, networks and services
3	RFID Technologies and Intelligent Applications	RFID categories, working mechanisms, standards, technologies, systems and intelligent applications
4	Ubiquitous Sensors and Sensing Networks	Various sensors, their features, interconnections and intelligent technologies

5	Intelligent Handhelds, Wearables and Robots	Handheld devices, wearable devices, and robots in ubicomp
6	Context and Context-Aware Computing and Intelligence	Context classifications, features and models, and context-aware intelligent computing
7	Context-Aware Technologies, Systems and Applications	Architectures of context-aware systems, and context-aware smart applications
8	Smart Things for Ubiquitous Intelligence	Classifications of smart things, and their intelligent techniques and applications
9	Smart Internet of Things (SIoT)	Characteristics of IoT, their system models, typical applications, and technical challenges
10	Security, Safety and Trust in Ubiquitous Systems	Features and technologies of ubiquitous security, safety and trust
11	Social Issues in Ubiquitous Intelligence	Privacy, green/eco, social issues and ethic problems in ubiquitous intelligent applications
12	Intelligent Activity Recognition	Activity categories of human and animal, data collection using ubiquitous devices, activity recognition algorithms and applications
13	Intelligent Emotion Recognition	Affective computing, sentiment analysis, vital sign sensors, emotion recognition
14	Emerging Ubiquitous Intelligent Technologies	New intelligent ubicomp technologies and applications

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the corresponding lecture note before each class, review the content after each class, well prepare the requested report after class, and submit each report before its deadline. Students will be expected to spend at least four hours to preview the lecture notes, review the content learnt and complete assignments in each class according to the university grading policy.

【テキスト（教科書）】

Online course materials provided by this teacher.

【参考書】

・ Related materials on the Internet

【成績評価の方法と基準】

Overall evaluation (100%) will be based on
- class reports (15%)
- four technical reports (40%)
- term exam (45%)

【学生の意見等からの気づき】

Provide more representative ubiquitous intelligent research.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a PC.

【Outline (in English)】

The course consists of four parts, ubiquitous smart devices, networks, technologies, and applications in IoT, physical objects and daily life assistance. The students are expected to have a comprehensive understanding on various aspects in ubiquitous intelligent computing. Students will be expected to spend four hours to preview the lecture notes and review the content learnt and complete assignment in each class according to grading policy. Overall evaluation (100%) will be based on class reports (15%), five technical reports about ubiquitous intelligent technologies (40%), and term exam (45%).

FRI13KA-CS-232 (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300)

コンピュータグラフィックス

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータグラフィックス（CG）は、代表的なゲームや映画、テレビ番組などの身近なところから、建築物の設計や医療機器など幅広く必要とされるようになっている。このように様々な分野で利用されているCG技術について、その基礎技術と最新技術について理解を深めること、また基本的なアルゴリズムを実装出来るようになることを目標とする。

【到達目標】

CGの基本的な要素であるモデリング、レンダリング、アニメーションについて理解し、簡単なプログラムの作成を通して実際にCGを生成できるようになることを目標とする。本講義を通してCG技術の全体像を理解し、実際に実装もすることで、より深く理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義とプログラミングの演習を行う。プログラミング言語として主にC/C++を用いる。レンダリングソフトウェアとしてMitsuba (Pythonを使用) およびPOV-Rayを用いる。必要に応じて他のCG関連言語・ツールを用いる。

課題の提出はMoodleで行い、質疑応答および提出された課題の解説・フィードバックは適宜授業内およびSlackで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、導入	CGの概要
2	2次元座標	2次元座標系、アフィン変換、同次座標
3	3次元座標	3次元座標系、同次座標
4	カメラモデル	透視投影、平行投影、射影変換
5	ビューイングパイプ	モデリング変換、視野変換、投影変換、クリッピング
6	形状モデル	ワイヤーフレーム、サーフェス、ソリッドモデル
7	曲線・曲面	2次曲線、パラメトリック曲線／曲面、ポリゴン曲面
8	ボリューム表現	ボクセル、メタボール
9	隠面消去	スキャンライン法、Zバッファ法、レイトレーシング法
10	シェーディング、影付け、大域照明計算	シェーディング、影付け、大域照明計算
11	マッピング、NPR、可視化	テクスチャマッピング、イメージベーストレンダリング、ノンフォトリアルスティックレンダリング、可視化
12	アニメーション	キーフレーム、手続き型アニメーション
13	シミュレーション	剛体、弾性体、流体
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや講義資料の復習と課題に取り組む必要がある。必要に応じてPCでのプログラミングも行う。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コンピュータグラフィックス 改訂新版, CG-ARTS協会, 2015, 税抜3,600円(電子版あり)

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習・課題 (70%), 試験 (30%)

※CG-ARTSが実施するCGエンジニア検定 エキスパートを受験し合格した場合には、その証明の写しを提示することで試験評価を満点として免除する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを使用する。必要に応じて、関連ツールやソフトウェアのインストールを各自で行ってもらう。

【その他の重要事項】

事前に、CGのための幾何学を履修していることが望ましい。また、C/C++の講義を受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Techniques of computer graphics (CG) are widely used in various fields, such as, Movies, Video games, CAD, medical devices, and so on. In this course, students will study basic knowledge and techniques of CG, and will acquire programming techniques for implementing basic algorithms.

【到達目標（Learning Objectives）】

Goals of this course are to understand three fundamental elements of CG (modeling, rendering, and animation), and to acquire programming techniques for implementing basic algorithms.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students should spend at least 4 hours preparing and reviewing this course.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Practices and Tasks (70%), Examinations (30%)

HUI312KA-CS-332 (人間情報学 / Human informatics 300)

機械学習

伊藤 克亘、佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータによるパターン認識の理解を目的として、機械学習の基礎、Deep Learningの考え方とその適用法、パターン認識の基礎および機械学習に基づくパターン認識を学ぶ。

【到達目標】

機械学習（教師付き学習、教師なし学習、強化学習）の基本的な要素技術、特にDeep Learningなどのニューラルネットワークを用いた機械学習の基本理論を理解する。

パターン認識の基礎を理解し、機械学習を用いた具体的実装法を修得する。

PythonまたはMATLABを用いて基本的な機械学習モデルを実装できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、機械学習の基礎を理解する。具体的には、機械学習と人工知能の関係、機械学習の分類（教師付き学習、教師なし学習、強化学習）を学び、機械学習技術をパターン認識や時系列予測問題に適用した事例紹介を行う。次に、パターン認識と最も関連性の高い、ニューラルネットワークを用いた教師付き学習を学ぶ。具体的には、単層パーセプトロン、多層パーセプトロンの紹介から始めて、Deep Learningの基本的な理論を学びながら、演習を通して理解を深める。授業後半では、機械学習の応用として、分類、回帰、生成を学ぶ。特に、様々なデータを対象とした深層学習による処理を学ぶ。MATLABやPythonを用いた機械学習の理解を深める。演習や実験を通して前半を含めた講義内容の理解を深める。

課題は、主要なものを発表させ、解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	機械学習とは	ガイダンス、人工知能と機械学習、機械学習の分類
第2回	教師なし学習	統計的最適化、代表的なクラスタリング技術
第3回	教師付き学習(1)	回帰分析、Support Vector Machine (SVM)
第4回	教師付き学習(2)	単層パーセプトロン、多層パーセプトロン
第5回	教師付き学習(3)	誤差逆伝播法
第6回	教師付き学習(4)	畳み込みニューラルネットワーク、リカレントニューラルネットワーク（概要、理論）
第7回	強化学習	Q-Learning、進化計算
第8回	分類	分類、パターン認識、特徴量
第9回	深層学習による分類	画像の分類、ハイパーパラメータ、全結合層、畳み込み層
第10回	特徴量・実際のパターン認識(画像)	回帰結合層、畳み込み層、交差検証
第11回	機械学習による生成・オートエンコーダ	オートエンコーダ、変分オートエンコーダ、条件付き変分オートエンコーダ

第12回 実際のパターン認識 (音声)、データ拡張 RNN, データ拡張

第13回 テキストの機械学習・言語モデル 前処理、bag of words モデル、単語埋め込み、アテンション、文生成

第14回 学習済みモデル word2vec モデル、転移学習、オブジェクト検出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列の演算）の復習
- [3] プログラミング(Python, MATLAB)の復習
- [4] 統計学1、統計学2、最適化を履修していることが望ましい
- [5] 本授業の準備・復習時間は、計4時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を hoppii や moodle など学内Webサイトに公開する。

【参考書】

- [1] 石井健一郎・上田修功・前田英作・村瀬洋著：「わかりやすいパターン認識」，第2版，オーム社，2019年。
- [2] 斎藤康毅著：「ゼロから作るDeep Learning」，オライリー・ジャパン，2016年。
- [3] F. Chollet 著，巢籠悠捕監訳，「PythonとKerasによるディープラーニング」，マイナビ出版 2018年。
- [4] MathWorks MATLAB Documentation (公式オンラインマニュアル)
- [5] Python公式機械学習関連ドキュメント (NumPy, scikit-learn, PyTorch等)

【成績評価の方法と基準】

成績は、原則として定期試験（60％）およびレポート課題（20％）により評価する。
これに加えて、授業への参加態度等を考慮し、必要に応じて最大20％の範囲で成績に反映することがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PC、電子メールや hoppii, moodle へのアクセス等ネットワークを利用する。

【Outline (in English)】

This course deals with pattern recognition and machine learning by computer. First, students learn two major approaches based on generative model and discriminative model, respectively, from the viewpoint of statistical pattern recognition. Second, the new and powerful concept of "Deep Learning" is introduced and explained in detail. Students learn how to apply deep learning techniques to practical pattern recognition problems by means of Python programming.

The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week.

Final grades will be primarily based on the final exam (60%) and exercises (20%).

Class participation may be reflected in the final grade, up to 20% if necessary.

COT211KA-CS-205 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング (MATLAB)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／4単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルメディアの代表的データである画像や音声をコンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようにすることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどのような特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「デジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。科目名には、MATLAB とあるが、python(numpy) も対象とする。

【到達目標】

3年次や卒業研究で、デジタル信号処理が必要になったときに MATLAB(もしくは python) で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB(もしくは python) でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようになる。数式やアルゴリズムを示されただけで、どのような結果になるか、想像できるようになる。MATLAB または Python を用いて基本的な音声・画像処理を実装できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。また、最終課題のレポートに関しては、第1版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス /MATLAB(numpy) 入門	授業の目的の説明、および MATLAB(numpy)の紹介
2	簡単な音声処理(音声 の時間領域処理)	音声データの入出力、重ね合 せ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補 正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFTの使用方法和音声の周波数 処理
5	フィルタ(音声の時間 領域処理)	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処 理	FFTを用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリ ング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性

9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複 数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれ を用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応 用	これまで学んだことを応用して できる処理
14	まとめと最終課題の 発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき予習2時間、復習2時間、課題4時間を標準とする。準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

MATLAB の場合

書名: MATLABで学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2019

python の場合

書名: Pythonで学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2018

【参考書】

書名: はじめての画像処理技術

著者名: 岡崎

出版社: 工業調査会

出版年: 2000

MATLAB Documentation (MathWorks公式オンラインマニュアル)

MATLAB Copilot (MathWorks公式AI支援機能)

【成績評価の方法と基準】

成績は、原則として定期試験 (50%) および最終課題 (50%) により評価する。これに加えて、授業への積極的な参加、発表、課題への取り組み状況等を評価し、必要に応じて最大20%の範囲で成績に反映することがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノートPCを利用することを前提とする。演習は貸与PCを利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

FFTの知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学2」を並行して履修することを勧める。また、受講希望者のうち MATLAB 希望者は、第1回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2025a をインストールすること。もしくは、MATLAB Online を利用することもできる。
<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>
https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf
この授業に必要な Toolbox は、

Image Processing Toolbox
Signal Processing Toolbox
Statistics and Machine Learning Toolbox

である。

python の場合は、google colab を利用することを強く勧める。

本講義の内容は担当教員の通商産業省工業技術員電子技術総合研究所での音声・知能情報処理に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by ourselves. Most of these methods are based on mathematics. As an introduction, to getting used to programming using mathematical algorithms, this lecture is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing, and speech processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.

Final grades will be primarily based on a term-end examination (50%) and a final project (50%).

Active participation in class, presentations, and assignments may also be reflected in the final grade, up to 20% if necessary.

COT211KA-CS-106 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング演習1(python)

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Pythonを用いたデータ分析を題材として、プログラムや分析結果を読み取り、その意味、前提および限界を理解したうえで説明できる能力を養うことを目的とする。単にプログラミング技法を習得することにとどまらず、生成AIを補助的な道具として活用しながら、分析結果を根拠として判断し、他者に分かりやすく伝える力の育成を重視する。

本授業は、情報科学部における情報技術を社会課題や実データに応用する能力、専門の内容を他者に分かりやすく伝える能力の育成を目的とする。

あわせてデータを根拠として考え、判断し、説明する力は、学部・専門分野を問わず重要な基礎的能力であり、本授業を通じてその習得を目指す。

【到達目標】

本授業の修了時に、受講者は以下を達成することを目標とする。

1. Pythonによるデータ分析スクリプトの処理内容を、日本語で説明できる
2. 分析結果から言えること・言えないことを区別して整理できる
3. 生成AIを補助的な道具として活用しつつ、自身の判断を言語化できる
4. 技術的背景の異なる他者に対して、分析結果の意味や注意点を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」、「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面およびオンラインを併用したハイブリッド形式で実施する。

各回の授業は、以下を基本構成とする。

- 教科書および配布資料に基づく内容確認
- スクリプトや分析結果を「読む力」を確認する小テスト
- 課題および発表を通じた分析結果の解釈・説明

課題では、受講者が「開発側（実装や仕組みを説明する立場）」または「分析・企画側（結果を解釈し判断につなげる立場）」の役割を自己申告で選択し、それぞれの視点から取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容	
1	ガイダンス・授業の考え方	本授業の目的、進め方、評価方法および生成AIの利用方針について説明する。 教科書の位置づけと、データ分析における役割(開発/分析・企画)の考え方を共有する。 (教科書：第1章)	2
			データの基礎的な扱い
			数値データおよび文字データの特徴を理解し、データの型や構造が分析に与える影響を学ぶ。 スクリプトを「書く」だけでなく「読む」ことを通じて処理内容を確認する。 (教科書:第2章)
			3
			代表値と分布
			平均やヒストグラムを用いて、データの特徴を要約する方法を学ぶ。 数値結果そのものではなく、代表値の選択や分布の解釈に重点を置く。 (教科書:第3章)
			4
			相関と回帰
			相関係数および回帰分析を通じて、データ同士の関係性を調べる方法を学ぶ。 相関と因果の違い、回帰モデルの前提や限界について理解する。 (教科書:第4章・第5章の一部)
			5
			クラスターリング
			クラスターリングを用いて、データの特徴に基づいて分類する考え方を学ぶ。 分類結果の解釈や、手法選択の妥当性について検討する。 (教科書：第6章)
			6
			予測モデル(1):決定木
			決定木による予測モデルの考え方を学ぶ。 モデルの構造や説明しやすさ、過学習の問題について理解する。 (教科書:第7章)
			7
			予測モデル(2):ランダム・フォレスト
			ランダム・フォレストを用いた予測手法を扱う。 精度向上と説明性のトレードオフについて考察する。 (教科書:第8章・第9章)
			8
			施策効果と因果推論
			傾向スコア・マッチングを通じて、施策の効果を評価する考え方を学ぶ。 観察データを用いた因果推論の難しさと注意点を理解する。 (教科書:第10章)
			9
			テキストデータ分析
			形態素解析を用いて文章データを扱う方法を学ぶ。 テキストを数値化する際に失われる情報や解釈上の注意点を確認する。 (教科書:第14章)
			10
			実データ分析の考え方・最終課題告知
			教科書データ以外の実データを扱う際の注意点を説明する。 最終課題の内容、進め方および評価基準について説明する。 最終課題に向けて、データ選択や分析計画の妥当性を検討する。 教員およびTAによる個別相談を行う。
			11
			最終課題:分析設計・相談

12	最終課題：復習・重点指導(1)	最終課題の進捗状況を踏まえ、受講者が共通してつまづきやすい点について復習および補足説明を行う。 実データの扱い方、分析結果の解釈、記述上の注意点などについて整理し、最終課題の完成度向上を図る。
13	最終課題：復習・重点指導(2)	前回に引き続き、最終課題に関連する内容について復習および重点指導を行う。 分析計画の妥当性、結果の言語化、過度な一般化を避けるための注意点などを確認し、必要に応じて途中経過の共有を行う。
14	レポート講評・発表・最終版作成指示	事前提出されたレポートを基に、構成や記述上の注意点を解説する。 指摘を踏まえて成績評価用の最終版レポート作成を促す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、各回の授業に対して、授業時間外に1回あたりおおむね4時間程度の学習を想定する。
その内訳は以下のとおりである。

- 準備学習（約1時間）

教科書の該当章および配布資料を事前に読み、授業で扱う分析手法や用語の概要を把握する。

- 復習（約1時間）

授業内で扱ったスクリプトや分析結果について、処理内容や前提条件、解釈上の注意点を振り返る。

- 小テスト・課題への取り組み（約1時間）

Moodle等を用いた小テストや課題に取り組み、スクリプトを「読む力」および分析結果の理解を確認する。

- 最終課題に向けた作業（約1時間）

実データの収集・確認、分析計画の検討、レポート作成および修正作業を段階的に進める。

これらの学習を通じて、授業内で扱った内容の理解を深めるとともに、最終課題に必要な分析力および説明力の習得を目指す。

【テキスト（教科書）】

書名: 文系のための Python データ分析

著者名: 友原章典

出版社: 有斐閣

出版年: 2024

価格: 2100円

オリジナルオンライン資料

【参考書】

資料名: データサイエンス・スクール 上級者向けテキスト

著者名: 総務省統計局

URL: <https://www.stat.go.jp/dss/getting/pdf/upper.pdf>

価格: 無料

そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下を総合的に評価する。

- 小テスト（読む力の確認・一部自動採点）：約35%

- 課題および最終レポート（分析内容・解釈・説明）：約50%

- 授業内活動・発表への参加：約15%

授業内発表については、内容の正確さではなく参加そのものを評価対象とする。

プログラムが完全に書けるかどうかや、数値結果の正確さのみで評価することはない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC(受講場所インターネット接続ができるもの)が望ましいが、タブレットでも、次の条件を満たすものであれば構わない。

授業では、ブラウザ上のクラウドサービスである google colab を使って演習を行うので、それが実行できる環境が必要。

【その他の重要事項】

- プログラムの、説明力・応用力を求める

- 生成AI（ChatGPT、Gemini 等）の利用は認めるが、AIの出力をそのまま提出することは評価しない

- 小テストおよび課題には、授業内外での継続的な取り組みが必要である

本授業は、情報系・非情報系の学生が混在して履修することを想定している。

プログラミング経験の有無に関わらず、データを理解し、説明し、判断に活用する力の習得を重視する。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course introduces data analysis using Python, focusing on reading, interpreting, and explaining analysis results rather than only writing code.

Students learn how to understand assumptions, limitations, and implications of data analysis methods, and how to communicate insights based on data.

The course includes quizzes, assignments, presentations, and a final project using real-world datasets.

Learning Objectives

By the end of the course, students will be able to:

1. Explain the purpose and process of Python-based data analysis scripts in their own words.

2. Interpret analysis results and distinguish between valid conclusions and overstatements.

3. Use generative AI tools as supportive aids while maintaining their own judgment and reasoning.

4. Communicate data analysis results clearly to audiences with different technical backgrounds.

Learning Activities Outside of the Classroom

Students are expected to:

- Review textbook chapters and supplementary materials before and after each class.

- Complete online quizzes to confirm their understanding of scripts and concepts.

- Work on assignments and a final project, including data selection, analysis, and report writing.

- Revise their reports based on feedback from presentations and instructor comments.

Grading Criteria / Policy

Final grades are determined based on the following components:

Quizzes (including automatically graded quizzes): approximately 35%

Assignments and final report (analysis, interpretation, and explanation): approximately 50%

In-class activities and participation, including presentations: approximately 15%

Presentations are evaluated based on participation rather than correctness of content.

Grades are not determined solely by programming accuracy or numerical results.

Notes

Students with and without prior programming experience are welcome.

The use of generative AI tools such as ChatGPT or Gemini is permitted; however, submitting AI-generated outputs without personal interpretation will not be evaluated positively.

MAT247KA-GMP-351 (数学 / Mathematics 200)

フーリエ級数と変換

秋野 喜彦

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声や画像の信号を振動数ごとに分解・再構築する手法の基本となるフーリエ級数やフーリエ変換を学びます。応用上で重要な離散フーリエ変換についても基本を理解します。

【到達目標】

フーリエ級数とフーリエ変換に親しみ、さらに離散フーリエ変換の特徴を理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

現象を数式を用いて扱う能力を養うため、講義だけでなく自ら問題を解くようにしてもらいます。さらに、毎回課題を解き・提出してもらいます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックしていきます。

「微積分法の基礎」の単位取得が前提となります。数学の道具立てを使いこなせるようになるため、出される課題に正面から取り組むことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No.1	【周期現象と三角関数】	周期現象を表すための基本である三角関数の性質を復習します。とくにサイン・コサインの直交性と呼ばれる関係が重要です。
No.2	【フーリエ三角級数の定義と基本的な性質】	サインとコサインの重ね合わせで表され周期関数のバラエティに注目します。逆に、周期関数をサインとコサインに展開するフーリエ三角級数を定義します。サインとコサインを使う意味を考えます。
No.3	【フーリエ三角級数の計算例】	フーリエ三角級数の具体例を見ます。振動数スペクトルについて理解します。
No.4	【複素指数関数と複素フーリエ級数の定義】	複素平面の使いかた、複素指数関数の定義と基本的な性質（直交性、微積分）、サイン・コサインとの関係を復習します。フーリエ三角級数と複素フーリエ級数の関係を理解します。
No.5	【複素フーリエ級数の例】	複素フーリエ級数の計算例を見ていきます。
No.6	【複素フーリエ級数の性質】	パーセバルの等式、ギブス現象、一様収束と平均収束など。
No.7	【フーリエ変換の定義】	周期が無限大の極限でフーリエ係数がどのように変化するかを観察し、フーリエ変換と逆変換を定義します。フーリエ変換の意味を理解します。

No.8	【フーリエ変換の例】	サイン・コサイン、単一パルス、指数関数、ガウス関数のフーリエ変換を計算します。
No.9	【フーリエ変換の性質】	実部と虚部の意味、変数をシフトした影響、導関数のフーリエ変換など。δ関数や階段関数にも注意します。
No.10	【フーリエ変換の応用】	微分方程式の解法と畳み込み積分の計算を学びます。
No.11	【系の応答特性】	線形系と時不変系のインパルス応答と周波数応答
No.12	【離散フーリエ変換の定義】	波形のサンプリングとデータから復元できる波形について学びます。DFTの定義を導入します。
No.13	【離散フーリエ変換の性質】	周期、対称性、直交性など、実際に計算して理解します。
No.14	【離散フーリエ変換とフーリエ変換】	DFTをフーリエ変換によりシミュレートし、DFTについて理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は、学習支援システムあるいは講義時間中に指示します。なお、本授業の準備・復習・課題等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

フーリエ解析（理工系の数学入門）大石進一著 岩波書店
また必要に応じて学習支援システムを通じて資料を配布します。

【参考書】

フーリエ解析に関する一般的な書籍であれば参考になります。入門書の例として以下を挙げておきます。
・すぐわかるフーリエ解析 石村園子著 東京図書

【成績評価の方法と基準】

課題（15％）・授業内ミニテスト（15％）・中間試験（20％）、および期末試験（50％）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

音声・画像処理など情報科学の応用を目指すときに基本となる内容を学びます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class, we will study Fourier series and Fourier transform, which are the basis of deconstructing and reconstructing the sounds and image signals. Basics of discrete Fourier transform, which is an important tool for real applications, will also be explained.

【Learning Objectives】

To be familiar with Fourier series, Fourier transform, and discrete Fourier transform, and to understand how to use those in real problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Four hours will be your standard study time for this class.

【Grading Criteria/Policies】

Overall grade in this class will be decided based on the followings;

Assignments: 15%, Quizzes in each class: 10%,

Mid-term examination: 25%, Final examination: 50%

HUI312KA-CS-331 (人間情報学 / Human informatics 300)

デジタル信号処理

高村 誠之

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

信号処理は情報を数学的に取り扱う基盤技術である。ほとんどの情報がデジタル化する時代において、デジタル信号処理は最も重要な技術の一つであるといえる。授業では、数学的な基礎やデジタル信号処理における重要な概念を中心に講義を行う。学生は、アナログ信号処理とデジタル信号処理の基本原理が理解できることを目標とし、信号を数学的に取り扱えるようになることを目指す。また、信号処理の簡単なプログラミングも学ぶ。

【到達目標】

フーリエ変換、ラプラス変換、 z 変換などの信号処理に必要な数学的基盤を理解し、実際に計算できるようになることを目標とする。また、サンプリング定理、伝達関数、フィルタについて理解し、数学的に取り扱えることを目標とする。さらに、デジタル信号処理の基本的な処理をPythonで実装できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を行う。必要に応じて、PythonやMATLABを用いたプログラミング演習を行う。提出された演習問題の解説・フィードバックを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、信号処理とは	アナログ信号処理とデジタル信号処理
2	フーリエ級数とフーリエ変換	フーリエ級数、複素フーリエ級数、フーリエ変換、フーリエ変換の性質、フーリエ変換の例
3	ラプラス変換	ラプラス変換、ラプラス変換の性質
4	逆ラプラス変換・連続時間システム	逆ラプラス変換、連続時間システムの性質
5	z 変換	z 変換、逆 z 変換、 z 変換の性質
6	離散フーリエ変換	離散フーリエ変換、離散フーリエ変換の性質
7	演習	学習した様々な変換に関する演習を行う。
8	離散時間システム1	サンプリング定理、伝達関数、インパルス応答
9	離散時間システム2	畳み込み、周波数応答
10	高速フーリエ変換	時間分割法、窓関数
11	フィルタ	フィルタの種類、フィルタの設計、周波数変換
12	デジタルIIRフィルタ	インパルス不変
13	FIRフィルタ	FIRフィルタ、窓関数法
14	まとめ	本講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当単元を予習と復習を行う。教科書の例題や演習問題を行う。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配布するが、以下の教科書を講義で使用する。
萩原 将文, デジタル信号処理 第2版・新装版, 森北出版, 2020.

【参考書】

- 渡部 英二 (監修), 基本からわかる信号処理講義ノート, オーム社, 2014.
 - 金谷 健一, これならわかる応用数学教室, 共立出版, 2003. (主にフーリエ級数・変換に関して)
 - 原島 博, 信号解析教科書 -信号とシステム-, コロナ社, 2018.
- その他の参考書は、必要に応じて講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、課題(授業内演習含む)20%、期末試験60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解を深められるような演習、講義内容の実応用事例が想像できるような授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

授業内に演習を行うため、貸与ノートPCを必要とする。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での画像処理応用や画像符号化技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な信号処理に関する講義を行う。プログラミング(MATLAB)、微積分法的应用: フーリエ級数と変換を履修中または、履修済みであることが望ましい。
また、積分法の基礎と応用、複素関数論1、2、交流回路と電磁波: 周波数、過渡応答、ベクトル解析の履修も推奨する。

【Outline (in English)】

Signal processing is a fundamental technology to handle information mathematically. Digital signal processing is one of the most important technologies in the era when most information is digitized. In the class, I'll give a lecture focusing on mathematical foundations and important concepts in digital signal processing.

You aim to understand the basic principles of analog signal processing and digital signal processing and aim to be able to handle signals mathematically. Also you'll learn simple programming of signal processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 20%, mid-term reporting 20%, term-end examination: 60%.

HUI312KA-CS-333 (人間情報学 / Human informatics 300)

画像処理

京地 清介

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広範な画像処理関連技術を体系的に理解する。それぞれの処理手法の考え方や定式化を理解することで、卒業研究などで使えるように習熟する。

【到達目標】

画像に対する処理アルゴリズムがどのようなものであるのかを知るだけでなく、その底流をなす考え方を理解し、それらを組み合わせて各人に必要な処理を組み立てられるレベルを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

単に教科書の内容を説明するだけでなく、理解がより深まるように、なるべく多くの問題を解くような形式とする。必要に応じて授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対して講評する。不明な点や興味を持ったところについては、遠慮なく質問してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概略の説明と画像の取得システムおよび方法
2	デジタル画像の取得1	取得システムおよび方法
3	デジタル画像の取得2	撮影パラメータの説明
4	画像の性質と色空間	人間の感覚に合わせた色の表現法
5	画素ごとの濃淡変換	明るさやコントラストの変換、マスク処理など
6	空間フィルタリング	先鋭化と平滑化の手法
7	周波数フィルタリング	画像のフーリエ変換と周波数空間でのフィルタリング、実空間フィルタリングとの関連など
8	画像の復元と生成	画像のボケやブレの記述法および復元法
9	画像の幾何学的変換	アフィン変換や射影変換
10	2値画像の処理	輪郭追跡や細線化の手法
11	領域処理	テクスチャと同時生起行列、および領域分割処理手法について
12	テンプレートマッチング	テンプレートマッチングの基礎と応用
13	パターン認識	特徴に基づく分類やクラスターリング処理、主成分分析法などについて
14	動画画像処理	背景差分法とフレーム間差分法
15	まとめ	講義全体のまとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、予習・復習と課題レポートの作成等で各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

奥富編：デジタル画像処理(改訂新版)、(財)画像情報教育振興協会、2015
ISBN 978-4-903474-50-2

【参考書】

教科書の巻末に参考図書・文献が載っている。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績(60%)とレポートの成績(40%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業になるよう説明を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

行列計算や統計的手法の知識が必要となるので、参考書などでよく予習して授業に臨むことが望ましい。教科書の説明は要点のみが書かれているので、興味を持った処理については、原著論文や専門書を読んでみることを勧める。
レポートは自分の言葉で表現し期日を守って提出すること。

【Outline (in English)】

Students systematically understand a wide range of image processing related technology. By understanding principle and formulation of each processing method, students acquire mastery so that they can use it for graduation research. Not only do we know what the processing algorithms for images are, but we also aim to understand the underlying ideas and combine them to build the processing required by each student. The standard for outside classroom learning such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Student scores are measured based on the evaluation with reports (40%) and regular examination (60%).

音声情報処理

藤村 浩司

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声をコンピュータで扱う基礎的な能力を身に付けることを目標とします。
コンピュータを使うと、音声を生成したり、取り込んだ音声を加工できます。
これらを可能にする技術がデジタル信号処理です。
本講義では、まず音声の発声方法や聴覚特性に基づく音声のモデル化手法を紹介しします。
次に、その技法を用いて実現できる音声処理の技法のいくつかの例を取り上げます。
最後に、音声処理の応用技術として、音声関係の web/cloud API を紹介しします。

【到達目標】

MATLABを用いてデジタル音声処理の技法を活用できる。
音声関係の web/cloud API やツールを利用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

役立つ技能の習得のために、取り上げる技法はプログラミングと関連付けて紹介する。また、実際の音声データを扱う。
簡単にプログラミングするために MATLAB を利用する。
API は python で利用することを想定する。
課題は、授業で主要なものを発表させ、解説する。
最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。
また、最終課題のレポートは、第1版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、発表会を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要/基礎知識確認/MATLAB 復習/代表的な音声アプリケーション/音声とは
2	母音の生成	母音の音声波形の観察/母音の発声/母音発声の物理モデル/声道フィルタを用いた母音の合成
3	母音と子音の発声	母音の分類/子音の分類/ホルマントと調音位置
4	音声の聴取	人の聴覚系/蝸牛/聴覚尺度/メルスペクトル
5	音声の分解	音韻の分析/ケプストラム
6	音声の分析	聴覚末梢神経系における音声情報処理/プリエンファシス/時間方向の分解/対数変換/メル周波数スケール変換/スペクトルのピーク強調
7	母音の認識	ホルマントと母音/ホルマントの多様性/正規分布によるモデル化/多次元正規分布/GMM
8	音節の認識	日本語の子音の体系/MFCC による音韻の認識

9	音節の系列の認識	音声情報の時間スケール/調音結合とホルマント推移/デルタパラメータ
10	韻律の認識	日本語のイントネーションとアクセント/基本周波数検出/歌声の f0
11	長い発話の認識	長い発話が伝える情報/発話の単位/感情と態度/個人性/声質とスピーチスタイル
12	簡単な音声合成	モデルベースの合成法/波形ベースの合成法
13	音声対話とさまざまなアプリケーション	音声の伝搬と知覚/音声区間検出
14	レポート発表会	最終レポートの発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。
準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

「Pythonで学ぶ音声コミュニケーション情報処理」
著 伊藤克亘・宮澤幸希
定価（本体3400円＋税）
発行所 株式会社朝倉書店
および、配布する資料に基づいて講義を進める。

【参考書】

書名：Theory and Applications of Digital Speech Processing
著者名：L. R. Rabiner, R. W. Schafer
出版社：Pearson
出版年：2011
書名：MATLABで学ぶ実践画像・音声処理入門
著者名：伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘
出版社：コロナ社
出版年：2019
書名：Pythonで学ぶ実践画像・音声処理入門
著者名：伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘
出版社：コロナ社
出版年：2018

【成績評価の方法と基準】

最終課題(60%)、定期試験(40%)で評価する(受講人数が少ない場合は、定期試験を実施しない)。ただし、講義内の課題を授業で発表した場合には加点する。また、講義内の課題の取り組み状況を考慮する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、web ページ、ノート PC を利用する。

【その他の重要事項】

「プログラミング(MATLAB)」 「デジタル信号処理」 「統計学2」を履修していることを期待する。また、「音と光」「情報理論」「パターン認識と機械学習」「科学技術計算」「オペレーションリサーチ」を並行して履修することが望ましい。また、できれば、「画像処理」も並行して履修することが望ましい。
また、受講希望者は、第1回の講義の前に、MATLAB がインストールされているか確認しておくこと。R2022a かそれ以降が望ましい。
<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>

https://software.k.hosei.ac.jp/matlab_manual/MATLAB_student.pdf (後者のファイルは、VPN を使わないとアクセスできない)

本講義は担当教員の企業研究所での音声に関する研究の経験を元に行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide students with the basic skills to handle speech on a computer. Computers can be used to generate speech and to process recorded speech. The technology that makes this possible is digital signal processing. In this lecture, we will first introduce speech modeling methods based on the mechanism of speech production and auditory characteristics. Students will try some examples of speech processing techniques. Finally, we introduce speech-related web/cloud APIs as applied technologies for speech processing. By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To utilize techniques of digital signal processing and speech processing
- To utilize speech-related web/cloud APIs and tools

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Students are required to select some of the assignments they were unable to solve during the exercise time and complete them as homework. Students are also required to write a report on their final assignment including outside the class.

Final grade will be calculated according to the following process
Final report (60%), Term-end examination (40%), and in-class contribution. (If the number of students is small, the term-end examination will not be held.)

COT311KA-CS-302 (計算基盤 / Computing technologies 300)

プログラミング演習2(MATLAB)

京地 清介

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の研究を進めるにあたり、論文を読むのは必須であるが、その内容を理解して自分の研究に生かすためには、論文中の数式に従って追試を行うことが効果的である。この演習では、こうした論文中の数式に基づいてMATLABプログラムを作成して動作させ、著者のアイディアを深く理解することを目的とする。

【到達目標】

この科目の単位を取得した者は、

1. 論文中の数式を理解し、その内容を説明できる。
2. 数式に基づきMATLABでプログラムを実装できる。
3. 実装したプログラムを用いて論文の結果を再現し、その妥当性を検証できる。
4. 追試可能な形式で実験結果を整理し、報告書としてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

4つの課題に対してMATLABを用いてプログラムを作成し、動作確認を行った上で報告書として提出、発表も行う。最初の3つについては、説明資料を配布するが、4つ目の課題については、各自で設定したテーマについてプログラムを作成する。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や課題の概略について説明する。 MATLAB開発環境の確認。
2	演習1-1	課題1の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
3	演習1-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
4	演習1-3	各自がそこまでに行った内容についての発表。
5	演習2-1	課題2の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
6	演習2-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
7	演習2-3	各自が行った内容についての発表。
8	演習3-1	課題3の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。

9	演習3-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
10	演習3-3	各自が行った内容についての発表。
11	演習4-1	各自の設定したテーマの紹介。 終了後は各自プログラム作成等を行う。
12	演習4-2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
13	演習4-3	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
14	まとめ	最終課題の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間だけでは時間が不足するので、自宅でも課題に取り組むこと（本授業では、毎週4時間を標準としている）。わからないことについては、参考になる論文や本を探してみるのもよい訓練になる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

MATLABに付属する文書。
課題ごとにいくつか論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度(20%)、提出されたレポートの質(50%)、課題発表の質(30%)を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

とにかくプログラムを書くことが重要である。数式や説明文を見てプログラムを書くことに習熟してほしい。

【Outline (in English)】

Reading papers and understanding the authors' ideas are very important for advancing students' own research. It is effective to follow the ideas presented in papers by implementing them in MATLAB according to the mathematical expressions described in the papers. The aim of this exercise is to help students deeply understand the authors' ideas by creating MATLAB programs based on the mathematical expressions in the papers, running the programs, and verifying the results. Students who have earned credits for this subject will acquire the skills to implement programs in MATLAB based on the mathematical formulas described in research papers and to reproduce the results presented by the authors. At the same time, they will also acquire the ability to write reports in a reproducible manner. Class hours alone are not sufficient, so students are expected to work on assignments outside class. The standard workload outside class for this exercise is four hours per week. If students encounter difficulties, it is good practice to search for relevant papers and books. Student scores are evaluated based on class participation (20%), the quality of submitted reports (50%), and the quality of presentations (30%).

COT311KA-CS-352 (計算基盤 / Computing technologies 300)

科学技術計算

相島 健助

必選区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年では材料開発や構造解析といった科学技術的課題の解決に計算機シミュレーションは必須である。そこで使われる計算技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学技術計算の基礎である微分法、積分法、方程式の解法を理解する。
- ・数値計算手法をプログラムとしてコーディングできる。
- ・プログラムを実行し、結果を可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、実際に様々な課題について問題を解くことで必要な技術を身に付ける。それを通して、コンピュータ科学、ネットワーク等の様々な情報科学分野を専攻する者を対象に、最近の計算技術を活かした解析手法修得の基礎となる数値解析の考え方や方法について基礎知識を学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	科学技術計算の基礎	科学技術計算を学ぶ上での前提知識
2	差分化とその誤差	数値微分と数値計算における誤差の評価
3	数値積分法の比較（1）	台形公式、シンプソン法による数値積分
4	数値積分法の比較（2）	重み付き積分法による数値積分
5	代数方程式の解法（1）	二分法、Newton法による方程式の解法
6	代数方程式の解法（2）	連立1次方程式の解法
7	行列問題の解法	実対称行列の対角化
8	データ解析（1）	数値補間法
9	データ解析（2）	最小二乗法によるフィッティング
10	常微分方程式の解法（1）	オイラー法にて常微分方程式を解く
11	常微分方程式の解法（2）	ルンゲ・クッタ法にて常微分方程式を解く
12	常微分方程式の解法（3）	2階常微分方程式を解く
13	常微分方程式の解法の評価	常微分方程式の解法の応用とまとめ
14	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として、授業中に出了課題はできるようにする。
本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業で指示

【成績評価の方法と基準】

提出課題、レポート等の評点（40％）と期末試験（60％）の総点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心掛ける

【学生が準備すべき機器他】

貸与PC、学習支援システム

【Outline (in English)】

The computer simulation is important in solution of scientific problem. This courses introduces a basis of computational approach to students taking this course.

At the end of the course, students are expected to understand the numerical methods of differentiation, integration and equations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, Problems and reports: 40%

MAT247KA-GMP-256 (数学 / Mathematics 200)

微積分法の応用2

秋野 喜彦

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微積分法は現実世界の出来事の予測やシミュレーションに絶大な力を発揮し、情報科学を応用する様々な場面でも用いられます。また、専門科目に対する基礎となるためしっかりと理解することが重要です。これまで学んできた1変数関数の微積分法を、多変数関数（主に2変数および3変数）の実数関数について展開し、微分法（偏微分法）や積分（多重積分）を学びます。

【到達目標】

多変数関数の微積分法に親しみ違和感なく対応できるようになることを目標としています。あわせて「数学を使って考える技術」を身につけることも心がけます。本授業は、「微積分法の基礎」が前提科目となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

「微積分法の基礎」の内容をベースにして、本授業では多変数関数（主に2変数および3変数関数）の微積分法（偏微分法と多重積分など）の基礎およびその応用を学びます。

教室では計算法とともに実践的な応用例を紹介し、計算力を養うために、課題（教科書の問題と、別途用意する問題・解説を自宅で学習）を提出してもらいます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックします。

この授業では予習・復習が非常に大切です。予習では「授業中にどのような質問をしようか」と考えましょう。そうすると、予習は「考える技術」の訓練の場となりますし、何に焦点をあわせて聞くかという心構えができるので、授業の時間を非常に有効に使えます。復習では、より多くの問題に取り組むようにしましょう。それにより数学力が身に付くようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No. 1	【2変数関数】 2変数関数の連続性 や極限	1変数関数の微分法および2変数関数の連続性や極限について復習します。
No. 2	【偏微分法】 偏微分法①：多変数 関数の導関数と全微 分	2変数関数のグラフと偏微分係数の関係を考察します。また、全微分の意味と取り扱いを学びます。
No. 3	【偏微分法】 偏微分法②：平均値 の定理とテイラー展 開	2変数関数における平均値の定理やテイラー展開の基礎を学びます。
No. 4	【偏微分法】 偏微分法③：テイ ラー展開の応用	関数の形を多項式で近似する方法とその意味について具体例を通じて学びます。
No. 5	【偏微分法】 偏微分法④：極値	偏微分係数を用いて、2変数関数の極値を求める方法を考察します。
No. 6	【偏微分法】 偏微分法⑤：条件付き 極値	条件付き極値問題を解く方法としてラグランジェの未定乗数法を学びます。

No. 7	【多重積分】 多重積分①	2変数関数の定積分を累次積分で表す方法を学びます。
No. 8	【多重積分】 多重積分②	多重積分の例を学びます。
No. 9	【多重積分】 多重積分③	極座標を用いた多重積分を学びます。
No.10	【多重積分】 多重積分④	物理における多重積分の応用例をいくつか学びます。
No.11	【ガウス積分】 ガウス積分①	確率論や統計力学で非常によく用いられるガウス積分について学びます。
No.12	【ガウス積分】 ガウス積分②	いろいろな例を通じてガウス積分に慣れ親しんでもらいます。
No.13	【線積分】 線積分の基礎	経路（積分路）に沿った積分である線積分について、そして物理との関連性を学びます。
No.14	【まとめ】	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとの課題等は、学習支援システムに掲載、又は授業内に提示します。なお、本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

微分積分+微分方程式（理工系の数理） 裳華房
川野日朗・薩摩順吉・四ツ谷昌二 共著
授業中に配布するプリント

【参考書】

一般的な微分積分の書籍であれば参考になります。入門書の例として以下を挙げておきます。
解析入門1・2 ハーン著 丸善
解析教程 ハイラー/ワナー著 丸善
微分積分（理工系の数学入門コース1） 和達三樹著 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

課題（15%）・授業内ミニテスト（15%）・中間試験（20%）、及び、期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

微分法や積分法は、物理学においてだけでなく、情報科学分野においても基礎となるものです。レポートやテストなど負担の多い科目ですが、しっかりと身に付けることが重要です。頑張りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで課題配布等を行います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Calculus is an essential technique not only in the prediction of phenomena in real world and various simulations, but also in the applications of information science. In this class, we will study the basics and applications of calculus of real functions with two or more variables such as partial derivative, multiple integral, and Gaussian integral etc. This class requires "Calculus - Basic Techniques and Applications".

【Learning Objectives】

To learn calculus of functions with multi-variables, especially two and three variables and to understand the usefulness of these techniques in real problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Four hours will be your standard study time for this class.

【Grading Criteria/Policies】

Overall grade in this class will be decided based on the followings;

Assingments: 15%, Quizes in each class: 10%,

Mid-term examination: 25%, Final examination: 50%

HUI312KA-CS-335 (人間情報学 / Human informatics 300)

生体情報論

小西 克巳

必修区分： | 配当年次／単位：3～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体の数理モデルを扱う上で必要な微分方程式の基礎と応用を身につけることを目標とし、線形微分方程式、非線形微分方程式、および、これらの数値シミュレーション手法と、生体における微分方程式で記述可能な数理モデルを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形微分方程式、非線形微分方程式、常微分方程式についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的な微分方程式の解法について復習する。次いで、常微分方程式、斉次線形微分方程式、非斉次線形微分方程式、連立線形微分方程式、および、非線形微分方程式の解法と、その性質について学ぶ。応用としてSIRモデル、Hodgkin-Huxleyモデルを学び、理解を深める。数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語MATLABを用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方およびMATLABの使い方の説明
第2回	基本的な微分方程式	基本的な微分方程式の復習
第3回	微分方程式とシミュレーション	微分方程式の数値解法、シミュレーション
第4回	斉次線形微分方程式	斉次線形微分方程式の解法
第5回	非斉次線形微分方程式	非斉次線形微分方程式の解法
第6回	連立線形微分方程式	連立線形微分方程式の解法
第7回	線形微分方程式と安定性	線形微分方程式の安定性解析方法
第8回	ARモデルとARXモデル	ARモデルとARXモデルの性質と数値シミュレーション
第9回	非線形微分方程式と安定性	非線形微分方程式と基本と安定性解析
第10回	McKendrick の SIR モデル	McKendrick の SIR モデルの性質と数値シミュレーション
第11回	Hodgkin-Huxley モデル	Hodgkin-Huxley モデルの性質と数値シミュレーション
第12回	ニューラルネットワーク	ニューラルネットワークの数理モデル
第13回	複雑系	複雑系、カオスの性質とシミュレーション
第14回	その他の生体における微分方程式	アトピー性皮膚炎などの複雑な微分方程式の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1] 微分方程式の復習

[2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習

[3] オンラインマニュアルを用いたMATLABプログラミングの習得

[4] 計算問題やMATLABプログラミングなどの課題への取り組み

[5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料

【参考書】

担当教員が作成した講義資料

【成績評価の方法と基準】

レポート課題40%，期末試験60％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規授業のためなし

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内Webサイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLABプログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the differential equations. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear ordinary differential equations
2. nonlinear differential equations
3. simulation methods for differential equations
4. applications of differential equations

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

COT211KA-CS-106 (計算基盤 / Computing technologies 200)

プログラミング演習1(python)

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Pythonを用いたデータ分析を題材として、プログラムや分析結果を読み取り、その意味、前提および限界を理解したうえで説明できる能力を養うことを目的とする。単にプログラミング技法を習得することにとどまらず、生成AIを補助的な道具として活用しながら、分析結果を根拠として判断し、他者に分かりやすく伝える力の育成を重視する。データを根拠として考え、判断し、説明する力は、学部・専門分野を問わず重要な基礎的能力であり、本授業を通じてその習得を目指す。

【到達目標】

本授業の修了時に、受講者は以下を達成することを目標とする。
1. Pythonによるデータ分析スクリプトの処理内容を、日本語で説明できる
2. 分析結果から言えること・言えないことを区別して整理できる
3. 生成AIを補助的な道具として活用しつつ、自身の判断を言語化できる
4. 技術的背景の異なる他者に対して、分析結果の意味や注意点を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」、「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面およびオンラインを併用したハイブリッド形式で実施する。

各回の授業は、以下を基本構成とする。

- 教科書および配布資料に基づく内容確認
- スクリプトや分析結果を「読む力」を確認する小テスト
- 課題および発表を通じた分析結果の解釈・説明

課題では、受講者が「開発側（実装や仕組みを説明する立場）」または

「分析・企画側（結果を解釈し判断につなげる立場）」の役割を自己申告で選択し、それぞれの視点から取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業の考え方	本授業の目的、進め方、評価方法および生成AIの利用方針について説明する。 教科書の位置づけと、データ分析における役割(開発/分析・企画)の考え方を共有する。 (教科書：第1章)
2	データの基礎的な扱い	数値データおよび文字データの特徴を理解し、データの型や構造が分析に与える影響を学ぶ。 スクリプトを「書く」だけではなく「読む」ことを通じて処理内容を確認する。 (教科書：第2章)

3	代表値と分布	平均やヒストグラムを用いて、データの特徴を要約する方法を学ぶ。 数値結果そのものではなく、代表値の選択や分布の解釈に重点を置く。 (教科書：第3章)
4	相関と回帰	相関係数および回帰分析を通じて、データ同士の関係性を調べる方法を学ぶ。 相関と因果の違い、回帰モデルの前提や限界について理解する。 (教科書：第4章・第5章の一部)
5	クラスタリング	クラスタリングを用いて、データの特徴に基づいて分類する考え方を学ぶ。 分類結果の解釈や、手法選択の妥当性について検討する。 (教科書：第6章)
6	予測モデル(1): 決定木	決定木による予測モデルの考え方を学ぶ。 モデルの構造や説明しやすさ、過学習の問題について理解する。 (教科書：第7章)
7	予測モデル(2): ランダム・フォレスト	ランダム・フォレストを用いた予測手法を扱う。 精度向上と説明性のトレードオフについて考察する。 (教科書：第8章・第9章)
8	施策効果と因果推論	傾向スコア・マッチングを通じて、施策の効果を評価する考え方を学ぶ。 観察データを用いた因果推論の難しさや注意点を理解する。 (教科書：第10章)
9	テキストデータ分析	形態素解析を用いて文章データを扱う方法を学ぶ。 テキストを数値化する際に失われる情報や解釈上の注意点を確認する。 (教科書：第14章)
10	実データ分析の考え方・最終課題告知	教科書データ以外の実データを扱う際の注意点を説明する。 最終課題の内容、進め方および評価基準について説明する。
11	最終課題: 分析設計・相談	最終課題に向けて、データ選択や分析計画の妥当性を検討する。 教員およびTAによる個別相談を行う。
12	最終課題：復習・重点指導(1)	最終課題の進捗状況を踏まえ、受講者が共通してつまづきやすい点について復習および補足説明を行う。 実データの扱い方、分析結果の解釈、記述上の注意点などについて整理し、最終課題の完成度向上を図る。

- 13 最終課題：復習・重点指導(2) 前回に引き続き、最終課題に関連する内容について復習および重点指導を行う。
分析計画の妥当性、結果の言語化、過度な一般化を避けるための注意点などを確認し、必要に応じて途中経過の共有を行う。
- 14 レポート講評・発表・最終版作成指示 事前提出されたレポートを基に、構成や記述上の注意点を解説する。
指摘を踏まえて成績評価用の最終版レポート作成を促す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、各回の授業に対して、授業時間外に1回あたりおおむね4時間程度の学習を想定する。

その内訳は以下のとおりである。

- 準備学習（約1時間）

教科書の該当章および配布資料を事前に読み、授業で扱う分析手法や用語の概要を把握する。

- 復習（約1時間）

授業内で扱ったスクリプトや分析結果について、処理内容や前提条件、解釈上の注意点を振り返る。

- 小テスト・課題への取り組み（約1時間）

Moodle等を用いた小テストや課題に取り組み、スクリプトを「読む力」および分析結果の理解を確認する。

- 最終課題に向けた作業（約1時間）

実データの収集・確認、分析計画の検討、レポート作成および修正作業を段階的に進める。

これらの学習を通じて、授業内で扱った内容の理解を深めるとともに、最終課題に必要な分析力および説明力の習得を目指す。

【テキスト（教科書）】

書名: 文系のための Python データ分析

著者名: 友原章典

出版社: 有斐閣

出版年: 2024

価格: 2100円

オリジナルオンライン資料

【参考書】

資料名: データサイエンス・スクール 上級者向けテキスト

著者名: 総務省統計局

URL: <https://www.stat.go.jp/dss/getting/pdf/upper.pdf>

価格: 無料

そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下を総合的に評価する。

- 小テスト（読む力の確認・一部自動採点）：約35%

- 課題および最終レポート（分析内容・解釈・説明）：約50%

- 授業内活動・発表への参加：約15%

授業内発表については、内容の正確さではなく参加そのものを評価対象とする。

プログラムが完全に書けるかどうかや、数値結果の正確さのみで評価することはしない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC(受講場所でインターネット接続ができるもの)が望ましいが、タブレットでも、次の条件を満たすものであれば構わない。

授業では、ブラウザ上のクラウドサービスである google colab を使って演習を行うので、それが実行できる環境が必要。

【その他の重要事項】

- プログラミング未経験者の履修を妨げない

- Pythonの経験がある学生には、説明力・応用力を求める

- 生成AI (ChatGPT、Gemini 等) の利用は認めるが、

AIの出力をそのまま提出することは評価しない

- 小テストおよび課題には、授業内外での継続的な取り組みが必要である

本授業は、情報系・非情報系の学生が混在して履修することを想定している。

プログラミング経験の有無に関わらず、データを理解し、説明し、判断に活用する力の習得を重視する。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course introduces data analysis using Python, focusing on reading, interpreting, and explaining analysis results rather than only writing code.

Students learn how to understand assumptions, limitations, and implications of data analysis methods, and how to communicate insights based on data.

The course includes quizzes, assignments, presentations, and a final project using real-world datasets.

Learning Objectives

By the end of the course, students will be able to:

1. Explain the purpose and process of Python-based data analysis scripts in their own words.

2. Interpret analysis results and distinguish between valid conclusions and overstatements.

3. Use generative AI tools as supportive aids while maintaining their own judgment and reasoning.

4. Communicate data analysis results clearly to audiences with different technical backgrounds.

Learning Activities Outside of the Classroom

Students are expected to:

- Review textbook chapters and supplementary materials before and after each class.

- Complete online quizzes to confirm their understanding of scripts and concepts.

- Work on assignments and a final project, including data selection, analysis, and report writing.

- Revise their reports based on feedback from presentations and instructor comments.

Grading Criteria / Policy

Final grades are determined based on the following components:

Quizzes (including automatically graded quizzes): approximately 35%

Assignments and final report (analysis, interpretation, and explanation): approximately 50%

In-class activities and participation, including presentations: approximately 15%

Presentations are evaluated based on participation rather than correctness of content.

Grades are not determined solely by programming accuracy or numerical results.

Notes

Students with and without prior programming experience are welcome.

The use of generative AI tools such as ChatGPT or Gemini is permitted; however, submitting AI-generated outputs without personal interpretation will not be evaluated positively.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(1) 基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(1) 所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(2) IS-LMモデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(3) IS-MPモデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第14回	期末試験と総括	試験等

第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective. Students are expected to spend approximately four hours each on preparation and review. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
日本経済論 A
青野 幸平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第2次世界大戦後以降の「日本経済」の変遷についてデータを用いた客観的な視点・マクロ経済学やミクロ経済学に基づく経済学的な視点を通じて理解した上で、日本経済の現状を理解することが目的である。そのために、国民経済計算や資金循環統計などの経済統計に関する知識、ミクロ経済学・マクロ経済学についての知識を利用・応用することが必要になる。日本経済を理解する上で重要な指標や統計については授業内でも説明する。ミクロ経済学やマクロ経済学に関連する知識についても講義に関連する範囲で確認していく予定であるが、基礎的な知識を事前に学習していることが望ましい。

【到達目標】

「データ」に基づく客観的な視点とマクロ経済学・ミクロ経済学に基づく経済学的な視点から日本経済の現状について理解できることが到達目標である。具体的には、「日本経済新聞」に掲載される日本経済に関連する記事について、背景の知識も含めて理解出来るようになる事が目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、原則として対面で実施する。授業は板書・電子板書とスライドを利用した対面講義を基本として授業を進める。事前に配布を予定しているレジュメにある空欄を授業中に穴埋めする形式で進めていく。質問等があれば授業の前後に対応する。電子板書に記載した内容については授業終了後に公開する。毎回の授業後に「確認テスト」を実施する予定なので、その場合は次回の授業の開始時間までに回答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・日本経済の全体像（1）	講義内容・授業の進め方・評価の方法などの説明したうえで、日本経済の現在地を様々な統計で確認する。
2	日本経済の全体像（2）	日本経済の現在地を様々な統計で確認する。
3	戦後における経済成長（1）	高度経済成長とその要因を考察する。
4	戦後における経済成長（2）	バブルの発生と崩壊について理解する。
5	戦後における経済成長（3）	アベノミクスについて理解する。
6	日本における景気循環	日本における景気循環とその要因を理解する。
7	物価の変動と日本経済	インフレとデフレとその背景を理解する。
8	日本の産業構造と日本型企業（1）	日本における産業構造とその変遷を理解する。
9	日本の産業構造と日本型企業（2）	日本型企業・メインバンク制度について理解する。

10	雇用の変動と日本型労働（1）	雇用と景気変動の関係を理解する。
11	雇用の変動と日本型労働（2）	日本型雇用慣行について理解する。
12	為替レートと日本経済（1）	為替レートに関連した理論を理解する。
13	為替レートと日本経済（2）	為替レートの変動と日本経済の関係を理解する。
14	まとめ	第1回から13回までの講義に関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う各種統計指標の公表や関連するニュースを新聞記事などで確認することが重要である。事前学習として事前に配布するレジュメを確認することが求められる。復習として授業で扱ったデータについて、政府統計の総合窓口（e-Stat）などを利用して自身で確認することが求められる。本講義の事前学習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、最初にあげている参考書をベースに授業は進めていく。また、レジュメは事前に配布する予定である。詳細は初回の授業で説明する。

【参考書】

・『最新日本経済入門第7版』（小峰隆夫・村田啓子著、日本評論社）
・『新入門・日本経済』（浅沼和美・飯塚信夫・篠原総一（編集）、有斐閣）
・『日本経済論』（伊藤隆敏・星岳雄著、東洋経済新報社）
など。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）と毎回の確認テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to understand the current state of the Japanese economy by first comprehending its post-World War II evolution through an objective, data-driven perspective and an economic viewpoint grounded in macroeconomics and microeconomics. To achieve this, students will need to utilize and apply knowledge of economic statistics, such as national accounts and financial circulation statistics, as well as microeconomics and macroeconomics. Key indicators and statistics crucial for understanding the Japanese economy will be explained during class. While knowledge related to microeconomics and macroeconomics will be reviewed within the scope of the lectures, it is desirable that students have already acquired foundational knowledge beforehand.

【Learning Objectives】

The learning objectives of this course are to understand the current state of the Japanese economy from an objective perspective based on “data” and from an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grades will be based on final exams (70%) and regular quizzes (30%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差

第14回 期末試験と総括 試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社
配布資料

【参考書】

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics. Students are expected to spend approximately four hours each on preparation and review. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
日本経済論 B
青野 幸平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現在の日本経済が抱えている問題である財政（政策）に関連した課題、金融政策に関連した課題、格差に関連した課題、社会保障・労働に関連した課題などについて、データを用いた客観的な視点・マクロ経済学やミクロ経済学に基づく経済学的な視点を通じて理解することが目的である。そのために、国民経済計算や資金循環統計などの経済統計に関する知識、ミクロ経済学・マクロ経済学についての知識を利用・応用することが必要になる。日本経済を理解する上で重要な指標や統計については授業内でも説明する。ミクロ経済学やマクロ経済学に関連する知識についても講義に関連する範囲で確認していく予定であるが、基礎的な知識を事前に学習していることが望ましい。

【到達目標】

「データ」に基づく客観的な視点とマクロ経済学・ミクロ経済学に基づく経済学的な視点から日本経済の課題について理解できることが到達目標である。また、それぞれの課題について経済学的な視点から自身の考えを説明できるようになることも到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、原則として対面で実施する。授業は板書・電子板書とスライドを利用した対面講義を基本として授業を進める。事前に配布を予定しているレジュメにある空欄を授業中に穴埋めする形式で進めていく。質問等があれば授業の前後に対応する。電子板書に記載した内容については授業終了後に公開する。毎回の授業後に「確認テスト」を実施する予定なので、その場合は次の授業の開始時間までに回答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・授業の進め方・評価の方法などの説明する。
2	日本経済における課題の整理	様々な統計指標によって日本経済の課題を確認する。
3	財政政策と日本経済（1）	経済学における政府・財政政策の役割を確認する。
4	財政政策と日本経済（2）	日本における財政政策を確認する。
5	財政政策と日本経済（3）	財政赤字と財政健全化に関する議論を確認する。
6	金融政策と日本経済（1）	経済学における金融・金融政策の役割を確認する。
7	金融政策と日本経済（2）	日本における伝統的金融政策を確認する。
8	金融政策と日本経済（3）	日本における非伝統的金融政策を確認する。
9	金融システムと日本経済	日本における金融システムを確認する。
10	格差と日本経済（1）	格差の考え方と日本における格差を確認する。

11	格差と日本経済（2）	格差を解決する方向性を確認する。
12	グローバル化と日本経済	外国人労働者と近年のグローバル化について確認する。
13	デジタル化と日本経済	DX革命やAIと日本経済の関係を確認する。
14	まとめ	第1回から第13回までの授業内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う各種統計指標の公表や関連するニュースを新聞記事などで確認することが重要である。事前学習として事前に配布する予定のレジュメを確認することなどが求められる。復習として授業で扱ったデータについて、政府統計の総合窓口（e-Stata）などを利用して自身で確認することが求められる。本講義の事前学習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、最初にあげている参考書をベースに授業は進めていく。また、レジュメは事前に配布する予定である。詳細は初回の授業で説明する。

【参考書】

・『最新日本経済入門第7版』（小峰隆夫・村田啓子著、日本評論社）
 ・『新入門・日本経済』（浅沼和美・飯塚信夫・篠原総一（編集）、有斐閣）
 ・『日本経済論』（伊藤隆敏・星岳雄著、東洋経済新報社）など。
 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）と毎回の確認テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to understand the challenges facing the current Japanese economy — such as issues related to fiscal policy, monetary policy, inequality, and social security/labor — through an objective perspective using data and an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics. To achieve this, knowledge of economic statistics (such as national accounts and funds flow statistics) and microeconomics/macroeconomics will be necessary to utilize and apply. Key indicators and statistics crucial for understanding the Japanese economy will be explained during class. Knowledge related to microeconomics and macroeconomics will also be reviewed within the scope of the lectures, though prior study of foundational concepts is recommended.

【Learning Objectives】

The learning objectives of this course are to understand the current state of the Japanese economy from an objective perspective based on “data” and from an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grades will be based on final exams (70%) and regular quizzes (30%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 A
坪田 建明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。貿易利益・貿易政策の効果といったトピックを理解できることを目的とします。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade?	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	I(Gains from trade)	
4	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
5	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
6	Trade Policy	貿易政策とは何か
7	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
8	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
9	What do we trade?	比較優位
10	(Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	
11	General equilibrium	一般均衡の考え方
12	Real problems with international trade (1)	貿易に関係する実際の問題についての検討
13	Real problems with international trade (2)	貿易に関係する実際の問題についての討議
14	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
15	Spatial Economics	空間経済学/経済地理的国際経済学
16	Reviews and summaries	まとめと総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキストを配布する。

【参考書】

武智、東田、黒田(2025)『トピックで読み解く国際貿易論』、ミネルヴァ書房
石川・菊池・棕(2013)『国際経済学をつかむ』、有斐閣（第二版）

【成績評価の方法と基準】

課題およびレポート（40%）、期末試験(60%)により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【その他の重要事項】

進捗状況によって、適宜、シラバスの内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade. Our learning objective is to understand the basic concepts of international trade. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments and a report (40%) and final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題（小テスト）を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済	生産の国際立地
第8回	輸出判断と多国籍企業	グローバル経済の企業
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第12回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第13回	地域貿易協定の効果	F T Aが与える影響
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023 年
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策』（原書第10版）上：貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013 年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022 年
武智一貴・東田啓作・黒田知宏著『トピックで読み解く国際貿易論』ミネルヴァ書房、2025 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（12回を予定）（30％）と、期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 12 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
国際経済論 B
坪田 建明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	ISバランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か、経常収支と金融収支
5	Exchange rate	為替レート：平価レート
6	Purchasing Power Parity	購買力平価
7	Interest parity	金利平価
8	Real exchange rate	実質為替レート
9	Financial Crisis	金融危機
10	More on Crises	経済危機について
11	Needs for Financial Education	金融リテラシーの重要性について
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムパズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Reviews and summary	総復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

飯島、五百旗頭、佐藤、菅原（2017）身近に感じる国際金融、有斐閣ストゥディア

【成績評価の方法と基準】

成績は課題およびレポート（40%）、期末試験（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics. Our learning objective is to understand the basic concepts of international finance. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments and a report (40%) and final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題(小テスト)を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次回の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表	国際収支表の項目
第2回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第3回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第4回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第5回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第6回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第7回	金融政策と為替レート	2国間の金融政策の違い
第8回	長期の為替レート決定	購買力平価
第9回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第10回	固定為替レート	外国為替市場介入
第11回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第12回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第13回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第14回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023 年
クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下:金融編』丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題(小テスト・12回を予定) (30%) と、授業内に行う期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対して有効な経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面している問題を理解します。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学はどのような内容か
2	市場の役割 (1)	価格メカニズムの働き
3	市場の役割 (2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
4	市場の役割 (3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
5	財政の3つの機能 (1)	資源配分機能（外部性、公共財）
6	財政の3つの機能 (2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
7	財政の3つの機能 (3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
8	政府の大きさ (1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
9	政府の大きさ (2)	国民負担率
10	財政と予算 (1)	一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
11	財政と予算 (2)	一般会計歳入(租税と公債)
12	財政と予算 (3)	一般会計歳出(社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等)、プライマリーバランス
13	財政投融资	財政投融资の仕組み、財政投融资改革と規模の推移
14	予算のしくみと編成 (1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方

14 予算のしくみと編成 予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解していることこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。財政学を通して学ぶ：江成穰・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙『Why not?! 財政学 超入門からホットイシューまで』有斐閣、2025年。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムも利用します。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話しますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, the government of Japan must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth-rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the government of Japan is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.

Learning objective:

The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A
廣川 みどり
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUUVWYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では、少子高齢化にともなう社会保障費による政府債務残高や低成長への経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場への介入がどのようなときに必要なのかについて、そして、後半では日本の財政制度とデータを見ることで、政府が直面している問題を把握し、どのように考えるべきかの材料を提供します。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。また、学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第2回	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
第3回	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
第4回	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
第5回	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
第6回	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
第7回	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
第8回	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
第9回	政府の大きさ(2)	国民負担率
第10回	財政と予算(1)	一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
第11回	財政と予算(2)	一般会計歳入（租税と公債）
第12回	財政と予算(3)	一般会計歳出（社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等）、プライマリーバランス
第13回	財政投融资	財政投融资の仕組み、財政投融资改革と規模の推移
第14回	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
第15回	予算のしくみと編成(2)	予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方をを用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安がある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。また、日経新聞なども参考に日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

・財政学を通して学ぶ：畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ、第3版』有斐閣。
・素朴な疑問から現在の話題を考える：江成稔・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙(2025)『Why not?! 財政学 超入門からホット 이슈まで』有斐閣。
・税を中心に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。
・制度・データの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。（最新年度版）

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価します。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、接続・ブラウザ環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムにより、情報共有・教材配布します。履修生は必ず登録すること。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
Currently, the Japanese government must deal with a variety of issues, including huge social security costs due to a declining birthrate and aging population, and huge government debt caused by economic policies to address low growth. In this class, students will understand these issues facing the Japanese government and learn how to think about them from an economics perspective.
Learning objective:
The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学 A の内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり 国と地方との関係(1)	財政学 A のふりかえり。 地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2) 租税の転嫁と帰着(1)	国から地方自治体への移転のつづき。 税の転嫁と帰着、直接税と間接税。
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響。
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析。
5	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果。
6	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較。
7	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税。
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史。消費税に関わる制度。
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数。
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果。
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果。

11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数。政府支出増大による IS のシフト。
12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、その均衡。貨幣供給増大による LM のシフト。
13	IS-LM 分析(3)	IS と LM の交点。財政政策・金融政策の効果。
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題。MMT の考え方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。
財政学を通して学ぶ：江成穰・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙『Why not?! 財政学 超入門からホット 이슈まで』有斐閣、2025 年。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。
授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムも利用します。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話しますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.

Learning objective:

The goal of this course is to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 B
廣川 みどり
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学 A の内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）の理解を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。また、学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり 国と地方との関係(1)	財政学 A のふりかえり 地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2) 租税の転嫁と帰着(1)	国から地方自治体への移転のつづき 税の転嫁と帰着、直接税と間接税
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析
5	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果
6	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較
	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史、消費税に関わる制度
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果
11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数 政府支出増大による IS のシフト

12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、およびその均衡 貨幣供給増大による LM のシフト
13	IS-LM 分析(3)	IS と LM の交点 財政政策・金融政策の効果
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題 MMT の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方をを用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安がある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。また、日経新聞なども参考に日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
・財政学を通して学ぶ：畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ、第3版』有斐閣。
・素朴な疑問から現在の話題を考える：江成穰・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙(2025)『Why not?! 財政学 超入門からホット 이슈まで』有斐閣。
・税を中心に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。
・制度・データの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。（最新年度版）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%で評価します。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、接続・ブラウザ環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムにより、情報共有・教材配布します。履修生は必ず登録すること。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話しますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:
Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.
Learning objective:
The goal of this course is to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
金融論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて大学で金融を学ぶ人が、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶことを通じて、まず金融に興味を持ち、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけることです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義は、対面講義形式で行います。

この講義では、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即したup-to-dateな金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション ：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融システム ①	日本の金融システムの特徴と銀行について
第6回	日本の金融システム ②	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融システム ③	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	流動性のわなと貨幣供給	流動性のわなとマネーストックについて
第13回	企業の資金調達	企業の資金調達について
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや教科書を復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学などで学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20%）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に提出します。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示、フィードバックなどに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
金融論 A	
高橋 秀朋	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、金銭の貸借やそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は、金融システムにおける諸問題を経済学的観点から理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようにすることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、演習回では課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。また、EXCELを利用したセミナー形式の演習もあわせて行う。学生の解答を確認し、誤答が多かった箇所については解説動画をアップロードするなどしてフィードバックを行う。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義ではEXCELを利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
3	貨幣の時間価値1	将来価値、現在価値
4	貨幣の時間価値2	株価、債券価格の計算への応用
5	貨幣の時間価値3	株価、債券価格の計算への応用
6	債券管理	金利リスク
7	リスク評価1	2状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価2	複数状態モデルと分散化
9	リスク評価3	複製戦略によるオプション評価
10	リスク評価4	状態価格によるオプション評価
11	演習1	小テスト（将来のCFが確実な証券の価格評価）
12	演習2	小テスト（将来のCFが不確実な証券の価格評価）
13	演習3	EXCELの関数を利用した将来価値、現在価値の計算
14	演習4	リスク資産の収益率の記述統計量（EXCEL利用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、F T等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストのPart 2が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験80%、3～4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5～7%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてWebClassにアップロードしておく。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be evaluated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて大学で金融を学ぶ人が、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶことを通じて、まず金融に興味を持ち、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけることです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義は、対面講義形式で行います。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か
第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルデンス政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	金融と情報の非対称性	金融と情報の非対称性について

第14回 ヨーロッパの金融システム ヨーロッパの経済通貨統合について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや教科書を復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

経済学入門や企業と経済・基礎、現代経済学などで学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。学期末試験は教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加状況や学習の進捗状況を平常点として成績評価に加味します（20%）。学習の進捗状況を確認するために、講義内容の理解度を確認する課題を学期中に提出します。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示、フィードバックなどに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを一通り学習した者を対象として、金融システムの役割や現実の金融における諸問題を分析する力を身につけることにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを、金融論Aの知識を発展させ、情報の経済学を利用して分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、金融取引における情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、オンデマンド形式で実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、演習回では課題に回答、提出するという学習サイクルで実施する。学生の解答を確認し、誤答が多かった個所については解説動画をアップロードするなどしてフィードバックを行う。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論Aの復習	金融の機能
2	リスクと資産評価	債券、株式の評価
3	情報の非対称性1	逆選択問題
4	情報の非対称性2	モラルハザード
5	情報の非対称性3	自己選択、インセンティブメカニズム
6	契約の不完備性	不完備契約における諸問題
7	金融市場と仲介機関	金融市場概観
8	金融市場への応用1	証券の発行市場
9	金融市場への応用2	証券の流通市場
10	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
11	演習1	小テスト（2状態モデルとリスク）
12	演習2	小テスト（逆選択）
13	演習3	小テスト（モラルハザード）
14	演習4	小テスト（契約の不完備性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週2時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、F T等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週2時間）。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論 第2版』（日本評論社、2016年）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストのPart 3 およびPart 4が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験80%、4回の演習における課題の評価20%として行う。提出課題の基本点は各回5%相当であるが、特に優秀な課題に関しては追加で加点を行う。当該加点を含めて100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の復習を効率的に行うために、小テストや演習の解説はオンデマンド形式のコンテンツとしてWebClassにアップロードしておく。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to introduce more sophisticated concepts and frameworks than those students learn in Monetary and Finance A (Kin-yuron A). Students are expected to acquire ability to analyze real financial activities with knowledge related to information economics. In this lecture, employing the information theory and fundamental knowledge of Finance, we apply the theories to analysis of the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (20%) and term-end exam (80%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済の数理 A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済問題・経済事象をゲーム理論の視点から分析するために必要な知識を習得し、応用する。主眼は「応用」にあるが、そのためには分析ツールの習得が不可欠である。そこで、まず「不確実性下の意思決定モデル」および「戦略形ゲーム」について学習する。これらはゲーム理論の基礎をなすため、本講義では時間をかけて学習と演習を行う。

【到達目標】

本講義では、現代経済における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係を、ゲーム理論的な視点から分析・理解する能力を習得し、そうした相互依存関係によって引き起こされる現象の良し悪しを論理的に判断できる力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の序盤では、不確実性下の意思決定モデルを学習する。次に、ゲーム理論、とりわけ戦略形ゲームについて学習する。ナッシュ均衡の導出手順を学んだ後、寡占市場分析や公共財供給分析などの応用分析を行う。ゲーム理論は数学的に緻密に構築された分析ツールであるため、本講義では数学的な操作（数式の展開、命題の証明など）を行うとともに、どのような現実問題に理論が応用されているのかについても解説する。

担当教員が自作した講義ノートを用い、板書およびスライドによって講義を行う。講義ノートは学習支援システム（WebClass）にアップロードするため、各自ダウンロードの上、講義に持参することが求められる。あわせて、練習問題のファイルも学習支援システムを通じて配布する。講義に関するお知らせや資料配布は、すべて学習支援システムを通じて行う。課題等に関するフィードバック（講義内容に関する質疑や練習問題の解説など）は、主として講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゲーム理論とは	ゲーム理論の歴史と発展について。
2	不確実性下の意思決定(1)	確率計算の復習。リスクと不確実性について。
3	不確実性下の意思決定(2)	期待効用理論とリスクに対する態度(危険回避、中立、愛好)について。
4	戦略形ゲーム(1)	戦略形ゲームの定義
5	戦略形ゲーム(2)	戦略形ゲームの例：クールノー寡占、公共財供給
6	戦略形ゲームとナッシュ均衡(1)	最適反応関数とナッシュ均衡
7	戦略形ゲームとナッシュ均衡(2)	応用モデルにおけるナッシュ均衡の導出：クールノー寡占市場、公共財供給

8	戦略形ゲームとナッシュ均衡(3)	応用モデルにおけるナッシュ均衡の導出：ベルトラン寡占市場、共有地問題
9	達成度検査	教場試験を実施する。
10	達成度検査のアフターケア	達成度検査の解答とフィードバックを行う。
11	戦略形ゲームと混合戦略ナッシュ均衡(1)	混合戦略を含んだ最適反応関数とナッシュ均衡の導出について
12	戦略形ゲームと混合戦略ナッシュ均衡(2)	混合戦略ナッシュ均衡に関する数理解習(均衡計算+比較静学)
13	戦略形ゲームにおけるその他の話題	不動点定理とナッシュ均衡の存在定理、優モジュラーゲームとナッシュ均衡等
14	春学期講義の総括	春学期の学習内容を復習し、理解度確認のための問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義はミクロ経済学とゲーム理論をベースとして行われるため、講義内容の理解を促進するためには、練習問題演習が有効である。講義資料の各章末に練習問題を設けるので、自主学習として解くことを勧める。微分、極大極小の導出について高校の文系数学程度の知識を復習して、講義に臨むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間(計4時間)を標準とします。各自、講義の前後で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

下記の書籍をベースに講義を行う。

・岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014年

【参考書】

Webclassで配布する補助資料は、次の書籍を参考にする。

・岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015年

・ロバート・ギボンズ『経済学のためのゲーム理論入門』（訳：福岡正夫、須田 伸一）岩波書店、2020年

【成績評価の方法と基準】

達成度試験(30%)と期末教場試験(70%)により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度と講義内容を変更しているため、一概には言えないが、ゲーム理論をベースにしたこれまでの講義については、受講生から概ね好評だった。教員の独りよがりな講義にならないように、更に努力と工夫に努める。

【その他の重要事項】

「ミクロ経済学A・B」を履修し、消費者理論・生産者理論・市場分析（部分均衡および一般均衡）を一通り学習しておくことを推奨します。ゲーム理論は数学の一分野として発展し、その後、経済分析へと移植されてきました。したがって、本講義は数学と経済分析（特にミクロ経済学）との関連性を学ぶつもりで受講すると、理解の視座が上がります。頑張ってください。

なお、授業に関するお知らせは学習支援システム（WebClass）を通して行います。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will acquire the basic knowledge needed to analyze real-world problems from a game-theoretic perspective. First, we will review the theory of choice under uncertainty, which is a fundamental concept in economic decision making. Next, we will study game theory as a tool for analyzing interdependence among multiple entities. In particular, students will learn applications of strategic-form games and several equilibrium concepts (i.e., Nash equilibria). The objective of this lecture is to develop the ability to analyze interdependence among individuals, firms, nations, and other entities in the modern economy from a microeconomic perspective.

Students are required to spend at least four hours per week preparing for and reviewing the contents of this lecture. They are expected to solve practice problems before and after each lecture to check their understanding.

Evaluation will be based on a midterm in-class examination (30%) and a final examination (70%). Details will be announced during the lecture and on WebClass.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済の数理 B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「経済の数理A」に引き続き、経済問題・経済事象をゲーム理論の視点から分析するために必要な知識の習得と応用分析を行う。第一に、ナッシュ均衡に代わる分析概念として支配可能について学習する。これは、春学期に触れた「優モジュラーゲーム」にも関連する話題であるため、春学期と秋学期の学習内容を橋渡しするのに打ってつけの話題である。第二に、集団合理性と個人合理性の関係を考察するため、パレート最適性の概念を学習し、これを応用ゲームに適用する。第三に、逐次的なゲームとその応用例を学習する。形式的な定式化として、展開型ゲームにおける基本的な知識を学習する。最後に、これまでに習得したゲーム理論の基本知識を応用し、繰り返しゲーム理論について学習する。

【到達目標】

経済の数理Aに引き続き、現代経済における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ゲーム理論分析で重要となる「戦略形ゲーム」「展開型ゲーム」および「繰り返しゲーム」について、指定教科書および担当教員作成の講義資料を用いて学習する。ゲーム理論は数学的に緻密に構築された分析ツールであるため、本講義では、数学的な操作（数式の展開、命題の証明など）を行うとともに、現実経済との対応関係（事例の紹介等）についても解説する。講義資料は学習支援システム（WebClass）にアップロードするため、各自ダウンロードの上、講義に持参することが求められる。あわせて、練習問題のファイルも学習支援システムを通じて配布する。講義に関するお知らせや資料配布はすべて学習支援システムを通じて行う。課題等に関するフィードバック（講義内容に関する質疑や練習問題の解説等）は、主として講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の学習内容について。経済の数理Aの復習。
2	戦略形ゲーム：その他の均衡概念について	支配可能とクールノー寡占市場
3	利害対立と協調(1)	個人合理性 vs 集団合理性
4	利害対立と協調(2)	パレート最適性について。応用例での導出。
5	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について。
6	逐次手番ゲーム応用	シュタッケルベルグ寡占市場ゲームと先導者の利益について。
7	展開型ゲーム(1)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡についてPart 1。

8	展開型ゲーム(2)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡についてPart 2。
9	達成度検査	教場試験を実施する。
10	達成度検査アフターケア	達成度検査の解答とフィードバックを行う。
11	繰り返しゲーム(1)	有限回囚人のジレンマのナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡について。
12	繰り返しゲーム(2)	無限回繰り返し囚人のジレンマとフォーク定理について。
13	繰り返しゲーム(3)	寡占市場におけるカルテルの安定性について。
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義はゲーム理論をベースとして行われるため、講義内容の理解を促進するためには、練習問題演習が有効である。講義資料の各章末に練習問題を設けるので、自主学習として解くことを勧める。微分、極大極小の導出について高校の文系数学程度の知識を復習して、講義に臨むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間(計4時間)を標準とします。各自、講義の前後で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

下記の教科書をベースに講義を行う。

・岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014年

【参考書】

WebClass補助資料は下記の書籍を参照する。

・岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015年

・ロバート・ギボンズ『経済学のためのゲーム理論入門』（訳：福岡正夫、須田 伸一）岩波書店、2020年

【成績評価の方法と基準】

達成度検査(30%)と期末教場試験(70%)により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度と講義内容を変更しているのですが、一概には言えないが、ゲーム理論をベースにしたこれまでの講義については、受講生から概ね好評だった。教員の独りよがりな講義にならないように、更に努力と工夫に努める。

【その他の重要事項】

「ミクロ経済学A・B」を履修し、消費者理論・生産者理論・市場分析（部分均衡および一般均衡）を一通り学習しておくことを推奨します。ゲーム理論は数学の一分野として発展し、その後、経済分析へと移植されてきました。したがって、本講義は数学と経済分析（特にミクロ経済学）との関連性を学ぶつもりで受講すると、理解の視座が上がります。頑張ってください。

なお、授業に関するお知らせは学習支援システム（WebClass）を通して行います。

【Outline (in English)】

In this lecture, following Mathematics for Economics A, students will acquire the basic knowledge needed to analyze economic problems from a game-theoretic perspective. First, we will learn dominant solvability in strategic-form games, which bridges the contents of the Spring semester and those of the Fall semester. Second, to examine the relationship between group rationality and individual rationality, we will study the concept of Pareto optimality and apply it to these games. Third, we will learn sequential games and their applications. In particular, students will learn the formulation of extensive-form games. Finally, students will study repeated games by applying the basic knowledge they have acquired so far.

Continuing from Mathematics for Economics A, the objective of this course is to understand game theory as a framework for analyzing interdependent relationships among various economic agents in the modern economy.

Students are required to spend at least four hours per week preparing for and reviewing the content of this course. They are expected to solve problem sets before and after each lecture to check their understanding.

Evaluation will be based on a midterm achievement exam (30%) and a final in-class exam (70%). Details will be announced during the lecture and on WebClass.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCELをもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは？ 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか？ 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か？
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散

14 重回帰分析の基本 回帰分析後の検定
大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」 有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013) 「入門計量経済学—Excelによる実証分析へのガイド (経済学叢書Introductory)」 新生社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of classical regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using EXCEL.

(Learning Objectives)

Classical regression analysis where the error term follows a normal distribution will be taught according to the text. Review of probability theory, review of statistics, and basics of simple and multiple regression models will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
計量経済学B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがわないの現代的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。重回帰モデルの復習、頑健な標準偏差、操作変数法、パネル分析などを講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら？ 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」 有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016) 「Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ」 オーム社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」 ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of modern regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using R.

(Learning Objectives)

Modern regression analysis where the error term does not follow a normal distribution will be taught according to the text. Review of multiple regression models, robust standard error, instrumental variables regression, panel analysis, etc. will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
企業と経済・応用 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎Aで均衡GDP（国民所得）の決定の説明（45°線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策がGDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】

- ・IS-LM分析に基づくGDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・総需要-総供給分析に基づくGDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・財政政策及び金融政策が金利およびGDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（IS-LM分析の仕組みに基づき）
- ・財政政策及び金融政策が物価水準およびGDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業により行う。秋学期中に、1回課題を出すので、1週間を目的に授業支援システムの「課題」にその解答をアップしてほしい。締め切り直後に、授業内で正解の解説を行う。後半の5回分は、zoomによる授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づきGDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利とGDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルのkなど）
6	貨幣需要	IS-LM分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利とGDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM分析に基づく均衡GDPおよび金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM分析に基づく2つの市場を均衡させるGDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利およびGDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させるGDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させるGDP及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準とGDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準とGDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させるGDP（国民所得）および物価水準の導出
14	総需要－総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果	金融政策および財政政策の変化がGDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対面授業の回については、基本的に板書で説明を行う。その際は、授業を録画し、その録画ファイルのzoomでのリンクをお知らせする。オンラインの授業の回については、授業の説明に使った電子ノートのPDFファイルを授業支援システムにアップする。本授業は、主に図による説明により行う。そのため、複雑な図による説明や例題もあるので、録画ファイルまたはPDFファイルでの復習が2時間程度必要と思われる。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、授業の際に紹介する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、期末試験期間中の授業曜日、授業時限開始時に期末課題を授業支援システムの「課題」にアップします。解答作成し、「解答」を収めたファイルを、授業曜日、授業時限中に、「課題」にアップにより提出してもらいます。その課題解答の素点に関して85%、1回行う学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義での板書は、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline (in English)】

The objective to this course is to understand IS-LM model, and AD(Aggregate Demand)-AS(Aggregate Supply) model to determine the levels of interest rate, price level, and GDP in short run. Moreover, The effects of fiscal and monetary policy on GDP, price level and, interest rate could become to be determined, based on IS-LM model, and AD-AS model.

The learning objectives are for students to determine the levels of GDP, interest rate, and overall price, and predict the effects of fiscal/monetary policies on GDP, interest rate, and overall price level correctly, based on IS-LM model and, AS-AD model.

More than 2 hours are required to get the views of many graphical explanations, and follow the logic of these, after each classroom.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 90%, Mid-term report: 10%.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
現代ファイナンス入門A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は『『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする』ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。

井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。

井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance.

It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
現代ファイナンス入門B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は『『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする』ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社

井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社

井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの一環として統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。EXCELでの演習を通じて基本的なデータ処理の方法も学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、PC上でEXCELを使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使ってExcelを用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excelと統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定(1)	・仮説検定と有意水準 ・1つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定(2)	・2つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較(1)	・分散分析 ・1元配置法
12	平均に関する群間比較(2)	・2元配置法 ・相互効果

13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PCを使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準4時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室でPCを利用します。必要に応じてUSBメモリなどを準備して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in exercises using PC and statistical software (MS Excel).

Goal: To master basics of statistics and econometrics, and data-analysis skills using MS Excel.

Extracurricular exercise: weekly homework assignments need to be submitted through the online system (4 hours)

Grading: homework(30%) and final report(70%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスのスキルを身に着けるため、統計パッケージを利用したより高度な経済データの分析手法を学ぶ。

【到達目標】

この統計パッケージRを用いた演習を行います。Rの特徴はExcelよりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学の手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学とRの操作方法について解説します。その後実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	Rの設定	・Rについて ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	Rの操作とデータ管理(1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	Rの操作とデータ管理(2)	・基本統計量
5	Rの操作とデータ管理(3)	・行列の操作
6	Rの操作とデータ管理(4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰(1)	・クロスセクションデータ ・K変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
8	クロスセクションデータに対する線形回帰(2)	・Rでの回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰(3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習(1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰(1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰(2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman 検定
13	演習(2)	・パネルデータを用いた演習

14 まとめ

- ・授業のまとめと復習
- ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析Aに加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

毎回の講義内容をしっかり復習して下さい（標準4時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】

Rの操作やデータ分析については

- ・「Rによる統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009
- ・「Rによるデータ分析入門—経済分析の基礎から因果推論まで—」松浦寿幸、東京図書、2024

計量経済学については

- ・山本拓「計量経済学」新世社、1995
- ・田中隆一、「計量経済学の第一歩—実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

- ・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
- ・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室でPCを使うので、必要に応じてUSBメモリ等を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Oulline: Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).

Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).

Grading: homework assignment (30%), final report (70%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの多層的な空間スケールを念頭におき、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、産業立地の空間的パターン、都市化と空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では経済立地や産業立地の基礎モデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	人口と現代経済①	人口構造と人口動態
第3回	人口と現代経済②	人口問題
第4回	都市化と人口移動	都市化の現状と問題
第5回	経済発展と産業構造	工業化と産業構造の高度化
第6回	立地論の基礎①	立地論の系譜と工業立地論
第7回	立地論の基礎②	農業立地論と中心地理論
第8回	立地論の応用	立地論の拡張と動態的視角
第9回	現代の都市経済①	土地利用と内部構造
第10回	現代の都市経済②	都市規模と都市システム
第11回	都市問題と都市政策	都市問題と開発の歴史と現在
第12回	地域構造と国土政策①	日本の地域構造と論点
第13回	地域構造と国土政策②	国土政策の系譜と新たな政策
第14回	まとめ・総括	講義のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

小田宏信編著（2024）『日本経済地理読本（第10版）』東洋経済新報社
河野綱果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
富田和暁（2020）『地域と産業—経済地理学の基礎—（新版）』原書房
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣

デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン桐原

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回的小テスト等の課題（60%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline:

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

Learning Objectives:

By learning the theory and practice of industrial location, students will understand the formation of diverse geographic landscapes in the modern economy through the mechanisms of economics.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、各産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第9回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローバル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
 伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
 橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
 アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
 松原 宏編（2018）『地域経済論入門（改訂版）』古今書院

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

This lecture focuses on the history and geography of industry, and outlines the impact of the modern industry on regional economies, with the aim of cultivating concrete and practical thinking skills about the mechanisms of the rise and fall of industrial regions and industrial agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

MAN200CA (経営学 / Management 200)
コーポレートガバナンス論A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示、モノ言う株主（アクティビスト）などと株価との関連について学び、データから資本市場の役割を理解する。

【到達目標】

2025年の中居正広氏問題で、フジテレビの親会社フジHDの大株主の海外ファンドが全経営陣の交代を要求した事例からわかるように、株式会社は株主によって所有され、株主は株主総会で議決権を行使することなどで経営の重要事項に自らの意見を反映させる。コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会と議決権行使との関連で、機関投資家などの大株主の議決権行使の個別開示などのスチュワードシップ・コード制度を学び、データから議決権行使と資本市場によるコーポレート・ガバナンスを理解することである。

学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。インターネットやオンラインデータベースなどを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コーポレート・ガバナンス vs コーポレート・ファイナンス	財務情報と非財務情報の違いから、コーポレート・ガバナンスの基礎概念・用語を解説する
第2回	株式投資のリターンとリスク	EXCELの数値例で株式投資のリターンとリスクについて学ぶ
第3回	すべての玉子を同じかごに入れるな：株式投資の要はリスク分散	2銘柄の株式投資の数値例でリスクといリターンとの関連を理解する
第4回	株式相場のことは相場に聞け	情報リリースなどが株価に対する効果の分析ツールを学ぶ
第5回	短期株価と長期株価	数日の日次株価変動と数年の株価変動の違いについて学ぶ
第6回	コンプライアンス違反と株価急落	事例で非財務リスクと株価について勉強する

第7回	経営と所有の分離：株主総会と株主の議決権行使	ビジュアル資料とデータを用いてわかりやすく説明する
第8回	株主総会の要：取締役選任	機関投資家の議決権行使方針との関連で取締役選任について説明する
第9回	アクティビストと株価	株式を一定数保有するアクティビストとも呼ばれる物言う株主の経営陣に対する経営戦略・株主利益還元・ガバナンス改善などの積極的な提言が企業価値向上につながるかどうかを考察する
第10回	敵対的買収対策と株価	事例とデータを交えながら説明する
第11回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第12回	MBOとは	株式を市場から取得することで非上場の意味を理解する
第13回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第14回	課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、練習課題の際にステップバイステップで積み重ねたものをまとめて提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手でやる。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
コーポレートガバナンス論B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Bのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

世間で上場企業の社長は偉いと思われているが、実際には社長などのトップ経営者は、株主総会の議決で選任される。社長やCEOは、会社法上の代表取締役や代表執行役である。株主の最も重要な権限は、取締役を選任することである。また、経営者全体の報酬も株主総会の議決で決議されることが多い。この授業の学習目標は、取締役選任や取締役報酬との関連で、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、日本版コーポレート・ガバナンス・コード及びESGなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	会社の組織形態：監査役設置会社、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第6回	監査役の中立性と長期株価	月次株式投資収益で監査役の中立性と長期株価との関連を考察する
第7回	監査等委員会設置会社への移行と株価	月次株式投資収益で監査等委員会設置会社への移行と長期株価との関連を考察する

第8回	監査等委員の中立性と株価	月次株式投資収益で監査等委員の中立性と長期株価との関連を考察する
第9回	ESG投資とは	環境・社会・ガバナンスと会社のサステナビリティ
第10回	ESG投資の手法	ネガティブ・リストなどのESG投資の手法について解説する
第11回	コンプライアンス違反と株価	コンプライアンス違反会社の長期株価を考察する
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	高額役員報酬と株価	高額役員報酬と長期株価との関連について考察を行う
第14回	学期課題	今までの勉強の理解を確かめるために、練習課題の成果をまとめて提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年
参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成方法についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
リスク・マネジメントA
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

リスク測度について理解し、値を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

春学期は、現在価値、リスクを中心に扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンスとは何か	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	将来価値	複利計算の頻度と実効金利
第3回	現在価値	単利の発想と複利の発想
第4回	採択ルール	正味現在価値
第5回	アヌイティ	複数回のキャッシュフロー
第6回	資産価値評価	一物一価の法則と裁定
第7回	三角裁定	為替とクロスレート
第8回	リスク	リスク回避とリスク測度
第9回	リスク管理	リスク管理の基本テクニック
第10回	リスク移転	ヘッジと保険と分散
第11回	動機付け問題	モラル・ハザードと逆選択
第12回	確率分布	正規分布
第13回	リスク測度	期待収益率とボラティリティ
第14回	まとめ	ファイナンスの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

ボディ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第2版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。

ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第2版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
リスク・マネジメント B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

金融派生商品について理解し、理論価格を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

秋学期は、ポートフォリオ理論、金融派生商品を扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ポートフォリオ選択	原則と戦略
第2回	前提条件	ホライズンとリスク許容度
第3回	トレードオフ	危険資産と無リスク資産
第4回	目標期待リターンの達成	ポートフォリオの効率性
第5回	リスク分散	二つの危険資産
第6回	ポートフォリオのリスク	最小分散ポートフォリオ
第7回	先渡し契約、先物契約	先渡し価格、債務不履行の防止
第8回	パリティ	裁定取引と先渡しの理論価格
第9回	金融先物	複製とインプライド配当
第10回	オプション	条件付き請求権
第11回	ペイオフ	本源的価値と時間的価値
第12回	オプション・プレミアム	株価モデル
第13回	動的複製戦略	ブラック・ショールズ式
第14回	まとめ	金融派生商品の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

ボディ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第2版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第2版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
企業経営史 A
飯塚 陽介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。Aでは、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面式の回とオンライン実施の回とがあります（オンライン回を最大7回程度追加する可能性があります）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価）。小テストとレポートの採点結果についてはオンラインについて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営史学とは何か？	経営史学の歴史とその問題意識
2	「規模の経済」の発見と企業者活動	産業革命期の企業者活動
3	市場経済の中の企業	産業革命期の企業活動
4	在来産業における革新	産業革命期の在来産業における革新
5	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支える金融ビジネス
6	大量生産体制への途	製造業における互換性生産
7	見えざる手から見える手へ	アメリカにおける大企業の出現
8	経営階層組織と専門経営者の出現	鉄道業における経営階層組織
9	経営者企業の成立	米国大企業の国際化・多角化
10	ヨーロッパにおける現代企業の登場	ヨーロッパにおける大企業の出現
11	ヨーロッパ大企業の組織と経営者	ヨーロッパ大企業の組織
12	日本における大企業の形成	後発性ゆえの大規模性
13	両大戦間期日本のビジネス	産業構造の変化、財閥のコンツェルン化など
14	前期の振り返り	13回目講義までに終えられなかった内容、前期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20時間）
- (2) 毎回の確認小テスト（各回2時間）。
- (3) 授業内で紹介した関連文献からの学習（8時間）

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30％）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70％）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

企業経営に関する基礎的な知識があることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
企業経営史 B
飯塚 陽介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。Bでは、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面式の回とオンライン実施の回とがあります（オンライン回を最大7回程度追加する可能性があります）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価）。小テストとレポートの採点結果についてはオンラインについて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前期の振り返り	レポートの総括と前期の振り返り
2	アメリカの大企業体制	大企業体制の成立と「豊かな社会」の出現。
3	「豊かな社会」が生み出したもの	「豊かな社会」を背景としたビジネスシステム。
4	政府の関与が生み出したもの	政府の関与による新しい産業の出現。
5	ヨーロッパの大企業	戦後ヨーロッパにおける大企業の出現と「アメリカ化」の限界。
6	戦後改革とその影響	戦後改革の戦後企業システムへの影響。
7	日本のビジネス・システム	企業集団やメインバンク・システムについてのその形成と機能。
8	日本型雇用制度の生成	日本型雇用制度の「三種の神器」の生成。
9	消費の大衆化と企業の対応	大衆消費社会の形成と企業行動。
10	モノ離れの時代と企業行動	サービス業における企業行動。
11	戦後日本の政府・民間関係	戦後日本における産業政策。
12	戦後日本の大企業体制	日本企業の戦略・組織における特色と問題点。
13	大企業体制下の産業集積	大企業体制下の産業集積と金融センターの興亡
14	ポスト大企業体制の時代	経営者企業への進化は必然なのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20時間）
- (2) 毎回の確認小テスト（各回2時間）。
- (3) 授業内で紹介した関連文献からの学習（8時間）

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30％）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70％）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

春学期の「企業経営史A」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
企業経営論 A
内田 彬浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では企業経営を体系的に理解するために、経営学の各分野における基本的な考え方について学ぶ。またその経営学の基本的な考え方に沿って自らのビジネスアイデアを具体化してプレゼンテーションし、クラス全体で議論することを通じて、それらの考え方を実践的に活用できるようになることを目指す。

【到達目標】

- (1) 経営学の各分野における基本的な考え方を理解する
- (2) 経営学の各分野における基本的な考え方を実際の事例と結び付けて議論できるようになる
- (3) 議論・検討した内容を整理して効果的にプレゼンテーションできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

以下の講義・演習・発表・討議のサイクルにより授業を進める。

- (1) 講義：経営学の基本的な考え方について解説する
- (2) 演習：グループに分かれてビジネスアイデアを立案し、経営学の基本的な考え方に沿って具体化するための検討を行う
- (3) 発表：各グループで検討した結果をプレゼンテーションする
- (4) 討議：各グループの発表内容についてクラス全体で質疑・議論する

授業内で、個別のプレゼンテーションおよびプレゼンテーション全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要および進め方について説明する。また提示された課題に取り組む。
2	ビジネスモデル	前回の講義を踏まえて設定されたグループで課題に取り組む。
3	企業論・経営戦略論 1（講義・演習）	会社はどのようにして社会に役立ち、どのような方針で動いているのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
4	企業論・経営戦略論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
5	企業形態論・経営組織論 1（講義・演習）	会社は誰がどんな仕組みで動かしているのか、他の会社とどのように協力しているのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
6	企業形態論・経営組織論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

7	競争戦略論・マーケティング論 1（講義・演習）	会社はどのようにして商品を提供するのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
8	競争戦略論・マーケティング論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
9	国際経営論・会計制度 1（講義・演習）	会社は海外でどのように経営しているのか、会社の利益はどのように測定するのかについて学ぶ。また提示された課題に取り組む。
10	国際経営論・会計制度 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
11	人的資源管理論・生産管理論 1（講義・演習）	会社で働く社員と生産管理について学ぶ。また提示された課題に取り組む。
12	人的資源管理論・生産管理論 2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
13	講義のまとめ・最終プレゼンテーション準備	これまでの講義内容について整理し、最終プレゼンテーションにむけた準備を行う。
14	最終プレゼンテーション	講義全体を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「経験から学ぶ経営学入門（第3版）」2024年、有斐閣ブックス

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表内容：60%

クラス全体での議論への貢献：40%

【学生の意見等からの気づき】

理解の促進のため、企業事例の紹介等をより重視する。

【学生が準備すべき機器他】

調査や発表の準備・実施に必要となるため、PCを準備すること。

【その他の重要事項】

履修にあたっては、本講義では筆記試験を行わず、グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションが授業および成績評価の主な要素となることに留意してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this class, learn basic concepts of business administration to understand business management systematically. The goal is to enable students to put these concepts into practice by presenting and discussing business ideas aligned with basic concepts of business in class.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Understand the basic concepts of business administration
- (2) To be able to discuss practical cases in accordance with the basic concepts of business administration
- (3) To be able to organize and effectively present what has been discussed

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

The standard time to prepare and review for this class is four hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Presentations at each class: 60%

Contribution to the class discussion: 40%

MAN300CA (経営学 / Management 300)
企業経営論 B
内田 彬浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では企業経営についてより深く理解するために、企業経営における重要な論点であるイノベーションに関する基本的な考え方について学ぶ。またそのイノベーションに関する基本的な考え方を踏まえて実際の企業について調査してプレゼンテーションし、クラス全体で議論することを通じて、それらの考え方を実践的に活用できるようにすることを目指す。

【到達目標】

- (1) イノベーションに関する基本的な考え方を理解する
- (2) イノベーションに関する基本的な考え方を実際の事例と結び付けて議論できるようにする
- (3) 議論・検討した内容を整理して効果的にプレゼンテーションできるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

以下の講義・演習・発表・討議のサイクルにより授業を進める。

- (1) 講義：イノベーションに関する基本的な考え方について解説する
- (2) 演習：グループに分かれてイノベーションの事例を調査し、イノベーションに関する基本的な考え方に沿って検討・整理する
- (3) 発表：各グループで検討した結果をプレゼンテーションする
- (4) 討議：各グループの発表内容についてクラス全体で質疑・議論する

授業内で、個別のプレゼンテーションおよびプレゼンテーション全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要および進め方について説明する。また提示された課題に取り組む。
2	イノベーション事例の調査	前回の講義を踏まえて設定されたグループで課題に取り組む。
3	イノベーションの歴史・イノベーションと企業の栄枯盛衰1（講義・演習）	イノベーションの全体像について学ぶ。特にその歴史と企業の栄枯盛衰に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
4	イノベーションの歴史・イノベーションと企業の栄枯盛衰2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
5	産業とイノベーション・イノベーションの測定1（講義・演習）	イノベーションの全体像について学ぶ。特にその産業との関係と測定方法に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
6	産業とイノベーション・イノベーションの測定2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

7	アントレプレナーシップ・資源動員と知識創造・新製品開発1（講義・演習）	イノベーションの創出プロセスについて学ぶ。特にアントレプレナーシップ・資源動員と知識創造・新製品開発マネジメントに焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
8	アントレプレナーシップ・資源動員と知識創造・新製品開発2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
9	イノベーションと企業戦略・イノベーションと企業間システム1（講義・演習）	イノベーションの創出プロセスについて学ぶ。特に企業戦略および企業間システムとの関係に焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
10	イノベーションと企業戦略・イノベーションと企業間システム2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
11	イノベーション創出のための知的財産権の制度とマネジメント1（講義・演習）	イノベーションと経済政策の関係について学ぶ。特に知的財産権の制度とマネジメントに焦点を当てる。また提示された課題に取り組む。
12	イノベーション創出のための知的財産権の制度とマネジメント2（発表・討議）	前回の講義を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。
13	講義のまとめ・最終プレゼンテーション準備	これまでの講義内容について整理し、最終プレゼンテーションにむけた準備を行う。
14	最終プレゼンテーション	講義全体を踏まえて検討した結果を発表する。またクラス全体での議論を通じて理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「マネジメント・テキスト イノベーション・マネジメント入門（新装版）」2022年、日本経済新聞出版

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表内容：60%

クラス全体での議論への貢献：40%

【学生の意見等からの気づき】

理解の促進のため、企業事例の紹介等をより重視する。

【学生が準備すべき機器他】

調査や発表の準備・実施に必要なため、PCを準備すること。

【その他の重要事項】

履修にあたっては、本講義では筆記試験を行わず、グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションが授業および成績評価の主要要素となることに留意してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this class, learn basic concepts of innovation, an important topic in business management, to better understand business management. The goal is to enable students to put these concepts into practice by researching, presenting, and discussing real companies based on the basic concepts of innovation in class.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Understand the basic concepts of innovation
- (2) To be able to discuss practical cases in accordance with the basic concepts of innovation
- (3) To be able to organize and effectively present what has been discussed

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

The standard time to prepare and review for this class is four hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Presentations at each class: 60%

Contribution to the class discussion: 40%

CAR200CA（キャリア教育 / Career education 200）
企業実務研究A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ8人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

講師の話をともに自らのキャリアプランを描けるようになることが目的である。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面講義形式で開講する。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。学習支援システムで教材としてガイダンス資料を配布する。この講義の履修を検討する学生は、講義に出席してガイダンス資料をよく読んだ上で、履修するかどうかを検討されたい。

第2回以降の講義は、原則として教室での対面講義形式で実施する予定である。教室での講義では、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況を認識して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、教室またはオンラインのリアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	企業実務研究A・Bの概要とサマーインターンシップ実習について

第2回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第3回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第4回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第5回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第6回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第7回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第8回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第9回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第10回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第11回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第12回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第13回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第14回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価する。

教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められ、私語するなど授業態度の悪い学生は不可となる。

※企業実務研究A、Bは必ず同年度に登録すること。2単位だけの登録は認められない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第1回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

多数の外部講師を招いての講義となる。講師の方々へ敬意を持って受講すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the knowledge and skills to understand the global business environment within which Japanese multinational firms operate. It also enhances the development of students' skill in reflecting this understanding in their future career.

The purpose of this course is to be able to draw up one's own career plan based on the lecturer's talks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

CAR200CA（キャリア教育 / Career education 200）
企業実務研究B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO等を含む）でインターンシップ実習に参加し、通常の講義だけでは得られない就業体験を通じて現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

インターンシップの経験や実習報告会での議論を通じて、企業や団体で働くときに求められる仕事への取り組み姿勢やコミュニケーション方法、ビジネスマナーなどの、将来の進路選択を主体的に行うために役に立つ実践的な知識への理解を深めることができる。講義を通じて自らのキャリアデザインを行えるようになることが目的である。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかりやすくプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定である。講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を随時通知する。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義に関するお知らせを講義前に確認し、第1回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第1回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第1回講義に必ず出席すること。

第2回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明・実習報告スケジュールの説明と調整
第2回	実習報告会の説明と準備	実習報告会の説明と準備および実習報告スケジュールの最終確認
第3回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①

第4回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第5回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第6回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第7回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第8回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第9回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第10回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第11回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第12回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第13回	グループ・ディスカッションの説明と準備	仕事に関するグループ・ディスカッションの説明と準備
第14回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
 - ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000字、A4）（25%）
 - ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
 - ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）
- 派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。
- サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。
- ※企業実務研究A、Bは必ず同年度に履修登録すること。2単位だけの登録は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1回目の講義に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the summer internship opportunities to gain knowledge and skills from work experiences not available in the classroom setting. It also enhances the development of students' skill in planning and delivering effective presentation on career design development. The purpose of this course is to enable students to design their own careers through lectures.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on workplace competencies evaluated by work-site supervisors (25%), internship report (25%), presentation (25%), and in-class contribution (25%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
国際会計制度A
田中 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。

会計情報は企業を知るうえで最も有用な情報の1つであり、それゆえに「事業の言語」と呼ばれる。企業が国境を越えて活動する昨今、会計制度も国家の枠を越えて変容を遂げている。

まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。

英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

Students learn about differences between international accounting systems, understand the impact of such differences on the preparation of accounting information, and aim to be able to analyze domestic and foreign companies based on the differences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義前半は財務諸表の基礎について解説する。こうした解説は講義の後半でも適宜実施する。講義後半では、基準間の差異に留意しながら、国内外企業の財務分析を行う。分析対象企業は自身で選び、関心の近い者同士でグループを組む（1人でも可）。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
第2回	会計のフレームワーク	会計制度の論理と体系、企業会計の機能など。
第3回	損益計算書	損益計算書の構造と役割を確認。
第4回	貸借対照表（資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
第5回	貸借対照表（負債・純資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
第6回	財務分析の概要	会計情報を用いた分析手法（ファンダメンタル分析）の概要。
第7回	実践・財務分析①	自身が選んだ企業について財務分析を行う
第8回	実践・財務分析②	フィードバックをもとに分析を改善する（中間レポート）
第9回	IFRSの基礎概念①	原則主義、経済的実質優先主義。

第10回	IFRSの基礎概念②	資産負債観、公正価値、親会社概念とエンティティ概念。
第11回	収益認識基準	収益、工事契約、外貨為替レート変動の影響。
第12回	包括利益の表示	その他包括利益計算書項目。
第13回	実践・財務分析③	9～12回を踏まえて、財務分析を改善する
第14回	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。

事前の予習・復習時間は、毎週各2時間を標準とする。

Students are encouraged to take an interest in economic news on a daily basis and subscribe to various media such as Japan Keizai Shimbun, Nikkei Business, The Economist, and Toyo Keizai.

The standard preparation and review time required is 2 hours each week.

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

『新・現代会計入門 第2版』伊藤邦雄 日本経済新聞出版社 2016年
『IFRS国際会計基準の基礎 第4版』平松一夫 中央経済社 2015年
『エッセンシャルIFRS（第5版）』秋葉賢一 中央経済社 2016年
『国際会計論』森川八洲男 白桃書房 2015年 ほか

【成績評価の方法と基準】

講義に対する貢献度・平常点（20%）

中間レポート（30%）

期末テスト（50%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution and usual performance score:20%

Short reports :30%

Term-end examination:50%

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

【その他の重要事項】

国際会計制度Bと合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

① Differences between accounting systems

② Understand the impact of ① on accounting information.

③ Corporate financial analysis

MAN300CA (経営学 / Management 300)
国際会計制度B
田中 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計制度Aに引き続き、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。
まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。
英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

Students learn about differences between international accounting systems, understand the impact of such differences on the preparation of accounting information, and aim to be able to analyze domestic and foreign companies based on the differences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期の内容を踏まえ、国際会計制度が会計数値の作成に与える影響と、それらを踏まえた分析手法を学ぶ。国際会計制度Aと合わせた履修を強く推奨する。

有形固定資産、金融商品、引当金、リース会計、退職給付会計、株式報酬取引、外貨換算会計、企業結合、連結会計、セグメント情報、農業会計などを取り上げる。

春学期同様、国内外の企業の分析も行う。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、受講生の関心の確認。
第2回	引当金会計	引当金の認識・測定、偶発債権・偶発債務の認識・測定、環境修復引当金と資産除去債務。
第3回	リース会計	オペレーティング・リース、ファイナンシャル・リースの認識と測定、航空会社の分析例。
第4回	従業員給付に関する会計	退職給付会計、株式報酬取引。
第5回	外貨換算会計	外貨建取引の会計処理、外貨表示財務諸表の換算方法。
第6回	無形資産の会計	のれんの会計処理、研究開発費の会計処理。
第7回	連結会計	持分法、共同契約、他の事業体に対する持分の表示。

第7回	セグメント情報、継続事業と非継続事業の表示	セグメント情報の開示基準、売却目的で保有する固定資産および廃止事業の開示。
第8回	IFRS財務諸表分析のポイント	営業利益と当期純利益の数値変化
第9回	IFRS財務諸表分析（1）	自身が選んだ企業について財務分析。グループワーク。
第10回	IFRS財務諸表分析（2）	第9回の続き
第11回	IFRS財務諸表分析（3）	第10回の続き
第12回	IFRS財務諸表分析（4）	第11回の続き（プレゼン資料提出）
第13回	各国の会計制度（1） 期末レポート課題提示	欧州圏の会計制度
第14回	各国の会計制度（2） 最新トピック紹介	アジア圏の会計制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。
事前の予習・復習時間は、毎週各2時間を標準とする。

Students are encouraged to take an interest in economic news on a daily basis and subscribe to various media such as Japan Keizai Shimbun, Nikkei Business, The Economist, and Toyo Keizai.

The standard preparation and review time required is 2 hours each week.

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

国際会計制度Aを参照

【成績評価の方法と基準】

講義に対する貢献度・平常点（20%）

中間レポート（30%）

期末テスト（50%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution and usual performance score:20%

Short reports :30%

Term-end examination:50%

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を行う。

【その他の重要事項】

国際会計制度Aと合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

Continuing from the International Accounting System A course, this course deals with comparison of accounting standards of each country and financial analysis of foreign companies and Japanese companies.

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

① Differences between accounting systems

② Understand the impact of ① on accounting information.

③ Corporate financial analysis

【Learning Objectives】 To understand the differences in accounting systems in each country and to be able to analyze companies around the world

【Learning activities outside of classroom】 We will assign assignments for about 1 hour each time. Approximately 2 hours of study time is required for preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Students will be evaluated in their end-of-semester reports.

ECN300CD（経済学 / Economics 300）
金融ビジネス論A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということ、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを学習することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の講義は、教室での対面講義形式で開講する予定です。
第1回講義は、講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。
将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえば基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。
講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。
この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。
講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融知識とその活用	金融リテラシーについて
第3回	金融取引と不確実性①	金融におけるリスクの概念について

第4回	金融取引と不確実性②	リスクの測定手法について
第5回	金融取引と不確実性③	リスクとして把握できない不確実性について
第6回	金融取引と不確実性④	不確実性下での意思決定方法について
第7回	企業の投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第8回	企業の投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第9回	企業の投資と資金調達③	日本の企業グループと株式持ち合いについて
第10回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第11回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォーム事業者について
第12回	金融技術革新と金融サービスの新潮流③	中小企業金融とクラウドファンディングについて
第13回	過剰債務問題①	過剰債務問題とその対応策について
第14回	過剰債務問題②	追い貸し問題とその対応策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや参考書を復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（新版、有斐閣、2024年刊）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】
講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（80％）。
講義への参加度を平常点として加算します（20％）。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】
This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.
The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings in financial markets; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomena in financial markets, from the standpoint of economics.
Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (90%) and in-class contribution (10%).

ECN300CD（経済学 / Economics 300）
金融ビジネス論B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを学習することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定です。

第1回講義は、講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえば基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明

第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	資産価値評価③	代替的な資産価値の評価手法について
第14回	金融と人的資本投資	人的資本投資と人材育成の経済的機能について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや参考書で復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（新版、有斐閣、2024年刊）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（80％）。
講義への参加度を平常点として加算します（20％）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings in financial markets; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomena in financial markets, from the standpoint of economics.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (90%) and in-class contribution (10%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
開発経済論 A	
池上 宗信	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本への投資選択を学びます。

さらに、その選択を理解するのに有用な時間非整合性などの理論モデル、回帰分析、差の差の分析などの実証分析手法を並行して学びます。

【到達目標】

なぜ、我が国を含む先進国では少子化が問題になっているのに、サブサハラ・アフリカの国々では急激な人口増加が問題になっているのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、2025年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。

授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出します。担当教員が採点し、Google Classroom を通して返却します。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	栄養1、推定と検定1	カロリー不足による貧困の畏、分散
第2回	栄養2、推定と検定2	栄養への投資、確率密度関数、推定、不偏性、一致性
第3回	健康1、推定と検定3	マラリアによる貧困の畏、病气予防への投資、中心極限定理、期待値の検定
第4回	健康2、回帰分析1	治療の質、価格、最小2乗推定量、回帰係数の検定
第5回	教育1、回帰分析2	就学決定モデル、外生性、内生性、回帰分析とランダム化比較試験
第6回	教育2、回帰分析3	就学条件付き補助金、重回帰、欠落変数
第7回	復習、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習、中間試験
第8回	教育3、回帰分析4	教育の再設計、変数選択
第9回	教育4、固定効果	成績別クラス分けの学力への効果、パネルデータ
第10回	時間非整合性	指数割引モデル、準双曲割引モデル、コミットメント、あと押し

第11回	出産1、差の差の分析1	金融資産としての子供、平行トレンドの仮定、差の差の分析と回帰分析
第12回	健康3、差の差の分析2	マラリアと貧困、時間差介入
第13回	出産2	ソープオペラの出生率への効果
第14回	復習、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

必要・興味に応じて、各講義のスライドの2ページ目にある参考文献を読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

各講義のスライドは、スライドの2ページ目にある参考文献に基づいています。

以下のような文献などです。

高野久紀（2025）『開発経済学 実証経済学へのいざない』日本評論社
高橋和志、樋口裕城、牧野百恵編（2025）『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣

西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮（2019）『計量経済学』有斐閣

アビジット・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

室岡健志（2023）『行動経済学』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答率は2024年度に3.9%に激減したのですが、2025年度は11.1%まで回復しました。授業改善アンケートへの回答をお願いします。

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, schooling, birth decision for households in developing countries. We will also study theoretical models of time inconsistency and empirical methods such as regression analysis, difference in difference method, which are useful for studying the decision.

- Learning Objectives

Why does rapid population growth have been a problem in countries in Sub-Saharan Africa while low birth rate has been a problem in developed countries including Japan? The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
開発経済論 B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門A、B、開発経済論Aでは、開発途上国の貧困家計が直面するリスク、不完全情報が捨象されていました。開発経済論Bでは、リスクおよび不完全情報に関する理論モデルを学びます。その理論モデルに基づいて、保険市場、信用市場、労働市場における家計の選択を学びます。また、その選択を理解するのに有用な操作変数法、回帰不連続デザインという実証分析手法も学びます。

【到達目標】

なぜ、開発途上国では、個人貸付ではなくグループ貸付が採用されるのでしょうか？経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、2025年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出します。担当教員が採点し、Google Classroomを通して返却します。授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	操作変数法	操作変数の関連性・外生性、教育のリターン
第2回	回帰不連続デザイン	結果変数の連続性、電子投票制度
第3回	リスク1、リスクと保険の理論1	期待値、期待効用、確実性同値額、リスクプレミアム
第4回	リスク2、リスクと保険の理論2	リスク対処戦略、リスク分散戦略、状態空間分析、保険会社の等期待利潤線
第5回	リスクと保険の理論3	独占的な保険会社
第6回	リスクと保険の理論4、モラル・ハザード1	完全競争保険市場、株主と経営者
第7回	復習、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習、中間試験
第8回	モラル・ハザード2	リスク分担とインセンティブ
第9回	アドバース・セレクション、保険1	中古車市場、情報レント、完全情報の場合
第10回	保険2	不完全情報の場合

第11回	信用1	インフォーマル金融、アドバース・セレクション、担保がない場合
第12回	信用2	担保がある場合、グループ貸付、モラル・ハザード、投資選択、努力選択、返済行動、実証研究、2段階ランダム化比較試験
第13回	労働	シグナリング、労働者の教育年数の選択
第14回	復習、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。必要・興味に応じて、各講義のスライドの2ページ目にある参考文献を読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

各講義のスライドは、スライドの2ページ目にある参考文献に基づいています。以下のような文献などです。
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社
神戸伸輔（2004）『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
高野久紀（2025）『開発経済学 実証経済学へのいざない』日本評論社
高橋和志、樋口裕城、牧野百恵編（2025）『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣
西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮（2019）『計量経済学』有斐閣
アビジット・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答率は2021-23年度は10.5-13.3%だったの、2024年度は4.9%まで激減しました。授業改善アンケートへの回答をお願いします。授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline
In Introductory Development Economics A, B, and Development Economics A, we omit risk and asymmetric information poor households in developing countries face.
In Development Economics B, we will study theoretical model of risk and asymmetric information.
Based on the theoretical model, we will study insurance, credit, and labor markets.
We will also study instrument variable method and regression discontinuity design, empirical methods which are useful for studying the markets.
- Learning Objectives
Why do individuals in developing countries group lending instead of individual lending? The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.
- Learning activities outside of classroom
Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.
Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
- Grading Criteria, Policies
Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

POL200CA（政治学 / Politics 200）
国際関係論 A
富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論の射程	本授業の狙い、授業の概要
第2回	国際システムの構造	主権国家とは、主権国家システム
第3回	伝統的国際関係論の視点 I	リアリズム: 国家のパワーゲーム、古典的リアリズム、ネオリアリズム
第4回	伝統的国際関係論の視点 II	勢力均衡と同盟論
第5回	伝統的国際関係論の視点 III	リベラリズム: 協力と平和の可能性、国際制度と国際協調
第6回	伝統的国際関係論の視点 IV	構成主義: 社会的な意味とアイデンティティ
第7回	理論間の対立	「イズム」の限界
第8回	交渉理論に基づく戦争論	戦争はなぜ起こるのか？、事例：イラク戦争
第9回	交渉理論 I	情報の非対称性
第10回	交渉理論 II	コミットメント問題
第11回	国内政治と戦争	なぜ国内要因が重要なのか
第12回	リーダーと戦争	評判(reputation)と信頼(credibility)、リーダーの個人的性質、結集効果
第13回	今学期のまとめ	春学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳(2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574）。定価880円（本体 800円） ISBN978-4-12-102574-6。

【参考書】

【特に推薦するのは以下の三冊】

1. Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.
2. クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価 3,740 円（本体 3,400 円）ISBN978-4-7942-2662-4
3. Spaniel, William (2023). Formal Models of Crisis Bargaining: Applications in the Politics of Conflict. Cambridge: Cambridge University Press.

【その他】

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体 3,200円）ISBN978-4-623-09577-3
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体 2,600円）ISBN 978-4-641-14904-5
浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体 2,600円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・塚塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テスト、期末試験ともに「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PC など）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成AI使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPT など）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体をAI任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成AIの利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成AIはあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・キーワード・用語の検索
 - ・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限る）
 - ・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・禁止される行為例
 - ・AIに要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること

【AIが作成した文章の使用禁止】

- ・論述・レポート
 - ・AIが作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
 - ・引用・参考資料
 - ・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。
 - ・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。
- 【チェッカーによる検証と不正行為の判断】
- ・AIチェッカーの活用

- ・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。
- ・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。
- ・不正が疑われる場合
 - ・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。
 - ・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

- ・AIはあくまで“補助”です
 - ・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使わない」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法があります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。
- ・情報の真偽は自分で確認する
 - ・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory course that intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course pays particular attention to security issues exploring causes and consequences of war.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

POL200CA（政治学 / Politics 200）
国際関係論B
富永 靖敬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論Aでは、主権国家システム、国内・国際制度、リーダーの性質など、国際政治現象一般を分析する際に必要となる諸モデルを紹介したが、国際関係論Bでは、国家間戦争、内戦やテロリズムといった国家間・国家内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（またGoogle Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第2回	核兵器と軍備管理・抑止論	国際危機外交，安全保障のジレンマ，シグナリング，評判，抑止論とその効果
第3回	テロリズム・非国家主体の暴力	テロリズムの定義、原因、対策
第4回	内戦・国内紛争の国際化	内戦の原因論（民族，食欲と不満），交渉モデル
第5回	紛争解決：平和への道筋	交渉、仲介、調停など紛争解決の理論と実践
第6回	事例分析	スリランカ内戦・コロンビア内戦・ミャンマー内戦など
第7回	制度と規範：国際社会の秩序形成	国際制度と国際規範が国家の行動をどのように制約し、協力を促進するのか
第8回	国際規範と人権	国際人権規範の発展と課題
第9回	気候変動と国際協力（地球規模の課題への対応）	気候変動が国際社会に与える影響を分析し、気候変動問題への国際的な取り組みを検討する
第10回	サイバーセキュリティと国際関係	新たな脅威の出現，サイバー空間における国家間の競争と協力
第11回	貧困と開発	資源の呪い，国連の持続可能な開発

第12回 貧困と開発の制度的説 富の独占と政治体制，selectorate theory

第13回 学期のまとめ 秋学期の振り返り

第14回 期末試験（オンライン） まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020) 『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価880円（本体800円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023) 『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体3,200円）ISBN978-4-623-09577-3

クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023) 『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価3,740円（本体3,400円）ISBN978-4-7942-2662-4

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価2,052円（本体1,900円）ISBN978-4-641-15025-6

鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体2,600円）ISBN978-4-641-14904-5

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体2,600円）ISBN978-4-641-14928-1

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価2,376円（本体2,200円）ISBN978-4-641-17722-2

山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円（本体2,800円）ISBN978-4-8188-1720-3

東大作（2020）『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価968円（本体880円）ISBN978-4-12-102576-0

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】本授業の評価は、小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行う。テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成AI使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体をAI任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成AIの利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成AIはあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・キーワード・用語の検索
 - ・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限り）
 - ・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・禁止される行為例
 - ・AIに要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること

【AIが作成した文章の使用禁止】

- ・論述・レポート
 - ・AIが作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接統語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
- ・引用・参考資料
 - ・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。

・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。

【チェッカーによる検証と不正行為の判断】

・AIチェッカーの活用

・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。

・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。

・不正が疑われる場合

・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。

・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

・AIはあくまで“補助”です

・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使わない」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法はあります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。

・情報の真偽は自分で確認する

・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with essential knowledge to understand international relations. This course focuses on not just traditional security issues such as nuclear deterrence and balance of power but also non-traditional security issues such as civil war and terrorism.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of the essential conceptions of international relations
2. To acquire the ability to explain the phenomenon of international relations logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）
経済人類学 A
友松 夕香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わたしたちは日々働き、モノを消費し、他者に与え、分かち合いながら生きています。しかし、こうした日常の営みは、「市場」や「お金」だけで説明できるでしょうか。経済人類学は、数字やモデルによってではなく、社会関係や信仰、感情が織りなす生活世界として経済を分析する学問です。本授業では、文化人類学の理論と視点を用いながら、大学生が関心を寄せる身近なテーマを取り上げ、経済がどのように人びとを結びつけたか、軋轢を生み出しているのかを、ミクロなレベルから考察します。グローバル化やデジタル化の文脈で経済的なやりとりが生み出す関係性や不平等を読み解くことで、経済を「人間の営み」として捉え直し、実体経済を理解することを目指します。

【到達目標】

- ・経済人類学の基本的な理論・概念（市場、互酬性、贈与、再分配、交換、商品化など）を理解できるようになる
- ・経済的な社会現象を、人類学的視点から分析できるようになる
- ・経済を文化的・社会的関係のなかで捉え直し、既存の経済観を批判的に検討できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。授業中にエッセイへのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済とはなにか	文化と社会から経済を読み解く
第2回	お金で買えるもの	市場と社会の関係の現代的変容
第3回	文化の盗用	芸術の商品化と創造性をめぐる軋轢
第4回	差異の経済	文化の商品化とステレオタイプ化
第5回	グローバル性産業	セックスワーカーの主体性と法的介入をめぐる課題
第6回	ブルシットジョブ	仕事の価値を問い直す
第7回	専門分化社会	なぜ世界金融危機は起きたのか
第8回	信仰と経済	イスラーム銀行の倫理と論理
第9回	職場の多様性	人間の有用性、権利、包摂をめぐる課題
第10回	経済の3形態	市場・再分配・互酬性
第11回	贈与論	3つの義務と社会関係
第12回	情の経済	非物質的価値が生み出す人間の経済と関係性
第13回	物々交換	デジタル時代の経済の原型
第14回	まとめ	授業内容の整理と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。準備・復習時間は合わせて1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容を整理・考察するエッセイ 15点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】

We live our daily lives by working, buying, giving, and sharing. But can these activities be explained only in terms of “markets” and “money”? Economic anthropology approaches the economy not through numbers and models, but as a lived world shaped by social relationships, beliefs, and emotions. This course introduces anthropological perspectives on everyday economic practices, examining how they connect people while also producing divisions and inequalities in an era of globalization and digitalization. Grades will be based on fourteen one-paragraph essays written in or after class (100%). Students are expected to engage in 4 hours of review per week.

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）
経済人類学 B
友松 夕香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済の多様性は、数式や効率性・合理性といった近代経済学の枠組みだけでは十分に捉えきれません。経済人類学 B では、狩猟採集、農耕、漁労など世界の多様な生業だけではなく、ローカル・グローバルな市場取引、格差、知的交流、さらにジェンダーと再生産労働、AI をめぐるポスト産業社会をテーマに取り上げます。生産、消費、交換、分配がどのような社会関係を生み出しているのかを分析することで、「生きられた実践」として人間の経済を理解する視点を身につけることが、本授業の目的です。

【到達目標】

- ・統計では捉えられない人びとの間の経済的なやり取りの過程、構造、意味を分析できるようになる。
- ・ミクロレベルでの観察、解釈と意味づけから理論を導き出す方法を習得する。
- ・世界の経済の多様性を読み解くうえで、フィールドワークの有効性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。授業中にエッセイへのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済人類学とはなにか	経済の多様性と接続・変容
第2回	食物分配	なぜ人は食べ物を分け合うのか
第3回	財と自由	豊かさとはなにか
第4回	脱国家	支配をめぐる空間論
第5回	道徳規範と反乱	モラルエコノミー論と弁証法
第6回	人間がつくる市場	駆け引きと騙し合いの取引交渉
第7回	グローバル格差①	貿易をめぐる経済の不均衡
第8回	グローバル格差②	消費と倫理的ジレンマ
第9回	グローバル格差③	格差の感情と日常の抵抗
第10回	グローバル格差④	「物は要らない」
第11回	グローバル格差⑤	異文化の知的交流はなにを生むか
第12回	再生産労働	ジェンダーをめぐる力学と制度
第13回	ポスト産業社会	知識・サービス・AI をめぐる価値と権力
第14回	まとめ	授業内容の整理と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。準備・復習時間は合わせて1回あたり4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容を整理・考察するエッセイ14点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】

Economic practices cannot be fully captured by the frameworks of modern economics that emphasize mathematical models and efficiency alone. Economic Anthropology B examines a wide range of themes, from food distribution, market negotiation, and moral economy to global inequalities related to trade and consumption. The course also explores emotions and forms of resistance produced by inequality, gender and reproductive labor, economic transformations driven by intellectual exchange, and post-industrial societies in which knowledge, services, and AI play central roles. The aim of this course is to cultivate a perspective for understanding the economy as “lived practice” embedded in social and cultural contexts. Grades will be based on fourteen one-paragraph essays written in or after class (100%). Students are expected to engage in 4 hours of review per week.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策, 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方. 「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III - システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ

第10回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担. EPR の物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論. 容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法. PC リサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第2版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策, 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方. 「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III - システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ

第10回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担. EPR の物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法: 再論. 容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法. PC リサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第2版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第2回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
第3回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
第4回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第5回	産業の立地①	立地論の基礎
第6回	産業の立地②	工業立地論と事例
第7回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第8回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
第9回	経済の空間構造②	都市発展と都市システム
第10回	経済の空間構造③	都市の理論・モデルと実際
第11回	国土政策と地域経済①	日本の地域構造と地域間格差
第12回	国土政策と地域経済②	国土政策と地域政策の系譜と現状
第13回	都市・地域開発と政策	都市・地域問題の現状と新たな政策

第14回 まとめ・総括 経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン
 桐原
 松原宏編著（2002）『立地論入門』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
 詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	集積論の系譜①	A.WeberとA.Marshallの集積論
第3回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
第4回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第5回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
第6回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
第7回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第8回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	産業集積のダイナミズム	産業のグローバル化
第11回	自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT生産システム
第12回	自動車産業の集積②	日本の生産システムの海外展開
第13回	ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
第14回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ヨーロッパ経済論 A
進藤 理香子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現在のEUにつながる欧州経済統合の礎となる1945年から80年代半ばまでのヨーロッパの社会経済的発展を東西ドイツの軌跡及び冷戦期の国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】

冷戦体制の国際関係と欧州経済統合の歴史のプロセスを理解する。また今日のEUに受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間にZoomによる講義を行う。授業時間外での資料の閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	春学期の導入	欧州の社会経済的発展をドイツの軌跡を中心に学ぶ意義について。
第2回	第一次大戦後の欧米とドイツ	ヴェルサイユ体制、戦間期の欧米社会と経済について見る。
第3回	第二次大戦と欧州	ドイツによる欧州諸国侵略、占領、戦争経済について見る。
第4回	第二次大戦の終わりとドイツ敗戦	連合国によるドイツ分割統治と占領政策について学ぶ。
第5回	マーシャルプランと西欧の経済復興	アメリカ主導の欧州復興支援、東西陣営の形成について見る。
第6回	ドイツ連邦共和国（西ドイツ）の建国	東西ドイツ問題、通貨改革について学ぶ。
第7回	西ドイツ社会的市場経済	社会的市場経済の理論と政策的実践について学ぶ。
第8回	西ドイツ経済の奇跡	戦後復興から高度経済成長の過程、大衆消費社会と生活水準向上について。
第9回	西欧の協調と市場統合の模索	欧州石炭鉄鋼共同体の形成について見る。
第10回	ドイツ民主共和国（東ドイツ）とベルリンの壁	ソ連占領政策、東ドイツ建国と社会主義の建設について見る。
第11回	西ドイツ・ブランド首相の東方政策とデタント	東西緊張の緩和と全欧安全保障協力会議について見る。
第12回	ヨーロッパ福祉国家の諸モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツの福祉政策について学ぶ。
第13回	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とオイルショック	70年代世界経済の停滞、高度経済成長の終焉について学ぶ。
第14回	ケインズ主義から新自由主義へ	80年代の欧米新自由主義的政策について見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の準備・復習時間は一回あたり各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を指示。

【参考書】

青野利彦（2023）『冷戦史（上）：第二次世界大戦終結からキューバ危機まで』中央公論新社。

青野利彦（2023）『冷戦史（下）：ベトナム戦争からソ連崩壊まで』中央公論新社。

猪木武徳（2009）『戦後世界経済史：自由と平等の視点から』中央公論新社。

トニー・ジャット（2008）『ヨーロッパ戦後史：上巻1945－1971；下巻1971－2005』みすず書房。

藤澤利治/工藤章（編）『ドイツ経済・EU経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019年

古内博行（2007）『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期末レポート100%。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット接続とコンピュータ。

【Outline (in English)】

Course outline:

The aim of this course is to study the socio-economic and political developments in Europe from 1945 to the mid-1980s, mainly during the Cold War period, in an historical perspective. Particular interest will be paid to the development of Germany which was divided into two states, in the West and in the East, after the country's defeat in World War II.

Learning Objectives:

The goal of this course is to understand the socio-economic development of Europe since 1945.

Lecture:

Two-credits.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies:

Final grade will be calculated according to the following process: A term-end report (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ヨーロッパ経済論 B
進藤 理香子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では1980年代後半から現在に至るヨーロッパの社会経済的発展について学ぶ。冷戦の終結、東欧平和革命、ドイツ再統一、ソ連崩壊、欧州連合EUの成立といった流れを把握しつつ、現在に至るEUの発展と諸政策について学ぶ。

【到達目標】

冷戦終結からEU成立、東方拡大への国際政治の流れを理解する。また欧州単一市場形成と通貨統合などEU独自のガバナンス及び域内・域外に対するEUの役割を理解する。さらに直面する現代の危機（英国EU離脱、コロナ危機、ロシアのウクライナ侵攻、移民難民問題）へのEUの対応を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間にZoomによる講義を行う。授業時間外での資料の閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	秋学期の導入	現代ヨーロッパの社会経済を学ぶ意義について。
第2回	ソ連社会主義体制の停滞と改革の限界	ベレストロイカ、グラスノスチ、チェルノブイリ原発事故について見る。
第3回	東欧平和革命とベルリンの壁崩壊	民主化運動と社会主義政権の崩壊について見る。
第4回	ドイツ再統一とソ連崩壊	ドイツ最終規定条約、統一の負担、ソ連崩壊の帰結などについて学ぶ。
第5回	欧州共同体から欧州連合EUへ	マーストリヒト条約単一市場問題について学ぶ。
第6回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入について学ぶ。
第7回	EUの機構と運営	EUの諸組織とEU独自のガバナンスを学ぶ。
第8回	EU東方拡大とEU諸国の経済・社会構造	EU東方拡大、EU加盟国間の諸特徴と不均衡について見る。
第9回	EUの通商と農業	共通通商政策と共通農業政策について学ぶ。
第10回	欧州と環境問題	環境問題への様々な取り組みについてドイツの事例を見る。
第11回	欧州と移民・難民問題	難民問題へのEUの対応についてドイツの事例を中心に見る。
第12回	イギリスのEU離脱	英国EU離脱の過程と影響について見る。
第13回	ロシアによるウクライナ侵攻と欧州	EUのウクライナ支援、エネルギー危機、安全保障問題などについて見る。
第14回	秋学期のまとめ	今学期の授業の要点を復習し期末レポート対策を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示。

【参考書】

青野利彦（2003）『冷戦史（上）：第二次世界大戦終結からキューバ危機まで』中央公論新社。
 青野利彦（2003）『冷戦史（下）：ベトナム戦争からソ連崩壊まで』中央公論新社。
 井上淳（2020）『はじめて学ぶEU：歴史・制度・政策』法律文化社。
 川越修・河合信晴(編)（2016）『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版。
 工藤章・藤澤利治（2019）『ドイツ経済：EU経済の基軸』ミネルヴァ書房。
 田中素香・長部重康（2022）『現代ヨーロッパ経済』第6版 有斐閣。
 羽場久美子・小森田秋夫・田中素香（2006）『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期末レポート課題100%。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course focuses on the socio-economic and political developments in Europe from the end of the Cold War period until today's European Union. Special consideration will be given to the historical events like the collapse of the Soviet Union, the peaceful revolution of 1989 in Eastern Europe, the reunification of the two German states, and the establishment of the European Union and its enlargement to the east. Learning Objective: The goal of this course is to understand the development of the EU.

Lecture:

Two-credits.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies:

Final grade will be calculated according to the following process: a term-end report (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアNIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。この講義受講の意義として、単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学んでほしい。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジアNIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半では対象となる対象国・地域の現状について、オンラインデータベースの紹介と実際の使用方法を学習しつつ進めていく。中盤では経済発展のエンジンとなる産業や貿易などの育成とグローバル化に焦点を置く。後半は第二次世界大戦後の経済発展史を学ぶ。授業進展に伴い、理解力などを実施し、適宜フィードバックや講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	アジアNIEsの俯瞰	GDP、一人当たりGDPの理解と所得基準
3	アジア経済の底流 1	貧困の悪循環を抜け出せ！
4	アジア経済の底流 2	工業化戦略、投資、貿易
5	アジア経済の底流 3	為替レートがもたらす構造変化とアジアの発展
6	アジアNIEs1	初期の発展の共通点
7	アジアNIEs2	経済発展モデルと各国の実際
8	アジアの工業技術獲得 1	OEM・ODMとスマイルカーブ
9	アジアの工業技術獲得 2	OEM・ODMで発展した現地資本メーカー
10	アジアの工業技術獲得 3	技術導入経路と学習パターン
11	シンガポール	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
12	韓国	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
13	台湾・香港	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習1時間半・復習時間2時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸(2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料とURLはURL詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を100点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義スライドの事前配布を望む声があった。本講義ではまず授業時間内にしっかりと講義を聞いてもらい、講義後に配布するスライドを復習として用いてもらう方針なので、なにとぞ理解願いたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義はWebexで行い、理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好なWifi環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などはPCの方が行いやすい。PC利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B双方での履修を望む。

Webexによる授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。またWebex講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

本講義は受講人数の関係でWebexを用いる可能性がある。WebexについてはHoppiiからのリンクで説明が行われているので事前にご参照願いたい。アドレスが変わっていなければ、Webex マニュアル (<https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-enkaku-Webex.html>)。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEANについてASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史の内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジアNIEsに次いで高度経済成長を果たしたASEAN諸国についてASEAN4を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Webexによるリアルタイムオンラインで講義を行う。授業ではまずASEAN全体について概観したのち、各国ごとに国の地理、特徴、第二次世界大戦後の発展史などについて学ぶ。授業進展に伴い、理解力テストを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN 1	ASEANの成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	ASEAN 2	経済指標での概観、国の発展戦略
4	タイ 1	独立を保てた理由、初期の発展、産業政策、自動車産業、コメ産業など
5	タイ 2	軍人政治・文民政治、赤シャツと黄シャツなど
6	タイ 3	経済成長、貿易、アジア経済通貨危機、大洪水など
7	マレーシア 1	英国からの独立、マハティール、ブミプトラ、ルックイーストなど
8	マレーシア 2	貿易、産業政策、自動車産業、ICT産業など
9	インドネシア 1	世界最大のイスラム国家、資源大国、オランダからの独立、スカルノ、スハルトなど
10	インドネシア 2	貿易、自動車産業、プリブミ、汚職撲滅など
11	フィリピン 1	米国からの独立、マルコス、アセアンの優等生から落第生など
12	フィリピン 2	ピープルパワー革命、OFW、テロ、スラムなど
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習1時間・復習時間3時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸(2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料とURL詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を100点に案分し評価を行う（100%）。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

Webex については Hoppii からのリンクで説明が行われているので事前にご参照願いたい。アドレスが変わっていなければ、Webex マニュアル (<https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-enkaku-Webex.html>)。

【学生が準備すべき機器他】

講義はWebexで行い、理解力テストはHoppiiで行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好なWifi環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などはPCの方が行いやすい。PC利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

その他重要事項

本講義とともに現代アジア経済論B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B双方での履修を望む。

Webexによる授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。またWebex講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
中国経済論 A
王 威
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】

中国経済に関しては、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済成長のマクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。対面実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第2回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニューダム仮説）とマディソンの長期GDP推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第3回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第4回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第5回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第6回	人口変動と労働力(1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する

第7回	人口変動と労働力(2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第8回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する
第9回	経済成長と格差問題(1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第10回	経済成長と格差問題(2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第11回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第12回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第13回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第14回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	中国経済の展望と問題点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間(合計4時間)を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著(2016)『中国経済入門 第4版』日本評論社。
 2. 加藤弘之(2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著(2018)『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著(2013)『中国経済はどう変わったかー改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫(2013)『21世紀の中国経済篇－国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点および宿題（70％）
 2. 期末試験（30％）
- 両者の組み合わせ：100％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The lecture introduces the trajectory of China's economic growth from historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will explore the factors behind China's economic growth from multiple perspectives, including history, economic development, and institutional transitions. Additionally, we will clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the United States, and European countries.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macroeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the features of Chinese economy based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data source and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)
 2. Final examination (30%)
- Combinations of both: 100%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
中国経済論 B
王 威
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、格差問題（例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差）などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済発展の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済発展のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。対面実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第2回	国有企業改革(1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第3回	国有企業改革(2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第4回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDIと中国経済発展について理解する
第5回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第6回	農村改革(1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第7回	農村改革(2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する
第8回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する

第9回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第10回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第11回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第12回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第13回	労働雇用・賃金政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第14回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第4版』日本評論社。
 2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
 6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度改革』、京都大学学術出版会。
 7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点および宿題（70％）
 2. 定期試験（30％）
- 両者の組み合わせ：100％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This lecture introduces the determinants of the economic development in China from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., government official statistical data, academic survey data etc.). The topics' targets focus on individuals, households, firms, and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise innovation, industrial structural transformation, inequality issues such as income and social security inequality between rural and urban residents and understand the facts, issues and mechanisms in Chinese economy from a microeconomic perspective.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each (total 4 hours).

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)

2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

LANd200CA (ドイツ語 / German language education 200)
ドイツ語セミナー A
北岡 幸代
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

特定の具体的な場面で使われる、定型的表现・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方、勉強方法について
第2回	住まいについて(1)	住まいのづくり
第3回	住まいについて(2)	感想や評価の表現
第4回	住まいについて(3)	賃貸住宅の広告を読む
第5回	お気に入りの街角(1)	街の景色
第6回	お気に入りの街角(2)	私の街の紹介
第7回	お気に入りの街角(3)	好みを伝える表現
第8回	ホテルでのトラブル(1)	ホテルの設備
第9回	ホテルでのトラブル(2)	助けを求める表現
第10回	ホテルでのトラブル(3)	予定を伺うメール 言い訳と謝罪の表現
第11回	夢と計画(1)	将来の夢を語る
第12回	夢と計画(2)	どこで何を学んでいるの？
第13回	夢と計画(3)	創造的に書いてみよう
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Menschen Kursbuch A1.2』(Hueber)

【参考書】

参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材等は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】

ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。ドイツ語の学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心にできるだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60% or more of the total passing grade.

If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANd200CA (ドイツ語 / German language education 200)
ドイツ語セミナーB
北岡 幸代
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、社会背景、人々の考え方を学びます。発音や文法なども受講者の理解度に応じて、確認・復習しながら進めていきます。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

特定の具体的な場面で使われる、定型的表现・語彙・文脈に沿った表現・文法などを学びます。提出された課題については、添削や授業内でのフィードバック、「学習支援システム」を通じてのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、勉強方法について
第2回	身体と健康(1)	体調不良をめぐる表現
第3回	身体と健康(2)	命令形の表現
第4回	身体と健康(3)	身体部位と体調をめぐる表現
第5回	人物評(1)	人物の外見について 過去形の表現
第6回	人物評(2)	人物像について 非分離動詞の使い方
第7回	人物評(3)	驚きの表現
第8回	家事とシェアハウス(1)	日記を読む 命令形
第9回	家事とシェアハウス(2)	家事をめぐる表現
第10回	家事とシェアハウス(3)	シェアハウスについて
第11回	服装について(1)	服装に関する表現
第12回	服装について(2)	評価・感想の表現 比較の表現
第13回	服装について(3)	強調する表現
第14回	授業内試験とまとめ	口頭試験あるいはプレゼンテーションと、ヒヤリング・筆記試験 今学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Menschen Kursbuch A1.2 (Hueber)

【参考書】

参考書等は授業中に適宜紹介し、補助教材・動画教材は「学習支援システム」の教材コーナーに随時アップします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30 %）、授業内筆記テスト（35 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
正当な理由のない欠席が全体の4分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

例年少人数編成である利点を生かし、受講者の皆さんの特に学びたいことを授業に反映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】

ドイツ語を1年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。
ドイツ語学習内容やドイツ語圏に関する受講者の興味関心ができるだけ寄り添い、映画や動画教材も積極的に利用します。したがって、シラバスに提示してあるテーマも若干変更する場合もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, social background and the way people think in German-speaking countries while studying German at the beginner level. Pronunciation and grammar will be checked and reviewed according to the student's level.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to express simple matters in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard amount of time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be based on the degree of completion of homework and in-class assignments (30%), an in-class written test (35%), and an in-class oral examination and presentation (35%), with 60% or more of the total passing grade.

If the number of absences without justifiable reason exceeds one-fourth of the total number of absences, the student will be excluded from the grading system.

LANf200CA（フランス語 / French language education 200）
フランス語セミナー B
桑原 旅人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

文法および会話事項、さらにフランスの文化的背景について講義を行った後、特に文化的背景を中心に、日本語で対話する時間を設ける。状況によってオンデマンド授業を行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業進行の説明
第2回	意見を述べる	「意見を持つこと」が前提の社会
第3回	賛成・反対・違和感	対立を前提とする会話文化
第4回	評価と批評	批評文化の基礎
第5回	公共空間で話す	フォーマル／インフォーマルの切替
第6回	世俗主義と宗教	laïcité の基本理解
第7回	中間まとめ	教場レポート
第8回	政治・社会問題を「軽く」語る	断定を避けつつ語る技法
第9回	抽象語に慣れる	フランス語の抽象度
第10回	主語をぼかす戦略	曖昧さに伝える技法
第11回	違いを説明する	比較の言語化
第12回	意見交換	文化的テーマ
第13回	言語と権力	フランス語における 非人称主語（on / il faut）の役割
第14回	まとめ	教場レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業ないで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、二回のレポート50%

【学生の意見等からの気づき】

今学期からの担当となります。

【Outline (in English)】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANf200CA（フランス語 / French language education 200）
フランス語セミナー A
桑原 旅人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

文法および会話事項、さらにフランスの文化的背景について講義を行った後、特に文化的背景を中心に、日本語で対話する時間を設ける。状況によってオンデマンド授業を行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業進行の説明
第2回	自己紹介	フランス社会における個人性
第3回	出身を語る	フランス人の国民国家意識と共和国
第4回	社会的属性を語る	フランス人の職業・所属意識
第5回	好みを言語化する	「意見を言う」ことの前提
第6回	注文の仕方	フランスのカフェ文化
第7回	中間まとめ	教場レポート
第8回	場所・都市・空間感覚	パリについて
第9回	予定と時間意識	フランス人の時間管理
第10回	感情と評価	感情表現の許容度
第11回	依頼提案の仕方	直接性と対等性
第12回	日常会話での衝突	誤解が生まれる場面
第13回	家族を語る	フランス人の家族感
第14回	まとめ	教場レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計4時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業のなかで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

二回のレポート50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

今学期からの授業となります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANr200CB（ロシア語 / Russian language education 200）
ロシア語セミナー A
松澤 暢子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を終え、中級以上を目指す学生のための授業です。基礎文法の習得を完成し、中級文法を学びながら、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語能力を伸ばしていきます。ロシア語圏で通用するロシア語能力の基礎を身につけること、そして、様々なジャンルの文章や視聴覚教材を通じ、言語だけでなくロシアの生活、文化、歴史への知識を深めることを目的とします。

【到達目標】

1. 基礎文法、基本的な語彙に加え、主に以下の4点を習得することで、ロシア語能力検定試験4級、3級の合格、または同程度のロシア語能力を身につけることを目指す。
 - ・辞書を使わずに短い文章を読解、和訳できる。
 - ・ゆっくりとしたテンポで読まれた文章、簡単な日常会話を聞きとることができる。
 - ・発音、アクセント、イントネーションを意識した、滑らかな音読、会話（挨拶や簡単な日常会話）ができる。
 - ・基本的な語彙を使い、挨拶や自己紹介などを書くことができる。
2. 中級文法を学習し、辞書を使いながら文学作品を含む様々なジャンルの文章を読み解く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面で行います。基礎文法を総復習し、5月、10月のロシア語能力検定試験（4級、3級）の受験を視野に、文法、露文和訳、和文露訳等の対策問題を解いていきます。基礎文法の復習後は、中級文法を学習します。このほか、文学作品を含む幅広いジャンルの文章の読解、音楽や朗読、映画等の視聴覚教材を使用したリスニングの練習、そして音読や会話の練習を毎回行います。随時小テストを実施し、課題を出します。課題等に対する講評や解説は授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、進め方 ロシア語能力検定試験の概要 発音、アクセント、イントネーション
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞
第3回	形容詞、所有代名詞、指示代名詞	形容詞、所有代名詞、指示代名詞とその格変化
第4回	格変化	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第5回	動詞 1	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、命令形）
第6回	動詞 2	動詞（完了体と完了体）
第7回	副詞	副詞、無人称文
第8回	移動の動詞 1	「歩いていく」と「乗り物で行く」、定動詞と不定動詞
第9回	移動の動詞 2	その他の移動の動詞

第10回	前置詞	生格、対格、造格、前置格を要求する前置詞など
第11回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第12回	比較級	比較級、最上級
第13回	数詞	数詞（数詞と名詞の変化）、個数詞、順序数詞
第14回	春学期のまとめ	文法、露文和訳、和文露訳、音読など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨み、課題は期限までに必ず提出してください。予習・復習を合わせた授業外の学習時間は、毎回2時間程度が目安です。そのほか、NHKラジオ『まいにちロシア語』やインターネットなどを通じ、日頃からロシア語に触れ、知識と興味を深めていきましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。

露和辞典（『博友社ロシア語辞典（改訂新版）』[1995年]が望ましい）

【参考書】

『初級ロシア語20課』桑野隆著、白水社、2012年

『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年

『研究社露和辞典』、研究社、1988年

『研究社和露辞典<改訂版>』、研究社、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価50%で評価します。課題は、文法の練習問題、単語・表現の意味調べ、音読などです。詳細は初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見や希望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。ロシア語能力検定試験4級、3級の合格を目指す学生も受験を予定していない学生も歓迎します。なお、受講生の習熟度やロシア語能力検定試験受験予定者の有無、社会情勢等により授業計画およびその進捗、形態（基本対面）は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is designed for students who have taken beginner Russian and wish to advance to the intermediate level. While completing the acquisition of basic grammar and learning intermediate grammar, students will develop their Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing". The objective is for students to acquire a foundation of Russian language skills that can be used in Russian-speaking countries, and to deepen their knowledge not only of the language but also of Russian life, culture, and history through a variety of texts and audiovisual materials of different genres. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test or acquire the same level of Russian language proficiency. Four hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANr200CB（ロシア語 / Russian language education 200）
ロシア語セミナー B
松澤 暢子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を終え、中級以上を目指す学生のための授業です。基礎文法の習得を完成し、中級文法を学びながら、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語能力を伸ばしていきます。ロシア語圏で通用するロシア語能力の基礎を身につけること、そして、様々なジャンルの文章や視聴覚教材を通じ、言語だけでなくロシアの生活、文化、歴史への知識を深めることを目的とします。

【到達目標】

1. 基礎文法、基本的な語彙に加え、主に以下の4点を習得することで、ロシア語能力検定試験4級、3級の合格、または同程度のロシア語能力を身につけることを目指す。
 - ・辞書を使わずに短い文章を読解、和訳できる。
 - ・ゆっくりとしたテンポで読まれた文章、簡単な日常会話を聞きとることができる。
 - ・発音、アクセント、イントネーションを意識した、滑らかな音読、会話（挨拶や簡単な日常会話）ができる。
 - ・基本的な語彙を使い、挨拶や自己紹介などを書くことができる。
2. 中級文法を学習し、辞書を使いながら文学作品を含む様々なジャンルの文章を読み解く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面で行います。基礎文法を総復習し、5月、10月のロシア語能力検定試験（4級、3級）の受験を視野に、文法、露文和訳、和文露訳等の対策問題を解いていきます。基礎文法の復習後は、中級文法を学習します。このほか、文学作品を含む幅広いジャンルの文章の読解、音楽や朗読、映画等の視聴覚教材を使用したリスニングの練習、そして音読や会話の練習を毎回行います。随時小テストを実施し、課題を出します。課題等に対する講評や解説は授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと復習	授業の概要、進め方 春学期の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策 1	過去問題を時間内で解く練習： 文法、リスニング、朗読
第3回	ロシア語能力検定試験対策 2	過去問題を時間内で解く練習： 和文露訳、リスニング、朗読
第4回	ロシア語能力検定試験対策 3	過去問題を時間内で解く練習： 露文和訳、リスニング、朗読
第5回	前置詞 イントネーション 1	様々な前置詞 ロシア語のイントネーション
第6回	動詞 イントネーション 2	移動の動詞と接頭辞 イントネーションを意識した音読：平叙文
第7回	形動詞 1 イントネーション 3	能動形動詞 イントネーションを意識した音読：疑問詞を伴う疑問文

第8回	形動詞 2 イントネーション 4	被動形動詞 イントネーションを意識した音読：疑問詞のない疑問文
第9回	副動詞 イントネーション 5	副動詞 イントネーションを意識した音読：感嘆詞を伴う感嘆文など
第10回	読解と朗読 1	文学作品の和訳と朗読練習
第11回	読解と朗読 2	文学作品の和訳と朗読練習
第12回	読解と朗読 3	文学作品の和訳と朗読練習
第13回	読解と朗読 4	文学作品の和訳と朗読練習
第14回	秋学期のまとめ	視聴覚教材でのリスニング練習、朗読など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨み、課題は期限までに必ず提出してください。予習・復習を合わせた授業外の学習時間は、毎回2時間程度が目安です。そのほか、NHKラジオ『まいにちロシア語』やインターネットなどを通じて、日頃からロシア語に触れ、知識と興味を深めていきましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。
露和辞典『博友社ロシア語辞典（改訂新版）』[1995年] が望ましい。

【参考書】

『初級ロシア語20課』桑野隆著、白水社、2012年
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年
『研究社露和辞典』、研究社、1988年
『研究社和露辞典＜改訂版＞』、研究社、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価50%で評価します。課題は、文法の練習問題、単語・表現の意味調べ、音読などです。詳細は初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの意見や希望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。ロシア語能力検定試験4級、3級の合格を目指す学生も受験を予定していない学生も歓迎します。なお、受講生の習熟度やロシア語能力検定試験受験予定者の有無、社会情勢等により授業計画およびその進度、形態（基本対面）は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is designed for students who have taken beginner Russian and wish to advance to the intermediate level. While completing the acquisition of basic grammar and learning intermediate grammar, students will develop their Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing". The objective is for students to acquire a foundation of Russian language skills that can be used in Russian-speaking countries, and to deepen their knowledge not only of the language but also of Russian life, culture, and history through a variety of texts and audiovisual materials of different genres. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test or acquire the same level of Russian language proficiency. Four hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANc200CA (中国語 / Chinese language education 200)
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第2回	第1課	読解 (成語は邯鄲の代名詞)
第3回	第2課	読解 (中国のサブカルが世界で人気)
第4回	1、2課のまとめ、発表	発表
第5回	第3課	読解 (中国パビリオンに見る未来社会)
第6回	第4課	読解 (民間サッカーリーグ人気を考える)
第7回	3、4課のまとめ、発表	発表
第8回	第5課	読解 (幸せも量産する中国トヨタ)
第9回	第6課	読解 (中国の若者の婚活事情)
第10回	5、6課のまとめ、発表	発表
第11回	第7課	読解 (ASEANと雲南、20年來のパートナー)
第12回	第8課	読解 (伝統の窯に新たな息吹)
第13回	7、8課のまとめ、発表	発表
第14回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は4時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2026年度版』朝日出版社、2026年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、試験70%

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

2年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30% regular marks and 70% examinations.

LANe200CA (中国語 / Chinese language education 200)
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。

授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。

中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	前期のまとめ
第2回	第9課 (推し活が消費を動かす)	読解
第3回	第10課 (防空壕が面目一新)	読解
第4回	9、10課のまとめ、発表	発表
第5回	第11課 (鉄道こぼれ話)	読解
第6回	第12課 (日本人留学生のヒットハイク旅行記)	読解
第7回	11、12課のまとめ、発表	読解
第8回	第13課 (EUが注目する中国産EV)	読解
第9回	第14課 (ハイテク企業の揺りかご、杭州)	読解
第10回	第15課 (山全体をキャンパスに)	読解
第11回	13、14、15課のまとめ、発表	発表
第12回	補助教材（新聞記事）	読解、発表
第13回	補助教材（新聞記事）	読解、発表
第14回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は4時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2026年度版』朝日出版社、2026年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、試験70%

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30% regular marks and 70% examinations.

LANs200CA（スペイン語 / Spanish language education 200）
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、三十数年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、リサーチし、各自のできる範囲でスペイン語も使って発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できる。
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読める。興味関心あることは簡単なスペイン語で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第2回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第3回	復習②と基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第4回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第5回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第6回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第7回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第8回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第9回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第10回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第11回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第12回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第13回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第14回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90％＋口頭試験10％で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。キャンパス探検会話実習は好評だったため状況次第で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布はHoppii上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもあり、年度によって様々）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic issues for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of a Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned parts of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentations about relevant topics. Students are expected to spend four hours per class. [Grading Criteria / Policy] Grades will be based on the term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

LANs200CA（スペイン語 / Spanish language education 200）
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代文明、天然資源、三十数年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、リサーチし、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

【到達目標】

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第2回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第3回	復習②と基礎的知識	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義
第4回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第5回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第6回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第7回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第8回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第9回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第10回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第11回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第12回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第13回	復習③	口頭試験の準備
第14回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）／ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）／エル・コメルシオ紙（<http://elcomercio.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90％＋口頭試験10％で総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布はHoppii上で行う。

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもあり、年度によって様々）。スペイン語辞書必携。

【Outline (in English)】

[Course Outline] This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic issues for the purpose of better understanding Latin America. [Learning Objectives] At the end of the course, participants are expected to 1)explain the principal characteristics of Peru and its cultural, social and historical backgrounds; and 2)read local newspapers with the aid of a Spanish dictionary. [Learning Activities outside of Classroom] 1)Read assigned parts of the Spanish text and translate it into Japanese, and 2)prepare oral presentations about relevant topics. Students are expected to spend four hours per class. [Grading Criteria / Policy] Grades will be based on the term-end oral examination (10%), and in-class contribution including above mentioned translation and oral presentation (90%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）	
現代社会と情報 A	
坂本 憲昭	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システム・ITは社会の隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいても、それらを活用することが必須であり、ITと経営全般に関する総合的知識が不可欠です。そのために経営戦略、マーケティング、情報セキュリティ、知的財産権などの基礎（またはツール）を学びます。具体的には、これらの職業人としての知識を集約した「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験ITパスポートの内容に準拠し、そしてシステムやアプリケーションソフトを発注する立場として受け入れテストに関するソフトウェアテストやその技法の基礎を活用します。

【到達目標】

職業人として社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の取得、現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を習得し、情報が現代社会に及ぼす影響を理解します。具体的に、(1)情報システムを業務に活用し、情報システムの投資対効果などを理解します。(2)企業における問題発見・問題解決のために、業務の把握、データ収集・分析・解析、解決策の策定などに寄与するITツールの知識を習得します。(3)情報システムを安全に利用するためのセキュリティなどの知識、情報倫理などを習得します。(4)ソフトウェアの受け入れテストに関する基礎知識の一部を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業内容は3本柱になります。それぞれにおいて「講義と演習問題＞試験」のサイクルで授業を進めます。下記の授業計画は概要で流れを示したものです。試験は3回あります。提出課題はありません。各試験結果のフィードバックは「学習支援システム」で公開します。「学習支援システム」を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび現代社会における情報システム	情報化社会において求められる職業人としての知識について
第2回	ストラテジ系前半（企業活動）	企業活動、企業の組織、最高情報責任者 CIO、コンプライアンス、ORやIEなど
第3回	ストラテジ系前半（業務把握ツール）	問題発見のための業務把握のためのICTツール、情報ツールなど
第4回	ストラテジ系前半（業務分析ツール）	問題解決のための業務解析、業務分析のためのツールと活用事例等
第5回	ストラテジ系前半試験	ストラテジ系前半の確認となる試験と復習など
第6回	ストラテジ系後半（経営戦略策定ツール）	経営戦略策定のためのデータ収集手法など
第7回	ストラテジ系後半（分析手法）	ビジネス戦略策定のためのデータ分析手法など
第8回	ストラテジ系後半（情報システム）	情報システム戦略の策定と事例紹介、アローダイアグラムなど
第9回	ストラテジ系後半（ビジネスインダストリ技術）	規格、標準化、電子商取引社会などの情報システム、ビジネスインダストリなど
第10回	ビジネスインダストリ事例	情報社会におけるビジネスインダストリに関する事例紹介等とマネジメント系の一部
第11回	ストラテジ系後半試験	ストラテジ系後半の確認となる試験と復習など、マネジメント系を一部含む
第12回	ITスキル及びモラルと計算問題	計算問題（PART図、物の流れと比率SPIなど）演習
第13回	ITスキル及びモラルと受入テスト	情報倫理・情報セキュリティ、To/CC/BCC、など
第14回	ITスキル及びモラル範囲試験	ITスキル及びモラルとこれまでの計算問題試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習に取り組む時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、教員による解説資料と演習問題を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

情報処理技術者試験「ITパスポート」の参考書および問題集が参考書になります。タイトルに「ソフトウェアテスト」の単語が含まれる書籍が参考書になります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムのテスト機能を使い3回試験をします。試験結果点数の換算方法などの詳細についてガイダンスファイルを必ず参照してください。成績評価は100点満点に換算して60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムに掲載されるガイダンスファイルを参照しない方がいらっしゃいます。必ず参照してください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講する機器を各自で準備する必要があります。ご自分のパソコン、安定したインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

- ・学習支援システムに掲載する最新の「ガイダンスファイル」を参照してください。成績や公欠についての質問があった際は、最初にまず「ガイダンスファイル」を参照してください。
- ・「実務経験のある教員による授業」に該当し、システム部での業務経験に基づく事例紹介をします。
- ・受講する場合は、ガイダンスファイルに記載した内容を「理解/納得/了承」してから、本登録してください。
- ・情報処理技術者試験「ITパスポート」とは、情報処理の促進に関する法律（昭和45年法律第90号）に基づき、経済産業大臣が実施する情報処理に関する業務を行う者の技術の向上に資するため、情報処理に関して必要な知識及び技能を問う、日本の国家試験です。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire knowledge in information technology and management.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to can answer questions about strategy and management on the IT Passport exam of the Japan Information-Technology Engineers Examination.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria / Policies >

Your overall grade in the class will be decided according to the three examination (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
現代社会と情報B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術の発展は、情報・知識の自由な創造・流通・共有化を可能にし、それは経済・社会に大きな変革をもたらした。一方、個人に関する大量の情報が集積・利用されたことに伴い、個人情報保護についての不安も顕在化した。個人情報を保護しつつ、マイクロデータ（個体情報が記録されたデータ）をいかに社会全体の利益のために活用すべきかを論じる。

【到達目標】

個人情報保護の重要性を十分に認識した上で、マイクロデータ活用の有効性を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

理解を深めるために講義中にワークシートを授業支援システムを通じて配布し、学生はそれに解答する。ワークシートの提出期限後に正解がフィードバックされる。授業翌日以降に提出すると減点される。締切直前に提出しようとして提出できない学生がいるかもしれないが、提出期間は6日間あるので、締切後の提出は認められない。また公的マイクロデータ（一般用マイクロデータ）を用いた分析手法を学習し、実際にそれを用いた分析を行い、レポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	情報化社会を予測した人々	梅棹忠夫『情報産業論』、林雄二郎『情報化社会』、ダニエル・ペル『脱工業社会の到来』、ドォロネ、ギャドレ『サービス産業学説史』
2	米国対抗文化とパーソナルコンピュータの登場	メインフレームによる支配、マクナマラ、デビッド・ハルバスタム『ベスト&ブライテスト』、アップル、DVD『ステューブ・ジョブズ：ラスト・メッセージ』視聴
3	シリコン・バレーのベンチャー企業によるマイクロプロセッサの開発	スタンフォード大学、ベンチャー企業、マイクロプロセッサ、DVD『シリコン・バレーの百年』視聴
4	ネット社会の到来と検索エンジン	検索エンジンとターゲット広告、村井純『インターネットの基礎』、佐々木俊尚『グーグルーGoogle 既存のビジネスを破壊する』、エリック・シュミット、ジャレッド・コーエン『第五の権力』、DVD『グーグル革命』視聴、西垣通『IT革命ーネット社会のゆくえ』、西垣通『ウェブ社会をどう生きるか』
5	デジタル経済の把握	菅幹雄編『GDP推計の新たな展開』

6	ビッグデータ	ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、ケネス・クキエ『ビッグデータの正体』
7	人工知能	西垣通『ビッグデータと人工知能』、涌井良幸、涌井貞美『Excelでわかるディープラーニング超入門』、新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』
8	ジョージ・オーウェルの『1984』と監視社会	DVD『1984』視聴、デイヴィッド・ライアン『監視社会』
9	個人情報保護	住民基本台帳ネットワーク、個人情報保護法、堀部政男『プライバシーと高度情報化社会』、年金記録問題、マイナンバー
10	パーソナルデータの利活用	個人情報保護とデータの利活用、オープンデータ、オプトアウト、「内定辞退予測」の問題
11	公的マイクロデータの利活用（1）	統計法、二次利用、匿名データ、匿名化の技法
12	公的マイクロデータの利活用（2）	一般用マイクロデータ、基本統計量の計算、箱ひげ図
13	公的マイクロデータの利活用（3）	相関と回帰、クロス集計表、公的マイクロデータ（一般用マイクロデータ）を用いた分析レポート作成
14	公的マイクロデータの利活用（4）	レポート講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。授業で用いたPowerpointのファイルをpdf形式で授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

各回の内容の欄に参照する文献を示した。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 65%

公的マイクロデータ（一般用マイクロデータ）を用いた分析レポート 35%

【学生の意見等からの気づき】

ワークシートの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【Outline (in English)】

Course outline: The development of information and communication technology has enabled the free creation, distribution, and sharing of information and knowledge, which has brought about major changes in the economy and society. On the other hand, with the accumulation and use of a large amount of personal information, anxiety about personal information protection has become apparent. Discuss how micro data (data on which individual information is recorded) should be used for the benefit of society as a whole while protecting personal information.

Learning Objectives: Be able to understand the effectiveness of micro data utilization after fully recognizing the importance of personal information protection.

Learning activities outside of classroom: The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Worksheet at each class 40%. Analytical report using official micro data (micro data for general use) 60%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済統計論 A
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個人・世帯統計を取り上げる。個人・世帯の行政記録情報から出発して、国勢調査、家計調査、消費者物価指数という流れを説明する。さらに学生の個人消費支出調査の結果を用いて実際に分析を行う。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

理解を深めるために講義中に課題を授業支援システムとGoogle Formを通じて配布し、学生はそれに解答する。課題の提出期限後に正解がフィードバックされる。授業翌日以降に提出すると減点される。締切直前に提出しようとして提出できない学生がいるかもしれないが、提出期間は6日間あるので、締切後の提出は認められない。また家計簿アプリを用いて学生の消費支出調査を実施し、それに基づいて分析を行い、レポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	個人・世帯についての行政記録情報	世帯統計の流れ、住民基本台帳、戸籍法による届出、出入国管理記録
2	国勢調査(1)	国勢調査の必要性、選挙区の区割り、標本調査のサンプリングフレーム、調査方法、調査員調査
3	国勢調査(2)	人口の基本的属性、人口ピラミッド、団塊の世代、人口の高齢化、標準世帯、単身世帯の増加、首都圏への人口集中、人口学方程式、将来人口予測
4	国勢調査(3)	人口の経済的属性、就業状態、産業と職業、ベティ＝クラークの法則、経済のサービス化
5	標本抽出	単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出、層化多段抽出、標本誤差
6	家計調査	家計簿、層化三段抽出、エンゲル係数、エンゲルの法則、所得弾力性
7	消費者物価指数	ラスパイレ式、パーシェ式、フィッシャー式
8	学生の個人消費支出分析(1)	学生の個人消費支出の基本統計量、箱ひげ図
9	学生の個人消費支出分析(2)	学生の個人消費支出のクロス集計表、相関係数
10	学生の個人消費支出分析(3)	学生の個人消費支出の所得弾力性
11	学生の個人消費支出分析(4)	学生の個人消費支出の不平等度、ローレンツ曲線、ジニ係数

12	学生の個人消費支出分析(5)	学生の物価指数
13	学生の個人消費支出分析(6)	学生の個人消費支出の実質化、学生の個人消費支出調査を用いた分析レポート作成
14	学生の個人消費支出分析(7)	レポート講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。授業で用いたPowerpointのファイルをpdf形式で授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850円（※過去の教科書。内容が旧くなっているため参考書とした。）
福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 1650円

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 65%
「学生の個人消費支出調査の分析」レポート 35%

【学生の意見等からの気づき】

課題の正解をなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

(Course outline) This course covers individual and household statistics. Starting with administrative records of individuals and households, it explains the progression to population censuses and household consumption expenditure surveys and consumer price index.

. Furthermore, it conducts actual statistical analysis using the results of students' personal expenditure surveys.

(Learning Objectives) The objective is to acquire the ability to read economic and social statistics deeply, rather than superficially, by understanding the system based on which statistics that describe the economy and society are created.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Worksheet at each class 40%. Analytical report on a survey of student consumer spending using a household budgeting application. 60%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済統計論 B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内総生産（Gross Domestic Product, GDP）は物価指数や失業率と並んで、おそらく最もよく知られている経済指標の一つであろう。とても有名なので「GDPとは何ですか？」と聞かれれば、「国内で一定期間内に生産された財・サービスの付加価値の合計額」と答えられる人は少なくないであろう。けれども「どうやって推計しているか知っていますか？」と聞かれて答えられる人は多くはいないであろう。経済統計論 B では国民経済計算（System of National Accounts, SNA）の推計方法を供給・使用表（Supply Use Tables, SUT）を通じて説明する。なお SUT とは SNA を推計する基礎となる統計表である。

【到達目標】

国民経済計算がどのように推計されているかを理解することによって、GDP 統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

理解を深めるために講義中に課題を授業支援システムと Google Form を通じて配布し、学生はそれに解答する。課題の提出期限後に正解がフィードバックされる。授業翌日以降に提出すると減点される。締切直前に提出しようとして提出できない学生がいるかもしれないが、提出期間は 6 日間あるので、締切後の提出は認められない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	SUT とは何か	産業連関表と供給・使用表のちがい、簡単な架空のパンの例、実際の産業・生産物 3 部門の例
2	国民経済計算の SUT	SNA の統合経済勘定、財・サービス勘定と海外勘定、SUT への拡張
3	SUT の歴史	国連が勧告した SNA 体系、1968SNA、1993SNA、2008SNA
4	海外の SUT	GDP の生産・支出・所得、GDP 三面推計の関係、主要国 SUT の設計、速報性と正確性
5	SUT のバランスング	「統計上の不突合」とは何か、バランスングのイメージ、手順、具体的な計算例
6	SUT 体系移行の背景	SUT 体系移行、移行検討の経緯、令和 2 年表の公表とその後の進展
7	産業連関分析	「商品×商品表」のメリット、産業連関分析とは、実際の産業連関分析の計算例
8	SUT における産業分類と生産物分類の適用	SUT における産業分類と生産物分類の必要性、日本の産業分類・生産物分類

9	SUT と産業統計 (1)	産業統計のしくみ、経済センサス-活動調査
10	SUT と産業統計 (2)	経済構造実態調査（製造業）
11	SUT と産業統計 (3)	経済構造実態調査（商業、サービス業）、産業連関構造調査
12	SUT の作成方法	SUT 推計精度の向上、統計単位・部門、供給表の部門概念と基礎統計の関係
13	SUT から産業連関表への変換	副次的生産、SUT から産業連関表への変換、各仮定に基づく変換過程
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

菅幹雄編『GDP 推計の新たな展開』日本評論社 2700 円
※パワーポイントは原則として配布しない。

【参考書】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850 円

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 65 %
期末試験（対面、教科書・ノート持ち込み可）35 %

【学生の意見等からの気づき】

課題の正解をなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

(Course outline) Gross Domestic Product (GDP) is probably one of the most well-known economic indicators, along with the price index and the unemployment rate. So well known is it that if you were to ask, “What is GDP?” many people would be able to answer, “It is the total value added of goods and services produced in Japan during a certain period of time. However, not many people can answer the question, “Do you know how it is estimated? However, not many people would be able to answer the question, “Do you know how it is estimated? In Economic Statistics B, the estimation method of the System of National Accounts (SNA) is explained through Supply Use Tables (SUT). The SUT is a statistical table that serves as the basis for estimating the SNA.

(Learning Objectives): To develop the ability to understand GDP statistics in depth rather than superficially.

(Learning activities outside of classroom) The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) Worksheet at each class 40%

Final exam (face-to-face, students may bring in textbooks and notes) 60%

PHL300CA (哲学 / Philosophy 300)
日本文化論
黒田 俊太郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「定番教材」を読み直す。
高校の国語教科書で夏目漱石の「こころ」という小説に接したという人は少なくないだろう。教科書で老若男女に読まれてきたそうした「定番教材」はしかし、いつの時代も同じ読まれ方がなされてきたわけではない。「定番教材」はこれまで様々な読まれ方がなされてきたのであり、それらは時代を映す鏡でもあるはずである。

この授業ではいくつかの「定番教材」を扱うが、それらの物語のこれまでの読まれ方を参照しながら、物語世界内で展開される対話、あるいは提示される課題について、改めて私たちの「教室」で議論してみたい。私たちが作品を読むことで対峙することになる解決困難な「問い」は、現代的な課題として私たちに残されたものでもあるだろう。

この授業では、そうした「問い」に対しあくまでも分析的に迫るためのいくつかの方法論（注釈・作品研究史の調査・文学理論など）についても紹介したい。

【到達目標】

- ・「定番教材」に内在していた「問い」を再発見し、現代的な課題として問い直そうとする。（態度目標 [本単元で育成したい学習者の態度]
- ・「定番教材」に内在する「問い」についての学習者同士や教師との対話を通して、私たちが人生において向き合ねばならない本質の問題について知る。（価値目標 [本単元で考えさせたい内容や価値観]
- ・小説を分析的に読むための基本的な研究方法・調査方法を学び、小説を分析することができる。（技能目標 [本単元で習得させたい知識や言語能力]

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

指示された「定番教材」や先行研究を読んでくること。授業では、「定番教材」や研究方法・調査方法に関する講義を行うが、それに関連するワークシートにも必ず取り組んでもらう。またそれについてグループで話し合ったり、グループ内の意見を全体に対しプレゼンしたりしてもらおう。ワークシートは回収し、評価した後返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的
第2回	夏目漱石の文学/「こころ」	研究史
第3回	夏目漱石の文学/「こころ」	フレーム理論
第4回	夏目漱石の文学/「こころ」	始めと終わり
第5回	新感覚派と横光利一の文学/「蠅」	農婦はなぜ急いでいたのか？
第6回	新感覚派と横光利一の文学/「蠅」	カメラ・アイ
第7回	新感覚派と横光利一の文学/「蠅」	表現

第8回	プロレタリア文学と 葉山嘉樹の文学/「セメント樽の中の手紙」	手紙というメディア
第9回	プロレタリア文学と 葉山嘉樹の文学/「セメント樽の中の手紙」	同時代評
第10回	プロレタリア文学と 葉山嘉樹の文学/「セメント樽の中の手紙」	資本主義制のしくみと矛盾
第11回	太宰治の文学/「トカトントン」	戦後の虚無
第12回	太宰治の文学/「トカトントン」	戦後の創造
第13回	三浦哲郎の文学/「盆土産」	語り手は誰？
第14回	三浦哲郎の文学/「盆土産」	〈出稼ぎ物〉という視座

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習者には、事前課題や復習課題に取り組んでもらうことがある。また、課題の有無に関わらず、準備学習・復習はそれぞれ2時間を目安に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜資料を配布する。

【参考書】

佐藤泉『国語教科書の戦後史』勁草書房、2006
石原千秋『国語教科書の中の「日本」』筑摩書房、2009
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・受講態度(10%)・レポート(50%)・ワークシート(40%)。提出物は必ず出すこと。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品が製作された歴史的背景・理論の解説が、学習者の作品理解に確実に繋がっていることがアンケートなどからわかります。今後もそうした作品理解に連続する背景知識や理論の紹介に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレットを必ず持参すること。授業中は、それらのデバイスを積極的に用いて情報収集を行いながら、課題等に取り組んでください。

【Outline (in English)】

This course will deal with the novels that have been repeatedly published in Japanese language textbooks for schools at all three levels.

Many people, young and old, might have encountered Natsume Soseki's novel "Kokoro" in high school as this novel has been picked up in high school Japanese textbooks many times over decades. This kind of "regular" novels in textbooks, however, have not always been read in the same way. Its interpretation has varied depending on time and this course will consider the social or historical backgrounds these different interpretations could reflect.

In this course, students will read a different "regular" novel for each class time while referring to how these novels have been read so far. Students will also discuss the dialogues and the issues presented in the texts as intractable issues in such novels continue to be contemporary issues.

In order to analytically approach such issues, this course will also introduce students to some methodologies such as literary theory.

Students are expected to spend about two hours for preparation and review of each class, respectively.

Grading Policy: A comprehensive evaluation will be made based on each student's attitude(10%), reports(50%), and worksheets(40%).

POL300CA (政治学 / Politics 300)	
政治過程論	
岡崎 加奈子	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、政治の果たす役割は重要である。しかしながら、私たちは、政治的調整・決定の過程の実態についてどれほど理解し、思考しているだろうか。本講義では、政治過程論についての基礎的な概念を身につけ、現代日本の政治過程についての幅広い知識と理解を深め、今日の政治課題について深く考察することを目的とする。

【到達目標】

本講義では以下の点を到達目標とする。
 学生が現代社会の政治をめぐる制度や政治過程について、幅広い知識と理解を得られること。
 学生が政治的な事象について自ら考察し、社会と自分との関係性について幅広く思考する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、現代日本における政治制度・政治過程について、授業で配布するレジュメ・資料をもとに講義をすすめていく。その際、国会、政党、市民など現代の政治を構成する要素について理解するとともに、これらが政治過程の中でどのような位置にあるかを考察していく。

学生は、毎授業後に質問・意見・感想等を提出する。次回授業においては、質問にたいする回答や意見・感想の紹介などの共有をおこなう。授業内では、そのほかレポート課題などをおこなう場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	政治過程論とは何か
第2回	現代社会と政策	現代社会の特徴と政策について
第3回	権力とは何か	権力と政治について
第4回	代表制	民主主義と代表制について
第5回	国会審議制度	議会の発達と国会のしくみ
第6回	立法過程	閣法・議員立法の審議過程
第7回	官僚・利益団体	政治過程における官僚・利益団体
第8回	政党制	政党の発達と政党制
第9回	戦後政党政治	戦後日本の政党政治の変遷
第10回	自治体のしくみ	自治体の政治過程と地方分権改革
第11回	自治体の財政・政策	自治体の財政・政策とその課題
第12回	世論・メディア	世論の形成とメディアの影響
第13回	市民とは何か	現代社会における市民の政治意識と政治参加
第14回	まとめ	これまでの振り返りと講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業内容と毎回配布される資料をもとにノートを作成し復習すること。また本講義は、時事的な政治事象と関連づけた講義内容となることから、学生は、日ごろから新聞などをよく読むこと、さらに、講義の中で紹介する参考文献等について読むことが望ましい。本授業の復習および関連学習の時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(60%)および平常点(40%)により評価する。平常点は毎回の授業への取り組みや、レポート等課題の提出及びその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会で日々生じる政治的な事象について、講義の内容を通じてより深く思考できる力を養うことを意識し、講義をおこなっていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of political process. This course deals with the basic concepts and principles of the party system, the bureaucracy and the Diet in Japan.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

At the end of the course, participants are expected to understand the basic political science and key challenges related to the political process in the modern society.

Final grade will be calculated according to the following process
 term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

POL300CA (政治学 / Politics 300)
国際政治論
曹 海石
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学の基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

この講義では、国際政治をめぐる様々な概念と理論を紹介すると同時に、「国際政治を見る目」を養うトレーニングを行う。受講生には、毎回授業の最後に質問を出してもらう。そこで、学生諸君は、東アジア及び欧米などの政治情勢を一定程度理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、社会科学という視点と歴史的な観点から、国際政治における主要な概念と理論を分析しながら、現代の世界を考えていく。また、中国・朝鮮半島及び東南アジア諸国の開発・近代化、政治体制とその移行、民主化とナショナリズムを、日本の戦後史と関連付けながら相互関係を考察する。なお、授業形態は、講義に加えて、授業内での課題発表や個別課題等に対するフィードバック方法などを取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際連合と国際政治とは何か	第二次世界大戦、国際連合、米ソ関係、多極化、イデオロギー
第2回	冷戦と朝鮮戦争	冷戦、国連軍、中国志願軍、サンフランシスコ講和会議、日米同盟
第3回	現代中国の政治と外交	毛沢東、文化大革命、鄧小平、一人っ子政策、改革開放政策、習近平
第4回	戦後の日中関係史	民間貿易協定、国交正常化、天皇陛下訪中、日本のODA支援、尖閣諸島問題
第5回	台湾問題と米中関係	金門砲撃、一国二制度、米国の台湾関係法、台湾ナショナリズム、三つのノー、反国家分裂法
第6回	中国の少数民族問題	民族政策、民族教育、チベット、新疆ウイグル自治区、内モンゴル、ダライラマ
第7回	韓国の政治と外交	李承晩ライン、軍事独裁、民主化運動、保守と革新、太陽政策、軍部のハナ会
第8回	日韓関係	日韓基本条約、金大中事件、日本文化の開放、韓流ブーム、知られざる条約内容秘話、シャトル外交
第9回	北朝鮮の政治と外交	金日成、先軍政治、核戦略、世襲体制、同距離外交、金正恩、拉致工作
第10回	南北朝鮮関係	離散家族、経済支援、首脳会談、開城工業団地、国連同時加盟
第11回	日朝関係	朝鮮人帰国事業、拉致問題、万景峰号旅客船、日朝平壤宣言

第12回	知られざる中朝関係	秘密協定、相互援助協力条約、古朝鮮と領土問題、東北歴史工程、高句麗問題、六者協議
第13回	日本と東南アジア諸国	ODA支援、アセアン・プラス3、F T A、南シナ海問題、RCEP
第14回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be required to use the Internet to research topics in preparation for the classroom sessions. Writing tasks will also be set for homework. 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

- 1、古畑康雄編『習近平時代のネット社会』勉誠出版社、2016年。
- 2、下斗米編『アジア冷戦史』中央公論新社、2004年。
- 3、天児慧編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010年。
- 4、鐸木昌之『北朝鮮』東京大学出版会、1992年。
- 5、鈴木佑司『東南アジアの危機の構造』勁草書房、1988年。
- 6、国分良成など『日中関係史』有斐閣、2013年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度「平常点」30%、レポート課題10%、期末テスト60%

【学生の意見等からの気づき】

日本のテレビや新聞雑誌では報道されていない内容、二国間、ないし三国間の政治関連の裏話などをもっと追加すること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, we will consider Realism, Liberalism and Constructivism, which are the basic theoretical frameworks that understand international relations. Then, by applying them to the explanation of specific events after World War II, clarifying the range and the limit of the theory.

Students will be required to use the Internet to research topics in preparation for the classroom sessions. Writing tasks will also be set for homework.

Grades will be calculated in the following way :

30% class participation

10% Report

60% Test

PHL300CA (哲学 / Philosophy 300)
日本思想史
古澤 直人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本思想の基層にある伝統思想を検討する。政治思想としての忠誠と反逆の思想は詳細に検討する。思想史に関する如上のテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【到達目標】

日本の伝統思想と政治思想を学ぶ。具体的には、中華思想、小中華思想、神仏習合思想、公権授受思想、合議の思想、徳治主義などの理解を深める。日本思想史の大きなテーマである忠誠と反逆の思想については歴史的人物に即して深い知見を得る。関連史料を読み解き、歴史的思考力の獲得をめざす。毎回ショートペーパーを提出し到達度を評価されるものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップした各回の講義資料（ワードPDF）を事前に読み、課題回答の要点をメモ書きしておく。パワーポイントにそって授業を進め、章ごとに設定された課題の回答をそれぞれ考える。課題のうち一つを授業中に毎回学習支援システムに提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際環境としての中華思想	礼，天下，王道理論，徳治主義，東アジアの国際秩序
2	小中華思想	中国文化と国粋主義，辺土小国思想，罪と穢れと災い，ケガレ意識
3	神仏習合思想	日本の宗教思想，神と仏の関係，神宮寺建立，本地垂迹説，御霊信仰
4	歴史思想	『源氏物語』と『平家物語』，読者層の違い，歴史観への影響
5	武士の思想①：平清盛前半生を通じて	清盛をめぐる伝承、海洋国家思想、平家一門の繁栄、清盛の思想変貌
6	武士の思想②：平清盛後半生を通じて	忠と孝，忠誠と反逆，天皇の信義，海洋国家思想
7	武士の思想③：源頼朝を通じて	冷酷と温情，頼朝の政治思想，京都派と東国派
8	武士の思想④：木曾義仲を通じて	京都の義仲，異質な存在としての武士，主従思想
9	武士の思想⑤：源義経を通じて	判官最良，伝説，合戦のルール，反逆と没落
10	幕府成立をめぐる思想的対立	公権授受思想，朝廷権威か第2の主権か，形式と実体
11	執権政治と合議制の思想	將軍専制，権力と権威，日本的政治システム
12	承久の乱と徳治思想	朝廷の権威，政子の演説，天皇権威の失墜
13	御成敗式目の思想	強きものと弱きもの，北条泰時の思想，道理の思想
14	まとめとテスト	まとめ，テスト，解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップした講義資料（ワードPDF）を事前に読み、課題の回答をメモ書きしておく。講義後学習支援システムに挙げた「課題の解説と回答例」をみて復習する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材を学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

家永三郎『日本道徳思想史』（岩波書店，1977年改版）。

【成績評価の方法と基準】

提出課題に関する評価の相加平均（90％）。これに平常点（授業への積極的な貢献度）を考慮して（10％）、総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

回によって内容が多すぎるという指摘があるので厳選したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム，PCまたはタブレット。授業中に課題を提出するために必須となる。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに古代中世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

Consider the traditional thought that is the basis of Japanese thought. For example,the Chinese thought,and Shinbutsu-shugo thought , loyalty and rebellion as samurai ideas . At the end of the course, students are expected to acquire historical recognition method.Students must submit a short paper for each assignment.Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test (90 %) ,and in-class contribution(10%). Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
開発経済入門A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済学の様々なトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部1年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、相関と因果を学びます。

また、経済発展の潜在的な要因として、貿易を取り上げ、理論と実証を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きいのに、サブサハラ・アフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、2025年度の履修者数に基づいて、教室を割り当てられていない、オンライン授業が確定している科目です。

授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	高校地歴の教育における本授業の意味、労働需要1	生産関数、等利潤線
第2回	労働需要2	利潤最大化（図による導出）、微分
第3回	労働需要3	利潤最大化（数式による導出）
第4回	労働需要4	労働と資本、所得分配
第5回	相関と因果1	平均、期待値、大数の法則、推定
第6回	相関と因果2	条件付き期待値、回帰分析
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から6回までの内容を復習、中間試験
第8回	相関と因果3	疑似相関、ルービンの因果モデル
第9回	相関と因果4	セレクション・バイアス、ランダム化比較試験
第10回	貿易1	比較優位、絶対優位
第11回	貿易2	2財1時点モデル
第12回	貿易3	国際価格比と比較優位、貿易政策下の予算制約線
第13回	貿易4	輸入代替工業化、実証分析

第14回 まとめと解説、期末試験 第8回から13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

必要・興味に応じて、各講義のスライドの2ページ目にある参考文献を読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

各講義のスライドは、スライドの2ページ目にある参考文献に基づいています。

以下のような文献などです。

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社

高野久紀（2025）『開発経済学 実証経済学へのいざない』日本評論社

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社

高橋和志、樋口裕城、牧野百恵編（2025）『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣

戸堂康之（2021）『開発経済学入門 第2版』新世社

西山慶彦他（2019）『計量経済学』有斐閣

ハ・ナジーム、デ・ユフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答率は2022- 24年度は8.2- 10.3%だったのですが、2025年度は1.6%に激減しました。授業改善アンケートへの回答をお願いします。

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and correlation and causality, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students. We will study trade as factor of economic development.

- Learning Objectives

Why do East Asian countries have large proportions of financial sectors, while Sub-Saharan Africa have smaller proportions? The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
開発経済入門B	
池上 宗信	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門Aでは、開発経済学を学ぶ準備として、労働需要、所得分配、相関と因果を学びました。また、経済発展の潜在的な要因として、貿易を学びました。

開発経済入門Bでは、経済発展の潜在的な要因として、金融、起業を取り上げ、理論と実証を学びます。また、経済成長、貧困の罅、産業構造転換の理論、実証を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラ・アフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょうか？

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、金融の深化が進んでいるのに、サブサハラ・アフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、2025年度の履修者数に基づいて、教室を割り当てられていない、オンライン授業となることが確定している科目です。

授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融1	異時点間予算制約線、割引現在価値、消費者の異時点間効用最大化
第2回	金融2	企業の利潤最大化、資本制約
第3回	金融3	1財2期間モデル（消費者かつ生産者）
第4回	金融4	マクドゥーガル＝ケンプ・モデル、実証分析
第5回	起業	職業選択
第6回	貧困の罅	信用制約、実証分析
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習、中間試験
第8回	経済成長1	対数、成長率、人口、貧困、国民総生産、購買力平価
第9回	経済成長2	経済成長の記述統計
第10回	経済成長3	ソロー・モデル
第11回	経済成長4	一人あたり資本の成長率、技術進歩

第12回	経済成長5、構造転換1	貯蓄率、労働成長率の変化、条件付き収束、成長会計、構造転換の記述統計
第13回	構造転換2	ルイス・モデル、ハリス＝トドロ・モデル、トドロの逆説
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。必要・興味に応じて、各講義のスライドの2ページ目にある参考文献を読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

- 各講義のスライドは、スライドの2ページ目にある参考文献に基づいています。

- 以下のような文献などです。

- 植田健一（2022）『金融システムの経済学』日本評論社

- 高野久紀（2025）『開発経済学 実証経済学へのいざない』日本評論社

- 澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社

- ジェトロ・アジア経済研究所他編（2015）『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣

- 高橋和志、樋口裕城、牧野百恵編（2025）『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣

- 高橋基樹、福井清一編（2008）『経済開発論 研究と実践のフロンティア』勁草書房

- 戸堂康之（2021）『開発経済学入門 第2版』新世社

- バナジエ、デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答率は2021-22年度は9.0-19.3%だったのですが、2023-24年度は3.9-4.3%に激減しました。授業改善アンケートへの回答をお願いします。

- 授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

In Introductory Development Economics A, we studied labor demand, income distribution, correlation and causality. We reviewed economics models showing benefits of trade and empirical studies.

In Introductory Development Economics B, we will study finance and entrepreneurship as factors of economic development.

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization.

- Learning Objectives

Why are the economies of Sub-Saharan African countries small and growing rapidly while Japan's economy is large and growing slowly? Why do East Asian countries have large proportions of financial sectors, while Sub-Saharan Africa have smaller proportions? The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）
環境科学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は初回のガイダンスからスタートします。

講義概要としては、1－環境を構成する要因、2－環境の変動、3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。

履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境2	上水道と下水道
4	水と環境3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス2	ESCO事業・ISOビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義期間内に小試験（10点）を複数回行い、さらに期末に試験（100点）を行う。両試験とも講義に出席し受験した場合にのみ得点を認める。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

hosei-wifiに接続できるノートパソコンまたはタブレット端末必須。スマホは不可。

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

Learning objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネスA：	ESCO事業1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネスB：	ESCO事業2（適用実例）
第13回	環境・エコビジネスC：	エコファンド・土地関連ビジネス

第14回 海外の環境ビジネス 米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義期間内に小試験（10点）を複数回行い、さらに期末に試験（100点）を行う。両試験とも講義に出席し受験した場合にのみ得点を認める。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

hosei-wifiに接続できるノートパソコンまたはタブレット端末必須。スマホは不可。

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

Learning objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

HIS300CA（史学 / History 300）
日本文化史
古澤 直人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の生活文化の形成について理解を深める。応仁の乱後の分裂の時代を経て、地域ごとの小国家ともいえる戦国大名領国が作られ、生活・文化の地域的特色が形成される。さらに織豊統一政権によって日本は再統合され、統一した文化が形成される。以上の過程について深い知見を得る。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い、解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力の獲得をめざす。

【到達目標】

今日「日本的」とされる生活文化の多くは室町時代に成立している。また郷土の英雄や県民意識（お国ぶり）の源流も室町時代後期を起点とする。北山文化・東山文化が生まれた後、郷土に根ざした生活文化が形成される室町時代中期から、統一した文化が形成される織豊期・近世初頭の時期に焦点をあてて学ぶ。文化史にかんするいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学習支援システムからダウンロードした教材（ワードPDF資料）を事前に予習し、課題の回答のあらすじをメモしておく。授業は章ごとに設定された課題を考えながらパワーポイントにそって進める。課題の内1つの回答（500字～700字程度）を完成（文章化）させ毎回授業中に提出してもらう予定である。授業後採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	武家統一政権の形成	日本史の教育における本授業の意味、室町邸の造営、将軍絶対化
2	武家統一政権と北山文化	北山邸造営の意義、対明貿易の開始、義満の「法皇」化
3	東国下剋上の開始	鎌倉公方と関東管領、上杉禅秀の乱、永享の乱、幕府と鎌倉公方
4	西国下剋上の開始	守護連合、足利義教の恐怖政治、将軍専制、嘉吉の乱
5	日本文化史上の応仁の乱	内藤湖南の指摘、父の意向と家臣の支持、京都焼亡
6	応仁の乱と山城国一揆	足輕の活躍、東西幕府、山城国一揆、日野富子、東山文化
7	東国戦国の開始――北条早雲を中心――	小田原城奪取、相模支配、早雲寺殿21箇条の思想
8	西国の戦国開始と文化	大内と尼子、国人から戦国大名へ、大内氏の文化
9	戦国大名毛利氏の領国支配と文化	石見銀山をめぐって、中国制覇、元就の思想
10	戦国大名武田氏とその文化	甲斐国の特徴、法典と家訓、治水、甲州金、信玄堤

11	戦国大名上杉謙信とその思想	北信と関東、謙信の2面作戦、謙信の筋目
12	織田氏の領国支配と新政策	信秀の活動、岐阜での新政策、加納楽市令
13	信長の統一事業と文化	都市の直轄、叡山焼討、安土城と文化、天下人
14	まとめとテスト	まとめ、テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップした一回あたり4～8頁ほどの講義資料（ワードPDF）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。講義後、課題の解説と回答例を学習支援システムに挙げる。また課題回答は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックするので、これらを復習しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業プリントを学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

永原慶二『戦国時代』上・下（小学館ライブラリー）。このほか授業で逐次提示する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の評価の相加平均（90％）。および積極的な授業への貢献度（10％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が多すぎる回があるという指摘があり厳選したい。

【学生が準備すべき機器他】

PCまたはタブレット。学習支援システム。授業中に課題を提出するために必須となる。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに中世・近世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is deepen understanding of the formation of Japanese life culture. It is formed from the Muromachi period to the early modern period. This course deals with these period. Through activities that discuss several themes related to cultural history, students will be expected to have historical recognition methods that make sense based on facts. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test (90 %), and in-class contribution(10%). Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
経済学史 A
平瀬 友樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済学の歴史について解説を行うものである。この経済学史Aにおいては、ゲーム理論や数理経済学など1930年代以降に誕生した経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論の歴史を扱う科目であることに注意されたい。

【到達目標】

本講義では、数理経済学やゲーム理論がどのような時代背景のもとで生み出されたか、そして発展してきたのかについて詳細に解説を行う。これらについて学ぶことは、単なる専門知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義であるものと思われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形式で行うが、第2回を含む最大7回まで支援システムからの動画配信によるオンライン形式にすることがある。講義内のアナウンスおよび支援システムのお知らせ欄の指示にしたがうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第2回	数学的準備①	高校数学の復習
第3回	数学的準備	大学で学ぶ数学
第4回	経済学の歴史	価格理論が確立されるまで
第5回	ゲーム理論の歴史①	すべては1930年代にはじまった
第6回	ゲーム理論の歴史②	フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンによる新しい試み
第7回	ゲーム理論の歴史③	ゼロサムゲームとミニマックス定理
第8回	ゲーム理論の歴史④	ナッシュと非協力ゲーム
第9回	ゲーム理論の歴史⑤	1950年代のゲームの発展
第10回	ゲーム理論の歴史⑥	1960年代力ゲーム展開
第11回	ゲーム理論の歴史⑦	ゲーム理論の発展と一般均衡の存在証明
第12回	ゲーム理論の歴史⑧	1960年代の数理経済学
第13回	ゲーム理論の歴史⑨	1970年代の数理経済学
第14回	総復習	授業内試験の実施およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学＝理論の歴史である。そのため、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学についてある程度の予備知識があることが望ましいが、毎年これらを未履修の学生も多く参加するので必須ではない。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で指示をする。

【参考書】

必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト50%：レポート50%とする。なお、成績評価に際して個別の事情は一切考慮しないので陳情や嘆願などは禁止とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合には授業支援システムより動画配信で行う。

【その他の重要事項】

すべてのアナウンスは教育支援システムのお知らせ欄で行うため、必ず確認をお願いします。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of economic thought after 1930s to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially mathematical economics and game theory. Grading Criteria is following; Final Examination 50% and Report Assignment 50%. In addition, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済学史 B
平瀬 友樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済学の歴史について解説を行うものである。この経済学史Aにおいては、計量経済学など1930年代以降に誕生した定量的な経済分析について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論の歴史を扱う科目であることに注意されたい。

【到達目標】

本講義では、特に計量経済学がどのような時代背景のもとで生み出されたか、そして発展してきたのかについて詳細に解説を行う。これらについて学ぶことは、単なる専門知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義であるものと思われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形式で行うが、第2回を含む最大7回まで支援システムからの動画配信によるオンライン形式にすることがある。講義内のアナウンスおよび支援システムのお知らせ欄の指示にしたがうこと。なお、提出課題やいただいた意見についてのフィードバックは講義内で適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第2回	数学的準備①	大学で学ぶ数学について
第3回	数学的準備②	回帰分析の復習
第4回	数学的準備③	因果推論の復習
第5回	計量経済学の歴史①	一般均衡理論と景気循環分析
第6回	計量経済学の歴史②	景気循環分析と定量分析
第7回	計量経済学の歴史③	フリッシュ以前の定量分析
第8回	計量経済学の歴史④	フリッシュによる定量分析
第9回	計量経済学の歴史⑤	ハーヴェルモによる計量経済学の確立
第10回	計量経済学の歴史⑥	ルーカス批判とマクロ計量分析
第11回	新しい計量経済分析①	ミクロ計量分析と因果推論
第12回	新しい計量経済分析②	機械学習と定量分析
第13回	新しい計量経済分析③	計量経済学の展開
第14回	総復習	授業内試験の実施およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学＝理論の歴史である。そのため、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学についてある程度の予備知識があることが望ましいが、毎年これらを未履修の学生も多く参加するので必須ではない。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で指示する。

【参考書】

必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト50%：レポート50%とする。なお、成績評価に際して個別の事情は一切考慮しないので陳情や嘆願などは禁止とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合には授業支援システムより動画配信で行う。

【その他の重要事項】

すべてのアナウンスは教育支援システムのお知らせ欄で行うため、必ず確認をお願いします。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of economic thought after 1930s to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially econometrics. Grading Criteria is following; Final Examination 50% and Report Assignment 50%. In addition, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
公共経済論 A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、完全競争市場、外部性、自然独占の理論を通して、市場経済がもたらす利点と欠点について学習する。まず、市場の需要供給分析について復習し、完全競争市場は、経済厚生観点から望ましい取引を実現することを理解する。次に、外部性や自然独占が存在する場合には、望ましい市場取引は実現せず、政府は、問題解決のための経済政策・経済制度の設計が求められることを学ぶ。

【到達目標】

本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようになること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義内容に関連する、標準的な計算問題を解き、経済分析力を養うことも、到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が自作した講義ノートを、板書とスライドを用いて解説する。講義ノートは、学習支援システムにアップロードするので、各自、ダウンロードして講義に持参することが求められる。講義ノートとともに、練習問題のファイルを学習支援システムで配布する。講義に関するお知らせ、資料配布は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（講義内容に関する質疑や練習問題の解説等）は、講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション&数学復習	公共経済学とは何か。1次関数の微分復習
2	(続)数学復習	1次関数の最大値の導出、凹関数、凸関数
3	需要	支払意思と需要、需要関数と逆需要関数、消費者余剰
4	供給	生産者が直面する費用概念、利潤最大化と供給、生産者余剰
5	総余剰	総余剰、配分効率性
6	完全競争市場	市場均衡と価格調整、価格規制政策と市場均衡、市場の失敗
7	負の外部性	外部性とは、負の外部性と市場取引
8	正の外部性	正の外部性と市場取引
9	コースの定理	負の外部性と自発的な交渉
10	政府の外部性への対応策	ビグー税、汚染排出量の取引
11	自然独占	自然独占とは、独占企業の利潤最大化
12	独占市場と経済厚生	独占市場における総余剰
13	自然独占と政府の規制	限界費用価格規制、平均費用価格規制
14	講義総括と問題演習	春学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間(計4時間)を標準とします。講義の準備として、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習をすること、学習支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 板谷淳一、佐野博之『コアテキスト公共経済学』新世社、2013年
- ② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学(第2版)』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】

教室における試験(100%)により評価を行う。詳細は、講義にて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題や数値例を多用して、できるだけ分かりやすく講義することを心がける。

【その他の重要事項】

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④授業に関する連絡は、すべて学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will study the advantages and disadvantages of a market economy through the theory of perfect competition, externalities, and a natural monopoly. First, we will explore the theory of perfect competition, which brings us a foundation to consider the merits of a market economy. Students will learn that market equilibrium, which examines the consequences of market transactions, achieves desirable transactions from the perspective of economic welfare. Second, students will study the theories of externalities and the natural monopoly and understand the cases in which the market transaction does not achieve desirable outcomes in terms of economic welfare. In that case, the government policy can complement the role of the market.

This course aims to understand the advantages and disadvantages of a market economy based on microeconomics and consider the desired relationship between markets and government in modern society. This lecture will focus on the perfectly competitive market, externalities, and natural monopoly.

Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture. Be sure to do the practice exercises as a review of the lecture. Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
公共経済論 B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、消費者行動の理論を通して分析可能な「消費課税の最適性」、「市場取引における効率性と公平性のトレードオフ」、「公共財の市場取引の失敗」について学習する。まず基本的な消費者行動の理論を復習した後に、経済厚生上望ましい消費課税のあり方について、学習する。次に、消費者行動の理論を応用した複数財の取引市場の理論を学習する。その後、市場取引における効率性と公平性の関係性について明らかにする。最後に、消費者理論とゲーム理論に立脚し、公共財の市場取引について分析する。公共財の市場取引は、経済厚生観点から非効率な取引しか実現しないことを学ぶ。

【到達目標】

本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようになること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義内容に関連する、標準的な計算問題を解き、経済分析力を養うことも、到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が自作した講義ノートと、板書とスライドを用いて解説する。講義ノートは、学習支援システムにアップロードするので、各自、ダウンロードして講義に持参することが求められる。講義ノートとともに、練習問題のファイルを学習支援システムで配布する。講義に関するお知らせ、資料配布は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（講義内容に関する質疑や練習問題の解説等）は、講義内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	公共経済論Aのおさらいと公共経済論Bの学習内容について
2	消費者行動(1)	消費者の効用最大化問題
3	消費者行動(2)	所得効果と代替効果
4	消費者行動(3)	消費者行動の理論を応用した、最適な消費課税に関する考察
5	複数財の取引市場(1)	一般均衡 vs 部分均衡、複数財の取引における消費者行動
6	複数財の取引市場(2)	厚生経済学の第一、第二定理、本定理を通じた市場と政府の望ましい関係性に関する考察
7	複数財の取引市場(3)	複数財市場取引における効率性 vs 公平性
8	ゲーム理論の基礎(1)	戦略形ゲームにおけるナッシュ均衡の導出
9	ゲーム理論の基礎(2)	より複雑なゲームにおけるナッシュ均衡の導出
10	公共財(1)	公共財、準公共財、私的財の定義
11	公共財(2)	公共財の取引市場におけるパレート効率性(サミュエルソン条件)

12	公共財(3)	公共財の自発的な市場取引(ゲーム理論分析)
13	公共財(4)	公共財供給における政府の役割について
14	授業総括	これまでのおさらいと練習問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間(計4時間)を標準とする。講義の準備として、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

公共経済論Aシラバスで挙げた参考書①～④に加えて、次の文献は、本講義と関連する。

⑤アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第2版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】

教室における試験(100%)により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

単なる理論学習だけではなく、応用の仕方についても話をしながら、講義を進めます。

【その他の重要事項】

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④講義に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will study three essential topics in public economics as applications of the consumer behavior theory. First, students will learn the properties of the desirable consumption tax from the viewpoint of economic welfare. Second, combined with consumer behavior theory and the market exchange theory, students will learn whether a tradeoff exists between efficiency and equity in market transactions. Finally, combined with consumer behavior and game theory, students will learn that a voluntary market transaction does not achieve a desirable outcome with public goods. This course aims to understand these three topics from the unified view of applied consumer behavior theory. This class aims to help students understand how the knowledge attained through the analysis is related to the real-world economy. Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture. Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論Aまたは公共経済論A・Bを履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第2回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から20世紀末まで
第3回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第4回	地球温暖化対策①	エネルギー政策、カーボンプライシング
第5回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第6回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第7回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第8回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第9回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第10回	環境税	ビグー税、汚染者負担原則
第11回	排出取引	税との比較、EUの制度
第12回	補助金・デポジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第13回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第14回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木(2024)『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣
一方井誠治(2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.

The goals of this course are to graphically comprehend the economic mechanism of environmental conservation measures. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論Aにつづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。環境政策論Aを履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境政策の諸原則	6つの原則
第2回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第3回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第4回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第5回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第6回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第7回	生物多様性	生態系サービス
第8回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第9回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第10回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第11回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第12回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第13回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第14回	企業と環境問題②	サステナブルファイナンス、ESG投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編(2020)『環境政策論講義』東京大学出版会
西尾哲茂(2025)『わか～る 環境法 第3版』信山社
神山智美(2024)『自然環境法を学ぶ 第2版』文真堂
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
日本経済史 A
長谷川 達朗
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業（日本経済史A）では、17世紀から20世紀前半（近世から昭和戦前期）の日本における経済と社会の変化を扱う。近世社会から、明治時代以降に近代的な経済システムがいかにかに定着し、それが社会や諸個人の生活をどのように変容させたのかを理解することが目的となる。なお、日本経済史Bでは、20世紀後半（敗戦～高度経済成長期）を扱う。

【到達目標】

- ① 19世紀末から20世紀前半の日本経済の発展過程について、基本的な説明ができるようになる。
- ② 日本経済の歴史を学ぶことにより、現代社会の諸問題を客観的に把握・理解できるようになる。
- ③ 歴史的に物事を考えることが、現代社会を考える上でどのように有効なのかを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回パワーポイントのスライドを使用して講義する。毎回リアクションペーパーを提出してもらい、適宜質問やコメントに回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：日本経済史Aを学ぶにあたって	授業の概要、目的、成績評価の方法などを説明する。
第2回	近世の社会と経済	江戸時代の社会や経済の仕組みについて解説する。
第3回	近代的諸制度の導入	地租改正などの近代的な経済システムの導入過程について扱う。
第4回	殖産興業と松方財政	殖産興業政策の実態と松方財政期のデフレ政策の影響について説明する。
第5回	近代工業の発達：軽工業	綿紡績業と製糸業を事例に、軽工業の近代化過程について解説する。
第6回	近代工業の発達：重工業	鉄鋼業と鉱山業を事例に、重工業の近代化過程について解説する。
第7回	日清・日露戦争期の日本経済	対外戦争が日本経済と社会に与えた影響について説明する。
第8回	都市暴動と地方改良運動	日露戦後の社会の不安定化と、政策的対応について扱う。
第9回	第一次大戦と好景気の到来	第一次大戦期の日本経済について解説する。
第10回	1920年代①都市の拡大	1920年代の都市人口の増大とその影響について扱う。
第11回	1920年代②社会運動の隆盛	1920年代以降に活性化した社会運動について扱う。
第12回	昭和恐慌期①井上財政から高橋財政へ	昭和恐慌期の日本経済についてマクロレベルの変化と政策的対応を概観する。

第13回 昭和恐慌期②農村社会の疲弊 昭和恐慌が農村社会に甚大な影響をあたえたことについて解説する。

第14回 第二次大戦期の社会と経済 第二次世界大戦期の日本経済について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献の該当箇所を予習しておく。授業後には、講義資料と参考文献を使って復習する。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

三和良一・三和元編著『概説日本経済史 近現代 [第4版]』東京大学出版会、2021年、9784130421539、2700円+税

三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』東京大学出版会、2010年、9784130421362、2800円+税

その他、適宜授業中に案内する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出）：30％、期末レポート：70％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの授業参加や配信された授業動画の視聴ができる機器を用意すること。

【その他の重要事項】

出欠に関することなど重要な連絡はメールで受け付けます。

【Outline (in English)】

This course covers economic and social changes in Japan from the 17th century to the first half of the 20th century.

到達目標（Learning Objectives）

The goal is to understand how modern economic systems became established and how they transformed society and the lives of individuals.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

Before each class meeting, students will be expected to have read references. After class meeting, students will be expected two hours for review.

成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Reaction papers(every time)：30%、Term-end report：50％

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
日本経済史 B
長谷川 達朗
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業（日本経済史 B）では、20 世紀後半（敗戦から 1980 年代まで）の日本における経済と社会の変化を扱う。世界で有数の経済大国となる発展過程と、その後の長期的な経済停滞の前提を理解することが目的となる。前期に開講する日本経済史 A（近世～昭和戦前期）を履修していることが望ましい。

【到達目標】

- ① 20 世紀後半の日本経済の発展過程について、基本的な説明ができるようになる。
- ② 日本経済の歴史を学ぶことにより、現代社会の諸問題を客観的に把握・理解できるようになる。
- ③ 歴史的に物事を考えることが、現代社会を考える上でどのように有効なのかを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回パワーポイントのスライドを使用して講義する。毎回リアクションペーパーを提出してもらい、適宜質問やコメントに応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：日本経済史 B を学ぶにあたって	授業の概要、目的、成績評価の方法などを説明する。
第 2 回	戦後復興期①概説	戦後復興期の日本経済について概観する。
第 3 回	戦後復興期②国民生活と食糧問題	国民生活の窮乏化と食糧や農業をめぐる諸政策を扱う。
第 4 回	戦後復興期③経済復興の方策	経済復興のための諸政策や企業・産業の動向について説明する。
第 5 回	戦後復興期④国土の復興	国土計画と地域開発の実態について解説する。
第 6 回	高度経済成長期①概説	高度経済成長期の日本経済について概観する。
第 7 回	高度経済成長期②鉄鋼業と機械産業	鉄鋼業を中心に工業部門の拡大要因について解説する。
第 8 回	高度経済成長期③公害と住民運動	経済発展と並行して発生した公害と反対運動について説明する。
第 9 回	高度経済成長期④流通革命	流通革命と呼ばれる流通・小売業の変化について説明する。
第 10 回	高度経済成長期⑤大衆消費社会	国民の消費生活の変化について解説する。
第 11 回	高度経済成長期⑥農山村の変貌	高度成長期の農業・農村部門の動向を扱う。
第 12 回	安定成長期①概説	安定成長期の日本経済について概観する。
第 13 回	安定成長期②輸出産業の躍進	自動車産業を中心に輸出産業が躍進した要因について説明する。
第 14 回	安定成長期③財政と社会の変質	財政赤字の拡大をもたらした政策と社会の変化について扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献の該当箇所を予習しておく。授業後には、講義資料と参考文献を使って復習する。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

三和良一・三和元編著『概説日本経済史 近現代 [第 4 版]』東京大学出版会、2021 年、9784130421539、2,700 円＋税
三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』東京大学出版会、2010 年、9784130421362、2,800 円＋税
橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直著『現代日本経済 [第 4 版]』有斐閣、2019 年、9784641221215、2,800 円＋税
その他、適宜授業中に案内する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出）：30％、期末レポート：70％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの授業参加や配信された授業動画の視聴ができる機器を用意すること。

【その他の重要事項】

出欠に関することなど重要な連絡はメールで受け付けます。

【Outline (in English)】

授業の概要（Course outline）

This course covers economic and social changes in Japan from the 17th century to the first half of the 20th century.

到達目標（Learning Objectives）

The goal is to understand how modern economic systems became established and how they transformed society and the lives of individuals.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

Before each class meeting, students will be expected to have read references. After class meeting, students will be expected two hours for review.

成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Reaction papers (every time) : 30%、Term-end report : 50 %

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
社会経済思想史 A
山本 英子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経済学を取り巻くさまざまな思想がどのように経済学に関わってきたのかについて、歴史的視点で学んでいきます。春学期のこの社会経済思想史Aでは、西洋の思想の源流となる古代ギリシャの思想から始めて、中世、ルネサンス、重商主義、啓蒙思想、そして産業革命が進行する19世紀までの思想をとりあげ、経済学との関連を理解することができるように進めます。例えば、18世紀のアダム・スミスが何を批判し何を主張していたのか、そこに至るまでにどのような思想的バックグラウンドや論争があったのか、など、歴史上の主要な思想家たちが継承してきた議論のプロセスを時系列に追体験していくことによって、経済学の役割や意義を各自で考えられるようになることをめざします。

【到達目標】

社会が発展する歴史的过程の中で、多くの思想家たちがそれぞれどのような問題に直面し、どのような思想的根拠に基づき、どのような論争を行いながら経済学の土台を築こうとしていたのかを理解して説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらいます。次の授業時に前回のリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・思想史的視点から見る経済学についての解説
第2回	経済学黎明期から重商主義に至るまでの経済思想	・アリストテレス、アキナス ・イングランドの重商主義：マン、ベティ、ロック
第3回	重商主義の影響	・フランスの重商主義：コルベール ・三大バブル：ロー、カンティロン、ムロン
第4回	18世紀：啓蒙の世紀	・商業社会と奢侈論争：マンデヴィル、グルネ、ヒューム ・重農主義：ケネー
第5回	18世紀の古典派経済学と経済思想（1）	・スミス『道徳感情論』：公平な観察者、同感
第6回	18世紀の古典派経済学と経済思想（2）	・スミス『国富論』①：全体の構成、分業、価値論
第7回	18世紀の古典派経済学と経済思想（3）	・スミス『国富論』②：見えざる手、資本蓄積、重商主義批判
第8回	18世紀の古典派経済学と経済思想（4）	・スミス『国富論』③：小さな政府、植民地問題
第9回	スミスの時代の諸学説	・スチュアートの重商主義 ・フランスとイタリアの主観価値学説の萌芽
第10回	19世紀初頭の思想	・功利主義：ベンサム ・第一次産業革命の影響：オウエン、リスト
第11回	19世紀の古典派経済学と経済思想（1）	・マルサス：人口問題 ・リカード：投下労働価値説、差額地代論、比較優位
第12回	19世紀の古典派経済学と経済思想（2）	・J.S. ミル：生産分配差別論、賃金基金説、質的功利主義
第13回	マルクス経済学と経済思想	・弁証法的唯物論、剰余価値と搾取
第14回	授業の総括	・春学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を各自で再読しながら理解を深め、紹介する文献等を読むことも求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各2時間とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。

欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

各回の授業に関連する文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回に行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

社会経済思想史Aが前編、社会経済思想史Bが後編となるので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course focuses on the study of socio-economic thought from ancient Greece through the 19th century and aims to understand the relationship between the ideas and debates of each era.

The goals of this course are to understand and explain what problems various thinkers faced, what intellectual foundations they relied upon, and what debates they engaged in as they sought to establish the foundations of economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
社会経済思想史 B
山本 英子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経済学を取り巻くさまざまな思想がどのように経済学に関わってきたのかについて、歴史的視点で学んでいきます。秋学期のこの社会経済思想史Bでは、春学期の社会経済思想史Aの内容に続く19世紀後半から20世紀に焦点を当てて、歴史的な出来事をおさながら、経済学が多くの思想と複雑に関連しながら変遷していることを理解できるように進めます。例えば、20世紀のJ・M・ケインズが何を批判して彼の経済学が生まれ大きく支持されたのか、それがその後どのような主張と対峙したのか、など、主要な学者たちの思想や理論の背景や影響そして転換を、激動の歴史的事象とともに時系列に追体験していくことによって、経済学のダイナミズムを各自が改めて実感できることをめざします。

【到達目標】

社会が発展する歴史のプロセスの中で、多くの思想家たちがそれぞれどのような問題に直面し、どのような思想的根拠に基づき、どのような論争を行いながら経済学の土台を築こうとしていたのかを理解して説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらいます。次の授業時に前回のリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・19世紀末～21世紀の経済学的展望
第2回	新古典派経済学と経済思想（1）	・限界革命：ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー
第3回	新古典派経済学と経済思想（2）	・マーシャル： 部分均衡論、余剰分析、経済学騎士道
第4回	新古典派経済学と経済思想（3）	・効率的な資源配分：エッジワース、パレート
第5回	20世紀諸初頭の諸学派	・ドイツ歴史学派、オーストリア学派、ローザンヌ学派、制度学派、ケンブリッジ学派
第6回	厚生経済学	・ピグー、カルドア、アロー
第7回	ケインズ経済学と経済思想（1）	・ケインズ経済学の形成と影響
第8回	ケインズ経済学と経済思想（2）	・『一般理論』① 古典派経済学批判、雇用理論、有効需要
第9回	ケインズ経済学と経済思想（3）	・『一般理論』② 乗数理論、資本理論、利子理論、IS-LM分析
第10回	新古典派総合	・2つの経済成長理論の対立
第11回	資本主義観の変容	・シュンペーターの経済思想：新結合、創造的破壊、管理資本主義
第12回	自由主義への転換	・ハイエク：社会主義経済計算論争、自生的秩序 ・フリードマン：マネタリズム、新自由主義
第13回	グローバリゼーションの行方	・20世紀末から21世紀の社会と経済
第14回	授業の総括	・秋学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を各自で再読しながら理解を深め、紹介する文献を読むことも求められるので、各自の集中力によって目安は異なるとしても、標準の準備学習と復習は各2時間とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。
欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

各回の授業に関連する文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回を行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

社会経済思想史Aが前編、社会経済思想史Bが後編となるので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of socio-economic thought from the late 19th century through the 20th century and focuses on understanding the relationship between the ideas and debates of each era.

The goals of this course are to understand and explain what problems various thinkers faced, what intellectual foundations they relied upon, and what debates they engaged in as they sought to establish the foundations of economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済政策論 A
小原 拓也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

完全競争市場という理想的な取引環境においては、資源配分の効率性と公平性が実現される。しかし、現実的には市場で解決できない問題（市場の失敗）が存在するため、政府の市場への介入が必要となる。本講義では、様々な市場の失敗に対して政府はどのように政策介入すべきなのかを考察する。また、関連する現実の経済問題を紹介することで理解を深める。

【到達目標】

本講義では、歳出（政府の支出）の観点における経済政策の内容を習得することで、政府がどのような目的で現実の経済問題に対処しているのか経済的に理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、自作のパワーポイント資料（PDFファイル）を用意し、授業の前日までに学習支援システム（WebClass）にアップロードするので、各自で印刷しないしPCを持参して講義に出席すること。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策の目的
2	市場と政府(1)	政府の活動、余剰分析
3	市場と政府(2)	完全競争市場とパレート効率性
4	市場と政府(3)	公平性(機会の平等と結果の平等)
5	公共財理論(1)	公共財の定義と分類
6	公共財理論(2)	公共財の最適供給
7	外部性(1)	外部性の定義、金銭的外部性と技術的外部性、外部性における余剰分析
8	外部性(2)	外部性の公的解決と私的解決
9	独占	供給独占、独占における余剰分析
10	自然独占	費用逓減産業、自然独占における余剰分析、価格規制とインセンティブ規制
11	社会保障制度(1)	社会保障制度の概観、年金制度
12	社会保障制度(2)	医療制度、介護制度、生活保護制度、子育て支援策
13	講義総括	春学期の学習内容を総括する
14	試験と解説	春学期の学習内容について期末試験および解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の準備としては、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習を行うこと。
1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 麻生良文・小黒一正・鈴木将寛著『財政学15講』新世社、2018年
- ② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学 第2版』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は、教室内で実施する試験（100%）によって行う。試験では、経済政策論Aで扱うテーマに関する基本的な計算問題または記述問題を出題し、授業内容の理解度を測る。

【学生の意見等からの気づき】

授業内アンケートでは、「政府の経済活動に関する理論とその現実への応用を学ぶことで、経済ニュースをより理解できるようになった」といった感想が寄せられている。これらの意見を踏まえ、今後は講義内容の一層の深化と改善を進めていく予定である。

【Outline (in English)】

Course Outline

In the ideal trading environment of a perfectly competitive market, efficiency and fairness in resource allocation are achieved. In reality, however, there are problems that cannot be solved by the market (market failures) and require government intervention in the market. In this lecture, we will examine how the government should intervene in response to market failures. It will also deepen understanding by introducing related real-world economic problems.

In this course, the objective is to develop an understanding of economic policy from the perspective of government expenditure, enabling students to grasp, from an economic viewpoint, the purposes for which the government addresses real-world economic issues.

For lecture preparation, it is important to review Microeconomics AB (allocated for the second year).

For each class, approximately two hours of preparation and two hours of review are recommended.

Evaluation will be conducted through an in-class examination (100%). The exam will include fundamental calculation problems or written questions related to the topics covered in Economic Policy A to assess students' understanding of the course content.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学のIS-LMモデルを用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ経済統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ経済統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、スライドを用いた講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。期末試験に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ経済統計1	GDPの概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ経済統計2	物価指数の概念と作成方法
4	経済政策のためのマクロ経済統計3	失業率の概念と作成方法
5	労働政策1	失業の原因
6	労働政策2	失業への政策的対処
7	労働政策3	賃金の硬直性と失業
8	財政・金融政策1：IS-LMモデルの構築1	ケインジアンの交差図、乗数効果
9	財政・金融政策2：IS-LMモデルの構築2	IS曲線の導出
10	財政・金融政策3：IS-LMモデルの構築3	貨幣量の測定とコントロール
11	財政・金融政策4：IS-LMモデルの構築4	LM曲線の導出
12	財政・金融政策5：IS-LMモデルの応用1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	財政・金融政策6：IS-LMモデルの応用2	金融政策の効果と流動性のわな

14 まとめと期末試験 まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

濱秋純哉，2025年、『経済政策』新世社

【参考書】

1. N・グレゴリー・マンキュー，2024年、『マクロ経済学 I（第5版）』東洋経済新報社
2. ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト，2019年、『ALLマクロ経済学』東洋経済新報社
3. 福田慎一・照山博司，2023年、『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらうことがある。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

本講義を履修するにあたり、経済政策論Aを履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線・供給曲線、余剰や弾力性の概念、及び余剰分析の方法などを学習済みなら、必ずしも履修済みの必要はない）。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each on preparation and review.

Grading Policy

The final grade will be determined as follows:

Term-end examination: 100%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
農業経済論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の農業は、農家の減少や遊休農地の増加、食料の安定供給の確保などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、経済学的手法を用いつつ、日本の農業の分析と考察を行う。

【到達目標】

- ①日本農業の現状を理解する。
- ②食料・農業問題の経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。経済政策論Aまたは公共経済論Aを履修済みか、同時履修が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業ガイダンスと日本農業の現在
第2回	食生活の変遷	エンゲルの法則、食の外部化
第3回	食料の需要・供給	フードシステム、弾力性
第4回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第5回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第6回	食料自給率からみる日本農業	食料自給率と食料自給力
第7回	農業の生産組織と土地	農業経営体、法人化、集落営農
第8回	農業生産の技術	BC技術とM技術
第9回	コメの生産と流通	食糧管理制度、経営所得安定対策
第10回	畜産物の生産と流通	トレーサビリティ、アニマルウェルフェア
第11回	世界の食料問題	フード・セキュリティ
第12回	価格政策と貿易政策	価格支持政策、GATT、WTO
第13回	アメリカ・ヨーロッパの農業と農業政策	アメリカ農業法、EUの共通農業政策
第14回	まとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。資料を配布する。

【参考書】

荏開津典生・鈴木宣弘（2026）『農業経済学 第6版』岩波書店
 生源寺真一（2026）『増補 農業と人間』岩波書店
 その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。ただし、受講者が少なければ、試験に代えて授業内の発表を求める可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines food and agriculture in Japan.

The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on food and agriculture and to comprehend Japanese agriculture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
農業経済論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、農業・農村を資源・環境および社会との関連でとらえ、現在の課題を把握する。これに関連して、森林・林業および水産業の現状を、経済学的手法を用いて理解する。

【到達目標】

- ①日本の農山村に関わる問題について理解する。
- ②日本の森林・林業と水産業の現状を理解する。
- ③資源の管理に関わる経済学的手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。農業経済論 A を履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際貿易の理論	貿易の利益、比較生産費説
第2回	農業と環境	多面的機能、野生鳥獣害
第3回	世界の農業類型	保水/除草農業、休閒/中耕農業
第4回	農山村の変遷と現状	中山間地域、地方創生
第5回	農村資源とエネルギー	再生可能エネルギー
第6回	農村問題の理論と対策	地域づくり
第7回	日本の森林と林業	生産、価格、経営体などの動向
第8回	森林整備と多面的機能	持続可能な森林経営
第9回	森林と林政の展開	江戸時代から現在まで
第10回	森林管理の課題	間伐や販売のありかた
第11回	日本の水産業の現状	生産、価格、経営体などの動向
第12回	水産業の展開過程	各種の漁法、明治から現在まで
第13回	日本の水産政策	漁業権、量的規制
第14回	水産資源の管理	新たな資源管理システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

『食料・農業・農村白書』『森林・林業白書』『水産白書』の各年版。
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。ただし、受講者が少なければ、試験に代えて授業内の発表を求める可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews rural areas as well as forestry and fisheries in Japan.

The goals of this course are to comprehend forestry and fisheries in Japan and to acquire methods of economic analysis on resource management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
社会政策論 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンド配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。】

社会政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か－定義と歴史的展開－	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	老齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題	診療報酬制度の課題
8	わが国の医療提供体制 これからの医療と地域政策の展開	医療提供体制の概要 地域の変貌とこれからの医療
9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改正	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改正による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、講義内容に該当する部分の参考書に予め目を通しておくこと。日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックスについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。独自の講義スライド資料を利用する。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第22版）』有斐閣、2025年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。

講義全体の受講（視聴）状況（視聴時間（12.5%）・出席回数（12.5%）」、「実施される確認テストの受験状況（12.5%）と点数（12.5%）」を併せて平常点（50%）として換算し、「学期末試験の点数」を50%として全体で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的にオンデマンドの授業形態となるが、特定日時に質問を受けるためのオフィスアワー（オンライン実施）やメールでの質問を受け付けることで、学生の学習の便宜を図りたい。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせ当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】The purpose of this lecture is to provide an overview of the social policy issues facing Japan (labor and employment, medical care, pensions, long-term care, public assistance, and welfare for the elderly and children) and their backgrounds, and to provide an overview of the system, basic knowledge of policy trends, and a deeper understanding of institutional responses to these issues.

【Learning activities outside of classroom】

The objectives, history, and background of various social policies and systems will be explained in the lectures, but students are encouraged to read reference books on the topics relevant to the lecture content in advance. It is desirable that students voluntarily take an interest in current topics related to social security that they are exposed to in newspapers, magazines, etc. on a daily basis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on both regular attendance and the final exam.

Regular attendance (50%) is calculated by combining lecture attendance (viewing) status (time (12.5%) and frequency (12.5%)), along with participation in and scores on the quizzes administered (12.5% each). The final exam score (50%) completes the overall evaluation.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
社会政策論 B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策論A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会保障上の問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促すことを講義の目的とする。

【到達目標】

わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義では特に高齢化に対する対応が進む医療制度改革やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日の状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	新型コロナウイルスのパンデミック発生時の政策対応と評価	新型コロナに対する政策対応と今後の課題の検討
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論（Ⅰ）	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論（Ⅱ）	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価（Ⅰ）	行政評価制度の概要
8	社会保障政策の政策評価（Ⅱ）	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価（Ⅲ）	政策評価（費用・便益分析）の実際の適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD Health Statistics にもとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題対応の考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて2時間、講義後に講義資料を参考に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。

講義に必要な資料がある場合は、適宜、学習支援システム上で配布する。

【参考書】

島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011年
小黒一正・菅原琢磨『薬価の経済学』日本経済新聞出版社、2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と学期末試験により実施する。

講義全体の受講（視聴）状況（視聴時間（12.5%）・出席回数（12.5%））、「実施される確認テストの受験状況（12.5%）と点数（12.5%）」を併せて平常点（50%）として換算し、「学期末試験の点数」を50%として全体で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的にオンデマンドの授業形態となるが、特定日時に質問を受けるためのオフィスアワー（オンライン実施）やメールでの質問を受け付けることで、学生の学習の便宜を図りたい。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。

授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】Based on the overview of “Social Policy A,” the course will take up noteworthy themes from among actual policy trends and social problems, and provide in-depth discussions and explanations. The purpose of the lecture is to encourage students to develop the ability to examine and think about real-life social security issues on their own as materials.

【Learning activities outside of classroom】

Students should voluntarily take an interest in and read up on current topics related to social security policy that are mentioned in newspapers and magazines on a daily basis. The standard study time for each lecture item is 2 hours before the lecture using reference books and 2 hours after the lecture using the lecture materials as reference.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on both regular attendance and the final exam.

Regular attendance (50%) is calculated by combining lecture attendance (viewing) status (time (12.5%) and frequency (12.5%)), along with participation in and scores on the quizzes administered (12.5% each). The final exam score (50%) completes the overall evaluation.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
労働経済論 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。具体的には、「人手不足」、「外国人労働力」、「教育の経済学」といったトピックについて取り上げる。また、「少人数制は生徒の学力を上げるのか？」といったことに関しても、実証分析を基に議論する。

【到達目標】

この労働経済論Aでは、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本とする。期末試験の内容を想定した演習問題を授業内で解説する。また、数回の小テスト（オンライン）でおこなうことで理解度を確認する。小テストで出来の悪かった問題については、授業内で解説する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	データで見る日本の労働市場
3	労働供給（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要（1）	短期・長期の労働需要モデル
6	労働需要（2）	調整費用モデル等
7	労働市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスとその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

阿部正浩『基本講義 労働経済学』（新世社、2021年）
清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

2回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者が関心のある労働問題のトピックにも触れるように心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

諸般の事情から、一部の講義をオンラインで実施する場合がある。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論Aで学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例：「人事の経済学」、「介護離職」、「両立支援策」等）また、労働市場のセーフティネットについても議論を多く割く予定である。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本とする。期末試験の内容を想定した演習問題を授業内で解説する。また、数回の小テスト（オンライン）でおこなうことで理解度を確認する。小テストで出来の悪かった問題については、授業内で解説する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	失業（1）	日本の失業の概観
5	失業（2）	失業を説明する理論
6	失業保険	失業保険に関する実証分析
7	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
8	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
9	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
10	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題、高齢者の労災
11	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
12	両立支援策	女性の就業と保育サービス
13	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すことが望ましい。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会、2020年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末テストのみ（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・講義は「労働経済論A」の内容を前提として進めるので、「労働経済論A」を受講しておらず講義内容を理解できない場合は、各自でその内容を学習する必要がある。

・進捗状況等に応じて、講義で取り上げるトピックの内容や順番を変更することがある。

・諸般の事情から、一部の講義をオンラインで実施する場合がある。

【Outline (in English)】

Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safetynets for workers are also discussed. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based only on term-end exam (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
金融各論Ⅰ A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識であるマネー（貨幣）の時間価値の概念、一物一価の法則と裁定、リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。また、銀行のアセット・ライアビリティ・マネジメントや投資信託の資産運用でそれらがどのように利用されているかも実例やデータを交えて詳しく解説していく。

【到達目標】

本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略の意義を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データをはじめとした統計データを分析し、客観的な証拠を提示できるような力も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は原則として対面による講義形式で行う。講義では演習が中心になるため、学生は事前にオンデマンド形式でアップロードされたコンテンツを視聴しておくことが求められる。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、ファンドがどのような方法で資産を運用しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義はExcelを多用する。演習回では、アサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義中に提出してもらう。当該アサインメントの解説は講義内で行い、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	統計知識の復習	期待値と標準偏差
2	マネーの時間価値	将来価値、現在価値、IRR
3	債券価格と裁定理論	債券価格の計算
4	債券のデュレーション	イミュニゼーション
5	リスク資産評価1	2項モデル
6	リスク資産評価2	分散化
7	分離定理	効率的フロンティア
8	資本市場モデル	CAPMとパフォーマンス評価
9	債券価格の計算	債券の現在価値を計算する
10	債券運用	債券価格の感応度分析
11	株式収益率1	記述統計量の計算
12	株式収益率2	シミュレーション、記述統計量
13	投資分析	資本市場線の記述
14	期末テスト	債券運用と株式投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。演習回の場合はそれが特に求められる。また、講義ではEXCELを利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCELを利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga『Financial Modeling 5th ed.』（The MIT Press, 2022）

【参考書】

手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011年）
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第2版』（ピアソン・エドゥケーション、2011年）
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 10th ed.』（McGraw-Hill, 2016）

【成績評価の方法と基準】

講義後に課されるアサインメントと期末テストで評価する。アサインメント30%、期末テスト70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

EXCELの演習回は原則としてオンラインのコンテンツを視聴していることが前提であるが、理解が難しい学習範囲に関しては丁寧に説明していく。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではExcelを利用した演習を中心に進めるので、受講生はMS ExcelがインストールされているPCを準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. We focus on asset/liability management by banks and evaluation of investment performance. To explain practical uses of the theories and the methods in investment analysis more easily, data and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
金融各論 I B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身につけている者を対象として、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、2項モデル・BSモデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】

本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は原則として対面による講義形式で行う。講義では演習が中心になるため、学生は事前にオンデマンド形式でアップロードされるコンテンツを視聴してくることが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、企業や投資ファンドがどのような方法で資産や企業を評価しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義はExcelを多用する。演習回では、アサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義中に提出してもらう。当該アサインメントの解説は講義内で行い、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	統計知識の復習	平均・標準偏差
2	オプションの基本1	オプションのペイオフ、利益
3	オプション戦略	複数オプションの組合せ
4	オプション評価1	2項モデル
5	オプション評価2	ブラックショールズモデル
6	オプション複製	デルタヘッジング
7	シミュレーション1	ポートフォリオインシュアランス
8	シミュレーション応用1	モンテカルロ法によるオプション価格導出
9	オプションの基本2	株式と債券によるオプション複製
10	オプション評価3	2項モデルのBSモデルへの近似
11	シミュレーション2	バタフライスプレッドの複製
12	シミュレーション応用2	アジアンオプションの価格導出
13	リアル・オプション	撤退・拡張オプション

14 期末テスト

オプション価格の計算、戦略の有効性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。演習回の場合はそれが特に求められる。また、講義ではEXCELを利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCELを利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga 『Financial Modeling 5th ed.』(The MIT Press, 2022)

【参考書】

ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第2版』（ピアソン・エドゥケーション、2011年）
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus 『Essentials of Investments 10th ed.』(McGraw-Hill, 2016)

【成績評価の方法と基準】

セミナー形式の講義後に課されるアサインメントと期末テストで評価する。アサインメント30%、期末テスト70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

EXCELの演習回は原則としてオンラインのコンテンツを視聴していることが前提であるが、理解が難しい学習範囲に関しては丁寧に説明していく。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではExcelを利用した演習を中心に進めるので、受講生はMS ExcelがインストールされているPCを準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides lectures to understand and value the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Sholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, numerical examples and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management using options. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
情報経済論 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ゲーム理論」は、経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われているほか、企業組織や多くのビジネスシーンでも基礎理論として用いられている。本講義では、「ゲーム理論とその応用」について、基礎からやや高度な内容まで体系的に理解し、その応用の仕方も学ぶ。

【到達目標】

経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われている「ゲーム理論・契約理論」の方法論（考え方や分析の仕方）を体系的に学ぶことを通じて、現代社会を主体的に考察し、問題解決に向けて公正な判断を下す能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義では、過年度に「Zoomによる動画配信」方式も好評だったことから、その経験や素材も活かしつつ、丁寧に進める予定である。受講生は、リアクションペーパーや課題提出の積み重ねが、最終試験の準備としても重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは「教室」と「学習支援システム」を組み合わせて行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム理論とは	ゲーム理論の導入的説明およびゲーム理論で使う数学について
第2回	静学ゲーム①	ゲームの基礎と同時手番ゲーム。支配戦略均衡とナッシュ均衡。
第3回	静学ゲーム②	ナッシュ均衡の解釈。色々なゲームの例。クールノー競争。
第4回	静学ゲーム③	混合戦略均衡とその解釈
第5回	時間を通じたゲーム①	基礎理論：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第6回	時間を通じたゲーム②	応用例①「参入阻止」と「意味のある脅し」
第7回	時間を通じたゲーム③	応用例② 経済政策ゲーム：ルールか裁量か
第8回	くり返しゲーム①	基礎理論 協調均衡達成のメカニズム
第9回	くり返しゲーム②	応用例① 共有資源の管理における協調行動
第10回	くり返しゲーム③	応用例② グローバルガバナンスと国際協調
第11回	交渉理論①	最後通牒ゲーム：理論予測と実験結果 公正さの考慮
第12回	交渉理論②	最後通牒ゲームと行動ゲーム理論

第13回	オークション①	ゲームの解概念：弱支配戦略、劣位戦略、劣位戦略のくりかえし削除
第14回	オークション②	ファーストプライスおよびセカンドプライス・オークションの比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021

【参考書】

- ① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- ② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- ③ 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社 2000
- ④ マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）（有斐閣）
- ⑤ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010年
- ⑥ 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020年

【成績評価の方法と基準】

2回の課題レポート（練習問題への解答）、リアクションペーパーの内容、および最終試験（教科書参照可）の合計点で評価する。評価ウェイトは、課題提出（練習問題）の合計点（45%）、リアクションペーパーの合計点（5%）、最終試験（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline (in English)】

"Game theory" is used as a powerful analytical tool in many fields of economics, and is also applied as a basic theory in corporate organizations and many business scenes. In the spring lecture A, students will systematically learn "Game Theory and its application" from the basics to a more advanced content, thereby will acquire the ability to proactively examine modern society and make fair decisions to solve problem. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Home work)(45%), Submission of Reaction Papers (5%), and Final Examination (Textbook-reference available) (50%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
情報経済論 B
鈴木 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。
 (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
 (II) プリンシパル＝エージェントの理論：モラルハザード
 (III) プリンシパル＝エージェントの理論：アドバース・セクション
 (IV) 不完備契約の理論

【到達目標】

春学期の「ゲーム理論」に続き、その応用分野と位置付けられる「契約理論」の方法論を系統的・体系的に学ぶことによって、現代社会を主体的に考察し、課題解決に向けて公正な判断を下す能力をさらに向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義では、過年度に「Zoomによる動画配信」方式も好評だったことから、その経験や素材も活かしつつ、丁寧に進める予定である。受講生は、リアクションペーパーや課題提出の積み重ねが、最終試験の準備としても重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせて行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度
第2回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、リスクプレミアム
第3回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	固定給とモラルハザード
第4回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、簡単なエージェンシーモデルの解
第5回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避のエージェント）
第6回	モラルハザード④：複数エージェントの理論	チーム生産におけるフリーライダー問題とその解決（ペナルティースキーム）
第7回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セクション①	逆選択の例
第8回	アドバース・セクション②	逆選択を解決する仕組みとしての自己選択メカニズム
第9回	アドバース・セクション③	自己選択メカニズムの最適解の導出、図解、含意
第10回	不完備契約①	関係特殊的投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル

第11回	不完備契約②	関係特殊的投資とホールドアップ問題：一般化と外部機会の存在
第12回	不完備契約③	「資産所有(財産権)」アプローチ①基本モデル 残余コントロール権
第13回	不完備契約④	「資産所有(財産権)」アプローチ②企業の境界の決定
第14回	不完備契約⑤	組織における権限配分、権限委譲について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021
 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。
 課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房2021

【参考書】

- 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣2014
- 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣2000
- マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
- ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版
- オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会2010
- 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局2010年
- 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社2020年

【成績評価の方法と基準】

2回の課題レポート（練習問題への解答）、リアクションペーパーの内容、および最終試験（教科書参照可）の合計点で評価する。評価ウェイトは、課題提出（練習問題）の合計点（45%）、リアクションペーパーの合計点（5%）、最終試験（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline (in English)】

Students will systematically study Contract Theory.

(I) Uncertainty and Economics of Information

(II) Principal =Agent Theory: Moral Hazard

(III) Principal =Agent Theory: Adverse Selection

(IV) Theory of Incomplete Contracts

Students will further improve their ability to independently examine contemporary society and make fair judgments to solve problems. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the content. Grading is based on Two Assignments (Problem Sets as Homework)(45%), Submission of Reaction Papers (5%), and Final Examination (Textbook-reference available) (50%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
地方財政論 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の地方財政制度とその問題について解説します。日本では、少子高齢化によって社会保障関係費が膨らんだことで多額の政府債務が積み上がっています。国からさまざまな補助金をもらっている地方自治体も財政支出の効率化を進める必要があります。この授業の履修者はこうした問題を経済学の観点からどのようにとらえたら良いかについてを学びます。

【到達目標】

この講義では、地方財政の問題を経済学の考え方に基づいて論理的に考えるようになることが目標です。そのために、財政や地方財政のいくつかの理論の基礎を理解することと、地方財政データの入手のしかたとその見方を身につけます。現在起きている問題は何か、それをどのようにとらえたら良いかを考えられるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で実施します。授業の質問や意見は授業内やその前後に直接するようにしてください。その場でお答えいたします。質問の内容によっては調べてから翌週以降にお答えする場合があります。学習支援システムを通じて授業についてのお知らせをする場合もありますので、履修する方はときどき確認をするようにしてください。対面で筆記の期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明。
	財政と政府	財政と狭義の政府、広義の政府。
第2回	政府の役割について	狭義と広義の市場の失敗、パレート効率。政府が抱える問題。
第3回	公共財とは	公共財、準公共財、クラブ財、私的財。公共財の最適供給。
第4回	公共財供給の応用	公共財の自主供給とナッシュ均衡。
第5回	地方財政データ(1)	目的別歳出と性質別歳出。歳入の分類。
第6回	地方財政データ(2)	決算カードの入手方法とその見方。
第7回	地方財政データ(3)	財政指標の見方。財政力指数と経常収支比率。
第8回	地方自治体の会計制度	一般会計と特別会計。普通会計と地方公営事業会計。自治体の破綻。
第9回	国と地方の機能分担(1)	地方分権と、国と自治体の役割分担。所得再分配機能は国と地方でどちらが担うべきか。
第10回	国と地方の機能分担(2)	経済安定化機能は国と地方とでどちらが担うべきか。
第11回	国と地方の機能分担(3)	資源配分機能は国と地方とでどちらが担うべきか。オーツの地方分権化定理とは。

第12回	地方分権化定理	オーツの地方分権化定理。
第13回	コースの定理	地方公共財の便益のスピルオーバーとコースの定理。
第14回	投票の理論	中位投票者の定理について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているところの授業にも取り組みやすくなります。不安のある場合は、授業で扱う概念について、1年次の講義ノートを必要に応じて復習をして下さい。加えてこの授業の基礎となる財政学A/Bの履修を必須ではありませんが推奨します。日経新聞の政府に関する記事も紹介しながら日本の財政のニュースも扱うので、日頃、新聞を見ることも薦めます。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義ノートと資料を配付します。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を自分で学びたい場合、

林宜嗣(2021)『新・地方財政』有斐閣

林宏昭・橋本恭之(2014)『入門地方財政』第3版中央経済社

佐藤主光(2009)『地方財政論入門』新世社

が適当です（2番目は品切れですが図書館にはあります）。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。必要な統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。詳細は授業の進行を見ながら授業内でお話しします。期末試験で合計100%の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するようにします。また、都道府県・市町村などの公務員を志望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。学期が始まる前の連絡は学習支援システム上でお知らせします。

【その他の重要事項】

対面で筆記の期末試験を実施しますので、実施日が発表されましたら、日時を間違えなく受けて下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local government system and its issues. In Japan, we have a vast amount of governments' debt due to increases in social-security expenditures. We must make our governments' expenditures efficient. Students learn how to consider those issues from the standpoint of economics.

Learning objective:

Students should be able to consider the issues on local public finance logically on their own. Students should understand several theories of public finance and local public finance and should learn how to obtain and evaluate municipal fiscal-data. Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 100%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
地方財政論 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、地方財政Aの講義内容を基礎に、日本の地方財政制度を中心に解説します。地方税や地方債、国から地方自治体へ配付される補助金のしくみと、平成の大合併を経済学からとらえた場合にどのように評価できるのかについてを学びます。

【到達目標】

地方財政Aで学んだ考え方を元に、地方税が日常生活の中でどのように課税されているのかを理解することが第1目標です。さらに財政データの数字を見ながら、地方債、国から自治体への補助金について、その特徴と近年の傾向、それらが抱える問題について理解することが次の目標です。平成の大合併についても理解します。履修者自身が経済学の立場でこれらについて論理的に考えられるようになることが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で実施します。授業の質問や意見は授業内やその前後に直接するようにしてください。その場でお答えいたします。質問の内容によっては調べてから翌週以降にお答えする場合があります。学習支援システムを通じて授業についてのお知らせをする場合もありますので、履修する方はときどき確認をするようにしてください。対面で筆記の期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地方税	税の分類方法、地方税法、地方税の分類と税率。
第2回	望ましい税とは(1)	租税競争と租税輸出。租税原則の公平と簡素。
第3回	望ましい税とは(2)	租税原則の中立。消費税の考え方。
第4回	地方税が満たすべき条件。住民税(1)	地方税固有の原則の安定性、普遍性、応益性。住民税のしくみ。
第5回	住民税(2)	均等割と所得割。給与所得控除と所得控除、税率、法人住民税。
第6回	法人事業税	法人事業税のしくみ。法人課税の経済学での考え方。外形標準課税、税率。
第7回	固定資産税	固定資産税と都市計画税。公示地価、路線価、固定資産税評価額、市場価格。
第8回	地方債(1)	地方債のしくみ。経済学上の意義と問題点。
第9回	地方債(2)	地方債のデータ。臨時財政対策債と他の地方債との違い。
第10回	補助金(1)	国庫支出金のしくみとデータ。国庫支出金と便益のスピルオーバーの関係。
第11回	補助金(2)	地方交付税のしくみとデータ。財政調整と財源保障、ソフトな予算制約の問題。

第12回	市町村合併	最適財政規模に関する研究と平成の大合併。道州制。広域連携制度。
第13回	再考：公共財(1)	公共財の費用負担の問題とリンダール均衡。
第14回	再考：公共財(2)	宿題で出したリンダール均衡の問題の解き方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解しているとその授業にも取り組みやすくなります。不安のある場合は、授業で扱う概念について、1年次の講義ノートを必要に応じて復習をして下さい。加えてこの授業の基礎となる財政学A/Bの履修を必須ではありませんが推奨します。日経新聞の政府に関する記事も紹介しながら日本の財政のニュースも扱うので、日頃、新聞を見ることも薦めます。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を自分で学びたい場合、

林宜嗣(2021)『新・地方財政』有斐閣

林宏昭・橋本恭之(2014)『入門地方財政』第3版中央経済社

佐藤主光(2009)『地方財政論入門』新世社

が適当です（2番目は品切れですが図書館にはあります）。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。必要な統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。詳細は授業の進行を見ながら授業内でお話しします。期末試験で合計100%の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するようにします。また、都道府県・市町村などの公務員を志望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。学期が始まる前の連絡は学習支援システム上でお知らせします。

【その他の重要事項】

対面で筆記の期末試験を実施しますので、実施日が発表されましたら、日時を間違えなく受けて下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local finance system based on the lecture of Local Government Finance A. Students learn taxes and bonds of Japanese local governments and subsidies and grants from the central government to local governments. Students also learn how to evaluate them from the standpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand how local taxes are imposed in our life and to understand the characteristics of local bonds and subsidies and grants from the central government to local governments on the basis of these fiscal data. Students should be able to consider the issues lying on these systems of local public finance from standpoint of economics.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 100%.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第3回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDPと社会保障給付費、財源
第4回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第5回	年金制度 2	年金制度の問題点
第6回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第7回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第8回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第9回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第10回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第11回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第12回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第13回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, the goals of this course are to understand the current situation and issues of the Japanese social security system. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論Bでは、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第3回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第4回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第5回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第6回	所得再分配	所得格差の指標
第7回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第8回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第9回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第10回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第11回	世代間格差	世代会計
第12回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第13回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第2版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. The goals of this course are to understand the roles of the social security system from an economics perspective. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics. Your required study time is at least 4 hours for a class. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
産業組織論 A
河村 真
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、完全競争モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。産業組織論Bも併せて履修していただければなおよい。

【到達目標】

完全競争下での企業の生産量の決定、供給曲線の導出および均衡価格、数量の決定までの説明の流れを理解できるようにする。同時に、この説明を具体的な市場に当てはめ、解釈できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に、対面による授業を行う。春学期に1回程度、練習問題集を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。9回目以降、zoomによるオンライン授業とする。電子ノートに手書きで図などによる説明を行う。電子ノートに書き込んだ説明及び図をpdfファイルに保存し、授業支援システムの教材にアップするので、復習に利用してほしい

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業組織論の枠組み	完全競争の条件と不完全競争
第2回	産業組織論の現実への応用例	産業組織論のトピックとしての不完全競争の具体例の例示
第3回	企業の生産技術	生産関数の説明
第4回	企業の生産技術	生産関数から費用関数の導出
第5回	企業の生産技術	費用関数から限界費用関数と平均費用関数の導出
第6回	企業の生産技術	生産関数、費用関数、平均・限界費用関数の対応関係
第7回	完全競争下の企業の生産量の決定	収入関数と費用関数を用いた利潤最大化生産量の図解
第8回	完全競争下の企業の生産量の決定	限界収入関数と限界費用関数を用いた生産量決定の図解
第9回	個別供給曲線の導出	財の市場価格の変化が企業が選ぶ利潤最大化生産量をどう変化させるかを知るための個別供給曲線
第10回	個別供給曲線のシフトの要因	個別供給曲線が完全競争モデルの下で、どのような要因によりシフトするかの説明
第11回	企業の個別供給曲線から市場供給曲線の導出	各企業の個別供給曲線を足し合わせることで求められる企業全体の生産量の合計と市場価格との関係
第12回	市場需要曲線の説明（簡単な消費者理論の説明を含む）	消費者の理論にある予算制約化の効用最大化行動の結果として導かれる市場需要曲線（簡単に復習）

第13回	完全競争モデルでの市場均衡	市場需要曲線と市場供給曲線の交点における均衡価格と均衡数量の決定（ワルラス的調整過程を用いて説明）
第14回	比較静学による完全競争モデルの現実への応用例	完全競争が想定しやすい具体的な産業をイメージし、技術革新が生じた場合、完全競争モデルを用いて、価格、数量の変化の結果を予測する過程を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が板書から作成したノートおよびzoom授業時に説明に用いた講師作成の電子ノートのファイル閲覧を通じて説明の筋道をフォローして、復習を行ってほしい。多くの受講者には理解可能と思われる。理解が難しい場合は、入門用のミクロ経済学の教科書等を用いて行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定しない。

【参考書】

学生諸君から要請があれば、講義冒頭に紹介。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデルの理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中において行う試験の点数が9割、1回の練習問題解答の提出状況に1割のウェイトで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメにおいて図解に書き込みの多いものについてはなるべく大き目に示すことで対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire theoretical understandings of competitive market model. Competitive market model is often used as a benchmark model, for evaluating competitive policy or regulatory policy to specific industries. For this sake, microeconomic theoretical understandings for competitive market are inevitable.

At the end of the course, students should be able to do the followings:

to get the whole picture of the competitive market model proposed by microeconomic theory.

to apply the competitive market model to predict the price and quantity changes with conditions changes out of market for certain commodity/service.

Then, after each class meeting, students will be expected to spend more than 2 hours to get understandings for many graphical explanations for competitive market theory in the class.

Your overall grade in the class will be decided based on following.

Term-end examination:90%, Mid-term report:10%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
産業組織論 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占モデルおよびクールノ複占モデルの解説、さらに、完全競争均衡、独占均衡およびクールノ複占均衡を比較し、それぞれの均衡の評価についても説明を加える。

【到達目標】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、独占モデルおよびクールノ複占モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に対面による授業を行う。基本的に、対面による授業を行う。秋学期中に1回程度、練習問題を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。12回目以降、zoomによるオンライン授業とする。電子ノートに手書きで図などによる説明を行う。電子ノートに書き込んだ説明及び図をpdfファイルに保存し、授業支援システムの教材にアップするので、復習に利用してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	独占モデル	独占下の企業と完全競争下の企業の想定の違い
第2回	独占モデル	独占企業が直面する収入関数の説明
第3回	独占モデル	限界収入関数の説明
第4回	独占モデル	占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（収入関数と費用関数を用いて）
第5回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（限界収入と限界費用関数を用いて）
第6回	独占モデルの応用例	自然独占下における公益事業の価格規制に関する議論
第7回	完全競争モデル及び均衡の導出（修正版）	独占モデルで用いたのと同じな費用関数および需要関数の想定の下での完全競争均衡の導出
第8回	クールノ複占モデル	企業2社からなる複占モデルにおける想定の違いとクールノ均衡の特徴
第9回	クールノ複占モデル	残余需要曲線の導出と各企業の利潤最大化生産量の導出
第10回	クールノ複占モデル	各企業の反応関数の導出と各社生産量と均衡価格の決定
第11回	独占、寡占および完全競争均衡の比較および独占の死荷重	独占、クールノ複占および完全競争下で予想される均衡数量、均衡価格の比較とその評価

第12回	クールノ複占モデル（応用例Ⅰ）	ネットワーク外部性を許した規格（技術仕様）の標準化（一規格への収斂）の評価（クールノ複占モデルを用いた）
第13回	クールノ複占モデル（応用例Ⅱ）	垂直統合の合理性の根拠をクールノ複占モデルを用いて明らかにする。
第14回	産業組織論Bの復習	産業組織論Bの復習および質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が板書から作成したノートおよびzoom授業時に説明に用いた講師作成の電子ノートのファイル閲覧を通じて説明の筋道をフォローして、復習を行ってほしい。多くの受講者には理解可能と思われる。理解が難しい場合は、入門用のミクロ経済学の教科書等を用いて行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しない。

【参考書】

学生から要請あれば、本講義冒頭で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデル、独占モデルおよびクールノモデルおよびそれらの応用例の理解の程度を基準に評価する。評価方法は、期末課題を期末試験期間中、授業曜日、授業時間内に、解答して授業支援システムに解答を記入したファイルをアップしてもらい採点する。この採点結果が主な評価基準となる。（この課題の解答に90%、授業期間内に出す練習問題の解答（1回）の提出状況に10%のウェイトを付け評価する。）

【学生の意見等からの気づき】

板書による図解は、なるべく大きく表示するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understanding a seller monopoly model and Cournot duopoly model. These models are often used for evaluating the effects of competitive policy or regulatory policy on market performance of specific industry. Microeconomic theoretical understandings for two models (as basic models) are required to describing market performance of real industry.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) to get the whole picture of the monopoly model at microeconomic theory.
- 2) to get the whole picture of the Cournot duopoly model at microeconomic theory.
- 3) to evaluate market performances among competitive, monopoly and, duopoly markets quantitatively.

After each class meeting, students will be expected to spend more than 2 hours to follow many graphical explanations, presented at the class, for monopoly model/Cournot duopoly model.

Your overall grade in the class will be decided, based on the following:

Term-end examination:90% Mid-term report:10%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
金融各論 II A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを学習することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の講義は、教室での対面講義形式で開講する予定です。

第1回講義は、講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえば基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融知識とその活用	金融リテラシーについて
第3回	金融取引と不確実性①	金融におけるリスクの概念について

第4回	金融取引と不確実性②	リスクの測定手法について
第5回	金融取引と不確実性③	リスクとして把握できない不確実性について
第6回	金融取引と不確実性④	不確実性下での意思決定方法について
第7回	企業の投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第8回	企業の投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第9回	企業の投資と資金調達③	日本の企業グループと株式持ち合いについて
第10回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第11回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォーム事業者について
第12回	金融技術革新と金融サービスの新潮流③	中小企業金融とクラウドファンディングについて
第13回	過剰債務問題①	過剰債務問題とその対応策について
第14回	過剰債務問題②	追い貸し問題とその対応策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや参考書を復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（新版、有斐閣、2024年刊）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】
講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（80％）。
講義への参加度を平常点として加算します（20％）。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】
This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.
The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings in financial markets; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomena in financial markets, from the standpoint of economics.
Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (90%) and in-class contribution (10%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
金融各論 II B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能していて、どのように変化していくのかということを、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを学習することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定です。

第1回講義は、講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

講義のフィードバックは、授業の際や学習支援システム経由で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明

第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	資産価値評価③	代替的な資産価値の評価手法について
第14回	金融と人的資本投資	人的資本投資と人材育成の経済的機能について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、講義ノートや参考書で復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（新版、有斐閣、2024年刊）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（80％）。
講義への参加度を平常点として加算します（20％）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings in financial markets; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomena in financial markets, from the standpoint of economics.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (90%) and in-class contribution (10%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
企業金融論 A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。この講義では、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、国内海外の負債による資金調達制度と実務および、デット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを学ぶ。日本では、80年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90年代末にゼロ金利政策などの非伝統的金融政策が日本、米国と欧州で実施されてきた。この講義では、こうした金融政策の変遷も理解する。

【到達目標】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。この講義では、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク（格付）の諸概念を理解し、上場企業の財務諸表などの統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

エクセルで財務関数を中心に割引現在価値を応用して銀行借入と社債の返済償還、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスクの関係をわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業金融とは	企業の財務諸表からみた負債と資金調達について勉強する
第2回	将来価値	定期預金の満期残高を例に将来価値について勉強する
第3回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について勉強する
第4回	銀行借入の返済方法	一括返済、元金均等返済、元利均等返済について
第5回	金利と銀行借入	金利と銀行借入の返済額
第6回	銀行と流動性	コミットメントラインなどについて説明する
第7回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第8回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組み
第9回	銀行借入と社債	直接金融と金融仲介の相違
第10回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第11回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム

第12回	負債の資本コスト	銀行借入、社債などの資本コストについて勉強する
第13回	銀行借入と社債の選択	倒産費用、エージェンシーコストと資産選択について勉強する
第14回	課題作成	今までの内容を確かめるために、課題としてデータをダウンロードしてレポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するため、エクセルの演算・財務関数などの使い方をマスターし、必要なデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成方法についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆくり話そうように。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、FPなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this lecture, we learn theories and practices of debt finance. The goal of this course is to understand cash flow and present value as well as the roles of various debt instruments in corporate finance. Students are expected to draw yield curve, to calculate credit risk premiums of corporate bonds. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
企業金融論 B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。Bでは、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関などを中心に学ぶ。続いて、分散投資の基本的な考え方を理解する。その上で、危険資産からなる有効ポートフォリオと安全資産の投資組み合わせを勉強し、資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて株式のリスクとリターンの関係を。理論だけでなく、株価等の統計資料を用いて株式のリスクの計測方法もマスターする。

【到達目標】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。Bでは、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、Aの中で扱った負債による資金調達に続いて、株式と資金調達について理解することが目標である。特に株式のリスクに関する理論（capital asset pricing model, CAPM）を把握することが目標である。さらに統計や資料などを自分で収集して、簡単な統計手法を用いて配当異動、新株発行と自己株式取得等の株価に及ぼす効果をCAPMに基づいて計測し、結果を主体的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の2つ目である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

エクセルで期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関、 β および異常収益率などをわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	配当割引モデル	成熟企業 v s 成長企業
第2回	株式投資のリターン	期待投資収益率を計算する
第3回	株式投資のリスク	投資収益率の偏差、分散と標準偏差を計算する
第4回	株式同士の相性	共分散、相関とポートフォリオのリスクについて
第5回	分散投資	すべての卵を同じかごに入れるな
第6回	有効ポートフォリオ	リスクとリターンのトレードオフ
第7回	CAPM	資本市場線、証券市場線とベータ
第8回	異常収益率	個別株式投資収益率と市場収益率を用いてベータと異常収益率を計測する
第9回	エクイティファイナンス	公募増資、株主割当及び第三者割当のエクイティファイナンスの事例について学ぶ

第10回	新規上場	新規上場とエクイティファイナンスの仕組みについて学ぶ
第11回	配当政策の統計資料	増減配と株価
第12回	自己株式取得	みなし配当とする自社株買いの仕組みと効果について学ぶ
第13回	バイアウト	上場株式を取得して非上場への仕組みについて学ぶ
第14回	課題	データをダウンロードし、効果を計測する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターし、割り当てられたデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・バイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成方法についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり話すこと。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、FPなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In course B, we first learn theories and practice of equity finance. The goal of this course is to understand the risk of equity investment as well as the impacts of equity financing on the stock price. Students are expected to calculate abnormal return around equity finance. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
数理統計学 A
八木 文香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学の数学的側面について学びます。推測統計学の基礎として、確率、そして確率変数の概念をはじめとして平均や分散などの数理統計学の基本的な内容について学び、統計的手法をより深く理解できるようにすることを目的とします。

【到達目標】

1. 確率変数・確率変数変換の意味を理解する。
2. 積率母関数を用いて平均と分散が求められるようになる。
3. 正規分布の性質について説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を行う予定ですが、状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

板書やスライドを用いて講義を行います。それを受けて、その回に学習した内容に関する演習問題を解いてもらいます（レポート課題として提出してもらいます）。また小テストを適宜行い、Pythonを用いた実習も交えて理解を深めていきます。なお、レポート課題や小テスト等のフィードバックは、授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	確率(1)	標本空間と事象について
第2回	確率(2)	確率の公理について
第3回	確率(3)	条件付き確率、独立性について
第4回	確率(4)	全確率の定理とベイズの定理について
第5回	確率変数(1)	確率変数と分布関数について
第6回	確率変数(2)	離散型・連続型確率変数について
第7回	確率変数(3)	多次元確率変数について
第8回	確率変数(4)	確率変数変換について
第9回	確率変数(5)	平均（期待値）と分散について
第10回	確率変数(6)	条件付き期待値と条件付き分散について
第11回	確率変数(7)	積率と積率母関数について
第12回	確率変数(8)	共分散と相関係数について
第13回	正規分布(1)	正規分布の確率密度関数と性質について
第14回	正規分布(2)	2変量正規分布について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

演習問題等に取り組む時間・・・2時間

授業の復習・・・1時間

【テキスト（教科書）】

野田 一雄・宮岡 悦良（1990）『入門・演習 数理統計』、共立出版

【参考書】

瀬尾 隆 監修、下川 朝有・八木 文香・宮岡 悦良 著（2024）『理工系のための入門数理統計学演習』、東京図書

日本統計学会 編（2023）『改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定 3級対応 データの分析』、東京図書

橋口 博樹（2023）『Pythonで学ぶ統計学入門』、東京図書

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）とレポート課題・小テスト（80％）

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題等を通じて学生の理解度を確認し、それに応じて今後の授業内容を調整します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ Pythonが使える状態のパソコン
- ・ 学習支援システム

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students learn about the mathematical aspects of statistics. As a foundation for inferential statistics, the goal is to learn the basics of mathematical statistics, such as probability and the concept of random variables, as well as the mean and variance, and to gain a deeper understanding of statistical methods.

【Learning Objectives】

The student will be able to understand the meaning of random variables and random variable transformations. The student will also be able to obtain the mean and variance using the moment generating function. The student will also be able to explain the properties of the normal distribution.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Time to work on exercises, etc. — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (20%)

Report assignment and quiz (80%)

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
数理統計学 B
八木 文香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「数理統計学 B」では、「数理統計学 A」の知識を前提として統計的推測（推定・検定）の基礎的な手法を学びます。

【到達目標】

- 母数の統計的推測とその性質について説明できるようになる。
- 推定量の性質を理解する。
- 実データに対する区間推定や統計的仮説検定ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を行う予定ですが、状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

板書やスライドを用いて講義を行います。それを受けて、その回に学習した内容に関する演習問題を解いてもらいます（レポート課題として提出してもらいます）。また小テストを適宜行い、Pythonを用いた実習も交えて理解を深めていきます。なお、レポート課題や小テスト等のフィードバックは、授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	特殊な分布(1)	正規分布について
第2回	特殊な分布(2)	t分布、F分布について
第3回	標本分布(1)	ランダム標本、標本積率について
第4回	標本分布(2)	正規分布からのランダム標本（標本平均の分布）について
第5回	標本分布(3)	正規分布からのランダム標本（標本分散の分布）について
第6回	標本分布(4)	大数の法則、中心極限定理について
第7回	統計モデル	統計的推測について
第8回	推定(1)	点推定、不偏推定量について
第9回	推定(2)	最尤推定量について
第10回	推定(3)	区間推定について
第11回	推定(4)	正規母集団の平均・分散に関する信頼区間について
第12回	検定(1)	統計的仮説検定について
第13回	検定(2)	棄却域と検出力について
第14回	検定(3)	正規母集団のもとでの母平均に関する仮説検定について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

演習問題等に取り組む時間・・・2時間

授業の復習・・・1時間

【テキスト（教科書）】

野田 一雄・宮岡 悦良 著（1990）『入門・演習 数理統計』、共立出版

【参考書】

瀬尾 隆 監修、下川 朝有・八木 文香・宮岡 悦良 著（2024）『理工系のための入門数理統計学演習』、東京図書

日本統計学会 編（2023）『改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定 3級対応 データの分析』、東京図書

橋口 博樹（2023）『Pythonで学ぶ統計学入門』、東京図書

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）とレポート課題・小テスト（80％）

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題等を通じて学生の理解度を確認し、それに応じて今後の授業内容を調整します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・Pythonが使える状態のパソコン
- ・学習支援システム

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, the basic method of statistical inference (estimation / hypothesis testing) will be studied based on the knowledge of "Mathematical Statistics A".

【Learning Objectives】

Students will be able to explain statistical inferences and their properties. Students will also understand the properties of estimators. Furthermore, students will be able to perform interval estimation and statistical hypothesis testing on real data.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Time to work on exercises, etc. — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (20%)

Report assignment and quiz (80%)

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
国際金融論 A
ブー トウン カイ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論A/B」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。春学期の講義では、経済全体の中の対外取引の位置づけ、対外取引の意義やその内容と統計データ、為替市場の仕組み・取引内容、為替レートと金利や物価との関係、短期と長期における為替レート決定の理論などについて学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、その統計データの活用、為替市場の仕組みと為替取引、為替レートと金利や物価との関係、為替レート決定などを理解でき、さらにこれらの内容に関する現実の様々な問題に関心を持ち、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野、経済学の基本的な考え方
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支勘定
5	貨幣とは	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	為替レートとは	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム

12	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
13	現実における購買力平価	購買力平価からの乖離、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果
14	為替レート決定の実証分析	為替レート決定の理論を整理し、データを用いて検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回は学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次（著）、新世社 2024年。

【参考書】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019年。
- 『入門国際金融』第4版、高木信二（著）、日本評論社 2011年。
- “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版（2022年）（英語）ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

Course outline: International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

Learning objectives: Through the course, students are expected to be able to understand the significance and content of external transactions, the structure of the foreign exchange market, exchange rate determination, the relations between the exchange rate, the interest rate, the price level, and the real economy, and the way by which macroeconomic policies are conducted and their effects in an open economy. In addition, students are expected to learn about and be interested in various issues in international finance, including international capital markets, exchange intervention, currency crises, the euro as a common currency, international finance in developing countries, and global current account imbalances.

Learning activities outside of classroom: To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently. It is expected that at least 4 hours of study time will be required for study outside of class time.

Grading criteria: Grading is based on the students' homework and midterm & final report performance with weights being 30%, 30% and 40%, respectively.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
国際金融論 B
ブー トウン カイ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論A/B」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融の側面について学ぶ。秋学期の講義では、春学期の講義内容を踏まえ、為替レートと実物経済財との関係、開放マクロ経済学モデルを用いる国内外経済の繋がりと経済政策の効果の分析、そして国際金融論の発展・応用的なトピック（為替介入、為替制度、通貨危機、国際金融市場の役割、国際金融協力）などについて学ぶ。

【到達目標】

為替レートと実物経済財との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果などを理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、国際金融市場、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題に関心を持ち、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レートと実体経済（1）	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
2	為替レートと実体経済（2）	為替レートと経常収支
3	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LMモデルの復習
4	開放経済分析の理論的枠組み	マンデル・フレミングモデル
5	開放マクロ経済政策	変動相場制・固定相場制における金融・財政政策の仕組みと効果
6	為替介入	介入の仕組み、胎化と不胎化、リスク・プレミアムとポートフォリオ・バランス効果
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	トリレンマと為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、及び為替制度の選択
9	通貨危機	通貨危機の歴史や発生メカニズムに関する理論、予防策

10	共通通貨	ユーロという共通通貨、最適通貨圏の理論
11	国際資本市場	国際資本市場の構造や機能、実態、問題点
12	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
13	グローバルインバランス	世界的な経常収支不均衡問題の現状、要因、政策的対応
14	東アジアの経済統合と域内金融協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、域内金融協力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回は学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次、新世社 2024年。

【参考書】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019年。
- 『入門国際金融』第4版、高木信二（著）、日本評論社 2011年。
- “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版（2022年）（英語）ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

Course outline: International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

Learning objectives: Through the course, students are expected to be able to understand the significance and content of external transactions, the structure of the foreign exchange market, exchange rate determination, the relations between the exchange rate, the interest rate, the price level, and the real economy, and the way by which macroeconomic policies are conducted and their effects in an open economy. In addition, students are expected to learn about and be interested in various issues in international finance, including international capital markets, exchange intervention, currency crises, the euro as a common currency, international finance in developing countries, and global current account imbalances.

Learning activities outside of classroom: To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently. It is expected that at least 4 hours of study time will be required for study outside of class time.

Grading criteria: Grading is based on the students' homework and midterm & final report performance with weights being 30%, 30% and 40%, respectively.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
企業経済論 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ミクロ経済学分析の基礎概念、独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また、企業行動と政府規制の関係についても学習し、資本主義経済における企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果、独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	企業経済学の課題と歴史	SCPパラダイム
3	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分・最適化
4	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
5	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
6	ミクロ経済学の基礎概念③	機会費用とサンクコスト
7	ミクロ経済学の基礎概念④	市場均衡と経済厚生
8	独占	独占企業の価格設定と非効率性
9	価格差別①	価格差別の手段と効果
10	価格差別②	市場分割
11	価格差別③	バンドル
12	価格差別④	二部料金
13	価格差別⑤	抱き合わせ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。

丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-70%）とホームワーク（30-50%、平常点含む）による（ふたつの要素の合計が100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the following topics: demand and supply, monopoly, price discrimination. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various marketing practices, and the role of public policy on monopoly market, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through the LMS (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through the LMS within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
企業経済論 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ゲーム理論の基礎、寡占市場、市場構造指標と市場支配力、カルテル、合併及び垂直的取引関係について学習し、わが国の様々な産業・市場で典型的な寡占市場における企業間競争の仕組みと社会・経済への影響を学習し、政府規制の役割についても学ぶ。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業間競争と様々な経営戦略（協調行為・垂直的取引制限等）の仕組みと効果を経済学的に理解し、企業と政府規制の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	ゲーム理論の基礎	企業行動とゲーム理論
3	寡占市場①	クールノー競争とベルトラン競争
4	寡占市場②	寡占の市場行動
5	製品差別化①	垂直的差別化
6	製品差別化②	水平的差別化
7	カルテル①	カルテルの経済分析
8	カルテル②	カルテル規制
9	市場構造分析①	市場支配力
10	垂直的取引①	垂直的取引と企業間関係
11	垂直的取引②	垂直的取引制限の競争効果
12	垂直的取引③	垂直的統合による効率性と排除
13	その他のトピック	より進んだテーマ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。

長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。

丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-70%）とホームワーク（30-50%、平常点含む）による（ふたつの要素の合計が100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: oligopoly, vertical and horizontal product differentiation, cartel, market power, vertical integration and restraint. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various management strategy (eg. collusive behavior, vertical restraints, and so on) in oligopolistic competition, and the role of public policy on such strategies.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through the LMS (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through the LMS within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ARSx200CA（地域研究（その他） / Area studies(Others) 200）
世界の文化と思想 A
田村 理香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカやアメリカ合衆国の社会や文化、思想を歴史的な知識を得ながら学ぶ。

【到達目標】

アメリカやアメリカ合衆国の社会や文化、思想を学ぶことで、1) わたしたちが今日生きる世界を理解するための基礎的な力をつけ、2) 世界の明日、自分の明日をよりよい場にするための思考力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。おもにパワーポイントを使い、必要に応じて板書を併用する。小テストやリアクションペーパー等の提出を求める回が3～6回程度あり、次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 1	授業内容の紹介。
第2回	大航海時代	ヨーロッパ人はなぜ冒険をしたのか。その「遺伝子」をアメリカ人は受け継いでいる。
第3回	北米大陸の植民地化	ヨーロッパの国々が競ってアメリカ大陸に向かった。そこには当然人が住み社会を築いていた。
第4回	北米イギリス植民地	のちにアメリカ合衆国となる北米イギリス植民地はそれぞれの切実な理由や理想によって建設された。
第5回	植民地から合衆国へ	もっともアメリカ人らしいアメリカ人、Benjamin Franklinの人生をたどりながら、独立への道をたどる。
第6回	独立宣言、合衆国憲法、権利章典	アメリカの三大重要文書の一部を読む。アメリカの原則、アメリカの理想の迫力を知る。
第7回	新しい共和国の建設	連邦か州か。現在も続くアメリカの国家観。
第8回	領土の拡張、南米への野心	戦争や購入で領土を広げる。インディアン強制居住法、涙の旅路。
第9回	西部への拡大と奴隷制	新たな領土は自由州にするのか奴隷州になるのか、南部と北部の対立が深まる。
第10回	南北戦争	南部と北部がイデオロギーや経済を巡って誇りと信念を賭けて戦う。
第11回	産業社会の形成、取り残された南部	大陸国家となったアメリカの目覚ましい産業発展。金めつき時代。
第12回	帝国主義の興隆	海洋国家、中南米の覇権の野望。モンロー主義
第13回	革新主義の時代	市民や政府による社会改革運動。プラグマティズム。
第14回	第一次世界大戦	中立から参戦へ。戦後の経済の発展、Jazz Age

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の参考文献や配布資料で予習する。授業で得た情報や資料、興味を持ったところなどを復習し理解を深める。約4時間の予習復習時間が見込まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を適宜配布する。

【参考書】

- ・和田光弘『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014
- ・西崎文子『アメリカ外交史』東京大学出版会、2022
- ・森本あんり『キリスト教でたどるアメリカ史』角川ソフィア文庫、2019
- ・ジェームズ・ウェスト・デイビッドソン『若い読者のためのアメリカ史』上杉隼人他訳、すばる舎、2018
- ・矢口祐人他『現代アメリカ講義：トランプのアメリカを読む』東京大学出版会、2020
- ・藤倉善郎他『陰謀論と排外主義 分断社会を読み解く7つの視点』扶桑社新書、2025

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内課題（小テスト、リアクションペーパーなど。3～6回程度）：30%
2. 期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず参加してください。初回授業で配布するシラバスがこのクラスの正式なシラバスとなります。

【Outline (in English)】

"Thought and Culture in America"

[Course Outline] This class deals with American society and culture.

[Learning Objectives] With gaining historical knowledge of American society and culture, we develop: 1) the foundational ability to understand the world we live in today, and 2) the critical thinking skills to shape a better tomorrow for the world and for ourselves.

[Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria / Policy] Grading will be based on a final exam (70%) and in-class contribution (quizzes and reaction papers. 30%).

ARSx200CA（地域研究（その他） / Area studies(Others) 200）
世界の文化と思想 B
田村 理香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカやアメリカ合衆国の社会や文化、思想を歴史的な知識を得ながら学ぶ。

【到達目標】

アメリカやアメリカ合衆国の社会や文化、思想を学ぶことで、1) わたしたちが今日生きる世界を理解するための基礎的な力をつけ、2) 世界の明日、自分の明日をよりよい場にするための思考力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。おもにパワーポイントを使い、必要に応じて板書を併用する。小テストやリアクションペーパー等の提出を求める回が3～6回程度あり、次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の紹介。
第2回	大恐慌、ニューディール	未曾有の経済危機はニューディールで巻き返されたか。
第3回	第二次世界大戦	孤立主義から参戦へ。圧倒的な工業力と軍事力が勝利をもたらす。アメリカの世紀の始まり。
第4回	東西冷戦の始まり	米ソのイデオロギー対立と勢力圏争いにより世界は二極化していく。鉄のカーテン。
第5回	冷戦の深刻化	核兵器開発競争、代理戦争、宇宙開発競争。
第6回	繁栄を謳歌するアメリカの光と影	経済的豊かさと大衆消費文化の発達。レッド・バージ。
第7回	公民権運動	黒人公民権運動、そしてさまざまな人々が権利を求めて立ち上がる。Martin Luther King Jr., Malcolm X.
第8回	ベトナム戦争	泥沼化するベトナム。若者たちの反戦運動、文化、芸術。
第9回	ニクソン=キッシンジャー外交	デタント、米中和解の促進、ベトナム戦争の終結。中南米諸国への政治介入。
第10回	経済力の低下の始まり	70年代のインフレとドル危機、石油危機。80年代の双子の赤字と貿易摩擦の激化、製造業の競争力の低下。ジャパンバッシング
第11回	冷戦の終焉、新たな世界秩序の模索	冷戦の終結。アメリカが国際秩序の中心となる。
第12回	クリントンと蘇るアメリカ	アメリカ経済を立て直すクリントン=ゴア政権。国際紛争の解決の模索。IT革命は21世現在のアメリカの繁栄の礎。
第13回	9.11後のアメリカにオバマ登場	監視社会、愛国心。排外主義、内向きになったアメリカ、多様性と寛容を選ぶ。
第14回	今日のアメリカ	ポピュリズム、反知性主義、排外主義のアメリカはどこへ行くのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の参考文献や配布資料で予習する。授業で得た情報や資料、興味を持ったところなどを復習し理解を深める。約4時間の予習復習時間が見込まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を適宜配布する。

【参考書】

・和田光弘『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014
 ・西崎文子『アメリカ外交史』東京大学出版会、2022
 ・森本あんり『キリスト教でたどるアメリカ史』角川ソフィア文庫、2019
 ・ジェームズ・ウェスト・デイビッドソン著『若い読者のためのアメリカ史』すばる舎、2018
 その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内課題（小テスト、リアクションペーパーなど。3～6回程度）：30%
2. 期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず参加してください。初回授業で配布するシラバスがこのクラスの正式なシラバスとなります。

【Outline (in English)】

"Thought and Culture in America"

[Course Outline] This class deals with American society and culture.

[Learning Objectives] With gaining historical knowledge of American society and culture, we develop: 1) the foundational ability to understand the world we live in today, and 2) the critical thinking skills to shape a better tomorrow for the world and for ourselves.

[Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria / Policy] Grading will be based on a final exam (70%) and in-class contribution (quizzes and reaction papers. 30%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）
地球環境論A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解するために、身の回りの自然環境から、地球または宇宙規模での環境について学びます。様々な人間の経済活動と地球環境との相互関係について理解を深めるため、環境保全、資源、エネルギー、生物多様性など多面的な学習を展開します。

【到達目標】

諸資料を活用し、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。さらに、自発的に地球規模での問題に気づき、的確な情報によって批判できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTRなどによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	授業内試験	これまでの学習の理解度を筆記試験でチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、提出課題と授業への取組の総合点（40%）とし、合計の60%以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【その他の重要事項】

学生は授業中にPC、スマートフォン、タブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないように配慮します。

【Outline (in English)】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria is Assignments(60%), Class Contribution(20%), and

Report or Quiz contribution(20%).

SES300CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）
地球環境論B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。様々なエネルギー問題、廃棄物問題、環境保全などについて、正しい情報とともに課題と解決策を見出す力を養う。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	授業内試験	理解度を筆記試験で評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1)『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀 （講談社サイエンティフィク）2800円

【参考書】

1)『環境・エネルギー・健康 20講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott &Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、提出課題と授業への貢献度（40%）とし、合計の60%以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が50%を上回る者には単位を与えない。

【学生の意見等からの気づき】

理系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

学生は授業中にPC、タブレット、スマートフォンを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員はSRI Internationalにて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline (in English)】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading criteria is Assignments(60%), Class Contribution(20%), and

Report or Quiz contribution(20%).

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
国際貿易論A
坪田 建明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易論Aでは国際貿易論の基本概念を学習する。余剰分析を通じて貿易利益の確認を行い、貿易政策の影響について明らかにする。国際貿易の理論を現実の現象に応用して解明を試みる。

【到達目標】

国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず国際取引の基本問題である、貿易からの利益を考える。さまざまな理由で貿易が行われるが、その動機について理論的に解説する。また、貿易を阻害する要因である貿易政策についてもその影響を分析する。定期的に課題を課し提出する事で理解を進める。質問・フィードバック等も学習支援システムを利用して行い、学習の助けとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際取引とは何か？ なぜ我々は貿易を行うのか？	国際取引の基礎、貿易からの利益
第2回	余剰分析の基礎：消費者行動と企業行動	消費者の効用、需要、消費者余剰、生産者余剰
第3回	市場の役割、貿易利益	市場均衡、社会的余剰、自給自足時と自由貿易時の社会的余剰の比較
第4回	貿易の現状、グラビティモデル	日本の貿易相手、近隣国の貿易相手、海外直接投資の現状など
第5回	リカードモデル	比較優位について
第6回	ヘクシャーオリーンモデル	要素賦存、諸定理を学ぶ
第7回	貿易政策の効果	自由貿易時と輸入関税下の余剰
第8回	差別化財と貿易利益	差別化財、独占的競争、貿易費用
第9回	貿易と経済成長	貿易は経済を成長させるのか
第10回	身近に感じる国際貿易	国際貿易の実際と諸問題に関して、小レポートの執筆、相互評価
第11回	アンチダンピング	制度、セーフガード、発動要件
第12回	貿易とその影響(1)	貿易は雇用を増加させるのか、貧困を削減するのか
第13回	貿易とその影響(2)	環境を悪化させるのかなど
第14回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を講義中にも解説するが、各自でも経済学の入門について自習しておくこと。講義では経済学の考え方について主に紹介するが、各自で具体例に基づいた計算なども可能になっておく事が望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にオリジナルテキストを提供するが、下記2冊を推奨する。

澤田、基礎コース 国際経済学、サイエンス社

阿部、實多、グラフィック国際経済学、サイエンス社

【参考書】

入門的内容としては、

石川・菊池・棕著、国際経済学をつかむ、有斐閣

より詳細な内容としては、

武智、東田、黒田著、トピックで読み解く国際貿易論、ミネルヴァ書房

進んだ内容を希望する者には、

Krugman and Obstfeld, International Economics, Addison Wesley

などを勧める。

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）レポート（30%）、試験（40%）で評価する。講義内容を踏まえ、自ら計算・グラフの作成（解釈）が出来る事を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

進捗状況によって、適宜、シラバスの内容を変更する場合がある。

【Outline (in English)】

This course is intended to introduce students to basic concepts of international trade. Our learning objective is to understand the standard theories in international trade and apply these theories to real world examples. Students are expected to study four hours to prepare for the class. Grading will be determined by the performance of exercises (30%), a report (30%) and final exam (40%).

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
国際貿易論B
坪田 建明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易論Bでは近年の国際貿易論において注目を集めているトピックを網羅する。例えば、Global Value Chains、地経学(Geoeconomics)、空間経済学、経済地理的アプローチなどを扱う。本講義では理論と実証の両方のバランスを取る。

【到達目標】

最先端の国際経済学に関するトピックに触れることで、国際経済学の基礎と応用に関する知意識を学ぶ。また、理論的考え方や実証分析の方法などについても学ぶことを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最新・最先端のテキストを用いて国際経済学的トピックについてスライドを用いて解説を行います。定期的に課題を課し提出する事で理解を進めます。質問・フィードバック等も学習支援システムを利用して行い、学習の助けとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	基礎的な国際貿易論に関する復習
2)	Globalization	グローバリゼーション、その影響と原動力
3)	Global Value Chains (1)	これまでの変遷について
4)	Global Value Chains (2)	最新の知見
5)	空間経済学 (1)	地理的集中、集積、地域という視点、地域統合
6)	空間経済学 (2)	最新の知見
7)	貿易政策	産業政策と貿易政策
8)	Slowbalization	Globalizationの変質
9)	Geoeconomics (1)	21世紀前半の概要
10)	Geoeconomics (2)	2026年の位置
11)	技術と貿易	技術革新について考える
12)	途上国	途上国の特殊性に目を向ける
13)	環境	環境と貿易の関係を考える
14)	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を元に学習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

オリジナルのテキストを配布する。

【参考書】

Handbook of International Economics, Vol.5, (2022).

Handbook of Regional and Urban Economics, Vol.6, (2025).

武智、東田、黒田(2025)、トピックで読み解く国際貿易論、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、レポート（20%）、期末試験(50%)により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

進捗状況によって、適宜、シラバスの内容を変更する場合がある。

【Outline (in English)】

This course covers various important topics as of 2026 such as Global Value Chains, Geoeconomics, Spatial Economics, Economic Geography in International Economics and others. The course assures the balance between theory and empirics. The evaluation will be done based on the exercises (30%), a report (20%), and an exam (50%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
監査論 A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

監査の基本的な枠組みと、金融商品取引法に基づく公認会計士監査及び会社法に基づく監査役等による監査制度について講義する。監査とは何を目的とするものか、またいかなる行為であるかについて理解するとともに、監査制度と経済社会とのかかわりについて理解することを目的とする。

【到達目標】

皆さんは「監査」ということばを聞くとどのようなものをイメージしますか。たとえば、公認会計士や企業の監査役など、職業のひとつとして聞いたことがあるかも知れません。また、部活やサークルなどで監事を設けていたり、実際に経験した人もいるかも知れません。この講義では、こうしたイメージの中の監査から一歩踏み出して、経済社会で行われている監査の仕組みを理解し、どのような役割を果たしているのかについて知見を得ることを到達目標とします。具体的には、監査という行為の本質と、法制度によって行われている監査の社会的意義について理解し、どのような問題点があるのか、またどのような改善策がありえるのかについて考察する能力を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメ（スライド）を配付する。講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。講義内レポートは採点した上で翌講義の冒頭に学習支援システムを通じて得点を通知し、解答と解説を行う。講義の構成は、①前回の講義内レポートの解説（10分）、②当回の講義（70分）、③当回の講義内レポートの作成（20分）を目安とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	監査の基本的な考え方と二つの系列の監査	監査に対する一般的なイメージと、経済社会において展開される監査との異同点について学習する。
第2回	企業不正と監査	企業不正の具体的なケースと監査とのかかわりについて学習し、二つの系列の監査との関係について理解する。
第3回	二つの系列の監査と監査の種類	会計監査と業務監査、外部監査と内部監査、法定監査と任意監査のそれぞれの特徴について学習する。
第4回	近代監査の発展過程	経済社会の時代的変遷と監査の変容過程について、特に19世紀（英国）以降の監査形態の変化について理解する。
第5回	日本の監査制度の成立と発展	旧商法に基づく監査役制度、旧証券取引法に基づく公認会計士監査の成立と時代的背景について学習する。

第6回	旧商法に基づく監査役監査制度の成立と展開	監査役の意義と八久和厘について、時代的背景と変遷過程、および現代的意義と課題について理解する。
第7回	旧商法特例法に基づく会計監査人監査の意義	会計監査人監査が必要となった背景について、旧商法と旧証券取引法に基づく監査との関連から理解する。
第8回	会社法監査の成立と展開	監査役、会計監査人、および委員会設置会社における監査委員の意義について、特にそれぞれの権限と責任の観点から理解する。
第9回	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開過程について学習する。
第10回	金融商品取引法に基づく企業内容開示制度と財務諸表監査の意義	現在の金融商品取引法の意義を理解した上で、財務諸表監査の役割について学習する。
第11回	公認会計士法における公認会計士監査制度の意義と課題	公認会計士法の概要と、公認会計士の業務について学習する。特に、「1項業務」と「2項業務」の関係について理解する。
第12回	公認会計士法における監査法人制度の意義と課題	監査法人制度の概要と現代的課題について、特に社員の権限と責任、指定社員、特定社員、ネットワーク・ファームの現状について学習する。
第13回	監査基準における監査人の人的要件	監査人の資格要件である適格性、独立性、および正当な注意のそれぞれの意義について理解する。
第14回	監査人の法的責任と免責要件	監査人に課せられる法的責任について、刑事、民事、行政の各責任の観点から学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎講義の冒頭で得点通知および解説を行う前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長古眞一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各5点満点で14回実施し、計70点満点とする。42点（60%）以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義において、講義の進め方、成績評価および単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of audit made pursuant to the Securities Law and Company's Act in Japan. At the end of the course, students are expected to identify the institutional significance and problems to be solved on auditing performed by independent public accountants. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

MAN300CA (経営学 / Management 300)
監査論 B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表監査の基礎理論とプロセスについて理解するとともに、証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて考察するための知見を得る。

【到達目標】

「期末商品（原価1,000）の時価が800であったので評価替えを行う」、「期末売掛金残高に対して2%の貸倒引当金を設定する」－簿記の問題でよく見るこれらの取引は、簿記の基本を理解している人であれば瞬時に仕訳することができるであろう。これは「会計アタマ」である。対して、「期末商品の評価額は本当に800なのか?」、「貸倒引当金の設定率は2%でいいのか?」－こうした考え方は「監査アタマ」でないとできない。この講義では、「監査アタマ」で企業会計上の取引を考えることによって、財務諸表の信頼性（適正性）を確かめるためには何が必要で、その結果をどのように利用者に伝達するのかを考える。その上で、実際の証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて、論理立てて考察するための知見を得ることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメ（スライド）を配付する。また、講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。講義内レポートは採点した上で翌講義の冒頭に学習支援システムを通じて得点を通知し、解答と解説を行う。講義の構成は、①前回の講義内レポートの解説（10分）、②当回の講義（70分）、③当回の講義内レポートの作成（20分）を目安とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「会計アタマ」から「監査アタマ」へ	監査の概念的枠組みを、「会計アタマ」と「監査アタマ」という視点から提示する。
第2回	「監査アタマ」で考えるアサーションと監査要点、監査証拠	財務諸表監査のプロセスにおけるアサーションと監査要点、及び監査手続と監査証拠の基本的関係について学習する。
第3回	企業の内部統制と財務諸表監査(1)	財務諸表監査における被監査会社の内部統制の評価の必要性について学習する。
第4回	企業の内部統制と財務諸表監査(2)	内部統制概念の変遷について学習し、内部統制の評価が財務諸表監査においてどのように位置づけられるかについて学習する。
第5回	リスク・アプローチの基本的な考え方	リスク・アプローチの必要性と意義について、監査の有効性と効率性の観点から学習する。
第6回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの展開(1)	リスク評価手続とリスク対応手続の目的と役割について理解する。

第7回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの展開(2)	監査手続全体の体系における実証手続の位置づけと機能について理解する。
第8回	監査上の重要性概念	監査上の重要性概念と監査リスク、監査の有効性と効率性、監査意見の性質との関係について理解する。
第9回	監査結果の報告	監査報告書の基礎的な機能と限界、および監査報告書の改革について学習する。
第10回	除外事項と監査意見、追記情報の種類と意義	除外事項の種類と発生原因、及び除外事項付意見との関係、および追記情報について学習する。
第11回	継続企業の前提に関する監査人の検討(1)	いわゆる「GC注記」の制度導入の経緯と背景、および枠組みについて理解する。
第12回	継続企業の前提に関する監査人の検討(2)	継続企業の前提に関する監査人の検討が財務諸表監査のプロセスにどのように位置づけられるのか、またそのことによる課題について考察する。
第13回	内部統制報告書の監査(1)	内部統制報告書の監査について、制度導入の経緯と背景、およびその枠組みについて理解する。
第14回	内部統制報告書の監査(2)	内部統制の評価基準及び監査基準、実例について理解し、現代の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の冒頭で、前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長古眞一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』（第3版）、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各5点満点で14回実施し、計70点満点とする。42点（60%）以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義において、講義の進め方、成績評価および単位の認定方法に関する詳細について説明する。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the audit procedures performed and audit report for financial statements by independent auditors. Basically, they will make pursuant to the International Standards on Auditing, issued by International Federation of Accountants (IFAC). At the end of the course, students are expected to identify the institutional significance and problems to be solved on auditing performed by independent public accountants. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基礎知識を講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
- ・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）リアクションペーパーのコメントや質問を授業の最初にフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	マクロ経済学とは（1）	マクロ経済学の登場人物
3	マクロ経済学とは（2）	市場均衡
4	マクロ経済を観察する（1）	国内総生産
5	マクロ経済を観察する（2）	名目と実質
6	マクロ経済を観察する（3）	消費者物価指数
7	マクロ経済を観察する（4）	労働に関する統計
8	マクロ経済学を支える金融市場（1）	金融市場の実際
9	マクロ経済学を支える金融市場（2）	金利（利率）
10	貨幣の機能と中央銀行の役割（1）	貨幣の機能
11	貨幣の機能と中央銀行の役割（2）	中央銀行の役割
12	財政の仕組みと機能（1）	財政の仕組み
13	財政の仕組みと機能（2）	税制と国債
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第4版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2026年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待（ライブラリ経済学への招待 3）」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・リアクションペーパー (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, t his class lectures on basic knowledge of macroeconomics.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABPQRSTUWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基本モデルを講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
- ・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）リアクションペーパーのコメントや質問を授業の最初にフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDPと金利の決まり方（1）	45度分析
3	GDPと金利の決まり方（2）	ISLMモデル
4	総需要・総供給分析（1）	物価とGDPの同時決定
5	総需要・総供給分析（2）	経済政策の限界
6	インフレとデフレ（1）	実質金利と名目金利
7	インフレとデフレ（2）	インフレと失業
8	国際収支・為替レートとマクロ経済（1）	海外との取引を測る
9	国際収支・為替レートとマクロ経済（2）	金利平価
10	経済が成長するメカニズム（1）	ソローモデル
11	経済が成長するメカニズム（2）	経済成長の要因分解
12	資産価格の決まり方（1）	資産価格の決まり方
13	資産価格の決まり方（2）	資産価格バブル
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第4版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2026年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待（ライブラリ経済学への招待 3）」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）・リアクションペーパー（30%）・試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, this class lectures on basic macroeconomic models.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分を中心に学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学のより専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済現象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則的には対面講義の形式でおこなう。諸事情でオンラインとする場合は事前に連絡する。資料を授業支援システム上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・数学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学準備
2	消費者行動(1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現、
3	消費者行動(2)	予算制約
4	消費者行動(3)	限界代替率と需要の導出
5	消費者行動(4)	価格・所得の変化と需要の変化
6	消費者行動(5)	準線形選好
7	生産者行動(1)	生産関数・費用最小化
8	生産者行動(2)	費用関数の性質
9	生産者行動(3)	完全競争市場における供給関数の導出
10	生産者行動(4)	独占市場における生産者の行動
11	市場均衡(1)	部分均衡分析
12	市場均衡(2)	一般均衡分析
13	市場均衡(3)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド(六埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 林貴志「ミクロ経済学 増補版」2013年、ミネルヴァ書房、4500円+税
- ② 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐[監訳]、高遠裕子[訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017年、東洋経済新報社、3200円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

スライド送りが早くなりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

講義の進め方および平常点の内容については新年度から新しく導入される学習支援システムの機能によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially focusing on the price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy) Final exam 80%; Class participation 20%.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bではゲーム理論およびそのミクロ経済学への応用を中心的に学ぶ。現在では、ゲーム理論は多くの分野でミクロ経済的な分析をおこなうための必須ツールになっているので、基礎を確実に身に着ける。

【到達目標】

- ・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を、そうすることが適切な場合に、ゲーム理論と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則的には対面講義の形式でおこなう。諸事情でオンラインとする場合は事前に連絡する。資料を授業支援システム上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方、数学準備
2	戦略形ゲーム(1)	戦略形ゲーム、双行列表現
3	戦略形ゲーム(2)	最適反応戦略とナッシュ均衡
4	戦略形ゲーム(3)	(弱)支配戦略、第二価格オークション
5	戦略形ゲーム(4)	混合戦略ナッシュ均衡
6	展開形ゲーム(1)	展開形ゲーム、ゲームの木
7	展開形ゲーム(2)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納法
8	展開形ゲーム(3)	繰返しゲーム
9	不完全競争市場(1)	数量競争市場
10	不完全競争市場(2)	価格競争市場
11	不完全競争市場(3)	カルテルとしての独占の発生
12	公共財供給(1)	公共財供給問題
13	公共財供給(2)	VCGメカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド(穴埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

① 渡辺隆裕「一歩ずつ学ぶ ゲーム理論 -数理で導く戦略的意思決定」2021年、裳華房、3300円＋税

② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著], 安田洋祐[監訳], 高遠裕子[訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円＋税

③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014年、有斐閣アルマ、1900円＋税

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

スライド送りが早くなりすぎないように気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

講義の進め方および平常点の内容については新年度から新しく導入される学習支援システムの機能によって変更の可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces elementary game theory and its microeconomic applications.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand basic concepts of game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the game theory when applicable; C) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of the classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Class participation 20%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
現代経済学応用 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中・上級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについて論理的に説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる
- ・動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる
- ・卒論執筆の際に有用なマクロ経済モデルの基礎を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書や配布資料の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	安定化政策	政策のラグ、ルーカス批判、裁量政策の時間非整合性、インフレ・ターゲティング
第3回	安定化政策	トピック講義
第4回	政府負債と財政赤字	政府負債の規模、測定問題、リカードの等価命題
第5回	政府負債と財政赤字	トピック講義
第6回	金融システム	定義、金融危機
第7回	金融システム	トピック講義
第8回	消費のミクロ的基礎	ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、ランダムウォーク仮説
第9回	小テスト	小テスト
第10回	消費のミクロ的基礎	トピック講義
第11回	投資のミクロ的基礎	投資の費用便益分析、トービンのQ
第12回	マクロ経済学の現状	重要な教訓・未解決の問題

第13回 投資のミクロ的基礎・トピック講義
マクロ経済学の現状

第14回 期末試験 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G.マンキュー（著）『マクロ経済学2：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円+税

【参考書】

G.マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験30%、小テスト30%、宿題25%、練習問題15%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

Students learn the basic methods of advanced-level macroeconomics. We use both diagrams and calculus as the tool for generating predictions about aggregate output, prices, and market interest rates. At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Two hours preview/two hours review per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 30%, Quiz: 30%, Homeworks: 25%, Class Participation: 15%

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
現代経済学応用 B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中・上級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについて論理的に説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる
- ・動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる
- ・卒論執筆の際に有用なマクロ経済モデルの基礎を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書や配布資料の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	消費1	ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、ランダムウォーク仮説
第3回	消費1	トピック講義
第4回	消費2	オイラー方程式、リスク資産
第5回	消費2	トピック講義
第6回	リアル・ビジネス・サイクルモデル1	景気循環の基礎知識、ベルマン方程式
第7回	リアル・ビジネス・サイクルモデル1	トピック講義
第8回	リアル・ビジネス・サイクルモデル2	生産・労働の導入
第9回	クラス内課題	クラス内課題

第10回	リアル・ビジネス・サイクルモデル2	トピック講義
第11回	リアル・ビジネス・サイクルモデル3	RBCモデルの含意
第12回	リアル・ビジネス・サイクルモデル4	RBCモデルの評価
第13回	リアル・ビジネス・サイクルモデル3・4	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

D. ローマー（著）『上級マクロ経済学（原著第3版）』日本評論社、2010年、6600円+税

【参考書】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験30%、クラス内課題30%、宿題25%、練習問題15%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

Students learn the basic methods of advanced-level macroeconomics. We use both diagrams and calculus as the tool for generating predictions about aggregate output, prices, and market interest rates. At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Two hours preview/two hours review per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 30%, In-class Assignment: 30%, Homeworks: 25%, Class Participation: 15%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年CDEFGHIJKLMNO組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	科学としてのマクロ経済学、マクロ経済学のデータ	マクロ経済学概説、国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	科学としてのマクロ経済学、マクロ経済学のデータ	トピック講義
第4回	国民所得	生産・所得・分配
第5回	国民所得	トピック講義
第6回	国民所得、開放経済	支出、財市場の均衡、金融市場の均衡、開放経済（小国）モデル
第7回	国民所得、開放経済	トピック講義
第8回	開放経済、貨幣システム	為替レート：名目対実質・為替レートの決定要因、銀行の役割・マネーサプライ
第9回	小テスト	小テスト

第10回	開放経済、貨幣システム	トピック講義
第11回	インフレ、労働市場	貨幣数量説、インフレと利子率、貨幣需要、失業率の長期均衡、労働市場と賃金決定メカニズム
第12回	景気変動	総需要、総供給、総需要・総供給モデルを使った短期と長期の分析
第13回	インフレ、労働市場、景気変動	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験45%、小テスト25%、宿題25%、練習問題5%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 45%, Quiz: 25%, Homeworks: 25%, Problem Sets: 5%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年CDEFGHIJKLMNO組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足かりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	総需要1	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、均衡
第3回	総需要1	トピック講義
第4回	総需要2	財政・金融政策、総需要・総供給モデルの短長期分析
第5回	総需要2	トピック講義
第6回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線、フィリップス曲線と自然失業率
第7回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	トピック講義
第8回	経済変動の動学モデル	モデルの要素および解、動学モデルを使った政策分析
第9回	小テスト	小テスト

第10回	経済変動の動学モデル	トピック講義
第11回	経済変動の動学モデル、経済成長	動学モデルを使った政策分析（続き）、資本の蓄積、定常均衡、貯蓄、資本の黄金律水準
第12回	経済成長	人口成長・経済ショック・技術進歩、実証分析・政策
第13回	経済変動の動学モデル、経済成長	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅰ：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円＋税

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験45%、小テスト25%、宿題25%、練習問題5%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 45%, Quiz: 25%, Homeworks: 25%, Problem Sets: 5%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ミクロ経済学 A
西村 健
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済理論分析の基礎であるミクロ経済学について学ぶ。議論の中心となるのは「完全競争市場」である。その市場では、消費者や企業が数多く存在し、各経済主体はモノ・サービスの価格に決定力を持たない。市場において、消費者や企業はどのように行動するか、その結果として資源配分がどのように決まるか、結果的な資源配分は社会的観点からどのような性質を持つかといった点について、数理的に解き明かす。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学における重要な用語および概念を理解し、説明できるようになる。
- ・ミクロ経済学の標準的手法を用いて、消費や生産などの経済活動がどのようになされるかについて、数理的に分析できるようになる。
- ・ミクロ経済学的な観点から、現実の経済データについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には対面形式で行うが、最大7回（1回目と6回目を含む）まで、動画配信によるオンライン形式にする場合がある。この点については、講義における指示にしたがうこと。
- ・システム上で講義スライドを配布する。事前にダウンロードまたは印刷して、講義に持参してもらいたい。
- ・システム上で小テストを出題する。
- ・授業内で、講義内容のまとめや復習、および、小テスト等に対する講評や解説をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、講義のルール
2	完全競争市場（1）	需要と供給、消費者の需要曲線、市場の需要曲線、需要曲線のシフト
3	完全競争市場（2）	企業の供給曲線、市場の供給曲線、供給曲線のシフト
4	完全競争市場（3）	市場の均衡
5	完全競争市場（4）	消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰、効率性
6	経済数学の準備	関数、連立方程式、微分
7	消費者理論（1）	効用関数、無差別曲線、限界代替率
8	消費者理論（2）	予算制約、効用最大化問題、需要関数
9	消費者理論（3）	需要の所得弾力性、需要の価格弾力性
10	消費者理論（4）	代替効果と所得効果
11	生産者理論（1）	企業、短期費用関数、短期供給曲線
12	生産者理論（2）	長期生産関数、長期費用関数、長期供給曲線
13	競争均衡	交換経済、競争均衡
14	総復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・システム上で事前に講義スライドを配布するので、事前に予習しておくこと。
 - ・講義後、講義の復習をすること。
- （予習と復習、各4時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義スライドを配布する。

【参考書】

- ・伊藤秀史 著、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣
- ・伊藤元重 著、『ミクロ経済学』、日本評論社
- ・神取道宏 著、『ミクロ経済学の力』、日本評論社
- ・柳川隆、町野和夫、吉野一郎 著、『ミクロ経済学・入門—ビジネスと政策を読みとく』、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義中に演習問題を出すなど、理解しやすい講義を心がけたい。
- ・難解な箇所は板書等を交えてなるべく丁寧に説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

数学を頻繁に用いるため、「ビジネス数学入門」や「数学」の履修を推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through prices in competitive markets. Students should surely acquire the contents of this course because microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final examination 70% and Class performance 30%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
ミクロ経済学B
西村 健
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLM組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の基礎を踏まえ、その発展的内容について学ぶ。具体的には、ゲーム理論、産業組織論、情報の非対称性、マーケットデザインの問題が分析対象となる。競争が不完全なときに企業はどのように振る舞うか、経済主体間で情報の非対称性があるときにどのような非効率性が生じるか、制度設計者は市場をどのように設計すべきかといった点について、数理的に解き明かす。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学とゲーム理論における重要な用語および概念を理解し、説明できるようにする。
- ・ミクロ経済学とゲーム理論の標準的手法を用いて、産業組織論、情報の非対称性、マーケットデザインの各種の問題を分析できるようにする。
- ・ミクロ経済学的な観点から、現実の経済データについて考察できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には対面形式で行うが、最大7回（1回目と13回目を含む）まで、動画配信によるオンライン形式にする場合がある。この点については、講義における指示にしたがうこと。
- ・システム上で講義スライドを配布する。事前にダウンロードまたは印刷して、講義に持参してもらいたい。
- ・システム上で小テストを出題する。
- ・授業内で、講義内容のまとめや復習、および、小テスト等に対する講評や解説をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、前期の復習、講義のルール
2	ゲーム理論（1）	囚人のジレンマ、支配戦略
3	ゲーム理論（2）	合理的なボタ、支配される戦略の逐次除去、ナッシュ均衡
4	ゲーム理論（3）	参入ゲーム、部分ゲーム完全均衡
5	産業組織論（1）	独占市場、独占価格、死荷重
6	産業組織論（2）	寡占市場、ベルトラン価格競争
7	産業組織論（3）	寡占市場、クールノー数量競争
8	情報の非対称性（1）	リスクと不確実性、リスク態度
9	情報の非対称性（2）	モラルハザード、アドバースセレーション
10	情報の非対称性（3）	シグナリング理論、完全ペイジアン均衡
11	マーケットデザイン（1）	オークション理論
12	マーケットデザイン（2）	マッチング理論
13	マーケットデザイン（3）	マッチング理論
14	総復習	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・システム上で事前に講義スライドを配布するので、事前に予習しておくこと。
 - ・講義後、講義の復習をすること。
- （予習と復習、各4時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義スライドを配布する。

【参考書】

- ・伊藤秀史 著、『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣
- ・岡田章 著、『ゲーム理論・入門 新版』、有斐閣
- ・坂井豊貴 著、『マーケットデザイン：最先端の実用新世代的な経済学』、ちくま新書
- ・鈴木伸枝、西村健 著、『ゲーム理論15講』、新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義中に演習問題を出すなど、理解しやすい講義を心がけたい。
- ・難解な箇所は板書等を交えてなるべく丁寧に説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

数学を頻繁に用いるため、「ビジネス数学入門」や「数学」の履修を推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially industrial organization, asymmetric information, and market design. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these problems.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final examination 70% and Class performance 30%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
	財政学の歴史	財政学の歴史
第2回	外部性（1）	外部性の本質
第3回	外部性（2）	ピグー税・補助金
第4回	外部性（3）	コースの定理
第5回	公共財（1）	公共財、準公共財
第6回	公共財（2）	公共財の最適供給
第7回	公共選択（1）	リンダールメカニズム、ただ乗り
第8回	公共選択（2）	アローの不可能性定理、直接民主制
第9回	公共選択（3）	間接民主制、ログローリング
第10回	税の帰着（1）	租税原則
第11回	税の帰着（2）	税の帰着
第12回	最適課税（1）	超過負担
第13回	最適課税（2）	最適物品税
第14回	最適課税（3）	最適所得税

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣

- 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- 小黒一正等『財政学15講』新世社
- 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社
- Gruber Public Finance and Public Policy Worth Publishers Inc.

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

官庁エコノミスト（経済企画庁（現内閣府））として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.

At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 B (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 財政学の歴史	ガイダンス 財政学の歴史
第2回	日本の財政の歴史	日本の財政史
第3回	予算制度	財政と法律、予算制度
第4回	政府の大きさ	経済活動と政府、財政の役割、 大きな政府と小さな政府
第5回	財政金融政策の効果 (1)	景気循環、GDPギャップ
第6回	財政金融政策の効果 (2)	国民所得の決定、乗数、ビルト インスタビライザー
第7回	財政金融政策の効果 (3)	IS-LM分析、財政・金融政策の 効果
第8回	所得再分配	ベンサム、ロールズ、ジニ係数
第9回	国債の負担 (1)	国債の種類、新正統派
第10回	国債の負担 (2)	新古典派
第11回	国債の負担 (3)	リカード＝バローの等価定理
第12回	財政の持続可能性 (1)	日本の財政再建の歴史
第13回	財政の持続可能性 (2)	ドーマーの条件、ドーマーの命 題
第14回	財政の持続可能性 (3)	ボンジスキーム、プライマリー バランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学15講』新世社
- (5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論
- (6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.

At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済政策論 A (市ヶ谷開講)
森脇 大輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、メカニズムデザインや行動経済学、因果推論といった近年経済政策への応用が進んでいる経済学的手法について基礎理論と応用例を学びます。また、得られた知識を活用するための政策立案の実践的スキルについても触れます。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、メカニズムデザインや行動経済学、因果推論の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共サービスの供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策とは何か
2	ミクロ経済学の基本 1	効用関数 パレート効率性 エッジワースボックス
3	ミクロ経済学の基本 2	社会厚生関数
4	外部性	社会的限界便益/費用 コースの定理
5	メカニズムデザインの基礎	マッチングアルゴリズム
6	メカニズムデザインの理論	メカニズムの性質
7	メカニズムデザインの応用	研修医マッチングやその他の事例
8	メカニズムデザインの実践	制度改正の事例
9	行動経済学の基礎	ナッジ
10	行動経済学の理論	時間的不整合性 限定合理性
11	行動経済学の応用	学校選択制などにおける事例
12	因果推論の基礎	因果と相関 反実仮想
13	因果推論の手法	ランダム化比較実験
14	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドを復習すること、また講義中に示した参考書・関連資料を読むこと（所要：1時間ずつ）。また、講義において出題した復習問題を解くこと（所要：2時間）。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

AIと経済学でもっとよくなる保育政策(2025)森脇大輔（編著）
経済政策（2025）濱秋純哉
マッチング理論とマーケットデザイン(2024)小島 武仁(著), 河田 陽向(著)
分析者のための行動経済学入門 プロスペクト理論からナッジまで、人間行動を深く網羅的に解明する(2024)黒川博文
Pythonで学ぶ効果検証入門(2024)伊藤寛武、安井翔太、金子雄祐

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）によって評価する。
期末試験は各講義において示した基礎的な公共政策や経済学の知識（50％）と計算問題（50％）による。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

講師は中央省庁やテック企業における実務経験を有しており、実践的観点からの講義を行う。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental theories and practical applications of economic methods that have seen increasing use in policy design, such as mechanism design, behavioral economics, and causal inference. Furthermore, it introduces practical skills for policy-making to effectively utilize the knowledge gained.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済政策論 B (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学のIS-LMモデルを用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ経済統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ経済統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、スライドを用いた講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。期末試験に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ経済統計1	GDPの概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ経済統計2	物価指数の概念と作成方法
4	経済政策のためのマクロ経済統計3	失業率の概念と作成方法
5	労働政策1	失業の原因
6	労働政策2	失業への政策的対処
7	労働政策3	賃金の硬直性と失業
8	財政・金融政策1：IS-LMモデルの構築1	ケインジアンの変差図、乗数効果
9	財政・金融政策2：IS-LMモデルの構築2	IS曲線の導出
10	財政・金融政策3：IS-LMモデルの構築3	貨幣量の測定とコントロール
11	財政・金融政策4：IS-LMモデルの構築4	LM曲線の導出
12	財政・金融政策5：IS-LMモデルの応用1	財政政策の効果とクラウドイング・アウト

13 財政・金融政策6：金融政策の効果と流動性のわな
IS-LMモデルの応用2

14 まとめと期末試験 まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

濱秋純哉，2025年、『経済政策』新世社

【参考書】

1. N・グレゴリー・マンキュー，2024年、『マクロ経済学Ⅰ（第5版）』東洋経済新報社
2. ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト，2019年、『ALLマクロ経済学』東洋経済新報社
3. 福田慎一・照山博司，2023年、『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらうことがある。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

本講義を履修するにあたり、経済政策Ⅰ（あるいは経済政策論A）を履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線・供給曲線、余剰や弾力性の概念、及び余剰分析の方法などを学習済みなら、必ずしも履修済みの必要はない）。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each on preparation and review.

Grading Policy

The final grade will be determined as follows:

Term-end examination: 100%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 A (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T AやE P Aなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題（小テスト）を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済	生産の国際立地
第8回	輸出判断と多国籍企業	グローバル経済の企業
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第12回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第13回	地域貿易協定の効果	F T Aが与える影響
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023 年
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策』（原書第10版）上: 貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013 年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022 年
武智一貴・東田啓作・黒田知宏著『トピックで読み解く国際貿易論』ミネルヴァ書房、2025 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題(12回を予定) (30%) と、期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 12 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
国際経済論 B (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表	国際収支表の項目
第2回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第3回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第4回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第5回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第6回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第7回	金融政策と為替レート	2国の金融政策の違い
第8回	長期の為替レート決定	購買力平価
第9回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第10回	固定為替レート	外国為替市場介入
第11回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第12回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第13回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第14回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Global edition, Pearson Education, 2023年
クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下：金融編』丸善出版、2017年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016年
高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（小テスト・12回を予定）（30％）と、授業内に行う期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券（株）
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
 - ②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
 - ③M & Aなど、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べる事が出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

At the end of the course, the students are expected to be able to explain the social significance of direct financing using securities such as stocks and bonds, and to explain the characteristics and risks of price movements of these securities under various economic environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

As a way to proceed, we plan to read the materials carefully and take a small test of about 15 to 20 minutes. As for feedback, we will announce the summary of the quiz results during the next week's lecture, and we will instruct you to recognize the areas where your understanding is low and to focus on studying again.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M & A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み

第14回 試験・まとめ 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。
Nothing in particular about preparatory study. Approximately 4 hours of study time.

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジュメを配布する。
Distribute resumes for each lecture.

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。
Indicate references where necessary.

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

Implementation of a quiz after each lecture to measure the degree of understanding of the lecture content (50%)

Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】

This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.

1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.

(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts) (3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions

The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

LANj300CA（日本語 / Japanese language education 300）
特別講義（ビジネス日本語A）
大石 有香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

留学生が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「聞く」「話す」「読む」「書く」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。

【到達目標】

次の3つである。
1. 日本における就職活動の仕組みとプロセスを理解し、計画的に準備できる。
2. 効果的な方法を理解し、適切な表現を用いて自己表現ができる。
3. 様々なコミュニケーションの場面に応じて、適切な表現を使い分けることができる。

This course has three goals.

1. Understand the structure and process of job hunting endeavors in Japan and be able to prepare systematically,
2. Understand effective methods and be able to express oneself using appropriate forms.
3. Be able to use expressions appropriately in different communication situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出はGoogle Classroomを通じて、課題のフィードバックは次回授業で行う。

The course consists of lectures and practical exercises. Practical exercises include writing entry sheets, composing emails, and participating in mock interviews. Students may be required to submit reaction papers as needed. Assignments must be submitted via Google Classroom, and feedback on assignments will be provided in the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、日本での就職活動 Guidance, Job Search Process in Japan	授業運営に関する説明、日本における就職活動の特徴とそのプロセス Course Administration, Characteristics and Process of Job Search Process in Japan
2	自己分析 Self-Analysis	自己分析の意味と方法 Significance and Methods of Self-Analysis
3	業界・企業研究 Industry and Company Research	業界・企業研究の方法と実践 Methods and Practice of Industry and Company Research
4	学生時代に力を入れたこと Activities You Were Committed to During Your Student Years	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
5	自己PR Self-Promotion (Self-PR)	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
6	志望動機 Motivation for Applying	効果的な書き方と内容の検討 Effective Writing Techniques and Content Consideration
7	エントリーシート Entry Sheet (ES)	エントリーシートの作成と相互検討 Entry Sheet Writing and Peer Review
8	履歴書 Resume (Rirekisho)	履歴書の作成と相互検討 Resume Writing and Peer Review
9	敬語 Keigo (Honorific Language)	敬語の種類と性質 Types and Characteristics of Keigo (Honorific Language)
10	Eメール Email	Eメールの書き方 How to Write an Email

11	面接 Interview	面接選考の種類と仕組み Types and Structure of Interview Selection
12	模擬面接 Mock Interview	模擬面接の実施・相互評価 Conducting Mock Interviews and Peer Evaluation
13	模擬面接 Mock Interview	模擬面接の実施・相互評価 Conducting Mock Interviews and Peer Evaluation
14	まとめと解説 Summary and Explanation	提出物の再検討 Review of Submitted Materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間である。

予習: 事前課題の実施

復習: 講義内容や活動の振り返り、課題の作成および提出準備

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: pre-assignment

Review: review of lecture content and activities, preparation of assignments and submissions

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。
Distributed as needed.

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド2027』日本学生支援機構
Job Hunting Guide for International Students
(https://www.jasso.go.jp/ryugaku/after_study_/job/guide.html)

【成績評価の方法と基準】

平常点: 30%

課題: 50%（ワークシート、振り返りシート、エントリーシート等）

模擬面接: 20%

Ordinary marks: 30%.

Assignments: 50% (e.g. worksheets, reflection sheets, entry sheets)

Mock interviews: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

就職活動時において必要な日本語運用力も養成できたのでよかったとの声が聞かれたため、就職活動に必要な基本的な知識を学ぶとともに日本語運用力を向上させる課題も取入れる。

There was the feedback that the course helped develop the Japanese language skills necessary for job hunting. Therefore, tasks aimed at improving Japanese proficiency will be incorporated alongside learning the fundamental knowledge required for job hunting.

【学生が準備すべき機器他】

なし。
Non applicable.

【その他の重要事項】

本科目は日本語非母語話者を対象とする。
This course is designed for non-native speakers of Japanese.

【Outline (in English)】

This course aims to equip international students with the necessary knowledge and Japanese language skills for job hunting in Japan. By understanding the structure of the Japanese job-hunting process and enhancing their listening, speaking, reading, and writing skills required at various stages, students will be better prepared for their future job search.

LANj300CA（日本語 / Japanese language education 300）
特別講義（ビジネス日本語B）
大石 有香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場面を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

次の2つである。

1. 敬語の性質と使い方を正しく理解し、状況や場面に応じて適切に使用できる。
2. 人の紹介、電話応対、Eメールの作成などを含め、日本語で適切にコミュニケーションを取ることができる。

This course has two goals.

1. Understand the nature and use of honorific expressions accurately and be able to use them appropriately according to the occasion and situation.
2. Be able to communicate appropriately in Japanese, including introducing people, answering the telephone and composing emails.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出は Google Classroom を通じて、フィードバックは次回授業内で行う。

Each class will follow a structure consisting of a lecture, discussions among students on assigned topics, and a class-wide sharing session. Assignments must be submitted via Google Classroom, and feedback will be provided in the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、尊敬語 Guidance, Sonkeigo (Respectful Language)	授業運営に関する説明、尊敬語の性質と使い方 Course Administration, Characteristics and Usage of Sonkeigo (Respectful Language)
2	謙譲語 Kenjōgo (Humble Language)	謙譲語の性質と使い方 Characteristics and Usage of Kenjōgo (Humble Language)
3	その他の敬語 Other Types of Keigo (Honorific Language)	丁寧語・美化語、うちそとと敬語の使い分け Teineigo and Bikago (Polite and Beautifying Language), and Distinguishing Keigo Usage Based on "Uchi" and "Soto"
4	言語表現の丁寧さ Politeness in Language Expressions	「丁寧さの原理」と表現の使い分け Principle of Politeness and Differentiation in Language Usage
5	敬語のまとめ Summary of Keigo (Honorific Language)	復習、使い分けの練習 Review and Practice of Usage Distinctions
6	敬語テスト、あいさつと紹介 Keigo Test, Greetings and Introductions	復習テストの実施、表現の検討とロールプレイ Review Test, Expression Analysis and Role-Playing
7	電話を受ける Receiving Phone Calls	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing
8	電話をかける Making Phone Calls	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing
9	訪問 Business Visits	表現の検討、ロールプレイ Expression Analysis and Role-Playing

10	ビジネスメール Business Emails	表現の検討、Eメールの作成 Expression Analysis and Email Writing
11	職場でのコミュニケーションのまとめ Summary of Workplace Communication	ロールプレイトストとフィードバック Role-Play Test and Feedback
12	プレゼンテーションの準備 Presentation Preparation	資料と原稿の作成 Preparation of Materials and Script
13	プレゼンテーション Presentation	プレゼンテーションの実施 Conducting the Presentation
14	まとめ Summary	授業全体の振り返りとフィードバック Overall Course Review and Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間である。

予習: 事前課題の実施

復習: 講義内容や活動の振り返り、課題の作成および提出準備

The standard preparation and review time for this lesson is 2 hours each.

Preparation: e.g. preparation of worksheets for the next activity.

Review: e.g. preparation of assignments, quizzes and tests.

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料配布する。

Materials will be distributed as needed.

【参考書】

『伸ばす！就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック【改訂版】』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2025年、1,980円（税込）ISBN 978-4-336-07728-8

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション: 20%

課題: 50%（状況や場面に応じた日本語運用課題）

平常点: 30%

Presentations: 20%,

Assignments: 50% (Japanese language operational tasks appropriate to the situation/occasion), Ordinary marks: 30%.

【学生の意見等からの気づき】

学生から要望したところ敬意表現が詳しく学べたのでよかったとの意見が寄せられた。今期も要望を取り入れながら進めていく。

Feedback indicated that students appreciated the opportunity to learn honorific expressions in greater detail as requested. In this course, we will continue this term by incorporating such requests into the class.

【学生が準備すべき機器他】

なし。

Non applicable.

【その他の重要事項】

本科目は日本語非母語話者を対象とする。

This course is designed for non-native speakers of Japanese.

【Outline (in English)】

This course aims to equip international students with the necessary Japanese language knowledge and fundamental communication skills for working in Japanese companies. Through lectures on keigo (honorific language) and practical exercises simulating workplace situations, students will develop the ability to respond appropriately to various challenges in a professional environment.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication I A
ROBERT A FORD
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business. Students will actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching videos, doing listening exercises, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities which will help them feel comfortable and confident using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given orally and/or on Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction.	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this course.
2	Unit 1-Career Choices.	Students will learn and use vocabulary related to skills and personal qualities. They will learn a range of phrases for giving advice and making suggestions.

3	Unit 1-Career Choices	Students will learn about making good first impressions and building and maintaining rapport. They will learn and use a range of expressions to start, close and show interest in conversations.
4	Unit 2-Business Sectors.	Students will learn and use vocabulary related to different business sectors and industries. They will practise using the Past Simple and Past Continuous to describe past events.
5	Unit 2-Business Sectors.	Students will learn about ways to take turns in meetings and study a range of expressions to both interrupt and manage interruptions in meetings.
6	Unit 3-Projects.	Students will learn and use vocabulary related to project management. They will learn how to and practise making comparisons.
7	Unit 3-Projects.	Students will learn and practise a range of phrases for giving and responding to instructions.
8	Unit 4-Global Markets.	Students will learn and use vocabulary related to global markets. Students will practise the past and present passive forms in speaking and writing.
9	Unit 4-Global Markets.	Students will examine different approaches of managing conversations and will learn and use a range of expressions to signal and respond to a change in topic. They will learn how to build consensus in a discussion.
10	Unit 4-Global Markets.	Project: Students will invent or adapt a product for a new market.
11	Presentations 1.	Students will form presentation groups, decide on a topic and begin research.
12	Presentations 2.	Students will continue with research and practise their presentations.
13	Presentations 3.	Students will have the opportunity to practise their presentations and then will give them.
14	Semester review and group discussions.	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

Business Partner B1, O'Keefe, M., Lansford, L., Wright, R., Frendo, E. & Wright, L. Publisher: Pearson. ISBN: 9781292233543

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Coursework : 30%

Presentations : 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

An online dictionary and thesaurus such as Collins is recommended.

【その他の重要事項】

Please join our Google Classroom page at:
<https://classroom.google.com/c/NzQ0ODA3NTIwNDY1?cjc=7tko4y4>

When you join please set your username in Romaji. This is very important as it is difficult to change later.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication I B
ROBERT A FORD
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business. Students will actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching videos, doing listening exercises, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities which will help them feel comfortable and confident using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given orally and/or on Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Semester introduction.	Semester introduction to topics and expectations of contributions students will be expected to make to this course.
2	Unit 5-Design and Innovation.	Students will learn and use vocabulary related to innovative product design. They will practise using the Present Perfect with 'just', 'already' and 'yet'.

3	Unit 5-Design and Innovation.	Students will learn about different approaches to giving information and will practise using a range of questions to ask for different kinds of information. They will practise using a range of expressions to describe the features and benefits of a product and write a review of it.
4	Unit 6-Safety and Security.	Students will learn and use vocabulary related to health and safety at work. They will practise a range of modal verbs to talk about prohibition, obligation and no obligation in the past and present.
5	Unit 6-Safety and Security.	Students will learn how to deal with disagreements and conflicts. They will learn a range of expressions to discuss rules and requirements and learn how to suggest resolutions to conflicts.
6	Unit 7-Customer Service.	Students will learn and use vocabulary related to customer service and examine a range of complaints.
7	Unit 7-Customer Service.	Students will learn how to and practise responding to customer concerns. They will learn a range of expressions to manage customer relationships and support colleagues.
8	Unit 8-Communication.	Students will learn and use vocabulary related to office communication. They will learn and practise first and second conditionals to talk about likely and unlikely situations.
9	Unit 8-Communication.	Learners will examine ways to close a deal in a simple negotiation. They will learn and use a range of expressions to set and discuss priorities.
10	Unit 8-Communication.	Communication Survey. Students will carry out a survey on communication and report their findings.
11	Presentations 1.	Students will form presentation groups, decide on a topic and begin research.
12	Presentations 2.	Students will continue with research and practise their presentations.
13	Presentations 3.	Students will have the opportunity to practise their presentations and then will give them.

14	Semester review and group discussions.	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

Business Partner B1, O'Keefe, M., Lansford, L., Wright, R., Frendo, E. & Wright, L. Publisher: Pearson. ISBN: 9781292233543

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Coursework : 30%

Presentations : 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

An online dictionary and thesaurus such as Collins is recommended.

【その他の重要事項】

Please join our Google Classroom page at: <https://classroom.google.com/c/NzQ0ODA3NTIwNDY1?cjc=7tko4y4>

When you join please set your username in Romaji. This is very important as it is difficult to change later.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication I A
MARK W CRAIG
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will actively participate in a wide variety of activities designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening, reading, writing, and discussing topics related to business within a classroom environment. Students will be given homework and assignments.

Students are required to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course may be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Class instructions, individual tasks, pair work, group work, listening exercises and presentations. Feedback for class assignments and tests will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction; Unit 1 - Global Marketings	Introductions. Course overview and explanation of syllabus, course goals, guidelines and grading. Students will complete various exercises for each Unit, in grammar, vocabulary, work skills, and functions, starting with: Textbook Chapter 1 - Marketing Mix in Emerging Countries
2	Unit 1 - Global Marketings	Chapter 2 - Confectionary Marketing in Overseas Business
3	Unit 1 - Global Marketings	Chapter 3 - Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value
4	Unit 1 - Global Marketings	Chapter 4 - Globalization or Localization

5	Unit 2 - Global Strategies	Chapter 5 - Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger
6	Unit 2 - Global Strategies	Chapter 6 - Countering Innovators' Dilemma
7	Unit 2 - Global Strategies	Chapter 7 - Enhancing Internal Communication of a Global Company
8	Unit 2 - Global Strategies	Chapter 8 - Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry
9	Unit 3 - Global Luxury Brand from Japan	Chapter 9 - Most Luxurious and Practical Accommodations
10	Unit 3 - Global Luxury Brand from Japan	Chapter 10 - Creating a Japanese Luxury Brand.
11	Unit 3 - Global Luxury Brand from Japan	Chapter 11 - The Species That Survives is the One That is the Most Adaptable to Change
12	Unit 4- Global Business with Sustainable Development Goals	Chapter 12 - Business Enhancing Sustainable Development Goals; &Chapter 13 - Connecting People with What's Happening
13	Unit 4- Global Business with Sustainable Development Goals	Chapter 14 - Uniting the World for a Better Tomorrow; &Chapter 15 - Developing a Mobile Platform
14	Student individual presentations	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting business/economics/international relations topic of their choice. A Q&A and brief discussion will follow,

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for revision of class materials and preparation for presentations has a minimum recommendation of 2 hours per week.

Students should regularly access English-language news websites such as NHK World, BBC World News, ABC News Australia etc. to practice their English skills, and gain knowledge of current affairs to support their class discussions.

【テキスト（教科書）】

Global Business Case Studies, by Yasuo Nakatani & Ryan Smithers; Seibido, 2023. ISBN 9784791972661 2,640 yen. Students are required to bring their own textbook to each class, or else participation points may be deducted from their grade.

【参考書】

A good English Advanced Language Learners' Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities: 30%
Class Assignments: 40%
Class Presentations: 30%
TOTAL: 100%

【学生の意見等からの気づき】

Changes will be incorporated based on responses in the end of semester student survey.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to a PC or laptop to prepare Powerpoint presentations.

【その他の重要事項】

Expectations of students:

1. Actively participate in every class, and always follow the instructor's instructions.
2. Finish all homework and assignments on time.
3. Contribute to a positive and supportive class environment
4. Stay awake during class.
5. Use only English in class.
6. Be on time for class. Students who are more than 20 minutes late without an acceptable excuse, such as transport delay, will be considered absent for that class. Students with over five absences will be considered to have withdrawn from the class, and will not receive a passing grade.
7. If a SHORT emergency bathroom break is required, ask the instructor's permission first before leaving class.
8. Bring the textbook to EVERY class - students may have Participation points deducted if they do not bring their OWN textbook to class.
9. Do not copy work from other students - copying will be considered academic misconduct.

Limited use of Artificial Intelligence (AI) as a research tool is permitted, but students are NOT allowed to use AI to write their assignments - if they do so, it will be considered academic misconduct.

Students need to reference whenever AI is used, such as; 'I used Chat GPT to search for these sources', 'I used Grammarly to check my spelling' etc.

10. Students need to inform the instructor and provide appropriate documentation if they cannot attend class due to medical reasons, or for official job-hunting or Hosei team sport requirements. Students can contact the instructor if required outside of class hours at the following email address: mark.craig.85@hosei.ac.jp

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication I B
MARK W CRAIG
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business within a classroom environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

Classroom instruction, individual tasks, pair work, group work, listening exercises and presentations. Feedback for class assignments and presentations will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	CHAPTER 1: Social Life & Culture	Students will complete various exercises for each Unit, in grammar, vocabulary, work skills, and functions, Starting with textbook Unit 1 - Female Rickshaw Pullers Wow Tourists in Japan
2	CHAPTER 1: Social Life & Culture	Unit 2 - Tokyo's Trash-Picking Samurais Keep Streets Clean
3	CHAPTER 1: Social Life & Culture	Unit 3 - Japan Says"Overtourism"Is Spoiling Mt. Fuji
4	CHAPTER 2: Business & Consumption	Unit 4 - China Issues Rules to Curb Gaming Spend
5	CHAPTER 2: Business & Consumption	Unit 5 - McDonald's Gets a Taste for China Growth

6	CHAPTER 2: Business & Consumption	Unit 6 - Italian Cheese Makers Fight Fakes With Microchips
7	CHAPTER 3: Health &Medicine	Unit 7 - Customers Nap While Standing at a Tokyo"Sleep Cafe"
8	CHAPTER 3: Health &Medicine	Unit 8 - AI-Powered Facial Recognition System Reads Vital Signs
9	CHAPTER 3: Health &Medicine	Unit 9 - Inside Gym Classes in the Metaverse
10	CHAPTER 4: Science & Technology	Unit 10 - Multi-Tasking Robot Hopes to Revolutionize City Living
11	CHAPTER 4: Science & Technology	Unit 11 - Solar-Powered Cars Race Through Australian Outback &Unit 12 - World's First Liquid Hydrogen-Powered Plane Unveiled
12	CHAPTER 5: Wildlife & Environment	Unit 13 - Benin Entrepreneur Harnesses Biowaste to Power Homes, Farms
13	CHAPTER 5: Wildlife & Environment	Unit 14 - Trafficked Wildlife Find Safe Haven at US Zoos; &Unit 15 - Lake Geneva's Plastic Pollution as High as World's Oceans
14	Final Presentations	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting business/economics/international relations topic of their choice. A Q&A and brief discussion will follow,

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for revision of class materials and preparation for presentations has a minimum recommendation of 2 hours per week.

Students should regularly access English-language news websites such as NHK World, BBC World News, ABC News Australia etc. to practice their English skills, and gain knowledge of current affairs to support their class discussions.

【テキスト（教科書）】

Reuters Global News Feed, by Kobayashi Toshihiko and Bill Benfield (2025), Seibido. ISBN 9784791973118. 2,860 yen.

Students are required to bring their own textbook to each class, or else participation points may be deducted from their grade.

【参考書】

A good English Advanced Language Learners' Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 30%

Class assignments: 30%

Presentations : 40%

TOTAL: 100%

【学生の意見等からの気づき】

Changes will be taken into consideration following student feedback at the end of semester.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to a PC or laptop to prepare Powerpoint-erere presentations.

【その他の重要事項】

Expectations of students:

1. Actively participate in every class, and always follow the instructor's instructions.
2. Finish all homework and assignments on time.

3. Contribute to a positive and supportive class environment
4. Stay awake during class.
5. Use only English in class.
6. Be on time for class. Students who are more than 20 minutes late without an acceptable excuse, such as transport delay, will be considered absent for that class. Students with over five absences will be considered to have withdrawn from the class, and will not receive a passing grade.
7. If a SHORT emergency bathroom break is required, ask the instructor's permission first before leaving class.
8. Bring the textbook to EVERY class - students may have Participation points deducted if they do not bring their OWN textbook to class.
9. Do not copy work from other students - copying will be considered academic misconduct.
Limited use of Artificial Intelligence (AI) as a research tool is permitted, but students are NOT allowed to use AI to write their assignments - if they do so, it will be considered academic misconduct.
Students need to reference whenever AI is used, such as; 'I used Chat GPT to search for these sources', 'I used Grammarly to check my spelling' etc.
10. Students need to inform the instructor and provide appropriate documentation if they cannot attend class due to medical reasons, or for official job-hunting or Hosei team sport requirements. Students can contact the instructor if required outside of class hours at the following email address: mark.craig.85@hosei.ac.jp

LANe300CA (英語 / English language education 300)
Business Communication II A
島田 昭仁
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to help IGESS students gain a deeper understanding of the connections between the global economy and the environment through the study of one specific field, digital transformation (DX). Over the course of the semester, students analyze the environmental and social impacts of this field and consider what is being done (or not being done) to make it more sustainable.

【到達目標】

By the end of the course, IGESS students acquire a broad understanding of some of the major economic and social issues facing the global DX field and the environmental implications of its business model.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course is mainly lecture - based, with the instructor providing explanations and analysis of the major themes. Limited opportunities for student presentations or discussions may be included to reinforce key concepts.

*Feedback on assignments will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course explanation, expectations, self-introductions, etc.
2	The impact of technology on near - future industries	From the Internet to IOWN: exploring the history of communication technologies
3	Communication and Sustainability	The business model of the communication industry
4	What is the Internet?	Case Study of TRON in Japan in the 1980s
5	Basics of Communication Technologies I	What are sampling, quantization, and digitization?
6	Basics of Communication Technologies II	How Packet Communication Works
7	Basics of Communication Technologies III	What is needed to access Internet services
8	Basics of Communication Technologies IV	What is the seven - layer Internet model
9	Basics of Communication Technologies V	What is LPWA (Low Power Wide Area)?

10	What is Society 5.0	5G and Its Impact on Society
11	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
12	What is IOWN × TRON, and how are they connected?	Communication Networks That Do Not Require Data Centers
13	Challenges and Future Prospects of Communication Technologies	What Are Decentralized Network Systems and DAOs?
14	Business and sustainability	Final wrap up and review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
 - (2) Gathering knowledge about TRON
 - (3) Pay attention to articles related to DX
- Since the spring semester focuses on the DX industry and its impact on the environment and society, having an interest in these themes is preferable.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided via Hoppii.

【参考書】

Selected references:

※ Not required to purchase

- (1) Tron Project 1990: Open-Architecture Computer Systems (Proceedings of the Seventh TRON Project Symposium)
- (2) Volume 28: Internet of Things

【成績評価の方法と基準】

- (1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
- (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on the assessment conducted in Week 11 in order to pass the course.

【学生の意見等からの気づき】

None. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

Due to the small class size, students should notify the instructor before the start of class if they are unable to attend. This course is designed for IGESS students who are earning their BA degree in English. Japanese language degree students in the economics department or others may enroll with permission from the instructor. The course is conducted online.

LANe300CA (英語 / English language education 300)

Business Communication II A

島田 昭仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：火2/Tue.2 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to help IGESS students gain a deeper understanding of the connections between the global economy and the environment through the study of one specific field, digital transformation (DX). Over the course of the semester, students analyze the environmental and social impacts of this field and consider what is being done (or not being done) to make it more sustainable.

【到達目標】

By the end of the course, IGESS students acquire a broad understanding of some of the major economic and social issues facing the global DX field and the environmental implications of its business model.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course is mainly lecture - based, with the instructor providing explanations and analysis of the major themes. Limited opportunities for student presentations or discussions may be included to reinforce key concepts.

*Feedback on assignments will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course explanation, expectations, self-introductions, etc.
2	The impact of technology on near - future industries	From the Internet to IOWN: exploring the history of communication technologies
3	Communication and Sustainability	The business model of the communication industry
4	What is the Internet?	Case Study of TRON in Japan in the 1980s
5	Basics of Communication Technologies I	What are sampling, quantization, and digitization?
6	Basics of Communication Technologies II	How Packet Communication Works
7	Basics of Communication Technologies III	What is needed to access Internet services
8	Basics of Communication Technologies IV	What is the seven - layer Internet model

9	Basics of Communication Technologies V	What is LPWA (Low Power Wide Area)?
10	What is Society 5.0	5G and Its Impact on Society
11	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)
12	What is IOWN × TRON, and how are they connected?	Communication Networks That Do Not Require Data Centers
13	Challenges and Future Prospects of Communication Technologies	What Are Decentralized Network Systems and DAOs?
14	Business and sustainability	Final wrap up and review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
- (2) Gathering knowledge about TRON
- (3) Pay attention to articles related to DX

Since the spring semester focuses on the DX industry and its impact on the environment and society, having an interest in these themes is preferable.

Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided via Hoppii.

【参考書】

Selected references:

※ Not required to purchase

- (1) Tron Project 1990: Open-Architecture Computer Systems (Proceedings of the Seventh TRON Project Symposium)
- (2) Volume 28: Internet of Things

【成績評価の方法と基準】

- (1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
- (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on the assessment conducted in Week 11 in order to pass the course.

【学生の意見等からの気づき】

None. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

Due to the small class size, students should notify the instructor before the start of class if they are unable to attend. This course is designed for IGESS students who are earning their BA degree in English. Japanese language degree students in the economics department or others may enroll with permission from the instructor. The course is conducted online.

LANe300CA (英語 / English language education 300)

Business Communication II B

島田 昭仁

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：火2/Tue.2 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to help IGESS students learn about entrepreneurship and the startup ecosystem in Japan. In this course, they consider why entrepreneurial activity has been increasing in recent years and how these developments are influencing business practices and social norms.

【到達目標】

By taking this course, IGESS students can become familiar with key issues shaping Japan's startup ecosystem and how these developments are influencing society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students receive short lectures and participate in class discussions. The course primarily focuses on instructor-led lectures that introduce key concepts and issues related to entrepreneurship and the startup ecosystem in Japan. Feedback on assignments will be given in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Fundamentals of company formation I	Entrepreneurship and shareholding ratios
3	Fundamentals of company formation II	How to balance investment and loans
4	Fundamentals of company formation III	An Introduction to Boutique Investment Banks Using an SPC Model
5	High- potential areas for startups I	What Is a Smart City
6	High- potential areas for startups II	What is the J-Credit Scheme?
7	High- potential areas for startups III	Applications of Unmanned Aerial Vehicles
8	High- potential areas for startups IV	How about Japan's defense industry
9	High- potential areas for startups V	Thinking about Social Business-Introduction to Fair Trade Towns

10	Japan's workplace environment I	Why is Japan behind in the adoption of LLM- based AI?
11	Japan's workplace environment II	Reflecting on Japanese companies in the Showa era through NHK's Project X
12	Assessment 2	Wrap-up and in-class writing assignment
13	Issues in Japanese business	Student presentations and discussion – Starting a Business in Japan: What Would You Do?
14	Issues in Japanese business: final wrap up and review	Student presentations and discussion/wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
- (2) Reading recent business news
- (3) Preparing for class activities

Since the main theme of the fall semester is entrepreneurship, students who are interested in working for IT companies or startups after graduation would benefit from taking this course.

Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be available on Hoppii.

【参考書】

- (1) Same as the spring semester
- (2) Other references:
Please search for and watch Airbnb's pitch deck.

【成績評価の方法と基準】

- (1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
- (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

Due to the small class size, students should always notify the instructor before the start of class if they are unable to attend. This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economics department or others may enroll with permission from the instructor. This course conducted online.

LANe300CA (英語 / English language education 300)
Business Communication II B
島田 昭仁
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to help IGESS students learn about entrepreneurship and the startup ecosystem in Japan. In this course, they consider why entrepreneurial activity has been increasing in recent years and how these developments are influencing business practices and social norms.

【到達目標】

By taking this course, IGESS students can become familiar with key issues shaping Japan's startup ecosystem and how these developments are influencing society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students receive short lectures and participate in class discussions. The course primarily focuses on instructor-led lectures that introduce key concepts and issues related to entrepreneurship and the startup ecosystem in Japan. Feedback on assignments will be given in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Fundamentals of company formation I	Entrepreneurship and shareholding ratios
3	Fundamentals of company formation II	How to balance investment and loans
4	Fundamentals of company formation III	An Introduction to Boutique Investment Banks Using an SPC Model
5	High- potential areas for startups I	What Is a Smart City
6	High- potential areas for startups II	What is the J-Credit Scheme?
7	High- potential areas for startups III	Applications of Unmanned Aerial Vehicles
8	High- potential areas for startups IV	How about Japan's defense industry
9	High- potential areas for startups V	Thinking about Social Business-Introduction to Fair Trade Towns
10	Japan's workplace environment I	Why is Japan behind in the adoption of LLM- based AI?

11	Japan's workplace environment II	Reflecting on Japanese companies in the Showa era through NHK's Project X
12	Assessment 2	Wrap-up and in-class writing assignment
13	Issues in Japanese business	Student presentations and discussion – Starting a Business in Japan: What Would You Do?
14	Issues in Japanese business: final wrap up and review	Student presentations and discussion/wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei

(2) Reading recent business news

(3) Preparing for class activities

Since the main theme of the fall semester is entrepreneurship, students who are interested in working for IT companies or startups after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be available on Hoppii.

【参考書】

(1) Same as the spring semester

(2) Other references:

Please search for and watch Airbnb's pitch deck.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

Due to the small class size, students should always notify the instructor before the start of class if they are unable to attend. This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economics department or others may enroll with permission from the instructor.
This course conducted online.

LANe300CA (英語 / English language education 300)
Business Communication II A
MARK OSELAND
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business language. Students will practice various English communication skills used in everyday business tasks, meetings and presentations. The course will use a proven pre-career Business English textbook, supplementary worksheets and suitable business news articles.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skills by practicing authentic business activities. Students will learn how to interact with international business people using spoken and written English (email).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

Z その他 /Other、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will role play basic Business English scenarios, listen to authentic business conversations and complete pairwork, small group and whole class communication activities. The primary tasks are: learning how to introduce company colleagues, make small talk, make a company orientation presentation and how to write business email. The teacher will provide guidance and structure for English vocabulary learning and how to complete these tasks. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions
2	Welcome to the company I.	Small talk. Making Introductions.
3	Welcome to the company II.	Breaking the Ice. Participating in an ice-breaking session.
4	An Important Visitor I.	Presenting information. Guiding a visitor.
5	An Important Visitor II.	Talking about stereotypes. Practising an orientation for foreign students.
6	What's on the agenda? I.	Running meetings. Practising opening a meeting.
7	What's on the agenda? II	Practising decision making. Completing an office re-design activity.

8	That's a great idea! I	Discussing ideas. Role playing agreeing and disagreeing.
9	That's a great idea II	Talking about meeting styles. Planning shops and restaurants to include in a supermarket.
10	I'll you back. I	Leaving telephone messages. Role playing leaving and taking messages.
11	I'll call you back II	Preparing for a teleconference. Taking part in a small meeting and delegating tasks.
12	Can I get there on foot? I	Checking into hotels and asking for directions role plays.
13	Can I get there on foot? II	Non-verbal communication and body language activities. Using gestures.
14	In class presentation on a job you would like to do or a company you would like to join	Final Presentations in class using a PC and PPT or Google Slides.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will include completing short writing tasks on Google Classroom, preparing short speeches on business topics and preparing to make a final presentation at the end of the semester.

【テキスト（教科書）】

Get Ready for International Business (English for the Workplace With extra practice for the TOEIC Exam) Students Book 2 by Andrew Vaughan and Dorothy E. Zemach ISBN: 9780230447912

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation 60%

Homework 20%

Final presentation 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook and pens/pencils to class and a computer (Chromebook is fine also) when preparing for the final presentation.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills. The level is CEFR B1 which is intermediate.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in international communication..

LANe300CA (英語 / English language education 300)
Business Communication II B
MARK OSELAND
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business language. Students will practice various English communication skills used in everyday business tasks, meetings and presentations. The course will use a proven pre-career Business English textbook, supplementary worksheets and suitable business news articles.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skills by practicing authentic business activities. Students will learn how to interact with international business people using spoken and written English (email).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

Z その他 /Other、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will role play basic Business English scenarios, listen to authentic business conversations and complete pair-work, small group and whole class communication activities. The primary tasks are: learning how to introduce company colleagues, make small talk, make a company orientation presentation and how to write business email. The teacher will provide guidance and structure for English vocabulary learning and how to complete these tasks. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions
2	Best Wishes, Thomas Kale. I	Understanding emails. Writing emails.
3	Best Wishes, Thomas Kale. II.	Listening to a conversation about business email. Practising clarification expressions.
4	That's a good question! I.	Listening to simple business presentations and giving feedback.
5	That's a good question II.	Giving a simple presentation. Individual short speeches coaching and practice.
6	What was his major? I.	Discussing job applications. Talking about jobs. Completing a worksheet.
7	What was his major? II	Reading and writing a CV/Resume.

8	Tell me about yourself. I.	Preparing to be interviewed. Talking about yourself.
9	Tell me about yourself. II	Completing an in-class job interview. (Small group work).
10	They're too expensive. I.	Discussing and selecting suitable business gifts. Listening to an office discussion.
11	They're too expensive II.	How to avoid making cultural mistakes in business. Explaining mistakes/Making apologies.
12	I need to work harder. I.	Preparing for a performance review. Talking about your strengths and weaknesses.
13	I need to work harder II.	Role-playing a performance review and responding to positive and negative feedback.
14	A final presentation on a job you would like to do or a company you would like to work for.	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will include completing short writing tasks on Google Classroom, preparing short speeches on business topics and preparing to make a final presentation at the end of the semester.

【テキスト（教科書）】

Get Ready for International Business (English for the Workplace With extra practice for the TOEIC Exam) Students Book 2 by Andrew Vaughan and Dorothy E. Zemach ISBN: 9780230447912

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation 60%
Homework 20%
Final presentation 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook and pens/pencils to class and a computer (Chromebook is fine also) when preparing for the final presentation.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills. The level is CEFR B1 which is intermediate.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in international communication.

LAW200CA（法学 / law 200）
日本国憲法A
村元 宏行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいるが、どの学問分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、春期科目として人権を主にとりあげ（秋期科目で統治機構を扱う）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（人権）について理解できる。
現実には生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講に際しての諸注意など。
第2回	憲法とは何か	立憲主義について学ぶ。
第3回	日本国憲法の誕生	憲法の制定過程について学ぶ。
第4回	国民主権と象徴天皇制	国民主権の意義や象徴天皇制の概要を学ぶ。
第5回	憲法9条と平和主義（その1）	憲法9条制定の背景等を学ぶ。
第6回	憲法9条と平和主義（その2）	憲法9条をめぐる裁判等について学ぶ。
第7回	基本的人権（基本的人権とは）	憲法で基本的人権が保障されている意義について学ぶ。
第8回	基本的人権（基本的人権の類型と人権保障の限界）	自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。
第9回	基本的人権（包括的基本権）	憲法13条の幸福追求権について学ぶ。
第10回	基本的人権（自由権 その1）	精神的自由権について学ぶ。
第11回	基本的人権（自由権 その2）	人身の自由と経済的自由権について学ぶ。
第12回	基本的人権（社会権 その1）	生存権について学ぶ。
第13回	基本的人権（社会権 その2）	教育を受ける権利、勤労の権利について学ぶ。
第14回	基本的人権（参政権）、国民の義務	選挙権などの参政権と、国民の義務について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。
小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを利用する。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the fundamental principle of constitutionalism.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200CA（法学 / law 200）	
日本国憲法B	
村元 宏行	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいるが、どの分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、秋学期授業として統治機構を主にとりあげ（人権は春学期に取り上げる）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（統治機構）について理解できる。
現実には生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、統治制度と権力分立制	権力分立制の意義について学ぶ。
第2回	立法権（その1）	立法権について概要を学ぶ。
第3回	立法権（その2）	立法権を担う国会の諸問題について学ぶ。
第4回	行政権（その1）	行政権についてその範囲や概要を学ぶ。
第5回	行政権（その2）	行政権を担う内閣や、行政機関をめぐる諸問題について学ぶ。
第6回	司法権（その1）	司法権の独立など、司法権の概要を学ぶ。
第7回	司法権（その2）	司法権を担う裁判所をめぐる諸問題を学ぶ。
第8回	地方自治	地方自治の本旨や、地方自治をめぐる諸問題を学ぶ。
第9回	財政	財政民主主義など、財政規定の概要を学ぶ。
第10回	憲法改正（その1）	憲法改正について、議論の変遷を学ぶ。
第11回	憲法改正（その2）	憲法改正をめぐる現代的争点を学ぶ。
第12回	憲法をめぐる現代的課題（その1）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題を取り上げて学ぶ。
第13回	憲法をめぐる現代的課題（その2）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題をもう一つ取り上げて学ぶ。
第14回	授業のまとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。
小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを利用する。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the separation of powers.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200CA (法学 / law 200)
民法一部A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、市場におけるあらゆる経済取引に共通する「総則」を中心に学ぶ。また、売買や賃貸借といった契約の効果（所有権や占有権の移転）に関わる「物権」法との関連性に意識が向けられる。

【到達目標】

民法総則(民法典第1編)について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行いながら知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民法概論	民法とは何か
第2回	総則①	契約の成立
第3回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第4回	総則③	意思表示（2）錯誤
第5回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第6回	総則⑤	権利の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第7回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第8回	総則⑦	代理（2）無権代理
第9回	総則⑧	代理（3）表見代理
第10回	総則⑨	法人制度概論
第11回	総則⑩	法人
第12回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第13回	総合①	物権法導入
第14回	総合②	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15％）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート又は試験）による評価（85％）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用（図解）に心掛ける。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an understanding of contract law, and examination of personal property law in the context of commercial transactions. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report or examination: 85%)

LAW200CA（法学 / law 200）
民法一部B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

物権（第2編第1，2，3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

物権法について、あらかじめ配信されたレジュメの流れに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、講義の中で説明が行われる。受講生は毎回の授業の終了後、再び自らの力で解答を行い、知識の定着を確実に図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総則1	契約の効力発生時期
第2回	総則2	時効（1）時効制度概論
第3回	総則3	時効（2）効果、援用権者、法律行為論
第4回	物権①	物権制度概論
第5回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（1）
第6回	物権③	所有権の効力（2）物権的請求権
第7回	物権④	所有権の取得
第8回	物権⑤	共同所有関係
第9回	物権⑥	占有権（1）
第10回	物権⑦	占有権（2）
第11回	物権⑧	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第12回	物権⑨	物権変動（2）對抗要件主義
第13回	物権⑩	物権変動（3）動産物権変動、公信の原則
第14回	総合	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、毎回、学習支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布されるレジュメの穴埋め課題（平常点）（15％）と学期末に課される「秋学期最終課題」（レポートまたは試験）による評価（85％）

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に関心がある。

【Outline (in English)】

The core of the course involves an examination of property law in the context of commercial transactions. The expected outcomes will be understanding of how property law interrelates with contract law, and understanding of basic concepts of the general civilian idea of 'contract' and of the civilian contract of sale in particular. Classes will be conducted in a lecture format using handouts that can be downloaded on Hoppii in advance. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 15%, Final report or examination: 85%)

(2024 年度以前入学生) LAW300CA / (2025 年度以降入学生) LAW200CA

民法二部A

菅 富美枝

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、取引に直接関係する債権法（①契約法総論、②契約法各論）と、契約関係にないにもかかわらず義務を負う場合として不当利得法、不法行為法について学ぶ。

【到達目標】

①取引を行うにあたって、トラブル発生に備えて、また、トラブルが発生した場合の解決方法として、契約法を修得する。
②契約関係にない場合であっても義務を負う例外として、不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	契約法総論①	契約法とは何か
第2回	契約法総論②	契約法序説、契約の成立
第3回	契約法総論③	契約の効力
第4回	契約法総論④	契約の解除
第5回	契約法各論①	贈与・売買
第6回	契約法各論②	売主の契約不適合責任
第7回	契約法各論③	買戻し、交換、消費貸借
第8回	契約法各論④	使用貸借、質貸借
第9回	契約法各論⑤	賃貸人と賃借人の権利義務関係
第10回	契約法各論⑥	雇用、請負、委任、寄託その他
第11回	法定債権①	事務管理、不当利得
第12回	法定債権②	特殊不当利得、不法原因給付
第13回	法定債権③	不法行為の意義、成立要件
第14回	法定債権④	不法行為の効果、特殊な不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）

池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）

内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

春学期最後に出される課題の成績(70%)と、毎回の復習課題の提出状況及び内容(30%)による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのPDFファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoomが視聴できる通信環境。

【その他の重要事項】

「法学B」または「民法1部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on legal obligation which mainly emerges from contracts. Students also learn about law of obligation which involves tort and unjust enrichment in the absence of any contractual relationships. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session.

Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

(2024 年度以前入学生) LAW300CA / (2025 年度以降入学生) LAW200CA
民法二部B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権総論、保証制度、担保物権制度など、民法の中でも、資金調達や金融に関わる分野について広く学ぶ。

【到達目標】

事業拡大のための融資・借入れの仕組み、そのための担保制度の仕組みを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	債権総論①	債権総論序説、債権の目的
第2回	債権総論②	債権の効力（1）強制履行・債務不履行
第3回	債権総論③	債権の効力（2）損害賠償
第4回	債権総論④	受領遅滞、弁済
第5回	債権総論⑤	責任財産の保全（1）債権者代位権
第6回	債権総論⑥	責任財産の保全（2）詐害行為取消権
第7回	債権総論⑦	多数当事者の債権関係（1）分割債務・不可分債務
第8回	債権総論⑧	多数当事者の債権関係（2）連帯債務
第9回	債権総論⑨	多数当事者の債権関係（3）保証債務・連帯保証債務
第10回	債権総論⑩	債権譲渡
第11回	債権総論⑪	債務の移転、契約譲渡、相殺
第12回	担保物権①	抵当権
第13回	担保物権②	法定地上権
第14回	担保物権③	譲渡担保、留置権、先取特権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書(いずれの出版社のものでもよい)

【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）

池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）

内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最後に出される課題の成績(70%)と、毎回の復習課題の提出状況及び内容(30%)による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのPDFファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoomが視聴できる通信環境。

【Outline (in English)】

This course focuses on legal obligation which mainly emerges from contracts of financial services. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market. Classes will be recorded and made available online for students to learn on demand. Homework assignments should be done regularly soon after each session. Grading Criteria (Homework: 30%, Final report: 70%)

(2024 年度以前入学生) LAW200CA / (2025 年度以降入学生) LAW300CA	
商法一部A	
笹久保 徹	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

- ・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株主総会1	株主総会の権限等の解説
第4回	株主総会2	株主総会の議事等の解説
第5回	株主総会3	株主総会の決議等の解説
第6回	取締役1	取締役の権限等の解説
第7回	取締役2	取締役会の決議等の解説
第8回	取締役3	代表取締役の解説
第9回	取締役4	取締役の義務の解説
第10回	取締役5	取締役の会社に対する責任の解説
第11回	取締役6	責任追及の方法の解説
第12回	取締役7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第13回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第14回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回につき、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

- ・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
- ・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
- ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法2026 令和8年版』（三省堂、2025）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）及び平常点（30％）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【注意】授業に出席しない学生が本講義の単位を取得することは困難である。授業に出席するつもりのない学生は本講義を登録しないこと。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【注意】本講義は法律系の科目であり、授業に出席しないで単位を取得することは困難となる。授業に出席するつもりのない学生は本講義を登録しないこと。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

(2024 年度以前入学生) LAW200CA / (2025 年度以降入学生) LAW300CA
商法一部B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

- ・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第2回	会社法 総論	設立の概要に関する解説
第3回	株式会社の設立1	設立手続きの解説
第4回	株式会社の設立2	設立の瑕疵に関する解説
第5回	株式会社の設立3	設立の論点に関する解説
第6回	株式会社の設立4	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第7回	株式1	株式の内容・種類の解説
第8回	株式2	株主名簿・株券の解説
第9回	株式3	株式譲渡の解説
第10回	株式4	株式併合・分割等の解説
第11回	募集株式1	募集株式の概要の解説
第12回	募集株式2	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第13回	募集株式3	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第14回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

- ・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
- ・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
- ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法2026 令和8年版』（三省堂、2025）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）及び平常点（30％）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【注意】授業に出席しない学生が本講義の単位を取得することは困難である。授業に出席するつもりのない学生は本講義を登録しないこと。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【注意】本講義は法律系の科目であり、授業に出席しないで単位を取得することは困難となる。授業に出席するつもりのない学生は本講義を登録しないこと。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA（法学 / law 300）
商法二部A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概要	ガイダンス、法律学一般の解説。
第2回	商法の意義と法源	商法の意義と法源を解説する。
第3回	商人と商行為1	商人について解説する。
第4回	商人と商行為2	商行為を解説する。
第5回	商号1	商号の意義を解説する。
第6回	商号2	商号を解説する。
第7回	商業登記	商業登記を解説する。
第8回	商業使用人1	支配人を解説する。
第9回	商業使用人2	支配人以外の商業使用人を解説する。
第10回	代理商	代理商を解説する。
第11回	営業1	営業の概要を解説する。
第12回	営業2	営業譲渡を解説する。
第13回	商業帳簿	商業帳簿を解説する。
第14回	商法総則 事例研究	重要判例を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『商法総則・商行為法』（三省堂テミス）（三省堂、2024）

【参考書】

- ・神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリストNo.243）（有斐閣、2019年）
- ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法2026 令和8年版』（三省堂、2025）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）及び平常点（30％）による。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【注意】授業に出席しない学生が本講義の単位を取得することは困難である。授業に出席するつもりでない学生は本講義を登録しないこと。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済み前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【注意】本講義は法律系の科目であり、授業に出席しないで単位を取得することは困難となる。授業に出席するつもりでない学生は本講義を登録しないこと。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA（法学 / law 300）
商法二部B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。本授業の受講生は、春学期の「商法二部A」を受講していることが望ましいが、本授業から受講してもかまわない。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、春学期の復習	ガイダンスおよび春学期の復習。
第2回	商行為法 総則1	商行為法の概論の解説。
第3回	商行為法 総則2	商行為の代理等の解説。
第4回	商事売買1	商事売買の概論の解説。
第5回	商事売買2	買主の義務等の解説。
第6回	匿名組合	匿名組合の解説。
第7回	運送営業1	物品運送の解説。
第8回	運送営業2	旅客運送の解説。
第9回	寄託	寄託の解説。
第10回	仲立営業	仲立営業等の解説。
第11回	運送取扱営業	運送取扱営業の解説。
第12回	倉庫営業	倉庫営業の解説。
第13回	交互計算	交互計算の解説。
第14回	商行為法 事例研究	重要判例の解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『商法総則・商行為法』（三省堂テミス）（三省堂、2024）

【参考書】

- ・神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリストNo.243）（有斐閣、2019年）
- ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法2026 令和8年版』（三省堂、2025）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）及び平常点（30％）による。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【注意】授業に出席しない学生が本講義の単位を取得することは困難である。授業に出席するつもりでない学生は本講義を登録しないこと。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は、最新の六法を持参すること。六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。

本授業は「商法一部（会社法）」の履行済みを前提としていないため、両授業を並行して履行してもかまわない。

【注意】本講義は法律系の科目であり、授業に出席しないで単位を取得することは困難となる。授業に出席するつもりでない学生は本講義を登録しないこと。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA (法学 / law 300)
経済法A
杉崎 弘
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法、特にその中核をなす独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれ、事業活動の全般に適用される基本的なルールを定めたものとなっています。そのため、講義は独占禁止法の解説（解釈論）を中心に行います。ただし、同法の背景にある市場経済のシステムとその問題点を理解するうえで、会社法をはじめとする他の企業法の知識も欠かせません。講義では、企業法に広く目配りをし、経済社会の主要な法制度を俯瞰的に把握できるようになることを目指します。

【到達目標】

独占禁止法とは、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」を指します。この講義では、この名称が示す「私的独占」の規制を出発点として、「不当な取引制限」、企業結合の各規制に関する根拠条文の解釈と運用について学びます（事業者団体の規制には適宜触れます。）。これらの規制により、独占禁止法が誰にどのような義務を課し、何を禁止しているのかを知り、同法に違反した場合に誰がどのような措置をとるのか（あるいはとることができるのか）を知ることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レジュメを配布し、それをもとに講義を行います。みなさんの主体的な「学び」を後押しできるよう、適宜、自習教材を紹介します。講義後は、皆さんからの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	講義の進め方
2)	経済社会と国家	自由経済と資本主義 自由国家の変容
3)	独占禁止法の目的と手段	「公正且つ自由な競争」 エンフォースメントの基本的な仕組み
4)	独占禁止法の概要	独占禁止法の歴史と構造 義務の内容
5)	「私的独占」の規制（1）	基本的な考え方 成立要件の解釈
6)	「私的独占」の規制（2）	事例の紹介と問題演習①
7)	「私的独占」の規制（3）	事例の紹介と問題演習②
8)	「不当な取引制限」の規制（1）	基本的な考え方 成立要件の解釈
9)	「不当な取引制限」の規制（2）	事例の紹介と問題演習①
10)	「不当な取引制限」の規制（3）	事例の紹介と問題演習②
11)	企業結合規制（1）	企業結合規制の仕組み 成立要件の解釈
12)	企業結合規制（2）	事例の紹介と問題演習①
13)	企業結合規制（3）	事例の紹介と問題演習②

14) まとめ

春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・幅広い分野に関心をもって書籍、雑誌、ネット等に触れ、あるいは実体験を通じて、経済社会と法に関する知見・知識を得る。
- ・参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を適宜読み、興味・関心をひく内容について自分なりに考えてみる。
- ・上記の授業時間外の学習時間は、大学設置基準に鑑み、毎回4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- ①白石忠志『独禁法講義〔第11版〕』（有斐閣、2025年）
- ②土田和博ほか『条文から学ぶ 独占禁止法〔第3版〕』（有斐閣、2024年）
- ③河谷清文ほか『経済法』（有斐閣、2023年）
- ④川瀨昇ほか『ベーシック経済法——独占禁止法入門〔第5版〕』（有斐閣、2020年）
- ⑤金井貴嗣ほか『独占禁止法〔第6版〕』（弘文堂、2018年）
※補遺により部分的にアップデートされています。補遺はウェブ上に無料で入手できます（→<https://www.koubundou.co.jp/files/35751.pdf>）。
- ⑥根岸哲＝舟田正之『独占禁止法概説〔第5版〕』（有斐閣、2015年）
※⑤と同様に補遺（追補）があります（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/web_supplement_14482.pdf）。
- ⑦川瀨昇ほか編『経済法判例・審決百選〔第3版〕』（有斐閣、2024年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況）（20点）及び期末レポート（80点）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ニュース記事等の紹介を通じてスムーズな理解と知識の定着をはかります。

【Outline (in English)】

- ・ This course introduces overview of Antimonopoly Act to students taking this course.
- ・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of Antimonopoly Act, such as the purpose of the law, prohibited acts, and the contents of measures.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.
- ・ Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300CA (法学 / law 300)
経済法B
杉崎 弘
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法、特にその中核をなす独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれ、事業活動の全般に適用される基本的なルールを定めたものとなっています。そのため、講義は独占禁止法の解説（解釈論）を中心に行います。ただし、同法の背景にある市場経済のシステムとその問題点を理解するうえで、会社法をはじめとする他の企業法の知識も欠かせません。講義では、企業法に広く目配りをし、経済社会の主要な法制度を俯瞰的に把握できるようになることを目指します。

【到達目標】

・経済法A（春学期）に学んだ、「私的独占」・「不当な取引制限」・企業結合の各規制と並んで独占禁止法の主要な規制である、「不正な取引方法」の規制に関する根拠条文の解釈と運用について学びます（下請法と景表法には適宜触れます。）。この規制により、独占禁止法が誰にどのような義務を課し、何を禁止しているのかを知り、同法に違反した場合に誰がどのような措置をとるのか（あるいはとることができるのか）を知ることを目指します。
・「不正な取引方法」の規制は、経済社会の変化に対応した規制を行えるように、禁止行為を行政機関（公正取引委員会）が指定できる仕組みが取り入れられています。本講義では、「不正な取引方法」として規制されている禁止行為のうち、主要なものを中心に学んでいくこととします。
・独占禁止法を取り巻く各種業法、国際経済法の概要も学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レジュメを配布し、それをもとに講義を行います。みなさんの主体的な「学び」を後押しできるよう、適宜、学習教材を紹介します。講義後は、皆さんからの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	講義の進め方
2)	独占禁止法の概要	講義期のおさらい
3)	「不正な取引方法」の規制（総論）	「不正な取引方法」の概要
4)	不当な差別的取扱い（1）	不当な取引拒絶
5)	不当な差別的取扱い（2）	不当な差別的取扱い（不当な取引拒絶を除く）
6)	不当対価取引	不当廉売を中心に
7)	不当な顧客誘引・取引強制	ぎまんの顧客誘引 不当な利益による顧客誘引 抱き合わせ販売
8)	事業活動の不当拘束（1）	再販売価格の拘束、排他条件付取引、その他の拘束条件付取引①
9)	事業活動の不当拘束（2）	再販売価格の拘束、排他条件付取引、その他の拘束条件付取引②

10)	取引上の地位の不当利用	優越的地位の濫用
11)	不当な取引妨害・内部干渉	不当な取引妨害を中心に
12)	業法による規制	規制緩和と独占禁止法 各種業法の概要
13)	国際的な規制	独占禁止法の域外適用 GATT・WTO体制
14)	まとめ	秋学期のまとめ 春学期・秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・幅広い分野に関心をもって書籍、雑誌、ネット等に触れ、あるいは実体験を通じて、経済社会と法に関する知見・知識を得る。
・参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を適宜読み、興味・関心をひく内容について自分なりに考えてみる。
・上記の授業時間外の学習時間は、大学設置基準に鑑み、毎回4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ①白石忠志『独禁法講義〔第11版〕』（有斐閣、2025年）
- ②土田和博ほか『条文から学ぶ 独占禁止法〔第3版〕』（有斐閣、2024年）
- ③河谷清文ほか『経済法』（有斐閣、2023年）
- ④川瀨昇ほか『ベーシック経済法——独占禁止法入門〔第5版〕』（有斐閣、2020年）
- ⑤金井貴嗣ほか『独占禁止法〔第6版〕』（弘文堂、2018年）
※補遺により部分的にアップデートされています。補遺はウェブ上にて無料で入手できます（→<https://www.koubundou.co.jp/files/35751.pdf>）。
- ⑥根岸哲＝舟田正之『独占禁止法概説〔第5版〕』（有斐閣、2015年）
※⑤と同様に補遺（追補）があります（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/web_supplement_14482.pdf）。
- ⑦川瀨昇ほか編『経済法判例・審決百選〔第3版〕』（有斐閣、2024年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況）（20点）及び期末レポート（80点）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ニュース記事等の紹介を通じてスムーズな理解と知識の定着をはかります。

【Outline (in English)】

- ・ This course introduces overview of Antimonopoly Act to students taking this course.
- ・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of Antimonopoly Act, such as the purpose of the law, prohibited acts, and the contents of measures.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.
- ・ Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300CA（法学 / law 300）
労働法A
山本 圭子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働基準法、労働契約法、労働組合法等の意義と内容を理解することを目的とする。労働基準法、労働契約法、労働組合法などの労働法の基礎を理解し、法令、判例、学説に沿った問題解決ができることを到達目標とする。

【到達目標】

学生が、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で授業を行う。学習支援システムでの小テスト（自動採点）を課す。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。レポートについては、締め切り後に全体講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働法概論	・講義内容や評価方法の説明。 ・労働法の全体像について学習する。
第2回	労働基準法概論	労基法の概要と労働憲章を学ぶ
第3回	就職活動と法	募集、採用に係る法理を学ぶ
第4回	労働契約	労働契約、就業規則、労働協約の関係を学ぶ
第5回	就業規則	就業規則の作成、変更法理を学ぶ
第6回	賃金	賃金決定、賃金支払原則を学ぶ
第7回	賞与・退職金	賞与、退職金を学ぶ
第8回	労働時間①法定労働時間	労働時間規制の変遷と休憩を学ぶ
第9回	労働時間②変形制等	変形労働時間制を学ぶ
第10回	休日、時間外労働	休日付与と時間外・休日労働を学ぶ
第11回	年次有給休暇	年次有給休暇について学ぶ
第12回	雇用平等	雇用平等について学ぶ
第13回	育児介護休業	育児介護休業法について学ぶ
第14回	ワークライフバランス	次世代育成支援対策推進法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムで事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020年、2,530円

【参考書】

『労働法第13版』菅野和夫・山川隆一、弘文堂、2024年、7000円＋税

『あなたのキャリアと労働法（ポケット法学）』原昌登、有斐閣、2025年、2310円

『労働判例百選〔第10版〕』別冊ジュリスト257号、村中孝史・荒木尚志編、2022年、2,640円

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに学習支援システムで実施する小テスト（50％）、期末の最終レポート（50％）の合計で評価する。これらにより、到達目標の達成度を評価する。

期末の最終レポートは、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できるという到達目標を達成しているか否かで評価する。生成AIの使用は禁止する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は禁止したにもかかわらず、レポートにグーグルの検索結果の貼り付けや、生成AIを使用した者が多かった。これらは今年度も不正行為として扱う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テスト・レポートを実施するので、パソコンや通信環境を整えておくこと。レポート提出はワードファイルに限定する。

【その他の重要事項】

関連科目：「労働法B」

【オフィスアワー】

講義の後及び学習支援システムの掲示板で質問をうける

【授業計画について】

授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

"Labor Standard Law, Labor Contracts Law, Laobr Union Law"

The goal of this lecture is to understand the significance of the Labor Standards Law, the Labor Contract Law, and the Trade Union Law, and to be able to solve problems in accordance with laws, ordinances, and theories.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW300CA（法学 / law 300）
労働法B
山本 圭子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働基準法、労働契約法、労働組合法等の意義と内容を理解することを目的とする。労働基準法、労働契約法、労働組合法などの労働法の基礎を理解し、法令、判例、学説に沿った問題解決ができることを到達目標とする。

【到達目標】

学生が、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で授業を行う。学習支援システムでの小テスト（自動採点）を課す。小テストについては、次回の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。夏期レポートについては、締め切り後に授業の中で全体講評と解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働法概論	・講義内容や評価方法の説明。 ・労働法の全体像について学習する。
第2回	人事異動	配転、出向、転籍を学ぶ
第3回	懲戒処分	服務規律と懲戒処分を学ぶ
第4回	労働契約の終了①	解雇を学ぶ
第5回	労働契約の終了②	雇止め、退職、定年を学ぶ
第6回	労働基本権	労働組合法の意義を学ぶ
第7回	不当労働行為	不当労働行為制度の意義と救済を学ぶ
第8回	労働協約・労働争議	労働協約と争議行為を学ぶ
第9回	安全衛生と労災保険	安衛法と労災保険法を学ぶ
第10回	労働者の人格権保障	ハラスメント・プライバシーを学ぶ
第11回	パート有期法	パート有期法を学ぶ
第12回	労働者派遣法	労働者派遣法を学ぶ
第13回	労働市場法	労働市場法の変遷を学ぶ
第14回	法改正の検討・まとめ	法改正情報、まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムで事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020年、2,530円

【参考書】

『労働法第13版』菅野和夫・山川隆一、弘文堂、2024年、7000円＋税
『あなたのキャリアと労働法（ポケット法学）』原昌登、有斐閣、2025年、2310円

『労働判例百選〔第10版〕』別冊ジュリスト257号、村中孝史・荒木尚志編、2022、2,640円

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに学習支援システムで実施する小テスト（50％）、期末の最終レポート（50％）の合計で評価する。これらにより、到達目標の達成度を評価する。

夏休みの課題及び期末の最終レポートは、労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解し、労働法上の基本的な問題に、法令、判例、学説を踏まえて、文章で論理的に説明できるという到達目標を達成しているか否かで評価する。生成AIの利用は禁止する。

【学生の意見等からの気づき】

禁止したにもかかわらず、レポート作成に生成AIを使用したり、グーグルの検索結果を貼り付けた者が多数いた。生成AIの使用は禁止する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テスト・レポートを実施するので、パソコンや通信環境を整え対応機器を持参すること。レポート提出はワードファイルに限定する。

【その他の重要事項】

関連科目：「労働法B」

【オフィスアワー】

学習支援システムの掲示板で質問をうける

【授業計画について】

授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

"Labor Standard Law, Labor Contracts Law, Laobr Union Law"

The goal of this lecture is to understand the significance of the Labor Standards Law, the Labor Contract Law, and the Trade Union Law, and to be able to solve problems in accordance with laws, ordinances, and theories.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (30%) conducted by the learning support system, summer vacation assignments (20%), and final report at the end of the term (50%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
経営学A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の基礎的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】

事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）及び競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）について、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメント
3	経営戦略の成立ちと種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎①	需要の特性
5	経営学のための経済学基礎②	費用構造
6	事業戦略の考え方	価値創造とSWOTの分析
7	外部要因の分析①	業界構造分析
8	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
9	外部要因の分析③	価値相関図
10	内部要因の分析	企業活動と経営資源
11	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
12	コスト優位	コスト・ドライバー
13	差別化優位	差別化ドライバー
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004年）。

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010年）。

網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011年）

小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。

丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣、2017年）。

Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.

他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-70%）とホームワーク（30-50%、平常点含む）による（ふたつの要素の合計が100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: cost structure of the firm, value creation, competitor and competition, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, cost and benefit advantage, sustaining competitive advantage. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the conceptual framework of business strategy, competitive advantage, and its sustainability, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through the LMS (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through the LMS within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

MAN300CA (経営学 / Management 300)
経営学B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の発展的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】

企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動
2	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
3	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
4	多角化①	多角化の内的・外的要因
5	多角化②	製品ポートフォリオ・マネジメント
6	国際化	国際企業戦略とOLIフレームワーク
7	参入	内部成長、M&A、提携
8	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
9	寡占の企業間競争①	同質財市場
10	寡占の企業間競争②	製品差別化
11	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
12	戦略的行動②	略奪価格と柔道エコノミクス
13	その他のトピック	より進んだテーマ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004年）。

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010年）。

網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011年）

小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。

丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣、2017年）。

Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.

他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-70%）とホームワーク（30-50%、平常点含む）による（ふたつの要素の合計が100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: vertical integration: vertical boundaries of the firm, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, entry and exit, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the logic behind various corporate strategy (eg. vertical integration, diversification, internationalization, and so on) and the game theoretic analysis of competitive strategy.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through the LMS (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through the LMS within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Principles of Economics A
J E S S D I A M O N D
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の ミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter5、Chapter6、Chapter8、Chapter9 を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 5, 6, 8 and 9 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to introduce students to the foundations of microeconomics. In particular, we cover consumer theory, producer theory, trade and externalities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Consumers and Incentives	The Buyer's Problem
3	Consumers and Incentives	The Demand Curve and Consumer Surplus
4	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
5	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
6	Sellers and Incentives	The Supply Curve and Producer Surplus
7	Sellers and Incentives	From The Short Run To The Long Run
8	Trade	The Production Possibilities Curve And The Basis for Trade
9	Trade	Trade Between Prefectures and Countries
10	Trade	Arguments Against Free Trade
11	Externalities and Public Goods	Externalities
12	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities

13	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities and Public Goods
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN100CA (経済学 / Economics 100)

Principles of Economics A

JESS DIAMOND

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：※Category【Enrollment 2025～】Ⅰ. Introduction to Economics
 その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter5、Chapter6、Chapter8、Chapter9を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 5, 6, 8 and 9 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to introduce students to the foundations of microeconomics. In particular, we cover consumer theory, producer theory, trade and externalities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Consumers and Incentives	The Buyer's Problem
3	Consumers and Incentives	The Demand Curve and Consumer Surplus
4	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
5	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
6	Sellers and Incentives	The Supply Curve and Producer Surplus
7	Sellers and Incentives	From The Short Run To The Long Run
8	Trade	The Production Possibilities Curve And The Basis for Trade
9	Trade	Trade Between Prefectures and Countries

10	Trade	Arguments Against Free Trade
11	Externalities and Public Goods	Externalities
12	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities
13	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities and Public Goods
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%
 期末試験：70%
 宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。
 Homework: 30%
 Final Exam: 70%
 Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。
None.

ECN100CA (経済学 / Economics 100)

Principles of Economics B

JESS DIAMOND

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩 / Tama

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：※Category【Enrollment 2025～】Ⅰ. Introduction to Economics

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の マクロ経済学の基本をカバーする Chapter23, Chapter24, Chapter25, Chapter26を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 23, 24, 25 and 26 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

マクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to study the foundations of macroeconomics. In particular, we cover the labor market, credit markets, the monetary system and business cycle theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
3	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
4	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
5	Employment and Unemployment	Cyclical Unemployment and the Natural Rate of Unemployment
6	Credit Markets	What Is the Credit Market?
7	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
8	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
9	The Monetary System	Money and Inflation
10	The Monetary System	The Central Bank

11	The Monetary System	The Central Bank
12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
13	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Principles of Economics B
J E S S D I A M O N D
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の マクロ経済学の基本をカバーする Chapter23, Chapter24, Chapter25, Chapter26を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 23, 24, 25, and 26 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

マクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to study the foundations of macroeconomics. In particular, we cover the labor market, credit markets, the monetary system and business cycle theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
3	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
4	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
5	Employment and Unemployment	Cyclical Unemployment and the Natural Rate of Unemployment
6	Credit Markets	What Is the Credit Market?
7	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
8	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
9	The Monetary System	Money and Inflation
10	The Monetary System	The Central Bank
11	The Monetary System	The Central Bank
12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles

13	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
International Economics A
倪 彬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This will be an online course. Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	What's international economics?
2回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5回目	HO model	Factor endowment and HO model
6回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7回目	Trade policy (1)	Tariff
8回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12回目	Outward FDI	Japanese firms' overseas expansion and the hollowing out

13回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised版, 2014.

【参考書】

石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

International Economics A

倪 彬

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This will be an online course. Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	What's international economics?
2回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5回目	HO model	Factor endowment and HO model
6回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7回目	Trade policy (1)	Tariff
8回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China

12回目	Outward FDI	Japanese firms' oversea expansion and the hollowing out
13回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised版, 2014.

【参考書】

石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
 阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

International Economics B

倪 彬

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world. To be specific: 1. To help students understand the determinants and behavior of real variables and financial variables, and the interaction between them.
 2. To help students study the interaction among countries through international flows of goods and financial assets.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This will be an online course. Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	What is international finance?
2回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4回目	National accounts	The system of national accounts
5回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9回目	Fiscal policy	Governmental spending
10回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons

12回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility
14回目	Review	To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第4版、日本評論社2011年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%
- (2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
International Economics B
倪 彬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world. To be specific: 1. To help students understand the determinants and behavior of real variables and financial variables, and the interaction between them. 2. To help students study the interaction among countries through international flows of goods and financial assets.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This will be an online course. Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1回目	Introduction	What is international finance?
2回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4回目	National accounts	The system of national accounts
5回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9回目	Fiscal policy	Governmental spending
10回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB

13回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility
14回目	Review	To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第4版、日本評論社2011年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
Area Studies A
小松 翔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries. We will learn the economic theories and models to understand the situations and issues in economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of economic growth, regional disparity, and income inequality.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China and other countries
3. Explain the situations and issues of economic growth and sustainable development in China and other countries from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?
6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China

7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	sumamry of the issues of Chinese economy development and growth from Macroeconomcis perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, macroeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
 2. Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【主要研究業績】

1. Komatsu, S., and A. Suzuki. 2025. "Impact of the Development of Rural E-Commerce on Rural Income and Urban - Rural Income Inequality in China: A Panel Data Analysis." Asian-Pacific Economic Literature 1 - 31.
2. Ma, X., & Komatsu, S. (2025). Impact of e-commerce on income inequality: evidence from rural China based on cross-county panel data. Information Technology for Development, 31(3), 635 - 663. <https://doi.org/10.1080/02681102.2024.2397340>
3. Komatsu, S., & Suzuki, A. (2023). The Impact of Different Levels of Income Inequality on Subjective Well-Being in China: A Panel Data Analysis. The Chinese Economy, 56(2), 104 - 123. <https://doi.org/10.1080/10971475.2022.2096809>

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

Area Studies A

小松 翔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：金4/Fri.4 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries. We will learn the economic theories and models to understand the situations and issues in economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of economic growth, regional disparity, and income inequality.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China and other countries
3. Explain the situations and issues of economic growth and sustainable development in China and other countries from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?

6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China
7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	sumamry of the issues of Chinese economy development and growth from Macroeconomcis perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, macroeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
 2. Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【主要業績】

1. Komatsu, S., and A. Suzuki. 2025. "Impact of the Development of Rural E-Commerce on Rural Income and Urban - Rural Income Inequality in China: A Panel Data Analysis." Asian-Pacific Economic Literature 1- 31.

2. Ma, X., &Komatsu, S. (2025). Impact of e-commerce on income inequality: evidence from rural China based on cross-county panel data. *Information Technology for Development*, 31(3), 635 – 663. <https://doi.org/10.1080/02681102.2024.2397340>
3. Komatsu, S., &Suzuki, A. (2023). The Impact of Different Levels of Income Inequality on Subjective Well-Being in China: A Panel Data Analysis. *The Chinese Economy*, 56(2), 104 – 123. <https://doi.org/10.1080/10971475.2022.2096809>

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

Area Studies B

小松 翔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：金4/Fri.4 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the key factors and underlying mechanisms of economic growth and economic development from a microeconomic perspective. Using case studies, the course examines selected issues such as State-Owned Enterprises Reform, innovation, industrial structural transformation, and market segmentation in China, while also exploring empirical facts and policy challenges in other Asian economies.

【到達目標】

1. Understand and explain the issues of economic transition and economic development in China and other emerging market economies from microeconomic perspective
 2. Understand the mechanisms and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China and other Asian economies
 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth in China and other emerging market economies
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from a microeconomic perspective
5. Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China

6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China
7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China
8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
11	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
12	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
13	Key issues in the economic development and growth of Asian economies	Innovation, digital Transformation, demographics and sustainability in Asian economies
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	Summary of the issues of Chinese economy development and growth from Microeconomics perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, microeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system (Hoppii) and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
5. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
6. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
 2. Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
Area Studies B
小松 翔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the key factors and underlying mechanisms of economic growth and economic development from a microeconomic perspective. Using case studies, the course examines selected issues such as State-Owned Enterprises Reform, innovation, industrial structural transformation, and market segmentation in China, while also exploring empirical facts and policy challenges in other Asian economies.

【到達目標】

1. Understand and explain the issues of economic transition and economic development in China and other emerging market economies from microeconomic perspective
2. Understand the mechanisms and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China and other Asian economies

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth in China and other emerging market economies
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from a microeconomic perspective
5. Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China
6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China

7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China
8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
11	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
12	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
13	Key issues in the economic development and growth of Asian economies	Innovation, digital Transformation, demographics and sustainability in Asian economies
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	Summary of the issues of Chinese economy development and growth from Microeconomics perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, microeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system (Hoppii) and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
5. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
6. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
 2. Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Research Seminar A
中谷 安男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English presentation skills to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor

8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam
9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel
10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.
Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Through active communication and workshop-style classes, students have improved both writing skills as well as presentation and communication.

【学生が準備すべき機器他】

Computer, DVD, Internet connection

【その他の重要事項】

The schedules and content may change depending on the advancement of the class.

Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

LANe200CA (英語 / English language education 200)

Business Research Seminar A

中谷 安男

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants will learn English through authentic business cases focusing on global leaders. They will also learn English presentation skills and public speaking to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students should achieve an understanding of current important business issues. They will improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor

8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam
9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel
10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.
 Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
 Class presentations 40%
 Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Through active communication and workshop-style classes, students have improved both writing skills as well as presentation and communication.

【学生が準備すべき機器他】

computer, Internet connection

【その他の重要事項】

The schedules and content may change depending on the advancement of the class.
 Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

LANe200CA (英語 / English language education 200)

Business Research Seminar B

中谷 安男

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants will learn English through authentic business cases focusing on global leaders. They will also learn English presentation skills and public speaking to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students should achieve an understanding of current important business issues. They will improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will learn important skills for effective negotiations in English. This course will also help develop an awareness of the importance of clear and engaging English speech and discourse.

We will also share participant feedback and discuss the issues to deepen the understanding of the materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel &CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI &Ryan Smithers. Kinseido**【参考書】**

Yoshio Sugita &Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Through active communication and workshop-style classes, students have improved both writing skills as well as presentation and communication.

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【その他の重要事項】

The schedules and content may change depending on the advancement of the class.

Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Research Seminar B
中谷 安男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English negotiation skills to demonstrate their understanding of business studies at an advanced level.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students learn the essential skills for effective negotiations in English. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract an audience.

We will share feedback from participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel &CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presnetations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Through active communication and workshop-style classes, students have improved both writing skills as well as presentation and communication.

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【その他の重要事項】

Class schedules and content may change depending on the advancement of the students.

Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記ⅠA,Bの内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1)非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2)株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3)上記の(1), (2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4)全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。演習問題、中間試験、および期末試験の解答と解説はHoppiiにアップする。講義は対面8回、オンデマンド6回で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／商品売買取引	講義計画／分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、
第2回	商品の期末評価	棚卸減耗損、商品評価損の会計処理方法と損益計算書における表示方法
第3回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第4回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第5回	有価証券の種類と取得原価	有価証券の意義と種類、移動平均法、総平均法による購入時の会計処理
第6回	有価証券の売却処理と期末評価	有価証券の売却時の会計処理、期末評価方法
第7回	有形固定資産の取得、減価償却、売却	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第8回	中間試験および解説	第1回～第7回までの内容に関する中間試験および解説
第9回	その他の有形固定資産取引	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第10回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第11回	無形固定資産取引と研究開発費、引当金	特許権、商標権、研究開発費の会計処理、評価性引当金および負債性引当金の会計処理
第12回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理

第13回 課税所得の算定と税効果会計 企業会計上の利益と課税所得の相違、永久差異と一時差異、税効果会計の処理方法

第14回 期末試験および解説 第8回から第13回までの内容を中心に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

TAC出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰと比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁を推奨）、プリントを綴じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
簿記ⅡB
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記ⅠA,Bおよび簿記ⅡAの内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1)非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2)株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3)上記の(1), (2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4)全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説はHoppiiにアップする。講義は対面8回、オンデマンド6回で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、株式の発行	講義計画／株式会社の純資産構成、株式発行時の会計処理
第2回	剰余金の配当と処分	利益剰余金の配当と処分の会計処理、株主資本等変動計算書の作成方法
第3回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第4回	本支店会計の基礎	本支店会計の意義、本支店間取引、本支店会計における決算手続、合併財務諸表の作成方法
第5回	本支店会計演習	本支店会計における決算手続、および合併財務諸表作成の演習
第6回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第7回	中間試験および解説	第1回～第6回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第8回	連結会計(1) 連結会計の基礎	連結財務諸表の意義、親会社説と経済的単一体説、子会社取得時の投資と資本の相殺消去、部分所有の場合の資本連結
第9回	連結会計(2) 連結1年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結1年度における資本連結と期中仕訳、連結財務諸表の作成
第10回	連結会計(3) 連結2年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結2年度における開始仕訳と期中仕訳、連結財務諸表の作成

第11回	連結会計(4) 成果連結① 会社間取引と債権債務の相殺消去	内部取引の相殺消去、貸倒引当金の連結修正処理、アップストリームとダウンストリーム
第12回	連結会計(5) 成果連結② 未実現利益の消去	期末商品、期首商品に含まれる未実現利益の消去方法、その他の会社間取引によって生じる未実現利益の消去方法
第13回	連結会計(6) 連結会計総合演習	連結会計に関する集中的な問題演習
第14回	期末試験および解説	第13回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト40%，期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁）、プリントを閉じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
地域経済論 A
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Covid-19前後におけるグローバル情勢は、大きく変化しその後も変化しています。

現在、グローバル視点で各国の活動を評価してみると継続力のある国々が伸びていると評価ができます。

中国ではめざましい経済発展が鈍化し、アセアンにおける経済成長は一時的に悪化しました。しかし、タイやアセアンの国々も新しい活動を試みています。では、日本はどのような現状でしょうか？

本講義では、春学期にタイを中心としたアセアンの現状から今後の変化を読み取る講義を行います。秋学期は、メキシコを中心とした中南米圏について経済状況やその背景を学ぶ内容の講義を実施します。また、本授業の準備学習・復習時間は、各4時間以上を目安とします。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在とても重要な要素になってきています。本講義では、日本と関係が近いアセアンにおけるタイは、日本と深い関係にあります。大きなアセアンの経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他の意見を聴きながら、意見をまとめる能力をつけられる形式の講義をオンラインで試みます。（また、ファシリテーション手法の理解と実践を講義の中で進めたいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。

②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。

③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。

④講義の理解度確認の為、中間試験と最終確認試験を行います。

⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第2回	2025年のタイ経済の状況説明、可能な範囲で2026年2月時点の経済方針をタイ政府関係者へ確認した内容をご説明できれば考えています	アセアンの多地域との差の認識。アセアン以外の類似国との差異確認。
第3回	タイの強みと弱みの分析(1)	産業構造から見た強みと弱み、自動車（部品・完成車）、電気、ビルや公的な観光に係る建築など 2026年2月に実施したタイ調査活動を基にした情報より

第4回	タイの強みと弱みの分析(2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第5回	タイのバンコクの強み	地勢的な地域特性からの課題
第6回	タイの交通網について	アセアンの他の地域との比較
第7回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う
第8回	サンプル1：クラビ県の魅力と今後について	世界を代表する観光地の悩みや現状から見える将来性
第9回	クラビ県の温泉リゾート経営者（タイ温泉協会会長）からの最新情報を基に	現状の事実説明と学生が自ら確認できるチャンスの設定を試みる
第10回	サンプル2：2026年のブーケットの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析
第11回	サンプル3：2026年のラノー県の魅力と将来性	今後、発展するための施策とは？
第12回	2026年のクラビ県、ブーケット、ラノー県の比較	分析から見出せるものは何か？
第13回	確認討議②	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第14回	最終試験	確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中では、タイのアセアンにおける位置付けを理解します。学生が学ぶポイントは、自動車産業・電気電子産業・観光（温泉事業を含む）など視点は自由設定とします。講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、学生各自のテーマに沿った事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当日、プリントを配布しますので活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、タイ政府公式HPを参考にしてください。分野によっては、日本語での紹介情報もあります。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第7回と第14回の講義時間に正誤テストを行います。この2回の試験により成績評価（各回配分50％、合計100％）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの講義に対する意見は、個別にメールで教員へ送付ください。内容については、次回の講義へ反映できる前提でフィードバックをお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline (in English)】

The global situation has changed significantly before and after COVID-19.

If we evaluate the activities of each country from a global perspective, we can evaluate that the number of countries with sustainable capacity is growing.

In China, remarkable economic development slowed, and economic growth in ASEAN temporarily deteriorated. However, Thailand and ASEAN countries are also trying new activities. So, what is the current situation in Japan?

In this lecture, we will give a lecture in the spring semester to read future changes from the current situation in ASEAN, especially Thailand. In the fall semester, lectures will be held to learn about the economic situation and background of the Latin American region, mainly Mexico.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3.Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Preparation and review for each session is at least 4 hours each.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
地域経済論B
川邊 安彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Covid-19前後におけるグローバル情勢は大きく変化しその後も変化しています。

現在、グローバルな視点で各国の活動を評価してみると継続力のある国々が伸びていると評価ができます。

中国ではめざましい経済発展が鈍化し、アメリカ・日本・アセアン・ロシア・ウクライナ情勢では完全に東西を分断する状況が加速しています。また、日本でも経済成長の伸びは停滞しています。この講義では、秋学期にメキシコを中心とした中南米の過去・現在から今後の未来の変化を読み取る講義を行ないます。

また、本授業の準備学習・復習時間は、各4時間以上を目安とします。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在重要な要素になってきています。本講義では、日本と関係が良好で中南米の中で日本と最も深い関係にあるメキシコを知ることによりメキシコを軸とした中南米の新しい経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人の意見を聴きながら、意見をまとめる能力を身につける形式の講義を試みます。（追記、ファシリテーション手法の理解と実践を講義の中で進めたいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第2回	現在のメキシコ経済と新政権ブラジル経済との比較から見える中南米の将来性を学ぶ	中南米の多地域との差の認識。中南米以外の類似国との差異確認。
第3回	メキシコの強みと弱みの分析(1)	産業構造から見た強みと弱み
第4回	メキシコの強みと弱みの分析(2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第5回	首都メキシコシティと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地政学的な視点からの優れた点や課題
第6回	メキシコの交通網について	中南米の他の地域との比較、平均年収との差からの分析

第7回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う
第8回	最新のメキシコ政府公開情報から見える現状の理解	海外政府情報の理解と情報解析能力を高める手法を学ぶ
第9回	サンプル1：首都メキシコDFの魅力と将来性	世界を代表するビジネス構造の悩みや現状から見える将来性
第10回	サンプル2：メキシコ内陸部のゴールデントライアングルの魅力（経済性視点での効果ポイントと将来性）	何故、発展したのか？他国では存在しない輸出入での税務上ルールや地政学的な経済発展の進め方の実態と効果
第11回	サンプル3：グローバル視点での他地域（リージョン・国での比較）との産業構造的な違いと将来性	今後、発展するための施策の考え方は？
第12回	メキシコとブラジルや他の中南米諸国との比較	分析結果から見出せるものは何か？
第13回	確認討議②	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第14回	最終試験	確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中でメキシコの中南米での位置付けや地政学的な経済発展手法の実例紹介を行い島国である日本ではできない経済効果への政策等を理解します。自動車産業、電気産業、観光、農業、地下資源など視点は自由設定とします。また、ラテンアメリカの政治・経済の在り方を学ぶことにも注力します。各視点の内容全てについて講義内で学習するように講義資料へ反映しますので各講義のシラバスと事前配布の講義資料を確認した上で、事前情報の確認・整理が各自学生にて必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて教材以外に当日プリントを配信しますのでご活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、メキシコ政府公式HPを参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第7回と第14回の講義時間に正誤テストを行います。この2回の試験により成績評価（各回配分50％、合計100％）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義への意見や要望などは、個別にメールで教員へ送付ください。次回以降の講義に反映します。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional Economics

Today, China's remarkable economic development has begun to slow, and in Latin America, the Mexican government has changed after the change in the Brazilian government.

In ASEAN, new challenges are being seen in each country.

Also, From a global perspective, the growth of economic growth due to COVID-19 is stagnant.

In this lecture, we will give a lecture to read the future global trends from the changes in ASEAN centered on Thailand in the spring semester and the current situation in Central and South America centered on Mexico in the fall semester.

Understanding other regional economies abroad is an important point of evaluation analysis.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3.Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1.Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture.70%

2.If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture.30%

3.Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

Preparatory study and review time for this class is over 4 hours each.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学ぶ。まず論文の作りを理解する。そして、テーマ設定、先行研究の選び方とまとめ、リサーチクエスションの立て方、データ収集の方法、考察の仕方、まとめ方など通り理解する。そのうえで、リサーチプロポーザルを提出し、Introduction, Literature review, Methodまでを執筆する。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

- (1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
- (2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
- (3) Collect data, and summarize them for analysis

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion

6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works
7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation
8	Write Introduction 1	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction 2	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Questions and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎著 ミネルヴァ書房

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)
『APA論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50% In-class participation in activities
50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline (in English)】

The students will learn how to write quantitative and qualitative research papers. They will understand the structure of a research paper and then learn how to decide one's theme, to review literature, to create their research questions, to collect data and summarize it. Once research proposal is accepted, they will write introduction, literature review and method parts. The students are expected to spend about one hour on their work. Grading will be made of in-class participation in activities, 50%, and documents submitted, 50%.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References (APA style) までを執筆し完成する。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the organization of a paper
- (2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts
- (3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research

12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables
14	Oral presentation of finalized work	Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎著 ミネルヴァ書房

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)

『APA論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50% Individual consultation

50% Final paper

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを2週目までに準備できることが条件です。

【Outline (in English)】

Following the research proposal created in the former semester, the students will compile the data they collected and continue writing their paper. Concretely following the part of introduction and method, results (analysis), discussion, and conclusion parts will be completed with references organized by APA style. The students are expected to spend about one hour on their work daily. Grading will be made of individual guidance, 50%, and the final paper, 50%.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar A
伊藤 健彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文の読み方、調査・実験・分析の方法、そして論文の書き方までを一通り学ぶ。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ることで、自分の考えを発信する力をつける。

【到達目標】

- 1) 論文の構造（序論・方法・結果・考察）が理解出来るようになる。
- 2) 調査・実験・分析の方法が理解出来るようになる。
- 3) 論文の書き方が理解出来るようになる。
- 4) 他の学生と交流し、自分の考えを発信できる力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Structure of Research Paper	研究論文の構成に関する説明
3	How to Write a Paragraph	パラグラフの書き方の説明と実践
4	How to Write Multiple Paragraphs	複数のパラグラフの書き方の説明と実践
5	How to Read a Research Paper	文献の読み方の説明と実践
6	How to Quote a Research Paper	文献の引用方法の説明と実践
7	How to Write Introduction 1	研究テーマの設定に関する説明と実践
8	How to Write Introduction 2	序論の書き方の説明と実践
9	Literature Review & Summary of Introduction	先行研究のレビューと序論に関するまとめ
10	How to Write Method 1	研究方法の書き方の説明と実践
11	How to Write Method 2	データ分析の方法の説明と実践
12	Making an Outline	受講生によるアウトラインの作成
13	Discussion	受講生が考えた論文内容に関する議論
14	Presentation	受講生が考えた論文内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低2時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低2時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方ーIMRaDでわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店

『APA論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院

『Writing Scientific Research Articles Second Edition』

Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 40%

宿題 30%

レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナーBと関連する授業内容のため、英語セミナーBも履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to understand how to read a research paper, the methods of survey, experiment, and analysis, as well as how to write a research paper. Through discussion and presentation, students are expected to communicate effectively with classmates and develop the skills to present their ideas. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (40%), homework (30%), and writing reports (30%).

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar B
伊藤 健彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語セミナーAに引き続き、論文の読み方、調査・実験・分析の方法、そして論文の書き方までを一通り学ぶ。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ること、自分の考えを発信する力をつける。

【到達目標】

- 1) 論文の構造（序論・方法・結果・考察）が理解出来るようになる。
- 2) 調査・実験・分析の方法が理解出来るようになる。
- 3) 論文の書き方が理解出来るようになる。
- 4) 他の学生と交流し、自分の考えを発信できる力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習をしておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Review of Structure of Research Paper	研究論文の構成のおさらい
3	Review of Reading & Quoting a Research Paper	文献の読み方と引用方法のおさらい
4	Review of Writing Introduction	序論の書き方のおさらい
5	Review of Writing Method	研究方法の書き方のおさらい
6	How to Write Result 1	統計データの書き方の説明と実践
7	How to Write Result 2	図や表の書き方の説明と実践
8	How to Write Discussion 1	仮説検証の書き方の説明と実践
9	How to Write Discussion 2	貢献や今後の課題の書き方の説明と実践
10	How to Write Conclusion	結論の書き方の説明と実践
11	How to Write Abstract	要約の書き方の説明と実践
12	Making a Research Paper	受講生による研究論文の作成
13	Discussion	受講生の研究論文に関する議論
14	Presentation	受講生が作成した研究論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低2時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低2時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』 片山晶子 他 中山書店

『APA論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院

『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 40%

宿題 30%

レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナーAと関連する授業内容のため、英語セミナーAも履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to understand how to read a research paper, the methods of survey, experiment, and analysis, as well as how to write a research paper. Through discussion and presentation, students are expected to communicate effectively with classmates and develop the skills to present their ideas. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (40%), homework (30%), and writing reports (30%).

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar A
王 キョウ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語による学術研究の遂行に関わる一連の個人活動およびグループ活動に学生が取り組みます。特に、グループでの交渉、議論、問題解決を重視し、さまざまな情報源から情報を収集し、その内容を要約し、研究結果や結論を聴衆に向けて発表するために必要な英語運用能力の育成を目指します。

本授業を修了した学生は、図書館やインターネットを通じて特定のテーマに関する情報を収集し、それをグループ内で議論した上で、情報源を適切に明示しつつ、国際的な聴衆にも理解可能な発音およびイントネーションを伴った整った英文で、調査結果を発表できるようになることが期待されます。

【到達目標】

1. Work in a group and solve simple problems in English with teacher assistance.
2. Present simple findings to an audience in well-formed sentences from a prepared script.
3. Prepare and deliver a convincing speech with comprehensible pronunciation and intonation.
4. Write three-to four-paragraph reports based on the information discussed/researched.
5. Use Internet and library resources to find information on a chosen topic.
6. Understand the concepts related to plagiarism and include proper source acknowledgment in work produced.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

The instructor will lecture on basic skills in conducting academic research in English while the students will actively participate in group discussions to complete relevant tasks. The students will form groups to conduct a group research project and present the research finding in class. The instructor will give individual and group feedback to student presentations and writing assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Introduction to the course and tools to be used.
2	Unit One: Processes	Learn how to properly describe research processes accurately.
3	Unit 2: Result (1)	Learn how to describe data and findings in research (Part 1).
4	Unit 2: Result (2)	Learn how to describe data and findings in research (Part 2).

5	Unit 3: Problem Solving (1)	Learn how to engage in logical thinking in order to address a problem (Part 1).
6	Unit 3: Problem Solving (2)	Learn how to engage in logical thinking in order to address a problem (Part 2).
7	Unit Four: Ranking and Debate (1)	Learn how to debate with research partners, rank factors, and reach agreements within a group (Part 1).
8	Unit Four: Ranking and Debate (2)	Learn how to debate with research partners, rank factors, and reach agreements within a group (Part 2).
9	Internet Research and Plagiarism	Learn how to gather information from the Internet, including Generative AI, while doing proper source acknowledgement.
10	Group Project (Stage 1)	Form research groups, negotiate roles and selecting a broad research topic
11	Group Project (Stage 2)	Decide on a research proposal and collect background information
12	Group Project (Stage 3)	Collate information and plan group presentations
13	Group Project (Stage 4)	Prepare presentations and the final report
14	Group Project (Stage 5)	Group presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read the textbook in preparation for classes and to review the teacher's instructions regularly. Students should complete writing assignments based on classroom discussions and submit these for grading. In the group project, they will also gather information from online resources and other sources and prepare oral and written reports based on the information found. On average, the work to be done outside of class is expected to be 4 hrs per week.

【テキスト（教科書）】

Concept Building and Discussion - Foundations (2019). DTP Publishing. Authors: Laurence Anthony, Ralph Rose, Chris Sheppard

【参考書】

Other materials provided by the teacher.

【成績評価の方法と基準】

Exam: 30%. Students will be administered two tests during the semester: a Mid-Term Discussion Test worth 20%, and an Internet Research and Source Acknowledgement Quiz worth 10%.

Writing assignments: 55%. During the semester, students will need to complete four written assignments (each worth 10%) based on in-class discussions and one final report (worth 15%). Group presentation: 15%. Students will need to make an oral presentation of findings obtained through a group project. Grading will be based on each individual student's contributions to the presentation.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

A computer or a tablet for searching online information.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. As students will be working in groups, absence impacts the whole group.

【Outline (in English)】

In this course, students will be engaged in a series of individual and team activities related to conducting academic research in English. Emphasis will be placed on negotiation, discussion, and problem-solving in a group setting, and the language skills needed to gather information from a variety of sources, summarize that information, and present results and conclusions to an audience. After completing the course, students should be able to find information on a topic through library and Internet sources, discuss this information in a group, and present findings with proper source acknowledgment to an audience in well-formed sentences with pronunciation and intonation comprehensible to an international audience.

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Academic Research Seminar B
王 キョウ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「Academic Research Seminar A」で修得した技能を基礎として、英語による個人およびグループでの研究活動に取り組みます。特に、グループにおける交渉、議論、問題解決を重視するとともに、調査研究や実験の実施、データ分析を行い、その成果を聴衆に向けて発表するために必要な英語運用能力の育成を目的とします。

本授業を修了した学生は、個人およびグループの両方の形態において英語で学術研究を遂行し、研究報告書を作成するとともに、国際的な聴衆にも理解可能な発音およびイントネーションで研究成果を発表できるようになることが期待されます。

【到達目標】

1. Work in a group and individually to conduct academic research in English.
2. Use Internet and library resources to find information on a chosen topic.
3. Conduct survey research and relevant data analysis.
4. Conduct experiments and relevant data analysis.
5. Prepare and deliver a convincing speech with comprehensible pronunciation and intonation.
6. Make posters for research projects.
7. Write three-to-four-page reports based on the research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

The instructor will lecture on the essential skills in conducting academic research in this course, while the students will work with group members and individually to complete the relevant tasks. Specifically, students will conduct a survey research and an experiment, and present the research findings in class. The instructor will give individual and group feedback to student presentations and writing assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Review of Academic Research Seminar A, introduction to this course and tools used.
2	Group Research Project (Stage 1)	Form groups, discuss topics and finalize a group project topic for survey research.
3	Group Research Project (Stage 2)	Collate information, decide on research questions and form hypothesis.
4	Group Research Project (Stage 3)	Design survey questions, decide survey distribution population and method
5	Group Research Project (Stage 4)	Gather and analyze data from respondents

6	Group Research Project (Stage 5)	Draw conclusions and report findings
7	Group Research Project (Stage 6)	Prepare for group presentation of research and research reports.
8	Group Research Project (Stage 7)	In-class presentations of group research projects.
9	Individual Research Project (Stage 1)	Form support groups, share individual topics and search for background information.
10	Individual Research Project (Stage 2)	Form research questions and hypothesis.
11	Individual Research Project (Stage 3)	Design experiments: understand dependent, independent and control variables, design appropriate methods and tools.
12	Individual Research Project (Stage 4)	Analyze collected data and draw conclusions.
13	Individual Research Project (Stage 5)	Present findings in support groups and learn how to make posters.
14	Individual Research Project (Stage 6)	In-class poster presentations on individual projects.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to preview lecture contents in textbooks before classes. After class, students will gather background information on research topics, distribute surveys, conduct experiments, prepare for presentations and draft research report. On average, the work to be done outside of class is expected to be 4 hrs per week.

【テキスト（教科書）】

Concept Building and Discussion: Applications. (2019) DTP Publishing.

Authors: Ralph Rose, Laurence Anthony

【参考書】

Other materials provided by the teacher.

【成績評価の方法と基準】

1. Examinations =20%

Students will be administered two discussion tests during the semester: one in the first half relating to group projects, and another in the second half relating to individual projects. Each test is worth 10%.

2. Reports =30%

During the semester, students will need to complete two written reports (each worth 15%): one for the group project, and the other for the individual project.

3. Presentations =40%

Twice during the semester, students will need to make oral presentations of findings obtained first through a group research project, and then through an individual research project. Each presentation is worth 20% of the final grade.

4. In-Class Performance =10%

Students will regularly be evaluated on their contributions to discussion and problem-solving tasks assigned in class.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A laptop computer or a tablet for searching for online information and conducting research.

【Outline (in English)】

In this course, students will build on the skills acquired in Academic Research Seminar A to conduct a series of individual and group research activities in English. Emphasis will be placed on negotiation, discussion and problem-solving in a group setting, and the language skills needed to conduct survey research and experiments, engage in data analysis and present findings to an audience. After completing the course, students should be able to conduct academic research in English in both group and individual settings, draft research reports and present findings with pronunciation and intonation comprehensive to an international audience.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
世界経済史A
杉浦 未樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の世界経済は、広がる所得格差、人口成長と環境破壊の問題を抱え、資源の効率的な活用を促す新たな革新を必要としている。これらの課題が歴史的にどのように生じてきたかを、グローバルな視点から検証する。

1世界経済史の前半となるこの授業は、一八〇〇年以前を中心に扱う。現代につながる諸問題である、人口爆発、世界的不平等、地球破壊、交易がもたらす地域格差、危機の時代の対処法、農業の効率化、消費活性化と女子の労働参加、人の移動、奴隷と強制労働のテーマを、世界史の視点からとらえる。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・経済事象の根幹にある所得格差や人口増加について、長期的展開を述べ、地域間の比較ができるようにする。
- ・経済活動を支えている組織や制度を多面的に理解する。
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・歴史分析を組みこんだ長文論述ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義です。各回、講義内容がテキストでHOPPIIで配布されます。理解テストを授業支援システムに提出します。講義に欠席したとしても、テキストに理解テストが盛り込まれているため、理解テストを提出することを求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業のテーマ	授業の三つのテーマを理解し、長文論述に向けた基礎スキルを身に着ける
第2回	世界の人口、所得、格差の歴史（1）	人口、一人当たりの所得、所得格差の長期的推移をグローバルな視野から検証する
第3回	世界の人口、所得、格差の歴史（2）	所得格差の長期的推移の分析を紹介し、不平等が拡大・縮小を論じる
第4回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世2（1）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第5回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世2（2）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第6回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（1）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。

第7回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（2）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。
第8回	17世紀—危機の時代のとらえ方（1）	17世紀を共通して危機の時代となく、近代化論と世界システム論、グローバルヒストリーの見方を比較する。
第9回	17世紀—危機の時代のとらえ方（2）	グローバルヒストリーからみた17世紀として、ユーラシアを視点に論じる。
第10回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第11回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第12回	大西洋をわたった人々（1）—植民地とは何か	植民地を人の移動の視点から説明する。植民地の奴隷、植民者、年季奉公人がどのような移動をしどのような立場にされたのかを、北米植民地、カリブ海を中心に具体的にたどる。
第13回	大西洋をわたった人々（2）—奴隷制と資本主義の形成	奴隷制度の発達をグローバルな視野から概観したあと、奴隷制をめぐるE・ウィリアムズのテーゼ、フォーゲルとエンガマンのテーゼおよび最近の「資本主義の新しい歴史」研究の展開を述べる。第二次産業革命の展開と、交通・通信制度の発達を運河・鉄道・郵便制度からみる。事前公開した最終評価（レポート・テスト）の対策を行う
第14回	講義の総括と最終評価に向けたフィードバック	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、指示された参考文献を読み、そこからさらに関連文献にあたって経済史への理解を深めることを推奨する。週に4～7時間程度補習し、課題作成にも時間をかける。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップする

【参考書】

小野塚知二 『経済史—今を知り、未来を生きるために』有斐閣、二〇一八年
 ブランコ・ミラノヴィッチ『不平等について—経済学と統計が語る26の話』二〇一二年

【成績評価の方法と基準】

試験の評価が50%、各回の授業内課題点50%で評価します。授業に積極的に参加した場合はボーナス点を追加します。試験は長文論述で、問題を事前公開します。

【学生の意見等からの気づき】

海外研修後に授業を再開するため該当しない。

【Outline (in English)】

The global economy of the 21st century faces problems of growing inequality, poverty, population growth and environmental degradation. Innovations that allow for a more efficient allocation of resources and distribution of wealth are being sought. This lecture outlines the historical process by which these problems of the global economy have emerged and surveys the main analytical frameworks in economic history. The key learning objective is to have the skills to analyse and use these analytical frameworks. Grading will be determined by an end-of-term examination (including essay) 50% and by evaluation of short reports assigned after lectures via the Hoppii system 50%. Students are expected to prepare and work for these outside of class hours.

Grading will be decided by Term-end exam (including essay) 50%, and evaluation of the short reports/tests assigned after lectures via Hoppii system 50%.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
世界経済史B
杉浦 未樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本・人・モノの国際移動・取引システムの編成、基幹産業の発展、戦争と経済、地域統合を主要な柱として、19世紀から21世紀の経済発展を概観する。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・19世紀と20世紀の資本主義と産業の展開が、現在の経済状況を生み出したことを理解する
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・レポート作成を通じて、論述力、文献調査能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行う。原則として対面で実施するが、事情によりオンラインで実施する回を含む場合がある。その際は、事前または授業内で指示する。

毎回、文章形式の講義テキストを講義日までに HOPPII の「教材」にアップロードする。理解度確認のためのテストは HOPPII の「テスト・アンケート」に掲載する。ほとんどの場合、講義中にテスト・アンケートを実施するが、原則として各回の講義終了後3日以内に、理解テストを HOPPII 上で提出すること。講義を休んだ際にも理解テストの提出が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グローバリゼーションと19、20世紀	19、20世紀の特徴を整理したあと、グローバリゼーションからみるとどのような位置づけとなるかを論じる。とくに1815～1880年がグローバリゼーションの加速期、1880～1945年が減速期、1945年以降が第二の加速期であることを理解する
第2回	19～20世紀 グローバル化するモノの流れ	貿易の長期動向と、世界商品とそのコモディティチェーン、ヴァリューチェーンの史的分析
第3回	マシンメイドに到る道ーイギリス綿織物業の機械化導入と技術革新	19～21世紀の移民史を経済側面から議論する。
第4回	19～21世紀の人の流れー移民とグローバリゼーション	移民（主に国際移民）と経済発展との関係を歴史的に位置づける。移民の定義、現状を概観した後、グローバル化する移民の第一波（1840年～1913年）と、第二波（1950年～2000年）を比較する。最後に移民が引き起こす格差の拡大と収束を論じる

第5回	金本位制と国際信用取引システムの成立	国際通貨（信用）システムの展開を、金本位制から扱う。本位制の定義、金本位制の導入、グローバリゼーションとの関係、停止と崩壊を述べる。
第6回	産業で辿る19～21世紀（1）、工業化を支えた条件と製鉄+鉄道、	1840年以前の、工業国アメリカを生み出し、支えた土壌を整理したあと、製鉄+鉄道がタグを組んだ大規模な工業化と経営革新を述べる。
第7回	産業で辿る19～21世紀（2）、石油業	産油業の展開を軸に、垂直統合・独占／寡占とそれらの規制・多国籍企業の発展、エネルギー源の転換を理解する。
第8回	産業で辿る19～21世紀（3）自動車産業	自動車産業の展開を軸に、フォーディズムからリーン生産方式までの歴史的な流れを理解する。
第9回	最終レポートの形式を指導	19～20世紀の産業史をテーマに、学術文献を検索し、読み、引用し、レポートを作成する方法を解説する。
第10回	1950、60年代の世界	1950、60年代の世界経済情勢を概観する
第11回	1970年代の世界	ドル危機とオイルショックを前後に、1970年代の経済情勢をみる
第12回	1980年代の世界	1980年代の世界経済の動向を概観する。
第13回	1990年代に提示された、危機を乗り越える経済モデル	1990年代に構造改革を行った国家をモデルとして紹介する。イギリス、北欧、オランダ、シンガポールを取り上げる。
第14回	試験準備とレポート事前評価	試験の論述対策をするともに、前週までに提出したレポートに直し改善点を述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

理解テストの解答のため、週1時間程度、授業外学習が必要となる可能性がある。最終レポートの準備は段階を踏んで行う。人によって異なるが、合計10時間程度の調査、執筆時間が必要となる。

【テキスト（教科書）】

毎回授業時にテキストを配る。さらに参考図書を指示する

【参考書】

北川勝彦、概説世界経済史、昭和堂、2017年
 キャメロン、ニール『概説世界経済史 2 工業化の展開から現代まで』東洋経済新報社、2013年。
 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版、2012年馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著『エレメンタル欧米経済史』、見洋書房、2016年
 ウォーマック、『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える』（経済界、1990年）
 他は講義ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの理解テスト50%、最終レポート50%で評価する。レポートは合格点がとれるように事前フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当せず。

【Outline (in English)】

The global economy of the 21st century faces problems of growing inequality, poverty, population growth and environmental degradation. Innovations that allow for a more efficient allocation of resources and distribution of wealth are being sought. This lecture outlines the historical process by which these problems of the global economy have emerged and surveys the main analytical frameworks in economic history. The key learning objective is to have the skills to analyse and use these analytical frameworks. Following Part A, Part B will deal with 19-21th centuries.

Grading will be determined by an end-of-term examination (including essay) 50% and by evaluation of short reports assigned after lectures via the Hoppii system 50%. Students are expected to prepare and work for these outside of class hours.

MAN300CA（経営学 / Management 300）
財務諸表論A
竹口 圭輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計に関する応用的・実践的な知識を提供していきます。具体的には、財務会計を巡る基本的な概念や制度について復習しつつ、連結グループ会計、金融商品会計、退職給付会計、企業結合会計など会計基準の国際対応を受けて近年整備されてきた会計基準を取り上げていきます。また、それら会計基準を通じてアウトプットされる情報をいかに読みこなしていくかを学んでいきます。

【到達目標】

財務諸表論Aでは、財務会計論の応用論点に関する理解だけでなく、国際的な文脈の中で会計情報を読みこなすスキルの獲得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。小テストの解答については次回の講義で解説するとともに、WebClassを通じて個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計と企業行動のリンケージ
3	会計制度の論理と体系	会計公準と企業会計原則
4	企業のディスクロージャー	ディスクロージャーの必要性和制度開示
5	売上とは何か	収益認識会計
6	連結グループの会計(1)	連結財務諸表と企業行動
7	連結グループの会計(2)	セグメント情報の開示
8	金融商品の会計	有価証券の会計、リース取引の会計、デリバティブ・ヘッジ会計
9	従業員給付の会計(1)	退職給付会計
10	従業員給付の会計(2)	株式報酬の会計
11	会計基準の国際化	国際会計基準（IFRS）や環境問題への対応
12	企業結合・事業分離の会計	M&Aの会計
13	グローバリゼーションの会計	外貨建取引の会計と在外子会社の換算
14	まとめと振り返り	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第6版>』日本経済新聞社、2024年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50％）と期末レポート（50％）により総合的に評価する。
※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（WebClass）を通じてレジュメ・関連資料を配付します。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。「簿記Ⅰ」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting is the language of business, which helps us better understand how companies behave. Businesses cannot be understood without an understanding of financial accounting. This course aims to provide students with practical skills and knowledge about financial accounting. Students learn how companies communicate with their stakeholders through financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to understand of the applied issues of financial accounting theory and to read and analysis accounting information in an international context.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%

In-class contribution: 50%

MAN300CA (経営学 / Management 300)
財務諸表論B
竹口 圭輔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。この授業では、実際の財務諸表を用いて、現実の企業活動を読みこなしていくことに注力し、自らの手でファンダメンタル分析、会計戦略分析、企業価値評価などを行っていきます。

【到達目標】

財務諸表論Bでは、ファンダメンタル分析ならびに企業価値評価に関するスキルの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。小テストの解答については次回の講義で解説するとともに、WebClassを通じて個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業価値評価のフレームワーク	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	財務諸表から読む企業活動(1)	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	財務諸表から読む企業活動(2)	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	戦略的ファンダメンタル分析(1)	企業価値とファンダメンタル分析
6	戦略的ファンダメンタル分析(2)	グループ経営分析
7	経営戦略分析	経営戦略分析のためのフレームワーク
8	会計戦略分析	会計利益の特性と会計政策
9	ケーススタディー(1)	特定業界のファンダメンタル分析
10	企業価値とバリュエーション(1)	企業価値評価の手法
11	企業価値とバリュエーション(2)	資本コストの概念と株主資本コストの推定
12	企業価値とバリュエーション(3)	会計利益による企業評価モデル
13	会計・財務数値と市場評価	株式市場と企業のファンダメンタルズ
14	ケーススタディー(2)	特定企業のバリュエーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『企業価値経営< 第3版>』日本経済新聞社、2025年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（60％）と期末試験・レポート（40％）により総合的に評価する。
※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（WebClass）を通じてレジュメ・関連資料を配付します。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。基本的な内容については授業内でフォローしないので、「簿記Ⅰ」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course starts with a review of financial reporting and then focuses on various modules of fundamental analysis, including performance evaluation, earnings quality, strategic analysis and valuation. The goal of this lesson is to practice corporate valuation.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire skills in fundamental analysis and corporate valuation.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%

In-class contribution: 50%

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
DemographyA
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, starting from the basics of elementary statistics, and based on that, teaching basic concepts and measures, how demographers measure mortality, fertility, and concept of Lexis diagram.

【到達目標】

- 1.Understand elementary statistics
- 2.Understand basic concepts and measures
- 3.Understand mortality rates
- 4.Understand fertility rates
- 5.Understand Lexis diagram

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Exercises are delivered in the lecture for better understanding and students should calculate and fill it in. After the submission deadline of exercise, the correct answer will be feedbacked via class commentary. Points will be deducted if submitted after the next day of class. Some students tried to submit it just before the deadline and could not submit it, but since there is a one-week submission period, submission after the deadline is not allowed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Elementary statistics(1)	Guidance, Frequency Distributions and Their Graphs
2	Elementary statistics(2)	Measures of Central Tendency
3	Elementary statistics(3)	Measures of Variation and Position
4	Elementary statistics(4)	Normal Distribution and Confidence Intervals
5	Elementary statistics(5)	Hypothesis Testing
6	Elementary statistics(6)	Correlation and Regression
7	Elementary statistics(7)	Examination
8	Basic Concepts and Measures	Meaning of Population, The Balancing Equation of Population Change, Demographic rates,
9	Mortality Rates(1)	Period Age-specific Mortality Rates
10	Mortality Rates(2)	Age-standardization
11	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
12	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measure

13 Lexis Diagram (1) Lexis Diagram

14 Lexis Diagram (2) Age-specific Probabilities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Exercises in online 65%

Examination 35%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of exercises as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Demography A

菅 幹雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, starting from the basics of elementary statistics, and based on that, teaching basic concepts and measures, how demographers measure mortality, fertility, and concept of Lexis diagram.

【到達目標】

- 1.Understand elementary statistics
- 2.Understand basic concepts and measures
- 3.Understand mortality rates
- 4.Understand fertility rates
- 5.Understand Lexis diagram

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Exercises are delivered in the lecture for better understanding and students should calculate and fill it in. After the submission deadline of exercise, the correct answer will be feedbacked via class commentary. Points will be deducted if submitted after the next day of class. Some students tried to submit it just before the deadline and could not submit it, but since there is a one-week submission period, submission after the deadline is not allowed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Elementary statistics(1)	Guidance, Frequency Distributions and Their Graphs
2	Elementary statistics(2)	Measures of Central Tendency
3	Elementary statistics(3)	Measures of Variation and Position
4	Elementary statistics(4)	Normal Distribution and Confidence Intervals
5	Elementary statistics(5)	Hypothesis Testing
6	Elementary statistics(6)	Correlation and Regression
7	Elementary statistics(7)	Examination
8	Basic Concepts and Measures	Meaning of Population, The Balancing Equation of Population Change, Demographic rates
9	Mortality Rates(1)	Period Age-specific Mortality Rates
10	Mortality Rates(2)	Age-standardization
11	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates

12	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measure
13	Lexis Diagram (1)	Lexis Diagram
14	Lexis Diagram (2)	Age-specific Probabilities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Exercises in online 65%
 Examination 35%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of exercises as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
DemographyB
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching Life table, population projection and the stable population model.

【到達目標】

- 1.Understand the life table
- 2.Understand and be able to conduct population projection
- 3.Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Exercises are delivered in the lecture for better understanding and students should calculate and fill it in. After the submission deadline of exercise, the correct answer will be feeded back via class commentary. Points will be deducted if submitted after the next day of class. Some students tried to submit it just before the deadline and could not submit it, but since there is a one-week submission period, submission after the deadline is not allowed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table for a Real Cohort
2	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	The Life Table for Periods, National Level
3	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	The Life Table for Periods, Regional Level
4	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	Interpreting the Life Table
5	The Life Table and Single Decrement Processes(5)	The Life Table Conceived as a Stationary Population
6	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Real Cohort
7	Multiple Decrement Processes(2)	Multiple Decrement Tables for Periods
8	Population Projection (1)	Population Projection without Immigration, National Level
9	Population Projection (2)	Population Projection without Immigration, Regional Level
10	Population Projection (3)	Population Projection with Immigration, National Level
11	Population Projection (4)	Population Projection with Immigration, Regional Level

12	Mean Annualized Growth Rate	Mean Annualized Growth Rate
13	The Stable Population Model(1)	A Simplified Example of a Stable Population
14	The Stable Population Model(2)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population, Intrinsic Growth Rate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Exercise in online 65%
Term report 35%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of exercises as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Demography B

菅 幹雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching Life table, population projection and the stable population model.

【到達目標】

1. Understand the life table
2. Understand and be able to conduct population projection
3. Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Exercises are delivered in the lecture for better understanding and students should calculate and fill it in. After the submission deadline of exercise, the correct answer will be feedbacked via class commentary. Points will be deducted if submitted after the next day of class. Some students tried to submit it just before the deadline and could not submit it, but since there is a one-week submission period, submission after the deadline is not allowed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table for a Real Cohort
2	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	The Life Table for Periods, National Level
3	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	The Life Table for Periods, Regional Level
4	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	Interpreting the Life Table
5	The Life Table and Single Decrement Processes(5)	The Life Table Conceived as a Stationary Population
6	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Real Cohort
7	Multiple Decrement Processes(2)	Multiple Decrement Tables for Periods
8	Population Projection (1)	Population Projection without Immigration, National Level
9	Population Projection (2)	Population Projection without Immigration, Regional Level
10	Population Projection (3)	Population Projection with Immigration, National Level

11	Population Projection (4)	Population Projection with Immigration, Regional Level
12	Mean Annualized Growth Rate	Mean Annualized Growth Rate
13	The Stable Population Model(1)	A Simplified Example of a Stable Population
14	The Stable Population Model(2)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population, Intrinsic Growth Rate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Exercises in online 65%
 Term report 35%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of exercises as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

MAN200CA（経営学 / Management 200）
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第2回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第3回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第4回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第5回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第6回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第7回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第8回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第9回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第10回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第11回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第12回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第13回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第14回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA（経営学 / Management 200）
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第2回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第3回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第4回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第5回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第6回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第7回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第8回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第9回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第10回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第11回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第12回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第13回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第14回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA (経営学 / Management 200)
会計学入門A
古賀 裕也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計は、企業活動を理解するための有用な情報源を提供します。そのため、事業の言語とも呼ばれます。会計の中でも投資家を中心とする外部の利害関係者に財務情報を報告することを目的とした会計を財務会計といいます。この科目では外部報告目的の財務会計の基礎を包括的に学習します。

【到達目標】

この科目の到達目標は次の通りです。

- (1)財務会計の語彙（専門用語）を説明できる
- (2)会計処理の理論的背景を説明できる
- (3)財務諸表の基礎的な分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面実施時

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
- ③講義終了後に小テストに回答してもらいます（google classroomで実施）。

※講義資料はgoogle classroomで講義開始前に配布します。

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroomに講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 70 分、②問題演習等 25 分、③アンケート 5 分

※時間配分目安であり講義内容によって変わります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の企業会計①	企業会計とは
2	現代の企業会計②	近年の企業会計を巡る動向
3	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計の目的、タイプ、機能
4	会計制度の論理と体系①	基礎概念、制度会計
5	会計制度の論理と体系②	企業会計原則と一般原則
6	企業のディスクロージャー制度	ディスクロージャー制度、インサイダー取引
7	損益計算書の会計①	損益計算書の構造と5つの利益
8	損益計算書の会計②	収益認識、費用収益対応の原則、収益認識基準
9	損益計算書の会計③	収益認識基準、損益計算書の分析
10	損益計算書の分析（反転講義）	損益計算書の分析に関する事前課題のディスカッション
11	キャッシュ・フロー計算書	キャッシュ・フロー計算書
12	貸借対照表の構造	貸借対照表の構成要素

13	キャッシュ・フロー計算書の分析（反転講義）	キャッシュ・フロー計算書の分析に関する事前課題のディスカッション
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。講義資料は google classroomで配布します。

【参考書】

- ・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2026年4月現在の最新版。
 - ・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2026年4月現在の最新版。
- そのほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

反転講義の事前課題提出とディスカッションへの参加：20%

小テストの提出：30%

【学生の意見等からの気づき】

学生から反転講義における発表者の負担が大きいという指摘がありました。そのため、反転講義の実施方法について改善を行います。具体的には、発表者に対する平常点追加を実施します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること。期末試験では電卓を使用を認めます。

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting provides a useful source of information for understanding corporate activities. For this reason, it is also called the language of business. Within accounting, financial accounting refers to accounting that aims to report financial information to external stakeholders, particularly investors. In this subject, you will learn the basics of financial accounting for external reporting purposes in a comprehensive manner.

【Learning Objectives】

The learning objectives for this course are as follows.

- (1) Explain the vocabulary (technical terms) of financial accounting
- (2) Explain the theoretical background of accounting procedures
- (3) Perform basic analysis of financial statements

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to understand the content of previous lectures and are expected to prepare for and review each lecture. (At least 4 hours total each time)

【Grading Criteria/Policies】

Final exam: 50

Submission of pre-class assignments and participation in discussions: 20

Submission of quizzes: 30

MAN200CA (経営学 / Management 200)
会計学入門B
古賀 裕也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計は、企業活動を理解するための有用な情報源を提供します。そのため、事業の言語とも呼ばれます。会計の中でも投資家を中心とする外部の利害関係者に財務情報を報告することを目的とした会計を財務会計といいます。この科目では外部報告目的の財務会計の基礎を包括的に学習します。

【到達目標】

この科目の到達目標は次の通りです。

- (1) 財務会計の語彙（専門用語）を説明できる
- (2) 会計処理の理論的背景を説明できる
- (3) 財務諸表の基礎的な分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面実施時

- ① 講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
 - ② アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。
 - ③ 講義終了後に小テストに回答してもらいます（google classroomで実施）。
- ※講義資料はgoogle classroomで講義開始前に配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	資産の会計①流動資産の会計	流動資産
2	資産の会計②有形固定資産の会計	有形固定資産の会計
3	資産の会計③無形固定資産の会計	無形固定資産の会計
4	資産の会計④投資・その他の資産、繰延資産の会計	投資・その他の資産、繰延資産の会計
5	減損会計	減損とは
6	負債の会計	流動資産と固定負債
7	純資産の会計	純資産
8	貸借対照表の分析（反転講義）	事前課題についてのディスカッション
9	連結財務諸表①	連結会計の目的、連結範囲の決定、連結財務諸表の基本フォーマット
10	連結財務諸表②	連結貸借対照表の作成、連結損益計算書の作成、包括利益
11	ファンダメンタルズ分析①	財務諸表分析の目的、構成比率法、安全性分析
12	ファンダメンタルズ分析②	収益性分析と効率性分析
13	ファンダメンタルズ分析の実践（反転講義）	事前課題のディスカッション
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計4時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。講義資料は google classroomで配布します。

【参考書】

- ・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2026年4月現在の最新版。
- ・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2026年4月現在の最新版。そのほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

反転講義の事前課題提出とディスカッションへの参加：20%

小テストの提出：30%

【学生の意見等からの気づき】

反転講義での発表者の負担について学生から意見があった。そのため、発表者については平常点の加点を行うように改善する。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁表示のものが望ましい）を用意すること。期末試験では電卓を使用を認めます。

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting provides a useful source of information for understanding corporate activities. For this reason, it is also called the language of business. Within accounting, financial accounting refers to accounting that aims to report financial information to external stakeholders, particularly investors. In this subject, you will learn the basics of financial accounting for external reporting purposes in a comprehensive manner.

【Learning Objectives】

The learning objectives for this course are as follows.

- (1) Explain the vocabulary (technical terms) of financial accounting
- (2) Explain the theoretical background of accounting procedures
- (3) Perform basic analysis of financial statements

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to understand the content of previous lectures and are expected to prepare for and review each lecture. (At least 4 hours total each time)

【Grading Criteria/Policies】

Final exam: 50

Submission of pre-class assignments and participation in discussions: 20

Submission of quizzes: 30

MAN300CA (経営学 / Management 300)
管理会計A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的手法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第2回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第3回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、業績管理会計と意思決定会計
第4回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第5回	短期利益計画	利益管理、コスト・ビヘイビア、大綱的利益計画
第6回	C V P分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第7回	C V P分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第8回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第9回	多品種製品のC V P分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第10回	原価分解	実績データ基準法と工学的的方法
第11回	全部原価計算方式によるC V P分析	C V P分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第12回	A B C / A B M	原価構造の変化、A B Cの計算構造、アクティビティ分析
第13回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、失敗コスト
第14回	復習	春学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN300CA（経営学 / Management 300）
管理会計B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的方法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第2回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第3回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第4回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第5回	事業部制会計②	事業部長と事業部自体の業績評価
第6回	事業部制会計③	ROIと残余利益、社内資本金制度、振替価格
第7回	意思決定会計	経営意思決定の種類、意思決定プロセス
第8回	業務的意思決定①	特別注文、追加加工か販売か
第9回	業務的意思決定②	自製か購入か、既存製品の生産と販売
第10回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第11回	設備投資意思決定②	会計的利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第12回	設備投資意思決定③	NPV法とIRR法の比較、再投資の仮定
第13回	BSC、原価企画	バランスト・スコアカード、原価企画・原価維持・原価改善
第14回	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

HSS300CA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）
スポーツ経済論
杉本 龍勇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの多様な意義、役割などを踏まえ、スポーツの経済効果に関する基礎知識を獲得する。

【到達目標】

社会的側面、経済的側面からスポーツが果たす役割とその仕組みを理解することを目指す。具体的には、「スポーツの社会的役割」「スポーツの経済的役割」「スポーツビジネスの構造」について、基本的な概要を理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

具体的な参考事例を取り上げ、スポーツの社会的、経済的な側面について多面的に説明をする。特に、様々なスポーツの経済効果に対する今後の可能性を踏まえながら、経済学や経営学の基礎と照らし合わせて講義を進めていく。

レポートやリアクションペーパーによって学習成果を確認する予定。これについては学習支援システムを使用して提出ならびにフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ経済学の概要	スポーツと経済の繋がりとおよびスポーツ経済学の概要について
第2回	現代社会におけるスポーツの役割	スポーツの社会的役割について（経済的視点から）
第3回	スポーツ関連政策の概要	日本の代表的なスポーツ政策について
第4回	高齢化社会におけるスポーツ	高齢化社会におけるスポーツの経済的役割について
第5回	子どもとスポーツ	現在の子どもに対するスポーツの経済的役割について
第6回	スポーツのビジネス化のプロセス	スポーツのビジネス化のプロセスと今後の予測について
第7回	スポーツイベントの経済効果	オリンピックを中心に、スポーツイベントによって派生する経済効果について
第8回	スポーツ産業の構造	スポーツ産業全般の仕組みについて
第9回	スポーツのマーケティングの基礎	スポーツに関するマーケティング戦略の基本概念について
第10回	スポーツ産業の概要	スポーツ産業に属する各業種の概要について
第11回	スポーツの需要(1)	スポーツの需要（消費者行動）に関する時間配分や費用の影響について
第12回	スポーツの需要(2)	スポーツの需要（消費者行動）と他の財との関連について
第13回	スポーツビジネスにおけるブランディング戦略	スポーツビジネスにおけるブランディングの意義および戦略について
第14回	まとめ	これまでの講義内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連の時事問題をテレビ、雑誌、新聞、Webなどを使用して調べる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge

「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan

「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会

「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社

「スポーツマーケティング交換課程の経営」

スポーツマネジメント研究会 編訳

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

試験（記述式）：50%

【学生の意見等からの気づき】

スライド作成において、講義内容の聴講とノート作成のバランスが適切になるように工夫をする。また、イメージがしやすい具体例を挙げながら説明をする。

またオンラインでの授業形式の場合、講義時間の最中に簡単なレポート作成を行うなどして、講義内容の理解度を向上させるような工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションツールならびにプロジェクターを使用して講義を行う。またオンラインミーティングアプリを使用し、ハイブリッドによるライブ講義にする予定。就職活動や病気によるやむを得ない欠席の場合は、ハイブリッドによる参加も事前申請があれば認める。また講義で使用する資料は学習支援システムを用いて配布する。講義前にプリントアウトして持参すること。

【その他の重要事項】

資料だけでなく、講義内容を書き留め、自身の復習に役立つノートの作成を薦める。

学習支援システムを使用し、授業に関する情報、資料を定期的にチェックすること。

またオンライン講義の前には、メールや学習支援システムによってミーティングに関する情報を通知するので、確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose is to acquire basic knowledge about economic impact of sports, in particular, health care promotion by sports activities, structure of sports business (ex.professional sports, sports event and more)and consumer behavior.

Your required study time without lecture is at least four hour to collect and understand news and information about sports economics and business.

Grading will be decided based on score of examination (50%) and participation on lectures (50%).

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication IA
JOHN THOMAS LACEY
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Weekly assignments are required and must be completed by all students. Each assignment is designed to reinforce course content and assess students' understanding of the material. Timely and constructive feedback will be provided promptly after assignments are submitted or presented in class to support continuous learning and improvement.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student Introductions	Students will provide a self introduction with future goals
Week 2	Course introduction	Economic terms will be covered and used in a mini-presentation
Week 3	Introduction Letters	How to write and introduction letter will be covered.
Week 4	Resume Development	Developing the best resume.
Week 5	Mock Job Interviews	Interview questions and preparation for a mock job interview
Week 6	Businesses	Introduction of companies.
Week 7	Research	Research and Preparation for Presentation
Week 8	Presentation Day Product Development	Product Development worksheet and group selections
Week 9	CM Script	Product Development script.
Week 10	Commercial Day	Summary Response and peer review
Week 11	Business etiquette (1)	Related article to most recent business issue, students' choice.
Week 12	Business etiquette (2)	Sharing article and projected outcomes.
Week 13	Review as necessary (1)	Peer Review & make up
Week 14	Review as necessary (2)	Final Class Review and feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA (英語 / English language education 200)

Business Communication I A

JOHN THOMAS LACEY

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Weekly assignments will be required to complete. Feedback will be given immediately after assignments have been submitted or presented in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductionsn	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Introduction Letters	Formal letters
Week 4	Resume Development	Reusme
Week 5	Mock Job Interviews	Preparation for interview
Week 6	Businesses	Presentation 1
Week 7	Research	Presentation 1
Week 8	Presentation Day Product Development	Product Development
Week 9	CM Script	CM Script
Week 10	Commercial Day	Summary Response
Week 11	Business etiquette (1)	Article
Week 12	Business etiquette (2)	Writing Assignment
Week 13	Review as necessary (1)	Peer Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Final Class Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA (英語 / English language education 200)

Business Communication I B

JOHN THOMAS LACEY

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will learn about cross-cultural differences in international business and related issues and give presentations and formal speeches.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Feedback in the Business Communications course will be provided through a structured and supportive system designed to promote continuous improvement. After each speaking task, the instructor will offer timely, detailed reactions focusing on clarity, organization, tone, and professional delivery. Students will also participate in guided peer feedback sessions, encouraging constructive reflection and collaborative learning. Standardized evaluation rubrics and progress-tracking tools will be developed to ensure consistency and transparency in assessment. These tools will allow students to monitor their strengths, identify areas for improvement, and set personal communication goals. Regular feedback conferences will further support individual growth and confidence in professional communication skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Read assigned documents
Week 2	General Speech Non-verbal Communication.	Business Research
Week 3	Presentation Day 1	A difficult moment
Week 4	Speech 2 Intonation	Intonation Speech Preparation
Week 5	Famous Speakers	Research
Week 6	Famous Speakers Day 1 Final Speech Intro	Research
Week 7	Famous Speaker Day 2 Final Speech intro continued	Research Topic
Week 8	Dialogue Development Hook and Issue	Research Final Speech first draft work.

Week 9	Dialogue Preparation with partner Final Speech Statistics and Quotes	Research Final Speech First Draft
Week 10	Dialogue Day Final Speech Deadline First Draft	Rewrite First Draft
Week 11	Peer Support	Final Speech Prep
Week 12	Peer Support Day 2 Impromptu Speaking Exercise	Final Speech Prep
Week 13	Final Speech Day	Summary Response
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA (英語 / English language education 200)
Business Communication IB
JOHN THOMAS LACEY
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will learn about cross-cultural differences in international business and related issues and give presentations and formal speeches.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of topics and then be required to do a presentation. Emphasis will be on public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Students will do self introductions and goals.
Week 2	General Speech Non-verbal Communication.	How we communicate without language
Week 3	Presentation Day 1	Speech on with use of body language.
Week 4	Speech 2 Intonation	Intonation Speech Preparation
Week 5	Famous Speakers	Search for and prepare information about a famous speaker.
Week 6	Famous Speakers Day 1	Speech, followed by feedback.
Week 7	Final Speech Intro Famous Speaker Day 2	Become the speaker, practice lines from a famous speech
Week 8	Dialogue Development Hook and Issue	Research final speech topic and pair dialogue
Week 9	Dialogue Preparation with partner Final Speech Statistics and Quotes	Research Final Speech First Draft
Week 10	Dialogue Day Final Speech Deadline First Draft	Rewrite First Draft
Week 11	Peer Support	Final Speech Prep, peer feedback

Week 12	Peer Support Day 2 Impromptu Speaking Exercise	First speeches, teacher and peer feedback
Week 13	Final Speech Day	Last chance to give speech
Week 14	Final summary	Review course, goals and make up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Japan and ASEAN Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

Learning Outcomes for the Students:

1. Understanding the historical economic perspective about ASEAN
2. Learning the macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course; Assignments; FAQs
2	GEOECONOMICS	Concept and definition; Historical evolution; Importance; The basic framework
3	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
4	JAPAN IN SOUTH EAST ASIA	Brief History; The role; The contours of the relationship (investment, trade and aid)
5	Introduction to ASEAN	History; Institutional mechanism; Why was it created?
6	UNDERSTANDING ASEAN 1 GROWTH	Economic Powerhouse; Development versus growth; Middle income trap
7	UNDERSTANDING ASEAN 2 LOCATION	Geoeconomic Swing State. The location (Case about South China sea)
8	UNDERSTANDING ASEAN 3 DIVERSITY	Extremely diverse (economic, institutional, political, cultural, linguistic, religious..)
9	UNDERSTANDING ASEAN 4 STABILITY	High macroeconomic stability; Unique characteristic; Reasons and implications
10	STABILITY: A TALE OF TWO EXTREME	EAST ASIAN MIRACLE (World Bank/ Oxford); Asian Financial Crises; Contours of the crises; Implications. Dismal Science
11	UNDERSTANDING ASEAN 5 RESOURCES	Extremely rich resource base. Taking a stock of the natural resources; demographic dividend.

12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence; Optimal Currency Areas (Mundell paradigm)
13	ECONOMIC DEVELOPMENT PATTERNS IN ASEAN	Economic, social and political indicators
14	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war; A preview of the Fall semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

The reading material (reports/research papers) will be shared on the weekly basis, on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. In-Class assignments (discussions, reading based micro-presentations) - 40%
2. Weekly forum posts and discussions (Peer interactions on Hoppii) - 40%
3. Proactive Participation (leadership, engagement, peer evaluation) - 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Japan and ASEAN Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水1/Wed.1 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

Learning Outcomes for the Students:

1. Understanding the historical economic perspective about ASEAN
2. Learning the macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course; Assignments; FAQs
2	GEOECONOMICS	Concept and definition; Historical evolution; Importance; The basic framework
3	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
4	JAPAN IN SOUTH EAST ASIA	Brief History; The role; The contours of the relationship (investment, trade and aid)
5	Introduction to ASEAN	History; Institutional mechanism; Why was it created?
6	UNDERSTANDING ASEAN 1 GROWTH	Economic Powerhouse; Development versus growth; Middle income trap
7	UNDERSTANDING ASEAN 2 LOCATION	Geoeconomic Swing State. The location (Case about South China sea)
8	UNDERSTANDING ASEAN 3 DIVERSITY	Extremely diverse (economic, institutional, political, cultural, linguistic, religious..)
9	UNDERSTANDING ASEAN 4 STABILITY	High macroeconomic stability; Unique characteristic; Reasons and implications

10	STABILITY: A TALE OF TWO EXTREME	EAST ASIAN MIRACLE (World Bank/ Oxford); Asian Financial Crises; Contours of the crises; Implications. Dismal Science
11	UNDERSTANDING ASEAN 5 RESOURCES	Extremely rich resource base. Taking a stock of the natural resources; demographic dividend.
12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence; Optimal Currency Areas (Mundell paradigm)
13	ECONOMIC DEVELOPMENT PATTERNS IN ASEAN	Economic, social and political indicators
14	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war; A preview of the Fall semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

The reading material (reports/research papers) will be shared on the weekly basis, on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. In-Class assignments (discussions, reading based micro-presentations) - 40%
2. Weekly forum posts and discussions (Peer interactions on Hoppii) - 40%
3. Proactive Participation (leadership, engagement, peer evaluation) - 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Japan and ASEAN Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水1/Wed.1 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, ASEAN countries have followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover in-depth the economic model and the remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in notable ASEAN Countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

Learning Outcomes for the Students:

1. Understanding the historical economic perspective about ASEAN
2. Learning the macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region
3. Developing an in-depth understanding of individual ASEAN countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course Things we covered in the Spring
2	ECONOMIC UPDATES	Current economic situation in ASEAN and JAPAN GDP; Interest Rates; Inflation; Unemployment
3	THE INDICATORS OF ECONOMIC STRENGTHS	Comparative Advantages; GDP Growth Rate; Exchange Rate
4	SHIFT IN ECONOMIC DISCOURSE (AKA Why textbooks are useless?)	Shared Economy; Platform Economy; Surveillance Capitalism
5	SUSTAINABILITY	Circular Economy (Indonesian Case); Millennial Economics; GreenWashing
6	AGRICULTURE IN ASIA	Economic Productivity; Case Study of Agricultural Productivity;

7	TRADE IN ASEAN	Characteristics; Balance of Payments; Historical Milestones; Impact of COVID US-China Trade War; A case study of iPhone.
8	SINGAPORE	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Singapore
9	VIETNAM	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Vietnam
10	MALAYSIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Malaysia
11	INDONESIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Indonesia
12	THAILAND	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Thailand
13	PHILIPPINES	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Philippines
14	EPILOGUE	Future bound perspective; Japan-ASEAN relations; The impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. In-Class assignments (discussions, reading based micro-presentations) - 40%
2. Weekly forum posts and discussions (Peer interactions on Hoppii) - 40%
3. Proactive Participation (leadership, engagement, peer evaluation) - 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Japan and ASEAN Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, ASEAN countries have followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover in-depth the economic model and the remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in notable ASEAN Countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

Learning Outcomes for the Students:

1. Understanding the historical economic perspective about ASEAN
2. Learning the macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region
3. Developing an in-depth understanding of individual ASEAN countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course Things we covered in the Spring
2	ECONOMIC UPDATES	Current economic situation in ASEAN and JAPAN GDP; Interest Rates; Inflation; Unemployment
3	THE INDICATORS OF ECONOMIC STRENGTHS	Comparative Advantages; GDP Growth Rate; Exchange Rate
4	SHIFT IN ECONOMIC DISCOURSE (AKA Why textbooks are useless?)	Shared Economy; Platform Economy; Surveillance Capitalism
5	SUSTAINABILITY	Circular Economy (Indonesian Case); Millennial Economics; GreenWashing
6	AGRICULTURE IN ASIA	Economic Productivity; Case Study of Agricultural Productivity;
7	TRADE IN ASEAN	Characteristics; Balance of Payments; Historical Milestones; Impact of COVID US-China Trade War; A case study of iPhone.

8	SINGAPORE	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Singapore
9	VIETNAM	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Vietnam
10	MALAYSIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Malaysia
11	INDONESIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Indonesia
12	THAILAND	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Thailand
13	PHILIPPINES	Country Summary; Presentations; Digging in the Data; Japan in Philippines
14	EPILOGUE	Future bound perspective; Japan-ASEAN relations; The impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. In-Class assignments (discussions, reading based micro-presentations) - 40%
2. Weekly forum posts and discussions (Peer interactions on Hoppii) - 40%
3. Proactive Participation (leadership, engagement, peer evaluation) - 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
岸 牧人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7101」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計の基礎概念，基礎理論，会計制度の枠組みを理解する。その上で，以下の視点から各自の研究テーマを選定し，卒業論文の作成を行う。

1. 企業内容の開示情報と経済社会
2. 内部会計情報とマネジメント
3. 公認会計士監査に関する現代的課題

【到達目標】

企業財務や公認会計士監査に関する現代的課題に対して，理論的・論理的に考察するスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち，経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. テキストの内容について輪番でプレゼンを行う。
 2. マネジメント・ゲーム（日本総合研究所開発）をチーム対抗形式で行う。
 3. アカウンティング・チャレンジをチーム対抗形式で行う。
 4. 各自の研究テーマについてプレゼンを行う。
 5. 簿記リーグをチーム対抗形式で行う。
- ＜フィードバック方法（上記1～5のそれぞれについて）＞
1. テキストのプレゼン後に追加的に課題を示す。
 2. 当回の戦略についてチーム内で協議し，翌回の戦略をたてる。
 3. 実施回のスライド（PDF）を見て，正答できなかった問題を再度解答する。
 4. 当回のプレゼン時に指摘された部分について修正し，翌回のプレゼン時に当該修正点について報告する。
 5. 解答を参考に再度問題を解く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スケジュール（年間，春学期）の決定，役職の決定，各チームメンバーの決定，研究テーマの探索
第2回	マネジメント・ゲーム#1	マネジメント・ゲーム（会社設立，第1期，第2期），テキスト第1章のプレゼン
第3回	アカウンティング・チャレンジ#1	アカウンティング・チャレンジ1回戦，各自の研究テーマの発表
第4回	個人研究プレゼン#1	
第5回	マネジメント・ゲーム#2	マネジメント・ゲーム（第3期，第4期），テキスト第2章のプレゼン
第6回	アカウンティング・チャレンジ#2	アカウンティング・チャレンジ2回戦，チーム研究の研究テーマの発表
第7回	チーム研究プレゼン#1	

第6回	マネジメント・ゲーム#3	マネジメント・ゲーム（第5期，第6期），テキスト第3章のプレゼン
第7回	アカウンティング・チャレンジ#3	アカウンティング・チャレンジ3回戦，チーム研究のプレゼン
第8回	チーム研究プレゼン#2	
第9回	簿記リーグ#1	簿記リーグ春学期1回戦，テキスト第4章のプレゼン
第10回	マネジメント・ゲーム#4	マネジメント・ゲーム（第7期，第8期），チーム研究のプレゼン
第11回	アカウンティング・チャレンジ#4	アカウンティング・チャレンジ4回戦，テキスト第5章のプレゼン
第12回	テキスト#5	
第13回	マネジメント・ゲーム#5	マネジメント・ゲーム（第9期，第10期），チーム研究のプレゼン
第14回	アカウンティング・チャレンジ#5	アカウンティング・チャレンジ5回戦，テキスト第6章のプレゼン
第15回	テキスト#6	
第16回	マネジメント・ゲーム#6	マネジメント・ゲーム（総括と分析），チーム研究のプレゼン
第17回	チーム研究プレゼン#5	
第18回	簿記リーグ#2	簿記リーグ春学期2回戦，テキスト第7章のプレゼン
第19回	テキスト#7	
第20回	秋学期イントロダクション	秋学期スケジュールの決定，各チームメンバーの決定，夏合宿でのプレゼンのレビュー
第21回	夏合宿の成果発表	
第22回	4年生卒業論文プレゼン#1	4年生による卒業論文のプレゼン（テーマと問題意識，研究方法）
第23回	アカウンティング・チャレンジ#1	アカウンティング・チャレンジ1回戦，テキスト第8章のプレゼン
第24回	テキスト#8	
第25回	マネジメント・ゲーム#1	マネジメント・ゲーム（会社設立，第1期，第2期）
第26回	チーム研究プレゼン#6	チーム研究のプレゼン
第27回	簿記リーグ#1	簿記リーグ秋学期1回戦，テキスト第9章のプレゼン
第28回	テキスト#9	
第29回	アカウンティング・チャレンジ#2	アカウンティング・チャレンジ2回戦，4年生による卒業論文のプレゼン
第30回	4年生卒論プレゼン#2	
第31回	マネジメント・ゲーム#2	マネジメント・ゲーム（第3期，第4期）
第32回	チーム研究プレゼン#7	チーム研究のプレゼン
第33回	簿記リーグ#2	簿記リーグ秋学期2回戦，テキスト第10章のプレゼン
第34回	テキスト#10	
第35回	アカウンティング・チャレンジ#3	アカウンティング・チャレンジ3回戦，4年生による卒業論文のプレゼン
第36回	4年生卒論プレゼン#3	
第37回	マネジメント・ゲーム#3	マネジメント・ゲーム（第5期，第6期），チーム研究のプレゼン
第38回	チーム研究プレゼン#8	
第39回	アカウンティング・チャレンジ#4	アカウンティング・チャレンジ4回戦，2年生による個人研究プレゼン（前半）
第40回	2年生個人研究プレゼン#1	
第41回	マネジメント・ゲーム#4	マネジメント・ゲーム（第7期，第8期），4年生による卒業論文のプレゼン
第42回	4年生卒論プレゼン#4	
第43回	簿記リーグ#3	簿記リーグ秋学期3回戦，2年生による個人研究プレゼン（後半）
第44回	2年生個人研究プレゼン#2	

第28回 マネジメント・ゲーム#5 マネジメント・ゲーム（総括と分析）、ゼミ活動全般に関する振返りと新年度の方針決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションの準備に関する資料収集，分担決め，打ち合わせ等本授業の準備学習・復習時間は、各8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村上茂久『財務3表だけではつかめないビジネスモデルを視る技術』ソシム、2025年

【参考書】

『会計法規集』（開講時の最新版）

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への参加状況30%，アカウンティング・チャレンジの成績15%，ビジネス・ゲームの総括と分析の内容10%，個人研究プレゼンの内容15%，チーム研究プレゼンの内容15%，簿記リーグの個人成績15%

【学生の意見等からの気づき】

演習科目につき実施していない。

【Outline (in English)】

This seminar introduces corporate financial accounting, managerial accounting, and auditing. Each member of this seminar should have their own research question, and write a graduation thesis.

Students have to advance research related to their own theme. 3 hours/day will be estimated to complete it.

Overall grade in this seminar will be decided based on the result of management games, book-keeping competitions, ACCOUNTING CHALLENGEs, and evaluation of research.

At the end of the course, students are expected to be able to analyze the

corporate financial situation, performance, and predict for the future. Students' overall grade in the seminar will be decided based on following: (a)situation of participation for activities of the seminar : 30% (b)score of ACCOUNTING CHALLENGE (c)evaluation of individual presentations : 15% (d)evaluation of team's presentations 15% (d)scores of individual book-keeping competitions 15%.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
小黒 一正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7102」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは日本経済が直面する課題とし、少子高齢化、政治システム、世代間格差、財政・社会保障、金融政策、労働市場等を巡る問題を考える上で参考になる日本語・英語のテキストを輪読しつつ、その解決策を討論する。

【到達目標】

経済学の視点から、日本経済が直面する課題の現状と問題を分析し、その解決の方向性について議論するための基礎的な知識や方法論を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前半は、経済学の概念・理論の理解を深める観点から、テキストを輪読する。後半は調査分析を行う共通テーマを設定し、ゼミ生からの報告と質疑を中心に授業を進める。また、ゼミ生はISFJ日本政策学生会議に参加し、政策提言の報告を目指すこととする。課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期ガバナンス	演習の狙い、春学期スケジュールの説明、輪読テキストの決定
第2回	輪読(1)	担当学生による発表と質疑
第3回	輪読(2)	担当学生による発表と質疑
第4回	輪読(3)	担当学生による発表と質疑
第5回	輪読(4)	担当学生による発表と質疑
第6回	輪読(5)	担当学生による発表と質疑
第7回	輪読(6)	担当学生による発表と質疑
第8回	輪読(7)	担当学生による発表と質疑
第9回	輪読(8)	担当学生による発表と質疑
第10回	輪読(9)	担当学生による発表と質疑
第11回	輪読(10)	担当学生による発表と質疑
第12回	輪読(11)	担当学生による発表と質疑
第13回	輪読(12)	担当学生による発表と質疑
第14回	総括	サブゼミ等
第15回	後期ガバナンス	春学期の復習、秋学期スケジュールの確認
第16回	調査分析(1)	共通テーマ候補の提案とプレゼン
第17回	調査分析(2)	共通テーマの決定、関連文献の検討
第18回	調査分析(3)	担当学生による関連文献の報告と質疑

第19回	調査分析(4)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第20回	調査分析(5)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第21回	調査分析(6)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第22回	調査分析(7)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第23回	調査分析(8)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第24回	調査分析(9)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第25回	調査分析(10)	共通テーマ全体の総括と討論
第26回	その他(1)	次年度ISFJ参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第27回	その他(2)	次年度ISFJ参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第28回	総括	サブゼミ等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決定する。

【参考書】

参考書は適宜指示するが、自らの興味に応じて以下の書籍も読んでほしい。

フリードマン『資本主義と自由』日経BP社

中田真佐男『基礎から学ぶ動学マクロ経済学に必要な数学』日本評論社

二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』日本評論社

麻生良文『公共経済学』有斐閣

麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房

麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社

加藤久和『世代間格差』ちくま新書

田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社

野口悠紀雄『消費増税では財政再建できない』ダイヤモンド社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社

小黒一正『財政危機の深層一増税・年金・赤字国債を問う』NHK出版

小黒一正『アベノミクスでも消費税は25%を超える』PHP研究所

小黒一正『2020年、日本が破綻する日』日経プレミアシリーズ

小黒一正・小林慶一郎『日本破綻を防ぐ2つのプラン』日本経済新聞出版社

ラインハート・ロゴフ『国家は破綻する——金融危機の800年』日経BP社

日本再建イニシアティブ編『人口蒸発「5000万人国家」日本の衝撃——人口問題民間臨調 調査・報告書』新潮社

山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社

山重慎二『家族と社会の経済分析：日本社会の変容と政策的対応』東京大学出版会

小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社

西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

田近栄治・佐藤主光『医療と介護の世代間格差』東洋経済新報社

鈴木亘・八代尚宏『成長産業としての医療と介護』日本経済新聞出版社

池尾和人『現代の金融入門（新版）』ちくま新書

池尾和人『連続講義：デフレと経済政策 アベノミクスの経済分析』日経BP社

白川方明『現代の金融政策—理論と実際』日本経済新聞出版社

翁邦雄『ポスト・マネタリズムの金融政策』日本経済新聞出版社

小宮隆太郎・日本経済研究センター『金融政策議論の争点』日本経済新聞出版社

吉川洋『デフレーション—“日本の慢性病”の全貌を解明する』日本経済新聞出版社

岩田一政『デフレとの闘い』日本経済新聞出版社

佐藤主光『地方税改革の経済学』日本経済新聞出版社

太田 聡一『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社

大内伸哉・川口大司『法と経済で読みとく雇用の世界』有斐閣

深尾京司『「失われた20年」と日本経済』日本経済新聞出版社

井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社
ブキャナン・ワグナー『赤字の民主主義 ケインズが遺したもの』日経BP社
飯塚信夫・加藤久和『EViewsによる経済予測とシミュレーション入門』日本評論社
Jones, *Macroeconomics*, 2011, W. W. Norton & Company.
Wooldridge, *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, 2008, South-Western.
Kotlikoff, Leibfritz, and Auerbach, *Generational Accounting Around the World*, 1999, Univ of Chicago Press.
Keen, Bodin, and Summers, *The Modern Vat*, 2002, International Monetary Fund.
Persson and Tabellini, *Political Economics*, 2002, MIT Press.

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業内評価（例：全体への議論の参加）70%および報告・発表の評価30%によって総合的に判断する。無断欠席は禁止する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The objective of this course is to consider the problems facing the Japanese economy. Specifically, based on our readings from the textbooks, we will formulate and discuss potential solutions to such problems as the declining birthrate, aging population, political system, intergenerational disparity, public finance, social security system, monetary policy, and the labor market.

【Learning Objectives】

We aim to improve the basic skills for business (reading, writing, presentations, etc.) as well as analytical abilities.

【Learning activities outside of classroom】

Read the economic texts in advance. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Seminar students will be divided into three groups. Each group will analyze and write an economic article. Overall evaluation of seminar activities (100%)

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
平井 俊行
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7103」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献の輪読を通じてゲーム理論をはじめとしたミクロ経済学分野の基礎概念・考え方・使い方(使われ方)を学習します。また、プレゼンテーションの技術の向上も目指します。

【到達目標】

ゲーム理論についての基礎的な知識の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミは原則として対面でおこないます。

輪読を中心に進めます。適宜、最終報告書の準備についても報告してもらいます。詳細は第1回の講義で連絡します。履修者による報告が講義の中心になりますので、フィードバックは当然その場でおこなわれます。履修者相互のフィードバックを歓迎します。

報告は完璧である必要はありませんが、自分が理解したこととできなかったことを区別して報告するよう心掛けてください。質問者についても同様で、自分がどこまで理解してどの部分がなぜわからなかったかをきちんと伝えるよう努めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
打合せ	春学期のゼミの進行について	自己紹介・グループ分け・担当箇所決め
個人発表①	輪読①	「教科書」の報告と質疑応答①
輪読①	輪読②	「教科書」の報告と質疑応答②
輪読②	輪読③	「教科書」の報告と質疑応答③
輪読③	輪読④	「教科書」の報告と質疑応答④
輪読④	最終報告書の準備①	実際のゲームの状況についての報告①
輪読⑤	輪読⑤	「教科書」の報告と質疑応答⑤
輪読⑥	輪読⑥	「教科書」の報告と質疑応答⑥
輪読⑦	輪読⑦	「教科書」の報告と質疑応答⑦
輪読⑧	輪読⑧	「教科書」の報告と質疑応答⑧
輪読⑨	輪読⑨	「教科書」の報告と質疑応答⑨
輪読⑩	輪読⑩	「教科書」の報告と質疑応答⑩
個人発表②	最終報告書の準備②	実際のゲームの状況についての報告②
総括	春学期のまとめ	春学期の内容の総括
打合せ	秋学期のゼミの進行について	テキストの選定・グループ分け・担当箇所決め
個人発表③	最終報告書の準備③	実際のゲームの状況についての報告③
輪読⑪	輪読⑪	「教科書」の報告と質疑応答⑪
輪読⑫	輪読⑫	「教科書」の報告と質疑応答⑫
輪読⑬	輪読⑬	「教科書」の報告と質疑応答⑬
輪読⑭	輪読⑭	実際のゲームの状況についての報告④
輪読⑮	輪読⑮	「教科書」の報告と質疑応答⑭
輪読⑯	輪読⑯	「教科書」の報告と質疑応答⑮

輪読⑰	輪読⑰	「教科書」の報告と質疑応答⑯
輪読⑱	最終報告書の報告①	実際のゲームの状況についての最終報告①
輪読⑲	最終報告書の報告②	実際のゲームの状況についての最終報告②
輪読⑳	最終報告書の報告③	実際のゲームの状況についての最終報告③
個人発表④	最終報告書の報告④	実際のゲームの状況についての最終報告④
総括	秋学期まとめ	1年間の内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の準備をしてください。自分の担当箇所でもなくても予習をして議論ができるように準備をしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回講義で指示する。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this seminar is to learn the basic concepts, ideas, and techniques of game theory through reading textbooks. Students are expected to acquire basic knowledge and ideas of game theory and techniques to think and present logically. (Learning Objectives) By the end of the academic year, students are expected to:

A) acquire basic knowledge and techniques of game theory;

B) become able to give a presentation clearly.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class, students are expected to spend eight hours for preparation/reviewing.

(Grading policy) Class participation (including the performance at presentations) 100%.

(

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
岡部 雅史
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7104」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1-株式投資能力の向上を目指す。
- 2-プレゼンソフトを用いた発表能力の向上を目指す。
- 3-学内外のコンテストに参加し実力を試す。

【到達目標】

- 1-株式投資を約10ヶ月行い、収益を上げることを目指す。
- 2-株式投資戦略・結果をプレゼンテーションすることを目指す（各人2回・通年）。
- 3-学内外のコンテストに参加し、入賞以上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

投資スキル向上のための株式投資シミュレーション訓練（毎年10ヶ月）
プレゼンスキル向上のため、各人6回の投資結果発表を行う（パワポ使用）

論文提出者がいる場合、卒業論文作成の指導

フィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 投資チーム編成	ゼミの進め方の説明 成績評価詳細の説明 チーム編成の決定 投資口座ID作成
2	春学期シミュレーション投資スタート	一般銘柄：1人・チーム ETF限定投資：1人・チーム
3	春学期第1週投資結果分析	発表1
4	春学期第2週投資結果分析	発表2
5	春学期第3週投資結果分析	発表3
6	春学期第4週投資結果分析	発表4
7	春学期第5週投資結果分析	発表5
8	春学期第6週投資結果分析	発表6
9	春学期第7週投資結果分析	発表7
10	春学期第8週投資結果分析	発表8
11	春学期第9週投資結果分析	発表9
12	春学期第10週投資結果分析	発表10
13	春学期第11週投資結果分析	発表11

14	春学期投資結果まとめ	一般銘柄、ETF限定銘柄の投資結果についてのまとめ
15	秋学期投資方針考察 秋学期シミュレーション投資スタート	春学期の投資結果振り返り
16	秋学期第1週投資結果分析	発表12
17	秋学期第2週投資結果分析	発表13
18	秋学期第3週投資結果分析	発表14
19	秋学期第4週投資結果分析	発表15
20	秋学期第5週投資結果分析	発表16
21	秋学期第6週投資結果分析	発表18
22	秋学期第7週投資結果分析	発表18
23	秋学期第8週投資結果分析	発表19
24	秋学期第9週投資結果分析	発表20
25	秋学期第10週投資結果分析 卒論指導1	一般銘柄投資結果まとめ 卒論テーマの決め方
26	秋学期第11週投資結果分析 卒論指導2	ETF限定投資結果まとめ 論文のゴール設定
27	投資コンテスト結果分析 卒論指導3	コンテスト結果の分析を行う 説得力を増すためのデータ取扱
28	秋学期投資結果まとめ	年度最終ゼミ 今年度通期のまとめ ゼミ内最優秀トレーダーの表彰

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞など報道資料に目を通しておくこと（特に金融・環境・医療・食品・国際紛争などの分野）。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜ゼミにて通達する。

【参考書】

適宜ゼミにて通達する。

【成績評価の方法と基準】

各人2回の投資結果プレゼン発表 および株式投資収益を基準に総合的に評価を行う。 総合評価の詳細については初回ガイダンスの際に説明する（70%）。

学内外コンテスト（ディベート大会、プレゼン大会、株式投資コンテスト（日経ストックリーグなど）に参加し、顕著な功績があれば該当チーム員全員に加点し評価する（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ運営 および 成績評価基準について、希望があれば逐次見直しを図ります。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

コロナ・インフル・麻疹など各種感染症の発生状況によってはzoom講義になる場合があります。その場合はお知らせに揭示します。

【Outline (in English)】

The aim of this class is improvement of the ability for, 1-Japanese stock investment, &2-announcement, using various kinds of media.

A comprehensive evaluation will be made based on each person's presentation of investment results twice and stock investment income. Details of the comprehensive evaluation will be explained during the initial guidance.

Learning Objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern FinTech.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on FinTech by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

At the events (debate competitions, presentation competitions, stock investment contests, etc.), and if there are outstanding achievements, add points to all team members and evaluate them.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
奥山 利幸
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7105」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の様々な分野に応用されているミクロ経済学を、理論の単なる学習、吸収に留めず、現実の様々な経済活動への応用力を培うことも目標にして学んでいきます。2年次、3年次には、先行研究をサーベイした進級論文を、4年次にはそうしたサーベイによって発見した新たな論題に取り組んだ卒業論文を執筆します。

【到達目標】

プレゼン力、ディスカッション能力、経済学の概念・理論の理解、現実へのその応用力、文献知識、論文作成力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに即して教科書や参考書から発表して行きます。レジュメの作成、プレゼンやディスカッションの練習、そして、進級論文や卒論にむけた論題探しに役立てて行きます。

進級論文の指導は、6月より開始し、取り扱う先行研究を春学期中に確定させます。秋学期には、先行研究のレジュメ、共通理解や相違点、今後の課題について整理していきます。

例年、学生研究報告大会に1チーム、ないしは、2チームが発表しています。大会の出場については、独自の分析が必須になります。大会出場者には、そのためのアドバイスをを行います。

ゼミにおけるパフォーマンスについては、論文指導時、また、学期途中に中間評価を示し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミ・ガイダンス	ゼミスケジュール、課題、論文
2	経済学の基本用語と問題意識	基本用語、産業連関表、ミクロ経済学、マクロ経済学
3	競争市場	需要曲線、供給曲線、厚生経済学の基本定理群、政策の効果
4	外部性、公共財	外部性、コースの定理、ピグー税、公共財、サミュエルソン条件、リンダール均衡
5	情報	逆選択、モラル・ハザード
6	非凸性、ゲーム理論(1)	費用削減、独占均衡、自然独占、ゲーム理論、ナッシュ均衡
7	ゲーム理論(2)	展開形ゲーム、不完備情報、ベイジアンゲーム、完全ベイジアン均衡
8	寡占	クールノー均衡、シュタッケルベルグ均衡、共謀、カルテル
9	差別化	価格差別化、商品差別化、独占的競争、ホテリングの定理、サロップ理論
10	メカニズム・デザイン入門	社会的選択関数、メッセージ、メカニズム、ナッシュ遂行
11	社会的選択	社会的厚生関数、アローの不可能性定理
12	消費者(1)	無差別曲線、限界代替率、予算制約、最適消費計画
13	消費者(2)	所得消費曲線、価格消費曲線
14	消費者(3)	代替効果、所得効果、ギッフェン財
15	生産者(1)	生産関数、限界生産性、平均生産性、等量曲線
16	生産者(2)	費用関数、限界費用、平均費用
17	生産者(3)	短期vs.長期、損益分岐点、操業中止点、供給曲線
18	均衡(1)	マーシャル分析、ワルラス分析(1)純粋交換経済
19	均衡(2)	ワルラス分析(2)生産経済
20	均衡(3)	エッジワース分析（コア）
21	厚生(1)	厚生経済学の第1基本定理
22	厚生(2)	厚生経済学の第2基本定理

23	不確実性	くじ、期待効用、保険、条件付商品、総量リスク
24	遂行(1)	支配戦略遂行、ナッシュ遂行、マスキン単調性
25	遂行(2)	クラークメカニズム、ハーヴィッツ定理
26	進級論文発表(1)	発表(2年生)
27	進級論文発表(2)	発表(3年生)
28	卒論発表	発表(4年生)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの用意、教科書の予習・復習、論文論題関係先行研究のサーベイ、論文作成本授業の準備学習・復習時間は、合計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

奥山利幸『ミクロ経済学 新装改訂版』学術図書出版社

【参考書】

岡田章『ゲーム理論』有斐閣

スティグリッツ『ミクロ経済学』東洋経済

武隈慎一『ミクロ経済学』新世社

チャン『現代経済学の数学的方法』シーエービー出版

【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)、進級論文(40%)

【学生の意見等からの気づき】

ゼミを益々活性化させるために、一緒に精力的に活動して行きましょう。

【その他の重要事項】

2年次より中級レベル以上のミクロ経済学を学ぶことで、学力が飛躍的に向上します。2年生の多くは、最初の数ヶ月間、かなり苦労しますが、秋学期に発表する進級論文は、相当、質の高いものになる2年生が少なくありません。その飛躍たるもの、指導している教員自身が驚く程です。難しくても「ついて行く」姿勢を持っている限り、毎年、毎年、1年を振り返ったときに自らの成長を感じるはずです。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course deals with intermediate microeconomics. It also enhances the development of students' skill in microeconomic applications and communication/presentation.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to write and present a term paper. By the end of the course, students should be able to analyze and explain actual economic phenomena.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Furthermore, before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria/Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term paper:40%, in class contribution:60%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
杉浦 未樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7107」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミは、商品流通をめぐる日本と経済が抱える問題を学び、商品開発にかかる経験・実践的スキルを調査・発表・産学協同事業を通して修得することを目的とします。商品開発について基礎理論と歴史を理解し、実践的な学習手法から議論に耐えうる知見・経験を身に付けます。加えて、実践的な学びを通じて、情報収集・チームワーキング・プレゼン力など、実社会での問題解決にも有用なスキルを習得します。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

現在、われわれを取り巻く経済・ビジネスの環境は、非常に早いスピードで変化しており、そのような中、自ら主体的に考え行動していく人材が求められています。ゼミを通じて、自ら問題を解決するスキル・姿勢を身に付けましょう。

【到達目標】

下記の能力を身に付けます。

- 1) 企業に対し、商品開発の分野で、具体的・実現可能性のある提案を行う。
- 2) 資料収集・情報整理を効率的に行い、アウトプット（企画書・プレゼンテーション）を出せる。
- 3) 自分のアイデアを体系的に発表することができる。
- 4) 異なる意見のある中で、積極的かつ協調的なディスカッション・提案を行う。
- 5) 意見発表や、企業とのコミュニケーションを通じ、社会人マナーを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

教員からのレクチャーも行いますが、全般的にアクションラーニング的に行います。内容は、若干高度なものが含まれますが、適宜教員から説明します。

年前半の回では商品開発をテキスト中心に、年後半では実際に商品開発のプロセスをチームを編成して行います。

毎回の授業では、前半で、テキスト・資料についてのレジュメ（内容のまとめ）発表、あるいは、教員によるレクチャーを行います。後半では、前半の内容につき、ディスカッション・実習（自ら作業）を行います。

具体的内容として、年後半では、3、2年生それぞれ実践的な提案のためのグループ作業を行います。3年生は全国約15大学の30ゼミが参加する商品開発コンペ『Sカレ』に参加します。2年生は個人での商品開発コンセプトの策定プログラム、および、特定の日本企業様に対する商品企画ワークショップを行います。フィードバックは、以上の課題の中で、授業中または個人・グループ指導として都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの内容・進め方、および、通年でのスケジュールの説明。教員・学生の自己紹介。
第2回	商品開発を学ぶ①	テキスト第1章「商品企画プロセス」、第2章「インタビュー法」を学ぶ。グループで事前作成のレジュメに沿って輪読。マーケティングリサーチについて説明、発表準備
第3回	商品開発を学ぶ②	テキスト第3章「観察法」第4章「リードユーザー法」を学ぶ。3年生「自分のマーケティングアプローチ発表」① アパレル業界のサバイバルをテーマにレクチャー
第4回	商品開発を学ぶ③	テキスト第5章「アイデア創出」第6章「コンセプト開発」を学ぶ。3年生自分のマーケティングアプローチ発表」②アパレル業界のサバイバルをテーマにレクチャー
第5回	商品開発を学ぶ④	テキスト第7章「プロトタイピング」を学ぶ。「自分のマーケティングアプローチ発表」③、Sカレのテーマ決め。2年生マーケティング論文献輪読
第6回	商品開発を学ぶ⑤	テキスト第8章「市場規模の確認」第9章「競合・技術の確認」を学ぶ。3年生、Sカレのテーマ決め。2年生2年生 マーケティング論文献輪読
第7回	商品開発を学ぶ⑥	テキスト第10章「顧客ニーズの確認」第11章「販促提案」を学ぶ。2年、マーケティング論発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画
第8回	商品開発を学ぶ⑦	テキスト第12章「価格提案」第13章「チャネル提案」を学ぶ。マーケティング論発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画発表
第9回	商品開発を学ぶ⑧	テキスト第14章「企画書作成」、第15章「プレゼンテーション」を学ぶ。アパレル業界のサバイバル」テーマに発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画発表
第10回	企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画①	教科書で学んだ知見についてまとめ（主に前半部）を行う。および、3年生はSカレ進行状況発表、2年生はグループ調査計画
第11回	企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画②	教科書で学んだ知見についてまとめ（主に後半部）を行う。また、引き続き、3年生はSカレ、2年生はグループ調査計画。3年生、2年生それぞれのSカレ、マーケティング調査発表グループに対する、教員からの個別指導
第13回	半期のまとめのグループ発表①	3年生Sカレ提案発表、2年生コンペプレゼン参加準備
第14回	半期のまとめのグループ発表①	3年生Sカレ提案発表、2年生コンペ参加プレゼン準備
第15回	Sカレ 事前演習	3年生は、Sカレのため、他ゼミ・他大学との、合同の事前演習を行います。2年生も学習、3年生支援のために参加します。

第16回	商品開発の実践① (情報収集・調査)	3年生はSカレの準備、2年生は個人の商品コンセプトプログラムと、商品開発ワークショップの準備を進めます。主に、情報収集・調査を行います。
第17回	商品開発の実践② (情報収集・調査)	同上。ただし、基礎的な情報収集から、より商品に直結した調査に進みます。
第18回	商品開発の実践③ (コンセプト設定)	ここまで集めた情報・分析結果をもとに、提案する商品コンセプトを決定します。(3年生はSカレ向け、2年生はワークショップ向け)
第19回	商品開発の実践④ (コンセプト検証)	前回決定したコンセプトにつき、ディスカッション、各種実査(技術・コスト実現性)などを行います。(3、2年生の目的は同上)
第20回	商品開発の実践⑤ (プレゼン資料作成とプレゼン準備)	ここまで調査・分析した内容をプレゼン資料にまとめていきます。(3、2年生の目的は同上)
第21回	商品開発の実践⑥ (プレゼン練習の実施)	作成したプレゼン資料を、実際にプレゼン。相互にフィードバックを行います。(3、2年生の目的は同上)
第22回	Sカレ準備(3年生)、および、商品開発ワークショップの企業提案(2年生)①	3年生は、引き続きSカレに向けた準備を行います。2年生は、順次ワークショップの成果を企業様にプレゼンします。
第23回	Sカレ準備(3年生)、および、商品開発ワークショップの企業提案(2年生)②	同上
第24回	Sカレ 事前演習	Sカレ・冬カン(冬に行う最終大会)に向けた準備。 3年生が中心となり、企画書・プレゼンの練習を行う。 4年生、2年生を含み、相互にフィードバックを行う。
第25回	Sカレ 振り返り	よび、全体の進め方について、振り返る。良かった点、反省点、要修正点を発表する。2年生を含めフィードバックを行います。
第26回	2年生の商品コンセプト発表①	2年生から、個人の商品コンセプトプログラムについて、個別にプレゼンを行います
第27回	2年生の商品コンセプト発表②	2年生から、個人の商品コンセプトプログラムについて、個別にプレゼンを行います。
第28回	全体としての振り返り	1年間のゼミを振り返り、各自の発表・コメントを行う。 4年生の卒論発表、就活体験会、3年生から、2年生へのアドバイスを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

発表担当者は、事前にレジュメをワード／パワーポイントで作成し、授業において自ら説明・発表します。
自ら理解するだけでなく、他人に分かりやすいまとめ方・発表の仕方を習得することも目的とします。
商品開発では、授業外でインカレの大会に参加します。
その準備にも一部、授業外の時間が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

西川英彦・廣田章光「1からの商品開発」碩学舎 2012年

【参考書】

調査・分析の過程で、企業の状況、競合商品の状況、その他各種情報収集のため、ネットの検索を高い頻度で行います。
今年度の参考書として『君は戦略を立てることができるか 視点と考え方を実感する4時間』— 音部大輔著 2024年、を読む予定。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの活動の参加、グループワークへの貢献60%、各種発表での充実度40% (3年生はSカレ、2年生は個人の商品コンセプト策定プログラム、チームでの商品開発ワークショップ)

【学生の意見等からの気づき】

去年に引き続き、レクチャー(座学)もありますが、基本的に各回・通年で、アクションラーニング的に、チームでのディスカッション・作業・発表を多く行います。
また、レクチャーにおいても、皆さんの意見を多くきくため、双方向での授業を心掛けます。
3年生が参加するSカレについては、高い積極性が求められます。苦勞する分、充実感も大きいと思います。
2年生の企業向けの商品開発ワークショップでは、実際の企業の方々と相手にするため、社会人としての振る舞いが求められます。厳しい面もありますが、自ら能動的に動く楽しみを見つけてもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で実習を行いますので、基本的に毎回PC(／タブレット＋キーボード)を、各自持参してください。また、マイクロソフト社オフィス(特にワード・パワーポイント)が使用できるようにしてください。(互換ソフトも可能ですが、他人とのファイルやり取りもあるので、できるだけ純正のオフィスでお願いします。)
ただし、機種の性能的には、高いものでなくても構いません。

【その他の重要事項】

カリキュラム・ポリシー・カリキュラムの目的やねらいに基づきチェックしたところ、「【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】」について準備・復習時間の標準時間は2単位科目では1回につき4時間以上必要です。演習は通年8単位(半期で4単位)なので8時間以上必要になると思います。英語の記載も同様です。

【Outline (in English)】

The aims of this seminar are 1. to have systematic understanding of the basic theory and history of product development, 2. to acquire pragmatic skills for presenting product management, 3. to make a product development proposals through groupwork. The third-year students of this seminar are expected to join the Inter-university product development competition 'Student innovation college'. Students are expected to spend 6-8hrs per week to prepare for assignments and presentation. Students are assessed their grade through weekly assignments and participation to the class (60%), and contribution for the groupwork (40%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
小沢 和浩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7108」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済データの様々な分析手法を習得することを目的とする。演習ではExcelのマクロプログラムやVBなどを利用することもある。また、隔年で統計解析手法や地理情報システム(GIS)を用いる。また、プレゼンテーション技術の向上も目的とする。

基本的なデータ解析法を身に付けながら、各自研究テーマを持つ。各自の研究成果は年に数回の発表を行う。

【到達目標】

- ・データの特徴をつかむ基本理論と手法の理解
- ・データマイニングなどの手法を用いたデータ解析手法の習得
- ・データ解析に必要なプログラミング技法の習得
- ・プレゼンテーション技術の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本年度は対面での演習を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。前もって「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。また毎週の課題のほかに各自の研究テーマに関する発表会を年に数回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタルデータの表	二進数、十進数の表記法
	現法1	
第2回	デジタルデータの表	コンピューターで扱う情報表現
	現法2	
第3回	音声、映像データのデジタル化	音声、映像データのデジタル化の表現法
第4回	二進数の計算法	二進数の計算法を理解する
第5回	パーソナルコン	パーソナルコンピューターの動作原理1
	ピューターの動作原理1	
第6回	パーソナルコン	パーソナルコンピューターの動作原理2
	ピューターの動作原理2	
第7回	プログラミング言語	プログラミング言語を理解する
第8回	プログラミング	簡単なプログラミングを体験する
第9回	Pythonを使ってみる	Pythonを使いプログラミングを行う
第10回	アルゴリズム1	アルゴリズムを理解する1
第11回	アルゴリズム2	アルゴリズムを理解する（応用編）2
第12回	オブジェクト指向とは	オブジェクト指向について理解する
第13回	生成AIとは	生成AIを使ってみる

第14回	生成AIとプログラミング	生成AIを使ってプログラミングを行う
第15回	経済統計の作成過程	経済統計の種類と分類を理解する
第16回	経済統計の作成過程	統計の作成過程を理解する
第17回	人口統計	人口統計からの将来予測
第18回	家計	家計に関する統計調査を理解する
第19回	食料統計	食料統計の種類と入手法を学ぶ
第20回	物価・地価の統計	物価指標や地価統計の種類と入手法
第21回	労働統計	日本の労働統計諸事情
第22回	産業統計	変わる産業構造。主要な産業統計を理解する
第23回	企業統計	企業統計と経営状態の把握
第24回	国民経済	経済循環と国民経済計算の諸勘定
第25回	産業連関	産業連関表を理解する
第26回	景気	景気循環と景気統計
第27回	財政	財政の仕組みと統計
第28回	金融	デフレ不況と金融政策
	国際収支	国際収支と関連統計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習復習。

課題は毎週課されるので必ず提出すること。

また各自研究テーマを持ち、年に数回の成果発表をする予定。
本授業の準備・復習時間は、1回につき8時間以上が必要です。

【テキスト（教科書）】

講義の初めに紹介する。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題を必ず提出することが必要(70%)

演習への参加度、発表会のプレゼンなど（30%）

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

Windows8以上のOSを搭載し、Office2013以降のものがインストールされているPCを用意してください。

【Outline (in English)】

This course aims at learning various analysis methods for economic data. In the exercises, Excel macro programs and VB may be used. It also uses statistical analysis methods and geographic information systems (GIS). It also aims to improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.

Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
黒田 俊太郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7111」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の日本の文学・文化・歴史、文学理論などについて研究する。文学には、詩・小説・戯曲・随筆・文芸評論から、アニメ・漫画・映画などが含まれる。

【到達目標】

・文学作品に内在していた「問い」を再発見し、現代的な課題として問い直そうとする。（態度目標 [本単元で育成したい学習者の態度]）
 ・文学作品に内在する「問い」についての学習者同士や教師との対話を通して、私たちが人生において向き合わねばならない本質の問題について知る。（価値目標 [本単元で考えさせたい内容や価値観]）
 ・文学作品を分析的に読むための基本的な研究方法・調査方法・文学理論を学び、文学作品を分析することができる。（技能目標 [本単元で習得させたい知識や言語能力]）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講者による発表・報告を中心に進めていく。年間を通して、文学作品や文学理論に関する文献の輪読と、卒論をゴールとした個人研究とを並行して進めていく。また質疑応答を通じて成果物に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	年間計画・発表順の決定
第2回	① イントロダクション ②	研究方法・調査方法
第3回	春学期ゼミ活動①	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第4回	春学期ゼミ活動②	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第5回	春学期ゼミ活動③	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第6回	春学期ゼミ活動④	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第7回	春学期ゼミ活動⑤	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第8回	春学期ゼミ活動⑥	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第9回	春学期ゼミ活動⑦	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第10回	春学期ゼミ活動⑧	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第11回	春学期ゼミ活動⑨	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第12回	春学期ゼミ活動⑩	4限：文献輪読、5限：個人研究発表

第13回	春学期ゼミ活動⑪	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第14回	春学期ゼミ活動⑫	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第15回	秋学期ゼミ活動①	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第16回	秋学期ゼミ活動②	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第17回	秋学期ゼミ活動③	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第18回	秋学期ゼミ活動④	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第19回	秋学期ゼミ活動⑤	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第20回	秋学期ゼミ活動⑥	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第21回	秋学期ゼミ活動⑦	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第22回	秋学期ゼミ活動⑧	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第23回	秋学期ゼミ活動⑨	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第24回	秋学期ゼミ活動⑩	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第25回	秋学期ゼミ活動⑪	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第26回	秋学期ゼミ活動⑫	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第27回	秋学期ゼミ活動⑬	4限：文献輪読、5限：個人研究発表
第28回	秋学期ゼミ活動⑭	4限：文献輪読、5限：個人研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：文献・作品の下読み、発表準備（4時間）

事後学習：授業中に疑問に思ったことや新たに発見した問題について追跡調査・分析を行い、レポートや卒論執筆に活かす。（4時間）

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（50%）、レポート評価（30%）、平常点（20%）、などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this class, students will study modern Japanese literature, culture, history, and literary theory. Literature includes poetry, novels, plays, essays, and literary criticism, as well as anime, manga, and film.

Pre-class activities: two hours.

Post-class activities: two hours.

Grades will be based on the student's contribution to the class (50%), report evaluation (30%), and in-class performance (20%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
河村 真
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7112」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、ミクロ経済学の消費者の理論に関する理解を深める。自分で消費者の理論に基づき政策の効果を予測できるようになることを目標とする。秋学期は、統計学の入門レベルの教科書の練習問題をエクセルを用いて解き、具体的にデータが与えられた際に自分で仮説検定の結論を導けること、回帰分析の推定結果を評価できるようになることを目標とする。

【到達目標】

春学期には、具体的な消費者への課税または補助の例を探し、消費者の理論に基づき、これら政策の各商品またはサービスの消費量への効果を正しく予測できるようになることを目標とする。秋学期については、平均、標準偏差などの解釈を相対頻度分布の作成を通じて直感的に理解してもらう。正規分布、カイ二乗分布、t-分布を乱数発生させて再現することにより分布を理解する。T分布、F分布を用いた仮説検定および回帰分析の推定結果の評価を自分で行えるようにすることなどが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に、対面授業で行うことを考えている。春学期は各回の教材を用意し、講義したい。zoomによる講義で代替する場合もあり得る。各回の講義の質問等は、授業または、zoomによる授業の際に回答または対応する。春学期第10回終了後に、消費者理論の復習のため、課題を出し、1週間を期限として授業支援システムの課題にアップする。次の講義で回答の解説を行う。(zoomを通じての場合もある。

春学期の最後にも各自探した例による課題の解答を授業支援システムを通じて提出してもらう。秋学期最初の授業で、幾人かの解答を紹介し、課題の解答のポイントを解説する。秋学期は、すべての時限で実習授業である。実習なので対面が前提である。zoomによる授業の場合もある。(この場合、教員が作業をzoomで流し、各自作業の再現してもらう。リアルタイムで教員が各自の作業を確認する。質問等はその場で回答する。再現結果を求めたエクセルファイルを各自、授業支援システムを通じて提出をお願いする。)秋学期の最後の授業で行う回帰分析のレポートは、その時間内に質問等対応する。レポートの提出期間は2週間前後を考えている。最終授業終了後レポート提出までの質問等には、個別にメールでやり取りするかまたはzoomを使って対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	市場機構と需要・供給	例を用いた需要－供給分析の復習
第2回	市場機構と需要・供給	例を用いた需要－供給分析の復習
第3回	効用関数と無差別曲線	消費者の嗜好－効用関数と無差別曲線
第4回	効用関数と無差別曲線（特殊なケース）	消費者の嗜好－効用関数と無差別曲線（特殊なケース）
第5回	予算制約集合	課税または補助金による予算制約集合の変化の予測（実例を用いて）
第6回	消費者の主体的均衡	消費者の主体的均衡の導出
第7回	消費者行動と需要曲線	消費者の主体的均衡に基づく（個人または世帯の）ある財またはサービスの需要曲線の導出
第8回	消費者行動と需要曲線	所得が変化した際の消費者の主体的均衡の変化を通じて予測される需要曲線の変化（所得効果）
第9回	物品税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測（1）	物品税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。
第10回	所得税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測（2）	所得税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。

第11回	消費者理論の応用Ⅰ	消費者理論の応用例である労働供給（余暇と消費の選択）モデルとそれに基づき求められる個人（世帯）の労働供給曲線
第12回	消費者理論の応用Ⅱ	労働供給モデルを用いて、所得税税率の労働供給に与える効果の予測。
第13回	各自探してきた具体例による課題の作成(1)	財、サービスの需要量（需要曲線）または労働供給量（労働供給曲線）に影響を与える租税、補助金の変化の具体例を各自で探す。
第14回	各自探してきた具体例による課題の作成(2)	各自探して来た租税または補助金の変更が消費者理論または労働供給モデルに基づき消費量の変化または労働供給の変化を予測し、課題として提出
第15回	記述統計Ⅰ（平均、標準偏差）	エクセルを用いて、数値例で平均、中央値、標準偏差などを各自で求める
第16回	記述統計Ⅱ（ヒストグラム、累積頻度分布、標準化）	前回の数値例でヒストグラムの作成および累積頻度分布の作成および標準化した相対頻度分布の作成
第17回	大数の法則（シミュレーションによる確認）	VBAを用い、乱数を発生させ、相対頻度分布を作成。サンプル数が大きくなれば、真の値に近いサンプル数の比率が相対的に大きくなるような分布になることを確認する。
第18回	シミュレーションによる正規分布の再現	VBAを用いて乱数を発生させ、正規分布を再現させる。
第19回	シミュレーションによるカイ二乗分布およびt-分布の再現	VBAを用いて乱数を発生させ、カイ二乗分布およびt-分布の再現。正規分布、カイ二乗分布、t-分布の関係を著明的に理解する。
第20回	他の分布（ポアソン分布）	VBAを用いてポアソン分布を再現する。
第21回	検定の簡単な理論、正規分布を用いた検定の例	正規分布を用いた検定の練習問題を解く。
第22回	カイ二乗分布およびt-分布を用いた検定の例	カイ二乗分布およびt-分布を用いた検定の練習問題を解く。(例えば、平均値の有意差検定など)
第23回	F-分布を用いた検定の例	F検定を用いた検定の練習問題を解く。
第24回	2変量の関係-散布図と相関係数-	数値例（データの例）を用いてエクセルを使い、散布図の作成と相関係数を求める。さらに、その読み方。
第25回	回帰分析-単回帰-	回帰分析の説明。相関関係と因果関係
第26回	回帰分析-単回帰-	回帰分析の係数および標準誤差の導出の説明、数値例（データ）とエクセルを用いて、係数の推定値、標準誤差、t-値を求めてみる。
第27回	回帰分析-重回帰-	重回帰モデルの推定を、数値例（データ）とエクセルの回帰分析のツールを用いて、係数の推定値、標準誤差およびt-値を求めてみる。他の検定も紹介する。
第28回	回帰分析の課題の作成	各自、回帰分析に必要な相関が強そうな複数のデータを収集し、回帰分析を行い、推定結果の解釈をレポートとして作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期に関しては、教員の講義の内容を次の週までに復習、次の予習をしておいてもらえればよい。目安として、復習、次の予習にそれぞれ2時間程度必要と思われる。春学期の課題の作成に充てる最後の2回は、講義時間内で完了できない学生も現れるかもしれない。その場合、通常の復習の時間2時間に加え、さらに、2－4時間必要かもしれない。秋学期は、毎回、実習で、教員が行った結果を再現させる作業は、時間内で完了可能と思われる。しかし、予習、復習にはそれぞれ2時間程度必要と思われる。ただし、最後の回帰分析のレポートは、データの収集や回帰分析の結果の解釈や説明をより正確に理解するなど通常の実習より付加的な作業が加わるため、さらに2-4時間程度必要となるかもしれない。個人により違いがあるかもしれないが。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

春学期の中間の課題20%、春学期期末の課題30%、秋学期の授業時間内の実習状況の評価30%、秋学期末回帰分析のレポート20%で評価を付ける。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答があまり出ないので、質疑応答が活発になるように工夫が必要と思われる。

【その他の重要事項】

カリキュラム・ポリシー、カリキュラムの目的やねらいに基づき第三者チェックを行いました。以下の点についてご確認ください。

到達目標の記述が、「授業の概要と目的（何を学ぶか）」に記載した授業の目的・意義をいくつかの事項に具体化した、現実的な学習目標を記載します。というガイドラインからすると抽象的に過ぎるようなと思われます。より具体性をもたせて記述してください。

【Outline (in English)】

In spring semester, basic understandings for consumer theory in microeconomics could be acquired by lecture and solving several practices.

In autumn semester, understanding for basic statistics has been acquired by solving problems, textbook have offered, using excel or VBA. This course introduces basic consumer theory in micro economics, and relationships among distributions, have been often used in statistics.

The goal of this course is to predict consumptions changes and individual demand curve changes correctly by policy change ;tax rate change, and subsidy change based on consumer theory. Another aim is for students to confirm retrieving several distributions(normal distribution, chi-squared distribution, t-distribution, and etc.) from generating random variable from unique distribution, and making some transformation of it, by VBA programing.

In the spring semester, before/after each classroom meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course contents.

In the autumn semester, before/after each classroom meeting, students will be expected to spend 4 hours to complete programing, and acquire the basic image of generating a certain distribution.

In the spring semester, your overall grade in the class will be decided based on the following, Mid-term report:40%, Term end report:40%, and in-class contributions:20%.

In the autumn semester, your overall grade in the class will be decided based on the following, 1st report:20%, 2nd report:20%, 3rd report: 20%, term end report: 20%, and in-class contributions:20%.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
阿部 俊弘
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7113」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

統計学を基礎として、理論的な研究とデータ分析のための手法を身に付けていく。また、英語論文も活用し、様々な研究手法を学んでいく。

※各回の授業形態で未定としているものについての詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【授業の目的・意義】

- ・卒業論文のための基礎学力・発表の仕方を身に着ける。
- ・論文を書くための研究リテラシーを高める。

【到達目標】

- ①統計学・計量経済学の基礎を身に付ける。
- ②身の回りのデータについて仮説検証等の分析を行う。
- ③自分の意見や分析結果のプレゼンテーションをする。
- ④他人の発表にコメント・質問・議論をする。
- ⑤グループまたは個人で研究を行い、思考能力および専門知識を身につける。
- ⑥英語の論文を読んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

- ・統計学・計量経済学について、輪読を通じて理解を深める。
- ・身の回りのニュース・経済現象等について発表・議論し理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ゼミの内容、進め方、今年度のスケジュールの決定	R/Pythonを用いて統計学を学んでいく
データの要約・可視化	基本統計量の計算・可視化	平均・分散・相関・ヒストグラム・散布図
確率密度関数の表示	確率密度関数	ソフトウェアによる関数の図示
乱数発生1	乱数発生について	正規分布の乱数発生・図示
乱数発生2	様々な分布の乱数発生	t分布等の乱数発生・図示
信頼区間	信頼区間についての復習	分布を用いた信頼区間
統計的仮説検定	統計的仮説検定についての復習	分布を用いた仮説検定
パラメータ推定	分布のパラメータ推定	モーメント法・最尤法
回帰分析の概要	回帰分析の基本	単回帰分析モデルについて

単回帰モデルの推定	最小二乗法による単回帰モデルのパラメータ推定	単回帰分析モデルのパラメータ推定
単回帰パラメータの信頼区間	パラメータの信頼区間	単回帰分析モデルのパラメータの信頼区間
単回帰パラメータの検定	単回帰モデルの仮設検定	帰無仮説と対立仮説を用いる
単回帰モデルの評価	単回帰モデルを評価する	様々な評価法を学ぶ
単回帰分析の応用	データを用いた回帰分析の応用	実データを用いて分析を行う
重回帰モデルの概要	単回帰モデルの拡張	重回帰モデルが必要な例について
重回帰モデルのパラメータ推定	回帰係数の信頼区間と仮設検定	単回帰と同様にして行えることを確認していく
最尤法を用いたパラメータ推定1	最小二乗法と最尤法	最小二乗法と最尤法による推定の比較を行う
最尤法を用いたパラメータ推定2	推定パラメータの従う分布	推定したパラメータがどのような分布に従うのか学ぶ
論文の輪読1	論文の構成	研究論文はどうやって書くのかを学ぶ
論文の輪読2	データの紹介	論文のデータについてどのようなものであるのか調べる
論文の輪読3	データ解析のための理論	論文で使われている理論を紹介する
論文の輪読4	データ解析1	データチェックを行う
論文の輪読5	データ解析2	理論で学んだ手法を用いてデータ解析をreviewする
論文の輪読6	論文のまとめ	全体としてどのようなことを行ったかまとめる
データの取得1	多変量データ	多変量データの取得を行う
データの取得2	時系列データ	時系列データの取得を行う
データ解析	データ解析の実践	これまで得たデータを用いてデータ解析を行う
まとめ	これまでの内容についてまとめる	まとめとして、発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習・復習を行う
- ・身の回りの現象・データについて統計的な視点を持つ
- ・本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ4時間を目安とする

【テキスト（教科書）】

学生と相談して決める

【参考書】

宮田庸一・阿部俊弘『実践のための統計学: 回帰分析とデータサイエンス入門』アイケイコーポレーション
 国沢 清典『確率統計演習1 確率』培風館
 国沢 清典『確率統計演習2 統計』培風館

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況・発表内容・議論への参加(100%)による。

【学生の意見等からの気づき】

実データを意識した実践的な内容にしていきます

【学生が準備すべき機器他】

PythonやRを使用するのでPCが必要となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We learn statistical methodology for theoretical research and data analysis. We also make use of research publications to learn various statistical methods.

*Details for each session will be announced through the learning support system.

【Learning Objectives】

(1) Learn the basics of statistics and econometrics.

(2) Conduct analyses such as hypothesis testing on real data.

(3) Present one's own opinions and results of analysis.

(4) Give comments, questions, and discussions to other people's presentations.

(5) Conduct research in groups or individually, and acquire the ability to think and specialized knowledge.

(6) Read articles in English.

【Learning activities outside of classroom】

- Preparation and review for the class

- To have a statistical viewpoint on the phenomena and real data.

- The standard preparation and review time for this class is needed for two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The grade is made based on results of assigned exercises, content of presentations, and participation in discussions (100%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
J E S S D I A M O N D
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7116」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファイナンス、投資に関するテキストの輪読を通じて、現実の投資を行う能力を身につける。さらに、輪読や研究報告を通じて、自分の考えをわかりやすく他人に伝えられるようなプレゼンテーション能力を培っていく。

In this seminar we learn the critical skills of investing. We begin by following a textbook treatment of finance, followed by group and individual projects. We also learn how to effectively communicate ideas through presentations.

【到達目標】

リスクとリターンの関係や企業の価値創造について、正しく理解し、他人に説明できるようになる。他人の考えを理解し、それに対し自分の考えを伝える能力を身につける。

The goal of the seminar is to understand the relationship between risk and return as well as the process of value creation by firms. We also use the seminar to learn how to communicate our ideas clearly to others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

学生が主体となって、テキストの輪読、研究発表を行う。フィードバックはプレゼンテーション後、またはプロジェクト提出後先生と会って個人的に行う。原則として、すべてのレッスンは対面式です。The seminar teaches the basics of finance, followed by presentations and projects of students. Regular feedback will be given after presentations and projects on an individual basis. In principle, all the lessons are in-person.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Explanation of schedule and requirements.
2	Introduction	Statistics Primer
3	Introduction	Famous Investors: Warren Buffett
4	Introduction	Visit To The Tokyo Stock Exchange
5	Introduction	The Corporation and Financial Markets
6	Introduction	Corporate Scandals: Valeant Pharmaceuticals
7	Introduction	Introduction to Financial Statement Analysis
8	Introduction	Financial Decision Making and the Law of One Price
9	Time, Money and Interest Rates	The Time Value of Money

10	Time, Money and Interest Rates	Interest Rates
11	Time, Money and Interest Rates	Valuing Bonds
12	Valuing Projects and Firms	Investment Decision Rules
13	Valuing Projects and Firms	Fundamentals of Capital Budgeting
14	Final Presentations	Students Present Their Own Research
15	Valuing Projects and Firms	Valuing Stocks
16	Risk and Return	Capital Markets and the Pricing of Risk
17	Risk and Return	Optimal Portfolio Choice and the Capital Asset Pricing Mode
18	Finance in Reality	Margin Call
19	Risk and Return	Estimating the Cost of Capital
20	Risk and Return	Investor Behavior and Capital Market Efficiency
21	Finance in Reality	Company Visit
22	Capital Structure	Capital Structure in a Perfect Market
23	Finance in Reality	The Big Short
24	Zemi Interviews	Preparation
25	Zemi Interviews	Interviews
26	Capital Structure	Debt and Taxes
27	Capital Structure	Financial Distress, Managerial Incentives and Information
28	Final Presentations	Student Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend 8 hours reviewing per lesson reviewing class material.

【テキスト（教科書）】

Berk, J. and DeMarzo, P., 2019. Corporate Finance, Global Edition: Pearson Education.

【参考書】

Thorndike, W.N., 2012. The Outsiders: Harvard Business Review Press

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、プレゼンテーションに基づいて、成績評価を行う。Grading will be based on the degree of student participation and quality of presentations and group work.

Participation: 30%

Tests, Presentations and Group Work: 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

【その他の重要事項】

高校レベルの数学の知識を有していると輪読するテキストの内容の理解がよりスムーズにできると思われる。英語を読むこと（話せなくても）を苦にしない学生であることが望ましい。

A proficiency in high-school-level mathematics will be an advantage. The seminar is conducted in English, so language proficiency is requirement.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
武田 浩一
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7118」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文献の輪読で経済に関する基本的な見方を学習しながら、グループあるいは個人で研究を行い研究成果のプレゼンテーションを行い、株式投資シミュレーションを通じて経済やビジネスの動向に関する洞察力を養います。演習において積極的な発言が求められますので、有意義な議論を行うためにも統計学やミクロ経済学などの演習の基礎となる科目を並行して受講することを勧めます。失敗を恐れずに難しい課題にもチャレンジしてその経験から真摯に学ぶことによってスキルが大きく伸びていくことをよく認識した上で、未経験の課題にも果敢に粘り強く取り組んでください。

【到達目標】

この演習では、経済についての深い理解と、大学卒業後に社会人になった時に役に立つ思考力、表現力、実行力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定です。もし講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布するので、この講義を履修する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上で資料をよく読んでください。経済のテキストの輪読、個人・グループ研究のレポート・論文の作成、プレゼンテーション、投資の計画策定・シミュレーション実行・成果レビュー、ディスカッションなどを行います。個人・グループ研究に本格的にとりかかる前に、経済に関する研究の進め方や論文の書き方などについて基本事項を確認します。

それぞれの課題に取り組む際には、専門知識が全くない初学者がいきなり何となく我流で取り組むと、課題への本質的な理解が浅いレベルで取り組みが停滞しやすく、大学生として十分に有意義な成果があがる前に壁に当たって行き詰まってしまうおそれがあります。各課題への取り組みから単なる自己満足にとどまらない成果を上げるためには、各課題において自分の力で筋道立てて考えることや考えたことを他人に分かるように表現することを可能にする最低限の基礎力を身につけることに地道に取り組みながら、学んだ基礎知識を応用して自分の興味や関心があることに粘り強く段階を踏んで取り組む姿勢をきちんと身につけるように努めることが非常に重要になります。

各課題のフィードバックは毎回の演習講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学習ガイダンス	ゼミナールでの基本的な学習方法の説明1
第2回	学習ガイダンス	ゼミナールでの基本的な学習方法の説明2

第3回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第1回
第4回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第2回
第5回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告 第1回
第6回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告 第2回
第7回	投資シミュレーション	投資の基本構想と計画の発表
第8回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第3回
第9回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第4回
第10回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第5回
第11回	投資シミュレーション	投資の基本構想と計画の発表
第12回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第6回
第13回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第1回
第14回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第2回
第15回	投資シミュレーション	投資状況の中間報告 第1回
第16回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第1回
第17回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第2回
第18回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 3回
第19回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第1回
第20回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第4回
第21回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第5回
第22回	投資シミュレーション	投資状況の中間報告 第2回
第23回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第1回
第24回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第2回
第25回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第2回
第26回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第3回
第27回	投資シミュレーション	投資結果のレビューと投資成果の最終報告
第28回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第4回

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する文献には事前に目を通し、もし分からないところがある場合には、自分で調べたり輪読の時間やその前後に質問したりして、分からないままに残さないことが重要です。

個人・グループ研究や投資シミュレーションにおいては、ゼミの時間外に各自でテーマの設定、研究計画の策定、調査の実施、調査結果の分析や考察、論文の執筆、シミュレーション投資の実行、プレゼンテーションの準備などを着実に進める自律的な研究姿勢が求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読テキストは、最近の経済書の中からゼミ生と相談の上で最終的に決めます。

【参考書】

・阿部修人, 宇南山卓, 大湾秀雄, 谷崎久志編『現代経済学の潮流 2024』東洋経済新報社、2025年
その他は講義の中で個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年生の評価は、授業内評価70%と、論文・レポート評価30%からなります。4年生の評価は、研究発表と論文の総合評価100%になります。

授業内評価では、平常点、輪読の報告内容の充実度、演習で学習した内容の理解度、および毎回の発言回数とその内容が評価の重要な要素となります。

論文やレポートの評価では、調査の綿密さ、説明の分かりやすさ・丁寧さ、主張の独創性・論理性・説得性、が評価の重要な要素となります。

高い評価を受けるためには、ゼミの課題に積極的に取り組み、設定された学習目標への到達度を高めることが求められます。

無断での授業の欠席は厳禁です。欠席および20分程度以上の遅刻早退は、事前に事由を教員に説明することが求められます。

【学生の意見等からの気づき】

論文やレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なスキルの強化を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行ないます。

【Outline (in English)】

This course will help the students prepare for the thesis. The course aims to show the way to conduct economic research and construct a proposal which follows what you have learned.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (75%), and reports and the thesis (25%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
深谷 舜
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7119」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「高齢者の自立支援のための介護政策の研究」

「ケア」という概念のもとに、育児と介護の質の違いが看過され、さらには社会福祉における措置制度と社会保険でカバーする介護サービスとの違いを自覚できてない社会福祉法人の介護事業所も存在します。この結果、本来主体であるべき高齢者は依存者・従属者と見なされがちです。今年度のゼミナールでは、①個人々の自立・自律を支える理想的介護政策と制度、②ITやロボットという技術的支援の可能性、③介護事業の産業化のための新組織、を考察します。

【到達目標】

基本文献として、香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』（東洋経済新報社、2022年）を精読することによって、日本の介護政策の当初の理念と形成された制度を理解します。そして、これを土台にして、中西正司、上野千鶴子『当事者主権』（岩波新書、2024年）を読みながら介護制度の現状を批判的に検討します。同時に、高齢者の自立支援介護やITやロボットという技術的支援を導入している事業所を訪問して情報を集め、支援の新しい可能性を検討します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

演習2時間2時間、共通テキストである『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』『当事者主権』を精読します。残りの1時間では、(1)グループに分かれて学生研究報告大会用共同研究の準備(2)各人が興味をもったテーマについて研究し個人研究論文を執筆するための中間発表と論文指導を行ないます。テキスト講読のフィードバックは授業中に教員から直接口頭で伝え、個人研究のフィードバックは、提出された各人の草稿ファイルを教員が添削し返送するという形で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介・テキスト精読の方法とゼミ論文への取り組み方の説明
第2回	テキスト精読／前年度個人研究報告	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第1章介護保険前史(1):救貧としての老人福祉から介護保険制度の施行まで
第3回	テキスト精読／前年度個人研究報告	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第1章介護保険前史(2)：日本型福祉社会論
第4回	テキスト精読／前年度個人研究報告	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第3章高齢者介護・自立支援システム研究会

第5回	テキスト精読／前年度個人研究報告	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第4章 介護保険が起こしたパラダイム転換(1)措置との決別—社会保険方式の導入
第6回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第5章 介護保険が起こしたパラダイム転換(2)介護の社会化—家族依存介護との決別
第7回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第6章 介護保険が起こしたパラダイム転換(3)自立支援・高齢者保健福祉3原則
第8回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第7章 介護を科学する：要介護認定とケアマネジメント
第9回	テキスト精読／個人研究計画報告	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第8章介護保険を支える「ケアの哲学」(1)在宅介護原則：生活の継続性の保障
第10回	共同研究発表準備	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第9章介護保険を支える「ケアの哲学」(2)個室・ユニットケア
第11回	共同研究発表準備	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制第10章介護保険を支える「ケアの哲学」(3)第三類型—居住系サービス度の理念・意義・課題』
第12回	共同研究発表準備	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第11章 介護保険を支える「ケアの哲学」(4)認知症ケアの標準化—グループホーム・小規模多機能・認知症サポーター
第13回	共同研究発表準備	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第12・13章介護保険をめぐる論争：現金給付と介護手当、生活援助（家事援助）
第14回	共同研究発表準備	香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』第14章介護保険の到達点 地域包括ケアネットワーク
第15回	共同研究発表準備	中西、上野『当事者主権』序章 当事者宣言
第16回	共同研究発表準備	中西、上野『当事者主権』1章 当事者運動の達成してきたもの
第17回	共同研究発表準備	中西、上野『当事者主権』2章介護保険と支援費制度
第18回	共同研究発表準備	中西、上野『当事者主権』3章当事者ニーズ中心の社会サービス
第19回	テキスト精読／個人研究中間報告	中西、上野『当事者主権』4章当事者たちがつながるとき：適正規模とネットワーク型連携
第20回	テキスト精読／個人研究中間報告	中西、上野『当事者主権』5章当事者は誰に支援を求めるか：政府・企業・NPOの役割分担と競合
第21回	テキスト精読／個人研究中間報告	中西、上野『当事者主権』6章当事者が地域を変える：福祉の客体から主体へ、さらに主権者へ
第22回	テキスト精読／個人研究中間報告	中西、上野『当事者主権』7章当事者の専門性と資格：ケアマネジメントか、ケアコンサルタントか

第23回	テキスト精読／個人研究中間報告	中西、上野『当事者主権』9章二〇〇三年以降の障害者運動と新たな法制度
第24回	テキスト精読／個人研究中間報告	中西、上野『当事者主権』11章介護保険以後の高齢者福祉：当事者ではなかった高齢者
第25回	今年度のゼミ研究のまとめ	中西、上野『当事者主権』12章介護保険の達成と危機：再家族化と市場化
第26回	個人研究論文の完成	添削指導の下での個人研究論文の推敲
第27回	個人研究論文の完成	添削指導の下での個人研究論文の推敲
第28回	個人研究論文の完成	添削指導の下での個人研究論文の推敲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回でのテキスト読解に必要な、関連する事項や史実を調べるため、そして個人研究論文執筆のためなど、本演習の準備・復習時間は各8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

香取照幸『高齢者福祉論—介護保険制度の理念・意義・課題』（東洋経済2024年）

中西正司、上野千鶴子『当事者主権』（岩波新書、2024年）

【参考書】

参考書はあらかじめ指定しませんが、授業中にその都度テーマに沿ったものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学生が毎回提出する講読テキストの要旨に反映される内容理解度（60%）とゼミ論に示された問題探究能力と達成度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキスト読解に不可欠な歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

"Research on assistance policies to support the independence of the elderly"

Under the concept of "care," the difference in quality between childcare and elderly nursing care is overlooked, and nursing care and social welfare are becoming confused. As a result, the elderly people are often viewed as dependent and subservient. In this year's seminar, we will think of ideal assistance policies to support the independence and autonomy of individuals and consider the possibility of technological support through the application of robots.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the needs of the elderly for their independent lives and to devise a plan to assist them.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each seminar, students will be expected to spend eight hours for preparation of text reading and individual research.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following: the degree of understanding of the course content reflected in the abstracts of the text reading submitted after each seminar (60%) and the degree of research ability and achievement (40%) shown in term papers.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
小林 克也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7120」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、他の講義で学んだ経済学の知識を基礎に、経済学の初級から中級程度の知識と応用力を身につけます。そのために教科書をひとつ選んで輪読をします。加えて、Financial Timesの記事の輪読をします。経済記事に慣れることと、記事の内容について考えることが目的です。さらにゼミ生が自分でテーマを選んで報告をしてもらいます。2, 3年生でこれらを学んだのち、4年生は自分で分析テーマを見つけて卒業論文を作成します。

【到達目標】

経済学の知識と応用力を身につけることが目標です。2・3年生は論理的な思考力やレポートの書き方も身につけます。4年生は研究テーマを自分で見つけて分析し、その結果を卒業論文としてまとめます。また英字新聞(Financial Times)の経済記事で使われる英語に慣れることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

すべて対面で実施します。経済学の教科書の輪読をします。自分で選んだテーマについての考察を報告し、ゼミ生どうして議論をします。4年生は卒業研究について複数回、分析の進捗の中間報告をします。Financial Timesの中から記事を選んで輪読をします。報告や課題に対する指導、みなさんからの質問への回答は教室で直接私が伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	輪読と報告(1)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第2回	輪読と報告(2)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第3回	輪読と報告(3)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第4回	輪読と報告(4)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第5回	輪読と報告(5)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。

第6回	輪読と報告(6)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第7回	輪読と報告(7)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第8回	輪読と報告(8)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第9回	輪読と報告(9)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第10回	輪読と報告(10)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第11回	輪読と報告(11)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第12回	輪読と報告(12)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第13回	輪読と報告(13)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第14回	輪読と報告(14)	テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。夏休みの共同課題の説明。
第15回	輪読と報告(15)	共同課題の報告1回目。テキストの輪読。4年生は卒業研究。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第16回	輪読と卒業研究報告(1)	共同課題の修正版の報告。テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第17回	輪読と卒業研究報告(2)	共同課題の再修正の報告。テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第18回	輪読と卒業研究報告(3)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第19回	輪読と卒業研究報告(4)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第20回	輪読と卒業研究報告(5)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。

第21回	輪読と卒業研究報告 (6)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第22回	輪読と卒業研究報告 (7)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第23回	輪読と卒業研究報告 (8)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第24回	輪読と卒業研究報告 (9)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第25回	輪読と卒業研究報告 (10)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第26回	輪読と卒業研究報告 (11)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第27回	輪読と卒業研究報告 (12)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。
第28回	輪読と卒業研究報告 (13)	テキストの輪読。4年生は卒業研究の中間報告。2, 3年生はFinancial Timesの記事や選んだテーマについての報告と議論をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の報告者予定の方はあらかじめ報告準備をすることが必要です。Financial Timesの記事は毎回全員に訳してもらい、内容について適宜、私が質問をします。報告当番でないときも、予め教科書や記事に目を通しておく必要があります。4年生は卒業論文の分析を進めます。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

履修予定者に教科書の希望分野のアンケートをとります。初回の授業で、アンケート結果に基づき候補となる本を複数私から示します。その中から輪読するテキストを皆さんと相談して決めます。毎週、Financial Timesから私が記事を選んで配付しますので、その記事もテキストとなります。

【参考書】

経済学で用いる基本的な計算スキルも必要です。数学のテキストとして以下をあげておきます。

三土修平『初歩からの経済数学』日本評論社。

鈴木孝弘『高校数学からはじめるやさしい経済数学テキスト』オーム社

高校生や大学生が利用する英和辞書（英文記事はネット上で訳させるのではなく、自分で辞書を引きながら意味を取ることが必要です）授業の最初で選んだ輪読のテキストに関連する参考書は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2, 3年生は平常点25%とレポート25%、共同課題25%、報告内容25%、計100%。4年生は卒業論文(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが論理的思考ができるようになるように私から質問をしながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。PCやインターネットが必要です。なお2025年度から学習支援システムが変更となっています。

【Outline (in English)】

Course outline:

The aim of this seminar is to acquire the knowledge and application skills of economics by reading a textbook in turn. Students also read articles of Financial Times (newspaper) in turn. In addition, each student makes a presentation about a topic which they are interested in.

Learning objective:

Students should acquire the skills of economic knowledge and its application. Sophomores and juniors learn how to write academic reports and how to make a presentation. Seniors find a research theme, analyze it, and write a graduation theses. All students should get use to English economic words in Financial Times.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade of sophomores and juniors will be calculated by in-class contribution 25%, a report 25%, assignments 25%, and presentations 25%. The total is 100%. That of seniors will be calculated by a graduate theses 100%.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
近藤 章夫
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7121」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、都市・地域における産業・企業の立地を対象にしなが
ら、文献輪読、統計分析・資料分析、現地調査（フィールドワーク）
を軸に研究の多様なアプローチを学習する。

【到達目標】

上記のテーマを通じて、経済地理学、都市・地域経済学の思考方法
を学び、自らの問題関心に沿って研究を遂行する能力を養うことが
目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」
「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」
「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

受講者の発表や討論が中心となる。また、自らが問題を設定し、積
極的かつ自主的に現地調査や個人研究を企画・実施していくことが
望ましい。受講者の関心や希望をふまえつつ、①重要文献の輪読、
②現地調査の実習（夏期地域調査）、③個人・グループ自由研究の発
表、を軸に進めていく。特に、現代経済・ビジネスと都市地域経済
に関わる幅広い教養と有益なアプローチの習得に主眼をおく。課題
やリアクションペーパーなどを授業内で適宜紹介し、さらなる議論
に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ①	オリエンテーション、年間計画
第2回	イントロダクション ②	文献・資料の探し方、役割分担
第3回	春学期ゼミ活動①	4限：文献輪読、5限：分析実習
第4回	春学期ゼミ活動②	4限：文献輪読、5限：分析実習
第5回	春学期ゼミ活動③	4限：文献輪読、5限：分析実習
第6回	春学期ゼミ活動④	4限：文献輪読、5限：分析実習
第7回	春学期ゼミ活動⑤	4限：文献輪読、5限：分析実習
第8回	春学期ゼミ活動⑥	4限：文献輪読、5限：分析実習
第9回	春学期ゼミ活動⑦	4限：文献輪読、5限：分析実習
第10回	春学期ゼミ活動⑧	4限：文献輪読、5限：分析実習
第11回	春学期ゼミ活動⑨	4限：文献輪読、5限：分析実習
第12回	春学期ゼミ活動⑩	4限：文献輪読、5限：分析実習
第13回	春学期ゼミ活動⑪	4限：文献輪読、5限：分析実習
第14回	春学期ゼミ活動⑫	4限：文献輪読のまとめ、5限： 春学期の総括
第15回	イントロダクション	秋学期計画、夏期調査の中間報 告
第16回	秋学期ゼミ活動①	4限：文献輪読、5限：調査報告
第17回	秋学期ゼミ活動②	4限：文献輪読、5限：調査報告
第18回	秋学期ゼミ活動③	4限：文献輪読、5限：分析実習
第19回	秋学期ゼミ活動④	4限：文献輪読、5限：分析実習
第20回	秋学期ゼミ活動⑤	4限：文献輪読、5限：分析実習
第21回	秋学期ゼミ活動⑥	4限：文献輪読、5限：分析実習
第22回	秋学期ゼミ活動⑦	4限：文献輪読、5限：研究発表

第23回	秋学期ゼミ活動⑧	4限：文献輪読、5限：研究発表
第24回	秋学期ゼミ活動⑨	4限：文献輪読、5限：研究発表
第25回	秋学期ゼミ活動⑩	4限：文献輪読、5限：研究発表
第26回	秋学期ゼミ活動⑪	4限：文献輪読、5限：研究発表
第27回	秋学期ゼミ活動⑫	4限：文献輪読、5限：研究発表
第28回	秋学期ゼミ活動⑬	4限：文献輪読のまとめ、5限： 春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習、事後の復習・課題への積極的な取り組み、ゼミ正規時
間以外の課外活動への積極的関与等が求められる。本授業の準備学
習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、授業への貢献度（発表・課外活動等含む）評価（30%）、
レポート評価（30%）などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

個人の研究関心や問題意識に最大限配慮して柔軟に授業計画を進
める。

【その他の重要事項】

この演習は対面で行うが、状況によっては一部をオンラインで実施
することもある。学期中は学習支援システムなどを用いて、課題の
提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や
授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and Learning Objectives:

In this seminar, students will learn various approaches
to research based on literature review, data analysis, and
fieldwork, while focusing on the location of industries and
companies in cities and regions.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
The students' participation in class: 40%, in class contribution:
30%, Term-end reports: 30%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
坂本 憲昭
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7123」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3部構成で学びます。1. 待ち行列の基礎を学習し、理論と実際の違いを理解します。2. 現代社会に不可欠なITリテラシー（情報系）トレンドを学習し、パーク事例を通して実際にどのように使われているかを理解します。3. グループディスカッションのスキルを磨きます。ディスカッション方法を学習し、少人数で課題に取り組み、成果をプレゼンします。あきらめずに考え抜くことを実践により会得します。

【到達目標】

混雑状況の把握と予測ができる。ITや情報系ツールの活用を考えることができる。グループディスカッションにおける発言力及びプレゼンテーションスキルが向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業方法は講義、課題解決型学習であり、課題ごとに異なる少人数でグループディスカッション及び課題解決、プレゼンテーションに取り組む。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方を理解する。
第2回	同学年受講生間の交流	同学年で少人数グループを構成し、海外パーク計画課題に取り組む。
第3回	学年がことなる受講生間の交流	2年生3年生混合の少人数グループを構成し、前回と異なる海外パーク計画課題に取り組む。
第4回	1次元バーコード講義	1次元バーコードに関する講義とパークにおける事例紹介をする。実社会における利用事例を調べる。
第5回	2次元バーコード講義	2次元バーコードに関する講義とパークにおける事例紹介をする。法政大学先輩によるQRコード発明を紹介する。実社会における利用事例を調べる。
第6回	グループディスカッション技法	ブレンストーミングなどのグループディスカッション技法を学ぶ。
第7回	プレゼンテーションの定石	スライド作成のための定石を学ぶ。
第8回	バーコードを利用したシステム提案	グループでパークを対象としたバーコード課題に取り組む、そのアイデアをプレゼンする。
第9回	データベースシステムの基礎	データベースシステムの基礎を学ぶ。演習問題に取り組む。
第10回	RFタグ講義	RFタグを利用したシステムに関する講義とパークにおける事例紹介をおこなう。実社会における利用事例を調べる。
第11回	NFC講義	NFCに関する講義とパークにおける事例紹介をおこなう。実社会における利用事例を調べる。
第12回	RFまたはNFCを利用したシステム提案	グループでパークを対象としたRFまたはNFCシステムの課題に取り組む、そのアイデアをプレゼンする。
第13回	待ち行列講義（窓口ひとつの場合）	窓口がひとつの場合の待ち行列の基礎を学ぶ。リトルの公式を学ぶ。
第14回	待ち行列講義（複数窓口の場合）	複数窓口の場合の待ち行列の基礎を学ぶ。パークにおける待ち行列の研究を理解する。
第15回	待ち行列シミュレーションのためのデータ収集	パークにおける待ち行列のシミュレーションをするための設定やデータ収集をおこなう。

第16回	Excel基礎演習（絶対参照、乱数、時系列処理、シートの再計算設定など）	Excelで待ち行列の時系列シミュレーションに必要な手法や関数等を学ぶ。
第17回	Excelデータ分析実習	分析ツールやWhatIf関数を学ぶ。
第18回	Excelシミュレーション実習	Excelで待ち行列のシミュレーションをおこなう方法を習得する。
第19回	パークに関するExcelによる1窓口待ち行列シミュレーション	グループごとに1窓口待ち行列シミュレーション課題に取り組む。
第20回	パークに関するExcelによる複数窓口待ち行列シミュレーション	グループごとに複数窓口待ち行列シミュレーション課題に取り組む。
第21回	LT（ライティングトーク）の紹介	LTの紹介と活用事例を学ぶ。
第22回	LTの実践（一般事例の場合）	春学期に学んだシステムツールから選んだ実例をプレゼンする。
第23回	LTの実践（パーク対象の場合）	パークを対象とした場合の実例をプレゼンする。
第24回	LTの実践（アイデアの紹介）	パークを対象としたこれまでの学習内容にこだわらないアイデア又は調査内容をプレゼンする。
第25回	過去及び他大学の研究事例	ディズニリーゾートをテーマとした本演習の過年度及び他大学の発表や研究を学ぶ。
第26回	ディズニリーゾートを対象とした研究	ディズニリーゾートを対象とした研究を解説する。
第27回	ディズニリーゾートを対象としたアイデアの生成	ITや情報システムにとらわれずに広範囲を対象とした提案（課題解決）に取り組む。
第28回	ディズニリーゾートを対象としたアイデアのプレゼンテーション	ITや情報システムにとらわれずに広範囲を対象とした課題を解決又は改善するアイデアをプレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループごとに課題の取り組みをします。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使います。

【参考書】

- ・フェルミ推定から始まる問題解決の技術、高松智史、ソシム
- ・フェルミ推定の技術、高松智史、ソシム
- ・地頭を鍛えるフェルミ推定ノート、東大ケーススタディ研究会、東洋経済新聞社
- ・システムを作らせる技術（エンジニアではないあなたへ）、白川克、濱本佳史、日本経済新聞出版
- ・ひと目で伝わるプレゼン資料の全知識、日比海里、インプレス
- ・プレゼン資料の図解化大全、前田鎌利、堀口友恵、ダイヤモンド社
- ・待ち行列の参考書は多いのでガイダンスにて紹介

【成績評価の方法と基準】

課題の成果物とプレゼンテーション内容の合計点を100点満点とし、60点以上で合格になります。

【学生の意見等からの気づき】

他グループの発表時に、その内容を参考にして自分たちのプレゼン内容をより良いものに改善できるような時間の使い方を取り入れます。LT（ライティングトーク）の取り組み時間を増やします。待ち行列の例題を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

BYOD用のPC端末

【Outline (in English)】

This course is structured in three parts.

- 1) Students will learn the fundamentals of queuing theory and gain an understanding of the differences between theoretical models and real-world applications.
- 2) Students will study current trends in IT literacy that are essential in modern society, and through park-related case studies, they will learn how these technologies are actually applied in practice.
- 3) Students will develop their group discussion skills by learning effective discussion methods, working on assignments in small groups, and presenting their outcomes.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
馬 欣欣
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7125」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学部で学んでいくために必要な知識を身につけることが目的です。学術資料の探し方、レポートの書き方のほか、グループディスカッションや研究発表などを通じて、面白いテーマを見つけ（問題発見能力）、自分の考えを持って、理論的・実証的検証し（問題解決能力）、そして他人に伝えるスキル（コミュニケーション能力）を育成します。

【到達目標】

経済現象に関する様々なことに疑問を持ち（問題発見）、自ら調べ、自分の答えを見つけ（問題解決）、伝える能力（コミュニケーション）の能力を身に付けることが到達目標です。書籍・雑誌・新聞・インターネットなど様々な情報がある中で、多様な情報収集の方法を活用でき、発表・討論する能力を身に付けることを目的とします。

The goal is to acquire the ability to question various economic phenomena (problem finding), investigate by oneself, find one's own answer (problem solving), and communicate (communication). The purpose is to acquire the ability to make presentations and discuss by utilizing various information collecting methods in the presence of various information such as books, journal, magazines, newspapers, and the Internet.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP12」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読し、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する。または、実証分析の習得のための実習などを行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期授業内容と進め方の説明、教員と学生の自己紹介
第2回	文献サーベイの方法①	図書館を利用し、学術論文を検索
第3回	文献サーベイの方法②	学術論文引用と文献リストのまとめ方
第4回	学術情報収集の演習	学術情報収集の演習
第5回	グループ研究（１）	学術論文を学習
第6回	グループ研究（２）	研究論文に関するプレゼンテーション
第7回	学術研究のプレゼンテーション（１）	学術研究のプレゼンテーション
第8回	学術研究のプレゼンテーション（２）	学術研究のプレゼンテーション
第9回	グループ研究（３）	学術論文を学習
第10回	グループ研究（４）	学術論文に関するプレゼンテーションおよびディスカッション
第11回	グループ研究（５）	学術論文を学習

第12回	グループ研究（６）	学術論文に関するプレゼンテーションおよびディスカッション
第13回	研究レポート	研究レポートを作成
第14回	交流会	学んだことの整理と今後の課題、研究レポートの提出
第15回	ガイダンス	秋学期授業内容と進め方の説明、個人研究の進捗状況の報告
第16回	グループ研究（５）	学術論文を学習
第17回	グループ研究（６）	学術論文に関するプレゼンテーション
第18回	グループ研究（７）	学術論文を学習
第19回	グループ研究（８）	学術論文に関するプレゼンテーション
第20回	グループ研究（９）	学術論文を学習
第21回	グループ研究（１０）	学術論文に関するプレゼンテーション
第22回	グループ研究（１１）	学術論文を学習
第23回	グループ研究（１２）	学術論文に関するプレゼンテーション
第24回	グループ研究（１３）	学術論文を学習
第25回	グループ研究（１４）	学術論文に関するプレゼンテーション
第26回	学術研究の演習（１）	研究課題を探す
第27回	学術研究の演習（２）	研究計画を報告
第28回	共同研究交流会	学んだことの整理と今後の課題、卒業論文の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットなどから、経済の動向や関心のある経済問題の動向を理解しておくことは必要です。また、ディベート、研究発表に向けた資料収集などが適宜、必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とし、毎回４時間以上です。

It is necessary to understand economic trends and trends in economic issues in the journals, books, newspapers, television, and the Internet. The study and collection of materials for debates and research presentations will be required. The standard total preparation and review time is more than 2 hours each (total 4 hours).

【テキスト（教科書）】

梶谷懐・藤井大輔編（2026）『新・中国経済論』ミネルヴァ書房

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著(2016)『中国経済入門 第4版』日本評論社。
2. 加藤弘之(2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。出席、発表およびその準備の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

Normal evaluation100%. Comprehensive evaluation of attendance, presentation and preparation (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analysis methods in the relevant field, finding a new issue and appropriateness of analysis methods).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査を行い、学生の意見に関するフィードバックを行い、また改善要望に対応し、講義内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国における体制移行と所得格差に関する実証分析
2. 中国社会保障政策の改革及びその効果に関する経済分析
3. 中国家計行動（就業・家計消費・金融投資など）のメカニズムに関する実証研究

【主要研究業績】

1. Ma, X. (2025) Trade liberalization and the gender wage gap: Evidence from pilot free trade zones policy reform in China. *Economics of Transition and Institutional Change*. 1-18.

- 2.Ma, X. (2025) Trade unions and the wage gap between formal and informal sectors: Evidence from China. *Journal of Chinese Economics and Business Studies*, 1-26.
- 3.Ma, X. and Iwasaki, I. (2025) Board composition, private sector development, and corporate crime: Evidence from China. *Quarterly Review of Finance and Economics*. 102082.
4. Ma, X. (2024) *Labor Market Institutions in China*. Springer. 1– 304. ISBN: 978-981-97-6155-5.
- 5.Ma, X. (Eds.) (2023) *Public Pension Reform in China*. Singapore: Springer. 1– 320. ISBN: 978-981-19-9997-0.

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this course is to develop the basic skill necessary for students studying in the Faculty of Economics. In addition to learn how to search for academic materials and write reports, students will learn how to find interesting themes (problem finding skills), how to verify them theoretically and empirically (problem solving skills), and how to communicate them to others (communication skills) through group discussions and research presentations. In particular, this course aims to cultivate the "logical thinking skills" and individual/joint research skills to conduct "theoretical and empirical research on Economics issues" by student themselves.

[Learning Objectives]

The goal is to acquire the ability to question various economic phenomena (problem finding), investigate by oneself, find one's own answer (problem solving), and communicate (communication). The purpose is to acquire the ability to make presentations and discuss by utilizing various information collecting methods in the presence of various information such as books, journal, magazines, newspapers, and the Internet.

[Learning activities outside of classroom]

It is necessary to understand economic trends and trends in economic issues in the journals, books, newspapers, television, and the Internet. The study and collection of materials for debates and research presentations will be required. The standard total preparation and review time is 4 hours or more each time.

[Grading Criteria /Policy]

Normal evaluation100%. Comprehensive evaluation of presentations and preparation (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analysis methods in the relevant field, finding a new issue and appropriateness of analysis methods).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
酒井 正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7126」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、以下の3つを課題として掲げる。

- 1) 専門性の高い文献を読み込む経験をする。
- 2) その論点と内容を整理して人にわかりやすく伝える。
- 3) 整理された論点に基づいて議論を行う。

講読する文献のトピックとしては、労働経済学における実証分析を中心に応用経済学全般を取り上げる予定である。

データを統計的に分析する方法を学ぶことも本演習の目的である。

【到達目標】

学生が、未知の内容に直面した際に、専門的な文献に当たり、そのことについて、学術的な研究においては何かわかっているのか（何がわかっていないのか）把握できることを到達目標とする。どのような専門文献に当たるべきかを理解し、「専門的な論文を読んだ」と言えるようになることが最終的な目標である。議論を展開する際のデータの「示し方」を習得することも副次的な到達目標として挙げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

与えられた文献について、各自で（もしくはグループごとに）その内容をまとめ、報告を行う。その後に全員で議論を行う。特に、データに基づいて議論することを心掛ける。秋学期は、グループごとにトピックを選んで分析を行うことが中心となる。

11月～12月頃に開催されるインターゼミを年間目標の一つとして活動する。

課題等に関するフィードバックは、基本的に授業内で口頭あるいは面談の形でおこないたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方
2	演習（1）	講義：プレゼンの仕方等 文献講読：担当学生による報告1
3	演習（2）	文献講読：担当学生による報告2
4	演習（3）	文献講読：担当学生による報告3
5	演習（4）	文献講読：担当学生による報告4
6	演習（5）	文献講読：担当学生による報告5
7	演習（6）	指定されたトピックについて ディベートを行う
8	演習（7）	他のゼミと研究交流
9	演習（8）	分析テーマの選定
10	演習（9）	文献講読：担当学生による報告6
11	演習（10）	ゲスト・スピーカーによる報告 等
12	演習（11）	文献講読：担当学生による報告7
13	講義（1）	文献講読が特に遅れていなければ、統計資料の扱い方等に関して講義する。
14	演習（12）	分析の進捗状況を報告

15	演習（13）	春学期学習内容の補足
16	演習（14）	分析の中間報告1
17	演習（15）	分析の中間報告2
18	演習（16）	文献講読：担当学生による報告8
19	演習（17）	文献講読：担当学生による報告9
20	演習（18）	文献講読：担当学生による報告10
21	演習（19）	文献講読：担当学生による報告11
22	演習（20）	文献講読：担当学生による報告12
23	演習（21）	分析の中間報告3
24	演習（22）	他のゼミとの研究交流
25	演習（23）	文献講読：担当学生による報告13
26	講義（2）	文献講読が特に遅れていなければ、実証的課題に関するトピックや研究上の議論の仕方に関して講義する。
27	演習（24）	文献講読：担当学生による報告14（もしくは他のゼミとの研究交流）
28	講義（3）	文献講読が特に遅れていなければ、社会政策等に関するトピックについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習は、グループによる課題取組等が中心となり、毎回の準備・復習に標準で4時間程度を要するものとする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

畑農鋭矢・水落正明『データ分析をマスターする12のレッスン（新版）』（有斐閣、2022年）

松浦寿幸『Rによるデータ分析入門—経済分析の基礎から因果推論まで—』（東京図書、2024年）

＊上記はあくまで例。その他、演習の各回において必要となる参考資料については、適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

[平常点：70%、報告及びレポートの内容：30%]を目安として評価する。ゼミ活動への貢献（質問・発言、グループワークへの積極的な関与・協力等）を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者の履修履歴がまちまちであることを鑑み、経済学の基礎知識の復習も適宜行う。また、資料の探し方や分析結果の示し方といったことについても初歩的な段階から指導する。

・授業外で時間調整をすることが難しいとの意見があることから、授業内でも最低限のグループ作業をする時間を確保したい。

・時事的なトピックについても、授業内で知識補給を行うことを心がける。

【Outline (in English)】

The objectives of this seminar are to 1) learn how to read academic papers, 2) investigate and discuss a variety of issues mainly by relying on statistics, and 3) report properly analyzed topics. Topics this seminar covers include such as, but not limited to, labor economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on in-class contribution (70%), and presentations and assignments (30%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
胥 鵬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7127」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは企業金融・コーポレート・ガバナンス、あるいは興味のあるトピックス。楽しく課題に取り組み、笑顔でプレゼンを行い、グループで論文を仕上げる。

【到達目標】

企業金融・コーポレート・ガバナンスの理論と実務を勉強し、データの収集分析に挑み、分析結果にものを語らせるようグループ論文を仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

グループあるいは個別に、2年生は3年次予定の課題の仮説、仮説検定のためのデータおよび手法に関するエッセイ作成し、3年生は課題に取り組み論文を作成する。4年生は卒論を作成する。ゼミ勉強の合間には様々な親睦活動やゼミ合宿を実施する。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論A/Bと企業金融論A/Bを履修することが望ましい。

原則として対面授業を実施する。ゼミ生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、諸君が提示した具体例を取り上げつつ、ゼミ生参加によるゼミ生のためのゼミを進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	理論	企業金融とコーポレート・ガバナンスの理論を学ぶ
第2回	実務	企業金融とコーポレート・ガバナンスの実務を学ぶ
第3回	データ	理論や実務の証拠となりうるデータの収集方法について学ぶ
第4回	データから証拠へ	研究とはデータを加工・処理して証拠として提示することについて学ぶ
第5回	論＝仮説	経済学の研究とは、自分が主張しようとする「論＝仮説」を裏付ける証拠を提示するプロセスについて学ぶ
第6回	企業金融「論」	企業金融に関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第7回	コーポレート・ガバナンス「論」	コーポレート・ガバナンスに関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第8回	グループ分け	グループ分けし、グループでonly oneの花を咲かせるゼミ研究を目指す。

第9回	グループ討論	only oneになるテーマを目指してグループ内で討論
第10回	グループ間討論	only oneになるテーマを目指してグループ間で討論
第11回	研究テーマ決定	グループ内とグループ間の討論を経てonly oneのグループ研究テーマを決定
第12回	研究計画	論文計画を作成
第13回	論文計画プレゼン	各自の研究テーマについて、オンリー・ワンを強調しつつ研究目的などの計画について、プレゼンを行なう
第14回	コメント	ゼミ同士・教員がコメントする。
第15回	文献収集	研究計画に沿って詳細な文献を収集
第16回	文献閲読	収集した文献を精読する
第17回	データ検討	研究計画に沿って研究の証拠となるデータについて検討する。
第18回	データ収集	学内のデータベースを活用して、必要なデータを収集する
第20回	手法検討	データをどのように加工・処理して証拠として提示することができるかについて、分析手法を検討する。
第21回	データ分析	検討した手法で収集したデータを分析する
第22回	中間論文執筆	分析結果をまとめ中間論文を完成する
第23回	中間論文プレゼン	中間論文をプレゼンする
第24回	中間論文コメント	ゼミ生同士・教員が中間論文に対してコメントする
第25回	論文改訂	コメントを参考に論文を書き直す
第26回	切磋琢磨	切磋琢磨で互いに学びあい、よい論文を目指す
第27回	再度コメント	教員などが再度コメントする
第27回	論文完成	再度コメントを参考に論文を仕上げる
第28回	完成論文プレゼン	グレードアップした論文をプレゼンし、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターすること。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論A/Bと企業金融論A/Bを履修することが望ましい。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

論文資料を随時配布する

【参考書】

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年
必要なデータや資料は自分で調べる

【成績評価の方法と基準】

発表の内容やゼミ中の質問・意見・議論等の積極参加、練習や課題レポートの結果などから総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

一緒に楽しく勉強しよう！

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

We learn theories and practices of corporate governance and corporate finance. Students are expected to write project papers with group collaborations. Have fun when we challenge tasks and smile when you make presentation. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Short reports (40%) and term report (60%) are both required for grading.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
菅 富美枝
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7128」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、法律学の学習、法理論の習得、法的議論の実践を通して、多様性を重んじ、公正と正義にかなった思考方法を身につける。

【到達目標】

- ・広く現代社会を見渡し、多角的に分析し、発見された問題の解決に向けて、十分な文献・資料調査を通して、考え抜く姿勢と力の習得を目指す。
- ・法的知識、法的思考様式、法的論理構成力の習得を目標とする。
- ・民法の枠を超えた、法学一般、刑法、憲法についても学び、法学検定試験や公務員試験受験に備える。
- ・二年生は法学検定試験ベーシック〈基礎〉、三年生は法学検定試験スタンダード〈中級〉に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

・毎回、3部構成をとる。

①知識習得：

教科書、実際の判例、学術論文を使用し、民法を中心とした法律学の基礎理論、基礎知識を習得する。

②読解分析、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベート：

担当者（グループまたは個人）によってプレゼンテーション、及び、問題提起を行う。それを受けて、全員参加によってディスカッションを行う。終了後、各発表者は、ゼミ内での議論を踏まえ、要約文を作成・提出する。

③法学検定試験問題練習：

ゼミ生が毎回順番に教師役となり、解答、解説を行う。
※春学期の最終回、秋学期の最終回には、振り返りレポートを提出し、各自の成長度に関するフィードバックに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	①オリエンテーション	①概要、年間スケジュール、諸課題、問題意識、目標の共有
	②最高裁判所判決（令和8年1月26日第二小法廷）の分析	②固定資産税及び都市計画税賦課決定処分取り消し請求事件
第2回	①DVD鑑賞（ハーバード白熱教室、M・サンデル教授による哲学講義）	①及び②犠牲になる命を選べるか、命に値段をつけられるのか、ある企業のあやまち
	②ディスカッション	③法学入門1
	③法学検定試験問題演習	

第3回	①DVD鑑賞（ハーバード白熱教室、M・サンデル教授による哲学講義） ②ディスカッション ③法学検定試験問題演習	①及び② 「富」は誰のものか、課税に正義はあるか、「私」を所有しているのは誰か、「土地」は誰のものか、社会に入る「同意」とは ③法学入門2
第4回	①DVD鑑賞（ハーバード白熱教室、M・サンデル教授による哲学講義） ②ディスカッション ③法学検定試験問題演習	①及び② お金で買えるものと買えないものの、動機と結果 ③法学入門3
第5回	①DVD鑑賞（ハーバード白熱教室、M・サンデル教授による哲学講義） ②ディスカッション ③法学検定試験問題演習	①及び② 能力主義と正義 ③法学入門4
第6回	①民法演習 ②調べ学習 ③法学検定試験問題練習	①債権の効力、履行不能 ②裁判傍聴の準備1 ③刑法1
第7回	①民法演習 ②調べ学習 ③法学検定試験問題練習	①種類債権、特定物 ②裁判傍聴の準備2 ③刑法2
第8回	①民法演習 ②調べ学習 ③法学検定試験問題練習	①安全配慮義務 ②裁判傍聴の準備3 ③刑法3
第9回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①損害賠償1 ②若年成人が直面する消費者問題 ③刑法4
第10回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①損害賠償2 ②製品の販売とサービス提供～契約内容の画定 ③刑法5
第11回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①債権者代位権 ②消費者金融 ③刑法6
第12回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①詐害行為取消権 ②ゼミ生選択課題 ③刑法7
第13回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①分割債権 ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（1）「正しい」広告を考える ③刑法8
第14回	①民法総合 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①前期総復習 ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（2）「正しい」広告を作成する ③刑法9
第15回	卒業論文指導	4年生による卒業論文中間発表
第16回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①連帯債権 ②議論 ③憲法11～20番
第17回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①保証債権 ②議論 ③憲法21～30番

第18回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①債権譲渡 ②ゼミ生選定課題 ③憲法31～40番
第19回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①債務引受 ②ゼミ生選定課題 ③憲法41～50番
第20回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①更改 ②ゼミ生選定課題 ③憲法51～60番
第21回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①有価証券 ②ゼミ生選定課題 ③憲法61～70番
第22回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①弁済の提供、受領遅滞 ②ゼミ生選定課題 ③憲法71～80番
第23回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①弁済 ②ゼミ生選定課題 ③憲法81～90番
第24回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①相殺 ②ゼミ生選定課題 ③憲法91番～最後
第25回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①債権総論総合 ②ゼミ生選定課題 ③民法総復習
第26回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①民法総合 ②ゼミ生選定課題 ③刑法総復習
第27回	映画を用いた法的議論	社会における「障害」について：合理的配慮を考える
第28回	①ディベート ②ディベート	①ゼミ生選定課題 ②ゼミ内ディベート大会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業①については、毎回必ず、各自、資料（授業支援システムを使ってアップロードする）を事前に予習してから参加すること。自分がわからないところを認識（自覚）してから授業に臨むこと。
・授業②については、各自、毎日の生活の中で、深く考察すべきと考える法的問題、社会的問題の発見に努めること。発見された問題の分析のため、必要な情報を収集すること（裁判例データベースの利用：法情報学）。丹念に準備を整えた上で、報告を行うこと。
・授業③については、各自、予習してきてからゼミに臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間(計8時間)を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沖野真巳・窪田充見・佐久間毅編『民法演習サブノート210問〔第2版〕』（弘文堂）
法学検定試験委員会編『2025年法学検定試験問題集スタンダード＜中級＞コース』（商事法務）
六法全書（どちらの出版社でも可）

【参考書】

池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
池田真朗『スタートライン債権総論』（日本評論社）
池田真朗編『民法Visual Materials』（有斐閣）
大村敦志『基本民法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（有斐閣）
大村敦志『もうひとつの基本民法Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）
山田卓生『私事と自己決定』（日本評論社）
道垣内弘人『リーガルベイス民法入門〔第4版〕』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

I. 2年生、3年生について

成績評価は以下の三点を要素として行う。

- A 民法演習の担当箇所に関する報告内容の充実度（まとめ方、報告態度、文献検索、判例検索等）。
B ディベートあるいはプレゼンテーションに係る議論への参加度・意欲・貢献度（質問、議論整理、議論展開）。
C 論文等の提出課題の内容によって行う。

それぞれの要素について、評価の配分はA：50％、B：25％、C：25％とする。

なお、毎回の出席、及び、課題提出の期間厳守は、単位取得のための必要最小限の要件である。

II. 4年生について

成績評価は、卒業論文の中間報告における内容と提出された卒業論文によって行う。評価の配分は、中間報告を30％、卒業論文を70％とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年同様、学生の積極的参加を促し、責任感を育む。

【その他の重要事項】

1年次配当科目「法学A・B」を、履修済み、又は、履修中であること。
2年次配当科目「民法一部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。
3年次配当科目「民法二部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。

【Outline (in English)】

Students are required to make active participation in the legal reasoning and discussion. By the end of this course students are expected to be able to acquire a balanced sense of fairness and justice. The purpose of the spring semester is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code and also the property law, paying close attention to their functions in the Market. The aim of the autumn semester is to introduce you to obligation law. Classes will be conducted in a seminar format. Homework assignments should be done regularly before each session.

Grading for the second and third year students will be based on reports on civil law (25%), presentations (25%), debates and participations (25%) and the submission of papers (25%); for the fourth year students, it will be based on the mid-term report of their graduation thesis (30%) and the content of that submitted thesis (70%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
鈴木 豊
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7129」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ゲーム理論とその応用。
2. 企業と組織の経済学。契約理論。
3. 応用ミクロ経済学。

について、2年次、3年次を通して、系統的に学習する。

それを、学生研究報告大会での研究発表や、卒論執筆などに反映させる。

【到達目標】

ゲーム理論、契約理論、組織の経済学の「基礎的な原理」を学び、その本質的なアイデアや視点を理解し、それを使って現実の諸問題を自分なりに考察・分析し、説明出来るようになることが主たる目標である。4年次には、卒論を書くことが強く望まれる。（この場合のテーマや分析方法の選択などは、各人の自由である。ゲーム理論的手法を使った卒論に限らなくても良い。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

昨年は、ほぼ対面でゼミを行った。2回程度のオンラインでは、担当者が授業教材に関するPPTを作成し、Zoomで画面共有の上、プレゼンしてもらい、質疑応答や、教員による解説を行った。報告のためのPPT作成⇒対面かZoomによるリアルタイムゼミが基本の流れとなる。今年も基本、対面授業とするが、状況によっては、Zoomも有効活用しながら、柔軟に進めていく予定である。なお、夏合宿も今年度から再開する予定である。また、フィードバックの際、電子メールを頻繁に用いるので、各自、環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ（以下、年間計画の一例） I1章 I:『ひたすら読むエコノミクス』	打ち合わせ＋導入
第2回	I2,3章＋α	一人の意思決定＋ゲーム理論入門
第3回	I4章＋α	市場の成功と失敗
第4回	I5章＋α	不確実性と情報＋補足
第5回	I6章＋α	モラルハザードとインセンティブ設計＋補足
第6回	I7章＋α	逆淘汰とインセンティブ設計＋補足
第7回	I8章＋α	マーケットデザイン＋補足
第8回	I9章＋α	組織のデザイン＋補足
第9回	H3,4章 (I4章) H:『現代政策分析』	第1～8回で把握した「全体像」をもとに理解の掘り下げ：カルドア・ヒックス基準、市場の成功と失敗

第10回	H4章 (I4章)	市場の成功と失敗（続き） （理論モデルによる安全競争市場の全体像の把握）
第11回	オークション入門 (I8章前版補充)	オークションの理論と実際
第12回	N6章＋α (I8章後半補充) N:『ゲーム理論で解く』	「恋愛・就職・結婚」をゲーム理論で解く、マッチング・アルゴリズム
第13回	評判（名声）の担い手としての企業 (I9章補充)	「コミットメント問題」と評判、実際の企業の例
第14回	行動ゲーム理論入門	最後通牒型交渉ゲーム：理論と実際ほか。
第15回	K4章（行動ゲーム理論続き） K:『行動ゲーム理論』	利他性、不平等回避、互惠性の理論、罪回避の理論。
第16回	打ち合わせ M1章 M:『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』	打ち合わせとイントロダクション
第17回	M2章	戦略と均衡
第18回	M3章	展開形表現
第19回	M4章	交渉ゲーム
第20回	M5章	情報とゲーム
第21回	M6章	オークション
第22回	M7章	公共財
第23回	M8章	市場取引
第24回	M11章	金融とリスク管理
第25回	M13章	契約と誘因
第26回	M15章	進化ゲーム、知識の階層
第27回	E1章 E:『実験経済学への招待』	実験経済学入門
第28回	E2章	報恩と報復、行動ゲーム理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は十分に時間をかけてレジュメ作成の準備をし、責任を持って報告できるようにする。それ以外の人も、ゼミ内で積極的に発言できるように予習・復習を行う。学生研究報告大会での論文作成に向けて、関連する文献を各自で読み込む。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

通年

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021年春学期

I:伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣

H:林敏彦『現代政策分析』放送大学テキスト

N:中山・武藤・船木（編）『ゲーム理論で解く』有斐閣

K:川越敏司『行動ゲーム理論』NTT出版

秋学期

M:梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社

E:西條辰義（編著）『実験経済学への招待』NTT出版

【参考書】

ミクロ経済学：

1. アセモグル＋レイブソン＋リスト『ALL ミクロ経済学』（岩本訳）東洋経済

組織の経済学：

2. ミルグロム＋ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版

3. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣

ゲーム理論：

4. 武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫

5. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

学際的テキスト：

6. 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010年

7. 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020年

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の発表の出来(70%)、普段のゼミへの積極的な参加の程度(発言内容、回数)(20%)、その他円滑なゼミ運営への貢献など(10%)を総合的に判断する。学生研究報告大会での論文発表等は、大きな加点対象となる。4年生については、卒論の執筆を個別に指導(アドバイス)していく。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミについては、現在のやり方を維持・継続して行くことが基本となる。そのうえで、今後は、学生研究報告大会での論文発表、プレゼン技術の練磨、討論機会の増加、個々の学生の進路への対応など、さらに改善可能な点については、努力して行きたい。

【Outline (in English)】

1. Game theory and its application.
2. Economics of Firms and Organizations, and Contract Theory.
3. Applied Microeconomics.

Students will systematically learn these topics through the second and third years, and reflect it in research presentations and graduation thesis writing. Grading will be based on the quality of the presentation (70%), the degree of active participation in the seminar (content and frequency of comments) (20%), and other contributions to the smooth operation of the seminar (10%). For 4th year students, individual guidance (advice) on writing thesis will be provided. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
砂田 充
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7130」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「産業組織論」および「企業経済学」の学習とミクロ経済学と統計学に基づく実証的研究

【到達目標】

本演習の目標は大きく分けて3つあります。まず、受講生によるテキスト（産業組織論、企業経済学、統計学および計量経済学等）の輪読をとおして、応用ミクロ経済学の基本的な実証分析の方法を学ぶことです。次に、学習した分析ツールを応用し、各自の関心のある具体的な市場・産業、経済制度、政府規制、あるいはその他の社会・経済問題（広く（ミクロ）経済学に関することであれば可）に関するデータに基づく実証的研究を行うことです。最後に、分析結果を論文にまとめるとともに効果的なプレゼンテーションを行うための準備、書き方、話し方及び態度を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習の前半は、受講生によるテキストの輪読を行い、個別・グループ研究のテーマ決定および研究の実施に必要な知識を身につけます。演習の後半は、個別・グループ研究を実施するための時間です。具体的には、研究の進め方について担当教員と打ち合わせをしたり、実際に研究作業を進めます。また、研究成果を発表する場として、学内・学外のゼミとのインゼミを実施します。課題等の提出・フィードバックは授業中あるいは「学習支援システム」等を通じて行う予定。各回の授業形態については対面を基本とするが、授業内容や進捗状況を踏まえて、オンライン授業となる場合がある（春・秋それぞれ最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介 春学期の進め方確認 輪読テキスト決定
2	データ分析の基礎①	記述統計（講義・演習）
3	データ分析の基礎②	仮説検定（講義・演習）
4	データ分析の基礎③	回帰分析①（講義・演習）
5	データ分析の基礎④	回帰分析②（講義・演習）
6	輪読と個別・グループ研究の実施①	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
7	輪読と個別・グループ研究の実施②	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
8	輪読と個別・グループ研究の実施③	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
9	輪読と個別・グループ研究の実施④	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
10	輪読と個別・グループ研究の実施⑤	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
11	輪読と個別・グループ研究の実施⑥	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
12	輪読と個別・グループ研究の実施⑦	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
13	-輪読と個別・グループ研究の実施⑧	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
14	春学期まとめ	半年間の総復習
15	輪読と個別・グループ研究の実施⑨	秋学期の進め方確認 輪読テキスト決定

16	輪読と個別・グループ研究の実施⑩	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
17	輪読と個別・グループ研究の実施⑪	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
18	輪読と個別・グループ研究の実施⑫	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
19	輪読と個別・グループ研究の実施⑬	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
20	輪読と個別・グループ研究の実施⑭	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
21	輪読と個別・グループ研究の実施⑮	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
22	輪読と個別・グループ研究の実施⑯	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
23	輪読と個別・グループ研究の実施⑰	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
24	輪読と個別・グループ研究の実施⑱	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
25	輪読と個別・グループ研究の実施⑲	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
26	輪読と個別・グループ研究の実施⑳	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
27	輪読と個別・グループ研究の実施㉑	テキストの輪読 研究成果最終報告
28	秋学期まとめ	1年間の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（輪読）学生は各講義前に教科書の該当箇所の精読、演習問題がある場合は、問題の解答を準備する必要がある（4時間程度）。（研究）学生はグループ研究・個人研究の完成に向けて、分析手法の学習と練習・参考文献の収集と精読・分析用データの整備・分析の実施・分析結果の取りまとめ・プレゼンテーションの準備と練習を計画的に行う必要がある（4時間程度）。

【テキスト（教科書）】

第1回目の演習で決定します。

【参考書】

伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』（光文社、2017年）。小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。加藤久和『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』（オーム社、2019年）。田中隆一『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』（有斐閣、2015年）。中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』（ダイヤモンド社、2017年）。丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣、2017年）。他

【成績評価の方法と基準】

平常点、輪読や研究報告の準備と内容、課題の提出、期末レポート（3回生）およびインゼミ等のイベントへの参加（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例研究を通じて、仮説の設定、データの収集、分析手法の選定、仮説の検証、結果の解釈という一連の流れを体験しながら、経済学の実証的研究の方法論を学べるように努めたい。さらに、PCスキルを向上できるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回ノートPCを持参することが必要です。

【その他の重要事項】

与えられた課題を指示に従って適切に提出しない場合、単位を認定しない可能性があります。受講者の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得ます。2025年度に学習支援システムのリブレイスメントが予定されているため、実際の運用は変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

This seminar focuses on applied microeconomics and microeconometrics. The three goals of this seminar are as follows. First, students understand empirical tools of applied microeconomics through lectures, discussions, and exercises, with textbooks. Then, using the toolkits, students conduct empirical studies based on their own research interests. Finally, students complete research papers based on the empirical results and acquire effective presentation skills.

Before each class meeting of reading circle session, students will be expected to have thoroughly read relevant chapter(s) from textbooks, and to solve the problem sets in exercise sections (about four hours required). For research project, students will be expected to learn empirical methods, survey related works, prepare datasets, conduct analysis, and complete thesis, systematically (about four hours required).

The grade will be based on report, homework, in-class presentation, and in-class contribution (100%).

Students should bring their laptops to every session.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
竹口 圭輔
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7131」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、企業の様々な行動に焦点をあて、財務諸表分析や企業価値評価、戦略分析など種々のアプローチを用いて、企業行動あるいは企業と資本市場との関係を分析・考察していくことである。その際、財務・統計データだけでなく、新聞・雑誌等の資料や学術論文・研究書、さらにはインタビューなど多様な方法による調査研究を通じて、データ収集・分析・考察の手法を総合的に学んでいく。

【到達目標】

ゼミ活動の大半はグループワークを中心とするため、作業の分担、意見の摺り合わせ、報告、ディスカッション等を通じて個々のコミュニケーション・スキルやリーダーシップ、さらにはプレゼンテーション・スキルの向上も目指す。ただし、チーム作業だけでなく論文の執筆等を通じて、物事を深く考える力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

基本的にグループワークで活動を行う。具体的な分析テーマや方法については、種々の事情を考慮して個別に相談して決めていく。課題や成果物についてのフィードバックは基本的に授業中に行うが、授業外の時間帯においても適宜、質問や相談等に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	年間スケジュールの確認と方針決定
2	春学期プロジェクト (1)	テーマ設定
3	春学期プロジェクト (2)	プレゼン・討議
4	春学期プロジェクト (3)	プレゼン・討議
5	春学期プロジェクト (4)	プレゼン・討議
6	春学期プロジェクト (5)	プレゼン・討議
7	春学期プロジェクト (6)	プレゼン・討議
8	春学期プロジェクト (7)	プレゼン・討議
9	春学期プロジェクト (8)	プレゼン・討議
10	春学期プロジェクト (9)	プレゼン・討議
11	夏プロジェクト (1)	テーマ設定
12	夏プロジェクト (2)	プレゼン・討議
13	夏プロジェクト (3)	プレゼン・討議
14	夏プロジェクト (4)	夏合宿に向けての準備

15	秋学期プロジェクト (1)	テーマ設定
16	秋学期プロジェクト (2)	プレゼン・討議
17	秋学期プロジェクト (3)	プレゼン・討議
18	秋学期プロジェクト (4)	プレゼン・討議
19	秋学期プロジェクト (5)	プレゼン・討議
20	秋学期プロジェクト (6)	プレゼン・討議
21	秋学期プロジェクト (7)	プレゼン・討議
22	秋学期プロジェクト (8)	プレゼン・討議
23	秋学期プロジェクト (9)	プレゼン・討議
24	秋学期プロジェクト (10)	プレゼン・討議
25	秋学期プロジェクト (11)	プレゼン・討議
26	秋学期プロジェクト (12)	プレゼン・討議
27	卒論報告会 (1)	プレゼン・討議
28	卒論報告会 (2)	プレゼン・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ授業時間中における研究報告や討議に向けての調査・分析・すりあわせ・資料作成など、準備学習・復習時間は各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第6版>』日本経済新聞社、2024年

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・各プロジェクトの成果物（論文・プレゼン等） 50%
・報告・討論、ゼミ運営、各種ゼミ活動へのコミットの程度 50%
を基準に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This seminar is designed to analyze and examine corporate behavior and the relationship between firms and capital markets using various approaches such as financial statement analysis, corporate valuation, and strategic analysis. By doing so, students will learn comprehensive methods of data collection, data analysis, and consideration through research, incorporating not only financial and statistical data, but also newspaper and magazine articles, research papers, academic papers, and interviews.

【Learning Objectives】

This seminar aims to improve individual communication and leadership skills, as well as presentation skills, through role-sharing, coordination of opinions, reporting, discussion, etc. Each student is expected to be able to think deeply through not only group work, but also through writing papers and other activities.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each seminar class tim, students will be expected to spend four hours to understand the course content, including research, analysis, and preparation of materials for research reports and discussions.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Outcomes of each project: 50%

Contribution to seminar activities: 50%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
八木橋 毅司
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7132」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、1) 経済学の全般的な知識の習得、2) エビデンスに基づいた議論を通じて各々の将来のキャリアにも役に立つ学術スキルを身につけることです。

(for English translation, see the 【Outline (in English)】 at the very end)

【到達目標】

レポート/論文の書き方、ディスカッション、プレゼンテーション、英語文献の精読等を通じて、さまざまな学術スキルを身につけることを目的とします。

4年生は学術的に質の高い卒業論文を書くことを目指します。

(for English translation, see the 【Outline (in English)】 at the very end)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP13」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

少人数演習形式で学生による発表を中心に進めます（春学期：3年生主体、秋学期：2年生主体）。発表に関してはゼミ員からの積極的なフィードバックのもとで授業をすすめます。また講義時間の一部を使って学生主導のグループワーク（以下「サブゼミ」）も随時行います。

授業形態につきましては、通常は対面を基本としますが、事前に申出のあった場合にズームを用いたオンライン参加も可能とします。完全オンライン方式は一学期につき最大7回まで採用する可能性があります。各講義回の形態については講義中のアナウンスや一斉メールなどを通じて事前に通知します。

4年次は卒論執筆を希望する人のみの履修となります。その場合3年の講義最終日までに研究計画書を教員に提出してください。卒論トピックは経済学関連であれば自由です。

4年生は卒論（日本語・英語いずれも可）を必ず仕上げることを前提に履修してください。原則毎週のゼミへの出席は求めませんが、秋学期のサブゼミにオブザーバーとして参加していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンス、文献報告	オリエン、自己紹介、文献報告、春季サブゼミ計画の立案
2	文献報告	文献報告、フィールドワーク準備、サブゼミ
3	文献報告	文献報告、フィールドワーク準備、ディベート準備サブゼミ
4	フィールドワーク	フィールドワーク
5	文献報告	文献報告、フィールドワーク報告準備、ディベート準備、サブゼミ
6	文献報告	文献報告、プレゼン、ディベート準備、フィールドワーク報告、サブゼミ

7	文献報告	文献報告、プレゼン、ディベート準備、サブゼミ
8	文献報告	文献報告、サブゼミ中間報告、ディベート準備、サブゼミ
9	文献報告	文献報告、プレゼン、ディベート準備、サブゼミ
10	文献報告、ディベート	文献報告、ディベート
11	文献報告	文献報告、特別講演、プレゼン、サブゼミ
12	研究セミナー	研究セミナー、サブゼミ
13	研究報告会	研究報告会・サブゼミ活動報告
14	面談	面談
15	授業のガイダンス、研究報告	オリエン、自己紹介、研究報告
16	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
17	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
18	学生研究報告大会への準備	学生研究報告大会への準備
19	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
20	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
21	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
22	インゼミ	インゼミ
23	研究セミナー	研究セミナー
24	輪読	図書の輪読、研究報告、プレゼン、サブゼミ
25	輪読	図書の輪読、研究報告、インゼミの準備、サブゼミ
26	プレゼン大会への準備	プレゼン大会への準備
27	サブゼミ活動報告	サブゼミ活動報告
28	面談	面談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するように心がけてください。

ゼミ時間外の親睦活動として新入生歓迎会（例年2～3月、2・3年生対象）、ゼミOB/OG会（11～12月、全学年対象）、謝恩会（3月及び7月、3・4年生対象）があります。

外部スピーカーによる講演回やクラスターを使ったオンライン講義回については講義時間が時間割から若干ずれる可能性があります。

(for English translation, see the 【Outline (in English)】 at the very end)

【テキスト（教科書）】

春学期分は第1回目の講義前に教員が発表します。

秋学期分は春学期中にゼミ員の投票によって決定します。

なお以下の書籍は過去に輪読（秋学期）に採択されたものです

・中室・津川『「原因と結果」の経済学』、ダイヤモンド社、2017年
・カーネマン『ファスト&スロー（上）』、ハヤカワ文庫NF、2014年
・レヴィット・ダブナー『ヤバい経済学（増補改訂版）』、東洋経済新報社、2007年
・林『税制と経済学：その言説に根拠はあるのか』、中央経済社、2024年

【参考書】

・小笠原喜康『最新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2018年
・経済セミナー編集部『経済論文の読み方』日本評論社（e-Bookのみ）、2022年
・経済セミナー編集部『経済論文の書き方』日本評論社、2022年

【成績評価の方法と基準】

2・3年生：課題内容（60%）、質疑応答等による貢献（40%）の合算により決定します。を2回行うと評価はEとなります。評価Cで単位認定の場合は、翌年のゼミ履修は許可しません。

4年生：卒業論文内容（60%）および教員へのズームによる経過報告（40%）の合算により決定します。

(for English translation, see the 【Outline (in English)】 at the very end)

【学生の意見等からの気づき】

- ・ 合宿は参加者が主体的に計画し教員に具体的な提案があった場合に正式なゼミイベントとして実施します。
- ・ 学生相互のディスカッションを重視するため、教員の発言は総時間の10%以内に収まるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

ズームによる講義を行う場合、カメラは基本的にオンのままとしていただきますので、自宅や外出先から受講される方は安定したインターネット接続環境をあらかじめ整えておいてください。

【その他の重要事項】

私のゼミでは好奇心が強く他の人からいろいろな刺激を受ける柔軟性を持ち合わせつつ、いずれは自分独自のキャリアを築いていきたいと思うタイプの人を歓迎します。卒業する頃には勉強は楽しいと思えるように一緒に活動していきましょう！

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Nov. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment," Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The objective of this class is to 1) gain deep understanding of Economics and 2) be able to discuss Economic topics based on evidence. The goal is to acquire academic skills that would help students in developing their future career.

【Learning Objectives】

Students learn how to write academic papers, discuss research, conduct presentation and empirical analysis, and reading materials in both Japanese and in English

【Learning Activities Outside of Classroom】

The standard time for preparation and review for this course is set at four hours each. In addition, please make an effort to stay informed about current economic news through various media sources.

As extracurricular social activities, there will be a Welcome Party for New Seminar Members (typically held in February – March, for 2nd- and 3rd-year students), a Seminar Alumni Gathering (usually in November – December, open to all year levels), and a Graduation Celebration Party (March and July, for 3rd- and 4th-year students).

For special lectures by external speakers or online classes conducted via Cluster, class times may slightly differ from the regular schedule.

【Grading Criteria/Policy】

Grades will be determined based on the combination of assignment content (60%) and contributions through Q&A and other activities (40%). Two times unexcused absences will result in an evaluation of E. Students who receive a grade of C and earn credits will not be allowed to enroll in the seminar the following academic year. For senior students, grades will be determined based on the combination of the graduation thesis content (60%) and progress reports to the instructor (40%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
武智 一貴
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7133」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、グループごとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。プレゼンテーションとディスカッションの際に重要なものは、テーマを十分に理解し自分の言葉でわかりやすくまとめることである。この技術は、ゼミでの発表に留まらず、レポートや卒業論文の作成、就職活動、就職後の仕事の場面で必要となる。また人前で話す技術は、ある程度経験を積みなければ高められない。この授業では、プレゼンテーションとディスカッションを数多く実践することにより、他者に対して自分の考えを効果的に伝える技術を習得する。

【到達目標】

- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・グループで課題に取り組むことができ、その結果を発表できる。
- ・求められたとき、いつでも自分の考えを述べるができる。
- ・4年生は学術的な基盤を持った卒業論文を書くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

- ・グループごとにパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行う。
- ・プレゼンテーションの内容に関連したディスカッションを行う。
- ・課題の提出・フィードバックなどは学習支援システムにより行う。
- ・卒業論文については、テーマの選択・先行研究の調査・論理の構築について適宜議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	自己紹介	自己紹介のプレゼンを行う。
3	プレゼンテーションとディスカッション1	WTOの歴史について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
4	プレゼンテーションとディスカッション2	WTOの制度について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
5	プレゼンテーションとディスカッション3	WTOの条文の構成について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
6	プレゼンテーションとディスカッション4	WTOの基本政策について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
7	プレゼンテーションとディスカッション5	WTOの原則と例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
8	プレゼンテーションとディスカッション6	WTOの附属書について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。

9	プレゼンテーションとディスカッション7	WTO紛争処理について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
10	プレゼンテーションとディスカッション8	内国民待遇違反について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
11	プレゼンテーションとディスカッション9	内国民待遇違反の日本の例について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
12	プレゼンテーションとディスカッション10	セーフガードについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
13	プレゼンテーションとディスカッション11	日本のセーフガードについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
14	プレゼンテーションとディスカッション12	アンチダンピングについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
15	プレゼンテーションとディスカッション13	日本のアンチダンピングについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
16	プレゼンテーションとディスカッション14	補助金相殺関税について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
17	プレゼンテーションとディスカッション15	日本の補助金相殺関税について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
18	プレゼンテーションとディスカッション16	教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
19	プレゼンテーションとディスカッション17	SPS協定について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
20	プレゼンテーションとディスカッション18	日本が関係するSPS協定について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
21	プレゼンテーションとディスカッション19	一般例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
22	プレゼンテーションとディスカッション20	貿易と環境に関するWTO紛争について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
23	プレゼンテーションとディスカッション21	安全保障の例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
24	プレゼンテーションとディスカッション22	知的財産権保護について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
25	プレゼンテーションとディスカッション23	TRIPSについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
26	プレゼンテーションとディスカッション24	WTO紛争処理システムの限界について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
27	プレゼンテーションとディスカッション25	サービス貿易について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
28	プレゼンテーションとディスカッション26	GATSについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の準備・復習時間は事前の資料チェック・スライドチェック、報告のまとめなど目安として8時間です。

【テキスト（教科書）】

トピックで読み解く国際貿易論、武智・東田・黒田著、ミネルヴァ書房

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション内容・形式及びディスカッション内容 100 %

【学生の意見等からの気づき】

報告内容のみならず報告の仕方についても学習の対象とします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to introduce basic presentation and discussion skills to student. The goal of this course is to talk about economic idea in students' own words. Students are required to study for each class at least eight hours. The grade is determined by in-class performance (100%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
田村 晶子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7134」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論をテキストでしっかり理解し、海外の経済データソースも使った実証分析を行えるようにします。興味のあるテーマをグループで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養います。さらに、勉強の成果を卒業論文にまとめます。

【到達目標】

国際経済学の理論をしっかり理解し、経済データを使って確認することが出来る。興味がある内容につき、グループで協調しつつ、説明を行うとともに意見を発表できる。他の学生の報告を聞き、コメントし、討論することが出来る。自分の興味に従い、研究を論文にまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

国際経済学のテキストの輪読を行い、内容について練習問題を解き、授業内で解答について議論します。年4回のグループプレゼンを行い、ゼミ生全員でプレゼンを評価し、次回授業で改善点を検討します。2／3年生は進級論文、4年生は卒業論文を執筆します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの進め方の確認
第2回	文献やデータの使い方	データベースの使い方を学ぶ
第3回	第1回テーマ決定 国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論／
第4回	第1回アウトライン 国際経済テキスト輪読	プレゼンアウトライン報告 文献の輪読・練習問題を解き討論を
第5回	英文文献の輪読・討論 国際経済テキスト輪読	行う 文献の輪読・練習問題を解き討論を
第6回	英文文献の輪読・討論 第1回グループプレゼン	行う 第1回プレゼンを各自コメント
第7回	第1回プレゼンの評価 第2回テーマの決定	プレゼンの反省と次回のテーマ決定
第8回	国際経済テキスト輪読 第2回アウトライン	文献の輪読・練習問題を解き討論、 アウトライン報告
第9回	国際経済テキスト輪読 卒業論文テーマ報告	文献の輪読・練習問題を解き討論、 卒論テーマ報告を行う
第10回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う
第11回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う
第12回	第2回グループプレゼン	第2回プレゼンを各自コメント
第13回	第2回プレゼンの評価 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う
第14回	夏合宿準備	夏合宿での勉強内容の決定
第15回	秋学期の予定の確認 第3回テーマ決定	予定確認とプレゼンテーマ決定
第16回	卒業論文のテーマ報告 第3回アウトライン	卒論テーマとプレゼンアウトライン 報告を行う
第17回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う
第18回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う
第19回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う
第20回	第3回グループプレゼン	第3回プレゼンを各自コメント
第21回	第3回プレゼンの評価、 第4回テーマ決定	新ゼミ生選抜面接を合わせて行う
第22回	国際経済テキスト輪読 第4回アウトライン	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う
第23回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う
第24回	国際経済テキスト輪読 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う

第25回	第4回グループプレゼン	第4回プレゼンを各自コメント
第26回	第3回プレゼンの評価 英文文献の輪読・討論	文献の輪読・練習問題を解き討論を 行う
第27回	卒業論文報告	4年生の卒論報告を各自コメント
第28回	ゼミのまとめ	1年間のゼミを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国際経済学テキスト輪読では、毎回、必ず全員が事前にテキストを予習し練習問題を提出してから、ゼミに出席する。グループプレゼンは、各グループで授業外でサブゼミを行って準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

4時限用の国際経済学のテキスト、5時限用の国際経済に関する報告書や論文等を、4月のゼミの始まる前までに決定します。

【参考書】

4回行うグループのプレゼンなどで、必読参考文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】

2, 3年生は、毎回の授業(合宿を含む)への積極的な参加 (30%)、テキストなどの輪読報告 (30%)、グループプレゼンでの報告と他グループへのコメント (20%)、進級論文 (20%) により評価します。

4年生は、卒業論文の報告 (40%) と卒業論文内容 (60%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【学生が準備すべき機器等】

資料配付を学習支援システムを使って行いますので、ノートパソコンかタブレットを持参して出席してください。

【Outline (in English)】

Students will be able to fully understand the theory of international economics using textbooks and perform empirical analysis using overseas economic data sources. Students develop the ability to present themes of your interest in groups. Students summarize the results of their studies in a thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.

Sophomore/Junior students: Final grade will be calculated according to in-class contribution (30%), report/presentation of the textbook(30%), group presentation and comments (20%), and Sophomore/Junior thesis (20%).
Senior students: Final grade will be calculated according to report/presentation of graduation thesis (40%), graduation thesis (60%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
田中 優希
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7135」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは企業行動分析です。新聞やテレビで目にする企業のことを、皆さんはどれだけ知っているでしょうか。就職活動をする時に、どの会社が「良い会社」なのかをどうやって調べますか。企業には戦略があります。ゼミではそうした戦略と企業のパフォーマンスとのつながりを、皆さんの力で明らかにしてください。分析手段のひとつとして財務情報を用いますが、戦略分析、資本市場分析、企業評価手法、マクロ経済分析、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任など、企業行動の理解のためには財務会計以外の領域も扱います。

【到達目標】

新たな知識の獲得だけでなく、その知識を応用する力を実践しながら身につけていきましょう。共同作業やプレゼンテーションを通じて、社会で活躍するスキルの向上と、生涯を通じて信頼できる仲間を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

グループワークを中心に行います。

メンバーの知識水準に応じて、ゼミの前半では財務会計や基本的な戦略フレームワークの学習を行い、徐々に実際の企業の分析に移ります。自身の関心を積極的に知らせてください。ゼミ中の質問や提出された課題には、直接またはメール等でフィードバックを行います。

4年生は卒業論文の執筆に向けて定期的に教員と面談することとし、提出後の論文に対して評価を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介、ゼミ生の関心確認
2	分析手法の基礎（1）	財務分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
3	財務分析の実践	プレゼン発表
4	分析手法の基礎（2）	戦略分析、マクロ経済分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
5	戦略分析の実践	プレゼン発表
6	テーマ設定	春学期のテーマ設定
7	グループワーク	プレゼン発表1
8	グループワーク	プレゼン発表2
9	グループワーク	プレゼン発表3
10	グループワーク	プレゼン発表4
11	グループワーク	プレゼン発表5
12	グループワーク	プレゼン発表6
13	グループワーク	プレゼン発表7

14	グループワーク	プレゼン発表8
15	テーマ設定	秋学期のテーマ案
16	グループワーク	プレゼン発表9
17	グループワーク	プレゼン発表10
18	グループワーク	プレゼン発表11
19	グループワーク	プレゼン発表12
20	グループワーク	プレゼン発表13
21	グループワーク	プレゼン発表14
22	グループワーク	プレゼン発表15
23	グループワーク	プレゼン発表16
24	グループワーク	プレゼン発表17
25	グループワーク	プレゼン発表18
26	グループワーク	プレゼン発表19
27	グループワーク	プレゼン発表20
28	グループワーク	プレゼン発表21

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持つこと。例えば日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種新聞・雑誌の購読を推奨する。

本講義の予習時間は各回2時間、復習時間は2時間を標準とする。こうした個別の学習時間に加えて、グループワークがあり、おおむね4時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミの中で適宜指示する。

【参考書】

ゼミの中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表（50%）やインゼミなど各種ゼミ活動への参加（50%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

メンバーの関心に沿ったテーマ設定、適切な参考文献や講演会等の案内を行います。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is corporate behavior analysis. How much do you know about the companies you see in newspapers and television? How do you find out which company is a "good company" when you are looking for a job?

Companies have a strategy. In this seminar, please clarify for yourself the connection between strategy and corporate performance.

We use financial information as one of the means of analysis. In addition, we also deal with areas other than financial accounting for understanding corporate behavior, such as strategic analysis, capital market analysis, corporate valuation methods, macroeconomic analysis, corporate governance, and corporate social responsibility.

Learning Objectives:

Not only capturing the knowledge but applying it to practical situations through group work and joint presentation, students should improve their skills and be connected to reliable lifelong partners.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

The standard preparation time for this lecture is 2 hours for each lecture, and the review time is 2 hours.

In addition to these individual study hours, there is also group work, which is about 4 hours as standard.

Grading Policies:

Your overall grade will be decided based on the quality of your presentations in the class (50%), and your class participation including inter-college activities (50%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
山崎 友紀
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7136」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミにおいて、学生たちは一年間をかけて基本的には一人が一つの研究テーマに取り組む。「地球環境問題」、「水の科学」、「理科教育」、「新しい材料（電池を含む）」に関する実験研究、「地域交流」などに絡んだ研究を実施する。テーマの詳細は教員と相談して決定する。

【到達目標】

「自分で問題を発見し、その解決法を見だし、実際にその効果を確認する」ためのスキルや方法について学ぶことを目標とする。プレゼンテーション能力、マネジメント能力、アカデミックライティングのスキルを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

出席必須（3回以上の遅刻または欠席により単位取得不可）で、指導教員との研究打ち合わせを密に持ちながら、自分の力で研究を遂行する。研究のスケジュールは、研究テーマによって異なるので、研究の進展にあわせて適宜動的に見直される。研究の進捗については毎回の授業でチェックを行う。質問には個別に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ガイダンス」	ゼミの方針、予定の説明。メールの書き方やエクセルの基本的な使い方を紹介する。
2	「安全教育」「情報教育」「テーマ探索」	ゼミにおける安全教育
3	「文献調査方法、論文やレポートの書き方」	論文作成の方法論について解説
4	「文献調査方法、論文やレポートの書き方」	資料レファレンスの方法について解説
5	「研究テーマ、研究方針の決定」	テーマについて熟考
6	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動1
7	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動2
8	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動3
9	「報告とディスカッション」	これまでの研究中間報告1
10	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動4
11	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動5
12	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った研究活動6
13	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動7
14	「報告」・「議論」・「まとめ」	これまでの研究中間報告2
15	「課題報告」	夏休みの研究の成果報告
16	「調査」または「実験」	秋学期の計画と研究はじめ
17	フィールドワーク	「わくわくほうせい！」等の取組

1

18	フィールドワーク	「わくわくほうせい！」等の取組2
19	フィールドワーク	「わくわくほうせい！」等の取組3
20	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動8
21	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動9
22	「調査」または「実験」	各自テーマに沿った研究活動10
23	「調査」または「実験」	各自テーマに沿った研究活動11
24	「調査」または「実験」	各自テーマに沿った研究活動12
25	ゼミ中間発表会	ゼミ研究発表、全員参加
26	「調査」・「実験」	各自テーマに沿った研究活動13
27	「調査」・「実験」	各自テーマに沿った研究活動14
28	年間の総まとめ、発表	各自プレゼンおよびレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミとして環境問題や科学教育に関する知識を付けるため、「化学A/B」および「地球環境論A/B」の履修を強く推奨する。フィールドワーク（わくわくほうせい！ および湧水調査）への参加を必須とする。準備学習・復習時間は、あわせて8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

『みつけよう化学－ヒトと地球の12章－』山崎友紀（裳華房）2200円

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

平常点としてゼミへの（フィールドワークや共同作業への）貢献度を50%、さらに研究計画成果のレポートのクオリティを50%として評価し、合計点が60点を超えて合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションの機会をより多く設ける。

【Outline (in English)】

Each student basically works on one research theme over the course of a year. The goal is to have knowledge how to learn in the university. Students will be expected to research related to "science education" "local environmental issues" and so on and prepare reporting for the next.

Participation in fieldwork as a seminar is mandatory.

The standard preparation and review time is 8 hours in total.

Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
芝田 幸一郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7137」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏ラテンアメリカの文化・社会・歴史などを広く学び大まかな全体像を得る。その上で、各自が関心を持った特定の地域・時代・事柄等について、主体的に問題を見つげながら深く掘り下げる。これらの過程で、自らにインプットしたものを、目的に沿う形で効果的にアウトプットする技術を学ぶ。必要に応じてスペイン語スキルを向上させる。

【到達目標】

ラテンアメリカについての基礎的教養を身につける。自ら課題を掘り出し、各種資料（必要に応じて外国語文献も）を入手・分析した上で、論文形式でまとめ、わかりやすく口頭発表できるようにする。伝えたい事柄によって、文・写真・概念図・地図・グラフ・表などを、効果的に使い分けられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面が基本だが、必要に応じてハイフレックス型授業となることがある。基本的に学年暦・時間割通りに実施する。毎週Hoppiiを確認すること。春学期：2年次は主にテキスト輪読による要約発表。3年次は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含むことがある。秋学期：2年次はテキスト輪読による要約発表、論文等の検索（若干の講義と実習あり）、各自の研究テーマ絞り込み、研究の構想・中間発表など。3年次は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含むことがある。4年次に履修継続する者は、春・秋学期を通して基本的に担当教員による個別指導下で卒業論文の作成を進める（ゼミ内で中間発表等を行うこともある）。全ての口頭発表に対して講評という形でフィードバックがある。3年次の課題レポートの中には、講評に基づいて修正と再提出が求められるものもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミ運営等について。
第2回	プレゼンテーション	自己紹介。第4回以降の発表担当者と発表順などを決定。
第3回	ラテンアメリカ概説	教員による講義
第4回	2年：読解と要約（ラテンアメリカ地域の特徴等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第5回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの歴史等）。3年：研究	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第6回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの政治等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第7回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの経済等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第8回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの社会等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第9回	2年：読解と要約（ラテンアメリカの文化等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第10回	2年：読解と要約（メキシコ等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第11回	2年：読解と要約（中米地域等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第12回	2年：読解と要約（カリブ海地域等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第13回	2年：読解と要約（アンデス諸国等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第14回	春学期のまとめ	発表、講評、夏季休暇中の課題説明等。

第15回	ガイダンス	秋学期の運営について、発表担当者と発表順などを決定。
第16回	2年：読解と要約（ラブラダ地域等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第17回	2年：読解と要約（ブラジル等）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第18回	2年：読解と要約（ラテンアメリカと日本）。3年：研究。※このあたりで図書館ガイダンスを実施する可能性あり。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第19回	2年：読解と要約（その他）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第20回	2年：読解と要約（その他）。3年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第21回	研究テーマの検討、文献検索等。	講義と実習
第22回	2年：研究テーマ、構成、文献リスト。3年：研究。	発表、講評等。
第23回	2年：研究テーマ、構成、文献リスト。3年：研究。	発表、講評等。
第24回	4年生による特別セミナー	発表、質疑応答等。
第25回	入ゼミ面接、その他	面接、発表、講評等。
第26回	2年：研究テーマ、構成、文献リスト。3年：研究。	発表、講評等。
第27回	2年：研究テーマ、構成、文献リスト。3年：研究。	発表、講評など。
第28回	秋学期のまとめ	発表、講評、春季休暇中の課題説明等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：2年次は主にテキストの精読と要約作成。図書館およびインターネットでの文献検索。3年次は春の課題レポートの要約作成、論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。4年次は卒業論文の作成と必要に応じて中間発表。全学年に共通してプレゼンの準備（パワーポイント資料作成含む）。

夏休みの課題：2年次は感想文またはレポート。3年次はレポート。

秋学期：2年次は今後執筆するレポートの仮テーマ・章立て・文献リスト等を作成と講評に沿った修正。3年次は夏の課題レポートの要約作成とプレゼンの準備、最終課題レポートの作成。2・3年次ともに論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。4年次は卒業論文の作成とその発表。

春休みの課題：レポート（2年次のみ）。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする（発表内容によっては更なる準備時間が必要）。

【テキスト（教科書）】

ゼミ内で相談のうえ決める。

【参考書】

【参考書】

『地図で見るラテンアメリカハンドブック』ダベース、O.、F.ルオー、原書房、2017年（ISBN978-4-562-05428-2）、2800円＋税
『ラテンアメリカ世界のことばと文化』畑恵子・山崎真次編著、成文堂、2009年（ISBN978-4-7923-7084-8）、3000円＋税
『ラテンアメリカ研究への招待（改訂新版）』国本伊代・中川文雄編著、新評論、2005年（ISBN4-7948-0679-5）、3200円＋税
『新版 ラテンアメリカを知る事典』大貫良夫他監修、平凡社、2013年（ISBN 9784582126464）、7000円＋税
『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編、丸善出版、2021年（ISBN978-4-621-30585-0）

【関連一般書】

大城道則、芝田幸一郎、角道亮介『考古学者が発掘調査をしていたら、怖い目にあった話』ポプラ社（2023）：実際の海外フィールドワークに関する学術エントマ本。2026年2月時点で法政大学図書館の「人気図書」扱い。ペルー編に卒論テーマ探しのヒントあり。その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2・3年：発表と提出物（80%）＋平常点（20%）
4年：卒業論文（90%）＋平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

4月に自己紹介プレゼンテーションを行うことで、ゼミ生間やゼミ生と教員間の相互理解を深め、かつプレゼン能力向上を促す。春学期に小テストを実施し基礎知識定着の一助とする。レポート作成の機会を増やす。希望者に対しては更なるスペイン語学習の機会を用意する。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布はHoppiiで行う。

【その他の重要事項】

スペイン語スキルを上げたい学生や、ラテンアメリカの中でもとりわけペルーの社会・文化に強い関心のある学生は、「スペイン語セミナーA・B（23-24年度臨時休講だったが25年度から再開）」等の科目も併せて履修すると良いだろう。4年次にゼミ履修を継続する学生は、単位付与のために卒業論文の提出が必要である。早めに（3年次の年度末～4年次の4月前半）ゼミ担当教員に連絡をとり、4月末を目途に「卒業論文作成計画書」を提出すること。なお2027年度は代講となる。

【Outline (in English)】

[Course outline] This seminar course explores the culture, society and history of Latin America and introduces academic writing and the fundamentals of academic research. [Learning Objectives] Through the seminar, participants are expected to A)explain the socio-cultural characteristics of Latin America and its historical background, and B)make academic papers and oral presentations on their own research topic. [Learning Activities outside of Classroom] Participants are required to spend eight hours of out-of-class study for each class meeting, including both pre-class preparation and post-class review. [Grading Criteria / Policy] Grading will be based on submitted papers and oral presentations (80%), and in-class contribution (20%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
ブー トウン カイ
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7138」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、国際金融論の基礎的な知識と経済分析手法を身に付けた後、文献の調査を通じて現実における金融や国際金融の現状や問題を知り、研究テーマを設定し、経済学的手法やデータを用いて分析し、解決策を検討する。

【到達目標】

国際金融論の基礎的な知識及び経済学的手法を修得し、それらを用いて現実の国際金融の様々な問題を特定し、分析できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期では国際金融論およびデータ分析のテキストを輪読し、基礎的な知識を身に付ける。秋学期では、グループに分かれて国際金融論の文献を調査し、研究テーマの検討・決定を行い、そのテーマに沿ってデータ・資料の収集、データを用いるモデル推計・分析、論文執筆といった研究作業を行う。毎回のゼミは受講者による報告と討論を中心に進める。課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミメンバーの紹介、前期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第2回	輪読（1）	ゼミ生による報告と討論
第3回	輪読（2）	ゼミ生による報告と討論
第4回	輪読（3）	ゼミ生による報告と討論
第5回	輪読（4）	ゼミ生による報告と討論
第6回	輪読（5）	ゼミ生による報告と討論
第7回	輪読（6）	ゼミ生による報告と討論
第8回	輪読（7）	ゼミ生による報告と討論
第9回	輪読（8）	ゼミ生による報告と討論
第10回	輪読（9）	ゼミ生による報告と討論
第11回	輪読（10）	ゼミ生による報告と討論
第12回	輪読（11）	ゼミ生による報告と討論
第13回	輪読（12）	ゼミ生による報告と討論
第14回	輪読（13）	ゼミ生による報告と討論
第15回	前期の総括	これまでの流れを振り返り、今後の予定を確認する。
第16回	イントロダクション	前期のゼミ内容を振り返り、後期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第17回	研究テーマ設定（1）	国際金融に関する研究テーマ候補の検討
第18回	研究テーマ設定（2）	研究テーマの決定、研究計画の作成

第19回	調査分析（1）	各グループによ先行文献調査結果の報告と討論
第20回	調査分析（2）	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論
第21回	調査分析（3）	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論
第22回	調査分析（4）	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第23回	調査分析（5）	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第24回	調査分析（6）	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第25回	他大学との合同研究発表会の準備（1）	合同研究発表会の論文作成（1）
第26回	他大学との合同研究発表会の準備（2）	合同研究発表会のスライド作成・予行練習
第27回	他大学との合同研究発表会	合同研究発表会の実施（自らの研究発表および相手側の研究討論）
第28回	研究成果の取りまとめ	研究成果である論文完成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回学んだことをきちんと復習し、理解できるように努めること。本授業の準備学習・復習時間は、8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019年。
- 『入門 実践する計量経済学』、藪 友良（著）、東洋経済新報社 2023年。

【参考書】

- 『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次（著）、新世社 2024年。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』、勝悦子（著）、有斐閣 2011年。
- “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版（2022年）（英語）ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

出席（35%）、プレゼンテーション・ゼミへの貢献（意見や討論）（35%）、学期末課題（30%）の結果に基づいて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生の意見を聞きながら楽しく有意義なゼミを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

報告資料の作成やデータ分析などのためにコンピュータを頻繁に使用するので、大学のコンピュータを利用するのによいが、ゼミ生が自らパソコンをもつと便利になる。

【Outline (in English)】

Course outline & Learning objectives: In this course we will learn the basics of international finance and methods for economic analysis. The students will acquire necessary knowledge and skills through a process of reading and understanding textbooks, practicing by solving problems, handling data in Excel, and doing research.

The students are assigned to several groups and every week some of the groups are required to make presentations on given topics in the textbooks. The students are thus expected to prepare for presentations, when assigned, before the class.

Grading criteria: Grading is based on the students' presentations, discussion, and final report performance, with weights being 40%, 20% and 40%, respectively.

Out-of-class study: The students are expected to review the material covered in each session and ensure a solid understanding. The standard time required for preparation and review for this seminar is eight hours each week.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
池上 宗信
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7141」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究として、受講者各自が興味のある開発経済学の間を選び、研究成果を発表し、論文にまとめる。キャパシティビルディングとして、開発経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析を学ぶ。データ分析では、経済学の各分野で頻出する、回帰分析、ランダム化比較試験、操作変数法などの実証分析の手法を学ぶ。各手法の概要を理解し、各手法を用いてデータを分析することで、論文のアイデア探しに活用する。

【到達目標】

本講義の目標は、各自が目標をたて、文献を読み、データを分析し、学んだことをスライド、ノート、論文にまとめ、口頭発表でできるようになること。データ分析における1つ目の目標は、各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになること。2つ目の目標は、各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探ることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究として、各自が興味のある開発経済学のトピックを選択し、中間発表をしつつ、論文を作成、発表、提出する。研究の過程において、論文計画書、論文中間報告書、論文草稿を提出し、担当教員、他のゼミ生からのフィードバックとして質問・コメントをもらう。また、他の学生の文書について質問・コメントを提出する。また、キャパシティビルディングとして開発経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析について、輪読、演習しながら学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データの扱い方	Rの使い方、データの読み込み、加工
2	統計の基礎知識	母集団と標本、無作為抽出
3	確率論の基礎	確率変数、期待値、条件付き期待値、中心極限定理
4	回帰分析の基礎	最小二乗法
5	推測統計の基礎	仮説検定、信頼区間
6	相関関係と因果関係	疑似相関、偶然の相関、同時性
7	中間発表1	論文計画書の提出、論文テーマの中間発表1
8	外生変数と内生変数	欠落変数、測定誤差、同時性
9	ランダム化比較試験	セレクション・バイアス
10	操作変数法	2段階最小二乗法
11	固定効果	パネルデータ
12	差の差の分析	並行トレンドの仮定

13	マッチング	条件付独立性、オーバーラップ条件
14	中間発表2	論文中間報告書の提出、論文テーマの中間発表2
15	Regression Discontinuity Design	連続性条件
16	Synthetic Control Methods	手法、Rパッケージ、応用例の概説
17	貧困と不平等、零細自営業者や小農の経済学	不平等の貧困に与える影響
18	貧困の罍、貯蓄	信用制約
19	金銭供与、マイクロクレジット	仕組みと貧困削減効果
20	共同体、マイクロ保険	理論と実証研究の結果
21	中間発表3	論文草稿の提出、論文テーマの中間発表3
22	技資産供与、術供与、卒業プログラム	金銭供与との比較
23	起業	実証分析
24	栄養	カロリー不足による貧困の罍、栄養への投資
25	健康	マラリアによる貧困の罍、病気の予防への投資、治療の質、価格
26	教育	就学決定モデル、成績別クラス分けの学力への効果
27	出産	ソープオペラの出生率への効果
28	最終発表	論文の提出、論文テーマの最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャパシティビルディングのための輪読・演習では、発表・演習担当者だけでなく、受講者全員が、予習として事前に内容を読み、質問、議論したいことを事前にまとめてから授業に参加する。授業時間内に各自の研究を発表し、他の学生、教員からコメントをもらう。授業時間外にも各自の研究を進める。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西山他（2019）の予定ですが、最初の授業で議論・確定します。

【参考書】

2018-2025年度において、キャパシティビルディングの多くの時間をデータ分析に使いました。

教科書、参考書は、今井（2018）、星野・田中（2016）、田中（2015）、原（2021）、小島（2006）、山本・竹内（2013）、照井・佐藤（2013）でした。

開発経済学の参考書として、高野（2025）、高橋他（2025）、バナジー、デュフロ（2012）を挙げておきます。

- 今井耕介（2018）『社会科学のためのデータ分析入門 上・下』岩波書店

- 小島寛之（2006）『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社

- 高野久紀（2025）『開発経済学 実証経済学へのいざない』日本評論社

- 高橋和志、樋口裕城、牧野百恵編（2025）『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣

- 田中隆一（2015）『計量経済学の第一歩: 実証分析のススメ』有斐閣

- 照井伸彦、佐藤忠彦（2013）『現代マーケティング・リサーチ：市場を読み解くデータ分析』有斐閣

- 西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮（2019）『計量経済学』有斐閣

- アビジット・V・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

- 原泰史（2021）『Pythonによる経済・経営分析のためのデータサイエンス』東京図書

- 星野匡郎、田中久稔（2016）『Rによる実証分析 回帰分析から因果分析へ』オーム社

- 星野匡郎、田中久稔、北川梨津（2023）『Rによる実証分析 回帰分析から因果分析へ 第2版』オーム社

- 山本拓、竹内明香（2013）『入門計量経済学: Excelによる実証分析へのガイド』新世社

【成績評価の方法と基準】

キャパシティビルディングのための発表、演習、討論50%。各自の研究論文、発表50%。

【学生の意見等からの気づき】

4限にキャパシティ・ビルディングとして、実証分析の学習・演習などを行います。

2022－2025年度は、ゼミ生が教科書・ソフトウェアを選び、学習・演習をリードしました。

2026年度は教科書を西山他（2019）、ソフトウェアをRとし、担当教員が発表・演習をリードする予定です。

2027年度は、2026年度と同じ内容を3年生にリードしてもらう予定です。

【Outline (in English)】

*** Course outline**

Each of us will study and write a research paper on a question in Development Economics.

We will study Development Economics, how to write a research paper, make a presentation, analyze data as our capacity development.

We will study econometrics methods such as regression, randomized controlled trial, and instrument variable method, which appear frequently in each field of Applied Microeconomics.

We will aim to understand each method roughly and apply each method to data so that we will become able to look for paper ideas with keeping each empirical method in our mind.

*** Learning Objectives**

Each of us will become able to set a goal, read papers, analyze data, make slides, notes, and a paper, and present the paper based on what we learn.

We will learn methods of data analysis so that we can understand previous studies using the methods and we can look for a research idea and research question keeping the methods in our mind.

*** Learning activities outside of classroom**

We will read a document in advance.

One of us will make slides in advance so that we can discuss contents of the document and slides in class.

The standard time for preparation and review for this class is 4 hours each.

*** Grading Criteria, Policies**

Grading will be decided based on presentation, problem sets, discussion for capacity building (50%) and presentation, paper, discussion for research (50%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
ROBERT D STROUD
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7142」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of the seminar is to improve the presentation, leadership, management, problem-solving, and critical thinking skills of students through group projects to become effective leaders, managers, and team members in society.

【到達目標】

Students will analyze project management and leadership skills, as well as apply those skills to their own communication and actions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

For 2nd and 3rd year students:

Students will discuss and practice different methods of leading and managing teams of their own, and report on discoveries about themselves. This will then be applied to real team projects within the course, with self and peer-reflection activities to follow. Feedback on course assignments will primarily be given through classroom discussions in-person and on Google Classroom.

For 4th year students:

A graduation thesis will be written in English across the spring and fall semesters. Students will undertake homework assignments related to research and writing the thesis and meet online/face-to-face with the teacher 5-7 times during each semester to present their work and get feedback on their progress via Google Classroom. 4th year students are not required to attend seminar classes with 2nd and 3rd year students if they do not wish to.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Seminar introductions / semester outline (subject to change)	- Self-Introductions/Ice Breakers - Seminar outline
2	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
3	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
4	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
5	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
6	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
7	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
8	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics

9	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics
10	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics
11	Kokusai project / Leadership project / Research project / Debates	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
12	Final presentations	- Students give their final presentations
13	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentations
14	Zemi meeting and discussions	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting
15	Seminar introductions / layout	- Students are introduced to the coming semester
16	SDG projects / Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
17	SDG projects / Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
18	SDG projects / Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
19	SDG projects / Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
20	SDG projects / Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
21	SDG projects / Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
22	SDG projects / Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics
23	Presentation contest preparation	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics
24	Presentation contest preparation	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics
25	Presentation contest preparation	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
26	Presentation Contest	- Students give their final presentations
27	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentation
28	Final meeting and changes for next year	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A total of 8 hours of homework reviewing classwork, preparing for classroom discussions and animation video quizzes. 授業の復習、教室でのディスカッションやアニメーションビデオのクイズの準備をする合計 8 時間の宿題です。

【テキスト（教科書）】

No textbooks - all materials will be provided.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

For 2nd and 3rd year students:

Project work preparation, classroom participation, and seminar events - 50%

Project homework assignments - 50%

For 4th year students:

Graduation thesis (written in English) - 100%

(not required, but available for 3rd year students who apply and are successful)

【学生の意見等からの気づき】

Surveys given to the students will be used to make adjustments for the course in the future.

【学生が準備すべき機器他】

- Notebook and pens

- Laptop computer/tablet (if available)

If the course is conducted online, a laptop computer or tablet is highly recommended. Although the course is entirely accessible via smartphone, students may find difficulties accessing multiple platforms during online class if joining the class with a smartphone.

【その他の重要事項】

none

【Outline (in English)】

Students will undertake various projects in teams to improve their collaboration skills and ability to plan projects.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
西澤 栄一郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7143」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィールドワークを柱とする環境問題の調査とその解決策の提案

【到達目標】

- ①現地調査の方法を身につける。
- ②地域の人々に対して貢献する。
- ③活動内容を報告書にまとめ、現地で報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

このゼミは、8月にフィールドワーク（現地調査）を行うことを特徴としています。ある地域を選び、その地域のまちづくりと環境に関わることを調べ、提言をまとめます。調査を通して参加者がその地域について理解を深めるだけでなく、その地域の人々に対して貢献することを目指しています。経済学部のゼミなので、調査にあたっては、環境問題の経済的な側面や、環境と経済との関わりについて重視できればと考えています。

なお、課題等の提出・フィードバックは主として授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	対象地とテーマの検討	各自の提案について議論する
2	対象地とテーマの決定	提案の中から一つに絞る
3	関連文献の収集	テーマに関する文献を調べる
4	関連文献の講読①	テーマに関する文献を全員で読む
5	関連文献の講読②	内容について議論する
6	関連文献の講読③	対象地域に関する文献を読む
7	関連文献の講読④	対象地域に関する理解を深める
8	現地調査の課題設定	具体的な調査課題を決める
9	現地調査内容の検討	訪問先と調査内容を決める
10	現地日程の検討	具体的なスケジュールを決める
11	現地調査の仮説設定	文献などから仮説を立てる
12	事前調査のまとめ	理解したことを文章にまとめる
13	調査項目の確定	調査票を作成する
14	報告書の構成の検討	事前学習の知見も盛り込む
15	報告書案の検討①	原稿を持ち寄って議論する
16	報告書案の検討②	修正したものをさらに検討する
17	報告書の結論の検討	結論について議論する
18	発表会準備①	パワーポイントを作成する
19	発表会準備②	発表の練習をする
20	報告書の最終調整①	書式を統一する
21	報告書の最終調整②	原稿を完成させる
22	今年の現地調査の反省	反省点を来年の調査に活かす
23	卒業論文の中間報告	4年生の報告について議論する
24	環境問題の文献講読	幅広い知識を得る

25	来年の方針の検討	来年の調査に向けて準備する
26	調査方法の文献講読	アンケートの方法を学ぶ
27	論文の書き方講座	図書館でガイダンスを受ける
28	卒業論文の報告	4年生の最終報告を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地調査の準備や報告書の作成はさまざまな作業を伴います。それらの作業は適宜行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜決めて読んでいきます。

【参考書】

現地調査の基本文献として、2冊挙げます。

- ①三井さよ・三谷はるよ・西川知亨・工藤保則編(2023)『はじめての社会調査』世界思想社
- ②滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会編(2015)『フィールドワーク心得帖[新版]』サンライズ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と課題（50％）で評価します。4年生は卒業論文を主に評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの回答がなかったため、該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students conduct fieldwork and make a proposal on the environmental and resource issues. The goals of this course are to acquire methods of field work, to make a report and a presentation on their activities, and to contribute the community where they visit for the fieldwork. Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to conduct assignment and make reports. Grading will be based on Term-end thesis(50%) and in-class contribution(50%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
新田 誠吾
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7144」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習のテーマは二つです。一つは、現在の世界を知り、その世界と自分がどう向き合えばよいのかを考察します。もう一つは、マンガ、アニメ、文学、ゲーム、SNSにある「ナラティブ」の構造を分析します。演習と並行して、各自が設定したテーマについて、論文にまとめ、発表を行います。

【到達目標】

1. 物語について理解し、分析できる。
2. 世界の社会現象、課題について考察できる。
3. ファシリテーターとして、有益な議論を導くことができる。
4. 自分の考えを論理的にまとめることができる。
5. 自分の考えを表現でき、他人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

原則、対面で授業を行います。専門書の講読、資料検索、グループ研究、発表、ディベート、論文作成を行います。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。必要な情報はメンバー全員で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	あなたはどのような人ですか？	演習の進め方 自己演出の技法 AIとどう向き合うか
2	私たちの世界は物語で溢れている	物語とは何か ディスカッションの技法
3	200字作文(1) 何がドラマになるのか	小説を分析する
4	200字作文(2) マンガの技法(1)	登場人物の設定
5	200字作文(3) マンガの技法(2)	作品の世界観とは
6	200字作文(4) ファシリテーションとは何か	みんなの意見を引き出すファシリテーターとは？
7	第1回コンテンツ報告会	
8	論文の書き方(1) 論文の書き方(2) 図書館ガイダンス	テーマとは「問い」である。 資料検索 図書館ガイダンスは、日程が前後することあり。
9	論文の書き方(3)	パラグラフ・ライティング
10	論文の書き方(4)	引用の仕方
11	論文の書き方(5) 第2回コンテンツ報告会	注、参考文献の書き方

12	グループ論文中間報告	2, 3年生による報告
13	進級論文中間報告 グループ論文中間報告	2, 3年生による報告
14	進級論文中間報告 グループ論文中間報告	2, 3年生による報告
15	進級論文中間報告 ふりかえり	映像作品を観る
16	作品鑑賞	第3回コンテンツ報告会
17	グループ研究発表(1)	2年生の発表
18	グループ研究発表(2)	2年生の発表
19	物語の技法(1)	小説の輪読
20	3年生の研究発表	小説の輪読
21	物語の技法(2)	小説の輪読
22	3年生の研究発表	小説の輪読
23	卒業論文指導	卒業論文指導
24	物語の技法(3)	小説の輪読
25	3年生の研究発表	卒業論文指導
26	新ゼミ生の選考	選考面接
27	3年生の研究発表(1)	発表と質疑応答
28	卒業論文指導	発表と質疑応答
29	3年生の研究発表(2)	発表と質疑応答
30	第4回コンテンツ報告会	発表と質疑応答
31	3年生の研究発表(3)	発表と質疑応答
32	卒業論文指導	発表と質疑応答
33	3年生の研究発表(4)	発表と質疑応答
34	卒業論文指導	発表と質疑応答
35	3年生の研究発表(5)	発表と質疑応答
36	ふりかえり	ゼミの総括と来年度に向けた企画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題、発表、論文作成にきちんとした準備が必要です。そのため週に8時間程度必要です。

【テキスト（教科書）】

新田誠吾(2019). はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！ レポート・論文のまとめ方. ずばる舎.
谷原つかさ(2024). 「ネット世論」の社会学. データ分析が解き明かす「偏り」の正体. NHK出版新書.
ジョージ・オーウェル. 田内志文訳(2021). 1984. 角川文庫).

【参考書】

参考書については、授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

2, 3年生は、平常点40%、論文40%、発表20%で、合計60%以上で単位を認定します。ただし翌年度のゼミ履修には70%以上必要です。なお、正当な理由なくゼミを30%以上欠席した場合は、評価の対象にしません。
4年生は卒業論文について、①テーマ選定、②資料検索とアウトライン作成、③第1次原稿、④完成稿のそれぞれで卒論指導を受ける必要があります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、学生から高い評価を受けました。今後も論文指導や発表に力を入れていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This seminar has two themes. The first is to understand the current world and consider how we should engage with it. The second is to analyze the structure of “narratives” found in manga, anime, literature, games, and social media. Alongside the seminar, each participant will compile a paper on a self-selected theme and give a presentation.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. be able to understand and analyze stories

2. be able to consider social phenomena and issues in contemporary world
3. be able to lead useful discussions as a facilitator
4. be able to summarize one's thoughts logically
5. be able to express one's thoughts and communicate them to others.

【Learning activities outside of classroom】 Four hours per week are required for assignments, presentations, and thesis work.

【Grading Criteria /Policy】

For 2nd and 3rd year students, credit will be granted for a total of 60% or more, consisting of 40% for regular marks, 40% for papers, and 20% for presentations. However, a minimum of 70% is required to enroll in the seminar in the following year. If the number of absences without justifiable reason exceeds 30% of the total number of absences, the student will be excluded from the grading.

Fourth-year students are required to take the following graduation thesis instructions: (1) theme selection, (2) material search and outline preparation, (3) first draft, and (4) completed draft.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
明城 聡
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7145」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場調査と統計学を利用した経済データ分析

【到達目標】

本演習では、受講生それぞれが独自に選んだ課題テーマについて調査するとともに客観的な視点で経済分析することを目指します。各自が関心のある特定の財市場や経済制度、あるいは経済政策などを研究テーマに選び、それについて調査をすすめるとともに、ミクロ経済学や統計学の知識を応用してデータ分析をします。また、学術論文の執筆を通じて理論的な文章を書けるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

2年生は主に統計学と計量経済学のテキストを使って勉強を行います。これは個別の課題テーマを調べる際に必要な知識を身につけるための演習です。

3年生は個別のテーマについて調査分析を行って論文を執筆します。調査方法や分析手法などについて担当教員と相談したり、他の受講生と協力して作業を進めるための作業が主な内容になります。

そして秋の懸賞論文や研究報告大会などで研究成果を発表します。

4年生は卒論を書きたい人のみ履修となります。必要に応じて論文指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・シラバスの配布 ・演習概要の説明 ・その他、連絡事項
2	課題テーマの抽出(1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
3	課題テーマの抽出(2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
4	課題テーマの抽出(3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
5	課題テーマの抽出(4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
6	課題テーマの調査と分析(1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
7	課題テーマの調査と分析(2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析

8	課題テーマの調査と分析(3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
9	課題テーマの調査と分析(4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
10	課題テーマの調査と分析(5)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
11	課題テーマの調査と分析(6)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
12	課題テーマの調査と分析(7)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
13	課題テーマの調査と分析(8)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
14	課題テーマの調査と分析(9)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
15	課題テーマの調査と分析(10)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
16	課題テーマの調査と分析(11)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
17	課題テーマの調査と分析(12)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
18	課題テーマの調査と分析(13)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
19	課題テーマの調査と分析(14)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
20	課題テーマの調査と分析(15)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
21	課題テーマの調査と分析(16)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
22	課題テーマの調査と分析(17)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
23	課題テーマの調査と分析(18)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
24	課題テーマの調査と分析(19)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
25	課題テーマの調査と分析(20)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
26	課題テーマの調査と分析(21)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
27	課題テーマの調査結果の報告(1)	・調査結果の報告
28	課題テーマの調査結果の報告(2)	・調査結果の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分に関心のあるテーマを選ぶように日頃から新聞やニュース等に目をとるようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習の第1回の時点で連絡します。

【参考書】

演習の第1回の時点で連絡します。

【成績評価の方法と基準】

2・3年生は

- ・学習時間における準備や発言(30%)
- ・グループ研究、論文執筆、プレゼン(70%)

などに応じて成績をつけます。

4年生は卒論の評価で成績をつけます(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

データ分析にPCが必要なので、各自ノートPCを利用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: In this seminar, students are required to investigate a specific market, economic system and/or economic policy, and then study it by conducting a statistical data analysis.

Learning activities: It is necessary to write a research thesis based on the economic data analysis in 3rd year. Extra- curriculum activities for homework assignment and/or research studies require at least 2-4 hours every week.

Grading: 2nd, 3rd year student: attendance/learning attitude/(30%), group work, academic paper, presentation(70%); 4th year student: academic paper(100%)

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
朴 宗玄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7146」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、地理学の視点から「地域」「社会」「経済活動」「（地域）文化」を捉える方法を学ぶ。本演習では、先行研究の検索とその読みとり、統計をはじめとする資料分析を軸に、現地調査（フィールドワーク）を見据えた地域調査の方法を学習する。

【到達目標】

経済地理学をベースとした調査研究方法を習得することと、個人もしくはグループで自ら研究テーマを設定し、適切な方法を用いて当該テーマについて調査分析する力を養うことを目標とする。報告書の完成を本年度のゴールとし、本演習を通して一定期間内に自分のすべきことを完遂するためのセルフマネジメント力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

調査研究に必要なステップごとに、担当者による説明、受講者の演習、結果報告とそれを受けての議論、を基本の流れとする。受講者が自らテーマを設定し、積極的・自主的に調査研究をすすめることを期待する。年間を通じては、受講者の研究関心に基づくテーマでの文献検索、調査の計画と実施、調査結果のまとめと分析、報告書の執筆、とすすめていく。フィールドワークについては、受講者の関心や実施可能性をみて可能であれば集団で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本演習のすすめ方についての担当者からの説明と、受講者の興味関心について情報交換を行う。
2	文献検索について	地理学関連の先行研究とくに学術論文の調べ方と、文献リストの作成について学習する。
3	文献紹介、文献検索②	集めた文献の読み方と、さらに文献研究を深める方法について学習する。
4	文献紹介②、先行研究レビューについて	複数の文献を読み、問題提起につなげていく方法を学習する。
5	論文の構造	論文には一定の構造と構成があることを学習する。
6	研究のテーマと対象地域①	研究テーマと調査対象地を設定する方法を学習する。
7	研究のテーマと対象地域②	前回に続き各受講者の研究テーマと調査対象地を検討し、決定する。
8	資（史）料と統計を集める①	テーマと対象地についての概観を把握するための調査について学習する。
9	資（史）料と統計を集める②	政府等による統計の集め方とデータの読みとり方を学習する。

10	集めたデータを分析する①	集めた統計を用いて図表を作成する方法を学習する。
11	集めたデータを分析する②	統計や資料からわかったことをまとめ、議論する。
12	調査仮説と調査方法	調査のための仮説の設定方法と調査方法を学び、実際に調査計画を立てる。
13	報告書の構成について	先行研究を参考に、各受講者が論文の目次を作成してみる。
14	春学期総括	各受講者のこれまでの成果を発表し、議論する。
15	秋学期のすすめ方についての確認	後期のスケジュールを確認し、中間報告の準備を行う。
16	中間報告（進捗と今後の計画等について）①	進捗と今後の研究計画を共有し、建設的に議論する。
17	中間報告（進捗と今後の計画等について）②	前回の議論をもとに計画や報告書の構成を修正する。
18	調査結果の整理と分析①	調査結果をまとめ、データ化する方法を学ぶ。
19	調査結果の整理と分析②	データの読みとりを議論につなげることにについて学ぶ。
20	分析と議論①	得られた結果を踏まえて、議論をすすめる。また、主題図など地図や模式図の作成について学習する。
21	分析と議論②	受講者間で進捗報告を行い、建設的な質問やコメントをすることを学ぶ。
22	報告書の執筆①	報告書の執筆を開始し、文献の示し方などを学ぶ。
23	報告書の執筆②	適切に結論に結びつけるために、先行研究を追加したり図表を工夫する方法を学ぶ。
24	報告書の執筆③	受講者間で執筆中の報告書を読み、建設的な議論をおこなう。
25	プレゼンテーション	発表会の流れについて学習し、その準備を行う。
26	成果報告①	直前の準備を行ったのち、発表会を実施する。
27	成果報告②	発表会を実施し、報告書を仕上げる。
28	まとめ	報告書を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の事前準備・議論後のフォローと、各自の課題への主体的な取り組みを求める。毎回の準備とフォローに要する時間は、4時間程度を必要とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。

【参考書】

授業中に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

報告書等の成果物（30%）、授業での報告内容・議論への参加（30%）、各自のテーマへの取り組み（40%）を基本に総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

個人の研究関心や問題意識を中心に据えた演習を展開し、柔軟に授業計画に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

本演習は対面実施であるが、状況によっては一部をオンラインで実施する可能性がある。受講者の関心や進捗状況によって、授業計画を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

The goal of this seminar is to acquire how to survey areas, societies, economic activities and local culture on the viewpoint of human geography.

Students study how to conduct literature studies, analyze statistic data and fieldworks.

Each student writes a short research paper in a year, therefore additional work about four hours in a week is expected.

Grading will be decided according to the following weights:

Term-end research paper and other submissions: 30%

Presentations and Discussion in the class: 30%

Attitude towards each research: 40%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
橋本 到
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7147」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1) 自主的な学習によって、フランスの現代やその礎となる文明・文化について理解を深め、物事を深く考える力を養う。
- 2) 「日本」や身の回りの問題を見直し、提言を発信する能力を身につける。

【到達目標】

- 1) 文化的・学術的な議論ができるようになる。
 - 2) 情報検索・収集・整理を持続的・効率性に行えるようになる。
 - 3) 物事を幅広く柔軟に考え、適切に分析・洞察できるようになる。
- それらを発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

輪読発表、グループ研究、個人研究、レクチャーを組み合わせます。輪読発表、グループ発表とも年度初頭の計画に基づき行いが、その準備が各自の課題になる。それぞれの発表はその場で相互評価の方法も取り入れ、改善点など指摘し、あわせて、授業外でも個人研究を進められるよう面談を行い一人一人の捗状況に合わせた指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの場を作る。ゼミの進め方の確認など。	自己紹介、ガイダンス、グループ決め、輪読アナウンス1班、毎回報告1
第2回	興味を広げる、フランスについて知る。グループ内で発想を出し合う。	輪読（アナウンス2班+発表1班）、レクチャー1、毎回報告2、グループ研究1
第3回	興味を広げる、。論文の書かれ方について知る。グループで作業分担などを決める。	輪読（アナウンス3班+発表2班）、論文講読1、毎回報告3、グループ研究2
第4回	興味を広げる。グループでリサーチする（1）。	輪読（アナウンス4班+発表3班）、グループ研究3、毎回報告4
第5回	興味を広げる。プレゼンについて考える。グループでリサーチする（2）。	輪読（アナウンス5班+発表4班）、毎回報告5、グループ研究4
第6回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス6班+発表5班）、論文講読2、毎回報告6
第7回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス1班+発表6班）、レクチャー2、毎回報告7
第8回	興味を広げる、フランスについて知る。グループでリサーチする（3）	輪読（アナウンス2班+発表1班）、毎回報告8、グループ研究5
第9回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス3班+発表2班）、レクチャー3、毎回報告9
第10回	フランスについて知る。グループでリサーチする（4）	輪読（アナウンス4班+発表3班）、レクチャー4、グループ研究6

第11回	探求した内容を発表する（1）	輪読（発表5班）、3年次発表1
第12回	探求した内容を発表する（2）	3年次発表2、4年次発表1
第13回	興味を広げる、探求した内容を発表する（3）	4年次発表2、毎回報告10
第14回	興味を広げる、グループ研究の途中経過を完成に近づける（1）	毎回報告11、グループ研究・第1回プレゼン・リハーサル
第15回	フランスについて知る、グループ研究を完成させる1	ガイダンス、レクチャー5、輪読（アナウンス1班）、グループ研究発表（1班～5班）
第16回	フランスについて知る、卒論にむけた準備（4年）1	輪読（アナウンス2班+発表1班）、毎回報告12、4年次卒論中間発表1
第17回	グループ研究を完成させる2	輪読（アナウンス3班+発表2班）、毎回報告13、グループ研究7
第18回	卒論にむけた準備（4年）2、グループ研究を完成させる3	輪読（アナウンス4班+発表3班）、4年次卒論中間発表2、毎回報告14、グループ研究8
第19回	卒論にむけた準備（4年）3、グループ研究を完成させる3	輪読（アナウンス5班+発表4班）毎回報告19、4年次卒論中間発表3
第20回	興味を広げる、フランスについて知る、グループ研究を完成させる4	輪読（アナウンス1班+発表5班）、レクチャー6、毎回報告16、グループ研究9（発表先発組・オープンゼミ）
第21回	学年末に向けたまとめの準備1、グループ研究を完成させる5	輪読（アナウンス2班+発表1班）、毎回報告17、グループ研究10（発表後発組・オープンゼミ）、1次応募選考
第22回	学年末に向けたまとめの準備2	輪読（アナウンス3班+発表2班）、3年次発表1、毎回報告18
第23回	学年末に向けたまとめの準備3	輪読（アナウンス4班+発表3班）、3年次発表2、毎回報告19
第24回	興味を広げる、フランスについて知る。学年末に向けたまとめの準備4	輪読（アナウンス5班+発表4班）、3年次発表4、毎回報告20
第25回	面接の挙措などの学び——次年度の入ゼミ生を面接する	2018年度、2次応募者選考作業
第26回	集めた情報を論文として構成する（2年）1。	輪読（発表5）、レクチャー7、毎回発表21、2年次発表1。
第27回	集めた情報を論文としてまとめる（2年）2	2年次発表2
第28回	映像を通してフランスを知る。	毎回報告22、フランス映画視聴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

親睦行事、グループ作成における自主的なサブレゼミ、合宿などが、必要に応じて行われます。また、卒業論文作成のための継続的な作業を行います。授業時間外の準備には標準的に4時間をかけてください。

【テキスト（教科書）】

授業で指示します。輪読で使うテキストは、ゼミ生が班ごとに選書し、教員の了承を得たものとします。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 一) 個人研究の第二回発表と進級（学年末）論文 65 %
 二) 平常点 35 %（毎回報告・輪読など各種発表 20 % ゼミにおける討論への参加度・コメント執筆 10 % ゼミへの貢献 5 %）
 ※4年生については、卒論100 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

輪読ディスカッション後に課題となっているコメントですが、まとめ書きするゼミ生が見受けられました。書かないよりはよいのですが、なるべく授業の印象が残っているうちに書いてください。他の方の発表を他人事と思わず、そこから自分の学習に役立つものを探してください。

【学生が準備すべき機器他】

個人でパソコンやタブレット端末が持ち込める人は、ゼミの時間内に活用してもらいたい。

【その他の重要事項】

ゼミの場が活性化されるかどうかは、ゼミ生の自発的な活動にかかっています。ゼミという場を考えて、適切に行動し、ゼミを盛り上げてもらいたいと思います。ゼミ内の連絡事項は、グループウェアであるLINEBANDを通じて行います。また、ゼミからの連絡には目を通し、必要に応じて適宜返事をしてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to deepen the understanding of modern France and to develop different capacities (discussion, suggestions, dissemination) for different issues.

The objective of this class is to cultivate the ability to think and present ideas, and to submit a graduation thesis accordingly.

— Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

— Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Mid-term report+term-end report (65%), Usual performance score (35%) ※Grades of 4th grade are evaluated only by the graduation thesis (100%)

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
馬場 敏幸
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7148」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では、課題に対し、自分で情報を集め、アイデアを生み出し、まとめ、表現する能力が必要となります。その際チーム行動を取れることも重要です。本ゼミでは、主体的にそれらを行えることを目指し、実践訓練を通じ学びます。先生の研究テーマはアジア経済、開発経済論、科学技術論などですが、ゼミでは学生の自主性を尊び、様々なテーマを取り扱うことが可能です。

【到達目標】

各自が自らで考え、企画し、調べ、まとめ、発表する。そうした一連のプロジェクトの流れを体得し、リーダーとして引っ張っていけるようになって欲しい。また、一歩踏み出す勇気を手にして欲しい。こうしたグループワーク、研究実行、発表までを各人が主体的に行うことができるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

基礎知識の習得では講義を行います。2-3年生は学んだ基礎知識や研究手法を活用してグループに別れ、それぞれ調査・研究を行います。各グループでは調査・研究結果をまとめ、プレゼンテーションを行います。研究成果はゼミ大会などで発表していきたいと考えています。4年生はそれまで学んだ経験・手法・知識を総動員して自主的に卒業論文作成に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎知識の習得 1	講義の前半では、話題書や学問書の輪読を通じて知識習得、まとめ、発表の基礎的能力を身につけます。得た知識を元に、シンポジウム、ディベートなども行います。2年生各1～2名に対し、3年生各1名をメンターとして指名し、調査・研究活動などのノウハウを伝授します。習得を目指す能力：情報検索法、アイデア発想法、アイデア収束法、論理的思考法、レジュメ作成法、論文作成法、プレゼンテーション法など
2	基礎知識の習得 2	基礎知識習得
3	基礎知識の習得 3	基礎知識習得
4	研究活動初期 1	各グループが決めた内容をプレゼン準備・発表まで行う
5	研究活動初期 2	研究継続
6	研究活動初期 3	研究継続
7	研究活動初期 4	研究継続
8	研究活動初期 5	研究継続

9	研究活動初期 6	研究継続
10	研究活動初期 7	研究継続
11	研究活動初期 8	研究継続
12	研究活動初期 9	研究継続
13	研究活動初期 10	研究継続
14	前期総括	前期の総括と夏休みの課題
15	研究論文の執筆 1	夏休み終了まで研究した内容を論文にまとめます
16	研究論文の執筆 2	研究論文執筆継続
17	研究論文の執筆 3	研究論文執筆継続
18	研究発表準備 1	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
19	研究発表準備 2	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
20	研究発表準備 3	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
21	発表検討 1	各グループの発表を相互に検討しあいます
22	発表検討 2	各グループの発表を相互に検討しあいます
23	発表検討 3	各グループの発表を相互に検討しあいます
24	研究資料完成 1	発表資料を完成させます
25	研究資料完成 2	発表資料を完成させます
26	研究報告 1	研究報告を行います
27	研究報告 2	研究報告を行います
28	卒業論文報告会	卒業論文報告会を開催します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主研究の推進。本授業の事前学習は5時間、事後学習5時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適時指示

【参考書】

適時指示

【成績評価の方法と基準】

受講態度、講義の中での発表、課題への取り組み態度や内容などを勘案して評価を行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

前期のグループ分けリサーチについて、昨年は前期は進行が遅滞がち、夏休みでの停滞、などもあった。次回は前期のリサーチペースをもう少し前倒ししたい。

【その他の重要事項】

4年次に卒論を書く気がない2～3年は受講しないでください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to research, do presentation in group work. As outside studies, I hope two hours before classroom and two hours after classroom. Grading is based on daily attitude (40%) and presentation tests (60%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
平瀬 友樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7151」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、RやPythonを用いたデータ解析についてのスキルを身につけることにある。

【到達目標】

グループまたは個人での専門論文執筆を通して、思考能力および専門知識を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形式で行うが、最大7回まで支援システムからの動画配信によるオンライン形式にすることがある。講義内のアナウンスおよび支援システムのお知らせ欄の指示にしたがうこと。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合に支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PCからのメールを受け取れるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	自己紹介およびグループ分け
2	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッションをやってみよう
3	ディベート	ディベートとグループ・ディスカッションの違いについて
4	プレゼン	プレゼンをしてみよう
5	文章講座	論文やレポートの書き方について
6	回帰分析とは何か	回帰分析の理論とPCの操作について
7	t検定について	t検定の考え方と応用
8	重回帰分析	重回帰分析をしてみよう
9	先行研究	重回帰分析を使った先行研究を読みましょう
10	重回帰分析の応用	多重共線性など注意すべき問題について
11	その他の統計学的分析	因果関係の分析へ
12	演習	グループ別での執筆活動
13	夏休みの計画	後期の懸賞論文に向けて・計画作り
14	総復習	前期の振り返り
15	はじめに	後期の進め方について
16	プログラミングとは何か	Rを使ってみよう
17	Rによる分析の実際	Rを使って前期の復習
18	PCを使った統計分析	Pythonの操作方法を覚えよう
19	より高度な統計分析に向けて	RとPythonの違いを理解しよう

20	ロジスティック回帰分析とその応用	ダミー変数を被説明変数にした場合
21	傾向スコアを用いた分析	コードを実際にかいてみよう
22	マッチング、傾向スコア、そしてIPW推定量	複雑なコードを読めるようになる
23	パネルデータ分析	個別効果と変量効果
24	より高度な分析について	DiD分析、サバイバル分析、そして操作変数法
25	時系列データ分析の基礎	系列相関について
26	時系列データ分析の応用	VARモデルについて
27	研究テーマの決定	懸賞論文に向けての準備
28	総復習	振り返りと今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題について締め切りは厳守。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

追って指示する。

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)および課題の成果(50%)によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に指摘はない

【学生が準備すべき機器他】

各自でwindowsパソコンを準備すること。

【その他の重要事項】

長期休みには補習として二週間に1本程度の割合で動画配信を行っている。

【Outline (in English)】

The aim of this course introduces the fundamentals of data science to the students. In detail, this course is to help students acquire basic skills for data analysis with R or Python. Grading Criteria is following; Class Performance 50% and Report Assignment 50%. In addition, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
廣川 みどり
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7152」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方を習得する。どのような問題があるのか、どのようにそれを考えたらよいのか。輪読、議論を通し、理論をしっかり修得し、それを応用する能力を身につける。

【到達目標】

各自が自分で考えるべき問題を見つけ、その解決に対処できるようにする。経済学の考え方を身につけ、その視点から問題をながめ、既存の文献やデータに依拠しつつ、問題解決についての自分の結論を出せるようにする。4年の終わりまでに「経済学部を卒業しました」と明るく言える人材となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

(i)テキストの輪読と、(ii)ゼミ論・卒論を目指し必要なツールの修得を行うと共に、(iii)効果的なプレゼンの技術やディベートの方法を学ぶ。基本的には対面の授業とするが、コロナ等の状況を勘案しつつ、適宜オンライン授業を組み込む。また、それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題については、授業時間中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学と自分との関わり、日経新聞の読み方
2	演習	今年度のテーマの選定、各人の研究テーマの見つけ方
3	演習	研究テーマを形にする方法、文献の取り扱い
4	演習	ミニ報告と輪読(1)
5	演習	ミニ報告と輪読(2)
6	演習	ミニ報告と輪読(3)
7	演習	ミニ報告と輪読(4)
8	演習	効果的なプレゼンを考える
9	演習	ミニ報告と輪読(5)
10	演習	ミニ報告と輪読(6)
11	演習	ミニ報告と輪読(7)
12	演習	ミニ報告と輪読(8)
13	演習	ミニ報告からレポート・論文へのつなげ方
14	春学期のまとめ	春学期の内容の総括と夏合宿の課題の選定
1	イントロダクション	春学期の内容の復習と秋学期の方向性の確認
2	演習	輪読およびレポート作成・報告(1)
3	演習	輪読およびレポート作成・報告(2)
4	演習	輪読およびレポート作成・報告(3)
5	演習	輪読およびレポート作成・報告(4)
6	演習	ゼミ論・卒論執筆中間報告(1)、研究テーマの軌道修正
7	演習	ディベートの方法、材料集め
8	演習	ディベートとその振り返り

9	演習	輪読およびレポート作成・報告(5)
10	演習	輪読およびレポート作成・報告(6)
11	演習	輪読およびレポート作成・報告(7)
12	演習	輪読およびレポート作成・報告(8)
13	演習	ゼミ論・卒論執筆中間報告(2)、および論文の仕上げ方について
14	年間の内容のまとめ	年間の内容の総括と春合宿の課題の選定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、一回につき各8時間を標準とする。

・春学期

第14回：(1) サブゼミ参加とその準備（1.5時間）、(2) ゼミ報告の準備（1.5時間）、(3) 日経新聞を読む、または経済の読み物に親しむ（3.5時間＝1日30分*7日）

ゼミ合宿参加：2泊3日（準備も含め21時間、各回換算で1.5時間）

・秋学期

第14回：(1) サブゼミ参加とその準備（1.5時間）、(2) ゼミ報告の準備、ゼミ論執筆（3時間）、(3) 日経新聞を読む、または経済の読み物に親しむ（2時間＝1日15分20分*7日）(2)と(3)の時間配分はゼミ論・卒論の進捗度合いによる）

ゼミ合宿参加：2泊3日（準備も含め21時間、各回換算で1.5時間）

【テキスト（教科書）】

開始時に指示する。

【参考書】

各人の知識、理解、興味に応じて適宜指示していく。また、新聞記事も適宜取り上げる。

【成績評価の方法と基準】

平常点。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

基礎と応用、どちらも押さえた演習とします。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行うため、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録を済ませること。課題の提出もこちらで受けつけることとなる。

(2) PCとネット環境を整備しておくこと。

【その他の重要事項】

演習の時間以外に、合宿、サブゼミへの参加も全て求められるため、注意してほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic idea of Economics and ability of their application. By the end of this course, students should be able to

(1) understand the way of thinking in Economics,

(2) develop academic skills, and

(3) find his/her own theme and analyze further.

Before/after each class, students will be expected to spend eight hours for preparation and review. Final grade will be determined by class contribution(100%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
青野 幸平、濱秋 純哉
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7153」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方やデータ分析の手法を身に付ける。

【到達目標】

- ①経済学，統計学，計量経済学の基礎的な知識を身に付ける。
- ②関心のある社会問題について，仮説検証型のデータ分析を行う。
- ③自分の意見や分析結果を分かりやすくプレゼンテーションする。
- ④他人の発表に建設的なコメントや質問を行ったり，議論したりする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・ミクロ経済学，及び経済データを分析する際に用いる統計学・計量経済学について，輪読を通じて理解を深める。
- ・他大学とのインゼミに向けた論文の作成や，各人の関心のあるトピックについて分析を行うことを通じて，データを用いた仮説検証の方法を学ぶ。
- ・各人が関心のあるニュースや新聞記事について，他のゼミ生の前で発表し，ディベート形式で議論し理解を深める。
- ・長期休暇中に課題が課され，休暇明けにその理解度を確認する。理解の確認時には，よくある間違いの例を示したりしてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの内容，進め方，今年度のスケジュールの決定
2	ミクロ経済学①	ミクロ経済学の基本解説
3	ミクロ経済学②	需要と供給の基本原理
4	ミクロ経済学③	余剰概念と需給分析
5	ミクロ経済学④	消費者理論
6	ミクロ経済学⑤	財政の捉え方：課税と給付
7	ミクロ経済学⑥	財サービスへの課税
8	ミクロ経済学⑦	労働所得課税
9	ミクロ経済学⑧	給付と補助Ⅰ：現金給付と所得保証(1)
10	ミクロ経済学⑨	給付と補助Ⅰ：現金給付と所得保証(2)
11	ミクロ経済学⑩	給付と補助Ⅱ：現物給付と価格補助(1)
12	ミクロ経済学⑪	給付と補助Ⅱ：現物給付と価格補助(2)
13	統計学とデータ分析①	母集団と標本，統計的推論
14	統計学とデータ分析②	相関係数と因果関係
15	統計学とデータ分析③	「確率」とは
16	統計学とデータ分析④	期待値と平均，分散，標準偏差

17	統計学とデータ分析⑤	確率変数の独立性
18	統計学とデータ分析⑥	正規分布，カイ二乗分布，t分布，F分布
19	統計学とデータ分析⑦	大数の法則と中心極限定理
20	計量経済学とデータ分析①	単回帰分析
21	計量経済学とデータ分析②	最小二乗法
22	計量経済学とデータ分析③	重回帰分析
23	計量経済学とデータ分析④	重回帰分析の応用
24	計量経済学とデータ分析⑤	推測統計の基礎(1)
25	計量経済学とデータ分析⑥	推測統計の基礎(2)
26	計量経済学とデータ分析⑦	外生変数と内生変数
27	計量経済学とデータ分析⑧	応用的な計量分析(1)
28	計量経済学とデータ分析⑨	応用的な計量分析(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの輪読に際しては，予習と復習を欠かさずに行うこと。予習では疑問点を明確にし，ゼミでその点を質問できるように準備すること。
- ・新聞やニュースに関心を持ち，報道されている内容について経済学に基づいて考える習慣を付けること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・林正義『財政学—課税と給付の経済学』，有斐閣。

【参考書】

- ・濱秋純哉『経済政策』，新世社。
- ・西森晃『これから経済学をまなぶ人のための数学基礎レッスン』，日本経済評論社。
- ・星野匡郎・田中久稔・北川梨津『Rによる実証分析 [第2版] 一回帰分析から因果分析へ』，オーム社。
- ・神取道宏『ミクロ経済学の力』，日本評論社。
- ・八田達夫『ミクロ経済学Ⅰ，Ⅱ』，東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第4版）』，東洋経済新報社。
- ・ピンダイク&ルビンフェルド『ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』，中経出版。
- ・スティーブン・レヴィット他『レヴィット ミクロ経済学基礎編』，東洋経済新報社。
- ・ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト『ALL ミクロ経済学』岩本康志（監訳）・岩本千晴（訳），東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マクロ経済学Ⅰ，Ⅱ（第3版）』，東洋経済新報社。
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』，有斐閣。
- ・伊藤隆敏『公共政策入門 ミクロ経済学のアプローチ』，日本評論社。
- ・吉田耕作『直感的統計学』，日経BP社。
- ・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』，東京大学出版会。
- ・田中隆一『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』，有斐閣。
- ・畑農鋭矢・水落正明『データ分析をマスターする12のレッスン』，有斐閣アルマ。
- ・浅野正彦・中村公亮『はじめてのRStudio－エラーメッセージなんかこわくない－』，オーム社。
- ・濱田悦生著・狩野裕編『データサイエンスの基礎』，講談社。

【成績評価の方法と基準】

長期休暇に出される課題の確認テスト（20%），平常点（課題の提出状況，発表内容，議論への参加，他大学とのインゼミや論文への貢献等）80%による。4年生は卒論の進捗状況の報告や論文の完成度による。

【学生の意見等からの気づき】

過去にゼミで輪読したテキストが難しいという意見があったので、テキストをより分かりやすいものへと変更し、基礎から応用まで段階を踏んで学習できるよう留意している。

【学生が準備すべき機器他】

テキストの輪読やデータ分析を行う際に、ノートパソコンが必要となる。

【その他の重要事項】

メール（メーリングリスト）で重要な連絡を行うことがあるので、メールチェックを欠かさないこと。

【Outline (in English)】

Course outline

Students will learn the concepts of economics and the methodology of a data analysis.

Learning objectives

- (i) Acquire basic knowledge of economics, statistics and econometrics,
- (ii) Conduct data analysis on any social and economic problems,
- (iii) Explain own opinions and the results from data analysis in a way that is easy to understand, and
- (iv) Make constructive comments and ask questions on other people's presentations.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria /policy

Final grade will be decided based on the following:

Examinations: 50%, Homework assignments and in-class contributions: 50%. For fourth-year students, the final grade is solely based on their thesis.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
伊藤 健彦
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7154」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学の観点から調査や統計を通して各自の興味あるテーマを研究する。そして、英語コミュニケーションを通してグローバル社会で活躍するためのスキルを身につける。また、ゼミ関連イベントを通して企画力・実践力を養う。

【到達目標】

- 1) 調査や統計を通して社会心理学に関する論文を英語で書けるようになる。
- 2) 英語でプレゼンテーションやディスカッションが出来るようになる。
- 3) イベントの企画から実施までを自立して行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

2年生：社会心理学・英語・統計の基本をテキストを用いて身につける。進級テストあり。

3年生：研究計画を立て、調査を実施し、データを分析する。進級論文の作成あり。

4年生：各自興味のあるテーマについて英語で卒業論文を執筆する。授業では英語でのプレゼンテーション・ディスカッション・グループワークを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容説明。
2	Social Psychology Basics	社会心理学の基本を学ぶ。
3	Survey Basics	調査の基本を学ぶ。
4	Statistics Basics	統計の基本を学ぶ。
5	Statistical Analysis (1)	与えられたデータをもとに統計分析を行う。
6	Statistical Analysis (2)	与えられたデータをもとに統計分析を行う。
7	Presentation Basics	英語でのプレゼンテーションの方法を学ぶ。
8	Discussion Basics	英語でのディスカッションの方法を学ぶ。
9	Presentation (1)	自ら分析したデータのプレゼンテーションを行う。
10	Presentation (2)	自ら分析したデータのプレゼンテーションを行う。
11	Writing Basics	英語での論文の書き方を学ぶ。
12	Writing an Outline	自らプレゼンテーションした内容の論文アウトラインを作成する。
13	Writing a Paper	自らプレゼンテーションした内容の英語論文を作成する。
14	Presenting a Paper	作成した論文を英語で発表する。

15	Summary of Basics	前期に学んだことをおさらいする。
16	Literature Review	各自興味のあるテーマについて文献を調査する。
17	Research Proposal	各自興味のあるテーマの研究計画を立てる。
18	Proposal Discussion (1)	各自の研究計画を発表し、英語でのディスカッションを行う。
19	Proposal Discussion (2)	各自の研究計画を発表し、英語でのディスカッションを行う。
20	Survey Preparation	研究調査の実施準備を行う。
21	Conducting Survey	研究調査を行う。
22	Data Analysis	調査データを分析する。
23	Data Discussion (1)	データ分析をもとに発表を行い、英語でのディスカッションを行う。
24	Data Discussion (2)	データ分析をもとに発表を行い、英語でのディスカッションを行う。
25	Writing an Outline	研究発表をもとに、論文のアウトラインを作成する。
26	Writing a Paper	アウトラインをもとに英語で論文を執筆する。
27	Presenting a Paper	作成した論文を英語で発表する。
28	Summary	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にアップロードされる授業資料の予習に最低2時間かける。授業後に出された課題は最低2時間かける。ゼミ合宿など、ゼミ関連のイベントは参加必須。

【テキスト（教科書）】

『心理学概論アップデート：古典とその後の研究から学ぶ日常にいきる心理学』 中澤潤・坂本真士 ミネルヴァ書房 2024年
『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 小宮あすか・布井雅人 講談社 2018年

【参考書】

『APA論文作成マニュアル 第2版』 アメリカ心理学会 医学書院

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク 40%
研究論文 30%
ゼミ関連イベント企画 30%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

以下の資格について、常に受験準備をしておくこと：

- ・TOEIC公開テスト
- ・ビジネス統計スペシャリスト

【Outline (in English)】

The purpose of the course is for students to learn social psychological themes through surveys and statistical analysis. Students will develop the ability to communicate effectively in English, as well as acquire the skills needed to plan and execute events related to the seminars. The goal of the course is to bring students to a level where they are able to write a social psychology paper in English. This will involve incorporating survey and statistical analysis, presenting the finding and discussing it in English, and independently planning and conducting an event. Students are expected to spend at least two hours studying before each class and carry out their own research for an additional two hours after class. Attendance at all seminar-related events, such as seminar camps, is mandatory. The grading criteria are based on 40% presentation, discussion, and group work in the classroom; 30% research paper; and 30% seminar-related events.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
古澤 直人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7155」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本史研究を学ぶ。方法としては、史料から事実を復元する訓練を繰り返す。そして、根拠に基づいた議論を展開できるようにする。さらに、アカデミックライティングを学ぶ。

【到達目標】

史料を読む学問的な手続きを学ぶ。研究史を理解する。①問題設定、②研究史整理、③論証、④結論という論の立て方を学ぶ。①～④の各プロセスでの日本史研究の力量を一定水準以上にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

はじめに基本的な学問の方法論を学ぶ。次に、各人のレポートの構想を吟味する。関係史料を持ち寄って精読する。それを報告という形に構成してプレゼンテーションをする。関連論文を読む。関連論文も同様の吟味を行う。さらに、関係史料を集め、その読みを訓練する。修正した報告を行う。使用史料を再吟味する。最終報告に仕上げる。提出課題についてはその都度採点のうえ必要に応じてコメントを付けてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今年のゼミの紹介と研究法について	論文の書き方、歴史の調べ方
2	レポート構想報告 1	研究史・問題関心・章立て 1
3	レポート構想報告 2	研究史・問題関心・章立て 2
4	レポート構想報告 3	研究史・問題関心・章立て 3
5	レポート関係史料を読む 1.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を1～2点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
6	レポート関係史料を読む 1.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を1～2点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
7	レポート関係史料を読む 1.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を1～2点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
8	レポート関係論文を読む 1.1	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
9	レポート関係論文を読む 1.2	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
10	レポート関係論文を読む 1.3	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
11	レポート中間報告 1.1	レポート作成作業の提示と修正 1
12	レポート中間報告 1.2	レポート作成作業の提示と修正 2
13	レポート中間報告 1.3	レポート作成作業の提示と修正 3
14	卒業論文中間報告	卒業論文中間報告
15	歴史学会の現状	春学期・夏休みまでの成果の提示
16	レポート第2回中間報告 2.1	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 1

17	レポート第2回中間報告 2.2	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 2
18	レポート第2回中間報告 2.3	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 3
19	レポート関係史料を読む 2.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を2～3点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
20	レポート関係史料を読む 2.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を2～3点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
21	レポート関係史料を読む 2.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を2～3点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
22	レポート関係論文を読む 2.1	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
23	レポート関係論文を読む 2.2	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
24	レポート関係論文を読む 2.3	自分の報告に関する代表的な論文を1点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
25	レポート最終報告 1	完成したレポートの報告 1。
26	レポート最終報告 2	完成したレポートの報告 2
27	レポート最終報告 3	完成したレポートの報告 4
28	卒業論文報告	完成した卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミメンバー全員があらかじめ報告者の史料に目を通す。授業の担当報告者のレジュメにそって授業で示された応答や論点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

小笠原喜康『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

日常的な報告や報告に対するコメント等の評価が80%で、最終報告および進級レポートを20%として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の議論が成立するように授業を構成したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、windows パソコン（学生への貸与の制度もあります）

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で高校教科書を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn Japanese history research. The goal of this course is to develop evidence-based discussions, learn academic writing, and understand research history. Before/after each class meeting student will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(80%), term-end examination(20%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
J A Y M T A N A K A
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7156」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of the seminar is to improve students' critical thinking and English language skills through the analysis of social issues. In addition, students will gain skills and knowledge related to academic presentation, writing, and research methods.

【到達目標】

Students will analyze comments on social media to critically think about problems in society, utilizing their English and thinking skills to carry out and document the research process.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Students will learn about the theories and principles of critical thinking, and basic concepts common in social issues. This knowledge will be used for researching comments on social media. Feedback on course assignments will primarily be given through classroom discussions in-person and on Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Self introductions group discussions Reflection writing
2	Critical thinking principles	Reflection writing
3	Applied critical thinking	Data analysis Group discussions
4	Qualitative content analysis	Group discussions
5	Reflection on research process	Viewing sample presentations Reading sample paper
6	Project Topic 1 (decided in class)	Group discussions Data collection
7	Project Topic 1 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
8	Project Topic 1 (decided in class)	Group discussions Coding framework restructuring Dependability testing
9	Project Topic 1 (decided in class)	Presentations
10	Project Topic 2 (decided in class)	Group discussions Data collection
11	Project Topic 2 (decided in class)	Group discussions Data Analysis

10	Project Topic 2 (decided in class)	Presentations
11	Project Topic 3 (decided in class)	Group discussions Data collection
12	Project Topic 3 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
13	Project Topic 3 (decided in class)	Presentations
14	Review of methods	Group discussions Reflection writing
15	Individual/Group Project introduction	Group discussions Reflection writing
16	Review of Applied critical thinking	Student Presentations Workshops
17	Qualitative content analysis	Workshop Project
18	Workshop Project	Group discussions Slide writing
19	Workshop Project	Group discussions Presentation rehearsal
20	Project Topic 4 (decided in class)	Group discussions Data collection
21	Project Topic 4 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
22	Project Topic 4 (decided in class)	Presentations
23	Project Topic 5 (decided in class)	Group discussions Data collection
24	Project Topic 5 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
25	Project Topic 5 (decided in class)	Presentations
26	Project Topic 6 (decided in class)	Group discussions Data collection
27	Project Topic 6 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
28	Project Topic 6 (decided in class)	Presentations
29	Course Review	Group discussions Reflection writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly preparation and project work (2 hours).
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

All course materials will be given in class.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Project work, possible field trips, and presentations - 50%
Classwork/Homework assignments - 25%
Participation - 25%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer to every class (Chromebook or device with keyboard is also fine).

【Outline (in English)】

The purpose of the seminar is to improve students' critical thinking and English language skills through the analysis of social issues. In addition, students will gain skills and knowledge related to academic presentation, writing, and research methods.

Students will engage in data collection and preparation for presentations and reports given at academic events outside of class. There will also be opportunities for studying sustainable development goals at outside universities.

Grading will be determined by the quality of written assignments, academic presentation performance, and the level of engagement and participation in learning activities.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
松波 淳也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7158」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学についての基本的な知識を習得し、研究発表、卒業論文作成の準備を行う。

【到達目標】

環境経済学の基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法や研究発表の方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

対面講義で進める。主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストおよび研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する。フィードバックは、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ
第15回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究に基づき、研究テーマを確認する
第16回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第17回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第18回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第19回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第20回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第21回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第22回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第23回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第24回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第25回	先行研究の輪読⑩	先行研究（応用研究）の輪読
第26回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第27回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第28回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青木淳一・一ノ瀬大輔・小林宏充（2024）：『環境学入門—法学・経済学・自然科学から学ぶ』、慶應義塾大学出版会。

【参考書】

時政島・藪田雅弘・今泉博国・有吉範敏、『環境と資源の経済学』、勁草書房、2007年

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Acquire basic knowledge about environmental economics and prepare for research presentations and graduation thesis writing. Foster awareness of problems and acquire analytical techniques through reading and reporting on basic literature on environmental economics. Students will also learn how to search for papers, how to write papers, and how to present research.Face-to-face lectures (hybrid). Mainly practice method. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In order to acquire basic knowledge related to the research theme, read standard texts and representative research papers on the research theme. Feedback will be given online via Zoom, email, etc. Write a resume on the problem awareness, analytical methods, and results (discoveries and implications) of standard texts and basic literature. Create a research note about your own problem awareness and analysis method. Normal score 100%. Comprehensive evaluation of presentation and its preparation, term paper (if required) (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, own awareness of problems and appropriateness of analytical methods). The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
宮崎 憲治
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7159」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミの目的は、学生が経済学を用いて日常生活を説明し、社会人基礎力を身に付け、自分の適性にあった仕事をみつけられるようになることである。

【到達目標】

企業が要求する基礎能力（読み・書き・プレゼン等）を向上させるだけでなく、就職活動中の面接で、経済学部生として経済学をしっかり勉強したと自信をもっていえるように訓育したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

そのために、経済学部生の学生がゼミナール活動で経済学の基本知識を獲得し、グループワークを通じてプレゼン能力、文章表現能力、ディベート能力を向上させるよう指導したい。具体的に、経済学の教科書もちいて「学生」が順番に講義する。今年度、マクロ経済学の教科書を用いる。また、各グループが興味を持った課題について講義する。今年は、論文の書き方、コミュニケーション能力、疑似科学などである。文章力向上のため、2年生は個人のテーマについて進級論文を、3年生はグループ論文を、4年生は卒業論文を執筆する。他にも、2、3年生は、インゼミ大会ディベート部門およびプレゼンテーション部門に出場する。就職活動対策として、4年生が3年生に対して模擬面接を実施する。更に春休みと夏休みにゼミ合宿を実施する。フィードバックとして前期2回、後期2回の理解度テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ディベート技術	ディベート技術について講義する
第2回	ミクロ経済学（1）	ミクロ経済学について講義する。 消費者の理論
第3回	ミクロ経済学（2）	ミクロ経済学について講義する。 企業の理論
第4回	ミクロ経済学（3）	ミクロ経済学について講義する。 部分均衡理論
第5回	ミクロ経済学（4）	ミクロ経済学について講義する。 一般均衡理論
第6回	ミクロ経済学（5）	ミクロ経済学について講義する。 情報の非対称性
第7回	ミクロ経済学（6）	ミクロ経済学について講義する。 ゲーム理論
第8回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第9回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第10回	コミュニケーション能力（1）	コミュニケーション能力について講義する。話し方
第11回	コミュニケーション能力（2）	コミュニケーション能力について講義する。聞き方

第12回	グループ論文中間報告（1）	3年生の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第13回	グループ論文中間報告（2）	3年生の次の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第14回	グループ論文中間報告（3）	3年生の最後の3分の1がグループ論文の中間報告をする
第15回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をする
第16回	進級論文中間報告（1）	2年生の3分の1が進級論文の中間報告をする
第17回	進級論文中間報告（2）	次の2年生の3分の1が進級論文の中間報告をする。
第18回	進級論文中間報告（3）	最後の2年生が進級論文の中間報告をする
第19回	マクロ経済学（1）	マクロ経済学について講義する。 消費関数
第20回	マクロ経済学（2）	マクロ経済学について講義する。 投資関数
第21回	マクロ経済学（3）	マクロ経済学について講義する。 45度分析
第22回	マクロ経済学（4）	マクロ経済学について講義する。 ISLM分析
第23回	マクロ経済学（5）	マクロ経済学について講義する。 ADAS分析
第24回	マクロ経済学（6）	マクロ経済学について講義する。 成長理論
第25回	就職活動セミナー	OBOGを招いてセミナーを開く
第26回	インゼミ大会準備（1）	インゼミ大会に備えディベートの準備をする
第27回	インゼミ大会準備（2）	インゼミ大会に備え3年生の3分の1がプレゼンの準備をする
第28回	インゼミ大会準備（3）	インゼミ大会に備え3年生の次の3分の1がプレゼンの準備をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ生を3つのグループに分けて互いに競わせる。最も成績がよいグループをS評価に、次のグループをA評価に、最後のグループをB評価にする。ゼミ活動を総合的に評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this seminar is to enable students to use economics to explain their daily lives, to acquire basic social skills, and to find a job that suits their aptitude. (Learning Objectives)

In addition to improving the basic skills required by companies (reading, writing, presentation, etc.), this seminar wants to train students to be able to say with confidence that they have studied economics well as economics students during job interviews.

(Learning activities outside of classroom)

Read the textbook in advance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Divide the seminar students into three groups and have them compete against each other. The group with the highest grade will receive an S grade, the next group will receive an A grade, and the last group will receive a B grade. Overall evaluation of the seminar activities (100%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
石 碩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7160」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の歴史・社会・文化・文学について幅広く学び、各自が関心を持ったテーマについて調査・発表を行う。

【到達目標】

以下の2点を到達目標とする。

- ①中国の歴史・社会・文化・文学について基礎的な知識を身につけること
- ②自身の関心のある事柄をテーマとした上で、日本語もしくは中国語の文献を調査し、小論文の作成および口頭での発表ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は主として課題や図書を決めようとしてグループごとにプレゼンを行う。これと並行して自身で選択したテーマについての小論文の作成を進める（夏休み中に仕上げて秋学期の初回授業までに提出）。秋学期は主として受講者が決めたテーマによる研究発表を行う。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	面談	・履修希望者との面談
第2回	ガイダンス	・春学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第3回	文献の調べ方 レジュメの作り方	・文献の調べ方について ・レジュメの作り方について
第4回	テキストの輪読・発表①	・輪読 ・研究発表
第5回	テキストの輪読・発表②	・輪読 ・研究発表
第6回	テキストの輪読・発表③	・輪読 ・研究発表
第7回	テキストの輪読・発表④	・輪読 ・研究発表
第8回	テキストの輪読・発表⑤	・輪読 ・研究発表
第9回	テキストの輪読・発表⑥	・輪読 ・研究発表
第10回	テキストの輪読・発表⑦	・輪読 ・研究発表
第11回	テキストの輪読・発表⑧	・輪読 ・研究発表
第12回	小論文の書き方①	・小論文の書き方について ・小論文の添削
第13回	小論文の書き方②	・小論文の書き方について ・小論文の添削

第14回	春学期のまとめ	・春学期のまとめ ・夏課題について
第15回	ガイダンス	・秋学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第16回	夏課題の合評①	・夏課題の合評を行う
第17回	夏課題の合評②	・夏課題の合評を行う
第18回	研究テーマを決める①	・発表のテーマを決める
第19回	研究テーマを決める②	・発表のテーマを決める
第20回	研究発表①	・研究発表を行う
第21回	研究発表②	・研究発表を行う
第22回	研究発表③	・研究発表を行う
第23回	研究発表④	・研究発表を行う
第24回	研究発表⑤	・研究発表を行う
第25回	研究発表⑥	・研究発表を行う
第26回	研究発表⑦	・研究発表を行う
第27回	研究発表⑧	・研究発表を行う
第28回	秋学期のまとめ	・春学期のまとめ ・来年度のテーマについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、テキストを精読し、分からない語句などについて調べる。担当者は発表の準備（レジュメ・PPTなど）をして来る。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間、合計8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

湯浅邦弘『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房

【参考書】

教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題・発表：60%（プレゼン・論文の完成度および質疑応答への対応、指摘された内容の修正状況などを総合的に評価）
平常点：40%（ゼミ生の発表に対する質疑応答、討論などへの参加度などを総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】

学年を越えたグループワークと個人発表をバランスよく行いたい。

【その他の重要事項】

本演習とあわせて、中国語・中国文化関連科目を履修することが望ましい。
ただし、中国語の履修経験は必須ではない。

【Outline (in English)】

Students will study a wide range of Chinese history, society, culture, and literature, and will research and present on topics of their own interest. The objectives of the course are (1) to acquire basic knowledge of Chinese history, society, culture, and literature, and (2) to be able to research, write an essay, and give an oral presentation on a topic of interest to each student. Preparation and review time before and after class will be approximately 4 hours each. Evaluation will be based on 60% for assignments and presentations, and 40% for regular marks.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
富永 靖敬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7164」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、政治学方法論、また実証的な国際関係論（主に安全保障に関するテーマ）を体系的に学ぶことを通し、国際関係論に関する独自の学術研究を完成させることを目的とする。春学期には基本文献、海外ジャーナルを中心に輪読を行い、秋学期の前半では各自で選択したテーマについての先行研究の調査（発表）、また後半では個々の研究成果の発表を行う。

【到達目標】

単に興味のあるテーマについて調査した内容を発表するのではなく、政治的な現象についてパズルを見つけ、独自の仮説を立てた上で、質的・量的データを用いて実証する過程を通して、論理的かつ説得的に議論を展開できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講者各自（またはグループ）の発表を中心に授業を進める。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。また4年次で履修する学生には、卒業論文作成のため、個別指導を中心にを行い、さらに、授業内で発表の機会を複数回設けることにより他学生・教員からのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
2	基本文献の輪読（1）	報告と議論
3	基本文献の輪読（2）	報告と議論
4	基本文献の輪読（3）	報告と議論
5	基本文献の輪読（4）	報告と議論
6	基本文献の輪読（5）	報告と議論
7	基本文献の輪読（6）	報告と議論
8	研究論文の輪読とテーマの選定（1）	報告と議論
9	研究論文の輪読とテーマの選定（2）	報告と議論
10	研究論文の輪読とテーマの選定（3）	報告と議論
11	研究論文の輪読とテーマの選定（4）	報告と議論
12	研究論文の輪読とテーマの選定（5）	報告と議論
13	研究論文の輪読とテーマの選定（6）	報告と議論
14	研究論文の輪読とテーマの選定（7）	報告と議論
15	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
16	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。

17	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
18	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
19	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
20	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
21	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
22	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
23	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
24	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
25	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
26	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
27	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
28	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文の作成は長時間の作業が必要となるため、授業外の時間を有意義に使うことを期待する。本授業の準備学習・復習時間は、8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。
G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ（真淵勝監訳）『社会科学のリサーチ・デザイン 定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004年。
Friden, Jeffrey A., Lake, David A., and Schultz, Kenneth A. 2016. World Politics: Interests, Interactions, Institutions, Third Edition, New York: W.W.Norton & Company.

【成績評価の方法と基準】

輪読発表や各個人の研究発表など授業内での発表を60%、最終レポートを40%として成績評価を行う。4年生は100%卒業論文にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生主導でゼミ運営を行う。

【その他の重要事項】

発表しない者でも、担当者の発表に対して積極的にコメントして議論すること。ただし、問題点を指摘する場合には、改善方法も提示するなど、建設的な議論になるよう心懸けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course is an intensive workshop that aims to provide students with a solid understanding of the study of international relations with a particular focus on international security issues. Distinct from a lecture-based course, this class requires students to actively engage in collaborative work, discussion, and presentation.

【Learning Objectives】

Through detailing the cases, students are expected to learn why and how a particular political phenomenon occurs and to bring that knowledge to create generalized arguments. During the course, students also learn how to test those arguments through data analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be roughly eight hours for a class

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- ・ In-class presentation and contribution: 60%
- ・ Term-end report: 40%

(For a forth-year student, a grade will be decided based on a term-end report (100%))

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
湯前 祥二
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7166」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目標は次の2つです。(1)生活の道具として、金融工学を修めること。(2)研究および論文作成の手法を身につけること。いずれも、実社会での活動に直結しています。

【到達目標】

金融工学について理解し、実際の金融商品の価値を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

金融工学は実際の学問です。(a)こみいった金融商品に値段をつけたり、(b)リスクを管理したり、(c)最も良い投資配分を考えたりします。最近個人向けに、一見、魅力的な金融商品が多く登場していますが、金融工学の知識があれば、その中身を冷静に調べて、よしあしを判断することができます。

一方、論理的に考え、レポートにまとめ、人を納得させる技術は、実社会の企画書、報告書の作成、およびプレゼンテーションといった場面で必須です。

輪読、研究発表、討論、問題演習、実地見学を行います。ただし、参加者の意見を反映させます。

並行して、年度を通して、新聞記事を使って時事問題を討論します。この他、参加者の意見を聞いて、モンテカルロ法実習（プログラミング）等を取り扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	輪読①	金融工学の基礎を身につけます。
第2回	輪読②	金融工学の基礎を身につけます。
第3回	輪読③	金融工学の基礎を身につけます。
第4回	輪読④	金融工学の基礎を身につけます。
第5回	輪読⑤	金融工学の基礎を身につけます。
第6回	輪読⑥	金融工学の基礎を身につけます。
第7回	輪読⑦	金融工学の基礎を身につけます。
第8回	輪読⑧	金融工学の基礎を身につけます。
第9回	輪読⑨	金融工学の基礎を身につけます。
第10回	輪読⑩	金融工学の基礎を身につけます。
第11回	輪読⑪	金融工学の基礎を身につけます。
第12回	輪読⑫	金融工学の基礎を身につけます。
第13回	輪読⑬	金融工学の基礎を身につけます。
第14回	輪読⑭	金融工学の基礎を身につけます。
第15回	輪読、研究発表、問題演習①	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第16回	輪読、研究発表、問題演習②	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第17回	輪読、研究発表、問題演習③	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第18回	輪読、研究発表、問題演習④	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第19回	輪読、研究発表、問題演習⑤	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第20回	輪読、研究発表、問題演習⑥	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第21回	輪読、研究発表、問題演習⑦	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第22回	輪読、研究発表、問題演習⑧	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第23回	輪読、研究発表、問題演習⑨	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第24回	輪読、研究発表、問題演習⑩	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第25回	輪読、研究発表、問題演習⑪	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第26回	輪読、研究発表、問題演習⑫	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第27回	輪読、研究発表、問題演習⑬	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第28回	輪読、研究発表、問題演習⑭	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読では、発表担当者はもちろん、受講者全員が発表部分を熟読し、内容を理解しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。数式の展開も、実際に自分で手を動かして確認してください。発表担当者は、未解決の疑問点を残さないようにしてください。発表担当者以外は、質問を簡潔にまとめておいてください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金子誠一、佐井りさ (2012), 証券アナリストのための数学再入門、とくま総合サービス。

【参考書】

藤林宏、矢野学、角谷大輔、袖山則宏 (2009), EXCELで学ぶファイナンス (2) 証券投資分析 第3版, 金融財政事情研究会。
デービッド・G・ルーエンバーガー (2015), 金融工学入門第2版, 日本経済新聞社。

【成績評価の方法と基準】

(1)論文およびレポート25%, (2)発表25%, (3)討論への参加状況25%, (4)運営・活動への参加状況25%, により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with specific issues concerning asset management and risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports: 25%,
Presentation: 25%,
Discussion: 25%,
in class contribution: 25%.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
飯塚 陽介、YONGUE JULIA SALLE
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7167」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this seminar is for students to learn about Japanese business and society. In the process, they will also improve their academic and practical workplace skills by preparing and making an academic presentation at the competition hosted by the faculty of economics (経済学部大会) as well as by interviewing corporate or government representatives.

【到達目標】

The goal of this seminar is for students to develop three types of skills: (1) critical thinking skills through in-class discussions of Japanese business and society, (2) academic skills through active learning in the form of empirical research projects, fieldwork, and presentations, and (3) leadership skills by directly engaging in seminar management. It is hoped that this seminar will stimulate students' intellectual curiosity and provide a space for them to build lasting friendships and new connections..

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

(1) To explore Japanese business and its impact on society through readings, discussions, and fieldwork.

(2) To complete a group research project and present the findings at the presentation competition hosted by the Faculty of Economics in December.

*Feedback will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	First semester introduction	Discussing the goals of the course and possible research topics
2	Introduction and academic skill building (1)	Learning how to prepare for this class; research/fieldwork topics discussion; videos
3	Academic skill building (2)	What is research? Learning about different types of sources; activity to build critical thinking skills; videos
4	Academic skill building (3); Library tour	Selecting a research topic; using library resources and databases; videos and discussion

5	Academic skill building (4)	Making effective use of statistical information in presentations; lecture and discussion on why we should study Japanese business history
6	Academic skill building (5); theme-focused, student-led discussion	Learning about research methodologies and approaches
7	Academic skill building (6); theme-focused, student-led discussion	Research, data analysis, and dissemination
8	Academic skill building (7); theme-focused, student-led discussion	Organizing your presentation; parts of an academic presentation; making an outline
9	Academic skill building (8); theme-focused, student-led discussion	Building non-verbal communication skills; bibliography and conclusion are due
10	Academic skill building (9); theme-focused, student-led discussion	Preparing for joint presentation event (tentative)
11	Academic skill building (10); theme-focused, student-led discussion	Preparing presentation and peer review
12	Joint presentation event	Responding to and giving feedback; group discussion
13	Final preparations	Incorporating feedback; student-led activity and group discussion
14	Wrap up and review	Submission of final assignments (slides and genko first draft); final discussion
15	Second semester introduction	Introduction; discussion of findings of summer fieldwork activities
16	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 1)	Reading and discussion; Student-led activity (presentations and peer review)
17	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 2)	Reading and discussion; Student-led activity (presentations and peer review); submit second genko draft (1)
18	Debate preparation	Student-led activity (preparing for class debate on a topic related to Japanese business and society)
19	Debate	Class debate on a topic related to Japanese business and society
20	Japanese business and society(case study 3)	Reading and discussion; selecting criteria for new seminar student selection
21	New seminar student selection	Seminar student selection

22	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; students submit revised presentation genko draft due; writing resume for pamphlet	Grades will be based on (1) participation, (fieldwork outside of class and presentation preparation in the classroom), (2) attitude (including being prepared for class), teamwork, seminar management, etc. (50%), and (3) taking part in the presentation competition (50%).
23	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; PPT and resume finalization; feedback on presentation genko	
24	Finalizing presentations, peer review	Student presentation practice; student-led activity; practicing non-verbal presentation skills	
25	Final preparation for 経済学部大会	Student presentation practice; peer review	
26	Preparing for final class; converting presentations into mini movies	反省会; wrap up; movie making for new seminar students	
27	Welcome party for new seminar students	Introducing the seminar: student presentations, mini movies, Q&A, etc.	
28	Final evaluations; wrap up	Submission of final assignments and completed feedback forms	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（フィールドワークの準備を含め）本授業の準備学習・復習時間は、各 24 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) Pierre-Yves Donzé and Julia S. Yongue, Japanese capitalism and entrepreneurship: a history of business from the Tokugawa era to the present, Oxford University Press, 2024.

(2) 企業家に学ぶ日本経営史、テーマとケースでとらえよう、宇田川勝・生島淳（編）、有斐閣ブックス、2001.

(3) 戦後日本の企業家活動、法政大学インベーション・マネジメント研究センター、宇田川勝（編）、文真堂、2004

(4) アカデミック・スキルズ、大学生のための指摘技術技法入門、慶應義塾大学出版会、2006

(5) アカデミック・スキルズ、データ収集・分析入門社会を効果的に読み解く技法、慶應義塾大学出版会、2013

【参考書】

Additional references will be provided via the course website and/or library databases.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on (1) participation in classroom activities, such as fieldwork and presentation preparation, (2) attitude (including being prepared for class), teamwork, seminar management, etc. (50%), and (3) taking part in the presentation competition (50%).

*All students are required to make a group presentation at the competition in December in order to pass this course. They must also organize and conduct fieldwork and submit their course feedback survey and PPT on the last day of class.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback is ALWAYS welcome! I try my best to incorporate your suggestions and am committed to improving this seminar.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a PC to class.

【Outline (in English)】

Learning objectives: (1) to study about Japanese enterprises and their impact on the Japanese economy and society; (2) to improve academic and workplace skills through various learning activities, namely by preparing and making an academic presentation.

Learning activities outside of class: Students are expected to do their reading assignments, prepare their presentations, and conduct group fieldwork.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
飯田 麻紗子、山田 快
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7168」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツやそれに関連する事象に焦点を当て、心理学の観点からその多様な意味や役割、可能性などについて調べ・学び・考えていきます。

【到達目標】

主体的な取り組みを基礎に、スポーツに関わる諸問題を取り上げ、それについて調べ、理解し、考えることを経て、自分なりの見解（スポーツ観）を導き出していきます。また、自らの見解を発信して他者とディスカッションすることで、スポーツを人生や社会に活かすための知識と姿勢を学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

グループ／個人で研究テーマを設定し、そのことについて調べ、まとめていきます。まとめた内容を発表し、メンバーとディスカッションすることを通して、研究テーマに対する理解を深めていきます。また、オフィス・アワーで課題への取り組みに対するフィードバックを行ったり、良例を積極的に授業内で取り上げることで、議論や理解を深めることに役立てます。最終的に、以上の取り組みから得た知見を論文化し、総括します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、役割を分担する	年度の活動計画を確認し、役割を決定する。
2	スポーツ心理学を知る	研究動向をはじめ、スポーツ心理学の基礎を学ぶ。
3	研究テーマを洗い出す①	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
4	研究テーマを洗い出す②	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
5	研究テーマを決定する	多様なキーワードから共通点を見出し、研究テーマを設定する。
6	先行研究を概観し、発表する①	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
7	先行研究を概観し、発表する②	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
8	先行研究を概観し、発表する③	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
9	研究計画を立てる①	研究計画を立案し、検討を重ねる。
10	研究計画を立てる②	研究計画を立案し、検討を重ねる。
11	研究計画を発表し、再考する①	研究計画を資料にまとめて発表し、意見交換を行う。
12	研究計画を発表し、再考する②	研究計画を資料にまとめて発表し、意見交換を行う。
13	調査方法を学ぶ①	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。
14	調査方法を学ぶ②	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。
15	調査データを分析する①	収集したデータの分析方法を学び、実践する。
16	調査データを分析する②	収集したデータの分析方法を学び、実践する。
17	分析結果を考察する①	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
18	分析結果を考察する②	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
19	分析結果を考察する③	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
20	研究論文を執筆する①	一連の研究活動を論文にまとめる。
21	研究論文を執筆する②	一連の研究活動を論文にまとめる。
22	研究論文を執筆する③	一連の研究活動を論文にまとめる。
23	研究論文を執筆する④	一連の研究活動を論文にまとめる。

24	研究成果を発表する①	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
25	研究成果を発表する②	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
26	研究成果を発表する③	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
27	研究成果を発表する④	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
28	年度の活動を総括する	年度の活動を振り返り、次年度に活かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からスポーツに興味と関心をもってテレビや雑誌、インターネットなどの多様な情報媒体を活用しながら、知識の収集と修得に努めてください。また、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう、計画的に資料の準備を進めてください（1回の授業につき、8時間を標準として、準備・復習に取り組むこと）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて、資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提に、授業への参画状況（50％）を主な基準とし、そこに発表（30％）と進級・卒業論文（20％）の出来を加えて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ活動の醍醐味である他者とのディスカッションをより活発にするため、チームビルディングなどを活用して、良好なメンバー同士の関係性と雰囲気、体制づくりに努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCやAV機器などの準備をお願いします。

【その他の重要事項】

学生自身が主体的に授業を運営していくことがゼミの本分です。受身ではなく、積極的な姿勢で学習活動に励んでください。

【オフィス・アワー】

授業前後に随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course focuses on researching sport or health from the perspective of psychology.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is to deepen student's insights through discussions with another students.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on participation activeness (50%), presentations (30%), and the quality of thesis (20%) in the lab.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
梅津 亮子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7170」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、管理会計の専門知識およびマネジメント手法を習得することを目的とします。管理会計を学習する前提として経営学全般の知識も必要となりますので、まずは組織の仕組みや組織のマネジメントに関する基礎知識を吸収してもらいます。その上で、原価計算や管理会計の上級の学習内容を積み上げていきます。

【到達目標】

1.管理会計の専門的な知識を習得し、様々な経営課題に対してそれらの知識を応用展開することができる、2.進級論文や卒業論文の作成を通じて、論理的な思考力、表現力、発想力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本演習では、管理会計、原価計算および経営学の領域について年間数冊のテキストを読みこんでいきます。テキストの担当箇所について各自レジュメを作成して、報告してもらいます。テキストの輪読・報告・議論を通じて、各自、卒業論文として取り組みたいテーマを見つけてください。レポート課題等については、演習の中で講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	年間計画の説明
第2回	基礎知識の習得1	テキスト1 担当箇所の割り当て、輪読と解説、議論
第3回	基礎知識の習得2	輪読と解説、議論
第4回	基礎知識の習得3	輪読と解説、議論
第5回	基礎知識の習得4	輪読と解説、議論
第6回	基礎知識の習得5	輪読と解説、議論
第7回	資料検索・収集	資料検索、データベースの利用
第8回	原価計算の基礎1	テキスト2 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第9回	原価計算の基礎2	レジュメ作成・報告・議論
第10回	原価計算の基礎3	レジュメ作成・報告・議論
第11回	原価計算の基礎4	レジュメ作成・報告・議論
第12回	研究計画書の作成	研究テーマの設定、研究計画書の作成・報告
第13回	ゼミ合宿1	テキスト3 合宿の準備・実施
第14回	ゼミ合宿2	テキスト4 合宿の準備・実施
第15回	夏休みの研究報告1	レポートの提出と報告1
第16回	夏休みの研究報告2	レポートの提出と報告2
第17回	管理会計入門1	テキスト5 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第18回	管理会計入門2	レジュメ作成・報告・議論
第19回	管理会計入門3	レジュメ作成・報告・議論
第20回	管理会計入門4	レジュメ作成・報告・議論
第21回	管理会計入門5	レジュメ作成・報告・議論
第22回	中間報告会	進級論文の中間報告、卒業論文の中間報告
第23回	管理会計応用1	テキスト6 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第24回	管理会計応用2	レジュメ作成・報告・議論
第25回	管理会計応用3	レジュメ作成・報告・議論
第26回	管理会計応用4	レジュメ作成・報告・議論
第27回	管理会計応用5	レジュメ作成・報告・議論
第28回	論文報告会	進級論文の報告、卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめテキストを読んでくること。専門用語などは調べておくこと。本演習の準備・復習時間は8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習への貢献度40％、レポート30％、報告内容30％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to discuss the strategic issues in management accounting.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire specialized knowledge in management accounting and write graduation theses.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Grading will be decided based on in-class contribution:40%,reports:30%,presentation:30%.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
杉本 龍勇
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7171」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの経済的役割およびスポーツビジネスの状況を把握し、スポーツの経済効果やマーケティング戦略について専門的に理解する。

【到達目標】

多くの事例を題材にし、スポーツの多様な経済効果とスポーツビジネスの構造および現状について理解する。そしてスポーツの経済効果を高める考え方や方法について具体的に述べられるようにすること、またスポーツ商品に対する戦略的なマーケティング思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代社会におけるスポーツの環境、社会的役割、経済的役割に関する研究論文および資料を収集し研究を進める。そして研究に関するプレゼンテーションを行い、それらに対するディスカッションをする。またスポーツビジネスの現場見学などを行い、実践的な側面についても学ぶ。様々なスポーツの現状を理解した上で、スポーツの経済効果やスポーツビジネスについて検討・研究を進めていく。毎回の授業内で、レポートの添削やプレゼンテーションに対するアドバイスなどのフィードバックを行う。また授業以外でも、学習支援システム等を利用して、同様のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの進め方について説明
第2回	スポーツの社会的意義	テーマについての講義
第3回	政策としてのスポーツ1	テーマについての講義
第4回	政策としてのスポーツ2	プレゼンテーションおよび討論
第5回	財政負担軽減策としてのスポーツ1	テーマについての講義
第6回	財政負担軽減策としてのスポーツ2	プレゼンテーションおよび討論
第7回	財政負担軽減策としてのスポーツ3	プレゼンテーションおよび討論
第8回	スポーツ産業の構造1	テーマについての講義
第9回	スポーツ産業の構造2	プレゼンテーションおよび討論
第10回	スポーツ産業の構造3	プレゼンテーションおよび討論
第11回	スポーツにおける消費者行動1	テーマについての講義
第12回	スポーツにおける消費者行動2	プレゼンテーションおよび討論
第13回	スポーツにおける消費者行動3	プレゼンテーションおよび討論
第14回	スポーツにおける消費者行動4	プレゼンテーションおよび討論
第15回	スポーツイベントの経済効果1	テーマについての講義

第16回	スポーツイベントの経済効果2	プレゼンテーションおよび討論
第17回	スポーツイベントの経済効果3	プレゼンテーションおよび討論
第18回	スポーツイベントの経済効果4	プレゼンテーションおよび討論
第19回	CRSとしてのスポーツ1	テーマについての講義
第20回	CRSとしてのスポーツ2	プレゼンテーションおよび討論
第21回	スポンサーシップ1	テーマについての講義
第22回	スポンサーシップ2	プレゼンテーションおよび討論
第23回	スポンサーシップ3	プレゼンテーションおよび討論
第24回	プロスポーツの経営1	テーマについての講義
第25回	プロスポーツの経営2	プレゼンテーションおよび討論
第26回	プロスポーツの経営3	プレゼンテーションおよび討論
第27回	スポーツ種目のマーケティング1	テーマについての講義
第28回	スポーツ種目のマーケティング2	プレゼンテーションおよび討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ全般に関する資料および文献、研究論文を収集する。スポーツの経済効果に関する具体的な事例に関する資料および文献収集本授業の準備学習・復習時間は、各8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan

「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会

「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社

「スポーツマーケティング交換課程の経営」

スポーツマネジメント研究会 編訳「スポーツマネジメント」ボニー・L・パークハウス編著 大修館書店

「スポーツ・マーケティングの基礎」 B.G.ピッツ・D.K.ストットラー編著 白桃書房

「Sport in Consumer Culture」 John Horne 著 Palgrave macmillan

【成績評価の方法と基準】

平常点20%

レポートの内容40%

プレゼンテーションの内容40%

【学生の意見等からの気づき】

講義とプレゼンテーションのバランスを計りたい。また、研究のプレゼンテーションに対して活発なディスカッションを促すような工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPointやKeynoteなどのプレゼンテーションソフトを使用して発表してもらう。

病欠などにより、キャンパスへの登校に支障がある場合は、オンライン（ライブ形式）での授業参加も認める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Giving lecture about foundation of economic impact of sports and current sports marketing strategies and discussing in seminar member to understanding the structure of economic impact of sports and sports business.

【Learning Objectives】

The purpose is acquire knowledge about economic impact of sports and strategies of sports marketing to plan practical structure of economic impact of sports and marketing strategies for sports business and to suggest some measure for that.

【Learning activities outsides of classroom】

Ca.2 hours for collecting of research papers and Infos about economic impact and sports marketing, and discussion in own group.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on Quality of reports:40%, Quality of presentation:40% and level of involvement in seminar.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
飯野 厚
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7173」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を運用する力の向上、異文化間コミュニケーションの体験と学習。SDG sに関連する国内・国際社会の諸問題について調べ、発表し、解決策を提案し、議論する。

【到達目標】

異文化間コミュニケーションを専門的に理解し、英語力の研鑽に努めながら、英語を使用して国内外のさまざまなシーンで異文理解・国際協力が実践できる。

・英語でプレゼンテーション・ディスカッション・ディベートができる。

・英語を使った行動の実践（国内・国際ボランティア、インターンなど）

・CEFR B2レベル以上の英語力（TOEIC 2年終了時700点（B1）、3年800点（B2）、4年900点、TOEFL71点、英検準1級）

・進級レポート：自分の英語の対話分析、4年生は卒業論文必須。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

・2・3年

ゼミ時間：国内外の社会・政治・経済に関連する命題を用いたプレゼンテーション（グループ割当制）&ディスカッション&ディベート・サブゼミ・オンライン対話：ゼミ時の討論の仕上げとしてオンライン対話を通して外国に住む英語話者と論じ合う。半期10回以上・ポイント制英語自主学習（POINT System Self-access English Study[POSSES]：学習メニューから主体的に選んで英語の勉強を実行、毎月30ptとなる取り組み、記録を自己申告（年間270pt以上）（2月から12月の間）。

4年

ゼミと連続となるAcademic Research Seminarの時間に出席し卒論の執筆指導を行う。論文の作法講義と個別指導を受け、教員の認定を受けたうえで提出（1月第1週締切）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation, introduction of learning activities in the seminar	ゼミ進行・行事等説明（3年生によるプレゼン形式）2年自己紹介プレゼン self-intro 3年春休み学習体験プレゼン
2	English test, How to make a presentation, Preparing group presentations	Speaking test, グループプレゼンテーションスライドのつくり方（信頼のおける追加情報収集、データ提示）、グループ別準備
3	Topic 1 What are the advantages and disadvantages of social media?(Unit1)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work

4	Topic 2 What are the advantages and disadvantages of having women-only train cars? (Unit 2)	Presentation, Discussion and Role-play 4年卒論プロポーザル提出 research proposal
5	Topic 3 What are the advantages and disadvantages of eco-friendly activities? (Unit 3)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
6	Topic 4 What are the advantages and disadvantages of online games?(Unit 4)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
7	Preparing second round of presentation	Collecting data through surveys or interviews, summarizing
8	Topic 5 Is democracy the most desirable system of government? (Unit 5)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
9	Topic 6 Is legalizing casinos beneficial to Japan? (Unit 6)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
10	Topic 7 Does doing a part-time job during their high school years have a positive influence on students? (Unit 7)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
11	Topic 8 Do the advantages of globalization outweigh the disadvantages?(Unit 8)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
12	New grouping. Choosing a topic	Brainstorming, gathering factual/statistical info/findings from previous studies-> research questions
13	Planning research	Data collection procedure, summarizing data, potential findings
14	Presentation of research plans	RQ-> Method(具体的な情報収集計画) 発表
FALL 1	Individual Presentation of experiences in summer vacation	夏休み中の英語学習活動報告（個別プレゼン） プレゼンコンテストグループ討議（結果集計）
	Presentation contest group meeting	
FALL 2	English speaking Test, Creating presentation slides for Presentation Contest: ABCD Teams	Speaking Test, プレゼンコンテストスライド作成、打合せ
FALL 3	Topic 9 What are the advantages and disadvantages of AI? (Unit 9)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work

FALL 4	Topic 10 Which is better, big government or limited government?(Unit 11)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
FALL 5	Topic 11 How can we reduce homelessness? Is it their own responsibility or society's responsibility? (Unit12)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
FALL 6	Topic 12 Open borders or closed society? Should Japan accept more immigrants? (Unit14)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
FALL 7	Finalizing presentation contest slides and practice	Group work
FALL 8	Group A Presentation	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
FALL 9	Group B Presentation	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
FALL 10	Group C Presentation	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
FALL 11	Group D Presentation	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
FALL 12	Group ABCD presentation practice	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
FALL 13	Review of Interaction by transcribing Speaking Test	Examine the progress in speaking by reviewing videos. Speaking Test
FALL 14	Consolidating Point System of English Self-access Study[POSSES]	Individual interview

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・サブゼミのオンライン対話は授業と同じ扱いなので週1回（25分）必ず実施。
- ・ポイント制英語学習を計画的に進める。成果は法政Gメール連動のGドライブにアップロードし、現物を保存し教室のフォルダに保存もする。
- ・プレゼンテーション準備は必ず事前に打ち合わせと練習をすること。1週間前にスライド完成が原則。
- ・ゼミ合宿は原則として参加必須。また、ゼミの集まりや行事も原則必須
- ・本授業の準備学習・復習時間は、週8時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『Take a Stance-Discussing Today's Controversial Issues』
センテージ ラーニング ISBN 978-4-86312-333-5

【参考書】

『異文化間コミュニケーション入門』ちくま書房
『異文化コミュニケーション・トレーニング「異」と共に成長する』(三修社)

【成績評価の方法と基準】

- 1 プレゼンテーション（準備、スライド・発表の質）20%
- 2 授業前後の課題=スタンプ数（テキスト、ワークシート）10%
- 3 音読・シャドーイング録音・掲示板（未知語、英作文）20%
- 4 自主英語学習ポイント（月別学習記録）15%、
- 5 サブゼミ録画（授業回数分）10%
- 6 オンライン会話実施（授業回数分Interviewと総回数）15%

7 学年末振り返りレポート（合宿時プレゼン含む）10%
上記いずれにおいても取り組みが極端に少ない場合、要求された課題や提出物に不備・不達がある場合は単位認定しません。
評価C-で単位認定の場合は、翌年のゼミ履修は許可しません。

【学生の意見等からの気づき】

トピックはある程度教員が指定するが、学生が自ら設定できる余地を作る。義務となっているサブゼミは50分程度の時間を要するので、通常ゼミ授業を若干早めに終了する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・サブゼミは各自のパソコンで実施するため、オンラインソフトの設定も含め事前に準備する

【その他の重要事項】

- ・授業出席に関してはガイダンスで説明。
- ・提出物は100%実施が原則。
- ・4年生は卒論を書くことを前提にAcademic Research Seminarも履修すること。
- ・卒論はプロポーザル認定（5月）のあと、Hoppi課題を通して求められる部分を期日までに提出。春学期はIntroduction、Method、想定Resultsまでを完成。夏休み中にデータ収集、秋学期にResults、Discussion、Conclusion、Referencesを完成する
- ・卒論執筆の詳細ガイダンスは、飯野のAcademic Research SeminarA Bの履修を強く推奨する。

【Outline (in English)】

Students will enhance their communicative competence as they practice and learn about cross-cultural communication. They will also learn how to conduct research and how to practice presentation, discussion, and the proposal of solutions particularly on domestic and global social issues related to SDGs.

Learning Objectives

The course takers will become able to:

- ・practice cross-cultural communication with fluent English output proficiency as they enhance their proper attitudes to different cultures,
- ・give presentations and have active discussions and debates over domestic and international social issues related to SDGs,
- ・attend some projects of domestic and international volunteer activities and internships using English,
- ・attain the higher scores in TOEIC as they proceed the study,
- ・observe their English improvement and write a research paper in the final year (senior-year)

Activities outside of classroom:

The course takers must

- ・attend sub-seminar activities (outside the class hours) with other course takers in designated groups,
- ・be actively involved in point-system self-paced English learning, submitting the study records both in paper and PDF to Google Drive,
- ・prepare the assigned presentation slides in groups one week before the presentation date and receive feedback from the instructor, then practice presentation to raise the performance level,
- ・actively attend the designated events in the seminar,
- ・spend two hours for preparation and review of each class.

Minimum of 30 minutes learning is required every day (3 hours+/week)

Grading policy

Presentation (preparation, quality of slides and delivery) – 20%

Assignments before and after class =number of stamps (textbook reading, worksheets) – 10%

Submission of reading aloud/shadowing audio & discussion board posts (unknown words, English composition) – 20%

Independent English study points (monthly folders and study logs, total 270 points for the year) – 15%

Sub-seminar recordings (for each class session) – 10%

Online conversation sessions (total number including required interviews for each class session and voluntary sessions) – 15%

Year-end reflection report (including the presentation at the training camp) – 10%

If one's engagement in any of the above is extremely low, or if any of the required assignments or submissions is incomplete, the credits will not be given.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
進藤 理香子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7174」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ近現代史を学習するゼミである。政治・経済分野のみならず、文化・社会問題などに至るまで、参加者の関心にしたがって幅広くヨーロッパの歴史を探究することを目的とする。

【到達目標】

ヨーロッパ近現代史を政治・経済面からだけでなく、社会・生活・文化といった身近に共感できる領域からも考察できるようになることを目指す。とりわけ20世紀・21世紀の独裁体制、二度の世界大戦、冷戦、欧州統合、大衆消費社会、環境・エネルギー問題といった周知の重要なテーマについて、能動的に調べ自分の考えをまとめ、積極的に議論に参加し、他者の意見を踏まえて自身の仮説を論証していく力を養うことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

対面授業ならびに必要なに応じてオンライン授業(Zoom)を行う。授業進行の詳細に関しては学習支援システムを通じ連絡する。ゼミでは各回、資料・文献の輪読、グループ研究発表を中心に進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の導入	ゼミの概要、参加者の自己紹介、グループわけなど
2	19世紀末ヨーロッパ	講義、文献講読、議論
3	第一次世界大戦	講義、文献講読、議論
4	戦間期	講義、文献講読、議論
5	ナチ体制	講義、文献講読、議論
6	学外見学会	博物館や資料館訪問など学外見学会を実施。
7	第二次世界大戦	講義、文献講読、議論
8	ドイツの敗戦	講義、文献講読、議論
9	冷戦体制	講義、文献講読、議論
10	西ヨーロッパの統合	講義、文献講読、議論
11	ソ連・東欧社会主義圏	講義、文献講読、議論
12	現代ヨーロッパの諸問題①	講義、文献講読、議論
13	現代ヨーロッパの諸問題②	講義、文献講読、議論
14	まとめ	講義、文献講読、議論
15	秋学期の導入	秋学期の方針、グループ分け、報告順などについて決める
16	研究報告①	学生のプレゼン、全体での議論①
17	研究報告②	学生のプレゼン、全体での議論②
18	学外見学会	博物館や資料館訪問などの学外見学会を実施する。
19	研究報告③	学生のプレゼン、全体での議論③
20	研究報告④	学生のプレゼン、全体での議論④
21	研究報告⑤	学生のプレゼン、全体での議論⑤
22	研究報告⑥	学生のプレゼン、全体での議論⑥
23	研究報告⑦	学生のプレゼン、全体での議論⑦
24	卒論経過報告①	卒論執筆者による作業経過報告、指導、全体議論①
25	卒論経過報告②	卒論執筆者による作業経過報告、指導、全体議論②
26	講演会①	ゲスト講演者を招きヨーロッパに関する講演開催①
27	講演会②	ゲスト講演者を招きヨーロッパに関する講演開催②
28	秋学期のまとめ	卒業予定者の報告と全学年参加の懇談会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ヨーロッパ近現代史の関連文献を自分でさがし、また新聞等を通じ日頃から時事問題への関心を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間の合計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし。必要に応じて指示する。

【参考書】

指定なし。必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、期末レポート 30%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

コンピューター、ならびにインターネット接続。

【Outline (in English)】

In this seminar, we study European modern history in the 19th and 20th centuries. We will try to explore not only the economic and political developments, but also the cultural and the social movements in Europe. Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following performances: in-class contribution (70%) and a term-end report (30%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
菅 幹雄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7175」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計解析の基礎、RESAS、統計ダッシュボード、Tableau、KHCoder、R、jSTAT MAP、QGIS、産業連関分析を学び、これらの技法を実際の統計へ応用する。

【到達目標】

- ①統計データを用いて実証分析の手法をマスターすること。
- ②実際に統計データを用いて実証分析を行うこと。
- ③実証分析結果について研究発表できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期は統計解析の基礎、RESAS、統計ダッシュボード（国や民間企業等が提供している主要な統計データをグラフ等に加工して一覧表示し、視覚的に分かりやすく、簡単に利用できる形で提供するシステム）、Tableau（専門家でなくてもデータを加工・レポート作成・分析を行うことができるのがビジネス・インテリジェンス・ツール）、KHCoder（自然言語処理を使って解析を行い、テキストデータから利益につながる情報を抜き出すこと）を学び、それを応用した課題発表を行った上で、研究発表を行う。秋学期はR（統計解析に特化したプログラミング言語）、jSTAT MAP（統計地図）、QGIS（地理空間情報データの閲覧、編集、分析機能を有するクロスプラットフォームのオープンソースソフトウェア）、産業連関分析を学び、それを応用した課題発表を行った上で、研究発表および卒業論文発表を行う。

学生の発表についてコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【4時限目】ガイダンス／【5時限目】統計解析の基礎	ガイダンス／『データアナリティクス基礎』 第1章 データの構造化とデータマネジメント
2	【4時限目】統計解析の基礎／【5時限目】データ分析の手法	第2章 重点志向とバレット分析／RESASの使い方を学習する
3	課題発表①	RESASを応用した課題発表を行う
4	文献調査の方法	文献調査の方法を学習する
5	【4時限目】統計解析の基礎／【5時限目】データ分析の手法	第3章 データ項目間の関連性とクロス集計分析／統計ダッシュボードの使い方を学習する
6	課題発表②	統計ダッシュボードを応用した課題発表を行う
7	【4時限目】統計解析の基礎／【5時限目】データ分析の手法	第4章 分析構造の把握と基本統計／Tableauの使い方を学習する
8	課題発表③	Tableauを応用した課題発表を行う

9	【4時限目】統計解析の基礎／【5時限目】PC演習	第5章 相関・予測と回帰分析／Rを用いた多変量解析のやり方を学習する
10	課題発表④	Rを用いた多変量解析の課題発表を行う
11	研究発表の方法	研究発表の方法を学習する
12	研究発表①	研究発表（2年生）
13	研究発表②	研究発表（3年生）
14	研究発表③	研究発表（4年生）
15	【4時限目】ガイダンス／【5時限目】データ分析の手法	ガイダンス／Rの初歩
16	【4時限目】統計解析の基礎／【5時限目】データ分析の手法	第9章 テキストデータの分析／KHCoderの使い方
17	課題発表⑤	KHCoderを応用した課題発表を行う
18	【4時限目】統計解析の基礎／【5時限目】データ分析の手法	第6章 確率に基づく判断／jSTAT MAPの使い方を学習する
19	課題発表⑥	jSTAT MAPを応用した課題発表を行う
20	【4時限目】統計解析の基礎／【5時限目】データ分析の手法	第7章 統計的な推測／QGISの使い方を学習する
21	課題発表⑦	QGISを応用した課題発表を行う
22	【4時限目】統計解析の基礎／【5時限目】データ分析の手法	第8章 時系列データの分析／産業連関分析のやり方を学習する
23	課題発表⑧	観光の経済波及効果に関する課題発表を行う
24	論文の書き方	論文の書き方を学習する
25	研究発表④	研究発表（2年生）
26	研究発表⑤	研究発表（3年生）
27	研究発表⑥	研究発表（4年生）
28	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大橋 洸太郎 (著), 塩澤 友樹 (著), 渡辺 美智子 (著)『データアナリティクス基礎』日本能率協会マネジメントセンター、2,640円
清水隆介 (著), 前田周輝 (著), 三好淳一 (著)『Tableau データ分析～入門から実践まで～』秀和システム、5,390円
金 明哲 (著)『Rによるデータサイエンス』森北出版、3,960円
末吉美喜 (著)『テキストマイニング入門: Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500円（税別）

【参考書】

清水雅彦、菅幹雄『経済統計』培風館、3630円

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習で出された課題に取り組み、提出することにより平常点を付ける。。
成績配分は課題発表40%、研究発表60%、合計100%である。

【学生の意見等からの気づき】

発表の機会を増やしてほしいとの要望があったことから、発表の機会を充実させた。

【Outline (in English)】

(Course outline) Learn the fundamentals of statistical analysis, RESAS, statistical dashboards, Tableau, KHCoder, R, jSTAT MAP, QGIS, and input-output analysis, and apply these techniques to actual statistics.

(Learning Objectives) The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies) Students will receive regular points by working on and submitting the assignments given in each seminar.

Third and fourth year students will be graded on the basis of their research presentations given once in each of the spring and fall semesters, and second year students will be graded on the basis of their research presentations given once in the fall semester.

Grades are allocated as follows: 40% for the regular grade, 60% for the research presentation, and 100% for the total.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
高橋 秀朋
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7176」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファイナンス・証券投資という担当教員の専門分野を通じて、PC能力および文章表現能力の向上を目指し、大学卒業後にできるだけ実践可能な能力を身につけることにある。

【到達目標】

本演習の目的は、証券投資や資産運用に応用可能な基本的なフレームワークを身につけて、それを実践可能なレベルに到達することである。また、グループワークによる論文（レポート、ショートペーパー等）執筆活動やプレゼンを通じて、文章力・表現力を向上させることも主要な目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習は2年生は基本的な知識の習得をメインとし、3年生はすでに学習した内容を発展させることを目的とした学習を行う。具体的には、2年生はアカウントティング、ファイナンスの基本を習得し、3年生はリスク管理、コーポレートファイナンスに注目した、より実践的な演習を行う予定である。

演習履修者は通読するテキストを事前に精読し、教員の進行に従い、適時質問に答える必要がある。最初の1時間目は2年生が主となる基礎から入門レベルの学習、2時間目は3年生が主となる発展的知識の学習となる。そのため、3年生が利用するテキストは2年生が利用するテキストの上位互換となる。この他、2/3年生ともに月1回程度でグループワークでのプレゼンテーションが課される。

なお、卒業論文、レポート（外部への研究発表等）については、事前に提出の上、別途プレゼンテーションの機会を設けて講評、フィードバックを行うこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の授業実施方針の説明	春学期の演習の進め方についての説明、ファイナンスを学習する意義、担当の割り振りを行う
2	貨幣の時間価値	現在価値、将来価値
3	投資意思決定基準	正味現在価値、IRR
4	キャピタルパジェッティング	企業による投資意思決定
5	キャピタルパジェッティング応用	複雑なキャッシュフローを持つ投資案
6	グループワーク発表1	財務諸表分析
7	割引率の選択	割引率、成長率が企業価値に与える影響
8	企業価値評価	財務諸表から企業価値を計算する
9	グループワーク発表2	事例を用いて企業価値の計算
10	効率の市場仮説	3つのEMH、無裁定理論
11	債券、株式評価	企業のCF、配当から証券の価値を計算する

12	コーポレートファイナンスの基本	資本構成と企業価値
13	資本構成が企業価値に与える影響	税の影響、エージェンシー理論
14	配当政策	配当と自社株買い
15	秋学期の授業実施方針の説明	秋学期の演習の進め方についての説明、目的、担当の割り振りを行う
16	リスク	3つのEMH、無裁定理論
17	リスク分散化	ポートフォリオ理論
18	グループワーク発表3	株価の過大/過小評価の議論
19	CAPM	投資信託のパフォーマンスを評価する
20	CAPMの応用	CAPMで企業価値評価における割引率を求める
21	グループワーク発表4	日本の投資信託のデータを利用してファンドのアルファを計算する
22	グループワーク発表5	企業の資金調達手段に関するケーススタディ
23	オプションの基本	オプションのペイオフ
24	オプションの価格付け1	オプションの価格付け（二項モデル）
25	オプションの価格付け2	ブラックショールズモデル
26	シミュレーションベースのオプション評価	モンテカルロ法を用いたオプション評価、ポートフォリオインシュアランスなど
27	グループワーク発表6	オプション投資の有効性の検証
28	グループワーク最終	4年生の卒論報告など報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の目的は、学習した内容を実践できることが求められる。指定したテキストは事前精読、実践してくること（週4時間）。また、演習内で扱う範囲の理解だけでは十分とは言えず、指定テキストの章末問題を利用して自ら知識の拡充をはかることが求められる（週2時間）。また、より現実的な課題をグループワークを通してこなしてもらうことで、自分の知識の再確認を行ってもらう。それらの内容をまとめて提出するための時間も確保すること（平均して、週2時間）。

【テキスト（教科書）】

2年生: 手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011年）
3年生: 石野雄一『増補改訂版道具としてのファイナンス』（日本実業出版社、2022年）、Simon Benninga, Financial Modeling, 5th ed. (Oxford Univ Pr, 2022)

【参考書】

2年生: Simon Benninga and Tal Mofkadi, Principles of Finance with Excel, 3rd ed. (Oxford Univ Pr, 2017)
3年生: 藤崎達哉『実践デリバティブ: Excelでデータ分析』（オーム社、2019年）

【成績評価の方法と基準】

グループワークによるプレゼン内容の評価50%、平常点50%で評価する。なお、無断欠席を1回でもした場合、平常点として減点対象とする。また、無断欠席を2回した場合は評価が自動的に「不可」となる。欠席は理由を明記して、ゼミ当日の14時半までに担当教員にメールなどの直接連絡が取れる手段で連絡すること。第三者から伝達および不明瞭な理由による欠席は、どのような理由があろうとも無断欠席と同じ扱いになる。理由を明記した上での欠席でも平常点（減点）として評価に反映される。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークによるプレゼンを行う回と教員主導によるテキストの内容を理解する回に分けるという試みが学生から好評のため、今年度も継続する。昨年度はPythonの演習も取り入れたが、コーディングの理解で精一杯となってしまうため、excelも併用しながら演習を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

各自がPCを持参して、演習中もEXCELを利用できる環境下にあることが求められる。

【Outline (in English)】

This seminar-styled course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis and corporate finance using data and simulation-based analyses. This course also provides opportunities to improve writing and PC skills to achieve the goal that students can write short academic reports or papers based on their acquired skills. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare the course content. Students are also required to spend two hours for reviewing the content after each class and another two hours for solving some problems useful to deepen their understanding. Final grade will be calculated according to the following process: group work reports (50%) and in-class presentations and discussions (50%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
藤田 貢崇
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7177」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「科学ジャーナリズム」または科学に関連する諸課題に取り組み、自ら課題を見出し、課題を発表するためのスキルや表現手法を身につけます。各自の具体的なテーマや詳細は教員と相談して決定します。また、一般向けの科学解説記事の翻訳・執筆に取り組み、発表スキルの習得を行います。

【到達目標】

各自の設定した研究テーマについて、調査する手法、調査結果をまとめる方法を習得すること。また、自らの意見を明確にしながら、調査結果を発表する様々な手法（プレゼンテーション・文章による表現・音声による表現・映像による表現など）を習得すること。また、英語の文章を理解し、伝わりやすい日本語に翻訳できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員との連絡を密に持ちながら、自らの力で研究を遂行します。各自の研究スケジュールは研究テーマによって異なるが、出席（オンラインによる課題の提出）は必須となります。

具体的な演習内容は、①科学ジャーナリズムの時事的な話題、②ジャーナリズムとは何か、③人に伝えるための文章の書き方、④文章以外に表現する方法（音声・映像）についてなどです。受講生が自ら調べ、表現することができるように指導していきます。

課題や質問等に対するフィードバックは、その都度、あるいは次の回の授業時に全体に対して回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の概要を説明する
2	ジャーナリズムとは何か	ジャーナリズムの社会における必要性を考える
3	記事を書いてみようⅠ	ジャーナリストの表現手法の基本である文章術を学ぶ
4	記事を書いてみようⅡ	前回の内容をもとに、実際に執筆してみる
5	自らのテーマを見つける	各自が知りたいこと、調べたいことを明確にする
6	情報検索や調査の方法	図書館の情報検索サービスなどの利用方法を身につける
7	翻訳手法の習得Ⅰ	読み手を意識した翻訳手法を学ぶ
8	いろいろな表現手法	文章以外の、いろいろな表現手法があることを学ぶ
9	音声による表現Ⅰ	音声表現について概要を理解する
10	音声による表現Ⅱ	必要なソフトウェアを理解する
11	音声による表現Ⅲ	各自のテーマに沿って、音声表現のシナリオを作成する

12	音声による表現Ⅳ	各自のテーマに沿って作成したシナリオに基づいて、音声収録を行う
13	海外のジャーナリズム	海外の科学ジャーナリズムについて学ぶ
14	翻訳手法の習得Ⅱ	よりわかりやすい翻訳文を作成するための手法を学ぶ
15	中間発表	表現手法を含めて、各自の課題の進捗状況を報告する
16	夏課題の報告会	各自の課題の進捗状況を報告し、問題点を明らかにする
17	ジャーナリズムをより深く知る	ジャーナリズムに関する論文・書籍を輪読する
18	翻訳手法の習得Ⅲ	翻訳文と原文を詳細に比較し、より適切な訳文を作成する手法を身につける
19	表現手法の工夫	映像を活用した表現手法を知る
20	音声による表現Ⅴ	各自の制作した音声コンテンツに改善を施す
21	調査・研究活動Ⅰ	各自のテーマに沿って、調査・研究の表現手法について決定し、その制作計画を立てる
22	調査・研究活動Ⅱ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の特性を生かした内容になっているか、計画を再検討する
23	調査・研究活動Ⅲ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
24	翻訳手法の習得Ⅳ	完成した翻訳文の校正を行い、適切な訳文を作成する。
25	調査・研究活動Ⅳ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
26	調査・研究活動Ⅴ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
27	調査・研究活動Ⅵ	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
28	成果報告会	1年間の研究課題を報告する（2・3年生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原稿や訳文の作成に關して、時間外に作業を行うことが必要となる場合があります。本授業の準備学習および復習時間は、それぞれ4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1年間を通じて使用するテキストはありません。

【参考書】

『科学ジャーナリズムの手法』（化学同人）
他は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習で課される課題の提出状況（70％）、平常点（30％）として評価し、60%の得点率を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

個人で取り組む研究を充実させるように工夫します。

【その他の重要事項】

ジャーナリズムに関心を持ち、自ら情報発信をしてみたい学生の参加を望みます。偏った意見を取り上げるのではなく、公正・中立な立場で研究課題に取り組む姿勢が大切です。
止むを得ず演習に出席することができない場合には、必ず連絡すること。

【授業内の取り組み】

ジャーナリズムに大切なことは、多様な考え方です。演習では、事前に時事的な話題（例えば感染症政策、臓器移植、原子力問題など）を指定し、受講者それぞれの考え方を簡単に発表する場を設けます。

【Outline (in English)】

This course deals with the science journalism and science education. The goals of this course are to understand the importance of journalism. Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports of each class (70%) and the quality of the students' performance in class (30%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
篠原 隆介
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7178」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目的：ミクロ経済学・ゲーム理論を応用し、現代社会における諸問題や経済政策・制度の有効性に関して考察を行う。

概要：ミクロ経済学とゲーム理論を学習し分析活動の礎を築く。研究テーマを設定し、教科書から習得した知識に基づき研究活動を行う。研究成果の報告を、年2回(春学期末と年度末)行う。

【到達目標】

- (1) ミクロ経済学・ゲーム理論を問題演習などを通して理解すること。(2) 修得した学習内容を応用して、身近な問題に対する分析能力を養うこと。(3) 研究テーマを設定し、適切な分析ツールを用いて、研究活動を行うようにできること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

次の3段階のステップを踏む:①教科書に基づき理論の学習を行う。②その後、練習問題を解く。③そして、最終的には、ミクロ経済学・ゲーム理論を応用して研究活動を行う。課題等のフィードバック(課題の解答解説等)は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の運営方法について
2	研究成果報告会のテーマ報告-Part 1	学生による研究成果報告のテーマについて説明(主に3年次学生による報告)
3	研究成果報告会のテーマ報告-Part 2	学生による研究成果報告のテーマについて説明(主に2年次学生による報告)
4	報告と議論	報告と質疑応答1
5	報告と議論	報告と質疑応答2
6	報告と議論	報告と質疑応答3
7	報告と議論	報告と質疑応答4
8	報告と議論	報告と質疑応答5
9	報告と議論	報告と質疑応答6
10	報告と議論	報告と質疑応答7
11	報告と議論	報告と質疑応答8
12	報告と議論	報告と質疑応答9
13	研究成果中間報告会-Part 1	学生による中間報告(主に3年次学生による報告)
14	研究成果中間報告会-Part 2	学生による中間報告(主に2年次学生による報告)
15	秋学期のゼミに関するミーティング	秋学期のゼミ運営方法について＋夏学期の学習内容に関するおさらい
16	報告と議論	報告と質疑応答10
17	報告と議論	報告と質疑応答11
18	報告と議論	報告と質疑応答12
19	報告と議論	報告と質疑応答13
20	報告と議論	報告と質疑応答14
21	報告と議論	報告と質疑応答15
22	報告と議論	報告と質疑応答16

23	報告と議論	報告と質疑応答17
24	報告と議論	報告と質疑応答18
25	報告と議論	報告と質疑応答19
26	報告と議論	報告と質疑応答20
27	研究成果最終報告会-Part 1	学生による中間報告(主に3年次学生による報告)
28	研究成果最終報告会-Part 2	学生による中間報告(主に2年次学生による報告)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミ報告の準備、練習問題を解くことによる復習、春学期と秋学期に行われる研究報告のための準備。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【参考書】欄にあげた文献の中から、第1回ゼミにて決定する。

【参考書】

- ・浅古泰史他(2023)『活かすゲーム理論』有斐閣(ISBN: 978-4641200050)
- ・亀井憲樹(2024)『はじめての実験経済学』オーム社(ISBN: 978-4274232855)
- ・川越敏司(2020)『行動ゲーム理論入門第2版』NTT出版(ISBN: 978-4757123830)
- ・筒井義郎他(2017)『行動経済学入門』東洋経済新報社(ISBN: 978-4492314975)

【成績評価の方法と基準】

平常点(60%)とゼミでの報告・課題(40%)成績判定基準の詳細については、初回の講義で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理論を学習した後に、その理論を使って分析することができる現実例を紹介し、分り易く教えることを心がけます。

【その他の重要事項】

「ミクロ経済学AB」を未修のゼミ生は、履修することをお薦めします。より進んだ学習を望む場合には、「公共経済論AB」と「経済の数理AB」(ともに2025年度は篠原担当)の履修をお勧めします。

【Outline (in English)】

Students will study microeconomics and game theory and then apply them to analyze economic policies and institutions. This year, after learning the basics of microeconomics and game theory, we will consider several topics on public economics as examples of economic policies and institutions.

Each student will set a research theme, conduct research based on microeconomics and game theory, and report the results of their research once each in the spring and fall semesters. The most important goal is to understand microeconomics and game theory and then to acquire the ability to analyze problems in modern economic society. Students must prepare and review for this class for at least eight hours per week. Grading will be based on ordinary points (60%) and reports and assignments in the seminar (40%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
菅原 琢磨
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7179」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会政策、社会保障政策を中心に、さまざまな社会問題、社会現象とその対応をテーマとして幅広くあつかう。ゼミの後半では医療経済学や社会保障論の標準的テキストを輪読することで、経済学部生としてあるべき専門知識を併せて修得する。

【到達目標】

大きく以下の3点を柱とし、各々の能力の獲得を目標とする。

- ①多様な社会問題に関する自由な報告・議論を通じて、社会常識・一般教養の拡充と、プレゼン・コミュニケーション能力強化を図る社会人基礎力の鍛錬
- ②専門領域の基本テキスト輪読、報告による専門知識の習得と深化
- ③ゼミ論文作成による分析・処理能力、思考力の強化

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習は概ね2部構成とする。

- ①受講者が関心を持った時事問題、社会問題について報告（毎回数名、ランダムに指名）、教員のファシリテートのもと参加者全員で議論。採り上げられたトピックスをもとに実践的な問題解決思考の訓練をおこなう。
 - ②専門分野の標準的テキストを輪読、各回担当者（グループまたは個人）は内容を報告、質疑をおこなう。
- 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期オリエンテーション	演習の目的と内容、進め方、春学期計画について
第2回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト序章 「消費者の健康を支える市場と規制」
第3回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第1章 「健康に関する消費者の選択と制度」
第4回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第2章 「健康経済学を学ぶための基礎」
第5回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第3章 「経済学の実証分析：因果推論の基礎」
第6回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第4章 「健康に対する需要」
第7回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	インゼミ論文のテーマ選定
第8回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第5章 「保険とリスク」
第9回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第6章 「消費者の需要に対する政府の介入」
第10回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第7章 「健康サービス供給の特殊性」
第11回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第8章 「保健・医療専門職の労働市場」
第12回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第9章 「健康における製造業の役割：製薬・医療機器産業」
第13回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第10章 「介護に関わる民間企業と介護保険制度」

第14回	春学期のまとめ	インゼミ論文の中間報告 春学期総括、質疑応答
第15回	秋学期オリエンテーション	秋学期の演習内容、進め方について
第16回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	インゼミ論文の進捗報告
第17回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第11章 「政府の役割と診療報酬制度」
第18回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第12章 「保健・医療の経済評価」
第19回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	インゼミ論文の報告準備
第20回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第13章 「効率と公平」
第21回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第14章 「医療経済学」
第22回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第15章 「統計学」
第23回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第16章 「政治学」
第24回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第17章 「決断科学」
第25回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第18章 「医療経営学」
第26回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第19章 「医療倫理学」
第27回	時事問題、社会問題に関する報告・討論	テキスト第20章 「医療社会学」
第28回	秋学期のまとめ	秋学期総括、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回のパートとも報告者のみならず全員が事前に目を通し、疑問点を整理しておくこと。
- ・秋（11月）に他大学とのインターゼミナールを実施する予定である。
- ・各回の報告やゼミ論文作成のために、サブ（自主）ゼミが必要となることもある。
- ・夏期休暇（9月）、春期休暇（3月）中の合宿実施については、学生と相談のうえ決定する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・後藤励／井深陽子『健康経済学－市場と規制の間で』有斐閣、2020年。（学生と相談のうえ、他のテキストを採用することもある）

【参考書】

- ・津川友介『世界一わかりやすい「医療政策」の教科書』医学書院、2020年など、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に評価する。特に担当報告の出来（50%）、参加意欲（発言や質問）（35%）、円滑なゼミ運営への貢献（インゼミへの参加などを含む）（15%）を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各回に実施する「時事問題に関するディスカッション」に対する評価、ならびに他大学との合同研究報告会（インターゼミナール）の取り組みに関する評価が高いので、これらに対するゼミ内での取り組みを一層強化する。

【その他の重要事項】

演習の内容は受講生とも相談のうえ、適宜、変更する場合がある。演習に必要なテキスト等は各自、準備すること。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】This seminar deals with a wide range of topics such as major social issues. By the end of the course, students are expected to have basic knowledge of health economics and social security policy.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Final grade will be decided according to in-class presentation (50%) and other in-class contribution (50%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
松野 響
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7180」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の実験研究を自分自身で計画・実施し、実験心理学についてより深く学ぶ。これまでにこなされた心理学の実験研究についての情報収集をおこない、計画をたて、実際に実験をおこない、結果を解析・発表する、という一連の過程を体験することで、実験心理学の方法論を学習するとともに、たとえばささやかで小さなことであっても、世界でまだ誰も知らない新しい発見をすることを目指す。

【到達目標】

第一に、実習を通じて、文献の探索・読解能力、科学的・論理的な思考、心理実験をおこなうための基礎的な技法、データの解析法、プレゼンテーションの方法および論文（論理的な文章）の適切な書き方を身につけることを目指す。

第二に、新しい心理学の知見を自ら発見・検証するための方法論を身につけることで、人の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

個人の興味をもとにした研究テーマを中心に活動をおこなう。各自のテーマに関連する文献の発表とその議論を通じて実験方法や最新の心理学の知見について学ぶ。また、各自のテーマに沿った実験研究を自ら計画・実施し、論文としてまとめる。受講生の関心や余力によって、グループでの研究プロジェクトや課外での活動を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の進め方のガイダンス・発表スケジュールの決定・研究計画の立案
2	実験心理学の基礎・研究計画発表	実験研究および研究倫理についてのガイダンス・研究計画の発表
3	発表・分析実習(1)	文献発表、実験データ分析実習(データファイルの取り扱い)
4	発表・分析実習(2)	文献発表、実験データ分析実習(統計解析環境の導入)
5	発表・分析実習(3)	文献発表、実験データ分析(統計的仮説検定)
6	発表・実験実習(1)	文献発表、実験実習のテーマの確認
7	発表・実験実習(2)	文献発表、実験計画(関連研究の渉猟)
8	発表・実験実習(3)	文献発表、実験準備
9	発表・実験実習(4)	文献発表、実験準備と実験機器の設定
10	発表・実験実習(5)	文献発表、実験実施体験
11	発表・実験実習(6)	文献発表、実験データの集計
12	発表・実験実習(7)	文献発表、実験データの分析

13	研究発表	卒業研究の計画についての中間報告
14	春学期総論	春学期の研究総括・研究発表についての議論
15	秋学期研究計画	夏季の課題についての発表、秋学期の研究計画
16	発表・研究計画作成(1)	文献発表、個人研究計画の具体化
17	発表・研究計画作成(2)	文献発表、実験計画書の作成
18	発表・実験実施準備(1)	文献発表、実験準備の開始
19	発表・実験実施準備(2)	文献発表、実験準備
20	発表・実験実施準備(3)	文献発表、実験準備の完了
21	発表・予備実験	文献発表、実験実施(予備実験)
22	発表・実験実施(1)	文献発表、実験準備・実験実施
23	発表・実験実施(2)	文献発表、実験実施
24	発表・結果解析(1)	文献発表、実験結果の集計
25	発表・結果解析(2)	文献発表、研究結果の解析
26	研究結果発表準備	研究結果のまとめおよび研究発表準備
27	進級論文発表(1)	進級論文の研究報告および議論
28	進級論文発表(2)・卒業論文発表	進級論文・卒業論文の研究報告および議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とする。教員の助言にもとづき、自分自身の研究プロジェクトの計画及び実施、学術論文の精読と発表の準備、他のゼミ構成メンバーの研究プロジェクトへの実験参加をおこなう。

【テキスト（教科書）】

教員の作成したゼミテキストを配布する。また、個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【参考書】

個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【成績評価の方法と基準】

発表およびディスカッションへの寄与(30%)、自身の個人研究プロジェクトへの取り組みや他の研究プロジェクトへの実験・調査参加協力と課題の提出(30%)、進級論文・卒業論文の内容(40%)を目安に、総合的に評価する。やむを得ない理由で授業を欠席する際は、その証明書類を提出し、欠席を補うための取り組みと課題の提出を必須とする（インターンシップや部活動等を理由とする欠席は認めない）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

発表資料の共有、データ解析や実験実習のためにノートPCを使用する(無料の統計解析アプリケーションR・R Studioや実験用のアプリケーションが動作するWindows PCであること。ARM版Windows OS(Qualcomm Snapdragon CPU搭載機等)は動作しないアプリケーションがある可能性があるので注意。新規購入を考えている人は事前に慌てて準備する必要はない。授業時間中はゼミPCの貸し出しも可能なので応相談。OSの違いによって生じうる問題を自力で解決できる場合はMacも可とする)。詳細は第1回目の授業で説明する。学習支援システム、Google Classroom、Google Driveを用いて情報を共有する。

【その他の重要事項】

心理学の基礎的な知識を持つことを前提としてゼミを進めるため、心理学A/Bの授業の単位取得もしくは本年度の聴講を必須とする。授業計画や内容は、学習の進捗状況によって適宜調整する。

【Outline (in English)】

In this course, students learn the research methods used in experimental psychology by reading research papers, summarizing and presenting their findings, and discussing them with other students. Furthermore, students experience the importance and interest of psychological experiments by planning and conducting their own original experiments and writing research papers. Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content. The overall grade in the class will be decided based on the following. In-class presentations and discussions (30%), contribution and participation to their own and others' research projects (30%), term end research papers (40%).

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
田村 理香
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7182」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉が構築する世界に身を置き、読み調べ考え、自らの言葉で表現する

【到達目標】

- ・文章を正確に読み、内容を正しく理解する
- ・作品に誠実に向き合う
- ・感性や想像力を働かせ、人間の生や心の機微を深く考える。他人事にしない
- ・世界の情勢、文化や歴史に触れる
- ・考察したことを文章で的確に表現する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. 英文記事をもとにした英語でのプレゼンテーション・ディスカッション
2. 小説やノンフィクションの講読およびディスカッション
3. 4年生は卒論指導を個別に行う
[授業や課題等に対するフィードバック方法]
予習として提出するリアクションペーパーをもとに授業中にディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、評価の説明。
2	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション①	V. E. フランクル 『夜と霧』 (1)他
3	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション②	V. E. フランクル 『夜と霧』 (2)他
4	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション③	ハインリヒ・ベル 『ハインリヒ・ベル短篇集』 他
5	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション④	大岡昇平 『野火』 他
6	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑤	岡真理 『ガザとは何か』 (1)他

7	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑥	岡真理 『ガザとは何か』 (2)他
8	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑦	岡真理 『ガザとは何か』 (3)他
9	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑧	ガッサーン・カナファーニー 『ハイファに戻って；太陽の男たち』 (1)他
10	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑨	ガッサーン・カナファーニー 『ハイファに戻って；太陽の男たち』 (2)他
11	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑩	リファト・アル＝アルイール 『物語ることの反撃 パレスチナ・ガザ作品集』 他
12	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑪	John Le Carre, The Little Drummer Girl(1)他
13	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑫	John Le Carre, The Little Drummer Girl(2)他
14	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑬	John Le Carre, The Little Drummer Girl(3)他
15	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑭	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (1)他
16	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑮	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (2)他
17	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑯	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (3)他
18	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑰	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (4)他
19	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑱	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (5)他
20	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑲	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (6)他
21	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション⑳	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (7)他
22	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション㉑	Mark Twain, The adventures of Huckleberry Finn (8)他
23	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション㉒	Percival Everett, James (1)他

24	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション ²³	Percival Everett, James (2)他
25	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション ²⁴	Percival Everett, James (3)他
26	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション ²⁵	Percival Everett, James (4)他
27	英文記事講読・プレゼンテーション、文学書の講読・ディスカッション ²⁶	Percival Everett, James (5)他
28	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の予習として：

- 1) 英文記事講読の予習：1) Slash reading / chunk reading、2) 辞書を使い英文を理解、ネットを駆使して背景情報などを把握する、3) 不明点や疑問点を明確にしておく
 - 2) プレゼンテーションの準備：スピーカーはその準備。発表者以外はディスカッションする準備をし、意見や感想や疑問などを英語で書いたものを提出
 - 3) 文学作品を読み、考えたこと、授業で話したいことを毎回提出
- 毎回の授業の復習：授業中に取ったメモを確認し、理解しているかを確認し、興味を持った点をさらに調べたり考えたりする
本授業の準備学習・復習時間は10時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するほか、授業内で適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業での活動 60% （プレゼンテーション、提出物等を含む）
 2. 期末レポート 40%
- 4年生は卒業論文を成績評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

生成AIや翻訳ソフトは道具であり、主体は人間です。これらの道具に依存し考える能力を失っていく例を昨年度は複数目にしました。みなさんが廃人化するのを防ぎ新たなテクノロジーを的確に使えるよう、今年度は授業での活動をさらに重視します。
知的好奇心と想像力を高めていきましょう。テキストに対しても、人と対話をしてその人を理解するように向かい合い対話をしながら理解していきましょう。無関心から脱すれば自分の人生の質が高まるだけでなく社会全体の活性化にもつながります。情けは人の為ならず。

【その他の重要事項】

1. 参加者はかならず春学期の初回授業に出席してください。この日に配布する詳細なシラバスが正式のシラバスとなります。
2. 授業内容については参加者の状態に柔軟に対応します。意見や要望をいつでも遠慮なくお聞かせください。
3. 個人的なメールを教員に送らないでください。

【Outline (in English)】

[Course outline] Put yourself in the text, read, think, and express yourself in your own words.

【Course objectives】

1. Read texts correctly.
2. Engage with global affairs, cultures, and history.
3. Express your thoughts accurately.
4. Exercise your imagination, sensitivity and sensibility to emphasize human life and the heart. Don't treat it as someone else's problem.

【Learning activities outside of classroom】

For each class meeting, spend more than 8 hours to complete the below.

1. Read texts.
2. Write comments.

3. Prepare for presentations and discussions in English and Japanese.

[Grading criteria / policy]

Classroom activities 60% (including presentation, handouts, etc.), term papers 40%

For senior students, senior thesis 100%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
張 欣
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7183」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文学、中国文化を学び、中国の文化、歴史、社会への理解を深めます。

【到達目標】

勉強や研究を重ね、自らの中国認識を構築していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ①中国文学、中国文化に関する共通テキストの輪読・ディスカッション
- ②中国文学、中国文化に関する調査・研究の経過報告および卒論製作のための報告
- ③授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習の概要の説明、輪読の割り当て、自己紹介
第2回	輪読1	『ワイルド・スワン』 輪読1
第3回	輪読2	『ワイルド・スワン』 輪読2
第4回	輪読3	『ワイルド・スワン』 輪読3
第5回	輪読4・発表1	『ワイルド・スワン』 輪読4・学生による発表1
第6回	輪読5・発表2	『ワイルド・スワン』 輪読5・学生による発表2
第7回	輪読6・発表3	『ワイルド・スワン』 輪読6・学生による発表3
第8回	輪読7・発表4	『ワイルド・スワン』 輪読7・学生による発表4
第9回	輪読8・発表5	『ワイルド・スワン』 輪読8・学生による発表5
第10回	輪読9・発表6	『ワイルド・スワン』 輪読9・学生による発表6
第11回	輪読10・発表7	『ワイルド・スワン』 輪読10・学生による発表7
第12回	輪読11・発表8	『ワイルド・スワン』 輪読11・学生による発表8
第13回	輪読12・発表9	『ワイルド・スワン』 輪読12・学生による発表9
第14回	まとめ	春学期のまとめ
第15回	輪読13・発表10	『ワイルド・スワン』 輪読13・学生による発表10
第16回	輪読14・発表11	『ワイルド・スワン』 輪読14・学生による発表11
第17回	輪読15・発表12	『ワイルド・スワン』 輪読15・学生による発表12
第18回	輪読16・発表13	『ワイルド・スワン』 輪読16・学生による発表13

第19回	輪読17・発表14	『ワイルド・スワン』 輪読17・学生による発表14
第20回	輪読18・発表15	『ワイルド・スワン』 輪読18・学生による発表15
第21回	輪読19・発表16	『ワイルド・スワン』 輪読19・学生による発表16
第22回	輪読20・発表17	『ワイルド・スワン』 輪読20・学生による発表17
第23回	輪読21・発表18	『ワイルド・スワン』 輪読21・学生による発表18
第24回	輪読22・発表19	『ワイルド・スワン』 輪読22・学生による発表19
第25回	輪読23・発表20	『ワイルド・スワン』 輪読23・学生による発表20
第26回	輪読24・発表21	『ワイルド・スワン』 輪読24・学生による発表21
第27回	輪読25・発表22	『ワイルド・スワン』 輪読25・学生による発表22
第28回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を十分に調べます。本授業の準備学習・復習時間は、8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ワイルド・スワン』（上・下）講談社、2017年、3080円

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

2～3年次履修者：平常点60%、レポート等40%。

4年次履修者：卒業論文の評価が考慮され、卒業論文未提出者には単位は付与されません。

【学生の意見等からの気づき】

中国の文化・社会・歴史等に関する知識をより詳しく紹介します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire understanding of Chinese literature/culture/society. At the end of the course, students are expected to have their own perspective of Chinese culture and community. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than eight hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end report 40%, in class contribution 60%.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
中谷 安男
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7184」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスコミュニケーションとリーダーシップについて英語のテキストとディスカッションを通して深く学ぶ。グローバルマーケティングに関する知識を深め積極的に新たな事業提案に取り組む

【到達目標】

- ・英語力向上 TOEIC 2年730点（Bレベル）3年 860（Aレベル）
- ・国際ビジネスに関する書物の多読を通してクリティカル・シンキング能力を向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

クラス・ディスカッション
プレゼンテーション
フィールドワーク

4年生は定期的に卒論の中間発表を行い評価する。
卒論提出前に複数回のフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習 1	プレゼン 1 クラス討議 1
2	演習 2	プレゼン 2 クラス討議 2
3	演習 3	プレゼン 3 クラス討議 3
4	演習 4	プレゼン 4 クラス討議 4
5	演習 5	プレゼン 5 クラス討議 5
6	演習 6	プレゼン 6 クラス討議 6
7	演習 7	プレゼン 7 クラス討議 7
8	演習 8	プレゼン 8 クラス討議 8
9	演習 9	プレゼン 9 クラス討議 9
10	演習 10	プレゼン 10 クラス討議 10
11	演習 11	プレゼン 11 クラス討議 11
12	演習 12	プレゼン 12 クラス討議 12
13	演習 13	プレゼン 13 クラス討議 13
14	演習 14	プレゼン 14 クラス討議 14

15	演習 15	プレゼン クラス討議 15
16	演習 16	プレゼン クラス討議 16
17	演習 17	プレゼン クラス討議 17
18	演習 18	プレゼン クラス討議 18
19	演習 19	プレゼン クラス討議 19
20	演習 20	プレゼン クラス討議 20
21	演習 21	プレゼン クラス討議 21
22	演習 22	プレゼン クラス討議 22
23	演習 23	プレゼン クラス討議 23
24	演習 24	プレゼン クラス討議 24
25	演習 25	プレゼン クラス討議 25
26	演習 26	プレゼン クラス討議 26
27	演習 27	プレゼン クラス討議 27
28	演習 28	プレゼン クラス討議 28

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・『英語教育学の実証的研究法入門』寺内正典&中谷安男、研究社
- ・4年『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中谷安男 中央経済社
- ・『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』中谷安男 中央経済社

【参考書】

『国際ビジネスコミュニケーション』丸善書店
Intelligent Business: Coursebook、By Johnson, C. Pearson Longman

【成績評価の方法と基準】

レポート 20 %
平常点 20 %
論文 40 %
研究発表 20 %

【学生の意見等からの気づき】

より討議を増やす

【学生が準備すべき機器他】

PC DVD

【その他の重要事項】

Class schedules and content may change depending on the advancement of the students.
Some classes may be switched to Zoom. But it will be announced beforehand.

【Outline (in English)】

- ・ We learn effective business communication for leaders and global marketing.
- ・ Learning Objectives:
English proficiency improvement: TOEIC A Level. Enhancing critical thinking skills through extensive reading of literature on international business.
- ・ Two hours for Lesson preparation and review exercises respectively.
- ・ Evaluation: Report 20 %, Class contribution, 20 %, Essay 40 %,

Research presentation 20%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
倪 彬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7185」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論やエビデンスを英文テキストでしっかり理解し、また経済データソースも使った実証研究を行えるようにする。グループワークで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養う。

【到達目標】

国際経済学の資料を英語で読むことが出来る。自分の興味がある内容につき、グループで協調しつつ、他の学生に説明を行うとともに意見を発表できる。さらに、自らデータを用いて検証出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講者によるテキストの輪読、及び教員による解説、演習を行います。今年は対面（メイン）とオンラインのハイブリッドの形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習 1：イントロ	演習の目的、各種割り当て(プレゼンの順番など)
2	演習 2	1: Introductory Trade Issues:
3	演習 3	2: The Ricardian Theory of Comparative Advantage
4	演習 4	3: The Heckscher-Ohlin (Factor Proportions) Model
5	演習 5	4: Economies of Scale and International Trade
6	演習 6	5: Trade Policy Effects with Perfectly Competitive Markets
7	演習 7	6: Trade Policies with Market Imperfections and Distortions
8	演習 8	7: Political Economy and International Trade
9	演習 9	8: Free Trade Agreement
10	演習 10	9: Introductory Finance Issues
11	演習 11	10: National Income and the Balance of Payments Accounts
12	演習 12	11: The Whole Truth about Trade Imbalances
13	演習 13	12: Interest Rate Parity
14	演習 14	13: Exchange Rate Regime
15	演習 15	データ分析 12 のレッスンに関する紹介
16	演習 16	第 1 章 データから仮説を探る
17	演習 17	第 2 章 データに親しむ

18 演習 18

19 演習 19

20 演習 20

21 演習 21

22 演習 22

23 演習 23

24 演習 24

25 演習 25

26 演習 26

27 演習 27

28 演習 28

第 3 章 データを見る

第 4 章 データを加工する

第 5 章 関係性を読み解く

第 6 章 1 つの原因で結果にせまる: 単回帰分析

第 7 章 複数の原因で結果にせまる: 重回帰分析

第 8 章 ダミー変数を使いこなす

第 9 章 パネルデータに親しむ

第 10 章 個票データに親しむ

第 11 章 個票データで回帰分析する

第 12 章 質的な結果を回帰分析する

最終纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおくこと。また、テキスト以外の資料も各自で図書館等で取得しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Krugman, Melitz, and Obstfeld, International Economics ; 柏木 吉基著『『それ、根拠あるの?』と言わせないデータ・統計分析ができる本』日本実業出版社 ; 畑農鋭矢, 水落正明著「データ分析をマスターする 12 のレッスン」有斐閣アルマ Basic 星野匡郎, 田中久稔著「R による実証分析—回帰分析から因果分析へ」オーム社

【参考書】

教科書以外、発表内容に関連するプリントを配ります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への参加、発言、輪読報告、グループプレゼン、また、合宿への参加などで総合的に評価します。三年生のみには他大学とのインゼミで発表してもらいます。具体的に：

(1) 授業での発言、積極さ 50%

(2) プレゼン 50%

また、四年生に関して、履修するには卒論の提出が義務付けられています。卒論の執筆は個別指導を行います。最終成績は提出論文の質に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

英文輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【Outline (in English)】

The object is to understand the theory and evidence in international economics. Using data analysis as well as group discussion, the students are expected to extract information from real data and cultivate the habit of thinking like an economist.

The grading criteria are as follows:

(1) Participation in the discussion 50%

(2) Presentation 50%

Learning activities outside of classroom: the students are expected to preview the course contents and prepare for the presentation. The time used is approximately 2 hours for review and preparation respectively.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
友松 夕香
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7186」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習（ゼミ）では、文化人類学のフィールドワークの手法をもとに、質的研究をおこないます。ここでのフィールドワークとは、調査地（フィールド）に身を置き、人びとの語りや日常実践をもとに社会現象を解明しようとすることです。あらかじめ仮説を用意するのではなく、フィールドで人びとと関係を築き、そこから生じる経験や対話を手がかりに問いを立て、仮説を組み立てていく過程を重視します。この際、データを単なる「事実」として扱うのではなく、フィールドの方々との相互行為のなかで生成されるものとして捉えます。こうした調査手法を通して複雑な社会現象の理解を深め、その知をどのように価値の創造につなげることができるかをフィールドの方々とともに考えることが本演習の目的です。

【到達目標】

- ・文章力・表現力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を向上させる
- ・フィールドワークをとおして行動力をつける
- ・英語を運用できるようになる
- ・論理的に話を構成できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミは研究発表とディスカッションの場になります。ゼミ生は、国内研究、外国語圏研究、業界／企業研究、コミュニケーション研究を実施します。

- ①国内研究：1年間で2回以上のフィールドワークをおこない、調査報告と成果発表を実施。3年次では論文を書きます。テーマは自由設定。
- ②外国語圏研究：2年次の春休みに2週間以上のフィールドワークをおこない、翌年度の春学期に調査報告・成果発表を実施。フィールドとして、海外または国内の外国語圏（白馬などのスキーリゾートや海外からの移住者が多い地域・コミュニティ）を自由選択、大学留学や海外インターン経験者はその経験をもとに調査報告と成果発表を実施。
- ③業界・企業研究：日経データベース等を分析し、発表。企業／社会人訪問・発表。
- ④コミュニケーション研究：11月実施

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介をする
2	業界・企業研究①	日経データベースの使い方を学ぶ
3	業界・企業研究②	発表する
4	業界・企業研究③	発表する
5	自己研究①	洞察力・文章力・表現力を上達させる
6	自己研究②	洞察力・文章力・表現力を上達させる

7	国内研究①	2年次：テーマと研究計画を発表する 3年次：論文を書く
8	国内研究②	2年次：テーマと研究計画を発表する 3年次：論文を書く
9	英語圏／海外研究①	2年次：調査旅行の計画を発表する 3年次：調査報告をする
10	英語圏／海外研究②	2年次：調査旅行の計画を発表する 3年次：調査報告をする
11	企業／社会人訪問①	実施報告をする
12	企業／社会人訪問②	実施報告をする
13	実施報告をする③	実施報告をする
14	中間総括	研究の進捗を整理し、秋学期の計画を立てる
15	コミュニケーション研究①	ゼミの魅力を伝える方法を考え、表現する
16	国内研究③	2年次：1回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
17	国内研究④	2年次：1回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
18	国内研究⑤	2年次：1回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
19	国内研究⑥	2年次：2回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
20	コミュニケーション研究②	面接を実施・分析する
21	国内研究⑦	2年次：2回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
22	国内研究⑧	2年次：2回目の調査報告をする 3年次：論文を書く
23	国内研究の成果発表①	調査データから仮説と問いを導き出し、整理して発表する
24	国内研究の成果発表②	調査データから仮説と問いを導き出し、整理して発表する
25	英語圏／海外研究③	調査旅行の準備をする
26	英語圏／海外研究④	調査旅行の準備をする
27	英語圏／海外研究⑤	調査旅行の準備をする
28	英語圏／海外研究⑥	調査旅行を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：各自の研究を進めるうえで必要な情報収集をおこなう。
発表資料を作成し、発表練習をする。
事後学習：各自の研究を進めるうえで必要な文献を読み、フィールドワークをおこなう。
準備・復習時間は合わせて1回あたり8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内でご紹介いたします。

【参考書】

授業内でご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

出欠（遅刻・早退）、発表のパフォーマンス（質、回数）、役割分担、チームワーク、授業態度の総合評価を平常点（100％）とします。単位取得のためには、すべての課題を実施し、発表する必要があります。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業にパソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

文化人類学の思考と研究方法を習得するために、文化人類学ABと経済人類学ABを履修してください。

【Outline (in English)】

In this seminar, students engage in fieldwork studies. Students collect data to elucidate social phenomena and discover issues in their fields by visiting various places and communicating with diverse people. The class aims to develop research and problem-solving skills while experiencing the joy of creating hypotheses from data. Participation and engagement (100%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
西村 健
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7187」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは「ゲーム理論」と「実験経済学」について学ぶ。
ゲーム理論は戦略的相互依存関係（駆け引き）を分析するための総合的な理論体系であり、実験経済学はゲーム理論や経済学で提示された理論仮説を検証するための分野である。
このゼミでは、テキストの輪読とグループワークを通じて、これらの分野について専門的に学習を進める。

【到達目標】

- ・ゲーム理論や実験経済学について、その基本的な考え方や分析手法を体得する。
- ・プレゼンにおいて、客観的根拠に基づいて自分の意見を主張し、生産的な討論をおこなう。
- ・グループワークにおいて、メンバーと協力・議論しながら成果を出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの輪読を通じて、ゲーム理論と実験経済学について基礎から着実に学ぶ。
- ・グループワークも実施し、理論的な仮説が現実になり立つかどうか、実験データを収集・整理して検証する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス①	ガイダンス①	春学期のゼミ計画
①	輪読とグループワーク①	テキストの輪読とグループワーク①
②	輪読とグループワーク②	テキストの輪読とグループワーク②
③	輪読とグループワーク③	テキストの輪読とグループワーク③
④	輪読とグループワーク④	テキストの輪読とグループワーク④
⑤	輪読とグループワーク⑤	テキストの輪読とグループワーク⑤
⑥	輪読とグループワーク⑥	テキストの輪読とグループワーク⑥
⑦	輪読とグループワーク⑦	テキストの輪読とグループワーク⑦
⑧	輪読とグループワーク⑧	テキストの輪読とグループワーク⑧
⑨	輪読とグループワーク⑨	テキストの輪読とグループワーク⑨
⑩	輪読とグループワーク⑩	テキストの輪読とグループワーク⑩
⑪	輪読とグループワーク⑪	テキストの輪読とグループワーク⑪
報告会①	グループワークの報告会①	各グループによる成果報告①

報告会②	グループワークの報告会②	各グループによる成果報告②
ガイダンス②	ガイダンス②	秋学期のゼミ計画
⑫	輪読とグループワーク⑫	テキストの輪読とグループワーク⑫
⑬	輪読とグループワーク⑬	テキストの輪読とグループワーク⑬
⑭	輪読とグループワーク⑭	テキストの輪読とグループワーク⑭
⑮	輪読とグループワーク⑮	テキストの輪読とグループワーク⑮
⑯	輪読とグループワーク⑯	テキストの輪読とグループワーク⑯
⑰	輪読とグループワーク⑰	テキストの輪読とグループワーク⑰
⑱	輪読とグループワーク⑱	テキストの輪読とグループワーク⑱
⑲	輪読とグループワーク⑲	テキストの輪読とグループワーク⑲
⑳	輪読とグループワーク⑳	テキストの輪読とグループワーク⑳
㉑	輪読とグループワーク㉑	テキストの輪読とグループワーク㉑
㉒	輪読とグループワーク㉒	テキストの輪読とグループワーク㉒
報告会③	グループワークの報告会③	各グループによる成果報告③
報告会④	グループワークの報告会④	各グループによる成果報告④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・報告担当の場合、必ず事前に入念な準備を進めること。特に、プレゼン時にどのような質問が出るかを想定して準備しておくこと、当日の議論が活発になる。
- ・報告担当でない場合も、テキストの該当箇所を読むなどして予習しておくこと。
- ・グループワークで課題が出た場合、必ず授業時間外に取り組んでおくこと。
- ・予習と復習、合計8時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・花木伸行、島田夏美 著、『実験から始める経済学の第一歩』、有斐閣ストゥディア
- ・山本拓、竹内明香 著、『入門 計量経済学 第2版: Excelによる実証分析へのガイド』、新世社

【参考書】

- ・後藤晶 著、『oTreeではじめる社会科学実験入門: Pythonのインストールから実験の実施まで』、コロナ社
- ・鈴木伸枝、西村健 著、『ゲーム理論15講』、新世社

【成績評価の方法と基準】

- ・輪読（30%）、グループワーク（30%）、プレゼン（20%）、参加姿勢（20%）などを総合的に勘案して評価する。なお、括弧内は評価配分を示す。
- ・輪読では、報告者だけでなく全員に対して何かしらの発言が求められるので、積極的な態度で臨むこと。
- ・グループワークでは、チーム作業だということを意識して、メンバーと協力・議論しながら作業を進めること。
- ・正当な理由のない遅刻・欠席をしないこと。やむを得ず遅刻・欠席をした場合には、その後の報告や発言を通じてゼミに貢献することで挽回するようにすること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックを踏まえて授業方法を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

システムを頻繁に利用するため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

「ミクロ経済学」もしくは「計量経済学」を履修すること。どちらもゼミの学習内容に密接に関連するため、両方とも履修するのが望ましい。

【Outline (in English)】

Course outline: In this seminar, students study game theory and experimental economics.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected

to understand the concepts of game theory and experimental economics and become able to explain them.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend eight hours to understand the class content.

Grading policy: In-class contribution 100%

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
松浦 智博
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7188」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《前近代の交通制度から現代社会を相対化する視点を学ぶ》

本授業では、活字史料・古文書史料（くずし字）を読み解くことを通して、前近代社会の特質を理解することを目指す。具体的には、江戸幕府道中奉行所や三井家で作成された史料を用い、近世日本の交通制度を学ぶ。機械化がなされる以前の交通のあり方には、その時代の支配体制や身分制の特徴が反映されている。

春学期は、江戸幕府道中奉行所に全国諸藩から提出された史料（活字史料）を輪読する。受講者は各自に割り当てられた担当箇所を解説し、内容に関する考察を報告する。江戸時代後期の街道交通において、どのような問題点が生じており、どのような手続きを経て解決が試みられていたのかを学ぶ。

秋学期は、紀州藩徳川家からの御用を請け負い、物資の輸送などを担った三井家の史料（古文書史料）を輪読する。受講者は各自に割り当てられた担当箇所を活字に直して現代語訳を示したうえで、内容に関する考察を報告する。江戸時代の街道交通において三井家のような商人が果たした役割や大名家と商人との関係を学ぶ。

【到達目標】

1. 活字史料・古文書史料を正確に解説できるようになる。
2. 史料の内容に即して、江戸時代特有の制度や語句について調べ、史料の背景について正確に理解する。
3. 解説内容を他の受講者に正確に伝える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業担当者は、受講者に輪読史料の担当箇所を指定する。受講者はそれぞれの担当箇所を現代語に訳し、史料中に登場する語句や人物について調べ、解釈や考察をまとめて報告する。報告担当者以外の受講者は、報告内容を踏まえて、報告や史料の内容に関する疑問や意見を積極的に提示し、授業担当者も交えて議論を行う。受講者は、各回終了時にその日の議論をうけての疑問点などをコメントペーパーとして提出し、授業担当者は次回授業の冒頭でコメントに対する回答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期の授業の進め方を説明する。
第2回	論文講読 基礎編 (1)	江戸幕府の制度に関する基礎知識を身につける。
第3回	論文講読 基礎編 (2)	江戸幕府と諸大名との関係について学ぶ
第4回	論文講読 発展編 (1)	江戸時代の宿駅制度の特徴をおさえる。
第5回	論文講読 発展編 (2)	江戸幕府の街道支配の要点を学ぶ。
第6回	史料読解の方法（初級編）	活字史料を読み、江戸時代の史料特有の文章・表現に慣れる。
第7回	史料読解の方法（中級編）	活字史料を読み、主語・目的語など文章の構成を的確に把握する。

第8回	史料読解の方法（上級編）	活字史料を読み、史料作成の背景にある制度を把握する。
第9回	史料輪読（1）	江戸幕府の街道取締に関する史料を読み、研究報告を行う。
第10回	史料輪読（2）	江戸幕府の街道取締に関する史料を読み、研究報告を行う。
第11回	史料輪読（3）	江戸幕府の街道取締に関する史料を読み、研究報告を行う。
第12回	史料輪読（4）	江戸幕府の街道取締に関する史料を読み、研究報告を行う。
第13回	史料輪読（5）	江戸幕府の街道取締に関する史料を読み、研究報告を行う。
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業を総括する。
第15回	ガイダンス	秋学期の授業の進め方を説明する。
第16回	論文講読 基礎編 (1)	農村の金融についての理解を深める。
第17回	論文講読 基礎編 (2)	農村の金融をめぐる法制度についての理解を深める。
第18回	論文講読 発展編 (1)	古文書に触れてくずし字を学ぶ。
第19回	論文講読 発展編 (2)	古文書に触れてくずし字を学ぶ。
第20回	くずし字読解の方法（初級編）	古文書に触れてくずし字を学ぶ。
第21回	くずし字読解の方法（中級編）	金銭貸借証書の内容を読解する。
第22回	くずし字読解の方法（上級編）	金銭貸借証書の内容を読解する。
第23回	古文書輪読（1）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第24回	古文書輪読（2）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第25回	古文書輪読（3）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第26回	古文書輪読（4）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第27回	古文書輪読（5）	特定の契約書を選び、研究報告をおこなう。
第28回	まとめ	秋学期の授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には史料を読み、授業内で適宜提示する参考書を用いて予習をする（作業2時間程度）。授業後には、予習時に理解できなかった箇所を中心に、各回の史料内容について復習をする（作業2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容、授業中やコメントペーパーでの質問・意見などから総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Wordを閲覧・編集できる情報機器。

【Outline (in English)】

授業の概要（Course outline）

This course deals with the transportation system in early modern Japan.

到達目標（Learning Objectives）

The goals of this course are to improvement of historical reading comprehension.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

Before class, students should prepare for the class using reference books (about 2 hours of work). After class, review the class content and deepen understanding from the references presented in class (about 2 hours of work).

成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

A comprehensive evaluation will be made based on each student's attitude, in-class contribution, and assignments.
(100%)

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
大森 祥輔
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7189」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

輪講を行うことで複雑系科学で用いられる数学・数理モデルの基礎概念・考え方・使い方を学習します。また、プレゼンテーション技術の向上も目指します。

【到達目標】

複雑系科学に現れる数学（主に微分・差分方程式、離散数学）の基礎を習得することを目標とします。また、現象やデータを定量的に評価し判断する能力や計算力、プレゼンテーション能力を習得することも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

演習は教科書及び文献の輪読を中心に進めます。詳細は第1回の授業でお伝えします。各回、履修者1名若しくは数名が担当者となり、学習報告を行います。報告に対しての質疑応答やフィードバックをその場でおこない、履修者全員が内容を理解したうえで次の担当者へ繋いでいきます。特に履修者同士のフィードバックや議論も奨励します。また、各学期に輪講の内容に関する課題を課し、履修者は学期末にその課題に関する発表を行います。

なお、報告は完璧である必要はありませんが、自分がどこまで正確に厳密に理解したのかを自身で把握するように心掛けてください。また、質疑応答や議論では自分の意見を正確に言語化して発言する練習も兼ねています。履修生の活発な議論や質疑応答を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期演習ガイダンス	演習の概要を説明します。また輪講や発表の方法について説明します。
2	輪読①	「教科書」の報告と質疑応答①
3	輪読②	「教科書」の報告と質疑応答②
4	輪読③	「教科書」の報告と質疑応答③
5	輪読④	「教科書」の報告と質疑応答④
6	輪読⑤	「教科書」の報告と質疑応答⑤
7	春学期末課題の準備①	春学期末課題に向けた準備やディベート、発表練習を行います。
8	輪読⑥	「教科書」の報告と質疑応答⑥
9	輪読⑦	「教科書」の報告と質疑応答⑦
10	輪読⑧	「教科書」の報告と質疑応答⑧
11	輪読⑨	「教科書」の報告と質疑応答⑨
12	輪読⑩	「教科書」の報告と質疑応答⑩
13	春学期末課題の準備②	春学期末課題に向けた準備やディベート、発表練習を行います。
14	春学期の総括	春学期末課題の発表、及び演習内容の総括を行います。
15	秋学期演習ガイダンス	秋学期の演習の概要を説明します。
16	輪読⑪	「教科書」の報告と質疑応答⑪

17	輪読⑫	「教科書」の報告と質疑応答⑫
18	輪読⑬	「教科書」の報告と質疑応答⑬
19	輪読⑭	「教科書」の報告と質疑応答⑭
20	秋学期末課題の準備①	秋学期末課題に向けた準備やディベート、発表練習を行います。
21	輪読⑮	「教科書」の報告と質疑応答⑮
22	輪読⑯	「教科書」の報告と質疑応答⑯
23	輪読⑰	「教科書」の報告と質疑応答⑰
24	輪読⑱	「教科書」の報告と質疑応答⑱
25	輪読⑲	「教科書」の報告と質疑応答⑲
26	輪読⑳	「教科書」の報告と質疑応答⑳
27	秋学期末課題の準備②	秋学期末課題に向けた準備やディベート、発表練習を行います。
28	秋学期の総括	秋学期末課題の発表、及び演習内容の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の準備をしてくること。また、自分の担当箇所でも準備学習を行い議論ができるようにしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回授業で指示します。

【参考書】

演習中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

演習で出される課題（50％）、平常点（50％）として評価し、60％の得点率を合格とします。なお、演習は原則として対面でおこない、出席率も評価の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

止むを得ず演習に出席することができない場合には、事前に必ず連絡してください。

数学、数理科学的な思考に興味がある学生の履修が望まれます。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Through the journal club, students will learn about the fundamental concepts, ideas, and usage of mathematics and mathematical models related to the complexity found in nature and society. The course also aims to enhance their presentation skills.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Master the fundamentals of mathematics as they apply to complex systems.
- ・ Develop the ability to quantitatively evaluate and analyze several phenomena and data.
- ・ Enhance computational and presentation skills.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

The exercise will focus on reading textbooks and literature in a journal club format. In each session, one or more students will be assigned to present a study report, followed by a question-and-answer session and feedback. Additionally, an assignment related to the course material will be given each semester, and students will be required to present their work at the end of the term. Students are expected to prepare their study reports. For each session, pre-study of 4 hours and review for 4 hours are recommended for comprehension.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

The grade of the students in this class will be decided based on the assignments (50%) and the class contribution (50%). Please note that a score of 60% will be considered as a passing grade.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
八木 文香
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7190」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学や経済学に関するデータについて、各自で問を選定し、それに対する研究・発表を行い、論文としてまとめる。そのために必要となる数理統計学や多変量解析の基礎理論を身につける。

【到達目標】

1. 数理統計学や多変量解析の基礎理論を説明できるようになる。
2. 統計学や経済学に関するデータの統計解析ができるようになる。
3. 分析結果を理論を理解した上でまとめ、発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

数理統計学や多変量解析手法について輪読を通じて理解を深める。その理論を踏まえて Python 等の数値解析ソフトを用いてデータの統計解析を行い発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの内容、今後のゼミの進め方について
2	数理統計学の基礎 (1)	事象と確率について
3	数理統計学の基礎 (2)	確率変数と分布関数について
4	数理統計学の基礎 (3)	平均と分散、積率について
5	いくつかの分布	正規分布、t分布、F分布について
6	標本分布 (1)	ランダム標本、標本積率について
7	標本分布 (2)	正規分布からのランダム標本について
8	統計的推測 (1)	点推定、不偏推定量、最尤推定量について
9	統計的推測 (2)	信頼区間について
10	統計的仮説検定	統計的仮説検定の理論と実データへの適用例について
11	平均に関する多重比較法 (1)	1元配置分散分析と多重比較について
12	平均に関する多重比較法 (2)	対比較法・対照比較法と同時信頼区間について
13	平均の検定 (1)	1標本問題における平均の尤度比検定について
14	平均の検定 (2)	2標本問題における平均の尤度比検定について
15	多次元データ	多次元データと多変量解析について
16	多変量正規分布	1,2変量正規分布と多変量正規分布について
17	平均ベクトルの検定 (1)	平均ベクトルの検定統計量について

18	平均ベクトルの検定 (2)	平均ベクトルと分散共分散行列の最尤推定量について
19	欠測データ (1)	欠測データとは
20	欠測データ (2)	欠測データに対する統計的仮説検定法について
21	論文の輪読 (1)	研究論文の構成について
22	論文の輪読 (2)	研究論文で扱われているデータについて
23	論文の輪読 (3)	研究論文で扱われている理論について
24	論文の輪読 (4)	Pythonを用いたデータの確認について
25	論文の輪読 (5)	研究論文から学んだことのまとめについて
26	データ解析 (1)	多変量データの取得について
27	データ解析 (2)	取得した多変量データに関する理論について
28	データ解析 (3)	データ解析結果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で扱うトピックに関連する事項を調べたり基礎理論の勉強のために、本演習の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講生と相談して決めます。

【参考書】

野田一雄・宮岡悦良（1990）『入門・演習数理統計』、共立出版
Srivastava, M. S. (2002), *Methods of Multivariate Statistics*, New York, NY: Wiley

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度や発表内容（50%）、レポート課題や宿題（50%）などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

数値解析ソフトや発表資料の作成のために、PCが必要となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Regarding data related to statistics and economics, each student will select a research question, conduct research and presentations on it, and compile the findings into a thesis. To this end, students will acquire the fundamental theoretical knowledge of mathematical statistics and multivariate analysis required for this work.

【Learning Objectives】

Students will be able to explain the fundamental theories of mathematical statistics and multivariate analysis. Additionally, students will be able to analyze statistical data related to statistics and economics.

Furthermore, students will be able to summarize and present analysis results based on a solid understanding of the theory.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review time for this exercise is typically 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the student's contribution to the class or quality of presentations (50%) and report assignments or homework (50%).

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
青野 幸平
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7191」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方、ファイナンスの考え方とデータ分析の手法を通じて、企業や日本経済を理解することが目的である。

【到達目標】

- ・経済学の考え方を身につけること。
- ・ファイナンスの考え方を身につけること。
- ・データを用いた分析（仮説検定など）を行うこと。
- ・プレゼンテーションの能力を向上させること。
- ・興味を持ったテーマについてデータ分析に基づく論文を執筆すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

経済学やファイナンス、データ分析や統計学、計量経済学に関連した書籍の輪読を通じて、基礎知識を身につける。
輪読では、報告者にはPowerPointなどを利用した報告準備を、それ以外の受講者には報告箇所に対する質問準備を事前に行ってもらい、ゼミの中での議論を通じて理解を深めていく。
興味を持っているテーマに関してグループ（又は個人）での報告・データ分析の実践をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・イントロダクション	ゼミの内容、ゼミの運営方法などの確認
第2回	日本企業の分析（1）	輪読1 報告と討論
第3回	日本企業の分析（2）	輪読2 報告と討論
第4回	日本企業の分析（3）	輪読3 報告と討論
第5回	日本企業の分析（4）	輪読4 報告と討論
第6回	グループ論文（1）	興味のあるテーマについて報告
第7回	日本企業の分析（5）	輪読5 報告と討論
第8回	日本企業の分析（6）	輪読6 報告と討論
第9回	日本企業の分析（7）	輪読7 報告と討論
第10回	日本企業の分析（8）	輪読8 報告と討論
第11回	日本企業の分析（9）	輪読9 報告と討論
第12回	グループ論文（2）	興味のあるテーマに関連したデータを報告
第13回	データ分析(1)	Excel・Rの準備
第14回	グループ論文（3）	興味のあるテーマに関連した仮説を考える

第15回	データ分析(2)	記述統計1 報告と討論
第16回	データ分析(3)	記述統計2 報告と討論
第17回	データ分析(4)	記述統計3 報告と討論
第18回	グループ論文（4）	興味のあるテーマに関連したデータの記述統計を考察する
第19回	データ分析(5)	統計的検定1 報告と討論
第20回	データ分析(6)	統計的検定2 報告と討論
第21回	データ分析(7)	統計的検定3 報告と討論
第22回	データ分析(8)	統計的検定4 報告と討論
第23回	グループ論文（5）	興味のあるテーマに関連したデータについて統計的検定を行う
第24回	データ分析(8)	回帰分析1 報告と討論
第25回	データ分析(9)	回帰分析2 報告と討論
第26回	データ分析(10)	回帰分析3 報告と討論
第27回	データ分析(11)	回帰分析4 報告と討論
第28回	グループ論文（6）	興味のあるテーマに関連したデータについて回帰分析を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する教材について予習と復習は必ず行うこと。予習では質問したい箇所を明確にすることが必要になり、復習では疑問点を残さないことが重要になる。
データ分析をしたいテーマについて考えておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本企業はお金持ちになったのか？』（山田和郎著、中央経済社）
『Excel・Rではじめる文系のためのデータ分析入門』（須山憲之・長島直樹・張婷婷著、中央経済社）

【参考書】

『データ分析をマスターする12のレッスン 〔新版〕』（畑農鋭矢・水落正明著、有斐閣）
『Rによる実証分析（第2版）』（星野匡郎・田中久稔・北川梨津著、オーム社）
『はじめてのRStudio - エラーメッセージなんかこわくない-』（浅野正彦・中村公亮著、オーム社）
『How Finance Works』（A・デサイ著、斎藤聖美（翻訳）、ダイヤモンド社）
『統計学15講』（山本庸平著、新世社）

【成績評価の方法と基準】

輪読における評価である平常点（50％）とグループ論文における評価（30％）、各学期の最後のレポート（20％）で評価する。最後のレポートの課題は当該学期で学習した内容をベースに出題する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

データ分析や報告準備を行うためにノートパソコンが必要となる。

【その他の重要事項】

メールを通じて連絡をするので、少なくとも1週間に1回はメールを確認すること。

【Outline (in English)】

Course outline

Students will learn and understand the Japanese companies and the Japanese economy through economic concepts, financial concepts, and data analysis methods.

Learning objectives

- ・Acquire economic concepts.

- Acquire finance concepts.
- Conduct data-driven analysis (such as hypothesis testing).
- Improve presentation skills.
- Write a data analysis-based paper on a topic of interest.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria /policy

Final grade will be decided based on the following:

- Regular participation in-class contributions(50%)
- Group paper assessment (30%)
- Final term report (20%) The final report topic will be based on the material covered during that term.

ECN218CA (経済学 / Economics 200)
演習
坪田 建明
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7192」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

World Development Report を輪読し、データ分析の初歩と国際経済学・経済発展論・開発経済学の実践を学ぶ。

輪読はプレゼン形式を取り、質疑応答・議論を重視する。更には、インカレゼミ(12月)に向けてのグループ論文を通じて、研究論文の書き方、データ分析の方法について学ぶ。

【到達目標】

国際経済学・経済発展論・開発経済学の何らかの側面について、最先端の知識を習得し、自分の言葉で説明できるようになる。

インカレゼミにむけてのグループ論文執筆を通じて、研究の初歩を知り、自分でデータを分析する方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前期は輪読。後期はグループ論文の執筆、およびそれに必要な知識と分析技術の修得。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方および役割分担
2	世銀開発報告書について	報告書の位置づけについて
3	世界開発報告 2020	プレゼン発表・質疑・討論
4	世界開発報告 2020 第一章	プレゼン発表・質疑・討論
5	世界開発報告 2020 第二章	プレゼン発表・質疑・討論
6	世界開発報告 2020 第三章	プレゼン発表・質疑・討論
7	世界開発報告 2020 第四章	プレゼン発表・質疑・討論
8	世界開発報告 2020 第五章	プレゼン発表・質疑・討論
9	世界開発報告 2020 第六章	プレゼン発表・質疑・討論
10	世界開発報告 2020 第七章	プレゼン発表・質疑・討論
11	世界開発報告 2020 第八章	プレゼン発表・質疑・討論
12	世界開発報告 2020 第九章	プレゼン発表・質疑・討論
13	世界開発報告 2020 第十章	プレゼン発表・質疑・討論
14	まとめ	全体を通じての討議と復習
15	ガイダンス	後期の進め方、グループ分け・テーマに関する議論
16	テーマの選定	いくつかのアイデアを提示する
17	データについて	貿易統計・スクレイピング等、参考となるデータ取得の方法を解説する

18	統計的分析方法について(1)	平均、分散、散布図などについて
19	統計的分析方法について(2)	回帰分析、検定などについて
20	中間報告	発表、討議、フィードバックを受けての改善を行う
21	質的調査について(1)	ヒアリングに基づく調査の仕方、アポの取り方
22	質的調査について(2)	論文に対する相互コメントと書き直し
23	グループ論文の文章について	発表練習と最終発表
24	発表練習	発表練習と最終発表
25	発表練習	発表練習と最終発表
26	現代の国際経済に関する諸問題について(1)	調査とレポートの作成
27	現代の国際経済に関する諸問題について(2)	相互評価と全体討議
28	まとめ	全体を通じての討議と復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読においては司会・発表者・コメンテーターを中心に議論を行うのだが、その他の学生もテキストを予め読んでから参加することが望まれる。疑問点や議論すべき点を考え、発言することが望まれる。予習は2時間、復習は1時間程度。

【テキスト（教科書）】

World Development Report は基本的に英語入手可能。

2020 年版までについては日本語でも入手できる。

<https://www.worldbank.org/ja/country/japan/publication/world-development-report>

2026 年度は 2020 年度の Global Value Chain に関する報告書を輪読する。

目次は下記の通り。

<https://www.ittosha.co.jp/published/isbn978-4-907600-68-6/>

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

発表の内容(75%)、発言の頻度や議論の内容など(25%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

【Outline (in English)】

Through reading World Development Report by the World Bank, the seminar give you the opportunity to learn Introduction and the reality of International Economics, Economic Development, and Development Economics.

Presentation, Q&A and discussions are the key for your development. As we will have an inter-college seminar in December, students have to join a group-thesis writing. Through this experience, you learn how to write a research paper, collect data, conduct quantitative analyses and others.

ECN218CA（経済学 / Economics 200）
演習
王 キョウ
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7193」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、教員が選定したデジタルゲームを英語学習および高度な認知的・創造的能力を育成するための実践的な学習環境として活用する。指導付きのゲームプレイを通して、受講者は英語の語彙、コミュニケーション能力、ライティング、スピーキング、ならびに批判的思考力を学び、同時にストーリーテリング、協働活動、振り返り、発表などにも取り組む。シミュレーションゲーム、推理（探偵）ゲーム、ストラテジーゲームといった多様なジャンルのゲームは、学習者がゲーム内外の世界について解釈し、意味交渉を行い、行動を計画し、問題を解決し、自らの考えを英語で表現することを促す豊かな学習場面を提供する。

本ゼミは、ゲーム体験を体系的な言語活動および振り返り課題と結び付けることにより、英語運用能力にとどまらず、問題解決力、多角的視点の理解、物語構築力、ならびに他者との相互作用といった学術的・汎用的能力の育成を目指す。

【到達目標】

By the end of this seminar, students will be able to:

Use English vocabulary and expressions appropriate to gameplay contexts and real-world communication.

Communicate clearly and effectively with peers in pairs and groups during gameplay and discussions.

Write coherent descriptions, reflections, and narratives based on gameplay experiences.

Deliver short speaking presentations that analyze game scenarios, decisions, and outcomes.

Demonstrate critical thinking by interpreting game narratives, making strategic decisions, and reflecting on gameplay.

Share and discuss gameplay strategies and learning insights with classmates.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Teacher-guided gameplay of selected digital games (simulation, detective, strategy, drama) with language objectives.

Language learning through gameplay: vocabulary focus, communication tasks, comprehension of game narratives.

Pair play and group play to encourage communication and cooperation.

Storytelling activities based on in-game events and character actions.

Presentations and peer sharing of gameplay experiences, insights, and strategies.

Watching related playthroughs by experienced YouTubers, with guided listening and analysis tasks.

Writing up gameplay through reflections, reports, and creative narratives.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Seminar Orientation	Introduction to the seminar and setting up hardware and software.
2	Unit 1	Simulation Games: Guidance and Gameplay
3	Unit 1	Simulation Games: Storytelling
4	Unit 1	Simulation Games: Guidance and Gameplay
5	Unit 1	Simulation Games: Storytelling
6	Unit 1	Simulation Games: Guidance and Gameplay
7	Unit 1	Simulation Games: Presentations
8	Unit 2	Detective Games: Guidance and Gameplay
9	Unit 2	Detective Games: Storytelling
10	Unit 2	Detective Games: Guidance and Gameplay
11	Unit 2	Detective Games: Storytelling
12	Unit 2	Detective Games: Guidance and Gameplay
13	Unit 2	Detective Games: Presentations
14	Semester Wrap-Up	Creating semester videos and writings
15	Seminar Orientation	Introduction to the second semester and review of the first semester.
16	Unit 3	Drama Games: Guidance and Gameplay
17	Unit 3	Drama Games: Storytelling
18	Unit 3	Drama Games: Guidance and Gameplay
19	Unit 3	Drama Games: Storytelling
20	Unit 3	Drama Games: Guidance and Gameplay
21	Unit 3	Drama Games: Presentations
22	Unit 4	Strategy Games: Guidance and Gameplay
23	Unit 4	Strategy Games: Storytelling
24	Unit 4	Strategy Games: Guidance and Gameplay
25	Unit 4	Strategy Games: Storytelling
26	Unit 4	Strategy Games: Guidance and Gameplay
27	Unit 4	Strategy Games: Presentations
28	Seminar wrap-up	Creating videos and writing for the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Outside class, students are expected to:

Review and practice vocabulary and expressions introduced in class.

Complete gameplay homework and reflective writing tasks.

Watch assigned playthrough videos and prepare analysis notes.

Prepare for pair or group presentations and revisions based on feedback.

On average, the work to be done outside of class is expected to be 8 hrs per week, including 4 hrs for preparation and 4 hrs for review.

【テキスト（教科書）】

Teacher-provided materials.

【参考書】

N/A.

【成績評価の方法と基準】

Gameplay Reflection Writing Assignments: 40%

Presentations and Oral Tasks: 40%

Participation & Collaboration: 20%

【学生の意見等からの気づき】

N/A.

【学生が準備すべき機器他】

A laptop for playing the game in class.

【その他の重要事項】

N/A.

【Outline (in English)】

This seminar uses teacher-selected digital games as authentic contexts for learning English and developing higher-order cognitive and creative skills. Through guided gameplay, students will learn and practice English vocabulary, communication, writing, speaking, and critical thinking, while also engaging in storytelling, collaboration, reflection, and presentations. Games such as simulation games, detective games, and strategy games provide rich scenarios that encourage meaningful use of English as students interpret, negotiate meaning, plan actions, solve problems, and express ideas in and about game worlds.

By connecting gameplay experiences with structured language and reflective tasks, this seminar aims to foster academic skills that extend beyond English proficiency — such as problem-solving, perspective taking, narrative creation, and peer interaction.

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
Multinational Enterprises A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
過年度Multinational Enterprises Aを修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understanding the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview &significance of the course; Defining MNE -Syllabus -Manual for project - Pre-Course Survey
2	THE STRUCTURE	Organizational approaches; OLI Framework -Small group case analysis -Trending news &research - Recap
3	BUSINESS STRATEGIES	Theory and Cases -Trending news -Case Seminar - Recap
4	MARKET ENTRY DECISIONS	Where/How/When; Cases -Small group case analysis -Trending news - Recap

5	FINANCIAL MANAGEMENT	Theory and Cases -Case seminar -Trending news - Recap
6	CONTROL MECHANISM	Global-local matrix; Cases -Small group Case analysis -Trending news - Recap
7	KNOWLEDGE MANAGEMENT	Cases Debate 1 -Trending news - Recap
8	MNEs FROM EMERGING COUNTRIES	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
9	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
10	TRANSACTION COST ECONOMICS	Taxation and transfer pricing regulations -Trending news -Case seminar - Recap
11	IMPACT OF MNEs	On host and home countries Debate 2 -Trending news -Case seminar - Recap -Trending news
12	ADVANCED TOPICS	Monopoly concerns, Corruption, Corporate Social Responsibility -Trending news -Case seminar - Recap
13	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 40%
2. Individual Presentation: 40%
3. Two super short debates 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

Multinational Enterprises A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understating the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview &significance of the course; Defining MNE -Syllabus -Manual for project - Pre-Course Survey
2	THE STRUCTURE	Organizational approaches; OLI Framework -Small group case analysis -Trending news &research - Recap
3	BUSINESS STRATEGIES	Theory and Cases -Trending news -Case Seminar - Recap

4	MARKET ENTRY DECISIONS	Where/How/When; Cases -Small group case analysis -Trending news - Recap
5	FINANCIAL MANAGEMENT	Theory and Cases -Case seminar -Trending news - Recap
6	CONTROL MECHANISM	Global-local matrix; Cases -Small group Case analysis -Trending news - Recap
7	KNOWLEDGE MANAGEMENT	Cases Debate 1 -Trending news - Recap
8	MNEs FROM EMERGING COUNTRIES	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
9	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	Cases -Trending news -Case seminar - Recap
10	TRANSACTION COST ECONOMICS	Taxation and transfer pricing regulations -Trending news -Case seminar - Recap
11	IMPACT OF MNEs	On host and home countries Debate 2 -Trending news -Case seminar - Recap -Trending news
12	ADVANCED TOPICS	Monopoly concerns, Corruption, Corporate Social Responsibility -Trending news -Case seminar - Recap
13	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 40%
2. Individual Presentation: 40%
3. Two super short debates 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN300CA (経済学 / Economics 300)
Multinational Enterprises B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
過年度Multinational Enterprises Bを修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understanding the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview &significance of the course; Things we covered in Spring -Syllabus -Manual for project
2	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	New Paradigm; Geopolitical headwinds; COVID realities -Small group case analysis -Trending news &research - Recap
3	Re-DEFINING MNEs	Characteristics; New Shifts; Objective of a multinational business -Trending news -Case Seminar - Recap

4	CORPORATE GOVERNANCE	What/How/When; Cases The Significance of Three Sets of People -Small group case analysis -Trending news - Recap
5	GLOBAL TRADE	International Trade Flows; Framework; Key Factors -Case seminar -Trending news - Recap
6	OUTSOURCING	Global-local matrix; Non-Equity Mode of Investments; Case Study of iPhone. -Small group Case analysis - Trending news - Recap
7	OWNERSHIP	Who Owns an MNE? Location (Domicile) Legal Bases Cases (Logitech/ Bud) -Trending News - Recap
8	SUSTAINABILITY	Friedman Paradigm; Close-Loop Supply Chain Cases (Nike; Ikea) -Trending news -Debate 1 - Recap
9	UNDERSTANDING THE COMPLEXITY GLOBAL MARKETING	Cases (SONY &APPLE) -Trending news -Recap
10		4Ps; Dabate 2 - Trending news - Recap
11	STRUCTURE OF AN MNE	Functional; Divisional; Matrix; -Small group case analysis -Trending news - Recap
12	STRATEGY ANALYSIS	Porter's 5 Forces: BCG quadrant; -Trending News - Recap
13	MARKET ENTRY	Multi-Domestic; Globally-Integrated. Entry Strategies (Broadbrush; Beachhead) Cases (Dentsu; Denso; Walmart; McCormick) -Trending News - Recap
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research - Epilogue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 40%
2. Individual Presentation: 40%
3. Two super short debates 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN300CA (経済学 / Economics 300)

Multinational Enterprises B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this applied course the students will learn the basic framework and tools necessary to analyze a multi-national enterprise (MNE) and the business environment in which they operate. We would also understand the connection between global macro-economic indicators and corporate decision making. The course makes extensive use of real-world examples.

【到達目標】

Learning Outcomes

- 1.Understating the implications of operating beyond national borders
- 2.Grasping the interaction between international business operations and global/local macro-economy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required. At the end of the course, students will be required to make a presentation involving an analysis of a real multi-national company that they have selected.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly reflection notes on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview &significance of the course; Things we covered in Spring -Syllabus -Manual for project
2	INTERNATIONAL BUSINESS ENVIRONMENT	New Paradigm; Geopolitical headwinds; COVID realities -Small group case analysis -Trending news &research - Recap
3	Re-DEFINING MNEs	Characteristics; New Shifts; Objective of a multinational business -Trending news -Case Seminar - Recap

4	CORPORATE GOVERNANCE	What/How/When; Cases The Significance of Three Sets of People -Small group case analysis -Trending news - Recap
5	GLOBAL TRADE	International Trade Flows; Framework; Key Factors -Case seminar -Trending news - Recap
6	OUTSOURCING	Global-local matrix; Non-Equity Mode of Investments; Case Study of iPhone. -Small group Case analysis - Trending news - Recap
7	OWNERSHIP	Who Owns an MNE? Location (Domicile) Legal Bases Cases (Logitech/ Bud) -Trending News - Recap
8	SUSTAINABILITY	Friedman Paradigm; Close-Loop Supply Chain Cases (Nike; Ikea) -Trending news -Debate 1 - Recap
9	UNDERSTANDING THE COMPLEXITY	Cases (SONY &APPLE) -Trending news -Recap
10	GLOBAL MARKETING	4Ps; Dabate 2 - Trending news - Recap
11	STRUCTURE OF AN MNE	Functional; Divisional; Matrix; -Small group case analysis -Trending news - Recap
12	STRATEGY ANALYSIS	Porter's 5 Forces: BCG quadrant; -Trending News - Recap
13	MARKET ENTRY	Multi-Domestic; Globally-Integrated. Entry Strategies (Broadbrush; Beachhead) Cases (Dentsu; Denso; Walmart; McCormick) -Trending News - Recap
14	INDIVIDUAL PRESENTATIONS	Of company specific research - Epilogue

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion 40%
2. Individual Presentation: 40%
3. Two super short debates 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Japanese Finance and Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：多摩/Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese finance. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

Learning Outcomes:

1. Understand the Structure of Japan's Economy
Students will be able to explain the key sectors of Japan's economy, including manufacturing, technology, finance, and services, and their roles in global economic trends.
2. Analyze Japan's Economic History
Students will demonstrate an understanding of key historical events such as the Meiji Restoration, post-WWII economic growth, the "Lost Decade" of the 1990s, and their lasting effects on Japan's economic policies.
3. Examine Japan's Financial System
Students will analyze the roles and functions of Japan's financial institutions, including the Bank of Japan, private banks, and insurance companies, and understand how they influence both domestic and global markets.
4. Evaluate the Impact of Japanese Monetary Policy
Students will explore the tools and effects of Japan's monetary policy, particularly in the context of deflation, interest rates, and quantitative easing.
5. Assess Japan's International Trade Relations
Students will evaluate Japan's role in global trade, focusing on key trade partners, its role in regional economic organizations (like the Asia-Pacific Economic Cooperation), and the impact of trade agreements on its economy.
6. Investigate Corporate Governance and Business Practices in Japan
Students will explore the unique aspects of corporate culture and governance in Japan, including keiretsu (business groups), lifetime employment, and how they shape Japan's business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.

2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.

3. Critical and Analytical: questioning the basic assumptions used in the text

4. Accessible: Breaking down complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or a remedial explanation in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu
4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
 Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

Tentative Rubric

1. Class Participation - 30%
2. Final Project Presentation 25%
3. Peer Review of the presentation - 25%
3. Final Project Report - 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Japanese Finance and Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
過年度Japanese Business and Economy Aを修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

Learning Outcomes:

1. Understand the Structure of Japan's Economy

Students will be able to explain the key sectors of Japan's economy, including manufacturing, technology, finance, and services, and their roles in global economic trends.

2. Analyze Japan's Economic History

Students will demonstrate an understanding of key historical events such as the Meiji Restoration, post-WWII economic growth, the "Lost Decade" of the 1990s, and their lasting effects on Japan's economic policies.

3. Examine Japan's Financial System

Students will analyze the roles and functions of Japan's financial institutions, including the Bank of Japan, private banks, and insurance companies, and understand how they influence both domestic and global markets.

4. Evaluate the Impact of Japanese Monetary Policy

Students will explore the tools and effects of Japan's monetary policy, particularly in the context of deflation, interest rates, and quantitative easing.

5. Assess Japan's International Trade Relations

Students will evaluate Japan's role in global trade, focusing on key trade partners, its role in regional economic organizations (like the Asia-Pacific Economic Cooperation), and the impact of trade agreements on its economy.

6. Investigate Corporate Governance and Business Practices in Japan

Students will explore the unique aspects of corporate culture and governance in Japan, including keiretsu (business groups), lifetime employment, and how they shape Japan's business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.

2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.

3. Critical and Analytical: questioning the basic assumptions used in the text

4. Accessible: Breaking down complex jargon in simple terms. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or a remedial explanation in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu
4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235. Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
 Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

Tentative Rubric

1. Class Participation - 30%
2. Final Project Presentation 25%
3. Peer Review of the presentation - 25%
3. Final Project Report - 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)

Japanese Finance and Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese finance and economy. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) a lecture and (2) student exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by a short class discussion to develop the takeaways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

Learning Outcomes:

1. Understand the Structure of Japan's Economy
Students will be able to explain the key sectors of Japan's economy, including manufacturing, technology, finance, and services, and their roles in global economic trends.
2. Analyze Japan's Economic History
Students will demonstrate an understanding of key historical events such as the Meiji Restoration, post-WWII economic growth, the "Lost Decade" of the 1990s, and their lasting effects on Japan's economic policies.
3. Examine Japan's Financial System
Students will analyze the roles and functions of Japan's financial institutions, including the Bank of Japan, private banks, and insurance companies, and understand how they influence both domestic and global markets.
4. Evaluate the Impact of Japanese Monetary Policy
Students will explore the tools and effects of Japan's monetary policy, particularly in the context of deflation, interest rates, and quantitative easing.
5. Assess Japan's International Trade Relations
Students will evaluate Japan's role in global trade, focusing on key trade partners, its role in regional economic organizations (like the Asia-Pacific Economic Cooperation), and the impact of trade agreements on its economy.
6. Investigate Corporate Governance and Business Practices in Japan
Students will explore the unique aspects of corporate culture and governance in Japan, including keiretsu (business groups), lifetime employment, and how they shape Japan's business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.

2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Assignments; Assessment Rubric
2	RECAP	From the last semester; The structure of the course
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; What drove the growth?
4	JAPANESE BUSINESS 1.0	First iteration of Japanese corporate. From Zaibatsu to Keiretsu. Keiretsu and cross-ownership; Management system
5	JAPANESE BUSINESS 2.0	Unique Characteristics; Theoretical framework; Role of New Economy
6	THE FUTURE OF JAPANESE CORPORATIONS	Trends Internationalization DX Sunrise Industries
7	CONTEMPORARY ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	POLITICAL ECONOMY OF REFORMS	Major Issues Public Opinion
9	CORPORATE GOVERNANCE IN JAPAN	Dichotomy Unique features
10	FINANCIAL INSTITUTIONS IN JAPAN	Convergence Unique Features Continuity and change
11	POST-ABENOMICS JAPAN	Major Indicators; Critique
12	STRENGTHS OF JAPAN	Brand Japan; Soft Power; Startup scene; Precision Manufacturing; Global Image
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, *Review of Economic Dynamics*, 206-235.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience

Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, *Japanese Economic Review* 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in *Corporate Financing and Governance in Japan*, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, *Japanese Economic Review*, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), *Dollar and Yen*, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in *Reviving Japan's Economy*, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, *American Sociological Review*, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in *Ageing and Pension Reform around the World*.

【成績評価の方法と基準】

Tentative Rubric

1. Class Participation - 30%
2. Final Project Presentation 25%
3. Peer Review of the presentation - 25%
3. Final Project Report - 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Japanese Finance and Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
過年度 Japanese Business and Economy B を修得済みの場合は履修不可

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese finance and economy. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) a lecture and (2) student exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by a short class discussion to develop the takeaways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

Learning Outcomes:

1. Understand the Structure of Japan's Economy

Students will be able to explain the key sectors of Japan's economy, including manufacturing, technology, finance, and services, and their roles in global economic trends.

2. Analyze Japan's Economic History

Students will demonstrate an understanding of key historical events such as the Meiji Restoration, post-WWII economic growth, the "Lost Decade" of the 1990s, and their lasting effects on Japan's economic policies.

3. Examine Japan's Financial System

Students will analyze the roles and functions of Japan's financial institutions, including the Bank of Japan, private banks, and insurance companies, and understand how they influence both domestic and global markets.

4. Evaluate the Impact of Japanese Monetary Policy

Students will explore the tools and effects of Japan's monetary policy, particularly in the context of deflation, interest rates, and quantitative easing.

5. Assess Japan's International Trade Relations

Students will evaluate Japan's role in global trade, focusing on key trade partners, its role in regional economic organizations (like the Asia-Pacific Economic Cooperation), and the impact of trade agreements on its economy.

6. Investigate Corporate Governance and Business Practices in Japan

Students will explore the unique aspects of corporate culture and governance in Japan, including keiretsu (business groups), lifetime employment, and how they shape Japan's business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.

3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business

4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Assignments; Assessment Rubric
2	RECAP	From the last semester; The structure of the course
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; What drove the growth?
4	JAPANESE BUSINESS 1.0	First iteration of Japanese corporate. From Zaibatsu to Keiretsu. Keiretsu and cross-ownership; Management system
5	JAPANESE BUSINESS 2.0	Unique Characteristics; Theoretical framework; Role of New Economy
6	THE FUTURE OF JAPANESE CORPORATIONS	Trends Internationalization DX Sunrise Industries
7	CONTEMPORARY ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	POLITICAL ECONOMY OF REFORMS	Major Issues Public Opinion
9	CORPORATE GOVERNANCE IN JAPAN	Dichotomy Unique features Convergence
10	FINANCIAL INSTITUTIONS IN JAPAN	Unique Features Continuity and change
11	POST-ABENOMICS JAPAN	Major Indicators; Critique
12	STRENGTHS OF JAPAN	Brand Japan; Soft Power; Startup scene; Precision Manufacturing; Global Image
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, *Review of Economic Dynamics*, 206-235.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience

Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, *Japanese Economic Review* 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in *Corporate Financing and Governance in Japan*, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, *Japanese Economic Review*, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), *Dollar and Yen*, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in *Reviving Japan's Economy*, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, *American Sociological Review*, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in *Ageing and Pension Reform around the World*.

【成績評価の方法と基準】

Tentative Rubric

1. Class Participation - 30%
2. Final Project Presentation 25%
3. Peer Review of the presentation - 25%
3. Final Project Report - 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

POL200EB, POL200EC (政治学 / Politics 200, 政治学 / Politics 200)

政治学理論 I

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使った事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっている。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必要な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	政治学とは何か	導入
2)	政治学の基礎概念	基礎概念
3)	古代の政治理論 (1)	プラトンなど
4)	古代の政治理論 (2)	プラトンなど
5)	古代の政治理論 (3)	アリストテレスなど
6)	古代の政治理論 (4)	アリストテレスなど
7)	中世の政治理論 (1)	アキナスなど
8)	中世の政治理論 (2)	アキナスなど
9)	中世の政治理論 (3)	アウグスチヌスなど
10)	中世の政治理論 (4)	アウグスチヌスなど
11)	近代の政治理論 (1)	マキャベリなど
12)	近代の政治理論 (2)	マキャベリなど
13)	政治学理論と現代	最近の動向から
14)	過去の政治学理論の意義	今、古典を学ぶ意味とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト70%、レポート20%、講義科目への積極度10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

POL200EB, POL200EC (政治学 / Politics 200, 政治学 / Politics 200)

政治学理論Ⅱ

白鳥 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使用した事例の理解に到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっている。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の選択を行う責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	近代までの政治学
2)	近代とは何であったか	マキャベリ、ホブズ、ロックなど
3)	近代批判の政治理論 (1)	ルソーなど
4)	近代批判の政治理論 (2)	ルソーなど
5)	近代批判の政治理論 (3)	ヘーゲルなど
6)	近代批判の政治理論 (4)	マルクスなど
7)	現代の政治理論 (1)	ウェーバーなど
8)	現代の政治理論 (2)	制度論から過程論へ
9)	現代の政治理論 (3)	政治過程の理論
10)	現代の政治理論 (4)	国際化する政治
11)	最先端の政治理論 (1)	行動科学としての政治学
12)	最先端の政治理論 (2)	アメリカの研究
13)	国際政治の政治理論	ヨーロッパの研究、ロックンなど
14)	現代政治理論の展望	最近の動向から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト70%、レポート20%、講義科目への積極度10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

日本経済論

澁谷 朋樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、戦前から引き継がれた諸要素を手がかりに、戦後復興期・高度成長期・バブル期を経て現代に至るまでの日本経済の姿を体系的に学ぶ。日本経済の歩みを踏まえることで、財政赤字、少子高齢化、過疎化など、現代日本が抱える諸課題への理解を深めることができる。最終的には、日本経済の現状を的確に把握した上で、客観的なデータに基づき、諸課題の解決に向けた方策を構想・検討する力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

1. 戦前・戦後の日本における経済発展の仕組みを理解できる。
2. 日本経済の現状と課題についての基本的な知識を習得できる。
3. 各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めていく。時事問題を織り込んでいく予定であるため、必ずしも以下の授業計画に沿って進めるとは限らない。また、前回の講義で提出されたリアクションペーパーで寄せられた質問・意見に回答する等を通じて、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済学の基本	経済学の基本的な考え方
第2回	経済指標の読み方	基本的な経済指標の読み方
第3回	白書の読み方	『経済白書』・『経済財政白書』を読む
第4回	日本経済の全体像	長期統計を用いた日本経済の把握
第5回	戦前における日本経済	明治時代から戦時期までの日本経済
第6回	戦後日本の経済発展	戦後日本の経済復興
第7回	戦後日本の経済発展	高度成長時代から低成長時代へ
第8回	戦後日本の経済発展	戦後日本のエネルギー政策
第9回	戦後日本の経済発展	バブル景気とそのメカニズム
第10回	日本の長期経済停滞	バブル崩壊後の日本経済
第11回	日本の長期経済停滞	小泉構造改革における産業構造と雇用構造の変化
第12回	平成時代の日本経済	平成時代の日本経済を振り返る
第13回	日本の農業政策	農業政策と農業構造問題
第14回	講義まとめ	講義全体を振り返り、日本経済の主要な課題を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に資料を適宜配付する。

【参考書】

1. 小峰隆夫、村田啓子『最新日本経済入門 [第7版]』日本評論社、2025年。
2. N・グレゴリー・マンキュー／片桐満他訳『マンキュー 入門経済学 [第4版]』センテージ・ラーニング、2025年。
3. 宮崎勇、本庄真、田谷禎三『日本経済図説(第5版)』岩波新書、2021年。
4. その他の参考文献は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーで寄せられた受講生の意見を講義に反映させていく。

【その他の重要事項】

オンライン講義の時期や回数に変更となる場合がある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand the historical development of the Japanese economy. Students will examine Japan's economic transformation from the postwar period to the present, focusing on key phases such as postwar recovery, rapid growth, and the bubble economy. The course also connects these developments to contemporary challenges, including public debt, population aging amid a declining birthrate, and rural depopulation. Ultimately, students will learn to assess Japan's current economic conditions and to consider evidence-based policy responses using objective data. Grading will be decided based on Term-end report(70%), in class contribution(30%).

LAW200EB, LAW200ED (法学 / law 200, 法学 / law 200)

憲法

天本 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、個人の基本的人権や国の統治の仕組みを中心に、憲法の基礎を学ぶことを目的とします。この授業では、日本国憲法の条文解説だけではなく、現代社会の具体的な憲法の論点も扱います。

【到達目標】

- ・憲法の基礎的な知識を身につける。
- ・基本的人権の統治機構を理解し、それを説明できる。
- ・憲法の知識を基礎にして、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 憲法総論① 憲法とは何か	授業の進め方を説明します。国家とは何か、憲法の意義等を学びます。
第2回	憲法総論② 憲法の歴史	憲法発展の歴史等を学びます。
第3回	憲法総論③ 国民民主権	国民主権と象徴天皇制等を学びます。
第4回	憲法総論④ 平和主義	戦争放棄と自衛権等を学びます。
第5回	基本的人権① 人権とその限界	人権の意義と人権の限界等を学びます。
第6回	基本的人権② 幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権(新しい人権を含む)と平等の意味等を学びます。
第7回	基本的人権③ 自由権・社会権	自由権と社会権を学びます。
第8回	基本的人権④ 参政権・国務請求権	参政権と国務請求権を学びます。
第9回	基本的人権⑤ 国民の義務	国民の義務を学びます。
第10回	統治機構① 三権分立・国会	三権分立の意義等を学びます。国会(立法権)を解学びます。
第11回	統治機構② 内閣	内閣(行政権)を学びます。
第12回	統治機構③ 裁判所	裁判所(司法権)を学びます。
第13回	統治機構④ 財政・地方自治	財政と地方自治を学びます。
第14回	憲法の改正・まとめ	憲法改正を学びます。授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法』(岩波書店、第8版、2023)を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（86%）、平常点（14%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】**【授業の概要（Course outline）】**

The aim of this lecturer is to learn the basics of the Constitution, focusing on basic human rights and governance mechanisms.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students acquire basic knowledge of the Constitution.
- ・ Students can understand and explain the basic human rights and the separation of powers.
- ・ Students can consider social issues based on their knowledge of the Constitution.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports : 86%, Usual performance score : 14%

LAW200EB（法学 / law 200）

民法（総則）

松田 佳久

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する。内容は次のとおりである。売買契約の有効な成立、債務不履行、契約解除、代理、所有権の移転など。私たちの生活に欠くことのできない知識をこの講義で得ることができ、そのような知識を得ることを目的としている。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生じるさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講座は対面で実施します。

Hoppiの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、対面での授業に臨んでください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス：yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っている場合でもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民法典とその構成	民法典、民法典の構成、物権と債権、
2	売買契約の有効な成立1	契約の成立要件
3	売買契約の有効な成立2	契約の有効要件
4	売買契約の有効な成立3	無効原因 取消しと無効
5	売買契約の有効な成立4	代理
6	売買契約の有効な成立5	無権代理 条件と期限
7	売主の義務と買主の義務1	物の引渡し
8	売主の義務と買主の義務2	代金の支払い
9	売主の義務と買主の義務3	購入資金の借入れ
10	売主の義務と買主の義務4	債権関係の終了
11	売主の義務と買主の義務5	現実的履行の強制

12	売主の義務と買主の義務6	損害賠償請求 契約の解除
13	売買契約による所有権の移転1	物権変動の基本原則
14	売買契約による所有権の移転2	動産取引における公示の原則と 公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 教科書に事前に目を通してから授業を視聴すること
- 視聴後に各自で内容を復習すること
- 学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『ワンステップ民法』（嵯峨野書院、第二版、2023年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ 総則・物権』（有斐閣、第9版、2023年）
2. 窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ 債権』（有斐閣、第9版、2023年）

【成績評価の方法と基準】

民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。

定期試験結果が100%。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っている場合でもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回の対面での授業をきちんと受けることが必要です。わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiの「教材」に参考図、判例等をUPしますので、参考図等を印刷でき、Webexでのオンタイム授業に臨むためのパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

○秋学期の「民法（財産法）」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましいが、履修をしていなくても、単位取得は可能です。

○授業視聴には小六法を必ず準備すること。

○民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っている場合でもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law. The contents are as follows. Effective establishment of sales contract, default, contract cancellation, agency, transfer of ownership, etc. The knowledge that is indispensable to our lives can be obtained in this lecture, and the purpose is to obtain such knowledge.

【Goal】

1. Understanding the overall image of civil law (Level C)
2. Understanding the basic system of civil law (Level B)
3. Ability to think about various problems that arise in society from the perspective of civil law (Level A)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Read the textbook in advance before watching the class
- Review the content on your own after watching
- Look at society from a legal point of view based on what you have learned.
- The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Whether or not students have grasped the overall image of the Civil Code and understood the basic system will be determined based on the results of regular examinations.

Regular test result is 100%.

The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with that, the textbook has also been greatly revised and updated. Please be aware that even if you use an old textbook, you will not be able to understand the contents of this lecture, and you will not be able to cope with the final exam.

LAW200EB（法学 / law 200）

民法（財産法）

松田 佳久

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財産」に関する民法の基本的な制度を理解する。この講義の内容は次のとおりである。売買契約における所有権移転、債権の回収と債権の確保、連帯債務、保証債務、抵当権、賃貸借契約など。この講義では私たちが社会生活を送るうえで欠くことのできない知識を得ることができる。そしてこの講義はそのような知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講座は対面での受講となります。

Hoppiの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、対面での授業に臨んでください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	所有権と占有権 1	物権の客体、物権の本質、物権の効力、所有権の性質と効力
2	所有権と占有権 2	相隣関係、所有権の特別な取得原因、占有権の成立と態様、占有権の効力
3	債権の回収と債権の確保 1	債権回収の基本原則、責任財産の保全（債権者代位権）
4	債権の回収と債権の確保 2	詐害行為取消権
5	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務、保証債務
6	優先弁済権による債権の担保 1	担保物権の基本原則、抵当権
7	優先弁済権による債権の担保 2	非典型担保
8	物の賃貸借契約 1	総説、賃貸借契約（基本的な法律関係）
8	物の賃貸借契約 2	賃貸借関係（賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転賃、賃貸借契約の終了）

9	物の賃貸借契約 3	借地借家法（借地関係、借家関係）
10	他人の労務を目的とする契約 1	総説、雇用契約、請負契約
11	他人の労務を目的とする契約 2	委任契約 総説、事務管理
	法律の規定に基づいて生ずる債権 1	
12	法律の規定に基づいて生ずる債権 2	不当利得
13	法律の規定に基づいて生ずる債権 3	一般的不法行為
14	法律の規定に基づいて生ずる債権 4	特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○教科書に事前に目を通してから授業ビデオを視聴し、授業後に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『ワンステップ民法』（嵯峨野書院、第二版、2023年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第9版、2023年）
2. 窪田充見＝森田宏樹『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第9版、2023年）

【成績評価の方法と基準】

民法の財産法（物権法・債権法）に関する基本的な知識の修得ができ、関連する裁判例や法解釈について理解できたかにつき、定期試験の結果によって100%評価する。

定期試験はHoppiの「レポート」に問題を提示し、添付の解答用紙で所定の期間内に解答し、「レポート」に提出します。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回の対面での授業を受ける必要があります。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員のメールアドレスにメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、参考図等を印刷し、Webexでのオンタイムでの授業を受講できるパソコン等が必要です。

【その他の重要事項】

○本科目を履修するためには、春学期に「民法（総則）」を履修しておくことが望ましい。

○授業ビデオの視聴にはあたっては小六法を準備しておくこと。

○民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っているこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic system of the Civil Code relating to "property". The contents of this lecture are as follows. Transfer of ownership in sales contracts, collection of receivables and securing of receivables, joint debt, guarantee debt, mortgages, lease contracts, etc. This lecture will give us the knowledge that is indispensable for living a social life. And this lecture aims to acquire such knowledge.

【Goal】

1. Understand the overall image of civil law (Level C)
2. Understand the basic system of civil law (Level B)

3. Ability to think about various problems that arise in society from the perspective of civil law (Level A)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.) 】

Read the textbook before class, watch the class video, and review after class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

A 100% evaluation will be made based on the results of regular examinations on whether students have acquired basic knowledge of property law (property law and law of obligations) in civil law, and whether they have understood relevant judicial precedents and legal interpretations.

For the regular exam, present the questions on the "Report" of the class support system, answer the attached answer sheet within the specified period, and submit it to the "Report".

The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with that, the textbook has also been greatly revised and updated. Please be aware that even if you use an old textbook, you will not be able to understand the contents of this lecture, and you will not be able to cope with the final exam.

SOS200EB, SOS200EC (その他の社会科学 / Social science 200, その他の社会科学 / Social science 200)

組織論

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論では、社会の基礎的構成要素である組織の存在、行動、変化および効率的な運営に関する原理・原則を考察します。授業では、組織論の基本理論とその実践的な活用方法を学びます。また、変化の激しい現代社会では組織はどのような取り組みが必要なのかといった、組織に関する諸問題を組織論の基本理論を通じて議論します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1)組織論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2)現代社会における企業や各機関の組織の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、オンライン形式、かつ講義資料にもとづく講義形式で実施します。詳しい授業方法や成績評価の詳細等は初回の授業時に説明するので、必ず確認をお願いします。

授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。そのため、学習支援システムおよびメールを日常的に活用・確認する必要があります。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	組織とは何か	組織の定義
第2回	多様な組織観	組織の機械観と有機体観
第3回	組織デザイン①	分業と調整
第4回	組織デザイン②	組織構造
第5回	経営組織論①	企業組織の特徴と管理
第6回	経営組織論②	企業組織の事例研究
第7回	経営組織論③	組織文化
第8回	コンティンジェンシー理論①	環境と組織
第9回	コンティンジェンシー理論②	組織の対環境戦略
第10回	資源依存理論	依存とパワー
第11回	コンフリクトとパワー	コンフリクトの発生と解消
第12回	取引コスト理論	取引コストと企業の境界
第13回	新制度派組織論	同型化、正当性
第14回	公共組織論	公共性とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。

【参考書】

桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論』有斐閣。
 山田耕嗣・佐藤秀典（2014）『コア・テキスト マクロ組織論』新世社。
 山田真茂留（2017）『集団と組織の社会学』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：30%、期末試験：70%で評価します。

<授業内課題>

- ・課題の提出は期限厳守です。
- ・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。
- ・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

<期末試験：対面形式を予定>

- ・期末試験は対面形式での実施を予定しています。
- ・また、期末試験は定期試験期間中に実施する予定です。
- ・定期試験期間中の通常授業の実施曜日・時限に期末試験を実施するとは限らないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of organizational theory. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Organization design,
- 2)Management of organizations,
- 3)Organizations in external environments.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

- 1)Understanding of basic theories of organizations,
- 2)Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):30% and final exam: 70%.

ECN300EB（経済学 / Economics 300）

財政学Ⅰ

森田 圭亮

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が政府の必要性や政策が経済社会に与える影響を理解し、それらの知識を活かして今日の財政のあり方を自ら考える力を養うことを目的としている。

【到達目標】

学生が、財政の歳入や歳出に関する知識や財政政策が経済に与える影響を理解し、説明できることを到達目標とする。こうした到達目標を達成することで、学生が実際の財政状況や財政政策について自ら具体的に考えられる力を伸ばすことが期待できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。リアクションペーパーのうちいくつかの意見や質問を取り上げた上で、講義内容の理解度を深めるようなフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方などについて説明するとともに、今日の財政に関する話題を取り上げる。
第2回	財政の基礎	財政の基礎知識について説明する。
第3回	政府の役割	政府の機能について説明する。
第4回	資源配分機能	公共財の特徴について説明する。
第5回	資源配分機能と政府の役割	公共財の特徴を踏まえた上で政府の役割を説明する。
第6回	資源配分の効率性	効率性の側面から見た政策のあり方について説明する。
第7回	所得再配分機能	効率性から見た社会的最適の限界と公平性に着目する意義を説明する。
第8回	所得再配分政策の課題	所得再配分政策の問題点について説明する。
第9回	景気安定化機能	景気動向に対する経済政策の意義について説明する。
第10回	大きな政府	乗数効果の概念をベースに財政政策のあり方を説明する。
第11回	小さな政府	クラウディングアウトの考え方をベースに財政政策のあり方を説明する。
第12回	財政政策と金融政策	乗数効果とクラウディングアウトを踏まえた上で景気をコントロールする方法について説明する。
第13回	国債管理政策	国債発行や国の累積債務に関して説明する。
第14回	試験・まとめと解説	講義のまとめをするとともに試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

兼子良夫「財政学」税務経理協会、2018年。
土居丈朗「入門財政学第2版」日本評論社、2021年。

【成績評価の方法と基準】

平常点：10%

試験：90%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料や課題を提示することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to help students understand the necessity of government and the influence of their policies on the economy, and to get them the ability to consider the desirable public finances in these days.

ECN300EB（経済学 / Economics 300）

財政学Ⅱ

森田 圭亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が政府の経済活動のあり方を経済理論的な立場から理解し、そうした知識を活かして財政のあり方を考察できる力を養うことを目的としている。

【到達目標】

学生がミクロ経済学やマクロ経済学の基本的な知識を身につけつつ、それらを応用して財政のあり方について考察できる力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。リアクションペーパーのうちいくつかの意見や質問を取り上げた上で、講義内容の理解度を深めるようなフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方などについて説明するとともに、今日の財政の状況を説明する。
第2回	市場と厚生	市場価格の決定や余剰の考え方について説明する。
第3回	消費税負担の帰着	消費税の負担の帰着先について説明する。
第4回	消費税の歪み	個別消費税を取り上げ、税がもたらす歪みについて説明する。
第5回	消費税の最適課税	個別消費税を取り上げ、ラムゼイルールの逆弾力性の命題について説明する。
第6回	環境問題と外部性	環境汚染がもたらす負の外部性について説明する。
第7回	外部性の内部化	環境汚染を例に外部性の内部化について説明する。
第8回	地方分権と外部性	租税輸出を例に負の外部性がもたらす非効率性を説明する。
第9回	地方分権と租税競争	租税競争を例に地方分権の弊害について説明する。
第10回	少子高齢化と社会保障	社会保障政策の課題を少子高齢化と関連付けて説明する。
第11回	社会保障と財政	社会保障政策を税や国債発行と関連づけて説明する。
第12回	過疎化・過密化	過疎化や過密化の1つの要因を労働市場の特徴と結び付けて説明する。
第13回	人口流動と社会保障	過疎化や過密化の問題を社会保障政策と関連づけて説明する。
第14回	試験・まとめと解説	講義内容全体の解説や講義内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

兼子良夫「財政学」税務経理協会、2018年。

土居丈朗「入門財政学第2版」日本評論社、2021年。

【成績評価の方法と基準】

平常点：10%

試験：90%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料や課題を提示することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to help students understand the nature of government economic activities in terms of an economic theory, and to develop the ability to use their knowledge to consider about public policies.

POL300EB (政治学 / Politics 300)

行政学

菅宮 恵美里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの生活は学校・仕事・医療・年金・介護といった社会制度によって支えられ、行政は社会のあり方を形成している。日本から一歩外に出れば、外国では全く異なる制度実態が広がっており、まるで違う社会の仕組みがある。自分が当たり前に思っていた常識はなぜ通じないのか、その常識はどこから来ているのか。

今日の社会のあり方は、各国の歴史的発展過程に根差したものである。これまで行政はどのような事柄を問題とし、どのような政治的環境や制約のなかで、どのように対応し、いかなる社会を設計してきたのか。本講義では「国家とは何か」をテーマとし、適宜外国の事例を参照しながら日本の行政の特徴を明らかにし、国家と社会の関係のあり方を考察する。

【到達目標】

- ・国家の仕組みを理解し、政治（行政）現象を説明できるようになる。
- ・行政活動に付随する制約を理解し、政策の失敗を分析できるようになる。
- ・現代社会の問題への実践的アプローチを考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には講義形式で進める。配布するレジュメに沿って、各回のテーマを解説する。
- ・何度かコメント・ペーパーの提出を求め、いくつか取り上げて全体にフィードバックする。
- ・授業の展開によって、授業計画は若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスを行ったうえで、授業で扱う問題と分析の視座を説明する。
第2回	国家① 国家のまなざし	複数の事例を取り上げて、現代社会と行政の関係について概説する。
第3回	国家② 近代官僚制	近代官僚制の特徴と理論を説明し、権力の作用について検討する。
第4回	国家③ 福祉国家	19世紀末から20世紀前半の福祉国家の形成の流れについて詳説する。
第5回	制度① 統治機構	議院内閣制と大統領制を取り上げ、統治機構の編成パターンの多様性を説明する。
第6回	制度② 組織設計	日本の中央省庁と行政組織の編成を概説する。
第7回	制度③ 政官関係	政官関係の理論を紹介し、外国と日本の行政改革の大きな流れを説明する。

第8回	組織① 人事管理	日本の公務員制度の特徴を説明し、その歴史的背景と国際的位置づけを説明する。
第9回	組織② 行政組織の人間関係	行政の組織環境について説明し、行政活動の制約要因を整理する。
第10回	組織③ 行政の活動	日本の行政活動の特徴と事例を紹介し、分析の理論枠組みを説明する。
第11回	政策① 政策の形成と立案	政策の決定過程を俯瞰し、分析の理論モデルを紹介する。
第12回	政策② 政策の実施	政策の執行と社会環境の相互作用を分析する視座を詳説する。
第13回	政策③ 政策の失敗	行政活動の失敗の原因を検討し、民主的統制のあり方を考察する。
第14回	まとめ 公共性の未来	現代社会で行政が直面する課題を総括し、その未来を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習、それぞれ少なくとも2時間程度を必要とする。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書を指定しない。
- ・必要に応じて講義の内容を深掘りするための文献を紹介する。

【参考書】

以下の文献は、行政学の標準的な教材である。

- ・西尾勝（2001）『行政学 [新版]』有斐閣
- ・伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔（2022）『はじめての行政学 [新版]』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

コメント・ペーパー（20%）、期末試験（80%）。

【学生の意見等からの気づき】

コメント・ペーパーや質問等で学生の理解度や関心を確認し、講義の進捗ペースやテーマを調整する。必要に応じて後日授業で補足説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義当日に担当教員が紙のレジュメを配布する。

【その他の重要事項】

初回の講義でノートの作成や学習方法、履修の注意点について説明する。

【Outline (in English)】

This course is designed to develop necessary skills for analyzing social institutions. It will provide knowledge of theories in public administration and explain institutional characteristics of governments as well as organizational processes that determine public policies.

This course aims to offer students an opportunity to understand how the historical and political development of a country shapes public decisions and determines social reality. Students will also be invited to build a comparative perspective so that they can critically evaluate the specificity of a country's social environment before designing solutions.

LAW300EB（法学 / law 300）

行政法 I

天本 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や公共団体の行政活動は社会の中で生きる私たちの市民生活の隅々にまで影響を及ぼします。この授業では、このような行政活動に対する法的規律等を学習します。この授業を学習の前半とし、後半は「行政法Ⅱ」で学習します。

【到達目標】

- ・行政法の基本的な法理論を理解する。
- ・行政活動の種類と法的統制を理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 行政と行政法	この授業の進め方を説明します。 行政と行政法の概念を解説します。
第2回	行政法の法源	行政法の法源とは何かとその種類を解説します。
第3回	法律による行政の原理	法律による行政の原理を解説します。
第4回	行政組織	行政主体と行政機関を解説します。
第5回	行政立法	行政立法の意義と法的統制を解説します。
第6回	行政行為①	行政行為の意義と法的統制を解説します。
第7回	行政行為②	行政裁量、附款の法的統制を解説します。
第8回	行政行為③	行政行為の瑕疵を解説します。
第9回	行政強制	義務履行強制、即時強制、行政調査の意義と法的統制を解説します。
第10回	行政上の制裁	行政罰その他の行政上の制裁の意義と法的統制を解説します。
第11回	行政指導①	行政指導の意義と法的統制を解説します。
第12回	行政指導②	行政指導の意義と法的統制を解説します。
第13回	行政計画	行政計画の意義と法的統制を解説します。
第14回	行政契約	行政契約の意義と法的統制を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

- ・教科書
- 宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（有斐閣、第8版、2023）
- ・その他
- 宇賀克也『判例で学ぶ行政法』（第一法規出版、2015）
- 大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅰ』（有斐閣、第2版、2019）
- 大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅱ』（有斐閣、第2版、2018）
- 斉藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第8版、2022）
- 芝池義一ほか編『判例行政法入門』（有斐閣、第6版、2017）
- 中原茂樹『基本行政法判例演習』（日本評論社、2023）
- 山本隆司『判例から探求する行政法』（有斐閣、2012）
- その他、授業内において適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（86％）、平常点（14％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. The aim of this lecturer is to learn the basic theory of administrative law. This lecturer is the first half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports : 86%, Usual performance score : 14%

LAW300EB（法学 / law 300）

行政法Ⅱ

天本 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「行政法Ⅰ」の延長線上に位置し、行政活動をどのような手段(手続)でするのか、私人は行政活動からどのように救われるのかを学習します。また、行政法の法理論をより深く理解する上で学ぶべき行政情報管理や公務員等に関連する法分野も併せて広く学習します。なお、この授業を理解するためには春学期の行政法Ⅰの授業を履修することが望ましい。

【到達目標】

- ・行政活動の行政過程と司法的救済を理解する。
- ・行政活動からの救済とその複合的な組み合わせを理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 行政手続法①	この授業の意義や進め方の説明をします。行政手続の意義と法的統制を解説します。
第2回	行政手続法②	行政手続法の内容を解説します。
第3回	行政不服審査法①	行政不服審査法の内容を解説します。
第4回	行政不服審査法②	行政不服審査法の内容を解説します。
第5回	行政事件訴訟法①	行政事件訴訟の内容を解説します。
第6回	行政事件訴訟法②	行政事件訴訟法上の抗告訴訟と仮の権利救済を解説します。
第7回	行政事件訴訟法③	行政事件訴訟法上の当事者訴訟等と客観訴訟を解説します。
第8回	国家補償法	国家賠償法と損失補償の内容を解説します。
第9回	情報公開法	行政機関の保有する情報の公開に関する法律等の内容を解説します。
第10回	個人情報保護法	個人情報の保護に関する法律の中で国の機関等に関する部分を解説します。
第11回	公文書管理法	公文書管理法の内容を解説します。
第12回	公務員法と公物法	公務員法と公物法の内容を解説します。
第13回	地方自治法①	地方自治の本旨等を解説します。

第14回 地方自治法②

地方公共団体の執行機関と地方議会等を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

・教科書

宇賀克也『行政法概説Ⅱ』（有斐閣、第7版、2021）

宇賀克也『行政法概説Ⅲ』（有斐閣、第5版、2019）

・その他

宇賀克也『判例で学ぶ行政法』（第一法規出版、2015）

大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅰ』（有斐閣、第2版、2019）

大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅱ』（有斐閣、第2版、2018）

斉藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第8版、2022）

芝池義一ほか編『判例行政法入門』（有斐閣、第6版、2017）

中原茂樹『基本行政法判例演習』（日本評論社、2023）

山本隆司『判例から探求する行政法』（有斐閣、2012）

その他、授業内において適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（86％）、平常点（14％）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にするようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. The aim of this lecturer is to learn the basic theory of administrative law. This lecturer is the second half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

・ Students understand the basic legal theory of administrative law.

・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.

・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports : 86%, Usual performance score : 14%

LAW300EB（法学 / law 300）

政策と制度

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。

政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。

「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして（それらを前提として）、問題を政策的・制度的に解決する（学問を実際に使う）ことを目指します。

学科共通展開科目であり、「上級科目」と理解ください。

【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討と解決を試みます。

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で答えます。講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。できればそれらに重点を置きたいと思っています。（いわばゼミのような要素を入れるように努めるということです。）

履修要件とはませんが、初歩的ないし基礎的な法律学の知識はある程度前提として講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学／経済学／法学の思考の違い
第2回	政策の決定方法（1）「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルド・ヒックス基準、多数決／少数意見
第3回	政策の決定方法（2）「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制／半代表、政党の役割
第4回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第5回	政策・制度と市場「公共財か、価値財・負財か」	権限（entitlement）の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者

第6回	政策要求の宛先「投票箱（国会）か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第7回	政策と時間軸（1）「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach / population approach
第8回	政策と時間軸（2）「事前（pre）の予防か、事後（post）の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価（output / outcome）
第9回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミン戦略、限定合理性、ヒューリスティック
第10回	政策実現の手法（1）「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパーリング、努力義務・不完全義務
第11回	政策実現の手法（2）「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第12回	政策実現の手法（3）「一律強制か、任意・選択か」	強行規定と任意規定、majority default / penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第13回	政策・制度の担い手「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第14回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『法政策論への招待』（信山社、2022年）（2000円+税）をテキストとして指定します。（なお基本的にテキストに沿って進めることもあり、授業のオンライン配信等はいりません。）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。希望する参加者とのやり取り・意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点を勘案します。履修者人数によりますが、むしろそちらに重点を置きたいとは思っています。（いわばゼミ的な運営を目指すということです。）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【その他の重要事項】

中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。基礎的な法律学（民法、憲法等）はある程度前提として講義しますのでご注意ください。

【Outline (in English)】

This course deals with policy and institution. At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institution. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOS300EB (その他の社会科学 / Social science 300)

人的資源論

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技能(skill)とは何かという問いを出発点として、人的資源管理の歴史的背景と基本的知識を理解した上で、「働かせる側」および「働く側」の両方の視点から、人的資源論をめぐる理念を再検討し、今日的な課題や日本社会の変容について考察する。

【到達目標】

技能とは何かを理解し、人的資源管理の歴史的背景を踏まえた上で基本的知識を身に着ける。それを通じて、将来のキャリア形成と問題解決に役立つ構造的・制度的・組織的背景への理解を深め、同時に批判的思考と社会学的発想力をもてるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。課題等に対するフィードバックは、翌週以降の講義においてリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	技能 (Skill) とは何か	技能の概念、技能に関する諸制度
第3回	人的資源管理の史的概観 1	マネジメント側から見た人的資源論（科学的管理、人間関係管理）
第4回	人的資源管理の史的概観 2	マネジメント側から見た人的資源論（行動科学的管理、HRM）
第5回	人的資源管理の史的概観 3	批判理論の検討（労働過程論、社会学的視角、クリティカル・マネジメント研究など）
第6回	ジェンダーと労働	ジェンダーギャップ、男性性と労働、ジェンダーに関わる施策
第7回	ダイバーシティと労働	アファーマティブアクション、人的資源論と多様性、ビジネスと人権など
第8回	人的資源と日本社会 1	日本における技能形成史
第9回	人的資源と日本社会 2	日本の雇用システムと技能形成
第10回	グローバル化と人的資源 1	アジアにおける日本、国境を越える労働市場
第11回	グローバル化と人的資源 2	移住労働者をめぐる政策変容
第12回	グローバル化と人的資源 3	移住労働者をめぐる雇用・労働政策・産業政策（教育訓練、資格制度、処遇など）
第13回	グローバル化と人的資源 4	移住労働者をめぐる社会的包摂

第14回 まとめ

授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや配布資料を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

岡田行正（2008）『新版 アメリカ人事管理・人的資源管理史』同文館出版

その他、授業内で適宜参照する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムのアンケート機能などを活用しながら、双方向的な授業進行を心掛ける。リアクションペーパーなどを適宜紹介しながら前回のフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

進行によって若干の内容変更の可能性はある。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic ideas of human resources theory while taking account of the historical background of the development of the theories, alternative perspectives of recent critical studies, as well as changing employment relationships in Japan.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports: 40%、term-end examination: 60%

MAN200EB (経営学 / Management 200)

社会・イノベーション論 I

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「イノベーション」は経済成長だけでなく、環境問題、地域活性化、貧困対策などの社会課題を解決する手段としても注目されています。イノベーションとは、単なる技術革新（テクノロジーの発展）だけではなく、新しい製品やサービスの創出、ビジネスモデルの変革、社会制度の改革を通じて、「社会に新たな価値をもたらすプロセス」を指します。例えば、スマートフォンは通信技術の進化だけでなく、人々のコミュニケーションのあり方そのものを変えたイノベーションの一例です。中でも、「社会イノベーション（ソーシャル・イノベーション）」は、社会的課題の解決を目的とした新しい仕組みや制度の構築を意味します。例えば、シェアリングエコノミー（UberやAirbnb）や、再生可能エネルギーを活用した地域電力システムなどは、社会イノベーションの代表例といえます。これらのイノベーションは、単なる企業の利益追求ではなく、社会全体の持続可能性や公平性の向上を目的としています。

本講義では、イノベーションの基本概念から、社会における実践的な事例、さらには企業がどのようにイノベーションを生み出し活用しているのかを学びます。講義の前半では、「イノベーションが生まれる社会的・経済的背景」を探り、後半では、「企業や組織がどのようにイノベーションを促進し、活用しているのか」を具体的に考察します。

本講義を通じて、学生はイノベーションを単なる技術革新や経済成長の手段として捉えるのではなく、社会課題解決の手段としても理解し、応用できる力を養います。社会イノベーションの重要性を学び、自らの視点で新たな価値創出の可能性を考える契機となることを期待しています。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・イノベーションが生まれる社会的・経済的背景の理解
- ・企業におけるイノベーションのプロセスと戦略の把握
- ・競争環境におけるイノベーションの役割と影響の分析
- ・社会課題解決の手段としてのイノベーションの活用方法の考察
- ・論理的な思考力と実証的な分析能力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、パワーポイントを活用した講義形式を基本としながら、受講生が主体的に学べるよう、ディスカッションも適宜実施します。理論的な枠組みだけでなく、実際のビジネス事例や政策動向を交えながら、より実践的な視点でイノベーションを考察する機会を提供します。

また、最新の研究成果や社会動向を適宜取り入れ、企業の実際のイノベーション活動がどのように展開されているのかをリアルタイムで学ぶことを重視します。受講生には、積極的に議論に参加し、批判的かつ創造的な視点を持って学習を進めることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションとは何か？	イノベーションの定義と本講義の概要
第2回	企業の目的と社会的責任	資本家の所有権概念から企業の目的を考察
第3回	資本主義と競争	資本主義の基本原則と競争のメカニズム
第4回	社会における分業と協業	生産活動を効率的に行うための分業と協業の役割
第5回	ソーシャルイノベーション	社会課題の解決を目的としたイノベーションの実践
第6回	ビジネスモデルの見取り図	価値創出の重要性とビジネスモデルキャンパスの理解
第7回	競争戦略論	競争優位を獲得するための戦略の基礎
第8回	ブルーオーシャン戦略	価値革新を通じた競争の回避と市場創出
第9回	ビジネスエコシステム論	産業構造の変化と水平分業への転換
第10回	規制とイノベーション	競争環境を形成する強制的ルールとしての規制
第11回	標準とイノベーション	競争環境を形成する自発的ルールとしての標準
第12回	知的財産制度	知的財産の保護とイノベーション促進の関係
第13回	オープン&クローズ戦略	エコシステムの発展と競争優位の確保の両立
第14回	まとめ	前期の学習内容の総括とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げます。

【その他の重要事項】

本講義は、後期開講の「社会・イノベーション論Ⅱ」と連続する内容となっており、より高度な理解を深めるために、両方の履修を推奨します。受講生には、イノベーションに関する基礎的な知識を習得するとともに、実社会での応用を意識しながら学ぶ姿勢が求められます。

【Outline (in English)】

The course "Social Innovation Theory I" explores the role and mechanisms of innovation in society, emphasizing both theoretical foundations and real-world applications. Innovation is not only technological advancement but also the creation of new business models and social systems that generate value. This course examines how innovation emerges from social and economic contexts and how companies and organizations drive and implement innovation. Special attention is given to social innovation, which aims to address societal challenges such as sustainability, inequality, and community development. Through lectures and discussions, students will gain a comprehensive understanding of how innovation contributes to both economic growth and social progress.

By the end of this course, students will be able to understand the social and economic conditions that foster innovation, analyze the processes and strategies of innovation within organizations, evaluate the role of innovation in competitive environments, explore how innovation can be used as a tool for solving social issues, and develop logical thinking and analytical skills.

Students are expected to actively engage in class discussions and review relevant literature before each session. They should also spend approximately two hours per week preparing for lectures and reviewing course content in order to deepen their understanding and contribute meaningfully to class discussions.

Grading is based on a final examination, which accounts for one hundred percent of the overall evaluation. This assessment will measure students' understanding of key theories, their ability to apply concepts critically, and their capacity to articulate logical arguments using real-world examples.

MAN300EB (経営学 / Management 300)

社会・イノベーション論II

糸久 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「新しい技術や制度がどのように社会に影響を与え、イノベーションを生み出しているのか」をテーマに、技術・政策・マネジメントの視点から社会イノベーションを深く学びます。前期の「社会・イノベーション論I」で学んだイノベーションの基礎的な考え方や企業のイノベーション戦略を踏まえ、後期ではより具体的に「技術の社会実装」について考えていきます。

例えば、AIやロボット、IoT、シェアリングエコノミーといった新しい技術は、私たちの暮らしや働き方をどのように変えていくのか。また、環境問題の解決に向けたグリーンイノベーションや、モビリティの未来を形作る次世代エコシステムなど、社会を大きく変える技術と政策はどのように設計されているのか。こうした問いをもとに、各国のイノベーション政策の事例を分析し、企業がどのように技術革新と経営を両立させているのかを学びます。さらに、イノベーションを成功に導くには、単なる技術開発にとどまらず、企業のオペレーションマネジメント（業務プロセスの最適化）が不可欠です。どれほど優れた技術であっても、それを効率的かつ持続的に運用できなければ、社会に大きな影響を与えることはできません。製品やサービスの品質管理、コスト管理、納期管理といったオペレーションの視点を学びながら、技術革新と経営管理の両立についても考察します。

本講義では、理論だけでなく実際のビジネス事例を交えながら、技術・政策・マネジメントの視点を統合して社会イノベーションを考える力を養います。技術が社会にどのように組み込まれ、新しい価値を生み出すのかを深く理解し、持続可能なイノベーションを創出するための知識と視点を身につけることを目指します。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・新興技術とイノベーションの関係を理解し、技術が社会に与える影響を分析する力
- ・イノベーション政策の役割を理解し、各国の政策事例をもとに政策が企業や社会に及ぼす影響の考察
- ・オペレーションマネジメントの基本概念を把握し、企業がイノベーションと業務効率化を両立させる手法の理解
- ・技術・政策・マネジメントの視点を統合し、持続可能な社会イノベーションの実現に向けた戦略の検討
- ・実践的な視点から社会イノベーションを分析し、論理的な思考力と実証的な分析能力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、パワーポイントを活用した講義を基本としつつ、各回のテーマに応じたディスカッションも取り入れます。受講生は、講義内での議論を通じて、自らの考えを深める機会を得るとともに、最新の事例を基に理論と実践の接続を図ります。

また、イノベーションの社会実装に関する理解を深めるため、各国の政策動向や企業の先進事例についても紹介し、単なる理論学習にとどまらない実践的な知識を身につけることを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	技術とイノベーション	イノベーションを実現する技術の役割と関係性を概観
第2回	デザイン思考	創造的な問題解決手法としてのデザイン思考の意義と活用
第3回	シェアリングエコノミー	所有から使用へと変化する消費行動の実態とその社会的影響を考察
第4回	人工知能とロボット共生社会	AI・ロボット技術が人間社会に与える影響を多角的に分析
第5回	次世代モビリティエコシステム	モビリティ分野のイノベーションを探索
第6回	IoT社会のに向けたイノベーション政策	欧州を中心としたIoT社会実現のための政策事例を分析
第7回	グリーンイノベーション政策	カーボンニュートラル実現に向けた政策と技術革新の関係を理解
第8回	両利き経営	企業がイノベーションとオペレーション活動を両立させるための戦略
第9回	制約理論	組織のボトルネックを特定し、効率的に解消する方法
第10回	品質管理	イノベーションの実装過程における品質管理の重要性
第11回	コスト管理	コスト削減とイノベーション投資のバランスを考察
第12回	納期管理	競争優位を確立するための納期管理とサプライチェーンの最適化
第13回	フレキシビリティ	企業が品種と生産量の変動に対応するための柔軟性戦略
第14回	総括	社会イノベーション論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げるようにします。

【その他の重要事項】

本講義は、「社会・イノベーション論I」で学んだ基礎知識を踏まえ、より実践的な視点から社会イノベーションを探索する内容となっています。そのため、「社会・イノベーション論I」の履修は必須ではありませんが、本講義の理解を深める上で推奨されます。社会イノベーションは、技術・政策・経営の複合的な視点を必要とする分野であり、単なる知識の習得だけでなく、理論を実社会に応用する姿勢が求められます。本講義を通じて、受講生が自らの関心を社会と結びつけ、持続可能なイノベーションのあり方を主体的に考えることを期待します。

【Outline (in English)】

The course "Social Innovation Theory II" explores how new technologies, policies, and management strategies contribute to social innovation. Building on the foundational knowledge from "Social Innovation Theory I," this course focuses on the practical implementation of innovation in society. Students will examine emerging technologies such as AI, IoT, and mobility ecosystems, analyze innovation policies across different countries, and study how businesses integrate innovation with efficient operational management. Through case studies and discussions, the course aims to provide a comprehensive understanding of how innovation is effectively adopted and scaled within society.

By the end of this course, students will be able to analyze the relationship between emerging technologies and innovation, assess the role of innovation policies in shaping business and societal change, understand the fundamentals of operations management in the context of innovation, and integrate technological, policy, and management perspectives to develop sustainable innovation strategies.

Students are expected to actively engage in discussions, review case studies, and conduct independent research. A minimum of two hours per week should be allocated to class preparation and review to deepen understanding and contribute effectively to discussions.

Grading is based on a final examination (100%), which evaluates students' comprehension of key theories, analytical skills, and ability to apply learned concepts to real-world scenarios.

MAN200EB (経営学 / Management 200)

中小企業論

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「日本経済の根幹を支える中小企業の可能性と挑戦を学ぶ」ことをテーマに、理論と実践の両面から中小企業の経営戦略を探究します。中小企業は、大企業にはない柔軟性や地域との強い結びつきを活かし、新たな価値を生み出す力を持っています。一方で、限られた経営資源の中で生き残り、成長し続けるために独自の経営手法を採用してきました。

本講義では、従来の研究が提示してきた「資源制約により発展が妨げられる『問題型』の中小企業論」と「小さいからこそ持つ発展性や競争優位性に着目する『貢献型』の中小企業論」の両面を学びながら、中小企業の実態を深く理解していきます。特に、多摩地域で活躍する中小企業の経営者を毎回異なるゲストとして、計8回程度の講演を実施します。これにより、「リアルな経営の現場」に触れる機会を大幅に増やし、実践的な知識を得ることができます。ゲスト講演では、企業の成長戦略、新規事業の立ち上げ、地域との関わり方、経営者の決断など、教科書では学べない生の経営の知恵を直接聞くことができます。

本講義は、「経営戦略を学びながら、実際の経営者の話を聞ける、まさにビジネスの最前線を体感できる授業」です。中小企業の可能性や課題を深く理解し、将来のキャリアに活かしたい学生にとって、実りの多い学びの場となるでしょう。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・中小企業が持つ「問題性」と「発展性・競争優位性」の両面を理解し、企業規模が経営に与える影響を考察する力の習得
- ・多摩地域の中小企業経営者の実体験を通じて、企業経営の現場に即した実践的な知識を獲得する力の向上
- ・ベンチャー企業や地域密着型企業の成長戦略を分析し、持続可能な経営モデルについて考える力の育成
- ・中小企業と地域社会の関係性を理解し、地域経済における中小企業の役割を考察する視点の強化
- ・講義で学んだ理論と実践を統合し、自らのキャリアやビジネスに応用するための思考力と判断力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、講義形式とゲストスピーカーによる講演を組み合わせた「アクティブ・ラーニング型授業」です。

前半（1～5回）では、中小企業の基本理論を学び、企業規模の特性や経営戦略の違いを理解します。

後半（6～13回）では、多摩地域で活躍する中小企業経営者をゲストに迎え、リアルな経営の現場について学びます。受講生は、事前にゲスト講演に関連する課題を調査し、講演後にディスカッションやリアクションペーパーを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の目的・進め方の説明

第2回	中小企業とは？	中小企業の定義と、日本経済における役割を理解
第3回	複眼的視点からの中小企業論	資源制約の中で競争優位を確立する戦略
第4回	イノベーションと中小企業	独自の技術やビジネスモデルを生み出す中小企業を分析
第5回	産業集積と産業クラスター	産業クラスターを活用した中小企業の成長戦略
第6回	多摩地域の中小企業(1)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第7回	多摩地域の中小企業(2)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第8回	多摩地域の中小企業(3)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第9回	多摩地域の中小企業(4)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第10回	多摩地域の中小企業(5)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第11回	多摩地域の中小企業(6)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第12回	多摩地域の中小企業(7)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第13回	多摩地域の中小企業(8)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第14回	中小企業論のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー提出40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、教室での学びに加えて、経営者のリアルな経験を直接聞くことができる貴重な機会を提供します。授業で得た知識を活かし、実際の経営者に質問することで、より深い学びにつなげることができます。

「将来、経営や起業に関心がある」「企業経営のリアルを知りたい」「中小企業の持つ魅力と可能性を学びたい」という学生にとって、大変有意義な講義です。

【Outline (in English)】

The course "Small and Medium-Sized Enterprise (SME) Management" explores the role, challenges, and growth strategies of SMEs, which are the backbone of the Japanese economy. While SMEs face resource constraints, they also possess unique competitive advantages such as flexibility, innovation, and strong regional ties. This course provides both theoretical insights and practical knowledge, incorporating guest lectures from successful SME entrepreneurs in the Tama region to offer firsthand perspectives on real-world management challenges and strategies. Through these interactions, students will gain a deeper understanding of how SMEs adapt, innovate, and contribute to regional economic development.

By the end of the course, students will be able to understand both the challenges and competitive strengths of SMEs, analyze business strategies for growth and sustainability, evaluate the role of SMEs in regional economies, and integrate theoretical and practical knowledge to formulate management insights applicable to real-world business situations.

Students are expected to actively engage in discussions and prepare for guest lectures by researching the industries and companies in advance. Additionally, they should allocate at least two hours per week for reviewing lecture content and completing assignments.

Grading will be based on reaction papers (40%), assessing students' reflections and questions on guest lectures, and a final exam (60%), evaluating their understanding of SME management theories and practical applications.

ECN200EB (経済学 / Economics 200)

地域産業論 I

加藤 寛之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関われるようになることをテーマとする。

【到達目標】

農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回授業前日までに、授業支援システムに教材と簡単な課題をアップします。課題は授業支援システム上で提出し、締切を設けます。締切は授業日です。

最初の数回は授業のやり方に慣れるまでの移行期間とし、課題提出に遅延を認めます。締切後でも授業支援システムに提出できるように設定しておきます。

期末試験は実施せず、課題とレポートで評価します。

フィードバックは課題ごとにコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ランチェスター戦略・グルディス・討議	能力・資源で勝るもの勝つ方法・グルディス・討議
第2回	産業の立地	チューネンの農業立地論、ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第3回	ものづくりは設計情報の転写	プロセス分析
第4回	ランチェスター戦略2	様々な事例
第5回	映画スーパーの女	スーパー立て直しの実話
第6回	1.企業と市場との関係2.原価企画3.環境コストマネジメント4.ライフサイクル・コスト5.ベンチマーキング	1.企業と市場との関係2.原価企画3.環境コストマネジメント4.ライフサイクル・コスト5.ベンチマーキング
第7回	1.価格決定2.ABC/ABM 3.品質とコストの関係	1.価格決定2.ABC/ABM 3.品質とコストの関係
第8回	日本の農業の問題点製造業化する農業・グルディス・討議	ベルグアース・グルディス・討議
第9回	第三セクターアウガの失敗	第三セクターアウガの失敗
第10回	稼ぐまち	稼ぐまちになるには
第11回	縮小ニッポンの衝撃夕張市	縮小ニッポンの衝撃鈴木直道元夕張市長

第12回	島根県の人口流出	関係人口
第13回	撤退戦の殿（しんがり） 1. 3割自治と地方交付税と国庫支出金（補助金）2. 財政再生団体となった夕張市が借金を返済できる仕組み3. 夕張市のように自主財源3割にも満たぬ自治体は実は数多い4. 福井県の事例5. 山口県の事例6. ソフトな予算制約7. 学んでおいの方が望ましいいくつかの概念8. ポンチ絵で因果関係を整理してみよう	撤退戦の殿（しんがり） 1. 3割自治と地方交付税と国庫支出金（補助金）2. 財政再生団体となった夕張市が借金を返済できる仕組み3. 夕張市のように自主財源3割にも満たぬ自治体は実は数多い4. 福井県の事例5. 山口県の事例6. ソフトな予算制約7. 学んでおいの方が望ましいいくつかの概念8. ポンチ絵で因果関係を整理してみよう
第14回	国境を越えるクラスター同士の連携・グルディス・討議	東アジアのハードディスクドライブ産業・グルディス・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

村上 英樹 (著), 高橋 望 (著), 加藤 一誠 (著), 榎原 胖夫 (著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房

伊藤 正昭 (著)『新地域産業論—産業の地域化を求めて』学文社
中村剛治郎編(2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業時間内に行われる毎回のミニテストの点数の累計点55%。
2. 授業時間内に行われる毎回のディスカッションでの発言の点数の累計点15%。
3. 授業後に課される課題の点数の累計点10%。
4. 期末試験期間に行われる期末試験の点数20%。

事前に予習動画を視聴してくることを前提に、毎回の授業でミニテストを行います。ミニテスト後に解説を行い、解説を踏まえた上でディスカッションを行います。毎回簡単な課題が課され、期末試験も実施します。

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回課題を課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCによるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【その他の重要事項】

授業開始は学年暦通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries and to enable each participant to acquire the eyes (concepts and theories) necessary to think about regional industries and to become involved in the revitalization of regional industries.

ECN300EB (経済学 / Economics 300)

地域産業論Ⅱ

加藤 寛之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特性の異なる地域を取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきかを考えることをテーマとする。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。

【到達目標】

製造業、農業、流通業、観光業など、現代の地域産業の実態、理論や政策課題について、一定程度以上の理解を得てもらうことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最新動向を踏まえつつ、地域産業の実態と理論について学ぶ。各回、章毎にテキストを扱う予定である。

数回に一度課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期に登場すること
第2回	推し推される関係について	マーケティング戦略の分析概念を適用して『ももいろクローバーZ』現象を捉え直す。「メンバー」と「スタッフ」と「モノノウ」
第3回	まちおこしとあまちゃん、その前提	まちおこしとあまちゃん、そのぜんていとなるもの
第4回	顧客は何を買っているのか	便益の束 三層構造
第5回	まちおこしが描かれるあまちゃんの世界	まちおこしが描かれるあまちゃんの世界
第6回	マーケティングとまちづくり	マーケティングとまちづくり
第7回	マーケティングの事例とあまちゃん	マーケティングの事例とあまちゃん
第8回	絞れば広がる、広がるところに絞る	絞れば広がる、広がるところに絞る
第9回	東京1一極集中の背景	産業構造の変化と人口移動
第10回	日本の戦後の道のり	日本の戦後の道のり
第11回	田中角栄の功罪	田中角栄の功罪
第12回	産業構造の高度化と人口移動	産業構造の高度化と人口移動
第13回	集積の経済と混雑の不経済	集積の経済と混雑の不経済
第14回	草津温泉	草津温泉再生物語

第12回 「企業」を「群」として見る視点 ものづくりは設計情報の転写
分業と産業集積

第13回 あまちゃんに描かれるあいどる
あまちゃんに描かれるあいどる
あまちゃんに描かれるあいどる
あまちゃんに描かれるあいどる

第14回 草津温泉 草津温泉再生物語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。参考書は適宜指定します。

【参考書】

参考資料は紹介します

【成績評価の方法と基準】

1. 授業時間内に行われる毎回のミニテストの点数の累計点55%。
2. 授業時間内に行われる毎回のディスカッションでの発言の点数の累計点15%。
3. 授業後に課される課題の点数の累計点10%。
4. 期末試験期間に行われる期末試験の点数20%。

事前に予習動画を視聴してくることを前提に、毎回の授業でミニテストを行います。ミニテスト後に解説を行い、解説を踏まえた上でディスカッションを行います。毎回簡単な課題が課され、期末試験も実施します。

【学生の意見等からの気づき】

情報量が多い、課題が多い、でも面白いという評価が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

PCないしタブレット、スマホでは厳しい

【その他の重要事項】

口頭での説明の消化、板書内容の消化等が課題を解く上で必要です。

【Outline (in English)】

By taking up regions with different characteristics and examining the specific realities and theories of regional industries, we aim to acquire the concepts and theories necessary when considering regional industries. The theme of this course is to consider how these concepts and theories should be utilized in the analysis and discussion of actual regional industries. The lesson plan is subject to change slightly depending on the development of the class.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

産業社会学 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。
課題等に対するフィードバックは、授業の中でリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	産業と社会変動 1	仕事とは何か？（工業社会、産業・分業、社会学的視点から働くことを考える）
第3回	産業と社会変動 2	技術と近代（テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなど）
第4回	産業と社会変動 3	技術と未来（産業社会・情報社会、自動化と省力化、人工知能、雇用と失業）
第5回	社会関係・制度 1	職場組織と人間関係（人間関係論、ホワイトカラー、感情労働における感情の管理）
第6回	社会関係・制度 2	労働市場と労使関係（労働市場論・労使関係論から見る今日の変容）
第7回	社会関係・制度 3	労働組合・労働運動（雇用類似の働き方と労働運動、ドキュメンタリーを観て考える）
第8回	意識・文化 1	労働の意味、労働者であること（労働倫理、アイデンティティ、社会化、満足、疎外）
第9回	意識・文化 2	今日的な労働の諸側面（官僚制、フレキシビリティと労働者の意識、技能の意味）

第10回	再生産 1	労働者になること（労働者文化、社会階層の再生産、名著を読む）
第11回	再生産 2	日本における教育と職業（教育の職業的意義、キャリア教育、適応と抵抗）
第12回	持続可能性 1	身体と脆弱性（身体イメージ、社会学における身体と社会、仕事の社会学、労働災害）
第13回	持続可能性 2	グローバル化と相互依存（移動の拡大と労働移民、アジア、移動をめぐる諸理論）
第14回	まとめ	授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

資料講読や動画視聴などを取り入れつつ、能動的な授業参加を促す工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers in the era of globalization. The issues student will learn in this course cover various topics including social division of labor, industrialization/development and its consequences, human relations in workplace, ideology and alienation related to work, labor movement, labor migration and so on.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports: 40%, term-end examination: 60%

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

産業社会学Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会構造変動の下で、これまでの産業社会が前提としてきた雇用慣行や労働のあり方が問い直しを迫られている。雇用形態の変化、環境問題やリスクの拡大、グローバル化や多様性の包摂など、現在、社会が直面している問題について、身近なテーマや具体的な社会問題を通じて考える。

【到達目標】

産業と労働に関わる諸問題について、①その背景と実態を理解し、②自らに関連するものとして捉え、③問題解決のためにどのような対策・制度・政策が求められているのかについて、他者と議論し、考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・適宜、映像資料等を活用し、グループ・ディスカッションなどを取り入れながら、リアクションとフィードバックを重ねることで、参加者の問題意識の発展を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	雇用を問い直す1	雇用はどう変化しているのか？
第3回	雇用を問い直す2	働き方の曖昧化について考える
第4回	労働時間について1	産業社会と労働時間（『モモ』を読む、グループ・ディスカッション）
第5回	労働時間について2	産業社会と労働時間（『ブルシット・ジョブ』を読む、グループ・ディスカッション）
第6回	労働と環境について1	労災・公害問題を考える（ゲスト講師、アスベスト労災問題を考える）
第7回	労働と環境について2	エッセンシャルワークをめぐる労働環境と処遇について考える
第8回	労働と環境について3	地域における生業と公害問題を考える（『阿賀に生きる』を観る）
第9回	インフラと労働について1	開発主義と労働の戦後史について考える
第10回	インフラと労働について2	開発主義の現在について考える
第11回	越境的な移動について1	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第12回	越境的な移動について2	日本とアジア諸国における越境的労働市場について考える

第13回 越境的な移動について3 移動の拡大と社会統合について考える

第14回 まとめ 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など

②期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション回はメンバーを固定せず引き続きランダムで座席表を指定することで、多様な意見に触れるようにする。全体討議では黒板を利用して、議論の流れや多様な論点を可視化する。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセスできるもの）

【その他の重要事項】

・秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

・授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. Students will learn various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy. Student will be expected to actively participate in group discussion on each issue.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have knowledge and multiple perspectives on various labor issues and to develop communication skills in discussion.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports: 40%, term-end examination: 60%

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

国際経営論 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論 I では、国際経営論に関する基本的な考え方と概念を学びます。そのなかでは、国際社会の変化を踏まえて、社会とその一員である企業がともに成長するためにどのような取り組みが必要なのかといった課題も取り上げます。その結果、国際経営論に関する基本知識とその知識の実践的な活用方法を修得することを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、文章によって説明できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。日常的に学習支援システムを確認・利用する必要があります。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営とは何か	ガイダンス
第2回	国際経営と環境	CAGE フレームワーク
第3回	海外直接投資の理論①	優位性の命題、内部化理論
第4回	海外直接投資の理論②	OLI パラダイム
第5回	多国籍企業の国際競争の歴史	今日に至る歴史
第6回	多国籍企業の組織デザイン	国際経営の進展と組織構造
第7回	トランスナショナル経営①	グローバル統合とローカル適応
第8回	トランスナショナル経営②	国際経営の4タイプ
第9回	海外子会社の経営①	海外子会社の所有政策
第10回	海外子会社の経営②	海外子会社の役割と成長
第11回	国際戦略提携	国際戦略提携のメリットとデメリット
第12回	異文化経営	各国文化のとらえ方
第13回	国際経営とCSR	多国籍企業の社会的責任
第14回	総括・試験	授業のまとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

梶浦雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（第三版）』文真堂。

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2021）『国際経営（第5版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：30%、期末試験：70%で評価します。

- ・課題の提出は期限厳守です。
- ・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。
- ・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Basic theories of international business,
- 2) Basic frameworks of international business,
- 3) Advantages/disadvantages of international business.
- 4) Social responsibility of multinational companies.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

- 1) Understanding of basic theories of International Business,
- 2) Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):30% and final exam: 70%.

ECN300EB (経済学 / Economics 300)

国際経営論 II

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論 II では、実際の国際経営活動の多様な領域を学びます。そこでは、日本多国籍企業による各種国際経営活動の実際にも焦点を当て、その特徴や課題を議論します。後半では、その他の先進国および新興国にも焦点を当てます。その結果、国際経営論の基本知識とその実践的な活用方法に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論の基本知識をもとに、企業の国際経営の現象を論理的に分析できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。日常的に学習支援システムを確認・利用する必要があります。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の基本視座	I-R フレームワーク
第2回	国際マーケティング①	国際マーケティングの特徴
第3回	国際マーケティング②	日本多国籍企業の事例
第4回	海外生産①	国際生産ネットワーク
第5回	海外生産②	日本多国籍企業の事例
第6回	国際研究開発①	HBE/HBA型
第7回	国際研究開発②	日本多国籍企業の事例
第8回	国際サプライチェーン・マネジメント	国際的な調達活動と製販統合
第9回	国際人的資源管理①	EPRG プロファイル
第10回	国際人的資源管理②	日本多国籍企業の事例
第11回	先進国と国際経営	先進国市場の特徴
第12回	新興国と国際経営①	新興国市場の特徴
第13回	新興国と国際経営②	新興国企業の特徴
第14回	総括・試験	授業内容の総括・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2021）『国際経営（第5版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：30%，期末試験：70%で評価します。

・課題の提出は期限厳守です。

・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。

・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the various fields and activities of international business based on the basic knowledge acquired in International business 1 in Spring semester. The course is mainly composed of the followings:

1)Marketing, Production, R&D and HRM by multinational companies,

2)The characteristics of multinational companies' behavior in developed and emerging countries.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

1)Understanding of basic theories of International Business,
2)Analyzing of international business theoretically and empirically,

3)Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):30% and final exam: 70%.

ECN200EB（経済学 / Economics 200）			第2回	資金の流れ	最終的な貸し手と借り手の変遷（経済部門別の資金過不足、戦後日本の部門別資金過不足の推移、高度成長期、安定成長期の貸し手と借り手、バブル期・失われた10年の貸し手と借り手、資金の流れの変化と金融システム）、現代日本の資金循環（バランスシートと資金循環統計、資金循環の経路と形態、日本における資金の流れの特徴）、日本の金融機関（民間金融機関と公的金融機関、預金取扱金融機関、その他の金融機関、専門金融機関制度）について学修する。
金融システム論					
松田 岳					
開講時期：春学期授業/Spring 単位数：2単位					
曜日・時限：火1/Tue.1					
その他属性：〈他〉〈優〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			第3回	銀行	銀行の制度、銀行の活動（銀行の業務、金融自由化と規制緩和）、銀行経営（銀行のバランスシート、銀行の収益構造、収益構造の現状）、主要な経営課題、新規参入銀行について学修する。
金融システム論は金融を初めて学ぶ学生に向けて、具体的な金融仕組みを金融理論と結びつけて学ぶ科目です。金融の仕組みと働きの基礎から学修し始め、最新の金融動向やリーマンショック、金融危機後の非伝統的金融政策、フィンテックの発展なども取り上げます。学生が金融に関する幅広い知識と理解を養い、金融システム、金融取引、金融政策、および金融システムの安定性に関する複雑な概念を総合的かつ深いレベルで理解し、説明できるようにすることが本科目の目的です。			第4回	金融市場	日本の金融市場（金融市場の分類、金融市場の担い手）、短期金融市場（インターバンク市場、オープン市場）、株式市場（株式の特徴と種類、株式市場の現状、株式市場間競争と取引所再編）、債券市場（債券の特徴と種類、債券市場の現状、社債市場改革）について学修する。
【到達目標】			第5回	金融の新しい仕組み	金融の流動化・証券化（流動化・証券化の仕組みと分類、現状、課題）、投資信託（投資信託の仕組みと分類、現状、課題）、フィンテック（定義、通貨決済、クラウドファンディング、家計資産管理、保険）、ブロックチェーン（貨幣発行自由化論、人工知能）について学修する。
この科目の到達目標は第一に金融システム（資金循環、金融機関、金融市場、新しい金融の仕組み等）を、第二に金融取引（貨幣の時間価値、イールドカーブ、不確実性、情報の非対称性、情報の不完備性、銀行の経済的機能、取引所・格付の機能、公的部門の役割等）を、第三に金融政策と金融システムの安定（貨幣の機能、信用創造、貨幣と物価、金融政策、ブルーデンス政策）を理解し、説明できるようになることです。			第6回	金融取引と金利	貨幣の時間価値と金利（現在価値と将来価値、さまざまな金利の概念、金利の働き）、満期の長さ金利の関係：金利の期間構造（利回り曲線、長短金利の関係、金利裁定、金利の期間構造の理論、金融政策と金利の期間構造、イールドカーブ・コントロール）について学修する。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			第7回	金融取引の特徴と課題	不確実性と金融取引（取引相手をみつける問題、不確実性とリスク負担の問題）、情報の非対称性と金融取引（モラルハザードの問題、逆選択の問題）、契約の不完備性と金融取引（契約の不完備性、契約の不完備性のモデル、中古車市場と保険市場における逆選択とモラルハザード）について学修する。
社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/			第8回	中間試験	授業の前半部分の内容（金融システム、金融取引）について理解し、説明できるようになっているかを測定するために中間試験を実施する。試験範囲は第1回目から第7回目の授業内容とし、選択、空欄補充、記述などの形式で出題する。
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
「授業時間外の学修」で指定した方法で学生が準備学修・復習を行うことを前提として、授業は実施されます。授業は教科書のポイント解説を行う「講義」を中心とし、学生から質問が提出された場合は「質疑応答」の時間を設けます。また、教科書の内容の理解度を測定する確認問題（課題）を実施し、学生自らが到達目標がどれだけ近づいているかを確認する機会とします。また、達成度合いが低い課題については、次の授業内で復習と解説から構成されるフィードバックを行います。授業の最後に振り返りの機会を設け、理解不足の点が無いかわ問自答して頂きます。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
なし / No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
第1回	金融の仕組みと働き	金融システムと金融取引（意義、特徴、情報の非対称性、契約の不完備性）、金融システムの働き（資金移転と取引費用の軽減、流動性の付与、リスク移転、価格メカニズムと情報公示機能）、金融方式と資金の流れ（直接金融と間接金融、多様な資金の流れ）について学修する。			

第9回	銀行の働き	銀行の経済的機能（資産変換機能、情報生産機能）、規模の経済性と範囲の経済性、銀行と企業の取引関係（契約の不完備性と再交渉、日本のメインバンク制、リレーションシップ・バンキング）について学修する。
第10回	金融取引と政府の役割	公的金融の仕組み（金融に政府介入が必要な理由、金融への介入手段、日本の公的金融、平時と危機時）、民間金融機関貸出の信用補完（公的信用保証の仕組み、信用保証制度の機能と弊害、信用保証制度の今後）、金融市場への政府の関与（インフラとしての金融市場、債権の証券化、ベンチャーキャピタル、ファンド）について学修する。
第11回	貨幣の働きとマクロ経済	貨幣の働き（3つの機能、現代の貨幣、マネーストック統計）、決済（決済の仕組み、決済システム）、信用創造（数値例、実際の信用創造、マネーストックと銀行貸出の増減）、貨幣と物価（貨幣数量説、最近の流通速度の働き、マネー・ビュー、クレジット・ビュー）について学修する。
第12回	日本銀行と金融政策	日本銀行と金融政策運営（日本銀行とは、金融政策の目標と手段、金融政策の運営）、金融政策手段と準備預金の需給、金融政策の効果、金融政策をめぐる近年の議論（量的緩和とその効果、金融政策の新しい試みと課題、マイナス金利政策、中央銀行の破綻）について学修する。
第13回	金融危機とブルーデンス政策	金融危機の背景（マクロ経済の環境、金融機関のリスク管理）、ブルーデンス政策の手段（事前的措施と事後的措施、中央銀行の最後の貸し手機能、公的資金の注入）、ブルーデンス政策の将来像について学修する。
第14回	授業内試験	全ての授業内容について理解し、説明できるようになっているかを測定するために試験を実施する。選択、空欄補充、記述などの形式で出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書(電子書籍)は授業開始時に指定します。

【参考書】

参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 金融システムについて理解し、説明できるようになること。38.5%
- (2) 金融取引について理解し、説明できるようになること。38.5%
- (3) 金融政策と金融システムの安定について理解し、説明できるようになること。23%

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業進行を求める声がありました。この意見に応え、今年度からは授業内容に関する質問を学修支援システムを通じて収集し、翌週にフィードバックをお返しすることとします。

【学生が準備すべき機器他】

1)学修支援システム等を利用できる環境を整えてください。2)学修支援システムの情報を授業前に確認しておいてください。3)大学のメールアドレスとパスワード、QRコードを読み取るためのスマートフォン等を必ず携帯してください。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学、マクロ経済学の単位を事前に修得しておく、本科目の理解が深まると考えます。本科目と関連する科目としては、国際経済論Ⅰ、国際経済論Ⅱ、社会・イノベーション論Ⅱ、社会保障法Ⅰ、社会保障法Ⅱが挙げられます。

【Outline (in English)】

Course outline

Financial System Theory is a course for students new to finance to learn about specific financial systems in the context of financial theory. Starting with the basics of how finance works and functions, the course also covers recent financial trends, the Lehman shock, non-traditional monetary policy after the financial crisis, and the development of FinTech. This course aims to help students develop a broad knowledge and understanding of finance so that they can understand and explain complex concepts related to the financial system, financial transactions, monetary policy, and financial stability at a comprehensive and in-depth level.

Learning Objectives

The objectives of this course are, first, to understand and explain the financial system (the flow of funds, financial institutions, financial markets, new financial structures, etc.), second, financial transactions (time value of money, yield curves, uncertainty, information asymmetry, information incompleteness, economic functions of banks, functions of exchanges and ratings, role of public sector, etc.), third, monetary policy and financial system stability (the function of money, credit creation, money and prices, monetary policy, prudential policy) should be understood and explained.

Learning activities outside of classroom

The required home study hours outside of class are 4 hours per week (6 hours per week if the student is absent). The required study hours may be longer if the student lacks academic ability or basic knowledge of economics and finance. In terms of preparation, please read through the relevant sections of the textbook three times and summarize the essential points of the textbook in your notebook. If you have any questions, please submit them before class. For post-lesson study, re-read your notes to consolidate your understanding of the class content. If you fail to answer correctly on the in-class confirmation test, review the corresponding section of the textbook. If possible, try the practice questions in the textbook.

Grading Criteria /Policy

Evaluation Percentage by Achievement Goals

- (1) To be able to understand and explain the financial system. 38.5%
- (2) To be able to understand and explain financial transactions. 38.5%
- (3) To understand and be able to explain monetary policy and financial system stability. 23%.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境経済学Ⅰ

蒲谷 景

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではまず、経済活動の結果として生じている気候変動や生物多様性の劣化などの環境問題を理解します。その上で、これらへの経済学的な対策のひとつとして実施されている環境の価値評価について学んでいきます。この環境評価については、費用便益分析の基礎などを理解した上で、その意義や手法、課題を詳細に学習していきます。

【到達目標】

人間の経済活動による環境問題を理解し、課題解決のための方策について経済学的な視点から論じることができるような力を養うことが目標です。具体的には以下の通りです。

- ・環境問題の現状を認識し、その原因について述べることができる。
- ・環境の価値評価の意義を理解し、その手法や課題について論じられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めます。各回の冒頭には前回の授業の復習の時間を設けます。この他、演習問題を解いてもらったり、関連する内容についてインターネットなどを通じて調べてもらったりすることもあります。また、小テストについては解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方などについて説明する。
第2回	持続可能な開発	持続可能な開発の内容や歴史、SDGsなどについて概観する。
第3回	気候変動	気候変動について理解する。
第4回	生物多様性	生物多様性の劣化について理解する。
第5回	汚染・廃棄物	汚染や廃棄物の問題について理解する。
第6回	環境問題まとめ	これまでの環境問題について復習しつつ、小テストを実施する。
第7回	費用便益分析	費用便益分析の基礎や割引率などの考え方を理解する。
第8回	環境評価の理論	環境評価の理論的枠組みについて理解する。
第9回	統計分析の基礎	環境評価に必要な統計分析の基礎を理解する。
第10回	仮想評価法	環境評価手法のひとつである仮想評価法について理解する。
第11回	選択実験	環境評価手法のひとつである選択実験について理解する。
第12回	ヘドニック法	環境評価手法のひとつであるヘドニック法について理解する。

第13回 トラベルコスト法 環境評価手法のひとつであるトラベルコスト法について理解する。

第14回 総括 これまでのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜紹介します。

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%：講義内容を正しく理解できているかどうかを評価基準とします。

平常点40%：復習を兼ねた小テストを授業内に実施します。また、授業内での設問への回答や授業課題への参画などについても評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

環境評価の授業についてはパソコンを持参してください（Excelを使用します）。

【Outline (in English)】

In this course, we first aim to understand environmental problems such as climate change and biodiversity loss that arise as outcomes of economic activities. We then study environmental valuation as one of the economic approaches used to address these issues. With respect to environmental valuation, after gaining an understanding of the fundamentals of cost – benefit analysis, we will examine its significance, methodologies, and challenges in detail.

SES300EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

環境経済学Ⅱ

蒲谷 景

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではまず、需要と供給などミクロ経済学の基礎を理解します。そして、外部不経済やコースの定理など環境経済学における基礎的な理論について学んでいきます。これらを踏まえ、環境税や排出権取引などの具体的な環境経済政策について詳細に学習していきます。

【到達目標】

人間の経済活動による環境問題を理解し、課題解決のための方策について経済学的な視点から論じることができるような力を養うことが目標です。具体的には、環境経済の理論を理解し、環境経済政策の必要性を説明できるということです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めます。各回の冒頭には前回の授業の復習の時間を設けます。この他、演習問題を解いてもらったり、関連する内容についてインターネットなどを通じて調べてもらったりすることもあります。また、小テストについては解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	消費者理論	ミクロ経済学における消費者理論について理解する。
3	生産者理論	ミクロ経済学における生産者理論について理解する。
4	余剰分析	ミクロ経済学における余剰分析について理解する。
5	外部性	外部経済と外部不経済について比較しながら理解する。
6	公共財	公共財の性質や共有資源の課題について理解する。
7	コースの定理	コースの定理について理解する。
8	経済理論まとめ	これまでの学習内容を復習しつつ、小テストを実施する。
9	環境税	環境税を経済学的に理解する。
10	補助金	補助金を経済学的に理解する。
11	キャップアンドトレード	排出権取引制度などのキャップアンドトレードについて理解する。
12	ポリシーミックス	価格規制や数量規制、それらのポリシーミックスについて理解する。
13	環境ナッジ	ナッジの理論と環境分野における応用について理解する。
14	総括	これまでのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜紹介します。

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%：講義内容を正しく理解できているかどうかを評価基準とします。

平常点40%：復習を兼ねた小テストを授業内に実施します。また、授業内での設問への回答や授業課題への参画などについても評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this course, we first develop an understanding of the fundamentals of microeconomics, including demand and supply. We then study basic theories in environmental economics, such as negative externalities and the Coase theorem. Building on these foundations, we examine specific environmental economic policies in detail, including environmental taxes and emissions trading schemes.

EVN200EB（その他の環境学 / Others 200）

エネルギー論

鞠子 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類学的な視点から人とエネルギーの関係を論じ、エネルギー問題の本質とは何かを考えていく。エネルギー技術の発展と環境問題についても解説し、人類存続のために世界が進むべき方向について考える。

【到達目標】

人とエネルギーの関りをベースとした学びを通して、エネルギーに関わる諸問題を客観的に理解し、適応策を考え得る能力を身に付けることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワポと配布資料を使った講義。課題を課し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・我々にとってエネルギーとは何か	授業の概要や進め方について説明し、エネルギーとは何かについて講義する
2	人とエネルギーのつながり～人類誕生から産業革命前夜～	人類や文明の発展を支えたエネルギーと何かかを考える
3	人とエネルギーのつながり～産業革命のころ～	18～19cの化石燃料を利用したエネルギー革命について解説する
4	人とエネルギーのつながり～20世紀～	マルサスの罠を回避したエネルギー革命について解説する
5	現代のエネルギー社会と地球環境の現状認識	現代社会における化石燃料消費と環境問題の関連性について最新のデータから議論する
6	再エネ技術の現状と将来①～太陽エネルギー～	太陽光発電、太陽熱温水器などの現状と将来
7	再エネ技術の現状と将来②～熱エネルギー～	地熱発電、雪氷熱、海洋温度差発電の現状と将来
8	再エネ技術の現状と将来③～運動エネルギー～	水力発電、風力発電、潮汐力発電の現状と将来
9	原子力発電の現在過去未来	原子力発電の問題点や核融合発電の現状について解説する
10	わが国のエネルギー社会構造の変遷	エネルギーの需給構造やIoE社会について解説する
11	グリーン社会の実現に向けたエネルギー政策	カーボンニュートラル社会の構築に向けたグリーン成長戦略について解説する
12	エネルギー自治の現状と課題	エネルギーの地産地消に関する現状と課題について講義する
13	理想的なエネルギーとは何だろうか	カーボンゼロを可能にするためのエネルギー技術とエネルギーシステムについて考える
14	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

〔評価配分〕 期末試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

十分な予習復習ができるように、配布資料はより充実した内容にする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn energy generating technologies, using fossil/nuclear fuels and renewable energy, and consider sustainable energy policy. Students will be expected to spend 4 hours for preparation and review. Grading: final exam (70%) and in-class contribution (30%).

EVN200EB（その他の環境学 / Others 200）

気候変動論

川村 賢二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候の変化や変動は、人間社会の歴史にさまざまな要因の影響を与えてきた要因のひとつである。どんな気候の変化や変動が人間社会にどんな影響を与えたのかについて、事実をあきらかにしていく科学的営みを知り、事実相互の因果関係を理解するとともに、人間社会が直面する問題の解決にむけての動き考える素養を身につける。

【到達目標】

気候変動の歴史的経緯や現在の状況および将来起こりうる現象を読み解くにあたって、必要とされる自然科学的な基礎知識を獲得するとともに、変動する気候の中で人間社会が持続するためにとるべき予防策や適応策について、社会科学的視点から理解し実践できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態の変更がある場合は学習支援システムを通じて指示します。こまめに学習支援システムのおしらせをチェックするようにしてください。

気候変動が現代社会が直面する複雑かつ重要な問題の一つであることを示す事例や、それらの背景にある仕組み等について講義します。講義を通じて、自然科学的な理解なしには気候変動問題が抱える論点的な確かな把握が難しいことを認識し、適切な予防策や適応策を構築しようとする実際の試みについて知り、さまざまなレベルでの社会的合意形成が求められていることを学びます。毎回の授業でリアクションペーパーを提出して頂き、そこに記載された疑問や質問については代表的なものをまとめ、次回以降の講義の中で全体に回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	気象と気候の違い、過去100年程度の気温変化
第2回	IPCCについて	IPCCと各報告書の紹介、地球温暖化の様々な証拠
第3回	温暖化懐疑論について	地球温暖化論争の紹介、気候変動のメカニズム
第4回	気候はどう決まるか	温室効果ガス、温室効果の原理、放射強制力、気候フィードバック、気候感度
第5回	地球史の中の気候変動1	過去に起こった気候の大変動、過去の気候の復元方法
第6回	地球史の中の気候変動2	アイスコア・空気タイムカプセル、氷期- 間氷期サイクル
第7回	地球史の中の気候変動3	氷期と退氷期の気候変動（急激な気候変動、気候の不安定性と南北半球のつながり）
第8回	間氷期の極域氷床	過去の間氷期における海面水位と気温、近年の氷床の変化とその原因

第9回	過去から見る将来の気候	自然変動と人為的变化、海面水位の長期的見通し、過去のCO2激増イベント
第10回	完新世におけるCO2と気候の変動・変化	過去100年から1万年の気温とCO2の変動、炭素循環、地球温暖化に伴う環境変化、ヒートアイランド
第11回	20世紀以降の気候変化と気候モデル	直接観測された世界と日本の気候変化、気候モデルとは何か
第12回	21世紀の気候予測と影響	様々な排出シナリオにおける将来気候のシミュレーション、気候システムの内部変動、気候変化の影響
第13回	温暖化の主要リスクと対応	異常気象、気候変化への緩和策と適応策、持続可能性、カーボンニュートラル
第14回	将来の気候を決めるのは	気候変化や対策に対する意識、各国のCO2排出量、エネルギーのコスト、選択と行動、社会転換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絵でわかる地球温暖化」渡部 雅浩（講談社KS絵でわかるシリーズ）、2018 を教科書として使いますので、事前に準備しておいてください。

<https://www.kspub.co.jp/book/detail/5119464.html>

【参考書】

・「現代気候変動入門 地球温暖化のメカニズムから政策まで」、アンドリュー・E・デスラー（著）、神沢博（監訳）、石本美智（訳）、名古屋大学出版会、2023。

<https://www.unp.or.jp/ISBN/ISBN978-4-8158-1130-3.html>

・「地球温暖化の予測は「正しい」か——不確かな未来に科学が挑む」、江守正多（著）、化学同人、2009。

<https://www.kagakudojin.co.jp/book/b50060.html>

・「温暖化の“発見”とは何か」スペンサー・ワート（著）、増田耕一・熊井ひろ美（翻訳）、みすず書房、2005。

<https://www.msiz.co.jp/book/detail/07134/>

・ココが知りたい地球温暖化（環境研究所によるQ&A集）

https://www.cger.nies.go.jp/ja/library/qa/qa_index-j.html

・IPCC第6次評価報告書の日本語解説PDF（環境省HPより）

第1作業部会（自然科学的根拠）

<https://www.env.go.jp/content/000116424.pdf>

第2作業部会（影響・適応・脆弱性）

<https://www.env.go.jp/content/000155003.pdf>

第3作業部会（気候変動緩和）

<https://www.env.go.jp/content/000155004.pdf>

統合報告書

<https://www.env.go.jp/content/000171954.pdf>

IPCCをより深く知りたい方へ：

・環境省による「気候変動の科学的知見」（リンク集）

<https://www.env.go.jp/earth/ipcc/6th/index.html>

・気象庁によるIPCC第6次評価報告書の日本語資料（リンク集）

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html>

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出、その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価（50%）および定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

高校以降で理系科目を学んだ学生には平易に感じられたり、まったく触れたことのない学生には難易に感じられたりするので、差異を埋めるように受講生の素養を見ながら進めます。リアクションペーパーの質問に次回授業でまとめて回答することで、理解が難しいトピックについては繰り返し学びます。講師が南極やグリーンランドで撮影した映像や写真なども適宜紹介し、研究の現場の様子を感じてもらい、興味を持って進められるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ感染対策でZoomによるリアルタイムネット配信授業となる場合もあります。それに備えて、Zoomを視聴しながらノートテイクもできるネット・PC環境を整えてください。

【Outline (in English)】

This course provides clear, concise and up-to-date information for the fundamentals of climate change.

The goal of this course are to understand about climate change, focusing on particular interest to explain the climate change science, the international climate change legal and policy framework.

Students will be expected to be interested in recent climate change and related social problems. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LAW200EB（法学 / law 200）

社会保障法Ⅰ

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険、金融業界と保険会社
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	雇用保険①	失業したらどうするか
5	雇用保険②	育児休業や介護休業、再就職のための給付
6	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
7	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
8	労働保険・補説	前半部分の補説、まとめ
9	医療保険①	病気になったらどうするか
10	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
11	医療保険③	どういう医療を受けられるのか、高齢者医療
12	介護保険①	（親が）寝たきりや認知症になったら
13	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
14	補説、まとめ	後半部分の補説、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。（なお基本的にテキストに沿って進めることもあり、授業のオンライン配信等はいりません。）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（一部を秋学期の社会保障法Ⅱに回すこともあり得ます。）

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 公的年金①	（春学期の復習、） 年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか――全国共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか――サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、 障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか（iDeCo等）
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	どういうときに支給されるのか、 保護の補足性、稼働能力の要件
10	生活保護②	いくら支給されるのか、基準及び 程度の原則
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、ひとり親家庭への 手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。
（なお基本的にテキストに沿って進めることもあり、授業のオンライン配信等はいりません。）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（春学期の社会保障法Ⅰの内容の一部を扱うこともあり得ます。）
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅰ

高橋 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境問題の構図を理解し、それへの公的対処行動である環境政策を学ぶことにある。現代において環境問題は、景観など身近な問題から地球規模の気候変動問題まで多様であるが、政府による環境政策は一般に十分と言えない場合が多い。学際的な観点から、そのような政策課題にアプローチし、環境政策のあり方を考えていく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅰの後にⅡを履修することを強くお勧めする。

【到達目標】

- 1：環境問題の構図や背景を理解する
- 2：環境問題に対する公共政策の基礎概念を習得する
- 3：環境問題への具体的な対処策を考察し、提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の2日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを書くことをお勧めする。

講師は授業中に様々な質問をする。いくつかの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくる。受講生は質問への回答をWebClassのチャット欄に記入することが求められ、それをその場で紹介することで議論や理解を深める。第12回授業では、環境問題をテーマにしたグループ討論を行う。また、リアクションペーパーにはコメントを付けて返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明、自由討論
第2回	環境問題の定義と分類	環境と環境問題の定義、環境問題の分類
第3回	環境問題の具体例と歴史的変遷	産業公害型環境問題、都市生活型環境問題、地球環境問題
第4回	「市場の失敗」から考える環境問題	公共財・コモンプール財・自由財、負の外部性と外部費用
第5回	持続可能性と環境正義	エコロジーの概念、定常経済論、持続可能性の概念、環境正義の概念
第6回	公共政策の基礎概念	公共政策の定義、公共政策論の基礎概念、政策分析論と政策過程論
第7回	環境政策の原則	未然防止原則と予防原則、汚染者負担原則と拡大生産者責任原則
第8回	環境政策の手法	規制的手法と経済的手法、合意的手法、情報的手法

第9回	環境政策の主体	環境省、経済産業省、環境NGO、地方自治体
第10回	環境法の体系と環境訴訟	環境基本法、環境権、国際環境法、環境訴訟
第11回	国際経済における環境問題	多国籍企業と汚染逃避仮説、公害輸出、自由貿易と環境保護
第12回	グループ討論	特定のテーマについてグループ単位で討論
第13回	環境政策の展望	21世紀の環境問題と環境政策
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特になし。講義用スライドは、学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

- ・大塚直他『18歳からはじめる環境法 第2版』（法律文化社、2018年）
- ・環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』（有斐閣、2006年）
- ・環境省編『環境・循環型社会・生物多様性白書』各年版
- ・倉阪秀史『環境政策論 第3版』（信山社、2015年）
- ・デイリー、H.『持続可能な発展の経済学』（みすず書房、2005年）
- ・松下和夫『環境政策学のすすめ』（丸善出版、2007年）
- ・森品寿他『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014年）

【成績評価の方法と基準】

以下の4つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点＝20点（授業での発言、質問等）
- 2：授業内アンケート＝10点
- 3：リアクションペーパー＝8点
- 4：期末試験＝62点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。

【学生が準備すべき機器他】

WebClassに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。WebClassのチャットやアンケートの機能を授業中に使うため、パソコンやスマートフォン等でアクセスできるようにする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経済産業省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course teaches basic knowledges and ways of thinking of environmental problems and environmental policies to solve them. You will be able to understand mechanism and background of environmental problems, master concepts of environmental policies, and propose concrete solutions. You will be graded by such criteria as class participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅱ

高橋 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境政策論Ⅰを踏まえ、様々な環境問題の事例を取り上げ、それへの政策的対処策を考察することにある。高度経済成長時代の公害問題、廃棄物問題、気候変動問題などを取り上げ、それぞれの環境問題の構図を理解するとともに、その政策過程を踏まえ、対処策を実践的に議論していく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、それを前提に環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅱを履修する前にⅠを履修することを強く勧める。

【到達目標】

- 1：代表的な環境問題の事例について、理論を踏まえつつ実践的に理解する
- 2：気候変動問題などに対して、具体的な対処策を提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の2日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを記すことをお勧めする。

教員は授業中に様々な質問をする。多くの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくる。受講生は質問への回答をWebClassのチャット欄に記入することが求められ、それをその場で紹介することで議論や理解を深める。第12回授業では、エネルギー・気候変動をテーマにしたグループ討論を行う。また、リアクションペーパーにはコメントを付けて返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明：授業の内容、進め方、評価方法
第2回	公害問題としての水俣病	公害の定義、水俣病の被害、水俣病訴訟
第3回	公害問題の構図と環境基準	環境基準、水質汚濁防止法、大気汚染防止法、経済調和条項
第4回	環境庁設置の政治過程	省際紛争と総合調整、革新自治体と公害防止条例、公害国会
第5回	自然環境保護と生物多様性	自然公園制度、自然の権利、生物多様性条約
第6回	廃棄物問題と循環型社会	産業廃棄物と一般廃棄物、循環型社会と3R、産廃処理事業と豊島事件
第7回	都市における環境問題	都市計画、都市緑化、交通環境政策、省エネルギー
第8回	気候変動問題と気候変動枠組み条約	気候変動の被害、温室効果ガスと化石燃料、パリ協定、気候変動訴訟

第9回	エネルギー転換と脱炭素	カーボンプライシング、グリーン成長、デカップリング、脱炭素宣言
第10回	原子力発電と東京電力福島第一原発事故	国策民営と立地交付金、放射能汚染と避難、事故責任と損害賠償
第11回	再生可能エネルギーと地域社会	再エネと地域経済、メガソーラーの景観破壊問題、営農型太陽光発電
第12回	グループ討論	エネルギー・気候変動問題に関するテーマを取り上げ、グループ別に討論
第13回	環境政策の展望	グループ討論のまとめ、21世紀の環境問題
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特になし。講義用スライドは学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

- ・大沼あゆみ・岸本充生『汚染とリスクを制御する』（岩波書店、2015年）
- ・亀山康子『新・地球環境政策』（昭和堂、2010年）
- ・環境省編『環境白書』各年版
- ・倉阪秀史『環境政策論 第3版』（信山社、2015年）
- ・高橋洋『エネルギー政策論』（岩波書店、2017年）
- ・新澤秀則・高村ゆかり『気候変動政策のダイナミズム』（岩波書店、2015年）
- ・政野淳子『四大公害病』（中公新書、2013年）
- ・森品寿他『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014年）
- ・鷲田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』（岩波書店、2015年）

【成績評価の方法と基準】

以下の4つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点＝24点（授業での発言、質問等）
- 2：授業内アンケート＝10点
- 3：リアクションペーパー＝8点（A4・1枚程度）
- 4：期末試験＝58点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。24年度は授業の最後に時間が足りなくなりがちな点を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経産省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course discusses cases of environmental problems and related policies based on Environmental Policy 1. You will be able to understand mechanism and background of various cases of environmental problems, such as environmental pollutions and climate change, and propose concrete solutions to them practically. You will be graded by such criteria as class participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

市民運動論

中筋 直哉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「学問運動」としてのおフランスの社会学：「お」をつけたのは、私を含め日本人が長く彼の国に抱いてきた羨望や嫉妬を相対化するためである。社会学という名を発明したオーギュスト・コント以来の彼の国の社会学の歴史を、ある特殊な知識が社会の中で発生、発展、深化、抗争、交替、衰退する、知の社会運動のプロセスとして分析する。そこから私たち日本人は何を学べるのか。2年間の在外研究の具体的な知見から論じるので、遠い国の他人事と思わずに比較社会的に学んでほしい。

【到達目標】

- ・社会学という知識の可能性と限界をフランス社会という枠の中で構造的に理解する。
- ・彼の国への理解を踏まえて現代日本における社会学の可能性と限界を批判的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で実施。学習支援システムで講義資料を事前配布する。質疑応答は対面時間内と学習支援システムを使って行う。課題については授業中に、期末試験については試験後に、学習支援システムを使って受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
第2回	基礎知識1	フランス近代史と学校教育制度
第3回	基礎知識2	フランス社会学の誕生と成長
第4回	デュルケムの社会学1	哲学からの完全な離陸
第5回	デュルケムの社会学2	ベルクソンら哲学のライバルたちとの抗争
第6回	デュルケムの後継者たち1	ブーグレらによる第三共和政への関与
第7回	デュルケムの後継者たち2	アルヴァックスらによる社会形態学の展開とその壊滅
第8回	グループディスカッション	日本人にとっての「おフランス」を考える
第9回	トピック講義「フランス社会学の現在」	ボルドーとストラスブールの研究機関を事例に
第10回	第二次世界大戦後の再出発	焼け跡闇市的な人材のごった煮とアメリカの影
第11回	第五共和政とアロン	政治やメディアと共生するアロン
第12回	1968年五月革命とフランス社会学	社会運動に知識を与えるトゥレーヌとブルデュー
第13回	神々の黄昏	グローバリゼーションのなかのフランス社会学の行く末
第14回	結論	彼の国を鏡としてわが国とわが国の社会学を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の上「今日の課題」に取り組んで学習支援システムに提出することが必要。また授業の中盤にA4×1枚程度のレポートを課す。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が35%（提出しないとD）、論述式の期末試験が55%。「今日の課題」の総合評価が10%。期末試験では、フランスへの理解を踏まえたわが国の地域社会に関する自分の考えを論理的に表明できることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】

事例の紹介を画像などを用いて具体的にを行う。ただしスライドショー形式の資料は使わない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。受動的に聴講するだけでなく「自分のノート」を作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの展開科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】

(Course outline)In this course,we will analyze the history of sociology in France since Auguste Comte, who invented the term "sociology", as a process of "social movement."

(Learning Objectives)Understanding structurally possibilities and limits of sociology within French society and understanding critically possibilities and limits of sociology within Japanese society.

(Learning activities outside of classroom)Working on homework for each session and writing a report midst the course.

(Grading Criteria /Policy)Homework:10%,Report:35%,Final exam:55%.

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

地方財政論

早崎 成都

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方財政論とはその名の通り、「地方」政府の財政を検討する研究分野である。財政を考えるにあたって、中央政府だけを見ればよく、地方政府はさしたる重要性を持たないと思うのは大きな誤りである。むしろ、我々の生活に必要なものの多くは、地方財政が提供していると言っても過言ではない。本講義では地方財政を理解する上で極めて重要な、以下の二つのテーマを設定する。第一のテーマは、中央政府の財政と地方政府の財政の関係、いわゆる政府間財政関係であり、第二のテーマは地方政府の財政そのもの、とりわけ、地域住民の選好や活動を踏まえた予算の決定のあり方である。歴史的に、中央政府と地方政府は様々な問題をめぐって対立してきた。これらの政府間にどのような対立があり、その対立はどのように克服されてきたのか。地方自治は「民主主義の学校」と称されることもあるが、住民との距離が近い地方政府における財政をめぐる意思決定は、どのような問題を抱えてきたのか。受講者はこれらの問題群を日本と諸外国の経験を踏まえながら考察することとなる。

なお、地方財政論は財政学のサブフィールドと位置付けられる学問分野であり、財政学自体が経済学的な思考とそれ以外の学問の思考（政治学、社会学、行政学など）の両方が求められる分野である。財政学の履修経験のない受講者が数多く存在するというこれまでの経験に鑑みて、本稿では、財政学（およびその前提となる経済学）の基本的な知識を確認したうえで、地方財政について考察していくというスタイルを取る。もちろん、経済学や財政学の履修経験がない学生の受講も歓迎する。

【到達目標】

- ① 地方財政をめぐる問題について、学生が財政学の専門用語を用いて、正確な記述を書けるようになる。（授業では演習も行うことがある）
- ② 複雑な社会現象を整理し、論理的に分析できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、学生の質問は積極的に受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地方」財政論とは
第2回	市場経済	市場経済の効率性について
第3回	市場の失敗と財政①	外部性
第4回	市場の失敗と財政②	公共財と私的財
第5回	市場の失敗と財政③	再分配
第6回	財政による景気安定化	乗数効果と財政の持続可能性
第7回	税の仕組み	基幹税（所得税、法人税、消費税）
第8回	国と地方	一般政府の財政活動の概観
第9回	自治体の収入源	地方税への理解を深める
第10回	補助金と財政調整制度	国庫支出金と地方交付税

第11回	日本の政府間財政関係の歴史的展開①	戦前
第12回	日本の政府間財政関係の歴史的展開②	戦後
第13回	日本の政府間財政関係の歴史的展開③	現代
第14回	本講義のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書（テキスト）は指定しない。ただし試験における文章の書き方など学ぶ上では、文献を読むことが有益です。下記の参考書などを参考にすることをお勧めします。

【参考書】

下記の本は初学者向けに書かれた優れた地方財政論のテキストである。

沼尾波子ほか『地方財政を学ぶ 新版』有斐閣、2023年。
菅原宏太ほか『地方財政の見取り図』有斐閣、2023年。
財政学そのものについて学びたいという人は
高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣、2020年。
神野直彦『財政学』有斐閣、2021年。
などを参考としてください。

なお、より深く学習したい人向けには授業内でその都度文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）および毎回実施するリアクションペーパー（30%）で評価する。リアクションペーパーに書かれた質問やコメントの内容は次回の授業の冒頭でその他の受講者にも共有する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

質問は積極的に受け付ける。重要な質問は授業でも取り上げることがある。

【Outline (in English)】

Local public finance, as the name suggests, is a field of study that discusses issues of local government tax and spending. Some may think that studying local public finance is not as important as studying central government's public finance. However, given that local governments play a crucial role in providing our various and fundamental needs, this recognition is completely wrong. This course sets the following two themes, which are central to understanding of local public finance. The first one is the relationship between a central government's budget and a local government's budget, so called "intergovernmental fiscal relations." The second one is how to determine a local government's budget given preference and activities of its residents. There have been many conflicts between central government and local governments over taxing and spending. What kind of conflicts are there and how have they resolved these conflicts? How is local government tax and spending policy determined in the political process? Students will investigate these questions by looking at Japan and other countries' historical experiences. Through this course, students will be able to analyze issues related to local public finance both theoretically and empirically. Perspectives you obtain in this course will help you analyze problems related to local public finance, be as a resident, employee, or a civil servant.

Local public finance is a subfield of Public Finance, which is a scholarly discipline that requires both viewpoints of economics and those of other academic areas (such as Political science, Sociology and Public administration). For students who do not take any courses on Public Finance and economics, the lecturer reviews the basic knowledge first and then moves on to the content of Local public finance.

Learning Activities Outside of the Classroom

Students are expected to read materials distributed by the lecturer before and after class. The materials will be given at the first lecture. Also, students are expected to review the content taught at each lecture by trying exercises attached to the lecture materials.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade is determined by the final exam (70%) and so-called "reaction papers" (30%). If you have any questions, please let me know via email.

POL200EB (政治学 / Politics 200)

地方自治論 I

新垣 二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、国・都道府県・市区町村という3層の政府レベルを通じて多様な行政サービスが展開されています。これらの活動は、「ゆりかごから墓場まで」と言われるように、我々が生活する上でのほぼ全ての場面に影響を及ぼしていると言っても過言ではありません。ただし、果たして政府部門がどの程度まで我々の生活に介在すべきかは、各国の成立経緯や為政者の方針、社会経済状況などによって自ずと異なってきます。

本講義では、日本の地方自治の制度構造や改革動向について、主に政治学・行政学分野における概念と議論を土台としながら多角的に解説します。地方自治をめぐる多種多様なパートやアクターがどのような形で構成されており、実際の我々の生活とどのような関わりと持っているのか、工夫すべき点や改善点をどう考えるかなどの現代的視点を共有してもらうことが本講義の目的です。

【到達目標】

- ・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける
- ・地方自治の最近の動きを市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の講義内容について、教員が用意したpowerpoint資料を基に講義を進める予定です。各回のテーマはあくまで目安であり、講義の進捗状況や履修者の関心等によって変更する場合があります。授業資料は学内システムを通じて配布する予定ですので、これらに対応した端末及びインターネット環境が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義体系と主要テーマならびに授業の進め方について解説する。
第2回	公共領域の成り立ちと地方自治	公共領域における政府部門の役割及び統治としての地方自治制度について論じる。
第3回	地方自治制度の設計	日本の地方自治制度の基礎構造を諸外国との比較から論じる。
第4回	執行機関	地方行政の執行機関である首長や各種委員会の権能について論じる。
第5回	議事機関	地方政治の中枢である自治体議会の権能や議会議員の属性について論じる。
第6回	大都市制度	都区制度や政令指定都市制度などの大都市のみに適用される制度について論じる。
第7回	地方税財政	自治体の歳入・歳出構造の概要について論じる。
第8回	地方公営企業	自治体が展開する公営企業の概要について論じる。

第9回	自治体行政機構	自治体行政機構の組織編成や業務分担、調整の仕組みについて論じる。
第10回	地方公務員	地方公務員制度の概要とそのライフコースについて論じる。
第11回	政策過程①	政策過程の基本構造と課題設定から政策決定までのプロセスについて論じる。
第12回	政策過程②	政策実施から政策評価までのプロセスについて論じる。
第13回	総合計画	計画行政の仕組みと総合計画の成り立ちについて論じる。
第14回	講義全体のまとめと総括	本講義の位置づけと意図について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時に資料を配付します。

【参考書】

・宇野二郎・長野基・山崎幹根（2022）『テキストブック地方自治の論点』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出状況（合計40%）、期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーは学内システムにて受け付け、質問については次回講義の冒頭で可能な限り応答する予定です。

【Outline (in English)】

In Japan, administrative services are delivered through a three-tiered government structure comprising the national government, prefectures, and municipalities. These activities influence nearly every aspect of our lives, as reflected in the phrase “from the cradle to the grave.” However, the extent to which government departments should be involved in our lives varies depending on each country’s historical development, the policies of its leaders, and its socio-economic conditions. This lecture provides a multifaceted explanation of Japan’s local autonomy system structure and reform trends, primarily grounded in concepts and debates from the fields of political science and public administration. The objective is to share contemporary perspectives on how the diverse parts and actors surrounding local autonomy are structured, how they relate to our actual lives, and how to consider points requiring consideration and areas for improvement.

POL300EB (政治学 / Politics 300)

地方自治論 II

新垣 二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における地方自治制度の整備は明治維新後の近代国家体制の整備と表裏一体で進められましたが、そこでは先進事例であった欧米諸国における地方自治の制度運用や改革動向に多大な影響を受けてきました。また、その時代ごとの制度改革のベクトルとしても、様々な社会経済的要因や中央地方関係、政治行政的な駆け引きなどが複雑に絡み合いながら方向性が合成されることによって、独自の深化を遂げて現在に至ります。

本講義では、日本の地方自治制度の本質的特徴について相対的な理解が可能になるよう、「歴史」という縦軸と「国際比較」という横軸を意識しながら多角的に解説します。自治体（地方政府）というものをめぐる理論・視座の形成や変容がどのような形で実際の制度整備に影響を与えたか、そのダイナミズムを理解してもらうことが本講義の目的です。

【到達目標】

- ・日本の地方自治制度の特徴を諸外国との比較から相対的に理解する
- ・日本の地方自治の歴史的経緯について理解する
- ・地方自治のあり方についてグローバル・ローカル両面の視座から主体的な考えを展開できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の講義内容について、教員が用意したpowerpoint資料を基に講義を進める予定です。各回のテーマはあくまで目安であり、講義の進捗状況や履修者の関心等によって変更する場合があります。秋学期授業を理解するためには春学期の授業（地方自治論Ⅰ）で地方自治の基本的な事項を修得していることが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義体系と主要テーマならびに授業の進め方について解説する。
第2回	明治期の地方制度	現在の地方自治制度の骨格をなす明治期の地方制度の概要について論じる。
第3回	大正・昭和期の制度変遷と戦後改革	大正・昭和初期（1940年代まで）の地方制度改革の概要について論じる。
第4回	主権回復と改革反動	1950年代の地方制度改革の概要について論じる。
第5回	地域開発と公害問題	1960年代から1970年代前半にかけての国地方関係の変化と革新自治体の叢生について論じる。
第6回	低成長時代と行政改革	1970年代後半から1980年代にかけての国地方関係の変化と行政改革の動向について論じる。
第7回	政治改革と地方分権改革	1990年代における政権交代の流れ及び地方分権改革の動向について論じる。

第8回	新自由主義と地方創生	2000年以降における地方制度改革の動向について論じる。
第9回	国際比較と日本型地方自治の位置付け	統計データから世界の地方自治の制度設計の傾向と日本の位置付けについて論じる。
第10回	ドイツの地方自治制度	ドイツの地方自治制度の基礎構造について論じる。
第11回	フランスの地方自治制度	フランスの地方自治制度の基礎構造について論じる。
第12回	イギリスの地方自治制度	イギリスの地方自治制度の基礎構造について論じる。
第13回	アメリカの地方自治制度	アメリカの地方自治制度の基礎構造について論じる。
第14回	全体のまとめと比較地方自治の可能性	地方自治を比較的に考察することの意義について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

- ・竹下 譲（1999）『世界の地方自治制度』（イマジン出版）
- ・山下 茂（2011）『体系比較地方自治』（ぎょうせい）
- ・ザビーネ・クールマン、ヘルムート・ヴォルマン（2020）『比較行政学入門』（成文堂）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出状況（合計40%）、期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

質疑はリアクションペーパーにて受け付け、次回講義の冒頭で可能な限り応答する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は学内システムを通じて配布する予定ですので、これらに対応した端末及びインターネット環境が必要です。

【Outline (in English)】

The development of Japan's local autonomy system progressed hand in hand with the establishment of a modern state structure following the Meiji Restoration. It was influenced by the operational practices and reform trends of local autonomy systems in Western countries. Furthermore, the direction of institutional reforms in each era was shaped by the complex interplay of various socio-economic factors, central-local relations, and political-administrative negotiations, leading to a unique deepening of the system that continues to the present day.

This lecture will provide a multifaceted explanation, consciously using the vertical axis of "history" and the horizontal axis of "international comparison," to enable a relative understanding of the essential characteristics of Japan's local autonomy system. The objective of this lecture is to help you understand the dynamism of how the formation and transformation of theories and perspectives surrounding local governments influenced the actual development of the system.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

国際協力論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業ノート」を作成してくる。「授業ノート」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④自分なりに考えてみたこと、あるいはみんなで話し合ってみたいこと、を書いてください。さらに、授業後には、⑤授業中の分科会の議論の論点、講師の説明、それについて授業後に自分で考えたこと、を書いてください。授業前半では少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の報告係になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらに深い問いをもてるようにする。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円＋税。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円＋税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、授業ノートの5項目について、20%ずつ100%で評価します。何らかの事情で参加できなかった場合は、⑤の項目でその理由とともに、さらに別の資料を用いて調査し、わかったこと、考えたことを書いてください。具体的な問題について、事実に基づいて批判的に考える力を身につけるのが授業のねらいなので、考察のもとになる資料の書誌情報がなかったり、項目だけが書かれていて具体的な内容のある文章になっていない場合は、評価の対象にならないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラム社会とは、イスラム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

中東・イスラム世界研究の著作を受講生全員で手分けして読みつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業ノート」を作成してくること。「授業ノート」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④自分なりに考えてみたこと、あるいはみんなで話し合ってみたいこと、を書いてください。さらに、授業後には、⑤授業中の分科会の議論の論点、講師の説明、それについて授業後に自分で考えたこと、を書いてください。授業前半では少人数分科会で全員が各自の授業ノートを共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の報告係になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。

受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。 テーマについて知りたいことに 関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と 中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東における イスラム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中 東とレバント国家 ：レバント国家再 考	受講生報告と教員を交えた議論

5	エジプト—民衆は 時代の転換に何を望 んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニ ジアの国家＝社会関 係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」を めぐる語りの変容・ イスラエルの国家安 全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難 民、およびロジャ ヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ—新自由主 義・親イスラム政 党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけ るアラビア半島諸国 の台頭を支える安定 性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラム 統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を 巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	ヨルダン—紛争と の共生	受講生報告と教員を交えた議論
14	中東・イスラム研 究の課題	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。
そのほか、岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる諸論文。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、授業ノートの5項目について、20%ずつ100%で評価します。何らかの事情で参加できなかった場合は、⑤の項目でその理由とともに、さらに別の資料を用いて調査し、わかったこと、考えたことを書いてください。具体的な問題について、事実に基づいて批判的に考える力を身につけるのが授業のねらいなので、考察のもとになる資料の書誌情報がなかったり、項目だけが書かれていて具体的な内容のある文章になっていない場合は、評価の対象にならないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験と、その際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

国際経済論Ⅰ

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論Ⅰでは、第二次世界大戦後の国際経済体制の変化をアメリカ経済を中心にして説明するとともに、トランプ政権下のアメリカの行動が劇的に国際経済秩序を破壊している状況を解説する。また、それとの対比と関連の中で、欧州経済と発展途上国の経済を説明する。秋学期の理論的な解説と合わせて世界経済の概観をもてるようにする。

【到達目標】

パックスアメリカナと呼ばれた戦後の世界経済秩序の内容について理解できる。
その中でアメリカが果たしてきた役割とその変質、米中蜜月から米中対立への変化、トランプ政権誕生後のアメリカと世界について理解することができる。また、EUの成立と発展、グローバルサウスの現状と課題、それらを含んだグローバル経済の現状と不均衡について、相互関係の中で理解できる。
それらを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。
対面授業で行います。
この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
講義では、講義後に小課題を出す場合があります。その場合、課題の提出はHoppiiで行います。課題については、提出後の授業時に解説等のフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済秩序とグローバル経済	授業全体の進め方の解説、国際経済、世界経済との相違、国際経済秩序とグローバル経済激変する国際社会の今
2回	アメリカってどんな国？	アメリカという国家の特徴 ・移民国家 ・理念と連邦共和政 ・人種差別とキリスト教
3回	アメリカと国際経済秩序①	アメリカの戦後構想 パックス・アメリカナの基本的枠組み

4回	アメリカと国際経済秩序②	パックス・アメリカナの変容。 変動相場体制 ケインズ主義から新自由主義へ
5回	アメリカと国際経済秩序③	WTO体制の特徴とグローバル経済
6回	アメリカと国際経済秩序④	米中蜜月の終焉と米中新冷戦への転換
7回	アメリカと国際経済秩序⑤	トランプ政権と劇変する国際経済秩序
8回	EU①	EEC成立から欧州統合へ ECSC、EEC、EURATOM EC
9回	EU②	1992年欧州統合とEU マーストリヒト条約 共通通貨ユーロの導入 EUの発展と動揺
10回	EU③	加盟国の拡大と統合の深化 イギリスの離脱 ウクライナ戦争と戦略変更 植民地体制の崩壊と工業化 輸入代替工業化 輸出志向工業化 UNCTAD
11回	発展途上国①	新興国の工業化 ユーロ市場の役割 累積債務問題 新興市場諸国とグローバルサウス 東アジアの奇跡 中国の経済成長 アフリカ諸国の今
12回	発展途上国②	トランプ政権の対外政策 分極化する世界 国際経済秩序の変容
13回	発展途上国③	
まとめ	分断が加速するグローバル経済	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。
『21世紀のアメリカ資本主義：グローバル蓄積構造の変容』河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健編著、大月書店、2023年。
『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。
『グローバルサウス入門』西谷修、工藤律子、矢野修一、所康弘、文眞堂、2024年。

【参考書】
明日香壽川『グリーン・ニューディール：世界を動かすガバナング・アジェンダ』岩波書店、2021年。
教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。
レポート 30％
定期テスト 70％

【学生の意見等からの気づき】
リアルタイムでのオンライン授業を行ったとき、復習のために録画もしてほしいという要望があり、録画も行って公開してきた。ただし、経済学は積み上げ型の学問であり、毎週見て学び身につけていくということを目的にしているので、公開期間は限定することにした。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。この授業は、歴史的な発展を追って説明する形になるが、その説明において、理論的な部分は国際経済論Ⅱを履修してはじめて理解できることもあるので、国際経済論Ⅱを履修することが必要である。

もちろん、テキストを事前に読み、理論的な学習をして講義に臨むというのが望ましいことはいうまでもない。

授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study the changes in the international economic system after World War II, focusing on the US economy, and explain the European economy and the economies of developing countries in relation to the world economy.

ECN300EB（経済学 / Economics 300）

国際経済論Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論Ⅱでは、国際経済学の基本的な理論について学ぶとともに、非主流派の経済学についても勉強します。具体的には、貿易理論と外国為替論、国際通貨論、国際投資の理論、国際労働力移動についての基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

国際経済の基礎理論を身につけることで、グローバル経済を理論的に理解できるようになる。

それと同時に、理論と現実との緊張関係を理解し、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。

対面授業で行います。オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式で行います。また、ズームで授業を録画し、公開するので、復習に活用してください。

この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。

小テストについては、テスト終了後に解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済とグローバル経済	授業の目的、国際経済の理論を学ぶことの意義と目標の解説
2回	世界経済と自由貿易体制 GATT、WTO トランプ政権の国際経済秩序の否定	自由貿易体制 GATT WTO トランプ政権の関税政策
3回	国際貿易の理論①リカードと比較生産費説	リカードの比較生産費説の紹介、比較生産費説の解説
4回	国際貿易の理論②ミルと2国多数財モデル、HOSモデル	ミルによる比較生産費説、2国多数財モデル HOSモデルの紹介と説明

5回	国際貿易の理論③貿易の一般均衡論	貿易の一般均衡分析 貿易のパターン 貿易の利益 オファーカーブ
6回	国際貿易の理論④主流派貿易理論への批判と不等価交換論	主流派貿易理論への批判と不等価交換論
7回	貿易理論の小テスト 外国為替論 外国為替取引と外国為替市場	貿易理論の小テスト 外国為替取引の仕組み 外国為替市場とは何か
8回	国際通貨論 国際通貨と国際通貨体制	世界貨幣、国際通貨とは何か 金本位制と国際通貨体制
9回	国際通貨システム論 「ドル本位制」と現代の外国為替市場	「ドル本位制」とはどんなものなのか 現代の外国為替市場の特徴
10回	国際投資の理論 資本輸出の諸形態と多国籍企業	多国籍企業の定義、特徴、グローバル経済における多国籍企業の位置
11回	多国籍企業の諸理論	多国籍企業の諸理論の紹介と解説
12回	多国籍銀行とユーロ市場	多国籍銀行とは何か 多国籍銀行論の紹介 ユーロ市場の特徴、その発展の歴史
13回	グローバルマネーの運動と金融危機	資本移動の自由化と累積債務危機、通貨危機、金融危機 ドル体制とユーロ、人民元
まとめ	国際労働力移動の理論 まとめ	国際労働力移動の理論と現状

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。

『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。

『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012年。

『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、小テスト、レポート課題、期末試験によって行います。

貿易理論の小テスト 20%

レポート課題 20%

定期テスト 60%

貿易理論の小テストは、第7回の授業の冒頭に行います。

【学生の意見等からの気づき】

復習等のために録画をして公開してほしいということでしたので、録画を公開することにした。昨年は、公開期間を限定しない方がいいという意見が多かったので、授業期間中は常にみられるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。この授業は、前半の貿易理論の部分が抽象度が高く、理解するのが一番難しいので、しっかり復習すること。

授業計画は現実の世界経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study both traditional international economics and non-traditional international economic theory, especially about trade and foreign exchange trading, international investment, and international labor migration.

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read textbooks. Students are encouraged to read textbooks according to the course schedule.

The final evaluation will be based on the following: midterm exam 20%, submitted report 30% and final exam 40%; total: 100%.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

社会学理論 A I

鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「相互作用秩序」の社会学。「相互作用論（interactionism）」の考え方に基づいて、日々の社会的現実の成り立ちを社会学的に記述・分析するための概念、視点、方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

私たちが日々経験している社会生活の秩序は、私たちが他者の視点を取りこみつつ、相互的な関与を継続することによって成立している。この「相互作用秩序」の成り立ち方（成り立たせ方）を概念的に対象化する方法を身に付け、これを通じて、日常生活の秩序が破綻する場面（トラブル）の記述を可能にする。と同時に、社会秩序に対する「違和感・不安全感」の理由を言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回配布する「レジュメ」を用いて講義を進める。
リアクションペーパーの提出は毎回求めるが、これは成績評価につながるものではない。リアクションペーパーから選別して、次週の講義資料において回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	相互作用論とは何か？
第2回	相互作用論の理論的基礎（1）	G.H. ミード『精神・自我・社会』から
第3回	相互作用論の理論的基礎（2）	対面的相互行為をめぐるE.ゴフマンの視点
第4回	相互作用論の理論的基礎（3）	「規範」と「秩序」をめぐる相互作用論的視点
第5回	相互作用論の理論的基礎（4）	「レリヴァンス」と「フレーム」
第6回	相互作用秩序とそのトラブル（1）	焦点の定まらない相互作用空間としての「社会空間」
第7回	相互作用秩序とそのトラブル（2）	電車の中で席を譲ることがどうしてこれほど難しいのか？
第8回	相互作用秩序とそのトラブル（3）	トラブルを報告する
第9回	相互作用秩序とそのトラブル（4）	「アラーム」の出現
第10回	「心」の相互作用秩序（1）	感情の社会的構成
第11回	「心」の相互作用秩序（2）	コミュニケーションの要素としての「動機」
第12回	「心」の相互作用秩序（3）	「モーティヴ・トーク」の社会学
第13回	「心」の相互作用秩序（4）	動機の語彙と「心の闇」

第14回 相互作用と心の秩序 春学期の講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

草柳千早 2015 『日常の最前線としての身体』世界思想社
中河伸俊・渡辺克典（編）2015 『触発するゴフマン』新曜社。
鈴木智之、2014『「心の闇」と動機の語彙』青弓社。
など。他は授業の進行に合わせてその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の「試験」のみを評価の対象とします(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

「出席」は成績評価の対象とはしませんが、なるべく教室に来て講義を聴いてください。聞いて、その場で考えることが理解の深まりにつながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand the theoretical frames of interactionist sociology and to demonstrate knowledges and analysis of the everyday-life situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze sociologically the interactional order in social life.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end examination(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

社会学理論 A II

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ハビトゥス」と「ナラティヴ」という二つの概念を軸に、「社会的存在」としての「個人」の成り立ちについて考える。

【到達目標】

「私」という存在は、社会生活の累積の中で作られていく、複雑な社会的構成体である。「私」はなぜ今あるような「私」なのか。「私」が「私」であろうとすることが、どのような社会の成り立ちに結びついているのか。これを概念的に分析し、言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回配布するレジュメを用いて講義を行う。

リアクションペーパーの提出を求めるが、これは成績評価につながるものではない。

リアクションペーパーからいくつかを選択し、次週の講義において回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「個人存在」の社会学という視点
第2回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（1）	デュルケム社会学における「個人」
第3回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（2）	G.H. ミードの「社会的自己」論
第4回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（3）	G. ジンメル「社交圏の分離」と「個人の自立」論
第5回	「ハビトゥス」の理論（1）	社会的なるものの身体化
第6回	「ハビトゥス」の理論（2）	身体化された文化と不平等の再生産
第7回	「ハビトゥス」の理論（3）	感覚の社会的依存性
第8回	「ハビトゥス」の理論（4）	複数のハビトゥス
第9回	物語としての自己（1）	認知と判断の形式としてのナラティヴ
第10回	物語としての自己（2）	再帰的な語りと自己の構築
第11回	物語としての自己（3）	病いの語り
第12回	物語としての自己（4）	自己物語の困難
第13回	ハビトゥスとナラティヴ（1）	ハビトゥスをめぐる語り
第14回	ハビトゥスとナラティヴ（2）	ナラティヴ・ハビトゥス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

B. ライール『複数の人間』法政大学出版局、2013年

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002年

他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験によって評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

教室での受講が講義の理解度に大きく関わっているようです。積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義内容の構成は、学生のリアクションや、新しいテキストなどとの出会いによって、変更される場合があります。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand the theoretical frames of sociology of the self, and to demonstrate knowledges and analysis on concrete situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze the social constitution of individual being.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the term-end examination(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

社会学理論 B I

佐藤 成基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家 (state)」という社会制度についてマックス・ヴェーバー、チャールズ・ティリー、ノルベルト・エリ阿斯、マイケル・マン、ピエール・ブルデュー、アントニー・ギデنز、ミシェル・フーコーらの国家論をとりあげ、歴史社会的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要や目的について
2	国家とは何か： その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（１）： 正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」という ヴェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（２）： 国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（３）： 国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（１）： ヴェーバーの官僚制論	ヴェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（２）： 官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（１）： 国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（２）： 間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（１）： 「象徴暴力」と「公共」性	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（２）： 官僚制的公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（１）： 国家の民政化	国家の「民政化」について

- 13 国家と社会（２）： マンのインフラストラクチャー
社会の「国家帰属化」的権力について
- 14 国家と情報管理： 公式統計と国勢調査の歴史について
国家と統計（学）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining the arguments of Max Weber, Charles Tilly, Norbert Elias, Michael Mann, Pierre Bourdieu, Anthony Giddens, Michel Foulcaut, and so on. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

社会学理論 B II

佐藤 成基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀以降の国家の歴史を検討しながら、「国家（state）」という社会制度について歴史社会的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちとが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期のB Iでの講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム（1）： ナショナリズムの発生	近代主と反近代主義のアプローチについて
3	国家とナショナリズム（2）： 国家論的アプローチ	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家とナショナリズム（3）： ナショナリズムの「民族化」	ナショナリズムの「民族化」について
5	国家と資本主義（1）： 国家と資本主義経済	国家と資本主義経済の発展に果たした役割について
6	国家と資本主義（2）： マルクス主義の国家論	マルクス主義の国家論について
7	国家と民主主義（1）： アメリカ政治学理論	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するダール、イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
8	国家と民主主義（2）： 民主主義にとっての国家	ティリーの民主主義論について
9	国家の社会福祉（1）： 福祉国家の発生	福祉国家の発生について

10	国家と社会福祉（2） 現代福祉国家の「危機」について： 福祉国家の発展と「危機」	
11	国家のグローバル化： 世界社会と国民国家	メイヤーらの新制度主義について
12	国家の「崩壊」： アフリカからの視点	アフリカの新家産制国家論について
13	国民国家とグローバル化： 「衰退」か「復権」か	グローバル化と国民国家の変容について
14	国家の機能、再考： グローバル化する世界のなかで	現代における国家の状況についてその「機能」の観点から再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【その他の重要事項】

前期に開講される同一担当教員の社会学理論B Iを受講することを強く推奨する。社会学理論B IIはB Iの内容を前提にして進められる。

【Outline (in English)】

In this course, we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining its history since the 20th century. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

理論社会学

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一般システム理論やサイバネティクスの概念を学び、それを社会現象に適用して、社会現象のメカニズムを理解することを目的とする。

【到達目標】

この授業では以下のようなことができるようになることを目標とする。

- ①一般システム理論やサイバネティクスの概念を理解し、修得することができる。
- ②それらの概念を社会現象に適用することができる。
- ③それらの概念によって社会現象のメカニズムを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則として対面形式で行う。一般システム理論やサイバネティクスの概念について教員が説明する部分と、それを受講生が社会現象に適用して発表し、全員で検討する部分から成り立つ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要とシステム理論の歴史について概説する。
第2回	ホメオスタシス	ホメオスタシスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第3回	フィードバック	フィードバックの概念を説明し、社会現象に適用する。
第4回	多様性	多様性の概念を説明し、社会現象に適用する。
第5回	モーフोजェネシス	モーフोजェネシスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第6回	エントロピー	エントロピーの概念を説明し、社会現象に適用する。
第7回	シナジェティクス	シナジェティクスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第8回	カオス	カオスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第9回	ブラックボックス	ブラックボックスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第10回	トリビアル・マシン／トリビアル・マシン	トリビアル・マシン／トリビアル・マシンの概念を説明し、社会現象に適用する。
第11回	開放システム／閉鎖システム	開放システム／閉鎖システムの概念を説明し、社会現象に適用する。
第12回	オートポイエーシス	オートポイエーシスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第13回	システム分化	システム分化の概念を説明し、社会現象に適用する。
第14回	総括討論	全体を振り返り、全員で総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない。

【参考書】

『社会学理論応用事典』丸善、2017年（とくに「社会システム」の各項目）。その他の参考書については、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業は、平常点のみで評価する。その内訳は、

①授業内での議論 40%

②授業後の課題 60%

である。授業に出席しなかった場合には、授業後の課題も含めて、当日分の評価はゼロである。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果がないので、とくにない。

【学生が準備すべき機器他】

可能ならば自分用のノートパソコンあるいはタブレットを準備するのが望ましい。

【その他の重要事項】

この授業は、受動的な受講ではなく、能動的に自分で概念を社会現象に適用する作業が最も重要です。毎回、自分の頭を使い、他の受講生と一緒に考えて作業が課せられます。授業に積極的にコミットする姿勢で臨んでください。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

社会システム理論

＜研究テーマ＞

グローバル時代の社会システム

＜主要研究業績＞

法政大学学術情報データベースを参照してください

【Outline (in English)】

This course introduces several concepts of general systems theory and cybernetics to help students analyze social phenomena.

The goals of this course are (1) to learn several concepts of general systems theory and cybernetics, (2) to apply these concepts to social phenomena, and (3) to understand the mechanism of social phenomena with these concepts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on in-class contribution(40%) and short reports (60%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会学史 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに19世紀から20世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

- ①主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
- ②「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面形式で行う。

この授業では、受講生は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19世紀から20世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント	三段階の法則、実証主義
4	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
5	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
6	スペンサー	社会進化論、軍事型社会と産業型社会
7	テンニース	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト
8	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型、資本主義の精神、鉄の檻
9	ヴェーバー (2)	支配の諸類型、官僚制
10	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
11	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
12	ジンメル (1)	社会化的形式、社会圏
13	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
14	古典社会学の問題意識の総括	各回で扱った社会学者の理論に関連づけて総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未来社
 ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学の歩み』有斐閣
 奥村隆『社会学の歴史 I・II』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。期末試験は、短答および論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通した学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。

授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでの、積極的な質問やコメントを歓迎する。リアクション・ペーパーに対しては、主に次回の授業の冒頭に口頭でフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会学史 II

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに20世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

- ①主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
- ②「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面方式で行う。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。
毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	シンボリック相互作用論、一般化された他者、Iとme
4	シュッツ	現象学的社会学、日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、背後期待、違背実験
6	ゴッフマン	ドラマトルギー、印象操作、役割距離
7	パーソンズ	行為理論、社会的機能、社会進化
8	ルーマン	システム理論、オートポイエーシス、社会分化
9	ハーバーマス	コミュニケーションの行為、公共性、生活世界
10	フーコー	規律化、主体、生権力
11	ブルデュー	文化資本、再生産、卓越性
12	ギデンズ	再帰性、専門家システム、象徴的通票
13	ベック	リスク社会、個人化、サブ政治
14	現代社会学の問題意識の総括	各回で扱った社会学者の理論に関連づけて総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
 新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣
 奥村隆『社会学の歴史Ⅰ・Ⅱ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。
 期末試験は、短答および論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通した学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。

授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、主にて次回の授業の冒頭に口頭でフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

歴史社会学 I

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは「近代」とは何か」という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。

【到達目標】

- ・社会学的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
- ・あわせて、歴史的な視点が、〈いま・ここ〉を見据え、考える手段としてどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。

各トピック終了ごとに課題を提示し、レポートの形でその回答を求める（2本）。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	家族意識のゆくえ
14	エピローグ	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20%×2回）＋学期末試験（60%）により評価する。なお、2本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective. Students are expected to be able to think about history as a tool for investigating the present-day society.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on two report (20%×2) and term-end examination (60%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

歴史社会学Ⅱ

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史とは何かを考える」という全体を貫く主題のもと、近年、提起されている「歴史」なるものをめぐる理論的あるいは実践的な論点について、具体的な事例を織り交ぜつつ概観しながら、歴史と聞けば高校までの「日本史」や「世界史」を想起してしまう思考を超えたところで展開している〈歴史〉の姿に様々な角度から向き合っていく。同時に、そうした作業を通して、私たちがこれまでに作り上げてきた「歴史」を相対的な視野のなかで問い直していく。

【到達目標】

- ・“暗記科目としての「歴史」”を超えた地平に広がる、その奥行きと広がりに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
- ・あわせて、様々な形で提示される「歴史」への問いを前にして、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。

いくつかのトピックに関連した課題を提示し、レポートの形でその回答を求める（2本）。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	歴史を〈書く〉①	歴史が作られる“現場”を覗く
3	歴史を〈書く〉②	歴史はいかにして科学たりえるのか？
4	歴史を〈書く〉③	フィクションとノンフィクションの間
5	〈問題化される〉歴史①	書き換えられる歴史(1)
6	〈問題化される〉歴史②	書き換えられる歴史(2)
7	〈問題化される〉歴史③	歴史と責任～終わらない過去
8	歴史を〈学ぶ〉①	〈日本史〉的歴史の文法
9	歴史を〈学ぶ〉②	〈日本史〉的歴史の機能
10	歴史を〈記憶する〉①	人は誰もみな歴史家
11	歴史を〈記憶する〉②	過去をいかにして記憶するか
12	歴史を〈イメージする〉①	社会が〈近代化〉するとはどういうことか？
13	歴史を〈イメージする〉②	歴史的想像力のゆくえ
14	エピローグ	「歴史」への問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20%×2回）＋学期末試験（60%）により評価する。なお、2本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to introduce students to some viewpoints on history as contemporary events. Students are expected to be able to think deeply about historical positivism, narrative theory on history, historical revisionism, collective memory, and the classical theory of social change.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on two reports (20%×2) and term-end examination (60%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

数理社会学 I

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。ここでは、派閥ができるとそれを崩すのはなぜ難しいかなどの問いを可能な限りシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるならば、単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、主として社会関係や人間関係がつくる「構造」を扱ういくつかのモデルを紹介することで、社会現象を理論的に説明する方法を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探すという思考方法の基礎を習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義による。問題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	数理社会学と「モデル」について紹介する
2	「関係」の居心地とバランス(1)	関係のフォーマルな捉え方とハイドラーのバランス理論について説明する
3	「関係」の居心地とバランス(2)	バランス理論と均衡概念について説明する
4	派閥が維持されるとき(1)	グラフ理論の基礎概念を導入する
5	派閥が維持されるとき(2)	バランス理論のモデルを導入する
6	派閥が維持されるとき(3)	モデルの展開と含意について説明する
7	弱いつながりの強さ(1)	紐帯と社会の統合について論じる
8	弱いつながりの強さ(2)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論を導入する。
9	弱いつながりの強さ(3)	「弱い紐帯」とネットワークの特徴のとらえ方について説明する
10	弱いつながりの強さ(4)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論の検証について論じる
11	つながりの産物としての権力(1)	「支配関係」がネットワークでどのような形をとるかを考える
12	つながりの産物としての権力(2)	「支配関係」ネットワークに行列による表現を与える方法を学ぶ

- 13 つながりの産物としての権力(3) 権力（勢力）構造の表現について考える
- 14 構造をとらえるという事 授業のふり返りを通して「構造」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常リポートにより評価する（100%）。変更する場合は授業初回に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models of the "structure" emerging from our daily interactions.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

数理社会学Ⅱ

斎藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の分野である。そこでは、人はどのように社会をイメージするのかなどの問いをシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるなら単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、制度の維持と社会過程を扱うモデルの紹介を通して、社会現象を理論的に説明する方法（とその多様性）を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の適用例を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義による。問題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	フォーマルセオリーの役割について紹介する
2	「世代交代」と制度の安定(1)	社会的分業と年齢階梯制について導入する
3	「世代交代」と制度の安定(2)	世代間の役割分担のシステムである「ガダ」のモデル化を説明する
4	「世代交代」と制度の安定(3)	ガダのモデルをもとに制度の安定について考える
5	きょうだいはなぜ結婚できないか(1)	インセスト・タブーへの理論的なアプローチについて紹介する
6	きょうだいはなぜ結婚できないか(2)	White (1963)のモデルについて解説する
7	きょうだいはなぜ結婚できないか(3)	親族システムによる秩序が維持されるための条件について考える
8	きょうだいはなぜ結婚できないか(4)	婚姻と出自をめぐるルールをどう表現するかを考える
9	きょうだいはなぜ結婚できないか(5)	White (1963)モデルの含意のいくつかを解説する
10	なぜ「中流」が多いのか(1)	社会のイメージに関する研究を紹介する
11	なぜ「中流」が多いのか(2)	人との出会いで社会イメージが形成されるというファラロのアイデアを紹介する
12	なぜ「中流」が多いのか(3)	ファラロ(1973)のモデルについて解説する

- 13 なぜ「中流」が多いのか(4) 社会イメージのパターンや格差の認識についてモデルから導出する
- 14 社会学と数理モデル 社会学と数理モデルの関係について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常リポートにより評価する（100%）。変更する場合は授業初回に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models for the maintenance of social institutions and its products.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

原典講読

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちがいま所属しているこの「大学」という場は、教育と研究を理念とする社会的な制度であると同時に、教師と学生あるいは学生間の相互作用を基盤としたコミュニケーション空間でもある。またそれは、近代という時代を強く刻印した歴史的産物である一方で、その存立の様相については、時々の社会的文脈や政治的・経済的要請に応じつつ転変を繰り返してきた。昨今、そうした性格をもつ「大学」が、新たな変革を要する危機や困難のただなかにあると目されている。

本授業では、「大学を社会学する」をテーマにいくつかの文献を読み進めながら、現在の「大学」が内包する危機や困難の所在を確認していくとともに、「大学」のこれからについて、受講者との議論を通して展望することを目的とする。

【到達目標】

・「大学」に焦点をあてた社会学的な論考や研究にふれながら、現在の「大学」の立ち位置について理解を深める。
・これまで「大学」と向き合ってきた自分自身の経験を、歴史的・社会的な文脈をふまえながら捉え返す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

演習形式で授業を進める。

受講者には、事前に割り振られた担当箇所について、レジュメの作成と授業内での報告が求められる。担当者による報告の後、当該内容について受講者全員で議論していく。

なお、参加型の授業運営を可能とするため、受講者数を調整することもありうる。

また、授業計画は、受講者の関心や授業の展開により一部変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の概要説明、スケジュール確認
2	なぜいま「大学」を考えるのか？	A：序章を読む
3	「大学」の歴史社会学①	A：第Ⅰ章・第Ⅱ章を読む
4	「大学」の歴史社会学②	A：第Ⅲ章・第Ⅳ章を読む
5	「文系／理系」区分と大学で教えられる〈知〉①	B：第1章・第2章を読む
6	「文系／理系」区分と大学で教えられる〈知〉②	B：第3章・第4章（・第5章）を読む

- 7 「大学での学び」の社会学① C：第1章・第2章を読む
- 8 「大学での学び」の社会学② C：第3章・第4章・第5章を読む
- 9 大学生が勉強する「システム」を構想する？① D：第1章・第2章を読む
- 10 大学生が勉強する「システム」を構想する？② D：第3章・第4章を読む
- 11 ポストコロナ時代の「大学」をめぐって① E：序章・第1章・第2章を読む
- 12 ポストコロナ時代の「大学」をめぐって② E：第3章・第4章・第5章を読む
- 13 ポストコロナ時代の「大学」をめぐって③ E：第6章・終章を読む
- 14 エピローグ～「大学」授業のまとめはどこへ？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者全員、文献の指定箇所を事前に読了した上で授業にのぞむこと。報告者は、指定文献についての要約とコメント・問題提起をおこなうべく、レジュメの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

A：吉見俊哉『大学とは何か』岩波新書、2011年
B：隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』星海社新書、2018年
C：濱中淳子『大学でどう学ぶか』ちくまプリマー新書、2025年
D：辻太一朗『なぜ日本の大学生は、世界でいちばん勉強しないのか？』東洋経済新報社、2013年
E：吉見俊哉『大学は何処へ——未来への設計』岩波新書、2021年

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・議論への積極的関与を含む授業への参加度（40%）、担当章の報告（40%）、および期末レポート（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

担当者変更により該当なし。

【その他の重要事項】

本科目は「受講許可科目」である。受講希望者は必ず初回授業に参加し、教員から受講許可を得ること。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to read some of the sociological works on the university, and to discuss its social position at present and its future. Students are expected to comprehend how sociologists have discussed the university, and then rethink your own viewpoint toward it in social and historical context.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (40%), handouts distributed in the class (40%) and the final paper (20%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会学総合特講A

山田 唐波里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学に対して多大な影響を及ぼしてきたミシェル・フーコーの研究のなかでも、とくに集団／人口を対象とした権力メカニズムに着目した統治性論（生政治論）を中心にその理論的射程を検討します。また、フーコーの理論的側面に着目するだけでなく、日本の人口をめぐる諸実践の検討を通じて、統治性のメカニズムが日本社会でどのように展開してきたのかについて、具体的に理解することを目指します。

【到達目標】

ミシェル・フーコーの統治性論を、集団／人口を対象とした権力論であるところの、生政治論の延長線上で捉えることを目標とする。また、その権力メカニズムの日本における展開過程についても理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進める。ただし、統治性論を検討する前半部分では、実際にフーコーの著作（翻訳書）を講読する。受講人数によって、ディスカッションかコメント・ペーパーのいずれかによる受講生の授業への参加を求める。リアクションペーパーは次回の授業でいくつか取り上げて、講評を行う（授業計画は授業の展開により、若干の変更があり得る）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	イントロダクション	フーコー思想の解説
第3回	統治性論(生政治論) ①	『性の歴史 I 知への意志』を読む
第4回	統治性論(生政治論) ②	『安全・領土・人口』を読む①
第5回	統治性論(生政治論) ③	『安全・領土・人口』を読む②
第6回	統治性論(生政治論) ④	『安全・領土・人口』を読む③
第7回	知を分析する方法	『知の考古学』の解説
第8回	権力を分析する方法	『言説の領界』と「ニーチェ、系譜学、歴史」の解説
第9回	人口の分析①	戦前日本の人口概念の検討
第10回	人口の分析②	人口政策としての「家族計画」の検討
第11回	人口の分析③	少子化問題の検討
第12回	人口の分析④	1980年代の人口問題の検討
第13回	人口の分析⑤	現代における人口概念の検討
第14回	統治性の現在	授業のまとめと期末課題の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

M. フーコー 1976=1986, 『性の歴史 I 知への意志』新潮社。
 ———, 2004=2007, 『安全・領土・人口 コレージュ・ド・フランス講義 1977-1978年度』筑摩書房。
 各回で講読する文献は、学習支援システムを通して配布するため、購入の必要はない。

【参考書】

M. フーコー 1969=2012, 『知の考古学』河出書房新社。
 ———, 1971=2014, 『言説の領界』河出書房新社。
 ———, [1971] 1994=1999, 「ニーチェ、系譜学、歴史」『ミシェル・フーコー思考集成IV 規範・社会』筑摩書房, 11-38。
 この他の文献については、開講後に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・貢献）40%、期末レポート60%の配分で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの資料配布は学習支援システムを通じて行う。

【Outline (in English)】

Among the studies of Michel Foucault, this class examines the theoretical range of his theories, particularly his theory of “governmentality (biopolitics),” which focuses on the power mechanisms of group/population. In addition to focusing on Foucault's theoretical aspects, we will also analyse how the mechanism of governmentality has been developed in Japanese society by examining various practices related to population in Japan.

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会学総合特講B

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、アーサー・フランクの提唱する「ソシオナラトロジー（社会物語学）」の基本的な考え方を学ぶとともに、実践的な物語テキストの「読解」を通じて「対話的物語分析」の方法を習得することを目指す。

【到達目標】

病いの語りの社会学からソシオナラトロジーへと展開してきたA. フランクの思考の軌跡を学ぶとともに、テキストとの対話的な分析の方法を実践的に習得していくこと。理論と方法の循環のなかで、文化的な事象の分析技術を鍛えていくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面の講義。毎回レジュメを配布する予定。学期中に何度か、採点対象となる課題（レポート）の提出を求める。それらは主に、物語テキストの対話的な分析の試みである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の主題と目的の説明
第2回	病いの語りの社会学（1）	『体の知恵に聴く』から『傷ついた物語の語り手』へ
第3回	病いの語りの社会学（2）	「病いの語り」における身体と言葉の関係
第4回	方法論的基礎	構築主義批判以後という文脈
第5回	ソシオナラトロジー（1）	『物語を息づかせる』を読む
第6回	ソシオナラトロジー（2）	対話的物語分析とは何か
第7回	ソシオナラトロジー（3）	閉じない読みの試み
第8回	ソシオナラトロジー（4）	物語を語り直す
第9回	〈弱い読み〉とは何か（1）	『リア王 シェイクスピアの暗き慰め』を読む
第10回	〈弱い読み〉とは何か（2）	フランクとともに『リア王』を読む
第11回	〈弱い読み〉の実践（1）	他者の苦しみの物語
第12回	〈弱い読み〉の実践（2）	作中人物に手紙を書く
第13回	〈弱い読み〉の実践（3）	物語との対話
第14回	まとめ	講義全体をふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

Arthur W. Frank, *The Wounded Storyteller*, 1995（鈴木智之訳、『傷ついた物語の語り手』ゆみる出版、2002年）

Arthur W. Frank, *Letting Stories Breathe, a Socio-narratology*, The University of Chicago Press, 2010.

Arthur W. Frank *King Lear, Shakespeare's Dark Consolation*, Oxford University Press, 2022.

鈴木智之「〈弱い読み〉とは何か?」、『社会志林』72巻4号、2026年

【成績評価の方法と基準】

学期中に数回提出を求める中間レポートと学期末の試験に基づいて成績評価を行う。

中間レポートは40%、学期末試験が60%。

【学生の意見等からの気づき】

「出席」は成績評価の対象としませんが、毎回の教室での受講と課題の提出が理解を深めることになるようです。積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

講義の順番は、進めていく中で変更される場合もあります。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain the fundamental idea of Socio-narratology of Arthur W. Frank, and to learn the methods of Dialogical Narrative Analysis through reading of narrative texts.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content by reading the text presented in the class.

Grading will be decided based on the mid-term reports(40%) and term-end examination(60%).

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

統計調査法

齋藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的データ分析の基礎、社会調査から得られた量的データを分析する際に必要となる基本的な考え方と方法について学ぶ。これを通して、統計学の基礎知識を身につけ、初歩的な仮説検証の手法や考え方を理解することをめざす。

【到達目標】

社会調査から得られた量的データを分析するための基礎知識を習得する。データの分布をどのように把握するか、標本をもとに全体に関する情報をどのように推測するか、自らの仮説をどう検証すればよいかが「わかる」ようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義による。問題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更があるうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と目的について概説する
第2回	代表値と測度・分布の記述	データの測度がどのように分析と関連するかを概括する
第3回	確率の考え方	確率の概念を説明する
第4回	確率分布について	統計分布について説明する
第5回	統計的推測(1)：推測統計の基本	母集団と標本、そして統計的推定との関係について論じる
第6回	統計的推測(2)：統計的仮説検定の考え方と平均値の検定	平均値の検定の学習を通して統計的仮説検定の考え方と実際に学ぶ
第7回	「差がある」とはどういうことか	平均の差の検定・比率の差の検定について学ぶ
第8回	2つ以上の平均の差の検定	分散分析について説明する
第9回	クロス集計(1)：解釈のしかた	クロス表の「読みかた」を学ぶ
第10回	クロス集計(2)：検定と関連の指標	クロス表について、検定と関連の諸指標を概説する
第11回	変数のコントロール	変数のコントロールの考え方について説明する
第12回	相関係数と回帰係数	相関係数の性質と解釈、回帰係数との違いおよび関連について説明する
第13回	重回帰分析	重回帰分析について紹介する
第14回	まとめ	授業のふり返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

ポーンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990。

ほか授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。変更する場合は授業初回に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。受講生に数学の予備知識は必要ではないが、出された課題を着実にこなす努力は必要となる。

【Outline (in English)】

Students will learn the basics of quantitative analysis. In doing so, they should understand the logic and method for statistical hypothesis testing.

The goal of this course for you is to know how to grasp statistical distribution, how to make basic statistical inference on population, and how to construct and test a research hypothesis.

To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

EDU200EC（教育学 / Education 200）

発達・教育の理論 I

平塚 眞樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の発達や形成は、主体と環境の相互作用によるものとされる。この授業では、人の育ちの中でもとりわけ子ども・若者に焦点をあて、また学校教育に狭く留まらない社会環境総体に関心を広げ、子どもや若者がこの社会で等しく豊かに育つ環境のあり方を考える。発達・教育の理論 I では、受講生の皆さんが自分をここまで育てた環境をふりかえり、その育ちの環境を相対化してとらえる視点を学ぶ。

【到達目標】

主体と環境の相互作用による人の発達や学習について理解を深め、子どもや若者が育つ環境の多様性について認識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に授業者が講義形式で行うが、毎回の授業時に受講生に何らかのリアクションを求め、集約した内容は、当日もしくは翌週にフィードバックする。また学期中に何回か、グループ討議、グループワークの時間を設ける。オンデマンド形式で授業を実施する回がある可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自分の育ちをふりかえる
第2回	イントロダクション 2	・他者のふりかえりを共有する ・主体と環境の相互作用としての人の育ち
第3回	育ちの環境をみる目を相対化する 「いま」の相対化①	子育ての習俗
第4回	育ちの環境をみる目を相対化する 「いま」の相対化②	成人儀礼
第5回	育ちの環境をみる目を相対化する 「いま」の相対化③	近代化のパラドックス
第6回	育ちの環境をみる目を相対化する 「いま」の相対化④	子どもの権利
第7回	育ちの環境をみる目を相対化する 「いま」の相対化⑤	「いま」の相対化を通して考えたこと+その共有
第8回	育ちの環境をみる目を相対化する 「ここ＝自分」の相対化①	不登校と育ちの環境
第9回	育ちの環境をみる目を相対化する 「ここ＝自分」の相対化②	外国にルーツをもつ子どもたちの育ちの環境

第10回	育ちの環境をみる目を相対化する 「ここ＝自分」の相対化③	都市と地方
第11回	育ちの環境をみる目を相対化する 「ここ＝自分」の相対化④	社会階層と子どもの育ち
第12回	育ちの環境をみる目を相対化する 「ここ＝自分」の相対化⑤	「ここ＝自分」の相対化を通して考えたこと+その共有
第13回	育ちの環境を構成するもの①	フィンランドから考える 1
第14回	育ちの環境を構成するもの②	フィンランドから考える 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に応じて授業時に紹介する

【参考書】

授業内容に応じて授業時に紹介する

【成績評価の方法と基準】

以下の①～③の合計点で採点する。

①授業時のリアクション、ミニレポートに関する評価（40％程度）

②期末レポートに関する評価（60％程度）

③任意で提出を求める課題の内容に関する評価（加点対象）

採点基準は、問いに関する理解度、関連する授業内容への理解度、叙述の論理性、根拠・データを介した思考・考察の深度。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業時にレジュメ・資料の印刷配付は行わないため、各自オンライン接続して学習できる環境（パソコン、タブレット）を教室に持参いただきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Human development and growth are understood to result from the interaction between the subject and the environment. This course focuses particularly on children and young people, broadening its concern beyond school education to the social environment as a whole, and considers how to develop environments where children and young people can grow equally and richly within this society.

In this class, students reflect upon the environment that has nurtured them thus far, learning to view their upbringing environment from a relative perspective.

【Learning Objectives】

Course participants deepen their understanding of human development and growth through the interaction between the subject and the environment, and enhance their awareness of the diversity of environments in which children and young people develop.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and follow-up study time for this course is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on the total points from the following points ① to ③.

① Responses requested in almost every class session (approximately 40%)

② The end-of-term report (approximately 60%)

③ Optional assignments (for extra marks)

The grading criteria are: understanding of the question, comprehension of related course content, logical reasoning in the narrative, and the depth of thought and analysis through evidence and data.

EDU300EC（教育学 / Education 300）

発達・教育の理論Ⅱ

平塚 眞樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の発達や形成は、主体と環境の相互作用によるものとされる。この授業では、人の育ちの中でもとりわけ子ども・若者に焦点をあて、また学校教育に狭く留まらない社会環境総体に関心を広げ、子どもや若者がこの社会で等しく豊かに育つ環境のあり方を考える。発達・教育の理論Ⅱでは、子ども・若者の育ちの環境を取り巻く社会課題を取り上げながら、その課題に挑み、子どもや若者がひとしく豊かに育つ環境づくりに取り組む実践を学ぶ。

【到達目標】

子ども・若者の育ちの環境を取り巻く社会環境のあり方に関する問題意識を高め、その課題に挑み、子どもや若者がひとしく豊かに育つ環境づくりに取り組む実践について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に授業者が講義形式で行うが、毎回の授業時に受講生に何らかのリアクションを求め、その内容は当日または翌週にフィードバックする。また学期中に何回か、関連する実践に携わるゲスト講師による授業も行う。オンライン、オンデマンド形式で授業を実施する回がある可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会問題としての育ちの環境
第2回	排除しない育ちの社会環境をつくる①	人の育ちのコスト負担：経済的環境
第3回	排除しない育ちの社会環境をつくる②	学びの環境：教育・訓練の機会
第4回	排除しない育ちの社会環境をつくる③	遊び・交わる環境：文化・余暇の機会
第5回	排除しない育ちの社会環境をつくる④	子どもの居場所をつくる（ゲスト講義：予定）
第6回	排除しない育ちの社会環境をつくる⑤	子どもの権利を守る
第7回	排除しない育ちの社会環境をつくる⑥	子どもの権利を守る（ゲスト講義：予定）
第8回	排除しない育ちの社会環境をつくる⑦	排除しない育ちの社会環境づくりで考えたこと＋その共有
第9回	回復できる社会環境づくり①	家庭の機能不全からの回復
第10回	回復できる社会環境づくり②	児童養護施設という環境（ゲスト講義：予定）
第11回	回復できる社会環境づくり③	学校からの離脱と回復
第12回	回復できる社会環境づくり④	フリースペースという環境（ゲスト講義：予定）
第13回	回復できる社会環境づくり⑤	教育・訓練・仕事からの離脱と回復

第14回 回復できる社会環境 回復できる社会環境づくりを通して考えたこと＋その共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に応じて授業時に紹介する

【参考書】

授業内容に応じて授業時に紹介する

【成績評価の方法と基準】

以下の①～③の合計点で採点する。

①授業時のリアクション、ミニレポート（40％程度）

②期末レポート（60％程度）

③任意で提出を求める課題（加算対象）

採点基準は、問いに関する理解度、関連する授業内容への理解度、叙述の論理性、根拠・データを介した思考・考察の深度。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業時にレジュメ・資料の印刷配付は行わないため、各自オンライン接続して学習できる環境（パソコン、タブレット）を教室に持参いただきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Human development and growth are understood to result from the interaction between the subject and the environment. This course focuses particularly on children and young people, broadening its concern beyond school education to the social environment as a whole, and considers how to develop environments where children and young people can grow equally and richly within this society.

In this class, we address the social challenges surrounding the environments in which children and young people grow up, learning about practices that work towards developing environments where children and young people can develop equally and fully.

【Learning Objectives】

Course participants deepen their understanding of human development and growth through the interaction between the subject and the environment, and enhance their awareness of the diversity of environments in which children and young people develop.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and follow-up study time for this course is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on the total points from the following points ① to ③.

① Responses requested in almost every class session (approximately 40%)

② The end-of-term report (approximately 60%)

③ Optional assignments (for extra marks)

The grading criteria are: understanding of the question, comprehension of related course content, logical reasoning in the narrative, and the depth of thought and analysis through evidence and data.

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

家族社会学 I

菊澤 佐江子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、「家族の弱体化」等々の言葉で「家族が変わった」と指摘する声が聞かれるが、本当に家族は変わったのだろうか。そもそも家族とは何なのか。変わったとすれば、それは何故、またどのように変わったのか。今、家族はどのような状況にあり、これからどのように変わっていくのだろうか。本授業は、こうした疑問を糸口に、身近な「家族」について社会学的観点から考察を行うとともに、家族社会学に関する基礎的事項を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の基礎となる概念、視点、方法、研究動向等を学び、家族をめぐる諸現象について社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式（対面）によるが、授業内課題等を通じて双方向の授業を目指す。課題については、可能な限り次の授業でフィードバックを行う。授業計画は適宜、変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	家族とは（1）	集団としての家族定義について概説する
3	家族とは（2）	近年の様々な家族定義について概説する
4	家族の類型と分類	家族の類型と分類について概説する
5	近代化と家族（1）	構造機能主義的視点からの考察
6	近代化と家族（2）	ジェンダー視点からの考察
7	近代化と家族（3）	歴史社会学的視点からの考察
8	現代家族をみる視点	現代家族をみる視点について概説する
9	配偶者選択と結婚	配偶者選択と結婚について近年の動向をとりあげ考察する
10	性別役割分業	性別役割分業について近年の動向をとりあげ考察する
11	離婚とその後	離婚と家族について近年の動向をとりあげ考察する
12	家族・貧困・福祉	家族・貧困・福祉について近年の動向をとりあげ考察する
13	家族の行く末	家族の行く末について考察する
14	まとめ	授業のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（70%）、課題レポート（25%）、授業内課題（小テスト等）（5%）により、総合的に評価する。課題レポートの提出は期末テスト受験の必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題が学習に役立っているとの意見が多かったため継続したい

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システム等を使用する。

【その他の重要事項】

この授業は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamentals of sociology of families. At the end of the course, students are expected to understand the basic concepts and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 70%, Reports: 25%, In-class assignments: 5%

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

家族社会学Ⅱ

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族社会学において近年研究が蓄積されつつある家族とケアの諸問題をとりあげ、当該領域における現状や研究動向等を学ぶとともに、家族社会学的視点から考察を深める。

【到達目標】

家族とケアに関する現状や研究動向を理解し、家族社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式（対面）によるが、授業内課題等を通じて双方の授業を目指す。課題については、可能な限り次の授業でフィードバックを行う。授業計画は適宜、変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	育児期の親子関係	育児期の親子関係の歴史の変遷について概説する
3	家族社会学における育児研究の変遷	家族社会学における育児研究の変遷について概説する
4	母親と育児	育児不安とネットワークを中心に考察する
5	父親と育児	父親の育児をめぐる実態と研究動向を概説する
6	日本における子育て支援	日本の状況について概説する
7	諸外国における子育て支援	諸外国の状況について概説する
8	高齢期の親子関係	高齢期の親子関係の歴史の変遷について概説する
9	高齢期の親子をめぐる研究の変遷	高齢期の親子をめぐる研究の変遷について概説する
10	高齢期と社会的ネットワーク	高齢期の社会的ネットワークについて考察する
11	高齢期の親子同居は望ましいか	高齢期の成人子との同居について考察する
12	介護保険制度下の高齢者と家族	介護保険制度下の高齢者と家族について概説する
13	諸外国の高齢者・家族支援	諸外国の状況について概説する
14	まとめ	授業のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（70%）、課題レポート（25%）、授業内課題（小テスト等）（5%）により、総合的に評価する。課題レポートの提出は期末テスト受験の必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題が学習に役立っているとの意見が多かったため継続したい

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システム等を使用する。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期のみの受講者は、学期序盤に指定文献を通読することが受講の前提となる。授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sociological research on family and care. At the end of the course, students are expected to understand the theoretical developments and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 70%, Reports: 25%, In-class assignments: 5%

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

臨床社会学 I

三井 さよ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。

【到達目標】

具体的な社会問題について、一般的に言われる図式だけでなく、渦中にある人たちの葛藤や苦しみに目を向けるとともに、その問題の解決に向けて何がありうるのか、論理的に構想する力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

具体的に取り上げるのは、災害支援や高齢者介護と呼ばれる現場についてである。どのような問題を取り上げる際にも、現場でどのような問題が起きているか、それについて公的な制度でどのような対処や対応が考えられてきたか、その限界はどこにあったのか、さらにどのような個別の取り組みが現場でなされたのか、という点を踏まえて論じていく。

必要に応じて、リアクションペーパーを提出してもらう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者をはじめとして、支援や介護の現場にいる人たちの講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	臨床の社会学とは何か	概要の解説
第2回	震災とボランティア	ボランティア論再考
第3回	「災害弱者」の存在	避難所での状況
第4回	復興から「取り残される」人々	仮設住宅での状況
第5回	支援活動の曲がり角	長期的支援段階
第6回	公的援助システムの限界と継続する支援活動	組織維持とミッションとの対立と共存
第7回	新たな連帯に向けて	コミュニティ経済
第8回	「高齢者」とは誰のことか	歴史的観点から
第9回	家族ゆえの困難	家族介護者への照準
第10回	認知症を生きる	当事者の視点から
第11回	介護の転換(1)	生活リハビリ
第12回	介護の転換(2)	宅老所運動
第13回	介護の転換(3)	共生ケア
第14回	生活モデルへの転換	新たなケアシステム構築に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

三井さよ 2018 『はじめてのケア論』 有斐閣

三井さよ 2021 『ケアと支援と「社会」の発見』 生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）と論文試験（80％）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当事者による講演から多くを学んだという学生が多いため、可能な限り講演の機会を作りたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology. At the end of the course, students are expected to be able to think about caring and supporting as social matters. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

臨床社会学Ⅱ

三井 さよ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。具体的には、「病い」や「障害」を手がかりとする。

【到達目標】

「病い」「障害」を、「病者」「障害者」やその家族の側から捉え返し、その人々だけの問題としてきた社会のあり方を問い直すことを目標とする。「病い」「障害」というと、ある人に生じた医学的状态を指すと思われがちだが、「病い」も「障害」は実は社会との間で生まれるものである。車椅子ユーザーにとって移動が困難なのは、車椅子ユーザーを無視した設計になっているためでもある。このように社会との関係から問い直すことによって、人間観や社会規範を根底から見直すことがもたらす自由と創造性を知り、既存の社会構造について問い直す力を身につける。そこから、社会問題に取り組む臨床的な社会学の姿勢を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

社会問題の解決を目指す人たちとともに考える臨床社会学の姿勢に基づき、「病い」や「障害」を、一方ではマクロな社会状況と結びつけつつ、他方で個々の人の苦しみに根差しながら再考していく。学校教育、ジェンダーとセクシュアリティ、労働と雇用、犯罪と刑罰、社会保障、差別と包摂など、多くの社会的なテーマと結びつけて解説し、学生それぞれが考えを深められるように促す。

毎回、リアクションペーパーを提出してもらう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者の講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	臨床社会学についての解説と、病い・障害の再定義
第2回	盲・ろうとうひとつの文化	盲の人たちの経験、ろう文化など
第3回	障害者解放運動の歴史(1)	「青い芝の会」の問いかけ
第4回	障害者解放運動の歴史(2)	家族と福祉的配慮を問い直す
第5回	知的障害とは何か①	コミュニケーションを問い直す
第6回	知的障害とは何か②	個人化の過程
第7回	就学運動から①	学校を問い直す
第8回	就学運動から②	ともにいることを問い直す
第9回	共に働く運動から	働くことを問い直す
第10回	生命倫理を考える	人間の定義を問い直す

第11回	アートと障害	アートを問い直す
第12回	障害と性愛	性愛を問い直す
第13回	触法障害者	罪と罰を問い直す
第14回	新たな地域社会へ	排除／包摂の向こうへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

横塚晃一2007『母よ！ 殺すな』生活書院

安積純子・尾中文哉・立岩真也・岡原正幸2013『生の技法：家と施設を出て暮らす障害者の社会学』生活書院

「支援」編集委員会編2011『支援vol.1』～2026『支援vol.16』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）とレポート（80％）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当事者による講演から学ぶことが多いという学生の声が多かったので、可能な限り機会を作りたいと思っています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology and disability studies. The topics of this course include work in disability history, theory, ethics, and the arts. At the end of the course, students will be able to focus on the lived experiences of individuals with disabilities in practical terms as well. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

社会心理学 I

土倉 英志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、情動、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、他者や社会的事象に関する認知、他者から受ける影響、他者との関係性にかかわるテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。
- ・社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
2	対人認知	他者のイメージはいかに作られるのか
3	社会的推論1	出来事の原因をいかに推論するのか
4	社会的推論2	他者をどのように理解するのか
5	社会的推論3	推論はどのようになされるのか
6	態度変化	態度はどのように変わるのか
7	社会的影響	他者からどのように影響を受けるのか
8	対人魅力	どのように魅力を感じるのか
9	社会的自己1	自己とはいかなるものか
10	社会的自己2	自己はどのように作用しているのか
11	援助行動1	どうして他者に手を差し伸べないのか
12	援助行動2	どうして他者に手を差し伸べないのか
13	寛容性	他者にやさしくあるとは
14	まとめ・試験	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はなし

【参考書】

- ・池田謙一他（2019）『社会心理学・補訂版』（New Liberal Arts Selection）。有斐閣。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・学期末に実施する試験の成績によって評価する（100%）。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in social cognition, social impact, interpersonal relations, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the Term-end examination (100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会心理学Ⅱ

土倉 英志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、情動、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、文化と心理の関連、文化的道具論、行為と誘因の関連、ステレオタイプと偏見、現在の社会システムを維持させる要因といったテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する
- ・社会事象を社会心理学的に解釈できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。
- ・社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	もう一つの社会心理学、文化心理学、集団社会心理学・グループ・ダイナミクスとは何か
2	文化と心理の関連	文化・歴史とともにある認知
3	文化と心理の関連	文化・歴史とともにある認知
4	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
5	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
6	分業される認知	人びとのあいだに分散している認知と活動
7	文化的実践と学び	私たちはなぜ学ぶのか
8	誘因と行為の関連	誘因の構造と行為の関連
9	誘因と行為の関連	誘因の構造と行為の関連
10	集団意思決定	集団意思決定と集団生産性
11	ステレオタイプと偏見	偏見がもたらす問題
12	ステレオタイプと偏見	偏見の解消に向けて
13	社会変化を阻害する要因	なぜ現行のシステムは維持されるのか
14	まとめ・試験	まとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・グループワーク課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はなし。

【参考書】

- ・ガーゲン（1998）『もう一つの社会心理学』。ナカニシヤ出版。
- ・石黒広昭・亀田達也（編）（2010）『文化と実践』。新曜社。
- ・ドナルド・ノーマン（2022）『人を賢くする道具』。筑摩書房。
- ・レイヴ&ウェンガー（1993）『状況に埋め込まれた学習』。産業図書。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・学期末に実施する試験の成績によって評価する（100%）。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう教材を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。
- ・春学期の学習を前提に授業を進めるため、あわせて受講することをすすめます。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in cultural psychology, cognitive tools, social dilemma, stereotypes, prejudice, just world hypothesis, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the Term-end examination (100%).

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

エイジングの社会学

姫野 宏輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、現代社会における「エイジング（老い）」がもたらす社会問題に対して、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、それはなぜなのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて2回を1セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ→(後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、エイジングのもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさん事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

次の2点を到達目標とする。

- (1) エイジングがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に付けて理解することができる。
- (2) 自分の身の回りで起こっているエイジングにまつわる社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は2回を1セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ→(後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントカードを提出してもらいます。コメントカードで寄せられた意見や質問はいくつかを取り上げて次の授業の冒頭で解説し、フィードバックします。正解のコメントといったものはありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	・授業の内容、進め方、提出課題等について説明する。 ・ひとが「老いる」ということはどういうことか、多角的に考えてみる。
2	老いとディスアビリティ（1）	・ディスアビリティ概念について
3	老いとディスアビリティ（2）	・実例をもとに、自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
4	老いと家族・血縁（1）	・家族と親族によって支えられてきた日本の高齢者介護について
5	老いと家族・血縁（2）	・自分の家族・親族が老いに直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
6	老いと人間関係（1）	・老いと社会的孤立の相関関係について
7	老いと人間関係（2）	・老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
8	老いと社会福祉制度・介護保険（1）	・老いたあとの経済活動と日本の社会福祉政策について、介護保険制度を例に考える。
9	老いと社会福祉制度・介護保険（2）	・老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、どのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
10	老いと社会福祉制度・国民年金（1）	・日本社会の少子化と労働力人口の減少について、国民年金制度を例に考える。
11	老いと社会福祉制度・国民年金（2）	・若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。
12	エイジング社会のデザイン（1）	・アメリカ合衆国のような福祉社会のありかたについて
13	エイジング社会のデザイン（2）	・スウェーデンのような福祉社会のありかたについて
14	授業の総括	・授業中でとりあげたトピックを振り返り、自分ならどのようなエイジング社会のデザインが望ましいと思うか、考えてみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【参考書】

特になし。

毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。
得点の配分は、2回の授業ごとに課されるコメントカード提出を平常点として50%、期末レポートを到達度の確認として50%の配分で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度の授業で、課題提出のない回（各授業セットの（1）回）の授業への取り組みを成績評価に反映させてほしいという要望がありました。講師としても、ただ授業を聞いていればいいという授業は望むところではないので、そのような工夫を2026年度授業では取り入れます。

【Outline (in English)】

This course introduces social problems concerning the aging society. The aim of this course is to help students get the skills and knowledge needed to live in the aging society. At the end of the course, you are expected to describe your ideal vision of the future society.

Grades will be evaluated with the submission of web comments assigned at each of the two class sessions (50%), and the final report (50%).

This course will be given by Japanese language.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

環境社会学 I

茅野 恒秀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題という、一見すると自然科学的な問題に潜む社会的共同性の危機と回復をテーマとする環境社会学の問題構成と学問領域としての展開を概説する。授業に通底するテーマは【環境社会学の歴史（レガシー）と方法：事例と理論の往復から読み解く】である。

【到達目標】

社会学の理論と方法に基づき、環境問題を分析することが可能であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせて進める。講義では、環境社会学が培ってきた知見を具体の環境問題に即して紹介することで、環境問題をリアルな、歴史と地続きの問題として立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題の社会史	環境が問題化する社会過程についての基本的認識を得る
第2回	近代化と公害	近代化に伴う公害・労災・職業病の歴史的経過を理解する
第3回	水俣病問題(1)	水俣病の経過について映像資料や文書資料を通じて把握する
第4回	水俣病問題(2)	水俣病問題における加害・被害過程の実態を把握する
第5回	水俣病問題(3)	水俣病問題の加害・被害を構造論の視点から理解する
第6回	地域開発と環境問題(1)	戦後日本の地域開発に伴う環境問題について、映像資料や文書資料を通じて把握する
第7回	地域開発と環境問題(2)	地域開発に伴う環境問題の主体・要因連関を受益圏・受苦圏論の視点から理解する
第8回	地域開発と環境問題(3)	地域開発に伴う環境問題の問題構成を生活環境主義の視点から理解する
第9回	環境問題とライフスタイル(1)	環境問題と人々のライフスタイルの関連を水問題の検討を通じて把握する
第10回	環境問題とライフスタイル(2)	環境問題と人々のライフスタイルの関連を廃棄物問題の検討を通じて把握する
第11回	環境政策と環境運動(1)	環境問題解決過程における環境運動の成立と展開について把握する
第12回	環境政策と環境運動(2)	環境問題解決過程における環境政策の成立と展開について把握する
第13回	環境政策と環境運動(3)	環境問題解決過程を環境制御システム論の視点から理解する

第14回 環境ガバナンス

多主体協働によって環境問題の解決を図ろうとする環境ガバナンスの考え方と課題について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で参考書や文献、参考URLを示し、予習しておくべき内容を指示する。各回の授業終了後には、使用した教材の一部が学習支援システムを通じて閲覧可能であるので、事後学習に活用されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】

『シリーズ環境社会学講座』全6巻（2023～2025、新泉社）。①『なぜ公害は続くのか—潜在・散在・長期化する被害』（ISBN 978-4-7877-2301-7）、②『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか』（ISBN 978-4-7877-2302-4）、③『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか—不可視化される被害、再生産される加害構造』（ISBN 978-4-7877-2303-1）、④『答えない人と自然のあいだ—「自然保護」以後の環境社会学』（ISBN 978-4-7877-2404-5）、⑤『持続可能な社会への転換はなぜ難しいのか』（ISBN 978-4-7877-2405-2）、⑥『複雑な問題をどう解決すればよいのか—環境社会学の実践』（ISBN 978-4-7877-2406-9）
以上の他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では環境問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、環境社会学の基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

The course outlines the problematic framework and academic development of environmental sociology, which addresses the crisis and restoration of social communality underlying environmental issues — problems that appear, at first glance, to be natural science-based. The underlying theme of the course is "The History (Legacy) and Methods of Environmental Sociology: Interpreting Through the Back-and-Forth Between Case Studies and Theory. The goals of this course are to understand that it is possible to analyze environmental issues based on sociological theory and methodology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%, Short reports: 60%.

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

環境社会学Ⅱ

茅野 恒秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題という、一見すると自然科学的な問題に潜む社会的共同性の危機と回復をテーマとする環境社会学の問題構成と学問領域としての展開を概説する。授業に通底するテーマは【複雑化する環境問題の社会学：理論と実践の往復から読み解く】である。

【到達目標】

社会学の理論と方法に基づき、環境問題を分析することが可能であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせて進める。講義では、環境社会学が培ってきた知見を具体的環境問題に即して紹介することで、環境問題をリアルな、歴史と地続きの問題として立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜ環境保全はうまくいかないのか	Wicked Problem、SustainabilityTransitionなど本授業を貫く視点を確認する
第2回	社会的ジレンマとしての環境問題	社会的ジレンマとして環境問題を捉える視座を理解する
第3回	環境負荷の外部転嫁	社会的ジレンマ論や受益圏・受苦圏論の応用問題としての環境負荷の外部転嫁論の視点を確認する
第4回	福島原発事故問題(1)	2011年3月に発生した東京電力福島第一原発事故の経過について映像資料や文書資料を通じて把握する
第5回	福島原発事故問題(2)	被害構造論の視座から福島原発事故に関する研究成果を確認する
第6回	福島原発事故問題(3)	生活環境主義の視座から福島原発事故に関する研究成果を確認する
第7回	福島原発事故問題(4)	生活環境を複層的に捉え、被害の総体を把握する研究成果を確認する
第8回	気候危機の社会学(1)	地球環境問題としての気候変動とその危機に関する問題構成を理解する
第9回	気候危機の社会学(2)	地域環境問題としての気候変動とその危機に関する問題構成を理解する
第10回	エネルギー転換はどうすればうまくいくのか(1)	社会的受容性を鍵概念にエネルギー転換の過程を理解する
第11回	エネルギー転換はどうすればうまくいくのか(2)	コミュニティの受容性を鍵概念にエネルギー転換の過程を理解する

第12回	環境政策と環境運動(2)	地域デザインの視点による環境問題解決過程について、映像資料や文書資料を通じて把握する
第13回	環境政策と環境運動(3)	地域デザインの視点による環境問題解決過程について、社会的受容の鍵としての「物語」に着目して理解する
第14回	環境問題解決過程と社会デザイン	「結果としての環境保全」を鍵概念に環境問題解決過程を構想する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で参考書や文献、参考URLを示し、予習しておくべき内容を指示する。各回の授業終了後には、使用した教材の一部が学習支援システムを通じて閲覧可能であるので、事後学習に活用されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】

『シリーズ環境社会学講座』全6巻（2023～2025、新泉社）。①『なぜ公害は続くのか—潜在・散在・長期化する被害』(ISBN 978-4-7877-2301-7)、②『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか』(ISBN 978-4-7877-2302-4)、③『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか—不可視化される被害、再生産される加害構造』(ISBN 978-4-7877-2303-1)、④『答えのない人と自然のあいだ—「自然保護」以後の環境社会学』(ISBN 978-4-7877-2404-5)、⑤『持続可能な社会への転換はなぜ難しいのか』(ISBN 978-4-7877-2405-2)、⑥『複雑な問題をどう解決すればよいのか—環境社会学の実践』(ISBN 978-4-7877-2406-9)

以上の他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では環境問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、環境社会学の基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

The course outlines the problematic framework and academic development of environmental sociology, which addresses the crisis and restoration of social communality underlying environmental issues — problems that appear, at first glance, to be natural science-based. The underlying theme of the course is “The Sociology of Increasingly Complex Environmental Issues: Interpreting Them Through the Back-and-Forth Between Theory and Practice.”

The goals of this course are to understand that it is possible to analyze environmental issues based on sociological theory and methodology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%, Short reports: 60%.

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

都市と地域の社会学Ⅰ

茅野 恒秀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市と地域を対象として、そこに現れるさまざまな社会現象や社会問題のしくみを、社会構造や集団・組織、人びとの意識や行為・関係の有り様に着目して社会学的に把握する。授業に通底するテーマは【変動する都市と地域：時間と空間のダイナミズムから読み解く】である。

【到達目標】

都市と地域をめぐる歴史的な変動過程を素材に、現在直面する社会課題が、都市と地域の社会変動と時間的・空間的にどのように関連しているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせる。講義では、都市・地域・環境・災害などの領域社会学が培ってきた知見を社会的現実の即して紹介することで、眼前の社会問題を現在形としてのみ捉えるのではなく、その来歴や解決の構想を含め、立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	都市と地域の現在	グローバルシティから限界集落まで、都市と地域のさまざまな現在地を俯瞰的、概説的に捉える。
第2回	地域社会の成り立ち	地域社会を人びとの空間的共存として捉える基本的視座を得る。
第3回	地域社会の編成と再編：構造的視点	都市と地域を主題とする社会変動を、構造論的視座から捉える。自然村や社会地区などによる基礎的認識から平成の市町村合併までを通史的に把握する。
第4回	地域社会の編成と再編：関係的視点	都市と地域を主題とする社会変動を、関係論的視座から捉える。現在の私たちの人間関係に残る古くからの社会慣習やメカニズムの影響を考察する。
第5回	移動と世代からみる都市と地域の変容	戦後日本社会の変動を、時代に生きる人びとのライフコースと都市と地域の関わりの中で捉える。
第6回	都市と地域における親密性、共同性、公共性の持続と変容	都市・地域の社会変動を親密性、共同性、公共性の持続と変容という観点から整理する。

第7回	資料映像視聴とディスカッション	授業前半で得た視点をを用いて、ある地域とそこに生きる人びとの現実を解釈する。
第8回	限界集落と消滅可能性都市	平成初期に提唱された「限界集落」概念の誕生と展開を確認し、人口減少社会の下での都市と地域が直面する課題を捉える。
第9回	広域システムとしての地域	他出子の生活サポートや遠隔地域間連携など、地域社会の自己完結性を相対化する視座を得る。
第10回	田園回帰論の検討	都市－農村連携やCCRCなどを含む近年の田園回帰論の動向について検討する。
第11回	事例研究：災害と都市・地域(1)	災害に関する社会学的研究の基本的視座を得るとともに、災害に直面した地域の実態を把握する。
第12回	事例研究：災害と都市・地域(2)	災害復興政策と地域コミュニティの復興に向けた諸課題を検討する。
第13回	事例研究：災害と都市・地域(3)	「災間」を鍵概念に、地域社会における防災・減災の諸課題を検討する。
第14回	変動する都市と地域	現代社会の社会構造と社会関係を都市と地域を舞台に俯瞰し、都市と地域のガバナンスのあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】

都市と地域の社会学を理解する上では近現代史のリテラシーは欠かすことができない。

安岡健一,2025,『戦後史1945-2025：敗戦からコロナ後まで』中公新書。

を参考書とする。この他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では都市・地域に生起する社会現象や問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、現代社会のさまざまな現象や問題を読み解くための基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度授業改善アンケートの結果に関しては、特になし。

【Outline (in English)】

The course will focus on cities and regions, and sociologically examine the mechanisms of various social phenomena and problems that appear there, focusing on social structures, groups and organizations, and people's awareness, actions, and relationships. The underlying theme of the course is "Cities and Regions in Flux: Reading from the Dynamism of Time and Space. The goals of this course are to understand how the social problems we face today are temporally and spatially related to social changes in the city and region. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%, Short reports: 60%.

SOC200EC（社会学 / Sociology 200）

都市と地域の社会学Ⅱ

茅野 恒秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市と地域を対象として、そこに現れるさまざまな社会現象や社会問題のしくみを、社会構造や集団・組織、人びとの意識や行為・関係の有り様に着目して社会的に把握する。授業に通底するテーマは【相剋する都市と地域：リスク社会をめぐるイシューから読み解く】である。

【到達目標】

都市と地域をめぐる現代社会の諸問題を素材に、リスクや資源の偏在という問題状況が、都市と地域、そして国家やグローバル社会の権力構造とどのように関連しあっているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせる。講義では、都市・地域・環境・災害などの領域社会学が培ってきた知見を社会的現実の即して紹介することで、眼前の社会問題を現在形としてのみ捉えるのではなく、その来歴や解決の構想を含め、立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会問題の噴出点としての都市と地域	現代社会の諸問題を規定する構造的要因に都市と地域のありようがあることを把握する。
第2回	都市化と農村化	都市と農村が近代化を契機に分化した経過とそのメカニズムを歴史社会的に検討する。
第3回	地域資源管理の前近代と近代	生業や生活と密接に関わる地域資源管理の来歴と近代化への応答過程を検討することを通じて、共的なものが公私へと切り分けられるメカニズムを把握する。
第4回	事例研究：変転する「中央」と「辺境」(1)	特定の地域（長野県諏訪地方を予定）における近現代の経験を事例に、生活環境と社会組織の変動に注目して、現在私たちが経験している地域社会の地政学的な編成が自明のものではないことを考察する。
第5回	事例研究：変転する「中央」と「辺境」(2)	特定の地域（長野県諏訪地方を予定）における近現代の経験を事例に、生活環境と社会組織の変動に注目して、現在進行形の社会問題との要因連関を考察する。

第6回	地域間格差	大都市圏から地方に至る現代地域社会の編成の帰結を地域間格差の視点から読み解き、人びとの社会経済的地位を規定する諸要因への影響を考察する。
第7回	地域開発の構想と現実	日本における地域開発政策を検証した社会学の研究成果を涉猟することを通じて、地域開発のあり方について検証する。
第8回	リスクをめぐる都市と地域	リスク社会論に立脚して、現代の都市と地域に生じている様々なリスクとその偏在について考察する。
第9回	事例研究：エネルギーと都市・地域(1)	特定の地域（青森県下北半島を予定）における近現代の経験を事例に、地域間格差の是正を意図した地域開発の帰結を、エネルギー政策と関連づけて考察する。
第10回	事例研究：エネルギーと都市・地域(2)	特定の地域（青森県下北半島を予定）における近現代の経験を事例に、リスクの偏在と富の分配に関する問題状況と地域社会の応答について考察する。
第11回	事例研究：エネルギーと都市・地域(3)	エネルギー転換という問題状況に即して、現在と未来の都市と地域について考察する。
第12回	地域資源管理の現代的課題	かつて生業や生活と密接に関わってきた地域資源管理が直面するアンダーユースという新たな問題状況を検討することを通じて、人口減少社会における社会問題の解決過程について考察する。
第13回	都市・地域のアクションリサーチ	都市と地域の社会学を実践する上で欠かせないフィールドワーク型の社会調査法について、特に都市・地域に暮らす人びととの共同の実践の可能性について検討する。
第14回	相剋する都市と地域	現代社会において顕在化している社会問題を都市と地域を舞台に俯瞰し、あるべき都市と地域の相互関係について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】

都市と地域の社会学を理解する上では近現代史のリテラシーは欠かせることができない。
安岡健一,2025,『戦後史 1945-2025：敗戦からコロナ後まで』中公新書。
を参考書とする。この他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では都市・地域に生起する社会現象や問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、現代社会のさまざまな現象や問題を読み解くための基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度授業改善アンケートの結果に関しては、特になし。

【Outline (in English)】

The course will focus on cities and regions, and sociologically examine the mechanisms of various social phenomena and problems that appear there, focusing on social structures, groups and organizations, and people's awareness, actions, and relationships. The underlying theme of the course is "Conflicting Cities and Regions: Reading from Issues Concerning Risk Society. The goals of this course are to understand how the problematic situation of risk and resource maldistribution relates to the power structures of cities and regions, as well as the state and global society. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%、Short reports: 60%.

SOC100EC (社会学 / Sociology 100)

文化社会学B

杉山 怜美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近年社会的な評価や影響力を増しつつあるアニメ文化を取り上げて、個々の作品や作家に着目するのとは異なる視点から、アニメ文化の可能性と限界について考える。具体的には、「消費」「産業」「技術」の3つの視点からアニメ文化について学ぶ。本授業を通して、アニメと場所の多層的な関係を考察できるようになることを目的としている。

【到達目標】

アニメと場所の重層的な関係を捉える視点を身に付ける。
アニメ文化の特質について、表現、技術、産業構造、ファンダムなど様々な観点から論理的・客観的に考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則として講義形式（対面）で進める。
毎回、コメントペーパーもしくは小課題を提出してもらい、翌回にピックアップしてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アニメ文化について捉える文化産業論の枠組みについて学ぶ
2	「アニメを見る」を支える空間	アニメ視聴を可能とする流通の歴史を理解する
3	都市とアニメの消費	都市がアニメ文化に果たす役割について学ぶ
4	住まうこととファン実践	継続的なファン実践と「ホーム」の関係について考える
5	アニメ受容のグローバル化を再考する	グローバルなアニメ受容について、地域ごとの文脈と紐付けて理解する
6	アニメ制作空間の拡張	空間の視点からアニメ制作の実態を理解する
7	アニメ生産の制度（化）	教育や権利運用などアニメに関わる制度や制度化について学ぶ
8	アニメ生産のグローバル化を再考する	アニメの国際的な制作について学ぶ
9	新自由主義におけるクリエイティビティとアニメーション	ディズニーを事例に新自由主義における表象の再編について考える
10	オタクの浮上とビデオ	オタクが成立する過程とビデオの関係について理解する
11	「音楽」でアニメを理解する実践	「音楽」を事例にアニメの理解が協働で達成されることを学ぶ
12	場所の意味を多重化する技術	『ポケモンGO』のプレイヤーの経験から場所の意味の多重性について考える

13 クィア・スタディー 二次元性愛やその運動において、コンテンツや場所が果たす役割を学ぶ

14 まとめ 授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

永田大輔・松永伸太郎・杉山怜美編, 2024, 『アニメと場所の社会学：文化産業における共通文化の可能性』ナカニシヤ出版. / 2,970円（税込）

【参考書】

永田大輔・松永伸太郎編, 2020, 『アニメの社会学：アニメファンとアニメ制作者たちの文化産業論』ナカニシヤ出版. / 2,860円（税込）

【成績評価の方法と基準】

平常点（講義への主体的な参加およびコメントペーパーの提出内容によって判断する）：40%

小レポート：30%（1本あたり10%×3本）

期末レポート：30%

なお、小レポートと期末レポートでは教科書を使用する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course examines anime culture, focusing on its social impact and the multilayered relationship between anime and "place" through the perspectives of consumption, industry, and technology. At the end of the course, students are expected to be able to analyze anime culture logically and objectively from various viewpoints, such as production structures and fandom. Learning activities outside of classroom Prep/review: 4 hours per class. (2 hours each for preparation and review.) Textbook Nagata, D., Matsunaga, S., and Sugiyama, S. (Eds.), 2024, Sociology of Anime and Places: Possibility of Common Culture in Cultural Industry, Nakanishiya Shuppan. Final grade will be calculated according to the following process in-class assignments(40%), short reports(30%) and term-end report(30%). The use of the textbook is required for both short and term-end reports.

CUA200EC（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

文化人類学

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の文化（生活様式）の多様性と普遍性について、諸民族の事例を取りあげ、世界諸地域の人びとの生活、信仰、文化変容を理解すると同時に、自文化を相対化する考え方も学んでいく。

【到達目標】

文化人類学の基礎的な知識、アプローチが理解できるようになる。フィールドワークに基づいて書き上げられた民族誌などの事例を通して世界の諸地域に暮らす人びとの文化の多様性を知り、異文化の理解を深め、視野を広げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げるテーマに関連する文化人類学の概念について説明し、映像を含む資料を用いながら世界の諸民族の文化の事例を取り上げる。講義内容のレジュメを配布し、パワーポイントを使用し進めていく。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	(1)文化人類学とは、隣接の研究分野との関連性、(2)授業のトピックス、進め方と評価方法
2.	通過儀礼	通過儀礼の構造、暦と年中行事（季節儀礼）
3.	通過儀礼	祝祭日の重層性
4.	通過儀礼	人生儀礼（誕生、成人式、婚姻儀礼）
5.	通過儀礼	人生儀礼（葬送儀礼の構造、現代社会の樹木葬）
6.	家族と親族	家族のかたちと住まい
7.	宗教と世界観	神話と聖なる山
8.	宗教と世界観	風水の環境認識および実践
9.	生業形態と文化	狩猟採集社会の文化の継承と変容
10.	生業形態と文化	牧畜社会の動物観、文化の継承と変容
11.	生業形態と文化	農業と「文化的景観」、「世界農業遺産」
12.	嗜好品文化	コーヒーの栽培、飲用、「伝統」の再考
13.	文化の展示、まとめ	人類学・民族学博物館と文化の展示、まとめ
14.	レポート	期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に毎回提出してもらうリアクションペーパーの内容30%（遅刻した場合は減点）と日本語で作成した期末レポート70%で成績を評価する。授業の具体的な内容に即していないものは評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

授業に画像や映像資料を多めに取り入れるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学習支援システム上の連絡事項を確認すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding about various culture of the world from the viewpoint of cultural anthropology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final paper (70%), and the quality of the students' reaction papers (30 %).

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

宗教社会学

永井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりのなかに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

【到達目標】

①主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。②それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教的な現象に気づくことができる。③自分を取り巻く環境における宗教的な現象を客観的に把握し理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面による講義形式です。①授業当日の資料教材は授業時に配布します（授業内容のレジュメではありません）。後日、学習支援システムにも掲げます。②授業内で、リアクションペーパーや課題ペーパーの提出があります。また、授業日当日中が提出期限の学習支援システムで提出する小テストがある場合もあります。③授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーをいくつか取り上げ補足説明や、小テストの解答説明等のフィードバックを行います。④レポート課題の提出が学期の半ばにあります。レポート課題についての詳細は、授業の中で提示しますが、参考文献（WEBシラバス）に掲げた『グローバル現代社会論』および『いま、ともに考える社会学』をもとにする予定です。レポート提出期日は授業の際に伝達します。⑤授業計画は授業の展開によって、若干の変更があることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	唯一神信仰の大きな流れ・補足説明
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合

9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	新宗教運動の発生と展開
12	社会のなかの宗教 1	宗教意識の国際比較・日本とヨーロッパ
13	社会のなかの宗教 2	アメリカの宗教意識
14	社会のなかの宗教 3	補足説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくといでしょう。新聞の中から宗教に関する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。授業時に配布される資料教材には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。授業内容に関する課題や小テストもありますので、授業中に提示されたら、忘れずに学習支援システム上に提出してください。提出期限は授業日当日中です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業時に配布する資料教材は後日学習支援システムにも掲げます。

【参考書】

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版2012年
山田真茂留編『グローバル現代社会論』文真堂2018年（2600円＋税）
山田真茂留・有田伸・中村英代編『いま、ともに考える社会学』有斐閣2025年（1800円＋税）
各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験の結果を50%②中間レポート課題25%③授業内提出のリアクションペーパーや課題ペーパー、または授業日当日中に学習支援システム上に提出する小テスト（回数は随時）の結果を25%とする割合で総合的に判断・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

頂いたご意見を真摯に受け止め適宜改善に努めていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

授業後の課題を当日中に提出する際に学習支援システムが利用できる機器及び環境

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge about various religious cultures and construct a perspective that enables students to grasp and understand the existence of religious culture that surrounds us objectively. Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Final exam (50%), Mid-term report (25%), and assignments end of some class or quizzes after some class (25%).

HSS200EC（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ文化論

越部 清美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月1/Mon.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会においてスポーツは、一部の特権的な人々の所有物から大衆の文化として広く深く人々の生活に浸透している。本講義では、スポーツの歴史を学びながら、スポーツ文化を包括的に理解することを目的とし、その中でも特に現代に特徴的と思われる視点について考えていく。

【到達目標】

スポーツの歴史を学び、現代社会における文化としてのスポーツ活動の意義や機能を考え、理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の講義の中でリアクションペーパー等の提出を求める。ゲスト講師を予定している。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ文化論とは	スポーツ文化論を学ぶ意義
第2回	スポーツの歴史	文化としてのスポーツの発生
第3回	スポーツの思想（1）	近代スポーツの思想
第4回	スポーツの思想（2）	現代スポーツの思想
第5回	メディアとスポーツ（1）	テレビとスポーツの関係を探る
第6回	メディアとスポーツ（2）	構造と機能
第7回	女性とスポーツ	歴史を振り返り問題点を問う
第8回	スポーツ競技者	アスリートと社会の関係を探る
第9回	スポーツファン	スポーツファンとは何か
第10回	オリンピックとパラリンピック	オリンピック・パラリンピックと政治・経済の関係
第11回	スポーツと環境問題	スポーツと環境の関係
第12回	障がいのある人とスポーツ	障がいのある人とスポーツの関係を探る
第13回	生涯スポーツ	生涯スポーツを考える
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

【参考書】

「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

スポーツに思想があるのか、と驚く学生が結構多い。いろいろな事例を紹介しながら、さらに理解を深めてもらいたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire a comprehensive understanding of sports culture while learning about the history of sports. At the end of course, students are expected to get sports minds. Students will be expected to have completed the required assignments after each class.

Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Attitude:50%, Exam:50%

POL200EB, POL200EC (政治学 / Politics 200, 政治学 / Politics 200)

国際関係論 I

二村 まどか

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の国際情勢を考察するために必要な概念と分析枠組みについて学ぶ。国際問題を理解する上で重要な3つの理論をとりあげ、それらの基本的な主張を、各理論が生まれ発展する背景となった国際的な文脈に即して考察する。また国際組織、国際法、脱国家的主体にも焦点を当て、国際社会におけるそれぞれの役割と限界を3つの理論を通して考える。

【到達目標】

各理論の分析枠組みを通して、現代の国際情勢と問題を理論的、実証的、規範的に考察し、それぞれの理論が持つ利点と限界を認識・理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半で主要な国際関係学の理論を扱い、後半でそれらの理論を使いながら、国際社会における国際組織、国際法、脱国家的主体の役割を考える。また現在新たに浮上しているグローバリゼーションに伴う問題への視点を模索する。リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について ＊成績評価について説明します、
2	「国際関係論」とは何か	国際情勢を見るためのさまざまな視点
3	国際関係における理想主義	第一次世界大戦と国際関係学の始まり
4	リベラリズムとリアリズム	第二次世界大戦とリアリズムの台頭
5	冷戦時代の国際関係①：ネオリアリズム	安全保障のジレンマ、「国家はなぜ協調できないのか」
6	冷戦時代の国際関係②：ネオリベラリズム	国際制度の構築、「国家はどのようなときに協調できるのか」
7	冷戦の終わりと国際関係における変化	冷戦の終わりは国際関係に何をもたらしたのか
8	コンストラクティヴィズムと国際規範	国際関係における、理念、文化、社会的側面の重要性
9	国際関係における法の役割	国際法の特徴と機能
10	国際連合	アナーキーな国際システムにおける国連の可能性と限界
11	脱国家的主体	脱国家的主体とは何か、国際関係においてどういう存在か
12	国際関係における人権問題	人権と国家主権の関係
13	国際政治からグローバル政治へ	グローバルな問題と国家の役割
14	まとめ	国際関係の現状について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてくること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争- 理論と歴史 [第10版]』(原書房、2017)

【参考書】

授業中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）：30%

期末テスト：70%

＊第1回目の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

In this course, we learn the concepts and theories of international relations to understand ongoing global issues. The course especially focuses on Realism, Liberalism and Constructivism. It also examines the role and function of international law, international organizations, and non-state actors.

POL300EB, POL300EC (政治学 / Politics 300, 政治学 / Politics 300)

国際関係論 II

二村 まどか

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦後から現在に至るまで国家や国際組織がどのように「国際の平和と安全への脅威」に対応してきたかについて学ぶ。国際関係論Iで学んだ理論や概念をふまえつつ、冷戦後の武力紛争や脅威がどのような問題を引きつけてきたのか、そしてその問題に対して国際社会ではどのような行動がとられ、議論がなされてきたのかについて考察する。

【到達目標】

現代の国際情勢と問題、特に安全保障と武力行使にかかわる問題について、論理的、実証的、規範的に考察し、理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

冷戦後の国際安全保障に関する重要な出来事（湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、ルワンダの大虐殺、コソヴォ紛争、9.11アメリカ同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、リビア空爆）に焦点を当て、国際社会が直面した国際安全保障の問題を考える。

リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について ＊成績評価について説明します。
2	冷戦の終結と国際安全保障の変化	冷戦後の国際の平和と安全をめぐる問題の特徴
3	湾岸戦争：「新世界秩序」	集団安全保障体制の復活と国連の役割
4	ユーゴスラビア紛争	国連平和維持活動(PKO) の発展と課題
5	ルワンダ大虐殺	民族紛争の構図と「アイデンティティ政治」
6	コソヴォ紛争	人道的介入
7	戦争犯罪と国際刑事裁判所	国際社会における国際刑事裁判の試み
8	映像鑑賞	9/11後の世界について
9	9/11とテロリズム	国際テロとグローバリゼーションの関係
10	アフガニスタン空爆	「テロとの戦い」と空爆の是非
11	アフガニスタンの国家再建	脆弱国家と平和構築
12	イラク戦争	「テロとの戦い」と大量破壊兵器問題
13	リビア空爆	「保護する責任」をめぐる議論
14	「人間の安全保障」からのアプローチ	伝統的安全保障の限界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてくること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争－理論と歴史〔第10版〕』（原書房、2017）
酒井啓子 『9.11後の現代史』講談社現代新書（2018）

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）：30%

期末テスト（課題）：70%

＊第1回目の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

The topic of this course is international peace and security, especially focusing on the use of force in the post-Cold War international relations. The course will pick up wars and armed conflicts in the 1990s onwards and critically examine international debates and practices.

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

国際社会と民族

佐藤 成基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ナショナリズムに関する様々な理論的アプローチについて学び、ナショナリズムが歴史的にどう発生したのか、現代においてナショナリズムはどう作用しているのかについて検討する。

【到達目標】

ナショナリズムとは何であり、どのように発生し、どのような作用を果たしているのかについて、様々な理論的アプローチから考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初の12回は、主要なナショナリズム研究者ごとにそれぞれの理論的アプローチについて学び、最後の2回は現代のナショナリズムについて、具体的な事例を中心に考察する。受講者はあらかじめ指定されたテキストを読んでおくこと。講義はそれを前提にして進める。「学習支援システム」を通じて提出される質問、コメントに対して、次の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方について
第2回	ネーション、ナショナリズム、国民国家	ネーション、ナショナリズムの定義をめぐって ：主要な概念を整理する（1）
第3回	ネーション、ナショナリズム、国民国家	ナショナリズムの類型化と国民国家の概念をめぐって ：主要な概念を整理する（2）
第4回	ナショナリズムのグローバル・ヒストリー（1）	ナショナリズムはいつ、どこで発生したのかについて概観する
第5回	ナショナリズムのグローバル・ヒストリー（2）	ナショナリズムはいかに波及したのかについて概観する
第6回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 —近代主義アプローチ（1）近代国家形成とナショナリズム—	社会経済的近代化とナショナリズム（ゲルナーとアンダーソンのナショナリズム論）
第7回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 —近代主義アプローチ（2）	近代国家の形成とナショナリズム（ティリー、ブレイリー、ホブズボームのナショナリズム論）
第8回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 —近代主義アプローチ（3）	構築主義と道具主義、文化の変容と知識人の役割、イデオロギーの伝播

第9回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 —反近代主義アプローチ（1）	ナショナリズムは近代以前に発生したとする議論（ヘイスティングス、ゴースキ）
第10回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 —反近代主義的アプローチ（2）	ナショナリズムは人間社会の原初的属性であるとする議論（グロスビー、ガット）
第11回	ナショナリズムの発生と波及に関する理論 —反近代種アプローチ（3）	近代以前のエスニックな基礎に注目する「エスノシンボリズム」の議論（スミス、ハッチンソン）
第12回	現代のナショナリズム論（1）：「長期持続」の観点から	ナショナリズムの歴史の「長期持続」過程に注目するマレシェヴィッチのナショナリズム論
第13回	現代のナショナリズム論（2）：「ネーション・ビルディング」と社会的交換理論	近代における「ネーション・ビルディング」を社会的交換理論から分析するウィマーのナショナリズム論
第14回	現代のナショナリズム論（3）：「認知的視座」	ネーションを社会的カテゴリーとみなし、その意味や使われ方に注目するブルーベーカーのナショナリズム論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業支援システムでテキストを配布する。

【参考書】

塩川伸明『民族とネーション —ナショナリズムという難問』（岩波新書、2008年）
大澤真幸・姜尚中編『ナショナリズム論・入門』（有斐閣、2009年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn different theoretical approaches to nationalism. The purpose of this course is to understand how nationalism emerged from historical perspectives and how it works in the contemporary world. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

GDR200EC (ジェンダー / Gender 200)

開発とジェンダー

中村 雪子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木5/Thu.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発途上国の開発や問題点、ジェンダーをめぐる議論など、多様な観点から議論します。

【到達目標】

開発とジェンダーについて学び、ジェンダーという視点を入れると問題がどう見えるか、具体的に考えていくこと、問題を構造的に議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

●本講義は、開発とジェンダーについて、様々な観点から議論、分析することを目的とします。

●開発とジェンダーについて構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。最終授業では13回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19 対応でオンライン（Zoom など）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席とコメント提出、課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

●内容とスケジュールは変更の可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のテーマと目的
第2回	開発と「女性」「男性」の視点	「女性」「男性」の視点から開発途上国の社会と開発を見直す
第3回	「農村の近代化」：「農民＝男性」か？	農村社会におけるジェンダーと開発プロジェクトを考える
第4回	貧困、ジェンダー、女性	開発途上国のケースから考える女性
第5回	開発途上国の女性の生活	教育や妊娠・出産などについて考える
第6回	開発途上国の伝統と少女	伝統的慣習や「女子割礼」
第7回	イスラームとジェンダー	イスラーム・コミュニティにおける女性や「ヴェール論争」
第8回	開発政策とジェンダー	国連などの開発政策におけるジェンダーの議論
第9回	グローバル経済とジェンダー①：映像	グローバル経済とジェンダーに関する映像鑑賞後グループ・ディスカッション
第10回	グローバル経済とジェンダー	多国籍企業の途上国進出と女性労働者：「器用な指先」
第11回	ヒトの移動とジェンダー	移住（出稼ぎ）労働、ケア労働など
第12回	セックス産業と人身売買	人身売買とジェンダー

第13回	開発途上国のセクシュアリティ	開発途上国のセクシュアル・マイノリティ
第14回	人間の安全保障とジェンダー	開発・貧困・ジェンダー、女性のエンパワーメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

吉村真子「開発とジェンダー」『性と文化』法政大学出版局(2004)；宇田川妙子ほか編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社(2007)；田中由美子『はじめてのジェンダーと開発：現場の実体験から』新水社(2017)など。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60%）※参照不可（持込み不可）、②ミニ・レポートなどの課題（20%）、③毎週の授業のコメントやグループ・ディスカッションのコメント（20%）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席・コメント提出や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

開発とジェンダー、国際社会問題など、授業以外の視点につながる議論にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

●今年度はすべての授業は対面／教室で行います。ただし、COVID-19 対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システムHoppiiを使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to study Gender and Development. The issues include discussion on gender issues in politics, education, UN programs, rural development, industrialization, reproduction health, sexuality, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in developing countries in globalization. Students are required to study gender issues in developing countries, to submit comment sheets each week, to write short papers, and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the gender issues with development.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2) Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSa200EC（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200)

地域研究（ヨーロッパ）

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多元性の上に成り立つヨーロッパに時間軸をたどりながらアプローチし、その形成の歴史的背景と過程を学ぶ。現代ヨーロッパの特徴と今日のEUが向き合っている問題を複眼的な視点で眺め、今後の可能性を検討、議論する。

【到達目標】

ヨーロッパは底流にある共通の文化とローカルな地域的な多様性によって形成され、二度にわたる世界大戦の経験から未来への指針をいかに引き寄せるべきかを模索してきた。2020年における英国のEU離脱によって、ヨーロッパ統合の流れは初めて後退した。こうした歴史も踏まえて、ヨーロッパの諸地域を比較し、「多様性の中の統合」を掲げるEUの現状や今日の問題点を具体的に述べることができる。ウクライナ情勢などの現代における諸問題について調べ、自ら考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式で進め、授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。
- ・授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と方法の説明、導入
第2回	ヨーロッパとは	地理的概念と文化をめぐる問題
第3回	ヨーロッパ世界の形成（1）	古代ギリシャ・ローマの遺産と精神的故郷
第4回	ヨーロッパ世界の形成（2）	ヨーロッパにおける宗教事情
第5回	ヨーロッパと世界大戦	第一次・第二次世界大戦
第6回	戦後ヨーロッパにおける記憶と対話	国際教科書改善運動、記憶の場
第7回	東西冷戦	東西冷戦とヨーロッパ分断、ヨーロッパバビロニック計画、ベルリンの壁崩壊
第8回	ヨーロッパ統合（1）	ヨーロッパ統合前史、統合への共通意思と理念
第9回	ヨーロッパ統合（2）	EU独自のガバナンス
第10回	ヨーロッパ統合（3）	EU拡大の歴史と各時代の特徴、今後の可能性
第11回	ヨーロッパ統合（4）	EU統合による歪み（ユーロ危機、ポピュリズムの台頭など）
第12回	21世紀のヨーロッパ（1）	英国のEU離脱と影響
第13回	21世紀のヨーロッパ（2）	2026年にみる各国の政局、ウクライナ情勢とEU
第14回	試験、まとめ	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・リアクションペーパーによる平常点（50％）と学期末試験（50％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2026年度もヨーロッパ情勢に関わる最新記事や映像教材を積極的に紹介し、受講生の幅広い興味に応える授業を行いたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen knowledge and understanding of Europe. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they will be able to comprehend various histories and social issues related to Europe, as well as to analyze the current topics. Grading will be based on term-end examination (50%) and in-class contribution (50%).

ARSe200EC（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）

地域研究（アジア）

中村 雪子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、アジアにおける社会・経済・政治などの問題について、様々な観点から議論していくことを課題とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

【到達目標】

本講義で、アジア社会における様々な問題について学び、多角的な視点で議論、分析することを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

●本講義は、アジアの社会や経済・政治について、様々な観点から議論、分析することを目的とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

●アジア社会について構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。またミニ・レポートではアジアに関連してフィールド・ワーク(教室外でアジアに関連した講演・シンポ・映画・イベントなどに行き報告をまとめる)も求めます。最終授業では13回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19対応でオンライン（Zoomなど）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

●授業の内容やスケジュールは変更の可能性があります。

●適宜、映像資料を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業のテーマと目的
第2回	世界の中のアジア	アジアとは何か
第3回	植民地支配と独立後	アジアの植民地化と現地社会
第4回	日本と「アジア」	日本と近隣アジア諸国との関係
第5回	アジア社会の多様性①	エスニック集団（民族）、宗教、言語
第6回	アジア社会の多様性②	地域研究のケースから
第7回	アジアの政治問題	現代アジアの政治
第8回	農村社会の近代化	農村開発、農業、貧困
第9回	アジアにおける工業化	グローバル化と新しい国際分業化
第10回	アジアの都市化	アジアにおける都市問題
第11回	経済援助	開発援助、ODA、NGOsなど
第12回	アジアの環境問題	環境の諸問題とサステナビリティ
第13回	グローバル化とアジア	いまアジアで何が起こっているのか
第14回	アジアの開発と市民社会	アジア社会の視点から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

参考文献などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60%）※注：参照不可（持ち込み不可）、②ミニ・レポートなどの課題（20%）、③毎週の授業のコメントやグループ・ディスカッションのコメント（20%）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

アジア社会について深い分析と議論につながるようにしたいと思っています。

【その他の重要事項】

●今年度はすべての授業は対面／教室で行います。ただし、COVID-19対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システムHoppiiを使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to study Asian societies and economies. The issues include discussion on history, politics, ethnicity, rural development, industrialization, urbanization, environment, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in the globalizing Asian societies. Students are required to study social problems in Asian countries, to submit short papers and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the social sciences issues on Asian studies.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2)Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSe200EC (地域研究 (東アジア) / Area studies(East Asia) 200)

地域研究 (中国)

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古来、独自の文化的秩序観による一つの「世界」を形成してきた中国 (中華) の歴史をふまえ、グローバル化が進展する現代国際社会の中で、その特徴をさまざまな具体的事例で検証、分析、考察します。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえる練習を重ね、現在の中国共産党と中華人民共和国の諸政策を的確に分析していく視座を形成します。脅威論や仮想敵国論ばかりが跋扈するこの国のメディアの報道も分析対象とします。一緒に学んだ後、そうしたニュースについて、不足している観点や記者の不勉強や取材不足をきちんと指摘できる media literacy も身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論の形とします。後半はテーマ別に個人や小グループでの発表、議論など少し規模の大きなゼミのような形に展開できればと考えています。そのために学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時空としたいと思います。

コロナ前までは隔週でやりとりする「交換日記」を実施してきましたが、コロナ後は、ハイフレックス方式をとっていることもあり、webの学習管理システムを利用し、応答しています。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有します。

授業計画は、実際の展開によって若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国とは？	中国的 (中華) 世界秩序
2	近現代史 (1)	屈辱の近代 (1)
3	近現代史 (2)	屈辱の近代 (2)
4	近現代史 (3)	中華人民共和国 (1)
5	近現代史 (4)	中華人民共和国 (2)
6	近現代史 (5)	「改革・開放」
7	近現代史 (6)	香港、台湾
8	近現代史 (7)	日・中関係
9	事例研究 (1)	「課題1」の検討
10	事例研究 (2)	内政 (1)
11	事例研究 (3)	内政 (2)
12	事例研究 (4)	外交 (1)
13	事例研究 (5)	外交 (2)
14	事例研究 (6)	総合討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定の「教科書」はありません。毎回プリントを配布します。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1)「課題1」 関連する新聞記事を3本とりあげ、重要語句などに脚注をつけ、コメントをしてください。

(2)「課題2」 この時間にとりあげた内容をさらに深掘りして小論文を作成してください。

(3) 参加 「交換日記」+ 授業内発表

(1) 35% + (2) 45% + (3) 20% で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時空としたいと思います。グループ討論による相互学習等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきます。「交換日記」等で意見や質問や連絡など、遠慮なくどうぞ。

【その他の重要事項】

大学の自称「学習支援システム」WebClassは、とても使いものにならない劣悪な「学習支援『できない』シロモノ」でしかないので、最初の連絡以外は使いません。連絡や課題の提出等は、すべて別の有用なLMS (学習管理システム) を使用しますので、必ず登録、活用してください。

1980年、中華人民共和国奨学金留学生として留学し、その後、北京駐在記者 (特派員) として市井の民から中国共産党総書記まで取材し、民主化要求運動の武力鎮圧 (1989年いわゆる「天安門事件」) の現場取材なども経験。現代中国に関する情報収集や分析の literacy を具体的に伝え、メディアの伝える「中国像」の歪みと実像とを比較考量したいと考えています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (30%), term-end report (40%), and in-class contribution (30%).

FRI300EC, FRI300ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300)

メディアの思想

李 舜志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「人新世」と称される危機的な状況において、技術とは何か、技術とどう付き合っていけばいいのか、考察することを目的とする。

それを通して、本を読むこと、音楽を聴くこと、絵を描くこと、ゲームをプレイすること、サッカーをすること等が、現代そして未来においてとても重要な意味を持つことを学ぶ。

【到達目標】

技術、人新世、資本主義、労働について、従来の論点とこれからの課題について理解すること。本授業であつかうテーマを、ただ丸暗記するのではなく、他の授業や生活のなかで経験したことと関連づけつつ考察することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストの沿いつつ、具体的な作品や映像を取り上げつつ考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
第2回	人新世とは何か	人新世の定義を確認する。
第3回	技術は手段ではない	技術の古典的な定義を確認し、そのアップデートをはかる。
第4回	人間と技術の誕生	ギリシャ神話、人類学、哲学から人間と技術の誕生について分析する。
第5回	「私」になること	「私」と「われわれ」になるプロセスについて分析する。
第6回	チューリングマシンと意識の有限性	コンピューターと人間の意識の相違について分析する。
第7回	アテンションをめぐる戦い	注意が資源として奪い合われている現状について分析する。
第8回	中間試験	中間試験を行う。
第9回	資本主義の三つの精神	資本主義の三段階を整理し、それによって失われている知について分析する。
第10回	自動化する社会	アルゴリズムによる統治が進む現代社会の問題について分析する。
第11回	雇用の終焉、労働万歳！	自動化が進む社会における労働の未来について分析する。
第12回	協働型経済	パリで行われている、自動社会における新たな政治経済モデルについて分析する。

第13回 今を生きるトビウオ 現代の私たちに何ができるのか、
たちのために これまでのまとめを兼ねて分析
する。

第14回 期末試験 期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

李舜志『ベルナール・スティグレールの哲学 人新世の技術論』、法政大学出版局、2024年。

【参考書】

ベルナール・スティグレール『愛するということ 「自分」を、そして「われわれ」を』、新評論、2007年。

ベルナール・スティグレール『偶有(アクシデント)からの哲学：技術と記憶と意識の話』、新評論、2009年。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（第二回～第七回から出題）：50%

期末試験（第九回～第十三回からの出題）：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to examine what technology is and how we should deal with it in the critical situation known as the "Anthropocene."

Through this, students will learn that reading books, listening to music, drawing pictures, playing games, playing soccer, etc. are very important today and in the future.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Mid-term examination (questions from the 2nd to 7th sessions): 50%.

Final examination (questions from the 9th to 13th sessions): 50%.

SOC300EC, SOC300ED (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

社会問題とメディア

大森 翔子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会における諸問題とメディアとの関係について、具体的な事例・研究例を挙げながら学び、社会学・社会心理学・政治学で検討される、メディア効果に関する諸理論について理解を深める。加えて、各回で取り上げるトピックに関する最新の知見を学ぶ。

【到達目標】

- ①社会問題とメディアの関係について、社会学・社会心理学・政治学的な視点から説明・考察できるようになる。
- ②社会問題とメディアに関連する最新の研究について、その研究動機・位置づけや結果を説明できるようになる。
- ③授業で取り上げた研究が、最新の社会情勢とメディア環境に照らして妥当かどうかを考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式によります。スライドには記載せず、調査・実験例などを紹介することがあります。また、毎回の授業時間内には、学習支援システムを利用して、講義内容に関する質問に回答してもらい、リアクションペーパーとして提出してもらいます。翌週授業の冒頭でリアクションペーパーの質問について解説を行います。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「社会問題とメディア」講義の行程
第2回	マスメディアの役割	マスメディアの役割・各国のマスメディアシステムについて学ぶ
第3回	報道内容とマスメディアの経営問題	マスメディアの経営状況と報道内容の関係について考える
第4回	メディア効果研究のアプローチ方法	メディア効果研究について代表的な方法を学ぶ
第5回	メディア効果論概史(1)	弾丸理論から限定効果論までの諸研究を概観する
第6回	メディア効果論概史(2)	新強力効果論の登場と学説を支える諸研究について学ぶ
第7回	メディア効果論概史(3)	近年有力である「最小効果論」を中心に学ぶ
第8回	社会問題とメディア各論(1)レイシズムとメディア	レイシズムとそれを伝えるメディアについて考える
第9回	社会問題とメディア各論(2)選挙とメディア	選挙とメディアの関係について考える

第10回	インターネット時代の社会問題とメディア(1)インターネットメディアを通じた意見表明	社会問題に対する意見表明が、メディアを通じてどのように行われているのか、またその利点と問題点は何かについて学ぶ
第11回	インターネット時代の社会問題とメディア(2)インターネットとフェイクニュース	インターネットを通じたフェイクニュースの伝播について、諸研究を概観しながら学ぶ
第12回	インターネット時代の社会問題とメディア(3)インターネットと選択的接触	インターネット空間における選択的接触が引き起こす問題を中心に学ぶ
第13回	インターネット時代の社会問題とメディア(4)複合的なメディア環境の分析	メディア環境の実相に合わせた研究がどう行われるべきかについて考える
第14回	期末試験	学期末試験を行い、理解内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。授業では教員作成の資料を配布、またトピックごとの参考文献を授業中に紹介します。

【参考書】

谷口将紀（2016）『政治とマスメディア』東京大学出版会。
田崎篤郎・児島 和人（2003）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版。
蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一（2007）『メディアと政治』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容にもとづく平常点(20%)、期末試験(80%)の合計をもって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業冒頭に実施するリアクションペーパーの紹介が好評のため、今年度も行います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業ではWebClassを通じてスライドを配布するので、ダウンロードをし、授業中に紙・電子媒体でアクセスできるようにしてください。

【その他の重要事項】

計量的な手法を用いた実証研究を多く取り上げます。授業内容を理解するために、基礎的な統計データ読解のスキルを有することが望ましいです。「メディア研究法入門B」や「社会調査のリテラシー」、「統計学Ⅰ・Ⅱ」といった、基礎的な統計関連科目の先行・平行履修を強く推奨します。

【Outline (in English)】

In this course, students learn about the relationship between various problems in society and the media, using specific examples and research, and deepen their understanding of various theories on media effects examined in sociology, social psychology, and political science. The goal of the lecture is to enable students to explain and discuss the relationship between social issues and the media from sociological, social psychological, and political perspectives.

Except for the first class, students are required to review the contents of the previous class by reading the distributed slides and notes taken by the students themselves. When instructed, students should read the literature in advance. The standard preparation and review time for this class is 2.5 hours each. Your overall grade in the class will be decided based on the content of the reaction paper(20%) and final exam(80%).

HUI300ED（人間情報学 / Human informatics 300）

認知科学

天野 陽一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知科学とは、人の心の働きや性質を情報処理の観点から解明しようとする学問である。普段はあまり意識することもないが、私たちの日常生活は知覚・記憶・推論・判断・創造性といったさまざまな心の働きに支えられている。本講義では、こうした認知機能の仕組みや特徴について、実証研究を紹介しながら解説する。認知科学の基礎的な知見について学び、私たちの日常生活と認知機能の関係を深く理解することを目指す。

【到達目標】

基礎的な認知の働きとメカニズムについて説明することができる。また、その働きを踏まえ、私たちの日常場面を対象として、人間の諸活動を分析的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについて講義形式で学習する。授業資料の配付や課題の出題は Google Classroom を用いて行う。Google Classroom による質問への回答と全体へのフィードバックを適宜行う。なお、授業計画は授業の展開によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明，認知科学の概要について学ぶ
第 2 回	感覚・知覚・認知	外部からの情報の受け取り方について学ぶ
第 3 回	錯覚	錯覚を通して知覚の特徴について学ぶ
第 4 回	注意	注意の働きと選択的注意について学ぶ
第 5 回	記憶	記憶と忘却のメカニズムについて学ぶ
第 6 回	言語	言語習得と発話内容の理解について学ぶ
第 7 回	問題解決と推論	問題解決の方法と推論の過程について学ぶ
第 8 回	判断と意思決定	判断メカニズムと認知バイアスについて学ぶ
第 9 回	認知と感情	認知と感情の相互関係について学ぶ
第 10 回	態度	態度の形成と変容について学ぶ
第 11 回	他者に対する認知	対人認知と印象形成について学ぶ
第 12 回	集団における認知	集団状況での認知の特徴について学ぶ
第 13 回	創造とデザイン	デザインと認知科学の関係について学ぶ
第 14 回	まとめ・試験	これまでの学びを振り返り，試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業回ごとに予習のための資料や課題が提示されますので、必ず取り組むようにしてください。また、授業後には指定された課題に取り組むほか、授業内容を振り返り要点をまとめるなどの復習を各自で行ってください。詳しくは初回のガイダンスにて説明します。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いず、配付資料にもとづいて授業を進めます。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%，試験 50% として総合的に判断します。平常点については、主に授業への参加状況や授業内外で取り組む課題の提出状況・内容をもとに評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で体験型のデモやクイズを実施しているのですが、楽しく取り組めて、授業内容が印象に残ると好評なようでした。また、Slido を用いた匿名での質問受付についても好意的なご意見を多くいただきました。これらの取り組みを今年度も継続したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Google Classroom にアクセスできる環境をご用意ください。授業資料の配布や課題の出題は Google Classroom を用いて行います。Google Classroom の登録方法は学習支援システムにて案内します。また、授業中にフォーム等を用いた課題を行いますので、スマートフォン、タブレット端末、ノート PC 等のネットワークに接続できる機器をご持参ください。

【Outline (in English)】

This course introduces fundamental findings of cognitive science and aims to deepen students' understanding of the relationship between cognitive functions and everyday life. By the end of the course, students are expected to be able to explain basic cognitive functions and analyze human activities in daily contexts. Students should spend approximately two hours before and after each class for preparation and review. Grading will be based on a final exam (50%) and class participation, including assignment submissions (50%).

LAW200ED (法学 / law 200)

知的財産権法

白田 秀彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知的財産権法の入門講義である。

情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的なかつ適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

対面を原則とする。しかし、感染症その他の状況により、オンデマンドによる対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

Google Classroom のクラスコードは e6l5kiya である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。

13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点と期末に行う対面での小試験によって行う(100%)。すなわち、各小論文を10段階評価し、期末にその小論文への評価を合算する。続いて最高得点をとった学生の素点を100点と換算し、以下全員の素点を換算する。また、期末の対面での小試験と、それまでの小論文の内容を比較し、あまりにも内容の差が大きい場合は、それ以前の小論文について大幅な減点を行う。

人工知能等により生成した小論文等を提出してはならない。生成文を使用したことか明らかな答案については0点として処理する。期末の対面での小試験はそれ以前の小論文が人工知能等によって生成されたものでないことを確認するためのもので、教室内で電子機器等を使用しない状態で答案を書くものとなる。

また、論文試験や小論文等において剽窃(コピー)を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意しよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関する連絡は、すべて Google Classroom 上で行う。

受講生は、下記の URL に必ず登録しておく必要がある。

<https://classroom.google.com/c/ODM3MTI1MTMyMTgw?cjc=e6l5kiya>

【Outline (in English)】

This is an introductory lecture on intellectual property law.

First, we will overview all areas of intellectual property law, such as patents, trademarks, designs, and copyrights, to understand their respective roles, and then specifically examine copyright law, which is the most familiar and important for liberal arts students.

LAW300ED（法学 / law 300）

メディア法

白田 秀彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月1/Mon.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報化は、今後もさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期「メディア社会学基礎C」を履修したのちに履修することが望ましい。

対面を原則とする。しかし、対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定されたGoogle Classroomにて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

Google Classroom のクラスコードは nyzrtwp4 である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	名誉・信用棄損 1	メディアにおいて頻繁に問題となる名誉・信用棄損の概念について解説する。
2	名誉・信用棄損 2	名誉・信用棄損の実例について日本とアメリカの事例を挙げながら検討する。
3	放送規制 / 通信規制 1	放送事業や通信事業はどのような性質を理由として、法制的規制のもとにあるのか。
4	放送規制 / 通信規制 2	放送事業や通信事業はどのような歴史的経緯をたどりながら現在の形態になったのか。
5	放送規制 / 通信規制 3	情報社会においてどのように基礎条件が変化し、規制内容が変化するのだろうか。
6	プライバシー 1	プライバシーとは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
7	プライバシー 2	プライバシーとは、現在においてどのような概念なのか。
8	プライバシー 3	情報社会におけるプライバシー概念はどのように変化するのか。

9	個人情報保護 1	個人情報保護とは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
10	個人情報保護 2	個人情報保護とは、また現在においてどのような概念なのか。
11	個人情報保護 3	情報社会における個人情報保護にはどのような課題があるのだろうか。
12	猥褻と社会と法 1	生命に必要な生殖がなぜ猥褻概念と結合したのか。なぜ抑制されるのか。
13	猥褻と社会と法 2	猥褻概念の歴史的発展について、イギリス・アメリカと日本での展開を開説する。
14	猥褻と社会と法 3	情報社会において私たちは何を抑圧すべき表現として認識するのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『情報法テキスト』講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法はGoogle Classroom にて案内する。

【参考書】

Google Classroom のストリームにて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点と期末に行う対面での小試験によって行う(100%)。すなわち、各小論文を10段階評価し、期末にその小論文への評価を合算する。続いて最高得点をとった学生の素点を100点と換算し、以下全員の素点を換算する。また、期末の対面での小試験と、それまでの小論文の内容を比較し、あまりにも内容の差が大きい場合は、それ以前の小論文について大幅な減点を行う。

人工知能等により生成した小論文等を提出してはならない。生成文を使用したことか明らかな答案については0点として処理する。期末の対面での小試験はそれ以前の小論文が人工知能等によって生成されたものでないことを確認するためのもので、教室内で電子機器等を使用しない状態で答案を書くものとする。

また、論文試験や小論文等において剽窃(コピー)を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義に関する連絡は、すべてGoogle Classroom にて行う。受講生は下記のURLから登録しておくことが必要である。
<https://classroom.google.com/c/ODM3MTI1MzUzMTg1?cjc=nyzrtwp4>

【Outline (in English)】

Information technologies has played an important role in our lives. They will continue to evolve. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. It is true that advocates points of view differ from each others. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

SOC300EC, SOC300ED (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

公共性と民主主義 I

鈴木 宗徳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性の思想史とその現代的意義を学ぶ

【到達目標】

歴史学・政治学・社会学における「公共性」をめぐる諸思想を理解することによって、参加民主主義のあるべき姿について考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

公共性（または公共圏, public sphere, Öffentlichkeit）は多様な意味をもつ言葉であるが、この講義で扱うのは「市民による開かれた政治的討議の空間」という意味のそれである。ドイツの政治哲学者ユルゲン・ハーバーマスは『公共性の構造転換』（1962）において、18世紀のヨーロッパで議会制民主主義や法治国家といった制度が生まれた背景には、「市民社会」という理念に加え、市民たちが「公共性」という討議の空間（コーヒーハウスや各種メディア）を生み出したという事実があったことを指摘する。

民主主義を実質的なものとするため、つまりそれが利益集団政治・ポピュリズム・大衆の無関心…といった事態に陥らないようにするためには、市民がつねに「公共性」を活性化させなければならない。これは、様々な社会運動や「熟議民主主義」といった現象にかかわる現代政治の課題である。

この講義では、18世紀に生まれた「市民社会」や「公共性」の理念と現実について説明し、それらを現代においてを再興する上で必要とされる要件について検討する。

授業終了後に提出してもらうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ハーバーマスと公共性
2	フランクフルト学派 第一世代の思想	アドルノと啓蒙的理性批判
3	18世紀市民社会とは 何だったのか	自由主義と議会制民主主義
4	市民的（ブルジョア 的）公共圏の成立	『公共性の…』前半の解説
5	18～19世紀市民社会 の実像	コーヒーハウスとドイツ教養市民層
6	19世紀末以降の公共 圏の衰退	『公共性の…』後半の解説
7	ハーバーマスと福祉 国家	グローバル化時代における再分配
8	フレイザーによる ハーバーマス批判	対抗的公共圏と社会運動の位置づけ
9	新しい社会運動とそ の後の社会運動論	アソシエーションと中間集団をめぐって

10	ハーバーマスのコ ミュニケーション的 行為論	近代化による生活世界の合理化 と植民地化
11	アーレントの公共性 論と複数性	全体主義と画一性への批判
12	闘技民主主義と熟議	ムフの思想とミニ・パブリックス
13	地域における社会運 動の実践	ゲスト講師による講演
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。その他、授業中にも参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（60％）と期末筆記試験（40％）。

リアクションペーパーは200～800字で、第2回の講義から毎回学習支援システム上に提出を求める。期末筆記試験は授業内容の理解度を問う論述式の問題で、問いは事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポート等による「救済措置」は一切行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

学習支援システムによるメール連絡（特にリアクションペーパーの提出方法）に気を付けておくこと。質問は担当教員にメールで連絡すること。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This course introduces the history of the idea of publicness and its contemporary significance.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(60%) and final exam(40%).

SOC300EC, SOC300ED (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

公共性と民主主義Ⅱ

鈴木 宗徳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性と社会問題の現実を学ぶ

【到達目標】

公共性や社会運動をめぐる実践的諸問題を理解し、理想的な市民社会を構想するための力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「公共性」とは、現実存在する空間や運動を表す概念であるとともに、存在すべき理想を表す規範的な理念でもある。しかし実際には、理想的な「公共性」の実現を妨げる問題が数多く存在する。春学期（Ⅰ）の授業が主として理想を扱うのに対し、秋学期（Ⅱ）では、公共性の実現がいかに困難であるか、その現実について検討する。

とりわけ外国人／移民の共生というテーマを通して、包括的な公共圏の形成を阻む「壁」がどこにあるのかについて考察する。さらに近年における国内外の政治運動をとり上げ、社会運動を組織する上での課題がどこにあるのかを明らかにする。

授業終了時に提出してもらうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のまとめ・秋学期の課題	公共性論の理論的困難
2	科学技術と公共性	専門家支配を超える
3	フランクフルト学派の科学技術批判	マルクーゼとハーバーマス
4	フランスにおける移民労働者の排除	ドキュメンタリー視聴
5	フランスの「郊外」問題とスカーフ論争	排外主義の原因を探る
6	日系人労働者の生活と教育	定住外国人との共生
7	テイラーの思想と多文化主義政策の是非	マイノリティ文化の保護をめぐって
8	本質主義／アイデンティティという“壁”	ポストコロニアリズムを手がかりに
9	朝鮮学校と差別扇動	排外主義に抗する
10	インターネットと公共性	集団分極化とフェイクニュース
11	不服従と直接行動	“非暴力”的直接行動を理性化する
12	「沈黙」とジェンダー	トーン・ポリシングとマンスプレイニング

13 政治教育の可能性 教育における中立性とは

14 まとめ 全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（60％）と期末筆記試験（40％）。

リアクションペーパーは200～800字で、第2回の講義から毎回学習支援システム上に提出を求める。期末筆記試験は授業内容の理解度を問う論述式の問題で、問いは事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポート等による「救済措置」は一切行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

学習支援システムによるメール連絡（特にリアクションペーパーの提出方法）に気を付けておくこと。質問は担当教員にメールで連絡すること。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This course introduces the reality of publicness and social issues.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(60%) and final exam(40%).

SOC300ED（社会学 / Sociology 300）

特講（コミュニケーション・デザイン論）

石寺 修三、青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は広告会社である(株)博報堂との協力関係のもと、広告の現場で活躍する一線級の講師陣による授業で構成します。ただし、単なる事例紹介中心の広告表現論ではなく、広告制作における思考プロセスを辿りながら、コミュニケーションという行為の本質を掘り下げる「刺激と発見の場」を目指します。

【到達目標】

講義を通じて皆さんに学んでほしいことは、以下の通りです。

- ①コミュニケーションという行為において重要な“考えること”と“創りあげること”の難しさと楽しさに気づく。
- ②コミュニケーションのプロが持つ視点やスキルを体験することにより、個人々が自律的に創発しあう関係構築に関与できるようになる。
- ③自分の考えを効果的に伝えることに関する基本的な知識とスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【講義の構成】

本講座はあらかじめ設定した授業全体を貫くテーマのもと、以下の5つのステップに分け、いずれも簡単な演習を挟みながら進めます。
Ⅰ.基調講義 Ⅱ.発見するチカラ Ⅲ.考え抜くチカラ Ⅳ.創りあげるチカラ Ⅴ.伝えるチカラ

【講義の形態】

対面授業を基本とし、毎回出席をとります。

【課題に対するフィードバック】

毎回入力してもらう「学びと気づき」を随時、講義内で引用するほか、個人／グループでの発表に対しても、その場で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	基調講義	講座の概要を共有すると共に、ブランドに関する基本的な知識を学びます。
2回	発見するチカラ(1)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。（生活者発想の視点から）
3回	発見するチカラ(2)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。（観察調査の視点から）
4回	発見するチカラ(3)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。（統計データの視点から）
5回	考え抜くチカラ(1)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。（論理的とは何か）

6回	考え抜くチカラ(2)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。（論理を組み立てる構造）
7回	考え抜くチカラ(3)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。（ロジックチャートの作り方）
8回	創りあげるチカラ(1)	他者と創発しあい新しいアイディアを生むための手法を学びます。（ワークショップのやり方）
9回	創りあげるチカラ(2)	他者と創発しあい新しいアイディアを生むための手法を学びます。（ワークショップによるアイデア創造）
10回	創りあげるチカラ(3)	他者と創発しあい新しいアイディアを生むための手法を学びます。（ワークショップによる課題テーマ解決）
11回	伝えるチカラ(1)	伝えるチカラアイディアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。（コンセプトを創造する）
12回	伝えるチカラ(2)	伝えるチカラアイディアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。（キャッチコピーの書き方）
13回	伝えるチカラ(3)	伝えるチカラアイディアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。（広告表現の作り方）
14回	試験（論文課題）	講座を通して学んだことなどについての論考と最終的な成果物（ポスター）の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、講義に関連する参考書を推奨します。（参考書欄を参照のこと）

【参考書】

博報堂生活総合研究所『生活者発想塾』（日本経済新聞社,2010）
博報堂生活総合研究所『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』（宣伝会議,2021）
博報堂生活総合研究所『消齡化社会』（集英社インターナショナル,2023）

【成績評価の方法と基準】

【成績評価について】

出席状況に基づく平常点（80％）と論文課題（20％）で評価を行います。

【出席確認について】

出席確認は、①対面での出席確認 と ②講義翌日の24時までに学習支援システム内の「課題」欄に入力する“学びと気づき” の2つが揃った者を「出席」と認めます。なお、講義開始後30分以降の入室と、講義終了30分以前の退室は「出席」とみなさないで注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の翌日24時までに授業に関する“学びと気づき”を、学習支援システムの「課題」欄に入力することをルールとします。なお、記入された内容は、次回以降の授業に随時反映させていきます。加えて、学習支援システム内の「授業内掲示板」も活用して、インタラクティブなやりとりを進めたいと思います。学生諸君の積極的な書き込みを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要な機器や事前準備はありません。ただし、当日配布するレジュメに書き込みながら受講する講義が中心となるため、筆記用具は必携となります。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】

本講義は基本的に各回ないし各ステップで完結しますが、同時に1つのテーマのもとで連続性を持った構成となっています。その効果は全カリキュラムを受講することで最大化するので、“全ての回”に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望します。

【Outline (in English)】

Under collaboration with Hakuhodo Inc., a major advertising company, this special lecture will be directed by forefront business people from the advertisement industry. However, the lecture is not just focused on studying advertisement expressions through case studies. Our aim is to provide “a platform of stimulation and discovery” where the students will explore the essence that lies in the act of communication by following the thinking process in advertisement production.

What I want you to learn from the lecture is the following:

1. Realize how difficult and fun it is to “think” and “create,” which are important in the act of communication.
2. Experience the perspectives and skills of communication professionals to enable you to build autonomous and emergent relationships.
3. Acquire basic knowledge and skills by effectively communicating your ideas. In addition to creating posters to be used in the final presentation, simple preliminary assignments will be given in some lectures. The standard preparation and review time for this class is two hours. This lecture is structured so that students can gain a great deal of insight by practicing what they learn in class in their daily lives. I hope that students will apply what they have learnt here in their everyday seminar activities and in their papers and reports. Students will be evaluated on ordinary points (80%) which are based on their attendance and the paper assignment.

SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

メディア文化論

琴 仙姫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディア文化論」の科目では、写真、映画、ビデオ、デジタルメディアなどがテクノロジーの発展普及により、どのような変遷を遂げてきたかを様々な映画、現代美術作品、ポピュラーカルチャーなどの例を概観しながら考察します。美術理論とメディア論、カルチュラル・スタディーズの基礎を学ぶことで、メディア文化と主流のマス・メディア、社会の間にある複雑な相関を紐解いていきます。国際社会の中でのメディア文化の社会的な実践を考察すると同時に、現代社会が直面している様々な問題の真因について歴史的な経緯をたどり、ポストコロニアル理論を通して少しずつ紐解くことを試みます。現代美術と映像分野における著名なアーティストの作品と一緒に鑑賞し、テキストを読みながら進行し、授業の終わりの方でグループディスカッションと全体ディスカッションの時間を設け、対話を行いながら進めます。

学期末にはクリエイティブティーを表現する機会があります。（論文と選択可）

楽しみながら創造性を学ぶクラスです。

【到達目標】

理論的、美学的、実践的なアプローチをととして、現代社会におけるメディア文化がテクノロジーの発展とともにどのような変遷を遂げてきたのかを概観し、数々の触発的な作品を紹介しながら、メディア文化への多角的な考察を学生たちと共に試みる。表層的なものの見方から脱却し、リアリティーに即して実際にどのようなことがメディア文化を通して行われているかを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プレゼン資料を用いながらの講義、作品の映像をととしての鑑賞、グループディスカッション、全体ディスカッションを交えながらの進行になります。

受講者は、ディスカッションに積極的に貢献することが推奨されます。毎回の授業のおわりに、リアクションペーパーで授業中に学んだことと感想を記述して提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要、学習計画、中間・期末課題の説明
2	メディアとテクノロジーの交点で	ヴァルター・ベンヤミンの『複製技術時代の芸術』を読み、電気・写真の発明からテクノロジーの発展とともにメディア文化がどのように変遷したかを学ぶ

3	メディア論とニュー・メディアアート I	マーシャル・マクルーハンの『メディア論—人間の拡張の諸相』を学び、マスメディア・映像・映画・アートでどのようにメディアが扱われてきたかを考察する
4	メディア論とニュー・メディアアート II	マクルーハンの熱いメディアと冷たいメディアについて学び、美術作品における内容とフォームとの関係性を学ぶ
5	ポストモダニズムとメディア文化 I	ジャン＝フランソワ・リオタールのポストモダニズムの文献を読みながらメディア文化におけるポストモダニズムを学ぶ
6	ポストモダニズムとメディア文化 II	フレドリック・ジェームソンの文献を読みながらメディア文化におけるポストモダニズムを学ぶ
7	シネマとスペクタクル I	ジョン・バージャーの『イメージ Ways of Seeing—視覚とメディア』の第3章「見ること」と「見られること」の章を読み、消費されるために作られる女性のイメージとその弊害について考察する
8	シネマとスペクタクル II	ギー・ドゥボールの『スペクタクルの社会』を読みつつ、ハルーン・ファロッキの映像作品を鑑賞し、社会におけるスペクタクルのメカニズムを学ぶ
9	シミュラクルとメディア文化 I	ジャン・ボードリヤールの『シミュラクルとシミュレーション』を読み、メディアの大衆社会への影響と、現代美術での実践を学ぶ
10	シミュラクルとメディア文化 II	リアリティーとハイパーリアル概念を学び、Yang Fudongなどの作品を鑑賞する
11	メディアにおけるポストコロニアル理論とカルチュラル・スタディーズ I	エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読み、ポストコロニアル理論とメディア文化の相関を学ぶ
12	メディアにおけるポストコロニアル理論とカルチュラル・スタディーズ II	エドワード・サイードの『文化と帝国主義』を読み、ポストコロニアル理論とメディア文化の相関を学ぶ
13	学生発表とディスカッション 1	クリエイティブ課題を選択した学生の発表及びQ&A、フィードバックのディスカッション
14	学生発表とディスカッション 2	クリエイティブ課題を選択した学生の発表及びQ&A、フィードバックのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。リーディング用のPDFファイルをオンラインで提供する予定です。文献は毎回の授業で発表される予定です。

【参考書】

- 『複製技術時代の芸術』ヴァルター・ベンヤミン著（晶文社）
- 『シミュラクルとシミュレーション』ジャン・ボードリヤール著（法政大学出版局）
- 『スペクタクルの社会』ギー・ドゥボール著（ちくま学芸文庫）
- 『メディア論—人間の拡張の諸相』マーシャル・マクルーハン著（みすず書房）
- 『ポストモダンの条件』ジャン＝フランソワ・リオタール著（水声社）
- 『Postmodernism or, the Cultural Logic of Late Capitalism』Fredric Jameson 著 (Duke University Press)
- 『イメージ Ways of Seeing—視覚とメディア』ジョン・バージャー著（PARCO 出版）

- 『Visual Pleasure and Narrative Cinema』 Laura Mulvey 著
- 『オリエンタリズム』 エドワード・W. サイド 著
- 『文化と帝国主義』 エドワード・W. サイド 著
- 『地に呪われた者』 フランツ・ファノン 著
- 『崩れゆく絆』 チヌア・アチェベ 著（光文社）

参考文献は、諸般の事情により変更されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加を確認する毎授業の課題：70%

期末課題：30%

欠席4回以上から単位取得が不可になります。（欠席は3回まで）

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業でたくさんの美術作品の映像を鑑賞し、文献を読みながら進めます。

適時学生とのコミュニケーションをとることを大切にすることを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

1年生から履修可能なメディア社会学基礎Bが秋学期に開講されます。授業の内容が繋がっておりますので、メディア文化論と履修することが推奨されます。

＊講義のスケジュールは受講者のニーズや関心に合わせて調整することがあります。

【Outline (in English)】

In the "Media Culture Theory" course, we will explore how media culture has evolved with the development of technology through theoretical, aesthetic, and practical approaches. A number of inspiring artworks will be introduced. By learning the basics of art theory, media theory, and cultural studies, students will deepen their understanding of the complex correlations between media culture, mainstream mass media, and society. We will examine the social practices of media culture within the international community while tracing the historical background of the root causes of numerous social issues facing our contemporary society. We will view various works of prominent contemporary art and film artists together, and there will be a group discussion and class discussion time toward the end of the class. At the end of the semester, students will have an opportunity to express their creativity. It is a fun and creative class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Assessment >

Class participation (attendance): 70%

Final assignment: 30%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。授業に対して提出されたリアクションペーパーを次回の授業でいくつか取り上げて、講評を行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第2回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第3回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第4回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第5回	〈広告知〉の発展	広告表現開発における〈広告知〉の発展とはどのようなものか
第6回	ブランドと広告(1)	ブランディングに効果的な広告とは
第7回	ブランドと広告(2)	ブランディングに効果的な広告とは
第8回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第9回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換

第10回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響
第11回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての〈私〉の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第12回	現代の日本と世界の広告	現代の広告表現の動向と課題
第13回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第14回	試験・まとめ	講義全体のまとめと論述試験の代替となる特別な課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版新書、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。授業内で提示された課題をリアクションペーパーに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回は論述試験を行う。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、授業内容に関して学びのポイントを的確につかんでいるかを把握した上で、より学びが深まるようにフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回を受講し、課題を提出する意欲を持った学生の受講を希望する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.

They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED (社会学 / Sociology 200)

広告・PR論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PRを中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PRプランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PRの基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PRの意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PRとメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	広告ビジネスの概要	広告・PRとは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第2回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第3回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第4回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第7回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第8回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第9回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PRの事例分析
第10回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論

第11回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第12回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について
第13回	クロス・メディア（2）	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第14回	広告の未来	広告・PRの未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70％）と試験（30％）で行う。最終回は論述試験を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

PRI200ED（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報科学とコミュニケーション

河合 政之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：受講にはプログラミング入門の修得が必要。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちはかつてないメディアと情報の時代に生きています。その流れにただ流されるのではなく、そうした状況と批判的に向き合い、情報やコミュニケーションの本質とは何かを考えることを学びます。そうすることで、この時代を自分らしく生きるにはどうすれば良いかを、ともに考えていきます。

【到達目標】

情報とコミュニケーション、この「わかっている」ようで「わからない」ものについて、ただ正面からだけアプローチするのではなく、多角的にとらえていきます。歴史的に重要な哲学的議論や社会的問題を踏まえながらも、そのたびごとにいろいろな場面・例を挙げて、情報、メディア、コミュニケーションとは何か、あるいはそれら「でないもの」と何か、そしてそれはなぜなのか、を考えていきたいと思えます。そうすることで、この「わからない」ものが、よりいっそう「わからない」ようになることで「わかる（？）」のが、この授業の目的です。

いわゆるマスメディアや商業的な情報・コミュニケーションにのみ興味のある人には、この授業は向かないかもしれません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、可能な限り一方通行的な講義でなく、対話的な形式を取りたいと考えています。授業においては、前回までのリアクションペーパーをもとに、議論を進めていきます。セメスターの中間にレポート、最後には授業を踏まえた小論文を授業内で執筆・提出してもらいます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本授業のガイダンス	情報、メディア、コミュニケーションとは
第2回	情報について考える1	アナログとデジタルについて
第3回	情報について考える2	情報理論について
第4回	情報について考える3	サイバネティクスについて
第5回	情報について考える4	コンピュータについて
第6回	中間レポートの執筆	情報とは何か、何でないかについて
第7回	メディア、コミュニケーションについて考える1	ベンヤミンのメディア論について

第8回	メディア、コミュニケーションについて考える2	マクルーハンのメディア論について
第9回	メディア、コミュニケーションについて考える3	資本主義とメディア批判について
第10回	メディア、コミュニケーションについて考える4	情報化社会とメディア批判について
第11回	情報・コミュニケーションの応用的考察1	イルカとのコミュニケーションは可能か？
第12回	情報・コミュニケーションの応用的考察2	AIはラブレターを書くことができるか？
第13回	情報・コミュニケーションの応用的考察3	AIはアートを作り出すことができるか？
第14回	最終小論文の執筆	授業を元にしつつ、自分の関心に基づく小論文を授業内で執筆する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを毎回配布します。

【参考書】

REF lab 編『ぼくらはヴィジュアルで思考する:シームレス・メディアの時代と video art』(2013 年、現代企画室)

【成績評価の方法と基準】

平常点: 40%

小論文課題: 30%

ディスカッション、リアクションへの積極性: 20%

視点・活動の独自性: 10%

【学生の意見等からの気づき】

大半の学生がAIを使用してリアクションペーパー、レポート、試験を書いています。それを禁じることはできないので、むしろAIの上手な使い方を含めて考慮することになります。AIに頼るのではなく、それを乗り越えるために使用するやり方を考え、見つけてください。出席は、開始後10分は出席、その後10分は遅刻で締め切ります。授業の最後にリアクションペーパーで確認を取ります。代返が発覚した場合は成績0点とします。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にノートを取ってください。授業中のパソコン、スマホ、携帯電話、AIなどの使用は自由ですが、レポート・試験には使用したリンク、AI、プロンプトを明記してください。

【その他の重要事項】

同日4限の同講師の授業と連続で履修することを推奨します。講師は哲学・美学をバックグラウンドに持ち、アーティストとしてメディアや映像と関わりながら主に現代アートの分野で活動しています。したがって、いわゆるマスメディアや商業的な情報・コミュニケーションにだけ関心のある人は、カテゴリー・エラーになる可能性が高いと思われますので、気をつけてください。

【Outline (in English)】

We will learn to think about the nature of media, communication and information by considering them from a variety of perspectives and critically engaging with them. While taking into account historically important philosophical debates and social issues, we will consider what information, media and communication are, what they are not, and why, by looking at various examples and situations each time. In class, we will continue the discussion based on the reaction papers from the previous class. At the midpoint and end of the semester, students are asked to submit short essays based on the lessons. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The lecturer has a background in philosophy and aesthetics, and is active in the field of contemporary art, mainly working with media and video as an artist. This class is not recommended for those with a strong interest in mass media or commercialism. The grading criteria are as follows.

Routine points: 40%

Essay assignment: 30%

Proactivity in discussions and reactions: 20%

Originality of viewpoint and activities: 10%

HUI200ED（人間情報学 / Human informatics 200）

認知映像論

河合 政之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像に囲まれた時代であって、与えられる映像をただ受け取るのではなく、それらにどう批判的に向き合い、さらには新しい映像の可能性を見つけていくか。「映像とは何か」「映像は私たちに何をもたらすのか」を深く、多角的にとらえることを目指します。「わかりにくい」映像、「見づらい」映像を多く扱いますが、「わかりにくさ」「見づらさ」がなぜ生じるのかを考えてみてください。

【到達目標】

私たちはあらゆる種類の映像の囲まれて生活しています。しかし、「映像」とは一体何のことを言うのでしょうか？ 映画やTVや、ネット動画や、スマホの画面だけが映像なのでしょうか？ 歴史の中でさまざまなに現れてきた映像の例を参考にしながらも、映像への感受性をもっと大きく開き、従来の映像の見方にとらわれない意識と感覚を身につけていくことが、この授業の目的です。

いわゆるマスメディアや商業的な映像にのみ興味のある人には、この授業は向かないかもしれません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよりますが、可能な限り一方通行的な講義でなく、対話的な形式を取りたいと考えています。授業においては、前回までのリアクションペーパーをもとに、議論を進めていきます。セメスターの中間と最後には授業を踏まえた小論文を提出してもらいます。通常時は授業開始15分後以降の教室への入室は禁じます。課題レポート・小論文時は、さらに短時間で入室を禁じます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本授業のガイダンス	本授業の内容と映像について
第2回	映像の多様性	映像にはどのようなものがあるか
第3回	映像の起源	映像はどこから始まったのか
第4回	映像の感性・思考1	リズム、抽象、ノイズ
第5回	映像の感性・思考2	夢、シュルレアリスム
第6回	映像の感性・思考3	カメラ・アイ
第7回	映像の感性・思考4	夜と霧
第8回	中間レポートの執筆	映像とは何かについて
第9回	映像の感性・思考5	アメリカ・アンダーグラウンド
第10回	映像の感性・思考6	ヨーロッパ・アヴァンギャルド
第11回	映像の感性・思考7	ビデオ／メディア・アート初期作品
第12回	映像の感性・思考8	ビデオ／メディア・アートその後の作品
第13回	映像の感性・思考9	ビデオ／メディア・アート現在の作品
第14回	最終小論文の執筆	授業を元にしつつ、自分の関心に基づく小論文を授業内で執筆する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

REF lab 編『ぼくらはヴィジュアルで思考する:シームレス・メディアの時代と video art』(2013 年、現代企画室)

【成績評価の方法と基準】

平常点: 40%

レポート、小論文課題: 30%

ディスカッション、リアクションへの積極性: 20%

視点・活動の独自性: 10%

【学生の意見等からの気づき】

大半の学生がAIを使用してリアクションペーパー、レポート、試験を書いています。それを禁じることはできないので、むしろAIの上手な使い方をも含めて考慮することになります。AIに頼るのではなく、それを乗り越えるために使用するやり方を考え、見つけてください。出席は、開始後10分は出席、その後10分は遅刻で締め切ります。授業の最後にリアクションペーパーで確認を取ります。代返が発覚した場合は成績0点とします。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にノートを取ってください。授業中のパソコン、スマホ、携帯電話、AIなどの使用は自由ですが、レポート・試験には使用したリンク、AI、プロンプトを明記してください。

【その他の重要事項】

同日3限の同講師の授業と連続で履修することを推奨します。講師は哲学・美学をバックグラウンドに持ち、アーティストとしてメディアや映像と関わりながら主に現代アートの分野で活動しています。したがって、いわゆるマスメディアや商業的な映像にだけ関心のある人は、カテゴリー・エラーになる可能性が高いと思われるので、気をつけてください。

【Outline (in English)】

In an age surrounded by images, rather than just passively accepting the images we are given, how can we critically engage with them and discover new possibilities for images? This course aims to explore the question of “what is an image?” and “what do images bring to us?” from a deep and multifaceted perspective. In class, we will continue our discussions based on the reaction papers from the previous class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. At the midpoint and end of the semester, students are asked to submit short essays based on the lessons. The lecturer has a background in philosophy and aesthetics, and is active in the field of contemporary art, mainly working with media and video as an artist. This class is not recommended for those with a strong interest in mass media or commercialism. The grading criteria are as follows.

Regular attendance: 40%

Essay assignment: 30%

Active participation in discussions and reactions: 20%

Originality of viewpoint and activities: 10%

MAN200EB, MAN200ED (経営学 / Management 200, 経営学 / Management 200)

消費者行動論

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のマーケティング戦略において、消費者がどのように商品・サービス、或はブランドなどの情報に接し、それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである。

本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム、さらに、それらの処理に影響を与える外部環境要因について、社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する。

【到達目標】

消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で、常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり、リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーからいくつか良いものを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し、その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ、消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と、消費行動への影響について

10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解 ＜ゲスト講師登壇予定＞
11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実際について
13.	対人関係と消費者行動	対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について
14.	消費者の購買後行動	購買後行動と、ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著、福村出版）

【成績評価の方法と基準】

小レポート類(30%)と期末試験（70%）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした（対面授業時）。

【その他の重要事項】

ゲスト講師の登壇回については講師との話し合いにより前後する可能性があります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain the basic concepts and principles of consumer psychology.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

FRI200EC, FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

メディアの歴史

李 舜志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、インターネットが浸透し、AIが社会のインフラと化しつつある現代社会において、メディアも含めたテクノロジーが政治、経済、文化にどのような影響を与えるのかを歴史、理論、実践の観点から考察する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、テクノロジーの進歩とメディアの変化について、従来の論点とこれからの課題について理解することである。本授業であつかうテーマを、ただ丸暗記するのではなく、他の授業や生活のなかで経験したことと関連づけつつ考察することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストの沿いつつ、具体的な作品や映像を取り上げつつ考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と進め方、評価方法について説明する。
第2回	インターネットの歴史	インターネットの歴史の概略を把握し、その社会的影響を理解する。
第3回	21世紀のイデオロギー	テクノロジーの進歩により台頭してきた三つのイデオロギーについて学ぶ。
第4回	Pluralityとは何か	Pluralityについて、複雑系やネットワーク理論などの知見から理解する。
第5回	近代のメディアにおけるコミュニケーション・パラダイムについて	近代におけるアイデンティティと民主主義が前提としているメディアについて、その概略と変化について検討する。
第6回	アイデンティティの改革	テクノロジーによる、アイデンティティの実存的・制度的改革案を検討する。
第7回	テクノ封建制について	バルファキスの「テクノ封建制」について、その現状と打開策について考察する。
第8回	中間試験	中間試験を行う
第9回	コミュニケーションの深化と拡張	ポストシンボリックコミュニケーションやISRといった、テクノロジーによるコミュニケーションの深化と拡張を把握する。

第10回	デジタル民主主義のテクノロジー	テクノロジーによる民主主義のアップデート案について検討する。
第11回	マスメディアとステレオタイプの現状	リップマンの「ステレオタイプ」とマスメディアの関係が、テクノロジーの進歩に沿ってどのように変化したのかを確認する。
第12回	SNSの現状と改革案	SNSについて指摘される問題点を確認し、改革案してどのようなアイデアが挙げられているのか、検証する。
第13回	交換様式論について	柄谷行人の交換様式論が、テクノロジーによってどのようにアップデートされるのかを検討する。
第14回	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

李舜志『テクノ専制とコモンへの道 民主主義の未来をひらく多元技術 PLURALITYとは?』、集英社、2025年。

【参考書】

Plurality：対立を創造に変える、協働テクノロジーと民主主義の未来 / オードリー・タン, グレン・ワイル, [プルラリティ]コミュニティ [著]; 山形浩生訳; 鈴木健解説

【成績評価の方法と基準】

中間試験（第二回～第七回から出題）：50%

期末試験（第九回～第十三回からの出題）：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course examines how technology, including media, influences politics, economics, and culture in contemporary society — an era where the internet has permeated daily life and AI is becoming a societal infrastructure — from historical, theoretical, and practical perspectives.

The learning objectives of this course are to understand both traditional arguments and emerging challenges concerning technological progress and media transformation. Rather than merely memorizing the themes covered in class, students are encouraged to connect them to experiences gained in other courses and daily life while engaging in critical analysis.

Grading criteria:

Midterm Exam (covers Sessions 2– 7): 50%

Final Exam (covers Sessions 9– 13): 50%

SOC200ED (社会学 / Sociology 200)

メディアコンテンツ論

藤田 真文

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、プログラム言語 Python によって自然言語分析を行なっていきます。さらに Gemini を AI アシスタントとして使います。Python の使用に慣れたあと、受講者自らが収集したテキストで自然言語分析を試みてもらいます。

【到達目標】

受講生が自然言語分析の方法を理解できている。Python を使い自然言語分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半でプログラム言語 Python の基本文法とデータ構造に慣れたあと、授業後半に自然言語分析を行なっていきます。その後、受講者自らが収集したテキストで、自然言語分析を試みてもらいます。講義の途中では受講生に分析結果を2回レポートしてもらいます。受講生の分析結果については、授業中にコメントをしてフィードバックします。最後に試験によって Python についての理解度を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進行とPC環境整備	授業内容の説明とPC環境整備を行う
第2回	Pythonの基本文法①	Pythonの基本文法を学ぶ
第3回	Pythonの基本文法②	Pythonの基本文法を学ぶ
第4回	Pythonのデータ構造①	Pythonのデータ構造を学ぶ
第5回	Pythonのデータ構造②	Pythonのデータ構造を学ぶ
第6回	アルゴリズム	アルゴリズムを学ぶ
第7回	データの取り扱い	データの取り扱いを学ぶ
第8回	講義前半の振り返り／中間課題①	講義前半をまとめ中間課題①を提示する
第9回	テキストのスクレイピング	スクレイピングを試みる
第10回	中間課題②	中間課題②を提示する
第11回	UIアプリの作成①	UIアプリの作成を試みる
第12回	UIアプリの作成②	UIアプリの作成を試みる
第13回	中間課題のフィードバック	受講生成果のフィードバック
第14回	最終試験	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

掌田津耶乃（2025）『Gemini とはじめる Python プログラミング』ラトルズ、2,530円

【参考書】

熊澤秀道（2023）『ChatGPTと学ぶPython入門』翔泳社、1,980円
リプロワークス（2025）『Pythonレベルアップドリル』翔泳社、2,300円

【成績評価の方法と基準】

中間に2回各800字程度を提出してもらいます。授業の最後に試験で Python の理解度を試します。ただし最終試験の評価は、中間レポートを2回提出していることが要件となります。

①レポート（2回）＝30％②最終試験＝40％ ③毎回の課題＝30％による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、「コードを使った授業ということのできるか不安でしたが、丁寧にゆっくりと何度も説明してくれたのでわかりやすかったです」「プログラミングという、難しい内容を分かりやすく、誰でもできるような形で授業にしていた点がとても良かった」との評価をもらいました。引き続き技術的な質問などに対し丁寧な対応を継続していきます。

【学生が準備すべき機器他】

自然言語分析のプログラミング言語 Python を使います。授業時間には PC を教室に持ち込んで講義を聞いてください。

【その他の重要事項】

「マス・コミュニケーション論」を履修済みで、自然言語分析の概要を理解していることを前提に授業を進めていきます。
Python の詳細な設定や使用方法については授業時間内では消化しきれない可能性があります。必ずテキストを購入してください。
また、毎回の授業内で Python コードの取り扱い方法を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will perform natural language analysis using the Python programming language. Furthermore, we will utilize Gemini as an AI assistant. After becoming familiar with Python, participants will attempt natural language analysis using text they have collected themselves.

【Learning Objectives】

Students will be able to use Python to perform natural language analysis.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Students will submit two interim reports of approximately 800 characters each. A final exam will assess Python comprehension at the end of the course. However, the final exam evaluation requires submission of both interim reports.

① Reports (2 submissions) =30% ② Final Exam =40% ③ Weekly Assignments =30% Comprehensive evaluation

情報メディア分析論Ⅰ

森 幹彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、情報メディアを通じた人間のコミュニケーションを理解するために、情報科学と情報処理について学ぶ。

【到達目標】

- (1) コンピュータが社会に与える影響について理解する。
- (2) 情報のデザインとシステム実装の方法を理解する。
- (3) 情報処理法と表現法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。内容に応じて学生と議論しながら理解を深める。不明点などは、授業中に積極的に質問することが必要である。意見・疑問をまとめることを主眼とする課題と、理解度を確認する課題を小レポートとして必要に応じて授業後に課す。小レポートで受け取った意見・疑問に対しては全体に向けてフィードバックする。理解度に応じて補足説明を加える。なお、授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方、コンピュータと社会の関係
第2回	数値表現	コンピュータが扱う数値の基礎を理解する。
第3回	メディアの情報表現	各種メディアフォーマットについて理解する。
第4回	論理回路	コンピュータを構成する論理回路の仕組みを理解する。
第5回	ハードウェアとソフトウェア	コンピュータの構成要素を学ぶ。
第6回	プログラム言語	コンピュータプログラムの基礎理論を学ぶ。
第7回	ソフトウェアの設計	ソフトウェアの設計法を学ぶ。
第8回	アルゴリズムとデータ構造	解を求める計算手順とそのためデータの与え方の基礎を理解する。
第9回	オペレーティングシステム(OS)	コンピュータの動作を支えるOSの仕組みを理解する。
第10回	データベース	データを格納する方法について学ぶ。
第11回	ネットワーク	コンピュータネットワークシステムについて学ぶ。
第12回	情報セキュリティ	情報セキュリティの考え方や技術について学ぶ。
第13回	情報システムの社会的影響の現在と未来	情報システムが社会に与える影響について考える。
第14回	振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、まとめの議論をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中琢真 (2024) 情報科学概論 第2版, 学術図書出版社.

【参考書】

魚田勝臣, 渥美幸雄, 植竹朋文, 大曾根匡, 森本祥一, 綿貫理明 (2023) コンピュータ概論: 情報システム入門 第9版, 共立出版.
寺嶋廣克, 朴鍾杰, 安岡広志 (2016) はじめて学ぶコンピュータ概論: ハードウェア・ソフトウェアの基本, コロナ社.
その他にも、授業内で参考資料をその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加(20%)と期末テスト(80%)により、到達目標への達成度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

効率よく授業内活動を行うためにPCを用意しなければならない。普通教室の場合、各自の所有するPCか、貸し出し用PCを利用を利用する。情報実習室の場合は、設置されたPC端末も利用できる。

【その他の重要事項】

「コンピュータ入門」と「プログラミング入門」の事前受講を強く推奨する。これらを既習として説明しない。
授業の性質から、高校教科の数学と情報の知識を前提とした数理的な議論がある。適宜補足するが十分な復習または次週を前提とする。また、大学での教養的な数学を履修しているとなお深く理解できるだろう。
質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

In this course, students study fundamental concepts of information science and information processing in order to understand human communication through information media.

The goal of this course is as follows:

- (1) To understand communication in spaces from the viewpoint of information processing.
- (2) To understand methods of information design and system implementation.
- (3) To understand the relationship between the real world and the virtual world, and to understand information processing and representation methods.

The standard preparation and review time is two hours for each class. Students should read the materials provided in advance as part of their preparatory study. It is recommended that students actually try out the materials when possible. During review time, students are required to submit assigned reports as needed.

Students are assessed based on active class participation (20%) and the final exam (80%) to comprehensively evaluate their achievement of the course objectives.

HUI200ED (人間情報学 / Human informatics 200)

情報メディア分析論Ⅱ

森 幹彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、情報メディアを通じた人間のコミュニケーションを理解するために、情報アーキテクチャについて学ぶ。

【到達目標】

- (1) 情報を取り巻く環境について理解する。
- (2) 情報アーキテクチャの構成要素について理解する。
- (3) 情報アーキテクチャの分析法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心とした形式で進める。内容に応じて学生と議論しながら理解を深める。不明点などは、授業中に積極的に質問することが必要である。意見・疑問をまとめることを主眼とする課題と、理解度を確認する課題を小レポートとして必要に応じて授業後に課す。小レポートで受け取った意見・疑問に対しては全体に向けてフィードバックする。理解度に応じて補足説明を加える。なお、授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方、情報アーキテクチャの概要
第2回	ユーザ行動(1)	情報アーキテクチャにおけるユーザ行動を理解する。
第3回	ユーザ行動(2)	情報アーキテクチャにおけるユーザ行動を理解する。
第4回	組織化システム	情報を構造化し組織化する方法を学ぶ。
第5回	ラベリングシステム	情報にラベル付けする方法を学ぶ。
第6回	ナビゲーションシステム	情報にたどり着けるようにする方法を学ぶ。
第7回	検索システム	情報検索のためのシステムについて学ぶ。
第8回	中間まとめ	ここまでの理解を確認する。
第9回	調査	情報アーキテクチャの開発プロセスにおける調査法について学ぶ。
第10回	設計	情報アーキテクチャの開発プロセスにおける設計について学ぶ。
第11回	文書化	文書作成法について学ぶ。
第12回	プロトタイピング	プロトタイピング技法について学ぶ。
第13回	情報アーキテクチャの最新動向	情報アーキテクチャに関係する最新動向について考える。
第14回	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、まとめの議論をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Rosenfeld, L., Morville, P., Arango, J., 篠原稔和 (2016) 情報アーキテクチャ 第4版 一見つけやすく理解しやすい情報設計. オライリージャパン.

【参考書】

授業内で参考資料をその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加およびレポート課題 (50%)、期末テスト (50%) として、到達目標への達成度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

効率よく授業内活動を行うためにPCを用意しなければならない。普通教室の場合、各自の所有するPCか、貸し出し用PCを利用を利用する。情報実習室の場合は、設置されたPC端末も利用できる。

【その他の重要事項】

「コンピュータ入門」と「プログラミング入門」の事前受講を強く推奨する。これらを既習として説明しない。

授業の性質から、高校教科の数学と情報の知識を前提とした数理的な議論がある。適宜補足するが十分な復習または次週を前提とする。また、大学での教養的な数学を履修しているとなお深く理解できるだろう。

質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

In this course, students study fundamental concepts of information architecture in order to understand human communication through information media.

The goals of this course are as follows:

- (1) To understand the environment surrounding information.
- (2) To understand the components of information architecture.
- (3) To understand methods for analyzing information architecture.

The standard preparation and review time is two hours for each class. Students should read the materials provided in advance as part of their preparatory study. It is recommended that students actually try out the materials when possible. During review time, students are required to submit assigned reports as needed. In addition, students are expected to work on their final projects outside of class hours.

Students are assessed based on their active participation in class and report assignments (50%), as well as the final exam (50%), to comprehensively evaluate their achievement of the course objectives.

FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

メディアテクノロジーと社会

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
- (2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行います。内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。状況に応じて、オンラインで実施する回が入る場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース1	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース2	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザーブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン1	デザインと設計、デザインアプローチの基本
9	インタフェースデザイン2	人間工学、人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン3	認知工学、人間の認知的特性を考慮したデザイン
11	テクノロジーとの共生1	記憶の支援、情報へのアクセス
12	テクノロジーとの共生2	人間の社会的側面を支援するテクノロジー
13	テクノロジーとの共生3	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生4	VRとAR、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【参考書】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「HCDライブラリー第5巻：人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。

授業への参加の姿勢や貢献、提出物の提出状況と内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.

The final grade will be based on the final exam (50%) and the usual performance score (50%). The usual performance score includes contribution to the class, reaction papers, and small reports.

FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーのユーザに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の各活動で用いる手法の理解
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と実践のための個人ワークもしくはグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。状況に応じて、オンラインで実施する回が入る場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の流れ	ユーザ中心設計におけるユーザ調査、調査の準備
3	ユーザ調査で用いる手法1	UXグラフを用いたUX評価
4	ユーザ調査で用いる手法2	経験想起法の分析
5	ユーザ調査で用いる手法3	ダイアリー法の記録
6	ユーザ調査で用いる手法4	ユーザの特性やユーザの利用状況をより理解するための工夫
7	ユーザ調査の実施1	実施時の注意点の学習
8	ユーザ調査の実施2	RQの作成
9	ユーザ調査の実施3	調査の実施、音声の録音
10	ユーザ調査の実施4	書き起こしデータの作成、提出
11	結果の分析1	KJ法による分析
12	結果の分析2	SCATによる分析
13	結果の分析3	要求事項の明確化、ペルソナとシナリオの作成
14	分析のまとめ	分析の講評、その後の設計プロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒須正明・橋爪絢子著(2021)「HCDライブラリー第5巻：人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社 (ISBN：978-4-7649-0635-8)

【参考書】

橋爪絢子・黒須正明著(2022)「現場の声から考える人間中心設計」共立出版 (ISBN：978-4-320-07200-8)

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。

授業への参加の姿勢や貢献、提出物の提出状況と内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとOffice系ソフトウェア(Word、Excel、PowerPoint)、学習支援システム、電子メール、Google Classroomなどを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としています。また、前の回での課題をその後の回での課題で使用するため、全ての回への出席と課題の提出が求められます。

【Outline (in English)】

We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.

In order to understand the content of the class, students are expected to spend a total of four hours before and after each class.

The final grade will be evaluated based on the usual performance score (100%), including the attitude of participation in the class, the contribution to the group, and the content of the submission.

FRI200EB, FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

社会ネットワーク論 I

宇野 斉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークのシステムのな見方とともに、学びます。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワーク的な見方の理解
- 2 企業や地域を社会ネットワークとして捉える有効性の理解
- 3 社会のシステムのな見方とネットワークの理解
- 4 ネットワーク分析が自分で出来る基本的技法の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、いくつかの課題を絡めながら進めます。
毎回学習支援システム等での授業に出席した上でのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会におけるネットワーク現象(1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介しします。
03	社会におけるネットワーク現象(2)	社会現象を起こすネットワークの振る舞いを考察します。
04	ネットワーク分析のための理論提示	小規模ネットワークの分析理論と背景を提示します。
05	ネットワークの理論的分析	小規模ネットワークの状況比較分析を紹介しします。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における代表値、一般的な指標を説明します。
07	ネットワーク、システム上の主体と関係	システム論的見方を提示し、ネットワークの主体の役割と相互関係を考察します。
08	ネットワークの中に生じる認知組織	ネットワーク内に認知される組織を論じます。
09	企業のネットワーク(1)	企業内の制度におけるネットワークを考察します。
10	企業のネットワーク(2)	企業内の制度外のネットワークを考察します。
11	地域のネットワーク(1)	地域を成立させているネットワークを考察します。
12	地域のネットワーク(2)	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係を系統的に考察します。
14	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムで提示します。結果の印刷物の提出を求める事があります。
本授業の平均的な準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、レポート 30 %、期末試験 40 %（受験しないと評価対象になりません）。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関する個別アンケートの回答に以下の内容（要約）がありました。引き続きなるべく、社会に出てから有益な内容を提供します。

「ネットワークを現実社会に結びつけて考えられるようになり、視野が広がった。」「特にコメントフィードバックが丁寧で学習意欲が高まった。」「全体を通して詳しく社会ネットワークについて説明して頂いたことで、組織についてや社会に出てから生き残るために必要になると考えられる生きた知識を身につけることが出来たので非常に有益であった。」「(他学部生) 社会学部の友人からの勧めをきっかけに履修したが、自学部では得られない社会の繋がりが、組織の役割などを学ぶことができた。普段当たり前のように溶け込んでいる組織への見方が変わった気がした。」

【学生が準備すべき機器他】

授業時にも学習支援システム等を使用します。大学付メールアドレスのメールを随時チェックしてください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを授業内でも利用します。

表計算ソフト（MS-Excel）を利用します。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。
なるべく統計学 I・II を（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the process of viewing and understanding various social situations as social networks, along with the systemic view of social networks.

【Learning Objectives】

- 1 Understanding the network view of social phenomena
- 2 Understanding the validity of viewing companies and regions as social networks
- 3 Understanding the systemic view of society and networks

【Learning activities outside of classroom】

Presented in the class support system.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

30% of regular scores and exercises during lectures, 30% of report(s), and 40% of final exams(Students must take the exam to be eligible for evaluation).

FRI200EB, FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野 斉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 組織内のネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学びます。

2 実験によってネットワークを体感し、あわせて分析方法も学びます。

【到達目標】

1 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得

2 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

3 実験によるネットワークとスモールワールドの体感と理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と実験、演習問題、いくつかの課題によって進めます。

主に組織内のネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱います。個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を行います。また、スモールワールドについても実験を交えて扱います。

毎回学習支援システム等での授業に出席した上でのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション、実験準備	概観内容を説明し、学生と教員間で確認します。実験の準備をします。
02	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
03	実験結果の分析	データを理論との対比で分析します。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
05	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な関係状況の分析を考察します。
06	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の関係の同時状況分析を考察します。
07	スモールワールドの理論	スモールワールドの理論分析モデルを学びます。
08	スモールワールドの実験	スモールワールドの状況を感じる実験を行います。
09	スモールワールドの実験と理論	実験結果を分析し理論との接合を考察します。
10	組織内リンク追加の効果1	モデルでの関係追加の組織全体への効果を考察します。
11	組織内リンク追加の効果2	モデルでの関係追加の個人への効果を考察します。
12	組織内リンク追加の効果3	モデルでの関係追加の個人と組織への効果の差異を考察します。

13 クラスタ、ネット 4つの段階の様相相互の関係をワーク、組織、個人 考察します。

14 まとめと、質疑および議論 各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムで提示します。結果の印刷物の提出を求める事があります。

本授業の平均的な準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等30%、レポート30%、期末試験40%（受験しないと評価対象になりません）。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関する個別アンケート回答に次の内容（要約）がありました。引き続き、なるべく楽しく、社会に出てから有益な内容を提供します。

「理論はもちろん面白かったのですが、就活や就職後に重要なお話も多かったので、深く考えることができました」「実験やワーク、授業の内容がとても興味深いものが多く、学ぶこと自体がとても楽しかったです」「人と人との繋がりを数値で表したり、言語化したり、実際に実験をして体験してみるなど、分からない事ばかりでしたが、人間関係で納得できる部分などもあり、とても楽しい授業でした」

【学生が準備すべき機器他】

授業時にも学習支援システム等を使用します。大学付与メールアドレスのメールを随時チェックしてください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを授業内でも利用します。

表計算ソフト（MS-Excel）を利用する事があります。（社会学部の）コンピュータ入門の内容程度はできると想定しています。さらに自習が必要な場合があります。

【その他の重要事項】

必ず先に社会ネットワーク論Ⅰを履修しておいてください。同科目の修得を前提としています。

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に実験が出来ない場合、関連する時間に関して代替する内容に差し替えることがあります。

対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

1. You will learn theories and methods for analyzing networks within organizations from a social network perspective.

2. You will experience networks through experiments and learn analytical methods.

(Learning Objectives)

1. Acquire organizational analysis methods using network analysis techniques

2. Understand the meaning and behavior of organizations as social networks

3. Experience and understanding of networks and small worlds through experiments

(Learning activities outside of classroom)

The content will be presented on the learning support system. You may be asked to submit a printed copy of your results.

The average preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

30% of the grades are based on regular class performance, 30% on reports, and 40% on the final exam (you will not be evaluated unless you take the exam).

FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

デジタル情報環境論

土橋 臣吾

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデジタルメディアは、私たちの生活全域を覆う情報環境になっています。その来歴・現状・将来を、流動化・個人化・再帰化という3つの論点から考え、これらを通じて、今日のデジタル情報環境に関する社会的理解を獲得することが授業の目的です。

【到達目標】

今日のデジタル情報環境の特徴を具体的事例を通じて社会的に理解することが第一の目標です。その上で、今後のデジタル情報環境がどうあるべきかについて一定の見解を獲得することが第二の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために授業の全体を「流動化する情報環境」「個人化する情報環境」「情報環境の再帰的把握」の3セクションに分け、それぞれのセクションをいくつかの社会理論と関連付けながら、その理論的理解に基づいて各種事例の分析を行っていきます。
・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。
・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	流動化する情報環境1	「流動化」とは何か？
3	流動化する情報環境2	ブロードキャストからネットワークへ
4	流動化する情報環境3	固定的なメディアから移動的なメディアへ
5	流動化する情報環境4	ソリッドなコンテンツからリキッドなコンテンツへ
6	個人化する情報環境1	「個人化」とは何か？
7	個人化する情報環境2	ソーシャルメディアと情報行動の変容
8	個人化する情報環境3	リコメンデーションとコンテンツ選択
9	個人化する情報環境4	個人化の中での「群」
10	情報環境の再帰的把握1	「再帰的把握」とは何か？
11	情報環境の再帰的把握2	加速する情報環境にどう向き合うか
12	情報環境の再帰的把握3	プラットフォーム資本主義にどう向き合うか
13	情報環境の再帰的把握4	スマートフォン依存にどう向き合うか
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会論』有斐閣
その他、授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students acquire a sociological understanding of digital media technologies.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the characteristics of today's digital information environment sociologically and to form opinions about the future of digital media.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

デジタル情報環境分析

土橋 臣吾

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活におけるウェブやモバイルメディアの影響を具体的に分析する視点および調査の方法を学びます。具体的には、アーキテクチャ分析、人・モノ・空間の連関の分析などについて学び、さらに製品やサービスのデザインの領域で活用される調査技法について学びます。

【到達目標】

身近なデジタルメディアや、自分たちの普段のメディア利用を分析的に捉える能力を身につけることが第一の目的です。その上で、ユーザー調査の技法についても学び、調査に基づいてメディアを設計する＝デザインする視点を獲得することが第二の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

上記の目的を達成するために、授業の全体を「アーキテクチャの分析」「人・モノ・空間の連関の分析」「ユーザー調査の方法」に分け、それぞれのセクションで各種の理論や調査法を具体的事例と共に学んでいきます。

- ・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。
- ・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の目的、内容および受講上の注意
2	アーキテクチャの分析1	アーキテクチャとは何か
3	アーキテクチャの分析2	動画共有サイトのアーキテクチャ
4	アーキテクチャの分析3	SNSのアーキテクチャ
5	アーキテクチャの分析4	セクションのまとめ
6	人・モノ・空間の連関の分析1	アクターネットワークとは何か？
7	人・モノ・空間の連関の分析2	固定的なメディアをめぐる連関
8	人・モノ・空間の連関の分析3	移動的なメディアをめぐる連関
9	人・モノ・空間の連関の分析4	セクションのまとめ
10	ユーザー調査の方法1	行動観察・エスノグラフィ
11	ユーザー調査の方法2	カスタマージャーニーマップ・日記式調査
12	ユーザー調査の方法3	ペルソナシナリオ
13	ユーザー調査の方法4	セクションのまとめ
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students acquire theoretical tools and research methods to study the user experience of digital media technology.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire analytical framework for studying the relation between digital media and its users and to learn the techniques of user research.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

SOC200EB, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

ソーシャルメディア論

藤代 裕之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰もが発信できるソーシャルメディアの登場は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を踏まえ、ニュースや広告などに関する課題を学びながら、ソーシャルメディアが社会にもたらす可能性と課題を考えることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルメディアが社会にもたらす可能性と課題を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は教科書の予習・復習を前提に進めます。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。現在進行形で起きているメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第3回	歴史を知る	ソーシャルメディアの技術
第4回	歴史を知る	ソーシャルメディアの法
第5回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第6回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第7回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第8回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第9回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第10回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第11回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ
第12回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（地域）
第13回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（共同規制）
第14回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（システム）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験40%、平常点60%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。

【Outline (in English)】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

The goals of this course are to understand social media.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

SOC200ED（社会学 / Sociology 200）

ソーシャルメディア分析

藤代 裕之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰もが発信できるソーシャルメディアの登場は、社会に大きな変化をもたらしています。中でもソーシャルリスニングと呼ばれる生活者の口コミ投稿の分析は、メディアに関わる企業だけでなく、メーカーやサービス業のマーケティング活動においても必要不可欠となっています。本授業は、ソーシャルリスニングにより生活者のインサイトを洞察する手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルリスニングにより生活者のインサイトを洞察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は予習・復習を前提に進めます。講義形式とグループワークを組み合わせで行います。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と目的
第2回	概論	ソーシャルメディアと消費行動
第3回	概論	社会記号の力
第4回	概論	ソーシャルメディアとキャンペーン
第5回	概論	炎上の構造
第6回	概論	ステルスマーケティング
第7回	概論	ソーシャルリスニング
第8回	分析	量的観察手法
第9回	分析	質的観察手法
第10回	分析	データの収集
第11回	分析	データの分析
第12回	分析	関連情報の検討
第13回	分析	インサイトの洞察
第14回	まとめ	分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

嶋浩一郎・松井剛（2017）『欲望する「ことば」社会記号とマーケティング』集英社新書

【参考書】

嶋浩一郎（2024）『「あたりまえ」のつくり方——ビジネスパーソンのための新しいPRの教科書』NewsPicksパブリッシング
博報堂生活総合研究所（2021年）『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』宣伝会議

【成績評価の方法と基準】

期末レポート40%、平常点60%。平常点は、提出課題の内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【学生が準備すべき機器他】

データの収集分析やプレゼンテーションにパソコン、ソフトを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者は必ずガイダンスに出席して授業方針を確認してください。連続性を持った構成となっているため、原則としてすべての回に出席する必要があります。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

The goals of this course are to understanding social media data analysis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports: 40%、in class contribution: 60%

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツトレーニング論Ⅰ

木村 新

カテゴリ：専門基幹科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1年次／2単位
曜日・時限：金3/Fri.3
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニング科学を理解する上で必要な基礎的知識（バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等）を学び、適切なトレーニング計画をデザインするための基礎を習得する。

【到達目標】

・トレーニング科学を学ぶ上で必要な基礎的知識（バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等）を理解する。
・各種トレーニング（レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等）の内容と方法および、トレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	トレーニング科学の対象、位置づけ、方法とは何かを説明した後に、今後の講義の流れについて確認する。
第2回	トレーニング指導者論	トレーニング指導者としての役割や実務、またトレーニングに関するデータの測定・分析・評価・活用の方法について概説する。
第3回	トレーニング方法の基礎	トレーニング方法の種類（レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等）を解説し、トレーニングを計画する際の留意点について確認する。加えて、トレーニング方法の種類に応じた負荷のかけ方や相互関係について説明する。
第4回	骨格筋の科学①	骨格筋の生理学的な側面について説明する。
第5回	骨格筋の科学②	骨格筋と腱の力学特性について説明する。
第6回	トレーニング動作のバイオメカニクス	トレーニング動作をバイオメカニクスの観点から評価できるようになることを目指す。
第7回	生体エネルギー論	運動様式に応じたエネルギー供給機構を説明する。
第8回	レジスタンストレーニング①	レジスタンストレーニングにおける頻度や強度の標準的な組み方を説明する。
第9回	レジスタンストレーニング②	レジスタンストレーニングの各種エクササイズを概説し、各種エクササイズをバイオメカニクスの観点から説明する。
第10回	持久性トレーニング①	持久性トレーニングに伴う身体内部の変化について説明する。
第11回	持久性トレーニング②	持久性トレーニングの標準的な組み方について説明する。
第12回	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクストレーニングとは何かを説明し、プライオメトリクストレーニングの各種エクササイズとそれらのバイオメカニクスについて概説する。
第13回	リカバリー方法	リカバリーの各種技法の紹介、効果のメカニズムを解説する。
第14回	期末試験	1～13回目までの内容について、修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】

・「ストレングストレーニング&コンディショニング[第4版]」G. Gregory Haff, N. Travis Triplett (編集)、Book House HD
・「NSCA スポーツ科学の基礎知識」Duncan N. French, Lorena Torres Ronda、NSCA ジャパン

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】 授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

スポーツトレーニング論Ⅱの内容と合わせて理解するとトレーニングに関する見解が深まると思われるので、スポーツトレーニング論Ⅱの受講を勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To learn the basic knowledge required to understand training science (biomechanics, physiology, neuroscience, etc.).

To learn the fundamentals for designing training plans.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand findings in the training science and to use them in the application of training.

【Learning activities outside of classroom】

Students try to apply their understanding to sports fields. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.

【Grading criteria/Policy】

Test: 100%

HSS200IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：備考参照年次／2単位

曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：2024年度以降入学者は1年次から履修可能。
2023年度以前入学者は2年次から履修可能。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、重大外傷、熱中症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。さらに発展させて、あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、社会的危機に直面した時に、これを科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題などを課すが、ハンドアウトは予習や授業内で使用することを想定している。
- ⑤ 各回の授業ではkeyword, take-home message, summaryを適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	パンデミックから学ぶリスクマネジメント	新型コロナウイルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	「アスリートが命を落とすとき」—突然死の機序とスポーツ現場における実態—	人が死ぬときに何が起きているのか？なぜ運動中に命を落とすのか？若年アスリートスポーツ中の内因性突然死、中高年者の運動中の突然死について講義する。

4	心肺蘇生（成人と小児のBLS） —スポーツ現場で Hands Only CPR—	成人の一次救命処置（BLS）と小児の救命処置（PBLIS）の理論的基礎と適切に行うために必要な技術的ポイントについて学習する。またスポーツ現場における Hands Only CPRの役割について学ぶ。 競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。 事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
5	インフォームドコンセントと誓約書	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
6	競技参加のためのメディカルチェック	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致死性の頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。 ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	「なぜスポーツしてはいけないのか？」 —競技スポーツ参加の可否判断—	スポーツ現場における熱中症対策のビットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。またスポーツ現場における落雷対策について学ぶ。 減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
8	スポーツにおける重大外傷	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントとその対策
9	スポーツと脳振盪	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。 (mass gatheringとしての) スポーツイベントにおける救急対策について講義する。Emergency Action Plan (EAP) および AED（自動体外式除細動器）の役割について学ぶ。
10	環境とスポーツ —熱中症と落雷—	
11	スポーツ選手と減量	
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	
13	ドーピングとアンチドーピング	
14	スポーツイベントのリスクマネジメント —EAPとAED—	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summaryなど、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 下記【参考書】欄に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】特に定めず

【参考書】

- 第1回：
『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）※資料室収蔵
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可
『臨床雑誌 内科：特集：感染症2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）（医書jpよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第2回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）、（特に第1章～第6章）
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤真理子、エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵
第3回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号、（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第4回：

『BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2020 準拠』(2022 年、シナジー) ※資料室収蔵

第5回：

『スポーツの法律相談』(望月 浩一郎 監修、青林書院) ※資料室収蔵

第6回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』(2018 年 35 巻 6 号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－、pp.570-573)

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』(2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－、pp.153-162.)

(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)

第7回：

木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.

(<http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf>)

『スポーツの法律相談』(望月 浩一郎 監修、青林書院) ※資料室収蔵

第8回：

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』(日本ラグビーフットボール協会、2013 年改訂版)

『柔道の安全指導』(全日本柔道連盟、2015 年第 4 版)

いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。

『柔道事故』(内田 良、河出書房新社) ※資料室収蔵

第9回：

『スポーツ現場での脳振盪』(Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ) ※資料室収蔵

『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』(谷 諭、大修館書店) ※資料室収蔵

『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：「頭部外傷 10 か条の提言」から考える』(2016 年 33 巻 7 号)

(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)

第10回：

『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖』(日本救急医学会、へるす出版)

『熱中症対策マニュアル』(稲葉 裕 監修、エクスナレッジ)

『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』(堀江正知、中央労働災害防止協会)

『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』(三宅康史、中外医学社)

『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』(澤田晋一、杏林書院)

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』(中井誠一、篠原出版新社)

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』(日本スポーツ協会) (<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能)

『落雷事故対策マニュアル』(埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会

https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf)

『サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針』(日本サッカー協会 https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20060413_17_01.pdf)

『落雷事故の防止について』(文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)

第11回：

木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－。(1998 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. <http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf> から参照)

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学。2014;31(9):858-867.

(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)

第12回：

『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』(法政大学。 <http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>)

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』(文科省、2013) (http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)

第13回：

日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)。ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程 (日本語版)』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。

『マンガで学ぶスポーツ倫理』(林 芳紀ほか、化学同人) ※資料室収蔵

『ランス・アームストロングツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。資料室収蔵 (ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には 3 部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなるが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと)

『アンチ・ドーピング徹底解説! スポーツ医薬: 服薬指導とその根拠』(鈴木秀典ほか編、中山書店、2020 年) ※多摩図書館収蔵

『ドーピングの歴史: なぜ終わらないのか、どうすればなくせるのか』(エイプリル・ヘニングほか、青土社、2023 年) ※多摩図書館収蔵

第14回：

『マラソン・ロードレース 救護・医療体制 整備指針: フルマラソンから小規模レースまで－安全に運営するために』(野口 宏 (編), 山澤文裕 (監修)、真興交易医書出版部、2020 年) ※多摩図書館収蔵

『人を助ける心』(高木 修、サイエンス社、1998 年)。(特に第 1 章、第 2 章、第 4 章) ※研究室収蔵

木下訓光 (編)『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』。2009 年 26 巻 11 号 (特に「BLS と AED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション)

(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)

その他に下記の書籍などを追加的に参考にするとよい。

・Herb Appenzeller: "Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原 正、他 (編)『スポーツのリスクマネジメント』(ぎょうせい、2009) ※資料室収蔵

・入澤 充、『学校事故：知っておきたい! 養護教諭の対応と法的責任』(時潮社、2011) ※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (原則 100%、ただし下記※参照)：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題などを課す。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】

授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドを含め関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に強く改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。当該資料は予習および授業内演習に使用するため、各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【実務の経験】

臨床経験および医学研究歴を有する医師 (日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医、日本医師会認定産業医) が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】

上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】

[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.

[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.

[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). A quiz (mini test) will be provided in the classroom. The score of the quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

ECN100IA（経済学 / Economics 100）

スポーツビジネス論 I

片上 千恵

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、スポーツ産業の市場規模や特徴を理解するとともに、現在スポーツ業界が直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツ現場のトレンドを知り、直面する問題を明らかにする。また、スポーツビジネスを展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回授業内容をまとめたリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スポーツビジネスの特徴 他のビジネスとの相違点
2	スポーツに関わる人々とビジネス	クラブ、リーグ、選手、メディア、スポンサー、ファンなどステークホルダーとスポーツ関連ビジネス
3	スポーツ施設	スタジアム、アリーナ運営にまつわるビジネス
4	健康ビジネス	フィットネス産業など、競技以外のビジネス
5	スポーツとメディア	放映権、スポーツ中継の変遷
6	スポンサーと広告	企業がスポーツを支える目的、ROI、イメージとリスク
7	ゲストスピーカー招聘（球団関係者）	スポーツ施設に関する最新情報
8	アスリート個人のビジネス	肖像権、SNSと個人ブランディング
9	メディアトレーニング入門	「自由に話す」と「戦略的に話す」
10	ファンビジネス	ファンエンゲージメント 消費者行動
11	スポーツツーリズム	経験価値、補完行動、官民連携
12	デジタル時代のスポーツビジネス	オウンドメディア、D2C
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	期末テスト	授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト(80%)および授業内レポートの評価(20%)から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の感想や気づき、質問を記入してもらい。その内容をもとに次の授業冒頭でフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 80%、Short reports : 20%.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツコーチング論A

NEMES ROLAND JANOS

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解する。新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。

【到達目標】

効果的なスポーツコーチングに必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどに関するコーチングの本質と理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、毎時限課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
2回	スポーツの意義と価値	スポーツの文化的特性・スポーツ精神 スポーツ基本法とスポーツ基本計画
3回	日本のコーチングの今	グッドコーチに向けた「7つの提言」 スポーツインテグリティ
4回	多様なコーチング文脈	種類別コーチに求められるもの参加 型スポーツのコーチングパフォーマンススポーツのコーチング
5回	コーチに求められるもの	コーチの主な機能（職務）
6回	コーチの学び	コーチが学ぶための方法論 省察の流れ
7回	コーチのセルフコントロール	自分の心理的、行動的な特徴 セルフコントロールの技法の理解
8回	コーチのコミュニケーションスキル	コミュニケーション プレゼンテーション ファシリテーション
9回	コーチングとリーダーシップ	集団、チーム リーダーシップ理論の流れ リーダーの成長を促す経験
10回	多様な思考法に基づくコーチング	理論的思考法 分析的思考法 創造的思考法 判的思考法
11回	発育発達と女性アスリートのコーチング	成長期の子どものコーチングの特徴 女性アスリートのコーチングの特徴
12回	障がいのある人のコーチング	アダプテッドスポーツ インクルーシブスポーツ 障がいのある人のコーチングの特徴
13回	リスクマネジメント	暴力的指導のリスクマネジメント スポーツ事故のリスクマネジメント
14回	試験・まとめと解説	授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に課題を与えることはしないが、参考書に目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間以上を標準とする（準備学習2時間・復習2時間）。

【テキスト（教科書）】

特に設けない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕睦、荒井弘和共編、培風館
「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業状況（20%）および授業内に行う課題レポート（30%）、学期末試験（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行が速かったので、丁寧に授業を進行するよう努力します。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course examines the fundamental principles and theoretical foundations of sports coaching for both athlete development and lifelong engagement in sport. Coaching in the contemporary era is understood as a socially responsible practice that carries accountability for the future of athletes and sport as a whole. To realize this responsibility in practice, the course explores coaching philosophy and ethics, intrapersonal and interpersonal competencies, and effective management of coaching environments in real-world settings.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to:

Acquire and apply the specialized knowledge required for effective sports coaching across competitive and recreational sporting contexts. Understand the core philosophy and ethics of coaching, including the coach's roles, responsibilities, and approaches to self-management and communication.

Demonstrate understanding of coaching principles as they apply to diverse populations, including youth athletes, female athletes, and athletes with disabilities.

Apply risk management strategies to address issues such as abusive coaching practices and sports-related accidents.

Learning Activities Outside of Classroom:

Students are encouraged to read the designated reference books to supplement their understanding of course content. No mandatory assignments will be given, but reviewing materials covered in each session is strongly recommended. Your required study time is at least four hours for each class meeting (two hours for preparation and two hours for review).

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In-class participation and attitude: 20%

In-class assignment reports: 30%

Term-end examination: 50%

A total score of 60 points or above (out of 100) is required to pass the course.

SOC100IA (社会学 / Sociology 100)			7	ニューメディア①	SNSをはじめとするインターネットメディアの出現により、情報発信の仕方が大きく変化した。スポーツ取材現場の変化とともにインターネットメディアの功罪を考える。
スポーツメディア論			8	ニューメディア②	テクノロジーの進化に伴い、従来のメディア企業はビジネスモデルの変革時期に直面している。特にスポーツエンターテインメントの分野におけるデジタルトランスフォーメーション (DX) がもたらす変化は目覚ましい。スポーツ界におけるDX化事例から未来のスポーツとメディアの関係について考える。
片上 千恵			9	放映権	放映権の高騰はスポーツのルールにまで影響を及ぼした。オリンピックとサッカーW杯を事例に放映権ビジネスについて学ぶ。
カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義			10	中間テスト	これまでの授業のまとめ
開講時期：秋学期授業/Fall 配当年次／単位：1～4年次／2単位			11	メディアトレーニング	スポーツにおけるメディアトレーニングとは何か？日本や世界における歴史と現状を把握し、その機能を理解する。
曜日・時限：木3/Thu.3			12	危機管理対応	スポーツを取り囲む様々なリスクを整理し、過去の様々な事例から、状況に応じたリスクマネジメントとメディア対応を考える。
その他属性：〈他〉〈優〉			13	模擬記者会見 ゲスト招聘 (PRコンサルタント)	スポーツ組織における不祥事案件を想定した模擬記者会見を実施。グループに分かれて適切な対応を議論し、想定問答の作成から記者会見の対応までを体験する。
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】			14	総括	模擬記者会見の振り返り
メディアの進化はスポーツ中継の進化と言われるほど、スポーツはメディア、とりわけテレビ技術の発展とともに繁栄してきた。衛星放送が可能になったことで、世界中のスポーツ競技がリアルタイムに視聴できるようになり、競技レベルの高度化やファン層の拡大に大きく貢献してきた。一方で、テレビ視聴に適したルール変更が行われるなど、スポーツはメディアの影響を受けながらその姿を変えてきた。近年では、スポーツ競技やリーグ自体がオウンドメディアを所有するようになり、メディアとスポーツの関係は時代とともに変化し続けている。			【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】		
本講義では、スポーツとメディアの変遷を辿り、メディアがスポーツに与えてきた影響と、今後の関係性について考察する。さらに、SNSの出現以降、アスリートは従来のメディアを介さずに自ら情報発信を行うことが可能となった。本講義では、スポーツの価値を高める情報発信を支援する「メディアトレーニング」についても学ぶ。			授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。日頃のスポーツニュースをチェックする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【到達目標】			【テキスト (教科書)】		
・スポーツとメディアの関係性を歴史的、社会的な視点から理解できる。			講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。		
・スポーツにおけるメディアトレーニングの機能を説明できる。			【参考書】		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】			授業内で適宜紹介する。		
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連			【成績評価の方法と基準】		
【主な授業方法】			授業内レポート (30%)、授業内発表 (20%)、期末テスト (50%) の評価から総合的に判断する。		
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment			【学生の意見等からの気づき】		
【授業の進め方と方法】			好評だった模擬記者会見において、入念に事前準備ができるよう資料を充実させ、学生がリアリティを持ってより多くの学びを得られるような仕様にブラッシュアップさせる。		
パワーポイントを活用した講義形式。毎授業の冒頭に、履修者からスポーツに関するトピックを提供してもらいディスカッションする時間を設ける。学期後半ではグループに分かれ、模擬記者会見を通してメディアトレーニングを実践的に学ぶ。中間テストを実施する。			【Outline (in English)】		
【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】			【Course outline】		
あり /Yes			In this course, we will track the evolution of sports and media, examine the impact of media on sports, and consider future relationships. We will also learn about media training to support information dissemination that enhances the value of sports.		
【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】			【Learning Objectives】		
なし /No			The goals of this course are:		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			A) To understand the relationship between sports and media from historical and societal perspectives.		
回	テーマ	内容	B) To be able to explain the function of media training in sports.		
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明。メディアスポーツとは何か？	【Learning activities outside of classroom】		
2	活字メディア (雑誌・新聞)	メディアの成り立ちと宗教の関係。グーテンベルグによる印刷革命から新聞・雑誌メディアが誕生する過程でスポーツはどのように扱われてきたか。	Review what you have learned in each lecture. Checking sports news regularly. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.		
3	ラジオ①	電波メディアの誕生。1920年アメリカのKDKAにおける世界最初のラジオ放送とスポーツ中継の始まり。ラジオが生んだ日本独自のスポーツ文化であるラジオ体操と高校野球について考える。	【Grading Criteria /Policy】		
4	ラジオ②	ラジオが伝えたオリンピックについて。「実感放送」やオリンピックが生んだスポーツ実況スタイルを事例に時代ごとにメディア技術の発達とスポーツが社会に与えた影響について考える。	Midterm exam (50%), in-class reports (20%), and in-class presentations (30%).		
5	映画	1936年ナチス政権下で行われたベルリンオリンピックで製作された記録映画はプロパガンダの様相を帯びているとされる。その他にも社会の常識やルールに変革をもたらしたスポーツ映画を題材にスポーツの歴史を振り返る。			
6	テレビ	戦後の経済発展とともにテレビはスポーツを大衆化した。「メディアスポーツ」の概念を理解し、「メディアイベント」としての箱根駅伝や高校野球を例にスポーツとメディアの関係を考察する。			

ECN200IA（経済学 / Economics 200）

スポーツビジネス論Ⅱ

望月 拓実

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2年次／2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツビジネスを推進していくうえで必要となる多様な領域のマネジメントを解説する。具体的には、新たに登場したIT分野に関連するマネジメントや施設運営・管理に関するマネジメント、行動経済学的視点から見たスポーツマネジメントや財務に関するマネジメントを理解する。

【到達目標】

- 1：スポーツビジネスを推進するうえで必要となる要素を説明できる
- 2：スポーツファシリティマネジメントの概要を説明し、課題と解決策を提示できる
- 3：行動経済学からみたスポーツビジネスの特徴を説明できる
- 4：スポーツファイナンスの概要を説明し、課題と解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義では各回で設定された課題に対するグループワークを行い、自ら意見・アイデアを発信する。その後座学形式による講義を行ったうえで、その内容をふまえた問いに対する意見(リアクションペーパー)を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、講義の流れ、グループワークの解説、成績評価の解説
第2回	ニューススポーツにおけるビジネス実態と課題	eスポーツ、エクストリームスポーツの特徴と課題
第3回	スポーツテクノロジーにおけるビジネス実態と課題	VAR,ホークアイがもたらすスポーツへの影響、VR観戦の可能性
第4回	スポーツファシリティマネジメント1	スポーツファシリティの歴史的発展、指定管理者制度
第5回	スポーツファシリティマネジメント2	スポーツファシリティとスポーツ政策、運営組織論
第6回	スポーツファシリティマネジメント3	スポーツファシリティの組織間連携、ホスピタリティマネジメント
第7回	スポーツファシリティマネジメント4	スポーツファシリティの建設プロジェクト、管理業務と事業計画
第8回	中間まとめと小テスト	これまでの学習内容をふりかえったうえで、その内容をふまえての穴埋め小テスト
第9回	行動経済学とスポーツ1	顧客ロイヤリティ、感情一致効果、フレーミング効果、ヒューリスティック
第10回	行動経済学とスポーツ2	マーケティングの落とし穴、マーケティングリサーチの実際、イノベーションのジレンマ
第11回	スポーツファイナンスの基礎	ファイナンスとは何か、スポーツファイナンスの特徴、固有性
第12回	クラブファイナンス1	法人格、財務諸表、資金繰り、スポーツ組織の「価値」構造について
第13回	クラブファイナンス2	資本金、株式上場、プロスポーツの企業価値計算、情報開示
第14回	最終テスト	学習の総括と最終テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する参考書および関連文献を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度(リアクションペーパー、グループワークへの参加、講義内での発言等)：30%

講義内小テスト：20%

最終課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークメンバーの定期的な入れ替えを導入しました。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】

グループワークはオンラインツールを用いて行うため、原則パソコンを持参すること。所有していない場合はタブレットなど一定以上の画面サイズがある電子端末でも可とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will explain the various areas of management that are necessary to promote sports business. Specifically, students will understand management related to the newly emerging IT field, management related to facility operation and management, sports management from a behavioral economics perspective, and management related to finance.

【Learning Objectives】 1：To be able to explain the elements necessary to promote sports business 2：To be able to give an overview of sports facility management and present challenges and solutions 3：To be able to explain the characteristics of sports business from the perspective of behavioral economics 4：To be able to give an overview of sports finance and present issues and solutions

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read carefully the reference books and related literature related to the contents of the class before the class, and to be able to reflect them in their comments and reaction papers.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Class participation (reaction papers, participation in group work, speaking in class, etc.): 30%.

In-class quiz: 20%.

Final report assignment: 50%.

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ実習

山口 和真

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4年次／1単位
曜日・時限：火3/Tue.3
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
- ・課題に対して、仮説を立てることができる。
- ・仮説を調査票にすることができる。
- ・回答しやすい調査票作成ができる。
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査を行うことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点や調査をする上での心構えを学ぶ。
第2回	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ。
第3回	調査課題の立て方	調査課題とは何かを複数の例に基づいて考える。
第4回	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる。
第5回	調査課題の立て方に関するまとめ	第4回でまとめた調査課題について発表し、ブラッシュアップする。
第6回	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ。
第7回	調査の種類を学ぶ	定量調査や定性調査の研究を学ぶ。
第8回	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ。
第9回	定量調査の調査票作成	第5回でまとめた調査課題についての簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップを図る。
第10回	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成を学ぶ。
第11回	定性調査の調査票作成	第5回と第9回の結果を踏まえて定性調査の調査票を作成する。
第12回	定量調査の実践	第9回の調査票について実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する。
第13回	定性調査の実践準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作成する。
第14回	定性調査の実践	インタビュー調査を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】

調査票 (50%)、分析・レポート (50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives)

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.

(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.

(Grading Criteria / Policy)

The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis / reports(50%).

MAN300IA（経営学 / Management 300）

マーケティングリサーチ演習

山口 和真

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4年次／2単位
曜日・時限：火3/Tue.3
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる。
- ・課題に対して、仮説を立てることができる。
- ・仮説を調査票にすることができる。
- ・回答しやすい調査票作成ができる。
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法を理解し、統計解析ソフトspssを利用することができる。
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義の具体的な内容は、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる。
第2回	スポーツに関する調査概要	調査に関する概要について検索し、現在のテーマとその背景を考える。
第3回	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する。
第4回	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する。
第5回	事前調査の実施	事前調査を実施し、課題の妥当性や仮説の方向性をまとめる。
第6回	事前調査結果の発表	第5回で得られた結果を発表し、ブラッシュアップを図る。
第7回	定量調査の調査票設計	課題解決や仮説検証のための調査票設計を行う。
第8回	定量調査の調査票の妥当性の確認	定量調査票設計についての妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップを図る。
第9回	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認および調査方法のシミュレーションを行う。
第10回	定量調査の実施	定量調査を実施する。
第11回	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ。
第12回	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する。
第13回	調査の集計、分析結果の考察	第12回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う。
第14回	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】

調査票(50%)、分析・レポート(50%)などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で利用する資料について、わかりやすく提示するよう心がける。
専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限(52名)を超えた場合には、受講者選抜を実施します。受講者は、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目の履修を条件とします。

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives)

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and use analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss.
(Learning activities outside of classroom)

The standard time for preparation and review for this class is 2hours each.

(Grading Criteria / Policy)

The grade is comprehensively evaluated by questionnaires(50%), analysis / reports(50%).

TRS100JA（観光学 / Tourism Studies 100）

ホスピタリティ論

山田 祐子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、講師のホテル業やサービスに関するリサーチやコンサルティング経験をもとに、ホスピタリティの基本概念を学んだ後、いくつかのケース・スタディを通じて課題や現状を学ぶ。本講座の目的は、受講生が、表象的なホスピタリティだけではなく、サービス産業の経営戦略にホスピタリティの概念が用いられている重要性を理解できるようになることである。

【到達目標】

1. ホスピタリティの基本的な概念や本質を理解できるようになる。
2. サービス産業の構造を理解し、ホスピタリティの位置づけを説明することができる。
3. 授業の一環で行う小テストやケース・スタディの学修によって情報収集力や課題発見力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進められる。受講生は、講義期間中の小テストを受け、ケース・スタディへのリアクションを提出することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ホスピタリティの概念	授業の進め方や注意点を説明。ホスピタリティの概念を解説する。
第2回	ホスピタリティと産業	ホスピタリティと産業界の関係を解説する。
第3回	ホスピタリティと顧客満足	ホスピタリティと顧客満足度の関係を解説する。
第4回	ホスピタリティと従業員満足	ホスピタリティと従業員満足度の関係を解説する。
第5回	ホスピタリティと感情労働	感情労働やクレーム対応を解説する。
第6回	ホスピタリティの実践	ホスピタリティの実践に有効な思考法を解説する。
第7回	クレームやカスタマーハラスメント対応	クレームやカスタマーハラスメント対応方法を解説する。
第8回	ケース・スタディ① 宿泊業(1)	ホテル旅館業がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第9回	ケース・スタディ② 宿泊業(2)	ホテルコンシェルジュがホスピタリティを実践する事例を紹介する。
第10回	ケース・スタディ③ 鉄道業、清掃業	観光列車や鉄道の清掃会社がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第11回	ケース・スタディ④ テーマパーク業	テーマパーク業がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第12回	ケース・スタディ⑤ 医療機関	医療機関がホスピタリティを活用する事例を紹介する。
第13回	ケース・スタディ⑥ 販売業	販売士がホスピタリティを活用する事例を紹介する。

第14回 ホスピタリティの展 全授業内容の総括。
望、講座の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前週に翌週の受講に必要な情報収集や小テストの範囲を連絡するので予習（2時間）をして授業に臨む。また、小テストの結果とリアクションの内容を講師の解説をもとに復習（2時間）しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。講義資料は映写し、授業後、学習支援システム上に格納する。

【参考書】

1. 日本サービス大賞 サービス産業生産性協議会
<https://service-award.jp/>
2. 日本の優れたサービス—選ばれ続ける6つのポイント・松井 拓己 /樋口 陽平・生産性出版・2017年・1980円
3. 日本の優れたサービス〈2〉6つの壁を乗り越える変革力・松井 拓己・生産性出版・2019年・1980円

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30%（授業参加度）
2. 小テスト 40%（10点×4回）
3. リアクション 30%（10点×3回）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学生は、講義中に資料閲覧や小テスト受験のために学習支援システムを使用する。システムが利用できる電子機器類の持参が求められる。

【その他の重要事項】

1. 出欠席や遅刻の扱い
第1回目の授業で説明する。
2. 授業進行や評価方法の変更
極端に履修者数が多い場合や少ない場合には、授業の進行方法や評価方法を変更する場合がある。その際には、授業中の告知と学習支援システムにより周知する。
3. 実務経験の有無
宿泊業（ホテル）の業務経験、宿泊業や地域活性化のコンサルティング業務経験

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the concept of hospitality, its necessity and characteristics in today's society to students taking this course.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to explain basic concepts of hospitality, explain the position of hospitality in the Service industry. At the end of the course, students are expected to consider the challenges of hospitality in the Service industry.

【Learning activities outside of classroom】

The instructor will provide information needed for the following week's class and the scope of the examination the previous week, so students are expected to prepare (2 hours) for the class. Additionally, students should review (2 hours) the examination results and the content of their reflection writing based on the instructor's explanation.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on in-class contribution(30%), multiple midterm examination(40%), reflection writing on the case study (30%),

EDU100JA（教育学 / Education 100）

教育学

藤本 典裕

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5058」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（授業の概要）本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

（授業の目的）1. 日常的な経験を通じて教育に関する基礎概念を検討する。人類はなぜ、どのように教育を基礎的な社会機能として維持してきたのかを学ぶ。

2. 教育に関する思想の概要を学ぶ。3. 学校制度の機能を学ぶ。4. 教育に関する権利と義務、誰が権利主体なのか、なぜそうなのか、教育を保障するのは誰かを学ぶ。

（授業時間外の学習）提示する資料を読み、次回授業までに課題に定めること。授業後、その内容についてミニ・レポートを作成すること（詳細は授業時に指示する）。

（成績評価の基準）学期末レポート（60％）及びミニ・レポート（40％）を総合的に評価する。

【到達目標】

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。

1. 教育に関する諸概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2. 近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
3. 学校制度の役割、問題点について自分の考えを整理して述べることができる。
4. 教育を受ける権利とその保障に付いて理解し、その問題点を指摘し、それについての見解を整理して述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。

学期末にレポートの提出を求めるが、学期中に小レポートの提出も求める。

下記に授業計画を示しているが、授業の進行状況に応じて変更を行うこともありえる。変更の場合はその都度連絡する。学習支援システムに講義資料などを提示するので確認して受講すること。その他、必要な連絡も基本的には学習支援システムを通じて行うので注意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第2回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第3回	子育て・教育の自立化	子育て・教育が他の活動と区別される特性を検討する。

第4回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第5回	教育可能性	人間という生物の特性を教育可能性という視点から検討する。
第6回	ルソーに学ぶ	ルソーの子ども観・教育観から近代教育思想について考える。
第7回	発達の段階	ピアジェの研究成果などから人間の発達段階について整理し検討する。
第8回	能力モデルと教育の規定	人間の能力のとらえ方を整理し、それを育成する教育のあり方について検討する。
第9回	学校の誕生と発展	学校という社会制度が誕生する経緯とその発展の過程を整理する。
第10回	日本の学校	日本の学校制度の誕生と発展の経緯を整理し、学校制度が歴史的に担ってきた役割を検討する。
第11回	教育を受ける権利と義務	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第12回	教育を受ける権利と教育費	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響について検討する。
第13回	子どもの貧困をめぐって	子どもの貧困が子どもたちから奪っているものについて考える。
第14回	さまざまな問い	第13回目に取り上げられなかった諸課題について検討するヒントを提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】

堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994年
橋本俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験またはレポート（60％）、小レポート（40％）を総合的に評価する（配点は目安）。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることが主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will learn about "education" as a necessary social function for human-being, the meaning of education for human-being, the basic thoughts of contemporary education and educational system and the problems concerning contemporary education.

【Learning Objectives】

At first, basic educational concepts will be discussed through daily-life experiences. We will learn how and why we human-being have kept "education" as a basic social function.

Second, we will learn about the thoughts on education.

Third, we will learn about the functions of schooling system.

Fourth, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education, why so, and who guarantee the rights.

【Learning activities outside of classroom】

I will show you about the contents of next lesson and the activities you must do. So after each lesson, by reading the materials (I present on web-site) , review the contents of the lesson and make a short report (I will show you the detail at each lesson) by the next lesson.

【Grading Criteria】

Grading will be decided by term-ending report and short reports held in lessons. (Term-ending report:60%、Short reports:40%)

MAN100JA（経営学 / Management 100）

経営学

首藤 聡一郎

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2026年度の授業実施日は、9月14日・15日・16日。現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5107」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は狭義の企業経営だけでなく、非営利組織や公的機関など幅広い分野に応用されるようになってきている。そのため、受講生が将来的にどのような進路を選択するとしても、経営学の基本的な考え方を理解できるような授業を目的とする。

【到達目標】

1. 受講生が経営学の基本的な枠組みを理解できるようになる。
2. 受講生がマネジメントについて考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式である。

講義前に教科書を読み、経営学の全体像について把握したうえで授業に参加してもらう必要がある。

授業中は、それぞれの回の内容について講師から解説した後、小グループに分かれて課題に取り組んでもらい、プレゼンテーションしてもらう。質疑応答の後、講師からフィードバックを行い、その回の内容について補足説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキスト、成績評価方法について理解する。 また、マネジメントについての概要を理解する。
第2回	イノベーション	イノベーションについて理解する。
第3回	ビジネスモデル	ビジネスモデルについて理解する。
第4回	セグメンテーションとターゲティング	セグメンテーションとターゲティングについて理解する。
第5回	マーケティングの4Pと収益モデル	マーケティングの4Pと収益モデルについて理解する。
第6回	サプライチェーンと補完財	サプライチェーンと補完財について理解する。
第7回	経営資源	経営資源について理解する。
第8回	外部の脅威と機会	外部の脅威と機会について理解する。
第9回	財務・会計	事業をめぐるお金の流れとそのルールについて理解する。
第10回	モチベーションのマネジメント	モチベーションとそのマネジメントについて理解する。
第11回	リーダーシップ	リーダーシップについて理解する。
第12回	階層組織とマネジメントコントロール	階層組織とマネジメントコントロールについて理解する。
第13回	組織デザイン	組織デザインについて理解する。

第14回 フラットな組織と組織学習 フラットな組織と組織学習について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に企業活動に関するニュースに積極的に触れることが必要である。

この授業の準備学習・復習時間は各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中川功一・佐々木将人・服部康宏（2021）『考える経営学』有斐閣、2,000円＋消費税。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 40%

期末レポート 60%

具体的な講義方法と基準等は、ガイダンスで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例で考えてもらおうと理解とモチベーションの両面で有用であることに改めて気付かされた。できるだけ身近な例を盛り込んでいくつもりではあるが、さらにその方向性で工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では教室で行われる授業の中でグループワークや課題に取り組んでもらう時間をとる。それらの活動のアウトプットを作成して学習支援システム経由で提出するため、パソコンやスマートフォン等の情報機器と hosei-wifi 等のインターネットへの接続環境が必要である。なお、パワーポイントファイルでの提出を求める場合もあり、それらの課題のアウトプットの作成を考えると、スマートフォンではなく、パソコンが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Business administration has come to be applied not only to corporate management, but also to a wide range of fields such as non-profit organizations and public institutions.

Therefore, the purpose of this course is to enable students to understand the basic concepts of business administration, no matter what career path they choose in the future.

【Learning Objectives】

1. Students will be able to understand the news about business management.
2. Students will be able to think about the management.

【Learning activities outside of classroom】

It is necessary to be actively exposed to news about business and management.

The standard preparation and review time for this class is two hours each, for a total of four hours.

【Grading Criteria /Policy】

Presentation 40%

Final Report 60%

SOC100JA（社会学 / Sociology 100）

社会学特講

左古 輝人

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の構造、その過去、現在、未来。

【到達目標】

社会学の基本的なキーワードを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式。学習支援システムを用いた質問・感想を歓迎する。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。

授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。

不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要がある場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
第2回	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
第3回	産業社会の形成	18・19世紀における産業社会の歴史的形成を概観する
第4回	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
第5回	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
第6回	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第7回	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった20世紀初頭を概観する
第8回	消費化社会の構造	20世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
第9回	消費化社会の展開	消費化社会の歴史的形成を概観する
第10回	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
第11回	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
第12回	脱工業化の進行	1970年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
第13回	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
第14回	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前にテキストの該当箇所を読了しておくことが、講義への理解を容易にする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

左古輝人『畏怖する近代』法大出版2006年。

佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書1992年。

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書1998年。

早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房2011年。

【参考書】

適宜紹介する。ウェブリソースとしては「現代ビジネス」「東洋経済オンライン」「荒木優太(youtube)」「信州読書会(youtube)を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業運営の適切さを改めて確認できた。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定していない。必要があれば電子メールで問い合わせること。

【Outline (in English)】

The course overviews the history and the structure of modern society as a whole. 【Learning Objectives】 The students learn the powerful theoretical tools to understand and describe the characteristics of modern society including contemporary Japan. 【Learning activities outside of classroom】 1) The students need to read a small piece of text before each lecture (about 120 minutes). 2) The students need to write a small report after each lecture (about 200 words). 【Grading Criteria /Policy】 Term-end exam (70%), Class participation (30%).

SOC100JA (社会学 / Sociology 100)

老年学

新名 正弥

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考(履修条件等)：現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5117」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックはLMS等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係

第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第14回	高齢社会の構造（グローバリゼーション、老いを取り巻く社会構造の変化）	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業前に資料を配付する。

【参考書】

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）
高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ、レスポンスペーパー（40%）、期末レポート（60%）によって総合的に判定する。

【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度を理解するための基盤となる科目なので、高齢者や高齢社会に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline (in English)】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.

By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.

Before the lecture, students must tackle assignments (about 2 hours). After the class, students are asked to answer quizzes (about 2 hours).

The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

ARSk100JB,ARSk200JC（地域研究（地域間比較）/Area studies(Interregional comparison) 100,地域研究（地域間比較）/Area studies(Interregional comparison) 200)

地域問題入門

野田 岳仁

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】

地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の“考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第2回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第3回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第4回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第5回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第6回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第7回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第8回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティとNPO・NGO
第9回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第10回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての“被害”とは？
第11回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり

第12回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第13回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と有効性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメントやリアクションペーパー（10%）と期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

ARSx100JB（地域研究（その他） / Area studies(Others) 100）

コミュニティマネジメント入門

水野 雅男、図司 直也、佐野 竜平、土肥 将敦、野田 岳仁、杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】

日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員6名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（図司）	「自分ごと」から地域を感じる
第2回	「地域／まち」をつくる とは？（図司）	地域づくりを実践する現場に触れる
第3回	若者は「地域」で何が できるのか？（図司）	地域づくりに動き出した仲間との 姿に触れる
第4回	なぜ人びとは地域の 自然を守るのか？ （野田）	地元の人びとの生活の立場から 考える
第5回	ツーリズムによる地 域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観 光まちづくり
第6回	コミュニティと企業 （土肥）	地域固有の企業とステイクホル ダー
第7回	コミュニティとソー シャルビジネス（土 肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性 と課題
第8回	学びがつくる地域 （杉浦）	学校外での学びの空間
第9回	地域で文化を学び伝 える（杉浦）	暮らしの中にある豊かさ
第10回	グローバル社会のま ちづくり（佐野）	日本内外の視野からみるまちづ くり
第11回	グローバルなまちづ くり人材になるため に（佐野）	共生社会に生きる視点と具体例
第12回	アート&クラフトと まちづくり（水野）	アート&クラフトによる地域資 源の発掘
第13回	地域資源の保全活用 によるまちづくり （水野）	歴史的建造物の保全活用の意義 と実践事例
第14回	震災復旧と復興まち づくり（水野）	ボランティアキャンプと復興ま ちづくり実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーのコメント）100％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

授業を担当する6名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

SOW100JB,SOW200JC (社会福祉学 / Social Welfare 100, 社会福祉学 / Social Welfare 200)

社会問題論

大澤 優真

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代日本における社会問題の現状とその背景、ならびに社会問題に関する制度・政策および活動について学び、理解を深める。そのうえで、これらが抱える課題と今後の展望について考察する。その際、とりわけ「貧困」に着目し、検討を行う。

【到達目標】

- ・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
- ・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
- ・社会問題の解決に向けた制度・政策や活動を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、パワーポイントや映像資料を中心に進める。
- ・各授業の冒頭に前回授業の復習を行う。
- ・各授業の終わりにリアクションペーパーを配布し、次回授業の冒頭にフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的・進め方・概要
第2回	現代日本における社会問題①	生活保護から考える
第3回	現代日本における社会問題②	格差・母子世帯
第4回	現代日本における社会問題③	単身高齢女性
第5回	現代日本における社会問題④	労働・賃金
第6回	現代日本における社会問題⑤	住居・ホームレス（1） —路上生活者の現状—
第7回	現代日本における社会問題⑥	住居・ホームレス（2） —「ホームレス」であるということ—
第8回	現代日本における社会問題⑦	住居・ホームレス（3） —支援と課題—
第9回	現代日本における社会問題⑧	貸付・奨学金
第10回	現代日本における社会問題⑨	障害者・性的マイノリティ
第11回	現代日本における社会問題⑩	移民・難民（1） —困窮する移民・難民の現状—
第12回	現代日本における社会問題⑪	移民・難民（2） —制度・統計の現状—
第13回	貧困とは	歴史・概念・定義
第14回	総括	社会問題の全体像 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を活用して復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（リアクションペーパー） 40%
- ・レポート課題 60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to deepen students' understanding of the current state and background of social issues in contemporary Japan, as well as the institutions, policies, and activities addressing these issues. Building on this understanding, the course examines the challenges these responses face and considers future perspectives. In particular, the course focuses on poverty as a key theme for analysis and discussion.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

- ・ Explain the basic features and characteristics of individual social issues.
- ・ Explain how various social issues are interconnected.
- ・ Consider and propose institutions, policies, and activities aimed at addressing social problems.

【Learning Activities Outside of the Classroom】

Students are expected to review course materials distributed in class in order to deepen their understanding. They are also encouraged to maintain an ongoing interest in social issues and to investigate them independently. The standard amount of time for preparation and review for this course is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Class participation (reaction papers): 40%
- ・ Written assignment (report): 60%

PSY100JB,PSY100JC (心理学 / Psychology 100 , 心理学 / Psychology 100)

心理学（2020年度以前入学者）

泉水 紀彦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。

この科目は教職科目にも指定されていますので、教育基本法に定める教育の目的を踏まえ、一人一人の「人格の完成」また「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」を備えるために必要な学びを目指して欲しいと考えています。そのため、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】

- ①心理学の研究知見や概念を説明できる。
- ②現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式です。毎回ごとにリアクションを提出し学習内容をふりかえります。

授業の初めに、前回の授業で提出したリアクションからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学の全体像の概観、心理学とは何か、心理学の歴史、心理学研究法
第2回	心の適応とストレス	青年期、アイデンティティ、ストレッサーとストレス反応、脆弱性とリスク、レジリエンス
第3回	心と脳	神経細胞、神経伝達物質、睡眠、大脳、中枢神経系、末梢神経系、脳の発達
第4回	感覚と知覚	感覚、知覚、適刺激、視覚の構造、図と地、体制化の法則、知覚の恒常性
第5回	学習と記憶	条件づけ（連合学習）、洞察学習、観察学習、記憶の種類、記憶の過程
第6回	感情と欲求	感情・情動・気分、感情の種類、表情、情動の発達、生理的欲求、社会的欲求、欲求不満、防衛機制、動機づけ
第7回	パーソナリティ	性格・人格・気質、類型論、特性論、社会認知的理論、パーソナリティ検査

第8回	知能	知能の理論、知能検査、行動遺伝学、神経心理学的検査
第9回	発達	発達、遺伝と環境、発達課題、認知発達理論
第10回	社会的認知	印象形成、帰属バイアス、ステレオタイプ、偏見
第11回	自己と社会的影響	自己概念、自己呈示、社会的比較、社会的促進・抑制、傍観者効果、同調、スティグマ
第12回	人間関係と集団の心理	対人距離、対人魅力、自己開示、集団、集団規範、没個性化、リーダーシップ
第13回	カウンセリング	カウンセリング、ラポール、治療契約、守秘義務、クライエント中心療法
第14回	授業内試験・まとめと解説	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として資料にあらかじめ目を通しておくと、授業内容の理解が深まります。

授業後には、資料をもとに復習し、関心を持った点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解が一層深まります。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

武藤隆（編）（2018）.「心理学（新版）」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

（各回授業終了後のリアクションの提出状況・内容を含む）平常点（25％）、および期末試験（75％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and clinical psychology. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

【Learning Objectives】

The goal of this class is for you to be able to explain psychological research findings and concepts, and to acquire the psychological perspective necessary for independent reflection on contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Reading through the material in advance as preparatory study will help you understand the class content better.

After the class, review the material and ask questions to the class instructor or read related books if you are interested in the material to deepen your understanding.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Evaluation will be made on the basis of the reaction papers submitted after each class (25%) and the final exam (75%).

PSY100JB, PSY100JC (心理学 / Psychology 100, 心理学 / Psychology 100)

心理学（2021年度以降入学者）

泉水 紀彦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の研究対象と領域は多岐にわたります。この授業で実験心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学などの研究で得られた知見を学び、心理学や社会全般に対する視野を広げて欲しいと思っています。

この科目は教職科目にも指定されていますので、教育基本法に定める教育の目的を踏まえ、一人一人の「人格の完成」また「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」を備えるために必要な学びを目指して欲しいと考えています。そのため、日常生活との接点を含む研究知見も取り上げます。

【到達目標】

- ①心理学の研究知見や概念を説明できる。
- ②現代の社会について主体的に考察するために必要な心理学的な見方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式です。毎回ごとにリアクションを提出し学習内容をふりかえります。

授業の初めに、前回の授業で提出したリアクションからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学の全体像の概観、心理学とは何か、心理学の歴史、心理学研究法
第2回	心の適応とストレス	青年期、アイデンティティ、ストレッサーとストレス反応、脆弱性とリスク、レジリエンス
第3回	心と脳	神経細胞、神経伝達物質、睡眠、大脳、中枢神経系、末梢神経系、脳の発達
第4回	感覚と知覚	感覚、知覚、適刺激、視覚の構造、図と地、体制化の法則、知覚の恒常性
第5回	学習と記憶	条件づけ（連合学習）、洞察学習、観察学習、記憶の種類、記憶の過程
第6回	感情と欲求	感情・情動・気分、感情の種類、表情、情動の発達、生理的欲求、社会的欲求、欲求不満、防衛機制、動機づけ
第7回	パーソナリティ	性格・人格・気質、類型論、特性論、社会認知的理論、パーソナリティ検査

第8回	知能	知能の理論、知能検査、行動遺伝学、神経心理学的検査
第9回	発達	発達、遺伝と環境、発達課題、認知発達理論
第10回	社会的認知	印象形成、帰属バイアス、ステレオタイプ、偏見
第11回	自己と社会的影響	自己概念、自己呈示、社会的比較、社会的促進・抑制、傍観者効果、同調、スティグマ
第12回	人間関係と集団の心理	対人距離、対人魅力、自己開示、集団、集団規範、没個性化、リーダーシップ
第13回	カウンセリング	カウンセリング、ラポール、治療契約、守秘義務、クライエント中心療法
第14回	授業内試験・まとめと解説	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として資料にあらかじめ目を通しておくと、授業内容の理解が深まります。

授業後には、資料をもとに復習し、関心を持った点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解が一層深まります。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

武藤隆（編）（2018）。「心理学（新版）」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

（各回授業終了後のリアクションの提出状況・内容を含む）平常点（25％）、および期末試験（75％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will introduce students to various topics of psychology, including perception, learning, personality, intelligence, social psychology, psychological assessment, and clinical psychology. The primary purpose of the course is to help students become familiar with subdisciplines of psychology.

【Learning Objectives】

The goal of this class is for you to be able to explain psychological research findings and concepts, and to acquire the psychological perspective necessary for independent reflection on contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Reading through the material in advance as preparatory study will help you understand the class content better.

After the class, review the material and ask questions to the class instructor or read related books if you are interested in the material to deepen your understanding.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Evaluation will be made on the basis of the reaction papers submitted after each class (25%) and the final exam (75%).

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

福祉国家論

渡辺 寛人

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、資本主義システムのなかで福祉国家が成立していく歴史のプロセスに焦点を当て、近代家族と福祉の諸制度、慈善組織協会（COS）やセツルメント運動など初期の社会福祉の実践、それらと優生学介入との関係を考察する。また、こうした歴史的な論点が現代においてどのような意味をもつのか、身近な社会問題と接続させて考える。

【到達目標】

- 1) 福祉国家が成立した歴史的背景を理解する
- 2) 福祉国家をめぐる基礎的な理論を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行なう。講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、毎回の講義のはじめにフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と、福祉国家についての概説
第2回	福祉国家の前身①救貧法体制	貧困問題の発生と救貧法の成立過程を学ぶ。
第3回	福祉国家の前身②魔女狩り	「魔女狩り」を通じて労働力の再生産領域がどのように変容したかを学ぶ。
第4回	福祉国家の前身③近代家族の形成	近代家族の形成プロセスについて学ぶ。
第5回	慈善組織協会とケースワークの誕生	慈善組織協会とケースワークの誕生について学ぶ。
第6回	ケースワークと優生学	ケースワークと優生学との関係について学ぶ。
第7回	セツルメント運動の展開と優生学	セツルメント運動の展開と優生学との関連について学ぶ。
第8回	福祉国家の形成とソーシャルワーカー	アメリカを中心に、福祉国家におけるソーシャルワーカーの役割を学ぶ。
第9回	福祉権運動	福祉権運動の展開と背景について学ぶ。
第10回	福祉国家と新自由主義	福祉国家に対する批判とバックラッシュについて学ぶ。
第11回	福祉国家スウェーデンと優生学	福祉の優等生と呼ばれたスウェーデンで進められていた優生学的介入について学ぶ。
第12回	現代の家族廃止論、共同ケア	欧米における家族廃止論や共同ケアに関する議論について検討する。
第13回	世界の福祉国家	世界の福祉国家を概観する
第14回	講義まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎講義のリアクションペーパーの提出（30%）と期末テスト（70%）によって評価します。期末テストの内容については授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布およびリアクションペーパー、レポートの提出については学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on the historical process of the welfare state's formation within the capitalist system. It examines the relationships between the modern family, welfare institutions, and early social work practices (such as the Charity Organization Societies [COS] and the Settlement House Movement) and eugenic interventions. Furthermore, we will consider the contemporary significance of these historical issues by connecting them to familiar social problems.

【Learning Objectives】

- 1) Understand the historical background to the establishment of the welfare state
- 2) Understand the basic theories surrounding the welfare state.

【Learning activities outside of classroom】

A total of four hours of preparatory study and review time for this class is standard.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the submission of reaction papers for each class (30%) and a final examination (70%). Details regarding the content of the final exam will be announced in class.

ENG200JB（その他の工学 / Engineering 200）

社会的包摂論

水野 雅男

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】

バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第2回	バリアフリー政策①	バリアフリー、国内の政策の変遷
第3回	国内バリアフリー政策②	日米のバリアフリー政策の相違
第4回	移動とUD①	国内の交通施設や公共交通機関
第5回	移動とUD②	欧州の交通政策とトラム
第6回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第7回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第8回	障害者の能力①	エイブルアート
第9回	障害者の能力②	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第10回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第11回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策とNPO活動
第12回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第13回	ホームレス支援②	NPOによるホームレス支援アプローチ
第14回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに当日の教材を掲載するので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007年
「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004年
「ストラスプールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70% ② Report 30% Comprehensive evaluation of ① and ②.

ENG200JB (その他の工学 / Engineering 200)

地域計画論

杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生きている地域とはどのようなものなのでしょうか。また私たちは普段、その足元の地域を想像し、創造する機会をどのくらい得ているでしょう。地域計画というと、国や自治体が策定する難しいものというイメージをもつ方も多いかもしれません。でも本当にそうでしょうか。そもそもなぜ地域に計画が必要なのでしょう。そこから講義をはじめていきます。地域を計画するとはどういうことか。誰が、どのように計画するのか。本授業では、これらの問いを地域に暮らす私たち自身を含む生活者を出発点に考え、学んでいきます。なお、本授業では、地域計画の中でも地域の教育・文化を中心に論じるものとします。

【到達目標】

地域・社会の抱える課題と地域計画の関わりについて、基本的な視点をもつことができる。また、私たち一人ひとりが生活者として、それぞれ暮らす地域をよくしていくことにどう関わっていくか、という当事者意識をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で進める。回によって、リアクションペーパーの提出を求めることもある。それらのフィードバックは授業時間中に行い、授業内容に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	生活の中の「計画」
第2回	私たちはどのような地域に生きているのか	地域をめぐる状況を俯瞰する
第3回	「計画」は何を生み出すのか	計画と地域との結びつきを考える
第4回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (1)地域の拠点を求めて	地域の拠点としての公民館
第5回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (2)家庭・地域の計画化	「村の古さ」をめぐる
第6回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (3)生活を起点とした平和	平和学習の広がり
第7回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (4)子ども	子どもと地域
第8回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (5)青年・成人	足りないものはみんなで作る

第9回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (6)環境	暮らしのウェルビーイングを求めて
第10回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (7)子育て	子育ての共同
第11回	住民の学びがつくる地域	住民による学びと地域づくりの関わりについて考える
第12回	地域計画をつくり支える仕事	自治体職員、民間、市民団体など
第13回	地域計画をつくり支える仕事の実際	地域における実践
第14回	まとめと期末試験	講義全体の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、自身や身近な地域に即して検討してみましょう。授業後には内容を振り返り、自ら応用的に情報を収集することを期待しています。また、課題が示された際にはそれに取り組んでください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業時に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】

上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】What does it mean to plan a community? Who plans and how? In this course, we will consider these questions through an overview of the history of regional planning, especially as it relates to education and culture.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to have a basic perspective on how regional planners can be involved in regional issues. In addition, students will also gain a new perspective on how each of us, as a citizen, can be involved in improving the community in which we live.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

short report (30%), term-end examination (70%)

MAN200JB（経営学 / Management 200）

コミュニティビジネス論

土肥 将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、革新的なアイデアを持つ社会的企業者が地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様で個別的なニーズや価値に柔軟に応えようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていく社会的企業者たちによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を、国内外の事例やゲストスピーカーとの対話を通して明らかにする。

【到達目標】

- ①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
- ②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業による講義形式である。毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第2回	コミュニティ・ビジネス / ソーシャル・ビジネス とは何か①	「コミュニティ・ビジネス」とは何かを理解する。
第3回	コミュニティ・ビジネス / ソーシャル・ビジネス とは何か②	「ソーシャル・ビジネス」とは何かを理解する。
第4回	事業型NPOによる取り組み①	NPOの3つのパターン（事前型・監視批判型・事業型）について理解する。
第5回	事業型NPOによる取り組み②	国内外の事業型NPOの広がりについて理解する。
第6回	事業型NPOによる取り組み③	病児保育事業の事例を通して理解する。
第7回	事業型NPOによる取り組み④	貧困問題と健康問題を解決する事業活動事例を通して理解する。
第8回	事業型NPOによる取り組み⑤	海外の事業型NPOの事例を通じて理解する。
第9回	株式会社による取り組み①	社会志向型企業の意義や特徴について理解する。
第10回	株式会社による取り組み②	社会志向型企業の具体的な事例を通して理解する。
第11回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第12回	株式会社による取り組み④	大企業の社会貢献活動やソーシャル・ビジネスの理論を理解する。
第13回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的な社会貢献活動やソーシャル・ビジネスを通して理解する。
第14回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌・書籍などを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

土肥将敦（2022）『社会的企業者—CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房

谷本寛治編（2015）『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義内でのミニレポートとプレゼンテーション 70%、期末レポート 30%。具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(70%), term-end report(30%).

ARSx200JB（地域研究（その他）/Area studies(Others) 200)

ローカルイノベーション論

野田 岳仁、水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】

ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員4名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。1地域を2回の講義で構成し、1回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。2回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第5回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①（水野）	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー

第9回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・図司・土肥・野田）	6事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

講義を担当する4名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies.

【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB,SOW100JA（社会福祉学 / Social Welfare 200 , 社会福祉学 / Social Welfare 100）

アジア地域開発論（2020年度以前入学者）

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】

東南アジアを中心としたアジアの最新事情を政治、経済、社会・文化の視点から学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第3回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第4回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第5回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第6回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第7回	アジアの実際を学ぶ①	アジアと日本を結んで実況中継①
第8回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第9回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第10回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第11回	アジアの実際を学ぶ②	アジアと日本を結んで実況中継②
第12回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%

課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course focuses on best practices and significant trends in community development within Asia, with a particular emphasis on Southeast Asia. The lectures will incorporate insights from the instructor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities. Please note that the above plan is subject to minor changes.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational knowledge of Asian regional development within the framework of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to spend two hours on preparatory study and review for each session to ensure a thorough understanding of the course material.

【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined as follows: Reaction papers via WebClass (Participation): 50%

Assignments: 50% (Assignment files: 40%, Presentation: 10%)

SOW200JB,SOW100JA (社会福祉学 / Social Welfare 200, 社会福祉学 / Social Welfare 100)

アジア地域開発論 (2021年度以降入学者)

佐野 竜平

配当年次／単位数：福コミ：1～4・臨心：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】

東南アジアを中心としたアジアの最新事情を政治、経済、社会・文化の視点から学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第3回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第4回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第5回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第6回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第7回	アジアの実際を学ぶ①	アジアと日本を結んで実況中継①
第8回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第9回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第10回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第11回	アジアの実際を学ぶ②	アジアと日本を結んで実況中継②
第12回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%

課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course focuses on best practices and significant trends in community development within Asia, with a particular emphasis on Southeast Asia. The lectures will incorporate insights from the instructor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities. Please note that the above plan is subject to minor changes.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational knowledge of Asian regional development within the framework of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to spend two hours on preparatory study and review for each session to ensure a thorough understanding of the course material.

【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined as follows:

Reaction papers via WebClass (Participation): 50%

Assignments: 50% (Assignment files: 40%, Presentation: 10%)

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

社会福祉原理

岩崎 晋也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の原理を考える

【到達目標】

社会福祉の専門職としての基本的な視点や論理を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を題材にしながら、社会福祉専門職として、どのように問題をとらえるべきなのかを検討する。知識を身につけることよりも思考力や価値観を身につけることを重視する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会福祉の正当化問題	社会福祉原理の基本問題である正当化問題とは何かを理解する
第2回	人間はなぜ他者を援助するのか1	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。狩猟採集社会・氏族社会
第3回	人間はなぜ他者を援助するのか2	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。都市国家
第4回	人間はなぜ他者を援助するのか3	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。ローマ帝国とキリスト教
第5回	人間はなぜ他者を援助するのか4	キリスト教や仏教などの普遍宗教がもたらした影響を理解する
第6回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか1	社会契約説において、他者を援助することがどのように位置付けられたかを理解する
第7回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか2	フランス革命において公的救済がどのように位置付けられたかを理解する
第8回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか3	フランス第三共和制における社会連帯説の意義を理解する
第9回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか4	福祉国家の意義と、リスクの共有の現代的課題を理解する
第10回	社会福祉の原理1	社会保険などの文脈とは異なる福祉としての社会福祉の誕生
第11回	社会福祉の原理2	パターナリスティックな社会福祉の問題点
第12回	社会福祉の原理3	ノーマライゼーションとパーソナライゼーションからの批判
第13回	社会福祉の原理4	基本的ケーパビリティの平等と個人の尊厳としての人権
第14回	社会福祉の原理5	新しい社会福祉のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習をし、全体の論理の流れを理解する。下記に示した参考書や、授業で示した参考文献で興味を持ったものを読む。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

岩崎晋也（2018）『福祉原理－社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

①試験方法 筆記試験（100%）

②採点基準 講義内容の理解度を評価する

【学生の意見等からの気づき】

考えるための素材を提供する

【Outline (in English)】

This course introduces the principles of social welfare. The goals of this course are understanding the basic perspectives and logic of social worker. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 100%.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

医療政策論

小磯 明

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業での意見交換を通じて、学生が医療政策の重要性を認識する。

【到達目標】

医療政策とは何か、を学生が理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面で実施する。学生の授業への積極的参加を促すために、毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で答えるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険制度のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回、教材資料を配布する。

【参考書】

小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房,2013年.

小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房,2016年.

小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社,2017年.

小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社,2019年.

小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社,2019年.

小磯明『製薬企業のイノベーションと経営戦略』日本評論社,2025年.

【成績評価の方法と基準】

授業平常点60%、レポート提出40%。レポートは1回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。毎回の授業は対面授業のため、出席を重視することに注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】

諸外国の医療制度や事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class. The aim of this course is to help students acquire knowledge of medical policy.

At the end of the course, students are expected to knowledge of medical system and policy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is a least four hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, in class contribution: 60%.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

雇用政策論

渡辺 寛人

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本型雇用の成り立ちおよび諸特徴を踏まえ、外国人や高齢者、障害者、LGBTなど近年の多様化の流れと雇用政策について検討していく。雇用政策を理解することで、私たちの社会がどのように成り立っているのかを理解することを目的とする。

【到達目標】

- (1) 雇用について基本的な内容を理解する。
- (2) 日本型雇用の成り立ちと特徴を理解する。
- (3) 近年の多様化の流れと雇用政策との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行なう。講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、毎回の講義の始めにフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学生にとって身近な「アルバイト」を取り上げ、「雇用」について考える
2	現代の労働問題	「ブラック企業」問題をはじめ、現代の労働問題を学ぶ
3	日本型雇用①採用と職業紹介制度	採用と職業紹介制度について理解する
4	日本型雇用②配置・技能形成	配置・技能形成のしくみについて理解する
5	日本型雇用③人事評価制度	人事評価制度のしくみと潜在的な能力主義について理解する
6	日本型雇用④退職・解雇	退職・解雇について理解する
7	正社員雇用制度改革	成果主義人事やジョブ型雇用について理解する
8	非正規雇用①パート・有期雇用	パート・有期雇用について理解する
9	非正規雇用②労働者派遣制度	労働者派遣制度について理解する
10	ジェンダーと雇用政策	ジェンダーの観点から雇用政策について理解する
11	高齢者と雇用政策	高齢者の就労問題と雇用政策について理解する
12	障害者と雇用政策	障害者の雇用関係について理解する
13	プラットフォームワークと雇用政策	近年広がるプラットフォームワークと雇用政策について理解する
14	全体まとめ	全体の振り返りを行なう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎講義のリアクションペーパーの提出（30％）と期末試験（70％）によって評価を行なう。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布およびリアクションペーパーの提出については学習支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Based on the origins and various characteristics of Japanese-style employment, this lecture will examine employment policies and the recent trend of diversification, including foreigners, the elderly, people with disabilities and LGBT. The aim is to understand how our society is structured by understanding employment policies.

【Learning Objectives】

- (1) Understand the basic content of employment.
- (2) Understand the origins and characteristics of Japanese-style employment.
- (3) Understand the relationship between recent diversification trends and employment policies.

【Learning activities outside of class】

A total of four hours of preparation and review time for this class is standard.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation is based on the submission of a reaction paper for each lecture (30%) and a final examination (70%).

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

都市住宅政策論

水野 雅男

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年

「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年

「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年

「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年

「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年

「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年

「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70% ② Report 30% Evaluate ① and ② comprehensively.

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域文化政策論

杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化をつくり、支える制度と人とはどのようなものか。その歴史と現状について、日本を中心としたいくつかの地域に即して学んでいく。さらには地域の文化活動をどう支援するかについて、現代的課題と可能性についても考える。

【到達目標】

地域文化を支える教育・文化政策の歴史と現状についての基本的な理解を得る。また、地域文化の継承や創造に直接・間接的に関わるものの意味、具体的な職業などについても学ぶことで、日々の生活の中で文化を身近に感じ、自分自身もその作り手として意識し行動できるような関心を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式によるが、適宜ディスカッションを交えながら進める。可能であれば、ゲストスピーカーによる講義も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のガイダンス、私たちの身の回りにある文化に目を向ける
第2回	地域文化を支える政策(1)	学校教育
第3回	地域文化を支える政策(2)	社会教育・生涯学習
第4回	地域文化を支える政策(3)	文化行政(文化財保護を含む)
第5回	地域文化を支える施設(1)	学校
第6回	地域文化を支える施設(2)	公民館・図書館・博物館・公共ホール
第7回	地域文化を支える人	担い手を育む仕事
第8回	各地の地域文化実践(1)	地域文化はどのようにつくられるか
第9回	各地の地域文化実践(2)	地域文化の創造を支援する
第10回	各地の地域文化実践(3)	担い手としての成長
第11回	学ばれる地域文化(1)	文化伝承
第12回	学ばれる地域文化(2)	災害の記憶
第13回	地域文化の再創造	地域文化をめぐる課題と再創造への試み
第14回	まとめと期末試験	講義全体の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域文化に関連する報道や博物館展示等に関心を持ち、身近な事例や展示などに積極的に触れたり、足を運ぶことで授業の予習・復習に取り組んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

山崎功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子編『地域文化の再創造—暮らしのなかの表現空間』水曜社、2024

佐藤一子『地域文化が若者を育てる—民俗・芸能・食文化のまちづくり』農山漁村文化協会、2016

ほか適宜示す。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー、小レポートを含む平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】

上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course discusses the history and current state of Japan's policies related to regional culture. It also addresses contemporary challenges and prospects in supporting local cultural activities.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the history and current status of educational and cultural policies that support local culture.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to be interested in news reports and museum exhibitions related to local culture, and to actively visit there. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following:

short report (30%), term-end examination (70%)

ENV300JB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境政策論

藤澤 浩子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取り組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取り組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取り組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めたいこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境政策はPDCAサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 1	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク（FW）
第2回	オリエンテーション 2	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第3回	SDGsについて	SDGs関連情報（国際的取り組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第4回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取り組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第5回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第6回	環境問題を知る 1	温暖化、エネルギー問題
第7回	環境問題を知る 2	生物多様性、地球環境問題
第8回	環境問題を知る 3	循環型社会、地域環境問題
第9回	環境問題を知る 4	化学物質、震災関連の問題等

第10回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第11回	各主体の役割・活動 1	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取り組み、企業の取り組み
第12回	各主体の役割・活動 2	市民（個人、NPO等）の取り組み、身近な環境に関する市民の取り組み事例（DVD視聴等）
第13回	身近な環境保全の取り組み実践体験 全体ワーク 1	かるた制作（読み札づくり）
第14回	身近な環境保全の取り組み実践体験 全体ワーク 2	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。

関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

東京商工会議所（2025）『環境社会検定試験eco検定公式テキスト改訂10版』。

その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史(2014)『環境政策論（第3版）』信山社、竹本和彦編（2020）『環境政策論講義：SDGs達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編(2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点70%、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去12年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループやクラス単位でのワークショップを行ってきました。全回オンライン形式となった2020年度以外、全体ワークで、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。質問等については、リアクションペーパーで受け付ける他、必要に応じ、授業終了後に教室で、または電子メールで受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basic knowledge of the environment/environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information. 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the importance of each citizen's efforts.
- understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.

-get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.

-willing to do good activities for the familiar/global environment.

【Learning activities outside of classroom】

1.Find out about environmental issues of your interest.

2.Try participating in environmental activities, if possible.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

・ Normal point 70% : Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work

・ Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

ARSk300JB（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

地方自治論

中嶋 学

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都道府県、市町村、特別区といった自治体は、地域における行政を担い、地域の課題や問題を解決するために政策の立案・実施を行っています。しかし近年、自治体が対応を求められている高齢者福祉、子育て・教育、まちづくりなどの分野における多くの課題は、複雑な要因が絡み合い、従来の解決策が必ずしも有効とはならない「厄介な問題（wicked problem）」となっています。そのため、これらの課題の解決に向けては、自治体単独での対応には限界があり、企業、NPO、住民など多様な主体との連携・協働が不可欠となっています。

本講義では、地域課題の解決に向けて、多様な組織や人々が参加し、それぞれの専門性を活かしながら連携・協働するための仕組み、すなわち政策を形成・実施する体制をどのように設計し、どのようにマネジメントすべきかについて学習します。

【到達目標】

- ・地方自治論に関する基礎的な知識を習得する。
- ・自治体が直面する課題の解決に向けて、政策の形成・実施体制をどのようにデザインし、マネジメントすべきかを論理的に思考するための概念および分析枠組みを習得する。
- ・これらの概念や枠組みを活用し、自治体が直面する課題に対応する政策の形成・実施体制のデザインおよびマネジメントについて、自ら考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加して政策を形成・実施する体制のデザイン・マネジメントについての理解を深めるために、組織間関係論の説明を中心に授業を進めます。1回の授業で1つの理論をカバーし、各回の授業では、まず、その回で取り扱う理論の概要、重要概念、強み・弱みなどの説明を行い、次に、その理論を公的部門に応用した重要業績の説明を行います。授業に進展などに応じて内容の入れ替え、変更などもあります。また、履修人数によっては、双方向型の形態を用いることやアクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施も考慮します。課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	シラバスの記載事項の確認および授業の進め方の説明。
第2回	「ガバメント」から「ガバナンス」へ	「ガバメント」から「ガバナンス」へという標語で表わされる地方自治の担い手の変化についての説明。
第3回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント①	ネットワーク理論についての説明。

第4回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント②	ソーシャル・キャピタル理論についての説明。
第5回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント③	資源依存理論についての説明。
第6回	ケース・スタディ1	1回目のケースについての説明。
第7回	グループ・ディスカッション1	1回目のケースのグループ・ディスカッション。
第8回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント④	制度理論についての説明。
第9回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑤	取引費用理論についての説明。
第10回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑥	エージェンシー理論についての説明。
第11回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑦	組織間信頼についての説明。
第12回	ケース・スタディ2	2回目のケースについての説明。
第13回	グループ・ディスカッション2	2回目のケースのグループ・ディスカッション。
第14回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に資料を配布します。

【参考書】

- ・北村 亘・青木 栄一・平野 淳一（2017）『地方自治論－2つの自律性のはざまへ』有斐閣
- ・磯崎 初仁・金井 利之・伊藤 正次（2020）『ホーンブック 地方自治 [新版]』北樹出版
- ・秋吉 貴雄・伊藤 修一郎・北山 俊哉（2020）『公共政策学の基礎 [第3版]』有斐閣
- ・渡辺 深（2007）『組織社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート 60 %
（データ等の客観的事実に基づいた議論が展開されているか、論理的な思考が示されているか、独自の考察が見られるか、ならびにレポートの形式が適切であるかを総合的に評価します）
- ・中間レポート 20 %
（授業内容に対する理解が適切に示されているか、また自分なりの考察が記述されているかを評価します）
- ・コメントペーパー 20 %
（コメントの内容および提出回数に基づいて評価します）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Local governments face complex problems (e.g., health and human services and economic development) that no single organization can adequately address. As a result, local governments must work with business and nonprofit sectors to formulate and implement public policy. In this context, goal-directed interorganizational networks—composed of three or more organizations collaborating to achieve a common goal—have become a prevalent organizational arrangement. These networks address complex problems by integrating the resources, information, expertise, and perspectives of organizations with different capacities and endowments. In public policy and public administration research, such arrangements are referred to as “purpose-oriented networks.”

Although the involvement of diverse organizations enhances the capacity of purpose-oriented networks to address complex problems, it also creates challenges. In particular, differences — and sometimes conflicts — in goals, strategies, perceptions, and ways of working among network participants can hinder cooperation and coordination. Because of these challenges, effective network management is widely recognized as essential for producing satisfactory outputs and outcomes.

【到達目標 (Learning Objectives)】

This course is designed around two primary objectives:

- (1) To understand key concepts in interorganizational theory; and
- (2) To apply these concepts to the design and management of purpose-oriented networks.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Final grades will be based on the following components: comment papers (20%), a midterm paper (20%), and a final paper (60%).

POL300JB（政治学 / Politics 300）

政策評価論

倉根 明徳

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2026年度の授業実施日は、9月14日・15日・16日。
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策評価の理論だけではなく、政策立案や評価プロセスの実例を学ぶことで、行政経営や政策の意義について理解することを目的とする。

【到達目標】

日本に政策評価が導入された背景や政策評価の理論と手法、政策立案のプロセスを把握した上で、政策評価が政策のマネジメントサイクルの中で果たす役割について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は3日間の集中講義となります。政策評価と政策立案の理論を学んだ上で、ワークシート等を使った演習を行いながら理解を深めます。最終日には各自またはグループで政策の立案と評価指標の設定をしていただき、発表とディスカッションを行います。
また、授業の初めに、前日の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
各回のテーマに応じて適宜資料を提供しながら講義を進めますが、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、短期間で理解できる内容にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体概要、講義の進め方について
2	政策評価の概要	政策評価導入の背景や評価の類型等について
3	政策評価の手法①	事業評価方式、実績評価方式、総合評価方式の概要と評価手順について
4	政策評価の手法②	実際に行われている政策評価について（ケーススタディ）
5	政策立案の手法①	目標設定から政策立案の流れについて
6	政策立案の手法②	2018年度以降、主流になりつつあるEBPM（エビデンスに基づく政策立案）について
7	政策立案の手法③	海外との比較について（NZの震災復興計画等を事例に）
8	政策立案と評価の実例①	政策・評価の実例紹介（健康福祉政策）
9	政策立案と評価の実例②	政策・評価の実例紹介（まちづくり政策）
10	政策立案と評価の実例③	政策・評価の実例紹介（官民連携政策）
11	政策立案と評価の実践①（演習）	各自（またはグループ）で政策の立案と評価指標設定を実施
12	政策立案と評価の実践②	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション

13	政策立案と評価の実践③	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション
14	講義のまとめ	全体の振り返りと修得内容の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。関心のあるテーマに関わる施策について国や地方自治体のHPなどを調べてみてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【参考書】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、演習及びディスカッション50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
例年「理論＋具体例＋ミニ演習で理解が深まった」「講師や学生同士でのディスカッションが良かった」と意見をいただいているため、令和8年度も引き続き同様のスタイルで講義を進めます。また、最終日の施策発表には若手市役所職員も参加し、一緒にディスカッションに加わってもら予定です。

【その他の重要事項】
約20年間、県や国で実務を経験し、令和7年に市役所に転職。主にまちづくり分野に関わる政策立案や評価を数多く担当してきました。学生が利用する公共施設（公園や図書館など）がどのような背景でつくられ、評価され、運営されているかなど、具体的な事例を参考にしながら、政策評価や政策のマネジメントを学びます。特に行政職員を目指している学生の受講を奨励します。

【Outline (in English)】
This course introduces students to policy evaluation, policy making, and public management. The objective of this course is the role of policy evaluation. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content.
Your overall grade in the course will be based on the following
Class participation: 50%, Exercises and Discussions: 50%

ECN300JB（経済学 / Economics 300）

地域経済論

図司 直也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤（とりわけ農山村地域の主要産業である第1次産業）への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。

【到達目標】

講義を通して、まず、グローバル化に直面する地域経済の状況、また今日に至る地域経済の展開過程とそこで生じた諸問題についての基礎を理解できる。その上で、地域資源をもとにした産業形成として第1次産業である農林業を中心に、関連するテーマを通して、経済活動と地域との関係を捉えることができる。日本の地域経済や地場産業における歴史的背景を踏まえ、グローバル経済と密接な現状を理解し、地域を核とした経済循環のあり方を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域問題を考える糸口としての地域経済を理解する。
第2回	地域経済の形成過程（戦後）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（戦後）を理解する。
第3回	地域経済の形成過程（高度経済成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（高度成長期）を理解する。
第4回	地域経済の形成過程（低成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（低成長期）を理解する。
第5回	地域経済の形成過程（バブル期以降）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（バブル期以降）を理解する。
第6回	農業・農村の現場から	第1次産業である農業と地域との関係を学ぶ。
第7回	林業・山村の現場から	第1次産業である林業と地域との関係を学ぶ。
第8回	経済のグローバル化と地域インパクト	1980年代以降の地域経済が直面するグローバル化の背景を学ぶ。
第9回	産業構造の転換と地域経済構造	1980年代以降の地域経済が直面する産業構造転換の背景を学ぶ。
第10回	地域再生の理論と農山漁村	地域間格差が生じる背景について学ぶ。
第11回	内発的発展の道筋を考える	農山漁村地域の自立に向けたプロセスを学ぶ。
第12回	コミュニティ政策の潮流	コミュニティ政策の展開を学ぶ。
第13回	コミュニティと地域経済の再生	地域資源管理の担い手形成を考える。
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後に、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40％、期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】

VTRなども交えて、時代や地域性の観点からも地域経済の実態が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will focus on the local economy, deepen our understanding of the industrial base that utilizes local resources, and learn about changes in local industries and new attempts in the face of globalization.

【Learning Objectives】 Understand the current situation closely related to the global economy, based on the historical background of Japan's regional economy and local industry, and understand the ideal economic cycle centered on the region.

【Learning activities outside of classroom】 Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is desirable to take an interest in various regional issues on a daily basis and review the lesson contents after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】 60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

国際協力論

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせ実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGsと国際社会に関する学び①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGsと国際社会に関する学び②
第4回	SDGsと現代福祉③	SDGsと国際社会に関する学び③
第5回	国際機関と国際協力	国連による現代福祉に関する学び
第6回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第7回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第10回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第11回	NGO/民間企業と国際協力③	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践③
第12回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%

課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course introduces fundamental theories, best practices, and significant findings in international cooperation and development within the developing world, with a specific focus on inclusive development.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational understanding of international cooperation within the framework of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to dedicate two hours to preparatory study and two hours to review for each session (four hours total) to ensure a thorough understanding of the course material.

【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined based on the following:

Reaction papers: 50%

Reports and presentations: 50%

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course explores the intersection between inclusive development and well-being studies.

【到達目標】

This course is specifically designed to equip students with a set of practical and actionable competencies. Beyond theoretical understanding, students will develop hands-on skills that are directly applicable to the complex challenges within the context of community based inclusive development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely online via live Zoom sessions. All announcements, course materials, assignments, and feedback will be managed through the Learning Management System (Web Class). Furthermore, guest speakers will be featured to facilitate dynamic and practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	Diversity and Well-being(1)	Concept of inclusive development and different culture (1)
No.3	Diversity and Well-being(2)	Concept of inclusive development and different culture (2)
No.4	Inclusive communication(1)	Initiatives on sign languages in a community(1)
No.5	Inclusive communication(2)	Initiatives on sign languages in a community(2)
No.6	Inclusive communication(3)	Initiatives on sign languages in a community(3)
No.7	Inclusive communication(4)	Initiatives on sign languages in a community(4)
No.8	Human rights issues and community(1)	Challenges in inclusive community settings (1)
No.9	Human rights issues and community(2)	Challenges in inclusive community settings (2)
No.10	Human rights issues and community(3)	Challenges in inclusive community settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world by learning uniqueness(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world by learning uniqueness(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world by learning uniqueness(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review the materials distributed in each lecture. The standard time required for preparation and review in this course is approximately 2 hours each per session.

【テキスト（教科書）】

Provided as needed based on the content

【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>

World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:40%, Reaction paper through Web Class:60%

【学生の意見等からの気づき】

To the greatest extent possible, student suggestions regarding lecture content and planning will be incorporated.

【学生が準備すべき機器他】

Hardware and software for online class (PC, Zoom, etc)

【その他の重要事項】

The above plan is subject to minor changes. The lectures will incorporate insights from the professor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities.

【担当教員の専門分野 / Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia and other Asia)

【Outline (in English)】

This course explores the intersection between inclusive development and well-being studies.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論

遠藤 聖子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行っているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。

- ・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
- ・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
- ・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・講義ガイダンス（再） ・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくりを担う組織
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察

第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み
第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション 等、まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用 等、各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き 等、各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO）等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	福祉・スポーツとまちづくり	・各地で取り組まれる福祉やスポーツをキーワードにしたまちづくりの現在 ・レポート課題の解説
第14回	講義の総括	・受講生の感想 ・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。

- ・「平成都市計画史―転換期の30年間で残したもの・受け継ぐもの」 饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
- ・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等 著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】

①講義または、その後の全体またはグループ討議等の内容を踏まえたリアクションペーパーの提出40％
②レポートの提出60％（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】

まちづくりの実務者がその経験を踏まえて、具体的な事例を授業で紹介している点が本講義の特徴です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management = regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

- ・ Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management
- ・ Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management
- ・ Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management
- ・ Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

- (1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%
- (2) Report: 50% (report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが2000年代以降世界的に広まってきた。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれる。また近年では、従業員や地域社会、環境へ配慮した事業活動を行なっている企業に与えられる国際的なB Corp認証も増加してきている。本講義では、こうした事業やビジネスモデルがなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどこが革新的でどのようなインパクトをもたらされるのかについて、国内外の事例をもとに検討する（なお、過去数年は、数多くの社会的企業者やB Corp認証企業の実務家にゲスト講師としてお越しいただいている）。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSRの枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の3点を履修者の到達目標とする。

①グローバル/ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業者によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③B Corpなど社会志向型企業の意義や経営課題を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業者にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。今年度はB Corp認証を取得している国内外のゲストスピーカーも招聘する予定である。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第2回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3つの要件、活動する事業領域を理解する。
第3回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第4回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第5回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第6回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第7回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第8回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第9回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第10回	大企業におけるCSR①	企業と社会の関係を理解する。
第11回	大企業におけるCSR②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第12回	B Corporationについて理解する①	各種事例を通してB Corpについて理解する（A事例）。
第13回	B Corporationについて理解する②	各種事例を通してB Corpについて理解する（B事例）。
第14回	B Corporationについて理解する③	各種事例を通してB Corpについて理解する（C事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションや掲示板へのコメント記入に備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。特に、毎回の講義後に掲示板などへのコメントの書き込みが必須となり、これが成績評価の基準となる予定ですので注意してください。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示します。

【参考書】

土肥将敦（2022）『社会的企業者—CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房

Marquis, C（2020）Better Business, Yale University Press（土肥将敦監訳・保科京子訳（2022）『ビジネスの新形態 B Corp入門』ニュートンプレス）
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義へのコメント課題（60％）及び講義中におけるアプリケーションを活用したフィードバック（40％）を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義はオンラインで展開し、履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。市ヶ谷キャンパスや小金井キャンパスからの受講生は、キャンパスごとに時間割が異なっているため、各学部が定めるルールや時間割を必ず確認した上で履修するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(60%), in class contribution(40%).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、前半は経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。後半はProject Based Learningを採用し、選定地域の産業振興や地域創生を議論を中心に、グループ単位でのプロジェクト型の演習を実施する。また、事前課題がある場合は、その取り組み内容に対する議論をグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。各回の講義資料や講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要を紹介
2	CSR経営におけるSDGsの主流化	企業CSR経営を起点としたソーシャルマネジメントとSDGsの位置づけについて議論
3	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術①	企業組織におけるコミュニケーションとその活性化について議論
4	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術②	企業組織において「相手」に届くコミュニケーションとプレゼンテーションを実践
5	企業におけるプロジェクト活動	プロジェクト型マネジメントを知る
6	行政とコミュニティ組織	行政組織の特色とコミュニティの役割を知る
7	今年度の地域活性化プロジェクト先の選定とグルーピング	学生に身近な地域の選定とプロジェクトの進め方に関する議論
8	事例研究①官民連携	特定地域の官民連携事例について議論

9	事例研究②企業組織の光と陰	企業の不正（不正開示不正会計）はなぜ起きてしまうのかについて議論
10	演習①	ローカルなフィールドでのプロジェクトの進め方を議論
11	演習②	同フィールドでのマネジメントを進める
12	演習③	特定地域での活性化企画の立案
13	演習④	特定地域での活性化計画の設計
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では、全5回の事前課題レポート（A4 1枚以内）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

樋口邦史編著「Z世代のキャリアデザイン」水曜社；まち創り叢書（2026年3月20日頃発刊）

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

課題レポート10点×5回、最終レポート50点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する（最高10点）

【学生の意見等からの気づき】

これまでの講義参加者からの要望に基づき、学生にとって身近な地域を選んだ演習を実施します。今年度も、2年生から4年生まで「学部横断型」の多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に「実践型」の講義を実施します。経済学部、社会学部からの参加者も期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】In this course, the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

【Learning Objectives】The goals of this course are to understand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identify social responsibility of the company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.

【Learning activities outside of classroom】Before the every session, students will be expected to have read the relevant case study on web site or news paper. And some text will be introduced in the session for reference of group discussion.

【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leadership on work shop.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

非営利団体の活動資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。スライドは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には毎授業提出してもらうリアクションペーパーを活用し、各授業の初めにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	本講の概要、目的
第2回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第3回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第4回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第5回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第6回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第7回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第8回	遺贈寄付	その定義と実態
第9回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第10回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第11回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第12回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第13回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第14回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「改訂新版 非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社

<https://www.amazon.co.jp/dp/4788718820/>

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、期末テスト（80％）※期末テストはマークシート形式。資料持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、すべての学部生が社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、本講座の共感を軸とした資金調達の学びを、一般企業に就職した際にも役立てられるようにします。

【Outline (in English)】

1) Course Outline

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds. In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

2) Learning Objectives

The goals of this course is to know how to fundraise.

3) Learning activities outside of class room

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.

4) Grading Criteria/Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80% In class contribution: 20%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論

渡真利 紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる

・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ

NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。

各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション / NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。

第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	協力関係をつくる理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題に向けた準備1	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第13回	期末課題に向けた準備2	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。

また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。

授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（１）平常点（出席・リアクション）50点、（２）中間課題（NPO活動計画書）10点、（３）期末課題（準備の過程、レポート）40点。平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。

なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。

- ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
- ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
- ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか

（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。

（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

協同組合論

西井 賢悟

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、協同組合が人々の暮らしの中で果たしてきた役割、そして現在果たしている役割を学ぶ。特に、その役割を社会・経済的な動きと関連付けながら見ていくことにより、さまざまな企業形態の経営組織が存在する中で、協同組合の存在意義を学ぶ。また、農協や生協などの実際の取り組みから、実社会をよりよいものにしていく方策を学ぶ。

【到達目標】

- ・協同組合の経営組織としての特徴を説明できる
- ・協同組合の展開過程を社会・経済的背景を踏まえて説明できる
- ・農協と生協が地域社会に果たしている役割を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とするが、適宜質疑の時間を設けることにより、受講生が主体的に講義に関われるようにする。また、講義後のリアクションペーパーの作成を通じて、講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	協同組合とは	協同組合の多様なタイプ、協同組合と株式会社の違いなど、協同組合の概要を把握する
第2回	世界の協同組合－誕生の歴史と協同組合原則－	イギリス産業革命と協同組合の誕生、協同組合原則の制定・改定など、世界的な協同組合の原理・原則と動向を学ぶ
第3回	日本の協同組合の歴史①	二宮尊徳の思想・実践、産業組合法の制定など、戦前の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第4回	日本の協同組合の歴史②	戦時中の協同組合の再編、戦後の多様な組合の設立・発展など、戦時・戦後の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第5回	日本の農協①	総合事業の構成と内容、連合会と中央会の機能など、農協・JAグループの概要を把握する
第6回	日本の農協②	正・准組合員の相違、組合運営の仕組みなど、農協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第7回	日本の農協③	自己改革の実践、農業振興の応援団づくりなど、近年のJAにおける改革の動向を学ぶ
第8回	日本の農協④	農協の実務者をゲストスピーカーとして招き、農協が地域農業や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ

第9回	日本の生協①	生協の多様なタイプ、購買生協の事業構成と内容、供給事業の仕組みなど、生協の概要を把握する
第10回	日本の生協②	組合員組織と組合員活動の概況、組合運営の仕組みなど、生協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第11回	日本の生協③	生協の実務者をゲストスピーカーとして招き、生協が個々の家庭や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第12回	新たな協同の動向	労働者協同組合法の制定、協同組合間連携の拡大など、日本における新たな協同の動向を把握する
第13回	期末試験	小論文中心の試験を通じて、これまで学んだことの到達状況を確認する
第14回	まとめ	これまで学んだことをもとに、協同組合の進むべき途や、協同の実社会での可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
- ・毎回、復習として講義内容を考察してリアクションペーパーを作成する。
- ・毎回、事前に提供する資料や視聴資料を用いて準備学習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

参考書は指定しない

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（70%）、期末試験（30%）。リアクションペーパーは、毎回の講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察できているかを評価する。期末試験は、小論文中心の構成とし、本講義の到達目標に対する到達状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義の開始時にその回のポイント、終了時にポイントを踏まえたまとめを行う。

【その他の重要事項】

本講義では農協・生協の実務者をゲストスピーカーとして招く予定としている。農業振興、食品流通、地域づくり、環境問題への対応や、そこで働く職員などをリアルに学ぶことができるようにする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students will learn the roles that cooperatives have played in people's lives and the roles they are playing today. In particular, students will learn about the significance of the existence of cooperatives in the presence of various types of management organizations, and how to improve the real world.

【Learning Objectives】

- ・Be able to explain the characteristics of cooperatives as management organizations
- ・Be able to explain the development process of cooperatives based on the social and economic background
- ・Be able to explain the role that agricultural cooperatives and consumer cooperatives play in the local community.

【Learning activities outside of classroom】

- ・The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
- ・Every time, as a review, consider the contents of the lecture and create a reaction paper.
- ・Prepare for each lesson using materials and audio-visual materials provided in advance.

【Grading Criteria /Policy】

- ・Reaction paper (70%), final exam (30%).

- ・ Reaction papers are evaluated based on whether students are able to consider the content of each lecture while connecting it with their own knowledge and actual life.
- ・ The final exam will be composed mainly of short essays and will be evaluated on the achievement status of the goals of this course.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

居住福祉論

大原 一興

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：隔週開講。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。
国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定2級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週でおこなう。第2回目以降から第4、5時限の2時限続きでおこない、初回と最終回は第4時限のみとする。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第1回：4月7日 4時限

第2・3回：4月21日 4・5時限

第4・5回：5月12日 4・5時限

第6・7回：5月26日 4・5時限

第8・9回：6月9日 4・5時限

第10・11回：6月23日 4・5時限

第12・13回：7月7日 4・5時限

第14回：7月21日 4時限 基本的に対面授業での開講となる。それにとまなう各回の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。

課題に対するフィードバックとしては、授業中に発表をした学生に対しては講評し、他の学生に対しては提出物について適宜コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみたICFの考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境

第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスマダプターション・住宅改造	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	福祉機器の活用	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第11回	高齢者福祉施設	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第12回	障害者福祉施設等	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第13回	コハウジング 共生の住まいの理念	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第14回	コハウジング 共生の住まいの実際	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料や参考資料の予習

平日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に授業の際に学習支援システムにて資料を配付するので、必要に応じて各自ダウンロードしてほしい。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣

東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1、2、3級公式テキスト』東京商工会議所

住総研高齢期居住委員会 編『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と毎回の小レポート（リフレクションシート）（70%）、レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまうので、適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。毎回の資料は学習支援システムから各自ダウンロードしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students learn the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

Learning Objectives

The aim of this course is to help students acquire the theory and the practice for living environment and well-being.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 30%, in class contribution and short report at each class: 70%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

災害支援論

青木 信夫、正谷 絵美

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探究していく。

【到達目標】

被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
 ・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
 ・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に3次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充填させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	防災講話 ・地域防災（自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
4	ロープワーク ・結びの基本 ・水難救助と引上げ救助	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。

5	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
6	図上演習DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／AED操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
9	避難計画、避難行動	・避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
10	避難所HUG	・避難所の開設、運営を模範的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	国の支援対策	・災害が発生した時に自衛隊、海上保安庁がどのように行動するのか、その仕組みと実体験について学ぶ。
12	国の支援構造	・災害時、有事の際、国がどのように行動し、どのように支援するかその構造を学ぶ。
13	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYESまたはNOで答え、自分ならどのように対応するかを考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
 授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期定期試験50%、平常点40%、レポート10%
 演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.

—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.

—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.

[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 40%, report 10%

Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

人権活動論

寺中 誠

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。

【授業の目的・意義】

人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

【到達目標】

- ・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的な人権システムがどのように機能しているかを理解する。
- ・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
- ・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。

課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人権論基礎 I 人権における権利義務関係論	権利義務関係論で基本的人権概念を再考する。
第2回	人権論基礎 II 人権を構成する要素	社会資本（ソーシャルキャピタル）としての人権と依存
第3回	人権論基礎 III 福祉と人権	多義的な平等概念とポジティブアクション：配分の平等と結果の平等
第4回	人権基礎論 IV 権利の優先順位	絶対的自由と調整可能な権利：自由権と社会権、そして人権の不可分性・相互依存性
第5回	人権基礎論 V 権利制約の原理	調整可能な権利の具体的な調整における手順：比例原則、LRA等
第6回	依存と人権 I 依存症の構造	依存症という概念の理解とその実態
第7回	依存と人権 II ハームリダクション	依存症におけるハームリダクション政策：公衆衛生か刑罰か？
第8回	性産業と人権 I 性産業論	性産業政策の歴史と近年のハームリダクション政策
第9回	性産業と人権 II 「慰安婦」問題の構造	性産業論と植民地主義（戦争責任）の狭間で

第10回	移民問題 I 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第11回	移民問題 II 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第12回	移民問題 III 移住労働者問題が表すグローバルな変化	移民を政策的に受け入れたり、締め出したりした政策のプレについて。
第13回	企業と人権 I ビジネスと人権	国連指導原則の誕生と企業の社会的責任（CSR）の流れ
第14回	企業と人権 II 企業や非国家主体の統制のための制度	ソフトローの重要性と国内人権機関、差別禁止法制の必要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートに、授業等で知りえた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めませんが、山崎・川島・菅原「国際人権法の考え方」（法律文化社）を参照することが多いと思います。

【参考書】

申恵ボン「友だちを助けるための国際人権法入門」（影書房）、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊（朝陽会）ほか
<http://www.teramako.jp/housei.html> 上で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。
期末レポートないし試験の評価（60％）
リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価（40％）

【学生の意見等からの気づき】

「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

【Outline (in English)】

[Outline]

Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.

[Learning Objectives]

Obtaining methods to understand themes and mechanisms of human rights problems as "social problems", while getting some thoughts of organising and managing human rights movements.

[Learning activities outside of classroom]

Each students are required to spend three to four hours before and after the class meetings. They are also invited to make questions regarding contents.

[Grading Criteria]

60% are considered for ordinal attendance attitude and performances provided during the class (including response sheets). 40% are counted from term-end essays/reports.

ASS300JB（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300）

農山村とコミュニティ

図司 直也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落（むら）の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探っていく。

【到達目標】

講義を通して、まず、農村の家と集落（むら）との関係を通して、農山村地域構造の原型を理解できる。その上で、農と食の変化や、環境・開発、農村女性や高齢者などの担い手、都市と農山村との関係性、「小さな自治」の試みなど多様な切り口から、農山村地域が直面する問題の背景と、そこで展開する新たな取り組みを知る。授業で学んだ内容を、食をはじめとする日常生活との繋がりから意識したり、ゼミ活動や実習等の農山村地域における現場での実践に活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパー等のフィードバックは、授業内で行い全体で共有するとともに、質問にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進捗やゲスト講師によって変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	村落空間とむらの構造	農山村の地域構造の原型とその変化を学ぶ。
第2回	むらの変化一過疎化	農山村の地域構造変化である過疎化を学ぶ。
第3回	むらの変化一都市化・混住化	農山村の地域構造変化である都市化・混住化を学ぶ。
第4回	変わりつつある農村の家・家族・世帯	農山村の家族・世帯の変化を学ぶ。
第5回	農村自治とむらづくり	農山村の自治の仕組みを学ぶ。
第6回	「農」の変化と地域	「農業」から農山村地域での取り組みを捉える。
第7回	「食」の変化と地域	「食」から農山村地域での取り組みを捉える。
第8回	農の担い手ー農村女性や高齢者	農村女性や高齢者など多様な主体による農の取り組み
第9回	開発と環境ー景観形成・コモンズ	景観形成・コモンズに関する取り組み
第10回	消費される農村と地域づくり	グリーンツーリズムの展開と課題
第11回	都市農村交流から協働へ	外部人材の役割と活用
第12回	新しいコミュニティづくりの試みー地域運営組織	地域運営組織の役割と立ち上げプロセス
第13回	新しいコミュニティづくりの試みー「小さな経済」	「小さな経済」を生み出す実践
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後には、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%，期末レポート60%

【学生の意見等からの気づき】

VTRなども交えて農山村の地域社会の様子が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】In this lecture, we will understand the prototype of the regional structure of agricultural and mountain villages, think about regional issues, and explore the development of regional development.

【Learning Objectives】You can be aware of what you have learned in class from the connection with daily life such as food, and you can apply it to practice in the field in agricultural and mountain village areas.

【Learning activities outside of classroom】Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is advisable to take an interest in various issues in the area on a daily basis and review the lesson content after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

CMF300JB (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300)

コミュニティアート

吉野 裕之

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	NPO・市民主体のまちづくりの意義	NPO・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	NPO・市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域のまちづくりの歴史）の紹介と解説。
第4回	NPO・市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	NPO・市民主体のまちづくりの事例（3）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第6回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とNPO・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第7回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。

第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷、コミュニティアートの要件と機能	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明、コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（5）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）：30点 期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- Analysis and evaluation of cases about community art
- Planning of community art

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Reviewing the class meeting
- Reading literature related to the class meeting
- Participating in events related to community design and art

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%、Term-end report : 70%

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域遺産マネジメント論

須田 英一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめNPOなどが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。近年の文化政策の展開も視野に入れながら、文化財の保存と活用についての知識と、実務に展開可能な適応力を身に着ける講義を展開します。

【到達目標】

さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第2回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第3回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第4回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第5回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第6回	地域遺産保護と専門家(1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第7回	地域遺産保護と専門家(2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割、さまざまな地域遺産
第8回	世界遺産条約	世界遺産の成り立ちとしくみ
第9回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第10回	地域遺産の再生と活用(1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第11回	地域遺産の再生と活用(2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第12回	地域遺産の再生と活用(3)	地域遺産としての名勝・天然記念物・食文化

第13回	地域遺産の再生と活用(4)	地域遺産としての伝統的建造物群
第14回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きつとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に選定しません。資料を毎授業時に配布します。

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

- ・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：期末に課題レポート提出。
- ・評価方法：平常点（リアクションペーパー）40%、課題レポート60%により総合的に評価します。課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
- ②評価基準
- ・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
- ・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area. The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks. Students will try to find a community heritage that is related to our lives in their area. Students should also visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term-end report (70%) ,and in-class contribution (30%) .

TR3300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム

野田 岳仁

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6165」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

住民参加の手法

杉崎 和久

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりの現場では、住民等の地域の多様な主体が地域の資源や課題、各主体の思いやニーズなどを共有し、それらを踏まえて効果的な活動を検討し、それを実施するプロセスが重要である。この講義では、これらのプロセスを実施する際に必要となる対話手法（住民参加手法）の特徴を理解し、運用できる能力を獲得する。

【到達目標】

住民参加が求められる社会背景を理解し、地域の多様な主体がプロジェクトの中で適切に住民参加手法の選択・開発、そして運用ができる能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

住民参加の役割・効果、具体的な活用事例、基本的な考え方等の基本事項については、講義形式で理解を深める。さらに、代表的な住民参加手法については、効果等の特徴を把握するために講義の中で体験する。また、地域の多様な主体による対話の重要となる社会的背景等の理解をするために基本文献を講読し、概要等を報告するレポート課題を出題する。授業は、原則として対面で行う。対面の講義の中でオンラインツールを活用した手法を体験する。なお、レポートについては、その内容を用いたグループワークを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、目標等を説明する（オンラインでの実施）。
第2回	住民参加の事例紹介 1	事例を通じて、住民参加全体をデザインする考え方を紹介する。
第3回	住民参加の事例紹介 2	事例を通じて、地域住民等が対話をするワークショップのねらい・手法等について紹介する。
第4回	住民参加の事例紹介 3	事例を通じて、ステークホルダーの特徴に合わせた意向収集の手法等について紹介する。
第5回	意見表出を促す手法	参加者からの意見表出を促す手法を体験する。
第6回	意見整理のための手法	参加者から出た意見を整理するための手法を体験する。
第7回	意見を誘発するフレームワーク	参加者からの意見を誘発するフレームワークを用いた対話を体験する。
第8回	コロナ禍におけるオンラインを用いた対話手法	オンラインツールを用いた対話の体験する。
第9回	対話の空間（場）づくり	創造的な対話を促す空間のあり方を学ぶ。
第10回	対話を可視化させる手法	議論経過を共有するための手法（ファシリテーショングラフィック等）を体験する。
第11回	多様な参加者の知恵を共有する手法（レポート発表）	レポート内容（関係する文献の内容・感想）を受講者間で共有する体験をする。
第12回	現場の情報を共有する手法	即地的な地域情報を共有する手法（まちあるき）を定見する。
第13回	ファシリテーターの役割と聴く姿勢	創造的な会議を生み出す役割（ファシリテーター）と技術、聴く姿勢について体験を通じて学ぶ。
第14回	総括	授業全体を振り返り、住民参加を実施する上でのポイントを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業では適宜レジュメを配布する

【参考書】

中野民夫「ワークショップ」（岩波新書）
世田谷トラストまちづくり「参加のデザイン道具箱」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業への貢献（70%）、中間レポート（30%）
・授業への貢献は、講義ごとにワークへの参加状況やリアクションペーパーの内容などを踏まえて行う。
・レポートは住民参加の手法に関する文献を読み、その概要を整理し、自分の意見をまとめて提出する。なお、レポート内容を用いて行う授業回がある。

【学生の意見等からの気づき】

地域づくりの現場での参加手法を体験するだけでなく、その背景となる理論や経緯等についても適切に解説していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、原則として対面で行う。しかし、オンラインツールを用いたグループワークを行うこともある。その際には、タブレットあるいはパソコンが用いる。

【その他の重要事項】

・受講者の人数等により、授業内容、方法等を変更する場合がある。
・講義では対話手法の体験を重視している。そのため、事例紹介等をのぞけば、グループワークを多用行う。
・担当教員は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、市民参加の手法に関する実習をする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the citizen participation method.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the characteristics of the citizen participation method and to acquire the ability to operate.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on mid-term report (30%), and in-class contribution (70%)

In-class contribution is evaluated by attendance at the lesson and the contents of the reaction paper of each lesson.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ボランティアアクション（2020年度以前入学者）

高井 大輔

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボランティアアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランティアアクションについての全体的な講義を行うとともに、さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで、ボランティアアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】

1. ボランティア及びNPOの意味、役割、これまでの歴史について理解する
2. ボランティアアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3. 現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はボランティアアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第2回	ボランティアの概念 -ボランティアアクションとは何か-	ボランティアという言葉の概念、ボランティアアクションの意味と意義を理解する
第3回	NPO・ボランティアの歴史	NPO・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第4回	SDGsの意味と意義 -SDGsとは何か-	SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の内容と意義を理解する
第5回	現代社会におけるボランティアアクションの概要	現代社会におけるボランティアアクションの種類からその特徴を理解する
第6回	事例から学ぶ① -福祉サービスとボランティアアクション-	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランティアアクションの意義を考える

第7回	事例から学ぶ② -営利事業とボランティアアクション-	営利事業と結びつけて実践されているボランティアアクションの事例を取り上げ、その意義を考える
第8回	NPO法人制度の内容とその歴史	NPO法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第9回	事例から学ぶ③ -個人的な活動から組織化へ-	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第10回	事例から学ぶ④ -NPO法人の組織運営-	実際のNPO法人を事例として、NPO法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第11回	企業や行政とボランティアアクション	企業における社会貢献活動・CSRや行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第12回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランティアアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第13回	事例から学ぶ⑤ -多様な市民・組織の協働によるボランティアアクション-	多様な市民や組織が連携して実践されているボランティアアクションの事例から、“協働”の可能性を考える
第14回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにする必要がありますため、授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート（50％）
- ・平常点（授業の出席、授業内課題の提出など）（50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Voluntary action" is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of "Voluntary action" by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.

【Learning Objectives】

1. Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2. Learn the significance of "Voluntary action" from both an academic and practical standpoint.
3. Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student's own experiences.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (50%)
- ・ Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ボランティアアクション（2021年度以降入学者）

高井 大輔

配当年次／単位数：福コミ：2～4・臨心：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボランティアアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランティアアクションについての全体的な講義を行うとともに、さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで、ボランティアアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】

1. ボランティア及びNPOの意味、役割、これまでの歴史について理解する
2. ボランティアアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3. 現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はボランティアアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第2回	ボランティアの概念-ボランティアアクションとは何か-	ボランティアという言葉の概念、ボランティアアクションの意味と意義を理解する
第3回	NPO・ボランティアの歴史	NPO・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第4回	SDGsの意味と意義-SDGsとは何か-	SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の内容と意義を理解する
第5回	現代社会におけるボランティアアクションの概要	現代社会におけるボランティアアクションの種類からその特徴を理解する
第6回	事例から学ぶ①-福祉サービスとボランティアアクション-	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランティアアクションの意義を考える

第7回	事例から学ぶ②-営利事業とボランティアアクション-	営利事業と結びつけて実践されているボランティアアクションの事例を取り上げ、その意義を考える
第8回	NPO法人制度の内容とその歴史	NPO法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第9回	事例から学ぶ③-個人的な活動から組織化へ-	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第10回	事例から学ぶ④-NPO法人の組織運営-	実際のNPO法人を事例として、NPO法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第11回	企業や行政とボランティアアクション	企業における社会貢献活動・CSRや行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第12回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランティアアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第13回	事例から学ぶ⑤-多様な市民・組織の協働によるボランティアアクション-	多様な市民や組織が連携して実践されているボランティアアクションの事例から、“協働”の可能性を考える
第14回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにする必要がありますため、授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート（50％）
- ・平常点（授業の出席、授業内課題の提出など）（50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Voluntary action" is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of "Voluntary action" by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.

【Learning Objectives】

1. Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2. Learn the significance of "Voluntary action" from both an academic and practical standpoint.
3. Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student's own experiences.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (50%)
- ・ Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

Disability and Development in Asia

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aligned with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD) and the Sustainable Development Goals (SDGs), this course provides a comprehensive overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

【到達目標】

By the end of this course, students will have gained fundamental knowledge and skills concerning disability and development in Asia, drawing on perspectives from local contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely online via live Zoom sessions. All announcements, course materials, assignments, and feedback will be managed through the Learning Management System (Web Class). Furthermore, guest speakers will be featured occasionally to facilitate dynamic and practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review the materials distributed in each lecture. The standard time required for preparation and review in this course is approximately 2 hours each per session.

【テキスト（教科書）】

Provided as needed based on the content.

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities
<https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>
 States Parties Reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities
<https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:40%, Reaction paper through Web Class:60%

【学生の意見等からの気づき】

To the greatest extent possible, student suggestions regarding lecture content and planning will be incorporated.

【学生が準備すべき機器他】

Hardware and software for online class (PC, Zoom, etc)

【その他の重要事項】

The above plan is subject to minor changes. The lectures will incorporate insights from the professor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities.

【担当教員の専門分野 / Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia and other Asia)

【Outline (in English)】

Aligned with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD) and the Sustainable Development Goals (SDGs), this course provides a comprehensive overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

老いの文化と福祉

金 慧英

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、老いについて社会・経済・歴史・地域・文化・福祉などの多角的な理解を深める。また、老いをめぐる様々な課題に取り組み、考察することで自分の「老年観」を客観的に見つめ、明確にしていく。

【到達目標】

- 1) 老いについて多角的に理解し、説明できる
- 2) 老いに関連する課題に取り組み、ウェルビーイングな老いについて考察できる
- 3) 自分の「老年観」を明確にすることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

先行研究から老年観をめぐる諸理論を学んだ後、高齢者の生活実態と高齢者が直面している問題について理解する。また、高齢期のウェルビーイングを実現するために必要な社会的・文化的役割を考えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義ねらい、スケジュール、「老い」を学ぶ意味
第2回	老年観をめぐる諸理論①	老年観に関するパラダイムシフト
第3回	老年観をめぐる諸理論②	高齢者の幸福感と社会・文化的役割を理解
第4回	高齢期の生きがい①	高齢期の生きがいとその規定因を把握
第5回	高齢期の生きがい②	社会参加とコミュニティの役割を理解
第6回	高齢者の貧困問題と経済的自立	就労の実際と所得保障の仕組み
第7回	介護実態と介護者	介護離職、老老介護、ヤングケアラーなどの諸問題と介護者
第8回	マイノリティ高齢者と共生社会	LGBTQ＋、外国人高齢者の理解と現行の課題を考察
第9回	限界集落の高齢者支援	過疎化地域に生きる高齢者の生活実態を把握
第10回	高齢者と犯罪	高齢者のアイデンティ危機や孤立化問題と犯罪との関連
第11回	地域のフォーマルケアとインフォーマルケア	コミュニティケア、新しいサービスの創造
第12回	諸外国の高齢者ケア	欧米、アジアの高齢者ケアシステム
第13回	幸福な老いを考える	幸福な老いについて考え、ワークシートを作成
第14回	まとめ	講義の総括、今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

老いを身近に認識することは、本講義での学びを深めるために重要である。そのため、事前準備として、普段より社会的、文化的老いに関連する専門書や文献を読んでおく。また、復習として講義中に配布されたレジュメや資料を整理し、まとめる。本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

アードマン・B・パルモア（2002）『エイジズム 高齢者差別の実相と克服の展望』（鈴木研一訳）明石書店 など、適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

試験(70%)、授業内小レポート課題の内容(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の振り返りシートで受講生の意見を聞き、随時、講義に反映していく予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will deepen their understanding of aging from diverse perspectives including social, economic, historical, regional, cultural, and welfare. In addition, by addressing and considering various issues related to aging, students will be able to clarify their “views about aging” in order to live the subjective age.

【Learning Objectives】

- 1) Can understand and explain aging from diverse perspectives.
- 2) Can address issues related to aging and think about wellbeing and aging.
- 3) Can clarify one's own view of aging.

【Learning activities outside of classroom】

It is crucial to thoroughly perceive aging for deepening the learning in this course. Therefore, students are encouraged to read specialized books and literature related to social and cultural aging as part of their advance preparations more than usual. Furthermore, as part of the review, students organize and summarize the resumes and documents distributed during the lectures. The standard preparation and review time for this class is four hours for each session.

【Grading Criteria /Policy】

The final exam (70%) and in-class small report (30%) will be the basis of evaluation.

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

セルフヘルプグループ

横川 剛毅

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】

次の2点を目標とします。

- ①さまざまな困難や生きづらさを理解することによって、支え合いについての考えを他者に伝えることができる。
- ②SHGの役割と意義を言語化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進度などを考慮し、下記の授業計画を若干変更することがあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の全体像を把握する。 またSHGの定義を学ぶ
第2回	知的障がいのある人の地域生活	障がいを隠さない生き方について学ぶ
第3回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第4回	摂食障がいのSHG	摂食障がいのSHGについて学ぶ
第5回	パニック障がいの理解とSHG	パニック障がいのある当事者の手記から学ぶ
第6回	精神障がいの理解	精神障がいを理解しSHGについて学ぶ
第7回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どものSHGから、実践を学ぶ
第8回	依存症とは ゲーム依存を中心に	多様な依存症を知り、特にゲーム依存について学ぶ
第9回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第10回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第11回	アルコール依存症者のSHG	アルコール依存症者のSHGについて学ぶ
第12回	学びの振り返りと、発表テーマ設定、及び発表準備	発表テーマを設定し、プレゼンテーション資料を作成する

- 第13回 学びの成果の共有① 一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする
- 第14回 学びの成果の共有② 一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ内でのシェアや、全体への発表・レポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のあるSHGについて調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】

「セルフヘルプ・グループ 一当事者へのまなざし」（久保紘章 著）相川書房 2004他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参画度合いなどの平常点（20％）、リアクション（30％）、発表・レポート課題（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じた学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4サイズ・20シート以上）を準備しておく。

【Outline (in English)】

【Course outline】

When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living. People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG).It's the purpose of this classroom to understand the significance of SHG.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to about following two.

- ① By understanding various difficulty and difficulty in living, it's possible to tell ideas about mutual support.
- ② Can be put into words about The role and the significance of SHG.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

The posture overlooked in this class meeting:20%、Reaction paper:30%、Report:50 %

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

多文化ソーシャルワーク

伊藤 正子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「多文化」社会とは何か、その実態と発生しうる社会問題について、労働、教育、居住問題等を題材とした仮想会議を通して受講者とともに考える。次に、日本において実際に発生している諸問題を取り上げ、外国にルーツを持つ人々の生活問題とその福祉援助について、多文化ソーシャルワーク理論に基づきながら考える。

【到達目標】

グローバル化の視点から、現代社会の特質と人種・民族、文化の差異が関わって発生する偏見・差別と生活問題について理解する。

多文化ソーシャルワークの視点、思想・価値、原則・方法について理解する。

多文化ソーシャルワークの実際について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、仮想現実の中で問題解決のあり方を探る集団討議を行い、多文化理解や多文化社会実現の方法と課題について検討する。次に、現実に存在する人種・民族差別についてその具体例、人々に及ぼす影響をアメリカ、日本の場合を中心に検討する。その上で、多文化ソーシャルワークについて、その起源・発展、理論的基盤、思想・価値、原則・方法について説明し、実際の展開例の演習を行う。対面式・アクティブラーニング授業のため、毎回の出席および授業への積極的な参加・発言を重視する。各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標、評価方法の確認、文化固有の習慣・価値とコミュニケーション・ギャップの理解
第2回	多文化社会における諸問題①	異文化間コミュニケーションの相違と相互理解 エスニシティとインターセクショナルリティ
第3回	多文化社会における諸問題②	勤労に対する価値観の相違と社会問題
第4回	多文化社会における諸問題③	言語・教育における価値観の相違と社会問題
第5回	多文化社会における諸問題④	居住の集住化と分離と社会保障問題
第6回	多文化社会における諸問題⑤	共有財産と共生の条件
第7回	制度的人種差別①	前半の振り返りとアメリカにおける人種差別
第8回	制度的人種差別②	日本における外国人差別・排斥
第9回	多文化ソーシャルワーク理論	歴史の変遷、理論とその特徴
第10回	多文化ソーシャルワークの実際①	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるアプローチ

第11回	多文化ソーシャルワークの実際②	やさしい日本語①書きことば
第12回	多文化ソーシャルワークの実際③	やさしい日本語②話しことば
第13回	多文化ソーシャルワークの実際④	やさしい日本語③演習
第14回	試験・まとめと解説	学習した内容の発表と相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料の他、新聞、テレビ、地域活動などからも関連した問題・動向に関心をもち、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への能動的参加・発言（60％）

最終試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】

集団討議を積み重ねていくことでディスカッションに慣れていき、講義より積極的に参加できるとの意見に基づき、主体的な検討、討議ができる主題をさらに工夫していきたい。

【その他の重要事項】

外国人支援NGOでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、多文化社会において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces what a “multicultural” society is and what kinds of social issues exist within it. We will explore its realities and potential social issues through a simulated conference focusing on topics such as labor, education, and housing, engaging participants in discussion. Next, we will examine actual problems occurring in Japan, considering the living conditions of people with foreign roots and their social support, grounded in multicultural social work theory.

【Learning Objectives】 At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Ethnic Sensitive Social Work, discuss the role of social worker and apply in the treatment of difference, oppression and social justice.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class attendance and attitude in class: 60%、Term-end examination: 40%

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

死生観とソーシャルワーク

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活では意識しにくい「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観・支援観の形成を目指すものである。授業内では、「死」に関する概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】

受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第2回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第3回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第4回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第5回	グリーフ・ケア、ビリーブメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第6回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第7回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第8回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第9回	ソーシャルワーカーとして何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第10回	ソーシャルワーカーとして何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第11回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第12回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第13回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第14回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
山本力（2025）『悲しみといのちの時熟』誠信書房
明智龍男ほか編（2025）『死別と悲嘆の精神医学』南山堂
本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】

適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

小レポート及びリアクションペーパーの内容30%、ディスカッション・ディベートへの参加度20%、学期末レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

【Learning Objectives】The goal is to understand the view of life and death as a profession.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (50%), and in-class contribution(20%).

PSY300JB,PSY300JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 300)

家族心理学

松本 聡子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族とは」「家族はどのように変化するのか」「家族をとりまく問題とは」といった問いに対して、基礎的な事項をふまえたうえで、心理学的な視点からアプローチしていくことが本講義の主なテーマです。

【到達目標】

- ・家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識を獲得すること。
- ・上記の知識や視点をふまえ、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、家族について概説をおこない、そのうえで人間の発達を軸とした家族の変化のようすとその関連要因について考察していきます。講義の後半では、家族をとりまく諸問題として少子高齢化、環境、労働などを取り上げ、現代社会における家族のあり方について検討します。講義中に多くのデータを紹介しますので、配布資料には必ず目を通すようにしてください。また、リアクションペーパーを提出していただく場合もあります。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、講義中に適宜おこなう予定です。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概要説明
第2回	家族とはなにか	家族に関する定義など、基礎的な事項の説明
第3回	家族の発達	家族の変化・発達の概観
第4回	結婚と夫婦関係	結婚し夫婦になることについて心理学的な視点からの検討
第5回	子どもの発達	発達に関する基礎的な事項の説明
第6回	親になること	親への移行の様相とその関連要因
第7回	親と子の関係：児童期まで	児童期までの親子の相互の関係性と変化
第8回	親と子の関係：思春期・青年期以降	思春期・青年期以降の親子の相互の関係性と変化
第9回	家族をめぐる諸問題：少子高齢化	少子高齢化問題の家族心理学的な視点からの検討
第10回	家族をめぐる諸問題：家族をとりまく環境	住環境や近隣環境など、家族をとりまく環境の視点から、家族関係を検討
第11回	家族をめぐる諸問題：働くことと家族	就労と家族の問題に関する考察
第12回	日本の家族	日本の家族が置かれている状況について国際比較も交えて検討
第13回	家族に関する研究の課題と展望	家族に関する学術的な研究の紹介と課題の検討

第14回 まとめ

まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際に配布するプリントなどを見ながら、前回の内容を復習したうえで、講義に参加してください。講義では現代社会における家族に関する問題も扱っていきますので、日ごろから新聞や雑誌記事などを意識して見るようにしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に適宜プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーや課題など 20%

学期末試験 80%

家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識が獲得・理解できているか、基礎知識をふまえたうえでの、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析による考察内容、などの観点から、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義内容・進度は受講生の人数や状況に応じて調整していきたいと考えています。
- ・学習支援システムの本講義での使用方法について、初回に受講生と共有・確認をしたいと考えています。

【その他の重要事項】

- ・講義中に様々なデータをスライドやビデオなどで提示しますので、講義に出席・参加することは講義内容を理解するために重要です。
- ・上記の授業計画や内容は、授業の進行や状況により変更があり得ますので、学習支援システム上や講義内での連絡に常に気を付けるようにしてください。
- ・講義に関する連絡事項を学習支援システム上でおこなうこともありますので、必ず確認してください。
- ・期限内の課題の提出が難しい場合には、連絡をするようにしてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course will be to acquire basic understanding of "family" from psychological perspective. By taking this course, students should be able to apply the basic knowledge and psychological perspectives to understand various family issues. Before/After each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand and review the course content. Grading will be decided based on brief writing assignments (20%) and final exam (80%).

PSY300JB, PSY200JC (心理学 / Psychology 300, 心理学 / Psychology 200)

コミュニティ心理学

丹羽 郁夫

配当年次／単位数：福コミ：2～4・臨心：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点をもちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると思います。

【到達目標】

コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第2回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第3回	臨床心理の基本的視点①：発達の視点	臨床心理の基本的な視点としてM. マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第4回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第5回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第6回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第7回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第8回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究、自然災害によるPTSDを講義。
第9回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。

第10回	危機理論と危機介入	危機理論と危機介入の実例を事例を用いて講義。
第11回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第12回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第13回	コミュニティー・アプローチの実践	ひきこもりへの支援について講義。
第14回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の講義で次の講義内容が説明されるので、参考書などで事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べるのが求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】

授業では使用しませんが、参考書には次のものがあります（必ずしも購入する必要はありません）。『よくわかるコミュニティ心理学（改訂第3版）』（植村勝彦・高島克子・箕川雅博・久田満編 ミネルヴァ書房 2017年 2,500円+税）。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験で評価しますが、その得点が60点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

現状を維持します。

【その他の重要事項】

講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline (in English)】

Course outline

Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-Students can explain a viewpoint and various intervention methods of the community psychology.

-Students become able to plan a proof study based on community psychology.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Final grade will be decided based on the Term-end examination (100%).

PSY300JB,PSY300JC (心理学 / Psychology 300, 心理学 / Psychology 300)

異文化心理学

奥山 今日子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとを経験していますが、そのような経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。

私たちが持って生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。

私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものの異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。

授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じて、異質なものの異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自分自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で行います。講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

受講者の反応に従って、視聴するDVD素材の内容・順序を変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第2回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第3回	アサーション・トレーニング (2)	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第4回	映画視聴 (1) とディスカッション	家族関係について
第5回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第6回	映画視聴 (2) とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か

第7回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ
第8回	映画視聴 (3) とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第9回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第10回	映画視聴 (4) とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第11回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第12回	映画視聴 (5) とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第13回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第14回	映画視聴 (6)	ある人生を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを思い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・授業への能動的参加）40％
期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline (in English)】

The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.

It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.

I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien / different culture / others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.

The students will be exposed to the alien / different culture / others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.

【Goal】

Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.

【Methods】

In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien / different culture / others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.

I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.

【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.

【Grading criteria 】

Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%

Year-end Report 60%

PSY300JB, PSY300JC (心理学 / Psychology 300, 心理学 / Psychology 300)

教育心理学特講

金山 裕介

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：教職・スクールソーシャルワーク課程科目でないため注意。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、教育心理学の基礎的な知見を習得するとともに、臨床心理学的視点から学校現場における様々な課題への理解を深めることを目的とする。子どもの発達や学習に関する心理学的知見に加え、現代の子どもが抱える困難の理解と対応についても学ぶ。

【到達目標】

教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実践について学ぶことで、教育に対する様々な考え方、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリフレクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育心理学を知る	オリエンテーション。教育心理学とはどのような研究分野かについて概観する。
2	知識を広げる記憶のメカニズム	記憶のモデルと記憶方略を理解し、教科の学習内容を効率的に記憶する方法を学ぶ。
3	経験から学ぶということ	学習理論を理解し、人の行動がどのように身につくのか、および問題行動への対応を学ぶ。
4	子どもの意欲を育む	動機づけの理論を理解し、子どもの学習意欲を引き出す方法を学ぶ。
5	子どもの育ちの過程	幼児期、児童期、青年期における発達の特徴と、それぞれの段階で子どもたちが直面する課題を学ぶ。
6	パーソナリティの形成	パーソナリティの概念、その形成過程、そして心理学的に測定する方法を学ぶ。
7	頭がいいとはどういうことか	知能の概念、その発達メカニズム、そして知能検査とその結果を教育現場でどのように活用できるかを学ぶ。
8	子どもの「わからない」を理解する	認知科学の知見を基に、算数や読解における「わからない」のメカニズムを理解し、学習上のつまずきを捉える視点を学ぶ。

9	困難を抱える子どもたち①	知的障害や発達障害の理解と対応を学ぶ。
10	困難を抱える子どもたち②	いじめや非行の理解と対応を学ぶ。
11	困難を抱える子どもたち③	家族の問題や虐待の理解と対応を学ぶ。
12	困難を抱える子どもたち④	不登校や自死の理解と対応を学ぶ。
13	学級づくり	学級集団の特徴や対人関係、リーダーシップ、教師のメンタルヘルスを学ぶ。
14	社会における学校	学校内外での連携について学び、社会における学校の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。事前学習としては、子どもや学校に関心を持ち、関連する新聞記事などを読むこと。また、必要に応じて「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」などの関連書籍を参考に学習すること。本授業においては、各回のテーマに沿った参考資料を紹介する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著
「ベーシック現代心理学6 教育心理学」有斐閣 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 著

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（60％）

授業参加およびリフレクションペーパー（40％）

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生から、「授業を通じて知的好奇心が刺激され、新たな知識やスキルの習得につながった」との回答を得ることができました。今後も、教育現場に即した実践的な知識を積極的に共有していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

Educational Psychology

Course outline:

This course introduces students to the fundamental principles of educational psychology.

Learning Objectives:

The goal of this course is to provide students with a foundational understanding of educational psychology and to explore various challenges in educational settings from a psychological perspective.

Learning activities outside of classroom:

・Lecture/Exercise (two-credits)

Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policies:

The final grade will be determined as follows:

・End-of-semester report: 60%

・Reflection papers and in-class contributions: 40%

PSY200JC（心理学 / Psychology 200）

心理療法

久保田 幹子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法の基本的な概念、歴史、対象、具体的な方法について概説する。

【到達目標】

心理療法の基本的な概念を理解し、心理療法の対象、心理療法家としての姿勢を学ぶ。またいくつかの心理療法について、具体的な方法とその効果について理解し、心理的援助の実際について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

心理的援助を必要とする対象とそれらが抱える問題、それを解決するための心理療法の方法、心理療法家の姿勢について具体的に理解できるよう、講義を中心に視聴覚資料なども取り入れつつ進めていきます。

理解を深めるために、リアクションペーパーも活用しますが、授業で提出されたリアクションペーパーについては、いくつか質問や意見を取り上げ、次の授業内で全体に対してフィードバックを行っていきます。また課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。

なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理療法とは何か	講義の概要と成績評価の基準について説明し、心理療法とは何かについて概説する
第2回	心理療法の歴史	心理療法の発展の歴史について概説する
第3回	心理療法の対象と領域	心理療法が、どのような領域で、どのような対象に対しておこなわれるのかを概説する。
第4回	心理療法家の姿勢と役割（1）	心理療法を行う上で、セラピストに必要な資質、姿勢について概説する。
第5回	心理療法家の姿勢と役割（2）	心理療法において、セラピストがクライアントとどのように関わるか、またセラピストの役割について概説する。
第6回	心理療法を始めるにあたって	心理療法を始めるにあたって、セラピストがどのような作業を行うかを概説する。
第7回	心理療法（1） 来談者中心療法、支持的 精神療法	主な心理療法の中で、来談者中心療法、支持的 精神療法の理論と方法について概説する。
第8回	心理療法（2） 精神分析的 精神療法、ブリーフセラピー など	主な心理療法の中で、精神分析的 精神療法、ブリーフセラピーなどの理論と方法について概説する。

第9回	心理療法（3） 認知行動療法、対人 関係療法など	主な心理療法の中で、認知行動療法、対人関係療法などの理論と方法について概説する。
第10回	心理療法（4） 日本で生まれた心理 療法：森田療法、内 観療法	日本で生まれた心理療法である森田療法と内観療法の理論と方法について概説する。
第11回	心理療法（5） 遊戯療法、箱庭療法 など	主な心理療法の中で、言語を介さない遊戯療法、箱庭療法などの理論と方法について概説する。
第12回	心理療法の実際（1）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：対人緊張
第13回	心理療法の実際（2）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：摂食障害
第14回	学期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書で授業内容に該当する箇所をあらかじめ理解しておくことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は各回計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介する。

【参考書】

「臨床心理学への招待」野島和彦編著、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点および学期末試験によって評価する。

平常点およびリアクションペーパー：30%

学期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

心理療法を行う上でのセラピストの関わり方、セラピーにおけるクライアントの体験などを、具体的にイメージしやすいように進めていきたいと思います。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、心理療法家としての心得、関わり方について、事例経験・事例紹介を盛り込みつつ講義を行っていきます。

【Outline (in English)】

This course will provide an overview of the psychotherapy including the basic concept, history, objects, and specific methods. The objectives of this course is to enable students to understand the basics of psychotherapy and to explain the psychotherapeutic practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

PSY300JC（心理学 / Psychology 300）

臨床心理学特講

末武 康弘

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義レジュメをもとに、パワーポイントを活用しながら講義、原著の読解、関連する問題や英文和訳などの課題、ディスカッション等によって授業を進めていきます。関連する映像資料の視聴も行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第2回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第3回	主要な概念と理論 (1)：無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第4回	主要な概念と理論 (2)：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第5回	主要な概念と理論 (3)：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第6回	主要な概念と理論 (4)：実存、現象学、超越	ビンズワングラーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第7回	主要な概念と理論 (5)：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第8回	主要な概念と理論 (6)：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第9回	主要な概念と理論 (7)：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルピヤベックの著作等から考察します。

第10回	主要な概念と理論 (8)：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ブリーフセラピーの概念と理論を考察します。
第11回	主要な概念と理論 (9)：芸術、ドラマ、プレイ	芸術療法、サイコドラマ、プレイセラピーの理論を考察します。
第12回	主要な概念と理論 (10)：自然、内観、真空	日本的エスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第13回	主要な概念と理論 (11)：折衷、統合、多面的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第14回	新しい概念と理論、授業のまとめ	最近注目されている新しい概念や理論を取り上げて考察します。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の資料は、事前に「授業支援システム」上に掲載するので、それを読んで授業に参加することが求められます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（2000字前後）（60％）と平常点（毎回の発展課題ほか：40％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】

In this lesson, through reading the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, especially counseling and psychotherapy, you learn major theories and methods of clinical psychology.

At the end of the course, students are expected to understand major theories and methods of clinical psychology, especially counseling psychotherapy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials uploaded on Hoppii. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%, Assignments after each class meeting: 40%.

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

精神分析学

森 一也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。精神分析学そして力動の心理学における仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示している。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性の発達、対象関係論や親子関係ならびに治療関係論、現代的展開としてのメンタライゼーションをテーマにして、心のあり方を理解する。

【到達目標】

精神分析学の理論と実際を知る。それらが意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

PCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。毎回の授業での質疑応答やディスカッションを行うほか、リアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、精神分析学の誕生①	本授業の説明と諸注意について、メスメルの磁気術、催眠術
第2回	精神分析学の誕生②	ブロイエルと症例アンナO、ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ
第3回	無意識、フロイトの夢判断	心の局所論モデル、夢分析、心の構造論モデル、防衛機制
第4回	精神性の発達論	口唇期、肛門期、幼児性器期、エディプス・コンプレックス、潜伏期、性器期、退行と固着、性器統裁、対象選択
第5回	フロイトの症例／ドラ	転移と抵抗への気づき
第6回	フロイトの症例／鼠男	エディプス・コンプレックスと神経症
第7回	フロイト以後の展開	対象関係論、現代精神分析の展開
第8回	精神分析療法と精神分析の心理療法の実際	精神分析療法、治療構造、基本規則、精神分析の心理療法、心理療法の進め方。アセスメントと治療契約、適応
第9回	契約	治療契約について
第10回	退行	治療的退行について
第11回	抵抗	抵抗の形式、抵抗解釈について
第12回	転移、逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈について
第13回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化
第14回	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情や思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回時に説明する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)、平常点(リアクション・ペーパーを含む)(40%)にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神分析の心理療法を志向し、実践する臨床心理士・公認心理師が精神分析学について講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the Freud's psychoanalytic theory, which is a system of scientific hypotheses. Psychodynamic theory is a notion which demonstrates the unconscious state of mind of human being. The aim of this lecture is to understand the state of the mind, through learning about discovery of unconsciousness, structural point of view, psychosexual development, parent-child relationship, and therapeutic relationship.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand the psychoanalytic theory in the level of everyday life.

【Learning activities outside the classroom】

Attending this course, try to observe your emotion and thought in everyday life. It may leads to understanding yourself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Grading will be decided based on term-end examination (70%), in-classroom contribution (including reaction paper)(30%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

児童精神医学

関谷 秀子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童精神医学は1950年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、国際的診断分類学の臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】

児童精神医学の歴史を理解する。
 児童・思春期の心の発達について理解する。
 代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。
 児童思春期に対する治療のアプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主にPCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジュメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 児童精神医学の歴史①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19世紀の子ども観について。
第2回	児童精神医学の歴史②	子どもガイダンス運動の展開について。
第3回	児童精神医学の歴史③	児童精神医学の誕生について。
第4回	子どもの精神発達①	乳幼児期・幼児期の発達について。マラーの発達理論。
第5回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第6回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第7回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第8回	不登校①	小学生の不登校
第9回	不登校②	思春期の不登校
第10回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第11回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第12回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第13回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第14回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%),平常点(40%)にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

【Outline (in English)】

The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

認知行動療法

金築 優

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの3つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけではなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第2回	行動に焦点を当てたアプローチ（1）	学習（行動）理論（特に、レスポナント学習）と行動療法の関連を考えます。
第3回	行動に焦点を当てたアプローチ（2）	学習（行動）理論（特に、オペラント学習）と行動療法の関連を考えます。
第4回	行動に焦点を当てたアプローチ（3）	行動療法の技法群を紹介します。
第5回	行動に焦点を当てたアプローチ（4）	行動療法の適用例を紹介します。
第6回	感情に焦点を当てたアプローチ（1）	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第7回	感情に焦点を当てたアプローチ（2）	エクスポージャー法を紹介します。
第8回	認知に焦点を当てたアプローチ（1）	論理療法を紹介します。
第9回	認知に焦点を当てたアプローチ（2）	認知療法を紹介します。
第10回	認知に焦点を当てたアプローチ（3）	情報処理理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第11回	認知に焦点を当てたアプローチ（4）	メタ認知療法を紹介します。
第12回	新世代の認知行動療法（1）	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第13回	新世代の認知行動療法（2）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーを取り上げます。
第14回	新世代の認知行動療法（3）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

【その他の重要事項】

これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

【Outline (in English)】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

グループアプローチ

大竹 直子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ・アプローチは、心理、福祉、教育、医療、看護などの臨床場面で広く行われているグループ状況での専門的援助活動の総称です。「人は人との間で人になる」という人間の本来的特質を改めて確認しながら、治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチなどについて理解を深めていきます。

【到達目標】

主に心理臨床の現場で用いられるグループ・アプローチの理論を理解するとともに、グループ体験をとおして「人間」や「自己」への理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、毎回異なったメンバーとグループを組み、前半はレジュメを用いた講義を中心に、後半はグループワークやディスカッションを中心に進めていきます。（授業の展開によって若干の変更があり得ます。）

また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、出欠の確認をするとともに、質問が記入されている場合は、次の授業の始めに回答をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、ねらい、進め方、評価などの確認
2	グループ・アプローチとは	講義：グループ・アプローチの歴史と発展
3	人は人との間で人になる（1）	講義と演習：人間の本来的特質～“人間”に焦点を当てて～
4	人は人との間で人になる（2）	講義と演習：人間の本来的特質に～“個人”に焦点を当てて～
5	グループ体験（1）	演習：構成的グループの体験
6	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義とビデオ：カール・ロジャーズと記録映画
7	医療現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：集団精神療法など
8	教育現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：構成的グループエンカウンターなど
9	企業におけるグループ・アプローチ	講義と演習：研修や開発に用いられるグループ・アプローチ
10	グループ体験（2）	演習：非構成的グループの体験
11	グループ・アプローチの現代的意義	講義と演習：今なぜグループ・アプローチか～グループ・アプローチ再考～
12	グループ・ファシリテーターの役割	講義と演習：ファシリテーターの役割と在り方
13	グループワークのまとめ	講義と演習
14	試験・まとめと解説	筆記試験（持込不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、これまで話したことがない人とグループを組み、話し合いや演習を行います。みなさんで安心した場を作っていきながら、積極的に自分や他者と向き合えるよう、心構えをもってご参加ください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。（プリントを配布します。A 4 版のファイルをご準備ください。）

【参考書】

講義の中で提示します

【成績評価の方法と基準】

①最終試験 60%

②平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんより、授業内でのグループを体験は、自己や他者への発見や気づきの機会となったこと、グループアプローチの理解に役立ったとの感想をいただいております。毎回、違うメンバーとのグループワークやディスカッションを行うため「最初は、自分について話すことに戸惑った」「知らない人と話すのは緊張した」との声や「回数を重ねるごとに楽しになってきた」「自己理解が深まった」「グループの意義を実感することができた」などのフィードバックをいただきました。

今年度も、受講生同士のディスカッション、グループ体験の時間を持つ予定です。できるだけ安心して授業やグループに参加していただけるよう、工夫をしていきたいと考えております。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The group approach is a general term for professional psychological helping activities in group situations that are widely practiced in clinical situations such as Psychology, Welfare, Education, Medical care, Nursing. We will deepen our understanding of the group approaches, while again confirming the inherent characteristics of human beings, "People become people with people".

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the theory of group approach and to deepen understanding of humans and self.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1
単位数：2単位
定員制(50)
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド
(<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>)を確認のう
え、情報システムから期間内にエントリーしてください。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報Ⅰ」では実習に関する時間が多くないため、理論と演習を往還しながら情報処理について学んでいきます。

【到達目標】

本科目では、主にWord（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル・段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。授業ではWordを使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Wordの様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりにWordの機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際のIDとパスワード（統合認証ID等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Wordを用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Wordを用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Wordを用いて箇条書きやインデント設定を行う

第05回	表の作成・挿入	Microsoft Wordを用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Wordを用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Wordを用いて段組み・数式の挿入を行う
第08回	テンプレートの利用	Microsoft Wordのテンプレートを作成・利用する。
第09回	長文作成	Microsoft Wordで長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第10回	差し込み印刷	Microsoft Wordの差し込み印刷機能を利用する。
第11回	グラフの挿入	Microsoft Wordを用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excelとの連動を行う事で、情報処理演習2の内容につなげる。
第12回	Processingを用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processingを使ってプログラミングし、学習する
第13回	Processingを用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第14回	FreeMatを用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、教室内の端末にログインするためのID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The goal of this class is to find the information you need, change it in your own way, and share it. Also, in the high school subject "Information I," there is not much time for practice, so we will learn about information processing by studying both theory and practice.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主にExcel2019（表計算ソフト）とPowerPoint2019（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。特に、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。授業ではExcelとPowerPointを使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「式で表現する力をつける」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では論理的な思考が身に付きます。後者ではプレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際のIDとパスワード（統合認証ID等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel のIF関数などを用いる事で、論理的思考をやる

第07回 Power Point 導入

Microsoft PowerPointの基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する

第08回 図表の挿入・アニメーション設定

Microsoft PowerPointの図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする

第09回 動画の挿入・拡張子

Microsoft PowerPointに動画を挿入する場合の注意や、Windowsにおける拡張子の扱いについて学習する

第10回 マイテンプレート

Microsoft PowerPointで、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする

第11回 スライドの作成

Microsoft PowerPointを用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする

第12回 スライドの発表

第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する

第13回 スライド発表時の諸注意と応用

第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する

第14回 ネットワークの基礎

サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題出題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2019.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド(<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報 I」では実習に関する時間が多くないため、理論と演習を往還しながら情報処理について学んでいきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル・段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第05回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第08回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第09回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第10回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第11回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第12回	Processingを用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第13回	Processingを用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第14回	FreeMatを用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The goal of this class is to find the information you need, change it in your own way, and share it. Also, in the high school subject "Information I," there is not much time for practice, so we will learn about information processing by studying both theory and practice.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主にExcel2019（表計算ソフト）とPowerPoint2019（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。特に、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。授業ではExcelとPowerPointを使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「式で表現する力をつける」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では論理的な思考が身に付きます。後者ではプレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際のIDとパスワード（統合認証ID等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel のIF関数などを用いる事で、論理的思考をやる

第07回	Power Point 導入	Microsoft PowerPointの基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第08回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPointの図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第09回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPointに動画を挿入する場合の注意や、Windowsにおける拡張子の扱いについて学習する
第10回	マイテンプレート	Microsoft PowerPointで、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第11回	スライドの作成	Microsoft PowerPointを用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第12回	スライドの発表	第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第13回	スライド発表時の諸注意と応用	第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第14回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題出題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2019.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(50)
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド(<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報Ⅰ」では実習に関する時間が多くないため、理論と演習を往還しながら情報処理について学んでいきます。

【到達目標】

本科目では、主にWord（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル・段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。
授業ではWordを使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Wordの様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりにWordの機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。
また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際のIDとパスワード（統合認証ID等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Wordを用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Wordを用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Wordを用いて箇条書きやインデント設定を行う

第05回	表の作成・挿入	Microsoft Wordを用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Wordを用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Wordを用いて段組み・数式の挿入を行う
第08回	テンプレートの利用	Microsoft Wordのテンプレートを作成・利用する。
第09回	長文作成	Microsoft Wordで長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第10回	差し込み印刷	Microsoft Wordの差し込み印刷機能を利用する。
第11回	グラフの挿入	Microsoft Wordを用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excelとの連動を行う事で、情報処理演習2の内容につなげる。
第12回	Processingを用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processingを使ってプログラミングし、学習する
第13回	Processingを用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第14回	FreeMatを用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、教室内の端末にログインするためのID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The goal of this class is to find the information you need, change it in your own way, and share it. Also, in the high school subject "Information I," there is not much time for practice, so we will learn about information processing by studying both theory and practice.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主にExcel2019（表計算ソフト）とPowerPoint2019（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。特に、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。授業ではExcelとPowerPointを使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「式で表現する力をつける」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では論理的な思考が身に付きます。後者ではプレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際のIDとパスワード（統合認証ID等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel のIF関数などを用いる事で、論理的思考をやる

第07回 Power Point 導入

Microsoft PowerPointの基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する

第08回 図表の挿入・アニメーション設定

Microsoft PowerPointの図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする

第09回 動画の挿入・拡張子

Microsoft PowerPointに動画を挿入する場合の注意や、Windowsにおける拡張子の扱いについて学習する

第10回 マイテンプレート

Microsoft PowerPointで、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする

第11回 スライドの作成

Microsoft PowerPointを用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする

第12回 スライドの発表

第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する

第13回 スライド発表時の諸注意と応用

第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する

第14回 ネットワークの基礎

サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題出題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2019.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(50)
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド(<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報Ⅰ」では実習に関する時間が多くないため、理論と演習を往還しながら情報処理について学んでいきます。

【到達目標】

本科目では、主にWord（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル・段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。
授業ではWordを使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Wordの様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりにWordの機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。
また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際のIDとパスワード（統合認証ID等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第02回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Wordを用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第03回	文字の装飾	Microsoft Wordを用いて文字飾りなどの装飾を行う
第04回	箇条書きとインデント	Microsoft Wordを用いて箇条書きやインデント設定を行う

第05回	表の作成・挿入	Microsoft Wordを用いて表を作成する
第06回	図・図形の挿入	Microsoft Wordを用いて図の挿入を行う
第07回	段組み・数式入力	Microsoft Wordを用いて段組み・数式の挿入を行う
第08回	テンプレートの利用	Microsoft Wordのテンプレートを作成・利用する。
第09回	長文作成	Microsoft Wordで長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第10回	差し込み印刷	Microsoft Wordの差し込み印刷機能を利用する。
第11回	グラフの挿入	Microsoft Wordを用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excelとの連動を行う事で、情報処理演習2の内容につなげる。
第12回	Processingを用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processingを使ってプログラミングし、学習する
第13回	Processingを用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第14回	FreeMatを用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、教室内の端末にログインするためのID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The goal of this class is to find the information you need, change it in your own way, and share it. Also, in the high school subject "Information I," there is not much time for practice, so we will learn about information processing by studying both theory and practice.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主にExcel2019（表計算ソフト）とPowerPoint2019（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。特に、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。授業ではExcelとPowerPointを使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「式で表現する力をつける」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では論理的な思考が身に付きます。後者ではプレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際のIDとパスワード（統合認証ID等）を必ず確認しておいてください。初心者者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は授業支援システム上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第02回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第03回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第04回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第05回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く
第06回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel のIF関数などを用いる事で、論理的思考をやる

第07回	Power Point 導入	Microsoft PowerPointの基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第08回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPointの図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第09回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPointに動画を挿入する場合の注意や、Windowsにおける拡張子の扱いについて学習する
第10回	マイテンプレート	Microsoft PowerPointで、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第11回	スライドの作成	Microsoft PowerPointを用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第12回	スライドの発表	第11回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第13回	スライド発表時の諸注意と応用	第11回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用事例を概観する
第14回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ[第4版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート演習課題（80%）を総合して評価します。課題出題は3～4回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course.

It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2019.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサと表計算の基礎的な使い方を中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自フォームへの回答を作成する。

授業資料や課題の提出、質問などは Google Classroom を使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピューターの基本概念・新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ。また、安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第2回	キーボード・ウィンドウ	スマホやタブレットと異なり、キーボードとマウスを基本としたPCの操作について実習を交えて学ぶ
第3回	ファイル・クラウド	コンピューターでのデータ管理の基本であるファイルについて学び、クラウドを活用したデータの運用について実習する
第4回	第9章(1) ワード1(練1-3)	Wordの基本的な入力方法とレイアウトの扱いについて学ぶ
第5回	第9章(2) ワード2(練4-7)	Wordで表や図形の扱い方について学ぶ
第6回	第9章(3) ワード3(練8-10・章1)	Wordで章立てや参考文献の使い方について学ぶ
第7回	第1章 コンピュータの基本概念	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OSの役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ

第8回	第2章 コンピュータの基本操作	ウィンドウの操作やシャットダウンなど、コンピューターを使う際に覚えておくべき基本的な操作について学ぶ
第9回	第3章 キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第10回	第10章(1) エクセル1(練1-8)	Excelの基本概念とセルの操作、オートフィルについて学ぶ
第11回	第10章(2) エクセル2(練9-12)	数式を使った計算と、相対参照と絶対参照について学ぶ
第12回	第10章(3) エクセル3(練13-15)	合計や平均など様々な計算や、文字列の加工などに使われる関数について学ぶ
第13回	第4章 ファイル操作(1)	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第14回	第4章 ファイル操作(2)	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版までの「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。各自のノートパソコン等の持ち込みも認めます。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習 II では、情報処理演習 I で学んだ内容を元に、ワードプロセッサと表計算ソフトの応用的な使い方、プレゼンテーション、インターネットといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自フォームへの回答を作成する。

授業資料や課題の提出、質問などは Google Classroom を使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第5章 コンピューターとデータ(1)	デジタルとアナログ、著作権、2進数について学ぶ
第2回	第5章 コンピューターとデータ(2)	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第3回	第6章 インターネットと電子メール	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組み、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第4回	第10章(4) エクセル 4(練16-21)	数表からグラフを作成し、レイアウトを調整する方法について学ぶ
第5回	第10章(5) エクセル 5(章1-4)	Excelについて学んだ内容を応用したスプレッドシートの作成実習を行う
第6回	第10章(6) エクセル 6(章5)	特に難易度の高い章末問題5について集中的に解説する(進度により別内容もありうる)
第7回	第9章(4) ワード 4(章2,4)	Wordについて学んだ内容を応用した総合的な文書作成の実習を行う。実習の時間配分上、章末問題を分割して実施する。

第8回	第9章(4) ワード 4(章3,5)	Wordについて学んだ内容を応用した総合的な文書作成の実習を行う。実習の時間配分上、章末問題を分割して実施する。
第9回	第11章(1) パワーポイント(1)	パワーポイントの基本的な操作とプレゼンテーションの基本について学ぶ
第10回	第11章(2) パワーポイント(2)	応用的なパワーポイントスライドの作成実習を行う
第11回	第7章 World Wide Web	WWWの仕組みと利用方法、得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第12回	第8章 インターネットとメディアリテラシ	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽、フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ
第13回	RSA 暗号	現代の暗号技術の基礎となっている RSA 暗号について学ぶ
第14回	まとめと振り返り	情報処理演習 I と II を通してのまとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版までの「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。各自のノートパソコン等の持ち込みも認めます。

【その他の重要事項】

情報処理演習 II は春学期の情報処理演習 I とセットになる科目です。情報処理演習 II を受講する方は必ず春学期の情報処理演習 I を受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサと表計算の基礎的な使い方を中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自フォームへの回答を作成する。

授業資料や課題の提出、質問などは Google Classroom を使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピューターの基本概念・新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ。また、安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第2回	キーボード・ウィンドウ	スマホやタブレットと異なり、キーボードとマウスを基本としたPCの操作について実習を交えて学ぶ
第3回	ファイル・クラウド	コンピューターでのデータ管理の基本であるファイルについて学び、クラウドを活用したデータの運用について実習する
第4回	第9章(1) ワード1(練1-3)	Wordの基本的な入力方法とレイアウトの扱いについて学ぶ
第5回	第9章(2) ワード2(練4-7)	Wordで表や図形の扱い方について学ぶ
第6回	第9章(3) ワード3(練8-10・章1)	Wordで章立てや参考文献の使い方について学ぶ
第7回	第1章 コンピュータの基本概念	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OSの役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ

第8回	第2章 コンピュータの基本操作	ウィンドウの操作やシャットダウンなど、コンピューターを使う際に覚えておくべき基本的な操作について学ぶ
第9回	第3章 キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第10回	第10章(1) エクセル1(練1-8)	Excelの基本概念とセルの操作、オートフィルについて学ぶ
第11回	第10章(2) エクセル2(練9-12)	数式を使った計算と、相対参照と絶対参照について学ぶ
第12回	第10章(3) エクセル3(練13-15)	合計や平均など様々な計算や、文字列の加工などに使われる関数について学ぶ
第13回	第4章 ファイル操作(1)	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第14回	第4章 ファイル操作(2)	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版までの「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピューターを用いて授業を行う。各自のノートパソコン等の持ち込みも認めます。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習 II では、情報処理演習 I で学んだ内容を元に、ワードプロセッサと表計算ソフトの応用的な使い方、プレゼンテーション、インターネットといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自フォームへの回答を作成する。

授業資料や課題の提出、質問などはGoogle Classroomを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第5章 コンピューターとデータ(1)	デジタルとアナログ、著作権、2進数について学ぶ
第2回	第5章 コンピューターとデータ(2)	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第3回	第6章 インターネットと電子メール	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組み、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第4回	第10章(4) エクセル4(練16-21)	数表からグラフを作成し、レイアウトを調整する方法について学ぶ
第5回	第10章(5) エクセル5(章1-4)	Excelについて学んだ内容を応用したスプレッドシートの作成実習を行う
第6回	第10章(6) エクセル6(章5)	特に難易度の高い章末問題5について集中的に解説する(進度により別内容もありうる)
第7回	第9章(4) ワード4(章2,4)	Wordについて学んだ内容を応用した総合的な文書作成の実習を行う。実習の時間配分上、章末問題を分割して実施する。

第8回	第9章(4) ワード4(章3,5)	Wordについて学んだ内容を応用した総合的な文書作成の実習を行う。実習の時間配分上、章末問題を分割して実施する。
第9回	第11章(1) パワーポイント(1)	パワーポイントの基本的な操作とプレゼンテーションの基本について学ぶ
第10回	第11章(2) パワーポイント(2)	応用的なパワーポイントスライドの作成実習を行う
第11回	第7章 World Wide Web	WWWの仕組みと利用方法、得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第12回	第8章 インターネットとメディアリテラシ	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽、フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ
第13回	RSA暗号	現代の暗号技術の基礎となっているRSA暗号について学ぶ
第14回	まとめと振り返り	情報処理演習 I と II を通してのまとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版までの「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11やMicrosoft Officeに対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物(80%)と平常点(20%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。各自のノートパソコン等の持ち込みも認めます。

【その他の重要事項】

情報処理演習 II は春学期の情報処理演習 I とセットになる科目です。情報処理演習 II を受講する方は必ず春学期の情報処理演習 I を受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

单位数：2单位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。パソコンやネットワークのしくみを理解します。文書作成ソフトWord、表計算ソフトExceの機能を理解し利用できるようになります。初心者でもWordやExcelの資格試験合格レベルまで上達できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。

★★

★ ★

★ 対面／オンラインの予定はこのシラバスから ★

★ 変更する可能性があります。 ★

★ 授業の前日に必ずHoppiiからWebClassを見て ★

★ 対面かどうかを確認して下さい。 ★

★ ★

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。

★★授業の前日には必ず学習支援システムを読んで対面かオンラインかを確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I (春学期科目) と同じタイミングで 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされますが、数回オンライン授業の日があります。対面／オンラインのスケジュールはこのシラバスから変更になる可能性があります。授業の前日に必ず学習支援システム Hoppii から「WebClass」の記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	python プログラミング	プログラミング言語 python の使い方を学ぶ。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoomが使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅰ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

★★授業の前日には必ず学習支援システムを読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Wordをマスターし、Excelの基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PCの操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力およびICTスキル診断テスト	IMEの概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト1	文字の書式設定
5	ワープロソフト2	段落の書式設定
6	ワープロソフト3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト4	表の作成と編集
8	ワープロソフト5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎3	表の編集
12	表計算ソフト基礎4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経BP社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、特にI期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

https://c-research.chuo-u.ac.jp/html/100003440_ja.html

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop the ability to select necessary information from various sources, process it into one's own unique expression, and communicate it effectively, as well as to master the operation of major computer applications. Additionally, this course aims to bridge any gaps in knowledge resulting from differences in how the subject "Information" is taught in high schools.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシーを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excelの応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。PowerPointについても、グラフィカルな機能を中心に学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用2	高度な関数
3	表計算ソフト応用3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト5	スライドショーと特殊効果の追加

- 13 プログラミング初歩、足し算ゲームなどの簡単なプログラムもしくはデータ グラミング、もしくはデータベース ベースソフトの操作
(受講者のスキルによって決定します)
- 14 期末試験 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシー (サイエンス社)

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト (日経BP社) など

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、II期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主にExcelの関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

https://c-research.chuo-u.ac.jp/html/100003440_ja.html

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who have completed "Information Processing Exercises I" or possess equivalent basic skills. The aim of this course is to learn more effective ways to express information and to master the operational and applied skills of major applications likely to be used in the professional world. Another objective is to cultivate the literacy needed to flexibly adapt to new technologies and applications that may emerge in the future.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PCの操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力およびICTスキル診断テスト	IMEの概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト1	文字の書式設定
5	ワープロソフト2	段落の書式設定
6	ワープロソフト3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト4	表の作成と編集
8	ワープロソフト5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎3	表の編集
12	表計算ソフト基礎4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経BP社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、特にI期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

https://c-research.chuo-u.ac.jp/html/100003440_ja.html

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop the ability to select necessary information from various sources, process it into one's own unique expression, and communicate it effectively, as well as to master the operation of major computer applications. Additionally, this course aims to bridge any gaps in knowledge resulting from differences in how the subject "Information" is taught in high schools.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシーを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。**Excel**の応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。**PowerPoint**についても、グラフィカルな機能を中心に学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

1人1台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用2	高度な関数
3	表計算ソフト応用3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト5	スライドショーと特殊効果の追加

- 13 プログラミング初歩、足し算ゲームなどの簡単なプログラムもしくはデータ グラミング、もしくはデータベース ベースソフトの操作
(受講者のスキルによって決定します)
- 14 期末試験 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシー (サイエンス社)

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト (日経BP社) など

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・IIがセットになっている講義ですが、II期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に**Excel**の関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

https://c-research.chuo-u.ac.jp/html/100003440_ja.html

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who have completed "Information Processing Exercises I" or possess equivalent basic skills. The aim of this course is to learn more effective ways to express information and to master the operational and applied skills of major applications likely to be used in the professional world. Another objective is to cultivate the literacy needed to flexibly adapt to new technologies and applications that may emerge in the future.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習Ⅰでは、初心者を中心として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第2回	コンピュータの基本概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第3回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OSの役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第4回	Windowsの基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUIとCUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処などWindowsの基本操作について学ぶ

第5回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第6回	ファイル操作その1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第7回	ファイル操作その2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第8回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第9回	インターネットと電子メールその1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第10回	インターネットと電子メールその2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第11回	WWWその1	WWWの仕組みと利用方法について学ぶ
第12回	WWWその2	WWWで得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ 生成AIの簡単な仕組みや使い方について学ぶ
第13回	インターネットとメディアリテラシその1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第14回	インターネットとメディアリテラシその2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウィルス、コンピュータ犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされているWindows 11やMicrosoft Officeに対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点10%、レポート70%、タッチタイピングのテスト20%
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅰは秋学期の情報処理演習Ⅱとセットになる科目です。情報処理演習Ⅰを受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習Ⅱを受講するようにして下さい。

生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。詳しくは授業内で指示する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習IIでは、情報処理演習Iで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ

第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11やMicrosoft Officeに対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点10%、レポート70%、タッチタイピングのテスト20%

「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習IIは春学期の情報処理演習Iとセットになる科目です。情報処理演習IIを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Iを受講して下さい。
生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。詳しくは授業内で指示する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of ordinary points, 70% of reports, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習Ⅰ 2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習Ⅰでは、初心者をもとに、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第2回	コンピュータの基本概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第3回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OSの役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第4回	Windowsの基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUIとCUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処などWindowsの基本操作について学ぶ

第5回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第6回	ファイル操作その1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第7回	ファイル操作その2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第8回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第9回	インターネットと電子メールその1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第10回	インターネットと電子メールその2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第11回	WWWその1	WWWの仕組みと利用方法について学ぶ
第12回	WWWその2	WWWで得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ 生成AIの簡単な仕組みや使い方について学ぶ
第13回	インターネットとメディアリテラシその1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第14回	インターネットとメディアリテラシその2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウィルス、コンピュータ犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされているWindows 11やMicrosoft Officeに対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点10%、レポート70%、タッチタイピングのテスト20%
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅰは秋学期の情報処理演習Ⅱとセットになる科目です。情報処理演習Ⅰを受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習Ⅱを受講するようにして下さい。

生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。詳しくは授業内で指示する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PR1200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習IIでは、情報処理演習Iで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ

第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第4版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第3版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 11やMicrosoft Officeに対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経BPソフトプレス
「実習Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点10%、レポート70%、タッチタイピングのテスト20%
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習IIは春学期の情報処理演習Iとセットになる科目です。情報処理演習IIを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Iを受講して下さい。
生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。詳しくは授業内で指示する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of ordinary points, 70% of reports, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

★★授業の前日には必ず学習支援システムを読んで対面かオンラインかを確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I (春学期科目) と同じタイミングで 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされますが、数回オンライン授業の日があります。対面／オンラインのスケジュールはこのシラバスから変更になる可能性があります。授業の前日に必ず学習支援システム Hoppii から「WebClass」の記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	python プログラミング	プログラミング言語 python の使い方を学ぶ。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoomが使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅰ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

★★授業の前日には必ず学習支援システムを読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

★★授業の前日には必ず学習支援システムを読んで対面かオンラインかを確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習 I」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I (春学期科目) と同じタイミングで 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされますが、数回オンライン授業の日があります。対面／オンラインのスケジュールはこのシラバスから変更になる可能性があります。授業の前日に必ず学習支援システム Hoppii から「WebClass」の記載を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。
2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	python プログラミング	プログラミング言語 python の使い方を学ぶ。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoomが使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅰ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学HPの授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

★★授業の前日には必ず学習支援システムを読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills. This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習から社会まで様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の演習を中心に、情報機器の基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

情報機器の基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中からその後も含めた様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第3回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第4回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第5回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第6回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第7回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第8回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第9回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第10回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第11回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第12回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第13回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第14回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第4版】、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000＋税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

演習に対して苦手感をもってしまう人もいるため、授業時の実演や丁寧な説明や資料の充実から習得・理解へとつなげていきたいと考えています。合わせて意見を聞ける機会も広げて改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習からその後の社会まで、必要とされるICT関連や情報技術・知識の習得を深め、さらなる情報利活用へとつなげることを目指します。PC操作の演習を中心に、情報の収集や表現・活用・分析、集計・データ処理について習得します。

【到達目標】

事務作業等を想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。さらに応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

PC操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第13回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第14回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第4版】、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000＋税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

情報処理・リテラシー関連の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

演習に対して苦手感をもってしまう人もいるため、授業時の実演や丁寧な説明や資料の充実から習得・理解へとつなげていきたいと考えています。合わせて意見を聞ける機会も広げて改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習から社会まで様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の演習を中心に、情報機器の基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

情報機器の基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中からその後も含めた様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第3回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第4回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第5回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第6回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第7回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第8回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第9回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第10回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第11回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第12回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第13回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第14回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第4版】、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000＋税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

演習に対して苦手感をもってしまう人もいるため、授業時の実演や丁寧な説明や資料の充実から習得・理解へとつなげていきたいと考えています。合わせて意見を聞ける機会も広げて改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習からその後の社会まで、必要とされるICT関連や情報技術・知識の習得を深め、さらなる情報利活用へとつなげることを目指します。PC操作の演習を中心に、情報の収集や表現・活用・分析、集計・データ処理について習得します。

【到達目標】

事務作業等を想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。さらに応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

PC操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第13回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第14回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第4版】、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000＋税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

情報処理・リテラシー関連の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

演習に対して苦手感をもってしまう人もいるため、授業時の実演や丁寧な説明や資料の充実から習得・理解へとつなげていきたいと考えています。合わせて意見を聞ける機会も広げて改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習から社会まで様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の演習を中心に、情報機器の基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

情報機器の基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中からその後も含めた様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第3回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第4回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第5回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第6回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第7回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第8回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第9回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第10回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第11回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第12回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第13回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第14回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第4版】、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000＋税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

演習に対して苦手感をもってしまう人もいるため、授業時の実演や丁寧な説明や資料の充実から習得・理解へとつなげていきたいと考えています。合わせて意見を聞ける機会も広げて改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習からその後の社会まで、必要とされるICT関連や情報技術・知識の習得を深め、さらなる情報利活用へとつなげることを目指します。PC操作の演習を中心に、情報の収集や表現・活用・分析、集計・データ処理について習得します。

【到達目標】

事務作業等を想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。さらに応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

PC操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第13回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第14回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第4版】、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000＋税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

情報処理・リテラシー関連の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

演習に対して苦手感をもってしまう人もいるため、授業時の実演や丁寧な説明や資料の充実から習得・理解へとつなげていきたいと考えています。合わせて意見を聞ける機会も広げて改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習から社会まで様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の演習を中心に、情報機器の基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

情報機器の基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中からその後も含めた様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

PC 操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第3回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第4回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第5回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第6回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第7回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第8回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第9回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第10回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第11回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第12回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第13回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第14回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第4版】、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000＋税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

演習に対して苦手感をもってしまう人もいるため、授業時の実演や丁寧な説明や資料の充実から習得・理解へとつなげていきたいと考えています。合わせて意見を聞ける機会も広げて改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(50)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習からその後の社会まで、必要とされるICT関連や情報技術・知識の習得を深め、さらなる情報利活用へとつなげることを目指します。PC操作の演習を中心に、情報の収集や表現・活用・分析、集計・データ処理について習得します。

【到達目標】

事務作業等を想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。さらに応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

PC操作の演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出物として求める形式となります。授業時の演習も提出物の範囲に含め、授業への参加がそのまま提出にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは授業時の教卓機器による実演と合わせ、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第2回	確認と復習	これまでの確認と復習
第3回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第4回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第5回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第6回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第7回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第8回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第9回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第10回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第11回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第12回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第13回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第14回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが接続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での演習に続けて課題も行い、授業時に不足と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第4版】、重定如彦・河内谷幸子、サイエンス社、¥2,000＋税。

実習室環境との比較、確認が必要なため、詳細は初回授業時に説明します。

【参考書】

情報処理・リテラシー関連の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物は授業内演習の確認と課題の両方を兼ね、それらに基づき到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

演習に対して苦手感をもってしまう人もいるため、授業時の実演や丁寧な説明や資料の充実から習得・理解へとつなげていきたいと考えています。合わせて意見を聞ける機会も広げて改善へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室設置の情報機器（PC）を使用します。配布・提出等に学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習Ⅰ

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(26)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第2回	パソコン・ウェブブラウザ操作の基礎／グループディスカッション	Windows のファイル構造や様々な機能の操作方法を学ぶ。ウェブブラウザの機能と操作方法を学ぶ。身近な情報機器についてグループ別に議論を行う。
第3回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第4回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第5回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第6回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第7回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能やテンプレート機能を学ぶ。

第8回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、データ処理機能を体験する。
第9回	文章作成演習	実用的な文章作成課題を通して、Microsoft Word の機能を復習する。
第10回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、画像処理機能を体験する。
第11回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第12回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能、画面切り替え設定やアニメーション機能について学ぶ。
第13回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第14回	プレゼンテーション制作のポイント・発表課題作業	プレゼンテーションを作成する時のポイントについて学ぶ。発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ[第4版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、小テスト（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(26)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習 I に引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、JavaScript、PHP を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

情報処理演習 I と同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Microsoft Excel の基礎／計算式・関数・書式	Microsoft Excel の基礎を学ぶ。Excel で利用する計算式・関数・書式を学ぶ。
第2回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールを学ぶ。
第3回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第4回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第5回	CEATEC 見学	日本を代表するテクノロジー展示会である CEATEC を見学して ICT 技術の最先端を学ぶ。
第6回	VBA	Microsoft Excel 用 Visual Basic for Application (VBA) の機能を学ぶ。
第7回	課題発表会	情報処理演習 I で作成したプレゼンテーション資料を用いた発表会を開催する。
第8回	アプリケーションソフトウェア③	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、統計解析に役立つ R の機能を体験する。
第9回	コンピュータネットワークとセキュリティの基礎	コンピュータネットワーク及びセキュリティの基礎知識を学ぶ。

第10回	コンピュータの未来	コンピュータの進歩や未来の応用について学び、グループディスカッションを通じて理解を深める。
第11回	HTML の基礎 / JavaScript とスタイルシート	HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。JavaScript とスタイルシートの基礎を学ぶ。
第12回	PHP の基礎	HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。
第13回	AI の基礎	機械学習、生成 AI 等についての基礎を学ぶ。
第14回	まとめ	講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第4版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、小テスト（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, JavaScript, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習 I

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

定員制(26)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第2回	パソコン・ウェブブラウザ操作の基礎／グループディスカッション	Windows のファイル構造や様々な機能の操作方法を学ぶ。ウェブブラウザの機能と操作方法を学ぶ。身近な情報機器についてグループ別に議論を行う。
第3回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第4回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第5回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第6回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第7回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能やテンプレート機能を学ぶ。

第8回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、データ処理機能を体験する。
第9回	文章作成演習	実用的な文章作成課題を通して、Microsoft Word の機能を復習する。
第10回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、画像処理機能を体験する。
第11回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第12回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能、画面切り替え設定やアニメーション機能について学ぶ。
第13回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第14回	プレゼンテーション制作のポイント・発表課題作業	プレゼンテーションを作成する時のポイントについて学ぶ。発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログインIDとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ[第4版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、小テスト（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA (情報学基礎 / Principles of informatics 200)

情報処理演習 II

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

定員制(26)

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習 I に引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、JavaScript、PHP を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

情報処理演習 I と同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Microsoft Excel の基礎／計算式・関数・書式	Microsoft Excel の基礎を学ぶ。Excel で利用する計算式・関数・書式を学ぶ。
第2回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールを学ぶ。
第3回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第4回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第5回	CEATEC 見学	日本を代表するテクノロジー展示会である CEATEC を見学して ICT 技術の最先端を学ぶ。
第6回	VBA	Microsoft Excel 用 Visual Basic for Application (VBA) の機能を学ぶ。
第7回	課題発表会	情報処理演習 I で作成したプレゼンテーション資料を用いた発表会を開催する。
第8回	アプリケーションソフトウェア③	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、統計解析に役立つ R の機能を体験する。
第9回	コンピュータネットワークとセキュリティの基礎	コンピュータネットワーク及びセキュリティの基礎知識を学ぶ。

第10回	コンピュータの未来	コンピュータの進歩や未来の応用について学び、グループディスカッションを通じて理解を深める。
第11回	HTML の基礎 / JavaScript とスタイルシート	HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。JavaScript とスタイルシートの基礎を学ぶ。
第12回	PHP の基礎	HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。
第13回	AI の基礎	機械学習、生成 AI 等についての基礎を学ぶ。
第14回	まとめ	講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第4版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、小テスト（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, JavaScript, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生にとって、情報技術の習得は必須です。それも、むしろ理系や経済学部等の計算をメインに行う学生よりも、キャリアデザイン学部等「文系」と言われる学生にとってこそ大切と言えます。それは、皆さんが、プログラミングなどのITの専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い専門知識を扱うための「道具として」、パソコンやネットの情報を文具のように使いこなすことが求められるからです。

ですから、この授業の一番の目的は、「コンピュータが使えるようになること」ではありません。実践的な実務能力を身につけられるようになることです。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネット（インターネット）の技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。

情報処理の技術は日進月歩ですから、今あるコンピュータやネットの情報技術が使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ／ソフトウェア／サービスの「操作のやり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることが大切です。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時「検索して自力で調べられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ／ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。

同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。

＜オンラインでの開講について＞

前年度、前々年度は、初回到定員の倍以上の申込みがあったため、初回授業はオンラインとし、受講希望者多数の場合は適宜抽選等で人数を確定します（オンライン授業の方法や選抜方法や通知方法については、学習支援システムのお知らせを事前に確認してください）。また、受講希望者数が定員以下の場合でも、情報処理演習という授業の性格上、オンラインミーティングの技術について学習することは有意義であるため、学期中一部の授業はオンライン開講を行う可能性があります（その場合、前の週までには告知します）。

なお、今後、万が一インフルエンザやコロナ等の感染流行の再悪化やその他やむを得ない事情が起きた場合は、別途オンラインの開講もあり得ます。

ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、前述の目的が変わることはありません。

【到達目標】

Windows環境で基礎的なPCリテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。

大学の授業のレポートや卒論作成時に使えるOfficeソフト（Word・Excel・PowerPoint）やGoogleやCanva等のWebサービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。

またChatGPT等の生成AIの適切な利用方法についても、学習します。

同時に、最も大切なこととして、自分がやりたいことを実現するための操作方法を検索して、自力でできるように調べる技術を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

(1) テキストと毎回のレジュメをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。

(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。

(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。

時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的にはWebを利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身につくように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ Zoomの基本操作	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 自身のPCを使用する場合、使い方の確認。 WindowsPCの基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。
第2回	電子メールとネットの基本 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールやSNSとの比較。 USBメモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。 Webアンケートの作り方。
第3回	Webの仕組みと情報検索 クラウドの利用 生成AIについて(1)	Webの仕組みについて理解する。情報検索演習として、Webから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropbox等クラウドの利用と、注意点。 ChatGPT等生成AIの利用と、注意点。
第4回	生成AIについて(2) Word(1)	教科書によるネットリテラシーの復習。 引き続き生成AIの利用について。 Windowsの基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。

第5回	Word(2)	応用的な文章作成方法。 Wordで絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・ 脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excelでできることを知る（頭出し） 脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）
第6回	Word(3) Excel(1)	計算式や関数の基本的な使い方。見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。
第7回	Excel(2)	Excelでグラフを作成する。Excelの表やグラフをWordに貼り付ける。 計算式や関数の応用的な使い方。
第8回	Excel(3)	Excelでのリスト管理（データベース）。 Excelとワードの合わせ技（差し込み印刷）。 プレゼンテーションソフト PowerPointの基本操作。
第9回	Excel(4) PowerPoint(1)	発表資料としてのPowerPointファイルの作成。 簡易DTPとしてのPowerPointの利用。 Canvaの利用。
第10回	PowerPoint(2)	Excel、Word、Powerpointを総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第11回	Officeソフト総合演習	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpointや、Canva、生成AI等を総合的に使用し、最終課題を行う。
第12回	Officeソフトとその他のWebサービス、生成AI等の総合演習(1)	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、PowerpointやCanva、生成AI等を総合的に使用し、最終課題を行う。
第13回	Officeソフトとその他のWebサービス、生成AI等の総合演習(2)	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、PowerpointやCanva、生成AI等を総合的に使用し、最終課題を行う。
第14回	総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・当授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
- ・次の授業に向けてのリーディング・アサイメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

- ・『学生・新社会人のための情報リテラシー入門』大間 哲 著 カットシステム（2025年）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック』<http://www.hoseikyoku.jp/lf/>（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、法政大学Web内で一度見つけて確認をしておくこと）

【参考書】

- ・『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第3版]』井下千以子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
- ・『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2024対応版-』矢野文彦 著 オーム社
（『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021対応版-』『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）

- ・『キャリアデザイン・就活のプロによるChatGPT徹底活用法: 就活生・就職担当者必携AIアシスト・キャリアデザイン』大間哲 著 カットシステム（定価：1540円）
- ・『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・ITエンジニア・SEのためのキャリアデザイン-』豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体1800円）

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代を含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加（配点比重 30%）
- ・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について0点。提出遅れは減点）（配点比重50%）
- ・総合課題（配点比重20%）

※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】

- ・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も行いたいと考えています。
- ・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
- ・『「月曜5限可哀想〜」と友人から言われても、『情報処理楽しいから良いんだ〜』と言いつくくらい楽しい授業でした』『この授業は、単にITだけでなく、学部で学ぶために必要なことが学べました』『学生の視点に立って接して下さり、とても嬉しかった』（授業アンケートより）。今年度は水曜4限・木曜3限・4限開講ですが、今年度も学生の皆さんがそう思ってくれるような、学生主体の視点で、楽しい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回参加時までに、このシラバスと、学習支援システムの「お知らせ」を良く読んでおくこと。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅から、ネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
- ・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、授業時に自身のパソコンを持参することを推奨する。
- ・当授業は、主に Windows11 のパソコンで行う。それ以外の OS（MAC、Linux等）でも大丈夫だが、OSによる若干の差異があることがある。
- ・自身のパソコンを持参できない場合は、大学でパソコンの貸し出し手続きをして持参すること。その場合、USBメモリー（8GB以上の容量のもの）を入手し、持参すること。

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・情報処理演習という授業の内容上、ChatGPT等生成AIの適切な利用法についても学習します。が、他の授業での生成AIの使用については、それぞれの授業の教員の指示に従ってください。
- ・定員超過の場合は抽選等で選抜をします。選抜に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。
- ・Q0301（水曜4限）、Q0303（木曜3限）、Q0305（木曜4限）は、授業内容は基本的に同一です。ただし、皆さんの学習の進度、理解度等に合わせ、内容に若干の修正・差異・授業内容の順序変更が生じる可能性はあります。また、履修登録者の学年や学習進度により、一部のクラスは、他のクラスより上級の内容に言及したいと考えています。（上級の内容に言及するのは、水4のQ0301を予定。ただし、履修登録者によってフレキシブルに対応します）。

・当授業は「実務経験がある教員による授業」です。教員は、20年間日本IBMに在籍し、システムエンジニア（特にネットワーク系）の経験があります。また、社内での専門職育成部門での経験もあるため、一般から先端までの技術をわかりやすく説明することに長けています。

【Outline (in English)】

[Course outline and Objectives]

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.

Mastering information technology is essential for university students, particularly for those in liberal arts fields like Career Design. Unlike students in fields focused on computational tasks, liberal arts students must use computers and internet tools as essential instruments to complement their broad knowledge base.

Students will learn basic computer, software, and web service operations needed for academic tasks, such as reports and theses. You will also develop skills in research, discussion, and presentation using information technology, providing a foundation for academic and professional success.

[Goals]

Students will acquire fundamental PC and internet literacy in a Windows environment. You will learn to use Office software (Word, Excel, PowerPoint), Google Web Services, and cloud tools for report and thesis preparation. You will also understand the appropriate use of generative AI tools like ChatGPT.

The most critical objective is to develop the ability to search for and learn necessary operations independently to achieve their goals.

[Learning activities outside of classroom (Preparation, etc.)]

Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.

- Allocate approximately 4 hours for preparation (2 hours) and review (2 hours) for each class.

- Submit assignments by the deadline and via the specified method.

- Reading assignments may be given; complete these before attending the next class.

[Grading Criteria /Policy]

Students are evaluated comprehensively based on participation, assignment submission, and effort. Beginners can achieve the course goals through active engagement and completing assignments, while advanced students can earn additional points for demonstrating excellence.

- Participation In class contribution:30%

- Submission of regular assignments (zero points for non-submission, penalties for late submissions): 50%

- Term-end assignment: 20%

** No final exam will be conducted.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生にとって、情報技術の習得は必須です。それも、むしろ理系や経済学部等の計算をメインに行う学生よりも、キャリアデザイン学部等「文系」と言われる学生にとってこそ大切と言えます。それは、皆さんが、プログラミングなどのITの専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い専門知識を扱うための「道具として」、パソコンやネットの情報を文具のように使いこなすことが求められるからです。

ですから、この授業の一番の目的は、「コンピュータが使えるようになること」ではありません。実践的な実務能力を身につけられるようになることです。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネット（インターネット）の技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。

情報処理の技術は日進月歩ですから、今あるコンピュータやネットの情報技術が使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ／ソフトウェア／サービスの「操作のやり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることが大切です。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時「検索して自力で調べられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ／ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。

同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。

＜オンラインでの開講について＞

前年度、前々年度は、初回に定員の倍以上の申込みがあったため、初回授業はオンラインとし、受講希望者多数の場合は適宜抽選等で人数を確定します（オンライン授業の方法や選抜方法や通知方法については、学習支援システムのお知らせを事前に確認してください）。また、受講希望者数が定員以下の場合でも、情報処理演習という授業の性格上、オンラインミーティングの技術について学習することは有意義であるため、学期中一部の授業はオンライン開講を行う可能性があります（その場合、前の週までには告知します）。

なお、今後、万が一インフルエンザやコロナ等の感染流行の再悪化やその他やむを得ない事情が起きた場合は、別途オンラインの開講もあり得ます。

ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、前述の目的が変わることはありません。

【到達目標】

Windows環境で基礎的なPCリテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。

大学の授業のレポートや卒論作成時に使える Office ソフト（Word・Excel・PowerPoint）や Google や Canva 等の Web サービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。

また ChatGPT 等の生成 AI の適切な利用方法についても、学習します。

同時に、最も大切なこととして、自分がやりたいことを実現するための操作方法を検索して、自力でできるように調べる技術を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

(1) テキストと毎回のレジュメをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。

(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。

(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。

時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的にはWebを利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身につくように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ Zoomの基本操作	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 自身のPCを使用する場合、使い方の確認。 WindowsPCの基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。
第2回	電子メールとネットの基本 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールやSNSとの比較。 USBメモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。 Webアンケートの作り方。
第3回	Webの仕組みと情報検索 クラウドの利用 生成AIについて(1)	Webの仕組みについて理解する。情報検索演習として、Webから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropbox等クラウドの利用と、注意点。 ChatGPT等生成AIの利用と、注意点。
第4回	生成AIについて(2) Word(1)	教科書によるネットリテラシーの復習。 引き続き生成AIの利用について。 Windowsの基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。

第5回	Word(2)	応用的な文章作成方法。 Wordで絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・ 脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excelでできることを知る（頭出し） 脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認） 計算式や関数の基本的な使い方。見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。
第6回	Word(3) Excel(1)	Excelでグラフを作成する。 Excelの表やグラフをWordに貼り付ける。 計算式や関数の応用的な使い方。Excelでのリスト管理（データベース）。 Excelとワードの合わせ技（差し込み印刷）。 プレゼンテーションソフト PowerPointの基本操作。
第7回	Excel(2)	発表資料としてのPowerPoint ファイルの作成。 簡易DTPとしてのPowerPointの利用。 Canvaの利用。
第8回	Excel(3)	Excel、Word、Powerpointを総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第9回	Excel(4) PowerPoint(1)	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpointや、Canva、生成AI等を総合的に使用し、最終課題を行う。
第10回	PowerPoint(2)	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、PowerpointやCanva、生成AI等を総合的に使用し、最終課題を行う。
第11回	Officeソフト総合演習	授業で扱った内容を振り返る。
第12回	Officeソフトとその他のWebサービス、生成AI等の総合演習(1)	
第13回	Officeソフトとその他のWebサービス、生成AI等の総合演習(2)	
第14回	総合演習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・当授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
- ・次の授業に向けてのリーディング・アサインメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

- ・『学生・新社会人のための情報リテラシー入門』大間 哲 著 カットシステム（2025年）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック』<http://www.hoseikyoku.jp/lf/>（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、法政大学Web内で一度見つけて確認をしておくこと）

【参考書】

- ・『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第3版]』井下千以子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
- ・『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2024対応版-』矢野文彦 著 オーム社
（『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021対応版-』『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）

- ・『キャリアデザイン・就活のプロによるChatGPT徹底活用法: 就活生・就職担当者必携AIアシスト・キャリアデザイン』大間哲 著 カットシステム（定価：1540円）
- ・『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・ITエンジニア・SEのためのキャリアデザイン-』豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体1800円）

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代を含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加（配点比重 30%）
 - ・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について0点。提出遅れは減点）（配点比重50%）
 - ・総合課題（配点比重20%）
- ※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】

- ・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も行いたいと考えています。
- ・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
- ・『「月曜5限可哀想〜」と友人から言われても、『情報処理楽しいから良いんだ〜』と言いつつ楽しい授業でした』『この授業は、単にITだけでなく、学部で学ぶために必要なことが学べました』『学生の視点に立って接して下さり、とても嬉しかった』（授業アンケートより）。今年度は水曜4限・木曜3限・4限開講ですが、今年度も学生の皆さんがそう思ってくれるような、学生主体の視点で、楽しい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回参加時までに、このシラバスと、学習支援システムの「お知らせ」を良く読んでおくこと。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅から、ネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
- ・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、授業時に自身のパソコンを持参することを推奨する。
- ・当授業は、主にWindows11のパソコンで行う。それ以外のOS（MAC、Linux等）でも大丈夫だが、OSによる若干の差異があることがある。
- ・自身のパソコンを持参できない場合は、大学でパソコンの貸し出し手続きをして持参すること。その場合、USBメモリー（8GB以上の容量のもの）を入手し、持参すること。

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・情報処理演習という授業の内容上、ChatGPT等生成AIの適切な利用法についても学習します。が、他の授業での生成AIの使用については、それぞれの授業の教員の指示に従ってください。
- ・定員超過の場合は抽選等で選抜をします。選抜に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。
- ・Q0301（水曜4限）、Q0303（木曜3限）、Q0305（木曜4限）は、授業内容は基本的に同一です。ただし、皆さんの学習の進度、理解度等に合わせ、内容に若干の修正・差異・授業内容の順序変更が生じる可能性はあります。また、履修登録者の学年や学習進度により、一部のクラスは、他のクラスより上級の内容に言及したいと考えています。（上級的内容に言及するのは、水4のQ0301を予定。ただし、履修登録者によってフレキシブルに対応します）。

・当授業は「実務経験がある教員による授業」です。教員は、20年間日本IBMに在籍し、システムエンジニア（特にネットワーク系）の経験があります。また、社内での専門職育成部門での経験もあるため、一般から先端までの技術をわかりやすく説明することに長けています。

【Outline (in English)】

[Course outline and Objectives]

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.

Mastering information technology is essential for university students, particularly for those in liberal arts fields like Career Design. Unlike students in fields focused on computational tasks, liberal arts students must use computers and internet tools as essential instruments to complement their broad knowledge base.

Students will learn basic computer, software, and web service operations needed for academic tasks, such as reports and theses. You will also develop skills in research, discussion, and presentation using information technology, providing a foundation for academic and professional success.

[Goals]

Students will acquire fundamental PC and internet literacy in a Windows environment. You will learn to use Office software (Word, Excel, PowerPoint), Google Web Services, and cloud tools for report and thesis preparation. You will also understand the appropriate use of generative AI tools like ChatGPT.

The most critical objective is to develop the ability to search for and learn necessary operations independently to achieve their goals.

[Learning activities outside of classroom (Preparation, etc.)]

Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.

- Allocate approximately 4 hours for preparation (2 hours) and review (2 hours) for each class.

- Submit assignments by the deadline and via the specified method.

- Reading assignments may be given; complete these before attending the next class.

[Grading Criteria /Policy]

Students are evaluated comprehensively based on participation, assignment submission, and effort. Beginners can achieve the course goals through active engagement and completing assignments, while advanced students can earn additional points for demonstrating excellence.

- Participation In class contribution:30%

- Submission of regular assignments (zero points for non-submission, penalties for late submissions): 50%

- Term-end assignment: 20%

** No final exam will be conducted.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生にとって、情報技術の習得は必須です。それも、むしろ理系や経済学部等の計算をメインに行う学生よりも、キャリアデザイン学部等「文系」と言われる学生にとってこそ大切と言えます。それは、皆さんが、プログラミングなどのITの専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い専門知識を扱うための「道具として」、パソコンやネットの情報を文具のように使いこなすことが求められるからです。

ですから、この授業の一番の目的は、「コンピュータが使えるようになること」ではありません。実践的な実務能力を身につけられるようになることです。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネット（インターネット）の技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。

情報処理の技術は日進月歩ですから、今あるコンピュータやネットの情報技術が使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ／ソフトウェア／サービスの「操作のやり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることが大切です。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時「検索して自力で調べられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ／ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。

同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。

＜オンラインでの開講について＞

前年度、前々年度は、初回到定員の倍以上の申込みがあったため、初回授業はオンラインとし、受講希望者多数の場合は適宜抽選等で人数を確定します（オンライン授業の方法や選抜方法や通知方法については、学習支援システムのお知らせを事前に確認してください）。また、受講希望者数が定員以下の場合でも、情報処理演習という授業の性格上、オンラインミーティングの技術について学習することは有意義であるため、学期中一部の授業はオンライン開講を行う可能性があります（その場合、前の週までには告知します）。

なお、今後、万が一インフルエンザやコロナ等の感染流行の再悪化やその他やむを得ない事情が起きた場合は、別途オンラインの開講もあり得ます。

ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、前述の目的が変わることはありません。

【到達目標】

Windows環境で基礎的なPCリテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。

大学の授業のレポートや卒論作成時に使えるOfficeソフト（Word・Excel・PowerPoint）やGoogleやCanva等のWebサービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。

またChatGPT等の生成AIの適切な利用方法についても、学習します。

同時に、最も大切なこととして、自分がやりたいことを実現するための操作方法を検索して、自力でできるように調べる技術を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

(1) テキストと毎回のレジュメをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。

(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。

(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。

時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的にはWebを利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身につくように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ Zoomの基本操作	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 自身のPCを使用する場合、使い方の確認。 WindowsPCの基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。
第2回	電子メールとネットの基本 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールやSNSとの比較。 USBメモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。 Webアンケートの作り方。
第3回	Webの仕組みと情報検索 クラウドの利用 生成AIについて(1)	Webの仕組みについて理解する。情報検索演習として、Webから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropbox等クラウドの利用と、注意点。 ChatGPT等生成AIの利用と、注意点。
第4回	生成AIについて(2) Word(1)	教科書によるネットリテラシーの復習。 引き続き生成AIの利用について。 Windowsの基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。

第5回	Word(2)	応用的な文章作成方法。 Wordで絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・ 脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excelでできることを知る（頭出し） 脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）
第6回	Word(3) Excel(1)	計算式や関数の基本的な使い方。見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。
第7回	Excel(2)	Excelでグラフを作成する。Excelの表やグラフをWordに貼り付ける。
第8回	Excel(3)	計算式や関数の応用的な使い方。Excelでのリスト管理（データベース）。Excelとワードの合わせ技（差し込み印刷）。プレゼンテーションソフト
第9回	Excel(4) PowerPoint(1)	PowerPointの基本操作。発表資料としてのPowerPointファイルの作成。簡易DTPとしてのPowerPointの利用。Canvaの利用。
第10回	PowerPoint(2)	Excel、Word、Powerpointを総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第11回	Officeソフト総合演習	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet
第12回	Officeソフトとその他のWebサービス、生成AI等の総合演習(1)	Excel、Word、Powerpointや、Canva、生成AI等を総合的に使用し、最終課題を行う。
第13回	Officeソフトとその他のWebサービス、生成AI等の総合演習(2)	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet
第14回	総合演習	Excel、Word、PowerpointやCanva、生成AI等を総合的に使用し、最終課題を行う。 授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・当授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
- ・次の授業に向けてのリーディング・アサイメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

- ・『学生・新社会人のための情報リテラシー入門』大間 哲 著 カットシステム（2025年）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック』<http://www.hoseikyoku.jp/lf/>（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。（ダウンロードをしておく必要はないが、授業時にパソコンから参照できるように、法政大学Web内で一度見つけて確認をしておくこと）

【参考書】

- ・『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第3版]』井下千以子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
- ・『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2024対応版-』矢野文彦 著 オーム社
（『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021対応版-』『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）

- ・『キャリアデザイン・就活のプロによるChatGPT徹底活用法: 就活生・就職担当者必携AIアシスト・キャリアデザイン』大間哲 著 カットシステム（定価：1540円）
- ・『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・ITエンジニア・SEのためのキャリアデザイン-』豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体1800円）

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代を含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加（配点比重 30%）
- ・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について0点。提出遅れは減点）（配点比重50%）
- ・総合課題（配点比重20%）

※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】

- ・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も行いたいと考えています。
- ・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
- ・『「月曜5限可哀想〜」と友人から言われても、『情報処理楽しいから良いんだ〜』と言いつくくらい楽しい授業でした』『この授業は、単にITだけでなく、学部で学ぶために必要なことが学べました』『学生の視点に立って接して下さり、とても嬉しかった』（授業アンケートより）。今年度は水曜4限・木曜3限・4限開講ですが、今年度も学生の皆さんがそう思ってくれるような、学生主体の視点で、楽しい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回参加時までに、このシラバスと、学習支援システムの「お知らせ」を良く読んでおくこと。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅から、ネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
- ・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、授業時に自身のパソコンを持参することを推奨する。
- ・当授業は、主に Windows11 のパソコンで行う。それ以外の OS（MAC、Linux等）でも大丈夫だが、OSによる若干の差異があることがある。
- ・自身のパソコンを持参できない場合は、大学でパソコンの貸し出し手続きをして持参すること。その場合、USBメモリー（8GB以上の容量のもの）を入手し、持参すること。

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・情報処理演習という授業の内容上、ChatGPT等生成AIの適切な利用法についても学習します。が、他の授業での生成AIの使用については、それぞれの授業の教員の指示に従ってください。
- ・定員超過の場合は抽選等で選抜をします。選抜に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。
- ・Q0301（水曜4限）、Q0303（木曜3限）、Q0305（木曜4限）は、授業内容は基本的に同一です。ただし、皆さんの学習の進度、理解度等に合わせ、内容に若干の修正・差異・授業内容の順序変更が生じる可能性はあります。また、履修登録者の学年や学習進度により、一部のクラスは、他のクラスより上級の内容に言及したいと考えています。（上級の内容に言及するのは、水4のQ0301を予定。ただし、履修登録者によってフレキシブルに対応します）。

・当授業は「実務経験がある教員による授業」です。教員は、20年間日本IBMに在籍し、システムエンジニア（特にネットワーク系）の経験があります。また、社内での専門職育成部門での経験もあるため、一般から先端までの技術をわかりやすく説明することに長けています。

【Outline (in English)】

[Course outline and Objectives]

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.

Mastering information technology is essential for university students, particularly for those in liberal arts fields like Career Design. Unlike students in fields focused on computational tasks, liberal arts students must use computers and internet tools as essential instruments to complement their broad knowledge base.

Students will learn basic computer, software, and web service operations needed for academic tasks, such as reports and theses. You will also develop skills in research, discussion, and presentation using information technology, providing a foundation for academic and professional success.

[Goals]

Students will acquire fundamental PC and internet literacy in a Windows environment. You will learn to use Office software (Word, Excel, PowerPoint), Google Web Services, and cloud tools for report and thesis preparation. You will also understand the appropriate use of generative AI tools like ChatGPT.

The most critical objective is to develop the ability to search for and learn necessary operations independently to achieve their goals.

[Learning activities outside of classroom (Preparation, etc.)]

Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.

- Allocate approximately 4 hours for preparation (2 hours) and review (2 hours) for each class.

- Submit assignments by the deadline and via the specified method.

- Reading assignments may be given; complete these before attending the next class.

[Grading Criteria /Policy]

Students are evaluated comprehensively based on participation, assignment submission, and effort. Beginners can achieve the course goals through active engagement and completing assignments, while advanced students can earn additional points for demonstrating excellence.

- Participation In class contribution:30%

- Submission of regular assignments (zero points for non-submission, penalties for late submissions): 50%

- Term-end assignment: 20%

** No final exam will be conducted.

PRI100LA (情報学基礎 / Principles of informatics 100)

情報処理演習

2017年度以降入学者

御園生 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日常で活かすIT】

コンピュータを日常の中でどのように活用し、大学での活動を豊かにしていくための実践的な技術・知識の習得を目指します。

以下の3点を授業の柱とします。

■動画作成をマスターしよう！

動画を通じて他者に自分の考えを伝えることとは？

ひとは何に注目するのか？

みるひと・聞く人の関心を引く動画をフリーソフトを利用してつくる

■オリジナルスタンプをつくってみよう！

コンピューターでデザインって難しいの？

自分の考え（アイデア）をカタチにする

自分だけのスタンプをつくってみよう

■エクセルのマスターになる

計算だけじゃない、エクセルの使い方～予測・分析

エクセルでプログラミング

パソコンの基本的操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受発信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に動画編集やプレゼンツール（DaVinci Resolve/パワーポイント）とドローソフト（Inkscape）の活用の実践を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する

③	パーソナルコンピュータ及びWindows-OSの基本的な取扱い方法について 電子メールの基礎と日本語入力方法～FEP活用の基礎理解 操作方法	OSの利用方法 メールアカウントの設定とメールソフトについて
④	アプリケーションソフト習得～MS Word (1)	基礎的な日本語入力 表組みと描画など
⑤	アプリケーションソフト習得～MS Word (2)	アウトラインプロセッサについて
⑥	パワーポイント活用	パワーポイントによるアニメーションを活用したプレゼン作成
⑦	動画ファイルの基礎と編集とDaVinci Resolve	動画ファイルのコンバート方法 やアプリの活用について
⑧	アプリケーションソフト習得～MS Excel (1)	エクセルの基礎的な画面構成の理解
⑨	アプリケーションソフト習得～MS Excel (2)	計算式と関数① 再計算機能と相対・絶対番地について
⑩	アプリケーションソフト習得～MS Excel (3)	計算式と関数② 条件判断関数の基本とその応用
⑪	アプリケーションソフト習得～MS Excel (4)	マクロ・VBA基礎
⑫	ドローイングソフト習得～inkscape①	ドローソフトの基本的構造とレイヤーの意味
⑬	ドローイングソフト習得～inkscape②	オリジナルスタンプを作ってみよう
⑭	プレゼンテーション～prezi	preziを使ったプレゼンテーションの作成～アカウント取得など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- ・情報における権利意識と保護意識の醸成 15%
- ・著作権・複製権などの権利関係に対する具体的な理解 15%
- ・授業毎に課す提出課題の提出度と完成度 70%

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【その他の重要事項】

履修に当たってはできればPCを所有していることが望ましいです。定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

[IT to utilize in daily life] We aim to acquire practical skills and knowledge for how to utilize computers in daily life and enrich activities at the university. The following three points are the pillars of the class.

■ Let's master video creation! What does it mean to convey your thoughts to others through videos? What do people pay attention to? It was Using free software to create videos that attract the attention of viewers and listeners.

■ Let's make an original stamp! Isn't it difficult to design with a computer? It was Shape your thoughts (ideas) Let's make your own stamp.

■ Become an Excel master How to use Excel, not just calculations-prediction / analysis Programming in excel Basic operations that are indispensable to the information-oriented society, such as the basic operation of personal computers and how to use application software, as well as the proactive transmission and reception of information using the Internet, the ability to utilize various media, and the development of information morals. We plan to put the acquisition of information literacy ability at the center of the lesson and try to develop the lesson according to the skill level of each student as much as possible.

【Learning Objectives】

We aim to acquire information literacy as an expression method as well as business-related. Especially for presentations, you will actually learn the actual specifications of video editing and presentation tools (DaVinci resolve / PowerPoint) and drawing software (Inkscape) by learning the theory and methodologies.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Fostering awareness of rights and protection in information 15%
- ・ Specific understanding of rights such as copyright and reproduction rights 15%
- ・ 70% of the degree of submission and completion of the submitted assignments imposed for each class

IDN100LA (アイデンティティ教育 / Identity studies 100)

大学を知らう <法政学>への招待 2017年度以降入学者待

小林 ふみ子、金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

2018年度までに「法政学への招待」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！みなさんのこの大学や学部がいつどのようになり、どうして作られたのか知ってみたいはありませんか？

この授業では、創立から146年めとなる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らのみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。【なお多くの学生さんに愛されてきたこの科目ですが、昨年度をもって閉講予定でしたが、一年のみ延長になりました。法政大学について学んでおきたい方は本年度中に履修してください】

【到達目標】

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・〈法政大学らしさ〉を考え、ここで学ぶ自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者2名のコーディネートののもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。

講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の学習支援システムのコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。（小倉淳一）
2	市民社会の開明とノンエリートの夢～法政大学と日本近現代史①	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（科目責任者＝金子匡良）
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約30年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡考）
4	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）

5	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）
6	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20世紀初頭の清国留学生受け入れに始まる本学の国際関係を、近隣のアジア諸国を中心に概観する。（高柳俊男）
7	校歌「よき師よき友つどひ結べり」	成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながらアカデミー合唱団のみなさんより歌唱指導を受ける予定。（児美川孝一郎）
8	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。（横内正雄）
9	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。 今年度は法学部を卒業後、いちどはアナウンサーになるも落語家転身された入船亭扇七さんをお呼びしています。
10	ユニークな研究所	多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
11	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した90年代以降の改革と、市ヶ谷に設置された国際文化・人間環境学部について学ぶ。（職員・各学部教員）
12	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑥、そして未来へ	前回に引き続き2000年代に市ヶ谷に設置されたキャリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）について学んだうえで、総長に本学の現在と未来の展望を聞く。（各学部教員・ダイアナ・コー総長）
13	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。（科目責任者＝小林ふみ子）
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。総長の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。（ダイアナ・コー総長、科目責任者＝小林）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。オープン6周年を迎えたHOSEIミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の学習支援システムのコメントにみえる取り組み70%、期末レポート30%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設16年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていこう努めます。みなさんにとって興味深く、楽しく、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、学習支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】

- ・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう1年次での履修を推奨します。2年生以上の受講ももちろん歓迎します。
- ・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to study for four hours before and after each class.

(Grading Policies) The final grade will be calculated based on the small report submitted in each class (70%) and the final report (30%).

IDN200LA（アイデンティティ教育 / Identity studies 200）	
法政学の探究 L B	2017年度以降入学者
サブタイトル：Hosei Studies LB	
北口 由望	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金5/Fri.5 単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「大学と地域」をテーマに、法政大学の歴史と文化に焦点をあてます。法政大学はなぜ市ヶ谷にあるのか、なぜ多摩や小金井にもキャンパスがあるのか。法政大学に通う学生として抱く疑問や関心について、日本近現代史や大学史などの学問的な観点から検証します。具体的なテーマとして、大学創立の地・東京神田、市ヶ谷キャンパスとその周辺（外濠・神楽坂）の歴史と文化、鉄道と郊外型キャンパスの形成、グラウンドと法政スポーツの隆盛、付属校の成り立ち、北軽井沢法政大学村と岩波文化などを挙げるができます。法政大学の歴史を通して、日本の近現代や大学の在り方を捉え直す機会となるでしょう。

また、HOSEI ミュージアムの展示コンテンツやデジタルアーカイブをはじめ、様々な資料から「法政学」を探究し、実践的な試みとして、ミュージアムでの小規模な発表会開催も検討します。

【到達目標】

1. 法政大学の歴史はもちろんのこと、日本近現代史や大学の歴史に関する基礎的な知識を得ることができます。
2. 身近なテーマを学問的な「問い」へと発展させる視野を養います。
3. 調査研究の前提となるテーマ設定の具体化や各種資料の調査方法・読解方法について学ぶことができます。
4. 演習形式が中心となるため、各学部の専門ゼミ履修への準備になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業計画に則り、講義形式と演習形式を組み合わせで進めます。第4回ではHOSEI ミュージアムで見学調査を行い、第7回では市ヶ谷キャンパスとその周辺地域を歩き、現在の大学と地域について議論します。なお、受講生は授業内で報告（1回）を行う必要があります。報告（発表）や質問、リアクションペーパー等に対するフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	本授業の目標、スケジュール等を説明します。
第2回	法政大学の歴史－東京法学社創立から戦前期まで－	法律学校時代から戦争の時代に至るまで、法政大学の歴史を主に「地域」の観点から振り返ります。
第3回	法政大学の歴史－戦後復興から現在まで－	戦後復興から現在に至るまで、法政大学の歴史を主に「地域」の観点から振り返ります。

第4回	HOSEI ミュージアムでの学び	HOSEI ミュージアムを訪問し、展示内容から法政大学に関わる様々なテーマについて知見を得ます。
第5回	デジタルアーカイブの使い方を学ぶ	HOSEI ミュージアム・デジタルアーカイブをはじめ、各種デジタルアーカイブの使用方法を学びます。
第6回	テーマ設定方法と報告の基礎を学ぶ	「問い」の立て方、テーマ設定の方法をはじめ、レジュメの作成やプレゼンテーション方法など、報告の基礎を学びます。
第7回	市ヶ谷キャンパスとその周辺を歩く	市ヶ谷キャンパスと、その周辺を歩き、現在の大学と地域について議論します。
第8回	法政大学草創期に関するテーマ設定と資料紹介	法政大学創立の地である東京神田や創立者の出身地について、科目担当者とともにテーマ設定を行います。
第9回	市ヶ谷キャンパスとその周辺に関するテーマ設定と資料紹介	市ヶ谷キャンパスと、外濠や神楽坂といった周辺地域について、科目担当者とともにテーマ設定を行います。
第10回	その他、大学ゆかりの地域に関するテーマ設定と資料紹介	多摩／小金井キャンパスや付属校、中野／川崎グラウンド、北軽井沢法政大学村など、大学ゆかりの地域について、科目担当者とともにテーマ設定を行います。
第11回	法政大学草創期をテーマとした報告	法政大学創立の地である東京神田や創立者の出身地について、受講者の報告を行います。
第12回	市ヶ谷キャンパスとその周辺をテーマとした報告	市ヶ谷キャンパス、そして外濠や神楽坂といった周辺地域について、受講者の報告を行います。
第13回	その他、大学ゆかりの地域をテーマとした報告	多摩／小金井キャンパスや付属校、中野／川崎グラウンド、北軽井沢法政大学村など、大学ゆかりの地域について、受講者の報告を行います。
第14回	映像上映と総括	HOSEI ミュージアムの映像シリーズ「法政大学の歴史・文化・個性」を鑑賞し、科目担当者による総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習では、HOSEI ミュージアムに展示されているコンテンツ、同デジタルアーカイブの調査や授業内で紹介された文献の読解を行います。復習では、毎回科目担当者が配布した資料とHoppiiにアップロードされた資料を読み直します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回、科目担当者が資料を配布します。

【参考書】

『法政大学八十年史』（1961年）、『法政大学百年史』（1980年）、『法政大学と戦後五〇年』（2004年）、『法律学の夜明けと法政大学』（1992年）、『都市と大学－法政大学から東京を見る〈増補改訂版〉』（2023年）、『法政大学と戦後80年－戦争と向き合い、平和を求める－』（2025年）、『HOSEI ミュージアム紀要』（2021年～2026年）

【成績評価の方法と基準】

平常点と授業内の報告（各50％）にて判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学部を超えた交流の機会となるよう、受講者が自由に発言できる「場」を形成したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

報告用のPCなどの機器は科目担当者が用意します。

【その他の重要事項】

関連科目「大学を知ろう <法政学>への招待」で学んだ内容を前提としますので、同科目の既修者か、それと同等の前提知識を得てから受講してください。後者の場合、大学公式HPに掲載されている「HOSEI MUSEUM」が参考になります。

【Outline (in English)】

This course explores the history and culture of Hosei University with the theme of "Universities and the Region.". We examine questions and interests in student life from an academic perspective. Students will learn the modern and contemporary history of Japan, the history of Universities through the history of Hosei University.

Please refer to the documents mentioned by the lecturer in the class. Also, please make use of the newly opened HOSEI Museum and Digital Archives for preparation and review. As a practical experiment, we will also consider holding a small exhibition.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Usual performance score: 50%、Classroom presentations: 50%

IDN200LA（アイデンティティー教育 / Identity studies 200）		2	世界を知りつくした 本学の祖 箕作麟祥	本学の前身である和仏法律学校初代校長の箕作麟祥は、明治期の有数の啓蒙家であった。彼は、洋学を学んで、西洋の法律や歴史を日本に紹介し、日本の「民権」のために活躍した。彼の仕事を振り返り、そこから学ぶものを探りたい。（南塚信吾）
法政学の探究 L A		2017年度以降入学者		
サブタイトル：人物で知る法政大学史				
高柳 俊男、北口 由望				
開講時期：秋学期授業/Fall		3	本学初代総理（総長） 梅謙次郎	「日本民法の父」といわれる梅謙次郎は、帝国大学法科大学教授のほかに、和仏法律学校の校長・初代の総理（総長）として講義のかたわら本学の経営に尽力した。梅の50年の人生を追いながら、「清国留学生法政速成科」の設置など本学との関係を語ろう。（岡孝）
単位数：2単位		4	野上豊一郎と能楽研究	夏目漱石門下の英文学者で、能楽研究者でもある野上豊一郎。その名を冠する本学能楽研究所は、現在、国内外の能楽研究の拠点となっている。作品・能面・翻訳など多岐に亘る能楽研究の事績を辿りつつ、彼を魅了した能楽についても知る。（深澤希望）
その他属性：〈優〉		5	内田百閒は「教え子」 が嫌い	大正末期と昭和に二度法政大学の教壇に立った作家内田百閒。北村猛徳、大井征、中野勝義など、激動期を生きぬいた愛弟子達との師弟関係は、まさに一篇の「名作」であった。彼の作品を読み解く。（山本一生）
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		6	「不安の時代」を代表 する思想家 三木清	西田幾多郎を中心とする「京都学派」随一の俊才とされ、昭和前期のアカデミズムとジャーナリズムの双方で幅広く活躍しながら、第2次大戦直後に悲劇的な獄死をとげた哲学者・三木清の生涯と思想を紹介・検討する。（衣笠正晃）
この授業は、「大学を知ろう <法政学>への招待」（旧科目名「法政学への招待」）をすでに受講し、法政大学が経てきた150年近い歴史と現状について一通りの理解をもつ学生を主対象にして、法政大学についてより深く考える発展科目として設置されました。		7	夏目漱石門下生たちに 学んで作家になった 椋鳩十	伊那谷出身の椋鳩十（本名：久保田彦穂）は、とくに動物物語の作者として広く知られる。初の詩集を出し、学生結婚もした法政大学時代をはじめ、戦前戦後にわたる椋の歩みを時代の中で振り返る。（高柳俊男）
「大学を知ろう <法政学>への招待」における学習を前提に、本授業では、法政大学で教えた教員や、学んだ学生を具体的に取り上げます。教員の場合なら、その人物が法政大学でどういう教育研究に携わったのか、そのことで本学や社会の発展にいかに関与できたのか、などを追います。卒業生の場合なら、本学で何を学んだのか、あるいは学んだことをその後の本人の人生や、社会に向けてどう役立てたか、などについて探究することになるでしょう。		8	戦争の中を生きた学 友たち～久納好孚を 例に	終戦直前のわずか10ヶ月足らずの間に5,845名もの戦死者を出した「特攻」。その第一号となったのが、本学に学んだ学友の一人・久納好孚であった。彼はなぜ「特攻」を志願したのか。その短い生涯を辿りながら、戦前戦中の本学の歴史と学友たちの生きざまを追体験してみたい。（鈴木靖）
法政大学ゆかりの特定の人物を詳しく追うことで、「自由と進歩」の理念や、時代のフロントランナー養成を掲げる本学の歴史と現在を、より具体的に理解できるようになるはずです。		9	城戸幡太郎、波多野 完治、宮原誠一、乾 孝～生涯学習の時代 を切り拓いた人々	戦前の法政大学高等師範部教授の城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一らは、本学を舞台に教育科学研究会や保育問題研究会を組織したが、そのねらいは現場の教員と研究者とが共同して教育実践を研究することにあった。キャリアデザイン学部へと引き継がれるこの伝統を明らかにしたい。（笹川孝一）
【到達目標】				
本学の経てきた道を、具体的な人物に即して、実証的・実感的に把握できることを目指します。時代の大きな流れの中で、本学ゆかりのその人物が何に興味をもち、どんな活動をし、何を目指し、何に悩んだかなどを、受講生個々人の知性と感性で感じられるようにします。それを、自分の学生生活や将来像へとつなげて考える契機を得よう努めます。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture				
【授業の進め方と方法】				
科目責任者の教員2名が毎回同席し、授業をコーディネートします。講義は、各回のテーマに最適な本学内外の講師陣（科目責任者を含む）が、分担して担当します。				
授業の最後に毎回、リアクションペーパーに感想や質問を書いてもらいます。それに対する講義担当者のコメントを入れた「授業通信」を作成し、次週の冒頭で解説するなど、参加型・双方向型授業になるよう努めます。				
対面を基本としますが、講師の都合等により他の形式で行う回が生じた場合は、事前にお知らせします。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	導入	この授業の狙いや、全体の構成について説明する。 あわせて、本学の経てきた歴史の概略を、映像も使いながら復習する。（科目責任者=高柳俊男、北口由望）		

10	「女性である前にまず人間であれ」 野上弥生子と法政大学	日本を代表する作家野上弥生子。法政大学女子高等学校名誉校長もつとめた弥生子は、同校の生徒たちに「女性である前にまず人間であれ」という言葉をのこした。弥生子の思想と人物像を探るとともに、その日記に記された法政大学の逸話を紹介する。(古俣達郎)
11	校舎と建築学科の礎を築いた建築家 大江宏	法政大学の幾つもの校舎を設計し、また教育者として建築学科の礎を築いた建築家・大江宏(1913～89年)。残された建築と資料を参照しながら、その思想と足跡に迫る。(藤本貴子)
12	高度経済成長と戦後思想の変容－藤田省三の射程	「焼け跡・闇市」の原風景から出発した日本の「戦後」は、政治的安定化と経済的繁栄とともに劇的に変わって行く。そのなかで行われた戦後思想の変容について、思想家藤田省三(1927-2003)の議論を中心に考察する。(趙星銀)
13	法政スポーツの伝統を探る	法政スポーツは100年以上の歴史をもつ。HOSEIミュージアムで開催された展示「HOSEIスポーツの原点」をもとに、その歴史と伝統を振り返る。(北口由望)
14	学生の目と教員の目から見る法政大学	学生として本学で学び、のちに本学で教えるに至った方を授業にお招きし、2つの立場から見た法政大学について体験的に語っていただき、授業全体のまとめとする。(根崎光男、明田川融)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講師が授業内で言及した文献は、積極的に参照してください。また、2020年に開館したHOSEIミュージアムの展示、および同ミュージアムデジタルアーカイブ (<https://museum.hosei.ac.jp/archives/Users/Top>) には、授業で取り上げた人物や事象に関するコンテンツが豊富に含まれていますので、準備学習・復習に活用してください。

その他、授業に関連する特別展示などが学内外で開催される場合には、随時お知らせしますので、極力足を運んでみましょう。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。毎回の講義担当者が適宜、プリント配付やパワーポイント提示を行います。それらを基本的に、学習支援システム上にアップします。

【参考書】

各講義担当者が、その都度お知らせします。

本学の歴史を通史的にまとめた書籍には、『法政大学1880-2000：そのあゆみと展望』のほか、『法政大学参拾年史』『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。図書館などで適宜参照してください。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40%、学期末のレポート 60%を基準にして、総合的に評価します。受講者数によっては若干の変更があるかもしれませんが、その場合は授業の場（もしくは学習支援システム上）でお知らせします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

なお、レポートの作成に際しては、典拠となる文献に必ず当たり、実証的な内容になるよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

法政大学の経てきた歴史や、その中での人物について、ただ賛美するような授業ではありません。あくまでも実証的・学術的でありながら、同時に本学で学ぶ自分自身の生き方の参考になるような、意義ある授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。学習支援システムを積極的に活用します。

【その他の重要事項】

上述のように、本科目は「大学を知ろう <法政学>への招待」の上位科目として設置されました。したがって、本来は同科目を履修した人を受講者に想定していますが、受講していない人を拒むものではありません。未修の方は、上記した参考書などを参照に、自分なりに基礎知識を得て、授業についていけるよう努めてください。

なお、現在3つある「法政学」科目の見直しが大学によって進められており、いまの形式での授業は今年度が最後となる可能性が大了。

【Outline (in English)】

This intermediate class aims to explore the history and the spirit of Hosei University, by following the achievements and personality of several specific individuals.

Please refer to the documents mentioned by the lecturer in the class. Also, please make use of the newly opened HOSEI Museum and Digital Archives for preparation and review.

Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, and term-end report 60%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)		④	老馬の事・坂落しの事	平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落しと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。
日本古典文学A		⑤	忠度の最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
サブタイトル：中世文学を読み解く		⑥	敦盛最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
表 きよし		⑦	逆櫓の事	四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発する様子や、大坂の港での逆櫓設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火4/Tue.4 単位数：2単位 この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。 その他属性：〈優〉		⑧	大坂越の事・嗣信最期の事	四国の阿波に上陸した義経が陸路を通して屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。		⑨	那須与一の事	夕刻となって戦いが中断となり、そんな時に平氏が扇の的を船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
【到達目標】 『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。		⑩	壇の浦合戦の事・遠矢の事	最後の合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目前にしての義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		⑪	先帝御入水の事	阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安徳天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		⑫	能登殿最期の事	入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
【授業の進め方と方法】 『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回1～2段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。 授業の最後のリアクションペーパーを提出してもらう。多くの人から質問があった事柄については次回の授業の中で回答する。		⑬	腰越の事	平氏を滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがついに許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		⑭	平重衡・六代御前・建礼門院	一の谷合戦で生け捕りとなった平重衡、平氏嫡流の子である六代御前、壇の浦合戦で入水するも救出された建礼門院という平氏滅亡後も生き残った人々に注目し、それぞれがどのような人生を辿ったかを見ていく。
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらう。		
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後まで話の展開を説明する。どのような出来事が起きるかを把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらう。		
③	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる段に必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおよその内容を把握するように心がける。復習として、授業内容をしっかり再確認し、わからなかった部分はまず自分で調べてみる。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。各回の授業に必要な『平家物語』の本文を記載したプリントを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004年。
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014年。
日下力『平家物語転読』笠間書院。2006年。
山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。2012年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの点数（50％）と期末試験の点数（50％）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

『平家物語』は登場人物が多彩なため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Read the "The Tale of the Heike" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.

【Learning Objectives】

You can understand and explain the individuality of various characters in "The Tale of the Heike", the contents of events such as various battles, and the characteristics of the work "The Tale of the Heike". You can enjoy the fun of classical literary works.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, be sure to read the stages covered in the class in advance to see what kind of content is written and whether there are any parts that are difficult to understand. Try to grasp the approximate contents of the steps that cannot be taken up in the class. As a review, reconfirm the content of the lesson, and first try to find out what you did not understand. Many commentary books on "The Tale of the Heike" have been published, so reading them will reinforce your knowledge of "The Tale of the Heike". The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Gradeing Policy】

Comeprehensive score of the assignment report (50%) submitted after each class and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the theme of "The Tale of the Heike". And evaluate the grade.

LIT100LA（文学 / Literature 100）		④	伊勢三郎との出会い	関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家に泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。
日本古典文学B		2017年度以降入学者		
サブタイトル：中世文学を読み解く		⑤	義経と兵法書	奥州平泉に身を落着けた義経だが、平氏の情報を入手するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
表 きよし		⑥	弁慶の誕生と成長	弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となってからも暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火4/Tue.4 単位数：2単位 その他属性：〈優〉		⑦	義経・弁慶の出会い	京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。		⑧	義経・弁慶の主従契約	清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶の主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。
【到達目標】 義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。		⑨	頼朝からの刺客	平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入らず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		⑩	義経・弁慶の都落	鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		⑪	静との別れ	義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
【授業の進め方と方法】 授業計画に示したように、毎回テーマを決めて授業を行う。源義経や弁慶をめぐる出来事が文学作品にどのように描かれているか確認しながら、それぞれの話の特色を理解していく。 授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。多くの人から質問があった事柄については次回の授業の中で回答する。		⑫	義経・弁慶の北国落	吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		⑬	義経・弁慶の最期	奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		⑭	その後の義経伝説	義経自害の後の十郎権頭兼房の奮戦や奥州藤原氏滅亡の様子を確認する。義経が自害せずに平泉を抜け出し、東北から北海道、さらには中国大陸へ渡ったとする伝説が存在することも紹介する。
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。		
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。		
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。復習として、授業の中で疑問に思った事について自分なりに調べてみる。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。各回の授業に必要な古典文学作品の本文を記載したプリントを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

岡見正雄校注『日本古典文学大系・義経記』岩波書店。1959年。
梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの点数（50％）と期末試験の点数（50％）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.

【Learning Objectives】

Be able to understand, and explain the contents of Yoshitsune and Benkei legends. You can think about how people thought about creating and spreading these legends, and enjoy the fun of classical literature and entertainment.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, read the prints carefully in advance to understand the approximate contents of the stories to be taken up in class. As a review, I will try to find out what I wondered in class. Many books on Minamoto no Yoshitsune have been published, so read some of them so that you can understand the situation of Yoshitsune and Benkei from various angles. The standard preparation / review time for this lesson is 4 hours per lesson.

【Grading Policy】

The score of the assignment report submitted after each class (50%) and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the Yoshitsune legend by setting its own theme are combined. Perform grade evaluation.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本古典文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：『源氏物語』桐壺巻を読む

園 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『源氏物語』といえば、おそらく多くの人が「絶世の美男子・光源氏が多くの女性と恋愛遍歴を重ねていく物語」というイメージを持っているように感じる。

しかし、なぜ光源氏が多く恋を重ねるようになったのかについては、意外に知られていないのではないだろうか。

本授業では、『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の読解を通して、この物語の発端がいかなるものなのかを理解するとともに、この巻の持つ54巻という長大な物語を牽引する力について考えてみる。

【到達目標】

『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の本文を物語の展開に沿って紹介し、主人公・光源氏の人生の発端がいかなるものであったのか、また、『源氏物語』が描こうとしたものは何であったのかを考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。

なお、毎回コメントが記入できる形式の出席カード（リアクションペーパー）を配布し、寄せられたコメントの内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	『源氏物語』の発端	光源氏の誕生
③	制度と感情の板挟み	源氏の母の立場の弱さ
④	愛ゆえの悲劇	源氏の母の死
⑤	それぞれの思い	源氏の母の葬送
⑥	帝の使者の弔問	源氏の祖母の嘆き
⑦	二人の語らい	哀惜と後悔と
⑧	使者の報告	更衣の実家を思いやる帝
⑨	深まる帝の悲嘆	更衣の形見を見て
⑩	「長恨歌」との関わり	楊貴妃と更衣の比較
⑪	成長する源氏	並はずれた美貌と才能
⑫	新しいキサキ	運命の女性・藤壺登場
⑬	新たな局面へ	源氏の元服と結婚
⑭	藤壺への思慕	満たされぬ想い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、配布資料を再読して理解を深め、次のストーリー展開といかに関わりを持つのかを自分なりに考えてみる。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、毎回必要な資料をプリントにして配布する。

【参考書】

新編日本古典文学全集『源氏物語』①（小学館）

新日本古典文学大系『源氏物語』①（岩波書店）

新潮日本古典集成『源氏物語』①（新潮社）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容（設定したテーマに対して、自己の考えが明確に示されているか否か）によって評価する（90%）。平常点（リアクションペーパーへのコメント内容）は最終評価の参考とする（10%）。ただし、出席率が60%に満たない場合は評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどのようなことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回フィードバックの時間を設け、リアクションペーパーに記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった」「理解が深まった」などという意見も多数見られた。

さらに、古典を読むことを通して、かえって現代社会における問題への考えが深まり、関心が広がるという側面も見られた。

したがって、これからもフィードバックの時間を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】

This course introduces to the first volume of the Tale of Genji students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about the beginning of The of Genji.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

Grading Criteria /Policy:

Essay 90%, Presentations and class participation 10%

Learning activities outside of classroom;

Students are required to review each class using handouts. If there remain any parts they cannot understand, they should ask questions in the next class.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：『和泉式部日記』を読む

園 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

和泉式部は、平安時代の有名女流歌人の一人で、『紫式部日記』にもその名が見える人物であるが、清少納言や紫式部に比べると、知名度は劣るかもしれない。

しかしながら、この女性はいわゆる「恋多き女」として有名で、藤原道長にも「浮かれ女」と呼ばれたという。これは、現代における恋愛に対する意識ともつながるものであろう。

この授業では、『和泉式部日記』と『和泉式部集』をはじめとする文学作品を通して、和泉式部という一人の女性の人生を理解することを目的とする。

【到達目標】

『和泉式部日記』・『和泉式部集』をはじめとして、和泉式部にまつわるエピソードを載せる文学作品の記事を読むことで、和泉式部という女性の人生のさまざまな側面を考えるとともに、現代とは異なる平安時代の身分制度や婚姻の慣習等についても理解してゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。

なお、毎回コメントが記入できる形式の出席カード（リアクションペーパー）を配布し、寄せられたコメントの内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の進め方と概説
②	師宮敦道親王からの手紙	二人のなれそめ
③	深まる交流	恋の進展
④	愛と不信と	噂に惑わされる師宮
⑤	揺れ動く二人の関係	再燃する愛情
⑥	波乱の兆し	宮邸入りの誘い
⑦	拗れる人間関係	宮邸に迎えられて
⑧	日記の結末	師宮の正妻の退去
⑨	二人の恋に対する世間の目	『大鏡』が語る和泉式部
⑩	師宮亡き後の和泉式部	『和泉式部集』にうかがえる和泉式部の思い
⑪	最後の男・藤原保昌	『古本説話集』等が語る和泉式部
⑫	「母」としての和泉式部	『栄花物語』が語る和泉式部「母」

⑬ 和泉式部への後世の 『無名草子』の和泉式部評

⑭ ままとめと解説 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、配布資料を再読して理解を深め、次のストーリー展開といかに関わりを持つのかを自分なりに考えてみる。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、毎回必要な資料をプリントにして配布する。

【参考書】

新編日本古典文学全集『和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記』（小学館）

角川ソフィア文庫『和泉式部日記』（角川書店）

新潮日本古典集成『和泉式部日記 和泉式部集』（新潮社）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容（設定したテーマに対して、自己の考えが明確に示されているか否か）によって評価する（90%）。平常点（リアクションペーパーへのコメント内容）は最終評価の参考とする（10%）。ただし、出席率が60%に満たない場合は評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回フィードバックの時間を設け、リアクションペーパーに記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった」「理解が深まった」などという意見も多数見られた。

さらに、古典を読むことを通して、かえって現代社会における問題への考えが深まり、関心が広がるという側面も見られた。

したがって、これからもフィードバックの時間を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】

This course introduces to Izumi Shikibu students taking this course. (Izumi Shikibu is one of the famous lady poets of the Heian period.)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about Izumi Shikibu.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

Grading Criteria /Policy:

Essay 90%, Presentations and class participation 10%

Learning activities outside of classroom;

Students are required to review each class using handouts. If there remain any parts they cannot understand, they should ask questions in the next class.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本古典文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：伊勢物語を読む 業平の恋を中心に

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する2つのジャンルについて、考察する。また1000年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

【到達目標】

和歌という31文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受する。

現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 学習支援システムを使ってオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	伊勢物語の時代背景、歌物語とはなにか。
2	初段・125段	主人公在原業平の生涯。成人と終末。成人儀礼の意味
3	高子との恋①3段から6段	禁断の恋。藤原氏との出自と政治的関わりとの対立
4	高子との恋②3段から6段	史実とイメージの変化。歌物語が求めるイメージとは何か。
5	東下り①7段から9段	東下りの意味。貴種流離譚の系譜から考える。
6	東下り②7段から9段	都誇りの精神、万葉集大伴旅人の望郷歌との比較

7	斎宮との恋①69段から71段	斎宮とは何か。神聖さと禁忌。禁忌を越えようとする人物像とは。
8	斎宮との恋②69段から71段	高子との恋との違い。禁断と禁忌のイメージ。
9	惟喬親王との関わり①82段83段、85段	政治と友情の関係
10	惟喬親王との関わり②82段83段、85段	非主流派のつながりと悲しみ。享受者の共感。
11	高子との恋③65段、76段、95段	フィクション化していく恋物語。物語への接近。
12	古今集との関わり60段、106段	共通する歌の扱いの比較。歌集と歌物語の関係。伊勢物語は何を重視したのか
13	業平の風流とは	人々が業平に求めたもの。万葉集、大伴田主との比較
14	テスト	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌に目を向ける意識を持ってほしい。奈良時代から平安時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫「新版 伊勢物語」石田譲二 角川書店 792円

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上」阿部俊子

講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下」阿部俊子

角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 伊勢物語」坂口由美子

「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院

高校時代の日本史の年表

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト(持ち込み可)を行う。このテストが評価のほぼ100%。

評価のポイント、設定された問題テーマについて作品の表現の読解をふまえて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。

ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。また、大人数の授業となった場合など、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、できれば学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

● Outline and objectives

We will read the story of Ise, which is a song story of the Heian period, along with the life of Ariwara no Narihira, who is the main character, especially in the chapter of love. Through this, we will consider the two genres that represent literature, waka and narrative, and at the same time, read the movements of people over 1000 years ago and think about the value and meaning of literature.

Understand and enjoy the world of Uta Monogatari, which was established from the desire to read the thoughts contained in the short 31-character form of Waka and convey information that does not fit in it.

I would like to consider the differences and connections with the modern novel-centered literature. It was

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.

Lecture format using texts with modern translations.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.

Expect a non-passive, class participation attitude.

I want you to be conscious of paying attention to the waka poems that remain in modern life, such as Hyakunin Isshu.

Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Heian period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

At the end of the semester, a essay test (possible to bring in) will be held on the problem themes announced in advance. This test is almost 100% of the evaluation.

The point of evaluation is whether the set problem theme is considered in one's own way based on the reading comprehension of the expression of the work, whether it is logically stated, and whether it can be expressed in sentences that are easy for others to read. The main point is that.

However, attendance will be taken each time, and 50% or more of the attendance will be eligible for the test.

●Learning Objectives

Understand and enjoy the world of narrative poems that arose from the desire to read the emotions embedded in the short 31-character form of waka and to convey information that could not be fully contained within it. I also want to examine this with a perspective that considers the differences and connections with contemporary literature, which is primarily novel-focused. The goal is to develop an appreciation for the fact that even in classical literature, which can seem remote when it comes to classical Japanese, there are aspects that can resonate with us today, while also acquiring knowledge of literary history and enhancing interest in and understanding of Japanese culture.

●Learning activities outside of classroom

I hope you develop an awareness of paying attention to waka poetry that remains in modern life, such as the Hyakunin Isshu. Reviewing Japanese history from the Nara period to the Heian period at a high school Japanese history level will make it easier to understand the historical context. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

●Grading Criteria /Policy

In the final class, a written test (open-book allowed) will be conducted on the problem theme that was announced in advance. This test accounts for almost 100% of the evaluation. The main evaluation points are whether the student has considered the set problem theme based on an understanding of the work's expression, whether this consideration is presented logically in writing, and whether it can be expressed in a way that is easy for others to read. However, attendance is taken every class, and students must have at least 50% attendance to be eligible to take the test.

LIT100LA (文学 / Literature 100)	
日本古典文学B	2017年度以降入学者
サブタイトル：伊勢物語を、特に享受の視点から読む	
成島 知子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水1/Wed.1	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化しながら受け継がれていくかを、特に大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という2面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使っの講義形式。
テキスト以外の作品を扱う時には資料として配布。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・背景の説明 学習支援システムを使っのオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	作品理解のため平安時代当時の制度、和歌、歌物語とはどういうものか等の背景説明
第2回	筒井筒 24段	幼馴染との初恋の成就という現一夫多妻制度下の理想の恋とは
第3回	紀有常との友情 16段38段	筒井筒との関係から、男性貴族同士の関係性、そこから見える業平像を読み取る。
第4回	大和物語「沖つ白波」①	筒井筒からの変化。業平という縛りが無くなった物語の変化。現実味への興味

第5回	大和物語「沖つ白波」②	筒井筒の理想に対してリアルな追求。
第6回	堤中納言物語「灰炭」 純愛譚からおこ話へ変容。	次代の変化による享受者の興味の変化を考える
第7回	能「井筒」時代をへても演劇に抽出される要素とはなにか	演劇としての抽出。理想が、幻として演じられることの意味
第8回	母との関わり 伊勢物語58段 84段	主人公の出自の意味。大和物語「ならのみかど」との関わり
第9回	兄行平の造形 伊勢物語79段、87段、101段	家族との関わり、政治的な立ち位置の違う業平との対比。
第10回	能「松風」 業平の陰に隠れる存在の兄にスポットをあてる作品がなぜ生み出されるのか	業平の兄として行平像の変容。源氏物語の光源氏像との関わり
第11回	業平の死 125段	死の描き方。伊勢物語と大和物語との比較
第12回	業平不在の章段 24段 梓弓「待つ」女性の造形	通い婚制度の中、享受者の多くを占める女性の想いを考える。
第13回	伊勢物語の影響と価値	日本文化における伊勢物語とはどのような意味があり、影響があったのか
第14回	レポート提出	伊勢物語、もしくはその享受についてのレポート提出。提出時に論文の形式等についての指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビなどで能が放送されるときに、興味をもって見ていると、イメージがしやすいと思う。
奈良時代から室町時代くらいまでの日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫 新版伊勢物語 石田穰二 792円
伊勢物語以外の、大和物語、能を扱う時には、授業時にプリントでの配布を行う。

【参考書】

「伊勢物語 笠間文庫—原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 上巻」雨海博洋 岡山美樹
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 下巻」雨海博洋 岡山美樹
「マンガ能百番」渡辺睦子 平凡社
「まんが日本の古典 堤中納言物語」坂田靖子 中央公論社
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時に学期末のレポートを紙で提出。
伊勢物語や、その享受、その後の作品について、自分なりに設定したテーマで、4000字相当のもの。これがほぼ評価の100%。
作品の表現に対しての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。

また、大人数の授業の場合などではディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

[Outline (in English)]

● Course outline

We read the story of Ise, focusing on the chapters that have a remarkable influence on later literary works. While comparing how things of the same subject change with Yamato Monogatari and Noh's works, we will consider the position and value of Ise Monogatari in Japanese literature and culture.

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.

We will also find out the relationship between the enjoyment of literary works and the creation of new literary works.

While being influenced by the times when literary works were established, the state of contemporary literature is also based on the two aspects of the value that can be understood beyond the times and the understanding and enjoyment of works that are deepened by understanding the times. I want to think in view.

Lecture format using texts with modern translations.

Distributed as materials when dealing with works other than texts.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.

Expect a non-passive, class participation attitude.

When Noh is broadcast on TV, I think it's easy to create an image if you are interested in watching it.

Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Muromachi period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Report at the end of the semester submitted at the time of the final class.

A theme that I set for myself about the story of Ise, its enjoyment, and the works that followed, and is equivalent to 4000 characters. This is almost 100% of the evaluation.

An important evaluation criterion is whether the expression of the work is properly read and the thoughts are expressed in logically easy-to-understand sentences.

Attendance is taken every hour, and more than half of the attendance is eligible for report submission.

● Learning Objectives

The goal is to develop an appreciation for the interest that classical literature, which is often thought of as distant, can have for us today, while also acquiring knowledge of literary history and enhancing our interest and cultural literacy in Japanese culture. We aim to explore the relationship in which new literary works are created from the enjoyment of existing ones. While considering the influence of the era in which a literary work was created, we want to take into account its value that transcends time, as well as the deeper understanding and enjoyment that come from understanding that era, and think about the nature of contemporary literature as well.

● Learning activities outside of classroom

When Noh is broadcast on TV or elsewhere, I think it's easier to form an image of it if you watch with interest. Reviewing Japanese history from the Nara period to around the Muromachi period at a high school level makes it easier to understand the historical background. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

● Grading Criteria /Policy

Submit the end-of-term report on paper during the last class. The report, around 4,000 characters, should be based on a theme you set yourself and cover The Tales of Ise, its reception, and subsequent works. This account for almost 100% of the evaluation.

An important evaluation criterion is whether you appropriately interpret the expression in the works and clearly present your own thoughts in a logical manner.

Attendance is taken every class, and submitting the report requires attending more than half of the sessions.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本古典文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：伊勢物語を読む 業平の恋を中心に

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する2つのジャンルについて、考察する。また1000年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

【到達目標】

和歌という31文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受する。

現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 学習支援システムを使ってオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	伊勢物語の時代背景、歌物語とはなにか。
2	初段・125段	主人公在原業平の生涯。成人と終末。成人儀礼の意味
3	高子との恋①3段から6段	禁断の恋。藤原氏との出自と政治的関わりとの対立
4	高子との恋②3段から6段	史実とイメージの変化。歌物語が求めるイメージとは何か。
5	東下り①7段から9段	東下りの意味。貴種流離譚の系譜から考える。
6	東下り②7段から9段	都誇りの精神、万葉集大伴旅人の望郷歌との比較

7	斎宮との恋①69段から71段	斎宮とは何か。神聖さと禁忌。禁忌を越えようとする人物像とは。
8	斎宮との恋②69段から71段	高子との恋との違い。禁断と禁忌のイメージ。
9	惟喬親王との関わり①82段83段、85段	政治と友情の関係
10	惟喬親王との関わり②82段83段、85段	非主流派のつながりと悲しみ。享受者の共感。
11	高子との恋③65段、76段、95段	フィクション化していく恋物語。物語への接近。
12	古今集との関わり60段、106段	共通する歌の扱いの比較。歌集と歌物語の関係。伊勢物語は何を重視したのか
13	業平の風流とは	人々が業平に求めたもの。万葉集、大伴田主との比較
14	テスト	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌に目を向ける意識を持ってほしい。奈良時代から平安時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫「新版 伊勢物語」石田譲二 角川書店 792円

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上」阿部俊子

講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下」阿部俊子

角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 伊勢物語」坂口由美子

「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院

高校時代の日本史の年表

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト(持ち込み可)を行う。このテストが評価のほぼ100%。

評価のポイントは、設定された問題テーマについて作品の表現の読解をふまえて自分なりに考察し、それが論理的にの論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。

ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。また、大人数の授業となった場合など、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、できれば学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

●Outline and objectives

We will read the story of Ise, which is a song story of the Heian period, along with the life of Ariwara no Narihira, who is the main character, especially in the chapter of love. Through this, we will consider the two genres that represent literature, waka and narrative, and at the same time, read the movements of people over 1000 years ago and think about the value and meaning of literature.

Understand and enjoy the world of Uta Monogatari, which was established from the desire to read the thoughts contained in the short 31-character form of Waka and convey information that does not fit in it.

I would like to consider the differences and connections with the modern novel-centered literature. It was

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.

Lecture format using texts with modern translations.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.

Expect a non-passive, class participation attitude.

I want you to be conscious of paying attention to the waka poems that remain in modern life, such as Hyakunin Isshu.

Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Heian period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

At the end of the semester, a essay test (possible to bring in) will be held on the problem themes announced in advance. This test is almost 100% of the evaluation.

The point of evaluation is whether the set problem theme is considered in one's own way based on the reading comprehension of the expression of the work, whether it is logically stated, and whether it can be expressed in sentences that are easy for others to read. The main point is that.

However, attendance will be taken each time, and 50% or more of the attendance will be eligible for the test.

●Learning Objectives

Understand and enjoy the world of narrative poems that arose from the desire to read the emotions embedded in the short 31-character form of waka and to convey information that could not be fully contained within it. I also want to examine this with a perspective that considers the differences and connections with contemporary literature, which is primarily novel-focused. The goal is to develop an appreciation for the fact that even in classical literature, which can seem remote when it comes to classical Japanese, there are aspects that can resonate with us today, while also acquiring knowledge of literary history and enhancing interest in and understanding of Japanese culture.

●Learning activities outside of classroom

I hope you develop an awareness of paying attention to waka poetry that remains in modern life, such as the Hyakunin Isshu. Reviewing Japanese history from the Nara period to the Heian period at a high school Japanese history level will make it easier to understand the historical context. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

●Grading Criteria /Policy

In the final class, a written test (open-book allowed) will be conducted on the problem theme that was announced in advance. This test accounts for almost 100% of the evaluation. The main evaluation points are whether the student has considered the set problem theme based on an understanding of the work's expression, whether this consideration is presented logically in writing, and whether it can be expressed in a way that is easy for others to read. However, attendance is taken every class, and students must have at least 50% attendance to be eligible to take the test.

LIT100LA (文学 / Literature 100)	
日本古典文学B	2017年度以降入学者
サブタイトル：伊勢物語を、特に享受の視点から読む	
成島 知子	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化しながら受け継がれていくかを、特に大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という2面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。
テキスト以外の作品を扱う時には資料として配布。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・背景の説明 学習支援システムを使つてのオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	作品理解のため平安時代当時の制度、和歌、歌物語とはどういうものか等の背景説明
第2回	筒井筒 24段	幼馴染との初恋の成就という現一夫多妻制度下の理想の恋とは
第3回	紀有常との友情 16段38段	筒井筒との関係から、男性貴族同士の関係性、そこから見える業平像を読み取る。
第4回	大和物語「沖つ白波」①	筒井筒からの変化。業平という縛りが無くなった物語の変化。現実味への興味

第5回	大和物語「沖つ白波」②	筒井筒の理想に対してリアルな追求。
第6回	堤中納言物語「灰炭」 純愛譚からおこ話へ変容。	次代の変化による享受者の興味の変化を考える
第7回	能「井筒」時代をへても演劇に抽出される要素とはなにか	演劇としての抽出。理想が、幻として演じられることの意味
第8回	母との関わり 伊勢物語58段 84段	主人公の出自の意味。大和物語「ならのみかど」との関わり
第9回	兄行平の造形 伊勢物語79段、87段、101段	家族との関わり、政治的な立ち位置の違う業平との対比。
第10回	能「松風」 業平の陰に隠れる存在の兄にスポットをあてる作品がなぜ生み出されるのか	業平の兄として行平像の変容。源氏物語の光源氏像との関わり
第11回	業平の死 125段	死の描き方。伊勢物語と大和物語との比較
第12回	業平不在の章段 24段 梓弓「待つ」女性の造形	通い婚制度の中、享受者の多くを占める女性の想いを考える。
第13回	伊勢物語の影響と価値	日本文化における伊勢物語とはどのような意味があり、影響があったのか
第14回	レポート提出	伊勢物語、もしくはその享受についてのレポート提出。提出時に論文の形式等についての指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビなどで能が放送されるときに、興味をもって見てみると、イメージがしやすいと思う。
奈良時代から室町時代くらいまでの日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫 新版伊勢物語 石田穰二 792円
伊勢物語以外の、大和物語、能を扱う時には、授業時にプリントでの配布を行う。

【参考書】

「伊勢物語 笠間文庫—原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 上巻」雨海博洋 岡山美樹
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 下巻」雨海博洋 岡山美樹
「マンガ能百番」渡辺睦子 平凡社
「まんが日本の古典 堤中納言物語」坂田靖子 中央公論社
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時に学期末のレポートを紙で提出。
伊勢物語や、その享受、その後の作品について、自分なりに設定したテーマで、4000字相当のもの。これがほぼ評価の100%。
作品の表現に対しての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。

また、大人数の授業の場合などではディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

[Outline (in English)]

●Course outline

We read the story of Ise, focusing on the chapters that have a remarkable influence on later literary works. While comparing how things of the same subject change with Yamato Monogatari and Noh's works, we will consider the position and value of Ise Monogatari in Japanese literature and culture.

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.

We will also find out the relationship between the enjoyment of literary works and the creation of new literary works.

While being influenced by the times when literary works were established, the state of contemporary literature is also based on the two aspects of the value that can be understood beyond the times and the understanding and enjoyment of works that are deepened by understanding the times. I want to think in view.

Lecture format using texts with modern translations.

Distributed as materials when dealing with works other than texts.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.

Expect a non-passive, class participation attitude.

When Noh is broadcast on TV, I think it's easy to create an image if you are interested in watching it.

Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Muromachi period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Report at the end of the semester submitted at the time of the final class.

A theme that I set for myself about the story of Ise, its enjoyment, and the works that followed, and is equivalent to 4000 characters. This is almost 100% of the evaluation.

An important evaluation criterion is whether the expression of the work is properly read and the thoughts are expressed in logically easy-to-understand sentences.

Attendance is taken every hour, and more than half of the attendance is eligible for report submission.

●Learning Objectives

The goal is to develop an appreciation for the interest that classical literature, which is often thought of as distant, can have for us today, while also acquiring knowledge of literary history and enhancing our interest and cultural literacy in Japanese culture. We aim to explore the relationship in which new literary works are created from the enjoyment of existing ones. While considering the influence of the era in which a literary work was created, we want to take into account its value that transcends time, as well as the deeper understanding and enjoyment that come from understanding that era, and think about the nature of contemporary literature as well.

●Learning activities outside of classroom

When Noh is broadcast on TV or elsewhere, I think it's easier to form an image of it if you watch with interest. Reviewing Japanese history from the Nara period to around the Muromachi period at a high school level makes it easier to understand the historical background. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

●Grading Criteria /Policy

Submit the end-of-term report on paper during the last class. The report, around 4,000 characters, should be based on a theme you set yourself and cover The Tales of Ise, its reception, and subsequent works. This account for almost 100% of the evaluation.

An important evaluation criterion is whether you appropriately interpret the expression in the works and clearly present your own thoughts in a logical manner.

Attendance is taken every class, and submitting the report requires attending more than half of the sessions.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：恐怖と不安から読む近代文学史

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代の文学を「恐怖」や「不安」という感情をテーマに読み解いていきます。

これらの感情はネガティブなものですが、それだけに人間の根源に根差したものであり、直感的な違和感の表明に他なりません。

近現代の作家たちがどのような「恐怖」や「不安」を感じ、それを作品で表現したかを通じて、近現代という激動の時代の特異性について考察していきます。

なお、この講義はあくまでも著名な作品に表現された「恐怖」や「不安」をテーマにするものであり、いわゆるホラー作品を主眼としたものではないことに注意してください。

【到達目標】

- ①「恐怖」や「不安」などの感情の概略や機能を知る
- ②それらが近現代の文学作品にどのように表現されているかを読み解く
- ③作品読解を通じて近現代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに三時間を割り、様々な文学作品を紹介しながら全体に迫っていきます。

講義内では各作品の概要やあらすじについても解説しますが、可能な限り自身で読み、作家たちの味わった「恐怖」や「不安」を自身の身体で体感してみてください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「恐怖」と「不安」の哲学概論
第2回	「近代化する社会」へ	消滅していく前近代の恐怖と不安①
第3回	「近代化する社会」へ	功利主義の功罪の恐怖と不安②
第4回	「近代化する社会」へ	かくあらねばならない社会の恐怖と不安③ 「私」
第5回	「分断された個」であ	「近代的自我」についてることへの恐怖と不安①
第6回	「分断された個」であ	捏造されていく内面ることへの恐怖と不安②

第7回 「分断された個」であ 「自由」であることの代償ることへの恐怖と不安③

第8回 「私の知らない私」へ 「自意識」の誕生の恐怖と不安①

第9回 「私の知らない私」へ 「私」に連なる無数の「私」の恐怖と不安②

第10回 「私の知らない私」へ 才能という呪縛の恐怖と不安③

第11回 「主義」への恐怖と不 道具としての「主義」安①

第12回 「主義」への恐怖と不 社会運動の暴走安②

第13回 「主義」への恐怖と不 全体主義の浸食安③

第14回 総括 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

講義内で適宜紹介する作品を読んでください。
前提として文学史の一般的な概略を学べるものとしては、安藤宏『日本近代小説史』（中公選書、2015年）がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

成績に反映する以上、リアクションペーパーは毎授業ごとにかなりの文字数のものを要求するので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義のため、私語をする学生が時折発生し、大変邪魔です。都度注意を行います。今後厳重なペナルティも考えていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、初回はオンデマンド形式での実施とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces modern literature through the emotions of "fear" and "anxiety."

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding how 'fear' and 'anxiety' are expressed in modern literature.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：恐怖と不安から読む近代文学史

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代の文学を「恐怖」や「不安」という感情をテーマに読み解いていきます。

これらの感情はネガティブなものですが、それだけに人間の根源に根差したものであり、直感的な違和感の表明に他なりません。

近現代の作家たちがどのような「恐怖」や「不安」を感じ、それを作品で表現したかを通じて、近現代という激動の時代の特異性について考察していきます。

なお、この講義はあくまでも著名な作品に表現された「恐怖」や「不安」をテーマにするものであり、いわゆるホラー作品を主眼としたものではないことに注意してください。

「日本近・現代文学A」に引き続き戦後を主として扱います。

【到達目標】

- ①「恐怖」や「不安」などの感情の概略や機能を知る
- ②それらが近現代の文学作品にどのように表現されているかを読み解く
- ③作品読解を通じて近現代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに三時間を割り、様々な文学作品を紹介しながら全体に迫っていきます。

講義内では各作品の概要やあらすじについても解説しますが、可能な限り自身で読み、作家たちの味わった「恐怖」や「不安」を自身の身体で体感してみてください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「恐怖」と「不安」についての復習
第2回	「戦争」の恐怖と不安①	戦場の絶望
第3回	「戦争」の恐怖と不安②	圧倒的な暴力と開放
第4回	「戦争」の恐怖と不安③	埋没する個人の死
第5回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安①	「戦後」への失望
第6回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安②	贖罪意識の行方

第7回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安③	「死にそびれる」こと
第8回	「物語の喪失」への恐怖と不安①	「大きなもの」の欠如感
第9回	「物語の喪失」への恐怖と不安②	仮構される「物語」たち
第10回	「物語の喪失」への恐怖と不安③	「物語」の拡散と縮小
第11回	「拡大していく他者」への恐怖と不安①	隠されていく「私」と「あなた」
第12回	「拡大していく他者」への恐怖と不安②	外面と内面のズレ、および認識の難しさ
第13回	「拡大していく他者」への恐怖と不安③	SNS時代の「他者」像
第14回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

講義内で適宜紹介する作品を読んでください。

前提として文学史の一般的な概略を学べるものとしては、安藤宏『日本近代小説史』（中公選書、2015年）がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

成績に反映する以上、リアクションペーパーは毎授業ごとにかなりの文字数のものを要求するので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義のため、私語をする学生が時折発生し、大変邪魔です。都度注意を行います。今後厳重なペナルティも考えていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、初回はオンデマンド形式での実施としますのでご注意ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces modern literature through the emotions of "fear" and "anxiety."

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding how 'fear' and 'anxiety' are expressed in modern literature.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA（文学 / Literature 100）			第2回	戦中～戦後	戦中から戦後にかけての激動の時代について解説する。また、日本現代文学における「戦争」の表象について、堀田善衛『方丈記私記』（1971）を題材としながら考察する。
日本近・現代文学A			2017年度以降入学者		
サブタイトル：文学から考える日本戦後史					
菊間 晴子			第3回	1950年代①	1950年代にベストセラーとなり、「太陽族」という言葉を生んだ、石原慎太郎「太陽の季節」（1955）を取り上げ、精読する。この作品が生まれた時代背景についても合わせて解説する。
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金3/Fri.3 単位数：2単位 その他属性：〈優〉			第4回	1950年代②	前回は引き続き、石原「太陽の季節」を精読する。グループワーク（ディスカッション）を通して、履修生が各々の読解を言語化し、意見交換を行う。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 文学作品は、一人の作家の孤高の内面性を映し出すものとみなされがちです。しかし、作家の鋭敏な感性は、その当時を生きた人々の感覚や思考をたしかに捉え、それを作品世界に反映させています。 本授業の目的は、1950年代～1980年代まで、時代時代の特色を映し出した複数の小説作品（しかも若い世代を主人公に据えた作品）の読解を通して、戦後日本が辿ってきた道筋を生き生きと感じ取り、その歴史に対する理解を深めることです。また、日本現代文学に対する基礎知識、そして文学作品を精読し批評する能力を養うことも目指します。 授業内では、適宜、その作品が生まれた時代背景（その時代を生きた人々の思想や感覚、文化潮流）なども合わせて紹介します。また、教員による講義だけではなく、グループワークやディスカッションを取り入れて履修生の主体的な読解を促すとともに、論理的思考とそのアウトプット能力を身につける機会となるよう、授業を設計します。			第5回	1960年代①	1960年～1970年代にかけてベストセラーとなった青春小説、柴田翔「されどわれらが日々」（1964）を取り上げ、精読する。この作品が生まれた時代背景についても合わせて解説する。
【到達目標】 ・文学作品の読解を通して、日本戦後史に対する理解を深めることができる。 ・近現代日本文学を精読する力を身につけ、それをもとに的確な考察を行うことができる。 ・考察内容を論理的に言語化し、アウトプットすることができる。			第6回	1960年代②	前回は引き続き、柴田「されどわれらが日々」を精読する。この作品が、1970年前後の学生運動の参加者の心を捉えた理由についても検討する。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			第7回	1960年代③	前回は引き続き、柴田「されどわれらが日々」を精読する。グループワーク（ディスカッション）を通して、履修生が各々の読解を言語化し、意見交換を行う。
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture			第8回	1970年代①	戦後生まれの作家による初の芥川賞受賞作となった、中上健次「岬」（1975）を取り上げ、精読する。この作品が生まれた時代背景についても合わせて解説する。
【授業の進め方と方法】 第1回はガイダンスです。授業の詳細を説明するとともに、文学と歴史の関係について解説します。 第2回～13回は、小説作品の精読を進めていきます。授業で扱う作品については、その抜粋（PDF）を、学習支援システム（オンライン）から事前配布するので、必ず読んでから授業に臨んでください。 第14回の最終授業では、1学期間の授業を振り返り、総括します。出席確認は、リアクションペーパーを用いて行います。各授業内で課題を出し、10分程度時間をとるので、学習支援システムから、または紙媒体で回答を提出してください。リアクションペーパーへのフィードバックは、次回授業冒頭での講評（優れたコメントを匿名で紹介、検討）というかたちで行います。 最終課題として、学期末レポートの提出を必須とします。			第9回	1970年代②	前回は引き続き、中上「岬」（1975）を精読する。本作に描かれた「路地」を手がかりに、日本戦後史（および文学史）における「周縁」についても検討する。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes			第10回	1970年代③	前回は引き続き、中上「岬」（1975）を精読する。グループワーク（ディスカッション）を通して、履修生が各々の読解を言語化し、意見交換を行う。
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No			第11回	1980年代①	吉本ばなな「キッチン」（1987）、およびその続篇「満月 キッチン2」（1988）を取り上げ、精読する。この作品が生まれた時代背景についても合わせて解説する。
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			第12回	1980年代②	前回は引き続き、吉本「キッチン」、「満月 キッチン2」を精読する。好景気に沸く消費社会における文学の役割についても検討する。
回	テーマ	内容	第13回	1980年代③	前回は引き続き、吉本「キッチン」、「満月 キッチン2」を精読する。グループワーク（ディスカッション）を通して、履修生が各々の読解を言語化し、意見交換を行う。
第1回	ガイダンス	授業の内容や目的、到達目標について確認するとともに、文学と歴史の関係について解説する。担当教員の研究分野や関心についても合わせて紹介する。	第14回	総括	1学期間の授業を振り返り、文学を通して浮かびあがる1980年代までの日本戦後史について総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱う作品を読んでいることを前提に講義を進めます。毎回必ず予習をしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業で扱うテキストは、事前に抜粋（PDF）を学習支援システムから配布します。

【参考書】

- ・見田宗介『現代日本の感覚と思想』講談社学術文庫、1995年。
 - ・廣野由美子『批評理論入門』『フランケンシュタイン』解剖講義』中公新書、2005年。
- ※購入の必要はありません。授業内で参照する場合には、事前に抜粋（PDF）を学習支援システムから配布します。

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%

→授業ごとの提出を求めます。

- ・学期末レポート：60%

→この授業で精読した作品（石原慎太郎「太陽の季節」、柴田翔「されどわれらが日々」、中上健次「岬」、吉本ばなな「キッチン」「満月キッチン2」）のなかから1作品を選び、必ず通読した上で、自分なりの問いに基づいて考察してください。※吉本ばななの場合、どちらか1作品を取り上げても、両方の作品を取り上げても構いません。文字数は3000字程度とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーのコメントを授業内で取り上げるとともに、履修生の意見を反映しながら授業を行っていく予定です。授業内で分からないこと、気になることがあれば、気軽に相談してください。

授業進度や要望に合わせて、シラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーおよび学期末レポートの提出は、学習支援システムを利用します。

（リアクションペーパーについては紙媒体での提出も可としますが、基本的には学習支援システムからの提出をお願いします）。なるべく早めに、学習支援システムを使用できる環境を、各々で整えてください。

【その他の重要事項】

秋学期に開講する日本近・現代文学Bは、1990年代～2020年代における日本現代文学作品を取り上げます。連続する内容ですが、必ずしも通年で受講する必要はなく、春学期・秋学期のみの履修も歓迎します。

また、リアクションペーパー、学期末レポートについて、生成AIによって作成した文章を提出することは禁止とします。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

Literary works are often regarded as expressions of a single author's isolated inner world. However, an author's keen sensibility also captures the feelings, thoughts, and cultural atmosphere of the people living in a particular historical moment, and reflects them vividly in literary form.

The aim of this course is to deepen students' understanding of postwar Japanese history through close reading of multiple novels written from the 1950s to the 1980s, each reflecting the characteristics of its time and featuring young protagonists. In doing so, the course also seeks to provide students with basic knowledge of modern Japanese literature and to cultivate the ability to closely read and critically analyze literary texts.

In class, historical and cultural contexts — such as contemporary ideas, sensibilities, and cultural trends — will be introduced as needed. In addition to lectures, the course incorporates group work and discussions to encourage active student engagement, while fostering logical thinking skills and the ability to articulate ideas effectively.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Deepen their understanding of postwar Japanese history through the reading and analysis of literary works.

- ・Acquire the ability to closely read works of modern and contemporary Japanese literature and develop well-founded interpretations.

- ・Articulate their analyses logically and present their ideas effectively in written and oral forms.

【Learning Activities Outside of the Classroom】

Students are expected to complete the assigned readings before each class meeting.

Both preparation and review time for this course are estimated to be approximately two hours each per class session.

【Grading Criteria / Policies】

Final grades will be determined based on the following components:

- ・In-class participation, including reaction papers: 40%

(Students are required to submit a reaction paper for each class.)

- ・Final paper: 60%

(Students will select one work from those covered in class and write an analytical essay of approximately 3,000 words based on their own research question.)

LIT100LA（文学 / Literature 100）			第2回	戦後～1980年代	見田宗介『現代日本の感覚と思想』を参照しながら、戦後から1980年代にかけての時代精神の変化と、それに対応する文学の潮流について整理する。
日本近・現代文学B					1995年の阪神淡路大震災そしてオウム真理教事件を受けて著された村上春樹「神の子どもたちはみな踊る」(1999)を取り上げ、精読する。この作品が生まれた時代背景についても合わせて解説する。
サブタイトル：			第3回	1990年代①	前回に引き続き、村上「神の子どもたちはみな踊る」を精読する。グループワーク（ディスカッション）を通して、履修生が各々の読解を言語化し、意見交換を行う。
菊間 晴子			第4回	1990年代②	綿矢りさ「蹴りたい背中」(2003)を取り上げ、精読する。この作品が生まれた時代背景についても合わせて解説する。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金3/Fri.3 単位数：2単位			第5回	2000年代①	前回に引き続き、綿矢りさ「蹴りたい背中」を精読する。この作品に描かれたインターネット隆盛時代における若者の身体感覚とアイデンティティについても検討する。
その他属性：〈優〉			第6回	2000年代②	前回に引き続き、綿矢りさ「蹴りたい背中」を精読する。グループワーク（ディスカッション）を通して、履修生が各々の読解を言語化し、意見交換を行う。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			第7回	2000年代③	村田沙耶香「コンビニ人間」(2016)を取り上げ、精読する。この作品が生まれた時代背景についても合わせて解説する。
文学作品は、一人の作家の孤高の内面性を映し出すものとみなされがちです。しかし、作家の鋭敏な感性は、その当時を生きた人々の感覚や思考をたしかに捉え、それを作品世界に反映させています。			第8回	2010年代①	前回に引き続き、村田「コンビニ人間」を精読する。この作品が抉り出す、「正常」の曖昧さやラベリングの暴力についても検討する。
本授業の目的は、1990年代～2020年代まで、時代時代の特色を映し出した複数の小説作品（しかも若い世代を主人公に据えた作品）の読解を通して、戦後日本が辿ってきた道筋を生き生きと感じ取り、その歴史に対する理解を深めることです。また、日本現代文学に対する基礎知識、そして文学作品を精読し批評する能力を養うことも目指します。			第9回	2010年代②	前回に引き続き、村田「コンビニ人間」を精読する。グループワーク（ディスカッション）を通して、履修生が各々の読解を言語化し、意見交換を行う。
授業内では、適宜、その作品が生まれた時代背景（その時代を生きた人々の思想や感覚、文化潮流）なども合わせて紹介します。また、教員による講義だけではなく、グループワークやディスカッションを取り入れて履修生の主体的な読解を促すとともに、論理的思考とそのアウトプット能力を身につける機会となるよう、授業を設計します。			第10回	2010年代③	宇佐見りん「推し、燃ゆ」(2020)を取り上げ、精読する。この作品が生まれた時代背景についても合わせて解説する。
【到達目標】			第11回	2020年代①	前回に引き続き、宇佐見「推し、燃ゆ」を精読する。この作品が描く、消費に下支えされた信仰の力と、その関係がはらむ脆さについても検討する。
・文学作品の読解を通して、日本戦後史に対する理解を深めることができる。			第12回	2020年代②	前回に引き続き、宇佐見「推し、燃ゆ」を精読する。グループワーク（ディスカッション）を通して、履修生が各々の読解を言語化し、意見交換を行う。
・近現代日本文学を精読する力を身につけ、それをもとに的確な考察を行うことができる。			第13回	2020年代③	1学期間の授業を振り返り、文学を通して浮かびあがる、2020年代までの日本戦後史について総括する。
・考察内容を論理的に言語化し、アウトプットすることができる。			第14回	総括	
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 講義で扱う作品を読んでいることを前提に講義を進めます。毎回必ず予習をしてください。 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
第1回はガイダンスです。授業の詳細を説明するとともに、文学と歴史の関係について解説します。					
第2回～13回は、小説作品の精読を進めていきます。授業で扱う作品については、その抜粋（PDF）を、学習支援システム（オンライン）から事前配布するので、必ず読んでから授業に臨んでください。					
第14回の最終授業では、1学期間の授業を振り返り、総括します。					
出席確認は、リアクションペーパーを用いて行います。各授業内で課題を出し、10分程度時間をとるので、学習支援システムから、または紙媒体で回答を提出してください。リアクションペーパーへのフィードバックは、次回授業冒頭での講評（優れたコメントを匿名で紹介、検討）というかたちで行います。					
最終課題として、学期末レポートの提出を必須とします。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
第1回	ガイダンス	授業の内容や目的、到達目標について確認するとともに、文学と歴史の関係について解説する。担当教員の研究分野や関心についても合わせて紹介する。			

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業で扱うテキストは、事前に抜粋（PDF）を学習支援システムから配布します。

【参考書】

- ・見田宗介『現代日本の感覚と思想』講談社学術文庫、1995年。
- ・大澤真幸『不可能性の時代』岩波新書、2008年。
- ・廣野由美子『批評理論入門』『フランケンシュタイン』解剖講義』中公新書、2005年。

※購入の必要はありません。授業内で参照する場合には、事前に抜粋（PDF）を学習支援システムから配布します。

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%

→授業ごとの提出を求めます。

- ・学期末レポート：60%

→この授業で精読した作品（村上春樹「神の子どもたちはみな踊る」、綿矢りさ「蹴りたい背中」、村田沙耶香「コンビニ人間」、宇佐見らん「推し、燃ゆ」）のなかから1作品を選び、必ず通読した上で、自分なりの問いに基づいて考察してください。

文字数は3000字程度とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーのコメントを授業内で取り上げるとともに、履修生の意見を反映しながら授業を行っていく予定です。

授業内で分からないこと、気になることがあれば、気軽に相談してください。

授業進度や要望に合わせて、シラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーおよび学期末レポートの提出は、学習支援システムを利用します。

（リアクションペーパーについては紙媒体での提出も可としますが、基本的には学習支援システムからの提出をお願いします）。

なるべく早めに、学習支援システムを使用できる環境を、各々で整えてください。

【その他の重要事項】

春学期に開講する日本近・現代文学Aは、1950年代～1980年代における日本現代文学作品を取り上げます。連続する内容ですが、必ずしも通年で受講する必要はなく、春学期・秋学期のみの履修も歓迎します。

また、リアクションペーパー、学期末レポートについて、生成AIによって作成した文章を提出することは禁止とします。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

Literary works are often regarded as expressions of a single author's isolated inner world. However, an author's keen sensibility also captures the feelings, thoughts, and cultural atmosphere of the people living in a particular historical moment, and reflects them vividly in literary form.

The aim of this course is to deepen students' understanding of postwar Japanese history through close reading of multiple novels written from the 1990s to the 2020s, each reflecting the characteristics of its time and featuring young protagonists. In doing so, the course also seeks to provide students with basic knowledge of modern Japanese literature and to cultivate the ability to closely read and critically analyze literary texts.

In class, historical and cultural contexts — such as contemporary ideas, sensibilities, and cultural trends — will be introduced as needed. In addition to lectures, the course incorporates group work and discussions to encourage active student engagement, while fostering logical thinking skills and the ability to articulate ideas effectively.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Deepen their understanding of postwar Japanese history through the reading and analysis of literary works.
- ・Acquire the ability to closely read works of modern and contemporary Japanese literature and develop well-founded interpretations.

- ・Articulate their analyses logically and present their ideas effectively in written and oral forms.

【Learning Activities Outside of the Classroom】

Students are expected to complete the assigned readings before each class meeting.

Both preparation and review time for this course are estimated to be approximately two hours each per class session.

【Grading Criteria / Policies】

Final grades will be determined based on the following components:

- ・In-class participation, including reaction papers: 40%

(Students are required to submit a reaction paper for each class.)

- ・Final paper: 60%

(Students will select one work from those covered in class and write an analytical essay of approximately 3,000 words based on their own research question.)

LIT100LA (文学 / Literature 100)	
日本文学A	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
山崎 修平	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一言に「日本文学」と言っても広すぎて、全体像が掴みにくいかと思います。

この授業では日本語で書かれたさまざまな文学をシャワーのように浴びることによって、みなさんそれぞれが「日本文学」を定義してもらいたいと思います。

【到達目標】

- 1、詩、小説、批評、エッセイ等、多様な表現形態を持つ「日本文学」について自身の定義を持つことができる。
- 2、授業内で学んだ作家や作品について、批評的な問いを設けた上で、その問いを考察し、言語化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めます。授業における大きなテーマに関しては、グループワークを活用し、グループごとに協力して考えをまとめてもらいます。

毎回のリアクションペーパーと、4000文字程度の期末レポートの課題を出します。

リアクションペーパーに関してはフィードバックを授業内で行い、全体への浸透を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	高校までの「国語」と、大学での「日本文学」はどこが異なるでしょうか。授業のガイダンスとともに、この論点について考えてゆきます。
2	日本文学？ 日本語文学？	私たちの日々の生活において、外国語を目にしない日はありません。多くの書き手もまた、海外文学に影響を受けてきました。海外文学との比較から「日本文学」について考えます。
3	詩の楽しさ、ことばの楽しさ	現代詩人・吉増剛造の作品を鑑賞し、日本文学における詩について考えます。
4	詩の広がり	前回のフィードバックをしながら、詩についてより深掘りしてゆきます。詩人ごとに異なる日本語への意識を観点として、詩という表現形態の深さや広がりについて考えます。

5	小説とはなにか	作家・高橋源一郎の作品を鑑賞し、小説という表現形態について考えます。これまで馴染みのある「小説」との違いを手がかりとします。
6	ポストモダン文学	前回のフィードバックをしながら、日本文学史におけるポストモダン文学について考えます。
7	書いていることが「小説」になってゆく？	作家・後藤明生の作品を鑑賞し、小説に「なってゆく」過程について考えます。
8	内向の世代	前回のフィードバックをしながら、後藤明生ら「内向の世代」の文学について考えます。
9	映像的・絵画的な文学とはなにか	作家・中原昌也の作品を鑑賞し、文学における他の表現形態との越境について考えます。
10	書いてゆく楽しさ、書いてゆく辛さ	前回のフィードバックをしながら、小説における「業」を考えます。
11	現代短歌	歌人・岡井隆らの作品を鑑賞し、文学における短詩の在り方について考えます。
12	定型的な思考、非定型的な書き方	前回のフィードバックをしながら、詩歌と小説を往還する作家についてその方法論とともに考えます。
13	書評・批評	これまで鑑賞してきた作品の書評を書くならどのような点に注目するでしょうか。文学における批評について考えます。
14	まとめ	春学期のまとめをします。「国語」から「日本文学」ということを、今一度考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で扱うテキストに関しては、事前に読んでおくようにしてください。

リアクションペーパーやレポート課題、その他の伝達事項に関しては、授業内で伝えます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で鑑賞する作家の作品は、用意しておきましょう。

その他、授業内で触れた作品についてはできる限り読んでおくのが望ましいです。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーと、4000文字程度の期末レポートの課題を出します。

成績評価は、リアクションペーパー（50%）と期末レポート（50%）を合わせて100%とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、代講としての担当のためフィードバックはできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

この授業は実務経験のある教員による授業です。

詩や小説、批評、書評などの文芸創作における実務経験を有しています。

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We learn about Japanese literature in this class.

【Learning Objectives】

Students are asked to define "Japanese literature."

【Learning activities outside of classroom】

Instructions will be given in class for reports, reaction papers, and other items to be communicated.

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grade evaluation is 100% for reaction papers (50%) and term papers (50%).

LIT100LA（文学 / Literature 100）			6	ポスト（ポスト）モダン文学	前回のフィードバックをしながら、ポストモダン文学の次の文学について、予兆と予感を共有し、論点を炙り出して考えます。
日本文学B			7	書いていることが「小説」になってゆく？	詩人・山崎修平の小説作品を鑑賞し、小説に「なってゆく」過程について考えます。また、詩と小説の差異について考えます。
サブタイトル：			8	詩と散文と韻文と小説と	前回のフィードバックをしながら、書かれたものをジャンルに定義づける私たち「読者」を考えます。
山崎 修平			9	濃厚で芳醇な「詩」？	詩人・田村隆一の作品を鑑賞し、ことばの濃淡について考えます。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火4/Tue.4			10	「荒地」に花を咲かせよう	前回のフィードバックをしながら、戦後詩における「荒地」の活動とその作品について考えます。
単位数：2単位			11	現代詩	詩人・最果タヒらの作品を鑑賞し、日々更新されてゆく文学における現代詩について考えます。
その他属性：〈優〉			12	日本文学のこれから	前回のフィードバックをしながら、詩歌と小説を往還する作家についてその方法論とともに考えます。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			13	書評・批評	これまで鑑賞してきた作品の書評を書くならどのような点に注目するでしょうか。文学における批評について考えます。
春学期で考えた「日本文学」についての考えを発展・深化させてゆきます。			14	まとめ	秋学期のまとめをします。「日本文学」について今一度考えます。
多様な文学を鑑賞することで、大学での学びの楽しさ・面白さに繋げてほしいと思います。			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
【到達目標】			授業内で扱うテキストに関しては、事前に読んでおくようにしてください。		
1、詩、小説、批評、エッセイ等、多様な表現形態を持つ「日本文学」について自身の定義を持つことができる。			リアクションペーパーやレポート課題、その他の伝達事項に関しては、授業内で伝えます。		
2、授業内で学んだ作家や作品について、批評的な問いを設けた上で、その問いを考察し、言語化することができる。			本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			【テキスト（教科書）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			特にありません。		
【主な授業方法】			【参考書】		
L 講義 /Lecture			授業内で鑑賞する作家の作品は、用意しておきましょう。その他、授業内で触れた作品についてはできる限り読んでおくのが望ましいです。		
【授業の進め方と方法】			【成績評価の方法と基準】		
講義を中心として進めます。授業における大きなテーマに関しては、グループワークを活用し、グループごとに協力して考えをまとめてもらいます。			毎回のリアクションペーパーと、4000文字程度の期末レポートの課題を出します。		
毎回のリアクションペーパーと、4000文字程度の期末レポートの課題を出します。			成績評価は、リアクションペーパー（50%）と期末レポート（50%）を合わせて100%とします。		
リアクションペーパーに関しては、フィードバックを授業内で行い、全体への浸透を図ります。			【学生の意見等からの気づき】		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			本年度、代講としての担当のためフィードバックはできません。		
あり / Yes			【学生が準備すべき機器他】		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			特にありません。		
なし / No			【その他の重要事項】		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			この授業は実務系経験のある教員による授業です。詩や小説、批評、書評などの文芸創作における実務経験を有しています。		
回	テーマ	内容	春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。		
1	ガイダンス	春学期で学んだことを共有し、秋学期での学びについてガイダンスをします。	【Outline (in English)】		
2	日本文学？ 海外文学？	日本文学と海外文学の差異について考えます。読者への受容や、文体の違い、あるいはジャンルそのものへの認識の違いから、「日本文学」を考えます。	【Course outline】		
3	ことばにするしかなかった？ 反抗と受忍	詩人・トリスタン・ツァラの作品を日本語で鑑賞し、日本文学として受容する、海外詩の在り方について考えます。	We learn about Japanese literature in this class.		
4	シュルレアリスム詩	前回のフィードバックをしながら、シュルレアリスムやダダイズムの詩についてより深掘りしてゆきます。日本におけるシュルレアリスムと西脇順三郎について考えます。	【Learning Objectives】		
5	小説、呪詛と祈り	ルイ・F・セリヌの作品を日本語で鑑賞し、小説という形態における呪詛と祈りについて、日本文学史における視点も援用し、考えます。	Students are asked to define "Japanese literature."		
			【Learning activities outside of classroom】		
			Instructions will be given in class for reports, reaction papers, and other items to be communicated.		
			The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.		
			【Grading Criteria /Policy】		

Grade evaluation is 100% for reaction papers (50%) and term papers (50%).

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：新戯作派（無頼派）の文学を読む

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、敗戦後間もない時期に広く読まれた、文学史的に「新戯作派（無頼派）」と呼ばれる区分の文学作品を読むことによって、世界が大きく転変する状況において文学が表現したものを探っていくことを目的とします。

具体的には「新戯作派（無頼派）」と呼ばれる区分の代表的作家である太宰治・坂口安吾・織田作之助・石川淳の文学を扱います。各作家の生涯を概観したうえで、戦中と戦後の小説・評論を取りあげ、それらを精読することを通じて各作家と作品の特質について受講者に考えてもらうことで、授業目的の達成を目指していきます。

【到達目標】

それぞれの作家の文学的特質を把握したうえで、扱った作品の主題や表現方法について受講者自身の評価を下すことを到達目標とします。

- ①テキストに書かれている内容を正確に読みとること。
- ②読みとった内容をもとに自分なりの観点をもつこと。
- ③自分なりの観点を明確・具体的なものとし、学術的文章の形式を意識しつつ、他者に伝わるように表現できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各作家3コマで「人物」「戦中の作品」「戦後の作品」を講義します。「人物」についてはスライドを使って解説します。受講者がそれぞれメモを取り、後の作品理解につなげてください。「作品」については作品を精読していきながら〈読み〉のポイントとなる点を確かめていきます。そのうえで、当該作品に関連する参考資料の紹介・解説を通して理解を深めてもらいます。各授業の後半には、質問や感想を書いてもらいます。そこで書いてもらった内容について、次回の授業の導入でフィードバックをおこなうことによって、前回の授業内容の理解をさらに深められるような、双方向性のある授業をおこないたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容と新戯作派（無頼派）についての基礎知識を確認する。
第2回	太宰治の文学①	太宰治の紹介。
第3回	太宰治の文学②	太宰治の戦中の作品を読む。
第4回	太宰治の文学③	太宰治の戦後の作品を読む。
第5回	坂口安吾の文学①	坂口安吾の紹介。
第6回	坂口安吾の文学②	坂口安吾の戦中の作品を読む。
第7回	坂口安吾の文学③	坂口安吾の戦後の作品を読む。
第8回	織田作之助の文学①	織田作之助の紹介。
第9回	織田作之助の文学②	織田作之助の戦中の作品を読む。
第10回	織田作之助の文学③	織田作之助の戦後の作品を読む。
第11回	石川淳の文学①	石川淳の紹介。
第12回	石川淳の文学②	石川淳の戦中の作品を読む。

第13回 石川淳の文学③ 石川淳の戦後の作品を読む。
第14回 まとめ 質疑応答と授業内容の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう4人の作品を、できるだけ事前に読んでおくことが望ましいです。1人につき少なくとも1作品は読んで、自分なりの印象を持ったうえで受講してください。あわせて授業後に、あらかじめ読んでおいた作品を授業で学んだことを踏まえて再読したり、授業であつかわなかった作品にも眼をとおして、さらに自分なりのイメージを深めてください。

【テキスト（教科書）】

メインで扱う作品は以下の予定です。
太宰治「十二月八日」「トカトントン」
坂口安吾「真珠」「墮落論・続墮落論」
織田作之助「夫婦善哉」「可能性の文学」
石川淳「マルスの歌」「焼跡のイエス」
授業で講読するためのテキストは初回授業までに学習支援システムで配布する予定です。

【参考書】

あらかじめ作品を読むにあたって、本選に迷った場合は、筑摩書房から刊行されている「ちくま日本文学」シリーズの太宰治（008）・坂口安吾（009）・織田作之助（035）それぞれの巻を読むのが最も便利です。ただし、石川淳だけは旧版の「ちくま日本文学全集11」しかなく、現在は新刊で入手できません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

期末レポート：50%

平常点はリアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの返事が授業や文学への理解の役に立ったという意見を多くもらいましたので、本年度もリアクションペーパーへの返事は丁寧におこなうようにします。遅刻者への対応の改善をもとめる意見をかんがみて、ガイダンスの時点で認識の共有をおこないたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出に学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to explore what literature expressed in a situation of great change in the world by reading the literary works of the “Shingisakuha(Buraiha)” in the history of literature, which were widely read in the period immediately after the end of World War II.

Specifically, the course will focus on the literature of Osamu Dazai, Ango Sakaguchi, Sakunosuke Oda, and Jun Ishikawa, who are representative writers of the “Shingisakuha(Buraiha)”. After an overview of each writer's life, the course will select novel and essay each from the wartime and postwar periods, and have students consider the characteristics of each writer and their works through close reading, with the aim of achieving the course objectives.

【Learning Objectives】

The goal of this course is for students to grasp the literary characteristics of each author and then make their own evaluation of the themes and methods of expression of the works they have studied.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

It is advisable to read as many of the works by the four authors that will be covered in class in advance as possible. Please read at least one work by each author and form your own impression before attending the class. After class, please re-read the works you have read in advance based on what you have learned in class, or read at works not covered in class to further develop your own image of the works.

【Grading Criteria /Policy】

Regular grades: 50%

Final report: 50%

Regular grades will be determined by the content of the reaction paper.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：国語教科書の小説を精読する

関口 雄士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では国語教科書に採録されている日本近現代小説を精読することを通して、文学作品を〈読む〉楽しみを学んでいきます。とはいえ、ただ単に自由な〈読み〉を展開するだけではまとまりがつかなくなってしまうし、そもそものように〈読み〉をおこなえばいいのかわからないということもあると思います。そこで、土台となる部分を一緒にたしかめながら、皆さんへの解釈を考えてもらいます。そのうえで、その作品が今までにどのように入容・解釈をされてきたかを学ぶことによって、文学作品を〈読む〉力の基礎をつけることを、この授業の目的とします。

【到達目標】

扱った作品について基礎的な事項（成立過程・文学史的位置づけ・主題・表現的特色）を正確に把握したうえで、受講者自身の〈読み〉を提示することを到達目標とします。

- ①テキストの背景を理解し、書かれている内容を正確に読みとること。
- ②読みとった内容をもとに自分なりの観点をもつこと。
- ③自分なりの観点を明確・具体的なものとし、学術的文章の形式を意識しつつ、他者に伝わるように表現できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各作品2コマを使って講義します。

1コマ目では作家・作品に関する基礎的な事項を解説し、概略を共有します。

2コマ目では皆さんから寄せられた解釈をもとに細部に着目した〈読み〉（精読）をおこないます。あわせて文学研究での解釈や関連テキストの紹介をおこない、+αの知識をつけてもらいます。

各授業ごとに質問・感想・解釈を書いてもらいます。そこで書いてもらった内容について、次回の授業でフィードバックをおこなうことによって、前回の授業内容の理解をさらに深められるような、双方向性のある授業をおこないたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の詳細な説明。
第2回	芥川龍之介「羅生門」①	作家・作品の基礎的事項の共有・解説。
第3回	芥川龍之介「羅生門」②	作品の精読と+αの解説。
第4回	志賀直哉「城の崎にて」①	作家・作品の基礎的事項の共有・解説。
第5回	志賀直哉「城の崎にて」②	作品の精読と研究史の解説。
第6回	井伏鱒二「山椒魚」①	作家・作品の基礎的事項の共有・解説。
第7回	井伏鱒二「山椒魚」②	作品の精読と+αの解説。

第8回	太宰治「水仙」①	作家・作品の基礎的事項の共有・解説。
第9回	太宰治「水仙」②	作品の精読と+αの解説。
第10回	安部公房「赤い繭」①	作家・作品の基礎的事項の共有・解説。
第11回	安部公房「赤い繭」②	作品の精読と+αの解説。
第12回	村上春樹「鏡」①	作家・作品の基礎的事項の共有・解説。
第13回	村上春樹「鏡」②	作品の精読と+αの解説。
第14回	まとめ	質疑応答と授業内容の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう作品については、あらかじめ眼をとおしておき、語句でわからないものなどはあらかじめ調べておきましょう。また、作品は繰り返し読むことが重要です。授業で読んでおしまいではなく、再読を必ずおこなうようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

授業で講読するためのテキストは初回授業までに学習支援システムで配布する予定です。

【参考書】

各作家についてイメージを浮かびやすくするためには「新潮日本文学アルバム」シリーズで該当作家の巻（村上春樹はありません）を読んでおくといでしょう。

背景を理解するための日本近現代小説史についての書籍としては、一例として安藤宏『日本近代小説史（新装版）』（中央公論新社、2020年）を挙げておきます。

その他、関連文献は授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

期末レポート：50%

平常点はリアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

解釈の共有が〈読み〉を深めるのにたいへん役に立ったという意見が多かったため、本年度はコンテンツとして積極的に取り入れることにしました。

リアクションペーパーへの返答が文学への興味・関心や理解を深める役に立ったという意見を複数もらったので、引きつづき丁寧な返答を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出に学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn the pleasure of “reading” literary works through close reading of modern and contemporary Japanese novels included in the textbook.

However, simply developing a free “reading” will not lead to a cohesiveness, and that there will be times when students will not know how to “read” in the first place.

Therefore, the purpose of this class is to build a foundation for the ability to “read” literary works by checking the foundation of the work together and learning how the work has been accepted and interpreted in the past.

【Learning Objectives】

The goal of the course is for students to present their own “readings” based on an accurate understanding of the fundamentals of the works covered (process of formation, position in literary history, subject matter, and expressive features).

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Please read through the works to be covered in class in advance, and look up any vocabulary you do not understand.

It is also important to read the works repeatedly. Please be sure to re-read the works.

【Grading Criteria /Policy】

Regular grades: 50%

Final report: 50%

Regular grades will be determined by the content of the reaction paper.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多く読者を惹き付けてやまない。本授業ではヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

【到達目標】

- ・今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
- ・「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- ・異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、毎回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての変身について
②	カフカ（1）	『変身』第一章を読む
③	カフカ（2）	カフカ『変身』第二章を読む
④	カフカ（3）	カフカ『変身』第三章を読む、 諸映画化の作品、コミック等との比較
⑤	オウィディウス（1）	変身物語「アラクネ」読解
⑥	オウィディウス（2）	変身物語「ダブネー」読解
⑦	オウィディウス（3）	変身物語「オルベウス」読解
⑧	グリム兄弟（1）	『兄と妹』読解
⑨	グリム兄弟（2）	『七羽のカラス』読解
⑩	ステューヴンソン（1）	『ジキル博士とハイド氏』（pp.1-16）読解、 諸映画との比較
⑪	ステューヴンソン（2）	『ジキル博士とハイド氏』（pp.17-34）読解、 諸映画との比較
⑫	キャロル	『不思議の国のアリス』読解
⑬	プロイスラー	『クラバート』読解、 その映画、アニメとの比較
⑭	試験・まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの当該箇所を読んでおくこと。

授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。

【Outline (in English)】

Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr.Jekyll and Mr.Hyde*, are still attracting a lot of readers.

This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.

—

- ・ To recapture the meaning of "transformation" from a modern perspective.

- ・ To understand the ideological and cultural background of each era, using the motif of "transformation" as a clue.

- ・ Improve the ability to understand different cultures.

—

Reading the relevant part of the text in advance.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

—

Grading will be decided based on worksheets (60%) and term-end examination (40%).

If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：映画化とともに読むヨーロッパ文学の名作

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ文学作品の映画化を取り上げ、原作の描写と映画の比較、そして映画の翻案について分析をします。

【到達目標】

- ・ヨーロッパ文学・映画・文化に対する関心や理解を深める。
- ・メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、毎回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	扱う文学作品と映画の紹介
②	T. マン『ヴェネツィアに死す』総論	原作の通読、映画の視聴
③	原作『ヴェネツィアに死す』分析（1）	原作の指定箇所の熟読
④	原作『ヴェネツィアに死す』分析（2）	原作『ヴェネツィアに死す』(Chapters 1-3)分析
⑤	原作『ヴェネツィアに死す』分析（3）	原作『ヴェネツィアに死す』(Chapters 4-5)分析
⑥	映画化『ベニスに死す』分析（1）	原作と映画（前半）の比較
⑦	映画化『ベニスに死す』分析（2）	原作と映画（後半）の比較
⑧	P. ジュースキント『香水_ある人殺しの物語』総論（3）	原作の通読、映画の視聴
⑨	原作『香水_ある人殺しの物語』分析（1）	原作(Chapters 1-16)の指定箇所の熟読
⑩	原作『香水_ある人殺しの物語』分析（2）	原作(Chapters 17-34)の指定箇所の熟読
⑪	原作『香水_ある人殺しの物語』分析（3）	原作(Chapters 35-52)の指定箇所の熟読
⑫	映画化『パフューム_ある人殺しの物語』分析（1）	原作と映画（前半）の比較
⑬	映画化『パフューム_ある人殺しの物語』分析（2）	原作と映画（後半）の比較
⑭	試験・まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの当該箇所を読んでおくこと。

授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。

【テキスト（教科書）】

パトリック・ジュースキント：『香水_ある人殺しの物語』（文春文庫 シ 16-1）。

その他の教材は学習支援システムに事前に授業資料をアップします。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。

【Outline (in English)】

We will examine the film adaptations of European literary works, compare the depictions of the originals and the films, and analyze the adaptations of the films.

・ Deepen interest and understanding of European literature, movies and culture.

・ Deepen understanding of media-specific expressions and interconnectivity between media.

Reading the relevant part of the text in advance.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

In-class assignment achievement rate: 60%

Final exam: 40%

If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：(フランス文学)

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのパカロレアは、19世紀にナポレオンⅠ世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では、パカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。筆記試験とは、「テキスト解釈」と「ディセルタション」です。2021年のパカロレア改革以降、そのいずれかを選択するようになりました。

同時に関連する文学作品の抜粋を（日本語で）読みます。春学期は、17世紀と18世紀の作家の作品が中心になります。

【到達目標】

- ・フランス文学史の流れを理解し、主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・フランスの学校教育における伝統的な論述文とは何かを理解する。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。映像を視聴したり、指示に従って文章を書いてもらったりすることもあります。課題へのフィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要
2	16世紀	ユマニスムとモンテーニュ『エッセー』
3	17世紀（1）	バロックから古典主義へ
4	17世紀（2）	ラファイエット夫人『クレヴの奥方』
5	17世紀（3）	古典主義の演劇
6	17世紀（4）	モリエール『才女気取り』（1）時代と作者
7	17世紀（5）	モリエール『才女気取り』（2）作品分析
8	テキスト解釈	パカロレア過去問題解説
9	18世紀（1）	アベ・ブレヴォ『マノン・レスコー』
10	18世紀（2）	モンテスキュー『ペルシャ人の手紙』
11	18世紀（3）	ラクロ『危険な関係』
12	18世紀（4）	ヴォルテール『カンディード』（1）時代と作者
13	18世紀（5）	ヴォルテール『カンディード』（2）作品分析
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で言及された文学作品を読むこと。本を読む時間がなければ、映画化された作品を鑑賞することから始めてみましょう。
- ・本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

- ・横山安由美／朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年
- ・植田祐次【編】『十八世紀フランス文学を学ぶ人のために』世界思想社、2003年
- ・野崎敏『フランス文学と愛』講談社現代新書、2013年

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内に配布したプリントは学習支援システムにもアップロードするようにします。

【その他の重要事項】

「授業計画」に記している各回の授業内容は、状況により多少変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis.

The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：(フランス文学)

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのパカロレアは、19世紀にナポレオンI世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では、パカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。筆記試験とは、「テキスト解釈」と「ディセルタション」です。2021年のパカロレア改革以降、そのいずれかを選択するようになりました。

同時に関連する文学作品の抜粋を（日本語で）読みます。秋学期は19世紀と20世紀の作家が中心になります。

【到達目標】

- ・フランス文学史の流れを理解し、主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・フランスの学校教育における伝統的な論文とは何かを理解する。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。映像を視聴したり、指示に従って文章を書いてもらったりすることもあります。課題へのフィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要説明
2	19世紀（1）	ヴィクトル・ユゴーとロマン主義
3	19世紀（2）	フローベール『ボヴァリー夫人』
4	19世紀（3）	エミール・ゾラ『我弾劾す』
5	19世紀（4）	エミール・ゾラと自然主義
6	19世紀（5）	ボードレール『悪の華』
7	ディセルタション	パカロレア過去問題解説
8	20世紀（1）	エドモン・ロスタン『シラノ・ド・ベルジュラック』
9	20世紀（2）	シュールレアリスム
10	20世紀（3）	レーモン・クノー『文体練習』
11	20世紀（4）	アラン・ロブ＝グリエ『消しゴム』
12	20世紀（5）	アルベール・カミュ『異邦人』
13	20世紀（6）	アニー・エルノー『凍りついた女』
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で言及された文学作品を読むこと。本を読む時間がなければ、映画化された作品を鑑賞することから始めてみましょう。

・本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

- ・横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年
- ・小倉孝誠【編】『十九世紀フランス文学を学ぶ人のために』世界思想社、2014年
- ・野崎敏『フランス文学と愛』講談社現代新書、2013年

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内に配布したプリントは学習支援システムにもアップロードするようにします。

【その他の重要事項】

「授業計画」に記している各回の授業内容は、状況により多少変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis.

The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)	
外国文学A	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
吉井 涼子	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：月5/Mon.5
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代のものから唐詩までを主な対象とし、作品のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

【到達目標】

中国古典や漢詩を鑑賞するために必要な基本知識を習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、要領さえ掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。成立した時代背景・習俗や作者などを解説しつつ、原文を訓読で読解していく形を基本とする。授業は春秋時代から唐代まで、時代順に進めていく。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらって学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国とは	授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを、漢字の発展を軸に概説する。
第2回	甲骨・金文	実際の甲骨文字と金文の出土資料を使い、現在の漢字に至るまでの文字の変遷を知る。
第3回	『詩経』を読む	現存最古の中国の詩集『詩経』について解説し、実際に数首を読む。
第4回	楽府と古詩	前漢時代に詠まれた楽府や古詩十九首などを読み、当時の習俗についても学ぶ。
第5回	三曹の詩	『三国志』の英雄である曹操とその息子たちの詩を鑑賞する。
第6回	陶淵明	六朝期を代表する作品を比較しつつ鑑賞する。
第7回	孟浩然と崔顥	この回から唐詩を学ぶ。まず唐詩（近体詩）全体についてスタイルなどを解説し、実際に崔顥の「黃鶴楼」と孟浩然の「春暁」を読む。

第8回	李白	李白は中国詩を知る上で欠かせない人物である。月を愛した詩人李白の、月を詠んだ有名な詩を鑑賞する。
第9回	王維	王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。
第10回	杜甫	「春望」など、杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。
第11回	白居易	「長恨歌」を読み解く。
第12回	杜牧	杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。
第13回	復習と総括	第1回からの授業を振り返り、改めて中国文学の流れを学習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

大島正二『漢字と中国人—文化史をよみとく—』（岩波書店2003年）
岡村繁『文選の研究』（岩波書店1999年）
興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店2000年）
小川環『唐代の詩人—その傳記』（大修館書店1975年）
松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』（大修館書店1987年）
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【Outline (in English)】

It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background・culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.

Acquire the basic knowledge necessary to appreciate Chinese classics and Chinese poetry. Chinese classics, including Chinese poetry, tend to have a difficult image, but once you know the point, you can see that it's easy to understand.

Do it in a lecture format. While explaining the historical background, customs, and authors, he reads the original text in "kundoku". Classes proceed in chronological order from the spring and autumn period to the Tang dynasty.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に漢代のものから、より物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、その当時の時代背景や文化などと一緒に多くの話を読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。

【到達目標】

物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識により、他の中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国とは
第2回	漢代の文章	『史記』伯夷・叔斉伝を読む。
第3回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第4回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第5回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第6回	志怪小説を読む（1）	『搜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。 （1）では魂の行方をテーマとする
第7回	志怪小説を読む（2）	志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第8回	志怪小説を読む（3）	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。

- 第9回 「人虎伝」を読む（1） 中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝は日本でも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。
- 第10回 「人虎伝」を読む（2） 人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。
- 第11回 「人虎伝」を読む（3） 人虎伝の続きを読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。
- 第12回 「人虎伝」を読む（4） 結末を読み、人虎伝とは結局どのような物語であったのかを整理する。
- 第13回 復習と総括 第1回からの授業を振り返り、改めて文学の流れを学習する。
- 第14回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院 中国古典小説選『穆天子伝 漢武故事 神異経 山海経他』
 明治書院 中国古典小説選『搜神記・幽明録・異苑他』
 明治書院 新釈漢文大系『史記八（列伝一）』
 明治書院 新釈漢文大系『唐代伝奇』
 平凡社 東洋文庫『搜神記』
 この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【Outline (in English)】

From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature. By actually reading a very narrative work, you can deepen your understanding of Chinese classics in general. Through the knowledge read there, will cultivate the basics and culture of enjoying other Chinese studies. Do it in a lecture format. In the case of a person, the life and historical background are also explained. Works and novels are based on reading the original text by reading comprehension, but especially long texts use Japanese translations. Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA (文学 / Literature 100)	
外国文学A	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
吉井 涼子	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中のそれぞれの文献や文学作品を比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

【到達目標】

日中両国の文学作品を、より広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることにより、自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語の性格などを概説する。
第2回	「神話」を読む（1）	中国前漢時代の書物である『淮南子』の、中国の創世神話的な部分を読む。
第3回	「神話」を読む（2）	中国の歴史書である『史記』の本紀を中心に、史書の中の神話的性格が強い部分を読む。
第4回	「神話」を読む（3）	前回に引き続き、『史記』の神話・伝説にあたる部分から、実在の王朝へとつながる部分を読む。
第5回	「神話」を読む（4）	日本の記紀神話の創世の部分を中心に読む。
第6回	「神話」を読む（5）	日本の神話から、スサノオやオオクニヌシの部分を読む。
第7回	月と太陽の神話比較	日本と中国それぞれの文化における月と太陽の話を扱う。
第8回	「魏志倭人伝」を読む（1）	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。この回では『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条（所謂「魏志倭人伝」）を実際に読む。

第9回	「魏志倭人伝」を読む（2）	「魏志倭人伝」を読み、当時の日本の状況と当時の中国との関係について学ぶ。
第10回	説話を読む（1）	『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』から、当時の習俗や思想・他界観が読み取れる話を読む。
第11回	説話を読む（2）	信貴山の縁起に関わる物語を読む。
第12回	『枕中記』を読む	中国唐代の伝記小説である『枕中記』を読み、当時の人々の暮らしなども学ぶ。
第13回	復習と総括	第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

岩波文庫『古事記』
明治書院 新釈漢文大系『史記』一（本紀上）
渡邊義浩 中央公論新社『魏志倭人伝の謎を解く 三国志から見る邪馬台国』
小学館 日本古典文学全集『今昔物語』
小学館 日本古典文学全集『宇治拾遺物語』
明治書院 新釈漢文大系『唐代伝奇』
小学館 日本古典文学全集『枕草子』
など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。
授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。
高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等が必須であるので、よく留意しておくこと。

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

Can gain the knowledge and education necessary to appreciate literary works from both Japan and China from a broader perspective, and deepen your understanding of your own culture.

Do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each.

I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA (文学 / Literature 100)	
外国文学B	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
吉井 涼子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水3/Wed.3	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と中国それぞれの古典を比較しつつ鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点でより深く楽しむことができる知識と教養を得る。

【到達目標】

精読を通して、日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得る。日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読み解くための基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを、漢字の発展を軸に概説する。
第2回	流浪する英雄—中国—（1）	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を精読する。
第3回	流浪する英雄—中国—（2）	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第4回	流浪する英雄—中国—（3）	登場人物を整理しつつ、重耳の流転を追う。
第5回	流浪する英雄—中国—（4）	これまでの流れを、『史記』晋世家以外の歴史資料などを用いて補完し、時系列を整理する。
第6回	流浪する英雄—中国—（5）	重耳の結末と、家臣らのその後を知る。
第7回	流浪する英雄—日本—（1）	記紀からヤマトタケルの物語を読み解く。
第8回	流浪する英雄—日本—（2）	ヤマトタケルの辿った運命とその結末について学ぶ。
第9回	戦の天才とその終わり—中国—（1）	『史記』列伝から、中国史における軍事の天才の1人である楽毅の話を読む。
第10回	戦の天才とその終わり—中国—（2）	当時の時代背景などに注意しつつ、楽毅列伝から、楽毅の書いた手紙を読む。

第11回	戦の天才とその終わり—日本—（1）	日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から数段抜粋して読み解く。
第12回	戦の天才とその終わり—日本—（2）	『平家物語』の続きと義経の書いた手紙を読み、平家の結末に関して解説する。
第13回	復習と総括	第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院 新釈漢文大系『史記』五（世家中）
 明治書院 新釈漢文大系『春秋左氏伝』（一）
 明治書院 新釈漢文大系『国語』（上）
 明治書院 新釈漢文大系『国語』（下）
 明治書院 新釈漢文大系『史記』九（列伝二）
 小学館 日本古典文学全集『古事記 上代歌謡』
 岩波書店 日本古典文学大系32『平家物語』上
 岩波書店 日本古典文学大系33『平家物語』下
 など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくるのが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等が必須であるので、よく留意しておくこと。

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view. By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

Through reading carefully, you will gain the knowledge and culture necessary to appreciate the literature of both Japan and China from a broader perspective. When you are interested in Japanese and Chinese classics, you can learn the basics for reading on your own.

Decide on a theme, do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each.

I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：韓国文学を読む

禹 丞美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本語に翻訳された韓国の近現代文学を読み、作品が成立した背景にある社会・文化・歴史・政治的諸相を多角的に考察することを目的とする。「ソウル」「家」「多様化」といった象徴的なキーワードを軸に、韓国社会の変遷を概説し、テキストに対する深い洞察力を得ることを目指す。

【到達目標】

韓国社会への理解を深め、韓国文学に対する鑑賞力を養うことを目標にする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は講義形式で行いますが、適宜パワーポイントやレジュメをなどの補助資料を使用します。受講生は、毎回講義内容に関するリアクションペーパーを提出してください。次の授業で、一部を抜粋し紹介・講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	韓国社会の概要と、授業のねらいについて説明します
2	ソウルと韓国文学	韓国文学の中でソウルがどのような意味を持つかを考察します
3	開発されるソウル	都市開発時代のソウルが韓国文学でどのように描かれているかを考察します
4	ソウルと労働	労働者の町としてのソウルが韓国文学でどのように描かれているかを考察します
5	夢としてのアパート	住居空間としてのアパートが韓国文学でどのように描かれているかを考察します
6	韓国文学の中の住居	韓国文学の中で描かれる住居空間について考察します。
7	民主化運動と韓国文学	民主化運動について概説し、この時代に描かれた韓国文学について考察します
8	韓国文学に描かれる光州	「光州事件」が描かれている韓国文学を読み、歴史を書き残すことの意味について考察します
9	「災難」と韓国文学	韓国文学において、「災難」がどのように描かれているかを概説します
10	「災難」を書き残すということ	凄惨な事件や事故を文学として描くことの意味について考察します

11	ジェンダーと韓国文学	韓国文学に描かれる母性の問題について考察します
12	多様性を描く韓国文学	韓国文学の中で多様性がどのように描かれているかを考察します
13	多様性の可能性を模索する韓国文学	韓国文学の中で多様性の可能性をどのように模索しているかを考察します
14	まとめ／期末テスト	これまでの授業の内容を振り返ります。選択式のテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に共有する作品を授業時までに読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ガイドランスで紹介しします

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末テスト70%により総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The objective of this course is to read modern and contemporary Korean literature translated into Japanese and to examine the various social, cultural, historical, and political aspects surrounding their creation from multiple perspectives. By focusing on symbolic keywords such as "Seoul," "Home," and "Diversification," students will gain an overview of the transitions in Korean society and aim to develop deep insights into the texts.

【Learning Objectives】

The goal is to deepen students' understanding of Korean society and to cultivate their ability to appreciate Korean literature.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately two hours each for preparation and review for each class. You are required to read the assigned literary works in advance of each session.

【Grading Criteria /Policy】

Class Participation: 30%

Final Examination: 70%

LIT100LA (文学 / Literature 100)

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：戦争と韓国文学

禹 丞美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本語に翻訳された韓国の文学作品の中から、戦争を描く作品を取り上げます。混乱、暴力、貧困といった戦争による惨状を確認すると同時に、文学と戦争の関係を複層的に捉えることを目標とします

【到達目標】

戦争が韓国社会の構造や人々の精神性に与えた多大な影響への理解を深め、韓国文学に対する深い洞察力和鑑賞力を養います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は講義形式で行いますが、適宜パワーポイントやレジュメなどの補助資料を使用します。受講生は、毎回講義内容に関するリアクションペーパーを提出してください。次の授業で、一部を抜粋し紹介、講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	朝鮮戦争の概要と、授業のねらいについて説明します
2	朝鮮戦争と韓国文学	朝鮮戦争を描いた韓国文学について概説します
3	黄順元（ファン・スンウォン）と分断	黄順元の作品に描かれる分断の意味について考察します
4	朴婉緒とソウル	戦時中のソウルが描かれる朴婉緒の作品を読み、戦争とイデオロギーについて考察します
5	戦後の解放村（ヘバンチョン）	戦後の解放村が描かれている韓国文学を読みます
6	朴景利と「戦争未亡人」	「戦争未亡人」が韓国文学でどのように表象されているかについて考察します
7	廃墟としての仁川（インチョン）	仁川上陸作戦で焦土となった仁川が韓国文学にどのように描かれているかについて考察します
8	坡州（パジュ）と失郷民	分断によって故郷を喪失した「失郷民」の哀しみと、境界の町・坡州が文学の中でどう描かれてきたかを考察します
9	移住とディアスポラ	戦争によって移住を余儀なくされるディアスポラを描いた文学作品を読みます

10	パルチザンと朝鮮戦争	元パルチザンとしての父を持つ娘の視点から描かれた鄭智我（チョン・ジア）の作品を通じ、家族に残された戦争の爪痕を読み解きます。
11	戦争とジェンダー	韓国文学を通じて戦争によって女性が置かれる様々な立場について考察します
12	戦争と子ども	韓国文学を通じて戦争によって子どもが置かれる様々な立場について考察します
13	ベトナム戦争と韓国文学	韓国文学を通じてベトナム戦争と韓国の関係について考察します
14	まとめ／期末テスト	これまでの授業の内容を振り返ったあと、選択式テストを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に共有する作品を授業時まで読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ガイダンスで紹介します

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末テスト70%により総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students are expected to spend approximately two hours each for preparation and review for each class. You are required to read the assigned literary works in advance of each session.

【Learning Objectives】

The course aims to deepen students' understanding of the profound impact of war on the structure of Korean society and the collective mentality of its people, while fostering a deep insight into and appreciation for Korean literature.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately two hours each for preparation and review for each class. You are required to read the assigned literary works in advance of each session.

【Grading Criteria /Policy】

Class Participation: 30%

Final Examination: 70%

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。

自由な読解や解釈は大変大事なのですが、手放して行くと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。

講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

なお、授業冒頭ではリアクションペーパーへの返答に多めに時間を割り、テーマにかかわらず文学に関する種々の疑問に答えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「教科書として読まないこと」と理論を学ぶ意味について
第2回	芥川龍之介「羅生門」①	「語り」について
第3回	芥川龍之介「羅生門」②	物語類型について
第4回	芥川龍之介「羅生門」③	テキスト論について
第5回	芥川龍之介「羅生門」④	間テキスト性について
第6回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」①	プロレタリア文学について
第7回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」②	マルクス主義批評について
第8回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」③	書簡体の力について
第9回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」④	ストーリーとプロットについて
第10回	夏目漱石『こころ』①	読者反応批評について

第11回 夏目漱石『こころ』② フェミニズム批評ジェンダー批評について

第12回 夏目漱石『こころ』③ ジェンダー批評について

第13回 夏目漱石『こころ』④ 教育と『こころ』について

第14回 総括 まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

芥川龍之介『羅生門・鼻』新潮文庫

葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』角川文庫

夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか

必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

文学理論について概観したいときは、入門書として

廣野由美子『批評理論入門 『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書、2005年）

がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

リアクションペーパーについては毎時間かなりの文字数を要求しますので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義のため、時折私語をする学生が発生し、大いに邪魔です。例年通り適宜注意を行うほか、嚴重なペナルティも検討します。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、初回は人数の把握のためにオンデマンド形式での実施とします。こちらからの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA (文学 / Literature 100)

日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。

自由な読解や解釈は大変大事なものですが、手放しで行うと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。

講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

なお、授業冒頭ではリアクションペーパーへの返答に多めに時間を割り、テーマにかかわらず文学に関する種々の疑問に答えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	角度を変えた読み方の面白さについて
第2回	中島敦「山月記」①	「信用できない語り手」について
第3回	中島敦「山月記」②	イメージと象徴について
第4回	中島敦「山月記」③	イメージに基づく「虎」解釈について
第5回	中島敦「山月記」④	プロットとストーリーについて
第6回	原民喜「夏の花」①	戦争と文学について
第7回	原民喜「夏の花」②	「私小説」について
第8回	原民喜「夏の花」③	伝記批評について
第9回	原民喜「夏の花」④	文体について
第10回	森鷗外「舞姫」①	文化批評について
第11回	森鷗外「舞姫」②	都市論について
第12回	森鷗外「舞姫」③	「近代文学」の制度について
第13回	森鷗外「舞姫」④	「自己」の問題について
第14回	総括	まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。指定された作品はそれを扱う授業までに確実に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】

中島敦『山月記・李陵』岩波文庫

原民喜『夏の花・心願の国』新潮文庫

森鷗外『阿部一族・舞姫』新潮文庫

必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

文学理論について概観したいときは、入門書として

廣野由美子『批評理論入門』『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書、2005年）

がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

リアクションペーパーは毎時間かなりの文字数を要求するので、覚悟しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義のため、時折私語をする学生が発生し、大いに邪魔です。例年通り適宜注意を行うほか、厳重なペナルティも検討します。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、初回は人数の把握のためにオンデマンド形式での実施とします。こちらからの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

安藤 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章を書くにあたって、形式やルールといった基礎的な段階を出発点として、より豊かな表現を習得することを目指す。

【到達目標】

- ・言葉（日本語表現）についての知識と理解を深める。
- ・言葉や文章の背景にある社会的事象を理解し、実践を通して深める。
- ・自分の考えや意見を言語化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・テーマに沿った課題を提示し実際に文章を書く。
- ・提出された課題（400～2000字程度）について添削・指導をおこなう（字数については目安、状況により変動あり）。
- ・提出された課題の中から適宜、事例を紹介し、全体に共有する（番号・氏名は伏せる）。可能であれば受講者による相互批評もおこなう。
- ・エッセイ、コラム、記事、文学作品、学術論文など多様な形式に触れる中で文章表現を学ぶ。
- ・文章表現に関わる基礎知識や社会的事象について解説をおこなう。
- ・教室内での課題の実践にあたっては、専用用紙への手書きの他、パソコン・タブレット端末による入力を想定。
- ・配布資料については印刷したもののほか、分量によりPDFファイルなどでも共有する。
- ・下記の授業計画の内容は、実際の進行状況により修正・変更の場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明
第2回	自己紹介文	自分自身について語る
第3回	自己紹介文	文章表現の系譜の紹介・課題に沿った実践
第4回	自己紹介文	添削と講評
第5回	書く、表す	書式とルール（段落構成・語句表現等）
第6回	書く、表す	課題に沿った実践
第7回	書く、表す	添削と講評
第8回	論述的な文章	資料調査の方法・引用について等
第9回	論述的な文章	時事的な文章の紹介
第10回	論述的な文章	課題に沿った実践
第11回	論述的な文章	添削と講評
第12回	文章表現と倫理、リテラシー	注意点の概説
第13回	意見・思考の言語化	これまでの内容を踏まえての実践
第14回	総括	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、授業内での提出物30%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

実践やフィードバックの方法などについて、より改善できるよう留意したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の実践や資料調査、配布資料の共有にあたり使用するため、パソコンやタブレット端末等の準備があると望ましい。（※スマートフォンの場合は、文章入力や内容確認、資料閲覧などにあたり、使いづらいため。）また、アイデアや構想を書き留めるためのノートやメモの持参も推奨したい。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

- ・文章論は受講者の制限がある授業です（20名～上限25名）。
- ・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。
- ・選抜終了後に受講決定者の学生証番号をHoppiiを使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

- ・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
- ・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
- ・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【授業概要（Course outline）】

The aim of this course is to help students acquire written expression.

到達目標（Learning Objectives）

The goals of this course are to verbalize your mind.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。

この授業では実際に書く回数を多くして、それへの講評・批評を確かめることによって、実践的に「書く力」をつけてもらいます。月曜日4限（春学期）の授業とはカリキュラムが異なりますので、比較的うえ選択してください（この授業と月曜日4限（秋学期）とは同内容です）。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着するとともに、相互批評を通じて「読む力」をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

目標達成のために、以下のように3回1セットを基本として4セットの授業を行います（課題③は下記Ⅰを2回かけておこない、4回を1セットとします）。

Ⅰ 課題に関する文章を使った講義：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。課題作文の要項を説明します。

Ⅱ 文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。この回では事前に作成してきた課題作文を提出してもらいます。

Ⅲ 課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。

なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第2回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第3回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第4回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第5回	課題②文献を扱って書く	文献の扱い方を学ぶ。
第6回	課題②文献を扱って書く	資料の探し方を学ぶ。
第7回	課題②文献を扱って書く	課題②の講評・相互批評。
第8回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。

第9回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第10回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第11回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第12回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について学ぶ。
第13回	課題④期末作文を書く	学習内容のまとめをおこなう。
第14回	課題④期末作文を書く	課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作文を半期で4回書いてもらいます。課題作文は1週間で作成してもらいます。

授業中にしめた参考文献はできる限り読むようにしてください。日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。

（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（相互批評、リアクションペーパーの内容）：50%

提出物の内容：50%

未提出の課題が1つでもあった場合、原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

例年「作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立った」「リアクションペーパーへの返答が理解を深める役に立った」という意見をもらえているので、引き続き丁寧におこなうようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や欠席した場合の課題提出などに学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号をHoppiiで告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to help students acquire the "writing skills" necessary for university study by learning techniques and reading and writing a variety of texts.

This course focuses on building practical writing skills by having them write many times and receiving feedback and criticism on their work. The curriculum is different from the class held in the fourth period on Mondays (spring semester), so please compare the two before selecting (This class has the same content as the fourth period class on Mondays (fall semester)).

【Learning Objectives】

Establish a foundation of writing skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

You will be required to write an assigned essay four times during the semester.

You will have one week to prepare a draft of your essay.

Please read the references given in class as much as possible.
When you see texts in your daily life, please be aware of what you have learned in the lecture.

(The standard preparation and review time for this class is two hours each.)

【Grading Criteria /Policy】

Regular marks (peer critiques, reaction paper content): 50%

Submission content: 50%

In principle, if even one assignment is not submitted, credits will not be given.

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。

この授業では小さな課題をその都度こなしていくことで大学での学習に必要な「書く力」をつけてもらいます。月曜日3限（春学期）・月曜日4限（秋学期）の授業とはカリキュラムが異なりますので、比較的うえ選択してください。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1：各回テーマにあわせた内容を講義形式で学びます。
 - 2：講義で学んだことを実践的に身につける実習をおこないます。
 - 3：実習への解説をもとに理解を深めます。
 - 4：最終的にレポートを実際書いてもらうことで、学んだことの定着をはかります。
- なお、受講人数によっては受講者のニーズにそったかたちで柔軟に対応をおこないたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第2回	レポート作成の基礎①	レポート執筆の基本的な規則を学ぶ。
第3回	レポート作成の基礎②	レポートに関する基本的な考え方を学ぶ。
第4回	資料の使い方①	インターネットを利用した文献検索を学ぶ。
第5回	資料の使い方②	文献の引用を学ぶ。
第6回	資料の使い方③	大学図書館の利用方法を学ぶ。
第7回	資料の使い方④	文献の要約を学ぶ。
第8回	学術的文章の実践①	テーマの決め方を学ぶ。
第9回	学術的文章の実践②	事実と意見の分け方を学ぶ。
第10回	学術的文章の実践③	段落構成を学ぶ。
第11回	学術的文章の実践④	読みやすい文章について学ぶ。
第12回	レポート作成実習①	ここまで学んだ内容をもとにレポートを作成する。
第13回	レポート作成実習②	前回内容の返却・講評をとおして理解を深める。
第14回	まとめ	授業内容の振り返りと参考文献紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容についてはきちんと復習をおこない、可能であれば他の授業で実践をおこなってください。
授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。

日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。

（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（実習への取り組み・リアクションペーパーの内容）：50％
レポート作成実習：50％

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの返答が理解を深める役に立ったという意見を多数もらったので、引きつづき丁寧な返答を心がけます。
レポート作成のための基礎を身につけることができてよかった旨の意見も複数もらったので、良い部分は維持しつつ、配布資料の精査や課題の出しかたなど、さらなる改善につとめます。
大学図書館の利用方法については前年度の授業で要望が多数あり、かつ、役立ったとの意見が多かったため臨時で実施しましたが、本年度からはコンテンツとして正式に取り入れることにしました。本年度も、全ては難しいですが、要望に応じて臨機応変なコンテンツ作りができればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付・課題提出に学習支援システムを使用します。

第6回の授業の大学図書館利用でコピーカードを使用します。

【その他の重要事項】

- ※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
- 受講人数の制限について（選抜について）
- ・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。
- ・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。
- ・選抜終了後に受講決定者の学生証番号をHoppiiで告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。
- ・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。
- 複数の「文章論」クラスへの登録について
- ・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
- ・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
- ・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is designed to help students acquire the "writing skills" necessary for studying at universities by learning techniques and reading and writing a variety of texts.

This course builds the writing skills necessary for university studies by completing small assignments incrementally. The curriculum is different from the Monday 3rd period (spring semester) and Monday 4th period (fall semester) classes, so please compare the curriculum before making your selection.

【Learning Objectives】

Establish a foundation of writing skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

Please review the content you learned in class carefully and, if possible, put it into practice in other classes.

Please read the references given in class as much as possible.

When you see texts in your daily life, try to keep in mind what you learned in lecture.

(The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.)

【Grading Criteria /Policy】

Regular marks (approach to practical training and reaction paper contents): 50%

Report writing practical training: 50%

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

関口 雄士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。

この授業では実際に書く回数を多くして、それへの講評・批評を確かめることによって、実践的に「書く力」をつけてもらいます。月曜日4限（春学期）の授業とはカリキュラムが異なりますので、比較のうえ選択してください（この授業と月曜日3限（春学期）とは同内容です）。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着するとともに、相互批評を通じて「読む力」をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

目標達成のために、以下のように3回1セットを基本として4セットの授業を行います（課題③は下記Ⅰを2回かけておこない、4回を1セットとします）。

Ⅰ 課題に関する文章を使った講義：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。課題作文の要項を説明します。

Ⅱ 文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。この回では事前に作成してきた課題作文を提出してもらいます。

Ⅲ 課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。

なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第2回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第3回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第4回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第5回	課題②文献を扱って書く	文献の扱い方を学ぶ。
第6回	課題②文献を扱って書く	資料の探し方を学ぶ。
第7回	課題②文献を扱って書く	課題②の講評・相互批評。
第8回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。

第9回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第10回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第11回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第12回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について学ぶ。
第13回	課題④期末作文を書く	学習内容のまとめをおこなう。
第14回	課題④期末作文を書く	課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作文を半期で4回書いてもらいます。課題作文は1週間で作成してもらいます。

授業中にしめた参考文献はできる限り読むようにしてください。日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。

（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（相互批評、リアクションペーパーの内容）：50%

提出物の内容：50%

未提出の課題が1つでもあった場合、原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

例年「作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立った」「リアクションペーパーへの返答が理解を深める役に立った」という意見をもらえているので、引き続き丁寧におこなうようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や欠席した場合の課題提出などに学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号をHoppiiで告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to help students acquire the "writing skills" necessary for university study by learning techniques and reading and writing a variety of texts.

This course focuses on building practical writing skills by having them write many times and receiving feedback and criticism on their work. The curriculum is different from the class held in the fourth period on Mondays (spring semester), so please compare the two before selecting (This class has the same content as the third period class on Mondays (spring semester)).

【Learning Objectives】

Establish a foundation of writing skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

You will be required to write an assigned essay four times during the semester.

You will have one week to prepare a draft of your essay.

Please read the references given in class as much as possible.
When you see texts in your daily life, please be aware of what you have learned in the lecture.

(The standard preparation and review time for this class is two hours each.)

【Grading Criteria /Policy】

Regular marks (peer critiques, reaction paper content): 50%

Submission content: 50%

In principle, if even one assignment is not submitted, credits will not be given.

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとおし、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppiiで学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすくして論理的」か「美しくして感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識する
第2回	「マジメ」な文章の綴り方	ビジネスマナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第3回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第4回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第5回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第6回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第7回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第8回	批評文の書き方②	批評理論について概観する
第9回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第10回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第11回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第12回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナリティについて学ぶ
第13回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。期末レポートも含めて四度の大きな課題提出があります。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、提出物30%、期末課題40%

非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものをがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度に応じてプラスアルファが欲しいとの要望があったため、毎時簡単に文章上のレトリックについての講義も取り入れていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のためのパソコン（Wordをインストール）

また出欠確認および課題の提出には学習支援システムを使用します。特に出欠確認は授業内で行うため、スマートフォンやタブレット等の用意をお願いします。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を学習支援システムを通じて告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

BSP100LA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

文章論

2017年度以降入学者

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとおり、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppiiで学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすくして論理的」か「美しくして感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識する
第2回	「マジメ」な文章の綴り方	マナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第3回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第4回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第5回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第6回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第7回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第8回	批評文の書き方②	批評理論を概観する
第9回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第10回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第11回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第12回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナルティについて学ぶ
第13回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、提出物30%、期末課題40%

非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものをがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度に応じてプラスアルファが欲しいとの要望があったため、毎時簡単に文章上のレトリックについての講義も取り入れていくつもりです。す。

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のためのパソコン（Wordをインストール）

また出欠確認および課題の提出には学習支援システムを使用します。特に出欠確認は授業内で行うため、スマートフォンやタブレット等の用意をお願いします。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。

・4月13日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は選抜（抽選）を実施します。そのため、受講希望者は4月13日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を学習支援システムを通じて告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

LIN100LA（言語学 / Linguistics 100）

言語学 A

2017年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 講義と演習（グループディスカッション・グループワーク）を中心に行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	言語学とは何か
	言語学入門1	言語の特質（1）
第2回	言語学入門2	言語の特質（2）
第3回	言語学入門3	言語の特質（3）
第4回	音声学1	音声器官
第5回	音声学2	調音
第6回	音声学3	母音、子音
第7回	音韻論1	異音、相補分布
第8回	音韻論2	環境同化、音声的類似
第9回	音韻論3	日本語の音韻体系
第10回	第二言語習得研究1	第二言語習得研究の流れ
第11回	第二言語習得研究2	中間言語
第12回	第二言語習得研究3	学習者の母語と第二言語習得
第13回	第二言語習得研究4	習得順序と発達順序
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習時間は4時間を標準とする。
講義の骨子はPPTの形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業ではPPTの一部空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。
授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。
PPTを含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

資料（テキストに相当）及びPPTは授業支援システムにアップロードしてある。

資料の配付は行わないので、毎回持参すること。

テキスト名1：『日本語教師トレーニングマニュアル3 よくわかる言語学入門 解説と演習』 著者：町田健ほか 出版社：バベルプレス 定価：2233円＋税

テキスト名2：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得』 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800円＋税

【参考書】

参考文献は適宜PPTなどで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を100点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

※履修者数によっては、授業開始前に選抜を行なうかもしれない。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces language, phonetics, phonology and another language acquisition, encouraging to analyze and seize the many aspects of the language and language learning.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand the basic methods for scientific analysis of linguistic concepts, to understand the mechanism of second language acquisition and the current state of second language acquisition research.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated by Final exam(100%).

LIN100LA (言語学 / Linguistics 100)

言語学B

2017年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は第一言語習得はどのようになされるか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。後半は、異文化コミュニケーションを概観することで異文化についての理解を深める。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、第一言語習得を含め、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1言語習得1	第一言語とは？
第2回	第一言語習得2	第一言語習得とは？
第3回	第一言語習得3	第一言語習得研究の方法
第4回	第一言語習得メカニズム1	第一言語習得のメカニズム
第5回	第一言語習得メカニズム2	主な言語発達理論（基礎編）
第6回	第一言語習得メカニズム3	主な言語発達理論（応用編）
第7回	母語獲得とインプットの役割1	子どもの構造依存性 語順獲得母語獲得とインプットの役割
第8回	母語獲得とインプットの役割2	肯定証拠と否定証拠
第9回	母語獲得とインプットの役割3	インプットの効果
第10回	異文化理解1	カルチャーショック
第11回	異文化理解2	ジョハリの窓
第12回	異文化トレーニング1	異文化トレーニング方法1
第13回	異文化トレーニング2	異文化トレーニング方法2
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習時間は4時間を標準とする。
講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードする

ので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の一部空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。

授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（テキスト相当）及びPPTは授業試験システムにアップロードしてある。

資料の配付は行なわないので、毎回持参すること。

テキスト名：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800円＋税

【参考書】

PPTの参考文献に示した。

参考書名：『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築へ向けて』 著者：石井敏ほか 出版社：有斐閣選書

【成績評価の方法と基準】

全ての課題提出を期末試験に換算し、100点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・第一言語習得理論、日本語を外国人に教えるための日本語教育文法に興味を持ってもらえてよかったと思う。

・前期に言語学Aを履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学Bでは前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひろってから後期の講義内容へとつなげた。後期登録の学生はスムーズに授業に入っていたようでよかった。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 In the first half of the course, this course introduces about how first language acquisition is accomplished. In the second half, students will deepen their understanding of different cultures through an overview of cross-cultural communication.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand various phenomena surrounding languages, including first language acquisition, and to become aware of the diversity of the world after being conscious of the diversity of languages. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated by Final exam(100%).

LIN100LA (言語学 / Linguistics 100)

言語学 A

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようにすることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介し、また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介し、

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 言語学の方法についての基礎的な分野、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論の基本形式を理解する。
3. 他の学問領域と重なる語用論、社会言語学および心理言語学のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

「言語学」の基礎的な術語・概念について講義し、どう言語を扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	言語と言語学	世界の言語と言語学を考える
第2回	音の作り方：音声学	「音声学」について解説する
第3回	音の使い方：音韻論	「音韻論」について解説する
第4回	単語のしくみ：形態論・語彙論	「形態論・語彙論」について解説する
第5回	意味の世界：意味論 1	「意味論」について解説する
第6回	単語間の意味関係：意味論 2	単語間の意味関係について考察する
第7回	文のしくみ：統語論 1	「統語論」について解説する
第8回	文の意味：統語論 2	文の意味のかかわる要素について日本語と英語を例に概観する
第9回	談話のしくみ：誤用論 1	「語用論」の観点について紹介する

第10回	会話のしくみ：誤用論 2	コミュニケーションを考えたときの要素について解説する
第11回	言語のバリエーション：社会言語学 1	「社会言語学」について概観する
第12回	言語の変化：社会言語学 2	言語変化が社会の中でどのように進行しているのかを概観する
第13回	文理解：心理言語学 1	文を理解するときのしくみについて解説する
第14回	文産出：心理言語学 2 (授業内試験をする可能性あり)	文を話すことができるしくみについて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にし、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋留美 他 (2021) 『やさしい言語学』

【参考書】

佐久間淳一 他 (2007) 『言語学入門』 研究社

千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂、

必要に応じて授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

課題：30%

平常点：20%

期末試験：50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持つという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language." In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand the basic forms of the methods of linguistics: phonetics, phonology, morphology, syntax, and semantics.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various perspectives, touching on areas such as pragmatics, sociolinguistics, and psycholinguistics, which overlap with other disciplines.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

【Learning activities outside of classroom】

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

LIN100LA (言語学 / Linguistics 100)

言語学 B

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようにすることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介します。また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介します。

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 世界の言語には思いもよらない現象があることを、日本語や英語のしくみと違う点・似ている点に注目することで、理解する。
3. 他の学問領域と重なる言語学の分野、歴史・比較・地理言語学、社会言語学、認知言語学、対照言語学および第二習得論のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

世界の言語について概観し、言語学と呼ばれるさまざまな分野においてそれらをどう扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第2回	歴史言語学の成果 1	「歴史言語学」の概説と、音変化に関する研究成果を紹介する
第3回	歴史言語学の成果 2	「歴史言語学」の概説と、形態、統語、語彙、意味の変化に関する研究成果を紹介する
第4回	比較言語学の成果	「比較言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第5回	地理言語学の成果	「地理言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第6回	社会言語学の成果 1	「社会言語学」の概説と、言語の変異、方言、使用域の研究でわかったことを紹介する

第7回	社会言語学の成果 2	「社会言語学」の概説と、言語接触、言語変化、言語政策の研究でわかったことを紹介する
第8回	認知言語学の成果	「認知言語学」を概観し、それがもたらす成果について解説する
第9回	第二言語習得について	「第二言語取得論」を概観し、そこでわかったことを紹介する
第10回	文字論	「文字論」について解説する
第11回	世界の諸言語について（発表）1	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する（中国語、韓国・朝鮮語）
第12回	世界の諸言語について（発表）2	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する（スペイン語、フランス語）
第13回	言世界の諸言語について（発表）3	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する（ロシア語、ドイツ語、英語）
第14回	「ことば」を考えると きの問題等 （授業内試験をする可能性あり）	「ことば」の力、言語の発見等について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にし、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

風間喜代三(1978)『言語学の誕生』岩波新書
佐久間淳一他(2007)『言語学入門』研究社
スティープンソン／江村他訳(2010)『図説 ことばの世界－欧米の言語史－』青山社
千野栄一(1994)『言語学の開かれた扉』三省堂
町田健・杉山洋介(1995)『よくわかる言語学入門－解説と演習』パベルプレス
小泉政利(2016)『ここから始める言語学プラス統計分析』共立出版
杉山洋介(2009)『日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学』研究社
迫田久美子(2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子(2001)『日本語学習者の文法習得』大修館書店

【成績評価の方法と基準】

課題：20%

平常点：20%

発表：20%

期末試験：40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language. In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand that there are unexpected phenomena in the world's languages by focusing on the differences and similarities between the systems of Japanese and English.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various angles through exposure to fields of linguistics that overlap with other disciplines, such as historical, comparative, and geographical linguistics, sociolinguistics, cognitive linguistics, contrastive linguistics, and second acquisition theory.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

【Learning activities outside of classroom】

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation performance: 20%, Assignments : 20%, in class contribution: 20%

LIN100LA (言語学 / Linguistics 100)

言語学 A

2017年度以降入学者

興石 哲哉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、コミュニケーションの手段として言語を用いてはいませんが、話すときにどの器官をどう使っているのかとか、相手のことをどのように解釈しているのかとか、そもそもどのようにして言語が話せるようになるのかとか、具体的な問題をほとんど意識したことはありません。この授業では、このように通常意識されない言語に関しての、さまざまな問題を考えていきます。

【到達目標】

1. 言語について記述するときの方法を知ること。
2. 言語について記述する際に、ある記述が他の記述と比べてどう優れているか知ること。
3. 世界の様々な言語の共通の特徴や多様性について知ること。
4. 言語学の様々な分野を知ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。可能な限り履修者とのインターアクションのある授業を目指したいと思いますが、毎回、前回の復習、次回にやることについて、具体的に示し、履修者に事前、事後の学習を奨励していきます。また、必要に応じて、授業中に小テストを課すことも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の内容についてお話するとともに、2回目の授業に際しての問題提起を行います。
2	言語学の「深みのなさ」について	言語の研究の独特のところとして、意味に関する研究をとりあえず棚上げにして、形式面での体系を考えていくことで、言語の仕組みがわかる、という側面があります。そのことについて授業で考察します。
3	言語と音声（1）	言語を音声の観点から見ていきます。どのようにして発話が可能になるのか等について考察します。
4	言語と音声（2）	前回に引き続き、言語と音声の関係について学んでいきます。
5	私がEnglish teacherでないわけ — 音声はどのように言語で用いられるか	音声はそれぞれの言語でどのように用いられているのか、授業で考察します。
6	言語と記号	言語は記号であると言われることが、どのような観点からそう言われるのか、授業で考察します。

7	英語に漢字があったら？ — 言語と文字との関係は？	言語を書き留める時の文字の働きについて、授業で考察します。
8	世界の言語の語順について(1)	世界の言語は多様性がありながら、少数のパターン化が可能です。このことについて、語順をテーマにして、授業で考察します。
9	世界の言語の語順について(2)	前回に引き続き、世界の言語の語順について学んでいきますが、それに関連して生成文法の生得仮説を紹介します。
10	言語の立体性について	言語は時間軸に沿って平面的に進んでいますが、それを解釈する場合は立体的な構造を付与して考えざるを得ません。このことについて、授業で考察します。
11	「狼と羊の話」の言語学	言語の詩的機能について、言語と社会の関係について、授業で考察します。ロシア・フォルマリストの考え方が中心です。
12	「うちのお父さんは今いらっしゃいません」 — 言語と社会の関係は？	言語と社会の関係について、授業で考察します。
13	期末テスト	これまで学んだところの理解度を見るため、試験を行います。
14	総括	テストについてコメントし、併せて総まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業内容のスライドを公開しますので、それを見て授業に臨んでください。さらに、授業後、授業支援者システムにて必ず毎回フィードバックを行いますので、未知であった用語等について、調べて固めておくことが大切です。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。大学設置基準により、本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布いたします。

【参考書】

千野栄一 (1980). 『言語学のたのしみ』. 東京：大修館書店。
千野栄一 (1975). 『言語学の散歩』. 東京：大修館書店。
泉井久之助 (1968). 『ヨーロッパの言語』. 東京：岩波書店。
Mihalicek, V. and C. Wilson (eds.) (2011). *Language Files*. [11th edition.] Columbus, OH: The Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】

出席を重視いたします。最終試験を100%。欠席は基本的に認めませんので、注意してください。原則として、5回欠席したら、不合格となります。場合によっては、プロジェクト等を課す場合もありますが、その際は事前にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業自体がなかったため、気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンがあるといろいろ便利です。特に言語学的な知識をいろいろなサイトから得るだけでなく、発音記号のフォントを使ったり、言語学で重要な樹形図を描くことができたりと、いろいろ勉強の可能性が広がります。

【その他の重要事項】

言語学は用語等が特殊でとっつきにくいところがありますが、その基本的な考え方を知ることは、言語の分析のみならず他の文化事象に関わる点が多く、これまでにない知見を皆さんに提供してくれるでしょう。なお、トピックを含め、授業に関しての具体的なことは、実情に合わせて変更・修正いたします。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目はリベラルアーツ1群に属す選択必修科目です。春学期のみの開講で、担当者が毎年交代する科目です。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

We human beings use language as a means of communication. However, when we come to think how we use our organs to speak, how we interpret speech, how we learn to speak; we realise that we are not at all conscious of actual challenges. The objective of this course is to consider these problems which are totally dropped out of our consciousness.

【到達目標 (Learning Objectives)】

They are as follows:

1. to know the basic methodology for linguistic descriptions,
2. to compare linguistic descriptions to decide which are the good ones,
3. to know the wide varieties of human languages,
4. to know various subfields of linguistics.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:

- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits =-10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits =failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LIN100LA (言語学 / Linguistics 100)

言語学B

2017年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第2回	音声学・音韻論1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第3回	音声学・音韻論2	音声器官、調音点
第4回	音声学・音韻論3	母音と子音
第5回	音声学・音韻論4	音素と異音
第6回	音声学・音韻論5	日本語と英語の強制的違い
第7回	形態論1	語の構造と語の構成
第8回	形態論2	派生接辞と屈折接辞
第9回	形態論3	語彙範疇と機能範疇
第10回	形態論4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第11回	形態論5	語の右側主要部規則
第12回	統語論1	文法とは何か
第13回	統語論2	文法構造
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。毎回プリントを配布するので、その内容も確認しておくこと。復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

毎回プリントを配布する。

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

平常点20%, 期末試験80% ※5回以上の欠席で評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は講義形式で行いますが、リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

Learning Objectives: Students understand a fundamental method to analyze languages and linguistic studies.

Learning activities outside of classroom: Students reconsider the content of previous classes.

Grading Criteria /Policy: Participation: 20%, Final Exam: 80%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・ソクラテスと彼の対論者たちとの思想の違い
- ・イデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第2回	哲学の基本的性格1	世界像と哲学
第3回	哲学の基本的性格2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第4回	哲学の歴史1	ヌース説 ソクラテス（1） ソクラテス以前・以後： 哲学の転回
第5回	哲学の歴史2	ソクラテス（2） ソフィストと哲学者
第6回	哲学の歴史3	ソクラテス（3） ソクラテス VS 快楽主義
第7回	哲学の歴史4	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第8回	哲学の歴史5	プラトン（2） 想起説とイデア
第9回	哲学の歴史6	プラトン（3） 善のイデア アリストテレスのイデア解釈

第10回	哲学の基本問題1	知の普遍性 その可能性の根拠
第11回	哲学の基本問題2	知性と神：プラトン
第12回	哲学の基本問題3	モラルの危機と哲学
第13回	哲学の基本問題4	一元論思想とその問題点 東西の一元論思想
第14回	哲学 I のまとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)、授業内容確認小テストの成績(30%)そして平常点(10%)とにより評価する。

授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

多くの大学生にとって哲学を授業で学ぶのは初めてのことと思います。春学期の哲学Iでは、多くの文献資料を読み、正しく深く理解することに努めてください。わかりやすく丁寧な解説に努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Socrates and Plato, to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. Differences in thought between Socrates and his opponents.
2. The meaning of Plato's theory of ideas in the history of philosophy.
3. The grounds for the possibility of common understanding on values.
4. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回実施予定）。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第2回	哲学の基本的性格1	普遍とは？ 唯名論・实在論 オッカムの剃刀
第3回	哲学の基本的性格2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第4回	哲学の根本問題について1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第5回	哲学の根本問題について2	デカルトの二元論
第6回	哲学の根本問題について3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第7回	哲学の根本問題について4	認識批判1 共有可能な知識とは？
第8回	哲学の根本問題について5	認識批判2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ

第9回	哲学の根本問題について6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第10回	哲学の根本問題について7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第11回	哲学の根本問題について8	超越論的哲学の展開1 超越論的現象学
第12回	哲学の根本問題について9	超越論的哲学の展開2 世界信念
第13回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法
第14回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。
学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

配布したレジュメが、ある程度詳しい内容を扱いつつも分かりやすく、学生には良かったようです。授業では、丁寧で可能な限り深い解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。「心」「観念」「自由意志」など哲学の代表的な問題を取りあげ、それに関連する哲学者の言葉を読み合わせ解釈を試みるとともに、問題そのものの理解を深めます。その際、専門用語を他の専門用語に置き換えて「説明」するのではなく、私たちが日頃感じているどのような問題とつながるのかを探り、哲学史の知識と日常に潜む哲学的問題とを接続することにより、地に足の着いた理解の獲得をめざします。

【到達目標】

毎日を生きる私たちが漠然と疑問に思いながらもそのまま放置してしまっている問題に向き合い、それについての自分の考えを言語化できるようになること。同じ問題について他人の考えを理解できるようになること。また、関連する主要な哲学者の言葉を解釈し説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式によって実施されます。ただし、参加人数によっては適宜グループワークや参加者による発表が取り入れられることもあります。また、講義内容に関する簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格1	〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格2	他人の心
4	哲学の基本概念1	真理
5	哲学の基本概念2	客観性
6	哲学の基本概念3	歴史と自然
7	哲学の基本概念4	科学
8	哲学の基本概念5	道徳
9	哲学の基本問題1	心と身体
10	哲学の基本問題2	心の内と外
11	哲学の基本問題3	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題4	道徳的運
13	哲学の基本問題5	生きる意味
14	授業内試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員からの指示に従い次回授業に関連する内容を下調べしておいてください。また、毎回出される課題を授業後に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50%：受講者がどれだけ授業内容を理解・深化・拡張できたかを評価します。

平常点50%：平常点は主に授業内課題に基づいて評価します。課題は授業で扱った問題について自分の考えを述べるというものです。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでもなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

1) In this course we will review the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

2) We will attempt to find clues to solve the various problems that people face today by rethinking them from a variety of perspectives.

3) Students are required to submit an assignment after each class.

4) Grading will be based on a final exam (50%) and regular marks (50%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は常識を批判的に再検討します。この観点から哲学史上の主要問題を理解するよう試みます。「愛」「悪」「道徳」など哲学の代表的な問題を取りあげ、それに関連する哲学者の言葉を読み合わせ解釈を試みるとともに、問題そのものの理解を深めます。その際、専門用語を他の専門用語に置き換えて「説明」するのではなく、私たちが日頃感じているどのような問題とつながるのかを探り、哲学史の知識と日常に潜む哲学的問題とを接続することにより、地に足の着いた理解の獲得をめざします。

【到達目標】

日頃あらためて意識することのない「あたりまえ」を批判的に再検討できるようになること。自分の考えを言語化するとともに他人の考えを理解できるようになること。関連する主要な哲学者の言葉を解釈し説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式によって実施されます。ただし、参加人数によっては適宜グループワークや参加者による発表が取り入れられることもあります。また、講義内容に関する簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格1	愛
3	哲学の基本的性格2	友人
4	哲学の基本概念1	「ある」
5	哲学の基本概念2	時間
6	哲学の基本概念3	言葉
7	哲学の基本概念4	自由と平等
8	哲学の基本問題1	退屈
9	哲学の基本問題2	悪
10	哲学の基本問題3	道徳の根拠
11	哲学の基本問題4	死
12	哲学の基本問題5	寛容
13	哲学の基本問題6	個
14	授業内試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員からの指示に従い次回授業に関連する内容を下調べしておいてください。また、毎回出される課題を授業後に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50%：受講者がどれだけ授業内容を理解・深化・拡張できたかを評価します。

平常点50%：平常点は授業への参加度と授業内課題に基づいて評価します。課題は授業で扱った問題について自分の考えを述べるというものです。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

1) Philosophy critically re-examines common sense. We will attempt to understand the major issues in the history of philosophy from this perspective.

2) The goal is to be able to critically re-examine common sense while studying major philosophies.

3) Students are required to submit an assignment after each class.

4) Grading will be based on a final exam (50%) and regular marks (50%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。特に、「この世界には何が存在しているのか」という〈存在〉にかかわる問いと、「我々はこの世界をどのように認識しているのか」という〈認識〉にかかわる問いを軸に据え、哲学的探求の営みを追体験することを目的とします。

代表的な哲学者の実際の言葉・思想に触れることで、哲学史の基本的な知識を得て、論理的に考察し探求する力を養うことを目指します。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決する。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。具体的には以下の通り。

- ・世界における存在と認識の問題について、西洋哲学の基本的な考えを理解する。
- ・哲学的に考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な哲学者の思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	哲学とはどのような営みか
第2回	哲学の基本的性格1・存在論	世界はどのように成立しているのか
第3回	哲学の基本的性格2・認識論	我々は何をどのように認識しているのか
第4回	哲学の歴史1・プラトンとアリストテレス	イデアはどこにあるのか
第5回	哲学の歴史2・エピクロスとストア派	世界理性と人間理性
第6回	哲学の歴史3・新プラトン主義	一者と神と流出
第7回	哲学の歴史4・イスラム哲学	一神教とアリストテレス
第8回	哲学の歴史5・中世スコラ哲学	人間と神と世界

第9回	哲学の基本問題1・科学革命と哲学	人間中心主義
第10回	哲学の基本問題2・合理論と経験論①	哲学的懐疑と理性
第11回	哲学の基本問題3・合理論と経験論②	経験の直接性
第12回	哲学の基本問題4・カントの認識論	コペルニクスの転回
第13回	哲学の基本問題5・言語と分析	言語論的転回
第14回	哲学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布します。

【参考書】

『西洋哲学史（古代・中世編）』内山勝利・中川純男編著、ミネルヴァ書房、1996年。
『西洋哲学史（近代編）』宗像恵・中岡成文編著、ミネルヴァ書房、1995年。
『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一著、有斐閣、1993年。
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価します。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will offer a historical perspective on the questions that philosophy has explored and the ideas it has developed. Specifically, we will delve into philosophical inquiries that revolve around existential matters, such as "What exists in this world?" and those related to cognition, such as "How do we perceive the world around us?"

【Learning Objectives】

This course aims to understand fundamental concepts of Western philosophy, practice philosophical reasoning, and enhance self-awareness by exploring the ideas of various philosophers.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。この観点から哲学史上の主要問題をできる限り平明に解釈し、理解するよう試みます。この授業では特に、西洋における最重要トピックである「神」の問題について検討します。その際、中世から近代にかけて熱心に行われた神の存在証明や、理性と信仰の問題についての議論に着目します。

【到達目標】

- ・神の問題と人間との関係性について、西洋哲学の基本的な考えを理解する。
- ・哲学的に考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な哲学者の思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の導入
第2回	哲学の基本的性格1	神は哲学の対象か
第3回	哲学の基本的性格2	理性と信仰
第4回	哲学の根本問題について1・神の存在証明①	宇宙論的論証(1)第一原因の論証
第5回	哲学の根本問題について2・神の存在証明②	宇宙論的論証(2)必然・比較による論証
第6回	哲学の根本問題について3・神の存在証明③	目的論的論証
第7回	哲学の根本問題について4・神の存在証明④	存在論的論証(1)アンセルムス
第8回	哲学の根本問題について5・神の存在証明⑤	存在論的論証(2)アンセルムスとデカルト
第9回	哲学の根本問題について6・神の存在証明⑥	近代

第10回	哲学の根本問題について7・神の本質	神の諸属性について
第11回	哲学の根本問題について8・神認識①	神は認識可能か
第12回	哲学の根本問題について9・神認識②	神認識と幸福
第13回	現代世界と哲学について	信仰と合理性
第14回	哲学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『「神」という謎〔第二版〕宗教哲学入門』上枝美典、世界思想社、2007年。

『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一著、有斐閣、1993年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

①授業最終回の論述試験：60%

②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Philosophy critically reevaluates common sense. From this perspective, we aim to interpret and understand the most significant issues in the history of philosophy as simply as possible. In particular, this class will focus on "God," one of the most important subjects in Western philosophy. We will concentrate on the passionate debates surrounding the proof of God's existence and the relationship between reason and faith, from the Middle Ages to modern times.

【Learning Objectives】

This course aims to understand fundamental concepts of Western philosophy, practice philosophical reasoning, and enhance self-awareness by exploring the ideas of various philosophers.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。特に、「この世界には何が存在しているのか」という〈存在〉にかかわる問いと、「我々はこの世界をどのように認識しているのか」という〈認識〉にかかわる問いを軸に据え、哲学的探求の営みを追体験することを目的とします。

本授業（春学期）は西洋の古代～中世について扱い、代表的な哲学者の思想に触れることで、哲学史の基本的な知識を得て、論理的に考察し探求する力を養うことを目指す。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決する。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。具体的には以下の通り。

- ・世界における存在と認識の問題について、古代・中世西洋哲学の基本的な考えを理解する。
- ・哲学的に考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な哲学者の思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	哲学とはどのような営みか
第2回	哲学の基本的性格 1・古代ギリシャの自然哲学	世界はどのように成立しているのか
第3回	哲学の基本的性格 2・ソクラテスとソフィスト	善き生とは何か
第4回	哲学の歴史 1・プラトン	この世界とイデア
第5回	哲学の歴史 2・アリストテレスと世界	イデア論批判
第6回	哲学の歴史 3・アリストテレスと人間	世界と人間の魂
第7回	哲学の歴史 4・エピクロスとストア派	世界と感覚と理性

第8回	哲学の歴史 5・新プラトン主義	一者からの流出
第9回	哲学の基本問題 1・新プラトン主義と神	創造主としての神と流出論
第10回	哲学の基本問題 2・イスラーム哲学	一神教とアリストテレス
第11回	哲学の基本問題 3・トマス・アキナス①	世界と神とイデア
第12回	哲学の基本問題 4・トマス・アキナス②	人間の認識と普遍
第13回	哲学の基本問題 5・ウィリアム・オッカム	直知認識と個物
第14回	哲学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布します。

【参考書】

『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編著、ミネルヴァ書房、1996年。
『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一著、有斐閣、1993年。
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価します。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will offer a historical perspective on the questions that philosophy has explored and the ideas it has developed. Specifically, we will delve into philosophical inquiries that revolve around existential matters, such as "What exists in this world?" and those related to cognition, such as "How do we perceive the world around us?" Our discussions will focus on Western antiquity and medieval times.

【Learning Objectives】

This course aims to understand fundamental concepts of Western philosophy, practice philosophical reasoning, and enhance self-awareness by exploring the ideas of various philosophers.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回実施予定）。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第2回	哲学の基本的性格1	普遍とは？ 唯名論・实在論 オッカムの剃刀
第3回	哲学の基本的性格2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第4回	哲学の根本問題について1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第5回	哲学の根本問題について2	デカルトの二元論
第6回	哲学の根本問題について3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第7回	哲学の根本問題について4	認識批判1 共有可能な知識とは？
第8回	哲学の根本問題について5	認識批判2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ

第9回	哲学の根本問題について6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第10回	哲学の根本問題について7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第11回	哲学の根本問題について8	超越論的哲学の展開1 超越論的現象学
第12回	哲学の根本問題について9	超越論的哲学の展開2 世界信念
第13回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法
第14回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。
学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

配布した教材やレジュメが、ある程度詳しい内容を扱いつつも分かりやすく、学生には良かったようです。授業では、丁寧で、できるだけ深い解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

谷口 カ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。
この授業では、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、主として、「世界」および「世界」に関するさまざまな論理的問題（存在論、認識論、言語論、など）について、各時代の哲学者たちが、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

この授業では、主として、以下の内容の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界
- ・大陸合理論における世界
- ・イギリス経験論における世界
- ・近代ドイツ哲学における世界
- ・19～20世紀哲学における世界
- ・現代分析哲学における世界

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体の説明をしたうえで、各哲学の項目に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、内容・ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・哲学とは何か
第2回	哲学の歴史～哲学の基本問題1 ：古代ギリシャ哲学(1)	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち ①（さまざまなアルケー、有）
第3回	哲学の基本問題2 ：古代ギリシャ哲学(2)	・ソクラテス以前の哲学者たち ②（ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース、など） ・ソクラテス（無知の知、など）
第4回	哲学の基本問題3 ：古代ギリシャ哲学(3)	・プラトン①（イデア論）
第5回	哲学の基本問題4 ：古代ギリシャ哲学(4)	・プラトン②（知識とは何か）

第6回	哲学の基本問題5 ：古代ギリシャ哲学(5)	・アリストテレス（デユナミスとエネルゲイア、など） ・プロティノス（一者、流出説） ・近代への過渡期
第7回	哲学の基本問題6 ：大陸合理論	・デカルト（実体、神、精神と物体） ・スピノザ（実体、属性、様態） ・ライプニッツ（モノアド） ・ロック（タブラ・ラサ、経験と観念、など） ・ヒューム（知覚の束、因果律の否定、など） ・バークリ（物質的実体の否定、など）
第8回	哲学の基本問題7 ：イギリス経験論(1)	
第9回	哲学の基本問題8 ：イギリス経験論(2)	
第10回	哲学の基本問題9 ：近代ドイツ哲学(1)	・カント（感性と悟性、ア・プリオリな総合判断、など）
第11回	哲学の基本問題10 ：近代ドイツ哲学(2)	・フィヒテ（自我と非我） ・シュリング（主客の無差別） ・ヘーゲル（弁証法、絶対者、など）
第12回	哲学の基本問題11 ：19～20世紀哲学	・ショーペンハウアー（意志と表象、など） ・ニーチェ（真理らしさ、パースペクティヴ、など） ・ハイデガー（世界-内-存在、など）
第13回	哲学の基本問題12 ：現代分析哲学(1)	・フレーゲ（意味と意義） ・ウィットゲンシュタイン（対象と事実、世界の限界、など）
第14回	哲学の基本問題13 ：現代分析哲学(2) ～哲学 I のまとめ	・一と多、時間論、その他の現代形而上学 ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることを望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いず、授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。
この授業では、原則として、期末試験50%、平常点50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【その他の重要事項】

哲学に興味・関心のある方の履修を推奨します。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The main objective of this course is to study overview of the following major philosophical questions and problems : “world” and various related logical problems of “world” (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand and examine many ideas, ways of thinking of “world” in the philosophical history.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to have read the relevant books.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be decided based on a term-end exam (50%) , and the quality of students' class participation (50%) .

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

谷口 カ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、主として、「心」および「心」に関するいくらかの倫理的問題（価値、道徳、生、など）について、各時代の哲学者たちが、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

この授業では、主として、以下の内容の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における心
- ・大陸合理論における心
- ・イギリス経験論における心
- ・近代ドイツ哲学における心
- ・19～20世紀哲学における心
- ・現代分析哲学における心

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体の説明をしたうえで、各哲学の項目に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、内容・ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第2回	哲学の根本問題について1 ：古代ギリシャ哲学(1)	・ソクラテス（徳の知、死について） ・プラトン①（ブシュケー、想起説、など）
第3回	哲学の根本問題について2 ：古代ギリシャ哲学(2)	・プラトン②（魂の正しさについて）
第4回	哲学の根本問題について3 ：古代ギリシャ哲学(3)	・プラトン③（正しさとは何か） ・アリストテレス（アニマ） ・近代への過渡期
第5回	哲学の根本問題について4 ：大陸合理論	・デカルト（コギト、二元論） ・スピノザ（一元論、善悪の相対性） ・ライプニッツ（モノドロジー）

第6回	哲学の根本問題について5 ：イギリス経験論	・ロック（感覚と反省、など） ・ヒューム（同一性の否定、など） ・バークリ（存在するとは知覚されること）
第7回	哲学の根本問題について6 ：近代ドイツ哲学(1)	・カント①（最高善、実践的要請、など）
第8回	哲学の根本問題について7 ：近代ドイツ哲学(2)	・カント②（定言命法、など） ・ヘーゲル（精神現象学、など）
第9回	哲学の根本問題について8 ：19～20世紀哲学	・シュティルナー（唯一者） ・ニーチェ（自己、ニヒリズム） ・志向性、その他の独英米の諸議論
第10回	哲学の根本問題について9 ：現代分析哲学(1)	・ウィトゲンシュタイン①（形而上学的主体、語りえぬもの、など）
第11回	哲学の根本問題について10 ：現代分析哲学(2)	・現代の心の哲学①（行動主義、同一説、機能主義、消去主義、随伴現象説、性質二元論、など）
第12回	哲学の根本問題について11 ：現代分析哲学(3)	・現代の心の哲学②（非法則的一元論、クオリア、認知的閉鎖、さまざまな思考実験）
第13回	哲学の根本問題について12 ：現代分析哲学(4)	・ウィトゲンシュタイン②（言語ゲーム、生きている人間、まなざし、など）
第14回	哲学の根本問題について13 ：大乘仏教の哲学～現代世界および現代日本と哲学について～哲学Ⅱのまとめ	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることを望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いず、授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。
この授業では、原則として、期末試験50%、平常点50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【その他の重要事項】

哲学に興味・関心のある方の履修を推奨します。
春学期の「哲学Ⅰ」を受講していない方も履修可能です。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The main objective of this course is to study overview of the following major philosophical questions and problems: “mind” and some related ethical problems of “mind” (value, moral, life, etc.).

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand and examine many ideas, ways of thinking of “mind” in the philosophical history.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to have read the relevant books.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be decided based on a term-end exam (50%) , and the quality of students' class participation (50%) .

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこの I の講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業内で、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。小テストはその採点結果が模範解答付きで次の授業までに返され、さらに次の授業で解説される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学とは？
2	プラトン(1)	「アイデアの萌芽」としての人間存在
3	プラトン(2)	『饗宴』 アリストファネスの話
4	プラトン(3)	『饗宴』 ソクラテスの話
5	西田幾多郎(1)	『善の研究』 - 「知即愛」の命題
6	西田幾多郎(2)	「主客合一」としての人間存在
7	和辻哲郎(1)	『倫理学』 - 「間柄」としての人間存在
8	和辻哲郎(2)	「矛盾的統一」としての人間存在
9	和辻哲郎(3)	『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	和辻哲郎(4)	主体としての風土
11	ブーバー(1)	『我と汝』
12	ブーバー(2)	「汝」としての世界
13	ブーバー(3)	ブーバー:我と汝の芸術論
14	哲学 I のまとめ	哲学のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』
復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた箇所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100% で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

The purpose of this course is for students to have the experience of actually coming into the contact with the world of thoughts in famous works and to be able to express that experience.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests given every class (100%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間の欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業内で、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。小テストはその採点結果が模範解答付きで次の授業までに返され、さらに次の授業で解説される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学への導入
2	今西錦司(1)	生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	今西錦司(2)	生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として その2
4	アリストテレス(1)	自己形成的世界観としての形而上学
5	アリストテレス(2)	自己形成的世界観としての形而上学 その2
6	デカルト(1)	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	デカルト(2)	デカルトの近代的世界観
8	デカルト(3)	近代的主客二元論
9	デカルト(4)	「近代的分裂」の予告としての近代的主客二元論
10	合理論と経験論	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	カントとヘーゲル(1)	カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	カントとヘーゲル(2)	カントのアンチノミー論
13	カントとヘーゲル(3)	ヘーゲルの弁証法的世界観
14	カントとヘーゲル(4)	ヘーゲルの弁証法的世界観その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた個所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

The purpose of this course is for students to have the experience of actually coming into the contact with the world of thoughts in famous works and to be able to express that experience.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests given every class(100%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知のあり方を広く新しい視野から考えることを目的として、哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観を通して、学として知ることの意味に対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第2回	哲学の基本的性格 1	自然を知ることー自然哲学ー
第3回	哲学の基本的性格 2	人間を知ることーソクラテスー
第4回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1ープラトンー
第5回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2ーアリストテレスー
第6回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第7回	哲学の歴史 3	信仰と知ー中世哲学ー
第8回	哲学の歴史 4	人間的理性についてー近代哲学ー
第9回	哲学の歴史 5	考えることと感ずること 1ー大陸合理論ー
第10回	哲学の歴史 6	考えることと感ずること 2ーイギリス経験論ー
第11回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第12回	哲学の歴史 7	自然と自由ーカントー
第13回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ることードイツ観念論ー
第14回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題の理解は授業の内容理解度によって、学として知ることの意味に対する理解は学期末レポートによって、それぞれ30%と70%の割合で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回授業の内容理解度についてその都度注意するようにします。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basic concepts and history of philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながら、哲学の根本問題をできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】

カント哲学を学習することを通して、哲学の観点から学として社会的・歴史的・文化的に時代状況を考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第2回	哲学の基本的性格1	近代の哲学思想1ーデカルトー
第3回	哲学の基本的性格2	近代の哲学思想2ーロックー
第4回	哲学の基本的性格3	カント哲学の概要
第5回	哲学の根本問題について1	カントの理論哲学
第6回	哲学の根本問題について2	『純粋理性批判』を読む1ー超越論的感性論と超越論的論理学ー
第7回	哲学の根本問題について3	『純粋理性批判』を読む2ー超越論的分析論と超越論的弁証論ー
第8回	哲学の根本問題について4	『純粋理性批判』を読む3ー概念の分析論ー
第9回	哲学の根本問題について5	カントの実践哲学
第10回	哲学の根本問題について6	『実践理性批判』を読む
第11回	現代世界と哲学について1	現代の哲学思想
第12回	現代世界と哲学について2	カント哲学の解釈
第13回	現代世界と哲学について3	カントの世界市民主義
第14回	現代日本と哲学について まとめ	グローバル化時代の哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

カント哲学の理解は授業の内容理解度によって、哲学の観点から学として社会的・歴史的・文化的に時代状況を考える力は学期末レポートによって、それぞれ30%と70%の割合で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回授業の内容理解度についてその都度注意するようにします。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the foundations of Kant's philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。哲学は子供から大人、老年に至るまで、才能の有無、向き不向きを問うことなく、人間として誰もが考えるべき問いを探究する。本講義は、古今東西の思想家に、この問いを訪ねてゆく。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広げて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学 I のオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第2回	哲学の基本的性格1—哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第3回	哲学の基本的性格2—哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第4回	哲学の歴史1—近代①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第5回	哲学の歴史2—近代②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第6回	哲学の歴史3—現代①	ヤスパーズ：実存と永遠
第7回	哲学の歴史4—現代②	ヤスパーズ：超越者の「言葉」
第8回	哲学の基本問題1—死について①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第9回	哲学の基本問題2—死について②	ドストエフスキー：死と魂の滅
第10回	哲学の基本問題3—現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第11回	哲学の基本問題4—人間生命に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第12回	哲学の歴史5—古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志

第13回 哲学の歴史6—中世 証空：浄土教における無限者との一体化

第14回 哲学 I のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

ヤスパーズ『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020年。その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末の筆記試験（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy. We will ask thinkers of all ages, east and west, about the problem of self and being beyond myself. The goals of this course are to understand and explain philosophical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第2回	哲学の基本的性格—哲学の暫定的定義と方法、哲学の懐疑	哲学することの動機
第3回	哲学の根本問題について1—科学的認識、概念、行為の因果性について	カントの認識論
第4回	哲学の根本問題について2—我執、自由、幸福について	カント：道徳と宗教
第5回	哲学の根本問題について3—現実世界と人間存在について	ヤスパーズ：包摂者論
第6回	哲学の根本問題について4—思考、真理について	ヤスパーズ：理性と交わり
第7回	哲学の根本問題について5—哲学的世界像について	古代ギリシャの存在論
第8回	哲学の根本問題について6—現実世界の運動について	ヘーゲルの弁証法
第9回	哲学の根本問題について7—近世日本の道徳観	伊藤仁斎の「仁」の思想
第10回	現代日本と哲学について1	夏目漱石：現代日本批判と自己本位

第11回 現代日本と哲学について2 夏目漱石：道と天

第12回 現代世界と哲学について1 小林秀雄：信じられる自己、言葉、物、美

第13回 現代世界と哲学について2 小林秀雄：西洋と日本、自己を超える存在

第14回 哲学Ⅱのまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

ヤスパーズ『理性と実存』越部良一訳、リベルタス出版、2023年。その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末の筆記試験（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view. The goals of this course are to understand and explain philosophical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学 I

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。「心」「観念」「自由意志」など哲学の代表的な問題をとりあげ、それに関連する哲学者の言葉を読み合わせ解釈を試みるとともに、問題そのものの理解を深めます。その際、専門用語を他の専門用語に置き換えて「説明」するのではなく、私たちが日頃感じているどのような問題とつながるのかを探り、哲学史の知識と日常に潜む哲学的問題とを接続することにより、地に足の着いた理解の獲得をめざします。

【到達目標】

毎日を生きる私たちが漠然と疑問に思いながらもそのまま放置してしまっている問題に向き合い、それについての自分の考えを言語化できるようになること。同じ問題について他人の考えを理解できるようになること。また、関連する主要な哲学者の言葉を解釈し説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式によって実施されます。ただし、参加人数によっては適宜グループワークや参加者による発表が取り入れられることもあります。また、講義内容に関する簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格1	〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格2	他人の心
4	哲学の基本概念1	真理
5	哲学の基本概念2	客観性
6	哲学の基本概念3	歴史と自然
7	哲学の基本概念4	科学
8	哲学の基本概念5	道徳
9	哲学の基本問題1	心と身体
10	哲学の基本問題2	心の内と外
11	哲学の基本問題3	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題4	道徳的運
13	哲学の基本問題5	生きる意味
14	授業内試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員からの指示に従い次回授業に関連する内容を下調べしておいてください。また、毎回出される課題を授業後に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50%：受講者がどれだけ授業内容を理解・深化・拡張できたかを評価します。

平常点50%：平常点は主に授業内課題に基づいて評価します。課題は授業で扱った問題について自分の考えを述べるというものです。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでもなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

1) In this course we will review the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

2) We will attempt to find clues to solve the various problems that people face today by rethinking them from a variety of perspectives.

3) Students are required to submit an assignment after each class.

4) Grading will be based on a final exam (50%) and regular marks (50%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は常識を批判的に再検討します。この観点から哲学史上の主要問題を理解するよう試みます。「愛」「悪」「道徳」など哲学の代表的な問題を取りあげ、それに関連する哲学者の言葉を読み合わせ解釈を試みるとともに、問題そのものの理解を深めます。その際、専門用語を他の専門用語に置き換えて「説明」するのではなく、私たちが日頃感じているどのような問題とつながるのかを探り、哲学史の知識と日常に潜む哲学的問題とを接続することにより、地に足の着いた理解の獲得をめざします。

【到達目標】

日頃あらためて意識することのない「あたりまえ」を批判的に再検討できるようになること。自分の考えを言語化するとともに他人の考えを理解できるようになること。関連する主要な哲学者の言葉を解釈し説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式によって実施されます。ただし、参加人数によっては適宜グループワークや参加者による発表が取り入れられることもあります。また、講義内容に関する簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格1	愛
3	哲学の基本的性格2	友人
4	哲学の基本概念1	「ある」
5	哲学の基本概念2	時間
6	哲学の基本概念3	言葉
7	哲学の基本概念4	自由と平等
8	哲学の基本問題1	退屈
9	哲学の基本問題2	悪
10	哲学の基本問題3	道徳の根拠
11	哲学の基本問題4	死
12	哲学の基本問題5	寛容
13	哲学の基本問題6	個
14	授業内試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員からの指示に従い次回授業に関連する内容を下調べしておいてください。また、毎回出される課題を授業後に提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50%：受講者がどれだけ授業内容を理解・深化・拡張できたかを評価します。

平常点50%：平常点は授業への参加度と授業内課題に基づいて評価します。課題は授業で扱った問題について自分の考えを述べるというものです。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

1) Philosophy critically re-examines common sense. We will attempt to understand the major issues in the history of philosophy from this perspective.

2) The goal is to be able to critically re-examine common sense while studying major philosophies.

3) Students are required to submit an assignment after each class.

4) Grading will be based on a final exam (50%) and regular marks (50%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第2回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第3回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第4回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第5回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第6回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第7回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第8回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第9回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学① 「道徳法則」

第11回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？
第12回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	功利主義（ベンサム、ミル）
第13回	私は法にかなったことをなすべきか？	社会契約論、共同体主義
第14回	授業のまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末の筆記試験（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理学的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (applied ethics)」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行う。質問等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第2回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第3回	私は生命を操作する権利があるのか？	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？	科学技術と倫理 脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第7回	環境は保護しなければならないのか？	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第8回	環境は保護しなければならないのか？	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か？

第9回	環境は保護しなければならないのか？ (3)	21世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第10回	環境は保護しなければならないのか？ (4)	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第11回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）
第12回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	責任という原理（ヨナス）
第13回	何が暴力を抑止するのか？	暴力、戦争と倫理学
第14回	授業のまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末の筆記試験（60％くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅰ

2017年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。原則対面授業を行います。ただし、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7回以下）で、オンライン授業を実施する場合もあります。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、毎回の授業課題を提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第3回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第4回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？

第10回 私は自分の義務をなすべきか？（3） カント倫理学

第11回 私は法になかったことをなすべきか？（1） 法実証主義

第12回 私は法になかったことをなすべきか？（2） 社会契約論

第13回 私は法になかったことをなすべきか？（3） 自由主義・共同体主義

第14回 まとめ 授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜共有します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、学習支援システム上から毎回の授業課題を提出してもらう。また期末にレポートを提出してもらう。以上の2点を総合して評価する。

評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。また毎回の授業課題を活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅱも併せて受講することが望ましいです。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in everyday society based on the relationship with social norms.

Study time outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%, Short reports : 60%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 II

2017年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (allied ethics)」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。原則対面授業を行います。ただし、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7回以下）で、オンライン授業を実施する場合もあります。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、毎回の授業課題を提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？

第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	生命倫理
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて
第14回	まとめ	まとめの授業を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜共有します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、学習支援システムから毎回の課題を提出してもらう。また期末にレポートを提出してもらう。以上の2点を総合して評価する。

評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。また毎回の授業課題を活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学 I も併せて受講することが望ましいです。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%, Short reports : 60%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講生各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	・受講上の注意 ・授業内容についてのイントロダクション ・「現に問うているのは誰か？」
第2回	人間とは何か？（2）	・ハイデガー哲学からみた「私」の位置 ・「世界内存在としての私」
第3回	人間とは何か？（3）	・「私は世界とどのように関わるのか？」
第4回	私は何をなすべきか？（1）	・「倫理学とは何か？」
第5回	私は何をなすべきか？（2）	・「絶対的な善とは何か？」
第6回	私は何をなすべきか？（3）	・倫理学と宗教 ・アリストテレス倫理学
第7回	私は何をなすべきか？（4）	・快楽主義とストア派の倫理学
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・功利主義 ・義務と有用性
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・自由とは何か？ ・権利と自由
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・カント倫理学 ・権利と義務

第11回 私は法になかったことをなすべきか？（1）

・法実証主義
・法と倫理

第12回 私は法になかったことをなすべきか？（2）

・社会契約論
・国家と個人

第13回 私は法になかったことをなすべきか？（3）

・自由主義・共同体主義
・政治と倫理
・社会と個人

第14回 まとめ

・倫理学の現代的意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

・ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ

『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年

・加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年など

【成績評価の方法と基準】

・定期試験（70％）に加え、リアクションペーパー（30％）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】

・倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていけない限り、倫理的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

・必要な文献を事前に読んできてもらい、それについて受講生に要約などを授業内で行ってもらい、必要に応じて添削などを試みる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）	・「正義の戦争」はありうるか？ ・戦争倫理学入門
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）	・暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か？
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	・生存権／人権とは何か？ ・生命の尊厳と生命の質
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	・「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	・バイオテクノロジーの倫理

第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	・責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	・科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	・世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）	・環境倫理学とは何か？
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）	・持続可能な社会とは何か？
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）	・21世紀の倫理学に向けて
第14回	まとめ	・応用倫理学の現代的な意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

・ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
・加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
・加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
・ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70％）に加え、リアクション・ペーパー（30％）などで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業において、板書をもっと徹底させ、スマート・フォンやタブレットやPCの使用を制限させる。

【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society. Therefore, the aim of this course is to help students consider differences of values with others with different cultures.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが日常的な社会の中で、一個人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

The purpose of this class is to examine how we exist and live as an individual human being in the everyday society we live in today, based on the relationship with social norms. In doing so, we aim to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行ないます。毎回の講義後には、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではなく、授業を視聴して各自で考えたことを書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために実施しています。

学生の皆さんに質問を投げかけたり、皆さんのリアクションペーパーを紹介したりすることで、同世代の受講者がどのような考えを持っているのか、同じ講義を聞いてもさまざまな考えがあるのだということを知ることができます。講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	「私」とは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界の中にいるとはどういうことか？
第3回	人間とは何か？（3）	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第4回	私は何をなすべきか？（1）	近代とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学：幸福な生とは何か？
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学：快楽と禁欲

第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義：「万人の利益」が善なのか？
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？：自由意志と責任
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学：行為の道徳的価値と義務
第11回	私は法になかったことをなすべきか？（1）	法実証主義：法律は絶対的に正しいのか？
第12回	私は法になかったことをなすべきか？（2）	社会契約論：人民の主権と法の支配
第13回	私は法になかったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義：個人の権利と共同体的多元性
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年適宜、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（60%）、期末試験（40%）
毎回リアクションペーパーを提出することを必須としますので、受講を検討する際は注意してください（ただ提出しているだけの人は、評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています）。

Reaction papers for each class (60%), final exam (40%)

This year, due to the university's request, the class will be conducted on demand. For this reason, we will increase the evaluation ratio of the reaction papers for each class. Please note that it is mandatory to listen to the on-demand class properly and then submit a reaction paper by the deadline every week, so please be careful when considering taking this course.

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ倫理学が身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

【その他の重要事項】

※ 2026年度から、レポートではなく期末試験にします。

※ この科目は教職科目のため、共通シラバスです。

※ 単位取得のみを目的としている人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。

※ 人数が教室の定員を超える場合には、選抜になります。選抜は、第1回目の授業に出席していることが条件になります。

※ 倫理学という科目が初めてであっても、毎回の授業の中で少しずつ理解を深め、徐々に慣れることはできるので心配しないでOKです。（基本的に初学者向けの授業です）

* Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)

* We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

* This course is based on a common syllabus.

【Outline (in English)】

This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 II

2017年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちがグローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学 I で学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。

The goals of this course are to provide students with practical knowledge to solve various ethical problems. In particular, this course is a more practical ethics in terms of applying the fundamentals of ethics learned in Ethics I under realistic themes by studying the so-called field of "applied ethics."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

＊ 講義

＊ 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。

＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争

第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	バイオテクノロジーの倫理
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュレック、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
その他、適宜授業中に紹介します

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（60%）、期末試験（40%）
リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (60%), final exam (40%)

Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively. (The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

Even if you have never taken an ethics class or do not know what ethics is, if you take the course with interest, you will gradually come to understand that it is a familiar subject. (Basically, this class is for first-time students)

【その他の重要事項】

※ 2026年度から、レポートではなく期末試験にします。

※ この科目は教職科目のため、共通シラバスです。

※ 単位取得のみを目的としている人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。

※ 人数が教室の定員を超える場合には、選抜になります。選抜は、第1回目の授業に出席していることが条件になります。

※ 倫理学という科目が初めてであっても、毎回の授業の中で少しずつ理解を深め、徐々に慣れることはできるので心配しないでOKです。（基本的に初学者向けの授業です）

It is recommended that students take Ethics I before taking this course for better understanding.

We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

This course is based on the common syllabus.

【Outline (in English)】

This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

上田 瑞季

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 授業形態：対面・講義形式（ただし、発言を求めることがある）
- 授業の進め方：講義＋小課題＋ディスカッション
- フィードバック：授業冒頭で、前回提出された小課題からいくつか取り上げる予定。
- 授業の課題：原則として、毎回課す予定。授業で取り上げた問題に対して、小課題を提出してもらい。思考を促し、自らの考えを言語化するスキルの向上を目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第2回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第3回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第4回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第5回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第6回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第7回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第11回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義

第12回 私は法にかなったことをなすべきか？（2） 社会契約論

第13回 私は法にかなったことをなすべきか？（3） 自由主義・共同体主義

第14回 まとめ これまでの授業を振り返り、理解を深める（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年。
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年 など

【成績評価の方法と基準】

小課題などの平常点（40％）＋期末試験またはレポート（60％）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標60％以上に達した場合を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・最初は文章が書けなくて小課題に取り組むのが大変だったが、続けていくうちに論理的に文章を書けるようになったという声が多かった。毎回小課題が課される授業だと思って履修していただきたい。
- ・グループワークやディスカッションのおかげで、同じ問題に対して他の学生がどのように考えているかを学べたというフィードバックが多かったため、引き続きその時間を設けていきたい。
- ・私語する学生が少なく、集中しやすい授業だったという声が多数あった。今年度もそのような授業運営・雰囲気作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って、事前に学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

- ※倫理学Ⅱもあわせて受講するのが望ましいです。
- ※教職科目のため、共通シラバスとなっています。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:40,Term-end exam:60.

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

上田 瑞季

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 授業形態：対面・講義形式（ただし、発言を求めることがある）
- 授業の進め方：講義＋小課題＋ディスカッション
- フィードバック：授業冒頭で、前回提出された小課題からいくつか取り上げる予定。
- 授業の課題：原則として、毎回課す予定。授業で取り上げた問題に対して、小課題を提出してもらう。思考を促し、自らの考えを言語化するスキルの向上を目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	バイオテクノロジーの倫理

第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返り、理解を深める（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年。
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年。
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善出版、2005年。
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年 など

【成績評価の方法と基準】

小課題などの平常点（40％）＋期末試験またはレポート（60％）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標60％以上に達した場合を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・最初は文章が書けなくて小課題に取り組むのが大変だったが、続けていくうちに論理的に文章を書けるようになったという声が多かった。毎回小課題が課される授業だと思って履修していただきたい。
- ・グループワークやディスカッションのおかげで、同じ問題に対して他の学生がどのように考えているかを学べたのは有意義だったというフィードバックが多かったため、引き続きその時間を設けていきたい。
- ・私語する学生が少なく、集中しやすい授業だったという声が多数あった。今年度もそのような授業運営・雰囲気作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って、事前に学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

※倫理学Ⅰもあわせて受講するのが望ましいです。
※教職科目のため、共通シラバスとなっています。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:40,Term-end examination:60.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

倫理学 I

2017年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人間とは何か？（1） —— 現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第2回	人間とは何か？（2） —— 世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイデガーの思想を解説する。
第3回	人間とは何か？（3） —— 私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的な働きによってである。その位置づけについて考察する。
第4回	私は何をなすべきか？（1）—— 倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の3つのレベルの違いという観点から解説する。
第5回	私は何をなすべきか？（2）—— 絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第6回	私は何をなすべきか？（3）—— アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。

第7回	私は何をなすべきか？（4）—— 快楽主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。
第8回	私は自分の義務をなすべきか？（1）—— 功利主義	公益の最大化をめざす利他主義的幸福主義の立場について考える。
第9回	私は自分の義務をなすべきか？（2）—— 自由とは何か？	倫理学の人間学的前提である「自由意志」について考察する。
第10回	私は自分の義務をなすべきか？（3）—— カント倫理学	カント倫理学の概要を解説する。
第11回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）—— 法実証主義	現に通用している法律の妥当性が倫理的にどんな根拠に基づくのか考える。
第12回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）—— 社会契約論	ホブズ社会契約論、現代的な契約論ともいえるロールズの思想について解説する。
第13回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）—— 自由主義・共同体主義	社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体にとっての善を重視する「共同体主義」について考える。
第14回	まとめ ※別途期末レポートを提出	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％） 期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:70,Term-end examination:30.

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）——「正義の戦争」はあるか？	正戦論とはなにか、正戦論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）——暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考える。
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）——テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）——生存権／人権とは何か？	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）——「生きるに値する命」とは何か？	「生きるに値する命」といった評価をおこなう可能性について考える。

第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）——動物倫理学	シンガーの「動物解放論」について解説する。
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）——動物倫理学	動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）——責任という原理（ヨナス）	ヨナスの責任概念を中心に相互性の問題について考える。
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）——科学技術の倫理	科学技術の発展がもたらす倫理問題を考える。
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）——世代間倫理	世代内倫理に対する世代間倫理について解説する。
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）——環境倫理学とは何か？	世代間倫理としての環境倫理学について解説する。
第12回	環境は保護しなければならないのか？（2）——持続可能な社会とは何か？	「持続可能性」という概念について倫理的な観点から考える。
第13回	環境は保護しなければならないのか？（3）——21世紀の倫理学に向けて	なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。
第14回	まとめ ※別途期末レポートを提出	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
浅見昇吾、森永審一郎（編）『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％）期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:70,Term-end examination:30.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されている。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というもの成り立っているのか知りたいという哲学的な関心もあるからである。思考を研究してみてもわかることは、思考が、初めばらばに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出しそれらを結合しまとめる作業だということである。だからうまく考えることができると世界はまとまりがついてすっきりする。「わかった！」というときのあの感覚である。逆にうまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためである。考えられるとは、まとまること・すっきりすることである。私たちはすっきりしたいから正しく考えられるようになりたいと願う。論理学はその手助けをする。それにより学生は思考や他者との議論が成り立つためのかなめの点、つまり論理というものがあるのを理解できるようになる。論理学は学生が他者との間に議論を理性的に組み立てていく作業に積極的に加わることができるようになることを目指す。

特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てる。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念(1)	概念とは何かー内包と外延、類と種
4	概念(2)	概念の定義
5	概念(3)	ロジックツリー ロジックツリーを使って実戦的問題を解決する方法
6	判断(1)	判断とは何か
7	判断(2)	判断の分類
8	判断(3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断(4)	オイラーの図形を使った問題
10	推理(1)	推理とは何か 演繹と帰納、アナロジー
11	推理(2)	対当推理

12	推理(3)	変形推理
13	推理(4)	三段論法の形式
14	推理(5)	定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点100％で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In particular, this logic I focuses on traditional formal logic since Aristotle.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されている。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というもの成り立っているのか知りたいという哲学的な関心もあるからである。思考を研究してみてもわかることは、思考が、初めばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出しそれらを結合しまとめる作業だということである。だからうまく考えることができると世界はまとまりがついてすっきりする。「わかった！」というときのあの感覚である。逆にうまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためである。考えられるとは、まとまること・すっきりすることである。私たちはすっきりしたいから正しく考えられるようになりたいと願う。論理学はその手助けをする。それにより学生は思考や他者との議論が成り立つためのかなめの点、つまり論理というものがあるのを理解できるようになる。論理学は学生が他者との間に議論を理性的に組み立てていく作業に積極的に加わることができるようになることを目指す。

春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われた。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てる。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮する。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法(1)	三段論法の格式
3	三段論法(2)	正しい三段論法の規則
4	三段論法(3)	ベンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理(1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理(2)	ミルの帰納法
8	記号論理学(1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学(2)	命題論理学
10	記号論理学(3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計

11	記号論理学(4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学(5)	恒真命題
13	記号論理学(6)	公理主義体系
14	記号論理学(7)	限量論理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In Logic I, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this Logic II also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take Logic I.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA (哲学/Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

相原 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることかを研究します。すなわち、論理学とは思考の形式および法則を研究する学問です。論理学 I では、はじめて論理学を学ぶ人のために、日常生活における言葉の使い方から学術レポートにおける論理性、さらに論証や反論のやり方を学びます。そして授業の後半で、論証構造のパターンを取り出すことで、正しく考えるために必要となる、論理学の基礎的な知識と技法を習得します。論理学を学ぶことで、筋道を立てて物事を考えることができるようになります。それは、言ってみれば、思考がクリアになることです。そのため論理学は、みなさんの今後の社会生活にも大いに役立つことでしょう。なお、論理学の基礎的な知識と技法の習得には、本授業だけでは不十分です。そのため、秋学期の「論理学Ⅱ」も履修することを勧めます。

【到達目標】

授業の目標は、正しく考えるために必要となる、論理学の基礎的な知識と技法を習得し、論理的な思考力を高めることです。具体的には、以下の事柄の習得を目指します。

1. 三段論法などの論法を適切に使うことで、筋道を立てて思考できるようになる。
2. 検証と代案という二種類の反論を使い分けて、批判的に思考できるようになる。
3. 自分の気持ちを表現することと、理性的に論じることが区別でき、たんなる感想文と論理的な文章を識別できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行います。なお毎回、理解度を確認する小テストを行い、解答・解説のフィードバックは次の回の授業で行います。また論理的な思考力を高めるために、授業内で練習問題を出します。問題の答えを発表してもらうことがあるので、受講者には主体的な参加を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・論理学とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第2回	言葉の使い方	「学んで知ること」ということについて説明する
第3回	日本語と論理	「言葉の建築物をつくること」について説明する
第4回	文と文のつながり①	前提と結論の関係を示す接続表現について説明する
第5回	文と文のつながり②	内容を明瞭にする接続表現と論証構造を複雑にする接続表現について説明する
第6回	論理的な思考に基づく学術レポートの仕組み	パラグラフの役割について説明する

第7回	学術レポートの設計図	アウトラインの活用について説明する
第8回	論証の一般的なやり方	思いを論理的に伝える方法について説明する
第9回	反論の一般的なやり方	適切に反論する方法について説明する
第10回	反論の実践	誤りのパターンと論法の応用について説明する
第11回	記号論理の基礎①	論証のパターンと論理語について説明する
第12回	記号論理の基礎②	論証の記号化について説明する
第13回	記号論理の応用	三段論法による議論について説明する
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読んでください。

復習：前回の授業内容を確認してください。また参考書の練習問題を解いてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

篠澤和久・松浦明宏・信太光郎・文景楠著『はじめての論理学』、有斐閣ストゥディア、2020年。

沢田允茂著『現代論理学入門』、岩波新書、1962年。

野矢茂樹著『入門！ 論理学』、中公新書、2006年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度および毎回の確認小テストの成績(40%)、学期末の授業内筆記試験の成績(60%)により評価します。

学期末の授業内筆記試験では、「到達目標」に記した事柄をどれくらい理解できているか、確認する問題を出す予定です。

筆記試験の採点基準は、授業で学んだとおりに答案を作成できているか、また論理的に正しい答えを導くことができているかです。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を行うよう努力したい。

【Outline (in English)】

In this course, for those who are learning logic for the first time, students will learn how to use language in everyday life, logic in academic reports, as well as how to make arguments and counterarguments. Then, in the second half of the class, students will learn the basic knowledge and techniques of logic that are necessary for thinking correctly by extracting patterns of argumentation structures.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. By using appropriate logic such as syllogisms, students can organize their thoughts and think in a coherent manner.

B. Students will be able to think critically by using two types of arguments, verification and alternative argumentation.

C. Students can distinguish between expressing their emotions and discussing rationally, and identify the difference between mere personal opinions and logical arguments.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, in class contribution and quiz: 40%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

相原 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることかを研究します。すなわち、論理学とは思考の形式および法則を研究する学問です。論理学Ⅱでは、多少なりとも一度は論理学を学んだ人のために、論理的に推論する仕方と説得的に議論する仕方を学びます。言い換えれば、論理学とレトリックという二つのアプローチを組み合わせることで、日常言語における推論の仕組みを学びます。「理屈は分かるけれども、納得できない」という不満を感じさせることなく、日常生活において正しく考えるための、基礎的な知識と技法を習得します。論理学を学ぶことで、論理的に主張するだけでなく、相手を説得することもできるようになります。そのため論理学は、主張の対立を避ける「根回し文化」が日本に残るとしても、みなさんの今後の社会生活に多に役立つことでしょう。なお本授業は、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提しています。そのため、「論理学Ⅰ」から履修することを勧めます。

【到達目標】

授業の目標は、春学期の「論理学Ⅰ」と同様、正しく考えるために必要となる、論理学の基礎的な知識と技法を習得し、論理的な思考力を高めることです。具体的には、以下の事柄の習得を目指します。

1. 論理的に推論できるとともに、説得的に議論できるようになる。
2. 論理学およびレトリックの知識と技能を使い分けて、説得力ある議論が展開できるようになる。
3. 記号による論理的な推論と日常言語による推論が識別できるとともに、それぞれの仕組みが理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行います。なお毎回、理解度を確認する小テストを行い、解答・解説のフィードバックは次の回の授業で行います。また論理的な思考力を高めるために、授業内で練習問題を出します。問題の答えを発表してもらうことがあるので、受講者には主体的な参加を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・論理学とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第2回	論理的に考えるための基本①	推論とは何か説明する
第3回	論理的に考えるための基本②	論理記号の働きについて説明する
第4回	論理学と日常言語の落差①	論理記号と接続表現について説明する
第5回	論理学と日常言語の落差②	条件記号のパラドックスについて説明する
第6回	推論の実際①	健全な推論と反例などを説明する

第7回	推論の実際②	正しい三段論法の見分け方について説明する
第8回	立論と反論	日常生活で説得力ある主張を展開する方法について説明する
第9回	レトリック的推論①	類似性に基づく推論の問題点について説明する
第10回	レトリック的推論②	関連性に基づく推論の問題点について説明する
第11回	論証の型	有効な論証のパターンについて説明する
第12回	準論理的論証	論理的な方法を使った論証のパターンについて説明する
第13回	事実に基づく論証	誤った例示や無理な因果づけなどによる論証について説明する
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読んでください。

復習：前回の授業内容を確認してください。また参考書の練習問題を解いてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

野内良三著『実践ロジカル・シンキング入門』、大修館書店、2003年。

沢田允茂著『現代論理学入門』、岩波新書、1962年。

野矢茂樹著『入門！ 論理学』、中公新書、2006年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度および毎回の確認小テストの成績(40%)、学期末の授業内筆記試験の成績(60%)により評価します。

学期末の授業内筆記試験では、「到達目標」に記した事柄をどれくらい理解できているか、確認する問題を出す予定です。

筆記試験の採点基準は、授業で学んだとおりに答案を作成できているか、また論理的に正しい答えを導くことができているかです。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を行うよう努力したい。

【Outline (in English)】

In this course, for those who have studied logic more or less once, students will learn how to reason logically and argue persuasively. In other words, by combining two approaches, logic and rhetoric, they will learn the mechanism of reasoning in everyday language. Students will acquire the basic knowledge and techniques to think correctly in everyday life without frustration.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. Students will be able to reason logically and argue persuasively.

B. Students will be able to use knowledge and skills in logic and rhetoric to develop persuasive arguments.

C. Students will be able to distinguish between logical reasoning by symbols and reasoning by everyday language, and understand how each works.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 60%, in class contribution and quiz: 40%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。

2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第2回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）

第3回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類
第4回	判断論（命題論）1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第5回	判断論（命題論）2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第6回	推理論：直接推理1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第7回	推理論：直接推理2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第8回	推理論：直接推理3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第9回	推理論：直接推理4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第10回	推理論：間接推理1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第11回	推理論：間接推理2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級） 3. 練習問題（中級）
第12回	推理論：間接推理3（定言三段論法・仮言三段論法）	2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粋仮言三段論法 4. 練習問題
第13回	推理論：間接推理4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(65%)、授業内容確認小テストの成績(25%)、平常点(10%)により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目です。「初めて学ぶけど、思っていたより楽しかった」という感想をくれる学生も実際結構多いです。初心者向けに、問題の解き方・解説は丁寧に行いますので、練習問題に積極的に取り組んでください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学Ⅰ」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学Ⅱ」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組み取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学(1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学(2)	1. カッコの省略 2. 練習問題
第5回	命題論理学(3)	1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第6回	命題論理学(4)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第7回	命題論理学(5)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第8回	論理トレーニング(1)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第9回	論理トレーニング(2)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第10回	論理トレーニング(3)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング(4)	1. 逆・裏・対偶 2. 練習問題
第12回	論理トレーニング(5)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第13回	論理トレーニング(6)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	1. 背理法 2. 練習問題 小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年

野矢茂樹著『まったくゼロからの論理学』、岩波書店、2020年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40％）と期末小テスト成績（40％）と平常点（20％）に基づき評価。2回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2回ともいづれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

「(秋学期の論理学Ⅱで)勉強した内容が就活にも役立ちました」という感想をくれた学生がいました。また「(春学期の論理学Ⅰの受講からの)この一年間を通して、非常に質の高い学びを得ることができたことにとても感謝してます」という感想をくれた学生もいました。論理学Ⅰを受講せず、論理学Ⅱから履修する学生も結構いますが、「論理学」という学問に対する学生の理解度を見る限り、やはり春学期の論理学Ⅰから継続して履修するのが望ましいと強く感じています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

春学期の「論理学Ⅰ」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。その知識は、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題の解決に役立ち、また、社会人として備えるべき就業力にもつながります。論理学Ⅰの授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を学び、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
- ②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
- ③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題を提供します。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは Hoppii を通じて行われます。出席、質問、感想は、Google Form を通じて提出してもらいます。質問は次回の授業時にお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の3原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1. 判断・命題、2. オイラーの図、3. 命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の4種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1. 推理の定義と分類、2. 対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）
5	変形推理（1. 換質法、2. 换位法、3. 換質换位法、4. 反換法）	換質法、换位法、换位不可能な命題、換質换位法、反換法、直接推理の有用性

6	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法
7	定言三段論法の規則	三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
8	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題（設問1から設問6）、妥当性の判定の練習問題（設問8から11）
9	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第1格、第2格、第3格、第4格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第1格）、差異の原理（第2格）、用例の原理（第3格）、逆の原理（第4格）
10	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法（第1格から第4格）
11	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法の概念と種類（肯定否定式、否定肯定式）、選言肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反
12	両刀論法（ディレンマ）、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法の概念と分類（単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法）、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
13	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
14	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppii を使って課題を提出する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』梓出版社、2013年、2,100円）。本教科書はオンデマンド出版となりますので、三省堂書店法政大学売店で購入できます。大学生協書籍部教科書コーナーではありませんので、間違えないでください。学生は現金会計10%引きでご購入いただけます。

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には、到達目標で示された①オイラーの図によって概念間の関係が正しく把握されているかどうか（30%）、②推論の規則が正確に理解されているかどうか（40%）、③相手の詭弁を適切に指摘し、反論することができるかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席された方は、このシステムを活用して、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

The study of logic is fundamental to our ability to think and act rationally. Defining objects and concepts in question helps us understand and solve various problems we encounter in daily life. Furthermore, the ability to discern valid inferences forms the foundation of critical thinking. The purpose of this course is to develop mastery of traditional logic—its concepts, judgments, and reasoning—using ordinary language. **Goals:** ① Students will acquire fundamental knowledge necessary for logical reasoning. ② Students will cultivate a habit of thinking logically and calmly. For example, they will be able to apply the rules of direct and indirect reasoning to draw correct inferences. ③ Students will develop the ability to communicate logically. **Homework:** Read the relevant sections of the textbook to gain an overview (2 hours). Review the previous class content using handouts to reinforce understanding of logic (2 hours). **Grading Criteria:** (1) Class performance (participation, assignments, etc.). (2) Spring semester exam scores. Each component will account for 50% of the final grade.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学 II

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。その知識は、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することに役立ち、また、社会人として備えるべき就業力にもつながります。論理学IIの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の真偽を判定することができる。
- ③仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行われます。出席、質問、感想は、Google Form を通じて提出してもらいます。質問は、次の週の授業でお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション および F・ペーコン の帰納法	秋学期セメスターの授業内容、 授業の進め方など、F・ペーコン の帰納法論理（イドラ論と四 つの表）
第2回	J・S・ミルの帰納 法	ミルの論理体系、一致法、差 異法、一致差異併用法、剰余法、 自然の斉一性の原理、ペーコン とミルの帰納法の共通点と相違 点
第3回	デカルトとライブ ニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直 観および演繹の確実性）、ライブ ニッツ（定義論、結合法、根拠 律）、両者の共通点と相違点
第4回	アンチノミーと弁証 法	カントの超越論的論理（超越論 的論理、分析論と弁証論、アンチ ノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第5回	文（命題）の真偽お よび論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理 関数、複合命題の真理値、否定
第6回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、 条件（含意）、等値、ブール代数 の考え方
第7回	文と文の論理的関係 の具体相	同一命題の連言、同一命題の両 立的選言、同一命題の排反的選 言、論理代数のまとめ

第8回	つねに真である文と 真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理 表で知る。テキストの問題を解 く。
第9回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題 を解く。
第10回	三段論法（推理）の 妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テ キストの問題を解く。帰謬法の 導入
第11回	帰謬法の概念	教科書およびその他の練習問題 を解く。
第12回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬 法を用いた推論の妥当性の検証
第13回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解 く。対偶律、両刀論法
第14回	授業全体のまとめ	模擬試験を行い、その解答解説 を通じて、本授業の内容をまと める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppii を使って課題を提出する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』梓出版社、2013年、2,100円。本教科書はオンデマンド出版となりますので、三省堂書店法政大学売店で購入できます。大学生協書籍部教科書コーナーではありませんので、間違えないでください。学生は現金会計10%引きでご購入いただけます。

【参考書】

①『論理哲学入門』E.トゥーゲントハット、U.ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には①授業内容が正しく把握されているかどうか（30%）、②学習した規則を使って問題を解くことができるかどうか（40%）、③期限内に課題を提出できているかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外のすべての授業資料は、すべて授業支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用し、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

Learning logic is fundamental to developing rational thinking and problem-solving skills. It equips us with the methods to approach and resolve various challenges we face in our daily lives. Moreover, logical thinking helps us function better in society by improving our decision-making abilities and overall cognitive performance. "Logic II" aims to acquire modern propositional logic and logic on science, cognition, and history. Goals: (1) Students can learn fundamental knowledge for thinking about science, cognition, and history. (2) Students can judge the truth or falsity of inferences using truth tables and reductio ad absurdum. Students can acquire working skills related to hypothesis building, document construction, and persuasion. Homework: Please read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours).

Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward lecture, evaluation of assignments, etc.) and (2) Autumn semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）をしています。誤ったまま推理してしまっている場合が多いのです。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということ、基礎から順に学んでいきます。そして最後に、日常の生活で正しくし思考し行動するためには、正しい知識（判断）と正しい論理（推理）の両方が必要であることを確認します。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようになることが、この授業の到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかどうかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。配布プリントと教科書を使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすく説明していきます。また、論理的な思考が身につくようにするために、演習として授業内で練習問題に取り組み、フィードバックとして問題の答え合わせと解説をし各自の理解度を確認してもらいます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めていき、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学んでいきますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第2回	論理学の根本原理について。	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第3回	概念について（1）	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第4回	概念について（2）	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第5回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第6回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明。
第7回	定言命題の4種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第8回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第9回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。

第10回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。
第11回	命題の変形による直接推理について（1）	換質法・换位法についての説明
第12回	命題の変形による直接推理について（2）	換質换位法及び本格的な推理についての説明
第13回	練習問題で推理を身につけよう。	命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。
第14回	授業内の学期末試験：まとめと解説	論理的な正しい思考ができるかどうかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容については、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は4時間、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社、2013年） アマゾン POD 及び大学内の三省堂書店で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）と学期末試験（80％：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。平常点（20点）は各単元ごとの練習問題の取り組みを、学期末試験（80点）は、問題によって内容の理解度を見ます。できる限り出席し演習（練習問題）に取り組んで下さい。理解しやすいように工夫して説明していきます。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「レジュメのプリントや問題演習もあってよかった。理解できると楽しかった」と書いてくれました。説明のスピードに配慮し、理解が進むよう授業を工夫します。論理学は、理解できるし、理解すれば、楽しくなります。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours: 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: usual performance score (20%), term-end examination (80%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明して行きます。

さらに、本格的な推理の三段論法に入り、正しい思考法を学びます。論理学は、正しく考えるということにおいて、これからの人生の様々な場面において役立ちます。正しい思考は正しい知識（判断）と正しい論理（推理）から可能になりますが、この授業では、その正しい論理について学びます。

本格的な論理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、学ぶことがとても楽しくなります。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、この授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかどうかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。配布プリントと教科書を使い、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明していきます。また、論理的思考を実際に身につけてもらうために、演習として練習問題を授業内で解き、フィードバックとして問題の答え合わせと解説を各自で理解度を確認してもらいます。秋学期から初めて授業を受ける学生にも、春学期の復習をすることによって考慮します。安心して履修して下さい。出席すれば、理解が十分できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第2回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・换位法についての説明
第3回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第4回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第5回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第6回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第7回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法についての説明

第8回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明
第9回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第10回	両刀論法（ディレンマ）について	単純肯定的両刀論法、単純否定的両刀論法、複合肯定的両刀論法、複合否定的両刀論法についての説明
第11回	両刀論法と詭弁両刀論法について	詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。
第12回	現代論理学への導入	命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明
第13回	命題論理学の演習	問題の解答と説明
第14回	授業内の期末試験：まとめと解説	複雑な論理的思考が正しくできるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容は、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は4時間、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社・2013年） アマゾンPOD及び大学内の三省堂書店で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）と学期末の授業内試験（80%：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明していきます。

【学生の意見等からの気づき】

授業については、多くの学生が「わかりやすかった」、「推理に興味を持てた」、「理解できると面白くなる」と書いてくれていました。内容をもっと理解しやすいものにするために、プリントと黒板を効率よく使って説明していきます。論理学は、理解でき、そして理解すれば、とても楽しくなる学びです。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course. Then this course introduces syllogism to students. Lastly this course introduces symbolic logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours : 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: usual performance score (20%) , term-end examination (80%) .

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)		
論理学 I		
2017年度以降入学者		
計良 隆世		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水4/Wed.4		
単位数：2単位		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。		
論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。		
(論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学II」も必ず履修して下さい。)		
【到達目標】		
正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：		
1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。		
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。		
上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回程度実施予定。）		
また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。		
課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第2回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第3回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類
第4回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第5回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第6回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第7回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第8回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第9回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第10回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第11回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級） 3. 練習問題（中級）
第12回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粋仮言三段論法 4. 練習問題
第13回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。		
復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）		
【テキスト（教科書）】		
テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。		
【参考書】		
大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中金浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年		
その他は、必要に応じて授業内に指示します。		
【成績評価の方法と基準】		
学期末の授業内筆記試験の成績(65%)、授業内容確認小テストの成績(25%)、平常点(10%)により評価します。		
学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。		
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。		
【学生の意見等からの気づき】		
論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目です。「初めて学ぶけど、思っていたより楽しかった」という感想をくれる学生も実際結構多いです。初心者向けに、問題の解き方・解説は丁寧に行いますので、練習問題に積極的に取り組んでください。		
【学生が準備すべき機器他】		
パソコン（学習支援システムを利用するため）		

【その他の重要事項】

春学期の「論理学Ⅰ」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学Ⅱ」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みは取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学(1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学(2)	1. カッコの省略 2. 練習問題
第5回	命題論理学(3)	1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第6回	命題論理学(4)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第7回	命題論理学(5)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第8回	論理トレーニング(1)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第9回	論理トレーニング(2)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第10回	論理トレーニング(3)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング(4)	1. 逆・裏・対偶 2. 練習問題
第12回	論理トレーニング(5)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第13回	論理トレーニング(6)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	1. 背理法 2. 練習問題 小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年

野矢茂樹著『まったくゼロからの論理学』、岩波書店、2020年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40％）と期末小テスト成績（40％）と平常点（20％）に基づき評価。2回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2回ともいづれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

「(秋学期の論理学Ⅱで)勉強した内容が就活にも役立ちました」という感想をくれた学生がいました。また「(春学期の論理学Ⅰの受講からの)この一年間を通して、非常に質の高い学びを得ることができたことにとても感謝してます」という感想をくれた学生もいました。論理学Ⅰを受講せず、論理学Ⅱから履修する学生も結構いますが、「論理学」という学問に対する学生の理解度を見る限り、やはり春学期の論理学Ⅰから継続して履修するのが望ましいと強く感じています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

春学期の「論理学Ⅰ」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学 I

2017年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の伝統的論理学の基礎 — オイラー図とベン図で知る —
すべての学問の基礎にある、古代ギリシア以来のアリストテレスの伝統的論理学を学びます。(1)概念、(2)判断、(3)推理が三本柱となります。オイラー図やベン図を用いて考えることにより、数少ないシンプルな図形の組合せだけで伝統的論理学を知ることができます。覚えねばならないことは少なく、図形を使って論理的に考える力が身につきます。

【到達目標】

- (A) ヨーロッパの伝統的論理学の基礎的な知識を得る。
(B) 論理的に冷静に考える態度を身につける。
(C) 論理的に正しく推理することができる。
(1) オイラー図を使って伝統的論理学に則った正しい推理ができる。
(2) ベン図を使って伝統的論理学に則る正しい推理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストを用い、必要に応じて板書を行いプロジェクターを使います。
(2) 各回の授業が終わった後に、「学習支援システム」を使った確認小テストの提出を求めます。
(3) 授業の初めに、前回を振り返り、確認小テストの気づきを、フィードバックします。
(4) 最終授業で全体を振り返る総合確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーションと思考の基礎	①授業の受け方 ②何をどのように学ぶのか ③思考の3原則
2	概念と判断	①概念 ②定義 ③判断（オイラー図）
3	直接推理（対当推理）	①存在判断から述定判断への変換 ②対当推理（オイラー図）
4	直接推理（変形推理）	①換質法 ②换位法 ③戻換法（オイラー図）
5	間接推理（三段論法）	①三段論法の妥当性をオイラー図で考える。
6	三段論法の誤謬論	①量の公理 ②質の公理
7	三段論法の実践	①三段論法の問題を解く。

8	直接推理をベン図で考える	①存在仮定とベン図 ②対当推理をベン図で考える ③変形推理の戻換法をベン図で考える
9	ベン図で三段論法	①三段論法の妥当性をベン図で調べる手順 ②三段論法の誤謬論をベン図で考える ③三段論法の問題をベン図で解く
10	ベン図で三段論法（実践）	①実例で、三段論法の推理の妥当性を判定する ②実例で、三段論法の妥当な推理を作成する。
11	仮言三段論法	①混合仮言三段論法 ②純粋仮言三段論法
12	選言三段論法	①純粋選言三段論法 ②混合選言三段論法
13	両刀論法（ジレンマ）	①両刀論法（ジレンマ） ②ジレンマから抜け出す方法
14	全体への振り返り	①全体（第1～13回）の総合確認テストによる総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《予習》各回の授業内容についてテキストで確認しておく。
《復習》①「学習支援システム」で各回の確認小テストを提出する。
②授業内容を復習して理解を確実にする。

【テキスト（教科書）】

菅沢龍文『論理学 はじめの一步 ——オイラー図とベン図で知る 伝統的論理学——』（春風社）

【参考書】

大貫・白根・菅沢・中金『論理学の初歩』梓出版社
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

伝統的論理学の基礎的な知識、論理的に考える態度、論理的推理力に関して次の2方面から評価する。
(1) 平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
(2) 全体についての総合確認テストの点数
そして(1)を70%、(2)を30%の割合で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
(2) 授業内容は必須事項と発展的な事項との区別をつけて、必須事項の習得に重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、教材・資料をダウンロード・閲覧し、確認テストをするためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが必要です。

【Outline (in English)】

Elements of the traditional European Logic, Using Euler Diagrams and Venn Diagrams, We learn Aristotle's traditional logic since ancient Greece. This logic is the basis of every science and constituted by three parts: (1) concepts, (2) judgements, (3) reasoning. Using Euler diagrams and Venn diagrams, by simple combinations of the figures we can realize the traditional logic. We don't have to learn so many things by heart and we will get the skill to think logically with the diagrams.

[Learning Objectives]

- (A) To acquire a basic knowledge of the traditional European logic.
(B) To acquire an attitude to think logically and calmly.
(C) To be able to reason logically and correctly.

(1) To be able to use Euler diagrams to make correct deductions in accordance with traditional logic.

(2) To be able to reason correctly using Venn diagrams in accordance with traditional logic.

[Learning activities outside of classroom]

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.

The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.

[Grading Criteria / Policy]

The grades are given in the light of the basic understanding of the traditional logic, the perspective of logical thinking and the reasoning skill. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「論理学Ⅱ」では現代における文（ぶん）の論理学を取り上げます（「論理学Ⅰ」では概念の論理学を主に取り上げました）。それに先立ち、近・現代科学の哲学的論理について、ペーコンやデカルトから始まる西洋の哲学者たちの思想を初歩的に学びます。そして文の論理学として、現代の命題論理学、さらに述語論理学の基礎を習得して、論理的な言葉遣いを学びます。また、論理代数、真理表、ベン図といった3つの表現方法を身につけて、論理的言葉遣いの理解を深めます。これにより、近・現代科学の論理的基礎や、論理的に正しい言葉遣いの基礎について学ぶことができます。

【到達目標】

近・現代科学の哲学的論理、現代の命題論理、述語論理の初歩を学ぶ。
 ①哲学的論理学によって、近代科学の論理的基礎を明らかにできる。
 ②命題論理学によって論理的に正しい文章を作ることができる。
 ③述語論理学によって文の論理的な意味を明らかにできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

参加者は

- (1) テキスト、プリント、プロジェクターを用います。
- (2) 授業内では、必要に応じて板書で問題を解きます。
- (3) 毎回「学習支援システム」で確認小テストを解いて提出します。
- (4) 授業の初めに前回の確認小テストを用いて復習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション F・ペーコンの考えたこと	(1) 授業について (2) イドラ説 (3) 表を用いた帰納法
2	帰納法と演繹法	(1) ミルの帰納法 (2) 自然の斉一性 (3) デカルトと演繹法
3	哲学的論理	(1) ライプニッツ 充足理由律 (2) カント 超越論的論理学 (3) ヘーゲル 弁証法
4	命題論理学 — 命題の真偽・論理的結合・複合命題の真理値	(1) 命題 (2) 論理的結合子 (3) 真理表とベン図 —複合命題の真理値— (1) 否定 (2) 連言
5	複合命題の真理値	—複合命題の真理値— (3) 選言 (4) 条件（対偶など） (5) 等値 (*) 論理代数も用いて考える

6	問題を解く	(1) 複合命題の反例となる命題 (2) 複合命題に対応する事象の確率 (3) 複合命題の論理代数化
7	恒真命題（1）	(1) 恒真命題・総合命題 (2) 論理結合子の縮減 (3) 恒真命題の判定（真理表）
8	恒真命題（2）	(1) 恒真命題の判定（真理表） (2) 代表的な恒真命題 (3) 恒真命題の判定（帰謬法）
9	恒真命題と推理の妥当性	(1) 恒真命題の判定（帰謬法の続き） (2) 推理の妥当性を判定する
10	G. フレーゲ、B. ラッセル	(1) クラス理論／タイプ理論 (2) 嘘つきのパラドックス (3) 悪循環の原理
11	述語論理学のはじめ（Ⅰ）	(1) 命題関数 (2) 限量記号（ $\forall$, $\exists$ ） (3) 概念の述語化
12	述語論理学のはじめ（Ⅱ）	(1) 多項述語で考える (2) ある人がすべての人を愛する？ (3) すべての人がある人を愛する？
13	総復習	秋学期全体について
14	問題を解く	試験問題を解いて到達度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

《予習》 次回の内容についてテキストやプリント（「学習支援システム」上で前日にPDFで配布が原則）で概観しておく。
 《復習》「学習支援システム」で毎回の確認小テストを提出し、前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。

【テキスト（教科書）】

大貫・白根・菅沢・中釜著『論理学の初歩』（梓出版社）

※第2回(3)～第3回および第10～14回は、プリントをテキストとします。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

近・現代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩に関して、次の2方面から総合評価する。

- (1) 平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
 - (2) 最終回に行う全体を振り返る試験の点数
- これらのうち(1)を70% (2)を30%の割合で総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
- (2) 授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、整理して見通しよく説明する。
- (3) 問題解答は、板書等により、解き方が具体的につかめるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、教材・資料をダウンロード・閲覧し、確認テストをするためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが必要です。

【Outline (in English)】

Elements of Modern Philosophical Logic of Knowledge, Propositional Logic and Predicate Logic:

Students will first learn the basic ideas of Western philosophers, beginning with Bacon and Descartes, about logic, which is the mainstay of modern scientific knowledge. Then, students will learn modern propositional logic beginning with Boolean logic, as well as the fundamentals of predicate logic, and learn how to use logical language. In addition, students will deepen their understanding of logical wording by acquiring various methods of expression, such as logical algebra, truth tables, and Venn diagrams. This will enable students to learn about the logical foundations of modern science and the fundamentals of logically correct wording.

Students will learn the rudiments of philosophical logic, modern propositional logic, and predicate logic.

(1) Students will be able to clarify the logical basis of modern science by means of philosophical logic.

(2) Students will be able to produce logically correct sentences by means of propositional logic.

(3) Students will be able to clarify the logical meaning of sentences by predicate logic.

[Learning activities outside of classroom]

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.

The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.

[Grading Criteria / Policy]

The grades are given in terms of the philosophical logic of the modern science, the propositional logic of our time and the predicate logic elementary understood. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

HIS100LA (史学/History 100)

東洋史 I

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進度により授業計画が変更される場合があります。課題等に対するフィードバックは授業中もしくは学習支援システムにより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中での中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学/History 100）

東洋史 II

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進捗により授業計画が変更される場合があります。課題等に対するフィードバックは授業中もしくは学習支援システムにより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA (史学/History 100)

東洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進捗により授業計画が変更される場合があります。課題等に対するフィードバックは授業中もしくは学習支援システムにより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中での中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学/History 100）

東洋史 II

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進捗により授業計画が変更される場合があります。課題等に対するフィードバックは授業中もしくは学習支援システムにより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学 / History 100）

東洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

上出 徳太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに関与したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に用いる資料は学習支援システムを通じて配布します。各回の授業に先立って学習支援システムに資料をアップロードしますので、適宜取得してください。質問などは原則的に授業前後に行ってください。その回や次回の授業を使って適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	黄河文明と初期王朝	農業と国家のはじまり
第2回	春秋戦国時代	国家の発展と統一への動き
第3回	秦と漢の天下統一	中華帝国の基本的制度
第4回	漢の武帝と帝国の完成	中華帝国と東アジア世界
第5回	後漢から魏晋南北朝時代へ	民族の衝突・融合と中華世界の拡大
第6回	隋唐帝国	古典的な帝国の完成
第7回	唐宋時期の変革	社会の変化と古典的な帝国の限界
第8回	五代十国から北宋へ	新しい帝国の形へ
第9回	遼・金と南宋	多民族統治と漢族
第10回	モンゴル・元とユーラシア世界	世界帝国の中の中国と東アジア
第11回	明から清へ	伝統社会の形成と初期グローバル化
第12回	明清時代の社会の変化	近世社会の到達点と限界

第13回 列強の進出と中国の近代世界の中の東アジア抵抗

第14回 中国の文化と日本 東アジアの中の日本史と日本文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前配信するレジュメや、初回に紹介する参考文献リストなどを使って理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

授業内容をふまえ、要点を整理できているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China

Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end exam (100%)

HIS100LA（史学 / History 100）

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

上出 徳太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中で中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に用いる資料は学習支援システムを通じて配布します。各回の授業に先立って学習支援システムに資料をアップロードしますので、適宜取得してください。質問などは原則的に授業前後に行ってください。その回や次回の授業を使って適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	列強の中国進出から辛亥革命へ	中国の近代化の始まり
第2回	中華民国と日本	中国の近代化の進展
第3回	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立	戦争とその影響
第4回	朝鮮戦争と社会主義化の推進	冷戦構造の定着、社会主義とは何か
第5回	中国とソ連、大躍進とその失敗	社会主義の多様性
第6回	文化大革命の始まり	1960年代の政治と社会
第7回	文化大革命の展開と終焉	1970年代の政治と社会
第8回	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係	中国の国際社会への復帰
第9回	中国における身分と抑圧	中華人民共和国と漢族社会

第10回	中国における革命と破壊	周辺部から見た中華人民共和国
第11回	改革開放から天安門事件へ	現代中国の経済と政治
第12回	高度経済成長の到来	現代中国の到達点
第13回	中国における社会問題	現代中国の問題点
第14回	中国と私たち	現代日本からみる中国

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前配信するレジュメや、初回に紹介する参考文献リストなどを使って理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

授業内容をふまえ、要点を整理できているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics has affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end exam (100%)

HIS100LA (史学/History 100)

東洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進捗により授業計画が変更される場合があります。課題等に対するフィードバックは授業中もしくは学習支援システムにより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中での中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA（史学 / History 100）

東洋史 II

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は原則として授業後に行ってください。なお、授業の進捗により授業計画が変更される場合があります。課題等に対するフィードバックは授業中もしくは学習支援システムにより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA (史学/History 100)

東洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

上出 徳太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに関与したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に用いる資料は学習支援システムを通じて配布します。各回の授業に先立って学習支援システムに資料をアップロードしますので、適宜取得してください。質問などは原則的に授業前後に行ってください。その回や次回の授業を使って適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	黄河文明と初期王朝	農業と国家のはじまり
第2回	春秋戦国時代	国家の発展と統一への動き
第3回	秦と漢の天下統一	中華帝国の基本的制度
第4回	漢の武帝と帝国の完成	中華帝国と東アジア世界
第5回	後漢から魏晋南北朝時代へ	民族の衝突・融合と中華世界の拡大
第6回	隋唐帝国	古典的な帝国の完成
第7回	唐宋時期の変革	社会の変化と古典的な帝国の限界
第8回	五代十国から北宋へ	新しい帝国の形へ
第9回	遼・金と南宋	多民族統治と漢族
第10回	モンゴル・元とユーラシア世界	世界帝国の中の中国と東アジア
第11回	明から清へ	伝統社会の形成と初期グローバル化
第12回	明清時代の社会の変化	近世社会の到達点と限界

第13回 列強の進出と中国の近代世界の中の東アジア抵抗

第14回 中国の文化と日本 東アジアの中の日本史と日本文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前配信するレジュメや、初回に紹介する参考文献リストなどを使って理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

授業内容をふまえ、要点を整理できているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China

Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end exam (100%)

HIS100LA（史学 / History 100）

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

上出 徳太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に用いる資料は学習支援システムを通じて配布します。各回の授業に先立って学習支援システムに資料をアップロードしますので、適宜取得してください。質問などは原則的に授業前後に行ってください。その回や次回の授業を使って適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	列強の中国進出から辛亥革命へ	中国の近代化の始まり
第2回	中華民国と日本	中国の近代化の進展
第3回	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立	戦争とその影響
第4回	朝鮮戦争と社会主義化の推進	冷戦構造の定着、社会主義とは何か
第5回	中国とソ連、大躍進とその失敗	社会主義の多様性
第6回	文化大革命の始まり	1960年代の政治と社会
第7回	文化大革命の展開と終焉	1970年代の政治と社会
第8回	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係	中国の国際社会への復帰
第9回	中国における身分と抑圧	中華人民共和国と漢族社会

第10回	中国における革命と破壊	周辺部から見た中華人民共和国
第11回	改革開放から天安門事件へ	現代中国の経済と政治
第12回	高度経済成長の到来	現代中国の到達点
第13回	中国における社会問題	現代中国の問題点
第14回	中国と私たち	現代日本からみる中国

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前配信するレジュメや、初回に紹介する参考文献リストなどを使って理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

授業内容をふまえ、要点を整理できているかどうかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics has affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end exam (100%)

HIS100LA（史学 / History 100）

西洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から現代にかけてのヨーロッパにおける国家形成と国際体制の展開を学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要について説明する。
第2回	1 主権国家の誕生	イギリス、フランスにおける主権国家の形成について説明する。
第3回	2 三十年戦争とウェストファリア体制の成立 1	三十年戦争の展開とその結果について説明する。
第4回	2 三十年戦争とウェストファリア体制の成立 2	三十年戦争の結果成立したウェストファリア体制の特徴とその問題点を説明する。
第5回	3 ウィーン体制	ウィーン体制の特徴について説明する。
第6回	4 国民国家の形成 1	ドイツを事例に国民国家の形成について説明する。
第7回	4 国民国家の形成 2	フランス、イギリス等を事例に国民国家の形成について説明する。
第8回	5 帝国主義の時代 1	帝国主義の時代の国際体制のについて説明する
第9回	5 帝国主義の時代 2	イギリスを事例とし社会帝国主義について説明する。
第10回	6 第一次世界大戦とヴェルサイユ体制 1	第一次世界大戦の展開とその性質について説明する。
第11回	6 第一次世界大戦とヴェルサイユ体制 2	第一次世界大戦後に成立したヴェルサイユ体制について説明する。
第12回	7 第二次世界大戦への道	ヴェルサイユ体制の崩壊から第二次世界大戦の勃発までの過程を説明する。

第13回 8 第二次世界大戦 第二次世界大戦とその性格について説明する。

第14回 試験と解説 試験とその解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と最終回の試験の総合評価とします（平常点20%、学期末の試験80%）

【学生の意見等からの気づき】

映像資料等を活用します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA（史学 / History 100）

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

15世紀のポルトガル、スペインに始まるヨーロッパ諸国によるヨーロッパ外への進出の過程およびヨーロッパ近代の歩みが世界の諸地域に与えた影響についてウォーラステインの近代世界システム論の観点から概観し、世界の一体化の過程においてヨーロッパが果たした役割を考察します。ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに関接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【到達目標】

- ・中世から近代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。
- ・歴史学における解釈は多様であり、その見直しが図られるものであることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近代史を学ぶことの意義について説明します。
第2回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ1	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。1回目は11～13世紀にかけての経済社会状況を概観します。
第3回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ2	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。2回目は「14世紀の危機」を扱います。

第4回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ3	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。3回目は主権国家の形成とインターステイト・システムの成立について説明します。
第5回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア1	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。1回目はポルトガルのアフリカ進出の過程、その特徴と影響を説明します。
第6回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア2	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。2回目はポルトガルのアジア進出の過程と特徴について説明します。
第7回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア3	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。3回目はポルトガルのアジア進出がポルトガルとアジアにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第8回	第3章 スペインとアメリカ1	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。1回目はスペインのアメリカ進出の過程とその特徴を説明します。
第9回	第3章 スペインとアメリカ2	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。2回目はスペインのアメリカ進出がアメリカ世界に与えた影響を考察します。
第10回	第3章 スペインとアメリカ3	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。3回目はスペインのアメリカ進出がスペインにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第11回	第4章 イギリス第1帝国の形成1	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。1回目はイギリスがオランダ、フランスと競争しつつ帝国を形成する過程を説明します。
第12回	第4章 イギリス第1帝国の形成2	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。2回目は帝国の形成がイギリスに与えた影響を論じます。
第13回	第4章 イギリス第1帝国の形成3	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。3回目は帝国の形成が西インド諸島とアフリカに与えた影響を論じます。
第14回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、現代世界が直面する諸問題を歴史的に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）

【学生の意見等からの気づき】

高校で世界史を履修していなかった人にもこれまで以上に配慮するようにします。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course will examine the process of integration of the world, starting with Portugal and Spain's advance into regions outside Europe in the 15th century and consider the impact that the steps of modern Europe have had on various regions of the world from the viewpoint of the Modern World System by Immanuel Wallerstein. This course will also put emphasis on connections between what existed previously and the world being lived in today.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about medieval and modern history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds. 3) Students are able to consider different perspectives and learn that interpretations and explanations of events and developments in the past are contestable and tentative.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA（史学 / History 100）

西洋史Ⅰ

2017年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から現代にかけてのヨーロッパにおける国家形成と国際体制の展開を学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要について説明する。
第2回	1 主権国家の誕生	イギリス、フランスにおける主権国家の形成について説明する。
第3回	2 三十年戦争とウェストファリア体制の成立 1	三十年戦争の展開とその結果について説明する。
第4回	2 三十年戦争とウェストファリア体制の成立 2	三十年戦争の結果成立したウェストファリア体制の特徴とその問題点を説明する。
第5回	3 ウィーン体制	ウィーン体制の特徴について説明する。
第6回	4 国民国家の形成 1	ドイツを事例に国民国家の形成について説明する。
第7回	4 国民国家の形成 2	フランス、イギリス等を事例に国民国家の形成について説明する。
第8回	5 帝国主義の時代 1	帝国主義の時代の国際体制のについて説明する
第9回	5 帝国主義の時代 2	イギリスを事例とし社会帝国主義について説明する。
第10回	6 第一次世界大戦とヴェルサイユ体制 1	第一次世界大戦の展開とその性質について説明する。
第11回	6 第一次世界大戦とヴェルサイユ体制 2	第一次世界大戦後に成立したヴェルサイユ体制について説明する。
第12回	7 第二次世界大戦への道	ヴェルサイユ体制の崩壊から第二次世界大戦の勃発までの過程を説明する。

第13回 8 第二次世界大戦 第二次世界大戦とその性格について説明する。

第14回 試験と解説 試験とその解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と最終回の試験の総合評価とします（平常点20%、学期末の試験80%）

【学生の意見等からの気づき】

映像資料等を活用します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA（史学 / History 100）			2017年度以降入学者		
西洋史Ⅱ					
渡辺 知					
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木2/Thu.2					
単位数：2単位					
その他属性：〈優〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
15世紀のポルトガル、スペインに始まるヨーロッパ諸国によるヨーロッパ外への進出の過程およびヨーロッパ近代の歩みが世界の諸地域に与えた影響についてウォーラーステインの近代世界システム論の観点から概観し、世界の一体化の過程においてヨーロッパが果たした役割を考察します。ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。					
【到達目標】					
・中世から近代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。 ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。 ・歴史学における解釈は多様であり、その見直しが図られるものであることを理解する。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
なし / No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容	第4回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ3	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近代史を学ぶことの意義について説明します。	第5回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア1	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。1回目はポルトガルのアフリカ進出の過程、その特徴と影響を説明します。
第2回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ1	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。1回目は11～13世紀にかけての经济社会状況を概観します。	第6回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア2	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。2回目はポルトガルのアジア進出の過程と特徴について説明します。
第3回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ2	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。2回目は「14世紀の危機」を扱います。	第7回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア3	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。3回目はポルトガルのアジア進出がポルトガルとアジアにとってどのような意味を持ったのか考察します。
			第8回	第3章 スペインとアメリカ1	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。1回目はスペインのアメリカ進出の過程とその特徴を説明します。
			第9回	第3章 スペインとアメリカ2	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。2回目はスペインのアメリカ進出がアメリカ世界に与えた影響を考察します。
			第10回	第3章 スペインとアメリカ3	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。3回目はスペインのアメリカ進出がスペインにとってどのような意味を持ったのか考察します。
			第11回	第4章 イギリス 第1帝国の形成1	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。1回目はイギリスがオランダ、フランスと競争しつつ帝国を形成する過程を説明します。
			第12回	第4章 イギリス 第1帝国の形成2	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。2回目は帝国の形成がイギリスに与えた影響を論じます。
			第13回	第4章 イギリス 第1帝国の形成3	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。3回目は帝国の形成が西インド諸島とアフリカに与えた影響を論じます。
			第14回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、現代世界が直面する諸問題を歴史的に考えます。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】					
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。					
【テキスト（教科書）】					
特に設けません。					
【参考書】					
授業中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法と基準】					
授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20％、学期末の試験80％）					

【学生の意見等からの気づき】

高校で世界史を履修していなかった人にもこれまで以上に配慮するようにします。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course will examine the process of integration of the world, starting with Portugal and Spain's advance into regions outside Europe in the 15th century and consider the impact that the steps of modern Europe have had on various regions of the world from the viewpoint of the Modern World System by Immanuel Wallerstein. This course will also put emphasis on connections between what existed previously and the world being lived in today.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about medieval and modern history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds. 3) Students are able to consider different perspectives and learn that interpretations and explanations of events and developments in the past are contestable and tentative.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA (史学 / History 100)	
日本史 I	2017年度以降入学者
芳賀 和樹	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から中世社会の終焉までを、政治・対外関係・社会経済・文化などの様々な側面から考えます。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を提示してその解釈を検討し、史料から具体的な歴史像を描き出せるようにします。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方について説明し、東アジア世界という視点から日本の歴史を考える意味について学ぶ
第2回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジアの国際情勢から、古代国家形成について学ぶ
第3回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と対外関係について学ぶ
第4回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の様相、在地首長制について学ぶ
第5回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制の地方支配の行き詰まりについて学ぶ
第6回	東アジア世界の文化と国風文化	10世紀以降の東アジアの国際情勢と対外関係、貴族社会と国風文化について学ぶ
第7回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立と展開、王朝国家期の政治・社会について学ぶ
第8回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について学ぶ

第9回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生から鎌倉幕府の成立までの過程と、幕府の支配体制について学ぶ
第10回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について学ぶ
第11回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立までの過程について学ぶ
第12回	日明関係と室町文化の特質	15・16世紀における東アジア世界の活発な交流と、室町文化の特質について学ぶ
第13回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配体制、享徳の乱と関東地方の戦国時代の様相について学ぶ
第14回	総括と試験	授業内容を総括し、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。授業で提示した史料についても復習し、史料に基づいて考える姿勢を養ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

佐々木潤之介ほか編（2000）『概論 日本歴史』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50％）、期末試験（50％）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する復習や、質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ワークシートの提出には、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will consider the period from the birth of Japan to the end of middle ages society from various aspects such as politics, foreign relations, social economy, and culture. The course will consist mainly of lectures, incorporating new results of recent research on Japanese history, while developing the ability to "think" rather than "memorize" history. In order to enable students to "think" based on historical documents, important historical documents will be presented and their interpretations will be considered as appropriate, so that students will be able to draw a concrete historical image from historical documents.

【到達目標（Learning Objectives）】

The course is designed to provide students with the knowledge necessary for teaching Japanese history in junior high and high schools, how to research historical facts and how to logically structure the overall picture. The course will explain how the descriptions in the textbooks are based on the historical evidence, tracing back to the academic theories on which they are based. The goal is to develop the ability to construct an image of Japanese history (including culture) from ancient times to the Middle Ages, supported by rich and diverse values, while always maintaining the international environment and geographical perspective of Japan within the East Asian world.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Please review the handouts and reference books related to the theme for preparatory study and review. Please also review the historical materials presented in class and develop an attitude of thinking based on the historical materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

HIS100LA (史学 / History 100)

日本史 II

2017年度以降入学者

芳賀 和樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・対外関係・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、適宜、重要史料を提示してその解釈を検討し、史料から具体的な歴史像を描き出せるようにします。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世と近代の位置づけについて、世界のなかの日本という視点を意識しながら学ぶ
第2回	江戸幕府の成立と地域社会	天皇・将軍・大名・寺社・庶民などの動向を視野に入れながら、江戸幕府の成立について学ぶ
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期における幕府政治の動向と対外関係の特質について学ぶ
第4回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期における幕府政治の課題と地域社会の動向について学ぶ
第5回	近世村落の運営と租税	家族や生業の様子を視野に入れながら、近世村落の運営と租税の仕組みについて学ぶ
第6回	近世文化の展開と文化遺産	文化遺産の観点から、文学・美術・芸能・信仰などの近世文化について学ぶ
第7回	近世社会の変容と政治状況	近世後期における社会の変容と幕府政治の課題について学ぶ

第8回	明治維新と近代国家の形成	開国から江戸幕府の終焉までを把握し、明治維新と近代国家の形成について学ぶ
第9回	近代産業の発展と国際環境	国際的な動向に着目しつつ、殖産興業政策や「産業革命」期における諸産業の発展について学ぶ
第10回	政党政治の展開	自由民権運動から政党内閣までの展開について学ぶ
第11回	二つの世界大戦と国際状況	第一次世界大戦、第二次世界大戦における日本の思惑と国際状況の変容について学ぶ
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	文学・美術・建築・教育などの近代文化と、東京に遺る文化遺産について学ぶ
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と国際社会への復帰について学ぶ
第14回	総括と試験	授業を総括し、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。授業で提示した史料についても復習し、史料に基づいて考える姿勢を養ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

佐々木潤之介ほか編（2000）『概論 日本歴史』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50%）、期末試験（50%）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する復習や、質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ワークシートの提出には、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will consider the period from the establishment of early modern society to the formation of modern society from various aspects such as politics, foreign relations, social economy, and culture. The course will consist mainly of lectures, incorporating new results of recent research on Japanese history, while developing the ability to "think" rather than "memorize" history. In order to enable students to "think" based on historical documents, important historical documents will be presented and their interpretations will be considered as appropriate, so that students will be able to draw a concrete historical image from historical documents.

【到達目標（Learning Objectives）】

The course is designed to provide students with the knowledge necessary for teaching Japanese history in junior high and high schools, how to research historical facts and how to logically structure the overall picture. The course will explain how the descriptions in the textbooks are based on the historical evidence, tracing back to the academic theories on which they are based. The goal is to develop the ability to construct an image of Japanese history (including culture) from the early modern period to the modern period, supported by rich and diverse values, while always maintaining the international environment and geographical perspective of Japan in the world.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Please review the handouts and reference books related to the theme for preparatory study and review. Please also review the historical materials presented in class and develop an attitude of thinking based on the historical materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史Ⅰ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目指して頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。
第2回	日本国家成立前史－2世紀の日本	「日本」という国家が誕生する前の状態を考えてみます。
第3回	日本国家の起源－3世紀の日本	中国との対外交渉のなかで「日本国家が成立していく過程を検討します。
第4回	高句麗好太王碑文の世界	中国との交渉がとだえたなかで、好太王碑文があざやかに当時の日本の実態を伝えてくれます。碑文の正しい読み方を検討します。
第5回	大和政権の成立－4世紀の日本	前方後円墳という企画性のある特異な墳墓に象徴される統一国家ヤマト政権の実態を考えてみます。
第6回	倭の五王の時代－5世紀の日本	再び中国との交渉が始まります。そこで記録された五人の大王たちについて、外交を中心に考えてみます。
第7回	継体朝の成立	倭の五王の後、まもなくしてヤマト王権の直系の血脈がとだえます。危機に瀕したヤマト王権の再建過程を見てみます。
第8回	推古朝の政治と社会	再建したヤマト王権の窮極的な国家体制の姿を検討してみます。
第9回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第10回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第11回	律令法と天皇	法的には律令の上になつた天皇でしたが、その実態はどうだったのでしょうか。中国皇帝と比較しながら考えてみます。
第12回	律令財政の特徴	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第13回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第14回	天平の社会変革	東大寺に代表される天平文化華やかかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

日本史概論編集委員会編『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史 II

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。

近年、日本史の見直しが盛んになり、「歴史は北から」をキャッチフレーズとした日本北方史の解明が急速に進んでいます。これまで陽の当たらなかった北方世界に、中央とはかなり異なる「もう一つの日本」の歴史があったことが明らかにされつつあり、より豊かな日本史像が提供されるようになりました。この講義では、蝦夷（エミシからエゾへ）・防御性集落・安藤氏といった北の世界の主人公たちを素材に、最新の日本史研究の成果を提供します。

これらは現代世界の基盤の一つになったものです。みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

この講義を受講することによって、みなさんに、日本史の多様性、様々な日本文化の存在を理解して（日本文化は単一では無いこと）、再認識してもらうことを最大の目標にします。試験によってその認識の度合いを判定します。

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

「もう一つの日本」と呼ばれる北日本を舞台に古代から近現代までの特色を通観できるように、法制度の問題からはじめて政治や社会・文化との関係を解明し、最終的には近現代において差別された日本の問題点を頭に置きながら、具体的なあり方とその変質過程を解明していきます。ポイントとなるのは、具体的に当時書かれた生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていくところにあります。北日本の人々がどのような行動をとっていたのかが手に取るように分かる貴重な史料がたくさんあります。当時の北日本は高校教科書では限定的にしか触れられていませんが、もっと豊かな歴史があります。「普通の日本」「中の日本」との違いがわかるように工夫します。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	日本北方史の意義について。
第2回	弥生と続縄文	最北の弥生文化の実態と、続縄文文化の世界を比較する。
第3回	空白の古墳文化	中央日本史では古墳時代といわれる時期の北日本世界の在り方をさぐる。
第4回	蝦夷とは何か	蝦夷と呼ばれた北日本人の実態を考える。
第5回	阿倍比羅夫と津軽	阿倍比羅夫による「北征」事業の実態を分析する。
第6回	北の古代交易の世界	北方史の特徴である交易の具体的内容を検討する。
第7回	律令時代の青森・北海道	中央日本が律令国家を形成した時期の北日本世界の实態を考える。
第8回	謎の10～11世紀	北日本が中央日本の記録から姿を消した理由を考える。
第9回	古代防御性集落の盛衰	北緯40度以北の世界に突如出現した防御性集落とは何かについて考える。
第10回	中世北方世界の開幕	平泉に花開いた新しい北方文化の世界について考える。
第11回	北の得宗領	鎌倉幕府執権北条氏の新しい北方世界支配の実像に迫る。
第12回	謎の津軽安藤氏と「日の本将軍」	中世北方世界の覇者津軽安藤氏の誕生とその活躍について「日の本将軍号」を素材に近世日本までの歴史を踏まえて通観的に検討する。
第13回	躍動する北の世界	中世後期、北方世界がもっとも耀いた時代とその急速な衰退、またそこから生まれた近世の世界の実像を探る。
第14回	近現代日本にとっての北方史の意味	もう二つの日本とよばれる北日本(アイヌ文化)と南日本(琉球文化)を踏まえながらその近現代史の意味を考えてまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がもっと分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

青森県の歴史（新版県史シリーズ2）山川出版社

【参考書】

図説青森県の歴史（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。また各回の講義で、中央の日本史との比較を必ず行いますので、それをよく理解して、自分なりに北方世界の歴史の特徴（中央の日本史との違い）を押さえる努力をしてください。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人には、やや難解だったようです。ただ高校日本史の内容をここで繰り返すつもりは全くありませんので、高校で日本史を履修しなかった人は、あらかじめ日本古代・中世史の概説書を読んで基礎知識を身につけてから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史 I

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目指して頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで。

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。
第2回	日本国家成立前史－2世紀の日本	「日本」という国家が誕生する前の状態を考えてみます。
第3回	日本国家の起源－3世紀の日本	中国との対外交渉のなかで「日本国家が成立していく過程を検討します。
第4回	高句麗好太王碑文の世界	中国との交渉がとだえたなかで、好太王碑文があざやかに当時の日本の実態を伝えてくれます。碑文の正しい読み方を検討します。
第5回	大和政権の成立－4世紀の日本	前方後円墳という企画性のある特異な墳墓に象徴される統一国家ヤマト政権の実態を考えてみます。
第6回	倭の五王の時代－5世紀の日本	再び中国との交渉が始まります。そこで記録された五人の大王たちについて、外交を中心に考えてみます。
第7回	継体朝の成立	倭の五王の後、まもなくしてヤマト王権の直系の血脈がとだえます。危機に瀕したヤマト王権の再建過程を見てみます。
第8回	推古朝の政治と社会	再建したヤマト王権の窮極的な国家体制の姿を検討してみます。
第9回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第10回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第11回	律令法と天皇	法的には律令の上になつた天皇でしたが、その実態はどうだったのでしょうか。中国皇帝と比較しながら考えてみます。
第12回	律令財政の特徴	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第13回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第14回	天平の社会変革	東大寺に代表される天平文化華やかかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

日本史概論編集委員会編『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、『『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史 II

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。

近年、日本史の見直しが盛んになり、「歴史は北から」をキャッチフレーズとした日本北方史の解明が急速に進んでいます。これまで陽の当たらなかった北方世界に、中央とはかなり異なる「もう一つの日本」の歴史があったことが明らかにされつつあり、より豊かな日本史像が提供されるようになりました。この講義では、蝦夷（エミシからエゾへ）・防御性集落・安藤氏といった北の世界の主人公たちを素材に、最新の日本史研究の成果を提供します。

これらは現代世界の基盤の一つになったものです。みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

この講義を受講することによって、みなさんに、日本史の多様性、様々な日本文化の存在を理解して（日本文化は単一では無いこと）、再認識してもらうことを最大の目標にします。試験によってその認識の度合いを判定します。

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

「もう一つの日本」と呼ばれる北日本を舞台に古代から近現代までの特色を通観できるように、法制度の問題からはじめて政治や社会・文化との関係を解明し、最終的には近現代において差別された日本の問題点を頭に置きながら、具体的なあり方とその変質過程を解明していきます。ポイントとなるのは、具体的に当時書かれた生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていくところにあります。北日本の人々がどのような行動をとっていたのかが手に取るように分かる貴重な史料がたくさんあります。当時の北日本は高校教科書では限定的にしか触れられていませんが、もっと豊かな歴史があります。「普通の日本」「中の日本」との違いがわかるように工夫します。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	日本北方史の意義について。
第2回	弥生と続縄文	最北の弥生文化の実態と、続縄文文化の世界を比較する。
第3回	空白の古墳文化	中央日本史では古墳時代といわれる時期の北日本世界の在り方をさぐる。
第4回	蝦夷とは何か	蝦夷と呼ばれた北日本人の実態を考える。
第5回	阿倍比羅夫と津軽	阿倍比羅夫による「北征」事業の実態を分析する。
第6回	北の古代交易の世界	北方史の特徴である交易の具体的内容を検討する。
第7回	律令時代の青森・北海道	中央日本が律令国家を形成した時期の北日本世界の实態を考える。
第8回	謎の10～11世紀	北日本が中央日本の記録から姿を消した理由を考える。
第9回	古代防御性集落の盛衰	北緯40度以北の世界に突如出現した防御性集落とは何かについて考える。
第10回	中世北方世界の開幕	平泉に花開いた新しい北方文化の世界について考える。
第11回	北の得宗領	鎌倉幕府執権北条氏の新しい北方世界支配の実像に迫る。
第12回	謎の津軽安藤氏と「日の本将軍」	中世北方世界の覇者津軽安藤氏の誕生とその活躍について「日の本将軍号」を素材に近世日本までの歴史を踏まえて通観的に検討する。
第13回	躍動する北の世界	中世後期、北方世界がもっとも耀いた時代とその急速な衰退、またそこから生まれた近世の世界の実像を探る。
第14回	近現代日本にとっての北方史の意味	もう二つの日本とよばれる北日本(アイヌ文化)と南日本(琉球文化)を踏まえながらその近現代史の意味を考えてまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がもっと分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

青森県の歴史（新版県史シリーズ2）山川出版社

【参考書】

図説青森県の歴史（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。また各回の講義で、中央の日本史との比較を必ず行いますので、それをよく理解して、自分なりに北方世界の歴史の特徴（中央の日本史との違い）を押さえる努力をしてください。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人には、やや難解だったようです。ただ高校日本史の内容をここで繰り返すつもりは全くありませんので、高校で日本史を履修しなかった人は、あらかじめ日本古代・中世史の概説書を読んで基礎知識を身につけてから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA (史学/History 100)

日本史Ⅰ

2017年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	東アジアのなかの日本史とは何かを学問的に考えた上で、時代区分論の諸説を検討する。
2	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察する。
3	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づける。
4	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察する。
5	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察する。
6	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察する。
7	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討する。
8	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考える。

9	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討する。
10	執権政治の展開と元寇	執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考える。
11	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考える。
12	日明関係と室町文化の特質	日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察する。
13	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察する。
14	試験と解説	古代とは何か、中世とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70％）。授業への積極的な貢献度（課題提出含む）（30％）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付・課題提出等は、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course explores Japanese history from its origins to the end of the medieval period, examining various aspects such as politics, diplomacy, society, economy, and culture. The lectures incorporate significant historical sources and recent advancements in historical research. Rather than focusing on rote memorization, this course aims to develop students' ability to critically engage with history by introducing concrete methods for historical analysis. Key historical materials will be presented during lectures to help students construct detailed historical narratives, and participants may occasionally be invited to share their interpretations of these sources. By the end of the course, students are expected to enhance their critical thinking skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately two hours preparing for each class meeting and an additional two hours reviewing the content after each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%

In-class contribution (including assignment submission): 30%

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史 II

2017年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確保するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	世界のなかの近世・近代日本について、時代区分に関する諸説を中心に検討する。
2	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明する。
3	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察した上で、国際関係のなかの「鎖国」の意義を問う。
4	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討する。
5	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較する。
6	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考える。
7	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくかを考察する。
8	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追う。

9	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追う。
10	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較する。
11	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討する。
12	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考える。
13	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日的課題も踏まえながら考察する。
14	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70％）。授業への積極的な貢献度（課題提出含む）（30％）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付・課題提出等は、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course examines Japanese history from the early modern period to the present, exploring various aspects such as politics, diplomacy, society, economy, and culture. The lectures incorporate significant historical materials and recent findings in Japanese historical research. Rather than focusing on rote memorization, the course aims to develop students' ability to critically analyze history by introducing concrete methods for historical thinking. Key historical sources will be presented during lectures to help students construct detailed historical narratives, and participants may occasionally be invited to share their interpretations of these sources. By the end of the course, students are expected to enhance their critical thinking skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately two hours preparing for each class meeting and an additional two hours reviewing the content after each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%

In-class contribution (including assignment submission): 30%

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史 I

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目指して頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。
第2回	日本国家成立前史－2世紀の日本	「日本」という国家が誕生する前の状態を考えてみます。
第3回	日本国家の起源－3世紀の日本	中国との対外交渉のなかで「日本国家が成立していく過程を検討します。
第4回	高句麗好太王碑文の世界	中国との交渉がとだえたなかで、好太王碑文があざやかに当時の日本の実態を伝えてくれます。碑文の正しい読み方を検討します。
第5回	大和政権の成立－4世紀の日本	前方後円墳という企画性のある特異な墳墓に象徴される統一国家ヤマト政権の実態を考えてみます。
第6回	倭の五王の時代－5世紀の日本	再び中国との交渉が始まります。そこで記録された五人の大王たちについて、外交を中心に考えてみます。
第7回	継体朝の成立	倭の五王の後、まもなくしてヤマト王権の直系の血脈がとだえます。危機に瀕したヤマト王権の再建過程を見てみます。
第8回	推古朝の政治と社会	再建されたヤマト王権の窮極的な国家体制の姿を検討してみます。
第9回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第10回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第11回	律令法と天皇	法的には律令の上になつた天皇でしたが、その実態はどうだったのでしょうか。中国皇帝と比較しながら考えてみます。
第12回	律令財政の特徴	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第13回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第14回	天平の社会変革	東大寺に代表される天平文化華やかかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

日本史概論編集委員会編『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA（史学 / History 100）

日本史 II

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。

近年、日本史の見直しが盛んになり、「歴史は北から」をキャッチフレーズとした日本北方史の解明が急速に進んでいます。これまで陽の当たらなかった北方世界に、中央とはかなり異なる「もう一つの日本」の歴史があったことが明らかにされつつあり、より豊かな日本史像が提供されるようになりました。この講義では、蝦夷（エミシからエゾへ）・防御性集落・安藤氏といった北の世界の主人公たちを素材に、最新の日本史研究の成果を提供します。

これらは現代世界の基盤の一つになったものです。みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

この講義を受講することによって、みなさんに、日本史の多様性、様々な日本文化の存在を理解して（日本文化は単一では無いこと）、再認識してもらうことを最大の目標にします。試験によってその認識の度合いを判定します。

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

「もう一つの日本」と呼ばれる北日本を舞台に古代から近現代までの特色を通観できるように、法制度の問題からはじめて政治や社会・文化との関係を解明し、最終的には近現代において差別された日本の問題点を頭に置きながら、具体的なあり方とその変質過程を解明していきます。ポイントとなるのは、具体的に当時書かれた生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていくところにあります。北日本の人々がどのような行動をとっていたのかが手に取るように分かる貴重な史料がたくさんあります。当時の北日本は高校教科書では限定的にしか触れられていませんが、もっと豊かな歴史があります。「普通の日本」「中の日本」との違いがわかるように工夫します。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	日本北方史の意義について。
第2回	弥生と続縄文	最北の弥生文化の実態と、続縄文文化の世界を比較する。
第3回	空白の古墳文化	中央日本史では古墳時代といわれる時期の北日本世界の在り方をさぐる。
第4回	蝦夷とは何か	蝦夷と呼ばれた北日本人の実態を考える。
第5回	阿倍比羅夫と津軽	阿倍比羅夫による「北征」事業の実態を分析する。
第6回	北の古代交易の世界	北方史の特徴である交易の具体的内容を検討する。
第7回	律令時代の青森・北海道	中央日本が律令国家を形成した時期の北日本世界の实態を考える。
第8回	謎の10～11世紀	北日本が中央日本の記録から姿を消した理由を考える。
第9回	古代防御性集落の盛衰	北緯40度以北の世界に突如出現した防御性集落とは何かについて考える。
第10回	中世北方世界の開幕	平泉に花開いた新しい北方文化の世界について考える。
第11回	北の得宗領	鎌倉幕府執権北条氏の新しい北方世界支配の実像に迫る。
第12回	謎の津軽安藤氏と「日の本将軍」	中世北方世界の覇者津軽安藤氏の誕生とその活躍について「日の本将軍号」を素材に近世日本までの歴史を踏まえて通観的に検討する。
第13回	躍動する北の世界	中世後期、北方世界がもっとも耀いた時代とその急速な衰退、またそこから生まれた近世の世界の実像を探る。
第14回	近現代日本にとっての北方史の意味	もう二つの日本とよばれる北日本(アイヌ文化)と南日本(琉球文化)を踏まえながらその近現代史の意味を考えてまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がもっと分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

青森県の歴史（新版県史シリーズ2）山川出版社

【参考書】

図説青森県の歴史（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

また各回の講義で、中央の日本史との比較を必ず行いますので、それをよく理解して、自分なりに北方世界の歴史の特徴（中央の日本史との違い）を押さえる努力をしてください。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人には、やや難解だったようです。ただ高校日本史の内容をここで繰り返すつもりは全くありませんので、高校で日本史を履修しなかった人は、あらかじめ日本古代・中世史の概説書を読んで基礎知識を身につけてから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA (史学 / History 100)	
日本史 I	2017年度以降入学者
芳賀 和樹	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：木5/Thu.5
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から中世社会の終焉までを、政治・対外関係・社会経済・文化などの様々な側面から考えます。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を提示してその解釈を検討し、史料から具体的な歴史像を描き出せるようにします。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方について説明し、東アジア世界という視点から日本の歴史を考える意味について学ぶ
第2回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジアの国際情勢から、古代国家形成について学ぶ
第3回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と対外関係について学ぶ
第4回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の様相、在地首長制について学ぶ
第5回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制の地方支配の行き詰まりについて学ぶ
第6回	東アジア世界の文化と国風文化	10世紀以降の東アジアの国際情勢と対外関係、貴族社会と国風文化について学ぶ
第7回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立と展開、王朝国家期の政治・社会について学ぶ
第8回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について学ぶ

第9回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生から鎌倉幕府の成立までの過程と、幕府の支配体制について学ぶ
第10回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について学ぶ
第11回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立までの過程について学ぶ
第12回	日明関係と室町文化の特質	15・16世紀における東アジア世界の活発な交流と、室町文化の特質について学ぶ
第13回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配体制、享徳の乱と関東地方の戦国時代の様相について学ぶ
第14回	総括と試験	授業内容を総括し、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。授業で提示した史料についても復習し、史料に基づいて考える姿勢を養ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

佐々木潤之介ほか編（2000）『概論 日本歴史』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50％）、期末試験（50％）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する復習や、質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ワークシートの提出には、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will consider the period from the birth of Japan to the end of middle ages society from various aspects such as politics, foreign relations, social economy, and culture. The course will consist mainly of lectures, incorporating new results of recent research on Japanese history, while developing the ability to "think" rather than "memorize" history. In order to enable students to "think" based on historical documents, important historical documents will be presented and their interpretations will be considered as appropriate, so that students will be able to draw a concrete historical image from historical documents.

【到達目標（Learning Objectives）】

The course is designed to provide students with the knowledge necessary for teaching Japanese history in junior high and high schools, how to research historical facts and how to logically structure the overall picture. The course will explain how the descriptions in the textbooks are based on the historical evidence, tracing back to the academic theories on which they are based. The goal is to develop the ability to construct an image of Japanese history (including culture) from ancient times to the Middle Ages, supported by rich and diverse values, while always maintaining the international environment and geographical perspective of Japan within the East Asian world.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Please review the handouts and reference books related to the theme for preparatory study and review. Please also review the historical materials presented in class and develop an attitude of thinking based on the historical materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

HIS100LA (史学 / History 100)

日本史 II

2017年度以降入学者

芳賀 和樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・対外関係・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、適宜、重要史料を提示してその解釈を検討し、史料から具体的な歴史像を描き出せるようにします。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世と近代の位置づけについて、世界のなかの日本という視点を意識しながら学ぶ
第2回	江戸幕府の成立と地域社会	天皇・将軍・大名・寺社・庶民などの動向を視野に入れながら、江戸幕府の成立について学ぶ
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期における幕府政治の動向と対外関係の特質について学ぶ
第4回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期における幕府政治の課題と地域社会の動向について学ぶ
第5回	近世村落の運営と租税	家族や生業の様子を視野に入れながら、近世村落の運営と租税の仕組みについて学ぶ
第6回	近世文化の展開と文化遺産	文化遺産の観点から、文学・美術・芸能・信仰などの近世文化について学ぶ
第7回	近世社会の変容と政治状況	近世後期における社会の変容と幕府政治の課題について学ぶ

第8回	明治維新と近代国家の形成	開国から江戸幕府の終焉までを把握し、明治維新と近代国家の形成について学ぶ
第9回	近代産業の発展と国際環境	国際的な動向に着目しつつ、殖産興業政策や「産業革命」期における諸産業の発展について学ぶ
第10回	政党政治の展開	自由民権運動から政党内閣までの展開について学ぶ
第11回	二つの世界大戦と国際状況	第一次世界大戦、第二次世界大戦における日本の思惑と国際状況の変容について学ぶ
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	文学・美術・建築・教育などの近代文化と、東京に遺る文化遺産について学ぶ
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と国際社会への復帰について学ぶ
第14回	総括と試験	授業を総括し、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。授業で提示した史料についても復習し、史料に基づいて考える姿勢を養ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

佐々木潤之介ほか編（2000）『概論 日本歴史』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50%）、期末試験（50%）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末試験は授業内容の理解度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する復習や、質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

ワークシートの提出には、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this course, students will consider the period from the establishment of early modern society to the formation of modern society from various aspects such as politics, foreign relations, social economy, and culture. The course will consist mainly of lectures, incorporating new results of recent research on Japanese history, while developing the ability to "think" rather than "memorize" history. In order to enable students to "think" based on historical documents, important historical documents will be presented and their interpretations will be considered as appropriate, so that students will be able to draw a concrete historical image from historical documents.

【到達目標（Learning Objectives）】

The course is designed to provide students with the knowledge necessary for teaching Japanese history in junior high and high schools, how to research historical facts and how to logically structure the overall picture. The course will explain how the descriptions in the textbooks are based on the historical evidence, tracing back to the academic theories on which they are based. The goal is to develop the ability to construct an image of Japanese history (including culture) from the early modern period to the modern period, supported by rich and diverse values, while always maintaining the international environment and geographical perspective of Japan in the world.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Please review the handouts and reference books related to the theme for preparatory study and review. Please also review the historical materials presented in class and develop an attitude of thinking based on the historical materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on class work (50%) and a final exam (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final exam will be graded according to the level of understanding of the class content.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

宗教論 I

2017年度以降入学者

榎本 香織

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代における主要な宗教の概略を学び、基本的な理解を深めていく。

【到達目標】

日本および世界の宗教の基礎を知ること、日本の宗教文化および異文化への理解を深めると同時に、人間にとって宗教とは何かという問いを考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、レジュメを配布して授業を進める。講義の最後にリアクションペーパーを書き、提出。質問やコメントに対するフィードバックは次回講義冒頭（15-20分程度）にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の説明、「宗教 (Religion)」とは何か？
2	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源や進化の観点から考察する
3	宗教形態の基本知識	一神教、多神教、アニミズムなど
4	世界の主要宗教を概観する (1)	ユダヤ教
5	世界の主要宗教を概観する (2)	キリスト教
6	世界の主要宗教を概観する (3)	イスラーム
7	世界の主要宗教を概観する (4)	仏教
8	日本の宗教 (1)	神道と仏教（神仏習合）
9	日本の宗教 (2)	新宗教、民俗信仰など
10	日本の宗教 (3)	ニューエイジ、スピリチュアリティ
11	宗教現象の分析 (1)	祈り、儀礼
12	宗教現象の分析 (2)	シャーマニズム
13	宗教現象の分析 (3)	現代社会と宗教
14	まとめ、試験	振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とする。準備としては、参考書や講義のテーマごとに自分に合った本を見つけて目を通し、講義後はレジュメや講義内容を元に関心を持ったことを掘り下げるなどすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

中村圭志『エッセンシャル版 図解世界5大宗教全史』（2016年、ディスカヴァー・トゥエンティワン）
 脇本平也『宗教学入門』（1997年、講談社学術文庫）
 その他、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、期末試験：50%。両方を合わせて総合的に評価。前者はリアクションペーパーの内容および講義への参加度、後者は試験により「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

私たちを取り巻く宗教を単なる知識・情報としてだけでなく、より身近なものとして客観的に捉え、考えることのできる内容にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ（資料）は講義前に配布しますが、バックナンバーは学習支援システムに格納するので、欠席した場合はそこから各自確認してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) We will learn an overview of major religions from ancient to modern times and deepen our basic understanding.

(Learning Objectives) By understanding the fundamentals of religions in Japan and around the world, you will deepen your comprehension of Japanese religious culture and other cultures, while also being able to contemplate the question of what religion means to humanity.

(Learning activities outside of classroom) The standard preparation and review time for this course is two hours each.

For preparation, it is recommended to find and read books that suit you based on reference materials and the theme of each lecture. After the lecture, it is advisable to delve deeper into points of interest using the handout and the lecture content.

(Grading Criteria /Policy) Regular assessment: 50%, End-of-term exam: 50%. Both will be combined for a comprehensive evaluation. The former will be assessed based on the content of reaction papers and participation, while the latter will be evaluated based on how well the "learning objectives" have been achieved through the exam.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

榎本 香織

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教論Ⅰ」から引き続き、主要な宗教現象を横断的に更に掘り下げる。私たちと宗教がどのように結び付いているかを、より専門的な観点から学ぶ。

【到達目標】

宗教や宗教研究のあり方への理解をさらに深める。現代における宗教の役割や意義について客観的に捉え・考察できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、レジュメを配布して授業を進める。講義の最後にリアクションペーパーを書き、提出。質問やコメントに対するフィードバックは次回講義冒頭（15-20分程度）にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の説明、宗教論を学ぶことについて
2	宗教と宗教論	宗教と宗教論(宗教学)との違いについて
3	宗教的世界観 (1)	神話、伝説
4	宗教的世界観 (2)	聖と俗、ハレとケなど
5	宗教的世界観 (3)	死生観、他界観など
6	宗教的行為 (1)	祈りについて
7	宗教的行為 (2)	儀礼について
8	宗教的行為 (3)	修行、戒律について
9	宗教的行為 (4)	祭りについて
10	現代社会と宗教 (1)	宗教・呪術・科学
11	現代社会と宗教 (2)	宗教とメディアの歴史
12	現代社会と宗教 (3)	宗教と公共性
13	現代社会と宗教 (4)	宗教といのち
14	まとめ、試験	振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間程度を標準とする。準備としては、参考書や講義のテーマごとに自分に合った本を見つけて目を通し、講義後はレジュメや講義内容を元に関心を持った点を掘り下げるなどすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

島園進、他『宗教学キーワード』（2006年、有斐閣）
 石井研士『テレビと宗教』（2008年、中公新書ラクレ）
 宗教者災害支援連絡会（編）『災害支援ハンドブック：宗教者の実践とその協働』（2016年、春秋社）
 その他、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、期末試験：50%。両方を合わせて総合的に評価。前者はリアクションペーパーの内容および参加度、後者は試験により「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

私たちを取り巻く宗教を単なる知識・情報としてだけでなく、より身近なものとして客観的に捉え、考えることのできる内容にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ（資料）は講義前に配布しますが、バックナンバーは学習支援システムに格納するので、欠席した場合はそこから各自確認してください。

【その他の重要事項】

春学期「宗教論Ⅰ」をベースとした発展的内容です。よって可能であれば「Ⅰ」を履修しておくことが望ましいですが、していなくても受講可能です。重複するテーマがいくつかありますが、より掘り下げた内容となっています。

【Outline (in English)】

(Course outline) Following "Religious Science I," this course further delves into major religious phenomena across cultures. Students will learn, from a more specialized perspective, how we and religion are connected. (This is an advanced lecture based on the Spring Semester's "Religious Science I." It is desirable to have completed "I" if possible, but you can still take this course even if you haven't. There are some overlapping themes, but the content is delved into more deeply.)

(Learning Objectives) Deepen understanding of the nature of religion and religious studies. Enable objective grasp and consideration of the role and significance of religion in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom) The standard preparation and review time for this course is two hours each. For preparation, it is recommended to find and read books that suit you based on reference materials and the theme of each lecture. After the lecture, it is advisable to delve deeper into points of interest using the handout and the lecture content.

(Grading Criteria /Policy) Regular assessment: 50%, End-of-term exam: 50%. Both will be combined for a comprehensive evaluation. The former will be assessed based on the content of reaction papers and participation, while the latter will be evaluated based on how well the "learning objectives" have been achieved through the exam.

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

宗教論 I

2017年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、人間のもっている宗教性についての理解を深めます。

【到達目標】

- ①宗教の基本を学ぶことを通じて、既存宗教への理解を深める。
- ②なぜ人間は宗教を必要とするのかを理解するための視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回資料を配布して講義を行います。毎回のリアクションペーパーの提出を求めます。いくつかの質問に次回授業の冒頭で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	宗教について学ぶことの意義
第2回	神話・一神教・多神教	神話から窺える人間の特徴を理解する
第3回	ユダヤ教	ユダヤ教の成り立ち
第4回	キリスト教①	ユダヤ教からキリスト教へ
第5回	キリスト教②	イエスの活動
第6回	キリスト教③	キリスト教の展開
第7回	イスラム教①	イスラム教の成り立ちについて
第8回	イスラム教②	ムハンマドの活動
第9回	ヒンドゥー教	ヒンドゥー教の成り立ちと展開
第10回	仏教	仏教の成り立ちと展開
第11回	神道①	神道の成り立ち
第12回	神道②	神道の展開
第13回	神道③	神道から窺える日本的なるもの
第14回	期末試験	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料や指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

授業で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が50%、期末試験が50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the genesis and forms of religions.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire an overview on the genesis and forms of religions and to deepen our understanding of existing religions.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end examination (50%).

PHL100LA (哲学 / Philosophy 100)

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要な宗教現象について学ぶことを通じて、人間のもっている宗教性についての理解を深めます。

【到達目標】

- ①主要な宗教現象についての理解を深める。
- ②人間の有限性と宗教性の関係について一定の理解を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回資料を配布して講義を行います。毎回のリアクションペーパーの提出を求めます。いくつかの質問に次回授業の冒頭で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	宗教について学ぶことの意義
第2回	人間の有限性	人間の有限性と宗教性の関係について
第3回	儀礼①	儀礼の起源と機能
第4回	儀礼②	通過儀礼について
第5回	呪術①	呪術の古典的解釈
第6回	呪術②	儀礼としての呪術
第7回	呪術③	呪術と言語の関係
第8回	呪術④	呪術と技術の関係
第9回	錬金術①	錬金術の成り立ちと展開
第10回	錬金術②	錬金術と科学
第11回	占い①	占いの類型
第12回	占い②	文献に見る占い
第13回	占い③	占星術について
第14回	期末試験	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料や指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

授業で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が50%、期末試験が50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with major religious phenomena.

(Learning Objectives)

The goals of this course is to understand the role religion played in the history from ancient to modern.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end examination (50%).

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)		
芸術 A 2017年度以降入学者		
嘉藤 笑子		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月2/Mon.2 単位数：2単位 その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 20世紀になって「芸術」は、モダンアートや現代アートと呼ばれるようになって、人々の生活から乖離していく存在になった。わかりづらいモノ、難しいモノとして人々の生活から遠のいたように思える。にもかかわらず、SNSやインスタ映えといった現象によって現代アート展や国際芸術祭には、多くの若者や外国人旅行者が押し寄せている。こうした現象に代表されるようにアートは面白い！と思わせる存在でもある。したがって、その真性をつかむのは容易ではない。古えから連綿と続く芸術の普遍性や真価値性を紐解きながら、新たな美意識や思想を生み出してきた芸術の真価を学ぶべきである。同時に「アートとは何か？」ということを知ることは現代社会の深層を掘り下げることにある。アートの定義を改めて探求し、社会的文脈で読み解くことで、芸術の真正を探求していく。		
【到達目標】 芸術がモダンアートと呼ばれるようになった20世紀初めから現代までのおよそ100年間における芸術と社会の関係を考察していく。特に19世紀末から1960年代までの大きな流れを把握し、20世紀に起きた二つの大戦が世界の美術動向に大きな影響を与えて、20世紀後半のアメリカ経済大国とアートマーケットの占有。そして資本主義社会や大量消費文化のなかで大きなうねりを作り、変動していく様子を考察していく。また、芸術の存在を受容してきた社会的背景や歴史的考察を経て、芸術が影響を与えてきた社会的構造を探究していく。本時代を象徴する具体的なアーティストや代表的なアート作品の事例をもとにアートと社会との関係性を模索していく。その芸術が誕生した地域や習性などの文化的背景や社会環境を包括的に捉えていくことで、芸術の文化的価値について探究していく。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 講義（動画・画像を多用していく）を行う。 毎回リアクションペーパーの提出。 各回のレジュメおよび参考資料を配布。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	アートとは何か？ （ガイダンス）	20世紀におけるアートの変化を考える。アートを探る手立てを哲学、歴史、動向などの分析方法で考察する。
第2回	美術館と展覧会のはじまり	アートをめぐるインスティテューションの在り方を探究する
第3回	万国博覧会と芸術祭	芸術の見せ方を模索するなかで博覧会や芸術祭の可能性を模索する
第4回	後期印象派とフォーヴィズム、そしてキュビズム	モダンアートの始まりとされる後期印象から抽象的表現に変貌を遂げるフランスの動向を探る。
第5回	前衛芸術の発展：ダダイズム・シュールレアリズム	コスモポリタンとなったパリが、多くのアート動向を生み出したが、戦争によって世界同時に誕生したアヴァンギャルドを探究する。
第6回	第2次世界大戦とアート①プロパガンダ（退廃芸術）	ナチス・ドイツによって退廃芸術と呼ばれて政治的抑圧を受けた芸術と表現を探究する
第7回	第2次世界大戦とアート②プロパガンダ（戦争画）	第二次大戦中に日本において軍部主導によって描かれた多くの「戦争画」の具体的な内容と戦後処理の実態を探る。
第8回	フランス実存主義と五月革命	アンフォルメルによる抽象画の発展、実存主義による文学、映画、美術の影響。5月革命と衰退。
第9回	冷戦構造とアート①ロシア・アヴァンギャルド	ソビエト連合の設立と崩壊に関わった芸術を探究する。ロシア革命とロシア・アヴァンギャルドの実態、冷戦構造のなかで変化していく
第10回	アメリカのモダニズム	19世紀に興隆したアドヴェンチャー志向とリアリズム。アーモリーショーとMoMAの設立によるアヴァンギャルドの登場。
第11回	アメリカ現代美術の発展：抽象表現主義	アメリカが経済大国となった20世紀後半に焦点を当てて、抽象表現主義による文化外交を学ぶ。その戦略と方策を探究する。
第12回	ミニマリズムと宇宙開発	アメリカの工業化が進むなかで皮肉的な存在でもあるミニマリズムと同時期の宇宙開発の関係性をつかむ。
第13回	ポップアートと消費社会	20世紀を代表するアンディ・ウォーホルとポップアートを検証する。
第14回	現代美術館の興隆	20世紀後半に乱立したモダンアートを輩出する装置である現代美術館を知る。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 各回授業のレジュメや参考書類はファイルにしておき、自分で調べた資料などを追加していけるようにするしましょう。日頃から新聞・ニュースなどを通じて国際政治や社会動向について目を触れておくこと。文化芸術に関する専門知識や世界史や歴史的考察を身に付けていくことも必要となります。専門誌や文献、関連する書籍を通じて現在の文化動向の概観を掴むこと。また、日ごろから文化芸術に触れる機会や興味を増やしておくことがいいでしょう。 学習時間は、予習・復習ともに各自で考えて進めてください。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 教科書は使用しない。		
【参考書】 「ART SINCE1900:図鑑 1900年以後の芸術」ハル・フォスター著 そのほか、2019、東京書籍 「アートとは何か：芸術の存在論と目的論」アーサー・C・ダントー著、2018、人文書院 「戦争と美術1937-1945」針生一郎（編者）ほか、2007、国書刊行会 「現代美術史；欧米、日本、トランスナショナル」山本浩貴著、2019、中公新書		
【成績評価の方法と基準】 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。 定期試験（割合％）60％ ◎定期試験を行わない場合は小論文（用語解説を含む）レポートの提出（割合％）60％ 小論文のレポート課題（学期内に1点） 締切厳守（遅れた場合が、減点はするが学期内であれば受け付ける）		
授業後にリアクションペーパー 20％ ※授業に対する感想や意見を記入して提出すること。		

※無記名や記述のないものは無効。

出席（リアクションペーパーの提出で判断）20%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートに限らず、リアクションペーパーや授業内での発言などの様々な方法で学生からの意見や要望、実際の授業の状況などを受け付ける。

Emailでも質問は可能。kotorismile@gmail.com

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具。

【その他の重要事項】

徳島県神山町のアーティスト・イン・レジデンス評価委員（2005 - 2018）

Art Autonomy Network(2005-2019)

向島学会副理事長（2005 - 現職）

すみだ向島EXPO実行委員会（2020 - 現職）

KAB Library and Residencyの運営(2019 - 現職) アーティスト・イン・レジデンス

市川シブエ会理事〜市川市立美術館設立にむけて活動（2025-）

「ととのう温泉美術館」愛知県蒲郡市（2023）ゲスト・キュレーター。など。

地域社会と文化振興について実質的問題や方策を協議していくときに具体例として話題にしていく。授業中の私語を慎み、携帯電話や電子機器の利用を禁止します。遅刻や途中退出はしないようにしてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

What is art?" is to delve into the depths of contemporary society. The course will examine the relationship between art and culture over approximately 100 years. In particular, we will discuss the major trends from the end of the 19th century to the 1970s, the two world wars of the 20th century that significantly impacted world art trends, and the economic powerhouse of the United States in the latter half of the 20th century. Contemporary art will also examine how the art market fluctuated and created a great swell in capitalist society and mass consumer culture.

[Learning Objectives]

While unravelling the universality and authenticity of art that has continued uninterruptedly since ancient times, students will learn the actual value of art, which has created new aesthetic senses and ideas. By reexamining the definition of art and reading it in a social context, we will explore the authenticity of art.

[Learning activities outside of classroom]

Keep a file of resumes and reference materials for each class so that you can add your research materials.

Explore international politics and social trends through newspapers and other media. Acquiring specialized knowledge of culture and the arts, world history, and critical considerations is also necessary.

Acquire an overview of current cultural trends through specialized journals, literature, and related books. Also, it would be best to increase your exposure to and interest in culture and the arts.

Preparation Standard study and review time is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

-Periodic Examinations 40%

In the periodic examination (Evaluation criteria, evaluation method), the total 100 points are essay (60 points) and terminology (20 points x 2 questions) writing examination. All questions must be answered.

-Essay and Report 40%.

Essay report assignment (1 point within the term).

The deadline must be strictly adhered to (if late, points will be deducted but accepted within the semester)

-Reaction paper after class: 20%.

*To be submitted with your comments and opinions about the class.

*Unsigned papers or papers with no description will be invalid.

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術B

2017年度以降入学者

嘉藤 笑子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会の発展とともにアートは国際化しボーダレスな価値観を築いてきた。情報化社会の到来は、経済状況や政治体制に大きな変化をもたらし、迅速な移動手段を発展させ、国際間の地政学的な格差やリスクを生み出している。こうした社会状況は、ふたつの大戦という歴史的背景を経て不透明な不安を築いている。新自由主義によって発展してきた20世紀後半のアート動向に注目し、芸術の在り方を探求していく。さらにわが国の芸術文化の発展および振興をめざすために、必要不可欠な近代的制度を文化政策や政治環境、経済的支援などによって俯瞰していく。特に1960年代以降の各国の文化的背景や社会環境を包括的に捉えていくことで、現代社会の創造的価値を追究していく。また、地域創生やコミュニティ再生といった今日の問題を視野に入れて、社会動向と文化推進のなかで内在する具体的な課題を見出していく。多くの文化事業やコミュニティ活動から事例を見出し、芸術が育成されるべき社会構造についても考察していく。同時に世界情勢が常に変化していくことを鑑みて、国際的な視座を含有する文化政策やアート市場の現状を把握していく。

【到達目標】

国際社会における民主主義国家を中心に発展してきた現代アートの動向を探求していく。特に20世紀後半の欧米諸国と日本を取り上げ、それぞれの国家の歴史的背景と文化的状況を比較していく。その歴史的考察には、第二次世界大戦後の冷戦構造、そして東西分断をしていたベルリン壁の崩壊を経て、新自由主義社会による格差社会の課題にも目を向けていく。IT発展による情報化が進んだ社会的環境は、現代アートに大きな影響を与えている。こうした環境を社会的構造から探求し、文化支援を行う公的機関やNPO、民間組織の存在を知る。さらに各国の経済・文化振興を図るために取り入れられた地域創生やコミュニティ再生といった今日の問題を視野に入れて、社会変化と文化推進のなかで内在する具体的な課題を見出していく。地域プロジェクトや国内芸術祭にも目を向けて文化交流事業を検証する。日々刻々と変化していく世界の状況を国際的視野で見つめていき国際社会の一員として文化支援の在り方を考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の最後にリアクションペーパー提出をもって出席とする。質疑応答についてもリアクションペーパー内で行ってもよいが、確実な質疑応答が必要な場合は教員に直接にしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	世界の文化予算の国際比較（ガイドランス）	ヨーロッパ、アメリカ、日本による文化予算を比較することで各国の文化支援の現状を把握する。
第2回	日本のアヴァンギャルド	戦後に登場した「具体」や読売アンデパンダン展に出席していた前衛芸術家たちの活躍。

第3回	冷戦構造と文化戦略（大型文化財団による美術振興）	東西分断による壁の創出とイデオロギーの崩壊。美術振興による国際文化戦略。
第4回	20世紀写真/メディアアート/ビデオ・アート	テクノロジーの発展と複製時代の芸術、情報化社会のアート動向。
第5回	コンセプチュアル・アート/パフォーマンスアート	概念芸術の誕生と発展。言語と身体、体験型表現の実際
第6回	ランドアート/パブリックアート	ヨゼフ・ボイスに代表される「社会彫刻」や脱美術館を目指すランドアートの実態。
第7回	シミュレーションイズム/盗用芸術	流通している写真や広告などを「引用」の範疇を超えて作品に取り込む方法論を考える。
第8回	ソーシャル・エンゲイジド・アート（SEA）	社会課題に向き合うアート活動と保守体制に反抗するアート。
第9回	日本のコミュニティ・アート、地域社会との連携	地域フェスティバルの振興とコミュニティ・アートの発展。
第10回	政治とアート	アクティヴィズムを手段にメッセージ性を希求する現代アート。
第11回	グローバル社会の課題①アールブリュット	ソーシャル・インクルージョン/障害者支援のアート活動を考察する。
第12回	グローバル社会の課題①エコロジー	深刻化する環境問題と現代アートを考察する
第13回	グローバル社会の課題②（多様性社会のアート）	多文化共生における不確実性、ジェンダー格差と社会構造
第14回	国際社会の文化政策（ユネスコ・世界遺産など）	グローバル社会の文化支援と文化財保護の実態。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・ニュースなどを通じて国際政治や動向について目を触れておくこと。文化芸術に関する専門知識や世界史や歴史的考察を身に着けていくことも必要となります。専門誌や文献、関連する書籍を通じて世界の文化動向の概観を掴むこと。また、日ごろから文化芸術に触れる機会や興味を増やしておくことがいいでしょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

「現代アート入門」デイヴィッド・コッチェントン・松井 裕美著、2020、名古屋大学出版会
「文化政策入門」池上惇、端信之、福原義春、堀田力（共に編者）、2001、丸善ライブラリー
「地域主権の国 ドイツの文化政策」藤野一夫・秋野有紀、2017 美学出版
「日本・現代・美術」2025 榎木野衣 ちくま学芸文庫
「オペレーションの思想」2024 富井玲子 イースト・プレス

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

定期試験（割合 %）60 %

定期試験（評価基準、評価方法）総計100点

小論文（60点）と用語解説（20点x2問）の記述試験。全ての問題に解答すること。

◎定期試験を行わない場合は小論文（用語解説を含む）レポートの提出（割合 %）60 %

小論文のレポート課題（学期内に1点）

締切厳守（遅れた場合が、減点はするが学期内であれば受け付ける）

授業後にリアクションペーパー 20 %

※授業に対する感想や意見を記入して提出すること。

※無記名や記述のないものは無効。

出席（リアクションペーパーの提出で判断）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートに限らず、リアクションペーパーや授業内での発言などの様々な方法で学生からの意見や要望、実際の授業の状況などを受け付ける。

Emailでも質問は可能。kotorismile@gmail.com

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

徳島県神山町のアーティスト・イン・レジデンス評価委員（2005－2018）

Art Autonomy Network(2005-2019)

向島学会副理事長（2005－現職）

すみだ向島EXPO実行委員会（2020－現職）

KAB Library and Residencyの運営(2019－現職) アーティスト・イン・レジデンス

市川シブエ会理事～市川市立美術館設立にむけて活動（2025-）

「ととのう温泉美術館」愛知県蒲郡市（2023）ゲスト・キュレーター。など。

地域社会と文化振興について実質的問題や方策を協議していくときに具体例として話題にしていく。授業中の私語を慎み、携帯電話や電子機器の利用を禁止します。遅刻や途中退出はしないようにしてください。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

With the development of a global society, art has become internationalized and built a borderless value system. The advent of the information society has brought about significant changes in economic conditions and political systems, developed rapid means of transportation, and created geopolitical disparities and risks between international countries. This project explores the state of art by focusing on the art trends of the latter half of the 20th century, which Neoliberal has created.

[Learning Objectives]

This course will explore the trends in contemporary art that have developed mainly in democratic nations in the international community. In particular, we will focus on the United States, Europe (England, France, and Germany), and Japan in the second half of the 20th century, comparing each nation's historical background and cultural conditions. The historical discussion will include World War II, the Cold War structure, the Berlin Wall collapse that divided East and West, and the challenges of social disparity caused by neo-liberal society.

By comprehensively understanding each country's cultural background and social environment, especially since the 1970s, we will pursue the creative values of contemporary society. In addition, we will also look into today's issues, such as regional development and community revitalization, and discover the challenges inherent in social trends and cultural promotion.

[Learning activities outside of classroom]

Keep a file of resumes and reference materials for each class so that you can add your research materials.

Explore abreast of international politics and social trends through newspapers and other media. Acquiring specialized knowledge of culture and the arts, world history, and historical considerations is also necessary.

Acquire an overview of current cultural trends through specialized journals, literature, and related books. Also, it would be best to increase your exposure to and interest in culture and the arts.

Preparation Standard study and review time is 2 hours each.

[Course outline]

With the development of a global society, art has become internationalized and built a borderless value system. The advent of the information society has brought about significant changes in economic conditions and political systems, developed rapid means of transportation, and created geopolitical disparities and risks between international countries. This project explores the state of art by focusing on the art trends of the latter half of the 20th century, which Neoliberal has created.

[Learning Objectives]

This course will explore the trends in contemporary art that have developed mainly in democratic nations in the international community. In particular, we will focus on the United States, Europe (England, France, and Germany), and Japan in the second half of the 20th century, comparing each nation's historical background and cultural conditions. The historical discussion will include World War II, the Cold War structure, the Berlin Wall collapse that divided East and West, and the challenges of social disparity caused by neo-liberal society.

By comprehensively understanding each country's cultural background and social environment, especially since the 1970s, we will pursue the creative values of contemporary society. In addition, we will also look into today's issues, such as regional development and community revitalization, and discover the challenges inherent in social trends and cultural promotion.

[Learning activities outside of classroom]

Keep a file of resumes and reference materials for each class so that you can add your research materials.

Explore abreast of international politics and social trends through newspapers and other media. Acquiring specialized knowledge of culture and the arts, world history, and historical considerations is also necessary.

Acquire an overview of current cultural trends through specialized journals, literature, and related books. Also, it would be best to increase your exposure to and interest in culture and the arts.

Preparation Standard study and review time is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

-Periodic Examinations 40 %

In the periodic examination (Evaluation criteria, evaluation method), the total 100 points are essay (60 points) and terminology (20 points x 2 questions) writing examination. All questions must be answered.

-Essay and Report 40 %.

Essay report assignment (1 point within the term).

The deadline must be strictly adhered to (if late, points will be deducted but accepted within the semester)

-Reaction paper after class: 20%.

*To be submitted with your comments and opinions about the class.

*Unsigned papers or papers with no description will be invalid.

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術 A

2017年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の芸術の歴史や作品を時代背景とともに概観する。その際、美術史のみならずそれに関連する学問領域の議論や理論を参照する。本講義では、同時代を表す芸術と社会の関係を考察する力を養うことができる。

【到達目標】

近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、近代社会と芸術の関係を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、近代以降の芸術作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。講義の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	芸術とはなにか	本講義においてどのようなものを「芸術」と呼ぶのかについて基礎的な考えを伝える。
2	近代社会の到来と絵画	19世紀フランスのクールベやマネなど、絵画の可能性を開いた作品や芸術の考え方について考察する。
3	絵画とリアリティ	具象的な絵画から抽象的な絵画へと至る道を第一次世界大戦を参照に概観する。
4	マルセル・デュシャンとコンセプチュアルアート	デュシャンの絵画からの離脱とコンセプチュアルアートへの移行について。
5	複製芸術時代の到来と芸術の変容1	写真術の発明とそれが芸術に与えた影響について。
6	複製技術時代の到来と芸術の変容2	20世紀の写真は社会をどう表象したのかについて。
7	スペクタクルの社会と映像文化1	映画やテレビジョンなどの発明と映像文化について。
8	スペクタクルの社会と映像文化2	複製されるイメージが渦巻く社会における写真や映像作品について。
9	パフォーマンスと芸術	身体を表現のメディアとするパフォーマンスを特定の時代や社会との関係で考察。
10	彫刻とインスタレーション	台座や場との関係で考えられる彫刻と社会空間の力学を扱うインスタレーションについて。
11	戦前・戦中の日本の芸術運動	大正時代から太平洋戦争にかけての芸術を追う。

12	戦後日本の前衛芸術	「反芸術」といわれた芸術運動について解説。
13	近代と芸術	近代社会の到来と芸術の関係について振り返りとまとめを行う。
14	授業内試験	小論文の執筆と提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある美術館や展覧会へ行き、実物を見ること。講義で出てきたキーワードについて関連文献やウェブサイトですらに調べる。各回30分程度の集中的な復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典

<https://artscape.jp/dictionary/modern/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。また、成績評価は、授業内試験（90%）とリアクションペーパー（10%）による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

This series of lectures aims to give an overview of the history of modern art with reference to other academic disciplines such as philosophy, sociology or anthropology. This means that students are encouraged to grasp art as a representation of the contemporary society. Towards the end of the course, students attend an examination and write a short essay.

Following the transformation of art into the modern age in relation to that of society and the cultural climate, the students nurture an ability to envisage a relationship between art and modern society.

Students are encouraged to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is advisable to review each lecture for 30 minutes. Grading will be determined by reaction paper (10%) and an exam at the end of the course (90%).

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術B

2017年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代以降のグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。新自由主義が芸術にどのような影響を与え、芸術はそれ新自由主義に対してどう関係を持ったのかについて、国際展や芸術祭、アートフェア、美術館などの変容をとおして考える。

【到達目標】

グローバリゼーションの時代において政治や経済と密接な関係を持つ現代アートのあり方を多角的に考察する。時代の先行指標となりつつ既存の価値に問いを投げかけうる現代アートのあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界のこれからを探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、現代アートの作品や運動、展覧会、美術館、国際展に関するスライドを見せながら解説をする。講義の途中でも質問に応じ、学生とのコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を一緒に訪れたり、そうでなければ訪れるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アート界の仕組み1 (オリエンテーション)	アートを成立させている制度について概説する。
2	アート界の仕組み2	アートを成立させている制度について概説する。
3	美術館とは？	近代の到来とともに誕生した美術館とその社会的な役割について概説する。
4	美術館と芸術の変容	1990年代以降の美術館と芸術の関係について概説する。
5	西洋中心主義への疑問と1990年代の芸術1	モダニズム-ポスト・モダニズムの歴史観を参照しながら、西洋中心主義を問う作品について考察する。
6	西洋中心主義への疑問と1990年代の芸術2	モダニズム-ポスト・モダニズムの歴史観を参照しながら、西洋中心主義を問う作品について考察する。
7	関係性の美学と芸術の実践1	モノと人と場の関係によって成立する芸術を社会背景とともに考察する。
8	関係性の美学と芸術の実践2	モノと人と場の関係によって成立する芸術を社会背景とともに考察する。
9	グローバリゼーションと多文化主義1	1980年代から1990年代にかけての多文化主義とその課題について考察する。

10	グローバリゼーションと多文化主義2	1980年代から1990年代にかけての多文化主義とその課題について考察する。
11	第61回ヴェネチアビエンナーレ読解1	2026年5月から11月にかけてヴェネチアで開かれるヴェネチア・ビエンナーレを紐解き、現代アートと世界の関係性を考察する。
12	第61回ヴェネチアビエンナーレ読解2	2026年5月から11月にかけてヴェネチアで開かれるヴェネチア・ビエンナーレを紐解き、現代アートと世界の関係性を考察する。
13	ポストコロナと現代アートの関係性	気候変動や環境危機の時代において、芸術はそれにどう向き合い何を表現するのかについて考察する。
14	授業内試験	小論文の執筆と提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実際に実物を見ることが。講義で出てきたキーワードについて、関連文献やウェブサイトですらに調べること。各回30分程度の復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典

<https://artscape.jp/dictionary/modern/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。また、成績評価あ、授業内試験（90%）とリアクションペーパー（10%）による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

This series of lectures is intended to overview the relationship between art and globalization from the 1990s. By touching upon Venice Biennale, Document, art fairs and art museums, students are guided to consider contemporary art practice in relation to neo liberalism. Towards the end of the course, students attend an exam and write a short essay.

Students are encouraged to approach contemporary art in multiple ways that is profoundly related to politics and economics today. With contemporary art, which questions preconceived ideas and sheds light on a path to the future, they will also gain an insight into the globalized society of today. Students are advised to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, students are recommended to review each lecture for 30 minutes. Grading will be determined by reaction paper (10%) and an exam at the end of the course (90%).

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術A

2017年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ、ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

【到達目標】

- 1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
- 2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
- 3) 美術館の成立過程について、近代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第2回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する。
第3回	風景画の成立	風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する。
第4回	ルネサンス美術	ルネサンス美術の代表的な作家・作品を紹介し解説する。
第5回	北方ルネサンス・バロック	北方ルネサンス、バロックの代表的な作家・作品を紹介し解説する。
第6回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する。
第7回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する。
第8回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する。

第9回	世紀末から20世紀	世紀末から第二次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する。
第10回	彫刻	西洋の彫刻について、古代ギリシアからロダン以降の近代彫刻まで概説する。
第11回	万博と装飾美術	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する。
第12回	ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館	西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する。
第13回	欧米の美術館	欧米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在、及び所蔵作品について解説する。
第14回	まとめ	授業を通しての総括を実施する。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内レポートとは別に、学期中に授業に関するレポートを課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。そのうち半分程度を期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に必要があれば紹介します。準備の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）；50%

期末レポート；50%

期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを受けて、内容の見直し、資料の内容改訂を行っていきます。

【その他の重要事項】

第1回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施します。オンデマンドで視聴可能な状態としますので、履修希望者は必ず期間内に受講するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this course, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history since the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.

The goal of the course is following:

- 1) Acquiring the knowledge on Western paintings, sculptures and decorative arts since the Renaissance, and the skill of viewing from various perspectives.
- 2) Acquiring the knowledge on the Western art history since the Renaissance, and understanding the background of the paintings of respective eras.
- 3) Acquiring the knowledge on the establishment of the art museums in the Western society, and learning about how art has contributed to the society.

The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50 %

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

ART100LA (芸術学 / Art studies 100)

芸術B

2017年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

【到達目標】

- 1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ。
- 2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ。
- 3) 美術館の機能と役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第2回	伝統的な日本の絵画	伝統的な日本の絵画について江戸時代を中心に、代表的な作家と作品を取り上げる。
第3回	洋風画から洋画へ	江戸時代における洋風画の流行に関して、作品を取り上げつつ概説する。
第4回	明治・大正期の日本の洋画	明治・大正期の洋画について、その成立過程と作品について解説する。
第5回	明治・大正期の日本画	明治・大正期の日本画について、その代表的な画家と作品を取り上げ、その変遷を概説する。
第6回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の受容を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる。
第7回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する。
第8回	黎明期の日本の美術館	日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立運動を中心に解説する。
第9回	美術館の役割（概説・保存修復）	美術館の役割について概説し、その1つである保存修復に関して、具体例を挙げて解説する。

第10回	美術館の役割（調査研究・教育普及）	調査研究、教育普及について、活動の例をあげて解説する。
第11回	美術館の役割（展示・収集①）	美術館の役割について、展示、収集の観点から、実際の活動について扱う。
第12回	美術館の役割（展示・収集②）	美術館の役割について、展示、収集の観点から、実際の活動について扱う。
第13回	美術館の外の美術	パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる。
第14回	まとめ	授業を通しての総括を行う。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内レポートとは別に、学期中に授業に関するレポートを課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。そのうち半分程度を期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に必要があれば紹介します。準備の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業レポート）；50%

期末レポート；50%

期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。

ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートを受けて、内容の見直し、資料の内容改訂を行っていきます。

【その他の重要事項】

第1回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施します。オンデマンドで視聴可能な状態としますので、履修希望者は必ず期間内に受講するようにしてください。

本授業では、ゲストをお招きする授業が予定されています。そのため、都合により、内容が前後する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The origin and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.

The goal of the course is following:

1) Acquiring the knowledge how the Western art was introduced to the artists in Japan during the Edo/Meiji/Taisho/Showa era (1600s - early 1900s).

2) Acquiring the knowledge how the Western art was exhibited to the public during the Meiji/Taisho/Showa era (1860s - 1930s).

3) Acquiring the knowledge on the functions of art museum.

The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50 %

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

LIT200LA（文学 / Literature 200）

日本文学と文化 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、『源氏物語』を絵画化して絵巻物に仕立てた『源氏物語絵巻』（国宝）について、講義します。

この絵巻は院政期に作られたと考えられていますが、そうすると、『源氏物語』が成立した平安時代中期から100年余りしか経っていない作品ということになります。『源氏物語絵巻』を読み解くことによって、『源氏物語』の作者紫式部が生きていた時代に近い時代に生きる人々が『源氏物語』をどのように解釈していたかがわかります。さらに推測することが許されるなら、紫式部が脳裏に思い描いていた『源氏物語』に近い世界が『源氏物語絵巻』として描かれている可能性があるのです。

当授業では、絵巻の鑑賞方法等について解説した後、『源氏物語絵巻』のほか、種々の源氏絵、また現代のマンガ等も紹介しながら、『源氏物語』がどのように解釈され、絵画化されてきたかについて考察していきます。

『源氏物語絵巻』を学ぶことを通し、日本の古典文学や美術に関する理解を深めます。

【到達目標】

- ①絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ②『国宝 源氏物語絵巻』の特質を理解する。
- ③平安時代の人々が『源氏物語』をどのように解釈し、イメージしたかについて理解する。
- ④現代に至るまで、『源氏物語』がどのように絵画化されてきたか、源氏絵の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で授業を行います。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

『源氏物語』に興味はあるけれど、古典文学の解釈は苦手」という人も多いと思いますので、時間の許す範囲で『源氏物語』のあらすじを解説し、現代語訳を記載したプリントを用いて、古典文学の読解が苦手な人にも配慮しつつ、授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要
第2回	絵巻とは(1)	絵巻の歴史について
第3回	絵巻とは(2)	絵巻に見られる技法、絵巻の鑑賞方法について
第4回	『源氏物語絵巻』(1)	『源氏物語絵巻』概説
第5回	『源氏物語』第一部概説	『源氏物語』第一部の解説
第6回	『源氏物語絵巻』(2)	『源氏物語絵巻』蓬生巻について

第7回	『源氏物語』第二部概説	『源氏物語』第二部の解説およびあらすじ
第8回	『源氏物語絵巻』(3)	『源氏物語絵巻』 柏木巻（一）について
第9回	『源氏物語絵巻』(4)	『源氏物語絵巻』 柏木巻（三）について
第10回	『源氏物語絵巻』(5)	『源氏物語絵巻』 横笛巻について
第11回	『源氏物語絵巻』(6)	『源氏物語絵巻』 鈴虫巻（二）について
第12回	『源氏物語絵巻』(7)	『源氏物語絵巻』 御法巻について
第13回	『源氏物語絵巻』(8)	『源氏物語絵巻』の制作・伝来について
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【到達目標】①～④に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を継続します。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントは、次週の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。

【Outline (in English)】

This course deals with *The Tale of Genji illustrated Scrolls*(源氏物語絵巻, designated a National Treasure) and the other works(including Manga) painted *The Tale of Genji*.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

日本文学と文化 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代においては、小説がテレビドラマ化・映画化されたり、漫画がアニメ化・ゲーム化・ミュージカル化されたりする等、1つのコンテンツが複数のメディアに展開されるメディアミックスの事例が多く見られますが、実は古典文学の世界においても、類似の現象を見て取ることができます。

そうした例として、当授業では安珍・清姫伝説として知られる、道成寺にまつわる説話をとりあげ、講義します。

この説話は、説話集に書き留められたり、絵巻に仕立てられたりしたほか、能や歌舞伎など芸能へも広がりを見せていきます。たとえば、2025年に公開され話題となった映画『国宝』で、主人公たちが踊った『二人道成寺』もそうした演目の一つです。

(「【主題歌 MV】 映画『国宝』 | 主題歌「Luminance」原摩利彦 feat. 井口理 (King Gnu)」 <https://www.youtube.com/watch?v=cr5FkeMj8kU>)

当授業では、道成寺にまつわる説話が複数のメディアにどのように展開されていったのか、そして人々にどのように享受されたのかについて、日本の古典文学や古典芸能に関する理解を深めながら、考察していきます。

【到達目標】

- ①説話文学の特質について理解する。
- ②絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ③能、歌舞伎など古典芸能に関する基礎的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義します。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。現代語訳を記載したプリントを用いる等、古典文学の読解が苦手な人に配慮しつつ、授業を進めます。また、古典芸能を鑑賞する際のポイントについても、解説していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要
第2回	説話について	説話文学に関する解説
第3回	道成寺にまつわる説話	説話集に収められた道成寺説話
第4回	絵巻について	絵巻の鑑賞方法に関する解説
第5回	道成寺縁起絵巻(1)	『道成寺縁起絵巻』鑑賞
第6回	道成寺縁起絵巻(2)	『道成寺縁起絵巻』解説
第7回	道成寺縁起絵巻(3)	熊野信仰について
第8回	道成寺縁起絵巻(4)	『道成寺縁起絵巻』の異本について

第9回	能について	能の歴史・鑑賞の仕方に関する解説
第10回	能『道成寺』(1)	能『道成寺』を読む
第11回	能『道成寺』(2)	能『道成寺』解説
第12回	能『道成寺』(3)	能『道成寺』鑑賞
第13回	道成寺物について	歌舞伎舞踊『京鹿子娘道成寺』『二人道成寺』について
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末締切のレポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関する質問やコメントは、次以降の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。
また、できるだけ動画等視聴覚資料を用い、伝統芸能のおもしろさを学んでもらうようにします。

【Outline (in English)】

This course deals with the legends surrounding Dojoji Temple, the picture scrolls *Dojoji Engi* and the Noh program *Dojoji*. The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art and performing arts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

LIT200LA (文学 / Literature 200)	
日本文学と文化 L C	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
中司 由起子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 1/Fri.1	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本では「変体仮名・くずし字」という文字が使われていました。本講義では変体仮名・くずし字を正確に読み取る力を習得することを目的とします。特に変体仮名を中心に学びます。変体仮名・くずし字は日本文学や文化を深く理解するうえで欠かせないものです。変体仮名・くずし字がわかると、古典文学のみならず近代の作家たちの手書き原稿や手紙を読んだり、史料・古文書を解読でき、作品が成立した時代や楽しまれた時代へ直接アクセスできます。初めて学ぶ学生が多いと思われますが、基礎からていねいに解説していきます。

【到達目標】

- ① 変体仮名・くずし字を正確に読むことができる。
- ② 変体仮名・くずし字で書かれた内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の講義では、講師による解説の後に問題を解き、答え合わせをします。これを繰り返すことで、変体仮名・くずし字を覚えていきます。毎回、宿題に取り組み、次の講義時に答え合わせをしてフィードバックをおこないます。

教材にする作品は、できるだけ皆さんが知っているようなものを取りあげます。

小テスト・中間テスト・期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	変体仮名・くずし字を学ぶ意義や、変体仮名と字母の関係など、基本的な解説を学びます。
2	百人一首①	百人一首の前半を中心とした、有名な和歌を教材に変体仮名を読みます。
3	百人一首②	和歌とその解釈を教材に変体仮名を読みます（主に前半所収分）。
4	小学校唱歌	明治時代の教科書を教材に変体仮名を読みます。
5	小テスト・江戸時代の作品	小テストをします。江戸時代に出版された作品（豆腐百珍など）を教材に変体仮名を読みます。
6	御伽草子①	『浦島太郎』を読みます。
7	御伽草子②	『鉢かつぎ』を読みます。
8	仮名草子	『伊曾保物語』『蟻と蟬の事』を中心に読みます。
9	『平家物語』	『平家物語』『奈須与市』を中心に読みます。

10	中間テスト・江戸時代の作品	中間テストをします。江戸時代に出版された作品を教材に変体仮名を読みます（草双紙など）。
11	『枕草子』	『枕草子』一～五段を中心に読みます。
12	『徒然草』	『徒然草』序段・五十二段を中心に読みます。
13	『源氏物語』	『源氏物語』『夕顔』の有名な場面を読みます。
14	まとめ・期末テスト	これまでの内容をまとめ、習得度をはかる期末テストをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【準備】 次回講義で扱う問題を解きます。

【復習】 毎回の講義内で示される宿題を解きます。

展覧会などに足を運び、くずし字で書かれた展示品や史料などを鑑賞し、読み解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』新典社、385円。このテキストは変体仮名を解読するための手引きとなります。必ず用意してください。

教材は講義時に資料を配布します。

【参考書】

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』近藤出版社、1981年（図書館の参考図書にあります）

そのほか、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題への取り組み 10%

小テスト 10%

中間テスト 30%

期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度はできるだけシラバスに沿う予定ですが、受講者の習得度に合わせて教材にとりあげる作品を変更する場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with Hentaigana(anomalous cursive syllabary), Kuzushi-ji(character written in a cursive style). It enhances the development of students' skill in reading of Hentaigana and Kuzushi-ji.

【Learning Objectives】

The goals of this course is to reading Hentaigana, Kuzushi-ji accurately.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: Solve the problems to be covered in the next lecture.

Review: Students will solve the problems given in each lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Work on assignments 10%.

Short test 10%.

Midterm test 30%.

Final test 50%.

LIT200LA（文学 / Literature 200）

日本文学と文化 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中司 由起子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本では「変体仮名・くずし字」という文字が使われていました。本講義では変体仮名・くずし字を正確に読み取る力を習得することを目的とします。特に変体仮名を中心に学びます。変体仮名・くずし字は日本文学や文化を深く理解するうえで欠かせないものです。変体仮名・くずし字がわかると、古典文学のみならず近代の作家たちの手書き原稿や手紙を読んだり、史料・古文書を解読でき、作品が成立した時代や楽しまれた時代へ直接アクセスできます。初めて学ぶ学生が多いと思われますが、基礎からていねいに解説していきます。

【到達目標】

- ① 変体仮名・くずし字を正確に読むことができる。
- ② 変体仮名・くずし字で書かれた内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の講義では、講師による解説の後に問題を解き、答え合わせをします。これを繰り返すことで、変体仮名・くずし字を覚えていきます。毎回、宿題に取り組み、次の講義時に答え合わせをしてフィードバックをおこないます。

教材にする作品は、できるだけ皆さんが知っているようなものを取りあげます。

小テスト・中間テスト・期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	変体仮名・くずし字を学ぶ意義や、変体仮名と字母の関係など基本的な事項を学びます。
2	百人一首①	百人一首の後半に所収された有名な和歌を教材にして変体仮名を読みます。
3	百人一首②	和歌とその解説を教材にして変体仮名を読みます（主に後半の歌）。
4	小学校唱歌	明治時代の教科書を教材に変体仮名を読みます。
5	小テスト・江戸時代の作品	小テストをします。江戸時代に出版された作品（草双紙など）を教材に変体仮名を読みます。
6	御伽草子①	『一寸法師』を読みます。
7	御伽草子②	『酒吞童子』を読みます。
8	仮名草子	『伊曾保物語』『鳩と蟻の事』などを读みます。
9	『平家物語』	『平家物語』『敦盛最期』などを读みます。

10	中間テスト・江戸時代の作品	中間テストをします。江戸時代に出版された作品（豆腐百珍など）を教材に変体仮名を読みます。
11	『枕草子』	『枕草子』一段・六四～六六段等の章段を読みます。
12	『徒然草』	『徒然草』序段・五十五段などの有名な章段を読みます。
13	『源氏物語』	『源氏物語』『葵』の有名な場面を読みます。
14	まとめ・期末テスト	これまでの内容を振り返り、習得度をはかる期末テストをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【準備】 次回講義で扱う問題を解きます。

【復習】 毎回の講義内で示される宿題を解きます。

展覧会などに足を運び、くずし字で書かれた展示品や史料などを鑑賞し、読み解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』新典社、385円。本テキストは、変体仮名を解読するための手引きとなります。必ず用意してください。

問題は、講義時に紙の資料を配布します。

【参考書】

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』近藤出版社、1981年（図書館の参考図書にあります）

そのほか、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題への取り組み 10パーセント

小テスト 10パーセント

中間テスト 30パーセント

期末テスト 50パーセント

【学生の意見等からの気づき】

本年度はできるだけシラバスに沿う予定ですが、受講者の習得度に合わせて取り上げる作品を変更する場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with Hentaigana(anomalous cursive syllabary), Kuzushi-ji(character written in a cursive style). It enhances the development of students' skill in reading of Hentaigana and Kuzushi-ji.

【Learning Objectives】

The goals of this course is to reading Hentaigana, Kuzushi-ji accurately.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: Solve the problems to be covered in the next lecture.

Review: Students will solve the problems given in each lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Work on assignments 10%.

Short test 10%.

Midterm test 30%.

Final test 50%.

LIT200LA（文学 / Literature 200）

日本文学と文化LG

2017年度以降入学者

サブタイトル：宮崎駿の文学世界

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アニメーションは、日本が誇るエンタメであり、コンテンツであり、文化遺産です。アニメーション制作の現場からは数多くのクリエイターが生みだされましたが、その中でも宮崎駿の存在は突出しています。アニメーションを普段鑑賞しない人でも、これまでの人生の中で宮崎作品との出会いの機会があったはずで

す。宮崎アニメは日本だけでなく、世界中に多くのファンを持ち、国内外の重要な賞を数多く受賞しています。宮崎作品の広がり、たとえば『千と千尋の神隠し』の舞台化（2022年に日本で初演、2024年はロンドン公演、25年は上海公演、26年は韓国公演）や、ピリー・アイリッシュが『千と千尋の神隠し』にインスパイアされて制作した楽曲"CHIHIO"（2024年）などに見てとることができます。宮崎監督がアニメーションの世界に入ったのは、1960年代です。アニメーターとして研鑽を積み重ねながら、原画や脚本や画面構成を担当する中で、NHKの長編テレビアニメ『未来少年コナン』（1978年）で初めて監督として仕事をします。本授業では、『未来少年コナン』に始まる宮崎駿の全監督作品について、それぞれ作品分析を行いながら、宮崎監督が各作品で何をテーマにどのような世界を描こうとしたのか検証するとともに、宮崎監督の思想の深まりに注目していきたいと思います。

誰もが日常的に親しんできた宮崎監督のアニメーション作品を、いま一度新たな視点で読み直してみると、これまで気づけなかった問題系や、登場人物の相関関係、ストーリーの奥深さ、物語上のたぐらみ、そして宮崎作品の根底にある文学性に気づくことになるはずです。

宮崎監督の全作品を辿る旅を通して、皆さんと一緒に宮崎監督とその作品の新たなイメージに到達したいと考えています。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションをシーンやカットごとに解説する技術を身につけ、アニメ固有の表現方法やギミックや物語構造などについて、自分の力で読み解き、考察し、論述する力の獲得を目指します。

関連資料を参照し、他者の意見や論考に目を通し、作品の背景にある文化的、社会的、民俗的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はプレゼンテーション（資料提示）と講義をあわせた形で行います。宮崎監督作品を初期から最新作まで、重要なシーンを観覧しながら、解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのは、シーンを構成する一つひとつの短いカットです。カットは継起的な物語を構成する最小の「部品」ですが、同時にクリエイターの「世界そのものへの純粋な視線」が投影されています。

その意味で、作品の基礎であり設計図ともいえる絵コンテの存在が大きくなるでしょう。絵コンテを出発点に最終的な作品に仕上がるまでには、多くの制作プロセスがあります。アニメーションの制作現場でどのようなことが行われているのか、そうした点にも注目していきたいと思います。さらに宮崎監督自身の言葉、関連資料の紹介、他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

授業内容に関する一般的な質問は、メール（eno@mar.email.ne.jp）で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	宮崎駿、その人と作品について
2	『未来少年コナン』	理想郷を求めてさまよう人々の群像劇
3	『ルパン三世 カリオストロの城』	「城」のイメージに潜む権力構造
4	『風の谷のナウシカ』	終末世界に重ねられる神話世界
5	『天空の城ラピュタ』	活劇形式の中で描かれる、少年少女のイメージの継承と発展
6	『となりのトトロ』	トトロという「他者」との出会いと、その意味
7	『魔女の宅急便』	「少女」と「猫」のいる魔法世界
8	『紅の豚』	「世情」に抗う主人公の決意と行動
9	『もののけ姫』	神と人、自然と文化が交錯し衝突する大群像劇
10	『千と千尋の神隠し』	「行きて帰るし物語」に宿る根源的な力
11	『ハウルの動く城』	「城」と「魔法」に彩られた世界の造形と継承
12	『崖の上のポニョ』	異種交流譚としての読み解き
13	『風立ちぬ』	「戦争」を描くということ
14	『君たちはどう生きるか』	宮崎作品の集大成をどう読むか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宮崎監督作品のほとんどは鑑賞済みと思いますが、もし未鑑賞のものがあれば、時間がある時に観ておくようにしてください。その際、ただ受動的に消費するのではなく、作品について積極的に考え、書いたり話したりする習慣をつけましょう。

授業で取り上げる映像作品を鑑賞する中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を適宜行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書は膨大に存在するので、授業時その都度紹介します。大学図書館などを利用して、各自参考資料を参看するようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100％）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業で取りあげた宮崎駿監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。

詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

これまで宮崎作品に触れる機会が少なかった学生にも、理解しやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

アニメーションや映像表現、現代日本文学、同時代の表現全般に興味をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。

X (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Animation is Japan's proud source of content and cultural heritage. Numerous creators have emerged from the field of animation production, but Hayao Miyazaki stands out among them. Even those who do not usually watch animation must have seen Miyazaki's works at some point in their lives. He has many fans not only in Japan but also around the world, and has received many important national and international awards.

In this class, we will attempt to analyze all of Hayao Miyazaki's works, while examining what themes and what kind of world he tried to depict in each of his films, as well as focusing on the depth of his philosophy.

【Learning Objectives】

The goal of this course is for students to acquire the skills to analytically decipher Hayao Miyazaki's animations as a visual works, scene by scene, and to be able to discuss in their own words the unique expression methods and narrative structure of animation.

【Learning activities outside of classroom】

When watching animations, develop the habit of objectively writing and talking about the details of the story in your own words, rather than just passively watching the animation films. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one or more of Miyazaki's works discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop your own argument in your own words about the work you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIT200LA（文学 / Literature 200）

日本文学と文化LH

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/ishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を解説を加えながら観賞しつつ、原作小説を講読していきます。2025年に劇場公開された以下の12作品の中から6～7作品を選んで取りあげます。小説（文学表現）と映画（映像表現）を比較対照し、分析を行うことで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現方法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を深く読む力の獲得を目指します。

＊

筒井康隆『敵』（吉田大八監督）

榆周平『サンセット・サンライズ』（岸善幸監督）

馳星周『少年と犬』（瀬々敬久監督）

吉田修一『国宝』（李相日監督）

辻村深月『この夏の星を見る』（山元環監督）

真藤順丈『宝島』（大友啓史監督）

新海誠『秒速5センチメートル』（奥山由之監督）

西尾潤『愚か者の身分』（永田琴監督）

金原ひとみ『ミーツ・ザ・ワールド』（松居大悟監督）

呉勝浩『爆弾』（永井聡監督）

柚月裕子『盤上の向日葵』（熊澤尚人監督）

村田沙耶香『消滅世界』（川村誠監督）

＊作品の配列は劇場公開日順です。

【到達目標】

現代日本文学を代表する多様なジャンル（純文学、エンターテインメント、社会小説、ミステリなど）の小説を読む経験を重ねることで、複雑な言語構成体としてのテキストから様々な要素を抽出し、整理し、分析し、自分の言葉で批評的なアウトプットができるようになります。

加えて、個人、社会、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。原作小説を講読し、作品分析を行った後、映画の一部を解説を加えながら観賞します。同一の物語内容を含む言語メディアである小説と映像メディアである映画を比較検証することによって、情報提示、叙述、人物設定、時間構成、プロット構成など、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、それぞれの作品について深く思考し、自分の考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。

小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業は進めていきます。

授業内容に関する一般的な質問は、メール（eno@mar.email.ne.jp）で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	原作小説の講読(1)	原作小説の講読・分析・考察
3	映画観賞と解説(1)	原作の映画鑑賞と解説・考察
4	原作小説の講読(2)	原作小説の講読・分析・考察
5	映画観賞と解説(2)	原作の映画鑑賞と解説・考察
6	原作小説の講読(3)	原作小説の講読・分析・考察
7	映画観賞と解説(3)	原作の映画鑑賞と解説・考察
8	原作小説の講読(4)	原作小説の講読・分析・考察
9	映画観賞と解説(4)	原作の映画鑑賞と解説・考察
10	原作小説の講読(5)	原作小説の講読・分析・考察
11	映画観賞と解説(5)	原作の映画鑑賞と解説・考察
12	原作小説の講読(6)	原作小説の講読・分析・考察
13	映画観賞と解説(6)	原作の映画鑑賞と解説・考察
14	秋学期授業のまとめ	秋学期授業のまとめ&レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握したい人は、小説を読んだ上で授業に臨んでください。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外に読み直し観賞し直し、作品の理解を深めるよう努めてください。レポート提出のための事前準備として、自分がレポートの対象として選んだ作品を精読した上で、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を適宜行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う予定の作品の文庫本。

- ・筒井康隆『敵』（新潮文庫）
- ・榆周平『サンセット・サンライズ』（講談社文庫）
- ・馳星周『少年と犬』（文春文庫）
- ・吉田修一『国宝』（朝日文庫）
- ・辻村深月『この夏の星を見る』（角川文庫）
- ・真藤順丈『宝島』（講談社文庫）
- ・新海誠『秒速5センチメートル』（角川文庫）
- ・西尾潤『愚か者の身分』（徳間文庫）
- ・金原ひとみ『ミーツ・ザ・ワールド』（集英社文庫）
- ・呉勝浩『爆弾』（講談社文庫）
- ・柚月裕子『盤上の向日葵』（中公文庫）
- ・村田沙耶香『消滅世界』（河出文庫）

【参考書】

必要な資料はプリントで配付します。

参考書・参考文献は、教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100％）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業でとりあげた小説の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ小説について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

現代日本文学になじみのない学生にもわかりやすい言葉で、解説と考察を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。

X（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We read the original novel after having watched movie works that filmized as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 or 7 works in 2025.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expressin words and movies.

【Learning Objectives】

We will read through the original novels after watching films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following 6 or 7 titles after carefully selecting from the works released in 2025.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. Our aim to acquire the ability to read novels from the perspective of what is literature-specific expression.

【Learning activities outside of classroom】

Although the class will be conducted in a manner that can be understood without having read the original novel beforehand, it is best to read the novel in order to grasp the content of the story and the relationships between the characters.

Students are encouraged to re-read and re-watch the novels and films discussed in class outside of class to deepen their understanding of the works. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one of the novels discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop a "theory" in your own words about the novel you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIT200LA（文学 / Literature 200）

外国文学と文化 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：西洋文学と音楽

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。音声や文字という記号の表現である文学と、直接感性に訴える音の連なりである音楽は、元来切っても切れない関係にあります。「詩」は「うたふ」ものであり、かつて物語は韻律をとめない楽器にのせて語られました。

春学期では、ミュージカルの名作として愛され続けている『レ・ミゼラブル』を、原作を参照しつつ分析します。さらに最も人気の高いオペラの一つである『カルメン』を扱います。次にシェイクスピアの名高い『ロミオとジュリエット』を取り上げます。この作品は様々な作曲家により音楽化されています。さらにこの現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を観賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学びます。

「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けることは大切でしょう。

この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識と表現力や探求力を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教材や資料は学習支援システムに載せます。

まずは19世紀中ごろにユゴーによって書かれた長大な小説『レ・ミゼラブル』を概観したうえで、ミュージカルやテレビドラマ版を鑑賞し、分析します。次にほぼ同時期にメリメによって書かれた中編小説をもとに創られたオペラ『カルメン』を扱います。それから16世紀末にシェイクスピアによって創られた演劇『ロミオとジュリエット』を概観し、鍵となる場面を詳しく検討します。そのうえで音楽家によるさまざまな作品を鑑賞し、分析します。さらに『ロミオとジュリエット』の現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』の映画版（1961年）を、『ロミオとジュリエット』とのかかわりを含めて鑑賞し、分析します。2021年にスピルバーグ監督による映画が公開されました。この授業では主に1961年の映画版に沿いながら、2021年版もところどころ参照します。時代も背景も異なる状況で書かれた物語にも、シェイクスピアの名高い作品の扱う普遍的なテーマが生きていることを見ます。

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムを通して出していただきます。やはり学習支援システムによりお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『レ・ミゼラブル』1 そもそもこれはどのような作品か	ヴィクトル・ユーゴー：ロマン主義運動の総帥 小説『レ・ミゼラブル』
2	『レ・ミゼラブル』2 ぶつかる二人の主要人物	ミュージカル： ジャン・ヴァルジャンとジャヴェール
3	『レ・ミゼラブル』3 ハッピーエンドのカップルと二人の「もう一人」	コゼットとマリウス エポニヌという存在 ジャン・ヴァルジャンという存在
4	『レ・ミゼラブル』4 フランス語版のドラマ	フランスのテレビ局製作：ジェラルド・ドパルデュー主演
5	『カルメン』1 小説とオペラ	原作は中編小説。書いたのはフランスの役人。 オペラを作曲したのはフランス人ビゼー。 序曲と冒頭 「ハバネラ」 「ミカエラの歌」 Femme fatale（運命の／致命的な女） VS 清純派 「アルカラの竜騎兵」：ロマの踊りが圧巻 歌手も踊る（と言うよりも踊れない歌手はお呼びでない）： 「鈴を打ち鳴らす」 「闘牛士の歌」 「行進曲」 最終場面：中の祝祭と外の破局 ウィリアム・シェイクスピアの戯曲：元ネタと著作権という考え方 映画版：ゼフィレリ監督 1968年 冒頭とバルコニーの場面
6	『カルメン』2 フランスにとつての、スペインという「お隣の」異郷	
7	『カルメン』3 闘牛場の外で	
8	『ロミオとジュリエット』1 誰もが聞いたことはあるあの作家、あの作品、 誰もが見たことのあるあの場面	
9	『ロミオとジュリエット』2 どう描くか、演出による違い	決闘の場面 最終場面 ゼフィレリ版とルールマン版（1966年）
10	『ロミオとジュリエット』3 バレエ：セリフがないシェイクスピア演劇	セルゲイ・プロコフィエフのバレエ音楽 冒頭 「騎士たちの踊り」 （シンセサイザーなどによるELP版） 決闘の場面／最終場面
11	『ロミオとジュリエット』4 原作と最後が大きく違うオペラ	シャルル・グノーのオペラ： 冒頭とバルコニーの場面 決闘の場面 最終場面
12	『ウエストサイド物語』1 誰もが見たことのあるあの振り付け	現代への翻案 『ロミオとジュリエット』との比較： 登場人物と設定の共通点と違い ジャズの表現：裏拍； 冒頭場面 "Tonight" "America"（The Niceによる編曲）

13	『ウエストサイド 物語』2 移民グループの対立	悪魔の？ 魅惑の？ 減5度（増4 度）C-F# 決闘場面 "Cool"
14	『ウエストサイド 物語』3 どこが、そしてなぜ 「原作」と異なるのか	最終場面 永遠のテーマ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらにAVライブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思います。またインターネットで視聴できるものは私のほうからも紹介しますが、皆さんも独自にいろいろ探してみてください。

1-4: 原作の小説『レ・ミゼラブル』を読む。主要登場人物についてまとめる。映画版やドラマ版を選んで視聴する。

5-7: 原作の小説『カルメン』を読む。オペラ版を選んで視聴する。

8-11: 原作の演劇『ロミオとジュリエット』を読む。映画版やバレエ版を選んで視聴する。

12-14: 映画版を視聴する。舞台版を選んで視聴する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。資料、教材を学習支援システムでお配りします。

【参考書】

【参考書 / References】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164

『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムを通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

課題の趣旨が伝わりにくいことがあったようです。わかりやすく示すようにします。

【Outline (in English)】

This course deals with occidental literature, especially works adapted for music. Literature, which expresses its objects by signs, and music, which appeals to sentiments by way of sequences of sounds, are closely related to each other. Stories were, in effect, once sung accompanied by musical instruments. The works dealt with in this class during the spring term will be:

"Les Misérables" (musical), "Carmen"(opera), "Romeo and Juliet" (movie, ballet and opera), "West Side Story" (musical).

Through this course students are expected to get knowledge to appreciate analytically and critically literary and musical works.

Students should read beforehand relevant works. They need also to submit an assignment after having studied each work. They must spend in total four hours on these tasks.

Final grade will be calculated according to the total score of their assignments (100%).

LIT200LA（文学 / Literature 200）		
外国文学と文化 L B		2017年度以降入学者
サブタイトル：西洋文学と音楽		
鈴木 正道		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水4/Wed.4 単位数：2単位 この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/) を確認のう え、情報システムから期間内にエントリーしてください。 その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 春学期に引き続いて、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品 を扱います。モーツァルトとサリエリのライヴァル関係を描いた演 劇および映画『アマデウス』を軸に、モーツァルトの『フィガロの結 婚』、『ドン・ジョヴァンニ』、サリエリの『タラール』といったオペ ラ、モリエールの『ドン・ジュアン』などの戯曲を分析します。そ の次に、ミュージカルとして人気を博しているルルー原作の『オペ ラ座の怪人』を扱います。		
【到達目標】 芸術作品を観賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学び ます。 「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、 「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在にお いて、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活で必要 な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けること は大切でしょう。 この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働 くうえで必要な基礎的な知識と表現力や探求力を身につけることが できます。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学 部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国 際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部 ：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 教材や資料は学習支援システムに載せます。 秋学期には、イギリスの劇作家ピーター・シェファールの『アマデ ウス』（1979年）を軸に、その中に登場するヨーロッパの17世紀から 18世紀の音楽作品、またそれにちなむ文学作品を扱います。『アマデ ウス』は1984年に作者自身が脚色して映画化されて多くの人々に評 価されたので、知っている方も多いことでしょう。まず、この作品 の概要を見渡し、それからこの作品の中に登場する音楽、その原作 となった文学作品を概観し、分析します。分析の方法論も学びます。 次に扱う『オペラ座の怪人』は20世紀の初めにフランスのミステ リー作家ガストン・ルルーによって発表された小説作品で、何度も 映画化されていますが、今では英語によるミュージカルで人気を博 しています。美と醜、歴史的な建物に潜む謎など、ある意味では定 番の数々のテーマを分析します。 各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物 を学習支援システムを通して出していただきます。やはり学習支援 システムによりお返しします。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『アマデウス』とは	演劇と映画；「神に愛されたる 者」の物語
2	『アマデウス』 衝撃の出会い	モーツァルトとサリエリのライ ヴァル関係
3	『フィガロの結婚』1 原作者はどんな人か オペラへの翻案	ボーマルシェの戯曲：政治的な 意味合い ダ・ポンテの台本とモーツァル トのオペラ： 序曲と冒頭
4	『フィガロの結婚』2 ケルビーノというト リックスター	「自分で自分がわからない」 「もう飛ぶまいぞこの蝶々」 映画『アマデウス』におけるサ リエリの行進曲の変奏
5	『フィガロの結婚』3 モーツァルトによる 譜面と『アマデウス』 版	第2幕の最終場面の7重唱 結婚式の場面 第3幕の山場と急転換 第4幕のどんでん返し 最終場面
6	『タラール』とはどん な作品か	ボーマルシェ自身が台本を書い たサリエリのオペラは当時のお 手本オペラ
7	ドン・ファン伝説 モリエールの『ド ン・ジュアン』1 唯物論者にして快楽 主義者？ もしくは求 道者？	女たらしの伝説 無神論を支持する誘惑者？ モリエールの演劇：フランス古 典主義の時代 冒頭の場面 貧者との対話の場面
8	『ドン・ジュアン』2 父親という法、掟	騎士隊長の像 亡霊 晩餐 最終場面
9	オペラ『ドン・ジョ ヴァンニ』1 グロテスク：おぞま しくも滑稽	ダ・ポンテの台本とモーツァル トのオペラ： 序曲 「女のリスト」
10	『ドン・ジョヴァ ンニ』2 超自然現象をどう演 出するか	村の娘の誘惑 騎士隊長の像
11	『ドン・ジョヴァ ンニ』3 再び『アマデウス』 歴史上の謎をどう演 出するか	晩餐 最終場面のさまざまな演出： 映画『アマデウス』版とロゼー版 精神分析：科学か20世紀の骨相 学か 『アマデウス』の最終場面
12	『オペラ座の怪人』1 これはオペラではな い、オペラ劇場を舞 台とした作品。	原作者のガストン・ルルー とは？ 小説『オペラ座の怪人』 2004年の映画版ミュージカル
13	『オペラ座の怪人』2 読み手／観客を惹き つける設定	ミュージカル： 人気スターと新進の歌い手、 謎と恐怖
14	『オペラ座の怪人』3 捕り物という定番ク ライマックスと余韻 を残す最終場面	ミュージカル： 表の二枚目と裏のヒーロー
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらにAVラ イブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思ひます。ま たインターネットで視聴できるものは私のほうからも紹介しますが、 皆さんも独自にいろいろ探してみてください。 1-2：原作の演劇を読む。 3-5：原作の演劇を読む。オペラ版を選んで視聴する。 6：サリエリについて調べる。 7-10：ドン・ファンの伝説について調べる。モリエールの『ドン・ ジュアン』を読む。オペラ『ドン・ジョヴァンニ』を選んで視聴する。 11：モーツァルトの晩年について調べる。 12-14：原作の小説を読む。映画版、ミュージカル版を選んで視聴 する。 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムを通して資料などを配ります。

【参考書】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムを通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

課題の趣旨が伝わりにくいことがあったようです。わかりやすく示すようにします。

【Outline (in English)】

As in the spring semester, this course deals with occidental literature, especially works adapted for music.

The works dealt with during the fall term will be : "The Marriage of Figaro", "Tarare", "Don Giovanni" (opera works presented in Peter Shaffer's "Amadeus", which will be also treated in this course); "Le Fantôme de l'opéra", one of the most popular musicals, based on a mystery written by a French writer, Gaston Leroux.

Through this course students are expected to get knowledge to appreciate analytically and critically literary and musical works.

Students should read beforehand relevant works. They need also to submit an assignment after having studied each work.

They must spend in total four hours on these tasks.

Final grade will be calculated according to the total score of their assignments (100%).

LIT200LA（文学 / Literature 200）	
外国文学と文化 L C	2017年度以降入学者
サブタイトル：漢詩を作る	
日原 傳	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金4/Fri.4	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者に漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して四季の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞します。

【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それに従って漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

開講時から五回ほどを使って、漢詩の歴史、さまざまな詩形、漢文のルール、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩もできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢詩の詩形、古体詩と近体詩、歳時詩について、／梅の詩鑑賞	漢詩の歴史、さまざまな詩形、古体詩と近体詩の説明。「歳時詩」「二十四節気」の説明。／林逋「山園小梅」などを鑑賞。
第2回	近体詩の格律①／桜の詩鑑賞	正岡子規「聞子規」を例に作詩法を解説。平仄図式・押韻の説明。二四不同二六対の説明。／藤井竹外「芳野」などを鑑賞。
第3回	近体詩の格律②／春の詩鑑賞	反法・粘法の説明。いくつかの禁忌（下三連、孤平、冒韻、同字の重複）について。／杜牧「江南春」などを鑑賞。
第4回	漢文のルール①／晩春の詩鑑賞	和習を避ける。動詞・形容詞・副詞の用法／白居易「三月三十日題慈恩寺」、呉錫麒「送春」などを鑑賞。

第5回	漢文のルール②／ほととぎすの詩鑑賞	前置詞・助動詞の用法。「有」「無」の用法／杜甫「子規」、嵯崎波響「聞鵲」などを鑑賞。
第6回	牡丹・薔薇・石榴の詩鑑賞／実作指導	皮日休「牡丹」、石川丈山「白牡丹」、高駢「山亭夏日」、柏木如亭「石榴」などを鑑賞。／実作（七言一句を作る）
第7回	山行の詩鑑賞／実作指導	王安石「鍾山」、広瀬淡窓「彦山」などを鑑賞。／実作（七言二句を作る）
第8回	梅雨の詩鑑賞／実作指導	趙師秀「約客」、篠崎小竹「梅雨」などを鑑賞。／実作（七言絶句を作る）
第9回	蓮の花の詩鑑賞／実作指導	白居易「池上」、菅茶山「夏日雜詩」などを鑑賞。／実作
第10回	螢・蟬・蠅・蚊の詩鑑賞／実作指導	杜甫「螢火」、北條霞亭「観螢」、蘇軾「溪陰堂」、韓愈「雜詩」などを鑑賞。／実作
第11回	苦熱・避暑・昼寝の詩鑑賞／実作指導	柳宗元「夏昼偶作」、袁枚「銷夏」、野田笛浦「昌平橋納涼」などを鑑賞。／実作
第12回	夏の江村・舟行・滝の詩鑑賞／実作指導	杜甫「江村」、李白「望廬山瀑布」などを鑑賞。／実作
第13回	夕立の詩鑑賞／実作指導	蘇軾「六月二十七日、望湖樓醉書」、大窪詩仏「急雨」などを鑑賞。／実作
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当作成の資料を配布する。

【参考書】

石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）
石川忠久『漢詩の稽古』（大修館書店）
石川忠久監修『漢詩創作のための詩語集』（大修館書店）
鷲野正明『初めての漢詩創作』（白帝社）
鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院）
小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫）
前野直彬『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』（角川書店）
石川忠久『漢詩鑑賞事典』（講談社学術文庫）
石川忠久『日本人の漢詩 風雅の過去へ』（大修館書店）
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩100選』
同『漢詩をよむ 夏の詩100選』
同『漢詩をよむ 秋の詩100選』
同『漢詩をよむ 冬の詩100選』（以上、NHK出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）50％
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50％

【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports : 50%

LIT200LA (文学 / Literature 200)

外国文学と文化 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：『唐詩選画本』を読む

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代に日本で刊行された『唐詩選画本』をテキストとして唐詩を読む。『唐詩選画本』は絵と詩の本文、その書き下し文、日本語による解説文によって構成されている。はじめに『唐詩選画本』を含む唐詩のテキストについて概説する。以後は五言絶句から始めて徐々に長い詩に進むかたちで具体的な作品を鑑賞してゆく。「歳時詩」「辺塞詩」「閨怨詩」「唱酬詩」「詠物詩」「詠史詩」といった漢詩のテーマについても折をみて解説を加えるつもりである。なお、『唐詩選画本』の書き下し文、解説文は「変体仮名」で記されているので、変体仮名を読む訓練にもなるであろう。

【到達目標】

- ・中国古典文学の基盤をなす考え方を知るとともに漢詩の読解に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・変体仮名に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。第一回目の授業で、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について概説する。第二回目の授業では「変体仮名」について説明した上で、『唐詩選画本』の具体的な作品を鑑賞する。第三回目以降の授業は作品鑑賞が中心になる。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩をどのように読み解いていたかを具体的に知ってほしい。

※第1回目から対面授業をする予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢詩の形式について。	漢詩の形式の解説。『全唐詩』唐詩のテキストについて
第2回	鑑賞（五言絶句）	『三体詩』『唐詩選』『唐詩三百首』『唐詩選画本』等の説明。
第3回	鑑賞（五言絶句）	賀知章「題袁氏別業」
第4回	鑑賞（五言絶句）	駱賓王「易水送別」
第5回	鑑賞（五言絶句）	李白「静夜思」、王維「班婕妤」
第6回	鑑賞（七言絶句）	王勃「蜀中九日」
第7回	鑑賞（七言絶句）	王翰「涼州詞」
第8回	鑑賞（七言絶句）	李白「峨眉山月歌」、王昌齡「閨怨」
第9回	鑑賞（五言律詩）	杜甫「旅夜書懷」
第10回	鑑賞（五言律詩）	張謂「同王徵君洞庭有懷」
第11回	鑑賞（七言律詩）	崔顥「黃鶴樓」
第12回	鑑賞（五言古詩）	李白「子夜吳歌」
第13回	鑑賞（七言古詩）	杜甫「貧交行」

第13回 鑑賞（七言古詩） 劉廷芝「代悲白頭翁」

第14回 授業の総まとめと期 筆記試験、まとめと解説
末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者がプリントを用意する。

【参考書】

前野直彬注解『唐詩選』全三冊（岩波文庫）
村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）
目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）
山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）
猪口篤志『日本名詩鑑賞辞典』（角川書店）
石川忠久『漢詩鑑賞事典』（講談社学術文庫）
小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫）
石川忠久『漢詩をよむ 春の詩100選』
同『漢詩をよむ 夏の詩100選』
同『漢詩をよむ 秋の詩100選』
同『漢詩をよむ 冬の詩100選』（以上、NHK出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・リアクションペーパー）50%
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

変体仮名を読む訓練の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to appreciate Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports : 50%

LIT200LA (文学 / Literature 200)

外国文学と文化 L E

2017年度以降入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ (1)

大崎 さやの

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペラは16世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。日本では比較的馴染みが薄いオペラですが、特にイタリア・オペラはありふれた内容のものが多く、肩肘張って見るような難しいものでは決してありません。楽しみながらヨーロッパ文化の神髄であるオペラに親しんでいきましょう。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オペラの誕生したルネサンスから18世紀までのオペラを講義形式で扱います。プリントのほか、視聴覚教材を用います。また毎回課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	イントロダクション ルネサンスの舞台芸術 (1)	授業紹介 ルネサンスと宮廷音楽劇
②	ルネサンスの舞台芸術 (2)	コンメディア・デッラルテとマドリガル・コメディ
③	オペラの誕生	カメラータ・フィオレンティーナとオペラの誕生
④	初期のオペラ (1)	モンテヴェルディ作曲、ストリッジョ台本のオペラ《オルフェオ》
⑤	初期のオペラ (2)	《オルフェオ》と古代の神話
⑥	初期のオペラ (3)	ヴェネツィアにおけるオペラの隆盛とカストラート
⑦	オペラ・ブッフアの誕生	オペラ・ブッフアとオペラ・セーリア
⑧	オペラ・セーリア (1)	ヘンデル作曲のオペラ作品
⑨	オペラ・セーリア (2)	ヘンデル作曲、アイム台本《ジュリオ・チェザレ》
⑩	オペラ・セーリア (3)	《ジュリオ・チェザレ》と史実のユリウス・カエサル
⑪	オペラ・セーリアの改革 (1)	オペラ・セーリアの改革とメタスタジオ

⑫	オペラ・セーリアの改革 (2)	グルック作曲、カルツァピージ台本のオペラ《オルフェオとエウリディーチェ》
⑬	オペラ・セーリアの改革 (3)	オペラ史におけるオルフェオの変遷
⑭	授業のまとめ	オペラの誕生から18世紀前半までのオペラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメントシート等の課題提出、授業への参加度）（約60％）と期末試験（対面で実施、約40％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業をこころがけます。

【その他の重要事項】

・映像でオペラ作品を鑑賞し、それについてのコメントを提出してもらいますので、出席は欠かせません。コメントシート記入用の筆記用具を持参してください。
・日頃から読書をしたり文章を書いたりして、書く力を磨いてください。近年提出物に漢字の誤りが多く見られますが、読み書きの訓練が足りていない証拠です。高校時代までに磨いてこなかった人は、授業以外の時間も読書に努め、正しい漢字が書けるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students will be graded on the basis of their normal scores (including assignments submitted on time) (60%) and the final test (40%).

LIT200LA (文学 / Literature 200)

外国文学と文化 L F

2017年度以降入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ (2)

大崎 さやの

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペラは16世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。外国文学と文化 F では、春学期の外国文学と文化 E に引き続き、18世紀後半から19世紀にかけての爛熟期のイタリア・オペラを扱います。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では18世紀から20世紀にかけてのイタリア・オペラを扱います。配布プリントの他、視聴覚教材を用います。また毎回課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	イントロダクション オペラ・セーリアと オペラ・ブッフ	18世紀までのオペラの簡単な歴史とオペラ・ブッフについて
②	古典派オペラ (1)	ボーマルシェの喜劇『たわけた一日、あるいはフィガロの結婚』とディドロの市民劇理論
③	古典派オペラ (2)	モーツァルト作曲、ダ・ポンテ台本のオペラ《フィガロの結婚》作品解説
④	古典派オペラ (3)	《フィガロの結婚》に見られる啓蒙思想
⑤	古典派オペラ (4)	フェミニズムと《フィガロの結婚》
⑥	ロマン派オペラ (1)	ドニゼッティ作曲、ロマーニ台本《愛の妙薬》作品解説
⑦	ロマン派オペラ (2)	ロマン主義と《愛の妙薬》
⑧	ロマン派オペラ (3)	《愛の妙薬》に見られる民衆の姿
⑨	ロマン派オペラ (4)	作曲家ヴェルディとリソルジメント
⑩	ロマン派オペラ (5)	ヴェルディ作曲、ピアヴェ台本《リゴレット》作品解説
⑪	ロマン派オペラ (6)	《リゴレット》に見られる差別と偏見
⑫	ヴェリズモ・オペラ (1)	自然主義からヴェリズモ（真実主義）へ：ヴェルガ作『カヴァレリア・ルスティカーナ』

- ⑬ ヴェリズモ・オペラ (2) マスカーニ作曲、タルジョーニニトツェッティ、メナッシ台本のオペラ《カヴァレリア・ルスティカーナ》
- ⑭ 授業のまとめ 18世紀後半から20世紀のオペラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメントシート等の課題提出、授業への参加度）（60％）と期末試験（対面で実施、40％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分り易い授業を心がけます。

【その他の重要事項】

オペラを映像で見て、毎回コメントシートを提出してもらいますので、欠かさず出席してください。コメントシート記入用の筆記用具を用意してください。近年漢字を正しく書けない人が増えています。普段から読書をして文章を書き、漢字を覚えてください。紙とペン（または鉛筆）で文章を書く習慣を身につけてください。

【Outline (in English)】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students will be graded on the basis of their normal scores (including assignments submitted on time) (about 60%) and the final test (about 40%).

LIT200LA (文学 / Literature 200)	
文学と社会 L A	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
梶 裕史	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民俗」（民間伝承）とは、ある地域社会、特定のコミュニティのごくふつうの人々の暮らしの中で集団的に形づくられ、時代を超えて伝えられてきた暮らし方や心の持ち方を指します。「地域（ローカル）」の範囲は、小さくは一つの集落、大きくは世界（グローバル）の中の日本という「地域」といったように、さまざま設定できます。この授業では世界の中の日本、という視野のもと、こうした「民間伝承」を研究対象とする「民俗学」を採り入れた日本文学研究の世界を、『万葉集』『古事記』『日本書紀』『風土記』『古今和歌集』『源氏物語』等、主として上代・中古の文学の中から事例を選んで紹介します。民俗学的な日本文学研究とは、個々の作者・作品の個性や創意、時代性を超えて、現代の私たちの心の底にまで伝わっていると考えられるような集団の心性を、残された言語表現を通じて探ろうとするものである、といえるでしょう。このような性格のため、「個」（一作者や作品）の芸術性の追究といったことを期待する人には、不向きと思われるます。

【到達目標】

- ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
- ・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室対面を基本とする、ふつうの講義形式です。小説の構成に喩えれば、テーマに沿って2～3回で完結する例題を並べていく「短編小説集」のような構成と思って下さい。毎回、授業の要点を確認する簡単な小テスト（選択問題5問、授業後3日以内に回答）と、授業の感想を200字以上で書くリアクションペーパー（提出は学習支援システムへ、授業後3日以内）を課します。小テストは期限後に学習支援システムに掲示する正答をみて各自答え合わせしてください。感想の講評は随時授業のなかで行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	民俗学的な日本文学研究について、概説
第2回	桜の文学と民俗（1）	季節感と古典文学との関わり、またその源流と考えられる民俗について
第3回	桜の文学と民俗（2）	前回の続きとまとめ
第4回	「女歌」の特色と源流（1）	男女の恋の贈答歌における女性の歌の特色と、その源と考えられる「歌垣」の習俗について

第5回	「女歌」の特色と源流（2）	前回の続きとまとめ
第6回	恋歌の虚構性	万葉集・額田王の蒲生野の恋歌を例に
第7回	古代女性の巫女的性格と文学（1）	古代女性の「神」に仕える役割と古典文学、歴史との関係
第8回	古代女性の巫女的性格と文学（2）	前回の続き
第9回	古代女性の巫女的性格と文学（3）	前回の続きとまとめ
第10回	「恋（こひ）」の生活と靈魂信仰（1）	「魂乞い」・名前の民俗ほか、和歌や物語から恋愛に関わる靈魂信仰（生命観）を探る
第11回	「恋（こひ）」の生活と靈魂信仰（2）	前回の続きとまとめ
第12回	「誕生」「成人」——年齢通過儀礼と文学（1）	昔の日本人にとっての「誕生」「成人」の意義と文学への反映
第13回	「誕生」「成人」——年齢通過儀礼と文学（2）	前回の続きとまとめ
第14回	総括として	例題を総復習し、授業の到達目標を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古典文学に高校までの授業のイメージを持たずに、現代語訳でもいいので、日頃からその世界に親しんでほしいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する資料教材をもって代えます。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

およそ、期末試験50％、毎回の小テスト＋リアクションペーパー50％の予定。詳細は初回授業までに学習支援システムにてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

授業教材が、欠席した時もあとで読めば凡そ分かるような、解説付きのオンデマンド対応パワーポイントであるため、復習の際に要点が掴みやすく、画像も豊富に入っているので親しみやすい、という感想が多かったです。ただし、オンデマンド型教材だと「出席しなくてもあとで読めば内容がわかる」と、教室授業に欠席がちになるデメリットもあるため、昨年度から出席替わりのリアクションペーパー（ないしは小レポート）を毎回課すことにしています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

学習支援システムへの仮登録者が授業初回までに320名を超える場合は、抽選を実施します。抽選は初回授業後2日間以内に志望理由を提出し、それをもとに300名以内に選抜して、第2回の授業までに受講許可者をお知らせできるようにする予定です。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

Theme: Japanese literature and folklore

"Folk" (folklore) refers to the way of life and mindset that has been collectively formed in the lives of ordinary people in a certain community or a specific community and has been passed down through the ages, increase. The range of "region (local)" can be set in various ways, such as one village for small and Japan in the world (global) for large. In this class, from the perspective of Japan in the world, the world of Japanese literature research that incorporates "folklore" that targets such "folklore" will be discussed in "Manyoshu," "Kojiki," and "Nihonshoki." We will introduce examples mainly from the literature of the upper generation and used, such as "Fudoki", "Kokin Wakashu", and "Genji Monogatari". Folklore Japanese literature research transcends the individuality, creativity, and timeliness of individual authors and works, and is the bottom of our hearts today.

Folklore Japanese literature research leaves behind a collective spirit that is thought to be transmitted to the bottom of our hearts today, transcending the individuality, creativity, and timeliness of individual authors and works. It can be said that it is an attempt to explore through the linguistic expressions that have been made. Because of this personality, it seems unsuitable for those who expect to pursue the artistry of "individuals" (one author or work).

Goal

This lecture aims at the following two goals

- ・ Compared to general literary research, students can broaden your horizons by learning about the characteristics and significance of folklore-based methods of viewing literature.
- ・ As the subject name indicates, students can learn an example of an interdisciplinary approach by touching on fields dealing with the integrated area of the humanities and social sciences.

Work to be done outside of class

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. I would like you to become familiar with the world on a daily basis, as you can use a modern translation without having the image of a class up to high school in classical literature.

Grading criteria

The final exam will make up 50%, and each quiz + reaction paper will make up the other 50%. Details will be provided on the learning support system before the first class.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

梶 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ（副題）：日本文学と民俗

梶「文学と社会LA」と同じです。ただし具体的な内容は「授業計画」に記す通り、異なります。Aよりも「民俗」（＝民間伝承）の部分に重点を置いた内容になります。「文学」発生の母胎としての性格を未だによく保持しており、日本文学の「古代性」を考える上で重要なヒントになるとされる沖縄離島の祭事・信仰をクローズアップして紹介する回が多くなり、時間があればそれを材料に、伝統文化を活かした持続可能な地域形成に祭事や言語伝承が果たす役割なども考察したいと思っています。

【到達目標】

- ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
- ・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。小説の構成に喩えれば、テーマに沿って2～3回で完結する例題を並べていく「短編小説集」のような構成と思って下さい。

毎回、授業の要点を確認する選択問題5問の小テストと、授業の感想を200字以上で書くリアクションペーパーを課します。ともに学習支援システムへ、授業後3日以内に提出してもらいます。小テストの正答は期限後に学習支援システムに掲載し、各自確認してもらいます。感想の講評は授業内で随時口頭で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	日本文学の民俗学的な見方について、概説
第2回	季節行事と文学（1）	具体例として、古典文学における七夕と、七夕関連行事・民俗について
第3回	季節行事と文学（2）	日本固有のタナバタ説話について／2回のまとめ
第4回	古代文学に表現された異郷「妣（はは）の国」（1）	古事記の用例をめぐって、語の意味・由来、背景に考えられる民族移動・渡来の歴史など
第5回	古代文学に表現された異郷「妣（はは）の国」（2）	別視点：「異族結婚」が多かった時代の記憶の反映／2回のまとめ
第6回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（1）	万葉集・記紀・風土記などに見える用例（浦島伝説等）／明・暗両面性

第7回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（2）	比較事例として、沖縄・奄美等の来訪神の祭事を紹介：「ニライカナイ」の心象
第8回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（3）	明暗両面性の由来の考察（日本の「神」とは何か）－自然観・祖霊観念との関わりなど
第9回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」（4）	トコヨからの来訪者／まとめ
第10回	「貴種流離譚」（1）	神（またはそれに近い高貴な存在）がさすらう物語の類型をめぐって
第11回	「貴種流離譚」（2）	古代的な生命観・霊魂信仰や異郷意識（他界観念）との関わり／2回のまとめ
第12回	「神話」が生きる島（1）	祭事・信仰などに古代的要素が残っている日本の離島の例を紹介
第13回	「神話」が生きる島（2）	前回の続き
第14回	総括の授業と授業内試験	話してきた例題のポイントを振り返ったあと、まとめのテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古典文学と「民俗」との関連を知ることをきっかけに、地域の伝統行事を見学することなども奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載するスライド教材をもって替えます。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

およそ、期末試験50%。毎回の小テスト＋リアクションペーパー50%。詳細は初回授業までに学習支援システムにてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の「LA」の授業と同様、文章の説明入りのオンデマンド対応のスライド教材であるため、体調不良で教室授業に出られない場合でも自宅で自習できることへの評価のほか、伝統祭事についての豊富な動画で実感を持てたという声もありました。ただし春学期の授業同様、オンデマンド型教材だと、教室授業への出席意欲についてはデメリットにはたらく場合もあるため、昨年度から毎回、リアクションペーパーないしは小レポートを課しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

学習支援システムへの仮登録者が授業初回までに320名を超える場合は、抽選を実施します。抽選は初回授業後2日間以内に志望理由を提出し、それをもとに300名以内に選抜して、第2回の授業までに受講許可者をお知らせできるようにする予定です。

【Outline (in English)】

Theme: Japanese literature and folklore

This class is same as "Literature and Society LA" by Kaji. However, the specific content is different as described in the "Class Plan". The content focuses on the "folk" (=folklore) part rather than A. A close-up introduction to the festivals and beliefs of the remote islands of Okinawa, which still retains the character of the mother of "literature" and is considered to be an important hint when considering the "ancientity" of Japanese literature. If I have more time, I would like to consider the role of festivals and linguistic tradition in the sustainable regional formation that make use of traditional culture.

Goal

This lecture aims at the following two goals

- ・ Compared to general literary research, students can broaden your horizons by learning about the characteristics and significance of folklore-based methods of viewing literature.

- As the subject name indicates, students can learn an example of an interdisciplinary approach by touching on fields dealing with the integrated area of the humanities and social sciences.

Work to be done outside of class

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. We also encourage you to visit traditional events in the area by learning about the relationship between classical literature and "folklore".

Grading criteria

The final exam will make up 50%, and each quiz + reaction paper will make up the other 50%. Details will be provided on the learning support system before the first class.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L C2017年度以降入学者

サブタイトル：江戸の印刷・出版物

白戸 満喜子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では江戸時代の文学作品『御存商売物』を通読します。作品を通して江戸の出版文化の多様性に触れていきます。江戸という地域・時代に暮らした人々が手にしていた、読んでいた、眼にしていた、時には聴いていたさまざまなメディアを、実際に読んだり聴いたりすることで江戸を体感します。

【到達目標】
江戸時代の特徴的な文化や慣習・感覚をテキスト『御存商売物』を通じて理解することが目標。
くずし字（変体仮名）で書かれた簡単な出版・印刷物を判読できるようになることがもう一つの目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は『御存商売物』という江戸時代の印刷・出版物を人物になぞらえた作品を通読しながら講義を行います。あわせて作品の中に登場人物として描かれている印刷・出版物を読解する演習形式を取り入れます。意匠絵本（デザイン集）・暦など、簡単な読み物の翻字（くずし字を現代仮名遣いに変換すること）のノウハウを解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・江戸時代の文学について ・テキスト『御存商売物』について
2	テキスト『御存商売物』の解説	・外国人から見た江戸 ・日本の書物 ・江戸後期の文学作品 ・江戸の出版
3	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の紋様 ・大坂と江戸
4	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の人気小説 ・江戸の食べ物
5	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の絵画 ・江戸時代までの紙 ・江戸の流行歌
6	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・「見立（みたて）」という表現 ・小道具と物語の関係 ・絵と文の関係を読み取る
7	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の慣習 ・江戸の街並み

8	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の繁華街「吉原」 ・浮世絵と鑑賞の基礎知識
9	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・現在と異なる暦 ・江戸の教養を支えた書物
10	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の土産物 ・江戸時代の夫婦喧嘩
11	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の占い ・江戸のおまじない
12	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の学問書 ・江戸時代の情報伝達
13	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸時代の流行り廃り ・江戸の刑罰
14	授業のまとめ	・江戸時代の豊かな出版文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に随時、レポートに関する情報を話しますので、その情報を参考にしながら江戸に関する知識を広げて下さい。
くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。くずし字読解の準備として2時間、復習に2時間、計4時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】
授業中にプリントを配布し、学習支援システム(WebClass)でも公開します。

【参考書】
くずし字読解のための参考文献は以下の2冊ですが、読解に必要なプリントは授業中に配布し、学習支援システム(WebClass)でも公開します。
・笠間影印叢刊行会『字典かな』笠間書院
・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】
レポート40% 筆記試験（最後の授業時に一回）40% 平常点（授業への取り組み・発言）20% として評価します。
詳細は開講時にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
「高校までは学んでこなかった、非常に興味深い内容だった」「くずし字の読解は暗号解読のようで面白い」という感想が寄せられています。古典文学でもなく、現在の小説とも異なる、江戸の大人の娯楽と教養を『御存商売物』という作品を通じて楽しんで下さい。

【学生が準備すべき機器他】
授業における「AIくずし字認識アプリ」の使用を推奨しています。インストール可能な機器（スマートフォンなど）と空き容量を準備してください。

【その他の重要事項】
履修者が教室定員を超過した場合は抽選を行います。抽選結果は開講前に学習支援システム(WebClass)で発表します。

【Outline (in English)】
In this class, we read through the literary work "Gozonji-no-shobaimono" in the Edo Period. Through the work we can touch on the diversity of Edo's publishing culture. You will experience Edo by actually reading and listening to various media that people were living in in the region &the era of Edo. Sometimes you can listen the audible media.
The main goal of this course is to understand the characteristic culture, customs, and sensations of the Edo period through the textbook "Gozonji-no-shobaimono".
Another goal is to be able to read simple publications and printed matter written in cursive script (Hentaigana).
Bring the materials (distributed prints) necessary for reading the cursive script every time, and read them before class. It takes 2 hours to prepare for reading comprehension and 2 hours to review, for a total of 4 hours.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40 %, Term-end examination 40 %, in class
contribution 20 %

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：江戸の絵入り本で読む百人一首

白戸 満喜子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

浮世絵が添えられた絵本『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館所蔵）<https://dl.ndl.go.jp/pid/2533227> を受講生全員で分担し、読解・解釈をします。最近では競技としての知名度が上がってきた百人一首が、いつ、どのようにして成立し、また現在まで人々に愛されてきたのか。江戸時代の人々が楽しんだ百人一首を読み解き、和歌の解釈と描かれた歌人について学んでいきます。

【到達目標】

くずし字で書かれた和歌（ひらかなの部分とその字母）を判読し、解釈することが各受講生の目標です。

各自の担当する和歌について、1：字母を確認しながら翻字をする、2：解釈（意味や技法）する、という2点から考察・発表をし、『錦百人一首あづま織』という絵本の成立を理解し、和歌の知識を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業前半は百人一首と『錦百人一首あづま織』に関連する講義を行います。後半は受講生がそれぞれ分担する和歌についての翻字・解釈を各週で順番に発表します。受講生はそれぞれの和歌に対する読解・解釈を準備し意見交換をします。授業時間内に翻字と字母の正解を示し、和歌の解釈に対するまとめをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 百人一首とは何か くずし字読解の方法と解釈	テキスト『錦百人一首あづま織』の発表順番決定
2	テキスト『錦百人一首あづま織』の構成について解説	テキストに関する講義
3	テキスト『錦百人一首あづま織』の読解方法	テキストの翻字・解釈の具体的な方法・内容
4	勅撰和歌集に関する講義1および受講者による発表1回目	・勅撰和歌集とは何か：八代集 ・担当者による発表
5	勅撰和歌集に関する講義2および受講者による発表2回目	・勅撰和歌集にまつわる逸話 ・担当者による発表
6	歌合に関する講義1および受講者による発表3回目	・歌合とは何か ・担当者による発表

7	歌合に関する講義2および受講者による発表4回目	・歌合に賭けた歌人たち ・担当者による発表
8	歌道に関する講義および受講者による発表5回目	・歌道とは何かー和歌の変化 ・担当者による発表
9	百人一首の中世写本に関する講義および受講者による発表6回目	・中世における百人一首 ・担当者による発表
10	百人一首の近世写本に関する講義および受講者による発表7回目	・手で書き写された百人一首：近世の写本 ・担当者による発表
11	百人一首版本に関する講義1および受講者による発表8回目	・印刷された百人一首 ・担当者による発表
12	百人一首版本に関する講義2および受講者による発表9回目	・浮世絵と百人一首 ・担当者による発表
13	百人一首版本に関する講義3および受講者による発表10	・百人一首とかるた ・担当者による発表
14	テキスト『錦百人一首あづま織』のまとめ	教員による全体の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者にはこちらから発表分担となる和歌を指定します。受講生は各自が分担する和歌の翻字と読解・解釈を指定日までに提出してください。分担以外の和歌については、それぞれ読解しておいてください。各自の読解に基づいて発表内容に対する意見交換をします。くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。テキストのくずし字読解として2時間、授業で扱った和歌の字母確認・復習に2時間を毎回必要とします。

【テキスト（教科書）】

『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館所蔵）<https://dl.ndl.go.jp/pid/2533227>

【参考書】

くずし字を読むための参考文献は以下の2冊ですが、読解用のプリントは教材にアップロードします。文学と社会LC既習者は同じプリントになります。

- ・笠間影印叢刊行会『字典かな』笠間書院
- ・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

分担発表の内容30% 平常点（授業内での意見や取り組み態度）40% 期末レポート30% として評価します。分担する和歌の翻字と読解・解釈の未提出、発表内容に関する意見交換がない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

「江戸時代の文字を翻字すること、和歌の内容や背景を学ぶこと、どちらも謎解きのようで楽しかった」という感想が寄せられています。くずし字の読解は、昔の日本人たちと時空を越えたコミュニケーションをするようなもので、語学習得に似ている部分があります。外国語学習とは異なる独特の達成感を味わって下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業における「AIくずし字認識アプリ」の使用を推奨しています。インストール可能な機器（スマートフォンなど）と空き容量を準備してください。

【その他の重要事項】

関連部分があるので文学と社会LCを履修していることが望ましいものの、前向きな性格・柔軟な思考・気合などのどれかがあれば秋学期のみの履修も可能です。履修者が教室定員を超過した場合は抽選を行います。抽選結果は開講前に学習支援システム(WebClass)で発表します。

【Outline (in English)】

In this class, we read the original book of "Nishiki Hyakunin Isshu Azuma Ori" <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227> with ukiyo-e. Hyakunin Isshu has been loved by people, and recently it has gained recognition as a sport. We will read Hyakunin Isshu which was made in the Edo period, and learn about the interpretation of waka and the singer drawn.

The main goal of this lesson is to read and interpret waka (the hirakana part and its character) written in cursive script.

About the waka poems that each person is in charge of

1: Transliterate while checking the character

2: Interpret (meaning and technique),

We will consider and present from these two points, understand the formation of the text, and deepen our knowledge of waka.

Students will be assigned a waka poem to be shared by the instructor. Students are requested to submit the transliteration, reading comprehension, and interpretation of the waka poems that they share by the designated date. Please read each of the waka poems other than the division. We will exchange opinions on the content of the presentation based on each person's reading comprehension.

Bring the materials (distributed prints) necessary for reading the cursive script every time and read them before class. It takes 2 hours to read the text and 2 hours to check and review the waka characters used in the class.

Final grade will be calculated according to the following process
Responsible part report (30%), in-class contribution (40%), and term-end examination (30%)

However, if there is no transliteration of the shared waka poem, unsubmitted reading comprehension / interpretation, and no exchange of opinions regarding the content of the presentation, it will not be evaluated.

LIT200LA (文学 / Literature 200)	
文学と社会 L E	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
中澤 忠之	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水4/Wed.4	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずですが、しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

【到達目標】

創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

配布する資料をもとに講義するスタイルです。必要に応じてリアクションペーパーを書いてもらいます（3回程度）。授業中・授業後の質問やリアクションペーパーにおける有意義なコメントは授業内で紹介し、今後の授業に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第2回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第3回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第4回	近代文学の誕生①	言文一致（いわゆる近代日本語）を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。言文一致形成の全体像を確認する。
第5回	近代文学の誕生②	言文一致形成の初期（明治10から20年代）の状況 작품을参照しながら確認する。
第6回	近代文学の誕生③	言文一致形成の後期（明治30から40年代）の状況 작품을参照しながら確認する。

第7回	文学史第1期（明治20～40年の文学）	リアリズム（写実主義）は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。
第8回	文学史第2期（大正時代の文学）	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にしたい。
第9回	文学史第3期（1920年代）①	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。
第10回	文学史第3期（1920年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第11回	文学史第4期（1930年代）①	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。現代の表現とも関係させる。
第12回	文学史第4期（1930年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第13回	現在の文学との接点	過去の文学を参照することで現代文学の読み書きにいかに応用できるのかを考察する。
第14回	まとめと試験	これまでの講義の総括。今後の現代文学の読み方についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行って書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が収まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人はアマブラの作品列がどういうジャンル区分に従っているのかよくわかっているはず。アイドルグループのファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはず。文学も同じです。

小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』（村上春樹）と『時をかける少女』（筒井康隆）と『涼宮ハルヒの憂鬱』（谷川流）の3冊を読み比べてみてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後の試験が評価の主要な対象となります。3回予定のリアクションペーパー（400字程度）も評価したい。評価の割合は最後の試験が70%、リアクションペーパーを30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるころではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning objectives】

This lecture aims to give techniques and cultures to read novels, using the work of modern Japanese literature.

How to write and read novels is not single. In this lecture, you can learn that diversity exists in how to write and read novels. Let's begin by reviewing the origins of the novel. And according to the history of literature, We confirm that the way of writing and reading the novel has changed.

【Learning activities outside of classroom】

Please try reading literary works for about 4 hours per week. I recommend reading while being aware of the genre. If you don't know the genre, check the shelves in the bookstore.

【Grading Criteria /Policy】

The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70% for the final report and 30% for short reports.

LIT200LA (文学 / Literature 200)

文学と社会 L F

2017年度以降入学者

サブタイトル：

中澤 忠之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということ考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話題も積極的に扱います。

【到達目標】

これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

配布する資料をもとに講義するスタイルです。必要に応じてリアクションペーパーを書いてももらいます（3回程度）。授業中・授業後の質問やリアクションペーパーにおける有意義なコメントは授業内で紹介し、今後の授業に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第2回	文学が置かれた社会状況	表現規制の最近の動向を解説。
第3回	性表現・暴力表現と規制①	性・暴力表現とその規制の歴史を振り返る。
第4回	性表現・暴力表現と規制②	「わいせつ罪」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第5回	性表現・暴力表現と規制③	「青少年保護」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第6回	性表現・暴力表現と規制④	「児童ポルノ」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第7回	性表現・暴力表現と規制⑤	ネット社会における性・暴力表現について解説する。
第8回	差別表現と規制①	差別表現とその規制の概要を解説する。

第9回	差別表現と規制②	差別の仕組みを知るために、具体的な作品を参照する。
第10回	差別表現と規制③	戦後の日本における差別の歴史を振り返る。
第11回	差別表現と規制④	差別には複数のパターンがあるので、それらを分節化して解説する。
第12回	差別表現と規制⑤	差別表現とその規制の現在。特にネット社会における差別表現（MeToo運動など）を考える。
第13回	差別表現と規制⑥	最近話題になる嫌韓・嫌中の「ヘイトスピーチ」について考察する。
第14回	まとめと試験	これまでの講義の総括。表現の自由とその規制の社会的バランスを考える。 また、補足として、著作権やプライバシーの問題から表現の社会性にも言及したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず何より活字や映像作品に触れてください。そして、表現規制の話は常時ニュースになるので、そのつど気にかけて、新聞やウェブでの議論に触れてほしい。たとえば、昨今話題になっている性表現なり差別表現に対する規制強化の動き、あるいはネット上で盛んに行われている著作物の無断コピーや二次創作等について考えてみるのもよいでしょう。
ここ数年は、美術家の性的な表現物がわいせつ罪に問われたり、また差別的なヘイトスピーチがメディアで盛んに取り扱われています。文学作品にとらわれず、こういった表現にかかわる社会的問題に注目してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後の試験が評価の主要な対象となります。3回予定のリアクションペーパー（400字程度）も評価したい。評価の割合は最後の試験が70%、リアクションペーパーを30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるころではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。
映像を積極的に導入し、時事的な話題も取り入れました。

【Outline (in English)】

【Course outline】 【Learning objectives】

The novel has a very political and social part. Literary works are not mere fiction. They sometimes produce discrimination and prejudice of the world, and they also hurt certain individuals and groups. Or you can not ignore radical violence or sexual expression that is criticized as disturbing the social order.

On the other hand, literature also has a history of fighting social discrimination and prejudice. This lecture will cover these political and social aspects of literary works. Sexual expression and discrimination are the main material.

Our goal is to acquire a culture that allows us to understand topics such as freedom of expression and violence of expression through legal regulations and the history of expression.

【Learning activities outside of classroom】

Please spend about 4 hours per week reading literary works and watching video works. And since the topic of freedom of expression and expression regulation is always news, please contact the discussion in newspapers and the web.

【Grading Criteria /Policy】

The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70% for the final report and 30% for short reports.

LIT200LA（文学 / Literature 200）

日本文学と文化LG

2017年度以降入学者

サブタイトル：宮崎駿の文学世界

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アニメーションは、日本が誇るエンタメであり、コンテンツであり、文化遺産です。アニメーション制作の現場からは数多くのクリエイターが生みだされましたが、その中でも宮崎駿の存在は突出しています。アニメーションを普段鑑賞しない人でも、これまでの人生の中で宮崎作品との出会いの機会があったはずで

す。宮崎アニメは日本だけでなく、世界中に多くのファンを持ち、国内外の重要な賞を数多く受賞しています。宮崎作品の広がり、たとえば『千と千尋の神隠し』の舞台化（2022年に日本で初演、2024年はロンドン公演、25年は上海公演、26年は韓国公演）や、ピリー・アイリッシュが『千と千尋の神隠し』にインスパイアされて制作した楽曲"CHIHIO"（2024年）などに見てとることができます。宮崎監督がアニメーションの世界に入ったのは、1960年代です。アニメーターとして研鑽を積み重ねながら、原画や脚本や画面構成を担当する中で、NHKの長編テレビアニメ『未来少年コナン』（1978年）で初めて監督として仕事をします。本授業では、『未来少年コナン』に始まる宮崎駿の全監督作品について、それぞれ作品分析を行いながら、宮崎監督が各作品で何をテーマにどのような世界を描こうとしたのか検証するとともに、宮崎監督の思想の深まりに注目していきたいと思います。

誰もが日常的に親しんできた宮崎監督のアニメーション作品を、いま一度新たな視点で読み直してみると、これまで気づけなかった問題系や、登場人物の相関関係、ストーリーの奥深さ、物語上のたぐらみ、そして宮崎作品の根底にある文学性に気づくことになるはずです。

宮崎監督の全作品を辿る旅を通して、皆さんと一緒に宮崎監督とその作品の新たなイメージに到達したいと考えています。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションをシーンやカットごとに解説する技術を身につけ、アニメ固有の表現方法やギミックや物語構造などについて、自分の力で読み解き、考察し、論述する力の獲得を目指します。

関連資料を参照し、他者の意見や論考に目を通し、作品の背景にある文化的、社会的、民俗的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はプレゼンテーション（資料提示）と講義をあわせた形で行います。宮崎監督作品を初期から最新作まで、重要なシーンを観覧しながら、解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのは、シーンを構成する一つひとつの短いカットです。カットは継起的な物語を構成する最小の「部品」ですが、同時にクリエイターの「世界そのものの純粋な視線」が投影されています。

その意味で、作品の基礎であり設計図ともいえる絵コンテの存在が大きくなるでしょう。絵コンテを出発点に最終的な作品に仕上がるまでには、多くの制作プロセスがあります。アニメーションの制作現場でどのようなことが行われているのか、そうした点にも注目していきたいと思います。さらに宮崎監督自身の言葉、関連資料の紹介、他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

授業内容に関する一般的な質問は、メール（eno@mar.email.ne.jp）で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	宮崎駿、その人と作品について
2	『未来少年コナン』	理想郷を求めてさまよう人々の群像劇
3	『ルパン三世 カリオストロの城』	「城」のイメージに潜む権力構造
4	『風の谷のナウシカ』	終末世界に重ねられる神話世界
5	『天空の城ラピュタ』	活劇形式の中で描かれる、少年少女のイメージの継承と発展
6	『となりのトトロ』	トトロという「他者」との出会いと、その意味
7	『魔女の宅急便』	「少女」と「猫」のいる魔法世界
8	『紅の豚』	「世情」に抗う主人公の決意と行動
9	『もののけ姫』	神と人、自然と文化が交錯し衝突する大群像劇
10	『千と千尋の神隠し』	「行きて帰るし物語」に宿る根源的な力
11	『ハウルの動く城』	「城」と「魔法」に彩られた世界の造形と継承
12	『崖の上のポニョ』	異種交流譚としての読み解き
13	『風立ちぬ』	「戦争」を描くということ
14	『君たちはどう生きるか』	宮崎作品の集大成をどう読むか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宮崎監督作品のほとんどは鑑賞済みと思いますが、もし未鑑賞のものがあれば、時間がある時に観ておくようにしてください。その際、ただ受動的に消費するのではなく、作品について積極的に考え、書いたり話したりする習慣をつけましょう。

授業で取り上げる映像作品を鑑賞する中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を適宜行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書は膨大に存在するので、授業時その都度紹介します。大学図書館などを利用して、各自参考資料を参看するようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100％）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業で取りあげた宮崎駿監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。

詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

これまで宮崎作品に触れる機会が少なかった学生にも、理解しやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

アニメーションや映像表現、現代日本文学、同時代の表現全般に興味をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。

X (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Animation is Japan's proud source of content and cultural heritage. Numerous creators have emerged from the field of animation production, but Hayao Miyazaki stands out among them. Even those who do not usually watch animation must have seen Miyazaki's works at some point in their lives. He has many fans not only in Japan but also around the world, and has received many important national and international awards.

In this class, we will attempt to analyze all of Hayao Miyazaki's works, while examining what themes and what kind of world he tried to depict in each of his films, as well as focusing on the depth of his philosophy.

【Learning Objectives】

The goal of this course is for students to acquire the skills to analytically decipher Hayao Miyazaki's animations as a visual works, scene by scene, and to be able to discuss in their own words the unique expression methods and narrative structure of animation.

【Learning activities outside of classroom】

When watching animations, develop the habit of objectively writing and talking about the details of the story in your own words, rather than just passively watching the animation films. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one or more of Miyazaki's works discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop your own argument in your own words about the work you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIT200LA（文学 / Literature 200）

日本文学と文化LH

2017年度以降入学者

サブタイトル：現在日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を解説を加えながら観賞しつつ、原作小説を講読していきます。2025年に劇場公開された以下の12作品の中から6～7作品を選んで取りあげます。小説（文学表現）と映画（映像表現）を比較対照し、分析を行うことで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現方法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を深く読む力の獲得を目指します。

＊

筒井康隆『敵』（吉田大八監督）

榆周平『サンセット・サンライズ』（岸善幸監督）

馳星周『少年と犬』（瀬々敬久監督）

吉田修一『国宝』（李相日監督）

辻村深月『この夏の星を見る』（山元環監督）

真藤順丈『宝島』（大友啓史監督）

新海誠『秒速5センチメートル』（奥山由之監督）

西尾潤『愚か者の身分』（永田琴監督）

金原ひとみ『ミーツ・ザ・ワールド』（松居大悟監督）

呉勝浩『爆弾』（永井聡監督）

柚月裕子『盤上の向日葵』（熊澤尚人監督）

村田沙耶香『消滅世界』（川村誠監督）

＊作品の配列は劇場公開日順です。

【到達目標】

現代日本文学を代表する多様なジャンル（純文学、エンターテインメント、社会小説、ミステリなど）の小説を読む経験を重ねることで、複雑な言語構成体としてのテキストから様々な要素を抽出し、整理し、分析し、自分の言葉で批評的なアウトプットができるようになります。

加えて、個人、社会、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。原作小説を講読し、作品分析を行った後、映画の一部を解説を加えながら観賞します。同一の物語内容を含む言語メディアである小説と映像メディアである映画を比較検証することによって、情報提示、叙述、人物設定、時間構成、プロット構成など、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、それぞれの作品について深く思考し、自分の考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。

小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業は進めていきます。

授業内容に関する一般的な質問は、メール（eno@mar.email.ne.jp）で受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	原作小説の講読(1)	原作小説の講読・分析・考察
3	映画観賞と解説(1)	原作の映画鑑賞と解説・考察
4	原作小説の講読(2)	原作小説の講読・分析・考察
5	映画観賞と解説(2)	原作の映画鑑賞と解説・考察
6	原作小説の講読(3)	原作小説の講読・分析・考察
7	映画観賞と解説(3)	原作の映画鑑賞と解説・考察
8	原作小説の講読(4)	原作小説の講読・分析・考察
9	映画観賞と解説(4)	原作の映画鑑賞と解説・考察
10	原作小説の講読(5)	原作小説の講読・分析・考察
11	映画観賞と解説(5)	原作の映画鑑賞と解説・考察
12	原作小説の講読(6)	原作小説の講読・分析・考察
13	映画観賞と解説(6)	原作の映画鑑賞と解説・考察
14	秋学期授業のまとめ	秋学期授業のまとめ&レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握したい人は、小説を読んだ上で授業に臨んでください。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外に読み直し観賞し直し、作品の理解を深めるよう努めてください。レポート提出のための事前準備として、自分がレポートの対象として選んだ作品を精読した上で、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を適宜行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う予定の作品の文庫本。

- ・筒井康隆『敵』（新潮文庫）
- ・榆周平『サンセット・サンライズ』（講談社文庫）
- ・馳星周『少年と犬』（文春文庫）
- ・吉田修一『国宝』（朝日文庫）
- ・辻村深月『この夏の星を見る』（角川文庫）
- ・真藤順丈『宝島』（講談社文庫）
- ・新海誠『秒速5センチメートル』（角川文庫）
- ・西尾潤『愚か者の身分』（徳間文庫）
- ・金原ひとみ『ミーツ・ザ・ワールド』（集英社文庫）
- ・呉勝浩『爆弾』（講談社文庫）
- ・柚月裕子『盤上の向日葵』（中公文庫）
- ・村田沙耶香『消滅世界』（河出文庫）

【参考書】

必要な資料はプリントで配付します。

参考書・参考文献は、教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100％）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業でとりあげた小説の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ小説について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

現代日本文学になじみのない学生にもわかりやすい言葉で、解説と考察を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト（<http://enmt.jp>）で確認できます。

X（@enmt）での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We read the original novel after having watched movie works that filmized as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 or 7 works in 2025.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expression words and movies.

【Learning Objectives】

We will read through the original novels after watching films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following 6 or 7 titles after carefully selecting from the works released in 2025.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. Our aim to acquire the ability to read novels from the perspective of what is literature-specific expression.

【Learning activities outside of classroom】

Although the class will be conducted in a manner that can be understood without having read the original novel beforehand, it is best to read the novel in order to grasp the content of the story and the relationships between the characters.

Students are encouraged to re-read and re-watch the novels and films discussed in class outside of class to deepen their understanding of the works. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one of the novels discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop a "theory" in your own words about the novel you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIN200LA (言語学 / Linguistics 200)

音声学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野は「言語学」と呼ばれています。この「言語」の表現面である「音声を使ったコミュニケーション」のあらゆる側面を研究するのが音の科学、すなわち「音声学」です。

音そのものがある特定のイメージを喚起する現象を「音象徴」といいます。この授業では、音象徴という現象を題材に、「音声学」をできるだけ分かりやすく解説することを目指します。

【到達目標】

1. ヒトが音声を使って話すときに何が起きているか、個々の音（子音・母音）とその連続を発音するしくみを理解する。
2. 音がどのような音響振動として現れるか、阻害音、共鳴音、圧力変化などの概念から理解する。
3. 音象徴の例を通して、母音や濁音の調音と音響を理解する。
4. 身近な音象徴の例を自ら発見し、分析する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず「言語学」は言語をどういうものとして見ているかを概説し、表現面の形式である「音韻」が実質である「音声」によって実現されているという発想に慣れ、「音象徴」と呼ばれる現象の分析に入ります。具体的には、音声がある振る舞いをする時に「なぜそのような振る舞いをするのか」を、音声学で必要になる概念や道具立てを使って分析・研究・理解していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 1	言語とは
2	導入 2	音声とは
3	優しい音、ツンツンした音	どこでどのように発音するか
4	阻害音、共鳴音、圧力変化	阻害音、共鳴音の物理学的な定義
5	大きな音、小さい音	母音と「大きさのイメージ」
6	母音の調音と音響	母音の発音の仕方
7	濁音と向かい合う	聞き取ってみる 調音してみる
8	濁音の調音と音響	有声音と無声音の発音の仕方の違いとイメージ
9	その他の音象徴	音象徴の具体例の「音声学」の概念による理解
10	音象徴研究の実際	音象徴研究の例

11	音象徴・音声学とその関連分野	より広い視点から音象徴・音声学を考える
12	気になる音象徴についての発表 1	受講生が自ら音象徴について調べたことを発表 1
13	気になる音象徴についての発表 2	受講生が自ら音象徴について調べたことを発表 2
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声学はスポーツと同じです。できない発音があっても、訓練すればだれでもできるようになります。発音するしくみを理解し、再現できるように努めてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

川原繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?』 ひつじ書房

川原繁人 (2018) 『ビジュアル音声』 三省堂

J.C. キャットフォード, 竹林滋 ほか (訳) (2006) 『実践音声学入門』大修館書店

国際音声学会 (編), 竹林滋・神山孝夫 (訳) (2003) 『国際音声記号ガイドブック－国際音声学会案内－』大修館書店

【成績評価の方法と基準】

課題：20%

平常点：20%

発表：20%

期末試験：40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Language is a system of linguistic symbols that combines the expressive aspect of the form of speech with the content aspect of the form of meaning. The academic field that focuses on the clarification of this system is called "linguistics". The science of sound, or phonetics, studies all aspects of communication using speech, the expressive aspect of language.

The phenomenon in which sound itself evokes a certain image is called "sound symbolism". In this class, we aim to explain phonetics as clearly as possible using the phenomenon of sound symbolism as a subject.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To understand what happens when humans speak using speech sounds, and how individual sounds (consonants and vowels) and their sequences are pronounced.
2. To understand how sounds appear as acoustic vibrations, based on concepts such as inhibitory sounds, resonant sounds, and pressure changes.
3. To understand the articulation and acoustics of vowels and murmurs through examples of sound symbols.
4. To learn how to discover and analyze examples of familiar sound symbols.

【Learning activities outside of classroom】

Phonetics is just like sports. Even if you can't pronounce something, you can learn to do it with practice. Please try to understand the mechanism of pronunciation and try to reproduce it.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation: 20%, Assignments : 20%, in class contribution: 20%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

2024年度までに「哲学 L I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間とは何か、その本質に哲学的に迫ろうとする哲学の人間論です。

たとえば最初に見る哲学者プラトンは、人間には万人共通の普遍的な本質があると言います。つまりそれによって初めて人間が人間であることができる「万人に共通なもの」があると言います。それは何でしょうか？それは幸福になりたいという願いです。自分が幸せになることへの欲求です。そして自分を幸せにしてくれる（くれそうな）《よきもの》に対する愛です。どんなにすねたり斜に構えて見せようと、本当は幸せになりたいと願っているんだというこの本質は人間である限り誰にも否定できないというのです。ただしプラトンのこの議論には、自分の幸せと他者の幸せのつながりを考える共同体主義な含みがあることにも注意しなければなりません。人間は独りぼっちでは幸せになれないと考えられています。子の幸せを願う親の幸せなどを考えてみるとわかるように、人間の真の幸せは他者の幸せを通じて実現されるような共同的本性を持つと考えられています。

講義ではこのように、それぞれの哲学者が何を人間の本質的な性格として考えているか、を哲学的人間論として取り出していきます。

【到達目標】

到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業内で、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。小テストはその採点結果が模範解答付きで次の授業までに返され、さらに次の授業で解説される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学とは？
2	プラトン(1)	「イデアの萌芽」としての人間存在
3	プラトン(2)	『饗宴』 アリストファネスの話
4	プラトン(3)	『饗宴』 ソクラテスの話
5	西田幾多郎(1)	『善の研究』 - 「知即愛」の命題
6	西田幾多郎(2)	「主客合一」としての人間存在
7	和辻哲郎(1)	『倫理学』 - 「間柄」としての人間存在
8	和辻哲郎(2)	「矛盾の統一」としての人間存在
9	和辻哲郎(3)	『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在

10	和辻哲郎(4)	主体としての風土
11	ブーバー(1)	『我と汝』
12	ブーバー(2)	「汝」としての世界
13	ブーバー(3)	ブーバー:我と汝の芸術論
14	哲学LAのまとめ	哲学のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』

復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた箇所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点100%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

This lecture is a philosophical anthropology that seeks to philosophically explore the essence of what it means to be human.

For example, Plato, the first philosopher we examine, states that humans possess a universal essence common to all. In other words, he asserts there exists a “commonality among all” that is essential for humans to be human. What is this? — It is the desire to be happy. It is the desire to be happy oneself. And it is the love for the “good things” that make (or seem to make) one happy. Plato argues that this essence — the fact that deep down, no matter how sulky or cynical one may appear, everyone truly desires happiness — cannot be denied by anyone who is human. However, it is important to note that Plato’s argument also carries a communitarian implication, considering the connection between one’s own happiness and the happiness of others. It is believed that humans cannot be happy alone. As can be seen when considering the happiness of parents who wish for their children’s happiness, true human happiness is thought to possess a communal nature, realized through the happiness of others.

In this lecture, we will thus extract what each philosopher considers to be the essential character of humanity as philosophical anthropology.

PHL200LA（哲学 / Philosophy 200）			6	近代哲学の原理(1)	デカルト(1)自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
哲学 L B			7	近代哲学の原理(2)	デカルト(2)デカルトの近代的 세계觀
サブタイトル：			8	近代哲学の原理(3)	デカルト(3)近代的主客二元論
大西 正人			9	近代哲学の原理(4)	デカルト(4)「近代的分裂」の予告としての近代的主客二元論
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火5/Tue.5			10	近代哲学の原理(5)	合理論と経験論「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
単位数：2単位			11	近代哲学の発展(1)	カントとヘーゲル(1)カントによる近代哲学の分裂克服の試み
2024年度までに「哲学 L II」の単位を修得済みの場合、履修不可			12	近代哲学の発展(2)	カントとヘーゲル(2)カントのアンチノミー論
その他属性：〈優〉			13	近代哲学の発展(3)	カントとヘーゲル(3)ヘーゲルの弁証法的世界觀
			14	近代哲学の発展(4)	カントとヘーゲル(4)ヘーゲルの弁証法的世界觀その2
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
万学の父ともいわれるアリストテレス流の考えによれば哲学は他の個別の学問と違って、その対象は経済だけとか物理だけとか単に個別の領域や次元の原理にすぎないのではなく、万物（あらゆるもの）の存在の原理の探求である。しかしこうした考えかたは、特に近代になって専門的な学問が発展してくれば非科学的な大風呂敷だとして評判が悪い。そんな大風呂敷を広げているから哲学は、いつまでも学問全体の土台となるべき共通の原理ひとつ見つけられないのだ、唯物論的だったり観念論的だったり、自然主義的だったり反自然主義的だったり、その他もろもろの対立に引き裂かれ支離滅裂となり、学問として成り立たないありさまではないかというわけである。しかしこの講義では、やはり哲学にも共通の土台となる原理があるのだという見方を伝えたい。その原理とは、哲学が探求しようとするような万物の存在に対してはもはや外部は存在しない、存在以外のものは無であるという存在論である。そしてそのように外がない存在そのものに対しては、有限なものに対してのように外からの強制や破壊は起こりえない、だから存在のあり方は存在それ自身に由来し存在そのものは自己形成的であるという自己形成的存在論である。講義ではこうした自己形成的存在論がさまざまな対立的な哲学諸体系を生み出す共通の土台として垣間見えるのだという観点で哲学の歴史をふりかえる。			講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた個所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【到達目標】			【テキスト（教科書）】		
受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。			こちらでプリントを用意します。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			【参考書】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			授業中に指示します。		
【主な授業方法】			【成績評価の方法と基準】		
L 講義 /Lecture			原則、授業中に行われる上記小テストの合計点 100%で評価。		
【授業の進め方と方法】			【学生の意見等からの気づき】		
講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業内で、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。小テストはその採点結果が模範解答付きで次の授業までに返され、さらに次の授業で解説される。			毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			【学生が準備すべき機器他】		
なし / No			グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PCが望ましい。		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			【その他の重要事項】		
なし / No			ノートをとることが大切です。		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	ガイダンス	哲学LBへの導入			
2	哲学の基本的性格(1)	今西錦司(1)生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として			
3	哲学の基本的性格(2)	今西錦司(2)生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として その2			
4	哲学の根本原理(1)	アリストテレス(1)自己形成的世界観としての形而上学			
5	哲学の根本原理(2)	アリストテレス(2)自己形成的世界観としての形而上学 その2			

【Outline (in English)】

According to the Aristotelian school of thought, also known as the father of all sciences, philosophy is different from other individual sciences in that its subject is not merely the principle of an individual domain or dimension, such as economics alone or physics alone, but the search for the principle of the being of all things (everything). However, this way of thinking has a bad reputation as unscientific big talk, especially in modern times when specialized studies have developed. According to this modern view, it is because of this grandiose big talk that philosophy has never been able to find a common principle that should be the basis of the entire discipline, and it has become torn apart by various conflicts such as materialism versus idealism, naturalism versus anti-naturalism and so forth, and has become incoherent, making it unsustainable as a science. However, in this lecture, I would like to convey the view that philosophy also has a principle that is the common ground for all philosophies. This principle is the ontology, which states that there is no outside to the being of all things, which philosophy seeks to explore, and that anything other than being is nothing. And for such a being that has no outside, there can be no coercion from the outside or external destruction, as there is for finite things. Therefore, the way of being is derived from the being itself, and the being itself is self-forming. In the lecture, I will review the history of philosophy from the viewpoint that this self-formation ontology can be glimpsed as the common ground that gives rise to various opposing philosophical systems.

PHL200LA（哲学 / Philosophy 200）	
哲学 L A	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
白根 裕里枝	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木4/Thu.4	
単位数：2単位	
2024年度までに「哲学LⅠ」の単位を修得済みの場合、履修不可	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学という難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指しているが、善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、哲学を学ぶことが必要なのである。哲学はあらゆる学問の基礎である。学生は、何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【到達目標】

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学LAでは、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度、この講義は、対面授業とオンライン授業を隔週で交互に行う予定です。どちらの場合も授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。オンラインの回は課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。課題やコメントへのフィードバックは、対面授業の初めに行う予定。なお、教室収容定員を超過した場合は抽選を行うので、人数確認のために、履修を予定している人は第一回目までに（仮）登録するように。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論	No.1,授業の概略、足の裏に影はあるか？

2	哲学とは何か	No.2,「哲学」という語の由来、用例～ペリクレスの演説
3	哲学の誕生	No.3,「哲学」という語の用例2～知ることを欲する
4	哲学の出発点1	No.4,無知の自覚と愛知,ソクラテスの死と哲学（歴史的背景）
5	哲学の出発点2	No.5,無知の自覚と愛知
6	哲学の出発点3	No.6,『ソクラテスの弁明』を読む
7	その他の出発点	No.7,その他の出発点、驚き、懐疑、絶望…
8	哲学とは何か・まとめ1	No.8,愛の3つの対象と知への愛
9	哲学とは何か・まとめ2	No.9,知への愛、学期末レポート1提出
10	哲学と科学1	No.10,知についての考察
11	哲学と科学2	No.11,部分と全体、現象と本質・法則と原理、仮説性の自覚と原理の探究
12	哲学と科学3	No.12,分析と反省、知るものと知られるもの、薔薇の木に…
13	哲学と科学4	No.13,事実と価値、手段と目的、対象の知と主体知、哲学と科学の相補性
14	哲学と科学、まとめ	学期末レポート2提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみる。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。
『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編―フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房
『哲学の歴史』1～5、中央公論新社
『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40％）と、学期末試験（レポート）（60％）によって評価する。学期末のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

★AIについては、AIを用いた記述はもちろん、AIを自分の文章の修正に用いることも、疑わしい場合を含めて一切認めないので、AIを利用しないように注意すること。毎回、自分の言葉で書くこと。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合は、「学習支援」を通じて、資料の配布や課題の提出などを行うので、できるだけパソコンで「学習支援」を見たり、課題を提出したりすることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to sciences.

At the end of the course, students are expected to understand much better what philosophy is through the knowledge about the origins of Western philosophy.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report: 60%, Short reports: 40% and in-class contribution.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

2024年度までに「哲学 L II」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学LBでは、「III. 哲学と宗教」、「IV. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと願っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教について、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」とことと「知る」とこととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今年度、この講義は、対面授業とオンライン授業を隔週で交互に行う予定です。どちらの場合も授業は基本的にプリントを用いた講義形式で進める。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、幸福をめぐる哲学を考えてゆく。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。

オンラインの回は課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。課題やコメントへのフィードバックは、対面授業の初めに行う予定です。なるべく哲学LAから取るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序・哲学とは何か？、復習	No.1, 哲学と科学と宗教の関係
2	哲学と宗教の相違点	No.2, 知の立場と信の立場
3	ユダヤ人とユダヤ教 1	No.3, ユダヤ人とは
4	ユダヤ人とユダヤ教 2	No.4, 旧約聖書とメソポタミア
5	キリスト教とは	No.5, キリスト教——愛の宗教
6	ギリシア哲学とキリスト教	No.6, 知と信の葛藤
7	現代における宗教の存在理由	No.7, 人間知性の偉大さとその限界
8	宗教心の源泉	No.8, パスカールとアウグスティヌス・自由意志と悪の問題
9	哲学と宗教、まとめ	No.9, 自力と他力——人間の強さと弱さについて, 学期末レポート1 提出
10	哲学と幸福（善き生） 1	No.10, 幸福論——哲学とよき生, 幸福は知による
11	哲学と幸福（善き生） 2	No.11, 意志の弱さと選択の問題、無知と不幸
12	哲学と幸福（善き生） 3	No.12, 正義と幸福、善と快——ソクラテスの場合
13	哲学と幸福（善き生） 4	No.13, カリクレス説、ソクラテスの後継者たち
14	まとめと解説	学期末レポート2 提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んでみて下さい。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各々2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』

内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40％）と、学期末試験（レポート）（60％）によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

★ AI については、AI を用いた記述はもちろん、AI を自分の文章の修正に用いることも、疑わしい場合を含めて一切認めないで不合格とするので、AI を利用しないように注意すること。毎回、自分の言葉で書くこと。酷似したレポートはすべて減点の対象とする。AI を用いたと疑われる場合は証拠を挙げてしつこく追求するので覚悟すること。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合は、「学習支援」を通じて、資料の配布や課題の提出などを行うので、できるだけパソコンで「学習支援」を見たり、課題を提出したりできることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

At the end of the course students will be able to understand the difference between philosophy and religion and find in what point the clear distinction should be made between them. Students, what is more important, will be able to find the key to understanding of happiness.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report: 60%, Short reports: 40% and in-class contribution.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：社会思想史

政井 啓子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期では、ヨーロッパ社会思想史における、古代ギリシャから近世までの基本的な諸思想を学びます。

「社会思想史」は、「人間と社会共同体との関係はどうあるべきか」という問題についての人類の探求の歴史です。

古代ギリシャから近世まで、哲学者たちは「自然本来の恒常不変な秩序」を探求していました。この「恒常不変な秩序」とは、人間にとって変更不可能なものであり、人間社会での、真偽・正不正・美醜善悪などを区別するための基盤となるものでもあります。探究の仕方は、知性主義あるいは感覚経験重視など、哲学者によって異なり、また「人間に認識可能な恒常不変な秩序というものはない」という相対主義や懐疑主義思想もあります。このような探究に基づいて、哲学者たちは多様な世界観と人間観を提示し、そして様々な望ましい社会のあり方を考えました。

本授業では古典にふれながら、順序正しく考えることの大切さ、常識や教科書的な通説とされる事柄を疑うということの重要性など、学生が人間の思考活動の豊かさを実感して、さらに自分の考えを具体的な表現で論理的に説明できるようになることを目指します。

【到達目標】

(1) 学生が、古典思想を学ぶことを通して、論理的な思考法と、「恒常不変な秩序」についての諸研究を理解する。

(2) 学生が、現代社会の諸問題についての冷静な分析力や判断力を養い、自分の考えをできるだけ明確にし、文章として表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式です。毎回、授業のレジュメと資料を配布し、それを元に解説します。

受講生には、授業後にリアクションペーパー（質問・感想・意見）を提出してもらい、次回の授業でそのいくつかを匿名で紹介し、コメントします。学期中に小レポートを提出してもらいます（3～5回の予定）。期末レポートは、最終授業後1週間以内に、学習支援システムから提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の概説	古代から近世までの思想の流れ。 授業の進め方の説明
第2回	アテネ民主政時代の思想	「自然本来の秩序」と「人間社会の法」
第3回	プロタゴラスの思想 (人間は万物の尺度である)	民主政と道徳的相対主義
第4回	ソクラテスの思想	「愛知の精神」と「無知の自覚」

第5回 プラトンのイデア論 「同一不変であるもの」

第6回 プラトンの国家観 「理想国」と民主政

第7回 アリストテレスの思想 人間の幸福と社会共同体

第8回 ヘレニズム時代の思想 政治的自由の喪失と個人主義思想

第9回 ルネサンスの思想と科学革命 古代哲学の復興と「自然」の探究

第10回 デカルトの思想 「私は考える、ゆえに私は在る」
自然学（自然科学）の基礎付け
「科学」と「技術」と「社会制度」

第11回 自然科学の発展 「社会契約説」

第12回 自然法思想

第13回 道徳哲学の2潮流 利己主義と利他主義

第14回 モラルセンス説の展開 ヒュームとアダム・スミスの思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業で配布する資料および授業内で紹介する文献を読んで、準備と復習をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『社会思想史』（法政大学通信教育部 発行）。プラトンやアリストテレスやデカルトなどの哲学者の著作、その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度と上記「到達目標」の達成度によって評価します。大体の目安として、平常点（リアクションペーパー）30%、小レポート20%、期末レポート50%です。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を工夫し、授業内容をより理解しやすく伝えるよう努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces some fundamental thoughts in the history of European social thought from ancient Greece to the early modern period, to students taking this course. From ancient Greece to the early modern period, philosophers sought "the constant and unchanging order of nature." This unchangeable order of nature is also the basis for discriminating between right and wrong, good and evil, etc. in human society. Through such quests, philosophers expressed diverse opinions about the world and human beings, and devised various ideal social systems.

(Learning Objectives)

(1) The goals of this course are for students to understand logical thinking, and recognize researches on "constant and unchanging order", by learning classical philosophy.

(2) At the end of this course, students are expected to be able to calmly analyze various problems in modern society, clarify their thoughts and express them in logical sentences.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports: 25%, Reaction papers: 25%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

哲学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 由加里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、社会思想としての「フェミニズム」について考察することである。現代の日本社会において、ジェンダー格差が問題にされることは多い。メディアの報道で世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数のランキングなどを目にすることもある。「フェミニズム」は女性解放とジェンダー平等の実現を課題にしてきた社会運動であり、社会思想の一つである。本講義では、「フェミニズム」の歴史的意義と現代的価値について学び、現代社会に存在する具体的な問題、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどに対する考察と分析、対象方法などを考えることを目的としている。また、ジェンダー概念によって開かれた問題、性的マイノリティの権利問題などについても考察研究する予定である。

【到達目標】

社会思想に関する基本的な歴史を踏まえつつ、社会思想としての「フェミニズム」について論じられるようになることが本授業の目的である。歴史的な事象や現在世界および日本社会で起こっていることについての確かな情報の把握、学問的分析を行い、感情論ではない自分なりの見解を正しい知識の基づいて文章化できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、PowerPointを使った講義と映像資料などを活用し、ディスカッションとレポート（リアクションペーパー）作成によって構成される。レポートは、大学の「課題」提出システムを使ったデジタルでの提出を予定している。リアクションペーパーについては、講義内で講評し特に優れたものについては、授業中に匿名で紹介する予定である。資料などはプリントアウトしたものを教室で配布予定。

また、コロナ禍が収束せず、対面授業が不可能な場合は、以下のような形で講義形式になる。

【遠隔授業の場合】

PowerPoint ファイルに動画を載せた動画やインターネット上の動画視聴と課題によって、構成される。質問などについては、授業時間中に文字チャットで対応。Google のシステム、ハングアウトを利用。課題は、Hoppii のシステムを利用し個別に採点して返却。こちらへの参加は、大学から与えられているメールアドレスでの参加をすること。

「学習支援システムガイド」の「お知らせ」から、授業動画、参照動画へのリンク先を指示する。教材のところから、各自レジュメ、資料などをダウンロードして学習に役立てること。

動画の視聴可能期間は、1 週間。課題提出も 1 週間後に設定予定。オンデマンドなので、動画は何度でも視聴可能。質問や文字チャットによる意見交換（自由参加）は、水曜日 4 限の授業時間中に行う。課題提出をもって、出席とする。

なお、授業計画内容は学生の理解度などによって前後したり別のものに差し替えられる可能性がある。「学習支援システム」のお知らせを毎回確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業説明及び社会思想とフェミニズムの関係について。	課題提出の方法、成績評価の認定、レポートのレベルや採点基準の説明。 簡単に講義全体のテーマについての説明を行う。課題の出題あり。
第2回	社会思想とはどのような学問か？（概論）	社会思想史という学問の歴史と対象領域についての基礎的なことについての講義を行う。
第3回	フェミニズムの歴史①	フェミニズム前史から第一波フェミニズムの成立まで。フランス革命から婦人参政権運動。
第4回	フェミニズムの歴史②	社会運動としての「フェミニズム」から第二波フェミニズム成立について歴史的経緯を学ぶ。
第5回	第二波フェミニズムの問題射程と現代社会	婦人参政権獲得後の「フェミニズム」の課題について学ぶ。アメリカとフランスの事例について。
第6回	日本におけるフェミニズム	「ウーマンリブ」とは何であったのか？ 第二波フェミニズムの日本への影響について。
第7回	フェミニズムとジェンダー概念	ジェンダー概念の意味と歴史的経緯を学ぶ
第8回	ジェンダーに対する社会的理解と誤解	日本の社会において「ジェンダー」という言葉がどのように使われてきたかを学ぶ。
第9回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題①	ジェンダー・アイデンティティについて学ぶ
第10回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題②	性的指向について学ぶ。いわゆる「LGBT」問題について考察する。
第11回	ジェンダー差別という問題設定	社会的不平等論と現代の日本社会について学ぶ
第12回	性暴力について	性暴力被害とはどのような「被害」であるのかを分析する。可能ならば動画の紹介をする。
第13回	社会問題としてのセクシュアル・ハラスメント	セクハラ問題の現状と分析
第14回	ジェンダー論とフェミニズムについて	フェミニズムは過去の社会思想なのかを問い直す。参考資料としての動画視聴と最終課題の提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献、資料などを読み、どの知識が不足しているのかを確認し、各自補足すること。参考文献、参考資料などを読み込んでおいてほしい。

授業後については、授業時間内では十分な形で各種の資料を紹介出来ない。できる範囲で映像資料を視聴したり、配布された文章資料などの読解をすすめる努力をしてもらいたい。授業内で配布された参考文献リストなどに目を通し、学習を深めておこう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した授業レジュメ、デジタルデータは学習支援システム「教材」フォルダにPDFファイルもしくはjpg ファイルの形でアップロードする。

【参考書】

『フェミニズム ワードマップ』江原 由美子（編集）、金井 淑子（編集）新曜社（1997/09）
『フェミニズムの歴史』ジャン・ラボー著 加藤康子訳新評論（1987/10）

『現代日本女性史ーフェミニズムを軸として』 鹿野政直 有斐閣 (2004/07)

『女性解放思想史 ちくま学芸文庫』 水田珠枝 筑摩書房 (1994/05)

『フェミニズム (思考のフロンティア)』 竹村和子 岩波書店 (2000/10/20)

その他授業時、レジュメなどで参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」で出題されるレポート課題をすべてを提出することが必須である。提出されたレポート課題の内容から到達目標の達成度合いを判断して成績を評価をする。

レポートの評価は、課題提出の回数×取得点数/10＝総合点数→100点換算

として点数化

レポートもしくはテストは各回10点満点

＊課題の回数は学生の理解度と授業進度によって変わる。課題については授業時に詳細を発表するので、欠席した場合は各自情報を集めること。

レポート 80% 平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

定員未満の人数での教場利用だったが、多少息苦しさを感じた。人数が多いため細部に目が行き届かず、いねむりやサボりに対する配慮が難しかった。まじめに授業に取り組めるように環境面やコミュニケーションにあり方に配慮したいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出に「学習支援システム」を利用するのでレポート提出、文字チャットに耐えうる情報機器及び通信環境が必要。

【その他の重要事項】

この講義では、セクシュアリティについて語ることが多い。特に、第十二講、第十三講では、「性暴力」がテーマになる。PTSD、フラッシュバックなどを引き起こす可能性がある。心身の健康を考えて、受講を検討して欲しい。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to consider "feminism" as social thought. "Feminism" is a social movement, a social movement that has been a subject of the realization of liberation of women and gender equality. This lecture aims to learn about the historical importance and contemporary value of "feminism", to consider and analyze concrete problems existing in contemporary society.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to be able to gain knowledge about feminism as a social thought and write essays on modern gender issues.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to read references and materials to see what knowledge they lack and supplement themselves.

[Grading Criteria /Policies]

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports : 80%、in class contribution: 20%

PHL200LA (哲学/Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

上田 瑞季

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、応用倫理学の一分野であるビジネス倫理学 (business ethics) を学ぶ。その結果として、各学生が人生において重大なモラル・ジレンマ、倫理的ジレンマに対峙した際に、いかに対応すべきかを検討できるようになることを目指す。

【到達目標】

- (1) ビジネスと倫理（学）の関係を自分なりに説明できる
- (2) 同一の物事・事柄に対して、多角的に把握かつ思考することができる
- (3) 功利主義・義務論・徳倫理学のそれぞれの理論的立場から事例を説明できる
- (4) ビジネスパーソンとしての良識・思考力・判断力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 授業形態：対面・講義形式（ただし、発言を求めることがある）
- 授業の進め方：講義＋小課題＋ディスカッション
- フィードバック：授業冒頭で、前回提出された小課題からいくつか取り上げる予定。
- 授業の課題：原則として、毎回課す予定。授業で取り上げた問題に対して、小課題を提出してもらい、思考を促し、自らの考えを言語化するスキルの向上を目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の概要・狙い・進め方・倫理学の重要性などを確認する
第2回	ビジネス倫理学とは何か	ビジネス倫理学とは何かを学ぶ
第3回	理論①：功利主義	ベンサム功利主義を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第4回	理論②：義務論	カント倫理学を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第5回	理論③：徳倫理学	アリストテレスおよび現代の徳倫理学を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第6回	理論④：正義論	ロールズの正義論を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第7回	理論⑤：ケアの倫理	ギリガンのケアの倫理を学び、その視点から具体的な事例を考えてみる
第8回	理論の振り返り・ピアレビュー	これまで学んだ理論を振り返りつつ、中間レポートを提出前に学生間で相互批評する

第9回	理論⑥：企業の社会的責任論	ストックホルダー理論・ステークホルダー理論について学ぶ
第10回	働くこと①：ブルシット・ジョブ	ブルシット・ジョブとは何かを学ぶ
第11回	働くこと②：ブラックバイト・グレーバイト・闇バイト	ブラックバイト・グレーバイト・闇バイトのもつ倫理的問題について考える
第12回	応用①：内部告発・公益通報	三大理論を用いて、内部告発の問題について考える
第13回	応用②：長時間労働	三大理論を用いて、長時間労働の問題について考える
第14回	まとめ・試験	これまでの授業を振り返り、理解を深める（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ジョセフ・R. デジャルダン『ビジネス倫理学入門』（文京学院大学グローバル・カリキュラム研究会訳）、文京学院大学総合研究所、2014年。
梅津光弘『ビジネスの倫理学』、丸善出版、2002年。
高浦康有・藤野真也（編）『理論とケースで学ぶ企業倫理入門』、白桃書房、2022年。
中谷常二（編）『ビジネス倫理学読本』、見洋書房、2012年。
トム・L. ピーチャム&ノーマン・E. ボウイ（編）『企業倫理学』、見洋書房、第1巻（2004年）～第4巻（2017年）。
佐藤方宣（編）『ビジネス倫理の論じ方』、ナカニシヤ出版、2009年。
田中朋弘・柘植尚則（編）『ビジネス倫理学 哲学的アプローチ』、ナカニシヤ出版、2004年 など

【成績評価の方法と基準】

小課題などの平常点（20％）＋中間レポート（40％）＋期末試験またはレポート（40％）。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標60％以上に達した場合を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・最初は文章が書けなくて小課題に取り組むのが大変だったが、続けていくうちに論理的に文章を書けるようになったという声が多かった。毎回小課題が課される授業だと思って履修していただきたい。
・グループワークやディスカッションのおかげで、同じ問題に対して他の学生がどのように考えているかを学べたというフィードバックが多かったため、引き続きその時間を設けていきたい。
・私語する学生が少なく、集中しやすい授業だったという声が多数あった。今年度もそのような授業運営・雰囲気作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って、事前に学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

学生の要望や状況により、シラバスの内容が一部前後したり変更したりする場合があります。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on business ethics, a branch of applied ethics, and learn the basic concepts of ethics. The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics, and to be able to consider how to respond when you face with a serious moral dilemma (ethical paradox or moral dilemma) in your life. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Short reports:20, Midterm report:40, Term-end examination:40.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

上田 瑞季

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、応用倫理学の一分野である未来倫理（future ethics / Zukunftsethik）を学ぶ。その結果として、私たち現代世代が来たる未来世代に対して、どのような「道徳的責任」を担っているのかを検討できるようになることを目指す。

【到達目標】

- (1) 未来と倫理（学）の関係を自分なりに説明することができる
- (2) 同一の物事・事柄に対して、多角的に把握かつ思考することができる
- (3) 倫理学の理論的立場から事例を説明できる
- (4) 私たちが担っている未来世代への「道徳的責任」について考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 授業形態：対面・講義形式（ただし、発言を求めることがある）
- 授業の進め方：講義＋小課題＋ディスカッション
- フィードバック：授業冒頭で、前回提出された小課題からいくつか取り上げる予定。
- 授業の課題：原則として、毎回課す予定。授業で取り上げた問題に対して、小課題を提出してもらう。思考を促し、自らの考えを言語化するスキルの向上を目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の概要・狙い・進め方・倫理学の重要性などを確認する
第2回	未来倫理とは何か	未来倫理・世代間倫理について考える
第3回	理論①：功利主義	パーフィットの功利主義を理解する
第4回	理論②：正義論	ロールズの正義論を理解する
第5回	理論③：ケアの倫理	ギリガンのケアの倫理を理解する
第6回	理論④：責任原理	ヨナスの責任原理を理解する
第7回	理論⑤：討議倫理	アーペルの討議倫理を理解する
第8回	理論⑥：共同体主義	デ・シャリートの共同体主義を理解する
第9回	理論の振り返り・ビ アレビュー	これまで学んだ理論を振り返りつつ、中間レポートを提出前に学生間で相互批評する
第10回	理論⑦：反出生主義	ベネターの反出生主義を理解する
第11回	事例①：気候変動	これまで学んだ理論を用いて、気候変動の問題について考える

第12回	事例②：放射性廃棄物処理	これまで学んだ理論を用いて、放射性廃棄物処理の問題について考える
第13回	事例③：ゲノム編集	これまで学んだ理論を用いて、ゲノム編集の問題について考える
第14回	まとめ・試験	これまでの授業を振り返り、理解を深める（授業内試験を予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年。
キルステン・マイヤー『未来への負債：世代間倫理の哲学』、人文書院、2025年。
戸谷洋志『未来倫理』、集英社新書、2023年。
戸谷洋志『ハンス・ヨナス 未来への責任』、慶応義塾大学出版会、2021年。
戸谷洋志『ハンス・ヨナスの哲学』、角川ソフィア文庫、2022年 など

【成績評価の方法と基準】

小課題などの平常点（20％）＋中間レポート（40％）＋期末試験またはレポート（40％）。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標60％以上に達した場合を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・最初は文章が書けなくて小課題に取り組むのが大変だったが、続けていくうちに論理的に文章を書けるようになったという声が多かった。毎回小課題が課される授業だと思って履修していただきたい。
・グループワークやディスカッションのおかげで、同じ問題に対して他の学生がどのように考えているかを学べたというフィードバックが多かったため、引き続きその時間を設けていきたい。
・私語する学生が少なく、集中しやすい授業だったという声が多数あった。今年度もそのような授業運営・雰囲気作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って、事前に学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

学生の要望や状況により、シラバスの内容が一部前後したり変更したりする場合があります。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on ethics of/for the future, a branch of applied ethics, and learn the basic concepts of ethics. The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics, and to be able to consider moral responsibility we take for future generations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:20, Midterm report:40, Term-end examination:40.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の生命誕生に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自ら思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理学の基本概念	倫理学とはどのようなことを研究対象とする学問なのか、倫理学全般に関して説明する。
第2回	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学	倫理学の3つのレベルについて、その概要を説明する。
第3回	バイオエシックスの誕生	1970年代に米国においてバイオエシックスが誕生した背景を解説する。
第4回	バイオエシックスの諸問題	バイオエシックスにおいて取り扱われるテーマを解説する。
第5回	倫理的価値としての生命	生命や健康は価値あるものとされているが、それはいかなる理由からかを考える。
第6回	生命の誕生と人工妊娠中絶の問題	生殖に関する生命倫理問題を考察する。
第7回	人口抑制と環境問題	生殖に関する生命倫理問題と人口問題や環境問題との関係を考察する。
第8回	「自然」とは何か	倫理問題を考えるうえで「自然」という概念がいかなる意味を持つのかを解説する。
第9回	優生思想	優秀な子孫を残し劣った子孫の出生を防止するという「優生思想」に関する問題を解説する。

第10回	社会ダーウィニズムと人種主義	優生思想と社会ダーウィニズムとの関係を解説し、ナチズムにおける位置づけを考察する。
第11回	人工授精と体外受精	具体的な生殖医療における生命倫理問題を概観する。
第12回	ウォーノック報告と自由主義	英国のウォーノック報告の基本的考え方を解説し、生命倫理学における自由主義について考察する。
第13回	凍結保存の倫理的意味	配偶子や受精卵の凍結保存の持つ意味とそれによってもたらされる倫理的問題を考察する。
第14回	まとめ ※別途期末レポートを提出	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。またプリントやノートを用いて授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門 [第5版]』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％） 期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning the birth of people and learn the basic concepts of ethics.

The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics and to deepen your thoughts through specific bioethical issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:70,Term-end examination:30.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の死に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自らの思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理的観点から見た「人の死」	人の死とはどのようなことかをあらためて生命倫理学の視点から考察する。
第2回	脳死に関する倫理的諸問題	脳死とはどのような状態かを確認し、生命倫理学においてどのような問題を孕んでいるのかを概観する。
第3回	臓器移植と功利主義	臓器移植という医療が、功利主義的な考え方によってどのように正当化されるかを具体的に考察する。
第4回	功利主義の問題	功利主義とはどのような考え方を確認し、その問題点を明らかにする。
第5回	義務論と目的論	功利主義を義務論と対比し、義務論的な考え方について概観する。
第6回	幸福加算の可能性	「最大多数の最大幸福」を原則とする功利主義が前提とする幸福計算の可能性について考察する。
第7回	社会的コンセンサスの倫理的意味	合意形成の可能性について倫理的視点から考察する。
第8回	安楽死・尊厳死・自然死	安楽死とはどのようなことかを解説し、安楽死に関する生命倫理問題を概観する。
第9回	生命の質	安楽死容認の根拠とされる考え方を考察する。

第10回	パターナリズム	自律原理に基づく医療とは対置されるパターナリズムの内容とその問題点を明らかにする。
第11回	自己決定の問題	安楽死の根拠とされる自律原理に関わる問題を明らかにする。
第12回	「判断能力」の有無	自己決定権行使の前提となる「判断能力」について、その内容を考察するとともに、問題とされる具体的事例を考察する。
第13回	「人格」概念	人間とはいかなる存在かをパーソン論の観点から考察する。
第14回	まとめ ※別途期末レポートを提出	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。また授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門 [第5版]』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％） 期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning human death and learn basic concepts of ethics.

The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics and to deepen your thoughts through specific bioethical issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:70,Term-end examination:30.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代思想の倫理

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、いわゆる「現代思想」と総称される思想的潮流（実存主義、構造主義、ポスト構造主義、現象学など）を、単なる理論史として理解するのではなく、そこに伏在している倫理的問題系を析出し、現代社会における生のあり方・他者との関係・責任の条件を批判的に問い直すことである。

とりわけ、本授業では、規範や価値を直接的に提示しない思想が、いかなる仕方で倫理的含意を孕み、また同時にいかなる倫理的困難や危険性を抱え込んでいるのかを検討することを通じて、「倫理とは何か」という問いそのものを再定義することを目指す。

こうした目的を通じて、本授業では現代社会における多様な倫理的諸問題に対してどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにする。

倫理学 L I では、まず現代思想に影響を与えた思想やその源流に位置付けられる思想に焦点を当てることから始め、その後、現代思想の思想的潮流に分け入っていく。具体的には、現代思想に影響を与えたスピノザの『エチカ』、ヘーゲルの倫理思想、そして現代思想の源流に数え上げ得られるマルクスの思想、ニーチェの「生の哲学」、ソシュールの「一般言語学講義」など現代思想に影響を与えた諸学説を倫理的観点から取り上げる。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指します。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目指します。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。原則対面授業を行います。ただし、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7回以下）で、オンライン授業を実施する場合もあります。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、毎回の授業課題を提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代思想の倫理	授業ガイダンスを行う。また、現代思想とそこに垣間見える倫理的問題についての概説も行う。
第2回	現代思想への影響 (1)：スピノザの倫理学 (1)	現代思想、とりわけポストモダンの哲学者ドゥルーズに影響を与えたスピノザの『倫理学』について「感情」という観点から検討する。
第3回	現代思想への影響 (1)：スピノザの倫理学 (2)	現代思想、とりわけポストモダンの哲学者ドゥルーズに影響を与えたスピノザの『倫理学』について「心身並行論」という観点から検討する。
第4回	現代思想への影響 (1)：スピノザの倫理学 (3)	現代思想、とりわけポストモダンの哲学者ドゥルーズに影響を与えたスピノザの『倫理学』について「心身並行論」という観点から検討する。
第5回	現代思想への影響 (1)：スピノザの倫理学 (4)	現代思想、とりわけポストモダンの哲学者ドゥルーズに影響を与えたスピノザの『倫理学』について「一義性」という観点から検討する。
第6回	現代思想への影響 (1)：スピノザの倫理学 (5)	現代思想、とりわけポストモダンの哲学者ドゥルーズに影響を与えたスピノザの『倫理学』について「自由」という観点から検討する。
第7回	現代思想への影響 (2)：ヘーゲルの倫理学 (1)	現代思想に影響を与えたヘーゲルの倫理思想をについて、とりわけ道徳性と人倫の総合・有和という観点から検討する。
第8回	現代思想への影響 (2)：ヘーゲルの倫理学 (2)	現代思想に影響を与えたヘーゲルの倫理思想をコジェーヴによるヘーゲル講義（『ヘーゲル読解入門』）を通じて検討する。
第9回	現代思想の源流 (1)：マルクスの唯物史観とマルクス主義	現代思想の源流の一人に数え上げられるマルクスの唯物史観とマルクス主義について倫理的観点から検討する。
第10回	現代思想の源流 (2)：ニーチェの「生の哲学」(1)	現代思想の源流の一人に数え上げられるニーチェの「生の哲学」について「遠近法主義」という観点から検討する。
第11回	現代思想の源流 (2)：ニーチェの「生の哲学」(2)	現代思想の源流の一人に数え上げられるニーチェの「生の哲学」について「力への意志」という観点から検討する。
第12回	現代思想の源流 (3)：ソシュールの「一般言語学講義」	現代思想の源流の一人に数え上げられるソシュールの「一般言語学講義」について倫理的観点から検討する。
第13回	ポパーの批判的合理主義	20世紀の哲学者カール・ポパーの哲学について倫理的観点から検討する。
第14回	ハイデガーと書かれなかった倫理学	ハイデガーの哲学、とりわけ存在論や技術論から読み取れる倫理思想について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに関係する資料を共有します。

【参考書】

- ・リチャード・バーンスタイン著『手すりなき思考』（産業図書）
- ・ハーバート・スピーゲルバーグ著『現象学運動』（上・下）（世界書院）
- ・エリック・アリエズ著『ブックマップ 現代フランス哲学』（松籟社）
- ・ヴァンサン・デコンブ『知の最前線 現代フランス哲学』（TBSブリタニカ）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、学習支援システム上から毎回の授業課題を提出してもらう。また期末にレポートを提出してもらいます。以上の2点を総合して評価します。

評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。また毎回の授業課題を活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでももらいたいです。

倫理学LⅡも併せて受講することが望ましいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is not merely to understand the intellectual currents collectively known as "Contemporary Thought" (such as existentialism, structuralism, post-structuralism, and phenomenology) as a simple history of theory. Rather, it aims to extract the latent ethical problematics within these movements and critically re-examine the mode of existence in modern society, relationships with the Other, and the conditions of responsibility.

In particular, by examining how ideologies that do not explicitly present norms or values carry ethical implications — and what ethical difficulties or dangers they simultaneously entail — this course seeks to redefine the very question of "what is ethics." Through these objectives, the course enables each student to consider, from their own perspective, how to address the diverse ethical issues present in contemporary society.

In Ethics LI, we will begin by focusing on the thoughts that influenced or are positioned at the origins of contemporary thought, before delving into its various intellectual currents. Specifically, we will examine, from an ethical perspective, influential theories such as Spinoza's Ethics, Hegel's ethical thought, and the foundational works of Marx, Nietzsche's "Philosophy of Life," and Saussure's Course in General Linguistics.

In this class, we aim to ethically consider how we, who live in the present age, should live as one person in the global information society.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)	
倫理学 L II	2017年度以降入学者
サブタイトル：現代思想の倫理	
杉本 隆久	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、いわゆる「現代思想」と総称される思想的潮流（実存主義、構造主義、ポスト構造主義、現象学など）を、単なる理論史として理解するのではなく、そこに伏在している倫理的問題系を析出し、現代社会における生のあり方・他者との関係・責任の条件を批判的に問い直すことである。

とりわけ、本授業では、規範や価値を直接的に提示しない思想が、いかなる仕方でも倫理的含意を孕み、また同時にいかなる倫理的困難や危険性を抱え込んでいるのかを検討することを通じて、「倫理とは何か」という問いそのものを再定義することを目指す。

こうした目的を通じて、本授業では現代社会における多様な倫理的諸問題に対してどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにする。

倫理学L IIでは、実存主義、身体現象学、構造主義、ポストモダンの思想における倫理的問題を検討する。具体的には、サルトル、メルロ＝ポンティ、レヴィ＝ストロース、フーコー、デリダ、ドゥルーズ、ガタリ、ランシエールらの哲学を倫理的観点から取り上げる。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指す。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目標とします。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。原則対面授業を行います。ただし、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、毎回の授業課題を提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代思想の倫理	授業ガイダンスを行う。また、現代思想とそこに垣間見える倫理的問題についての概説を行う。

第2回	サルトルの『倫理学ノート』	サルトルの『倫理学ノート』における倫理思想を検討する。
第3回	メルロ＝ポンティの『ヒューマニズムとテロル』	メルロ＝ポンティの『ヒューマニズムとテロル』における倫理思想を検討する。
第4回	メルロ＝ポンティの『見えるものと見えないもの』	メルロ＝ポンティの『見えるものと見えないもの』における倫理思想を検討する。
第5回	レヴィ＝ストロースと『野生の思考』	レヴィ＝ストロースの構造主義の思想における倫理的問題を検討する。
第6回	フーコーと『知の考古学』	フーコーの言説論と権力論における倫理的問題を検討する。
第7回	フーコーと『生権力』	フーコーの生権力における倫理的問題を検討する。
第8回	デリダと倫理的転回(1)	デリダの哲学における正義、欲待、友愛、赦し、贈与、責任などの概念を倫理的側面から検討する。
第9回	デリダと倫理的転回(2)	デリダの哲学における正義、欲待、友愛、赦し、贈与、責任などの概念を倫理的側面から検討する。
第10回	ドゥルーズと内在の哲学(1)	ドゥルーズの内在の哲学における倫理的問題を検討する。
第11回	ドゥルーズと内在の哲学(2)	ドゥルーズの内在の哲学における倫理的問題を検討する。
第12回	ガタリと「エコゾフィー」	ガタリのエコゾフィーにおける倫理思想を検討する。
第13回	ランシエールと「不和」	ランシエールの「不和」における倫理的問題を検討する。
第14回	リングスの身体とアフエクト（情動）	リングスの身体とアフエクト（情動）の議論における倫理思想を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分らなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに関係する資料を共有します。

【参考書】

- ・リチャード・バーンスタイン著『手すりなき思考』（産業図書）
- ・ハーバート・スピーゲルバーク著『現象学運動』（上・下）（世界書院）
- ・エリック・アリエズ著『ブックマップ 現代フランス哲学』（松籟社）
- ・ヴァンサン・デコンブ『知の最前線 現代フランス哲学』（TBSブリタニカ）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、学習支援システム上から毎回の授業課題を提出してもらう。また期末にレポートを提出してもらいます。以上の2点を総合して評価します。

評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。また毎回の授業課題を活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては学習支援システムより通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたいです。倫理学L I も併せて受講することが望ましいです。

【Outline (in English)】

The objective of this course is not merely to understand the intellectual currents collectively known as "Contemporary Thought" (such as existentialism, structuralism, post-structuralism, and phenomenology) as a simple history of theory. Rather, it aims to extract the latent ethical problematics within these movements and critically re-examine the mode of existence in modern society, relationships with the Other, and the conditions of responsibility.

In particular, by examining how ideologies that do not explicitly present norms or values carry ethical implications — and what ethical difficulties or dangers they simultaneously entail— this course seeks to redefine the very question of "what is ethics." Through these objectives, the course enables each student to consider, from their own perspective, how to address the diverse ethical issues present in contemporary society.

In Ethics L II, we examine ethical issues within the frameworks of existentialism, body phenomenology, structuralism, and postmodernism. Specifically, we explore the philosophies of Sartre, Merleau-Ponty, Lévi-Strauss, Foucault, Derrida, Deleuze, Guattari, and Rancière from an ethical perspective.

In this class, we aim to ethically consider how we, who live in the present age, should live as one person in the global information society.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業で行う。資料を配付し、それに沿って講義をする。講義終了後、コメントカードを書いてもらう。次回の授業では、最初にそのコメントカードに対してリアクションしながら復習をして、当日の内容に入ってゆく。このパターンで授業を進める。

哲学部の学生はもとより、その他の学部学科の学生でも理解できるような講義内容で進める。

「他者論」という、言わば「応用問題」的な講義内容であるが、哲学・倫理学の基本問題にも適切にふれる。

「哲学対話」を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに；問題設定	単位取得方法、および講義の概要についての説明；他者という問題。なぜ「他者」が問題なのか。
第2回	前提としての哲学、倫理学（その1）	哲学とはなにか
第3回	前提としての哲学、倫理学（その2）	哲学とはなにか、倫理学とは何か、他者論という問題
第4回	デカルトの他者論（その1）	デカルト哲学の紹介
第5回	デカルトの他者論（その2）	デカルトの他者論（コギト、神の存在証明）
第6回	フッサールの他者論（その1）	フッサール哲学の紹介
第7回	フッサールの他者論（その2）	フッサールの他者論へ 間主観性・共現前という問題
第8回	ディルタイの他者論（その1）	ディルタイの思想の紹介
第9回	ディルタイの他者論（その2）	ディルタイの解釈学

第10回	ディルタイの他者論（その3）	ディルタイの他者論
第11回	サルトルの他者論（その1）	サルトル哲学の紹介
第12回	サルトルの他者論（その2）	サルトルの他者論（対他存在について）
第13回	サルトルの他者論（その3）	サルトル的他者論から見た人間存在の諸相
第14回	レポートについての説明	レポートの書き方、内容について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席は、授業形態に関わらず2／3以上参加してください。

学期末のレポート（65％）と授業への積極的な貢献度〔コメントカードの記述など〕（35％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。

コメントペーパーを見ていると、4月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合もあります。受講のさい、その点は注意してください。

同教員の「倫理学 L II」のシラバス末尾に、学生の講義に関する感想を記した。本講義に続く内容のものである。参照されたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. By taking this course, students acquire an understanding of the knowledge about the significance of the Other in ethics. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (65%), and in-class contribution (35%)

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということを問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、他者論の問題設定の発生を明らかにして、そのうえで、サルトル、和辻哲郎、M・ブーバー、E・レヴィナスなどが、その問題をどのように考えているかを見てゆく。

基本的に講義形式を取るが、内容に応じて映像資料なども用いる。また、受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足してゆく。

2回ほど「哲学対話」を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	単位取得方法、および講義の概要についての説明
第2回	問題設定	他者という問題（デカルト、カント、フッサールの問題設定）
第3回	和辻哲郎の倫理学（その1）	和辻哲郎という人物、「面とペルソナ」について
第4回	和辻哲郎の倫理学（その2）	和辻倫理学の主要論点（個と全体、二人共同体）
第5回	和辻哲郎の倫理学（その3）	和辻倫理学の問題点
第6回	M・ブーバーの思想（その1）	ブーバーという人物、「わたし-きみ」「わたし-それ」
第7回	M・ブーバーの思想（その2）	ブーバーの人間観
第8回	M・ブーバーの思想（その3）	ブーバーの思想の問題点、E・レヴィナスによる批判
第9回	ハイデガーの他者論（その1）	ハイデガー哲学の紹介
第10回	ハイデガーの他者論（その2）	顧慮の気遣い、本来的な他者
第11回	E・レヴィナスの他者論（その1）	レヴィナス哲学の紹介

第12回 E・レヴィナスの他者論（顔、他者）者論（その2）

第13回 アーレントの他者論

第14回 レポートについての説明 レポートのテーマ、書き方についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席は、授業形態に関わらず2／3以上参加してください。

学期末のレポート（70％）と授業への積極的な貢献度［コメントカードの記述など］（30％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。

コメントペーパーを見ていると、9月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合があります。受講のさい、その点に注意してください。

昨年度の受講生に、講義の感想を書いてもらいました。紹介します。スライドや授業資料が非常に丁寧で、先生の語りも、身近で卑近な例から出発するのだけれど、いつのまにか「他者とは何か」という抽象的な問いまで連れていかれるように、すごく面白かった。後期からの受講でしたが非常に学びになりました。（英文・1年）

授業の途中で、内容に関する先生の体験談が挟まることで、講義を楽しく聞くことができました。

他者論に初めてふれましたが、灯台下暗しのような議題でありつつ、何度か考えたことのあることであったため、様々な学生の意見を知ることが楽しかったです。（経戦・2年）

先生が雑談も踏まえながら、わかりやすい例を出してくれるため、とっつきにくい内容でも楽しく授業を受けることができました。ディスカッションも数回あり、本に載っている哲学者だけでなく、授業を受けている学生皆が哲学者となって意見交換ができて興味深かった。（法律・1年）

【Outline (in English)】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. By taking this course, students acquire an understanding of the knowledge about the significance of the Other in ethics. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：「生」と「死」を考える

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life) とは何であるかを中心に、生きること・死ぬることについて考察することを目的とする。とりわけ本授業では、「幸福とは何か」を出発点としながら、人間の生/死、人格、医療（技術）に焦点を当てながら、私たち人間とはどのような存在であるかをじっくり倫理的な視点から考え直していきたい。現代では、自然界に生まれた生命に科学技術が介入することは当たり前であるが、人工授精・体外受精、デザイナーベビー、人工妊娠中絶、臓器移植、延命治療など、現代社会でよく耳にするこれらの人工的な生命操作は、自然の摂理という観点から見れば反自然的な行為と言える。だからと言って、私たちは簡単に善悪の判断を下すことはできない。日々の日常生活のうちには、こうした論理や合理性だけでは解決し難い問題がたくさんある。

「いのち」の問題は、私たちが生きていく中で、いずれどこかで関わる身近な問題であり、避けては通ることのできない重要な問題である。本授業では、具体的な事例や現代的な問題を取り上げながら、命（生と死）・医療・科学技術などについて、今一度考え直すきっかけを提供し、共に考えていきたい。

【到達目標】

- ① 生命、死、存在、医療、QOLなどの言葉を相互に関連づけながら思考する力を身につける。
 - ② 生命倫理学の多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。
 - ③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。
- 本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

(1) Acquire the ability to think about life, death, existence, medical care, QOL, and other terms while relating them to each other.

(2) By learning the various values of bioethics, students will acquire the ability to grasp the ideas of various positions from multiple perspectives.

(3) Learn how to construct academic theories, and acquire the ability to academically analyze their own awareness of issues. The ultimate goal of this class is not only to acquire knowledge of bioethics, but also to cultivate a broader perspective and deep thinking skills as an individual.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

＊ 講義

＊ 毎回、授業後にコメントシートを提出。

＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	生命倫理学とは？ 生命に科学技術が介入することの意味
第2回	バイオエシックスの成立(1)	善く生きるとは 近代的自由の成立と人権概念
第3回	バイオエシックスの成立(2)	アメリカにおける社会的・政治的背景 社会変動と幸福感の変化
第4回	幸福とは何か	「幸福」はどのように決まるか？
第5回	功利主義(1)：幸福は計算可能か	「最大多数の最大幸福」 平等の原理は存在するか？
第6回	功利主義(2)：個人の自由と社会道徳	個人の幸福追求と社会の幸福追求 「生命の質」か「生命の尊厳」か
第7回	人間の生命と人格	エンゲルハートの人格概念 胎児に人格はあるか？
第8回	優生思想と人工妊娠中絶	優生保護法と母体保護法 人工妊娠中絶は殺人か？
第9回	中絶問題と女性の権利	中絶問題の歴史 米国で揺れ動く中絶権利
第10回	命は誰のものか	医療とパターナリズム 患者の権利と医師の義務
第11回	医療と倫理	医学者たちの人体実験
第12回	伝える義務と知る権利	医療とインフォームド・コンセント 情報開示と自己決定権
第13回	尊厳死/安楽死とは	安楽死を考える 私たちに死ぬ権利はあるのか
第14回	医療の倫理と法	医療技術の進歩と医療現場 医療事故と医療過誤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

今井道夫『生命倫理学入門（5版）』産業図書、2024年。

中村元『構造倫理講座III 〈生命〉の倫理』春秋社、2021年。

伏木信治『生命倫理と医療倫理：改訂4版』金芳堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（60%）、期末試験またはレポート（40%）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (60%), final exam or report (40%)

Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

基礎から学ぶので、倫理学を受けたことのない人でも関心を持って受講することで、少しずつ理解でき、視野が広がってくると思います。また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)

【その他の重要事項】

受講生の希望や状況に応じて、シラバスの内容が前後したり、多少変更する場合があります。

＊ 真面目に受講したい人にとって迷惑になる行為（私語・遅刻の常習など）は、注意や減点の対象になります。基本的には楽しく授業をしたいので、メリハリを付けられない人は、本授業の受講はご遠慮願います。

【Outline (in English)】

This course is an introduction and survey course in Bioethics. The purpose of this course is introduce students to bioethics through critical thinking contemporary issues. Through this course, students will be given not only the knowledge and comprehension of relationship between biotechnology and ethics, but also the opportunity to focus on their life and death. Students will first be introduced the history of ethics, foundational theories in bioethics, and the basic concepts and theoretical framework of bioethics.

Topics will include: what is happiness, health-care, responsibility, system of value, informed consent, death and dying, and the issue of beginning of life(on abortion, designer baby, prenatal testing etc.).

Through this course, students will be able to think carefully and to express their own views more clearly through their own positions on bioethical/ medical issues.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L II

2017年度以降入学者

サブタイトル：〈いのち〉と科学を考える

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life) とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業の後半では、宗教の視点から生命倫理を考察することにより、様々な宗教的思想を背景にした死生観と生命倫理観を学んでいく。そもそも宗教は生死と密接に関わり、それぞれの仕方で「あの世／この世」「現世／来世」を語ってきた。本授業ではこれら全てを網羅することはできないが、私たちが今・ここで生きることの意義や、死や死後を考察するための手掛かりとして、それぞれの宗教的思想の意義を検討していきたい。

倫理学という学問領域は、私たちの日常生活や生きること・死ぬことに直接関わる部分を含んでいる。それゆえ本授業を通じて、受講生各自が関心を持ったテーマに対して、積極的にアプローチをすることで、それぞれの興味・関心を深めていながら、死生観や生命観を構築し、さらに倫理的な問題意識を持って学問的に掘り下げてもらいたい。

以上の観点をもって、受講生各自が本授業を通して、私たち人間とはどのような存在であるか、生きるとは、死ぬとはどういうことなのかをじっくり倫理的な視点から考え直していくきっかけを提供し、共に考えていきたい。

【到達目標】

- ① 生命、死、人格、医学、宗教などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。
- ② 多様な生命の在り方や、宗教的思想を背景とした多様な価値観を学ぶことで、様々な立場から生命倫理を考える力を身につける。
- ③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

1) Acquire the ability to think about life, death, personality, medicine, religion, and other terms while relating them to each other in one's mind.

2) To acquire the ability to think about bioethics from various perspectives by learning about various ways of life and various values based on religious thought.

(3) Learn how to construct academic theories, and acquire the ability to academically analyze their own awareness of the issues.

The ultimate goal of this class is not only to acquire knowledge of bioethics, but also to cultivate a broader perspective and deep thinking ability as an individual.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

＊ 講義

＊ 毎回、授業後にコメントシートを提出。

＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	生命倫理学とは バイオエシックスの成立
第2回	生命の誕生と倫理(1)	日本人の生命倫理観の変化 生殖医療とは
第3回	生命の誕生と倫理(2)	生殖技術の発展と拡大 人工授精の歴史と現状
第4回	生命の誕生と生殖医療	不妊治療の実態 性教育不足による社会問題化
第5回	生殖技術の倫理(1)	代理母の在り方 出自を知る権利
第6回	生殖技術の倫理(2)	精子バンク問題とインターネット取引
第7回	遺伝子と生命倫理(1)	再生医療とクローン技術 「全能性」とは
第8回	遺伝子と生命倫理(2)	遺伝子とDNA デザイナーベビーとは
第9回	遺伝子と生命倫理(3)	遺伝子組み換えとゲノム編集
第10回	ジェンダーと生命倫理(1)	ジェンダー概念と社会変容 「家族」のあり方を再考する
第11回	ジェンダーと生命倫理(2)	性転換手術と医療倫理 自然界の性転換と人工的性転換の問題
第12回	宗教と生命倫理(1)	「宗教」とは 宗教的価値観と倫理的判断
第13回	宗教と生命倫理(2)	神道における死後観と人間観 臓器移植問題の捉え方
第14回	宗教と生命倫理(3)	ヒンドゥー教の死生観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

今井道夫『生命倫理学入門（5版）』産業図書、2024年。

中村元『構造倫理講座III 〈生命〉の倫理』春秋社、2021年。

伏木信治『生命倫理と医療倫理：改訂4版』金芳堂、2020年。

小松美彦、土井健司編『宗教と生命倫理』ナカニシヤ出版、2005年。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（60%）、期末試験またはレポート（40%）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (60%), final exam or report (40%)

Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

倫理学L1から継続して受講すると理解しやすく、知識も深まります。
(倫理学L2を受講した後に、次年度の倫理学L1を受講することも可能です。)

It is recommended that students take Ethics LI before taking this course for better understanding.

We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

【その他の重要事項】

受講生の希望や状況に応じて、シラバスの内容が前後したり、多少変更する場合があります。

＊ 真面目に受講したい人にとって迷惑になる行為（私語・遅刻の常習など）は、注意や減点の対象になります。基本的には楽しく授業をしたいので、メリハリを付けられない人は、本授業の受講はご遠慮願います。

【Outline (in English)】

This course is intended to develop student's understanding of ethical issues of bioethics and medical care. Especially, this course will focus upon major bioethical issues which related to artificial insemination, genetic testing and human right. In addition, the second half of this course, we will explore various ethical problems within several religious traditions. Through comparison of bioethical perspectives on selected themes, students will be able to recognize the interconnections between bioethical issues and religious system. This course will help students to develop the ability to analyze diverse perspective and to recognize the importance of ethical considerations.

PHL200LA (哲学/Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

2020年から2023年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック pandemic）に、全世界が巻き込まれた。確かに、一時期の爆発的流行は収まり、2025年現在では、確かに新型コロナウイルスに対して、「普通の感染症」のレベルまで終息した。その一方で、やはりコロナ感染の後遺症で苦しむ人は存在する。感染症といえば、若者を中心に「性感染症」、特に「梅毒」が飛躍的に感染を拡大させている。社会がますます多様化し、グローバルな交流が拡大し、個人レベルも社会レベルも倫理観やモラル（道徳性）に対する意識が希薄になった可能性も否定できない。ある意味で、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義的というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われているように思われる。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しくない〉雰囲気を出しているといえよう。

こうした観点を含めて、本授業では、「ケアの倫理学」という立場から、「自己をケアすること」・「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性の問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

《授業の目的》

本科目は、1980年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理学」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの必要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・履修上の注意 ・「ケアの倫理」についての概要説明
2	第1章 生きることの倫理①	・生きることの質（QOL）
3	第1章 生きることの倫理②	・健康であることの意味
4	第1章 生きることの倫理③	・死ぬことの意味
5	第1章 生きることの倫理④	・死に立ち会うこと
6	第1章 生きることの倫理⑤	・ベットロス
7	第1章 生きることの倫理⑥	・死への準備教育（Death Education）
8	第2章 「ケア」の倫理①	・「ケア」の思想①——メイヤロフ『ケアの本質』
9	第2章 「ケア」の倫理②	・「ケア」の思想②——ギリガン『もう一つの声で』
10	第2章 「ケア」の倫理③	・〈心〉が傷ついた人のケア
11	第2章 「ケア」の倫理④	・スピリチュアルケア（spiritual care）——〈いたみ〉を分かち合うこと
12	第3章 支え合うことの倫理	・ケア意識の発達
13	第3章 支え合うことの倫理	・ケアする人を支えるために
14	まとめ	・「自己へのケア」から「他者へのケア」へ、そして「支え合いとしてのケア」へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で触れたことについて、様々な書籍、雑誌、新聞やインターネットで確認し、自分の知識を増やすように心がけること。倫理学は、生き方に関わる学問である。座学では何も身につかない。積極的に、倫理的な問題を考え、自ら主体的に学ぶように日頃から気をつける必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・森村修『ケアの倫理』（大修館書店、2000年）
- ・森村修『ケアの形而上学』（大修館書店、2020年）
- ・キャロル・ギリガン『もうひとつの声で——心理学の理論とケアの倫理』（風行社、2022）
- ・Virginia Held, *The Ethics of Care: Personal, Political, and Global*, Oxford University Press, 2006.

【参考書】

竹田純郎・伊坂青司・森秀樹編『生と死の現在——家庭・学校・地域のなかのデス・エデュケーション』（ナカニシヤ出版、2002年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーなど（30%）と期末試験（70%）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、DVDなどAV機器を用いる場合がある。

【その他の重要事項】

「ケアの倫理」は、単に授業ですわっていれば自然と身につくものではない。自らの主体的な実践を伴わない「ケア」や「〈癒しと救い〉」は、単なる「絵に描いた餅」でしかなく、生きるためには何の役にも立たない。受講生各自が、自らの日々の生活のなかで、「ケアとは何か」「何をケアするのか」「ケアするためには何が必要なのか」「ケアとは何をしなければならないことなのか」などという問いを自らに問いかけ、それに答える努力を欠かさないようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, the aim of this course is to help students examine the question of what is care ethics in global ethics in the 21st century from various angles.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to describe the differences between ethics of justice and ethics of care in detail and to understand the concept of care comprehensively.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the term-end examination (70%), and in-class contribution(30 %).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L II

2017年度以降入学者

サブタイトル：ケアの形而上学——「ケアの倫理」を超えて

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

2020年から2023年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック pandemic）に、全世界が巻き込まれた。確かに、一時期の爆発的流行は収まり、2025年現在では、確かに新型コロナウイルスに対して、「普通の感染症」のレベルまで終息した。その一方で、やはりコロナ感染の後遺症で苦しむ人は存在する。感染症といえば、若者を中心に「性感染症」、特に「梅毒」が飛躍的に感染を拡大させている。社会がますます多様化し、グローバルな交流が拡大し、個人レベルも社会レベルも倫理観やモラル（道徳性）に対する意識が希薄になった可能性も否定できない。ある意味で、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われているように思われる。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しくない〉雰囲気を出しているといえよう。

こうした観点を含めて、本授業では、「ケアの倫理学」という立場から、「自己をケアすること」・「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性の問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

《授業の目的》

本科目は、1980年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理学」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの必要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・受講上の注意 ・「ケアの倫理」入門
2	第1章 暴力被害者のケア①	・〈生き残ること〉と〈生き延びること〉 ・「こども虐待」という〈社会・政治的暴力〉
3	第1章 暴力被害者のケア②	・「新たな傷つきし者」の出現——「社会・政治的トラウマ」の問題 ・〈情動を抱える生〉の〈ケアの倫理〉
4	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実①	・哲学的課題としての「認知症」 ・「認知症」が問いかけるもの
5	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実②	・「社会的疾患」としての「認知症」 ・「認知症」における〈こころ〉と脳
6	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実③	・認知症ケアの倫理
7	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理①	・「孤独死」の現在 ・「ひとりて死ぬこと」の意味
8	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理②	・「何も共有していない者たちの共同体」の倫理 ・〈他者としての死者〉を抱えて〈生き延びる〉こと
9	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理③	・アボリアの経験 ・喪の倫理
10	第4章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理①	・〈からだ〉という問題圏 ・東洋の心身論の試み
11	第4章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理②	・富士御杖の思想 ・〈身〉と〈言〉 ・〈身〉と〈こころ〉 ・「言霊」の〈力〉
12	第5章 「生存の美学」としてのケア①	・アウトサイダーとアーと・セラピー ・ヘンリー・ダーガーの世界
13	第5章 「生存の美学」としてのケア②	・他者への配慮 ・レベッカ・ブラウンの「贈与」
14	第5章 「生存の美学」としてのケア③	・デヴィッド・グレーバーの価値論について ・贈与としてのケア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森村修『ケアの形而上学』、大修館書店、2020年

【参考書】

森村修『ケアの倫理』、大修館書店、2000年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（30％）と期末試験あるいはレポート（70％）によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合には、インターネットなどの必要な設備が必要である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, the aim of this course is to help students examine the question of what is care ethics in global ethics in the 21st century from various angles.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to describe the differences between ethics of justice and ethics of care in detail and to understand the concept of care comprehensively.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the term-end examination (70%), and in-class contribution(30 %).

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉永 明弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎知識を学び、応用倫理学の内容に親しむとともに、具体的な倫理問題について議論する。

【到達目標】

倫理学の基本的な考え方や主要な理論（功利主義、義務論、徳倫理学、社会契約論、正義論）および応用倫理学の内容を把握し、それをもとに具体的な倫理問題について議論することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行うが、受講者どうして議論する時間もとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	倫理学を学ぶ意味	なぜ倫理学を学ぶ必要があるのかについて説明する
2	倫理学の三大理論（1） 功利主義	ミルの自由論を基軸に功利主義について説明する
3	倫理学の三大理論（2） 義務論	カントの倫理学の概要を紹介する
4	倫理学の三大理論（3） 徳倫理学	アリストテレスと現代の徳倫理学の概要を紹介する
5	倫理学と政治哲学（1） 社会契約論	ホッブズ、ロック、ルソーらの社会契約論を概説する
6	倫理学と政治哲学（2） 正義論	ロールズ、ノージック、サンデルらの正義論を紹介する
7	中間チェックテスト	ここまでの内容を確認する
8	応用倫理学（1）生命倫理学	医師・患者関係、インフォームドコンセントを中心に説明する
9	応用倫理学（2）生命倫理学	脳死と臓器移植、安楽死、優生思想について説明する
10	応用倫理学（3）ビジネス倫理学	内部告発を中心に説明する
11	対話型講義（1）災害時の倫理	東日本大震災の事例から災害時の倫理について議論する
12	対話型講義（2）21世紀の労働倫理	IT・AIの時代がもたらす新たな労働倫理について議論する
13	対話型講義（3）21世紀の教育	IT・AIの時代の教育のあり方について議論する

14 最終チェックテスト 授業内容の理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と参考文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年の第1章から第3章。

およびプリントを配布する。

【参考書】

加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1997年
新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』世界思想社、2000年
宇都宮芳明『倫理学入門』ちくま学芸文庫、2019年
川本隆史『現代倫理学の冒険』創文社、1994年
國分功一郎『近代政治哲学』ちくま新書、2015年
児玉聡『功利と直観』勁草書房、2010年
梅津光弘『ビジネスの倫理学』丸善、2002年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40%）、最終チェックテスト（60%）。
場合によりレポートの提出を求める。

【学生の意見等からの気づき】

学生から意見がありませんでした。

【Outline (in English)】

This course deals with ethics and applied ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, midterm exam:40%,final exam:60%.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

倫理学 L II

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉永 明弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学の基本的文献の内容を紹介する。このなかから各自の興味のある文献を読み、レポートを書いてもらう。

【到達目標】

環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの構えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。適宜、ディスカッションを取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
2	環境倫理学概論	応用倫理学の中の環境倫理学の位置づけについて説明する
3	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理について紹介する
4	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理について紹介する
5	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理について紹介する
6	科学技術の倫理	科学技術の倫理について紹介する
7	公害と環境正義	公害と環境正義について紹介する
8	動物倫理	動物倫理について紹介する
9	生物多様性と倫理	生物多様性と倫理に関する議論を紹介する
10	中間チェックテスト	ここまでの内容を理解しているか確認する
11	場所論と風土論	場所論と風土論について紹介する
12	景観保全と観光	景観保全と観光に関する議論を紹介する
13	都市の環境倫理	都市の環境倫理の構想を紹介する
14	最終チェックテスト	授業内容の理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書のなかで紹介している文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（20%）、最終チェックテスト（20%）。

期末にレポートの提出を求める（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見がありません。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on ethics and applied ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, midterm exam:20%, final exam:20%, book review:60%.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)	
論理学 L I	2017年度以降入学者
サブタイトル：論理的読解のトレーニング	
佐々木 護	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月5/Mon.5	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論点が明確で、筋の通った議論や文章は「論理的」だと言われます。この授業では、分野を問わず多様な文章を論理的に把握し、それを吟味検討したうえで、自分の見解を論理的に表現する訓練を行います。論理的読解力や論述力を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。
(1) 新聞記事や新書レベルの文章を読み、そこから論証構造を抽出し、内容をよく理解した上で、的確な要約を行うことができる。
(2) 上記の文章を吟味検討し、自分の見解を論理的に展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。そのため、受講者には主体的な参加を求めます。また、論述力の向上を図るため、定期的に小論文を作成する回を設けます。提出された答案は添削・評価のうえ、翌日に返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／論理学とは	論理学には分析論と弁証術の2つの流れがあることを理解する。
第2回	論理的説明と論証	トールミン・モデルなどを参照しつつ、論理的な説明には、根拠の提示が不可欠であることを理解する。
第3回	論理的読解と論証	論理的読解には、文章全体を論証と捉え、結論とそれを支える根拠を見きわめることが有効であることを理解する。
第4回	論証の構造	論証図の作成を通じて、論証構造を的確に把握する仕方を身につける。
第5回	要約の技法	文章から論証構造を取り出し、それを軸に要約する技法を身につける。
第6回	隠れた前提	論証を論理的に理解するには、隠れた前提を自覚的に取り出すことが必要な場合があることを理解する。
第7回	論証の評価（1）	論証の適切さや妥当性を評価するにあたって着目すべきポイントを理解する。

第8回	論証の評価（2）	論証を検討する仕方を実践的に身につける。
第9回	誤った論法（誤謬）	論証の誤りの代表的なパターンを理解する。
第10回	論証への反論（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する反論を作成する。
第11回	論証への反論（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第12回	文章読解と見解論述（1）	現代の社会問題に関連した文章を読み、それに対する見解論述を作成する。
第13回	文章読解と見解論述（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第14回	試験日	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習：これまでの配布資料に目を通しておいってください。
復習：講義内容に関連した課題が課されますのでそれに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006年）
渡邊雅子『論理的思考とは何か』（岩波新書、2024年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50％）および最終回の試験の成績（50％）で評価します。

試験の評価基準については、授業中に何度か実施する課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

「他の学生の答案を見て、意見や表現方法を学ぶことができたのが良かった」「文章を読むときにどういうところに気をつければよいかが分かってきた」「授業を通して、少しずつ自分の文章力がついてきたと実感した」などの感想がありました。

今まで文章を書く機会の少なかった受講者の場合、最初は小論文作成に時間がかかり、難しく感じることもあるようです。しかし、書き続けるうちに徐々に慣れていきますので、その点についてあまり心配する必要はありません。

【Outline (in English)】

We call a reasonable argument as "logical". In this course, we will practice to logically read various texts regardless of the field, examine them, and express your own view logically. If you acquire the ability of logical reading and argumentation, it will be useful for your future academic activities and social life. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grading will be evaluated based on the results of regular assignments (50%) and the final exam (50%).

The objectives of this course are twofold:

1. To enable students to extract logical structures from texts such as newspaper articles and non-fiction books, and to produce precise summaries based on a thorough understanding of the content.
2. To critically examine the aforementioned texts and develop one's own arguments in a logical manner.

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

論理学 L II

2017年度以降入学者

サブタイトル：批判的思考のトレーニング

佐々木 護

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批判的思考（クリティカル・シンキング）教育の一環として、複数の視点から仮説を立てたり、対立する意見も視野に入れつつ望ましい問題解決策を見出す訓練を行います。自分が自明とする考えからいったん距離を置き、異なる他者の考えにも目を向ける態度を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上でも大いに役立つはずです。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- (1) 統計資料などを手がかりに仮説を立て、それに基づく解決策を提示することができる。
- (2) 与えられたテーマに関して、対立する意見も視野に入れつつ、説得力ある見解論述を展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。そのため、受講者には主体的な参加を求めます。また、論述力の向上を図るため、定期的に小論文を作成する回を設けます。提出された答案は添削・評価のうえ、翌日に返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／推論の分類	演繹、帰納、仮説推量という推論の3つのタイプを概観する。
第2回	演繹と仮説推量	演繹と仮説推量の関連性と相違点を理解したうえで、新たな発想やアイデアを導く上で仮説推量が果たす意義を押さえる。
第3回	統計資料の分析と仮説推量	統計資料の分析の基本を理解し、資料からどのような仮説を立てることができるかを考える。
第4回	相関関係と因果関係	2つの現象の間に何らかの関係が認められる場合に、どんな仮説が立てられるのかを理解する。
第5回	原因分析と対策提言	ある仮説に基づくならば、どのような対策が必要かを考える。仮説が異なれば、必要な対策も大きく異なることを理解する。
第6回	価値前提	それぞれの論証がどのような価値判断や価値基準を前提としているかに注目することで、議論の争点を整理する仕方を身につける。
第7回	対策提言の評価（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する検討を行う。

第8回	対策提言の評価（2）	前回作成答案を基に、発展的検討を行う。
第9回	立論・批判・異論（1）	対立する意見を視野に入れつつ、それに対する批判や異論を展開する仕方を身につける。
第10回	立論・批判・異論（2）	批判と異論の違いを見きわめる。
第11回	立論・批判・異論（3）	あるテーマに対し、立論・批判・異論から構成される小論文を作成する。
第12回	立論・批判・異論（4）	前回作成答案を基に、発展的検討を行う。
第13回	誤った二分法・両論併記	二分法が陥りがちな罠を理解する。
第14回	試験日	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習：これまでの配布資料に目を通しておいください。日々の政治・経済・社会に関するニュースもチェックしておきましょう。
復習：講義内容に関連した課題が課されますのでそれに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006年）
渡邊雅子『論理的思考とは何か』（岩波新書、2024年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50％）および最終回の試験の成績（50％）で評価します。

試験の評価基準については、授業中に何度か実施する課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

「文章の書き方などを学べたことはもちろん、毎回の授業や課題においてテーマとなる社会問題について考え文章にすることが、自分の意見を持つ大変いい機会となった」「ただ論理の立て方を学ぶだけではなく時事を用いて学ぶことができて大変勉強になった」などの感想がありました。

テーマに関連したアウトプットを繰り返す授業形式を通して、考えて書く力がアップしたと感じる受講者が多かったようです。

【Outline (in English)】

As part of the critical thinking education, we will make hypotheses from multiple perspectives, and practice to find solutions while taking into account the opposite opinion. If you learn how to think critically, you will be of great help in your future academic activities and social life. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grading will be evaluated based on the results of regular assignments (50%) and the final exam (50%).

This course aims to help students achieve the following two goals:

1. Formulate hypotheses based on statistical data and other evidentiary materials, and propose viable solutions derived from those hypotheses.
2. Develop persuasive arguments on a given theme by critically considering opposing viewpoints and integrating them into a logical discourse.

HIS200LA (史学/History 200)

東洋史 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：東南アジア史 (1)

澁谷 由紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、先史時代から現代までの東南アジア通史を学びます。授業を通じて東南アジア史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代の東南アジアに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・東南アジアの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
- ・東南アジア史の特徴を理解すること
- ・現代東南アジアの諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- (1) 各時代、各地域の特徴を、関連する世界遺産 (文化遺産) や、現代東南アジア諸国の諸問題について、映像資料等を用いて紹介しながら、解説します。
- (2) 課題は、主として、授業内で取り上げた内容に関連する文献の講読です。
- (3) リアクションペーパー、課題については、個別にコメントをお返しするか、提出していただいた内容の一部を (匿名で) とりあげ、授業の中でご紹介します。この授業では、グループディスカッション、ディベートは実施しません。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「東南アジア」概念の成立	東南アジアの地域認識
第2回	東南アジア地域の地理的概観	生態的背景
第3回	青銅器文化と初期国家の形成	先史時代から9世紀
第4回	中世国家の展開	10～14世紀
第5回	交易の時代前期	15～16世紀前半
第6回	交易の時代後期	16世紀前半～17世紀
第7回	近世国家群の展開と再編	18～19世紀前半
第8回	植民地支配の進展	19世紀後半
第9回	東南アジア経済の再編成	19世紀後半～1930年代①
第10回	ナショナリズムの勃興	19世紀後半～1930年代②
第11回	第二次世界大戦と東南アジア諸国の独立	1940年代～1950年代
第12回	冷戦への主体的対応	1950年代半ば～1970年代半ば
第13回	経済発展・ASEAN10・民主化	1970年代半ば～1990年代

第14回 まとめ

ふりかえり

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で示される課題 (主として文献講読) に取り組み、原則として次回授業開始時までに提出してください。本授業の準備・復習時間は、1回あたり4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

古田元夫『東南アジア史10講』(岩波新書, 新赤版 1883) 2021年、岩波書店
石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社
その他の参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題 (40%)・期末試験 (60%)。期末試験は論述式です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題配布時と課題提出時に「学習支援システム (WebClass)」を使用します。

【その他の重要事項】

- (1) 本科目の履修に際し、事前に履修すべき科目はありません。
- (2) 2026年度秋学期「東洋史 L B」と別内容です。春学期・秋学期合わせての履修は任意です。

【Outline (in English)】

This course explores the entire span of Southeast Asian history, from prehistoric times to the present day. At the end of this course, students will understand major themes in the historical analysis of Southeast Asian history. Students are required to make a thorough review, mainly by completing assignments. Your study time will be more than four hours for a class. Your final grade will be calculated according to the following process: In-class writing assignments (40%) and term-end examination (60%).

HIS200LA（史学 / History 200）

東洋史 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：東南アジア史（2）

澁谷 由紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、先史時代から現代までのベトナム社会の形成過程をたどり、ベトナム近現代史の基本的な流れを理解することを目指します。授業を通じてベトナム史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代のベトナムに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・ベトナムの地理と歴史、文化にかかわる基本的な事項を知ること
- ・ベトナム史の特徴を理解すること
- ・ベトナムの諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- (1) 各時代の特徴を、自然景観、文化遺産、絵画、写真等の映像資料等を用いて紹介しながら、解説します。
- (2) 課題は、主として、授業内で取り上げた内容に関連する文献の講読です。
- (3) リアクションペーパー、課題については、個別にコメントをお返しするか、提出していただいた内容の一部を（匿名で）とりあげ、授業の中でご紹介します。この授業では、グループディスカッション、ディベートは実施しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ベトナムの地理
第2回	ベトナム諸地域の形成 (1)	紅河の世界（初期国家の成立、北属期、大越国の誕生）
第3回	ベトナム諸地域の形成 (2)	南シナ海とメコン川の世界（チャム人のクニ、扶南）
第4回	ベトナム諸地域の形成 (3)	亜熱帯のなかの中国文明（陳朝～）
第5回	世界のなかのベトナム (1)	ベトナム世界の成立（交易の時代～阮朝）
第6回	世界のなかのベトナム (2)	植民地下のベトナム (1) 19世紀末まで
第7回	世界のなかのベトナム (3)	植民地下のベトナム (2) 20世紀前半
第8回	世界のなかのベトナム (4)	第一次インドシナ戦争
第9回	戦場から市場へ (1)	第二次インドシナ戦争（ベトナム戦争）
第10回	戦場から市場へ (2)	17度線の南をめぐる
第11回	戦場から市場へ (3)	社会主義の建設とドイモイ
第12回	現代 (1)	経済発展と政治
第13回	現代 (2)	現代ベトナム社会における歴史（文化遺産・公的な歴史）

第14回 まとめ

ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題（主として文献講読）に取り組み、原則として次回授業開始時までに提出してください。本授業の準備・復習時間は、1回につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

古田元夫, 2017. 『ベトナムの基礎知識』 めこん.

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）・期末試験（60%）。期末試験は論述式です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題配布時と課題提出時に「学習支援システム（WebClass）」を使用します。

【その他の重要事項】

- (1) 本科目の履修に際し、事前に履修すべき科目はありません。
- (2) 2026年度秋学期「東洋史 L A」と別内容です。春学期・秋学期合わせての履修は任意です。

【Outline (in English)】

This course explores Vitenamse history. By the end of this course, students will understand the basic trajectory of Vietnamese history, tracing the formation of Vietnamese society from prehistoric times to the present day. Students are required to make a thorough review, mainly by completing assignments. Your study time will be more than four hours for a class. Evaluations will be based on their submitted assignments (40%) and term-end examination (60%).

HIS200LA（史学 / History 200）

東洋史 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

台湾の歴史と現在

歴史の学習を通じて台湾への理解を深め、日本・中国との関わりについて考えていく。

【到達目標】

歴史を辿りながら、現在の台湾が抱える国際問題、政治問題、民族問題の根源を理解し、その歴史の当事者の一人であった日本人の責任についても認識を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。台湾の歴史について通史的に講ずるとともに、現代の台湾を描いた映画を通して台湾への理解を深めていく。課題等に対するフィードバックは授業中もしくは学習支援システムにより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	台湾と日本	日台関係と台湾人の日本人観
第2回	台湾の現勢	台湾の民族構成と経済
第3回	先史時代と大航海時代	原住民とオランダ支配
第4回	清朝と台湾	鄭氏政権から清朝の支配へ
第5回	日本の台湾支配(1)	日清戦争から前期武官総督時代
第6回	日本の台湾支配(2)	文官総督時代から終戦まで
第7回	国民党の支配へ	光復から二・二八事件
第8回	台湾人と支配者達(1)	『悲情城市』と二・二八事件(1)
第9回	台湾人と支配者達(2)	『悲情城市』と二・二八事件(2)
第10回	蒋介石の時代	台湾の中華民国化
第11回	蔣経国の時代	台湾の孤立と転換
第12回	李登輝の時代	台湾の民主化と台湾化
第13回	陳水扁の時代	台湾の分裂
第14回	馬英九～蔡英文の時代	台湾の現在と中国

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業に必要な資料は配布しますが、配布方法は履修者数を見て考えます。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of Taiwan.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how history have affected the life of people in Taiwan.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or test(100%)

HIS200LA（史学 / History 200）

東洋史 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

唐宋時代の歴史

中国の歴史における大きな転換期の一つと考えられている唐朝から宋朝までの歴史を概観し、中国の社会・経済の変化と周辺民族の動向が中国の歴史にどのような影響を与えていったかについて考える。

【到達目標】

唐宋変革期と言われる時代において、中国世界の有り様、社会の構造、経済形態が、周辺民族との関係の中でいかに変遷してきたかについての理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。質問等は授業後に受けつけます。課題等に対するフィードバックは授業中もしくは学習支援システムにより行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国史の時代区分	中国史の時代区分をめぐる議論
第2回	唐宋の変革	内藤湖南の唐宋変革論
第3回	唐の建国	唐の建国に至る歴史とその支配層
第4回	唐の土地・税制度①	均田制・租庸調制
第5回	唐の土地・税制度②	荘園・両税法
第6回	藩鎮と唐末の反乱	藩鎮の成立と拡大、唐末の反乱との関係
第7回	五代十国	五代十国時代の展開
第8回	遼と西夏	五代から宋初の北辺民族の動向
第9回	宋の建国	宋の建国に至る歴史と文治主義
第10回	宋の社会と経済	宋代の社会・経済の特質と問題点
第11回	王安石の新法	王安石の新法とその背景
第12回	金と北宋の滅亡	金の建国と強化、北宋における党争、北宋の滅亡
第13回	モンゴル	モンゴルの強化とその影響
第14回	南宋	南宋の建国とその滅亡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

指定した参考文献等による準備学習・復習。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業に必要な資料は配布しますが、配布方法は履修者数を見て考えます。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%（授業内テスト等に変更する場合があります）

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history from the Tang dynasty to the Song dynasty.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how Chinese history had been influenced by changes of its society and economy and the trend of different ethnic groups living in the North.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or test(100%)

HIS200LA（史学/History 200）

西洋史 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

内田 康太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代地中海世界に成立した諸国家のうち、アテナイ民主政とローマ共和政の国制について概説する。個々に独立した分析だけではなく、両者の比較という方法でそれぞれの特徴を把握することにより、歴史研究における比較史の有用性も学ぶ。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおり。

- ・アテナイ民主政とローマ共和政の国制について基礎的知識を習得する。
- ・両者の国制について、類似点と相違点を説明できる。
- ・両者の国制を比較することの意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、授業終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国制について考える
第2回	アテナイ民主政の歴史	アテナイ民主政の誕生から終焉まで
第3回	アテナイ民主政の国制（1）	参政権
第4回	アテナイ民主政の国制（2）	投票
第5回	アテナイ民主政の国制（3）	民会
第6回	アテナイ民主政の国制（4）	役人・公職者
第7回	アテナイ民主政の国制（5）	裁判
第8回	ローマ共和政の歴史	ローマ共和政の誕生から終焉まで
第9回	ローマ共和政の国制（1）	参政権
第10回	ローマ共和政の国制（2）	投票
第11回	ローマ共和政の国制（3）	民会
第12回	ローマ共和政の国制（4）	役人・公職者
第13回	ローマ共和政の国制（5）	裁判

第14回 試験・まとめと解説 到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

橋場弦『古代ギリシアの民主政』、岩波新書、2022年。
島田誠『世界史リブレット3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80％）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を利用して積極的に質疑応答の機会を設けることにより、受講生の関心に沿った情報を提供するとともに、授業全体への理解も深まるよう配慮する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course outlines the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic. Not only analyzing them individually but also comparing each other to identify their characteristics, it also helps students learn the usefulness of comparative history.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic.
- Students are able to explain similarities and differences between them.
- Students are able to understand the significance of comparing them each other.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200LA（史学 / History 200）

西洋史 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

皆川 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

800年以上ものあいだ西中欧を統合していた「神聖ローマ帝国」の仕組みとその発展を学びます。神聖ローマ帝国は帝国を構成する群小国が皇帝の権威に依存しつつ、人々の生活に必要な実際の政治を行っていくという、奇妙な政治構造をしていました。そのため皇帝は人々を精神的に満たす文化をカトリック教会やルネサンス都市から得、群小国がそれを使って人々の納得を得つつ、実際の政治を行っていました。本講義では最初に神聖ローマ帝国の概要を紹介したあと、こうした社会からどのような技術や価値観、美意識や生まれ、独創的なアイデアが考え出され、遺産として後代の世界に伝えられたかを学びます。

【到達目標】

本授業の目的は、近代国民国家という形にならなかった神聖ローマ帝国という政治的共同体を、当時の歴史的文脈の中において考察し、時代の制約の中で生み出された効果と限界を分析的に理解することです。そこから先に何を学べるかは、受講者の積極的な取り組み次第です。中学歴史分野や高校世界史で学んだことの意味をより批判的に理解できるよう、授業の中に多くのヒントを示しておきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	神聖ローマ帝国の遺産	世界史の難問「神聖ローマ帝国」が、現在の社会を支える多くの遺産を残していることを紹介するとともに、その過去及び現在の評価を論じ、両者の間にあるギャップと問題の所在を把握します。
第2回	神聖ローマ帝国の成り立ち（1）－統率を欠いた巨大帝国	中世の中欧に出現し、キリスト教による世界支配を掲げた権威と武力の集団が、社会の発展を捉えた地方政権に分裂すると共に、それらが新たな危機に直面するまでを紹介します。
第3回	神聖ローマ帝国の成り立ち（2）－協力する体制の発展	帝国から誕生した大小の地方政権が、共同の課題を解決するために結束し、それを維持するための制度を作り出していく過程を説明します。

第4回	神聖ローマ帝国の成り立ち（3）－滅んだものと受け継がれたもの	帝国を構成する地方政権が国家としての成熟を果たし、それを支える近代思想を受け入れたことを見届けた神聖ローマ帝国が、役割を終えて消えていく過程と、その遺産を論じます。
第5回	ルネサンス文化と帝国の文明化	親分子分関係から地方政権の連合として再出発した15～16世紀の神聖ローマ帝国が、その絆となる価値としてルネサンス文化を受け入れ、活用する過程を紹介します。
第6回	宗派対立と三十年戦争	ルネサンスの根底にある「神」の解釈を巡って神聖ローマの構成国が二つに分断され、激しい宗教戦争を引き起こす過程を論じ、それがいかなる結果をもたらしたのかを考えます。
第7回	皇帝と領邦君主のパロック戦略	回復した平和を維持するため、宗派を超越した価値観が求められる中、帝国の統治者たちが「パロック文化」を取り入れ、人々を「紀律化」していく経緯を説明します。オンラインの方法については教場で指示します。
第8回	領邦君主の神聖ローマ帝国	神聖ローマ帝国を支えた地方政権の中で、もっとも重要な役割を果たした「領邦君主」の領国統治の仕組みを、代表的な領国について紹介します。
第9回	ドイツ文化のまほろば－帝国自由都市の世界	政治勢力としては小さいものの、神聖ローマの統治のアイデアや経済力、文化を供給した自治都市「帝国自由都市」の発展と、帝国におけるその役割を論じます。
第10回	帝国を支えるイタリア人	皇帝の領国オーストリアとイタリアは、近代の経緯で今でもわだかまりが残るほど緊張を伴う関係ですが、実は帝国を支える上で非常に深い協力関係にあった事実に焦点を当てます。
第11回	裁かれる国－神聖ローマ帝国の裁判所	神聖ローマの領邦君主や帝国自由都市は、それぞれ国としての性格を持つ一方、皇帝を担いだ平和共同体としての性格も持っていました。その平和と権利を支えた帝国裁判所の活動を紹介します。
第12回	帝国と科学－グレゴリウス暦の導入を巡って	他の西欧諸国と同様、近世の神聖ローマ帝国も宗教教義と経験合理主義の綱引きの場でした。西欧各国を悩ました暦の導入を巡る論争の行方に、帝国における「科学」の誕生を読み取ります。
第13回	教育の帝国	中世神聖ローマのアルプス以北の地域は、イタリアやフランスに遠く及ばない教育後進国でした。それが近世に急速に挽回し、教育先進国と呼ばれるまでに成長した経緯とその背景を分析します。
第14回	まとめ－神聖ローマ帝国と国家連合のヨーロッパが生み出せるもの	近世の神聖ローマ帝国が、集権化する同時期の周辺諸国とは正反対の方法で、同水準の生活と秩序を人々に保証したこと、それは歴史の中でどう評価されるかを、第1回の問題提起を振り返りながらまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
- ・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
- ・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回2時間）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】

- ・草光俊雄・甚野尚志編著『ヨーロッパの歴史Ⅰ－ヨーロッパ史の視点と方法』放送大学教育振興会 2015
- ・成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史〈1〉先史～1648年（山川世界歴史大系）』山川出版社 1997
- ・成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史〈2〉1648～1890年（山川世界歴史大系）』山川出版社 1996
- ・斎藤寛海編『イタリア史〈2〉中世・近世（山川世界歴史大系）』山川出版社 2021
- ・三佐川亮宏『オットー大帝－辺境の戦士から「神聖ローマ帝国」樹立者』中央公論新社 2023
- ・池谷文夫『神聖ローマ帝国－ドイツ王が支配した帝国』刀水書房 2019
- ・ピーター・H・ウィルソン『神聖ローマ帝国 1495-1806』岩波書店 2005
- ・江村洋『中世最後の騎士－皇帝マクシミリアン1世伝』中央公論社 1989
- ・アルブレヒト・デューラー（前川誠郎訳）『自伝と書簡』岩波書店 2009
- ・ペーター・ブリックレ（服部良久訳）『ドイツの臣民』ミネルヴァ書房 1990
- ・河野淳『ハプスブルクとオスマン帝国－歴史を変えた〈政治〉の発明』講談社 2010
- ・永田諒一『宗教改革の真実－カトリックとプロテスタントの社会史』講談社 2004
- ・山本文彦『神聖ローマ帝国－「弱体なる帝国」の実像』中央公論新社 2024
- ・ヴェロニカ・C・ウェッジウッド（瀬原義生訳）『ドイツ30年戦争』刀水書房 2003
- ・エンゲルハルト・ヴァイグル（三島憲一他訳）『啓蒙の都市周遊』岩波書店 1997
- ・マックス・フォン・バーン（飯塚信雄他訳）『ドイツ十八世紀の文化と社会』三修社 1997
- ・W・H・ブリュフォード（上西川原章訳）『十八世紀のドイツ－ゲテ時代代の社会的背景』三修社 1981
- ・今野元『フランス革命と神聖ローマ帝国の試煉－大宰相ダールベルクの帝国愛国主義』岩波書店 2019

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は平常点（30%）、単元毎の小テスト（20%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
- ・神聖ローマ帝国の発展を系統的に説明することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト20%に照応】、授業で学んだ知識を用いて、自分なりに神聖ローマ帝国の歴史をヨーロッパ史の中に批判的に位置づけ、その影響について論じることができること【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・シラバスの予定に対し若干遅れた部分があり、時間配分に心がける。
- ・受講者の予備知識の差が大きいため、反転学習的な試みを導入したい。
- ・他の歴史の照応現象との比較から論じることが、分かりやすいということであるので、今後も工夫しつつ維持する。
- ・学生が小テストやレポートにAIを使用するようになったため、成果物がそのまま学生の理解を反映しなくなっている。AI使用を前提とし、成果物をリアクションペーパーなどと照合し、学生の思考の足跡をも平常点に反映する。また自ら問いを立てる能力を計測できるよう、小テストや期末レポートの内容を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

This course will explore the structure and development of the Holy Roman Empire, which unified Western and Central Europe for over 800 years. The Holy Roman Empire had a unique political structure, with the various small states that made up the empire relying on the authority of the emperor while simultaneously conducting practical governmental affairs necessary for people's lives. The emperor thus gained spiritually fulfilling culture from the Catholic Church and Renaissance cities, and the smaller states used this to gain people's support and conduct practical governmental affairs.

(Learning Objectives)

This course will begin with an overview of the Holy Roman Empire, and then explore the technologies, values, aesthetic sense, origins, and creative ideas that emerged from this society and were passed down to future generations as a legacy. (Learning activities outside of classroom)

- Be sure to read the handouts distributed in advance before class and have a general understanding of their content (1 hour each time).

- Before class, look up any unfamiliar words or names that you are encountering for the first time through reference books or the internet, and take notes on the handouts (1 hour each time).

- After class, investigate things you didn't understand during the lesson on your own or ask the instructor for clarification (2 hours each time).

(Grading Criteria/Policy)

- ・Grades are based on a combination of regular attendance and participation (30%), quizzes for each unit (20%), and the final report (50%).

- ・The criteria are that students can systematically explain the development of the Holy Roman Empire [corresponding to the first assessment process: quizzes for each unit, 20%], and that they can use the knowledge gained in class to critically position the history of the Holy Roman Empire within European history and discuss its impact [corresponding to the second assessment process: final report, 50%].

HIS200LA（史学 / History 200）

西洋史 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀後半から20世紀にかけてのイギリスの歴史を講じます。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かしします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業内容の紹介	18世紀から20世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第2回	二重革命の時代 1	産業革命の特徴とそれがイギリスの政治、経済、社会に与えた影響を検討します。
第3回	二重革命の時代 2	フランス革命がイギリスにどのような影響を与えたか検討します。
第4回	帝国の再編 1	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程を奴隷貿易の廃止問題を中心に説明します。
第5回	帝国の再編 2	二重革命の時代は、イギリスの帝国が第一帝国から第二帝国へと再編された時期でもありました。その再編の過程をインドの植民地化を中心に説明します。
第6回	ミドル・クラス	二重革命の影響で、イギリスではミドル・クラスが台頭してきます。このミドル・クラスの特徴を「リスpekタビリティ」という言葉をキーワードに検討します。

第7回	ミドル・クラスのジェントルマン化	台頭してきたミドル・クラス層が従来の支配者層であるジェントルマンと融合していく過程を検討します。
第8回	労働者階級	ジェントルマンとミドル・クラスが19世紀のイギリスの繁栄の恩恵を受けたのに対し、労働者階級の大多数はその恩恵から排除されていました。労働者階級を取り巻く状況を説明します。
第9回	アイルランド移民	労働者階級の中でも最下層を形成したのがアイルランドからの移民でした。アイルランド移民を切り口にアイルランド、スコットランド、イングランドの地域の問題を検討します。
第10回	「怠惰な女性」と「善良な女性」 1	19世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに検討します。
第11回	「怠惰な女性」と「善良な女性」 2	19世紀のイギリスにおいて女性たちがどのようなことを求められていたのか「怠惰な女性」と「善良な女性」をキーワードに、引き続き、検討します。
第12回	帝国主義の時代	1870年代以降のイギリスの経済、社会について概観します。
第13回	社会帝国主義	イギリスの国内問題の解決の場として帝国の果たす役割がこの時期大きくなったことを検討します。
第14回	試験・まとめと解説	18世紀から20世紀にかけてのイギリスの歴史がどのような特徴を持ち、イギリス帝国の諸地域に対してどのような影響を与えたのか、また、帝国の諸地域からどのような影響を受けたのか総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20%、学期末の試験80%）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

British History from the 18th century to the 20th century
In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British history
- 2) Students are able to understand British history in view of its interaction with the rest of the world.
- 3) Students are able to learn diverse perspectives in history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination:
80%

HIS200LA（史学 / History 200）

西洋史 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：古代アテナイ民主政の成立と発展

内川 勇海

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代アテナイ（紀元前5～4世紀）で実践された民主政治について、主に制度面に注目しながら、その成立と発展を概観する。歴史的なものの見方、考え方に留意しながらアテナイ民主政の具体的な仕組みを学ぶ。

【到達目標】

- ・アテナイ民主政の具体的な仕組みを理解できる。
- ・歴史的な知識を深めるだけでなく、常に現代の民主主義国家との比較の視点を持って過去を理解する姿勢を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、リアクションペーパーを積極的に活用するなど、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の内容と目標について説明する。
第2回	古代ギリシアの歴史概観	古代アテナイに焦点を合わせる前に、古代ギリシアの通史について、高校世界史の復習も兼ねて概観する。
第3回	史料について	歴史学で用いる史料について概説する。
第4回	アテナイ民主政概観	アテナイの民主政が、どのような組織や機関からなるのか、その概要を説明する。
第5回	500人評議会（1）	アテナイ民主政の主要機関であり、主に行政的機能を担った500人評議会について説明する。
第6回	500人評議会（2）	前回に引き続き500人評議会について説明する。
第7回	民会（1）	主要機関の一つであり、アテナイ市民団の意思決定機関である民会について説明する。
第8回	民会（2）	前回に引き続き民会について説明する。
第9回	公職者（役人）	公職者（役人）の組織や役割について説明する。
第10回	民衆法廷（1）	アテナイの主要法廷であり、司法だけでなく政治的機能も担った民衆法廷について説明する。

第11回	民衆法廷（2）	引き続き民衆法廷について説明する。
第12回	その他の機関（アレオパゴス評議会・立法委員会など）	アテナイ民主政を支えたそれ以外の機関について説明する。
第13回	殺人法廷	アテナイにおいて特殊な位置を占めた殺人法および殺人訴訟について説明する。
第14回	全体のまとめ	半年間の講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎週講義資料を学習支援システムで共有する。印刷するかパソコンなど資料を表示できる機器を持参すること。

【参考書】

伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史』（講談社学術文庫、2004年）
 橋場弦『民主主義の源流』（講談社学術文庫、2016年）
 橋場弦『古代ギリシアの民主政』（岩波新書、2022年）
 橋場弦、國方栄二訳『アテナイ人の国制；著作断片集』（岩波書店、2014年）
 長谷川岳夫【編著】『はじめて学ぶ西洋古代史』（ミネルヴァ書房、2022年）
 その他講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%
- ・出席管理は厳格に行う。
- ・期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

写真や動画の活用を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、講義中のパソコンやタブレットなどの使用は可能。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores ancient Athenian history, particularly focusing on the development of democracy in the 5th and 4th century BC.

< Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient Athenian history . 2) Students are able to acquire a wider perspective on democratic nations.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%, essay: 50%

HIS200LA（史学 / History 200）	
日本史Ⅱ	2017年度以降入学者
サブタイトル：	
森 朋久	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本の耕地と集落（村）の史的展開

日本の歴史のうち、日本の原風景、伝統的な景観であり、主に耕地と集落で成り立つ、村（ムラ）の歴史について、各時代の政治と経済を背景としながら、通史的に学習することができる。特に、現在の市町村の基盤となる村が成立する、近世・近代が重点となる。耕地と集落は、棚田に代表されるように、人間と自然との共同作品で、文化的景観として近年注目されている。世界的に優良なその景観は、世界遺産の選定項目となり、日本でも優良な景観は、文化財保護法、農林水産業の重要文化的景観に選定されており、文化財としての意義がある。授業では前提として、日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）を読み、その重要性を理解するとともに、耕地や集落が文化財としてどのような意義があるのかを学ぶことができる。（学問分野：日本史、日本地域史、日本村落史、環境歴史学、文化財学）

【到達目標】

日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）や耕地と集落の文化財的な意義を踏まえ、日本の農林水産業の地域基礎単位である村（ムラ）に関する通史的な学習を通し、教科書的な理解を越え日本史に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業の講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業の場合および「ポータルサイト・時間割・講義内情報」機能を用いて連絡する。各回の授業は主として適宜配信または配布した資料により、シラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日本史における耕地と集落の意義 日本史研究の基礎
第2回	日本史学入門	歴史資料の提示、解説、歴史資料の内容解説、背景
第3回	文化財保護法と耕地と集落	文化財・重要文化的景観からみた村（耕地と集落）
第4回	弥生・古墳時代の村	縄文・弥生移行期、弥生・古墳時代の耕地と集落
第5回	古代の政治と経済	古代の村と領主支配との関係
第6回	古代の村	古代の開発、条里と村、荘園と村、初期武士団の村
第7回	中世の政治と経済	中世の村と領主支配との関係
第8回	中世の村	村の景観、惣村と在家、開発と経営、近世の村との関係

第9回	近世の村の景観	村の基本構成要素、様々な村のかたち
第10回	近世の村の機能	村で作成される様々な文書、ムラの運営
第11回	幕藩領主の農政と近世の村（1）	近世中期までの領主財政と年貢収奪
第12回	幕藩領主の農政と近世の村（2）	吉宗政権の年貢増徴策と新田開発、土地政策
第13回	近代の村	地租改正、戸長制、大区小区制、地方三新法、地方改良運動と村
第14回	現代の村	農地改革、昭和の市町村合併と村、高度成長下の耕地と集落

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〈1〉準備学習：あらかじめ配信または配布した資料を一読、一覧しておくこと。各授業の時代背景を、日本史年表で調べておくことが望ましい。

〈2〉復習：日本各地の地名が出てくるので、馴染みがない地名は地名辞典などで調べておくこと。授業内レポートに備えて、授業の内容を各回まとめておくこと。

〈3〉本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。適宜配信・配布した資料に沿って授業を行う。

【参考書】

〈1〉『村の語る日本の歴史 古代・中世編』、『村の語る日本の歴史 近世編①』、『村の語る日本の歴史 近世編②』木村礎著（1983年 そしえて）

〈2〉『日本の農業150年 1850～2000年』暉峻衆三編著（2003年 有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート・リアクションペーパー 30％）と期末レポート（70％）で、評価を決める。

授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末レポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

リアクションペーパーは、履修者の手書きとする。

適宜出席確認を実施する。規定以上の欠席者は、単位修得はできないので、注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業資料（音声付属）を利用する場合は、形式的になる説明部分に関しては、口頭で追加の情報資源を伝える予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the historical explores the features of the Japanese village society from the perspective of people's life and an abundant historical and geographic image.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to understand the historical features of the Japanese village society.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%、Short class reports : 30%.

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

森 朋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸時代転換期における政治・経済・社会

日本の江戸時代の歴史のうち、おもに転換期となる享保改革期から田沼政治期の政治・経済・社会（農村・都市）について、地域環境の変化に留意しながら学ぶことができる。具体的には、最近の成果を取り入れながら、一般的に知られているこの時期の諸事象と諸政策が歴史上どのような意義をもつのかを理解することを学習・教育目標とする。また、江戸時代における地域の諸相や地域基礎単位であり、町人や武家の生業生活の場である「都市」および農民の生産生活の場である「村」に注目しながら、日本近世史を学ぶことができる。（学問分野：日本近世史、日本地域史、日本都市史、日本都市近郊農村史）

【到達目標】

江戸時代研究の重要な情報資源である近世文書や江戸時代の政治（幕政・藩政）・経済・社会（都市江戸および江戸近郊・周辺農村）に関する学習などを通し、教科書的な理解を越え当該期に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業の講義形式で行うことを基本とする。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業の場および「ポータルサイト・時間割・講義内情報」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主として資料の配信または配付によりシラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

近年、大河ドラマの主演となった、徳川家康、その妻子（築山殿・松平信康など）も話題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方についての説明
第2回	吉宗政権の成立	家康～吉宗の時代推移と地域 吉宗政権の性格
第3回	行政機構の改革と法令の整備	老中制度及び勘定所機構の整備 法令集の編さん
第4回	享保改革期の農政	農政の特徴
第5回	都市政策の前提	都市江戸の成立と河川 武家屋敷の展開
第6回	都市政策の展開	江戸の防火政策 経済政策 風俗・出版統制
第7回	田沼政権の成立	家重政権時代の意次 意次権力の拡大

第8回	通貨制度の改革	江戸時代の通貨の特徴 田沼政権発行の貨幣
第9回	間接税の導入	百姓一揆と財政窮乏策 株仲間の役割
第10回	幕政と藩政（1）	幕府の銅貿易と秋田藩の産銅政策
第11回	幕政と藩政（2）	幕府の通貨政策と秋田藩の銭鑄造
第12回	江戸近郊の地域史	江戸の青物市場 江戸近郊農村における蔬菜生産と下肥流通
第13回	江戸周辺の地域史	利根川の歴史と流域住民の共生
第14回	日本通史、地域史における享保改革・田沼政治期の意義	享保改革・田沼政権期はなぜ転換期と呼ばれるのか、江戸と近郊・周辺地域との関係は如何なるものなのかを、総体的に考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常にノートを整理し、配信または配布した資料などを改めて読みなおすなど、次回に備えるようにしてもらいたい。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。適宜資料を配信・配布する。

【参考書】

〈1〉『幕藩体制の展開と動揺 上（日本歴史大系10）』井上光貞ほか著（山川出版社）

〈2〉『大江戸歴史の風景』加藤貴編著（山川出版社）

その他、参考となる文献は、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート・リアクションペーパー 30%）と期末レポート（70%）で、評価を決める。授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末レポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

リアクションペーパーは、履修者の手書きとする。

適宜出席確認を実施する。規定以上の欠席者は、単位修得はできないので、注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】

授業で利用する資料を、対面授業教室のみではなく、オンラインでの配布を求める意見があり、これを実行する予定である。関東に関わる歴史事象の紹介が近年好評だったので、今年度も引き続きこれを行う予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the historical explores the administration, the economy and the society of Japan in the early modern period including the social system of Edo and its surrounding areas.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to understand the economy and the society of Japan in the early modern period.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%、Short class reports : 30%、

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代の幕府政治史について、幕府内部で繰り返された内紛と、幕府の政治意志決定のあり方を中心に、関連する史料を読みながら検討していく。

【到達目標】

鎌倉幕府政治史の流れを理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配布するので、受講生は各自でプリントアウトして受講すること。第2回以降の対面授業では出席をとる。学期内と学期末にレポートを提出してもらう。レポートは2回とも期限内に提出することが必須となる。学期内に課すレポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明。
2	源頼朝執政期の幕府政治(1)	寿永2年10月宣旨、文治勅許など。
3	源頼朝執政期の幕府政治(2)	頼朝上洛、建久7年の政変、頼朝執政期の評定など。
4	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(1)	比企氏事件、頼家・実朝期の評定など。
5	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(2)	和田合戦、承久の乱、政子期の評定など。
6	執権北条泰時・経時期の幕府政治(1)	伊賀氏事件、宇津宮辻子幕府移転など。
7	執権北条泰時・経時期の幕府政治(2)	評定、御成敗式目など。
8	執権北条泰時・経時期の幕府政治(3)	経時の訴訟制度改革など。
9	執権北条時頼・長時期の幕府政治(1)	寛元の政変、宝治合戦など。
10	執権北条時頼・長時期の幕府政治(2)	引付設置、得宗時頼など。
11	得宗北条時宗・貞時・高時期の幕府政治(1)	引付廃止・再設置、寄合、二月騒動など。
12	得宗北条時宗・貞時・高時期の幕府政治(2)	霜月騒動、平禅門の乱など。

- 13 得宗北条時宗・貞時・貞時の訴訟制度改革、貞時・高時期の幕府政治(3) 時期の評定・寄合など。
- 14 まとめ 授業内容のまとめと学期内レポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

本郷恵子『京・鎌倉 ふたつの王権』（小学館、2008年）
川合 康『源平の内乱と公武政権』（吉川弘文館、2009年）
小林一岳『元寇と南北朝の動乱』（吉川弘文館、2009年）
近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書、2016年）
その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内レポート（45%）、学期末レポート（45%）、平常点（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course studies political history of the Kamakura Shogunate.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of the study method of the Kamakura era.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

mid-term report:45%, term-end report:45%, in class contribution:10%

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉幕府の基本法である『御成敗式目』を読む。その内容は多岐にわたるが、ここでは罪と罰や訴訟手続きに関する条文を中心に読み、鎌倉幕府法の特徴を考えていく。

【到達目標】

鎌倉幕府法の特徴を理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配布するので、受講生は各自でプリントアウトして受講すること。第2回以降の対面授業では出席をとる。学期内と学期末にレポートを提出してもらう。レポートは2回とも期限内に提出することが必須となる。学期内に課すレポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『御成敗式目』について(1)	『御成敗式目』制定の目的などの解説。
2	『御成敗式目』について(2)	『御成敗式目』の条文構成などの解説。
3	『御成敗式目』第9条	謀叛の罪について。
4	『御成敗式目』第10条	殺害・刃傷の罪について。
5	『御成敗式目』第11条	夫の罪科の妻への縁坐について。
6	『御成敗式目』第21・24条	離婚・再婚と女性所領について。
7	『御成敗式目』第12条	悪口の罪について。
8	『御成敗式目』第13・14条	殺人の罪および地頭代の罪について。
9	『御成敗式目』第15条	謀書の罪について。
10	『御成敗式目』第33条	強盗・窃盗・放火の罪について。
11	『御成敗式目』第34条	密懐の罪について。
12	『御成敗式目』第51条	問状狼藉について。
13	『御成敗式目』第35条	召文違背の罪について。
14	まとめ	授業内容のまとめと学期内レポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

『中世政治社会思想 上』（日本思想大系21、岩波書店、1972年）
佐藤雄基『御成敗式目』（中公新書、2023年）
神野潔・佐藤雄基編『御成敗式目ハンドブック』（吉川弘文館、2024年）
その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内レポート（45%）、学期末レポート（45%）、平常点（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course studies law of the Kamakura shogunate.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of the study method of the Kamakura era.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

mid-term report:45%, term-end report:45%, in class contribution:10%

HIS200LA（史学 / History 200）		
日本史Ⅰ		2017年度以降入学者
サブタイトル：		
貫井 裕恵		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月5/Mon.5		
単位数：2単位		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
ユネスコ「世界の記憶」に採択されている国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を学びます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいかに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。		
日本の歴史・文化について広く学び、社会人になっても生きる教養を身につけましょう。		
＊日本史ⅠⅡもあわせて受講することを強く推奨します。		
【到達目標】		
・「東寺百合文書」を通じて、日本中世社会への理解を深める。		
・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。		
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。		
・文化財のもつ多様な価値とさまざまな見方を学ぶ。		
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。		
・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。		
毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。		
授業期間内に、文化財関連の研究所・美術館・博物館へ見学に行ってください、感想の提出を求めます。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の目的と課題、評価方法などの説明
2	歴史学の流れと日本中世史	歴史学の発展と、そのなかでの日本中世史研究の大きな流れを学ぶ
3	中世社会と東寺	日本中世社会の構造と、そのなかでの東寺の位置づけなど、本授業のおおまかな流れや前提となる知識を学ぶ
4	東寺百合文書について	東寺百合文書の特質と採択されているユネスコ「世界の記憶」について学ぶ
5	寺院組織	東寺をはじめとする中世寺院の組織と構造を学ぶ
6	史料管理（アーカイブズ）	中世寺院における史料管理のありかたを学ぶ
7	芸能	能・狂言の淵源となった、中世寺院周辺で行われた様々な芸能を学ぶ
8	喫茶文化	中世寺院における僧侶や民間における喫茶文化を学ぶ
9	寺誌・縁起	寺院における歴史叙述のありかたを学ぶ
10	絵巻	『弘法大師行状絵巻』など寺院における絵巻作成の背景や利用方法などを学ぶ
11	荘園の構造・荘園絵図の世界	中世荘園制社会について学び、荘園絵図も紹介しつつ、中世社会の諸問題を学ぶ
12	文化財を守り伝える	文化財が現代まで守り伝えられてきた意義を学ぶ
13	現代社会と歴史学研究	現代社会において歴史学を学ぶ意義を学び、受講者と討論する
14	まとめ	受講者の質疑応答とレポート内容の報告会および講評、本講義のまとめ
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
適宜配布します。		
【参考書】		
・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003年		
・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年		
【成績評価の方法と基準】		
レポート60％、平常点40％で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。		
【学生の意見等からの気づき】		
毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。		
【学生が準備すべき機器他】		
特になし		
【その他の重要事項】		
・日本史ⅠⅡもあわせて受講することを強く推奨します。		
・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとおくお待ちしております。		
・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。		
・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようにしましょう。		
【Outline (in English)】		
【Course outline】The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan. 【Learning Objectives】The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan. 【Learning activities outside of classroom】You spend 2hours preparing and reviewing each class. You learn broadly about Japanese history and culture and acquire the knowledge you need to become a member of society. 【Grading Criteria /Policy】You need to hand over review sheets each class and reports last class.		

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

貫井 裕恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。日本の歴史・文化について広く学び、社会人になっても生きる教養を身につけましょう。
＊日本史Ⅱもあわせて受講することを強く推奨します。同授業の発展的内容になります。

【到達目標】

- ・「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深める。
- ・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
- ・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。
- ・文化財のもつ多様な価値と読み解き方を学ぶ。
- ・くずし字に親しみ、解読できるようになる。
- ・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。授業期間内に、美術館・博物館へ見学に行ってください、感想の提出を求めます。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法を知る
2	歴史学と日本中世史	日本における歴史学の流れと、中世史の歩みを学ぶ
3	寺院史料論	中世寺院における史料（聖教・古文書等）とその社会について学ぶ
4	寺院史料と東寺百合文書	中世寺院における史料群の形成と伝来を概観し、東寺百合文書の特徴を探る
5	中世寺院・東寺の誕生	古代から鎌倉初期に至る東寺の歴史を学ぶ

6	鎌倉幕府と東寺	建久年間の文覚上人による東寺復興事業や蒙古襲来をとりあげながら、寺院と武家の関わりを学ぶ
7	本末相論	鎌倉中～末期における東大寺・醍醐寺の本末相論との関わりに焦点をあてながら、同時期の東寺の宗教環境を学ぶ
8	アーカイブズの形成と伝来	中世寺院における文書・聖教群の形成と管理のありかたを学ぶ
9	東寺領荘園の展開	鎌倉末期から南北朝期にかけて拡充した東寺領荘園とその展開を学ぶ
10	東寺の伽藍修造事業	東寺大勧進職が推進した室町期における修造事業について学ぶ
11	弘法大師信仰の展開	東寺御影堂を中心に展開した弘法大師信仰とその社会的意義を学ぶ
12	寺院の芸能	古典芸能に通じる、室町期に発達した寺院における芸能について学ぶ
13	応仁・文明の乱	応仁・文明の乱という大乱に際して、人びとがどのように対応したのかを学ぶ
14	まとめ	現代社会において歴史学研究成果たす役割を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・使用テキストは事前に予習しておく。（各回2時間程度。予習の仕方については教場で説明します。）
- ・プリントやノートを用いた復習を行う。（各回2時間程度。復習の仕方については教場で説明します。）
- ・本授業の最終にレポートをまとめて提出する。（テーマや執筆方法については、教場でお伝えします。）

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003年
 - ・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年
- このほか、授業の進行状況に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】

レポート60%、平常点40%で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・日本史Ⅱもあわせて受講することを強く推奨します。
- ・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。
- ・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。
- ・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようにしましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan. 【Learning Objectives】The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan. 【Learning activities outside of classroom】You spend 2hours preparing and reviewing each class. You learn broadly about Japanese history and culture and acquire the knowledge you need to become a member of society. 【Grading Criteria /Policy】You need to hand over review sheets each class and reports last class.

HIS200LA (史学/History 200)

日本史Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多間

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本近代史（政治史、社会史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデータを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本近代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義においては、双方向的やりとりを重視する。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、内容に若干の変更を伴うこともある。オンライン、対面授業等などの実施予定にともなう、各回の授業計画の変更については、本講義の開始日に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本近代史を考える	日本近代史の見方や解釈について、先行研究の論点を整理し、考察を深める。
2	空襲と国民	空襲の残した爪痕について「戦後」も含めて考察する。
3	日本近代史の中の病気	「流感」やその他の病気が、日本近代史に与えた社会的影響について考える。
4	明治憲法と戦前の日本	いわゆる明治憲法体制の形成と崩壊について考える。
5	皇族と戦前の日本	皇族たちの近代史について考える。
6	第一次世界大戦と日本	近年の研究動向をふまえ、100年以上前の戦争の記憶について考える。
7	皇族と三種の神器	三種の神器や賢所、宮中の制度などについて考える。
8	満洲事変と日本外交	「満洲事変」が日本の国内政治をどのように変容させたのかについて考える。
9	戦争と捕虜	「捕虜」「俘虜」などの定義などについて考える。
10	二・二六事件と陸軍	二・二六事件とその思想的背景について考える。

11	日独伊三国同盟と重臣	いわゆる「三国同盟」について、当時の史料を読みながら、この問題について考察を深める。また、同盟理論についても考察を深める。
12	「アジア・太平洋戦争」の時代	戦前の朝鮮・台湾・アジアとの関係について考える。
13	シベリア抑留と日ソ関係	近衛文隆や宇野宗佑、三波春夫など、多くの人が抑留されました。抑留中に歌われた音楽やナヴォイ劇場にまつわる言説についても取り上げます。
14	原爆投下について考える	原爆投下についての論争などについて整理し「戦後」の問題も考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント）30%
簡単な小レポート（複数回）50%
テスト 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

(Learning Objectives) Students will acquire a basic understanding of modern Japanese history while also learning how to write short essays.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation time: 2 hours per class

Review time: 2 hours per class

(Grading Criteria /Policy)

Short reports 50%

Class participation (weekly comments) 30%

Final test 20%

HIS200LA (史学/History 200)

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本現代史（政治史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデータを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本現代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義においては、双方向的なやりとりを重視する。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、内容に若干の変更を伴うこともある。オンライン、対面授業等などの実施予定にともなう、各回の授業計画の変更については、本講義の開始日に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本現代史について考える	「戦前」と「戦後」について考えます。
2	老病死の「終戦史」	「病氣」「身体」といった要因が政治に与えた影響を考える。
3	日露戦争と鈴木貫太郎	近年の研究動向をふまえ、日露戦争のインパクトについて考える。
4	真珠湾攻撃と日米戦争	2021年の80周年にあたってのメディアや記憶について考える。
5	新憲法の制定過程	日本国憲法の制定過程について概観します。
6	東条英機と「東京裁判」	国際政治の文脈から「東京裁判」を考えます。
7	昭和天皇と平沼騏一郎	平沼騏一郎とその政治グループの位置づけについて考えます。
8	55年体制の成立と岸信介	岸信介とその政治グループの位置づけについて考えます。
9	占領政策の転換と吉田茂	吉田茂とその政治グループの位置づけについて考えます。
10	風化する戦争体験と「五感」	五感を歴史学の文脈で語ることは難しいです。空襲警報の音や、戦争における「匂い」などについて考えます。

11	政治とシンボル	「国家」「陸軍」「海軍」は見えてなくても、シンボルは目に見えます。国旗、軍旗、軍艦、日本刀、石碑、いろいろなものについて考えてみたいと思います。
12	日中国交正常化と高度成長	戦後の日中・日台関係について概観します。
13	冷戦の終結と日米関係	日米関係を長期的視点から考察します。
14	21世紀の日本外交 相互理解にむけて	日本の内政と外交がどのような関連性を持っているのかを理解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント） 30%
小レポート（複数回） 50%
テスト 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

(Learning Objectives) Students will acquire a basic understanding of modern Japanese history while also learning how to write short essays.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation time: 2 hours per class

Review time: 2 hours per class

(Grading Criteria /Policy)

Short reports 50%

Class participation (weekly comments) 30%

Final test 20%

PHL200LA (哲学 / Philosophy 200)

宗教論 L I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

古澤 有峰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバルな視点から、宗教の社会貢献や中立性、利他等について再考する。

【到達目標】

国際社会の中の宗教をめぐる課題や問題点（宗教の社会貢献や公共における宗教的中立性など）について、具体例の検証などを通じて学習・理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	「宗教」を取り巻く諸問題について、国際社会の中の宗教という観点から再考する
2	理論編	宗教・中立・公共性—講義理解のための“理論入門”
3	国際社会の中の宗教 ①災害支援は誰のためか（1）	赤十字の思想と実践を例に
4	国際社会の中の宗教 ①災害支援は誰のためか（2）	阪神大震災を例に
5	国際社会の中の宗教 ①災害支援は誰のためか（3）	東日本大震災を例に
6	国際社会の中の宗教 ②あなたのからだは誰のものか（1）	中絶論争を例に
7	国際社会の中の宗教 ②あなたのからだは誰のものか（2）	臓器移植を例に
8	国際社会の中の宗教 ②あなたのからだは誰のものか（3）	終末期医療を例に
9	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（1）	心と魂のケア、その課題と問題点

10	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（2）	スピリチュアルケアの功罪：理念と実際
11	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（3）	スピリチュアルケアの功罪：歴史的背景
12	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（4）	スピリチュアルケアの功罪：中立性をめぐって
13	国際社会の中の宗教 ③心と魂のケアは何のためか（5）	音楽と癒しを例に
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が40%、最終レポートが60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with religions' contributions, neutrality, and altruism towards society from a global standpoint. (Learning Objectives) The goals of this course are deepen learning and understanding of issues and problems surrounding religion in the international community (such as the contribution of religion to society and religious neutrality in the public sphere) through examination of specific examples. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to make an effort to understand the contents of the class using the handouts, notes, and reference books provided, and to ask questions if there are any points that are not clear. (Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the initial and mid-term reports(40%) and term-end report (60%).

PHL200LA (哲学/Philosophy 200)

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

古澤 有峰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす。

【到達目標】

理論と実際の両方を検証する事を通じて、ジェンダーとキリスト教および宗教をめぐる問題や課題について学習・理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす
2	基礎知識編	ジェンダーの視点からキリスト教における「聖書」「神」を再考する
3	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた性的マイノリティ (1)	世界における宗教の歴史的動向と、キリスト教における性的マイノリティ
4	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた性的マイノリティ (2)	ジェンダーの定義と歴史的背景
5	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた性的マイノリティ (3)	ライフヒストリーから考える
6	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた生命倫理 (1)	キリスト教の体系化の歴史と中絶論争
7	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた生命倫理 (2)	脳死・臓器移植・生殖医療・再生医療
8	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた生命倫理 (3)	看取り・終末期医療

9	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア (1)	心と魂のケア、その課題と問題点
10	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア (2)	スピリチュアルケアの功罪：理念と実際
11	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア (3)	スピリチュアルケアの功罪：歴史的背景
12	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア (4)	スピリチュアルケアの功罪：中立性をめぐって
13	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア (5)	音楽と癒しを例に
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が40%、最終レポートが60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with Christianity and religion from the perspective of gender. (Learning Objectives) The goals of this course are deepen learning and understanding of issues and problems surrounding Christianity and religion from the perspective of gender through examination of specific examples. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to make an effort to understand the contents of the class using the handouts, notes, and reference books provided, and to ask questions if there are any points that are not clear. (Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the initial and mid-term reports(40%) and term-end report (60%).

HIS200LA（史学 / History 200）

西洋史 L E

2017年度以降入学者

サブタイトル：

竹下 和亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきた。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。今学期は、とくにスペインとポルトガルに焦点を当てる予定である。

【到達目標】

スペインとポルトガルの歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

王家の系図や年表を詳細に検討しながら講義をします。適宜グループディスカッションが入る予定です。質問は授業内、授業終了後などでいつでも受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。授業の内容と日程は、受講の関心等により多少変更されることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スペイン史及びポルトガル史の諸問題とイベリア半島の諸地域
第2回	中世カスティーリャ連合王国I	カスティーリャ連合王国の成立とレコンキスタ
第3回	中世カスティーリャ連合王国II	カスティーリャ連合王国の発展
第4回	中世アラゴン連合王国I	アラゴン連合王国の成立とレコンキスタ
第5回	中世アラゴン連合王国II	アラゴン地中海帝国の形成
第6回	カトリック両王の時代	イサベルとフェルナンドの「スペイン」統治
第7回	ハプスブルク朝からブルボン朝へ	スペイン帝国の形成と衰退
第8回	ポルトガルの歴史	ポルトガルの誕生から現在まで
第9回	スペイン帝国の諸相	ラテンアメリカの歴史的展開
第10回	近代国家の誕生	アンシアン・レジームの解体と自由主義改革
第11回	近代国家の進展	王政復古体制からスペイン内戦まで
第12回	フランコ独裁体制	帝国と独裁の時代から多様性の社会へ
第13回	第二次世界大戦後の世界	戦後国際秩序におけるスペイン、ポルトガル及びラテンアメリカ

第14回 試験及びまとめ 期末試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立石博高『スペイン史10講』岩波書店、2021年

【参考書】

立石博高編『スペイン・ポルトガル史〈上〉〈下〉』山川出版社、2022年
関哲行・立石博高・中塚次郎編『世界歴史大系スペイン史〈1〉〈2〉』山川出版社、2008年

立石博高監訳、竹下和亮・内村俊太・久木正雄訳『スペインの歴史』明石書店、2014年

J・H・エリオット（立石博高・竹下和亮訳）『歴史ができるまで』岩波書店、2017年

クリشان・クマー（立石博高・竹下和亮訳）『帝国』岩波書店、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、試験（60％）。ただし、授業出席は単位修得の前提条件となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Medieval Age onwards, and the basic terminology for the historical research. Students will acquire basic knowledge of Spanish and Portuguese history and will be able to understand its distinctive characteristics in comparison with the histories of other regions, as well as the role it played in shaping subsequent world history. Standard preparation and review time for this course is two hours each. When readings are distributed, students are expected to read them in advance. Grades will be based on class participation (40%) and the examination (60%). Attendance at in-person sessions is a prerequisite for earning course credit.

HIS200LA（史学/History 200）

西洋史 L F

2017年度以降入学者

サブタイトル：

内川 勇太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世ヨーロッパにまつわる主要なフィクションをとりあげ、それらが流布した原因および実際に起きたことについて、1次史料に基づいて考察する。

【到達目標】

中世ヨーロッパ史に関するフィクションが訂正される過程を体験することで、史料批判に基づく歴史学の研究手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回終了後にリアクションペーパーを提出してもらい、全体に共有すべき質問等は次回の授業冒頭において取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要
第2回	まえがき・イントロダクション・訳者あとがき	教科書の概要、ヨーロッパ、北米、日本における中世主義
第3回	第1章 中世は暗黒時代だった	中世ヨーロッパに対する全般的なイメージ
第4回	第2章 中世の人々は地球は平らだと思っていた	中世ヨーロッパにおける世界認識
第5回	第3章 農民は風呂に入ったことがなく、腐った肉を食べていた	中世ヨーロッパの衛生
第6回	第4章 人々は紀元千年を恐れていた	中世ヨーロッパにおけるキリスト教の終末思想
第7回	第5章 中世の戦争は馬に乗った騎士が戦っていた	中世ヨーロッパの戦争・戦闘技術
第8回	第6章 中世の教会は科学を抑圧していた	中世ヨーロッパにおける信仰と科学の関係
第9回	第7章 一二二二年、何千人もの子どもたちが十字軍遠征に出立し、そして死んだ	中世ヨーロッパの教皇権と子ども十字軍
第10回	第8章 ヨハンナという名の女教皇がいた	中世ヨーロッパの女性と教皇権
第11回	第9章 中世の医学は迷信にすぎなかった	中世ヨーロッパの医学と迷信

第12回	第10章 中世の人々は魔女を信じ、火あぶりにした	中世ヨーロッパの魔女、魔法使い、魔術と異端
第13回	第11章 ベスト医師のマスクと「バラのまわりを輪になって」は黒死病から生まれた	中世ヨーロッパにおける疫病
第14回	番外編 アングロ＝サクソン期イングランドでは七王国の王がブリテンの覇者になろうと互いに争っていた	七王国概念とブリテンの覇者概念に基づくアングロ＝サクソン期イングランド理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習、授業内容の復習を合わせて毎回4時間以上の予習・復習を行う。

【テキスト（教科書）】

ウィンストン・ブラック 著/大貫 俊夫 監訳『中世ヨーロッパ：ファクトとフィクション』平凡社 2021

【参考書】

適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)、毎回のリアクションペーパー(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

参考資料のアクセシビリティを改善する必要を感じた。

【Outline (in English)】

Course outline:Featuring popular fictions or myths on Medieval Europe, this course aims to outline the reason and the way of their development, and present the historical facts based on primary sources.

Learning Objectives:By experiencing the process of fictions on Medieval Europe being corrected, students will learn the method of History based on source criticism.

Learning activities outside of classroom:reading of the textbook before and after each class

Grading Criteria/Policy:Report(70%), Reaction Papers(30%)

LAW100LA（法学 / law 100）

法学 I

2017年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で実施する。授業毎に学習支援システムで自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバックを行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第2回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第3回	法と権利	権利義務関係
第4回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第5回	法の解釈	法解釈の性質と役割
第6回	法の分類	法の分類と法源
第7回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第8回	明治憲法と日本国憲法	日本国憲法の成り立ちを学ぶ
第9回	日本国憲法の基本原理 1	国民主権
第10回	日本国憲法の基本原理 2	平和主義
第11回	日本国憲法の基本原理 3（1）	基本的人権とは
第12回	日本国憲法の基本原理 3（2）	人権規定の構成
第13回	統治機構 1	国会と内閣
第14回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学 第8版』成文堂、2025年、3190円（税込み）、ISBN9784792307400

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの小テスト（50％）、期末に実施するレポート課題（50％）の合計で評価する。これらにより、到達目標欄に記載した3点の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

主な裁判例や憲法条文を掲載している情報量の多いテキストを用い、例年、文字が多くとっつきにくいという意見があった。事前にパワーポイントや追加資料を学習支援システムで配布し理解を促すよう努める。レポート作成にあたって、生成AIの使用は禁止する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システム上でワードファイルで提出できる機器を準備すること。六法を購入する必要はない。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners in law. The content will be centered on general and comprehensive knowledge of law as a whole and lectures on the structure and basic principles of the Constitution of Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (50%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (50%).

LAW100LA（法学 / law 100）

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを用いて授業を行う。授業毎に学習支援システムでの自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次回の授業時に講評と解説によりフィードバックを行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・犯罪と 刑罰 1	授業の進め方、犯罪と刑罰
第2回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立要件
第3回	民法 1	民法の基礎・物権
第4回	民法 2	債権法の基礎・契約
第5回	民法 3	不法行為と損害賠償
第6回	民法 4	各種事故の被害者救済
第7回	民法 5	家族関係と法 1 夫婦と親子
第8回	民法 6	家族関係と法 2 相続
第9回	経済取引と法	商法・会社法
第10回	労働関係と法	労働法の理念と体系
第11回	社会保障法	被用者保険・社会保障・社会福祉
第12回	情報化社会と法	情報法
第13回	国際関係と法 1	主権と領土
第14回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学 第8版』成文堂、2025年、3190円（税込み）、ISBN9784792307400

【参考書】

学習支援システム及び授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの自動採点の小テスト（50%）、期末に実施するレポート課題（50%）の合計で評価する。これらにより、到達目標欄に記載した4点の達成度を評価する。レポート作成にあたって、生成AIの使用は禁止する。

【学生の意見等からの気づき】

法学部以外の学生も多く、テキストが難しいという指摘があることから、難解な用語について平易に解説するように努め、ニュース解説番組などを紹介して導入のきっかけを作る工夫をした。法改正が頻繁な法令について追加資料を学習支援システムで配布し、e-govの条文へのリファレンスを行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システムでワードファイルで提出できる機器を準備すること。最新の法律条文は、電子政府の総合窓口（e-Govなどで閲覧すると良い）。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners in law. The main content is lectures on basic knowledge and principles of criminal law, civil law, and labor law, and the basics of international law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (50%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (50%).

LAW100LA（法学 / law 100）

法学 I

2017年度以降入学者

岡 克彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「犯罪からみた法律の機能」

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的としては、社会で起こった犯罪を題材を取り上げて法律が社会のなかでどのような機能や役割を果たしているのかについて講じる。まずはどうして犯罪を犯した場合、刑罰などで処罰されるのかを考える。また、私たち市民は、裁判員制度の成立で「人を裁く側」にも立つようになった。刑法および刑事訴訟法を知る必要が増している。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、以下のように現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。

① どうして犯罪を犯すと処罰されるのか、その法的仕組みと法の本質を理解する。

② 「裁判員制度」を通して、一般市民が「人を裁く」立場に立つ意義とその問題性を探究する。

③ 法律の成り立ちから、現代社会における法の役割を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック。
- ・コメント用紙の提出を通して、授業後の学習を振り返る契機としている。

- ・授業時にオンラインからの出席チェック、授業資料の配信およびチャット機能による意見表明などのアクティブラーニングを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	法学への案内ーガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第2回	法の成り立ち（1）	社会で法が生まれる要因とその意義
第3回	法の成り立ち（2）	社会規範としての法の特徴と働き
第4回	犯罪が処罰されるしくみ（1）	犯罪の定義と「刑法」という法律
第5回	犯罪が処罰されるしくみ（2）	犯罪が処罰される根拠と基準
第6回	犯罪が処罰されるしくみ（3）	刑事手続きの一般的な流れ
第7回	刑罰の意味（1）	刑罰の意義とその種類
第8回	刑罰の意味（2）	刑罰からみた処罰の根拠
第9回	法律解釈のしくみ	法律解釈の方法
第10回	裁判員制度（1）	裁判員制度の概要とそのしくみ
第11回	裁判員制度（2）	市民が刑事裁判に関わる意義とその課題

第12回	故意について	故意と過失の違い
第13回	刑事責任の根拠	罪をつぐなう意義と根拠
第14回	まとめー法律とは何か	現代社会にとって「法」とはそもそもなんだっただろう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間ぐらいを標準とします。たとえば、ノートや文献を事前・事後に読むというのでもいいです。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

授業時にプリントや資料を配布する。

【参考書】

参考書は授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常試験(出席、毎回、提出するコメント等)と定期試験で総合評価する。

出席は当然のこととし、毎回の質疑応答など、授業への参加度と授業の最後に課されるコメント用紙の提出が40%。最終的に課される定期試験が60%の割合で単位認定および成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出されるコメント用紙から、受講生の関心および理解度に応じて授業内容や計画を変更したり、あるいは授業の進捗状況を変えたりすることがある。

また、質問は授業終了時に受け付ける予定である。

【学生が準備すべき機器他】

授業時にオンラインからの出席チェック、授業資料の提供およびチャット機能による意見表明などのアクティブラーニングを実施する予定である。毎回、PCなどを持参すること。

【その他の重要事項】

・授業開始から15分以上、遅れた場合、「欠席扱い」とするので十分に注意するように。

【Outline (in English)】

“The Function of Law as Seen Through Crime”

This lecture covers the fundamentals of jurisprudence, primarily targeting beginners and introductory students of law. It examines the functions and roles of law within society by using actual crimes that have occurred in society as case studies. We begin by considering why individuals who commit crimes are punished through penalties such as criminal sanctions.

For out-of-class learning, the standard time for preparation and review for this course is approximately 2 hours each.

Grades will be determined by a comprehensive evaluation based on regular assessments (attendance, participation in each class session, submission of comments, etc.) and periodic exams. Attendance is mandatory. Participation in each class session, including Q&A, and submission of the comment sheet assigned at the end of each class session account for 40%. The final periodic exam accounts for 60% of the grade. This combined assessment will determine credit and final grades.

LAW100LA (法学 / law 100)

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

岡 克彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、法学の基礎的な考え方を学ぶとともに、主に憲法の入門程度の知識について講じる。日本国憲法は周知のように「国民主権」、「基本的人権の尊重」および「平和主義」の3つの柱から成り立っている。この憲法の基本的な考え方を理解して、憲法を通じて国家、社会と人々との関係性について考えていく。特に「基本的人権」は侵すことができない永久の権利といわれるが、各人権が憲法上、どのように保障されているのかについて、実際の私たちの身近な生活と結びつけて具体的に考えていくことにする。この考察から人権についての現実的な理解を得ることを目指す。

【到達目標】

法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、憲法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①憲法の基本概念・用語の意味内容を習得して、特に人権の基本的な仕組みと考え方を理解する。
- ②社会の中で個人の人権がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原則である「個人の尊厳」について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック
- ・コメント用紙の提出を通して、授業後の学習を振り返る契機としている。
- ・授業時にオンラインからの出席チェック、授業資料の配信およびチャット機能による意見表明などのアクティブラーニングを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第2回	国家と法について	国家権力を法的に抑制するとは
第3回	社会における法の役割	社会にとって法の必要性とは
第4回	日本国憲法の基本構造	国民主権と基本的人権の尊重とは
第5回	子どもの人権	学校の校則
第6回	外国人の人権	参政権は国民に限られる？
第7回	自己決定権	自分のことは自分で決める？
第8回	プライバシー権	わたしの秘密
第9回	平等権（1）	性別とジェンダー
第10回	平等権（2）	トランスジェンダー、同性婚などの性的マイノリティ

第11回	信教の自由	新興宗教と信教の自由
第12回	営業の自由	公衆浴場の設置
第13回	生存権	文化的で最低限度の生活とは
第14回	まとめー法の機能	憲法からみた法の機能とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。たとえば、ノートや文献を事前・事後に読むというのでもいいですよ。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業時にプリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常試験(出席、毎回、提出するコメント等)と定期試験で総合評価する。

出席は当然のこととし、毎回の質疑応答など、授業への参加度と授業の最後に課されるコメント用紙の提出が40%。最終的に課される定期試験が60%の割合で単位認定および成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、提出されるコメント用紙から、受講生の関心および理解度に応じて授業内容や計画を変更したり、あるいは授業の進捗状況を変えたりすることがある。

また、質問は授業終了時に受け付ける予定である。

【学生が準備すべき機器他】

授業時にオンラインからの出席チェック、授業資料の提供およびチャット機能による意見表明などのアクティブラーニングを実施する予定である。毎回、PCなどを持参すること。

【その他の重要事項】

・授業開始から15分以上、遅れた場合、「欠席扱い」とするので十分に注意するように。

【Outline (in English)】

This course primarily covers the Constitution. We will understand fundamental principles of the Constitution and consider the relationship between the state, society, and its people through the lens of the Constitution. In particular, while “fundamental human rights” are considered inviolable and permanent rights, we will examine how each human right is specifically guaranteed under the Constitution by connecting it to our actual, everyday lives. The goal is to gain a practical understanding of human rights through this examination.

For out-of-class learning, the standard time for preparation and review for this course is approximately 2 hours each.

Grades will be determined by a comprehensive evaluation based on regular assessments (attendance, participation in each class session, submission of comments, etc.) and periodic exams. Attendance is mandatory. Participation in each class session, including Q&A, and submission of the comment sheet assigned at the end of each class session account for 40%. The final periodic exam accounts for 60% of the grade. This combined assessment will determine credit and final grades.

LAW100LA（法学 / law 100）

法学 I

2017年度以降入学者

村元 宏行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学の基礎を学ぶものですが、主には、法律を知識として吸収していくことの重要性和、論理的思考力のトレーニングとしての法学学修という二つの側面から授業を行う予定です。

法学はⅠとⅡに分かれますが、Ⅰでは総論的事項や憲法を中心に取り上げることとします。

【到達目標】

法の種類や法の解釈について基礎的な説明ができるようになる。
日本国憲法の学修を通じて、立憲主義について基礎的な説明ができるようになる。
社会において、法が存在する意義や法学学修の重要性について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など 法学を学修する意義について
第2回	法の種類について	制定法としての法律や政令等、 不文法としての慣習や条理等の 種類について
第3回	法の解釈について	法解釈について、強制力の有無 や解釈の類型について
第4回	法と裁判について	法適用の要としての裁判制度に ついて
第5回	法に関わる職業について	法曹三者（裁判官、検察官、弁 護士）と中心とする法律専門職 について
第6回	日本国憲法① 総論	日本国憲法の位置づけと立憲主 義について
第7回	日本国憲法② 日本国憲法の誕生	日本国憲法の制定過程について
第8回	日本国憲法③ 国民主権と象徴天皇 制	国民主権と象徴天皇の意義、 天皇の国事行為等について
第9回	日本国憲法④ 平和主義	憲法9条をめぐる論議について
第10回	日本国憲法⑤ 人権総論	基本的人権の意義とその限界に ついて
第11回	日本国憲法⑥ 自由権	精神的自由権、経済的自由権、 人身の自由について

第12回	日本国憲法⑦ 社会権、公務請求 権・参政権	生存権、請願権等について
第13回	日本国憲法⑧ 統治の仕組み	権力分立制の意義と内容につい て
第14回	まとめ	教養科目として法学を学ぶ意義 について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『デイリー六法 2026年版』（三省堂）

ただし、他の六法を持っている場合はそれでも構いませんが、詳しくは初回で指示します。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

期末試験と授業内小レポートにより、【到達目標】欄に記載した法解釈や立憲主義の理解の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that law.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that law.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW100LA（法学 / law 100）

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

村元 宏行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学の基礎を学ぶものですが、主には、法律を知識として吸収していくことの重要性和、論理的思考力のトレーニングとしての法学学修という二つの側面から授業を行う予定です。

法学はⅠとⅡに分かれますが、Ⅱでは民事法、刑事法、行政法、国際法等を中心に上げることとします。

【到達目標】

民事法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
刑事法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
行政法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
国際法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
以上の基本原則の理解を踏まえて、現実の社会問題に法的視点からアプローチできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など 法学を学修する意義について
第2回	民事法について－法体系と基本原則－	民法を中心とした民事法体系と私的自治の原則等について
第3回	民事法について－私的トラブルと法－	私的トラブルと法の適用について
第4回	刑事法について－法体系と基本原則－	刑法、刑事訴訟法を中心とした法体系と罪刑法定主義等について
第5回	刑事法について－刑事手続の実際－	捜査から裁判、刑の執行について
第6回	行政法について－法体系と基本原則－	国家行政組織法等を中心とする法体系と行政の基本原則について
第7回	行政法について－行政組織について－	行政組織法を中心とした行政組織について
第8回	国際法について－法体系と基本原則－	国際法の法類型と基本原則について
第9回	国際法について－国際人権法を中心に－	国際人権規約や子どもの権利条約を中心とした国際人権条約について
第10回	社会問題と法①－教育と法－	校則や体罰について法的視点から考察する
第11回	社会問題と法②－貧困と法－	生活保護や子どもの貧困について法的視点から考察する

第12回	社会問題と法③－消費生活と法－	18歳成年や消費者トラブルについて法的視点から考察する
第13回	社会生活と法④－労働と法－	過労死やブラック職場について法的視点から考察する
第14回	まとめ	教養科目として法学を学ぶ意義について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『デイリー六法 2026年版』（三省堂）

ただし、他の六法を持っている場合はそれでも構いませんが、詳しくは初回で指示します。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

期末試験と授業内小レポートにより、【到達目標】欄に記載した諸法の基本原則理解の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that law.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that law.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW100LA（法学 / law 100）

法学 I

2017年度以降入学者

吉村 千冬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの社会生活に法は欠かせないものですが、普段の生活で法を意識することはあまりないかもしれません。しかし、法は私たちの社会生活に欠かせないものであるからこそ、法学の知識が日常のトラブルや社会問題の解決に有益となります。

この授業では、法学の初学者を対象に、法学の基礎的・一般的知識を学ぶことを通じて、法学に関する知識や法的思考の獲得を目指します。法学Iでは、法学の基礎と日本国憲法について扱います。なお、授業の進行ペース等により、順序や内容を変更する場合があります。

【到達目標】

法学の基礎的・一般的知識を習得し、日本法の仕組みと基本原則を理解することを基本的な目標とします。

具体的には、以下の4つが到達点です。

- ①法学の基本概念・用語を理解する。
- ②現代の日本法の基本的な仕組みと体系を把握する。
- ③社会における法の役割を理解し、法によって紛争や社会問題がどのように解決されるか、人の権利がどのように守られているのかを理解する。
- ④日本国憲法の基本原理と特徴を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

配布するレジュメに沿って講義形式で行います。

リアクションペーパーを書いていただき、翌週の授業の冒頭でフィードバックする予定です。

基本的に対面を予定していますが、オンラインになる場合には事前にご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第2回	法とは何か	社会生活における法の役割について
第3回	法の歴史	法の歴史的展開について
第4回	法の体系と形式	法の分類、法源について
第5回	条文の読み方	条文の基礎知識と読み方について
第6回	法解釈の方法	法解釈の概要や方法について
第7回	裁判制度とその役割	裁判の仕組み、裁判員制度について
第8回	法の担い手	法律家や法制度の運用に携わる専門職等について
第9回	日本国憲法の歴史	日本国憲法と明治憲法の比較
第10回	日本国憲法の基本原理①	人権とは何か？ 人権制約の可能性について

第11回 日本国憲法の基本原理② 自由権の保障と限界

第12回 日本国憲法の基本原理③ 平等権・社会権・新しい人権（現代的課題）

第13回 統治機構① 統治の基本原理、国会と内閣の位置付けについて

第14回 統治機構② 司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや参考文献等を参照しながら、概念や制度等について予習・復習してください（各2時間）

【テキスト（教科書）】

配布するレジュメに沿って行います。

参考文献をレジュメにあげているので、必要に応じてご参照ください。

【参考書】

配布するレジュメに参考文献を記載しますので、予習や復習の際に参照してください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 20%

期末試験または期末レポート 80%

双方に基づき、到達目標として記載した4つの点に達しているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は1年生や法学部以外の方も履修されていたため、丁寧な説明を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの配布は学習支援システムを利用しますので、各自で確認をお願いします（紙資料の配布はない予定です）。

【その他の重要事項】

私語は他の学生の迷惑にもなりますので、ご遠慮ください。

【Outline (in English)】

・ Course outline

The purpose of this course is to understand the basic structure and principles of Japanese law.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic structure and principles of Japanese law and the role of law in society, how issues are resolved by law, and how people's rights are protected.

・ Learning activities outside of the classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

・ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%

LAW100LA（法学 / law 100）

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

吉村 千冬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの社会生活に法は欠かせないものですが、普段の生活で法を意識することはあまりないかもしれません。しかし、法は私たちの社会生活に欠かせないものであるからこそ、法学の知識が日常のトラブルや社会問題の解決に有益となります。

この授業では、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎的・一般的知識を学ぶことを通じて、法学や法的思考に関する知識の獲得を目指します。法学Ⅱでは、刑事法、民事法、行政法等の各種法について扱います。なお、授業の進行ペース等により、順序や内容を変更する場合があります。

【到達目標】

法学の基礎的・一般的知識を習得し、日本法の仕組みと基本原則を理解することを基本的な目標とします。

具体的には、以下の4つが到達点です。

- ①法学の基本概念・用語を理解する。
- ②現代の日本法の基本的な仕組みと体系を把握する。
- ③社会における法の役割を理解し、法によって紛争や社会問題がどのように解決されるか、人の権利がどのように守られているのかを理解する。
- ④それぞれの法の基本原則と特徴を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

配布するレジュメに沿って講義形式で行います。

リアクションペーパーを書いていただき、翌週の授業の冒頭でフィードバックをする予定です。

基本的に対面を予定していますが、オンラインになる場合には事前にご連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価等に関する説明
第2回	刑事法①	刑事司法を取り巻く近年の状況について
第3回	刑事法②	犯罪の成立と刑事手続について
第4回	刑事法③	日本における刑罰制度について
第5回	刑事法④	少年法について
第6回	刑事法⑤	医療観察制度について
第7回	民事法①	民法の意義、構成、基本原則の概要について
第8回	民事法②	物権法と債権法とは？
第9回	家族関係と法①	親族法と相続法とは？
第10回	家族関係と法②	親子関係や無戸籍児童について
第11回	労働法	労働法の理念、体系、内容について
第12回	行政法①	行政法の基本構造や行政法的一般原則について

第13回 行政法②

行政救済法について

第14回 国際法

国際法と国内法の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや参考文献等を参照しながら、概念や制度等について予習・復習してください（各2時間）

【テキスト（教科書）】

配布するレジュメに沿って行います。

【参考書】

配布するレジュメに参考文献を記載しますので、予習や復習の際に参照してください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 20%

期末試験または期末レポート 80%

双方に基づき、到達目標として記載した4つの到達点に達しているかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は1年生や法学部以外の方も履修されていたため、丁寧な説明を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの配布は学習支援システムを利用しますので、各自で確認をお願いします（紙資料の配布はない予定です）。

【その他の重要事項】

私語は他の学生の迷惑にもなりますので、ご遠慮ください。

【Outline (in English)】

・ Course outline

The purpose of this course is to understand the basic structure and principle of Japanese law.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic structure and principle of Japanese law and role of law in society, how issues are resolved by law, and how people's rights are protected.

・ Learning activities outside of the classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%

LAW100LA（法学 / law 100）		
法学Ⅰ		
陳 志明		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木4/Thu.4		
単位数：2単位		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
この授業は、法学Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、春学期の法学Ⅰでは、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造に関する講義を行う予定です。		
【到達目標】		
受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第2回	法とは何か	法と社会との関係 道徳等との関係 法の目的 権利義務との関係
第3回	法と裁判	事件への法の適用 裁判制度 訴訟手続上の諸原則
第4回	裁判の基準	制定法 法の適用における原則 不文法
第5回	法の解釈と分類	事実認定と法の解釈 解釈の性質及び方法 法の分類
第6回	国家と憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特質
第7回	日本の新旧憲法	大日本帝国憲法の特質 日本国憲法の制定 日本国憲法の基本原理
第8回	国民主権	国民主権 選挙 地方自治
第9回	平和主義	規定の背景 規定の内容及び解釈 安全保障 人権総論 包括的基本権 法の下での平等 自由権 社会権 参政権及び国務請求権
第10回	基本的人権①	国会 議院内閣制 内閣 裁判所 違憲審査制 財政
第11回	基本的人権②	レポートの作成及び提出並びにまとめ
第12回	権力分立①	
第13回	権力分立②	
第14回	授業内試験（教室レポート）	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
テキストは使用しません。		
【参考書】		
末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年） 穴戸常寿・石川博康編著『法学入門〔第2版〕』（有斐閣、2026年） 安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年） その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。		
【成績評価の方法と基準】		
春学期末の授業内試験（教室レポート）（80％）及び平常点（20％）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。		
【学生の意見等からの気づき】		
特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC科目であることに留意します。		
【Outline (in English)】		
The aim of this course is to help students acquire an understanding of general and comprehensive knowledge of the whole law, and the basic principles and structure of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).		

LAW100LA（法学 / law 100）

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、秋学期の法学Ⅱでは、刑法、民法、労働法の基本構成と基本原則、国際法の基礎的な知識に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	犯罪と法①	刑法とは何か 罪刑法定主義 法益の保護
第2回	犯罪と法②	犯罪の成立 構成要件 違法性と責任
第3回	民法総論①	民法とは何か 民法の基本原則 権利と義務
第4回	民法総論②	契約と法律行為 権利能力と行為能力 法人と会社
第5回	財産関係と法①	契約の成立と効果 双務契約における債務 契約の履行と不履行
第6回	財産関係と法②	所有権 不法行為 損害賠償
第7回	家族関係と法①	家族法 親族 夫婦
第8回	家族関係と法②	親子 扶養 相続

第9回	労働と法①	労働法の概観 労働関係の当事者 労働条件の決定
第10回	労働と法②	労働契約の成立 人事 賃金
第11回	国際社会と法①	主体 国家の主権 国際法の存在形式
第12回	国際社会と法②	国際法の国内の実施 国際法の国際の実施 領域
第13回	国際社会と法③	海洋 南極と上空 人権
第14回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）
 穴戸常寿・石川博康編著『法学入門〔第2版〕』（有斐閣、2026年）
 井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第7版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2025年）
 野村豊弘『民事法入門〔第9版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2025年）
 小畑史子・緒方桂子・竹内（奥野）寿『労働法〔第5版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2025年）
 玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第2版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2022年）
 その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期末の授業内試験（教室レポート）（80％）及び平常点（20％）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic structure and principles of criminal law, civil law and labor law, and the basic knowledge of international law. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA（法学 / law 100）	
法学 I	2017年度以降入学者
水野 圭子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月5/Mon.5	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすることを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原理、司法制度の仕組み、国際法に関して、条約の締結やEU法についても学ぶ。また、EUにおいて、民主主義、自由、法の支配がなぜ重要であると考えられているのか、検討する。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の目標である。法律を学んだことのない学生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。法学の基礎を学習することにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。
- ④EU法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書とパワーポイント・黒板を利用し、講義形式で授業を行う。ドキュメンタリーなど視聴覚教材を使用する場合があるが、その場合は、リアクションペーパーの提出を求める。

毎回の授業の終わりに質問等を受ける時間を設け、次回の授業開始時に、前回の復習を行うとともに、やりアクションペーパーに関するコメントについて、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	法の役割と法律の学び方について、キャッチセールス、職務質問、説明する。また、法と私たちはどのように関わっているのか、法をどのように学ぶのか検討する。
第2回	契約による経済活動	法を学ぶ一歩として、契約について考える。私たちが日々行っている契約が生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。

第3回	契約によって生じる権利義務関係	契約をすると、どのような義務に拘束され、どのようなことを相手に請求することができるのか。契約の成立とその効果について考える。
第4回	契約を結ぶと何をしなければいけないのか。	契約によって生じる権利義務関係について、売買契約などの具体例を通じて考える。
第5回	債務不履行 契約が約束通り実行されない場合にどうするのか	契約が守られなかったとき、つまり、約束したことが内容通りに実行されなかった場合、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。損害賠償や契約の破棄について考える。
6回	契約を結んでも、契約に縛られない、拘束されない場合について	子供が高額な契約をした場合、契約内容をうっかり間違えた場合、悪質な契約の場合、どのような場合でも契約を内容通り実行しなければいけないのか。契約の例外について検討する。
7回	不法行為（1） 契約が結ばれていないけれども、ある相手方について損害賠償請求が行われる事例について	他人によって自分の権利を侵害された場合について、例えば、事故に巻き込まれた場合、怪我を負わされた場合、法は加害者に対しどのような責任を追及を認めているのか考える。
8回	不法行為（2） 様々な形態の不法行為について考える	複数の加害者が一緒に傷害行為を行う、例えばいじめの場合、雇っている従業員がほかの従業員にハラスメントを行った場合、どのような不法行為と考えられるのか検討する。
9回	憲法とは（1） 国と国民との契約とも言われる憲法について	国の最高法規である憲法は、国民に対してどのような権利を定め保護しているのか、国に対する国民の信託とは、憲法の基本的な理念と基本的な人権について考える。
10回	憲法とは（2） 国家権力を抑制する憲法の仕組み 統治機構	国家権力の抑制が憲法のもう一つの役割であるが、なぜ、権力を抑制する必要があるか。えん罪など近年起きた事例をもとに検討する。
11回	司法と裁判員制度	司法の仕組みについて、裁判員制度について、映像資料を見て、考える。
12回	EUとはどのようなものか 日本以外の国際的な法の仕組みについてEuを例に考える	EUの成立と法制度について概略を学ぶ。また、EUの経済的なつながりについて、人と物の自由な移動、経済的な動きについて映像資料を見て考える。
13回	EUにおける法理念	EUにおいて、民主主義、法の支配、自由などが重要であると考えられるのはなぜか、映像資料を見て考える。
14回	まとめ・試験	春学期の重要な点について確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田・犬伏・野川・大塚『法の世界へ〔第10版〕』（有斐閣アルマ、2025年）

なお、版が改訂される場合があるが、講義では最新版のものを使用するので、版の改訂を確認の上購入すること。このほか、六法を使用する。六法についてはガイダンスで説明する。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

田中淳子・大野正博編『法学入門』（成文堂、2015年）

末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第3版〕』（有斐閣、2014年） など

【成績評価の方法と基準】

記号選択問題によっておこなう期末試験の成績（80％）、これに、授業内で行った小テスト・レポート（20％）とし、到達目標欄に記載した4点の達成度を測り評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。

また、映像資料を講義内で利用する。

パワーポイントだけではなく、板書を利用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual, we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations. It also considers why modern legal principles such as democracy, freedom and the rule of law are considered important in the EU.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to acquire and understand the general and basic knowledge of law. The purpose of this course is to enable students who have never studied law to acquire the basics of law and to understand the structure and basic principles of modern law. This course is designed to help students who have never studied law to acquire basic legal knowledge and qualities required as citizens of a law-abiding country, and to acquire the basic legal knowledge that a sovereign citizen of a democratic country should have. Specific objectives of the course are as follows

(1) To acquire the meaning and content of the basic concepts and terms of law, and to understand the basic structure and system of modern law.

(2) To understand the role of law in society, and how social conflicts can be resolved by law and how individual rights can be protected.

(3) Understand the significance of constitutionalism and the basic principles and structure of the Japanese Constitution.

4) Understand the basics of EU law.

(Learning activities outside of classroom)

Please read the textbook and handouts carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be graded on the basis of their performance on the final exam, which will consist of symbol selection questions (80%), and in-class tests and reports (20%). Grades are given on a 100-point scale, with 60 points or more being awarded for credit.

LAW100LA（法学 / law 100）					
法学Ⅱ			2017年度以降入学者		
水野 圭子					
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月5/Mon.5					
単位数：2単位					
その他属性：〈優〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
本講義では、春期法学Ⅰの契約に関わる法を履修していることを前提に、さらに発展した契約である労働契約を中心に働くことに関わる法を学ぶ。					
学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会は多くない。本講義では、働くこととかわる法律について、春学期の法学Ⅰにて扱った法学の全般的知識を踏まえて、採用内定とその取消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっているEUの仕組みなどを通じて、国際的な法律関係、とくにEU法を素材として、人権や平等、労働法上の規制等についても知識を深めることを目的とする。					
【到達目標】					
春学期の法学Ⅰにて扱った法学の全般的知識を踏まえて、発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。					
全般的知識に基づいて発展的な法的課題として、EUなどの国際法的な関係についても、EU憲章、EU指令、EU裁判所制度、EUの社会保障制度などについても法的な理解を深める。					
上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
レジュメ、パワーポイントを用いた講義形式で授業を進める。視聴覚教材を利用した場合など、リアクションペーパーやコメントの提出を求める場合がある。講義の終わりに質問の時間を設け、次回抗議の開始時に、復習と質問に対する解説、リアクションペーパー等についてのフィードバックとしてをおこなう。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容	3回	憲法と労働法	契約自由の原則が憲法と労働法によって修正されている。その結果である労働時間・賃金・時間外労働・割増賃金といった基本的な労働条件とその守られ方について、労働条件と契約の自由の修正について、労働組合による労働条件の守り方についても考える。
1回	ガイダンス	授業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業	4回	労働から離れる権利と契約	休憩・休息時間・休日・休暇について アルバイトは有給休暇を取得できるのか。なぜ、休むことが重要か考える
2回	アルバイトと契約	働く場合に、何についてどのように契約しているのか。アルバイトの場合の労働契約について検討する	5回	採用内々定と採用内定、採用内定の取り消し	就職活動において、学生の権利はどのように守られているのか。内定の場合労働契約はいつ結ばれるのか、採用内定を納得できない理由で取り消された場合、学生はどのように保護されるのか検討する。
			6回	ハラスメントと契約	セクシャル・ハラスメント、マタニティハラスメント、パワーハラスメントといったハラスメントは労働契約の中でどのように位置づけられ、また法律によってどのように規制されているのか考える。
			7回	ワークライフバランス・少子化と労働時間・育児休業、父親出産休暇	少子高齢化は労働時間や女性の社会進出とどのようにかわるのか。
			8回	労働災害（１）労働災害の概略について	フランスやドイツではどのような労働政策が取られているのか検討する。
			9回	労働災害（２）労働災害について外部講師の講演	労働における安全衛生、労働災害・過労死、その原因と法制度について知る
			10回	労働条件の決定	過労自殺・過労死について、労働弁護士、被災労働者遺族の話聞く
			11回	EU諸国における労働と社会保障法	労働契約によって労働条件は決定されるが、それ以外にも労働条件を決定する就業規則、労働協約について検討する
			12回	EUの労働法とその実行の仕組み	EU市民とEU加盟国はどの間の労働法・社会保障法規はどのようなになっているのか
			13回	EUと社会憲章 EUにおける労働と社会保障	EU指令の制度、EU加盟国の立法権、EU裁判所の制度による労働法の問題の解決
			14回	まとめと復習・試験	EUにおいて人権や働く権利、私生活はどのように保障されているのか。
					講義内容の重点的な部分について復習・確認を行う
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】					
該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。					
【テキスト（教科書）】					
池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明『法の世界へ〔第10版〕』（有斐閣アルマ、2025年）（改訂版が出た場合は最新のものとする）					
このほか今年度版の六法を用意すること。					
六法については初回の授業で紹介します。					
【参考書】					
伊藤正己、加藤一郎『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）					
浜村彰、唐津博、青野覚、奥田香子『ベーシック労働法〔第9版〕』（有斐閣アルマ、2023年）					
高橋賢司、橋本陽子、本庄淳志『テキストブック労働法〔第2版〕』（中央経済社 2025年）					

【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80％）、これに、春学期間に提出されたレポート（20％）として、到達目標欄に記載した①労働関係の法的知識、②EU法に関する理解、③憲法的論点の理解を達成度を測り評価する。これらの合計を60点～69点をC、70点から79点をB、80点～89点をA、90点以上A+、あるいはSと単位認定する。

【学生の意見等からの気づき】

EUやフランス法との比較法的な検討について、関心が高かったので今後もそのような比較法的な視点からの講義を増やすこととしたい。

また、コロナ感染症対策における雇用政策や公衆衛生法についても関心が高かったので、時事的な問題や直ちに影響を受ける政策について情報を提供するように心がけたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is aimed at students who have completed Spring Law I and focuses on the law relating to working, with an emphasis on the further developed contract, the labour contract.

Working and the law are involved in various ways, even for students, such as when they work part-time or engage in job activities. However, there are not many opportunities to learn about work and the law. In this lecture, students will learn about the law as it relates to working.

Based on the knowledge of law covered in Law I in the spring semester, the following topics will be discussed. Cases that are relevant even to students, such as employment offers and withdrawal of offers, work-related accidents such as overtime pay and paid leave in the case of part-time jobs, employment offers and their withdrawal, as well as important issues such as wages, working hours, transfers and dismissal will also be examined. In the area of international law, the course will also provide an overview of the EU's borderless working environment with regard to the movement of people and labour, and will deepen knowledge of human rights, equality and labour law regulations.

(Learning Objectives)

Gain knowledge of the structure and legal regulations of labor contracts, which are developmental contracts. This will provide students with a correct understanding based on accurate legal knowledge of legal relations in the case of work.

Students will also gain a legal understanding of international legal relations such as the EU, including EU directives, the EU court system, and the EU social security system from the perspective of labor.

Deepen their understanding so that they can theoretically explain the constitutional issues involved in the above points.

(Learning activities outside of classroom)

Read the relevant textbook pages and handouts carefully. In addition, students are expected to follow up on relevant newspaper articles and news. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be evaluated based on their performance in the final examination using mark sheets (80%), plus reports submitted during the spring semester (20%) to measure their achievement in (1) legal knowledge of labor relations, (2) understanding of EU law, and (3) understanding of constitutional issues as stated in the achievement objectives section. A total of 60 to 69 points will be awarded as C, 70 to 79 points as B, 80 to 89 points as A, and 90 points or more as A+ or S.

LAW100LA（法学 / law 100）	
法学 I	2017年度以降入学者
山口 哲史	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、主に日本国憲法の構造と基本原理、行政法に関するものである。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回によっては、質疑応答を行う。具体的な事例や判決理由の部分などを学生に読んでもらうことがある。授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。リアクションペーパーを書いてもらう場合がある。提出されたリアクションペーパーについては、次回授業の質疑応答の際にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学の意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法 1	憲法総論－憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義
4	日本国憲法 2	統治機構－国会
5	日本国憲法 3	統治機構－内閣
6	日本国憲法 4	統治機構－裁判所
7	日本国憲法 5	基本的人権－幸福追求権（包括的基本権）・法の下での平等
8	日本国憲法 6	基本的人権－精神的自由（思想・良心の自由、信教の自由）
9	日本国憲法 7	基本的人権－表現の自由
10	日本国憲法 8	基本的人権－経済的自由、人身の自由
11	行政法 1	行政法総論
12	行政法 2	行政処分
13	行政法 3	行政手続

14	行政法 4	行政訴訟（取消訴訟）、国家賠償法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上田健介、尾形健、片桐直人『憲法判例50!〔第4版〕（START UP）』（有斐閣、2026）

ISBN-13：978-4641228986

【参考書】

毛利透『グラフィック 憲法入門 第3版』（新世社、2024） ISBN-13：978-4883843978

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 I・II〔第8版〕』（有斐閣、2025） ISBN-13：978-4641213449、ISBN-13：978-4641213456

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験または期末レポートにより評価する（100％）。

これにより、到達目標欄の達成度を評価する。

なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。

詳細は、授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、具体例を示しながら授業を進めていきます。

【その他の重要事項】

私語や授業妨害に相当する行為を禁止する。場合によっては、退室を指示する場合がある。

オンライン（オンデマンド）授業を行う場合がある。その際の受講には、PCが必要である。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA（法学 / law 100）

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する授業を行う。特に、国際法、民法、労働法を中心に扱う。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関係されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回によっては、質疑応答を行う。授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。リアクションペーパーを書いてもらう場合がある。提出されたリアクションペーパーについては、次回授業の質疑応答の際にフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法 1	国際法の基礎
3	国際法 2	国際法の基本構造
4	民法 1	民法の基本原則
5	民法 2	不法行為—過失責任原則、損害賠償
6	民法 3	契約—契約自由の原則、契約の成立と効力
7	民法 4	物権
8	民法 5	親族（婚姻・離婚）
9	民法 6	権利能力、意思能力、行為能力
10	民法 7	法律行為、意思表示、代理、法人
11	労働法 1	労働法の基本事項、労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
12	労働法 2	労働関係の成立・終了
13	労働法 3	労使関係
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣, 2021）ISBN : 978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験または期末レポートによって評価する（100％）。

これにより、到達目標欄に記載した事項の達成度を評価する。

なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。

詳細は、授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、具体例を示しながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

私語や授業妨害に相当する行為を禁止する。場合によっては、退室を指示する場合がある。

オンライン（オンデマンド）授業を行う場合がある。その際の受講には、PCが必要である。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including international law, civil law(torts, contract and property etc.) and labor law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA（法学 / law 100）

法学 I

2017年度以降入学者

村元 宏行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学の基礎を学ぶものですが、主には、法律を知識として吸収していくことの重要性和、論理的思考力のトレーニングとしての法学学修という二つの側面から授業を行う予定です。

法学はⅠとⅡに分かれますが、Ⅰでは総論的事項や憲法を中心に取り上げることとします。

【到達目標】

法の種類や法の解釈について基礎的な説明ができるようになる。
日本国憲法の学修を通じて、立憲主義について基礎的な説明ができるようになる。
社会において、法が存在する意義や法学学修の重要性について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など 法学を学修する意義について
第2回	法の種類について	制定法としての法律や政令等、 不文法としての慣習や条理等の 種類について
第3回	法の解釈について	法解釈について、強制力の有無 や解釈の類型について
第4回	法と裁判について	法適用の要としての裁判制度に ついて
第5回	法に関わる職業について	法曹三者（裁判官、検察官、弁 護士）と中心とする法律専門職 について
第6回	日本国憲法① 総論	日本国憲法の位置づけと立憲主 義について
第7回	日本国憲法② 日本国憲法の誕生	日本国憲法の制定過程について
第8回	日本国憲法③ 国民主権と象徴天皇 制	国民主権と象徴天皇の意義、 天皇の国事行為等について
第9回	日本国憲法④ 平和主義	憲法9条をめぐる論議について
第10回	日本国憲法⑤ 人権総論	基本的人権の意義とその限界に ついて
第11回	日本国憲法⑥ 自由権	精神的自由権、経済的自由権、 人身の自由について

第12回	日本国憲法⑦ 社会権、公務請求 権・参政権	生存権、請願権等について
第13回	日本国憲法⑧ 統治の仕組み	権力分立制の意義と内容につい て
第14回	まとめ	教養科目として法学を学ぶ意義 について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『デイリー六法 2026年版』（三省堂）

ただし、他の六法を持っている場合はそれでも構いませんが、詳しくは初回で指示します。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

期末試験と授業内小レポートにより、【到達目標】欄に記載した法解釈や立憲主義の理解の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that law.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that law.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW100LA（法学 / law 100）

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

村元 宏行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学の基礎を学ぶものですが、主には、法律を知識として吸収していくことの重要性和、論理的思考力のトレーニングとしての法学学修という二つの側面から授業を行う予定です。

法学はⅠとⅡに分かれますが、Ⅱでは民事法、刑事法、行政法、国際法等を中心に上げることとします。

【到達目標】

民事法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
刑事法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
行政法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
国際法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
以上の基本原則の理解を踏まえて、現実の社会問題に法的視点からアプローチできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など 法学を学修する意義について
第2回	民事法について－法体系と基本原則－	民法を中心とした民事法体系と私的自治の原則等について
第3回	民事法について－私的トラブルと法－	私的トラブルと法の適用について
第4回	刑事法について－法体系と基本原則－	刑法、刑事訴訟法を中心とした法体系と罪刑法定主義等について
第5回	刑事法について－刑事手続の実際－	捜査から裁判、刑の執行について
第6回	行政法について－法体系と基本原則－	国家行政組織法等を中心とする法体系と行政の基本原則について
第7回	行政法について－行政組織について－	行政組織法を中心とした行政組織について
第8回	国際法について－法体系と基本原則－	国際法の法類型と基本原則について
第9回	国際法について－国際人権法を中心に－	国際人権規約や子どもの権利条約を中心とした国際人権条約について
第10回	社会問題と法①－教育と法－	校則や体罰について法的視点から考察する
第11回	社会問題と法②－貧困と法－	生活保護や子どもの貧困について法的視点から考察する

第12回	社会問題と法③－消費生活と法－	18歳成年や消費者トラブルについて法的視点から考察する
第13回	社会生活と法④－労働と法－	過労死やブラック職場について法的視点から考察する
第14回	まとめ	教養科目として法学を学ぶ意義について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『デイリー六法 2026年版』（三省堂）

ただし、他の六法を持っている場合はそれでも構いませんが、詳しくは初回で指示します。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

期末試験と授業内小レポートにより、【到達目標】欄に記載した諸法の基本原則理解の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that law.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that law.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW100LA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の実在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特徴を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史の経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生じる諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントと動画を用いて、オンデマンド形式のオンライン授業で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で動画を視聴し、自己学習を行う。質問はWebClassの掲示板、およびメールを通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックはWebClassまたは個別のメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代国家と近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変遷、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ

第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第14回	憲法改正	憲法改正の手続とその限界について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習支援システム（WebClass）からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。動画を視聴して自己学習を行った後に、プリントの内容が理解できたかどうか、また事前に抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認し、授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末にオンラインで実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特質を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史の経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生起する諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントと動画を用いて、オンデマンド形式のオンライン授業で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で動画を視聴し、自己学習を行う。質問はWebClassの掲示板、およびメールを通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックはWebClassまたは個別のメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代国家と近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変遷、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ

第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第14回	憲法改正	憲法改正の手続とその限界について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習支援システム（WebClass）からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。動画を視聴して自己学習を行った後に、プリントの内容が理解できたかどうか、また事前に抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認し、授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末にオンラインで実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

本講義では、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解できるようになることを目標としている。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得する。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半はオンデマンド型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半は対面型とする。ウェブに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。

受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界

12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障
13	日本国憲法と人権保障③	法の下での平等（総論）
14	日本国憲法と人権保障④	法の下での平等（各論） 日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある）。講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50％）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50％）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ウェブ上に挙げた資料を閲覧できる電子機器を持参して下さい。

【その他の重要事項】

対面講義中の質問は講義の前後に、オンライン講義期間中はHoppiiで質問してください。

【Outline (in English)】

In order to achieve the following goals, the course will cover and explain basic concepts and understanding of law in general at the beginning of the course, and then lecture on the Constitution of Japan in the following period. The course will focus on three pillars: 1) principles related to the foundations of the Constitution itself, such as constitutionalism and separation of powers, 2) the basic principles of the Constitution of Japan ("sovereignty of the people," "respect for fundamental human rights," and "pacifism"), and 3) the governance system therein. With the understanding that students are beginners, the course will avoid leaning toward abstract discussions and explanations by covering many contemporary topics related to law in general and the Constitution, and will proceed in a way that makes it easy for students to gain a basic understanding.

Assessment will be based on the assignment reports completed in the first half of the lectures (face-to-face) (50%) and in the second half of the lectures (on-demand) (50%) to measure the degree of achievement of the goals listed in the "Goals to be achieved" section: "Systematic understanding of the Constitution," "Basic legal knowledge," and "Development of a legal mindset."

After the lecture, please summarize your notes taken during the lecture in easy-to-understand text.

Before and after each class, students will need to spend about four hours studying to understand the content of this class.

LAW100LA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

本講義では、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することを目標とする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得する。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半はオンデマンド型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半は対面型とする。ウェブに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に与えた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界

12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障
13	日本国憲法と人権保障③	法の下での平等（総論）
14	日本国憲法と人権保障④	法の下での平等（各論） 日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある）。講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50%）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50%）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ウェブ上に挙げた資料を閲覧できる電子機器を持参して下さい。

【その他の重要事項】

対面講義中の質問は講義の前後に、オンライン講義期間中はHoppiiで質問してください。

【Outline (in English)】

In order to achieve the following goals, the course will cover and explain basic concepts and understanding of law in general at the beginning of the course, and then lecture on the Constitution of Japan in the following period. The course will focus on three pillars: 1) principles related to the foundations of the Constitution itself, such as constitutionalism and separation of powers, 2) the basic principles of the Constitution of Japan ("sovereignty of the people," "respect for fundamental human rights," and "pacifism"), and 3) the governance system therein. With the understanding that students are beginners, the course will avoid leaning toward abstract discussions and explanations by covering many contemporary topics related to law in general and the Constitution, and will proceed in a way that makes it easy for students to gain a basic understanding. Assessment will be based on the assignment reports completed in the first half of the lectures (face-to-face) (50%) and in the second half of the lectures (on-demand) (50%) to measure the degree of achievement of the goals listed in the "Goals to be achieved" section: "Systematic understanding of the Constitution," "Basic legal knowledge," and "Development of a legal mindset."

After the lecture, please summarize your notes taken during the lecture in easy-to-understand text.

Before and after each class, students will need to spend about four hours studying to understand the content of this class.

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

経済学 I

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第2回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給
第3回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給
第4回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易
第5回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等
第6回	マクロ経済のデータ①	GDPに関して
第7回	マクロ経済のデータ②	GDPに関して
第8回	マクロ経済のデータ③	消費者物価指数
第9回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム
第10回	長期の実物経済②	金利について／お金の時間価値について
第11回	実社会の経済学①	ローンの計算等
第12回	実社会の経済学②	資産運用関連の話題
第13回	実社会の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、講義の礎とする

ダロン・アセモグル、デヴィット・レイブソン、ジョン・リスト著、岩本康志監訳、岩本千晴訳、『入門経済学』東洋経済新報社、2023。

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017。

ジョセフ・E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2017。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（50%）および期末レポート（50%）により評価する。ただし、平常点：①毎回の講義で出題する課題に対する点数、②授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた点数 等である。

【学生の意見等からの気づき】

- ・本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。
- ・学生が苦手だと思われるEメール、表計算ソフトを用いる。はじめのうちは戸惑う学生も多いが、終盤には比較的使えるようになる。
- ・高校等における政治経済の知識は不要。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占
第5回	企業行動と産業組織②	ゲーム理論／ナッシュ均衡
第6回	企業行動と産業組織③	ゲーム理論／囚人のジレンマ
第7回	企業行動と産業組織④	ゲーム理論／応用
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン
第11回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、講義の礎とする

ダロン・アセモグル、デヴィット・レイブソン、ジョン・リスト著、岩本康志監訳、岩本千晴訳、『入門経済学』東洋経済新報社、2023。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ・E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2017。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（50％）および期末レポート（50％）により評価する。ただし、平常点：①毎回の講義で出題する課題に対する点数、②授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた点数 等である。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

経済学 I

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学 I では、経済学の基礎から専門基礎レベルを身につけていくことを目指します。社会の基盤を成す経済の仕組み、それを体系的に解き明かすのが経済学です。ここでは、経済学の概念、ルーツ、理論などを、身近な事例と関連付けながら学んでいきます。経済を知ることによって社会の実態と変容を理解できるようになり、国際関係などを理解出来る力を身につけることが出来ます。
(秋学期の経済学 II では、応用基礎のレベルまで身につけていくことを目指します)

【到達目標】

- ・経済、金融を理解する基礎知識と応用力を身に着けること。
- ・様々な社会問題の把握と考察を経済学的視点をもって行っていける知識基盤を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

講義の中で様々なグラフ、統計、数式が出てくる場面はありますが、数学的な能力を身に着けることが目的ではないため、数学的要素を極力省くことで親しみやすい経済学を通じ、経済事象への関心を高め、理解が出来るベースを作ります。
最終回は、期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経済と経済学	経済学とは何か 何のために学ぶのか 世界の現状と経済学 SDG s と経済学
2	経済学の基礎概念 1	経済財 経済取引 市場の意義
3	経済学の基礎概念 2	需要と供給 お金と価格 効用 余剰と予算制約
4	経済学のルーツと理論の発展 1	オイコノミー（執事家政学）からミクロ基盤の近代経済学（A. スミス古典派完全市場経済学）の発展
5	経済学のルーツと理論の発展 2	需給構造の変化と古典派経済学の行き詰まり ケインズ マクロ経済学の登場

6	実態変化と理論の変遷	ケインズ経済学 国全体の経済構造と活動の体系化を実現 G D P の概念と経済政策の理論基礎付け 実物市場と金融市場の体系的把握
7	専門基礎 1 市場メカニズム	市場メカニズム（需給の決定と価格） 市場の不完全性（レモン問題）
8	専門基礎 2 G D P、財市場の均衡	財市場、G D P の構成と需要の決定 財市場の均衡 貯蓄のパラドックス
9	専門基礎 3 ミクロとマクロ	実物経済 ミクロとマクロの関係
10	専門基礎 4 貨幣市場	貨幣の定義と機能 実物財に対する相対価値としての価格
11	専門基礎 5 金融	金融とは？ 金融取引の価格＝金利の意味と決定 割引現在価値 不換紙幣
12	専門基礎 6 マネー管理	マネーサプライ管理の仕組み 中央銀行の機能と金融政策手段
13	専門基礎 7 金融市場と財市場の均衡	金融市場と財市場の均衡 IS 曲線、LM 曲線の導出 IS/LM モデルの概要 AD-AS 分析の意味
14	期末テストおよび総復習	講義内容の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験＝90%（試験は100点満点）
- ・ディスカッションなど＝10%

【学生の意見等からの気づき】

ニュースを自ら見るようになった。
世界情勢と経済学との繋がりがみえてきて面白く感じた。
最初なにもわからなかったが、終わるころには経済学がわかるようになっていた。
などの意見をいただきました。
今年度も、興味がわく授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

経済学 II の履修を予定する学生は、同 II が直面する問題等を含めた応用基礎の内容となるので本経済学 I の講義を履修しておくことが望まれます。

【Outline (in English)】

Economics I introduce a broad perspective of basic economic theories as well as understanding economic related activities. The goal of this course is to grasp a sense of economic theories and models and become to be able to relate them to understand ongoing world issues.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after class.

Your overall grade will be decided 90% on Term-end examination and 10% on discussion.

ECN100LA (経済学 / Economics 100)

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅰの基礎知識を要約レビュー（英語含む）した上で、実践的に国際社会や日本が直面する社会経済的課題を専門基礎のレベルから解き明かし、経済学と経済知識の応用力を身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

様々な経済、社会問題の把握と考察を経済学の基礎知識の応用から、実践的に考察していける力を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。

後半2～3回ディスカッションを行います。

最終回（第14回）に期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経済学の応用基礎 基本概念 1	経済財、経済取引 需要と供給 お金と価格
2	基本概念 2	市場メカニズム ミクロとマクロ 財市場 GDPの構成と需要の決定
3	基本概念 3	貨幣の定義と機能 金融システムと中央銀行
4	基本概念 4	国際取引とマクロ経済、金融の関係 国際取引関係と経済の収支バランス
5	基本概念 5	国際経済と外国為替の基礎、国際収支の発展段階説
6	直面する課題と経済学 日本経済の衰退 1	日本経済衰亡の実態 デフレ衰退のメカニズムと実態
7	日本経済の衰退 2	正常化への道を探る 市場機能の不全と国際競争力の基盤の衰退が構造化
8	グローバル化 1 グローバル化と市場と国家 国家間の対立と新たな関係	経済グローバル化の進行と国家の後退 グローバル化による市場統合と国民経済関係の構造的変貌 国家間の新たな競争と対立（中国の台頭と米中関係）

9	グローバル化 2 グローバル化と地域統合化	グローバル化での地域統合は解決策か？ EUの拡大、アセアン経済共同体、メルコスールの展開から考える
10	グローバル化 3 グローバル化と国際ガバナンス	G A F Aの台頭と国際ガバナンス 世界共通決済システム内臓の仮想通貨の意義と限界 グローバル経済統合と民主主義、相互矛盾相克への道、ロドリク・モデルから考える。
11	エネルギー 1 エネルギー革命	エネルギー革命の進行 その推移と実態
12	エネルギー 2 エネルギーと経済の長期波動	経済の長期成長波動とエネルギー革命の関連性 再生エネルギーから究極の水素循環型エネルギーへの転換初期に伴うグリーン成長と雇用波及の視点から日本経済再生の道を考える
13	資本主義の存続	資本主義の史的構造変化とピケティの指摘 資本主義が内蔵するメカニズムから存続への課題を探る
14	期末テストおよび総まとめ	期末テストおよび総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験＝90%

ディスカッション参加＝10%

【学生の意見等からの気づき】

日本経済の現状、世界が直面する問題などを、より身近なこととして実感できたという感想を複数いただきました。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる経済学Ⅰの講義をあらかじめ履修しておくことをお勧めします。

【Outline (in English)】

Economics II focuses more on the practical side of Economics I. Here we study ongoing issues and crisis that are deeply related to economic activities, policies and theories.

The goal of this course is to grasp a further sense of economic theories used in practice as well as to understand its cause and effects in our real world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

(Students are strongly required to take Economics I in advance.)

Your overall grade will be decided 90% on Term-end examination, and 10% on discussion.

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

経済学 I

2017年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして必須の考え方を習得する。家計・企業・政府が経済活動の選択を行う基準は何か、市場の取引により無駄のない資源配分が実現するのか、無駄がある場合に必要ない対処は何かというポイントを理解し、経済社会の現実の課題に対して経済学が取り組む分析手法を身に着けることが目的である。

【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある経済主体の判断基準を理解できること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解できること、③経済ニュースの内容について経済学が示す論点と政策的な判断を理解できるようになることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、現実問題を経済学で考える習慣を身に着けるために、新聞記事・雑誌などからも教材を提供する。なお教科書が取り上げていない最新の話題については、他の文献等に基づいて教材に盛り込む。講義資料は学習支援システムに事前に掲載する。授業中に講義内容を復習するリアクションペーパーを実施し、受講生の理解を深める。そして、小テストを2回実施し授業の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市場の機能と経済学	経済学の基本的考え方と効率の意味を学ぶ
2	需要と供給	需要と供給による市場の取引を理解する（教科書第1章）
3	消費者の行動（1）	需要曲線を学ぶ（第2章）
4	消費者の行動（2）	消費者余剰を学ぶ（第2章）
5	企業の行動（1）	供給曲線を学ぶ（第3章）
6	企業の行動（2）	生産者余剰を学ぶ（第3章）
7	市場競争と資源配分	価格メカニズムと余剰分析を学ぶ（第4章）
8	市場の失敗と政府の役割	外部効果と公共財を学ぶ（第6章）
9	不完全な情報	情報の不完全性と取引を学ぶ（第7章）
10	ゲームの理論（1）	相手の出方が関係するナッシュ均衡、囚人のジレンマを学ぶ（第8章）
11	ゲームの理論（2）	オークションやマッチングにおける経済学の活用を学ぶ（市村・松井他2020）
12	経済学と労働	労働供給の視点（つまり労働者個人の立場）から「働く」判断を学ぶ（清家他2020）

13 経済学と家族 子育て、働き方などの視点から

少子化の要因と対応を学ぶ

14 期末試験

試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第2版）日本経済新聞出版

市村英彦・松井彰彦他（2020）『経済学を味わう』日本評論社

小塩隆士（2024）『経済学の思考軸』ちくま新書

坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書

坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書

清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』東洋経済新報社

田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

小テスト 40%（2回）、期末試験 50%、リアクションペーパー 10%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーでは授業で説明した内容に対する学生の考え方を講義時間内に学習支援システムに回答してもらい、翌週の講義冒頭で主要な意見をまとめて紹介した。これが学生から好評であり、授業内容の理解が進むことに加え、他の学生の考えを自らと対比できたとのことであった。これは大切な学習プロセスなので、これからも続けていきたい。また講義スライドはわかりやすかったとの感想が寄せられたので、さらに磨きをかけていきたい。他方で、講師への要望として、講義を聴くだけではなくアクティブな時間を設ける、図表はもっと丁寧に説明する、講義終了時刻を守るなどが提出されたので、留意していきたい。

ゲームの理論が関心の最も高い講義テーマである状況が続いている。これは多くの人が楽しんでいるビデオゲームではなく、経済学の新しい研究分野の一つである。授業では、スーパーの新規出店をめぐる駆け引き、オークションの工夫、高校入試単願制の改善などを取り上げた。これについては、受講生の期待に沿えるように講義を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するためのパソコンまたはスマホが必要。

【その他の重要事項】

経済学の基礎用語を英語で理解することが知見を深めるので、毎回の教材に英語資料を含める。教科書は入門レベルで質の高い解説をわかりやすく行っているが、出版から時間が経っているのでそれを補完するため、最近の実践例（変動価格制、ビジネス取引など）を講師の教材に織り込んでいる。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social outcomes based on the reasoning with microeconomics. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (40%), the final exam (50%) and reaction-papers (10%).

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

経済学 II

2017年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではマクロ経済学の基礎を取り上げ、日本のマクロ経済を理解するために必須の考え方を習得する。GDP（国内総生産）による経済全体の把握、経済成長、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、インフレとデフレ、雇用と失業、為替レート、海外との取引などについて、体系的に学ぶことが目的である。経済理論にとどまらず、現代日本のマクロ経済問題（物価高、人手不足、日本型雇用、財政赤字など）について知見を深めることも目指す。

【到達目標】

目標は、①経済学の考え方を日本経済に適用してその動向を理解できること、②政府と中央銀行が経済成長と物価の安定に果たす役割を具体的に理解できること、③目の子計算を用いてマクロ経済に関する数値の意味を理解できるようになることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、日本経済の基礎データの図表を教材として配布する。また、教科書が取り上げていない話題や日本や海外で現実に起きている最新の事象についても教材に盛り込み、マクロ経済学の具体的な事例として理解を深める。講義資料は学習支援システムに事前に掲載する。授業中に講義内容を復習するリアクションペーパーを実施し、受講生の理解を深める。そして、小テストを2回実施し授業の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マクロ経済学とは	ミクロ経済学との違い、GDP（国内総生産）、目の子計算を学ぶ（教科書第9章）
2	経済成長	日本の経済成長、成長会計、成長理論を学ぶ（第15章）
3	有効需要	需要の波及、乗数、需要・生産・所得の循環を学ぶ（第10章）
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策が財市場と資産市場に及ぼす効果を学ぶ（第12章）
5	景気対策	財政出動とクラウドファンディングアウトを学ぶ（第12章）
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と日銀の金融調節を学ぶ（第11章）
7	インフレとデフレ	物価の見方、消費者行動、インフレ目標を学ぶ（第13章）
8	雇用と失業	離職と失業の現実と要因を学ぶ（第13章）
9	日本型雇用	人的資本、賃金決定、ジョブ型雇用を学ぶ（第13章）（清家他2020）

10	高齢社会の財政運営	人口の動きと経済成長、社会保障費の増大と大きな政府を学ぶ（第14章）
11	財政健全化	財政赤字の原因と対処、基礎的財政収支を学ぶ（第14章）
12	為替レートと開放経済	円高・円安の経済効果、オープンマクロ経済学を学ぶ（第16章）
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方、貿易と直接投資の動向を学ぶ（第16章）
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。マクロ経済学は財政金融政策の運営とつながりが深いので、政府や国際機関の経済ニュースに関心を持つことが有益である。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

飯田泰之（2023）『財政・金融政策の転換点』中公新書
小塩隆士（2024）『経済学の思考軸』ちくま新書
塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日経文庫
清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』東洋経済新報社
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書
渡辺努（2022）『世界インフレの謎』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

小テスト 40%（2回）、期末試験 50%、リアクションペーパー 10%

【学生の意見等からの気づき】

ニュース報道が理解できて嬉しかったという学生の意見があった。マクロ経済学は財政や金融政策が重要な研究分野なので、これまでも財政の基礎的財政収支や物価動向と金融政策などを講義で取り上げてきた。昨年来これらについて政治家の発言が数多く行われ、国民生活への影響に関してたびたび報道されてきた。こうした世の中の動きに合わせて講義内容は磨きをかけていきたい。また、リアクションペーパーにおいて講義内容に対する学生の考え方を回答してもらい、翌週の講義でフィードバックをしたが、役に立ったとの感想が多くあり、テーマを工夫して続けていきたい。

講義の中で受講生の関心が高かったのが労働と日本型雇用であった。就活中や就活間近の学生に役立つ講義になるように、労働理論と日本の労使の実態を踏まえて講義資料を更新する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するためのパソコンまたはスマホが必要。

【その他の重要事項】

経済学の基礎用語を英語で理解することが知見を深めるので、毎回の教材に英語資料を含める。教科書は出版から時間が経っているので、政策課題の説明を補完するため最近のマクロ経済問題を講師の教材に取り込んで論点を深める。その際、日本の代表的なエコノミストの考えを紹介するので、受講生の考えと比較してほしい。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of standard macroeconomics. Topics to be covered are growth theory, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, prices, employment, and exchange rates and goods and service trade. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory as well as the practical knowledge of modern Japanese economy. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (40%), the final exam (50%) and reaction-papers (10%).

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

経済学 I

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第2回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給
第3回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給
第4回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易
第5回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等
第6回	マクロ経済のデータ①	GDPに関して
第7回	マクロ経済のデータ②	GDPに関して
第8回	マクロ経済のデータ③	消費者物価指数
第9回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム
第10回	長期の実物経済②	金利について／お金の時間価値について
第11回	実社会の経済学①	ローンの計算等
第12回	実社会の経済学②	資産運用関連の話題
第13回	実社会の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、講義の礎とする

ダロン・アセモグル、デヴィット・レイブソン、ジョン・リスト著、岩本康志監訳、岩本千晴訳、『入門経済学』東洋経済新報社、2023.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2017.

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（50%）および期末レポート（50%）により評価する。ただし、平常点：①毎回の講義で出題する課題に対する点数、②授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた点数 等である。

【学生の意見等からの気づき】

- ・本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。
- ・学生が苦手だと思われるEメール、表計算ソフトを用いる。はじめのうちは戸惑う学生も多いが、終盤には比較的使えるようになる。
- ・高校等における政治経済の知識は不要。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占
第5回	企業行動と産業組織②	ゲーム理論／ナッシュ均衡
第6回	企業行動と産業組織③	ゲーム理論／囚人のジレンマ
第7回	企業行動と産業組織④	ゲーム理論／応用
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン
第11回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、講義の礎とする

ダロン・アセモグル、デヴィット・レイブソン、ジョン・リスト著、岩本康志監訳、岩本千晴訳、『入門経済学』東洋経済新報社、2023。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ・E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンミクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2017。

ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東、玉田、蓬田訳『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（50％）および期末レポート（50％）により評価する。ただし、平常点：①毎回の講義で出題する課題に対する点数、②授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた点数 等である。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

マクロ経済学 I

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてください。地図になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しを見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期(マクロ経済学I)は、GDPやその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期(マクロ経済学II)は、そのモデルを発展して物価とGDPの決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1セメスター14回の授業のうち半分の7回を対面授業とする予定です（詳細は4月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全12回分の授業が録画されているので、期末試験直前に全てみられるようにして、復習ができるようにします。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

なお、授業の詳細については、Hoppii上のシラバスで告知しますので、必ずそちらを参照するようにしてください。対面・オンラインの日程も最終的なものは、そちらに記載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章 マクロ経済学とは2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDPの基本を学びます
4	マクロ経済を観察する2（GDP）	GDPの基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する3（物価）	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する4（失業率、景気）	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マクロ経済を支える金融市場3	貨幣の機能と中央銀行の役割1
10	貨幣の機能と中央銀行の役割2	金融システムの安定化の意義を理解します
11	貨幣の機能と中央銀行の役割3	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
12	財政の仕組みと機能1	税制の基本を学びます
13	財政の仕組みと機能2	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
14	財政の仕組みと機能3	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
15	演習	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習は基本的にスライドに目を通す程度で大丈夫ですが、復習としてスライドと教科書を照らし合わせ、テキスト内の例題を解くことで、慣れるようにしてください。期末試験もテキスト内の例題等の問題に準拠して出題します。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 第三版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

A 3所定用紙1枚のみ持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 α として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験（100%）の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～Dの評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～Dの評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年95%程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけてたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

- (a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
- (b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

マクロ経済学 II

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しを見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 4 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 12 回分の授業が録画されていますので、期末試験直前に全てみられるようにして、復習ができるようにします。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

なお、授業の詳細については、Hoppii 上のシラバスで告知しますので、必ずそちらを参照するようにしてください。対面・オンラインの日程も最終的なものは、そちらに記載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます

2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何がおきているかを理解します
6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。予習は基本的にスライドに目を通す程度で大丈夫ですが、復習としてスライドと教科書を照らし合わせ、テキスト内の例題を解くことで、慣れるようにしてください。期末試験もテキスト内の例題等の問題に準拠して出題します。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一步前」から応用まで 新版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

A 3 所定用紙 1 枚のみ持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+α として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験（100%）の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

（ア）S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

（イ）C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルティング業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

マクロ経済学 I

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しを見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期(マクロ経済学I)は、GDPやその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期(マクロ経済学II)は、そのモデルを発展して物価とGDPの決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1セメスター14回の授業のうち半分の7回を対面授業とする予定です（詳細は4月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全12回分の授業が録画されているので、期末試験直前に全てみられるようにして、復習ができるようにします。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

なお、授業の詳細については、Hoppii上のシラバスで告知しますので、必ずそちらを参照するようにしてください。対面・オンラインの日程も最終的なものは、そちらに記載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章 マクロ経済学とは2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDPの基本を学びます
4	マクロ経済を観察する2（GDP）	GDPの基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する3（物価）	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する4（失業率、景気）	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マクロ経済を支える金融市場3	貨幣の機能と中央銀行の役割1
10	貨幣の機能と中央銀行の役割2	金融システムの安定化の意義を理解します
11	貨幣の機能と中央銀行の役割3	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
12	財政の仕組みと機能1	税制の基本を学びます
13	財政の仕組みと機能2	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
14	財政の仕組みと機能3	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
15	演習	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習は基本的にスライドに目を通す程度で大丈夫ですが、復習としてスライドと教科書を照らし合わせ、テキスト内の例題を解くことで、慣れるようにしてください。期末試験もテキスト内の例題等の問題に準拠して出題します。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 第三版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

A 3所定用紙1枚のみ持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 α として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験（100%）の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～Dの評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～Dの評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年95%程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけてたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

- (a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
- (b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA（経済学 / Economics 100）

マクロ経済学 II

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しを見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 4 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 12 回分の授業が録画されていますので、期末試験直前に全てみられるようにして、復習ができるようにします。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

なお、授業の詳細については、Hoppii 上のシラバスで告知しますので、必ずそちらを参照するようにしてください。対面・オンラインの日程も最終的なものは、そちらに記載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます

2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何がおきているかを理解します
6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。予習は基本的にスライドに目を通す程度で大丈夫ですが、復習としてスライドと教科書を照らし合わせ、テキスト内の例題を解くことで、慣れるようにしてください。期末試験もテキスト内の例題等の問題に準拠して出題します。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一步前」から応用まで 新版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

A 3 所定用紙 1 枚のみ持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+α として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験（100%）の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア) S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ) C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95% 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルティング業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

望月 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心」とは何か、「心理学」という学問とはどのようなものなのかを理解し、それぞれの専門分野での学び、周囲の人との関わりの中で活用できるようになることを本授業では目指します。受講者には心理学IIを連続履修することを期待します。

【到達目標】

授業では、私たちがどのように環境を認識したり、記憶したりしているか、あるいは私たちは生涯を通じてどのように成長していくのかなどを学びます。「心理学」の知識を持つことで皆さんの専攻する学問での学びや周りの人たちとの関係性がより深まり、私たち人間の心の働きをさまざまな切り口から捉えることができる能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、映像を用いて心の問題捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明、心理学の活躍する領域など
第2回	心理学とは何か	心理学が生まれてくるまで。心を科学的に研究することとはどういうことか
第3回	感覚と知覚について	私たちが環境を認識する際の心の働きについて
第4回	記憶について	私たちが何かを記憶することに関する心の働きについて
第5回	学習について	私たちが物を学ぶ際の心の働きについて
第6回	言語と思考について	私たちはどのように言語と関わり、思考しているのかについて
第7回	情動について	私たちの情動とはどんな働きをしているのだろうか
第8回	動機付けについて	私たちの動機付けと欲求のメカニズムについて
第9回	性格とは何か	心理学における性格にのらえ方
第10回	発達の基礎	私たちの様々な機能の発達段階について
第11回	社会的な発達	私たちが社会的に発達するとはどんなことなのか
第12回	自己とは何か	自分とは何か。心理学ではどのように考えてきたのか

第13回 集団の中での人の心について 同調と服従、説得などの社会的影響について

第14回 ストレスについて まとめ 心理学Iのまとめとストレスについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

事前準備は、教科書でその回のテーマを読み、自分なりの疑問・問題意識を持ち授業に臨んでください。

復習は、その回のテーマを振り返り、自分なりの回答をまとめ、文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

よくわかる心理学（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ） 無藤隆・森俊昭・池上智子・福丸由佳編 ミネルヴァ書房

ISBN-13：978-4623052509

【参考書】

心理学への招待—こころの科学を知る（新心理学ライブラリ） 梅本堯夫・大山正著 サイエンス社

ISBN-13：978-4781913476

【成績評価の方法と基準】

レポート 100%

授業の中で扱ったテーマを一つ選び、授業で学んだことが自分自身の実体験とどうかかわり、今後どう活かそうかを、500字～1000字以内でまとめて提出してもらいます。

テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

社会心理学的な問題に興味を持つ学生が多かったため、産業や学校領域も含め心理学の活躍する領域についての説明を加えた。

【Outline (in English)】

You will understand what the “mind” is and what the science of “psychology” is.

The goal of this class is for you to be able to use these skills in your studies in your specialized field and in your interactions with people around you.

I expect you to take Psychology II.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

望月 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学Ⅰで学んだ心理学の基礎が、生活や社会の中でどのように役立っているかを学ぶ。主に臨床心理学の分野から、人格理論、発達各期における心理臨床的問題、異常心理、臨床心理学的査定、心理療法について学ぶ。

【到達目標】

心理学Ⅰでは学びきれなかった応用分野での心理学を学び、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	パーソナリティー理論	私たちの性格をどうとらえるか（類型論、特性論、状況論・相互作用論）とそのとらえ方
第3回	欲求と防衛機制	私たちの欲求や自分の心を守ろうとする防衛機制について知る。
第4回	臨床心理学について	臨床心理学とはなにか、その誕生や専門性や活動について
第5回	臨床心理学の理論的モデル	臨床心理学の主な理論的モデルと実践について
第6回	臨床心理学のアセスメント方法について	アセスメントとは何か、どんなふうに用いられているのか、その方法について
第7回	臨床心理学の介入方法①	精神分析と分析心理学と認知行動療法
第8回	臨床心理学の介入方法②	来談者中心療法とマイクロカウンセリング
第9回	臨床心理学の介入方法③	ブリーフセラピー（解決志向アプローチなど）
第10回	臨床心理学の介入方法④	集団療法：アサーティブネストレーニングなど
第11回	臨床心理学の介入方法⑤	集団療法：カップルカウンセリングなど
第12回	異常心理学①	気分障害・統合失調症など
第13回	異常心理学②	パーソナリティ障害・摂食障害・性同一性障害・など
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

事前学習は毎回のテーマの教科書を読み自分なりの疑問を用意して授業に臨むこと。

復習は、授業の中で扱ったことを復習し、疑問に対する自分なりの回答を練り上げ、文章にまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

よくわかる臨床心理学〔改訂新版〕（やわらかアカデミズム・くわくシリーズ）下山晴彦 ミネルヴァ書房

ISBN(13桁)978-4623054350

【参考書】

実践に役立つ臨床心理学【第4版】塩崎尚美 北樹出版

ISBN(13桁)978-4779306976

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

授業の中で扱ったテーマについて、自分自身の体験の中でどのようにそのテーマで学んだことが活かせるかについて500字～1000字以内でまとめて提出する。

テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行で出来なかった箇所を削り、身近な題材である摂食障害について触れるようにしました。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していること。

医療現場における臨床実務経験がある教員のため、なるべく現場での経験も踏まえ授業を行う。

【Outline (in English)】

You learn about how psychology helps us in our lives and in society. From the field of clinical psychology, you learn about personality theory, clinical psychological problems at various stages of development, abnormal psychology, clinical psychological assessment, and psychotherapy.

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学 I

2017年度以降入学者

田中 慎太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目の目的は以下の通りである。

1. 心理学と臨床心理学の歴史、および代表的な理論や実践を学ぶ。
2. 心理学と臨床心理学の基礎的な学びを通して、一人の市民として「誰もがこころ穏やかに過ごせる社会」の在り方を考えられるようになること。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2つです。

1. 学生が、心理学・臨床心理学の基礎的な事項を理解し、説明出来るようになること。
2. 学生が、臨床心理学が対象とする主要な精神疾患の概要および代表的な治療法を説明出来るようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式である。学生はペアやグループでのディスカッション等を行う予定である。課題や質問に対するフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	心理学・臨床心理学の歴史	近代西洋社会において、自然科学をモデルに成立した実験心理学と、古代から続く「癒しの実践」が臨床心理学へと向かうまでの概要を、主に歴史の観点から説明する。
第二回	認知心理学の基礎①	認知心理学が扱う、注意・記憶などのこころの側面と、それらに関する社会的事件を紹介する。
第三回	認知心理学の基礎②	認知心理学が扱う、注意・記憶などのこころの側面と、幾つかの精神疾患を認知心理学の観点から説明する。
第四回	学習心理学の基礎	学習心理学の概略を説明し、幾つかの精神疾患を学習心理学の観点から説明する。
第五回	感情心理学	感情心理学の概略を説明し、感情に関連した精神疾患について解説をする。
第六回	人格（パーソナリティ）心理学の基礎①	現在に至るまでの人格心理学の理論の移り変わりを、歴史的経緯を踏まえて説明する。
第七回	人格（パーソナリティ）心理学の基礎②	人格心理学に関連した精神疾患と、ポジティブな人格特性について説明する。

第八回	授業前半の振り返り	授業前半での学びをグループワークや視聴覚教材等を用いて振り返る。
第九回	心理的アセスメント（心理検査）	質問紙法、投影法といった、臨床心理学におけるアセスメントの概略を説明する。
第十回	心理的支援①	精神分析・人間性心理学に基づく心理療法の概略を示し、視聴覚教材を視聴したり、個人・グループワークを行う。
第十一回	心理的支援②	認知行動療法の概略を説明し、視聴覚教材を視聴したり、個人・グループワークを行う。
第十二回	神経・生理心理学と心身の健康	脳の構造や機能の基礎的な説明を行い、また心身のストレスが生理学的に与える影響について説明する。
第十三回	授業後半の振り返り	授業前半での学びをグループワークや視聴覚教材等を用いて振り返る。
第十四回	試験	授業全体の理解度を確認する試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

予習：該当する教科書を事前に読む、あるいは別途教員が指示する予習を行うこと。

復習：授業内容を振り返りつつ、指示があれば課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「はじめての心理学 公認心理師への第一歩」古見文一他、ナカニシヤ出版、2019年出版

【参考書】

参考書を指定しない。

【成績評価の方法と基準】

試験：100%

試験は、授業で扱った知識に関する選択式の設問であり、教材・ノートの持ち込み不可である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、前年度からのフィードバックはない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・質疑のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

①担当教員は、臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、医療・教育・福祉領域での実務経験を持つ。その為、実際に臨床心理学がどのように活用されているかを守秘義務に反しない形で示すことで、よりイメージしやすい授業を行うが、大学の講義との性質上、学生からの相談等に応じることはしない。

②この授業には、精神疾患や、その原因となる大規模な自然災害や犯罪被害、差別などの内容が含まれる。教員は学習上、不必要なストレスが授業で生じないように注意をするが、何らかの形でそれらに関連した経験を持つ者にとって、不快を感じる可能性が0であるとは言い切れない。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the fundamentals of psychology and clinical psychology, focusing on the following perspectives:

1. An overview of the history of psychology and clinical psychology, including major theories and key experiments.
2. Through the foundational study of psychology and clinical psychology, students will be able to reflect on the ideal of a society where everyone can live with peace of mind, as responsible citizens.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

田中 慎太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目の目的は以下の通りである。

1. 「心理学Ⅰ」を踏まえ、心理学および社会心理学の代表的な理論を学ぶ。
2. 心理学と社会心理学の基礎的な学びを通して、一人の市民として「誰もがこころ穏やかに過ごせる社会」の在り方を考えられるようになること。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2つです。

1. 学生が、心理学・社会心理学の基礎的な事項を理解し、説明出来るようになること。
2. 学生が、臨床心理学が対象とする主要な精神疾患の概要および代表的な治療法を説明出来るようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式である。学生はペアやグループでのディスカッション等を行う予定である。課題や質問に対するフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	社会心理学の歴史	社会心理学が台頭する背景の歴史と、初期の社会心理学者について解説する。
第二回	他者からの影響①（同調/服従）	同調/服従に関する社会的な出来事と、それに対する心理学の研究を解説する。
第三回	他者からの影響②（自己観）	自己観に関する心理学の研究と、それに対する社会の変化を解説する。
第四回	集団①（責任の分散/集団浅慮）	私たちが、集団を形成する際に生じる様々な問題と、それに関連する社会の事件を解説する。
第五回	集団②（集団アイデンティティ/儀礼）	心理学を通して、宗教儀礼の効果や意義を解説する。
第六回	推論と原因の帰属①（ステレオタイプ）	他者に対する評価に関する研究と、それに関連する社会の問題を解説する。
第七回	推論と原因帰属②（公正世界仮説）	私たちが、人生・社会、あるいはより大きな世界全体に対して考える傾向について解説する。
第八回	授業前半の振り返り	授業前半での学びをグループワークや視聴覚教材等を用いて振り返る。
第九回	健康と幸福①（気分障害/スティグマ）	代表的なこころの病気と、こころの病気からの回復を阻害する社会的な側面について解説する。

第十回	健康と幸福②（ソーシャルサポート/社会関係資本）	私たちの心身の健康を促進する、社会的な側面について解説する。
第十一回	敵意①（怒りが心身に与える影響）	怒りが、私たちの心身に与える影響について解説する。
第十二回	敵意②（他者の属性や偏見に基づく攻撃や犯罪）	怒りが、他者・社会にとって脅威となる状況を、社会心理学の視点から解説する。
第十三回	授業後半の振り返り	授業後半での学びをグループワークや視聴覚教材等を用いて振り返る。
第十四回	試験	授業全体の理解度を確認する試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

予習：該当する教科書を事前に読む、あるいは別途教員が指示する予習を行うこと。

復習：授業内容を振り返りつつ、指示があった場合は課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「体験で学ぶ社会心理学」吉田俊和・元吉忠寛、ナカニシヤ出版、2010年出版

【参考書】

参考書を指定しない。

【成績評価の方法と基準】

試験：100%

試験は、授業で扱った知識に関する選択式の設問であり、教材・ノートの持ち込み不可である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、前年度からのフィードバックはない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・質疑のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

この授業には、精神疾患や、その原因となる大規模な自然災害や犯罪被害、差別などの内容が含まれる。教員は学習上、不必要なストレスが授業で生じないように注意をするが、何らかの形でそれらに関連した経験を持つ者にとって、不快を感じる可能性が0であるとは言い切れない。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the fundamentals of psychology and social psychology, focusing on the following perspectives:

1. An overview of the history of psychology and social psychology, including major theories and key experiments.
2. Through the foundational study of psychology and social psychology, students will be able to reflect on the ideal of a society where everyone can live with peace of mind, as responsible citizens.

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学 I

2017年度以降入学者

望月 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「心」とは何か、「心理学」という学問とはどのようなものなのかを理解し、それぞれの専門分野での学び、周囲の人との関わりの中で活用できるようになることを本授業では目指します。受講者には心理学IIを連続履修することを期待します。

【到達目標】

授業では、私たちがどのように環境を認識したり、記憶したりしているか、あるいは私たちは生涯を通じてどのように成長していくのかなどを学びます。「心理学」の知識を持つことで皆さんの専攻する学問での学びや周りの人たちとの関係性がより深まり、私たち人間の心の働きをさまざまな切り口から捉えることができる能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、映像を用いて心の問題捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明、心理学の活躍する領域など
第2回	心理学とは何か	心理学が生まれてくるまで。心を科学的に研究することとはどういうことか
第3回	感覚と知覚について	私たちが環境を認識する際の心の働きについて
第4回	記憶について	私たちが何かを記憶することに関する心の働きについて
第5回	学習について	私たちが物を学ぶ際の心の働きについて
第6回	言語と思考について	私たちはどのように言語と関わり、思考しているのかについて
第7回	情動について	私たちの情動とはどんな働きをしているのだろうか
第8回	動機付けについて	私たちの動機付けと欲求のメカニズムについて
第9回	性格とは何か	心理学における性格にのらえ方
第10回	発達の基礎	私たちの様々な機能の発達段階について
第11回	社会的な発達	私たちが社会的に発達するとはどんなことなのか
第12回	自己とは何か	自分とは何か。心理学ではどのように考えてきたのか

第13回 集団の中での人の心について 同調と服従、説得などの社会的影響について

第14回 ストレスについて まとめ 心理学Iのまとめとストレスについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

事前準備は、教科書でその回のテーマを読み、自分なりの疑問・問題意識を持ち授業に臨んでください。

復習は、その回のテーマを振り返り、自分なりの回答をまとめ、文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

よくわかる心理学（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ） 無藤隆・森俊昭・池上智子・福丸由佳編 ミネルヴァ書房

ISBN-13：978-4623052509

【参考書】

心理学への招待—こころの科学を知る（新心理学ライブラリ） 梅本堯夫・大山正著 サイエンス社

ISBN-13：978-4781913476

【成績評価の方法と基準】

レポート 100%

授業の中で扱ったテーマを一つ選び、授業で学んだことが自分自身の実体験とどうかかわり、今後どう活かそうかを、500字～1000字以内でまとめて提出してもらいます。

テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

社会心理学的な問題に興味を持つ学生が多かったため、産業や学校領域も含め心理学の活躍する領域についての説明を加えた。

【Outline (in English)】

You will understand what the “mind” is and what the science of “psychology” is.

The goal of this class is for you to be able to use these skills in your studies in your specialized field and in your interactions with people around you.

I expect you to take Psychology II.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

望月 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学Ⅰで学んだ心理学の基礎が、生活や社会の中でどのように役立っているかを学ぶ。主に臨床心理学の分野から、人格理論、発達各期における心理臨床的問題、異常心理、臨床心理学的査定、心理療法について学ぶ。

【到達目標】

心理学Ⅰでは学びきれなかった応用分野での心理学を学び、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第2回	パーソナリティー理論	私たちの性格をどうとらえるか（類型論、特性論、状況論・相互作用論）とそのとらえ方
第3回	欲求と防衛機制	私たちの欲求や自分の心を守ろうとする防衛機制について知る。
第4回	臨床心理学について	臨床心理学とはなにか、その誕生や専門性や活動について
第5回	臨床心理学の理論的モデル	臨床心理学の主な理論的モデルと実践について
第6回	臨床心理学のアセスメント方法について	アセスメントとは何か、どんなふうに用いられているのか、その方法について
第7回	臨床心理学の介入方法①	精神分析と分析心理学と認知行動療法
第8回	臨床心理学の介入方法②	来談者中心療法とマイクロカウンセリング
第9回	臨床心理学の介入方法③	ブリーフセラピー（解決志向アプローチなど）
第10回	臨床心理学の介入方法④	集団療法：アサーティブネストレーニングなど
第11回	臨床心理学の介入方法⑤	集団療法：カップルカウンセリングなど
第12回	異常心理学①	気分障害・統合失調症など
第13回	異常心理学②	パーソナリティ障害・摂食障害・性同一性障害・など
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

事前学習は毎回のテーマの教科書を読み自分なりの疑問を用意して授業に臨むこと。

復習は、授業の中で扱ったことを復習し、疑問に対する自分なりの回答を練り上げ、文章にまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

よくわかる臨床心理学〔改訂新版〕（やわらかアカデミズム・くわくシリーズ）下山晴彦 ミネルヴァ書房

ISBN(13桁)978-4623054350

【参考書】

実践に役立つ臨床心理学【第4版】塩崎尚美 北樹出版

ISBN(13桁)978-4779306976

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100%

授業の中で扱ったテーマについて、自分自身の体験の中でどのようにそのテーマで学んだことが活かせるかについて500字～1000字以内でまとめて提出する。

テーマについてまとめている部分は50点とし、自分の考えについてまとめた個所を50点で評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行で出来なかった箇所を削り、身近な題材である摂食障害について触れられるようにしました。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していること。

医療現場における臨床実務経験がある教員のため、なるべく現場での経験も踏まえ授業を行う。

【Outline (in English)】

You learn about how psychology helps us in our lives and in society. From the field of clinical psychology, you learn about personality theory, clinical psychological problems at various stages of development, abnormal psychology, clinical psychological assessment, and psychotherapy.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学I」「心理学II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第3回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第4回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第5回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第6回	無意識の心理学（フロイト①）－精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第7回	無意識の心理学（フロイト②）－心理・性的発達論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。

第8回	無意識の心理学（フロイト③）－精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第9回	無意識の心理学（ユング①）－無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第10回	無意識の心理学（ユング②）－無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第11回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）－その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第12回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）－心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第13回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」(TOPIC3)	夜回り先生・水谷修のDVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巖秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、学習支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories, which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達モデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第3回	行動主義心理学と行動療法①ーさまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第4回	行動主義心理学と行動療法②ー行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第5回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法①ー基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第6回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法②ーゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。

第7回	夜回り先生・水谷修のメッセージ2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修のDVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第8回	人間性の心理学と心理療法①ー来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第9回	人間性の心理学と心理療法②ー来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第10回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第11回	フロー理論と日常生活の充実感について①ー楽しさにもとづく人間発達モデル	楽しさにもとづく人間発達モデルとしてのフロー理論を解説する。
第12回	フロー理論と日常生活の充実感について②ー現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもの生き方や行動を考える。
第13回	フロー理論と日常生活の充実感について③ー精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・裴岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）。会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999年）。浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011年）。今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003年）。チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティヴィティ』（世界思想社、2016年）。『心理学者ミハイ・チクセントミハイが残したもの』『心と社会』（第53巻第2号）日本精神衛生会（2022）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、学習支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand

- (a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and
- (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting).

Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学I」「心理学II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第3回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第4回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第5回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第6回	無意識の心理学（フロイト①）－精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第7回	無意識の心理学（フロイト②）－心理・性的発達論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。

第8回	無意識の心理学（フロイト③）－精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第9回	無意識の心理学（ユング①）－無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第10回	無意識の心理学（ユング②）－無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第11回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）－その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第12回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）－心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第13回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」(TOPIC3)	夜回り先生・水谷修のDVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巖秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、学習支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories, which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達モデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第2回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第3回	行動主義心理学と行動療法①ーさまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第4回	行動主義心理学と行動療法②ー行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第5回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法①ー基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第6回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法②ーゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。

第7回	夜回り先生・水谷修のメッセージ2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修のDVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第8回	人間性の心理学と心理療法①ー来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第9回	人間性の心理学と心理療法②ー来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第10回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第11回	フロー理論と日常生活の充実感について①ー楽しさにもとづく人間発達モデル	楽しさにもとづく人間発達モデルとしてのフロー理論を解説する。
第12回	フロー理論と日常生活の充実感について②ー現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第13回	フロー理論と日常生活の充実感について③ー精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・裴岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）。会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999年）。浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011年）。今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003年）。チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティビティ』（世界思想社、2016年）。『心理学者ミハイ・チクセントミハイが残したもの』『心と社会』（第53巻第2号）日本精神衛生会（2022）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、学習支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand

- (a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and
- (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting).

Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、それらの発達やプロセスについて学ぶ。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半はDVDの視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。次回授業時にリアクションペーパーの結果に言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第2回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由に記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第3回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第4回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第5回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第6回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとりえ方
第7回	ことば	言語発達の概要
第8回	知性	知能 思考
第9回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第10回	認知と思考	記憶
第11回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第12回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬 無気力	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響 学習性無力感 達成目標と無気力
第14回	まとめ	児童のこころの発達について、 認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。
4. 授業時間外において必要な準備時間および復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ－児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014年

2,100円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 櫻井茂男（著）

誠信書房、2010年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男（編著）

有斐閣アルマ、2010年

【成績評価の方法と基準】

学期末試験70%、授業内リアクションペーパー30%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度も対面授業を実施いたしました。授業では質問紙体験、記憶の体験、DVD視聴、復習問題を実施して、学生から心理学に対する理解が進み、満足のいく感想を得られました。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the development of language, cognition and thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Your study time will be more than two hours for class.

Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

In order to get credits, you have to attend at least 2/3 of the classes.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めていきます。pptを提示して説明しますが、DVD鑑賞を数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。ショートレポート課題を数回提示し、次回授業時にショートレポート課題の結果に言及します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	自分をよく知りたい	自己概念
第3回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第4回	人間関係	親・家族との関係
第5回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第6回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第7回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第8回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第9回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第10回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第11回	ソーシャル・スキル・トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第12回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第13回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。

・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版子どものこころー児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014年新版、2100円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験70%、授業内ショートレポート30%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度は授業内に実施した質問紙や復習問題で、学生の授業に対する理解度が深まりました。授業内で復習問題を実施したので、学生が教科書を熟読する良い機会になりました。

DVD視聴が補助教材として学生に好評でした。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

In order to get credits, you have to attend at least 2/3 of the classes.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、それらの発達やプロセスについて学ぶ。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半はDVDの視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。次回授業時にリアクションペーパーの結果に言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第2回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由に記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第3回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第4回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第5回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第6回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとりえ方
第7回	ことば	言語発達の概要
第8回	知性	知能 思考
第9回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第10回	認知と思考	記憶
第11回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第12回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬 無気力	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響 学習性無力感 達成目標と無気力
第14回	まとめ	児童のこころの発達について、 認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。
4. 授業時間外において必要な準備時間および復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ－児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014年

2,100円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 櫻井茂男（著）

誠信書房、2010年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男（編著）

有斐閣アルマ、2010年

【成績評価の方法と基準】

学期末試験70%、授業内リアクションペーパー30%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度も対面授業を実施いたしました。授業では質問紙体験、記憶の体験、DVD視聴、復習問題を実施して、学生から心理学に対する理解が進み、満足のいく感想を得られました。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the development of language, cognition and thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Your study time will be more than two hours for class.

Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

In order to get credits, you have to attend at least 2/3 of the classes.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めていきます。pptを提示して説明しますが、DVD鑑賞を数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。ショートレポート課題を数回提示し、次回授業時にショートレポート課題の結果に言及します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	自分をよく知りたい	自己概念
第3回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第4回	人間関係	親・家族との関係
第5回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第6回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第7回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第8回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第9回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第10回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第11回	ソーシャル・スキル・トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第12回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第13回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。

・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版子どものこころー児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014年新版、2100円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験70%、授業内ショートレポート30%

【学生の意見等からの気づき】

2025年度は授業内に実施した質問紙や復習問題で、学生の授業に対する理解度が深まりました。授業内で復習問題を実施したので、学生が教科書を熟読する良い機会になりました。

DVD視聴が補助教材として学生に好評でした。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

In order to get credits, you have to attend at least 2/3 of the classes.

PSY100LA (心理学 / Psychology 100)

心理学 I

2017年度以降入学者

田中 慎太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目の目的は以下の通りである。

1. 心理学と臨床心理学の歴史、および代表的な理論や実践を学ぶ。
2. 心理学と臨床心理学の基礎的な学びを通して、一人の市民として「誰もがこころ穏やかに過ごせる社会」の在り方を考えられるようになること。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2つです。

1. 学生が、心理学・臨床心理学の基礎的な事項を理解し、説明出来るようになること。
2. 学生が、臨床心理学が対象とする主要な精神疾患の概要および代表的な治療法を説明出来るようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式である。学生はペアやグループでのディスカッション等を行う予定である。課題や質問に対するフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	心理学・臨床心理学の歴史	近代西洋社会において、自然科学をモデルに成立した実験心理学と、古代から続く「癒しの実践」が臨床心理学へと向かうまでの概要を、主に歴史の観点から説明する。
第二回	認知心理学の基礎①	認知心理学が扱う、注意・記憶などのこころの側面と、それらに関する社会的事件を紹介する。
第三回	認知心理学の基礎②	認知心理学が扱う、注意・記憶などのこころの側面と、幾つかの精神疾患を認知心理学の観点から説明する。
第四回	学習心理学の基礎	学習心理学の概略を説明し、幾つかの精神疾患を学習心理学の観点から説明する。
第五回	感情心理学	感情心理学の概略を説明し、感情に関連した精神疾患について解説をする。
第六回	人格（パーソナリティ）心理学の基礎①	現在に至るまでの人格心理学の理論の移り変わりを、歴史的経緯を踏まえて説明する。
第七回	人格（パーソナリティ）心理学の基礎②	人格心理学に関連した精神疾患と、ポジティブな人格特性について説明する。

第八回	授業前半の振り返り	授業前半での学びをグループワークや視聴覚教材等を用いて振り返る。
第九回	心理的アセスメント（心理検査）	質問紙法、投影法といった、臨床心理学におけるアセスメントの概略を説明する。
第十回	心理的支援①	精神分析・人間性心理学に基づく心理療法の概略を示し、視聴覚教材を視聴したり、個人・グループワークを行う。
第十一回	心理的支援②	認知行動療法の概略を説明し、視聴覚教材を視聴したり、個人・グループワークを行う。
第十二回	神経・生理心理学と心身の健康	脳の構造や機能の基礎的な説明を行い、また心身のストレスが生理学的に与える影響について説明する。
第十三回	授業後半の振り返り	授業前半での学びをグループワークや視聴覚教材等を用いて振り返る。
第十四回	試験	授業全体の理解度を確認する試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

予習：該当する教科書を事前に読む、あるいは別途教員が指示する予習を行うこと。

復習：授業内容を振り返りつつ、指示があれば課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「はじめての心理学 公認心理師への第一歩」古見文一他、ナカニシヤ出版、2019年出版

【参考書】

参考書を指定しない。

【成績評価の方法と基準】

試験：100%

試験は、授業で扱った知識に関する選択式の設問であり、教材・ノートの持ち込み不可である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、前年度からのフィードバックはない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・質疑のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

①担当教員は、臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、医療・教育・福祉領域での実務経験を持つ。その為、実際に臨床心理学がどのように活用されているかを守秘義務に反しない形で示すことで、よりイメージしやすい授業を行うが、大学の講義との性質上、学生からの相談等に応じることはしない。

②この授業には、精神疾患や、その原因となる大規模な自然災害や犯罪被害、差別などの内容が含まれる。教員は学習上、不必要なストレスが授業で生じないように注意をするが、何らかの形でそれらに関連した経験を持つ者にとって、不快を感じる可能性が0であるとは言い切れない。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the fundamentals of psychology and clinical psychology, focusing on the following perspectives:

1. An overview of the history of psychology and clinical psychology, including major theories and key experiments.
2. Through the foundational study of psychology and clinical psychology, students will be able to reflect on the ideal of a society where everyone can live with peace of mind, as responsible citizens.

PSY100LA（心理学 / Psychology 100）

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

田中 慎太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目の目的は以下の通りである。

1. 「心理学Ⅰ」を踏まえ、心理学および社会心理学の代表的な理論を学ぶ。
2. 心理学と社会心理学の基礎的な学びを通して、一人の市民として「誰もがこころ穏やかに過ごせる社会」の在り方を考えられるようになること。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2つです。

1. 学生が、心理学・社会心理学の基礎的な事項を理解し、説明出来るようになること。
2. 学生が、臨床心理学が対象とする主要な精神疾患の概要および代表的な治療法を説明出来るようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本科目は講義形式である。学生はペアやグループでのディスカッション等を行う予定である。課題や質問に対するフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	社会心理学の歴史	社会心理学が台頭する背景の歴史と、初期の社会心理学者について解説する。
第二回	他者からの影響①（同調/服従）	同調/服従に関する社会的な出来事と、それに対する心理学の研究を解説する。
第三回	他者からの影響②（自己観）	自己観に関する心理学の研究と、それに対する社会の変化を解説する。
第四回	集団①（責任の分散/集団浅慮）	私たちが、集団を形成する際に生じる様々な問題と、それに関連する社会の事件を解説する。
第五回	集団②（集団アイデンティティ/儀礼）	心理学を通して、宗教儀礼の効果や意義を解説する。
第六回	推論と原因の帰属①（ステレオタイプ）	他者に対する評価に関する研究と、それに関連する社会の問題を解説する。
第七回	推論と原因帰属②（公正世界仮説）	私たちが、人生・社会、あるいはより大きな世界全体に対して考える傾向について解説する。
第八回	授業前半の振り返り	授業前半での学びをグループワークや視聴覚教材等を用いて振り返る。
第九回	健康と幸福①（気分障害/スティグマ）	代表的なこころの病気と、こころの病気からの回復を阻害する社会的な側面について解説する。

第十回	健康と幸福②（ソーシャルサポート/社会関係資本）	私たちの心身の健康を促進する、社会的な側面について解説する。
第十一回	敵意①（怒りが心身に与える影響）	怒りが、私たちの心身に与える影響について解説する。
第十二回	敵意②（他者の属性や偏見に基づく攻撃や犯罪）	怒りが、他者・社会にとって脅威となる状況を、社会心理学の視点から解説する。
第十三回	授業後半の振り返り	授業後半での学びをグループワークや視聴覚教材等を用いて振り返る。
第十四回	試験	授業全体の理解度を確認する試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

予習：該当する教科書を事前に読む、あるいは別途教員が指示する予習を行うこと。

復習：授業内容を振り返りつつ、指示があった場合は課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「体験で学ぶ社会心理学」吉田俊和・元吉忠寛、ナカニシヤ出版、2010年出版

【参考書】

参考書を指定しない。

【成績評価の方法と基準】

試験：100%

試験は、授業で扱った知識に関する選択式の設問であり、教材・ノートの持ち込み不可である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、前年度からのフィードバックはない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・質疑のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

この授業には、精神疾患や、その原因となる大規模な自然災害や犯罪被害、差別などの内容が含まれる。教員は学習上、不必要なストレスが授業で生じないように注意をするが、何らかの形でそれらに関連した経験を持つ者にとって、不快を感じる可能性が0であるとは言い切れない。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the fundamentals of psychology and social psychology, focusing on the following perspectives:

1. An overview of the history of psychology and social psychology, including major theories and key experiments.
2. Through the foundational study of psychology and social psychology, students will be able to reflect on the ideal of a society where everyone can live with peace of mind, as responsible citizens.

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学 I

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では足もとに広がる陸域、すなわち「島 island」に注目することとし、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに、私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間についての理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関わる事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」をめぐる様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で生起しています。全14回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、どのような意味合いを有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインでの講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第5回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第6回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第7回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々

第8回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第9回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）
第10回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第11回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第13回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。学習支援システムに配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン・タブレットなどをご準備の上、通信状況についても予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始の15分前からZoom（もしくはWebex）に入室いただけるようにいたします。入室に必要なURLは、「学習支援システム」でお知らせいたします。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and place. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs. In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA (地理学 / Geography 100)

地理学 II

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では足元に広がる「島 island」に注目することとし、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きている島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全14回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインでの講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお願ひいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第4回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第5回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本の島嶼政策とそこにみられる諸問題
第6回	映像資料から世界・日本について考える	島々のコミュニティとネットワーク
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第8回	現代世界の諸地域	資源・産業

第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。「学習支援システム」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン・タブレットなどをご準備の上、通信状況についても予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始の15分前からZoom（もしくはWebex）に入室いただけるようにいたします。入室に必要なURLは、「学習支援システム」でお知らせいたします。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）		
地理学 I		2017年度以降入学者
前川 明彦		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水2/Wed.2		
単位数：2単位		
その他属性：〈優〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。大学の方針に従って、対面授業を基本とします。様々な映像資料や資料等から考えています。Webclassで教材配信、出席等をしますので、全員習熟してください。成績に関連するレポート等も含めて、生成AIに関しては大学の方針に準拠して使用可能な授業ですので頑張ってください。

【到達目標】

現代の様々な事象を理解するために、系統地理学を中心にします。前半は日本や世界を舞台に自然地理学を、後半は日本を中心に人文地理学の考え方を基本に、自分で多様的に考え、応用できるか、という力を学ぶことを目標とします。東京は再び、一極集中が進展し、日本で世界的な影響を最も受けやすい地域ともいえます。言い換えれば、グローバルな政治や経済的影響等を最も可視化や内包化しやすい地域で、皆さんはその都心部に通い、こうした変化を感じていると思います。できるだけ、身近な地域や事柄から応用できる力をつけることが重要ではないかと思います。一方的な講義で眠くなるより、大学のオープンな居場所と考え、学問の入口やコミュニケーションを楽しみながら考えましょう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

100番台の本講義では、自然地理学、人文地理学の両方の分野を講義します。大半の皆さんが高校で地理を履修していますので、それを発展させ、日本や世界、さらにはTOKYOなどを舞台に身近な事例などから、いかに「論理的に考え、応用できるか」という方向性を目標にもしています。対面授業の利点を活かし、多様に「考える」ことを重視し、基本的に「映像＋講義＋GDなど」形式となります。授業資料等はWebclassにアップしますので、授業前にはダウンロードしてください。授業時にALとして簡単なGD/GWを考えており、評価に関連します。また、簡易的な都市フィールドワークの基礎として、その結果をGD/GWを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	大学の地理学へ 地理学って何だろう
第2回	地理学が扱う諸問題 地球規模の自然環境とグローバルな社会	地球の成り立ちと日本や日本を中心に、グローバルな自然地理学のロジックから考える
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1） なぜ再開発で渋谷はあとに	地理学的な考え方を学ぶには？ 新宿、池袋と比較して渋谷の街から見えてくるものは何だろう

第4回	身近な事象を通して学問として地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 ープラタモリの世界ローマ
第5回	現代世界における生態・環境（1） 気候変動は・・・	餃子で考える、食文化と自然環境 および理論の世界感
第6回	現代世界における生態・環境（2）	世界における生態・環境問題 昨今の世界の流れは環境問題を変えているかもしれない なぜ、人は都市に 若い女性はなぜTOKYOに
第7回	少子高齢化の課題・・・ 能登の災害からもみえてくるもの	産業と経済発展を身近なアルバイト、就職などから考えてみよう
第8回	現代社会の経済・社会・政治	観光は新たな産業として可能だろうか
第9回	現代社会の情報・通信・観光	遅れた日本 安い日本 失われた30年 DX, AI社会ほか
第10回	日本社会における諸問題（1）	人材不足、人手不足の中で 必要な人材とは何か、生成AIと日本の将来
第11回	日本社会における諸問題（2）	グローバル社会の分断と混乱を 欧米社会から地理学的な見方で考える
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	格差・貧困とグローバル社会 アメリカのホームレス大学生や生理の貧困を考えながら
第13回	グローバル社会における諸問題（2）	災害日本を社会科学から再検討する& 最終レポートの解説
第14回	まとめと展望	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞・ネット情報を読むようにして、常に疑問を持ち、正誤に関しては自分の判断で選択できるように考えてください。昨年は世界的な選挙イヤーでしたが、アメリカ大統領が変わるだけで世界は大きな変化しています。政治や経済が社会に与えていることを身近に考えてください。こうした世界や日本社会の様々な出来事にも興味や疑問をもってください。これは、普段歩いている大学や自宅界隈も視点を変えてみることでちょっと違うこともレポートなどで経験してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

印刷されたテキストは特にありませんが、Wwebclassで教材資料等を授業前にアップしますので、ダウンロードしてください。

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

対面授業予定ですので、授業での平常点（50%）、期末R（50%）の予定です。インフルエンザ等の感染の拡大等から変わる可能性もあります。詳細は4月の授業時やWebclass等で確認してください

【学生の意見等からの気づき】

この数年間、社会の閉塞感からなのか、各自の孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。画一化や均一化などはイノベーションを生み出しにくいことはすでに明らかになっています。このため、この講義では一方的に講義するという形式ではなく、多様な意見や考え方を方向性を期待しています。授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮する方向性でのGDやレポートなどでの簡易的フィールドワークは行ってきました。大半の学生には好評でした。授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。また、大学の基準に準じて生成AIは積極的に使用してみてください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Webclassで、資料配信、簡単な質問、出席などを行います。それを見て使えるように習熟を、さらにPCなどの機器類を準備してください。できるだけ、タブレット、パソコン等を使用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

高校の地理、苦手な人でも構いません。100番台で基礎科目としてのポジションですが原則、春学期のⅠでは地理学の基礎、秋学期のⅡは世界の地誌的な見方での応用が中心です。自分の経験ですが、海外研究で奥地や災害ボランティアで気がつくのは日本人女性は1人でも参加しますが、若い男性は集団志向です。グローバル化の中で大学デビューも含めて1人参加でも心配ありません。一方的な授業は教員は楽ですが避けたいのでみんなでALも楽しみましょう。

授業資料、出席などは、Webclass（タイムラインも含めて）等を使う予定です、互いに習熟しましょう。また、授業開始日までに、最初の項目に、今後の内容の詳細や要点をパワポや動画等でまとめておきたいと思います。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにします）

【Outline (in English)】

In high school geography, the emphasis was often placed on memorizing various phenomena in Japan and around the world. In contrast, university-level geography encourages students to develop a deeper understanding of contemporary global issues through key geographical concepts such as space, region, landscape, and place, while fostering independent and logical thinking. In line with university policy, classes will primarily be conducted in person. A variety of video materials and other resources will be used to support learning. Course materials and attendance will be managed via Webclass, so all students are expected to become proficient in using the platform. As the use of generative AI is permitted in this course in accordance with university guidelines, you are encouraged to make the most of it and do your best.

GE0100LA（地理学 / Geography 100） 地理学 II 前川 明彦 開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水2/Wed.2 単位数：2単位 その他属性：〈優〉	2017年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでの地理の学びでは、世界や日本のさまざまな事象を「暗記する」「覚える」ことが中心だったかもしれません。しかし、大学の地理学では、「空間」「地域」「景観」「場所」といった地理学のキーワードや考え方を通じて、現代の世界で起きているさまざまなことを深く理解し、自分の頭で論理的に考える力を身につけることが大切です。

この秋学期の授業では、現代の世界や日本の地域について、自然地理学・人文地理学・地誌学の視点から考えていきます。現代社会には、さまざまな地域や人々が存在しており、それぞれに特徴があります。グローバル化が進み、情報があふれる時代にあっても、私たちが本当にそれらを理解できているかどうかは疑問です。特に、異なる背景を持つ人々が共に生きていく「共生」の重要性を知ることが、これからの社会ではますます大切になります。そのためにも、この授業では、受講するみなさん自身が「考える力」を育てていくことを目指します。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的、さらに自然地理学や人文地理学をとおして考察すること、目まぐるしい変化の世界各地や日本などについて、自ら考えていけるようになることを目標にします。地理学は自然や人文を混合してミクロ、マクロ的に考えます。まさに世界を俯瞰して日本や世界の身近な課題等を考えることができる学問分野です。秋学期は、考え、応用するだけでなく、多様な持続可能な考え方として地域社会の人々を尊重することも考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本は「世界を知ろう」です。各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、「映像＋講義＋GDなど」などですすめていきます。対面授業の利点を活かし、多様な考え方のためにGD・GWが多様性を感じる簡易的なフィールドワークを行いますので楽しんでください。授業資料等はwebclassにアップしますので、授業前にはダウンロードしてください。授業時にALとしてGD/GWを考えており、評価に関連します。シラバス内容は順番など多少変更する場合もあります。生成AIは大学の方針に準拠して使用可能。うまく使用できるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地理学・地誌学	地理学・地誌学とは？ 身近なこと動画・映像から大学の地理学へ 韓国
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	東アジアから映画や動画をもとに考えよう 中国
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	GPSの行動結果などから外国人インバウンド観光行動やアメリカの格差をMAPなどから考える

第4回	統計資料をもとに世界・日本について考える	能登半島の災害などをビックデータやGISなどから考える
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	グローバル社会について考えてみよう ASEAN タイなど、
第6回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画から分析してみよう ASEAN ベトナム・カンボジアなど
第7回	現代世界の諸地域	ASEANを事例に地域区分と国家・宗教・民族多様性を考える
第8回	現代世界の諸地域	南アジアを事例に資源・産業 世界一の人口インド
第9回	現代世界の諸地域	アメリカを事例に多様性を変える？ 都市・移民アメリカンドリームは今
第10回	現代世界の諸地域	アメリカを事例に分断と格差 トランプ・プアホワイト・ラストベルト
第11回	現代世界の諸地域	ヨーロッパを事例に移民・分断社会 生活文化
第12回	現代世界の諸地域	ヨーロッパを事例に民族・宗教・領土問題、都市など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	災害復興からみえる未来の社会のために
第14回	まとめと解説	世界の変化と最終レポートの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞・ネット情報を読むようにして、常に疑問を持ち、正誤に関しては自分の判断で選択できるように考えてください。昨年は世界的な選挙イヤーでしたが、アメリカ大統領が変わるだけで世界は大きな変化しています。大学に入学して1年生で半年が過ぎます。身近な変化はありましたか、地域社会にネットワークは張っていますか？ 世界や日本の動向を身近なことから考えられるように、何事にも興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

地理学 I 同様に 基本的になし

【参考書】

適宜、指示します

【成績評価の方法と基準】

体面授業が中心となります。期末のレポート（50%）、授業時での平常点（50%）として総合的に評価します。詳細に関しては、最初の授業やclassroomのパワポなどで確認してください

【学生の意見等からの気づき】

ネット依存してきた現在、リアルな体験は非常に重要な基礎になってくると思います。また、コミュニケーションの重要性がより問われている気がします。本格的なフィードバックではありませんが、レポートの街あるきは好評でした。今年もやってみましょう。対面授業ですから、授業を居場所としてコミュニティの重要性や多様性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Webclassのシステムを教材や課題等で使用するので、慣れてほしい。先進国の中でパソコンが苦手な人が多いといわれる日本です。スマホではなく、パソコンやタブレットなどに慣れてください。なお、生成AIに関しては大学の方針に準拠して使用し、習熟してみてください。大学のパソコンレンタルなども活用してください。

【その他の重要事項】

学部により半期、通年登録などがバラバラですので、授業開始日までに、簡単なガイダンスをパワポ資料や動画作成しておく予定で、Webclassの授業欄の案内にアップしておきたいと思っています。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにします）

昨今、多様性がイノベーションを産みやすいことは自明の理になっていますが、否定する意見もあります。この授業は人によったら楽な授業ではないと感じる人もいますが、同じような形式ではなく、大学生の時ぐらいトライすることを自分の成果にしませんか。学部学年、性差の違い等でも多様性が実感できます。大学デビューも含めて1人参加でも例年大丈夫ですし、大学の居場所にしませんか。みんなでALも楽しみましょう。

【Outline (in English)】

Course outline: In the past, studying geography often focused on memorizing various phenomena in Japan and around the world. However, university-level geography emphasizes the importance of understanding today's world more deeply through key geographical concepts such as space, region, landscape, and place, and developing the ability to think logically and independently.

In this fall semester course, we will explore current issues in the world and in different regions of Japan from the perspectives of physical geography, human geography, and regional geography. Modern society is made up of diverse regions and people, each with its own characteristics. Even though globalization is advancing and we are surrounded by vast amounts of information, it is uncertain whether people truly understand what's happening around them.

Especially in a globalized world, it is increasingly important to recognize the value of coexistence among people from different backgrounds. This course aims to help students cultivate their own ability to think critically and independently in order to better understand and engage with our complex world.

Total of 4 hours Grading Criteria: Examination 50% Contribution to class 50%

GEO100LA (地理学 / Geography 100)

地理学 I

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、人文地理学的なテーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。しかし、授業支援システムを主に活用し、資料配信やコメント提出もしていただきます。リアクションペーパーには授業支援システムを使って教員からコメントをし、受講生のみなさんにフィードバックします。授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	さまざまな地理学的課題
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	法政大学周辺の地理
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアのなかの地理 プラタモリ鑑賞
第5回	現代世界における生態・環境（1）	自然環境と人々の生活
第6回	現代世界における生態・環境（2）	地球温暖化・シベリアの環境問題
第7回	現代の人びとの生活・文化	文化遺産と郷土のアイデンティティ
第8回	現代社会の経済・社会・政治	「大江戸」と東京一極集中
第9回	現代社会の情報・通信・観光	アートと地域振興
第10回	日本社会における諸問題（1）	巨大災害と防災・復興
第11回	日本社会における諸問題（2）	都市と地方 世界遺産と地域の関係
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	ロシアによるウクライナ侵攻

第13回	グローバル社会における諸問題（2）	旧ソ連地域 バルト三国とロシア
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要な資料は適宜、学習支援システムにアップします。

【参考書】

『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真やDVD、映画など）は好評でしたので、対面授業内で積極的に鑑賞する機会をもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるようPCなどの機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

高校時代に地理を学んでいない人も大歓迎です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand human geographies of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination:50%, and class contribution:50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、世界や日本の地誌を扱います。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。授業支援システムでの資料配信やリアクションペーパーの提出も行います。リアクションペーパーへのコメントは、授業内で発表してフィードバックします。必要な事項は全員向けに授業支援システム内の掲示板を利用します。授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	地誌とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	世界や日本の地誌を学ぶ
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	地図から見る世界と日本
第4回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計から見る世界と日本
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	最近の新聞・ニュースから見る世界と日本
第6回	映像資料から世界・日本について考える	絵画・写真からみる世界と日本
第7回	現代世界の諸地域	世界遺産・文化財からみる地域
第8回	現代世界の諸地域	アートからみる地域
第9回	現代世界の諸地域	公共空間からみる地域
第10回	現代世界の諸地域	震災・復興からみる地域
第11回	現代世界の諸地域	国際紛争からみる地域
第12回	現代世界の諸地域	グローバル化と地域
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	様々な地域像
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験50%、平常点50%

【学生の意見等からの気づき】

各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるように、PCやスマートフォンなどの機器類は準備してください。

【その他の重要事項】

高校時代に地理を学んでいない人も大歓迎です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand topography of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end examination:50%, and in class contribution:50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学 I

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないだろうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では足もとに広がる陸域、すなわち「島 island」に注目することとし、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに、私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関わる事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」をめぐる様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で生起しています。全14回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、どのような意味合いを有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインでの講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第5回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第6回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第7回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々

第8回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第9回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）
第10回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第11回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第13回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。「学習支援システム」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン・タブレットなどをご準備の上、通信状況についても予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始の15分前からZoom（もしくはWebex）に入室いただけるようにいたします。入室に必要なURLは、「学習支援システム」でお知らせいたします。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and place. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs. In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では足元に広がる「島 island」に注目することとし、地図、統計、新聞、映像、写真などの様々な資料をもとに島の一般の性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きている島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全14回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、どのような意味合いを有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインでの講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめたレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第4回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第5回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本の島嶼政策とそこにみられる諸問題
第6回	映像資料から世界・日本について考える	島々のコミュニティとネットワーク
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家

第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。「学習支援システム」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン・タブレットなどをご準備の上、通信状況についても予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始の15分前からZoom（もしくはWebex）に入室いただけるようにいたします。入室に必要なURLは、「学習支援システム」でお知らせいたします。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :

reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA (地理学 / Geography 100)

地理学 I

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。プラスチックによる海洋汚染の問題、領海・EEZをめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は、陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全14回を通して、「海と人間社会の関係性」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての理解を深め、そうした諸現象について、その全体的状況はどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインでの講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第2回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第3回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第4回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第5回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第6回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第7回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第8回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策

第9回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第10回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第11回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第12回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第13回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。「学習支援システム」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要ポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン・タブレットなどをご準備の上、通信状況についても予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始の15分前からZoom（もしくはWebex）に入室いただけるようにいたします。入室に必要なURLは、「学習支援システム」でお知らせいたします。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and place. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA（地理学 / Geography 100）

地理学 II

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。履修ガイド (<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/rishuguide2026/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「海」を取り上げ、地図、統計、新聞、映像、写真といった様々な資料をもとに「海と人間社会の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間についての理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸域の社会経済活動を見据えながら諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島に内在された島嶼社会システムを捉えながら「海と人間社会の関係性」を掘り下げて考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況はどうなっているのか、いかなるしくみ・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味合いを有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインでの講義形式となります。
- ・毎回、授業内容を整理してコメントをご提出いただきます。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初日に詳しく説明することといたします。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	沿岸域の開発と地域社会への影響
第4回	映像資料から世界・日本について考える	里海再生の取り組みとその現状
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本列島の海の食文化と「島嶼ネットワーク」

第6回	統計資料をもとに世界・日本について考える	「島嶼ネットワーク」から捉える日本の海洋産業の問題
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第14回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用います。「学習支援システム」に配布プリントをアップいたしますので、授業前に印刷のうえ、予めお目通しください。

【参考書】

高等学校用などの地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン・タブレットなどをご準備の上、通信状況についても予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始の15分前からZoom（もしくはWebex）に入室いただけるようにいたします。入室に必要なURLは、「学習支援システム」でお知らせいたします。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between the sea and human society" based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造

13 ネーション（民族、ナショナリズムのパラドックス国民）

14 政治社会学の視点 M・ヴェーバー『職業としての政治』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能な限り双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・パウマン『リキッド・モダンティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・パウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・パウマン『リキッド・モダンティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれもPDF形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントパウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダンティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50％）、平常点（50％）[リアクションペーパー20％＋プレゼンテーショングループワーク30％]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造

13 ネーション（民族、ナショナリズムのパラドックス国民）

14 政治社会学の視点 M・ヴェーバー『職業としての政治』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・パウマン『リキッド・モダンティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・パウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・パウマン『リキッド・モダンティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれもPDF形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントパウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダンティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50％）、平常点（50％）[リアクションペーパー20％＋プレゼンテーショングループワーク30％]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると感じ、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、全てリアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。Hoppii～学習支援システムを使って資料配付+ZOOMでの講義+チャットを使ったレスポンスの聴取（毎回）+ワードファイルによる課題の提出（2回）という形になる予定です。提出された課題については、可能な範囲で、後日の授業内でフィードバックする予定です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第2回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第3回	社会を感じる その2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第4回	コミュニケーション論1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第5回	コミュニケーション論2	他の動物と違う人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第6回	コミュニケーション論3	人間のコミュニケーションの特徴である、ことばについて考えます。
第7回	メディアの歴史 その1	ことばというメディアが、人間の社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第8回	メディアの歴史 その2	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。

第9回	メディアの歴史 その3	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第10回	メディアの歴史 その4	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。
第11回	メディアの歴史 その5	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第12回	メディアの歴史 その6	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第13回	現代の社会について考える1	スポーツを題材として、ここまでの考察を振り返り、現代の社会について考えてみます。
第14回	現代の社会について考える2	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は各回につき4時間を標準とします。復習時には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

1-3 学生は「社会的なもの」について考えます

4 自分が社会について考えるための題材を決めます

5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます

7-12 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます

13. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます

14. 学生はここまで自分が考えたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995年

<https://www.socius.jp/p/19921998.html>

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（50%）、および期末レポート（50%）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「コミュニケーションに関する話をしているのに、コミュニケーションが取れていない」という意見をいただきました。ご指摘の通りと思います。なお、この授業では、「コミュニケーションは難しいね」ということに関する話をしていますので、まずはこの点をしっかりコミュニケーションできるように、改善したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 資料配布、その他の連絡等のために学習支援システムを利用しますので、事前に登録を済ませて、使いがってを試しておいて下さい。(2) ZOOMアプリのインストールとテスト、リモート授業に対応できる、信頼できる通信環境を整えておいてください。(3) 可能であれば、リモート授業に対応できる、なるべく余力のあるPCを用意してください。(4) マイクロソフト・オフィス（ワード）を使用するように準備を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students learn 'way of thinking' to think about contemporary society. Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.

Learning Objectives: The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports): 50%, in class contribution: 50%

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、全てリアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。Hoppii～学習支援システムを使って資料配付+ZOOMでの講義+チャットを使ったレスポンスの聴取（毎回）+ワードファイルによる課題の提出（2回）という形になる予定です。提出された課題については、可能な範囲で、後日の授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム (1)	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム (2)	現代の社会（情報社会・消費社会）が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム (3)	現代の社会（情報社会・消費社会）が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム (4)	現代の社会（情報社会・消費社会）が、日本では、どのように始まったのかを、さらに深く考えます。
5	現代社会と資本主義のシステム (5)	現代の社会を生きる人の特徴（孤独な群衆）について考えます。
6	現代社会とメディアの働き (1)	現代の社会における限界問題について考えます。
7	現代社会とメディアの働き (2)	現代社会におけるメディアの働きについて学びます。
8	現代社会とメディアの働き (3)	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
9	現代社会とメディアの働き (4)	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
10	現代社会とメディアの働き (5)	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。

11	現代社会とメディアの働き (6)	物語論を使ったメディアの分析を学びます。
12	現代社会の課題 (1)	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題 (2)	スポーツとナショナリズムとメディアの関係について考えます。
14	まとめ	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は4時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します

2-5 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます

6 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します

7-10 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します

11 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます

12 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます

13 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます

14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996年）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（50%）、および期末レポート（50%）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「政治に関する話題が多過ぎる気がする」という意見をいただきました。ご指摘の通りだと思います。現代の社会の課題について考えることは、現代の社会の基盤である経済と政治について考えることが不可欠になってきます。この点についてわかりやすく説明することも、今後の課題としたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 資料配布、その他の連絡等のために学習支援システムを利用しますので、事前に登録を済ませて、使いがってを試しておいて下さい。(2) ZOOMアプリのインストールとテスト、リモート授業に対応できる、信頼できる通信環境を整えておいてください。(3) 可能であれば、リモート授業に対応できる、なるべく余力のあるPCを用意してください。(4) マイクロソフト・オフィス（ワード）を使用するように準備を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solutions about the society in which they live

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports) : 50%, in class contribution: 50%

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造

13 ネーション（民族、ナショナリズムのパラドックス国民）

14 政治社会学の視点 M・ヴェーバー『職業としての政治』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・パウマン『リキッド・モダンティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・パウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・パウマン『リキッド・モダンティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれも PDF 形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムント・パウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダンティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50％）、平常点（50％）[リアクションペーパー 20％＋プレゼンテーショングループワーク 30％]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

服部 あさこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学的指向の基礎となる概念について学習する。担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習する。そのうえで、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察できる。またそうした視角を意識しながら、社会的な事象について、学習した概念を用いて自身の考えを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に対して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取りあげて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、社会学とはどのような学問か？社会学への導入	
2	社会変動1	近代という「謎」の発見
3	社会問題1	集団へのアプローチ
4	社会問題2	規範と価値
5	理論的整理	行為と合理性
6	社会変動2	個へのアプローチ
7	歴史社会学の視点	合理性と社会変動
8	社会集団1	地位と役割
9	社会集団2	社会化理論
10	「自己」の社会学1	近代的個人
11	「自己」の社会学2	社会性の発達
12	政治社会学の視点1	闘争、疎外
13	政治社会学の視点2	国家、国民、民族
14	総括、社会分析の精緻化	社会のとらえ方の変遷

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。復習として、配布資料を読み、それまでに学習した社会学上の概念を用いて現象をどのように説明できるかを考え、簡潔なメモを作成します。予習として、次回の資料を読み、大まかな話の流れを把握します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません

【参考書】

長谷川公一ほか編著、2007『社会学』有斐閣
友枝 敏雄ほか編著、2017『社会学の力－重要概念・命題集』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an ability of comprehend from various perspective about social phenomenon.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To be able to understand the basic concepts and theories of sociology.

To be able to examine social phenomena from both micro and macro perspectives.

To be able to deep their understanding of the multilayered nature of society and be able to understand the origins of social issues from multiple perspectives.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following :30% score for regular assignments (e.g. reaction paper), 70% score for test

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

服部 あさこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的な事柄について、多様な背景をもつ人々の視角を想像しながら考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に関して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取り上げて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、基礎概念の確認	社会学の頻出概念の確認
2	社会秩序と権力1	社会秩序をめぐる問題提起と国家
3	社会秩序と権力2	社会秩序を維持するもの
4	日常生活の社会学1	行為と演技
5	日常生活の社会学2	やりとり秩序
6	現象学的社会学の視点	対象の認識と文化
7	国際社会学の視点	文化相対主義
8	構築主義	予言の自己成就
9	逸脱	ラベリング理論
10	法社会学の視点	犯罪と刑罰
11	格差社会論	社会階層と文化
12	貧困と社会的排除	人々を分断する制度の存在
13	教育と社会	学力と社会階層
14	総括、「近代社会」の変容	個人の主観の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。復習として、配布資料を読み、それまでに学習した社会学上の概念を用いて現象をどのように説明できるかを考え、簡潔なメモを作成します。予習として、次回の資料を読み、大まかな話の流れを把握します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

金菱清、2014『新 体感する社会学: Oh! My Sociology』新曜社
盛山和夫ほか編著、2017『社会学入門』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないためフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムまたは google classroomを利用します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an ability of comprehend from various perspective about social phenomenon. Sometime students should submit short opinion essays. Good opinions will feedbacked in next time.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to think multidimensionally about social issues. Based on that way of thinking, you will be able to respect others, especially those who are weak, and have an opinion that you think is good for yourself.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following :30% score for regular assignments (e.g. reaction paper), 70% score for tests

SOC100LA（社会学 / Sociology 100）	
社会学Ⅰ	2017年度以降入学者
橋本 みゆき	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金 1/Fri.1
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げながら、講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で発言やコメント作成を行う。提出物は、個人情報に留意したうえで授業に適宜フィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。2回ワンセットで教科書を1章ずつ進め、半期で7セット繰り返す。初めの回は概説編である。授業時刻までに講義動画とパワーポイント配布資料等を教材としてアップロードするので、各自閲覧、視聴する。確認課題あり。次の回は発展編とし、教室で追加レクチャーを行うほか、受講生が相互に情報・意見交換するなどして理解を深める。課題や小テストに対しては次の回に、発言に対してはその場でフィードバックする。

質問や意見があれば、対面授業の際に教員に直接申し出るか、メール連絡すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	理論と方法(1)	授業ガイダンス、テキスト第1章概説
2	理論と方法(2)	第1章発展編
3	文化と社会(1)	テキスト第2章概説
4	文化と社会(2)	第2章発展編
5	社会化と相互行為(1)	テキスト第3章概説
6	社会化と相互行為(2)	第3章発展編
7	集団と組織(1)	テキスト第4章概説
8	集団と組織(2)	第4章発展編
9	社会階層(1)	テキスト第6章概説
10	社会階層(2)	第6章発展編
11	人種とエスニシティ(1)	テキスト第7章概説
12	人種とエスニシティ(2)	第7章発展編
13	ジェンダーとセクシュアリティ(1)	テキスト第8章概説
14	ジェンダーとセクシュアリティ(2)	第8章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

- ・テキストおよび参考文献、そのほか各自の関心に応じて、社会学者の書いた論文や本を読む。
- ・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『社会学の基礎』松本康監修、小池靖・貞包英之編、有斐閣、2024年刊、2400円＋税。
またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。
『川崎在日コリアンの歴史——共に生きるまちを築いた人びと』山田貴夫ほか、緑風出版、2025年刊、2700円＋税。
他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（課題提出、小テスト、ディスカッション発言等、授業時の参加と成果を総合する）。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生はそれぞれ関心ある題材に出会えるだろう。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

【その他の重要事項】

秋学期科目「社会学Ⅱ」は教科書の後半を扱う。各章の内容は独立しているので、春学期のみの受講でも差し支えない。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination. After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles. Your required study time is at least four hours for a class. Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA（社会学 / Sociology 100）

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げながら、講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で発言やコメント作成を行なう。提出物は、個人情報に留意したうえで授業に適宜フィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。2回ワンセットで教科書を1章ずつ進め、半期で7セット繰り返す。初めの回は概説編である。授業時刻までに講義動画とパワーポイント配布資料等を教材としてアップロードするので、各自閲覧、視聴する。確認課題あり。次の回は発展編とし、教室で追加レクチャーを行うほか、受講生が相互に情報・意見交換するなどして理解を深める。課題や小テストに対しては次の回に、発言に対してはその場でフィードバックする。

質問や意見があれば、対面授業の際に教員に直接申し出るか、メール連絡すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス
	家族とライフコース	テキスト第9章概説
	(1)	
2	家族とライフコース	第9章発展編
	(2)	
3	宗教(1)	テキスト第10章概説
4	宗教(2)	第10章発展編
5	経済と労働(1)	テキスト第11章概説
6	経済と労働(2)	第11章発展編
7	政治と社会運動(1)	テキスト第12章概説
8	政治と社会運動(2)	第12章発展編
9	共同体と都市(1)	テキスト第13章概説
10	共同体と都市(2)	第13章発展編
11	情報化とメディア(1)	テキスト第14章概説
12	情報化とメディア(2)	第14章発展編
13	環境(1)	テキスト第15章概説
14	環境(2)	第15章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・テキストおよび参考文献、そのほか各自の関心に応じて、社会学者の書いた論文や本を読む。

・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『社会学の基礎』松本康監修、小池靖・貞包英之編、有斐閣、2024年刊、2400円＋税。

またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。

『川崎在日コリアンの歴史——共に生きるまちを築いた人びと』山田貴夫ほか、緑風出版、2025年刊、2700円＋税。

他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（課題提出、小テスト、ディスカッション発言等、授業時の参加と成果を総合する）。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生は関心をひかれる題材に出会うかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもおもしろいだろう。

【その他の重要事項】

春学期科目「社会学Ⅰ」の続き。教科書第9章から始める。各章は独立した内容なので、秋学期のみの受講でも差し支えない。

ただし、社会学そのものについて説明するプロローグは、開講前に読んでおくこと。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination.

After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles.

Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学 I

2017年度以降入学者

松下 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の基本的な概念や視点・論点などについて学ぶ。社会学の諸領域を概観しつつ、社会学的考察のためのポイント（着眼点や研究方法など）に関する学びを深めるとともに、自ら具体的な現象を分析・考察していくための社会的思考力を養う。

【到達目標】

- ・社会学の基本的な概念や理論について理解し、その意味を説明できる。
- ・具体的な事象（社会現象）を取り上げ、その複層性を観察しつつ、社会学的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回ごとに教員作成の資料を配布し、講義形式で授業を進める。その際、適宜新聞記事や書籍や映像資料等を用いて、社会現象に対する観察や理解に努める。学習内容の定着と応用を目的として、授業内で小課題（コメント作成等）に取り組んでもらう。受講生の提出物については、基本的に次回授業の冒頭で、いくつかピックアップするかたちでフィードバックし、全体で知見の共有を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会学とは？	授業概要および社会学という学問分野について説明する。
第2回	社会変動	近代化論を中心に、社会構造と社会変動の捉え方について学ぶ。
第3回	消費社会	映像作品を通じて、消費社会の諸相について考える。
第4回	情報社会	基本的なマスメディアの理論を概観しつつ、情報と社会の関係について考える。
第5回	メディア論の視点	マクルーハンのメディア論を中心に、メディアと社会の重層の関係について考える。
第6回	都市とは、いかなる社会空間であるのか	都市社会学の基本的観点について学ぶ。
第7回	社会運動	社会運動の事例を取り上げ、そのありようについて学ぶ。
第8回	社会問題	社会問題が「社会問題」として問題化される過程について考える。
第9回	対抗文化（1）	映像作品を通じて、文化とその担い手の関係、そこに現れる対抗性について考える。
第10回	対抗文化（2）	ウィリス『ハマータウンの野郎ども』をテキストに、対抗文化について理解を深める。

第11回	歴史社会学の視点	アルヴァックスの集合的記憶論を中心に、社会は何をどのように記憶（記念）するか考える。
第12回	階層	社会階層論の基本概念について学ぶ。
第13回	ネーション	エスニシティ、ナショナリズムについて。
第14回	政治社会学の視点	支配とその正当性の問題を中心に。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料や関連文献等を読み込むとともに、関連するテーマについて調べ、自分なりに理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学 [新版]』有斐閣、2019年。

その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（60%）＋期末課題（40%）。
観察の鋭さ、記述の具体性、洞察の深さ等に加点。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の反応を見る限り概ね好評であった。今後も研鑽を重ねたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は原則として学習支援システムにて配布予定です。閲覧可能な機器を持参してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the key concepts of sociology and basic sociological approaches.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand basic approaches and keywords of sociology.
- think about contemporary issues from the sociological perspectives.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on Short reports(60%) and Term-end report (40%) .

SOC100LA (社会学 / Sociology 100)

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

松下 優一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の基本的な概念や視点・論点などについて学ぶ。社会学の諸領域を概観しつつ、社会学的考察のためのポイント（着眼点や研究方法など）に関する学びを深めるとともに、自ら具体的な現象を分析・考察していくための社会学的思考力を磨く。

【到達目標】

- ・社会学の基本的な概念や理論について理解し、その意味を説明できる。
- ・具体的な事象（社会現象）を取り上げ、その複層性を観察しつつ、社会学的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回ごとに教員作成の資料を配布し、講義形式で授業を進める。その際、適宜新聞記事や書籍や映像資料等を用いて、社会現象に対する観察や理解に努める。学習内容の定着と応用を目的として、授業内で小課題（コメント作成等）に取り組んでもらう。受講生の提出物については、基本的に次回授業の冒頭で、いくつかピックアップするかたちでフィードバックし、全体で知見の共有を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	家族	近代家族の特徴、その歴史・社会的条件、その変容について。
第2回	ライフコース	女性のライフコースの変化を中心に。
第3回	個人化	個人化の諸相とその歴史・社会的条件について。
第4回	郊外	「郊外」という社会空間の特徴について。
第5回	自己の社会学	ミードの自己論を中心に、自己の成立条件としての他者との相互作用について考える。
第6回	現象学的社会学の視点	シュッツの生活世界論を中心に。
第7回	逸脱	ベッカーのラベリング理論を中心に。
第8回	環境社会学（1）	環境と社会の重層的関係について考える。
第9回	環境社会学（2）	開発と自然、「野生」と社会の境界について考える。
第10回	少子高齢化と地域	社会の存続可能性／消滅可能性について考える。
第11回	福祉社会	「良き生」とその社会的条件について考える。
第12回	格差社会	格差拡大は何をもたらすのか。
第13回	国際社会学の視点	移民、あるいは多文化共生空間としての社会について。

第14回 後期近代を生きる まとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
配布資料や関連文献等を読み込むとともに、関連するテーマについて調べ、自分なりに理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学〔新版〕』有斐閣、2019年。
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（60％）＋期末課題（40％）。
観察の鋭さ、記述の具体性、洞察の深さ等に加点。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の反応を見る限り概ね好評であった。今後も研鑽を重ねたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は原則として学習支援システムにて配布予定です。閲覧可能な機器を持参してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the key concepts of sociology and basic sociological approaches.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand basic approaches and keywords of sociology.
- think about contemporary issues from the sociological perspectives.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on Short reports(60%) and Term-end report (40%) .

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要ところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店(岩波新書1402)、2014年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(手書きのリアクションペーパー・レポートなどの提出物、40%)＋試験(60%)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の

専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

大学ノート・教科書・黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【その他の重要事項】

スマートフォンなどの電子機器はカバンの中に仕舞うこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 II

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店(岩波新書1402)、2014年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(手書きのリアクションペーパー・レポートなどの提出物、40%)＋試験(60%)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

大学ノート・教科書・黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【その他の重要事項】

スマートフォンなどの電子機器はカバンの中に仕舞うこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要ところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店(岩波新書1402)、2014年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(手書きのリアクションペーパー・レポートなどの提出物、40%)＋試験(60%)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の

専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

大学ノート・教科書・黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【その他の重要事項】

スマートフォンなどの電子機器はカバンの中に仕舞うこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 II

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店(岩波新書1402)、2014年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988年

【成績評価の方法と基準】

受講態度(手書きのリアクションペーパー・レポートなどの提出物、40%)＋試験(60%)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

大学ノート・教科書・黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【その他の重要事項】

スマートフォンなどの電子機器はカバンの中に仕舞うこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づく講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明する通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。
復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

・期末に行う選択肢型筆記試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明する通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要なとする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくても理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

一ノ瀬 佳也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

川出良枝、谷口将紀（編）『政治学(2版)』東京大学出版会、2022年。
犬塚元、河野有理、森川 輝一『政治学入門：歴史と思想から学ぶ』有斐閣、2023年。

宇野重規『民主主義とは何か』講談社、2020年。

樋口陽一『個人と国家 ―なぜ立憲主義か』集英社、2000年。

永井史男、水島治郎、品田裕（編）『政治学入門』ミネルヴァ書房、2019年。

川崎修、杉田敦（編）『現代政治理論』（新版補訂版）、有斐閣、2023年。
マックス・ウェーバー『権力と支配』講談社、2012年。

飯尾潤『日本の統治構造：官僚内閣制から議院内閣制へ』中央公論新社、2007年。

ジョセフ・スティグリッツ『資本主義と自由』東洋経済新報社、2025年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

授業の資料配布や課題提出のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

The instructor lectures on basic concepts and institutions of political science.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

一ノ瀬 佳也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

石川真澄,山口二郎『戦後政治史（第四版）』岩波書店、2021年。
 境家史郎『戦後日本政治史-占領期から「ネオ55年体制」まで』中央公論新社、2023年。
 大井赤彦『現代日本政治史 ――「改革の政治」とオルタナティブ』筑摩書房、2021年。
 石田憲『敗戦から憲法へ：日独伊 憲法制定の比較政治史』岩波書店、2009年。
 雨宮昭一『占領と改革』岩波書店、2008年。
 ロバート・マクマン『冷戦史』勁草書房、2018年。
 山口二郎,中北浩爾(編)『日本政治、再建の条件――失われた30年を超えて』筑摩書房、2025年。
 田所昌幸『世界秩序-グローバル化の夢と挫折』中央公論新社、2025年。
 一ノ瀬俊也『〈国防〉の日本近現代史 幕末から「台湾有事」まで』講談社、2025年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

授業の資料配布や課題提出のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

The instructor will compare some studies of Japanese politics with other developed countries.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

面 一也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出(2回程度)を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第3回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第4回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第5回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第6回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第7回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第8回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第9回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第10回	議会	立法過程についての講義
第11回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第12回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第13回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第2版』東京大学出版会、2022年、2,420円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験(50%)、リアクションペーパー(50%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

面 一也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出(2回程度)を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第3回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第4回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第5回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第6回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第7回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第8回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第9回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第10回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第11回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第12回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第13回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上神貴佳、三浦まり編『日本政治の第一歩 [新版]』有斐閣ストゥディア、2023年、2,200円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 (50%)、リアクションペーパー (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

In this course, we will analyze Japanese politics by using concepts from political science, comparing it with other advanced nations

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。毎回の授業では、学生は意見や質問をリアクションペーパーにより提出し、次回授業で回答や解説をおこない全体で共有する。また、授業内での小レポートを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第3回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第4回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第5回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第6回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第7回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第8回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第9回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第10回	議会	立法過程についての講義
第11回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第12回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第13回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第2版』（東京大学出版会、2022年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%)と平常点(40%)により総合的に評価する。平常点は、授業への取り組み、レポートを含む課題の提出及びその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会において生じる事象と講義の内容とを関連付けて考え表現する機会を、より充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。毎回の授業では、学生は意見や質問をリアクションペーパーとして提出し、次回授業で回答や解説をおこない全体で共有する。また授業内での小レポートを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第3回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第4回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第5回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第6回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第7回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第8回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第9回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第10回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第11回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による民主化についての講義
第12回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第13回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第2版』（東京大学出版会、2022年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%)と平常点(40%)により総合的に評価する。平常点は、授業への取り組み、レポートを含む課題の提出及びその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会において生じる事象と講義の内容とを関連付けて考え表現する機会を、より充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 I

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明する通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA (政治学 / Politics 100)

政治学 II

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。
復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明する通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学 I の併習を推奨する（政治学 I を履修していなくても理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）	
文化人類学	2017年度以降入学者
ベル 裕紀	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造主義	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	野生の思考	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	呪術と儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。

第九回	法と規範	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、特に法多元主義をめぐる議論に焦点を当てる。
第十回	権力と統治	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第十一回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。
第十二回	ジェンダーとセクシャリティ	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十三回	ポストコロニアル人類学	80年代以降、人類学は、コロナ状況下で発展してきたという歴史的経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、毎回のリアクションペーパー42%、授業への参加度8%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。必要に応じて授業の冒頭に学生の回答を紹介し、応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss events at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

2017年度以降入学者

渡辺 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】

文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとする中で、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第3回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第4回	環境と生業	人と自然の関係について
第5回	経済と政治	コミュニケーションとしての贈与
第6回	国家	権威の生成について
第7回	ヒト	霊長類からみる人類の文化的なもの
第8回	マルチモーダル人類学	民族誌と映像
第9回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第10回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第11回	セクシュアリティとジェンダー	儀礼的行動から
第12回	境界論	芸術、冗談、人類学
第13回	医療	病いと癒やし
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習の情報源となるような参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)

文化人類学

2017年度以降入学者

北原 卓也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の基本概念、研究方法を学び、身の回りの「あたりまえ」や「異文化」に注目し考察するための多角的な視点を身につける。授業では、まず「文化」とは何かについて確認し、続いて文化人類学の基本的な考え方や研究方法について学ぶ。

それを踏まえて、文化人類学がこれまで扱ってきたトピックについてみていく。

【到達目標】

本講義の到達目標は下記の通り。

- (1) 文化人類学の基本概念や研究方法を理解する。
- (2) 他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
- (3) 自身の「あたりまえ」にとらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づき対面で行います。

授業は可能な限りインタラクティブに進めるため、指名して発言を求めることがあります。

教員の説明に加えて、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。

また、本科目では自身の考えを言語化することを目的としているため、毎回異なるお題に応じたコメントシートの提出を求めます。提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ：講義の目的と概要	授業の進め方や目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	文化の定義	漠然とした概念である「文化」とは何かについて理解する
3	文化相対主義	文化人類学の基本的な考え方である文化相対主義を通じて、文化を学ぶ姿勢について理解する
4	フィールドワークと民族誌	文化人類学の研究手法について理解する
5	民族とエスニシティ	国民、民族といった人々の集団について理解する
6	コミュニケーションと言語	文化と言語の関係性について理解する
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む
8	家族・親族	文化人類学の古典的なテーマである家族・親族の研究について理解する

9	結婚	様々な文化における結婚の形態や規則を理解する
10	ジェンダーとセクシュアリティ（1）	社会や文化の中で形成される性差について理解する
11	ジェンダーとセクシュアリティ（2）	異性愛と同性愛という分け方だけでは捉えられない多様なセクシュアリティについて理解する
12	生業	人間が生きていくために必要な食料採取や生産活動について理解する
13	宗教	世界の宗教の事例を概観し、人類との関わりについて理解する
14	まとめと確認（試験）	今期のまとめとして教場試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1回の授業につき、準備・復習は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】

『自分のあたりまを切り崩す文化人類学入門』、箕曲在弘、大和書房、2024年。

『詳論 文化人類学』、桑山敬己・綾部真雄（編）、ミネルヴァ書房、2018年。

『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己（編）、ミネルヴァ書房、2010年。

『文化人類学キーワード [改訂版]』、山下晋司・船曳建夫（編）、有斐閣、2008年。

【成績評価の方法と基準】

中間のまとめ：30%、期末試験（またはレポート）：30%、平常点（コメントシート）：40%

2/3以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

他の履修生のコメントシートが気になるという声があったので、復習を兼ねて毎回授業の冒頭に前回のコメントシートの内容を振り返る時間を設ける。

【Outline (in English)】

This course introduces the concepts of Cultural Anthropology and its research methods as tools for understanding different cultures.

The goals of this course are:

- (1) to understand the concepts of Cultural Anthropology and its research methods
- (2) to compare cultures and explain differences between your own culture and other cultures
- (3) to gain new perspectives

Before and after each class meeting, students are expected to spend three hours studying the course content.

The final grade will be calculated as follows: mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets submitted after each class (30%).

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

2017年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造主義	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	野生の思考	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	呪術と儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。

第九回 法と規範

法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、特に法多元主義をめぐる議論に焦点を当てる。政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。

第十回 権力と統治

第十一回 人種と民族

第十二回 ジェンダーとセクシャリティ

第十三回 ポストコロニアル人類学

第十四回 「異文化」「他者」の理解

80年代以降、人類学は、コロナル状況ないし、ポストコロナル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、毎回のリアクションペーパー42%、授業への参加度8%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。必要に応じて授業の冒頭に学生の回答を紹介し、応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss events at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、さまざまな文化や社会に生きる人々について多様な側面から理解する学問である。その基本的な考え方や概念、理論について、トピック毎に、且つ具体的な事例を通して学ぶ。また、現代世界で経験する出来事や直面する問題について、人類学的視点で考える力を養う。更に、他者と出逢うなかで、わたし／たちとは何者で在るか／何者になり得るのかを知り、自身や自文化を見つめ直す姿勢を育む。

【到達目標】

- ・文化人類学の基本概念や研究方法を理解できる。
- ・文化人類学的な思考が育まれてきた歴史について学ぶ。
- ・良質な民族誌に触れることを通じて、異文化理解のための方法や表現について学ぶ。
- ・私たち自身の思考や在りようを相対化し、自文化や自分自身について深く理解し、他者との共生の可能性を探る。
- ・文化人類学的な思考や実践が、現代世界で私たちが生きる上でどのような可能性をもっているか、自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義を基本とする。
- ・講義レジュメに沿って講義を行うが、発言を求める場合もある。
- ・必要に応じて映像資料なども用いながら、理解を深める。
- ・毎回の授業後には、リアクションペーパーの提出をさせていただく。提出されたリアクションペーパーは、次回授業の冒頭で紹介しながら、フィードバックを行う。
- ・授業に臨む前に、事前に指示した課題文献を読むなど、予習課題を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要などの確認、担当教員の研究フィールドの紹介
第2回	文化人類学史	文化人類学的な思考の歴史
第3回	文化人類学の研究方法Ⅰ	フィールドワークとは
第4回	文化人類学の研究方法Ⅱ	民族誌（エスノグラフィー）とは
第5回	家族・親族	異文化における様々な家族・親族のあり方
第6回	エスニシティと国家	人々の集合意識と国家観
第7回	分類と境界性	異文化における様々な分類法
第8回	贈与・交換	社会関係の表現としての贈与・交換
第9回	儀礼	世界各地の儀礼
第10回	宗教	人々の信仰の理論と実践
第11回	妖術・シャーマニズム	人々の思考体系と実践

第12回	死と喪	死に関する多様な観念・死者儀礼と、生者-死者の関係
第13回	医療・文化・社会	病と癒やしについての多様な考え方・実践と、現代社会における医療のあり方
第14回	まとめ	現代に生きる私たちにとっての文化人類学の意義や可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：事前に指示された課題文献を読み、理解したことや疑問点などをまとめる。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献を各自の関心に応じて読み進めながら、授業の理解を深める。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しない。
- ・原則、事前に講義レジュメを配布する。
- ・必要に応じて関連する文献を紹介し、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、参考になるものを以下に挙げる。

- ・太田好信・浜本満（編）2005『メイキング文化人類学』世界思想社。
- ・菅原和孝（編）2006『フィールドワークへの挑戦＜実践＞人類学入門』世界思想社。
- ・波平恵美子（編）2021『文化人類学 カレッジ版 第4版』医学書院。
- ・ヘンドリー、ジョイ 2002『社会人類学入門：異民族の世界』桑山敬已訳、法政大学出版。
- ・松村圭一郎 2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版。
- ・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40％）：リアクションペーパー、出席状況等。
- ・学期末レポート（60％）：未提出の場合、原則E評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

国内外の様々な事例を取り上げるが、対象となる地域の専門的な知識がなくても理解できるように解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義レジュメ・関連資料の配布、課題等の提出は、学習支援システムを通じて行う予定。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートが未提出の場合、原則E判定とする。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand basic concepts, ideas and theories of Cultural Anthropology. The goals of this course are to learn the history of philosophical thought in anthropology, and the methodology of understanding others. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final report: 60% (in case of no submission would be E grade), in class contribution:40%.

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、さまざまな文化や社会に生きる人々について多様な側面から理解する学問である。その基本的な考え方や概念、理論について、トピック毎に、且つ具体的な事例を通して学ぶ。また、現代世界で経験する出来事や直面する問題について、人類学的視点で考える力を養う。更に、他者と出逢うなかで、わたし／たちとは何者で在るか／何者になり得るのかを知り、自身や自文化を見つめ直す姿勢を育む。

【到達目標】

- ・文化人類学の基本概念や研究方法を理解できる。
- ・文化人類学的な思考が育まれてきた歴史について学ぶ。
- ・良質な民族誌に触れることを通じて、異文化理解のための方法や表現について学ぶ。
- ・私たち自身の思考や在りようを相対化し、自文化や自分自身について深く理解し、他者との共生の可能性を探る。
- ・文化人類学的な思考や実践が、現代世界で私たちが生きる上でどのような可能性をもっているか、自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義を基本とする。
- ・講義レジュメに沿って講義を行うが、発言を求める場合もある。
- ・必要に応じて映像資料なども用いながら、理解を深める。
- ・毎回の授業後には、リアクションペーパーの提出をさせていただく。提出されたリアクションペーパーは、次回授業の冒頭で紹介しながら、フィードバックを行う。
- ・授業に臨む前に、事前に指示した課題文献を読むなど、予習課題を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要などの確認、担当教員の研究フィールドの紹介
第2回	文化人類学史	文化人類学的な思考の歴史
第3回	文化人類学の研究方法Ⅰ	フィールドワークとは
第4回	文化人類学の研究方法Ⅱ	民族誌（エスノグラフィー）とは
第5回	家族・親族	異文化における様々な家族・親族のあり方
第6回	エスニシティと国家	人々の集合意識と国家観
第7回	分類と境界性	異文化における様々な分類法
第8回	贈与・交換	社会関係の表現としての贈与・交換
第9回	儀礼	世界各地の儀礼
第10回	宗教	人々の信仰の理論と実践
第11回	妖術・シャーマニズム	人々の思考体系と実践

第12回	死と喪	死に関する多様な観念・死者儀礼と、生者-死者の関係
第13回	医療・文化・社会	病と癒やしについての多様な考え方・実践と、現代社会における医療のあり方
第14回	まとめ	現代に生きる私たちにとっての文化人類学の意義や可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：事前に指示された課題文献を読み、理解したことや疑問点などをまとめる。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献を各自の関心に応じて読み進めながら、授業の理解を深める。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しない。
- ・原則、事前に講義レジュメを配布する。
- ・必要に応じて関連する文献を紹介し、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、参考になるものを以下に挙げる。

- ・太田好信・浜本満（編）2005『メイキング文化人類学』世界思想社。
- ・菅原和孝（編）2006『フィールドワークへの挑戦＜実践＞人類学入門』世界思想社。
- ・波平恵美子（編）2021『文化人類学 カレッジ版 第4版』医学書院。
- ・ヘンドリー、ジョイ 2002『社会人類学入門：異民族の世界』桑山敬已訳、法政大学出版。
- ・松村圭一郎 2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版。
- ・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40％）：リアクションペーパー、出席状況等。
- ・学期末レポート（60％）：未提出の場合、原則E評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

国内外の様々な事例を取り上げるが、対象となる地域の専門的な知識がなくても理解できるように解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義レジュメ・関連資料の配布、課題等の提出は、学習支援システムを通じて行う予定。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートが未提出の場合、原則E判定とする。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand basic concepts, ideas and theories of Cultural Anthropology. The goals of this course are to learn the history of philosophical thought in anthropology, and the methodology of understanding others. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final report: 60% (in case of no submission would be E grade), in class contribution:40%.

CUA100LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)

文化人類学

2017年度以降入学者

相田 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、異なる背景を持つ他者の考え方や思いについて、もっと理解したいと思ったことはありませんか？ 実は、この講義のタイトルとなっている文化人類学とは、異文化の人、異なる生活をしている人について理解するための学問です。

文化人類学は、世界の様々な地域に実際に行き、現地の人となるべく同じことをして、その人たちから話を聞くことで、異文化についての理解を深めます。この授業では、この文化人類学という学問の中で、もっとも大事なことは何かということをグループワークを通じて理解していきます。その上で、各自、実際に文化人類学の調査を体験し、その基礎を身につけてもらうことを目指します。

【到達目標】

- 1) 文化人類学とは、他者を理解するための方法なのだということを実感を持って理解すること。
- 2) 文化人類学のフィールドワーク（インタビューや参与観察）の基礎を学び、簡単なものであれば自分ひとりで実施できるようになること。
- 3) グループワークなどを通じて、他者とともに学ぶ経験を積み、その能力を向上させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1) 授業では、まず冒頭に前回授業の内容確認のために小テストを行います。
 - 2) その後、教員からその日のトピックとなっている文化人類学の概念や理論について解説を行います。
 - 3) 提示されたトピックについて理解を深めるため、ディスカッションや、クイズ、ワークショップなどを2～3程度のアクティビティを行います。
 - 4) 最後にまとめを行います。
- ※履修者のコメントや質問等については授業内で適宜取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／文化人類学とは何か	この授業の概要を説明するとともに、文化人類学の基本をグループワークを通じて学びます。
2	「意味」はなぜ大事なのだろうか？	文化人類学において「意味」が重要であるということ、事例研究を通じて学びます。
3	「物語」を聞くことはどうして必要なのだろうか？	ライフヒストリー分析やペルソナ分析の方法について、「物語」をキーワードに学びます。
4	とある人類学者の経験を「解説」してみよう	具体的な文化人類学のエスノグラフィーを読み、その解説を試みます。

5	「比較」という方法を知る	前回授業の内容について、文化人類学における「比較」をキーワードにまとめ、理解を深めます。
6	調査計画はどのように立てればいだろうか？	文化人類学における調査において最も大事にしなければいけないポイントを学び、調査計画の立案を試みます。
7	そもそもレポートや論文とは何だろうか？	中間レポートの執筆に向けて、そもそもレポートや論文とはどのような特徴を持った文書なのか、文化人類学の観点から考えます。
8	レポート作例の検討を行う	文化人類学のレポートの作例を検討する中で、自身の中間レポートの意義を考えます。
9	レポート作例の批評を行う	文化人類学のレポートの作例を批評する中で、自身の中間レポートの改善点を探します。
10	なぜレポートの書式は重要なのだろうか？	文化人類学という学問の成り立ちや、学会の役割などをレポートの書式を通じて学びます。
11	他者のレポートを読もう	他の人の提出した中間レポートを読み、ピアレビューの準備をします。
12	レポート発表会を実施しよう	中間レポートのピアレビューをレポート発表会という形で行います。
13	テーマを人類学的に掘り下げるにはどうしたらよいだろうか？	これまでに受けたフィードバックをもとに各自のテーマを文化人類学的に深めるための方法を再び「比較」をテーマに学びます。
14	まとめ／他者を理解する方法	それまでの授業の内容を「他者理解」をキーワードにまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
- 2) コメントペーパーを授業後に毎回提出する必要があります。また、毎回の授業冒頭で、前回の授業内容についての小テストを行うので、復習が求められます。
- 3) 授業外に、自ら調査協力者を探してインタビューを実施する必要があるため、相応の負担があることを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー 25%（各回の授業後に200字以上のコメントをLMSを通じて提出）
 小テスト 25%（各回の授業冒頭で前回授業の内容について小テストを実施）
 中間レポート 20%（文化人類学的なインタビューを行い、その内容に考察を付してまとめる。1500字以上。）
 期末レポート 30%（中間レポートに他の人の研究やグループディスカッションの内容を足してまとめる。3000字以上。）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 授業中にWordを使うことがあるので、PC・タブレット等を用意し、Wordのアプリをダウンロードしておいてください。
- 2) 本授業の受講に際して、文化人類学についての事前知識は必要ありませんが、レポート作成に必要な基本技能はあらかじめ身につけている必要があります。

【その他の重要事項】

- 1) 本授業は、グループワークや自主研究を中心にしたアクティブラーニング型の講義となるので、この点を理解した上で履修すること。

2) 授業外に、自ら調査協力者を探してインタビューを実施する必要があるため、相応の負担があることを理解しておくこと。

3) 履修生が多い場合、課題についての個別のフィードバックは行えない場合があります。また、授業成果物については、教育に活かすため、今回／今後の授業で他の履修生と共有される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Have you ever wanted to better understand the thoughts and perspectives of people from different backgrounds? Anthropology is the study of different cultures and ways of life, aiming to deepen our understanding of others.

Anthropologists conduct fieldwork by immersing themselves in different cultures, engaging in local practices, and listening to people's stories. This course introduces key concepts in anthropology through group work, helping students grasp its core principles. Additionally, students will gain hands-on experience by conducting their own small-scale anthropological research.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will:

- Develop an understanding of anthropology as a method for understanding others.
- Learn the basics of anthropological fieldwork, such as interviews and participant observation, and be able to conduct simple research independently.
- Improve collaboration and learning skills through group work.

【Course Format】

Each class follows this structure:

- Each session begins with a short quiz reviewing the previous class.
- The instructor explains key anthropological concepts and theories related to the day's topic.
- Students engage in 2– 3 interactive activities such as discussions, quizzes, or workshops.
- The session concludes with a summary.

【Learning Activities Outside of Classroom】

- Students should allocate approximately two hours for preparation and review per session.
- A comment paper is required after each class. Additionally, quizzes at the beginning of each session will test knowledge of previous lessons.
- Group presentations involve researching and presenting basic information about assigned countries, requiring a significant time commitment.

【Grading Criteria】

- Comment Papers: 25% (200+ words submitted via LMS after each class)
- Quizzes: 25% (weekly short tests on past lessons)
- Midterm Report: 20% (report based on interviews, minimum two A4 pages)
- Final Report: 30% (revised and expanded version of the midterm report, minimum three A4 pages)

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

2017年度以降入学者

渡辺 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】

文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとすることで、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第3回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第4回	環境と生業	人と自然の関係について
第5回	経済と政治	コミュニケーションとしての贈与
第6回	国家	権威の生成について
第7回	ヒト	霊長類からみる人類の文化的なもの
第8回	マルチモーダル人類学	民族誌と映像
第9回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第10回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第11回	セクシュアリティとジェンダー	儀礼的行動から
第12回	境界論	芸術、冗談、人類学
第13回	医療	病いと癒やし
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習の情報源となるような参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

2017年度以降入学者

松山 啓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は、フィールドワークを通じて世界の様々な地域社会を調査・研究しながら、人間の「社会」や「文化」を探究する学問として定義されてきました。それは、特定の地域に住まう人々の生活世界を通して、「わたしたち」の世界の「あたりまえ」とされる常識や規範を相対化し、「社会」や「文化」と呼ばれるものの複雑性や普遍性を追求することを意味します。一方で、19世紀後半～20世紀初頭にかけて確立した人類学の「あたりまえ」とされてきた視点も、時代の変化に伴って常に問い直されてきました。

この授業では、文化人類学の基礎概念や、学問的な知識とそれらの変化について学び、現代的な人類学の思考・態度を身に付けていくことを目指します。また、内容に関してより具体的なイメージを持ってもらうために、講師のフィールドワークの事例を交えつつ、講義を展開します。

【到達目標】

1. 文化人類学の基礎的な知識や用語を学び、それらの意味や考え方を理解することができる。
2. 授業で取り扱う内容について、自らの経験や知識、身の回りの事例に引きつけて考えることができる。
3. 1と2の内容を自らの言葉で説明したり、文章として表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントによる講義形式の授業を基本とします。ただし、授業の内容をより深く理解するために、毎授業後のコメントペーパーの提出、グループディスカッションの実施を設定します。また、授業の前後に文献の購読を課すことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 文化人類学とは？	近代人類学の成立と文化の捉え方について
第2回	「文化」概念の展開	人類学における「文化」概念の変遷について
第3回	フィールドワークと人類学	人類学的なフィールドワークの成り立ちについて
第4回	民族誌と人類学	エスノグラフィーの成り立ちとその背景について
第5回	第1回～第4回までの小括とディスカッション	第1回～第4回までの内容についてのディスカッション
第6回	フランス社会学派と人類学	フランス社会学派の歴史と人類学について
第7回	構造主義人類学の展開	言語論的転回と構造主義について
第8回	植民地主義と文化	世界システム論と人類学について

第9回	構造主義的歴史人類学と伝統文化	歴史人類学と伝統の構築性について
第10回	第6回～第9回までの小括とディスカッション	第6回～第9回までの内容についてのディスカッション
第11回	人間経済と人類学	人間経済と経済人類学について
第12回	負債とモラルの人類学	負債・交換・贈与のモラルについて
第13回	関係論的思考と人類学	現代人類学の展開について
第14回	全体のまとめとディスカッション	第1回～第13回のまとめとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で示される課題に取り組み、授業内容の整理および理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない

【参考書】

岸上伸啓（編）. 2018. 『はじめて学ぶ文化人類学』ミネルヴァ書房。
松村圭一郎; 中川理; 石井美保（編）. 2019. 『文化人類学の思考法』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

コメントペーパーの内容、グループワークやディスカッションを通じて他の学習者への貢献度から評価します。

レポート課題 60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

- ・本科目は、秋学期に開講される関連科目とあわせて履修することを推奨します。
- ・回ごとの進捗状況により、内容や順序を変更する可能性があります。
- ・本科目では、コメントペーパーおよびレポートの作成にあたっては、生成AIの使用を認めません。

【Outline (in English)】

Cultural anthropology has been defined as a discipline that explores human “society” and “culture” through fieldwork investigating and researching various regional communities around the world. This means relativizing the common sense and norms taken for granted in “our” world through the life-worlds of people living in specific regions and pursuing the complexity and universality of what we call ‘society’ and “culture.” At the same time, the perspectives that were considered “common sense” in anthropology, established from the late 19th to early 20th centuries, have also been constantly re-examined as times have changed.

This course aims to teach the basic concepts of cultural anthropology, its academic knowledge and the changes therein, and to help students acquire contemporary anthropological thinking and attitudes. Furthermore, to provide a more concrete image of the content, the lectures will incorporate examples from the lecturer’s fieldwork.

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想Ⅰ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を预示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について 若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について

4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20%

複数回の小レポート：30%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まづもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来の意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について 若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について

4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	パークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20%

複数回の小レポート：30%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想Ⅰ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を预示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について 若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について

4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20%

複数回の小レポート：30%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来の意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について 若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について

4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	パークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20%

複数回の小レポート：30%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想 I

2017年度以降入学者

林 高文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治に関わるコミュニケーションで使用する思考枠組みや概念について、政治哲学および政治思想史と呼ばれる分野が蓄積してきた知見やパースペクティブを獲得することを目指します。その中でもとりわけ、民主主義の歴史と理論に焦点を当てます。中心となるのは、(1) 古代ギリシア世界における民主主義の実践と理論 (2) 18世紀フランスにおける人民主権の思想とその制度化 (3) 戦間期ドイツ（ヴァイマル共和国）における民主主義論という3つのトピックです。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- (1) 民主主義の歴史や理論に関する議論を理解し、それぞれの立場の意義や問題点を説明できるようになる。
- (2) 授業で得た知識を用いて民主主義にまつわる様々な問題を分析し、それらに対する自分の立場を説明・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。ただし、毎回コメントカードを提出していただき、その次の授業でそのコメントについてのレスポンスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の概要および成績評価についての説明
第2回	古代ギリシア世界の成立	神話の時代から都市国家（ポリス）の成立
第3回	アテナイの民主主義の歴史①	ソロンの改革からペロポネソス戦争まで
第4回	アテナイの民主主義の歴史②	民主主義の動揺からアレクサンドロス大王の時代まで
第5回	古代ギリシア思想と民主主義①	歴史家の民主主義論・「ピュシス」と「ノモス」の概念
第6回	古代ギリシア思想と民主主義②	プラトンの民主主義批判
第7回	歴史上の民主主義像	ヨーロッパ思想史における民主主義のイメージ
第8回	民主主義とルソー①	ルソーの人民主権論
第9回	民主主義とルソー②	ルソーの代表制批判
第10回	フランス革命と民主主義①	フランス人権宣言とシエス
第11回	フランス革命と民主主義②	「共和政」の誕生と代表制の諸構想
第12回	議会制民主主義の概念と評価①	シュミットの議会制論
第13回	議会制民主主義の概念と評価②	ケルゼンの民主主義論

第14回 まとめと課題説明 講義全体のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習・復習については、(1) 毎回の授業前に配布する教材（レジュメとスライド）に目を通してどのような問題が講義で扱われるのかを予習し、(2) 毎回の講義後にその内容についてコメントカードを執筆・提出すること。

【テキスト（教科書）】

ありません。教材として毎回レジュメとスライドを配布します。

【参考書】

講義内で随時紹介しますが、ここでは以下の3冊を推奨します。橋場弦『古代ギリシアの民主政』、岩波書店（岩波新書）、2022年。ルソー『社会契約論』桑原武夫・前川貞次郎訳、岩波書店（岩波文庫）、1954年。ハンス・ケルゼン『民主主義の本質と価値』長尾龍一・植田俊太郎訳、岩波書店（岩波文庫）、2015年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（受講態度とコメントカード、30%）と期末課題（レポート、70%）で成績を評価します。なお、講義内での不要な私語がなされる場合、期末課題の提出を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業内容への関心を高めるため、レジュメやスライドをより分かりやすいものに改善します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するための情報機器（パソコン、スマートフォン、タブレット）を準備してください。

【その他の重要事項】

授業に関連する質問は、授業後もしくは初回授業で案内するメールアドレスで受け付けます。

【Outline (in English)】

The course aims to present theoretical concepts and frameworks for politics by explaining the history and theories of political philosophy. Students will learn to understand central issues of politics, especially history and theory of democracy. Central issues are (1) democracy in ancient Greece, (2) concepts and institutions of popular sovereignty in 18th century's France, and (3) theories of democracy in Weimar republic.

SOS100LA (その他の社会科学 / Social science 100)

社会思想 II

2017年度以降入学者

林 高文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治に関わるコミュニケーションで使用する思考枠組みや概念について、政治哲学および政治思想史と呼ばれる分野が蓄積してきた知見やパースペクティブを獲得することを目指します。その中でもとりわけ、自由の概念に焦点を当てます。授業全体を貫くテーマは、自由と国家権力の関係をどのように考えるか、個人の自由とはやりたいことをやる自由なのか、自由を実現するには国家権力は本当に障害なのか、といった問題です。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- (1) 自由に関する近代や現代の政治理論を理解し、それぞれの立場の意義や問題点を説明できるようになる。
- (2) 授業で得た知識を用いて、社会や政治の次元で自由を実現することに関わる様々な問題を分析し、それらに対する自分の立場を説明・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。ただし、毎回コメントカードを提出していただき、その次の授業でそのコメントについてのレスポンスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の概要および成績評価についての説明
第2回	自由と権力①	ロックの自然権論
第3回	自由と権力②	近代の権力分立論と自由
第4回	自由と社会①	ルソーの社会的な不平等批判と自由
第5回	自由と社会②	ルソーにおける道徳的自由
第6回	自律としての自由	カントの自由概念
第7回	言論の自由と啓蒙	カントの啓蒙概念
第8回	自由と法	ヘーゲルの自由概念
第9回	功利主義と自由①	ミルの自由論
第10回	功利主義と自由②	ミルの自由論・女性論
第11回	福祉国家と自由	ニュー・リベラリズムの自由概念
第12回	自由と正義	ロールズの正義論と自由
第13回	個人の自由と国家	リバタリアニズムの自由論
第14回	まとめと課題説明	講義全体のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習・復習については、(1) 毎回の授業前に配布する教材（レジュメとスライド）に目を通してどのような問題が講義で扱われるのかを予習し、(2) 毎回の講義後にその内容についてコメントカードを執筆・提出すること。

【テキスト（教科書）】

ありません。教材として毎回レジュメとスライドを配布します。

【参考書】

講義内で随時紹介しますが、ここでは以下の3冊を推奨します。
笹澤豊『〈権利〉の選択』筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2021年。
イマヌエル・カント『道徳形而上学の基礎づけ』御子柴善之訳、人文書院、2022年。
マイケル・フリーデン『リベラリズムとは何か』山岡龍一監訳、筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2021年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（受講態度とコメントカード、30%）と期末課題（レポート、70%）で成績を評価します。なお、講義内での不要な私語がなされる場合、期末課題の提出を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業内容への関心を高めるため、レジュメやスライドをより分かりやすいものに改善いたします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するための情報機器（パソコン、スマートフォン、タブレット）を準備してください。

【その他の重要事項】

授業に関連する質問は、授業後もしくは初回授業で案内するメールアドレスで受け付けます。

【Outline (in English)】

The course aims to present theoretical concepts and frameworks for politics by explaining the history and theories of political philosophy. Students will learn to understand central issues of politics, especially concepts of freedom. Central issues are (1) the relations of freedom and state, (2) the nature of individual freedom, and (3) (un)necessity of state in order to realize freedom.

SOS100LA (その他の社会科学 / Social science 100)

社会思想 I

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治・政策に関わる価値を扱います。貧困や差別といった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的效果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、現代の社会的課題の解決策を提示するのが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、代表的な理論を検討します。それを通じて、現代の社会的課題への解決策を考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。(1) 功利主義、リベタリアニズム、リベラルな平等主義、といった理論を理解した上で批判的に検討できるようになる。(2) 様々な政策や制度を批判的に評価したり新たに構想したりできるようになる。(3) 現代の社会的課題について自らの意見や解決策を提示できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・現代の社会的課題を簡略化した事例に対するみなさんの意見を聞き、それを起点に様々な理論を検討していきます。
・積極的な発言を歓迎しますが、意見の提示は任意であり、強制的に当てることはないで、安心してください。
・毎回の授業後に、その回に扱った理論に対するみなさん自身の意見を書くコメントペーパーを提出してもらいます。
・毎回の授業の最初に、コメントペーパーへの応答（20分程度）を行います。
・第8回と第13回の授業は、グループディスカッションを行い、規範的政治理論を用いつつ現代の社会的課題をみなさんに検討してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第2回	功利主義（1）	人々の幸福を最大化する社会の構想
第3回	功利主義（2）	功利主義への批判
第4回	リベタリアニズム（1）	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第5回	リベタリアニズム（2）	リベタリアニズムへの批判
第6回	リベラルな平等主義（1）	自由を平等に尊重する社会の構想
第7回	リベラルな平等主義（2）	リベラルな平等主義への批判
第8回	グループディスカッション（1）	理論を用いた社会的課題の検討
第9回	運の平等主義（1）	選択を平等に尊重する社会の構想
第10回	運の平等主義（2）	運の平等主義への批判
第11回	関係論的平等主義（1）	人々が平等に関わり合う社会の構想
第12回	関係論的平等主義（2）	関係論的平等主義への批判
第13回	グループディスカッション（2）	理論を用いた社会的課題の検討
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。
・加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。
※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料（パワーポイントとPDF）をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を5冊挙げておきます。どれか1冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。
※授業内容との関連という点では、(1) → (5) の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、(5) → (1) という順番で読みやすいと思います。
(1) W.キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005年
(2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年
(3) 齋藤純一・谷澤正嗣『公共哲学入門：自由と複数性のある社会のために』NHK出版、2023年
(4) 川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2023年
(5) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年
※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパー、普段の聴講態度、グループディスカッションへの参加を考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 学生の意見を起点にした授業スタイルが好評のため、今年度もそれを続けます。
(2) コメント課題への応答が好評のため、時間が許す限り多くのコメントに回答したいと思います。
(3) 他方で、それらに時間をかけ過ぎて授業を少し延長することがあったので、授業時間内に収まるように時間調整に気をつけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想IIでは、春学期の社会思想I（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題についてより具体的に考察します。社会思想Iのみの履修でも意義があるような講義を行いますが、春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Iで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想IIのシラバスを参照してください。

【Outline (in English)】

《Course outline》

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to deal with social issues nowadays by examining values or ideals related to policies, institutions, and social practices. The representatives of these values are Liberty, equality, and fairness. In the Spring semester, we examine essential theories in modern political philosophy, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After examining them, students can explore how we should deal with social issues nowadays and critically evaluate our society's policies, institutions, and practices.

《Learning objectives》

The goals of this course are the followings:

- 1. To examine theories in modern political philosophy.
- 2. To evaluate our society's policies, institutions, and practices critically.
- 3. To explore how we should deal with social issues nowadays.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours per class according to the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

- 1. Required assignments after each class: 30%
- 2. Term-end report: 70%

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想 II

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治・政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、現代の社会的課題の解決策を提示するのが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題を取り上げ、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題に関する規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、格差、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。（1）様々な社会的課題について、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。（2）それらの論争点についてどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。（3）現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式を中心としつつ、グループディスカッションを3回行います。
- ・講義形式の授業でも、双方向的な授業になるような工夫を行います。
- ・現代の社会的課題を簡略化した事例に対するみなさんの意見を聞き、それを起点に様々な議論を検討していきます。
- ・積極的な発言を歓迎しますが、意見の提示は任意であり、強制的に当てることはないで、安心してください。
- ・毎回の授業後に、その回に扱った社会的課題に対するみなさん自身の意見を書くコメントペーパーを提出してもらいます。
- ・毎回の授業の最初に、コメントペーパーへの応答（20分程度）を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要
第2回	貧困	2種類の貧困と貧困の自己責任論
第3回	格差	経済的格差が許容される条件
第4回	社会保障	課税と社会保障の正当性
第5回	教育	教育の意義と公正な教育機会
第6回	ディスカッション(1)	貧困と格差に対処する政策を考える
第7回	健康	健康の価値と社会的決定要因
第8回	医療	医療資源の公正な分配
第9回	ディスカッション(2)	医療に関する政策を考える
第10回	差別(1)	差別の形式的特徴
第11回	差別(2)	さまざまな形態の差別
第12回	差別(3)	差別の規範的特徴
第13回	ディスカッション(3)	差別に対処する政策を考える
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することなく、学習支援システムに毎回の講義資料（パワーポイントとPDF）をアップロードします。

【参考書】

- ※（1）の本と（2）の第2部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。（3）は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。
- （1）J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『正しい政策』がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房、2016年
- （2）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年
- （3）広瀬蔵『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021年
- ※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が40%、期末レポートが60%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパー、普段の聴講態度、ディスカッションへの参加を考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

- （1）学生の意見を起点にした授業スタイルが好評のため、今年度もそれを続けます。
- （2）コメント課題への応答が好評のため、時間が許す限り多くのコメントに応答したいと思います。
- （3）他方で、それらに時間をかけ過ぎて授業を少し延長することがあったので、授業時間内に収まるように時間調整に気をつけます。
- （4）ディスカッションの進め方について、これまでいただいた意見を踏まえて工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想II（本授業）は、春学期の社会思想Iの応用編としての性質を持ちます。社会思想Iを履修していなくても理解できるような講義を行います。合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていただいた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】

《Course outline》

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to deal with social issues nowadays by examining values or ideals related to policies, institutions, and social practices. The representatives of these values are Liberty, equality, and fairness. In the Fall semester, we discuss actual social issues such as poverty, inequality, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social issues.

《Learning objectives》

The goals of this course are the followings:

- 1. To understand the normative point of various social issues.
- 2. To understand and evaluate various normative views on social issues.
- 3. To construct your own view on various social issues.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class according to the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

- 1. In-class contribution and required assignments after each class: 40%
- 2. Term-end report: 60%

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想 I

2017年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では思想史研究者である市村弘正の思想を学びます。ここでは市村のエッセイを読解することを通して、論じられた主題群とともにその論じられ方について学ぶことが試みられます。その主題には例えば名づけの精神史、江戸という都市の経験、現代日本論、ベンヤミンとヨーロッパ1920年代論、映像作家や音楽家の経験、亡命や難民ということ、フランツ・カフカ、ハンナ・アーレント、カール・シュミット、パウル・ツェラン研究などを含みます。この授業ではこれらのエッセイの読解を通して、各主題の歴史的、思想的背景とともに、そこから読みとりうる20世紀という歴史的経験の意味を学びます。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して19世紀末から20世紀の思想的主題を理解することができる

テキスト読解や講義を通して現代史に生きる人間の歴史的経験の意味を考えることができる

テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションのコメントを学習支援システムに提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	読むことと経験すること I
3	物への弔辞	物と人間の交渉
4	都市の周縁	江戸から東京へ
5	都市の崩壊	東海道四谷怪談
6	断片の運動	ヨーロッパ1920年代
7	精神の現在形	統合失調という経験
8	失敗の意味	映画「水俣の甘夏」について
9	そぎ落とす精神	映画「抵抗」について
10	思想史家	貧民とガストアルバイター
11	死の影のゆくえ	ノーマ・フィールドの仕事
12	名づけの精神史	名づけという経験
13	20世紀の思考	逆向きに読まれる時代
14	結論	読むことと経験すること II

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ともテキストの指定されたページを事前に読んでおくことで理解が進みます。

【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各授業後に提出するリアクションコメント10回で平常点50パーセント、
加えて1回の期末レポートで残り50パーセント、合計100パーセントとする。
リアクションコメントと期末レポート、両者を提出する必要があります。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のコメントを授業中に紹介することで刺激をうけ、授業の理解が進むようです。
また、映像資料の視聴は授業の理解を深めるのに有用なので、映画や動画を使用する場合もあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the ideas and style of essay of Hiromasa Ichimura who is a researcher of the history of ideas to students taking this course. His ideas include various themes. For example there are an intellectual history of a naming, the experience of the Edo city, Walter Benjamin and the 1920's mind, the experience of exiles and refugees, Franz Kafka, Hannah Arendt, Carl Schmitt and Paul Celan. The aim of this course is to help students acquire an understanding of an intellectual background of these themes and meanings of the historical experience of 20's century.

SOS100LA（その他の社会科学 / Social science 100）

社会思想 II

2017年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では春学期に続いて思想史研究者である市村弘正の思想を学びます。ここでは市村のエッセイを読解することを通して、そこで論じられた主題群を学びます。その主題には例えば音楽家バルトークの難民経験、日本の戦後という経験、マイノリティとしての在日朝鮮人と小説家カフカとの関係、家族論、友情論、古典文学における夢の意味などを含みます。この授業ではこれらのエッセイの読解を通して、各主題の歴史的、思想的背景とともに、そこから読みとられる20世紀という時代の歴史的経験の意味を学びます。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して歴史的、思想的テーマを理解することができる
 テキスト読解や講義を通して人間の歴史的経験の意味を考えることができる
 テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションのコメントを学習支援システム（hoppii）に提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	読むことと経験すること I
3	文化崩壊の経験	晩年のバルトークについて
4	マイノリティ	小さなもののかたち
5	戦後経験	経験の古典化
6	残像文化	衰えゆく感覚
7	在日について	在日三世のカフカ
8	落下する世界	墮落と落下
9	友情について	友情の点呼に答える声
10	家族について	家族という場所
11	貧民について	貧民の都市
12	夢見ること	夢の弁証法
13	叙事詩	叙事詩的精神
14	結論	読むことと経験すること II

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ともテキストの指定された箇所を事前に読んでおくことで理解が進みます。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに毎回提出する授業レビューのコメント10回分を平常点として50パーセントとし、加えて学期末に提出してもらった1回の期末レポートを50パーセントとし、合計100パーセントとして成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のコメントを紹介することで他の受講者の理解が進むようです。

また、映像資料の視聴は授業の理解に有用なので、映画や動画を利用することもあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the ideas and style of essay of Hiromasa Ichimura who is a researcher of the history of ideas to students taking this course. His ideas include various themes. For example there are an intellectual history of a naming, the experience of the Edo city, Walter Benjamin and the 1920's mind, the experience of exiles and refugees, Franz Kafka, Hannah Arendt, Carl Schmitt and Paul Celan. The aim of this course is to help students acquire an understanding of an intellectual background of these themes and meanings of the historical experience of 20's century.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L A2017年度以降入学者

サブタイトル：ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ

中平 千彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、春学期開講『経済学 LA』（担当:中平）です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学 LB』（担当:中平）に接続されます。
春学期開講『経済学 LA』では、学部基礎レベルの「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」を担当教員がコンパクトに解説し、受講生にそれらの要点を速習してもらうことを目指します。
受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？ 経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

【到達目標】
・ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
・ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
経済理論を大別すると、「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」の2つになります。「ミクロ（マイクロ）経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得分配の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの2分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ（マイクロ）経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ（マイクロ）的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ（マイクロ）経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ（マイクロ）的基礎などのトピックも採り入れたいと思っています。
我々には、講義回数14回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力します。また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第01回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第02回	消費者と生産者の行動 (I)	選好と効用関数、需要関数
第03回	消費者と生産者の行動 (II)	生産技術と費用関数 (1)
第04回	消費者と生産者の行動 (III)	生産技術と費用関数 (2)、供給関数
第05回	市場均衡 (I)	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学
第06回	市場均衡 (II)	部分均衡と一般均衡、独占市場と独占的競争市場

第07回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生 経済学の基本定理
第08回	国民所得分析の基礎	SNA、マクロ経済指標
第09回	消費関数	消費と消費関数
第10回	投資関数	投資と投資関数
第11回	有効需要と乗数理論	有効需要の原理、乗数効果
第12回	IS・LM曲線と総需要曲線・総供給曲線	IS曲線・LM曲線および総需要曲線・総供給曲線による経済分析
第13回	インフレ需要曲線	インフレ需要曲線による経済分析
第14回	インフレ供給曲線	インフレ供給曲線による経済分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・受講後に講義ノートとテキストによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】
・塩澤修平(著)(2011)『基礎コース 経済学(第2版)』新世社。

【参考書】
・浅田統一郎(著)(2022)『マクロ経済学基礎講義(第4版)』中央経済社。
・浅田統一郎(著)(2017)『ミクロ経済学の基礎(第2版)』中央経済社。
・アセモグル、ダロン／レイブソン、デヴィッド／リスト、ジョン(著)、岩本康志(監訳)、岩本千晴(訳)(2020)『入門経済学』東洋経済新報社。
・井堀利宏(著)(2021)『入門経済学(第4版)』新世社。
・クルーグマン、ポール／ウェルス、ロビン(著)、大山道広/石橋次/塩澤修平/白井義晶/大東一郎/玉田康成/蓮田守弘(訳)(2025)『クルーグマン 入門経済学』東洋経済新報社。
・スティグリッツ、ジョセフ・E. /ウォルシュ、カール・E. (著)、薮下史郎/秋山太郎/饒川靖浩/大阿久博/木立力/宮田亮/清野一治(訳)(2012)『スティグリッツ入門経済学(第4版)』東洋経済新報社。
・福岡正夫(著)(2008)『ゼミナール経済学入門(第4版)』日本経済新聞出版社。
・マンキュー、N. グレゴリー(著)、片桐満/篠潤之助/溝口哲郎(訳)(2025)『マンキュー入門経済学(第4版)』センゲージ・ラーニング。
・Bade, Robin and Michael Parkin (2022) *Foundation of Economics* (9th ed.)(global edition, pap.), Pearson.
・Hirshleifer, Jack, Glazer, Amihai and David Hirshleifer (2005) *Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information* (7th ed.)(pap.), Cambridge Univ. Press.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien (2018) *Essentials of Economics* (6th ed.), Pearson.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien (2024) *Economics* (9th ed., Global ed.), Pearson.
・Krugman, Paul and Robin Wells (2024) *Essentials of Economics* (7th ed.), Worth Publishers.
・Landsburg, Steven E. (2024) *Price Theory and Applications* (10th ed.)(pap.), World Scientific Publishing.
・Mankiw, Gregory N. (2026) *Essentials of Economics* (11th ed.)(pap), Cengage Learning.
・Mateer, Dirk, Coppock, Lee, and Brian O'Roark (2026) *Essentials of Economics* (3rd ed.), W. W. Norton & Company.
・Schiller, Bradley R., Gebhardt, Karen, and Christopher D. Blake, (2025) *Essentials of Economics* (13th ed.)(pap), McGraw-Hill Education.
・Sloman, John and Dean Garratt (2023) *Essentials of Economics* (9th ed.)(pap), Pearson Education Limited.

【成績評価の方法と基準】
・[定期試験点(90%)＋平常点(10%)＝総合点(100%)]の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】
・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】
・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。
・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【オフィス・アワー】
・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】
・秋学期のリベラルアーツ科目『経済学 LB』（担当：中平）、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】
【Course outline】
＊ This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.

* This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:

- explain the basic theories of microeconomics and macroeconomics;
- think and express basic issues of economics from the aspect of social science.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）		
経済学 L B		2017年度以降入学者
サブタイトル：観光経済学の基礎を学ぶ		
中平 千彦		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 2/Fri.2		
単位数：2単位		
その他属性：〈他〉〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。		
【到達目標】		
・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。 ・観光経済学に関する基本的問題をミクロ(マイクロ)・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
観光経済学は、経済学理論に基づき、また、経済学の関連領域に属する学問を包含し、広義の観光活動を分析する、応用経済学の一種と位置付けられるものです。さらに、現代における広義の観光経済学は、観光客の支出決定、観光市場の構造、観光行動における意思決定、観光企業間の連携、観光による外貨発生効果と範囲、観光資源の貢献可能性、観光政策などを包括的に研究する分野となっています。		
本講義では、観光の現状と課題、観光統計、投資理論、消費理論、消費者行動と観光、観光需要、観光サービス供給、観光市場の機能、観光市場の失敗、経済成長と観光、世界遺産と観光、我が国の観光と課題などの項目を学びます。なお、必要に応じて、公共経済学などの知識を補充し、学習内容の拡充を試みます。		
我々には、講義回数14回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よく観光経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力します。また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第01回	観光の現状と課題、SNAと観光統計(1)	観光のもたらす課題、SNAの概念と観光統計
第02回	SNAと観光統計(2)	SNAの基本構造、サテライト勘定の意義と分類
第03回	観光市場の機能	市場需要曲線と市場供給曲線、市場均衡と市場調整、観光財・サービスの価格決定メカニズム
第04回	消費理論と観光(1)	消費と消費関数、消費関数における短期と長期
第05回	消費理論と観光(2)	消費決定の仮説、観光消費の性質
第06回	投資理論と観光(1)	投資と投資の決定要因、限界効率と投資判断
第07回	投資理論と観光(2)	投資の限界効率表と投資量の決定
第08回	消費者行動と観光(1)	消費者行動と需要曲線、観光サービスの対象と選択
第09回	消費者行動と観光(2)、観光需要	観光需要と弾力性、観光需要の実際
第10回	観光サービス供給	観光サービス供給、観光市場の構造
第11回	観光市場の失敗	市場の失敗と観光分析
第12回	公共財とコモンプール財	公共財、コモンプール財と資源の過剰利用
第13回	観光成長と観光	インバウンド市場とアウトバウンド市場、観光発展の将来
第14回	世界遺産とエコツーリズム、観光の課題	世界遺産の基礎知識、エコツーリズムの事例と課題
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。 ・受講後に講義ノートとテキストによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。		
【テキスト（教科書）】		
・中平千彦／数田雅弘(編著)『観光経済学の基礎講義』九州大学出版会、2017年。		
【参考書】		
・麻生憲一(編著)(2025)『観光経済論』原書房。 ・M.T.シンクレア／M.スタブラー(著)、小沢健市(監訳)(2001)『観光の経済学』学文社。 ・ジェームズ・マック(著)、瀧口／藤井(監訳)(2005)『観光経済学入門』日本評論社。 ・スティープン・J. ページ(著)、木谷／松下／図師(訳)(2001)『交通と観光の経済学』日本経済評論社。 ・A.ブル(著)、諸江／吉岡／菊池／小沢／原田／池田／和久井(訳)(1998)『旅行・観光の経済学』文化書房博文社。 ・山内／山本／山崎／川口(編)(2022)『観光経済学：理論とデータで学ぶ』有斐閣。 ・Bull, Adrian (1995) <i>The Economics of Travel and Tourism</i> (2nd revised ed.), Longman. ・Dwyer, Larry, Forsyth, Peter, and Wayne Dwyer (2020) <i>Tourism Economics and Policy</i> (2nd ed.), Channel View Books. ・Hall, C. Michael and Allan M. Williams (2019) <i>Tourism and Innovation</i> (2nd ed.), Routledge. ・Stabler, Mike J., Papatheodorou, Andreas., and M. Thea Sinclair (2009), <i>The Economics of Tourism</i> (2nd ed.), Routledge. ・Sullivan, Charlotte (ed.)(2016) <i>Leisure and Tourism Economics</i> , Ingram Pub Services. ・Tribe, John (2020) <i>The Economics of Recreation, Leisure and Tourism</i> (6th ed.), Routledge. ・Vanhove, Norbert (2026) <i>The Economics of Tourism Destinations : Theory and Practice</i> (5th ed.), Routledge. ・Chen, Yong (2021) <i>Economics of Tourism and Hospitality : A Micro Approach</i> , Routledge.		
【成績評価の方法と基準】		
・[定期試験点(90%)＋平常点(10%)＝総合点(100%)]の評点配分で成績が決定されます。 ・単位認定には規定数以上の出席が必要です。 ・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。		
【学生の意見等からの気づき】		
・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。		
【学生が準備すべき機器他】		
・特別な指定はありません。		
【その他の重要事項】		
・出席確認を行いますので注意してください。 ・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。		
【オフィス・アワー】		
・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。		
【関連科目】		
・春学期のリベラルアーツ科目『経済学LA』(担当：中平)、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。		
【Outline (in English)】		
【Course outline】		
*The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of tourism economics. Namely, this course is designed to provide a basic understanding of the scientific approaches to economics of tourism, particularly in the field of economic theory.		

*In this course, you will learn how the microeconomics and macroeconomics are applied to the analysis of tourism.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:

- explain the fundamental problems of tourism economics;
- think and express basic issues of tourism economics from the aspect of microeconomics and macroeconomics.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%)+ Active Participation(10%)= Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 英子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史の中で経済学がどのように生成されてきたかということに焦点を当てながら、経済学的思考を学んでいきます。春学期のこの経済学LAでは、西洋の思想の源流となる古代ギリシャから19世紀までの経済思想と、そこから徐々に導き出された理論を理解できるように進めます。例えば18世紀のアダム・スミスが何を批判し何を主張していたのか、そこに至るまでにどのような思想的変遷があったのか、など、歴史上の主要な学者たちが継承してきた議論のプロセスを時系列に追体験していくことによって、経済学の役割や意義を考えられるようになることをめざします。

【到達目標】

社会が発展する歴史的プロセスの中で経済思想や理論が生成されてきたこと理解することによって経済的思考を習得し、経済活動に対して各自で考えて判断できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、次の授業時に前回の授業で提出されたリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。履修者は授業の要点を配布資料にしっかり書き込みながら授業に臨み、授業内容の理解に努めましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・歴史的視点から見る経済学についての解説
第2回	重商主義に至るまでの経済思想	・古代ギリシャの議論：アリストテレス ・中世の経済思想：アキナス ・イングランドの重商主義：マン、ペティ、ロック
第3回	重商主義とその影響	・フランスの重商主義：コルベール ・三大バブル
第4回	18世紀の商業社会と重農主義	・自由主義の芽生え：マンデヴィル ・商業社会論と啓蒙：ヒューム ・重農主義：ケネー
第5回	18世紀の古典派経済学（1）	・A・スミス『道徳感情論』から『国富論』へ
第6回	18世紀の古典派経済学（2）	・A・スミス『国富論』①分業、価値論、見えざる手、資本蓄積
第7回	18世紀の古典派経済学（3）	A・スミス『国富論』②重商主義批判、貿易、自由主義、植民地問題

第8回	19世紀初頭の諸学説	・ベンサム：功利主義 ・マルサス：人口論
第9回	19世紀の古典派経済学	・リカード：投下労働価値説、差額地代論、比較優位 ・J.S.ミル：生産分配峻別論、賃金基金説、質的功利主義
第10回	第一次産業革命の影響	・社会主義思想の萌芽 ・オウエン、リスト
第11回	マルクスの経済学	・弁証法的唯物論、剰余価値と搾取
第12回	第二次産業革命の影響	・大衆消費社会 ・ヴェーバー：資本主義観、マルクス批判
第13回	新古典派経済学	・限界革命：ジェヴォンズ、メンガー、ワルラス
第14回	黎明期から19世紀までの総括	・春学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。
欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

必要に応じて授業で提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回に行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

経済学LAが前編、経済学Bが後編となっているので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course focuses on how economics emerged throughout history while studying economic thinking. In the spring semester, students will progress through economic thought from ancient Greece — the source of Western ideas — through the 19th century, gaining an understanding of the theories gradually derived from it.

The goal of this course is to acquire economic thinking by understanding how economic ideas and theories have been generated within historical processes.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 英子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史の中で経済学がどのように洗練されてきたかということに焦点を当てながら、経済学的思考を学んでいきます。秋学期のこの経済学L Bでは、春学期の内容に続く19世紀後半から今日に至る経済政策の推移と関連させながら、ミクロ・マクロ経済学理論の基礎を学修します。例えば20世紀のJ・M・ケインズが何を批判して彼の経済学が生まれ大きく支持されたのか、それがその後どのような主張と対峙したのか、など、主要な学者たちの理論の背景、影響、そして転換を、激動の歴史的事象とともに時系列に追体験していくことによって、経済学のダイナミズムを実感できるようになることをめざします。

【到達目標】

経済学の基礎的知識とその発展のプロセスを理解することによって、経済学的思考を習得し、現実の経済活動や経済政策に対して各自で考えて判断できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者の理解の定着のため、授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらい、次の授業時に前回の授業で提出されたリアクションペーパーの優れていた点や問題点等を示して、全体に対してフィードバックを行います。履修者は授業の要点を配布資料にしっかり書き込みながら授業に臨み、授業内容の理解に努めましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・19世紀～20世紀の経済学的展望
第2回	新古典派経済学	・マーシャル ・20世紀諸初頭の諸学派 ・厚生経済学：ピグー
第3回	ミクロ経済学（1）	消費者行動
第4回	ミクロ経済学（2）	生産者行動
第5回	ミクロ経済学（3）	最適な資源配分
第6回	マクロ経済学（1）	国民所得と国内総生産
第7回	マクロ経済学（2）	財政政策
第8回	マクロ経済学（3）	金融政策
第9回	ケインズの経済学（1）	古典派経済学批判、雇用理論、有効需要
第10回	ケインズの経済学（2）	乗数理論、資本理論、利子理論、IS-LM分析
第11回	新古典派総合	・2つの経済成長理論の対立
第12回	資本主義観の変容	・シュンペーター：新結合、創造的破壊、管理資本主義

第13回 新自由主義の経済学と21世紀の経済状況
・ハイエク：社会主義経済計算論争、自生的秩序
・フリードマン：マネタリズム、新自由主義

第14回 19世紀～20世紀の経済学の総括
・秋学期に学んだ内容についての授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で配布する資料をテキストとします。
欠席者のために毎回授業後に学習支援システムにも掲載します。

【参考書】

必要に応じて授業で提示します。

【成績評価の方法と基準】

第2回から第13回のリアクションペーパーでの理解度（3%×12回：36%）と、第14回の授業内試験の得点（64%）によって評価します。第14回に行う授業内試験は「第2回から第13回の配布資料のみ持込可」で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により特にありません。

【その他の重要事項】

経済学LAが前編、経済学Bが後編となっているので、通年での履修が望ましいですが、一方だけの受講も可能です。

【Outline (in English)】

This course focuses on how economics has developed throughout history while studying economic thinking. In the fall semester, students will learn the basic theories of microeconomics and macroeconomics, linking them to the evolution of economic policy from the late 19th century to the present day.

The goal of this course is to acquire economic thinking by understanding how economic ideas and theories have been generated within historical processes.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be determined based on short reports (36%) and on in-class exam (64%).

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：東アジア経済論

陳 文挙

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21はアジアの時代だと言われている。特に、中国や東南アジア新興国の台頭によって東アジア地域の存在感は増している。東アジア経済の発展は世界情勢の影響を受ける一方、世界に与える影響も大きくなっている。

本講義は東アジア経済の発展研究を目標とする。その中で、経済発展の基礎理論を学習しながら、東アジア経済発展の歴史、過程、最近の動向について経済学やリベラルアーツの視点から研究する。また、本講義は最新の国際政治経済情報を取り入れることもあり、授業を通じて学生諸君の考察力、分析力、危機対応力を向上させる。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察する力が必要になる。当該授業を聴講して、学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。特に、トランプ米大統領の再登場による世界の地政学は新しい局面を迎え、混沌化が増す世界、そして東アジア地域に関するリスクのヘッジ方、危機対応型思考力を鍛える学習ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1, 大学の授業計画に従って対面式で開講するが、事情によってまたデジタル社会適合のためオンライン（Zoom方式）の開講もある。但し、オンライン授業の場合は事前に学習支援システムを通じて知らせする。
- 2, 一回の講義で基本的に1つの話題を中心に議論、展開、解明、まとめる。
- 3, 情報化時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例学習も多用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	東アジア経済入門基礎、講義概要、成績評価等説明
2	現代経済社会の仕組み	家計、企業、政府；資本、労働、技術進歩；市場の原理；経済成長と経済発展の原動力分析
3	東アジア経済近代化の始まり	商業とシルクロード、産業革命、国際貿易と植民地の歴史、アヘン戦争
4	日中近代工業化歴史比較研究	清王朝近代化の失敗と日本明治維新ならびに日本近代化成功の比較分析
5	国際貿易とグローバル化の形成	アダム・スミスの絶対優位性仮説とリカードの比較優位性仮説の検証

6	農業の発展と人口問題	マルサスの人口論と「マルサスの罠」
7	中間進捗状況確認	前半復習、「機会費用」、経済発展と人口の両面性問題
8	農業の発展と様々な制約	「豊作貧乏」現象と需要の価格弾力性
9	東アジア地域の工業化と労働移動	都市化とインフォーマル部門、スラム街の形成
10	東アジア地域の工業化と国際化	「輸入代替」政策の失敗から「輸出振興」政策の成功まで
11	東アジア地域の産業移転	ベティ・クラークの法則と「雁行形態」、「産業移転」、「世界の工場」の背景と実態
12	経済成長と所得格差	クズネッツの「逆U字仮説」から「エレファントカーブ」まで
13	さまざまな格差と計測	ジニ係数の意義、計算の仕方、経済格差検証
14	まとめ：東アジア地域経済統合の行方は	半期の復習、まとめ、期末レポート作成要領説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『アジア経済とは何か—躍進のダイナミズムと日本の活路』、後藤健太（著）、中公新書。
『アジア経済論』、小林尚朗、山本博史、矢野修一、春日尚雄（著、編集）、文真堂。
『東アジアの論理—日中韓の歴史から読み解く』、岡本隆司（著）、中公新書。

【成績評価の方法と基準】

- 1、授業参加（出席）状況（20%）
 - 2、リアクションペーパーや課題、宿題の提出状況（60%）
 - 3、期末レポートの完成状況（20%）
- などによって総合的に評価する。
ただし、各項目の配分など詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1、学生皆さんの関心事、質問等についてよく聞く、確認する。
- 2、課題や質問に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、学習支援システムの活用、オンライン（Zoom方式）学習環境の確保などを事前にしておく。

【その他の重要事項】

秋期『経済学LB：中国経済入門』の継続履修を推奨。

【Outline (in English)】

The 21st century is widely regarded as the Asian century. In particular, the presence of the East Asian region has been growing significantly due to the rise of China and Southeast Asian nations. While the economic development of East Asia is influenced by global affairs, its own impact on the world has also become substantial.

This course aims to study the economic development of East Asia. Students will learn the fundamental theories of economic development while examining the history, processes, and recent trends of East Asian economies from the perspectives of economics and liberal arts. Furthermore, by incorporating the latest information on international political economy, this course seeks to enhance students' critical thinking, analytical skills, and crisis management capabilities.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing regional economy about its variability and complexity in east-Asia from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (20%)
- 2, Reaction paper or homework (60%)
- 3, Term-end report (20%)

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国経済論

陳 文挙

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022年に中国の経済規模（名目GDP）は日本の4倍より大きく、アメリカの7割に相当するようになった。中国と日本とは近隣であり、東アジア地域の政治安定、経済発展、安全保障などにおいて重要な役割を担っている。

本講義では「経済学LA」に続き、アヘン戦争以降の中国近現代史、社会主義建設、計画経済から「改革・開放」を経て社会主義市場経済への移行、そして「世界工場」から「世界の市場」への経済発展について研究し、中国の真の姿を明らかにする。

現在、日中関係はとても困難な時期に入っており、中国を知ることが重要なリベラルアーツの1つになる。この講義を通じて、中国に対する観察力、分析力が高められる。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について、特に世界第2位の経済規模を持つ中国の経済動向について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1, 大学の授業計画に従って対面式で開講するが、事情によってまたデジタル社会適合のためオンライン（Zoom方式）の開講もある。但し、オンライン授業の場合は事前に学習支援システムを通じて知らせする。
- 2, 一回の講義で基本的に1つの話題を中心に議論、展開、解明、まとめる。
- 3, 情報化時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例学習も多用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	中国経済の基礎、講義概要、中国最新経済情報、成績評価等
2	中国近代史①	アヘン戦争から太平天国、日清戦争、辛亥革命、日中戦争、国共内戦
3	中国近代史②	中国共産党の誕生、武力闘争から政権の奪取、中国人民共和国の樹立
4	朝鮮戦争と社会主義国家建設	戦後処理と冷戦、朝鮮戦争と日中両国に与える影響：ソ連の対中経済援助と日本の「朝鮮特需」
5	計画経済期の中国経済と政治	社会主義経済大実験：大躍進、人民公社と文化大革命

6	計画経済の行き詰まりと改革開放の始まり	貧しい農民たちの「下剋上」と郷鎮企業の発展：「世界の工場」礎の形成
7	企業改革と日本の役割	中国の改革開放を支える日本人割
8	中間進捗状況確認	中国の企業改革：「効率」か「平等」か
9	企業改革と工業の発展	世界最大白物家電メーカーハイアール（Haier）社の事例研究
10	世界の工場と労働移動	世界工場と世界サプライチェーンの真実
11	中国の技術革新とニュービジネスの拡大	ネット通販、スマホ決済、EVシフト、AI開発競争など
12	中国の経済発展と格差問題	ジニ係数と格差の測り方、中国経済格差の実態と最新動向
13	中国経済展望	トランプ関税2.0、米中「貿易戦争」、世界のデカップリング、中国の現状と未来
14	復習とまとめ	期末レポート作成要領、成績評価再確認など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。
講義内容に応じて課題、宿題もあり、期末にはレポートの提出がある。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国経済』（新版）、丸川知雄、有斐閣アルマ。
『幸福な監視国家・中国』、梶谷懐・高口康太、NHK出版新書。
『中国S級B級論 一発展途上と最先端が混在する国』、高口康太・伊藤聖他著、さくら舎。

【成績評価の方法と基準】

- 1, 授業参加（出席）状況（20%）
 - 2, リアクションペーパーや課題の提出状況（60%）
 - 3, 期末レポートの完成状況（20%）
- などによって総合的に評価する。
ただし、各項目の配分など詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1, 学生皆さんの関心事、意見などをよく聞く、確認する。
- 2, 課題や質問等に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、学習支援システムの活用、オンライン（Zoom方式）学習環境の確保などを事前にしておく。

【その他の重要事項】

- 1, 前期の『経済学LA：東アジア経済論』とセットにして履修してもらいたいが、必要条件ではありません。
- 2, 中国経済の話題が中心だが、政治、歴史、文化、社会、企業経営等の話もあり、興味があればぜひ履修していただきたい。

【Outline (in English)】

In 2022, China's economic scale (nominal GDP) exceeded four times that of Japan, reaching approximately 70% of that of the United States. As neighboring nations, China and Japan play crucial roles in the political stability, economic development, and security of the East Asian region.

Following "Economics LA," this course examines China's modern and contemporary history since the Opium War. We will study the nation's trajectory from the construction of socialism and the planned economy to the transition to a "socialist market economy" through "Reform and Opening-up," and its evolution from the "World's Factory" to the "World's Market." Through these lectures, we aim to clarify the true state of the Chinese economy.

Today, Japan-China relations have entered an exceptionally challenging period, making the understanding of China an essential component of liberal arts. This course is designed to enhance students' observational and analytical skills regarding China.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing China economy about its variability and complexity from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (20%)
- 2, Reaction paper or homework (60%)
- 3, Term-end report (20%)

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：経済学の歴史から現代を見る

小峯 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。前期LAでは「過去の経済学者の苦闘から、現代の経済問題・社会問題を考える」をテーマにします。なぜ金持ちと貧乏人がいるのか。失業や低所得は自己責任なのか。転売や金貸しになぜ嫌悪感が付きまとうのか。意外にも、経済学者は単にカネの亡者や利己的な人間像ではなく、社会全体の幸福（＝厚生）について多くの見解を示してきたのです。この授業では、経済学の見取り図を提供することによって、個人と社会の関係を経済という観点から見ることの重要性を喚起します。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「経済学の歴史から現代を見る」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（LGBTQ、アメリカ大統領選、イギリスのEU離脱など）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。グループ討議や発表タイムをときおり混ぜて、討論や発表の技法も学ぶこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介（教科書：第1章）
2	全体の概観～経済学の歴史から；古代の経済問題	金儲け・商売は民主主義を危うくするか？（教科書：第2章）プラトン、アリストテレス
3	経済の発見～中世の経済問題	金儲けはなぜ非道德的なのか？信用・バブル・利子・利潤（教科書：第2章）トマス・アクイナス
4	社会契約説の三巨人～民主主義から資本主義へ	経済はゼロサムゲームか、プラササムか？（教科書：第3章）ホップズ、ロック、ルソー
5	スミス以前の経済把握～科学精神、重農主義・重商主義	貿易黒字は悪か？ 自然に任せるとは何か？（教科書：第3章）ベーコン、ケネー

6	経済学の生誕～アダム・スミスの利己心と共感	経済はどのように成長するのか？ 人間らしい金儲けとは？（教科書：第5章）
7	経済論争の時代～ナポレオン戦争以後のイギリス	日銀はインフレを抑制できるか？ 「穏和な貿易」とは？（教科書：第6章）マルサス、リカード
8	資本主義か社会主義か～J.S. ミルとマルクス	社会を変革して、人間は幸せになれるのか？（教科書：第7・9章）
9	限界革命～身分から契約へ、経済理論の刷新	欲望を肯定して良いのか？（教科書第10章）ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー
10	ケインズ革命～失業と貨幣	大恐慌を抜け出す手段は？（教科書第12章）
11	孤高の経済学者（1）～シュンペーター、ハイエク	イノベーションとは何か？ 自生的秩序とは？（教科書：第13章）
12	孤高の経済学者（2）～ガルブレイス、都留重人	広告が欲望を左右できるのか？ 科学を戦争目的に使うべきか？（教科書：第13章）
13	経済学の現代的発展～1930年代からの精緻化	現代の経済学の特徴は何か？ どのように発展してきたのか？（教科書：第14章）
14	まとめ（経済学の歴史）理解度小テスト	振り返り；チェックテスト（教科書：第15章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

【参考書】

・小峯敦編（2024）『福祉の経済思想家たち【第三版】』ナカニシヤ出版。（福祉社会論Aの教科書）
<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b10134458.html>
・小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』見洋書房。（経済学LBの教科書）
<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【成績評価の方法と基準】

- （1）平常点：40％
（2）理解度小テスト：60％
（1）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の内容および提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。
（2）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンズ（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。
（3）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を目指す学生や教職課程の学生にも有用です。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thinking?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy-oriented. The first-semester LA course takes as its theme: "Considering contemporary economic and social problems through the struggles of past economists." Why do rich and poor people exist? Are unemployment and low income solely the individual's responsibility? Why is there persistent aversion to reselling and money lending? Surprisingly, economists have not merely portrayed people as money-grubbers or selfish individuals; they have offered numerous perspectives on the welfare of society as a whole. This course aims to provide an overview of economics, thereby highlighting the importance of examining the relationship between the individual and society from an economic viewpoint.

ECN200LA（経済学 / Economics 200）

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：戦争と平和の経済思想

小峯 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。後期LBでは「戦争と平和の経済思想」を取り上げます。過去から現在にかけて、世の中には戦争・紛争が溢れています。同時に、その原因や解決策を模索する学問的営みも多いのです。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、この問題をどのように考えられてきたか／考えるべきかを学びます。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「戦争と平和」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（露ウ戦争、パレスチナ紛争）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。学生の希望があれば、グループ討議や発表タイムを混ぜても良いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・序章）
3	近代国家と戦争	重商主義、主権国家、経済学の生成（教科書・第1章）
4	アダム・スミスにおける国防と経済	『国富論』、商業の発展、自由の確立（教科書・第2章）
5	古典派経済学と戦争～リカード、マルサス、ミル	平和的な分業（比較生産費説）、植民地経営（人口問題）、黒人問題
6	エッジワースの契約モデルと戦争	限界革命による経済学の刷新、価格交渉（教科書・第3章）
7	ヴェブレンの平和連盟構想	アメリカ異端派の現状分析、国際連盟の誕生（教科書・第4章）
8	戦後構想における経済助言者の役割（1）	ケインズ～ベヴァリッジ体制とは何か、伝記的アプローチ（教科書・第5章）

9	戦後構想における経済助言者の役割（2）	福祉国家の誕生、連邦主義、国際連合の誕生（教科書・第5章）
10	ミュルダールにおける戦争と平和（1）	福祉国家から福祉社会へ、累積的因果関係、南北問題（教科書・第6章）
11	ミュルダールにおける戦争と平和（2）	スウェーデンモデルとは何か、国際平和研究所（教科書・第6章）
12	冷戦期以降の戦争と経済思想	シューマッハー、ガルブレイス、ボールディング（教科書・第7章）
13	帝国主義・総力戦と日本の経済学者	石橋湛山、新渡戸稲造（教科書・第8章）
14	全体のまとめ～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・終章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』晃洋書房。
<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【参考書】

・小峯敦編（2025）『福祉の経済思想家たち【三版】』ナカニシヤ出版。（福祉社会論Aの教科書）
<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html>
・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。（経済学LAの教科書）
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

【成績評価の方法と基準】

（1）平常点：40％
（2）理解度小テスト：60％
（1）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。
（2）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。
（3）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を受ける学生や教職課程の学生にも有用なはずで、教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "War and Peace in the History of Economic Thought". From the past to the present, the world is full of wars and conflicts. At the same time, there are many academic endeavors that search for their causes and solutions. In this class, students will learn how this issue has been/should be considered from the standpoint of economics and the economy.

PSY200LA (心理学 / Psychology 200)

心理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

金子 楓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化である発達について、発達の基本的な考え方や原理について紹介した後に、各段階における発達の特徴について、特に人間関係と社会性を中心に学習する。あわせて、人が生まれてから死に至るまでに生じ得る心理臨床的な課題とその支援について考察する。

【到達目標】

人が生まれてから死に至るまでの各発達段階における基礎的な知識を身につけることができる。
自分自身や周囲の人について、授業で学習した内容をもとに理解を深め、適応的に生きていくための知識を身につけることを目標とする。具体的には、心理学LAで、人間関係と社会性を中心に、生涯発達の観点から人の発達について理解することを目標とする。また、心理学LBでは、生涯で生じ得る心理臨床的な課題に対する支援方法について、実際にふまえながら学ぶ。そのため、心理学LAと心理学LBを連続履修することが望ましく、通年で受講することで、人の発達について理解したうえで、理想の生き方や老い方について考え、発達臨床的な問題に取り組む力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にはパワーポイントを用いた講義で行い、適宜、視聴覚教材を使用する。

授業では、授業毎にリアクションペーパーの提出、授業内容に応じて演習問題への取り組みを求める。リアクションペーパーや演習問題への取り組みへのフィードバックは、当日の講義内または翌週の講義内で行う。

本授業は、対面形式で実施するが、状況に応じてオンライン授業を実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明
第2回	発達心理学とは何か	発達の規定要因／発達段階理論
第3回	人間関係の発達①	乳児期の人間関係 乳児と人とのかわり／愛着形成
第4回	人間関係の発達②	幼児期の人間関係 仲間関係の発達／他者を理解する能力の発達
第5回	人間関係の発達③	児童期の人間関係 小学校における仲間関係／児童の攻撃行動
第6回	人間関係の発達④	青年期の人間関係 青年期の親子関係／ソーシャルサポート

第7回	社会性の発達①	社会性とは何か／ソーシャルスキル
第8回	社会性の発達②	向社会性の発達
第9回	社会性の発達③	道徳性の発達
第10回	社会性の発達④	コミュニケーションの発達
第11回	定型発達と非定型発達	発達障害とその支援
第12回	成人期の発達	キャリアの発達／職業生活の中での発達
第13回	高齢期の発達	サクセスフル・エイジングと幸福感
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
心理学に関する知識をただ覚えるのではなく、自分自身や周囲の人、環境など実生活と照らし合わせて、授業内容について熟考する。

【テキスト（教科書）】

適宜、配布資料を使用。配布資料はすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

『はじめて学ぶ乳幼児の心理 こころの育ちと発達の支援』（桜井茂男編、有斐閣アルマ、2006年）
『たのしく学べる最新発達心理学 乳幼児から中学生までの心と体の育ち』（桜井茂男編、図書文化社、2010年）
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、授業内で実施する演習問題（30％）、リアクションペーパー（20％）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、下記のようなコメントがありました。
今後も、学生のみなさんが実践的に学べるよう講義を行っていきます。
・スライドにイラストや動画が活用されており、理解が深まりやすかった。
・講義形式だけでなく、アンケートや問いかけなど参加型の要素があり、主体的に学べた。
・他の学生の意見を共有しながら学べたため、多様な考えに触れて思考を深められた。
・心理学が初めてでも分かりやすく、人生の流れに沿った構成で自分の経験と結びつけて学べた。
・説明が聞き取りやすく論理的で、心理士としての実践的な話も学びになった。
また、具体的な要望として、質問への回答を文字化するなど、後から確認できる仕組みが欲しい、内容をより発展的にしてほしいといったコメントがありました。質問への回答は文字化することで、内容は講義に実践経験の話を含めることで対応していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・演習問題の提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and principles of development, the characteristics of development at each stage. In addition, we will consider the psychological and clinical issues that can arise from birth to death and the support for them.

The goal is to deepen understanding of oneself and those around them based on the content learned in class, and to acquire knowledge for living adaptively.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Term-end examination: 50%, Short reports: 20%, in class contribution: 30%

PSY200LA（心理学 / Psychology 200）

心理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

金子 楓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化である発達について、発達の基本的な考え方や原理について紹介した後に、各段階における発達の特徴について、特に人間関係と社会性を中心に学習する。あわせて、人が生まれてから死に至るまでに生じ得る心理臨床的な課題とその支援について考察する。

【到達目標】

人が生まれてから死に至るまでの各発達段階における基礎的な知識を身につけることができる。

自分自身や周囲の人について、授業で学習した内容をもとに理解を深め、適応的に生きていくための知識を身につけることを目標とする。具体的には、心理学LAで、人間関係と社会性を中心に、生涯発達の観点から人間の発達について理解することを目指す。また、心理学LBでは、生涯で生じ得る心理臨床的な課題に対する支援方法について、実際にふまえながら学ぶ。そのため、心理学LAと心理学LBを連続履修することが望ましく、通年で受講することで、人の発達について理解したうえで、理想の生き方や老い方について考え、発達臨床的な問題に取り組む力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、主にテキストを使用してワークに取り組む。授業の後半は、視聴覚教材を使用して、実践したワークへの理解を深める。授業では、授業毎にリアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーへのフィードバックは、翌週の講義内で行う。本授業は、対面形式で実施するが、状況に応じてオンライン授業を実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明
第2回	認知行動療法とは	認知行動療法の基本的な考え方
第3回	認知の歪みに気づく①	できごとの振り返り 気持ちへの点数づけ 心のつぶやきと気分の関連
第4回	認知の歪みに気づく②	心のつぶやきの検証 心のつぶやきの書き換え 心のイメージの修正
第5回	認知の歪みに気づく③	トリプル・カラム 葉っぱのトレーニング シアター鑑賞トレーニング 呼吸法
第6回	行動を変える①	気分と活動のモニタリング 気分と行動の関連 気分の変化チェック

第7回	行動を変える②	先延ばし行動の克服 自分を変えるチャレンジ
第8回	行動を変える③	アクションプラン アクションプランの検証 やってみたいことリスト
第9回	心のルールからの解放①	生き方のルール マイルールの検証 ルールのデメリット・メリット
第10回	心のルールからの解放②	心の新ルール 新ルールの証拠
第11回	心のルールからの解放③	人生で大切なことの言語化 気持ちのコントロール マインドフルネス
第12回	認知行動療法の実際①	認知行動療法に関する映像視聴
第13回	認知行動療法の実際②	認知行動療法の事例の紹介
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『心がスッと軽くなる認知行動療法ノート』（福井至・貝谷久宣著、ナツメ社、2015年）必ず、使用する。

【参考書】

『子どもと若者のための認知行動療法ワークブック 上手に考え、気分はスッキリ』（ポール・スタラード著、下山晴彦監訳、金剛出版、2006年）その他、適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（40%）、授業内で実施するワークへの取り組み（40%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、下記のようなコメントがありました。今後も、学生のみなさんが実践的に学べるよう講義を行っていきます。
・ストレス対処法、マインドフルネスを教科書を使用して実践することで、自分自身の生活に役立つ授業だった、自分と向き合う時間になった
・講義後半で、実際の取り組みや事例を知れることでイメージがしやすかった
・初学者でも安心して学べた
また、具体的な要望として、スライドを増やして内容をより具体的にしてほしい、授業後すぐの感想提出が負担になっているといったコメントがありました。教科書の内容をパワーポイントを使用してまとめることで、より具体的な説明をできればと思います。リアクションペーパーの提出期限は講義日当日中としていましたが、今後は負担を軽減した運営を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・ワーク課題の提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and principles of development, the characteristics of development at each stage. In addition, we will consider the psychological and clinical issues that can arise from birth to death and the support for them.

The goal is to deepen understanding of oneself and those around them based on the content learned in class, and to acquire knowledge for living adaptively.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Term-end examination: 30%, Short reports: 20%, in class contribution: 50%

PSY200LA (心理学 / Psychology 200)

心理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

金子 楓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化である発達について、発達の基本的な考え方や原理について紹介した後に、各段階における発達の特徴について、特に人間関係と社会性を中心に学習する。あわせて、人が生まれてから死に至るまでに生じ得る心理臨床的な課題とその支援について考察する。

【到達目標】

人が生まれてから死に至るまでの各発達段階における基礎的な知識を身につけることができる。
自分自身や周囲の人について、授業で学習した内容をもとに理解を深め、適応的に生きていくための知識を身につけることを目標とする。具体的には、心理学LAで、人間関係と社会性を中心に、生涯発達の観点から人の発達について理解することを目標とする。また、心理学LBでは、生涯で生じ得る心理臨床的な課題に対する支援方法について、実際にふまえながら学ぶ。そのため、心理学LAと心理学LBを連続履修することが望ましく、通年で受講することで、人の発達について理解したうえで、理想の生き方や老い方について考え、発達臨床的な問題に取り組む力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にはパワーポイントを用いた講義で行い、適宜、視聴覚教材を使用する。

授業では、授業毎にリアクションペーパーの提出、授業内容に応じて演習問題への取り組みを求める。リアクションペーパーや演習問題への取り組みへのフィードバックは、当日の講義内または翌週の講義内で行う。

本授業は、対面形式で実施するが、状況に応じてオンライン授業を実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明
第2回	発達心理学とは何か	発達の規定要因／発達段階理論
第3回	人間関係の発達①	乳児期の人間関係 乳児と人とのかわり／愛着形成
第4回	人間関係の発達②	幼児期の人間関係 仲間関係の発達／他者を理解する能力の発達
第5回	人間関係の発達③	児童期の人間関係 小学校における仲間関係／児童の攻撃行動
第6回	人間関係の発達④	青年期の人間関係 青年期の親子関係／ソーシャルサポート

第7回	社会性の発達①	社会性とは何か／ソーシャルスキル
第8回	社会性の発達②	向社会性の発達
第9回	社会性の発達③	道徳性の発達
第10回	社会性の発達④	コミュニケーションの発達
第11回	定型発達と非定型発達	発達障害とその支援
第12回	成人期の発達	キャリアの発達／職業生活の中での発達
第13回	高齢期の発達	サクセスフル・エイジングと幸福感
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
心理学に関する知識をただ覚えるのではなく、自分自身や周囲の人、環境など実生活と照らし合わせて、授業内容について熟考する。

【テキスト（教科書）】

適宜、配布資料を使用。配布資料はすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

『はじめて学ぶ乳幼児の心理 こころの育ちと発達の支援』（桜井茂男編、有斐閣アルマ、2006年）
『たのしく学べる最新発達心理学 乳幼児から中学生までの心と体の育ち』（桜井茂男編、図書文化社、2010年）
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、授業内で実施する演習問題（30％）、リアクションペーパー（20％）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、下記のようなコメントがありました。
今後も、学生のみなさんが実践的に学べるよう講義を行っていきます。
・スライドにイラストや動画が活用されており、理解が深まりやすかった。
・講義形式だけでなく、アンケートや問いかけなど参加型の要素があり、主体的に学べた。
・他の学生の意見を共有しながら学べたため、多様な考えに触れて思考を深められた。
・心理学が初めてでも分かりやすく、人生の流れに沿った構成で自分の経験と結びつけて学べた。
・説明が聞き取りやすく論理的で、心理士としての実践的な話も学びになった。
また、具体的な要望として、質問への回答を文字化するなど、後から確認できる仕組みが欲しい、内容をより発展的にしてほしいといったコメントがありました。質問への回答は文字化することで、内容は講義に実践経験の話を含めることで対応していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・演習問題の提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and principles of development, the characteristics of development at each stage. In addition, we will consider the psychological and clinical issues that can arise from birth to death and the support for them.

The goal is to deepen understanding of oneself and those around them based on the content learned in class, and to acquire knowledge for living adaptively.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Term-end examination: 50%, Short reports: 20%, in class contribution: 30%

PSY200LA（心理学 / Psychology 200）

心理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

金子 楓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化である発達について、発達の基本的な考え方や原理について紹介した後に、各段階における発達の特徴について、特に人間関係と社会性を中心に学習する。あわせて、人が生まれてから死に至るまでに生じ得る心理臨床的な課題とその支援について考察する。

【到達目標】

人が生まれてから死に至るまでの各発達段階における基礎的な知識を身につけることができる。

自分自身や周囲の人について、授業で学習した内容をもとに理解を深め、適応的に生きていくための知識を身につけることを目標とする。具体的には、心理学LAで、人間関係と社会性を中心に、生涯発達の観点から人間の発達について理解することを目標とする。また、心理学LBでは、生涯で生じ得る心理臨床的な課題に対する支援方法について、実際にふまえながら学ぶ。そのため、心理学LAと心理学LBを連続履修することが望ましく、通年で受講することで、人の発達について理解したうえで、理想の生き方や老い方について考え、発達臨床的な問題に取り組む力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、主にテキストを使用してワークに取り組む。授業の後半は、視聴覚教材を使用して、実践したワークへの理解を深める。授業では、授業毎にリアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーへのフィードバックは、翌週の講義内で行う。本授業は、対面形式で実施するが、状況に応じてオンライン授業を実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明
第2回	認知行動療法とは	認知行動療法の基本的な考え方
第3回	認知の歪みに気づく①	できごとの振り返り 気持ちへの点数づけ 心のつぶやきと気分の関連
第4回	認知の歪みに気づく②	心のつぶやきの検証 心のつぶやきの書き換え 心のイメージの修正
第5回	認知の歪みに気づく③	トリプル・カラム 葉っぱのトレーニング シアター鑑賞トレーニング 呼吸法
第6回	行動を変える①	気分と活動のモニタリング 気分と行動の関連 気分の変化チェック

第7回	行動を変える②	先延ばし行動の克服 自分を変えるチャレンジ
第8回	行動を変える③	アクションプラン アクションプランの検証 やってみたいことリスト
第9回	心のルールからの解放①	生き方のルール マイルールの検証 ルールのデメリット・メリット
第10回	心のルールからの解放②	心の新ルール 新ルールの証拠
第11回	心のルールからの解放③	人生で大切なことの言語化 気持ちのコントロール マインドフルネス
第12回	認知行動療法の実際①	認知行動療法に関する映像視聴
第13回	認知行動療法の実際②	認知行動療法の事例の紹介
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『心がスッと軽くなる認知行動療法ノート』（福井至・貝谷久宣著、ナツメ社、2015年）必ず、使用する。

【参考書】

『子どもと若者のための認知行動療法ワークブック 上手に考え、気分はスッキリ』（ポール・スタラード著、下山晴彦監訳、金剛出版、2006年）その他、適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（40%）、授業内で実施するワークへの取り組み（40%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、下記のようなコメントがありました。今後も、学生のみなさんが実践的に学べるよう講義を行っていきます。
・ストレス対処法、マインドフルネスを教科書を使用して実践することで、自分自身の生活に役立つ授業だった、自分と向き合う時間になった
・講義後半で、実際の取り組みや事例を知れることでイメージがしやすかった
・初学者でも安心して学べた
また、具体的な要望として、スライドを増やして内容をより具体的にしてほしい、授業後すぐの感想提出が負担になっているといったコメントがありました。教科書の内容をパワーポイントを使用してまとめることで、より具体的な説明をできればと思います。リアクションペーパーの提出期限は講義日当日中としていましたが、今後は負担を軽減した運営を行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・ワーク課題の提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and principles of development, the characteristics of development at each stage. In addition, we will consider the psychological and clinical issues that can arise from birth to death and the support for them.

The goal is to deepen understanding of oneself and those around them based on the content learned in class, and to acquire knowledge for living adaptively.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Term-end examination: 30%, Short reports: 20%, in class contribution: 50%

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

関戸 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史地理学研究の具体的な事例を検討しながら、その研究手法について学ぶ。地域の歴史的な形成過程を考察するとともに、多様なメディアを活用して、地域社会の諸相を捉えていきたい。

【到達目標】

歴史地理学のアプローチの仕方を理解し、地域に関する地理的な知識を深めること。

地域の歴史的な形成過程について、多角的・多面的に捉える視点を養うこと。

地域を比較する地理学的なアプローチによって、課題を考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用した講義を主体とし、資料の読解などの演習も組み合わせて進める。

授業資料の配布や課題・コメントの提出は、授業支援システムを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	歴史地理学とは	歴史地理学序説、古代中世の日本図
2	近世の国絵図・伊能図	近世における日本図の系譜
3	京都の都市プランの変容	古代から近世にかけての京都の景観
4	城下町の類型と特色(1)	城下町の類型と江戸・大坂
5	城下町の類型と特色(2)	北関東の城下町の特徴
6	近世の旅と名所図会	近世の街道と旅に関する情報
7	近代における旅行文化	鉄道の整備と東京の名所案内
8	温泉地の地域的展開(1)	鳥瞰図・紀行文からみた草津
9	温泉地の地域的展開(2)	鳥瞰図・紀行文からみた熱海と伊香保
10	温泉地の地域的展開(3)	観光コンテストと温泉地の動向
11	鳥瞰図に描かれた観光地	吉田初三郎の鳥瞰図の特色と場所イメージ
12	山岳の風景観と近代的な登山	絵はがきにみる名勝のイメージ
13	山村の生業と秘境イメージ	焼畑の実態、秘境イメージの形成

14 試験・まとめと解説 授業内容のまとめ、試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

配付資料とノートを授業後に読み返し、図表の内容や重要なポイントが理解できたかを確認すること。毎時間の課題に取り組み提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

関戸明子（2007）『近代ツーリズムと温泉』ナカニシヤ出版

中西僚太郎・関戸明子編（2008）『近代日本の視覚的経験』ナカニシヤ出版

関戸明子（2018）『草津温泉の社会史』青弓社

このほか、関係する文献を授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを筆記試験と平常点で評価する。第14回のまとめに実施する試験50%、毎時の課題・コメント（50%）毎時の課題の未提出が5回を超えた場合には、単位を認定しません。未提出4回以内でも、期末試験とあわせて60点以上にならないこともあります。

【学生の意見等からの気づき】

前の授業の課題についての解説を毎時行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間にデジタル・アーカイブにアクセスしたり、資料のPDFや絵図などの画像データを検討したりします。各自、ノートパソコン・タブレットを持参してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course, we will learn about the research method while examining concrete examples of historical geography research.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand characteristics of historic landscapes in Japan.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) examination: 50%, and in class contribution: 50%

GEO200LA (地理学 / Geography 200)

地理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

朝倉 慎人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京大都市圏をはじめ、身近な地域でみられる地理的事象が、「なぜそこで」、「なぜそのようなかたちで」展開してきたのかを論理的に考察する。

【到達目標】

日常生活で目にする地理的事象を地理学の視点から論理的に説明する力を習得し、現代社会の諸問題を多角的に分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で資料を配布し、講義を行う。毎回の授業でリアクションペーパーないしは小課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日常生活の中で訪れるさまざまな場所を事例に、地理学的な見方・捉え方の特徴を大まかに理解する
第2回	都心地区の機能分化	東京の都心地区を事例に、都心地区の機能分化とその背景を考察する
第3回	鉄道会社と郊外化	私鉄による沿線開発を事例に、東京大都市圏における初期の郊外開発の特徴を考察する
第4回	ニュータウンの建設と変容	ニュータウンや団地を事例に、東京大都市圏における大規模住宅開発の特徴を考察する
第5回	インナーシティ問題の都市間比較	国内外の事例と比較して、東京のインナーシティ問題の特徴を考察する
第6回	都市の再生	地方都市の事例に注目して、中心市街地再生の意義と可能性を考察する
第7回	小売業の業態別立地特性	さまざまな小売業の業態別立地特性を考察する
第8回	工業の立地変化	国内の工場開設・閉鎖を事例に、経済のグローバル化と工業の関係を考察する
第9回	周辺型経済と農村	都市との関係に注目して、国内の農村の地域問題を考察する
第10回	農村における地域づくりの実践	国内の農村でみられる地域づくりの実践を理解する
第11回	地域文化と真正性	真正性をめぐる議論に注目し、地域文化なるものを検討する

第12回	観光空間の生産	観光空間を文化論的視点から理解する
第13回	生活空間の観光化と地域社会	日常空間の観光資源化に注目して、ホストの実践と観光空間の関係を考える
第14回	まとめ	講義内容を振り返り、まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やノートを整理し、わからない用語を調べるとともに、興味を持った参考文献を入手して目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（50%）と授業内課題（リアクションペーパーないしは小レポート）（50%）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course logically considers various geographical phenomena observed in Japan. At the end of the course, students are expected to discuss a wide range of regional and global issues from a geographical perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end reports (50%), short reports and minute papers (50%).

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

関戸 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、歴史地理学研究の具体的な事例を検討しながら、その研究手法について学ぶ。地域の歴史的な形成過程を考察するとともに、多様なメディアを活用して、地域社会の諸相を捉えていきたい。

【到達目標】

歴史地理学のアプローチの仕方を理解し、地域に関する地理的な知識を深めること。

地域の歴史的な形成過程について、多角的・多面的に捉える視点を養うこと。

地域を比較する地理学的なアプローチによって、課題を考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用した講義を主体とし、資料の読解などの演習も組み合わせて進める。

授業資料の配布や課題・コメントの提出は、授業支援システムを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	歴史地理学とは	歴史地理学序説、古代中世の日本図
2	近世の国絵図・伊能図	近世における日本図の系譜
3	京都の都市プランの変容	古代から近世にかけての京都の景観
4	城下町の類型と特色(1)	城下町の類型と江戸・大坂
5	城下町の類型と特色(2)	北関東の城下町の特徴
6	近世の旅と名所図会	近世の街道と旅に関する情報
7	近代における旅行文化	鉄道の整備と東京の名所案内
8	温泉地の地域的展開(1)	鳥瞰図・紀行文からみた草津
9	温泉地の地域的展開(2)	鳥瞰図・紀行文からみた熱海と伊香保
10	温泉地の地域的展開(3)	観光コンテストと温泉地の動向
11	鳥瞰図に描かれた観光地	吉田初三郎の鳥瞰図の特色と場所イメージ
12	山岳の風景観と近代的な登山	絵はがきにみる名勝のイメージ
13	山村の生業と秘境イメージ	焼畑の実態、秘境イメージの形成

14 試験・まとめと解説 授業内容のまとめ、試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

配付資料とノートを授業後に読み返し、図表の内容や重要なポイントが理解できたかを確認すること。毎時間の課題に取り組み提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

関戸明子（2007）『近代ツーリズムと温泉』ナカニシヤ出版

中西僚太郎・関戸明子編（2008）『近代日本の視覚的経験』ナカニシヤ出版

関戸明子（2018）『草津温泉の社会史』青弓社

このほか、関係する文献を授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを筆記試験と平常点で評価する。第14回のまとめに実施する試験50%、毎時間の課題・コメント(50%) 毎時の課題の未提出が5回を超えた場合には、単位を認定しません。未提出4回以内でも、期末試験とあわせて60点以上にならないこともあります。

【学生の意見等からの気づき】

前の授業の課題についての解説を毎時行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間にデジタル・アーカイブにアクセスしたり、資料のPDFや絵図などの画像データを検討したりします。各自、ノートパソコン・タブレットを持参してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) In this course, we will learn about the research method while examining concrete examples of historical geography research.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand characteristics of historic landscapes in Japan.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) examination: 50%, and in class contribution: 50%

GEO200LA (地理学 / Geography 200)

地理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

朝倉 慎人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京大都市圏をはじめ、身近な地域でみられる地理的事象が、「なぜそこで」、「なぜそのようなかたちで」展開してきたのかを論理的に考察する。

【到達目標】

日常生活で目にする地理的事象を地理学の視点から論理的に説明する力を習得し、現代社会の諸問題を多角的に分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で資料を配布し、講義を行う。毎回の授業でリアクションペーパーないしは小課題の提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日常生活の中で訪れるさまざまな場所を事例に、地理学的な見方・捉え方の特徴を大まかに理解する
第2回	都心地区の機能分化	東京の都心地区を事例に、都心地区の機能分化とその背景を考察する
第3回	鉄道会社と郊外化	私鉄による沿線開発を事例に、東京大都市圏における初期の郊外開発の特徴を考察する
第4回	ニュータウンの建設と変容	ニュータウンや団地を事例に、東京大都市圏における大規模住宅開発の特徴を考察する
第5回	インナーシティ問題の都市間比較	国内外の事例と比較して、東京のインナーシティ問題の特徴を考察する
第6回	都市の再生	地方都市の事例に注目して、中心市街地再生の意義と可能性を考察する
第7回	小売業の業態別立地特性	さまざまな小売業の業態別立地特性を考察する
第8回	工業の立地変化	国内の工場開設・閉鎖を事例に、経済のグローバル化と工業の関係を考察する
第9回	周辺型経済と農村	都市との関係に注目して、国内の農村の地域問題を考察する
第10回	農村における地域づくりの実践	国内の農村でみられる地域づくりの実践を理解する
第11回	地域文化と真正性	真正性をめぐる議論に注目し、地域文化なるものを検討する

第12回	観光空間の生産	観光空間を文化論的視点から理解する
第13回	生活空間の観光化と地域社会	日常空間の観光資源化に注目して、ホストの実践と観光空間の関係を考える
第14回	まとめ	講義内容を振り返り、まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やノートを整理し、わからない用語を調べるとともに、興味を持った参考文献を入手して目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（50%）と授業内課題（リアクションペーパーないしは小レポート）（50%）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course logically considers various geographical phenomena observed in Japan. At the end of the course, students are expected to discuss a wide range of regional and global issues from a geographical perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end reports (50%), short reports and minute papers (50%).

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：グローバル社会を考える地理学

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の特徴として、俯瞰的に物事を分析できる可能性を有していると思います。それは、学問体系が文理融合かつミクロ、マクロ的に学際化・専門化しているからです。この講義はグローバリゼーションの現代社会の課題を身近に捉え、地理学で考察することが目的です。例えば格差の課題はその背景となる地域社会の変化を産業や経済、政治などからも再考せねばならないと考えるからです。このため、近年、産業がどのように進展し、大都市が生まれ、21世紀には情報・IT革命（今のAIも含めて）とともに、産業の分業や深化、DXなどから、消費・競争社会の中心たる都市も巨大化、深化しています。また居住する人々には新たな格差が生じ地域格差も生じています。近年、政治、経済、環境、社会が大きく変容していることは皆さんでも気がついているでしょう。この講義では、こうしたグローバル社会の課題などを、地理学のさまざまな分野を通して総合的・俯瞰的に分析し、理解を深めていきます。

【到達目標】

身近な問題や課題を論理的に自らみつけ分析することを到達目標としたい。さらに、その背景や要因などを多様な考え方や地理学的思考やロジックで考え、解決の方向性に活用できることを目指したい。日本もやっと給与が上がりつつあるとはいえ、一方で余裕が社会の指標の1つに食品関係に費やす割合を表すエンゼル係数がります。昨年約45年ぶりに約28以上になり、他国を圧倒した家計消費になりつつあります。また、円安傾向は海外から見ると格安日本とさえ思われています。こうした背景には、競争社会でゆとりがなくなってきた世界や日本が見えてきます。また、生成AIの急激な進展などでエネルギー問題や社会変化が見え始めています。今後のAI時代において皆さんはどうすべきでしょうか。問題の解決には知識だけでなく自分の目でみつけ、考え応用するという必要性が突きつけられている気がします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業の予定です。この授業が自分のプラスになるかは自分次第かもしれません。近年、世界や日本は様々な課題が顕在化、表面化しました。こうしたマクロ的な課題や問題を学際的、地理学的視点から考えていきます。一方的な授業ではなく、基本的には「動画映像＋講義＋GD・GD」になりますが、毎回のALは無理かもしれません。教科書はありませんが、授業資料等はWebclassにアップしますので、授業前に、ダウンロードしてください。また、中間Rは簡易的な都市フィールドワークの基礎として東京の都心部を予定しています。生成AIは大学の方針に準拠して使用可、うまくできるように。ほか添付ファイルなどを参考にしてください。世界の大きな変化から授業計画の一部が変更や順番の変更がある場合もあります。

授業開始日までに、内容の詳細や要点を動画等でまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにしておきます）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	地域とは、グローバルとは何かを身近なことから考える
2	グローバリゼーション・21世紀	最近、顕在化した世界や日本の課題を概観してみよう。
3	グローバル化と産業	産業や都市はどう発展してきたか 大量生産社会と経済成長をUNIQLOから考えよう。
4	21世紀のボーダレス化と地域社会	21世紀社会の変貌
5	世界から遅れた日本	GAFAM・国際分業・市場先進国か 様々な分野で遅れ始め、安い、動けなくなった日本社会
6	世界の課題を日本から見る1	若者の格差・貧困と地域社会
7	世界の課題を日本から見る2	ブラックバイト・闇バイト
8	世界の課題を日本から見る3	子ども・女性の格差・貧困と連鎖 社会的弱者
9	グローバリゼーションの課題1	雇用とジェンダー、少子高齢化・若い女性はなぜ大都市へ 少子高齢化日本
10	グローバリゼーションの課題2	AI/第4次産業革命と格差社会…立地や仕事が変わることに気がついてますか
11	グローバリゼーションの課題3	データやデータの重要性に気がついてますか。WHAT？
12	グローバリゼーションの課題4	AI/MATSUKO
13	グローバリゼーションの課題5	アジア、アフリカのリープフ
14	まとめと解説	ログと日本 多様性の重要さ
		環境か経済か カーボンニュートラルで産業が生まれるか
		分断と共生 欧米の分断やウクライナ問題などから考えてみよう
		世界や日本の課題を自ら考え、解決方向性を&最終Rの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近年、世界は大きく変わってきていることに気がついていませんか。昨年は世界的な選挙イヤーでしたが、アメリカ大統領が変わるだけで世界は大きく変化しています。政治や経済が社会に与えていることを身近に考えてください。普段から何事にも興味・関心を持ち、最初の一步を踏み出してください。内外のことを特定のネットサイトだけでなく新聞、TV、ネットなどで調べ知識化し、自ら問題を考え応用できるようにしてください。一見何気なしに見ていることも、普段歩いている大学の往復や自宅界限で新たな発見をしてみてください。また、レポートなどで経験してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはないが、授業資料等はwebclassにアップしますので、授業前にはダウンロードなどしてください。

【参考書】

授業時やWebclassなどに指示

【成績評価の方法と基準】

原則的には、期末レポート（50%）、平常点（50%）を考えています。詳細に関しては最初の授業やwebclassの最初のバワポなどで確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

世界が大きく変化しているのは皆さんも気がついていると思います。昨今、実社会でよく聞くのが、「論理的に考えたり、教わると、応用がききシュミレーションにも役立つのに・・・」という話です。ネット社会の発展から切り取り文章や映像が氾濫してきていますが、その結果、多様性ということを重視する人が少なくなり、その場で単に聞き、覚える人が増えているような気がします。このことは、皆さんも気が付いていて、同じことを何回も聞く、考えようとしなないといった意見も出てきています。いわば、コミュニケーションの重要性が問われています。

また、多様性やジェンダーを否定する流れから競争社会、格差が進展する可能性もあります。画一化や均一性はイノベーションを生み出しにくいことはすでに明らかになっています。

このため、この講義では多様な意見や考え方を経験するという視点をもとに、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮する方向性でのGDやレポートなどでの簡易的フィールドワークは行ってきました。大半の学生には好評でした。授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。対面授業ですから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフル活用するためにもGD・GWなどを試みたいと思います。そして、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。

【学生が準備すべき機器他】

テキストはありませんが、基本教材（パワポ形式）や授出席などでWebclassのシステム等や映像を活用するため、授業時にスマホだけでなく、パソコン等はできたらお願いしたい。ほかの科目も予想されるが、WEB授業等に係るものは用意されたほうが・・・

生成AIに関しては大学の方針に準拠して使用し、習熟してみてください。なお、授業開始日までに、内容の詳細や要点を動画等でまとめてWebclassシステムに上げておきたいと思います。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにします）

【その他の重要事項】

世界で分断や格差が生じています。多様性やジェンダーを否定する流れから競争社会、格差が進展する可能性もあります。画一化や均一性はイノベーションを生み出しにくいことはすでに明らかになっています。こうした視点からもコミュニケーションの重要性が問われています。毎回は無理ですが簡単なGD/GWを考えています。多様な考え方や視野の広がりなどを期待していますので、出会いも含めてみんなで楽しみましょう。

地理学が苦手な人や大学デビューも含めて1人参加でも例年大丈夫です。一方的な授業は教員は楽ですが避けたいのでみんなでALも楽しみましょう。秋学期の地理学LDと合わせて受講することを勧めたい。通年でなくとも構わないが、先に春学期のLCでの問題意識や問題の発見を基礎や理論を理解し、秋学期のLDで知識の応用を目指し、課題解決型講義の方向をともに目指したい。学生の授業アシスタントも予定してますので相談してみてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Geography, I believe, has the distinctive ability to analyze and interpret phenomena from a broad, overarching perspective. This is because the discipline integrates both the humanities and the sciences, and has become increasingly interdisciplinary and specialized across micro- and macro-level domains.

The purpose of this course is to examine the challenges of our rapidly changing globalized world through a geographical lens, bringing these issues closer to students' everyday experiences. For example, why has Japan's economic growth stagnated, leading to what is often called the "lost three decades"? These questions are closely connected to dramatic global shifts in politics, economics, and society.

Similarly, widening global inequalities and the transformations occurring within regional societies around the world suggest that it is time to reconsider these issues. With the information and IT revolution of the 21st century—including today's AI—industrial specialization, global division of labor, and digital transformation (DX) have accelerated. As a result, cities and regional communities, which form the core of consumer and competitive societies, have undergone significant change and further complexity. People living in these places now face new forms of inequality and emerging regional challenges.

This course aims to approach these developments from a comprehensive, panoramic viewpoint, analyzing and reflecting on them through various subfields of geography.

Learning activities outside of classroom: Total is 4 hours

Grading Criteria: Term-end exam: 80% Contribution to class: 20%

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：21世紀の都市・地域を考える地理学

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、21世紀以降の世界を都市や地域を中心に地理学ロジックを活かして課題や解決策をともに考えます。具体的には都市や地域の再生論などを考え、学際的かつ俯瞰的な視点や論理的思考の重要性を考えたい。前半で世界や日本の都市を中心にDXなどの進展から変化する都市、地域社会の変化を政治・経済、社会的側面を中心に地理学的な視点から考えます。後半は日本の都市・地域社会の課題解決を中心にネットワーク、コミュニティなどの視点から方法論などを再検討します。そこから学生自身が多様性のある社会の実現を模索、検討できることを目的としています。地理学を骨子に、アクティブに一緒に考えることを目指します。

【到達目標】

学生が自らの考えをもち行動し、将来的には世界の地域社会の課題を解決する一員になることを到達目標にしている。秋学期のこの講義では、世界的な地域のも視点を広げ、問題意識や相違点や共通点などを見つけ、課題を解決方向へと踏み出したい。このため、新たな世界的な課題を前半で、後半 都市・地域再生を主なテーマとし、学生が、地域社会に関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネスなどから、多様性のある様々な問題解決の方向性を示せることを到達目標としたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業の利点を如何にいかすかが問われます。地域再生を軸とした解決方法の事例紹介だけならオンデマンドで十分かもしれませんが。多様な意見や価値観の認識、コミュニケーションスキル等のためにも皆さんと考えていきたいと思います。初めての受講でも心配ありません。教材等は授業支援システムを使う予定です。進め方の基本は「映像＋講義＋GDなど」を考えています。授業アシスタントの人も予定していますので、不安な場合は相談してみてください。なお、生成AIは使用可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	将来の日本は・・・ 今後の日本を考える AIの判断する2050の日本・・・なぜTOKYOだけが大きく豊かになるのか
2	都市再考 1	都市内部の格差 経済格差と地域社会構造
3	都市再考 2	移民、外国人との共生、地域社会構造
4	地方再生 1	世界的な地方再生の形
	世界の地方再生は	

5	地方再生 2	インバウンドの都市集中とオーバーツーリズム
6	都市再生 1	終わりのない再開発
7	都市再生 2	AKIBAというコミュニティと場の重要性
8	都市再生 3	イタリア、シエナとコミュニティ
9	都市・地域再生 1	失敗から学ぶ コンパクト・スーパーシティの試み
10	都市・地域再生 2	クラスター集積と分散は可能なのか なぜ産業が地方では無理なのだろう、半導体 AI
11	都市・地域再生 3	情報発信と人と呼ぶとは
12	都市・地域再生 4	関係人口と地域へのかかわり かた コミュニティ再考
13	都市・地域再生 5	スタートアップとソーシャル キャピタル論
14	まとめと解説	今後の日本を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットやニュースなどから多様な考え方を学んでください。問題をどう解決するかは、さまざまな方法があり、必ずしも1つの方法が正解ではありません。日本はどんどん世界から遅れ始めていることに気が付いていますか。将来の自分が想像できますか、自ら考え、行動する意欲を常に持ち、失敗を恐れずむしろ失敗から学び、前向きになる自分を想像してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはない 教材関係はWebclassでパワポで原則アップしますので、ダウンロードしてください。

【参考書】

授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

期末のレポート試験（50%）、授業の平常点（50%）で総合的に評価する予定でいる。状況により変更の場合などもあり得るかもしれません。

、

【学生の意見等からの気づき】

簡易的フィールドワーク対象である、各自の自由な世界でも有名な某地域調査は好評でした。こうしたリアルな実体験はネット社会ではまだまだ見て経験できないことです。コミュニケーションの重要性や多様性を知るためのGD/GWも楽しんでくれたようです。授業を居場所としてコミュニティの重要性をフル活用するためにもGD・GWなどを試みた結果、秋から参加で心配していた学生もいました。周りの協力もあって心配はありませんでした。今年度も、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコン使用を慣れてください。このため、この授業以外のためにも大学からの貸し出しなどは積極的に申し込んでください。授業支援システム等をかなり利用するので仕様の仕方等に習熟してほしい。また、生成AIに関しては大学の方針に準拠して使用し、習熟してみてください。

【その他の重要事項】

秋から受講でも心配ありません。授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ず確認してください。（仮登録すれば見れるようにします）大学デビューのつもりで新たな柔軟な思考を持ちたいなどの人、1人でも参加したい人も歓迎します。対面授業形式の利点や今後の将来に活かすためにGD・GWなどもします。多様性を考えたり、視野の相違などが目的ですが知り合いを創るためにも楽しみましょう。授業アシスタントの人を予定していますので、1年生などはさまざまな相談をしてみてください。楽かどうかは皆さん次第です。能登半島の災害や世界的課題を考えると、知識だけではなく自ら考え行動することが必要な気がします。

【Outline (in English)】

This course explores the world of the 21st century by focusing on cities and regions, using geographical logic to examine challenges and potential solutions together. We will specifically consider topics such as urban and regional revitalization, emphasizing the importance of interdisciplinary and comprehensive perspectives, as well as logical thinking.

In the first half of the course, we will focus on cities in Japan and around the world, examining how digital transformation (DX) and other developments are reshaping urban and regional societies. These changes will be analyzed from geographical perspectives, with particular attention to political, economic, and social dimensions. In the second half, we will shift our focus to problem-solving in Japanese cities and regional communities. We will reexamine methodologies through the lenses of networks, communities, and other frameworks. The goal is to enable students to explore and consider how to realize a more diverse and inclusive society.

Learning activities outside of classroom: Total is 4 hours

Grading Criteria: Term-end exam: 50% Contribution to class: 50%

SOC200LA (社会学 / Sociology 200)

社会学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：文化の社会学

松下 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文化を社会学的な観点から分析・考察するための理論や方法について学ぶ。まずは文化社会学のオーソドックスな概念について具体的に応用しながら理解を深め、そのうえで現代文化を成り立たせている諸条件にかんする主要な研究について学んでいく。これにより、文化を社会学するのに役立つ基本的な視座・着眼点の獲得を目指す。

【到達目標】

- ・文化を社会学的に考察するのに役立つ理論、基本的な着眼点や問題設定などについて理解できる。
- ・作品（あるいは作家の営み、生産・流通・受容のメカニズムなど）の具体的な特徴を捉え、その社会的文脈性を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に配布資料を用いて講義形式で進める。毎回のテーマに関するリアクションペーパーないし課題の提出を課す。提出物へのフィードバックは、次回授業の冒頭やまとめの回でいくつかピックアップする形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	文化社会学へのイントロダクション
第2回	遊戯	井上俊『遊びの社会学』を中心に
第3回	欲望	作田啓一『個人主義の運命』を中心に
第4回	記号	R・バルト「神話作用」を中心に
第5回	表象とイデオロギー	マルクス主義的アプローチの系譜
第6回	文化テキストの分析（1）	『君の名は。』を取り上げ、分析・考察を試みる
第7回	文化テキストの分析（2）	『シン・ゴジラ』を取り上げ、分析・考察を試みる
第8回	文化テキストの分析（3）	『この世界の片隅に』を取り上げ、分析・考察を試みる
第9回	文化テキストの分析（4）	『コンビニ人間』を取り上げ、分析・考察を試みる
第10回	メディア文化	ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」を中心に
第11回	文化と卓越化	ブルデュー『ディスタンクシオン』および『芸術の規則』について
第12回	受容と流用	カルチュラルスタディーズの展開

第13回 コンヴァージェンス・カルチャー 参加型文化の時代

第14回 まとめ

授業の振り返りと補足、および課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題に取り組むとともに、授業で紹介するテキストや作品を熟読・鑑賞し、自分なりに理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

- ・井上俊／長谷正文編『文化社会学入門』（ミネルヴァ書房、2010年）
- ・栗谷佳司／太田健二編『表現文化の社会学入門』（ミネルヴァ書房、2019年）

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（50％）＋期末レポート（50％）
記述の具体性・独自性・妥当性などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の反応を見る限り概ね好評であった。今後も研鑽を重ねたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は基本的に学習支援システムで配布予定です。閲覧可能な機器をご持参ください。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course introduces students to the key concepts in sociology of culture and to the ways of thinking about culture in the contemporary world.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand key concepts in cultural theory and fundamental approaches of the sociology of culture.
- analyze artworks (artists, cultural production/distribution/reception, and so on) in its social context.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policy] Grading will be decided based on Term-end report(50%) and Short reports(50%).

SOC200LA (社会学 / Sociology 200)

社会学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代社会論

松下 優一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学分野での主要な現代社会論を学ぶとともに、現代日本社会に生起する諸々の社会現象について考える。個別・具体的な現象について、歴史的・構造的な視野をもって複層的に捉えつつ、分析・考察を深めるための社会学的想像力を養う。

【到達目標】

- ・基本的な現代社会の理論について理解し、具体的な事象に応用し、考察できる。
- ・現代社会において生起する具体的な事象を取り上げ、社会学的に分析・考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に配布資料を用いた講義形式で進める。リアクションペーパー（ないし各回の内容に関する課題）の提出を課す。フィードバックは、次回授業冒頭やまとめの回にて、いくつかの答案をピックアップする形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明など
第2回	リスク社会論	ベックのリスク社会論の要点と応用
第3回	消費社会論	「〇〇消費」から考える現代社会
第4回	格差社会論	「新しい貧困」をめぐる問題を中心に。
第5回	監視社会論	管理／監視の技術から考える現代社会
第6回	情報社会論	情報技術と社会の関係をどう捉えるか
第7回	再帰的近代化論	ギデنزのモダニティ論を中心に
第8回	現代社会とノスタルジア	『ALWAYS三丁目の夕日』から考える
第9回	ポスト・トゥルース	陰謀論の時代へ？
第10回	排除型社会	包摂型社会から排除型社会へ
第11回	心理主義化	高度化する自己コントロールと人格崇拜について
第12回	コンプライアンス社会	フラット化する社会と文化について
第13回	アフター・コロナ	コロナ禍から考える現代日本社会
第14回	まとめ	授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。各回のテーマに沿った具体的事例の収集、考察、まとめに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

本田由紀編『現代社会論—社会学で探る私たちの生き方』（有斐閣、2015年）

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（50％）＋期末レポート（50％）
記述の具体性・妥当性・独自性などを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の反応をみる限り、概ね好評であった。今後も研鑽を重ねていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は原則として学習支援システムにて配布予定です。閲覧可能な機器を持参してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the key concepts of contemporary social theories and to the ways of thinking about current social changes.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand basic approaches and theoretical arguments of contemporary social theories.
- think about social issues (cultural phenomena and so on) in contemporary context.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on Term-end report (50%) and Short reports (50%) .

SOC200LA（社会学 / Sociology 200）

社会学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：政治と社会における「問題の発見」

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では政治と社会に関わる様々な事例を取り上げながら、政治と社会を動かしている原理を理解するとともに隠れている問題の発見に努める。できるだけ具体的な事例を取り上げながら基本的な概念や理論を学び、これらをもとに社会や政治、広くは時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付けることを目指す。問題解決能力は問題を発見する能力とそれを解決する能力に区分できる。問題解決能力の中心は「問題の発見」にある。診断ができなければ治療することもできない医者のように、多くの領域において「問題解決」の主題は「問題の発見」である。この「問題の発見」こそが創造的な問題解決の出発点である。

【到達目標】

- ・基本的な概念や理論を論理的に発表、論述することができる。
- ・具体的な社会現象を複数の概念や理論を駆使して論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および受講時の注意点、成績評価の方法
2	基礎概念の理解	C.W・ミルズ『社会学的想像力』を手がかりに社会学の基礎概念を学ぶ
3	「問題の発見」	政治と社会における「問題の発見」の練習として「宝くじ」の歴史と機能、昔話「ウサギとカメの競争」を手がかりにルールや制度が不公平な側面を内包していることを確認する。
4	政策決定と利益	「問題の発見」の実践として、薬害事件を扱ったドキュメンタリー映画『薬に病むークロロキン網膜症』（小池征人監督、1980）の一部視聴と解説

5	社会的暴力と個人の身体	前回の授業内容の理解を深めるために市村弘正「社会的失明の時代」の一部講読と討論
6	スティグマと社会的統制	社会的スティグマを学ぶための予備的考察として、芥川龍之介「桃太郎」、H・S・ベッカー『アウトサイダーズ』の一部講読
7	スティグマの政治社会学	E・ゴフマン『スティグマの社会学』とS・フェデリーチ『キャリバンと魔女』の一部講読と討論
8	差別と偏見について	ドキュメンタリー映画『人間の街ー大阪・被差別部落』（小池征人監督、1986年）の一部視聴と解説
9	差別と解放について	前回の授業内容の理解を深めるために市村弘正「人間の場所」の一部講読と討論
10	感情と法の関係について	M・ヌスバウム『感情と法』（第2章「嫌悪感と私たちの動物的身体」）の一部講読
11	感情の政治社会学の理解	M・ホルクハイマー、T・アドルノ『啓蒙の弁証法』（「V 反ユダヤ主義の諸要素」）の一部講読と討論
12	個人の選択と社会的選別について	国鉄分割民営化の過程で労働者たちの置かれた状況を描いたドキュメンタリー映画『日本鉄道員物語1987』（小池征人監督、1987）の一部視聴と解説
13	権力と自由の関係について	前回の授業内容の理解を深めるために市村弘正「選択と選別の間」の一部講読
14	期末テストおよび総括	期末テスト（60分）、講評・まとめ（40分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用いる。

【参考書】

- ・市村弘正・杉田敦（2005）『社会の喪失』中公新書。
- ・杉田敦（2009）『政治への想像力』岩波書店。
- ・マーサ・ヌスバウム（2010）『感情と法ー現代アメリカ社会の政治的リベラリズム』（河野哲也監訳）慶應義塾大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In the class, students take up various cases related to politics and society and try to understand the principles that drive politics and society and discover hidden problems. Through these efforts, we aim to become more aware of social, political and, more broadly, contemporary issues, understand their meaning, and develop the ability to think about solutions. Problem solving ability can be divided into the ability to discover a problem and the ability to solve it. The center of problem-solving ability lies in "finding a problem.". In many areas, the subject of "problem solving" is "finding a problem," as in a doctor who cannot be treated without being diagnosed. This "discovery of problems" is the starting point for creative problem solving.

(Learning Objectives)

- You can discover the principles and problems that drive politics and society.

- You can logically present and describe problems you find in your own words. (Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

- Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance. • 2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

SOC200LA (社会学 / Sociology 200)

社会学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：自由の最大化と暴力の最小化

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自由の最大化と暴力の最小化をテーマに国家の本質、機能、市民の役割などについて学ぶ。具体的には、マックス・ウェーバーによって定義された支配と服従、国家などの概念を手掛かりに、歴史上登場した国家論の変遷と共に「市民」や政治制度の「民主主義」に関する理論を取り上げる。これらを通して受講者自らの「国家」と「市民」、「民主主義」に関する見解と比較してみることで、自らの考え方を少しでも明瞭にすることが目的である。

【到達目標】

- ・国家論の変遷を歴史的な文脈で説明できる。
- ・市民の自由と権利の意義と限界を受講生の経験を踏まえて具体的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）はHoppiiで配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックはHoppiiを通じて行う予定である。
- ・プレゼンテーショングループワークの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および受講時の注意点、成績評価の方法
2	基礎概念の理解	マックス・ウェーバー『職業としての政治』を手がかりに基礎概念を学ぶ
3	統治術の変化	「誰が統治すべきか」から「如何に統治すべきか」へ
4	国家主義国家論	トマス・ホブズ『リヴァイアサン』の一部講読
5	自由主義国家論（政治的な側面から）	ジョン・ロック『統治二論』の一部講読と討論
6	自由主義国家論（経済的な側面から）	アダム・スミス『道徳感情論』と『国富論』の一部講読と討論
7	自由と平等をめぐるルソーの立場	ルソー『人間不平等起源論』、『社会契約論』の一部講読
8	階級国家論、国家消滅論	カール・マルクス『共産党宣言』の一部講読
9	自由と平等を求めた革命と現実	ジョージ・オーウェル『動物農場』や社会主義国家の没落の歴史を事例に

10	大衆社会論	オルテガ・イ・ガセット『大衆の反逆』、エリック・フロム『自由からの逃走』の一部講読と討論
11	全体主義について	ハンナ・アーレント、丸山眞男、藤田省三の分析を学ぶ
12	民主主義について	杉田敦『デモクラシーの論じ方』、同『境界線の政治学』の一部講読
13	市民の役割について	宇野重規『〈私〉時代のデモクラシー』の一部講読と討論
14	期末テストおよび総括	期末テスト（60分）、講評・まとめ（40分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用いる。

【参考書】

マックス・ウェーバー（1919＝2018）野口雅弘訳「仕事としての政治」『仕事としての学問・仕事としての政治』講談社。
加藤秀治郎・岩渕美克（2013）『政治社会学 第5版』一藝社。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、平常点（50%）[リアクションペーパー20%＋プレゼンテーショングループワーク30%]

詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

8-10点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-7点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn about the nature, function, and role of the nation. Specifically, this paper takes up the theory on "democracy" of "citizen" and political system as well as the transition of state theory which has appeared in history, taking into consideration the concepts of rule, obedience and nation defined by Max Weber. The purpose of this study is to clarify the students' views by comparing them with their own views on "nation," "citizen," and "democracy". (Learning Objectives)

・The basic concepts of political sociology can be logically presented and discussed in one's own words.

・The transition of the theory of nation in modern times can be understood in the historical context.

・To enhance sociological understanding of political conflicts. (Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson. ・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance. ・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature. (Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (30%).

POL200LA (政治学 / Politics 200)

政治学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：音楽と政治

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：ボブ・ディランと政治

ボブ・ディランとUS政治の関係について考察する。

ボブ・ディランとUS政治の関係について考察することによって現代政治に関する見方を養うことを目指します。

【到達目標】

WW I 以降のUSの政治と社会についての基本的知識を得ること。

音楽を通して政治について考えるようになること。

ボブ・ディランの信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識を得ることと、宗教と政治の関係について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要とやり方について
# 2	戦間期のフォークミュージック	フォークミュージックと政治の交錯
# 3	本当のフォークミュージックの追求	ローマックス親子とレッド・ベリ
# 4	プロテスト・フォークミュージックの登場	ウディ・ガスリーを中心に
# 5	マッカーシズムとフォーク・リヴァイバル	ビート・シガーを中心に
# 6	古くて奇妙なアメリカ	ハリー・スミスとコラージュの政治学
# 7	ボブ・ディランの登場	プロテスト・フォークミュージックの政治学
# 8	1965年	USのニュー・レフトとボブ・ディラン
# 9	ビート・ジェネレーション	文学による政治の変容
#10	カウンターカルチャー	カウンターカルチャーの時代とその後
#11	The Basement Tapes	Bob Dylan の「古くて奇妙なアメリカ」あるいは「見えない共和国」

# 12	Slow Train Coming	Bob Dylan の改宗とUSの政治と社会
# 13	Things Have Changed.	終末論とUSの政治と社会
#14	Outro.	秋学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントを授業の前に目を通し、授業後に復習する。紹介された参考文献を読む。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013年）

北中正和『ボブ・ディラン』（新潮新書、2023年）

他の文献・音源・映像は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートで評価。

小テスト 20%、期末レポート 80%

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラー・ミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

洋楽についての知識がなくてもかまいませんが、興味・関心を持っていることは必要です。

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別にZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器。

映像・音楽を視聴できる機器。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。そこでわからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

Theme: Bob Dylan and Politics

【Course outline】

This course deals with the political world of Bob Dylan.

【Learning Objectives】

The fundamental aim of this course is to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering the political world of Bob Dylan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire basic knowledge of politics and society of the United States since the Second World War

To acquire basic knowledge of Judaism and Christianity and to understand relationships between politics and religion by considering the religious belief of Bob Dylan.

【Learning activities outside of classroom】

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Read references.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to short reports(20%) and term-end report(80%).

POL200LA (政治学 / Politics 200)

政治学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：政治とメディア

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア（主に情報伝達媒体）の変化が民主主義政治にどのように影響してきたか、その歴史的な推移を学び、われわれが主権者としてメディアをどのように利用すべきかを考察する。

【到達目標】

民主主義政治の基本とその中でのメディアの役割およびメディアごとの特性を理解し説明できる。同じく、政治分野における情報の信頼性を判断する基準について理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で行い、テーマによって適宜、グループ討論などの意見交換を実施する。都合によりオンライン、オンデマンドにする場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	あなたは誰を信じますか？	日々流れてくる情報はどこまで信用できるのか。メディア（情報媒体）が政治的判断に及ぼす影響
2	民主政治における報道・言論の自由	三権分立（特に司法の独立）と言論の自由が民主政治の要件。世論に基づく政治
3	事実と議論	民主政治の本質は事実をもとに話し合うこと。では事実とは何か？
4	大衆と公衆	政治的な「大衆とエリート」の関係。民主主義の担い手として期待される「公衆」だが・・・
5	メディアの情報革命	活版印刷術と活字による情報の第一革命。アナログ技術の開発による第二革命。政治への影響
6	戦後民主主義とマスメディア	第二次世界大戦後の民主政治、特に高度経済成長期に新聞が果たした役割
7	公権力監視と調査報道	新聞による公権力監視と問題点、調査報道が現実政治に対して大きな影響を与えた例
8	「テレポリティクス」と政権交代	1980年代から90年代、テレビの影響力が政治的にも拡大、活字メディアを凌駕
9	インターネット登場とマスメディアの退潮	20世紀末、第三の情報革命＝インターネット、デジタル化と、デジタル・デモクラシーへの期待

10	ソーシャルメディアの時代	21世紀、スマートフォンの登場とデジタル革命の深化、利便性と問題点
11	ポピュリズムと政治的分極化	民主政治の不安定化、感情の政治、極右勢力の台頭、ソーシャルメディアの影響は？
12	アイデンティティ政治をめぐる対立	少数派の格差は正をめぐる左右の政治路線の対立とメディアの影響
13	メディア・リテラシーの必要性	メディアの多様化・情報過剰の時代に、情報の信頼性を吟味し分析能力を高めるには
14	政治とメディア・21世紀の問い	これまでの授業の主な内容を振り返り、政治とメディアの未来を展望する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備、復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

川出良枝・谷口将紀（編）『政治学』（第2版）（東京大学出版会、2022年）2200円＋税
 岩崎正洋（編）『18歳からはじめる現代政治学』（法律文化社、2025年）2300円＋税
 谷口将紀『政治とマスメディア』（東京大学出版会、2015年）3000円＋税
 外岡秀俊『発信力の育て方』（河出書房新社、2015年）1300円＋税
 鳥海不二夫・山本龍彦『デジタル空間とどう向き合うか』（日経プレミアシリーズ、2022年）、900円＋税

【成績評価の方法と基準】

学期末に論述式の筆記試験を実施する（評価75％）。その前に数回程度、小課題およびアンケートを行うほか、授業内の発言や意見の積極性などを加味して平常点（同25％）とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開講の授業のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合にzoom等に対応できる情報機器

【Outline (in English)】

The aim of this course is to study the relationship between politics and media. Students are required to examine the history of democracy and the development of media as part of their assignments. The goals of this course are to understand the role of media in democracy and to develop media literacy.

POL200LA (政治学 / Politics 200)

政治学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：文学と政治

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的な文学作品に描かれた政治の姿と、その時代による変化を学び、文学者たちに政治が及ぼした影響、また文学作品が大衆と政治に及ぼした影響力について考察する。

【到達目標】

代表的な文学作品に表れた政治の影響について、理解し説明できる。
また国内外の現代政治についての大まかな知識を持ち基本的な構図
を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則として対面による講義形式で行い、テーマにより適宜、グループ討論などの意見交換を実施する。都合によりオンライン・オンデマンドで実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文学者たちが描いた政治の風景	総論・その時代の知性は、政治をどのように描いてきたか
2	明治政府と夏目漱石、森鷗外	漱石『私の個人主義』、鷗外『舞姫』などの作品を政治的に読み解き、比較する
3	石川啄木と大逆事件	啄木『時代閉塞の状況』、芥川龍之介『河童』を政治的に読み解き、比較する
4	プロレタリア文学の隆盛と挫折	小林多喜二『蟹工船』、宮本顕治『敗北の文学』などを通じて黎明期の左翼運動について学ぶ
5	文学者と戦争協力	石川達三『生きてゐる兵隊』、シンポジウム『近代の超克』などを通じて、戦時中の総動員体制と文学の役割について学ぶ
6	敗戦と左翼文学の復活	文芸誌『近代文学』グループの活動と、野間宏『真空地帯』大岡昇平『野火』に描かれた戦争の実像を学ぶ
7	60年安保と文学者たち	柴田翔『されどわれらが日々』にみる、抵抗と左翼運動について学ぶ
8	70年安保と三島由紀夫	三島の『憂国』『文化防衛論』ほかに見る右翼性、庄司薫『さよなら怪傑黒頭巾』に描かれた全共闘世代の姿について学ぶ

9	「内向の世代」と政治 離れ	村上龍『限りなく透明に近いブルー』外岡秀俊『北帰行』などの新感覚に表れた、政治との距離について学ぶ
10	SF・近未来小説と政治	ジョージ・オーウェル『1984』などの作品と全体主義批判のメッセージについて学ぶ
11	国民作家・司馬遼太郎と松本清張の政治性	政治史として描かれた『翔ぶが如く』『坂の上の雲』、また松本清張『日本の黒い霧』の政治的影響力について考察する
12	ノーベル文学賞にみる政治的な潮流	ノーベル賞作家の地理的分布と国際政治的な側面を読み解く。
13	日本人作家とノーベル文学賞	日本人受賞者である川端康成と大江健三郎、対照的なその政治選好と「時代の子」としての文学者について考察する
14	授業のまとめ＝政治と文学を再検討する	過去13回の授業の主な内容を振り返り、総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】

川出良枝・谷口将紀（編）『政治学』（第2版）（東京大学出版会、2022年）2200円＋税
岩崎正洋（編）『18歳からはじめる現代政治学』（法律文化社、2025年）2300円＋税
授業で取り上げる文学作品については、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験を実施する（評価は75％）。その他、数回程度の小課題およびアンケートを行うほか、発言や意見の積極性などを加味して平常点（同25％）とする。

【学生の意見等からの気づき】

科目初年度のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合 zoom 等に対応できる情報機器

【Outline (in English)】

The aim of this course is to study the portrayal of politics in representative literary works and how it has changed over time, as well as to examine the influence of politics on writers. The goals of this course are to understand how political contexts shape representative literary works.

CUA200LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）			第三回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。
文化人類学 L			2017年度以降入学者		
サブタイトル：			第四回	ことばと政治	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
ベル 裕紀			第五回	技術と産業の人類学	企業は労働力とモノやサービスの流通の結節点であり、様々な技術が折り重なった複合体として捉えることができる。この授業では人類学における産業および技術の研究を概観しながら、ネットワークとしての産業を捉える視点を提示する。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水3/Wed.3 単位数：2単位			第六回	機械の人類学	人類学における科学技術社会論、特にアクターネットワーク理論で著名なラトゥールの「純化」と「翻訳」「媒介」をめぐる議論を参照しながら、自然と人間と機械をめぐる近代的な認識論について理解を深める。その上で動く道具としての機械と製品のオーナーシップに関する議論を参照しながら、機械をめぐる人類学的な研究を概観していく。
その他属性：〈優〉			第七回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 我々が生きる社会を特徴づける、近代という時代が生み出した政治システムとしての国民国家や人権イデオロギー、労働集約型の産業、統治技法としての人口の管理、あるいはケアと教育のための全制的施設といったテーマについて、様々な対象を取り上げて、人類学的な研究を参照しながら考えていく。それを通じて現代社会についてのみならず、人類学的な社会の見方についてより深い理解に到達することを目的とする。			第八回	国民国家とナショナリズム	A.ゲルナーやB.アンダーソンなどの国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
【到達目標】 学生は、授業で取り上げた人類学的な考え方や理論を理解するのみならず、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになる。また、そうした学習を通じて、現代社会に対する理解も今まで以上に深めることになる。			第九回	グローバル化の人類学	人類学のみならず、社会科学におけるグローバル化の理論を概観した上で、グローバル化という現象を政治人類学の文脈に沿って理解する。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			第十回	社会運動論と人類学	人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture			第十一回	人権と人類学	1945年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
【授業の進め方と方法】 講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。 また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでもくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。			第十二回	難民の人類学	難民という存在をH.アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No			第十三回	移住民のコミュニティと国境管理	第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形で労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No			第十四回	まとめ	文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回数	テーマ	内容			
第一回	人類学の射程	人類学は「未開社会」と呼ばれた国家を持たない社会を含む、非西欧社会を対象として発展してきた。しかし、これら古典期の研究は、近代国家や西欧との接触の事実を捨象した形で「伝統」や「文化」を抽出し、それらを本質化してきたと80年代以降、鋭く批判されてきた。現在の人類学は、こうした批判の上に存在する。こうした人類学の歴史を踏まえつつ、同時代を眼差す視点を提示する。			
第二回	贈与と交換の政治経済	D. グレーバーや小田亮の贈与をめぐる議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、毎回のリアクションペーパー42%、授業への参加度8%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。必要に応じて授業の冒頭に学生の回答を紹介し、応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduce students several anthropological perspectives on modern society, such as Nation-states as a political system, human rights as a modern ideology, population control as technology of governance, and total institutions for educations and health care. Students should understand modern societies as well as anthropological perspectives on societies in general, through this course.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には私たちにはいっけん不思議に思える多様な宗教実践がある。この授業では、世界各地の多様な宗教実践の事例や、宗教実践を理解するための概念を紹介しながら、「宗教的なもの」について人類学的に考察する。また、私たちの日常生活の様々な側面から宗教を考える。それらを通じて、多様な宗教実践と自身の日常的な体験の間の連続性をとらえる。

【到達目標】

宗教人類学の基本的な視座を習得し、宗教実践の多様性と類似性をとらえる方法を身につける。
世界各地の事例を知り、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	人類学とは	宗教を人類学的に考える方法
第3回	呪術	日常生活と呪術の密接なつながり
第4回	アニミズム	アニミズムと自然
第5回	シャーマニズム	自と他
第6回	マルチモーダル人類学	民族誌と映像
第7回	コスモポリティクス	開発と宗教的なもの
第8回	身体①	モノと宗教的なもの
第9回	身体②	音と集合的沸騰
第10回	身体③	身体感覚と霊的経験
第11回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践①	経済と宗教的なもの
第12回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践②	国家と宗教的なもの
第13回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践③	医療と宗教的なもの
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。授業内で資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習のための参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業計画は、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There is a wide variety of religious practices that seem strange to us at first glance. This course aims to help students understand the continuity between various religious practices and daily experiences. This course discusses "the religious" from an anthropological perspective, introducing examples of diverse religious practices and concepts for understanding religious practices. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of anthropology of religion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学 L

2017年度以降入学者

サブタイトル：

北原 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、文化人類学で扱われるトピックの中でも、我々の生活に密接な医療、スポーツ、観光といったトピックについて考える。講義の後半ではオセアニアという地域に焦点をあて、地域を軸に文化的な事象をみていく。

講義を通じて、普段何気なく接している事柄を新たな視点から捉えられるようになることを目指す。

【到達目標】

本講義の到達目標は下記の通り。

- (1) 文化人類学で扱われるトピックについて理解する。
- (2) 他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
- (3) 自身の「あたりまえ」にとらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づき対面で行います。

授業は可能な限りインタラクティブに進めるため、指名して発言を求めることがあります。

教員の説明に加えて、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。

また、本科目では自身の考えを言語化することを目的としているため、毎回異なるお題に応じたコメントシートの提出を求めます。提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ：講義の目的と概要	授業の進め方や目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	医療	医療を文化の視点から捉えられるようになる
3	スポーツ	スポーツを文化の視点から捉えられるようになる
4	観光	文化現象としての観光を理解する
5	贈与	贈与という行為について身近な事例と世界の事例を比較しながら理解する
6	開発	開発と文化をめぐる諸問題について考察する視点を得る
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む

8	オセアニアの人類学 1: オセアニアとはどこか	オセアニアの地理と歴史について概観し、各地域の文化の背景を理解する
9	オセアニアの人類学 2: タトゥーを入れる人々	身体変工についてポリネシア地域で見られるタトゥー文化の事例から理解する
10	オセアニアの人類学 3: 移動する人々	オセアニアからの移民について理解する
11	オセアニアの人類学 4: ニュージーランドと映画	ニュージーランドの映画の事例から、文化の表象について理解する
12	オセアニアの人類学 5: トンガ王国の祝祭	祝祭についてトンガ王国の戴冠式の事例から理解する
13	オセアニアの人類学 6: 現地の声を聞く	これまでの授業を踏まえてオセアニア出身のゲストスピーカーから話を聞く
14	まとめと確認（試験）	今期のまとめとして教場試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1回の授業につき、準備・復習は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】

『自分のあたりまえを切り崩す文化人類学入門』、箕曲在弘、大和書房、2024年。

『太平洋諸島の歴史を知るための60章-日本とのかかわり』石森大地・丹羽典生(編)、明石書店、2019年。

『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己(編)、ミネルヴァ書房、2010年。

『オセアニア史』山本真鳥(編)、山川出版会、2000年。

『オセアニアの人類学-海外移住・民主化・伝統の政治』須藤健一、風響社、2008年。

【成績評価の方法と基準】

中間のまとめ：30%、期末試験（またはレポート）：30%、平常点（コメントシート）：40%

2/3以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

他の履修生のコメントシートが気になるという声があったので、復習を兼ねて毎回授業の冒頭に前回のコメントシートの内容を振り返る時間を設ける。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about topics in Cultural Anthropology that are closely related to our daily lives, such as the medical field, sports, and tourism. In the second half of the course, students will focus on the region of Oceania and study cultures from a regional point of view.

The goals of this course are:

- (1) to understand the main topics of Cultural Anthropology
- (2) to compare cultures and explain differences between your own culture and other cultures
- (3) to gain new perspectives

Before and after each class meeting, students are expected to spend three hours studying the course content.

The final grade will be calculated as follows: mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets submitted after each class (30%).

CUA200LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）			第三回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。
文化人類学 L			2017年度以降入学者		
サブタイトル：			第四回	ことばと政治	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
ベル 裕紀			第五回	技術と産業の人類学	企業は労働力とモノやサービスの流通の結節点であり、様々な技術が折り重なった複合体として捉えることができる。この授業では人類学における産業および技術の研究を概観しながら、ネットワークとしての産業を捉える視点を提示する。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水4/Wed.4			第六回	機械の人類学	人類学における科学技術社会論、特にアクターネットワーク理論で著名なラトゥールの「純化」と「翻訳」「媒介」をめぐる議論を参照しながら、自然と人間と機械をめぐる近代的な認識論について理解を深める。その上で動く道具としての機械と製品のオーナーシップに関する議論を参照しながら、機械をめぐる人類学的な研究を概観していく。
単位数：2単位					
その他属性：〈優〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
我々が生きる社会を特徴づける、近代という時代が生み出した政治システムとしての国民国家や人権イデオロギー、労働集約型の産業、統治技法としての人口の管理、あるいはケアと教育のための全制的施設といったテーマについて、様々な対象を取り上げて、人類学的な研究を参照しながら考えていく。それを通じて現代社会についてのみならず、人類学的な社会の見方についてより深い理解に到達することを目的とする。					
【到達目標】					
学生は、授業で取り上げた人類学的な考え方や理論を理解するのみならず、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになる。また、そうした学習を通じて、現代社会に対する理解も今まで以上に深めることになる。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。					
また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでもくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
なし / No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回数	テーマ	内容	第七回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第一回	人類学の射程	人類学は「未開社会」と呼ばれた国家を持たない社会を含む、非西欧社会を対象として発展してきた。しかし、これら古典期の研究は、近代国家や西欧との接触の事実を捨象した形で「伝統」や「文化」を抽出し、それらを本質化してきたと80年代以降、鋭く批判されてきた。現在の人類学は、こうした批判の上に存在する。こうした人類学の歴史を踏まえつつ、同時代を眼差す視点を提示する。	第八回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーやB. アンダーソンなどの国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第二回	贈与と交換の政治経済	D. グレーバーや小田亮の贈与をめぐる議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。	第九回	グローバル化の人類学	人類学のみならず、社会科学におけるグローバル化の理論を概観した上で、グローバル化という現象を政治人類学の文脈に沿って理解する。
			第十回	社会運動論と人類学	人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。
			第十一回	人権と人類学	1945年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
			第十二回	難民の人類学	難民という存在をH. アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
			第十三回	移住民のコミュニティと国境管理	第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形で労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。
			第十四回	まとめ	文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、毎回のリアクションペーパー42%、授業への参加度8%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。必要に応じて授業の冒頭に学生の回答を紹介し、応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduce students several anthropological perspectives on modern society, such as Nation-states as a political system, human rights as a modern ideology, population control as technology of governance, and total institutions for educations and health care. Students should understand modern societies as well as anthropological perspectives on societies in general, through this course.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA200LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：

菊池 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人は死をどのようなものと捉え、それにいかに向き合ってきたか。どのように死者を悼み、新たな関係性に置かれた自分を生きようとしてきたか。本授業では、死と悲嘆・喪に関する人類学的研究を概観しながら主要な理論や概念について学ぶとともに、世界の諸地域に見られる、死の観念、葬送儀礼、喪の様式の多様性を把握する。また、現代社会における死や看取りのあり方、追悼・哀悼をめぐる諸問題について、人類学的な視点から考える力を養う。死別の経験が、生き残った者の甦生の萌芽を宿していることを学ぶ。

【到達目標】

- ・死や悲嘆・喪をめぐる人々の多様な実践について、人類学的に理解することができる。
- ・現代社会における死や悲嘆・喪に関する問題について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義を基本とする。
- ・必要に応じて映像資料なども用いながら、理解を深める。
- ・毎回の授業後には、リアクションペーパーの提出をしていただく。提出されたリアクションペーパーは、次回授業の冒頭でいくつか紹介しながら、フィードバックを行う。
- ・授業に臨む前に、事前に指示した課題文献を読むなど、予習課題を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要などの確認、担当教員の研究フィールドの紹介
第2回	死と喪の人類学説史 I（～1980年代）	デュルケム的な構造機能主義を反映した、初期の人類学的研究
第3回	死と喪の人類学説史 II（1990年代～）	個人的な経験としての死別、既存の宗教的・文化的な喪の方法が適用し難い死、生者による死者への応答としての喪
第4回	死の観念	世界各地の様々な死の観念
第5回	葬送儀礼	世界各地の様々な葬送・埋葬の儀礼
第6回	悲嘆と喪	死者を悼むこと
第7回	中間のまとめ	前半の講義の理解度の確認を兼ねて、関連する民族誌を読み解く課題に取り組む
第8回	現代社会における死	自然災害や紛争などによる大量死や、脳死、孤独死など
第9回	看取り・死とケア	看取りと死をめぐるケアの実践・文化

第10回	（エスノ・）ナショナルな追悼実践	国家や共同体による追悼実践
第11回	人々の哀悼実践	日々の暮らしのなかの哀悼実践
第12回	異形の死と向き合う	遺体が見つからないような、既存の喪の方法を用いることが困難な死（者）とどう向き合うか痛／悼むことと書くこと
第13回	文化人類学者と喪失経験	
第14回	まとめ	授業内容のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：事前に指示された課題文献を読み、理解したことや疑問点などをまとめる。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献を各自の関心に応じて読み進めながら、授業の理解を深める。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しない。
- ・原則、事前に講義レジュメを配布する。
- ・必要に応じて、関連する文献を紹介し、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、参考になるものを以下に挙げる。

- ・内堀基光、山下晋司1986『死の人類学』弘文堂。
- ・北村毅2009『死者たちの戦後誌—沖縄戦跡をめぐる人々の記憶』御茶の水書房。
- ・川村邦光2013『弔い論』青弓社。
- ・デヴィッド・サドナウ1992『病院でつくられる死』岩田啓靖・志村哲郎・山田富秋（共訳）せりか書房。
- ・野田正彰1992『喪の途上にて』岩波書店。
- ・P.メトカーフ、R.ハンティントン1996『死の儀礼：葬送習俗の人類学的研究〔第二版〕』池上良正、池上富美子（訳）未来社。
- ・Rosaldo, R. 2014. The Day of Shelly's Death: The Poetry and Ethnography of Grief. Durham & London: Duke University Press.

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40％）：リアクションペーパー、中間のまとめの課題等。
- ・学期末レポート（60％）：未提出の場合、原則E評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

講義レジュメ・関連資料の配布、課題等の提出は、学習支援システムを通じて行う予定。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートが未提出の場合、原則E判定とする。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

The aim of this course introduces the Anthropology of Death, Mourning and Burial. The goal of this course is to learn anthropological theories and concepts about death, and the rituals of mourning and the forms of burial. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final report: 60%(in case of no submission would be E grade), in class contribution:40%.

CUA200LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には私たちにはいっけん不思議に思える多様な宗教実践がある。この授業では、世界各地の多様な宗教実践の事例や、宗教実践を理解するための概念を紹介しながら、「宗教的なもの」について人類学的に考察する。また、私たちの日常生活の様々な側面から宗教を考える。それらを通じて、多様な宗教実践と自身の日常的な体験の間の連続性をとらえる。

【到達目標】

宗教人類学の基本的な視座を習得し、宗教実践の多様性と類似性をとらえる方法を身につける。
世界各地の事例を知り、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	人類学とは	宗教を人類学的に考える方法
第3回	呪術	日常生活と呪術の密接なつながり
第4回	アニミズム	アニミズムと自然
第5回	シャーマニズム	自と他
第6回	マルチモーダル人類学	民族誌と映像
第7回	コスモポリティクス	開発と宗教的なもの
第8回	身体①	モノと宗教的なもの
第9回	身体②	音と集合的沸騰
第10回	身体③	身体感覚と霊的経験
第11回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践①	経済と宗教的なもの
第12回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践②	国家と宗教的なもの
第13回	アメリカ先住民ナヴァホの宗教実践③	医療と宗教的なもの
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。授業内で資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習のための参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業計画は、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There is a wide variety of religious practices that seem strange to us at first glance. This course aims to help students understand the continuity between various religious practices and daily experiences. This course discusses "the religious" from an anthropological perspective, introducing examples of diverse religious practices and concepts for understanding religious practices. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of anthropology of religion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA200LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：

相田 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わたしたちが暮らす日本から、ちょうど地球の反対側に位置するラテンアメリカ。日常生活ではあまりなじみのない世界かもしれませんが、そこにはびっくりするほど多様で、面白い生活を営んでいる人々がいます。

この授業では、彼ら、ラテンアメリカの人びとの暮らしを国別に見ていくことで、彼らがしている生活はどのようなものか、彼らから学ぶことができることは何か、一緒に考えていきます。

【到達目標】

- 1) 世界は広く、驚くほど多様な文化があることを実感を持って理解すること。
- 2) 異文化の人について、生活者の目線から理解できるようになること。
- 3) 日本ではなじみが薄いラテンアメリカ地域の文化や社会について基本となる知識を身につけること。
- 4) グループワークなどを通じて、他者とともに学ぶ経験を積み、その能力を向上させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1) 授業では、まず冒頭に前回授業の内容確認のために小テストを行います。
- 2) その後、その日のテーマとなっている国の概要を、あらかじめ決めた履修者のグループから発表してもらいます。
- 3) その後、教員からテーマとなっている国の人々の生活を知る手がかりとなるようなトピックを紹介します。
- 4) 提示されたトピックについて理解を深めるため、ディスカッションや、クイズ、ワークショップなどから2～3個程度のグループワークを行います。
- 5) 最後にまとめを行います。

※履修者のコメントや質問等については授業内で適宜取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：異文化理解の方法とは何か？	この授業の概要を説明するとともに、異文化理解の方法について講義を行います。
2	ラテンアメリカの概要を知る：世界最初の「グローバル」化	ラテンアメリカの概要について「グローバル」化をキーワードに解説します。
3	食からラテンアメリカを知る：多様な人々が住む世界	ラテンアメリカの人々について「食」をキーワードに解説します。

4	ペルー：浮島を作って暮らす人々から学ぶ	ペルーのチチカカ湖で生きる人々の生活について、日本の生活との比較を交えながら想像することを試みます。
5	ボリビア：精霊たちと暮らす方法	ボリビアのアンデス地域における精霊信仰について、日本の生活との比較を交えながら想像することを試みます。
6	メキシコ：「落書き」で世界を表現する①	メキシコにおけるグラフィティや壁画の実践について文化的背景を考えつつ学びます。
7	メキシコ：「落書き」で世界を表現する②	メキシコにおけるグラフィティや壁画の実践について実際に壁画制作をしながら考えます。
8	キューバ：革命ってどんなもの？ ①	革命後のキューバに生きる人の生活について理解した上で、政治と日常の関係について議論します。
9	キューバ：革命ってどんなもの？ ②	キューバのドキュメンタリー映画を鑑賞して、政治と日常の関係について議論します。
10	ブラジル：熱帯雨林の生活を想像する	ブラジルのアマゾン地域における人と動物の関係について学びつつ、その関係性を想像してみます。
11	アルゼンチン：海を渡った「ニホンジン」と彼らの挑戦	アルゼンチンに渡った日本人について知るとともに、その足跡を次世代につなげるための方法を考えます。また次回授業に向けて準備をします。
12	日本：日本のラテンアメリカ人を訪ねて	ラテンアメリカから日本に来た方をゲストとして招き、講演を行います。
13	レポート課題の執筆計画を立てる	期末レポートの執筆計画を立て、グループで話し合います。
14	まとめ：世界は広い、そして多様である	授業の内容を再び「多様性」や「生活」などといったキーワードから振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
- 2) コメントペーパーを授業後に毎回提出する必要があります。また、毎回の授業冒頭で、前回の授業内容についての小テストを行うので、復習が求められます。
- 3) 授業では、グループごとに国の基本情報を調べて発表することになるので、相応の負担があることを理解しておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は必要としません。

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー 25%（各回の授業後に200字以上のコメントをLMSを通じて提出）

小テスト 25%（各回の授業冒頭で前回授業の内容について小テストを実施）

授業内グループ発表 20%（グループごとに国の基本情報を調べて発表）

期末レポート 30%（選択した国の生活について3000字程度のレポートを提出）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

1) 授業中にWordを使うことがあるので、PC・タブレット等を用意し、Wordのアプリをダウンロードしておいてください。

2) 本授業の受講に際して、文化人類学・ラテンアメリカ地域についての事前知識は必要ありませんが、レポート作成に必要な基本技能はあらかじめ身につけている必要があります。

【その他の重要事項】

- 1) 本授業は、グループワークや自主研究を中心にしたアクティブラーニング型の講義となるので、この点を理解した上で履修してください。
- 2) 授業では、グループごとに国の基本情報を調べて発表することになるので、相応の負担があることを理解しておいてください。
- 3) 履修生が多い場合、課題についての個別のフィードバックは行えない場合があります。また、授業成果物については、教育に活かすため、今回／今後の授業で他の履修生と共有される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Latin America lies on the opposite side of the world from Japan, making it a region that may feel unfamiliar. However, it is home to a fascinating and diverse range of cultures and lifestyles.

This course explores everyday life in different Latin American countries. By learning about their customs and experiences, students will gain insights into how people live in this region and what we can learn from them.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will:

- Develop an appreciation for the vast cultural diversity of the world.
- Learn to understand other cultures from the perspective of everyday life.
- Acquire foundational knowledge about Latin American societies and cultures.
- Improve their ability to learn collaboratively through group work.

【Course Format】

Each class follows this structure:

- A short quiz reviewing the previous session.
- A student group presentation on the country of the day.
- A lecture introducing key aspects of daily life in that country.
- Interactive activities such as discussions, quizzes, or workshops.
- A summary and closing discussion.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Expect about two hours of preparation and review per session.

A short reflection paper (comment paper) is required after each class.

Weekly quizzes will test knowledge of previous sessions.

Students will conduct research and present on assigned countries in groups.

【Grading Criteria】

- Comment Papers: 25% (200+ words submitted via LMS after each class)
- Quizzes: 25% (weekly short tests on past lessons)
- Group Presentation: 20% (research and presentation on a country)
- Final Report: 30% (approximately three A4 pages on daily life in a selected country)

CUA200LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：

菊池 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人は死をどのようなものと捉え、それにいかに向き合ってきたか。どのように死者を悼み、新たな関係性に置かれた自分を生きようとしてきたか。本授業では、死と悲嘆・喪に関する人類学的研究を概観しながら主要な理論や概念について学ぶとともに、世界の諸地域に見られる、死の観念、葬送儀礼、喪の様式の多様性を把握する。また、現代社会における死や看取りのあり方、追悼・哀悼をめぐる諸問題について、人類学的な視点から考える力を養う。死別の経験が、生き残った者の甦生の萌芽を宿していることを学ぶ。

【到達目標】

- ・死や悲嘆・喪をめぐる人々の多様な実践について、人類学的に理解することができる。
- ・現代社会における死や悲嘆・喪に関する問題について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義を基本とする。
- ・必要に応じて映像資料なども用いながら、理解を深める。
- ・毎回の授業後には、リアクションペーパーの提出をしていただく。提出されたリアクションペーパーは、次回授業の冒頭でいくつか紹介しながら、フィードバックを行う。
- ・授業に臨む前に、事前に指示した課題文献を読むなど、予習課題を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要などの確認、担当教員の研究フィールドの紹介
第2回	死と喪の人類学説史 I（～1980年代）	デュルケム的な構造機能主義を反映した、初期の人類学的研究
第3回	死と喪の人類学説史 II（1990年代～）	個人的な経験としての死別、既存の宗教的・文化的な喪の方法が適用し難い死、生者による死者への応答としての喪
第4回	死の観念	世界各地の様々な死の観念
第5回	葬送儀礼	世界各地の様々な葬送・埋葬の儀礼
第6回	悲嘆と喪	死者を悼むこと
第7回	中間のまとめ	前半の講義の理解度の確認を兼ねて、関連する民族誌を読み解く課題に取り組む
第8回	現代社会における死	自然災害や紛争などによる大量死や、脳死、孤独死など
第9回	看取り・死とケア	看取りと死をめぐるとケアの実践・文化

第10回	（エスノ・）ナショナルな追悼実践	国家や共同体による追悼実践
第11回	人々の哀悼実践	日々の暮らしのなかの哀悼実践
第12回	異形の死と向き合う	遺体が見つからないような、既存の喪の方法を用いることが困難な死（者）とどう向き合うか痛／悼むことと書くこと
第13回	文化人類学者と喪失経験	
第14回	まとめ	授業内容のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習：事前に指示された課題文献を読み、理解したことや疑問点などをまとめる。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献を各自の関心に応じて読み進めながら、授業の理解を深める。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・特に指定しない。
- ・原則、事前に講義レジュメを配布する。
- ・必要に応じて、関連する文献を紹介し、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、参考になるものを以下に挙げる。

- ・内堀基光、山下晋司 1986『死の人類学』弘文堂。
- ・北村毅 2009『死者たちの戦後誌—沖縄戦跡をめぐる人々の記憶』御茶の水書房。
- ・川村邦光 2013『弔い論』青弓社。
- ・デヴィッド・サドナウ 1992『病院でつくられる死』岩田啓靖・志村哲郎・山田富秋（共訳）せりか書房。
- ・野田正彰 1992『喪の途上にて』岩波書店。
- ・P.メトカーフ、R.ハンティントン 1996『死の儀礼：葬送習俗の人類学的研究 [第二版]』池上良正、池上富美子（訳）未来社。
- ・Rosaldo, R. 2014. The Day of Shelly's Death: The Poetry and Ethnography of Grief. Durham & London: Duke University Press.

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40％）：リアクションペーパー、中間のまとめの課題等。
- ・学期末レポート（60％）：未提出の場合、原則E評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

講義レジュメ・関連資料の配布、課題等の提出は、学習支援システムを通じて行う予定。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートが未提出の場合、原則E判定とする。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

The aim of this course introduces the Anthropology of Death, Mourning and Burial. The goal of this course is to learn anthropological theories and concepts about death, and the rituals of mourning and the forms of burial. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final report: 60%(in case of no submission would be E grade), in class contribution:40%.

CUA200LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

文化人類学L

2017年度以降入学者

サブタイトル：身体と社会

松山 啓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀後半～20世紀初頭に確立した文化人類学は、フィールドワークを通じて、世界の諸地域を調査・研究し、人間の文化や社会の複雑性や普遍性を探究する学問として発展してきました。

20世紀前半までの文化研究においては、生物医学的な身体を前提とし、その背後にある諸々の文化的・社会的事象の意味や精神を探るという認識論的な枠組が自明とされていたなかで、20世紀後半以降からそれらの前提を見直す動きが本格的に始まりました。そして社会において身体が果たす役割を主題化し、社会的・実践的に構成される「生きた身体」をとらえ直す文化研究が注目されるようになりました。

他方で、本授業のテーマである日本固有の伝統文化とされる「大相撲」は、農耕儀礼などにみられる神事としての役割や、祭礼に用いられる大衆文化といった娯楽芸能、さらに近代以降は、運動競技・スポーツといった特徴が見出される多義的な身体実践といえます。そこから照らし出されるのは、複雑な歴史的背景をもつ相撲のなかで醸成されてきた、自然と文化の領域を媒介する力士の身体の融通無碍な有様です。

本授業では、相撲/力士の独特な身体性に着目しつつ、自然と社会のあわいから「身体」をとらえ直す人類学の現代的な議論と結びつけて、身体と社会のかかわりについて考えます。

【到達目標】

- ①身体と社会のかかわりについて、人類学的な視点から理解することができる。
- ②授業で取り扱う内容について、自らの経験や身近な事例に引きつけて考えることができる。
- ③上記の①②について、自らの言葉で説明したり、文章として表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントによる講義形式の授業を基本とします。ただし、授業の内容をより深く理解するために、毎授業後のコメントペーパーの提出、グループディスカッションの実施を設定します。また、授業の前後に文献の購読を課すことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	身体研究の展開について
第2回	身体と社会	身体研究の萌芽について
第3回	フランス社会学派の身体研究	生をめぐる権力の変容について
第4回	規律権力から生政治へ	ブルデューの社会理論について

第5回	第1回～第4回までの小括とディスカッション	第1回～第4回までの内容についてのディスカッション
第6回	映像作品から学ぶ大相撲の世界	映画「辛抱」の鑑賞
第7回	実践共同体と学習	正統的周辺参加と徒弟制度について
第8回	稽古の身体性	稽古の思想と学習について
第9回	スポーツにおける身体文化	ボクシングジムの身体形成について
第10回	第6回～第9回までの小括とディスカッション	第6回～第9回までの内容についてのディスカッション
第11回	記憶装置としての身体	身体が多様な社会的役割について
第12回	日常生活における身体	名もなき実践と戦術について
第13回	メトニミーと身体	換喩の秩序にまつわる身体性について
第14回	関係論的な身体観	関係的かつ生成的な身体論へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で示される課題に取り組み、授業内容の整理および理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない

【参考書】

岸上伸啓（編）. 2018. 『はじめて学ぶ文化人類学』ミネルヴァ書房。
松村圭一郎; 中川理; 石井美保（編）. 2019. 『文化人類学の思考法』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

コメントペーパーの内容、グループワークやディスカッションを通じた他の学習者への貢献度から評価します。

レポート課題 60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

- ・本科目は、春学期に開講される関連科目とあわせて履修することを推奨します。
- ・回ごとの進捗状況により、内容や順序を変更する可能性があります。
- ・本科目では、コメントペーパーおよびレポートの作成にあたっては、生成AIの使用を認めません。

【Outline (in English)】

Cultural anthropology has been defined as a discipline that explores human “society” and “culture” through fieldwork investigating and researching various regional communities around the world.

Until the mid-20th century, cultural studies operated within an epistemological framework that took the biomedical body as a given, seeking to uncover the meaning and spirit behind various cultural and social phenomena. However, from the latter half of the 20th century onward, a movement to reexamine these premises began in earnest.

Consequently, cultural studies that thematized the role the body plays in society and re-examined the “living body” as socially and practically constituted gained attention.

This course focuses on the unique physicality of sumo/sumo wrestlers, linking it to contemporary anthropological discussions that re-examine the “body” from the intersection of nature and society, to consider the relationship between the body and society.

SOS200LA (その他の社会科学 / Social science 200)

社会思想 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学びます。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この3ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在です。この授業では3ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、その詩や文学、映画や音楽、芸能などの作品世界を学びます。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる
 テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる
 テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業の講義形態で授業を行います。受講生は各授業とも疑問、コメントなどのリアクションをする必要があり、それに対して授業時に応答していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、学ぶ内容、学ぶ方法、成績評価の方法などについてガイダンスを行います
2	導入	在日朝鮮人という存在
3	発生	日本の近代と在日朝鮮人の発生
4	定着化	定着化と二世の誕生
5	運動	さまざまな運動
6	コミュニティ	朝鮮人コミュニティの変容
7	強制動員	戦時下の在日朝鮮人
8	戦後	占領政策
9	帰国	帰国運動
10	二世（1）	二世たちの挑戦
11	二世（2）	転換期の思想と文化
12	グローバル化（1）	多民族化する日本社会
13	グローバル化（2）	国民の論理を超えて
14	まとめ	在日朝鮮人と日本の進む道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに指定するテキスト数十ページを事前に読んでおくことと授業の理解の助けになります。本授業の準備学習・復習時間は、各1～2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に説明します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

授業後に学習支援システムに提出する授業レビュー10回分を平常点として50%の成績評価を行います。評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によってレビューしていることとします。

さらに学期末の期末レポートを残りの50パーセントとし、合計100%として成績評価を行います。期末レポートは指定するテキストを読み、それをレポートすることとします。

毎週の授業レビューと期末レポートの両者を提出する必要があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で、前回の授業に対する受講生のコメントなどを紹介することで授業の理解が深まるので、このような相乗効果が起こるよう、授業中に実践していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the history and cultures of the Korean residents in Japan to students taking this course. They are also called Korean minority in Japan or ZAINICHI in Japanese. The aim of this course is to guide students acquire an understanding of the modern history of ZAINICHI Koreans and a variety of their identities ,poetry,literature,movies,music,and some other cultural works.

SOS200LA (その他の社会科学 / Social science 200)

社会思想 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学ぶことを目的とする。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この3ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在である。この授業では3ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティのありかたを様々な社会思想と関連させて学ぶことを目的としている。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる。

テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる。

在日朝鮮人の在り方を現代思想の視点から理解することができる。テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。各回の授業を進めるごとに毎回コメントを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていく。（基本的には対面授業だが、特別な事情が生じた場合のみオンライン授業を行うこともある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについて説明
2	導入（1）	在日朝鮮人という存在
3	導入（2）	歴史的背景
4	在日一世とは何か	植民地朝鮮から日本へ
5	在日二世とは何か	日本での定住化、二世論の誕生
6	金時鐘（キム・シジョン）を読む	朝鮮と日本に生きる（1）
7	金時鐘を読む（2）	朝鮮と日本に生きる（2）
8	ベネディクト・アンダーソン（1）	「想像の共同体」とは何か（1）
9	ベネディクト・アンダーソン（2）	「想像の共同体」とは何か（2）
10	フランツ・カフカを読む（1）	カフカと在日朝鮮人の共通平面を考える
11	フランツ・カフカを読む（2）	カフカという小説家の意味

12 フランツ・カフカを 読む
カフカ作品を読解する
(3)

13 「在日三世のカフカ」 在日の意味とカフカの作品世界とは何か（1）
をめぐって（1）

14 「在日三世のカフカ」 在日の意味とカフカの作品世界とは何か（2）
をめぐって（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。具体的には準備学習としてテキストの指定した箇所を事前に読んでおくこと、また復習としては講義内容を振り返り、参考文献を読み進めるなどのことができる。

【テキスト（教科書）】

第1回のガイダンス時に説明する。

【参考書】

その他の参考資料については授業中に指定、配布する。

【成績評価の方法と基準】

各授業後に提出してもらった授業レビューシート10回分を（50％）とし、さらに期末レポート1回分を（50％）とし、合わせて100パーセントとして成績評価を行う。この両者を提出することで成績評価を行う。評価の基準としては授業内容を正確に理解していること、その理解内容を自分の言葉で表現できていることとする。

【学生の意見等からの気づき】

各回の授業レビューを翌週に紹介することで受講生の理解が深まることが分かっているのでこの授業でもそれを行います。

【Outline (in English)】

This class aims to learn about the history and culture of Koreans in Japan. In this class, students will learn about the identity of Koreans in Japan and the world of works such as poetry, literature, movies, music, and performing arts, based on the modern history of Korea and Japan relation.

The standard time for preparation and review for taking classes is two hours each. Specifically, it is possible to read the specified parts of the text in advance as preparation study, and to review the lecture contents and read the reference materials as review.

Grades will be evaluated based on 10 comments (50%) submitted after each class, plus one final report (50%).

SOS200LA（その他の社会科学 / Social science 200）

社会思想 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

林 嵩文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、18世紀ドイツの哲学者イマヌエル・カントの著作『永遠平和のために』を丹念に読解することを目指します。この著作は国際平和論の古典としてよく知られていますが、その内容は平和論だけに尽きるものではありません。カントはこの著作で、自由とは何か、国家とは何か、法とは何か、政治と道德の関係をどうあるべきかといった原理的な問題に対する独自の解答を提示しています。そのロジックを紐解いていくと同時に批判的に思考していくことがこの授業の目的です。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- (1) 抽象的な思想体系を具体的な事例に適用して説明できるようになる。
- (2) 特定の著作の背景をなしている思想史的議論の蓄積を知ること、社会思想・政治思想の全体の流れを説明できるようになる。
- (3) 授業で得た知識を用いて、国際平和にまつわる様々な問題を分析し、それらに対する自分の立場を説明・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。ただし、毎回コメントカードを提出していただき、その次の授業でそのコメントについてのレスポンスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の概要および成績評価についての説明
第2回	『永遠平和のために』の背景	時代背景とカント哲学の概要
第3回	『永遠平和のために』第1章①	平和とは何か、他国の併合の禁止
第4回	『永遠平和のために』第1章②	常備軍廃止、戦時国債発行の禁止
第5回	『永遠平和のために』第1章③	内政不干涉、戦争における卑劣な行為の禁止
第6回	『永遠平和のために』第2章①	カントにおける共和主義
第7回	『永遠平和のために』第2章②	国際法の基礎としての「平和連合」
第8回	『永遠平和のために』第2章③	世界市民法と植民地主義
第9回	『永遠平和のために』補説	カントの歴史観
第10回	『永遠平和のために』付録1①	道德とは何か

第11回	『永遠平和のために』付録1②	道德にかなった政治はいかなるものか
第12回	『永遠平和のために』付録2①	法の公表性と抵抗権の否定
第13回	『永遠平和のために』付録2②	法の公表性と戦争の権利
第14回	まとめと課題説明	講義全体のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習・復習については、(1) 教科書の指定した範囲を熟読し、(2) 毎回の講義後にその内容についてコメントカードを執筆・提出すること。

【テキスト（教科書）】

カント『永遠平和のために』宇都宮芳明訳（改版）、岩波書店（岩波文庫）、2009年。

【参考書】

講義内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（受講態度とコメントカード、30%）と期末課題（レポート、70%）で成績を評価します。なお、講義内での不要な私語がなされる場合、期末課題の提出を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業内容への関心を高めるため、レジュメやスライドをより分かりやすいものに改善いたします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するための情報機器（パソコン、スマートフォン、タブレット）を準備してください。

【その他の重要事項】

授業に関連する質問は、授業後もしくは初回授業で案内するメールアドレスで受け付けます。

【Outline (in English)】

The course aims to read critically "Zum ewigen Frieden", written by Immanuel Kant. Students will get clues to think about central issues of society and politics, for example freedom, state, right, and the relation of politics and moral.

SOS200LA（その他の社会科学 / Social science 200）

社会思想 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

林 嵩文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、18世紀フランスの哲学者ジャン＝ジャック・ルソーの著作『社会契約論』を丹念に読解することを目指します。この著作は人民主権論あるいは民主主義論の古典としてよく知られていますが、その内容は単なる政治制度論ではありません。ルソーはこの著作で、独自の人間観を前提としたうえで、その人間同士が「正しい」秩序を作り上げるためにはどのような仕掛けが必要なのかを徹底的に考察しています。そのロジックを紐解いていくと同時に批判的に思考していくことがこの授業の目的です。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りです。

- (1) 抽象的な思想体系を具体的な事例に適用して説明できるようになる。
- (2) 特定の著作の背景をなしている思想史的議論の蓄積を知ること、社会思想・政治思想の全体の流れを説明できるようになる。
- (3) 授業で得た知識を用いて、人民主権の制度化にまつわる様々な問題を分析し、それらに対する自分の立場を説明・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。ただし、毎回コメントカードを提出していただき、その次の授業でそのコメントについてのレスポンスを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義全体の概要および成績評価についての説明
第2回	『社会契約論』の背景	時代背景とルソーの思想の概要
第3回	『社会契約論』1.1～1.6	社会契約の概念
第4回	『社会契約論』1.7～1.9	社会契約のメリット
第5回	『社会契約論』2.1～2.6	一般意志、主権、法の概念
第6回	『社会契約論』2.7	「立法者」とは何か
第7回	『社会契約論』2.8～2.12	法律の種類と人民の性質
第8回	『社会契約論』3.1～3.3	政府の概念
第9回	『社会契約論』3.4～3.10	政府の種類とその良し悪しを決める基準
第10回	『社会契約論』3.11～3.18	主権を維持する手段、および代表制の否定
第11回	『社会契約論』4.1～4.3	投票について

第12回	『社会契約論』4.4～4.7	共和政ローマとルソーの政治思想
第13回	『社会契約論』4.8	社会の基礎としての「市民宗教」
第14回	まとめと課題説明	講義全体のまとめとレポート課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。予習・復習については、(1) 教科書の指定した範囲を熟読し、(2) 毎回の講義後にその内容についてコメントカードを執筆・提出すること。

【テキスト（教科書）】

ルソー『社会契約論』桑原武夫・前川貞次郎訳、岩波書店（岩波文庫）、1954年。

【参考書】

講義内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（受講態度とコメントカード、30%）と期末課題（レポート、70%）で成績を評価します。なお、講義内での不要な私語がなされる場合、期末課題の提出を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業内容への関心を高めるため、レジュメやスライドをより分かりやすいものに改善いたします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するための情報機器（パソコン、スマートフォン、タブレット）を準備してください。

【その他の重要事項】

授業に関連する質問は、授業後もしくは初回授業で案内するメールアドレスで受け付けます。

【Outline (in English)】

The course aims to read critically "Du contract social", written by Jean-Jacques Rousseau. Students will get clues to think about central issues of society and politics, for example freedom, citizen, popular sovereignty, representation.

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L E

2017年度以降入学者

サブタイトル：

呉羽 正昭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生は、観光・ツーリズムに関する地理学の一般的概念を学びます。観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域スケールでツーリズムに関する特徴について理解します。また、ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、日本における具体的な地域事例とともに理解します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、環境と観光・ツーリズムとの関係について、日本におけるツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。予習課題と当該回の理解度を問う課題のまともに使用するとともに、講義内容に関する質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義テーマの概説
第2回	観光・ツーリズムの概念 —観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第3回	観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造	観光・ツーリズムの要素や構造を解説します
第4回	観光地理学の概念 —概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第5回	観光地域の変容プロセス —モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第6回	観光・ツーリズムの変遷 —古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第7回	エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します

第8回	エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第9回	日本の避暑ツーリズムの地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第10回	日本の湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第11回	日本のルール・ツーリズムの地域的展開	ルール・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第12回	日本のスキー・ツーリズムの地域的展開 —明治期～高度経済成長期	明治期から高度経済成長期までのスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第13回	日本のスキー・ツーリズムの地域的展開 —バブル期以降	バブル期以降のスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第14回	まとめ	全体のまとめと総括をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に既存文献やインターネットなどで自ら調べます。この予習課題の内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
(財)日本交通公社編 2004『観光読本第2版』東洋経済新報社。
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
ピアス, D. 著, 内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
呉羽正昭 2017『スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストラリアの比較研究』二宮書店。
矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験と平常点で評価します。期末試験の評価割合は全体の60%です。リアクションペーパーに記載された毎時間の講義内容の理解度を問う小課題と次回の講義内容に関する予習課題の内容をそれぞれ点数化し、両者を合わせて平常点（評価割合は全体の40%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline (in English)】

Students can study basic concept of geography related to tourism. Students can understand various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, Students learn various features, problems and future challenges of tourism that encompasses it, while understanding specific regional examples in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand the methodology of tourism geography and the regional characteristics of tourism in Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60% and Short reports: 40%.

GEO200LA（地理学 / Geography 200）

地理学 L F

2017年度以降入学者

サブタイトル：

加賀美 雅弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義はヨーロッパの地理的特徴を主に景観に着目して考察する。前半では、EUの拡大とともに変化するヨーロッパの地域的特性を、EU全体及びいくつかの国境地域に関して検討する。また後半では、ヨーロッパが個性ある諸地域からなることを、都市の街並みの形成と維持に着目して考察する。

【到達目標】

到達目標は以下の3点である。

- ① 歴史的背景を踏まえた地域理解の重要性を認識し、ヨーロッパを多角的にとらえることができる。
- ② 少数民族集団についての理解を深め、マイノリティ集団が直面する問題への関心を高めることができる。
- ③ 国家や地域の関係を多面的にとらえ、外国地域を理解するための総合的な視点を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し、配布資料とあわせて講義内容の理解をはかる。また、毎時間に課すリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認し、その総括を次の授業で解説する。また、出された質問に対する回答も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の全体像および進め方を説明する。
第2回	EUによるヨーロッパ統合（1）	EUの形成と拡大によって進められている地域統合について考える。
第3回	EUによるヨーロッパ統合（2）	EUの拡大によって深刻化している地域問題について考える。
第4回	EUによるヨーロッパ統合（3）	EUの拡大によって深刻化している地域統合の課題について考える。
第5回	EU域内の国境（1）	フランスとドイツの国境が変更を繰り返してきた歴史とその影響について考える。
第6回	EU域内の国境（2）	フランスとドイツの国境がEU域内で開放された影響について考える。
第7回	EU域内の国境（3）	東ヨーロッパの国境の歴史的経緯と現在の課題について考える。
第8回	中間まとめ（試験を含む）	統合が進むヨーロッパの国境と地域の変化についての理解を確認する。

第9回	ヨーロッパの都市の構造	旧市街を中心にしたヨーロッパの都市構造について考える。
第10回	ヨーロッパにおける街並みの形成と維持	19世紀以来の都市における街並みの形成と整備の特徴について考える。
第11回	ヨーロッパにおける街並みの復元	都市において維持・復元される街並みの特徴とその意義について考える。
第12回	ヨーロッパの外国人の街並み	増加する外国人の街並みとその意義について考える。
第13回	ヨーロッパにおける街並みをもたない人々	固有の街並みをもたない 로마の問題と今後の展望について考える。
第14回	最終まとめ（試験を含む）	授業内容を整理し、ヨーロッパの街並みと国民、社会との関わりについての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、参考書を読んで内容を整理しておく。復習として、授業で学んだ内容をテキストを読み直してまとめる作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『国境で読み解くヨーロッパー境界の地理紀行』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円

【成績評価の方法と基準】

第8回の中間まとめに実施する試験33%、第14回の最終まとめに実施する試験：33%、授業中に課すリアクションペーパーの内容：34%

【学生の意見等からの気づき】

授業内で行うリアクションペーパーに授業に関する質問や意見を記載することによって、その内容をできるだけ次の授業に反映させる。

【Outline (in English)】

This lecture examines the geographical features of Europe, mainly focusing on the landscape. In the first half, we will examine the regional characteristics of Europe that change with the expansion of the EU with regard to the EU as a whole and some border areas. In the second half, we will consider that Europe is composed of unique regions, focusing on the formation and maintenance of urban landscapes. The goal of this lecture is the following three points. (1) You will be able to recognize the importance of understanding regions based on their historical background and understand Europe from multiple perspectives. (2) You will be able to deepen your understanding of ethnic minority groups and increase your interest in the issues they face. (3) You will be able to understand the relationships between nations and regions from multiple perspectives and acquire a comprehensive perspective for understanding foreign regions. Your overall grade in the class will be decided based on the following, examinations taken in the 8th class (33%) and in the last class (33%), and reaction paper in every class (34%).

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学A

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第2回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第3回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第4回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第5回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。

第6回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第7回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第8回	代数系	群構造について学ぶ。
第9回	群の理論の応用	オイラーの定理について学ぶ。
第10回	連立合同式	異なる周期をもつ2つの事柄について考える。
第11回	連立合同式	異なる周期をもつ3つ以上の事柄について考える。
第12回	整数の理論の応用	2つの素数の積について調べる。
第13回	整数の理論の応用	RSA暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第14回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価(100%)する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)	
教養数学B	2017年度以降入学者
平田 康史	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位	
2015年度までに「数学、情報を読むためにII」の単位を修得済み の場合、履修不可	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第2回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第3回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつながりかえについて考える。
第4回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第5回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第6回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。

第7回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第8回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第9回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第10回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第11回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第12回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第13回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第14回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価(100%)する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学A

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第2回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第3回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第4回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第5回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。

第6回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第7回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第8回	代数系	群構造について学ぶ。
第9回	群の理論の応用	オイラーの定理について学ぶ。
第10回	連立合同式	異なる周期をもつ2つの事柄について考える。
第11回	連立合同式	異なる周期をもつ3つ以上の事柄について考える。
第12回	整数の理論の応用	2つの素数の積について調べる。
第13回	整数の理論の応用	RSA暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第14回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価(100%)する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さをなどを調節したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)	
教養数学B	2017年度以降入学者
平田 康史	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位	
2015年度までに「数学、情報を読むためにII」の単位を修得済み の場合、履修不可	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第2回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第3回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつながりかえについて考える。
第4回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第5回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第6回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。

第7回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第8回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第9回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第10回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第11回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第12回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第13回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第14回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価(100%)する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学A

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第14回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにII」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	さまざまな応用	黄金比との関係
第13回	マルコフ3数	マルコフ3数の定義と例
第14回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の2部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学A

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第14回	さまざまな応用	社会数理への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA（数学 / Mathematics 100）

教養数学B

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにII」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	さまざまな応用	黄金比との関係
第13回	マルコフ3数	マルコフ3数の定義と例
第14回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の2部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学A

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもって、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ。
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。

第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第14回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにII」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	包除原理	重なり合った集合の大きさ。
第13回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する。
第14回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学A

2017年度以降入学者

井野 海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(前半)数学の言葉	数と式を「集合と論理」で記述する。
第2回	わり算	数と式のわり算について確認する。
第3回	分解	数と式を基本的な要素で分解する。
第4回	代数学の基本定理	代数学の基本定理について学ぶ。
第5回	微分	式の微分について確認する。
第6回	応用(遊び)	数のabcと式のABCを比較する。

第7回	発展(おまけ)	ABC定理をもっと調べる。前半のまとめ。
第8回	(後半)数学の言葉	関数の概念を「集合と論理」で記述する。
第9回	実指数関数	実数上の指数関数について学ぶ。
第10回	複素指数関数	複素数上の指数関数について学ぶ。
第11回	1のn乗根	オイラーの公式と1のn乗根について学ぶ。
第12回	超越性	超越数と超越関数について学ぶ。
第13回	応用(遊び)	数のSchanuelと関数のAx-Schanuelについて比較する。
第14回	発展(おまけ)	Ax-Schanuelの定理についてもっと調べる。後半のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA（数学 / Mathematics 100）	
教養数学B	2017年度以降入学者
井野 海	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水3/Wed.3	
単位数：2単位	
2015年度までに「数学、情報を読むためにII」の単位を修得済みの場合、履修不可	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(前半)数学の言葉	グラフの概念を「集合と論理」で記述する。
第2回	グラフの種類	様々なグラフを比較する。
第3回	グラフの関係	2つのグラフの関係について考える。
第4回	オイラーグラフ	オイラーグラフについて学ぶ。
第5回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第6回	木	木グラフについて学ぶ。
第7回	応用(遊び)	最短経路問題について考える。
第8回	(後半)平面性	平面的グラフについて学ぶ。
第9回	オイラーの公式	グラフのオイラーの公式について学ぶ。
第10回	彩色	グラフの彩色について考える。
第11回	点の彩色	点の彩色について学ぶ。

第12回	応用(おまけ)	地図の彩色と四色問題について考える。
第13回	ラムゼーの定理	鳩の巣原理とラムゼーの定理について学ぶ。
第14回	発展(おまけ)	オイラーの公式とその応用について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学A

2017年度以降入学者

井野 海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(前半)数学の言葉	数と式を「集合と論理」で記述する。
第2回	わり算	数と式のわり算について確認する。
第3回	分解	数と式を基本的な要素で分解する。
第4回	代数学の基本定理	代数学の基本定理について学ぶ。
第5回	微分	式の微分について確認する。
第6回	応用(遊び)	数のabcと式のABCを比較する。

第7回	発展(おまけ)	ABC定理をもっと調べる。前半のまとめ。
第8回	(後半)数学の言葉	関数の概念を「集合と論理」で記述する。
第9回	実指数関数	実数上の指数関数について学ぶ。
第10回	複素指数関数	複素数上の指数関数について学ぶ。
第11回	1のn乗根	オイラーの公式と1のn乗根について学ぶ。
第12回	超越性	超越数と超越関数について学ぶ。
第13回	応用(遊び)	数のSchanuelと関数のAx-Schanuelについて比較する。
第14回	発展(おまけ)	Ax-Schanuelの定理についてもっと調べる。後半のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA（数学 / Mathematics 100）	
教養数学B	2017年度以降入学者
井野 海	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水4/Wed.4	
単位数：2単位	
2015年度までに「数学、情報を読むためにII」の単位を修得済みの場合、履修不可	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	(前半)数学の言葉	グラフの概念を「集合と論理」で記述する。
第2回	グラフの種類	様々なグラフを比較する。
第3回	グラフの関係	2つのグラフの関係について考える。
第4回	オイラーグラフ	オイラーグラフについて学ぶ。
第5回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第6回	木	木グラフについて学ぶ。
第7回	応用(遊び)	最短経路問題について考える。
第8回	(後半)平面性	平面的グラフについて学ぶ。
第9回	オイラーの公式	グラフのオイラーの公式について学ぶ。
第10回	彩色	グラフの彩色について考える。
第11回	点の彩色	点の彩色について学ぶ。

第12回	応用(おまけ)	地図の彩色と四色問題について考える。
第13回	ラムゼーの定理	鳩の巣原理とラムゼーの定理について学ぶ。
第14回	発展(おまけ)	オイラーの公式とその応用について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA（数学 / Mathematics 100）

教養数学A

2017年度以降入学者

桔梗 宏孝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1整数の理論、2代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	時計算の一般化	整数の割り算の原理と合同式を学ぶ
第2回	最大公約数とユークリッドの互除法	最大公約数を計算するためのユークリッドの互除法を学ぶ
第3回	拡張されたユークリッドの互除法	3ccの容器と5ccの容器で1ccの水を作るような問題の解法を学びます。
第4回	百五減算と中国剰余定理	1から100の数を思いうかべてください。それを3, 5, 7で割った余りを教えてください。思い浮かべた数を当ててみましょう。このようなパズルの解法を学びます。

第5回	オイラーの定理とフェルマーの定理	x と n が互いに素のとき、 x のべきを n で割った余りを順に計算していくといつか余りが1になることを学びます。
第6回	高速累乗計算	x の累乗を n で割った余りは n が大きくなっても高速に計算できることを学びます。
第7回	ディーリングシャッフルの周期	カードを同じ方法で何度もシャッフルするといつかもとにもどります。その周期について学びます。手品の種にできます。
第8回	完全シャッフルの周期	カードの山を2つにわけて、理想的にバラバラと交互にまぜる方法の周期について学びます。
第9回	置換とあみだくじ	カードに限らず、並べ替え一般について学びます。
第10回	偶置換と奇置換	あみだくじの横線の個数について考察します。
第11回	偶置換と15パズル	正方形の枠の中に小さい正方形を15個並べて、スライドさせながら揃えていくパズルの数理を学びます。隣同士のピースを交換したときもどせるでしょうか。
第12回	ルービックキューブの解説	3×3×3のルービックキューブの揃え方を学びます。また、数理的な解析のために、パーツの配置や向きのとらえ方を学びます。
第13回	ルービックキューブの数理	ルービックキューブにも可能なパターンと不可能なパターンがあります。不可能なパターンがなぜ不可能なのかを学びます。置換の偶奇とmod 2やmod 3で考えたある量がポイントになります。
第14回	側面が絵のルービックキューブ	側面が絵のルービックキューブは少しだけ難しくなっています。その数理を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

教養数学B

2017年度以降入学者

桔梗 宏孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにII」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第3回	安定マッチング1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第4回	安定マッチング2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、安定マッチング問題を理解する。
第5回	課題提出1	最初の課題を与える。
第6回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。

第7回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義.	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。
第8回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第9回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性.	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第10回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第11回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第12回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第13回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価(100%)する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。演習課題は返却して評価をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度から経営学部以外の1年生も受講できるようになり、100人規模の教室でも満席に近かった。授業支援アシスタントに課題返却等の作業を担ってもらい、講義や演習の時間は十分に確保することができた。定期試験の答案受領から成績の提出期限まで日数が少なかったため、本年度は最終授業の時間内に期末試験を行いたい。その分だけ昨年度よりも授業回数が減るため、慎重に授業を進行したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。演習課題は返却して評価をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修人数は50名程度で他のクラスよりは多かった。経営学部の1年生が中心的で、履修生どうしの互助が比較的多かった。2年生以上の履修生は、人数は少ないながら素養が高かった。春学期の基礎数学Ⅰを経ずに受講するならば、少なくとも教科書は必ず準備し、最低限の素養を事前に身につけた方が良いと思われる。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。演習課題は返却して評価をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

推奨クラスは強制ではないため、1時限は敬遠され、当該クラスは過少傾向があった。人数は少ないながら、才能と意欲を兼ね備えた履修生が多かった。定期試験の答案受領から成績の提出期限まで日数が少なかったため、本年度は最終授業の時間内に期末試験を行いたい。その分だけ昨年度よりも授業回数が増えるため、慎重に授業を進行したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。演習課題は返却して評価をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

人数は十数名で過少傾向が続いたが、春学期の基礎数学Ⅰと同様に履修生の素養が高かった。どちらかと言えば、大人数で助け合いながら取り組むよりも静かな環境で集中して取り組みたい学生向きのクラスであるように感じられた。講義内容が濃密になりすぎないように配慮したい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学 I

2017年度以降入学者

井沼 学

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

井沼 学

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

井沼 学

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。提出課題は返却して評価をフィードバックする。課題の回収や返却は授業支援アシスタントが行うことがある。重要な連絡には学習支援システムを利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列1	数列とは
第3回	数列2	等差数列
第4回	数列3	等比数列
第5回	数列4	Σ 記号
第6回	数列5	階差数列
第7回	指数と対数1	指数とは
第8回	指数と対数2	指数の計算
第9回	指数と対数3	対数とは
第10回	指数と対数4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度まで1年生に関しては経営学部だけが受講対象であったが、本年度から法文営国環キ6学部に拡大して開講することになった。昨年度はクラス分けが廃止されたことで時限によって受講人数の偏りが大きく、人数の多いクラスでは授業運営に苦慮した。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA (数学 / Mathematics 100)

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

井沼 学

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。提出課題は返却して評価をフィードバックする。課題の回収や返却は授業支援アシスタントが行うことがある。重要な連絡には学習支援システムを利用することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎1	微分とは
第3回	微分の基礎2	導関数の計算
第4回	微分の基礎3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎4	微分の線形性
第6回	微分の基礎5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ3	関数の極限
第11回	関数のグラフ4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ5	さまざまな関数
第13回	応用1	マクローリン展開
第14回	応用2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度まで1年生に関しては経営学部だけが受講対象であったが、本年度から法文営国環キ6学部に拡大して開講することになった。昨年度はクラス分けが廃止されたことで時限によって受講人数の偏りが大きく、授業運営に苦慮した。

【その他の重要事項】

同じ科目が複数の曜日時限に開設されています。いずれも法文営国環キの全学年で履修可能ですが、受講者数平均化のため、1年生に関しては推奨クラスを設定しています。必修授業と重複等の場合は、推奨クラスにかかわらず、他の曜日時限で開設された同名科目の履修を検討して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY100LA (物理学 / Physics 100)	
入門物理学 A	2017年度以降入学者
サブタイトル：身の周りの物理学	
吉田 智	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は私たちの生活に無縁だと思っていませんか？
この授業は、物理学が私たちの生活にどのように関わっているかについて理解を深めることを目的としています。
19世紀末から20世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがあります。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからです。この講義では最初に、私たちの身の回りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力の法則について解説します。続いて、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギーについて解説していきます。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体について紹介する。
第2回	惑星の運動	コペルニクスやケプラーによる惑星の運動の研究について解説する。
第3回	地上での物体の運動	ガリレオによる、地上における物体の運動の研究について解説する。
第4回	空中での物体の運動	空中での物体の運動について具体的な例を紹介する。
第5回	空気抵抗	空気抵抗とそれが物体の運動に与える影響について解説し、その応用について紹介する。
第6回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力の法則について解説し、そこから見出された地球の内部構造について紹介する。

第7回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説し、国際宇宙ステーションや人工衛星の運動について紹介する。
第8回	万有引力の法則とケプラーの法則	万有引力の法則とケプラーの法則の関係を解説し、そこに現れる曲線が日常生活でどのように応用されているのかを紹介する。
第9回	無重力状態での物体の運動	地上では見ることができない無重力状態での物体の運動について紹介する。
第10回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則、更に宇宙速度について解説する。
第11回	熱の法則とエネルギー変換	熱に関係する法則と、私たちが普段利用しているエネルギーの変換について解説する。
第12回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説し、この宇宙の最下限の温度（絶対零度）について紹介する。
第13回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係、熱の正体について解説する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：素粒子から宇宙まで

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は私たちの生活に無縁だと思っていませんか？

この授業は、物理学が私たちの生活にどのように関わっているかについて理解を深めることを目的としています。

20世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100年前と比べて大きく変化しました。現代物理学の特徴の1つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や逆に非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことです。現在も物理学は発展し続けており、例えば21世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしています。この講義では、最初に身近な光や電磁波について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説します。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章 < 20世紀以降の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第2回	光の性質 < 波動性と粒子性 >	光が示す、波の性質や太陽電池に関係する粒子の性質について解説する。
第3回	光の性質 < 二重性 >	ミクロの世界に起こる不思議な現象について解説し、その応用について紹介する。
第4回	原子の構造 < 電子と原子核の発見 >	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子と原子核の発見に至る研究について解説する。
第5回	原子の構造 < ボーアの理論 >	原子の構造と炎色反応について解説する。
第6回	原子核の構造とエネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。

第7回	核分裂反応と核融合反応	核分裂反応と核融合反応について解説し、それらの応用について紹介する。
第8回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第9回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の1つである超新星爆発の仕組みについて解説する。
第10回	宇宙での元素合成	身の周りに存在する元素がこの宇宙の中でどのようにして合成されたのか、その過程について解説する。
第11回	クォークとレプトン	現在の万物の基となる素粒子であるクォークとレプトン、更には現在探査中の素粒子について解説する。
第12回	宇宙の進化	138億年間における宇宙の進化の過程について解説する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造、そして現在の宇宙論について解説する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントや資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究が進められている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第2回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第3回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。
第4回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。

第5回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第6回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第7回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第8回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようなになるか解説する。
第9回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第10回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する。
第11回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第12回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第13回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第14回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第13回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(約50%)と小テスト(約50%)により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象やその背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。

秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第14回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第2回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの自然現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第3回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第4回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第5回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第6回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第7回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第8回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する

第9回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第10回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第11回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第12回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第13回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する。
第14回	まとめと試験	秋学期のまとめを行うとともに、試験を実施する。 また、これまでに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the beginning and evolution of the universe

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end exam (70%) and usual performance score (30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)			9	色々な運動(1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。
入門物理学 A			10	色々な運動(2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
サブタイトル：身近な物理学			11	色々な運動(3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
石川 壮一			12	色々な運動(4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火3/Tue.3			13	色々な運動(5)	宇宙における天体の運動や地球外の天体に向かうための力学的条件について考える。
単位数：2単位			14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。
その他属性：〈優〉			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。		
・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関係する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。			・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。		
・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。			・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。		
【到達目標】			【テキスト（教科書）】		
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。			テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。		
・我々の身の回りで行っている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。			【参考書】		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）		
【主な授業方法】			・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）		
L 講義 /Lecture			・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」 アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）		
【授業の進め方と方法】			【成績評価の方法と基準】		
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。			平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする。		
・適時、理解度を確認するための課題を出題する。			【学生の意見等からの気づき】		
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。			授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			【学生が準備すべき機器他】		
なし / No			資料配布のために学習支援システムを利用する。		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			【Outline (in English)】		
なし / No			This course introduces basics of Newtonian mechanics, which are very fundamental filed of physics.		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			At the end of the course, students are expected to understand how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.		
回	テーマ	内容	Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.		
1	序章(1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。	Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).		
2	序章(2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。			
3	天界の法則と地上の法則(1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。			
4	天界の法則と地上の法則(2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。			
5	天界の法則と地上の法則(3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。			
6	運動法則(1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。			
7	運動法則(2)	万有引力の法則について理解する。			
8	運動法則(3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。			

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：熱と光

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（蜃気楼、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。

・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。

・適時、理解度を確認するための課題を出題する。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象(1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象(2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象(3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象(4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光(1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光(2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光(1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光(2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	物の色と光(1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光(2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。

・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.

At the end of the course, students are expected to understand how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行う。受講に必要な授業情報はHoppii（時間割の講義内情報や学習支援システム）で公開する。授業前後に必ずHoppiiを確認しよう。また、授業を録画してリンクをHoppii（時間割のURLリンク）で公開するので欠席をしたときは録画を視聴して学習して欲しい。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。小テストなどの課題のフィードバックは授業中に行う。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第2回	山手線が等速度で走 ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第3回	自然は重ね合わせを 好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第4回	投げたボールの未来 を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第5回	勢いがつくと止まら ない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第6回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第7回	ジェットコースター が滑り始めた高さを 越えられないのはな ぜか	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第8回	光子帆船イカロス	万有引力を学び地球の質量を求める。
第9回	二人が引き合う理由	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第10回	地面に落ちないで落 下を続ける方法	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第11回	タイムマシンはすで にある	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第12回	相対論的ダイエット 法	動く物体の質量が増加することを学ぶ。
第13回	ダイエットしても重 くなる	春学期の授業のまとめと解説をする。
第14回	宇宙をもっと楽しも う・まとめと解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力があるかは自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。
本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。授業の録画を見直すのも良いだろう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）のpdfファイルをHoppii（学習支援システム）で公開する。教材中の図・表やレジュメなどを印刷したものを授業時に配布する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利, 左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第1巻, 第2巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論のABC 福島肇(著) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、授業時に行う小テスト（70%）とコメントシート（30%）で評価する予定である。テストでは自筆ノートと配布物の参照を認める。単位認定のためには授業回数の2/3（9回）以上の出席が必要である。やむを得ない理由による1、2回の欠席が成績評価に大きく影響しないように評価方法を工夫する。感染症罹患などによる欠席配慮措置書類や大学が認める公欠届（大会参加や教育実習等）が提出された場合は欠席配慮を行うが、それ以外の欠席については代替措置（代替レポートや小テストの後受験）は行わない。小テストは、授業に参加すれば容易に解答できるような問題とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. There will be no regular exams, but grades will be evaluated based on quizzes (70%) and class participation (comment sheets, 30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる宇宙の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

講義形式の対面授業を行う。受講に必要な授業情報はHoppii（時間割の講義内情報や学習支援システム）で公開する。授業前後に必ずHoppiiを確認しよう。また、授業を録画してリンクをHoppii（時間割のURLリンク）で公開するので欠席をしたときは録画を視聴して学習して欲しい。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。小テストなどの課題のフィードバックは授業中に行う。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第2回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第3回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	波動の基本を学ぶ。

第4回	粒子は波である	光のスペクトルと極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第5回	スカスカの物質をつかめるワケ	電気と磁気の基本を学ぶ。
第6回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第7回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第8回	宇宙空間への入り口	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第9回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第10回	太陽がくしゃみをすると地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第11回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第12回	太陽の一生	恒星の誕生と進化について学ぶ。
第13回	我々は宇宙の子だ	超新星爆発や中性子星・ブラックホールについて学ぶ。
第14回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持とう。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。

本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。授業の録画を見直すのも良いだろう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）のpdfファイルをHoppii（学習支援システム）で公開する。教材中の図・表やレジュメなどを印刷したものを授業時に配布する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第1巻、第2巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎(監修) 共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎(監修) 共立出版
- ・やさしい放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdfファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、授業時に行う小テスト（70%）とコメントシート（30%）で評価する予定である。テストでは自筆ノートと配布物の参照を認める。単位認定のためには授業回数の2/3（9回）以上の出席が必要である。やむを得ない理由による1、2回の欠席が成績評価に大きく影響しないように評価方法を工夫する。感染症罹患などによる欠席配慮措置書類や大学が認める公欠届（大会参加や教育実習等）が提出された場合は欠席配慮を行うが、それ以外の欠席については代替措置（代替レポートや小テストの後受験）は行わない。小テストは、授業に参加すれば容易に解答できるような問題とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅インターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. There will be no regular exams, but grades will be evaluated based on quizzes (70%) and class participation (comment sheets, 30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究が進められている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第2回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第3回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。
第4回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。

第5回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第6回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第7回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第8回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようなになるか解説する。
第9回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第10回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する。
第11回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第12回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第13回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第14回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第13回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(約50%)と小テスト(約50%)により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象やその背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。

秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第14回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第2回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの自然現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第3回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第4回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第5回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第6回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第7回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第8回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する

第9回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第10回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第11回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第12回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第13回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する。
第14回	まとめと試験	秋学期のまとめを行うとともに、試験を実施する。 また、これまでに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the beginning and evolution of the universe

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end exam (70%) and usual performance score (30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)	
入門物理学 A	2017年度以降入学者
サブタイトル：身の周りの物理学	
吉田 智	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は私たちの生活に無縁だと思っていませんか？
この授業は、物理学が私たちの生活にどのように関わっているかについて理解を深めることを目的としています。
19世紀末から20世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがあります。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからです。この講義では最初に、私たちの身の回りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力の法則について解説します。続いて、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギーについて解説していきます。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体について紹介する。
第2回	惑星の運動	コペルニクスやケプラーによる惑星の運動の研究について解説する。
第3回	地上での物体の運動	ガリレオによる、地上における物体の運動の研究について解説する。
第4回	空中での物体の運動	空中での物体の運動について具体的な例を紹介する。
第5回	空気抵抗	空気抵抗とそれが物体の運動に与える影響について解説し、その応用について紹介する。
第6回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力の法則について解説し、そこから見出された地球の内部構造について紹介する。

第7回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説し、国際宇宙ステーションや人工衛星の運動について紹介する。
第8回	万有引力の法則とケプラーの法則	万有引力の法則とケプラーの法則の関係を解説し、そこに現れる曲線が日常生活でどのように応用されているのかを紹介する。
第9回	無重力状態での物体の運動	地上では見ることができない無重力状態での物体の運動について紹介する。
第10回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則、更に宇宙速度について解説する。
第11回	熱の法則とエネルギー変換	熱に関係する法則と、私たちが普段利用しているエネルギーの変換について解説する。
第12回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説し、この宇宙の最下限の温度（絶対零度）について紹介する。
第13回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係、熱の正体について解説する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：素粒子から宇宙まで

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は私たちの生活に無縁だと思いませんか？

この授業は、物理学が私たちの生活にどのように関わっているかについて理解を深めることを目的としています。

20世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100年前と比べて大きく変化しました。現代物理学の特徴の1つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や逆に非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことです。現在も物理学は発展し続けており、例えば21世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしています。この講義では、最初に身近な光や電磁波について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説します。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章 < 20世紀以降の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第2回	光の性質 < 波動性と粒子性 >	光が示す、波の性質や太陽電池に関係する粒子の性質について解説する。
第3回	光の性質 < 二重性 >	ミクロの世界に起こる不思議な現象について解説し、その応用について紹介する。
第4回	原子の構造 < 電子と原子核の発見 >	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子と原子核の発見に至る研究について解説する。
第5回	原子の構造 < ボーアの理論 >	原子の構造と炎色反応について解説する。
第6回	原子核の構造とエネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。

第7回	核分裂反応と核融合反応	核分裂反応と核融合反応について解説し、それらの応用について紹介する。
第8回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第9回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の1つである超新星爆発の仕組みについて解説する。
第10回	宇宙での元素合成	身の周りに存在する元素がこの宇宙の中でどのようにして合成されたのか、その過程について解説する。
第11回	クォークとレプトン	現在の万物の基となる素粒子であるクォークとレプトン、更には現在探査中の素粒子について解説する。
第12回	宇宙の進化	138億年間における宇宙の進化の過程について解説する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造、そして現在の宇宙論について解説する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントや資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行う。受講に必要な授業情報はHoppii（時間割の講義内情報や学習支援システム）で公開する。授業前後に必ずHoppiiを確認しよう。また、授業を録画してリンクをHoppii（時間割のURLリンク）で公開するので欠席をしたときは録画を視聴して学習して欲しい。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。小テストなどの課題のフィードバックは授業中に行う。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第2回	山手線が等速度で走 ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第3回	自然は重ね合わせを 好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第4回	投げたボールの未来 を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第5回	勢いがつくと止まら ない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第6回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第7回	ジェットコースター が滑り始めた高さを 越えられないのはな ぜか	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第8回	光子帆船イカロス	万有引力を学び地球の質量を求める。
第9回	二人が引き合う理由	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第10回	地面に落ちないで落 下を続ける方法	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第11回	タイムマシンはすで にある	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第12回	相対論的ダイエット 法	動くとき物体の質量が増加することを学ぶ。
第13回	ダイエットしても重 くなる	春学期の授業のまとめと解説をする。
第14回	宇宙をもっと楽しも う・まとめと解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力があるかはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。
本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。授業の録画を見直すのも良いだろう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）のpdfファイルをHoppii（学習支援システム）で公開する。教材中の図・表やレジュメなどを印刷したものを授業時に配布する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利, 左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第1巻, 第2巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論のABC 福島肇(著) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、授業時に行う小テスト（70%）とコメントシート（30%）で評価する予定である。テストでは自筆ノートと配布物の参照を認める。単位認定のためには授業回数の2/3（9回）以上の出席が必要である。やむを得ない理由による1、2回の欠席が成績評価に大きく影響しないように評価方法を工夫する。感染症罹患などによる欠席配慮措置書類や大学が認める公欠届（大会参加や教育実習等）が提出された場合は欠席配慮を行うが、それ以外の欠席については代替措置（代替レポートや小テストの後受験）は行わない。小テストは、授業に参加すれば容易に解答できるような問題とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. There will be no regular exams, but grades will be evaluated based on quizzes (70%) and class participation (comment sheets, 30%).

PHY100LA (物理学 / Physics 100)

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる宇宙の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

講義形式の対面授業を行う。受講に必要な授業情報はHoppii（時間割の講義内情報や学習支援システム）で公開する。授業前後に必ずHoppiiを確認しよう。また、授業を録画してリンクをHoppii（時間割のURLリンク）で公開するので欠席をしたときは録画を視聴して学習して欲しい。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。小テストなどの課題のフィードバックは授業中に行う。授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第2回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第3回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	波動の基本を学ぶ。

第4回	粒子は波である	光のスペクトルと極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第5回	スカスカの物質をつかめるワケ	電気と磁気の基本を学ぶ。
第6回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第7回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第8回	宇宙空間への入り口	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第9回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第10回	太陽がくしゃみをすると地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第11回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第12回	太陽の一生	恒星の誕生と進化について学ぶ。
第13回	我々は宇宙の子だ	超新星爆発や中性子星・ブラックホールについて学ぶ。
第14回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持とう。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。

本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。授業の録画を見直すのも良いだろう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）のpdfファイルをHoppii（学習支援システム）で公開する。教材中の図・表やレジュメなどを印刷したものを授業時に配布する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第1巻、第2巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎(監修) 共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎(監修) 共立出版
- ・やさしい放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdfファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、授業時に行う小テスト（70%）とコメントシート（30%）で評価する予定である。テストでは自筆ノートと配布物の参照を認める。単位認定のためには授業回数の2/3（9回）以上の出席が必要である。やむを得ない理由による1、2回の欠席が成績評価に大きく影響しないように評価方法を工夫する。感染症罹患などによる欠席配慮措置書類や大学が認める公欠届（大会参加や教育実習等）が提出された場合は欠席配慮を行うが、それ以外の欠席については代替措置（代替レポートや小テストの後受験）は行わない。小テストは、授業に参加すれば容易に解答できるような問題とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅インターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. There will be no regular exams, but grades will be evaluated based on quizzes (70%) and class participation (comment sheets, 30%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学 A	2017年度以降入学者
田中 浩輔	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：火1/Tue.1
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶ、あるいはもう一度基礎から学び直したい学生を対象としています。本講座では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、細胞の活動、遺伝子であるDNAの働き、さらに遺伝子技術の応用を学びます。これらの現代の生物学が人間生活や社会に対して及ぼす影響についても考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つ有ります。第一に、ミクロレベルでの生命現象の基本的知識を理解し身につけることです。第二に生命現象をコントロールできる技術の発達を知り、それらが人間生活や社会にもたらす影響に對し向き合い、自分の意見を持つことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面方式で実施します。

パワーポイントを用いた講義形式で授業を実施します。

必ずノートを取るようにして下さい。

各回に理解度をチェックする目的でリアクションペーパー等を実施します。

次の授業の冒頭で補足・フィードバックしつつ進めます。

フィードバックは、次の授業内やHoppiiを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ダーウィンの進化論	生物学を学ぶ上での重要な理論である進化論を学びます。またこの進化論の社会に与える影響について考えます。
第2回	細胞の構造と機能	生命の基本単位とされる細胞の持つ構造と機能を通じ、生命活動の特徴の概要を学びます。
第3回	エネルギー合成と物質	生命活動を生じるため生体内で起きる化学反応とその役割について学びます。
第4回	遺伝子とメンデル遺伝学	遺伝子の概念と現代の遺伝学に通じるメンデルの導いた遺伝の法則について学びます。
第5回	遺伝子の本体：DNA	分子としてのDNAの構造や特徴および遺伝子がDNAであることが解明された歴史を学びます。
第6回	DNAからタンパク質へ	DNAが保持している情報をもとにタンパク質が合成されるしくみを学びます。
第7回	タンパク質の構造とその機能	生命活動の中心を担うタンパク質の構造と多様な機能を学びます。

第8回	個々の細胞の特徴と分化	受精卵から個体発生を通じて、分化するしくみと遺伝子発現との関係を学びます。
第9回	分子生物学的技術	クローニング、PCR法、iPS細胞の作製など、分子生物学的技術とその発展について学びます。
第10回	ゲノム	いくつかの生物では、ゲノム（全遺伝情報）の解読がおこなわれました。ゲノムから生物についてわかることについて学びます。
第11回	遺伝子組み換えとゲノム編集	近年発展してきた、遺伝子組み換えやゲノム編集の技術について学びます。
第12回	遺伝子改変生物	遺伝子改変技術の応用により、人間が新たに作り出した生物について学びます。
第13回	分子生物学的技術と医療への応用	様々な分子生物学的技術が人間の病気の治療などの医療分野へ応用されていることを学びます。また、それらの倫理的課題についても考えます。
第14回	まとめ	春学期13回の授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。各講義で資料を配布します。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内でのリアクションペーパーなどで50%、学習内容全体の期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用等により、わかりやすい解説を心がけます

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの使用を想定しますので、利用可能な環境を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline

“Introduction to Biology” is intended for students who are studying biology for the first time or who wish to rebuild their understanding from the fundamentals. This course focuses on life phenomena at the micro level, covering cellular activities, the functions of DNA, and applications of genetic technologies. The course also examines how these areas of modern biology influence human life and society.

Learning Objectives

This course has two learning objectives. First, to understand and acquire fundamental knowledge of life phenomena at the microscopic level. Second, to learn about the development of technologies that enable control over life phenomena, and to reflect on their impact on human life and society, forming one's own opinions on these matters.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to spend approximately four hours in total on preparation and review, including reading through the distributed materials, reviewing the lecture content, and examining the connections between topics covered in different sessions.

Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on a combination of in-class assignments such as short written reflections (50%) and a final exam covering the entire course content (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学B

2017年度以降入学者

田中 浩輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶ、あるいはもう一度基礎から学び直したい学生を対象としています。本講座では、主としてマクロレベルでの生命現象を取り扱います。ヒトなど多細胞生物におけるホメオスタシスにかかわる細胞間の相互作用、および生物個体間や個体と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境保全も取り上げます。これらより、人間社会の一員としての人だけでなく、自然環境に生きる一生物種としてのヒトとして、生物学的課題についてより理解し、考えていけるよう生物学的な基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。第一に、マクロレベル（個体レベルや個体を超えたレベル）での生命現象の基本的知識を理解し身につけることです。第二に学習し修得した知識をもとに、それらが人間生活や社会にもたらす影響に対し向き合い、自分の意見を持つことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面方式で実施します。
パワーポイントを用いた講義形式で授業を実施します。
必ずノートを取るようにして下さい。
各回に理解度をチェックする目的でリアクションペーパー等を実施します。
今回の授業の冒頭で補足・フィードバックしつつ進めます。
フィードバックは、今回の授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルでの生物学を学ぶ	細胞が集合し、調和をとりながら全体として機能する個体、また個体が集まり形成されている生態系について、生物の階層構造を確認し、マクロレベルでの生物学について学びます。
第2回	体液の循環	ヒトなどの多細胞生物の内部環境を構成する体液の構成要素とその循環システムを学びます。
第3回	ガス交換と浸透圧調節	体液の組成を常に安定した状態に保つしくみである呼吸、排出のしくみおよび体液循環との連携を学びます。
第4回	感染症と生体防御系	外部からの異物の侵入に対する、免疫系を中心とした生体防御のしくみについて学びます。

第5回	ホメオスタシス	自律神経系およびホルモンによる調節のしくみを学び、個体の内部環境の全体恒常性を維持するしくみ（ホメオスタシス）について考えます。
第6回	神経回路とその可塑性	神経系の基本構造、動物の行動を支える神経回路の可塑性について学びます。
第7回	動物の行動	生得的な行動や学習と記憶についていくつかの研究例を紹介し学びます。
第8回	生態系の成り立ち	様々な生物が存在する生態系での物質やエネルギーの流れについて学びます。生態系の多様性と共通性について考えます。
第9回	個体群の特徴とその動態	ある空間に存在する同種個体の集団である個体群の数はどのように変化するのか、変化させる要因は何か、その基本を学びます。
第10回	生物群集における種どうしの関係	ある空間が複数の生物種によって形成される集団である生物群集の構造について学びます。また、捕食や競争などの群集形成にかかわる生物種間の相互作用について学びます。
第11回	動物の社会性	ヒト以外にも動物には高度な社会性を示すものが存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。
第12回	生物多様性	遺伝的多様性、種多様性、および生態系の多様性についてまとめ、生物多様性について学びます。
第13回	保全生物学	生物多様性を脅かしている人間活動を知り、生物の様々な階層における生物多様性の保全について考えます。
第14回	学習のまとめ	秋学期13回の授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。講義ごとに資料を配布します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内でのリアクションペーパーなどで50%、学習内容全体の期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
図表や動画の活用等により、わかりやすい解説を心がけます

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの使用を想定しますので、利用可能な環境を準備してください。

【Outline (in English)】
Course outline

“Introduction to Biology” is designed for students who are studying biology for the first time or who wish to revisit the fundamentals from the ground up. This course focuses primarily on life phenomena at the macro level. Students will learn foundational concepts related to intercellular interactions involved in homeostasis in multicellular organisms such as humans, as well as relationships among individual organisms, between organisms and their environments, and macro level biological phenomena including ecosystems and biodiversity. Environmental conservation is also addressed. This course provides students with basic biological knowledge that will enable them to better understand and consider biological issues, not only as members of human society, but also as a species living in the natural environment.

Learning Objectives

The objectives of this course are twofold. First, to acquire and understand fundamental knowledge of life phenomena at the macro level (including the individual and supra-individual levels). Second, to reflect on the impact of these phenomena on human life and society based on the knowledge acquired, and to develop one's own informed opinions.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to spend approximately four hours in total on preparation and review, including reading through the distributed materials, reviewing the lecture content, and examining the connections between topics covered in different sessions.

Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on a combination of in-class assignments such as short written reflections (50%) and a final exam covering the entire course content (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学A

2017年度以降入学者

田中 浩輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶ、あるいはもう一度基礎から学び直したい学生を対象としています。本講座では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、細胞の活動、遺伝子であるDNAの働き、さらに遺伝子技術の応用を学びます。これらの現代の生物学が人間生活や社会に対して及ぼす影響についても考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つ有ります。第一に、ミクロレベルでの生命現象の基本的知識を理解し身につけることです。第二に生命現象をコントロールできる技術の発達を知り、それらが人間生活や社会にもたらす影響に對し向き合い、自分の意見を持つことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面方式で実施します。

パワーポイントを用いた講義形式で授業を実施します。

必ずノートを取るようにして下さい。

各回に理解度をチェックする目的でリアクションペーパー等を実施します。

次の授業の冒頭で補足・フィードバックしつつ進めます。

フィードバックは、次の授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ダーウィンの進化論	生物学を学ぶ上での重要な理論である進化論を学びます。またこの進化論の社会に与える影響について考えます。
第2回	細胞の構造と機能	生命の基本単位とされる細胞の持つ構造と機能を通じ、生命活動の特徴の概要を学びます。
第3回	エネルギー合成と物質	生命活動を生じるため生体内で起きる化学反応とその役割について学びます。
第4回	遺伝子とメンデル遺伝学	遺伝子の概念と現代の遺伝学に通じるメンデルの導いた遺伝の法則について学びます。
第5回	遺伝子の本体：DNA	分子としてのDNAの構造や特徴および遺伝子がDNAであることが解明された歴史を学びます。
第6回	DNAからタンパク質へ	DNAが保持している情報をもとにタンパク質が合成されるしくみを学びます。
第7回	タンパク質の構造とその機能	生命活動の中心を担うタンパク質の構造と多様な機能を学びます。

第8回	個々の細胞の特徴と分化	受精卵から個体発生を通じて、分化するしくみと遺伝子発現との関係を学びます。
第9回	分子生物学的技術	クローニング、PCR法、iPS細胞の作製など、分子生物学的技術とその発展について学びます。
第10回	ゲノム	いくつかの生物では、ゲノム（全遺伝情報）の解読がおこなわれました。ゲノムから生物についてわかることについて学びます。
第11回	遺伝子組み換えとゲノム編集	近年発展してきた、遺伝子組み換えやゲノム編集の技術について学びます。
第12回	遺伝子改変生物	遺伝子改変技術の応用により、人間が新たに作り出した生物について学びます。
第13回	分子生物学的技術と医療への応用	様々な分子生物学的技術が人間の病気の治療などの医療分野へ応用されていることを学びます。また、それらの倫理的課題についても考えます。
第14回	まとめ	春学期13回の授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。講義ごとに資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内でのリアクションペーパーなどで50%、学習内容全体の期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用等により、わかりやすい解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの使用を想定しますので、利用可能な環境を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline

“Introduction to Biology” is intended for students who are studying biology for the first time or who wish to rebuild their understanding from the fundamentals. This course focuses on life phenomena at the micro level, covering cellular activities, the functions of DNA, and applications of genetic technologies. The course also examines how these areas of modern biology influence human life and society.

Learning Objectives

This course has two learning objectives. First, to understand and acquire fundamental knowledge of life phenomena at the microscopic level. Second, to learn about the development of technologies that enable control over life phenomena, and to reflect on their impact on human life and society, forming one's own opinions on these matters.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to spend approximately four hours in total on preparation and review, including reading through the distributed materials, reviewing the lecture content, and examining the connections between topics covered in different sessions.

Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on a combination of in-class assignments such as short written reflections (50%) and a final exam covering the entire course content (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学B

2017年度以降入学者

田中 浩輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶ、あるいはもう一度基礎から学び直したい学生を対象としています。本講座では、主としてマクロレベルでの生命現象を取り扱います。ヒトなど多細胞生物におけるホメオスタシスにかかわる細胞間の相互作用、および生物個体間や個体と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境保全も取り上げます。これらより、人間社会の一員としての人だけでなく、自然環境に生きる一生物種としてのヒトとして、生物学的課題についてより理解し、考えていけるよう生物学的な基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。第一に、マクロレベル（個体レベルや個体を超えたレベル）での生命現象の基本的知識を理解し身につけることです。第二に学習し修得した知識をもとに、それらが人間生活や社会にもたらす影響に對し向き合い、自分の意見を持つことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面方式で実施します。

パワーポイントを用いた講義形式で授業を実施します。

必ずノートを取るようにして下さい。

各回に理解度をチェックする目的でリアクションペーパー等を実施します。

次の授業の冒頭で補足・フィードバックしつつ進めます。

フィードバックは、次の授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルでの生物学を学ぶ	細胞が集合し、調和をとりながら全体として機能する個体、また個体が集まり形成されている生態系について、生物の階層構造を確認し、マクロレベルでの生物学について学びます。
第2回	体液の循環	ヒトなどの多細胞生物の内部環境を構成する体液の構成要素とその循環システムを学びます。
第3回	ガス交換と浸透圧調節	体液の組成を常に安定した状態に保つしくみである呼吸、排出のしくみおよび体液循環との連携を学びます。
第4回	感染症と生体防御系	外部からの異物の侵入に対する、免疫系を中心とした生体防御のしくみについて学びます。

第5回	ホメオスタシス	自律神経系およびホルモンによる調節のしくみを学び、個体の内部環境の全体恒常性を維持するしくみ（ホメオスタシス）について考えます。
第6回	神経回路とその可塑性	神経系の基本構造、動物の行動を支える神経回路の可塑性について学びます。
第7回	動物の行動	生得的な行動や学習と記憶についていくつかの研究例を紹介し学びます。
第8回	生態系の成り立ち	様々な生物が存在する生態系での物質やエネルギーの流れについて学びます。生態系の多様性と共通性について考えます。
第9回	個体群の特徴とその動態	ある空間に存在する同種個体の集団である個体群の数はどのように変化するのか、変化させる要因は何か、その基本を学びます。
第10回	生物群集における種どうしの関係	ある空間が複数の生物種によって形成される集団である生物群集の構造について学びます。また、捕食や競争などの群集形成にかかわる生物種間の相互作用について学びます。
第11回	動物の社会性	ヒト以外にも動物には高度な社会性を示すものが存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。
第12回	生物多様性	遺伝的多様性、種が多様性、および生態系の多様性についてまとめ、生物多様性について学びます。
第13回	保全生物学	生物多様性を脅かしている人間活動を知り、生物の様々な階層における生物多様性の保全について考えます。
第14回	学習のまとめ	秋学期13回の授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。講義ごとに資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内でのリアクションペーパーなどで50%、学習内容全体の期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用等により、わかりやすい解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの使用を想定しますので、利用可能な環境を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline

“Introduction to Biology” is designed for students who are studying biology for the first time or who wish to revisit the fundamentals from the ground up. This course focuses primarily on life phenomena at the macro level. Students will learn foundational concepts related to intercellular interactions involved in homeostasis in multicellular organisms such as humans, as well as relationships among individual organisms, between organisms and their environments, and macro level biological phenomena including ecosystems and biodiversity. Environmental conservation is also addressed. This course provides students with basic biological knowledge that will enable them to better understand and consider biological issues, not only as members of human society, but also as a species living in the natural environment.

Learning Objectives

The objectives of this course are twofold. First, to acquire and understand fundamental knowledge of life phenomena at the macro level (including the individual and supra-individual levels). Second, to reflect on the impact of these phenomena on human life and society based on the knowledge acquired, and to develop one's own informed opinions.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to spend approximately four hours in total on preparation and review, including reading through the distributed materials, reviewing the lecture content, and examining the connections between topics covered in different sessions.

Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on a combination of in-class assignments such as short written reflections (50%) and a final exam covering the entire course content (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学 A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を扱います。前半では、進化論や遺伝学の発展を手がかりに、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、ゲノムデータと医療、再生医療など、私たちの生活や社会に関わる話題を取り上げ、前半で学んだ基礎知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解し、生物学に関わるものごとを正しくとらえて考える力を身につけることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的に考え、要点を整理して説明する力を養うことです。これらが授業内での学習と復習活動を通じて身につくように、授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業は、板書による解説を中心に進めます。重要事項の要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を提示し、実例を示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か・複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	生物学のみならず社会にも大きな影響を与えたダーウィンの提唱した進化論について学びます。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第4回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第5回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品に微生物がどのように利用されているかを学びます。
第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという物質でした。その発見の歴史を学びます。

第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。
第8回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスはどのような存在なのかを学びます。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変し新たな性質をもつ生物を生み出す技術について学びます。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第12回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることは是非を考えます。
第13回	クローン技術とiPS細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第14回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業で扱った内容を整理し、自分の言葉で要点をまとめて理解を確認してください。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験により評価します（100%）。試験は授業で扱った内容全般から出題します。試験の形式、持ち込みの可否、注意事項などの詳細は、授業内および学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

- ・第1回授業では、授業の進め方、学習支援システムを用いた復習の方法、期末試験による成績評価の基準などの重要事項を説明します。履修する方は必ず出席してください。
- ・毎回出席確認を行いますが、これは受講状況の把握のためであり、出席状況は成績評価に含めません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to biology for students who are new to the subject or who wish to review the fundamentals. In the first half, the course covers the molecular and cellular basis of life and introduces key ideas in evolution and genetics. It also examines how organisms develop and evolve based on genetic information. In the second half, the course turns to socially relevant topics such as viruses, genetically modified organisms, the use of genomic data in medicine, and regenerative medicine, building on the concepts introduced earlier.

Learning Objectives:

By the end of the course, students are expected to:

- understand essential concepts at the molecular and cellular levels, including key ideas in evolution and genetics.
- think logically, organize key points, and explain scientific issues clearly.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are encouraged to follow biology-related science news as preparation. After each class, students should review the material by organizing their notes and summarizing key points in their own words. Students are expected to spend approximately four hours per week in total on preparation and review for this two-credit course.

Grading Criteria / Policies:

Your final grade will be based entirely on the term-end examination. The examination will cover the content taught in class. Details of the exam format and rules will be announced in class and posted on the learning management system.

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学B	2017年度以降入学者
植木 紀子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水5/Wed.5	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。細胞が集まって個体が形づくられるしくみや、個体どうしの相互作用、さらに生物と環境との相互作用までを視野に入れて、生物を全体として理解する考え方を学びます。地球環境と生物の歴史、共進化、群れや社会、意識や文化の伝わり方などを題材に、複数の要素が関わることで新しい性質が現れる生命現象を考えます。単純な足し算では説明できない世界を、生物学の視点で捉えていきましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のさまざまな話題を通じて、生命現象を多角的にとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的に考え、要点を整理して説明する力を養うことです。これらが授業内での学習と復習活動を通じて身につくように、授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業は、板書による解説を中心に進めます。重要事項の要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を提示し、実例を示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第2回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第3回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第4回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第5回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第6回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。

第7回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。
第8回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。
第9回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第10回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第11回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第12回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS細胞や再生医療との関係も解説します。
第13回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はいかに医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第14回	サイズと進化	大きさによって変わるもの、変わらないものについて学び、各々の生物から見た世界について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業で扱った内容を整理し、自分の言葉で要点をまとめて理解を確認してください。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験により評価します（100%）。試験は授業で扱った内容全般から出題します。試験の形式、持ち込みの可否、注意事項などの詳細は、授業内および学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

- ・第1回授業では、授業の進め方、学習支援システムを用いた復習の方法、期末試験による成績評価の基準などの重要事項を説明します。履修する方は必ず出席してください。
- ・毎出席確認を行いますが、これは受講状況の把握のためであり、出席状況は成績評価に含めません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to biology for students who are new to the subject or who wish to review the fundamentals. In the first half, the course covers the molecular and cellular basis of life and introduces key ideas in evolution and genetics. It also examines how organisms develop and evolve based on genetic information. In the second half, the course turns to socially relevant topics such as viruses, genetically modified organisms, the use of genomic data in medicine, and regenerative medicine, building on the concepts introduced earlier.

Learning Objectives:

By the end of the course, students are expected to:

- understand essential concepts at the molecular and cellular levels, including key ideas in evolution and genetics.
- think logically, organize key points, and explain scientific issues clearly.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are encouraged to follow biology-related science news as preparation. After each class, students should review the material by organizing their notes and summarizing key points in their own words. Students are expected to spend approximately four hours per week in total on preparation and review for this two-credit course.

Grading Criteria / Policies:

Your final grade will be based entirely on the term-end examination. The examination will cover the content taught in class. Details of the exam format and rules will be announced in class and posted on the learning management system.

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学 A	2017年度以降入学者
宇野 真介	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物的事象に注目します。また、医療などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1）ミクロレベルの生物的事象の基礎知識を取得すること。2）取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3）医療などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第2回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第3回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第4回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第5回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第6回	DNAの構造と複製	「生命の設計図」と言われるDNAはどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。

第7回	DNAからタンパク質へ	DNAの保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNAからRNAを介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第8回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第9回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるのでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第10回	生体防御と感染症	外界からの異物の侵入に対する生体防御の仕組みと様々な感染症の原因となるウイルスについて学びます。
第11回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNAという分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第12回	クローン技術・iPS細胞	再生医療などで注目される「クローン技術」とは、iPS細胞などの関連技術を含めて基本原理から解説します。
第13回	生命操作の倫理的考察	生命を操作する技術はどのように活用されるのか。医療分野の例を学ぶと共に、その倫理的課題について考察します。
第14回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、演習、理解度チェック、リアクションペーパーなどの各回の授業内の取り組みに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and, as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also include the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学B	2017年度以降入学者
宇野 真介	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1）マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2）学習内容と種々の環境問題の関係性を理解・把握すること。3）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第2回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第3回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第4回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第5回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなもののでしょうか。生態学的な安定性について考えます。

第6回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。
第7回	種間関係と共進化	二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。
第8回	生物の生存戦略と共存	生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。
第9回	生物の作るコミュニティ	複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第10回	動物の社会性	動物には社会性をもつものがあり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の社会性や社会構造について考えます。
第11回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。
第12回	保全生物学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。
第13回	土中環境	普段目を向けない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。
第14回	学習のまとめ	秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、演習、理解度チェック、リアクションペーパーなどの各回の授業内の取り組みに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学 A	2017年度以降入学者
宇野 真介	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金 1/Fri.1
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物学的事象に注目します。また、医療などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1）ミクロレベルの生物学的な事象の基礎知識を取得すること。2）取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3）医療などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第2回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第3回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第4回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第5回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第6回	DNAの構造と複製	「生命の設計図」と言われるDNAはどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。

第7回	DNAからタンパク質へ	DNAの保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNAからRNAを介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第8回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第9回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるのでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第10回	生体防御と感染症	外界からの異物の侵入に対する生体防御の仕組みと様々な感染症の原因となるウイルスについて学びます。
第11回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNAという分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第12回	クローン技術・iPS細胞	再生医療などで注目される「クローン技術」とは、iPS細胞などの関連技術を含めて基本原理から解説します。
第13回	生命操作の倫理的考察	生命を操作する技術はどのように活用されるのか。医療分野の例を学ぶと共に、その倫理的課題について考察します。
第14回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、演習、理解度チェック、リアクションペーパーなどの各回の授業内の取り組みに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and, as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also include the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学B	2017年度以降入学者
宇野 真介	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：金 1/Fri.1
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1）マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2）学習内容と種々の環境問題の関係性を理解・把握すること。3）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第2回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第3回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第4回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第5回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなもののでしょうか。生態学的な安定性について考えます。

第6回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。
第7回	種間関係と共進化	二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。
第8回	生物の生存戦略と共存	生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。
第9回	生物の作るコミュニティ	複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第10回	動物の社会性	動物には社会性をもつものがあり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の社会性や社会構造について考えます。
第11回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。
第12回	保全生物学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。
第13回	土中環境	普段目を向けない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。
第14回	学習のまとめ	秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、演習、理解度チェック、リアクションペーパーなどの各回の授業内の取り組みに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学 A	2017年度以降入学者
植木 紀子	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を扱います。前半では、進化論や遺伝学の発展を手がかりに、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、ゲノムデータと医療、再生医療など、私たちの生活や社会に関わる話題を取り上げ、前半で学んだ基礎知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解し、生物学に関わるものごとを正しくとらえて考える力を身につけることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的に考え、要点を整理して説明する力を養うことです。これらが授業内での学習と復習活動を通じて身につくように、授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業は、板書による解説を中心に進めます。重要事項の要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を提示し、実例を示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か・複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	生物学のみならず社会にも大きな影響を与えたダーウィンの提唱した進化論について学びます。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第4回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第5回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品に微生物がどのように利用されているかを学びます。
第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという物質でした。その発見の歴史を学びます。

第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。
第8回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスはどのような存在なのかを学びます。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変し新たな性質をもつ生物を生み出す技術について学びます。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第12回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることは是非を考えます。
第13回	クローン技術とiPS細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第14回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業で扱った内容を整理し、自分の言葉で要点をまとめて理解を確認してください。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験により評価します（100%）。試験は授業で扱った内容全般から出題します。試験の形式、持ち込みの可否、注意事項などの詳細は、授業内および学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

- ・第1回授業では、授業の進め方、学習支援システムを用いた復習の方法、期末試験による成績評価の基準などの重要事項を説明します。履修する方は必ず出席してください。
- ・毎回出席確認を行いますが、これは受講状況の把握のためであり、出席状況は成績評価に含めません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to biology for students who are new to the subject or who wish to review the fundamentals. In the first half, the course covers the molecular and cellular basis of life and introduces key ideas in evolution and genetics. It also examines how organisms develop and evolve based on genetic information. In the second half, the course turns to socially relevant topics such as viruses, genetically modified organisms, the use of genomic data in medicine, and regenerative medicine, building on the concepts introduced earlier.

Learning Objectives:

By the end of the course, students are expected to:

- understand essential concepts at the molecular and cellular levels, including key ideas in evolution and genetics.
- think logically, organize key points, and explain scientific issues clearly.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are encouraged to follow biology-related science news as preparation. After each class, students should review the material by organizing their notes and summarizing key points in their own words. Students are expected to spend approximately four hours per week in total on preparation and review for this two-credit course.

Grading Criteria / Policies:

Your final grade will be based entirely on the term-end examination. The examination will cover the content taught in class. Details of the exam format and rules will be announced in class and posted on the learning management system.

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学B	2017年度以降入学者
植木 紀子	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。細胞が集まって個体が形づくられるしくみや、個体どうしの相互作用、さらに生物と環境との相互作用までを視野に入れて、生物を全体として理解する考え方を学びます。地球環境と生物の歴史、共進化、群れや社会、意識や文化の伝わり方などを題材に、複数の要素が関わることで新しい性質が現れる生命現象を考えます。単純な足し算では説明できない世界を、生物学の視点で捉えていきましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のさまざまな話題を通じて、生命現象を多角的にとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的に考え、要点を整理して説明する力を養うことです。これらが授業内での学習と復習活動を通じて身につくように、授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業は、板書による解説を中心に進めます。重要事項の要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を提示し、実例を示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第2回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第3回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第4回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第5回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第6回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。

第7回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。
第8回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。
第9回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第10回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第11回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第12回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS細胞や再生医療との関係も解説します。
第13回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はいかに医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第14回	サイズと進化	大きさによって変わるもの、変わらないものについて学び、各々の生物から見た世界について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業で扱った内容を整理し、自分の言葉で要点をまとめて理解を確認してください。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験により評価します（100%）。試験は授業で扱った内容全般から出題します。試験の形式、持ち込みの可否、注意事項などの詳細は、授業内および学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

- ・第1回授業では、授業の進め方、学習支援システムを用いた復習の方法、期末試験による成績評価の基準などの重要事項を説明します。履修する方は必ず出席してください。
- ・毎回出席確認を行いますが、これは受講状況の把握のためであり、出席状況は成績評価に含めません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to biology for students who are new to the subject or who wish to review the fundamentals. In the first half, the course covers the molecular and cellular basis of life and introduces key ideas in evolution and genetics. It also examines how organisms develop and evolve based on genetic information. In the second half, the course turns to socially relevant topics such as viruses, genetically modified organisms, the use of genomic data in medicine, and regenerative medicine, building on the concepts introduced earlier.

Learning Objectives:

By the end of the course, students are expected to:

- understand essential concepts at the molecular and cellular levels, including key ideas in evolution and genetics.
- think logically, organize key points, and explain scientific issues clearly.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are encouraged to follow biology-related science news as preparation. After each class, students should review the material by organizing their notes and summarizing key points in their own words. Students are expected to spend approximately four hours per week in total on preparation and review for this two-credit course.

Grading Criteria / Policies:

Your final grade will be based entirely on the term-end examination. The examination will cover the content taught in class. Details of the exam format and rules will be announced in class and posted on the learning management system.

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

入門生物学 A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を扱います。前半では、進化論や遺伝学の発展を手がかりに、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、ゲノムデータと医療、再生医療など、私たちの生活や社会に関わる話題を取り上げ、前半で学んだ基礎知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解し、生物学に関わるものごとを正しくとらえて考える力を身につけることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的に考え、要点を整理して説明する力を養うことです。これらが授業内での学習と復習活動を通じて身につくように、授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業は、板書による解説を中心に進めます。重要事項の要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を提示し、実例を示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か・複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	生物学のみならず社会にも大きな影響を与えたダーウィンの提唱した進化論について学びます。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第4回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第5回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品に微生物がどのように利用されているかを学びます。
第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという物質でした。その発見の歴史を学びます。

第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。
第8回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスはどのような存在なのかを学びます。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変し新たな性質をもつ生物を生み出す技術について学びます。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第12回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることは是非を考えます。
第13回	クローン技術とiPS細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第14回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業で扱った内容を整理し、自分の言葉で要点をまとめて理解を確認してください。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験により評価します（100%）。試験は授業で扱った内容全般から出題します。試験の形式、持ち込みの可否、注意事項などの詳細は、授業内および学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

- ・第1回授業では、授業の進め方、学習支援システムを用いた復習の方法、期末試験による成績評価の基準などの重要事項を説明します。履修する方は必ず出席してください。
- ・毎回出席確認を行いますが、これは受講状況の把握のためであり、出席状況は成績評価に含めません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to biology for students who are new to the subject or who wish to review the fundamentals. In the first half, the course covers the molecular and cellular basis of life and introduces key ideas in evolution and genetics. It also examines how organisms develop and evolve based on genetic information. In the second half, the course turns to socially relevant topics such as viruses, genetically modified organisms, the use of genomic data in medicine, and regenerative medicine, building on the concepts introduced earlier.

Learning Objectives:

By the end of the course, students are expected to:

- understand essential concepts at the molecular and cellular levels, including key ideas in evolution and genetics.
- think logically, organize key points, and explain scientific issues clearly.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are encouraged to follow biology-related science news as preparation. After each class, students should review the material by organizing their notes and summarizing key points in their own words. Students are expected to spend approximately four hours per week in total on preparation and review for this two-credit course.

Grading Criteria / Policies:

Your final grade will be based entirely on the term-end examination. The examination will cover the content taught in class. Details of the exam format and rules will be announced in class and posted on the learning management system.

BIO100LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）	
入門生物学B	2017年度以降入学者
植木 紀子	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。細胞が集まって個体が形づくられるしくみや、個体どうしの相互作用、さらに生物と環境との相互作用までを視野に入れて、生物を全体として理解する考え方を学びます。地球環境と生物の歴史、共進化、群れや社会、意識や文化の伝わり方などを題材に、複数の要素が関わることで新しい性質が現れる生命現象を考えます。単純な足し算では説明できない世界を、生物学の視点で捉えていきましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のさまざまな話題を通じて、生命現象を多角的にとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的に考え、要点を整理して説明する力を養うことです。これらが授業内での学習と復習活動を通じて身につくように、授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面方式で行います。
- ・授業は、板書による解説を中心に進めます。重要事項の要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・講義の中で、毎回10～15分程度の映像教材を提示し、実例を示します。
- ・授業に関する情報は学習支援システムより通知しますので、必ず確認してください。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第2回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第3回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第4回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第5回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第6回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。

第7回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。
第8回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。
第9回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第10回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第11回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第12回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS細胞や再生医療との関係も解説します。
第13回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はいかに医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第14回	サイズと進化	大きさによって変わるもの、変わらないものについて学び、各々の生物から見た世界について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業で扱った内容を整理し、自分の言葉で要点をまとめて理解を確認してください。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験により評価します（100%）。試験は授業で扱った内容全般から出題します。試験の形式、持ち込みの可否、注意事項などの詳細は、授業内および学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

- ・第1回授業では、授業の進め方、学習支援システムを用いた復習の方法、期末試験による成績評価の基準などの重要事項を説明します。履修する方は必ず出席してください。
- ・毎回出席確認を行いますが、これは受講状況の把握のためであり、出席状況は成績評価に含めません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to biology for students who are new to the subject or who wish to review the fundamentals. In the first half, the course covers the molecular and cellular basis of life and introduces key ideas in evolution and genetics. It also examines how organisms develop and evolve based on genetic information. In the second half, the course turns to socially relevant topics such as viruses, genetically modified organisms, the use of genomic data in medicine, and regenerative medicine, building on the concepts introduced earlier.

Learning Objectives:

By the end of the course, students are expected to:

- understand essential concepts at the molecular and cellular levels, including key ideas in evolution and genetics.
- think logically, organize key points, and explain scientific issues clearly.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are encouraged to follow biology-related science news as preparation. After each class, students should review the material by organizing their notes and summarizing key points in their own words. Students are expected to spend approximately four hours per week in total on preparation and review for this two-credit course.

Grading Criteria / Policies:

Your final grade will be based entirely on the term-end examination. The examination will cover the content taught in class. Details of the exam format and rules will be announced in class and posted on the learning management system.

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学A

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。私たちの日常生活や社会は、化学と密接に関わっており、そのため社会問題を理解するために化学の視点で考えることは重要です。この授業では、化学の基礎を学び、身の回りの物質、身近で起きている現象や社会問題(環境問題、エネルギー問題)などを、化学的な視点で理解することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、基本的な化学の知識を学習し、化学の視点を身につけます。その上で、主に持続可能な社会実現のための課題である環境問題、エネルギー問題についてとりあげます。これらの社会問題を化学的な視点で理解し、自分のことばで説明できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と受講方法について説明する
第2回	原子・分子の構造	物質の基本となる原子・分子について理解する
第3回	元素と周期表	原子の電子構造と化学的性質の関係と、それをまとめた周期表について理解する
第4回	化学結合	分子を形成する化学結合について理解する
第5回	酸・塩基	酸・塩基の定義や酸の強さの尺度であるpHについて理解する
第6回	酸化・還元	電子をやりとりする酸化・還元について理解する
第7回	化学熱力学	化学反応によって生じるエネルギーや反応の進みやすさを決める熱力学について理解する
第8回	地球温暖化	地球温暖化に関わる分子やそのメカニズムを理解する
第9回	環境汚染1	酸性雨などの大気汚染のメカニズムを理解する
第10回	環境汚染2	有害元素などによる土壌・水質汚染のメカニズムを理解する
第11回	化石燃料	石油など化石燃料の成り立ちやその利用について理解する

第12回	電池	電池の基本と燃料電池などの成り立ちやその利用について理解する
第13回	放射線と原子力	放射線・放射能の基本と原子力の成り立ちやその利用について理解する
第14回	まとめ	本授業の内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近なテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
・D.P. Heller, C.H. Snyder 著 渡辺 正 訳「教養の化学 - 暮らしのサイエンス -」東京化学同人
・Kimberley Waldron 著 竹内 敬人 訳「教養としての化学入門（第2版） 未来の環境・食・エネルギーを考えるために」化学同人
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回授業の理解度を確認する簡単な課題を出題します。
成績は、授業で出題する課題(50%)と期末試験(手書きメモの持ち込み可) (50%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・授業内容は概ね好評でしたが、内容を精査してより平易な説明に努めます。
・教材や課題は速やかに学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学B」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

Global interest in efforts to achieve a sustainable society has grown in recent years. Our daily lives and society are closely related to chemistry and therefore it is important to think from a chemical perspective in order to understand social issues. The goal of this lecture is to provide a chemical perspective to understand the materials and phenomena in our daily lives and social issues (environmental problems, energy problems) based on learning the basics of chemistry.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Students are also encouraged advanced reading or Web search based on their own interest after a class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, required assignments: 50%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。私たちの日常生活や社会は、化学と密接に関わっており、そのため社会問題を理解するために化学の視点で考えることは重要です。この授業では、化学の基礎を学び、身の回りの物質、身近で起きている現象や社会問題(環境問題、エネルギー問題)などを、化学的な視点で理解することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、基本的な化学の知識を学習し、化学の視点を身につけます。その上で、主に持続可能な社会実現のための課題である食や環境問題に関連して、食品や素材など身近な物質や関連する現象についてとりあげます。これらの身近な物質や現象を化学的な視点で理解し、自分のことばで説明できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と受講方法について説明する
第2回	分光法	物質を構成する原子・分子の構造を調べるための分光法について学ぶ
第3回	無機物質1	非金属元素とその化合物の構造や性質について理解する
第4回	無機物質2	金属元素とその化合物の構造や性質について学ぶ
第5回	有機化合物1	有機化合物の種類、炭化水素の構造や性質、異性体について学ぶ
第6回	有機化合物2	酸素を含む有機化合物の構造や性質について学ぶ
第7回	食品の化学1	食品の多量栄養素である炭水化物、脂質、タンパク質について、その構造や性質を学ぶ
第8回	食品の化学2	食品の微量栄養素であるビタミン、ミネラルについて、その構造や性質を学ぶ
第9回	遺伝子の化学	生物の遺伝情報を司るDNAの構造やはたらきについて学ぶ
第10回	きれいの化学	石鹸や洗剤(界面活性剤)について、その構造や性質を理解する

第11回	材料の化学1	三大材料のうちの金属、セラミクスについて学ぶ
第12回	材料の化学2	三大材料のうちのプラスチックなどの高分子材料について学ぶ
第13回	材料の化学3	環境保全にも利用されるナノ材料について学ぶ
第14回	まとめ	本授業の内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。身近なテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
 - ・D.P. Heller, C.H. Snyder 著 渡辺 正 訳「教養の化学－暮らしのサイエンス－」東京化学同人
 - ・Kimberley Waldron 著 竹内 敬人 訳「教養としての化学入門（第2版） 未来の環境・食・エネルギーを考えるために」化学同人
 - ・山口佳隆、伊藤卓 共著「物質・材料をまなぶ化学」裳華房
- その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回授業の理解度を確認する簡単な課題を出題します。成績は、授業で出題する課題(50%)と期末試験(手書きメモの持ち込み可)(50%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内容は概ね好評でしたが、内容を精査してより平易な説明に努めます。
- ・教材や課題は速やかに学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「入門化学A」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

Global interest in efforts to achieve a sustainable society has grown in recent years. Our daily lives and society are closely related to chemistry and therefore it is important to think from a chemical perspective in order to understand social issues. The goal of this lecture is to provide a chemical perspective to understand the materials and phenomena in our daily lives and social issues (environmental problems, energy problems) based on learning the basics of chemistry.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Students are also encouraged advanced reading or Web search based on their own interest after a class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, required assignments: 50%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(WebClass)に提示します。毎回の授業で、WebClassを介して簡単な課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答は、授業内で解説します。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、授業中あるいはWebClassを介してお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 量と単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について
第2回	3. 物質の構成①	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	3. 物質の構成②	原子の電子配置と化学的性質、 周期表
第4回	3. 物質の構成③	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	4. 化学反応①	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	4. 化学反応②	酸塩基反応
第7回	4. 化学反応③	酸化還元反応
第8回	4. 化学反応④	化学反応と熱の出入り、反応熱の利用
第9回	5. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱の出入り、気体の性質
第10回	5. 物質の状態②	溶液の性質
第11回	6. 地球温暖化①	地球温暖化の現状、地球温暖化の仕組みと原因物質
第12回	6. 地球温暖化②	温暖化の影響
第13回	試験	自作メモの持ち込み可

第14回 6. 地球温暖化③ 温暖化の将来予測、エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、学習支援システム(WebClass)を介した課題実施が必要です。

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。WebClassに教材をアップします。

【参考書】

化学の世界への招待(第3版)、小林憲司ほか(編著)、三共出版
一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題提出等)(50%)、期末試験(自作メモ持込可)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評でしたが、高校で化学を履修していない人には難しかったという声もあったので、内容は前年度と同様にしつつも、重要事項についてはより時間をかけて丁寧に解説するようにします

【学生が準備すべき機器他】

WebClassにアクセスするための端末等、および通信環境が必要です。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamentals of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics include the periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The objective of the course is to build a foundational understanding of general chemistry and to apply this knowledge to global environmental issues. Students are expected to spend approximately four hours before and after each class reviewing and mastering the course material. Grades will be based on required assignments after each class (50%) and a final examination (50%).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

前半の授業では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(WebClass)に提示します。毎回の授業で、WebClassを介して簡単な課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答は、授業内で解説します。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、授業中あるいはWebClassを介してお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 物質の構成	講義概要の説明 物質の構成単位である原子・分子について
第2回	3. 有機化合物の構造	原子の電子配置と周期表、化学結合
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基
第4回	5. 親水性・疎水性、 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基、酸性・塩基性官能基
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質
第7回	8. 窒素を含む有機化合物 9. 芳香族化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質 身近な芳香族化合物の構造と性質
第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応と反応熱
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とプラスチック、海洋プラスチック問題
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質

第11回 12. 生体を作る有機化合物② タンパク質・脂質

第12回 12. 生体を作る有機化合物③ 核酸
代謝、酵素
13. 生体内の化学反応

第13回 試験 自作メモの持ち込み可

第14回 14. 有害化学物質 人体や生態系に有害な化学物質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、学習支援システム(WebClass)を介した課題実施が必要です。

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。WebClassに教材をアップします。

【参考書】

一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房
マクマリー生体有機化学[有機化学編] 原書8版、菅原二三男(監訳)、丸善出版

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題提出等)(50%)、期末試験(自作メモ持込可)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評でしたが、難しかったと感じた受講生もいたので、内容は前年度と同様にしつつも、重要事項についてはより時間をかけて丁寧に解説するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム(WebClass)にアクセスするための端末等、および通信環境が必要です。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics include chemical bonding, functional groups, acid–base reactions, oxidation–reduction reactions, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The objective of the course is to build a foundational understanding of organic chemistry and biochemistry and to apply this knowledge to environmental issues related to organic compounds. Students are expected to spend approximately four hours before and after each class reviewing and mastering the course material. Grades will be based on required assignments after each class (50%) and a final examination (50%).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学A

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。私たちの日常生活や社会は、化学と密接に関わっており、そのため社会問題を理解するために化学の視点で考えることは重要です。この授業では、化学の基礎を学び、身の回りの物質、身近で起きている現象や社会問題(環境問題、エネルギー問題)などを、化学的な視点で理解することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、基本的な化学の知識を学習し、化学の視点を身につけます。その上で、主に持続可能な社会実現のための課題である環境問題、エネルギー問題についてとりあげます。これらの社会問題を化学的な視点で理解し、自分のことばで説明できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と受講方法について説明する
第2回	原子・分子の構造	物質の基本となる原子・分子について理解する
第3回	元素と周期表	原子の電子構造と化学的性質の関係と、それをまとめた周期表について理解する
第4回	化学結合	分子を形成する化学結合について理解する
第5回	酸・塩基	酸・塩基の定義や酸の強さの尺度であるpHについて理解する
第6回	酸化・還元	電子をやりとりする酸化・還元について理解する
第7回	化学熱力学	化学反応によって生じるエネルギーや反応の進みやすさを決める熱力学について理解する
第8回	地球温暖化	地球温暖化に関わる分子やそのメカニズムを理解する
第9回	環境汚染1	酸性雨などの大気汚染のメカニズムを理解する
第10回	環境汚染2	有害元素などによる土壌・水質汚染のメカニズムを理解する
第11回	化石燃料	石油など化石燃料の成り立ちやその利用について理解する

第12回	電池	電池の基本と燃料電池などの成り立ちやその利用について理解する
第13回	放射線と原子力	放射線・放射能の基本と原子力の成り立ちやその利用について理解する
第14回	まとめ	本授業の内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近なテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
・D.P. Heller, C.H. Snyder 著 渡辺 正 訳「教養の化学－暮らしのサイエンス－」東京化学同人
・Kimberley Waldron 著 竹内 敬人 訳「教養としての化学入門（第2版） 未来の環境・食・エネルギーを考えるために」化学同人
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回授業の理解度を確認する簡単な課題を出題します。
成績は、授業で出題する課題(50%)と期末試験(手書きメモの持ち込み可) (50%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・授業内容は概ね好評でしたが、内容を精査してより平易な説明に努めます。
・教材や課題は速やかに学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学B」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

Global interest in efforts to achieve a sustainable society has grown in recent years. Our daily lives and society are closely related to chemistry and therefore it is important to think from a chemical perspective in order to understand social issues. The goal of this lecture is to provide a chemical perspective to understand the materials and phenomena in our daily lives and social issues (environmental problems, energy problems) based on learning the basics of chemistry.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Students are also encouraged advanced reading or Web search based on their own interest after a class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, required assignments: 50%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。私たちの日常生活や社会は、化学と密接に関わっており、そのため社会問題を理解するために化学の視点で考えることは重要です。この授業では、化学の基礎を学び、身の回りの物質、身近で起きている現象や社会問題(環境問題、エネルギー問題)などを、化学的な視点で理解することを目的とします。

【到達目標】

本授業では、基本的な化学の知識を学習し、化学の視点を身につけます。その上で、主に持続可能な社会実現のための課題である食や環境問題に関連して、食品や素材など身近な物質や関連する現象についてとりあげます。これらの身近な物質や現象を化学的な視点で理解し、自分のことばで説明できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料をプロジェクターで投影し、板書を交えて講義形式で行います。また、高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。理解度の確認のための課題を出題します。課題内容については、次の講義で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と受講方法について説明する
第2回	分光法	物質を構成する原子・分子の構造を調べるための分光法について学ぶ
第3回	無機物質1	非金属元素とその化合物の構造や性質について理解する
第4回	無機物質2	金属元素とその化合物の構造や性質について学ぶ
第5回	有機化合物1	有機化合物の種類、炭化水素の構造や性質、異性体について学ぶ
第6回	有機化合物2	酸素を含む有機化合物の構造や性質について学ぶ
第7回	食品の化学1	食品の多量栄養素である炭水化物、脂質、タンパク質について、その構造や性質を学ぶ
第8回	食品の化学2	食品の微量栄養素であるビタミン、ミネラルについて、その構造や性質を学ぶ
第9回	遺伝子の化学	生物の遺伝情報を司るDNAの構造やはたらきについて学ぶ
第10回	きれいの化学	石鹸や洗剤(界面活性剤)について、その構造や性質を理解する

第11回	材料の化学1	三大材料のうちの金属、セラミクスについて学ぶ
第12回	材料の化学2	三大材料のうちのプラスチックなどの高分子材料について学ぶ
第13回	材料の化学3	環境保全にも利用されるナノ材料について学ぶ
第14回	まとめ	本授業の内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。身近なテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・下井 守、村田 滋 著「大学生のための基礎シリーズ3 化学入門 第2版」東京化学同人
 - ・D.P. Heller, C.H. Snyder 著 渡辺 正 訳「教養の化学－暮らしのサイエンス－」東京化学同人
 - ・Kimberley Waldron 著 竹内 敬人 訳「教養としての化学入門（第2版） 未来の環境・食・エネルギーを考えるために」化学同人
 - ・山口佳隆、伊藤卓 共著「物質・材料をまなぶ化学」裳華房
- その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回授業の理解度を確認する簡単な課題を出題します。成績は、授業で出題する課題(50%)と期末試験(手書きメモの持ち込み可)(50%)により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内容は概ね好評でしたが、内容を精査してより平易な説明に努めます。
- ・教材や課題は速やかに学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「入門化学A」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

Global interest in efforts to achieve a sustainable society has grown in recent years. Our daily lives and society are closely related to chemistry and therefore it is important to think from a chemical perspective in order to understand social issues. The goal of this lecture is to provide a chemical perspective to understand the materials and phenomena in our daily lives and social issues (environmental problems, energy problems) based on learning the basics of chemistry.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Students are also encouraged advanced reading or Web search based on their own interest after a class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, required assignments: 50%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生きる地球において、その生活環境について考えていくことは、とても大切です。本講義では、地球上における環境について思考するための手助けとなる、目に見えない原子や分子についての化学事象を捉えていきます。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。

以前よりも化学現象にさらに興味を持ち、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても、理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映させて説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第2回	物質について	物質の考え方として、原子を理解する
第3回	元素	物質の考え方として、原子を理解する
第4回	電子軌道と電子配置	電子軌道や電子配置について理解し、分子の形について考える
第5回	イオン	イオンのでき方を理解する
第6回	イオン結合	イオン結合の仕組みを理解する
第7回	共有結合	電子配置の安定化とは何か
第8回	配位結合と金属結合	配位結合や金属結合を理解し、金属の特徴を知る
第9回	分子の極性	電気陰性度と分子の極性について理解する
第10回	分子間力	分子間力や分子の集合について考える
第11回	物質質量	地球上における環境を考えるための、物質量の概念を理解する
第12回	化学反応式を使った環境の思考	化学反応式を使って、地球上の環境について考える
第13回	分子の環境との関わり	分子が、私たちの環境にどのように関わっているかを考える
第14回	まとめと試験	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関することを本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で、紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を50%、平常点（毎回出題する課題）を50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。

日々の生活の中でのここが化学であると感じてもらえるような授業として、行っていききたいと思います。

少しずつでも自分の力で化学を考えていけるように、毎回各個人の考えを調査し、授業内容に取り入れ、工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCなどの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical events of invisible atoms or molecules to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To be more interested in chemical phenomena than before and develop the ability to think.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生活する上で、目に見えない化学的事象について考えることは、より生活を豊かにすることにもつながっていきます。本講義では、より生活を豊かにしていくために知っておくと便利な化学的知識を習得します。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。このようにして、化学現象を生活に生かしていくための能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても、理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映させて説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第2回	周期表と電子配置	周期表と電子配置について考え、理解する
第3回	酸化と還元	酸化と還元について、現象を理解する
第4回	モル濃度	モル濃度について考え、生活との関連について学ぶ
第5回	化学平衡	化学平衡の概念を理解する
第6回	酸と塩基	酸と塩基について、理解する
第7回	混成軌道	混成軌道とは何かを考える
第8回	異性体	異性体の仕組みを理解し、どんなものがあるかを知る
第9回	共鳴と芳香族性	共鳴と芳香族性について捉え、生活と結び付け考える
第10回	有機物の酸と塩基	有機物の酸と塩基について、考える
第11回	界面活性剤について	洗浄作用のある界面活性剤の仕組みについて、考える
第12回	金属表面に関する分子の構造を知る手法	金属表面に吸着する分子の構造を知るには、どうすればよいかを考える
第13回	金属に吸着する分子の話	金属に吸着させると離れない分子について、紹介する
第14回	まとめと試験	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ、講義テーマに関することを、本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を50%、平常点（毎回出題する課題）を50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。

日々の生活の中でのここが化学であると感じてもらえるような授業として、行っていきたいと思います。

少しずつでも自分の力で化学を考えていけるように、毎回各個人の考えを調査し、授業内容に取り入れ、工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための、PCなどの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical knowledge that is useful to enrich your life to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To develop the ability to make use of chemical phenomena in their lives.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(WebClass)に提示します。毎回の授業で、WebClassを介して簡単な課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答は、授業内で解説します。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、授業中あるいはWebClassを介してお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 量と単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について
第2回	3. 物質の構成①	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	3. 物質の構成②	原子の電子配置と化学的性質、 周期表
第4回	3. 物質の構成③	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	4. 化学反応①	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	4. 化学反応②	酸塩基反応
第7回	4. 化学反応③	酸化還元反応
第8回	4. 化学反応④	化学反応と熱の出入り、反応熱の利用
第9回	5. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱の出入り、気体の性質
第10回	5. 物質の状態②	溶液の性質
第11回	6. 地球温暖化①	地球温暖化の現状、地球温暖化の仕組みと原因物質
第12回	6. 地球温暖化②	温暖化の影響
第13回	試験	自作メモの持ち込み可

第14回 6. 地球温暖化③ 温暖化の将来予測、エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、学習支援システム(WebClass)を介した課題実施が必要です。

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。WebClassに教材をアップします。

【参考書】

化学の世界への招待(第3版)、小林憲司ほか(編著)、三共出版
一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題提出等)(50%)、期末試験(自作メモ持込可)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評でしたが、高校で化学を履修していない人には難しかったという声もあったので、内容は前年度と同様にしつつも、重要事項についてはより時間をかけて丁寧に解説するようにします

【学生が準備すべき機器他】

WebClassにアクセスするための端末等、および通信環境が必要です。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamentals of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics include the periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The objective of the course is to build a foundational understanding of general chemistry and to apply this knowledge to global environmental issues. Students are expected to spend approximately four hours before and after each class reviewing and mastering the course material. Grades will be based on required assignments after each class (50%) and a final examination (50%).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

前半の授業では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(WebClass)に提示します。毎回の授業で、WebClassを介して簡単な課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答は、授業内で解説します。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、授業中あるいはWebClassを介してお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 物質の構成	講義概要の説明 物質の構成単位である原子・分子について
第2回	3. 有機化合物の構造	原子の電子配置と周期表、化学結合
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基
第4回	5. 親水性・疎水性、 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基、酸性・塩基性官能基
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質
第7回	8. 窒素を含む有機化合物 9. 芳香族化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質 身近な芳香族化合物の構造と性質
第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応と反応熱
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とプラスチック、海洋プラスチック問題
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質

第11回 12. 生体を作る有機化合物② タンパク質・脂質

第12回 12. 生体を作る有機化合物③ 核酸
13. 生体内の化学反応 代謝、酵素

第13回 試験 自作メモの持ち込み可

第14回 14. 有害化学物質 人体や生態系に有害な化学物質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、学習支援システム(WebClass)を介した課題実施が必要です。

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。WebClassに教材をアップします。

【参考書】

一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房
マクマリー生体有機化学[有機化学編] 原書8版、菅原二三男(監訳)、丸善出版

【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回の課題提出等)(50%)、期末試験(自作メモ持込可)(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評でしたが、難しかったと感じた受講生もいたので、内容は前年度と同様にしつつも、重要事項についてはより時間をかけて丁寧に解説するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム(WebClass)にアクセスするための端末等、および通信環境が必要です。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics include chemical bonding, functional groups, acid–base reactions, oxidation–reduction reactions, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The objective of the course is to build a foundational understanding of organic chemistry and biochemistry and to apply this knowledge to environmental issues related to organic compounds. Students are expected to spend approximately four hours before and after each class reviewing and mastering the course material. Grades will be based on required assignments after each class (50%) and a final examination (50%).

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生きる地球において、その生活環境について考えていくことは、とても大切です。本講義では、地球上における環境について思考するための手助けとなる、目に見えない原子や分子についての化学事象を捉えていきます。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。

以前よりも化学現象にさらに興味を持ち、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても、理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映させて説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第2回	物質について	物質の考え方として、原子を理解する
第3回	元素	物質の考え方として、原子を理解する
第4回	電子軌道と電子配置	電子軌道や電子配置について理解し、分子の形について考える
第5回	イオン	イオンのでき方を理解する
第6回	イオン結合	イオン結合の仕組みを理解する
第7回	共有結合	電子配置の安定化とは何か
第8回	配位結合と金属結合	配位結合や金属結合を理解し、金属の特徴を知る
第9回	分子の極性	電気陰性度と分子の極性について理解する
第10回	分子間力	分子間力や分子の集合について考える
第11回	物質質量	地球上における環境を考えるための、物質量の概念を理解する
第12回	化学反応式を使った環境の思考	化学反応式を使って、地球上の環境について考える
第13回	分子の環境との関わり	分子が、私たちの環境にどのように関わっているかを考える
第14回	まとめと試験	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関することを本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で、紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を50%、平常点（毎回出題する課題）を50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。

日々の生活の中でのここが化学であると感じてもらえるような授業として、行っていききたいと思います。

少しずつでも自分の力で化学を考えていけるように、毎回各個人の考えを調査し、授業内容に取り入れ、工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCなどの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical events of invisible atoms or molecules to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To be more interested in chemical phenomena than before and develop the ability to think.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA (その他の化学 / Chemistry 100)

入門化学B

2017年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生活する上で、目に見えない化学的事象について考えることは、より生活を豊かにすることにもつながっていきます。本講義では、より生活を豊かにしていくために知っておくと便利な化学的知識を習得します。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。このようにして、化学現象を生活に生かしていくための能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても、理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映させて説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第2回	周期表と電子配置	周期表と電子配置について考え、理解する
第3回	酸化と還元	酸化と還元について、現象を理解する
第4回	モル濃度	モル濃度について考え、生活との関連について学ぶ
第5回	化学平衡	化学平衡の概念を理解する
第6回	酸と塩基	酸と塩基について、理解する
第7回	混成軌道	混成軌道とは何かを考える
第8回	異性体	異性体の仕組みを理解し、どんなものがあるかを知る
第9回	共鳴と芳香族性	共鳴と芳香族性について捉え、生活と結び付け考える
第10回	有機物の酸と塩基	有機物の酸と塩基について、考える
第11回	界面活性剤について	洗浄作用のある界面活性剤の仕組みについて、考える
第12回	金属表面に関する分子の構造を知る手法	金属表面に吸着する分子の構造を知るには、どうすればよいかを考える
第13回	金属に吸着する分子の話	金属に吸着させると離れない分子について、紹介する
第14回	まとめと試験	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ、講義テーマに関する内容を、本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を50%、平常点（毎回出題する課題）を50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。

日々の生活の中でのここが化学であると感じてもらえるような授業として、行っていきたいと思います。

少しずつでも自分の力で化学を考えていけるように、毎回各個人の考えを調査し、授業内容に取り入れ、工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための、PCなどの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical knowledge that is useful to enrich your life to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

- To develop the ability to make use of chemical phenomena in their lives.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学 A

2017年度以降入学者

小野 宜昭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙はどのように始まり、今日に至ったのか？ この問いはおそらく誰もが一度は抱く素朴な疑問でありながら、人類が現在の理解にたどり着くまでには長い科学的探究が必要であった。科学者たちは好奇心を原動力に、試行錯誤する中での発見やセレンディピティ等を契機にして、宇宙に対する理解を前進させてきた。この授業では、宇宙の探究に取り組んできた科学者たちの挑戦を通して、この宇宙の起源や進化について学ぶ。主な受講生は、天文学を初めて学ぶ学生または基礎から学び直したい学生を想定する。

【到達目標】

宇宙の成り立ちや進化の解明に挑んできた先人たちの歩みを知り、ビッグバン宇宙論の基本的な考え方について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は対面方式で行う。
- ・資料は復習用にHoppiiを通じて配布する。
- ・毎回WebClassで簡単なミニテストを行う。必要に応じて周囲の人と相談する機会を設ける。
- ・授業内外で質問や感想を受け付け、適宜フィードバックする。
- ・この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	天動説と地動説	地球中心説と太陽中心説について学ぶ。
第3回	望遠鏡による躍進	太陽中心説が支持されるようになった経緯を学ぶ。
第4回	光速の測定と特殊相対論	光の速さを測定する実験と、特殊相対論について学ぶ。
第5回	一般相対論	重力の理論について学ぶ。
第6回	相対論的宇宙モデル	一般相対論をもとにした宇宙モデルについて学ぶ。
第7回	星雲論争	星雲が銀河系内の天体か銀河系外の天体かという論争について学ぶ。
第8回	膨張する宇宙	銀河の後退速度と距離の間の関係について学ぶ。
第9回	原子核物理の基礎	原子の構造と原子核反応について学ぶ。
第10回	宇宙の始まり	ビッグバン元素合成について学ぶ。
第11回	宇宙の年齢問題	ビッグバン宇宙モデルと定常宇宙モデルの論争について学ぶ。
第12回	宇宙初期の「化石」	電波観測と宇宙マイクロ波背景放射について学ぶ。

- 第13回 今学期のまとめ 今学期の内容を振り返る。
第14回 期末試験 対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。状況によっては受講生を対象とした天体観望会を行うことがあるが、参加は任意であり成績評価とは無関係である。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。資料をweb上で配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニテストへの回答とリアクション（質問や感想）の提出を求める。最後の週に期末試験を実施する。評価の割合はミニテスト・リアクション40%、期末試験60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内外での質問への回答が「理解の助けになった」「学習意欲が上がった」というポジティブな意見につながっていた。今年度も質問を歓迎する雰囲気づくりを心がけ、フィードバックの機会を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

web上の資料を閲覧したり、ミニテストに回答したりできる情報機器。

【その他の重要事項】

- ・金曜3限と金曜4限の天文学Aの授業内容は同じである。
- ・2025年度は、金曜3限は履修希望者が多すぎたため抽選となった（倍率は1.3倍から1.5倍であった）が、金曜4限は比較的に余裕があった。
- ・天文学Aと天文学Bはどちらを先に受講してもよく、必ずしも両方を受講する必要はない。ただし、両方を受講することで、天文学への理解がより深まることが期待される。

【Outline (in English)】

Course Outline:

How did the universe originate, and how has it evolved into the form that we observe today? This fundamental question, though simple and intuitive at first glance, has required an extensive and rigorous process of scientific investigation to reach our current understanding. Motivated by curiosity, scientists have continually advanced our knowledge of the universe through observations and experiments, theoretical modeling, and occasional serendipitous discoveries. In this course, we will explore the origin and evolution of the universe by tracing the scientific challenges and breakthroughs achieved by scientists who have dedicated themselves to unraveling its nature and underlying principles. This course is intended primarily for students who are new to astronomy or who wish to review its fundamentals.

Learning Objectives:

We will learn about the efforts of previous pioneers who have challenged the fundamental questions regarding the origin and evolution of the universe and grasp the concept of the Big Bang cosmology.

Learning Activities outside of Classroom:

Instructions will be provided during class. As a guideline, students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class session. Depending on circumstances, an optional stargazing session may be organized for enrolled students; participation is voluntary and will not affect course grades.

Grading Criteria/Policy:

Students are required to complete a short mini-test and submit a brief response (questions and/or comments) in each class session. A final exam will be conducted in the last week of the course. The overall grade will be based on mini-tests and responses (40%) and the final exam (60%).

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学B

2017年度以降入学者

小野 宜昭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、宇宙の始まりや進化、その中で形成される星やブラックホール、銀河、銀河団、さらには太陽系や太陽系外惑星、地球外生命など、天文学に関する幅広いトピックの基本的な内容を学ぶ。夜空の向こうに広がる豊かな宇宙に思いを巡らせ、私たちが住むこの世界を広い視点から理解する機会とする。主な受講生は、天文学を初めて学ぶ学生または基礎から学び直したい学生を想定する。

【到達目標】

天文学に関して現在までに得られているさまざまな科学的成果への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は対面方式で行う。
- ・資料は復習用にHoppiiを通じて配布する。
- ・毎回WebClassで簡単なミニテストを行う。必要に応じて周囲の人と相談する機会を設ける。
- ・授業内外で質問や感想を受け付け、適宜フィードバックする。
- ・この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	人類は宇宙をどのように調べているのか	宇宙を観測する方法と天体までの距離測定について学ぶ。
第3回	太陽系の惑星はどのような天体か	太陽系を構成する天体について学ぶ。
第4回	太陽系はどのように形成されたのか	太陽系形成の標準シナリオについて学ぶ。
第5回	太陽以外の恒星を公転する惑星をどうやって調べるのか	系外惑星の探査方法とこれまでに見つかったものの性質について学ぶ。
第6回	地球外生命をどのように探すのか	地球以外の天体での生命探査について学ぶ。
第7回	恒星はどのような一生を過ごすのか	星形成や恒星の主系列段階および超新星爆発など、恒星の一生について学ぶ。
第8回	元素はどのように作られてきたのか	宇宙において元素がどのように作られてきたか学ぶ。
第9回	ブラックホールはどのような天体か	ブラックホールに関する理論研究やさまざまな観測結果について学ぶ。
第10回	ダークマターの存在はなぜ信じられているのか	ダークマターの存在を示唆する観測結果とその候補や検証実験について学ぶ。

第11回	銀河や銀河団はどのように形成されたのか	宇宙の構造形成論にもとづく銀河の形成と進化について学ぶ。
第12回	ダークエネルギーは存在するのか	宇宙の加速膨張を示す観測結果とダークエネルギーについて学ぶ。
第13回	今学期のまとめ	今学期の内容を振り返る。
第14回	期末試験	対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。状況によっては受講生を対象とした天体観望会を行うことがあるが、参加は任意であり成績評価とは無関係である。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。資料をweb上で配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニテストへの回答とリアクション（質問や感想）の提出を求める。最後の週に期末試験を実施する。評価の割合はミニテスト・リアクション40%、期末試験60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内外での質問への回答が「理解の助けになった」「学習意欲が上がった」というポジティブな意見につながっていた。今年度も質問を歓迎する雰囲気づくりを心がけ、フィードバックの機会を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

web上の資料を閲覧したり、ミニテストに回答したりできる情報機器。

【その他の重要事項】

- ・金曜3限と金曜4限の天文学Bの授業内容は同じである。
- ・2025年度は、金曜3限は履修希望者が多すぎたため抽選となった（倍率は1.3倍から1.5倍であった）が、金曜4限は比較的に余裕があった。
- ・天文学Aと天文学Bはどちらを先に受講してもよく、必ずしも両方を受講する必要はない。ただし、両方を受講することで、天文学への理解がより深まることが期待される。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to a wide range of fundamental topics in astronomy, including the origin and evolution of the universe, the formation of stars, black holes, galaxies, and galaxy clusters, as well as the solar system, exoplanets, and extraterrestrial life. It offers an opportunity to contemplate the expansive and profound universe beyond the night sky and to gain a broader perspective on the world that we inhabit. This course is intended primarily for students who are new to astronomy or who wish to review its fundamentals.

Learning Objectives:

Students will deepen their understanding of the various scientific findings obtained in astronomy to date.

Learning Activities outside of Classroom:

Instructions will be provided during class. As a guideline, students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class session. Depending on circumstances, an optional stargazing session may be organized for enrolled students; participation is voluntary and will not affect course grades.

Grading Criteria/Policy:

Students are required to complete a short mini-test and submit a brief response (questions and/or comments) in each class session. A final exam will be conducted in the last week of the course. The overall grade will be based on mini-tests and responses (40%) and the final exam (60%).

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学 A

2017年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。春学期では、地球・太陽系・恒星に焦点を当てる。とくに我々の身近な環境である地球環境に重点を置く。日常の生活の基盤となる地球や太陽がどのような仕組みで活動するかを理解することにより、様々な規模感の環境への知見が広がるであろう。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。毎回実施するミニテストからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。 受講の方法を示す。
第2回	宇宙の階層構造	地球のスケールから宇宙全体のスケールまでの構造を概観する。
第3回	地球の構造	地球の構造について学ぶ。
第4回	地球の大気	地球のうち、大気に焦点を当てる。
第5回	気候変動	地球温暖化だけでなく、地球の46億年の歴史における様々な気候変動について学ぶ。
第6回	月	月の形成と地球との関わりについて学ぶ。
第7回	太陽と恒星	太陽に代表される恒星について学ぶ。
第8回	太陽系と惑星（1）	太陽系全体を概観し、地球型惑星について学ぶ。
第9回	太陽系と惑星（2）	木星型惑星、準惑星、太陽系小天体（彗星など）について学ぶ。
第10回	星形成	恒星の誕生について学ぶ。
第11回	恒星の進化	恒星の進化について学ぶ。超新星・中性子星・ブラックホールなど。
第12回	ブラックホール	ブラックホールに焦点を当てる。
第13回	様々な望遠鏡	講義で登場した様々な望遠鏡についてまとめる。
第14回	期末試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
状況によって観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料をHoppiiを用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストに回答するために携帯電話（スマートフォン）を持参すること。

【Outline (in English)】

Course outline: Astronomy, earth, solar system, stars.

Learning objectives: The students learn the introduction of astronomy. We focus on the Earth, solar system, and stars in the spring semester.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学B

2017年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。秋学期では、恒星の集団である銀河、銀河の集団である銀河団、さらに宇宙全体を対象とする。銀河や宇宙がどのような歴史を経て現在のようになつたのかを理解することによって、広い視野をもった教養を身につけることができるであろう。

天文学Bは天文学Aからの続きである。必ずしも天文学Aを事前に受講する必要はないが、天文学AとBを両方受講すると理解は深まるであろう。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。毎回実施するミニテストからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	銀河の構造	銀河系をはじめとする銀河の構造を学ぶ。
第3回	暗黒物質	銀河の主要な構成要素である暗黒物質（ダークマター）について学ぶ。
第4回	銀河の分類	銀河をいくつかの種類（渦巻銀河・棒渦巻銀河・楕円銀河など）に分類する。
第5回	銀河団	銀河の集まりである銀河団について学ぶ。
第6回	ハッブル・ルメートルの法則と宇宙膨張	ハッブル・ルメートルの法則について学び、宇宙膨張の概念を導入する。
第7回	宇宙年齢とビッグバン	宇宙の年齢とビッグバンについて学ぶ。
第8回	宇宙の大規模構造	宇宙全体の構造について学ぶ。赤方偏移探査について学ぶ。
第9回	宇宙の地平線と宇宙の未来	宇宙の「果て」と未来について議論する。
第10回	宇宙マイクロ波背景放射	宇宙マイクロ波背景放射の観測と宇宙論における意味について学ぶ。
第11回	宇宙背景放射	ビッグバンの残光である宇宙背景放射について学ぶ。

第12回	地球外生命探査	地球外生命探査の現状と展望について議論する。
第13回	宇宙のふしぎ	天文学AとBを通じて残された「素朴な疑問」について考える。
第14回	期末試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

状況によっては観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料をHoppiiを用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストに回答するために携帯電話（スマートフォン）を持参すること。

【Outline (in English)】

Course outline: Astronomy, the Milky way, galaxy, cosmology.

Learning objectives: The students learn the introduction of astronomy. In the fall semester, we focus on galaxies and the Universe.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学 A

2017年度以降入学者

小野 宜昭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙はどのように始まり、今日に至ったのか？ この問いはおそらく誰もが一度は抱く素朴な疑問でありながら、人類が現在の理解にたどり着くまでには長い科学的探究が必要であった。科学者たちは好奇心を原動力に、試行錯誤する中での発見やセレンディピティ等を契機にして、宇宙に対する理解を前進させてきた。この授業では、宇宙の探究に取り組んできた科学者たちの挑戦を通して、この宇宙の起源や進化について学ぶ。主な受講生は、天文学を初めて学ぶ学生または基礎から学び直したい学生を想定する。

【到達目標】

宇宙の成り立ちや進化の解明に挑んできた先人たちの歩みを知り、ビッグバン宇宙論の基本的な考え方について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は対面方式で行う。
- ・資料は復習用にHoppiiを通じて配布する。
- ・毎回WebClassで簡単なミニテストを行う。必要に応じて周囲の人と相談する機会を設ける。
- ・授業内外で質問や感想を受け付け、適宜フィードバックする。
- ・この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	天動説と地動説	地球中心説と太陽中心説について学ぶ。
第3回	望遠鏡による躍進	太陽中心説が支持されるようになった経緯を学ぶ。
第4回	光速の測定と特殊相対論	光の速さを測定する実験と、特殊相対論について学ぶ。
第5回	一般相対論	重力の理論について学ぶ。
第6回	相対論的宇宙モデル	一般相対論をもとにした宇宙モデルについて学ぶ。
第7回	星雲論争	星雲が銀河系内の天体か銀河系外の天体かという論争について学ぶ。
第8回	膨張する宇宙	銀河の後退速度と距離の間の関係について学ぶ。
第9回	原子核物理の基礎	原子の構造と原子核反応について学ぶ。
第10回	宇宙の始まり	ビッグバン元素合成について学ぶ。
第11回	宇宙の年齢問題	ビッグバン宇宙モデルと定常宇宙モデルの論争について学ぶ。
第12回	宇宙初期の「化石」	電波観測と宇宙マイクロ波背景放射について学ぶ。

- 第13回 今学期のまとめ 今学期の内容を振り返る。
第14回 期末試験 対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。状況によっては受講生を対象とした天体観望会を行うことがあるが、参加は任意であり成績評価とは無関係である。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。資料をweb上で配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニテストへの回答とリアクション（質問や感想）の提出を求める。最後の週に期末試験を実施する。評価の割合はミニテスト・リアクション40%、期末試験60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内外での質問への回答が「理解の助けになった」「学習意欲が上がった」というポジティブな意見につながっていた。今年度も質問を歓迎する雰囲気づくりを心がけ、フィードバックの機会を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

web上の資料を閲覧したり、ミニテストに回答したりできる情報機器。

【その他の重要事項】

- ・金曜3限と金曜4限の天文学Aの授業内容は同じである。
- ・2025年度は、金曜3限は履修希望者が多すぎたため抽選となった（倍率は1.3倍から1.5倍であった）が、金曜4限は比較的に余裕があった。
- ・天文学Aと天文学Bはどちらを先に受講してもよく、必ずしも両方を受講する必要はない。ただし、両方を受講することで、天文学への理解がより深まることが期待される。

【Outline (in English)】

Course Outline:

How did the universe originate, and how has it evolved into the form that we observe today? This fundamental question, though simple and intuitive at first glance, has required an extensive and rigorous process of scientific investigation to reach our current understanding. Motivated by curiosity, scientists have continually advanced our knowledge of the universe through observations and experiments, theoretical modeling, and occasional serendipitous discoveries. In this course, we will explore the origin and evolution of the universe by tracing the scientific challenges and breakthroughs achieved by scientists who have dedicated themselves to unraveling its nature and underlying principles. This course is intended primarily for students who are new to astronomy or who wish to review its fundamentals.

Learning Objectives:

We will learn about the efforts of previous pioneers who have challenged the fundamental questions regarding the origin and evolution of the universe and grasp the concept of the Big Bang cosmology.

Learning Activities outside of Classroom:

Instructions will be provided during class. As a guideline, students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class session. Depending on circumstances, an optional stargazing session may be organized for enrolled students; participation is voluntary and will not affect course grades.

Grading Criteria/Policy:

Students are required to complete a short mini-test and submit a brief response (questions and/or comments) in each class session. A final exam will be conducted in the last week of the course. The overall grade will be based on mini-tests and responses (40%) and the final exam (60%).

ASR100LA (天文学 / Astronomy 100)

天文学B

2017年度以降入学者

小野 宜昭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、宇宙の始まりや進化、その中で形成される星やブラックホール、銀河、銀河団、さらには太陽系や太陽系外惑星、地球外生命など、天文学に関する幅広いトピックの基本的な内容を学ぶ。夜空の向こうに広がる豊かな宇宙に思いを巡らせ、私たちが住むこの世界を広い視点から理解する機会とする。主な受講生は、天文学を初めて学ぶ学生または基礎から学び直したい学生を想定する。

【到達目標】

天文学に関して現在までに得られているさまざまな科学的成果への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は対面方式で行う。
- ・資料は復習用にHoppiiを通じて配布する。
- ・毎回WebClassで簡単なミニテストを行う。必要に応じて周囲の人と相談する機会を設ける。
- ・授業内外で質問や感想を受け付け、適宜フィードバックする。
- ・この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	人類は宇宙をどのように調べているのか	宇宙を観測する方法と天体までの距離測定について学ぶ。
第3回	太陽系の惑星はどのような天体か	太陽系を構成する天体について学ぶ。
第4回	太陽系はどのように形成されたのか	太陽系形成の標準シナリオについて学ぶ。
第5回	太陽以外の恒星を公転する惑星をどうやって調べるのか	系外惑星の探査方法とこれまでに見つかったものの性質について学ぶ。
第6回	地球外生命をどのように探すのか	地球以外の天体での生命探査について学ぶ。
第7回	恒星はどのような一生を過ごすのか	星形成や恒星の主系列段階および超新星爆発など、恒星の一生について学ぶ。
第8回	元素はどのように作られてきたのか	宇宙において元素がどのように作られてきたか学ぶ。
第9回	ブラックホールはどのような天体か	ブラックホールに関する理論研究やさまざまな観測結果について学ぶ。
第10回	ダークマターの存在はなぜ信じられているのか	ダークマターの存在を示唆する観測結果とその候補や検証実験について学ぶ。

第11回	銀河や銀河団はどのように形成されたのか	宇宙の構造形成論にもとづく銀河の形成と進化について学ぶ。
第12回	ダークエネルギーは存在するのか	宇宙の加速膨張を示す観測結果とダークエネルギーについて学ぶ。
第13回	今学期のまとめ	今学期の内容を振り返る。
第14回	期末試験	対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。状況によっては受講生を対象とした天体観望会を行うことがあるが、参加は任意であり成績評価とは無関係である。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。資料をweb上で配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニテストへの回答とリアクション（質問や感想）の提出を求める。最後の週に期末試験を実施する。評価の割合はミニテスト・リアクション40%、期末試験60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内外での質問への回答が「理解の助けになった」「学習意欲が上がった」というポジティブな意見につながっていた。今年度も質問を歓迎する雰囲気づくりを心がけ、フィードバックの機会を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

web上の資料を閲覧したり、ミニテストに回答したりできる情報機器。

【その他の重要事項】

- ・金曜3限と金曜4限の天文学Bの授業内容は同じである。
- ・2025年度は、金曜3限は履修希望者が多すぎたため抽選となった（倍率は1.3倍から1.5倍であった）が、金曜4限は比較的に余裕があった。
- ・天文学Aと天文学Bはどちらを先に受講してもよく、必ずしも両方を受講する必要はない。ただし、両方を受講することで、天文学への理解がより深まることが期待される。

【Outline (in English)】

Course Outline:

This course provides an introduction to a wide range of fundamental topics in astronomy, including the origin and evolution of the universe, the formation of stars, black holes, galaxies, and galaxy clusters, as well as the solar system, exoplanets, and extraterrestrial life. It offers an opportunity to contemplate the expansive and profound universe beyond the night sky and to gain a broader perspective on the world that we inhabit. This course is intended primarily for students who are new to astronomy or who wish to review its fundamentals.

Learning Objectives:

Students will deepen their understanding of the various scientific findings obtained in astronomy to date.

Learning Activities outside of Classroom:

Instructions will be provided during class. As a guideline, students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class session. Depending on circumstances, an optional stargazing session may be organized for enrolled students; participation is voluntary and will not affect course grades.

Grading Criteria/Policy:

Students are required to complete a short mini-test and submit a brief response (questions and/or comments) in each class session. A final exam will be conducted in the last week of the course. The overall grade will be based on mini-tests and responses (40%) and the final exam (60%).

SHS100LA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100）

科学論A

2017年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「閉じた世界から無限宇宙へ」をテーマとし、西洋における科学のはじまりから「17世紀科学革命」の時期までの宇宙論の変遷を追う中で、近代科学および科学的思考について、歴史的、思想的な背景を中心に学んでいくことを目指す（秋学期の同一講師による「科学論B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学論、科学史、科学的思考に関する事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、これらの事項に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後学習支援システムを通じて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、学習支援システムで受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第2回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第3回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、一度歴史をさかのぼり、ピタゴラス派からプトレマイオスまでの西洋古代の天文学史を学ぶ
第4回	アリストテレスの形而上学と自然学(1)	再びプラトンの直後に戻り、プラトンの弟子であり中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく

第5回 アリストテレスの形而上学と自然学(2)／古代後期の自然哲学

引き続きアリストテレス自然学に付いて学び、その後、近代世界にも大きな影響を与えた古代後期の代表的な学派であるストア派とエピクロス派の自然哲学を学ぶ

第6回 中世イスラム世界におけるプトレマイオス天文学の継承と見直し／ルネサンス期の天文学

中世におけるプトレマイオス天文学の発展と、コペルニクスに先立つルネサンス期ヨーロッパの天文学の動向を学ぶ

第7回 コペルニクス天文学の成立

ルネサンス人コペルニクスの人となり、プラトン、アリストテレス、およびイスラム天文学の影響下でプトレマイオス体系の見直しを試みたコペルニクスが地動説に到達するまでの経過を学ぶ

第8回 コペルニクス天文学の受容とその余波

コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく

第9回 17世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判

天文学の革新と呼応して進んだ「17世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく

第10回 デカルトによる近代科学の基礎づけ

科学革命によって成立した「機械論的自然観」を哲学的に基礎づけようとしたデカルトの試みを見ていく

第11回 デカルトとヘンリー・モアの論争

ニュートンの空間概念に大きな影響を与えたとされる、ケンブリッジ・プラトン主義の創始者ヘンリー・モアの独特の空間論と、彼のデカルトとの論争を見ていく

第12回 スピノザの「神即自然」

科学革命が明らかにした「無限な宇宙」を「無限な実体としての神」と重ね合わせた異端的思想家であるスピノザの「神即自然」の思想を概観する

第13回 ニュートンとライプニッツの論争(1)

初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく

第14回 ニュートンとライプニッツの論争(2)／ニュートン力学の発展とその後

18世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムの課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に付けてもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）を挙げておく。今期の講義により密接に関わる文献としては、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）と、アレクサンドル・コイレ『閉じた世界から無限宇宙へ』（みすず書房）／『コスモスの崩壊』（白水社）があるが、いずれも入門書とは言えず、難易度が高い。

【成績評価の方法と基準】

毎回の受講確認課題に基づく平常点30%、期末レポート70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の受講確認課題とレポートは受講後学習支援システム上で受け付けるので、受講後学習支援システムにアクセスできる環境は必須である。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of cosmology from ancient to the age of "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn about modern science and the scientific thinking from the historical viewpoint.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on science, history of science, and the scientific thinking treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

SHS100LA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100)	
科学論B	2017年度以降入学者
木島 泰三	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木3/Thu.3	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は「進化論と人間観」と題し、19世紀におけるダーウィン進化論の登場までの科学の歩みとその後の進化論の発展の歴史、そしてその人間観への影響を見ていく中で、科学理論と社会や思想との関わりについて学ぶことを目指す。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学論A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学論およびそれに関連する歴史的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、それらの事項に関して、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後受講後学習支援システムを通じて求め求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、受講後学習支援システムを通じて受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第2回	古代哲学における目的論と反目的論(1)	古代ギリシャにおける目的論的自然観と反目的論的自然観の相克を見ていく
第3回	古代哲学における目的論と反目的論(2)/科学革命と機械論的自然観の成立	前回に引き続き古代の自然観を概観し、引き続き17世紀科学革命と機械論的自然観の成立を、アリストテレスの目的論的自然観との対比で見ていく
第4回	デカルト・ライプニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「こころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライプニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ

第5回	ヒュームの『自然宗教をめぐる対話』におけるダーウィン以前の「デザイン論」をめぐる問題	ヒュームの著書を手がかりに、ダーウィン以前における「知的デザイン」をめぐる思想状況を概観する
第6回	進化論前史(1)	ダーウィンの進化論に先立つ、それを準備した歴史的背景について見ていく
第7回	進化論前史(2)/ダーウィンの自然選択説(1)	前回に引き続き、主にダーウィン以前の進化思想について学び、引き続き、ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択説について学ぶ
第8回	ダーウィンの自然選択説(2)	前回に引き続き、自然選択説の論理やその意義などについて学ぶ
第9回	「ダーウィニズムの失墜」の時代：「偽ダーウィニズム」と「反ダーウィニズム」	19世紀後期から20世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第10回	「メンデル革命」から集団遺伝学の成立まで	20世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル遺伝学が、やがてダーウィニズムと結びつき、集団遺伝学を生み出すまでを学ぶ。
第11回	進化の総合説の確立とその後の発展	集団遺伝学において復権したダーウィニズムを生物学の基礎的な理論とする「進化の総合説」の確立と、その後の1970年代頃までのダーウィニズムの発展を見ていく。
第12回	進化論の社会的影響	いったん目を19世紀後半に戻し、進化論が社会にどのような影響を与えたかを見ていく。
第13回	社会生物学論争とその後の展開	第二次大戦後の人間研究の状況を概観したあと、1980年代に巻き起こった「社会生物学論争」について学ぶ。
第14回	現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影响を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムを用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持って行くもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心にに応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

毎回の受講確認課題に基づく平常点30%、期末レポート70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることが心掛けて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の受講確認課題とレポートは受講後学習支援システム上で受け付けるので、受講後学習支援システムにアクセスできる環境は必須である。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of evolutionary theory and its social influence. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

SHS100LA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100)

科学論A

2017年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術の過去や現在を学ぶことは、科学・技術の未来を考察することにつながります。本授業では、環境問題を中心に現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらしうる問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
 ・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行います。そのため、知識を扱うオンデマンド配信回とディスカッションをメインとする対面回の混合型で授業を実施します。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	環境問題の歴史	科学・技術がもたらした環境問題について歴史的に概観します。
第3回	事例研究「水俣病」	水俣病を事例として研究します。
第4回	環境思想の歴史	環境思想について歴史的に概観します。
第5回	事例研究「アミノクロウサギ訴訟」	アミノクロウサギ訴訟を事例として研究します。
第6回	環境問題と市民	環境問題における当事者性について考察します。
第7回	事例研究「地球温暖化」	地球温暖化を事例として研究します。
第8回	科学による可視化と不可視化	科学の不確実性の問題を考察します。
第9回	事例研究「緑の革命」	緑の革命を事例として研究します。

第10回	巨た事故の時代	具体例を用いながら巨た事故について考察します。
第11回	事例研究「チャレンジャー号事故」	チャレンジャー号事故を事例として研究します。
第12回	巨た技術システムの構造的問題	具体例を用いながら巨た技術システムの構造的問題を考察します。
第13回	事例研究「阪神・淡路大震災」	阪神・淡路大震災を事例として研究します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

塚原東吾 [ほか] 編著『よくわかる現代科学技術史・STS』ミネルヴァ書房、2022年
 野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2015年
 中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008年
 伊勢田哲治 [ほか] 編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年

【成績評価の方法と基準】

本授業は、知識を得ることだけでなく、積極的にディスカッションに参加するなどして、自ら問題を考察することを期待します。このような観点から、対面回における議論への参加度合とリアクションペーパーを平常点として評価します（30%）。また、授業内レポート（20%）と授業内試験（50%）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが好評でしたので、引き続き実施します。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Studying the past and present of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology, with a focus on environmental issues, and will aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
- Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
- Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology, and society.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (50%), and in class contribution (30%).

SHS100LA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100)

科学論B

2017年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術の過去や現在を学ぶことは、科学・技術の未来を考察することにつながります。本授業では、科学者の社会的責任という観点から現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらしうる問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】

本授業で履修者が目指すべき到達目標は以下のとおりです。

- ・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
- ・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
- ・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行います。そのため、知識を扱うオンデマンド配信回とディスカッションをメインとする対面回の混合型で授業を実施します。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 授業内レポート①	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。また、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。
第2回	科学者の社会的責任の歴史的概観	科学者の社会的責任について歴史的に概観します。
第3回	事例研究「マンハッタン計画」	マンハッタン計画を事例として研究します。
第4回	科学・技術と国家	科学・技術と国家の関係について、軍事技術を取り上げながら検討します。
第5回	事例研究「朝鮮戦争・ベトナム戦争と科学技術」	朝鮮戦争・ベトナム戦争を例に科学技術のあり方を考察します。
第6回	責任ある研究	具体例を用いながら責任ある研究と研究不正について解説します。
第7回	事例研究「東大RNA論文捏造事件」	東大RNA論文捏造事件を事例として研究します。

第8回	研究不正の防止①	研究不正を防止するにはどうすればよいのかについて検討します。
第9回	事例研究「ベル研シェーン事件」	ベル研シェーン事件を事例として研究します。
第10回	研究不正の防止②	具体例を用いながら研究不正を防止について検討します。
第11回	事例研究「The Lab」	仮想事例The Labを通して問題を検討します。
第12回	科学者の社会的責任の3つの相	科学者の社会的責任の3つの相について考察します。
第13回	事例研究「BSE問題」	BSEを事例として研究します。
第14回	まとめと解説 授業内レポート② 授業内試験	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内レポート②（Reflection Essay【受講後】）と授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子『科学者の社会的責任』岩波書店、2018年
唐木順三『「科学者の社会的責任」についての覚え書』筑摩書房、2012年
金森修『科学の危機』集英社、2015年

【成績評価の方法と基準】

本授業は、知識を得ることだけでなく、積極的にディスカッションに参加するなどして、自ら問題を考察することを期待します。このような観点から、対面回における議論への参加度合とリアクションペーパーを平常点として評価します（30％）。また、授業内レポート（20％）と授業内試験（50％）を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します。なお、授業内試験は知識の習得だけを目的としたものではありません。必ず初回の説明を確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが好評でしたので、引き続き実施します。

【その他の重要事項】

本授業の受講を検討している方は必ず第1回の講義に出席してください。本授業の問題意識、内容、評価方法を詳しく説明すると同時に、授業内レポート①（Reflection Essay【受講前】）を実施します。

【Outline (in English)】

Course Outline

Studying the past and present of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology, with a focus on social responsibility of scientists, and will aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
- Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
- Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology, and society.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class report (20%), in class exam (50%), and in class contribution (30%).

SHS100LA（科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100）

科学論A

2017年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「閉じた世界から無限宇宙へ」をテーマとし、西洋における科学のはじまりから「17世紀科学革命」の時期までの宇宙論の変遷を追う中で、近代科学および科学的思考について、歴史的、思想的な背景を中心に学んでいくことを目指す（秋学期の同一講師による「科学論B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学論、科学史、科学的思考に関する事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、これらの事項に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後学習支援システムを通じて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、学習支援システムで受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第2回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第3回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、一度歴史をさかのぼり、ピタゴラス派からプトレマイオスまでの西洋古代の天文学史を学ぶ
第4回	アリストテレスの形而上学と自然学(1)	再びプラトンの直後に戻り、プラトンの弟子であり中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく

第5回	アリストテレスの形而上学と自然学(2)／古代後期の自然哲学	引き続きアリストテレス自然学に付いて学び、その後、近代世界にも大きな影響を与えた古代後期の代表的な学派であるストア派とエピクロス派の自然哲学を学ぶ
第6回	中世イスラム世界におけるプトレマイオス天文学の継承と見直し／ルネサンス期の天文学	中世におけるプトレマイオス天文学の発展と、コペルニクスに先立つルネサンス期ヨーロッパの天文学の動向を学ぶ
第7回	コペルニクス天文学の成立	ルネサンス人コペルニクスの人となり、プラトン、アリストテレス、およびイスラム天文学の影響下でプトレマイオス体系の見直しを試みたコペルニクスが地動説に到達するまでの経過を学ぶ
第8回	コペルニクス天文学の受容とその余波	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく
第9回	17世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判	天文学の革新と呼応して進んだ「17世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第10回	デカルトによる近代科学の基礎づけ	科学革命によって成立した「機械論的自然観」を哲学的に基礎づけようとしたデカルトの試みを見ていく
第11回	デカルトとヘンリー・モアの論争	ニュートンの空間概念に大きな影響を与えたとされる、ケンブリッジ・プラトン主義の創始者ヘンリー・モアの独特の空間論と、彼のデカルトとの論争を見ていく
第12回	スピノザの「神即自然」	科学革命が明らかにした「無限な宇宙」を「無限な実体としての神」と重ね合わせた異端的思想家であるスピノザの「神即自然」の思想を概観する
第13回	ニュートンとライプニッツの論争(1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第14回	ニュートンとライプニッツの論争(2)／ニュートン力学の発展とその後	18世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムの課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）を挙げておく。今期の講義により密接に関わる文献としては、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）と、アレクサンドル・コイレ『閉じた世界から無限宇宙へ』（みすず書房）／『コスモスの崩壊』（白水社）があるが、いずれも入門書とは言えず、難易度が高い。

【成績評価の方法と基準】

毎回の受講確認課題に基づく平常点30%、期末レポート70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の受講確認課題とレポートは受講後学習支援システム上で受け付けるので、受講後学習支援システムにアクセスできる環境は必須である。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of cosmology from ancient to the age of "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn about modern science and the scientific thinking from the historical viewpoint.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on science, history of science, and the scientific thinking treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

SHS100LA (科学社会学・科学技術史 / Sociology/History of science and technology 100)	
科学論B	2017年度以降入学者
木島 泰三	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3	
単位数：2単位	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は「進化論と人間観」と題し、19世紀におけるダーウィン進化論の登場までの科学の歩みとその後の進化論の発展の歴史、そしてその人間観への影響を見ていく中で、科学理論と社会や思想との関わりについて学ぶことを目指す。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学論A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた科学論およびそれに関連する歴史的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、それらの事項に関して、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後受講後学習支援システムを通じて求め求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、受講後学習支援システムを通じて受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第2回	古代哲学における目的論と反目的論(1)	古代ギリシャにおける目的論的自然観と反目的論的自然観の相克を見ていく
第3回	古代哲学における目的論と反目的論(2)/科学革命と機械論的自然観の成立	前回に引き続き古代の自然観を概観し、引き続き17世紀科学革命と機械論的自然観の成立を、アリストテレスの目的論的自然観との対比で見ていく
第4回	デカルト・ライプニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「こころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライプニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ

第5回	ヒュームの『自然宗教をめぐる対話』におけるダーウィン以前の「デザイン論」をめぐる問題	ヒュームの著書を手がかりに、ダーウィン以前における「知的デザイン」をめぐる思想状況を概観する
第6回	進化論前史(1)	ダーウィンの進化論に先立つ、それを準備した歴史的背景について見ていく
第7回	進化論前史(2)/ダーウィンの自然選択説(1)	前回に引き続き、主にダーウィンの進化思想について学び、引き続き、ダーウィンの進化のメカニズムとして提起した自然選択説について学ぶ
第8回	ダーウィンの自然選択説(2)	前回に引き続き、自然選択説の論理やその意義などについて学ぶ
第9回	「ダーウィニズムの失墜」の時代：「偽ダーウィニズム」と「反ダーウィニズム」	19世紀後期から20世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第10回	「メンデル革命」から集団遺伝学の成立まで	20世紀前半、反ダーウィニズムの急先鋒であったメンデル遺伝学が、やがてダーウィニズムと結びつき、集団遺伝学を生み出すまでを学ぶ。
第11回	進化の総合説の確立とその後の発展	集団遺伝学において復権したダーウィニズムを生物学の基礎的な理論とする「進化の総合説」の確立と、その後の1970年代頃までのダーウィニズムの発展を見ていく。
第12回	進化論の社会的影響	いったん目を19世紀後半に戻し、進化論が社会にどのような影響を与えたかを見ていく。
第13回	社会生物学論争とその後の展開	第二次大戦後の人間研究の状況を概観したあと、1980年代に巻き起こった「社会生物学論争」について学ぶ。
第14回	現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後学習支援システムを用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持って行くもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心にに応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

毎回の受講確認課題に基づく平常点30%、期末レポート70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることが心掛けて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の受講確認課題とレポートは受講後学習支援システム上で受け付けるので、受講後学習支援システムにアクセスできる環境は必須である。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of evolutionary theory and its social influence. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

- (1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,
- (2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through internet and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (70%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(30%) .

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)		
数学特講 L A		2017年度以降入学者
サブタイトル：		
安東 祐希		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月1/Mon.1		
単位数：2単位		
その他属性：〈優〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

線型代数学－大人のための鶴亀算その1

線型（形）代数学の基礎を学ぶ。線型代数学は、微分積分学と並び、数学の基礎を成し、社会科学などを含めて様々な分野で応用されている。データサイエンスにおいても重要な役割を持つ。

線型代数学を標語的にはツルカメ算の一般化と表現できる。鶴と亀あわせて10匹いて足は全部で26本、それぞれ何匹いるのか、というあの鶴亀算である。全部亀だったら足が40本のはずで…などと考えれば小学生でもできる。

次に、頭が二つで足は五本、翼が二つの竜Aがいたとして、鶴と亀と竜Aをあわせて頭は9、足は25、翼は8だったらどうか。これも中学生なら連立一次方程式を解いてそれぞれ何匹いるかわかる。では、竜Bは頭三つ、足八本、翼四つとして、鶴と亀と竜Bをあわせて頭は17、足は48、翼は20の場合は。さっきと同じことだ、と思うかもしれないが、違うのである。さっきより少々難しい。何が違うのか、どのように解くことができるのか、線型代数学を学ぶと、図形的な把握のもとに理解することができる。

この春期授業では、線型代数の基本的な道具である行列と行列式に関し、計算方法を学んでゆく。

【到達目標】

- ・行列の定義を理解し、行列演算に関する計算ができる。
- ・行列式の定義を理解し、行列式に関する計算ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	線型代数の第一歩	鶴亀算
第2回	ベクトルとは	数ベクトルの定義と演算
第3回	ベクトルと図形	一次結合の図形的解釈
第4回	行列とは	行列の定義と演算
第5回	行列演算の性質	線型性

第6回	行列の意味するもの	線型写像と表現行列
第7回	行列演算の再考	線型写像の合成写像
第8回	行列の逆演算	逆行列の定義
第9回	簡単な行列式	低次の行列式
第10回	行列式の性質	多重線型性、交代性、正規性
第11回	行列式の性質再考	行列式の一意性
第12回	一般の行列式	行列式の定義の拡張
第13回	行列式計算の実際	行展開、列展開
第14回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

線型代数（線形代数）に関する書籍は実に沢山あり、おそらくそのいずれもが本授業の参考となるものと思う。次の三つはそれらの中の例である。

- ・松坂和夫『線型代数入門』（岩波書店）1980年、新装版2018年
- ・川久保勝夫『線形代数学』（日本評論社）1999年、新装版2010年
- ・H. アントン [山下純一 訳]『アントンのやさしい線型代数』（現代数学社）1980年、新装版2020年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

秋期科目「数学特講 L B」の予備知識となる内容を含む。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with basic concepts and tools of linear algebra, especially matrices and determinants.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do calculations on matrices and determinants.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

数学特講 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

線型代数学－大人のための鶴亀算その2

線型（形）代数学の基礎を学ぶ。線型代数学は、微分積分学と並び、数学の基礎を成し、社会科学などを含めて様々な分野で応用されている。データサイエンスにおいても重要な役割を持つ。

線型代数学を標語的にはツルカメ算の一般化と表現できる。鶴と亀あわせて10匹いて足は全部で26本、それぞれ何匹いるのか、というあの鶴亀算である。全部亀だったら足が40本のはずで…などと考えると小学生でもできる。

次に、頭が二つで足は五本、翼が二つの竜Aがいたとして、鶴と亀と竜Aをあわせて頭は9、足は25、翼は8だったらどうか。これも中学生なら連立一次方程式を解いてそれぞれ何匹いるかわかる。では、竜Bは頭三つ、足八本、翼四つとして、鶴と亀と竜Bをあわせて頭は17、足は48、翼は20の場合は。さっきと同じことだ、と思うかもしれないが、違うのである。さっきより少々難しい。何が違うのか、どのように解くことができるのか、線型代数学を学ぶと、図形的な把握のもとに理解することができる。

この秋期授業では、連立一次方程式の線型代数による一般の解法や、線型空間の理論を学んでゆく。

【到達目標】

- ・階数の定義を理解し、連立一次方程式を一般に解くことができる。
- ・線型写像の定義を理解し、固有値・固有ベクトルを計算できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	鶴亀算再考	クラメールの方法
第2回	正方行列の分析	余因子行列の定義
第3回	逆行列の計算	余因子行列の性質
第4回	余因子行列再考	行列式の展開の応用
第5回	行列の基本変形	階段行列

第6回	基本変形再考	基本変形と連立一次方程式
第7回	基本変形の応用	連立一次方程式の解法
第8回	行列の階数とは	階数と基本変形
第9回	階数再考	階数と一次独立性
第10回	基本変形の行列表現	基本行列
第11回	逆行列再考	基本変形と逆行列
第12回	線型写像の構造	次元定理
第13回	線型写像を見やすく	固有値・固有ベクトル
第14回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

線型代数（線形代数）に関する書籍は実に沢山あり、おそらくそのいずれもが本授業の参考となるものと思う。次の三つはそれらの中の例である。

- ・松坂和夫『線型代数入門』（岩波書店）1980年、新装版2018年
- ・川久保勝夫『線形代数学』（日本評論社）1999年、新装版2010年
- ・H. アントン [山下純一 訳]『アントンのやさしい線型代数』（現代数学社）1980年、新装版2020年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

春期科目「数学特講 L A」で扱う内容を既知として授業を進める。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with basic concepts and tools of linear algebra, especially linear equations and linear mappings.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to solve linear equations and eigenvalue problems.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	微分の導入1	導関数と曲線の傾き
第03回	微分の導入2	直線によるグラフの近似
第04回	微分の導入3	ニュートン法
第05回	関数の形式と微分1	合成関数の微分
第06回	関数の形式と微分2	陰関数と微分
第07回	関数の形式と微分3	媒介変数表示と微分
第08回	高階導関数1	2階導関数と曲線のしなり
第09回	高階導関数2	放物線によるグラフの近似
第10回	高階導関数3	マクローリン展開
第11回	高階導関数4	社会科学への応用例
第12回	積分1	積分と微分の関係
第13回	積分2	積分と面積の関係
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。で、履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	空間の数学 1	空間ベクトルの基礎
第03回	空間の数学 2	2変数の1次式と平面
第04回	偏微分 1	偏微分とその意味
第05回	偏微分 2	偏導関数の計算
第06回	偏微分 3	全微分と接平面
第07回	偏微分 4	社会科学での活用事例
第08回	極値の計算 1	2階偏導関数
第09回	極値の計算 2	2変数関数の極値計算
第10回	極値の計算 3	公務員試験の問題例
第11回	極値の計算 4	制約条件付きの極値問題
第12回	データサイエンスへの応用例 1	データの傾向を学習して予想する
第13回	データサイエンスへの応用例 2	4次元データを見える化する
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	微分の導入1	導関数と曲線の傾き
第03回	微分の導入2	直線によるグラフの近似
第04回	微分の導入3	ニュートン法
第05回	関数の形式と微分1	合成関数の微分
第06回	関数の形式と微分2	陰関数と微分
第07回	関数の形式と微分3	媒介変数表示と微分
第08回	高階導関数1	2階導関数と曲線のしなり
第09回	高階導関数2	放物線によるグラフの近似
第10回	高階導関数3	マクローリン展開
第11回	高階導関数4	社会科学への応用例
第12回	積分1	積分と微分の関係
第13回	積分2	積分と面積の関係
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。で、履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	空間の数学 1	空間ベクトルの基礎
第03回	空間の数学 2	2変数の1次式と平面
第04回	偏微分 1	偏微分とその意味
第05回	偏微分 2	偏導関数の計算
第06回	偏微分 3	全微分と接平面
第07回	偏微分 4	社会科学での活用事例
第08回	極値の計算 1	2階偏導関数
第09回	極値の計算 2	2変数関数の極値計算
第10回	極値の計算 3	公務員試験の問題例
第11回	極値の計算 4	制約条件付きの極値問題
第12回	データサイエンスへの応用例 1	データの傾向を学習して予想する
第13回	データサイエンスへの応用例 2	4次元データを見える化する
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分1	微分の定義と基本性質
第3回	微分2	積の微分、商の微分、合成関数の微分
第4回	微分3	陰関数の微分
第5回	微分4	曲線の傾きと極値
第6回	微分的应用1	曲線の凹凸と変曲点
第7回	微分的应用2	テイラー展開
第8回	微分的应用3	マクローリン展開
第9回	微分的应用4	近似計算
第10回	積分1	定積分と不定積分
第11回	積分2	リーマン積分
第12回	積分3	微分積分法の基本定理
第13回	積分的应用1	図形の面積
第14回	積分的应用2	立体の体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT200LA (数学 / Mathematics 200)

発展数学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはすである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	2変数関数1	2変数関数とは
第3回	2変数関数2	曲面のグラフの描き方
第4回	2変数関数3	曲面のグラフの調べ方
第5回	偏微分1	偏微分とは
第6回	偏微分2	曲面の傾き
第7回	偏微分3	偏導関数の計算
第8回	偏微分4	合成関数の微分
第9回	偏微分5	全微分と近似値
第10回	偏微分の応用1	極値問題
第11回	偏微分の応用2	陰関数の微分法
第12回	偏微分の応用3	条件付極値問題
第13回	重積分1	重積分とは
第14回	重積分2	体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「発展数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようなになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要について
第2回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史について
第3回	我々の住む地球(1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第4回	我々の住む地球(2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第5回	我々の住む地球(3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第6回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第7回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第8回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第9回	星の一生と元素合成(1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第10回	星の一生と元素合成(2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第11回	太陽系(1)	太陽系のあらまし
第12回	太陽系(2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第13回	太陽系(3)	誕生後の地球で起こったこと
第14回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。
配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようにになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要について
第2回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史について
第3回	我々の住む地球(1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第4回	我々の住む地球(2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第5回	我々の住む地球(3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第6回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第7回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第8回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第9回	星の一生と元素合成(1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第10回	星の一生と元素合成(2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第11回	太陽系(1)	太陽系のあらまし
第12回	太陽系(2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第13回	太陽系(3)	誕生後の地球で起こったこと
第14回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。

配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ、最新の研究も合わせて紹介します。更に、社会や他の分野に与えた影響についても紹介をし、物理学と社会とのかかわりについて理解を深めることを目的としています。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体について紹介する。
第2回	万有引力：ガリレオ研究	ガリレオ・ガリレイの研究について紹介する。
第3回	万有引力：ケプラーの研究	ヨハネス・ケプラーの研究について紹介する。
第4回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第5回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第6回	宇宙：太陽系	第5回に関連して、地球を含めた太陽系の天体について紹介する。
第7回	宇宙：アポロ計画	アポロ計画を中心に、当時の宇宙開発について紹介する。
第8回	宇宙：スペースシャトルと国際宇宙ステーション	スペースシャトル、更には国際宇宙ステーションを含めた現在の宇宙開発について紹介する。
第9回	宇宙：冥王星探査	冥王星・エッジワースカイパーベルト天体探査について紹介する。
第10回	宇宙：彗星・小惑星探査	地球上の生命はどこから来たのか。小惑星・彗星探査等について紹介する。
第11回	ラジウム：原子核	原子核について簡単に紹介する。

第12回	ラジウム：マリ・キュリーの研究	マリ・キュリーたちの研究について紹介する。
第13回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動、社会に与えた影響について紹介する。
第14回	ラジウム：原子核の応用について	マリ・キュリーが目指した応用等について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the gravitation, the universe, and the radium with historical episodes. In this course, goals are not only to deepen the knowledge about physics but also to acquire the ability to judge various scientific phenomena by yourself. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ、最新の研究も合わせて紹介します。更に、社会や他の分野に与えた影響についても紹介をし、物理学と社会とのかかわりについて理解を深めることを目的としています。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体について紹介する。
第2回	万有引力：ガリレオ研究	ガリレオ・ガリレイの研究について紹介する。
第3回	万有引力：ケプラーの研究	ヨハネス・ケプラーの研究について紹介する。
第4回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第5回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第6回	宇宙：太陽系	第5回に関連して、地球を含めた太陽系の天体について紹介する。
第7回	宇宙：アポロ計画	アポロ計画を中心に、当時の宇宙開発について紹介する。
第8回	宇宙：スペースシャトルと国際宇宙ステーション	スペースシャトル、更には国際宇宙ステーションを含めた現在の宇宙開発について紹介する。
第9回	宇宙：冥王星探査	冥王星・エッジワースカイパーベルト天体探査について紹介する。
第10回	宇宙：彗星・小惑星探査	地球上の生命はどこから来たのか。小惑星・彗星探査等について紹介する。
第11回	ラジウム：原子核	原子核について簡単に紹介する。

第12回	ラジウム：マリ・キュリーの研究	マリ・キュリーたちの研究について紹介する。
第13回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動、社会に与えた影響について紹介する。
第14回	ラジウム：原子核の応用について	マリ・キュリーが目指した応用等について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the gravitation, the universe, and the radium with historical episodes. In this course, goals are not only to deepen the knowledge about physics but also to acquire the ability to judge various scientific phenomena by yourself. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようなになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各回の講義概要について
第2回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史について
第3回	我々の住む地球(1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第4回	我々の住む地球(2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第5回	我々の住む地球(3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第6回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第7回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第8回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第9回	星の一生と元素合成(1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第10回	星の一生と元素合成(2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第11回	太陽系(1)	太陽系のあらまし
第12回	太陽系(2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第13回	太陽系(3)	誕生後の地球で起こったこと
第14回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
 - ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
 - ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。
配分は、平常点を30%、期末試験の結果を70%とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY200LA (物理学 / Physics 200)

教養物理学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：放射線の性質と利用

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

放射線は我々の身近に存在している。自然界では、放射線は宇宙から降り注いでいるだけでなく、地殻や大気、さらには食品中にも放射線を出す物質がごく微量ながら含まれている。また、放射線は、社会において広く利用されている。例えば医学では、放射線の性質を利用したがんの治療などが代表例である。他にも様々なところで放射線は利用されており、放射線を理解することは、現代の科学技術を理解する上でも非常に重要である。一方、放射線と聞くと、人体への影響を心配するかも知れない。人体にどのような影響があり、どのようにコントロールすれば良いのか。それを理解するためにも、放射線の性質を科学的に理解することが重要である。

本授業を通して、学生は、現代物理学の知見に基づいて放射線を理解するとともに、放射線や関連する物理学の知見やそれに基づく技術が社会においてどのように利用されているのかを理解する。

【到達目標】

- ・放射線がどのような性質を持つのか、その発生原理とともに理解できる。
- ・がんの粒子線・放射線治療といった医学での具体例をはじめ、放射線の利用例や関連技術について、その原理を放射線の性質と関連付けて理解することができる。
- ・原子力発電や近年研究が進められている核融合発電などの原理を、物理学の知識に基づいて理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。

学期中に数回程度、授業内容に関する選択式問題の小テストを、学習支援システム上で実施する。小テストの解説や講評は、第14回授業で実施する。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	放射線とは何か説明するとともに、授業内容の概観を示す。
第2回	放射線を見る	動画または実験デモンストレーションによって、霧箱による放射線の観察例を示し、その原理を解説する。また、身近な放射線の例を紹介するとともに、放射線がどのように生体に影響を与えるのかを説明する。
第3回	物理学の基礎知識（1）	放射線を学ぶ上で必要な物理学の基礎知識として、力学の基礎について解説する。

第4回	物理学の基礎知識（2）	放射線を学ぶ上で必要な物理学の基礎知識として、光の性質について解説する。
第5回	原子の構造	原子がどのような構造を持つのか解説する。
第6回	X線の発生	これまでの内容を踏まえ、X線の発生原理を解説する。
第7回	原子核	原子核の性質や構造について解説する。
第8回	放射性崩壊	原子核の崩壊と、それによる放射線の発生機構について解説する。
第9回	特殊相対論と質量エネルギー	放射線を学ぶ上で必要な知識として特殊相対論の概略を紹介するとともに、質量エネルギーについて解説する。
第10回	放射線が物質に当たると何が起るのか？（1）	主に電子や陽子などの電荷をもつ粒子が物質に入射すると何が起るのかを解説する。さらに、それを利用したガンの粒子線治療や放射線治療の原理を紹介する。
第11回	放射線が物質に当たると何が起るのか？（2）	主にX線やγ線、中性子線が物質に入射したときに何が起るのかを解説する。
第12回	原子炉	原子炉の原理や原子炉内で起こる核反応について解説するとともに、それを利用した原子力発電の原理を説明する。
第13回	核融合発電に向けて	近年実用化に向けた研究が進められている核融合発電について、その原理や現状について解説する。
第14回	まとめと試験	全体のまとめを行うとともに、期末試験を実施する。また、学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学・技術に関連するニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、学期中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the radiation physics. It also helps students acquire understand how to use the radiation and the related techniques in modern society.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain properties of radiation and radiation sources
- ・ Explain the principles of radiation-related technology
- ・ Explain the principle and utilization of nuclear reactor

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

成績優秀者の他学部公開科目履修制度対象科目 発行日：2026/5/1

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end exam (70%) and usual performance score (30%).

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：脳科学

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「脳は脳を理解できるか」そんなスローガンで脳科学は始まりました。人間の脳に対して、その構造的な特徴から本質に迫ろうとする神経科学的な手法と、行動の解析からその本質に迫ろうとする心理学的な方法が有りました。「脳科学」の出現によって、その境界が見えにくくなっています。本授業では、学生が主に神経科学的なアプローチで人間の脳のしくみを理解することを目指します。その結果、学生は単なる「神経回路」から、どのように「意識」が発生するかを学び、我々の行動がどれだけ「意識」によってコントロールされているのか考察してもらいます。

【到達目標】

学生は脳の活動を神経科学的に理解した上で、脳科学で問題とされている「意識」について理解できるレベルを目指します。また、毎回の授業を要約する作業を通じて、単に授業内容を理解するだけでなく、それを文章として発信できる文章作成能力の習得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。板書による解説と、関連ビデオ・参考文献の紹介を通じた実例の提示を行いながら授業を進めます。Web 掲示板を設定し、そこでの質問等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。なを、授業中の私語を防止するために、私語については厳罰化を行っています。詳しくは成績評価の項目をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	脳科学の「やさしい問題」と「てごわい問題」	脳科学では何が解決できて、何が解決できないのか？ 問題提起します。
第2回	脳の基本単位・神経細胞	脳神経系の基本単位である、神経細胞（ニューロン）について解説します。
第3回	神経回路と行動	下等動物の行動は、神経回路の解明によって説明できる事を解説します。
第4回	シナプス	神経回路のスイッチとしてのシナプスの働きを説明します。
第5回	動物の本能行動	神経回路が働いた結果、行動が現れます。ここでは、昆虫などが行う本能的な行動について解説します。
第6回	ヒトの神経回路と脳	人間の神経回路の特徴について学びます。
第7回	経験から学ぶしくみ	小脳における手続き学習について学びます。

第8回	経験を記憶するしくみ	海馬における記憶のしくみについて学びます。
第9回	大脳の働き	大脳の働きを調べる方法と、その結果判明した結果について学びます。
第10回	マインドリーディングとサイボーグ技術	脳の働きから「意識」を知ることが可能なのか？ また、その情報を利用して機械を動かすことができるのか？ 脳からの情報摘出技術について、解説します。
第11回	感覚世界	脳には感覚世界が広がっています。その感覚世界では、多くの錯覚が生じます。その錯覚から、大脳における総合的な判断について学びます。
第12回	「てごわい問題」	神経科学では解明できない「てごわい問題」として、意識について様々な研究事例を示します。
第13回	意識と身体	「意識」とはどこにあるのか？ この哲学的な命題について考えます。
第14回	神経回路の自己複製能力	脳に蓄えられた情報（神経回路）が、世代を超えて複製・伝搬するしくみについて解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

授業で紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 x 14 回提出で 100 % 採点します。
授業要約 (200 字要約) のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します
それに従って毎回一週間以内に授業要約を H O P P I I に提出して頂きます。
授業中に私語の注意を受けた場合は、「C」以下の評価とします。二度目の注意を受けた場合には「D」評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は本年度から始まるので、学生の意見は未だ出ていません。他の授業の経験から、私語の厳罰化について好評を得ているので、今後とも続ける予定です。

【Outline (in English)】
(Course outline)

“Can the brain understand the brain?” This slogan marked the beginning of neuroscience. Approaches to understanding the human brain included neuroscientific methods that sought to grasp its essence through structural characteristics, and psychological methods that sought to grasp its essence through behavioral analysis. The emergence of “neuroscience” has blurred these boundaries. This course aims for students to understand the mechanisms of the human brain primarily through a neuroscientific approach. As a result, students will learn how ‘consciousness’ arises from mere “neural circuits” and will be encouraged to consider how much our behavior is controlled by “consciousness.”

(Learning Objectives)

We aim to understand consciousness — a longstanding problem in neuroscience — by first gaining a neuroscientific understanding of brain activity. Furthermore, through the task of summarizing each class session, we also aim to develop the ability to communicate this knowledge in writing, moving beyond mere comprehension of the lecture content. (Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Class Summary: 200 characters x 14 submissions will be graded at 100%.

The method for writing the Class Summary (200-character summary) will be explained in the first class.

Following that method, you must submit your Class Summary to HOPPI within one week after each class.

If you are cautioned for talking during class, you will receive a grade of “C” or lower. A second caution will result in a “D” grade.

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：マクロ系の生物学

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マクロ系の生物学」とは複数の要因が関係し合うことで起きる生命現象を取り上げて説明する授業です。生物学では、生命現象の原因を突き止めるため、体を解体して各組織の役割を突き止め、その組織を構成している細胞を明らかにし、その細胞の性質を決める遺伝子を解明するといったマイクロ（微小）な構成要素に向けた研究を行ってきました。その一方で、構成要素の個々の性質だけでは説明できない多くの生命現象が有る事をご紹介します、その原因が複数の要素を含む系（マクロ系）に存在することをご紹介します。本授業で学生は、多細胞生物が体を作り上げる仕組みやアリの大群がとんでもない能力を発揮する仕組みまで、従来の微生物学では説明できなかった生命現象について、「マクロ系」として理解するための知識を学ぶことになります。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つ有ります。第一に、学生がマクロ系の生命現象を学ぶことで「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、学生には論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。板書による解説と、関連ビデオ・参考文献の紹介を通じた事例の提示を行いながら授業を進めます。本授業では、関連する視聴覚教材を得にくいので、主として参考図書の紹介に時間をかける予定です。WEB掲示板を設定し、そこでの質問等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システムHoppiiを通じて行う予定です。なを、授業中の私語を防止するために、私語については厳罰化を行っています。詳しくは成績評価の項目をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	生物学のはじまり	ギリシア哲学から始まる生物学の歴史をひもときながら、現代の機械論的生物学に至った経緯を紹介します。
②	生物機械論	18世紀以降、物理学や化学の進歩につれて、生命現象を物理化学的に解き明かそうとする試みが行われました。
③	生物制御論	実際にパーツがどの様に生命活動を作り上げているかを研究する中で、神経系の仕組みが明らかになってきました。

④	生命と熱力学	物理学者のシュレジンガーは執筆した著書「生命とは何か」で、生命活動の熱力学的な矛盾を「負のエントロピー」という概念で説明しました。
⑤	遺伝情報とは	メンデルが提唱した遺伝子はタンパク質の構造を決めるDNAの塩基配列であることが判明しました。
⑥	生命と情報論	生物は体を作り上げるために遺伝子だけでは無い様々な情報を作り出しています。
⑦	進化論	ダーウィン進化論の基本は、進化は偶然起きる変異と、その結果生存率が高まることの繰り返しで起きるとしたことです。
⑧	共進化	進化は、元々環境との相互作用によって起こります。その相互関係が特定の2種に絞られまると、双方の影響が強くなることで進化を加速させ極めて特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。
⑨	群知能	生物が増殖することで自然と群れを作る事になります。群れには、単独では出来ない様々な能力を持つことが出来ます。
⑩	発生生物学	たった一つの細胞から極めて複雑な生き物が作り上げられる過程を「発生」と呼びます。
⑪	再生現象	一つの細胞から手順を追って作り上げられた体の構造が損傷したとき、どの様に回復できるのでしょうか？
⑫	意識とコンピュータ	意識は人間だけに存在する物なのでしょうか？ 過大な生き物にも意識があるように思えます。
⑬	生氣論	ドリーシェは19世紀の終わりにウニの卵の分割実験から、生氣論を唱えました。
⑭	まとめ	授業を通じて論じてきたマクロシステムの特徴について、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

授業で紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

授業要約200字x14回提出で100%採点します。授業要約（200字要約）のまとめ方は第1回目の授業で説明します。それに従って毎回一週間以内に授業要約をHOPPIIに提出して頂きます。授業中に私語の注意を受けた場合は、「C」以下の評価とします。二度目の注意を受けた場合には「D」評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は本年度から始まるので、学生の意見は未だ出ていません。他の授業の経験から、私語の厳罰化について好評を得ているので、今後とも続ける予定です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

“Biology of Macrosystems” is a course that examines and explains biological phenomena arising from the interaction of multiple factors. In biology, to uncover the causes of life phenomena, research has traditionally focused on microscopic components: dissecting organisms to determine the role of each tissue, identifying the cells that compose those tissues, and elucidating the genes that determine the properties of those cells. This course introduces the existence of numerous biological phenomena that cannot be explained solely by the individual properties of these components, demonstrating that their causes reside within systems encompassing multiple elements (macrosystems). Students will learn the knowledge necessary to understand these biological phenomena — ranging from the mechanisms by which multicellular organisms construct their bodies to the mechanisms enabling massive ant colonies to exhibit extraordinary capabilities — as “macrosystems,” phenomena previously unexplained by traditional microscopic biology.

(Learning Objectives)

This course has two primary objectives. First, to acquire foundational knowledge of “biology” by studying life phenomena at the macrosystem level. Second, to develop logical thinking skills and writing abilities. The course plan is structured so that logical thinking and writing skills are cultivated through completing assignments according to the schedule.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Class Summary: 200 characters x 14 submissions will be graded at 100%.

The method for writing the Class Summary (200-character summary) will be explained in the first class.

Following that method, you must submit your Class Summary to HOPPI within one week after each class.

If you are cautioned for talking during class, you will receive a grade of “C” or lower. A second caution will result in a “D” grade.

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：脳科学

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「脳は脳を理解できるか」そんなスローガンで脳科学は始まりました。人間の脳に対して、その構造的な特徴から本質に迫ろうとする神経科学的な手法と、行動の解析からその本質に迫ろうとする心理学的な方法が有りました。「脳科学」の出現によって、その境界が見えにくくなっています。本授業では、学生が主に神経科学的なアプローチで人間の脳のしくみを理解することを目指します。その結果、学生は単なる「神経回路」から、どのように「意識」が発生するかを学び、我々の行動がどれだけ「意識」によってコントロールされているのか考察してもらいます。

【到達目標】

学生は脳の活動を神経科学的に理解した上で、脳科学で問題とされている「意識」について理解できるレベルを目指します。また、毎回の授業を要約する作業を通じて、単に授業内容を理解するだけでなく、それを文章として発信できる文章作成能力の習得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。板書による解説と、関連ビデオ・参考文献の紹介を通じた実例の提示を行いながら授業を進めます。Web 掲示板を設定し、そこでの質問等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。なを、授業中の私語を防止するために、私語については厳罰化を行っています。詳しくは成績評価の項目をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	脳科学の「やさしい問題」と「てごわい問題」	脳科学では何が解決できて、何が解決できないのか？ 問題提起します。
第2回	脳の基本単位・神経細胞	脳神経系の基本単位である、神経細胞（ニューロン）について解説します。
第3回	神経回路と行動	下等動物の行動は、神経回路の解明によって説明できる事を解説します。
第4回	シナプス	神経回路のスイッチとしてのシナプスの働きを説明します。
第5回	動物の本能行動	神経回路が働いた結果、行動が現れます。ここでは、昆虫などが行う本能的な行動について解説します。
第6回	ヒトの神経回路と脳	人間の神経回路の特徴について学びます。
第7回	経験から学ぶしくみ	小脳における手続き学習について学びます。

第8回	経験を記憶するしくみ	海馬における記憶のしくみについて学びます。
第9回	大脳の働き	大脳の働きを調べる方法と、その結果判明した結果について学びます。
第10回	マインドリーディングとサイボーグ技術	脳の働きから「意識」を知ることが可能なのか？ また、その情報を利用して機械を動かすことができるのか？ 脳からの情報摘出技術について、解説します。
第11回	感覚世界	脳には感覚世界が広がっています。その感覚世界では、多くの錯覚が生じます。その錯覚から、大脳における総合的な判断について学びます。
第12回	「てごわい問題」	神経科学では解明できない「てごわい問題」として、意識について様々な研究事例を示します。
第13回	意識と身体	「意識」とはどこにあるのか？ この哲学的な命題について考えます。
第14回	神経回路の自己複製能力	脳に蓄えられた情報（神経回路）が、世代を超えて複製・伝搬するしくみについて解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

授業で紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 x 14 回提出で 100 % 採点します。
授業要約 (200 字要約) のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します
それに従って毎回一週間以内に授業要約を H O P P I I に提出して頂きます。
授業中に私語の注意を受けた場合は、「C」以下の評価とします。二度目の注意を受けた場合には「D」評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は本年度から始まるので、学生の意見は未だ出ていません。他の授業の経験から、私語の厳罰化について好評を得ているので、今後とも続ける予定です。

【Outline (in English)】
(Course outline)

“Can the brain understand the brain?” This slogan marked the beginning of neuroscience. Approaches to understanding the human brain included neuroscientific methods that sought to grasp its essence through structural characteristics, and psychological methods that sought to grasp its essence through behavioral analysis. The emergence of “neuroscience” has blurred these boundaries. This course aims for students to understand the mechanisms of the human brain primarily through a neuroscientific approach. As a result, students will learn how ‘consciousness’ arises from mere “neural circuits” and will be encouraged to consider how much our behavior is controlled by “consciousness.”

(Learning Objectives)

We aim to understand consciousness — a longstanding problem in neuroscience — by first gaining a neuroscientific understanding of brain activity. Furthermore, through the task of summarizing each class session, we also aim to develop the ability to communicate this knowledge in writing, moving beyond mere comprehension of the lecture content. (Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Class Summary: 200 characters x 14 submissions will be graded at 100%.

The method for writing the Class Summary (200-character summary) will be explained in the first class.

Following that method, you must submit your Class Summary to HOPPI within one week after each class.

If you are cautioned for talking during class, you will receive a grade of “C” or lower. A second caution will result in a “D” grade.

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：マクロ系の生物学

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マクロ系の生物学」とは複数の要因が関係し合うことで起きる生命現象を取り上げて説明する授業です。生物学では、生命現象の原因を突き止めるため、体を解体して各組織の役割を突き止め、その組織を構成している細胞を明らかにし、その細胞の性質を決める遺伝子を解明するといったマイクロ（微小）な構成要素に向けた研究を行ってきました。その一方で、構成要素の個々の性質だけでは説明できない多くの生命現象が有る事をご紹介します、その原因が複数の要素を含む系（マクロ系）に存在することをご紹介します。本授業で学生は、多細胞生物が体を作り上げる仕組みやアリの大群がとんでもない能力を発揮する仕組みまで、従来の微生物学では説明できなかった生命現象について、「マクロ系」として理解するための知識を学ぶことになります。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つ有ります。第一に、学生がマクロ系の生命現象を学ぶことで「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、学生には論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。板書による解説と、関連ビデオ・参考文献の紹介を通じた事例の提示を行いながら授業を進めます。本授業では、関連する視聴覚教材を得にくいので、主として参考図書の紹介に時間をかける予定です。WEB掲示板を設定し、そこでの質問等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システムHoppiiを通じて行う予定です。なを、授業中の私語を防止するために、私語については厳罰化を行っています。詳しくは成績評価の項目をご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	生物学のはじまり	ギリシア哲学から始まる生物学の歴史をひもときながら、現代の機械論的生物学に至った経緯を紹介します。
②	生物機械論	18世紀以降、物理学や化学の進歩につれて、生命現象を物理化学的に解き明かそうとする試みが行われました。
③	生物制御論	実際にパーツがどの様に生命活動を作り上げているかを研究する中で、神経系の仕組みが明らかになってきました。

④	生命と熱力学	物理学者のシュレジンガーは執筆した著書「生命とは何か」で、生命活動の熱力学的な矛盾を「負のエントロピー」という概念で説明しました。
⑤	遺伝情報とは	メンデルが提唱した遺伝子はタンパク質の構造を決めるDNAの塩基配列であることが判明しました。
⑥	生命と情報論	生物は体を作り上げるために遺伝子だけでは無い様々な情報を作り出しています。
⑦	進化論	ダーウィン進化論の基本は、進化は偶然起きる変異と、その結果生存率が高まることの繰り返しで起きるとしたことです。
⑧	共進化	進化は、元々環境との相互作用によって起こります。その相互関係が特定の2種に絞られまると、双方の影響が強くなることで進化を加速させ極めて特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。
⑨	群知能	生物が増殖することで自然と群れを作る事になります。群れには、単独では出来ない様々な能力を持つことが出来ます。
⑩	発生生物学	たった一つの細胞から極めて複雑な生き物が作り上げられる過程を「発生」と呼びます。
⑪	再生現象	一つの細胞から手順を追って作り上げられた体の構造が損傷したとき、どの様に回復できるのでしょうか？
⑫	意識とコンピュータ	意識は人間だけに存在する物なのでしょうか？ 過大な生き物にも意識があるように思えます。
⑬	生氣論	ドリーシェは19世紀の終わりにウニの卵の分割実験から、生氣論を唱えました。
⑭	まとめ	授業を通じて論じてきたマクロシステムの特徴について、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

授業で紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

授業要約200字x14回提出で100%採点します。授業要約（200字要約）のまとめ方は第1回目の授業で説明します。それに従って毎回一週間以内に授業要約をHOPPIIに提出して頂きます。授業中に私語の注意を受けた場合は、「C」以下の評価とします。二度目の注意を受けた場合には「D」評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は本年度から始まるので、学生の意見は未だ出ていません。他の授業の経験から、私語の厳罰化について好評を得ているので、今後とも続ける予定です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

“Biology of Macrosystems” is a course that examines and explains biological phenomena arising from the interaction of multiple factors. In biology, to uncover the causes of life phenomena, research has traditionally focused on microscopic components: dissecting organisms to determine the role of each tissue, identifying the cells that compose those tissues, and elucidating the genes that determine the properties of those cells. This course introduces the existence of numerous biological phenomena that cannot be explained solely by the individual properties of these components, demonstrating that their causes reside within systems encompassing multiple elements (macrosystems). Students will learn the knowledge necessary to understand these biological phenomena — ranging from the mechanisms by which multicellular organisms construct their bodies to the mechanisms enabling massive ant colonies to exhibit extraordinary capabilities — as “macrosystems,” phenomena previously unexplained by traditional microscopic biology.

(Learning Objectives)

This course has two primary objectives. First, to acquire foundational knowledge of “biology” by studying life phenomena at the macrosystem level. Second, to develop logical thinking skills and writing abilities. The course plan is structured so that logical thinking and writing skills are cultivated through completing assignments according to the schedule.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policies)

Class Summary: 200 characters x 14 submissions will be graded at 100%.

The method for writing the Class Summary (200-character summary) will be explained in the first class.

Following that method, you must submit your Class Summary to HOPPI within one week after each class.

If you are cautioned for talking during class, you will receive a grade of “C” or lower. A second caution will result in a “D” grade.

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：エピジェネティクス（後成遺伝学）：「命のコード」をどう使うか

波平 昌一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「同じ遺伝子をもつ細胞が、なぜ異なる性質をもつか」という問いを出発点に、生命が環境や経験に応じてどのように変化するかを、「エピジェネティクス（後成遺伝学）」という視点から考えることを目的として展開します。私たちの体をつくるすべての細胞は同じDNAをもっていますが、実際には神経細胞や筋肉細胞など、まったく異なる働きを示します。つまり、同じ「命のコード」（DNAに書き込まれた情報）をもっている、どの部分がいつ・どこで・どれくらい使われるかによって、細胞の性質が変わるということです。本授業では、DNAや遺伝子発現、クロマチン構造などの基本的な考え方を手がかりに、遺伝子の働きがどのように調節されているのかを見ていきます。さらに、細胞分化、脳の機能、老化、病気といった生命現象がエピジェネティクスとどのように結びついているのかを取り上げ、生命が固定された設計図ではなく、環境や時間の影響を受けながら変化する動的なシステムであることを考えていきます。

【到達目標】

本授業を通じて学生は、DNAの配列そのものが変わる場合と、DNAの配列は同じでも遺伝子の「使われ方」が変わる場合とを区別できるようになります。また、遺伝子が「いつ・どこで・どれくらい」働くかが調節されることで、細胞の性質が保たれたり変化したりする仕組みをイメージできるようになります。さらに、発生・成長・老化・病気などの例を通して、日常で耳にする「体質」「ストレス」「生活習慣」「リスク」といった言葉を、根拠に基づいて整理して捉えられるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進めます。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指します。授業に関する質問やコメントがあれば、課題と同時に提出してください。課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとエピジェネティクス概説 — 本講義の問いと全体像	本講義の中心となる問い「同じ遺伝子をもつ細胞が、なぜ違う性質を示すのか」を提示し、授業の進め方・評価・到達点を共有したうえで、エピジェネティクスが現代の生命科学で重視される理由を概説します。

第2回	DNA・遺伝子・染色体 — 遺伝情報の基本構造	DNA・遺伝子・染色体（ゲノム）について整理し、遺伝情報が細胞内でどのように体系的に保管されているかを概説します。
第3回	転写・翻訳と遺伝子発現 — 情報が働きになるまで	DNA上の情報がRNAを経てタンパク質の働きへとつながる流れ（転写・翻訳）を示し、「遺伝子がいつ・どの程度働くか」という調節が生命現象を左右することを概説します。
第4回	遺伝学（ジェネティクス）とは何か — 遺伝学の考え方と境界	遺伝学（ジェネティクス）が性質や病気をどのように説明してきたかをたどり、DNA配列の違いだけでは説明が難しい現象があることを概説します。
第5回	「第2の遺伝」はなぜ提案されたのか — 学説の背景と発展	発生や分化をめぐる研究の流れの中で、エピジェネティクスという考え方がどのように形成され発展してきたかを、歴史とともに概説します。
第6回	エピジェネティクスの基本概念 — 可逆性・安定性・記憶	可逆性（戻りうる）と安定性（保たれる）という二つの性質を軸に、細胞が一度得た状態を一定期間維持する「記憶」をどのように捉えるかを概説します。
第7回	クロマチン構造 — DNAが収納される意味	DNAが折りたたまれて収納される構造（クロマチン）に着目し、物理的な配置が遺伝子の働きやすさを左右することについて概説します。
第8回	ヒストン修飾とDNAメチル化 — エピジェネティクスのしくみ	ヒストン修飾やDNAメチル化といった化学的な「目印」が、遺伝子の働き方を調節し、細胞の性質やふるまいに影響しうることを例とともに概説します。
第9回	細胞分化とエピジェネティクス — なぜ同じDNAから多様な細胞が生まれるのか	同じDNAをもつ細胞が神経や筋肉などへ分かれていく過程を取り上げ、遺伝子の使い分けと状態の固定が分化を支えるというしくみを概説します。
第10回	環境・経験・生理状態とエピジェネティクス — 「外界」は遺伝子の働き方をどう変えるか	栄養・ストレス・ホルモン・代謝などの条件が細胞の状態にどのように影響するかを取り上げ、環境への応答が長期的に残りうることにについて概説します。
第11回	脳・老化・疾患とエピジェネティクス — 記憶からがんまで	脳の機能、老化、がんを具体例に、エピジェネティクスの変化が健康と病気の両方に関わりうる点を概説します。
第12回	「二人分の情報」を要求する哺乳類の謎 — ゲノムインプリンティング	同じ遺伝子でも「父由来か母由来か」によって働き方が変わる「刷り込み」（ゲノムインプリンティング）を紹介し、哺乳類の発生が「二人分の情報」を求める理由を手がかりに、遺伝子の使われ方に潜むもう一段深い層を概説します。
第13回	エピジェネティクスの操作と応用 — 介入する生命科学	遺伝子の使われ方に介入する研究とその医療応用の可能性を概観するとともに、倫理的・社会的な論点（安全性、公平性、規制など）も概説します。
第14回	エピジェネティクスが示す「遺伝子の使われ方」の科学 — 総括	全体を総括して、DNA配列の違いで説明できることと遺伝子の使われ方で説明できることの関係を整理し、生命を条件に応じて働き方が変わるシステムとして捉える視点を概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して解答するように心がけてください。

授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習した上で翌週の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に課題を出します。10-13回の課題の評価点で成績評価を行います（100%）。1回の課題は10点満点とし、10-13回分を合計して120-140点満点で評価点となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course outline :

This course introduces epigenetics as a way to understand why cells with the same DNA can develop different properties and functions. Using the idea of a “life code” (genetic information written in DNA), we explore how gene activity can change depending on context — when, where, and how strongly genes are used — without altering the DNA sequence itself. The course covers core concepts such as gene expression and chromatin regulation, and connects them to examples including cell differentiation, brain function, aging, and disease. Through these topics, students will view life not as a fixed blueprint but as a dynamic system shaped by time and environment.

Learning objectives:

At the end of the course, students are expected to:

- distinguish changes caused by DNA sequence differences from changes in how genes are regulated without altering the sequence;
- understand, at a conceptual level, how chromatin, histone modifications, and DNA methylation can regulate the timing, location, and strength of gene activity and help stabilize cellular states (“memory”);
- interpret everyday terms such as “constitution,” “stress,” “lifestyle,” and “risk” using scientific reasoning and evidence;
- evaluate the possibilities and limitations of epigenetics in medical and societal applications, and organize their own views on related ethical issues.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to spend about two hours on preparation and about two hours on review for each class session. For any assignments given in class, students should complete them after thoroughly reviewing the lecture content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade will be determined solely by end-of-class assignments (100%). Assignments will be given at the end of each class, and 10 – 13 assignments will be graded. Each assignment is worth 10 points, and the final score will be the total of these assignments (maximum: 120 – 140 points, depending on the number of assignments).

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L D

2017年度以降入学者

サブタイトル：幹細胞生物学：からだをつくり、守り、立て直す科学

波平 昌一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「ひとつの細胞から、なぜ多様な細胞や組織が生まれるのか」という問いを軸に、生命の発生と再生のしくみを幹細胞の視点から考えることを目的として展開します。私たちの体は約200種類の細胞から成り立っていますが、それらはすべて受精卵という一つの細胞に由来しています。本授業では、細胞の分裂や分化、発生の過程をたどりながら、幹細胞がどのようにして体を形づくり、維持しているのかを見ていきます。ES細胞やiPS細胞、体性幹細胞などの例を通して、幹細胞がもつ可能性と限界について考えるとともに、幹細胞を取り巻く微小環境（ニッチ）やエピジェネティクスとの関係にも触れます。さらに、再生医療や脳研究などの最新の話題を通して、幹細胞研究が社会や医療にもたらす意義と課題について考察します。

【到達目標】

本授業を通じて学生は、からだがどのように作られ、傷ついた組織がどのように回復しうのかなを、幹細胞という視点から捉えられるようになります。また、幹細胞研究に関する代表的な話題（iPS細胞、再生、クローン、臓器モデルなど）について、何が期待され、何に限界があるのかを根拠に基づいて整理できるようになります。あわせて、関連する倫理的・社会的な論点（安全性、公平性、ルール作りなど）を事実にも基づいて考え、日常の情報を主体的に読み解けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進めます。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指します。授業に関する質問やコメントがあれば、課題と同時に提出して下さい。課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと幹細胞生物学概説 — 本講義の問いと全体像	本講義の中心となる問い「細胞はどのように自分を保ち、別の細胞へ変化するのか」を提示し、授業の進め方・評価・到達点を共有したうえで、幹細胞生物学が発生・再生・医療・倫理へつながる学問であることを概説します。

第2回	細胞とは何か — 生命の単位としての細胞	細胞を生命の基本単位として捉え、細胞が増える（分裂）、状態を保つ（維持）、失われる（死）という基本的なふるまいを軸に、以後の講義の基礎を概説します。
第3回	発生とは何か — 一つの受精卵から身体ができるまで	受精卵から身体が形づくられる過程を、時間の流れと秩序という視点で整理し、細胞が増えるだけでなく配置され役割分担していくことが発生の核心である点を概説します。
第4回	細胞分化 — 同じDNAから異なる細胞が生まれるしくみ	同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる性質を獲得する「分化」を扱い、変化が段階的に進み戻りにくくなる側面を「エピジェネティクス」とも結びつけて概説します。
第5回	幹細胞とは何か — 自己複製と分化能	幹細胞を「自分を保ちながら、別の細胞を生み出せる」細胞として定義し、一般的な細胞との違いと誤解されやすい点を概説します。
第6回	幹細胞研究の歴史 — 発見から学問へ	血液の研究などを手がかりに、幹細胞という考え方がどのように確立され、発生研究や医療と結びつきながら発展してきたかを概説します。
第7回	幹細胞の多様性 — ES細胞・iPS細胞・体性幹細胞	ES細胞・iPS細胞・体性幹細胞を比較し、由来や性質、適した研究・応用の場面の違いを整理しつつ、その可能性と限界を概説します。
第8回	ニッチ（微小環境） — 幹細胞のいるところ	幹細胞が周囲の細胞や環境とセットで保たれていることに注目し、居場所（ニッチ／微小環境）が維持・増殖・分化のバランスを左右するという考え方を概説します。
第9回	幹細胞とエピジェネティクス — 運命を記憶するしくみ	幹細胞が未分化な状態を保つことや、分化が進むと戻りにくくなることを手がかりに、遺伝子の使われ方が細胞の状態を支えるという視点を概説します。
第10回	脳と幹細胞 — 神経幹細胞が担う「支え」のしくみ	神経幹細胞や神経新生を例に、「大人」の脳に残る限定的な更新・修復のしくみを整理し、脳の維持や適応を支える一要素となっていることについて概説します。
第11回	再生の生物学 — 自然に学び、医療へつなぐ	自然界に見られる再生や組織修復の多様なしくみを概観し、幹細胞だけでなく複数の戦略によって再生が成り立ちうる点と、その知見が医療へつながることについて概説します。
第12回	クローンとは何か — 1つの細胞から個体が生まれる条件	クローンの基本概念を整理し、「同じDNA＝同じ個体」ではない理由を発生の視点から考えつつ、細胞の「初期化」の難しさを示す生命の条件と倫理的論点を概説します。
第13回	オルガノイド — 「ミニ臓器」がひらく研究と医療の未来	幹細胞から臓器に近い構造を作るオルガノイドの考え方を整理し、研究や医療への応用可能性と、再現性・成熟度などの課題および倫理的論点を概説します。

第14回 幹細胞が示す「可能性」の科学 ― 総括

幹細胞を「可能性を内包しながら状態を保つ細胞」として再整理し、発生・再生・老化を統合的に捉える視点と、遺伝子の使われ方の調節という観点を踏まえた全体像を概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して解答するように心がけてください。
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習した上で翌週の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に課題を出します。10-13回の課題の評価点で成績評価を行います（100%）。1回の課題は10点満点とし、10-13回分を合計して120-140点満点で評価点となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course outline :

This course explores how a single cell can give rise to diverse cell types and tissues, introducing development and regeneration from the perspective of stem cells. By following key processes such as cell division, differentiation, and embryonic development, students will learn how stem cells contribute to building and maintaining the body. The course also introduces major stem cell types (ES cells, iPS cells, and adult stem cells), highlighting both their potential and limitations, and discusses how stem cells are regulated by their microenvironment (the niche) and epigenetic mechanisms. Current topics such as regenerative medicine and brain research are used to consider the scientific, medical, and societal significance of stem cell research.

Learning objectives:

At the end of the course, students are expected to:

- understand, at a conceptual level, how stem cells relate to development, tissue maintenance, and regeneration;
- organize key ideas about ES/iPS/adult stem cells, organoids, and cloning, including what they can and cannot achieve, based on scientific evidence;
- consider ethical and social issues surrounding advanced stem cell research and regenerative medicine (e.g., safety, consent, equity, and regulation) using both facts and personal values;
- critically interpret everyday information and public discussions about stem cell technologies with attention to evidence and limitations.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to spend about two hours on preparation and about two hours on review for each class session. For any assignments given in class, students should complete them after thoroughly reviewing the lecture content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade will be determined solely by end-of-class assignments (100%). Assignments will be given at the end of each class, and 10 – 13 assignments will be graded. Each assignment is worth 10 points, and the final score will be the total of these assignments (maximum: 120 – 140 points, depending on the number of assignments).

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

教養生物学 L C

2017年度以降入学者

サブタイトル：エピジェネティクス（後成遺伝学）：「命のコード」をどう使うか

波平 昌一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「同じ遺伝子をもつ細胞が、なぜ異なる性質をもつか」という問いを出発点に、生命が環境や経験に応じてどのように変化するかを、「エピジェネティクス（後成遺伝学）」という視点から考えることを目的として展開します。私たちの体をつくるすべての細胞は同じDNAをもっていますが、実際には神経細胞や筋肉細胞など、まったく異なる働きを示します。つまり、同じ「命のコード」（DNAに書き込まれた情報）をもっている、どの部分がいつ・どこで・どれくらい使われるかによって、細胞の性質が変わるということです。本授業では、DNAや遺伝子発現、クロマチン構造などの基本的な考え方を手がかりに、遺伝子の働きがどのように調節されているのかを見ていきます。さらに、細胞分化、脳の機能、老化、病気といった生命現象がエピジェネティクスとどのように結びついているのかを取り上げ、生命が固定された設計図ではなく、環境や時間の影響を受けながら変化する動的なシステムであることを考えていきます。

【到達目標】

本授業を通じて学生は、DNAの配列そのものが変わる場合と、DNAの配列は同じでも遺伝子の「使われ方」が変わる場合とを区別できるようになります。また、遺伝子が「いつ・どこで・どれくらい」働くかが調節されることで、細胞の性質が保たれたり変化したりする仕組みをイメージできるようになります。さらに、発生・成長・老化・病気などの例を通して、日常で耳にする「体質」「ストレス」「生活習慣」「リスク」といった言葉を、根拠に基づいて整理して捉えられるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進めます。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指します。授業に関する質問やコメントがあれば、課題と同時に提出してください。課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとエピジェネティクス概説 — 本講義の問いと全体像	本講義の中心となる問い「同じ遺伝子をもつ細胞が、なぜ違う性質を示すのか」を提示し、授業の進め方・評価・到達点を共有したうえで、エピジェネティクスが現代の生命科学で重視される理由を概説します。

第2回	DNA・遺伝子・染色体 — 遺伝情報の基本構造	DNA・遺伝子・染色体（ゲノム）について整理し、遺伝情報が細胞内でどのように体系的に保管されているかを概説します。
第3回	転写・翻訳と遺伝子発現 — 情報が働きになるまで	DNA上の情報がRNAを経てタンパク質の働きへとつながる流れ（転写・翻訳）を示し、「遺伝子がいつ・どの程度働くか」という調節が生命現象を左右することを概説します。
第4回	遺伝学（ジェネティクス）とは何か — 遺伝学の考え方と境界	遺伝学（ジェネティクス）が性質や病気をどのように説明してきたかをたどり、DNA配列の違いだけでは説明が難しい現象があることを概説します。
第5回	「第2の遺伝」はなぜ提案されたのか — 学説の背景と発展	発生や分化をめぐる研究の流れの中で、エピジェネティクスという考え方がどのように形成され発展してきたかを、歴史とともに概説します。
第6回	エピジェネティクスの基本概念 — 可逆性・安定性・記憶	可逆性（戻りうる）と安定性（保たれる）という二つの性質を軸に、細胞が一度得た状態を一定期間維持する「記憶」をどのように捉えるかを概説します。
第7回	クロマチン構造 — DNAが収納される意味	DNAが折りたたまれて収納される構造（クロマチン）に着目し、物理的な配置が遺伝子の働きやすさを左右することについて概説します。
第8回	ヒストン修飾とDNAメチル化 — エピジェネティクスのしくみ	ヒストン修飾やDNAメチル化といった化学的な「目印」が、遺伝子の働き方を調節し、細胞の性質やふるまいに影響しうることを例とともに概説します。
第9回	細胞分化とエピジェネティクス — なぜ同じDNAから多様な細胞が生まれるのか	同じDNAをもつ細胞が神経や筋肉などへ分かれていく過程を取り上げ、遺伝子の使い分けと状態の固定が分化を支えるというしくみを概説します。
第10回	環境・経験・生理状態とエピジェネティクス — 「外界」は遺伝子の働き方をどう変えるか	栄養・ストレス・ホルモン・代謝などの条件が細胞の状態にどのように影響するかを取り上げ、環境への応答が長期的に残りうることにについて概説します。
第11回	脳・老化・疾患とエピジェネティクス — 記憶からがんまで	脳の機能、老化、がんを具体例に、エピジェネティクスの変化が健康と病気の両方に関わりうる点を概説します。
第12回	「二人分の情報」を要求する哺乳類の謎 — ゲノムインプリンティング	同じ遺伝子でも「父由来か母由来か」によって働き方が変わる「刷り込み」（ゲノムインプリンティング）を紹介し、哺乳類の発生が「二人分の情報」を求める理由を手がかりに、遺伝子の使われ方に潜むもう一段深い層を概説します。
第13回	エピジェネティクスの操作と応用 — 介入する生命科学	遺伝子の使われ方に介入する研究とその医療応用の可能性を概観するとともに、倫理的・社会的な論点（安全性、公平性、規制など）も概説します。
第14回	エピジェネティクスが示す「遺伝子の使われ方」の科学 — 総括	全体を総括して、DNA配列の違いで説明できることと遺伝子の使われ方で説明できることの関係を整理し、生命を条件に応じて働き方が変わるシステムとして捉える視点を概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して解答するように心がけてください。

授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習した上で翌週の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に課題を出します。10-13回の課題の評価点で成績評価を行います（100%）。1回の課題は10点満点とし、10-13回分を合計して120-140点満点で評価点となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course outline :

This course introduces epigenetics as a way to understand why cells with the same DNA can develop different properties and functions. Using the idea of a “life code” (genetic information written in DNA), we explore how gene activity can change depending on context — when, where, and how strongly genes are used — without altering the DNA sequence itself. The course covers core concepts such as gene expression and chromatin regulation, and connects them to examples including cell differentiation, brain function, aging, and disease. Through these topics, students will view life not as a fixed blueprint but as a dynamic system shaped by time and environment.

Learning objectives:

At the end of the course, students are expected to:

- distinguish changes caused by DNA sequence differences from changes in how genes are regulated without altering the sequence;
- understand, at a conceptual level, how chromatin, histone modifications, and DNA methylation can regulate the timing, location, and strength of gene activity and help stabilize cellular states (“memory”);
- interpret everyday terms such as “constitution,” “stress,” “lifestyle,” and “risk” using scientific reasoning and evidence;
- evaluate the possibilities and limitations of epigenetics in medical and societal applications, and organize their own views on related ethical issues.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to spend about two hours on preparation and about two hours on review for each class session. For any assignments given in class, students should complete them after thoroughly reviewing the lecture content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade will be determined solely by end-of-class assignments (100%). Assignments will be given at the end of each class, and 10 – 13 assignments will be graded. Each assignment is worth 10 points, and the final score will be the total of these assignments (maximum: 120 – 140 points, depending on the number of assignments).

BIO200LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）		
教養生物学 L D 2017年度以降入学者		
サブタイトル：幹細胞生物学：からだをつくり、守り、立て直す科学		
波平 昌一		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水5/Wed.5 単位数：2単位 その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業は、「ひとつの細胞から、なぜ多様な細胞や組織が生まれるのか」という問いを軸に、生命の発生と再生のしくみを幹細胞の視点から考えることを目的として展開します。私たちの体は約200種類の細胞から成り立っていますが、それらはすべて受精卵という一つの細胞に由来しています。本授業では、細胞の分裂や分化、発生の過程をたどりながら、幹細胞がどのようにして体を形づくり、維持しているのかを見ていきます。ES細胞やiPS細胞、体性幹細胞などの例を通して、幹細胞がもつ可能性と限界について考えるとともに、幹細胞を取り巻く微小環境（ニッチ）やエピジェネティクスとの関係にも触れます。さらに、再生医療や脳研究などの最新の話題を通して、幹細胞研究が社会や医療にもたらす意義と課題について考察します。		
【到達目標】 本授業を通じて学生は、からだがどのように作られ、傷ついた組織がどのように回復しうのかを、幹細胞という視点から捉えられるようになります。また、幹細胞研究に関する代表的な話題（iPS細胞、再生、クローン、臓器モデルなど）について、何が期待され、何に限界があるのかを根拠に基づいて整理できるようになります。あわせて、関連する倫理的・社会的な論点（安全性、公平性、ルール作りなど）を事実にも基づいて考え、日常の情報を主体的に読み解けるようになります。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進めます。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指します。授業に関する質問やコメントがあれば、課題と同時に提出して下さい。課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。 授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと幹細胞生物学概説 — 本講義の問いと全体像	本講義の中心となる問い「細胞はどのように自分を保ち、別の細胞へ変化するのか」を提示し、授業の進め方・評価・到達点を共有したうえで、幹細胞生物学が発生・再生・医療・倫理へつながる学問であることを概説します。
第2回	細胞とは何か — 生命の単位としての細胞	細胞を生命の基本単位として捉え、細胞が増える（分裂）、状態を保つ（維持）、失われる（死）という基本的なふるまいを軸に、以後の講義の基礎を概説します。
第3回	発生とは何か — 一つの受精卵から身体ができるまで	受精卵から身体が形づくられる過程を、時間の流れと秩序という視点で整理し、細胞が増えるだけでなく配置され役割分担していくことが発生の核心である点を概説します。
第4回	細胞分化 — 同じDNAから異なる細胞が生まれるしくみ	同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる性質を獲得する「分化」を扱い、変化が段階的に進み戻りにくくなる側面を「エピジェネティクス」とも結びつけて概説します。
第5回	幹細胞とは何か — 自己複製と分化能	幹細胞を「自分を保ちながら、別の細胞を生み出せる」細胞として定義し、一般的な細胞との違いと誤解されやすい点を概説します。
第6回	幹細胞研究の歴史 — 発見から学問へ	血液の研究などを手がかりに、幹細胞という考え方がどのように確立され、発生研究や医療と結びつきながら発展してきたかを概説します。
第7回	幹細胞の多様性 — ES細胞・iPS細胞・体性幹細胞	ES細胞・iPS細胞・体性幹細胞を比較し、由来や性質、適した研究・応用の場面の違いを整理しつつ、その可能性と限界を概説します。
第8回	ニッチ（微小環境） — 幹細胞のいるところ	幹細胞が周囲の細胞や環境とセットで保たれていることに注目し、居場所（ニッチ／微小環境）が維持・増殖・分化のバランスを左右するという考え方を概説します。
第9回	幹細胞とエピジェネティクス — 運命を記憶するしくみ	幹細胞が未分化な状態を保つことや、分化が進むと戻りにくくなることを手がかりに、遺伝子の使われ方が細胞の状態を支えるという視点を概説します。
第10回	脳と幹細胞 — 神経幹細胞が担う「支え」のしくみ	神経幹細胞や神経新生を例に、「大人」の脳に残る限定的な更新・修復のしくみを整理し、脳の維持や適応を支える一要素となっていることについて概説します。
第11回	再生の生物学 — 自然に学び、医療へつなぐ	自然界に見られる再生や組織修復の多様なしくみを概観し、幹細胞だけでなく複数の戦略によって再生が成り立ちうる点と、その知見が医療へつながることについて概説します。
第12回	クローンとは何か — 1つの細胞から個体が生まれる条件	クローンの基本概念を整理し、「同じDNA＝同じ個体」ではない理由を発生の視点から考えつつ、細胞の「初期化」の難しさが示す生命の条件と倫理的論点を概説します。
第13回	オルガノイド — 「ミニ臓器」がひらく研究と医療の未来	幹細胞から臓器に近い構造を作るオルガノイドの考え方を整理し、研究や医療への応用可能性と、再現性・成熟度などの課題および倫理的論点を概説します。

第14回 幹細胞が示す「可能性」の科学 ― 総括

幹細胞を「可能性を内包しながら状態を保つ細胞」として再整理し、発生・再生・老化を統合的に捉える視点と、遺伝子の使われ方の調節という観点を踏まえた全体像を概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して解答するように心がけて下さい。
授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習した上で翌週の授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に課題を出します。10-13回の課題の評価点で成績評価を行います（100%）。1回の課題は10点満点とし、10-13回分を合計して120-140点満点で評価点となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course outline :

This course explores how a single cell can give rise to diverse cell types and tissues, introducing development and regeneration from the perspective of stem cells. By following key processes such as cell division, differentiation, and embryonic development, students will learn how stem cells contribute to building and maintaining the body. The course also introduces major stem cell types (ES cells, iPS cells, and adult stem cells), highlighting both their potential and limitations, and discusses how stem cells are regulated by their microenvironment (the niche) and epigenetic mechanisms. Current topics such as regenerative medicine and brain research are used to consider the scientific, medical, and societal significance of stem cell research.

Learning objectives:

At the end of the course, students are expected to:

- ・ understand, at a conceptual level, how stem cells relate to development, tissue maintenance, and regeneration;
- ・ organize key ideas about ES/iPS/adult stem cells, organoids, and cloning, including what they can and cannot achieve, based on scientific evidence;
- ・ consider ethical and social issues surrounding advanced stem cell research and regenerative medicine (e.g., safety, consent, equity, and regulation) using both facts and personal values;
- ・ critically interpret everyday information and public discussions about stem cell technologies with attention to evidence and limitations.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to spend about two hours on preparation and about two hours on review for each class session. For any assignments given in class, students should complete them after thoroughly reviewing the lecture content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade will be determined solely by end-of-class assignments (100%). Assignments will be given at the end of each class, and 10 – 13 assignments will be graded. Each assignment is worth 10 points, and the final score will be the total of these assignments (maximum: 120 – 140 points, depending on the number of assignments).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の変化には、エネルギーの出入りが伴います。社会や生命はこれらを上手に利用することで活動しています。エネルギーを題材にして身の回りの現象や物質について理解を深め、現在の我々の生活を支えている技術に対する興味を持って下さい。

【到達目標】

エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標にして下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文のpdfファイルを授業支援システムにアップロードする予定です。

高校などにおける理系科目の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明。
第2回	エネルギーの基礎	エネルギーの定義や単位、エネルギー変換についての概説。
第3回	電子の発見	ふたつの原子を結びつける電子の働きについて。
第4回	電子と電気	電磁誘導と発電機の仕組みについて。
第5回	同位体と原子の壊変	原子核の壊変と放射線について。
第6回	原子力発電	核分裂連鎖反応について。
第7回	原子爆弾と核融合	ウラン濃縮や臨界について。
第8回	光と電子のエネルギー	電磁波の性質と光量子仮説について。
第9回	化学結合のエネルギー	化学結合が形成されるしくみと、物質の持つエネルギーについて。
第10回	有機化合物	炭素原子を含む化学物質の構造。
第11回	エネルギー物質	燃焼によって発生するエネルギーと、爆薬の化学構造、爆発事故について。
第12回	燃料電池	水素分子と酸素分子から得られるエネルギーについて。
第13回	元素の循環	物質変化に伴うエネルギーの吸収と放出について。

第14回 まとめ

これまでの内容の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やWeb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業毎に資料を配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題などを出題します。この成績を平常点とします(配分40%)。期末試験の結果(配分60%)と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学の学習に不安を持つ学生のために、高校の学習範囲を予備知識として必要としない内容を心掛けています。また、高校で理系科目を多く履修した人も気づきが得られるように、なるべく身の回りの現象を題材にしています。

【Outline (in English)】

This course introduces fundamental principles of familiar natural phenomena. The goals of this course are to understand about energy and to improve your scientific literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：環境の科学

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題の解決には、その原因となる材料や燃料の使用規制が提案されます。しかし、現在の我々の豊かな生活は、これらに支えられている側面もあります。この授業では、現在の生活を支える科学技術に対する理解を深め、環境問題の原因とその解決のために必要な科学技術について学んでいきます。

【到達目標】

自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料は授業支援システムで配布する予定です。高校などにおける自然科学系科目の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要、授業の進め方など	この講義の概要と、これからの授業の進め方、注意点等について説明します。
第2回	日本の過去の公害事例	明治から現代までの環境問題について。
第3回	化学の基礎	原子の結合と、有機化合物の構造、性質について。
第4回	触媒	化学反応を促進する触媒の原理について。
第5回	排ガスの清浄化	汚染物質を分解する仕組みについて。
第6回	触媒の活用	優れた機能を持つ材料や燃料、肥料などを作るための触媒について。
第7回	温室効果ガス	二酸化炭素やその他気体の温室効果のメカニズムについて。
第8回	二酸化炭素の利用	二酸化炭素の回収とその利用について。
第9回	高分子	天然の高分子と人工高分子について。
第10回	海洋プラスチック問題	プラスチックごみやマイクロプラスチックの問題点について。
第11回	バイオプラスチック	自然界で分解されやすいプラスチックの構造と機能について。

第12回	原子力発電	核分裂反応で生じる放射性物質について。
第13回	放射線と生体	放射線の種類や生体に及ぼす影響について。
第14回	まとめ	全般的な振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使いません、毎週資料を学習支援システム上で配布します。

【参考書】

気になるキーワードを図書館やWebで検索してみてください。必要に応じて授業内で紹介することも可能です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題とまとめを出題します。この成績を平常点とします(配分40%)。期末試験の結果(配分60%)と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

現象の原理を理解するには化学は必須ですが、その範囲は限定し、身近なものを例に挙げるよう気をつけています。

【Outline (in English)】

This course introduces the principles of the science and technology that support our current life. By the end of the course, students should be able to understand the causes of environmental issues and the scientific technologies necessary to resolve them.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：環境の科学

西村 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、地球は様々な問題に直面しています。例えば気候変動、エネルギー問題、環境汚染などです。これらの問題を解決するには、その問題点をメカニズムから理解することが大切です。そのためには基本的な化学の理解が必須となります。本講座は身近な問題を考え、自分で判断できることを最終目的としますが、まずはこれに必須な化学の知識を身につけてもらうことを目的とします。

【到達目標】

身近な問題を考え、自分で判断できることを最終目的とします。授業では主に問題提起を行い、化学的なメカニズムを示します。最終的に、その解決策を自分の頭で考えてもらうことを目的としています。テストはそのような意図で作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

始めの2回は基本的な化学を学びます。その後は様々なトピックを取り上げて化学的な見地から説明する予定です。授業の合間にQRコードを読み取ってもらう形式のクイズを出します。

また、毎回授業後に提出してもらっている課題に対して、皆で共有すべきものは授業中にまとめてコメントを返答しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No.1	イントロダクション	授業の進め方の説明。
No.2	化学基礎1	これからの講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.3	化学基礎2	これからの講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.4	小テスト	これまでの学習を振り返る
No.5	環境問題-概要	これまでの質問回答。環境問題概要とプラネタリーバウンダリーについて
No.6	環境問題-オゾン層破壊と大気汚染	気体が関係する環境問題について
No.7	環境問題-温室効果	温室効果ガスとは何か、またその環境に対する影響
No.8	環境問題-水質汚染	水の汚染と水の浄化
No.9	環境問題-ごみ問題	ごみ問題とリサイクル
No.10	小テスト	これまでの学習を振り返る
No.11	身近な化学-エネルギー	現在と未来のエネルギー生産法に関して
No.12	身近な化学-洗剤と添加物	洗剤の成分と使い方の注意。食品に含まれている各種添加物の化学
No.13	身近な化学-化粧品	化粧品の成分、有効成分の化学成分

No.14 テスト

最終テスト

試験範囲は化学基礎を含む全授業範囲です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習する必要はありません。授業後に興味を持った内容を自分で調べて学習した内容の理解を深めてもらいたいと思っています。この復習に2時間程度充てることが望ましいです。それを授業後のレポートとして提出してください。

【テキスト（教科書）】

ありません。必要に応じて資料となるPDFファイルをHoppiiにUPします。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業中に出す課題(20%)、授業後のレポート(40%)、2回の小テスト(20%)、最終テスト(20%)を総合的に評価します。授業中に出す課題は出欠確認の意味を含めています。成績は、「どれだけ自分の頭で考えているのか」を評価しています。テストの成績だけで成績は決まりません。

【学生の意見等からの気づき】

「私たち文系なので、わかりやすく教えてください」とコメントいただくので、わかりやすく、急がずに授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にQRコードを読み取ってもらいますので、スマホなどのQRコードが読み取れるデバイスを持参してください。

【その他の重要事項】

希望者が多かった場合、抽選を行う予定です。

【Outline (in English)】

Today, the world faces a wide range of problems. For example, climate change, energy problems and environmental pollution. To solve these problems, it is important to understand them from their mechanisms. For this, an understanding of basic chemistry is essential. The ultimate aim of this course is to enable students to think about familiar problems and make their own decisions, but the first aim is to give them the chemical knowledge that is essential for this.

At the beginning, you will be tested on how much chemical knowledge you have, and the results will determine the content of the first three weeks of the class. Thereafter, a variety of topics will be covered and explained from a chemical perspective. In between classes, there will be a quiz in the form of a QR code to be scanned.

Grading will be based on a combination of in-class assignments (20%), after-class reports (40%), two quizzes (20%) and a final test (20%). Assignments given in class include the meaning of attendance confirmation.

CHM200LA（その他の化学 / Chemistry 200）

教養化学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

伊藤 晋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命以降、科学技術の進歩に伴い人類は物質及びエネルギーを利用し、繁栄してきた。一方で、地球規模で環境問題を引き起こしている。この講義では、エネルギーに関連する環境問題、特に地球温暖化及び原子力を取り扱い、なぜ科学的に問題が起こるのか、解決するために何をすべきかを考察・議論できるようになることが目的です。そのためには基本的な化学の理解が必須となりますので、関連する化学の知識を理解することも同時に目的となります。

【到達目標】

- 1, 原子・分子・物質の性質・化学量論について化学的に説明できる。
- 2, 原子力発電・温室効果・エネルギーの性質について科学的に説明できる。
- 3, エネルギーに関する環境問題について、その科学的要因や社会的要因を考察できる。
- 4, エネルギーに関する環境問題について、自身の意見を説明し、他者の意見を踏まえながら議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。毎回、練習問題を課しますので、それらを通してより理解が深めてください。また、授業の前半では化学的知識に関する問題を、後半では、環境問題に関連したグループディスカッションを演習として行います。演習のフィードバックは、学習支援システムを介して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義する。
第2回	化学の基礎（1）	物質の基本単位である原子・分子について学習する。
第3回	化学の基礎（2）	物質の種類・性質について学習する。
第4回	化学の基礎（3）	化学量論（物質質量）について学習する。
第5回	化学の基礎（4）	化学反応・化学反応式および熱について学習する。
第6回	化学の基礎（5）	放射性同位体・放射線・半減期など原子核反応について学習する。
第7回	まとめ（1）	これまで学んだ化学的事項についてテストとまとめを行う。

第8回	エネルギーと人類	現代文明で大きな役割を果たしてきたエネルギーについて学習する。
第9回	地球温暖化（1）	地球温暖化の科学的原因について学習する。
第10回	地球温暖化（2）	地球温暖化の影響・これからの予測を学習する。
第11回	原子力発電（1）	原子力発電所について科学的に学習する。
第12回	原子力発電（2）	原子力発電特に、放射性廃棄物の処理について学習する。
第13回	まとめ（2）	日本の今後のエネルギー利用について考える。
第14回	期末テスト	本授業のまとめおよびテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行ってください。

【テキスト（教科書）】

高校で化学を選択しなかった学生は、下記の書籍を必ず購入してください。

書名：物質科学の基礎としての化学入門

著者名：大学の基礎化学教育研究会

出版社：学術図書出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。

書名：環境の科学

著者名：中田昌宏、笠嶋義夫

出版者名：三共出版

【成績評価の方法と基準】

授業中の毎回の演習 50%

テスト（2回） 50%

合計 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。PCやタブレット端末等、必要な機器を準備しておく必要があります。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose is to address environmental issues related to energy—particularly global warming and nuclear power—and to develop the ability to examine why these problems occur from a scientific perspective and what should be done to solve them. To achieve this, a basic understanding of chemistry is essential, so gaining an understanding of the relevant chemical knowledge is also an objective.

[Learning Objectives]

1.At the end of the course, students are expected to the properties of atoms, molecules, and substances, as well as stoichiometry, from a chemical perspective.

2.At the end of the course, students are expected to nuclear power generation, the greenhouse effect, and the properties of energy from a scientific perspective.

3.At the end of the course, students are expected to examine the scientific and social factors underlying environmental issues related to energy.

4.At the end of the course, students are expected to explain one's own views on energy-related environmental issues and engage in discussion while considering the opinions of others.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

[Grading Criteria /Policy]

test 50% Short reports 50%

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L E

2017年度以降入学者

サブタイトル：薬の科学

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先史時代から人類は様々な植物から薬効を見出し、痛みや苦しみを軽減してきました。現代の薬は分子レベルで設計、開発されています。様々な薬の開発は、人類の寿命を大きく伸ばし、医学の発展に大きく寄与してきました。この授業では、薬とはどのようなものか、人体にどのような働きをするのか、薬はどのように開発されるかなど、薬の原理について有機化学を用いて紹介していきます。

【到達目標】

薬の働きについての学習を通して、タンパク質や低分子有機化合物の構造式を身近なものにし、有機化合物の性質を左右する構造的特徴について理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校での理系科目の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と概要、学習方法について説明。
第2回	薬の歴史	古代から現代までの薬、薬を作ることができるようになったきっかけについて。
第3回	有機化学の基礎	有機化合物の構造や性質について。
第4回	DNAとタンパク質	アミノ酸の化学構造と、タンパク質やDNAの立体構造について。
第5回	酵素と代謝	タンパク質や炭水化物などを分解、合成する酵素について。
第6回	栄養の化学	ビタミンの働きについて。
第7回	生活習慣病の薬	糖尿病と脂質異常症の薬について。
第8回	抗炎症薬①	非ステロイド薬とステロイド薬の作用機序について。
第9回	抗炎症薬②	花粉症などアレルギーの薬、抗ヒスタミン薬の分子設計と、副作用改善について。
第10回	抗菌薬	抗生物質と化学療法薬が病原細菌に強く作用する機序について。

第11回	抗ウイルス薬	インフルエンザやエイズ、新型コロナウイルスの特徴と、その薬について。
第12回	抗がん薬	様々な抗がん薬の働きと、副作用を軽減する試みについて。
第13回	抗うつ薬と危険ドラッグ	脳で働く生体物質や薬の働きについて。
第14回	まとめ	これまでの内容の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題と簡単なまとめを出題します。この成績を平常点とします(配分40%)。期末試験の結果(配分60%)と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

高校で化学を履修していることを前提にはしていません。しかし、薬の理解には化学だけでなく理系全般の幅広い知識を必要とするため、難しく感じる内容も含まれると思います。そのため、発展的な内容を話す場合は、最低限理解して欲しい内容とはっきり区別するようにしています。また、高校で理系科目を多く履修した人も気づきが得られるように、服用する機会の多い薬や、最近認可された薬も題材にしています。質問は学習支援システムでも受け付けていますが、授業中にも時間を取るようにする予定です。

【Outline (in English)】

Pharmaceutics has extended the human lifespan and has greatly contributed to the development of medical science. This course introduces the basic principles of medical supplies using organic chemistry.

The goals of this course are to understand about organic compounds and to improve your scientific literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：環境の科学

伊藤 晋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命以降、科学技術の進歩に伴い人類は物質及びエネルギーを利用し、繁栄してきた。一方で、地球規模で環境問題を引き起こしている。この講義では、物質に関連する環境問題、特にオゾン層の破壊、水俣病等を取り扱い、なぜ科学的に問題が起こるのか、解決するために何をすべきかを考察・議論できるようになることが目的です。そのためには基本的な化学の理解が必須となりますので、関連する化学の知識を理解することも同時に目的となります。

【到達目標】

- 1, 原子の電子配置・物質の結合の特徴・光の性質および光反応について化学的に説明できる。
- 2, オゾン層の破壊・水俣病・薬害について科学的に説明できる。
- 3, 物質に関する環境問題について、その科学的要因や社会的要因を考察できる。
- 4, 物質に関する環境問題について、自身の意見を説明し、他者の意見を踏まえながら議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。毎回、練習問題を課しますので、それらを通してより理解が深めてください。また、授業の前半では化学的知識に関する問題を、後半では、環境問題に関連したグループディスカッションを演習として行います。演習のフィードバックは、学習支援システムを介して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義する。
第2回	化学の基礎（1）	教養化学LAで学習した物質・原子・化学量論の復習を行う。
第3回	化学の基礎（2）	原子の電子配置について学習する。
第4回	化学の基礎（3）	化学結合（金属・イオン結晶）について学習する。
第5回	化学の基礎（4）	化学結合（分子・共有結晶）について学習する。
第6回	化学の基礎（5）	光・光反応・色と物質について学習する。
第7回	まとめ（1）	これまで学んだ化学的事項についてテストとまとめを行う。

第8回	オゾン層の破壊（1）	オゾン層の破壊の科学的原因について学習する。
第9回	オゾン層の破壊（2）	オゾン層の破壊の影響・経過・社会的要因を学習する。
第10回	水俣病（1）	水俣病の科学的原因について学習する。
第11回	水俣病（2）	水俣病の影響・経過・社会的要因を学習する。
第12回	薬害と汚染物質（1）	薬害（サリドマイド）や環境汚染物質について要因・各国の対応について学習する。
第13回	まとめ（2）	人類の物質の利用についてどのようにすればよいのかをみなさんで考える。
第14回	期末テスト	本授業のまとめおよびテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行ってください。

【テキスト（教科書）】

高校で化学を選択しなかった学生は、下記の書籍を必ず購入してください。

書名：物質科学の基礎としての化学入門

著者名：大学の基礎化学教育研究会

出版社：学術図書出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。

書名：環境の科学

著者名：中田昌宏、笠嶋義夫

出版者名：三共出版

【成績評価の方法と基準】

授業中の毎回の演習 50%

テスト（2回） 50%

合計 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。PCやタブレット端末等、必要な機器を準備しておく必要があります。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose is to address environmental issues related to ozone layer problem and minamata disease to develop the ability to examine why these problems occur from a scientific perspective and what should be done to solve them. To achieve this, a basic understanding of chemistry is essential, so gaining an understanding of the relevant chemical knowledge is also an objective.

[Learning Objectives]

1.At the end of the course, students are expected to the properties of atoms, molecules, and substances, as well as stoichiometry, from a chemical perspective.

2.At the end of the course, students are expected to ozone layer, minamata disease, and drug disaster from a scientific perspective.

3.At the end of the course, students are expected to examine the scientific and social factors underlying environmental issues related to material.

4.At the end of the course, students are expected to explain one's own views on material-related environmental issues and engage in discussion while considering the opinions of others.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

[Grading Criteria /Policy]

test 50% Short reports 50%

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

伊藤 晋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命以降、科学技術の進歩に伴い人類は物質及びエネルギーを利用し、繁栄してきた。一方で、地球規模で環境問題を引き起こしている。この講義では、エネルギーに関連する環境問題、特に地球温暖化及び原子力を取り扱い、なぜ科学的に問題が起こるのか、解決するために何をすべきかを考察・議論できるようになることが目的です。そのためには基本的な化学の理解が必須となりますので、関連する化学の知識を理解することも同時に目的となります。

【到達目標】

- 1, 原子・分子・物質の性質・化学量論について化学的に説明できる。
- 2, 原子力発電・温室効果・エネルギーの性質について科学的に説明できる。
- 3, エネルギーに関する環境問題について、その科学的要因や社会的要因を考察できる。
- 4, エネルギーに関する環境問題について、自身の意見を説明し、他者の意見を踏まえながら議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。毎回、練習問題を課しますので、それらを通してより理解が深めてください。また、授業の前半では化学的知識に関する問題を、後半では、環境問題に関連したグループディスカッションを演習として行います。演習のフィードバックは、学習支援システムを介して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義する。
第2回	化学の基礎（1）	物質の基本単位である原子・分子について学習する。
第3回	化学の基礎（2）	物質の種類・性質について学習する。
第4回	化学の基礎（3）	化学量論（物質質量）について学習する。
第5回	化学の基礎（4）	化学反応・化学反応式および熱について学習する。
第6回	化学の基礎（5）	放射性同位体・放射線・半減期など原子核反応について学習する。
第7回	まとめ（1）	これまで学んだ化学的事項についてテストとまとめを行う。

第8回	エネルギーと人類	現代文明で大きな役割を果たしてきたエネルギーについて学習する。
第9回	地球温暖化（1）	地球温暖化の科学的原因について学習する。
第10回	地球温暖化（2）	地球温暖化の影響・これからの予測を学習する。
第11回	原子力発電（1）	原子力発電所について科学的に学習する。
第12回	原子力発電（2）	原子力発電特に、放射性廃棄物の処理について学習する。
第13回	まとめ（2）	日本の今後のエネルギー利用について考える。
第14回	期末テスト	本授業のまとめおよびテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行ってください。

【テキスト（教科書）】

高校で化学を選択しなかった学生は、下記の書籍を必ず購入してください。

書名：物質科学の基礎としての化学入門

著者名：大学の基礎化学教育研究会

出版社：学術図書出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。

書名：環境の科学

著者名：中田昌宏、笠嶋義夫

出版者名：三共出版

【成績評価の方法と基準】

授業中の毎回の演習 50%

テスト（2回） 50%

合計 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。PCやタブレット端末等、必要な機器を準備しておく必要があります。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose is to address environmental issues related to energy—particularly global warming and nuclear power—and to develop the ability to examine why these problems occur from a scientific perspective and what should be done to solve them. To achieve this, a basic understanding of chemistry is essential, so gaining an understanding of the relevant chemical knowledge is also an objective.

[Learning Objectives]

1.At the end of the course, students are expected to the properties of atoms, molecules, and substances, as well as stoichiometry, from a chemical perspective.

2.At the end of the course, students are expected to nuclear power generation, the greenhouse effect, and the properties of energy from a scientific perspective.

3.At the end of the course, students are expected to examine the scientific and social factors underlying environmental issues related to energy.

4.At the end of the course, students are expected to explain one's own views on energy-related environmental issues and engage in discussion while considering the opinions of others.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

[Grading Criteria /Policy]

test 50% Short reports 50%

CHM200LA (その他の化学 / Chemistry 200)

教養化学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：環境の科学

伊藤 晋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業革命以降、科学技術の進歩に伴い人類は物質及びエネルギーを利用し、繁栄してきた。一方で、地球規模で環境問題を引き起こしている。この講義では、物質に関連する環境問題、特にオゾン層の破壊、水俣病等を取り扱い、なぜ科学的に問題が起こるのか、解決するために何をすべきかを考察・議論できるようになることが目的です。そのためには基本的な化学の理解が必須となりますので、関連する化学の知識を理解することも同時に目的となります。

【到達目標】

- 1, 原子の電子配置・物質の結合の特徴・光の性質および光反応について化学的に説明できる。
- 2, オゾン層の破壊・水俣病・薬害について科学的に説明できる。
- 3, 物質に関する環境問題について、その科学的要因や社会的要因を考察できる。
- 4, 物質に関する環境問題について、自身の意見を説明し、他者の意見を踏まえながら議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。毎回、練習問題を課しますので、それらを通してより理解が深めてください。また、授業の前半では化学的知識に関する問題を、後半では、環境問題に関連したグループディスカッションを演習として行います。演習のフィードバックは、学習支援システムを介して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義する。
第2回	化学の基礎（1）	教養化学LAで学習した物質・原子・化学量論の復習を行う。
第3回	化学の基礎（2）	原子の電子配置について学習する。
第4回	化学の基礎（3）	化学結合（金属・イオン結晶）について学習する。
第5回	化学の基礎（4）	化学結合（分子・共有結晶）について学習する。
第6回	化学の基礎（5）	光・光反応・色と物質について学習する。
第7回	まとめ（1）	これまで学んだ化学的事項についてテストとまとめを行う。

第8回	オゾン層の破壊（1）	オゾン層の破壊の科学的原因について学習する。
第9回	オゾン層の破壊（2）	オゾン層の破壊の影響・経過・社会的要因を学習する。
第10回	水俣病（1）	水俣病の科学的原因について学習する。
第11回	水俣病（2）	水俣病の影響・経過・社会的要因を学習する。
第12回	薬害と汚染物質（1）	薬害（サリドマイド）や環境汚染物質について要因・各国の対応について学習する。
第13回	まとめ（2）	人類の物質の利用についてどのようにすればよいのかをみなさんで考える。
第14回	期末テスト	本授業のまとめおよびテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行ってください。

【テキスト（教科書）】

高校で化学を選択しなかった学生は、下記の書籍を必ず購入してください。

書名：物質科学の基礎としての化学入門

著者名：大学の基礎化学教育研究会

出版社：学術図書出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。

書名：環境の科学

著者名：中田昌宏、笠嶋義夫

出版者名：三共出版

【成績評価の方法と基準】

授業中の毎回の演習 50%

テスト（2回） 50%

合計 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。PCやタブレット端末等、必要な機器を準備しておく必要があります。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose is to address environmental issues related to ozone layer problem and minamata disease to develop the ability to examine why these problems occur from a scientific perspective and what should be done to solve them. To achieve this, a basic understanding of chemistry is essential, so gaining an understanding of the relevant chemical knowledge is also an objective.

[Learning Objectives]

1.At the end of the course, students are expected to the properties of atoms, molecules, and substances, as well as stoichiometry, from a chemical perspective.

2.At the end of the course, students are expected to ozone layer, minamata disease, and drug disaster from a scientific perspective.

3.At the end of the course, students are expected to examine the scientific and social factors underlying environmental issues related to material.

4.At the end of the course, students are expected to explain one's own views on material-related environmental issues and engage in discussion while considering the opinions of others.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

[Grading Criteria /Policy]

test 50% Short reports 50%

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

〈物理学〉太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

〈化学〉光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。

第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。

第5週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）	
サイエンス・ラボB	2017年度以降入学者
西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火1/Tue.1	
単位数：2単位	
定員制(48)	
2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生かせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業へ参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）	
サイエンス・ラボB	2017年度以降入学者
西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火2/Tue.2	
単位数：2単位	
定員制(48)	
2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生かせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に慣れない学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に慣れない学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生み出し、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に慣れない学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生み出し、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要なであれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生かせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生み出し、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを生じさせ、その変換と保存を調べる。

第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特に定めません。配布資料以外に必要であれば授業内に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

工藤 聡、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。配布資料以外に必要であれば授業時に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

土居 英男、島野 智之、衣川 友那

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、衣川 友那

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に慣れない学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

土居 英男、島野 智之、衣川 友那

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に慣れない学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。

第5週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に慣れない学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA（自然科学全般 / Natural science 100）

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

田中 雅人、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(48)

2015年度までに「自然総合講座B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

〈生物学〉メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

〈物理学〉電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

〈化学〉古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。必要があればこちらから指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

HSS200LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200)

健康の科学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：Health Sciences LA

笹井 浩行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生は、不健康な食習慣、身体活動不足、長時間の座位行動、睡眠の質の低下、過度の飲酒、喫煙、薬物使用など、多様な健康リスクに直面している。これらの行動は、将来の生活習慣病やメンタルヘルス不調の基盤となり得るだけでなく、現在の学業成績や生活の質にも影響を及ぼす。本授業では、健康を単なる「病気でない状態」としてではなく、身体的・精神的・社会的側面を含む包括的概念として捉え、科学的根拠に基づいて理解することを目的とする。

具体的には、食事、身体活動、体重管理、睡眠、メンタルヘルス、アルコール、喫煙、薬物といった主要テーマについて、疫学的知見や基礎概念（エネルギー収支、METs等）を学び、自身の生活習慣を客観的・定量的に捉える視点を養う。また、座位行動やヘルスリテラシーなど、現代社会特有の健康課題についても扱い、日常生活に応用可能な知識と実践力を身につける。

さらに、本授業では、マスメディアやインターネット上に氾濫する健康情報の中から信頼性の高い情報を選別し、統計や研究結果を批判的に読み解く力を育成する。健康に関する論文や記事を要約し、論理的に発表する活動を通して、科学的思考力および表現力の向上も目指す。

本授業の最終的な目的は、健康に関する知識の習得にとどまらず、科学的根拠に基づいて自己の行動を振り返り、将来にわたり主体的に健康を管理できる態度と能力を涵養することである。

【到達目標】

本授業を修了した学生は、以下を達成できる。

1. 健康の概念および主要な生活習慣（食事、身体活動、睡眠など）と健康との関連を説明できる。
2. 大学生に多い健康リスク（アルコール、喫煙、薬物、性行動など）の影響を理解し、適切に説明できる。
3. エネルギー収支やMETsなどの基礎概念を用いて、自身の生活習慣を科学的に捉えることができる。
4. メディアやインターネット上の健康情報の信頼性を評価し、適切に解釈できる。
5. 健康に関する論文や記事の内容を要約し、論理的に発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義に加え、学生自身による生活習慣の振り返りや発表を織り交ぜて進める。発表に対しては、その場での教員、学生による議論を通じてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと健康の定義	本授業の概要および成績評価方法を説明し、世界保健機関（WHO）による健康の定義について学ぶ。

2	大学生生活における健康リスク	大学生世代にみられる主な健康リスクや課題について概説する。
3	健康的な食生活	食事摂取基準、三大栄養素・微量栄養素、PFC バランス、日本版食事バランスガイドについて学ぶ。
4	運動と身体活動	運動および身体活動の定義、総エネルギー消費量とその構成要素、メッツ（METs）の概念を理解する。
5	座位行動	座位行動の定義、健康への悪影響、および座位時間を減らすための方策について学ぶ。
6	体重管理	過体重・肥満の健康リスク、エネルギー制限の基本原則、減量および体重維持の方法について理解する。
7	睡眠	適切な睡眠時間、睡眠パターンの測定方法、睡眠の質と健康との関連、および良好な睡眠のための実践的な方法を学ぶ。
8	メンタルヘルス	代表的な精神疾患、自殺予防、ストレスマネジメントについて扱う。
9	アルコール摂取	アルコールと健康の関係、適量飲酒の考え方、および一気飲み
10	喫煙	喫煙の健康影響、喫煙形態、受動喫煙、およびたばこ対策について学ぶ。
11	薬物乱用	違法薬物や危険ドラッグの種類、薬物乱用および依存の問題について扱う。
12	ヘルスリテラシー	健康情報の読み解き方、およびインターネット上の情報を適切に検索・評価する方法について学ぶ。
13	最終発表 1	学生が人の健康に関連する論文や記事を選び、その内容について発表する。
14	最終発表 2	学生が人の健康に関連する論文や記事を選び、その内容について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業における準備学習および復習時間は、それぞれ2時間を標準とする。授業で取り上げる健康に関するトピックについては、あらかじめ新聞記事やニュース等を探して読み、理解を深めること。また、スマートフォン等を活用して自身の生活習慣を記録・振り返り、その内容を他者に分かりやすく伝える発表資料を作成する宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜、資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、宿題30%、最終プレゼンテーションまたはレポート30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、学生の意見や理解度に応じて微調整する場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンを活用して自身の生活習慣を記録・振り返り、その内容を他者に分かりやすく伝える発表資料を作成する宿題を課します。そのため、スマートフォンおよびPowerPoint等のプレゼンテーションソフトが必要です。

【その他の重要事項】

授業への積極的な参加を強く推奨します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

University students are often exposed to various health risks, including poor nutritional habits, physical inactivity, prolonged sedentary behavior, sleep deprivation, and substance use. This course introduces the scientific foundations of health promotion and examines the impact of lifestyle behaviors on both physical and mental well-being. Students will explore core concepts such as energy balance, metabolic equivalents (METs), weight management, sleep hygiene, and health literacy. Furthermore, the course emphasizes the development of critical thinking skills to evaluate health information from media and digital sources, enabling students to apply evidence-based knowledge to their daily lives.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Define the multifaceted concept of health and explain the correlation between lifestyle behaviors and long-term health outcomes.
- 2) Identify prevalent health risks within the university population and assess their physiological and psychological consequences.
- 3) Utilize quantitative and qualitative tools (e.g., energy balance equations, METs) to analyze personal lifestyle data.
- 4) Critically appraise the credibility of health-related information found in popular media and academic literature.
- 5) Communicate health research findings through structured presentations and logical discourse.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to dedicate approximately two hours each to weekly preparation and review.

Preparation: Reading assigned articles or analyzing media coverage related to upcoming lecture topics.

Reflection & Data Collection: Tracking personal lifestyle behaviors using digital tools and preparing data-driven observations for class discussion.

Review: Synthesizing lecture materials and refining presentation content to demonstrate comprehensive understanding.

【Grading Criteria / Policy】

Final grades will be determined based on the following:

-Class Participation and Engagement: 40%

-Assignments: 30% (Including lifestyle tracking logs and preparatory tasks)

-Final Assessment: 30% (Individual presentation or comprehensive written report)

Note: Active participation, critical thinking, and the ability to clearly communicate health-related information are essential for achieving a high grade.

HSS200LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200)

健康の科学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：Health Sciences LB

笹井 浩行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生は、不健康な食習慣、身体活動不足、長時間の座位行動、睡眠の質の低下、過度の飲酒、喫煙、薬物使用など、多様な健康リスクに直面している。これらの行動は、将来の生活習慣病やメンタルヘルス不調の基盤となり得るだけでなく、現在の学業成績や生活の質にも影響を及ぼす。本授業では、健康を単なる「病気でない状態」としてではなく、身体的・精神的・社会的側面を含む包括的概念として捉え、科学的根拠に基づいて理解することを目的とする。

具体的には、食事、身体活動、体重管理、睡眠、メンタルヘルス、アルコール、喫煙、薬物といった主要テーマについて、疫学的知見や基礎概念（エネルギー収支、METs等）を学び、自身の生活習慣を客観的に定量的に捉える視点を養う。また、座位行動やヘルスリテラシーなど、現代社会特有の健康課題についても扱い、日常生活に応用可能な知識と実践力を身につける。

さらに、本授業では、マスメディアやインターネット上に氾濫する健康情報の中から信頼性の高い情報を選別し、統計や研究結果を批判的に読み解く力を育成する。健康に関する論文や記事を要約し、論理的に発表する活動を通して、科学的思考力および表現力の向上も目指す。

本授業の最終的な目的は、健康に関する知識の習得にとどまらず、科学的根拠に基づいて自己の行動を振り返り、将来にわたり主体的に健康を管理できる態度と能力を涵養することである。

【到達目標】

本授業を修了した学生は、以下を達成できる。

1. 健康の概念および主要な生活習慣（食事、身体活動、睡眠など）と健康との関連を説明できる。
2. 大学生に多い健康リスク（アルコール、喫煙、薬物、性行動など）の影響を理解し、適切に説明できる。
3. エネルギー収支やMETsなどの基礎概念を用いて、自身の生活習慣を科学的に捉えることができる。
4. メディアやインターネット上の健康情報の信頼性を評価し、適切に解釈できる。
5. 健康に関する論文や記事の内容を要約し、論理的に発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義に加え、学生自身による生活習慣の振り返りや発表を織り交ぜて進める。発表に対しては、その場での教員、学生による議論を通じてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと健康の定義	本授業の概要および成績評価方法を説明し、世界保健機関（WHO）による健康の定義について学ぶ。

2	大学生活における健康リスク	大学生世代にみられる主な健康リスクや課題について概説する。
3	健康的な食生活	食事摂取基準、三大栄養素・微量栄養素、PFC バランス、日本版食事バランスガイドについて学ぶ。
4	運動と身体活動	運動および身体活動の定義、総エネルギー消費量とその構成要素、METs (METs) の概念を理解する。
5	座位行動	座位行動の定義、健康への悪影響、および座位時間を減らすための方策について学ぶ。
6	体重管理	過体重・肥満の健康リスク、エネルギー制限の基本原則、減量および体重維持の方法について理解する。
7	睡眠	適切な睡眠時間、睡眠パターンの測定方法、睡眠の質と健康との関連、および良好な睡眠のための実践的な方法を学ぶ。
8	メンタルヘルス	代表的な精神疾患、自殺予防、ストレスマネジメントについて扱う。
9	アルコール摂取	アルコールと健康の関係、適量飲酒の考え方、および一気飲み
10	喫煙	喫煙の健康影響、喫煙形態、受動喫煙、およびたばこ対策について学ぶ。
11	薬物乱用	違法薬物や危険ドラッグの種類、薬物乱用および依存の問題について扱う。
12	ヘルスリテラシー	健康情報の読み解き方、およびインターネット上の情報を適切に検索・評価する方法について学ぶ。
13	最終発表 1	学生が人の健康に関連する論文や記事を選び、その内容について発表する。
14	最終発表 2	学生が人の健康に関連する論文や記事を選び、その内容について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業における準備学習および復習時間は、それぞれ2時間を標準とする。授業で取り上げる健康に関するトピックについては、あらかじめ新聞記事やニュース等を探して読み、理解を深めること。また、スマートフォン等を活用して自身の生活習慣を記録・振り返り、その内容を他者に分かりやすく伝える発表資料を作成する宿題を課す。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜、資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、宿題30%、最終プレゼンテーションまたはレポート30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、学生の意見や理解度に応じて微調整する場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンを活用して自身の生活習慣を記録・振り返り、その内容を他者に分かりやすく伝える発表資料を作成する宿題を課します。そのため、スマートフォンおよびPowerPoint等のプレゼンテーションソフトが必要です。

【その他の重要事項】

授業への積極的な参加を強く推奨します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

University students are often exposed to various health risks, including poor nutritional habits, physical inactivity, prolonged sedentary behavior, sleep deprivation, and substance use. This course introduces the scientific foundations of health promotion and examines the impact of lifestyle behaviors on both physical and mental well-being. Students will explore core concepts such as energy balance, metabolic equivalents (METs), weight management, sleep hygiene, and health literacy. Furthermore, the course emphasizes the development of critical thinking skills to evaluate health information from media and digital sources, enabling students to apply evidence-based knowledge to their daily lives.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Define the multifaceted concept of health and explain the correlation between lifestyle behaviors and long-term health outcomes.
- 2) Identify prevalent health risks within the university population and assess their physiological and psychological consequences.
- 3) Utilize quantitative and qualitative tools (e.g., energy balance equations, METs) to analyze personal lifestyle data.
- 4) Critically appraise the credibility of health-related information found in popular media and academic literature.
- 5) Communicate health research findings through structured presentations and logical discourse.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to dedicate approximately two hours each to weekly preparation and review.

Preparation: Reading assigned articles or analyzing media coverage related to upcoming lecture topics.

Reflection & Data Collection: Tracking personal lifestyle behaviors using digital tools and preparing data-driven observations for class discussion.

Review: Synthesizing lecture materials and refining presentation content to demonstrate comprehensive understanding.

【Grading Criteria / Policy】

Final grades will be determined based on the following:

-Class Participation and Engagement: 40%

-Assignments: 30% (Including lifestyle tracking logs and preparatory tasks)

-Final Assessment: 30% (Individual presentation or comprehensive written report)

Note: Active participation, critical thinking, and the ability to clearly communicate health-related information are essential for achieving a high grade.

HSS200LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

健康の科学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生100年時代を迎え人々の生き方が多様化する中で、身体的な健康だけでなく、生きがいや人間の尊厳をも含めた包括的健康、ウェルビーイングの視点が重要になってきている。本講義では、バイオ・サイコ・ソーシャル・ヘルスに関わる様々なトピックスから個人の健康や社会の健康について考え、ライフスキルとしてウェルネスの確立に向けて自ら実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・健康の概念や健康観の変遷から、健康とは何かについて理解を深める。
- ・ウェルビーイングの視点から、自己の生活の質や地域の課題について考える。
- ・個人及び社会におけるウェルネスの確立に向けて主体的に行動できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第2回	健康観・健康概念の多様化	世界における健康観・健康概念がどのように多様化してきたかについて理解を深める。
第3回	日本における健康観の変遷	日本における健康観・健康概念の変遷について、時代背景を踏まえて理解を深める。
第4回	ホリスティック・ヘルス、ウェルビーイングとは	包括的健康、ウェルビーイングの視点から現代人の心身の健康について考える。
第5回	心身の健康度チェック	自己の身体的・精神的・社会的ストレス状況について主観的・客観的に把握する。
第6回	ストレス特性とストレス対処	自己のストレス特性を知り、ストレス対処のスキルについて学ぶ。
第7回	セルフマネジメント	パーソナリティや行動パターンとストレスの関係、セルフマネジメントについて学ぶ。

第8回	ストレスマネジメント実践編	日常生活で実践しやすいストレスマネジメントの方法について学ぶ。
第9回	メンタルヘルス、心の病	子ども、青少年、働く世代のメンタルヘルス、心の病の予防について学ぶ。
第10回	日本人の生活と健康課題	日本人の生活と健康課題、超高齢社会におけるウェルビーイングについて考える。
第11回	0次予防、健康のための環境づくり	0次予防、健康のための環境づくりの考え方、実践事例について学ぶ。
第12回	ライフサイクルと健康	ライフサイクル、各ライフステージにおける健康課題について理解を深める。
第13回	ライフスタイルと健康	ライフコース、ライフスタイルの多様化とワークライフバランスについて考える。
第14回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各2時間を標準とする。
- ・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）75%
- ・期末レポート25%

【学生の意見等からの気づき】

- ・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the 100-Year Life, a life-course has become increasingly dynamic and diversified. Regarding the quality of individual lives, not only physical health but also perspective of holistic health including "ikigai" and human dignity is becoming an important concept. Health Sciences for ways of living is based on the biopsychosocial model, which posits that biological, psychological and social well-being are interactive.

【Learning Objectives】

The program has the following objectives.

- 1.Students deepen their understanding of the field of Health Sciences of body, mind, and spirit.
- 2.Students learn basic theory and specific issues of biopsychosocial health.
- 3.Students put into practice for health promotion in their life and community.

【Learning activities outside of classroom】

- 1.Get information on current health issues from newspapers and news
- 2.Read books related to what you learned in class

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Normal points (worksheets, reaction paper) 75%
- ・ Term-end report 25%

HSS200LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

健康の科学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康はいきいきと生きていくための資源であり、自ら健康をコントロールし、改善していくことは重要なライフスキルである。本講義では、ヘルスプロモーションの視点から、栄養・運動・休養に関わる基礎的知識、健康的な生活習慣や環境づくりについて学び、各自の生活における意識の向上、具体的な実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・栄養・運動・休養に関わる基礎的知識を身に付け、自己の生活習慣を見直す。
- ・健康的なライフスタイルを意識して、学んだことを日々の生活に活かす。
- ・個人や社会のウェルビーイングについて考え、行動する機会をつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第2回	生活習慣・健康度チェック	チェックシートにより自己の生活習慣や健康度を確認する。
第3回	健康的なウエイトコントロール	適正体重やボディイメージを知り、健康的なウエイトコントロールについて学ぶ。
第4回	エネルギー必要量と摂取量	エネルギー必要量と摂取量を算出してエネルギー収支を確認する。
第5回	食生活のセルフチェック	食事バランスガイドにより食生活を振り返り、改善点を意識する。
第6回	食と健康	スポーツ栄養、サプリメント、食の安全等のトピックから、食と健康について理解を深める。
第7回	食と環境	食にまつわる健康や地域の課題、環境問題について、具体的事例から考える。

第8回	運動・スポーツの意義と役割	現代社会における運動・スポーツの重要性について理解を深める。
第9回	運動・スポーツによるトレーニング効果	人間の身体の特徴、運動・スポーツによるトレーニング効果について学ぶ。
第10回	健康的な運動習慣	自己の適切な運動量と運動内容を知り、運動習慣の改善点を意識する。
第11回	生活習慣病の予防	メタボリックシンドローム、生活習慣病とその予防について学ぶ。
第12回	生体リズムと健康	生体リズムとそのしくみ、健康的な睡眠について理解を深める。
第13回	ウェルエイジング	加齢による心身の変化を知り、老いをどう生きるかについて考える。
第14回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各2時間を標準とする。
- ・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）75%
- ・期末レポート25%

【学生の意見等からの気づき】

- ・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Health promotion is the process of enabling people to increase control over, and to improve, their health. It moves beyond a focus on individual behaviour towards a wide range of social and environmental interventions. (WHO) The aim of this course is to maintain a healthy body and mind as life skill improving a quality of life. Developing healthy habits are needed not only to keep your life long but enhance your happiness and vitality.

【Learning Objectives】

The program has the following objectives.

1.Students learn foundational knowledge and skills required for healthy lifestyle.

2.Students put into practice for health promotion in their life.

【Learning activities outside of classroom】

1.Get information on current health issues from newspapers and news

2.Read books related to what you learned in class

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Normal points (worksheets, reaction paper) 75%
- ・ Term-end report 25%

LANk300LA（朝鮮語 / Korean language education 300）

第三外国語としての朝鮮語 A 2017年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて朝鮮語・韓国語を学ぶクラスです。朝鮮語の仕組みからハングルの文字を一つずつ学びながら、発音を丁寧に学習します。書き方も基本から一つずつ学びます。

【到達目標】

ハングル文字を正しく読み・書きを学ぶのがねらいです。朝鮮語・韓国語が正しく読める、書けることが可能であることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

定員制授業です。第1回目の授業で出席者だけで抽選します。連絡はHoppiiにて行います。

毎回、小テストを実施します。

テキストに沿って進めます。第10課からは、本文を全員に読んでもらいます。

初めての朝鮮語・韓国語ですので、誰にでもわかりやすく覚えられるように、ゆっくり進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
	第1課 基本母音	基本母音を学ぶ
2	第2課 基本子音	基本子音を学ぶ
3	第3課 激音	激音を学ぶ
4	第4課 濃音	濃音を学ぶ
5	第5課 合成母音字	合成母音字を学ぶ
6	第6・7課 終声	終声を学ぶ
7	第8課 日本語のハングル表記と辞書の引き方	日本語のハングル表記と辞書の引き方を学ぶ
8	第9課 知っておきたい教室用語	知っておきたい教室用語を学ぶ
9	第10課 初めまして	本文、文法解説、練習問題
10	第11課 今日授業がありますか	本文、文法解説、練習問題
11	第12課 今日は9月25日です	本文、文法解説、練習問題
12	第13課 図書館はどこですか	本文、文法解説
13	第13課 図書館はどこですか	練習問題
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習・復習をしましょう。

毎回小テストがあるので、0点にならないように、音を出しながら覚えてください。

文法解説と練習問題は、事前にやっておいてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『やさしい韓国語初級』（梁禮先、権点淑、曾恩美 著）朝日出版社、2018年、2300円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題など30%、期末試験70%。60点以上が合格点です。

※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

音読をすること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA (朝鮮語 / Korean language education 300)

第三外国語としての朝鮮語 B 2017年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「第三外国語としての朝鮮語A」を修了したレベルの人対象の講座です。ハングルの読み書きの基礎を理解し、読み書きができる人が対象です。
「第三外国語としての朝鮮語B」では、読み書きの定着を図りながら、簡単な会話の練習も進めていきます。

【到達目標】
発音に気を付けながら、スムーズに読めることを目標にします。また、簡単な会話ができるようになることもこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進めます。本文を全員に読んでもらいます。文法解説と練習問題は、事前にやって来てください。発音の練習にも力を入れます。毎回、授業前の小テストがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	秋学期の進め方と復習	秋学期の進め方と春学期の簡単な復習。
	第14課：家族は何人ですか？	本文と文法解説
2	第14課：家族は何人ですか？	練習問題
3	第15課：どこへ行きますか？	本文と文法解説
4	第15課：どこへ行きますか？	練習問題
5	第16課：友だちと会います	本文と文法解説
6	第16課：友だちと会います	練習問題
7	第17課：今何時ですか？	本文と文法解説
8	第17課：今何時ですか？	練習問題
9	第18課：かなり待ちましたか？	本文と文法解説
10	第18課：かなり待ちましたか？	練習問題
11	第19課：私はK-POPが好きです	本文と文法解説
12	第19課：私はK-POPが好きです	練習問題
13	第20課：韓国語で質問	会話練習

14 期末試験 秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習・復習をしましょう。
本文の音読を毎日やりましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『やさしい韓国語初級』梁禮先、権点淑、曾恩美著、朝日出版社、2018年、2300円＋税

【参考書】
小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】
平常点・小テスト・課題など30%、期末試験70%。60点以上が合格点です。
※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
音読を毎日欠かさずやってください。韓国について何か一つは興味を持ちましょう。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 13 of the text book.
< Learning Objectives >
In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Term-end examination : 70 %,little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA (朝鮮語 / Korean language education 300)

第三外国語としての朝鮮語 A 2017年度以降入学者

高柳 俊男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語＝韓国語を初めて学ぶ方のための、週1回の授業です。

ハングルの文字と発音の基礎を学び、そのうえで文法の初歩を身につけます。自己紹介など、ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・文字を見たら、正確に発音できる。
- ・簡単な文の読み書きができる。
- ・あいさつや自己紹介など、簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・30人までの定員制授業です。第1回授業（対面）に必ず参加すること。その中から抽選します。選抜結果の連絡はHoppiiにて行いますので、必ず「仮登録」しておいてください。
- ・授業のはじめに前回の復習を行います。
- ・確認の小テストを随時行います。
- ・テキストには簡単にしか書かれていない事項は、補助プリントを配付して補います。
- ・なお、進度はあくまでも予定です。皆さんの理解度に応じて若干変化することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 朝鮮語・韓国語の呼称の説明 選抜の実施
2	第1課	文字の構造と母音
3	第2課	子音：平音
4	第3課	子音：激音
5	第4課 第5課	単語の発音、子音：濃音
6	第6課	複合母音
7	第7課	パッチム
8	第8課	連音ほか
9	第9課	発音変化、日本語のハングル表記
10	第10課 第11課	辞書の配列 平叙文、疑問文
11	第12課	体現否定文
12	第13課	漢数詞
13	第14課	「～といひます」
14	期末試験	春学期の学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ある外国語を週1回、100分の授業でマスターすることは、まず無理です。授業以外に、家で復習を欠かさず行うという覚悟を持ってください。

また、外国語学習にとって音は大事です。テキスト付属の音声できるだけ聞くよう、努力してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語 改訂版』（白水社）

【参考書】

辞書などについては、授業内で触れます。

【成績評価の方法と基準】

小テストなどの平常点30%、期末試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当する授業です。

【その他の重要事項】

定員制（30名）です。

受講希望者は、第1回授業時（2026年4月10日）までに必ずHoppiiで「仮登録」をして、教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者（「仮登録」者）の中から抽選します。

この授業は、あくまでも初歩の方向けの授業です、以下をはじめ、すでに相当の実力がある方は受講できません。

- ・本学の第二外国語での「朝鮮語」受講者
- ・日本における朝鮮学校の卒業生
- ・韓国で小、中、高校課程を修了している人

【Outline (in English)】

This course covers the fundamentals of Korean characters, pronunciation, and grammar. The goal is to master pronunciation and engage in very simple conversations.

Grades are based on 30% regular participation and 70% final exam.

LANk300LA（朝鮮語 / Korean language education 300）

第三外国語としての朝鮮語 B 2017年度以降入学者

高柳 俊男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語＝韓国語を4月から初めて学び始めた方のための、第三外国語としての週1回の授業です。

春学期に身につけたハングルの発音と初歩の文法の基礎のうえに、もう少し複雑な文法や会話を学びます。

【到達目標】

- ・発音変化も含めて、ハングルをすべて正確に発音できる。
- ・やや複雑な文法が理解できる。
- ・やや高度な挨拶や会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・30人までの定員制授業です。第1回授業（対面）に必ず参加すること。その中から抽選します。選抜結果の連絡はHoppiiにて行いますので、必ず「仮登録」しておいてください。
- ・授業のはじめに前回の復習を行います。
- ・確認の小テストを随時行います。
- ・テキストには簡単にしか書かれていない事項は、補助プリントを配付して補います。
- ・なお、進度はあくまでも予定です。皆さんの理解度に応じて若干変化することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 選抜の実施 春学期の復習
2	第15課	固有数詞、時刻の言い方
3	第16課	一般動詞とそのハムニダ体
4	第17課	各種の助詞
5	第18課	意思の表現
6	語基	語基という概念
7	第19課	尊敬形、年齢の言い方
8	第20課	用言否定
9	第21課	へヨ体
10	第22課	「～してください」
11	第23課	過去形
12	第24課①	連体形
13	第24課②	ハンダ体
14	期末試験	秋学期の学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ある外国語を週1回、100分の授業でマスターすることは、まず無理です。授業以外に、家で復習を欠かさず行うという覚悟を持ってください。

また、外国語学習にとって音は大事です。テキスト付属の音声を読めるだけ聞くよう、努力してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語 改訂版』（白水社）

【参考書】

辞書などについては、授業内で触れます。

【成績評価の方法と基準】

小テストなどの平常点30%、期末試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当する授業です。

【その他の重要事項】

定員制（30名）です。

受講希望者は、第1回授業時（2026年9月18日）までに必ずHoppiiで「仮登録」をして、教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者（「仮登録」者）の中から抽選します。

この授業は、あくまでも初歩の方向けの授業です、以下をはじめ、すでに相当の実力がある方は受講できません。

- ・本学の第二外国語での「朝鮮語」受講者
- ・日本における朝鮮学校の卒業生
- ・韓国で小、中、高校課程を修了している人

【Outline (in English)】

This course builds upon the Korean grammar fundamentals covered in the spring semester. The goal is to enable students to understand more complex sentences and conversations.

Grades will be determined by active participation in class (30%) and the final exam (70%).

LIT300LA (文学 / Literature 300)

漢字・漢文学A

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求める。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第2回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第3回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第4回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第5回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第6回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰

第7回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価
第8回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第9回	恋愛作品と文字	・『詩経』と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第10回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第11回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第12回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第13回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩談」の説
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

漢字・漢文学B

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第2回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第3回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え

第8回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第9回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第10回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第11回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儚い栄達 ・動物への変身
第12回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第13回	日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。

共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今セメスターで書いた作品は、秋セメスターで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。

第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2週間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ） 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50% submission of the work, 30 % active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今 semester では、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えて臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。

第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2週間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品 [三作以上] への批評文） 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline/Leaning Objectives

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

文芸創作講座A

2017年度以降入学者

L E T I Z I A G U A R I N I

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての人間の中に物語が潜んでいます。その物語を引き出すために、この授業では小説を書くための基礎について学びながら、自分自身を語る力を身に付けます。

【到達目標】

- 1) 小説を読む/書くための基礎について学ぶ。
- 2) 書きたい世界を明確にし、言語化することができる。
- 3) 小説を読んで講評することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

・前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 小説家を目指すには何が必要なのかについて考える。
第2回	ジャンル	フィクション、ノンフィクション、オートフィクションについて学ぶ。
第3回	小説の始まり	書き出しについて考える。
第4回	語り手と読者	語り手と視点、また読者について考える。
第5回	小説の設定 (1)	時間の設定について考える。
第6回	小説の設定 (2)	舞台設定について考える。
第7回	小説を書く (1)	これまでの授業を踏まえ、自分の小説の構想について考える。
第8回	小説を書く (2)	小説を書きはじめる (2,000字程度)。各グループでフィードバックをしよう。
第9回	小説を書く (3)	小説を書き続ける (前回に加えて 2,000字程度)。各グループでフィードバックをしよう。
第10回	小説を書く (4)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 6,000字程度)。各グループでフィードバックをしよう。
第11回	小説を書く (5)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 7,000字程度)。各グループでフィードバックをしよう。
第12回	ブラッシュアップ	最終原稿 (それまで書いたものと合わせて 8,000字程度) の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第13回	講評 (1)	作品をみんなで読み、講評する。
第14回	講評 (2)	作品をみんなで読み、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018年）

キング、スティーヴン『書くことについて』（小学館、2013年）

ロッジ、デイヴィッド『小説の技巧』（白水社、1997年）

Febos, Melissa. Body Work: The Radical Power of Personal Narrative. Catapult, 2022.

Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

Wood, James. How Fiction Works. Picador, 2009.

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（20%）、グループワークと合評への参加度（30%）、学期末までに完成させ

た小説（50%）で総合的に評価します。

毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

なし（昨年度は休講だったため）

【Outline (in English)】

There is a story hidden in each of us. Students will learn to bring out their own stories by learning the basics of writing a novel.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understand the basics of writing fiction.
- 2) Identify the story they want to write about and give voice to the character(s).
- 3) Read literature critically.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (four hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes. Students who are more than 15 minutes late will be marked as absent.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

文芸創作講座 B

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学と音楽と芸術との関係を考えながら小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな歌あるいは芸術作品を選び、それをテーマにした物語を書くという実習授業です。

【到達目標】

- 1) 文芸作品を分析することができる。
- 2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
- 3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

・前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 文学と音楽と芸術との関係について考える。
第2回	小説の始まり	様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。
第3回	語り手と視点	語り手や視点の設定について考える。
第4回	時間	物語における時間の設定について考える。
第5回	空間	物語の舞台設定について考える。
第6回	小説の技巧	意識の流れや内的独白について学ぶ。
第7回	小説を書く（1）	これまでの授業を踏まえ、自分の小説の構想について考える。
第8回	小説を書く（2）	小説を書きはじめる（1,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第9回	小説を書く（3）	小説を書き続ける（前回に加えて2,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第10回	小説を書く（4）	小説を書き続ける（それまで書いたものと合わせて5,000字程度）。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第11回	小説を書く（5）	小説を書き続ける（それまで書いたものと合わせて7,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第12回	ブラッシュアップ	最終原稿（8,000程度）の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第13回	講評（1）	作品をみんなで読み、講評する。
第14回	講評（2）	作品をみんなで読み、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読む、原稿を書き上げるなど、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018年）
キング、スティーヴン『書くことについて』（小学館、2013年）
ロッジ、デイヴィッド『小説の技巧』（白水社、1997年）
Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014
Wood, James. How Fiction Works. Picador, 2009.

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（20%）、グループワークと合評への参加度（30%）、学期末までに完成させた小説（50%）で総合的に評価します。
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

なし（昨年度は休講だったため）

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of writing a story while considering the relationship between literature, music, and art. Students will write a story based on the theme of a work of art or a song of their choice.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Analyze literary works.
- b) Understand the basics of writing a novel.
- c) Develop multiple perspectives.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their projects. They will also read other students' stories (four hours per session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

日本芸能論 A

2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本の豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

春学期前半は雅楽、能楽について講義をします。現代人は欧米の文化に慣れ親しんでいることもあり、むしろ日本の古典芸能に対してはなんとなく苦手意識があるかもしれませんが、この授業を通して、鑑賞のポイントをつかめば、その面白さやこんにちまでそれらが継承されてきた理由が理解できるようになるかもしれません。

春学期後半は受講生による発表・討論で授業を進めます。発表テーマは、日本の芸能であれば時代やジャンルは問いません。発表後、受講生による討論を行い、また新たな視点で日本の芸能について見直し、考察を深めていきます。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループ（3人まで）で、関心を持っている芸能について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

【参考】これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「歌舞伎舞台の変遷」「香道について」「寄席の歴史」「日本における『第九』の受容と定着について」「マク・ロの解体ショー」「青森ねぶた祭り 芸術を作る」「女性だけで構成される劇団が生む芸能の特性－宝塚歌劇団の独自性と影響力－」「芸能人とインフルエンサーの境界線」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて

第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	雅楽について
第5回	伝統芸能概説(2)	伎楽について
第6回	伝統芸能概説(3)	能について
第7回	伝統芸能概説(4)	狂言について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容70%（①②③）またはレポート70%（①②④）※、平常点および討論への参加状況30%（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

※春学期「日本芸能論A」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。秋学期「日本芸能論B」も続けて履修し、そちらで発表する予定の人は、春学期「日本芸能論A」については、発表の代わりにレポートにすることが出来ます。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進めますので、秋学期の受講希望者も、春学期「日本芸能論A」の学習支援システム上で行う連絡を必ず確認してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

日本芸能論B

2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で育まれてきた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

秋学期前半は人形浄瑠璃、歌舞伎について講義をします。2025年に公開された映画『国宝』を御覧になって、歌舞伎に関心を持った人も多いのではないのでしょうか。歌舞伎やそれと大きな関わりを持つ人形浄瑠璃に関する知識を身につけることで、それぞれ作品のどころや面白さがわかるようになり、深い鑑賞眼を持つことができるようになるでしょう。

秋学期後半は受講生による発表・討論で授業を進めます。発表テーマは、日本の芸能であれば、時代やジャンルは問いません。発表後、受講生による討論を行い、また新たな視点で日本の芸能について見直し、考察を深めていきます。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループ（3人まで）で、関心を持っている芸能について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

〔参考〕 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。「新能」「文楽の歴史と現在」「茶道の歴史」「落語の演技」「石見神楽の現在に至るまでの変化」「アイヌ文化と芸能の歴史」「新たな芸能の形としての2.5次元ミュージカル」「書道パフォーマンス～表現形態の変遷～」「日韓アイドルの歴史と現代で求められるアイドル像」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	人形浄瑠璃の成立について
第5回	伝統芸能概説(2)	人形浄瑠璃の様相について
第6回	伝統芸能概説(3)	歌舞伎の成立について
第7回	伝統芸能概説(4)	歌舞伎の様相について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容70%（①②③）またはレポート70%（①②④）※、平常点および討論への参加状況30%（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

※秋学期「日本芸能論B」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。春学期「日本芸能論A」から続けて履修し、そちらですでに発表した人は、秋学期「日本芸能論B」については、発表の代わりにレポートにすることができます。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時にを行いますので、当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論A」の学習支援システム上で行う連絡を確認してください。

なお、秋学期「日本芸能論B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論A」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

身体表現論 A

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式である。その発生・発展の経緯を概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊のテクニクについての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】

- ・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
- ・提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディ・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踊、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊（16～17世紀）	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類（バレエ・コミック、他）、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ（18～19世紀）	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ（出張中のため、録画した講義を提供する予定）
6	ロマンティック・バレエ（19世紀）	タリオ二、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ（19世紀）	『 Coppélia 』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ（19～20世紀）	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー

10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス
11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス（1）	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス（2）	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.

クルト・ザックス『世界舞踊史』

邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】

平常点30%：リアクション・ペーパーによる。講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価

期末レポート70%：舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

身体表現論 B

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】

- ・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
- ・提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇（1）	原始社会から古代文明における演劇の発生、アイスキュロス、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇（2）	劇場の構造、ソフォクレス（続）、エウリピデスについて
4	中世演劇～エリザベス時代演劇（1）	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響から、エリザベス時代演劇への歴史的展開について
5	エリザベス時代演劇（2）	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇（3）	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、市民劇	イギリスの風俗喜劇、フランスの市民劇とその周辺について。マリヴォー、ボーマルシェ、モーツァルトなど
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇（1）	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンダベリ、チェーホフについて

11	近代演劇（2）	ヨーロッパ近代演劇、特にバーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇（1）	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
13	現代演劇（2）	アメリカのリアリズム演劇について
14	講義のまとめ	秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恒存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・ブレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）

【成績評価の方法と基準】

平常点30%：リアクション・ペーパーによる。講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価
期末レポート70%：演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)	
美術論A	2017年度以降入学者
稲垣 立男	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses 単位数：2単位 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 2026年度美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。 特に ・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論 ・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論） について段階的に幅広い視点で学んでいきます。 以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。） ・古代美術、中世美術、近世美術 ・近代美術 ・現代美術 また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。 【到達目標】 西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1 【主な授業方法】 L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment 【授業の進め方と方法】 オンデマンド方式により授業を行います。 授業当日の流れ（重要） 1. 指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。 2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。） 3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。 4. 授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。 授業の方法 授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。 課題 受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。 質問・相談 一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes	【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes 【授業計画】 授業形態：オンライン/online 回 テーマ 内容 第1回 オリエンテーション 授業の概要 美術史の学び方 文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。原始・先史美術からメソポタミア、エジプト、ギリシア、ローマまでの古代美術について扱います。広範な内容となります。歴史を学ぶことはその広がりや考えを果てがありませんが、まずは大きな流れを捕まえておくことが大切だと思います。 第2回 古代美術 原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術 ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。ローマ時代からルネサンス以前までのキリスト教と関連した美術の流れについて学びます。この後出てくるルネサンスの美術と比較して、シンプルでわかりやすい装飾的な図像という印象です。形骸化しているという側面もありますが、キリスト教の拡大のために必要であったと想像できます。 それぞれの美術が展開した場所と時期は以下のようになっています。 初期キリスト教美術（西ヨーロッパ）（2～7世紀） ビザンティン美術（東ヨーロッパ）（4～15世紀） 初期中世美術（ドイツ、フランス、アイスランド）（5～10世紀頃） ロマネスク美術（西ヨーロッパ）（11～12世紀） ゴシック美術（西ヨーロッパ）（12～15世紀） 第3回 中世美術 初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術 ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。 第4回 近世美術 ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術

第5回	ワークショップ（1） 単元の復習・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ	これまで学んだ時代の文化を違うベクトルから見てみましょう。この時代は文字の発達した時代でもあり、情報を残し、伝えるために絵を描くことの発見、それらが発展（もしくは変化）して現在の文字の発明につながっていきました。ギリシア時代には現在使われているアルファベットとほとんど同じものが使われていました。 絵画や文字が発明されたことで、人間は様々な過去の事柄を記録することができるようになり、これらはコミュニケーションの手段の一つとなって、メディアが登場します。芸術の分野でも近代になってコンセプチュアル・アートのような概念的な表現が多くなり、文字は中心的な存在となります。 近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義、ありのままの自然を描こうとするバルビゾン派、芸術を通じて道徳や真実を探究するラファエル前派について学びます。	第8回	ワークショップ（2） 単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法	中世、近世、近代美術の復習とワークショップをします。ワークショップでは、絵画を違う観点から考えてみましょう。絵画の目的は現実の世界を平たい紙やキャンバスに定着させることにありますが、歴史の中で様々なテクニックが生まれました。色をだんだん薄くしてみる、前後のものを重ねてみる、近いものを下、遠いものを上の方に描いてみるなどで、奥行きは表現できます。私たちの学んだ中世、近世から近代美術にかけて最も進化したのは線遠近法と呼ばれる方法です。今日は遠近法について理解を深めましょう。 ポスト印象派以降の絵画の新しい試みについての講義です。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。後期印象派という言葉は1906年に美術批評家ロジャー・フライが最初に使い、また1910年にロンドンのグラフトン・ギャラリーで彼は「マネと後期印象派の作家たち」という展覧会を企画し、そのタイトルで正式にこの言葉を用いました。ゴーギャンやゴッホの大胆な色彩や画家の内面性を追求する姿勢は印象派にはなかったもので、またセザンヌは形態の解釈にエネルギーを注ぎました。これらの発想は、フランスを中心としたフォービズムやキュビズム、ドイツを中心とした表現主義の芸術運動に大きな影響を与えました。
第6回	近代美術1 新古典主義 ロマン主義 写実主義 バルビゾン派 ラファエル前派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかに明るい色彩の印象派、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。 19世紀のフランスを中心としたヨーロッパでは、印象派を軸として次々と新しい芸術運動が現れてきます。アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーボーなど、生活と結びついた芸術運動も生まれてきました。今回の授業ではそうした様々な動向について扱いますが、見るものをどのように解釈するのか、心の中で感じ取ったものをどのように表現するのかといった写真が発明された以降の課題（そのまま写しとるのではなく、絵画独自の特徴を追求する）について、様々な取り組みや実験がスタートします。	第9回	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派、世紀末芸術、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。 この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。 今日は「表現の生まれる場所」というテーマで表現の原理原則のような出来事を体験するワークショップをしましょう。特に以下のキーワードについて考えていきます。 ・テキスト ・音 ・身体
第7回	近代美術2 印象派、新印象派、ポスト印象派 ナビ派 世紀末芸術 象徴主義（ロシア象徴主義） 素朴派 アーツアンドクラフツ運動 アール・ヌーヴォー 分離派		第10回	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティール、パウハウス、ロシア構成主義	
			第11回	ワークショップ（3） 単元の復習 近代美術3、近代美術4	

第12回	現代美術1 アンフォルメル 抽象表現主義 ヌー・ポ・レアリズム、アルテ・ポーヴェラ	第二次世界大戦前後の芸術運動についてお話をします。大戦を挟んでアートの現場がヨーロッパからアメリカに移行します。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義などアメリカを中心として登場した芸術運動、アンフォルメル、ヌー・ポ・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第13回	現代美術2 ネオダダ、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート 新表現主義	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1970年代の嵐のようなカウンターカルチャーの時代が過ぎ去り1980年代に入り登場したアメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義についても学びます。
第14回	現代美術3 YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート ワークショップ(4) 単元の復習・現代美術1・現代美術2 ワークショップ「テキストとアート」	1989年にベルリンの壁が崩壊し東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。そして、東西対立の時代からアメリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャルリズムを一つのきっかけとして生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニウム前夜に起こったイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist、リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

参考書

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2014年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

* Art history and art theory which is the basis for understanding art

* Work production including more practical content

Planning of art exhibitions・Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google sites contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

美術論B

2017年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2026年度美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。

- ・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
 - ・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
- これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

- ・原始・古代美術
- ・中世美術、近世美術
- ・近代美術
- ・現代美術

さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。

【到達目標】

日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されているので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Forms で課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
第2回	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。
第3回	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。6世紀後半から7世紀前半にかけての飛鳥・白鳳時代には、仏教が伝来して社会や文化に大きな影響を与えました。8世紀から9世紀にかけての奈良時代には、律令制度が確立し国家の行政や法制度が整備されました。9世紀後半から12世紀半ばまでの平安時代には、貴族文化が隆盛し、平安時代の文学や芸術が栄えました。
第4回	ワークショップ（1） 単元の復習・原始美術、古代美術 プレゼンテーション とディスカッション	原始美術、古代美術に関する単元の復習と、縄文時代以前の道具に関するワークショップを行います。
第5回	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。12世紀末から14世紀半ばまでの鎌倉時代は、武士の政権が台頭しました。禅宗や浄土宗などの新興宗教が台頭しました。室町時代は、14世紀後半から16世紀前半までの時代であり、禅宗美術が更なる発展を遂げ、水墨画が盛んになりました。
第6回	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。16世紀後半から17世紀初頭にかけての桃山時代は、戦国時代の混乱から徳川家康による統一を経た時代です。この時代には茶道、茶室建築が隆盛し、また絵画や彫刻、陶芸など、豊かな文化が開花しました。17世紀初頭から19世紀末までの江戸時代には、風俗や歌舞伎、日常生活の情景を描いた浮世絵が大衆の間で広く愛されました。また、琳派や俳句、狂言など様々な文化が栄えました。

第7回	ワークショップ (2) 単元の復習・中世美術、近世美術 プレゼンテーション とディスカッション	中世美術、近世美術に関する単元の復習と「異文化交流」と「身の回りにある江戸時代」に関するワークショップを行います。
第8回	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化政策により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。第二次世界大戦後の1950年代には実験工房、具体美術協会が結成され、従来の美術の枠を超えた実験的なアプローチや表現が試みられました。続いて1960年代にはアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンターなど新しい芸術運動が始まります。これらの芸術運動は、戦後の日本の芸術に新たな風を吹き込み、アーティストの多様な表現を促進しました。
第9回	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房	近代美術のはじまり、戦後美術に関する単元の復習と、教室内のひととひとの関係性に関するワークショップを行います。
第10回	ワークショップ (3) 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術 プレゼンテーション とディスカッション	1960年代から1970年代の美術に大きな影響力を持ったもの派ともの派以降の美術やアーティストについて学びます。
第11回	1960-1970年代 もの派ともの派以降、新しい表現	1980年代には若いアーティストたちは、前衛的な動きを引き継ぎながら、新たな表現手法に挑戦しました。特にビデオアート、インスタレーション・パフォーマンスなどが注目されました。
第12回	新しい表現 パフォーマンス、ビデオアート、インスタレーション	1990年代からミレニウム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
第13回	1990-2020年代 1990年代、ミレニウム以降、ゼロ年代、2010年以降	1960-1980年代、1990-2020年代に関する単元の復習と、授業全体のまとめのワークショップを行います。
第14回	ワークショップ (4) 単元の復習・1960-1980年代、1990-2020年代 プレゼンテーション とディスカッション	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

We will learn a wide range of them step by step.

Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

芸術と人間A

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もっても具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表现を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppiiを通してコメントを書いてもらったりすることになります。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。受講希望者が50名を超える場合、初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	-ジョン・フォード -宮崎駿
3	地を走る	-チャールズ・チャップリン -バスター・キートン
4	地で踊る	-フレッド・アステア -ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	-S・エイゼンシュテイン -アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	-キング・ヴィダー -ニコラス・レイ
7	馬に乗る	-ジョン・フォード
8	列車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢明
9	自動車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	-エルンスト・ルビッチ -ハワード・ホークス
11	壁の向うを聴く	-フリッツ・ラング -ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	-アルフレッド・ヒッチコック -宮崎駿
13	鏡を見る	-オーソン・ウェルズ -吉田喜重

14 まとめ

講義のまとめや補足

課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館やDVDでの作品鑑賞等。本授業の復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点50%＋レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価とします）。

平常点は、出席回数ではなく、毎回のコメントシートでカウントします。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50名以上受講希望者がいる場合、初回（対面式なので注意）に選抜試験を实践し、受講資格を得た学生が受講できます。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価になります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the style of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

芸術と人間B

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域です。本講義は「芸術と人間A」の発展形にあたり、より大きな空間のスケールで映画表現を学びます。主に古典的作品を通し、都市や自然の表現が問題となります。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、鑑賞力を深めることができます。表現技法や映画史の基本知識も身につきます。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を広げることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、毎回、hoppiiを通してコメントを書いてもらいます。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。

受講希望者が50名を超える場合、初回（対面式）に、「芸術と人間A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行いますので注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと選抜	-授業の概要の説明 -「芸術と人間A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	-キング・ヴィダー -フリッツ・ラング
3	迷宮都市	-ジャン＝リュック・ゴダール -ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	-ヴィム・ヴェンダース -黒沢清
5	日本家屋	-成瀬巳喜男 -小津安二郎
6	水と船	-溝口健二 -ジャン・ヴィゴ
7	雨	-山中貞雄 -宮崎駿
8	水の宇宙	-アンドレイ・タルコフスキー -ユーリー・ノルシュテイン
9	風	-ジャン・エプスタン -グル・ダッド
10	動物1	-ハワード・ホークス -宮崎駿
11	動物2	-アピチャポン・ウィラセタクン -タル・ペーラ

12	外国人監督による東京1	-クリス・マルケル -ヴィム・ヴェンダース
13	外国人監督による東京2	-ジャン＝ピエール・リモザン -ホウ・シャオシェン
14	まとめ	補遺 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館やDVDでの映画観賞等。本授業の復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%＋レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価）。

平常点は出席回数ではなく、毎回のコメントシートでカウントします。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却します。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「芸術と人間A」（春学期）未受講者は選抜試験をする可能性がある。必ず初回に出席すること。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the style of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

仏教思想論 A

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 四つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』

第7回 仏教の基本思想（3） 仏陀のさとり得た真理とその特徴

『梵天勧請』
『縁』経、他
比較思想的考察第8回 仏教の基本思想（4） 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリンダ王経第9回 仏教教団と教団運営
律蔵文献
戒・波羅提木叉第10回 初期仏典講読（1）
第11回 初期仏典講読（2）
『ダンマパダ』
『スッタニパータ』
「慈しみ」他第12回 初期仏典講読（3）
『スッタニパータ』
「田を耕すパーラドヴァージャ」
他第13回 初期仏典講読（4）
『スッタニパータ』
真理についての争い第14回 授業内試験・まとめ
筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

「配布資料の内容が興味深かった」という感想をくれた学生がいました。資料を読み、仏陀自身のことば・思想を、先入見を持たずに、正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてほしいと思います。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

仏教思想の本質、特に仏教の人生観・世界観の理解のためには、春学期の「仏教思想論A」だけでは不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

仏教思想論 B

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

(本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどうして多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(3～4回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教思想展開史概説
第2回	部派仏教の成立	仏教思想の多様性・多様化 諸部派成立から大乘仏教へ
第3回	部派仏教(説一切有部)の思想(1)	ダルマの体系(1)： 五位七十五法
第4回	部派仏教(説一切有部)の思想(2)	ダルマの体系(2)： 有為ダルマの二性質
第5回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第6回	大乘仏教(1)	大乘仏教の教理的特徴
第7回	大乘仏教(2)	大乘諸経典(1)： 『般若経』 『阿闍世王経』
第8回	大乘仏教(3)	大乘諸経典(2)： 『維摩経』 ナーガールジュナ(1)： 思想史上の位置づけ 二真理説

第9回 大乘仏教(4) ナーガールジュナ(2)：
空性、中道

縁起の思想(1)：
外縁起・内縁起
『入楞伽経』

第10回 大乘仏教(5) 縁起の思想(2)：
『稻苳経』

第11回 大乘仏教(6) 縁起の思想(3)：
『稻苳経註』

縁起二種観察法・中道

第12回 大乘仏教(7) 大乘仏教の人生観(1)：
到達目標・理想的境地・中道

第13回 大乘仏教(8) 大乘仏教の人生観(2)：
『維摩経』

第14回 大乘仏教(9) 大乘仏教の人生観(3)：
仏教論理学派と後期中観思想；
仏陀・經典の権威について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin選書、2013年

桜部健・上山春平著『仏教の思想 2 存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、1996年

計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、2023年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。

期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

インド本来の大乘仏教思想、特に東アジアには殆ど伝わらなかった後期中観思想等を初めて学ぶ学生に対しては、その人生観等の思想は、新鮮な驚きを感じさせるようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、大乘仏教思想に関心のある方はぜひ受講してほしいと思います。わかりやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン(学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

授業内容の深い理解のために、春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (Shrāvākayāna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayāna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. Sarvāstivādin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Later Madhyamaka philosophy consisting of the ideas of dependent origination, emptiness, middle way and non-abiding nirvana.

3. Dharmakīrti's and later Mādhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

HIS300LA（史学/History 300）

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していく、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀

第14回 試験と解説

試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化B

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。

漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）

佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）

天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）

円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とするとは全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学/History 300）

古代日本・中国の法と社会 A

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舎利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察

14 試験

受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくこと。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

岡野浩二『日本史特講（日本仏教史）』（法政大学通信教育部、2023年）
末木文美士編『新アジア仏教史 11日本1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50%、毎回の出席確認の小テスト50%をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2)疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA (史学/History 300)

古代日本・中国の法と社会B

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本は、中国から多くの文明・文物を移入した。その重要な役割を担ったのが入唐僧である。ここでは9世紀の円珍の関係史料を主な素材として、入唐僧の実情を探る。その前提として7・8世紀の入唐僧について概観する。9世紀には、円仁が『入唐求法巡礼行記』、円珍が『行歴抄』という旅行記を残しており、円珍関係の古文書も園城寺に現存する。それらの記事から、日本・唐の宗教・政治・社会を比較研究する。

【到達目標】

円珍の旅行記『行歴抄』、円珍の伝記『天台宗延暦寺座主円珍伝』、円珍関係の古文書『園城寺文書』の主要な記事を読解する。それらを素材として、日本・唐の宗教・政治・社会の相違点や特質を把握する。そして、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	道昭・玄昉・鑑真	7・8世紀の入唐交流を概観する
3	最澄・空海・円仁	9世紀の入唐僧を概観する
4	円珍の入唐と身分証	僧侶・俗人の身分証について日唐を比較する
5	円珍の通行許可証	唐の交通路と許可証を考察する
6	円珍がみた天台山	会昌の廃仏とその影響を概観する
7	円珍と円載	入唐僧どうしの交流と確執を読み取る
8	円珍がみた長安・洛陽	唐の寺院・施設・人物を概観する
9	円珍がみた唐の文物	仏教行事や風俗を日唐で比較する
10	円珍の帰国	仏典の保管、天皇・貴族との交流を概観する
11	後続の入唐僧	宗叡・高丘親王らの入唐と円珍との関係を探る
12	円珍と唐の僧侶・商人	帰国後の円珍と天台山・長安の僧侶や貿易商との交流を概観する
13	日本と唐の関係・比較	入唐僧の活動から日本と唐の関係を考察する
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）
佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）
小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）
園城寺編『園城寺文書 第一巻』（講談社、1998年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50％）、②途中で実施する確認試験（30％）、③予習事項の紙面での提出（20％）。以上の3者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3) ①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Enchin's historical materials .

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: Through the travelogues written by monks who visited China from Japan, what is the religious, political, and social differences between ancient Japan and China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA（史学/History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史A 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの米軍基地が配置された沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との関係、太平洋の島々との関わり、辺野古の新基地建設に反対する民意形成の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で苛烈な地上戦が行われ、県民の4人に1人が犠牲になる過酷な被害を受けました。その後も1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれ、本土との生活格差は広がり、米軍基地の縮小に取り組むと約束した日本政府の約束も果たされません。米国のアジア戦略や中国との関係が、時代と共に変化する中でも沖縄の状況は変わらず、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争後の米国施政下から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

教室でリアルタイムに受講する形式を基本とします。市ヶ谷キャンパス以外の学生の履修や、部活・就活による欠席者らに配慮し、「Zoom」で撮影した授業内容の映像を可能な限り後日配信します。毎回の授業後、感想や質問をリアクションペーパーで提出してもらい、次の授業に活用します。リアルタイムで受講できなかった学生がリアクションペーパーを提出した場合は、出席扱いとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史（1）	ドキュメンタリー動画などを参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史（2）	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、政府の対応に変化

6	1995年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑
7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化と日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史（1）	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	朝鮮半島の戦後史（2）	北朝鮮とはどのような国か。現地の映像を参考にして考察。
14	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・準備学習として、教科書や参考書に指定した書籍を読むこと。
- ・復習として、各回の授業後に配信する授業映像を見直したり、リアクションペーパーを策定したりすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・『いま沖縄をどう語るか〜ジャーナリズムの現場から』 高文研、2024年

【参考書】

- ・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年
- ・『観光コースでない沖縄・第5版』 高文研、2023年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、授業への参加度（50%）

期末レポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。

2014年から16年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）なども主宰しています。

【その他の注意事項】

- ①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
- ②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
- ③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史B」の前提となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through the current situation and history of Okinawa, which is home to many U.S. military bases, students will learn about Japan's security policy, relations with China and the Korean Peninsula, relations with the Pacific islands, and the process of shaping public opinion in opposition to the construction of a new base in Henoko.

Okinawa was the site of fierce ground battles during the Pacific War, suffering severe damage with one in four residents killed. It remained under U.S. administration until its return to Japan in 1972, and the living standards gap between Okinawa and the mainland widened. The Japanese government's promise to reduce U.S. military bases remains unfulfilled. While U.S. strategy in Asia and relations with China have changed over the years, Okinawa's situation has remained unchanged, with the Self-Defense Forces continuing to be deployed there in the name of preparing for a Taiwan emergency.

Learning about Okinawa will also be beneficial in understanding Japan's modern history and its international relations with Asian countries.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア・太平洋地域には、多くの島嶼および島嶼国家が存在する。本授業では、その中でも特に沖縄に注目する。沖縄は現在、日本の一県・一地域として位置づけられているが、前近代には琉球王府の統治下にある独自の政治体制を有していた。

近代以降、沖縄は「琉球処分」による日本への併合、同化政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）を経て、復帰後も米軍基地の集中と強化など、外部からの政策決定を繰り返し受けてきた。その過程において、沖縄の人びとはさまざまな形で異議申し立てを行いながら、独自の社会と文化を形成してきた。

本授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼地域をめぐる国際関係が生み出してきた現代社会の諸問題を検討する。それを通じて、この地域に生きる生活者としての視点と問題意識を養うことを目的とする。

【到達目標】

本授業では、「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認したうえで、アジア・太平洋国際関係の中で沖縄が現在直面している具体的な課題や問題についてリサーチし、議論する。あわせて、生活者の視点から国際関係と地域社会の問題を考察し、受講生それぞれが関心をもつ、沖縄に関するテーマについて、資料調査を行い、史資料に基づいて議論する力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第2回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」の内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第3回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第4回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。

第5回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第6回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗う民衆運動の展開について確認します。
第7回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第8回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題についてリサーチテーマを検討します。
第9回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第10回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第11回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第12回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第13回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第14回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書くこと。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比呷『沖縄戦、米軍占領史を学びなおすー記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（40%）

レポート中間発表（30%）

リサーチレポート（30%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門やリサーチテーマによって図表を用いるなどの場合を踏まえて、検討します。

【Outline (in English)】

In this class, we will focus on the modern and contemporary history of Okinawa and examine the various problems of contemporary society that have been created by international relations surrounding the Asia-Pacific islands. Through the program, the students aim to develop a perspective and awareness of problems as residents living in this region.

HIS300LA (史学/History 300)

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明、映像
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン、映像
3	1)「口絵・プロローグ」	学生によるテキストの報告、討論.
4	2) 映像①	関連映像視聴、討論.
5	3)「密航1946年 関釜の間の海～」	学生によるテキストの報告、討論.
6	4) 映像②	関連映像視聴、討論.
7	5)「第1章植民地の子ども1朝鮮 1911-24 鯨の町長 生浦～」	学生によるテキストの報告、討論.
8	6) 映像③	関連映像視聴、討論.
9	7)「第1章植民地の子ども2日本 1924-44 関東大震災の横浜～」	学生によるテキストの報告、討論.
10	8) 映像④	関連映像視聴、討論.

11	9)「第1章植民地の子ども3朝鮮 1944-46 朝鮮に逃げる～」	学生によるテキストの報告、討論.
12	10)「送還1946 失敗した密航～」	学生によるテキストの報告、討論.
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房 1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書 990円。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50%.

HIS300LA（史学/History 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・在日コリアン概説	自己紹介、授業計画の説明、在日コリアン概説、映像。
2	1)「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（1）密航のち18年の人生～163Pまで）	戦後の在日コリアンの歴史。学生によるテキストの報告、映像、討論。
3	2) 映像⑤	関連映像視聴、討論。
4	3)「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（2）横浜の検閲生活～（164P～）」	学生によるテキストの報告、討論。
5	4) 映像⑥	関連映像視聴、討論。
6	5)「第2章2大津登志子 満州から38度線へ～」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	6) 映像⑦	関連映像視聴、討論。
8	7)「第2章泰玄 money,money,money ～」	学生によるテキストの報告、討論。

9	8) 映像⑧	関連映像視聴、討論。
10	9)「第2章逸己 歴史を準備する人～」	学生によるテキストの報告、討論。
11	10) 映像⑨	関連映像視聴、討論。
12	12)「エビログ、補遺密航の時代」	学生によるテキストの報告、討論。
13	13) 資料館見学	資料館見学
14	14) まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房 1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書 990円。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50%.

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズA

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ+運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo運動	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第5回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	欧米におけるLGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	エイズ危機の時代	アメリカと日本における「エイズ禍」について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	日本におけるLGBTQ運動	「府中青年の家」事件やトランスジェンダーの歴史について講義を行う。

第10回	ダイバーシティとインターセクショナルリティ	ダイバーシティとインターセクショナルリティについて考える。
第11回	カミングアウトとアウトティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウトティングについて考える。
第12回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（ラーニング・ジャーナル）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

浅井春夫、遠藤まめた、染矢明日香、田代美江子、松岡宗嗣（編）『Q&A多様な性・トランスジェンダー・包括的性教育：パッシングに立ちむかう74問』（大月書店、2023年）

岩渕功一（編）『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社、2021年）

菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく1』（見洋書房、2019年）

菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく2』（見洋書房、2022年）

菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく3』（見洋書房、2023年）

清水晶子『フェミニズムってなんですか?』（文春新書、2022年）

周司あきら、高井ゆと里『トランスジェンダー入門』（集英社新書、2023年）

新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶクィア・スタディーズのために』（花伝社、2022年）

トッド、マシュー『ヴィジュアル版 LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）

森山至貴『LGBTを読みとくクィア・スタディーズ入門』（ちくま新書、2017年）

【成績評価の方法と基準】

ラーニング・ジャーナル（毎回Hoppiiを通じて提出すること）：20%

中間試験：30%

期末試験：30%

期末レポート：20%

毎日出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Have basic knowledge of queer studies.
- b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session and submit their learning journal entries (four hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Learning journal (Submit your journal entries via Hosei University Learning Management System at the end of each session): 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

Active participation in class is required.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズB

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- 2) クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について講義する。
第2回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第3回	性暴力と文学	#MeToo運動と文学の関係について講義する。
第4回	クィア・スタディーズとは？	クィア理論の誕生について講義する。
第5回	近代家族の誕生と再生	アート作品やメディアにおける家族の表象について考える。
第6回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ！』（2001年）を取り上げる。
第7回	恋愛伴侶規範（アマトノーマティビティ）	『そばかす』（2022年）を取り上げる。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	ゲイ解放運動	映画におけるLGBT運動の表象について考える。
第10回	トランスジェンダー問題	トランスジェンダーの歴史について講義する。
第11回	トランスジェンダーの過去と現在	トランスジェンダーの表象について考える。
第12回	日本におけるレズビ안의歴史	レズビアン性の可視性やその表象について講義する。
第13回	カミングアウトとアウトティング	映像作品におけるカミングアウトとアウトティングについて考える。
第14回	期末試験	第13回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（ラーニングジャーナル）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』（見洋書房、2021年）
 黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉？』（見洋書房、2016年）
 新々江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022年）
 トッド・マシュー『ヴィジュアル版LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）

平林美都子『女同士の絆 レズビアン文学の行方』（彩流社、2020年）
 森山至貴『LGBTを読みとく クィア・スタディーズ入門』（筑摩書房、2017年）
 Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】

ラーニング・ジャーナル（毎回Hoppiiを通じて提出すること）：20%

中間試験：30%

期末試験：30%

期末レポート：20%

毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【学生が準備すべき機器他】

授業内試験のためノートパソコンを用意してください。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, comics, etc.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.

b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

Learning activities outside of the classroom:

Students must read the reference material by the next session and submit their learning journal entries (four hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Learning journal (submit your journal entries via Hosei University Learning Management System at the end of each session): 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

Active participation in class is required.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

キリスト教思想史A

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。春期授業（キリスト教思想史A）は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章 教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。

第7回	第5章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。
第8回	第6章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどについて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇（著）『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズムー』筑摩選書、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13：978-4163909455、2019年、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we as human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage that explores these fundamental questions of existence. This course examines this heritage from the perspectives of faith (believing) and reason (knowing). The course aims to: (1) Deepen students' understanding of Christian doctrine and its historical development. (2) Enhance comprehension of philosophical concepts closely related to Christianity. (3) Explore Christianity's influence on politics, economics, society, and culture (including art and the liberal arts).

Grading Criteria: (1) Evaluation of assignments submitted after each class. (2) Final report at the end of the semester. Each component (1) and (2) will account for 50% of the final grade, and students' overall performance will be assessed comprehensively.

Preparation: Students should read the relevant sections of the textbook in advance. Additionally, they should use reference books to understand technical terms and key concepts (2 hours). Review: Students should go through the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). After each session, they must complete the assigned tasks using the class support system. Furthermore, they should summarize their thoughts on the topic, incorporating insights from discussions with other students (2 hours).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

キリスト教思想史B

2017年度以降入学者

鶴澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業（キリスト教思想史B）は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトラルカの文学を学びます。
第3回	第11章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルター信仰特質およびキリスト教的靈性の定義などについて説明します。
第6回	第13章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。

第7回	第14章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き パスカールと信仰	パスカルの生涯、決定的回心（メモリアル）、イエズス会との論争について学びます。
第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第11回	第16章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章 近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り返った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇（著）『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズムー』筑摩選書、2021年、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13：978-4163909455、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).

Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

異文化コミュニケーション論 A 2017年度以降入学者

鈴木 麻由

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる文化背景をもつ人との対話は、日常の中に多く存在する。同じ日本人でも、世代や性別などによって価値観は大きく異なる。学業やビジネスにおいて、語学力があっても文化背景の違いから意思疎通が難しい場面もある。この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化（主に日本文化）を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションの基礎である文化背景の異なる人への開かれた心と態度について学習し、理解を深める。
- ③異文化コミュニケーションの理論を学び、積極的な発信型のコミュニケーションであるアサーティブ・コミュニケーション能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・第1回～12回は、講義形式。
- ・第13回は受講者による発表を行う。
- ・第14回は期末試験を行う。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。
- ・Google Classroom を使って授業を行う。
連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 異文化コミュニケーションとは	・授業運営に関する説明・新しい常識発見・ステレオタイプ
第2回	異文化コミュニケーションとは－異文化理解への態度・文化とコミュニケーション－	・日本文化を紹介するなら・文化とは何か・コミュニケーションの定義
第3回	コミュニケーションスタイル－高コンテクストと低コンテクスト－	・コンテクスト・双方向コミュニケーション：ターンテイキング

第4回	コミュニケーションスタイル－パラ言語について考える－	・自己開示・異文化シミュレーション
第5回	言語コミュニケーション－「文化的な意味背景」を理解する－	・ほめ方・叱り方・謝り方
第6回	言語コミュニケーション－文化によるコミュニケーションスタイルの違い－	・自己紹介・誘い方と断り方
第7回	非言語コミュニケーション－いろいろな文化のしぐさ－	・表情・アイコンタクト・しぐさとジェスチャー・タッピング
第8回	非言語コミュニケーション－対人距離を意識化する－	・空間と対人距離・時間の感覚
第9回	価値観	・ことわざ・異文化ケーススタディ・基本価値志向
第10回	自分を知る	・対立管理スタイル・異文化適応力チェック・共感（エンパシー）
第11回	異文化コミュニケーションスキル－相手の理解の枠組みから物事を見る－	・アサーティブコミュニケーション・DIE メソッド
第12回	異文化コミュニケーションスキル－スタディ「対立を解決する」－	・相手の話を聞く（エポケー）・相手を責めない（アイ・ステートメント「わたし文」）・アサーション、総合エクササイズ
第13回	履修者発表	・個人もしくはグループによる発表
第14回	期末試験	・第1～13回のまとめ試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は60分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

八代京子 荒木晶子 樋口容視子 山本志都 コミサロフ喜美 『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度(平常点)	25%
リアクションペーパー	15%
発表	20%
期末試験	40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・期末試験時にはPCまたはタブレット端末
- ★グーグルクラスルームへの登録を行うこと。

【その他の重要事項】

★受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第1回目に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
(Outline)

We often have to converse with people from different cultural backgrounds in our daily lives. Even among Japanese people, values vary greatly depending on factors such as generation and gender. In academic and business settings, even with language proficiency, there are situations where communication is difficult due to differences in background. This course aims to encourage students to reexamine their own culture and acquire the flexible and open attitude necessary for cross-cultural understanding.

(Learning Objectives)

Students will be able to recognize and appreciate cultures (mainly Japanese culture). They will also learn intercultural communication theory and acquire assertive communication skills, which are positive and diplomatic communication.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 20%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 25%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA（言語学 / Linguistics 300）

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

鈴木 麻由

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化コミュニケーションは「自分探しの旅」だと捉えることができる。それは、異文化理解が自他の文化の違いを通して自分と自文化を見つめ直す営みだからである。他者との出会いは文化同士の出会いでもあり、交流は潜在していた価値観を浮かびらせ、新たな視点に気づく契機となる。異文化接触は往々にして衝突を引き起こすが、同時に融和や創造を生む。この授業では、参加者の内省や意見交換を通して、異文化に対する柔軟な態度と思考を養うことを目的とします。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ③異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・第1回～第12回は講義形式で行う。
- ・第13回は履修者による発表を個人もしくはグループで行う。
- ・第14回は期末試験を行う。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。
- ・課題へのフィードバックは適宜、授業内もしくはクラスのgoogle classroomで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己、アイデンティティ、文化「他を知り己を知る」	・授業運営に関する説明 ・自己の形成への文化のかかわりを整理する
第2回	コミュニケーションと文化	・既存のコミュニケーションモデルの限界 ・異文化接触による文化融合
第3回	コミュニケーションと意識構造	・意識/世界の衝突と異文化コミュニケーション
第4回	空間の認識	・空間の認識と様々な感覚 ・固定空間と半固定空間
第5回	時間の認識	・共同社会と利益社会におけるテンポの違いが人間関係に与える影響
第6回	言語の力	・サピア・ウォーフの仮説を日本語と英語とその言語世界を比べ、検証する

第7回	場の形成	・なわばりについて考える ・文化的コンセンサス
第8回	カルチャーショック	・U型曲線とW型曲線が示す適応のプロセス ・「適応」とはどのような状態か 「カルチャーショック」とはどのような現象か
第9回	価値・規則と異文化接触	・規範および慣習の違いから起こりうる軋轢について考える
第10回	コミュニケーション能力と相互理解	・相互理解のプロセス ・「コミュニケーション能力が高い」とはどのようなことか
第11回	グローバル化	・文化の画一化 ・世界の画一化および二分化を回避するための議論
第12回	グローバル化とアイデンティティ	・「グローバル市民」「文化を越えたアイデンティティ」という考え方に含まれる矛盾
第13回	履修者発表	・個人もしくはグループによる発表
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

池田理知子/E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション入門』有斐閣アルマ

古田暁/石井敏/岡部朗一/平井一弘/久米昭元『異文化コミュニケーションキーワード[新版]』有斐閣

その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（平常点） 25%

リアクションペーパー 15%

発表 20%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

・本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。

・期末試験時にはPCまたはタブレット端末

★授業の運営はグーグルクラスルームで行う。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ・法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

Intercultural communication can be seen as a "journey of self-discovery." This is because intercultural understanding is an endeavor to reexamine oneself and one's own culture through the cultural differences between oneself and others. Encounters with others are also encounters between cultures, and exchanges can bring to light hidden values and provide an opportunity to become aware of new perspectives. Intercultural contact often leads to conflict, but at the same time, it can also produce harmony and creativity. The purpose of this class is to foster flexible attitudes and thinking toward different cultures through participants' introspection and exchange of opinions. (Learning Objectives)

1. Become aware of and put into perspective cultures that you may not have been aware of before.
2. Consider how to apply knowledge and skills in actual communication.

3. Acquire basic academic knowledge about intercultural communication (knowledge of terminology, concepts, theories, etc.).

(Learning activities outside of classroom)

Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 20%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 25%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA (文学 / Literature 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、小説やマンガ、映像作品を通じて、主に女性作家が愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や、労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の実相を考察することにあります。それは、社会における〈居場所さがし〉の軌跡に迫ることであり、ジェンダー規範生成の内実を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。

受講人数によりますが、可能な限りやペアワークをグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った女性史の内側や、文学史の外部を参照しながら、抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を追求します。適宜、映画・ドラマなどの映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。受講人数によりますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、導入として、「白雪姫」のパロディの読み比べ
対面授業	池田理代子『ベルサイユのばら』、手塚治虫『リボンの騎士』	〈男装〉による居場所さがし①・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『大奥』（ドラマ参照）	〈男装〉による居場所さがし②・グループワークと意見交換

対面授業	萩尾望都『あそび玉』、小川洋子『密やかな結晶』	管理社会における居場所さがし①・グループワークと意見交換
対面授業	管理社会と文学② マーガレット・アトウッド「侍女の物語」	管理社会における居場所さがし②・グループワークによる意見交換
対面授業	大島弓子『ロングロングケーキ』	〈病〉における居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	小山田浩子「工場」	労働と居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	笠野頼子「母の発達」、萩尾望都「イグアナの娘」	〈母娘〉における居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	吉本ばなな「キッチン」（映画参照）	家族の多様性と居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	グループ発表①	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表②	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表③	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表④	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、青林堂）、『新編』日本女性文学全集 全12巻（矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版）、新・フェミニズム批評の会編『現代女性文学論』（2024・12、翰林書房）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表等の平常点が50%、期末レポートが50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料はできるだけ早めに配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline： Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.

Learning Objectives： Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom： Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy： Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）	
教養ゼミⅡ	2017年度以降入学者
矢澤 美佐紀	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木4/Thu.4
単位数：2単位	
定員制(20)	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、小説やマンガを通じて、主に女性作家が愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、社会における〈居場所さがし〉の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範生成の内実を検証することでもあります。歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかにより時代に結びついているのかを学びます。現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った経緯を女性史の内側や文学史の外部を参照しながら追求し、抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を考えます。適宜、映画・ドラマ等の映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。希望者による個人発表も計画します（加点あり）。＊都合があれば、時には海外の研究者をお呼びして講演してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学期の振り返り／発表に導入として、「世界の子の昔話」を読む。
対面授業	江國香織『きらきらひかる』（映画参照）	性の多様化と居場所さがし①・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『きのう何食べた？』（ドラマ参照）	性の多様化と居場所さがし②・グループワークと意見交換

対面授業	須藤佑実『夢の端々』	性の多様化と居場所さがし③・グループワークと意見交換
対面授業	村田沙耶香『コンビニ人間』	「普通」概念と居場所さがし①・グループワークと意見交換
対面授業	ハン・ガン『菜食主義者』	「普通」概念と居場所さがし②・グループワークと意見交換
対面授業	津島佑子『寵児』、八木詠美『空芯手帳』	「産む性」と居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	川上未映子「青かける青」、村田沙耶香「無」	コロナ禍における居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	山下紘加「あくてえ」／上村裕香「泣いてんじゃねえよ」	ケアと居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	メアリー・シェリー「フランケンシュタイン」、大原富枝「婉という女」	「歴史」と居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	川上未映子「あなたの鼻がもう少し高ければ」、上村裕香「美華とミカ」	ルッキズムと居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	個人発表①	報告者による報告と討議
対面授業	個人発表②	報告者による報告と討議
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 振り返り 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。【予習】報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト（教科書）】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、葺柿堂）、『[新編] 日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版）、新・フェミニズム批評の会編『現代女性文学論』（2024・12、翰林書房）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が50％、期末レポートが50％とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料は事前にできるだけ早く配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.
Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.
Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.
Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

徳と倫理 A

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。春学期は其中でも古代・中世に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていく。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】

- ・古代・中世における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	古代から中世の徳倫理学
第2回	プラトン①	徳と知
第3回	プラトン②	善とイデア
第4回	アリストテレス①	徳と善と幸福
第5回	アリストテレス②	幸福と社会
第6回	エピクロス	快と幸福
第7回	ストア派	理性と幸福
第8回	アウグスティヌス①	キリスト教と徳
第9回	アウグスティヌス②	悪と自由
第10回	トマス・アキナス①	徳と神
第11回	トマス・アキナス②	神と幸福
第12回	キリスト教における救済論	徳と死生観
第13回	主意主義とキリスト教的倫理思想	理性と信仰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編、ミネルヴァ書房、1996年。

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concepts to focus on are "virtue" and "goodness."

【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought in ancient and medieval times, to practice considering ethical issues, and to enhance your self-awareness by exploring a range of ethical ideas.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

徳と倫理B

2017年度以降入学者

内山 真莉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。

西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。秋学期は中でも近世～現代に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていくのだが、とりわけ「徳倫理学」について重点的に扱う。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】

- ・近世～現代における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
- ・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
- ・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
- ・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
- ・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
- ・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	徳倫理学とは
第2回	ルターと信仰	自由意志と奴隷的意志
第3回	ヒュームと徳	人間本性と共感
第4回	義務倫理	カントの自律
第5回	功利主義	幸福と利益
第6回	メタ倫理と情緒主義	「善」とは何か
第7回	ロールズと正義	善と正
第8回	アンスコムと徳①	道徳哲学の有益性について
第9回	アンスコムと徳②	行為と意図
第10回	マッキンタイアと徳	倫理思想の歴史
第11回	共同体主義と徳	個人は共同体に先立つか
第12回	現代の徳倫理学①	アリストテレスへの回帰
第13回	現代の徳倫理学②	徳倫理学は何を問うのか
第14回	倫理的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】

『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
ダニエル・C・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』立花幸司監訳、春秋社、2015年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標に即して、以下の2項目にて評価する。

- ①授業最終回の論述試験：60%
- ②リアクションペーパーの内容：40%

【学生の意見等からの気づき】

板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to provide a roadmap for ethical conversations by offering an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concept to focus on is virtue ethics.

【Learning Objectives】

This course aims to deepen your understanding of ethical thought from early modern to modern times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.

You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間存在論 A

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「人間存在論A」〔哲学専攻科目「人間学5（人間存在論）A〕では、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラ、スラヴォイ・ジジック、カトリヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には、講義形式で行う。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
- ・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	ドゥルーズの『フーコー』を読む①	古文書からダイアグラムへ① 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『知の考古学』分析

3	ドゥルーズの『フーコー』を読む②	古文書からダイアグラムへ② 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『言語表現の秩序』分析
4	ドゥルーズの『フーコー』を読む③	古文書からダイアグラムへ③ 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『言葉と物』分析
5	ドゥルーズの『フーコー』を読む④	古文書からダイアグラムへ④ 2.新しい地図制作者（『監獄の誕生』） ・『監獄の誕生』分析
6	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑤	古文書からダイアグラムへ⑤ 2.新しい地図制作者（『監獄の誕生』） ・『性の歴史』第1巻「知への意志」分析
7	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑥	トポロジー、「別の仕方で考えること」① ・地層あるいは歴史的形成物
8	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑦	トポロジー、「別の仕方で考えること」② ・可視的なものと言表可能なもの（知）
9	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑧	トポロジー、「別の仕方で考えること」③ ・戦略あるいは地層化されないもの①
10	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑨	トポロジー、「別の仕方で考えること」④ ・外の思考（権力）
11	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑩	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑤ ・褶曲あるいは思考の内（主体化）
12	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑪	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑤ ・『性の歴史』第2巻「快楽の活用」分析
13	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑫	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑥ ・『性の歴史』第3巻「自己への配慮」分析
14	ドゥルーズの『フーコー』とは何だったのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

・ジル・ドゥルーズ『フーコー』河出文庫、2007年

参考文献

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】

参考文献

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年
- ④ 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
- ⑤ 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ⑥ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年

⑦ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
- (2) 期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・秋学期科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B）」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。

・また「受講上の注意」として、秋学期科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B）」については、選抜試験で「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」の受講許可のある学生のみが登録・履修できることに注意してもらいたい

【受講上の注意】

- ・本授業は、定員（30名）が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。
- ・初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course "Human Ontology A" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) A"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Malabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間存在論 B

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「人間存在論 B」〔哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）B〕は、春学期科目「人間存在論 A」（哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）A」との連続性がある科目である。「人間存在論 A」と同様に、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラー、スラヴォイ・ジジエク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には、講義形式と演習形式の双方で行うことを考えている。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
- ・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明

2	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む①	序論①
3	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む②	1. 哲学 ① ひとつの概念とは何か
4	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む③	1. 哲学 ② 内在平面
5	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む④	1. 哲学 ③ 概念的人物
6	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑤	1. 哲学 ④ 哲学地理
7	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑥	2. 哲学——科学、論理学、そして芸術 ⑤ ファンクティブと概念
8	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑦	2. 哲学——科学、論理学、そして芸術 ⑥ 見通しと概念
9	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑧	2. 哲学——科学、論理学、そして芸術 ⑦ 被知覚態、変様態、そして概念
10	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑨	3. 結論 ・カオスから脳へ
11	ドゥルーズ哲学解説①	千葉雅也『働きすぎではいけない』① ・切断論・生成変化の原理
12	ドゥルーズ哲学解説②	千葉雅也『働きすぎではいけない』② ・関係の外在性、存在論的ファシズム
13	ドゥルーズ哲学解説③	千葉雅也『働きすぎではいけない』③ ・『ニーチェと哲学』における〈結婚存在論〉の脱構築
14	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑩	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・ジル・ドゥルーズ『哲学とは何か』河出文庫、2012年
 - ・近藤和敬『ドゥルーズとガタリの『哲学とは何か』を精読する——〈内在〉の哲学試論』講談社選書メチエ、2020年
 - ・千葉雅也『働きすぎではいけない——ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』河出文庫、2017年
- ※ドゥルーズのテキストについては、授業参加者は必ず各自で準備すること。
- ※他のテキストについては、随時、こちらで準備するが、各自がなるべく準備することが望ましい。

【参考書】

- ① 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
- ② 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ③ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年

- ④ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年
- ⑤ 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ⑥ 岡本裕一朗『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ⑦ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
- (2) 期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内の質問は授業内で解決する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・本科目の内容は、春学期科目「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」と内容的に連続しており、またその内容を前提しているため、できる限り両科目を受講することが望ましい。
- ・現代哲学のなかでも、ドゥルーズの哲学は極めて難解であり、本科目のテキストは、難解を極めるので、出席する場合は、準備を怠らないでもらいたい。

【受講上の注意】

- ・本授業は、定員（30名）が決められている。「人間存在論A」の初回の授業で、選抜試験を合格し、授業担当者から受講許可がある学生のみが受講登録できる。
- ・春学期「人間存在論A」の試験を未受験の人は、受講登録できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course "Human Ontology B" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) B"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

POL300LA (政治学 / Politics 300)	
教養ゼミⅡ	2017年度以降入学者
木村 正俊	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：水5/Wed.5
単位数：2単位	
定員制	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後イギリスの政治と社会の変化とロック・ミュージックの交錯を検討することによって新自由主義と何であるかに学ぶ。特にマンチェスターのロック・シーンに注目する。また、日本との比較を行う。

【到達目標】

新自由主義について知る。
戦後イギリスの政治・社会の転換点としての1979年の意味について知る。
イギリスにおけるマンチェスターがもつ意味について知る。
MADCHESTERについて知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テーマに関する文献講読、映像視聴、個人&グループ発表、ディスカッションを行う。
授業の初めに、前回の授業に関する復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	話し合いによるゼミの具体的な内容の決定
#2	映像視聴（1）	Seven Ages of Rock 3 Blank Generation: Punk rock の視聴と議論
#3	映像視聴（2）	Seven Ages of Rock 7 What the World Is Waiting For: British Indie rock の視聴と議論
#4	映像視聴（3-1）	マンチェスターの歴史と音楽に関する映像の視聴と議論（1）
#5	映像視聴（3-2）	マンチェスターの歴史と音楽に関する映像の視聴と議論（2）
#6	文献講読（1-1）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：ビートルズを中心に
#7	文献講読（1-2）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：豊かな社会と労働者階級の変容
#8	文献講読（1-3）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：フォードイズムの崩壊とパンクロック
#9	文献講読（1-4）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：サッチャリズムとマンチェスター
#10	音楽聴取と映像視聴	Madchester

#11	文献講読（2）	Joy Division~New Order: マンチェスターの再生あるいはthe Neoliberal City化
#12	文献講読（3）	OASIS と新自由主義
#13	文献講読（4）	イギリスの労働者階級の現在：モリッシーの言説を通して
#14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回に決定

【参考書】

デヴィッド ハーヴェイ『新自由主義: その歴史的展開と現在』（作品社、2007年）

ミシェル フーコー『ミシェル・フーコー講義集成〈8〉生政治の誕生（コレージュ・ド・フランス講義1978-79）』（筑摩書房、2008年）
小関隆『イギリス1960年代-ビートルズからサッチャーへ（中公新書、2021年）

ジョン サヴェージ『イングランド・ドリーミング』（シンコーミュージック、1998年）

マーク フィッシャー「もはや喜びはない——ジョイ・ディヴィジョン」 in 『わが人生の幽霊たち——うつ病、憑在論、失われた未来』（ele-king books、2019年）

Martin J. Power, Eoin Devereux, and Aileen Dillane eds, Heart and Soul: Critical Essays on Joy Division (Rowman & Littlefield International, 2018)

Leonard Nevarez, “How Joy Division Came to Sound Like Manchester: Myth and Ways of Listening in the Neoliberal City,” Journal of Popular Music Studies, Volume 25, Issue 1, Pages 56– 76.

nevarez-how-joy-division-came-to-sound-like-manchester.pdf
ジェームズ・ナイス『ファクトリー・レコード全史』（シンコーミュージック、2025年）

横田勇司(著), 大和田良(写真)『マッドチェスターの光芒: ニュー・オーダーからザ・ストーン・ローゼズへ MADCHESTER 1988-1992』（スローガン、2024年）

Seven Ages of Rock (BBC, 2007)

NHK BS 世界のドキュメンタリー / みんなロックで大人になった（2009年）

3 Blank Generation: Punk rock

7 What the World Is Waiting For: British Indie rock

Seven Ages of Rock - Wikipedia

Grant Gee, Joy Division (2007 DVD)

ニュー・オーダー・ストーリー（1993/2005, DVD）

デボラ カーティス『タッチング・フロム・ア・ディスタンス: イアン・カーティスとジョイ・ディヴィジョン』（蒼水社、2006年）
バーナード・サムナー『ニュー・オーダーとジョイ・ディヴィジョン、そしてよく』（ele-king books、2015年）

ジョン サヴェージ『この灼けるほどの光、この太陽、そしてそれ以外の何もかも——ジョイ・ディヴィジョン ジ・オーラル・ヒストリー』（ele-king books、2019年）

ブレイディみかこ『いまモリッシーを聴くということ（ele-king books、2017年）

ジョニー・マー『ジョニー・マー自伝 ザ・スミスとギターと僕の音楽』（シンコーミュージック、2017年）

アレックス・ニヴン『オアシスの階級闘争《Definitely Maybe》で読み解く、音楽とポピュリズム』（DU BOOKS、2025年）
OASIS『スーパーソニック 完全、公式、ノーカット・インタビュー』（光文社、2025年）

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度

【学生の意見等からの気づき】

新規の内容のゼミなので言及すべき点はない。

【学生が準備すべき機器他】

PCあるいはタブレット

【その他の重要事項】

学期中、以下のことを考えてください。
Oh Manchester, so much to answer for

“Suffer Little Children “by The Smith
Manchester, so much to be thankful for
Phil Gatenby
Morrissey’s Manchester: The Essential Smiths Tour: 2nd
Edition(2009)

【Outline (in English)】

This seminar investigates the nature of neoliberalism through an analysis of how postwar political and social transformations in Britain intersected with the evolution of rock music, with particular attention to Manchester’s rock scene. A comparative examination with Japan is also undertaken.

SOC300LA (社会学 / Sociology 300)

福祉社会論 A

2017年度以降入学者

小峯 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉社会論Aでは「経済思想から福祉社会を考える」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。過去から現在にかけて、世の中には貧困や格差など、福祉に直結する経済問題が溢れています。この授業では、イギリスの救貧法を出発点として、福祉に関する考え方がどのように変化していったのか、そこに経済学者を含めた多くの思想家がどのような貢献を果たしたのかを辿ります。意外にも経済学者は単にカネの亡者や利己的な人間像ではなく、社会全体の幸福（＝福祉）について多くの見解を示してきたのです。この授業では、経済学の助けを借りながら、福祉社会に関する知見を学ぶしたいと思います。

【到達目標】

「どのような社会が望ましいのか、福祉社会とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「経済思想から福祉社会を考える」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家の発想を借りて、現在の福祉問題（生きづらさ、学習障害、ハラスメント、働き方、ケア、外国人排斥、少子高齢化など）に対し、触れる・知る・理解するという三段階で、外部の知を自分の血肉にするのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業を次の三段階で構成します。（１）現代の福祉問題に触れる。（２）過去の経済思想を知る。（３）まとめとして、グループ討論または reaction paper によって、自分なりに問題を理解する。授業の順序は、教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めます。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（LGBTQ、アメリカ大統領選、イギリスのEU離脱など）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～福祉と／の経済思想	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介；現代の不安・不利益とは何か（教科書・第1章）
2	経済の発見と福祉の問題～旧救貧法の成立まで	経済と福祉の関係；死刑や元受刑者の問題（教科書・第2章）
3	スミスと労働貧民～商業文明の開化	分業、国富；推し活（サービス業、消費文化）、外国人労働者（教科書・第3章）
4	ベンサムと改正救貧法～監獄の誕生	功利主義；マイナ保険証、監視社会（教科書・第4章）
5	マルサス・リカードの経済論争～救貧法批判へ	人口論；少子化・避妊・人工中絶（教科書・第5章）

6	J.S. ミルの協同組合～自湯主義の二側面	定常状態；不倫、選択的夫婦別姓問題（教科書・第6章）
7	マルクスの資本主義観～疎外、搾取	産業革命の負の遺産；非正規雇用、働き方改革、ハラスメント（教科書・第7章）
8	マーシャルの経済騎士道～論語と算盤	科学的貧困調査；社会的企業、企業の社会的責任（教科書・第11章）
9	ビグーの福祉経済学～welfareとは	自由党の改革；世界幸福度調査、ウェルビーイング（教科書・第12章）
10	日本の福祉思想～福田徳三と河上肇	経世済民；震災復興（教科書第16章）
11	福祉国家の合意～ケンズとベヴァリッジ	完全雇用と社会保障；生活保護は恥辱か（教科書・第17章）
12	福祉国家の変貌～ミュルダール、ハイエク、フリードマン	福祉世界へ、負の所得税；高等教育の無償化（教科書第21章・第22章・第23章）
13	サッチャー・ブレアの挑戦～リベラリズムの興隆	新しい福祉国家像；働き方改革、移民問題、正義の戦争（教科書第25章）
14	この授業のまとめ 理解度小テスト	現代の福祉問題（触れる）→過去の経済思想（知る）→討論とRP（理解する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

・小峯敦編（2025）『福祉の経済思想家たち【第三版】』ナカニシヤ出版。

<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b10134458.html>

【参考書】

・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。（経済学LAの教科書）
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

・小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』見洋書房。（経済学LBの教科書）
<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【成績評価の方法と基準】

（１）平常点：40％

（２）理解度小テスト：60％

（１）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の内容および提出回数、その他授業への参加度合い（特にグループ討論）等によって定めます。

（２）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。

（３）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「福祉社会とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を目指す学生や教職課程の学生にも有用です。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

'Welfare Society Theory A' focuses solely on “considering welfare society through economic thought”, approaching this issue from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy-based. From the past to the present, society has been rife with economic problems directly linked to welfare, such as poverty and inequality. This course traces how welfare concepts evolved, beginning with Britain's Poor Laws, and examines the contributions made by numerous thinkers, including economists. Surprisingly, economists have not merely been portrayed as money-grubbers or self-serving individuals; they have offered numerous perspectives on the welfare of society as a whole. This course aims to explore insights into the welfare society with the aid of economics.

SOC300LA (社会学 / Sociology 300)

福祉社会論 B

2017年度以降入学者

服部 あさこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉は、実践と呼应しながら理論が洗練され、制度が形成されてきた。若くて健康な人々にとって福祉は身近に感じにくい、実際には人々はみな福祉の受益者であり担い手でもある。日本の社会保障制度を軸として、形成と変動の歴史、諸外国との比較を通して、社会福祉に関連する概念を整理する。また、制度ではカバーしきれない対象への福祉実践の事例を知り、福祉がわれわれ一人一人の尊厳を守るものであることを理解する。

【到達目標】

社会保障制度について、自身ととくに深いかかわりのあるものの概略を説明できる。

諸外国の実践と比較して、日本の社会福祉の考え方の特徴を説明できる。

制度と個別のニーズは必ずしもマッチングしないという事例を挙げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に対して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取りあげて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、福祉のイメージ	あなたと社会福祉について思い出を教える
2	社会福祉制度（1）	日本における社会保障制度の概要
3	社会福祉制度（2）	日本の社会福祉の歴史
4	社会福祉制度（3）	欧米の社会福祉の歴史
5	生活困窮者と福祉（1）	自分は困窮者にならないといえるか
6	生活困窮者と福祉（2）	オリンピックが排除したもの
7	子どもの福祉（1）	子どもが「守られるべき存在」ではなかった時代
8	子どもの福祉（2）	社会で育てるということ
9	女性、母子と福祉	「女ばかりが優遇される」言説の周辺にあるもの
10	障害と福祉（1）	バスはいつから低床になったのか
11	障害と福祉（2）	隔離しない国が考えていること、してきたこと

12	地域福祉	「この土地で暮らしたい」をいかにしてかなえるか
13	厚生と正義	主観的な満足は数字で測れるか
14	総括	「頑張る」ことに疲れても、安心して生きるための知

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

阿部彩、2011『弱者の居場所がない社会——貧困・格差と社会的包摂』講談社

安積純子ほか編著、1990『生の技法——家と施設を出て暮らす障害者の社会学』藤原書店

杉田真衣、2015『高卒女性の12年 不安定な労働、ゆるやかなつながり』大月書店

湯浅誠、2008『反貧困：「すべり台社会」からの脱出』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Learn about Japan's social security system.

Learn about the history of social welfare in other countries.

The standard preparation and review time for this class is two hours each. Read your notes. Research the concepts you have learned in your book.

Grades are distributed 70% based on test scores and 30% based on regular class behavior.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー A

2017年度以降入学者

増淵 敏之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的に言えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.

第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面/Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/Ryotaro Shiba and Shohei Fujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata."	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出/Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象/The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介/Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考/Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興/"Girls & Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る/Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之, 彩流社
"People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

30% for regular classes, 70% for reports

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】

映像を使用することもある。

Sometimes video is used.

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16～18時。

Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー A

増淵 敏之

授業コード：Q6209 | 曜日・時限：月4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年年
 備考（履修条件等）：定員制(30)
 地理学科生は選択科目として履修する。
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的に言えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス/Guidance. /Guidance.

第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.
第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面 /Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/Ryotaro Shiba and Shohei Fujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出 /Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象 /The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介 /Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考 1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考 /Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興 /"Girls & Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る /Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。
 The class will focus on the resume.

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之、彩流社
 「物語を旅するひとびと2」増淵敏之、彩流社
 "People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha

"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

30% for regular classes, 70% for reports

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】

映像を使用することもある。

Sometimes video is used.

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16～18時。

Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞＜研究テーマ＞＜主要研究業績＞

【文化地理学】

・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー B

増淵 敏之

授業コード：Q6210 | 曜日・時限：月4/Mon.4
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年
 備考（履修条件等）：定員制(30)
 地理学科生は選択科目として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】

- ・セミナーAの発展的授業です。
- ・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
- ・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
- ・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
- ・This is an advanced seminar A class.
- ・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
- ・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
- ・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。

Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要/Class outline /guidance

第2回	取り巻く環境の変化 /Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済、社会状況の変化についての説明 /Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象 /Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ /Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ /Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化 /Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介 /Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来） /Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。

Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】

特にありません。PP（授業資料）を配布します。

Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】

増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha
Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。

Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケートを授業に反映させていく。

The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

Nothing in particular.

【その他の重要事項】

- ・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
- ・オフィスアワー月曜日16～18時
- ・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
- ・ We recommend taking Seminar A before taking this class.
- ・ Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
- ・ As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

- ・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

- ・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

- ・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

- ・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー B

2017年度以降入学者

増淵 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】

- ・セミナーAの発展的授業です。
- ・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
- ・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
- ・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
- ・This is an advanced seminar A class.
- ・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
- ・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
- ・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。

Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要/Class outline
	/guidance	

第2回	取り巻く環境の変化 /Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済、社会状況の変化についての説明 /Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象 /Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ /Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ /Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化 /Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介 /Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来） /Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。

Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】

特にありません。PP（授業資料）を配布します。

Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】

増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha
 Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。

Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケートを授業に反映させていく。

The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

Nothing in particular.

【その他の重要事項】

- ・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
- ・オフィスアワー月曜日16～18時
- ・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
- ・We recommend taking Seminar A before taking this class.
- ・Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
- ・As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

- ・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

- ・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

- ・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

- ・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論 A

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、私たちの日常生活の場における、他者や自然や世界についての別様の「しり方」とその表現を学ぶ。自らに対する感受性を麻痺させること（自分に対する抑圧者になること）と、様々な形の暴力の問題（植民主義／開発や自然環境破壊など）との結びつきについて学ぶ。日々の暮らしの中で自分自身への感性を取り戻すことで、他者への感受性や想像力を育むことはますます重要になっている。国内外の様々な文芸作品や映像などに触れながら、自分や世界に対する感性の回復を試み、それを足場にして自他を理解する人類学の可能性を探る。思考や分析によってのみならず、感じることや「他者」に圧倒されること、自己変容することを通じて、他者や世界、そして自分を「しる」方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然と人間との関わり方について、異なる文化や社会の人々の視点や、環境破壊の現場を生きる人々の思想から理解できる。
- ・自分自身や自然に対する感性の摩耗と、植民主義／開発や自然環境破壊とが地続きであることが理解できる。
- ・自然とのつながりの回復を通じて、自分自身とのつながりを取り戻すという経験について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッションの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
- ・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
- ・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
- ・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	アラスカ先住民の世界①	・アラスカ先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第3回	アラスカ先住民の世界②	・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション

第4回	アラスカ先住民の世界③	・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第5回	北米先住民と植物の世界①	・北米先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第6回	北米先住民と植物の世界②わたしたちが享受するもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第7回	北米先住民と植物の世界③わたしたちがお返しするもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第8回	水俣病の思想 ①	・水俣病についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第9回	水俣病の思想②近代とシステム社会、「加害者」／「被害者」	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第10回	水俣病の思想 ③「魂のゆくえ」と救済、「命のふるさと」／おのれに還る	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第11回	自然と自分に対する感性を取り戻す①	・文献発表、ディスカッション ・R. カーソン『沈黙の春』
第12回	自然と自分に対する感性を取り戻す②	・R. カーソン『センス・オブ・ワンダー』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第13回	自然と自分に対する感性を取り戻す③	・映像鑑賞とディスカッション
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表、朗読に使用する文献やテキストの予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・緒方正人. 2020『チッソは私であった 水俣病の思想』河出書房新社.
- ・キマラー, R. W. 2018『植物と叡智の守り人: ネイティブアメリカンの植物学者が語る科学・癒やし・伝承』三木直子訳 築地書館.
- ・星野道夫.
- 1998『イニユニック』新潮社.
- 2000『ノーザンライツ』新潮社.
- ・ネルソン, R. 1999『内なる島：ワタリガラスの贈り物』星川淳訳 めくまー.
- ・Carson, R.

1962 Silent Spring, Houghton Mifflin. (『沈黙の春』渡辺政隆訳 光文社)

1965 The Sense of Wonder: A Celebration of Nature for Parents and Children, Harper & Row. (『センス・オブ・ワンダー』新潮社 上遠恵子訳)

(その他、必要に応じて関連資料を配布する。)

【参考書】

- ・落合一泰. 1997『東方の驚異、ワイルド・マン、インディアン、グリーザー：近代西欧＜民族人類学＞によるアメリカ大陸の＜占有＞』青木保ほか編『岩波講座 文化人類学 第1巻 新たな人間の発見』岩波書店 pp. 141-80.
- ・松村圭一郎. 2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版.
- ・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社.
- (その他、必要に応じて紹介する。)

【成績評価の方法と基準】

- ・発表と討論の内容、毎回のリアクション・ペーパー、授業への参加態度など平常点 (40%)
- ・学期末レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通して置いて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course deals with other ways of “knowing” others, nature, and the world in our daily lives. The goal of this course is to learn the relationship between numbing one’s sensitivity to oneself (becoming one’s own oppressor) and various forms of violence (colonialism/development, destruction of the natural environment, etc.). It is becoming increasingly important to nurture sensitivity and imagination toward others by regaining sensitivity to oneself in daily life. Through various literary works and videos from Japan and abroad, students will attempt to regain sensitivity to themselves and the world, and explore the possibilities of anthropology in understanding the self and others. Students will learn ways to “know” others, the world, and themselves, not only through thinking and analysis, but also through feeling, being overwhelmed by the “other,” and self-transformation.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report (60%) and in class contribution including presentation and reaction paper (40%).

CUA300LA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300)

文化人類学方法論B

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、これまでの文化人類学的研究における議論や実践を踏まえて、他者と自分を別様に理解し、表現する方法について学ぶ。1) 理性や客観的分析による理解を見直し、身体的な経験の次元から他者や社会を捉えなおそうとする人類学の情動論、2) 儀礼とパフォーマンスの人類学とにおける議論や実践、3) 文化人類学の新しい民族誌の可能性を拓いている作品に触れることを通じて学ぶ。「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者と自分を理解することの可能性を学ぶ。また、戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ということや新たに創造（表現）することについて学ぶ。

【到達目標】

- ・人類学の情動論、儀礼とパフォーマンスの人類学的研究における議論を理解できる。
- ・民族誌や映像の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを通じて他者と自分を「しる」という実践から、自他を別様に理解する方法を身につける。
- ・戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ということや新たに創造（表現）する方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッション、ドラマリーディングの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
- ・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
- ・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
- ・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	情動の人類学①	情動の人類学的研究の紹介
第3回	情動の人類学②	文献発表とディスカッション
第4回	別様の「しり方」と表現①	スリランカ、内戦についての概説
第5回	別様の「しり方」と表現②	映像鑑賞
第6回	別様の「しり方」と表現③	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション

第7回	別様の「しり方」と表現④	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第8回	他者の傷みの「しり方」	・スリランカ内戦にまつわる憑依儀礼に関する民族誌的研究の紹介 ・ディスカッション
第9回	儀礼とパフォーマンスの人類学①	儀礼・パフォーマンス研究についての講義
第10回	儀礼とパフォーマンスの人類学②	文献発表とディスカッション
第11回	儀礼とパフォーマンスの人類学③	文献発表とディスカッション
第12回	ドラマリーディング①他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第13回	ドラマリーディング②他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表、ディスカッション、朗読、ドラマリーディングに使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーション、朗読、ドラマリーディングの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・シェークナー、R. 1998『パフォーマンス研究：演劇と文化人類学の出会い』高橋雄一郎訳 人文書院
- ・ターナー、V. 1996『儀礼の過程』新思案社。
- ・初見かおり 2001『ハレルヤ村の漁師たち：スリランカ・タミルの村内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社。
- （その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】

- ・小栗宏太 2022「情動の人類学：感情史との対話」『文化人類学』87(1): 94-105.
- ・西井涼子 2013『情動のエスノグラフィー：南タイの村で感じる・つながる・生きる』京都大学学術出版会。
- ・西井涼子・箭内匡編 2020『アフエクトクス（情動）：生の外側に触れる』京都大学学術出版会。
- ・Das, V. 2015. What does Ordinary Ethics Look Like. In M. Lambek, V. Das, D. Fassin, and W. Keane (eds) Four Lectures on Ethics: Anthropological Perspectives, pp. 53-117. The University of Chicago Press.
- ・Lawrence, P. 1997. Work of Oracles, Silence of Terror: Notes on the Injury of War in Eastern Sri Lanka. unpublished Ph.D. thesis submitted to the Faculty of the Graduate School of the University of Colorado.
- . 2000. Violence, Suffering, Amman: The Work of Oracles in Sri Lanka's Eastern War Zone. In Veena Das et al. (eds) Violence and Subjectivity, pp.171-204. Oxford University Press.
- （以上の他、授業時に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

- ・発表内容、リアクション・ペーパー、演劇、授業への参加態度など 平常点（40％）
- ・映像鑑賞文（10％）
- ・学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

【その他の重要事項】

- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。

・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn theoretical discussion on anthropology of affect and anthropology of performance, and feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand different ways of understanding and expressing others and oneself. In addition, through performing a play, students will learn about what it means to "become" others, to "know" oneself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report(50%), briefing paper on short film(10%) and in class contribution including presentation and reaction paper(40%).

POL300LA (政治学 / Politics 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度に扱うテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想 I」として履修することになります。

【到達目標】

- ・ 英文翻訳のスキルアップをめざす人、
 - ・ 翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
 - ・ 人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
 - ・ 哲学や思想史に興味のある人、
 - ・ 機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
 - ・ 少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
- など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（２単位）では１回につき４時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。
2023年度・2024年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年、『ヒューム イングランド史I/II』名古屋大学出版会、2025年）。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL300LA (政治学 / Politics 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度に出るテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想Ⅱ」として履修することになります。

【到達目標】

- ・ 英文翻訳のスキルアップをめざす人、
 - ・ 翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
 - ・ 人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
 - ・ 哲学や思想史に興味のある人、
 - ・ 機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
 - ・ 少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
- など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期の続き。担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（２単位）では１回につき４時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。
2023年度・2024年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年、『ヒューム イングランド史Ⅰ/Ⅱ』名古屋大学出版会、2025年）。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）	
人間行動学 A	2017年度以降入学者
田中 慎太郎	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位	
定員制(30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代心理学には、人生上の様々な困難に対応する上で、仏教に代表される歴史のある精神文化と協働を深める動きがある。本授業では、マインドフルネスに関する文献の丁寧な精読を通して、現代心理学と精神文化の協働の在り方に理解を深める。

【到達目標】

- ・マインドフルネスがどのような実践なのか説明出来るようになること
 - ・自分自身の日常の体験を元に、マインドフルネスに関連した心理学的現象に理解を深めること
- 人間行動学Bとの連続履修を勧める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は対面でのゼミ形式（学生発表と議論）で行う。受講生全員が、三回目以降、授業前までに指定された箇所について精読を行う。授業は、担当する学生が発表を行った後の、受講生全員でのディスカッションを中核とするが、講師の主導に基づき、マインドフルネスの実践演習を行うことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス/マインドフルネスとは何か	授業の概要・進め方・注意事項の説明を行う
第二回	現代心理学と仏教の接近の背景	近年の心理学と仏教の関連について説明する。学生発表の順番を決定する
第三回	『仏教と心の科学の出会い』序文～第1章 マインドフルネスを紐解く	・担当者の発表とディスカッション
第四回	『仏教と心の科学の出会い』第2章こころの地図1～4	・担当者の発表とディスカッション ・自動操縦、知覚プロセス
第五回	『仏教と心の科学の出会い』第2章こころの地図5～8	・担当者の発表とディスカッション ・体験の入り口としての注意、不一致モニター
第六回	マインドフルネス認知療法の体験実習①	・呼吸瞑想の実習
第七回	『仏教と心の科学の出会い』第3章こころの地図1～4	・担当者の発表とディスカッション ・さまよう心、文脈
第八回	『仏教と心の科学の出会い』第4章仏教心理学の地図	・担当者の発表とディスカッション ・2本の矢、悩みの3つの領域

第九回	マインドフルネス認知療法の体験実習②	・マインドフルムーブメントの実習
第十回	『仏教と心の科学の出会い』第5章悩みと苦しみの統合された地図	・担当者の発表とディスカッション ・悩みと苦しみの維持、悪の花
第十一回	『仏教と心の科学の出会い』第6章変容	・担当者の発表とディスカッション ・注意を安定させる、洞察
第十二回	『仏教と心の科学の出会い』第7章実践における心情	・担当者の発表とディスカッション ・四つの態度
第十三回	マインドフルネス認知療法の体験実習③	・困難と共に座る瞑想の実習
第十四回	全体のまとめ	・受講者全員で、本授業での学びを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講生は、第一回、第二回の講義の合間に教科書全体を通読し、その後、授業でのディスカッションと実習を繰り返しながら、教科書の精読を行う。

【テキスト（教科書）】

クリスティーナ・フェルドマン&ウィレム・カイケン「仏教と心の科学の出会い マインドフルネス」（北大路出版、2024年）

【参考書】

ケネス・タナカ「アメリカ仏教」（武蔵野大学出版、2010年）
シャロン・ペグリー「「脳」を変える「心」」（バジリコ、2010年）

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（60%）

期末レポート（40%）

期末レポートの文字数はクラスで発表した学生は約2,000文字以上、発表しなかった学生は約3,000文字以上とする。講義中に行うマインドフルネスの実習への参加や中断の有無は、成績評価に反映されない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートは実施していない。

【その他の重要事項】

本科目では、マインドフルネスを体験的に理解する上で、講師の主導による、マインドフルネスの実践演習が含まれる。マインドフルネスの実践は運動に似ており、受講生は自分への負荷に応じて中断をしたり、参加せずに静かに過ごすことも選択が出来る。

【Outline (in English)】

Modern psychology has increasingly engaged with spiritual traditions — most notably Buddhism — in addressing various difficulties encountered in life.

In this course, students will deepen their understanding of how contemporary psychology can collaborate with long-standing spiritual traditions through the careful close reading of key texts on mindfulness.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

人間行動学B

2017年度以降入学者

田中 慎太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の心理療法の知見を学び、可能な範囲で実践（実験）を試みることを通して、人間および人間の行動に関して体験的に視野を広げることを目的とする。本授業ではACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）の基礎を学ぶ。

【到達目標】

・人間行動学Aでのマインドフルネスの学びを踏まえて、ACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）の概要を理解すること
・「人間の行動」を現代の行動主義心理学がどのように扱うのかの概要を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は対面でのゼミ形式（学生発表と議論）で行う。担当する学生が発表を行った後の、受講生全員でのディスカッションを中核とするが、講師の主導に基づき、ACT/マインドフルネスの実践演習を行うことがある。担当箇所や授業の進め方は受講生のニーズに応じて変更・調整を行う。人間行動学Aからの連続受講を推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の概要・進め方・注意事項の説明を行う
第二回	「ハピネス・トラップ」第一部	・担当者の発表とディスカッション ・幸福、前進行動、後退行動
第三回	「ハピネス・トラップ」第二部①	・担当者の発表とディスカッション ・脱フュージョン、エクスポージャー
第四回	「ハピネス・トラップ」第二部②	・担当者の発表とディスカッション ・セルフコンパッション、マインドフルネス
第五回	「ハピネス・トラップ」第三部	・担当者の発表とディスカッション ・価値、コミットされた行為
第六回	前半の振り返り	・前半部分の受講生全員での内省とディスカッション
第七回	人間関係①	・担当者の発表とディスカッション ・普遍的な人間関係に対するACTの応用を検討する
第八回	人間関係②	・担当者の発表とディスカッション ・身近な人間関係にACTの応用を検討する

第九回	自信と行動①	・担当者の発表とディスカッション ・自信について考える
第十回	自信と行動②	・担当者の発表とディスカッション ・自信についてACTの応用を検討する
第十一回	人生の困難①	・担当者の発表とディスカッション ・人生の困難について検討する
第十二回	人生の困難②	・担当者の発表とディスカッション ・人生の困難に対するACTの応用を検討する
第十三回	後半の振り返り	・後半部分の受講生全員での内省とディスカッション
第十四回	全体の総括	・授業全体の受講生全員での内省とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ラス・ハリス(2023)「定本ハピネストラップ マインドフルに生きたい人のための心理療法ACT入門」筑摩書房

【参考書】

ラス・ハリス（2019）「相手は変えられないならば自分がかかわればよい マインドフルネスと心理療法ACTでひらく人間関係」筑摩書房
ラス・ハリス（2021）「自分自身にやさしくすれば悩みの出口がみえてくる マインドフルネスと心理療法ACTで人生のどん底からはい上がる」筑摩書房

ラス・ハリス（2019）「自信がなくても行動すれば自信はあとからついてくる マインドフルネスと心理療法ACTで人生が変わる」筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（60%）

期末レポート（40%）

期末レポートの文字数はクラスで発表した学生は約2,000文字以上、発表しなかった学生は約3,000文字以上とする。講義中に行うマインドフルネスの実習への参加や中断の有無は、成績評価に反映されない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートは実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出に学習支援システムを使う場合がある。

【その他の重要事項】

・本授業は、主に心理学・臨床心理学を専攻としていない学生を想定しているが、自分の体験や行動に関心を持ち、学んだことを試してみる気概のある学生であれば、学部学科と問わず歓迎したい。
・本授業では、教科書や参考書に書かれている作業を試してみるかどうかを各自が選択する場面がある。実際に作業を試したか否かは成績評価に関係しない。
・本授業はあくまで講義であるため、本授業は、直接に心身の健康向上に寄与するものでも、医療専門職の診察や支援を代替するものでもない。

【Outline (in English)】

This course aims to foster an experiential understanding of clinical psychology by introducing key concepts from contemporary psychotherapy and, where appropriate, engaging in limited practical exercises. The course focuses on the fundamentals of Acceptance and Commitment Therapy (ACT).

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 300)

沖縄を考えるA

2017年度以降入学者

中野 勝郎、大里 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ること、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていなかったため、シラバスの内容は暫定的です。

初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。

授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄を知るための基礎知識①	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②	沖縄の歴史と地理に関する概説
4	琉球沖縄の歴史①	考古学からみた琉球沖縄（先史時代）
5	琉球沖縄の歴史②	「古琉球」時代
6	琉球沖縄の歴史③	「近世琉球」時代
7	琉球沖縄の歴史④	「近代沖縄」
8	琉球沖縄の歴史⑤	「沖縄戦」
9	琉球沖縄の歴史⑥	「戦後沖縄」
10	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の言語
11	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の文学
12	琉球沖縄の文化③	琉球沖縄の芸能①
13	琉球沖縄の文化④	琉球沖縄の芸能②
14	春学期のまとめ	琉球沖縄を再考する視点をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。

3. 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席票：リアクションペーパー付き）（50点）と学期末レポート（授業最終回に教室で作成）（50点）によって成績評価をします。

学期末レポートの作成の仕方については追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 300)

沖縄を考える B

2017年度以降入学者

中野 勝郎、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。

初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。

授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄の政治①	沖縄の政治問題
3	沖縄の政治②	日本の中の沖縄
4	沖縄の社会①	沖縄の経済
5	沖縄の社会②	沖縄のジェンダー問題
6	琉球沖縄の芸術①	琉球沖縄の美術工芸
7	琉球沖縄の芸術②	琉球沖縄の音楽
8	平和を考える①	沖縄の視点から平和を考える①
9	平和を考える②	沖縄の視点から平和を考える②
10	沖縄の自然環境①	沖縄の自然
11	沖縄の自然環境②	沖縄の環境問題
12	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の食文化
13	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の祭祀
14	秋学期のまとめ	「万国津梁」と沖縄

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席票：リアクションペーパー付き）（50点）と学期末レポート（授業最終回に教室で作成）（50点）によって成績評価をします。

学期末レポートの作成の仕方については追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の「沖縄を考えるA」の前半は基礎的な内容に重点を置いており、この秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA (経済学 / Economics 300)

ヨーロッパ政治経済論 A

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論Aでは、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EUの経済政治統合（EU統合）の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中でのEUの新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対し考察出来るベースを身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学のアプローチを身に付けられる。
- ・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に付けられる。
- ・米中だけでなく、もう1つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。

必要に応じて英語での解説も加えます。

後半にグループディスカッションが入ります。

最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 国際体制の変容の理論	政治と経済 政治経済学とは？ 学際的アプローチとしての国際政治経済学 世界情勢と政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論 1	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 (理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義)
3	国際政治経済学基礎理論 2	新たな学際アプローチへの基礎理論 (重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学(アダム・スミス、リカード、J.B.セイ))
4	国際政治経済学基礎理論 3	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 (ケインズ経済学の思想と理論)
5	19世紀ガバナンス体制	19世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開

7	欧州統合の展開 1	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開
8	欧州統合の展開 2	ECからEUへ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生
9	グローバル市場化の進行と国際ガバナンスの分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融危機 (リーマンショックの展開と衝撃)
10	グローバル市場化と国際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 EUソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバリズムの台頭とEUの分断危機	世界格差の進行と反グローバリズムの台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバリズムの波及と反統合、EU民主主義の危機	反グローバリズムの世界的台頭と極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化とEU民主主義の危機
13	EUの東欧拡大とウクライナ戦争	EU統合拡大の文脈から見たウクライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験＝80%

課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】

世界で起こっている様々な問題をより深く理解できるようになった。
ヨーロッパの現状についての理解が深まった。

などの感想をいただきました。

今年度も興味を刺激する授業を心がけていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

「ヨーロッパ政治経済論B」では、直面する問題とEUの新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.

At the end of the course, students

- ・ Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- ・ Should have comprehensive knowledge about EU and its relation in the world.

・ Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA（経済学 / Economics 300）

ヨーロッパ政治経済論 B

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論 Bでは、ヨーロッパ政治経済論 Aで学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生起した問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EUの分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EUが地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対するEUの新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学のアプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
- ・国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に付け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身に付けていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心とします。

必要に応じて英語での解説を加えます。

授業後半にグループディスカッションを行います。

最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論Aのレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 (体制思想としてのリベラリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学)
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制 (市場経済と統治、史的推移5つのフェーズ)

4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体（EC）の形成	戦間期からECSC、EC形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり
5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大とEC機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断1	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断2	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭とEU内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国のEU脱退（BREXIT）	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合（英国）vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係
11	市場と国家の力学構造の変質	情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
12	グローバル化の進行と地域統合、EUの果たす役割と日本への示唆	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中の統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー ブリュッセル効果、グリーンディール、SDGsにおける主導的役割 EUの立ち位置と日本への示唆
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EUの対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験＝80%

課題およびディスカッションへの参加＝20%

【学生の意見等からの気づき】

国際社会が直面する様々な問題、特にロシア・ウクライナ問題に対するEUの立ち位置が理解できた、また変容するグローバル社会におけるEUの役割を理解できた、などの感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.

At the end of the course, students

- Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
- Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

LAW300LA（法学 / law 300）

法の人間学A

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法の人間学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学B」も続けて履修することが望ましい。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。

②現代社会の具体的な課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。

③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法制度と人間本性（1）	もしも法がなかったらどうなるか？
第3回	法制度と人間本性（2）	ホップズの自然状態について
第4回	法制度と人間本性（3）	ロックの自然状態について
第5回	法制度と人間本性（4）	ルソーの自然状態について
第6回	死刑制度の是非（1）	死刑制度の歴史と現状について
第7回	死刑制度の是非（2）	袴田事件について
第8回	死刑制度の是非（3）	死刑制度をめぐる立場の対立について

第9回	裁判員制度と死刑（1）	国民が刑罰を決める意義と問題点について
第10回	裁判員制度と死刑（2）	法制度と個人の生命の関係について
第11回	人工妊娠中絶（1）	人工妊娠中絶の歴史と現状について
第12回	人工妊娠中絶（2）	人工妊娠中絶をめぐるアメリカでの動向について
第13回	人工妊娠中絶（3）	人工妊娠中絶をめぐる理論的な立場の対立について
第14回	人工妊娠中絶（4）	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。（レジュメや配布資料に即して授業を進める。）

【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003年
 神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の6つの視点』中公新書、2018年
 ベン・フィリップス『今すぐ格差を是正せよ！』ちくま新書、2022年
 萱野稔人『死刑 その哲学的考察』ちくま新書、2017年
 塚原久美『日本の中絶』ちくま新書、2022年
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文課題（もしくは授業内試験）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文課題（授業内試験）：80%、コメント等：20%の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法の人間学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学B」も続けて履修すること。（春学期の「法の人間学A」受講者には、秋学期の「法の人間学B」の履修を優先的に認める。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

LAW300LA (法学 / law 300)

法の人間学B

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法の人間学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学A」から続けて履修することが望ましい。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法と道徳と復興増税（1）	法と道徳の関係について
第3回	法と道徳と復興増税（2）	「危害のない不道德行為」の規制について
第4回	法と道徳と復興増税（3）	支援の法的義務について
第5回	法と道徳と復興増税（4）	個人の自由と法的強制の関係について
第6回	一夫一婦制と婚姻の自由（1）	日本の婚姻制度の歴史と現状について
第7回	一夫一婦制と婚姻の自由（2）	一夫一婦制の根拠について

第8回	一夫一婦制と婚姻の自由（3）	契約婚の考え方について
第9回	一夫一婦制と婚姻の自由（4）	個人の生き方と婚姻制度の関係について
第10回	代理出産と親子関係（1）	親子に関する法的取り扱いについて
第11回	代理出産と親子関係（2）	代理出産の歴史と現状について
第12回	代理出産と親子関係（3）	代理出産をめぐる最近の事例について
第13回	代理出産規制の是非（1）	代理出産規制をめぐる法的論点について
第14回	代理出産規制の是非（2）	個人の生き方と「子供を持つこと」の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。（レジュメや配布資料に即して授業を進める。）

【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003年
 神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の6つの視点』中公新書、2018年
 蔵研也『リパタリアン宣言』朝日新書、2007年
 森村進『自由はどこまで可能か』講談社現代新書、2001年
 ロバート・ライト『モラル・アニマル』(上)(下)講談社、1995年
 デヴィッド・M・バス『女と男のだましあい：ヒトの性行動の進化』草思社、2000年
 ヘレン・E・フィッシャー『愛はなぜ終わるのか：結婚・不倫・離婚の自然史』草思社、1993年
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文課題（もしくは授業内試験）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文課題（授業内試験）：80%、コメント等：20%の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法の人間学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学A」から続けて履修すること。（春学期の「法の人間学A」受講者には、秋学期の「法の人間学B」の履修を優先的に認める。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景の下で、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようなになっているか?」「そうした機械仕掛けの上で、言語に関する様々な処理ができるのは何故なのか?」などの疑問に対して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みを理解すること」を目標としている。(例えば、電卓とPCの違いを尋ねられた時、皆さんは説明できるでしょうか?) また、「コンピュータでの言語処理に関する幾つかの活用方法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。(例えば、コンピュータに大量の文章データを機械学習させると、各単語を数値データとして捉えるようになり「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか? 実際に実験してみれば確認できます。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の様子を考慮して対応する。(特に、手間が掛かる内容は教員によるデモンストレーションによって確認することにして、作業面で負担が掛からないように配慮します。) 学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違い易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	PCが動作する様子とその特徴を紹介する。
第02回	計算機の歴史	コンピュータ開発の歴史を解説する。
第03回	計算できる言語(1)	電卓的な機械の仕組みについて解説する。
第04回	計算できる言語(2)	電卓的な仕組みで計算できる言語について紹介する。
第05回	計算できる言語(3)	そのような言語の計算を日常文書の編集に活用する例を学ぶ。
第06回	計算できる言語(4)	そのような言語の計算を表計算に活用する例を学ぶ。
第07回	計算機のしくみ(1)	汎用コンピュータの理論的な仕組みについて紹介する。

第08回	計算機のしくみ(2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する。
第09回	計算機のしくみ(3)	コンピュータにおける文字・数値の表現を確認する。
第10回	自然言語とAI(1)	Web上でプログラムを動かす方法を確認する。
第11回	自然言語とAI(2)	日本語の文章を品詞に分解する方法を学ぶ。
第12回	自然言語とAI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる。
第13回	自然言語とAI(4)	学習済みAIを用いて法政大学のシラバス文章を分析する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機を使う小課題(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。(予備知識のない学生にとっても負担にならない程度で、内容を体験できればと考えています。実験についても、特別な電算環境は必要なく、このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫です。課題なども相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います。)

【Outline (in English)】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

コンピュータと数理の活用 2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で勉強する様々な計算方法は理にかなったものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に1000人分のデータの平均値を手で計算する人はいない。）一方で、身の回りには問題がむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力不足を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める経験は重要となる。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の計算方法」と「コンピュータの計算力」を組合せて活用する事例を体験することを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し（場合によっては自分好みで調整して）活用の勘を養うこと」を目標としている。（各々の事例で扱う数学の内容は独立していて、1つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないことになります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の様子を考慮して対応する。（特に、手間が掛かる内容は教員によるデモンストレーションによって確認することにして、作業面で負担が掛からないように配慮します。）学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する。
第02回	コンピュータで数学	Web上でプログラムを実行する方法について説明する。
第03回	コンピュータで数学	大政奉還があった日は何曜日か計算してみる。
第04回	コンピュータで数学	SymPyと呼ばれる関数電卓機能を統計に活用してみる。
第05回	平方根の計算(1)	開平法と呼ばれる筆算で平方根を計算してみる。
第06回	平方根の計算(2)	より効率的な方法で平方根を限りなく正確に計算してみる。
第07回	行列の応用(1)	数学の知識として、行列の掛算について学ぶ。
第08回	行列の応用(1)	行列の掛算を行うプログラムを紹介する。

第09回	行列の応用(3)	今後100年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第10回	経営計画への応用(1)	上手な経営計画を立てるための数学分野を紹介する。
第11回	経営計画への応用(2)	上手な経営計画を立てるプログラムを紹介する。
第12回	経営計画への応用(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行ってみる。
第13回	機械学習への応用	機械学習を行うプログラムを紹介する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機を使う小課題(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとっても負担にならない程度で、内容を体験できればと考えています。実験についても、特別な電算環境は必要なく、このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫です。課題などは、相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います。プログラミング言語に限らず、知っていると有利なアプリケーションなどを見つけたら、積極的に使い方を紹介してみたいと考えています。）

【Outline (in English)】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

確率の世界 A

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率を学ぶには、数学の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味をもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	確率の基礎 1	確率とは
第3回	確率の基礎 2	確率の性質
第4回	確率の基礎 3	確率空間とは
第5回	確率の基礎 4	事象の独立性
第6回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第7回	確率の基礎 6	期待値とは
第8回	確率の基礎 7	期待値の性質
第9回	確率の基礎 8	分散とは
第10回	確率分布 1	分散の性質
第11回	確率分布 2	二項分布とは
第12回	確率分布 3	二項分布の性質
第13回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

確率の世界 B

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、数学の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば確率や統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	様々な分布 1	離散分布とは
第3回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第4回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第5回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第6回	様々な分布 5	正規分布とは
第7回	様々な分布 6	正規分布の性質
第8回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第9回	推定と検定 1	標本の定義
第10回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第11回	推定と検定 3	点推定
第12回	推定と検定 4	区間推定
第13回	推定と検定 5	仮説と棄却
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界A」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT300LA (数学 / Mathematics 300)

集合論A

2017年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無限とは何か 〜〜〜 無限の個数

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限の「大きさ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例の一つ以下に挙げよう。〜〜〜

普通のサッカーは1チーム11人であり、反則により退場者が出た側は不利になるが、自然数と同じ数だけ選手のいる2つのチームが試合をした場合はどうであろうか。赤組と白組それぞれ背番号1、2、3、…の選手全員で試合をしていたところ、赤組は奇数番号の選手が皆退場してしまい、背番号2、4、6、…の選手だけ残った。そのとき赤組の選手が自分と同じ背番号の白組の選手に付けば、白組の奇数番号の選手が動き回るので大変不利である。しかし赤組の選手が自分の半分の番号をつけた白組の選手に付けば、つまり赤2が白1、赤4が白2という具合に対応したら、互角に戦うことができる。さらにこの考えを進めれば、赤組のほうが逆に有利になる戦略を見つけ出すことさえ可能である。どのようにすればよいか。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・無限集合が持つ、有限集合とは異なる性質とは？
- ・無限にも大小はあるか。1個、2個、…の先は？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	無限の不思議	概要説明
第2回	集合の表記	外延と内包
第3回	部分の全体	冪集合
第4回	対応関係	写像の定義
第5回	特別な対応	全射と単射
第6回	「3」とは	全単射
第7回	無限の大きさ	濃度の定義
第8回	最小の無限	可算集合
第9回	真に大きい？	有理数全体
第10回	色々な単語	可算な文字列
第11回	真に大きい！	対角線論法
第12回	小数表記	実数全体

第13回 無限に大きく 冪集合再考
第14回 半期のまとめ 総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

- ・志賀浩二『集合への30講』（朝倉書店）1988年、新装改版2024年
- ・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004年、増訂版2013年
- ・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968年、新装版2018年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- （1）秋期科目「集合論B」の予備知識となる内容を含む。
- （2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理3（集合論）A」。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite cardinal numbers.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should understand the difference between countable sets and uncountable sets,

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

集合論B

2017年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無限とは何か 〜〜〜 無限の順序

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限列の「長さ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例の一つ以下に挙げよう。〜〜〜

長男一郎、次男二郎、三男三郎の三人兄弟を一列に並べるとき、並べ方は全部で6通りある。そこで、先頭になった者を改めて長男、中央を次男、末尾を三男と呼ぶことにすると、6通りのいずれも、長男、次男、三男という兄弟構成ができることに変わりはない。さて、同じような並べ替えを、長男一郎、次男二郎、三男三郎、…と、各自然数 n に対して n 男の n 郎がいるような無限の兄弟で行うとどういうことが起こり得るであろうか。例えば、長男を二郎、次男を三郎、三男を四郎、…とし、さらに一郎は他の誰と比べても弟として全員を並べてみよう。このとき、元々の長男、次男、三男、…よりも「長く」伸びた兄弟構成ができる。人の集合としては同じであるが。では、もっと長い構成とするには、どうすればよいのか。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

- ・物を並べる、つまり物の間に順番を与える、とは？
- ・無限の物を並べられるか。1番、2番、…の先は？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	二種類の数	基数と序数
第2回	派閥分け	同値関係
第3回	順序とは	順序集合
第4回	順序の練習	有限順序集合
第5回	順序の形	同型写像
第6回	比較可能性	線形順序
第7回	無限に降下？	整列順序
第8回	順序の順序	順序数
第9回	直線上の表現	実数の部分順序
第10回	順序をつなぐ	順序数の和
第11回	順序上の順序	順序数の積
第12回	順序と写像	順序数の冪

第13回	日常の順序	順序数の実例
第14回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

- ・志賀浩二『集合への30講』（朝倉書店）1988年、新装改版2024年
- ・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004年、増訂版2013年
- ・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968年、新装版2018年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- （1）春期科目「集合論A」で扱う内容を既知として授業を進める。
- （2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理3（集合論）B」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite ordinal numbers.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to generate "longer" orders on the set of natural numbers.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

相対性理論と宇宙A

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について学ぶ。

[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[11]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について学ぶ。
[12]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[13]	反物質	相対論により存在が予言された反粒子について学ぶ、
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

- ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

- ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

相対性理論と宇宙 B

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのかを理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。

[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。
[12]	ブラックホール（1）	ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
[13]	ブラックホール（2）	銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
[14]	重力波	重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

- ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

- ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

現代の錬金術 A

2017年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。

春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するか？（1）—化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するか？（2）—気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するか？（3）—気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか？（1）—元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか？（2）—電気分解や原子が出す光	第5回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する

第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造（1）—電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造（2）—量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ（1）と関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ（2）と試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
- ・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)	
現代の錬金術 B	2017年度以降入学者
井坂 政裕	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 4/Fri.4	
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金(元素)を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。
秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。
講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	20世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第2回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第3回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第4回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第5回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第6回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第7回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第8回	標準模型	第7回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第9回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第10回	宇宙における元素合成（1）ービッグバン	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第11回	宇宙における元素合成（2）ー恒星内の元素合成	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第12回	宇宙における元素合成（3）ー恒星の最期と超新星爆発	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第13回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。
第14回	まとめと試験	秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in the modern physics
- ・ Explain the origin of matters in the universe
- ・ Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

原子核と素粒子A

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていました。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当しています。この授業では、ミクロの世界に焦点をあてて、生物や地球、宇宙における元素存在比の話題からスタートして、結晶構造とその構造が生じる原因となる原子の構造、そしてそれらに関連する様々な現象・応用についての理解を深めることを目的としています。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定です。

【到達目標】

この講義では、原子、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としています。また、元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体的な紹介する。
第2回	元素の周期表	元素周期表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第3回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第4回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第5回	結晶構造	物体がもつ3次元的な立体構造について解説し、氷やダイヤモンド等いくつかの具体例を紹介する。
第6回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質について解説する。
第7回	原子のスペクトル	原子から光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第8回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。

第9回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。
第10回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第11回	原子の構造（電子配置）	第5回の内容に関して、物体が立体構造をもつ仕組みについて紹介する。
第12回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象（超伝導・超流動）について紹介する。
第13回	原子核の構造	原子核の構造について解説する。
第14回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course mainly introduces the atom by focusing on the microscopic world. In particular, the aim of this course is to help students understand the abundance ratio of elements not only on the Earth but also in the universe, the structure of crystal and atom, and the various phenomena and applications related to these. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA (物理学 / Physics 300)

原子核と素粒子B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていました。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当しています。この授業は、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深めると共に、原子核反応の応用技術についても理解を深めることを目的としています。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定です。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としています。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊に伴うエネルギーについて紹介する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第5回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉の構造などについて紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉などの核融合反応の応用について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第9回	太陽ニュートリノ問題とニュートリノ振動	スーパーカミオカンデなどで行われているニュートリノ研究について紹介する。

第10回	素粒子（クォークとレプトン）	現時点でのこの宇宙における万物の基となる素粒子などについて紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。
第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	宇宙論などの最新の研究について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the nucleus and elementary particle by focusing on the microscopic world. In particular, the aim of this course is to help students understand the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei and their applied technologies. Finally this course introduces the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe to students taking this course. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）。

用いる教科書は内容的に難しく感じるが、これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し、レポートをまとめ、討議してもらう。オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNAの変異
第2回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か；43億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化、など。
第3回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌のDNA2本鎖が解離しない仕組み

第4回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成、など。
第5回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物、など。
第6回	多細胞かと有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり、など。
第7回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成、など。
第8回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発、など。
第9回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か、など。
第10回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現、など。
第11回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する、など。
第12回	エポデボー体制の進化ー	ダーウィンフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた、など。
第13回	エポデボー特異体制の進化ー	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フグの特異な形態をつくるしくみ、など。
第14回	まとめ。重要用語の振り返り。博物学について、生物の名前の付け方。	まとめと振り返り。ホモサピエンスの7万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方。など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy & pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

更科 功 (著)2025

「世界—シンプルな進化論講義 生命・ヒト・生物—進化をめぐる6つの問い」（ブルーバックス B 2282）

講談社 ISBN 978-4065382929

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う授業内の小レポート（60%）および、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（40%）も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要で（5,000～9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

島野 智之

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制(20)

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡでは、オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、現地調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では、生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう。

つぎに、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークⅠ (1).	博物館学と博物学。博物館 フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークⅠ (2)	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークⅡ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (1)

第4回	フィールドワークⅡ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (2)
第5回	フィールドワークⅡ (3)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (3)
第6回	フィールドワークⅡ (4)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (4)
第7回	フィールドワークⅢ (1)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第8回	フィールドワークⅢ (2)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第9回	フィールドワークⅢ (3)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（3）
第10回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第11回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第12回	フィールドワークⅤ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する（1）
第13回	フィールドワークⅤ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する（2）
第14回	フィールドワークⅥ 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう。 フィールドワークのまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy & pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

進化生物学 ―ゲノミクスが解き明かす進化―、赤坂甲治（著）、裳華房、2021年出版、定価3520円（本体3200円＋税10％）

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート（60％）および、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（40％）も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもら。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります.）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」]として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月11日～9月17日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月11日～9月17日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

イオンの科学A

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を变化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫のように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明。
第2回	原子の構造	原子の構造と性質について。
第3回	砂糖と塩	有機化合物と無機イオンの違いについて。
第4回	金属の酸化とイオンの還元	金属を溶かしたり、鏡を作る実験。
第5回	炎色反応	花火の原理についての学習と炎色反応の実験。
第6回	化学発光	ルミノール発光やサイリウムの原理とその実験。
第7回	ホウ砂球反応	イオンの状態変化による色変化を利用したガラス玉を作る実験。
第8回	酸と塩基	酸塩基の定義の種類について。
第9回	色素の色変化	物質の色変化に及ぼすイオンの働きについて。
第10回	金属イオンの沈殿反応	イオンの組み合わせによる溶解度の違いについて。
第11回	金属イオンの分離1	様々なイオンが溶けた水溶液から特定のイオンを分離する実験。
第12回	金属イオンの分離2	様々なイオンが溶けた水溶液から分離したイオンを同定する実験。

第13回 金属イオンの定性分析 未知試料にどのイオンが含まれているかを検査する実験。

第14回 まとめ これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回実験を行い、その結果のまとめを平常点(配分80%)として評価し、学期末の試験(配分20%)とあわせて評価します。実験結果のまとめは、その授業時間内に提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるような配分にしています。

【その他の重要事項】

この授業はボアソナードタワー 10階のサイエンスルームで行われます。

受講希望者数が過剰な場合、抽選を行う場合があります。

過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

イオンの科学B

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第2回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数の数え方について。
第3回	中和反応とpHの変化	中性のpHが7の理由と、中和反応におけるpH変化の測定。
第4回	弱酸と解離定数	重曹が洗剤、料理、消火剤に使われる原理について。
第5回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて。
第6回	ボルタの電池	電池における電解質の役割について。
第7回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験。
第8回	亜鉛めっきと合金	金属でできた銅製品を銀色にしたり、金色に変える実験。
第9回	自己触媒型無電解めっき	電気を使わないめっきの原理とその実験。
第10回	フォトレジスト	光化学反応を利用して金属表面に保護膜で模様を作る実験。
第11回	エッチング	ガラスにめっきされたニッケル薄膜を溶かして目的の模様を作る実験。

第12回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止する方法について。
第13回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について。
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポートを平常点(配分80%)とし、学期末試験(配分20%)とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるよう時間配分に気をつけています。

【その他の重要事項】

この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。受講希望者数が過剰な場合、第1回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

PRI300LA (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

ITリテラシー

2017年度以降入学者

高田 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数（1）	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数（2）	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数（3）	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム（2）	LMS、SNSを中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ（1）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第10回	情報セキュリティ（2）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクトに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム WebClassを活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information. [Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. [Grading Criteria /Policy]

The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

PRI300LA (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

高田 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。

第13回 コンパイラ（2） 基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。

第14回 まとめ 本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム WebClass 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム WebClassを活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在「持続可能性」はキーワードとして国際的に広く認識されています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困などの社会経済的な問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、持続可能性の観点から人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、特に、誰もが接点を持つ「食」に関連する農業に注目し、環境問題の科学的側面だけでなく関連する社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を獲得の機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 食を接点として授業で扱われる諸問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各回の授業内容へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	多重危機の時代と持続可能性	導入として、全体のキーワードとなる持続可能性の概念について解説し、食と種々の環境問題との関連性を概観します。
第2回	生態系の基礎理解	生態系の基本的特徴について、システムとしての構造、機能、振る舞いの観点から考えます。
第3回	生物多様性とは	生物多様性の基本的特徴を解説するとともに、その保全が求められる理由について考えます。
第4回	土中環境	普段目を向けない地中の環境並びに自然環境の基盤としての土壌の重要性について考えます。
第5回	演習1：農地を支える生物	農地という生態系に着目し、食糧生産に関連する生物的要素についてグループワークを通して考えます。

第6回	農業の歴史と近代化	農業の歴史を概観するとともに、近代化のもたらした変化と食糧生産における成果について考えます。
第7回	近代農業の環境負荷	「慣行農法」として定着した近代的生産手法の環境負荷について考えます。
第8回	食糧生産と環境保全1：慣行農法からの展望	慣行農法における食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第9回	食糧生産と環境保全2：代替農法からの展望	慣行農法に代わる「代替農法」について概観するとともに、食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第10回	アグロエコロジーとは	持続可能なフードシステムの枠組みとして注目されるアグロエコロジーについて事例を交えて解説します。
第11回	畜産と感染症	新型コロナウイルスパンデミックを機に対策が急務とされている人獣共通感染症について、畜産との関係性から考えます。
第12回	演習2：飽食時代の飢餓	一見食糧が溢れているように見える現代における飢餓の問題について、グループワークを通して考えます。
第13回	フードシステムと需要・消費側の問題	食糧供給に伴う問題について、農作物自体の生産以外の面から考えます。
第14回	ローカリゼーションとコモンズ	食にまつわる諸問題の解決策について、「ローカリゼーション」と「コモンズ」の2つの視点から模索します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（30%）、平常点（30%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種WebClassの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】

30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

宇野 真介

授業コード：Q6335 | 曜日・時限：月3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年年
 備考（履修条件等）：定員制(30)
 地理学科生は選択科目として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在「持続可能性」はキーワードとして国際的に広く認識されています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困などの社会経済的な問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、持続可能性の観点から人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、特に、誰もが接点を持つ「食」に関連する農業に注目し、環境問題の科学的側面だけでなく関連する社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3）食を接点として授業で扱われる諸問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各回の授業内容へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	多重危機の時代と持続可能性	導入として、全体のキーワードとなる持続可能性の概念について解説し、食と種々の環境問題との関連性を概観します。
第2回	生態系の基礎理解	生態系の基本的特徴について、システムとしての構造、機能、振る舞いの観点から考えます。
第3回	生物多様性とは	生物多様性の基本的特徴を解説するとともに、その保全が求められる理由について考えます。
第4回	土中環境	普段目を向けない地中の環境並びに自然環境の基盤としての土壌の重要性について考えます。

第5回	演習1：農地を支える生物	農地という生態系に着目し、食糧生産に関与する生物的要素についてグループワークを通して考えます。
第6回	農業の歴史と近代化	農業の歴史を概観するとともに、近代化のもたらした変化と食糧生産における成果について考えます。
第7回	近代農業の環境負荷	「慣行農法」として定着した近代的生産手法の環境負荷について考えます。
第8回	食糧生産と環境保全1：慣行農法からの展望	慣行農法における食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第9回	食糧生産と環境保全2：代替農法からの展望	慣行農法に代わる「代替農法」について概観するとともに、食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第10回	アグロエコロジーとは	持続可能なフードシステムの枠組みとして注目されるアグロエコロジーについて事例を交えて解説します。
第11回	畜産と感染症	新型コロナウイルスパンデミックを機に対策が急務とされている人獣共通感染症について、畜産との関係性から考えます。
第12回	演習2：飽食時代の飢餓	一見食糧が溢れているように見える現代における飢餓の問題について、グループワークを通して考えます。
第13回	フードシステムと需要・消費側の問題	食糧供給に伴う問題について、農作物自体の生産以外の面から考えます。
第14回	ローカリゼーションとコモンズ	食にまつわる諸問題の解決策について、「ローカリゼーション」と「コモンズ」の2つの視点から模索します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（30%）、平常点（30%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種WebClassの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】

30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 300)

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental issues; 2) to understand social problems related to the environmental issues addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course is divided roughly into three parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem, biodiversity, and soil, in other words, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources and services. The second part will focus on environmental issues related to agriculture (food production). Finally, the third part will mainly address socioeconomic aspects of relevant issues. The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format; however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group work and discussion. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions in the subsequent class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Era of multiple crises and sustainability	As an introduction to the course, the concept of sustainability will be discussed, and an overview will be given on the connection between food and environmental issues.
Week 2	Understanding ecosystem	Basic characteristics of ecosystem will be discussed from the viewpoints of structure, function and behavior as a system.
Week 3	What is biodiversity?	Basic characteristic of biodiversity will be discussed, and the reasons why its conservation is necessary will be considered.
Week 4	Soil environment	General features of soil environment will be described, and its importance as the foundation of natural environment will be discussed.
Week 5	Agricultural field as a habitat	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Historical background and modernization of agriculture	An overview of historical development of agriculture will be given, and changes and achievements brought about by modernization will be discussed.
Week 7	Environmental impact of modern agriculture	Environmental impact of modern production method or "conventional agriculture" will be discussed.
Week 8	Environmental conservation in the case of conventional agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of conventional agriculture.
Week 9	Environmental conservation in the case of alternative agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of alternative agriculture.
Week 10	Agroecology	Agroecology will be discussed as a framework for achieving a sustainable food system.
Week 11	Livestock production and infectious diseases	The risk of zoonotic diseases will be discussed in relation to activities related to livestock production.
Week 12	Abundance and scarcity	Group work will be used to explore the complexity of the issue of hunger in the age of abundance.
Week 13	Localization and food system	The significance and importance of localized food production/supply system will be discussed.
Week 14	Thinking about solutions from the consumer side	Solutions for agriculture and food-related issues will be explored from the consumer side of food system.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare for classes by thoroughly reading distributed materials and utilizing the online learning support system (WebClass) and also to review contents of individual lectures. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40%), a final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course materials by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hosei's e-learning system (WebClass). Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

【その他の重要事項】

There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded, and, to be included in the selection, you will be required to pre-register for the course a few days before the semester begins. Additional information will be provided through WebClass, as needed.

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物へ進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・授業では、実験・観察の開始前に、方法と注意点を説明します。受講生はグループごとに課題に取り組み、結果を授業ノートに記録します。講義は、内容や進行状況に応じて、実験・観察の前または後に行います。
- ・毎回、授業内容に関する練習問題を学習支援システムに用意します。授業後、指定期限までに提出してください。
- ・授業内テストは学期中に数回実施します（実施回は授業内で告知）。
- ・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
- ・課題・練習問題・質問に対しては、授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	ボルボックスの観察①	レーウエンフックの顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第3回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野法や暗視野法によって生物を観察します。
第4回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、その周りの水の流れを観察します。
第5回	淡水産プランクトン①	池や川の水の採集方法や観察方法を学び、どのような生き物がいるかを調べます。
第6回	淡水産プランクトン②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察し、その変化について考察します。
第7回	淡水産プランクトン③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。

第8回	プラナリア①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。
第9回	プラナリア②	切断したプラナリアが一週間後にどのように再生しているかを観察します。
第10回	プラナリア③	プラナリアの採餌行動を観察し、からだの作りと機能を学びます。
第11回	走光性①	ボルボックスが環境の光を感知して遊泳方向を変える「走光性」を観察します。
第12回	走光性②	細胞から生える「鞭毛（繊毛）」が生み出す水流が、光によってどのように変化するかを調べます。
第13回	走光性③	光を感知する構造「眼点」を観察し、ボルボックスの走光性のしくみを考察します。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%（授業内での実験や観察への取り組み）
- ・授業後の練習問題および授業ノート 30%（提出状況・理解度等を評価）
- ・授業内テスト 40%
- ・期末試験は行いません。
- ・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】

授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知ることができてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Course Outline:

The course introduces Volvox, a freshwater green alga, as a model organism for studying the evolution from unicellular to multicellular life. Through lectures, experiments, and observations, students work in groups and observe living organisms under the microscope.

Learning Objectives:

Through experiments and observations using Volvox and other organisms, the course aims to help students develop the ability to observe and describe objects accurately. The course also aims to help students consider results and develop problem-solving skills.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are expected to do a brief background search before each class and to organize their course notes on in-class experiments and observations after each class. The standard study time is two hours for preparation and two hours for review.

Grading Criteria / Policy:

The final grade is based on in-class work in experiments and observations (30%), practice questions and the course notebook (30%), and in-class tests (40%). There is no final exam. The course notebook is submitted at the end of the semester. Three or more unexcused absences result in no credit. Arriving 20 minutes late or more counts as an absence.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論B

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物へ進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・授業では、実験・観察の開始前に、方法と注意点を説明します。受講生はグループごとに課題に取り組み、結果を授業ノートに記録します。講義は、内容や進行状況に応じて、実験・観察の前または後に行います。
- ・毎回、授業内容に関する練習問題を学習支援システムに用意します。授業後、指定期限までに提出してください。
- ・授業内テストは学期中に数回実施します（実施回は授業内で告知）。
- ・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
- ・課題・練習問題・質問に対しては、授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの無性生殖個体を観察しながら顕微鏡の扱いに慣れましょう。
第3回	有性生殖とその進化②	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第4回	有性生殖とその進化③	異なる種の有性生殖様式を比較し、性の進化について考察します。
第5回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌（変形菌）の探餌行動を調べる実験を行います。
第6回	粘菌の行動②	粘菌内部の原形質が往復流動するようすを顕微鏡で観察・撮影します。
第7回	粘菌の行動③	粘菌が基質の上を移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。

第8回	生活環と形態形成①	ボルボックスの美しい球形を生み出す過程である「インバージョン」について学びます。
第9回	生活環と形態形成②	40分程度かかるインバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第10回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみとその進化について考えます。
第11回	鞭毛・繊毛の生理学①	ボルボックスの遊泳や光行動の観察を通して、真核生物が普遍的に持つ鞭毛・繊毛について学びます。
第12回	鞭毛・繊毛の生理学②	細胞膜を取り除いて死んでしまった細胞の運動を復活させる「ゾンビ・クラミドモナス実験」を行います。
第13回	鞭毛・繊毛の生理学③	鞭毛・繊毛がATPのエネルギーで動き、カルシウムイオンで調節されることを実験を通して学びます。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%（授業内での実験や観察への取り組み）
- ・授業後の練習問題および授業ノート 30%（提出状況・理解度等を評価）
- ・授業内テスト 40%
- ・期末試験は行いません。
- ・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】

授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知ることができてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】

- ・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Course Outline:

The course introduces Volvox, a freshwater green alga, as a model organism for studying the evolution from unicellular to multicellular life. Through lectures, experiments, and observations, students work in groups and observe living organisms under the microscope.

Learning Objectives:

Through experiments and observations using Volvox and other organisms, the course aims to help students develop the ability to observe and describe objects accurately. The course also aims to help students consider results and develop problem-solving skills.

Learning Activities Outside the Classroom:

Students are expected to do a brief background search before each class and to organize their course notes on in-class experiments and observations after each class. The standard study time is two hours for preparation and two hours for review.

Grading Criteria / Policy:

The final grade is based on in-class work in experiments and observations (30%), practice questions and the course notebook (30%), and in-class tests (40%). There is no final exam. The course notebook is submitted at the end of the semester. Three or more unexcused absences result in no credit. Arriving 20 minutes late or more counts as an absence.

BAB300LA (基礎生物学 / Basic biology 300)

バイオイメーキングの世界A 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きている様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようになります。

プラナリアは、半分に切っても、また再生して2つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。

カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。

アリについては、巣作りの様子や、6本脚歩行の様子の記録・解析を行います。

粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。

これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。なを、扱う生物材料は、その時の生き物の育成状況によって変わることがあります。

受講生は、授業で行ったことを発表するポスターを製作します。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	接写法	花などの生き物に近づいて、大きく撮るための撮影法を習得します。
③	インターバル撮影法	カメラを固定して長時間の定点観測を行う方法を習得します。
④	種々の長時間記録法	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	より小さな生き物の撮影法を学びます。
⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。

⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。
⑧	スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動	撮影環境の設定法について学びます。
⑨	ストロボ撮影手法・種子の回転運動	ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。
⑩	ハイスピード撮影技法・カイコの飛翔	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	ハイスピード撮影技・アリの歩行	アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	データ整理法・芽生えの記録1	様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。
⑬	動画編集手法・芽生えの記録2	様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。
⑭	春学期データ整理	春学期のデータについて、ノート上で整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週4時間以上の学習を行って頂きます。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

最終プレゼンを30%、授業中の活動を70%として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合もありますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

上記のリストに嫌いな生き物がいる場合は、活動の観察者として直接生き物とかかわらないように配慮しますので、事前に申告して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the required presentations(30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

BAB300LA (基礎生物学 / Basic biology 300)

バイオイメーキングの世界B 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業では、春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ プラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探って行きます。

班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの6足歩行」「様々な種子の栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「プラナリアの再生」等でした。（BT0900教室の前に掲示中です）

授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第3回	班別作業。

⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。
⑨	秋学期プロジェクト第4回	班別作業
⑩	秋学期プロジェクト第5回	班別作業
⑪	秋学期プロジェクト第6回	班別作業
⑫	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業1	データ整理、表・グラフ作成などポスターのコンテンツを作ります
⑬	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業2	プロジェクトの活動報告ポスターを作成します。
⑭	ポスターコンテスト	班毎に10分程度(質疑応答を含む)のポスターの発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週4時間以上の学習を行って下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

最終プレゼンを30%、授業中の活動を70%として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合もありますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the required presentations (30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

環境の科学 A

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】

環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	分析化学の基礎 (1)	有効数字など分析データの取り扱いについて解説します。
第3回	分析化学の基礎 (2)	酸化剤(還元剤)の濃度を分析する酸化還元滴定を行います。
第4回	分析化学の基礎 (3)	金属濃度を分析するキレート滴定を行います。
第5回	環境中の物質循環	地球上の水などの物質の循環について解説します。
第6回	大気環境の科学 (1)	地球大気の大気構造とオゾン層について解説します。
第7回	大気環境の科学 (2)	温室効果ガスについて解説します。
第8回	大気環境の科学 (3)	大気汚染物質について解説します。
第9回	水環境の科学	水環境や水質基準について解説します。
第10回	水試料の分析[春学期](1)	環境水試料を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[春学期](2)	環境水試料[春学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。

第12回	水試料の分析[春学期](3)	環境水試料[春学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[春学期](4)	環境水試料[春学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末レポート(30%)により取り組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの記載はありませんでしたが、講義資料等のアップロードを早めに行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

required assignments: 70%, Term-end report: 30%

CHM300LA (その他の化学 / Chemistry 300)

環境の科学B

2017年度以降入学者

田中 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】

環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	土壌環境の科学	土壌の構成物質、土壌の機能、土壌汚染などについて解説します。
第3回	土壌試料の分析(1)	土壌試料の土壌pH、土壌溶液などを調べます。
第4回	土壌試料の分析(2)	土壌試料の陰イオン吸着能を調べます。
第5回	土壌試料の分析(3)	土壌試料の陽イオン吸着能を調べます。
第6回	土壌試料の分析(4)	土壌試料の分析結果について考察します。
第7回	化学物質と環境	化学物質による環境影響について解説します。
第8回	水中の金属分析(1)	水道水やミネラルウォーターの硬度を調べます。
第9回	水中の金属分析(2)	水試料の電気伝導度や重金属濃度を調べます。
第10回	水試料の分析[秋学期](1)	環境水試料[秋学期]を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[秋学期](2)	環境水試料[秋学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。

第12回	水試料の分析[秋学期](3)	環境水試料[秋学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[秋学期](4)	環境水試料[秋学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
 ・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
 ・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
 その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末試験(30%)により取り組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの記載はありませんでしたが、講義資料等のアップロードを早めに行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】

この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

required assignments: 70%, Term-end report: 30%

総合科目：LANe300LA、GBP：HUM200LA

Issues in Modern Japanese Society A 2017年度以降入学者

L A S S E G A R D J A M E S

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制

レベル3～4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigration, minorities, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to examine and think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan, engage in discussion, and express their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates, and a final presentation by students. Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate

6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues: Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor either in paper or PDF format.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 20%

Midterm essay: 30%

Final report: 40%

Presentation: 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English. Students will do short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】

Students in GBP will be given some priority in terms of enrollment, but a primary goal is to have a diverse classroom setting in terms of nationality and experience.

【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics in society interest them the most.

総合科目：LANe300LA、GBP：HUM200LA

Issues in Modern Japanese Society B 2017年度以降入学者

L A S S E G A R D J A M E S

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制

レベル3～4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, gender, etc.) using authentic materials. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics related to society that they would like to investigate and discuss during the semester.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking (discussion, debate) and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members. Course feedback will be provided in class and on written assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with implementation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion, debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate

6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due
7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers (reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to have some experience writing a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. The instructor will provide reading materials each week either as handouts or PDF files.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 20%

Midterm Paper: 30%

Final Paper: 40%

Presentation: 10%

Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the number of students enrolled.

【学生が準備すべき機器他】

Student should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping and organizing class handouts and readings.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than three unexcused absences may not receive credit for this course. Students should have some experience in writing essays or reports in English. Students may enroll in this course for one or two semesters.

GBP students may receive some preference for taking this course, but a primary objective is to have a diverse classroom setting, in terms of nationality and gender.

【Outline (in English)】

This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

第三外国語としてのドイツ語 A 2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じてドイツ語文法の基礎を学ぶとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】

- 1) ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解できる。具体的には「ドイツ語技能検定試験（独検）」の4級～5級合格レベル到達を目指します。
- 2) ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを理解できる。
- 3) ドイツ語・ドイツ語圏という異文化との接触を通じて、自分の属する文化と言語圏について反省的に思考できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar、L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。

・LMSとして主にGoogle Classroomを使用します。法政Gメールも随時チェックしてください。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ Lektion1：発音の規則（1）、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベットと発音の規則1、あいさつの表現1
2	Lektion1：発音の規則（2）、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ ふたつの二人称
3	Lektion1 & Lektion2：発音の規則（3）、動詞の不定詞と現在人称変化（1）、並列の接続詞	自己紹介1：人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（1）、平叙文と定動詞第2位の原則
4	Lektion2：動詞の現在人称変化（2）	人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（2）、自己紹介2、さまざまな疑問文のパターン

5	Lektion3：名詞の性と格（1）	名詞の格（1）、定冠詞と不定冠詞（1）
6	Lektion3：名詞の性と格（2）	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞keinと否定文
7	Lektion4：名詞の複数形・人称	「品詞」について今一度理解度を確認する（1）、人称代名詞と所有冠詞をしっかりと区別する
8	Lektion5：不定冠詞類・定冠詞類	「品詞」について今一度理解度を確認する（2）、人称代名詞と所有冠詞をしっかりと区別する
9	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（1）	動詞の現在人称変化（3）
10	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（2）	動詞の現在人称変化（4）
11	Lektion7：命令法と態（Modus）	2人称と依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
12	Lektion7：話法の助動詞（1）	「話法の助動詞」の構文、枠構造の意味
13	Lektion7：話法の助動詞（2）	話法の助動詞を使うそのココロを理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週扱うテキストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（¥ 2,200）
- ・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】

中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『（改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（¥1,728）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（50%）および学期末試験（50%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい（辞書類については第一回授業時に説明をします）
- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】

・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。

・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2026年7月下旬までに担当者に通知されたものに限りま）。す。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.

【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

第三外国語としてのドイツ語B 2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。（春学期開講の「第三外国語としてのドイツ語A」に引き続き）初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。専門課程でドイツ語の読解能力が必要となる方についてはその基礎固めを目指します。

【到達目標】

- 1) ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解できる。具体的には「ドイツ語技能検定試験（独検）」の4級～5級合格レベル到達を目指します。
- 2) ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを理解できる。
- 3) ドイツ語・ドイツ語圏という異文化との接触を通じて、自分の属する文化と言語圏について反省的に思考できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や自分の文法理解を確認します。

- ・LMSとして主にGoogle Classroomを使用します。法政Gメールも随時チェックしてください。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化（冠詞）と人称の格変化、話法の助動詞
2	Lektion8：再帰代名詞・再帰動詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
3	Lektion9：分離動詞・非分離動詞	動詞の前綴りの話、複合動詞のいろいろ、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
4	Lektion9：zu不定詞	不定詞とzu不定詞およびその用法、zu不定詞句を使った表現
5	Lektion9：従属の接続詞	従属接続詞と副文の作り方、主文と副文の違いを理解する
6	Lektion10：動詞の3基本形（I）（1）	現在完了形を使うそのココロとは？

7	Lektion10：動詞の3基本形（I）（2）	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？過去時制
8	Lektion11：動詞の3基本形（II）・受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？ 受動の助動詞2種類（行為受動、状態受動）
9	Lektion12：形容詞（1）	形容詞の用法と形容詞の格変化
10	Lektion12：形容詞（2）	並列の接続詞、従属の接続詞、形容詞の用法、付加語的用法と格変化
11	Lektion12：関係代名詞（1）	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞（副文）
12	Lektion12：関係代名詞（2）	関係副詞・不定関係代名詞
13	補足：接続法	接続法第I式および第II式について
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週扱うテキストの箇所を読んでおくこと。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（¥ 2,200）
- ・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】

中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『（改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（¥1,728）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（50%）および学期末試験（50%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】

- ・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
- ・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2027年1月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.

【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the course, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen vorstellen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteile
8	Beschreiben, wo/wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）	
教養ゼミ I	2017年度以降入学者
上田 知夫	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位	
定員制	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では

- ・児童文学の古典とされる作品を精読することを通じて
- ・考えたことを論理的に再構成して、議論することで
- ・この作品が書かれた当時のドイツ語圏（ドイツとスイス）のあり方を考えることを学びます。

【到達目標】

この授業を履修することで

- ・単なる印象に左右されないテキストの読み方
- ・自らが読解した内容を、他人に伝わるかたちで表現する方法
- ・ドイツ語圏の19世紀の社会についての理解することについて学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。したがって、事前のテキストの精読を前提とします。事前に指定箇所を精読し、その中で重要だと思われることを2箇所指摘し、学習支援システムを通じて提出していただきます。

授業では、皆さんから提出された論点について、全員で議論します。事前提出の論点については、授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	著者のヨハンナ・シュピリと作品の果たした役割についての紹介
第2回	第1部1章および2章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第3回	第1部3章および4章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第4回	第1部5章および6章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第5回	第1部7章および8章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第6回	第1部9章および10章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第7回	第1部11章および12章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第8回	第1部13章および14章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第9回	第2部1章および2章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第10回	第2部3章および4章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する

第11回	第2部5章および6章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第12回	第2部7章および8章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第13回	第2部9章	参加者から出た事前学習の成果をテキストに基づいて議論する
第14回	まとめ	まとめおよび授業内で行った課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は準備学習を基本とし、テキストとして指定された箇所を精読し、事前に議論すべき論点を2つ提案してから、出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ヨハンナ・シュピリ、松永美穂（訳）、『アルプスの少女ハイジ』（角川文庫、2021年）

【参考書】

川島隆、『ハイジの生みの親ヨハンナ・シュピーリ』（青弓社、2024年）

【成績評価の方法と基準】

毎回、該当の章を読んでから出席することを基本とし、

- ・事前にテキストについて授業で議論すべきことを2つ提出すること（52%）
- ・議論への参加度（42%）
- ・期末のレポート（8%）

を基準として成績評価します。

テキストを読まずに出席している場合、または、議論への貢献をしない場合は、議論への参加度を評価する平常点をつけられません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度はテーマを変更しましたのでフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワーク接続ができ、Zoomが使えるPCまたはタブレット、および、オンライン会議に使えるカメラとマイク

【その他の重要事項】

オンラインで開講します。カメラをオンにして参加すること、および、指名された場合に口頭で回答することを出席の条件（平常点採点の対象）とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, students will read Johanna Spyri's classic works on Heidi and discuss/learn about the societal background of the time when the text was written.

【Learning Objectives】 Students will acquire the skills to read texts logically, discuss them in line with their understanding, and learn about the society and culture of the German-speaking region in the 19th century.

【Learning activities outside the classroom】 Participation requires detailed reading of the text and the submission of two discussion points in advance.

【Grading Criteria /Policy】 Submission of prior discussion points (52%) + Active participation (42%) + term paper (8%)

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

ドイツの思想A

2017年度以降入学者

大久保 歩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツは「詩人と思想家の国」と呼ばれるように、後世に大きな影響を与えた思想家たちを多く輩出してきました。

この授業では主に18世紀終わりから19世紀前半に活躍した哲学者たちの思想を学びます。

個々の哲学者たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。この時代は、ドイツという国が成立していく過程でもありました。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。

これにより現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】

- ・19世紀前半のドイツ哲学の概要を説明できる。
- ・扱われた哲学者の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
- ・自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
- ・現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。

毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。

すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜドイツは「詩人と思想家の国」になったのかについて学ぶ。授業の進め方の確認。
第2回	「ドイツ思想」のはじまり	ルターやライプニッツなど、のちのドイツの思想を方向づけた思想家たちについて学ぶ。
第3回	カント前夜	デカルトやイギリス経験論など、カント哲学の前提となる思想について学ぶ。
第4回	カント（1）	『純粋理性批判』を中心に、カントの認識論について学ぶ。
第5回	カント（2）	『実践理性批判』を中心に、カントの実践哲学について学ぶ。
第6回	カント（3）	『判断力批判』を中心に、カントの美学について学ぶ。
第7回	ドイツ観念論	フィヒテやシェリングなど、カント以後のドイツ哲学の展開を学ぶ。
第8回	ヘーゲル（1）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの認識論を学ぶ。

第9回	ヘーゲル（2）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの実践哲学を学ぶ。
第10回	ヘーゲル（3）	『精神現象学』や『美学講義』を中心に、ヘーゲルの美学を学ぶ。
第11回	ショーペンハウアー（1）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアーの認識論と実践哲学について学ぶ。
第12回	ショーペンハウアー（2）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアー実践哲学と美学について学ぶ。
第13回	近代ドイツ思想とは何か	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】

御子柴義之『自分で考える勇気ーカント哲学入門ー』（岩波ジュニア新書）
川瀬和也『ヘーゲル（再）入門』（集英社新書）
梅田孝太『ショーペンハウアーー欲望にまみれた世界を生き抜くー』（講談社現代新書）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 50%

授業最終回での試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】

Germany has produced many influential thinkers who have left a profound impact on posterity, earning the nation the title "the land of poets and thinkers" (Das Land der Dichter und Denker). This course focuses on the philosophical ideas of thinkers active primarily from the late 18th to the early 19th century. In addition to examining individual philosophical systems, we will explore the historical context of the era—a pivotal period in the formation of the German nation. By examining thought within its historical context, this course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy and develop a critical perspective on the contemporary world.

Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)	
ドイツの思想 B	2017年度以降入学者
大久保 歩	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀後半のドイツは激動の時代でした。そしてこの時代の思想家たちはそれ以前の思想を徹底的に批判することで、20世紀の思想を準備しました。この授業では19世紀後半のドイツで活躍した思想家たちの思想を学びます。個々の思想家たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。これによって、現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】

- ・19世紀後半のドイツ思想の概要を説明できる。
- ・扱われた思想家の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
- ・自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
- ・現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	19世紀後半のドイツがどのような時代だったのか概観する。授業の進め方の説明。
第2回	カントからヘーゲルへ	19世紀前半のドイツ哲学を概観し、19世紀後半の思想家たちにとっての思想的前提を学ぶ。
第3回	マルクス（1）	『ドイツ・イデオロギー』を中心に、マルクスの唯物論史観について学ぶ。
第4回	マルクス（2）	『資本論』を中心に、マルクスの資本主義批判について学ぶ。
第5回	マルクス（3）	『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』を中心に、マルクスの政治理論について学ぶ。
第6回	ニーチェ（1）	『悦ばしき知識』などを中心に、ニーチェのニヒリズムの思想を学ぶ。
第7回	ニーチェ（2）	『ツァラトゥストラはこう語った』などを中心に、ニーチェのニヒリズム克服の思想を学ぶ。

第8回	ニーチェ（3）	『道徳の系譜学』を中心に、ニーチェの道徳批判について学ぶ。
第9回	フロイト（1）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの無意識についての理論を学ぶ。
第10回	フロイト（2）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの精神分析の理論を学ぶ。
第11回	フロイト（3）	『快感原則の彼岸』を中心に、フロイトの自我論を学ぶ。
第12回	ドイツからフランス・ポストモダニズムへ	マルクス、ニーチェ、フロイトから大きな影響を受けたフランスのポストモダニズム思想を概観する。
第13回	ドイツの「反哲学」	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】

佐々木隆治『カール・マルクスー「資本主義」と闘った社会思想家ー』（ちくま新書）
永井均『これがニーチェだ』（講談社現代新書）
フロイト『精神分析入門講義』上下巻（岩波文庫）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 50%
授業最終回での試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】

The late 19th century was a period of great upheaval in Germany. The thinkers of this era paved the way for 20th-century thought by radically critiquing the philosophical traditions that preceded them. This course examines the ideas of key figures active during this turbulent time. Beyond analyzing individual philosophical systems, students will explore the historical backdrop of their era. By integrating the study of thought with its historical context, the course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy, thereby cultivating a critical perspective on the contemporary world. Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

カルチュラル・スタディーズで見 2017年度以降入学者のドイツ語圏A

丸山 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

2021年度までに「ドイツ語圏の文学A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：移民・難民・アウトサイダー

2015年、ドイツがシリア内戦などを背景に100万人規模の難民を受け入れたことが話題となりました。また近年では、ウクライナからの難民も100万人を超えています。「移民国家」を自認し、移民の背景を持つ市長が誕生するなど、移民政策において成功しているように見える一方で、極右政党をはじめとする移民排斥の声も年々高まってきているのが現在のドイツです。

本講義では、文学や演劇、映画などにおいて、「移民」「難民」というテーマがどのように扱われてきた／いるのかを、複数の作品を通じて多角的に捉えていきます。

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏との相互関係に対する関心や理解を深める。
- ・作品をただ鑑賞するのではなく、歴史的・社会的・文化的コンテクストを踏まえて批判的に考察する力を養う。
- ・さまざまな時代・文化・ジャンルの作品の中で共通のテーマやモチーフがどのように扱われているかを比較検討することを通じて、多角的な視点と柔軟な思考力を養う。
- ・各文化圏における芸術や文化、歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。約2回の講義でひとつの作品を取り上げ、作品の概要を説明した後で、主要部分を実際に鑑賞／読解していきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。

毎回授業の終盤に時間を設けて、こちらの提示する課題について小レポートを書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 カルチュラル・スタディーズとは？
2	導入	ドイツの移民政策
3	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
4	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
5	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
6	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
7	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
8	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
9	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』

10	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』
11	当事者たちの取り組み	ベルリン・マクシム・ゴーリキー劇場
12	当事者たちの取り組み	『狂った血』
13	移民排斥に対する挑発	シュリンゲンジーフと『外国人よ出ていけ』
14	旧東ドイツの移民	『マッドジャーマンズ』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

各回で取り上げる映画作品については、日本語字幕付きで観られるので、自分でもぜひ鑑賞してみてください。最後に取り上げるマンガ作品も邦訳があるので、実際に手に取ってみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店、2002年。
- ・吉見俊哉『カルチュラル・スタディーズ』岩波書店、2001年。
- ・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房、2015年。
- ・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研、2017年。
- ・墓田桂『難民問題』中央公論新社、2017年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加、質問、発言など）：40%
- ・毎回の小レポート：60%

なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要がある場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

In 2015, Germany accepted around one million refugees, against the backdrop of the Syrian civil war and other conflicts. Moreover, in recent years, the number of refugees from Ukraine has also exceeded one million. Although immigration policies appear to be succeeding, the reality today is that opposition to immigration is also growing, as evidenced by the rise of far-right parties. This lecture will explore how the themes of 'immigration' and 'refugees' are depicted in literature, theatre and film, examining them from various angles through a selection of works.

At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 40%, short reports for each lecture: 60%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

カルチュラル・スタディーズで見 2017年度以降入学者
るドイツ語圏 B

丸山 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

2021年度までに「ドイツ語圏の文学B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本においてドイツ語圏の文化はどのように受容されてきたのか

私たちの日常には、さまざまな領域・場面においてドイツ語圏由来のものが存在しています。私たちは意識してか無意識にかかわらず、日頃からドイツ語圏の文化に触れているわけです。しかし、日本での受容には、ドイツ語圏でのそれと差異はないのでしょうか。この授業では、ドイツ語圏の文学作品が、日本でどのように受容されているかを検討し、またそれらを原作とする翻案作品と比較します。テキストの読解および映像の視聴を通じて、ドイツ語圏の社会や文化、歴史的な文脈について学んでみましょう。

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏（英米・日本など）との相互関係に対する関心や理解を深める。
- ・作品をただ鑑賞するのではなく、多角的な視点に基づいて批判的に考察する力を養う。
- ・文学作品や映像作品の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。2～3回の講義でひとつの作品を取り上げます。原作と日本での受容のあり方を、実際にテキストを読んだり、映像を鑑賞しながら比較していきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。毎回授業の終盤に時間を設けて、講義を通じて考えたことなどをリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。内容によっては次の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 身近にあるドイツ語圏
2	グリム童話集について	成立と背景
3	グリム童話集『赤ずきん』	赤い「ずきん」？
4	グリム童話集『死神の名付け親』1	作品の内容について
5	グリム童話集『死神の名付け親』2	古典落語『死神』
6	シラーについて	人物と作品
7	シラー『歓喜に寄せて』1	成立と内容
8	シラー『歓喜に寄せて』2	ベートーヴェンの「第九」

9	シラー『歓喜に寄せて』3	「第九」合唱の文化
10	シラー『群盗』1	成立と内容
11	シラー『群盗』2	黒澤明『戦国群盗伝』
12	シラー『群盗』3	宝塚版『群盗』
13	日本からドイツへ	ブレヒト『イエスマン・ノーマン』と能『谷行』 オペラ『松風』と能『松風』
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回で取り上げる作品で邦訳があるものについては、講義期間中に自分で手に取って読んでみることを推奨します。取り上げる作品の中には、映像化されているものや舞台上演されているものもあるので、機会があればぜひ鑑賞してみてください。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房、2015年。
- ・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研、2017年。
- ・手塚富雄／神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波書店、1993年。
- ・柴田翔編著『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房、2018年。
- ・畠山寛／吉中俊貴／岡本和子編著『ドイツ文学の道しるべ』ベルンゲンから多和田葉子まで』ミネルヴァ書房、2021年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回のリアクションペーパー、授業への積極的な参加）：60%
- ・学期末試験（論述）：40%

なお、授業回数の3分の2以上の出席と学期末試験を受けることが単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

German-speaking regions have a presence in many areas of our daily lives. We are constantly exposed to German-speaking culture in our daily lives, whether we are aware of it or not. This course examines the reception of German-language literary works in Japan, comparing them with adaptations based on the original texts.

At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

ARSk300LA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

比較文化A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	TVの料理ドキュメンタリー（1）	テレビの料理ドキュメンタリーの比較から偏見を見直す。
③	TVの料理ドキュメンタリー（2）	課題、ディスカッション
④	TVのCooking Show（1）	TVのCooking Showの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	TVのCooking Show（2）	課題、ディスカッション
⑥	TVの食品調査番組（1）	日本には存在していない食品調査番組の紹介で文化の違いを学ぶ。
⑦	TVの食品調査番組（2）	課題、ディスカッション
⑧	Youtubeの料理チャンネル（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	Youtubeの料理チャンネル（2）	課題、ディスカッション
⑩	Webの料理検索・レシピサイト（1）	Webの料理検索・レシピサイトを比較する。

⑪	Webの料理検索・レシピサイト（2）	課題、ディスカッション
⑫	Foodfilm（1）	フードフィルムの分析を学ぶ。
⑬	Foodfilm（2）	課題、ディスカッション
⑭	試験・まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席及び授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

- To deepen understanding of different cultures and own culture.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Attendance and achievement of in-class assignments: 70%

Normal points such as participation attitude in class: 30%

If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

比較文化B

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、グリム童話や日本昔話だけでなく、ウェス・アンダーソンの映画や近代絵画など、幅広いメディアに登場する「動物」を比較・分析します。キツネ、ウサギ、白鳥といった身近な動物が、日本とヨーロッパでいかに異なる「シンボル（象徴）」として扱われているかを探ります。動物は単なる「かわいい」存在ではなく、実は人間社会のルール、政治、あるいはジェンダー観を映し出す「鏡」であることを学びます。具体的な作品比較を通じて、「日本は優しい、西洋は残酷」といった文化的な固定観念（ステレオタイプ）を問い直すことも重要なテーマです。最終的には、動物たちの表象を通して、異文化と自文化の意外な共通点や深い違いを読み解く力を養います。

【到達目標】

- ・日欧の動物観の比較・分析：文学・美術・映画における動物の描かれ方を比較し、日本とヨーロッパの文化的価値観の共通点と相違点を論理的に説明できる。
- ・ステレオタイプの再考：「日本文化は優しく、西洋文化は残酷である」といった単純な二項対立やステレオタイプ（固定観念）を、具体的な作品分析を通して客観的に問い直す力を身につける。
- ・視覚メディア・リテラシーの向上：物語のあらすじだけでなく、映像表現（構図・色彩・演出）や絵画の様式が持つ意味を読み解き、映画やアート进行分析する視座を養う。
- ・社会的・政治的背景の理解：動物が単なるキャラクターではなく、ジェンダー・政治・社会風刺（風刺画やプロパガンダなど）の道具として機能していることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは何か：文化の鏡としての動物たち	本講義の目的である「日欧の動物表象の比較」について、その意義と分析手法（文学・映画・美術）を解説する。なぜ動物がステレオタイプや社会風刺の道具として使われるのか、具体的な例を挙げながら導入を行う。
②	昔話と童話における狐	日本の昔話「狐の恩返し」とグリム童話「キツネと馬」を比較し、両文化におけるキツネの役割の違いを分析する。

③	「ファンタスティック Mr. Fox」における狐	映画『ファンタスティック Mr. Fox』を題材に、主人公がヨーロッパの伝統的な「キツネ像」をどのように継承しているか、また現代においてどのような新たな象徴性を帯びているかを考察する。
④	芸術史における兎	独仏ドキュメンタリー映画『素晴らしき長耳たち』を鑑賞し、美術史におけるウサギの表象の変遷をたどる。
⑤	昔話と童話における兎	日本の昔話「かちかち山」とグリム童話「うさぎとはりねずみ」を比較し、物語における「暴力」と「知恵」の役割の違いを分析する。
⑥	「ハーメルンの子供たち」におけるネズミ（ラット）の象徴性	「ハーメルンの笛吹き男」の伝説と、それが現代の政治風刺（カリカチュア）でどのように引用されているかを比較・分析する。
⑦	聖書におけるシンボル動物たい日本（中国）におけるシンボル動物	聖書における動物の象徴的意味を分析する。特に「ネズミ」を事例として取り上げ、中国文化（干支）における「富と繁栄」のイメージと、聖書における「不浄と災い」の象徴性を比較・対照する。
⑧	異類婚姻譚とシンボル動物（1）	日本の「鶴女房」とヨーロッパ広域に伝わる「白鳥の乙女」伝説を比較し、異類婚姻譚（動物との結婚）という普遍的なモチーフの共通構造と文化的差異を分析する。
⑨	異類婚姻譚とシンボル動物（2）	アンデルセンの原作『人魚の姫』を、単なる恋愛譚ではなく「不滅の魂」をめぐる実存的な物語として再読する。
⑩	世紀末の白鳥	世紀末芸術における「白鳥」のイメージを比較する。
⑪	王様としてのカエル	シェイクスピアの『マクベス』を分析する。
⑫	ロバとロバの皮の象徴性	ジャック・ドゥミ監督の映画『ロバと王女』におけるロバの多層的な象徴性を分析する。
⑬	クリスマスと食材としての象徴動物	クリスマスの「牛とロバ」および「鯉とガチョウ」の象徴性を分析する。
⑭	試験・まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席及び授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course analyzes "animals" appearing in a wide range of media, including Grimm's fairy tales, Japanese folktales, Wes Anderson's films, and modern art. We will explore how familiar animals like foxes, rabbits, and swans function as different "symbols" in Japan and Europe. Students will learn that animals are not merely "cute" but serve as "mirrors" reflecting social rules, politics, and gender views. A key theme is questioning cultural stereotypes (e.g., "Japan is gentle, the West is cruel") through specific comparisons.

Learning Objectives

Students will be able to:

- Logically explain similarities and differences in Japanese and European values by comparing animal depictions in literature, art, and film.
- Objectively rethink cultural stereotypes through specific case studies.
- Improve visual media literacy by analyzing film composition, color, and artistic style.
- Understand how animals function as tools for gender expression, politics, and social satire

Learning Activities Outside of Classroom

Students are expected to read materials and gather information before and after class to engage in independent thinking and formulate their own questions. The standard study time is approximately 4 hours per week, including preparation and review.

Grading Criteria / Policy

Class participation and assignments: 60%

Final Exam: 40%

Note: Students who miss more than one-third of the classes will not be evaluated.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)	
ドイツ語圏の芸術A	2017年度以降入学者
林 志津江	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から19世紀にかけて、現在のドイツ、オーストリアとその周辺（中部ヨーロッパ）には「ドイツっばい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」といった概念を、芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では「ドイツ語圏の芸術B」（秋学期開講）とあわせ、近代ドイツ語圏の造形芸術や音楽、建築、デザイン等を概観しながら「ドイツ語圏」あるいは「芸術」のさまざまな内実に迫ります。

【到達目標】

- 1）近代ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）とその周辺諸地域の文化・芸術に関し、知識と理解を深める。今日に一般的な「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という社会通念の形成には、ドイツ語圏をはじめとする近代ヨーロッパの歴史が大いに関係しています。
- 2）造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れること。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけでなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質でもあります。
- 3）芸術と社会をめぐる文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・諸芸術のうち、今学期は近代初期～19世紀の建築と造形芸術、音楽を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、時代背景、受容とその影響について確認する作業が中心です。
- ・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
- ・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
- ・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行います。提出物のフィードバックとあわせ適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第2回	近代の視覚（1）－キリスト教思想と修道院	「大聖堂」の建設／「スコラ」と「ユニヴェルシタス」／ロマネスク様式からゴシック様式へ
第3回	近代の視覚（2）－フランス絶対王政の影響	宮殿と庭園／「バロック」と「ロココ」と「新古典主義」／眼前の風景＋ルネサンスの英知

第4回	イタリアに憧れて－息子に「音楽家」にしたい	貴族とお城とオペラの関係／モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782年）・『魔笛』（1791年）など
第5回	「趣味は音楽鑑賞」－音楽ビジネスの始まり	市民階級の台頭／エステルハーゼ家と音楽出版／ハイドン『交響曲第94番ト長調（驚愕）』（1792年）
第6回	革命とナポレオン後の世界（1）－真理を「聴く」	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品67（「運命」）』（1808年）・『交響曲第九番ニ短調作品125（合唱付）』（1824年）
第7回	革命とナポレオン後の世界（2）－ロマン派の世界	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814年）／ゲーテ『ファウスト（悲劇第一部）』（1808年）
第8回	プロイセンの台頭－「ドイツ人なら誰でも知ってる絵」？！	メンツェル『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）ほか
第9回	「音楽の国ドイツ」の成立（1）－「合唱」と「伝統」	F.ヘンゼルの音楽サロンとベルリンの「ジグ・アカデミー」／メンデルスゾーン＝バルトロディによるバッハ『マタイ受難曲』再演（1827年）
第10回	「音楽の国ドイツ」の成立（2）－ライブツィヒとヴィーン	「フィルハーモニー」と「定期演奏会」／「有名な曲」を作る方法
第11回	「音楽の国ドイツ」の成立（3）－フランスには負けられない？！	「音楽学校」と「スター誕生」／音楽家の営業活動／ピアノの先生と「家庭の音楽」
第12回	装飾とデザイン（1）－ヴィーン世紀末の都市計画	城壁の撤去とリング通り／O.ヴァーグナーによる都市計画／ヴィーン工房とヴィーン分離派
第13回	装飾とデザイン（2）－産業革命とユークントシュティール	古のヴィーンを優雅なベンチと曲木の椅子で蘇らせる／カフェーハウスの芸術家たち
第14回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ・授業資料に再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品をインターネット上やカタログ等で見る／聴くなどできればなお良いです。
- ・コンサート／ライブや観劇、映画館・展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

- ・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
- ・石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会）2014年
- ・高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）1990年
- ・神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社）1995年
- ・饗庭孝男、伊藤哲夫、加藤雅彦、小宮正安、西原稔、檜山哲彦、平田達治『ウィーン 多民族文化のフーガ』（大修館書店）2010年
- その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
- ・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・紙媒体で利用できる筆記用具

- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)	
ドイツ語圏の芸術B	2017年度以降入学者
林 志津江	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金4/Fri.4	
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ベルリンの物語】二度の大戦と都市の分断・再統一を経験したドイツとその首都であるベルリンは、圧倒的な強度で描かれ続けているメトロポールです。この授業では、ベルリンあるいはドイツを舞台とする絵画や文学作品、映画（劇映画）、映像作品を通して、ベルリンとドイツを描く映像表象の形式・様相を確認するとともに、変化し続けるメトロポールの姿からその社会の内実に迫ります。春学期開講の「ドイツ語圏の文学A」と比べると、格段に「女性」「弱者」「マイノリティ」がクローズアップされる内容かと思います。多様性とマージナルなものに対する眼差しの中にこそ、都市と国家の分断の歴史が鋭く見出されるのかもしれません。

【到達目標】

- 1) ドイツ（語圏）とその周辺諸地域の歴史と文化に関する知識と理解を深める
- 2) 文学作品や劇映画の読解を通じて、美的形式を分析する抽象的な議論に慣れる
- 3) 文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・20世紀～現代の造形芸術（絵画）、映画および文学作品の映像二次創作を時系列的に扱います。
- ・各回、担当者による解説を行います。文学・映像作品を扱う回では次いで該当テキストの抜粋を読み、映画の該当部分の内容を確認します。
- ・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
- ・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
- ・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行います。提出物のフィードバックとあわせて適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第2回	大都市の誕生ー表現主義の絵画	E.L.キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912年）『ポツダム広場』（1914年）など
第3回	地下鉄の走る街・映画の時代	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その1／W.ルットマン『ベルリンー大都会交響楽』（1927年、ドイツ）

第4回	大都会で見つける人間の絆	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その2／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
第5回	「エル・ドラド」の世界・大都市の光と影	「両性具有」というイメージの流行／O.ディックス『大都会』（1927/28年）／C.シャート『ソーニャ』（1929年）など
第6回	文化／映画産業の現実ーサイレントからトーキーへ	H.マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーク『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その1
第7回	魅惑的な映画スターー「ニーチェ小説」から「脚線美」へ	H・マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーク『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その2
第8回	「ベルリン／都会で成功したい」	E・ケストナー『ファビアンーあるモラリストの物語』／映画『さよなら、ベルリン またはファビアンの選択について』（2021年、ドイツ）
第9回	一度きり（比類なき）の分断・一度きりの人生	L・クラウメ『僕たちは希望という名の列車に乗った』（2019年、ドイツ）
第10回	支配者にとってベルリンとは	L・デイトン『ベルリンの葬送』（1964年）／G・ハミルトン『バーマーの危機脱出』（1966年、英国）
第11回	壁の向こう側	L・ハウスマン『ゾンネンアレー（太陽通り）』（1999年、ドイツ）／W・ベッカー『グッバイ・レーニン』（2002年、ドイツ）
第12回	映画の時間・再統一の空気	T・ティクヴァ『ラン・ローラ・ラン』（1997年、ドイツ）
第13回	ミレニアル世代のリアリティ	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その1
第14回	ロードムービーの誘惑	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ・授業資料に再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品を読んだり観たりできるとな幸いです。
- ・映画をみる／映画館へ行く、コンサート／ライブや観劇、展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

- ・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
- ・W.ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など [浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』（ちくま学芸文庫）1995年/1996年所収]
- その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
- ・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・紙媒体で利用できる筆記用具

- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

(Century of image - Berlin Story) This course introduces cinema and visual culture from the era of german modernism (Berliner Moderne) and contemporary works, especially deal with "Berlin" as metropole and divided West- and East Germany as well as after reunification. In the course, we also focus on the sense of big city (Großstadt) and its people that has been developed intensively by Weimar classics as well as by entire German modernism and culture. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

ドイツ語圏の公共哲学A

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語圏における社会哲学・公共哲学の展開を、とりわけ20世紀における「批判理論」(Kritische Theorie)に着目しながら、概観します。

「批判理論」(あるいはその揺籃の地にちなんで「フランクフルト学派」)と呼ばれる思想潮流に属する哲学者たちは、個人と社会の関係をめぐる哲学理論を展開するとともに、実践的な歴史や政治の諸問題に対する公共の議論に参画してあります。個人が社会によって構成されているという自己反省は、現実の人々がいかに既存の社会体制によって歪められているかという批判的洞察と不可分なのです。だからこそ批判理論は、ファシズムの台頭やホロコーストを可能にしてしまったドイツ社会と対峙しています。授業においては、社会的・政治的コンテクストを踏まえつつ、批判理論の哲学者たち(ベンヤミン、ホルクハイマー、アドルノ、ハーバーマスら)の言説を検討し、その思想内容を理解・考察することが目指されます。

【到達目標】

- (A)「批判理論」における)ドイツ語圏の社会哲学・公共哲学の議論を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、社会的・政治的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示(必要に応じて配布)します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	批判理論における社会哲学・公共哲学とは？	個人と社会の関係についての自己反省と既存体制の内在的批判
第3回	批判理論の背景	20世紀ドイツの「危機」意識とファシズムの台頭 西欧マルクス主義とフロイト思想
第4回	批判理論の生成 (1)	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」

第5回	批判理論の生成 (2)	ベンヤミン「歴史哲学テーゼ」と「進歩」への問い
第6回	批判理論の生成 (3)	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第7回	批判理論の展開 (1)	ファシズムと反ユダヤ主義、権威主義的パーソナリティ
第8回	批判理論の展開 (2)	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」への問い
第9回	批判理論の展開 (3)	68年運動と批判理論 ハーバーマスと「公共圏」の思想、コミュニケーション的行為の理論
第10回	批判理論と社会 (1)	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」
第11回	批判理論と社会 (2)	東西ドイツの再統一 ハーバーマスとデリダのヨーロッパ論
第12回	批判理論と社会 (3)	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティへの反省
第13回	批判理論の社会哲学のこれまでとこれから	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望めます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望めます。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・細見和之『フランクフルト学派 ホルクハイマー、アドルノから21世紀の「批判理論」へ』中央公論新社〔中公新書〕
 - ・三島憲一『戦後ドイツその知的歴史』『現代ドイツ統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
 - ・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点(リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価)40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を別々に履修することができますが、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with social philosophy and public philosophy in the German speaking region (especially regarding Critical Theory).

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand Critical Theory's social philosophy, (B) examine it from social and political perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA (哲学/Philosophy 300)

ドイツ語圏の公共哲学B

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語圏における公共哲学・社会哲学の展開を、とりわけ「公衆」(Publikum)や「公共圏」(Öffentlichkeit)という概念に着目しながら、概観します。

現在、私たちは、単に個人として(「私」として)生きるのみならず、様々な人々と共に社会という場で(「私たち」として)生きています。個人と社会というこの二項の関係をめぐっては、公共哲学・社会哲学において、「公衆」や「公共圏」の概念とともに、様々な議論が展開されてきました。このことは、社会的存在としての人間を問うことであると同時に、民主主義体制や憲法のあり方といった政治の問題を考察することにも通じています。授業においては、こうした社会的・政治的な問題意識も踏まえつつ、ドイツ語圏を中心とした哲学者たち(カント、キルケゴール、ハイデッガー、シュミット、アーレント、ハーバーマースら)の言説を検討し、その思想内容を理解・考察することが目指されます。

【到達目標】

- (A)「公衆」・「公共圏」をめぐるとドイツ語圏の公共哲学・社会哲学の議論を理解できる。
 (B)扱われた哲学・思想を、社会的・政治的視座から考察できる。
 (C)扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示(必要に応じて配布)します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	「公衆」・「公共圏」をめぐると公共哲学・社会哲学とは？	個人と社会の関係および「公衆」・「公共圏」概念をめぐると議論の確認
第3回	カントの公共哲学(1)	「公衆」による啓蒙と理性の公的使用
第4回	カントの公共哲学(2)	公開性の原理と公共の福祉
第5回	「大衆」と公共哲学(1)	キルケゴールとハイデッガーの大衆論

第6回	「大衆」と公共哲学(2)	シュミットの議会議論と政治的決断主義
第7回	アーレントの公共哲学(1)	複数性からみる公共的領域
第8回	アーレントの公共哲学(2)	政治的権力と政治的自由
第9回	ハーバーマースの公共哲学(1)	公共性の構造転換とコミュニケーション的行為
第10回	ハーバーマースの公共哲学(2)	討議デモクラシーと憲法パトリオティズム
第11回	宗教と公共哲学(1)	公共圏における宗教と世俗言語への「翻訳」
第12回	宗教と公共哲学(2)	ポスト世俗の社会と「相互学習」
第13回	「公衆」・「公共圏」をめぐると公共哲学のこれまでとこれから	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・齋藤純一／谷澤正嗣『公共哲学入門 自由と複数性のある社会のために』NHK出版
 - ・川崎修／杉田敦(編)『現代政治理論 新版補訂版』有斐閣
 - ・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点(リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価)40%、学期末課題もしくは試験の評価60%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoomに接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を別々に履修することができますが、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with public philosophy and social philosophy in the German speaking region (especially regarding the concept of "the public").

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of public philosophy in the German speaking region, (B) examine it from social and political perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

HIS300LA (史学 / History 300)

ドイツ語圏の歴史A

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代世界とドイツの歴史

この授業では、「長い19世紀」における近代ドイツの発展を、世界のさまざまな国と比較しながら概観し、その特殊性と普遍性について理解することを目的とする。比較の対象としては、国民国家・植民地国家として先行したイギリス・フランスや 国民国家として同時期に成立したイタリア、ドイツ語圏のもう一方の中心であったハプスブルク君主国（オーストリア）、さらにアメリカ合衆国や明治・大正期の日本を想定する。

【到達目標】

ドイツ史において18世紀の末から20世紀の初頭にいたるいわゆる「長い19世紀」は、激動の時代であった。この時代、ドイツはナポレオン戦争や1848/49年の革命を経て統一された国民国家への歩みを始動し、政治的に分立していた多くの領邦が1871年にドイツ帝国として統一された。同時に産業革命を経験して経済的にも大きく発展し、ヨーロッパ有数の強国として確固とした地位を占めるようになった。この時代は第一次世界大戦（1914-1918）によって終わりを告げる。

この授業では、「長い19世紀」のなかで世界史的に見て重要性を有するトピックを4つのモジュールに分けて扱う。モジュールは以下の通りである。

1. ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり
2. 近代国家の世界基準？ 一国民国家と自由民主主義
3. 資本主義産業社会の繁栄と矛盾—19世紀後半の経済と社会
4. 国連なき時代の外交と第一次世界大戦

これらのモジュールにより、今なお大きな影響力を持つさまざまな制度や仕組みがつくられた近代という時代を理解するとともに、その地域的な多様性をドイツを中心として理解することが可能となる。そのことを通じて、現代の日本の状況に対しても批判的な考察をおこなう視座を獲得することができるだろう。

なお、20世紀初頭以降の時代については、秋学期開講の「ドイツ語圏の歴史B」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

それぞれのモジュールは、概説、演習、発展という3つのパートで構成される。

まず、概説では、モジュールの対象とする時代についてドイツをはじめとするヨーロッパ各国の状況を学び、その特徴について考える。19世紀の社会がどのようなものであったかを理解することは、続く20世紀の時代を理解するためにも欠かせない。

次に、演習では、モジュールのテーマにかかわるさまざまな史料を取り上げ、その史料を解説することで得られる情報を分析し、理解を深める。取り上げる史料は文書だけでなく画像・映像や芸術作品を含める（テキストは日本語のものを用意する）。

最後に、発展では、それまでの2つのパートの内容をふまえ、ドイツだけでなく他国の状況と比較し、歴史の学びを多面的なものとする。

参加者はいずれのモジュールにおいても主体的な参加が求められる。毎回リアクションペーパーを提出するとともに、各モジュールの発展パートでは自分が選択したテーマに関し簡単な発表をおこなう（少なくとも1回以上）。それらをもとに期末レポートを執筆する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ語圏の特徴とは何か、なぜその近代の歴史を学ぶのかについて考える。
第2回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」概説	19世紀初頭の神聖ローマ帝国の解体とナポレオン戦争について扱う。
第3回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」演習	啓蒙主義の出現と友に始まった新しい公共性のあり方について、史料をもとに分析する。
第4回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」発展	ヨーロッパ各国における新古典主義やロマン主義の文化・芸術の展開と、それを生んだ社会について理解を深める。
第5回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」概説	19世紀前半のウィーン体制から1871年のドイツ帝国創建まで、ドイツ統一をめぐるさまざまなビジョンの競合と対立を扱う。
第6回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」演習	ドイツ・ナショナリズムの出現と発展について、モニュメントや建築・絵画などの史料をもとに解説する。
第7回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」発展	1848/49年にヨーロッパを揺るがした革命の経緯と、そこに参加したさまざまな勢力の置かれた状況とその政治的要求を比較分析する。
第8回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」概説	資本主義の発展と、工業化と都市化の進展による社会の変容について扱う。
第9回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」演習	市民層と労働者階級や下層民との関係、社会のジェンダー秩序構造について論じる。
第10回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」発展	19世紀後半のヨーロッパでは各国でさまざまな芸術文化が開花した。それら新たな芸術潮流について扱う。
第11回	第4モジュール「第一次世界大戦」概説	：第一次世界大戦はどのようにして勃発し、どのように進化したのか、史上最初の「総力戦」について概観する。
第12回	第4モジュール「第一次世界大戦」演習	大戦の結果それまでのヨーロッパ社会はどのように変化したのか。大戦をどのように記録し、評価し、表象したのか。さまざまな史料から読み取る。
第13回	第4モジュール「第一次世界大戦」発展	大戦に関わった各国でのその影響の違いや、大戦後の社会の発展を取り上げる。
第14回	総括と展望	「長い19世紀」とはどのような時代だったのかを総括し、1920年代以降の歴史への展望をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業への参加・リアクションペーパー(30%)、各モジュール第3パートでの報告(20%)、期末レポート(50%)により総合的にこなう。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of modern Germany's development during the "Long Nineteenth Century," comparing it with various other nations, and to understand its particularities and universal aspects. Countries for comparison include Britain and France, which preceded Germany as nation-states and colonial powers; Italy, which emerged as a nation-state during the same period; the Habsburg Monarchy (Austria), the other major center of the German-speaking world; as well as the United States and Japan during the Meiji and Taisho periods.

This course examines topics of global historical significance within the "Long Nineteenth Century," divided into four modules. The modules are as follows:

1. The Napoleonic Wars and the Dawn of Modern Europe
2. The Global Standard of the Modern Nation-State?— Nation-States and Liberal Democracy
3. The Prosperity and Contradictions of Capitalist Industrial Society— Economy and Society in the Late Nineteenth Century
4. Diplomacy in the Era Without the UN and World War I

These modules enable students to understand the modern era, which created various systems and mechanisms still exerting significant influence today, while also grasping its regional diversity, centered on Germany. Through this, students will gain a perspective for critically examining the situation in contemporary Japan.

The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

Grading will be based on a comprehensive evaluation of class participation and reaction papers (30%), presentations in Part 3 of each module (20%), and the final report (50%).

HIS300LA（史学 / History 300）	
ドイツ語圏の歴史B	2017年度以降入学者
辻 英史	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位	
定員制(30)	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ナチズムを中心に20世紀のドイツ語圏の歴史を扱う。ナチスとその支配をドイツ＝ヨーロッパ史の文脈のなかに位置づけ、その特質を理解することを目的とする。

【到達目標】

20世紀の前半のドイツを中心とするヨーロッパの状況について学ぶ。とくに、歴史上例のない破壊と犯罪行為をおこなったナチ政権の成立に至る過程とその支配のイデオロギーや構造、およびナチ政権の下での「普通の人びと」の日常生活について理解する。ナチスの引き起こした第二次世界大戦とユダヤ人迫害（ホロコースト）を、そのヨーロッパワイドな広がりという文脈において理解する。さらに、大戦後から現代に至るまでのナチスをめぐる歴史認識についても考察する。

なお、19世紀末までの時代については、春学期開講の「ドイツ語圏の歴史A」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は以下の3つのパートからなる。

- ①概説：政治・経済を中心に、時代の流れを説明する。
 - ②論点：経済・社会・文化を中心に、その時代の重要な特徴をいくつか抜き出し、解説する。
 - ③演習：それまでに得た知見を踏まえ、同時代史料（文書、画像、映像、芸術作品など）を読解し、解釈する。史料は日本語のものを用意する。
- 参加者は随時意見を述べたり、ディスカッションに参加することを要求される。また、毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。提出課題は次回授業の冒頭でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの近現代史における特殊性と他地域との共通性について知る。
第2回	近現代ドイツ史の歩みとナショナリズム	ナポレオン戦争からドイツ帝国創建にいたるドイツのナショナリズムの発展を概観する。
第3回	第一次世界大戦とその帰結	ヴェルサイユ体制と敗戦国ドイツの処遇について学ぶ。
第4回	ヴァイマル共和国の誕生	ドイツ革命、ヴァイマル共和国の成立から1920年代半ばの相対的安定期までを扱う。
第5回	ヴァイマル共和国の崩壊	世界大恐慌から、ナチ党の台頭過程を経てその権力掌握に至るまでを明らかにする。

第6回	ナチ独裁支配の確立	全権委任法や「グライヒシャルトゥンク」と呼ばれる国内支配体制の足固め、「経済の奇跡」を達成するまでを概観する。
第7回	ナチ体制への国民統合	ドイツ国民の「民族共同体」への統合と、「共同体異分子」と呼ばれた人びとの排除について扱う。
第8回	ナチ・ドイツと国際社会	ヨーロッパ・グローバルな視点から1930年代の国際情勢を明らかにする。
第9回	「電撃戦」から「総力戦」へ	第二次世界大戦の開戦の経緯とドイツの戦争遂行体制の内実について知る。
第10回	ヨーロッパ・ユダヤ人の「絶滅計画」	大量虐殺に至るユダヤ人迫害の累進的急進化のプロセスについて学ぶ。
第11回	支配と協力のあいだで	ナチ支配体制に対するヨーロッパ各国の協働と抵抗について知る。
第12回	第二次世界大戦後のドイツ（1）	「崩壊社会」と呼ばれた敗戦後の混乱から、東西ドイツの建国にいたる時期を扱う。
第13回	第二次世界大戦後のドイツ（2）	戦後の東西ドイツにおける「過去の克服」の状況、とくに戦争犯罪人の訴追の問題を扱う。
第14回	再統一後のドイツと「記憶の文化」	統一ドイツにおけるナチズムの過去に関する「記憶の文化」の形成について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。
芝健介『ホロコースト―ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書、2008年。
石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書、2015年。
芝健介『ヒトラー―虚像の独裁者』岩波新書、2021年。
ウルリヒ・ヘルベルト（小野寺拓也訳）『第三帝国―ある独裁の歴史』角川新書、2021年。
小野寺拓也／田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか？』岩波ブックレット、2023年。
原田昌博『ナチズム前夜』集英社新書、2024年。
ほか、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加(20%)、リアクションペーパー(20%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを書いてもらう時間を、毎回の授業時間の最後になるべく長く確保するようにします。フィードバックはなるべく手短にしますが、学生諸君との意見交換をいつも楽しみにしています。

【Outline (in English)】

This course covers the history of the German-speaking world in the 20th century, with a focus on National Socialism. The aim is to place the Nazis and their rule in the context of German-European history and to understand its particularities. Students will pay close attention to the process led to the establishment of the Nazi regime, which committed destruction and criminality unprecedented in history, the ideology and structure of its rule, and the daily lives of "ordinary people" under the Nazi regime. The course will also provide students with an understanding of the role of the Nazi regime in the Second World War and the persecution of the Jews (the Holocaust) in the context of its Europe-wide spread. The course will also examine historical perceptions of the Nazis from the end of the war to the present day.

Students are required to submit a reaction paper each time.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)

ドイツ語講読A

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テキストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテキストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。春学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の序説を講読する予定です。

【到達目標】

(A) 辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテキストを読解できる。

(B) ニーチェの思想を、テキストに即して精確に理解できる。

(C) 理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

はじめにニーチェの生涯や思想、著作について導入をした後、『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*)のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテキストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テキストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。受講者には積極的な参加が望まれます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。

学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認 テキストについて導入
第2回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (1)	ニーチェの生涯や思想、著作の背景について導入 7頁の精読、検討

第3回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (2)	7-8頁の精読、検討
第4回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (3)	8-9頁の精読、検討
第5回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (4)	10-11頁の精読、検討
第6回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (5)	11-12頁の精読、検討
第7回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (6)	12-14頁の精読、検討
第8回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (7)	14-15頁の精読、検討
第9回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (8)	15-16頁の精読、検討
第10回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (9)	17-19頁の精読、検討
第11回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (10)	19-21頁の精読、検討
第12回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (11)	21-22頁の精読、検討
第13回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (12)	23頁の精読、検討
第14回	春学期のまとめ 課題もしくは試験	春学期の講読内容についての整理と議論 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テキストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam

※テキストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

・独和辞典（必須）

・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社

・『ニーチェ全集9・10 ツァラトゥストラ 上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕

・須藤訓任「ニーチェ」(『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁)

・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社

その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテキスト理解、議論への参加、担当時の発表、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60%、学期末課題もしくは試験の評価40%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

・読解のスピードや方法について、受講者の人数やテキスト理解の度合いに応じて、柔軟に無理なく進めるよう努めます。

・わかりにくいドイツ語の文法事項や表現について、必要に応じて初級文法に立ち返りつつ、丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。

・オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。
- ・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれませんが。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことが大切です。
- ・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report or examination (40%).

LANd300LA (ドイツ語 / German language education 300)	
ドイツ語講読B	2017年度以降入学者
吉田 敬介	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テキストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテキストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。秋学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の幾つかの説話を講読する予定です。

【到達目標】

- (A) 辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテキストを読解できる。
- (B) ニーチェの思想を、テキストに即して精確に理解できる。
- (C) 理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

はじめに序説の内容や論点を確認した後、春学期に引き続き、『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*)のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテキストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テキストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。受講者には積極的な参加が望まれます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。

学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 序説の振り返り	授業の進め方の確認 <i>Also sprach Zarathustra</i> , 7-23 頁の内容・論点の確認
第2回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (1)	24-26頁の精読、検討

第3回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (2)	26-27頁の精読、検討
第4回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (3)	27-29頁の精読、検討
第5回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (4)	29-31頁の精読、検討
第6回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (5)	31-32頁の精読、検討
第7回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (6)	32-33頁の精読、検討
第8回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (7)	33-34頁の精読、検討
第9回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (8)	34-36頁の精読、検討
第10回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (9)	36-37頁の精読、検討
第11回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (10)	38-39頁の精読、検討
第12回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (11)	39-41頁の精読、検討
第13回	<i>Also sprach Zarathustra</i> 講読 (12)	41-44頁の精読、検討
第14回	秋学期のまとめ 課題もしくは試験	秋学期の講読内容についての整理と議論 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テキストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam

※テキストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

- ・独和辞典（必須）
 - ・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
 - ・『ニーチェ全集9・10 ツァラトゥストラ 上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
 - ・須藤訓任「ニーチェ」(『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁)
 - ・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテキスト理解、議論への参加、担当時の発表、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60%、学期末課題もしくは試験の評価40%です。成績評価に際しては、【到達目標】(A)～(C)を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・読解のスピードや方法について、受講者の人数やテキスト理解の度合いに応じて、柔軟に無理なく進めるよう努めます。
- ・わかりにくいドイツ語の文法事項や表現について、必要に応じて初級文法に立ち返りつつ、丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。

・オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。
- ・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれませんが。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことが大切です。
- ・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report or examination (40%).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiやwebclassにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments

(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技科目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワーク「他己紹介」を通じたアイスブレイク。（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	運動の心理的効果 バドミントン	運動の心理的効果について、気分調査尺度を用いて検証する。（講義及び実習）
5	運動の身体的効果 バドミントン	運動の身体的効果について学ぶ（講義及び実習）

6	技術を高める効果的な練習法：注意の焦点 バスケットボール(+派生バスケ)	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として注意の焦点を学ぶ。（講義および実習）
7	技術を高める効果的な練習法：フィードバック法 ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてフィードバック法を学ぶ（講義および実習）
8	技術を高める効果的な練習法：運動イメージ ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として運動イメージを学ぶ（講義および実習）
9	技術を高める効果的な練習法：ブロック・ランダム法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてブロック・ランダム法を学ぶ（講義および実習）
10	技術を高める効果的な練習法：観察学習法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として観察学習法を学ぶ（講義および実習）
11	効果的な練習方法の探索 卓球	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する（講義及びグループワーク）
12	効果的な練習方法の実践 ビックルボール	「効果的な運動学習法の探索」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する（講義および実習）
13	Tea(お茶)とスポーツユニホック	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。

ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。（講義）
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	プレッシャーとスポーツ：実践 バスケットボール(+ 派生バスケ)	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）

5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
6	プレッシャーとスポーツ：あがりへの対処 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ（講義および実習）
7	スポーツの価値 卓球	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質的価値を学ぶ（講義および実習）
8	Tea(お茶)とスポーツ 卓球	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
9	運動の功と罪 卓球	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ（講義および実習）
10	ニュースポーツと地域活性 ネオテニス	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義および実習）
11	スポーツ栄養 ネオテニス	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ（講義および実習）
12	睡眠の効果 ピククルボール	睡眠は健康に大きな影響を及ぼす。睡眠の効果について学ぶ（講義および実習）
13	スポーツとコーピング ユニホック	社会生活を営む中で、様々な心理的ストレスを受ける。ストレスに対処する方法を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括およびレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	(講義) スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	消費とスポーツ	(講義) 余暇、記号、物語
第6回	教育とスポーツ	(講義) 「効果」の誤認、規格化、体罰
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピックルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピックルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	社会階層とスポーツ	(講義) 社会移動、ハビトゥス、再生産
第14回	科学とスポーツ	(講義) 必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度(68%)、講義授業後に提出する課題(8%×4=32%)の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません(講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします)。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3(10回出席)に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか(盗用・剽窃などの不正行為をしていないか)

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にいただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第6回	メガスポーツイベント	（講義）レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナリズム
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピククルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	障害とスポーツ	（講義）感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第14回	差別とスポーツ	（講義）歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度(68%)、講義授業後に提出する課題(8%×4=32%)の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません(講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします)。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3(10回出席)に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか(盗用・剽窃などの不正行為をしていないか)

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることができるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks ($8\% \times 4 = 32\%$).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）		3	身体運動と健康（講義）	体力測定フィードバックおよびレポート作成を行う。
スポーツ科学A				運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
朝比奈 茂		4	ヨーガの哲学とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月3/Mon.3		5	ヨーガの起源とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
単位数：2単位		6	ヨーガと呼吸（講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
定員制（20～30）		7	スポーツウォーキングの概要（講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉		8	スポーツウォーキングと基本技術（講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、慣性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		9	スポーツウォーキングの基本姿勢（講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を理解し実践する。
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。		10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果（講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。		11	スポーツウォーキングと健康（講義および実習）	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
【到達目標】		12	ヨーガと Meditation（瞑想）（講義および実習）	Meditation について概説し、ヨーガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。		13	ヨーガと健康（講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。		14	まとめ（講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。				
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。				
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。				
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べるができる。				
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。				
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。				
9. スポーツ傷害について説明できる。				
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【主な授業方法】				
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment				
【授業の進め方と方法】				
本講義は対面授業を基本として実施する。				
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。				
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。				
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。				
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
あり / Yes				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス（対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。		
2	体力測定（講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。		
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】				
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。				
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。				
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。				
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。				
【テキスト（教科書）】				
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。				

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986
 佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
 この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
 配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
 それ以外については、随時メールにて対応する。
 オフィスアワーとして毎週月曜日の 16 時 50 分～18 時 30 分までの 100 分を設ける。
 オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）		
スポーツ科学B		2017年度以降入学者
朝比奈 茂		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3		
単位数：2単位		
定員制(20～30)		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。		
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。		
【到達目標】		
1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。		
2. スポーツウォーキングについて説明できる。		
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。		
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。		
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。		
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べるができる。		
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。		
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。		
9. スポーツ傷害について説明できる。		
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment		
【授業の進め方と方法】		
本講義は対面授業を基本として実施する。		
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。		
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。		
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。		
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス (対面)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 (講義および実習)	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、慣性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨーガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 (講義および実習)	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ (講義：課題の提示)	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。		
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。		
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。		
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。		

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986
 佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
 この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
 配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
 それ以外については、随時メールにて対応する。
 オフィスアワーとして毎週月曜日の 16 時 50 分～18 時 30 分までの 100 分を設ける。
 オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。

ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。

2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

- 1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
- 2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
- 3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
- 4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
- 5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。

ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。

4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ること、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合を展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。

第8回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	集団的技術（三段攻撃の使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60％）を主な基準として、筆記試験（40％）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

[Learning Objectives]

- 1.Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
- 2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
- 3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
- 4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（スポーツ科学B）は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて（講義）	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる（実習&講義）	スポーツ科学Bからの受講者のために各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団技術を復習する。
第5回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第9回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、授業内でのレポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

[Learning Objectives]

- 1.Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
- 2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
- 3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
- 4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）	
スポーツ科学A	2017年度以降入学者
中澤 史	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位	
定員制(20～30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、安全講習、トレーニングの理論の学習、トレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進する栄養、サプリメント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、トレーニング内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
4	グループワーク1	描画法を用いたグループワークに取り組む（講義）
5	グループワーク2	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
6	トレーニングの理論を学ぶ	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義）

7	トレーニングの理論と実習3	サプリメントとその摂取方法について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	栄養不足が招く悪影響について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	スポーツ現場での栄養指導について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	栄養摂取のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	アミノ酸の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	脂質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	糖質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. ①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20%の配分として総合評価します。
2. 本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
5. 授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定します。本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修が理想的です。
3. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

1. to learn the basic theory and methods of training.
2. to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.
3. to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.
4. to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. to practice systematic training.
2. to record your meals and sleeping hours.
3. to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2. Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、トレーニングの理論に関する学習やトレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進するリカバリーの方法、睡眠、栄養、減量のポイント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、その内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明及び受講者の決定を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
4	トレーニングに関する教養教育1	スポーツ傷害に関する予備知識を習得する（講義）
5	トレーニングに関する教養教育2	トレーニング効果を高める予備知識を習得する（講義）
6	トレーニングに関する教養教育3	栄養、発汗、睡眠に関する予備知識を習得する（講義）

7	トレーニングの理論と実習3	睡眠の質について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	睡眠時間と就寝法について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	リカバリーとトレーニングの関係について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	生体リズムと体内時計について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	最終目標から逆算した栄養戦略について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	減量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	増量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. ①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20%の配分として総合評価します。
2. 本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
5. 授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定するため、本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Bの履修者は春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, students will acquire practical theories and methods of physical training that contribute to achieving individual goals such as performance enhancement, body sculpting, weight loss, and health maintenance and improvement, and will design their own training programs. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

1. to acquire practical training theory and methods
2. to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
3. to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
4. to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. to practice systematic training.
2. to record your meals and sleeping hours.
3. to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2. Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	卓球①	道具操作、ルール
第6回	卓球②	基礎動作、サーブ
第7回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第8回	ピククルボール②	基礎動作
第9回	消費とスポーツ	（講義）余暇、記号、物語
第10回	教育とスポーツ	（講義）「効果」の誤認、規格化、体罰
第11回	社会階層とスポーツ	（講義）社会移動、ハビトゥス、再生産
第12回	ピククルボール③	戦術、ポジショニング
第13回	卓球③	ダブルスの動き方
第14回	科学とスポーツ	（講義）必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にいただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第6回	ピククルボール②	基礎動作
第7回	ピククルボール③	戦術、ポジショニング
第8回	ピククルボール④	ダブルスゲーム
第9回	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第10回	メガスポーツイベント	（講義）レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナルリズム
第11回	障害とスポーツ	（講義）感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第12回	卓球①	道具操作、ルール
第13回	卓球②	基礎動作、サーブ
第14回	差別とスポーツ	（講義）歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることができるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks ($8\% \times 4 = 32\%$).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を、健康づくりの三本柱である「ストレッチング」「ジョギング」「ストレングス（筋力トレーニング）」を通して改善し、心身のコンディショニングを整えることを目的としたアクティブラーニング型の科目です。

受講者自身が体を動かしながら学ぶ実践的なプログラムを通して、コンディショニングに関する基礎的な知識と、日常生活に応用できる実践力を身につけます。2年生以上の学生を対象とし、自らの健康管理を主体的に行うためのスキル習得を目指します。

【到達目標】

1. トレーニングの原理・原則および運動の功罪を理解している。
2. スマートフォンアプリ等を用いて、身体コンディショニングに関わる測定と記録が正しく行える。
3. ストレッチングを目的に応じて正しく実践できる。
4. ジョギングまたはウォーキングを安全かつ適切なフォームで行える。
5. ストレングストレーニングを安全に実施し、その効果をレポートとしてまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。

- 1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
 - 2) ウォームアップ時にセルフコンディショニングチェックを行う
 - 3) 授業のテーマに取り組む
 - 4) ウォームダウンを行う
 - 5) リアクションペーパーを提出する
- 授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラウドルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	＜トレセン＞ ①Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価
3	シェイプアップ・トレーニングI	＜トレセン＞ ①ストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する

4	筋力の測定	＜トレセン＞ ストレングスマシンを利用した筋力測定と評価を行う
5	シェイプアップ・トレーニングII	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（大きな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
6	有酸素能力の測定	＜トレセン＞ ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う
7	シェイプアップ・トレーニングIII	＜大学周辺＞ ①カルボーネン法による運動強度にしたがったウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
8	シェイプアップ・トレーニングIV	＜大学周辺＞ ①ウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
9	シェイプアップ・トレーニングV	＜トレセン＞ ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニングVI	＜トレセン＞ ①バランスボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニングVII	＜大学周辺＞ ①ボルグ指数を意識したウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニングVIII	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（小さな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニングIX	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（ピラミッド法を用いる） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	＜トレセン＞ ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版

5. 山本ケイイチ著, 仕事ができる人はなぜ筋トレをするか, 幻冬舎新書
6. 山本利春著, 疲れたときは、からだを動かす, 岩波書店
7. 吉江和彦著, エグゼクティブが身体を鍛えるワケ, グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 春学期の学修過程をまとめたレポート：40%

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) スポーツウエア：運動を安全で効率的に実践できる
- 2) スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
- 3) タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
- 4) 飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
- 5) 必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
- 6) 筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
- 7) 室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
- 8) 替えのウエア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
- 9) 小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウエアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、スポーツ科学Bまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This active-learning course aims to improve reduced physical functions caused by hidden obesity and lack of exercise through the three pillars of health promotion: stretching, jogging/walking, and strength training. Students learn foundational conditioning knowledge and practical skills through hands-on activities.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Understand fundamental training principles and the benefits and risks of exercise.

Conduct and record physical measurements using smartphone applications.

Perform stretching appropriately for specific purposes.

Execute jogging or walking safely with proper form.

Perform strength training safely and summarize its effects in a written report.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review and practice exercises introduced in class at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, body temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements, applying course learning continuously. Standard preparation and review time is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation is based on the five learning objectives and consists of:

Participation in training during class: 30%

Reaction papers: 30%

Final report summarizing the semester's learning process: 40%

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）		【授業計画】授業形態：対面/face to face	
スポーツ科学B	2017年度以降入学者	回	テーマ
伊藤 マモル		1	ガイダンス・測定
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木3/Thu.3 単位数：2単位 定員制(20～30) その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉			内容 ＜トレセン＞ ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録とGoogleフォームへの回答 ⑦Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業は2年生以上が対象です。 トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、各自の目的に応じたトレーニング方法に着目したプログラムを作成計画し、実践した効果を検証します。 履修者自ら作成したトレーニング・プログラムを実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。		2	課題検討期Ⅰ・筋力（下肢）測定
【到達目標】 1：トレーニング器材を安全に使用できる 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる 5：トレーニングの結果を正しく記録できる 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる			＜トレセン＞ ①Inbodyを用いた測定の結果を分析し、評価を行う ②下肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		3	課題検討期Ⅱ・筋力（上肢）測定
【主な授業方法】 E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar			＜トレセン＞ ①上肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
【授業の進め方と方法】 本授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。 授業では、履修者自身が設定した目的に基づいてトレーニング・プログラムを作成し、その実践と検証を行うアクティブラーニング型の方法で進めます。前半は身体組成や筋力などの測定結果を分析し、トレーニング方法の検討とプログラムの立案を行います。後半は作成したプログラムを段階的に実践し、種目・順序・強度・方法を適宜見直しながら完成度を高めます。最終回には、実践結果の測定と効果の評価を行い、学修過程と成果をまとめて発表します。毎回、トレーニングの記録と振り返りを行い、主体的に学びを深めることを重視します。 なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。		4	課題検討期Ⅲ・柔軟性測定
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes			＜トレセン＞ ①柔軟性を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes		5	計画立案期Ⅰ・トレーニングの目的とプログラム
			＜トレセン＞ ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討し、個々に取り組む課題を明確にする
		6	計画立案期Ⅱ・トレーニングプログラムの決定
			＜トレセン＞ ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③トレーニングプログラムを作成する
		7	トレーニング課題研究Ⅰ（施設利用・実践トラブル編）
			＜教室またはオンライン＞ ①トレーニング施設の利用やトレーニング中に生じる典型的な問題を取り上げ、グループまたは個人で解決策を検討する ②提示した解答をAIで評価し、不足する知識や経験に関する情報をAIから収集して学修を深める
		8	トレーニング課題研究Ⅱ（食事・休養・コンディショニング編）
			＜教室またはオンライン＞ ①食事、休養、体調管理などコンディショニングに関する課題を提示し、グループまたは個人で解決策を検討する ②考えた解答をAIに評価させ、必要な知識や改善点をAIを活用して補いながら理解を深める
		9	計画実行期Ⅰ・トレーニングプログラム種目の再検討
			＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する

10	計画実行期Ⅱ・トレーニング強度に着目	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期Ⅲ・トレーニング方法に着目	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の実践	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する
13	効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①取り組んだ学修過程を発表する ②今後の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりでも巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した6項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 本授業の学修過程をまとめたレポート：40%

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) スポーツウェア：運動を安全で効率的に実践できる

- 2) スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
- 3) タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
- 4) 飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
- 5) 必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
- 6) 筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
- 7) 室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
- 8) 替えのウェア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
- 9) 小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウェアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずと全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

The subject is over 2nd grade.

【Course outline】

This course is designed for second-year students and above. Students develop a personalized strength-training program based on their individual goals and evaluate its effectiveness through measurement, analysis, and practice. In the first half of the course, students assess body composition, muscular strength, and flexibility. In the second half, they implement and refine their training program, concluding with an evaluation and presentation of their learning outcomes.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Use training equipment safely.

Conduct appropriate physical measurements using training devices.

Evaluate training effects based on measurement results.

Perform training methods suited to individual goals.

Accurately record training results.

Present the learning process based on the verification of training effects.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review and practice training tasks at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements to support self-management. Standard preparation and review time is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Assessment is based on the six learning objectives and consists of:

Participation in training during class: 30%

Reaction papers: 30%

Final report summarizing the learning process: 40%

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

もし授業中に大きな地震が起きて、そのまま大学に泊まることになったら？

この授業では、「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、大学で帰宅困難になった状況を想定し、一泊二日の「キャンパス型避難所演習」を行います。ライフラインが制限された環境の中で、トイレ対策、非常食、教室での就寝などを実際に体験しながら、災害時でも健康を保ち生活する力（レジリエンス）を学びます。防災を「知識」ではなくリアルな体験から学ぶ授業です。自分の身を守る力と、周囲と協力して問題を解決する力を身につけた人の参加を歓迎します。

帰宅困難という厳しい状況においても、自分の健康を損なわず、安全に滞在し、自宅に帰るための自助防災力と、協働的な問題解決力を身に付けることを目的としています。

具体的には、断水時のトイレ処理、非常食の栄養評価、教室での就寝環境が身体に与える影響などを、健康測定データと主観的記録の両面から検討し、災害時のコンディショニングを科学的に理解します。あわせて、最小限の携行品で生活の質を高める工夫をグループワークで明確にし、自立した避難者として行動する意義と、共助につながる視点を学びます。

さらに、体験から得た知見を医学・公衆衛生・歴史など多角的に整理し、現代の環境に適した実効性の高い対応策へと発展させます。最終的には、日常の備えや携行品を自ら見直し、どのような環境下でも心身の健康を保ちながら安全に行動できる判断力の獲得を目指します。

【到達目標】

1. 災害時に自分の健康と安全を守る行動判断ができる。
2. トイレ・食事・携行品・就寝環境の課題を見つけ、改善案を示せる。
3. グループで協働し、実行可能な解決策をまとめられる。
4. 専門的な見地に立って、解決策を検証・修正できる。
5. 学びを日常の備えに生かし、自助防災力を高められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

本授業はオータムセッション期間中に市ヶ谷キャンパスにおいて開講します。授業の定員は30名とします。履修希望者が定員を超過した場合は履修者を選抜します。

授業は、講義・演習・体験学習・グループワークを組み合わせ実施します。

第1回から第4回の事前授業では、災害に関する基礎知識、帰宅困難者の実態理解、健康リスクや避難時の課題抽出、健康に関するデータの計測方法などを学びます。

第5回から第14回は一泊二日の大規模自然災害後の帰宅困難者を疑似体験する授業を行います。

本授業は「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、教室での宿泊を通じて、トイレ衛生、非常食、携行品、就寝環境などの生活課題を体験的に学び、体験から得られた問題について、個人・グループで解決策を検討し、その評価と知識補足を通じて内容を深化させます。最終回では体験結果をレポートとしてまとめ、自助防災力の向上につなげます。

【履修希望者へ】

1. 履修申請方法

履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。

●申込フォーム（Google フォーム）

<https://forms.gle/npwtTr725NCiv9Yi8>

●申請期間

2026年3月14日（土）17:00～3月31日（火）12:00

※期間外の申請は受け付けられません。

2. 申込に関する注意

1) 履修者選抜について：本科目には定員があります。

応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。

2) 申請後の流れ・注意事項

①申込完了後、Google フォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。

内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。

※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。

②履修者の決定は**4月9日（木）**です。何らかの事情で履修を取り消す場合は、**4月5日17:00**までに、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。

※ mam01@hosei.ac.jp

③履修登録は**2026年度春学期**に所属学部事務局が一括して登録します。学生自身による履修登録は不要です。

④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。受講しなかった場合の成績は**E**評価となるので注意してください。

3) 授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。

4) 申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	9月11日（2限）：ガイダンス	1) 防災教育授業の目的 2) 授業におけるリスク管理と誓約 3) 大規模自然災害時の帰宅困難者の実態把握 4) 一泊二日の疑似的帰宅困難者体験を「実証実験」と定義するマインドセット
2	9月11日（3限）：健康リスク・ブレインストーミング	1) グループワーク（アイスブレイク） 2) 帰宅困難者に生じる身体的・精神的な健康問題を抽出
3	9月11日（4限）：発表と課題共有	1) 解決策を議論する 2) 発表資料を作成する 3) 発表会（グループごとの発表資料をもとに） 4) クラス全体での課題（トイレ・食・装備・睡眠）の再認識

4	9月11日（5限）：宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング	1）一泊二日の授業に関するオリエンテーション 2）健康に関する測定の意義を再確認する 3）日常の健康データ計測（歩数・睡眠・心拍等）の開始指示	12	9月14日（2限）：携行品・非常食に関する問題_自助の最適化	1）個人ワーク：今回の装備と食事の過不足を振り返り、生存と健康保持に「真に必要なリスト」を再考 2）グループ議論：「快適に過ごし、安全に再会する」ための、携行品と非常食を決定 3）栄養学・生存科学の視点から欠落を指摘してもらい、社会実装可能なレベルまで「自助」の質を引き上げる
5	9月13日（2限）：集合・疑似体験シナリオの確認	1）教室集合 2）健康測定 3）スマホ・PC以外の外部連絡制限など、疑似帰宅困難者としてのルールを徹底 4）一泊二日のスケジュールと安全管理を確認 5）自分が持ってきた「携行品」を全公開 6）何があり、何が足りないか、リスト化して現状の「自助レベル」を可視化する	13	9月14日（3限）：整理・資料作成	1）4つのテーマ（トイレ・食・携行品・睡眠）について、体験・問題抽出・グループの共有解・最終回答を整理 2）帰宅困難者となった時の多くの問題を解決するための多様なシミュレーションをグループで統合
6	9月13日（3限）：トイレ実習	1）断水したトイレでの排泄物処理を体験 2）手順の難しさ、処理袋の扱い、臭いへの懸念など、現場で直面する精神的負荷を記録	14	9月14日（4限）：レポートの作成と総括	1）健康測定結果の解析：1泊2日の心身への影響を、実体験と客観データから多角的に分析する 2）サバイバル戦略の構築：健康を維持して帰宅するための、論理的な災害対応策を構造化する 3）行動計画の策定：帰宅困難者体験の成果を、日頃の備えや「自助」をアップデートする具体的な指針としてまとめる
7	9月13日（4限）：非常食摂取	1）夕食 2）大学備蓄品等の特定食のみの摂取 3）空腹感、喉の渇き、食事の中の孤独感や焦燥感など、心理的变化をサンプリングする	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。 これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。 また、授業外学習として、事前に日常生活における簡易的な健康測定（睡眠時間、歩数、心拍数等）を各自で行ってもらいます。これは、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的とします。		
8	9月13日（5限）：健康測定・就寝準備	1）就寝前の健康測定 2）教室の床・机・椅子を使い「朝まで眠れる環境」を設営 3）この時点での疲労度とストレス値を記録	【テキスト（教科書）】 特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。		
9	9月13日（6限）：健康測定・朝食	1）起床 2）直後の健康測定 3）不十分な睡眠が身体に与えた「痛み・重だるさ」を記録 4）簡素な朝食（大学の備蓄品）を摂り、活動を再開	【参考書】 1.『自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究（千代田区キャンパスコンソーシアム）』、令和3年度～5年度の共同研究報告書 2.『最期の声 ドキュメント災害関連死』（山川徹 著 / KADOKAWA） 3.『いのちを守るために知る 災害メカニズム図鑑』（京都大学防災研究所 監修 / 二見書房） 4.『人が死なない防災』（片田敏孝 著 / 集英社新書） 5.『帰宅困難者対策ハンドブック』（内閣府 / 東京都） 6.『避難所でのトイレ対策マニュアル』（特定非営利活動法人 日本トイレ研究所 編） この他にも必要に応じて紹介する。		
10	9月13日（7限）：就寝環境に関する問題_安眠と健康維持	1）個人ワーク：硬い床や椅子での就寝による身体的・精神的苦痛を言語化し、改善案を考案 2）グループ議論：互いの案を共有し、教室内の資源で可能な「健康を守る寝床」の解をまとめる 3）医学的エビデンス（エコノミー症候群等）に基づく修正と、より高度な環境改善の問いを得る	【成績評価の方法と基準】 1）授業中の活動への参画状況および授業態度（成果発表）：60％ 2）レポート・作成した資料等：40％ 授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。 ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。		
11	9月14日（1限）：トイレに関する問題_衛生管理と尊厳	1）個人ワーク：実習で感じた処理の不便さや、回数制限に伴う「水分抑制」等の健康リスクを整理 2）グループ議論：臭気・衛生・プライバシーを両立させる、受入施設でのトイレ運用ルールを策定 3）過去の災害時の公衆衛生の失敗学や、科学的消毒・処理の最新知見を引き出し、解を深める			

【学生が準備すべき機器他】

本授業は、想定外の事態に対応する「実証実験」の要素をもった授業です。

重要なことは、本授業が「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視していることです。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品については各自の判断で持参することを推奨します。

また、本授業は大学の教室内での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての同意確認書（保護者確認を含む書類）を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。

以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて説明します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えは各自で調整してください。

【その他の重要事項】

1. 本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出ること。安全確保のための離脱は成績評価に不利に働くものではありません。

2. 授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。

3. 本授業で得られた健康測定結果や議論の内容、演習風景の写真は、統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは演習終了時までに申し出てください。

4. 授業終了直後の帰宅路そのものが、最後の実証実験です。教室での体験と、自身の現在の住環境・備蓄・家族との連絡手段を照らし合わせ、即座に改善行動に移すことを強く期待します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course provides an experiential, problem-based disaster preparedness program through a one-night, two-day campus-based shelter simulation. Students experience challenges such as toilet use during water outages, emergency food, personal belongings, and sleeping conditions, while monitoring their physical and psychological responses. They refine their proposed solutions with generative AI and learn how to maintain health, make sound decisions, and strengthen personal disaster-preparedness skills.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Make safe and appropriate decisions during disasters.

Identify and improve issues related to toilet use, food, belongings, and sleeping environments.

Collaborate to develop realistic solutions.

Use generative AI to validate and refine proposals.

Apply learning to everyday preparedness and enhance personal resilience.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected, as a general rule, to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each of the 14 class sessions.

Additional tasks include reviewing materials, checking personal emergency supplies, organizing health data and notes from the simulation, and conducting basic daily health monitoring before the autumn session.

【Grading Criteria / Policy】

Class participation and engagement: 60%

Assignments and report: 40%

Attendance at all class sessions is expected as a general principle, and absences are particularly discouraged given the nature of the course, in which sports, training, and communication activities constitute core learning materials. However, the evaluation policy represents a general standard, and individual accommodations and assessments will be provided for students who are in poor health, observers, or those who face special physical circumstances that make standard participation difficult.

Evaluation will be comprehensive.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：スプリングセッション/Spring Session | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

定員制

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

もし大きな災害が起きて、避難所ではなく、自分でキャンプ生活をしながら避難する選択をしたら？

本授業は、「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、首都圏で大規模災害が発生した際に想定される「帰宅困難」状況をテーマに、1泊2日の滞在型演習を通して、健康管理・行動判断・協働行動の防災リテラシーを実践的に学ぶ社会連携フィールドワーク科目です。実際の防災環境を想定した演習やグループ活動を通して、「自分の身を守る力」と「他者と協力して行動する力」を身につけることを目的としています。

キャンプを楽しみながら、災害時に本当に役立つスキルを身につけたい人の参加を歓迎します。

日本の指定避難所における雑魚寝や集団生活は、プライバシーの欠如に加え、エコノミークラス症候群や感染症、精神的ストレスといった深刻な健康被害（災害関連死のリスク）を抱えています。また、乳幼児を擁する家族など要配慮者への対応も十分とは言えず、2021年の制度改定後も、一般避難者には「自立した避難」の知恵が求められています。

本授業では、こうした屋内避難の限界を背景に、「避難所に行かない選択肢」としての大学キャンパスでの屋外キャンプ型避難を「新しい避難スタイル」として実践的に学びます。特に、不自由な環境下で食事・睡眠・衛生を自らマネジメントする術を習得します。身体データに基づき、過酷な状況下で心身の健康を維持するためのセルフヘルスケアスキルを学びます。

【到達目標】

1. 災害時における自助行動の選択肢として「キャンプ避難」の可能性と限界を説明できる
2. 猛暑・衛生・睡眠・栄養・水分に関するリスクを理解し、対策を立てられる
3. テント設営、生活動線設計、役割分担ができる
4. 自身の健康状態をモニタリングし、異常に気づき行動できる
5. グループで課題を議論し、実行可能な解決策を導出できる
6. 実習前後の身体・心理データをもとに振り返り、科学的に考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業は、スプリングセッション期間内に、事前授業（2027年3月8日）は市ヶ谷キャンパスにて、宿泊を伴う実践演習（2027年3月11日～12日）は多摩キャンパスにおいて開講する。授業の定員は30名とする。履修希望者が定員を超過した場合は履修者を選抜します。

授業では、テント設営、生活環境づくり、健康管理、役割分担、食料・水の確保等について、学生主体で計画・実行し、その過程と成果を振り返ります。

【授業実施形態】

1. 事前授業は市ヶ谷キャンパスで行う（第1～4回授業）。

2. 事前授業では、教員から提示された課題に対して、①グループ討議⇒②問題抽出⇒③対策案作成⇒④発表（意見交換）の流れで、グループごとに「自分たちの答え」を導くプロセスを踏む。
3. 数日間の準備期間を経て、多摩キャンパスにおいて一泊二日のロールプレイ型キャンプ実習（第5～14回授業）を実施する。
4. 強い寒気や悪天候時には内容を変更または中止し、暖房設備のある校舎内に宿泊する場合がある。

【授業時間に関する注意】

本授業は、市ヶ谷キャンパスで実施する回は市ヶ谷の時間割、多摩キャンパスで実施する回は多摩の時間割に基づいて行う。キャンパスによって授業時限が異なるため、履修者は各回の実施時限を事前に必ず確認すること。

【履修希望者へ】

1. 履修申請方法

履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。

- 申込フォーム（Google フォーム）

<https://forms.gle/7BcazVda5FVytKQaA>

- 申請期間

2026年10月16日（月）17:00～11月13日（金）15:00

※期間外の申請は受け付けられません。

2. 申込に関する注意

- 1) 履修者選抜について：本科目には定員があります。

応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。

- 2) 申請後の流れ・注意事項

①申込完了後、Google フォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。

内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。

※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。

②履修者の決定は**11月24日（月）**です。何らかの事情で履修を取り消す場合は、**11月19日17:00**までに、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。

※ mamol@hosei.ac.jp

③履修登録は**2027年度春学期**に所属学部事務局が一括して登録します。学生自身による履修登録は不要です。

④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。受講しなかった場合の成績はE評価となるので注意してください。

3) 授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。

4) 申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラウドルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回：	3月8日（2限）：ガ	1) 授業の目的・評価方法・安市ヶ谷キャンパス
	イダンス&アイズブ	全配慮説明
	レイク_なぜ「生きる	2) 災害時の帰宅困難問題の共有
	力」を学ぶのか	3) アイスブレイク「もしここで災害が起きたら？」
		4) キャンプ避難という選択肢の提示
		5) 実習シナリオ骨子の共有（大地震・孤立・停電）

第2回：	3月8日（3限）：課題発見ワークⅠ_寒冷環境と健康リスクを見抜く	※教員から課題提示：「真冬に暖房と電気が止まったら何が起きるか？…誰にとって一番厳しい環境か？」 ＜ヒント＞ 1) 低体温症 2) 脱水・エコノミークラス症候群 3) 睡眠障害 4) 呼吸器感染症と乾燥 5) 火気・電力使用に伴う二次災害 6) その他
第3回：	3月8日（4限）：課題発見ワークⅡ_生存に必要な生活要素を設計する	※教員から課題提示：「48時間、生き延びるには何が必要か」 ＜ヒント＞ 1) 水 2) 食料 3) 睡眠 4) 衛生…トイレ・ゴミ 5) 体温調整 6) 防犯 7) 情報
第4回：	3月8日（5限）：安城市管理・健康管理理解_自分を守れない人は誰も守れない	宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング 1) 一泊二日の授業に関するオリエンテーション 2) 中止基準・応急対応 3) 健康に関する測定の意義と方法 4) 持参物最終確認 5) 健康測定（歩数・睡眠・心拍数等）の開始
第5回：	3月11日（2限）：多摩キャンパス キャンプ構築実習Ⅰ_災害後、安全なルートで集合せよ	1) 現地集合 2) 被災した前提の詳細シナリオ提示：役割分担 3) フィールド選定・整地 4) テント構造理解・設営講習
第6回：	3月11日（3限）：多摩キャンパス キャンプ構築実習Ⅱ_生活空間を完成させる	1) グループごとの設営完遂 2) 耐風・浸水対策 3) 動線設計 4) 簡易昼食（各自持参）
第7回：	3月11日（4限）：多摩キャンパス 火気管理とエネルギー確保_熱源を制する者は夜を制す	1) 薪・焚き付け採集 2) 火起こし 3) 安全管理 4) モバイルバッテリー残量計算 ※教員から課題提示：「スマホの電池切れ後、何を見る？」
第8回：	3月11日（5限）：多摩キャンパス 野外炊事マネジメント_限られた資源で食を成立させる	1) 下処理 2) 加熱 3) 食中毒予防 4) 水使用量管理
第9回：	3月11日（6限）：多摩キャンパス ロープワーク&空間拡張_結べる人は生き残る	1) 各種結索 2) タープ設営 3) 資材固定 4) タープやブルーシートで簡易更衣室を作る
第10回：	3月11日（7限）：多摩キャンパス 夜間安全管理・健康測定_夜をどう越えるか	1) 夕食 2) 衛生管理 3) 健康測定 4) 夜間リスク確認 5) 就寝環境整備 6) 照明・騒音環境の把握 7) 睡眠環境と他者配慮
第11回：	3月12日（1限）：多摩キャンパス 起床・健康評価・朝食_野外生活は身体に何を与えたか	1) 睡眠評価 2) 心身データ確認 3) 火起こし・朝食

第12回：	3月12日（2限）：多摩キャンパス 突発課題ロールプレイ_想定外に対応せよ	※教員から課題提示：「現場で高確率で発生する問題に対応せよ」 1) 水不足 2) 体調不良者 3) 電源喪失 4) 食料欠乏 5) 追加推奨：盗難・騒音・プライバシー問題 6) 幼児がいる家族が合流 7) 犬を連れた避難者が来た 8) 女性の更衣場所がない
第13回：	3月12日（3限）：多摩キャンパス 撤収・LNT実習_痕跡を残さず立ち去る	LNT実習：Leave No Trace Training 1) 装備清掃 2) 乾燥 3) 分別 4) フィールド点検 5) 迅速移動シミュレーション
第14回：	3月12日（4限）：多摩キャンパス 振り返りと社会実装_自助から共助へ	1) データ共有 2) 改善点抽出 3) 「理想のキャンパス避難モデル」提案 4) レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。

＜例＞

- 1) 災害時の避難生活や避難所環境に関する新聞、雑誌、書籍、Web記事等の事前確認
- 2) 授業で扱った事例や課題についての追加調査・振り返り
- 3) 実習に向けた個人装備・持参物の確認と準備
- 4) グループ課題に関する情報収集・意見整理

また、スプリングセッション前には日常生活における簡易的な健康測定（睡眠時間、歩数、心拍数等）を各自で実施する予定です。これらは、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

1. ビジュアル「生きる技術」図鑑：防災・キャンプに役立つサバイバルテクニック、かざまりんべい／子供の科学編集部（ナツメ社）
2. キャンプ×防災のプロが教える 新時代の防災術、寒川 一（学研プラス）
3. 防災のサバイバル、国崎信江／山本典生（監修）（主婦の友社）
4. ぼくらの災害サバイバルBOOK、国崎信江（監修）（主婦の友社）
5. みんなが知りたい! 自然災害のすべて：日本でおきる災害のしくみから防災へのとりくみまで、菅井貴子（技術評論社）

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動への参画状況および授業態度（成果発表）：60%
- 2) レポート・作成した資料等：40%

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくありません。ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していないため、学生の意見を取り入れながら柔軟に実施します。

【学生が準備すべき機器他】

本授業は、「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視しています。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、テントは大学が貸与し、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品（寒冷対策：シュラフ等の寝具、食料等）については各自の判断で持参してください。なお、授業で扱う健康指標の計測（活動量計・気温湿度等）に必要な機材も貸与します。

また、本授業は屋外での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての同意確認書（保護者確認を含む書類）を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。

以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて説明します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えは各自で調整してください。

【その他の重要事項】

1. 本科目の授業形態は対面形式を予定していますが、新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ状況に至った際は変更となる場合があります。授業形態の変更については、学習支援システムを通じて担当教員より周知します。なお、対面形式で実施する場合、実施場所までの交通費は参加学生の自己負担となります。

2. 本科目の扱い

本科目は2026年度スプリング・セッションとして開講され、履修登録・成績付与は2027年度春学期扱いとなります。

※以下に該当する学生は履修できません：

2026年度に卒業予定の4年生

2026年度秋学期に前期留学・SA参加予定の学生

2027年度春学期に休学予定の学生

2027年度春学期に派遣留学・SA参加予定の学生

※本科目は2026年度秋学期および年間履修上限単位に含まれません。2027年度春学期に休学した場合、または派遣留学・SA参加により成績処理が行えない場合、成績は付与されません。

3. その他

1) この授業で用いるグループLINEにおいて、誹謗中傷・迷惑行為や嫌がらせ等の悪質なメッセージが確認された場合は、授業運営上の安全管理の立場から、その発信者個人を特定し適切に対応します。

2) 2022年度は台風の影響を受け、授業計画を大幅に変更したことがありました。そのため、履修する場合はスプリングセッション期間（授業予定日：3/8～3/12）に旅行や就職活動等の個人的な予定を組むことを控えてください。

3) 3/11のテント泊について

寒冷環境下で行うテント泊に関する説明は事前授業で行います。避難所を想定したキャンプをより現実的に体験するために暖房器具は使用しません。しかし、健康障害のリスクが高まる状況では臨機応変に対応します。

4) 本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出てください。安全確保のための離脱は成績評価に不利に働くものではありません。

5) 授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。

6) 本授業で得られた実習風景の写真や健康測定結果、議論の内容は統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは授業終了時まで申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course addresses the health and privacy problems of Japan's evacuation shelters and introduces outdoor, campus-based camping as a practical "alternative evacuation style." By combining sports medicine with essential outdoor skills, students learn to manage food, sleep, and hygiene independently and maintain physical and mental health in lifeline-free environments.

The course aims to build personal disaster self-reliance by:
Health Management – Learning methods to prevent disaster-related health issues, including DVT and basic nutrition.
Practical Skills – Acquiring minimal-gear "disaster camping" techniques usable as everyday-based evacuation training.
Resilience – Developing the mindset and cooperative ability to adapt and improve living conditions under hardship.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

Explain the potential and limitations of camp-based self-evacuation as a disaster response option.

Understand risks related to heat, sanitation, sleep, nutrition, and hydration, and propose appropriate countermeasures.

Set up tents, design living flow lines, and assign roles effectively.

Monitor their own health status and take appropriate action when noticing abnormalities.

Discuss challenges collaboratively and develop feasible, actionable solutions.

Analyze pre- and post-exercise physical and psychological data and reflect scientifically on the outcomes.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to:

Review news articles, books, and online materials related to disaster shelters and evacuation conditions.

Conduct additional research and reflection on issues discussed in class.

Prepare personal gear, supplies, and necessary items for the practical camp exercise.

Collect information and organize ideas for group activities.

Spend approximately two hours on preparation and review for each class session.

【Grading Criteria / Policy】

Class participation and engagement: 60%

Assignments and report: 40%

Attendance at all class sessions is expected as a general principle, and absences are particularly discouraged given the nature of the course, in which sports, training, and communication activities constitute core learning materials. However, the evaluation policy represents a general standard, and individual accommodations and assessments will be provided for students who are in poor health, observers, or those who face special physical circumstances that make standard participation difficult.

Evaluation will be comprehensive

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiやwebclassにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments

(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A

2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「生理学的変化（特に体脂肪・体組成を対象）に貢献する諸要因の理解」、「健康関連指標（特に体脂肪・体組成）の測定と評価」、「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】
・身体活動による生理的および心理的效果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ。
・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。
その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。
また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第2回	身体活動によって変化する生理的要因1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第3回	身体活動によって変化する生理的要因2	身体組成（体脂肪量・骨格筋）について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第4回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価1	身体組成のうち、特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する（演習）
第5回	身体活動によって変化する生理的要因3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ

第6回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第7回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する（プレゼンテーション）
第8回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて、グループで改善・修正案を検討する（演習）
第9回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて、仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する（演習）
第10回	身体活動によって変化する生理的要因4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第11回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ（演習）
第12回	身体活動によって変化する生理的要因5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第13回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ（演習）
第14回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少や身体組成（骨格筋の増減など）に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめるから次回の授業に出席することを求めます。これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】
1) 授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%、2) プレゼンテーションの内容：20%、の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】
履修者はさほど多くありませんでしたが、非常に積極的に活動をしてくれました。体組成の測定時には方法によっては理解し難いように見えたものがあったため、次年度は前年度よりも時間をかけて説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備してください。

【その他の重要事項】
本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者の上限を原則20名とします。第1回目の授業時において履修希望者が20名を超えた場合には、履修人数の制限を行う予定です。そのため、第1回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

また、本授業では、演習を行う回がありますが、単に履修者が運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

なお、履修者数によって、シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B 2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、健康行動を科学的に理解し、目的や対象に合わせて計画・実践・評価することができる基礎的な知識と方法の理解と習得を目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康やQoLの本質を踏まえて、健康状態を把握するための測定方法と評価の視点を学び、客観的なデータに基づいて自らの健康行動を見直す力を養います。理論と実践を往復しながら、継続可能な健康づくりを主体的に考える態度の形成を目的とします。

【到達目標】

- ・健康行動を支える基礎理論と評価の枠組みを説明できる。
- ・自身の生活習慣を踏まえた健康行動計画を立案し、実践結果を測定・評価できる。
- ・得られたデータを適切に解釈し、改善につなげる思考力を身につける。
- ・科学的根拠に基づき、健康行動を継続的に設計・調整できる基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義と演習を組み合わせる構成とします。授業目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。そのため、前半では健康行動の理論、測定方法、評価の基礎を講義形式で学び、中盤以降は、各自が立案した健康行動計画をもとに実践と記録を行い、測定結果の共有と検討を通して理解を深めます。演習では、他者の視点を踏まえたグループ討議や発表を取り入れ、理論学習と実践的活動の両者を踏まえた主体的な学習を促します。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ（講義）
第2回	健康行動としての身体活動と心理的背景(1)	運動などの健康行動を継続するための要因を学ぶ（講義）
第3回	健康行動の計画と実践(1)	自らを取り巻く環境を確認し、健康行動（体力の維持・向上、減量、食習慣の改善等）を継続するための要因を検討し、生活習慣の改善計画を立てる（講義および演習）

第4回	健康行動の計画と実践(2)	前回策定した生活習慣の改善計画を実践した結果を報告し、他者からの情報や意見を踏まえて再検討する（講義および実践）
第5回	健康行動の効果を測定するための手法(1)	様々な健康関連指標（主に循環器系指標）の原理学び、実際の測定方法を習得する（講義および演習）
第6回	健康行動の効果を測定するための手法(2)	様々な健康関連指標（主に神経系指標・心理的指標）の原理学び、実際の測定方法を習得する（講義および演習）
第7回	健康行動実践時の生理的反応の測定と評価	運動を行った際の健康関連指標の変化（血圧など）について確認し、運動の効果について確認する（演習）
第8回	健康行動実践時の心理的反応の測定と評価	運動や食事などを行った際の健康関連指標の変化（主に神経系指標・心理指標）について確認し、運動の効果について確認する（演習）
第9回	健康行動実践時の身体的・心理的反応の根拠	運動や食事などを行った際の健康関連指標の変化について、その理論を学び、実際の健康行動への適用可能性について学ぶ（講義）
第10回	健康行動としての身体活動と心理的背景(2)	健康行動を生じさせる心理行動的要因と様々な行動変容モデルについて学ぶ（講義）
第11回	健康行動の計画と実践(3)	これまでに学習した内容を踏まえ、個々人で健康行動を行う目的を設定し、実践の可能性について検討する（講義および演習）
第12回	健康行動の計画と実践(4)	前回の授業で検討した健康行動を行った結果をグループ内で報告し、教員や他の受講生からの評価を踏まえて実践できるよう再検討する（演習）
第13回	健康観に対する意識と主観	健康観や健康行動におけるパラダイムシフトについて学ぶ（講義）
第14回	健康行動の実践とその評価	継続して実践してきた健康行動について、その成果や実践過程における状況を報告する（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、前週の授業で指示された内容について、事前に情報を収集してから授業に参加してください。また、各履修者の健康行動について報告を求める回がありますので、その回の前には教員の指示に従って準備をしてください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

※購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業における参画状況（課題への取り組みや学習状況など。単なる出席ではない）が60点、プレゼンテーションやグループでのディスカッションの状況40点、合計100点で評価を行います。

欠席・遅刻をした場合は、授業へ参画することができず、授業内の学習時間も減じることになるため、評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度休講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本授業は、「エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A」の単位を取得していることを前提としています。ただし、第1回目の授業において履修希望者が定員（20名）を下回っている場合には、担当者との面談を経て履修を認める場合があります。

また、履修者数によって、シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course develops a scientific understanding of health behavior and provides the basic knowledge and methods required to plan, implement, and evaluate health behaviors according to different purposes and target populations. Students examine not only methods for weight loss, body-fat reduction, and muscle gain, but also the essential concepts of health and quality of life (QoL). The course emphasizes measurement and evaluation of health status and encourages students to review their own behaviors using objective data. By connecting theory with practice, students develop an independent and sustainable approach to health promotion.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students will be able to:

1. Explain fundamental theories and evaluation frameworks related to health behavior.
2. Design a health behavior plan based on their own lifestyle and evaluate its outcomes.
3. Interpret collected data and apply it to behavioral improvement.
4. Continuously adjust health behaviors based on scientific evidence.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to collect information in advance based on the instructions given in the previous class and attend with preparation. There are sessions in which students report their own health behaviors, and preparation is required according to the instructor's instructions before those sessions. The standard time required for preparation and review is approximately two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grades are based on class engagement (60%), including work on in-class assignments and learning activities, and on presentations and group discussions (40%), for a total of 100%. Attendance alone does not constitute engagement. Absence or tardiness reduces opportunities to participate in learning activities and therefore significantly lowers the final evaluation.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

データから考えるスポーツ政策A 2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現在、わが国で立案・実行されているスポーツ政策および関連データの紹介を通じて、する・みる・ささえるスポーツの実態を理解し、学生自身がスポーツ政策に関する現状と課題を論理的に説明できる能力の獲得を目指します。

【到達目標】

- (1) スポーツ政策の立案・実行に関わる法や計画、組織、財源を理解している
- (2) 現在わが国で進められているスポーツ政策の全体像を理解している
- (3) わが国のスポーツ政策に関わる問題・課題を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則、対面で授業を実施します。感染症罹患等による欠席に関しては、証憑書類を提出の上で配慮対象として認めます。それ以外の欠席事由に関しては、配慮対象として認めません。また、仮登録期間に授業が行われる場合でも、その出席と課題提出状況は成績に加味しますので、初回から出席することを推奨します。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループによる成果物の発表など
- (2) 講義
- (3) 個人またはグループでのワーク

各回の授業時間内に提出されたワークやリアクションペーパーの内容は、次回授業の冒頭にて紹介・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要や進め方を説明するとともに、授業の導入として政策の枠組みやプロセスを概説する。
第2回	法・計画・組織・財政	スポーツ基本法、スポーツ基本計画の概要を理解し、わが国のスポーツ政策に関わる財源と組織を学ぶ。
第3回	地域住民(1)	国民の運動・スポーツの実態を捉え、住民のスポーツ環境をささえるスポーツ施設やスポーツクラブに関する政策と課題を学ぶ。
第4回	地域住民(2)	スポーツを通じた住民の健康増進政策、障害者スポーツ政策の現状と課題を学ぶ。

第5回	子ども・青少年	子ども・青少年の体力の現状を理解し、子ども・青少年の主なスポーツ環境となる運動部活動に関する政策を学ぶ。
第6回	国際競技力	国際競技力向上のための政策とその要素を学び、わが国の国際競技力向上のための事業やその環境を理解する。
第7回	地方創生	スポーツイベントやスポーツツーリズム等の事例をもとに、地方創生の目的および現状と課題を理解する。
第8回	産業振興	スポーツを通じた経済活性化の潮流およびわが国のスポーツ経済規模を理解し、政策による支援と課題を学ぶ。
第9回	人材	スポーツに従事する人材を概説し、人材育成に関わる政策や現在の課題を考える。
第10回	ワーク(1)	発表テーマに関するアイデア出しと問題設定を行い、統計調査等を実際に調べる。
第11回	ワーク(2)	テーマに関連した先行研究を調べ、内容を整理する。
第12回	ワーク(3)	テーマに関する重要課題を特定し、発表資料を作成する。
第13回	ワーク(4)	過去のワークをまとめた内容を発表する。
第14回	授業総括	政策評価の必要性およびその方法を概説し理解するとともに、授業全体を振り返り総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ各2時間です。予習では、参考書等の関連ページを事前に読んでおいてください。復習では、予習と同様に参考書や配付資料を再度確認するとともに、各回の授業に関する新聞記事・ニュースを閲覧してください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

菊幸一、齋藤健司、真山達志、横山勝彦. (2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3850円(税込). ISBN：978-4792380670
 笹川スポーツ財団(編). (2023). スポーツ白書 2023～次世代のスポーツ政策～. 日経印刷, 4180円(税込). ISBN：978-4915944857
 真山達志、成瀬和弥(著・編集), 日本体育・スポーツ政策学会(監修). (2021). 公共政策の中のスポーツ. 見洋書房. 2200円(税込). ISBN：978-4771035010

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した3項目について、以下の基準をもとに評価します。

- (1) 講義回のワーク…60点（第1～9回，第14回の計10回分）
- 各講義回のワークについて、6点満点で採点します（6点×10回）。
- (2) ワーク・発表…40点（第10～13回の計4回分）
- 個人またはグループでのワークおよび発表について、10点満点で採点します（10点×4回）。

最終的に(1)と(2)の合計点で評価します。なお、出席回数が9回未満の場合は、上記の成績にかかわらず単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より名称変更の上で開講するため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上でPCを毎回必ず持参してください（スマホのみは不可）。その他準備が必要な物に関しては、授業前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

本授業では「各回の授業テーマを、自身の過去の経験や現在の状況と照らし合わせて考えること」「自身の考えをアウトプットすること」「他者の意見を聞き、考えを深めること」を重視します。各回のリアクションペーパーでは、授業を受けた上で自身の意見を積極的に記述するようにしてください。

また、各回の授業テーマに関連した時事ニュースを取り上げることがあります。こうした時事ニュースに普段から触れるように努め、ニュースに対する疑問・自身の考えを持つように意識してください。

【Outline (in English)】

■ Course outline

This course aims to help students understand the situation of participating in, watching, and volunteering for sport by introducing the sport policies currently being formulated and implemented in Japan, along with related statistics. It also aims to develop students' ability to logically explain the current state and challenges of the sport policy.

■ Learning Objectives

- (1) At the end of the course, students are expected to understand the laws, plans, organizations, and finances behind the policies.
- (2) Students are also expected to understand the overall sport policies currently being implemented in Japan.
- (3) Students are required to understand problems and issues related to Japan's sport policies.

■ Learning activities outside of classroom

The time required for preparation and review for this course is approximately 2 hours each.

For preparation, students will be expected to read the reference books on topics related to the following lecture. For review, students will be expected to review the reference books and the distributed materials again. In addition to preparation and review, students are required to read the news articles related to each class session.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- (1) Lecture-based assignments...60 points (total of 10 sessions: Sessions 1-9 and 14)

Each lecture-based assignment will be graded on a scale of 6 points (6 points × 10 sessions).

- (2) Work and Presentations...40 points (total of 4 sessions: Sessions 10-13)

Individual or group work and their presentations will be graded on a scale of 10 points each (10 points × 4 sessions).

The final grade will be the sum of (1) and (2). Note that if attendance is less than 9 sessions, credit will not be granted regardless of the scores above.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

データから考えるスポーツ政策B 2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、スポーツに関連する定量・定性調査のプロセスを体験することで、データの収集方法や結果のまとめ方を学びます。これらのワークを通じて、スポーツ政策へのデータの活かし方や、データを読み解く際の注意点を理解します。

なお、本授業は春学期開講科目「データから考えるスポーツ政策A」の発展編となります。したがって、本授業の受講希望者やスポーツ政策の基礎を学びたい学生は、先に「データから考えるスポーツ政策A」を受講しておくことを推奨します。

【到達目標】

- (1) 政策プロセスにおいて必要となる社会調査法の基礎を理解しているとともに、その結果を解釈できる
- (2) 学生自身の興味関心に応じて仮説を設定し、適切な調査方法を選択できる
- (3) 社会調査から得られた結果を政策へ活用する際の注意点を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則、対面で授業を実施します。感染症罹患等による欠席に関しては、証憑書類を提出の上で配慮対象として認めます。それ以外の欠席事由に関しては、配慮対象として認めません。また、仮登録期間に授業が行われる場合でも、その出席と課題提出状況は成績に加味しますので、初回から出席することを推奨します。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループによる成果物の発表など
- (2) 講義
- (3) 個人またはグループでのワーク

各回の授業時間内に提出されたワークやリアクションペーパーの内容は、次回授業の冒頭にて紹介・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要や進め方を説明するとともに、授業の導入として問題や課題の設定方法、リサーチエスションの立て方を概説する。データセットの作成方法を学ぶ。
第2回	定量調査(1)	
第3回	定量調査(2)	Excelによる単純集計の出力方法を学ぶ。
第4回	定量調査(3)	Excelによるクロス集計の出力方法を学ぶ。
第5回	定量調査(4)	Excelによるグラフの作成方法を学ぶ。

第6回	定量調査(5)	仮説検定の考え方を理解し、結果を出力・解釈する。
第7回	定量調査(6)	自由に設定した仮説に基づき結果を出力し、発表する。
第8回	定性調査(1)	半構造化インタビューの質問項目を検討する。
第9回	定性調査(2)	半構造化インタビューを実施し、文字起こしを作成する。
第10回	定性調査(3)	文字起こしをもとに小見出しを付与する。
第11回	定性調査(4)	小見出しをもとにコードを作成する。
第12回	定性調査(5)	コードをもとに概念モデルを作成する。
第13回	定性調査(6)	完成した概念モデルを発表する。
第14回	授業総括	過去のワークをもとに定量・定性調査における注意点を理解し、授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおよそ各2時間です。予習では、配布資料を事前に読んでおいてください。復習では、予習と同様に配付資料を再度確認するとともに、ワークに再度取り組むなど、次回授業に向けて不明点がないようにしておいてください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

津島昌寛, 山口洋, 田邊浩(編). (2014). 数学嫌いのための社会統計学 第3版. 法律文化社, 2,970円(税込). ISBN : 978-4589042682
 石村友二郎, 加藤千恵子, 劉晨, 石村貞夫. (2019). Excelでやさしく学ぶアンケート調査の統計処理 2019. 東京図書, 2,750円(税込). ISBN : 978-4489023286
 佐藤郁哉. (2008). 質的データ分析法 原理・方法・実践. 新曜社, 2,310円(税込). ISBN : 978-4788510951

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した3項目について、以下の基準をもとに評価します。

- (1) ガイダンスおよび授業総括…10点（第1回，第14回の計2回分）
授業参加および提出された課題について、5点満点で採点します（5点×2回）。
 - (2) 各回のワーク…70点（第2～6回，第8～12回の計10回分）
個人またはグループでのワークについて、7点満点で採点します（7点×10回）。
 - (3) 各回のワークを取りまとめた成果発表…20点（第7回，第13回の計2回分）
定量および定性調査の最終回（第7回，第13回）にて行われる発表について、10点満点で採点します（10点×2回）。
- 最終的に(1)～(3)の合計点で評価します。なお、出席回数が9回未満の場合は、上記の成績にかかわらず単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より名称変更の上で開講するため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上でPCを毎回必ず持参してください（スマホのみは不可）。また、社会調査の一部プロセスを体験するため、二次分析や模擬インタビューを行います。二次分析の際はマウスがあると操作しやすいですが、必須ではありません。模擬インタビューでは録音機材が必要となります（スマホ・PC等の利用可）。準備が必要な物に関しては、授業前にアナウンスします。

【Outline (in English)】

■ Course outline

This course aims to learn data research methodologies and result summarization techniques through the process of conducting quantitative and qualitative research in sport. It also aims to understand how to use this evidence for sport policy and the key considerations for interpreting it.

■ Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the following:

- (1) Understand the fundamentals of research methodologies necessary for the policymaking process and be able to interpret the results
- (2) Be able to set hypotheses based on their own interests and select appropriate research methods
- (3) Understand key considerations when applying findings from the research to policy

■ Learning activities outside of classroom

The time required for preparation and review for this course is approximately 2 hours each.

For preparation, students will be expected to read the distributed materials in advance. For review, students will be expected to read the distributed materials again and retry exercises to ensure they have no unresolved questions before the next class.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- (1) Orientation and Course Summary...10 points (total of 2 sessions: Sessions 1 and 14)

Class participation and submitted assignments will be graded on a scale of 5 points (5 points $\times$ 2 sessions).

- (2) Weekly Assignments...70 points (total of 10 sessions: Sessions 2-6 and 8-12)

Individual or group work will be graded on a scale of 7 points (7 points $\times$ 10 sessions).

- (3) Final Presentation of Each Research Method Session...20 points (total of 2 sessions: Sessions 7 and 13)

Presentations conducted during the final sessions of quantitative and qualitative research methods (Sessions 7 and 13) will be graded on a scale of 10 points (10 points $\times$ 2 sessions).

The final grade will be the sum of (1) to (3). Note that if attendance is less than 9 sessions, credit will not be granted regardless of the above grades.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では「なぜ人は病気になるのか」という身近で根源的な問いを出発点に、人間に備わっているホメオスタシス（恒常性）の考え方が手がかかりとして、健康や病気について考察する。人間の存在や「生きること」の意味といった哲学的視点も取り入れ、単一の正解を学ぶのではなく、多様な視点から考える姿勢を重視する。

また、日常生活習慣（食事・運動・休養・睡眠）が心身の状態にどのように関わっているのかについて、生理的・心理的な仕組みを踏まえながら検討する。文献調査や討論を通して、自ら問いを立て、根拠をもとに考えを深め、他者と共有する力を養うことを本授業の目的とする。

【到達目標】

- 1) WHOの健康の定義について理解できる。
- 2) 人間とは何か、生きているとはどのような状態であるかが理解できる。
- 3) ホメオスタシス（恒常性）が備わっている理由が理解できる。
- 4) 生活習慣が病気の予防や改善に効果的であることが理解できる。
- 5) 食事、運動、休養、睡眠について、より効果的な方法を理解できる。
- 6) 各自研究テーマを選定し、自分の意見をレポートまとめることができる。
- 7) 文献講読をし、その内容をまとめ、全体に対して発表できる。
- 8) グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各自が設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を整理・列挙したうえで、グループ内で共有する。グループでは、互いのテーマについて調査方法や分析方法などを議論し内容を深める。授業は主にSGD（スモールグループディスカッション）形式で行う。毎回の授業では個人の調査内容をグループ内で報告し、発表技術の向上に努める。

授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーの中からいくつかを取り上げ、全体に向けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の概要、ねらい、到達目標を明示し、半期のスケジュールを確認する。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第2回	文献の講読、プレゼンテーションの発表、レポート作成	テーマ選びから文献の検索及び講読、プレゼンテーションの基本、レポート作成に関する説明を行なう。

第3回	研究テーマの設定と調査方法（1）	WHOの健康の定義について説明し、各自で文献講読し、グループに分かれ意見交換を行い、理解を深める。
第4回	研究テーマの設定と調査方法（2）	「人間とは何か、生きているとはどのような状態であるか」についてグループに分かれ意見交換を行う。
第5回	研究テーマの設定と調査方法（3）	人間に備わっている「ホメオスタシス（恒常性）」について文献講読し、理解を深める。
第6回	研究テーマの設定と調査方法（4）	これまでの内容をまとめ、自分の研究テーマを決定する。テーマに沿った研究の進め方について説明する。
第7回	中間発表	各自で設定した「研究テーマ及びその調査方法」について発表する。
第8回	文献講読とディスカッション	各自設定したテーマに関する文献をグループに分かれて共有し、意見交換を行う。
第9回	データ収集と分析、グループワーク	グループに分かれて、各自のテーマに沿ったデータを分析し議論する。
第10回	グループワーク及び個人調査	グループワークでの議論を参考に各自により調査を進める。
第11回	研究テーマの調査報告（プレゼンテーション資料の作成）	これまでの内容をレポートにまとめる。また全体発表に向けてプレゼンテーション資料を作成する。
第12回	調査結果の発表（1）	作成した資料をもとにプレゼンテーションを実施し、質疑応答の後、ディスカッションを行う。（前半グループ）
第13回	調査結果の発表（2）	作成した資料をもとにプレゼンテーションを実施し、質疑応答の後、ディスカッションを行う。（後半グループ）
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返り、得られた知見や残された課題などについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEBを活用して調べおく。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫
- ・ホモ・デウス 上: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書
- ・ホモ・デウス 下: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書
- ・基礎からわかる論文の書き方, 小熊英二, 講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

授業の参画状況（80％）、プレゼンテーション（10％）、レポート（10％）を総合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 40 分～18 時 30 分の 100 分を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course begins with the familiar yet fundamental question, “Why do people become ill?” and explores health and illness through the concept of homeostasis, an inherent regulatory capacity of the human body. Incorporating philosophical perspectives on human existence and the meaning of living, the course emphasizes developing the ability to think from multiple viewpoints rather than learning a single correct answer.

In addition, students examine how daily lifestyle practices — such as diet, exercise, rest, and sleep — affect physical and mental well-being, with attention to both physiological and psychological mechanisms. Through literature review and group discussion, the course aims to cultivate the ability to formulate one’s own questions, deepen thinking based on evidence, and share ideas with others.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to:

- 1) Explain how lifestyle habits contribute to the prevention and improvement of illness.
- 2) Describe effective approaches to diet, exercise, rest, and sleep for maintaining physical and mental health.
- 3) Select an individual research topic and articulate their own viewpoints in a written report.
- 4) Read and analyze academic literature, summarize key points, and present the findings to seminar members.
- 5) Engage constructively in group discussions and exchange ideas with others.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Participation in class activities (not attendance): 80%
- 2) Presentations: 10%
- 3) Assignments and reports: 10%

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）
第三外国語としてのフランス語A 2017年度以降入学者
江澤 健一郎
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(40)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞avoir ・否定のde ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方

8	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
10	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞pouvoir
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞prendre, attendre
12	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞devoir
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」をしてください。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子，西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年。

（※自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60％）と小テスト（40％）の点数を基準にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

term-end test: 60%, mini-test: 40%.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語 B 2017年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 7	人・ものを描写する ・ IR 動詞 ・ 形容詞 ・ 動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・ 数量表現 ・ 名詞 + à + 不定詞 ・ 動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 目的補語人称代名詞 ・ 非人称構文 ・ 動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 数字 21～69 ・ 動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞 ・ 日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・ 日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 直説法単純未来 ・ 形容詞・副詞の比較級

8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 形容詞・副詞の最上級 ・ 特殊な優等比較級・優等最上級 ・ 指示代名詞
9	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 数字 70～100 ・ 直説法複合過去 ・ 目的補語人称代名詞を含む複合過去
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 代名動詞を含む複合過去 ・ 中性代名詞 en
11	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直説法半過去 ・ 直説法複合過去と直説法半過去の違い
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直接法大過去 ・ 中性代名詞 y と le ・ 様々な否定表現
13	Leçon 13	関係代名詞、強調構文
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」をしてください。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年。

（※自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%）と期末テスト（60%）の結果をもとにして評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent. The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

term-end test: 60%, mini-test: 40%.

ARSa300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この教養ゼミ I を紹介する動画です <https://x.gd/LgDjY> (約7分8秒；学内者のみ視聴できます)

【履修登録にかかわる特記事項】

●あなたが所属している学部の履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミ I」(Q6605)の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。

●この科目「教養ゼミ I」(Q6605)は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。

●興味・関心のある方は、教養ゼミ II：ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～(9月中旬)【授業コード：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。

【科目のかんたんな説明】

●この教養ゼミ I は、2026年8月3日(月)・8月4日(火)・8月5日(水)・8月6日(木)の4日間で開催される集中講座です(2単位)。

●短い日数で効率よく学べる利点があります。

●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。

●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。

●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】

コースの終わりに、学生の皆さんは次のことができるようになります：

- 1) 人口1700万人強のオランダが、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのはなぜかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
- 2) 欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方(政教分離)や、就労を促進するための雇用の流動化(福祉国家の変容)といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミ I の授業形態は、基本的に「対面」です。

(イ) 2026年8月3日(月)・8月4日(火)・8月5日(水)・8月6日(木)の4日間に開催されます。

(ウ) 希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画 / Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。

(エ) 4日間でいきますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。

(オ) そのため「まとめコメント」の早期提出を認めています。

(カ) とはいえ、4日間参加していれば、それだけでちゃんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/FK17p>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

(キ) 問い合わせは、Wordファイル「教養ゼミ I『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～(8月上旬)」URL <https://x.gd/SBUYw>にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月3日(月)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月3日(月)3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月3日(月)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月3日(月)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月3日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月4日(火)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の1人として溶け込むのに何が必要か【8月4日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月4日(火)4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月4日(火)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月5日(水)2限、Zoom併用なし】	2日目のまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月5日(水)3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月5日(水)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月6日(木)2限、Zoom併用なし】	3日目のまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月6日(木)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える

- 14 考える・まとめる【8月6日分の「まとめコメント」月6日(木)4限、を作成・提出する。※遠隔・事Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する 出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

8月のサマー・セッションの時期を待つことなく、Google Classroomをつうじ、4月から資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 =15%
2. まとめコメント =52%
3. まとめコメントの早期提出（教員への相談が必要です）
4. 教室内活動への参加 =33%
5. その他

※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/FK17p>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。

※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部ご連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春semester（前期）科目であるため、8月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が回復したとして、代替の課題を8月7日ぐらいまでに提出する手になります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オースタム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
・この教養ゼミⅠは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料を共有したり、課題を提出したりするさいに、Google ClassroomやBOX、Office365等を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。

・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL <https://x.gd/pbONn>

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
- 2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
- 3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

- (a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
- (b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
- (c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この教養ゼミⅡを紹介する動画です <https://x.gd/tB16R> (約7分53秒；学内者のみ視聴できます)

【履修登録にかかわる特記事項】

- この科目「教養ゼミⅡ ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～」(Q6606)は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) が一括して履修登録を行います。
- 履修を希望する方は**2026年4月10日(金)午前11時30分**までに学習支援システムにて仮登録を行ってください。
- 仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。

【科目のかんたんな説明】

- 教養ゼミⅡ「ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～」は**2026年9月11日(金)・9月12日(土)・9月14日(月)・9月15日(火)**の4日間で開催される集中講座です(2単位)。
- 世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。
- こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。
- 短い日数で効率よく学べる利点があります。
- 映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】

- (1) さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べるができる。
- (2) ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐる異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景(例 メリトクラシー)を掘り下げながら、研究上の問い(リサーチ・クエスチョン)を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。
- 2026年9月11日(金)・9月12日(土)・9月14日(月)・9月15日(火)**の4日間に開催されます。
- 希望者は一部の授業回について**Zoom**でも参加できます。下記の【授業計画/Schedule】で「併用あり」と記されているのが**Zoom**で参加できる授業回です。
- 4日間でいきますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
- そのためセッション授業終了後の話題提供を認める予定です。

(カ)とはいえ、4日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/ytbHb>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

(キ) 問い合わせは、Word ファイル「2026年度：教養ゼミⅡ ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～(9月中旬)」URL <https://x.gd/q4xhC>にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月11日(金)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月11日(金)3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月11日(金)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月11日(金)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月11日(金)分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月12日(土)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか(政治的動員)
6	対立の構図を理解する【9月12日(土)3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月12日(土)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月12日(土)分の「まとめレポート」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月14日(月)2限、Zoom併用なし】	2日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月14日(月)3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月14日(月)4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月14日(月)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月14日(月)分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月15日(火)2限、Zoom併用なし】	3日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私(たち)はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月15日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える
14	考える・まとめる【9月15日(火)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日(火)分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。※ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

9月のオータム・セッションの時期を待つことなく、Google ClassroomやBOX、WebClass等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がもっと進むでしょう。

カス・ミューデ&クリストバル・ロピラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 =15%
2. まとめコメント =52%
3. 教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 =33%
4. セッション授業終了後の話題提供
5. その他

※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/ytbHb>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。

※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
- ・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や課題の提出に、Google ClassroomやBOX、Office 365を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

- ・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せてください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～（9月中旬）」URL <https://x.gd/q4xhC> をご覧ください。

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

【Learning Objectives】

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅠ 2017年度以降入学者

ル ルー 清野 プレンドン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈大〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み、分析する方法について学び、活用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探究したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar、L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における、日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	西洋人の来日（1）	マスケット伝来
6	西洋人の来日（2）	キリスト教伝来
7	日欧交流の発展（1）	日本における宣教師達①
8	日欧交流の発展（2）	日本における宣教師達②
9	日欧交流の発展（3）	南蛮屏風
10	日欧交流の発展（4）	日本語学習の曙
11	日欧交流の変容	来日西洋人の多様化
12	学生による発表①	史料の紹介と分析
13	学生による発表②	史料の紹介と分析
14	学生による発表③及びまとめ	史料の紹介と分析 前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、予習、課題や発表の準備等が毎回求められます。それらは、大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので、そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト、宿題、「予習シート」等：約40%
- ・発表（史料の紹介と説明）：約40%
- ・平常点（授業への参加状況）：約20%

※ 尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。10分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特にないと思います。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.

The grading policy should be the following:

- Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%

- Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%

- Regular assessment (class participation): approx. 20%

※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

ル ルー 清野 プレندان

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み、分析する方法について学び、活用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探究したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar、L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 西洋におけるジャポノロジーの現状
2	世界一周の寄港地としての日本	Francesco Carlettiの見た日本
3	西欧人のサムライ	William Adamsの見た日本
4	オランダ東インド会社の登場	François Caronの見た日本
5	ヨーロッパにおける日本史の定番	Engelbert Kaempferの見た日本
6	ヨーロッパにおける日本キリスト教史	Pierre François-Xavier de Charlevoixの語った日本
7	ヨーロッパにおける日本の植物学①	Peter Thunbergの見た日本
8	ヨーロッパにおける日本の植物学②	Philipp Franz Balthasar von Sieboldの見た日本
9	ヨーロッパ人による日本北方地域の探検	Vasilii Mikhailovich Golovninの見た日本
10	幕末期におけるジャポノロジー①	パリ外国宣教会宣教師の見た日本①
11	幕末期におけるジャポノロジー②	パリ外国宣教会宣教師の見た日本②
12	幕末期におけるジャポノロジー③	レオン「三兄弟」：Léon de Rosny, Léon Pagès, Léon Duryと日本
13	学生による発表①	史料の紹介と分析
14	学生による発表②及びまとめ	史料の紹介と分析 秋学期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、予習、課題や発表の準備等が毎回求められます。それらは、大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので、そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト、宿題、「予習シート」等：約40%
- ・発表（史料の紹介と説明）：約40%
- ・平常点（授業への参加状況）：約20%

※尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。10分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。何らかの理由で欠席した・する場合は、速やかに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特になくありません。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.

The grading policy should be the following:

- Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%

- Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%

- Regular assessment (class participation): approx. 20%

※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)		
フランス語コミュニケーション(中・上級) A		
2017年度以降入学者		
ル	ルー	清野 プレندان
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火2/Tue.2		
単位数：2単位		
定員制(20)		
その他属性：〈他〉〈優〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はA1レベルに達している学生（つまり2, 3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方の段階から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”）」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身につけたり、日常会話で使える言葉を覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。この授業を通じて、A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

Z その他 /Other、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし、履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり、世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Une rencontre inattendue
2	Faire connaissance: le speed-dating	招待を受け入れる・拒否する
3	La fête nationale belge et le parc Astérix	現在進行形
4	Le festival Gnaoua et le raï	コンサートへの招待
5	Le 14 juillet Un festival d'été	フェスティバルに関する情報 フェスティバルへの招待
6	Se déplacer en ville	交通手段①と道案内

7	Les transports en Afrique de l'Ouest	交通手段②
8	D'autres quotidiens	頻度と時間割
9	Modes de vie au Niger et à Djibouti	お茶 カート (植物)
10	La Défense, Marrakech, Montréal	交通手段③
11	Présenter son quartier préféré	好きな地域の紹介
12	L'habitat (ミニ口頭発表)	フランス語圏の様々な伝統住居
13	Brèves francophones Amélie Poullain	半過去と複合過去の用法①
14	Hercule Poirot: "Que faisiez-vous à l'heure du crime?"	半過去と複合過去の用法②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身につくものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。また、予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので、法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので、定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】

教材はその都度授業で配布するか、Hoppiiにアップロードします。

【参考書】

仏和・和仏辞書（本でも、電子辞書でも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG：クラスではスマホ等の使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題、小テスト、ミニ発表等: 約20 %
- ・「Furago, フランス語の練習帳」: 約20 %
- ・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
- ・作文: 約20 %
- ・平常点 (授業への参加状況): 約20%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2回につき欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特にないと思います。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン、タブレット、パソコンからアクセスできます。有料ですが、学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし、定額制ですので、安心して利用できます。登録費が6ヶ月につき990円になる予定です。

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう！

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students' general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened. Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line): 20 %／Reading marathon (Extensive reading): 20 %／Short essays: 20 %／Class participation: 20%

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

ル ルー 清野 プレندان

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はA1レベルに達している学生（つまり2, 3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方の段階から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”）」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言ひ回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身につけたり、日常会話で使える言葉を覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準2級・2級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

Z その他 /Other、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし、履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり、世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Voitures du passé et du présent
2	Visite en Normandie	過去の出来事を描写するメールを書く
3	Les Acadiens/Cajuns	歴史について考えよう
4	Histoires de personnalités	直接目的補語の代名詞
5	Quelques écrivains francophones	フランス語圏の文学に触れる

6	Catastrophe naturelle Chez le médecin	健康と身体の部位
7	Fêtes traditionnelles	お祭りについて知ろう
8	Faisons un quiz historique	クイズを作ろう
9	Le caractère	人の性格を描写する
10	Les noms en Afrique	アフリカの名前について知ろう
11	Qui est-ce? (jeu)	La description physique
12	Qu'est-ce qu'on a fait au bon Dieu?	人の描写（作文）
13	Entretien d'embauche	成功と失敗①
14	Le commerce en Afrique	成功と失敗②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語というのは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えらるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身につくものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので、法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。

「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので、定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】

教材はその都度授業で配布するか、Hoppiiにアップロードします。

【参考書】

仏和・和仏辞書（本でも、電子辞書でも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG：クラスではスマホ等の使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題、小テスト、ミニ発表等: 約20 %
- ・「Furago, フランス語の練習帳」: 約20 %
- ・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
- ・作文: 約20 %
- ・平常点 (授業への参加状況): 約20%。尚、平常点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2回につき欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等を読み、工夫する必要がある点は特にないと思います。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】

※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン、タブレット、パソコンからアクセスできます。有料ですが、学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし、定額制ですので、安心して利用できます。登録費が6ヶ月につき990円になる予定です。

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう！

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students' general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened. Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 % / Furago (exercises on line):20% / Reading marathon (Extensive reading):20% / Short essays:20 % / Class participation:20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語講読 A

2017年度以降入学者

大池 惣太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Elisabeth Roudinesco による子供向けの精神分析の入門書 *L'inconscient expliqué à mon petit-fils* (Seuil, 2015) を読みます。平易なフランス語で既習の文法知識の定着と、さらなる読解力の向上を目的とします。

【到達目標】

フランス語で書かれた平易な論説文を辞書を使って自力で読み解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回可能な限り全員が当たるようにする。

当てられた人は、まず音読し、該当箇所の文構造や語彙を説明する。それから訳案を提示する。

（訳文だけ準備してきても、生成AIでできてしまうことなので、評価されません）

大事な文法事項や役に立つ表現を講師がかいつまんで説明する。

期末試験では、翻訳問題が出題される（紙の辞書のみ持ち込み可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と課題図書を紹介
第2回	文献の講読 (1)	p.10～p.19
第3回	文献の講読 (2)	p.20～p.29
第4回	文献の講読 (3)	p.30～p.39
第5回	文献の講読 (4)	p.40～p.49
第6回	文献の講読 (5)	p.50～p.59
第7回	文献の講読 (6)	p.60～p.69
第8回	文献の講読 (7)	p.70～p.79
第9回	文献の講読 (8)	p.80～p.89
第10回	文献の講読 (9)	p.90～p.99
第11回	文献の講読 (10)	p.100～p.109
第12回	文献の講読 (11)	p.110～p.119
第13回	文献の講読 (12)	p.120～p.128
第14回	授業内試験	翻訳演習実技試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当範囲の文法事項と語彙をあらかじめ調べ、整理しておく。分からない箇所は質問できるよう準備しておく。講師が説明した構文や表現を復習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Elisabeth Roudinesco, *L'inconscient expliqué à mon petit-fils* (Seuil, 2015)

【参考書】

辞書等（授業内で指示する）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の発表担当）70%、学期末の授業内試験30%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course reads *L'inconscient expliqué à mon petit-fils* (2015) by Elisabeth Roudinesco, an introductory book on psychoanalysis for children. Using clear and simple French, students will review basic grammar and improve their reading skills.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Evaluation: Class presentations: 70% + In-class final test: 30%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語講読 B

2017年度以降入学者

大池 惣太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Emanuel Carrèreによる戦慄のノンフィクション小説L'Adversaire (Gallimard, 2000) .を読みます（邦題『嘘をついた男』）。既訳も参照しながら、ある程度まとまった量のフランス語のテキストを通読することで、既習の文法知識の定着と、さらなる読解力の向上を目指します。

【到達目標】

フランス語で書かれたある程度の量のある小説文を自力で通読し、読解力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回可能な限り全員が当たるようにする。
当てられた人は、まず音読し、該当箇所の文構造や語彙を説明する。それから訳案を提示する。
（訳文だけ準備してきても、生成AIでできてしまうことなので、評価されません）

大事な文法事項や役に立つ表現を講師がかいつまんで説明する。
期末試験では、翻訳問題が出題される（紙の辞書のみ持ち込み可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と課題図書を紹介 映画『見えない嘘』視聴
第2回	文献の講読（1）	p.11～p.27
第3回	文献の講読（2）	p.28～p.43
第4回	文献の講読（3）	p.44～p.60
第5回	文献の講読（4）	p.61～p.77
第6回	文献の講読（5）	p.78～p.94
第7回	文献の講読（6）	p.95～p.111
第8回	文献の講読（7）	p.112～p.128
第9回	文献の講読（8）	p.129～p.145
第10回	文献の講読（9）	p.146～p.161
第11回	文献の講読（10）	p.162～p.188
第12回	文献の講読（11）	p.189～p.205
第13回	文献の講読（12）	p.206～p.220
第14回	授業内試験	翻訳演習実技試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当範囲の文法事項と語彙をあらかじめ調べ、整理しておく。分からない箇所は質問できるよう準備しておく。講師が説明した構文や表現を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Emmanuel Carrère, L'Adversaire, Gallimard, Folio, 2011 [2000].

準備するのは文庫版（folio版）にしてください。

【参考書】

辞書等（授業内で指示する）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の発表担当）70%、学期末の授業内試験30%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course reads L'Adversaire by Emmanuel Carrère. Students will read the French text together with the Japanese translation. By reading a longer French text, students will review basic grammar and further improve their reading skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Evaluation: Class presentations: 70% + In-class final test: 30%

LANf300LA (フランス語 / French language education 300)		3	Possessions être / il y a / avoir	所有物 これは何ですか？ 何がありますか？
フランス語外部試験講座A			Négation objets courants Animaux	持つこと 否定、日常の物、動物
カレンス フィリップ		4	Goûts Aimer + nom Degrés de préférence aimer + verbe infinitif Activités courantes	好み 好き+名詞 好き 大好き、嫌い、 の方が好き 好みの度合い 好み：aimer + 不定詞 動詞：日常の活動
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金5/Fri.5 単位数：2単位		5	Appréciations Adjectifs courants Nuancer : assez / très	評価 一般的な形容詞 どのぐらい好き まあまあ/とても/あまり
その他属性：〈他〉〈優〉		6	Situer des lieux Indiquer une direction Lieux du quartier La maison les pieces Prépositions de lieu	場所の位置 道案内 場所の前置詞、 道順 近所の場所 家 部屋
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 このコースは、フランス語の公式外部試験に向けて準備したい学生 を対象としています。あなたのレベルに応じて、テーマごとの進行 が提案され、さまざまな練習問題を基に進められます。これは、目 指す試験のレベルに応じたスキルを活用する内容となっています。 このトレーニングにより、まずDAPFのいずれかのレベルに向けて 準備することができ、将来的にはフランス国内および国際的に認め られている認定である初級レベルのDELFL取得にも挑戦できる可能 性が開かれます。このコースは、フランス語の能力を最適化し、全 体的なレベルを強化するだけでなく、フランス語学習へのさらなる 動機付けにもなります。		7	Test de Mi-trimestre Examen blanc	中間テスト 模擬試験
【到達目標】 A. フランス語の基礎を固め、目指す試験に向けてレベルを上げるこ とができる。 B. 試験に合格するために必要なスキルを習得することができる。 C. 練習問題に取り組むことで、実際のフランス語試験への受験が容 易になることを目指す。 方法論的なアドバイスを活用してフランス語を訓練しましょう。		8	Heures et horaires Nombres de 20 à 60 Interroger sur l'heure Moments de la journée Durée	時間 時間割 20から60までの数字 時刻を尋ねる 時間帯、 期間
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学 部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国 際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部 ：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		9	Emploi du temps Activités courantes Verbes de déplacement partir de/ arriver à	スケジュール 日常の活動- ER動詞、 現在形の活用 移動の動詞： 出発する/到着する
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		10	Au marché Nourriture boissons Achats Quantité prix	市場で 食べ物 飲み物 買い物 量 価格
【授業の進め方と方法】 さまざまなスキルに関連するノウハウの習得は、DAPF (Futsuken) の目標に関連するテーマに沿って段階的に行われ、DELFLの試験準 備にも役立ちます。レベルに応じて、テーマごとの進行が提案され、 さまざまな練習問題を通じて構成されます。これは、目指す試験の レベルに応じたスキルの発揮を促します。課題の準備はレベルごと のグループで行われ、段階的に次のことを可能にします。1. 試験内 容の理解 2. 準備 3. 練習 4. 受験。各セッションの初めに行うミニ テスト形式の継続的な評価も実施され、学習者の進捗を測定します。 学期中間および学期末の試験は、DAPFやDELFLの模擬試験に基 づいて設計され、実際の試験の前にフランス語のレベルを事前に評価 することができます。		11	Au restaurant Repas menu commander Nourriture boissons Appréciation du repas	レストランで 食事 メニュー 料理を注文する 食べ物 飲み物 食事の感想
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		12	A la boutique de vêtements Choisir un vêtement Taille couleurs Prix	洋服の店で 洋服を選ぶ サイズ 色 値段
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		13	Test de fin de trimestre Examen blanc	期末テスト 模擬試験
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		14	Correction du test final Conseils pour les épreuves	テストの採点 試験を受けるアドバイス
回 テーマ 内容		【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 前回の授業で学んだ語彙や文法事項を復習し、ミニテストの質問に 答えられるように準備する必要があります。このテストは学習の進 捗や評価に用いられます。また、次の授業のために宿題を準備す る必要がある場合もあります。授業の準備や復習には少なくとも1時 間を見込む必要があります。次の授業で提出する宿題は、DAPF やDELFLの試験対策ガイドからの練習問題になります。それらは語 彙、文法、または前述の試験に近い作文試験に関連する内容です。		
1	Saluer se présenter interroger quelqu'un Nombres de 0 à 20 L'âge	挨拶、自己紹介 0から20までの数字で 年齢を尋ねる		
2	Présenter quelqu'un Famille, célébrités Questionner quelqu'un Profession nationalités Pays	誰かを紹介する 家族、有名人 について尋ねる 国籍 国		

【テキスト（教科書）】

書類はオンライン学習システムに送信されるまたは、印刷されたものが直接クラスで配布されます。

【参考書】

2024年度版 3級・4級・5級仏検公式ガイドブック

A5判 256ページ 並製

定価：2400円＋税

ISBN978-4-411-90308-2 C0085

奥付の初版発行年月：2024年04月／[2024年04月15日刊行]

DELTA A1 100% réussite: Livre + didierfle.app ペーパーバック

－ 2022/4/20

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）総合的に評価します。

評価は次のように割り当てられます：

1. 中間テスト・期末試験: 50 %。

中間試験と期末試験は、実際の試験の例に基づいて行われます。

2. ミニテスト：20%（クラスで行うショートテスト）

3. 課題：10%（特に筆記関係問題）

4. 積極性・平常点：20 %（クラスでの口頭練習やペアで行うタスク）

【学生の意見等からの気づき】

この新しいコースについては、最初のクラスからのフィードバックをいただければと思います。

各人のレベルを考慮して、レッスンを綿密に準備します。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【Outline (in English)】

This course is intended for students who wish to prepare for official external French exams. Depending on your level, a progression by theme will be proposed and will be based on a variety of exercises. It will develop the skills related to the level of the exam you are aiming for. It will allow you to first prepare for one of the DAPF levels and give you the opportunity to later access the first levels of the Delf, a certification recognized in France and internationally. This course will also help optimize your French skills, strengthen your overall level in the language, and provide you with additional motivation for learning French.

As work to be done outside the class, you will need to review the vocabulary and grammar points learned in the previous lesson and prepare to answer the questions on the mini-test. This test will be used to assess learning progress and evaluation. Additionally, there may be cases where you need to prepare homework for the next lesson. You should allow at least one hour for lesson preparation and review. The homework to be submitted in the next lesson will consist of practice problems from the DAPF or DELF exam preparation guides. These will relate to vocabulary, grammar, or writing exercises similar to the aforementioned exams.

The evaluation is allocated as follows:

1. Midterm and final exams: 50%.

The midterm and final exams will be based on examples of actual tests.

2. Quizzes: 20% (short tests conducted in class)

3. Assignments: 10% (particularly written-related problems)

4. Participation and regular points: 20% (oral practice in class and tasks done in pairs)

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）		
フランス語外部試験講座 B		2017年度以降入学者
カレンス フィリップ		
開講時期：サマーセッション/Summer Session 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses		
単位数：2単位		
その他属性：〈他〉〈優〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この5日間の集中コースは、公式の外部フランス語試験に備えたいすべての学生を対象としています。この研修は、春学期に行った「フランス外部試験講座を修了した学習者にとっても補完的なものとなります。これらのコースでは、比較的短期間でフランス語のレベルを上げ、日本、フランス、国際的に認められているDapf(フツケン)やDelfのいずれかの試験を受けることができます。この加速トレーニングはフランス語の能力を最適化し、言語全体のレベルを強化し、フランス語学習へのさらなるモチベーションにもつながります。集中講座は2026年8月3日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月6日（木）・8月7日（金）の5日間で開催される。

【到達目標】

- A. フランス語の基礎を固め、目指す試験に向けてレベルを上げることができる。
B. 試験に合格するために必要なスキルを習得することができる。
C. 練習問題に取り組むことで、実際のフランス語試験への受験が容易になることを目指す。
方法論的なアドバイスを活用してフランス語を訓練しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

さまざまなスキルに関連するノウハウの習得は、DAPF (Futsuken)の目標に関連するテーマに沿って段階的に行われ、DELFの試験準備にも役立ちます。レベルに応じて、テーマごとの進捗が提案され、さまざまな練習問題を基に構成されます。これは、目指す試験の難易度に応じたスキルの活用を行います。グループ分けで行う試験準備は段階的で、以下を可能にします：1. 試験内容を理解する 2. 準備する 3. 練習する 4. 受験する。各セッションの最初に行うミニテスト形式の継続的な評価も導入され、学習者の進捗を測定します。試験は、DAPFまたはDELFの模擬試験に基づいて設計され、実際の試験前にフランス語レベルを事前に評価することができます。集中講座は2026年8月3日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月6日（木）・8月7日（金）の5日間で開催される。当該科目の履修を希望する場合は、4月20日（月）※までに学習支援システムにて仮登録を行ってください。所属学部の履修登録期間中に自分で履修登録を行ってください。授業の進行やテストの期限に関する変更は、遠隔授業サポートシステム「Hoppi」のサイトで発表されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の紹介
	Décrire des personnes	人を描写する
	Adjectifs	形容
	Donner son avis	意見を言う

2	Comparer Comparatif superlatif	比較する 比較級・最上級)
3	Achats Pronoms interrogatif Pronom possessif Pronom démonstratif	買い物 疑問代名詞 所有代名詞、 指示代名詞
4	Emploi du temps Verbes simples Verbes pronominaux	スケジュール 基本動詞 再帰動詞)
5	Autorisation Interdiction Donner des ordres Impératif	許可／禁止 命令を出す 命令法
6	Inviter Volonté, obligation, possibilité Verbes auxiliaires : Vouloir pouvoir Devoir savoir	招待 意志、義務、可能性 助動詞
7	Actions passées Passé composé Vie courante / vacances	過去の行動：複合過去 日常生活 休暇
8	Souvenirs: Phrase complexe temporelle: quand je...imparfait	思い出 ～したとき 半過去
9	Incident/ accident : Phrase complexe temporelle : Passé composé /imparfait	事故／アクシデント 複合文の時間表現 ～したとき 複合過去／半過去
10	Projets prévisions Futur proche Futur simple Actions futures	計画 近接未来 単純未来 これからの行為
11	L'hypothèse Présent / futur) Phrase complexe : Quand je...	…したら、たとえ…
12	Enquête Pronoms COD, COI, EN, Y	調査 直接・間接代名詞 Y/en 代名詞
13	Usage des temps Passé immédiat Présent continu Futur proche (2)	時制用法 近過去 現在進行形 近接未来 (2)
14	Examen blanc	模擬授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で学んだ語彙や文法事項を復習し、ミニテストの質問に答えられるように準備する必要があります。このテストは学習の進捗や評価に用いられます。また、次回の授業のために宿題を準備する必要がある場合もあります。授業の準備や復習には少なくとも1時間を見込む必要があります。次回の授業で提出する宿題は、DAPFやDELFの試験対策ガイドからの練習問題になります。それらは語彙、文法、または前述の試験に近い作文試験に関連する内容です。

【テキスト（教科書）】

書類はオンライン学習システムに送信されるか、印刷されたものが直接クラスで配布されます。

【参考書】

2024年度版3級・4級・5級仏検公式ガイドブック
A5判 256ページ 並製
定価：2400円＋税
ISBN978-4-411-90308-2 C0085

奥付の初版発行年月：2024年04月／[2024年04月15日刊行]
DELF A1 100% réussite: Livre + didierfle.app ペーパーバック
－ 2022/4/20

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）
総合的に評価します。

評価は次のように割り当てられます：

1. 中間テスト・期末試験: 50 %。
中間試験と期末試験は、実際の試験の例に基づいて行われます。
2. ミニテスト： 20%（クラスで行うショートテスト）
3. 課題： 10%（特に筆記関係問題）
4. 積極性・平常点： 20 %（クラスでの口頭練習・ペアで行うタスク）

【学生の意見等からの気づき】

この新しいコースでは、最初の授業から皆さんのコメントをいただけることを期待しています。それぞれのレベルに応じて、できる限りのアドバイスを提供します。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【Outline (in English)】

This five-day intensive course is aimed at all students who wish to prepare for official external French exams. This training also complements the spring semester course for learners who have completed the 'French External Exam Course.' These courses allow you to improve your level of French in a relatively short period and take one of the exams recognized in Japan, France, and internationally, such as Dapf (Futsuken) or Delf. This accelerated training optimizes French language skills, enhances overall language proficiency, and further motivates learning French.

Your overall grade in the class will be decided on the following :

Examinations : 50%, Mini-test : 20% , Assignments : 10 % and in class contribution 20 %.

The intensive course will be held over five days on Monday, August 3, 2026; Tuesday, August 4; Wednesday, August 5; Thursday, August 6; and Friday, August 7.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）
第三外国語としてのロシア語A 2017年度以降入学者
佐藤 裕子
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。

ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1) 文字と発音、2) 単語と熟語、3) 基礎文法、4) 文法習熟度確認のための練習問題、5) 本文テキスト（朗読と和訳）、6) 会話練習、7) シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。課題等に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音 2	単語の発音
第3回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第4回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第6回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第7回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第8回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第9回	「（何々）の」、 「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第10回	「（何々）に・へ」、 「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第11回	「（何々）で・によって」、 「～（何々）に 取り組む」	名詞の造格、с я 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化

第12回	「している／しおえ る」	動詞の体（不完了体／完了体）
第13回	形容詞、関係代名詞	形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化
第14回	期末試験、まとめと 解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年
土岐康子・三神エレナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年
小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60％、評価テストが40％の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声提出してもらい、その評価も加味する予定です。一步一步確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

3か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】Elementary Russian for students learning Russian for the first time as a third foreign language. Students learn the Cyrillic alphabet, pronunciation, and basic grammar in three months, and build skills in reading, writing, and speaking for simple everyday communication. 【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to: Read and write simple Russian. Hold simple conversations in Russian. 【Learning activities outside of classroom】Students are expected to spend about 2 hours before/after each class reviewing and practicing the lesson content. 【Grading Criteria / Policy】Short tests 40%; term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語B 2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1) 文字と発音、2) 単語と熟語、3) 基礎文法、4) 文法習熟度確認のための練習問題、5) 本文テキスト（朗読と和訳）、6) 会話練習、7) シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。課題等に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音2、名詞、形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第3回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第4回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「(何々)を」	名詞の対格
第6回	「～しろ」	動詞の命令形
第7回	「(どこどこ)へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第8回	「(何々、誰々)の」、 「(何々)を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第9回	「～するだろう」	動詞の未来形（人称変化）
第10回	「(どこどこ)で」	名詞の前置格
第11回	「～した」、「(誰々)を」	動詞の過去形（性・数変化）、活用体を表す名詞の対格
第12回	「(何々、誰々)へ」、 「(何々、誰々)と」	名詞の与格、名詞の造格
第13回	「～する／～しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第14回 期末試験、まとめと 文法問題解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】

朝妻恵理子・クセーニヤ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円＋税

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年

土岐康子・三神エレナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年

小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60％、評価テストが40％の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声提出してもらい、その評価も加味する予定です。一步一步確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

3か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

※春学期A／秋学期Bは単独でも履修可能な科目のため初修者歓迎ですが、Aから継続して履修する学生が多い場合、授業内容は履修者の皆さまとご相談させていただきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】Elementary Russian for students learning Russian for the first time as a third foreign language. Students learn the Cyrillic alphabet, pronunciation, and basic grammar in three months, and build skills in reading, writing, and speaking for simple everyday communication. 【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to: Read and write simple Russian. Hold simple conversations in Russian. 【Learning activities outside of classroom】Students are expected to spend about 2 hours before/after each class reviewing and practicing the lesson content. 【Grading Criteria / Policy】Short tests 40%; term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

第三外国語としてのロシア語中級 2017年度以降入学者A

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。会話練習を行なって聞き取り能力及び会話能力を楽しく伸ばしましょう。
ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(T P K II)の基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】
社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の学習	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	学校と大学	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	大学と大学生	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	留学生たち	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	寮の住まい	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	部屋	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	一日の流れ	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	週のスケジュール	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	休暇の過ごし方	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	好きなこと	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	図書館に行く	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	総合復習	聴解、文法練習

14 期末試験 筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』法政大学（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】
期末テストの範囲及び成績評価の基準を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】
履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.
(Learning activities outside of classroom)
The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア語の解説と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力と共に会話能力も楽しく伸ばしましょう。

ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(T P K II)の基本レベル(CERF A2)のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

実用ロシア語A

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

現地留学またはロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験の基本レベル (CERF A2)、T P K И-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語能力試験 T P K И A2-B1の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、чем-тем構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング

12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文
13	総合復習	1～12の復習
14	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて授業プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。

期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

実用ロシア語 B

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
 現地留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験 の基本レベル (CERF A2)、T P K И-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語検定試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタッフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習

12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて 1 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019 年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50 %、複数小テスト 30%、宿題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。
 期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度を変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

ロシア語講読A

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その3）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴェ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する19世紀科学」
7	テキスト講読（その4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より）」、「映画芸術」
9	テキスト講読（その6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その7）歴史	短文「アレクサンドル1世」、「ニコライ2世」
11	テキスト講読（その8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その9）文学	短文「トルストイ」

13	テキスト講読（その10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40%、期末試験60%。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading A.

【Course Outline】This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

【Learning Activities outside of Classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA (ロシア語 / Russian language education 300)

ロシア語講読B

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、「ロシア語講読A」よりもさらに高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読（その1） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第1節）」
2	テキスト講読（その2） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第2節）」
3	テキスト講読（その3） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第3節）」
4	テキスト講読（その4） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第1節）」
5	テキスト講読（その5） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第2節）」
6	テキスト講読（その6） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第3節）」
7	テキスト講読（その7） 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第4節）」
8	テキスト講読（その8） 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第1節）」
9	テキスト講読（その9） 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第2節）」

10	テキスト講読（その10） 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第3節）」
11	テキスト講読（その11） 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第1節）」
12	テキスト講読（その12） 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第2節）」
13	テキスト講読（その13） 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第3節）」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40%、期末試験60%。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading B. Continuation of Russian reading A.

【Course Outline】 This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

【Learning Activities outside of Classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】 Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語A

2017年度以降入学者

小澤 裕之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ロシア語圏のインターネット記事や雑誌のインタビューなど、「生」のロシア語に触れることで、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実践的に活用するための練習をします。また、関連する映像をお見せすることもあります。ロシア語の講読が初めての受講生も歓迎します。

【到達目標】

皆で精読することで、ロシア語で書かれた時事的な文章をみずからの力で読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章を皆で精読していきます。受講生のレベルに応じ、文法事項の詳しい解説をしたり、背景について説明したりします。予習や質問、期末テストへのフィードバックは教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	ロシア語の文章講読
3	内政②	ロシア語の文章講読
4	外交①	ロシア語の文章講読
5	外交②	ロシア語の文章講読
6	軍事①	ロシア語の文章講読
7	軍事②	ロシア語の文章講読
8	司法①	ロシア語の文章講読
9	司法②	ロシア語の文章講読
10	アニメーション①	ロシア語の文章講読
11	アニメーション②	ロシア語の文章講読
12	芸術①	ロシア語の文章講読
13	芸術②	ロシア語の文章講読
14	期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストを音読し、訳してきてください。目安は1時間半です。なお期末試験では、授業で講読したテキストの文法・語彙の理解度を確認します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

露和辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】

私は今年初めてこの授業を担当しますが、受講生の皆さんが気軽に意見を述べたり質問したりしやすい環境を作るよう心がけます。

【その他の重要事項】

各回のテーマは、受講生のレベルや関心に合わせて変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers practice in using the Russian grammar and vocabulary students have learned. We will read current-affairs texts such as online articles and magazine interviews, and sometimes watch related videos. Students who have never read Russian texts before are also welcome.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students develop the ability to read current affairs texts on their own through careful, collaborative close reading.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, students will be expected to read the distributed texts aloud and prepare written translations. The final exam will assess students' understanding of the grammar and vocabulary in the texts read during the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade will be based on the following components:

Class participation and coursework: 50%

Final examination: 50%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語B

2017年度以降入学者

小澤 裕之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ロシア語圏のインターネット記事や雑誌のインタビューなど、「生」のロシア語に触れることで、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実践的に活用するための練習をします。また、関連する映像をお見せすることもあります。ロシア語の講読が初めての受講生も歓迎します。

【到達目標】

皆で精読することで、ロシア語で書かれた時事的な文章をみずからの力で読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章を皆で精読していきます。受講生のレベルに応じ、文法事項の詳しい解説をしたり、背景について説明したりします。予習や質問、期末テストへのフィードバックは教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	事故①	ロシア語の文章講読
3	事故②	ロシア語の文章講読
4	原発①	ロシア語の文章講読
5	原発②	ロシア語の文章講読
6	環境①	ロシア語の文章講読
7	環境②	ロシア語の文章講読
8	宗教①	ロシア語の文章講読
9	宗教②	ロシア語の文章講読
10	映画①	ロシア語の文章講読
11	映画②	ロシア語の文章講読
12	その他①	ロシア語の文章講読
13	その他②	ロシア語の文章講読
14	期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストを音読し、訳してきてください。目安は1時間半です。なお期末試験では、授業で講読したテキストの文法・語彙の理解度を確認します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

露和辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】

私は今年初めてこの授業を担当しますが、受講生の皆さんが気軽に意見を述べたり質問したりしやすい環境を作るよう心がけます。

【その他の重要事項】

各回のテーマは、受講者のレベルや関心に合わせて変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers practice in using the Russian grammar and vocabulary students have learned. We will read current-affairs texts such as online articles and magazine interviews, and sometimes watch related videos. Students who have never read Russian texts before are also welcome.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students develop the ability to read current affairs texts on their own through careful, collaborative close reading.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, students will be expected to read the distributed texts aloud and prepare written translations. The final exam will assess students' understanding of the grammar and vocabulary in the texts read during the course.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語 A 2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って文法・会話文の解説を行い、全員に発言を求めます。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを調整する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」	「中国及び中国語に関する概説」 「中国語の四声」
2	「第1課」「第2課」	「発音1」「発音2」
3	「第3課」「第4課」	「発音3」「発音4」
4	発音の復習	「発音1から4」の復習をする
5	「第5課」「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第7課」「第8課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第9課」「第10課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	中間試験	第1課～第10課の内容の定着度チェック
9	「第11課」「第12課」	「補語」「動詞述語文1」
10	「第13課」「第14課」	「動詞述語文2」「動詞述語文3」
11	「第15課」「第16課」	「動詞述語文4」「動詞述語文5」
12	「第17課」「第18課」	「動詞述語文6」「動詞述語文7」
13	「第19課」「第20課」	「完了態」「変化態」
14	期末試験	第11課～第20課の内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。補助問題やe宿題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）40％、中間試験30％、期末試験30％

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語 B 2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って文法・会話文の解説を行い、全員に発言を求めます。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを調整する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第21課」「第22課」	「経験態」「進行態」「持続態」
2	「第23課」「第24課」	「形容詞述語文（一）」「形容詞述語文（二）」
3	「第25課」「第26課」	「形容詞述語文（三）」「名詞述語文（一）」
4	「第27課」「第28課」	「名詞述語文（二）」「名詞述語文（三）」
5	「第29課」「第30課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
6	復習課Ⅰ	第21課～第30課までの復習
7	中間試験	第21課～第30課までの内容の定着度チェック
8	「第31課」「第32課」	「程度補語」「数量補語」
9	「第33課」「第34課」	「結果補語」「方向補語」
10	「第35課」「第36課」	「可能補語」「助動詞」
11	「第37課」「第38課」	「兼語文」「受け身表現」
12	「第39課」「第40課」	「把構文」「存現文」
13	復習課Ⅱ	第31課～第40課までの復習
14	期末試験	第31課～第40課までの内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。補助問題やe宿題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）40％、中間試験30％、期末試験30％

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語中級A 2017年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

- 【到達目標】
1. 中国語の中級レベルの語彙、文法を学修し、運用することができる。
 2. ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。課題等へのフィードバックは授業中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	第1課（助動詞、主述述語文の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第1課（トレーニング1）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第2課（“的”の用法、「原因・理由」の表現、文末助詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第2課（トレーニング2）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第3課（連動文、“是～的”の文、疑問詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第3課（トレーニング3）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第1課～第3課の復習	日文中訳・中文日訳の練習。
第8回	第4課（“了”の3つの用法、副詞“就”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第4課（トレーニング4）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第5課（様態補語、推量の表現、「仮定」の表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第5課（トレーニング5）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第1課～第3課）	期末試験に向けた復習と練習。

- 第13回 総合練習（第4課、第5課） 期末試験に向けた復習と練習。
- 第14回 試験・まとめと解説 朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
期末試験40％、授業への参加度60％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化し到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語3Ⅰ・Ⅱと同じ教科書となる可能性があるため、履修の際は留意してください。
中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション中級A・B／第三外国語としての中国語A・B／中国語視聴覚中級A・B／中国語作文中級A・B／中国語講読A・B

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
・ To review important point of Chinese grammar.
・ Improve reading, speaking, writing, and translating skills.
・ Learning Chinese cultures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・ Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・ Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

第三外国語としての中国語中級B 2017年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、引き続き、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】

1. 中国語の中級レベルの語彙、その用法を学修し、運用することができる。
2. ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。

課題等へのフィードバックは授業中またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第6課（結果補語（1）、副詞”有点”の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第6課（トレーニング6）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第7課（存現文、主述句の主語、二つの”了”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第7課（トレーニング7）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第8課（状態の持続を表す“着”、副詞”再”、疑問詞の不定用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第8課（トレーニング8）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第6課～第8課の復習	日文中訳、中文日訳を中心とした練習
第8回	第9課（方向補語、使役表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第9課（トレーニング9）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第10課（可能補語、強調表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第10課（トレーニング10）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。

第12回 総合練習（第6課～第8課） 期末試験に向けた復習と練習。

第13回 総合練習（第9課、第10課） 期末試験に向けた復習と練習。

第14回 試験・まとめと解説 朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】

『中国語つぎへの一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【参考書】

『中国語さらなる一步』尹景春・竹島毅 白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度60%、期末試験40%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語3Ⅰ・Ⅱと同じ教科書となる可能性があるため、履修の際は留意してください。
中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション中級A・B／第三外国語としての中国語A・B／中国語視聴覚中級A・B／中国語作文中級A・B／中国語講読A・B

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This course is continued from Spring semester.

・ To review important point of Chinese grammar.

・ Improve reading, speaking, writing, and translating skills.

・ Learning Chinese cultures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.

・ Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

・ Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語視聴覚中級 A

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は木曜日2限の中国語視聴覚初級1・IIと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】

初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第7課	文法理解と応用
3	第7課	会話と応用
4	第7課	読解文の理解と応用
5	第7課	課外練習と作文
6	第8課	文法理解と応用
7	第8課	会話と応用
8	第8課	読解文の理解と応用
9	第8課	課外練習と作文
10	第9課	文法理解と応用
11	第9課	会話と応用
12	第9課	読解文の理解と応用
13	第9課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

This class uses the same textbook as Chinese Audiovisual Beginner I and II on Thursday 2nd period. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following

Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語視聴覚中級B

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】

初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第10課	文法理解と応用
3	第10課	会話と応用
4	第10課	読解文の理解と応用
5	第10課	課外練習と作文
6	第11課	文法理解と応用
7	第11課	会話と応用
8	第11課	読解文の理解と応用
9	第11課	課外練習と作文
10	第12課	文法理解と応用
11	第12課	会話と応用
12	第12課	読解文の理解と応用
13	第12課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following

Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）			7	第六課	1. 動詞はどうした？ 2. 「サングラスの男」はサングラスをかけている
中国語作文中級 A			8	第七課	1. よく現れる“来”と“去” 2. 「動目」構造の動詞はとれない目的語
楊 心苗			9	第八課	1. 「思う」あれこれ 2. 動詞の重ね型
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木3/Thu.3 単位数：2単位			10	第九課	1. 文脈に隠れた代名詞をさがせ 2. “ ☐ 么”“那么”がいる こんな場合あんなとき
その他属性：〈他〉〈優〉			11	第十課	1. 中国語では現れる副詞“就” 2. “才”は「やっと」現れる
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、フィードバックの与え方などを習得する。 尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。			12	第十一課	1. 例外なしは“都”で 2. 「だけ」にあたる“只”の位置 3. 「も」にあたる“也”の位置
【到達目標】 1. 興味・関心のある話題について、正確かつ自然な中国語表現を用いて、自分の考えを簡単な文章としてまとめることができる。 2. 受講生同士で、作文に対するフィードバックを行うことができる。 3. 教員が添削した作文をもとにライティングを行い、よりよい文章を作成する能力を身につける。 4. 春学期の学習を修了した段階で、HSK3級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。			13	第十二課	1. 「また」もう一度“再”“又”“ ☐ ” 2. ちょっと待て“再”の出番はこれからだ 期末テスト
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1			14	総括・試験	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進める場合があるため、宿題には必ず事前に取り組むこと（宿題を行っていない場合、授業への参加が困難になる）。 ・本授業における準備学習および復習の時間は、各2時間を標準とする。 【テキスト（教科書）】 相原茂『作文ルール66』（朝日出版社）2025年 ISBN 978-4-255-45138-1 【参考書】 必要に応じて適宜紹介する。 【成績評価の方法と基準】 平常点を50%（授業への積極的な参加、作文、フィードバックなど）、期末課題を50%とし、合計100点満点で評価する。 本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。 【学生の意見等からの気づき】 受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。 【その他の重要事項】 ・本授業は、中国語の文法知識を有していること（中国語学習歴が最低1年以上あること）を前提として行う。 ・事前学習は必須とし、事前学習を行っていることを前提に授業を進める。 ・本授業では、全回出席を評価の前提とする。原則として欠席は認めない。ただし、教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書の提出など、各自で適切な対応をとること。 【Outline (in English)】 This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing in Chinese. While reviewing basic grammatical knowledge, students will begin with practice in composing short sentences and learn the steps required for producing written compositions. In addition, students will analyze model Chinese texts and, through imitation and rewriting exercises, develop skills in writing clear and comprehensible short texts as well as in giving feedback.
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】 ・本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせる。 ・指定テキストを用い、練習問題や作文に取り組むとともに、受講生同士でフィードバックを行い、発表する機会も設ける。 ・教員は、作文の添削および質問への回答を準備し、授業内で返却・回答することで、随時フィードバックを行う。 なお、以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて、進捗のペースや実施順を調整する場合がある。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。			
2	第一課	ウォームアップ（1）			
3	第二課	ウォームアップ（2）			
4	第三課	1. ある・いる 2. お飾りの“很”			
5	第四課	1.“ ☐ ”がいる時 いらぬ時 2. 「行きませんか」は「行きましょう」 3. 「何か」「どこか」「だれか」の訳し方			
6	第五課	1. 「何の映画？」と「なんて映画だ！」 2. 「疑問詞＋でも」が隠れていたら疑問詞呼応構文			

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語作文中級 B 2017年度以降入学者

楊 心苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、フィードバックの与え方などを習得する。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

1. 興味・関心のある話題について、正確かつ自然な中国語表現を用いて、自分の考えを簡単な文章としてまとめることができる。
2. 受講生同士で、作文に対するフィードバックを行うことができる。
3. 教員が添削した作文をもとにライティングを行い、よりよい文章を作成する能力を身につける。
4. 秋学期の学習を修了した段階で、**HSK4級**のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせる。
 - ・指定テキストを用い、練習問題や作文に取り組むとともに、受講生同士でフィードバックを行い、発表する機会も設ける。
 - ・教員は、作文の添削および質問への回答を準備し、授業内で返却・回答することで、随時フィードバックを行う。
- なお、以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて、進捗のペースや実施順を調整する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第十三課	1. 「…から」が“从”にならぬとき 2. 「…まで」を“到”に訳さないとき 3. 動詞のあとにくる“到…”
2	第十四課	1. 「XはYだ」はいつも“X是Y”とは限らない 2. “是……的”構文
3	第十五課	1. 「で」「に」「から」「と」「まで」などは中国語では介詞です。 2. 介詞フレーズを含む文の否定 3. 「…について」
4	第十六課	1. 「ちょっと・少し」の表し方 2. 「安くする」手立て
5	第十七課	1. でしゃばり量詞 2. 数量は動詞・形容詞の後ろ

6	第十八課	1. 形容詞 昨日のどこでも“了”はいらぬ 2. 「…ている・ていた」なのに“了”をつける
7	第十九課	1. 中国語 動詞があつてこそその補語 2. 補語は大事だ 保護すべし
8	第二十課	1. “要”が要るとき 2. 「起こりそう」なら“会”を添え 3. 「…できる」にあたる“能”“会”“可以”
9	第二十一課	1. おのづから なるも原因あり “被”構文 2. 「東京で開かれる」は“在京 举行” 3. 受け身がだめなら 能動文
10	第二十二課	1. こんなときは“把”構文を 2. “把”構文
11	第二十三課	1. やりもらい だれがいい目を みるのやら 2. ときに「目的」はあとから 3. 「まもなく…する、もうすぐ…する」
12	第二十四課	1. 中国語で出現する“人” 2. 道具・手段や原因を表す「で」 3. 否定と肯定 入れかえてみる 4. 逆転の発想
13	第十三課～第二十四課	総括
14	期末テスト	第十三課～第二十四課 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進める場合があるため、宿題には必ず事前に取り組むこと（宿題を行っていない場合、授業への参加が困難になる）。
- ・本授業における準備学習および復習の時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂『作文ルール66』（朝日出版社）2025年 ISBN 978-4-255-45138-1

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点を50%（授業への積極的な参加、作文、フィードバックなど）、期末課題を50%とし、合計100点満点で評価する。
本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、中国語の文法知識を有していること（中国語学習歴が最低1年以上あること）を前提として行う。
- ・事前学習は必須とし、事前学習を行っていることを前提に授業を進める。
- ・本授業では、全回出席を評価の前提とする。原則として欠席は認めない。ただし、教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書の提出など、各自で適切な対応を取ること。

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing in Chinese. While reviewing basic grammatical knowledge, students will begin with practice in composing short sentences and learn the steps required for producing written compositions. In addition, students will analyze model Chinese texts and, through imitation and rewriting exercises, develop skills in writing clear and comprehensible short texts as well as in giving feedback.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞について勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ及び期末テスト	文法のまとめ、と会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60％）と発表（40％）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験も推奨される。

留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk by accurate pronunciation.

We should talk daily conversation well.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

また発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（1）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（1）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話（2）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（2）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（3）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（3）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（1）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（2）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り

第13回 複文二

接続詞を確認する

第14回 まとめ

復習と質疑応答

口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績（60％）と発表（40％）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験も推奨される。

留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語翻訳・通訳C

2017年度以降入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、**HSK3級～5級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期は**HSK3級～4級レベル**（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK試験**や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。 HSK に関する説明
第2回	中国語重要文型の復習 (その1)	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習 (その2)	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方 (その1)	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方 (その2)	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”
第6回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第7回	重要な前置詞（介詞、その1）	“在”“从”“到”“離”
第8回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第9回	重要な前置詞（介詞、その2）	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通過”“按照”“关于”など
第10回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第11回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方

第12回	特殊構文（その1）	存在を表す構文、連動文
第13回	特殊構文（その2）	存現文、比較構文、
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40%＋中間テスト（30%）＋期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が詳しく、分かりやすい点に加え、学生同士がコミュニケーションを取り、議論できる点が評価されています。今後も、これらの点をさらに工夫していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語翻訳・通訳D

2017年度以降入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級を修了した学習者を対象に、**HSK3級～5級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期では**HSK4級～5級レベル**（中国語検定試験3～2級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK試験や中検試験**における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第2回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第3回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第4回	特殊構文（その1）	使役文と受け身文
第5回	特殊構文（その2）	“是・・・的”構文
第6回	特殊構文（その3）	“把”構文
第7回	特殊構文（その4）	その他の特殊構文“有”を伴う構文、“一点儿…都”など
第8回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第9回	中国語の補語（その1）	結果補語と方向補語
第10回	中国語の補語（その2）	可能補語、数量補語
第11回	中国語の補語（その3）	数量補語、様態補語
第12回	中国語の複文（その1）	並列関係、累加関係、選択関係
第13回	中国語の複文（その2）	因果関係、逆接関係、仮定関係、条件表現など
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40%＋中間テスト（30%）＋期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が詳しく、分かりやすい点に加え、学生同士がコミュニケーションを取り、議論できる点が評価されています。今後も、これらの点をさらに工夫していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)	
中国語講読 A	2017年度以降入学者
任 麗潔	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位	
定員制(30)	
その他属性：〈他〉〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）を通し、中国語の文章を読む力を高めるための授業です。春学期はHSK 3、4級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。

【到達目標】

中国語の文章購読を通して、HSK 3、4級レベルの読解力を高めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。 レベルチェック
2	HSK 3、4級閲読練習問題①	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ①の翻訳と解説
3	HSK 3、4級閲読練習問題②	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ②の翻訳と解説
4	HSK 3、4級閲読練習問題③	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ③の翻訳と解説
5	HSK 3、4級閲読練習問題④	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ④の翻訳と解説
6	HSK 3、4級閲読練習問題⑤	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑤の翻訳と解説
7	HSK 3、4級閲読練習問題⑥	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑥の翻訳と解説
8	HSK 3、4級閲読練習問題⑦	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑦の翻訳と解説
9	HSK 3、4級閲読練習問題⑧	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑧の翻訳と解説
10	HSK 3、4級閲読練習問題⑨	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑨の翻訳と解説
11	HSK 3、4級閲読練習問題⑩	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑩の翻訳と解説
12	HSK 3、4級閲読練習問題⑪	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑪の翻訳と解説
13	HSK 3、4級閲読練習問題⑫	HSK 3、4級レベルの閲読練習 ⑫の翻訳と解説

14 総まとめ まとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 50 %
宿題・確認テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】
いっしょに楽しく中国語を読みましょう！

【Outline (in English)】

This class aims to improve students' ability to read Chinese texts through reading comprehension questions from the Chinese government-approved Chinese proficiency test, "HSK (Hanyu Shui Quao Shi)." In the spring semester, we will focus on reading comprehension questions at the HSK Level 3 and 4 level. We will begin by slowly reading short passages, prioritizing understanding vocabulary and grammar.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

中国語講読B

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）を通し、中国語の文章を読む力を高めるための授業です。春学期はHSK 5、6級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。

【到達目標】

中国語の文章購読を通して、HSK 5、6級レベルの読解力を高めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。 レベルチェック
2	HSK 5、6級閲読練習問題①	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ①の翻訳と解説
3	HSK 5、6級閲読練習問題②	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ②の翻訳と解説
4	HSK 5、6級閲読練習問題③	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ③の翻訳と解説
5	HSK 5、6級閲読練習問題④	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ④の翻訳と解説
6	HSK 5、6級閲読練習問題⑤	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑤の翻訳と解説
7	HSK 5、6級閲読練習問題⑥	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑥の翻訳と解説
8	HSK 5、6級閲読練習問題⑦	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑦の翻訳と解説
9	HSK 5、6級閲読練習問題⑧	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑧の翻訳と解説
10	HSK 5、6級閲読練習問題⑨	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑨の翻訳と解説
11	HSK 5、6級閲読練習問題⑩	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑩の翻訳と解説
12	HSK 5、6級閲読練習問題⑪	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑪の翻訳と解説
13	HSK 5、6級閲読練習問題⑫	HSK 5、6級レベルの閲読練習 ⑫の翻訳と解説

14 総まとめ

まとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

学習態度 50%

宿題・確認テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

いっしょに楽しく中国語を読みましょう！

【Outline (in English)】

This class aims to improve students' ability to read Chinese texts through reading comprehension questions from the Chinese government-approved Chinese proficiency test, "HSK (Hanyu Shui Quao Shi)." In the spring semester, we will focus on reading comprehension questions at the HSK Level 5 and 6 level. We will begin by slowly reading short passages, prioritizing understanding vocabulary and grammar.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語中級 A

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の3級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである3級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約20分]
- ②リスニング問題の解説 [約50分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約30分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3級リスニング対策①	HSK3級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK3級リスニング対策②	HSK3級リスニング問題の第二部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK3級リスニング対策③	HSK3級リスニング問題の第三部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK3級リスニング対策④	HSK3級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK3級リスニング対策⑤	HSK3級リスニング問題の第三部分（21-25）の解説と練習問題

7	HSK3級リスニング対策⑥	HSK3級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK3級リスニング対策⑦	HSK3級リスニング問題の第四部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK3級リスニング対策⑧	HSK3級リスニング問題の第四部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK3級読解対策①	HSK3級読解問題の第一部分（41-50）及び第二部分（51-55）の解説
11	HSK3級読解対策②	HSK3級読解問題の第二部分（56-60）及び第三部分（61-70）の解説
12	HSK3級作文対策	HSK3級作文問題（71-80）の解説
13	HSK3級模擬試験と解説	HSK3級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCまたはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
- ・予習（詳細は授業時に説明）していることを前提に授業を進める。
- ・HSK合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語中級 B

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、**HSK（漢語水平考試）の4級**に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。**HSK（漢語水平考試）**とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである4級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、**HSK4級の過去問題**を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、**HSK4級合格に必要なリスニング力を身につける。**
- (2) 過去問題を解き、**HSK4級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK4級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）**を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約20分]
- ②リスニング問題の解説 [約50分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約30分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4級リスニング対策①	HSK4級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK4級リスニング対策②	HSK4級リスニング問題の第二部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK4級リスニング対策③	HSK4級リスニング問題の第三部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK4級リスニング対策④	HSK4級リスニング問題の第四部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK4級リスニング対策⑤	HSK4級リスニング問題の第五部分（21-25）の解説と練習問題

7	HSK4級リスニング対策⑥	HSK4級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK4級リスニング対策⑦	HSK4級リスニング問題の第三部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK4級リスニング対策⑧	HSK4級リスニング問題の第三部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK4級リスニング対策⑨	HSK4級リスニング問題の第三部分（41-45）の解説と練習問題
11	HSK4級読解対策	HSK4級読解問題（46-85）の解説
12	HSK4級作文対策	HSK4級作文問題（86-100）の解説
13	HSK4級模擬試験と解説	HSK4級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、**HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）**を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎〔改訂新版〕』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCまたはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
- ・予習（詳細は授業時に説明）していることを前提に授業を進める。
- ・HSK合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語上級 A

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の5級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】

過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル5に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK5級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
3	HSK5級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
4	HSK5級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
5	HSK5級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
6	HSK5級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
7	HSK5級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
8	HSK5級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
9	HSK5級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 答え合わせ及び解説
10	HSK5級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説

11	HSK5級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説
12	HSK5級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説
13	HSK5級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の 添削及び解説
14	総まとめ	まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

学習態度 50%

宿題と課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 5.

【Learning Objectives】

By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 5.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and learning attitude 40%

Homework completion 40%

Final exam 20%

LANc300LA (中国語 / Chinese language education 300)

資格中国語上級 B

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の6級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】

過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル6に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK6級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK6級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK6級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK6級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK6級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK6級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK6級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK6級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK6級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説

11	HSK6級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
12	HSK6級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
13	HSK6級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
14	総まとめ	まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

学習態度 50%

宿題と課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 6.

【Learning Objectives】

By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 6.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and learning attitude 40%

Homework completion 40%

Final exam 20%

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

第三外国語としてのスペイン語A 2017年度以降入学者

CARMEN GARCIA

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(40)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎的知識を身につけ、自己紹介や、自分の生活について話すなどの単純な会話ができるようになることを目標とする。授業を通して、スペイン語の学習がスペイン語圏の人々の理解と、文化的な多様性の認識につながることに気づくことが重要である。

【到達目標】
スペイン語初心者のためのクラスで、基礎文法、語彙、表現を、ペアやグループでコミュニケーションするアクティビティを通じて学んでいく。スペイン語に慣れ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランス良く身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面式です。
授業中、教師が文法のポイントを説明し、生徒は対応する演習を、オーディオ活動やペアワークを交えながら行います。
積極的な授業への参加姿勢、教科書と辞書の必携。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	第1課	アルファベット、 発音、数字、クラスで使う表現、挨拶
3	第2課	主語になる人称代名詞、国籍を表すの性と数
4	第2課	職業を表す語、疑問詞1、指示詞1、個人情報
5	第3課	定冠詞と不定冠詞、所有詞、形容詞
6	第3課	動詞serと存在、位置を表すestar、スペインの都市
7	小テスト	数字（11-30）、時間
8	第4課	動詞の現在形、疑問詞2
9	第4課	曜日、スペインの若者の生活
10	第5課	指示詞2、所有形容詞、数字（30-100）、
11	第5課	動詞tener、人の記述、家族の紹介
12	第6課	hayとestarの用法、動詞ir、月と季節
13	第6課	ir a+不定詞、querer+不定詞、tener que+不定詞、理由と目的、旅のプラン
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。
予習が必要な場合は、授業中に指示する。予習の指示がない場合は、次の授業で扱う内容にざっと目を通しておく。
復習について、
○ 新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。
○ 新出、既習にかかわらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。
○ 授業で扱ったオーディオを教科書を見なくても理解できるよう復習する。
○ その他教員が指示した学習を行う。

【テキスト（教科書）】
フアン・カルロス・モヤノ・ロベス /カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ /廣康好美「いいね！ スペイン語1 コンパクト版」朝日出版社、2023年

【参考書】
高垣敏博編『ポケットプログレッシブ西和和辞典』小学館
「西和辞典」（小学館）「現代語辞典」（白水社）
プログレッシブ スペイン語辞典〈第2版〉カレッジエディション 小学館
松本 詢子、フィシア サン マテオ バルデタ「ボカブラリオ：アクティビティで身につくスペイン語基本語彙」三修社、2026年

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）、試験（60％）から総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（LMS）を使用して、資料の配布や課題の提出を行う場合があります。

【その他の重要事項】
自動翻訳機や生成AIの使用は厳禁です。機械翻訳などを使用し、丸写しとみられるものは評価対象外とする。
フィードバックは授業中に行われます。

【Outline (in English)】
This class for beginners of Spanish teaches fundamental grammar, vocabulary, and expressions through activities involving communication in pairs and groups. Students become familiar with Spanish and develop the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a balanced manner. The aim is to acquire basic knowledge of Spanish and become capable of simple conversations, such as introducing oneself and discussing one's life. It is important that students realise, through the course, that learning Spanish leads to an understanding of Spanish-speaking people and an awareness of cultural diversity.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria: 60% exams, 40%in-class contribution.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

第三外国語としてのスペイン語B 2017年度以降入学者

CARMEN GARCIA

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的知識を身につけ、自己紹介や、自分の生活について話すなどの単純な会話ができるようになることを目標とする。授業を通して、スペイン語の学習がスペイン語圏の人々の理解と、文化的な多様性の認識につながることに気づくことが重要である。

【到達目標】

スペイン語初心者のためのクラスで、基礎文法、語彙、表現を、ペアやグループでコミュニケーションするアクティビティを通じて学んでいく。スペイン語に慣れ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランス良く身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面式です。

授業中、教師が文法のポイントを説明し、生徒は対応する演習を、オーディオ活動やペアワークを交えながら行います。積極的な授業への参加姿勢、教科書と辞書の必携。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前置詞を伴う人称代名詞、動詞 gustar
3	第7課	動詞+形容詞、好み
4	第8課	不規則活用する動詞1、直接目的人称代名詞、数字1
4	第8課	色、不定語、買い物
5	第9課	不規則活用する動詞2、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞
6	第9課	動詞saberとpoder、動詞ser/estar、レストラン、バル、カフェテリアで
7	小テスト	秋学期前半の学習事項に関する試験とふりかえり、
8	第10課	代名動詞
9	第10課	天気、日常生活、祭り行事
10	第11課	動詞estar+形容詞（体調や気分）、動詞tener+名詞（感覚）
11	第11課	動詞doler、形容詞、動詞、名詞の修飾語、接続詞、アドバイス、健康的な生活
12	第12課	過去の時表す表現、動詞ir点過去、
13	第12課	点過去規則活用、旅行、今年度の出来事
14	期末試験	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

予習が必要な場合は、授業中に指示する。予習の指示がない場合は、次の授業で扱う内容にざっと目を通しておく。

復習について、

○ 新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。

○ 新出、既習にかかわらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。

○ 授業で扱ったオーディオを教科書を見なくても理解できるよう復習する。

○ その他教員が指示した学習を行う。

【テキスト（教科書）】

フアン・カルロス・モヤノ・ロペス/カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ/廣康好美「いいね！ スペイン語1 コンパクト版」朝日出版社、2023年

【参考書】

高垣敏博編『ポケットプログレッシブ西和和辞典』小学館

「西和中辞典」（小学館）「現代語辞典」（白水社）

プログレッシブ スペイン語辞典〈第2版〉カレッジエディション 小学館

松本 詢子、フィシア サン マテオ バルデタ「ボカブラリオ：アクティビティで身につくスペイン語基本語彙」三修社、2026年

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、試験（60％）から総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（LMS）を使用して、資料の配布や課題の提出を行う場合があります。

【その他の重要事項】

自動翻訳機や生成AIの使用は厳禁です。機械翻訳などを使用し、丸写しとみられるものは評価対象外とする。

フィードバックは授業中に行われます。

【Outline (in English)】

This class for beginners of Spanish teaches fundamental grammar, vocabulary, and expressions through activities involving communication in pairs and groups. Students become familiar with Spanish and develop the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a balanced manner.

The aim is to acquire basic knowledge of Spanish and become capable of simple conversations, such as introducing oneself and discussing one's life. It is important that students realise, through the course, that learning Spanish leads to an understanding of Spanish-speaking people and an awareness of cultural diversity.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria: 60% exams, 40%in-class contribution.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語上級A

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAスペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。受講生は、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化を理解することができるようになることが期待される。あわせて、時間の許すかぎり、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②スペイン語による簡単なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭で行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。
3	講読2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。

9	講読8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。
10	講読9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された教材を当日までに徹底的に読みこむ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容50%、ディスカッションへの参加姿勢25%、他の学生の発表の際の参加姿勢25%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語上級B

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAスペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。受講生は、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化を理解することができるようになることが期待される。あわせて、時間の許すかぎり、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②スペイン語による簡単なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を指名して解答を要求する。教師はそれについてアドバイスやコメントを行なう。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読1 ディスカッション (時事問題)	教員による授業。 テーマに関するディスカッション。
3	講読2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。

9	講読8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。
10	講読9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された教材を当日までに徹底的に読みこむ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容50%、ディスカッションへの参加姿勢25%、他の学生の発表の際の参加姿勢25%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生による主体的な参加を促しながら授業を進めます。

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語コミュニケーション中 2017年度以降入学
級A

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。すべての授業は対面形式で行われます。

【到達目標】

スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通して頂くことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介 花見	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	女性の15歳の誕生日のお祝い	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	日本の成人式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペイン語圏ののホラー物語	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	La llorona: 物語、音楽、映画	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	映画：ラ・ヨローナ	映画I
7	映画：ラ・ヨローナ	映画II リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペイン語圏の大統領 I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	スペイン語圏の大統領 II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

10	スペイン語圏のダンスI	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペイン語圏のダンスII	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	ファッション	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	古着	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通して頂くことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

辞書（電子辞書可）/Shogakukan DICcionario ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など → 60%
2. 期末のレポートと口頭試験に基づく点数 → 40%

【学生の意見等からの気づき】

対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】

In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.

Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.

Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.

Grading Criteria:

Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude, and active participation → 60%

Reports and oral exam at the end of the term → 40%

To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.

As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語コミュニケーション中 2017年度以降入学
級B

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。

【到達目標】

スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化し、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回最初に仲間同士で10個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習などを行う。本授業には課題や小テストがあり。期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらう。さらにその内容に関してのスペイン語での口頭試験もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	REFRANES Y EXPRESIONES MÁS USADO DEL MUNDO HISPANO I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	REFRANES Y EXPRESIONES MÁS USADO DEL MUNDO HISPANO II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	LOS GEOGLIFOS DE NAZCA	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	EL CAMINO DE SANTIAGO I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	EL CAMINO DE SANTIAGO II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	LA COCA NO ES COCAINA	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	EL MAIZ I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

8	EL MAIZ II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習 小テスト
9	LA PAPA	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	EL CHUÑO	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	EL CUY	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	LA COMIDA PERUANA I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	LA COMIDA PERUANA II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えることと仲間との練習で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

辞書（電子辞書可）/Shogakukan DICcionario ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】

- 1.授業内で指された時の返事に基づく点数。小テスト、又、授業での態度や積極的な参加度など → 60%
- 2.期末のレポートと口頭試験に基づく点数 → 40%

【学生の意見等からの気づき】

対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】

In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.

Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.

Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.

For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.

Grading Criteria:

Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude, midterm exam, and active participation → 60%

Reports and oral exam at the end of the term → 40%

To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.

As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。春学期は詩を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】

- (1) スペイン語圏の詩に関する基本的な理解を得る。
- (2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

スペイン語テキストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	ルベン・ダリーオとモデルニスモ	ルベン・ダリーオとその詩およびモデルニスモについて学ぶ。
3	「98年世代」の詩人たち	「98年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
4	「14年世代」から「27年世代」へ	「14年世代」と「27年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
5	スペイン内戦、抵抗、亡命	スペイン内戦期の詩について学ぶ。
6	フェデリーコ・ガルシア・ロルカ	フェデリーコ・ガルシア・ロルカとその詩について学ぶ。
7	フランコ体制下の詩	フランコ体制下の詩について学ぶ。
8	ポスト・フランコ期の詩	ポスト・フランコ期の詩について学ぶ。
9	パブロ・ネルーダ	パブロ・ネルーダとその詩について学ぶ。
10	ニカノール・パラ	ニカノール・パラとその詩について学ぶ。
11	レイナルド・アレーナスとキューバ革命	レイナルド・アレーナスとその詩およびキューバ革命について学ぶ。

12	ロケ・ダルトンと中米の動乱	ロケ・ダルトンとその詩および中米の動乱について学ぶ。
13	ホルヘ・ルイス・ボルヘスの詩論	ホルヘ・ルイス・ボルヘスとその詩論について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、各回で扱う予定のテキストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：100%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- この授業ではスペイン語テキストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（1年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。

- 履修希望者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨を初回授業の前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。秋学期は歌（歌詞）を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】

- (1) スペイン語圏の歌に関する基本的な理解を得る。
- (2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

スペイン語テキストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	国歌と「国民的」歌謡曲	スペイン語圏の国歌と「国民的」とされる歌謡曲について学ぶ。
3	カンテ・フラメンコとその系譜	カンテ・フラメンコとその系譜について学ぶ。
4	「ラテン」音楽の諸相	ラテン音楽と総称される音楽ジャンルの多様性について学ぶ。
5	タンゴとタンゴ・オペリータ	タンゴとタンゴ・オペリータについて学ぶ。
6	ビオレータ・パラ	ビオレータ・パラとその歌について学ぶ。
7	ピクトル・ハラ	ピクトル・ハラとその歌について学ぶ。
8	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国の関係について楽曲とその歌詞から学ぶ。
9	ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ	映画『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』とその楽曲について学ぶ。
10	ヒスパニック社会とサルサ	米国のヒスパニック社会とサルサについて学ぶ。
11	ウィリー・コロソ	ウィリー・コロソとその歌について学ぶ。

12	ルベン・ブラーデス	ルベン・ブラーデスとその歌について学ぶ。
13	カバー曲における翻訳と翻案	カバー曲における翻訳と翻案について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、各回で扱う予定のテキストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：100%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- この授業ではスペイン語テキストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（1年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。

- 履修希望者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨を初回授業の前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語講読A

2017年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法（学期終了までに、およそ接続法現在まで）の理解を深めながら、辞書を引きつつ短い読み物を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれた短い読み物を、語彙、文法、表現等に注目しながら読み解いていく。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	1課 文法復習	教科書第1課の文法復習 (直説法現在形、serとestar、estarとhay、現在分詞など)
3	2課 文法復習	教科書第2課の文法復習 (再帰動詞など)
4	2課 読解	教科書第2課の本文読解
5	3課 文法復習	教科書第3課の文法復習 (直説法現在完了、直説法過去など)
6	4課 文法復習	教科書第4課の文法復習 (直説法線過去など)
7	4課 読解	教科書第4課の本文読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	5課 文法復習	教科書第5課の文法復習 (直説法過去完了、受身表現など)
10	6課 文法復習	教科書第6課の文法復習 (直説法未来、直説法過去未来など)
11	6課 読解	教科書第6課の本文読解
12	7課 文法復習	教科書第7課の文法復習 (関係詞など)
13	8課 文法復習	教科書第8課の文法復習 (接続法現在など)
	8課 読解	教科書第8課の本文読解

14 試験・まとめと解説 今学期の期末テストを実施
まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

二宮哲『一歩進んだスペイン語-中級スペイン語-』同学社、2016年、ISBN: 978-4-8102-0430-8

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間テスト30%、期末テスト40%として総合的に評価する。

なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。
文法をしっかりと復習しながら読解を進めるので、既習文法の理解に自信が無い場合も心配しないほしい。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

LANs300LA (スペイン語 / Spanish language education 300)

スペイン語講読 B

2017年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、スペイン語で書かれたある程度の長さの映画脚本を読解できるようになる。またこれを通じ、スペイン語圏の文化に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、現代スペイン映画の巨匠ペドロ・アルモドバル（Pedro Almodóvar）監督の代表作の一つである『オール・アバウト・マイ・マザー』（原題: Todo sobre mi madre、1999年）のスペイン語脚本を、一学期間をかけて丁寧に読み解いていく。

問題の箇所が日本語の字幕ではどのように表現されているかを適宜確認しながら、翻訳という営みの奥深さにも触れていく。

現代劇なので崩れた言い回しや俗語等が多用されているが、それらを通じて生きた現代スペイン語に親しむ。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	シーン0～11	シーン0から11までの読解
3	シーン12～23	シーン12から23までの読解
4	シーン24～35	シーン24から35までの読解
5	シーン36～47	シーン36から47までの読解
6	シーン48～59	シーン48から59までの読解
7	シーン60～71	シーン60から71までの読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	シーン72～83	シーン72から83までの読解
10	シーン84～95	シーン84から95までの読解
11	シーン96～107	シーン96から107までの読解
12	シーン108～119	シーン108から119までの読解
13	シーン120～122	シーン120から最後まで読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回読解する箇所の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間テスト30%、期末テスト40%として総合的に評価する。

なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】

1学期間でテキスト全体を読み通すことを無理に目指さず、履修生の理解度を確認しつつ進める。

【その他の重要事項】

春学期開講の「スペイン語講読A」において学習した内容を踏まえて授業を進めることも多いため、同科目と合わせて履修を推奨する。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading a movie script written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read long conversation texts in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語オーラル・コミュニケーション 2017年度以降入学者

Robert Durham

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：1単位

定員制(24)

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their English oral communication skills. Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and societal trends. Additional activities will include pair practice of daily English communication skills.

【到達目標】

The goal of this Spring course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English, using 21st Century 'EQ' skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will be introduced to a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Students will then be asked to practice giving their opinions in English, with the teacher and with classmates. Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	[All SCHEDULE items are tentative...&might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.] Introducing yourself, in smoothly, natural, friendly English.	Introduction vocabulary; &'EQ' responses thereto.
2	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; &'EQ' responses thereto.
3	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
4	"How was your Golden Week?"	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/ etc.

5	"How are you?" "How are you doing?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"
6	Further practice, re: "How goes it?"	More spoken English pairwork practice, re: "How are you doing?"
7	Video documentary or News clips or TED Talk, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
8	"How often do you ___?"	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
9	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
10	Further practice, re: asking for/giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
11	Video/ News/ TED Talk activity, with questions about that video clip. Also, "What are your hobbies?"	Students may watch a News/ TED Talk/ documentary video clip...and may be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English. Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.
12	Review & practice of all topics studied and practiced during the semester.	Review & practice for the Spring Speaking Exam.
13	Speaking EXAM about all of the topics we studied during the semester.	Speaking EXAM, re: all of the topics studied during the semester.
14	"What are your plans for the Summer Break?"	Pairwork, to ask & answer about students' plans, re: Summer Break.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour or two hours a week, for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts may be distributed to students.

【参考書】

-

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%). *IMPORTANT: A MAXIMUM OF 3.0 ABSENCES IS ALLOWED...&ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.*

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

Please make sure to bring a binder & binder paper, every class; pens; & a black marker pen.

{ + Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, Students MIGHT need 'Online Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/ earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/ speed.] } So, please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.}

【その他の重要事項】

If you're sick/ have a fever/ coughing/ sneezing: please STAY HOME & recover. (Please DON'T bring Cold/ Influenza/ Covid viruses to class.)

Manners: whenever anyone coughs/ sneezes: that person should fully cover nose/mouth, to protect other people from virus spread.

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' & good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF 3.0 ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.*

Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, please prepare EARLY: a fully-working computer AND microphone; fast Wi-Fi; and a fully-working microphone.

【Outline (in English)】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their English oral communication skills. Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and societal trends. Additional activities will include pair practice of daily English communication skills.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語オーラル・コミュニケーション II 2017年度以降入学者

Robert Durham

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：1単位

定員制(24)

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course provides students with the opportunity to develop their English oral communication skills. Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and societal trends. Additional activities will include pair practice of daily English communication skills.

【到達目標】

The goal of this Autumn course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English, using 21st Century 'EQ' skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will be introduced to a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Students will then be asked to practice giving their opinions in English, with the teacher and with classmates. Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	*[All SCHEDULE items are tentative...&might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/ Past Tense, in smooth, spoken English.
2	"How much does that cost?"	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
3	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
4	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en customs; and in what countries has Hallowe'en traditionally been celebrated?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.

5	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will', re: Hallowe'en costumes & activities.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities.
6	"The Seven W's": (Who...?/ What...?/ When...?/ Where...?/ Why...?/ Which...?/ How...?)	Students will learn how to verbally ask others, and to reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
7	"What would you do, if _____?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English.
8	"What time is it?", & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; AND about telling time(s).
9	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S./ Canada.	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...&to explain them in spoken English.
10	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
11	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Students will watch/listen to an English video/ song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.
12	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verbally (in English) their Future plans for Christmas/ OhShoGatsu.
13	Speaking EXAM, re: all topics that students learned and practiced during the Fall semester.	Speaking EXAM: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in the Fall semester.
14	"How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?"	Students will be asked to write down (and practice with classmates) adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/ Christmas activities.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour or two hours a week, for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts may be distributed to students.

【参考書】

-

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

*IMPORTANT: A MAXIMUM OF 3.0 ABSENCES IS ALLOWED...&ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

Please make sure to bring a binder & binder paper, every class; pens; & a black marker pen.

{ + Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, Students MIGHT need 'Online Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/ earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/ speed.] } So, please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.}

【その他の重要事項】

If you're sick/ have a fever/ coughing/ sneezing: please STAY HOME & recover. (Please DON'T bring Cold/ Influenza/ Covid viruses to class.)

Manners: whenever anyone coughs/ sneezes: that person should fully cover nose/mouth, to protect other people from virus spread.

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' & good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF 3.0 ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.*

Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, please prepare EARLY: a fully-working computer AND microphone; fast Wi-Fi; and a fully-working microphone.

【Outline (in English)】

This course provides students with the opportunity to develop their English oral communication skills. Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and societal trends. Additional activities will include pair practice of daily English communication skills.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語オーラル・コミュニケーション 2017年度以降入学者
|

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

定員制(24)

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is

for students who wish to practice and develop their oral communication skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and reading fluency.
2. Students will become more capable of participating in discussions, debates, and making presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator, providing oral and written feedback on assignments, unit tests, and speaking tasks to help students successfully achieve the course goals.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
One.	Class orientation Unit 1 First Impressions	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Features you look for when you meet someone.
3	Unit 2 Big or small?	Sharing ideas about living in a big city or a small town.
4	Unit Quiz. Unit 3 - The Good Language Learner	Units 1 & 2 quiz The pros and cons of living in another country.
5	Unit 6 What are friends for?	Things close friends do for each other.
6	Unit 7 What's for lunch?	Deciding which foods are healthy.
7	Unit Quiz. Mid-semester task preparation.	Units 3, 6 & 7 quiz.

8	Mid-semester speaking task	Mid-semester speaking task.
9	Unit 8 Your Online Past	Your digital literacy skills.
10	Unit 9 Taking Care of Father	Living with an older parent.
11	Quiz Unit 10 My Student Life	Units 8 & 9 quiz. Important reasons to go to university.
12	Unit 11 International Relationships	Good and bad things about international relationships.
13	Quiz Final speaking task preparation	Units 10 & 11 quiz Final speaking task preparation
14	Final speaking task	Final speaking task

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Impact Issues 2 (3rd Edition)
ISBN 9789813134386
Pearson

【参考書】

Worksheets
Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (16%)
Homework completion / quizzes (45%)
Final task (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

The Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語オーラル・コミュニケーション II 2017年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

定員制(24)

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their oral communication skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and reading fluency.
2. Students will become more capable of participating in discussions, debates, and making presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator, providing oral and written feedback on assignments, unit tests, and speaking tasks to help students successfully achieve the course goals.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
One.	Class orientation Speaking task	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your summer vacation.
2	Unit 12 Create another future	Ways to save the environment.
3	Unit 13 Ben and Mike	How to deal with rumors.
4	Unit 14 Government Control	How much control do you want in your life?
5	Quiz Unit 15 Ask Annie	Units 12 &13 quiz Getting support for a big decision.
6	Unit 16 What makes you happy?	What makes a person happy?
7	Unit Quiz. Mid-semester task preparation.	Units 14, 15 &16 quiz.
8	Mid-semester speaking task	Mid-semester speaking task.
9	Unit 17 Who will help them?	Who needs help in your country, city or neighborhood?

10	Unit 18 Finding the Right One	Your ideal partner.
11	Quiz Unit 19 Dress for Success	Units 17 &18 quiz. What makes someone a good teacher?
12	Unit 20 A Mother's Story	Is capital punishment the right punishment?
13	Quiz Final speaking task preparation	Units 19 &20 quiz Final speaking task preparation
14	Final speaking task	Final speaking task

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

【参考書】

Worksheets

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)

Mid-semester task (16%)

Homework completion / quizzes (45%)

Final task (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

The Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ビジネス・イングリッシュ I 2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

定員制(24)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

【到達目標】

Students will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course	Review syllabus and textbook Introduction
2	Unit 1: Pleased to meet you (1-6)	Introducing people Pages 7-10
3	Unit 1: Pleased to meet you (7-12)	Introducing people Pages 10-13
4	Unit 2: Who do you work for? (1-6)	Describing companies Pages 15-18
5	Unit 2: Who do you work for? (7-12)	Describing companies Pages 18-21
6	Unit 3: What do you do? (1-6)	Describing occupations Pages 23-25
7	Unit 3: What do you do? (7-12)	Describing occupations Pages 26-29
8	Unit 4: Can I leave a message (1-6)	Phone conversations Pages 31-34
9	Unit 4: Can I leave a message (7-12)	Phone conversations Pages 35-36
10	Unit 5: It's tough managing my time (1-6)	Describing time and schedules Pages 39-42

11	Unit 5: It's tough managing my time (7-12)	Describing time and schedules Pages 43-46
12	Unit 6 What do you call that thing? (1-6)	Talking about difficult words Pages 49-51
13	Unit 6 What do you call that thing? (7-12)	Talking about difficult words Pages 52-55
14	Pair Speaking Exams	Final Exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Communication Spotlight: Business 2 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material from time to time to increase their knowledge.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【Outline (in English)】

This course will help students improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ビジネス・イングリッシュⅡ 2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

定員制(24)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

【到達目標】

Student will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Unit 7: How much is that in Korean Won? (1-6)	Talking about money Pages 57-59
3	Unit 7: How much is that in Korean Won? (7-12)	Talking about money Pages 59-62
4	Unit 8: You need to download a form (1-6)	Giving instructions Pages 65-67
5	Unit 8: You need to download a form (7-12)	Giving instructions Pages 68-72
6	Unit 9: Do you like Indonesian food? (1-6)	Describing food Pages 75-77
7	Unit 9: Do you like Indonesian food?(7-12)	Describing food Pages 78-81

8	Unit 10: Do you have the sales figures? (1-6)	Working with large numbers Pages 83-86
9	Unit 10: Do you have the sales figures? (7-12)	Working with large numbers Pages 87-91
10	Unit 11: Make sure you keep all receipts (1-6)	Giving advice / Business trips Pages 93-95
11	Unit 11: Make sure you keep all receipts (7-12)	Giving advice / Business trips Pages 96-99
12	Unit 12 When's the trade fair? (1-6)	Describing future plans Pages 101-103
13	Unit 12 When's the trade fair? (7-12)	Describing future plans Pages 104-108
14	Student Pair Speaking Examinations	Final Exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Communication Spotlight: Business 2 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material from time to time to increase their knowledge of business topics.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【Outline (in English)】

This course will help students to improve their English communications skills for business and to develop a better understanding of international business practices.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ビジネス・イングリッシュ I 2017年度以降入学者

L A S S E G A R D J A M E S

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(24)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To learn English (all four skills) for use in a professional (corporate) setting

【到達目標】

This is an intermediate to advanced (level 3-4) business English course that focuses on improving oral and written communication skills in a business setting (listening & speaking, writing practice). Reading short essays and writing memos and business correspondence will also be emphasized in this course, as well as vocabulary development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The class will be conducted entirely in English and in person. Students are expected to actively participate in classroom activities and discussions, and to give short presentations on business-related topics. Students should be prepared for class by doing the assigned reading and homework. Regular feedback will be given in class and by means of written assignments.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Self Introductions; explanation of course guidelines.
2	Living Abroad part 1	Reading and vocabulary practice—describe a local festival.
3	Living Abroad part 2	Small Talk: listening and conversation practice.
4	Living Abroad part 3	Case study: Global recruit. First writing assignment due.
5	Unit 2 Dealing with Customers	Reading and discussion: The shopping experience.
6	Dealing with Customers part 2: Using Polite Language	Listening and role play telephone customer service. Reading advertisements.
7	Dealing with Customers part 3—Business Correspondence	Handling e-mail complaints and making apologies.
8	Units 1 & 2 Review:	Midterm test
	Midterm test	

9	Unit 3: Operations— Lean Manufacturing	Reading and discussion: The Toyota Production System.
10	Unit 3 part 2: Trends and Planning	Company performance: reading and group assignment.
11	Unit 3 Part 3: Describing Company Performance	Student presentations
12	Unit 4: Case Study	Reading and discussion case study on the low cost air carrier (LCC) industry.
13	Unit 4 Review and Final Test	Unit review and final test,
14	Final Class: Wrap-up	Return tests. Feedback and discussion activities.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework is assigned every week and should take approximately 60 to 90 minutes. Students are expected to do the readings prior to the beginning of class and look up any unfamiliar vocabulary terms. Students will also do preparation for presentations outside of class.

【テキスト (教科書)】

Business Result Pre-intermediate: Student Book, 2nd edition, Grant/Hudson/Hughes; Oxford University Press.

【参考書】

Students should have a Japanese-English dictionary available (paper or electronic) for use in class.

【成績評価の方法と基準】

20% Attendance & Class Participation

40% Presentations

30% Quizzes

10% Writing Assignments

【学生の意見等からの気づき】

The course will utilize more current issues and topics pertaining to the business world. Students are also encouraged to read business news and bring current topics into the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have access to a computer to prepare for presentations.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Coming late to class twice =one absence. Students who are absent more than 3 times without good reason will not receive credit for the course. Students should inform the instructor by e-mail if they are absent due to illness or an emergency.

【Outline (in English)】

Students will learn about English used in international corporate settings. Special emphasis will be on speaking (presentations) and writing e-mails and short reports in formal English.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ビジネス・イングリッシュⅡ 2017年度以降入学者

L A S S E G A R D J A M E S

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(24)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The course emphasizes the learning and development of advanced English skills (reading, writing, speaking, listening) for use in a global professional (corporate) setting.

【到達目標】

This is an intermediate to advanced (level 3-4) business English course that focuses on improving oral and writing communication skills in a business setting (listening & speaking). Reading short passages and writing memos and business correspondence will also be emphasized in this course, as well as vocabulary development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The class is conducted entirely in English and in person. Students are expected to actively participate in classroom activities and discussions, and to give periodic presentations on business-related topics. Students should be prepared for class by doing the assigned readings and exercises in the textbook. Regular feedback is provided orally during class and through written assignments.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 4: Success Stories	Reading and discussion: Business leaders.
2	Unit 4: Success Stories Part 2	Vocabulary practice. First Writing assignment.
3	Unit 4: Success Stories Part 3	Speaking activity: Evaluating strengths and weaknesses.
4	Unit 5: Selling & Promotion	Reading and discussion: Advertising Spaces.
5	Unit 5: Selling Part 2	Student Presentations: developing an effective advertising campaign.
6	Unit 5: Selling Part 3	Speaking practice: Role play and Negotiating
7	Units 4 & 5 Review	Units 4 & 5 Review and Midterm Test
8	Unit 6 The Organization	Reading and discussion: Entrepreneurs
9	Unit 6 The Organization Part 2	Vocabulary and writing practice: types of companies; business meeting agendas.

10	Unit 6 The Organization Part 3	Writing Assignment #2 due: Business Plans
11	Unit 8: Going Global	Reading & Discussion: International Franchises
12	Going Global Part 2	Vocabulary and speaking practice. Opening a franchise.
13	Going Global Part 3	Final Student Presentations
14	Units 6 & 8 Review & Assessment	Presentation feedback. Final test and course wrap-up.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to come to class prepared, having read the assigned readings and studied any unfamiliar vocabulary terms. The University recommends students spend approximately 60 minutes on preparation each week for a one credit class. Students will need to spend additional time outside of class to do research and prepare for presentations twice each semester.

【テキスト (教科書)】

Business Result Pre-intermediate: Student's Book, 2nd edition, Grant/Hudson/Hughes. Oxford University Press.

【参考書】

Students should have a good Japanese-English dictionary (paper or electronic) that they bring to class every week.

【成績評価の方法と基準】

20% Attendance & Class Participation

40% Presentations

30% Quizzes

10% Writing assignments

【学生の意見等からの気づき】

The course will utilize more issues and topics pertaining to the world of business.

【学生が準備すべき機器他】

Audio-visual equipment will be used as appropriate.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to three unexcused absences. Students who are late to class twice = one absence. Students should inform the instructor by e-mail if they are absent due to illness or an emergency.

【Outline (in English)】

This class will teach students English skills used in international corporate settings. Students will have the opportunity to practice expressing themselves in spoken and written English.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者
I

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

【到達目標】

Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

Students will also acquire ability to handle discussions about some text topics related to economic, political, and current events related issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Intro- duction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Sus- tainable commu- nities I	Keeping the social peace	Examining social goals for societies. Exploring cultural bonds.
Sus- tainable commu- nities II	Social peace	Deepening understanding of social boundaries and possible conflicts.
Dilemmas for a respon- sible tourist I	Tourists and value they bring to societies	How tourism affects our lives in both positive and negative ways.

DilemmasNew trends of
for a tourism
respon-
sible
tourist
IIProtectingProtecting our
world cultural artifacts
heritageI
ProtectingLooking at
world historical buildings
heritage and the events they
II showNo more Engineered food
Bananas and possible
I consequencesNo more Scientists develop
Bananas strains and their
II goalsBlowing Corruption and its
whistles problems
IBlowing Witness to
whistles government waste
IIBreaking Bad laws
the law IBreaking Well meaning laws
the law ISummary Taking at look at
useful words
learnedPonder tourism negatives and
positive outcomesHow buildings are preserved
and design shows our historyWhy are these buildings
important for remembering
history?Quiz 1
Researching food sources and
why variety is important
Science and its end goals and
how they might ruin our
healthLooking at corporate
problems and how difficult
they are to solve
Trying to eliminate wasteExamining when do you have
an obligation to protestQuiz 2
Researching laws that don't
cover all circumstances
Reviewing useful vocabulary
and its parameters

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some reading and vocabulary review.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Issues that matter - Kinseido

ISBN 9784764740617 or 1921082018006

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 70%

Homework 30%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email

walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Reading and Vocabulary II 2017年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/> Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
 GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

【到達目標】

Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

Students will acquire discussion skills to handle discussions about economic, political, and current events topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Intro-duction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Food politics	Food politics	How do we get our food?
Food politics II	Sourcing our food	Positives and negatives of climate change on food sourcing
Food inequality I	Food and its effects on society	Look at how inequalities affect our food
Recycling II	recycling and government regulation	Show and discuss government regulations that try to reduce waste
Recycling II	Covering aspects of structure and use of waste	Looking at waste usage
Blowing whistles	Whistle blowing vs leaking	How whistle blowing affects us

Blowing whistles II II	Consequences of leaking	Government actions vs leaking
Protesting II	Protesting	Reasons why people protest
Protesting II	Handling protests	Why people protest and how governments handle it
Fake news II	Where does fake news come from?	Talking about fake vs real news
Fake news II	Social media and fake news	Why social media is full of it
review of unit questions I	Review course of unit themes	Discussions of unit themes
review of unit issues and Summary	Review course of unit themes	Discuss course related themes.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare presentation material and review vocabulary lists. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Issues that matter- Kinseido
 ISBN 978-4-7647-4061-7

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 70%
 Homework 30%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

Require more use of English by students

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, writing instrument

【その他の重要事項】

Contact email
 walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者
I

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

【到達目標】

1. Students will understand and utilize the writing process of planning, writing, and re-writing.
2. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.
3. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will learn new vocabulary from the textbook and reinforce it via discussions and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 2	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 3	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 4	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.

5	Unit 5	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.
6	Unit 6	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion Feedback
7	Midterm	
8	Unit 7	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
9	Unit 8	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 9	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 10	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 11	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
13	Unit 12	Learn new vocabulary. Reading story. Homework: prepare for final exam.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will study vocabulary on Quizlet and read articles.

【テキスト（教科書）】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition).
Isbn # 9781640151369

【参考書】

Book and Quizlet should be studied.

【成績評価の方法と基準】

50% quizzes and exams
25% writing exercises using new words
25% effort and participation
No more than 3 absences or you may fail this class.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Students should also be familiar with Google classroom and Hoppii.

【Outline (in English)】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA (英語 / English language education 200)			5	Unit 17	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
English Reading and Vocabulary II 2017年度以降入学者			6	Unit 18	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
ERIC J RITTER			7	Unit 19	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水3/Wed.3			8	Midterm Exam	Feedback
単位数：1単位			9	Unit 20	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
定員制(36)			10	Unit 21	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。 https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.			11	Unit 22	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.			12	Unit 23	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
その他属性：〈グ〉〈優〉			13	Unit 24	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			14	Final Exam	Review
Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
【到達目標】			University guidelines suggest preparation and review are around 4 hour a week for a two-credit class for a 2 hour class and 1 hour a week for a 1 hour class. Students will study vocabulary on Quizlet and read articles for homework before class.		
1. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.			【テキスト（教科書）】		
2. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.			Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition). Isbn # 9781640151369		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			【参考書】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1			None		
【主な授業方法】			【成績評価の方法と基準】		
L 講義 /Lecture			50% quizzes and exams 25% writing exercises using new words 25% effort and participation In principle, no more than 3 absences are allowed. Feedback will be given in class and via Google classroom.		
【授業の進め方と方法】			【学生の意見等からの気づき】		
Students will learn new vocabulary from the textbook and reinforce it via discussions and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.			None		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			【Outline (in English)】		
あり / Yes			Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	Unit 13	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion			
2	Unit 14	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion			
3	Unit 15	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion			
4	Unit 16	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion			

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Academic Writing I 2017年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
 GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an academic writing course focused on writing skills to improve scores on the IELTS Writing Task 1 (WT1) and to learn how to write and structure short essays with excellent structure, including an introduction, analytical content, using data sources, and conclusion.

WT1 involves writing short essays of at least 150 words, focusing on describing and analyzing visual data presented in a graph, table, chart, or diagram, requiring candidates to identify key trends and patterns and present them in a concise report format, to be written in 20 minutes.

【到達目標】

Students are expected to advance their practical writing skills (1) to improve their WTS1 scores and (2) to learn how to write and structure short essays with excellent structure, including an introduction, analytical content, using data sources, and conclusion.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write clear but relatively complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to interpret, analyse, and present data to reach reasonable conclusions
5. Write clearly and logically under time pressure without access to dictionaries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In the main part of the course, each week students will be given guidance and objectives on how to write a particular type of WT1 topic, and then either in class or for homework practice writing their own WT1.

In the following class, the student work will be given feedback and compared to model answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction and general outline of the course	Guide to IELTS academic and general WT1

Class 2	Informal and Formal Letters	How to write an informal letter and a formal letter in IELTS General
Class 3	Formal Letter Practice	Feedback on last week's work How to write a formal letter job application How to ask for time off
Class 4	Informal letter Practice	Feedback on last week's work How to write an informal letter to a friend How to write an informal letter selling a laptop
Class 5	Grammar and Vocabulary for WT1	Feedback on last week's work Writing task: Numbers, amounts, figures, totals
Class 6	Trends	Feedback on last week's work Writing task: Trends
Class 7	Statistics	Feedback on last week's work Writing task: Statistics
Class 8	Maps	Feedback on last week's work Writing task: Maps
Class 9	Process Diagrams	Feedback on last week's work Writing task: Process Diagrams
Class 10	Bar Charts	Skills: The pronouns it and then: writing about a favorite drink.
Class 11	Line Graphs	Feedback on last week's work Writing task: Line Graphs
Class 12	Pie Charts	Feedback on last week's work Writing task: Pie Charts
Class 13	Tables	Feedback on last week's work Writing task: Tables
Class 14	Student Choice of Task	Feedback on last week's work Writing task: Student Choice

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review feedback and grammar corrections each week from the instructor and apply lessons learned to the next writing task.

Students are expected to assimilate new vocabulary, grammar, and descriptive/ analytical/ interpretative skills on a weekly basis.

In particular, students are to review their writing assignments on a weekly basis so that their grammar, syntax, and narrative structure improve so as to raise their IELTS WT1 core.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course." Thank you for your co-operation.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. The instructor will provide all materials.

【参考書】

Supplied by the Instructor

【成績評価の方法と基準】

Weekly writing examples: 80%

In-class participation: 20%

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

1. Please address me as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Writing)(7)A

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

【Outline (in English)】

This course contains instruction, study and regular writing practice on a series of example topics taken from real exams, providing real practice, followed up by editing and feedback.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Academic Writing II 2017年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
 GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an academic writing course focused on writing skills to improve scores on the IELTS Writing Task 2 (WT2) and to learn how to write and structure short essays with excellent structure, including an introduction, analytical content, using data sources, and conclusion.

WT2 Involves writing a full essay in which/ for which students need to respond to a given question or argument, demonstrating an ability to construct a well-structured opinion and argument with supporting evidence and clear opinions.

【到達目標】

Students are expected to advance their practical writing skills (1) to improve their WT2 scores and (2) to learn how to write and structure short essays with excellent structure, including an introduction, analytical content, using data sources, and conclusion.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write clear but relatively complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to improve their ability to structure an argument/ opinion
5. Write clearly and logically under time pressure without access to dictionaries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In the main part of the course, each week students will be given guidance and objectives on how to write a particular type of WT2 topic, and then either in class or for homework practice writing their own WT2

In the following class, the student work will be given feedback and compared to model answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction and general outline of the course	Guide to IELTS WT2: Writing an essay introduction without paraphrasing

Class 2	IELTS Opinion Essay on shorter work weeks	Time Management Issues Practice Essay
Class 3	IELTS Discussion Essay on the utility of a university education	Feedback on last week's work 7-step guide to writing examples in main body paragraphs Practice Essay
Class 4	IELTS Discussion Essay on the topic of migration	Feedback on last week's work Realistic Expectations when preparing for IELTS Practice Essay
Class 5	IELTS Discussion Essay on the utility of a particular course	Feedback on last week's work Discussion essay language Practice Essay
Class 6	IELTS Two-Part Question Essay about home ownership	Feedback on last week's work Complex sentences Practice Essay
Class 7	IELTS Two-Part Question Essay on owning versus renting homes	Feedback on last week's work Words and phrases to avoid Practice Essay
Class 8	IELTS Opinion Essay on the role of newspapers and books in the future	Feedback on last week's work Balancing your opinion Practice Essay
Class 9	IELTS Opinion Essay on the topic of wealth	Feedback on last week's work Crime and Punishment vocabulary Practice Essay
Class 10	IELTS Opinion Essay on endangered animals	Feedback on last week's work Writing effective body paragraphs Practice Essay
Class 11	IELTS Opinion Essay on global warming	Feedback on last week's work Keeping your writing simple and concise Practice Essay
Class 12	IELTS Causes Solutions Essay on poverty	Feedback on last week's work Differences between problem solution and causes solutions essays Practice Essay
Class 13	IELTS Causes Solutions Essay on bullying	Feedback on last week's work Three types of advantage and disadvantage essays Practice Essay
Class 14	Student Choice of Task	Feedback on last week's work Practice Essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
 /University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Students are expected to review feedback and grammar corrections each week from the instructor and apply lessons learned to the next writing task.

Students are expected to assimilate new vocabulary, grammar, and descriptive/ analytical/ interpretative skills on a weekly basis.

In particular, students are to review their writing assignments on a weekly basis writing so that their grammar, syntax, and narrative structure improve so as to raise their IELTS WT1 core

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. The instructor will provide all materials.

【参考書】

Supplied by the Instructor

【成績評価の方法と基準】

Weekly writing examples: 80%

In-class participation: 20%

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

1. Please address me as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Writing)(7)A

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

【Outline (in English)】

Such essays are usually at least 250 words and are to be written within 40 minutes.

This course contains instruction, study and regular writing practice on a series of example topics taken from real exams, providing real practice, followed up by editing and feedback.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Academic Writing I 2017年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/> Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
 GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. The focus this semester will be on the Rhetorical Paragraph

【到達目標】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph structure, and a variety of grammatical and cohesive skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction Course Overview Assessment Classroom Management
2.	Formatting	How to format academic written work
3.	Descriptive paragraphs	Focus on the nominal group
4.	Descriptive Paragraphs: Feedback and revision	Peer correction, and paragraph rewriting
5.	Narrative paragraphs	Focus on the verbal group
6.	Narrative Paragraphs: Feedback and revision	Peer correction, and paragraph rewriting
7.	Problem / Solution Paragraphs 1	Focus on Modal Assessment - Obligation
8.	Problem / Solution paragraphs 2	Focus on Modal Assessment - Probability

9.	Problem / Solution paragraphs: Feedback and revision	Peer correction, and paragraph rewriting
10.	Persuasive Paragraphs 1	Focus on combining clauses: parataxis and hypotaxis
11.	Persuasive Paragraphs 2	Focus on cohesion
12.	Persuasive paragraphs: Feedback and revision	Peer correction, and paragraph rewriting
13.	Portfolio Submission and Final Test	Students write two paragraphs and submit their portfolios
14.	Feedback and overview	The teacher will give feedback on final paragraphs and portfolios

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Short Homework assignments will be set

【テキスト（教科書）】

The teacher will provide his own materials

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Portfolio: 40%

Final Paragraphs: 40%

Group Participation: 20%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

PCs with Microsoft Word are strongly recommended

【Outline (in English)】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. The focus this semester will be on the Rhetorical Paragraph

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Academic Writing II 2017年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to continue to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups.

【到達目標】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. This semester, the course will cover the academic essay

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction Course Overview Assessment Classroom Management
2.	Introducing IELTS Task 1	Becoming familiar with the IELTS Task 1 essay
3.	Describing charts and graphs 1	Using adverbial groups and nominal groups effectively
4.	Describing charts and graphs 2	Using verbal groups effectively
5.	Essay Structure and Cohesion	Mastering the structure of IELTS Task 1
6.	Preparing for the mid-semester essay	Targeted Review
7.	Mid-Semester Essay	Students will write an essay under exam conditions
8.	- Mid-Semester Essay Feedback - Introducing the IELTS Task 2 / TOEFL Essay	Becoming familiar with the IELTS Task 2 / TOEFL essay
9.	From Paragraph to Essay	Mastering the structure of a short academic essay

10.	Giving opinions in essays	Mastering modal verbs 1
11.	Looking at both sides of an argument	Mastering modal verbs 3
12.	The Cohesive Essay	Mastering cohesive strategies
13.	Final Essay	Students will write an academic essay under exam conditions
14.	Final Essay: Feedback	The teacher will provide feedback on the final essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Short Homework assignments will be set.

【テキスト（教科書）】

The teacher will provide his own materials

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Essays: 80%

Group Participation:20%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

PCs with Microsoft Word are recommended

【Outline (in English)】

This course will enable the student to continue to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I 2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。各適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	A Life Without Plastic	記事を読みます。
	プラなし生活を始めよう (前半)	
第3回	A Life Without Plastic	記事を読みます。
	プラなし生活を始めよう (後半)	
第4回	Rwanda Is Winning War on Plastic Bags	記事を読みます。
	ルワンダ発：ビニール袋は使えません (前半)	

第5回 Rwanda Is Winning War on Plastic Bags 記事を読みます。

ルワンダ発：ビニール袋は使えません (後半)

第6回 An Epidemic of Overweight Africans 記事を読みます。

ケニア発：食糧難の国で肥満率が急上昇 (前半)

第7回 An Epidemic of Overweight Africans 記事を読みます。

ケニア発：食糧難の国で肥満率が急上昇 (後半)

第8回 試験・まとめと解説 (中間) 試験・まとめと解説

第9回 West's Toxic E-Waste Despoils Thai Countryside 記事を読みます。

タイ発：危険なりサイクル (前半)

第10回 West's Toxic E-Waste Despoils Thai Countryside 記事を読みます。

タイ発：危険なりサイクル (後半)

第11回 College Cheating, A Global Business 記事を読みます。

宿題はゴーストライターにお任せ (前半)

第12回 College Cheating, A Global Business 記事を読みます。

宿題はゴーストライターにお任せ (後半)

第13回 まとめ方を考察する 記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

第14回 試験・まとめと解説 (期末) 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト (教科書)】

・ニューヨークタイムズ世界見聞, 喜多留女/Keith Wesley ADAMS 編注, 英宝社。(2,100円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

試験(80%)

平常点および課題(20%)

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合、初回の授業時に選抜を行う可能性があります。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 20%, Exam 80%

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ 2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信（前半）	記事を講読します。
第3回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信（後半）	記事を講読します。

第4回	Last Chance Travel' As the World Changes 失われゆく土地を指す旅（前半）	記事を講読します。
第5回	Last Chance Travel' As the World Changes 失われゆく土地を指す旅（後半）	記事を講読します。
第6回	Chinese Babies, Born Into Canadian Citizenship カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到（前半）	記事を講読します。
第7回	Chinese Babies, Born Into Canadian Citizenship カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到（後半）	記事を講読します。
第8回	試験・まとめと解説（中間）	試験・まとめと解説
第9回	Human Contact Is Now a Luxury Good タブレットの中で猫を飼う（前半）	記事を講読します。
第10回	Human Contact Is Now a Luxury Good タブレットの中で猫を飼う（後半）	記事を講読します。
第11回	With Cloning, Pet Owners in China Need Never Say Goodbye 中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります（前半）	記事を講読します。
第12回	With Cloning, Pet Owners in China Need Never Say Goodbye 中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります（後半）	記事を講読します。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	試験・まとめと解説（期末）	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ世界見聞、喜多留女／Keith Wesley ADAMS 編注、英宝社。（2,100円＋税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

試験(80%)

平常点および課題（20%）

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I 2017年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「メディア」・「自然環境」・「テクノロジー」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力を高めることを目指す。
2. テキストの練習問題を通して、文法力を高めることを目指す。
3. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
4. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。適宜小テストを実施するので、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が3つか4つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。適宜授業内でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明 必要であれば、受講者の選抜をする
第2回	Chapter 1	Going Viral
第3回	Chapter 2	Tourist Traps
第4回	Chapter 3	Deal Me In
第5回	Chapter 1 ～ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ～ Chapter 3 の中の いずれかについて、ライティング
第6回	Chapter 4	Full Contact
第7回	Chapter 5	Fake News
第8回	Chapter 6	Dead as a Dodo
第9回	Chapter 7	It's a Dry Heat
第10回	Chapter 4 ～ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ～ Chapter 7 の中の いずれかについて、ライティングと授業内発表

第11回	Chapter 8	Man's Best Friend
第12回	Chapter 9	The Wild West
第13回	Chapter 10	Man versus Beast
第14回	学期末課題	期末課題の提出と期末のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各Chapter の英文について、必ず予習をすること。
適宜小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Getting Ready to Change the World (『グローバル時代を生き抜く変革への視点』) (François de Soete 他著、成美堂、2,000円(税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (50%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50%) によって総合的に評価する。

4回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻2回は欠席1回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にしよう促す。英作文や小テストなどの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用・応用を呼びかけることで予習・復習の時間をしっかりとるよう促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。課題における、生成AIなどからの引用禁止を注意喚起する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。オンライン授業を取り入れている分、自分で計画的に予習や復習、課題を行う必要があります。各Chapterの本文は900words程で、それを基本的に自力で読み解きます。課題の締め切りや提出条件を守ること、自主的な学習への姿勢が求められます。その点を考慮した上で受講を決めてください。受講者数に応じて選抜を行う可能性があります。受講を希望する場合は、必ず初回の授業の指示に従い、「学習支援システム」の「課題」ページから必要な課題を提出してください。初回の授業時に所定の課題が提出されない場合は、原則受講できません。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「メディア」・「自然環境」・「テクノロジー」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力を高めることを目指す。
2. テキストの練習問題を通して、文法力を高めることを目指す。
3. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
4. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。適宜小テストを実施するので、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapterが3つか4つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。適宜授業内でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明 必要であれば、受講者の選抜をする
第2回	Chapter 11	A Perfect World
第3回	Chapter 12	Modern Frankenstein
第4回	Chapter 13	Tinted Lenses
第5回	Chapter 11 ~ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ~ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティング
第6回	Chapter 14	Get Well Soon
第7回	Chapter 15	The Need for Speed
第8回	Chapter 16	Time Travel
第9回	Chapter 17	The Great Unknown
第10回	Chapter 14 ~ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ~ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表

第11回	Chapter 18	The Endgame
第12回	Chapter 19	Heads Up
第13回	Chapter 20	Destination Mars
第14回	学期末課題	期末課題の提出と期末のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各Chapterの英文について、必ず予習をすること。
適宜小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Getting Ready to Change the World (『グローバル時代を生き抜く変革への視点』) (François de Soete 他著、成美堂、2,000円(税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末課題（50％）、授業態度・授業内に課した課題（ライティング課題の提出を重視）や小テストと各回のコメントを含む平常点（50％）によって総合的に評価する。

4回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻2回は欠席1回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にしよう促す。英作文や小テストなどの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用・応用を呼びかけることで予習・復習の時間をしっかりとるように促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。課題における、生成AIなどからの引用禁止を注意喚起する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。オンライン授業を取り入れている分、自分で計画的に予習や復習、課題を行う必要があります。各Chapterの本文は900words程で、それを基本的に自力で読み解きます。課題の締め切りや提出条件を守ること、自主的な学習への姿勢が求められます。その点を考慮した上で受講を決めてください。受講者数に応じて選抜を行う可能性があります。受講を希望する場合は、必ず初回の授業の指示に従い、「学習支援システム」の「課題」ページから必要な課題を提出してください。春学期の初回の授業時に所定の課題が提出されない場合は、原則受講できません。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)			第2回	Chapter 1 What is the United Kingdom?	「英国」「イギリス」とはなにか、についての基礎知識を学ぶ。Vocabulary Focus Part 1: Mirror images, Part 2: 4 nations について精読後、各パートの読解問題に答える。UK の nations の理解を深め、アイルランドについての基礎知識を得るため、映像教材で学ぶ。「英国」「イギリス」とはなにか、についての基礎知識を学ぶ。(つづき) Part 3 UK and GB ~ Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
英語で学ぶ社会と文化 I			第3回	Chapter 1 What is the United Kingdom? (つづき)	「英国」「イギリス」の多様性について学ぶ。Chapter 1 の小テスト。Vocabulary Focus Part 1: Diversity in looks and sounds, Part 2: Foreign-born winners を精読後、各パートの読解問題に答える。「英国」「イギリス」の多様性について学ぶ。(つづき) Part 3: Not only English Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
サブタイトル：社会と文化の諸相を知る			第4回	Chapter 2 Multicultural Britain	英国人にとってのお茶とはなにかについて学ぶ。Chapter 2 の小テスト。Vocabulary Focus Part 1: Comfort and fuel & Part 2: Three noble women を精読後、各パートの読解問題に答える。
舟橋 美香			第5回	Chapter 2 Multicultural Britain (つづき)	英国人にとってのお茶とはなにかについて学ぶ。(つづき) Part 3: Also a meal Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月5/Mon.5			第6回	Chapter 3 The Meaning of Tea	Chapter 3 の小テスト。「英国」の階級について学ぶ。Vocabulary Focus Part 1: Class-consciousness & Part 2: Social and cultural capital を精読後、各パートの読解問題に答える。
単位数：1単位			第7回	Chapter 3 The Meaning of Tea (つづき)	「英国」の階級について学ぶ。Part 3: Posh or common ~ Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
定員制(36)			第8回	Chapter 4 The Future of Social Class	Chapter 4 の小テスト。「英国」の教育制度について学ぶ。Vocabulary Focus Part 1: Types of school & Part 2: From school to university を精読後、各パートの読解問題に答える。
レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)			第9回	Chapter 4 The Future of Social Class (つづき)	「英国」の教育制度について学ぶ。(つづき) Part 3: Universities ~ Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)			第10回	Chapter 5 Education	
その他属性：〈優〉			第11回	Chapter 5 Education (つづき)	
【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】					
イギリスの真実の姿を知るための15章からなるテキストを使い、「イギリス」「英国」と日本語で呼んでいる国について、大学生として必要な知識をきちんと学び、英語の読解力、リスニング力のアップを目指す。Chapter によって、取り上げられているトピックに関連する映像を見て、理解を深め、各Chapterの最後に置かれているGoing Further をきっかけに、ディスカッションをおこなったり、課題として、リサーチをしてもらい、その結果を「ミニレポート」として提出してもらう(半期で2回を予定)。各Chapter終了後には、確認のための小テストを行い、答え合わせと解説をしてから回収し、成績に算入し、シートは次回に返却する。(授業の時間の都合で、返却時に解説をする場合もある。)					
【到達目標】					
学生が教科書の英文を、正しい発音で読み、把握して、読解問題を解けるようになること。また、英文の難しい箇所については、わかりやすい日本語で訳せることを目指す。テキストのリスニングの問題を容易に答えられるようになること。そして、最大の目標は、じつは、正しい知識のないひとが多い、「イギリス」「英国」について、正しい基礎知識を身につけ、現状について説明できるようになることである。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1					
【主な授業方法】					
S 演習/ゼミ/Seminar					
【授業の進め方と方法】					
各授業で予習をしてきたことを確認するため、CDを使用して、文を正しく声を出して読みます。春学期の授業では、精読をし、きちんとした日本語に訳せることを目指します。順不同に学生を差して、読解や問題を答えてもらい、その後、必要な情報の説明を加えていきます。各Chapter終了後にする「小テスト」は、授業中におこない、答え合わせと解説のあと、回収し、次回の授業で返却する。課題を課す場合は、「学習支援システム(Webclass)」から提出してもらい、採点あるいは、コメントをつけて、フィードバックする。					
【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】					
あり/Yes					
【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】					
なし/No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
第1回	イントロダクション	授業、および、テキストの進め方、予習の仕方などの説明。必要な場合は、受講者の選抜をする。映像から、「英国」について学ぶ。			

第12回	Chapter 6 Challenges for the UK	Chapter 5 の小テスト。「英国」 が抱える問題について学ぶ。 Vocabulary Focus Part 1: Debt and inequality & Part 2: Divisions in the nations を精 読後、各パートの読解問題に答 える。
第13回	Chapter 6 Challenges for the UK (つづき)	「英国」が抱える問題について学 ぶ。(つづき) Part 3: Strains on society ~ Structure Practice と Listening 問題。 Chapter 6 の小テスト。試験に ついての説明。
第14回	試験・まとめと解説	試験に備えて、Chapter 6 まで の復習をしておく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Vocabulary Focus, 3 parts の Reading、Structure Practice を辞書を活用して予習しておく。Part 1 3 の Reading 部分は、辞書を活用して読み、かつ、訳せるように予習し、その後の読解問題で本文理解の質問に答えておく。また、2回を予定している「ミニレポート」は、締め切りまでに、「学習支援システム（Webclass）」から提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 『This is Britain（本当の英国を知るための15章）』
鶴見書店（2026年3月初版発行）

【参考書】

参考書がある場合は、授業中に知らせる。また、テキスト以外に授業で読む資料がある場合は、「学習支援システム（Webclass）」に置く。

【成績評価の方法と基準】

平常点を20%+各Chapter終了後におこなう「小テスト」を10%+学期の途中で提出してもらった課題を20%+最後のテストを50%で計算する。学期末テスト未受験、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

回答してくれた履修生は、役に立ったとのことでした。

【学生が準備すべき機器他】

辞書と赤ペン。

予習、復習、課題のために、検索用に使用するスマホ、コンピュータあるいはタブレット。

【Outline (in English)】

Through reading a textbook called *This is Britain*, the object of this class is to get the correct knowledge about the UK, or Britain, through developing English reading skills, which includes the ability to pronounce correctly and listening properly. Study textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 30% (including each Chapter's mini test), occasional assignments 20%, and the end-of-the term exam 50%.

LANe200LA (英語 / English language education 200)		
英語で学ぶ社会と文化Ⅱ		2017年度以降入学者
サブタイトル：社会と文化の諸相を知る		
舟橋 美香		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月5/Mon.5		
単位数：1単位		
定員制(36)		
レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
イギリスの真実の姿を知るための15章からなるテキストの後半をつかい、「イギリス」「英国」と日本語で呼んでいる国について、大学生として必要な知識をきちんと学び、英語の読解力、リスニング力のアップを目指す。Chapter 1によって、取り上げられているトピックに関連する映像を見て、理解を深め、各Chapterの最後に置かれているGoing Further をきっかけに、ディスカッションをおこなったり、課題として、リサーチをしてもらい、その結果を「ミニレポート」として提出してもらう（半期で2回を予定）。各Chapter 終了後には、確認のための小テストを行い、答え合わせと解説をしてから回収し、平常点の成績に算入し、シートは次回に返却する。（授業の時間の都合で、返却時に解説をする場合もある。）		
【到達目標】		
学生が教科書の英文を、正しい発音で読み、把握して、読解問題を解けるようになること。また、英文の難しい箇所については、わかりやすい日本語で訳せることを目指す。テキストのリスニングの問題を容易に答えられるようになること。そして、最大の目標は、じつは、正しい知識のないひとが多い、「イギリス」「英国」について、正しい基礎知識を身につけ、現状について説明できるようになることである。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
各授業で予習をしてきたことを確認するため、CDを使用して、文を正しく声を出して読みます。まず、Chapter 1を速読し、英国についての基礎知識を得てから、Chapter 8からの「英国」のさまざまな側面について学びます。きちんと日本語に訳す精読からはじめ、大意をつかむ速読を目指します。Chapter 9 および、Chapter 11以降は、各 Chapter 10 1回の授業で終了を目指し、CDでテキストのReadingを聞いたあと、読解問題を解き、難しい部分のみを日本語に訳すという速読をします。順不同に学生を差して、読解や問題を答えてもらい、その後、必要な情報の説明を加えていきます。各Chapter 終了後にする「小テスト」は、授業中におこない、答え合わせと解説のあと、回収し、次回の授業で返却する。課題を課す場合は、「学習支援システム(Webclass)」から提出してもらい、採点あるいは、コメントをつけて、フィードバックする。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	インTRODクショ ン+ Chapter 1: What is the United Kingdom?	授業、および、テキストの進め方、予習の仕方などの説明。 Chapter 1 の Part 2: 4 nations と、Part 3: UK and GB のCDを聞いてから、読解問題を解き、「英国」「イギリス」についての基礎知識を身につける。 (テキストがまだ手に入らない学生は、「学習支援システム(Webclass)」の資料を使うこと。
第2回	Chapter 7: Women in Society	前回の「英国」についての基礎知識についての理解度確認のため、Chapter 1の「小テスト」を行い、答え合わせと解説。 Chapter 7 に入る。英国の女性たちについて学ぶ。 Vocabulary Focus Part 1: Making their mark, Part 2: Labour-saving devices について精読後、各パートの読解問題に答える。
第3回	Chapter 7: Women in Society (つづき)	英国の女性たちについて学ぶ。(つづき) Part 3 Wealthy women ~ Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
第4回	Chapter 8 Government and Politics	Chapter 7 の小テスト。 Chapter 8に入る。英国の政府と政治について学ぶ。 Vocabulary Focus Part 1: Voting for one house, Part 2: First past the post を精読後、各パートの読解問題に答える。
第5回	Chapter 8 Government and Politics (つづき)	英国の政府と政治について学ぶ。(つづき) Part 3: Power-seeking parties Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。Chapter 8 の小テスト (予定)。
第6回	Chapter 9 Science, Inventions and Business (1回で終了)	英国の科学者と発明、その光と影、産業革命後の経済について学ぶ。Vocabulary Focus Part 1 ~ Part 3 をそれぞれ速読後、各パートの読解問題に答える。
第7回	Chapter 10 The Home of English < 精読する>	Chapter 9 の小テスト。 Chapter 10 に入る。(英語についての基礎知識、歴史について学ぶ。Vocabulary Focus Part 1: Vocabulary and pronunciation, Part 2: Words in puzzles and social class を精読後、各パートの読解問題に答える。
第8回	Chapter 10 The Home of English (つづき)	英語についての基礎知識、歴史について学ぶ。Part 3: Inventive slang Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。 Chapter 10 の小テスト (予定)。

第9回	Chapter 11 Crime Fiction and Fantasy Literature	探偵小説、英国と日本との関わり、また、英国が生み出したファンタジーの古典的作品について学ぶ。Vocabulary Focus Part 1～Part 3 をそれぞれ速読後、各パートの読解問題に答える。Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
第10回	Chapter 12 Pop Music and Fashion	Chapter 11 の小テスト。Chapter 12に入る。英国とポップ音楽とファッションとの関わりについて学ぶ。Vocabulary Focus Part 1～Part 3 をそれぞれ速読後、各パートの読解問題に答える。Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
第11回	Chapter 13 Arts and Artists	Chapter 12 の小テスト。Chapter 13 に入る。英国の文学・美術・演劇、アーティストについて学ぶ。Vocabulary Focus Part 1～Part 3 をそれぞれ速読後、各パートの読解問題に答える。Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
第12回	Chapter 14 Food Matters	Chapter 13 の小テスト。Chapter 14 に入る。英国の食について学ぶ。Vocabulary Focus Part 1～Part 3 をそれぞれ速読後、各パートの読解問題に答える。Structure Practice と Listening 問題。Going Further のなかのトピックをディスカッション。
第13回	Chapter 15 Homes, Gardens and the Countryside	Chapter 14 の小テスト。Chapter 15に入る。英国の家、庭と'Countryside'について学ぶ。Vocabulary Focus Part 1～Part 3 をそれぞれ速読後、各パートの読解問題に答える。Structure Practice と Listening 問題。試験についての説明。
第14回	試験・まとめと解説	試験に備えて、Chapter 1+ Chapters 7-15 までの復習をしておく。試験後、答え合わせをして解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各Chapter の Vocabulary Focus, Part 1 3 の Reading, Structure Practice を辞書を活用して予習しておく。Part 1 3 の Reading 部分は、辞書を活用して読み、かつ、訳せるように予習し、その後の読解問題で本文理解の質問に答えておく。また、Going Further については、予習後、考えておく。2回を予定している「ミニレポート」は、締め切りまでに、「学習支援システム（Webclass）」から提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 『This is Britain（本当の英国を知るための15章）』
鶴見書店（2026年3月初版発行）

なお、「英語で学ぶ社会と文化I」を履修した学生は、同じテキストを使用するので、購入の必要はない。

【参考書】

参考書がある場合は、授業中に知らせる。また、テキスト以外に授業で読む資料がある場合は、「学習支援システム（Webclass）」に置く。

【成績評価の方法と基準】

各Chapter 終了後におこなう「小テスト」の成績を含む平常点を30%+ 学期の途中で提出してもらう課題（「ミニレポート」）を20%+ 最後のテストを50%で計算する。学期末テスト未受験、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業を履修生も楽しんでいるようでした。

【学生が準備すべき機器他】

辞書と赤ペン。

予習、復習、課題のために、検索用に使用するスマホ、コンピュータあるいはタブレット。

【Outline (in English)】

Through reading a textbook called *This is Britain*, the object of this class is to get the correct knowledge about the UK, or Britain, through developing English reading skills, which includes the ability to pronounce correctly and listening properly. Study textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 30% (including each Chapter's mini test), occasional assignments 20%, and the end-of-the term exam 50%.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

鈴木 博雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マスメディアで世界情勢を読むことを主眼とし、次の3点を目標とする。①国際問題を歴史や民族の問題を含めてルーツから見て行く。②必要な専門用語と基礎知識を身につけて、英字新聞や国際放送、インターネット情報にアクセスする力をつける。③簡単な構文を使ってニュースを英語で要約する力を身につける。

【到達目標】

マスメディアで国際情勢を読む英語能力獲得する。国際的な時事問題を扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語を深く、正確に、批判的に読む力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、対面授業を基本とする。
- ・国際問題を扱った時事英語の文章の構造を踏まえながら、精読の演習を行う。
- ・英文内容についての質疑応答を行い、予習や復習の状況を確認し、個々の応答に対し、口頭で助言、学習方法等についてのフィードバックを与える。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト Unit 1 前半	Ukraine: The Russian invasion of Ukraine ①
2	テキスト Unit 1 後半	Ukraine: The Russian invasion of Ukraine ②
3	テキスト Unit 2 前半	Ireland: "the troubles" in Northern Ireland ①
4	テキスト Unit 2 後半	Ireland: "the troubles" in Northern Ireland ②
5	テキスト Unit 3 前半	Brexit: Why did the UK leave the EU? ①
6	テキスト Unit 3 後半	Brexit: Why did the UK leave the EU? ②
7	テキスト Unit 4 前半	The second cold war?: US vs China ①
8	テキスト Unit 4 後半	The second cold war?: US vs China ②
9	テキスト Unit 5 前半	The Israeli-Palestinian conflict: The most difficult global issue to resolve ①

10	テキスト Unit 5 後半	The Israeli-Palestinian conflict: The most difficult global issue to resolve ②
11	テキスト Unit 6 前半	Rohingya: A troubled minority in Myanmar ①
12	テキスト Unit 6 後半	Rohingya: A troubled minority in Myanmar ②
13	テキスト Unit 7 前半	Busques: The oldest European people ①
14	テキスト Unit 7 後半	Busques: The oldest European people ②

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
“University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.”

【テキスト (教科書)】

石谷由美子 著、『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues 国際問題のルーツを探る』(南雲堂)
ISBN : 9784523179634

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど) (60%)、期末試験点 (40%) を総合的に判断して評価する。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

・時事英語を積極的に読み、世界情勢を知ることの重要性を実感しながら、時事英語読解力の効果的な養成を図りたい。
・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline (in English)】

- (1) To obtain the ability to read about world affairs in the mass media.
- (2) By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading mass media English which is required when students get out into the world after they graduate to live everyday life with an accurate understanding of international current events.
- (3) Students should intensively read the textbook in the preparatory reading range for at least 60 minutes outside of class time.
- (4) Evaluation will be based on a comprehensive evaluation of the student's normal points (attitude toward class, preparation, review, quizzes, etc.) (60%) and the final examination (40%). In principle, students who are absent more than 3 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

鈴木 博雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、マスメディアで読む世界情勢マスメディアで世界情勢を読むことを主眼とし、次の3点を目標とする。①国際問題を歴史や民族の問題を含めてルーツから見て行く。②必要な専門用語と基礎知識を身につけて、英字新聞や国際放送、インターネット情報にアクセスする力をつける。③簡単な構文を使ってニュースを英語で要約する力を身につける。

【到達目標】

春学期に養成した学力を踏まえ、マスメディアで国際情勢を読む英語能力獲得する。国際的な時事問題を扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語を深く、正確に、批判的に読む力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、対面授業を基本とする。
- ・国際問題を扱った時事英語の文章の構造を踏まえながら、精読の演習を行う。
- ・英文内容についての質疑応答を行い、予習や復習の状況を確認し、個々の応答に対し、口頭で助言、学習方法等についてのフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8 前半	Korea: The division of Korea ①
2	Unit 8 後半	Korea: The division of Korea ②
3	Unit 9 前半	Romani: Romani's great journey ①
4	Unit 9 後半	Romani: Romani's great journey ②
5	Unit 10 前半	Switzerland: Armed neutrality ①
6	Unit 10 後半	Switzerland: Armed neutrality ②
7	Unit 11 前半	Hong Kong: One country, two systems ①
8	Unit 11 後半	Hong Kong: One country, two systems ②

9	Unit 12 前半	The Pope and the Vatican City State: The smallest country in the world ①
10	Unit 12 後半	The Pope and the Vatican City State: The smallest country in the world ②
11	Unit 13 前半	Kurds: A stateless people ①
12	Unit 13 後半	Kurds: A stateless people ②
13	Unit 14 前半	Urughurs: How can Muslims survive in China? ①
14	Unit 14 後半	Urughurs: How can Muslims survive in China? ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・辞書を活用しながら予習反意を精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。“University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.”

【テキスト（教科書）】

石谷由美子 著、『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues 国際問題のルーツを探る』（南雲堂）
ISBN：9784523179634

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（60%）、期末試験点（40%）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・時事英語を積極的に読み、世界情勢を知ることの重要性を実感しながら、時事英語読解力の効果的な養成を図りたい。
- ・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline (in English)】

- (1)To obtain the ability to read about world affairs in the mass media.
- (2)By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading mass media English which is required when students get out into the world after they graduate to live everyday life with an accurate understanding of international current events.
- (3)Students should intensively read the textbook in the preparatory reading range for at least 60 minutes outside of class time.
- (4)Evaluation will be based on a comprehensive evaluation of the student's normal points (attitude toward class, preparation, review, quizzes, etc.) (60%) and the final examination (40%). In principle, students who are absent more than 3 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化 I

2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、TED TALKSのプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の4技能：読み、聴き、話し、書くを総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして文化、また人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKSの英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会、そして文化について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声を聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各トピックについてそれぞれを3部構成とします。第1部: Lesson Aでは、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術(Reading Skills)について学びます。第2部: Lesson Bでは、実際にTED TALKの発表を聴き、またそのscriptを読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第3部として、第1部、第2部で学習した事柄をまとめ、更にリサーチを進め、TED talkに関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。受講者は第1部から第3部を通しての学習事項をチェックシートに書き、Unit終了毎に提出し、フィードバックを受けます。また、授業資料は、学習支援システムを通じて配布します。

【第1部】

第2週 Topic: Interdisciplinary

第5週 Topic: Business/ Leadership

第8週 Topic: Life Science

第11週 Topic: Sociology/ Fashion

【第2部】

第3週 : TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第6週 : TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

第9週 : TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第12週 : TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【第3部】

第4週 : TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第7週 : TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

第10週 : TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第13週 : TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	Introduction	What is TED?
第2週	Unit 1: Life Changes	Lesson A Topic:Interdisciplinary Reading Skills: Understanding sequence words,... etc. TED TALK by Matt Cutts Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,...etc.
第3週	Unit 1: Life Changes	Check sheet summarizing and stating opinions Lesson A Topic:Business Leadership Reading Skills: Identifying main ideas in paragraphs,...etc. TED TALK by Tom Wujec Lesson B Academic Skills: Understanding stages in a process, ...ets.
第4週	Unit 1: Life Changes	Check sheet summarizing and stating opinions
第5週	Unit 2: Team Power	Lesson A Topic:Life Science Reading Skills: Identifying purpose/ referents TED TALK by David Gallo Lesson B Academic Skills:Understanding main ideas and key details,... etc.
第6週	Unit 2: Team Power	
第7週	Unit 2: Team Power	
第8週	Unit 3: Ocean Wonders	
第9週	Unit 3: Ocean Wonders	

第10週	Unit 3: Ocean Wonders	Check sheet summarizing and stating opinions	・ clarify the structure of a paragraph ・ develop global and cross-cultural awareness
第11週	Unit 4: What We Wear	Lesson A Topic:Sociology/ Fashion Reading Skills: Making connections/ Understanding a process	・ develop creative and critical thinking skills ・ effectively express their opinions on current issues [Learning activities outside of classroom] Students are expected to participate in the class fully prepared, having completed the vocabulary preview, listening, reading or writing tasks assigned the previous week.
第12週	Unit 4: What We Wear	TED TALK by Jessi Arrington Lesson B Academic Skills: Recognizing point of view	University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. [Grading Criteria /Policy] Grading criteria for this course will be based on the following: Class participation 40% (class activities + unit quizzes) / assignment 20 % / final test 40%
第13週	Unit 4: What We Wear	Check sheet summarizing and stating opinions	In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.
第14週	final test	final test	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各Unitで扱うTED talkについての予備知識を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、**checksheet**に記入しておく。

復習：扱ったTED talkの要約をし、**checksheet**に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱ったTED talk関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。以下が授業で扱うTED talkです。予習復習する際に聴いて下さい。

TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days
https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower
https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments
https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New
https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、配布資料

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および unit quiz）40%、課題30%、期末テスト30%

4回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3回遅刻あるいは早退すると、1回欠席としてカウントされます。30分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

英語を用いる場をなるべく多く設けます。

【Outline (in English)】

This course is designed to increase the students' ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

* This course will be conducted using Ims2025.

【Overall Objectives】

To help students

- ・ increase vocabulary
- ・ improve their reading/listening comprehension skills
- ・ understand English sentences without translating into Japanese
- ・ identify main ideas

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様本授業では、TED TALKSのプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイディアに触れつつ、英語の4技能：読み、聴き、話し、書く—を総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKSの英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声を聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各トピックについてそれぞれを3部構成とします。第1部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術(Reading Skills)について学びます。第2部では、実際にTED TALKの発表を聴き、またそのscriptを読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、セメスター終盤には、第3部として、学習したトピックをひとつ選び、更にリサーチを進め、TEDでの発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

受講者は第1部から第3部を通しての学習事項をチェックシートに書き、Unit終了毎に提出し、フィードバックを受けます。また、授業資料は、学習支援システムを通じて配布します。

[第1部]

第2週 Topic: Architecture and Design

第5週 Topic: Communication/ Sociology

第8週 Topic: Visual Arts/ Sociology

[第2部]

第3週 : TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第6週 : TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral

https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第9週 : TED TALK by Candy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

[第3部]

第4週 : TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第7週 : TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral

https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第10週 : TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

第11週 13週 : Your favorite TED Talk

https://www.ted.com/

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	Introduction	授業の進め方についての説明 目標の確認
第2週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Topic:Architecture and Design Lesson A Reading Skills: Organizing supporting details,... etc.
第3週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Lesson B: Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第4週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Expressing ideas on the topic
第5週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Topic:Communication/ Sociology Lesson A Reading Skills: Scanning for numbers,...etc.
第6週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第7週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Expressing ideas on the topic
第8週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson A Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第9週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson B Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose

第10週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Expressing ideas on the topic
第11週	Your favorite TED talk	Finding your favorite TED talk.
第12週	Your favorite TED talk	The Summary of the talk
第13週	Your favorite TED talk	Your own idea on the talk
第14週	試験・まとめと解説	final test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各Unitで扱うTED talkについての予備知識（テキストに記載）を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、checksheetに記入しておく。

復習：扱ったTED talkの要約をし、checksheetに記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱った TED talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。以下が授業で扱う TED talk です。予習復習する際に聴いて下さい。

TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral

https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、資料配布

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および unit quiz）40%、課題30%、期末テスト30%

4回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3回遅刻あるいは早退すると、1回欠席としてカウントされます。30分以上の遅刻は欠席とみなされます。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多く英語を使う場を設けます。

【Outline (in English)】

This course is designed to increase the students' ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

* This course will be conducted using Ims2025.

[Overall Objectives]

To help students

- increase vocabulary
- improve their reading/listening comprehension skills
- understand English sentences without translating into Japanese
- identify main ideas
- clarify the structure of a paragraph
- develop global and cross-cultural awareness
- develop creative and critical thinking skills
- effectively express their opinions on current issues

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to participate in the class fully prepared, having completed the vocabulary preview, listening, reading or writing tasks assigned the previous week.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

[Grading Criteria /Policy]

Grading criteria for this course will be based on the following:
Class participation 40% (class activities + unit quizzes)
/ assignment 20 % / final test 40%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe200LA (英語 / English language education 200)		【授業計画】 授業形態：対面/face to face	
英語で学ぶ社会と文化 I	2017年度以降入学者	回	テーマ 内容
サブタイトル：社会と文化の諸相を知る		1	ガイダンス 履修者の決定 ここで履修者を決定するので、履修希望者は必ず初回アンケートに回答してLMSを通して提出すること。
大曲 陽子		2	Chapter1 Not Just a Pretty Picture The Importance of Art 授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月3/Mon.3 単位数：1単位 定員制(36) レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/) その他属性：〈優〉		3	Chapter1 Not Just a Pretty Picture The Importance of Art 本文内容の確認 テキスト後半 Summary Think about It, Over to You プリント教材、主にグループワークで行う。
		4	Chapter 2 A Feather in Your cap The History of Our Favorite Clothes 授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding
		5	Chapter 2 A Feather in Your cap The History of Our Favorite Clothes 本文内容の確認 テキスト後半 Chapter1 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、主にグループワークで行う。
		6	Chapter 4 What's in a Phrase? Interesting Saying and Idioms 授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding
		7	Chapter 4 What's in a Phrase? Interesting Saying and Idioms 本文内容の確認 テキスト後半 Chapter2 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、主にグループワークで行う。
		8	Chapter 6 It's Jungle Out There How We Can Share the World with Wildlife 授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding
		9	Chapter 6 It's Jungle Out There How We Can Share the World with Wildlife 本文内容の確認 テキスト後半 Chapter 4 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、主にグループワークで行う。
		10	Chapter 9 Who are You ? The Risks and Rewards of Genetic Profiling 授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding
		11	Chapter 9 Who are You ? The Risks and Rewards of Genetic Profiling 本文内容の確認 テキスト後半 Chapter6 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、主にグループワークで行う。
		12	Chapter 10 Getting it Right by Getting it Wrong How Accidents Lead to Innovation 授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻くメディアと娯楽、環境保護問題や文化、などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

6回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】

様々な内容の興味深いトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人々と対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方及び歴史や教養などを身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は全14回中8回を対面型授業、6回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。

ほぼ2回の授業で1つのChapterを学習する。1回目の授業（授業動画配信オンデマンド型）では先ず宿題として授業当該日前までに各自記事を読んでTF内容問題に取り組み準備する。その後、授業動画を配信するオンデマンド授業を視聴して、指定の締め切り日までにHoppiiを通して課題を提出する。2回目の授業（対面）では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を行い、教員が配布するプリント学習を行い、自分の考えをまとめる。

Chapter 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

授業で取り上げるChapterは以下の6つとする

Chapter 1,2, 4, 6, 9, 10

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業ではexerciseを解きながら精読する。適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、授業動画配信オンデマンド型の時はOpen LMS を通して指定の締め切り日までに提出し、それはOpen LMS を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

13	Chapter 10 Getting it Right by Getting it Wrong How Accidents Lead to Innovation	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter9 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、 主にグループワークで行う。
14	これまでのまとめと 期末試験	これまでのまとめ 期末試験

submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

各Unitのvocabulary, Useful wordsを必ず学習し、語彙の確認を徹底する。授業配信オンデマンド授業では本文を各自読み込み内容理解をして対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Grand Tour Future Paths 「新たな時代への飛翔」

成美堂（2,310円税込）

学内書店で購入すること。

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●授業動画配信オンデマンド授業時 課題提出 10%・・・Key Vocabulary 及び True or False は採点する。1点×10問＝10点（Answer Sheetの空欄が全て解答されていることを条件とする）

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10点×5回分 50点 30%

●期末試験 50%

*欠席4回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回Answer Sheetの回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書のQRコードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は3回までとする。

オンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMSの質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻くメディアと娯楽、環境保護問題や文化、などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

6回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】

様々な内容の興味深いトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方及び歴史や教養などを身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は全14回中8回を対面型授業、6回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。

ほぼ2回の授業で1つのChapterを学習する。1回目の授業（授業動画配信オンデマンド型）では先ず宿題として授業当該日前までに各自記事を読んでTF内容問題に取り組み準備する。その後、授業動画を配信するオンデマンド授業を視聴して、指定の締め切り日までにOpen LMSを通して課題を提出する。2回目の授業（対面）では、全員が内容に目を通して前提に問題演習を行い、教員が配布するプリント教材を学習し自分の考えをまとめる。

Chapter 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

授業で取り上げるChapterは以下の6つとする

Chapter 11, 13, 14, 16, 17, 20

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業ではexerciseを解きながら精読する。適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、授業動画配信オンデマンド型の時はOpen LMSを通して指定の締め切り日までに提出し、それはOpen LMSを通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warming Up	ここで履修者を決定する時事問題プリント教材
2	Chapter 11 Betting the World The Impact of Gambling on Society	授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding
3	Chapter 11 Betting the World The Impact of Gambling on Society	本文内容の確認 テキスト後半 Summary Think about It, Over to You プリント教材、 主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型
4	Chapter 13 Counterfeits and Copies Industrial Imitation	Useful Words Questions for Understanding
5	Chapter 13 Counterfeits and Copies Industrial Imitation	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter11 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、 主にグループワークで行う。 授業動画配信オンデマンド型
6	Chapter 14 Can I See the Manager How Companies can Benefit from Complaints	Useful Words Questions for Understanding
7	Chapter 14 Can I See the Manager How Companies can Benefit from Complaints	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter13 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、 主にグループワークで行う。
8	Chapter 16 My Country , Right or Wrong How do We Deal with Our Culture 's Bad Behavior?	授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding
9	Chapter 16 My Country , Right or Wrong How do We Deal with Our Culture 's Bad Behavior?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter14 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、 主にグループワークで行う。
10	Chapter 17 My Country , Right or Wrong How do We Deal with Our Culture 's Bad Behavior?	授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding
11	Chapter 17 My Country , Right or Wrong How do We Deal with Our Culture 's Bad Behavior?	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter16 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、 主にグループワークで行う。
12	Chapter 20 The Way to Your Heart is Through Your Stomach Gastro diplomacy	授業動画配信オンデマンド型 Useful Words Questions for Understanding

13	Chapter 20 The Way to Your Heart is Through Your Stomach Gastro diplomacy	本文内容の確認 テキスト後半 Chapter17 語彙テスト Summary Think about It, Over to You プリント教材、 主にグループワークで行う。
14	これまでのまとめと 期末試験	Unit 20 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業動画配信オンデマンド授業時には各自本文テキストを十分に読み込む。各 Unit の vocabulary , Useful words を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。本文内容に沿ったTF問題に真剣に取り組む。本文を読み込む際、未知の語彙があれば調べておく。対面授業時では、内容を大まかにわかっていることを前提として授業を行い、内容理解に関しての課題をこなすので、オンライン授業の学習時間をきちんと確保した上で対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Grand Tour Future Paths 「新たな時代への飛翔」
成美堂 （2,310 円税込）

【参考書】

特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●授業動画配信オンデマンド授業時 課題提出 10% ・ ・ ・ Key Vocabulary 及び True or False は採点する。1点×10問＝10点 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする)

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10点×5回分 50点 30%

●期末試験 50%

*欠席4回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書のQRコードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は3回までとする。

オンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading , writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【 Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

class contribution 10%

classroom quiz 30%

term-end examination 50%

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation I

2017年度以降入学者

N A D E R J a m e l e a

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
 GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement. You will have many opportunities to express your thoughts in a concise and logical manner. You will try various ways to make your opinions more persuasive.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentations using easy editing software on your phone or PC to share with the class. Teacher feedback will be given in the class and online as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	First presentation: "How to..."	Teach us how to do something better. Look at examples. Generate ideas and select topics.
3	Developing your work	Show your ideas and make an outline. Basic presentation structure.
4	Developing your work	Revise and practise. Body language and gestures -examples and practise.
5	Final practise	Combine all the elements and review your speech. Make changes after feedback from classmates and teacher.
6	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
7	Second presentation: SWOT analysis	A SWOT analysis. What is it? Look at examples. Generate ideas and select topics
8	Developing your work:	A SWOT analysis. Show your first research and organise. Voicework - how to vary your voice to make your words have more impact.
9	Developing your work:	Show us your presentation draft and practise. Turn your draft into notecards. Asking and answering questions during a presentation.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates.
11	Third Presentation: Pechakucha	What is a pechakucha presentation? Explanation and examples. Topic planning.
12	Developing your work:	Practise. Speaking to time limits and on the spot transitions.
13	Final practise	Review and practise.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the Pechakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students enjoyed pair presentations.

【学生が準備すべき機器他】

The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

We will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline (in English)】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation II

2017年度以降入学者

N A D E R J a m e l e a

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/> Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.

GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Teacher feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentation using easy editing software on your phone or PC to share with the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and a review of the Spring Semester. First presentation: "Inspired by a movie"	A cultural or social theme picked from a movie For example. "The Lego Movie" - a comparison of the education systems of Denmark and Japan. The role of propaganda in Vietnam War movies "The Devil wears Prada" - Karoshi - is work /life balance really possible? Discussing ideas and topic selection.
2	Developing your work	Sharing research. Making outlines and considering some rhetorical techniques such as the rule of 3 and repetition.
3	Developing your work	Sharing research. Using rhetorical techniques. Review of voice techniques.
4	Final practise	Making discussion questions. Practise and make changes after feedback from classmates and teacher.
5	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
6	Second presentation: Something I've learned that you should know	What knowledge have you gained in your university life that you think other people would benefit from knowing? generating ideas
7	Developing your work	Considering different narratives styles. Sharing ideas.
8	Developing your work	Sharing your ideas and using props in a speech.
9	Final practise	Practise your speech using a prop.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
11	Third Presentation: A persuasive speech	A speech about something you feel strongly about. Make us believe how correct and important your opinion is.
12	Developing your work:	Adding passion and emotion to your words. Speaking with your whole body - examples and practise.
13	Final practise	Looking again at body language and voice.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials, including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the peckakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more time to prepare in class.

【学生が準備すべき機器他】

The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

We will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline (in English)】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation I 2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
 GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations, learning presentation techniques and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will be able to prepare and make effective presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Active learning class activities will include individual work, pair work, group work and group discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook.
2	Getting ready (Pages 2-7)	Give self introduction presentation.
3	Unit 1 A good friend (Pages 8-11)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 1 A good friend (Pages 12-15)	- Organizing ideas - Adding impact techniques
5	Unit 1 A good friend (Pages 16-17)	- Developing presentation techniques
6	Unit 1 A good friend (Pages 18-19)	Presentation "A good friend"
7	Unit 2 A favorite place (Pages 20-23)	- Exploring the topic - Focusing on language
8	Unit 2 A favorite place (Pages 24-27)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 2 A favorite place (Pages 28-29)	- Developing presentation techniques

10	Unit 2 A favorite place (Pages 30-31)	Presentation - "My Favorite Place"
11	Unit 3 A prized Possession (Pages 32-35)	- Exploring the topic - Focusing on language
12	Unit 3 A prized Possession (Pages 36-41)	- Organizing ideas - Adding impact
13	Unit 3 A prized Possession (Pages 40-41)	- Developing presentation techniques
14	Unit 3 A prized possession (Pages 42-43)	Presentation - "My Prized Possession"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- ・ Presentations - 75% (Unit 1, 2 and 3 presentations are required.)
- ・ Class participation - 25% (In principle, no more than 3 absences per term are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline (in English)】

Students will develop confidence in their public speaking abilities.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation II 2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3～4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
 GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations, learning presentation techniques and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will be able to prepare and make effective presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook.
2	Getting ready (Pages 2-7)	Give self introduction presentation.
3	Unit 4 A memorable experience (Pages 44-47)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 4 A memorable experience (Pages 48-51)	- Organizing ideas - Adding impact
5	Unit 4 A memorable experience (Pages 52-53)	- Developing presentation techniques
6	Unit 4 A memorable experience (Pages 54-55)	Presentation: "My Memorable Experience"
7	Unit 5 I'll show you how (Pages 56-59)	- Exploring the topic - Focusing on language

8	Unit 5 I'll show you how (Pages 60-63)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 5 I'll show you how (Pages 64-65)	- Developing presentation techniques
10	Unit 5 I'll show you how (Pages 66-67)	Presentation: "How to ____"
11	Unit 6 Screen magic (Pages 68-71)	- Exploring the topic - Focusing on language
12	Unit 6 Screen magic (Pages 72-75)	- Organizing ideas - Adding impact
13	Unit 6 Screen magic (Pages 76-77)	- Developing presentation techniques
14	Unit 6 Screen magic (Pages 78-79)	Presentation: "Movie or TV Show Review"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University Press)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

- ・ Presentations - 75% (Unit 4, 5 and 6 presentations are required.)
- ・ Class participation - 25% (In principle, no more than 3 absences per term are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【Outline (in English)】

Students will develop confidence in their public speaking abilities.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation I 2017年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
 GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email. Instructor will provide feedback during class or by email

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Introductions	Talk about spring break. HW/text pgs. 4-12 Getting started.

2	2. Text pgs. 13-14, 15-17, 18-22 HW/informative speech (pg. 17) with visuals, posture, eye contact, gestures	Watch sample presentation DVD.
3	3. Performance of informative speech HW/text pgs. 23-24, 28-29	Speech performance and feedback.
4	4. Text pgs. 30-38 HW/demonstration speech (pg. 38) with visuals, posture, eye contact, gestures, voice inflection	Demonstration speech.
5	5. Performance of demonstration speech HW/text pgs. 39-46	Student speech performances.
6	6. Text pgs. 47-48, pgs. 51-55 HW/country comparison (pgs. 49 & 56)	Prepare for country comparison speech.
7	7. Performance of country comparison HW/pgs. 57-59	Student speeches.
8	8. Text pgs. 60-67 HW/speech introduction (pg. 67)	Focus on speech introduction.
9	9. Performance of speech introduction HW/text pgs. 68-72	Speech introduction performances.
10	10. Text pgs. 73-85 HW/speech body (pg. 86)	Focus on speech body.
11	11. Performance of speech body HW/text pgs. 87-94 conclusion (pg. 95)	Student performances of speech body.
12	12. Presentation of conclusion HW/final presentation (pg. 99 steps 1,2,3)	Focus on speech conclusion.
13	Final presentations HW/None	Prepare and perform final presentations
14	Final presentations	End of term evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Level 2 Charles LeBeau MacMillan Education ISBN978-4-7773-6515-9 C3082

【参考書】

Students will use online resources to research and prepare their presentations.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)
Class participation (40%)
Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason—serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will prepare and deliver presentations during class time.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English Presentation II

2017年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

定員制(24)

レベル 3~4、TOEFL iBT® 44 以上（各レベルの目安スコアは ILAC 掲示板の掲載資料から確認可能です。
<https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/>) Levels 3-4, TOEFL iBT® 44 or equivalent is required.
 GBP・SCOPE 生は履修しない。No enrollment for students of GBP・SCOPE.

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to make effective presentations on a variety of topics. Students will learn to confidently deliver multimedia informative/descriptive speeches, as well as comparative, demonstrative and argumentative/persuasive presentations. Students will also learn to evaluate the quality and content of others' presentations, to take notes on presentation content, and to provide detailed feedback to help presenters to improve their presentation technique.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. The fall semester of this course will concentrate on the preparation and delivery of persuasive, argumentative and rhetorical speeches. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email. Instructor will provide feedback during class or by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Summer vacation HW/prepare speech on summer vacation	Warm up presentation.

2	2. Presentations on summer vacation HW/read handout parts 1&2	Students deliver their summer vacation presentations.
3	3. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 1	Read background information and answer questions.
4	4. Presentations on topic 1 and discussion HW/read handout parts 1&2	Delivery of speeches.
5	5. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 2	Read background information and answer questions.
6	6. Presentations on topic 2 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
7	7. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 3	Read background information and answer questions.
8	8. Presentations on topic 3 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
9	9. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 4	Read background information and answer questions.
10	10. Presentations on topic 4 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
11	11. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 5	Read background information and answer questions.
12	12. Presentations on topic 5 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
13	13. Complete handout reading HW/prepare final presentations	Prepare for final presentations.
14	14. Final presentation	Final performance, summary and evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Level 2 Charles LeBeau MacMillan Education ISBN978-4-7773-6515-9 C3082

【参考書】

Students will make use of a variety of online resources in the research and preparation of their speeches.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)
Class participation (40%)
Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason—serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will prepare and deliver presentations during class time.

LANe200LA (英語 / English language education 200)			3	Session 1 What a Painting Can Tell Us	パラグラフが主題文、指示文、結論文から成ることを理解し、実際の英文の中でその構造を確認します。これを理解した上で、トピックセンテンスを見つけ、それが何故トピックセンテンスなのか、自分の言葉で説明します。
英語アカデミック・リーディング 2017年度以降入学者			4	Session 1 What a Painting Can Tell Us	トピックセンテンスと支持文の関連性を考え、それを自分の言葉で表現します。
岩崎 博			5	Session 2 Split-Brain Research	What a Painting Can Tell Us に関して自分の意見を発表し、クラスで話し合います。
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金3/Fri.3			6	Session 2 Split-Brain Research	右脳・左脳の機能の違いを世に知らしめた、有名な事例を紹介する論文を読みます。右脳と左脳の機能の違いに、言語がどのように関わっているのでしょうか？
単位数：1単位			7	Session 2 Split-Brain Research	このエッセイでは、学生はパラグラフのトピックに留意しつつ英文和訳を行います。
定員制(36)			8	Session 2 Split-Brain Research	実験の模様を図解するイラストを参照しながら、実験の手順を記述する文章を正確に読む練習をします。
レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)			9	Session 2 Split-Brain Research	図と英語の記述を対応させることによって、視覚情報が左右の脳にどのように伝わるのかを理解します。
確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/			10	Session 9 On Speaking on Speaking	実験の結果に関する記述が、具体的に実験の何を指し示すのかを理解します。抽象的な記述を具体的に理解し説明する読みを实践します。
その他属性：〈優〉			11	Session 9 On Speaking on Speaking	ある文が意味をなすということは、文脈を理解することに他ならないことを学習します。また、言語が左右の脳の機能の違いにどんな影響を及ぼしているのか理解します。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					Session 9では、言語の変化生成に関する仮説を扱う論文を読みます。言語は原初の形を痕跡として残しつつ絶えず変化し続けること、人間には言語を生み出す普遍的能力があることを学びます。子供は言語の生成・変化にどんな形で関わってきたのでしょうか？
論理的な英文を読む喜びを感じることを目指します。その目標達成のために、パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、英文を正確に読みこなす能力を養います。授業では、トピックセンテンスを中心に、パラグラフの内容を理解する読みを実践します。美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う興味深いエッセイを読み解くことによって、新しい視点、刺激的な世界観に触れてください。					このセッションでは、学生は各パラグラフの内容を自分の言葉で説明していきます。
【到達目標】					言語が絶えず変化していることを学びます。パラグラフにおける旧情報と新情報を識別し、パラグラフ間のつながりを考察します。
パラグラフリーディングの技術を習得する。					
パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。					
パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。					
コンテキストを正しく捉える力を養う。					
抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。					
辞書が活用できるようになる。					
英語の論文を効率的に読み解くことができるようになる。					
クリティカル・リーディングの重要性を理解する。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
演習を中心に授業を行います。各パラグラフの内容を詳細に考察しますので、授業はかなりゆっくりと進んでいきます。一回の授業で扱うのはテキスト1ページほどです。授業では、学生がパラグラフの和訳、要約、または内容の説明を行い、それについてみんなで話し合います。不明な点や問題点があれば、全員で話し合い、できるだけ自分たちの力で解決していきます。また、各論文を読み終わった後、それに関する意見を発表しクラス全体で議論します。フィードバックに関しては、学生が発表するたびに教師がコメントを出し、さらにそのコメントについてクラスで話し合います。学期末試験の答案に解説・コメントをつけて返却します。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	授業の説明	授業に関する説明の後、パラグラフの構造について理解します。			
2	Session 1 What a Painting Can Tell Us	筆者は絵画に隠された物語を読み解いていきます。筆者は絵の中にどんな物語を読み込むのでしょうか？			
	本エッセイの展望	このセッションでは、学生は各パラグラフの内容を自分の言葉で説明していきます。			

12	Session 9 On Speaking on Speaking 言語の生成変化(様態・担い手)	言語はどのように変化するのか、また誰がそれを担うのかを学びます。 トピックセンテンスの言い換えの文から、パラグラフ全体の主張をより具体的に理解できることを学びます。 itの指示内容を識別する方法を学習します。
13	Session 9 On Speaking on Speakingのまとめ 春学期学習内容の総括	On Speaking on Speakingについて各自の意見を発表します。 春学期に学習した内容で重要な箇所を振り返り、教師が学生からの質問に答えます。
14	学期末試験・解答	学期末試験を行います。試験後、解答・解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
 予習は、テキストの指定箇所（1ページほど）を読み、パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにします。特にトピックセンテンスと論証部分の関係を自分の言葉で説明できるように準備します。
 復習は、授業で扱った内容を確認し理解した上で、最低5回は読み返します。各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるように準備します。

【テキスト（教科書）】

『The Universe of English』東京大学英語教室編（東京大学出版会）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加40パーセント、試験60パーセントの比率で評価します。
 授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まります。
 一度休むごとに平常点から2点ずつ引いていきます。
 4回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めません。
 オンライン授業では、課題の提出を持って出席とします。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生の発表を中心にして、授業を進行していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】

教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Students will learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and describe what they have understood about it. The goal of this course is for students to be able to read and understand academic articles correctly, and also to be able to express their critical views on them. Students are expected to spend one hour reading assigned paragraphs of an article before the class and reviewing what they have learned after the class. The final grade will be decided based on class-participation 40 % and term-end examination 60 %.

LANe200LA (英語 / English language education 200)			3	Session 17 Ecology	エコロジーという概念の定義を行うパラグラフを読み、エコロジーとは何なのかを考察します。
英語アカデミック・リーディング II			4	Session 17 Ecology	エコロジーという概念（抽象）とそれが示す具体像の間を行き来しつつ、エコロジーに対する理解を深めます。
岩崎 博			5	Session 17 Ecology	生態系・食物連鎖・生物濃縮・生体遷移とは何か、具体例を通して学びます。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金3/Fri.3			6	Session 11	ディズニーランドの人気の理由を論じるエッセイを読みます。
単位数：1単位				Disneyland: America's Sacred Land	混沌とするアメリカ社会においてディズニーランドがどんな価値観を体現し、どんな役割を果たしているのか考察します。
定員制(36)			7	Session 11	このエッセイでは、学生は各パラグラフの内容を要約します。
レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)			8	Session 11	ディズニーランドの人気の理由
その他属性：〈優〉			9	Session 11	ディズニーランドが単なるテーマ・パークにとどまらず、旧約聖書に登場する「約束の土地」であるという筆者の主張を考察します。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			10	Session 18	ディズニーランドの神話的意義
論理的な英文を読む喜びを感じることを目指します。その目標達成のために、パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、英文を正確に読みこなす能力を養います。			11	Session 18	Session 18
授業では、トピックセンテンスを中心に、パラグラフの内容を理解する読みを実践します。美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う興味深いエッセイを読み解くことによって、新しい視点、刺激的な世界観に触れてください。			12	Columbus: From Hero to Fall Guy	Columbus: From Hero to Fall Guy
【到達目標】				本エッセイの展望	本エッセイの展望
パラグラフリーディングの技術を習得する。					
パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。					
パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。					
コンテキストを正しく捉える力を養う。					
抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。					
辞書が活用できるようになる。					
英語の論文を効率的に読み解くことができるようになる。					
クリティカル・リーディングの重要性を理解する。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
演習を中心に授業を行います。各パラグラフの内容を詳細に考察しますので、授業はかなりゆっくりと進んでいきます。一回の授業で扱うのはテキスト1ページほどです。授業では、学生がパラグラフの和訳、要約、または内容の説明を行い、それについてみんなで話し合います。不明な点や問題点があれば、全員で話し合い、できるだけ自分たちの力で解決していきます。また、各論文を読み終わった後、それに関する意見を発表しクラス全体で議論します。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	授業の説明	パラグラフの構造を理解します。			
2	Session 17 Ecology	エコロジーの入門書のエッセイ			
	本エッセイの展望	を讀みます。コンパクトながら、エコロジーの定義から始まり、生物圏の区分、食物連鎖、生物濃縮、生態遷移などに言及し、エコロジーの最も重要な分野をわかりやすく解説しています。また、生態学的知識を吸収することによって、現在我々を取り巻く環境問題を考えたいと思っています。			

13	SSession 18 Columbus: From Hero to Fall Guy コロンブスとは何な のか	コロンブスが「歴史的コマ」として、現代の政治ゲームの中でどのように利用されているか、具体的記述の中で理解します。「発見」された側がコロンブスを世紀の大悪人だと糾弾する本当の理由が明かされます。クラス全体でエッセイの問題点を指摘し、その内容を批判的に論じます。
14	試験日	秋学期試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
 予習は、テキストの指定箇所（1ページほど）を読み、パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにします。特にトピックセンテンスと論証部分の関係性を自分の言葉で説明できるように準備します。
 復習は、授業で扱った内容を確認し理解した上で、最低5回は読み返します。各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるよう準備します。

【テキスト（教科書）】

東京大学英語教室編『The Universe of English』（東京大学出版会）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加40パーセント、試験60パーセントの比率で評価します。
 授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まります。
 一度休むごとに平常点から2点ずつ引いていきます。
 4回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めません。
 オンライン授業では、課題の提出を持って出席とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生が話し合って問題を解決する機会を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】

できるだけ教師と学生の対話を通して、知的に楽しくて為になる、双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Students will learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and describe what they have understood about it.
 The goal of this course is for students to be able to read and understand academic articles correctly, and also to be able to express their critical views on them.
 Students are expected to spend one hour reading assigned paragraphs of an article before the class and reviewing what they have learned after the class.
 The final grade will be decided based on class-participation 40 % and term-end examination 60 %.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅰ

2017年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

TOEICの頻出テーマを扱ったテキストを使用し、語彙、英語表現、文法を学びながら総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語 (Englishes) の発音に慣れます
- ・英語の文章を速く正確に読む力をつけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストの各unitはlisteningとreadingの二つのパートから成り立っています。一回の授業で一つのパートを扱います。前半はlisteningです。語彙の確認をしてからlistening問題に取り組みます。ペアあるいはグループで答え合わせをし、その後クラス全体で間違えた箇所を確認しながら、英語表現、文法の確認をします。後半はreadingです。問題にチャレンジした後、ペアあるいはグループで答え合わせをし、クラス全体で内容の確認を行います。小テストに対するフィードバックは授業当日に行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1 Eating Out (listening)	Vocabulary, Useful Expression
3	Unit 1 Eating Out (reading)	Grammar
4	Unit 2 Travel (listening)	Vocabulary, Useful Expression
5	Unit 2 Travel (reading)	Grammar
6	Unit 3 Amusement (listening)	Vocabulary, Useful Expression
7	Unit 3 Amusement (reading)	Grammar
8	Unit 4 Meetings (listening)	Vocabulary, Useful Expression
9	Unit 4 Meetings (reading)	Grammar
10	Unit 5 Personnel (listening)	Vocabulary, Useful Expression
11	Unit 5 Personnel (reading)	Grammar
12	Unit 6 Shopping (listening)	Vocabulary, Useful Expression

13 Unit 6 Shopping Grammar (reading)

14 学期末試験 試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後にテキスト・演習問題の復習をし、質問がある場合は次回授業にお願いします。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 4』(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト35%、小テスト35%、平常点30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から30分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な英語力がつくように、文法事項の説明を丁寧にするように心がけました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・Hoppiiを使用します
- ・辞書を使用します

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this class is to help students develop their listening and reading skills for TOEIC.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies such as skimming and scanning.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to review what was covered in the previous lesson. Study time will be an hour for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 35%
2. Reports 35%
3. Classroom Participation 30%

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板的掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEICの頻出テーマを扱ったテキストを使用し、語彙、英語表現、文法を学びながら総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語 (Englishes) の発音に慣れます
- ・英語の文章を速く正確に読む力をつけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストの各unitはlisteningとreadingの二つのパートから成り立っています。一回の授業で一つのパートを扱います。前半はlisteningです。語彙の確認をしてからlistening問題に取り組みます。ペアあるいはグループで答え合わせをし、その後クラス全体で間違えた箇所を確認しながら、英語表現、文法の確認をします。後半はreadingです。問題にチャレンジした後、ペアあるいはグループで答え合わせをし、クラス全体で内容の確認を行います。小テストに対するフィードバックは授業当日に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7 Advertisement (listening)	Vocabulary, Useful Expression
3	Unit 7 Advertisement (reading)	Grammar
4	Unit 8 Daily Life (listening)	Vocabulary, Useful Expression
5	Unit 8 Daily Life (reading)	Grammar
6	Unit 9 Office Work (listening)	Vocabulary, Useful Expression
7	Unit 9 Office Work (reading)	Grammar
8	Unit 10 Business (listening)	Vocabulary, Useful Expression
9	Unit 10 Business (reading)	Grammar
10	Unit 11 Traffic (listening)	Vocabulary, Useful Expression
11	Unit 11 Traffic (reading)	Grammar

12	Unit 12 Finance and Banking (listening)	Vocabulary, Useful Expression
13	Unit 12 Finance and Banking (reading)	Grammar
14	学期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキスト・演習問題の復習をし、質問がある場合は次回授業にお願いします。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 4』（朝日出版社）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト35%、小テスト35%、平常点30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から30分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な英語力がつくように、文法事項の説明を丁寧にするように心がけました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・Hoppiiを使用します
- ・辞書を使用します

【Outline (in English)】

Course Outline

The purpose of this class is to help students develop their listening and reading skills for TOEIC.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies such as skimming and scanning.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to review what was covered in the previous lesson. Study time will be an hour for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 35%
2. Reports 35%
3. Classroom Participation 30%

LAnE200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅰ

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検（準1級/1級）とTOEFLの演習を行いながら「リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング」の4つの能力強化を目指します。

【到達目標】

- 1.Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2.Be able to understand main points of interview and lectures
- 3.Be able to talk about basic topics
- 4.Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing.(授業は演習形式で行います)

- 1.Clarifying objectives and goals (なぜ英語力強化を目指すのかを明確にする)
- 2.Explaining basic formats of two certificate tests and practicing (英検とTOEFL テストの紹介と演習)
- 3.Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Course Orientation	1.Explanation of the course 2.Clarifying objectives and goals
2回	Introduction to Eiken	1.Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2.Reading &Listening practice to identify your strong and weak points (強みと弱点を知る)
3回	Eiken: Reading and Listening Practice	1.Reading practice 2.Listening practice
4回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1.Reviewing home assignment 2.Learning Paragraph Structure 3.Paragraph reading practice 4.Listening practice

5回	Eiken: Intensive Listening Training	1.Listening practice 2.Shadowing and overlapping 3.Dictation to improve accuracy
6回	Eiken: Reading and Listening Practice	1.Listening practice 2.Shadowing and overlapping 3.Paragraph reading practice
7回	Eiken: Essay Writing	1.Learning academic writing structures and analyzing model essays 2.Writing an essay 3.Peer Editing
8回	Eiken: Essay Writing and Feedback	1.Rewriting your draft 2.Feedback
9回	Introduction to TOEFL Test	1.Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL について) 2.Reading practice 3.Listening practice
10回	TOEFL: Intensive Reading Training	1.Paragraph reading practice 2.Summarizing passages
11回	TOEFL:Reading and Listening Practice	1.Paragraph reading practice 2.Listening practice
12回	TOEFL: Intensive Listening Training	1.Shadowing and overlapping practice 2.Listening exercises 3.Preparation for presentation
13回	TOEFL: Listening and speaking Training	1.Shadowing and overlapping practice 2.Presentation
14回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします)

- 1.Weekly reading and listening home assignments
- 2.Writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Homework, including writing assignment (30%)

In-class contribution, including mini-presentation (20%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I hope your enthusiastic participation will make this course exciting. みなさんの熱心な参加により授業の質が高まっていくのを実感しました。本年度もよい授業と一緒に作り上げていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken and TOEFL tests. Students will practice paragraph reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (30%) and the contribution made in class (20%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制(36)

レベル3,4 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このクラスでは英検 (準1級/1級) と IELTS の演習を行いながら「リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング」の4つの能力強化を目指します。

【到達目標】

- 1.Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2.Be able to understand main points of interview and lectures
- 3.Be able to give a mini-presentation on a given topic
- 4.Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing.(授業は演習形式で行います)

- 1.Clarifying objectives and goals (なぜ英語力強化を目指すのか、ゴールをどこに設定するかを明確にする)
- 2.Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検と IELTS テストの紹介と演習)
- 3.Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Course Orientation	1.Explanation of the course 2.Clarifying objectives and goals
2回	Introduction to Eiken	1.Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2.Reading &Listening practice to identify your strong and weak points (強みと弱点を知る)
3回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1.Paragraph reading practice 2.Listening practice
4回	Eiken: Reading and Listening Practice	1.Paragraph reading practice 2.Listening practice
5回	Eiken: Intensive Listening Training #1	1.Listening practice 2.Shadowing and overlapping 3.Dictation to improve accuracy

6回	Introduction to IELTS	1.Explanation of the basic format of IELTS (IELTS について) 2.Reading practice 3.Listening practice
7回	IELTS: Reading and Listening Practice	1.Reading practice 2.Listening practice
8回	IELTS: Intensive Listening Practice #1	1.Shadowing and overlapping 2.Dictation 3.Summarizing
9回	IELTS: Intensive Listening Practice #2	1.Shadowing and overlapping 2.Strategies for listening Part 4
10回	IELTS Writing: Writing an Essay for Task 2 #1	1.Learning academic writing structures and analyzing model essays 2.Strategies for Task 2 3.Writing an essay
11回	IELTS Writing: Writing an Essay for Task 2 #2	1.Peer editing 2.Feedback 3.Rewriting your draft
12回	IELTS: IELTS speaking practice #1	1.Making notes 2.Talking about yourself
13回	IELTS: IELTS speaking practice #2	1.Talking about the topic
14回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします)

1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)

2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト (教科書)】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Homework, including writing assignment (30%)

In-class contribution, including mini-presentation (20%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I hope your enthusiastic participation will make this course exciting. みなさんの熱心な参加により授業の質が高まっていくのを実感しました。本年度もよい授業を一緒に作り上げていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken and IELTS tests. Students will practice paragraph reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (30%) and the contribution made in class (20%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅰ

2017年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

定員制(36)

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC Listening & Reading Test 600点以上を目指し、主にリーディングとリスニングの解答テクニックの習得を目標とします。また、600点の取得に必要な語彙力と文法の基礎知識を学び、実践力を養うことを目標とします。この授業では予習よりも復習が大切です。反復学習を行う中で自分のミス进行分析し、解決のアプローチを探す訓練をします。

【到達目標】

- ・TOEIC Listening & Reading Testを受験し、600点以上をとる。
- ・TOEIC受験に向けた学習の中で自分の苦手进行分析することができ。
- ・苦手に対して、解決のアプローチを考え実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

第2回から第13回授業において単語テストを行います。テキストに沿って、リスニング問題や長文読解問題などを解き、解説を行います。各自、解説・フィードバックを受けてテキストの復習をし、単語の暗記を行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction/Goal Setting	授業の進め方の紹介を行う。自己目標を定める。
2	Unit 1	Vocabulary quiz < Listening part> Restaurant
3	Unit 1 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Restaurant
4	Unit 2	Vocabulary quiz < Listening part> Department Store
5	Unit 2 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Department Store
6	Unit 3	Vocabulary quiz < Listening part> Train Station
7	Unit 3 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Train Station
8	Unit 4	Vocabulary quiz < Listening part> Transportation

9	Unit 4 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Transportation
10	Unit 5	Vocabulary quiz < Listening part> Post Office
11	Unit 5 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Post Office
12	Unit 6	< Listening part> Bank
13	Unit 6 cont.	< Reading part> Bank
14	Final	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回から第11回授業で単語クイズを行います。予習をして授業に参加してください。授業で間違った箇所を分析し、復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

教科書：『ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R Test』（石井隆之他著）成美堂

【参考書】

辞書を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%), 単語テスト (20%), 期末試験 (50%)

原則として、学期期間中に4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。

毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業では単に答え合わせをするだけでなく、各問題の内容や背景を理解しながら授業を進めたいと思います。

学生の皆さんもできるだけ予習をして授業に臨んでください。

また、TOEIC試験の形式に慣れていただくように、復習もしっかりと行って下さい。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This course is for students who aim to achieve 600+ points on TOEIC Listening & Reading Test. The course provides students the vocabulary and grammatical lessons. Students are expected to review their mistakes and improve their weaknesses.

【到達目標 (Learning Objectives)】 There are three goals for this course. 1) Achieve 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. 2) Analyze your own mistakes and weaknesses. 3) Come up with a solution to improve your weaknesses.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria / Policy)】

Class Participation (30%), Weekly Vocabulary Quiz (20%), Final Exam (50%)

In principle, no more than four absences per semester are allowed.

Late arrivals are considered up to 30 minutes after the class starts, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

定員制(36)

レベル2,3 (各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC Listening & Reading Test 600点以上を目指すし、主にリーディングとリスニングの解答テクニックの習得を目標とします。また、600点の取得に必要な語彙力と文法の基礎知識を学び、実践力を養うことを目標とします。この授業では予習よりも復習が大切です。反復学習を行う中で自分のミスを分析し、解決のアプローチを探す訓練をします。春学期の「英語検定試験対策Ⅰ」受講による自身の到達度を確認し、より効果的な学習プランを立てましょう。

【到達目標】

- ・ TOEIC Listening & Reading Testを受験し、600点以上をとる。
- ・ TOEIC受験に向けた学習の中で自分の苦手进行分析することができる。
- ・ 苦手に対して、解決のアプローチを考え実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

第2回から第13回授業において単語テストを行います。テキストに沿って、リスニング問題や読解問題などを解き、解説を行います。各自、解説・フィードバックを受けてテキストの復習をし、単語の暗記を行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction/Goal Setting	授業の進め方の紹介を行う。受講者は自分の前期到達度を確認し、後期の自己目標を立てる。
2	Unit 7	Vocabulary quiz < Listening part> Airport
3	Unit 7 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Airport
4	Unit 8	Vocabulary quiz < Listening part> Hotel
5	Unit 8 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Hotel Unit 7 & 8 Test
6	Unit 9	Vocabulary quiz < Listening part> Hospital
7	Unit 9 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Hospital
8	Unit 10	Vocabulary quiz < Listening part> Events and Performances

9	Unit 10 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> Events and Performances Unit 9 & 10 Test
10	Unit 11	Vocabulary quiz < Listening part> College
11	Unit 11 cont.	Vocabulary quiz < Reading part> College
12	Unit 12	< Listening part> Office
13	Unit 12 cont.	< Reading part> Office Unit 11 & 12 Test
14	Final	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回から第13回までは毎回授業で単語テストを行います。予習をして授業に参加すること。授業で間違えた箇所を分析し、復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

教科書：『ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R Test』（石井隆之他著）成美堂

【参考書】

辞書を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%), Weekly Vocabulary Quiz (20%), 期末試験 (50%)
原則として、学期期間中に4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業では単に答え合わせをするだけでなく、各問題の内容や背景を理解しながら授業を進めたいと思います。
学生の皆さんもできるだけ予習をして授業に臨んでください。
また、TOEIC試験の形式に慣れていただくように、復習もしっかりと行って下さい。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This course is for students who aim to achieve 600+ points on TOEIC Listening & Reading Test. The course provides students the vocabulary and grammatical lessons. Students are expected to review their mistakes and improve their weaknesses.

【到達目標 (Learning Objectives)】 There are three goals for this course. 1) Archive 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. 2) Analyze your own mistakes and weaknesses. 3) Come up with a solution to improve your weaknesses.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria / Policy)】 Class Participation (30%), Weekly Vocabulary Quiz (20%), Final Exam (50%)

In principle, no more than four absences per semester are allowed.

Late arrivals are considered up to 30 minutes after the class starts, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe200LA（英語 / English language education 200）			5	第2課 Eating Out 1	第1課小テスト リスニング 疑問詞で始まる疑問文 2 電話メッセージ
英語検定試験対策Ⅰ			6	第2課 Eating Out 2	リーディング 品詞問題 広告 ウェブサイト
高橋 佳江			7	第3課 Office Supplies 1	第2課小テスト リスニング 疑問詞で始まる疑問文 3 セミナー公演
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木3/Thu.3			8	第3課 Office Supplies 2	リーディング 社内文書 Eメール
単位数：1単位			9	第4課 Hospital1	第3課小テスト リスニング 疑問詞で始まる疑問文 4 学会アナウンス
定員制(36)			10	第4課 Hospital1 2	リーディング 告知 オンラインチャット
レベル2,3（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）			11	第5課 Transportation 1	第4課小テスト リスニング 一般疑問文（現在形） 交通情報
その他属性：〈優〉			12	第5課 Transportation 2	リーディング 接続詞・前置詞問題 パンフレット オンラインチャット
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			13	第6課 Technology 1	第5課小テスト リスニング 一般疑問文（過去形） 図表問題 ニュース放送
TOEIC(R)650点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低1回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。			14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。 まとめと解説
この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
【到達目標】			本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。		
英語の文法力・読解力・聴解力を鍛え、TOEIC650点を目標にしていく。			リスニング（教科書付属のCDその他）		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			NHK語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェックなど行ってください。		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1			【テキスト（教科書）】		
【主な授業方法】			語彙で高めるTOEIC® L&R TESTスコアアップ600点 GETTING THE EDGE FOR THE TOEIC® L&R TEST		
L 講義 /Lecture			松本 恵美子 / 浜田 英夫 / Sam Little / 穂 寛美 / 福井 美奈子 共著		
【授業の進め方と方法】			2026年 成美堂 2,530円（本体2,300円+税） ISBN 9784791973415		
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。			【参考書】		
対面授業の際はその都度フィードバックを行う。			学校語彙で学ぶTOEIC(R)テスト[単語集] 成美堂（1700円）		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			【成績評価の方法と基準】		
あり / Yes			期末試験 60 % 小テスト 10 % レポート課題・発言点 20 % 平常点 10 %		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。 遅刻は3回で欠席1回に換算される。 各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。		
なし / No			【学生の意見等からの気づき】		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face			オンライン時でも連絡を密に取りたいです。		
回	テーマ	内容	【Outline (in English)】		
1	ガイダンス	授業の進め方を詳しく説明していく	Course outline		
2	文法説明 第1課 Entertainment 1	TOEIC(R)で必要とする基礎的文法の説明	The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC(R) L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.		
3	第1課 Entertainment 2	リスニング 疑問詞で始まる疑問文 1 設問の先読み 大会アナウンス			
4	第1課 Entertainment 3	リーディング ウェブサイト広告 広告			

Learning Objectives

This course will focus on grammar and listening skills with the goal of achieving a TOEIC(R) score of 650. Therefore, students are expected to prepare for the course, but are also expected to place emphasis on reviewing. In particular, students are expected to study listening at home every day. Students are expected to make their own study plans and take at least one exam to see the results and revise their study plans. Also, write a report on the results. For this purpose, it is desirable to take this class throughout the year if possible.

Students who take this class must attend the first class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Three tardies will count as one absence.

LANe200LA（英語 / English language education 200）			6	第8課 Purchases 2	リーディング 代名詞 記事 ダブルパッセージ (Eメール+レビュー)
英語検定試験対策Ⅱ			7	第9課 Architecture 1	第8課単語テスト リスニング 提案・勧誘の文 行事や予定 紗内告知 リーディング 動詞問題 Eメール ダブルパッセージ (規則+Eメール)
高橋 佳江			8	第9課 Architecture 2	第9課単語テスト リスニング 依頼・許可を求める文 ホテル案内 リーディング 広告 ダブルパッセージ (社内メモ+レビュー)
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木3/Thu.3 単位数：1単位 定員制(36) レベル2,3（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/） その他属性：〈優〉			9	第10課 Service 1	第10課小テスト リスニング 否定疑問文 図表問題 機内アナウンス リーディング 関係詞 記事 ダブルパッセージ (旅程表とEメール)
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 TOEIC(R)650点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低1回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。 この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。			10	第10課 Service 2	第11課小テスト リスニング 選択疑問文 イベント案内 授業で学んだことを試験する。 まとめと解説
【到達目標】 英語の文法力・読解力・聴解力を鍛え、TOEIC650点台の英単語を目標にしていく。			11	第11課 Vocabulary & Expression [Travel] 1	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。 リスニング（教科書付属のCDその他） NHK語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1			12	第11課 Vocabulary & Expression [Travel] 2	【テキスト（教科書）】 語彙で高めるTOEIC® L&R TESTスコアアップ600点 GETTING THE EDGE FOR THE TOEIC® L&R TEST 松本 恵美子 / 浜田 英夫 / Sam Little / 菰 寛美 / 福井 美奈子 共著 2026年 成美堂 2,530円（本体2,300円+税） ISBN 9784791973415
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture			13	第12課 Climate 1	【参考書】 学校語彙で学ぶTOEIC(R)テスト[単語集] 成美堂（1700円）
【授業の進め方と方法】 毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。 対面授業の際はその都度フィードバックを行う。			14	授業時試験	【成績評価の方法と基準】 期末試験 60％ 小テスト 10％ レポート課題・発言点 20％ 平常点 10％ 欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。 遅刻は3回で欠席1回に換算される。 各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes			【学生の意見等からの気づき】 オンライン時でも連絡を密に取りたいです。		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No			【その他の重要事項】 秋学期のみ登録予定の学生も、教科書は春学期に購入すること		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	ガイダンス	TOEIC(R)に関する説明・情報、関連分野について			
2	第6課 Technology 2	リーディング 語彙・語法問題 記事			
3	第7課 Personnel1	第6課小テスト リスニング be動詞の疑問文(現在形) 研修案内			
4	第7課 Personnel2	リーディング 求人広告 ダブルパッセージ (Web記事+Eメール)			
5	第8課 Purchases 1	第7課小テスト リスニング be動詞の疑問文(過去形) 行動や予定 店内放送			

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC(R) L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC(R) TEST.

Learning Objectives

This course will focus on grammar and listening skills with the goal of achieving a TOEIC(R) score of 650. Therefore, students are expected to prepare for the course, but are also expected to place emphasis on reviewing. In particular, students are expected to study listening at home every day. Students are expected to make their own study plans and take at least one exam to see the results and revise their study plans. Also, write a report on the results. For this purpose, it is desirable to take this class throughout the year if possible.

Students who take this class must attend the first class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Three tardies will count as one absence.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Oral Communication I

2017年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：1単位

Intermediate

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an introductory course comprised of 32 units and two review classes that is designed to enable students to learn, practice and improve their practical abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.

This is a communicative course with a strong focus on speaking and listening, but within these, we will focus on getting pronunciation of basic, simple, necessary words and phrases correct.

- In speaking, students will interact in practiced and free communicative exercises designed to enable them to speak simple, effective English covering a range of topics.

- Students will be asked to change partners frequently

【到達目標】

This course is designed to improve student conversational ability on wide range of everyday familiar topics. As well as fostering skills in speaking and listening the main goals are:

1. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience orally
2. Through constant practice and reinforcement, students will be able to gain confidence and fluency to be able to mount simple conversations about daily topics with confidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Each of the classes will contain three units with

1. A warm-up exercise
2. A listening exercise
3. A structured conversation exercise
4. A grammar practice
5. A more complicated structured conversation exercise
6. A less structured/ free conversation exercise.

Speaking exercises will be conducted in pairs who are swapped frequently, and in groups of three or four students.

The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction and general outline of the course	Unit Topic: How are you Speaking content: Greeting people, saying goodbye

Class 2	Units 2, 3 &4 Unit Topics: Nice to meet you / Can you say that again? / Nice weather isn't it?	Speaking content: Introducing myself and others, asking for personal information, asking for repetition, making small talk
Class 3	Units 5, 6 &7 Unit Topics: I love hip hop! / My favorite movie is.../ What time is it?	Speaking content: Expressing likes and dislikes, asking about favorites, returning questions, asking about and telling the time
Class 4	Units 8, 9 &10 Unit Topics: Would you like to try kayaking? / Do you have any brothers? / She's pretty smart.	Units 8, 9 &10 Unit Topics: Would you like to try kayaking? / Do you have any brothers? / She's pretty smart.
Class 5	Units 11, 12 &13 Unit Topics: I love your shirt! / What is she wearing? / When do you get up?	Speaking content: Giving and responding to compliments, asking and describing what people are wearing, asking and describing routines
Class 6	Units 14, 15 &16 Unit Topics: When do you get there? / What do you do first? / What are you doing?	Speaking content: Asking follow-up questions, asking about &describing a sequence, asking about & describing ongoing activities
Class 7	Review Units 1-16	Go through review practices on key grammar points. Swap partners
Class 8	Units 17, 18, &19 Unit Topics: What's your place like? / Where can I get a lamp? / Where is the mall?	Speaking content: Asking about &describing a place, asking for &giving suggestions, asking about & describing locations
Class 9	Units 20, 21, &22 Unit Topics: Take a left / How much is the coffee? / Will you take \$20?	Speaking content: Asking & giving directions, asking about &giving prices, bargaining for prices
Class 10	Units 23, 24, &25 Unit Topics: Do you ever buy books? / Your phone is so cool / Do you eat much fruit?	Speaking content: Asking about &describing frequency, describing features, asking & talking about quantities
Class 11	Units 26, 27, &28 Unit Topics: We need onions / Do you eat a big lunch? / How does it taste?	Speaking content: Asking about &describing needs, describing what you eat, eating habits, asking about & describing food.
Class 12	Units 29, 30, &31 Unit Topics: I had a great weekend/ What time did you call?/ You won't believe this!	Speaking content: Talking and asking about past events, introducing news
Class 13	Unit 32: What are your plans?	Speaking content: Asking about &describing future plans

Class 14	Achievement Check Individual oral speaking tests with pairs facing the instructor	Individual oral speaking tests with pairs facing the instructor

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Required Textbook:

Jack C. Richards and David Bohlke, "Speak Now, Level 1",
Oxford University Press
ISBN 978-0-19-403015-1

【参考書】

The instructor will provide these.

In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials as needed/ necessary.

【成績評価の方法と基準】

Student evaluation will be based on the following criteria

1. Positive participation in speaking practice: (70%)
2. Short speaking tests (30%)

* Students missing more than three classes without adequate explanation cannot pass the course.

* Each non-explained absence will result in a 7% grade deduction

* Lateness (more than 5 minutes late, more than two occurrences) without adequate reason will negatively impact grades.

* Chatting in Japanese, non-attention will severely impact grades

【学生の意見等からの気づき】

This is the first time I have taught this course.

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

Addressing and Contacting the Instructor

1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in Oral Communication I

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

Yours sincerely,

Taro Suzuki

【Outline (in English)】

In the units covered, students will practice listening and speaking writing exercises orally in an effective manner and practice in effectively expressing opinions, knowledge and experiences

While the focus is on speaking, students will develop their skills further through listening exercises.

In-class (immediate) feedback will be given as well as written feedback when necessary on writing tasks

- Students will be asked to change partners frequently

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Oral Communication II

2017年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：1単位

Intermediate

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a follow-on course from Oral Communication comprised of 32 units and two review classes that is designed to enable students to learn, practice and improve their practical abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.

This is a communicative course with a strong focus on speaking and listening, but within these, we will focus on getting pronunciation of basic, simple, necessary words and phrases correct.

- In speaking, students will interact in practiced and free communicative exercises designed to enable them to speak simple, effective English covering a range of topics.

- Students will be asked to change partners frequently

【到達目標】

This course is designed to improve student conversational ability on wide range of everyday familiar topics. As well as fostering skills in speaking and listening the main goals are:

1. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience orally
2. Through constant practice and reinforcement, students will be able to gain confidence and fluency to be able to mount simple conversations about daily topics with confidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

Each of the classes will contain three units with

1. A warm-up exercise
2. A listening exercise
3. A structured conversation exercise
4. A grammar practice
5. A more complicated structured conversation exercise
6. A less structured/ free conversation exercise.

Speaking exercises will be conducted in pairs who are swapped frequently, and in groups of three or four students.

The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction and general outline of the course: Unit Topic: Where are you from?	Speaking content: Contractions/ starting and closing a conversation

Class 2	Units 2, 3 &4 Unit Topics: I'm tall and thin/ Alice is more serious/ All my friends text	Speaking content: Asking about &describing appearances, asking about & describing personalities, talking about quantities
Class 3	Units 5, 6 &7 Unit Topics: I've never had Thai food/ First grill the bread/ The service is great	Speaking content: Asking about &describing experiences, giving a series of instructions, reminding someone of something/ describing restaurants
Class 4	Units 8, 9 &10 Unit Topics: Are you ready to order? / I have a sore throat/ What should I do?	Units 8, 9 &10 Unit Topics: Are you ready to order? / I have a sore throat/ What should I do?
Class 5	Units 11, 12 &13 Unit Topics: I'd love to try that!/ Soccer is more exciting!/ I can write pretty well	Speaking content: Expressing wants and intentions, giving reasons, asking for comparisons, making comparisons, describing abilities, making comparisons, describing abilities, making recommendations.
Class 6	Units 14, 15 &16 Unit Topics: I'd have to have / I travel for free/ Is the manager there?	Speaking content: Expressing necessity/ lack of necessity, describing pros and cons, asking for someone on the phone, asking about a job
Class 7	Review Units 1-16	Go through review practices on key grammar points. Swap partners
Class 8	Units 17, 18, &19 Unit Topics: That sounds fun! / I'd love to go / I'm sorry but I can't	Speaking content: Talking about free time activities, showing interest, inviting someone, responding to an invitation, declining an invitation, giving an excuse
Class 9	Units 20, 21, &22 Unit Topics: Sorry I'm late / Did you go alone?/ Which do you prefer?	Speaking content: Apologizing, responding to an apology, asking double questions, describing past events, asking about preferences, describing preferences Video study and Q&A
Class 10	Units 23, 24, &25 Unit Topics: You must get a visa/ When is the next train?/ I usually wear	Speaking content: Expressing prohibitions and obligations, asking &describing prices and schedules, asking & describing general behavior
Class 11	Units 26, 27, &28 Unit Topics: What do you think? Can you do me a favor? What is it used for?	Speaking content: Asking for and offering ideas/ making and agreeing to requests, asking about and describing uses
Class 12	Units 29, 30, &31 Unit Topics: I think it's fun / I feel the same way / What would you do?	Speaking content: Asking for &giving, agreeing and disagreeing with opinions, asking about &discussing an imaginary situation.
Class 13	Unit 32: Then what happened	Speaking content: Describing a series of events Review exercises Units 17-32 swapping partners

Class 14 Achievement Check Individual oral speaking tests with pairs facing the instructor

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Required Textbook:

Jack C. Richards and David Bohlke, "Speak Now, Level 2",
Oxford University Press
ISBN 978-0-19-403016-8

【参考書】

The instructor will provide these.

In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials as needed/ necessary.

【成績評価の方法と基準】

Student evaluation will be based on the following criteria

1. Positive participation in speaking practice: (70%)
2. Short speaking tests (30%)

* Students missing more than three classes without adequate explanation cannot pass the course.

* Each non-explained absence will result in a 7% grade deduction

* Lateness (more than 5 minutes late, more than two occurrences) without adequate reason will negatively impact grades.

* Chatting in Japanese, non-attention will severely impact grades

【学生の意見等からの気づき】

This is the first time I have taught this course

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

Addressing and Contacting the Instructor

1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in Oral Communication 2

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

Yours sincerely,

Taro Suzuki

【Outline (in English)】

In the units covered, students will practice listening and speaking writing exercises orally in an effective manner and practice in effectively expressing opinions, knowledge and experiences

While the focus is on speaking, students will develop their skills further through listening exercises.

In-class (immediate) feedback will be given as well as written feedback when necessary on writing tasks

- Students will be asked to change partners frequently

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Oral Communication I

2017年度以降入学者

TIMOTHY B BETJEMAN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

Intermediate

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This elective course is designed to help students further develop their spoken English skills from a pre-intermediate starting point.

Through guided discussion, students will explore modern issues connected to world affairs and future changes in technology and society. The course also incorporates targeted activities that emphasize pronunciation, rhythm, and intonation in order to improve overall oral fluency and clarity.

【到達目標】

Students will practice techniques that allow them to use their voices more effectively, leading to smoother and more natural communication. Emphasis will be placed on expressing complete ideas rather than focusing on individual words.

The course will incorporate TED Talks, BBC video content, online English-learning platforms, and current news articles to help students become more confident, effective, and proficient users of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will develop and practice speaking skills using A++, BOOST, and Yes/No/Key/Or questioning techniques. Listening skills will be reinforced through shadowing exercises. Speaking practice will also include the preparation and delivery of in-class and/or online presentations.

Assignments will be issued and received using Google Classroom. Written work done in class will receive oral feedback, and assignments will receive written feedback where required.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Overview of the course, grading system, and classroom policies. Accessing Google Classroom.
2	Unit 1: Technology	Introduction to technology-related generative applications; practice using A++ to encourage extended spoken responses.
3	Technology	Discussion of technology topics with a focus on expanding original statements using BOOST.

4	Technology: Reading	BBC articles on transportation systems; practice forming Yes/No/Key/Or questions.
5	Technology: Presentation skills	TED Talk viewing with presentation analysis and discussion; focus on presentation techniques.
6	Unit 3: Culture	Introduction to culture-related vocabulary; oral practice using A++.
7	Culture	Theme-based discussions with emphasis on building upon original statements. Introduction of the skit/play activity.
8	Culture: Research a country	Research-based exploration of a theme-related topic. Practice negative and tag questions. Preparation of a short presentation on key cultural elements.
9	Culture: Presentation Skills	Delivering presentations on another culture using visual or presentation aids.
10	Unit 5: Beliefs	Introduction of key vocabulary related to belief systems; discussion of beliefs and cultural perspectives. Pronunciation practice.
11	Beliefs	Listening practice and shadowing exercises. Preparation of a short presentation. Discussion of skit/play group project for week 13.
12	Beliefs	Delivery of a short presentation on beliefs.
13	Presentation	Small-group skit/play presentations. Continuation of small-group skit/play presentations.
14	Review and Analysis	Viewing and evaluating a TED presentation for academic or social speaking style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Students will be expected to write a short summary of a News Article each week, and be prepared to discuss it at the beginning of each class.

Students will also work in small groups to prepare a short skit/play which includes vocabulary/grammar concepts from the class. These will be presented in class in weeks 13 and 14.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book Two" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB2. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company ¥ 3,000 to access The Study Centre.

【参考書】

Materials provided as necessary through Google Classroom, or by the instructor in class.

【成績評価の方法と基準】

Class Participation/Mini-presentations: 25%

Unit Tests: 30%

Assignments: 30%

Small Group Presentation: 15%

In principle, students may not exceed three absences per semester in order to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring a notebook and pencil or pen to class, and have access to a laptop, and the ability to download English apps (for example, through a smartphone).

【Outline (in English)】

This is an elective course which focuses on building English oral communication skills. Students will develop and practice confident and natural speech habits through exploration and discussion of globally significant themes such as emerging technologies, contrasting cultures, and diverse belief systems. Video and audio segments, TED Talks, BBC Videos, and other electronic resources will be used to familiarize students with clear expression and pronunciation skills, and to help develop listening skills.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Oral Communication II

2017年度以降入学者

TIMOTHY B BETJEMAN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

Intermediate

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This elective course provides students with the opportunity to further develop their oral communication abilities. The course focuses on strengthening both person-to-person communication skills and presentation skills.

TED Talks and academic presentations will be used to examine and compare different presentation styles. Students will be required to give short presentations on a range of globally significant topics including technology, politics, and the environment.

【到達目標】

The aim of this course is to further strengthen students' oral communication skills. Student will gain experience preparing and delivering a variety of presentations and unaided speeches. They will also practice emphasis, eye contact, rhythm, and body gestures to help make their oral communication more powerful and dynamic.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Students will develop and practice speaking skills using A++, BOOST, and Yes/No/Key/Or questioning techniques. Listening skills will be reinforced through shadowing exercises. Speaking practice will also include the preparation and delivery of in-class and/or online presentations.

Assignments will be issued and received using Google Classroom. Written work done in class will receive oral feedback, and assignments will receive written feedback where required.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction & Review	Self-introductions. Review of Semester 1, goals and expectations, grading policy, Study Centre and Google Classroom overview.
2	Unit 7: The News	Introduction of theme-related vocabulary; oral practice using A++ and BOOST.
3	The News	Shadowing practice. Preparation of a TV news-style presentation.
4	TED Talk – How to Speak So That People Want to Listen	Small-group presentations based on the Week 3 task. Analysis and discussion of presentation skills.

5	The News	TED Talk: How to captivate audiences. Worksheet activities.
6	Unit 9: Ecotourism	Introduction of theme-related vocabulary; oral practice using A++ and BOOST.
7	Ecotourism	Shadowing with text. Preparation of a famous speech.
8	Ecotourism	Presentation or debate on eco-tourism. Continued preparation of a famous speech.
9	Academic style Presentation using AI tools	Video presentation. Analysis and discussion; focus on presentation techniques.
10	Unit 11: Environment	Introduction of theme-related vocabulary; oral practice using A++ and BOOST.
11	Environment	Discussion of environmental issues and shadowing practice.
12	Environment	BBC articles on soil and water. Video analysis and worksheet activities.
13	Famous speech Presentation	Delivery of famous speech presentations.
14	TED Talk – Hans and Ola Rosling	Video presentation analysis and discussion; focus on presentation skills.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Class preparation will include logging English language activities for the week, and preparing a short summary of a News item, which students should be prepared to discuss at the start of each class.

Students will work in small groups to prepare a short news-style presentation. They will also work independently to prepare an excerpt from a famous historical speech.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book Two" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB2. A CD is not required but you might like it to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company ¥ 3,000 to access The Study Centre.

【参考書】

References will be given by the instructor during class, or added to Google Classroom as Materials where necessary.

【成績評価の方法と基準】

Class Participation/Mini-presentations: 25%

Unit Tests: 30%

Assignments: 30%

Famous Speech Presentation: 15%

In principle, students may not exceed three absences per semester in order to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring a notebook and pencil or pen to class, and have access to a laptop, and the ability to download English apps (for example, through a smartphone).

【Outline (in English)】

This elective course provides students with the opportunity to further develop their oral communication abilities. The course focuses on strengthening both person-to-person communication skills and presentation skills.

TED Talks and academic presentations will be used to examine and compare different presentation styles. Students will be required to give short presentations on a range of globally significant topics including technology, politics, and the environment.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English through Movies and Drama I 2017年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト *Integrated Skills Through Movies* により、映画について書かれたエッセイを精読し、映画に出てくる口語表現が身につくよう練習します。

【到達目標】

1. 楽しみながら英語を読む習慣を身につけます。
2. 映画の内容について理解を深めます。
3. エッセイに出てくる語句や文法の知識を正確に身につけます。
4. 映画に出てくる口語表現を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 映画の中で注目すべき英語表現を理解します。
 2. 単語や文法を確認しながら各課のエッセイを精読します。
 3. 映画の見どころを解説します。
 4. エッセイ理解のための練習問題と、1で学んだ表現をより深く理解するための練習問題に取り組みます。
- 授業内で随時フィードバックを行います。期末試験は返却して詳しく解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要を説明します。(受講を希望する人は、必ず初回授業に出席してください。初回授業にはテキスト不要です。オリエンテーションを受けてから購入してください。)
第2回	Chapter 1: Finding Mr. Right	<i>Bridget Jones's Diary</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第3回	Chapter 2: Email: A Communication Revolution	<i>You've Got M@il</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第4回	Chapter 3: Love and Courage	<i>Titanic</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第5回	Chapter 4: Working Women and The American Dream	<i>Working Girl</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第6回	Chapter 6: Over the Rainbow	<i>The Majestic</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第7回	Chapter 7: Figuring Life Out	<i>Cast Away</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。

第8回	Chapter 8: Who am I?	<i>Bicentennial Man</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第9回	Chapter 9: Thrills and Chills	<i>Speed</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第10回	Chapter 10: The Price of Fame	<i>The Bodyguard</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第11回	Chapter 11: Hollywood Laughs at Hollywood	<i>America's Sweethearts</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第12回	Chapter 12: Getting Rid of the Politicians	<i>Dave</i> に関するエッセイを精読し、映画の中の英語表現を学びます。
第13回	復習と春学期末テスト	春学期に学んだエッセイと映画の中のフレーズについて復習と筆記試験を行います。
第14回	筆記試験のフィードバックと秋学期授業 (English through Movies & Drama II) の予告	筆記試験を返却して徹底解説し個別のフィードバックも行います。秋学期の課題映画 <i>Notting Hill</i> について解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストのエッセイ読解と各練習問題は、予習を前提として授業を進めます。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。その他に各映画を自主的に鑑賞することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

Integrated Skills Through Movies (『映画英語ワークショップ』) 朝日出版社

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)と期末試験(50%)から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「映画を楽しみながら英語を学べてよかった」、「知っているはずの文法項目でも、抜けていたところに気づけてよかった」などと、好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309)教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoomでも動画共有を行うので、使用機器(PC利用のこと)とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoomではお顔出しと静かな環境からの参加をお願いしています。その他、教材・資料の配布や課題提出のため、学習支援システムも利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

You will be expected to read intensively essays in *Integrated Skills Through Movies* and to practice key phrases in movies. Before/after each class, you will be expected to spend one hour to learn the class materials. Grading will be decided based on active participation(50%) and final exam(50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

English through Movies and Drama II 2017年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

*Notting Hill*により口語表現を学びます。この作品はいわゆるロマンティックコメディですが、日常会話に応用しやすい比較的平易な表現を豊富に含んでいます。また、登場人物の台詞からイギリス英語とアメリカ英語の違いも学びます。

【到達目標】

1. 口語表現に親しみ、応用できるよう習得する。
2. Authenticな英語に対するリスニング力を向上させる。
3. イギリス英語とアメリカ英語の違いを学ぶ。
4. シナリオを読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

このテキストの各ユニットは、プレタスク（語句や表現の予備知識を習得する）、聴き取り、表現練習、イギリス英語とアメリカ英語の比較、映画本編の SCRIPT 等から構成されています。プレタスク、聴き取り、表現練習などのタスクから取り組み、英米語の比較を経て、SCRIPT の一部を読みます。授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要を説明します。履修を希望する人は必ず参加してください。（初回授業にテキストは不要です。オリエンテーションを受けてから、購入して下さい。）
第2回	Unit 1: William's Notting Hill & 'She'	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第3回	Unit 2: Surreal, But Nice	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義
第4回	Unit 3: A Goddess Is A Movie Star	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第5回	Unit 4: Birthday Party	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義

第6回	Unit 5: A Date With Anna	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第7回	Unit 1 ～ Unit 5 の復習	Unit 1 ～ Unit 5 で学んだ口語表現を復習します。
第8回	Unit 6: She's Gone	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義
第9回	Unit 7: She's Back	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第10回	Unit 8: Rude Awakening -Ain't No Sunshine	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義
第11回	Unit 9: Like Me Again	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→発音のポイント→シナリオ・ポイント講義
第12回	Unit 10: The Right Decision -The Meaning of My Life Is She	テキストのプレタスク→聴き取り→表現練習→イギリス英語とアメリカ英語の比較→シナリオ・ポイント講義
第13回	復習と秋学期末試験	<i>Notting Hill</i> で学んだ英語表現について復習と筆記試験を行います。
第14回	筆記試験のフィードバックと学習アドバイス	筆記試験を返却して徹底解説し個別のフィードバックも行います。英語学習に適した映画についての講義を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト前半の練習問題は予習を前提に進めます。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Notting Hill ー映画総合教材『ノッティング・ヒルの恋人』新装版（松柏社）

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

テキストのタスクのバランスが良いので、取り組みやすいようです。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309)教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoomでも動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoomではお顔出しと静かな環境からの参加をお願いしています。その他、教材・資料の配布や課題提出のため、学習支援システムも利用します。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

You will be expected to learn and practice vocabularies and phrases in the movie *Notting Hill*, understanding the content. Before/after each class, you will be expected to spend one hour to learn the class materials. Grading will be decided based on active participation(50%) and final exam(50%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)		
English through Movies and Drama I		
2017年度以降入学者		
舟橋 美香		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月4/Mon.4		
単位数：1単位		
定員制(20)		
その他属性：〈優〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒュー・グラント主演のイギリスのコメディ映画『アバウト・ア・ボーイ』を英語字幕付きで見て、そのスクリプト（映画脚本）と、さまざまな種類の **Exercises** の載ったテキストを使い、日常的な英語を理解し、学ぶ。映画を見る前に、単語の確認をしてから、映画を見て、読解問題を解き、CDで、一部の聞き取り問題を行ってから、コメディ映画特有の比喩的な表現と **British English** の問題を解く。これらの作業から、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。映画が扱う、さまざまな現代の問題について、そして、イギリス事情についても理解を深める。また、各 **Unit** 終了後に、'Extra Questions' に回答してもらい、その後、答え合わせとディスカッションを行う。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現（特に、イギリスの口語）を学び、スクリプトの音源のCDを聞き、リスニング能力を向上させ、内容については、テキストで問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深めることができる。映画で使用された語彙を理解し、会話でつかえる表現を使えるように身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

予習を前提として授業を行います。教科書のスクリプトの英文を読んでから答えたはずの、各エクササイズに答えてもらいます。授業では、映画を見る前のエクササイズの答え合わせをしてから、映画を見てから答える問題を解いて、理解を深めます。適宜、スクリプト（映画脚本）の部分を読むことで、理解を深める。各 **Unit** 終了後に、'Extra Questions' のシートを配布し、授業中に書き入れてもらう。その場で答え合わせをし、解説後に回収。次回の授業で返却する。学期末のレポートは、Word フォーマットで、「学習支援システム（Webclass）」から提出してもらい、採点に、コメントをつけて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション。	テキストの説明と、どこを予習すべきかなどを説明。また、「学習支援システム（Webclass）」の教材のところに、Youtube の予告編を見て、どんな映画が想像して、ディスカッションする。テキストを手配しておく。

2	Unit 1 A Boy and a Man (万が一、テキストがまだない学生は、学習支援システム (Webclass) の教材に置いてある Unit 1 の Exercises と Script を予習して授業に臨むように。) 次週以降は、テキストがあるという前提で授業する。	ふたりの男子。 映画の脚本の読み方を学び、Unit 1 の脚本を読んでから、Exercises を答える。テキストの予習復習をする。
3	Unit 1 A Boy and a Man (続き)	ふたりの男子。(続き) Extra Questions の Unit 1 に取り組み、答え合わせをしてから、ディスカッション。
4	Unit 2 Will joins SPAT	ウィルSPATに入会。テキストの予習復習をする。
5	Unit 3 You Need a Backup	支えが要るんだ。テキストの予習復習をする。
6	Unit 4 Will and Marcus Become Mates	ウィルとマーカスの奇妙な友情。テキストの予習復習をする。
7	Unit 5 Marcus's Fashion Makeover	マーカスを変身させよう。テキストの予習復習をする。
8	Unit 6 Will's First Real Christmas	初めての本物のクリスマス。テキストの予習復習をする。
9	Unit 7 The Boys Get Crushes	ふたりが同時に恋をした。テキストの予習復習をする。
10	Unit 8 Lies, Half-truths & Honesty	「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」。
11	Unit 9 Marcus's Gift to Mum	テキストの予習復習をする。お母さんへの贈り物。テキストの予習復習をする。
12	Unit 10 No Man Is an Island	人は孤島ではない。テキストの予習復習をする。
13	Unit 1-10 復習 (Unit 9 までしか見られない可能性があります。) Unit 10(?) & Unit 1-5	日本語字幕で、Unit 1 から、最後まで、一気に見て復習する。時間的に Unit 10 まで行かない場合は、翌週に、Unit 10 だけ日本語字幕で見る。
14	復習と学期末レポートの説明	要望に応じて、難しいと思った場面を、英語字幕で、復習する。テキストの巻末の「チャック」を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。テキストの予習復習をする。予習としては、かならず、テキストの後半に置かれた映画脚本 (script) を辞書を引きながら、読んでから、テキストの問題を解くように。その際、注(Notes) に重要な情報があるので、見落とさないようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】

Peter Hedges/ Chris Weitz & Paul Weitz, 神谷久美子、Kim R.Kanel 『About a Boy』松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

各時間の発表、授業への貢献度を含めた平常点を30%、授業で回収する書き込みシートを20%、学期末のレポートを50%で採点する。各授業中に、シートを回収するので、予習して、毎回出席すること、を、つよく勧める。欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生は楽しんでいましたようです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

赤ペン

【Outline (in English)】

Develop English skills through watching a film called About a Boy, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.

Study textbook, through reading each script and solving questions for each week, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50% and the final paper 50%.

LANe200LA（英語 / English language education 200）		
English through Movies and Drama II		
2017年度以降入学者		
舟橋 美香		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 4/Mon.4		
単位数：1単位		
定員制(20)		
その他属性：〈優〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
リチャード・カーティスが脚本・監督し、ヒュー・グラント、リーアム・ニーソン、コリン・ファース、キーラ・ナイトレイ、ビル・ナイなど、イギリス出身の俳優が綺羅星の如く登場し、さまざまな恋模様が描かれる映画 <i>Love Actually</i> を、英語字幕付きで見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上ばかりでなく、英作文能力アップを目指す。また、英語力アップだけでなく、イギリスを構成する様々な登場人物たちが話す英語から、階級や立場によって異なるイギリスで話されている英語についても学ぶ。		
【到達目標】		
映画を見て、英語特有の表現を学び、リスニング能力を向上させ、内容については、スクリプトを読み、テキストで問題を解くことで、理解を深めることができる。また、映画には、さまざまな英語が話されるので、実際に話される英語の聞き取り能力もアップさせる。映画で使用されている頻出単語をつかった英文作成問題によって、正しい英文を書く力も養う。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
予習を前提にした授業を行う。各章のスクリプト（映画脚本）と問題をあらかじめ予習している状態で、映画を見る前にやる教科書のエクササイズを解いてから、CDで映画のスクリプトを聴きながら、テキストのスクリプトの部分を読む。その後、各週の映画を見て、テキストの問題を解いて理解を深める。各Unitのテキストを終えてから、小テストを行い、答え合わせをしてから回収します。また、予習用に「単語テスト（Vocabulary Test）」を配布しますので、書き入れて、次週持ってきてください。学期末のレポートは、「学習支援システム（Webclass）」に提出してもらい、採点し、コメントをつけて、フィードバックする。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキストのどこを予習すべきかを含めた授業の説明。テキストを手配しておく。映画の脚本（script）の読み方について、解説。
2	Unit 1 Love Actually Is All Around	クリスマス5週間前のロンドン。様々な人物登場。
3	Unit 1 Love Actually Is All Around（続き）	Second Viewing 以降の問題。Daniel たちの物語。（以降の週も同じ流れ。）
4	Unit 2 Agony of Being in Love	復習のため、Unit 1 の Unit Quiz をおこない、答え合わせをしてから回収。その後、Unit 2 に入る。Daniel たちの物語。（以降の週も同じ流れ。）
5	Unit 2 の問題の残りをしてから、Unit 3 に入る。	授業の進行によって、Unit 2 の続きになるか、Unit 3 に入る。
6	Unit 3 Feel Uncomfortable?	6組の人物たちの想い。
7	Unit 4 Have You Gone Completely Insane?	新たな恋の展開？。
8	Unit 5 It's for you	Daniel の奮闘。他の登場人物の中には、自分の恋心に気づくものもいて、、、。
9	Unit 6 You're Beautiful	クリスマスプレゼント問題発生。
10	Unit 7 Merry Christmas	アメリカに到着する Colin。プレゼント問題がまたまた発生。
11	Unit 8 The Time to Be with the People You Love	ついにクリスマス。様々な想いが交錯。
12	Unit 9 All I want for Christmas is You	すべての恋がクライマックスに。
13	日本語字幕で映画の冒頭から、なるべく最後の方まで、復習。Unit 1-9 復習。	日本語字幕で、なるべく映画の最後まで見て、復習する。12回目の授業で見られなかった映画の最後までを日本語字幕で復習。
14	Unit 10 Let's Review! 復習と学期末レポートの説明。	テキストの最初から最後まで復習しておく。授業では、テキストの Unit 10 の A B を答え合わせ。（レポートは学習支援システム（Webclass）で、Word ファイルで提出してもらうので、その説明。）
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。テキストの予習復習をする。辞書を引きながら、テキストのスクリプトに目を通してから、テキストの前半に置かれている各Unitの問題を解いておく。とくに、英作文は、口頭で発表してもらうので、テキストでの使われ方だけでなく、辞書や用例を参考にしながら、予習で書いておく。Script を読むときは、注（Notes）もしっかり予習しておく。予習の際は、英作文問題もきちんと書いてくるように。		
【テキスト（教科書）】		
仁科恭徳監修、藤原康弘／鎌倉義士／吉川祐介 編著『Love Actually』松柏社		
【参考書】		
なし		
【成績評価の方法と基準】		
各時間に答え合わせの後に回収する「Vocabulary Test」＆「Unit Quiz」をそれぞれ10％、合計で20％。各授業におけるリアクションを含めた平常点を30％、学期末のレポートを50％で採点する。		

各課題未提出あるいは欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

登場人物が多く、各ユニットを終えるのに、最初の頃は、かなり時間がかかったが、かなり力がついてように見られる。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

赤ペン

【Outline (in English)】

Develop English skills through watching a film called *Love Actually*, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.

Study textbook, through reading each script and solving questions for each week, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50% and the final paper 50%.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

TOEIC(R) I 2017年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：1単位

Intermediate

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「TOEIC® って何？」という入門レベルの話題から出発しますが、秋学期授業終了時には、TOEIC® で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、春学期から出題内容・言語スキルを系統的に学んでいきます。目標スコアは、600点～630点（テキストの目標スコアは600点）です。

【到達目標】

TOEIC® の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主として、後述のcore textに沿った授業ですが、単なるTOEIC® 形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進捗を見計らって、e-learning等の個別問題演習も行います。授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期・秋学期の概要とレベルの説明。（受講を希望する人は必ず参加してください。初回授業にテキストは不要です。オリエンテーションを受けてから、購入してください。）
第2回	Unit 1: Travel (名詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第3回	Unit 2: Dining Out (形容詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第4回	Unit 3: Media (副詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第5回	Unit 4: Entertainment (時制を学ぶ)	テキストによるTOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第6回	Unit 1～4	復習のためのポイント講義と問題演習
第7回	Unit 5: Purchasing (主語と動詞の一致を学ぶ)	テキストによるTOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第8回	Unit 6: Clients (能動態・受動態を学ぶ)	テキストによるTOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。

第9回	Unit 7: Recruiting (動名詞・不定詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第10回	Unit 8: Personnel (現在分詞・過去分詞を学ぶ)	テキストによるTOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第11回	Unit 5～8	復習のためのポイント講義と問題演習
第12回	Interview	個別の面接試験で、テキスト学習の定着度を確認しアドバイスを行います。
第13回	復習と春学期末テスト	春学期に学んだ単語・フレーズについて復習と筆記試験を行います。
第14回	春学期の総括	期末テストを返却して解説します。秋学期授業の予告、夏季休暇中の勉強のしかたなどを説明し、個別指導を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記Core textや関連配布プリントの予習を前提として授業を進めます。秋学期12月のTOEIC® 本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (金星堂)
そのほか、プリント教材

【参考書】

URL (例)

<http://heathrow.com/><https://www.expedia.co.uk/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、Interview (20%)、期末テスト (40%)から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

通年履修者の多くが、目標スコアを達成できたようです。また、さらなるスコア向上を目指して履修後もTOEIC® を受ける人が多く、少人数クラスならではのコミュニケーションが学習意欲を維持する上で効果的だったのではと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309)教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoom授業では、使用機器 (PC利用のこと) とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom授業ではお顔出しと静かな環境からの参加をお願いしています。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

We will start with the introductory topic, 'What it is like the TOEIC® test?' Our final goal for a series of 'TOEIC(R)I・II' is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will learn such knowledge and skills systematically from the spring semester. By the end of the course, students should get familiar with the testing types. Before/after each class, you will be expected to spend one hour to learn the core material. Grading will be decided based on active participations(30%), interview(30%)and final exams(40%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

TOEIC(R) II

2017年度以降入学者

平野井 ちえ子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：1単位

Intermediate

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習を踏まえて、秋学期はとくにビジネスシーンを意識した内容に取り組みます。秋学期終了時には、TOEIC® で問われる分野知識・言語スキルを一通り網羅できるよう、系統的に学んでいきます。目標スコアは、600点～630点（テキストの目標スコアは600点）です。

【到達目標】

TOEIC® の概要を理解しスコアを伸ばすことが目的であることは言うまでもありませんが、その場限りの丸暗記や戦略本位の勉強でなく、いかに長期的視野に立って実用英語の力を養うか、を念頭に授業を運営していきます。12月のTOEIC® 本試は全員に受験していただく予定です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主として、後述の core text に沿った授業ですが、単なる TOEIC® 形式の問題演習だけでなく、言語知識・スキルが定着しやすいよう、身近な英語リソースの紹介を行いながら、クラス授業を展開します。進捗を見計らって、実践力を養う一斉小テストも行います。授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の学習内容の復習、秋学期の学習計画の説明などを行います。（受講を希望する人は必ず参加してください。秋学期からの受講を検討している人は、初回授業にテキストは不要です。オリエンテーションを受けてから、購入してください。）
第2回	Unit 9: Advertising (代名詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第3回	Unit 10: Meetings (比較を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第4回	Unit 11: Finance (前置詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第5回	Unit 8～11	復習のためのポイント講義と問題演習
第6回	Unit 12: Offices (接続詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第7回	問題演習 (1)	パート別に制限時間を設けての問題演習

第8回	問題演習 (2)	パート別に制限時間を設けての問題演習
第9回	Unit 13: Daily Life (前置詞と接続詞の違いを学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第10回	Unit 14: Sales & Marketing (関係代名詞を学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第11回	Unit 15: Events (語彙の結びつきを学ぶ)	テキストによる TOEIC® 形式の問題演習と、文法・表現・海外事情などの解説。
第12回	Interview	個別の面接試験で、テキスト学習の定着度を確認しアドバイスを行います。
第13回	復習と秋学期末テスト	秋学期に学んだ単語・フレーズについて復習と筆記試験を行います。
第14回	秋学期の総括	期末テストを返却して解説します。
		12月の TOEIC® スコアレポート提出後、学生本人の希望に応じて個別指導を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記 Core text や関連配布プリントの予習を前提として授業を進めます。12月の TOEIC® 本試に向けて、各自自分の学習計画を立てるよう心掛けてください。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Score Booster for the TOEIC® L&R Test Intermediate (金星堂) そのほか、プリント教材

【参考書】

『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 12』(Educational Testing Service)

URL (例)

<http://heathrow.com/><https://www.expedia.co.uk/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、Interview (20%)、期末テスト(30%)、12月 TOEIC® 本試のスコア (20%)から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

通年履修者の多くが、目標スコアを達成できたようです。また、さらなるスコア向上を目指して履修後も TOEIC® を受ける人が多く、少人数クラスならではのコミュニケーションが学習意欲を維持する上で効果的だったのではと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

CALL(BT0309)教室での授業ですが、リアルタイムオンライン授業の回もあります。Zoom授業では、使用機器(PC利用のこと)とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoom授業ではお顔出し参加と静かな環境からの参加をお願いしています。また、大学でリアルタイム型オンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

CALL教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

Our final goal for a series of "TOEIC(R)I・II" is to acquire knowledge and skills required for improving TOEIC® scores. We will continue to learn such knowledge and skills systematically. Especially in the fall semester, we will focus on a variety of business situations. By the end of the course, students should reach their target score in the TOEIC® testing. Before/after each class, you will be expected to spend one hour to learn the core material. Grading will be decided based on active participations(30%), interview(20%), final exam(30%) and TOEIC® score(20%).

LANe200LA (英語 / English language education 200)

TOEIC(R) I

2017年度以降入学者

八代 華子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

Intermediate

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEICの対策を重点的に行うことによって、TOEICのスコアアップを図ることを目的とします。具体的にはTOEIC600点以上を目指します。

【到達目標】

以下の3点を到達目標とします。

- 日常生活やビジネスの様々な場面で使われる単語や表現を聞き取れること
- TOEICに頻出する文法の知識を習得すること
- 限られた時間内に英文の大意を把握すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業ごとに、各UnitのListening SectionとReading Sectionを交互に行います。テキストの問題を解いてもらったのち、授業内で解説を行います。また毎回の授業でTOEICに頻出する単語の小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	Unit1を例に、授業の概要を説明します。
第2回	Unit2 Offices	(Listening)
第3回	Unit2 Offices	(Reading)
第4回	Unit3 General Business	(Listening)
第5回	Unit3 General Business	(Reading)
第6回	Unit4 Manufacturing	(Listening)
第7回	Unit4 Manufacturing	(Reading)
第8回	Unit5 Communication	(Listening)
第9回	Unit5 Communication	(Reading)
第10回	Unit6 Health	(Listening)
第11回	Unit6 Health	(Reading)
第12回	Unit7 Finance and Budgeting	(Listening)
第13回	Unit7 Finance and Budgeting	(Reading)
第14回	試験・まとめと解説	試験実施後、解説と授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

各UnitのKey Vocabularyの単語は、事前に意味や発音をよく調べておいてください。授業後にはテキストの設問を再度解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

吉塚弘/Graham Skerrett, BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST-ADVANCED- TOEIC L&R TESTへの総合アプローチ-ADVANCED-, 2023年. 2,750円（税込）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%（前述の到達目標の達成度を評価）

小テスト 30%（単語の意味と綴りの理解度を評価）

平常点 20%（予習を含む授業への参加を評価）

- ・欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得は不可となります。
- ・遅刻は授業開始時間30分までとし、3回の遅刻で欠席1回と見なします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

初回はオンデマンド形式での実施とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to improve students' TOEIC scores by focusing on TOEIC preparation.

Specifically, students are expected to aim for a TOEIC score of 600 or higher.

【Learning Objectives】

The following are the learning objectives of this course:

- ・ To understand words and expressions used in everyday and business situations through listening.
- ・ To learn basic grammatical rules.
- ・ To understand the main ideas of English texts in a limited time.

【Learning activities outside of classroom】

・ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

・ Students are required to check the meanings and pronunciations of the key vocabulary in each unit in advance. After class, they should try answering the questions in the textbook again.

【Grading Criteria/Policy】

・ Final Examination: 50%

Assesses the extent to which the learning objectives stated above have been achieved.

・ Quizzes: 30%

Assess students' understanding of vocabulary meanings and spelling.

・ Class Participation: 20%

Assesses participation in class, including preparation for lessons.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

TOEIC(R) II

2017年度以降入学者

八代 華子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

Intermediate

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEICの対策を重点的に行うことによって、TOEICのスコアアップを図ることを目的とします。具体的にはTOEIC600点以上を目指します。

【到達目標】

以下の3点を到達目標とします。

- 日常生活やビジネスの様々な場面で使われる単語や表現を聞き取れること
- TOEICに頻出する文法の知識を習得すること
- 限られた時間内に英文の大意を把握すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業ごとに、各UnitのListening SectionとReading Sectionを交互に行います。テキストの問題を解いてもらったのち、授業内で解説を行います。また毎回の授業でTOEICに頻出する単語の小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	Unit8を例に、授業の概要を説明します。
第2回	Unit9 Purchasing	(Listening)
第3回	Unit9 Purchasing	(Reading)
第4回	Unit10 Corporate Development	(Listening)
第5回	Unit10 Corporate Development	(Reading)
第6回	Unit11 Technical Areas	(Listening)
第7回	Unit11 Technical Areas	(Reading)
第8回	Unit12 Travel	(Listening)
第9回	Unit12 Travel	(Reading)
第10回	Unit13 Housing /Corporate Property	(Listening)
第11回	Unit13 Housing /Corporate Property	(Reading)
第12回	Unit14 Personnel	(Listening)
第13回	Unit14 Personnel	(Reading)
第14回	試験・まとめと解説	試験実施後、解説と授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

各UnitのKey Vocabularyの単語は、事前に意味や発音をよく調べておいてください。授業後にはテキストの設問を再度解いてみてください。

【テキスト（教科書）】

吉塚弘/Graham Skerritt, BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST-ADVANCED- TOEIC L&R TESTへの総合アプローチ-ADVANCED-, 2023年. 2,750円（税込）

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法・基準】

期末試験 50%（前述の到達目標の達成度を評価）

小テスト 30%（単語の意味と綴りの理解度を評価）

平常点 20%（予習を含む授業への参加を評価）

- ・欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得は不可となります。
- ・遅刻は授業開始時間30分までとし、3回の遅刻で欠席1回と見なします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

初回はオンデマンド形式での実施とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to improve students' TOEIC scores by focusing on TOEIC preparation.

Specifically, students are expected to aim for a TOEIC score of 600 or higher.

【Learning Objectives】

The following are the learning objectives of this course:

- ・ To understand words and expressions used in everyday and business situations through listening.
- ・ To learn basic grammatical rules.
- ・ To understand the main ideas of English texts in a limited time.

【Learning activities outside of classroom】

・ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

・ Students are required to check the meanings and pronunciations of the key vocabulary in each unit in advance. After class, they should try answering the questions in the textbook again.

【Grading Criteria/Policy】

・ Final Examination: 50%

Assesses the extent to which the learning objectives stated above have been achieved.

・ Quizzes: 30%

Assess students' understanding of vocabulary meanings and spelling.

・ Class Participation: 20%

Assesses participation in class, including preparation for lessons.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅰ

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

定員制(20)

2018年度までに「英検準備Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検・IELTS・TOEFLの演習を行いながら「リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング」の4つの能力強化を目指します。英語検定試験（英検準1級/1級、IELTS、TOEFLなど）の受験予定者に加え、英語の継続学習希望者の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1.Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2.Be able to understand main points of interviews and lectures
- 3.Be able to talk about basic topics
- 4.Be able to write a multi-paragraph essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing. Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (授業は演習形式で行います)

- 1.Clarifying objectives and goals (なぜ英語力強化を目指すのかを明確にする)
- 2.Explaining basic formats of two certificate tests and practicing (英検・IELTS・TOEFL テストの紹介と演習)
- 3.Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Course Orientation	1. Explanation of the course 2. Clarifying objectives and goals
2回	Introduction to Eiken	1. Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2. Reading & Listening practice to identify your strong and weak points(強みと弱点を知る)
3回	Eiken: Paragraph Reading Training	1. Reading practice 2. Learning paragraph 3. Learning topic sentence and supporting sentences
4回	Eiken: Listening Training	1. Listening practice 2. Practicing shadowing and overlapping 3. Dictation to improve accuracy

5回	Eiken: Essay Writing	1. Learning basic writing structures and analyzing model essays 2. Writing an essay 3. Peer editing
6回	Eiken: Essay Writing and Feedback	1. Writing your draft 2. Feedback
7回	Introduction to IELTS TEST	1. Explanation of the basic format of IELTS (IELTS Test について) 2. Listening practice 3. Reading practice
8回	IELTS: Reading and Listening practice	1. Paragraph reading practice 2. Listening practice
9回	IELTS: Intensive Listening Training	1. Listening exercises 2. Shadowing and overlapping practice
10回	IELTS: Intensive Reading Training	1. Understanding structure 2. Summarizing paragraphs
11回	Introduction to TOEFL Test	1. Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL Test について) 2. Listening practice
12回	TOEFL: Intensive Listening Training	1. Listening exercises 2. Shadowing and overlapping practice
13回	TOEFL: Listening and speaking Training	1. Shadowing and overlapping practice 2. Preparation for presentation
14回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします)

1. Weekly reading or listening home assignments
2. Writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Homework, including writing assignment (30%)

In-class contribution, including mini-presentation (20%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' encouragement will keep you motivated. 語学学習は継続が重要です。互いに励ましあいながらレベルアップを目指しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスするためのデバイス

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, IELTS and TOEFL tests. The goal of this course is to develop skills in paragraph reading, effective listening and speaking, and well-structured writing. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (30%) and the contribution made in class (20%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

定員制(20)

2018年度までに「英検準備Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検・IELTS・TOEFLの演習を行いながら「リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング」の4つの能力強化を目指します。英語検定試験（英検準1級/1級、IELTS、TOEFLなど）の受験予定者に加え、英語の継続学習希望者の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1.Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2.Be able to understand main points of interview and lectures
- 3.Be able to give a mini-presentation on a given topic
- 4.Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing. Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (授業は演習形式で行います)

- 1.Clarifying objectives and goals (なぜ英語力強化を目指すのかを明確にする)
- 2.Explaining basic formats of two certificate tests and practicing (英検・IELTS・TOEFL テストの紹介と演習)
- 3.Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	Course Orientation	1.Explanation of the course 2.Clarifying objectives and goals
2回	Introduction to Eiken	1.Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2.Reading &Listening practice to identify your strong and weak points(強みと弱点を知る)
3回	Eiken: Paragraph Reading Training	1. Reading practice 2. Learning paragraph 3. Learning topic sentence and supporting sentences
4回	Eiken: Listning Training	1. Listening practice 2. Practicing shadowing and overlapping 3. Dictation to improve accuracy

5回	Eiken: Essay Writing	1. Learning basic writing structures and analyzing model essays 2. Writing an essay 3.Peer editing
6回	Eiken: Essay Writing and Feedback	1.Writing your draft 2.Feedback
7回	Introduction to IELTS TEST	1. Explanation of the basic format of IELTS (IELTS Test について) 2. Listening practice 3. Reading practice
8回	IELTS: Reading and Listening practice	1. Paragraph reading practice 2. Listening practice
9回	IELTS: Intensive Listening Training	1.Listening exercises 2.Shadowing and overlapping practice
10回	IELTS: Intensive Reading Training	1.Understanding structure 2.Summarizing paragraphs
11回	Introduction to TOEFL Test	1. Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL Test について) 2. Listening practice
12回	TOEFL: Intensive Listening Training	1.Listening exercises 2.Shadowing and overlapping practice
13回	TOEFL: Listening and speaking Training	1.Shadowing and overlapping practice 2.Preparation for presentation
14回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします)

- 1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)
- 2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Homework, including writing assignment (30%)

In-class contribution, including mini-presentation (20%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' encouragement will keep you motivated. 語学学習は継続が重要です。互いに励ましあいながらレベルアップを目指しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスするためのデバイス

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, IELTS and TOEFL tests. The goal of this course is to develop skills in paragraph reading, effective listening and speaking, and well-structured writing. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (30%) and the contribution made in class (20%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Business Communication I 2017年度以降入学者

B . 富士川 美紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスシーンにおける英語コミュニケーションのスキルを実践的に学びます。学生は、実際のビジネス環境でよく遭遇するシチュエーションを題材に、適切な英語表現や会話の流れを学びます。授業では、ビジネスメール、電話対応、会議、プレゼンテーション、交渉など、さまざまな場面で求められる英語表現を身につけ、実務に即したスキルを高めます。さらに、実際のビジネス環境をシミュレーションすることで、リアルな状況での対応力を向上させ、迅速かつ効果的に意思疎通できる力を養います。ロールプレイやグループディスカッションを通じて、英語で自信を持ってコミュニケーションできる実践的なスキルを習得することができます。

【到達目標】

Through this course, students will aim to effectively use English in various business situations, such as business emails, telephone communication, meetings, presentations, and negotiations, selecting appropriate expressions and communicating smoothly. They will also develop the ability to write professional business documents in English, creating clear, concise, and polite emails and other written communications. Additionally, students will acquire the skills to deliver persuasive and logically structured presentations in English, and enhance their ability to propose effective solutions to business challenges during negotiations and meetings.

この授業を通じて、学生はビジネスシーンで英語を効果的に使いこなせるようになり、ビジネスメールや電話対応、会議、プレゼンテーション、交渉などのシチュエーションで適切な表現を選び、スムーズにコミュニケーションを取れるようになることを目指します。また、プロフェッショナルなビジネス文書を英語で作成できるようになり、明確で礼儀正しいメールや文書を作成する力を身につけます。さらに、英語でのプレゼンテーションを通じて、アイデアや提案を論理的かつ説得力を持って伝える技術を習得し、交渉や会議の中で、ビジネス課題に対する効果的な解決策を提案する力を高めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. Watching and Understanding Videos

Each unit begins with watching a video that portrays real business situations. Through these videos, students will learn common English expressions and communication flows used in the workplace, gaining a visual understanding of how communication happens in various business contexts.

2. Vocabulary and Expression Learning

After watching the videos, students will focus on learning key vocabulary and expressions. They will study appropriate business language and phrases, practicing how to use them effectively in different scenarios.

3. Role Plays and Practical Exercises

Students will practice the expressions learned through role-playing activities. By engaging in group discussions and pair work, students will simulate real-life business interactions, improving their communication skills in practical business settings.

4. Active Learning

Active learning sessions will be incorporated where students take the lead in their learning. Students will present their opinions and proposals in English, and engage in group discussions, helping to further develop their practical communication skills.

5. Review and Assessment

At the end of each unit, time will be dedicated to reviewing the content learned. Small quizzes and tests will be administered to check understanding and reinforce key concepts.

6. Utilizing Online Resources

Students will be encouraged to use the accompanying online learning system (Lingua Porta) to support their studies outside of class. Through video replays and additional practice exercises, students can reinforce and solidify their understanding of the material.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	Orientation and Ice-breaking	The course overview, objectives, and evaluation methods will be introduced. Students will learn about the course structure and materials, followed by an ice-breaking activity to promote communication and create a comfortable learning environment.
第2回目	UNIT 1 - Meeting for the First Time Topic: Greetings for First Meetings	Practice self-introduction and basic greetings. Students will engage in pair work to practice introducing themselves.
第3回目	UNIT 1 - Meeting for the First Time Topic: Conversation for First Meetings	Practice common questions and responses during first meetings. Students will role-play conversations and receive feedback.
第4回目	UNIT 2 - Welcoming a Newcomer Topic: Welcoming a Newcomer	Learn expressions for welcoming newcomers. Students will role-play welcoming scenarios.
第5回目	UNIT 2 - Welcoming a Newcomer Topic: Interacting with a Newcomer	Practice specific expressions for interacting with newcomers. Students will engage in group practice.
第6回目	UNIT 3 - Telephone Communication Topic: Telephone Etiquette	Learn basic telephone expressions. Students will practice telephone conversations in pairs.
第7回目	UNIT 3 - Telephone Communication Topic: Taking and Leaving Messages	Practice leaving and taking messages. Students will role-play message-taking scenarios.
第8回目	UNIT 4 - Office Issues Topic: Problem Solving in the Workplace	Learn expressions for problem-solving. Students will role-play resolving workplace issues.
第9回目	UNIT 4 - Office Issues Topic: Making Suggestions in the Workplace	Practice making suggestions in the workplace. Students will present suggestions in group work.

第10回目	UNIT 5 - Arranging a Meeting Topic: Scheduling a Meeting	Learn expressions for scheduling meetings. Students will role-play arranging meetings.
第11回目	UNIT 5 - Arranging a Meeting Topic: Confirming a Meeting	Practice confirming meeting details. Students will role-play confirming meeting arrangements.
第12回目	UNIT 6 - Video Conferencing Topic: Conducting a Video Conference	Learn basic expressions for video conferencing. Students will practice video conference scenarios.
第13回目	UNIT 6 - Video Conferencing Topic: Video Conference Etiquette	Learn video conferencing etiquette. Students will simulate a video conference in groups.
第14回目	Presentation Topic: Final Presentations	Each student will give a presentation based on a chosen topic. Feedback will be provided after the presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this course is about one hour per week. Students are expected to:

- ・ Read assigned texts and preview upcoming lessons.
- ・ Review previous material and practice exercises.
- ・ Complete assignments such as reports and exercises.
- ・ Prepare for presentations, including research and practice.
- ・ Provide peer feedback during group activities.

【テキスト（教科書）】

教科書：映像で学ぶ場面別ビジネス英語 English for the Global Workplace

著者：塩見 佳代子 / Matthew Coomber / LiveABC editors 共著

出版社：成美堂

出版年：2025年

価格：2,860円（本体2,600円+税）

ISBN：9784791973125

【参考書】

Additional reference materials will be provided during the course.

【成績評価の方法と基準】

- ・ 平常点: 30%

授業への参加状況や学習態度を評価します。積極的な発言やディスカッションへの参加が重視されます。

- ・ レポート課題: 30%

各テーマに基づいたレポート課題を通じて、学んだ内容を実践的にまとめます。

- ・ プレゼンテーション: 40%

プレゼンテーションでは、授業で学んだビジネス英語を用いた発表を行い、内容、構成、表現力に加えて、発音や発表時の明瞭さも評価されます。

重要事項

単位修得には課題提出やプレゼンテーションが必須

欠席4回以上は原則として単位を修得できません

積極的なグループ活動やClassworkへの参加も成績に反映されます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

<この授業の実施形態> 基本は対面授業で行います。ただし、何かやも得ない状況があった場合にはライブ配信型のGoogle Meetでオンライン授業を行う場合もあるかもしれません。また、課題提出、先生からのお知らせなどオンラインの学習支援システムを使う予定ですので、毎回必ず確認するようにして下さい。詳細は4月の第一回目の授業で説明します。

【その他の重要事項】

この科目は、ビジネス英語、ビジネスコミュニケーション、TOEIC講座、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング、時事英語などの分野で実務経験を有する教員が担当します。教員は、英語教育、TESOL、ESL実践授業研修などの経験を活かし、授業では、学生がビジネスシーンに必要な英語表現や文章作成、プレゼンテーション、ディスカッションを実践的に学べる活動を提供します。授業を通して、学生は英語での意見交換やプレゼンテーションを行いながら、実践的な英語力とビジネスコミュニケーション能力を養うと同時に、異文化理解や社会的背景への理解を深めます。

【Outline (in English)】

This course focuses on developing practical English communication skills in business settings. Students will learn essential English expressions and conversation flows commonly encountered in various business scenarios. The course covers a range of topics, including business emails, telephone communication, meetings, presentations, and negotiations. Through this course, students will not only master the key phrases and structures used in these contexts but also enhance their practical skills to handle real-life business situations. By simulating actual business environments, students will improve their ability to respond quickly and effectively, gaining confidence in communicating in English. Through role-plays and group discussions, students will acquire hands-on communication skills that are directly applicable to their future careers.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

Business Communication II 2017年度以降入学者

B . 富士川 美紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスシーンにおける英語コミュニケーションのスキルを実践的に学びます。学生は、実際のビジネス環境でよく遭遇するシチュエーションを題材に、適切な英語表現や会話の流れを学びます。授業では、ビジネスメール、電話対応、会議、プレゼンテーション、交渉など、さまざまな場面で求められる英語表現を身につけ、実務に即したスキルを高めます。さらに、実際のビジネス環境をシミュレーションすることで、リアルな状況での対応力を向上させ、迅速かつ効果的に意思疎通できる力を養います。ロールプレイやグループディスカッションを通じて、英語で自信を持ってコミュニケーションできる実践的なスキルを習得することができます。

【到達目標】

Through this course, students will aim to effectively use English in various business situations, such as business emails, telephone communication, meetings, presentations, and negotiations, selecting appropriate expressions and communicating smoothly. They will also develop the ability to write professional business documents in English, creating clear, concise, and polite emails and other written communications. Additionally, students will acquire the skills to deliver persuasive and logically structured presentations in English, and enhance their ability to propose effective solutions to business challenges during negotiations and meetings.

この授業を通じて、学生はビジネスシーンで英語を効果的に使いこなせるようになり、ビジネスメールや電話対応、会議、プレゼンテーション、交渉などのシチュエーションで適切な表現を選び、スムーズにコミュニケーションを取れるようになることを目指します。また、プロフェッショナルなビジネス文書を英語で作成できるようになり、明確で礼儀正しいメールや文書を作成する力を身につけます。さらに、英語でのプレゼンテーションを通じて、アイデアや提案を論理的かつ説得力を持って伝える技術を習得し、交渉や会議の中で、ビジネス課題に対する効果的な解決策を提案する力を高めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1. Watching and Understanding Videos

Each unit begins with watching a video that portrays real business situations. Through these videos, students will learn common English expressions and communication flows used in the workplace, gaining a visual understanding of how communication happens in various business contexts.

2. Vocabulary and Expression Learning

After watching the videos, students will focus on learning key vocabulary and expressions. They will study appropriate business language and phrases, practicing how to use them effectively in different scenarios.

3. Role Plays and Practical Exercises

Students will practice the expressions learned through role-playing activities. By engaging in group discussions and pair work, students will simulate real-life business interactions, improving their communication skills in practical business settings.

4. Active Learning

Active learning sessions will be incorporated where students take the lead in their learning. Students will present their opinions and proposals in English, and engage in group discussions, helping to further develop their practical communication skills.

5. Review and Assessment

At the end of each unit, time will be dedicated to reviewing the content learned. Small quizzes and tests will be administered to check understanding and reinforce key concepts.

6. Utilizing Online Resources

Students will be encouraged to use the accompanying online learning system (Lingua Porta) to support their studies outside of class. Through video replays and additional practice exercises, students can reinforce and solidify their understanding of the material.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	Guidance and Group Discussion Topic: Course Introduction and Group Discussion	Overview of course objectives, methods, and evaluation. Small group discussion on a business topic (e.g., "What business trends interest you?"). Groups share insights with the class. Introduction of Peer Feedback Guidelines: Focus on providing positive feedback to support classmates' confidence. (Improvement suggestions will be kindly provided by the teacher as needed.)
第2回目	UNIT 7 - Review 1 Topic: Review of Key Business Expressions	Review essential business expressions. Role-play office scenarios (e.g., phone calls, emails).
第3回目	UNIT 8 - Job Interviews Topic: Job Interview Basics	Key expressions for job interviews. Role-play interview questions and responses.
第4回目	UNIT 8 - Job Interviews (Continued) Topic: Interview Simulation	Full job interview simulation. Feedback on performance.
第5回目	UNIT 9 - Traveling on Business Topic: Business Trip Essentials	Expressions for booking flights, hotels, and travel. Role-play travel-related conversations.
第6回目	UNIT 9 - Traveling on Business (Continued) Topic: Business Trip Scenarios	Practice business trip interactions (e.g., meetings, networking). Role-play hotel check-ins and taxi rides.
第7回目	UNIT 10 - Receiving Overseas Visitors Topic: Welcoming Foreign Visitors	Learn phrases for welcoming international visitors. Role-play airport pickups and office greetings.

第8回目	UNIT 10 - Receiving Overseas Visitors (Continued) Topic: Managing Visitor Interactions	Simulate managing visits and conversations with international guests. Discuss cultural differences.
第9回目	UNIT 11 - Meeting with Clients Topic: Client Meetings	Key expressions for client meetings. Role-play managing agendas and discussions.
第10回目	UNIT 11 - Meeting with Clients (Continued) Topic: Handling Client Requests	Practice addressing client needs and feedback. Role-play follow-up communication.
第11回目	UNIT 12 - Negotiations Topic: Negotiation Techniques	Learn phrases for negotiating terms (e.g., prices, deadlines). Role-play negotiation scenarios.
第12回目	UNIT 12 - Negotiations (Continued) Topic: Closing the Deal	Focus on closing deals. Practice phrases for finalizing agreements.
第13回目	UNIT 13 - Giving Presentations (1st Round) Topic: Final Presentations (Part 1)	Selected students deliver their final presentations on a business topic. Emphasis on clarity, structure, and engagement techniques. Collaborative Learning through structured peer feedback. Note: Presentations are split into two sessions due to class size, ensuring everyone has sufficient time to present.
第14回目	UNIT 13 - Giving Presentations (2nd Round) Topic: Final Presentations (Part 2)	Remaining students deliver their final presentations. Focus on applying peer feedback and improving presentation delivery. Collaborative Learning through group reflection and sharing best practices. Note: Second session allows students to observe peers and consolidate learning from feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this course is about one hour per week. Students are expected to:

- ・ Read assigned texts and preview upcoming lessons.
- ・ Review previous material and practice exercises.
- ・ Complete assignments such as reports and exercises.
- ・ Prepare for presentations, including research and practice.
- ・ Provide peer feedback during group activities.

【テキスト（教科書）】

教科書：映像で学ぶ場面別ビジネス英語 English for the Global Workplace

著者：塩見 佳代子 / Matthew Coomber / LiveABC editors 共著

出版社：成美堂

出版年：2025年

価格：2,860円（本体2,600円+税）

ISBN：9784791973125

【参考書】

Additional reference materials will be provided during the course.

【成績評価の方法と基準】

- ・ 平常点: 30%

授業への参加状況や学習態度を評価します。積極的な発言やディスカッションへの参加が重視されます。

- ・ レポート課題: 30%

各テーマに基づいたレポート課題を通じて、学んだ内容を実践的にまとめます。

- ・ プレゼンテーション: 40%

プレゼンテーションでは、授業で学んだビジネス英語を用いた発表を行い、内容、構成、表現力に加えて、発音や発表時の明瞭さも評価されます。

重要事項

単位修得には課題提出やプレゼンテーションが必須

欠席4回以上は原則として単位を修得できません

積極的なグループ活動やClassworkへの参加も成績に反映されます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

＜この授業の実施形態＞ 基本は対面授業で行います。ただし、何かやも得ない状況があった場合にはライブ配信型の Google Meet でオンライン授業を行う場合もあるかもしれません。また、課題提出、先生からのお知らせなどオンラインの学習支援システムを使う予定ですので、毎回必ず確認するようにして下さい。詳細は4月の第一回目の授業で説明します。

【その他の重要事項】

この科目は、ビジネス英語、ビジネスコミュニケーション、TOEIC講座、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング、時事英語などの分野で実務経験を有する教員が担当します。教員は、英語教育、TESOL、ESL実践授業研修などの経験を活かし、授業では、学生がビジネスシーンで必要な英語表現や文章作成、プレゼンテーション、ディスカッションを実践的に学べる活動を提供します。授業を通して、学生は英語での意見交換やプレゼンテーションを行いながら、実践的な英語力とビジネスコミュニケーション能力を養うと同時に、異文化理解や社会的背景への理解を深めます。

【Outline (in English)】

This course focuses on developing practical English communication skills in business settings. Students will learn essential English expressions and conversation flows commonly encountered in various business scenarios. The course covers a range of topics, including business emails, telephone communication, meetings, presentations, and negotiations. Through this course, students will not only master the key phrases and structures used in these contexts but also enhance their practical skills to handle real-life business situations. By simulating actual business environments, students will improve their ability to respond quickly and effectively, gaining confidence in communicating in English. Through role-plays and group discussions, students will acquire hands-on communication skills that are directly applicable to their future careers.

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ニュース英語Ⅰ 2017年度以降入学者

小田井 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、1年次に習得した四技能の英語運用能力をさらに伸張し、英米高級紙の文章を読解することで、ニュース英語に親しみ、英語で意見を発信する能力の涵養を目指します。

【到達目標】

- ・英語でのコミュニケーションに必要な語彙・文法を習得する。
- ・社会問題など高度な内容のディスカッションに必要な英語のリーディング能力を身につける
- ・情報収集に必要な英語のリーディング能力を身につける
- ・私たちが生きる現代社会について理解し、正しい批評態度で英語での発信ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

2回で1章のペースで進めていきます。まずは各章の話題に即した動画を視聴、そして本文を英文の構造をしっかりと確認しながら、ハンドアウトを使用して読解を進めます。そして本文の読解後、教科書の練習問題を通じて、内容理解を深め、語彙の定着、話題に関して自分の意見を書くライティングを行ないます。授業中に回収したライティングや中間テストは採点后講評または返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、教科書、評価方法などについて説明。
2	Unit 1 No Phones, No Apps, No Likes < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 1の本文の前半を読解します。
3	Unit 1 No Phones, No Apps, No Likes < 読解と Exercises>	Unit 1の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
4	Unit 2 Disappearing Languages < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 2の本文の前半を読解します。
5	Unit 2 Disappearing Languages < 読解と Exercises>	Unit 2の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
6	Unit 3 Can We Communicate with Animals? < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 3の本文の前半を読解します。
7	Unit 3 Can We Communicate with Animals? < 読解と Exercises>	Unit 3の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。

8	中間テストと解説	Unit 1～3を試験範囲とし、試験およびまとめ、解説を行ないます。
9	Unit 4 Escape From Burnout < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 4の本文の前半を読解します。
10	Unit 4 Escape From Burnout < 読解と Exercises>	Unit 4の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
11	Unit 5 Bringing Middle Eastern Beer to New York < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 5の本文の前半を読解します。
12	Chapter 5 Bringing Middle Eastern Beer to New York < 読解と Exercises>	Unit 5の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
13	総復習	これまでの総復習をします
14	期末テストと解説	Unit 4～5を試験範囲とし、試験およびまとめ、解説を行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を読んでハンドアウトの各問題に解答する。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Kyoko Horie ほか 『Stories of the World We Live In』(金星堂、2024)

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい(電子辞書も可)

【成績評価の方法と基準】

中間テスト40%、期末テスト40%、平常点20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

単調にならないよう様々なアクティビティを行いたいと思います

【その他の重要事項】

4回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行ないません。(遅刻は欠席0.5回として扱います)

【Outline (in English)】

This class is aimed at improving comprehensive communication skills in English. In order to attain the goal, students read short essays about modern society. Listening practice and grammar exercise will also be conducted.

[Learning Objectives]

1. Students can listen to English passages accurately
2. Students can master necessary vocabularies and expressions for listening to English passages.
3. Student understand English grammar.
4. Students get the knowledge about modern society.

[Learning activities outside of classroom]

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

[Grading Criteria / Policy]

- ・ mid-term test 40%
- ・ term test 40%
- ・ activities in class 20%

LANe200LA (英語 / English language education 200)

ニュース英語Ⅱ

2017年度以降入学者

小田井 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、1年次に習得した四技能の英語運用能力をさらに伸張し、英米高級紙の文章を読解することで、ニュース英語に親しみ、英語で意見を発信する能力の涵養を目指します

【到達目標】

- ・英語でのコミュニケーションに必要な語彙・文法を習得する。
- ・社会問題など高度な内容のディスカッションに必要な英語のリーディング能力を身につける
- ・情報収集に必要な英語のリーディング能力を身につける
- ・私たちが生きる現代社会について理解し、正しい批評態度で英語での発信ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

2回で1章のペースで進めていきます。まずは各章の話題に即した動画を視聴、そして本文を英文の構造をしっかりと確認しながら、ハンドアウトを使用して読解を進めます。そして本文の読解後、教科書の練習問題を通じて、内容理解を深め、語彙の定着、話題に関して自分の意見を書くライティングを行ないます。授業中に回収したライティングや中間テストは採点后講評または返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 6 The Runner Who Took a Stand < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 6の本文の前半を読解します。
2	Unit 6 The Runner Who Took a Stand < 読解と Exercises >	Unit 6の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
3	Unit 7 Reshaping the Values of Beauty < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 7の本文の前半を読解します。
4	Unit 7 Reshaping the Values of Beauty < 読解と Exercises >	Unit 7の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
5	Unit 8 A Social Media Minefield < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 8の本文の前半を読解します。
6	Unit 8 A Social Media Minefield < 読解と Exercises >	Unit 8の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
7	中間テストと解説	Unit 6～8を試験範囲とし、試験およびまとめ、解説を行ないます。

8	Unit 9 A Boy's Selfless Wish < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 9の本文の前半を読解します。
9	Unit 9 A Boy's Selfless Wish < 読解と Exercises >	Unit 9の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
10	Unit 10 In Search of Freedom < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 10の本文の前半を読解します。
11	Unit 10 In Search of Freedom < 読解と Exercises >	Unit 10の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
12	Unit 11 Global Warming Solutions from the Past < 動画視聴と読解>	Warm-upとして動画を使ったリスニング、Unit 11の本文の前半を読解します。
13	Unit 11 Global Warming Solutions from the Past < 読解と Exercises >	Unit 11の本文後半と Exercises、自分の意見を書く練習を行ないます。
14	期末テストと解説	Unit 9～11を試験範囲とし、試験およびまとめ、解説を行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を読みハンドアウトの各問題に解答する。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Kyoko Horieほか『Stories of the World We Live In』（金星堂、2024）

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト40%、期末テスト40%、平常点20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

単調にならないよう様々なアクティビティを行いたいと思います

【その他の重要事項】

4回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行ないません。（遅刻は欠席0.5回として扱います）

【Outline (in English)】

This class is aimed at improving comprehensive communication skills in English. In order to attain the goal, students read short essays about modern society. Listening practice and grammar exercise will also be conducted.

[Learning Objectives]

1. Students can listen to English passages accurately
2. Students can master necessary vocabularies and expressions for listening to English passages.
3. Student understand English grammar.
4. Students get the knowledge about modern society.

[Learning activities outside of classroom]

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

[Grading Criteria / Policy]

- ・ mid-term test 40%
- ・ term test 40%
- ・ activities in class 20%

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語コミュニケーションⅠ 2017年度以降入学者

J E N S O S T W A L D

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen & Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen & Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)

⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）
本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合にはZoomで接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

J E N S O S T W A L D

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語 1 道を尋ねる (簡単な表現)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
④	旅行のためのドイツ語 2 道を尋ねる (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
⑤	旅行のためのドイツ語 3 ホテルで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
⑥	旅行のためのドイツ語 4 ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
⑦	旅行のためのドイツ語 5 レストランで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)

⑧	旅行のためのドイツ語 6 レストランで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen)
⑨	旅行のためのドイツ語 7 駅にて (簡単な表現)	Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel)
⑩	旅行のためのドイツ語 8 駅にて (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen)
⑪	旅行のためのドイツ語 9	Reisedeutsch (Reiseziele)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen Übungen zur Wiederholung
⑬	復習	Zusammenfassung
⑭	全体のまとめとテスト	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）

本授業の準備・復習時間は、計 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語表現法 I 2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで。

基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書く。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Sich vorstellen du oder Sie Zahlen bis 20 W-Fragen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	Meine Stadt beschreiben	方位と場所

4.	Mein Alltag	日常 時間を表す
5.	Tagesablauf	助動詞
6.	Hobby und Freizeit	分離動詞
7.	Freizeitangebote in der Stadt	場所と時間を表す
8.	Lieblingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成 2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Vor den Ferien I	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien II	休暇中の予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。予習はテキストを事前に読む、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）

提出してもらうドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50%) and written homework (50%).

LANd200LA (ドイツ語 / German language education 200)

ドイツ語表現法Ⅱ 2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書く。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業内または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Wohnen in der Stadt oder auf dem Land ?	理由を表す
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Feste feiern	複文
8.	An der Universität	大学について書く

9.	Meine Universität 1	グループワーク：大学紹介を書く
10.	Meine Universität 2	グループワーク発表
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen 1	過去形 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen 2	プレゼンテーション発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。

予習は事前にテキストを読む、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）

提出してもらったドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50 %) and written homework (50 %)

LANd200LA（ドイツ語 / German language education 200）

SDGsで学ぶドイツ語Ⅰ 2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2
 単位数：1単位
 定員制(30)
 2021年度までに「時事ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では
 ・近年の（まだ教科書にはならない）ドイツ語についての文章と例文を検討することを通じて
 ・言語に文法的に埋め込まれた性意識について考えることを目的とします。

【到達目標】

この授業では
 ・アクチュアルなドイツ語について、簡単なドイツ語の文章を読むことができる
 ・言語が社会に埋め込まれていることを考えることができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

内容としては、ドイツ語の名詞の性とジェンダーの問題の関係について議論した文章をドイツ語で精読します。
 担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初學者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今学期の授業のテーマの解説
第2回	文法性と生物性について	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第3回	文法性と生物性について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第4回	文法性と生物性について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第5回	男性代表形について	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第6回	男性代表形について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第7回	男性代表形について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第8回	ジェンダーの星について	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第9回	ジェンダーの星について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第10回	ジェンダーの星について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第11回	どのようにフェアに言葉を使うか	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第12回	どのようにフェアに言葉を使うか（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第13回	どのようにフェアに言葉を使うか（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第14回	まとめ	今学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を中心に学習してください。
 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christine Olderdissen, Genderleicht: Wie Sprache für alle elegant gelingt (Berlin: Duden, 2021).

読む箇所のテキストはコピーして配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。
 独和辞典を所有していない方は、
 『アクセス独和辞典』（三修社）
 『大独和辞典』（小学館）
 などを入手してください。
 文法書を所有していない人は、
 中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）
 などを持参してください。
 その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワーク接続ができ、Zoomが使えるPCまたはタブレット、および、オンライン会議に使えるカメラとマイク

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。
 オンラインで開講します。カメラをオンにして参加すること、および、指名された場合に口頭で回答することを出席の条件（平常点採点の対象）とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will consider how the German language is embedded in society by reading recent texts on the language.

【Learning Objectives】

The goal of this course will be to read actual and easy texts on the German language in German, as well as to think/discuss the societal issues surrounding the language.

【Learning activities outside of the classroom】

This course requires 1 hour of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ドイツ語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。(履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。)

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 ドイツ語圏クイズ
2.	ドイツ語圏の世界 1	地理,言語,文化～政治、経済まで
3.	ドイツ語圏の世界 2	ドイツ語圏の映画史入門
4.	文学	ドイツ文学と言えばゲーテ？ 映画：ゲーテの恋 ～君に捧ぐ 「若きウェルテルの悩み」 Goethe! (2010) ディスカッション
5.	音楽	クラシック音楽の世界 Amadeusからクララ・シューマンまで
6.	オーストリア	Sissiとミュージカル「エリザベート」 サウンド・オブ・ミュージック
7.	スイスと日本	映画：ハイジ アルプスの物語 Heidi (2015) ハイジ in Japan
8.	映画鑑賞	作品未定

9.	戦争映画I 第一次世界大戦	西部戦線異状なし(1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション
10.	ドイツと日本	ベートーヴェンの「第九」 プレゼンテーション 映画：バルトの楽園 (2006)
11.	映画の中のヒトラー I	ヒトラーと女性 ドキュメンタリー映画 レニ Die Macht der Bilder: Leni Riefenstahl (1993)
12.	映画の中のヒトラー II	ヒトラーに対する抵抗 映画：白バラの祈り ゴッティ・ ショル、最期の日々(2004)
13.	映画鑑賞	作品未定
14.	まとめ	ディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・文献を事前に読む。(資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語)
 - ・映画鑑賞
 - ・自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成
- 本授業の準備学習・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストを配布

【参考書】

- ・森井 裕一 (著, 編) 『ドイツの歴史を知るための50章』(エリア・スタディーズ151)
- ・宮田真治・島山寛・濱中春 (編著) 『ドイツ文化55のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子 (編) 『知ってほしい国 ドイツ』
- ・スイス文学研究会 (編) 『スイスを知るための60章』(エリア・スタディーズ128)
- ・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための57章【第2版】(エリア・スタディーズ19)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read reference material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ドイツ語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。(履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。)

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	戦後の東西ドイツ	サッカーを通してみる戦後ドイツ： 『ベルンの奇跡』(2003) 『僕たちは希望という名の列車に乗った』(2018)
2.	60年代の東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで 『トンネル』 Der Tunnel (2001)
3.	70年代の西ドイツ	極左のテロリズム 『バーダー・マインホフ/理想の果てに』 Der Baader Meinhof Komplex (2008)
4.	東ドイツ	東ドイツの秘密警察 (Stasi) 『善き人のためのソナタ』 Das Leben der Anderen (2006) 『グンダーマン 優しき裏切り者の歌』 Gundermann (2018) 『東ベルリンから来た女』(2012)

5.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊 『グッバイ、レーニン!』 Good Bye Lenin (2003) プレゼンテーション ディスカッション
6.	芸術	『Pina/ピナ・バウシュ』 踊り続けるいのち
7.	青春	児童文学の映画化 映画： 『飛ぶ教室』『2003 『50年後のボクたちは』 Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラーについて 笑っているのか？	ヒトラーについて笑っているのか？ 『帰ってきたヒトラー』 Er ist wieder da! (2015) プレゼンテーション ディスカッション
9.	ドイツ極右組織	ドイツ極右組織 NSU 『女は二度決断する』 Aus dem Nichts (2017) プレゼンテーション ディスカッション
10.	ドイツ極右組織	映画鑑賞
11.	ドイツ以外のドイツ 語圏の映画	スイス映画・オーストリア映画 と映画祭
12.	移民国ドイツ	難民問題
13.	移民国ドイツ	映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016) プレゼンテーション ディスカッション
14.	まとめ	プレゼンテーション ディスカッション 映画鑑賞

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・文献を事前に読む (資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語)

・映画鑑賞

本授業の準備学習・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストを配布

【参考書】

- ・森井裕一 (著, 編集) 『ドイツの歴史を知るための 50 章』 (エリア・スタディーズ 151)
- ・宮田真治・畠山寛・濱中春 (編著) 『ドイツ文化 55 のキーワード』
- ・新野守広・飯田道子・梅田紅子 (編) 『知ってほしい国 ドイツ』
- ・スイス文学研究会 (編) 『スイスを知るための 60 章』 (エリア・スタディーズ 128)
- ・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章【第 2 版】 (エリア・スタディーズ 19)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません。
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society.

The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSA200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ」や「ドイツ語圏」と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか？

本授業ではドイツやドイツ語圏についてトピックをとりあげ、少し深く考えてみたいと思います。

ドイツ語の学習は前提としません。

【到達目標】

ドイツ語圏に関する様々なテーマを見ることで、社会や歴史について理解し、今後探求していく糸口を見つけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合ってもらったこともありますが、積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ドイツとドイツ語圏について。
第2回	ドイツ語の歴史と多様性	ドイツ語が成立した歴史や地域的な違いを見ます。英語の知識が役に立つかもしれません。
第3回	ビール	ビールの歴史と現状について。
第4回	ドイツの環境政策	ドイツの環境政策について。
第5回	ドイツの交通政策	トラムや電気自動車、アウトバーンなど交通政策について。
第6回	ドイツの鉄道	ドイツの鉄道の歴史と現在について。
第7回	自動車産業から見るドイツ経済	ドイツ経済について、自動車産業から。
第8回	ドイツの教育制度	マイスター制度など、日本とは異なる教育制度について。
第9回	東ドイツ	かつて存在した東ドイツ（ドイツ民主共和国）やベルリンの壁について。
第10回	ドイツの歴史教育	過去をどう扱うのかについて。
第11回	多様化するドイツ	移民の歴史と現在、統合政策について。
第12回	オーストリアとウィーン	カフェ文化など独自の文化を形成するオーストリアの首都ウィーンについて。

第13回	日本の中のドイツ、ドイツの中の日本	ハリボー、バウムクーヘン、アニメ文化等、日本にあるドイツ語やドイツ語圏の文化、ドイツ（語圏）にある日本の文化について。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習：次回のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしておいてください。こちらから尋ねることもあります。

復習：ハンドアウトとノートを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探して調べてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加 50 %、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生が意見を述べやすいようにつとめます。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン以外にPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】

授業中は話を聞き、ノートをとるようにしてください。

春学期と秋学期は独立して履修できます。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course introduces and explores topics about Germany and the German-speaking world.

Students do not need to learn German to take this course.

【到達目標（Learning Objectives）】

Students will develop an understanding of the society, culture and history of the German-speaking world.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation 50%

Final report 50%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現在のドイツ以外で、ドイツ語が／ドイツ語も使われる／使われた地域の歴史や文化について扱います。言語の話も出ますが、ドイツ語の知識は不要です。

【到達目標】

ドイツ語圏の文化や社会、人々の多様性について理解を深めます。日本社会への気づきにもつなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合っているだけでもあることもあるかと思います。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で扱うテーマについて概観します。
第2回	オーストリアの歴史	オーストリアの現代史を中心に扱います。ハプスブルク帝国に遡ることもあります。
第3回	オーストリアの現代史と現在	オーストリアの現代史と現在のオーストリアの社会や文化を扱います。
第4回	スイスの歴史	多言語国家であり永世中立国であるスイスがどのように成立したのかを見ます。
第5回	スイスの現代史と現在	スイスの現代史と現在のスイス社会を考えます。
第6回	ベルギーの歴史	ベルギーの歴史を扱います（ベルギーには小さなドイツ語共同体があります）。
第7回	ベルギーの現代史と現在	ベルギーの現代史を扱いながら、EUの中心地でありながら今日でも言語問題でゆれるベルギーの今を考えます。
第8回	ルクセンブルクの歴史	GDPが世界トップクラスである小国ルクセンブルクの歴史を扱います。
第9回	多様化するルクセンブルク	多言語社会・移民社会となった今日のルクセンブルクについて考えます。

第10回	アルザス・ロレーヌの歴史	ドイツなのかフランスなのか、帰属をめぐってゆれたフランス東部のアルザス地方・ロレーヌ地方の歴史について扱います。
第11回	アルザス・ロレーヌ（言語）	アルザス・ロレーヌについて、特に言語問題に焦点を当てます。
第12回	ドイツ騎士団と東プロイセン	かつて東に移住したドイツ系住民の歴史を扱います。
第13回	アメリカ合衆国のドイツ系住民	かつて、ドイツ語圏からは多くの人々がアメリカに移住しました。今日にも残る移民の歴史を扱います。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習：次のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしたり、インターネット等で検索してください。授業中にこちらから尋ねることもあります。
復習：ノートを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探してみてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しません。

【参考書】

授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加50%、期末レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生が意見を述べやすいようにとめます。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンだけでなくPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】

授業中は話をよく聞き、ノートをとるようにしてください。
春学期と秋学期は独立して履修できます。春学期に履修した人も履修しなかった人も積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course focuses on the history and culture of the regions where German is also used or where it was used.

【到達目標（Learning Objectives）】

In this course, students deepen their understanding of the diversity of cultures, societies and people in German-speaking areas.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation 50%

Final report 50%

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏（フランコフォニー）」を知ることを主たる目的とします。そのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化（言語、芸術、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土にある「地域圏」を中心として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

授業ではコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてももらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

提出されたコメントシートについて、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： 国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	① Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	② Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

4	③ Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④ Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤ Grand-Est	・グラン＝テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥ Pays de la Loire	・ペイ＝ド＝ラ＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦ Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル＝ド＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧ Bourgogne-Franche Comté	・ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨ Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩ Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪ Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫ Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート＝ダジュール地域圏 (PACA) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬ Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
 - 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
 - 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
 - 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018年。本体2600円＋税
- 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018年。本体2800円＋税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008年。本体2400円＋税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。本体3400円＋税
- II. 以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
- 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France（フランス、地方を巡る旅）』駿河台出版社、2017年。本体1900円＋税

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅：改訂版)』駿河台出版社, 2019年. 本体2300円＋税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点（コメントシートなど）：30%

②期末レポート：70%

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%,
term-end report: 70%.

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏（フランコフォニー）」を知ることを主たる目的とします。そのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化（言語、芸術、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ： フランス共和国外にある地域圏、フラン コフォニーの成立経 緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある地 域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴 史について簡単に紹介
2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する 解説：地理・歴史・言語・諸文 化など

3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解 説：地理・歴史・言語・諸文化 など
4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解 説：地理・歴史・言語・諸文化 など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解 説：地理・歴史・言語・諸文化 など
6	北米大陸のフランス 語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフラ ンコフォニーに関する解説：地 理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス 語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国にお けるフランコフォニーに関する 解説：地理・歴史・言語・諸文 化など
8	北アフリカのフラン ス語圏① Algérie	・マグリブ中央部のフランコ フォニーに関する解説：地理・ 歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフラン ス語圏② Maroc et Tunisie	・マグリブ西部および東部のフ ランコフォニーに関する解説： 地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフラン ス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフラン コフォニー（旧仏領）に関する 解説：地理・歴史・言語・諸文 化など
11	サハラ以南のフラン ス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフラン コフォニー（旧仏領およびベル ギー領）に関する解説：地理・ 歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフラン ス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフラン コフォニー（旧ベルギー領）に 関する解説：地理・歴史・言 語・諸文化など
13	ヨーロッパのフラン ス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォ ニーに関する解説：地理・歴 史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフラン ス語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォ ニーに関する解説：地理・歴 史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
- 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
- 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
- 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018年。本体2600円＋税
- 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018年。本体2800円＋税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008年。本体2400円＋税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。本体3400円＋税

II. 以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。

5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス, 地方を巡る旅)』駿河台出版社, 2017年. 本体1900円+税

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophonie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅: 改訂版)』駿河台出版社, 2019年. 本体2300円+税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点 (コメントシート等) : 30 %

②期末レポート : 70 %

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会的・文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%,
term-end report: 70%.

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

フランス語コミュニケーション(初級) | 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。ヨーロッパ言語共通参照枠のDELF A1と仏検5級と4級の準備に役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の各単元は、簡単な会話の聞き取り練習から始まります。その後、コミュニケーションを重視した語彙や文法の練習を行います。そして、教科書で学習した内容を活用して会話を作成します。練習問題は、個人、ペア、またはグループで行います。教科書に加えてビデオ教材を取り入れ、フランス文化を紹介します。ビデオに関連した短文を音読し、発音などの練習も行います。また、時々ボードゲームなどを用いて、フランス語を使いながら楽しく学習します。

授業には、積極的に参加することが求められる。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 1 Saluer, se présenter	アルファベット、不定冠詞、自己紹介
2	Leçon 1 Saluer, se présenter	être 動詞、第三者を紹介する
3	Leçon 2 Dire sa nationalité, dire sa profession	国籍を言う、職業を言う
4	Leçon 2 Dire sa nationalité, dire sa profession	女性形の作り方, 数字10まで
5	Leçon 3 "Je parle anglais.", "J'étudie les maths."	定冠詞 le, la, les, 名前の複数形
6	Leçon 3 "Je parle anglais.", "J'étudie les maths."	言語を言う、専攻について話す
7	Leçon 4 Dire où on habite	住んでいる国や都市を言う
8	Leçon 4 Dire où on habite	否定形 ne...pas、数字11～20

9	Leçon 5 "J'ai une moto.", "J'ai 18 ans."	持ち物を言う、年齢を言う
10	Leçon 5 "J'ai une moto.", "J'ai 18 ans."	il y a, 不定冠詞, 数字20～60
11	Leçon 6 "Je vais au cinéma.", Parlez des tâches ménagères	faire, aller 動詞
12	Leçon 6 "Je vais au cinéma.", Parlez des tâches ménagères	前置詞àと定冠詞の縮約
13	総復習、文化の紹介	フランスの世界遺産を簡単なフランス語の動画での紹介など
14	文化の紹介	人気フランス映画、最近の人気歌手など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ブチ・マエストロ 1

北村亜矢子 /ヴァンサン・デュランベルジェ

朝日出版社

ISBN: 978-4-255-35372-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- In-class contribution and participation: 100%

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)
フランス語コミュニケーション(初級) II
2017年度以降入学者
ニコラ ガイヤール
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：1単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。ヨーロッパ言語共通参照枠の DELF A1 と仏検5級と4級の準備に役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の各単元は、簡単な会話の聞き取り練習から始まります。その後、コミュニケーションを重視した語彙や文法の練習を行います。そして、教科書で学習した内容を活用して会話を作成します。練習問題は、個人、ペア、またはグループで行います。教科書に加えてビデオ教材を取り入れ、フランス文化を紹介します。ビデオに関連した短文を音読し、発音などの練習も行います。また、時々ボードゲームなどを用いて、フランス語を使いながら楽しく学習します。

授業には、積極的に参加することが求められる。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 7 Décrire quelqu'un ou quelque chose	人や物を描写する、位置を言う
2	Leçon 7 Décrire quelqu'un ou quelque chose	色、体型、性格を表す形容詞、数字 60 99
3	Leçon 8 Acheter des vêtements	衣服の名称、指示形容詞 ce, cette, ces
4	Leçon 8 Acheter des vêtements	時刻、動詞 vouloir, prendre
5	Leçon 9 Au marché : acheter des fruits et légumesParler de sa chambre	食べ物について話す、数量を表す表現
6	Leçon 9 Au marché : acheter des fruits et légumesParler de sa chambre	部分監視 du, de la 中性代名詞 en

7	Leçon 10 Où est ... ? La localisation, parler du temps qu'il fait	位置関係を表す表現
8	Leçon 10 Où est ... ? La localisation, parler du temps qu'il fait	天気を表す表現 数字 1000-10 000
9	Leçon 11 Poser des questions et parler des son emploi du temps	質問の作り方、近接未来
10	Leçon 11 Poser des questions et parler des son emploi du temps	動詞 partir、月
11	Leçon 12 Parler d'événements passés	過去の行為や出来事を語る
12	Leçon 12 Parler d'événements passés	過去分子の作りから、複合過去形の作り方
13	総復習	すごろく、ボードゲームなどで楽しくフランス語を使う。
14	文化の紹介	フランスの歴史的な人物：簡単なフランス語の動画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プチ・マエストロ 1

北村亜矢子 /ヴァンサン・デュランベルジェ

朝日出版社

ISBN: 978-4-255-35372-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活をもっと話します。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- In class contribution and participation:100%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語視聴覚(初・中級) I 2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制(30)

本科目は2026年度の開講をもって、2027年度以降開講します。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語のインタビュー映像を主題にした教科書『Quoi de Neuf?』を用いて、主にフランス語の聞く力・読む力・書く力をつけることを目的とします。受講者はフランス語既習者であり、また仏検4級～3級程度、またはDELF A1～A2程度の知識を持っている学生を想定しています。既習事項の基礎を確りと固めると同時に、運用能力を高めて、フランス語力を向上することを目指します。

なお、春学期の授業では、教科書の第1課～第5課までを扱い、1課につき2回の授業で終わります。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

【到達目標】

フランス人に対するインタビュー映像を見聞きした上で、その内容を理解することができるようになる。加えて、関連する文章を読解・理解した上で、フランス語の文法事項を修得するだけでなく、文章構成の方法（接続表現など）を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では、教科書の第1課～第5課までを扱い、1課につき2回の授業で終わります。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

なお、課題はHoppii上での提出をしてもらいます。ただし、時には実際に手で記載したものを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Les Nombres Leçon 1: Quels réseaux sociaux utilisez-vous ?①	・自己紹介、教科書・副教材の紹介 ・数の数え方 ・第1課の前半（疑問文、代名動詞）
2	Leçon 1: Quels réseaux sociaux utilisez-vous ?②	・第1課の後半
3	Leçon 2: Où habitez-vous en ce moment ?①	・第2課の前半（関係代名詞）
4	Leçon 2: Où habitez-vous en ce moment ?②	・第2課の後半
5	Leçon 3: Que faites-vous au quotidien pour la planète ?①	・第3課の前半（比較級、最上級）

6	Leçon 3: Que faites-vous au quotidien pour la planète ?②	・第3課の後半
7	Leçon 4: Que regardez-vous et qu'écoutez-vous en ce moment ?①	・第4課の前半（直接・間接目的代名詞と代名詞en, y）
8	Leçon 4: Que regardez-vous et qu'écoutez-vous en ce moment ?②	・第4課の後半
9	Leçon 5: Quel est votre budget mensuel ?①	・第5課の前半（複合過去、半過去）
10	Leçon 5: Quel est votre budget mensuel ?②	・第5課の後半
11	追加教材①：音楽	・楽曲を聞き、特徴的なフランス語表現を理解する。
12	追加教材②：映画	・映像作品を見て、特徴的なフランス語表現を理解する。
13	追加教材③：文学	・文学作品を読み、特徴的なフランス語表現を理解する。
14	期末テスト	・授業内テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
・授業で扱う範囲のテキストを1回は音読し、文章の主語・動詞に下線を引いてから参加することを心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

レナ・ジュンタ他著『Quoi de neuf? / クワ・ドゥ・ヌフ? Z世代のリアル・フランス』白水社、2023年 (<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b613785.html>)。

※上記サイトではサンプルページを閲覧でき、また音声資料を聞くことができます。

【参考書】

副教材として、以下の2点を挙げます。

- ①斎藤昌三著『3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』白水社、2003年 (<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b203078.html>)。
- ②モーリス・ジャケ他著『映像+Interviewで学ぶフランス語』駿河台出版社、2024年 (<https://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-00580-9>)。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、課題など）：40%

期末テスト：60%

【学生の意見等からの気づき】

初回担当であるため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

できるだけ「仏和辞書」を持参してほしいです。

【Outline (in English)】

OUTLINE AND GOALS :

Using the textbook "Quoi de Neuf?" (which features French interview videos as its main content), this course aims primarily to develop students' French listening, reading, and writing skills. The course is intended for students who have previously studied French and who possess knowledge equivalent to Level 4-3 of the French Proficiency Test (Futsuken) or DELF A1-A2. While reinforcing the fundamentals of previously learned material, students will also work to strengthen their communicative competence and improve their overall French proficiency.

In the spring semester, the course will cover Lessons 1 through 5 of the textbook, completing each lesson in two class sessions. The remaining three sessions will be based on materials prepared by the instructor. A final exam will be administered in the last class.

PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 30% (presence, participation and homework),
final exam: 70%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語視聴覚(初・中級) II 2017年度以降入学者

南 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制(30)

本科目は2026年度の開講をもって、2027年度以降閉講します。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語のインタビュー映像を主題にした教科書『Quoi de Neuf?』を用いて、主にフランス語の聞く力・読む力・書く力をつけることを目的とします。受講者はフランス語既習者であり、また仏検3～4級程度、またはDELF A1～A2程度の知識を持っている学生を想定しています。既習事項の基礎を確りと固めると同時に、運用能力を高めて、フランス語力を向上することを目指します。

なお、秋学期の授業では、教科書の第6課～第10課までを扱い、原則として1課につき2回の授業で終えます。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

【到達目標】

フランス人に対するインタビュー映像を見聞きした上で、その内容を理解することができるようになる。加えて、関連する文章を読解・理解した上で、フランス語の文法事項を修得するだけでなく、文章構成の方法（接続表現など）を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では、教科書の第6課～第10課までを扱い、原則として1課につき2回の授業で終えます。残りの3回の授業は教員が準備した資料に基づいて学習を行います。最終回には期末テストを行います。

なお、課題はHoppii上での提出をしてもらいます。ただし、時には実際に手で記載したものを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 6: Ressentez-vous de la discrimination dans la vie quotidienne ? ①	・受動態
2	Leçon 6: Ressentez-vous de la discrimination dans la vie quotidienne ? ②	・第6課の後半
3	Leçon 7: Que faites-vous de votre temps libre ? ①	・第7課の前半（現在分詞・ジェロンディフ）
4	Leçon 7: Que faites-vous de votre temps libre ? ②	・第7課の後半

5	Leçon 8: Quel est le dernier article de mode que vous avez acheté ? ①	・第8課の前半（単純未来形・強調構文）
6	Leçon 8: Quel est le dernier article de mode que vous avez acheté ? ②	・第8課の後半
7	Leçon 9: Qu'est-ce qui est le plus important chez un partenaire ? ①	・第9課の前半（条件法現在・中性代名詞）
8	Leçon 9: Qu'est-ce qui est le plus important chez un partenaire ? ②	・第9課の後半
9	Leçon 10: Quel est le travail idéal pour vous ? ①	・第10課の前半（指示代名詞・接続法現在）
10	Leçon 10: Quel est le travail idéal pour vous ? ②	・第10課の後半
11	追加教材①：音楽	・楽曲を聞き、特徴的なフランス語表現を理解する。
12	追加教材②：映画	・映像作品を見て、特徴的なフランス語表現を理解する。
13	追加教材③：文学	・文学作品を読み、特徴的なフランス語表現を理解する。
14	期末テスト	・授業内テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。授業で扱う範囲のテキストを1回は音読し、文章の主語・動詞に下線を引いてから参加することを心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

レナ・ジュンタ他著『Quoi de neuf? / クワ・ドゥ・ヌフ? Z世代のリアル・フランス』白水社、2023年 (<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b613785.html>)。

※上記サイトではサンプルページを閲覧でき、また音声資料を聞くことができます。

【参考書】

副教材として、以下の2点を挙げます。

①斎藤昌三著『3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』白水社、2003年 (<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b203078.html>)。

②モーリス・ジャケ他著『映像＋Interviewで学ぶフランス語』駿河台出版社、2024年 (<https://www.e-surugadai.com/books/isbn978-4-411-00580-9>)。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、課題など）：40%

期末テスト：60%

を基本とします。

（公欠・感染症・大学による配慮願がある場合を除き、遅刻・欠席による教室不在時間が400分を超えた場合は、学期末試験を受けたとしても原則として単位を出すことはできません。）

【学生の意見等からの気づき】

初回担当であるため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

できるだけ「仏和辞書」を持参しましょう。

【Outline (in English)】

OUTLINE AND GOALS :

Using the textbook "Quoi de Neuf?" (which features French interview videos as its main content), this course aims primarily to develop students' French listening, reading, and writing skills. The course is intended for students who have previously studied French and who possess knowledge equivalent to Level 3-4 of the French Proficiency Test (Futsuken) or DELF A1-A2. While reinforcing the fundamentals of previously learned material, students will also work to strengthen their communicative competence and improve their overall French proficiency.

In the fall semester, the course will cover Lessons 6 through 10 of the textbook, completing each lesson in two class sessions. The remaining three sessions will be based on materials prepared by the instructor. A final exam will be administered in the last class.

PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 40% (presence, participation and homework),
final exam: 60%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

時事フランス語 I

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目「時事フランス語 I」を紹介するヴィジュアル資料です <https://x.gd/JEXrY>（PDFスライド、学内者のみ閲覧できます）
この科目「時事フランス語 I」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/0NmZ4iyyvSQ?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Dのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA（大学で初めてフランス語を学び始めた1年生や、第3外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーB（大学入学後フランス語を学び始め、1年以上が経過した2年生を主に想定）：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」4級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーC（フランス語を2年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA2～B1.1、「実用フランス語技能検定試験」3級～準2級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーD（日本語が第1言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	世界を知るためのもう1つの視点	パリ18区に住む小学3年（CE2）生たちのなぞなぞから見える世界
Séance 2	現代フランスの生活風景	結婚のプロポーズ（同性婚）やスクワット（空き住居の不法占拠）など
Séance 3	フランスという国のかたち	国歌ラ・マルセイエーズが歌えるのは、フランスではポイント高いです。
Séance 4	グローバル化（mondialisation）に対するフランス的見方＝ものづくりの大切さ	フランスの伝統的な産品をあなたはなにか知っていますか。
Séance 5	グアドループ：中南米のカリブ海に浮かぶフランスの海外県	クレオール語に代表される文化の混淆で有名。1980年代には「ワールド・ミュージック」としてグアドループ発信のズークが流行
Séance 6	デモやストライキ	ストライキになると色々不便だと怒る人もいる一方、ストライキは労働者の重要な権利とみなされてもいます。
Séance 7	フランス語で炎暑は canicule といいます	毎夏、山火事や40度を超える高温が南ヨーロッパを中心に伝えられるようになりました。
Séance 8	カンヌ映画祭	この季節に毎年開かれる有名文化イベント。娯楽作よりも芸術性の高い作品が受賞する傾向があり、日本人の活躍が目立ちます。
Séance 9	ラップとユーチューバー	さまざまな国や地域の出身者が、フランス語ラップのYouTube動画を制作
Séance 10	男女平等の理想と現実	女性の就業率が比較的高いフランスだが、男女の賃金格差など課題も残る。女性の権利への関心は高い。
Séance 11	ツール・ド・フランス	この季節に毎年開かれる有名スポーツイベント。7月の3週間、フランスや隣接国の路上を自転車レースが駆け抜ける。
Séance 12	格差社会アメリカの批判	大企業の経営者たちとその従業員の給与格差が大きすぎるというのも、フランス語圏のメディアではありがちな話題
Séance 13	環境問題の語彙（ごい）・表現①	絶滅危惧種を守ることをめぐる外交。「フカヒレ」や「象牙」が登場します。

Séance 14	環境問題の語彙（ごい）・表現②	コンゴ民主共和国（RDC）はフランス語圏ニュースではよく登場する国です。内戦などの要因で安全を脅かされる国立公園職員たちの話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「時事フランス語Ⅰ」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・（ア）音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語→1文→複数の文、のように広げていくことや、（イ）番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://x.gd/RkJnE>

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>

2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】

仏和辞典。小学館ロベール仏和辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。「JapanKnowledge」からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末試験、期末レポートはありません（0%）
 - 2. 授業への毎週の参加（①）
 - 3. 授業時間内の活動の積極性（②）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの3つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字（%）に示しています。
 - 4. 到達目標の達成に向けた取り組み（③）時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつうじて、少しずつ実力がついていきます。
 - 5. その他（100%の枠外で5～20%程度の加点をします）
- （ア）授業運営への協力（教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点しています）
- （イ）実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFIやTCFを受検したか、また合格したか（これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください）
- カテゴリーA ①50%, ②30%, ③20%
- カテゴリーB ①40%, ②30%, ③30%
- カテゴリーC ①33%, ②33%, ③34%
- カテゴリーD ①50%, ②30%, ③20%

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI) を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅰ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。

・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです <https://x.gd/4WEFD>

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や課題の提出などに、Google ClassroomやWebClass、Boxを使いますので、タブレットやノートパソコンのような情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレースメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。「Commencer」と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。<https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>

もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/> [Grading criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =50%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%

[Equipment student needs to prepare]

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

- 1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
- 2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目「時事フランス語Ⅱ」を紹介する動画です <https://x.gd/KrAUW> (約7分12秒)

この科目「時事フランス語Ⅱ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/RQtay4cmhW8?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Dのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA（大学で初めてフランス語を学び始めた1年生や、第3外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーB（大学入学後フランス語を学び始め、1年以上が経過した2年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」4級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーC（フランス語を2年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA2～B1.1、「実用フランス語技能検定試験」3級～準2級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーD（日本語が第1言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	多様性と出会うためのもう1つの入り口	フレキシタリアン・ダイエットとフランスの駄菓子（食文化から近づいてみる）
Séance 2	気が早いですがクリスマス話	宗教を信じる・信じない、家族のあり方、消費社会について考えます。
Séance 3	移民の気持ちを（教員の補助付きで）疑似体験してみる。	移民を念頭にいったフランス語検定試験の例題に取り組む。
Séance 4	職業と平等	職業名の女性形を認めさせるといふフェミニズムのかたち
Séance 5	第4回の続き	仕事探しのフランス語→履歴書につながるライティング (Production écrite)
Séance 6	フランスの「サラメシ」	フランスの会社員たちは昼食に何をどんな風に食べているのか？
Séance 7	第6回の続き	昼食を権利として考えたことがありますか？
Séance 8	ある日のニュースのヘッドライン	フランス語によるニュースのヘッドライン（実物）によいよ挑戦です。
Séance 9	少子化問題	2010年を越えたあたりから出生率が低下傾向のフランス。その原因は？
Séance 10	コートジボワールから見た世界	起業家の女性が訪れたいと夢見る国は？
Séance 11	ブルキナファソから見た世界	外からの支援ではなく、地元根差した住宅の改善とは？
Séance 12	アフリカやアジアからヨーロッパを目指す多くの避難民を渡航させる業者たち	どんな国にでも行けるパスポートは、世界の握りの人しかもっていない。
Séance 13	ボーヴォワール	« On ne naît pas femme, on le devient. » という文を知っておきましょう。
Séance 14	エメ・セゼール	ネグリチュードとは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「時事フランス語Ⅱ」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・(ア) 音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語→1文→複数の文、のように広げていくことや、(イ) 番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://x.gd/RO06q>

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
 2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>
- ※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】

仏和辞典。小学館ロバール仏和辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。「JapanKnowledge」からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末試験、期末レポートはありません (0%)
 - 2. 授業への毎週の参加 (①)
 - 3. 授業時間内の活動の積極性 (②) ※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリA、B、C、Dの3つに学生を分けており、カテゴリごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字 (%) に示しています。
 - 4. 到達目標の達成に向けた取り組み (③) 時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつうじて、少しずつ実力がついていきます。
 - 5. その他 (100%の枠外で5~20%程度の加点をします)
- (ア) 授業運営への協力 (教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点しています)
- (イ) 実用フランス語技能検定試験 (仏検) や DELF や TCF を受検したか、また合格したか (これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください)
- カテゴリ-A ① 50%, ② 30%, ③ 20%
- カテゴリ-B ① 40%, ② 30%, ③ 30%
- カテゴリ-C ① 33%, ② 33%, ③ 34%
- カテゴリ-D ① 50%, ② 30%, ③ 20%

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

・フランスに留学して、リスニング力や語彙 (ごい) の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI) を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語II」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。

・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです <https://x.gd/kTKoR>

【学生が準備すべき機器他】

音声ファイルやストリーミング動画をWifiのある環境で視聴したり、学習支援システム-HoppiiやGoogle Classroomを閲覧するために、タブレットやノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイズメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。「Commencer」と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。<https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- 1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【Grading criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =50%

2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%

[Equipment student needs to prepare]

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.

2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語の発音レッスンⅠ 2017年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の発音が難しいと感じる人にとって、その主な理由は、つづりと発音の規則が難しい、母語に存在しない母音や子音の発音が難しい、もしくはその両方、ということだと考えられます。

しかし規則は無限に存在するわけではなく、いくつかの基本的な事柄を覚えれば、知らない単語でも発音できるようになります。また、母語には存在しない音であっても、口のかたちや舌の位置に気をつけ、繰り返し練習することで、ネイティブに近い発音を身につけることができます。

本授業では、フランス語のつづりと発音の規則を身につけるとともに、フランス語の母音と子音の発音のしかたを学び、フランス語らしく発音できるようになることを目的とします。その過程で、発音記号に慣れるようにします。

【到達目標】

- ・つづりと発音の主な規則を覚えること。
- ・ネイティブに近い発音でフランス語の単語や文を発音できるようになること。
- ・発音記号を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・まず個々の母音と子音の発音の仕組みと発音のしかたを理解します。
- ・次に、どのつづりがそれらの母音や子音に相当するのかを確認します。
- ・それから聞取り練習と発音練習を行います。
- ・さらに、学んだ音が含まれる短い文の発音練習を行います。
発音練習では一人一人にアドバイスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	・授業概要 ・フランス語の母音と子音について
2	母音 [i] [y] [u]	説明と練習
3	2種類の「エ」	説明と練習
4	母音 [ø] [œ]	説明と練習
5	2種類の「オ」	説明と練習
6	3つの鼻母音	説明と練習
7	3つの半母音	説明と練習
8	子音 [R] [l]	説明と練習
9	子音 [b] [v] [f]	説明と練習
10	後部歯茎摩擦音	説明と練習
11	子音 [t] [s] [z]	説明と練習
12	脱落性の e	説明と練習
13	リエゾン、エリジョン、アンシェヌマン	説明と練習
14	期末試験	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で学んだ通りに繰り返し発音練習を行うこと。
 - ・つづりと発音の規則を覚えていない人は、早めに覚えるよう復習すること。
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・プリントを使用します。

【参考書】

- ・久松健一『発音の基本:30分あればフランス語はだいたい読める』Kindle インタラクティブ版、HK-publisher、2016年、700円
＊つづりと発音の規則がなかなか覚えられないという人におすすめです。
- ・小島慶一『音声とイラストで楽しく学ぶ やさしいフランス語の発音 新装版』語研、2026年2月、2200円
＊基本的な事柄から応用まで、分かりやすく解説しています。
より専門的な参考書を読みたい人には授業内に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、期末試験30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも可）。『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『ディコ仏和辞典』（白水社）、『ロベール・クレ』（駿河台出版社）などがおすすめです。

【その他の重要事項】

- ・「授業計画」と「成績評価の方法と基準」は状況により変更する可能性があります。
- ・現在フランス語を学んでいる人、もしくはフランス語を学んだことがある人を対象とします。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn how to pronounce French vowels and consonants. The goal of this course is to achieve authentic French pronunciation. After each class, students will be expected to spend one hour to practice pronouncing words and phrases learned in class.

The overall grade in the class will be decided based on the following:Term-end examination : 30%,in-class contribution:70%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200)

フランスの文化と社会 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これらフランス社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」、「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

誰でもが知っている大ヒット作、今では古典となったフランス映画の代表的作品、映画の歴史を創った作品、知る人ぞ知る映画などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『アメリ』1 2001年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあ ちこちへ	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために
2	『アメリ』2 なぜヒットしたか	空想から現実へ モンマルトルは理想郷？

3	『アメリ』3 オードリー・トトゥ とマティユー・カソ ヴィッツ	刑事とシャネル／監督と俳優
4	『太陽がいっぱい』1 名優アラン・ドロ ン主演のフランス・イ タリア合作映画	このタイトルはどういう意味か。 誤訳かわざとか。外国映画の邦 題について。
5	『太陽がいっぱい』2 格差と犯罪	金持ちの傲慢青年と貧しき悪の 天才青年。
6	『太陽がいっぱい』3 犯罪は「太陽の せい」？ 映画音楽	地中海の熱い太陽と哀愁の音楽。 映画を知らずとも音楽は聴いた ことがある。
7	映画の始まり	世界初の映画上映：リュミエー ル兄弟。 初期の映画：『月世界探検旅行』 『ファントマス』
8	ヌーヴェル・ヴァー グ 『勝手にしやがれ』1 ゴダールの代表作： 原題は「息切れ」	映画の「新しい波」 「外国映画の邦題について」その 2
9	『勝手にしやがれ』2 おかしなカップル： ジャン＝ポール・ペ ルモンドとジーン・ セバーグ	これは犯罪映画か？
10	『勝手にしやがれ』3 モンパルナス	右岸のモンマルトルと左岸のモ ンパルナス シャンソンとジャズ
11	ヌーヴェル・ヴァー グその2： トリュフォー	アントワヌ・ドゥワネルのシ リーズ：成長する主人公を成長 する同じ俳優が演じる
12	『女優マルキーズ』1 旅役者	ソフィー・マルソー演じる17世 紀の実在の女優はアクロバット もこなす旅役者
13	『女優マルキーズ』2 ルイ14世の時代	太陽王の古典主義時代： モリエールとジャン・ラシーヌ ；宮廷の豪華絢爛と場末の狼狽 さ
14	『女優マルキーズ』3 舞台上に死す	謎多き女優の生涯 ソフィー・マルソーとベルナ ール・ジロドー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：モンマルトルについて調べる。
 - 2：アメリの行く様々な地域について調べる。
 - 3：出演者の他の作品について調べる。
 - 4：フランス人にとっての地中海はどのようなものかを考える。
 - 5：「完全犯罪」は可能かを考える。
 - 6：フランス人および他の国の人々にとってアラン・ドロンとはどのような俳優かを考える。
 - 7：創世期の映画について調べる。
 - 8：外国映画の邦題について考える。
 - 9：『勝手にしやがれ』のどこが新しいのか考える。
 - 10：モンパルナスとモンマルトルの共通点と違いについて調べる。
 - 11：トリュフォーやその他のヌーヴェル・ヴァーグの監督について調べる。
 - 12：17世紀の俳優について調べる。
 - 13：17世紀の古典主義作家について調べる。
 - 14：出演者たちの他の作品について調べる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書0179

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書C164

『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course is to analyse various aspects of life in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see people's different problems, joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films. The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in French society.

The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to do some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSA200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）														
フランスの文化と社会 L B		2017年度以降入学者												
サブタイトル：														
鈴木 正道														
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月3/Mon.3														
単位数：2単位														
その他属性：〈他〉〈優〉														
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 春学期に続いて、この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。 【到達目標】 フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。 「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1 【主な授業方法】 L 講義 /Lecture 【授業の進め方と方法】 21世紀に入って大ヒットした、いかにもフランスらしい？映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに演劇の人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No 【授業計画】 授業形態：対面/face to face <table> <tr> <th>回</th><th>テーマ</th><th>内容</th></tr> <tr> <td>1</td><td>授業の説明、</td><td>「ふたり」とはどんな人たちか？『最強のふたり』1：2011年のヒット作</td></tr> <tr> <td>2</td><td>『最強のふたり』2：</td><td>パリの郊外とは？格差社会と移民 富裕層の多い区域は？</td></tr> <tr> <td>3</td><td>『最強のふたり』3：</td><td>「介護者」と「パートナー」：助北の海岸での出会い ける人とお膳立てする人</td></tr> </table>			回	テーマ	内容	1	授業の説明、	「ふたり」とはどんな人たちか？『最強のふたり』1：2011年のヒット作	2	『最強のふたり』2：	パリの郊外とは？格差社会と移民 富裕層の多い区域は？	3	『最強のふたり』3：	「介護者」と「パートナー」：助北の海岸での出会い ける人とお膳立てする人
回	テーマ	内容												
1	授業の説明、	「ふたり」とはどんな人たちか？『最強のふたり』1：2011年のヒット作												
2	『最強のふたり』2：	パリの郊外とは？格差社会と移民 富裕層の多い区域は？												
3	『最強のふたり』3：	「介護者」と「パートナー」：助北の海岸での出会い ける人とお膳立てする人												
4	『シェルブールの雨傘』1 フランスのミュージカル； 原題そのままの邦題は何を意味しているのか	誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽； 1960年代のフランスの地方都市：やはり北の港町												
5	『シェルブールの雨傘』2 フランスにとつての1960年代はじめ	アルジェリア戦争：様々な分断												
6	『シェルブールの雨傘』3 Westside Storyの向こうを張った？	「曖昧な」結末：雪のクリスマスでの再会と別れ												
7	『天井桟敷の人々』1 1945年の大作 19世紀のパリの下町という空間	伝説的名優勢ぞろい「犯罪大通り」												
8	『天井桟敷の人々』2 庶民にとっての劇場	「言葉」の俳優とパントマイム役者												
9	『天井桟敷の人々』3 カーニバルという空間	またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢												
10	『おかしなおかしな訪問者』1 中世からのタイムスリップ。 ジャン・レノとクリスチャン・クラヴィエ共演	フランスのお笑い映画：フランス北部の中世と現代。名優たちの一人二役が見所												
11	『おかしなおかしな訪問者』2 めでたしめでたしの結末？	お笑い映画の定番的な演出と筋書。続編を予想させる、終わったようで終わらない結末？												
12	『シラノ・ド・ベルジュラック』1： 17世紀の実在の人物をモデルにした19世紀末の芝居	フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、コンプレックスが恋を妨げる												
13	『シラノ・ド・ベルジュラック』2： 17世紀の宮廷と社会状況	過剰な繊細華麗（préciosité）と過酷な戦争（30年戦争とアラスの包囲）												
14	『シラノ・ド・ベルジュラック』3： 普遍的な価値	「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学												

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。

2：フランスの社会階層について調べる。

3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。

4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。

5：アルジェリア戦争について調べる。

6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。

7：『天井桟敷の人々』が公開された1945年ごろのフランスの状況について調べる。

8-9：19世紀前半のパリについて調べる。

10：『おかしな訪問者』で紹介されるフランスの中世と現代の生活について調べる。

11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。

12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった17世紀の人物について調べる。

13：17世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。

14：なぜシラノという人物が時代と国を超えて人々を惹き付けるのかを考える。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164

『悪文の構造』千早耿一郎 ちくま学芸文庫 C0180

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course is to analyse various aspects of life in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see people's different problems, joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films. The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in French society.

The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to do some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）	
フランス生活文化論 L A	2017年度以降入学者
サブタイトル：近代フランスの食文化史	
梶谷 彩子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火4/Tue.4	
単位数：2単位	
定員制(40)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【本授業は定員制です。履修希望者は必ず最後までシラバスを読んでください】

この授業では、19世紀～20世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述や発表を通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見ると予定です。
原著の資料を見ることがありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。
毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。質問をきっかけに時に食文化の話を超えて、フランスの他の文化や歴史に触れることもあります。
また、受講する皆さんのフランスの食や文化に関する興味関心を共有していただく発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していただければ広く様々なテーマを歓迎します。
最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第2回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？／宮廷料理について
第3回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ／18世紀までの価値観と、19世紀からの価値観

第4回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場／給仕の変化
第5回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第6回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー(前編)
第7回	「美食」は誰のものか：情報が生み出す「美食」	「おいしい」の評価の変遷：ガストロノミー(後編)
第8回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴します。コメントカードを通して、感想や考察をまとめてください。
第9回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第10回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置／郷土料理＝文化的遺産という視点の原点
第11回	報告会①	フランスの食や文化にまつわる興味関心を発表しあいましょう。授業とは異なる視点に触れることが目的です。
第12回	報告会②	報告会は、履修者の人数により2回から3回に渡る可能性があります。
第13回	報告会③(予備日) 郷土料理でめぐるフランス 映像資料視聴	フランスの代表的な地方の位置の確認・その土地に根差した郷土料理を網羅的に見ていきます。ほか、一部となりますが第8回とは異なる映像資料を視聴します。
第14回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性／レポートの書き方案内 (映像資料視聴予備日)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。教科書として指定した書籍は学期中に読み切ること。

【テキスト（教科書）】

①オリジナルの授業資料

この資料はすべて学習支援システムを通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。

②『「美食の国」フランスの誕生 ガストロノミーが作ったおいしい歴史』梶谷彩子著、慶應義塾大学出版会、2025年、本体2,700円＋税

【参考書】

①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。

②ジャン・ピエール＝ブーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。

③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(コメントカードの提出・発表を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価。

特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していききたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット端末等を持参すること。原則として教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が41人を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、【初回選抜】を実施します。選抜方法は教室で案内しますので、履修希望者は【必ず初回授業に出席】してください。

開講前にメッセージ機能やタイムライン機能を通じて連絡する場合がありますので、授業支援システムへは開講前に登録してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)	
フランス生活文化論 L B	2017年度以降入学者
サブタイトル：フランスの食文化史(古代から現代まで)	
梶谷 彩子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火4/Tue.4	
単位数：2単位	
定員制(40)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【本授業は定員制です。履修希望者は必ず最後までシラバスを読んでください】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。

原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。

毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。最終回の前には、簡単な発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。

最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第2回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第3回	中世とルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第4回	17世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第5回	18世紀	宮廷料理の最盛期／「豪華な料理」とは？
第6回	フランス革命～19世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現

第7回	19世紀後半～19世紀末	19世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第8回	20世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第9回	20世紀半ば	全国的美食を求めてーガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第10回	20世紀半ば～20世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食
第11回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第12回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第13回	発表会①	レポートの構想、授業を通しての自分なりのまとめなど、いくつかのトピックの中から1つ選び、発表しましょう。
第14回	発表会② まとめ・レポート作成の手引き	発表会の予備日です。主に「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか、授業全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に学習支援システムを通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
- ②ジャン・ビエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008年。
- ④梶谷彩子『「美食の国」フランスの誕生 ガストロノミーが作ったおいしい歴史』慶應義塾大学出版会、2025年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(コメントカード提出・発表参加を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価

特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット等を持参すること。原則として教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が41名を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、【初回選抜】を実施します。選抜方法は教室で案内しますので、履修希望者は【必ず初回授業に出席】してください。開講前にメッセージ機能やタイムライン機能を通じて連絡する場合がありますので、授業支援システムへは開講前に登録してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process:
in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語 4 I 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既習の初級文法を全面的に復習し、加えて未習の文法事項を学習する。格変化をただ頭で分かっているだけでは、それを実際に（読み書き・会話の際に）運用するには不十分である。そのため、名詞・形容詞・所有代名詞の単数形および複数形の（まずは）前置格・対格・生格を自由に作り出し、即座に見分けることができるよう反復練習を行う（例えば、новый журнал, моя машина, русское словоの単数形および複数形の前置格・対格・生格を反射的に言えるようにする）。また、この練習を踏まえて、特に読む力、すなわち生きた現実で出会われる標準的なロシア語の文章（書籍・新聞・雑誌・ネット上のテキスト等）を読解する能力を養う。

【到達目標】

学習した文法事項を的確に運用することによって、やや複雑な構造のロシア語の文章を理解し、正しい日本語に訳せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文法事項を解説し練習問題で理解を定着させ、またテキストを読解し翻訳する、実習型の授業となります。学習支援システムで課題を提示したり、授業時間内に小テストを実施したりします。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の現在形、名詞の複数形、形容詞の性・数変化	動詞の現在形（第1変化）、男性名詞・女性名詞・中性名詞の規則的な複数形と不規則的な複数形、形容詞の性・数変化の6パターン（硬変化A・硬変化B・軟変化／混合変化A・混合変化B・混合変化C）
2	名詞の前置格	名詞の前置格のパターン（単数形・複数形）、名詞の前置格の用法
3	形容詞・所有代名詞の前置格	形容詞・所有代名詞の前置格のパターン（単数形・複数形）
4	名詞・形容詞・所有代名詞の前置格	様々な形容詞・所有代名詞の前置格と様々な名詞の前置格の結合
5	動詞の現在形、名詞の対格	動詞の現在形（第2変化）、名詞の対格のパターン（単数形・複数形）、名詞の対格の用法
6	形容詞・所有代名詞の対格	形容詞・所有代名詞の対格のパターン（単数形・複数形）
7	名詞・形容詞・所有代名詞の対格	様々な形容詞・所有代名詞の対格と様々な名詞の対格の結合

8	名詞の生格	名詞の生格のパターン（単数形・複数形）、名詞の生格の用法
9	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格のパターン（単数形・複数形）
10	名詞・形容詞・所有代名詞の生格	様々な形容詞・所有代名詞の生格と様々な名詞の生格の結合
11	с я 動詞、動詞の過去形、形容詞の短語尾形	с я 動詞の現在形、動詞（с я 動詞も含む）の過去形、形容詞の短語尾形の作り方と用法
12	形容詞と名詞の格変化	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
13	所有代名詞と名詞の格変化	所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
14	期末試験	文法問題、ロシア語テキストの日本語訳、それらの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、1回につき2時間を標準とする。練習問題については、授業前に解答を用意し、授業中に答えなければならない。また、授業後に復習し、小テストに備えなければならない。

テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に理解し、日本語訳（翻訳）を各自で提出しなければならない。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語初級』法政大学ロシア語教員編（2020/2021年度版、2018/2019年度版、両者の内容は同じなので、どちらでも可）。また、格変化の反復練習用等、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、文法の知識と読解力を問う期末テスト80%。

平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

日本語訳（翻訳）の作成を課する。

授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 4 (Extra lesson) (Part1).

【Course Outline】The aim of this course is to review, in a short term, the elementary grammar totally, and to learn the unlearned grammar (especially, repetitive practice to be able to freely produce the prepositional, accusative, and genitive cases of singular and plural nouns, adjectives, and possessive pronouns) and also to develop further ability to read standard Russian texts.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese slightly complicated Russian texts.

【Learning Activities outside of Classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

【Grading Criteria/Policy】Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr200LA (ロシア語 / Russian language education 200)

ロシア語 4 II

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既習の初級文法の復習を継続し、加えて未習の文法事項を学習する。「ロシア語 4 I」の続きとして、名詞・形容詞・所有代名詞の単数形および複数形の与格・造格を作り出し、見分けることができるよう反復練習を行う（例えば、новый журнал, моя машина, русское словоの単数形および複数形の与格・造格を反射的に言えるようにする）この練習を踏まえ、生きた現実の、標準的なレベルのロシア語の文章を読解する能力をさらに養う。

【到達目標】

学習した文法事項を的確に運用することによって、複雑な構造のロシア語の文章を理解し、正しい日本語に訳せる。書籍、新聞や雑誌、ネット上の文章から、最低限の情報を得ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

文法事項を解説し練習問題で定着させ、またテキストを読解し翻訳する、実習型の授業になります。学習支援システムで課題を提示したり、授業時間内に小テストを実施したりします。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	形容詞と名詞の格変化（復習）	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
2	所有代名詞と名詞の格変化（復習）	所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格への変化
3	名詞の与格	名詞の与格のパターン（単数形・複数形）、名詞の与格の用法
4	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格のパターン（単数形・複数形）
5	名詞・形容詞・所有代名詞の与格	様々な形容詞・所有代名詞の与格と様々な名詞の与格の結合
6	動詞の未来形、無人称文	動詞の合成未来形の作り方、無人称文の特徴、無人称文の現在形・過去形・未来形
7	動詞の命令形、否定の表現	動詞の命令形の3パターン、否定生格、「何も～ない」
8	名詞の造格	名詞の造格のパターン（単数形・複数形）、名詞の造格の用法
9	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格のパターン（単数形・複数形）
10	名詞・形容詞・所有代名詞の造格	様々な形容詞・所有代名詞の造格と様々な名詞の造格の結合

11	形容詞と名詞の格変化	形容詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）与格・造格への変化
12	所有代名詞と名詞の变化	所有代名詞と名詞（単数形・複数形）の（単数形・複数形）与格・造格への変化
13	形容詞・所有代名詞と名詞の格変化	形容詞・所有代名詞と名詞（単数形・主格）の（単数形・複数形）前置格・対格・生格・与格・造格への変化
14	期末試験	文法問題、ロシア語テキストの日本語訳、それらの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は2時間を標準とする。練習問題については、授業前に解答を用意し、授業中に答えなければならない、また、授業後に復習し、小テストに備えなければならない。テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に理解し、日本語訳（翻訳）を各自で提出しなければならない。

【テキスト（教科書）】

『ロシア語初級』法政大学ロシア語教員編（2020/2021年度版、2018/2019年度版、両者の内容は同じなので、どちらでも可）。また、格変化の反復練習用等、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、文法の知識と読解力を問う期末テスト80%。平常点は課題の提出、小テストの評価。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。日本語訳（翻訳）の作成を課する。授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 4 (Extra lesson) (Part2).

【Course Outline】The aim of this course is to review the elementary grammar totally, and to learn the unlearned grammar (especially, repetitive practice to be able to freely produce the dative and instrumental cases of singular and plural nouns, adjectives, and possessive pronouns) and also to develop further ability to read standard Russian texts.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese slightly complicated Russian texts.

【Learning Activities outside of Classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

【Grading Criteria/Policy】Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語 4 | 2017年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次のロシア語学習を終えた学生を対象とする授業です。既習の文法事項を復習してから、教科書やプリント教材を用いて、未習の文法事項を学びます。基礎文法をひととおり学習し、その定着をはかりながら、ロシア語の文章の読解に必要な力を養います。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】

学んだ文法事項を正確に理解し、運用できるようになること。比較的平易なロシア語の文章を読解し、日本語に訳せるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書やプリント教材を用いて、文法事項の解説、練習問題の答え合せと解説、テキストや対話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また、知識の定着や習熟度の確認のために、適宜、課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	既習文法の復習 (1)	格変化の復習（主格、生格）
2	既習文法の復習 (2)	格変化の復習（与格、対格）
3	既習文法の復習 (3)	格変化の復習（造格、前置格）
4	既習文法の復習 (4)	格変化の復習（人称代名詞）
5	動詞 (1)	動詞関連の文法事項の復習
6	動詞 (2)	動詞の完了体、不完了体の用法の説明と練習
7	動詞 (3)	テキストの音読と読解
8	関係代名詞 (1)	関係代名詞の説明と練習
9	関係代名詞 (2)	関係副詞、接続詞 что бы の説明と練習
10	関係代名詞 (3)	テキストの音読と読解
11	数詞、時間 (1)	数詞と名詞の結合の説明と練習
12	数詞、時間 (2)	時間表現の説明と練習
13	数詞、時間 (3)	テキストの音読と読解
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。格変化形や動詞の活用は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級 ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員 編）[2020/2021年度版、2018/2019年度版 いずれでも可]
その他、適宜プリント教材を配布します。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50%、期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の習熟度を念頭においた授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a course for students who finished learning Russian for the first grade. The aim of this course is to finish basic grammar. And also strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire basic grammar and strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is more than one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

ロシア語 4 II

2017年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文法の学習を終えた学生を対象とした授業です。さまざまなテーマのテキストの読解を通して、既習の文法事項を復習しながら、未習の文法事項を学びます。ロシア語の文章に慣れ親しみ、基礎文法の応用レベルでの定着を目指します。また、視聴覚教材を用いて、生のロシア語に触れる機会を作ります。要望があれば、ロシア語能力検定試験に対応する勉強も行います。

【到達目標】

辞書を用いて文章を読解し、日本語に翻訳する作業を通して、ロシア語の文章に慣れ親しむこと。また、語彙を増やし、構文を正確に把握できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書やプリント教材を用いて、未習の文法事項について学んだ上で、テキストを講読します。テキストは構文を把握しながら、じっくりと読み進めます。また、知識の定着や習熟度の確認のために、適宜、課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期に学んだことの復習	格変化、動詞、関係代名詞、体の用法の復習
2	数詞、時間 (4)	数詞と名詞の結合、時間表現の復習
3	数詞、時間 (5)	年月日の表現の説明と練習
4	数詞、時間 (6)	年齢の表現、値段の表現の説明と練習
5	数詞、時間 (7)	テキストの音読と読解
6	形容詞の短語尾形、比較級、最上級	形容詞の短語尾形、比較級、最上級の説明と練習
7	仮定法	仮定法の説明と練習
8	運動の動詞と接頭辞 (1)	接頭辞の種類と対応する前置格の説明と練習
9	運動の動詞と接頭辞 (2)	テキストの音読と読解
10	運動の動詞と接頭辞 (3)	スキットのセリフを聞き取る
11	文章読解 (1)	ロシアの民話を読む
12	文章読解 (2)	ロシアの文化に関するテキストを読む
13	文章読解 (3)	ロシアの歴史に関するテキストを読む
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題（日本語訳の準備等）は必ずやってくる。格変化や動詞の活用、数詞は意識して覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を授業で配布します。

『初級 ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員 編）[2020/2021年度版、2018/2019年度版 いずれでも可] を持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社

露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50%、期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a course for students who have completed learning basic grammar of Russian. We read Russian texts carefully, understanding the syntax. Through reading comprehension, we review what we have learned so far and learn grammar that we haven't learned yet.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to get used to Russian texts with various themes and master Russian basic grammar.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is more than one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANr200LA (ロシア語 / Russian language education 200)

ロシア語 5 I 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。

宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、授業時や学習支援システム経由で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	紹介：名前、出身、職業	リスニング、会話練習
2	家族の話	リスニング、会話練習
3	趣味	リスニング、会話練習
4	一日の流れ	リスニング、会話練習
5	一日の流れ（続き）	リスニング、会話練習
6	時間、スケジュール	リスニング、会話練習
7	国、言語、国籍	リスニング、会話練習
8	天気、季節	リスニング、会話練習
9	行ったことがある所	リスニング、会話練習
10	休暇の過ごし方	リスニング、会話練習
11	週の予定	リスニング、会話練習
12	好きな事、好きなものの	リスニング、会話練習
13	春学期の復習	リスニング、会話練習
14	春学期末テスト	聴解・筆記と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてプリント教材を配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語のみの教材に和文解説をつけるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末（PCやタブレットなど）、Zoom授業になる場合には、Wi-Fi通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to carry out simple conversations in Russian in everyday situations or when traveling in Russia.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%、Word tests 30%、Homework 20%

LANr200LA (ロシア語 / Russian language education 200)

ロシア語 5 II

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われるロシア語を場面ごとに学び、ロシア語のコミュニケーション能力を高める授業です。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとって実践的な能力として定着させます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

一年に通じて日常的なコミュニケーションに使う文型・語彙・表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。

宿題提出や単語学習などのために学習支援システムと各オンライン学習アプリケーションを使います。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モスクワを歩く	リスニング、会話練習
2	私の街	リスニング、会話練習
3	お買い物	リスニング、会話練習
4	食べ物、お食事	リスニング、会話練習
5	家と部屋	リスニング、会話練習
6	映画	リスニング、会話練習
7	いつも通うところ	リスニング、会話練習
8	乗り物で行く	リスニング、会話練習
9	空港で	リスニング、会話練習
10	ロシアの年行事	リスニング、会話練習
11	ToDo リスト	リスニング、会話練習
12	電話、メール	リスニング、会話練習
13	秋学期の復習	リスニング、会話練習
14	秋学期末テスト	聴解・筆記と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時および学習支援システムにてプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト 50%、複数小テスト 30%、宿題 20%

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語のみの教材に和文解説をつけるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末（PCやタブレットなど）、Zoom授業になる場合には、Wi-Fi通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や履修者の能力に応じて授業のペースやスケジュールは変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to carry out simple conversations in Russian in everyday situations or when traveling in Russia.

(Learning activities outside of classroom)

The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ロシア語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシアの歴史や文化を概観し、ロシアという国がどのような国なのか、その特質(「ロシアという国のかたち」)を理解する。それによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとっては理解しにくいロシアという国について、明確なイメージを持つことができる。

また、そうしたロシアの歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	9世紀半ばから13世紀の歴史	建国伝説、「キエフ・ルーシ」
第2回	13世紀から16世紀の歴史	「タタールの軛」、モスクワ大公国から「ロシア」へ(イヴァン3世とイヴァン4世)
第3回	17世紀の歴史	「動乱」、ロマノフ朝の成立
第4回	18世紀前半の歴史	ピョートル1世、「ロシア帝国」
第5回	18世紀後半の歴史	エカチェリーナ2世、ポーランド分割、「新ロシア」とクリミア半島、ウクライナ
第6回	19世紀初めの歴史	アレクサンドル1世、ナポレオン戦争、デカブリストの乱
第7回	19世紀半ばの歴史	ニコライ1世、クリミア戦争、アレクサンドル2世、農奴解放
第8回	19世紀終わりの歴史	アレクサンドル3世、産業革命
第9回	20世紀初めの歴史(0年代～20年代)	ニコライ2世、第1革命、第1次世界大戦、ロシア革命、「ソ連」、レーニン
第10回	20世紀半ばの歴史(30年代～40年代)	スターリン、第2次世界大戦
第11回	20世紀半ばの歴史(50年代～60年代)	冷戦、フルシチョフ
第12回	20世紀終わりの歴史(70年代～80年代)	停滞からペレストロイカへ、ゴルバチョフ

第13回 20世紀末の歴史(90年代) ソ連崩壊、「ロシア連邦」、エリツィン

第14回 21世紀初めの歴史 ブーチン、ウクライナ戦争

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト(教科書)】

プリントを配布する。

【参考書】

『新版世界各国史22 ロシア史』山川出版社、2002年。

『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004年。

『ロシア文化事典』丸善出版、2019年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(感想や質問の提出)40%、期末レポート60%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。

毎授業の途中や最後に、授業内容に関する復習問題に取り組む。

【Outline (in English)】

【Course Outline】The aim of this course is to survey history and culture of Russia, as a background to the Russian language.

【Learning Objectives】We will understand what kind of country Russia is and its special characteristics.

【Learning activities outside of Classroom】Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ロシア語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの周辺国、すなわち、北欧、中・東欧、旧ソ連圏の国々、さらには中東や南アジアなどの歴史や文化を概観することによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」を獲得する。より広い視野においてロシアという国を理解する。

ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとってなじみのないロシアの周辺国、およびこれらの国々とロシアとの関係について明確なイメージを持ち、ロシアやこれらの国や地域の持つ世界史的な意義を理解できる。

また、そうした理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ロシアの周辺国（現在の国境、スラヴ諸族と現在の国家を含めて）、20世紀までのロシアの歩み、問題の設定（これからの世界とロシア）
第2回	ロシアの周辺国の歴史（その1）	北欧の歴史—デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド（前半：16世紀まで；ヴァイキングの遠征、デンマークによるカルマル同盟、同盟からのスウェーデンの独立）
第3回	ロシアの周辺国の歴史（その2）	北欧の歴史—デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド（後半：16世紀以降；デンマークの興隆と衰退と復興、スウェーデンの興隆と衰退と復興、ノルウェーの独立、フィンランドとアイスランドの独立）

第4回	ロシアの周辺国の歴史（その3）	バルト三国の歴史—エストニア・ラトヴィア・リトアニア（リヴォニアとドイツ騎士団、リトアニアの発展、ポーランドによるリトアニアの吸収、ロシア帝国によるリヴォニア・ポーランド・リトアニアの全面的支配、バルト三国の独立）
第5回	ロシアの周辺国の歴史（その4）	ポーランドの歴史（前半：17世紀半ばまで；成長期、最盛期、衰退期）
第6回	ロシアの周辺国の歴史（その5）	ポーランドの歴史（後半：17世紀半ば以降；独立喪失期、独立の回復）
第7回	ロシアの周辺国の歴史（その6）	ウクライナの歴史（前半：13世紀まで；キエフ・ルーシ、タタールの軛）
第8回	ロシアの周辺国の歴史（その7）	ウクライナの歴史（後半：13世紀以降；ポーランド・リトアニア時代、ロシア帝国時代、ソ連時代）
第9回	ロシアの周辺国の歴史（その8）	中央アジア五国の歴史—カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・キルギスタン・タジキスタン（前半：9世紀まで；イラン系の興隆、トルコ系の侵入）
第10回	ロシアの周辺国の歴史（その9）	中央アジア五国の歴史—カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・キルギスタン・タジキスタン（後半：9世紀以降；イスラムの興隆、モンゴルの侵攻、トルコ化とイスラム化、ロシア帝国・ソ連と清・中国の支配）
第11回	ロシアの周辺国の歴史（その10）	コーカサス三国の歴史—ジョージア・アルメニア・アゼルバイジャン（東西南北の諸勢力の交差点としての北コーカサスと南コーカサス、前6世紀以来のジョージア、前6世紀以来のアルメニア、3世紀以来のアゼルバイジャン）
第12回	ロシアの周辺国の歴史（その11）	トルコ（オスマン帝国）の歴史（前半：16世紀まで；封建的帝国期、集権的帝国期）
第13回	ロシアの周辺国の歴史（その12）	トルコ（オスマン帝国）の歴史（後半：16世紀以降；分権的帝国期、近代的帝国期）
第14回	コンクルージョン	グローバリゼーション、グローバル・サウスの台頭、これからの世界とロシア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。
学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

山川出版社「世界各国史」シリーズ。
明石書店「～を知るための〇章」シリーズ。
『民族の世界史10 スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社。
森安達也『ビザンツとロシア・東欧』講談社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40%、期末レポート60%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。
毎授業の途中や最後に、授業内容に関する復習問題に取り組む。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The aim of this course is to provide an overview of the history and culture of Northern, Central, and Eastern Europe, as well as other countries and regions surrounding Russia (including former Soviet states, the Middle East, South Asia, etc.), as a background to the Russian language.

【Learning Objectives】 We will understand the specifics of Russia from a broader perspective.

【Learning activities outside of Classroom】 Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】 Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSA200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

ロシアの文化と社会 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくとも履修できます。なお、SAエストニア（SAロシア代替）の事前学習も兼ねるので、SAエストニアの1年生もしくは2年生は必ず履修してください。

ロシアは、峻厳で美しい自然、深く豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりで。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導くこと、そして教員が提起した問題に対して自身の意見を適切な文章でまとめる力を養うことを目的としています（コメントシートを通して）。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワード、ソ連・ロシアの国歌を通してロシアの概略を示す。
第2回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第3回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。

第4回	民俗文化とロシア正教、国民の祝日	ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は政治と結びついて大きなものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなど常に信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。
第5回	ロシア・バレエの世界1	バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。
第6回	ロシア・バレエの世界2	前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。
第7回	ロシアの音楽1：グリンカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー	ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリンカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。
第8回	ロシアの音楽2：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）	19世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフを通して音楽と政治の問題を考える。
第9回	ロシアの音楽3：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）	反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。
第10回	ロシア文学1：イーゴリ軍記から19世紀前半	『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。『余計者』の確立。
第11回	ロシア文学2：19世紀半ば～（ゴーゴリ、ドストエフスキー）	ゴーゴリのグロテスクな手法、『小さな人間』について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。
第12回	ロシア文学3：19世紀後半～20世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）	トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖愚者の賞揚。チェーホフの創作方法について。『異化』の概念について。政治と文学について。
第13回	ロシア文学4：亡命作家から現代（ソルジェニツィン、プロツキー、ペレーヴィン）／日本文学との影響関係	亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。
第14回	民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題	ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアのナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、ボアソナードタワー3階にあるAVライブラリーの活用を勧めます。本授業の復習には4時間以上、期末レポートの作成には1週間程度の時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成する資料を教場で配付します。

【参考書】

参考文献については教場で、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生は合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な側面を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

ロシアの文化と社会 L B 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史、映画、アニメ、美術の領域からロシアの文化の多様性を見ていきます。本講義では映像資料を多用して概説を行います。多くの情報を統合してロシアの像をまとめていく作業は学生のみならず一人ひとりが行うことになります。この授業は、SAエストニア（SAロシア代替）の事前学習に位置付けられているので、SAエストニア1年の学生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を受けたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張をまとめる力を養うことを目標としています（コメントシートを通して）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダース／ロシアの歴史1：キエフルーシ、タタールの	ロシアの歴史：キエフルーシ、タタールの軋、イワン雷帝の世について。
第2回	ロシアの歴史2	ピョートル大帝、エカテリーナ女帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第3回	ロシアの歴史3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第4回	ロシアの歴史4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第5回	ロシアの歴史5	雪解けから停滞へ、ペレストロイカ、チェルノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第6回	ソ連映画1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。

第7回 ソ連映画2

雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。

第8回 ソ連映画3

反体制の烙印を押された監督の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF映画を概観するとともに、ペレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。

第9回 ロシア映画4

検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクーロフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。

第10回 ロシア映画5

前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。

第11回 ロシア映画6

2020年代にロシア国内外で制作されたロシア人監督による作品を概観し、ウクライナ侵攻と映画の関係を見る。

第12回 ロシア・アニメ

黎明期からプロバガンダ・アニメ、児童アニメ（アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）、アート・アニメ（ノルシュテイン、ペトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。

第13回 ロシア美術1

イコン（聖像画）の機能について、移動派の活動、パトロンの役割について。

第14回 ロシア美術2

マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。ロシア・アヴァンギャルド期の建築について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の視聴には、AVライブラリーコーナーの利用を勧めます。本授業の復習には4時間以上、期末レポートの作成には1週間程度の時間を要することになります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成した資料を教場で配付します。

【参考書】

教場で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として、総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今学期はロシアの歴史、映画が中心となりますが、時事的な話題もとりこみながら講義をおこないます。

【Outline (in English)】

●Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

●Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

●Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

●Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

検定のロシア語A

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語の履修を終え中級以上を目指す学生が、ロシア語学習の到達度を外部試験で「見える形」に確かめ、次の学習につなげるための授業です。資格として履歴書にも記載できるロシア語能力検定試験4級・3級の合格を目標にします（3級はCEFR A2相当：文法・読解・聴解・会話・作文）。検定形式の演習を通して、必修で学んだ文法を総復習し、「得点できる力」へと整理・定着させます。過去問に取り組みながら、文法・語形変化・語彙を体系化し、読解・聴解に加えて、和訳・露訳などの基礎的な運用力も高めていきます。

【到達目標】

毎年5月・10月に実施されるロシア語能力検定試験に合格するため、以下を達成する。1) 基礎文法を習得し、確実に運用できる。2) テキスト内容を的確に把握し、検定形式の問題を解ける。3) 様々な短文・文章を和訳できる。4) 検定レベルのリスニング問題を解ける。5) 文章を正確に、一定の速度で音読できる。6) 基礎的な表現を用いて簡単な実践会話ができる。7) 語彙を増やし、和訳・露訳の精度を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語能力検定試験4級3級の合格を目標に、基礎文法を総復習して確実に運用できる力を固めます。授業は対策問題・過去問演習を中心に進め、必須文法の習得、検定形式の読解・演習問題への対応力を養います。あわせて和訳・露訳に取り組み、語彙力の強化を行いながら訳の精度を高めます。リスニング演習と発音を意識した音読練習も実施します。課題へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞、名詞の格変化
第3回	形容詞、所有代名詞と指示代名詞	形容詞、所有代名詞と指示代名詞、その格変化
第4回	動詞（時制の表現）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	副詞、無人称文、テキスト読解	副詞、無人称文、テキスト読解
第6回	時制を表す表現、疑問詞	時制を表す表現、疑問詞とその返答
第7回	運動の動詞	1) 運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）2) 「(歩いて・乗り物で) 運ぶ」「連れて行く」
第8回	動詞の命令形	3 パターンの命令形（完了体・不完了体含む）
第9回	比較級	主に単一比較級

第10回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第11回	数詞（主格・対格）	数詞（数詞と名詞の変化）
第12回	テキストの音読練習	スピーキング力、リーディング力強化（音読はアクセント記号の付いていないテキスト）
第13回	リスニング	リスニング（過去問を時間内で解く練習）
第14回	和文露訳	和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎文法の復習、過去問題と対策問題の予習復習、単語の暗記、音読練習、ラジオ講座やロシア関連のネット音声の聴解など、検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年

『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテストなど）70%、提出物の評価（課題や宿題等の提出）30%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。「検定」は、東京ロシア語学院主催のロシア語能力検定試験4級3級（毎年5月10月実施）を想定しております（ロシア連邦教育科学省認定ロシア語検定試験（ТРКИ）受験の希望者は要相談）。検定試験を受験し、合格を目指してください。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course is for students who have completed Elementary Russian and aim to move toward intermediate study. Students prepare for the Russian Language Proficiency Test (Levels 4- 3) to make their progress visible and strengthen core skills through exam-style practice and past papers.

【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to: Apply core grammar and basic inflection patterns accurately. Solve reading and listening tasks in the exam format. Expand essential vocabulary for comprehension and translation. Translate short texts (Russian - Japanese / Japanese - Russian). Read short texts aloud accurately and at an appropriate pace.

【Learning activities outside of classroom】Students review grammar/vocabulary and complete assigned practice (past papers/model questions) before and/or after each class.

【Grading Criteria / Policy】Ongoing performance 70% (participation, preparation/review, vocabulary mini-quizzes); assignments/submissions 30% (grammar exercises, translation tasks, and, when assigned, audio submissions such as recitation/read-aloud).

LANr200LA（ロシア語 / Russian language education 200）

検定のロシア語B

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語の履修を終え中級以上を目指す学生が、ロシア語学習の到達度を外部試験で「見える形」に確かめ、次の学習につなげるための授業です。資格として履歴書にも記載できるロシア語能力検定試験4級・3級の合格を目標にします（3級はCEFR A2相当：文法・読解・聴解・会話・作文）。検定形式の演習を通して、必修で学んだ文法を総復習し、「得点できる力」へと整理・定着させます。過去問に取り組みながら、文法・語形変化・語彙を体系化し、読解・聴解に加えて、和訳・露訳などの基礎的な運用力も高めていきます。

【到達目標】

毎年5月・10月に実施されるロシア語能力検定試験に合格するため、以下を達成する。1) 基礎文法を習得し、確実に運用できる。2) テキスト内容を的確に把握し、検定形式の問題を解ける。3) 様々な短文・文章を和訳できる。4) 検定レベルのリスニング問題を解ける。5) 文章を正確に、一定の速度で音読できる。6) 基礎的な表現を用いて簡単な実践会話ができる。7) 語彙を増やし、和訳・露訳の精度を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語能力検定試験4級3級の合格を目標に、基礎文法を総復習して確実に運用できる力を固めます。授業は対策問題・過去問演習を中心に進め、必須文法の習得、検定形式の読解・演習問題への対応力を養います。あわせて和訳・露訳に取り組み、語彙力の強化を行いながら訳の精度を高めます。リスニング演習と発音を意識した音読練習も実施します。課題へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、基礎文法の復習	オリエンテーション、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	名詞と人称代名詞	名詞の性別と複数形、人称代名詞、名詞の格変化
第3回	形容詞、所有代名詞と指示代名詞	形容詞、所有代名詞と指示代名詞、その格変化
第4回	動詞（時制の表現）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	副詞、無人称文、テキスト読解	副詞、無人称文、テキスト読解
第6回	時制を表す表現、疑問詞	時制を表す表現、疑問詞とその返答
第7回	運動の動詞	1) 運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）2) 「(歩いて・乗り物で) 運ぶ」「連れて行く」
第8回	動詞の命令形	3 パターンの命令形（完了体・不完了体含む）
第9回	比較級	主に単一比較級

第10回	関係代名詞	関係代名詞、関係副詞、接続詞
第11回	数詞（主格・対格）	数詞（数詞と名詞の変化）
第12回	テキストの音読練習	スピーキング力、リーディング力強化（音読はアクセント記号の付いていないテキスト）
第13回	リスニング	リスニング（過去問を時間内で解く練習）
第14回	和文露訳	和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎文法の復習、過去問題と対策問題の予習復習、単語の暗記、音読練習、ラジオ講座やロシア関連のネット音声の聴解など、検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年

『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み、単語ミニテストなど）70%、提出物の評価（課題や宿題等の提出）30%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。「検定」は、東京ロシア語学院主催のロシア語能力検定試験4級3級（毎年5月10月実施）を想定しております（ロシア連邦教育科学省認定ロシア語検定試験（ТРКИ）受験の希望者は要相談）。検定試験を受験し、合格を目指してください。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course is for students who have completed Elementary Russian and aim to move toward intermediate study. Students prepare for the Russian Language Proficiency Test (Levels 4- 3) to make their progress visible and strengthen core skills through exam-style practice and past papers.

【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to: Apply core grammar and basic inflection patterns accurately. Solve reading and listening tasks in the exam format. Expand essential vocabulary for comprehension and translation. Translate short texts (Russian - Japanese / Japanese - Russian). Read short texts aloud accurately and at an appropriate pace.

【Learning activities outside of classroom】Students review grammar/vocabulary and complete assigned practice (past papers/model questions) before and/or after each class.

【Grading Criteria / Policy】Ongoing performance 70% (participation, preparation/review, vocabulary mini-quizzes); assignments/submissions 30% (grammar exercises, translation tasks, and, when assigned, audio submissions such as recitation/read-aloud).

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語コミュニケーション基礎Ⅰ 2017年度以降入学者

楊 心苗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とし、発音・語彙・基本文法を土台として、「聞く」「話す」を中心とした実践的な言語活動を行う。日常生活に身近な場面を想定した練習を通して、中国語でやり取りするための基礎力を身につける。本授業を通して、中国語の基礎知識を用いて簡単な中国語で自分の考えを伝える力を身につける。また、対話活動を通して外国語によるコミュニケーションへの理解と自信を深め、今後の中国語学習や異文化理解の基礎を築くことを目的とする。

【到達目標】

1. 中国語の基礎的な発音・語彙・文法を理解し、日常生活に身近な場面において簡単な中国語によるやり取りができる。
2. 基本的な聞く・話す活動を通して、相手の発話の要点を理解し、自分の考えや意図を簡単な中国語で伝えることができる。
3. 中国語による対話活動に積極的に参加し、外国語でコミュニケーションを行うことへの理解と自信を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。発音・語彙・基本文法の確認を行ったうえで、指定テキストを用いた聞く・話す活動、ペアワークやグループワークなどの対話練習に取り組む。また、日常生活に身近な場面を想定したロールプレイや簡単な発表活動を取り入れ、実際のコミュニケーションを重視した授業を行う。教員は活動の進行に応じて適宜フィードバックを行い、理解の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の目的および意義を共有するとともに、授業の進め方や成績評価方法について説明を行う。また、受講生の中国語学習歴や習熟度を確認する。
2	レッスン1	ウォームアップ
3	レッスン2	第一課 挨拶する・自分の身分、出身地などを言う、相手に尋ねる
4	レッスン3	会話練習
5	レッスン4	第二課 名前を言う、尋ねる・大学での所属・専攻を言う
6	レッスン5	会話練習
7	レッスン6	第三課 レストランで食べたいものを尋ねる、言う
8	レッスン7	会話練習
9	レッスン8	第四課 感想を尋ねる、言う

10	レッスン9	会話練習
11	レッスン10	第五課 年月日・曜日・時刻を尋ねる、言う
12	レッスン11	会話練習
13	レッスン12	総括
14	期末テスト	第一課から第五課までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、指定テキストの該当箇所を読み、語彙・表現・文型を確認するとともに、発音練習や会話例の音読を行う。必要に応じて、授業内で指示された練習問題や課題に事前に取り組む。復習としては、授業で扱った表現や文法事項の整理、聞く・話す活動で使用した表現の反復練習を行い、理解の定着を図る。また、授業内で提示される宿題（練習問題等）にも取り組む。本授業の準備学習および復習に要する時間は、それぞれ1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

綾部武彦ほか『晴れ晴れ中国語』（朝日出版社）2024年 ISBN 978-4-255-45385-9

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点を50%（授業への積極的な参加、対話活動への取り組み、課題の達成状況など）、期末課題を50%とし、合計100点満点で評価する。本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新規開講のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' basic communicative competence in Chinese through practical language activities focused primarily on listening and speaking, based on pronunciation, vocabulary, and basic grammar. Through practice in everyday, familiar situations, students will acquire the foundational skills needed to communicate in Chinese. Through this course, students will develop the ability to express their own ideas in simple Chinese using basic language knowledge. In addition, through dialog-based activities, students will deepen their understanding of foreign-language communication, build confidence, and establish a foundation for further Chinese language study and intercultural understanding.

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語コミュニケーション基礎Ⅱ 2017年度以降入学者

楊 心苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：1単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、中国語による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とし、発音・語彙・基本文法を土台として、「聞く」「話す」を中心とした実践的な言語活動を行う。日常生活に身近な場面を想定した練習を通して、中国語でやり取りするための基礎力を身につける。本授業を通して、中国語の基礎知識を用いて簡単な中国語で自分の考えを伝える力を身につける。また、対話活動を通して外国語によるコミュニケーションへの理解と自信を深め、今後の中国語学習や異文化理解の基礎を築くことを目的とする。

【到達目標】

1. 中国語の基礎的な発音・語彙・文法を理解し、日常生活に身近な場面において簡単な中国語によるやり取りができる。
2. 基本的な聞く・話す活動を通して、相手の発話の要点を理解し、自分の考えや意図を簡単な中国語で伝えることができる。
3. 中国語による対話活動に積極的に参加し、外国語でコミュニケーションを行うことへの理解と自信を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。発音・語彙・基本文法の確認を行ったうえで、指定テキストを用いた聞く・話す活動、ペアワークやグループワークなどの対話練習に取り組む。また、日常生活に身近な場面を想定したロールプレイや簡単な発表活動を取り入れ、実際のコミュニケーションを重視した授業を行う。教員は活動の進行に応じて適宜フィードバックを行い、理解の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レッスン1	第六課 趣味について尋ねる、言う
2	レッスン2	会話練習
3	レッスン3	第七課 約束を交わす
4	レッスン4	会話練習
5	レッスン5	第八課 所在を言う、尋ねる・道案内をする
6	レッスン6	会話練習
7	レッスン7	第九課 買いたいものを伝える・値段を尋ねる、言う
8	レッスン8	会話練習
9	レッスン9	第十課 電話でのやり取り・体調について尋ねる、言う
10	レッスン10	会話練習
11	レッスン11	第十一課 経験を述べる・したことについて説明する
12	レッスン12	会話練習
13	レッスン13	総括

14 期末テスト

第六課から第十二課までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、指定テキストの該当箇所を読み、語彙・表現・文型を確認するとともに、発音練習や会話例の音読を行う。必要に応じて、授業内で指示された練習問題や課題に事前に取り組む。復習としては、授業で扱った表現や文法事項の整理、聞く・話す活動で使用した表現の反復練習を行い、理解の定着を図る。また、授業内で提示される宿題（練習問題等）にも取り組む。本授業の準備学習および復習に要する時間は、それぞれ1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

綾部武彦ほか『晴れ晴れ中国語』（朝日出版社）2024年 ISBN 978-4-255-45385-9

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点を50%（授業への積極的な参加、対話活動への取り組み、課題の達成状況など）、期末課題を50%とし、合計100点満点で評価する。本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新規開講のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' basic communicative competence in Chinese through practical language activities focused primarily on listening and speaking, based on pronunciation, vocabulary, and basic grammar. Through practice in everyday, familiar situations, students will acquire the foundational skills needed to communicate in Chinese. Through this course, students will develop the ability to express their own ideas in simple Chinese using basic language knowledge. In addition, through dialog-based activities, students will deepen their understanding of foreign-language communication, build confidence, and establish a foundation for further Chinese language study and intercultural understanding.

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語コミュニケーション初級Ⅰ 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかり覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明
第2回	発音	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第4回	人称代名詞と指示代名詞	文法を確認したのち、自己紹介の練習をする
第5回	会話（1）	
第6回	述語	文法を確認したのち、自己紹介を発表する
第7回	授業内発表（1）	「是」その他
第8回	受け答え	在と有
第9回	場所と方位	数量詞と連体修飾語を学ぶ
第10回	疑問文	ものの尋ね方
第11回	会話（2）	レストランでの会話を作成する
第12回	連用修飾語	副詞と時間詞を学ぶ
第13回	授業内発表（2）	講師と一対一またはグループでレストランでの会話をする
第14回	完了と変化	「了」の様々な知る
第15回	会話（3）	買い物する時の会話パターンを作成する
第16回	助動詞と前置詞構造	文法を確認したのち、講師と一対一またはグループで買い物のシミュレーションをする
第17回	授業内発表（3）	三量補語と離合詞
第18回	三量補語	三量補語と離合詞
第19回	まとめ及び期末テスト	文法をまとめ、会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの予習・復習をする。

また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

受講者それぞれのレベルの差に配慮をする。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk the Chinese language by accurate pronunciation,

and talk the Chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。

日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	持続態と進行形を確認したのち、「私の夏休み」を作成する
第2回	程度補語 作文の添削	程度補語を確認したのち、作文の添削をする
第3回	比較と連動	比較文と連動文
第4回	構文分析	構文分析と助動詞の補説
第5回	強調と重複 会話（1）	強調文と重複表現 待ち合わせの会話を作る
第6回	方向補語 授業内発表（1）	方向補語の用法 待ち合わせの会話の発表
第7回	複合方向補語の用法	複合方向補語の派生的用法
第8回	結果補語	結果補語の説明
第9回	可能補語 会話（2）	可能補語の説明 道を尋ねる・教える会話の作成
第10回	使役と受身 授業内発表（2）	使役と受身の確認と比較 道を尋ねる・教える会話の発表
第11回	処置と倒置	処置文と倒置文
第12回	複文一	複文の様々な知る
第13回	複文二	複文の後半
第14回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週1時間を目途に予習・復習する。

単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。

また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

受講者それぞれのレベルの差に配慮する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should do the exercise of reading, writing, listening and talking.

We should talk the chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

presentation:40%

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語作文初級Ⅰ

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

定員制(15)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、1年次の学習項目を復習しつつ、中国語の作文力の向上を図ることを目的とした授業である。本授業では、テキストに記載されたポイントを教員が解説するとともに、受講生は日文中訳や並べ替え問題等に取り組むことで、既習の文法事項の定着及び作文力の向上を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語の基本的な文法項目を正確に理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題等の練習を通じて、基本的な中国語文を適切に作ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、授業方法分類上は「講義」であるが、講義形式と演習形式を適宜組み合わせで行う。
- ・受講生は、各回で扱う内容を予習しておくこと（予習箇所は授業内で指示する）。授業時に適宜指名し、自分の解答を発表してもらう。
- ・教員は、文法ポイントを説明した後に、学生による練習問題の回答を確認し、適宜解説を行う。
- ・各種のフィードバックや質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認 (本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など)
2	第1課	一語文・一句文
3	第2課	基本構文と主題化
4	第3課	時間< 時点と時間量>
5	第4課	場所と存在・移動
6	第5課	疑問・否定
7	復習1	第1課～第5課までの復習
8	第6課	願望・必要
9	第7課	命令・依頼・可能
10	第8課	推定・伝聞
11	第9課	数量表現
12	第10課	修飾語
13	復習2	第6課～第10課までの復習
14	総括	試験とその解説、学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業開始後は、テキストの復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・遠藤光暁、董燕『書く中国語』朝日出版社（2,200円＋税）

【参考書】

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹2017『中国語はじめての一步〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎〔改訂新版〕』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（予習の実施状況、授業内で指名された時の回答状況等）を50%、期末試験を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より授業担当者変更のため特になし。受講生の中国語の習熟度を適宜確認しつつ授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・授業に関する連絡はすべて学習支援システムを通じて行うため、必ず確認すること。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。
- ・適宜、補足資料を配付する可能性もあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

In this course, students will mainly improve their writing skills in Chinese. We use the textbook which shows various Chinese grammatical rules and do a lot of composition exercises.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To understand the Chinese grammar through reading explanations shown in the textbook.
- (2) To be able to appropriately compose basic Chinese sentences through exercises such as Japanese-Chinese translation, word order, etc.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・After every class, students are required to review the textbook.
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading criteria】

- ・Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end test (50%).

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語作文初級Ⅱ

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

定員制(15)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、1年次の学習項目を復習しつつ、中国語の作文力の向上を図ることを目的とした授業である。本授業では、テキストに記載されたポイントを教員が解説するとともに、受講生は日文中訳や並べ替え問題等に取り組むことで、既習の文法事項の定着及び作文力の向上を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語の基本的な文法項目を正確に理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題等の練習を通じて、基本的な中国語文を適切に作ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、授業方法分類上は「講義」であるが、講義形式と演習形式を適宜組み合わせで行う。
- ・受講生は、各回で扱う内容を予習しておくこと（予習箇所は授業内で指示する）。授業時に適宜指名し、自分の解答を発表してもらう。
- ・教員は、文法ポイントを説明した後に、学生による練習問題の回答を確認し、適宜解説を行う。
- ・各種のフィードバックや質問の受け付けは毎回の授業時に行う。授業時以外にも、必要に応じてメールや学習支援システムで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認 (本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など)
2	第11課	形容詞の程度と動詞の様態
3	第12課	比較・類似
4	第13課	時制とアスペクト
5	第14課	結果・方向・可能
6	第15課	二重目的語と対象を表わす前置詞
7	復習1	第11課～第15課までの復習
8	第16課	使役・受け身・“把”
9	第17課	仮定・条件
10	第18課	順序・全称
11	第19課	原因・目的・逆接
12	第20課	並列・累加
13	復習2	第16課～第20課までの復習
14	総括	試験とその解説、学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業開始後は、テキストの復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・遠藤光暁、董燕『書く中国語』朝日出版社（2,200円＋税）

【参考書】

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹2017『中国語はじめての一步〔新版〕』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎〔改訂新版〕』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（予習の実施状況、授業内で指名された時の回答状況等）を50%、期末試験を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より授業担当者変更のため特になし。受講生の中国語の習熟度を適宜確認しつつ授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・授業に関する連絡はすべて学習支援システムを通じて行うため、必ず確認すること。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。
- ・適宜、補足資料を配付する可能性もあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。

【Outline (in English)】

【Outline】

In this course, students will mainly improve their writing skills in Chinese. We use the textbook which shows various Chinese grammatical rules and do a lot of composition exercises.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To understand the Chinese grammar through reading explanations shown in the textbook.
- (2) To be able to appropriately compose basic Chinese sentences through exercises such as Japanese-Chinese translation, word order, etc.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・After every class, students are required to review the textbook.
- ・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading criteria】

- ・Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end test (50%).

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語視聴覚初級 I

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制(35)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は水曜日3限の中国語視聴覚中級A・Bと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。

【到達目標】

1年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第1課	文法理解と応用
3	第1課	会話と応用
4	第1課	読解文の理解と応用
5	第1課	課外練習と作文
6	第2課	文法理解と応用
7	第2課	会話と応用
8	第2課	読解文の理解と応用
9	第2課	課外練習と作文
10	第3課	文法理解と応用
11	第3課	会話と応用
12	第3課	読解文の理解と応用
13	第3課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

This class uses the same textbook as Wednesday 3rd period Chinese Audiovisual Intermediate A/B. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

中国語視聴覚初級Ⅱ

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

定員制(35)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。

【到達目標】

1年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第4課	文法理解と応用
3	第4課	会話と応用
4	第4課	読解文の理解と応用
5	第4課	課外練習と作文
6	第5課	文法理解と応用
7	第5課	会話と応用
8	第5課	読解文の理解と応用
9	第5課	課外練習と作文
10	第6課	文法理解と応用
11	第6課	会話と応用
12	第6課	読解文の理解と応用
13	第6課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

This class uses the same textbook as Wednesday 3rd period Chinese Audiovisual Intermediate A/B. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.

Final grade will be calculated according to the following Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

資格中国語初級 I

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK (図々水平考図) 1級～3級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的ですが、例年レベルが高い学生が多いため、春学期中に2～3級、秋学期中に3～4級に合格できるよう指導します。HSKのリスニングは難しいので、中国検定準4級程度からトレーニングを始めていきます。向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。中国語を1年以上履修した学生に限ります。中国語が好きな人が集まりますので、気軽に情報交換できる楽しいクラスを目指します。毎年全員が高得点で合格しています。

【到達目標】

春学期はHSK 2～3級に合格できるリスニング力と読解力を身につけてもらいます。秋学期はHSK3～4級合格を目指します。昨年の3級合格者は7名でした。平均点は247点で、内訳は、聴力78点、閱讀86点、写作83点でした。日本人が苦手な聴力の得点も良好で、閱讀では4人が100点（満点）でした。また4級には4人合格しました。履修者は2年生が多いですが、就活を終えた4年生もいます。1年生のとき使用した教科書ポイント学習を復習しながら、初級中国語の基礎文法のしくみを解説します。必ずレベルアップを感じていただけたと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

HSKの過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。単語帳のテキストを使って、単語テストを行い、語彙力を高めます。ポイント学習の教科書を使って初級中国語の文法の構造を把握し理解します。フィードバックは授業内とメールで行います。メールは、qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1 級過去問①	HSK 1 過去問①を解き解説します。
3	HSK 1 過去問②	HSK 1 過去問②を解いて解説します。
4	HSK 2 過去問①	HSK 2 過去問①を解いて解説します。
5	HSK 2 過去問②	HSK 2 過去問②を解いて解説します。
6	HSK 2 級過去問③	HSK 2 級過去問③を解いて解説します。
7	HSK 2 級過去問④	HSK 2 級過去問④を解いて解説します。
8	HSK 3 級過去問①	HSK 3 級過去問①を解いて解説します。

9	HSK 3 級過去問②	HSK 3 級過去問②を解いて解説します。
10	HSK 3 級過去問③	HSK 3 級過去問③を解いて解説します。
11	HSK 3 級過去問④	HSK 3 級過去問④を解いて解説します。
12	HSK 3 級過去問⑤	HSK 3 級過去問⑤を解いて解説します。
13	HSK 3 級過去問⑥	HSK 3 級過去問⑥を解いて解説します。
14	春学期復習と学習のまとめ	復習テストと学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

過去問はプリントを配布します。法政大学のHSK合格講座のサイトも活用します。次のテキストを使用します。履修を決めてから購入してください。HSK/中検対応『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。ポイント学習中国語を毎回持参してください。

【参考書】

HSK過去問、HSK公式アプリ単語、法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】

出席状況80%と期末テスト20%で評価します。HSK合格者は、S評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

単語帳テキストを使って、単語テストを実施し、語彙力を高めます。同時にリスニングのトレーニングを多く行います。文法がもっとわかるようになりたいという要望が多いので、ポイント学習中国語を使って解説します。文法の基礎と構造を理解していただけるように工夫します。プリント教材の質を向上させて、復習しやすいように心がけます。また欠席者が困らないように、授業内容は、hoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマホ

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc200LA (中国語 / Chinese language education 200)

資格中国語初級Ⅱ

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3－4級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎しますが、春学期のシラバスを読んで、初回の授業に出てから履修を決めてください。中国語が好きで意欲的な学生の参加を歓迎します。

【到達目標】

HSK 3－4級合格以上を目指します。昨年は4級は4人合格しました。詳細は春学期のシラバスをご覧ください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3－4級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。そのほか単語帳とポイント学習中国語の教科書で初級文法の構造を解説します。フィードバックは授業内とメールで行います。qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HSK 3級昨年度の過去問を使ったレベルチェックテスト	HSK 3級昨年度の過去問を使って皆さんのレベルをチェックします。
2	HSK 3級過去問①	HSK 3級過去問①を解いて解説します。
3	HSK 4級単語解説	HSK 4級に出る単語を解説します。
4	HSK 4級過去問リスニングチェックテスト①	HSK 4級過去問リスニングを解いてリスニング力をチェックします。
5	HSK 4級過去問リスニング②	HSK 4級過去問リスニング②を解いて解説します。
6	HSK 4級過去問リスニング③	HSK 4級過去問リスニング③を解いて解説します。
7	HSK 4級過去問リスニング④	HS 4級過去問④を解いて解説します。
8	HS 4級過去問閱讀①	HSK 4級過去問閱讀①を解いて解説します。
9	HSK 4級過去問閱讀②	HSK 4級過去問閱讀②を解いて解説します。
10	HSK 4級過去問閱讀③	HSK 4級過去問③を解いて閱讀の解説します。
11	HSK 4級過去問閱讀④	HSK 4級過去問閱讀④を解いて、閱讀の解説をします。
12	HSK 4級過去問作文①	HSK 4級過去問の2作文練習をします。
13	HSK 4級過去問	HSK 4級過去問の作文②を学習します。

14 授業の総まとめ期末テスト実施 期末テスト実施、解説をしながら学習の総まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。プリント以外に、次の単語帳テキストを使用します。

『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。またポイント学習中国語を持参することが望ましいです。

【参考書】

HSK－4 3級過去問、単語集。法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】

出席状況80%、期末テスト20%で評価します。HSK 3級以上合格者はSランクで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

欠席者が困らないように、授業内容はhoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、PC。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 200)

中国語の世界ⅠA

2017年度以降入学者

サブタイトル：

高柳 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ことばは一般に「コミュニケーションのための手段」と見なされることが多いですが、ことばが使われる時、その背後には整然としたしくみが存在しています。本授業は、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった分野に分けて学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解するところが本授業の目的です。

【到達目標】

中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得すること、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	中国語の文字（１）	漢字の起源と変遷
③	中国語の文字（２）	漢字の簡略化及び文字改革と簡体字
④	中国語の音韻（１）	古代の音とその表記法
⑤	中国語の音韻（２）	古代の音から現代の音へ
⑥	中国語の音韻（３）	ピンインの成立とその表記法
⑦	中国語の語彙（１）	古代の語彙とその分類
⑧	中国語の語彙（２）	古代の語彙から現代の語彙へ
⑨	中国語の語彙（３）	日中語彙交流と外来語・新語・流行語
⑩	中国語の文法（１）	中国語の文構造と品詞分類
⑪	中国語の文法（２）	中国語文法研究の変遷
⑫	共通語と方言（１）	共通語の成立と広がり
⑬	共通語と方言（２）	共通語と諸方言の比較
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】

参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、期末試験（70％）とします。

※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、小レポート等が含まれます。

※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

※リアクションペーパーと期末試験は日本語で回答することが必須となります。

【学生の意見等からの気づき】

前年度よりもベースを落として、じっくり進めていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。

なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .

【Learning activities outside of classroom】

4 hours for preparation and review for each class.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 70%、Short reports and in class contribution: 30%

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

中国語の世界ⅡB

2017年度以降入学者

サブタイトル：

高柳 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続いて本授業では、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】

中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	類型論からみる中国語（1）	形態的類型論における中国語
③	類型論からみる中国語（2）	語順類型論における中国語
④	中国語文法の分析（1）	中国語と西洋文法の受容
⑤	中国語文法の分析（2）	中国語とアスペクト
⑥	中国語文法の分析（3）	中国語と補語
⑦	中国語文法の分析（4）	中国語と類像性
⑧	中国語史（0）	中国語史における時代区分
⑨	中国語史（1）	上古中国語の特徴
⑩	中国語史（2）	中古早期中国語の特徴
⑪	中国語史（3）	中古中国語の特徴
⑫	中国語史（4）	近代中国語の特徴
⑬	応用演習	中国語と能格性
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験をおこないません。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】

参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、期末試験（70%）とします。

※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、小レポート等が含まれます。

※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

※リアクションペーパーと期末試験は日本語で回答することが必須となります。

【学生の意見等からの気づき】

前年度よりもペースを落として、じっくり進めていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。

なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .

【Learning activities outside of classroom】

4 hours for preparation and review for each class.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 70%, Short reports and in class contribution: 30%

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

中国の文化と社会 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。

日本と台湾は長い歴史の中で深いかかわりを持っています。

本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】

日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。

最終回には教場レポートを提出してもらいます。

出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第3回） 教員による解説・講義

第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめとレポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。
映画は各自で観てください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60%、レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

中国の文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、2008年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として香港の社会と文化についてみていきます。

【到達目標】

中国香港の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。

最終回には教場レポートを提出してもらいます。

出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 序章』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 序章』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 序章』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 葉問』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 葉問』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン 葉問』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン 継承』（第1回） 教員による解説・講義

第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン 継承』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン 継承』（第3回） 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン 外伝』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン 外伝』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン 外伝』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。映画は各自で観てきてください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、毎回のコメントペーパー）60%、レポート40%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

中国の文化と社会 L C 2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳 瀟瀟

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中国の文化および社会に関する基礎知識を体系的に学ぶ。中国の食文化、民俗行事、芸術工芸、文化遺産などの伝統文化を概観するとともに、現代中国社会における学校教育、社会構造、生活様式、流行文化などについても取り上げ、具体的な事例を交えながら理解を深める。これらの学習を通じて、中国文化の多様性と現代中国社会の実態を多角的に捉える視点を養い、異文化に対する理解力および国際社会における異文化交流能力の向上を目的とする。

【到達目標】

- ・中国の文化および社会に関する基礎的な知識を習得する。
- ・中国社会における諸事象を理解し、その背景を踏まえて分析・考察する力を養う。
- ・中国のマナー、文化習慣、商習慣に対する理解を深める。
- ・現代中国社会の事象や流行を、客観的かつ多角的な視点で捉える力を養う。
- ・異文化理解力および異文化交流能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションも行う。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムを通じて行う。
※授業は対面で実施する。授業形態に変更がある場合は、大学の方針が確定次第、学習支援システムにて随時通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスおよび授業内容の説明 ・授業計画、進め方および成績評価の基準の説明
第2回	行政区画・地理	・中国の東西南北と地理の概念 ・地域ごとの特徴と差
第3回	漢民族と少数民族	・漢民族 ・少数民族
第4回	中国語という言葉	・漢字の歴史と発展 ・普通話と方言
第5回	食文化	・中華料理の特徴 ・「南北」の食文化の違い ・円卓文化の理解 ・デリバリー文化の流行
第6回	コミュニケーション文化1	・茶文化 ・酒文化
第7回	コミュニケーション文化2	・中国におけるビジネスマナー ・「面子（メンツ）」の概念と理解
第8回	祝祭日と民俗行事	・二十四節気と祝祭日 ・民俗行事

第9回	芸術：音楽、絵画と戯曲	・音楽：燕楽、琴楽、民謡 ・絵画：花鳥画、山水画 ・戯曲：昆劇、京劇、川劇
第10回	学校教育	・「科挙」と「高考」 ・現代中国の教育制度 ・都市と農村における教育格差
第11回	「巻」と「躺平」	・「巻」の概念 ・「躺平」の意味と背景 ・若者世代の現状と特徴
第12回	「二次元文化」と「国潮」	・急成長する二次元文化 ・新しいカルチャー「国潮」
第13回	異文化コミュニケーション	・異文化コミュニケーションのギャップ ・異文化コミュニケーションスキル ・プレゼンテーション・ディスカッション ・プレゼンテーション・ディスカッション
第14回	授業内容のまとめレポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に、学習支援システムにアップロードされた講義資料を必ず読んでおくこと。
・授業後は、関連知識を振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で提示される課題やディスカッションの内容に対応すること。

【テキスト（教科書）】

本授業では特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布するほか、講義資料は事前に学習支援システムにアップロードされる場合があり、その際は同システムで通知する。

【参考書】

中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
楼宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。
- ・上記の成績評価に基づき、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解を深めるため、音声・映像などのマルチメディアを積極的に活用する。
私語を控え、授業に集中しやすい学習環境を整える。
学生が学んだ知識を今後の仕事や日常生活に活かせるように、本授業では中国の文化と社会に加え、異文化交流や国際社会における礼儀・マナーも一取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセス可能なパソコンまたはタブレット。

【その他の重要事項】

学習支援システムにて本授業の連絡事項を必ず確認すること。
質問や不明点がある場合は、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jp までご連絡ください。

【Outline (in English)】

This course aims to provide a systematic introduction to Chinese culture and society. It covers key aspects of traditional culture, including food culture, folk customs, arts and crafts, and cultural heritage, while also examining contemporary Chinese society through topics including education, social structure, lifestyles, and popular culture. Through these explorations, the course aims to deepen students' understanding of cultural diversity and contemporary social realities in China, and to enhance their intercultural awareness and cross-cultural communication skills in a global context.

【Learning Objectives】

- ・ Acquire fundamental knowledge of Chinese culture and society.
- ・ Analyze and interpret various aspects of Chinese society in context.
- ・ Develop an understanding of Chinese manners, cultural practices, and business customs.
- ・ Develop the ability to view contemporary Chinese society phenomena and trends from an objective and multifaceted perspectives.
- ・ Enhance intercultural understanding and cross-cultural communication skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each class session, for a total of four hours per session.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be based on in-class participation (60%) and term-end report (40%). A total score of 60% or higher is required to pass the course.

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会 L D 2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳 瀟瀟

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、中国の文化および社会に関する基礎知識を体系的に学ぶ。まず、中国の宗教、文学、美術工芸、世界遺産、冠婚葬祭などを概観し、歴史的・文化的背景を理解する。次に、現代中国社会に焦点を当て、情報化やグローバル化に伴う価値観の変化、消費行動の変化、ジェンダー構造の変容について考察する。これらの学習を通じて、中国の文化と社会の特徴を理解し、その変遷を多角的に捉える力を養うことを目指す。また、異文化理解と異文化交流の視点を深めるとともに、自らの考えを発展させるとともに、国際社会での異文化交流能力の向上を目的とする。

【到達目標】

- ・中国の文化および社会に関する基礎的な知識を習得する。
- ・中国社会の諸事象を理解し、その背景を踏まえて分析・考察する力を養う。
- ・中国の冠婚葬祭に関するマナーや文化習慣への理解を深める。
- ・現代中国社会の事象や流行を、客観的かつ多角的な視点から捉え、自らの考えを発展させる。
- ・異文化理解および異文化交流能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションも行う。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムにて行う。
※授業は対面で実施する。授業形態に変更がある場合は、大学の方針が確定次第、学習支援システムに随時通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教	・民間信仰と祖先崇拜 ・道教と仏教
第2回	文学	・古代文学 ・唐詩と宋詞 ・近現代文学
第3回	美術工芸	・ガラス工芸 ・陶器、磁器、景泰藍 ・刺繍
第4回	中国の世界遺産 1	・故宮 ・万里の長城 ・始皇帝陵と兵馬俑
第5回	中国の世界遺産 2	・パンダ保護区群 ・莫高窟、龍門石窟、雲岡石窟、大足石刻 ・九寨溝、黃龍、黃山、桂林
第6回	冠婚葬祭	・結婚式 ・葬儀

第7回	SNSとショート動画	・SNSと「自媒体」 ・ショート動画の急成長 ・娯楽性と実用性
第8回	消費行動の変化	・店頭購入とネットショッピング ・爆買いから理性消費へ ・モノ消費からコト消費へ
第9回	ジェンダー構造の変容とフェミニズム	・男尊女卑と男女平等 ・フェミニズム ・ジェンダー構造の変容
第10回	異文化コミュニケーション 1	・カルチャーショック ・異文化受容と異文化適応 ・自文化の変容
第11回	プレゼンテーション・ディスカッション 1	・カルチャーショック ・異文化理解・自文化理解 ・ディスカッション
第12回	異文化コミュニケーション 2	・多文化社会とは ・多文化共生へ ・マイノリティへの理解
第13回	プレゼンテーション・ディスカッション 2	・プレゼンテーション ・ディスカッション
第14回	授業内容のまとめレポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に、学習支援システムにアップロードされた講義資料を必ず読んでおくこと。
・授業後は、関連知識を振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で提示される課題やディスカッションの内容に対応すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布するほか、講義資料は事前に学習支援システムにアップロードされる場合があり、その際は同システムで通知する。

【参考書】

中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
楼宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。
- ・上記の成績評価に基づき、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解を深めるため、音声・映像などのマルチメディアを積極的活用する。
私語を控え、授業に集中しやすい学習環境を整える。
学生が学んだ知識を今後の仕事や日常生活に活かせるように、本授業では中国の文化と社会に加え、異文化交流や国際社会における礼儀・マナーも取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセス可能なパソコンまたはタブレット。

【その他の重要事項】

学習支援システム上の本授業の連絡事項を必ず確認すること。
不明な点がある場合、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jpまでご連絡ください。

【Outline (in English)】

This course provides a systematic introduction to Chinese culture and society. It covers traditional culture, including religion, literature, arts and crafts, World Heritage sites, and life-cycle rituals, with a focus on their historical and cultural contexts. The course also explores contemporary society, examining changes in values, consumer behavior, and gender structures. Through these studies, students will develop a multifaceted understanding of Chinese culture and society, foster critical thinking, and enhance intercultural understanding and communication skills.

【Learning Obejectives】

- ・ Acquire fundamental knowledge of Chinese culture and society.
- ・ Understand various aspects of Chinese society and develop the ability to analyze them in context.
- ・ Gain a deeper understanding of etiquette and cultural practices related to Chinese life-cycle rituals.
- ・ Critically analyze contemporary Chinese society and trends and develop personal perspectives.
- ・ Develop intercultural understanding and cross-cultural communication skills.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend approximately four hours per session on preparation and review.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be based on in-class participation(60%) and term-end report (40%). A total score of 60% or higher is required to pass the course.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

スペイン語コミュニケーションⅠ 2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、仲間と練習する。次に暗記した表現をベースにしてモデル文章を書き換えて発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación personal y del curso	自己紹介の方法を学ぶ。 授業概要
2	El patio cordobés 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	El patio cordobés 2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	La Alhambra 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	La Alhambra 2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	Las universidades de Hispanoamérica 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	Las universidades de Hispanoamérica 2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	Encuentro culinario en Perú 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	Restaurantes peruanos en Tokio	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

10	El Gaucho 1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	El Gaucho 2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	El maíz	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	El origen del maíz	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施し、今学期のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者はペアで練習を行うので、予習をしっかりと行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した8個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

23 lecturas de español con CD-ROM

N. Iziri, M. Hayashi, Y. Tajiri

Editorial Asahi

【参考書】

辞書(電子辞書可)

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

教師が用意した教材を改善し、生徒間でより良いコミュニケーションを実現するために生徒間で信頼できる環境を作ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examination.

Regular point evaluation: 50%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Midterm exam: 20%.

Final oral exam: 30%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pair, so they are expected to prepare well and actively participate in class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と作文練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、仲間と練習する。次に暗記した表現をベースにしてモデル文章を書き換えて発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso.	授業の説明。
2	Historia de Madrid I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	Los primeros pobladores de América I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	Los primeros pobladores de América II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	La Pampa - Argentina I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	La Pampa - Argentina II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	Perú antes de los incas I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	Perú antes de los incas II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	El lago Titicaca I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	El lago Titicaca II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

11	Mi mejor regalo	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	La Navidad Intercambio de regalo	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	Año Nuevo. Eventos del año nuevo en Sudamérica	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	試験・まとめと解説	期末試験を実施し、今学期のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者はペアで練習を行うので、予習をしっかりと行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した8個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

23 lecturas de español con CD-ROM
N. IZIRI, M. HAYASHI, Y. TAJIRI
Editorial ASAHI

【参考書】

辞書(電子辞書可)

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

教師が用意した教材を改善し、生徒間でより良いコミュニケーションを実現するために生徒間で信頼できる環境を作ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examination.

Regular point evaluation: 50%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Midterm exam: 20%.

Final oral exam: 30%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pair, so they are expected to prepare well and actively participate in class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA (スペイン語 / Spanish language education 200)

現代のスペイン語Ⅰ

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

定員制(30)

2021年度までに「時事スペイン語Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。随時、初級文法の復習をおこなっていき、また、この授業では、スペイン語圏の文化や社会にも光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項の復習を中心に見ていく。随時小テストを行なうことによって、学生の理解度の把握に努める。採点済みの答案用紙は返却し、答え合わせをしながら基本的な文法事項のふりかえりに努める。質問や提出された課題に関するフィードバックは次回授業のなかで行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞および進行形	現在分詞と進行形を使った文章を読解する。
6	過去分詞および点過去	過去分詞と点過去を使った文章を読解する。
7	線過去	線過去を使った文章を読解する。
8	直説法現在完了および過去完了	直説法現在完了と直説法過去完了を使ったペルーの古代遺跡マチュ・ピチュに関する文章を読解する。
9	指示詞と所有詞の復習	指示詞と所有詞を使った文章を読解する。
10	受動表現の復習	受動表現を使った文章を読解する。
11	比較表現の復習	比較表現を使った文章を読解する。

12	無人称表現の復習	無人称表現を使った文章を読解する。
13	春学期のまとめ	春学期に学んだ文法事項の復習を行う。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フィエスタ！ フィエスタ！』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline (in English)】

A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class. The learning objective of this course is to enable students to read and comprehend texts about Spanish-speaking cultures and societies with the aid of a dictionary. The standard time for preparation and review for this class is one hour total. The grading criteria are 40% for regular assignments and 60% for the final exam.

LANs200LA（スペイン語 / Spanish language education 200）

現代のスペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

結城 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

定員制(30)

2021年度までに「時事スペイン語Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的な文法・語彙に関する知識を持つ学生に対して、スペイン語の文章を理解する力を培います。これとともに、中級レベルの文法を学び、現代のスペイン語圏の諸相とその背後にある文化や歴史について学びます。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできる力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が文章の背景等に関する説明を行った後、学生が音読、訳読し、教員が解説する。その後、関係する語彙、文法事項に関する説明を行う。課題等に対するフィードバックは授業中、またはLMSにて適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方、復習	授業の進め方を確認し、これまでの学習内容を復習する。
第2回	El Día de la Raza	「民族の日」に関する文章を読む。
第3回	点過去、線過去、過去完了	点過去、線過去、過去完了について学ぶ。
第4回	El Día de Muertos	「死者の日」に関する文章を読む。
第5回	定冠詞+関係代名詞que、過去分詞の形容詞用法	定冠詞+関係代名詞que、過去分詞の形容詞用法について学ぶ
第6回	La Navidad	クリスマスに関する文章を読む。
第7回	比較級と最上級	比較級と最上級について学ぶ。
第8回	El Día de Reyes	「主の御公現の祝日」に関する文章を読む。
第9回	受動文と不定人称文	受動文と不定人称文について学ぶ。
第10回	El Carnaval de Oruro	「オルロのカーニバル」に関する文章を読む。
第11回	推量と未来を表す時制、主格補語と目的格補語	推量と未来を表す時制、主格補語と目的格補語について学ぶ。
第12回	La Fiesta Nacional de la Vendemia	「ブドウ収穫祭」に関する文章を読む。
第13回	過去未来	過去未来の用法について学ぶ。
第14回	テストとまとめ	期末テストを実施し、この授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必ず行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村上陽子他『フィエスタ！ フィエスタ！ 一解きながら読むスペイン語圏の12ヶ月』朝日出版社、2017年、2,530円

【参考書】

指定しませんが、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、課題と期末テスト50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規に授業を担当するためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

準備学習、授業、各種テスト、課題実施時に生成AIを使用することはできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to develop students' ability to comprehend Spanish texts, building on their foundational knowledge of Spanish grammar and vocabulary. At the same time, students will study intermediate-level grammar and explore various aspects of contemporary Spanish-speaking societies, as well as the cultural and historical backgrounds that shape them.

【Learning objectives】

This course aims to develop students' ability to read and understand texts related to the culture and society of the Spanish-speaking world with the aid of a dictionary.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to complete both preparation and review of the textbook materials used in class. The standard time allocated for preparation and review combined is approximately one hour per class session.

【Grading criteria】

Grading will be based on the following components: 50% class participation and in-class performance, and 50% assignments and the final examination.

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

スペイン語の世界 L A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏で製作された映画を通じて、スペイン語圏の文化や社会、歴史について学びます。映画の中に出てくるスペイン語の台詞解説によって、スペイン語学習者にとっては、スペイン語による表現のさらなる理解につながります。また、スペイン語を学んでいない方にとっては、スペイン語の発音や文法に触れる絶好の機会となり、いずれにしても本授業は異文化理解の糸口となります。

【到達目標】

*日本で公開されたスペイン語圏の代表的な映画について、それぞれの内容と社会・文化・歴史的背景を踏まえて理解できるようになる。

*映画の内容について、自国とスペイン語圏の比較も交えた意見交換や議論ができるようになる。

*スペイン語圏の映画について、その魅力を他者に伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

取り上げる映画についての講義授業の回と学生が演習・発表する授業の回を交互に行います。各回で取り上げる映画はすべて、大学の視聴覚ライブラリーに所蔵しているため、受講生は予習・復習のために各自で視聴することができます。映画はすべて日本語字幕が付いているものを活用し、スペイン語の台詞については丁寧な解説を行うため、スペイン語学習経験がなくても、受講に問題はありませぬ。スペイン語圏に関心がある方なら大歓迎です。

演習・発表の回では、受講生によるプレゼンテーションとグループ（ペア）ワークを行うことで、取り上げる映画作品とテーマについてさらに理解を深めたり、他人の意見によって新たな気づきを得ることができます。

リアクションペーパーへのコメントや質問には、授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説とオリエンテーション
2	ピクトル・エリセ監督作品（講義）	『ミツバチのささやき』『エル・スール』の中のスペイン語
3	ピクトル・エリセ監督作品（演習）	ピクトル・エリセ監督作品について学生による発表
4	ディズニーが描くメキシコ（講義）	『リメンバー・ミー』の台詞とスペイン語
5	ディズニーが描くメキシコ（演習）	『リメンバー・ミー』について学生による発表

6	カルロス・サウラ監督1（講義）	『カラスの飼育』『ゴヤ』の台詞とスペイン語
7	カルロス・サウラ監督2（演習）	『ゴヤ』とカルロス・サウラ監督について学生による発表
8	ペドロ・アルモドバル監督1（講義）	『ボルベール』の台詞とスペイン語
9	ペドロ・アルモドバル監督2（演習）	『ボルベール』とペドロ・アルモドバル監督について学生による発表
10	ギジェルモ・デル・トロ監督（講義）	『パンズ・ラビリンズ』の台詞とスペイン語
11	ギジェルモ・デル・トロ監督（演習）	『パンズ・ラビリンズ』とギジェルモ・デル・トロ監督について学生の発表
12	トマス・グティエレス監督（講義）	『低開発の記憶』『苺とチョコレート』の台詞とスペイン語
13	トマス・グティエレス監督（演習）	『苺とチョコレート』とトマス・グティエレス監督についての学生の発表
14	今学期の総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。

授業で取り上げる映画作品は、AVライブラリーに所蔵しているため、授業時間外に各自でも視聴する事を強く勧めます。

また、発表を担当する作品については映像資料だけでなく、文献を調べて十分な時間をかけて準備することが必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

柳原孝敦『映画に学ぶスペイン語』教育評論社、2021年、2,200円（税込）

【成績評価の方法と基準】

コメントシート・授業貢献度による平常点（60％）と発表（40％）をめやすに、総合的に評価します。3回以上の欠席は成績「不可」となります。なお、15分以上の遅刻は2回で1回分の欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

取り上げる映画について、最新情報も踏まえながら再検討します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn about the culture, society, and history of Spanish-speaking countries through movies produced in them.

It also explains the Spanish lines that appear in the movies, which will help those who are learning Spanish to better understand Spanish expressions, and for those who have not learned Spanish, it will be a great opportunity to learn it.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process reports (60%), and in-class contribution (40%).

ARSA200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

スペイン語の世界 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏で製作された映画を通じて、スペイン語圏の文化や社会、歴史について学びます。映画の中に出てくるスペイン語の台詞解説によって、スペイン語学習者にとっては、スペイン語による表現のさらなる理解につながります。また、スペイン語を学んでいない方にとっては、スペイン語の発音や文法に触れる絶好の機会となり、いずれにしても本授業は異文化理解の糸口となります。

【到達目標】

*日本で公開されたスペイン語圏の代表的な映画について、それぞれの内容と社会・文化・歴史的背景を踏まえて理解できるようになる。
*映画の内容について、自国とスペイン語圏の比較も交えた意見交換や議論ができるようになる。

*スペイン語圏の映画について、その魅力を他者に伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

取りあげる映画についての講義授業の回と学生が演習・発表する授業の回を交互に行います。各回で取りあげる映画はすべて、大学の視聴覚ライブラリーに所蔵しているため、受講生は予習・復習のために各自で視聴することができます。映画はすべて日本語字幕が付いているものを活用し、スペイン語の台詞については丁寧な解説を行うため、スペイン語学習経験がなくても、受講に問題はありません。スペイン語圏に関心がある方なら大歓迎です。

演習・発表の回では、受講生によるプレゼンテーションとグループ（ペア）ワークを行うことで、取りあげる映画作品とテーマについてさらに理解を深めたり、他人の意見によって新たな気づきを得ることができます。

リアクションペーパーへのコメントや質問には、授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説とオリエンテーション
2	スペイン内戦1（講義）	『ペーパー・バード』の台詞とスペイン語
3	スペイン内戦2（演習）	『ペーパーバード』についての学生による発表
4	スペイン内戦3（講義）	『キャロルの初恋』の台詞とスペイン語
5	スペイン・内戦（演習）	『キャロルの初恋』『蝶の舌』に関する学生による発表

6	チェ・ゲバラとキューバ革命1（講義）	『ゲバラとカストロ』『モーターサイクル・ダイアリーズ』の台詞とスペイン語
7	チェ・ゲバラとキューバ革命2（演習）	チェ・ゲバラとキューバ革命に関する学生による発表
8	ペドロ・アルモドバル監督作品（講義）	『オール・アバウト・マイ・マザー』の台詞とスペイン語
9	ペドロ・アルモドバル監督作品	アルモドバル監督作品についての学生による発表
10	新大陸とキリスト教（講義）	『ミッション』の解説
11	新大陸とキリスト教（演習）	『ミッション』について学生による発表
12	パブロ・ネルーダ（講義）	『イル・ポスティエノ』とネルーダの詩に関する解説
13	パブロ・ネルーダ（演習）	パブロ・ネルーダに関する学生による発表
14	今学期の総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、計4時間を標準とします。授業で取りあげる映画作品は、AVライブラリーに所蔵しているため、授業時間外に各自でも視聴する事を強く勧めます。また、発表を担当する作品については、映像資料だけでなく、文献を調べて十分な時間をかけて準備することが必要です。

【テキスト（教科書）】

指定のテキストはありません。必要に応じて授業内で資料を配付します。

【参考書】

柳原孝敦『映画に学ぶスペイン語』教育評論社、2021年、2,200円（税込）。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートや授業への貢献度による平常点（60%）と発表（40%）をめやすに、総合的に評価します。3回以上の欠席は成績「不可」となります。なお、15分以上の遅刻は2回で1回分の欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

取りあげる映画について、受講生からの要望も取り入れます。

【その他の重要事項】

取りあげる映画の順番については、初回の授業内で受講生と相談して調整する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn about the culture, society, and history of Spanish-speaking countries through movies produced in them.

It also explains the Spanish lines that appear in the movies, which will help those who are learning Spanish to better understand Spanish expressions, and for those who have not learned Spanish, it will be a great opportunity to learn it.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process reports (60%), and in-class contribution (40%).

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 4 B I (視聴覚) 2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
 スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
 韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国の小説・ドラマ・歌・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 語彙、文型を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話 サランバンのお客さんとおモニ ①②	自己紹介・会話 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さんとおモニ ③④ シークレットガーデン1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	サランバンのお客さんとおモニ ⑤⑥ 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さんとおモニ ⑦⑧ シークレットガーデン2	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さんとおモニ ⑨⑩ アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	サランバンのお客さんとおモニ ⑪⑫	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	サランバンのお客さんとおモニ ⑬⑭ シークレットガーデン3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	中間試験	単語 暗誦

9	サランバンのお客さんとおモニ ⑮⑯ アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さんとおモニ ⑰⑱ 会話	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習 会話練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	サランバンのお客さんとおモニ ⑲⑳ シークレットガーデン4	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さんとおモニ 最終回 シークレットガーデン5	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験 フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。
 本授業の準備・復習時間は各3時間を要する。

【テキスト（教科書）】
 プリント配布

【参考書】
 川口義一監修『耳から入る韓国語1』学研
 シークレットガーデン DVD

【成績評価の方法と基準】
 平常点（参加度、積極性、課題）40%、テスト（単語・暗誦・会話）60%
 単語テストが50点以下の場合は単位が出ない。
 4回以上の欠席で単位は出ない。

【学生の意見等からの気づき】
 韓国人留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため、留学生の協力が得られればネイティブとの会話の時間を設けます。

【その他の重要事項】
 課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
 2年生～4年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語3より受講生のレベルが高くなる傾向があります。聞き取りとスクリプト翻訳がメインになるため朝鮮語の一定のレベルが要求されます。
 定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。
 この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンB（朝鮮語週2コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。
 初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】
[Course outline and learning objectives]
 This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.
[Learning activities outside of classroom]
 Students are expected to study 3hours at home for assignments and quizzes.
[Grading criteria /policy]
 Participation20%, Assignments20%, Exam60%
 ※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 4 B II (視聴覚) 2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
 スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
 韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国のドラマ・歌・アナウンス・スピーチなどの聞き取りを通し、音から理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	スピーチなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	華麗なる遺産 4	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	アナウンスなど	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産 5	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	中間試験	単語 暗唱

10	華麗なる遺産 6 会話	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習 会話練習
11	留学生との会話	ネイティブと会話
12	華麗なる遺産 7	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 8	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験 フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スクリプト翻訳・単語暗記・音読・暗唱等の課題を行うこと。
 本授業の準備・復習時間は合計3時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加度、積極性、課題）40%、テスト（単語・暗誦・会話）60%

単語テストが50点以下の場合は、単位が出ない。

4回欠席の場合、単位が出ない。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設ける予定です。

【その他の重要事項】

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
 2年生～4年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語3より受講生のレベルが高くなる傾向があります。聞き取りとスクリプト翻訳がメインになるため朝鮮語の一定のレベルが要求されます。
 定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。
 この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンB（朝鮮語週2コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。
 初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】**[Course outline and learning objectives]**

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study 3 hours at home for assignments and quizzes.

[Grading criteria /policy]

Participation, Assignments 40%, Exam 60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 5 A I (講読)

2017年度以降入学者

荻野 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞記事やエッセイ、小説などを読み、韓国の文化や社会への理解を深めていくとともに読解力のさらなる向上をはかります。

【到達目標】

様々なジャンルの文章を読むことによって、さらなる語彙力の向上と読解力の強化を図ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにそって授業を進めます。わからない単語等は調べて授業にのぞんでください。授業ではテキストの内容について翻訳・発表をしてもらい、文法事項の補足や参考訳、内容についての説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方 ・レベルチェック ・自己紹介
2	説明文を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
3	説明文を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
4	説明文を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
5	説明文を読む(4)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
6	随筆を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
7	随筆を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
8	随筆を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説

9	随筆を読む(4)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
10	小説を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
11	小説を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
12	小説を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
13	小説を読む(4)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
14	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布

【参考書】

「韓日辞典」小学館など

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

課題、小テスト等：20%

期末試験：60%

出席が2/3に満たない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

ある程度長い文章を読んでいながら語感を磨き、原語で文章を味わう楽しさを感じてほしいと思います。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせて内容を若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

By reading newspaper articles, essays, novels, etc., this class aims to deepen students' understanding of Korean culture and society and to improve their further reading comprehension.

【到達目標（Learning Objectives）】

This class aims to improve students' further vocabulary and reading comprehension by reading texts in a variety of genres.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. It is recommended strongly to study more than two hours per a week for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Completing all required components of the course is necessary to pass the course. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (60%), and in-class contribution (20%).

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)	
朝鮮語 5 A II (講読)	2017年度以降入学者
荻野 優子	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：月 4/Mon.4
単位数：1単位	
定員制(30)	
その他属性：〈優〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞記事やエッセイ、小説などを読み、韓国の文化や社会への理解を深めていくとともに読解力のさらなる向上をはかります。

【到達目標】

様々なジャンルの文章を読むことによって、さらなる語彙力の向上と読解力の強化を図ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにそって授業を進めます。わからない単語等は調べて授業にのぞんでください。授業ではテキストの内容について翻訳・発表をしてもらい、文法事項の補足や参考訳、内容についての説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方 ・自己紹介など
2	新聞記事を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
3	新聞記事を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
4	新聞記事を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
5	詩を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
6	詩を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
7	随筆を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
8	随筆を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説

9	随筆を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
10	小説を読む(1)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
11	小説を読む(2)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
12	小説を読む(3)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
13	小説を読む(4)	・語彙、文法 ・翻訳 ・内容理解 ・説明と解説
14	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布

【参考書】

「韓日辞典」小学館など

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

課題、小テスト等：20%

期末試験：60%

出席が2/3に満たない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

ある程度長い文章を読んでいながら語感を磨き、原語で文章を味わう楽しさを感じてほしいと思います。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせて内容を若干変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

By reading newspaper articles, essays, novels, etc., this class aims to deepen students' understanding of Korean culture and society and to improve their further reading comprehension.

【到達目標（Learning Objectives）】

This class aims to improve students' further vocabulary and reading comprehension by reading texts in a variety of genres.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. It is recommended strongly to study more than two hours per a week for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Completing all required components of the course is necessary to pass the course. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (60%), and in-class contribution (20%).

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 5 B I (表現法) 2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。

韓国の時事ニュースに触れ、時事単語、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。学生のレベルに合わせ、導入用に朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読み、伝統文化への理解も深めたりする。中級向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をすることで、話すことに慣れていく。慣れてきたら、PPTを作成してプレゼンテーションの練習も随時していきたい。後半は昔話や時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつながっていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	「おひさまおつきさま」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	「トラと干し柿」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	『時事韓国語』BTS、KPOP再燃するか。	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	『時事韓国語』韓国映画1000万人、	会話、リスニング、リーディング、内容理解
6	『時事韓国語』正月番組特集	会話、リスニング、リーディング、内容理解
7	『時事韓国語』南北合同チーム初登場	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	『時事韓国語』「シェアハウス人気」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	『時事韓国語』「無人化加速」	会話、リスニング、リーディング、内容理解

10	『時事韓国語』「小1保護者10時出勤」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
11	『時事韓国語』「二つの母国語」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	『時事韓国語』「高齢者10人に1人認知症」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	『時事韓国語』「変わる採用試験場」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	学習のまとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、読み物課題を予習・復習すること。知らない単語を確認しておく。毎回、身近な話題について韓国語で話しますので、話題を準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布。

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典・日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、プレゼンテーション20%。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Presentation : 20%, in class contribution: 80 %.

LANk200LA (朝鮮語 / Korean language education 200)

朝鮮語 5 B II (表現法) 2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制(30)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解を深めたり、時事ニュースに触れ、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をする。言葉がすぐ出てくるよう、とにかく話すことに慣れること。その後は、時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつながっていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 『時事韓国語』 11「政府、原発新設 白紙化問題」	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	『時事韓国語』 12「はじめて呼ぶお 父さん、お母さん」、 13「国政の安定化、 協力と統合」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	『時事韓国語』 14「南北65年ぶり終 戦宣言」 15「気候変動とウミ ガメ」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	『時事韓国語』 16「日本の公衆ト イレ」 17「米朝70年の対立 に終止符」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	18「監視カメラ」 19「5G先取り競争」	会話、リスニング、リーディング、内容理解

6	20「気象ニュース」 21「ヨイドの桜」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
7	22「珍道犬」 23「仮想通貨」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	『時事韓国語』 24「変わる採用試験 現場」 25「不動産事情、ソ ウル、地方」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	『時事韓国語』 26「経済成長と就業 者の増加」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
10	『時事韓国語』 31「ワールドカップ 韓国サッカー旋風」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
11	『時事韓国語』 32「野球ニュース ロッテ5連勝中」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	『時事韓国語』 33「ニュース解説、 巨大な壁を打ち破っ た英雄」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	『時事韓国語』 34「ドラマの名所ソ ウル桂洞」 35「蚊を追ひ払う方 法、ご存知？」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	36「そば粉パスタ、 干しだらのカルグ クス」 ●学習のまとめ	内容理解、プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、身近な話題について、簡単な会話をしますので、話題を準備をしておくこと。毎回、課題の復習を十分すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布。

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典・日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、プレゼンテーション20%。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Presentation : 20%, in class contribution: 80%.

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

朝鮮の文化と社会 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会について学びます。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的であります。

【到達目標】

様々なテーマを扱った韓国映画を通して、韓国・朝鮮の文化と社会について様々は視点から読み取り、未来とつなげる力を養う授業になることがこの授業の目標であります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿って進めます。
ひとつのテーマについて2週連続で講義と映像の鑑賞という形で進めます。課題等に対するフィードバック方法は、リアクションペーパー提出や学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方について説明し、テキストや参考書の使い方について説明する。
第2回	解説と映画鑑賞①ー朝鮮半島の南北分断について	南北対立から理解へー南北分断のリアルDMZ
第3回	解説と映画鑑賞②ー朝鮮半島の南北分断について	新しい観点から南北分断を想像するー南北兵士の心理描写
第4回	韓国映画史ー時代区分と特徴	韓国映画史について、全体的な流れと時代別の特徴を概観する。
第5回	解説と映画鑑賞③ー激動の韓国現代史を生きる	激動の韓国現代史を個人史で綴るー「最も平凡な父の最も偉大な話」
第6回	解説と映画鑑賞④ー激動の韓国現代史を生きる	「産業化世代」ー朝鮮戦争後の韓国再建の主役であった家族愛の父親
第7回	韓国近現代史と映画ー日本統治下の韓国・朝鮮	韓国近現代史における日本統治時代を抜きにして韓国映画史を語ることはできない。韓国映画の創成期に当たる当時について解説する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤ー日本統治下の韓国・朝鮮	上海、京城（現ソウル）を舞台にした朝鮮人の朝鮮人暗殺を描写ー親日派暗殺作戦

第9回	解説と映画鑑賞⑥ー日本統治下の韓国・朝鮮	当時の街並み、ファッション、経済活動、居住空間、社交場など「モダン」の再現
第10回	最近の韓国の若者の恋愛観・結婚観と映画	時代の変化を反映する若者の恋愛観・結婚観を垣間見て、日本の若者との間の比較をとおして、韓国社会と日本社会の比較を試みる。
第11回	解説と映画鑑賞⑦ー青春の思い出	初恋のロマンス、青春の思い出
第12回	解説と映画鑑賞⑧ー青春の思い出	青春の多様な感情の描写、現代韓国社会の中で大人に成長していく過程を描写
第13回	映画と講義について	映画は学習手段のひとつとして有効かー韓国の文化、社会、歴史上の事象、特に抽象的な事柄を、より明確に理解可能なものにしてくれる。
第14回	春学期のまとめと期末レポートの提示	期末レポートの提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

韓国映画100選、韓国映像資料院・編、桑畑優香・訳、CUON、2019年、3500円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業に対する態度、リアクションペーパー、感想文など）50%、期末レポート50%をもって総合的に評価する。
※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

必ず課題はやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

【授業概要（Course outline）】

This course introduces Korean culture, Korean society and Korean films to students taking this course.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to develop insight and understanding of the characteristics and process of changes of Korean society and culture.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (50%), term-end report (50%), and in-class contribution.

ARSe200LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 200)

朝鮮の文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおりて朝鮮・韓国の文化と社会全般について学びます。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的であります。

【到達目標】

様々なテーマを扱った韓国映画を通して、韓国・朝鮮の文化と社会について多様な視点から読み取り、未来とつなげる力を養う授業になることがこの授業の目標であります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿って進めます。ひとつのテーマについて2週連続で講義と映像の鑑賞という形で進めます。課題等に対するフィードバック方法は、リアクションペーパー提出や学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方に関する説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第2回	解説と映画鑑賞①ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人物を韓国人から人類へ究極な状態に置かれた人々の動き
第3回	解説と映画鑑賞②ー外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人類における各差と不平等、階級化をとおりて韓国社会をみる
第4回	現代韓国社会と映画ー高齢化	現代韓国社会の特徴のひとつである高齢化社会をどのように描くか
第5回	解説と映画鑑賞③ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー老いをどのように受け入れるか、どのように生きるか
第6回	解説と映画鑑賞④ー老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴ー家族の愛情と世代間の価値観のギャップ
第7回	現代韓国社会と映画ー犯罪被害者を描く	神に罪を告白し、許しを得た殺人犯についてー被害者の家族は救われない。宗教、法、人間の関係を映画に投影する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤ー最高の価値は人間愛	人間愛は最高の価値ー人間は人間を救うことができる。子供殺人被害者の母親。

第9回	解説と映画鑑賞⑥ー宗教とは	宗教とは何か、人間とは何かー人間を救えない残酷な神の姿。神の許しとは。
第10回	映画に移る国家像	国家の危機管理能力についてー2010年代韓国政府を実例に
第11回	解説と映画鑑賞⑦ードキュメンタリー映画	国家とは何か。国家の存在理由ー国民の生命・財産の保護。
第12回	解説と映画鑑賞⑧ードキュメンタリー映画	真実究明と記者・言論の役割と力
第13回	韓国映画史を振り返るー100年史	創成期〜ルネサンス期まで
第14回	秋学期のまとめとレポートの提示	レポートの提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

韓国映画100選、韓国映像資料院・編、桑畑優香・訳、CUON、2019年、3500円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業に対する態度、リアクションペーパー、感想文など）50%、期末レポート50%をもって総合的に評価する。
※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

事前課題をやってから授業に参加してください。授業には積極的に参加してください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

【授業概要（Course outline）】

This course introduces Korean culture, Korean society and Korean films to students taking this course.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to develop insight and understanding of the characteristics and process of changes of Korean society and culture.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (50%), term-end report (50%), and in-class contribution.

LANk200LA（朝鮮語 / Korean language education 200）

朝鮮語 4 C I（コミュニケーション） 2017年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：1単位

定員制(30)

2022年度までに「朝鮮語 3 C I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次に学んだ内容を復習しながら、ハングル能力検定4級・3級の文法と語彙を取り入れ、身近な話題について繰り返し音読すること、正確な発音とコミュニケーション能力を伸ばしていきます。

【到達目標】

1年で学んだことの実践として、簡単なフレーズをパッと口に出せるように練習します。

身近な話題についての語彙を増やして文型を取り入れ、自分が話したい内容を伝えられるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行います。講師の体調などによりオンラインになる可能性があります。

授業の進め方は以下の通りです。

- ・語彙と文法を学び、新しい表現を使って例文を作ります。
- ・本文の内容について、内容理解をチェックします。
- ・ペアの学生と音読練習をして、授業内で発音のチェックをします。
- ・2課につき1度の確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 第1課 自己紹介	授業の進め方など ～することになる ～して ～しようと思う
2	第1課 自己紹介	～けれど ～ですよ ～しようと思って
3	第2課 知人を紹介 する	～しましょうか ～しますよ ～じゃないですか
4	第2課 知人を紹介 する	～存在詞・動詞の現在連体形 ～動詞の過去連体形 ～したことがある、ない
5	1, 2課確認テスト 第3課 道案内	1,2課確認テスト ～すれば ～（する）からです ～すればいい／ してはいけない
6	第3課 道案内	～だろう ～が／のに ～してから

7	第4課 休日	～した後に ～しに行きませんか ～しようと思って ～しなければならない ～（する）ことにする ～なので
8	第4課 休日	3, 4課確認テスト 第5課 大学生活 ～ですか ～ます ～だからです （まだ）～していない ～（する）ことができる／できない ～してもいい／構わない
9	3, 4課確認テスト 第5課 大学生活	～ですね ～（する）ことができそう ～してみたい
10	第5課 大学生活	～しようかと思う ～したらいいな ～ではないかと思う
11	第6課 アルバイト	5,6課確認テスト 第7課 ショッピング ～ようだ ～だそうだ ～しなければならない ～しそうだ ～してみてもいい ～だから
12	第6課 アルバイト	
13	5,6課確認テスト 第7課 ショッピング グ	
14	第7課 ショッピング グ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

名簿からリンクを送るので、指定されたグーグルクラスルームに登録してください。

毎回授業で扱う本文／会話文とその日本語訳をノートに書いてグーグルクラスルームで提出してください。手書きのノート、あるいはwordファイルのみ受け付けます。締め切り後の提出は2／3回分として算出します。

課題は次の授業までの復習型ですが、授業が難しいと感じる学生には、予習として筆写して書くことを勧めます。

テキストで2課（授業4回）ごとに、確認テストを行うので、必ず復習してください。

この授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『話してみよう韓国語 中級会話コース』

金京子著（白水社、2024）

購入ルートは問いませんが、書き込みがないことを確認して購入してください。

【参考書】

『朝鮮語辞典』小学館

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版新装版』小学館など

【成績評価の方法と基準】

欠席が4回以上の学生は評価対象外とします。公欠の学生は書類を提出してください。

授業への参加意欲が見られない場合は出席にカウントしません。遅刻は3回で欠席1回にカウントします。遅延証明は不要ですが、電車の路線名を伝えてください。

確認テスト60％、授業の出席・参加度、課題提出40％を目安に総合的に評価します。

確認テストの当日に欠席した学生は、次の出席時に受験ができますが点数は低めに換算します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

テキストの音声ダウンロードしておくこと。

ハングルキーボードで入力できることが望ましい。

【その他の重要事項】

定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンB（朝鮮語週2コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。初回の授業には必ず出席してください。

座席はくじ引きで毎回の座席を指定します。

課題は手書きを基本としますが、ハングルのキーボード入力ができる学生はwordで提出することができます。

授業内のスマホとタブレットの使用を禁止します。

【Outline (in English)】

Outline

While reviewing what we learned in the first year, you will build up much vocabulary and grammar.

By reading aloud on familiar topics repeatedly, you will develop your communication skills.

You will practice writing some simple text using the sentence in the textbook.

Goal :

You will be able to communicate what you want to talk about using fixed phrases and rich vocabulary on familiar topics.

Work to be done outside of class :

Students should send the task every week.

The preparatory study and review time for this class will be one hour in total.

Grading criteria :

Students with more than four unauthorized absences are excluded from the evaluation.

Based on 60% of the confirmation test, 20% of the class attendance and participation, and 20% of the assignment submission, we will evaluate it comprehensively.

LANk200LA（朝鮮語 / Korean language education 200）

朝鮮語 4 C II（コミュニケーション） 2017年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：1単位

定員制(30)

2022年度までに「朝鮮語 3 C II」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次に学んだ内容を復習しながら、ハングル能力検定4級・3級の文法と語彙を取り入れ、身近な話題について繰り返し音読すること、正確な発音とコミュニケーション能力を伸ばしていきます。

【到達目標】

1年で学んだことの実践として、簡単なフレーズをパッと口に出せるように練習します。

身近な話題についての語彙を増やして文型を取り入れ、自分が話したい内容を伝えられるようになります

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行います。講師の体調などによりオンラインの可能性もあります。

授業の進め方は以下の通りです。

- ・語彙と文法を学び、新しい表現を使って例文を作ります。
- ・ペアの学生と音読練習をして、授業内で発音のチェックをします。
- ・本文の内容について、内容理解をチェックします。
- ・2課につき1度の確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第8課 旅行計画	～する前田 ～したほうがいい ～したらどうですか
2	第8課 旅行計画	～だからそうなのか ～しないでください ～してもいいでしょうか
3	第9課 一人暮らし	～したりする ～（する）のに ～ようだ
4	第9課 一人暮らし	～するつもりだ ～してくれませんか ～してみたら
5	8,9課確認テスト 第10課 風邪	8,9課確認テスト ～したようだ ～したら～でした ～してはいけない
6	第10課 風邪	～しましょう ～です ～しはしたけど
7	第11課 食事	～しない？ ～しよう ～でなくてもいいよ

8	第11課 食事	～よ、～ちゃん ～ではなく～にする ～にしてもよさそうだ
9	10, 11課確認テスト 第12課 大学祭	10, 11課確認テスト ～られそうになり ～（する）ことができる／できない ～しているところだ ～お～ください ～しなくちゃ ～しなければならなかったのに
10	第12課 大学祭	～く／になる ～（する）には ～（する）しかない
11	第13課 韓国語学習	～していただけますか ～しながら ～したり
12	第13課 韓国語学習	～だと言う／そうだ ～するのをやめる ～（する）かもしれない
13	12,13課確認テスト 第14課 天気予報	～しようと言う ～するのではなく
14	第14課 天気予報	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

名簿からリンクを送るので、指定されたグーグルクラスルームに登録してください。

毎回授業で扱う本文／会話文とその日本語訳をノートに書いてグーグルクラスルームで提出してください。手書きのノート、あるいはwordファイルのみ受け付けます。締め切り後の提出は2／3回分として算出します。

課題は次の授業までの復習型ですが、授業が難しいと感じる学生には、予習として筆写してくることを勧めます。

テキストで2課（授業4回）ごとに、確認テストを行うので、必ず復習してください。

この授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『話してみよう韓国語 中級会話コース』

金京子著（白水社、2024）

購入ルートは問いませんが、書き込みがないことを確認して購入してください。

【参考書】

『朝鮮語辞典』小学館

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版新装版』小学館など

【成績評価の方法と基準】

欠席が4回以上の学生は評価対象外とします。公欠の学生は書類を提出してください。

授業への参加意欲が見られない場合は出席にカウントしません。遅刻は3回で欠席1回にカウントします。遅延証明は不要ですが、電車の路線名を伝えてください。

確認テスト60%、授業の出席・参加度、課題提出40%を目安に総合的に評価します。

確認テストの当日に欠席した学生は、次の出席時に受験ができますが点数は低めに換算します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

テキストの音声ダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

定員制のため履修希望者が多い場合は抽選をします。この科目は「法（法律学科・政治学科）文営」でパターンB（朝鮮語週2コマ）を選択した学生の「選択必修」科目なので、定員を超えた場合は、該当する学生に優先的に履修してもらい、定員に余裕がある場合に他学部他学科の学生を抽選して履修者を決定します。初回の授業には必ず出席してください。

座席はくじ引きで毎回の座席を指定します。

課題は手書きを基本としますが、ハングルのキーボード入力ができる学生はwordで提出することができます。

授業内のスマホとタブレットの使用を禁止します。

【Outline (in English)】

Outline

While reviewing what we learned in the first year, you will build up much vocabulary and grammar.

By reading aloud on familiar topics repeatedly, you will develop your communication skills.

You will practice writing some simple text using the sentence in the textbook.

Goal :

You will be able to communicate what you want to talk about using fixed phrases and rich vocabulary on familiar topics.

Work to be done outside of class :

Students should send the task every week.

The preparatory study and review time for this class will be one hour in total.

Grading criteria :

Students with more than four unauthorized absences are excluded from the evaluation.

Based on 60% of the confirmation test, 20% of the class attendance and participation, and 20% of the assignment submission, we will evaluate it comprehensively.

